諸橋轍次著

大漢和辭典 巻一

修訂版

大修館書店

修訂者

東京教育大学名誉教授
文学博士　鎌田　正

財団法人静嘉堂文庫長　米山寅太郎

表紙背模様
引縄直
「程氏墨苑」（明版）巻十所載
（静嘉堂文庫蔵）

表紙平模様
唐千秋萬歳鉄鑑
「宣和博古図録」（明版）巻三十所載
（静嘉堂文庫蔵）

背文字
田代秋鶴筆

扉文字
諸橋轍次筆

装幀　山崎　登

序

東洋の文化は、その大半が漢字漢語によつて表現せられてゐる。それは文藝に於ても思想に於ても、將た又道德宗教に於ても皆然りである。それ故、漢字漢語の研究を外にして東洋の文化を云爲することは不可能である。そこでこの寶庫を開く一つの方法として辭書の編著が考慮せられ、中國に於ても我が國に於ても早くその作品を見た。しかし實情から言へば、我が國從來の漢辭典は幾多の進歩があつたとは言へ、大體文字語彙の數が少なく、中國の辭典は康熙字典・佩文韻府等、大量のものはあるが、或るものは文字の解義だけで語彙はなく、或るものは語彙はあつてもその解釋がないといふ狀態である。これでは學界の要求を充すわけには行かない。誰かこの缺を補つてくれる人はないものか、若し他にないとすれば、自分はその器ではないとしても進んでその任に當つてみよう、これが私の大漢和辭典の編著を企てた直接の動機である。

この志を立てたのは、今から數へれば可なり古い事である。書肆と一應の契約を結んだのは昭和二年であるが、實際の着手は更に三四年以前に遡ると思ふ。爾來拮据精勵、ともかくも昭和十八年には第一卷を發行した。續いて二卷三卷と刊行する豫定であつたが、二十年二月二十五日の劫火によつて一切の資料を燒失した。半生の志業はあへなくも茲に烏有に歸したわけである。し

かし當時は上下を擧げて國難に當つて居つた時であるから、別に悔みもせず、又落膽もしなかつた。不幸中の幸とも言はうか、全卷一萬五千頁の校正刷りが三部殘つて居つた。そこで一部は手元に、一部は私の管理してゐた靜嘉堂文庫に、他の一部は故岩崎小彌太男の好意によつて甲州の山奥に藏した。かくて再擧の時を待つてゐたが、時事は日に日に非なるものが重なつた。そしてその年の八月十五日、遂に終戰の哀詔を拜することとなつたのである。

祖國が既にかかる一大變故に遭遇したのであるから、一箇の私の事業などはいかなる運命になつても仕方がないと一時は諦めたが、その後、時の經つにつれて又別の考へが起つて來た。それは著者としての責任感である。私は既にこの書の刊行を天下に公約した。現に第一卷を購入した多くの人々もある。それらの人々に對して、たとへ幾多の困難があるにしても、このままに事業を中止することは許されない。且つ又、從來この書に對しては深い同情を寄せて下さつた多くの人々もあつた。それらの人々に對しても同樣である。一面又、亡友その他嘗ての協力者に對する已み難い心情もあつた。川又武君は事業の當初から殆んど二十年に亘り精根を盡してくれた人である。又、渡邊實一君・眞下保爾君・佐々木新二郎君も同樣、長きは十年、短きも五七年、終始事業のため精勵してくれた。然るにこの四君は終戰と相前後して約一年の間に共々世を去つた。これは事業完遂の行程に於て私の受けた最も傷心の事柄であつた。この四人は共に大東文化學院の出身である。外にも同學院の出身者で私に協力してくれた人々は少なくない。この事業の前半は、それらの人々が中心となつて分擔したのである。從つて私としては、これらの諸君の志を達

成する意味に於ても、全巻の刊行を仕上げなければならぬ。

かかる心情のもとに私は、自らを鼓舞し自らを鞭撻しつつ殘稿の整理を始めたが、折も折、二十一年には私の右眼は全く失明した。左眼も殆んど文字を辨じ得ない狀態に陷つた。心はあせつても整理は遲々として進まない。しかしかかる間にも私は又、常に私を勵まし私を助けてくれる數名の心友をもつてゐた。その一人は六十年來の舊友であり、この事業のためにも今日に至るまで二十數年助力してくれた近藤正治君であり、他は私の最も信賴してゐる東京文理科大學出身の小林信明君・渡邊末吾君・鎌田正君・米山寅太郎君、その他の人々である。當時私は退官の身であり、且つこの書の刊行の見込みも立たなかつた時である。それにも拘はらず上記の諸君は、いかなる困難があつても協力は惜しまない、せめて原稿だけは完全に整理して、やむなくば知己を後年に待たうとさへ言つてくれた。そして今、現に全力を盡して事に當つて居るのである。

かくて私も愈々再擧の決意を固めて居つたが、その矢先、甲州の疎開地から歸京した大修館の鈴木社長が、上京早々、これ又再擧の事を申し出た。そして言ふには、自分は社運を賭してもこの事業を完遂する。それがためには、大學在學中の長男と仙臺二高在學中の次男とは共に退學、これに當らしめる。三男も今は若いが、他日大學卒業の後にはこの事業に當らしめると。つまり一家の血肉を捧げて事業の完遂に當るといふのである。私は深くその誠意と決意に心を動かされた。偶々井上巽軒博士の紹介によつて、土橋八千太翁と相知るの機緣を得た。翁は時既に八十を超えた高齡であるに拘はらず、これ亦進んで整理に協力する事を申し出てくれた。爾來三四年、

翁の好意によつて補正を得た事も少なくないのである。

さて愈々事を進めてみると、原稿整理の外に又色々の困難が起つて來た。その主なるものの一つは、文字の製作である。この辭書には約五萬の親文字を收めてゐるが、以前に用ひた活字は既述の如く全部燒失したので、これを改めて木版に彫り、更に活字を作るとすれば、少なくとも十年二十年の歲月を要する。更に現實の問題として、木版の製作者にその人を得る事が出來なかつた。かかる困難の時に際して、ここに又幸にも一人の協力者を得た。それは寫眞植字の發明家である石井茂吉君である。同君は他に幾多の有利な事業を抱へて居る身ではあるが、この辭典の事業が永遠のものであるといふ觀點から、自分一生の仕事として全力を擧げて協力しようと申し出てくれた。かくて終戰後又十年、上記幾多の人々の好意と協力とによつて着々事務も進捗し、今日ここに本書刊行の運びとなつたわけである。思へば私は身の不德にも拘はらず、幸にも多くの知己を得た。私の事業は決して私一箇の事業ではない、蔭に隱れた幾百の人々の力の綜合である。特に上記諸人の協力に負ふの多い事は、茲に明記して感謝を捧げねばならぬ。

事業完成までには尙ほ四年の歲月を要する。過去十年殆んど失明同樣の狀態にあつた私は、幸今春、名醫の手術によつて隻眼を開いた。今後は一息の存する限り、本書の完成に努力しよう。そして藝林の榛莽を披き辭海の遺珠を拾ふに力めよう。それが私の素志を貫く所以であり、且つ又學界に公約した義務を果す所以である。ただ何分にも微力の身であるから、成果の上には幾多の不足もあらう、缺點もあらう、それらについては江湖有識の諸君子の敎正を仰ぎ得れば幸甚で

ある。更に後來、五十年百年、繼續して本辭書に手入れをする適當の學者が出て、完全なる漢和辭典を大成してくれる事ともなれば、獨り私の望外の喜びであるのみならず、これこそ東洋文化宣揚のため學界の一大慶事であると思ふ。私は切にその事を希望して已まない。

昭和三十年十一月三日　文化の日

遠人村舍に於て

諸橋轍次　識す

大漢和辞典修訂の序

大漢和辞典の上梓を終えてから、早くも二十年に垂んとしている。この間、本辞典の普及に伴い、江湖の諸賢から誤植その他について暖い御指示を賜ったことは深謝に堪えない。それだけに著者としての責任を痛感し、本辞典の修正補足に志して来たが、その第一着手として修訂の作業を進め、茲に修訂版の刊行実現の見通しを得る運びとなった。

そもそも私が大漢和辞典の編著に着手したのは昭和四年であるから、今日に至るまでに正に半世紀を経過した。その間いろいろの場面に遭遇したが、大きく別けて三期に分かつことができるように思う。第一期は創業時代で、あらゆる資料を丹念に集め、これが整理に従事した時代で、昭和二十年の終戦の哀詔を拝するまでである。時に第二巻の刊行は目前に迫っていた。第二期は上述の成果が戦火のためすべて烏有に帰した後、焦土に槌うって再起を計り、兎も角も昭和三十五年完刊の慶びを得るまでである。そして第三期は完刊以後、引き続いて修訂の作業に従事した時代で、それはそのまま今日に及んでいる。

顧みれば、この間、内にあって蔭ながら私を助けてくれた妻きん、及び十四歳の少年時代から終始変わらず励ましてくれた同郷・同庚・同学の心友近藤正治君を亡い、又本辞典の基礎確立に尽瘁してくれた川又武君他多くの協力者も故人となった。幽明界を異にしているが、此等は終生

私と相結んで離れることのできない人々である。この修訂に当たり、往時を偲んで情の転た切なるものがある。

飜って思えば、語辞は煙海の如く広く、時世の転変は走馬燈に似て迅い。辞典の生命をして不朽ならしめるためには、その修訂増補は幾度か繰り返されねばならぬ。そこで私は昭和六十一年を一応の纏りとして第三期の作業を終え、更に第四期の作業として本辞典の不備を補う増補を計画した。しかし私はすでに頽齢、固よりその任に堪えぬことである。とすれば第三期事業以下については、私に代わる人を他に求めねばならぬ。結局、その学、その能、その年齢、就中その人柄の上から鎌田正・米山寅太郎の両君に従来に引き続き御苦労を願う以外に道なしと考え、幾多の支障の有ることは承知の上で、情を尽くして両君に懇請した。然るところ旧誼を重んずる両君は我が志の存する所を察して快く承諾してくれた。うれしい。かくて拙著を永遠のものとなし、漢字文化の闡明に由って人類の幸福に裨補せんとする素願は、茲にその礎石を得たのである。後顧の憂いは無い。

修訂といえば、その内容等についていうべきことは多々あろうが、今は言他事に及ばず、ただその核心のみを縷述して序とする。

昭和五十三年六月四日

九十五歳翁　止軒　諸橋轍次

大漢和辞典の修訂に際して

大漢和辞典全十三巻の刊行が終わったのは昭和三十五年五月であった。顧みれば我々両人が初めてこの辞典の編纂に参加するようになったのは、昭和十四年のことである。当時既に全巻の組版を了し、校正も四・五校から再校までと、相当程度進行していた。昭和の初め以来、僅か十年、よくも厖大な辞典を編纂し、ここまで事業を進めて来たものと驚嘆し、恩師に対しては固より、編纂に従事した川又武氏及びその他の人々に対し、心から頭のさがる思いであった。爾来、戦前は主として解釈の適否等の検討と校正とに従事し、戦後は同志と共に全面的な事業の再建・進捗に協力した。

全巻の刊行終了後、諸橋先生は誤植及び内容の不備の点の訂正に心をかけられていたが、昭和四十一年五月、縮写版の刊行に際し、我々両人に対して誤植の訂正と共に、特に親字の項につき修正を行うよう指示された。この時の作業は、本辞典が典拠とした集韻などに当たり直して修正することを主とし、辞典全般の点検までには至らなかった。厖大な本辞典の内容修正は、両人のみの短期間の労力によってはその完璧を期すること固より不可能である。従って縮写版が完結した後においても、その流布に伴い、各方面から寄せられる指摘や疑問が少なくなかった。そこで先生は大修館書店と協議の上、新たに東洋学術研究所を設立して、本辞典の修訂に本格的に取り

組むよう希望された。かくて昭和四十九年四月、改めて我々両人に対し、本辞典の修訂を委嘱された。爾来、両人は一心協力して本格的な修訂作業に従事して来たのである。

この修訂作業に当たり、先ず第一に着手したのは、全巻にわたる修訂用の原簿ともいうべき台帳を作製すると共に、各語彙に掲げられている出典・用例の一つずつをカードに貼付することとであった。一語について、多きは十数枚のカードを造る場合も少なくない。この基礎作業にすら二十余名の人員と二か年有余の時月を費した。次いでできあがったカードを、作者又は作品ごとに類別したが、これにも予想外の人員と日時とを要した。

かくして準備されたカードは、六十万余の多数にのぼった。そのカードにより一々原典について再調査する作業に着手したのであるが、それら典籍の中には今日容易に求めがたいものも少なくない。勢い調査の範囲を限定せざるを得ない結果となり、学術研究上利用度が高く、且つ比較的に求め易い典籍を主とすることとし、信頼できる篤学の士二十数名に依頼して綿密な調査点検を行った。カード数三十万余、凡そ四年有余にして完了した。この作業に従事した諸君の労苦は蓋し言語に絶するものがあったであろう、深謝に堪えないところである。

上述の出典用例の再調査が終わりを告げるころ、これまた諸橋先生の委嘱によって約二十年前から編纂して来た広漢和辞典の作業も略ぼ完成に近づいていた。従って同辞典に摘出した出典・用例は、この調査の成果を活用したことは言うまでもない。

広漢和辞典の刊行が完結したのは昭和五十七年十月であるが、続いていよいよ大漢和辞典修訂

版の刊行を目指すこととなり、両人は上記の調査資料に基づいて修訂原稿の作製作業に取り組むこととなった。ただ、大漢和辞典全体の構成上、原ページを改め得ない事情を考慮し、修訂はそのページで収まる範囲を原則とした。この点、時に隔靴掻痒の憾みもあったが、概ね正すべきものは正したということができよう。

次に上記の修訂のほか、今回特に留意した点は、親字の字音についてである。大漢和辞典の親字の字音は集韻に基づき、戦後、土橋八千太翁によって全面的な検討を受けて以来、それをそのまま踏襲して来た。これに対し、広漢和辞典では広韻を基本として字音を吟味し、大漢和辞典の従来の字音を改めるところ少なからざるものがあった。その成果に鑑み、今回の修訂においても可成りの程度、字音に訂正を施した。その結果、附録の字音索引は全面的な組みかえを行わざるを得なかった。別に又「解字欄」においては、特に必要と認めたものにつき、甲骨文・金石文等による増補を行った。

以上が今回の修訂版における修正の主たる点であるが、この外に恩師の委嘱には語彙の不足に対する増補版の編集がある。これについては、広漢和辞典において、我が国の王朝時代における漢詩文を主として可成り多くの語彙を新たに集めたが、大漢和辞典の増補作業は固より今後更に着手しなければならないであろう。

思うに恩師の最晩年における唯一の願望は、大漢和辞典修訂版の一日も早い刊行であった。さればこそ、今次修訂版の序文も、既に昭和五十三年六月四日、九十五歳の誕辰に記されている。

まさしく一日千秋の思いであったに違いない。しかるに昭和五十七年十二月八日、その刊行開始を目前にして永眠された。百歳に満たんとする長寿とは申しながら、まことに痛惜に堪えない。果たして恩師の委嘱に答え得たか否か、甚だ畏懼の念にたえないが、ここに謹んで修訂版第一巻を恩師の霊前に捧げ、固く全巻刊行の完成を誓う次第である。

昭和五十九年四月

修訂者　鎌田　正

米山寅太郎

凡例

採錄の範圍

一　本書に採錄した文字は、正字の外、略字・俗字及び國字等を含む。

資料は殿版康熙字典を中心としたが、外に說文・玉篇・廣韻・集韻・字彙・正字通・中華大字典、その他の字典類等をも參照して補正した。

一　語彙は普通の成語、故事熟語、格言俚言、詩文の成句、及び人名・地名・書名・官職名・年號・動植物名等を主としたが、外に法律・經濟その他の學術語、及び普通の現代時文・中國語をも載せ、佛教語・邦語はその普通のものだけを採錄した。

上記の語彙を採擇した資料は、經史子集に亙る古典を中心とし、外に古今圖書集成・淵鑑類函・佩文韻府・駢字類編、その他辭源・續辭源・辭通・辭海・國語辭典等、一般著名の各種辭書類をも大方參考し、かたはら公文書・研究書・新聞・雜誌の類からも選擇した。

一　人名は本名で掲げた。「蘇東坡」を「蘇軾」とし、「白樂天」を「白居易」とする類である。外に字（アザナ）・號・諡・室名・尊稱・綽名、帝王の廟號・諡號等も別項として收めた。我が國の人名は主として漢學に關係あるものに限つたが、これは號を以て掲げた。「賴襄」を「賴山陽」とするの類である。又、主要な外國人の漢譯名も掲げた。

一　地名は中國の古蹟名勝、その他文化と生活に影響のあるものを主とし、日本の地名は主要地の外は、「丁子」をヨホロガと訓むが如き難訓のものだけを取つた。又、外國の主要な地名の漢譯をも若干收めた。

書名は四庫全書總目提要所載のものなどは勿論、近代作家の主なものをも收錄し、叢書はその細目をも列記した。我が國の書名も若干は掲げたが、それは主として漢文で書かれたものに限つた。

古典の篇名及び著名な詩文・樂府・戲曲等の題名

はそれぞれ別項として收載した。

一　官職名は中國歷代官職名の主なものを揭げ、その職掌・沿革等を說明した外、若干我が國のものをも採錄した。

一　年號は我が國及び中國のものは勿論、その他東洋諸國の漢字を用ひたものはすべて網羅した。

文字の解說

一　文字の解說は、先づ正しい字形を示し、次に字音・字義を說明し、外に解字・參考・名乘の諸項を附設した。

一　字形は主として殿版康熙字典に準據し、更に他書を參考して、六書の本義に遡り、字形の史的變化を尋ね、且つ近代通行の形態をも參酌して、愼重に決定した。

篆文には小篆・古文・籀文・或體等を採錄して、文字の沿革を知らしめた。資料には主として說文・說文段注・說文通訓定聲、及び六書分類・六書正譌等を用ひた。

一　字音は片假名を用ひて記した。一字に二音以上ある場合には、㊀㊁㊂等の記號を用ひて區別を明かにした。

漢音・吳音は反切に本づき、實際の用例を參酌して決定し、これを並記する場合は、漢音を右に吳音を左に揭げた。且つ兩音同一なもの又は併記の必要のないものは、單に一音を記載するに止めた。

我が國には漢音・吳音の外に、慣用音があり、又後世、中國音の影響に本づいた唐音がある。これ等は、慣唐の記號の下にこれを置いた。

用例の多い普通の文字には、注音字母及びウェード式發音記號法によつて現代中國語の發音を明示した。

反切は集韻廣韻を中心とし、更に廣く各種の韻書・字書を涉獵してこれを揭げた。

韻は韻府群玉・佩文韻府等に從ひ、近世通行の百六韻の分類法に依つた。

一　字義の解說は、先づ主な訓義を簡單にゴシック

體で示し、更に明朝體を用ひて細說した。音によって意義の異なる時は、それぞれ字音の㈠㈡㈢の記號の下にこれを分說した。

一　佛教語及び國訓と稱して我が國だけに行はれる訓義は、それぞれ佛及び邦の記號の下にこれを說明した。

一　名乘の項に於ては、我が國の人名に用ひられる特殊の訓を列擧した。

一　解字の項に於ては、主として象形・指事・會意の三種の文字について、その文字の構造と本義とを說明し、更に各種訓義の發生する經路をも明かにした。

一　參考の項に於ては、字形・字音・字義に關する疑義異說等を說明し、本文に於て盡し得ない點を補足した外、字形類似の文字を揭げてその異同を指摘した。

語彙の解說

一　語彙の解說は、簡潔・平明を旨とし、分り易い口語を用ひた。從來の辭典の解釋中、その適解と思はれるものは、成るべく多く採り入れた。

一　語彙の解說は、その文字に卽した直接的解釋を第一としたが、外にその轉義・應用をも示し、又同義語・類語があれば、これを揭げて解釋の補助とした。

一　語彙には出典もしくは引用例を附載した。但し、現代の中國語と新造邦語とは、特別の場合の外は引例を省いた。

一　彼此參照を要する語彙が二箇所以上あれば、それぞれの卷數と番號とを明示して相互參照の便に資した。その場合は、或は說明の補足を意味し、或は出典の參照を意味し、或はその兩者を兼ね意味するものである。

一　重要な書名の解說には、その書に關する參考書を揭げて研學の便に資し、叢書はすべて子目を列擧してその內容を明かにした。

一　語彙の讀方は、片假名を以て記した。但し、現代の中國語だけはウェード式發音記號法によつ

て表はした。

同じ意味で兩樣の讀方のあるものはこれを並記し、讀方の異なるに隨つて意味も亦異なる場合は、各項の始に別々の讀假名を施した。すべて或る項に施した讀假名は、以下の諸項に通じて適用するものである。

一　語彙の解說の順序は、先づ漢語としてその語を說明し、次に現代中國語、次に佛教語、次に邦語といふ順序によつたが、讀方の異同、又は解說の便宜によつては若干その順序を變へた。

一　語彙の說明を助けるため、若干の圖表や插圖を用ひた。插圖は主として三禮圖・禮器圖・名物圖・金石索・西清古鑑正續・三古圖・古今圖書集成收錄圖・大清會典圖・協紀辨方書・漢晉印章圖譜・攀古廬彝器款識・三才圖會・和漢三才圖會等によつた。

出典及び用例

一　出典・用例は、和漢の原典によつて正確にこれを引用し、且つ書名の外、細かに篇名・項目・題名又は卷數を揭げた。

一　原典を引用する順序は、字書・經書を先とし、他は概ね書物もしくは作者の時代順とした。

一　引用文にはすべて句讀點・返點を施し、中に省略する部分があれば、「云云」として前後を連結した。

一　引用文に適當な注のあるものは、成るべくこれを附載して解釋の據る所を明かにした。

文字・語彙の排列

一　本書の文字の排列は、主として康熙字典の例に從つた。卽ちすべての文字を先づ二百十四部の部首順に分類し、各部首內の文字は畫數順に排列した。而して各文字の下には、その文字を頭字とする語彙を次項の如く排列した。

一　語彙の排列は二字のもの、三字のもの、四字のものといふやうに、字數の多少によつて先づ分類し、同じ字數のものの中に就いては五十音順に排列した。但し、ヰエヲは便宜上イエオの次に

置いた。三字以上の語彙で、最初の二字三字が語を成すものは、それぞれ二字三字の後に附載した。「一意」の後に「一意奉レ上」を置くの類である。又返讀の熟語は他の熟語の最後に置いた。「傲レ世忘レ榮」を「世」の字の四字熟語の最後に置くの類である。同じ返讀熟語相互の先後は、これを直讀した際の音の順序とした。「震レ主之威」を「背レ主投レ營」の前に置いた類である。

解說の形式

一　一語を二つ以上の項目に分けて說明する場合は、㊀㊁㊂等の記號を用ひてこれを區別し、一項の中に於て更に細說を要する場合は、適宜㋑㋺㋩㋥㋭㋬㋣等の記號を使用した。

一　一つの文字に或體・古字・俗字・略字など幾つかの字體のある場合は、その說明を通行の正字の下に統一し、他の字體の下に在つては、單に某字に同一なることを說明するに止めた。

一　同一字で二つ以上の韻のある場合は、㊀㊁を以てその音を表はし、韻の變化によつて字義に變化のある場合は、それぞれ上記の㊀及び㊁に分屬せしめた。又當該文字の屬する韻は、□内の文字でこれを表はし、四聲は文字の四隅に小圈を附けて

□＝平聲　□＝上聲　□＝去聲　□＝入聲

のやうにこれを示した。

一　年號には、すべて洋數字で西曆紀元を附けた。

本書の檢索

一　本書收載の文字には、ゴシック體數字で「文字番號」を附け、その文字に屬する語彙には明朝體數字でそれぞれの「語彙番號」を附けた。この二つの數字が、すべて本書檢索の基準である。

一　各頁の上の欄外の數字は、その頁收載の文字・語彙の最初と最後との番號を示し、解說の文中に引いた數字は、參照すべき文字・語彙の卷數と番號とを示す。

一　版心（柱（ハシラ））には、その頁に收載する文字、及びその

文字の屬する部首並びに畫數を明示した。版心の下部の縦書き數字は、各巻別の頁數を示し、下の欄外の洋數字は、全十二巻を通じての追頁數を示す。

一　全十二巻を通じての文字・語彙の詳細な索引は、別に一巻としてまとめ、各巻毎にも亦それぞれの部首及び文字の索引を作つて巻首に附け、以て檢索の便を圖つた。

略符其の他

一　本書の解説中に用ひた略語

現＝現代中國語
〔例〕＝現代時文の用例
佛＝佛教語
邦＝邦語・國訓
字國＝我が國で作られた文字
慣＝慣用音
唐＝唐音

一　引用書名及び傳注の略稱

易＝易經
書＝書經
詩＝詩經
禮＝禮記
春秋＝春秋經文
左氏＝春秋左氏傳
公羊＝春秋公羊傳
穀梁＝春秋穀梁傳
逸周書＝汲冢周書
戰國＝戰國策
呂覽＝呂氏春秋
晏子＝晏子春秋
文中子＝王通中説
新論＝劉勰新論
注＝其の書の原注（三禮の鄭玄注、春秋左氏傳の杜預注、荀子の楊倞注の類。）
傳＝書經の孔安國傳　詩經の毛傳
箋＝詩經の鄭玄箋
皇疏＝皇侃の論語義疏

集傳＝朱子の詩經集傳
集注＝朱子の論語・孟子集注
章句＝朱子の大學・中庸章句
蔡傳＝蔡沈の書經集傳
段注＝段玉裁の說文解字注
會箋＝竹添氏の詩經・左氏傳・論語會箋

一　現代中國語發音の記號

イ　四聲の記號

	上平聲	下平聲	上聲	去聲
注音字母	ㄧ	ㄏ	ㄨ	ㄟ
ウェード式	1	2	3	4

但し、一字に二つ以上の四聲のあるものは、ㄚㄧ[a1·4]のやうに記載した。

ロ　熟語の表音はすべてウェード式により、四聲記號のないものは輕聲を意味する。又、接尾語「兒」erhのつく前の語はその末尾の音が消滅又は少し變化するが、本書ではそのままに殘した。

例へば

一點兒　i⁴ tien³ êrh
一塊兒　i² k'uai⁴ êrh

の類である。

ハ　現代中國語の音節について、本書に用ひた注音字母及びウェード式發音記號と、漢語拼音方案による拼音字母との對照表を凡例の次に揭げた。

一　發音符

イ　讀假名はすべて歷史的假名遣に從つた。

ロ　二つ以上の假名で表はされる長音又は拗音は、中間に「ー」を附けてその長音又は拗音であることを示した。「アフ」は「オー」、「クヮ」は「カ」、「クヮウ」は「コー」と發音すべきことを示したのである。

發音記號對照表

凡例「現代中國語發音の記號」八項參照。
拼音字母に付した→印は、當該の音節が現在は→印で示した音節に合併されたことを表はす。

注音字母	ドウェー式	拼音字母
ㄅㄚ	pa	ba
ㄅㄛ	po	bo
ㄅㄞ	pai	bai
ㄅㄟ	pei	bei
ㄅㄠ	pao	bao
ㄅㄢ	pan	ban
ㄅㄣ	pen	ben
ㄅㄤ	pang	bang
ㄅㄥ	pêng	beng
ㄅㄧ	pi	bi
ㄅㄧㄝ	pieh	bie
ㄅㄧㄠ	piao	biao
ㄅㄧㄢ	pien	bian
ㄅㄧㄣ	pin	bin
ㄅㄧㄥ	ping	bing
ㄅㄨ	pu	bu
ㄆㄚ	p'a	pa
ㄆㄛ	p'o	po
ㄆㄞ	p'ai	pai
ㄆㄟ	p'ei	pei
ㄆㄠ	p'ao	pao
ㄆㄡ	p'ou	pou
ㄆㄢ	p'an	pan
ㄆㄣ	p'en	pen
ㄆㄤ	p'ang	pang
ㄆㄥ	p'êng	peng
ㄆㄧ	p'i	pi
ㄆㄧㄝ	p'ieh	pie
ㄆㄧㄠ	p'iao	piao
ㄆㄧㄢ	p'ien	pian
ㄆㄧㄣ	p'in	pin
ㄆㄧㄥ	p'ing	ping
ㄆㄨ	p'u	pu
ㄇㄚ	ma	ma
ㄇㄛ	mo	mo
ㄇㄜ	mê	me
ㄇㄞ	mai	mai
ㄇㄟ	mei	mei
ㄇㄠ	mao	mao
ㄇㄡ	mou	mou
ㄇㄢ	man	man
ㄇㄣ	men	men
ㄇㄤ	mang	mang
ㄇㄥ	mêng	meng
ㄇㄧ	mi	mi
ㄇㄧㄝ	mieh	mie
ㄇㄧㄠ	miao	miao
ㄇㄧㄡ	miu	miu
ㄇㄧㄢ	mien	mian
ㄇㄧㄣ	min	min
ㄇㄧㄥ	ming	ming
ㄇㄨ	mu	mu
ㄈㄚ	fa	fa
ㄈㄛ	fo	fo
ㄈㄟ	fei	fei
ㄈㄡ	fou	fou
ㄈㄢ	fan	fan
ㄈㄣ	fen	fen
ㄈㄤ	fang	fang
ㄈㄥ	fêng	feng
ㄈㄨ	fu	fu
ㄉㄚ	ta	da
ㄉㄜ	tê	de
ㄉㄞ	tai	dai
ㄉㄟ	tei	dei
ㄉㄠ	tao	dao
ㄉㄡ	tou	dou
ㄉㄢ	tan	dan
ㄉㄤ	tang	dang
ㄉㄥ	têng	deng
ㄉㄧ	ti	di
ㄉㄧㄝ	tieh	die
ㄉㄧㄠ	tiao	diao
ㄉㄧㄡ	tiu	diu
ㄉㄧㄢ	tien	dian
ㄉㄧㄥ	ting	ding
ㄉㄨ	tu	du
ㄉㄨㄛ	tuo	duo
ㄉㄨㄟ	tuei	dui
ㄉㄨㄢ	tuan	duan
ㄉㄨㄣ	tun	dun
ㄉㄨㄥ	tung	dong
ㄊㄚ	t'a	ta
ㄊㄜ	t'ê	te
ㄊㄞ	t'ai	tai
ㄊㄠ	t'ao	tao
ㄊㄡ	t'ou	tou
ㄊㄢ	t'an	tan
ㄊㄤ	t'ang	tang
ㄊㄥ	t'êng	teng
ㄊㄧ	t'i	ti
ㄊㄧㄝ	t'ieh	tie
ㄊㄧㄠ	t'iao	tiao
ㄊㄧㄢ	t'ien	tian
ㄊㄧㄥ	t'ing	ting
ㄊㄨ	t'u	tu
ㄊㄨㄛ	t'uo	tuo
ㄊㄨㄟ	t'uei	tui
ㄊㄨㄢ	t'uan	tuan
ㄊㄨㄣ	t'un	tun
ㄊㄨㄥ	t'ung	tong
ㄋㄚ	na	na
ㄋㄜ	nê	ne
ㄋㄞ	nai	nai
ㄋㄟ	nei	nei
ㄋㄠ	nao	nao
ㄋㄡ	nou	nou
ㄋㄢ	nan	nan
ㄋㄣ	nen	nen
ㄋㄤ	nang	nang
ㄋㄥ	nêng	neng
ㄋㄧ	ni	ni
ㄋㄧㄝ	nieh	nie
ㄋㄧㄠ	niao	niao
ㄋㄧㄡ	niu	niu
ㄋㄧㄢ	nien	nian
ㄋㄧㄣ	nin	nin
ㄋㄧㄤ	niang	niang
ㄋㄧㄥ	ning	ning
ㄋㄨ	nu	nu
ㄋㄨㄛ	nuo	nuo
ㄋㄨㄢ	nuan	nuan
ㄋㄨㄥ	nung	nong
ㄋㄩ	nü	nü
ㄋㄩㄝ	nüeh	nüe
ㄌㄚ	la	la
ㄌㄛ	lo	lo
ㄌㄜ	lê	le
ㄌㄞ	lai	lai
ㄌㄟ	lei	lei
ㄌㄠ	lao	lao
ㄌㄡ	lou	lou
ㄌㄢ	lan	lan
ㄌㄤ	lang	lang
ㄌㄥ	lêng	leng
ㄌㄧ	li	li
ㄌㄧㄚ	lia	lia
ㄌㄧㄝ	lieh	lie
ㄌㄧㄠ	liao	liao
ㄌㄧㄡ	liu	liu
ㄌㄧㄢ	lien	lian
ㄌㄧㄣ	lin	lin
ㄌㄧㄤ	liang	liang
ㄌㄧㄥ	ling	ling
ㄌㄨ	lu	lu
ㄌㄨㄛ	luo	luo
ㄌㄨㄢ	luan	luan
ㄌㄨㄣ	lun	lun
ㄌㄨㄥ	lung	long
ㄌㄩ	lü	lü
ㄌㄩㄝ	lüeh	lüe
ㄌㄩㄢ	lüan	→luan
ㄍㄚ	ka	ga
ㄍㄜ	kê	ge

ㄍㄞ	kai	gai
ㄍㄟ	kei	gei
ㄍㄠ	kao	gao
ㄍㄡ	kou	gou
ㄍㄢ	kan	gan
ㄍㄣ	ken	gen
ㄍㄤ	kang	gang
ㄍㄥ	kêng	geng
ㄍㄨ	ku	gu
ㄍㄨㄚ	kua	gua
ㄍㄨㄛ	kuo	guo
ㄍㄨㄞ	kuai	guai
ㄍㄨㄟ	kuei	gui
ㄍㄨㄢ	kuan	guan
ㄍㄨㄣ	kun	gun
ㄍㄨㄤ	kuang	guang
ㄍㄨㄥ	kung	gong
ㄎㄚ	k'a	ka
ㄎㄜ	k'ê	ke
ㄎㄞ	k'ai	kai
ㄎㄠ	k'ao	kao
ㄎㄡ	k'ou	kou
ㄎㄢ	k'an	kan
ㄎㄣ	k'en	ken
ㄎㄤ	k'ang	kang
ㄎㄥ	k'êng	keng
ㄎㄨ	k'u	ku
ㄎㄨㄚ	k'ua	kua

ㄎㄨㄛ	k'uo	kuo
ㄎㄨㄞ	k'uai	kuai
ㄎㄨㄟ	k'uei	kui
ㄎㄨㄢ	k'uan	kuan
ㄎㄨㄣ	k'un	kun
ㄎㄨㄤ	k'uang	kuang
ㄎㄨㄥ	k'ung	kong
ㄏㄚ	ha	ha
ㄏㄜ	hê	he
ㄏㄞ	hai	hai
ㄏㄟ	hei	hei
ㄏㄠ	hao	hao
ㄏㄡ	hou	hou
ㄏㄢ	han	han
ㄏㄣ	hen	hen
ㄏㄤ	hang	hang
ㄏㄥ	hêng	heng
ㄏㄨ	hu	hu
ㄏㄨㄚ	hua	hua
ㄏㄨㄛ	huo	huo
ㄏㄨㄞ	huai	huai
ㄏㄨㄟ	huei	hui
ㄏㄨㄢ	huan	huan
ㄏㄨㄣ	hun	hun
ㄏㄨㄤ	huang	huang
ㄏㄨㄥ	hung	hong
ㄐㄧ	chi	ji
ㄐㄧㄚ	chia	jia

ㄐㄧㄝ	chieh	jie
ㄐㄧㄠ	chiao	jiao
ㄐㄧㄡ	chiu	jiu
ㄐㄧㄢ	chien	jian
ㄐㄧㄣ	chin	jin
ㄐㄧㄤ	chiang	jiang
ㄐㄧㄥ	ching	jing
ㄐㄩ	chü	ju
ㄐㄩㄝ	chüeh	jue
ㄐㄩㄢ	chüan	juan
ㄐㄩㄣ	chün	jun
ㄐㄩㄥ	chiung	jiong
ㄑㄧ	ch'i	qi
ㄑㄧㄚ	ch'ia	qia
ㄑㄧㄝ	ch'ieh	qie
ㄑㄧㄠ	ch'iao	qiao
ㄑㄧㄡ	ch'iu	qiu
ㄑㄧㄢ	ch'ien	qian
ㄑㄧㄣ	ch'in	qin
ㄑㄧㄤ	ch'iang	qiang
ㄑㄧㄥ	ch'ing	qing
ㄑㄩ	ch'ü	qu
ㄑㄩㄝ	ch'üeh	que
ㄑㄩㄢ	ch'üan	quan
ㄑㄩㄣ	ch'ün	qun
ㄑㄩㄥ	ch'iung	qiong
ㄒㄧ	hsi	xi
ㄒㄧㄚ	hsia	xia

ㄒㄧㄝ	hsieh	xie
ㄒㄧㄠ	hsiao	xiao
ㄒㄧㄡ	hsiu	xiu
ㄒㄧㄢ	hsien	xian
ㄒㄧㄣ	hsin	xin
ㄒㄧㄤ	hsiang	xiang
ㄒㄧㄥ	hsing	xing
ㄒㄩ	hsü	xu
ㄒㄩㄝ	hsüeh	xue
ㄒㄩㄢ	hsüan	xuan
ㄒㄩㄣ	hsün	xun
ㄒㄩㄥ	hsiung	xiong
ㄓ	chih	zhi
ㄓㄚ	cha	zha
ㄓㄜ	chê	zhe
ㄓㄞ	chai	zhai
ㄓㄟ	chei	zhei
ㄓㄠ	chao	zhao
ㄓㄡ	chou	zhou
ㄓㄢ	chan	zhan
ㄓㄣ	chen	zhen
ㄓㄤ	chang	zhang
ㄓㄥ	chêng	zheng
ㄓㄨ	chu	zhu
ㄓㄨㄚ	chua	zhua
ㄓㄨㄛ	chuo	zhuo
ㄓㄨㄞ	chuai	zhuai
ㄓㄨㄟ	chuei	zhui

ㄓㄨㄢ	chuan	zhuan
ㄓㄨㄣ	chun	zhun
ㄓㄨㄤ	chuang	zhuang
ㄓㄨㄥ	chung	zhong
ㄔ	ch'ih	chi
ㄔㄚ	ch'a	cha
ㄔㄜ	ch'ê	che
ㄔㄞ	ch'ai	chai
ㄔㄠ	ch'ao	chao
ㄔㄡ	ch'ou	chou
ㄔㄢ	ch'an	chan
ㄔㄣ	ch'en	chen
ㄔㄤ	ch'ang	chang
ㄔㄥ	ch'êng	cheng
ㄔㄨ	ch'u	chu
ㄔㄨㄛ	ch'uo	chuo
ㄔㄨㄞ	ch'uai	chuai
ㄔㄨㄟ	ch'uei	chui
ㄔㄨㄢ	ch'uan	chuan
ㄔㄨㄣ	ch'un	chun
ㄔㄨㄤ	ch'uang	chuang
ㄔㄨㄥ	ch'ung	chong
ㄕ	shih	shi
ㄕㄚ	sha	sha
ㄕㄜ	shê	she
ㄕㄞ	shai	shai
ㄕㄟ	shei	shei
ㄕㄠ	shao	shao

ㄕㄡ	shou	shou
ㄕㄢ	shan	shan
ㄕㄣ	shen	shen
ㄕㄤ	shang	shang
ㄕㄥ	shêng	sheng
ㄕㄨ	shu	shu
ㄕㄨㄚ	shua	shua
ㄕㄨㄛ	shuo	shuo
ㄕㄨㄞ	shuai	shuai
ㄕㄨㄟ	shuei	shui
ㄕㄨㄢ	shuan	shuan
ㄕㄨㄣ	shun	shun
ㄕㄨㄤ	shuang	shuang
ㄖ	jih	ri
ㄖㄜ	jê	re
ㄖㄠ	jao	rao
ㄖㄡ	jou	rou
ㄖㄢ	jan	ran
ㄖㄣ	jen	ren
ㄖㄤ	jang	rang
ㄖㄥ	jêng	reng
ㄖㄨ	ju	ru
ㄖㄨㄛ	juo	ruo
ㄖㄨㄟ	juei	rui
ㄖㄨㄢ	juan	ruan
ㄖㄨㄣ	jun	run
ㄖㄨㄥ	jung	rong
ㄗ	tzŭ	zi

ㄗ	tsa	za
ㄗㄜ	tsê	ze
ㄗㄞ	tsai	zai
ㄗㄟ	tsei	zei
ㄗㄠ	tsao	zao
ㄗㄡ	tsou	zou
ㄗㄢ	tsan	zan
ㄗㄣ	tsen	zen
ㄗㄤ	tsang	zang
ㄗㄥ	tsêng	zeng
ㄗㄨ	tsu	zu
ㄗㄨㄛ	tsuo	zuo
ㄗㄨㄟ	tsuei	zui
ㄗㄨㄢ	tsuan	zuan
ㄗㄨㄣ	tsun	zun
ㄗㄨㄥ	tsung	zong
ㄘ	tz'ŭ	ci
ㄘㄚ	ts'a	ca
ㄘㄜ	ts'ê	ce
ㄘㄞ	ts'ai	cai
ㄘㄠ	ts'ao	cao
ㄘㄡ	ts'ou	cou
ㄘㄢ	ts'an	can
ㄘㄣ	ts'en	cen
ㄘㄤ	ts'ang	cang
ㄘㄥ	ts'êng	ceng
ㄘㄨ	ts'u	cu
ㄘㄨㄛ	ts'uo	cuo

ㄘㄨㄟ	ts'uei	cui
ㄘㄨㄢ	ts'uan	cuan
ㄘㄨㄣ	ts'un	cun
ㄘㄨㄥ	ts'ung	cong
ㄙ	ssŭ	si
ㄙㄚ	sa	sa
ㄙㄜ	sê	se
ㄙㄞ	sai	sai
ㄙㄠ	sao	sao
ㄙㄡ	sou	sou
ㄙㄢ	san	san
ㄙㄣ	sen	sen
ㄙㄤ	sang	sang
ㄙㄥ	sêng	seng
ㄙㄨ	su	su
ㄙㄨㄛ	suo	suo
ㄙㄨㄟ	suei	sui
ㄙㄨㄢ	suan	suan
ㄙㄨㄣ	sun	sun
ㄙㄨㄥ	sung	song
ㄚ	a	a
ㄛ	o	o
ㄜ	ê	e
ㄝ	e	ê
ㄞ	ai	ai
ㄟ	ei	ei
ㄠ	ao	ao
ㄡ	ou	ou

ㄢ	an	an
ㄣ	en	en
ㄤ	ang	ang
ㄥ	êng	eng
ㄦ	êrh	er
ㄧ	i	yi
ㄧㄚ	ya	ya
ㄧㄛ	yo	yo
ㄧㄝ	yeh	ye
ㄧㄞ	yai	→ya
ㄧㄠ	yao	yao
ㄧㄡ	yu	you
ㄧㄢ	yen	yan
ㄧㄣ	yin	yin
ㄧㄤ	yang	yang
ㄧㄥ	ying	ying
ㄨ	wu	wu
ㄨㄚ	wa	wa
ㄨㄛ	wo	wo
ㄨㄞ	wai	wai
ㄨㄟ	wei	wei
ㄨㄢ	wan	wan
ㄨㄣ	wen	wen
ㄨㄤ	wang	wang
ㄨㄥ	wêng	weng
ㄩ	yü	yu
ㄩㄝ	yüeh	yue
ㄩㄢ	yüan	yuan

ㄩㄣ	yün	yun
ㄩㄥ	yung	yong

卷一所載 總文字

部首順による檢字

親文字の下に記した洋數字は其の文字の番號。和數字は其の文字を掲載した頁。

一部
一 1 一
一畫
丁 2 七三
丐 3 八一
乙 4 八一
亡 5 八一
七 6 八一
丄 7 一〇四
丁 8 一〇四
丂 9 一〇四
万 10 一〇四
二畫
丈 11 一〇五
三 12 一〇七
上 13 一九五
下 14 三一〇
丌 15 二三五
丑 16 二三五
卫 17 二三五
丐 18 二三五
不 19 三三六
三畫
与 20 二六四
丙 21 二六四
丙 22 二六四
丑 23 二六四
且 24 二六五
丘 25 二六五
丈 26 二六五
丘 27 二六五
刃 28 二六五
且 29 二六五
四畫
丕 30 二六七
世 31 二六八
世 32 二七八
丘 33 二七八
北 34 二八三
丙 35 二八三
引 36 二八四
亥 37 二八四
豕 38 二八四
五畫
丙 39 二八四
丞 40 二八四
丟 41 二八五
兗 42 二八五
丽 43 二八五
系 44 二八五
北 45 二八五
両 46 二八五
匹 47 二八五
六畫
卯 48 二八五
兓 49 二八五
刑 50 二八五
两 51 二八五
所 52 二八五
七畫
並 53 二八五
並 54 二八五
炊 55 二八五
函 56 二八五
秀 57 二八五
窗 58 二八五
丽 59 二八五
幷 60 二八五
八畫
死 61 二八五
韭 62 二八六
九畫
盟 63 二八六
十畫
靁 64 二八六
蟲 65 二八六
十九畫
鬪 66 二八六
丨部
丨 67 二八六
一畫
卜 68 二八六
卜 69 二八六
二畫
介 70 二八六
丫 71 二八六
牛 72 二八七
中 73 二八七
三畫
丮 74 三一七
丰 75 三一七
四畫
丰 76 三一七
丱 77 三一八
丫 78 三一八
五畫
串 79 三一八
串 80 三一八
串 81 三一九
六畫
弗 82 三一九
串 83 三一九
冑 84 三一九
七畫
笋 85 三一九
笋 86 三一九
八畫
丶部
丶 91 三二〇
一畫
乀 92 三二〇
丶 93 三二〇
二畫
丸 94 三二〇
丸 95 三二一
凡 96 三二一
々 97 三二一
九畫
亡 98 三二一
三畫
丹 99 三二一
主 100 三二九
四畫
井 101 三二七
甘 102 三二八
五畫
宇 103 三二八
丽 104 三二八
七畫
腸 105 三二八
十二畫
丿 106 三二八
乀 107 三二八
丿部
厂 108 三二八
一畫
乁 109 三二八
乁 110 三二八
乂 111 三二八
十 112 三二九
乃 113 三二九
ク 114 三四〇
乂 115 三四〇
乂 116 三四〇
ん 117 三四〇
二畫
久 118 三四〇
久 119 三四三
毛 120 三四三
么 121 三四三
乃 122 三四三

三畫
九 123 三四三
乂 124 三四三
之 125 三四三
刃 126 三四六
丑 127 三四六
乃 128 三四六
匆 129 三四六

四畫
午 130 三四六
乎 131 三四七
乍 132 三四七
乏 133 三四七
夭 134 三四八
𠂉 135 三四八
乎 136 三四八
亏 137 三四八

五畫
辰 138 三四八
丞 139 三四八
肖 140 三四八
自 141 三四八
冉 142 三四八
厄 143 三四八
丢 144 三四八
乒 145 三四八
乓 146 三四八

六畫
垂 147 三四八
甩 148 三四八

七畫
乖 149 三四八
乘 150 三五〇

八畫
乘 152 三五〇
桑 153 三五〇
乘 154 三五〇
乘 155 三五四
桑 156 三五四
乘 157 三五四

九畫
乘 158 三五四
眉 159 三五四
厥 160 三五四

十畫
乙 161 三五四
乞 162 三五六
乚 163 三五六

乙部

十一畫
乾 164 三五六
亂 165 三五六
乙 166 三五六
九 167 三五六
乜 168 三八八
乙 169 三八八

二畫
乜 170 三八八
乞 171 三九一
也 172 三九三
世 173 三九三

三畫
刜 174 三九三
刋 175 三九三
刍 176 三九三

四畫
乩 177 三九三
乳 178 三九三
世 179 三九三
乳 180 三九三

五畫
乱 181 三九三
乩 182 三九三
乩 183 三九三
乩 184 三九三
乩 185 三九三
飞 186 三九三

六畫
乱 187 三九三
乱 188 三九三
乩 189 三九三
乳 190 三九三

七畫
乞 191 三九六
乳 192 三九六
乩 193 三九六
乾 194 三九六
乾 195 三九六
乾 196 三九六
乾 197 三九六
乾 198 三九六
乾 199 三九六
乾 200 三九六

九畫
道 201 三九六
乾 202 三九六
乾 203 三九六
乾 204 三九六

十畫
乾 205 四〇三
乾 206 四〇三
乾 207 四〇三
乾 208 四〇三
乾 209 四〇三
龜 210 四〇三
乾 211 四〇三
乾 212 四〇三
乾 213 四〇三
乾 214 四〇三
乾 215 四〇八
乾 216 四〇八
乾 217 四〇八
乾 218 四〇八

十三畫
乾 219 四〇八
乾 220 四〇八
乾 221 四〇八
乾 222 四〇九
乾 223 四〇九

十二畫
乾 224 四〇九
乙 225 四〇九
了 226 四〇九
乃 227 四一〇
乃 228 四一〇
乙 229 四一〇

丿部

十九畫
事 230 四一〇
予 231 四一〇
矛 232 四一一
从 233 四一一
𠂇 234 四一一
矛 235 四一一
争 236 四一一

一畫
司 237 四一一
司 238 四一一
司 239 四一一
予 240 四一一
事 241 四一三

二畫
亟 242 四一六
束 243 四一六
豫 244 四一六
豫 245 四一六
豫 246 四一六

三畫
事 247 四一六
二 248 四五三
二 249 四五三
二 250 四五三
亍 251 四五三

二部

十八畫
豫 252 四一六
豫 253 四一六
豫 254 四一六

十六畫
豫 255 四一六
豫 256 四一六
豫 257 四一六

十五畫
豫 258 四一六
豫 259 四一六
豫 260 四一六

十四畫
豫 261 四一六
豫 262 四一六
豫 263 四一六

十三畫
豫 264 四一六
豫 265 四一六
豫 266 四一六

十二畫
豫 267 四一六
豫 268 四一六
豫 269 四一六

十一畫
豫 270 四一六
豫 271 四一六
豫 272 四一六

十畫
豫 273 四一六
豫 274 四一六
豫 275 四一六

九畫
豫 276 四一六
豫 277 四一六
豫 278 四一六

八畫
豫 279 四一六
豫 280 四一六
豫 281 四一六

七畫
豫 282 四一六
豫 283 四一六
豫 284 四一六

六畫
豫 285 四一六
豫 286 四一六
豫 287 四一六

五畫
豫 288 四一六
豫 289 四一六
豫 290 四一六

四畫
豫 291 四一六
豫 292 四一六
豫 293 四一六

三畫
豫 294 四一六
豫 295 四一六
豫 296 四一六

二畫
豫 297 四一六
豫 298 四一六
豫 299 四一六

一畫
豫 300 四一六
豫 301 四一六
豫 302 四一六

檢字〔部首引〕

字	號	頁
于	252	四五三
亏	253	四五七
二畫		
云	254	四五七
互	255	四五八
亓	256	四六〇
五	257	四六〇
井	258	五一九
三	259	五二四
[illegible]	260	五二四
三畫		
亗	261	五二四
四畫		
亘	262	五二四
亘	263	五二四
亙	264	五二四
亙	265	五二四
[illegible]	266	五二四
五畫		
况	267	五二五
些	268	五二五
死	269	五二五
亘	270	五二五
亘	271	五二五
亜	272	五二五
六畫		
[illegible]	273	五二五
亞	274	五二五
亝	275	五二八
[illegible]	276	五二八
[illegible]	277	五二八
枣	278	五二八
七畫		
亟	279	五二八
[illegible]	280	五二九
[illegible]	281	五二九
八畫		
[illegible]	282	五二九
[illegible]	283	五二九
九畫		
[illegible]	284	五二九
十二畫		
亶	285	五二九
亠部		
亠	286	五二九
一畫		
亡	287	五二九
二畫		
亢	288	五三二
亣	289	五三三
三畫		
[illegible]	290	五三三
四畫		
交	291	五三三
亥	292	五四一
亦	293	五四二
[illegible]	294	五四三
五畫		
亨	295	五四三
㐬	296	五四四
[illegible]	297	五四四
六畫		
享	298	五四四
京	299	五四五
㐭	300	五五〇
[illegible]	301	五五〇
[illegible]	302	五五〇
七畫		
亭	303	五五〇
亮	304	五五二
亯	305	五五三
[illegible]	306	五五三
京	307	五五三
[illegible]	308	五五三
[illegible]	309	五五三
[illegible]	310	五五三
亲	311	五五四
八畫		
亳	312	五五四
[illegible]	313	五五四
[illegible]	314	五五四
[illegible]	315	五五四
亭	316	五五四
亮	317	五五四
九畫		
[illegible]	318	五五四
亭	319	五五四
[illegible]	320	五五四
[illegible]	321	五五四
亳	322	五五四
十畫		
[illegible]	323	五五四
[illegible]	324	五五四
[illegible]	325	五五四
[illegible]	326	五五四
[illegible]	327	五五四
十一畫		
亶	328	五五四
[illegible]	329	五五五
十三畫		
[illegible]	330	五五五
[illegible]	331	五五五
[illegible]	332	五五五
十四畫		
[illegible]	333	五五五
[illegible]	334	五五五
[illegible]	335	五五五
[illegible]	336	五五五
[illegible]	337	五五五
[illegible]	338	五五五
十五畫		
[illegible]	339	五五五
十六畫		
[illegible]	340	五五五
十七畫		
[illegible]	341	五五五
二十畫		
亹	342	五五五
二十二畫		
[illegible]	343	五五六
人部		
人	344	五五六
一畫		
亼	345	五七六
[illegible]	346	五七六
个	347	五七六
二畫		
什	348	五七六
仁	349	五七七
仂	350	五八四
仃	351	五八四
仄	352	五八四
仅	353	五八五
仆	354	五八五
仇	355	五八六
仈	356	五八八
仉	357	五八八
今	358	五八八
介	359	五九一
[illegible]	360	五九五
仍	361	五九五
从	362	五九六
[illegible]	363	五九六
仏	364	五九六
[illegible]	365	五九六
仐	366	五九六
内	366′	五九六
三畫		
仔	367	五九六
仕	368	五九六
[illegible]	369	五九七
他	370	五九七
仗	371	六〇〇
[illegible]	372	六〇一
付	373	六〇一
仙	374	六〇一
仚	375	六〇九
仛	376	六〇九
仜	377	六〇九
仝	378	六〇九
仞	379	六〇九
仟	380	六一〇
仠	381	六一〇
仡	382	六一〇
仸	383	六一〇
[illegible]	384	六一〇
仢	385	六一〇
代	386	六一一

字	番号	頁
令	387	六二五
以	388	六三〇
仉	389	六三三
仑	390	六三三
仍	391	六三三
仦	392	六三三
仦	393	六三三
仧	394	六三三
仮	395	六三三
仯	396	六三三
仨	397	六三三

四畫

字	番号	頁
仮	398	六三三
仯	399	六三三
仰	400	六三三
仱	401	六三五
仸	402	六三五
仲	403	六三五
仳	404	六三四
吏	405	六三四
仡	406	六三四
仵	407	六三四
伄	408	六三四
仵	409	六三四
件	410	六三五
优	411	六三五
价	412	六三五
仸	413	六三五
伟	414	六三五
仓	415	六三五
任	416	六三五
任	417	六四二
份	418	六四二
伍	419	六四二
仿	420	六四二
伀	421	六四三
企	422	六四三
尬	423	六四四
伂	424	六四四
伃	425	六四四
伄	426	六四四
伅	427	六四四
伆	428	六四四
伇	429	六四四
伈	430	六四四
伉	431	六四四
伊	432	六四五
伋	433	六五二
伌	434	六五二
伍	435	六五三
伎	436	六五五
伙	437	六五五
伏	438	六五五
伐	439	六六一
休	440	六六三
伎	441	六六七
伩	442	六六七
伒	443	六六七
伓	444	六六七
伔	445	六六七
伓	446	六六七
伖	447	六六七
伉	448	六六七
併	449	六六八
伜	450	六六八
伕	451	六六八
伖	452	六六八
众	453	六六八
优	454	六六八
今	455	六六八
弁	456	六六八
伙	457	六六八
伂	458	六六八
伹	459	六六八
会	460	六六八
伛	461	六六八
伜	462	六六八
伝	462′	六六八

五畫

字	番号	頁
伭	463	六六八
伮	464	六六八
伳	465	六六八
伯	466	六六八
估	467	六七八
伵	468	六七八
俩	469	六七八
伱	470	六七八
你	471	六七八
你	472	六七九
伲	473	六七九
世	474	六七九
伴	475	六七九
伐	476	六八〇
伵	477	六八〇
伶	478	六八〇
伷	479	六八〇
伸	480	六八〇
伸	481	六八〇
伹	482	六八一
伺	483	六八一
伻	484	六八二
似	485	六八二
伽	486	六八三
伾	487	六八四
伿	488	六八四
佀	489	六八四
佁	490	六八四
征	491	六八四
佃	492	六八四
佄	493	六八五
佅	494	六八五
但	495	六八五
佇	496	六八六
佈	497	六八六
佉	498	六八六
佉	499	六八六
佊	500	六八六
佋	501	六八六
佌	502	六八七
位	503	六八七
低	504	六八八
住	505	六九〇
佐	506	六九一
佑	507	六九三
佒	508	六九三
体	509	六九三
佔	510	六九四
何	511	六九四
佖	512	七〇五
佗	513	七〇五
佘	514	七〇六
余	515	七〇六
佚	516	七〇九
佛	517	七一〇
作	518	七一八
佐	519	七二五
佝	520	七二五
佞	521	七二五
佟	522	七二六
佢	523	七二六
但	524	七二六
命	525	七二六
佈	526	七二六
龛	527	七二六
体	528	七二七
关	529	七二七
㑊	530	七二七
佤	531	七二七
佡	532	七二七
傍	533	七二七
休	534	七二七
侥	535	七二七
侊	536	七二七
佥	537	七二七
佢	538	七二七
佣	539	七二七
侔	540	七二七
伎	541	七二七

六畫

字	番号	頁
保	542	七二七
佩	543	七二七
佩	544	七二九
佪	545	七二九
佫	546	七三〇
佫	547	七三〇
佬	548	七三〇
佭	549	七三〇
佮	550	七三〇
佮	551	七三〇
佯	552	七三〇

佻 569 七三五	佺 568 七三五	佾 567 七三五	侥 566 七三四	侀 565 七三四	佸 564 七三四	佷 563 七三四	佶 562 七三四	併 561 七三四	佴 560 七三四	佈 559 七三四	佪 558 七三四	佳 557 七三一	佫 556 七三一	侶 555 七三〇	金 554 七三〇	佰 553 七三〇
侻 586 七四九	侍 585 七四八	侄 584 七四八	侈 583 七四七	侇 582 七四七	來 581 七四〇	侅 580 七四〇	侄 579 七四〇	侃 578 七四〇	侃 577 七三九	侘 576 七三九	侁 575 七三九	侀 574 七三九	使 573 七三六	侑 572 七三六	佽 571 七三六	佼 570 七三五
侇 603 七五五	侂 602 七五五	侗 601 七五五	侏 600 七五五	侖 599 七五五	侕 598 七五五	侔 597 七五四	律 596 七五四	侅 595 七五四	侑 594 七五四	侐 593 七五四	侏 592 七五三	侏 591 七五三	侂 590 七五三	侍 589 七五〇	会 588 七五〇	例 587 七四九
侏 620 七六二	侠 619 七六二	侻 618 七六二	俫 617 七六一	贪 616 七六一	侀 615 七六一	侇 614 七六一	侈 613 七六一	侍 612 七六一	众 611 七六一	侀 610 七六一	俄 609 七六一	侀 608 七六一	依 607 七五八	侑 606 七五八	供 605 七五六	侚 604 七五六
俟 634 七六八	侯 633 七六二	侔 632 七六三	侵 631 七六二	侮 630 七六二	七畫	侮 629′ 七六二	侮 629 七六二	侕 628′ 七六二	侶 628 七六二	俀 627 七六三	侯 626 七六二	侠 625 七六二	俊 624 七六二	侳 623 七六二	侘 622 七六三	侳 621 七六二
俎 651 七七一	侹 650 七七一	侹 649 七七一	侷 648 七七一	侶 647 七七一	侵 646 七六八	俞 645 七六八	侳 644 七六八	侻 643 七六八	侹 642 七六八	侲 641 七六八	侰 640 七六八	侻 639 七六八	俴 638 七六八	侳 637 七六八	侹 636 七六八	俱 635 七六八
俅 668 七七八	侻 667 七七八	侄 666 七七八	俄 665 七七七	促 664 七七六	係 663 七七五	俣 662 七七五	侵 661 七七五	俊 660 七七五	便 659 七七三	俘 658 七七三	侶 657 七七三	俘 656 七七三	俜 655 七七二	侍 654 七七二	侻 653 七七一	侮 652 七七一
侹 685 七八二	侻 684 七八二	俑 683 七八二	俐 682 七八二	俾 681 七八二	俏 680 七八一	俎 679 七八一	俍 678 七八一	俌 677 七八一	俊 676 七八一	侻 675 七八一	俊 674 七七九	侮 673 七七九	侷 672 七七九	侻 671 七七八	侹 670 七七八	徐 669 七七八
保 702 七八八	俜 701 七八八	侻 700 七八八	俚 699 七八七	俙 698 七八七	俘 697 七八六	俗 696 七八六	俗 695 七八三	侶 694 七八三	俜 693 七八三	俜 692 七八三	保 691 七八三	侳 690 七八三	侻 689 七八三	侸 688 七八三	侙 687 七八三	倪 686 七八二
俤 719 八〇四	俣 718 八〇四	俾 717 八〇四	修 716 八〇四	侻 715 八〇四	俘 714 八〇四	倜 713 八〇四	俨 712 八〇四	俀 711 八〇四	伞 710 八〇四	觔 709 八〇四	俴 708 八〇四	信 707 七九八	俠 706 七九七	俟 705 七九六	俜 704 七九六	俞 703 七九六

侹 735 八一七	俸 734 八一七	俷 733 八一七	俶 732 八一六	傷 731 八一六	俵 730 八一六	倯 729 八一六	倡 728 八一六	俴 727 八一六	俳 726 八一五	勠 725 八一五	俱 724 八一三	俙 723 八一三	俯 722 八一三	修 721 八〇五	八畫	俥 720 八〇四
俘 752 八二〇	倆 751 八二〇	倬 750 八二〇	倩 749 八一九	倜 748 八一九	倳 747 八一九	併 746 八一九	倀 745 八一九	偕 744 八一九	倓 743 八一九	倀 742 八一八	倱 741 八一八	俾 740 八一八	倓 739 八一八	倩 738 八一八	倫 737 八一八	俺 736 八一七
倔 769 八三〇	倓 768 八三〇	倒 767 八二六	們 766 八二五	倕 765 八二五	倮 764 八二五	條 763 八二五	條 762 八二五	倜 761 八二五	倍 760 八二四	倌 759 八二三	個 758 八二三	倯 757 八二三	倉 756 八二〇	倮 755 八二〇	倇 754 八二〇	倒 753 八二〇
值 786 八四一	倣 785 八四一	倢 784 八四一	倡 783 八四〇	倠 782 八四〇	借 781 八三七	倞 780 八三七	倁 779 八三七	倜 778 八三七	倛 777 八三六	倚 776 八三三	候 775 八三一	倘 774 八三一	倢 773 八三一	倗 772 八三〇	倖 771 八三〇	倕 770 八三〇
伾 803 八四九	傳 802 八四九	倕 801 八四九	倱 800 八四九	傻 799 八四九	倯 798 八四九	倮 797 八四九	倭 796 八四八	徃 795 八四八	倬 794 八四七	倫 793 八四六	倪 792 八四四	倩 791 八四三	倨 790 八四三	倧 789 八四三	倦 788 八四二	倥 787 八四二
倍 820 八五〇	倒 819 八五〇	倢 818 八五〇	倒 817 八五〇	倒 816 八五〇	倖 815 八五〇	炙 814 八五〇	傻 813 八五〇	倥 812 八五〇	倗 811 八五〇	傀 810 八四九	倱 809 八四九	倭 808 八四九	倳 807 八四九	倂 806 八四九	傍 805 八四九	夾 804 八四九
偈 836 八五八	假 835 八五三	偰 834 八五三	倳 833 八五三	倢 832 八五三	偢 831 八五三	偃 830 八五〇	偷 829 八五〇	倳 828 八五〇	偰 827 八五〇	倱 826 八五〇	偪 825 八五〇	九畫	俣 824 八五〇	倹 823 八五〇	保 822 八五〇	丧 821 八五〇
偟 853 八六五	傷 852 八六五	佩 851 八六五	修 850 八六五	倳 849 八六五	偏 848 八六〇	偷 847 八六〇	偒 846 八六〇	倱 845 八六〇	倳 844 八六〇	偎 843 八六〇	偅 842 八六〇	偍 841 八六〇	偌 840 八五九	偋 839 八五九	偊 838 八五九	偉 837 八五八
偲 870 八六九	偠 869 八六九	偟 868 八六九	偞 867 八六九	偭 866 八六九	偝 865 八六九	停 864 八六七	偛 863 八六六	俊 862 八六六	做 861 八六六	偞 860 八六六	倣 859 八六六	偪 858 八六六	偺 857 八六六	偺 856 八六六	偕 855 八六五	偔 854 八六五
偪 887 八七二	偩 886 八七二	俊 885 八七二	偆 884 八七二	傑 883 八七三	傍 882 八七一	傪 881 八七一	像 880 八七一	偎 879 八七一	偠 878 八七一	偵 877 八七一	傑 876 八七一	健 875 八六九	僩 874 八六九	倍 873 八六九	俟 872 八六九	倏 871 八六九

904	903	902	901	900	899	898	897	896	895	894	893	892	891	890	889	888
八八〇	八八〇	八八〇	八七七	八七七	八七六	八七六	八七三	八七三	八七三	八七三	八七三	八七三	八七二	八七二	八七二	八七二
921	920	919	918	917	916	915	914	913	912	911	910	909	908	907	906	905
八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇
936	935	934	933	932	931	930	929	928	十畫	927′	927	926	925	924	923	922
八八一	八八一	八八一	八八一	八八一	八八一	八八一	八八一	八八一		八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇	八八〇
953	952	951	950	949	948	947	946	945	944	943	942	941	940	939	938	937
八九〇	八九〇	八九〇	八九〇	八九〇	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八一	八八一	八八一
970	969	968	967	966	965	964	963	962	961	960	959	958	957	956	955	954
八九五	八九五	八九五	八九二	八九二	八九二	八九二	八九二	八九一	八九一	八九一	八九一	八九一	八九一	八九一	八九〇	八九〇
987	986	985	984	983	982	981	980	979	978	977	976	975	974	973	972	971
八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六
1003	1002	十一畫	1001	1000	999	998	997	996	995	994	993	992	991	990	989	988
八九七	八九七		八九七	八九七	八九七	八九七	八九七	八九七	八九七	八九七	八九七	八九六	八九六	八九六	八九六	八九六
1020	1019	1018	1017	1016	1015	1014	1013	1012	1011	1010	1009	1008	1007	1006	1005	1004
九〇八	九〇一	九〇一	九〇一	九〇一	九〇〇	九〇〇	九〇〇	八九九	八九九	八九九	八九九	八九九	八九八	八九八	八九七	八九七
1037	1036	1035	1034	1033	1032	1031	1030	1029	1028	1027	1026	1025	1024	1023	1022	1021
九一三	九一三	九一三	九一二	九一二	九一二	九一二	九一二	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九
1053	1052	1051	1050	1049	1048	1047	1046	1045	1044	1043	1042′	1042	1041	1040	1039	1038
九一八	九一八	九一七	九一七	九一七	九一七	九一七	九一七	九一六	九一六	九一六	九一六	九一六	九一六	九一六	九一六	九一三

僵 1070 九一九	僱 1069 九一九	僉 1068 九一九	僂 1067 九一九	僇 1066 九一九	僩 1065 九一九	僊 1064 九一九	僅 1063 九一九	僥 1062 九一九	僳 1061 九一九	僉 1060 九一九	僦 1059 九一九	僉 1058 九一九	僖 1057 九一九	僨 1056 九一九	僿 1055 九一九	僉 1054 九一八
僻 1086 九二一	僦 1085 九二一	像 1084 九二〇	僎 1083 九二〇	僉 1082 九二〇	僭 1081 九二〇	**十二畫**	僗 1080 九二〇	働 1079 九二〇	僇 1078 九二〇	傘 1077 九二〇	僧 1076 九二〇	僩 1075 九二〇	倉 1074 九二〇	僊 1073 九一九	僾 1072 九一九	僵 1071 九一九
僚 1103 九二五	僜 1102 九二五	僉 1101 九二五	僚 1100 九二四	僦 1099 九二四	僩 1098 九二四	僉 1097 九二四	僗 1096 九二四	僖 1095 九二四	僕 1094 九二三	僔 1093 九二三	僾 1092 九二三	僕 1091 九二三	僨 1090 九二一	僾 1089 九二一	僑 1088 九二一	僐 1087 九二一
僾 1120 九三三	僨 1119 九三二	僉 1118 九三二	僧 1117 九二九	僦 1116 九二九	僦 1115 九二九	僪 1114 九二九	僥 1113 九二八	僤 1112 九二八	僣 1111 九二八	僻 1110 九二八	僕 1109 九二八	僾 1108 九二八	僠 1107 九二八	僟 1106 九二八	僞 1105 九二五	恭 1104 九二五
僗 1137 九三六	僥 1136 九三六	僭 1135 九三六	僾 1134 九三五	僻 1133 九三五	僮 1132 九三五	僬 1131 九三五	僭 1130 九三五	僆 1129 九三五	僣 1128 九三四	僬 1127 九三三	僾 1126 九三三	僚 1125 九三三	僡 1124 九三三	僑 1123 九三三	僩 1122 九三三	僕 1121 九三三
僱 1154 九三六	僚 1153 九三六	僮 1152 九三六	僾 1151 九三六	僩 1150 九三六	僵 1149 九三六	僦 1148 九三六	僵 1147 九三六	僗 1146 九三六	僋 1145 九三六	僾 1144 九三六	僾 1143 九三六	僡 1142 九三六	僵 1141 九三六	僿 1140 九三六	僂 1139 九三六	僺 1138 九三六
優 1170 九三九	僾 1169 九三九	僪 1168 九三九	僑 1167 九三九	僻 1166 九三八	僰 1165 九三八	僵 1164 九三八	價 1163 九三七	僅 1162 九三七	僭 1161 九三七	僕 1160 九三七	僶 1159 九三七	僵 1158 九三六	**十三畫**	僬 1157 九三六	僠 1156 九三六	傘 1155 九三六
儆 1187 九四六	儉 1186 九四六	儲 1185 九四六	儉 1184 九四六	儥 1183 九四六	儥 1182 九四六	傀 1181 九四六	儅 1180 九四六	儗 1179 九四六	億 1178 九四四	儃 1177 九四四	儂 1176 九四四	僞 1175 九四四	儲 1174 九四四	僕 1173 九四四	儀 1172 九四〇	僾 1171 九三九
儭 1204 九四九	儜 1203 九四九	儕 1202 九四九	儮 1201 九四九	僾 1200 九四九	儀 1199 九四九	僾 1198 九四九	傀 1197 九四九	儆 1196 九四八	儋 1195 九四八	儇 1194 九四八	儗 1193 九四八	儗 1192 九四八	儱 1191 九四八	儉 1190 九四七	儈 1189 九四七	儇 1188 九四六
儒 1220 九五〇	僅 1219 九五〇	儻 1218 九五〇	儳 1217 九五〇	儡 1216 九四九	儡 1215 九四九	儐 1214 九四九	儮 1213 九四九	**十四畫**	儼 1212 九四九	儉 1211 九四九	儀 1210 九四九	儇 1209 九四九	儨 1208 九四九	儥 1207 九四九	儥 1206 九四九	儛 1205 九四九

儺 1237 九五五　儽 1236 九五五　儲 1235 九五五　儘 1234 九五五　儗 1233 九五四　儀 1232 九五四　儳 1231 九五四　儔 1230 九五四　儉 1229 九五四　傽 1228 九五四　儕 1227 九五四　儡 1226 九五四　傹 1225 九五四　儔 1224 九五三　僾 1223 九五三　僾 1222 九五三　儼 1221 九五三

十五畫

儻 1253 九五七　儴 1252 九五七　儢 1251 九五六　儉 1250 九五六　儡 1249 九五六　儩 1248 九五六　傷 1247 九五六　儵 1246 九五六　償 1245 九五六　儞 1244 九五六　儻 1243 九五六　傑 1242 九五五　儕 1241 九五五　儴 1240 九五五　儦 1239 九五五　儜 1238 九五五

儱 1270 九六一　儇 1269 九六一　儁 1268 九六一　儭 1267 九六一　儈 1266 九六一　儻 1265 九六一　儌 1264 九六一　儷 1263 九六一　僇 1262 九六一　優 1261 九五七　儩 1260 九五七　質 1259 九五七　儹 1258 九五七　儦 1257 九五七　儉 1256 九五七　儥 1255 九五七　儤 1254 九五七

十六畫

儐 1286 九六四　儈 1285 九六四　儲 1284 九六三　儈 1283 九六二　儴 1282 九六二　儱 1281 九六二　僞 1280 九六二　億 1279 九六二　儽 1278 九六二　儳 1277 九六二　儴 1276 九六二　儮 1275 九六二　儭 1274 九六一　儉 1273 九六一　儼 1272 九六一　儴 1271 九六一

十七畫

十八畫

儸 1301 九六六　儵 1300 九六六　儵 1299 九六五　儳 1298 九六五　儴 1297 九六五　儳 1296 九六五　儭 1295 九六五　歸 1294 九六五　儩 1293 九六五　儻 1292 九六五　儆 1291 九六四　戇 1290 九六四　儘 1289 九六四　儻 1288 九六四　儭 1287 九六四

十九畫

儺 1317 九六七　儭 1316 九六七　儹 1315 九六六　儷 1314 九六六　儸 1313 九六六　儺 1312 九六六　儷 1311 九六六　儼 1310 九六六　儋 1309 九六六　儼 1308 九六六　儗 1307 九六六　儡 1306 九六六　儩 1305 九六六　儵 1304 九六六　儾 1303 九六六　儸 1302 九六六

二十畫

二十一畫

二十二畫

儹 1331 九六九　儸 1330 九六九　儦 1329 九六九　儸 1328 九六八　儻 1327 九六八　儽 1326 九六八　儽 1325 九六八　儼 1324 九六八　儻 1323 九六七　儽 1322 九六七　儽 1321 九六七　儽 1320 九六七　儽 1319 九六七　儱 1318 九六七

二十四畫

儿部

尢 1342 九九六　尣 1341 九九六　元 1340 九七三　尧 1339 九七三　允 1338 九七〇　兀 1337 九六九　儿 1336 九六九　儉 1335 九六九　儽 1334 九六九　儽 1333 九六九　儽 1332 九六九

一畫

二畫

三畫

四畫

克 1357 一〇三五　兌 1356 一〇三四　克 1355 一〇三一　元 1354 一〇三一　元 1353 一〇三一　元 1352 一〇三一　兗 1351 一〇三一　光 1350 一〇三一　先 1349 一〇〇三　兕 1348 一〇〇三　兆 1347 一〇〇一　兜 1346 一〇〇一　充 1345 一〇〇一　充 1344 九九八　兄 1343 九九六

五畫

六畫

兟 1372 一〇三三　光 1371 一〇三三　兕 1370 一〇三三　兕 1369 一〇三三　兔 1368 一〇三二　兔 1368 一〇三〇　兢 1367 一〇三〇　兜 1366 一〇三〇　兒 1365 一〇二八　兒 1364 一〇二八　兟 1363 一〇二八　兟 1362 一〇二八　兟 1361 一〇二八　兗 1360 一〇二八　兎 1359 一〇二八　兔 1358 一〇二五

兂 1373 一〇三三
究 1374 一〇三三

七畫

亮 1375 一〇三三
芫 1376 一〇三四
皃 1377 一〇三四
祪 1378 一〇三四
奊 1379 一〇三四
兙 1380 一〇三四

八畫

党 1381 一〇三四
覞 1382 一〇三四
兟 1383 一〇三四
兣 1384 一〇三四
尭 1385 一〇三四

九畫

兜 1386 一〇三四
兝 1387 一〇三五
兞 1388 一〇三五
兡 1389 一〇三六
兛 1390 一〇三六

十畫

兟 1391 一〇三六
兤 1392 一〇三六
兆 1393 一〇三六

十一畫

兢 1394 一〇三六

十二畫

兢 1395 一〇三六
兢 1396 一〇三六
兢 1397 一〇三六
兢 1398 一〇三六
兢 1399 一〇三六

十三畫

兢 1400 一〇三六
兢 1401 一〇三六
兢 1402 一〇三六
兢 1403 一〇三六

十四畫

兢 1404 一〇三六
兢 1405 一〇三七

十六畫

兢 1406 一〇三七
兢 1407 一〇三七
兢 1408 一〇三七

十七畫

兢 1409 一〇三七
兢 1410 一〇三七

十八畫

兢 1411 一〇三七

十九畫

兢 1412 一〇三七

二十二畫

兢 1413 一〇三七
兢 1414 一〇三七

入部

入 1415 一〇三七

一畫

亼 1416 一〇四三
亾 1417 一〇四三

二畫

内 1418 一〇四三
从 1419 一〇六〇
仐 1420 一〇六〇
亽 1421 一〇六〇

三畫

仝 1422 一〇六〇
仑 1423 一〇六〇

四畫

全 1424 一〇六〇
夋 1425 一〇六五
𠓣 1426 一〇六五
弇 1427 一〇六五
念 1428 一〇六五
佽 1429 一〇六五

五畫

㒳 1430 一〇六五
合 1431 一〇六五
㑒 1432 一〇六五
争 1433 一〇六五
畣 1434 一〇六五
夋 1435 一〇六五

六畫

兩 1436 一〇六五

七畫

俞 1437 一〇七七
亦 1438 一〇八一
兵 1439 一〇八一

八畫

林 1440 一〇八一
回 1441 一〇八一

九畫

癸 1442 一〇八一

十畫

弗 1443 一〇八一

十一畫

弗 1444 一〇八一
爽 1445 一〇八一
帶 1446 一〇八一

十二畫

桼 1447 一〇八一

十五畫

龏 1448 一〇八一

十八畫

龍 1449 一〇八一

總畫順による檢字

親文字の下に記した和數字は其の文字を掲載した頁。

一畫

一 一　丨 二六六　丶 二三〇　丿 二三八　乀 二三八　厂 二三八　乁 二三八　乁 二三八　乙 二三四　乙 二三六　乚 二三六　ㄣ 二三六　ㄥ 二三六　亅 四〇九　レ 四〇九

二畫

丁 七三　丂 八二　㔾 八二　𠀁 八二　七 八二　丄 一〇四　丅 一〇四　丂 一〇四　丩 二六六　卜 二六六

⺄ 二三〇　乂 二三八　ナ 二三九　乃 二三九　夕 二四〇　乄 二四〇　乄 二四〇　亼 二四〇　乜 二三六　九 二三六　乚 二三八　乙乙 二三八　了 四〇九　丩 四一〇　乃 四一〇　⺄ 四一〇　二 四一六　二 四五三　二 四五三　二 四五三　亠 五二九　人 五五六　儿 九九　入 一〇七

三畫

万 一〇四　丈 一〇四　三 一〇七

上 一九五　下 二三〇　丌 二三五　丑 二三五　丒 二三五　丏 二三五　个 二六六　丫 二六六　丰 二六七　丷 二三〇　丸 二三〇　丸 二三一　凡 二三一　々 二三一　亡 二三一　久 二四〇　久 二四三　乇 二四三　么 二四三　乃 二四三　九 二四三　乂 二四三　乞 二三八　也 二五一　世 二五三　乜 四一〇　亍 四五三　于 四五三　亏 四五七

亡 二五九　亼 二五六　亣 二五六　个 二五六　兀 九九　亼 一〇三　亾 一〇三

四畫

不 二三六　与 二六四　丏 二六四　丏 二六四　丑 二六四　且 二六五　丘 二六五　丈 二六五　丘 二六五　刄 二六五　中 二六七　卂 二三七　丰 二三七　丰 二三七　丹 二三二　之 二四三　刅 二四六　丒 二四六　乃 二四六　匆 二四六　凧 二五三　卂 二五三　乢 二五三　幺 二五三　予 四一〇

孑 四一二　从 四一二　厶 四一二　云 四五七　互 四六五　亓 四六〇　五 四六〇　井 二五九　三 二五四　叉 二五四　亢 二五三　亣 二五三　什 五七六　仁 五七七　仂 五八四　仃 五八四　仄 五八四　仅 五八五　仆 五八五　仇 五八六　仈 五八八　仉 五八八　今 五八八　介 五九一　仌 五九五　仍 五九五　从 五九六　亾 五九六　仏 五九六　仃 五九六　仐 五九六　内 五九六　允 九〇　先 九三

元 九三　兂 九六　内 一〇三　从 一〇〇　仐 一〇〇　仝 一〇〇

五畫

且 二六五　丕 二六七　世 二六八　丗 二七八　丘 二七八　北 二六三　丙 二六三　引 二六四　亥 二六四　丮 二六四　丱 二三八　丫 二三八　主 二三九　井 二三七　甴 二三八　乍 二四六　乎 二四七　朩 二四七　乏 二四七　夭 二四八　孛 二四八　乎 二四八　㝊 二四八　㐌 二五三　瓜 二五三　艹 二五三

乱 二五三　凸 五二四　亥 五三三　仔 五九六　仕 五九六　仰 五九七　他 五九七　仗 六〇〇　参 六〇一　付 六〇一　仙 六〇一　仚 六〇九　任 六〇九　仜 六〇九　仝 六〇九　仞 六〇九　仟 六一〇　仟 六一〇　仡 六一〇　伏 六一〇　仉 六一〇　仢 六一〇　代 六一一　令 六一五　以 六二〇　仢 六二三　仑 六二三　仞 六二三　仦 六二三　仦 六二三　夫 六二三　仮 六二三　仧 六二三　仨 六二三

尢 九六　兄 九六　充 九九　仝 一〇〇　乭 一〇〇

六畫

西 二六四　丞 二六四　丢 二六五　㐁 二六五　而 二六五　丕 二六五　北 二六五　两 二六五　丣 二六五　甲 二三八　弃 二三八　厎 二四八　氶 二四八　甹 二四八　自 二四八　甪 二四八　乑 二四八　丟 二四八　乓 二四八　乒 二四八　乕 二五三　乩 二五三　乩 二五三　乿 二五三　乪 二五三　飞 二五三　孖 四二一

争 四二一　亘 五二四　亘 五二四　亙 五二四　亙 五二四　㐫 五二四　交 五三三　亥 五四一　亦 五四三　众 五四三　仮 六三三　仯 六三三　仰 六三三　伶 六三五　伙 六三五　仲 六三五　仳 六三四　吏 六三四　仡 六三四　伒 六三四　伄 六三四　仵 六三四　件 六三五　优 六三五　价 六三五　伕 六三五　伻 六三五　仺 六三五　任 六三五　任 六四三　份 六四三　伍 六四三　仿 六四三　伀 六四三

企 六四三　㑌 六四四　伂 六四四　仔 六四四　佛 六四四　伅 六四四　伆 六四四　役 六四四　伈 六四四　伉 六四四　伊 六四四　伋 六五二　伌 六五三　伍 六五三　伎 六五五　仭 六五五　伏 六五五　伐 六六一　休 六六三　伎 六六七　仺 六六七　伜 六六七　伒 六六七　伢 六六七　伓 六六七　㑅 六六七　伔 六六七　併 六六八　伫 六六八　伕 六六八　伖 六六八　众 六六八　优 六六八　今 六六八

弁 六六八　伙 六六八　伵 六六八　伹 六六八　会 六六八　伛 六六八　伜 六六八　伝 六六八　充 一〇〇一　兇 一〇〇一　兆 一〇〇一　兕 一〇〇二　先 一〇〇三　光 一〇一三　兖 一〇三一　兂 一〇三一　尧 一〇三一　兂 一〇三一　全 一〇五〇　夋 一〇五五　仑 一〇五五　佘 一〇五五　仺 一〇五五　伕 一〇五五

七畫

亜 二六五　羌 二六五　㒳 二六五　两 二六五　所 二六五　串 二三八　冉 二三九　垂 二四八

乕 二四八　乱 二五三　乱 二五三　丸 二五三　㓞 四二一　㚕 四二一　穷 四二一　况 五二五　些 五二五　死 五二五　亙 五二五　亘 五二五　亜 五二五　亨 五四三　㐬 五四四　㐬 五四四　伭 六六八　伮 六六八　伷 六六八　伯 六六八　估 六七八　伬 六七八　俩 六七八　伱 六七八　你 六七八　你 六七九　伲 六七九　伳 六七九　伴 六七九　伐 六八〇　佃 六八〇　伶 六八〇　伷 六八〇　㑃 六八〇

伸 六八〇　伹 六八一　伺 六八一　伻 六八三　似 六八三　伽 六八三　伾 六八四　佂 六八四　佀 六八四　佁 六八四　征 六八四　佃 六八五　佄 六八五　佅 六八五　但 六八五　佇 六八六　佈 六八六　佲 六八六　佉 六八六　佊 六八六　佋 六八六　佌 六八七　位 六八七　低 六八八　住 六九〇　佐 六九一　佑 六九三　佒 六九三　体 六九三　佔 六九四　何 六九四　佖 七〇五　佗 七〇五　余 七〇六

余 七〇六　佚 六九九　佛 七一〇　作 七一八　佐 七〇五　佝 七〇五　佞 七〇五　佟 七〇六　佸 七〇六　但 七〇六　命 七〇六　佈 七〇六　侌 七〇七　体 七〇七　㚑 七〇七　佣 七〇七　侊 七〇七　佮 七〇七　侉 七〇七　佅 七〇七　佹 七〇七　佌 七〇七　佺 七〇七　佢 七〇七　佣 七〇七　佯 七〇七　伎 七〇七　克 一〇〇二　兊 一〇〇四　克 一〇〇五　免 一〇〇五　兎 一〇〇八　免 一〇〇八　皃 一〇〇八

㞢 一〇〇八　光 一〇〇八　兒 一〇〇八　兩 一〇五五　侖 一〇五五　㑀 一〇五五　㑹 一〇五五　侖 一〇五五　㚇 一〇五五

八畫

並 二六五　並 二六五　埜 二六五　函 二六五　亟 二六五　丞 二六五　丽 二六五　丳 二六五　弗 二三九　串 二三九　㓜 二三九　丽 二三八　乖 二四八　乘 二四〇　乳 二五三　㐖 二五六　乳 二五六　乱 二五六　㐨 四一二　事 四一三　事 四一六　亝 五二五　亞 五二五

亝 五二八　亟 五二八　冎 五二八　枣 五二八　享 五四四　京 五四五　亩 五五〇　亰 五五〇　亭 五五〇　保 七一七　佩 七一七　佩 七一九　佪 七一九　佢 七二〇　佫 七二〇　佬 七二〇　侔 七二〇　倣 七二〇　佮 七二〇　佯 七二〇　佰 七二〇　佥 七二〇　伯 七二〇　佫 七二一　佳 七二一　価 七二四　伱 七二四　佴 七二四　併 七二四　佶 七二四　佷 七二四　佸 七二四　佃 七二四　佹 七二四

侚 七二五　佺 七二五　佻 七二五　佼 七二五　佽 七二六　佾 七二六　使 七二六　侀 七二九　侁 七二九　侘 七二九　侃 七二九　侃 七三〇　侄 七三〇　侅 七三〇　來 七三〇　侇 七三七　侈 七三七　㑌 七三八　侉 七三八　侊 七三九　例 七三九　侌 七四〇　侍 七四〇　侂 七四三　侎 七四三　侏 七四三　侐 七四四　侑 七四四　侒 七四四　侓 七四四　侔 七四四　侕 七四五　侖 七四五　俵 七四五

侗 七五五　侘 七五五　侙 七五五　佝 七五五　供 七五六　俯 七五六　依 七五八　侺 七五八　俄 七六一　伽 七六一　欸 七六一　侍 七六一　侈 七六一　侟 七六一　佀 七六一　贠 七六一　侇 七六一　兖 七六三　侯 七六三　佅 七六三　侳 七六三　侢 七六三　作 七六三　俊 七六三　侠 七六三　侯 七六三　伇 七六三　伯 七六三　価 七六三　俩 七六三　侮 七六三　兒 一〇二八　皃 一〇三〇　兟 一〇三〇

兔 一〇三〇　免 一〇三一　兕 一〇三一　兕 一〇三二　光 一〇三二　光 一〇三二　兘 一〇三二　兖 一〇三二　兩 一〇六五

九畫

厖 二八五　佘 三一九　笇 三一九　秊 三五〇　乘 三五〇　乹 三九六　執 三九六　佌 三九六　旭 三九六　乳 三九六　亂 三九六　亀 三九六　柬 四一六　亟 五二八　亟 五三九　亱 五三九　亭 五四〇　亮 五四三　亯 五四三　亩 五四三　京 五四三　亳 五四三　亱 五四三

奇 五三三　亲 五四四　侮 七六三　侴 七六三　侔 七六三　侯 七六三　矦 七六六　侰 七六六　侌 七六六　俣 七六六　侯 七六六　侫 七六六　併 七六六　侲 七六六　侹 七六六　俬 七六六　侳 七六六　俞 七六六　侵 七六六　侶 七七一　侷 七七一　侸 七七一　侹 七七一　侀 七七一　俈 七七一　侻 七七一　侼 七七三　俁 七七三　㑚 七七三　俖 七七三　俘 七七三　便 七七三　俊 七七五　侵 七七五

俁 七七五　係 七七五　促 七七六　俄 七七七　俇 七七八　侊 七七八　俅 七七八　俆 七七八　侹 七七八　俥 七七八　俈 七七九　俉 七七九　俊 七七九　俋 七八一　俣 七八一　俌 七八一　俍 七八一　俎 七八一　俏 七八一　俾 七八二　俐 七八二　俑 七八二　俒 七八二　俓 七八二　俔 七八二　俽 七八三　俶 七八三　攸 七八三　俳 七八三　俕 七八三　俜 七八三　俤 七八三　俖 七八三　俗 七八三

俗 七八六　俘 七八六　俙 七八七　俚 七八七　俛 七八八　俜 七八八　保 七八八　俞 七九六　俖 七九六　俟 七九六　俠 七九七　信 七九八　俶 八〇四　㑊 八〇四　伞 八〇四　俀 八〇四　俜 八〇四　俩 八〇四　俘 八〇四　俗 八〇四　修 八〇四　便 八〇四　俣 八〇四　俤 八〇四　俥 八〇四　兗 一〇三三　羌 一〇三四　皃 一〇三四　兘 一〇三四　尭 一〇三四　兛 一〇三四　兪 一〇三七　㑹 一〇八一　奐 一〇八一

十畫

茈 二八六　丵 三二〇　非 三二〇　隶 三二〇　乘 三四〇　乑 三四四　咎 三四四　奆 三四四　道 三九六　融 三九六　亂 三九六　亜 五二九　胔 五二九　亳 五四四　章 五四四　兗 五四四　亱 五四四　亭 五四四　亮 五四四　修 八〇五　俯 八一二　俰 八一三　俱 八一三　俲 八一五　俳 八一五　俴 八一六　俻 八一六　俶 八一六　俵 八一六　傷 八一六　俶 八一六　俷 八一七

俸 八一七　倕 八一七　俺 八一七　倄 八一八　倩 八一八　倣 八一八　俾 八一八　倀 八一八　倀 八一八　倄 八一九　倃 八一九　倓 八一九　倂 八一九　倃 八一九　倆 八一九　倄 八一九　倅 八二〇　倆 八二〇　倀 八二〇　倁 八二〇　倇 八二〇　倈 八二〇　倉 八二〇　倊 八二三　個 八二三　倌 八二三　倍 八二四　倎 八二五　倏 八二五　條 八二五　候 八二五　倄 八二五　們 八二五　倒 八二六

倓 八三〇　倔 八三〇　倕 八三〇　倖 八三〇　倗 八三〇　倸 八三一　倘 八三一　候 八三一　倚 八三三　倛 八三六　倜 八三六　倝 八三六　倞 八三六　借 八三六　倠 八四〇　倡 八四〇　倢 八四一　倣 八四一　値 八四一　倥 八四二　倦 八四二　倧 八四三　倨 八四三　倩 八四三　倪 八四四　倫 八四六　倬 八四七　倠 八四八　倭 八四八　倮 八四九　倯 八四九　倰 八四九　倱 八四九　倲 八四九

傳 八四九　伻 八四九　倊 八四九　倄 八四九　倈 八四九　倨 八四九　俲 八四九　倛 八四九　俱 八四九　倷 八五〇　從 八五〇　俴 八五〇　炎 八五〇　倖 八五〇　俐 八五〇　倒 八五〇　倷 八五〇　例 八五〇　倃 八五〇　丧 八五〇　俅 八五〇　俭 八五〇　俣 八五〇　党 一〇三四　兜 一〇三四　兛 一〇三四　兝 一〇三四　尭 一〇三四　兪 一〇八一　侖 一〇八一

十一畫

罜 二八六　乑 三四四

眉 三四四　乾 三九六　乱 四〇三　乿 四〇三　亂 四〇三　亹 四〇三　䍐 四〇三　亀 四〇三　豹 四一六　亟 五二九　亮 五四四　亭 五四四　亶 五四四　匏 五四四　毫 五四四　偖 八五〇　偨 八五〇　偯 八五〇　偋 八五〇　偂 八五〇　偃 八五〇　偄 八五三　偅 八五三　偆 八五三　偎 八五三　假 八五三　偈 八五八　偉 八五八　偊 八五九　偋 八五九　偌 八五九　偍 八六〇　偉 八六〇　偎 八六〇

傜 八六〇　偣 八六〇　偔 八六〇　御 八六〇　偏 八六〇　偗 八六〇　修 八六五　佩 八六五　傷 八六五　偓 八六五　偒 八六五　偕 八六五　偖 八六六　偦 八六六　偪 八六六　敞 八六六　偙 八六六　做 八六六　偗 八六六　偭 八六六　停 八六七　偝 八六九　偶 八六九　偞 八六九　偟 八六九　偠 八六九　偡 八六九　偢 八六九　偨 八六九　倍 八六九　偤 八六九　健 八六九　偰 八七一　偵 八七一

傻 八七一　傦 八七一　像 八七一　修 八七一　傍 八七一　傑 八七一　傪 八七一　傁 八七一　偩 八七一　偪 八七一　偫 八七一　偬 八七一　偭 八七一　偦 八七二　偯 八七二　偰 八七二　偱 八七二　偲 八七二　偳 八七二　側 八七二　偵 八七六　偶 八七六　傚 八七七　傴 八七七　傗 八八〇　傚 八八〇　傘 八八〇　傒 八八〇　恒 八八〇　倪 八八〇　傻 八八〇　倌 八八〇　候 八八〇　倶 八八〇

傛 八八〇　僉 八八〇　僶 八八〇　傗 八八〇　僇 八八〇　亩 八八〇　僉 八八〇　傀 八八〇　傒 八八〇　保 八八〇　倏 八八〇　僭 八八〇　僂 八八〇　倢 八八〇　僉 八八〇　儁 八八〇　偽 八八〇　兜 一〇三四　兛 一〇三五　兞 一〇三五　翅 一〇三六　兝 一〇三六　癸 一〇八一

十二畫

亟 三一〇　脈 三四四　甗 四〇三　融 四〇三　乾 四〇三　㣶 四一六　戫 五四四　甤 五四四　兖 五四四

寇 五四四　亮 五四四　傀 八八一　傁 八八一　傷 八八一　傂 八八一　傁 八八一　傣 八八一　偺 八八一　傄 八八一　傃 八八一　傒 八八一　側 八八一　傅 八八一　傆 八八八　借 八八八　傈 八八八　傉 八八八　傊 八八八　傻 八八八　傋 八八八　傌 八八八　傍 八八八　傸 八九〇　㑶 八九〇　傎 八九〇　㑜 八九〇　傏 八九〇　傓 八九〇　傑 八九〇　傎 八九一　傞 八九一　保 八九一　傒 八九一

傻 八九一　偏 八九一　傔 八九一　傕 八九二　傖 八九二　傗 八九二　傘 八九二　備 八九二　傜 八九五　傚 八九五　傛 八九五　傜 八九六　傷 八九六　傞 八九六　傟 八九六　偎 八九六　傠 八九六　個 八九六　傼 八九六　僄 八九六　倰 八九六　傺 八九六　傰 八九六　傱 八九六　㑺 八九六　傕 八九六　傹 八九六　偽 八九六　傜 八九六　傘 八九六　傶 八九六　傻 八九六　傢 八九六　俓 八九七

傎 八九七　絫 八九七　傝 八九七　傱 八九七　倚 八九七　傤 八九七　傻 八九七　傴 八九七　兟 一〇三六　兔 一〇三六　兜 一〇三六　兪 一〇八一

十三畫

腸 三二八　亂 四〇三　亃 四〇八　亄 四〇八　乾 四〇八　亶 五五四　褰 五五五　傪 八九七　傫 八九七　俾 八九七　催 八九七　傑 八九八　傭 八九八　傮 八九九　傛 八九九　㑀 八九九　傯 八九九　傰 八九九　從 九〇〇　傶 九〇〇

傲 九〇〇　㒧 九〇一　傶 九〇一　傼 九〇一　傳 九〇一　傴 九〇八　傽 九〇九　債 九〇九　僅 九〇九　㑔 九〇九　僋 九〇九　僘 九〇九　僩 九〇九　偆 九〇九　傷 九〇九　僞 九一三　傸 九一三　僥 九一三　傺 九一三　傻 九一三　僈 九一三　雩 九一三　傽 九一三　傾 九一三　僞 九一六　㒁 九一六　僕 九一六　僀 九一六　備 九一六　僪 九一六　㒄 九一六　僂 九一六　備 九一七　僄 九一七

僅 九一七　僆 九一七　個 九一七　僇 九一七　僈 九一八　僻 九一八　僉 九一八　僊 九一九　僨 九一九　傳 九一九　䌥 九一九　僎 九一九　㒈 九一九　偲 九一九　俄 九一九　僆 九一九　倲 九一九　㒧 九一九　係 九一九　係 九一九　偉 九一九　㒈 九一九　偃 九一九　偁 九一九　倕 九一九　㑳 九一九　龠 九二〇　僛 九二〇　僧 九二〇　傘 九二〇　僋 九二〇　働 九二〇　僗 九二〇　甂 一〇三六

龠 一〇八一　夋 一〇八一　芖 一〇八一

十四畫

乿 四〇八　毙 四〇八　絲 四〇八　亹 五二九　僟 九二〇　僘 九二〇　僎 九二〇　像 九二〇　僟 九二二　僻 九二二　僐 九二二　僑 九二二　僭 九二二　僓 九二二　僬 九二三　僺 九二三　僔 九二三　僕 九二三　僖 九二四　傍 九二四　僘 九二四　僙 九二四　僛 九二四　僚 九二四　僘 九二五　僜 九二五　僝 九二五　僸 九二五　僞 九二五

僟 九二八　僠 九二八　僡 九二八　㒎 九二八　僢 九二八　僣 九二八　僤 九二八　僥 九二八　僞 九二九　僦 九二九　𠌫 九二九　僧 九二九　㒈 九三三　債 九三三　㒖 九三三　㒃 九三三　僩 九三三　僪 九三三　㒂 九三三　僕 九三三　僫 九三三　僬 九三三　僭 九三四　㒃 九三五　僝 九三五　徼 九三五　僮 九三五　僯 九三五　僰 九三五　㑭 九三六　僥 九三六　僉 九三六　僪 九三六　僂 九三六

僘 九三六　㒂 九三六　傷 九三六　憾 九三六　懋 九三六　僭 九三六　粂 九三六　俓 九三六　僟 九三六　個 九三六　㒑 九三六　僁 九三六　僪 九三六　係 九三六　僱 九三六　傘 九三六　僻 九三六　龠 九三六　兢 一〇三六　兟 一〇三六　兢 一〇三六　兤 一〇三六　兓 一〇三六　桼 一〇八一

十五畫

贏 五三五　寨 五三五　奭 五三五　僵 五三五　僶 九三七　僕 九三七　傑 九三七　僅 九三七

價 九三七　匯 九三八　僺 九三八　僻 九三八　儈 九三九　儖 九三九　懋 九三九　僾 九三九　僿 九三九　儀 九四〇　僕 九四四　儲 九四四　儁 九四四　儂 九四四　儃 九四四　億 九四四　僿 九四六　儅 九四六　㑼 九四六　㒒 九四六　㒋 九四六　㑦 九四六　㒙 九四六　㒄 九四六　儆 九四六　儇 九四六　儈 九四七　儉 九四七　㒕 九四八　㒎 九四八　儊 九四八　㒞 九四八　儋 九四八　儌 九四八

傀 九四九　俓 九四九　餓 九四九　俚 九四九　僾 九四九　畬 九四九　儒 九四九　亂 九四九　御 九四九　儐 九四九　儞 九四九　儫 九四九　儭 九四九　儎 九四九　儉 九四九　儦 九四九　兠 一〇三六　兟 一〇三六　毳 一〇三六　兟 一〇三六

十六畫

壺 二八六　畾 二八六　兖 四一六　亝 五五五　亶 五五五　亹 五五五　熏 五五五　冀 五五五　壽 五五五　儷 九四九　儐 九四九　緜 九四九

儤 九四九　儦 九五〇　儆 九五〇　儘 九五〇　儒 九五〇　儮 九五三　儢 九五三　儓 九五三　儔 九五三　儠 九五四　儔 九五四　儕 九五四　儤 九五四　儖 九五四　儯 九五四　㑳 九五四　㒜 九五四　儗 九五四　儘 九五五　儙 九五五　儚 九五五　儛 九五五　儜 九五五　儁 九五五　像 九五五　儯 九五五　㒟 九五五　儦 九五六　儞 九五六　兟 一〇三六　𨑓 一〇三七

十七畫

𤸣 四〇八

臺 五五五　償 九五六　㑹 九五六　傍 九五六　儀 九五六　儡 九五六　㒚 九五六　儢 九五六　儶 九五七　儣 九五七　儤 九五七　儥 九五七　僜 九五七　㒋 九五七　儧 九五七　儨 九五七　儩 九五七　優 九五七　儸 九六一　儷 九六一　儌 九六一　優 九六一　儸 九六一　儭 九六一　偉 九六一　儇 九六一　儷 九六一　龕 九六一

十八畫

亹 五五五　儴 九六一　僬 九六一　懺 九六一

儭 九六一　儮 九六二　僾 九六二　儸 九六二　僋 九六二　億 九六二　儁 九六二　儱 九六二　懷 九六二　儹 九六二　儲 九六二　儈 九六四　儘 九六四　傾 九六四　僔 九六四　儢 九六四　歎 九六四　競 一〇三七　燿 一〇三七　兤 一〇三七

十九畫

乾 四〇九　褎 五三三　僜 九六四　儀 九六五　㒚 九六五　㒧 九六五　傾 九六五　儳 九六五　儴 九六五　僥 九六五　儵 九六五　𠐟 九六六

儺 九六六　儩 一〇三七　𨘗 一〇三七

二十畫

㗊 二八六　鼗 四〇九　㒂 九六六　儷 九六六　儺 九六六　㒜 九六六　儽 九六六　儌 九六六　㒪 九六六　儈 九六六　儶 九六六　兣 一〇三七　𨬒 一〇八一

二十一畫

儷 九六六　㒕 九六六　儸 九六六　㒏 九六六　儹 九六六　顛 九六七　儺 九六七　儱 九六七　儇 九六七　㒥 九六七　㒣 九六七　儳 九六七　麐 一〇三七

二十二畫

亹 五五五　儻 九六七　儼 九六八　㒩 九六八　儹 九六八

二十三畫

𠐤 九六八　儽 九六八　儲 九六九　儼 九六九　㒦 九六九

二十四畫

豪 五五六　儾 九六九　龕 九六九　龜 一〇三七　鱙 一〇三七

二十六畫

龥 九六九　鑱 九六九

大漢和辭典

諸橋轍次著

一部

【一】1 イツ イチ 〔集韻〕益悉切 質

一 小篆 古文 ㇐ 單箇。〔易、繫辭上〕天一地二。〔論語、公冶長〕回也聞一以知十。〔孟子、梁惠王上〕吾對曰、定于一。〔淮南子、本經訓〕由近知遠、而萬殊爲一。〔春秋繁露、天道無二〕一者、一也。㊁多くの中の或るもの。〔呂覽、擧難〕擇務而貴取一也。〔史記、平準書〕白金三品、其一曰、重八兩圜之。〔何承天、重答顏光祿書〕願吾子舍兼而遵一也。〔顏延之、庭誥文〕選言務一、不尙煩密。㊂ひとつびとつ。〔新書、脩政語上〕諸侯萬人、而禹一皆知其體。㊃ひとたび。㋑いちど。〔中庸〕人一能之、己百之。〔史記、魯世家〕一食、三吐哺。㊁もし。〔左氏、成、二〕蔡・許之君、一失其位、不得列於諸侯。〔漢書、文帝紀〕歲一不登、民有飢色。㊄ひとり。他にこれのないこと。〔方言、十二〕一、蜀也、南楚謂之獨。〔注〕蜀、猶獨也。㊅數のはじめ。〔廣韻〕一、數之始也。〔孝經、開宗明義章第一、疏〕一、數之始也。㊆物のはじめ。物の極。〔說文〕一、惟初大極、道立於一、造分天地、化成萬物。〔老子、三十九〕昔之得一者。〔注〕一、數之始、而物之極也。〔老子、四十二〕道生一。〔列子、天瑞〕一者、形變之始也。〔莊子、天地〕一之所起。〔注〕一者、有之初、至妙者也。㊇道。眞。善。〔逸周書、命訓解〕六方三述、其極、一也。〔注〕一者、善之謂也。〔老子、十一〕載營魄、抱一能無離乎。〔注〕一、人之眞也。〔呂覽、論人〕知神之謂得一。〔注〕一、道也。〔淮南子、原道訓〕無形者、一之謂也。㊈まじりない。まこと。〔易、繫辭下〕天下之動、貞夫一者也。〔書、大禹謨〕惟精惟一。㊉すぐれる。並びない。たぐひない。〔淮南子、詮言訓〕一也者、萬物之本也、無敵之道也。㊊一人。天子の世子。又、天子。〔禮記、文王世子〕語曰、樂正司業、父師司成、一有元良、萬國以貞。世子之謂也。〔注〕一、一人也。〔孔子家語、曲禮子夏問〕語曰、樂正司業、父師司成、一有元良、萬國以貞。〔注〕一、謂天子也。㊋もつぱら。ひとへに。專一。〔禮、禮運〕欲以窮之。〔韓非子、詭使〕賞利一從上出。〔淮南子、說山訓〕用心一也。〔注〕一、情專也。〔史記、曹相國世家〕一遵蕭何約束。〔史記、范雎傳〕范叔一寒如此哉。〔後漢書、馮緄傳〕將軍一之。〔注〕一、猶專也。㊌すこし。わづか。ちよつと。〔廣韻〕一、少也。〔莊子、知北遊〕二不化者也。〔韓非子、安危〕國不得一安。〔後漢書、禰衡傳〕目所一見、輒誦於口。〔歐陽脩、憎蒼蠅賦〕一有霑汚、人皆不食。㊍おなじ。㋑同じ。かはらぬ。〔廣韻〕一、同也。〔禮、樂記〕禮樂刑政、其極一也。〔中庸〕所以行之者、一也。〔孟子、離婁下〕先聖後聖、其揆一也。〔荀子、禮論〕古今之所一也。〔注〕一、謂不變也。〔淮南子、說山訓〕所歸者一。〔淮南子、說林訓〕尾生之信、不如隨牛之誕、而又況一不信者乎。〔注〕一、猶常。〔史記、儒林、韓生傳〕其歸一也。㊁ひとつにする。ひとしくする。〔國語、晉語四〕戮力一心。〔注〕一、同也。〔韓非子、功名〕人主者、天下一力以共載之。〔淮南子、原道訓〕一度循軌。〔注〕一、齊也。〔淮南子、本經訓〕同精于陰陽、一和于四時。〔注〕一、同也。〔史記、禮書〕總一海內。〔唐書、薛平傳〕徭賦均一。㊎すべて。みな。〔經傳釋詞、三〕一、事皆埠益我也。〔大戴禮、衞將軍文子〕一諸侯之相也。〔注〕一、皆也。〔荀子、勸學〕一可以爲法則。〔注〕一、皆也。〔呂覽、貴直〕士之邀弊、一若此乎。〔注〕一、猶皆也。〔史記、淮陰侯傳〕一軍皆驚。㊏或は。時には。〔經傳釋詞、三〕一、猶或也、莊二年穀梁傳曰、其一曰、君在而重之也、文十八年曰、一曰、就賢也、一曰、或曰也。〔爾雅、釋水〕一有水、一無水。㊐すなはち。〔呂覽、知士〕靜郭君之於寡人、一至此乎。〔注〕一、猶乃也。㊑發語の詞。句調を調へる語。〔經傳釋詞、三〕一、語助也、昭二十年左傳曰、君一過多矣、何信於讒、管子霸形篇曰、今楚王之善寡人、一甚矣、云云、以上諸一字、皆是語助字。㊒身。からだ。〔莊子、徐無鬼〕上之質、若亡其一。〔釋文〕一、身也。㊓樂譜記號の一。夾鐘・姑洗を表はす。或は乙に作る。〔宋史、樂志十七〕夾鐘・姑洗、用二字。㊔壹(3-5661)に通ず。〔正字通〕一、按、一二、壹貳、義通。㊕古は弋(4-9658)に作る。〔說文〕弋、古文一。㊖姓。〔萬姓統譜〕一、見姓苑。一炫宗、延川人、正統中、任靈壽縣丞。㊗現云云さへすれば。〔例〕一經查出。㊘注音符號の韻符の一。單母韻。舌前部を上升して硬口蓋に近づけ、口は極く輕

く開けて脣を平にし、上下齒は相對したまま舌の筋肉は稍〻緊縮させ、氣息を自由に外洩させると此の音になる。イ。i。邦 竪書の時は一、橫書の時は｜と書く。❶いち。㋑三味線のいちの絲の略。㋺ちよんまげ或は島田髷などの、元結で括つた處から後の方へ出た部分。❷ひとつ。一方。一面。〔狂言、布施無〕一つは此の下心もござり。

名乘 クニ。モト。カツ。ヒヂ。カタ。カズ。

解字 指事。數を記す始の義。ひとつ。轉じて、萬物のはじめ、物の極、物の單位、もつぱら、ひとたび等の意をあらはす。〔說文通訓定聲〕一、爲二記レ數之始一。

參考 法令上、金錢・月日に關しては、字畫の變改を防ぐため、壹、又は弌を用ひ、商業上、｜を用ひる。〔六書故〕一、今惟財用出內之簿書、用二壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌一以防二姦易一。

【一哀】1 イチアイ 一たびかなしむ。又、悲しみ。悲しい事。〔禮、檀弓上〕夫子曰、予鄕者入而哭レ之、遇二於一哀一而出レ涕。〔禮、曾子問〕盡二一哀一反レ位。〔新論、淸神〕夫一哀一樂、猶レ搴二正性一。

【一惡】2 イチアク 一つの惡事。〔管子、戒〕好レ善而惡レ惡已甚、見二一惡一終身不レ忘。〔三略、下略〕廢二一善一、則衆善衰、賞二一惡一、則衆惡歸。〔潛夫論、愼微〕桀紂非二一惡而亡一也。

〔不下以二一惡一忘中衆善上〕3 イチアクヲモツテシユウゼンヲワスレズ 一つわるいことがあるからとて、他の多くのよい所を捨てることをしない。廣く人物を使ひこなすことをいふ。〔帝範、審官〕良匠無二棄材一、明君無二棄士一、不下以二一惡一忘中其善上、勿下以二小瑕一掩中其功上。

【一握】4 イチアク ❶ひとにぎり。少しばかり。一握爲レ笑を見よ。〔詩、陳風、東門之枌〕貽二我握椒一。〔箋〕女乃遺二我一握之椒一、交情好也。〔淮南子、原道訓〕卷レ之不レ盈二於一握一。❷掌中。〔列子、湯問〕天下可レ運二於一握一。❸扇子などの一本。

〔一握爲レ笑〕5 イチアクワラヒヲナス 少しく笑ふ。〔易、萃〕若號、一握爲レ笑。〔疏〕一握者、小之貌也、自比二一握之間一、言二至小一也。

【一安】6 イチアン 一たびやすらかになる。又、少しの安定。〔韓非子、安危〕國不レ得二一安一。〔晉書、劉頌傳〕天下大器、一安難レ傾、一傾難レ正。

【一案】7 イチアン ❶一つのつくゑ。〔唐書、禮樂志五〕皇子束脩、束帛一篚五匹、酒一壺二斗、脩一案五脡。❷一つの案件。一件。〔宋史、職官志三〕刑部舊有二詳覆案一、自二官制行一、歸二諸路提刑司一、至レ是復置、四年、倂制勘量爲二一案一。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕爲三公二籲憲天一一案。

【一庵】8 イチアン 一菴を見よ。菴は庵の古字。

【一菴】9 イチアン ❶一つのいほり。〔元好問、眼中詩〕何處青山隔二塵土一、一菴吾欲レ送二華顚一。〔王良臣、息軒詩〕一菴松雪雙明底、笑殺西山橋項翁。❷一軒の寺。一寺。〔趙嘏、尋レ僧詩〕臺殿參差日墮レ塵、塢西歸去一菴雲。〔蘇軾、龜山詩〕身行二萬里一半二天下一、僧臥二一菴一初白頭。❸字號。㋑元、壽寧(**3**—**5672**‥130)の號。㋺明、王棟(**7**—**20823**‥854)の號。㋩淸、高承爵(**12**—**45313**‥1228)の號。㋥淸、馬負圖(**12**—**44572**‥928)の號。㋭淸、彭瓏(**4**—**10003**‥128)の號。

【一菴居士】10 イチアンコジ 宋、蔡沆(**9**—**31818**‥24)の號。

【一菴先生】11 イチアンセンセイ 字號。❶明、錢春沂(**11**—**40563**‥351)の尊稱。❷明、唐樞(**2**—**3709**‥212)の尊稱。

【一衣】12 イチイ 一枚の衣。〔詩、鄭風、出其東門〕縞衣綦巾。〔疏〕故知二一衣一巾一、有レ男有レ女。〔公羊、昭、十九〕復加二一衣一、則脫然愈、復損二一衣一、則脫然愈。〔淮南子、齊俗訓〕一衣不レ可二以出一レ歲。〔宋書、阮佃夫傳〕每下製二一衣一造中一物上、京邑莫レ不二法效一焉。

【一衣帶水】13 イチイタイスイ ひと筋の帶のやうに狹い川。〔南史、陳後主紀〕隋文帝謂二僕射高熲一曰、我爲二百姓父母一、豈可下限二一衣帶水一不上レ拯レ之乎。〔宋史、潘美傳〕美令レ下曰、美受レ詔、提二驍果數萬人一、期二於必勝一、豈限二此一衣帶水一而不二徑度一乎。

【一異】14 イチイ ❶一つの不思議なこと。〔後漢書、魯恭傳〕今蟲不レ侵レ境、此一異也。❷同異。一は、同じもの。異は、ことなつたもの。〔智度論、二十〕諸聖人、破二吾我相一、滅二一異相一。❸ことなつたものを統一する。〔素書、正道〕信足二以一一レ異、義足二以得一レ衆。

【一意】15 イチイ ❶一つのかんがへ。一意孤行を見よ。❷心を專らにする。專心。〔新語、懷慮〕專レ心一レ意、身無二境外之交一、心無二敧斜之慮一。❸心をあはせる。同心。〔晏子、問、上〕粒食之民、一レ意同レ欲。〔漢書、翟方進傳〕朕嘉、與レ君同レ心一レ意、庶幾有レ成。

【一意孤行】16 イチイコカウ 他人にかまはず、己一人の考を實行してゆくこと。〔史記、酷吏、趙禹傳〕孤立行二一意一而已。

【一意攻苦】17 イチイコウク 專心に考へこむ。〔菊池三溪、本朝虞初新志〕馬琴一意攻苦、不レ知二背後有一レ人。

【一意專心】18 イチイセンシン 心を一つにし專らにする。一意の❷を見よ。一意摶心。

【一意摶心】19 イチイセンシン 一意專心。摶は專に同じ。〔管子、內業〕四體既正、血氣既靜、一レ意摶レ心、耳目不レ淫、雖レ遠若レ近。

【一意直到】20 イチイチヨクタウ 思つたことを僞らず、其のままに表はす。

【一意奉レ上】21 イチイカミニホウズ 專心、君のために我が身をささげる。〔弘道館記述義、上〕上之人、以二好レ生愛レ民爲一レ德、下之人、以二一意奉レ上爲一レ心。

【一位】22 イチヰ ❶一つの位階。一階級。〔孟子、萬章下〕大夫一位、上士一位。❷第一の位。第一の階級。正・從一位の稱。❸數學用語。一の位。ひとけた。❹木の名。あららぎ。おんこ。いちゐ。❺i² wei お一人。敬稱。

【一位數】23 イチヰノスウ 九以下の整數をいふ。

【一位元長】24 イチヰゲンチヤウ 最高の位。轉じて、祭酒をいふ。〔通典、職官、諸卿下、國子監、注〕胡廣曰、凡官名二祭酒一、皆一位之元長、古者、賓得二主人饌一、則老者一人、擧レ酒以祭レ地、故以二祭酒一爲レ稱。

【一位一切位】25 イチヰイツサイヰ 佛 十地（菩薩の修行する十階程）の行位の中、一位に達すれば他の九位にも通達すること。卽ち、圓融無礙の境地に達すること。〔探玄記、一〕圓教者、明二一位卽一切位、一切位卽一位一。

【一尉】26 イチヰ 一人の尉官。尉は都尉。〔漢書、百官公卿表上〕太僕、秦官、掌二輿馬一、有二兩丞一、屬官有二大廐・未央・云云、各五丞一尉一。〔揚雄、解嘲〕東南一尉、西北一候。

【一帷】27 イチヰ 一つのとばり。〔周禮、地官、司市〕命夫過レ市、罰二一蓋一、命婦過レ市、罰二一帷一。

【一圍】28 イチヰ ❶ひとかかへ。〔莊子、人閒世、絜レ之百圍、崔注〕圍環八尺爲二一圍一。〔說苑、談叢〕一圍之木、持二千鈞之屋一。〔羅隱、寄二前宣州竇常侍一詩〕舞雪佳人玉一圍。❷ひとかこひ。〔李商隱、北齊詩〕晉陽已陷休二迴顧一、更請二君王獵二一圍一。

【一葦】29 イチヰ 一束のあし。一說に、一枚のあしの葉。小舟に喩へる。〔詩、衞風、河廣〕誰謂二河廣一、一葦杭レ之。〔疏〕言二一葦一者、謂二一束一也、可下以浮二之水上一而渡上、若二桴栰一然、非二一根葦一也。〔沈約、讓二五兵尙書一表〕千里之越、豈一葦能泝。〔蘇軾、前赤壁賦〕縱二一葦之所一レ如、凌二萬頃之茫然一。

【一葦可レ航】30 イチヰカウスベシ 一葉の小舟で航行が出來る。江を渡ることのたやすいことをいふ。〔魏志、文帝紀、注〕魏書載、帝於二馬上一爲レ詩曰、誰云江水廣、一葦可二以航一。

【一葦渡レ江】31 イチヰカウヲワタル 梁の達磨が一葉の小舟に乘つて揚子江を渡つた故事。〔吳船錄、下〕丁巳、泊二長蘆一、襆被宿二寺中一、此爲二菩提達磨一葦浮渡處一。〔故事成語考、釋道鬼神〕達磨一葦渡レ江。

【一卣】32 イチイウ 一つの酒樽。一樽(1399)に同じ。卣は酒器。〔書、文侯之命〕賚二爾秬鬯一卣一。〔詩、大雅、江漢〕秬鬯一卣、告二于文人一。〔左氏、僖、二十八〕秬鬯一卣、虎賁三百人。

【一遊】33 イチイウ 一度旅行する。一度の遊覽。〔金史、樂志下〕虞巡五載合、夏諺一遊同。〔元好問、濟南行記〕每以レ不レ得二一遊一爲レ恨。

【一遊一豫】34 イチイウイチヨ 一度の遊び、一度の樂しみ。豫は樂しみの意。〔孟子、梁惠王下〕夏諺曰、吾王不レ遊、吾何以休、吾王不レ豫、吾何以助、一游一豫、爲二諸侯度一。〔集注〕豫、樂也。

【一一】35 イチイチ ❶ひとつびとつ。ひとつづつ。ことごとく。逐一。〔韓非子、内儲説上〕泯王立、好二一一聽一之。〔孔叢子、記義〕一一自觀二察之一。〔韓愈、孟東野失レ子詩〕一一欲二誰憐一。〔蘇軾、和二子由園中草木一詩〕一一芳心挿二牽牛一。❷一人一人。めいめい。〔正親司式〕座定執レ簿、一一喚レ名。

【一一學人】36 イチイチガクジン 副島種臣の號。副島蒼海(2－2097‥101)を見よ。

【一一垂二丹青一】37 イチイチタンセイニタル 一人一人、皆其の像を畫いて後世に傳へる。一説に、丹青は汗青の誤で、書籍、やがては歴史の意。卽ち記錄に殘ることをいふ。〔文天祥、正氣歌〕時窮節乃見、一一垂二丹青一。

【一溢】38 イチイツ 穀類などのひと摑み。溢は、片手に盛るだけの分量、又は一升二十四分升の一。一溢米を見よ。〔小爾雅、廣量〕一手之盛、謂二之溢一、兩手謂二之掬一。

【一溢米】39 イチイツベイ 一にぎりの米。〔儀禮、喪服〕傳曰、朝一溢米、夕一溢米。〔注〕二十兩曰レ溢、爲二米一升二十四分升之一一。〔禮記、喪大記〕納レ財朝一溢米、莫一溢米、食レ之無レ算。

【一鎰】40 イチイツ 二十四兩。一説に、二十兩とも、二十兩ともいふ。鎰(11－40747)の字解を見よ。〔管子、乘馬〕黃金一鎰、百乘一宿之盡也。

【一邑】41 イチユウ 一つの村。一つの町。一村。〔左氏、襄二十八〕在外不レ得レ宰二吾一邑一。〔左氏、昭、十五〕獲二邑一而敎二民怠一、將焉用レ邑。〔杜甫、秦州雜詩〕清渠一邑傳。

【一印】42 イチイン 一つの印。〔宋史、曹彬傳〕左手持二干戈一、右手取二俎豆一、斯須取二一印一、他無レ所レ視、人皆異レ之。

【一因】43 イチイン 一つの原因。〔俱舍論、六〕一因生レ法、決定無レ有。

【一飲】44 イチイン 一度のむ。ひとのみ。〔李白、將進酒〕烹二羔宰一レ牛且爲レ樂、會須二一飲三百杯一。

【一飲一食】45 イチインイッショク 僅かな飲食。〔禮、檀弓下〕調也君之褻臣也、爲二一飲一食一、忘二君之疾一。

【一飲一啄】46 イチインイッタク 僅かな飲食の意で、人々が其の分に安んじて他に求めぬ喩。〔莊子、養生主〕澤雉十步一啄、百步一飲、不レ蘄レ畜二乎樊中一。〔注〕夫俯二仰乎天地之間一、逍二遙乎自得之場一、固養生之妙處也。〔高郢、沙洲獨鳥賦〕一飲一啄、載沈載浮。

【一酳】47 イチイン 一度酒で口をすすぐこと。〔儀禮、士昏禮〕婦贊成レ祭卒レ食、一酳無レ從。

【一員】48 イチイン ❶一人。團體中の一人。〔詩、曹風、候人、彼候人兮、疏〕賢者之身、充二此徒中之一員一耳。❷一人の官吏。近衞府の衞監・將曹・府生、及び諸衞府の尉・佐・府生等の稱。

【一院】49 イチイン ❶一つの役所。〔宋史、職官志二〕印有二東院西院之文一、共爲二一院一。❷一つの建物。一つの屋敷。一つの寺。〔白居易、銷暑詩〕何以銷二煩暑一、端居一院中。❸庭一面。〔杜甫、樹間詩〕岑寂雙甘樹、婆娑一院香。〔劉禹錫、鶴歎詩〕一院春草長、三山歸路迷。〔陸游、閒行詩〕鳥沒千山暝、蟬吟一院秋。❹一つの妓院。❺イッチノ 上皇が二人以上まします時第一番目の上皇。〔保元物語、後白河院御卽位事〕一の院・新院。

【一院制】50 イチインセイ 議會が一院で組織せられてゐる制度。參議院・衆議院から成立する如き二院制(1－247‥32)の對。

【一宇】51 イチウ 一つの家。又、一つの殿堂。一軒。〔後漢書、祭祀志上〕永茲一宇、垂二於後昆一。〔宋高僧傳〕林中有二一宇僧房一。

【一羽】52 イチウ ❶一枚のはね。極めて輕いものの喩。〔孟子、梁惠王上〕一羽之不レ擧、爲レ不レ用レ力焉。〔潛夫論、釋難〕大鵬之動、非二一羽之輕也一。〔陳檢、節婦賦〕振二一羽之毛一兮、擧二黃鵠乎千里一。〔韓偓、贈二吳顧尊師一詩〕道若二千鈞重一、身如二一羽輕一。❷ハト ひとはばたき。〔保元物語、爲朝鬼島渡事〕一羽に千里を飛ぶ。

【一盃】53 イチハイ ひとはち。〔史記、滑稽傳〕一豚蹄、酒一盃。〔後漢書、龐參傳〕但以二薤一大本、水一盂、置二戶屏間一。〔韓愈、送二石處士一序〕冬一裘、夏一葛、食朝夕飯一盂、蔬一盤。

【一雨】54 イチウ ❶ひとあめ。雨が一降りすること。〔鹽鐵論、水旱〕旬而一雨、雨必以レ夜、無二丘陵高下一皆熟。〔羊士諤、資中早春詩〕一雨東風晚、山鶯獨報レ春。〔孟郊、汝州南端陪二陸中丞公讌一詩〕一雨百泉漲、南潭夜來深。〔白居易、答二四皓廟一詩〕如二彼旱天雲一、一雨百穀滋。❷明、通潤(11－38892‥223)の字。

【一雨三日】55 イチウサンジツ ひと雨が三日もつづく。時雨を喜ぶ語。〔蘇軾、喜雨亭記〕一雨三日、緊誰之力。

【一雨所レ潤】56 イチウノウルホストコロ 卽同じひと雨でも其の潤し方に差のあること。同じ説法を聞いても、其の人の機によつて悟が異なるといふ喩。〔法華經、藥草喩品〕雖二一地所レ生、一雨所レ潤、而諸草木各差別。

【一雲】57 イチウン ❶一つの雲。〔法華經、藥草喩品〕一雲所レ雨、稱二其種性一而得二生長一。〔杜甫、秋雨歎詩〕四海八荒同二一雲一。❷明、大同(3－5831‥1789)の字。

【一雲山人】58 イチウンサンジン 清、高簡(12－45313‥130)の號。

【一雲散人】59 イチウンサンジン 清、顧廣圻(12－43689‥247)の號。

【一運】60 イチウン ❶時世のひとめぐり。〔雲笈七籤、靈寶略紀〕龍漢一運、經二九萬九千九百九十九劫一。〔宋史、食貨志上三〕南北有下終歲不レ能レ行二一運一者上。❷未の邵雍の皇極經世書では、十二世を一運としてゐる。一元(537)の五を見よ。

【一詠】61 イチエイ 一たび聲を長く引きのばして詩を歌ふ。詠は、言を永くすること。一咏。〔嵇康、聲無二哀樂一論〕各發二一詠之歌一。〔劉禹錫、和レ南海馬大夫聞二楊侍郎出守二郴州一因有二寄上之作一詩〕一詠瓊瑤百憂散。

【一詠一吟】62 イチエイイチギン 或は詠じ或は吟ずる。吟も歌ふ意。〔晉書、孫綽傳〕許答曰、高情遠致、弟子早已伏膺、然一詠一吟、許將二北面一矣。

【一詠一觴】63 イチエイイッショウ 或は歌ひ、或は飮む。觴はさかづき。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕一觴一詠、亦足二以暢一敍幽情一。〔白居易、洛中偶作詩〕遇レ物輒一詠、一詠傾二一觴一。

【一詠三歎】64 イチエイサンタン 一たび詠ずる毎に三たび感歎する。詩や文章の妙を賞める語。一唱三歎。〔皮日休、追二和虎丘寺清遠道士一詩〕嗟予慕二斯文一、一詠復三歎。

【一營】65 イチエイ 軍隊の小わけ。一個部隊。〔後漢書、劉盆子傳〕乃分二萬人一爲二一營一、凡三十營。

【一翳】66 イチエイ わづかなくもり。他の障蔽となるもの。〔傳燈錄、十〕一翳在レ眼、空華亂墜。

【一腰】67 イチヨウ 一本の帶。腰は帶を數へる語。一條(1637)の三に同じ。〔老學庵筆記、六〕古謂二帶一一爲二一腰一、猶二今謂一衣爲二一領一、周武帝賜二李賢御所一服十三環、金帶一腰、是也、近世乃謂レ帶爲二一條一、語頗鄙、不レ若レ從二古爲一腰一也。

【一役】68 イチエキ ❶一つの仕事。〔左氏、僖、十五〕君子曰、我知二罪矣、秦必歸レ君、云云、服者懷レ德、貳者畏レ刑、此一役也。〔注〕言還二惠公一、使二諸侯威服一、復可レ當二一事之功一。〔潘岳、藉田賦〕此一役也、而二美具焉。〔注〕善曰、一役、謂二藉田一也。❷一つの戰。〔左氏、僖、十五〕此一役也、秦可二以霸一。〔疏〕服虔云、一役者、謂二韓戰之役一。❸ヒト或る仕事の一方面を擔當する任務。

【一易】69 イチエキ 一年隔てる。隔年。一易之地を見よ。〔周禮、地官、小司徒、乃經二土地一、〔注〕授二民田一、有二不易一、有二一易一、有二再易一。〔漢書、食貨志〕上田休二一歲一者、爲二一易一。

【一易之地】70 イチエキノチ 隔年に耕種する土地。〔周禮、地官、大司徒〕一易之地、家二百畮。〔注〕一易之地、休二一歲一、乃復種、地薄、故家二百畮。

【一帝】71 イチテイ 一つのとばり。一帷。〔周禮、地官、司市〕夫人過レ市、罰二一幕一、世子過レ市、罰二一帝一。

【一腋】72 イチエキ 一つのわきの下の皮。僅かばかりの皮。〔禮子、內篇〕狐白之裘、非二一狐之腋一。〔史記、趙世家〕簡子曰、大夫無レ罪、吾聞、千羊之皮、不レ如二一狐之腋一。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕崇臺非二一斡一、珍裘非二一腋一。

【一謁】73 イチエツ 一度參拜する。〔晉書、禮志中〕齊王在レ位九年、始一謁二高平陵一、云云、至二武帝一、猶再二謁崇陽陵一、二謁峻平陵一、〔國史略、朱雀天皇〕帝謁二賀茂皇太神宮一、初桓武帝遷レ都一謁、其後是禮廢。

【一葉】74 イチヨウ ❶一枚の木の葉。〔列子、說符〕使二天地之生一物、三年而成二一葉一。〔袁宏、東征賦〕託二一葉於鄧林一。〔梁武帝、芳樹詩〕綠樹始搖レ芳、芳生非二一葉一、一葉度二春風一、芳華自相接。〔江淹、外兵舅夜集詩〕丹林一葉舊。〔李白、贈二別舍人弟

臺卿之ニ江南一詩〕梧桐落ニ金井一、一葉飛ニ銀床一。㊁小舟に喩へる。一葉舟を見よ。〔雍陶、峽中行〕兩崖開盡水回環、一葉纔通石罅閒。〔白居易、江州赴ニ忠州一詩〕孤舟萍一葉。〔陸游、秋懷詩〕泛泛一葉小。㊂書物の紙數や端書などを數へる語。一枚。一葉。葉(9—31387)の字解を見よ。㊃草の名。はらん。ばれん。ゆり科に屬す。㊄古代の置香爐の一。船香爐。㊅茶入れの一。㊆同流。同派。〔和漢三才圖會、日本山城、本能寺〕與ニ攝州尼崎本興寺一一葉也。

【一葉舟】75 イチエフノフネ 一艘の小さい舟。〔韓愈、湘中酬ニ張十一功曹一詩〕共泛清湘一葉舟。〔李商隱、無題詩〕萬里風波一葉舟。〔蘇軾、前赤壁賦〕駕ニ一葉之扁舟一。〔王安石、姑胥郭詩〕一葉歸舟暮雨灣。〔中井櫻洲、西紅海舟中詩〕客身遙在ニ青天外一、九萬鵬程一葉舟。

【一葉秋】76 イチエフノアキ 一葉の木の葉の落ち始める頃。初秋。一葉落知ニ天下秋一を見よ。〔元稹、賦ニ得九月盡一詩〕霜降三旬後、蓂餘一葉秋。〔蘇軾、過レ海得ニ子由書一詩〕戸外三竿日、江關一葉秋。

【一葉蘭】77 イチエフラン 草の名。ひとはらん。いちげいちえふらん。らん科に屬す。

【一葉觀音】78 イチエフクワンオン 佛三十三觀音の一。一片の蓮の葉に乘つてゐるから名づける。

【一葉知レ秋】79 イチエフアキヲシル 一葉の落ちるのを見て、秋の來たのを知る。一葉落知ニ天下秋一に同じ。

【一葉蔽レ目】80 イチエフメヲオホフ 一枚の葉に目を蔽はれてさへ、山まで見えなくなる樣に、少しでも外物に蔽はれては心が不明となる喩。一葉兩豆。〔鶡冠子、天則〕夫耳之主レ聽、目之主レ明、一葉蔽レ目、不レ見ニ太山一、兩豆塞レ耳、不レ聞ニ雷霆一。

【一葉兩豆】81 イチエフリヤウトウ 一枚の葉で目を蔽ひ、二つの豆で耳を塞ぐ。外物の爲に心が不明となる喩。一葉蔽レ目に同じ。

【一葉落知ニ天下秋一】82 イチエフオチテテンカノアキヲシル 梧桐の一葉の落ちるのを見て、秋の來たことを知る。事物のきざしを見て、衰勢を察する喩。〔淮南子、說山訓〕見ニ一葉落一、而知ニ歲之將レ暮。〔文錄〕載ニ唐人詩一曰、山僧不レ解レ數ニ甲子一、一葉落知ニ天下秋一。〔大集經〕一葉落天下秋。〔劉因、早秋詩〕昨朝一葉見ニ秋生一、今日千巖萬壑淸。

【一葉浮萍歸ニ大海一人生何處不ニ相逢一】83 イチエフノフヘウタイカイニキスジンセイイヅレノトコロカアヒアハザラン 人生は一葉の浮草が大海にただよつてゐる樣なものであるが、それでも思ひがけぬところで、相逢ふことがある。〔陔餘叢考、成語〕一葉浮萍歸ニ大海一、人生何處不ニ相逢一、丁冠詩。

【一枼】84 イチエフ 一枚。一葉の㊂に同じ。〔說文、枼、段注〕小兒所ニ書寫一、每ニ一笘一謂ニ之一枼一、今書一紙、謂ニ之一頁一、或作レ葉、其實當レ作レ枼。

【一烟】85 イチエン 一軒。一戸。一軒には一つの竈があつて一つの烟を立てるからいふ。我が國の家を、もと「へ」といつたのも、かまどのことで、かまどを以て戸數を表はす。〔諸陵寮式〕陵戸一烟。〔古事記傳、六〕閨へとは卽ち竈のことなり、戸字を書くは、竈を本にて、民戸をも然云故なり。

【一緣】86 イチエン ㊀袈裟などの一つ。〔梁簡文帝、謝ニ敕賚ニ納袈裟一啓〕垂レ賚ニ鬱泥細納袈裟一緣一。㊁佛㋑同一類の機緣。同一種の因緣。〔妙玄、一上〕一根一緣、同一道味。㋺ある一つの對象。〔大集經、三十八〕行住坐臥、常係ニ一緣一。㋩佛道にゆかりのある一人の人。

【一園】87 イチエン 一つの園。又、園中一ぱい。〔庾信、詠ニ畫屛風一詩〕管聲驚ニ百鳥一、人衣香ニ一園一。〔王勃、春園詩〕山泉兩處晚、花柳一園春。〔盧照鄰、春晚山莊詩〕田家無ニ四鄰一、獨坐一園春。〔張說、奉ニ和聖製春日出苑ニ應制詩〕風吹ニ梅李一一園香。

【一圓】88 イチエン ㊀完全なこと。〔本朝無題詩、十、遊ニ山寺一談レ僧詩〕一圓深理燈前聽、萬法皆空淚裏知。㊁㋑皆殘らず。そうたい。〔平治物語、賴朝擧ニ義兵一事〕一圓に賜ふべし。㋺少しも。一向。〔狂言記、腰祈〕一圓ひまを得ませんで。㋩拾錢の拾倍。

【一塢】89 イチヲ 一つの小さい堤。又、堤全體。一隝。〔陸游、晚窻詩〕一塢梅花已盡空、數甌春雪未ニ全融一。

【一翁】90 イチオウ 一人のおきな。〔北史、周太祖紀〕獨行忽見ニ一翁一。〔陸龜蒙、京口詩〕戰舸昔浮ニ千騎一去、釣舟今載ニ一翁一輕。

【一嘔】91 イチオウ ひとたび歌ふ。又、其の事。嘔は謳に同じ。〔郭璞、江賦〕傲ニ自足於一嘔一。〔注〕善曰、字書曰、嘔、與レ謳同。

【一漚】92 イチオウ 一つの水の泡。人生のはかない喩。〔楞嚴經、六〕空生ニ大覺中一、如ニ海一漚發一。〔蘇軾、次ニ韻林子中王彥祖一唱酬詩〕蚤知身寄ニ一漚中一。〔陸游、身世詩〕身世浮沈等ニ一漚一。

【一甌】93 イチオウ 一つのかめ。一甕。〔蘇軾、和ニ蔣夔寄レ茶詩〕臨レ風飽食甘寢罷、一甌花乳浮ニ輕圓一。〔異物彙苑〕陳思王製ニ鴕蹄一名美、一甌直ニ千金一、號爲ニ七寶美一。

【一應】94 イチオウ ㊀一たび應ずる。〔淮南子、說山訓〕誕者不レ可ニ以爲レ常、事有ニ一應而不レ可ニ循行一。㊁すべて。一切。〔水滸傳、四回〕一應費用、都是趙某備辦。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕各房稿案、與ニ一應差票一、必先宅內掛レ號放行。㊂ひととほり。ひとまづ。とにかく。〔信玄家法〕一應可レ加ニ合力一事。

【一應俱全】95 イチオウトモニマツタシ 全部揃つてゐる。商品などが一通り全部揃つてゐること。一應齊全。

【一應眞犯】96 イチオウシンパン 一切の故意犯。〔明律、名例〕一應眞犯、雖レ會レ赦、並不ニ原宥一。

【一瓮】97 イチヲウ 一つのかめ。一甕に同じ。

【一甕】98 イチヲウ 一つのかめ。一甌。〔白居易、冬初酒熟詩〕一甕新醅酒、萍浮春水波。〔吳萊、題ニ毘陵承氏家藏古錢一詩〕世閒萬楮裹可レ盡、床脚一甕踏欲レ癲。

【一甕齋】99 イチヲウサイ 清、徐汝舟(4—10110‥495)の號。

【一億】100 イチオク 數の單位。一萬の一萬倍。萬々。一說に、十萬ともいふ。〔禮、內則、后王命ニ冢宰一降ニ德于衆兆民一、疏〕億之數有ニ大小二法一、其小數、以レ十爲レ等、十萬爲レ億、十億爲レ兆也、其大數、以レ萬爲レ等、萬至レ萬、是萬萬爲レ億也。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕賜レ錢前後一億、布九萬匹。

【一音】101 イチオン ㊀一つの音。同一の音。〔淮南子、說林訓〕趍舍相合、猶ニ金石之一調、相去千歲、合ニ一音一也。㊁別の發音。〔易、謙、卑以自牧也、釋文〕牧養之牧、徐音目、一音茂。㊂佛イットンとも讀む。何人に對しても、佛の說く法は同一であるとの意。一音教を見よ。〔維摩經、佛國品〕佛以ニ一音一演ニ說法。〔南齊書、顧歡傳〕寶積云、佛以ニ一音一廣ニ說法一。㊃邦樂曲に於て、音程の進行する二音の閒。

【一音教】102 イチオンゲウ イツトンゲウ 佛如來は終始同一の法を說くが、衆生は其の能力に隨つて、別々に佛意を理解すること。〔維摩經、佛國品〕佛以ニ一音一演ニ說法一、衆生隨レ類各得。

【一下】103 イツカ ㊀一度くだる。〔後漢書、馮勤傳〕黃鉞一下、無ニ處所一、欲ニ以レ身試レ法邪。㊁役人が一度家に歸ること。一下沐を見よ。〔漢書、萬石君傳、每ニ五日一洗沐歸謁レ親、注〕文潁曰、郞官五日一下。㊂i² hsia 一度。ちよつと。一下子。

【一下子】104 i² hsia⁴ tzŭ 一回。一度。一氣に。

【一下沐】105 イツカモク 漢代、官吏が五日每に一日、沐浴日として頂いた休。〔太平御覽、治道部、急假〕漢律、吏五日得ニ一下沐一、言ニ休息以洗沐一也。〔漢書、鄭當時傳〕孝景時、爲ニ太子舍人一、每ニ五日一洗沐。

【一个】106 イツカ ひとつ。ひとり。一匹。一本。一箇。一介。〔儀禮、大射儀〕搢レ三挾ニ一个一。〔左氏、襄、八〕不レ使ニ一个行李告ニ于寡人一。〔注〕一个、獨使。〔禮、大學〕秦誓曰、若有ニ一个臣一。〔釋文〕一个、尙書作レ介。〔國語、吳語〕譬如ニ羣獸一然、一个負レ矢、將ニ百羣皆奔一。〔杜甫、夜歸詩〕峽口驚猿聞ニ一个一。〔通俗編、數目、一个〕按、个屬ニ古字一、經典皆用レ之、箇、起ニ六國時一、個、則用ニ于漢末一、鄭康成猶謂ニ俗言一、唐人習ニ用箇字一、云云、今或反疑レ个爲ニ省筆一、非也。

【一河】107 イツカ 一つの河。一川。〔三略、上略〕不レ能レ味ニ一河之水一。

【汲ニ一河流一】108 イチガノナガレヲクム 同じ河の流を汲む。前世からの因緣をいふ。〔說法明眼論〕宿ニ一樹下一、汲ニ一河流一。

【一架】109 イツカ ㊀一つのたな。又、たないつぱい。〔岑參、宿ニ太白東谿李老舍一寄ニ弟姪一詩〕中庭井欄上、一架獼猴桃。〔裴說、薔薇詩〕一架長條萬朶春。〔范成大、淳熙五年四月二日直ニ宿玉堂一

懐レ舊詩」惟有二牆東一架花一。●i² chia⁴ 懸けておく物や、飛行機・家屋などを數へる語。

【一個】110 イッコ 一つ。一箇(137)に同じ。

【一個半個】111 i² kè pan⁴ kè 若干。些少。

【一個巴掌拍不響】112 i² kè pa¹ chang³ p'ai¹ pu hsiang³ 片手では叩いても鳴らぬ。一人だけでは何事も出來ぬ。

【一家】113 イッカ ●一つの家。〔管子、霸言〕一家而兩父、一家不レ可レ理也。〔淮南子、說林訓〕一家失レ燧、萬家皆燒。〔漢書、高帝紀下〕定二有天下一、以爲二一家一。〔盧綸、山店詩〕風動二葉聲一山犬吠、一家松火隔二秋雲一。●一つの家族。〔禮、禮運〕聖人耐以二天下一爲二一家一。●家中のこらず。全家。〔韓愈、伯夷頌〕一家非レ之、力行而不レ惑者寡矣。●學術・技藝などに於て、別に一派をなすもの。一家の學。〔晉書、王接傳〕常謂、左氏辭義贍富、自是一家書。〔晉書、荀崧傳〕向歆漢之碩儒、猶父子各執二一家一、莫レ肯相從一。五 イッケ 一宗・一派・一門の意。〔大乘義章、三〕一家宣說。

【一家學】114 イッカガク 他に異なつた一派の學。〔後漢書、章帝紀、亦別名レ家、注〕雖レ承二一師之業一、其後觸レ類而長、更爲二章句一、則別爲二一家之學一。〔晉書、杜預傳〕爲二春秋左氏經傳集解一、備成二一家之學一。

【一家花】115 イッカバナ 同一株中に雌蕊花と雄蕊花とを併有するもの。西瓜・松など。雌雄同株。

【一家言】116 イッカゲン ●一派の言論。公論に對する語。又、一見識のある言論。〔史記、太史公自序〕凡百三十篇、五十二萬六千五百字、爲二太史公書序一、略以拾レ遺補レ闕、成二一家之言一。〔晉書、夏侯湛傳〕著二論三十餘篇一、別爲二一家之言一。●書名。六卷。清、李漁撰。其の詩文・雜著を收む。一名、李笠翁一家言。

【一家哭】117 イッカノコク 一家中の人が哭する。一家のなげき。〔名臣言行錄、范仲淹〕一家哭何二如一路哭一耶。

【一家兒】118 i¹ chia¹ ér 一家。一家族。一家子。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽二琴雜劇一〕俺一家兒、性命難レ保也。

【一家春】119 イッカノハル 獨特の樂地。〔王勃、山扉抱坐詩〕林塘花月下、別是一家春。〔楊巨源、春日奉二獻聖壽無疆一詞〕雲山九門曙、天地一家春。

【一家書】120 イッカノショ 別に一派をなす書。〔晉書、王接傳〕常謂、左氏辭義贍富、自是一家書、不二主爲一經發一。「臣僕。武家時代の語。

【一家中】121 イッカチュウ 同じ家のもの。又、同じ藩の別に一派をなす。〔舊唐書、柳公權傳〕公權初學二王書一、遍閱二近代筆法一、體勢勁媚、自成二一家一。〔杜甫、柴門詩〕天江蟠二嵌根一、歸レ海成二一家一。「に。

【一家一戶】123 i¹ chia¹ i² hu⁴ 一戶毎に。軒並一派の人々をいふ。〔廣藝舟雙楫、本漢〕孔宙曹全、是二一家眷屬一、皆以二風神逸宕一勝。

【一家眷屬】124 イッカケンゾク 一族及び配下のもの。又、

【一家之賜】125 イッカノタマモノ 自分一家へのたまもの。〔孔叢子、執節〕祖業豈徒一家之賜哉、亦天下之慶也。

【一家之迷】126 イッカノマヨヒ 一家中の迷。〔列子、周穆王〕一家之迷、不レ足レ傾二一鄉一。

【一家團圞】127 イッカダンラン 家内中集まつて樂しむこと。圞は、俗に團・欒の字を用ゐる。

【一家超擧】128 イッカテウキヨ 晉の許遜の一族が、みな仙人になつて天に昇つた故事。許遜一家上仙(10－35298：158)を見よ。〔故事成語考、釋道鬼神〕許遜原宰二旌陽一、一家超擧。

【一家桐木】129 イッカドウボク 邸内に桐の植ゑてあつた家から、兄弟二人が共に宰相となつた宋の韓絳の故事。〔合璧事類〕韓子華絳、兄弟皆爲二宰相一、所レ居第有二梧桐一、京師稱爲二桐木韓家一、以別二康公一。

【機杼一家】130 キチョヨス 一家獨特の文章を作り出すこと。機杼は、機を織るやうに文章を構成すること。〔北史、祖瑩傳〕瑩常語レ人曰、文章須下自出二機杼一、成中一家風骨上。〔故事成語考、文事〕文章奇異、曰二機杼一家一。

【殺一家三人】131 イッカサンニン 一家族内の三人を殺すこと。この罪を犯すものは、慘忍の甚しいものであるから、死刑に處する。〔明律、刑律、人命〕殺二一家三人一、凡殺下一家非二死罪一三人上、及支二解人一者、凌遲處レ死、財產斷二付死者之家一、妻子流二二千里一、爲レ從者斬。

【一家有事百家忙】132 イッカコトアレバヒヤクカイソガシ 一軒の家に事件がおこれば、多くの家がいそがしくなる。〔通俗編、行事、一家有レ事百家忙〕廣燈錄、汝州首山念、擧二揚此語一。

【一家仁一國興レ仁】133 イッカジンイッコクキョウジニオコル 人君の家に仁德が備はれば、國中全體が、君にならつて仁の德を備へるやうになる。〔大學〕一家仁、一國興レ仁、一家讓、一國興レ讓。

【一家煖飽千家怨】134 イッカダンパウスレバセンカウラム 一家富貴千家怨に同じ。

【一家富貴千家怨】135 イッカフウキナレバセンカウラム 或る一家が富貴になると、多くの家の者が嫉妬して之を怨む。〔草木子〕至順間、福建廉訪密使蘭沙詩、一家富貴千家怨、半世功名百世愆。

【一笥】136 イッシ 一本の矢。〔儀禮、鄉射禮〕一笥既發、則答君而俟。

【一箇】137 イッコ ひとつ。一个。一個。又、同じ。同一。〔南史、齊廢帝鬱林王紀〕每見二錢曰一、我昔思レ汝、一箇不レ得。

【一箇月】138 イッカゲツ 一ヶ月。〔王建、雨中寄二東溪韋處士一詩〕一箇月來山水隔、不レ知茅屋若爲居。

【一價】139 イッカ 化學用語。原子、又は根に關していふ語。水素一原子と化合し、或は之と入れ換はること。

【一價元素】140 イッカゲンソ 原子價一なる元素。水素原子一箇に對して、同じく一箇の割合で結合する元素。

【一介】141 イッカイ ●ひとつ。ひとり。一个(106)に同じ。〔書、秦誓〕如有二一介臣一。〔釋文〕介、字又作レ个。〔國語、吳語〕二介嫡女一。〔注〕二介、一人。●一つのあくた。わづか。少しばかり。介は芥に同じ。〔孟子、萬章上〕一介不レ以レ與レ人、一介不二以取一。諸人。〔注〕一介草不レ以レ與レ人、亦不レ以取二於人一也。〔集注〕介、與二草芥之芥一同。●おしなべて。一概(161)に同じ。〔公羊、文、十二〕惟一介斷斷焉無二他技一。〔注〕一介、猶二一槩一。〔疏〕皆是一槩專一之事、更無二奇巧異端之術一。

【一介行李】142 イッカイノカウリ 一人の使者。〔書言故事、妓女類〕遣レ价、曰レ走二一介行李一。

【一介之才】143 イッカイノサイ わづかな才能。〔後漢書、杜詩傳〕以二史吏一介之才一、遭二陛下創制大業一。〔王先謙集解〕周壽昌曰、案、一切經音義十五引易劉瓛注云、介、微也、虞翻易注云、介、纖也。〔陸倕、石闕銘〕一介之才必記、無文之典咸秩。〔注〕向曰、一介、謂二小才一也。

【一介之士】144 イッカイノシ つまらぬ士。識見の淺いかたくなな人。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕王顧謂二太宰嚭一曰、彼越王者、一節之人、范蠡一介之士。〔晉書、夏侯湛傳〕鄉曲之徒、一介之士。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕此一介之士、得二志當時一、而意氣之盛、昔人比二之衣錦之榮一者也。

【一介之善】145 イッカイノゼン わづかの善事。小善。〔北史、王士良傳〕孝昭卽位、遣二三道使一、搜二揚人物一、士良與二尚書令趙郡王高叡、太常卿崔昂一、分二行郡國一、但有二一介之善一者、無レ不二以聞一。〔西京雜記、四〕有二一介之善、一方之藝一。

【一介書生】146 イッカイノショセイ つまらぬ書生。〔王勃、滕王閣詩序〕勃三尺微命、一介書生。

【一介野生】147 イッカイノヤセイ つまらぬもの。自己の謙稱。〔魏志、張遼傳〕一介野生、無二軍國之用一。

【褒采一介】148 イッカイヲホウサイス すこしでも立派なのある者は、これを褒め用ひる。〔謝朓、拜二中軍記室一辭二隋王子隆一牋〕褒采一介、抽二揚小善一。

【一屆】149 イッカイ ●一度しらべる。〔福惠全書、編審部、編審餘論〕編審定例、五年一屆。●一回。一度。●一度云云に到らば。

【一芥】150 イッカイ 一つのあくた。僅かなものの喩。〔淮南子、說山訓〕見二一芥一掇レ之。〔唐書、郭子儀傳〕俯取二一芥一。

【一界】151 イッカイ ●ひとくぎり。〔宋史、高宗紀四〕借二江浙坊場錢一界一、以備二軍費一。●佛(イ)一つの世界。〔楞嚴經、一〕佛之威神、令二諸世界合成一界一。(ロ)十界の中の一つ。佛の世界。〔玄義、二上〕九界之權、一界之實。

【一解】152 イッカイ ●たび解決する。〔戰國、趙策一〕解二國患一、欲レ求二益地一。●一たび和ぐ。〔列子、黃帝〕夫子始一解顏而笑。〔李白、贈二從弟南平太守之遙詩〕寵顏一解四海春。●古詩の一章。文章の一段に同じ。〔丹鉛總錄〕中國以二一章

爲二一解一、王僧虔啓曰、古曰レ章、今曰レ解。❹一つの解釋。❺一たび送る。❻一たび解除する。

【一厓】153 イチガイ 明、郭汝霖(11－39474‥331)の號。

【一垓】154 イチガイ 僅かばかり。垓は一かさね。〔宋史、夏國傳上〕伏願一垓之土地、建爲二萬乘之邦家一。

【一涯】155 イチガイ 一方のはて。〔古詩十九首〕相去萬餘里、各在二天一涯一。〔注〕善曰、廣雅曰、涯、方也、翰曰、涯、畔也。〔白居易、和二陽城驛一詩〕終言二陽公命一、左二遷天一涯一。

【一漑】156 イチガイ 一たび水をやる。〔劉禹錫、遊二桃源一一百韻詩〕長生尚二學致一、一漑豈虛擲。

〖一漑功〗157 イチガイノコウ 一度田に水を注ぐ位の骨折り。僅かの仕事。〔嵇康、養生論〕夫爲二稼於湯之世一、偏有二一漑之功一者、雖三終歸二於燋爛一、必一漑者後枯。〔注〕說文曰、漑、灌レ之也。

〖一漑堂〗158 イチガイダウ 清、余光耿(1－515‥77)の室名。

【一蓋】159 イチガイ 一つのかさ。〔周禮、地官、司市〕命夫過レ市、罰二一蓋一。〔維摩經、佛國品〕令三諸寶蓋合成二一蓋一。

【一槩】160 イチガイ ❶すべて。おしなべて。すべてを同一に扱ふ。一介。〔楚辭、九章、懷沙〕同二糅玉石一兮、一槩而相量。〔注〕槩、平二斗斛一木。〔法言、重黎〕參差不レ齊、一二槩諸聖一。❷おなじ。〔詩、秦風、車鄰、寺人之令、疏〕毛鄭異人、言非二一槩一。〔杜甫、秦州雜詩〕萬方聲一槩。〔司馬光、稷下賦〕是非一槩、邪正同區。❸一端。かたはし。〔詩、鄘風載馳、衆穉且狂、傳〕進取二一槩之義一。〔疏〕一槩者一端、不レ曉二變通一。❹ひとひら。一片。〔淮南子、詮言訓〕不レ足三以易二其一槩一。

【一概】161 イチガイ 一槩に同じ。❶すべて。全く。合せて。〔皇朝文獻通考、兵考〕一概免二其點驗一、以歸二畫一一。❷おなじ。〔春秋繁露、深察名號〕當二其未レ覺、可レ謂レ有二善質一、而不レ可レ謂レ善、與二目之瞑而覺一、一概之比也。❸一概に。概括して。

〖一概不賒〗162 i² kai⁴ pu⁴ shê¹ 掛賣一切御斷り。

【一交】163 イツカウ ❶一度交代する。〔列子、湯問〕使下巨鼇十五、擧レ首而戴レ之、迭爲二三番一、六萬歲一交上焉。❷一枚の交子。交子(1－291‥128)を見よ。〔宋史、食貨志下三〕患二蜀人鐵錢重不レ便二貿易一、設二質劑之法一、一交一緡、以二三年一爲二一界一而換レ之。❸i⁴ chiao¹ 一送り。又、一ころび。❹ヒトツマゼ ねりぬきの一種。紅梅の筋とぬき白の筋とを、一つまぜに織つた織物。

〖一交情〗164 イツカウジヤウ 交りのかはらないこと。〔任昉、出二郡傳舍一哭二范僕射一詩〕生死一交情。〔注〕銑曰、結レ交之情、生死如レ一、不二復變一也。

【一向】165 イツカウ イチカウ ❶ひとつにむかふ。〔孫子、九地〕幷レ敵一向。〔鍾會、移レ蜀檄〕蓄レ力待レ時、幷レ兵一向。❷ひたすら。專ら。一意。〔六十華嚴經、五〕一向信二如來一、其心不二退轉一。〔韓偓、擁レ鼻詩〕擁レ鼻悲吟一向愁。❸すべて。全然。〔藥師經〕彼佛國土、一向清淨、無レ有二女人一。❹いつそ。むしろ。〔大磯虎稚物語、四〕一向お手に掛けてたべ。❺i² hsiang⁴ 其の後。爾來。近頃。ずつと。もとより。これまで。

〖一向宗〗166 イツカウシユウ 佛建暦の頃、親鸞上人の始めた淨土宗の一派。一心に念佛を唱へることから一向宗といふ。淨土眞宗。一向一念宗。門徒宗。

〖一向眠〗167 イツカウニネムル よくねむる。心を樂にしてねむる。〔資治通鑑、後晉紀〕(齊王、開運二年)又謂二其羣下一曰、漢兒何得二一向眠一。〔注〕人寢不レ安レ席、則輾轉反側、而不レ成レ寐、一向眠、則其眠安矣

〖一向專念〗168 イツカウセンネン 佛一すぢに心に念ずること。〔無量壽經、下〕一向專念、無量壽佛。

【一江】169 イツカウ ❶一つのかは。又、川全體。〔韋莊、章江作〕欲レ問維揚舊風月、一江紅樹亂猿哀。〔羅隱、渚宮秋思詩〕千載是非難二重問一、一江風雨好二閑吟一。〔宋史、河渠志六〕吳人謂、開二一江一、有二一江之利一、濬二一浦一、有二一浦之利一。〔范成大、題二秋鷺圖一詩〕一江秋色無二人問一、盡屬風標雨雪衣。❷字號。㋑明、王洙(臨海の人)(7－20823‥551)の字。㋺明、王朝佐(晉江の人)(7－20823‥1966)の號。

【一考】170 イツカウ ❶一度の考試。〔春秋繁露、考功名〕四試而一考。〔北史、崔鴻傳〕考格三年成二一考一、一考轉二一階一。❷ちよつと考へること。

【一行】171 イツカウ ❶一つの行爲。又、一定のやり方。〔淮南子、氾論訓〕欲下以二一行之禮一定之法一、應レ時偶上レ變。❷一度ゆく。〔唐書、李靖傳〕吾雖レ老尙堪二一行一。〔晉書、卜珝傳〕朕欲レ勞二先生一行一、可乎。❸六箇月の稱。〔異文錄〕三月爲二一時一、兩時爲二一行一。❹ひとむれ。つれあつて行くむれ。同行者。〔白居易、和二春深一詩〕入レ班遙認得、魚貫一行斜。❺役人となる。仕官。一行作レ吏を見よ。❻イチギヤウ ひとならび。〔白居易、喜二小樓西新柳抽一レ條詩〕一行弱柳前年種、數尺柔條今日新。❼文書の一くだり。〔李白、寄レ遠詩〕一行復一行、滿紙情何極。〔謝枋得、郤レ聘書〕味二于一行一。❽佛ひとつのことに專らなこと。〔觀經疏、一〕豈將二念佛一行一、卽成レ望。❾唐の鉅鹿の人。俗姓は張氏。諡は大慧禪師。高宗の時生れ、玄宗の時卒す。密教の開祖。天文曆數に通ず。著に開元大衍曆・大日經疏・華嚴海印懺儀がある。〔宋高僧傳〕。

〖一行書〗172 イチギヤウノシヨ ひとくだりの手紙。〔岑參、玉關寄二長安李主簿一詩〕故人那惜一行書。〔杜甫、寄二高詹事一詩〕相看過二半百一、不レ寄二一行書一。

〖一行傳〗173 イツカウデン 新五代史の傳の名。後漢書獨行傳にならつて、獨立獨行の人の傳記を載す。〔五代史、一行傳〕嗚呼五代之亂極矣、傳所謂、天地閉賢人隱之時歟、云云、於二此之時一、能以二孝弟一自修二於一鄕一、而風行二於天下一者、猶或有レ之、然其事迹不レ著、而無レ可二紀次一、獨其名氏、或因下見二於書一者上、吾亦不二敢沒一、而其略可レ錄者、吾得二一人一焉、曰、李自倫、作二一行傳一。

〖一行作吏〗174 イツカウリトナル 初めて官吏と爲ること。行は往、往いて官につく意。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕游二山澤一觀二魚鳥一、心甚樂レ之、一行作レ吏、此事便廢。〔注〕良曰、行、往也。〔蘇軾、再次二韻趙德麟新開二西湖一詩〕一行作レ吏人不レ識。〔書言故事、仕進類〕初作二官一曰二一行作レ吏。

〖一行三昧〗175 イチギヤウサンマイ 佛法界は平等で一相であると觀念すること。行は行相(すがた)の意。佛道に專念すること。一相三昧。〔起信論〕依二如レ是三昧一、故則知二法界一相一、謂下一切諸佛法身、與二衆生身一平等無二、卽名中一行三昧上。

【一更】176 イツカウ ❶午後八時頃。一鼓。初更(2－1911‥22)に同じ。〔伏知道、從軍五更轉曲〕一更刁斗鳴、校尉逴二連城一。〔蘇軾、江月詩〕一更山吐レ月、玉塔臥二微瀾一。❷一時間。唐代では、一更の中を更に五點に分ける。初更から五更まで、すべて二十五點。〔採蘭雜志〕每二一更一則一躍。❸ひとたび代はる。〔唐書、崔彥曾傳〕舊制、三年一更、至レ期請レ代。〔宋史、孝宗紀三〕戍兵、歲一更。

〖一更三點〗177 イツカウサンテン 宋代、晝夜の境を明かにするため、時を報ずるに、一更と五更とを三點とした。清代はこれによつて、一更三點の鐘が鳴れば通行を止め、五更三點の鐘の鳴るまで禁を解かず、之を犯したものは夜禁律に問はれた。〔清律、軍政〕一更三點鐘聲靜、五更三點鐘聲未レ動、犯者笞三十、二更・三更・四更、犯者笞五十。

【一幸】178 イツカウ ❶一度寵愛せられる。〔史記、外戚世家〕一幸生レ男、是爲二代王一。❷一度行幸する。〔漢書、郊祀志下〕間歲正月、一幸二甘泉一、郊二泰畤一。

【一肴】179 イツカウ さかな一つ。一つだけの副食物。〔西京雜記、二〕內廚五鼎、外膳一肴。

【一康】180 イツカウ 北齊、陳元康(11－41698‥823)をいふ。一人の元康といふ意。〔北史、陳元康傳〕文襄入レ輔、居二鄴下一、崔暹・崔季舒・崔昂等、並被二任用一、張亮・張徽纂、並爲二神武特遇一、然皆出二元康下一、神武每與二元康一久語、文襄門外待二接之一、時人語曰、三崔二張、不レ如二一康一。

【一腔】181 イツカウ ❶一つのからだ。〔朝野僉載〕案後一腔凍猪肉。〔方岳、非瓊花詩〕直與二八仙一同二一腔一。❷全身。〔賴山陽、題二楠公訣レ子圖一詩〕一腔熱血存二餘瀝一、分二與兒曹一灑二賊庭一。

【一項】182 イツカウ ❶一つのことがら。〔貴耳錄〕如レ是則聲名自是一項、事業自是一項、江南地土淺薄、士大夫只做二得一項一、做二不レ得三兩項一。❷一口の金。項は小額の場合に用ひ、多額の場合には款を用ひる。❸一種類。一項目。

【一篙】183 イツカウ 一本の舟竿。又、一本の舟竿だけの水の深さ。〔劉禹錫、浙西李大夫述レ夢詩〕曲島花千樹、官地水一篙。〔溫庭筠、洞戶二十二韻詩〕池漲一篙深。〔方岳、清明日舟次二吳門一詩〕老去

不レ知寒食近、一篙煙水載レ春行。

【一毫】184 イチガウ 一本の毛すぢ。少しも。極めてわづかなのに喩へる。一毛。〔孟子、公孫丑上〕思下以二一毫一挫中於人上、若レ撻二之於市朝一。〔列子、楊朱〕損二一毫一利二天下一、不レ與也。〔後漢書、周澤傳〕然一毫未三嘗取二於人一。〔蘇軾、前赤壁賦〕苟非二吾之所一レ有、雖二一毫一而莫レ取。

【無二一毫差一】185 イチガウノサナシ 少しの差違もない。寸分ちがはぬ。〔唐書、崔咸傳〕裁剖精明、無二一毫差一。

【一號】186 イチガウ ❶一たび呼ぶ。一たびさけぶ。〔晉書、阮籍傳〕飮レ酒二斗、擧レ聲一號、吐レ血數升。❷一つの名號。〔魏志、陳思王植傳〕若得レ辭二遠遊一、戴二武弁一、解二朱組一、佩二青紱一、駙馬奉レ車、趣得二一號一、安二宅京室一。❸一番。❹ i^2 hao 陽曆の朔日。

【一角】187 イツカク ❶一方のすみ。〔戰國、趙策〕不レ存二其一角一、而野戰不レ足レ用也。〔史記、樊酈滕灌傳〕故冒頓開二圍一角一。〔蘇軾、次二韻僧潛見一レ贈詩〕故人各在二天一角一。❷一本のつの。〔爾雅、釋獸〕麠、大麃、牛尾一角。❸手紙一通。郵驛の制。〔淸律、兵律、郵驛〕一角笞二十、毎二三角一加二一等一。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕奉二到某衙門某字號公文一角一。❹ i^4 $chiao^3$ 民國の貨幣の單位。一元の十分の一。❺佛 仙人の名。獨角仙人ともいふ。波羅奈の山中で鹿の腹から生れた。頭に一本の角がある。釋迦の前身といふ。〔智度論、十七〕。❻一分銀の異稱。〔博多小女郎浪枕、上〕やつちや一角せしめん。❼游水類に屬する哺乳動物。身長約二丈。形は海豚に似て、腹は白く、背に黑斑がある。上顎に二本の牙が生え、雄は其の一本が特に長くて、一丈以上になる。其の角は、緻密で色が白く、一角牙といつて藥用となる。ウニコオル。〔和漢三才圖會、獸類、一角〕宇無加布留、按、宇無加布留、俗用二一角二字一、阿蘭陀市舶偶來而爲二官物一、尋常難レ得、其長六七尺、周三四寸、色似二象牙一而微黃、外面有レ筋、畾畾如二竽麩一、至二末一二尺一細尖而筋亦無レ之、微曲斜也。❽ヒトカド 一廉。〔室町千疊敷、二〕一かど大名に取り立てる契約。❾公文書一通。

【一角魚】188 ウニコオル 北氷洋に産する海獸の名。一角の❼を見よ。〔牛馬問答〕。

【一角獸】189 イツカクジウ 獸の名。麒麟の屬。〔史記、武帝紀〕三元以三郊得二一角獸一、曰二元狩一云。

【一角羊】190 イツカクヤウ 皐陶の時あらはれた一角の羊。罪有る者があれば、必ず角を以て其の體に觸れたといふ。〔論衡、是應〕儒者說云、觟觽者一角之羊也、性知レ有レ罪、皐陶治レ獄、其罪疑者、令二羊觸一レ之、有レ罪則觸、無レ罪則不レ觸。

【一客】191 イツカク 一人の客。〔晉書、阮瞻傳〕忽有二一客一、通レ名詣レ瞻。〔謝惠連、夜集詩〕四坐宴二嘉賓一、一客自レ遠臻。〔陳傳良、己未上巳淸明詩〕賴得三一昆同二一客一、蕨芽蒲笋矩槃邊。

【一客不煩二主】192 i^2 $k'ê^4$ pu^4 fan^2 $êrh^2$ chu^3 一人の客は二人の主人を煩はさぬものだ。獨力で引受けんことを請ふ喩。

【一格】193 イツカク ❶一つの格式。一つの品等。〔宋史、選擧志五〕事大而功效顯著、爲二一格一。❷自己だけの主義で立てた格式。❸一つの書架。❹一たび行きづまる。

【一隔】194 イツカク ❶一つのしきり。〔墨子、號令〕五十步一隔。❷一たびへだてる。

【一覺】195 イツカク ❶ひとたび眠からさめる。〔列子、周穆王〕西極之南隅有レ國焉、云云、其民不レ食不レ衣、而多眠、五旬一覺。❷佛 イチカク 同一平等の法界に心が安住してゐること。〔金剛三昧經〕常以二一覺一、而轉二諸識一。❸ひとさとりする。

【一覺一寐】196 イツカクイチビ 或は覺め、或は眠る。〔列子、周穆王〕一覺一寐、以爲、覺之所レ爲者實、夢之所レ見者妄。

【一覺揚州夢】197 ヒトタビサムヤウシウノユメ 昔の華やかであつた夢の覺めること。揚州は繁華な遊覽地。〔杜牧、遣懷詩〕十年一覺揚州夢、占得靑樓薄倖名。

【一鶴】198 イツカク ❶一羽の鶴。〔李白、懷仙歌〕一鶴東飛過二滄海一、放心散漫知二何在一。〔劉長卿、喜三朱拾遺承レ恩拜レ命赴二任上都一詩〕閶闔九天通二奏籍一、華亭一鶴在二朝行一。〔劉禹錫、秋詞〕晴空一鶴排レ雲上、便引二詩情一到二碧霄一。〔宋史、趙抃傳〕匹馬入レ蜀、以二一琴一鶴一自隨。❷明、彭大翼(4—10003‥187)の字。

【一鶴堂】199 イツカクダウ 宋、蔣公順(9—31820‥149)の室名。

【一岳】200 イチガク 一つの山。一獄。一山。〔庾信、周大將軍聞嘉公柳遐墓誌銘〕華蓋一岳、文昌一星。

【一萼】201 イチガク 一つの花。〔陸龜蒙、郴李花賦〕一枝上能萬二其膚萼一、一萼中自參二其丹白一。〔周紫芝、鷓鴣天詞〕樓外緗桃一萼紅、別來開謝幾東風。

【一萼紅】202 イチガクコウ 詞牌の名。〔樂府雅詞〕。

【一壑】203 イチガク ❶一つのたに。又、谷全體。〔莊子、秋水〕擅二一壑之水一。〔漢書、敍傳上〕漁二釣於一壑一、則萬物不レ奸二其志一。❷明、解珙(10—35067‥52)の號。

【一嶽】204 イチガク 一つの山嶽。一岳。〔廣瀨靑村、富士山圖詩〕一嶽排二東海一、三峯撐二北斗一。

【一鶚】205 イチガク ❶一羽のみさご。鶚は力の強いものに喩へる。〔漢書、鄒陽傳〕鷙鳥累レ百、不レ如二一鶚一。〔孟郊、送三黃構擢レ第後歸二江南一詩〕一鶚顧二喬木一、衆禽不二敢猜一。❷字號。㋑明、朱與言(6—14424‥1008)の字。㋺明、林鶚(6—14551‥48)の字。

【一割】206 イツカツ ❶一たびさく。〔後漢書、班超傳〕況臣奉二大漢之威一、而無二鉛刀一割之用一乎。〔後漢書、第五種傳〕對曰、願庶二幾於一割一。❷イチワリ 十分の一。

【一割之刃】207 イツカツノヤイバ 鈍刀。少々くらゐの役には立つ喩。〔本朝文粹、菅原道眞、爲二昭宣公一辭二攝政一上二太上皇一第二表〕縱令陛下責レ臣以レ有二一割之刃一、而復臣訴二陛下一以レ無二再全之錦一。

【一割之利】208 イツカツノリ 鉛刀には一刀の下にたち切る樣な切れ味は無いが、使ひ樣によつては、切れもし、役にも立つとの意。〔晉書、閔王承傳〕見二王敦一、敦與レ之宴、欲レ觀二其意一、謂レ承曰、大王雅素佳士、恐非二將帥才一、承曰、公未二見知一耳、鉛刀豈不レ能二一割一乎。〔故事成語考、器用〕鉛刀無二一割之利一。

【一喝】209 イツカツ どなりとばす。叱咤する。〔景德傳燈錄、六、洪州百丈山懷海禪師〕昔再參二馬祖一、被二大師一喝一。〔禪林句集、坤〕一喝大地震動。

【一葛】210 イツカツ 一枚のかたびら。〔韓愈、送二石處士一序〕冬一裘、夏一葛。〔王炎、夏日郊行賦〕一裘一葛、日飯二一盂一。

【一甲】211 イツカフ イチカフ ❶一領のよろひ。一人の武士。〔戰國、秦策〕禽二馬服之軍一、不レ亡二一甲一。〔元史、餘闕傳〕外無二一甲之援一。❷殿試の最優の位。狀元・榜眼・探花の三人をいふ。〔宋史、選擧志二〕第一甲賜二進士及第並文林郎一。〔六部成語訂正、禮部、一甲、注解〕會試取レ中貢士、既經二殿試一、定分二三甲一、一甲三名、一名二狀元一、二名二榜眼一、三名二探花一、一名授二職翰林院修撰一、二三名均授二翰林院編修一。❸百家。〔淸會典、兵部〕十家爲レ牌、十牌爲レ甲。❹土地の面積。臺灣に用ひられたもので、一丈一尺五寸を一才とし、二十五才平方を一甲といふ。❺一つの行政區劃。十戶。

【一甲子】212 イチカフシ 六十年をいふ。甲子(7—21725‥46)を見よ。

【一匣】213 イツカフ ひと箱。一箱。一匣子。〔宋史、五行志二下〕李允正獻二嘉禾穗一匣一。

【一呷】214 イチカフ 一口にあふり飮む。〔蘇軾、九日黃樓詩〕豈知還復有二今年一、把レ盞對レ花容二一呷一。

【一篚】215 イツカフ 一つの竹籠。一匣。〔新論、觀量〕智伯庖人、亡二炙一篚一、而卽知レ之。

【一榼】216 イツカフ 一樽。〔洪良浩、遊二耳溪一記〕酒一榼。

【一合】217 イチガフ ❶量の單位。一勺の十倍。〔說苑、辨物〕十龠爲二一合一。❷一たび合ふ。〔說苑、雜言〕太公一二合於周一、而侯七百歲、孫叔敖一二合於楚一、而封十世。❸一度交戰すること。〔宋書、孟懷玉傳〕毎二一合一、輒殺二數人一。〔長生殿、勦寇〕先一合、拖レ刀佯敗。

【一合塢】218 イチガフヲ 地名。河南省宜陽縣の西。一全塢とも、一泉塢ともいふ。晉の永嘉中、魏浚の族子が集まり據つた所。〔水經、洛水注〕洛水又東逕二一合塢南一。

【一合相】219 イチガフサウ 佛 世界をいふ。世界は微塵の集合なりとの意。〔華嚴大疏演義鈔〕一合相者、衆緣和合、故攬二衆微一以成二於色一、合二五陰等一以成二於人一、名二一合相一。

【一合一離】220 イチガフイチリ 或は合ひ、或は離れる。〔戰國、燕策〕齊趙之交、一二合一三離燕一。〔六韜、文韜、兵道〕一合一離、一聚一散。

【一合子來一合子去】221 i⁴ hê² tzŭ lai² i⁴ hê² tzŭ ch'ü⁴ 一品もらへば一品おくる。贈答の意。

【一干】222 イツカン ❶一千の隱語。一干一方を見よ。❷一つの事に關係ある人の總稱。訴訟などに多く用ひる語。❸一度云云に觸れれば。

【一干一方】223 イツカンイツパウ 一干は一千、一方は一萬。共に賄賂に用ひる隱語。干と千、方と万とは、字形が相似てゐるからいふ。〔繼世紀聞〕劉瑾用レ事、賄賂公行、凡有二干謁一者、云レ饋二一干一、卽一千之謂、云レ饋二一方一、卽一萬之謂、後漸增至二幾千幾方一。

【一干人犯】224 イツカンジンパン 犯罪の連累者一同。一犯罪事件の關係者全部。

【一干原被人證】225 イツカンゲンピジンショウ 原告・被告・證人など事件の關係者全部。

【一函】226 イツカン ❶一つのはこ。〔舊唐書、蕭瑀傳〕賜二金一函一。❷一つの書類。一通の書面。〔晉書、陶侃傳〕但一函紙自足耳。〔陶弘景、吳太極左仙公葛公碑〕見三人授二書一函一。

【一咸】227 イツカン 明、韓友范(**12**－43159・243)の字。

【一竿】228 イツカン 一本のさを。又、一本の釣竿。一竿竹を見よ。〔詩、大雅、韓奕、淑旂綏章、疏〕然則綏者卽交龍旂竿所レ建、與レ旂共二一竿一。

【一竿竹】229 イツカンチク ❶一本のさを。〔劉禹錫、同二樂天一和二微之深春一詩〕爭騎一竿竹、偷折四隣花。❷一本の釣竿。一釣竿。〔白居易、渭上偶釣詩〕偶持一竿竹、懸釣至二其傍一。〔馬存、浩浩歌〕君不レ見渭川漁父一竿竹、莘野耕叟數畝禾。

【一竿風月】230 イツカンノフウゲツ 一本の釣竿に世事を忘れて風月を樂しむ。〔陸游、入レ城至二郡圃一詩〕九陌鶯花娛二病眼一、一竿風月屬二閑身一。〔陸游、感舊詩〕回レ首壯遊眞昨夢、一竿風月老二南湖一。〔許衡、雜言詩〕一竿風月野橋春。

【一竿竹不レ換二簪裾一】231 イツカンノタケシンキヨニカヘズ 一竿風月の樂しみを士大夫の位と取りかへなどせぬこと。仕官を斷つて、風月を樂しむこと。簪裾は大夫の服をいふ。〔黃滔、嚴陵釣臺詩〕終向二煙霞一作二野夫一、一竿竹不レ換二簪裾一。

【一桿】232 i⁴ kan³ 一挺。一個。

【一寒】233 イツカン 甚しく貧しい。赤貧。〔史記、范雎傳〕范叔一寒如レ此哉。〔范成大、再遊二上方一詩〕范叔一寒如レ此、劉郞前度曾來。

【一寒一暑】234 イツカンイツシヨ 或は寒く、或は暑い。〔易、繫辭上〕日月運行、一寒一暑。〔太玄經、玄攡〕日月往來、一寒一暑。〔陸倕、新漏刻銘〕一暑一寒、有レ明有レ晦。

【一閒】235 イツカン ❶極めて近いこと。僅かの差。〔孟子、盡心下〕殺二人之兄一、人亦殺二其兄一、然則非二自殺レ之也、一閒耳。〔集注〕一閒者、我往彼來、閒二一人一耳。❷小さい部屋。ひとま。〔韓愈、題二楚昭王廟一詩〕猶有三國人懷二舊德一、一閒茅屋祭二昭王一。❸橋などの一つをいふ。〔六韜、虎韜、軍用〕渡二溝塹一飛橋一閒、廣一丈五尺、長二丈以上。❹イツケン 六尺。

【一幹】236 イツカン ❶一本のみき。〔白虎通、姓名〕本一幹而分。〔南齊書、祥瑞志〕去レ地九尺、合二成一幹一。❷一本の材木。〔盧諶、答二魏子悌一詩〕崇臺非二一幹一、珍裘非二一腋一。

【一漢】237 イツカン ❶天の河。〔李華、海上生二明月一詩〕漸出二三山岊一、將レ淩二一漢橫一。❷一人の男。

【一澗】238 イツカン 一つの谷川。〔水經、河水注〕水廣十許步、南流歷二鼓鍾川一、分爲二二澗一、一澗西北出、百六十許里。〔王建、題二台州隱靜寺一詩〕五峯直上插二銀河一、一澗當レ空瀉二寥廓一。

【一緘】239 イツカン 一封の書きもの。〔賈島、寄二令狐綯一詩〕一緘論二賈誼一。〔宋史、鄒浩傳〕瓘曰、禍其在レ此乎、異時姦人妄出、一緘則不レ可レ辨矣。

【一韓】240 イツカン 宋、韓琦(**12**－43159・51)をいふ。一人の韓琦といふ意。〔名臣言行錄、范仲淹〕公與二韓琦一協レ謀、必欲三收二復靈夏橫山之地一、邊謠曰、軍中有二一韓一、西賊聞レ之心骨寒、軍中有二一范一、西賊聞レ之驚二破膽一。

【一簡】241 イツカン 一つの書札。一通の手紙。〔宋書、謝靈運傳論〕一簡之內、音韻盡殊。

【一簡切】242 ヒトヨギリ 竹の一節を切つて造つた、尺八に似た樂器。一節切。〔和漢三才圖會、樂器類、一簡切〕按、一簡切、似二尺八一而短、其長一尺八分、止一節、故名レ之、近世之製、與二尺八一同類異音、遊興之具。

【一鑑】243 イツカン 一つのかがみ。又、一たびかんがみる。〔何遜、擬古詩〕一鑑一情傷。〔李羣玉、宵民詩〕一鑑玉壺冰。

【一眼】244 イチガン ❶一つの眼。一方の眼球。〔陳書、張昭傳〕昭失二一眼一。❷一つの穴。泉や井戶を數へる語。〔顧況、送三李山人還二玉溪一詩〕引二取君家一眼泉一。〔白居易、題二廬山山下湯泉一詩〕一眼湯泉流向レ東、浸レ泥澆レ草煖無レ功。❸日・月を天の兩眼と見て、其の各々を一眼といふ。〔盧仝、月蝕詩〕天唯兩眼失二一眼一。

【一眼井】245 i⁴ yen² ching³ 一つの井戶。

【一眼之龜】246 イチゲンノカメ 佛稀有のことの喩。腹に一眼有る龜が、波に隨つて浮游する中、孔のある大木にあひ、之に乘つたが、偶々風が吹いて來て此の木を覆へし、龜が仰向きになると共に、腹の一眼が浮木の孔に當つて、其の孔から日月の光を見たといふ。〔法華經、妙莊嚴王本事品〕佛難レ得レ値、如二優曇鉢羅華一、又如三一眼之龜値二浮木孔一。

【一雁】247 イチガン 一羽のかりがね。〔呂覽、必己〕其一雁能鳴、一雁不レ能レ鳴、請奚殺。〔庾信、哀江南賦〕李陵之雙鳧永去、蘇武之一雁空飛。〔梁簡文帝、夜望二單飛雁一詩〕天霜河白夜星稀、一鴈聲高何處歸。〔張正見、賦二得佳期竟不レ歸詩〕自對二孤鸞向レ影絕一、終無二一鴈帶レ書回一。

【一雁書】248 イチガンノシヨ 一通の手紙。雁信(**11**－41960・37)を見よ。〔李白、送三友人遊二梅湖一詩〕莫下惜二一雁書一、音塵坐中胡越上。

【一龕】249 イチガン 一つの廚子。一つの寺塔。〔蘇軾、追二和戊寅歲上元一詩〕一龕京口嗟二春夢一。

【一危】250 イツキ 一つの險阻。一つの危險。〔司馬相如、上書諫レ獵文〕夫輕二萬乘之重一、不三以爲レ安、而樂下出二萬有一危之塗一以爲上レ娛。

【一圻】251 イツキ 方千里の地。〔左氏、襄、二十五〕且昔天子之地一圻。〔注〕方千里。

【一奇】252 イツキ ❶一つのめづらしいはかりごと。〔揚雄、解嘲〕會不レ能下畫二一奇一出中一策上。❷一つの勝れた景色。〔齋藤拙堂、嵐山櫻花〕翌早候二旭日升一、復出觀レ之、芳霧靄然溢二溪山一、又爲二一奇一。❸一つの珍しいもの。〔說苑、反質〕夫衞國雖レ貧、豈無三文履一奇、以易二十稷之繡一哉。❹一つの奇數。〔朱子文集、答二袁機仲一〕當下爲二一畫一之時上、方有二一奇一偶一。

【一季】253 イツキ 春夏秋冬各々三箇月の稱。〔唐書、禮樂志五〕皇后歲祀、一季春吉。〔唐書、柳公權傳〕御史劾レ之、奪二一季俸一。

【一紀】254 イツキ ❶十二年。〔書、畢命〕既歷二三紀一、世變風移。〔傳〕十二年曰レ紀、父子曰レ世。〔國語、晉語四〕蓄レ力一紀。〔注〕十二年歲星一周爲二一紀一。〔文心雕龍、神思〕張衡研レ京以二十年一、左思練レ都以二一紀一。❷七十六年。〔淮南子、天文訓〕七十六歲、日月復以二正月一入二營室五度一、無二餘分一、名曰二一紀一。❸千五百年。又、千五百二十年。〔史記、天官書〕夫天運、三十歲一小變、百年中變、五百載大變、三大變一紀。〔詩、大雅、文王序、疏〕依二三統歷一、七十六歲爲二一蔀一、二十蔀爲二一紀一、積一千五百二十歲。〔周髀算經〕二十蔀爲二一遂一、遂一千五百二十歲。〔注〕凡一千五百二十歲、終二一紀一復二甲子一、故謂二之遂一也。

【一軌】255 イツキ ❶軌を一つにする。同じ立場をとる。軌は車の左右兩輪の閒。〔晉書、苻堅載記〕晉武若信二朝士之言一、而不レ征レ吳者、天下何由一レ軌、吾計決矣。〔十六國春秋、前秦錄〕一二軌九州一、同二風天下一。〔北史、崔鴻傳〕涼朔同レ文、牂越一レ軌。❷一臺の車の橫はば。一轍。〔周禮、地官、遂人〕洫上有レ涂。〔注〕涂、容二乘車一軌一。

【一氣】256 イツキ ❶天地間に漲つてゐる大氣。〔列子、天瑞〕一氣不二頓進一、一形不二頓虧一。〔杜甫、同二諸公一登二慈恩寺塔一詩〕俯視但一氣、焉能辨二皇州一。〔白居易、春遊二西林寺一詩〕散作二萬壑春一、凝爲二一氣碧一。❷太一混然の氣。萬物の元氣。〔莊子、知北遊〕萬物一也、云云、通二天下一一氣耳、聖人故貴レ一。〔晉書、涼武昭王暠傳論〕若三一氣之生二兩儀一。〔元稹、競渡詩〕一氣忽爲レ二、矗然畫二乾坤一。〔蘇軾、贈二陳守道一詩〕一氣混淪生復生、有形有心卽有情。❸同じ雰圍氣。〔崔國輔、奉二和華清宮觀行レ香應制詩〕雲物三光裏、君臣一氣中。❹ひといき。〔晉書、許邁傳〕常服レ氣、一氣千餘息。❺ひといきに。一氣呵成を見よ。❻氣脈を通じてゐる仲間。〔紅樓夢、百十九回〕況且還有三舅舅做二保山一、他們都是一氣。❼i² ch'i⁴ ㋑しばら

く。㋺ひといきに。一氣に。
【一氣壓】257 イツキアツ　緯度四十五度の海面上で、攝氏零度の時、高さ七十六糎、切口一平方糎の水銀柱の重量に相當する氣壓。其の七百六十分の一を一粍の氣壓といひ、氣壓の單位とする。
【一氣兒】258 i² chʻi⁴ êrh　同類。ぐる。
【一氣呵成】259 イツキカセイ　ひといきに作り上げること。〔胡應麟、詩藪、近體中〕若㆓風急天高㆒云云、而實一意貫串、一氣呵成。
【一氣混茫】260 イツキコンバウ　雲氣が一面にたちこめて、邊りがはつきりしないこと。〔棧雲峽雨日記、上〕四面皆合、一氣混茫。
【一氣呵成法】261 イツキカセイノハフ　文章法の名。ひといきに書き下す筆法。一氣呵成を見よ。
【一氣轉㆓洪鈞㆒】262 イツキコウキンヲテンズ　萬物の元氣を調和して天下を治める。洪は大、鈞は陶器を作るに用ひる轆轤。洪鈞は天子の治める天下をいふ。〔杜甫、上㆓韋左相㆒二十韻詩〕八荒開㆓壽城㆒、一氣轉㆓洪鈞㆒。〔集注〕調㆓和一元之氣㆒、運㆓轉洪鈞㆒、以陶㆓成萬物㆒、遂使㆔八方荒遠之民、咸躋㆓于仁壽之域㆒。
【一起】263 キイツ　❶一たび立つ。一たび起る。〔說苑、談叢〕踒人日夜願㆓一起㆒。〔南齊書、崔懷愼等傳論〕澆風一起、人倫毀薄。〔唐書、馬周傳〕事變一起、而後悔㆑之、無㆑益也。❷i⁴ chʻi³ ㋑ひとしきり。㋺ひと組。いつしよに。
【一起子】264 i⁴ chʻi³ tzŭ ❶ひと群。一團。❷近頃。
【一起一驗】265 イツキイツケン　商品や貨物を運搬するのに、一たび起釐と驗釐との釐稅を納めると、其の省內ではもはや課稅しないこと。〔淸會典事例、戶部、釐稅〕浙西地方、一起一驗、由㆓經過之頭卡㆒併收、餘均驗㆑票放行。
【一起一仆】266 イツキイツプ　或は起き、或はたふれる。〔日本政記、後堀河天皇、嘉祿元年〕賴襄曰、彼源氏、北條氏、一起一仆、於㆑我何有哉。
【一起一伏】267 イツキイツプク　起きたり伏したり。〔讀通鑑論、唐文宗〕貿貿焉馳㆓逐於一起一伏之中㆒。
【一基】268 キイツ　墓など、礎のあるものを數へる名數。〔水經、淄水注〕水東有㆑冢、一基三墳、東西八十步。

【一喜】269 キイツ　一つのよろこび。又、澤山ある中の第一のよろこび。〔戰國、齊策〕公孫戍曰、臣有㆓大喜三㆒、重㆑之寶劍一、孟嘗君曰、何謂也、公孫戍曰、門下百數、莫㆓敢入諫㆒、臣獨入諫、臣一喜、諫而得㆑聞、臣二喜、諫而止㆓君之過㆒、臣三喜、輸㆓象牀㆒、郢之登徒不㆑欲㆑行、許戍以㆓先人之寶劍㆒。
【一喜一憂】270 イツキイチイウ　或はよろこび、或はうれへる。〔道德指歸論、名身孰親篇〕一喜一憂、魂魄浮游。
【一喜一懼】271 イツキイツク　或はよろこび、或はおそれる。〔論語、里仁〕子曰、父母之年、不㆑可㆑不㆑知也、一則以喜、一則以懼。
【一喜一怒】272 イツキイチド　或は喜び、或は怒る。〔六韜、龍韜、奇兵〕一喜一怒、一與一奪、一文一武、一徐一疾者、所㆘以調㆓和三軍㆒、制㆗一臣下㆖也。〔管子、霸言〕令㆓人主一喜一怒㆒者、謀也。
【一喜一悲】273 イツキイツピ　或は喜び、或は悲しむ。〔蔡琰、胡笳十八拍〕斯夢中執㆑手兮一喜一悲、覺後痛㆓吾心㆒兮無㆓休歇㆒。
【一揆】274 キイツ　❶物が其の度を同じくすること。〔孟子、離婁下〕先聖後聖、其揆一也。〔孔安國、尙書序〕雅誥奧義、其歸一揆。〔晉書、成公簡傳〕古今一揆耳。❷㋑一つこころ。〔東鑑、一〕治承四年十一月八日、天下勇士、可㆔奉㆓合一揆之力㆒。㋺軍兵の一團。〔太平記、武藏野合戰事〕赤印一揆を五手に引分けて。㋩土民の蜂起する者の稱。土寇。〔建長以來追加〕號㆓一揆㆒致㆓濫妨㆒事。❸一たびはかる。
【一期】275 キイツ　❶ある期限を幾つかに分けた、其の一くぎり。又、其の中の最初の一くぎり。第一期。〔陸機、別賦〕悼㆓同居之無㆑樂、曾不㆑踰㆓乎一期㆒。〔袁宏、三國名臣序贊〕萬歲一期、有生之通塗。❷一年。一週年。〔北史、隋文帝紀〕損㆑膳而不㆑御㆓酒肉㆒者、殆將㆓一期㆒。❸佛 イチゴ　一生涯。〔唯識論、五〕一期生中、心心所滅。
【一期一會】275′ イチゴイチエ　一生に一度會ふこと。一生に一度限り。〔茶湯一會集〕抑茶湯の交會は、一期一會といひて。
【一期四相】276 イチゴノシサウ　佛人の一生に起る四相。卽ち生・老・病・死。四相(**3**—**4682**‥403)を見よ。
【一棊】277 キイツ　一番の圍碁。一席の碁。〔淮南子、說林訓〕行㆓一棊㆒不㆑足㆓以見㆒㆑智。
【一匱】278 キイツ　一もつこに盛つた土。僅かの意に用ひる。匱は簣と通ず。一簣(287)を見よ。〔漢書、王莽傳上〕綱紀咸張、成在㆓一匱㆒。〔注〕師古曰、匱者、織㆑草爲㆑器、所㆓以盛㆒㆑土也。〔班固、典引〕並開㆓迹於一匱㆒、同受㆓侯甸之服㆒。
【一麾】279 キイツ　❶一度さしまねく。ひとたび招く。〔論衡、感虛〕襄公志在㆑戰、爲㆓日暮㆒一麾、安能令㆓日反㆒、使㆓聖人麾㆒㆑日、日終不㆑反。〔史岑、出師頌〕素旄一麾、渾㆓一區宇㆒。〔注〕翰曰、太公執㆑之、一㆓麾軍士㆒而破㆓紂軍㆒。〔宋文帝、北伐詩〕逝將㆑振㆓宏綱㆒、一麾同㆓文軌㆒。〔顏延之、五君詠詩、阮始平〕屢薦不㆑入㆑官、一麾乃出守。❷ひとたび討つ。〔南齊書、高帝紀上〕鼖鼓一麾、夏首寧謐。
【一麾出守】280 イツキイデテシユトナル　旌麾をとつて出でて太守となる。南朝宋の顏延之の五君詠の一麾乃出守の句を後世誤用したもの。〔南史、顏延之傳〕爲㆓永嘉太守㆒、延之甚怨憤、乃作㆓五君詠㆒、詠㆓阮咸㆒云、屢薦不㆑入㆑官、一麾乃出守。〔夢溪筆談、辯證二〕今人守郡、謂㆓之建麾㆒、蓋用㆓顏延年詩一麾乃出守㆒、此誤也、延年謂㆓一麾㆒者、乃指麾之麾、如㆘武王右秉㆓白旄㆒以麾㆖之麾、非㆓旌麾之麾㆒也、云云、自㆛杜牧爲㆓登樂遊原詩㆒云㆚擬㆘把㆓一麾㆒江海去㆖云云㆙、始謬用㆓一麾㆒、自㆑此遂爲㆓故事㆒。
【一踦】281 キイツ　かた一方の足。かたあし。〔新書、諭誠〕王何曾惜㆓一踦屨㆒乎。
【一機】282 キイツ　❶佛㋑一類の機緣。〔碧巖錄、評唱〕古人垂㆓示一機一境㆒。㋺一つの機關。〔楞嚴經、六〕要以㆓一機㆒抽。❷飛行機などの一臺。機は飛行機などを數へるに使ふ語。❸i⁴ chi¹ 一つの機會。〔例〕巧做一機。
【一機軸】283 イチキヂク　一種の新しい工夫。新機軸。機軸(**6**—**15561**‥117)を見よ。「河」を見よ。
【一蕢】284 キイツ　一簣(287)に同じ。以㆓一蕢㆒障㆓江河㆒を見よ。
【以㆓一蕢㆒障㆓江河㆒】285 イツキヲモツテカウガヲササフ　微力で亂を防がうとする喩。〔漢書、何武王嘉師丹傳贊〕武嘉區區、以㆓一蕢㆒障㆓江河㆒。〔注〕師古曰、蕢、織㆑草爲㆑器、所㆓以盛㆒㆑土也、一蕢之土、固不㆑能㆔障㆓塞江河㆒。
【一歸】286 キイツ　❶一たびかへる。〔呂覽、報更〕請爲㆓寡人㆒而一歸也。❷同じ歸着點。大道をいふ。〔郭璞、客傲〕寄㆓羣籟乎無象㆒、域㆓萬殊於一歸㆒。❸一つ。〔蘇軾、王復秀才所㆑居雙檜詩〕靑蓋一歸無㆓覓處㆒、只留㆓雙檜㆒待㆓昇平㆒。〔徐夤、鶴詩〕閬苑瑤臺歲月長、一歸華表好增㆑傷。
【一簣】287 キイツ　一つのあじか。又、一つのあじかに盛つた土。僅かの意に用ひる。一蕢。一匱。〔書、旅獒〕爲㆑山九仞、功虧㆓一簣㆒。〔論語、子罕〕未㆑成㆓一簣㆒、止吾止也。〔謝惠連、讀書詩〕山成由㆓一簣㆒、崇積始㆓微塵㆒。
【一簣草堂】288 イツキサウダウ　淸、莊鼎彝(**9**—**31035**‥181)の室名。
【一簣山人】289 イツキサンジン　淸、陶南望(**11**—**41705**‥220)の號。
【一簣之釁】290 イツキノキン　僅かの罪。〔陸機、豪士賦序〕一簣之釁、積成㆓山岳㆒。〔注〕一簣、一籠土也、釁、罪也。
【一簣之功】291 イツキノコウ　最後の一もつこの骨折。最後の骨折。一簣を見よ。
【一蟣】292 キイツ　佛數量の名。隙塵の七倍。〔俱舍論、十二〕隙塵七爲㆑蟣。
【一騎】293 キイツ　一人の乘馬兵。又、一匹の乘馬。〔史記、李將軍傳〕嘗夜從㆓一騎㆒出。
【一騎當千】294 イツキタウセン　一人當千(1130)に同じ。〔太平記、五、大塔宮熊野落事〕其の勢僅か三十二人、是れ皆一騎當千の兵とはいへ共。
【一伎】295 イチギ　一つのわざ。一技。〔淮南子、繆稱訓〕通㆓於一伎㆒、察㆓於一辭㆒。〔史記、龜策傳〕通㆓一伎㆒之士、咸得㆓自效㆒。
【一技】296 イチギ　一つのわざ。一伎に同じ。〔淮南子、泰族訓〕徹㆓於一事㆒、察㆓於一辭㆒、審㆓於一技㆒、可㆓以曲說㆒、而未㆑可㆓廣應㆒也。〔北史、楊大眼傳〕聽㆓下官出㆓一技㆒。
【一義】297 イチギ　❶一つの道理。一理。〔世說新語、文學〕支通㆓一義㆒、四座莫㆑不㆑厭㆑心。〔李邕、海州大雲寺禪院碑〕傳㆓燈三葉㆒、分㆓座一義㆒。❷同じこと。〔論衡、初稟〕夫斬㆓大虵㆒誅㆑秦殺㆑項、同一

實也、周之文武、受レ命伐レ殷、亦一義也。㊂一通りの意義。〔謠曲、加茂〕あらあら一義をあらはすべし。

【一儀】298 イチギ ㊀一つの事がら。ひとつののり。〔淮南子、齊俗訓〕一儀、不レ可三以百發一。〔元史、天文志一、仰儀〕一儀一揆、孰善悖也。㊁男女が交接すること。〔柳樽〕一儀一儀落著で。

【一議】299 イチギ ㊀一度の評議。一度の議論。㊁異議。異なつた議論。

【一丘】300 イッキウ ㊀一つのおか。一邱。一丘一壑を見よ。㊁梁の丘仲孚(1―33‥156)をいふ。〔海錄碎事、臣職部、縣令〕宋丘仲孚、爲二山陰令一、百姓謠曰、二傳沈劉、不レ如二一丘一、時傳琰父子、及沈憲・劉玄明、相繼宰二山陰一、皆有二政績一。

【一丘一壑】301 イッキウイチガク 一つのをか一つの谷でも、滿足すれば樂しめるといふことで、身を俗外に置いて風流を樂しむこと。一邱一壑(305)に同じ。〔漢書、敍傳上〕漁二釣於一壑一、則萬物不レ奸二其志一、栖二遲於一丘一、則天下不レ易二其樂一。〔世說新語、品藻〕明帝問二謝鯤一君自謂、何二如庾亮一、答曰、端二委廟堂一、使二百僚準則一、臣不レ如レ亮、一丘一壑、自謂過レ之。〔黃庭堅、夢中和二觴字韻一詩〕一丘一壑可レ曳レ尾。

【一丘之貉】302 イッキウノカク 同じ丘に棲んでゐるむじなには變りがないといふことで、古今、類を同じくする喩。貉はむじな。〔漢書、楊惲傳〕古與レ今、如二一丘之貉一。〔注〕師古曰、言二其同レ類也、貉、獸名、似レ狐而善睡。

【一弖】303 イッキウ 一卷(425)の㊀に同じ。弖は卷の借字。道經に用ひた語。〔楊愼、轉注古音〕弖音樛、卽說文糾字、道經借爲二卷帙之卷一。〔升庵文集、七十二〕道書、以二一卷一爲二一弖一。

【一邱】304 イッキウ 一つのをか。邱は丘。一丘(300)の㊀を見よ。〔齋藤拙堂、觀二曳布瀑一遊二摩耶山一記〕攀二一邱一、得二茶店一。

【一邱一壑】305 イッキウイチガク 或は邱に登り、或は溪に釣して、風流を樂しむ。身を俗世の外に置くこと。〔晉書、謝鯤傳〕明帝在二東宮一、問曰、論者以二君方二庾亮一、自謂何如、答曰、端二委廟堂一、使二百僚準則一、鯤不レ如レ亮、一邱一壑、自謂過レ之。

【一裘】306 イッキウ 一枚のかはごろも。〔王炎、夏日郊行賦〕一裘一葛、日飯一盂。

【一裘一葛】307 イッキウイッカツ 一枚のかはごろもと、一枚のくずかたびらだけで、他に着替のないこと。貧しい喩。〔韓愈、送二石處士一序〕冬一裘、夏一葛、食朝夕飯一盂。

【一匊】308 イッキク ひとすくひ。匊は掬に同じ。〔詩、小雅、采綠〕終朝采レ綠、不レ盈二一匊一。

【一掬】309 イッキク ひとすくひ。一匊に同じ。〔南史、何點傳〕夢二一道人一、形貌非レ常、授二丸一掬一。

【一掬土】310 イッキクノツチ ひとすくひの土。僅かな土。一抔土。〔佛國記〕卽以二一掬土一施レ佛。

【一掬淚】311 イッキクノナミダ 兩の掌に溢れる程の澤山の淚。〔李白、秋浦歌〕遙傳二一掬淚一、爲レ我達二揚州一。〔孟郊、楚竹吟酬二盧虔端公見レ和二湘絃怨一詩〕一掬靈均淚、千年湘水文。

【一吸】312 イッキフ ひといき。ひとのみ。ひとすひ。〔淮南子、齊俗訓〕放二其一吐一吸、時詘時伸一。

【一匡】313 イッキヤウ 天下を一つにただし治める。〔論語、憲問〕管仲相二桓公一、霸二諸侯一、一二匡天下一。〔集解〕桓公率二諸侯一、以尊二周室一、一二正天下一。〔集注〕匡、正也。〔荀子、王霸〕九二合諸侯一、一二匡天下一。

【一鄉】314 イッキヤウ 一つのむらざと。又、むらざと全體。〔孟子、盡心下〕一鄉皆稱二原人一焉。〔莊子、逍遙遊〕行比二一鄉一。

【一鄉之迷】315 イッキヤウノマヨヒ 一鄉の人々が皆迷ってゐること。〔列子、周穆王〕一鄉之迷、不レ足レ傾二一國一。

【一鄉之善士】316 イッキヤウノゼンシ 一鄉での善良の士。〔孟子、萬章下〕一鄉之善士、斯友二一鄉之善士一。

【一境】317 イッキヤウ ㊀一地方。〔後漢書、伏湛傳〕吏人信向、郡內以安、平原一境、湛所レ全也。〔後漢書、橋元傳〕元收二考髡一、笞二死于冀市一、一境皆震。㊁一つの境界。〔碧巖錄、評唱〕古人垂二示一機一境一。

【一腳】318 イッキヤク ㊀片足。一方の足。一脚。〔爾雅、釋地、北方有二比肩民一焉、注〕各有二一目一鼻孔、一臂一腳一。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕木牛者、方腹曲頭、一腳四足。㊁椅子など、足の有る器物一つ。一脚。

【一腳指】319 イッキヤクシ 一本のあしの指。殆ど物の用をなさない喩。〔北史、李幼廉傳〕碎卿等諸人、作二得李長史一腳指一不。

【一腳子肉】320 イッキヤクシノニク 獸肉の一足分、卽ち獸肉の四分一。〔通俗編、數目、一腳子〕元典章、皇慶元年詔、今後倣二好事一處、只與二素茶飯一、合二喫肉的一腳子肉、二腳子肉一、宣徽院斟二酌與者一、按、物之有二四腳一者、四二分之一、各爲二一腳一、今食肆中有二此言一。

【一噱】321 イチギャク 一たび大笑する。〔歐陽脩、雪詩〕自レ非三我爲發二其端一、凍口何由開二一噱一。

【一弓】322 イッキュウ ㊀一張りの弓。〔逸周書、文酌解〕十二來一弓二矢歸レ射。〔宋史、兵志十一〕手二一弓一矢一甲一牌之用一、無レ不レ盡レ心焉。㊁六尺、又は八尺。〔儀禮、鄉射禮、侯道五十弓、疏〕云レ弓者、六尺爲レ步、弓之下制六尺、與レ步相應、而云レ弓者、侯之所レ取レ數、宜二於射器一也、故此經云レ弓也。〔通俗編、數目、一弓〕釋典度地論、二十四指橫レ布爲二一肘一、四肘爲二一弓一、三百弓爲二一里一。

【一宮】323 イッキュウ ㊀一つの宮殿。〔後漢書、西域、大秦國傳〕城中有二五宮一、云云、其王日游二一宮一、聽レ事、五日而後徧。〔晉書、禮志上〕遵二一宮之遠旨一。㊁宮殿中の人殘らず。〔史記、武帝紀〕一宮盡駭、以二少君一爲レ神。〔陸龜蒙、和二襲美館娃宮懷古一詩〕一宮花渚漾二漣漪一、倭墮鴉鬟出二繭眉一。㊂イチノミヤ ㋑第一の皇子。〔枕草紙、五〕今上一の宮。㋺諸國にある第一の格式の神社。〔金葉和歌集、雜、下〕歌讀みて一宮にまゐらせて。㋩地名。㊃イック 土佐國の地名。㊄イク 姓氏。〔和爾雅〕。

【一宮善】324 イクゼ 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。

【一去】325 イッキョ ㊀ひとたび去る。〔戰國、燕策〕風蕭蕭兮易水寒、壯士一去兮不二復還一。〔庾信、楊柳歌〕流槎一去上二天池一。〔崔顥、黃鶴樓詩〕黃鶴一去不二復返一、白雲千載空悠悠。㊁行く。步いて行く。

【一去兒】226 i² ch'ü⁴ êrh 一瞬時。またたく間。

【一炬】327 イッキョ ㊀一つの炬火。〔論衡、感虛〕夫㶌二一炬火一、爨二一鑊水一。〔南史、沈慶之傳〕人提二一炬一燒レ營、火至輒以二池水一灌滅レ之。㊁ひと火に燒く。〔杜牧、阿房宮賦〕楚人一炬、可レ憐焦土。

【一虛】328 イッキョイチコ ものが全部なくなること。又、全く空しいこと。〔韓偓、迷樓記〕爲レ之一虛。〔肇論〕齊二萬有於一虛一。

【一虛一盈】329 イッキョイチエイ 或は空しく、或はみちる。〔晉書、皇甫謐傳〕君無二常籍一、臣無二定名一、損レ義放レ誠、一虛一盈。〔讀通鑑論、漢元帝〕情僞之遷、一虛一盈。

【一虛一實】330 イッキョイチジツ 忽ち空しくなり、忽ち實ちる。出沒變化して測り難い意。虛實(9―32709‥162)を見よ。

【一虛一滿】331 イッキョイチマン 或は空しく、或は滿ちる。〔莊子、秋水〕一虛一滿、不レ位二乎其形一。

【一虛一實法】332 イッキョイチジツハフ 文章法の名。前段で抽象的に敍述したことを、後段で事實に就いて說明する法をいふ。

【一擧】333 イッキョ ㊀一たび事を擧げる。又、一つの行動。〔左氏、襄、二十五〕九世之卿族、一擧而滅レ之、可レ哀也哉。〔管子、幼官圖〕一擧而上下得レ終。〔史記、項羽紀〕國家安危、在二此一擧一。〔後漢書、竇憲傳論〕竇憲一擧而空二朔庭一。㊁一たび動く。一たび飛ぶ。一氣に。〔楚辭、賈誼、惜誓〕黃鵠之一擧兮、知二山川之紆曲一。㊂一度御馳走を食べる。〔周禮、天官、膳夫〕王日一擧、鼎十有二一、物皆有レ俎。〔注〕殺レ牲盛レ饌曰レ擧。㊃明、何思登(1―511‥284)の字。

【一擧一動】335 イッキョイチドウ 一度手を擧げ、一度身を動かす。一つ一つの動作。又、ちよつとした動作。〔宣和遺事、前集〕一擧一動、天子不レ得二自由一矣。

【一擧雙擒】336 イッキョサウキン 一擧兩得に同じ。〔桃花扇、偵戲〕然後託レ他兩處分解、包二管一擧雙擒一。

【一擧三得】337 イッキョサントク 一事を行ふことによつて三樣の利益を收める。〔桃花扇、移防〕又好二監レ軍防一レ河、且爲二桑梓一造レ福、豈非二一擧而三得一乎。

【一擧自喜】338 イッキョミヅカラヨロコブ 一たび官に擧げられ、或は試驗に合格して自ら喜ぶこと。〔鹽谷宕陰、遊二墨水一記〕一擧自喜、頹墮委靡。

【一擧千里】339 イッキョセンリ 一たび行を起せば、千里に至る。一氣に千里に至ること。轉じて、仕官して志を得ることにもいふ。〔漢高祖、鴻鵠歌〕鴻鵠高飛、一擧千里。〔曹植、與二楊德祖一書〕此數

子、猶復不レ能三飛軒絶レ跡、一擧千里二也。

【一擧二得】340 一擧兩得に同じ。〔魏志、臧洪傳〕將三以安二社稷一、一擧二得。

【一擧萬里】341 佛行脚抖擻の行をすること。〔止觀、七下〕若遁レ迹不レ脫、當三一擧萬里、絶域他方、無二相諳練一、快得二學道一。

【一擧兩獲】342 一事を行ふことによつて二つの獲物を得ること。〔春秋後語〕莊子性好レ勇、嘗刺レ虎、管豎子止レ之曰、兩虎方レ食レ牛、牛甘必爭、鬭則大者傷、小者亡、從レ傷而刺、一擧必有二兩獲一、莊子然レ之、果獲二兩虎一。

【一擧兩失】343 一事をなすことによつて、それと一緒に他の一事をも失ふこと。一擧兩得の對。〔戰國、燕策〕本欲三以爲レ明二寡人之薄一、而君不レ得レ厚、揚二寡人之辱一、而君不レ得レ榮、此一擧而兩失也。〔說苑、指武〕管仲曰、不可、我已刑二北方諸侯一矣、今又攻レ魯、無二乃不可一乎、魯必事レ楚、是我一擧而失レ兩也。

【一擧兩全】345 一つの行動によつて、二つのことが仕遂げられること。〔魏志、郭淮傳〕此一擧而兩全之策也。

【一擧兩得】346 一事を行ふことによつて二樣の利益を收める。一擧二得。一擧雙擒。一石二鳥。〔晉書、束晳傳〕一擧兩得、外實內寬。〔類書纂要〕爲レ學看二文字一、虛レ心靜看、涵養究索之功、一擧兩得。

【一擧手一投足】347 一たび手を擧げ、一たび足を踏み出す。少しの骨折。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕如有レ力者、哀二其窮一而轉二運之一、蓋一擧手一投足之勞也。

【一擧登科日雙親未レ老時】348 科擧の試驗に及第した日、兩親がまだ年老いず、大いに喜ばすことが出來る。宋の汪洙の詩句といふ。〔通俗編、仕進〕一擧登科日雙親未レ老時、相傳、是宋汪洙詩、琵琶曲、假饒一擧登科日、難レ道是雙親未レ老時、只恐錦衣歸二故里一、雙親的不レ見レ兒、又云、如今端的是男兒、行看錦衣歸二故里一、皆用二此詩一。

【一擧首登二龍虎榜一十年身到二鳳皇池一】349 一たび進士の試驗に優等で及第すれば、十年後には宰相の地位に到るを得んといふ意。龍虎榜は進士の試驗に及第した者の氏名を揚げる板。鳳皇池は中書省の近くに在る池。轉じて、中書省をいひ、又、宰相をいふ。〔陔餘叢考卷四十三〕に見ゆ。〔李昉、賀二呂蒙正一詩〕一擧首登二龍虎榜一、十年身到二鳳皇池一。

【一共】350 ❶ともに。〔梁簡文帝、與二湘東王一書〕吾子建一共商榷。〔黃庭堅、贈二嗣直弟一頌〕江南十兄弟、長被時一共。❷ i² kung⁴ 合せて。合計。總計。

【一共一否】351 或は提供し、或は拒む。共は供に通ず。〔左氏、昭、十六〕一共一否、爲レ罪滋大。

【一曲】352 ❶ひとまがり。又、川の一つのくま。〔詩、魏風、汾沮洳〕彼汾一曲、言采二其藚一。〔集傳〕一曲、謂二水曲流處一。〔公羊、文、十二〕河千里而一曲也。〔杜甫、江村詩〕清流一曲抱レ村流。❷音樂のひとふし。〔嵇康、與二山巨源一絶レ交書〕濁酒一盃、彈琴一曲。〔李白、將進酒〕與レ君歌二一曲一。❸一部分。〔莊子、則陽〕在二物一曲一。〔淮南子、俶眞訓〕諭二於一曲一、而不レ通二于萬方之際一也。

【一曲之士】353 一部分に偏した人。一曲之人。〔莊子、天下〕不レ該不レ偏、一曲之士也。〔疏〕雖二復各有一レ所レ長、而未レ能二該通周徧一、斯乃偏僻之士、滯レ一之人、非二圓通合變一者也。

【一曲之人】354 一部分に偏した人。一曲之士に同じ。〔莊子、天道〕此之謂二辯士、一曲之人一也。〔疏〕一節曲見偏執之人、未レ可下以識二通方一、悟中於大道上者也。

【一局】355 ❶圍棊・將棊などの一勝負。〔南史、蕭惠基傳〕至二日暮一、一局始竟。〔幽閑鼓吹〕宣宗曰、比聞、李遠詩云、長日唯消二一局棋一、豈可二以臨レ郡哉。❷一面の碁盤。〔孔武仲、送下李大夫管二勾太平一官上袁州上詩〕枯棋一局酒滿レ觥。❸一局面。❹官衙の一部局。❺ i⁴ chü² 宴會。

【一局棊】356 一ばんの圍棊。又、世のうつりかはりを棊の一局に喩へる。〔司空圖、題二休休亭一詩〕一局棊一爐藥、天意時情可二料度一。〔張祜、喜二王子載話レ舊詩〕累話三朝事、重看一局棊。

【一局部】357 一部分。

【輸二一局一】358 圍棊に一勝負まける。又、凡て人に負けること。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕大笑曰、雲華姐、又輸二一局一矣。

【一極】359 ❶一つのきはまる所。〔逸周書、文酌解〕欲有二一極一、極有二七事一。❷佛至極の道。〔無量壽經、序〕一極正覺、任レ機而通。❸一番を定める義。小兒の遊戲などで、最初に鬼になる者を定めること。〔嬉遊笑覽、玩弄、めなしどち〕此の戲も一極めて鬼となる者を定むる事なり。❹一度極める。

【一玉】360 一つのたま。〔左氏、昭、十六〕出二一玉一以起二二罪一。

【一巾】361 一枚のきれ。〔詩、鄭風、出其東門〕縞衣綦巾、疏〕故知二一衣一巾一、有レ男有レ女。

【一斤】362 目方の單位。十六兩。〔史記、平準書〕一黃金一斤。〔淮南子、天文訓〕十六兩而爲二一斤一。〔說苑、辨物〕十六黍爲二一豆一、六豆爲二一銖一、二十四銖爲二一兩一、十六兩爲二一斤一。

【一斤染】363 紅染の極めて薄いもの。紅花一斤を以て一匹の絹を染めたもの。〔助無智祕抄〕あをばかまに一こんぞめ。

【一囷】364 一つのくら。囷は食糧を蓄へる倉。指二一囷一與二周瑜一を見よ。

【指二一囷一與二周瑜一】365 吳の魯肅が一つの倉の食糧を周瑜に與へた故事。〔吳志、魯肅傳〕周瑜爲二居巢長一、將二數百人一故過候レ肅、幷求二資糧一、肅家有二兩囷一、米各三千斛、肅乃指二一囷一與二周瑜一、瑜益知二其奇一也、遂相親結、定二僑札之分一。〔精註雅俗故事讀本、下、人事〕指二一囷一與二周瑜一。

【一芹】366 一本のせり。粗末なもの。人に物を贈る時の謙辭。芹獻。〔陸隴其、與二鄭唐邑一尺牘〕一芹之微、聊申二鄙忱一。

【一金】367 ❶一鎰、又は一斤をいふ。〔史記、平準書、一黃金一斤、注〕索隱曰、按、如淳云、時以レ錢爲レ貨、黃金一斤、直萬錢、非也、又、臣瓚下注云、秦以二一溢一爲二一金一、漢以二一斤一爲二一金一、是其義也。〔史記、平準書、馬一匹則百金、注〕集解曰、瓚曰、秦以二一溢一爲二一金一、漢以二一斤一爲二一金一。〔通俗編、數目、一金〕戰國策注、二十兩爲二一金一、演繁露、漢言、百金中人十家之產、則一金必不レ止二一兩一矣、說者各隨レ所レ見別二多寡一、予觀、古者一代事物、各爲二一制一、不二但正朔物色而已一、周人之金以レ鎰計、二十兩也、漢人之金以レ斤計、方寸重一斤也、食貨志、黃金一斤直錢萬、則漢云二一金一者、皆爲二金一斤一。〔陔餘叢考、一金〕今人行文、以二白金一兩一爲二一金一、蓋隨二世俗用レ銀以レ兩計一、古人一金則非二一兩一也、漢書注、臣瓚曰、秦以二一鎰一爲二一金一、漢以二一斤一爲二一金一、然則古之一金、乃一斤耳。❷㋑銀一兩。㋺金一兩。

【一筋】368 ❶一本のすぢ。❷其の事にのみ心を傾けて、他を顧みないこと。

【一鈞】369 目方の單位。三十斤。〔說文〕鈞、三十斤也。〔淮南子、天文訓〕三十斤爲二一鈞一。〔說苑、辨物〕三十斤爲二一鈞一。

【一禽】370 一羽の鳥。〔孟子、滕文公下〕昔者趙簡子使下王良與二嬖奚一乘上、終日而不レ獲二一禽一、嬖奚反命曰、天下之賤工也。〔國史略、允恭天皇〕上嘗幸二于淡路一、遂留獵焉、終日不レ獲二一禽一。

【一句】371 ❶詩文などの一くさり。〔易、乾、用九、見二羣龍一无レ首吉、疏〕用九見二羣龍一者、此一句、說三乾元能用二天德一也。〔杜預、春秋左氏傳序〕絶二筆於獲麟一之一句一。❷一つの俳句。

【一句話】372 i² chü⁴ hua⁴ ひとこと。一句。

【一句投火】373 佛菩薩が、一句の法を聞くために、大火坑に入つたこと。〔佛祖統記、智禮傳〕半偈亡レ身、一句投レ火。

【一句道盡無二剩語一】374 一句を以て眞理を道破して、餘分な言葉がない。〔稽古略、四〕中論因緣所生法、一句道盡無二剩語一。

【一句砂糖一句狗屎】375 i² chü⁴ sha¹ t'ang² i³ chü⁴ kou² shih³ 砂糖も糞も一緒。賞罰の區別の正しくないこと。安徽省の俗諺。

【一吁】376 一つのためいき。〔五燈會元〕一點一言、一吁一笑。

【一區】377 ❶一區劃。〔史記、孟子荀卿傳〕如二一區中一者、乃爲二一州一。〔漢書、霍光傳〕甲第一區。❷地方の一區域。❸行政單位の區。

【一屨】378 イックツ　ひとつのくつ。〔左氏、定、十四〕取二其一屨一。

【一軀】379 イック　金像・木像・塑像など一體の稱。〔紀聞錄〕掘二得古香積寺銘記、並金像一軀一。

【一具】380 イチグ　甲冑・衣服・器具等のひと揃ひ。〔漢書、王莽傳上〕甲冑一具。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕加二賜各一具一。〔宋書、禮志一〕太元中、公主納徵、以二虎豹皮各一具一。

【一愚】381 イチグ　元、子賢(3—6930‥284)の字。

【一空】382 イックウ　❶そら一面。〔范仲淹、岳陽樓記〕長煙一空、皓月千里。❷くう。から。空クウ(8—25415)に同じ。〔摩訶止觀、七上〕大空小空、皆歸二一空一。〔梁簡文帝、重謝二上降爲二開講一啓〕俱照二一空一。〔白居易、夢二裴相公一詩〕自二我學二心法一、萬緣成二一空一。❸何も殘らぬ。

【一隅】383 イチグウ　四すみあるものの一つのすみ。又、物の片はし。〔論語、述而〕擧二一隅一不下以二三隅一反上、則不レ復也。〔呂覽、士容〕火燭二一隅一、則室偏無レ光。〔淮南子、說山訓〕受二光於隙一、照二一隅一。〔後漢書、章帝紀〕區區管窺、豈能照二一隅一哉。

【一隅草堂】384 イチグウサウダウ　室名。❶清、計楠(10—35220‥71)の室名。❷清、汪立名(6—17154‥351)の室名。

〔守二一隅一而遺二萬方一〕385 イチグウヲマモリテバンパウヲワスル　片隅だけを守つて、四方の事を忘れる。小を得て大を失ふ喩。〔淮南子、泰族訓〕夫守二一隅一而遺二萬方一、取二一物一而棄二其餘一、則所レ得者鮮。

【一遇】386 イチグウ　一たびあふ。一會。〔陶潛、酬二丁柴桑一詩〕放二歡一遇一、既醉還休。〔晉書、袁宏傳〕千載一遇、賢智之嘉會。

【一耦】386′ イチグウ　一組、二人の射手。弓を射る時、二人づつならんで射る。〔左氏、襄、二十九〕射者三耦、公臣不レ足、取二於家臣一、家臣展瑕・展玉父爲二一耦一、公臣公巫召伯・仲顏莊叔爲二一耦一、鄫鼓父・黨叔爲二一耦一。

【一化】387 イックワ　❶一つの變化。死生をいふ。〔莊子、大宗師〕又況萬物之所レ係、而一化之所レ待乎。〔淮南子、精神訓〕以二死生一爲二一化一。❷佛 イッケ　一代の教。〔三論玄義〕釋迦小乘一化。

〔一化五味之教〕388 イッケゴミノヲシヘ　佛天台で、釋迦一代の教法を華嚴・阿含・方等・般若・法華の五時に區別し、之を五味の教に喩へたもの。〔法華文句、六下〕探二領一化五味之教一。

【一戈】389 イックワ　漢字の書法の一畫。(㇏)。一横畫(2379)を見よ。

【一火】390 イックワ　❶一つの火。一つの燈。〔現寶藏經〕譬如下陶家以二一種泥一、造中種種器上、一火故熟、或作二油器蜜器一、或盛二不淨一。〔項斯、江村夜泊詩〕幾家深樹裏、一火夜漁歸。❷一度の火事。〔吳融、廢宅詩〕不二獨凄涼眼前事一、咸陽一火便成レ原。〔揭傒斯、小孤山詩〕天昏一火明二山半一、石底猶疑有二雷電一。❸一年をいふ。年々火を改めるから、かくいふ。〔事物異名錄、歲時、年〕廣東通志、古人一年四時改レ火、今瓊州西鄉人、謂二一年一爲二一火一。❹幾人かの仲間が集まつて作つた組。ひとくみ。一夥の音通。〔東京夢華錄〕自レ入二十二月一、卽有三貧者三數人爲二一火一、裝二婦人神鬼一、敲レ鑼擊レ鼓、巡レ門乞レ錢、俗呼爲二打夜胡一、亦驅祟之道也。

【一花】391 イックワ　❶一輪の花。〔易林〕積二藏五穀一、一花千葉。〔劉長卿、戲贈二于越尼子一歌〕一花一竹如レ有レ意。❷錢五文。〔通俗編、數目、一花〕俗呼小錄、數レ錢、以二五文一爲二一花一、按、凡花五出者爲レ多、故諺云レ爾。❸佛 イッケ　一つの花。一花開二五葉一結果自然成を見よ。

〔一花開知二天下春一〕392 イックワヒライテテンカノハルヲシル　僅かな花が開くのを見て、天下の春を知る。物のきざしを見て全體を知る喩。〔華嚴演義鈔、四十四〕約二相類一者、如下覩二一葉落一、知二天下秋一、見二一花開一、知中天下春上矣。〔往生講式〕柳一花開、天下皆春、一發心者、法界悉道。

〔一花開二五葉一結果自然成〕393 イッケゴエフヲヒラキケックワジゼンニナル　佛禪家が五家に分れて、夫々盛になることを豫言した語といふ。〔傳燈錄、三〕吾本來二茲土一、傳レ法救二迷情一、一花開二五葉一、結果自然成。

【一科】394 イックワ　❶一つの法律の科條。〔宋書、明帝紀〕民巧僞、興レ事甚多、蹈レ刑入レ憲、諒非二一科一。❷一つの試驗科目。〔宋史、選擧志二〕凡易詩書爲二一科一、而子午年試レ之。❸一本の草や木。〔齊民要術、種穀〕良田率一尺留二一科一。〔蕭貢、荒田詩〕急手剪二除荊與一レ棘、一科才了十科生。❹官衙の局課。❺一度の考試。❻芝居の一つのしぐさ。❼一つの判決。

【一棵】395 i⁴ k'ê　一本。一株。

【一窠】396 イックワ　一つの巢。〔蘇渙、變律詩〕毒蜂成二一窠一、高挂二惡木枝一。〔杜光庭、東西女學洞記〕東女學山前、有二神鵰一窠一。

【一過】397 イックワ　❶一つの過失。〔左氏、昭、二十〕伍奢對曰、君一過多矣。❷一度通過すること。〔淮南子、俶眞訓〕毀譽之於レ己、猶二蚊虻之一過一也。〔張濛、登二春臺一賦〕聊登陟兮一過。❸一生涯。〔白居易、追歡偶作詩〕樂天一過難レ知レ分、猶自咨嗟兩鬢絲。❹ひと通り目を通す。〔唐書、后妃上、太穆竇皇后傳〕一過輒不レ忘。〔皇甫曾、送二韓司直一詩〕停レ舟試一過。

〔一過千言〕398 イックワセンゲン　一回書物に目を通しただけで、千言を暗誦する。唐の常敬忠の故事。一遍千言(2084)を見よ。〔封氏聞見記、潁悟〕開元初、潞州常敬忠、十五、明經擢レ第、數年之閒、遍能二五經一、上書自擧、幷云、一遍能誦二千言一、敕付二中書考試一、燕公問曰、學士能一遍誦二千言一、能十遍誦二萬言一乎、對曰、未二曾自試一、燕公遂出二一書一、非二人閒所一レ見也、謂レ之曰、可二十遍誦一レ之、敬忠依レ命、危坐而讀、每遍畫レ地記、讀七遍、起曰、此已誦得、燕公曰、可レ滿二十遍一、敬忠曰、若十遍卽是十遍誦得、今七遍誦得、何要レ滿レ十、燕公執レ本臨レ試、觀覽不レ暇、而敬忠誦レ之已畢、不レ差二一字一、見者莫レ不二嘆羨一。

【一夥】399 i⁴ huo³　ひと組。一つのグループ。

【一顆】400 イックワ　一個。顆は丸いものを數へるに用ひる語。〔白居易、東林寺白蓮詩〕欲レ收二一顆子一。〔白居易、春題二湖上一詩〕松排二山面一千重翠、月點二波心一一顆珠。

【一裹】401 イックワ　ひとつつみ。〔管子、宙合〕合二絡天地一、以爲二一裹一。

〔一裹腦兒〕401′ i⁴ kuo² nao³ êrh　引括めて。一括して。合計。一まとめ。

【一臥】402 イチグワ　一たび臥す。仕官せずに、世の中から退いて暮す。臥は高臥の意。〔高適、人日寄二杜二拾遺一詩〕一二臥東山一三十春。〔白居易、題二王處士郊居一詩〕一臥江村來早晚、著書盈レ帙鬢毛斑。〔李端、野寺病居喜二盧綸見一レ訪詩〕一臥漳濱今欲レ老、誰知才子忽相尋。〔許渾、題二蘇州虎丘寺僧院一詩〕世閒誰似西林客、一臥烟霞四十春。

〔一臥三十年〕403 イチグワサンジフネン　仕官しないで、三十年も民間に居る。臥は高臥の意。〔南唐書、隱者傳〕陳貺南閩人、性沈澹、志操古朴、而不レ苟二于仕進一、一臥レ廬三十年、學者多師事焉。〔高適、人日寄二杜二拾遺一詩〕一二臥東山一三十春、豈知書劍老二風塵一。

【一回】404 イックワイ　❶一たび。又、ひとめぐり。一遭。〔孟郊、怨別詩〕一別一回老。〔聶夷中、青樓曲〕青樓臨二大道一、一上一回老。〔唐無名氏、王昭君詩〕一回望レ月一回悲。❷しばらく。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕要二一回去來一。

〔一回忌〕405 イックワイキ　人の死後、滿一年の忌日。一周忌。年忌(4—9168‥34)を見よ。〔吾妻鏡、十三〕建久四年三月十三日、迎二舊院御一回忌辰一。

〔一回一迷〕406 イックワイイチメイ　或はたち廻り、或は行きまよふ。〔魏書、吐谷渾傳〕欻然悲鳴突走而西、聲若二頹山一、如レ是者十餘輩、一回一迷。

【一塊】407 イックワイ　❶ひとかたまり。〔易乾鑿度〕大天氏云、一大之物自レ天、一塊之物自レ地、一炁之霿名二混沌一。〔皇甫湜、石佛谷詩〕漫潭太行北、千里一塊石。❷i² k'uai⁴ ㋑一挺。㋺一個。㋩銀一元。㊁一處。

〔一塊兒〕408 i² k'uai⁴ êrh　❶一緒に。共に。連れ立つて。❷ほとり。邊。

〔一塊堆〕409 i² k'uai⁴ tui¹　一緒に。同行する。

〔一塊的〕410 i² k'uai⁴ tê　一緒に。ひとかたまりになつて。

〔一塊土〕411 イックワイノド　ひとかたまりの土。〔說苑、復恩〕今爲二一人言一施二一人一、猶下爲二一塊土一下上雨也。

〔一塊肉〕412 イックワイノニク　ひとかたまりの肉。一つの人體。唯一人の子孫。一凷肉。〔宋史、帝昺紀〕楊太后聞二昺崩一、撫レ膺大慟曰、我忍レ死、艱關至レ此者、正爲二趙氏一凷肉一耳、今無レ望矣。

【一會】413 イックワイ　❶一度あふ。一度あつまる。〔詩、

曹風、下泉、四國有レ王郇伯勞レ之、疏〕服虔云、諸侯適二天子一曰二述職一、謂下六年一會二王宮一之伯、命レ事考レ績述レ職之事上也。〔春秋、隱、三、二月己巳、日有レ食レ之、疏〕日月雖三共行二于天一、云云、而相與會集、以二其一會一、謂二之一月一。〔左氏、僖、十九〕今一會而虐二二國之君一。〔後漢書、竇融傳〕我輩王者迭興、千載一會。〔太平廣記、侯白條〕我輩輸二一會飲食一。㊁宋の邵雍の皇極經世書では、三十運を一會とする。一元(537)の㊄を見よ。㊂しばらく。少時。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕盤桓一會、師父敢待二回來一。㊃i⁴ huì³ ㋑一箇。一件。㋺一會子に同じ。㊄佛 讀經、又は法說の會座。

【一會子】414 i⁴ huì³ tzŭ ちよつとの間。暫時。

〔一會兒〕415 i⁴ huì³ êrh 少時。短時間。

〔一會面〕416 一度出會ふこと。〔海錄碎事、人事、會聚、引李白詩〕喜二玆一會面一、若レ覿二瓊樹枝一。〔李白、酬下岑勛見レ尋就二元丹丘一對レ酒相待以レ詩見上レ招詩〕喜二玆一會面一、若レ覿二瓊樹枝一。

【一噲】417 一度のこころよさ。噲は快。〔淮南子、精神訓〕跉跔而諦、通夕不レ寐、當二此之時一、噲然得レ臥、則親戚兄弟、歡然而喜、夫脩夜之寧、非二直一噲之樂一也。

【一黌】418 一つの學校。〔邢邵、請三置レ學及修二立明堂一奏〕世室明堂、顯二於周夏一、一黌兩學、盛二自虞殷一。

〔一黌儁〕419 其の學校での秀才。一學校内で最もすぐれたもの。〔魏志、管輅傳、注〕聞二輅一黌之儁一、欲レ得レ見レ輅。

【一畫】420 ㊀畫や文字のひと筆。〔溫庭筠、塞寒行〕彩毫一畫竟何榮、空使二青樓淚成一レ血。〔謝宗可、雁字詩〕一畫寫開湘水碧、半行草破楚天青。㊁漢字を組みたてる一つの線。〔顏氏家訓、書證〕冥冥不レ知二一點一畫一。〔白居易、三謠銘、素屛謠〕吾不レ令レ加二一點一畫於其上一。

〔一畫開天〕421 伏羲が八卦を畫するのに、乾卦の第一畫から始めたこと。乾卦は天に象るから、天を開くといふ。〔陸游、讀易詩〕無レ端鑿二破乾坤祕一、禍始二羲皇一畫時一。

【一鑊】422 一つの大きなかなへ。一鑊之味を見よ。〔司空圖、華下詩〕天地沸二一鑊一、竟自烹二妖孽一。

〔一鑊之味〕423 かなへ全體の味加減。〔呂覽、察今〕嘗二一脟肉一、而知二一鑊之味、一鼎之調一。〔淮南子、說山訓〕嘗二一臠肉一、知二一鑊之味一。

【一括】424 ひとくくり。一束。

【一卷】425 ㊀一冊。又、一篇。ひとまき。一弓。〔詩、周南、關雎、疏〕關雎者、詩篇之名、云云、以二關雎一爲二一卷之目一。〔法言、學行〕一卷之書、不レ勝二異說一焉。㊁一かたまり。一說に、一つのこぶし。一卷石を見よ。

〔一卷石〕426 一かたまりの石。一說に、こぶし大の石。〔中庸〕今夫山、一卷石之多。〔章句〕卷、區也。〔離題〕卷拳通、拳大之石。

【一官】427 ㊀一つの役目。〔莊子、逍遙遊〕知效二一官一。〔李白、對レ雪奉レ餞二任城六父一詩〕一官卽夢寐、脫レ屣歸二西秦一。㊁一人の役人。〔周禮、天官、大宰、三曰官聯、注〕官聯、謂下國有二大事一、一官不レ能二獨共一、則六官共擧上レ之。〔論語、八佾、官事不レ攝、疏〕大夫雖レ得レ有二家臣一、不レ得下每レ事立レ官、當レ使中一官兼二攝餘事上。㊂明、鄭芝龍(11－39647‥413)の小字。

〔一官一集〕428 梁の王筠が自分の文集を作るに當り、自分の經歷した各官階每の作物を夫々一卷として集めた故事。〔南史、王筠傳〕筠自撰二其文章一、以二一官一爲二一集一、自二洗馬一中書・中庶・吏部・左佐・臨海・太府、各十卷、尙書三十卷、凡一百卷。

〔一官半職〕429 はした役人。小役人。

【一患】430 一つのうれへ。一憂。〔鹽谷宕陰、送二安井仲平東遊一序〕逢二一患一、嬰二一災一、則挫焉。

【一貫】431 ㊀一理を以て萬事をつらぬくこと。〔論語、里仁〕吾道一以貫レ之。〔疏〕唯用二一理一、以統二天下萬事之理一也。〔後漢書、張衡傳〕能一二貫萬機一、靡レ所二疑惑一。〔宋書、禮志一〕能疏二通玄理一、窮二綜幽微一、一二貫古今一、彌二綸治化一。㊁一聯のもの。おなじ。かはらぬ。〔莊子、德充符〕以二死生一爲二一條一、以二可不可一爲二一貫一。〔呂覽、知化〕化已至、雖レ知レ之、與レ勿レ知一貫也。〔江總、營二涅槃懺一還塗作詩〕可否同一貫、生死亦一條。㊂一さしの錢。千錢。〔漢書、武帝紀、元狩四年、初算二緡錢一、注〕李斐曰、緡、絲也、以貫レ錢也、一貫千錢、出算二二十一也。〔宋史、刑法志二〕乾道六年、云云、更增二一貫一、以二四千一爲二一匹一。㊃絲などでつらねたもの。〔北史、趙柔傳〕得二人所レ遺金珠一貫一、價直二數百縑一。㊄㋑舊時、錢一千文。又、九百六十文。㋺目方千匁。

【一款】432 ㊀一たび取調べる。〔劍俠傳、田膨郞〕於レ是昇至二左右軍一、一款而伏。㊁一件。一條項。㊂一つにまとめた金。一金。

【一筦】433 一本のくだ。〔淮南子、人閒訓〕發二一端一、散二無竟一、周二八極一、總二一筦一。

【一管】434 ㊀一本。筆や笛などを數へる語。〔晉書、曹毗傳〕定二得失乎一管之鋒一。㊁一本のくだ。

【一環】435 一つの輪。一つの環玉。〔左氏、昭、十六〕吾子何愛二於一環一。〔新論、明權〕量有二輕重一、則形二之於衡一、今加二一環於衡左一、則右蹶。

【一館】436 ㊀一つのやかた。〔左氏、昭、二十三〕使三各居二一館一。㊁一つの家庭教師の口。

【一關】437 一つのせきしよ。或る關所。〔賴山陽、高山彥九郞傳〕西游至二筑後一、過二一關一、關吏呵止。

【一丸】438 ㊀ひとまるめ。ひとかたまりのもの。〔陳樵、節婦賦〕黃流蕩而稽レ天兮、引二一丸一以障レ之。㊁一粒の丸藥。〔劉琨、答二盧諶詩一序〕譬由三疾疢彌レ年、而欲二一丸銷一レ之、其可レ得乎。〔注〕良曰、亦猶下以二一丸之藥一、而欲上レ銷二彌レ年之疾一、豈可レ得也。〔宋書、樂志三〕仙人王子喬、奉二藥一丸一。㊂一發の彈丸。〔白居易、和二大觜烏一詩〕數粒未レ入レ口、一丸已中レ胷。〔宋書、樂志三〕嗜我一丸卽發、中二烏身一。〔莊南傑、黃雀行〕一丸致レ斃花叢裏。

〔一丸泥封二函谷關一〕439 一箇の泥土のかたまりを以て、函谷關を封鎖するの意で、敵の門戶を封鎖するのに、さしたる力を要しない喩。〔後漢書、隗囂傳〕元請以二一丸泥一、爲二大王一東封二函谷關一、此萬世一時也。〔晉書、四夷、吐谷渾傳〕以二一丸泥一封二東關一。

【一願】440 一つのねがひ。又、多くある中の第一のねがひ。〔晏子、不レ合二經術一者〕請晏子一願。〔白居易、贈二夢得一詩〕一願世淸平、二願身強健、三願臨二老頭一、數與レ君相見。

【一君】441 一人の君。〔公羊、隱、四〕遇者何、不レ期也、一君出、一君要レ之也。〔莊子、逍遙遊〕行比二一鄕一、德合二一君一。

〔一君二民〕442 君主は一人で、人民が多いこと。〔易、繫辭下〕陽、一君而二民、君子之道也、陰、二君而一民、小人之道也。

〔一君萬民〕443 我が國の國體。上に萬世一系の天皇を戴き、下に國民の總べてが大御心を奉戴して一致團結すること。〔夜討曾我狩場曙〕抑我が大御國は一君萬民、眞の君と仰ぎ奉るは一天萬乘の君ばかり。

【一醺】444 ちよつと酒に醉ふ。一醉。〔楊萬里、和二羅巨濟一山居十詠詩〕三杯且一醺。

【一軍】445 ㊀兵士一萬二千五百人。〔周禮、夏官、大司馬〕凡制レ軍、萬有二千五百人爲レ軍。〔左氏、莊、十六〕王使下虢公命二曲沃伯一、以二一軍一爲中晉侯上。㊁一萬人。〔國語、齊語〕萬人爲二一軍一。㊂全軍のこらず。〔史記、淮陰侯傳〕一軍皆驚。㊃一つの軍隊。一方の軍隊。〔戰國、楚策〕大王不レ從レ親、秦必起二兩軍一、一軍出二武關一、一軍下二黔中一。

【一羣】446 ひとむれ。〔詩、小雅、無羊〕三百維羣。〔箋〕今乃三百頭爲二一羣一。〔庾信、奉レ答レ賜レ酒詩〕野人相就飲、山鳥一羣驚。〔李夢陽、雪中曲〕白登山寒低二朔雲一、野馬黃羊各一羣。

〔一羣裏的貨〕447 i⁴ ch'ün² li³ tê huo⁴ 小人中には君子が居ないといふ諺。一つ穴のむじな。

【一夏】448 佛ひと夏。又、夏時九十日の安居の行を修する閒。轉じて、僧侶の法臘(年輩)を數へるとき一年として用ひる。〔本行經〕一作二一房一與レ彼、一夏安坐。〔陸龜蒙、山僧詩〕一夏不レ離二蒼島上一、秋來頻話石城南。

【一偈】449 佛韻文體の經文で、四句を以て完結するもの。〔涅槃經、二十二〕一偈之力、尙能如レ是。〔法華經、法師品〕妙法華經、一偈一句。

【一圭】450 ㊀僅かな分量。六十四箇のきびの

實だけの分量。〔說文〕撮、四圭也、一曰、兩指撮也。〔漢書、律歷志上〕量ニ多少一者、不レ失ニ圭撮一。〔注〕孟康曰、六十四黍爲レ圭、應劭曰、四圭曰レ撮。❷僅かな目方。粟粒十箇の重さ。一銖の十分の一。〔後漢書、律曆志上〕量有ニ輕重一平以ニ權衡一、〔注〕說苑曰、十粟重一圭、十圭重一銖、二十四銖重一兩、十六兩重一斤、三十斤重一鈞、四鈞重一石。

【一形】451 イッケイ ❶一つの物。〔列子、天瑞〕一形不ニ頓虧一。〔莊子、則陽〕一形有下失ニ其形一者上。❷一度現はす。❸佛 イチギャウ 一つの身體の存續する間。

【一系】452 イッケイ 一つの血すぢ。同じ血すぢ。一門。〔國史略、凡例〕歷世天皇、正統一系、亘ニ萬世一而不レ革。〔大日本帝國憲法、第一章、第一條〕大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス。

【一系統】453 イチケイトウ 一つの血すぢ。又、同一の系統。〔國史略、高野天皇〕臣親受ニ神勅一云、我邦開闢以來、皇家一系統、道鏡何者、敢覬ニ覦神器一。

【一契】454 イッケイ 一つのわりふ。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕每レ覽ニ昔人興感之由一、若レ合ニ一契一。

【一契機】455 イチケイキ 一つの機會。或る物を動かし或は決定する一根據、又は一機會。

【一計】456 イッケイ ❶一つのはかりごと。一策。〔戰國、秦策〕此一計而三利俱至。〔史記、魯仲連傳〕裂レ地定レ封、富比ニ平陶衞一、世世稱レ孤、與レ齊久存、又一計也。〔胡天游、荊軻館詩〕武陽乳臭不レ足レ俱、傍觀駭汗一計無。❷ i^2 chi^4 ひと勘定。

【一徑】457 イッケイ ❶一つの小みち。〔韓愈、獨釣詩〕一徑向レ池斜。〔溫庭筠、盧岵山居詩〕千峯隨レ雨暗、一徑入レ雲斜。〔錢謙益、香山寺詩〕千峯匼匝更分明、磵複岡迴一徑淸。❷ i^2 ching^4 一つさんに。

【一脛】458 イッケイ 一本の脚。〔楊萬里、題ニ望韻亭一詩〕后夔一脛跛莫レ隨、坐委ニ衆樂一江之湄。

【一脛之大幾如レ要】459 イッケイノオホイサホトンドコシノゴトシ 疾病に罹つて、一本の脛が腰のやうに大きくなる。末が盛で、本が衰へる喩。〔新書、大都〕天下之勢、方病ニ大尰一、一脛之大、幾如レ要、一指之大、幾如レ股。

【一莖】460 イッケイ 一本の莖。〔劉禹錫、吳興敬郎中見レ惠ニ斑竹杖一詩〕一莖炯炯琅玕色、數節重重瑇瑁文。〔左偃、送レ人詩〕一莖兩莖華髮生、千枝萬枝梨花白。

【一莖九穗】461 イッケイキウスヰ 一本の禾から九つの穗を生ずる瑞祥。一莖六穗を見よ。〔論衡、吉驗〕三本一莖九穗、長ニ於禾一二尺、蓋嘉禾也。〔後漢書、光武紀論〕生ニ光武於縣舍一、云云、是歲縣界有ニ嘉禾生一一莖九穗、因名ニ光武一曰レ秀。

【一莖六穗】462 イッケイロクスヰ 一本の莖から六つの穗を生ずる瑞祥。一莖九穗を見よ。〔司馬相如、封禪文〕導ニ一莖六穗於庖一、犧ニ雙觡共柢之獸一。〔注〕善曰、鄭玄曰、導、擇也、一莖六穗、謂ニ嘉禾之米一。

【一逕】463 イッケイ ❶一つの小みち。逕は徑に同じ。❷ i^2 ching^4 ただちに。〔長生殿、覓魂〕因レ此一逕出來。

【一頃】464 イッケイ 土地の面積の單位。百畝をいふ。〔史記、孔子世家〕孔子冢、大一頃。〔後漢書、五行志一〕桓帝之末、京都童謠曰、茅田一頃、中有レ井。

【一卿】465 イッケイ ❶第一の卿。〔史記、韓世家〕於レ是晉作ニ六卿一、而韓厥在ニ一卿之位一。❷明、黎貫(**12**−**47994**・・18)の字。❸淸、沙張白(**6**−**17212**・・274)の初名。

【一溪】466 イッケイ 一つの谷川。〔水經、漣水注〕控ニ引衆流一、合成ニ一溪一。〔雍陶、韋處士郊居詩〕門外晚晴秋色老、萬條寒玉一溪煙。〔胡曾、武陵溪詩〕一溪春水徹ニ雲根一、流ニ出桃花一片片新。〔王安石、題ニ齊安壁一詩〕梅殘數點雪、麥漲一溪雲。

【一經】467 イッケイ ❶一つの經書。〔禮、王制、王者之制ニ祿爵一、疏〕正義曰、此一經、論ニ爲レ王者之制ニ祿爵一。〔史記、樂書〕通ニ一經一之士、不レ能ニ獨知ニ其辭一。〔漢書、韋賢傳〕遺ニ子黃金滿籯一、不レ如ニ一經一。〔沈佺期、和ニ韋舍人早朝詩〕一經傳ニ舊德一、五字擢ニ英才一。〔文天祥、過ニ零丁洋一詩〕辛苦遭逢起ニ一經一、干戈落落四周星。❷つらぬく。一貫する。〔戰國、秦策〕是王之地、一ニ經兩海一、要ニ絕天下一也。〔史記、春申君傳〕王之地、一ニ經兩海一、要ニ約天下一。❸ i^4 ching^1 云云したならば。云云しさへすれば。一度云云を經る。

【一經堂】468 イッケイダウ 室名。❶明、張次仲(**4**−**9812**・・1138)の室名。❷淸、張英(海寧の人)(**4**−**9812**・・48)の室名。

【一經廬】469 イッケイロ 淸、姚配中(**3**−**6202**・・196)の室名。

【一經樓】470 イッケイロウ 淸、上官鑑(**1**−**13**・・186)の室名。

【一經之訓】471 イッケイノヲシヘ 漢の韋賢が子供に學問をさせ、其の爲に、子供が皆、高位高官に登つたので、當時の人々が、子供の爲に黃金を遺すよりも、一經を教へる方が宜しいといつた故事。〔漢書、韋賢傳〕賢四子、長子方、爲ニ高寢令一、早終、次子弘、至ニ東海太守一、次子舜、留レ魯守ニ墳墓一、少子玄成、復以ニ明經一歷レ位至ニ丞相一、故鄒魯諺曰、遺ニ子黃金滿籯一、不レ如ニ一經一。〔精註雅俗故事讀本、上、祖孫父子〕韋賢著ニ一經之訓一。

【一經之儒】472 イッケイノジュ 一つの經書だけに通曉してゐる儒者。轉じて、融通の利かぬ學者をいふ。〔周書、儒林傳論〕近代守ニ一經一之儒、多暗ニ於時務一。

【一經博士】473 イッケイハカセ 一つの經書を專門とする博士。〔後漢書、翟酺傳〕上ニ言孝文皇帝、始置ニ一經博士一。

【一經專門之學】474 イッケイセンモンノガク 漢代、訓詁學の勃興により、學者が各一經每に數家に分れ、各自其の說を固守したことをいふ。當時、易に施讎・孟喜・梁丘賀・京房・費直等、書に歐陽高・夏侯勝(大夏侯)・夏侯建(小夏侯)、詩に申培公・轅固生・韓嬰・毛亨等があつたが、後漢に至つて、殆ど其の影を絕つた。

【一經爲ニ立身之本一】475 イッケイハリツシンノモトタリ 一部の經書を讀めば、我が身を立派に振舞ふことが出來る。此處の一經は孝經を指す。〔北史、齊煬王憲子貴傳〕始讀ニ孝經一、便謂レ人曰、讀ニ此一經一、足レ爲ニ立身之本一。

【一繼】476 イッケイ 一たびつぐ。〔說苑、尊賢〕三ニ存亡國一、一ニ繼絕世一。

【一繼一及】477 イッケイイッキフ 父が死んで子が其の後を繼ぐを繼といひ、兄が死んで弟が其の後を繼ぐを及といふ。一生一及(1202)に同じ。〔史記、魯世家〕莊公病、問ニ嗣於弟叔牙一、叔牙曰、一繼一及、魯之常也。

【一髻】478 イッケイ イチケイ 一つのたぶさ。〔陳書、韓子高傳〕時子高兵甲精銳、別御ニ一營一、單馬入レ陳、傷ニ項之左一、一髻半落。

【一髻文殊】479 イチケイモンジュ 佛 頂に一髻を結んだ文殊菩薩の像。文殊一字法を修する時に、この像を畫く。〔溪嵐拾遺集、文殊法〕。

【一髻羅刹女】480 イチケイラセツニョ 佛 羅刹の名。〔孔雀王經〕有ニ大羅刹女一、名曰ニ一髻一。

【一髻尊陀羅尼經】481 イチケイソンダラニキャウ 佛 書名。一卷。唐、不空譯。

【一髻羅刹王菩薩】482 イチケイラセツワウボサツ 佛 胎藏界曼陀羅の第一蘇悉地院に住む忿怒尊の名。青黑身で四手。〔祕藏記、下〕。

【一雞】483 イッケイ 一羽の雞。〔孟子、滕文公下〕月攘ニ一雞一。〔宋史、陸佃傳〕私家取レ債、亦須ニ一雞半豚一。〔王貞白、仙巖詩〕二十四巖天上、一雞啼ニ破晴雲一。

【一雞死一雞鳴】484 イッケイシセバイッケイナク 一羽の雞が殺されると、他の雞が鳴く。決して見殺しにはせぬとの喩。〔通俗編、禽魚、一雞死一雞鳴〕通幽記、李哲家怪引レ諺、云云、蓋謂ニ同類者不レ甘ニ于默默一也。

【一藝】485 イチゲイ ❶一つの經書。一經。〔史記、儒林傳〕能通ニ一藝以上一、補ニ文學掌故缺一。〔漢書、藝文志〕三年而通ニ一藝一、存ニ其大體一、玩ニ經文一而已。〔司馬相如、封禪文〕作ニ春秋一藝一。❷一つの藝能。一能。一藝之士を見よ。

【一藝之士】486 イチゲイノシ 一藝に優れた人。一藝の❷を見よ。〔五代史、司天考序〕夫天人之際、遠哉微矣、而使ニ一藝之士、布レ算積レ分、上求ニ數千萬歲之前一。

【一叫】487 イッケウ 一さけび。〔李白、宣城見ニ杜鵑花一詩〕一叫一廻腸一斷、三春三月憶ニ三巴一。

【一竅】488 イッケウ ❶一つの穴。一穴。一孔。〔莊子、應帝王〕人皆有ニ七竅一、以視聽食息、此獨無レ有、嘗試鑿レ之、日鑿ニ一竅一、七日而渾沌死。❷ i^2 ch'iao^4 少しも。一向に。

【一竅不レ通】489 イッケウツウゼズ 心の穴の塞つてゐること。事理に暗い。愚人の喩。一孔不レ達。〔呂覽、過理〕紂殺ニ比干一而視ニ其心一、不適也、孔子聞レ之曰、其竅通、則比干不レ死矣。〔注〕聖人心達性通、紂性不仁、心不レ通、安ニ於爲レ惡、殺ニ比干一、故孔

子言、其一竅通、則比干不レ見レ殺也。

【一竅通百竅通】490 イッケウニツウズレバヒャクケウニツウズ 一事に通ずれば、百事に通ずる。一事が萬事。

【一激】491 イチゲキ 一度つよく感ずる。一度感激する。〔大槻磐溪、詠史詩〕才兼二文武一有二斯公一、一激終能學二國風一。

【一激之怒炎二於火一】492 イチゲキノイカリハヒヨリモサカンナリ 激怒した時の勢は、火燄よりも劇しい。〔天祿閣外史〕一激之怒炎二於火一、三寸之舌芒二於劍一、是以身危而功不レ成、夫焉利二於諸侯一哉。

【一擊】493 イチゲキ ❶ひとうち。〔禮、樂記、夾二振之一而駟伐、注〕毎レ奏二四伐一、一擊一刺。〔酉陽雜俎續集、寺塔記下〕一擊百千有レ規、其意連擊二十杵。❷一たび羽ばたきする。ひと飛びする。〔李白、贈二郭季鷹一詩〕一擊九千仞、相期凌二紫氛一。

【一穴】494 イッケツ 一つの穴。一孔。一竅。〔書、禹貢、導レ渭自二鳥鼠同穴一、疏〕李巡曰、鵌鼵、鳥鼠之名、共處二一穴一。〔呂覽、不二〕如レ出二乎一穴一者、其唯聖人矣乎。

【一穴類】495 イッケツルイ 動物分類上の一部門。脊椎動物門、哺乳綱、原哺乳亞綱に屬する動物群。最も原始的な哺乳類。泌尿生殖道は直腸と同一排泄腔を成し、此の腔は一穴で外に通ずるから此の名がある。かものはし・はりもぐら等。單孔類。

【一吷】496 イッケツ 小さい聲。風の吹き過ぎる小さい聲。〔莊子、則陽〕堯舜人之所レ譽也、道二堯舜於戴晉人之前一、譬猶二一吷一也。

【一決】497 イッケツ ❶一たび決心する。決斷する。〔六韜、龍韜、軍勢〕巧者一決而不二猶豫一。〔陳書、蕭摩訶傳〕後主謂二摩訶一曰、公可二爲レ我一決一。❷一たび堤防が決潰する。〔庾信、擬連珠〕長河一決、不レ可二障レ之以一レ手。

【一缺】498 イッケツ ❶一たびかける。一たび壞れる。〔周邦彥、汴都賦〕蓋禮樂之一缺、則示レ亂而昭レ昏。❷一つの缺點。〔蘇軾、岐亭詩〕吾非二故多一レ失、君豈無二一缺一。❸一つの官職の空席。

【一缺十求】499 イッケツジッキウ 一つ官職に空が出來ると、それに多くの求職者が殺到する。〔晉書、外戚、王蘊傳〕毎二一官缺一、求者十輩、蘊無レ所二是非一。

【一橛】500 イッケツ 一本のくひ。〔傳燈錄〕靈觀謂、參僧是便秖得二一橛一。〔黃庭堅、跋二白兆語後一〕伏惟爛木一橛、佛與二衆生一不レ別。

【一闋】501 イッケツ ❶音樂の一曲が終ること。詩歌の一曲。〔元史、禮樂志五、樂隊〕一闋樂止。〔福惠全書、教養部、學規〕歌詩一闋。❷一たびやすらふこと。〔潛夫論、邊議〕凡四海之內者、聖人之所三以遺二子孫一也、官位職事者、羣臣之所三以寄二其身一也、傳二子孫一者、思レ安二萬世一、寄二其身一者、各取二一闋一。

【一闕】502 イッケツ 一つの宮殿。闕は宮殿の門。〔宋史、魚周詢傳〕凡守二一闕一、動踰二再期一。

【一蹶】503 イッケツ 一たびつまづく。〔說苑、談叢〕一噎之故、絕レ穀不レ食、一蹶之故、卻レ足不レ行。〔李白、天馬歌〕騰二崑崙一、歷二西極一、四足無二一蹶一。

【一月】504 イチゲツ イチグワツ ❶正月をいふ。〔書、泰誓序〕一月戊午、師渡二孟津一。〔傳〕十三年、正月二十八日。〔書、武成〕惟一月壬辰、旁死魄。❷一箇月。ひとつき。〔詩、小雅、采薇〕一月三捷。〔淮南子、精神訓〕沖氣以爲レ和、故曰、一月而膏、二月而胅、三月而胎。〔漢書、趙充國傳〕軍馬一月之食。❸一つの月。〔淮南子、說林訓〕百星之明、不レ如二一月之光一。〔蘇軾、三泉詩〕不レ用比二三星一、淸光同二一月一。

【一月饑】505 イチゲツウウ 一箇月饑ゑる。〔淮南子、說山訓〕寧一月饑、無二一旬餓一。

【一月三舟】507 イチゲツサンシウ 佛 一つの月を、三艘の舟の人が別々の目で見る。道は一であるが、人によつて見樣の異なる喩。〔華嚴經疏鈔、十六上〕澄江一月、三舟共觀。

【一月三身】508 イチゲツサンジン 佛 一つの月の體と光と影とを法・報・應の三身に喩へていふ。〔念佛三昧寶王論〕法身如二月體一、報身如二月光一、應身如二月影一。

【一月三捷】509 イチゲツサンセフ 一箇月の中に三度戰に勝つ。〔詩、小雅、采薇〕豈敢定居、一月三捷。

【一月見二三白一】510 イチゲツサンパクヲミル 適時適度の濕。滿洲農家の諺。冬至後の第三の戌の日を臘と名づけ、其の前の兩三度の小雪を三白といふ。麥を種ゑるに最も宜しいといふ。三白(1−12‥1472)の❸を見よ。

【一月場所】510′ イチグワツバショ 東京都の國技館で毎年一月に興行する本場所の相撲。二場所または四場所、六場所の初場所をいふ。

【一月普現二一切水一】511 イチグワツイッサイノミヅヲアマネクアラハス 佛道は偏く萬事に通ずることをいふ。〔證道歌〕一性圓通二一切性一、一法徧含二一切法一、一月普現二一切水一、一切水月一月攝。

【一莢】512 イッケフ 蓂莢の一枚の葉。又、一枚のさや。蓂莢は、月の前半に毎日一葉を生じ、月の後半に毎日一葉を落すといふ。又、泉州では、州人が官吏の試驗に及第せんとする時には、一葉を生じたといふ。〔宋書、符瑞志上〕有二草夾一レ階而生、月朔始生二一莢一、月半而生二十五莢一、十六日以後、日落二一莢一。〔稽神錄〕泉州文宣王廟、庭宇嚴峻、學校之盛、擬二於藩府一、庭中有二皀莢樹一、每三州人將二登第一、卽生二一莢一、以爲レ常矣、梁貞明中、忽然生二二莢有半一、衆莫レ諭二其意一、其年州人陳逖進士及第、黃仁穎學究及第。

【一篋】513 イチケフ 一つの箱。一奩。〔左氏、昭、十三〕衞人使三屠伯饋二叔向羹與二一篋錦一。〔戰國、秦策〕文侯示二之謗書一篋一。〔涅槃經、二十三〕以二四毒蛇一盛二之一篋一。

【一犬】514 イッケン 一匹の犬。〔禮、少儀〕其以二乘壺酒・束脩一犬一、賜レ人若獻レ人、則陳レ酒執レ脩以將レ命、亦曰二乘壺酒・束脩一犬一。〔國語、越語上〕生二丈夫一、二壺酒一犬。〔劉長卿、過二鄭山人所居一詩〕寂寂孤鶯啼二杏園一、寥寥一犬吠二桃源一。

【一犬吠レ虛萬犬傳レ實】515 イッケンキョニホユレババンケンジツニツタフ 一犬吠レ形百犬吠レ聲に同じ。

【一犬吠レ形百犬吠レ聲】516 イッケンカタチニホユレバヒャクケンコヱニホユ 一匹の犬が物の形を見て吠えると、其の聲を聞いて、多くの犬が皆吠える。一人が出鱈目を言ふと、衆人が直ぐに之を事實として傳へる喩。〔潛夫論、賢難〕諺曰、一犬吠レ形、百犬吠レ聲、世之疾、此固久矣哉。

【一件】517 イッケン ❶一つの事件。ある事柄。一落。〔大江俊矩記〕お柔不緣一件に付。❷一つの品物。一品。❸例のこと。彼奴。

【一件記錄】518 イッケンキロク 訴訟事件に關する書類の全部をいふ。一件書類に同じ。

【一件書類】519 イッケンショルイ 或る事件に關係のある書類全部を總括していふ語。

【一見】520 イッケン ❶一度見る。一度見渡す。一覽。〔漢書、趙充國傳〕百聞不レ如二一見一。❷ちらと見る。瞥見。〔梁簡文帝、戎昭將軍劉顯墓銘〕一見弗レ忘、過レ目則記。❸一たび面會する。又、初對面。〔孟子、滕文公下〕今一見レ之、大則以王、小則以霸。〔戰國、秦策〕燕客蔡澤、天下駿雄弘辯之士也、彼一見二秦王一、秦王必相レ之。〔隋書、虞世基傳〕後因二公會一、陵一見而奇レ之。❹一たびあはれる。〔爾雅、釋水〕泉一見一否爲レ瀸。❺殷周時代、諸侯が五年に一回天子に謁見する制度。壹見(3−5661‥13)を見よ。〔唐書、柳冕傳〕商周之制、五歲一見。

【一見識】521 イッケンシキ ひとかどの考。一見所。

【一見狀】522 イッケンジャウ 勳功や着到の次第を記して、大將又は奉行の承認を受け、後日の證據に備へる文書。〔島津文書〕右致二度度合戰一、上者爲レ賜二御一見狀一、且目安如レ件。

【一見所】523 イッケンショ 一見識。〔謠曲、殺生石〕一見所を聞き。

【一見如レ舊】524 イッケンキウノゴトシ 一度會つただけで、意氣投合し、舊知のやうに親しむ。一見如レ故。〔唐書、房玄齡傳〕杖レ策上二謁軍門一、一見如レ舊。〔王維、送二權二一詩〕一見如二舊識一、一言知二道心一。

【一見而不レ可レ揜者行也】525 ヒトタビアラハレテオホフベカラザルモノハオコナヒナリ 人の行といふものは、一度あらはれると、もはや隱すことの出來ないものである。〔新書、大政上〕一出而不レ可レ反者、言也、一見而不レ可レ揜者、行也。

【一拳】526 イッケン 一つのこぶし。一塊の石。石の形容。一卷石(426)を見よ。〔白居易、太湖石記〕百仞一拳、千里一瞬。〔陳造、龍眼磯詩〕誰謂石一拳、不レ作二江流礙一。

【一拳宮】527 イッケンノキウ ひとこぶし程の住居。住む所の甚しく狹い喩。〔譚子化書〕螻蟻之有レ君也、一拳之宮、與レ衆處レ之、一塊之台、與レ衆臨レ之、一粒之食、與レ衆蓄レ之、一蟲之肉、與レ衆咂レ之。〔海錄碎事、人事、比喩〕化書云、螻蟻之有レ

君也、一拳之宮、與レ衆處レ之、一粒之食、與レ衆畜レ之。

【一拳五指】528 イッケンゴシ 佛 巻けば一拳、開けば五指。一つのものを總と別との方面から見る喩。

【一牽】529 イッケン 漢字の書法の一畫。(丨)。一横畫(2379)を見よ。

【一劍】530 イッケン 一口ヒトフリのつるぎ。〔史記、孟嘗君傳〕馮先生甚貧、猶有二一劍一耳。

【一劍之任】531 イッケンノニン 一劍を振つて敵を斃す任務。刺殺・決闘などによつて事を決すべきつとめ。〔戰國、齊策〕曹子以二一劍之任一、劫二桓公于壇位之上一。〔鶡冠子、世兵〕曹子以二一劍之任一、劫二桓公墠位之上一、顏色不レ變。

【一賢】532 イッケン 一人の立派な人物。〔漢書、傅喜傳〕百萬之衆、不レ如二一賢一。〔論衡、語增〕一聖一賢、共論二一紂一、輕重殊レ稱、多少異レ實。〔李白、在二水軍一贈二幕府諸侍御一詩〕聚散百萬人、弛張在二一賢一。〔韋應物、酬二張協律一詩〕昔人鬻レ春地、今人復一賢。

【一縣】533 イッケン 一つの縣。又、縣中。全縣。〔戰國、韓策〕張翠稱レ病、日行一縣。〔後漢書、王符傳〕以二一民之輕一、與二一縣一爲レ訟。〔蒙求、陳寔遺盜〕自レ是一縣無レ盜。

【一獻】534 イッケン イッコン 一たび酒を薦める。轉じて、小宴をいふ。〔禮、禮器〕三獻爓、一獻孰。〔左氏、昭、元〕穆叔曰、趙孟欲二一獻一也、子其從レ之。

【一獻之禮】535 イッコンノレイ 一たび酒を薦める禮。〔儀禮、士昏禮〕婦以二一獻之禮一。

【一驗】536 イッケン ❶一つの證據。〔後漢書、袁紹傳〕此誠愚臣效レ命之一驗也。❷一つの效驗〔晉書、劉琨傳〕效レ忠之一驗也。〔胡銓、上二高宗一封事〕卒無二一驗一。

【一元】537 イチゲン ❶はじめ。一は數のはじめ、元は大の義、はじめを尊んでいふ語。〔漢書、董仲舒傳〕臣謹案下春秋謂二一元一之意上、一者、萬物之所二從始一也、元者、辭之所謂大也、謂レ一爲レ元者、視二大レ始而欲レ正レ本也。〔春秋繁露、玉英〕謂二一元一者、大レ始也。❷おほもと。大本。〔關尹子、二柱〕先想二乎一元之氣一、具二乎一物一。〔漢書、律歷志〕三統合二於一元一。❸一天子の最初の元號。〔史記、武帝紀〕一元曰二建元一。❹四千五百六十歳をいふ。〔後漢書、律曆志下〕元法四千五百六十。〔注〕韓子曰、四千五百六十歳、爲二一元一。〔王先謙集解〕惠棟曰、四千五百六十、指二經歳一也、加二災歳五十七一爲二四千六百一十七歳一。❺宋の邵雍の皇極經世書には、三十年を一世、十二世を一運、三十運を一會、十二會を一元とし、天地は一元を單位として一變遷するといふ。〔性理大全、皇極經世書、經世一元消長之數圖〕邵伯溫曰、一元統二十二會、三百六十運、四千三百二十世一、一世三十年、則一十二萬九千六百年、西山蔡氏曰、一元有二十二萬九千六百歳一、一會有二十二萬九千六百月一、一運有二十二萬九千六百日一、一世有二十二萬九千六百辰一、皆自然之數、非レ有レ所二牽合一也。❻數學で、未知數又は變數を唯一つだけ含むこと。方程式・函數などにいふ。❼ i^4 yüan^2 一圓。一弗。一角の十倍。

【一元論】538 イチゲンロン 宇宙現象の本體は、唯一つであるといふ說。

【一元大武】539 イチゲンタイブ 牛の異名。宗廟の祭祀に當り、犧牲に供する牛を、特に一元大武と呼び、莊重の意を表はす。元は頭、武は蹄の迹。肥えて、頭も蹄の跡も大きい牛といふ意。〔禮、曲禮下〕祭二宗廟一之禮、牛曰二一元大武一。〔注〕元、頭也、武、迹也。〔疏〕牛若肥則腳大、腳大則迹痕大、故云二一元大武一也。〔獨斷〕牲號、牛曰二一元大武一。

【一元木公】540 イチゲンボクコウ 草の名。つめれんげ。瓦松(7－21438・・63)の異名。瓦松を不才の草として忌む所から、瓦松の二字を分離して、一元木公の四字とした。〔清異錄、草、一元木公〕瓦松、穢屋、爲二不才之草一、有二門生一、離合爲二四字一、曰二一元木公一、實不レ稱レ名、瓦松、蓋白日登レ天、可三以下二視百草一矣。

【一元方程式】541 イチゲンハウテイシキ 唯一つの未知數を含む方程式。

【一言】542 イチゲン イチゴン ❶一つの文字。〔白虎通、諡〕諡或一言、或兩言。❷ひとことば。一句。一口(602)の❷に同じ。〔書、立政〕自二一話一言一、我則末惟二成德之彥、以乂二我受民一。〔大學〕此謂二一言僨レ事、一人定レ國。〔論語、爲政〕子曰、詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪。〔疏〕古者謂二一句一爲二一言一。〔史記、陳世家〕輕二千乘之國一、而重二一言一。〔史記、循吏傳贊〕孫叔敖出二一言一、郢市復。❸一度しやべる。〔左氏、昭、三〕晏子一言、而齊侯省レ刑。〔史記、呂不韋傳〕此所謂一言而萬世之利也。〔柳宗元、愈二膏肓疾一賦〕一言而熒惑退レ舍、一揮而羲和匪レ吳。

【一言教】543 イチゲンノヲシヘ ただ一言の教示。〔韋應物、酬二閻員外陟一詩〕雖レ蒙二一言教一、自愧二道情疎一。

【一言詩】544 イチゲンシ 一字で一句になつてゐる詩。詩經、鄭風、緇衣の「敝、予又改造兮」の類。陔餘叢考、卷二十三に一二言詩の條がある。〔日知錄、藝文、一言〕緇衣三章、章四句、非也、敝字一句、還字一句、若曰二敝予還予一、則言レ之不レ順矣、且何必一言之不レ可レ爲レ詩也。

【一言一行】545 イチゲンイツカウ 一つの言葉と、一つの行爲。〔顏氏家訓、慕賢〕凡一言一行、取二於人一者、皆顯二稱之一、不レ可下竊二人之美一、以爲中己力上。〔隋書、房彥謙傳〕自レ少及レ長、一言一行、未二嘗涉一レ私。

【一言一動】546 イチゲンイチドウ 一つの言葉と、一つの動作。〔讀通鑑論、目錄〕宣宗以二一言一動一進二退羣臣一。

【一言陷レ人】547 イチゲンヒトヲオトシイル 僅かの言葉で人を陷れる。〔顏氏家訓、後娶〕自レ古姦臣佞妾、以二一言一陷レ人者衆矣。

【一言之佐】548 イチゲンノサ 一言葉のたすけ。僅か一言葉の援助。又、其の臣。〔後漢書、馬援傳〕孤二立羣貴之間一、傍無二一言之佐一、馳二深淵一入二虎口一。

【一言之信】549 イチゲンノシン 一言葉でも、言つたことは固く守ること。〔孔子家語、好生〕孔子讀レ史、至二楚復レ陳、喟然歎曰、賢哉楚王、輕二千乘之國一而重二一言之信一。

【一言處分】550 イチゲンシテショブンス 一言で凡ての事を容易に處分する。唐の權懷恩の威嚴の甚しかつた故事。〔舊唐書、權懷恩傳〕懷恩出爲二宋州刺史一、時汴州刺史楊德幹、亦以二嚴肅一與二懷恩一齊レ名、至レ是、懷恩路由二汴州一、德幹送レ之出レ郊、懷恩見下新橋中途立レ木、以禁二車過一者上、謂二德幹一曰、一言處分、豈不レ得、何用レ此、爲德幹大慚。

【一言千金】551 イチゲンセンキン 一ことばに千金の價値がある。〔越絕書、越絕外傳紀策考〕故無二往不一レ復、何德不レ報、漁者一言千金歸焉。

【一言半句】552 イチゲンハンク 僅かなことば。〔朱子文集、答二陳安卿一書〕一言半句、亦自可レ見。〔明心寶鑑〕一言半句、重値二千金一。

【一言半辭】553 イチゲンハンジ 僅かなことば。一半言句。〔史記、信陵君傳〕公子曰、侯生曾無二一言半辭送レ我。

【一言以蔽レ之】554 イチゲンモツテコレヲオホフ 一言でいひ盡す。〔論語、爲政〕詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪。

【一言而喪レ邦】555 イチゲンニシテクニヲウシナフ 一言で國家を滅亡させる。〔論語、子路〕曰、一言而可二以喪一レ邦、有レ諸。

【一言而興レ邦】556 イチゲンニシテクニヲオコス 一言で國家を興隆させる。〔論語、子路〕定公問、一言而可二以興一レ邦、有レ諸。

【一言正天下定】557 イチゲンタダシケレバテンカサダマル 天子の言ふ所が正しければ、天下は平かに治まる。〔太平御覽、治道、政治〕申子曰、一言正而天下定、一言倚而天下靡。

【一言出レ口駟不レ及レ舌】558 イチゲンクチヲイヅレバシモシタニオヨバズ 一言而非駟馬不レ能レ追に同じ。〔舊唐書、孫伏伽傳〕引二論語一云、一言出レ口、駟不レ及レ舌。〔歐陽脩、筆說、駟不レ及レ舌說〕俗云、一言出レ口、駟馬難レ追、論語所謂駟不レ及レ舌也、若較二其理一、卽俗諺爲レ是。

【一言而非駟馬不レ能レ追】559 イチゲンニシテヒナレバシバモオフアタハズ 一言でも誤つたことを云へば、四頭立ての馬車で追つても追ひつけない。言語の愼しむべき喩。一聲而非駟馬勿レ追(1245)・駟不レ及レ舌(12－44683・・21)に同じ。〔鄧析子、轉辭〕其聲一聲而非、駟馬勿レ追、一言而急、駟馬不レ及。〔說苑、談叢〕一言而非、四馬不レ能レ追、一言不レ急、四馬不レ能レ及。〔纂註〕不急、當レ作二不當一。

【一言以爲レ知一言以爲二不知一】560 イチゲンモツテチトナシイチゲンモツテフチトナス 唯一言で、知者ともなり不知者ともなる。言語の愼しむべきことをいふ。〔論語、子張〕子貢曰、君子一言以爲レ知、一言以爲二不知一、言不レ可レ不レ愼也。

【一原】561 イチゲン ❶はじめ。道。〔淮南子、俶眞訓〕非レ得二一原一、孰能至二於此一哉。〔正蒙〕性者、萬物之一原也。❷根原が同じであること。又、一つの根原。〔朱子文集、答二汪尚書一〕至二於體用一原、顯微無レ閒之語一、則近嘗思レ之。❸明、江源(6-17140‥112)の字。

【一絃】562 イチゲン ❶琴瑟などの一本のつる。〔韓非子、外儲說右下〕今田連成竅共レ琴、人撫二一絃一而揮、則音必敗、曲不レ遂矣。〔庾信、和二淮南公聽レ琴聞二絃斷一詩〕一絃雖二獨韻一、猶足レ動二文君一。❷一つの琴。同じ琴。〔淮南子、齊俗訓〕無丁以異丙於彈二一絃一而會乙棘下甲。

【一絃琴】563 イチゲンキン ❶絃を一本だけ張つた琴。一弦琴。〔拾遺記、殷湯〕師延者、殷之樂人也、云云、在二軒轅之世一、爲二司樂之官一、及二殷時一、總二修三皇五帝之樂一、拊二一絃琴一、則地祇皆升、吹二玉律一、則天神俱降。〔晉書、孫登傳〕好讀レ易、撫二一絃琴一。〔梁元帝、相名詩〕妻搖二五明扇一、妾弄二一絃琴一。〔通典、樂典、絲五、琴〕一絃琴、十有二柱、柱如二琵琶一。❷絃の振動狀態を研究するに用ひる裝置。長方形の木の函に金屬絃を張つたもの。モノコード。

【一源】564 イチゲン 一つのみなもと。〔列子、湯問〕當二國之中一有レ山、山名二壺領一、狀若二甔甀一、頂有レ口、狀若二員環一、名曰二滋穴一、有レ水湧出、名曰二神瀵一、臭過二蘭椒一、味過二醪醴一、一源分爲二四埒一、注二於山下一。〔大集經、八〕一味一乘、一道一源。

【一源七派】565 イチゲンシチハ 佛 一宗から七派が分れ出たこと。日蓮宗の七派、卽ち本山及び不受不施派・不受不施講門派・本成寺派・妙滿寺派・八品派・本隆寺派の七派をいふ。

【一源十流訟者紛如】566 イチゲンジフリウショウシヤフンジョ 一つの水源から多くの支流が分れ出るやうに、一つの學說から多くの分派を生じて、互に相爭ふこと。〔申鑒、時事〕文有二磨滅一、言有二楚夏一、出有二先後一、或學者先意、有レ所二借定一、後進相放、彌以滋蔓、故一源十流、天水違行、而訟者紛如也。

【一嚴】567 イチゲン 時刻になつた時、鼓を打つて人に知らせること。〔宋書、禮志二〕上レ水一刻、奏レ搥一鼓、爲二一嚴一。〔宋史、樂志〕奏二一嚴一、亦足二以稱二虔恭之意一。

【一己】568 イッコ 己一人。自分一人。ただ一人。〔列子、黃帝〕黃帝乃喟然讃曰、養二一己一、其患如レ此。〔關尹子、三極〕聖人不下以二一己一治中天下上、而以二天下一治二天下一。〔唐太宗、威鳳賦〕庶レ廣二德於衆禽一、非レ崇二利於一己一。〔陸龜蒙、縹緲峯詩〕盡欲レ活二羣生一、不三唯私二一己一。〔李格非、書二洛陽名園記後一〕放二乎一己之私一自爲レ之、而忘二天下之治忽一、欲二退享一レ此得乎。

【一戶】569 イッコ ❶一つの戶。轉じて、一軒の家。又、商家一人。一烟(85)を見よ。〔詩、小雅、斯干〕西二南其戶一。〔疏〕兩夾窗、是一戶兩窗夾レ之。〔淮南子、說林訓〕十牖畢開、不レ若二一戶之明一。❷イチノヘ ㋑陸奧國の地名。㋺姓氏。〔日用重寶記〕。

【一呼】570 イッコ 一たびよぶ。一たび叫ぶ。〔莊子、山木〕一呼而不レ聞。〔漢書、文帝紀〕一呼、士皆袒レ左。〔漢書、司馬遷傳〕李陵一呼勞レ軍。

【一呼吸】571 イッコキフ ひといき。僅かの時間。〔韻會〕呼、出レ息爲レ呼、入レ息爲レ吸。

【一呼再諾】572 イッコサイダク 一度呼べば二度返事をする。卑屈で人に媚び諂ふこと。〔韓詩外傳、五〕當レ前決レ意、一呼再諾者、人隸也。

【一呼百諾】573 イッコヒャクダク 貴人の一呼で、衆くの家來が答へる。權勢の盛なことを表はす。元の雜劇中に多く用ひられてゐる。〔桃花扇、哭主〕羅公獨二坐當中一、一呼百諾、掌二著生殺之權一。

【一狐】574 イッコ 一匹の狐。〔竹書紀年、上〕帝杼八年、征二于東海一、及二三壽一、得二一狐九尾一。

【一狐之腋】575 イッコノエキ 一匹の狐のわきの下から取つた白く美しい毛皮。少くて貴いものの喩。又、一人の直言の士に喩へる。腋、一に掖に作る。〔愼子、內篇〕狐白之裘、非二一狐之腋一。〔史記、趙世家〕趙簡子有レ臣、曰二周舍一、好二直諫一、周舍死、簡子每レ聽レ朝、常不レ悅、大夫請レ辠、簡子曰、大夫無レ罪、吾聞、千羊之皮、不レ如二一狐之腋一、諸大夫朝、徒聞二唯唯一、不レ聞二周舍之鄂鄂一、是以憂也。〔故事成語考、衣服〕千金之裘、非二一狐之腋一。

【一狐裘三十年】576 イッコキウサンジフネン 一領の狐の皮ごろもを、三十年間着ること。極めて儉約なことの喩。齊の晏子の故事。一布被二十年。〔禮、檀弓下〕有若曰、晏子一狐裘三十年、晏子焉知レ禮。

【一股】577 イッコ ❶股になつたものの片一方。〔盧綸、割飛二刀子歌〕裁レ羅裁レ綺無二鈍時一、用來三年一股折。〔白居易、長恨歌〕釵留二一股一合一扇、釵擘二黃金一合分レ鈿。❷一まとひ。〔禮、雜記上、小斂環經、注〕環經者一股、所謂纏經也。❸ $i^4\ ku^3$ ㋑株式、又は出資分などの一株。㋺一本。一條。一組。

【一股腦兒】578 $i^4\ ku^2\ nao^3$ êrh 合計。總計。

【一虎】579 イッコ 一匹の虎。〔戰國、秦策〕是一擧而兼二兩虎一也、無下刺二一虎一之勞上、而有下刺二兩虎一之名上。〔後漢書、童恢傳〕一虎低レ頭閉レ目、狀如二震懼一。

【一虎難レ敵二衆犬一】580 イッコシュウケンニテキシガタシ 虎でも一匹だけでは衆犬にかなはぬ。寡は衆に敵せず。

【一壺】581 イッコ ❶一つのつぼ。一つのふくべ。〔戰國、中山策〕吾以二一杯羊羹一亡レ國、以二一壺飡一得二士二人一。〔說苑、臣術〕與二人一簞食一壺漿一。〔晉書、劉伶傳〕常乘二鹿車一、攜二一壺酒一。〔李白、月下獨酌詩〕花閒一壺酒、獨酌無二相親一。❷別天地。一壺天を見よ。

【一壺外】582 イッコノソト 別天地以外の處。卽ち俗世間をいふ。一壺は、別天地。〔李白、獨酌詩〕過二此一壺外一、悠悠非二我心一。

【一壺生】583 イッコセイ 明、方太古(**5**-13620‥573)の號。

【一壺天】584 イッコテン 小天地。又、別世界。後漢の費長房が、賣藥の老翁と共に壺中に入つて、別世界の樂しみを得た故事。壺天。壺中天地。〔後漢書、費長房傳〕費長房者、汝南人也、曾爲二市掾一、市中有二老翁一賣レ藥、懸二一壺於肆頭一、及二市罷一、輒跳入二壺中一、市人莫二之見一、唯長房於二樓上一覩レ之異焉、云云、長房旦日復詣レ翁、翁乃與俱入二壺中一、唯見二玉堂嚴麗、旨酒甘肴、盈二衍其中一、共飮、畢而出。

【一壺千金】585 イッコセンキン 中流で舟を失へば、一つの瓢でも千金の値がある。輕微の物も、時を得れば貴くなる喩。壺は瓢。〔鶡冠子、學問〕中河失レ船、一壺千金。〔注〕壺、瓠也。

【一鼓】586 イッコ ❶一たび鼓をうつ。〔呂覽、執一〕援レ桴一鼓、使二三軍之士、樂レ死若一レ生。〔淮南子、人閒訓〕臣請升レ城鼓レ之、一鼓、甲兵粟米、可二立具一也。〔列女傳、孽嬖、夏桀末喜傳〕一鼓而牛飮者三千人。❷午後八時頃。一更(176)の❶に同じ。〔顏氏家訓、書證〕或問、一夜何故五更、更何所レ訓、答曰、漢魏以來、謂爲二甲夜乙夜丙夜丁夜戊夜一、又云、鼓一鼓二鼓三鼓四鼓五鼓、亦云、一更二更三更四更五更、皆以レ五爲レ節。❸ひとます(一斛)。數量の單位。〔左氏、昭、二十九〕遂賦二晉國一鼓鐵一、以鑄二刑鼎一、著二范宣子所レ爲刑書一焉。〔孔子家語、正論解〕趙簡子賦二晉國一鼓鐘一、以鑄二刑鼎一、著二范宣子所レ爲刑書一。

【一鼓可レ破】587 イッコシテヤブルベシ 一たび鼓を打つて士氣を鼓舞しただけで、賊を破ることが出來る。〔六部成語、兵部、一鼓可レ破、注解〕鳴レ鼓催レ事、振二作士氣一、一下而就可三以破二了賊兵一。

【一鼓作レ氣】588 イッコキヲナス 開戰合圖の第一鼓で元氣を振ひ起す。最初に元氣をふるひ起して事に當る喩。〔左氏、莊、十〕夫戰勇氣也、一鼓作レ氣、再而衰、三而竭。

【一鼓而擒】589 イッコシテトラフ 一度元氣を振ひ起して敵を捕へる。たやすくとらへる。〔通俗編、武功、一鼓而擒〕輟耕錄、花山賊畢四等、縱橫出沒、三省撥レ兵、不レ能二收捕一、朝廷募二鹺徒一、朱陳率二其黨與一、一鼓而擒レ之。

【一顧】590 イッコ ❶一たびかへりみる。〔史記、欒布傳〕彭王一顧、與レ楚則漢破、與レ漢則楚破。〔楚辭、東方朔、七諫、自悲〕過二故鄉一而一顧兮。❷人から目をかけられること。〔梁書、蕭子顯傳〕一顧之恩、非二望而至一。〔謝朓、和二王主簿季哲怨情一詩〕平生一顧重、宿昔千金賤。

【一顧傾國】591 イッコケイコク 一顧傾城に同じ。

【一顧傾城】592 イッコケイセイ 美人の形容。美人の一顧に遇ひ、その色香に溺れて、城や國を傾け亡ぼすに至るからいふ。一顧傾國。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕李延年歌曰、北方有二佳人一、絕世而獨立、一顧傾二人城一、再顧傾二人國一。

【一顧之價】593 イッコノアタヒ 人の一顧を引くだけの値打。伯樂一顧(**1**-466‥449)を見よ。〔後漢書、隗囂傳〕數蒙二伯樂一顧之價一。

【一顧千金】594 イッコセンキン 賢者に一度顧みられるの

は、黄金千兩の値打がある。一顧之價を見よ。〔新論、因顯〕若有レ所レ因而至、則良馬一顧千金。

【一吾】595 イチゴ 淸、陳儀(**11**‐**41698**‥143)の字。

【一悟】596 イチゴ 一たびさとる。〔史記、屈原傳〕冀二幸君之一悟、俗之一改一也。〔謝靈運、從二斤竹澗一越レ嶺溪行詩〕觀レ此遺二物慮一、一悟得レ所レ遣。

【一語】597 イチゴ ひとことば。一言。又、ひとこと言ふ。〔史記、范雎傳〕一語無レ效、請伏二質斧一。〔南齊書、焦度傳〕爲レ人朴澀、欲下就二太祖一求上レ州、比レ及レ見、意色甚變、竟不レ得二一語一。〔王僧孺、爲レ人有レ贈詩〕幸有二褰裳便一、含レ情寄二一語一。〔蘇軾、送二李公恕赴レ闕詩〕立談左右俱動レ色、一語徑破二千言牢一。〔張昱、別二故人一詩〕未レ別欲二千言一、臨レ別無二一語一。

〔一語撞二倒牆一〕598 イチゴカキヲツキタフス 語勢の鋭い形容。〔陔餘叢考、成語、一語撞二倒牆一〕宋胡程蒼梧集、錢正老謂二方子通一云、立レ朝剛勁、須レ推二老兄一、然一語撞二倒牆一、亦是老兄。

【一誤】599 イチゴ ひとたびあやまる。一度失策する。又、一つのあやまり。〔詩、檜風、素冠、傳、子夏三年之喪畢、疏〕彼說二子夏之行一、與レ此正反、一人不レ得三並爲二此行一、二者必有二一誤一。〔晉書、謝安傳〕先レ是、安發二石頭一、金鼓忽破、又語未二常謬一、而忽一誤、衆亦怪二異之一、尋薨。

〔一誤再誤〕600 イチゴサイゴ 先人の誤を再び繰返す。又、續けざまに失敗すること。〔宋史、魏王廷美傳〕太宗嘗以レ傳二國之意一訪二之趙普一、普曰、太祖已誤、陛下豈容二再誤一邪。

〔一誤豈容二再誤一〕601 イチゴアニサイゴスベケンヤ 一度失敗したからには、二度と失敗してはならない。〔通俗編、數目、一誤豈容二再誤一〕宋史、秦王廷美傳、太宗以レ傳二國之意一訪二趙普一、普曰、太祖已誤、陛下豈容二再誤一耶。

【一口】602 イッコウ ❶一つのくち。轉じて、ひとり。〔漢書、王莽傳下〕諸有二奴婢一者、率一口出二錢三千六百一。〔後漢書、虞詡傳〕自レ此二十餘年、家門不レ增二一口一。❷ひとことば。一語。一言(542)の❷に同じ。〔左思、魏都賦〕四海齊レ鋒、一口所レ敵。〔注〕翰曰、四海諸侯、雖二齊レ鋒攻レ秦、一言以說、乃能敵レ之。❸口を揃へて言ふ義。皆が同じことをいふ義。〔唐書、張元素傳〕天下翕然、一口頌歌。❹くちいっぱい。ひとくち。〔雲笈七籤〕青精玉芝、食レ之一口、壽九萬年。❺一つの穴。一穴。〔晉書、元帝紀〕遂爲二一榼一、共二一口一、以貯レ酒焉。❻物を數へる語。一ふり。一つ。㋑刀劍に用ひる。〔晉書、劉曜載記〕獻二劍一口一。㋺釜鼎に用ひる。〔酉陽雜俎、物異〕古鑊、虢州陵縣石城崗、有二古鑊一口一、樹生二其內一、大數圍。㋩鳥獸に用ひる。〔晉中興書〕上二吾鳩鳥一口一。❼ i^{4} $k'ou^{3}$ 人や品物などを數へるに使ふ陪伴詞。❽ヒトクチ 一概にいふこと。〔狂言、竹子爭〕一口には言はれまい。❾イモアラヒ ㋑山城國の地名。〔下學集〕。㋺姓氏。〔松屋筆記〕。

〔一口氣〕603 i^{4} $k'ou^{3}$ $ch'i^{4}$ ❶一氣に。續けざまに。❷淀みなく。❸意見が相同じいこと。❹一呼吸。❺滿口の怒氣。怒氣紛々たること。

〔一口子〕604 i^{4} $k'ou^{3}$ tzŭ ❶一人。❷をつと。夫。

〔一口鐘〕605 イッコウショウ 外衣。外套。斗篷。〔通雅、衣服〕周弘正著二繡假鐘一、蓋今之一口鐘也、凡衣掖下安襬、襞積殺縫、兩後裾加レ之、世有下取レ暖者、或取二冰紗暎素一者上、皆略去二安襬之上襞一、直令下四圍衣邊、與二後裾之縫一相連上、如レ鐘然。

〔一口物〕606 ヒトクチモノ 一口に食はれるほどの少しのもの。〔里見八犬傳、七〕一口物に頰を燒かれて。

〔一口咬定〕607 i^{4} $k'ou^{3}$ yao^{3} $ting^{4}$ 一旦言ひ出したことは飽くまで變へない。

〔一口三舌〕608 イッコウサンゼツ 二枚舌。〔易林〕一口三舌、相妨无レ益。

〔一口兩匙〕609 イッコウリャウシ ひと口に二つのさじは入らぬ。一度に二つのことは出來ない喩。〔范成大、丙午新正書レ懷詩〕口不二兩匙一休レ足レ穀、身能幾屐莫レ言レ錢。〔自注〕吳諺云、一口不レ能レ著二兩匙一。

〔如レ出二一口一〕610 イッコウニイヅルガゴトシ 一人の口から出たやうに、衆人の言が全く一致すること。〔戰國、楚策〕江乙曰、州侯相レ楚、云云、左右俱曰、無レ有、如レ出二一口一矣。〔韓非子、內儲說下〕左右對曰、無レ有、如レ出二一口一也。〔晏子、不レ合二經術一者〕堂上唱レ善、若レ出二一口一。〔孔叢子、抗志〕衞君言レ計是非、而羣臣和者、如レ出二一口一。

〔一口吸盡西江水〕611 イッコウセイカウノミヅヲスヒツクス 馬祖が龐居士蘊に答へた語。〔傳燈錄〕龐居士蘊、參二馬祖一云、不下與二萬法一爲上レ侶者、是什麼人、祖云、待三汝一口吸二盡西江水一、卽向レ汝道。

【一工】612 イッコウ ひと仕事。一日分の仕事。〔通俗編、數目、一工〕律例、一日以二百刻一計、一工以二朝至レ暮計。

【一孔】613 イッコウ ❶ひとつのあな。一穴。〔爾雅、釋樂、大篪謂二之沂一、注〕篪以レ竹爲レ之、長尺四寸、圍三寸、一孔上出二寸三分一、名二翹横一。〔淮南子、泰族訓〕鑿二一孔一、而生二百隙一。❷物の一部分。〔中庸、反二古之道一、注〕謂下曉二一孔一之人、不上レ知二今王之新政可一レ從。〔鹽鐵論、相刺〕通二一孔一、曉二一理一、而不レ知二權衡一、以レ所レ不レ睹不レ信レ人、若二蟬之不一レ知レ雪。❸一途。一箇所。〔管子、國蓄〕利出二於一孔一者、其國無レ敵。〔淮南子、原道訓〕萬物之總、皆閱二一孔一、百事之根、皆出二一門一。〔唐書、柳中傳〕管仲曰、爲レ國之道、利出二一孔一者王、二孔者彊、三孔者弱、四孔者亡。

〔一孔之儒〕614 イッコウノジュ 偏見に囚はれた儒者。僻見に囚はれた學者。

〔一孔不レ達〕615 イッコウタッセズ 心の穴がふさがってゐること。愚人の喩。一竅不レ通。〔通俗編、文學、一竅不レ通〕列子仲尼篇、文摯謂二龍叔一曰、子心六孔流通、一孔不レ達、今以二聖智一爲レ疾者、其以レ此乎。

【一功】616 イッコウ 明、高必正(**12**‐**45313**‥1310)の初名。

【一后】617 イッコウ ❶一人の皇后。〔漢書、賈誼傳〕古者奉二一帝一后一。〔晉書、后妃傳序〕周禮、天子立二一后・三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻一、以聽二王者內政一。❷イチノキサキ 皇后の異稱。〔濱松中納言物語、一〕一の后の父。

【一扣】618 イッコウ ❶一度うつ。〔參同契、注〕天信至、則瓊鐘一扣、玉洞雙開。❷ i^{2} $k'ou^{4}$ ㋑書類などの一通。一冊。㋺一割引。

【一侯】619 イッコウ ❶一つのまと。侯は弓の的。〔周禮、夏官、射人〕孤卿大夫、以二三耦一射二一侯一。❷一諸侯。又、一つの官。〔左氏、僖、四〕五侯九伯、疏〕鄭玄以爲、周之制、每州以二一侯一爲レ牧。

【一候】620 イッコウ 一つの物見の官。又、其の役所。〔揚雄、解嘲〕東南一尉、西北一候。〔注〕銑曰、候、所三以伺二候遠國來朝之賓一也、候、亦官也。〔後漢書、馬成傳〕中山至レ鄴、皆築二保壁一、起二烽燧一、十里一候。〔王巾、頭陀寺碑文〕炎區九譯、沙場一候。〔注〕銑曰、一候者、以伺二候非常之事一也。

【一鉤】621 イッコウ ❶一つのかぎ。一本のつりばり。〔韓偓、雨村詩〕鴈行斜拂雨村樓、簾下三重幕一鉤。〔蘇軾、退圃詩〕百丈休レ牽上レ瀨船、一鉤歸釣縮頭鯿。❷新月などの形容。〔王周、無題詩〕簾捲二玉樓一人寂寂、一鉤新月未レ沈レ西。〔陸游、梅花絕句詩〕低空銀一鉤、縿野玉三尺。❸漢字の鈎一畫(亅)をいふ。〔書苑菁華、翰林傳授隱術〕一鉤裹勢、須下員角而蹲鋒、用二中指一鉤以成上レ之、如二岡門田白南等字一用レ之。

〔一鉤金〕622 イッコウキン 一つのおびがね。輕少の喩。〔孟子、告子下〕豈謂下一鉤金與二一輿羽一之謂上哉。〔集注〕鉤、帶鉤也、金本重、而帶鉤小、故輕、喩下禮有中輕二於食色一者上。

【一興】623 イッコウ ❶一たびおこる。〔晉書、摯虞傳〕陽降陰升、一替一興、流而爲レ川、滯而爲レ陵。❷イッキョウ ㋑一つの面白さ。〔尺素往來〕是又時之一興。㋺怪しからぬ意。面白い意を反語に使ったもの。〔重井筒、血汐朧染〕これは一興、此の子はいとしうござらぬか。

【一鬨】624 イッコウ ひとどよめきする。衆議の喧騷を極めること。鬨は聲を高くあげる意。〔法言、學行〕一鬨之市、不レ勝二異意一焉、一卷之書、不レ勝二異說一焉。

【一刻】625 イッコク ❶一晝夜の百分の一。〔禮、月令、日夜分、疏〕日夜分者、馬融云、晝有二五十刻一、夜有二五十刻一。〔隋書、天文志上〕天監六年、武帝以二晝夜百刻一、分二配十二辰一。〔宋書、禮志二〕上レ水一刻、奏レ搥一鼓。❷わづかの時間。瞬間。〔漢書、昌邑王賀傳〕夜漏未レ盡二一刻一。〔江淹、學梁王兔園賦〕一刻一鏤化二雙鸞一。❸㋑かたくななこと。㋺燥急なこと。❹ i^{2} $k'e^{4}$ 十五分間。

〔一刻者〕626 イッコクモノ 一國者(632)に同じ。

〔一刻千金〕627 イッコクセンキン 一ときが千金にも價する。氣候のよい季節などにいふ。〔蘇軾、春夜詩〕春

宵一刻直千金、花有二清香一月有レ陰。

【一刻半晌】628 i^2 k'ê^4 pan^4 shang^3 少しの時間。一時半時。

【一哭】629 一たび泣く。〔論衡、感虛〕此復一哭崩レ城、一歎下レ霜之類也。〔北史、獠傳〕亡二失兒女一、一哭便止。〔杜甫、送遠詩〕親朋盡一哭、鞍馬去孤征。

【一剋】630 一たび勝つ。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕冀獲二秦師一剋之報一。

【一國】631 ❶一つの國。一箇國。〔管子、霸言〕一國而兩君、一國不レ可レ理也。〔楚辭、宋玉、九辯〕何況一國之事兮。〔後漢書、東夷、三韓傳〕其南亦與レ倭接、凡七十八國、伯濟是其一國焉。❷國中のこらず。全國。〔左氏、宣、十四〕謀レ人、人亦謀レ己、一國謀レ之、何以不レ亡。〔大學〕一家仁、一國興レ仁。〔孟子、離婁上〕巨室之所レ慕、一國慕レ之。〔韓愈、伯夷頌〕至二於一國一州非レ之、力行而不レ惑者一、蓋天下一人而已矣。❸ 最もよい國。除目の語。

【一國者】632 ❶かたくなな人。❷怒り易い人。燥急な人。一刻者。狼戾者。

【一國聰】633 一國全體の耳のさとさ。君主の聰明をいふ。〔韓非子、定法〕人主、云云、以二一國耳一聽、故聽莫レ聰焉。

【一國三公】634 一國に三人の主權者があることをいふ。事をつかさどるものが一人でない意。〔左氏、僖、五〕一國三公、吾誰適從。〔書言故事、事物譬類〕主レ事不レ一、曰二一國三公一。

【一國之秀】635 國中で最もすぐれた人。〔青山延于、皇朝史略〕天皇問二阿直岐一曰、汝國、有下博士賢二於汝一者上乎、對曰、有二王仁者一、一國之秀也。

【一國之迷】636 一國全部の人が迷ふこと。〔列子、周穆王〕一國之迷、不レ足レ傾二天下一。

【一國若レ狂】637 國中の民が酒に醉つて、狂つたやうに見える。蜡祭に民の樂しんでゐるさまをのべた語。〔禮、雜記下〕子貢觀二於蜡一、孔子曰、賜也樂乎、對曰、一國之人皆若レ狂、賜未レ知二其樂一也。

【一國之善士】638 其の國に於て、道德的に最も立派な人。〔孟子、萬章下〕一國之善士、斯友二一國之善士一。

【一國社會主義】639 國際主義を拋棄し、一國內で、其の特殊事情に應じつつ社會主義を實現しようとする主義。

【一國兩君其誰堪レ之】640 一國に二君があつたならば、政令が二途になつて、人民は其の煩に堪へられない。〔左氏、昭、七〕芋尹無宇斷レ之曰、一國兩君、其誰堪レ之。

【一國以二一人一興以二一人一亡】641 一國は一人の力によつて盛にもなり、また亡びもする。〔蘇洵、管仲論〕一國以二一人一興、以二一人一亡、賢者不レ悲二其身之死一、而憂二其國之衰一。

【一斛】642 桝目の單位。十斗。一石。〔後漢書、光武紀上〕黃金一斤、易二粟一斛一。

【一斛珠】643 ❶一石の珠。〔蜀志、宗預傳〕孫權遺二預大珠一斛一。❷唐の曲の名。玄宗が梅妃に珍珠一斛を贈つた時、梅妃が之を謝した詩に本づいて作つた曲。又、詞牌の名。又、曲牌の名。北曲では仙呂調隻曲に入り、南曲では雙調引に入る。〔梅妃傳〕明皇封二珍珠一斛一、密賜レ妃、妃不レ受、以レ詩謝、使者曰、長門自是無二梳洗一、何必珍珠慰二寂寥一、上令下樂府以二新聲一度上レ之、號二一斛珠一。〔詞譜〕宋史樂志、名二一斛夜明珠一、屬二中呂調一、尊前集注二商調一、金詞注二仙呂調一、晏幾道詞名二醉落魄一、張先詞名二怨春風一、黃庭堅詞名二醉落拓一。

【飮二一斛一】644 後漢の鄭玄が、一斛の酒を飮んでも、なほ平然としてゐたといふ故事。〔後漢書、鄭玄傳〕時大將軍袁紹、總二兵冀州一、遣レ使要レ玄、大會二賓客一、玄最後至、乃延升二上坐一、身長八尺、飮レ酒一斛、秀眉明目、容儀溫偉。〔精註雅俗故事讀本、上、飮食〕鄭玄飮二一斛一而形溫偉。

【一斛涼州】645 賄賂を遺つて官途にありつくこと。魏の孟他が張讓に葡萄酒一石を遺つて涼州刺史となつた故事。〔魏志、明帝紀、注〕伯郞姓孟、名他、扶風人、靈帝時、中常侍張讓專二朝政一、他又以二蒲桃酒一斛一遺レ讓、卽拜二涼州刺史一。

【一穀】646 一種類の穀物。〔管子、揆度〕一穀不レ登、減二一穀一。〔宋史、賈昌朝傳〕一穀不レ熟、或至二狼狽一。

【一穀不レ升】647 或る一種類の穀物がみのらぬ。輕度の饑饉。大侵(**3**-**5831**‥1200)及び一穀不レ登國君徹レ膳を見よ。〔穀梁、襄、二十四〕一穀不レ升、謂二之嗛一。〔廣雅、釋天〕一穀不レ升曰レ歉、二穀不レ升曰レ饑、三穀不レ升曰レ饉。

【一穀不レ登國君徹レ膳】648 或る一種類の穀物がみのらぬ位の輕度でも、饑饉となれば、國君は御馳走の數を減らす。〔後漢書、伏湛傳〕夫一穀不レ登、國君徹レ膳、今民飢、奈何獨飽。

【一轂】649 一つのこしき。〔老子、十一〕三十輻共二一轂一。〔參同契〕衆卦之變、雖レ不レ齊、而不レ出二坎離之中爻一、猶二車輻之設、雖レ不レ一、而不レ出三乎一轂之運居二其中一。

【一忽】650 小數の名。絲の十分の一、卽ち一の十萬分の一。十忽を一絲、十絲を一毫、十毫を一釐、十釐を一分といふ。〔正字通〕忽、一蠶爲二一忽一、十忽爲二一絲一。

【一忽不忽】651 i^4 hu^1 pu^4 hu^1 全然、物にならぬ。全く役に立たぬ。

【一笏】652 一つの笏の長さ、卽ち二尺六寸。轉じて、狹い土地の稱。〔迺賢、深竹堂詩〕一笏清涼地、森森萬玉齊。

【一骨】653 ❶一本の骨。〔戰國、秦策〕秦相應侯曰、云云、王見二大王之狗一、臥者臥、起者起、行者行、止者止、毋二相與鬭者一、投二之一骨一、輕起相牙者何、則有二爭意一也。〔國史略、反正天皇〕帝容姿美麗、駢齒如二一骨一。❷一つの形式。〔江淹、雜體詩序〕楚謠漢風、既非二一骨一、魏製晉造、固亦二體。

【一骨落】654 i^4 ku^2 luo^4 ぱつと身をひるがへす。

【一劫】655 ❶非常に長い時間。梵語 kalpa 劫は劫波の略。〔智度論、三十八〕時中最小者、六十念中之一念、大時名レ劫。〔雲笈七籤、靈寶經目序〕一劫之周。❷一災難。

【一業】656 佛 一つの業因。同一の業因。〔俱舍論、十七〕一業引二一生一、多業能圓滿。

【一業所感】657 前世の同じ宿業によつて、同じ報いを受けること。

【一昏】658 ひと晩。〔阮籍、詠懷詩〕一日復一朝、一昏復一晨。

【一根】659 ❶一つの根。一本。〔史記、龜策傳〕龜千歲、乃遊二蓮葉之上一、蓍百莖、共二一根一。〔淮南子、俶眞訓〕今夫萬物之疏躍枝擧、百事之莖葉條榦、皆本二於一根一、而條二循千萬一也。〔北史、王崇傳〕崇雖レ除レ服、仍居二墓側一、於二其室前一生二草一根一、莖葉甚茂、人莫二能識一。〔宋史、五行志二上〕大中祥符八年四月、彰明縣民家竹、一根上分二二本一、十三節。❷佛 ㋑一つの根性。〔妙玄、一上〕一根一緣、同一道味。㋺六根の一。〔楞嚴經、六〕一根既返レ源。

【一根寒毛也不レ拔】660 i^4 ken han^2 mao yeh^3 pu^4 pa^2 一本の元氣の無くなつた毛でも拔かぬ。吝嗇の喩。拔二一毛一(2158)を見よ。

【一梱】661 ❶ひとしめ。❷ひと行李。一捆。

【一痕】662 ひとつのあと。月などにいふ。〔元淮、端陽新月詩〕遙看一痕月、招破楚天青。〔鮮于溥、早發詩〕燈前夢斷家千里、馬上詩成月一痕。〔文徵明、閑興詩〕坐久忽驚涼影動、一痕新月在二梧桐一。

【一綑】663 ひとくくり。

【一左】664 ❶一左一右を見よ。❷一人の左思の意。左思は、晉の太康年中の文人。〔鍾嶸、詩品序〕訖二於有晉太康中一、三張・二陸・兩潘・一左、勃爾復興。❸ 歌合・舞樂などで一番左の席。又、そこに坐る人。〔增鏡、下〕いちのひだりに、中院の前の大納言通顯の子通冬少將。

【一左一右】665 一は左し、一は右する。或は左し、或は右する。〔左氏、昭、元、楚公子圍、設レ服離衞、疏〕兩人一左一右、相離而行、故稱二離衞一。〔荀子、修身〕一進一退、一左一右、六驥不レ致。

【一差】666 ❶一回派差する。派差とは、地方官が民間から資金工力を上納させて、官の派役を助けさせること。派役とは、地方費でする工事。〔六部成語、戶部、一差、注解〕地方官、令下民閒出レ資、或納二材料一、以助中官派役上、曰二派差一、一事曰二一差一。❷一度の使。又、ただちに。ぢきに。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕一差可レ拘二數人一。

【一差二錯】667 i⁴ ch'a¹ èrh⁴ ts'uo⁴ 偶然の失策。少しばかりの間違。小失策。

【一差半錯】668 i⁴ ch'a¹ pan⁴ ts'uo⁴ ちょつとした間違。一差二錯に同じ。

【一差兩誤】669 i⁴ ch'a¹ liang³ wu⁴ ちょつとした間違。一差二錯に同じ。

【一蓑】670 サイツ 一つのみの。蓑を著た一人の人。轉じて、一人。〔范成大、元日馬上詩〕待二得江風一欺二老病一、何如閒健一蓑歸。〔陸游、舟過二小孤一有レ感詩〕一蓑從レ此入二空濛一。〔岑安卿、二月二日大雪詩〕何如孤舟釣魚叟、一蓑獨釣寒江濱。

【一蓑雨】671 イツサウ みのを濕す程の小雨。〔鄭谷、試筆偶書詩〕殷勤一蓑雨、秖得夢中披。〔范成大、元日馬上詩〕空羨漁翁雨一蓑。

【一坐】672 イツザ ❶同じ席に坐する者。席上の人の全部。一座。〔史記、封禪書〕一坐盡驚。〔漢書、司馬相如傳上〕一坐盡傾。❷一たび坐す。〔論衡、變虛〕景公一坐、有二三善言一。

【一座】673 イツザ ❶一坐の❶に同じ。〔論衡、道虛〕一座盡驚。〔宋書、沈懷文傳〕文義之士畢集、爲二連句詩一、懷文所レ作尤美、辭高二一座一。❷一つ。一個。山廟・佛像などを數へる語。一體。〔汪循、遊二西梁山一記〕有二尼菴一座、竹木蒨蔚、宮宇深邃。❸④第一の席。かみざ。〔宇治拾遺物語、十三〕一座より次第に鉢を飛ばせて。㊁藝人の一團體。㋑一回。一席。〔狂言記、泣尼〕一座の談義。

【一再】674 イツサイ ❶二度。少い度數。一再行を見よ。〔管子、立政〕一再則宥、三則不レ赦。〔史記、淮南王傳〕聞二郎中靁被巧、乃召與レ戲、被一再辭讓、誤中二太子一。〔宋史、禮志十六〕唐嘗一再擧行。〔元好問、觀二浙江漲一詩〕投レ詩與レ龍盟、滌蕩煩二一再一。❷度々。たびたび。〔朱子文集、答二胡廣仲一書〕熹前一再論レ之、皆未レ蒙二決二其可否一。

【一再行】675 イツサイカウ 二度。一兩回。〔史記、司馬相如傳〕臨卬令、前奏レ琴曰、竊聞、長卿好レ之、願以自娛、相如辭謝、爲レ鼓一再行。〔論衡、儒增〕夫一楊葉射中レ之、中レ之一再行、敗穿不レ可二復射一矣。

【一災】676 イツサイ 一つの天災。〔公羊、莊、七〕一災不レ書。

【一歲】677 イツサイ 一年。〔左氏、成、七〕子重・子反、於レ是乎一歲七奔命。〔史記、高祖紀〕復レ之六歲、食レ之一歲。〔淮南子、天文訓〕四時而爲二一歲一。

【一歲所】678 イツサイショ 一年ほど。所は助字、許と同義。〔史記、東方朔傳〕率取レ婦一歲所者、卽棄去。

【一歲九遷】679 イツサイキウセン 僅か一年の間に官位が九度進む。昇進の早い喩。〔韓愈、上二張僕射一書〕日受二千金之賜一、一歲九遷二其官一。

【一歲三遷】680 イツサイサンセン 一年に二度官位が進む。昇進の速い喩。一年三遷(1753)を見よ。〔南史、到撝傳〕武帝卽位、懷二其舊德一、至レ是一歲三遷。

【一歲三百六十日】681 イツサイサンピャクロクジフニチ 一年中。〔後漢書、周澤傳〕一歲三百六十日、三百五十九日齋。〔施肩吾、春游樂詩〕一年三百六十日。

【一際】682 イツサイ 彼と此との二者の間に差別のないこと。〔智度論、十九〕一際無レ有レ異。〔宗鏡錄、二十二〕法報雖レ分、眞化一際。

【一齋】683 イツサイ ❶一つの室。又、一つの家。〔南史、到溉傳〕初與二弟洽・恆共居一齋一。〔宋史、選擧志三〕齋列二五楹一、齋可レ容二十人一。〔王十朋、至樂齋賦〕吾今游二心於一齋之內一、適二意于萬卷之中一。❷字號。㋑明、朱善(6－14424‥431)の號。㋺明、陳第(11－41698‥444)の號。㋩明、婁諒(3－6383‥39)の號。㋥清、晏斯盛(5－13914‥65)の字。㋭清、溫純(7－17968‥124)の字。㋬清、魏學誠(12－45872‥173)の號。㋣清、吳拜(2－3365‥345)の號。㋤清、陳梓(11－41698‥295)の號。㋥清、劉智(2－2224‥487)の號。㋦谷松の號。谷一齋(10－3618‥67)を見よ。㋧村士宗章の號。村士玉水(6－14464‥173)を見よ。㋨松下壽の號。松下葵岡(6－14516‥38)を見よ。㋩佐藤坦の號。佐藤一齋(1－506‥72)を見よ。㋪園田守彝の號。園田一齋(3－4818‥57)を見よ。

【一齋點】684 イツサイテン 江戸末期に、佐藤一齋によつて創められた漢文訓讀法の記號。例へば、「心不レ在レ焉、視而不レ見、聽而不レ聞、食而不レ知二其味一」の類。

【一罪】685 イツザイ 一つの罪。第一の罪。〔公羊、僖、二十八〕其甚惡奈何、不レ可レ以二一罪一言レ也。〔漢書、韓王信傳〕榮陽之事、僕不レ能レ死、囚二於項籍一、此一罪也。

【一劑】686 イツザイ 一服の藥。〔唐書、高馮傳〕數上書言二得失一、辭誠切至、帝賜二鍾乳一劑一、曰、爾進二藥石之言一、朕以二藥石一相報。

【一早】687 i⁴ tsao³ 朝早く。早朝。夜明け方。

【一壯】688 イツサウ 灸のひと火。灸の分量は壯年を標準とすることからいふ。〔夢溪筆談、技藝〕醫用レ艾一灼、謂二之一壯一者、以二壯人一爲レ法、其言二若干壯一、壯人當依二此數一、老幼羸弱、量レ力減レ之。

【一皁】689 イツサウ 一つのうまや。一說、一つのかひば桶。〔文天祥、正氣歌〕牛驥同二一皁一、鷄棲鳳凰食。

【一草】690 イツサウ 一本のくさ。〔後漢書、應劭傳〕春一草枯則爲レ災、秋一木華則爲レ異。〔梁武帝、古意詩〕當レ春有二一草一、綠花復垂レ枝。

【一草亭】691 イツサウテイ 清、彭任(4－10003‥74)の室名。

【一草一木】692 イツサウイチボク 一本の草や一本の木。極めて微細な事物の喩。〔陸游、金山寺詩序〕危亭曲軒、窮二極山水之趣一、一草一木、雖レ未二夢發一、而或青或凋、皆森植可レ愛。

【一草士人】693 イツサウシジン 清、鞠履厚(12－42892‥55)の號。

【一掃】694 イツサウ 一たび拂ひ清める。ねこそぎ拂ひ除く。〔李白、永王東巡歌〕南風一掃胡塵靜。〔宋史、畢仲游傳〕一掃而更レ之。〔蘇軾、暴雨初晴樓上晩景詩〕疾雷破レ屋雨翻レ河、一掃清風未レ覺多。

【一掃而空】695 i⁴ sao³ èrh² k'ung¹ 皆無になる。きれいに無くなる。

【一莊】696 イツサウ ❶城市外の一區劃の土地。〔宋史、食貨志上四〕凡官田・逃田、並拘レ籍、以五頃爲二一莊一。❷一つの別莊。〔姚合、過二友人山莊一詩〕惠帶纏腰復野蔬、一莊水竹數房書。❸一村落。

【一窗】697 イツサウ ひとつのまど。〔李商隱、別二薛巖賓一詩〕還將二兩袖淚一、向二一窗燈一。〔黃庭堅、次韻子瞻和二王子立風雨敗二書屋一有レ感詩〕君窮一窗下一風雨更削レ跡。

【一傮】698 イツサウ ひと廻り。一周。傮は遭。〔正字通〕傮、方言、一周曰二一傮一、俗通用レ遭。

【一噌】699 イツサウ 姓氏。〔姓林全書〕。

【一遭】700 イツサウ ❶一たびあふ。一會。〔李白、贈二新平少年一詩〕一遭二龍顏君一、嘯咤從レ此興。❷ひと廻り。一回(404)を見よ。❸i⁴ tsao¹ 一回。一度。一次。

【一遭際遇】701 i⁴ tsao¹ chi⁴ yü⁴ 一遭遇。一度際會する。一度めぐり遇ふ。

【一遭生兩遭熟】702 i⁴ tsao¹ shêng¹ liang³ tsao¹ shou² 一度では未熟であるが、二度になれば熟練する。一回毎に經驗を積んで巧みになる。

【一雙】703 イツサウ ❶一對。一組。〔禮、少儀〕其禽加二於一雙一、則執二一雙一、以將レ命。〔疏〕二隻曰レ雙。〔戰國、燕策〕臣請、獻二白璧一雙、黃金千鎰一、以爲二馬食一。〔史記、項羽紀〕我持二白璧一雙一、欲レ獻二項王一。❷約四畝の田地をいふ。二牛を使つて、一日に耕作出來る分量に當る。〔輟耕錄、稱二地爲一雙一〕犂一日爲二一乏一、以二二乏一爲レ已、二已爲レ角、四角爲レ雙、約有二中原四畝地一。〔名義考〕金黃華老人詩、招二客先開四十雙一、雲南雜志、夷人耕者、三人使二二牛一、前耒中壓、而後驅之、犂一日爲二一雙一、約有二中原四畝地一、蓋二日二牛、謂二之雙一、地則四畝。❸一年半。〔法苑珠林〕三月爲二一時一、兩時爲二一行一、兩行爲二一年一、二年半爲二一雙一。

【一雙兩好】704 イツサウリャウカウ 仲の良い夫婦をいふ。一牀兩好。〔宋稗類鈔〕一雙兩好世間無、好女如何得二好夫一。

【一造】705 ザイツ ❶一度至る。造は至に同じ。〔南史、劉訏傳〕陳留阮孝緒、博學隱居、不レ交二當世一、云云、訏經二一造一、孝緒卽願以神交。❷いちど。一回。〔新方言、釋言〕今人言二一次者一、或言二一造一。❸粵の地方で、稻が一度熟することをいふ。〔孤臆〕。❹法律上、訴訟當事者の一方をいふ。兩造(1－1436‥161)を見よ。

【一藏】706 イツザウ 佛❶法界法輪藏をいふ。一切の諸法が一藏の中に收められてゐるからいふ。〔釋摩訶衍論、一〕唯立二一藏一、總二攝諸法一、謂二法界法輪藏一。❷經文五千四十八卷をいふ。〔等不等觀雜錄〕今時僧俗持二誦經咒一動稱二一藏一、問二其數一、則云二五千四十八一也、嘗考二歷代藏經目錄一、惟開

元釋教錄、有二五千四十八卷之數一、餘則增減不レ等、至レ今乃有二七千二百餘卷一矣、世俗執二著五千四十八一者、乃依二西遊記之說一耳。

【一昨】707 イッサク 前日。又、前々日。〔魏書、王肅傳〕一昨之前、外有二滂澤一、此有二密雲一。〔北史、周宣帝紀〕一昨駐二蹕金墉一、備嘗二遊覽一。〔會眞記〕張生貽二書于崔一、崔報云、一昨拜辭、倏逾二舊歲一、長安行樂之地、觸レ緒牽レ情、何幸不レ忘、幽微着レ念亡レ斁。

【一索】708 イッサク ㊀一度探し求める。〔史記、趙世家〕今一索不レ得、後必且二復索一レ之、奈何。㊁一本の繩。〔杜牧、雲夢澤詩〕一索功高縛二楚王一。㊂繩などで貫いたものを數へる語。一さし。〔元史、世祖紀十二〕珠一索、錦衣一襲。㊃初めて子を得ること。一索得レ男を見よ。

〔一索得レ男〕709 イッサクダンヲウ 始めて男の子を生む。坤卦(母)が乾卦(父)に初めて交つて、震卦(長男)を生ずることからいふ。索は求めること。〔易、說卦〕震、一索而得レ男、故謂二之長男一、巽、一索而得レ女、故謂二之長女一。〔疏〕王氏云、索、求也、以二乾坤一爲二父母一、而求二其子一也。〔集說〕吳氏澄曰、乾稱レ父、坤稱レ母、索、求而取レ之也、坤交二於乾一、求二取乾之初畫中畫上畫一、而得二長中少三男一云云、一索、謂二交初一。

【一策】710 イッサク ㊀一通の文書。〔荀子、大略〕授二天子一策一。〔注〕策、編レ竹爲レ之。㊁一つのはかりごと。一計。〔揚雄、解嘲〕畫二一奇一、出二一策一。〔漢書、王莽傳上〕茍有二一策一、卽必爵レ之。

【一冊】711 イッサツ 書籍・帳簿等の一綴り。〔元史、儒學二、宇文公諒傳〕挾二手記一冊一。

【一札】712 イッサツ ㊀一枚の書札。一通の文書。凡て書き物の一枚。〔周禮、天官、小宰、聽二賣買一以二質劑一、注〕質劑、謂二兩書一札、同而別レ之。〔後漢書、循吏傳〕一札十行。〔杜預、春秋左氏傳序、疏〕單執二一札一、謂二之簡一。㊁一枚の甲葉。一枚のよろひのこざね。〔淮南子、說山訓〕若使二人必知一レ所レ集、則懸二一札一而已矣。㊂證書一枚。

【一刹】713 イッサツ イッセツ ㊀一刹那の略。一瞬間。㊁一本の柱。又は一字の寺。一寺。〔北史、陸法和傳〕法和曰、吾前於二此洲水乾時一建二一刹一、語二檀越等一、此雖レ爲レ刹、實是賊標、今何不下向二標下一求上レ賊也、如二其言一、果於二水中一見下約抱レ刹仰レ頭裁出上レ鼻、遂禽レ之。〔喩鳬、宿二石窟寺一詩〕一刹古岡南、孤鐘撼二夕嵐一。

【一刹那】714 イッセツナ イチセツナ 佛極めて短い時間。刹那は、劫に對する最小單位。刹那(2—1967‥5)を見よ。〔仁王經、上〕一念中有二九十刹那一、一刹那中有二九百生滅一。〔俱舍論〕時之極少者、名二刹那一。

【一拶】715 イッサツ ひとあしらひ。ひと通り。〔碧巖錄、三十五則、著語〕一拶拶倒了也。〔楊維楨、詠二石榴花一詩〕密幄千重碧、疎巾一拶紅。

【一察】716 イッサツ 物の一部分しか知らない偏見。〔莊子、天下〕道德不レ一、天下多得二一察一焉以自好。〔集釋〕王念孫曰、案、天下多得二一察一、焉以自好、當下作二一句一讀上、一察、謂下察二其一端一、而不上レ知二其全體一。

【一撮】717 イッサツ 一つまみ。極めてわづかな分量。一撮は四圭。一圭(450)を見よ。〔王起、雨不レ破レ塊賦〕不レ遺二一撮之小一、不レ爽二一旬之信一。

【一撮土】718 イッサツド 一つまみの土。僅少の土。〔中庸〕今夫地一撮土之多、及二其廣厚一、載二華嶽一而不レ重、振二河海一而不レ洩、萬物載焉。〔童子問、上〕猶下泰山之高、遠見二千里之外一、本起中一撮土之積上也。

【一帀】719 イッサフ ひとめぐり。一匝に同じ。〔大唐西域記、一〕繞レ池一帀、入二東南海一。

【一匝】720 イッサフ ひとめぐり。一迊。一周。一帀。〔後漢書、馮異傳〕環レ城一匝而歸。〔宋書、律曆志下〕遲疾不レ及二一匝一。

【一三】721 イッサン ㊀清、朱倫瀚(6—14424‥1027)の號。㊁馬術の語。馬を止めるのに、鞍と鐙と手綱と同時に働かせること。〔弓張記、甲陽軍鑑、六〕闘口とて馬のりの上手あり、云々、横一尺五寸の土居の上をも、早道或はいつさんを乘る。

【一三昧】722 イッサンマイ ㊀佛雜念を去つて一心に修行する。三昧。㊁專ら其のことにだけ心を用ひて、一心不亂になる。〔北條五代記、三〕猶以て忠臣一三昧に仰ぎ奉る。

【一三五不論二四六分明】723 イッサンゴフロンニシロクブンミヤウ 近體詩に於ける平仄の排列法に就いて言つたもの。七言詩に於て第一字・第三字・第五字は平仄何れを用ひても宜しいが、第二字・第四字・第六字は必ず一定した平仄を用ふべきことを示す。二四不同二六對(1—247‥1202)を見よ。〔詩律兆〕輓近有レ若二陳西文・黃美發一、乃著レ書、有二一三五不論、二四六分明之說一、殊不レ知下一三五甚有レ可レ論、二四六或者不上レ事二分明一也。〔詩法詳論、上絕、句平仄〕一三五不レ論、詩句中第一字、第三字、第五字、或當レ用レ平而用レ仄、或當レ用レ仄而用レ平亦可、不二必拘定一、二四六分明、詩句中之第二字、第四字、第六字、當レ用レ平者、一定用レ平、當レ用レ仄者、一定用レ仄、不レ可二移易一、如二五言律一、止論二第二字第四字一。

【一山】724 イッサン イチザン ㊀一つの山。一岳。全山。〔郭璞、遊仙詩〕綠蘿結二高林一、蒙籠蓋二一山一。〔庾信、上二益州上柱國趙王一詩〕寒沙兩岸白、獵火一山紅。㊁一寺。寺院は多く山中にあるからいふ。但し、一山の名は廣く、一寺の名は狹い。一刹。〔李覯、北山僧詩〕二月春風添二樹色一、一山夜雨失二泉聲一。㊂字號。㋑元、一寧(1742)の號。㋺明、李延興(6—14459‥890)の號。㋩淸、岳震川(4—8001‥68)の字。

【一山叟】725 イチザンソウ 宋、慧舟(4—11116‥42)の號。

【一山文集】726 イッサンブンシフ 書名。九卷。元、李繼本撰。詩文集。〔四庫提要、集、別集類〕。

【一拃】727 i^4 cha^3 拇指と食指とを張り廣げた長さ。凡そ五寸許り。

【一散】728 イッサン ㊀一つのさかづき。散は爵で、五升を入れる。〔詩、邶、簡兮、公言錫レ爵、傳〕惠レ下之道、見レ惠不レ過二一散一。㊁一たび散る。〔後漢書、光武帝紀〕大衆一散、難レ可二復合一。〔李洞、游二廬山一記〕廻風一散、萬象冥蒙。㊂一目散(2205)に同じ。逸散。〔檜權三重帷子、上〕一散に駈け出だす。

【一盞】729 イッサン ひとさかづき。一杯。〔杜甫、撥悶詩〕聞道雲安麴米春、纔傾二一盞一卽醺レ人。〔姚合、送二宋愼言一詩〕百篇詩盡和、一盞酒須レ分。〔杜牧、醉倒詩〕莫レ辭二一盞卽相請一、還是三年更不レ聞。〔翁綬、詠レ酒詩〕百年莫レ惜千回醉、一盞能消萬古愁。

【一盞燈】730 イッサントウ 一つの燈火。〔白居易、和下李中丞與二李給事一山居雪夜同宿小酌上詩〕一盞寒燈雲外夜、數盃溫酎雪中春。林泉莫レ作多時計、諫獵登封憶二舊臣一。〔元稹、晨起送レ使因過二王十一館居一詩〕過レ君未レ起房門掩、深映寒窗一盞燈。〔趙嘏、四祖寺詩〕千株松下雙峯寺、一盞燈前萬里身。〔李涉、再謫二夷陵一題二長樂寺一詩〕誰知漸漸因緣重、羞レ見二長燃一盞燈一。

【一盞茶時】731 i^4 $chan^3$ $ch'a^2$ $shih^2$ お茶一杯を飲む程の僅かな時間。しばらく。一茶頃。〔水滸傳、一回〕大蟲去了一盞茶時、方纔爬將起來。

【一粲】732 イッサン 一度笑ふこと。粲は淸く白い意で、白い齒を出して笑ふこと。一笑。〔穀梁、昭、四〕軍人粲然皆笑。〔注〕粲然、盛笑貌。〔蘇軾、詛楚文詩〕遼哉千載後、發二我一笑粲一。

〔博二一粲一〕733 イッサンヲハクス 自作の詩文などを人に贈る時の謙辭。お笑ひ草までにといふ意。〔賴山陽、詩〕上元之夕、金子熊介見レ訪、分二得春字一、因每句押二春字一、賦レ此博二一粲一。

【一算】734 イッサン ㊀一つのかずとり。〔禮、投壺〕司射坐而釋二一算一焉。㊁漢代の稅金。漢の武帝の時、初めて課した所得稅。〔史記、平準書〕率緡錢二千而一算。〔漢書、鼂錯傳〕有二萬死之害一、而亡二銖兩之報一、死レ事之後、不レ得二一算之復一。㊂算木を並べて一度占ふこと。〔言繼卿記、天文三年四月二十七日〕葉雪所へ罷向、一算申候、病之樣不レ苦由申候。㊃算盤で一回計算すること。

【一餐】735 イッサン 一度の食事。一食。〔後漢書、朱浮傳〕匹夫媵母、尙能致二命一餐一。

〔一餐之惠〕736 イッサンノメグミ 一食ほどの僅かな惠。〔後漢書、孔虎傳〕睚眦之怨必讎、一餐之惠必報。

【一士】737 イッシ ㊀一人の男子。一人の兵士。〔戰國、秦策〕未レ煩二一兵一、未レ戰二一士一。〔呂覽、觀世〕千里而有二一士一、比レ肩也。〔史記、田敬仲完世家〕王不レ煩二一兵一、不レ傷二一士一、無レ事而割二安邑一也。㊁清、王譔(7—20823‥158)の字。

〔一士諤諤〕738 イッシガクガク 多くの者が唯々諾々として追從を事とするのに、一人のみが忌みはばかる所なく正言するさま。〔史記、商君傳〕千人之諾諾、不レ如二一士之諤諤一。

【一子】739 ❶ひとり子。一つぶだね。〔漢書、揚雄傳上〕自レ季至レ雄五世、而傳二一子一。❷多くの子の中の一人。〔左氏、哀、十一〕季孫謂二其宰冉求一曰、齊師在レ淸、必魯故也、若レ之何、求曰、一子守、二子從レ公禦二諸竟一、云云、季孫告二二子一、二子不レ可、求曰、若不レ可、則君無レ出、一子帥レ師、背レ城而戰、不レ屬者非二魯人一也。❸ i⁴ tzŭ³ 賭具のこま。又は牌一つ。

【一子兒】740 i⁴ tzŭ³ êrh 一把。

【一子相傳】741 祕傳などを己の子の中の一人だけに傳授して、他にもらさぬこと。〔槍權三重帷子、上〕此の傳授は一子相傳にて。

【一子雙祧】742 一子兩不絕に同じ。

【一子分法】743 一家內の家族である子孫が、家財の分配にあづかる際、其の分前を定める掟。〔唐律、賊盜一、諸緣坐非二同居一者、疏議〕老疾得レ免者、各準二一子分法一。

【一子兩不絕】744 二人の兄弟で、其の一方には男子が無く、他の一方だけが、唯一人の男の子を持つてゐる場合、此の兩家の後を絕たぬ爲に、兄弟から夫々其の子に一人の妻を娶らせる。此の二人の妻は同權利を有し、名づけて兩頭兒大といひ、兄の與へた妻が孕めば兄の嗣子とし、弟の與へた妻が孕めば弟の嗣子とすること。一子雙祧。

【一子成道九族生レ天】745 ひとりの子が得道すれば、九族が全部昇天出來る。〔通俗編、釋道、一子成道九族生レ天〕見二元曲選貨郎擔劇一。

【一之】746 字號。❶後周、孟貫(**3**－**6960**‥71)の字。❷元、金應桂(**11**－**40152**‥1203)の字。❸明、孫能傳(**3**－**6987**‥518)の字。❹淸、謝振定(**10**－**35827**‥304)の字。

【一之日】747 周の正月。今の陰曆十一月。十月の餘の一月の日の意。〔詩、豳風、七月〕一之日觱發、二之日栗烈。〔傳〕一之日、十之餘也、一之日、周正月也。

【一之謂レ甚】748 一度過失を犯しただけで、既に大變なことだ。〔左氏、僖、五〕晉不レ可レ啓、寇不レ可レ翫、一之謂レ甚、其可レ再乎。

【一支】749 ❶四肢の內の一。支は肢に通ず。〔顏氏家訓、勉學〕每レ折二一支一、辭色愈勵。❷一つの支流。〔李端、送二鄭宥入レ蜀迎レ覲詩〕劍門千轉盡、巴水一支長。❸ i⁴ chih¹ ㋑一本。㋺半分。一半の意。

【一支兵】750 i⁴ chih¹ ping¹ 一隊の兵。一部隊の兵。

【一只】751 i⁴ chih³ 一隻。一個。

【一矢】752 ❶一本の矢。一箭。〔易、旅〕射レ雉一矢。〔左氏、成、十二〕無二亦唯是一矢以相加遺一。〔漢書、敍傳上〕魯連飛二一矢一而蹶二千金一。〔李賀、榮華樂〕天長一矢貫二雙虎一。❷ i⁴ shih³ 一度誓ふ。〔例〕一矢不渝。

【報二一矢一】752′ 他から受けた攻擊に對し、いささか仕返しをする。

【一死】753 ❶一たび死ぬ。〔莊子、天運〕一死一生、一僨一起。〔漢書、司馬遷傳〕人固有二一死一、死有下重二于泰山一、或輕中于鴻毛上。❷死んだ一羽の雉。〔書、舜典〕五玉・三帛・二生・一死贄。〔傳〕脩二吉凶賓軍嘉之禮一、五等諸侯執二其玉一、三帛、諸侯世子執レ纁、公之孤執レ玄、附庸之君執レ黃、二生、卿執レ羔、大夫執レ鴈、一死、士執レ雉。

【一死兒的】754 i⁴ ssŭ³ êrh tê 一命をかけても。死んでも。必ず。飽くまで。

【一死一生乃知二交情一】755 生前には足繁く往來して親しくして居ても、其の人の死後には足が遠のいて遺族に冷淡になる、卽ち生死の轉變に遭つて始めて其の人の交情がわかる。〔史記、汲鄭傳論贊〕翟公大二署其門一曰、一死一生、乃知二交情一、一貧一富、乃知二交態一、一貴一賤、交情乃見。

【一至】756 ❶一つの極めてよいこと。〔管子、兵法〕定二一至一、行二二要一。❷一度至る。〔晏子、雜、上〕秋風一至、根且レ拔矣。〔論衡、恢國〕黃帝堯舜、鳳皇一至。❸一たび敵國に侵入する。〔管子、參患〕凡用レ兵之計、三驚當二一至一、三至當二一軍一、三軍當二一戰一。〔纂詁〕謂二用レ兵所レ費、驚、徵二聚兵卒一、以震二驚敵國一也、三驚之費、與二一至二敵國一相當。❹一事にだけ通達する。かたよつた材能。〔人物志、九徵〕一至謂二之偏材一、偏材小雅之質也。

【一巵】757 一つのさかづき。又、一杯の酒。一盞。〔晉書、禮志上〕讀訖、賜二酒一巵一。〔梁元帝、長歌行〕當レ壚擅二旨酒一、一巵堪二十千一。

【一巵酒】758 一ぱいの酒。〔史記、楚世家〕人有下遺二其舍人一巵酒一者上。〔史記、匈奴傳〕其攻戰斬二首虜一、賜二一巵酒一。〔新序、善謀下〕賤人希見二長者一、願復請二一巵酒一。

【一志】759 ❶多勢の者が志を一つにする。〔戰國、齊策〕專レ兵一レ志、以逆レ秦。〔列子、說符〕請與二若等一戮レ力一レ志。〔淮南子、人閒訓〕請與レ公僇レ力一レ志、悉率二徒屬一、而必以滅二其家一。❷最後まで初志を變へぬこと。〔女孝經〕丈夫百行、婦人一志。

【一刺】760 ❶一たびさす。〔淮南子、說山訓〕寧百刺以レ針、無二一刺以一レ刀。❷周官司刺の掌つた三刺の一で、罪の有無・輕重を群臣に訊くこと。〔周禮、秋官、司刺〕壹刺曰レ訊二羣臣一、再刺曰レ訊二羣吏一、三刺曰レ訊二萬民一。

【一枝】761 ❶ひとえだ。一本の枝。〔莊子、逍遙遊〕鷦鷯巢二於深林一、不レ過二一枝一。〔淮南子、說林訓〕譬若レ懸二千金之重於木之一枝一。〔李義府、詠烏詩〕上林如レ許樹、不レ借二一枝棲一。〔司空圖、南北史感遇詩〕佳人自折二一枝紅一、把唱二新詞一曲未レ終。❷淸、沈永令(**6**－**17189**‥429)の號。❸ i⁴ chih¹ ㋑一席の場所。一居處。㋺細長い物を數へる語。

【一枝庵】762 萩原承の號。萩原綠野(**9**－**31333**‥10)を見よ。

【一枝花】763 ❶唐の名妓、李娃(**6**－**14459**‥2)の舊名。〔異聞錄〕天寶中、常州刺史滎陽公子應レ擧、狎二長安倡女李娃一、娃後封二汧國夫人一、夫人舊名一枝花、元稹酬二白樂天一代書一百韻云、翰墨題名盡、光陰聽レ話移、注云、樂天每與レ予同遊、常題二名於屋壁一、顧復本說二一枝花一、自レ寅至レ巳。❷雜劇の曲名。一名、占春魁。南曲では南呂宮引に入り、北曲では南呂調隻曲に入る。又、詞牌の名。一名、促拍滿路花。〔輟耕錄、雜劇曲名〕南呂、一枝花、梁州第七、賀新郞。❸四つの骰子を振つて、同時に一・二・三・四の目を出すこと。❹一枝の花。〔方干、路支使小池詩〕光含半牀月、影入一枝花。

【一枝軒】764 明、萬達甫(**9**－**31339**‥614)の室名。

【一枝鎗】765 i⁴ chih¹ ch'iang¹ ❶一挺の銃。❷妓樓などで客を接待するに唄ふもの。

【一枝兒】766 i⁴ chih¹ êrh 一本。細い物を數へるのに用ひる語。

【一枝春】767 ❶梅をいふ。宋の陸凱の詩から出た語。〔荊州記〕宋陸凱與二范曄一相善、自二江南一寄二梅花一枝一、並贈レ詩曰、折レ梅逢二驛使一、寄二與隴頭人一、江南無レ所レ有、聊贈二一枝春一。❷詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では黃鐘宮正曲に入る。〔武林舊事、除夕〕小兒女終夕博戲不レ寐、謂二之守歲一、守歲之詞雖レ多、極難二其選一、獨楊守齋一枝春、最爲二近世所一レ稱。

【一枝箭】768 草の名。ひがんばな。石蒜(**8**－**24024**‥345)の異名。〔本草、石蒜〕釋名、烏蒜・老鴉蒜・蒜頭草・婁婁酸・一枝箭・水麻。

【一枝梅】769 一枝のうめ。一枝梅贈レ人を見よ。〔范成大、戲題二趙從善兩畫軸一詩〕一枝香杏一枝梅、各占二東風一挂二玉釵一。

【一枝梅贈レ人】770 昔、越王が一枝の梅花を梁王に贈つた故事。僅かな贈物にいふ。〔說苑、奉使〕越使下諸發執二一枝梅一、遺中梁王上、梁王之臣曰二韓子一、顧謂二左右一曰、惡有下以二一枝梅一、以遺二列國之君一者上乎。

【一枝濃艷露凝レ香】771 美人の形容。楊貴妃の美貌をたたへた語。一枝のあでやかで美しい牡丹の花がしつとりと露を帶びて芳香をはなつてゐるといふ意。〔李白、淸平調〕一枝濃艷露凝レ香、雲雨巫山枉斷腸、借問漢宮誰得レ似、可憐飛燕倚二新粧一。

【一枝不レ動百枝不レ搖】772 ひと枝が動かねば、總べての枝が搖れない。お互に關係がある。

【一指】773 ❶一本の指。同じ指。〔莊子、齊物論〕天地一指也、萬物一馬也。〔易林〕一指食レ肉、口無レ所レ得。〔後漢書、費長房傳〕以二一指一提レ之。❷一つの旨。〔春秋繁露、十指〕擧二事變一、見レ有レ重焉、一指也。❸淸、沈永令(**6**－**17189**‥4

29)の號。

【一指禪】774 イチシゼン ❶梁の僧、達摩の創めた按摩術の一。全身の氣力を一本の指先に集中して行ふ。❷佛釋天龍が、一本の指を竪にした丈で佛道の奥儀を傳へた故事。一指頭禪。琅琊代醉編、卷三十一に見ゆ。〔傳燈錄、俱胝傳〕有ㇾ僧過二天龍一、天龍竪二一指一示ㇾ之、僧大悟、後示寂曰、吾得二天龍一指頭禪一、一生喫著不ㇾ盡。〔元好問、奉ㇾ酬二子京禪師見ㇾ贈之什一詩〕南風穩送北歸船、留得虛名一指禪。

【養二一指一】775 イッシヲヤシナフ 一本の指を養ふ。小さい事に氣を取られて、大きい事を忘れる喩。〔孟子、告子上〕養二其一指一、而失二其肩背一、而不ㇾ知也。

【一指一馬】776 イッシイチバ 天地萬物の間に是非の差別の無いこと。指はユビ。馬は双六のカズトリ。是非の論は畢竟自分の指又は馬のみを標準として、他人の指馬を、眞の指馬に非ずと斷ずる樣なものだとの喩。一馬一指。〔莊子、齊物論〕以ㇾ指喩二指之非ㇾ指、不ㇾ若以ㇾ非ㇾ指、喩二指之非ㇾ指也、以ㇾ馬喩二馬之非ㇾ馬、不ㇾ若以ㇾ非ㇾ馬、喩二馬之非ㇾ馬也、天地一指也、萬物一馬也。〔注〕至人知二天地一指也、萬物一馬也一、故浩然大寧、而天地萬物各當二其分一、同二於自得一、而無ㇾ是無ㇾ非。〔鬳齋口義〕若但以ㇾ我而非ㇾ彼、不ㇾ若下就二他身上一思量上、他又非ㇾ我、物我對立、則是非不ㇾ可ㇾ定也、馬、博塞之籌也。

【一指之大幾如ㇾ股】777 イッシノオホキサホトンドモモノゴトシ 病のために一本の指が、股のやうに太く腫れあがる。末が盛で、本の衰へる喩。〔新書、大都〕一脛之大、幾如ㇾ要、一指之大、幾如ㇾ股。

【一施】778 イッシ ❶一度施行する。〔晉書、慕容儁載記〕冠服何容二一施一廢一。❷土質の一種。稻麥・萍脩・白棠等に良い地。施は七尺、土地測量の單位。〔管子、地員〕黑埴宜二稻麥一、其草宜二萍蓨一、其木宜二白棠一、見二是土一也、命ㇾ之曰二一施一。

【一是】779 イッシ ❶もつぱら。すべて。壹是。〔大學〕自二天子一以至二於庶人一、壹是皆以ㇾ脩ㇾ身爲ㇾ本。〔宋史、選擧志〕凡文武官、一是以二公勤廉恪一爲ㇾ主。❷清、張蘭皋(**4**−**9812**‥1572)の原名。❸イチゼ 一つの正しいこと。〔管子、七臣七主〕得二六過一是一、以還自鏡、以知二得失一。

【一是一非】780 イチゼイッピ 或は是とし、或は非とする。〔莊子、齊物論〕彼亦一是非、此亦一是非。〔注〕此亦自是而非ㇾ彼、彼亦自是而非ㇾ此、此與ㇾ彼、各有二一是一非於體中一也。〔淮南子、齊俗訓〕若夫是二於此一而非二於彼一、非二於此一而是二於彼一者、此之謂二一是一非一也。

【一紙】781 イッシ ❶一枚のかみ。一通の。〔晉書、劉弘傳〕弘每ㇾ有二興廢一、手書二守相一、丁寧款密、所以人皆感悅、爭赴ㇾ之、咸曰、得二劉公一紙書一、賢二於十部從事一。〔庾信、幽居値ㇾ春詩〕長門一紙賦、何處覓二黃金一。❷同じ紙。〔太政官式〕籤符連二修一紙一。

【一紙半錢】782 イッシハンセン 極めて僅少なもの。輕少なもの。〔宗長手記〕一紙半錢の事も。

【一紙文書】783 イッシノブンショ 一通の文書。〔唐庚、述懷詩〕老來精力堪二驚歎一、一紙文書輒數遭。

【一匙】784 イッシ 一さじ。〔白居易、宿二簡寂觀一詩〕何以療二夜飢一、一匙雲母粉。

【一紫】785 イッシ 一つのむらさき。紫色の織物。〔韓非子、外儲說左上〕齊桓公好服ㇾ紫、一國盡服ㇾ紫、當二是時一也、五素不ㇾ得二一紫一、桓公患ㇾ之、謂二管仲一曰、寡人好服ㇾ紫、紫貴甚、一國百姓、好服ㇾ紫不ㇾ已、寡人奈何。〔晉書、輿服志〕逮二禮樂離訛、人情馳爽一、諸侯征伐、憲度淪亡、一紫亂二於齊飾一、長纓混二於鄒翫一。

【一紫蓋二十紅一】786 イッシジッコウヲオホフ 一つのむらさきが十の紅を壓倒する。君の爲す所、下悉く之にならふ喩。〔通俗編、識餘、變古〕管子、齊桓好服ㇾ紫、齊人尙ㇾ之、五素易二一紫一、今變ㇾ之曰二一紫蓋二十紅一。

【一絲】787 イッシ ❶一筋のいと。絲一すぢ。〔葉適、贈二勝上人一詩〕遺ㇾ臘冰千筋、勾ㇾ春柳一絲。❷少し。僅か。〔沈幹、浙江賦〕海門喧二萬鼓之聲一、江面直二一絲之力一。〔趙秉文、題下劉德溫畫二湖山豐夏一橫幅上詩〕六月涼生青蒻底、釣魚船上一絲風。

【一絲絲】788 イッシシ 一すぢ一すぢ。〔還魂記、尋夢〕一絲絲垂楊線、一丟丟楡莢錢。

【一絲一粟】789 イッシイチゾク i⁴ ssŭ¹ i² su⁴ 極めて微小な喩。些少な。いささか。

【一絲不ㇾ掛】790 イッシカケズ ❶少しもひきとめるもののないこと。掛、一に挂に作る。寸絲不ㇾ挂(**4**−**7411**‥45)を見よ。〔黃庭堅、僧景宣相訪寄二法王航禪師一詩〕一絲不ㇾ掛魚脫ㇾ淵、萬古同ㇾ歸蟻旋ㇾ磨。〔蘇軾、贈二虔州慈雲寺鑑老一詩〕一絲不ㇾ掛且逢場。❷i⁴ ssŭ¹ pu² kua⁴ 一絲も身にまとはぬこと。まつぱだか。

【一絲不ㇾ亂】791 イッシミダレズ 秩序整然として、少しの亂れもないこと。

【一絲爲ㇾ定萬金不ㇾ移】792 イッシヲテイトナセバマンキンモウツラズ たとひ僅かな結納金でも、一旦其れによつて婚約した以上は、他から萬金を積まれても破約しない。苟くも既に定めたことは、どんな事情でも決してかへぬ。定は婚禮の結納金。

【一詞】793 イッシ ひとくちがき。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕一詞興、非二其主持一、不二敢告一。

【一嘴】794 i⁴ tsuei³ 一つのくちばし。一つの口。又、口一ぱい。滿口。

【一嘴莫生二舌頭】795 i⁴ tsuei³ mo⁴ shêng¹ êrh⁴ shê² t'ou 二枚舌は使ふな。虛言・讒言を愼めといふ意。主として滿洲に行はれる俗諺。

【一字】796 イチジ ❶一つの文字。〔魏志、陳思王植傳、注〕游夏之徒、不ㇾ能ㇾ錯二一字一。〔晉書、衞恆傳〕大則一字徑尺、小則方寸。❷同じ文字。同字。〔左氏、僖、十五、千乘三去、阮元校勘記〕注云、遮二禽獸一爲ㇾ陸、陸卽去、實一字。❸一といふ字。〔宋史、樂志十七〕夾鐘姑洗用二一字一。〔宋史、余靖傳〕各擧二一字一爲ㇾ目、凡數十事。❹一寸した手紙。寸楮。〔杜甫、登二岳陽樓一詩〕親朋無二一字一、老病有二孤舟一。❺一つのあざな。別のあざな。〔宋元學案、紫微學案、提擧林三山先生之奇〕林之奇、字少穎、一字拙齋。❻雁の行列。雁が一列に並んだ樣子が、一の字のやうに見えることからいふ。〔吳融、新鴈詩〕數聲飄去和二秋色一、一字橫來背二晚暉一。

【一字行】797 イチジカウ 眞一文字に行くこと。〔劉禹錫、洛中逢三韓七中丞之二吳興一口號詩〕昔年意氣結二羣英一、幾度朝廻一字行。〔白居易、二月二日詩〕輕衫細馬春年少、十字津頭一字行。

【一字香】798 イチジカウ ひとくゆりの香。〔段成式、送ㇾ僧詩〕窗下猶殘一字香。〔黃庚、閨情效二香奩體一詩〕金鴨烟銷一字香。〔貫休、懷二白閣道侶一詩〕香然一字火、磬過數潭冰。

【一字巾】799 i² tzŭ⁴ chin¹ 頂の平な頭巾。

【一字會】800 イチジクワイ 漢口地方で行はれる下層階級の金融方法の一。我が國の賴母子無盡講の類。

【一字缺】801 イチジケツ 清代、地方官の任地を土地の情況によつて衝繁疲難の四種に分け、その中の何れか一つに該當する地方の官に任ぜられることをいふ。缺は官職をいふ。衝繁疲難(**10**−**34069**‥62)を見よ。〔清國行政法汎論、地方官廳、地方缺種類〕世俗分二缺之種類一、爲二四字缺、三字缺、二字缺、一字缺、無字缺一、卽以三具二有衝繁疲難四字一、爲二四字缺一、以下遞降、至二於一字不ㇾ備者一、是爲二無字缺一也。

【一字誤】802 イチジノアヤマリ 詩文などに僅か一字の誤のあること。〔宋史、王旦傳〕帝嘗作二喜雨詩一、旦袖歸曰、上詩有二一字誤一。

【一字師】803 イチジノシ ❶一字の文字の誤讀、又は誤書を匡して、正確にしてくれた恩人。李相及び楊誠齋の故事。〔摭言〕大居守李相、讀二春秋一至二叔孫婼一、誤二勅略反一爲二勅晷反一、有二小吏侍ㇾ側、因委曲言、李公大慙、號爲二一字師一。〔鶴林玉露、干寶〕楊誠齋在二館中一、與二同舍一談、及二晉干寶一、一吏進曰、乃干寶、非ㇾ于也、問何以知ㇾ之、吏取二韻書一以呈、干字下注曰、晉有二干寶一、誠齋大喜曰、汝乃吾一字之師。〔萬姓統譜〕楊萬里談二晉干寶一、一吏取二禮部韻書下注晉干寶一以進曰、乃干寶、非ㇾ于也、楊大喜、以爲二一字師一。❷詩文などで、穩かでない一字を改め直してくれた恩人。〔陳京葆化錄〕李建州頻與二方處士干一爲二吟友一、頻有下題二四皓廟一詩上、自言二奇絕一云、東西南北人、高跡此相親、天下已歸ㇾ漢、山中猶避ㇾ秦、龍樓曾作ㇾ客、鶴氅不ㇾ爲ㇾ臣、獨有千年後、青松廟木春、示二於干一、干笑而言、善則善已、然內有二二字未ㇾ穩、作字太粗而難ㇾ換、爲字甚不ㇾ當、干聞、率土之濱、莫ㇾ非二王臣一、請改作二稱字一、頻遂拜爲二一字之師一。〔五代史補〕鄭谷在二袁州一、齊己攜ㇾ詩詣ㇾ之、有二早梅詩一云、前村深雪裏、昨夜數枝開、谷曰、數枝非ㇾ早也、不ㇾ如二一枝一、齊己不ㇾ覺下拜、自ㇾ是士林以ㇾ谷爲二一字師一。〔竹坡詩話〕汪

内相將ニ赴ニ臨川ニ、曾吉父以レ詩迎レ之、有ニ白玉堂中曾草ノ詔、水晶宮裏近題レ詩句ト、韓子蒼改ニ中作ニ深、裏作ニ冷、吉父聞レ之、以ニ子蒼ニ爲ニ一字師ニ。〔通俗編、文學、一字師〕詩話總龜、張詠獨恨太平無ニ一事ニ、蕭楚材請ニ改ニ恨爲レ幸、詠曰、子眞一字師。

【一字書】804 シヨノ ❶一通の書きもの。〔包佶、尚書宗兄使過詩以奉獻詩〕雨散三秋別、風傳一字書。〔白居易、見ニ尹公亮新詩ニ偶贈絶句〕如何持レ此將ニ千謁ニ不レ及公卿一字書。〔陳與義、鄭州西軒書事詩〕易レ求ニ蘇子六國印ニ難レ覓ニ河橋一字書。❷イチジガキ ㋑字體をくづして、一筆に書きくだすつづけがき。ひとふでがき。〔心中天網島、下大和屋傳兵衛を一字書き。㋺紙一枚に一字づつ書く。㋩文字を一字づつ書き合つて、其の優劣を爭ふ遊戲。

【一字新】805 イチジアラタナリ 目新らしいこと。耳新らしいこと。〔李摶、復謔ニ廷裕ニ詩〕曾隨ニ風水ニ化ニ凡鱗ニ、安上門前一字新。〔齊己、贈ニ孫生ニ詩〕道出ニ千途外ニ、功爭一字新。

【一字禪】806 イチジゼン 〔圓雲門禪師は人に接する時、好んで一字を以て佛理を說いた。之を一字禪といふ。〔碧巖、六則、評唱〕又說ニ一字禪ニ、僧問、殺ニ父殺ニ母ニ、佛前懺悔、殺ニ佛殺ニ祖ニ、向ニ什麼處ニ懺悔、雲門云、露、又問、如何是正法眼藏、雲門云、普。

【一字桌】807 ㄧˊ ㄗㄨㄛ ㄔㄨㄛ 八人掛の四角なテーブルを半分に割つた程の細長いテーブル。

【一字蝶】808 イチジデフ 蝶の名。いちもじてふ。たてはてふ科に屬す。翅は黑褐色で、前後の兩翅に亘つて一字形の白斑がある。一線蝶。

【一字寶】809 イチジノタカラ 詩文に巧な人の用ひた一字の用法が、後人から寶の樣に珍重せられること。〔戴表元、范文正公云云范氏善而索ニ詩爲ニ贈詩ニ〕清風百世希ニ文老ニ、一字流傳今是寶。

【一字步】810 ㄧˊ ㄗㄨˋ ㄅㄨˋ 荒事師の俳優が、一文字の步み方をすること。

【一字王】811 ワウ 國王をいふ。國王は趙王・魏王といふやうに、一字を以て王の名號とす。郡王が凡て二字なるに對していふ。遼金時代の語。〔金史、百官志一〕親王母妻、封ニ一字王ニ者、舊封王妃、爲ニ正從一品ニ。〔隨園隨筆〕遼史有ニ一字王稱ニ、蓋如ニ趙王・魏王之類ニ、皆國王也、若ニ郡王ニ、則必二字、如ニ混同郡王・蘭陵郡王之類ニ、較ニ一字王ニ爲レ卑。

【一字一義】812 イチジイチギ 一つの文字で一つの意味しか持たぬもの。〔馬氏文通、正名、界說、十〕字有ニ一字一義者ニ。

【一字一珠】813 イチジイツシュ 珠を轉ばすやうに歌聲のよいことにいふ。〔薛能、贈ニ歌者ニ詩〕一字新聲一顆珠、轉喉疑是擊ニ珊瑚ニ。

【一字一石】814 イチジイツセキ 法華經を、一箇の石に一字づつ書寫して地中に埋め、塚を築くことをいふ。攝津の經の島は、平清盛がこの經石を以て築いたものであるといふ。

【一字一板】815 ㄧˊ ㄗㄨˋ ㄆㄢˇ 曲調の談話が、一句づつ明晰なこと。話がはつきりわかる。

【一字徑尺】816 イチジケイシヤク 文字を大書して、一字のさしわたしが一尺もあること。〔宋書、劉穆之傳〕高祖既ニ不レ能ニ盾意、又稟分有レ在、穆之乃曰、但縱レ筆爲ニ大字ニ、一字徑尺無レ嫌レ大、既足レ有レ所レ包、且其勢亦美。

【一字徑丈】817 イチジケイヂヤウ 文字を大書して、一字のさしわたしが一丈もあること。〔晉書、衞恒傳〕上谷王次仲、始作ニ楷法ニ、至ニ靈帝好レ書、時多ニ能者ニ、而師宜官爲レ最、大則一字徑丈、小則方寸千言、甚矜ニ其能ニ。

【一字三禮】818 イチジサンライ 王朝時代以後、佛教の經文を寫す時、文字一つを書く毎に三たび禮拜したこと。一字三拜。〔東鑑、六〕文治二年六月十五日、一字三禮、令ニ書ニ寫如法經ニ。

【一字數義】819 イチジスウギ 一つの文字で五つも六つもの意味を持つこと。〔馬氏文通、正名、界說、十〕亦有ニ一字數義者ニ。

【一字石經】820 イチジセキケー 三體石經に對して、一體石經をいふ。漢に熹平石經があり、魏に正始石經があるが、兩石經が三體（古文・篆・隸）なりや、或は一體（隸書）なりやに就いては、古來諸說が多くて一定しない。唯殘石の出土に因つて、熹平石經は一體、正始石經は三體といはれて居る。石經（8－24024：236）を見よ。〔經義考、刊石、漢一字石經ノ按、漢立ニ石經ニ、蔡邕所レ書、本一字、惟因ニ范史儒林傳ニ云、爲ニ古文・篆・隸三體書法ニ、以相參檢、樹ニ之學門ニ、而楊衒之洛陽伽藍記・北史劉芳傳因之、唐竇蒙・宋郭忠恕・蘇望・方匋・歐陽棐・董逌・姚寬等、均仍其誤ニ、獨張縯謂、邕以ニ三體ニ參ニ檢其文ニ、而書ニ丹於碑ニ、則定爲レ隸、其義爲レ允、載考ニ衞恆及江式傳、鄭道元水經注ニ、皆以ニ一字ニ爲ニ漢石經ニ。〔隋書、經籍志一〕後漢鐫ニ刻七經ニ、著ニ於石碑ニ、皆蔡邕所書、魏正始中、又立ニ一字石經ニ、相承以爲ニ七經正字ニ。

【一字千金】821 イチジセンキン 一字だけで千金の値打があること。價値ある文章又は文字をいふ。一字百金。〔史記、呂不韋傳〕有ニ能增ニ損一字ニ者ニ予ニ千金ニ。〔鍾嶸、詩品上〕陸機所レ擬十四首、文温以麗、意悲而遠、驚ニ心動ニ魄ニ、可レ謂レ幾ニ乎一字千金ニ。〔張說、奉ニ和聖製過ニ寧王宅ニ應制詩ニ〕大風將ニ小雅ニ、一字盡千金。〔權德輿、馬秀才草書歌〕變化縱橫出ニ新意ニ、眼看一字千金貴。〔吳融、贈ニ謦光上人ニ草書歌〕不レ繫ニ知之與ニ不レ知、須レ言一字千金値。〔通俗編、文學、一字直ニ千金ニ〕王獻之帖、揚州一老母、惠ニ臣一餐ニ、無ニ以答ニ其意ニ、臣作ニ一字ニ、令ニ就ニ市儥ニ、近觀者ニ、遠觀者ニ、未レ經ニ數日ニ、遂獲ニ千金ニ。

【一字疊用】822 イチジデフヨウ 詩學用語。一つの詩の中に同一文字を幾度も用ひること。例へば、宋の張橫渠の芭蕉詩、芭蕉心盡展ニ新枝ニ、新卷ニ新心ニ、暗心隨ニ願學ニ新心ニ、長ニ新德ニ、旋隨ニ新葉ニ起ニ新知ニ、の類。

【一字褒貶】823 イチジハウヘン 一字の使ひわけで、人をほめたり、けなしたりすること。春秋の筆法。〔杜預、春秋左氏傳集解序〕春秋雖レ以ニ一字ニ爲ニ褒貶ニ、然皆須ニ數句ニ以成ニ言ニ。〔疏〕褒則書ニ字、貶則稱ニ名、褒貶在ニ於一字ニ、褒貶雖レ在ニ一字ニ、不レ可ニ單ニ書一字ニ以見ニ褒貶ニ上。〔無名氏、太學壁經賦〕欲ニ昭ニ明於六書ニ、先褒ニ貶於一字ニ。〔李商隱、獻ニ寄舊府開封公ニ詩〕幕府三年遠、春秋一字褒。〔方干、酬ニ孫發ニ詩〕從來一字爲ニ褒貶ニ、二十八言猶太多。〔故事成語考、文事〕榮ニ於華袞ニ、乃春秋一字之褒、嚴ニ于斧鉞ニ、乃春秋一字之貶。

【一字百金】824 イチジヒヤクキン 一字千金に同じ。〔西京雜記、三〕公孫弘著ニ公孫子ニ、言ニ刑名事ニ、亦謂ニ字直ニ百金ニ。〔世說新語補、文學上〕揚子雲以爲、一出一入、字直ニ百金ニ。〔杜甫、李潮八分小篆歌〕八分一字直百金、蛟龍盤拏肉屈強。

【一字百練】825 イチジヒヤクレン 詩文の一字一字を十分に推敲すること。〔劉後村詩話〕謝康樂一字百練、乃出冶。

【一字不說】826 イチジフセツ 〔佛が體得した法は、文字言語では說きつくせぬといふこと。〔楞伽經、三〕我從ニ某夜得ニ最正覺ニ、乃至ニ某夜入ニ般涅槃ニ、於ニ其中間ニ、乃至不レ說ニ一字ニ。

【一字萬同】827 イチジマンドウ 書道用語。書に變化のないこと。〔竇臮、述書賦下〕虔禮凡草閭閻之風、千紙一類、一字萬同。

【一字弄蝶】828 イチジロウテフ 蝶の名。鱗翅類に屬す。翅は黑褐色で、小白點を有す。幼蟲は稻苞蟲といつて、稻を害す。

【一字王佛】829 イチジワウブツ 陳州に在る孔子の像をいふ。もと文宣王と記してあつたが、文宣の二字が剝脫して、王の一字が殘つてから、佛家が之に附會して一字王佛と言つたもの。〔雞肋篇〕〔陳州城下有ニ厄臺ニ、乃夫子絶レ糧之地、今其中有ニ一字王佛ニ云、是孔子像、舊榜ニ文宣王ニ、因ニ風雨沈剝ニ、但存ニ一字王ニ、而釋氏傳ニ會之ニ、爲ニ一字王佛ニ、其侍者冠服、猶ニ是顏淵之狀ニ。

【不レ易ニ一字】830 イチジカヘズ 文を作る際に、最初の草稿のままで一字もかへない。作文の巧みなのをいふ。〔唐書、文藝上、王勃傳〕勃屬レ文、初不ニ精思ニ、先磨ニ墨數升ニ、則酣飮、引ニ被覆ニ面臥、及レ寤援レ筆成レ篇、不レ易ニ一字ニ、時人謂ニ勃爲ニ腹藁ニ。

【不レ失ニ一字】831 イチジヲウシツ 一字もまちがはない。記憶のよいこと。〔魏志、王粲傳〕背而誦レ之、不レ失ニ一字ニ。〔唐書、蔣乂傳〕口以誦レ補、不レ失ニ一字ニ。

【不レ留ニ一字】832 イチジヲモトドメズ 草稿の文句を一字も留め殘さぬ程に修正する。文章の推敲が丁寧精密なこと。〔捫蝨新話、文章博遠貴ニ於精工ニ〕世傳、歐陽公平昔爲ニ文章、每草就ニ紙上ニ淨訖、卽粘ニ掛齋壁ニ、臥興看レ之、屢思屢改、至レ有ニ終篇不レ留ニ一字ニ者ニ、蓋其精如レ此。

【一字害一句】833 i² tzŭ⁴ hai⁴ i² chü⁴ 詩文中の一字の爲に、一句全體が惡くなること。

【一寺】834 イチジ 一つのてら。一刹。〔白居易、寄二韜光禪師一詩〕一山門作二兩山門一、兩寺原從二一寺一分。〔張祜、題二虎丘西寺一詩〕囂塵楚城外、一寺枕レ通波。〔眞山民、道逢二過軍一投二宿山寺一詩〕蟋蟀數聲雨、芭蕉一寺秋。

【一次】835 イチジ ❶一ぺん。一回。一度。〔宋史、選擧志一〕遂詔更行二科擧一一次。〔李元陽、白崖畢鉢羅窟志〕毎月十五夜、換レ橋一次、不レ知二其因一。❷第一次の略。第一番目。はじめ。

【一次函數】836 イチジカンスウ 變數の一乘より高い冪を含まない有理式で表はされる函數。

【一次方程式】837 イチジハウテイシキ 一乘冪の未知數を含み、それ以上の乘冪の未知數を含まない方程式。

【一次錯了回回兒錯】838 i² tz'ŭ⁴ ts'uo⁴ la¹ huei² huei² êrh ts'uo⁴ 一度間違へば、癖になつて度々間違ふ。一度失錯があれば、何時も失錯と見られる。

【一似】839 イチジ 類似の。似寄つた。〔讀書作文譜、文中用字法〕一似、難二直言一而爲二摩擬一之辭。

【一事】840 イチジ ❶一つの事柄。一つの事件。一件。一著。〔公羊、僖、五〕一事而再見者、前レ目而後レ凡也。〔穀梁、昭、十二〕一事注二乎志一、所三以惡二楚子一也。〔呂覽、知度〕敬二守一事一。〔何遜、聊作二百一體一詩〕萬途皆自僻、一事豈他褒。❷弓一張り、又は矢五十本の稱。〔令義解、宮衞令〕凡儀仗軍器、十事以上、謂弓一張、箭五十隻、各爲二一事一。

【一事頻受】841 イチジヒンジュ 裁判官が一訴訟について度々收賄すること。〔唐律、名例、疏義〕或斷二一人之事一、頻受二其財一、是爲二一事頻受一。

【一事無レ成】842 イチジナルナシ 何事も成就したことがない。何一つ仕とげぬ。〔白居易、除夜寄二元微之一詩〕鬢毛不レ覺白毿毿、一事無レ成百不レ堪。〔故事成語考、人事〕事皆拂レ意、曰二一事無一レ成。

【一事不再理】843 イチジフサイリ 法律上、確定判決を經た事件は、再び審理せぬといふ原則。

【一事精百事精】844 i² shih⁴ ching¹ po² shih⁴ ching¹ 一事に精通すれば百事に精通する。

【一事分爲二二罪一】845 イチジニザイトナルワカレテ 一つの犯罪行爲から、二つの犯罪を構成すること。〔唐律、名例〕其一事分爲二二罪一、罪法若等則累論。

【一事不レ知以爲二深恥一】846 イチジシラザレバモツテシンチトナス 一つの物事でも知らぬことを深い恥と思ふ。〔陔餘叢考、成語〕一事不レ知、以爲二深恥一、晉書、陶淵明謂二范隆一曰、一物不レ知、君子之恥。

【一兒】847 イチジ 一人の子供。〔列子、湯問〕孔子東游、見二兩小兒辯鬭一、問二其故一、一兒曰、我以、日始出時、去レ人近、而日中時遠也、一兒以、日初出遠、而日中時近也。〔晉書、衞玠傳〕王家三子、不レ如二衞家一兒一。〔顏氏家訓、教子〕齊朝有二一士大夫一、嘗謂レ吾曰、我有二一兒一、年已十七、頗曉二書疏一。

【一時】848 イチジ ❶四季の一。三箇月。〔杜預、春秋左氏傳序、以レ月繫レ時、疏〕三月乃爲二一時一。〔國語、周語上〕三時務レ農、而一時講レ武。〔注〕一時、冬也。〔漢書、元帝紀〕以妨二百姓一、使レ失二一時之作一、亡二終歲之功一。〔白居易、禽蟲十二章詩〕疑有二鳳凰一頒二鳥曆一、一時一日不二參差一。❷其の當時。同時代。〔漢書、魏相傳〕四人各主二一時一。〔後漢書、班超梁瑾傳論〕亦一時之志士也。〔宋史、孫㑥傳〕名傾二一時一。❸あるとき。かつて。〔法華經、序品〕一時佛住二王舍城耆闍崛山中一。❹ひととき。〔孟子、公孫丑下〕彼一時、此一時也。〔荀子、正名〕其累二百年之欲一、易二一時之嫌一。〔晉書、慕容暐載記〕觀二其君臣相得一、自謂千載一時。〔杜甫、可歎詩〕古往今來共一時、人生萬事無レ不レ有。〔司空圖、力疾山下吳邨看二杏花一詩〕更願狂風知二我意一、一時吹向海西頭。❺八刻二十分。約二時間。〔漏刻經〕一日一夜、通計一百刻、每八刻二十分爲二一時一。❻i⁴ shih² ちよつと。急には。直ぐには。〔紅樓夢、四回〕卻十分面善、只是一時想不二起來一。

【一時榮】849 イチジノエイ 其の當時のほまれ。〔舊唐書、李光弼傳〕鼎味就レ養、甲第並開、往來追歡、極二一時之榮一。

【一時間】850 イチジカン ❶六十分をいふ。❷i⁴ shih² chien 少時間。一瞬時。暫時。

【一時金】851 イチジキン 特定の原因で退職した官公吏等に、一回時限り給與する金。

【一時星】852 イチジセイ 變光星(**10－36117‥135**)に同じ。

【一時選】853 イチジノセン 當時衆人中から選び出された秀でた人。〔唐書、韋抗傳〕他所二辟擧一、如二王維・王縉・崔殷等一、皆一時選云。

【一時拂】854 イチジバラヒ 金額を一時に支拂ふこと。

【一時利】855 イチジノリ 其の時限りの便益、又は利得。〔莊子、秋水〕夫知不レ知レ論二極妙之言一、而自適二一時之利一者、是非二埳井之鼃一與。〔史記、晉世家〕奈何以二一時之利一、而加二萬世功一乎。〔晉書、慕容暐載記〕趣二一時之利一哉。

【一時恩給】857 イチジオンキフ 在職年數が未だ恩給年限に達しない者の退職した時に給與する一時賜金。〔恩給法、第六十七條〕。

【一時之觀】858 イチジノクワン 一ときのながめ。其の時だけの體面。〔漢書、劉向傳〕說二愚夫之目一、隆二一時之觀一。

【一時之傑】859 イチジノケツ 其の時代にあつて特に秀でた人。一世之雄。〔蜀志、鄧芝傳〕諸葛亮亦一時之傑也。

【一時之權】860 イチジノケン 臨機應變の處置。〔韓非子、難、一〕文公之霸也宜哉、既知二一時之權一、又知二萬世之利一。〔淮南子、人閒訓〕文公曰、咎犯之言、一時之權也、雍季之言、萬世之利也。

【一時之說】861 イチジノセツ 其の時一時を救ふに役立つ議論。〔史記、晉世家〕先軫曰、軍事勝爲レ右、吾用レ之以勝、然此一時之說、偃言萬世之功。

【一時之善】862 イチジノゼン 其の時代に於ける善人。〔舊唐書、李懷遠等傳論〕貴不レ衒二於故鄕一、無レ改二陋居一、常乘二劣馹一、亦一時之善矣。

【一時之務】863 イチジノツトメ 其の時一時だけに役立つやり方。〔呂覽、義賞〕文公曰、雍季之言、百世之利也、咎犯之言、一時之務也。〔注〕務、猶レ事。

【一時賜金】864 イチジシキン 其の時限りの下賜金。年金(**4－9168‥59**)の對。

【一時半時】865 i⁴ shih² pan⁴ shih² 僅かの時間。

【一時名流】866 イチジノメイリウ 其の時代の名高い人々。當代の名士仲間。〔世說新語、品藻〕孫興公・許玄度、皆一時名流。

【一時雄兒】867 イチジノユウジ 一代に於ける英雄。〔魏志、鄧艾傳〕姜維自一時雄兒也、與レ某相値、故窮耳。

【一時之毀譽】868 イチジノキヨ 一時のそしりやほまれ。〔列子、楊朱〕矜二一時之毀譽一、以焦二苦其神形一。

【一時扶助料】869 イチジフジヨレウ 恩給年限に達しない官吏が、在官中に死亡した時、遺族に給與せられる一時金。

【一時拂貸附】870 イチジバラヒカシツケ 償還期限がくると全額を一時に支拂ふといふ約束の下に行はれる貸附をいふ。

【一時拂保險】871 イチジバラヒホケン 全保險期間に對する保險料を、全額一時に支拂ふ保險。

【一辭】872 イチジ ❶ひとことば。一言。不レ能レ贊二一辭一を見よ。〔淮南子、繆稱訓〕通二於一伎一、察二於一辭一。❷ひとたび辭退する。❸ひとたび歸り去る。〔禮、表記〕故君子三揖而進、一辭而退。〔劉禹錫、訓二崔員外一詩〕一辭二御苑一青門去。〔蕭鈞、晚景遊泛懷レ友詩〕一辭二金谷苑一、空想二竹林遊一。

【不レ能レ贊二一辭一】873 イチジヲサンスルアタハズ 一言も助け添へることの出來ぬ程の絕妙な文章。〔史記、孔子世家〕筆則筆、削則削、子夏之徒、不レ能レ贊二一辭一。〔曹植、與二楊德祖一文〕游夏之徒、乃不レ能レ措二一辭一。

【一辭二故國一十經レ秋】874 ヒトタビココクヲジシトタビアキヲヘタリ 故鄕を出て十年になるのをいふ。〔杜甫、解悶詩〕一辭二故國一十經レ秋、每レ見二秋瓜一憶二故丘一、今日南湖采二薇蕨一、何人爲覓鄭瓜州。

【一舟】875 イッシウ 一艘の舟。一船。〔王昌齡、送二竇七一詩〕淸江月色傍二林秋一、波上熒熒望二一舟一。〔白居易、入レ峽次二巴東一詩〕萬里王程三峽外、百年生計一舟中。〔賈島、送下獨孤馬二秀才居二明月山一讀書上詩〕寂寥窗戶外、時見二一舟還一。〔宋史、張浚傳〕時長江無下一舟敢行二北岸一者上、浚乘二小舟一徑進過二池陽一。

【一舟之覆無二一物而不一レ沈】876 イッシウノクツガヘルイチブツトシテシヅマザルナシ 舟が覆れば、中の物は皆沈む。附屬の物は皆其の主體に從ふ喩。〔庾信、擬連珠〕一馬之奔、無二一毛而不一レ動、一舟之覆、無二一物而不一レ沈。

【一周】877 イッシウ ひとめぐり。一週。〔管子、弟子職〕受レ業之紀、必由レ長始、一周則然。〔呂覽、圜道〕日夜一周、圜道也。〔漢書、翟方進傳、旬歲間、注〕

師古曰、旬歲、猶レ言二滿歲一也、若二十日之一周一。

【一周忌】878 佛 一回忌(405)に同じ。小祥忌(4—7473‥611)を見よ。〔蔭涼軒日錄、寬正五年九月二十八日〕來八月八日、勝知院殿一周忌御佛事。

【一周闋】879 佛 一周忌に同じ。闋は、次の一周との境目の日。

【一周遭】880 一周する。ひと廻り。〔正字通〕僣、方言、一周曰二一僣一、俗通用レ遭。

【一周年】881 まる一年。一週年。

【一洲】882 一つのなかす。又、なかす全體。〔于武陵、南遊有レ感詩〕東風千嶺樹、西日一洲蘋。〔張泌、秋晚過二洞庭一詩〕千里晚霞雲夢北、一洲霜橘洞庭南。〔范成大、昌化詩〕翠染南山擁二縣門一、一洲橫截兩溪分。

【一秋】883 ㊀ひと秋。〔史記、天官書〕風從二西北一來、必以二庚辛一、一秋中、五至大赦、三至小赦。〔杜甫、留二別賈嚴二閣老兩院補闕一詩〕一秋常苦レ雨、今日始無レ雲。㊁一年。〔陸游、夜步詩〕鶴歸二遼海一逾二千歲一、楓落二吳江一又一秋。㊂淸、沈澄(6—17189‥295)の字。

【一就】884 采色の一通り完備すること。就は成、一說に、帀。〔周禮、春官、典瑞〕五采五就。〔注〕就、成也、云云、司農云、五就、五帀也、一帀爲二一就一。〔孫詒讓正義〕先鄭云二一帀一者、亦謂二衆采一周一也、帀訓レ周、與二成訓一レ備義同、先鄭以二一帀一爲二一周一、猶下後鄭以二一成一爲中一就上也。〔周禮、春官、典瑞〕皆二采一就、以頫聘。〔禮、禮器〕大路、繁纓一就。

【一週】885 ㊀ひとめぐり。一周(877)の㊀に同じ。〔玉篇〕週、與レ周同。㊁日月火水木金土の七曜日。㊂ i⁴ chou¹ 一周年。

【一式】886 ㊀ひとそろひ。㊁ひといろで他をまじへぬ。

【一失】887 一つの失策。わづかな失敗。〔史記、淮陰侯傳〕臣聞、智者千慮、必有二一失一。〔晉書、禮志上〕勝二人之一失一。

【一室】889 ㊀一つのへや。ひとへや。又、ある室。一房。〔管子、小稱〕四子作レ難、圍二公一室一、不レ得レ出。〔說苑、雜言〕一室之中、必有二主道一焉、父母之謂也。〔後漢書、陳蕃傳〕大丈夫處レ世、當三掃二除天下一安二事一室一乎。〔風俗通、愆禮〕何有下藏二一室中一不レ出二戶庭一以レ此爲上レ高。㊁同じ部室。〔禮、玉藻〕一室之人、非二賓客一、一人徹也。〔注〕同レ事合居者也。

【一日】890 ㊀朝から晚まで。ひねもす。一日中。一晝夜。〔六書故〕日、日出而晝、入而夜、故一晝夜謂二之一日一。〔書、洪範、三曰日、傳〕紀二一日一。〔疏〕從二夜半一以至二明日夜半一、周二十二辰一爲二一日一。〔論語、里仁〕有三能一日用二其力於仁一矣乎、我未レ見二力不レ足者一。〔周髀算經〕日復日爲二一日一。〔注〕從レ旦至レ旦、則爲二一日一。㊁短時日。〔公羊、文、九〕民臣之心、不レ可二一日無レ君。〔韓非子、存韓〕欲三西面行二其意一、非二一日之計一也。〔晉書、王徽之傳〕徽之但嘯詠、指レ竹曰、何可三一日無二此君一耶。㊂或る日。某日。〔韓愈、太學生何蕃傳〕一日揖二諸生一。㊃昨日。〔後漢書、李充傳〕一日聞、足下與二鄧將軍一說レ士未レ究。〔注〕一日、猶二昨日一也。㊄月の初めの日。朔日。

【一日經】891 佛 多勢集まつて一部の經文を一日に書き了はること。頓寫。

【一日還】892 一日で歸り着く。〔李白、早發二白帝城一詩〕朝辭白帝彩雲閒、千里江陵一日還。

【一日祭】893 宮中に於て、一月一日の朝、賢所・皇靈殿・神殿にて行はせられる歲首の祭典。

【一日齋】894 月に一日、日をきめて精進し、淸淨に暮すこと。

【一日市】895 越中國の地名。

【一日地】896 一人で一日に耕作し得る土地。中國の六畝をいふ。

【一日程】897 一日に到達し得る道のり。〔盧綸、晚次二鄂州一詩〕猶是孤帆一日程。〔楊萬里、答二章漢直一詩〕五湖烟水三冬臥、萬里雲霄一日程。

【一日冬】898 夜をいふ。〔眞德秀、夜氣箴〕冬爲二四時之夜一、而夜乃一日之冬。

【一日佛】899 佛 一日淸淨に暮して、其の閒、佛となる。〔宗鏡錄、二十三〕一念相應一念佛、一日相應一日佛。

【愼二一日一】900 一日をつつしむこと。一日一日をつつしむ。〔呂覽、觀世〕愼二一日一、以終二其世一。〔淮南子、人閒訓〕戰戰慄慄、日愼二一日一、人莫レ蹪二於山一、而蹪二於垤一。

【一日一周】901 i² jih⁴ i⁴ chou¹ ㊀一日に一周する。毎日新規に改まる。㊁太陽をいふ。

【一日一夜】902 一晝夜。〔安樂集下引淨度菩薩經〕人生二世閒一、凡經二一日一夜一、有二八億四千萬念一。

【一日九回】903 非常に苦しむこと。一日腸九回の略。回、一に迴に作る。〔漢書、司馬遷傳〕腸一日而九回。〔倪瓚、風雨詩〕燈影半窗千里夢、泥途一日九迴腸。

【一日九遷】904 一日の閒に官が九度進む。大いに君主の寵を蒙ること。〔易林〕一日九遷。〔蔡邕、薦三太尉董卓可二相國一云云章表〕世宗之時、田千秋有二神明感動一、至下一言以寤二聖聽一、悟二聖德一、昭中發上心上、故有二一日九遷一。〔任昉、爲二范尚書一讓二吏部封侯一第一表〕雖二千秋之一日九遷、荀爽之十旬遠至一、方二之微臣一、未レ爲二速達一。

【一日三時】905 佛 晨朝・日中・黃昏の總稱。晝を三時、夜を三時に分けるのは、印度古代の風習。〔阿彌陀經〕晝夜六時、而雨二曼陀羅華一。

【一日三秋】906 一日逢はねば、三年も逢はぬやうに思慕の情の切なること。まちこがれる。一日千秋。〔詩、王風、采葛〕彼采レ蕭兮、一日不レ見、如二三秋一兮。〔故事成語考、人事〕一日三秋、言二思慕之甚切一。

【一日之憂】907 短時日の憂。ひと時の心配。〔荀子、法行〕有二終身之樂一、無二一日之憂一。

【一日之雅】908 少しの交際。餘り深くない交。雅は素、素はもとからの交の意。一面之雅。〔漢書、谷永傳〕永斗筲之材、質薄學朽、無二一日之雅、左右之介一。〔注〕師古曰、雅、素也、介、紹也、言下非二宿素之交一、又無中介紹而進上也。

【一日之歡】909 短時日のよろこび。〔列子、楊朱〕生無二一日之歡一、死有二萬世之名一。

【一日之孤】910 在位期間の短い天子。〔史記、秦始皇紀贊〕以責二一日之孤一誤哉。〔注〕集解曰、日、音馹、一日之孤、謂二子嬰一。

【一日之長】911 ㊀少しく年齡の多いこと。一日さきに生れた意。〔論語、先進〕以三吾一日長二乎爾一、毋二吾以一也。㊁少し優れてゐる先輩。〔唐書、王珪傳〕臣於二數子一、有二一日之長一。

【一日之樂】912 短時間の樂しみ。〔孔子家語、在厄〕有二終身之憂一、無二一日之樂一。

【一日之利】913 一日だけの利益。〔續近世叢語、方正〕生有レ益二于人一者、一日保二殘喘一、則兆民有二一日之利一。

【一日千秋】914 一日三秋に同じ。

【一日千里】915 ㊀駿馬が一日千里を走ることをいふ。又、鳥などが一日に千里を飛ぶことにもいふ。〔商子、畫策〕麗麗巨巨、毎二一日一走二千里一。〔荀子、君道〕致レ遠者、一日而千里。〔呂覽、貴卒〕所レ爲レ貴二驥者一、爲二其一日千里一也。〔史記、秦紀〕徐偃王作レ亂、造父爲二繆王御一、長驅歸レ周、一日千里、以救レ亂。〔史記、項羽紀〕吾騎二此馬一五歲、所レ當無レ敵、嘗一日行二千里一、不レ忍レ殺レ之。〔漢書、王莽傳下〕或言、能飛一日千里、可レ窺二匈奴一、莽輒試レ之、取二大鳥翮一爲二兩翼一、頭與レ身皆著レ毛、通二引環紐一、飛數百步墮。㊁才の特にすぐれたのに喩へる。〔後漢書、王允傳〕同郡郭林宗、嘗見レ允而奇レ之曰、王生一日千里、王佐才也。〔魏書、宋弁傳〕弁才學儁瞻、少有二美名一、高祖初、會至二京師一、見二尚書李沖一、因言論移レ日、沖竦然異レ之、退而言曰、此人一日千里、王佐才也。㊂水の流の急なこと。又、文章を作るに速かなこと。〔李白、早發二白帝城一詩〕朝辭白帝彩雲閒、千里江陵一日還。〔蘇軾、雜說〕吾文、如二萬斛泉源一、不レ擇レ地皆可レ出、在二平地一滔滔汩汩、雖二一日千里一無レ難。

【一日必葺】916 家屋の破壞は直ぐにも修理すべきことをいふ。〔大學衍義補、備規制、宮闕之居〕宋太宗開寶二年、詔曰、一日必葺、昔賢能事。

【一日片時】917 僅かの時間。暫時。ほんの束の閒。〔心中二枚繪草紙、血死期道行〕せめて一日片時なりとも。

【一日計在レ晨】918 其の日の計畫は朝の閒に立てよ。〔梁元帝纂要〕一年之計在二于

春二一日之計在一于晨一。

【一日難二再晨一】919 イチニチフタタビアシタナリガタシ 一日の中に、朝は二度とは來ぬ。時の過ぎ易くして、再び來ぬのをいふ。〔陶潛、雜詩〕盛年不二重來一、一日難二再晨一、及レ時當二勉勵一、歲月不レ待レ人。

【一日雞二日狗】920 イチニチハケイニジツハク 正月一日を雞日、二日を狗日といふ。〔通俗編、時序、一日雞二日狗〕北史魏收傳、引二董勛答問禮俗一曰、正月一日爲レ雞、二日爲レ狗、三日爲レ猪、四日爲レ羊、五日爲レ牛、六日爲レ馬、七日爲レ人、按、諸惟人日爲三古今所二盛稱一、雞日則呂居仁有下避地逢二雞日一句上、其餘未レ經二人用一、今語又增レ之曰、八日爲レ穀、九日爲レ蠶、不レ見二出處一。

【一日三三日九】921 i² jih⁴ san¹ san¹ jih⁴ chiu³ 一日また一日と日を累ねること。

【一日二日萬幾】922 イチニチフツカニバンキ 人君の倦怠を戒めた語。一日二日の間にも色々の事が起るから、人君は戒愼しなければならぬ。幾は微、事の發動する機。〔書、皐陶謨〕兢兢業業、一日二日萬幾。〔傳〕幾、微也、言レ當三戒二愼萬事之微一。〔蔡傳〕一日二日者、言二其日之至淺一、萬幾者、言二其幾事之至多一也。

【一日快活敵二千年一】923 イチニチクワイクワツナレバセンネンニテキス 一日快活に過せば、無事の千年にも匹敵する。〔北史、恩幸、和士開傳〕說二武成一云、自レ古帝王盡爲二灰土一、堯舜桀紂、竟復何異、陛下宜下及二少壯一、恣レ意作レ樂、從橫行上レ之、卽是一日快活敵二千年一。〔通俗編、時序、一日快活敵二千年一〕北史和士開傳、說二武成帝一云。

【一日黃塵三日雨】924 i² jih⁴ huang² ch'ên² san¹ jih⁴ yü³ 北風が一日黃沙を吹き飛ばした後には、三日閒雨が降り續く。湖南省の俗諺。

【一日不レ見鄙悋生】925 イチニチミザレバヒリンシヤウズ 一日其の人に逢はぬと、卑劣な根性が生ずる。唐の陸象先が賀知章を稱した語。〔舊唐書、賀知章傳〕陸象先常謂レ人曰、賀兄言論倜儻、眞可レ謂二風流之士一、吾與二子弟一離闊、都不レ思レ之、一日不レ見二賀兄一、則鄙悋生矣。

【過二得一日一過二一日一】926 イチニチヲスゴシエテイチニチヲスゴス 一日一日と無事に其の日をすごす。〔通俗編、時序、過二得一日一過二一日一〕劍南集、醉中信レ筆詩、過二得一日一過二一日一、人閒萬事不レ須レ憂。

【愼二一日一以終二其世一】927 イチニチヲツツシミテモツテソノヨヲヲフ 一日一日をつつしんで行つて、完全に其の一生を終へる。〔呂覽、觀世〕愼二一日一、以終二其世一。

【一日十二時始二於漢一】928 イチニチジフニジカンニハジマル 一日を十二時に分けるのは、漢代に始まる。〔陔餘叢考、一日十二時始二於漢一〕古時本無二一日十二時之分一、左傳卜楚邱曰、日之數十、故有二十時一、是言二一日只十時一也、云云、其以二一日一分二十二時一、而以二干支一爲レ紀、蓋自下太初改二正朔一之後上、歷家之術益精、故定二此法一。

【一日縱レ敵數世之患】929 イチニチテキヲユルスハスウセイノウレヘ 僅か一日敵をゆるすと、數世まで患を遺す。〔左氏、僖、三十三〕先軫曰、吾聞レ之、曰、一日縱レ敵、數世之患也。

【一日脫レ膊三日齷齪】930 イチニチハクヲダツシサンニチアクサクス 陰曆十二月に一日暖い日があるのは、大寒の兆候であるといふ諺。膊は上肢。脫膊は肌をぬぐこと。暖い形容。齷齪は寒さにちぢまること。〔通俗編、時序、一日脫レ膊三日齷齪〕見二陸泳吳下田家志一、婁氏五行雜占、十二月謂二之大禁月一、忽有二一日稍煖一、卽爲二大寒之候一、故諺云云。

【一日暴レ之十日寒レ之】931 イチジツコレヲアタタメテジフジツコレヲヒヤス 一日あたためて十日ひやす。一日勤めて十日怠る。修養する所の少い喩。又、一方で努力して一方で打破る喩。一暴十寒(2615)を見よ。〔孟子、告子上〕一日暴レ之、十日寒レ之。〔集注〕暴、溫レ之也、我見レ王之時少、猶二一日暴一レ之也、我退則諂諛雜進之日多、是十日寒レ之也、雖レ有二萌櫱之生一、亦安能如レ之何哉。

【一日不レ作一日不レ食】932 イチニチナサザレバイチニチクラハズ 一日働かなければ一日食べない。唐の懷海禪師が常に衆に先んじて勞に服し、仕事を休んだ日には食はなかつた故事。〔五燈會元〕百丈懷海禪師、凡作レ務執レ勞、必先二于衆一、主者密收二作具一、息レ之、師既徧求二作具一不レ獲、而亦忘レ餐、故有二一日不レ作一日不レ食之語一。〔野客叢書〕今俗語謂二一日不レ作一日不レ食、而趙世家已曰二一日不レ作百日不レ食。

【一日不レ作百日不レ食】933 イチニチナサザレバヒヤクニチクラハレズ 農夫が一日耕作を休めば、百日閒の食物を失ふ。〔史記、趙世家〕肅侯游二大陵一、出二於鹿門一、大戊午扣レ馬曰、耕事方急、一日不レ作、百日不レ食、肅侯下レ車謝。〔說苑、建本〕一日不レ稼、百日不レ食。

【一日不二力作一一日食不レ足】934 イチニチリキサクセザレバイチニチノショククラズ 農夫が一日でも耕作に力めないと、直ちに一日だけの食物が不足する。〔趙孟頫、題二耕織圖一二十四首奉二懿旨一撰耕十二月詩〕一日不二力作一、一日食不レ足、慘澹歲云莫、風雪入二破屋一。

【一實】935 イチジツ ❶一つの實。〔異苑〕王濬園生レ瓜、三莖一實。❷一たび實る。〔述異記、上〕有二桃樹一、千圍、萬年一實。❸同一。全く等しい。一說に、其の實は一つであるの意。〔呂覽、振亂〕攻伐之與二救守一一實也。〔注〕攻伐欲レ陷レ人、救守欲レ完レ人、其實一也。〔淮南子、精神訓〕有二天下一、無二天下一、一實也。〔注〕實、等。〔論衡、累害〕君子之累害、與三彼不育之物、不御之飯一、同一實也。❹佛眞如のこと。一眞。一は平等の義。〔三藏數、四〕一實諦、謂二一實相中道之理一也、無レ有二虛妄一、無レ有二顚頭一、名二一實諦一也。

【一實觀】936 イチジツクワン 佛一實の觀法。〔寶積經、百十皆二〕百千萬劫、久習二結業一、以二一實觀一、卽消滅。

【一實乘】937 イチジツジヨウ 佛一實の理を說く教法。

【一實境界】938 イチジツキヤウカイ 佛一實の悟の境界。〔占察經、下〕一實境界者、謂三衆生心體、從レ本以來、不生不滅、自性清淨、無障無礙、猶レ如二虛空一。

【一襲】939 イツシフ 衣服ひとかさね。一稱。一副。〔史記、叔孫通傳〕賜二叔孫通帛二十匹・衣一襲一。〔注〕索隱曰、案、國語、謂二之一稱一、賈逵案、禮記、袍必有レ表、不二單衣一、必有レ裳、謂二之一稱一、杜預云、衣單複具云レ稱也。〔漢書、叔孫通傳、注〕師古曰、一襲、上下皆具也。〔漢書、昭帝紀〕賜二衣被一襲一。〔注〕師古曰、一襲、一稱也、猶三今言二一副一也。

【一十】940 イチジフ 十をいふ。一百・一千といふの類。〔漢書、食貨志下〕次七分三銖、曰二幺錢一十一。

【一十百千萬】941 イチジフヒヤクセンマン 數詞。〔漢書、律歷志上〕數者、一十百千萬也、所下以算二數事物一、順中性命之理上也。

【一些】942 イツシヤ 少々。少しばかり。〔明儒學案、王門學案〕儀秦學術、善揣二摸人情一、無二一些不レ中二人肯綮一。

【一些兒】943 i⁴ hsieh¹ êrh 僅か。すこし。

【一些些】944 i⁴ hsieh¹ hsieh 少しばかり。些少。

【一車】945 イツシヤ ❶一臺の車。車一臺。〔孟子、告子上〕猶下以二一杯水一、救中一車薪之火上也。❷車一臺だけの荷物。〔孔叢子、公儀〕子思居レ貧、其友有下饋二之粟一者上、受二一車一焉。

【一車書】946 イツシヤノシヨ 車一臺に積んだ書物。〔晉書、皇甫謐傳〕自表就レ帝借レ書、帝送二一車書一與レ之、謐雖レ嬴二疾一、而披閱不レ怠。

【一舍】947 イツシヤ ❶三十里。一日の行程。軍隊一日の行程は、三十里で一泊するからいふ。舍(9-30278)の字解を見よ。〔皮日休、初入二太湖一詩〕一舍行二胥塘一、盡日到二震澤一。❷一つの星宿。〔史記、天官書〕五星皆從而聚二於一舍一。

【一寫】948 イツシヤ ひとうつし。一たびうつす。〔北史、齊文宣帝紀〕帝乃鑄レ象以トレ之、一寫而成。

【一寫當二十讀一】949 イツシヤハジフドクニアタル 文を一度書き寫すのは、十遍讀むのと同じ效果が有る意。〔太平御覽、學部、晚學〕桓子新論曰、高君孟頗知二律令一、嘗自伏寫レ書、署郎哀二其老一、欲レ代レ之、不レ肯云、我躬自寫、乃當二十遍讀一。〔鶴林玉露、手寫九經〕唐張參爲二國子司業一、手寫二九經一、每言、讀レ書不レ如レ寫レ書、高宗以二萬乘之尊、萬機之繁一、乃亦親灑二宸翰一、遍寫二九經一、雲章爛然、終始如レ一、自レ古帝王所レ未レ有也、又嘗御二書漢光武紀一、賜二執政徐俯一曰、卿勸三朕讀二光武紀一、朕思、讀十遍不レ如二寫一遍一、今以賜レ卿、聖學之勤如レ此。

【一瀉】950 イツシヤ ひとたびそそぐ。又、一緒にそそぐ。〔沈約、八詠、被レ褐守二山東一詩〕兩溪共一瀉、水潔望如レ空。〔曾肇、軍山廟碑記〕其旁飛瀑、一瀉千尺。

【一瀉千里】951 イツシヤセンリ ❶流の疾いのを極言する語。一瀉百里。〔韓愈、貞女峽詩〕懸流轟轟射二水府一、一瀉百里翻二雲濤一。〔福惠全書、郵政、逐二娼妓一〕儼然峽裡輕舟、片刻一瀉而千里。❷河水が一たびそそいで千里を走るやうに、筆力・辯舌などの奔放快利な喩。

【一爿】952 i² pan⁴ 一片。一箇。

【一爿店】952′ i² pan⁴ tien⁴ 一商店。江蘇の方言。

【一牀】953 イッシャウ ❶一つの寢どこ。〔禮、喪大記〕設レ牀襢レ第、有レ枕、含一牀、襲一牀、遷二尸于堂一、又一牀、皆有二枕席一。〔白居易、昭國閑居詩〕獨在二一牀一眠、清涼風雨夕。❷一臺。重いものを數へる單位。〔北史、源賀傳〕弩一牀、給二牛六頭一。❸北齊の時、課税上の用語で、一夫一婦をいふ。〔文獻通考、田賦三〕已娶者則一牀、未レ娶者則半牀。〔通俗編、婦女、一牀〕讀禮疑圖、北齊賦レ民之法、以二一夫一婦一爲二一牀一。

【一牀書】954 イッシャウノショ ひとつの床の上の書物。僅かな書物。〔庾信、寒園卽目詩〕遊仙半壁畫、隱士一牀書。〔盧照鄰、長安古意〕寂寂寥寥揚子居、年年歲歲一牀書。

【一牀錦被蓋過】955 イッシャウノキンピガイクワス 過去のことは一切包み蔽つてまた問はぬこと。宋の酈瓊の故事。〔陔餘叢考、成語、一牀錦被蓋過〕宋史、酈瓊素與二王德一不レ睦、會張浚以レ瓊副、德爲二都統制一、瓊懼謂レ德曰、向來事二太尉一不レ周、今日乞二一牀錦被蓋過一、德不レ答、瓊遂叛降二劉豫一。

【一相】956 イッシャウ ❶一人の宰相。〔荀子、王霸〕君者論二一相一、陳二一法一、明二一指一。❷佛 イッサウ 物の一樣なすがた。眞如一實のさま。〔法華經、譬喩品〕是皆一相一種、聖所二稱嘆一。

【一相一味】957 イッサウイチミ 佛 一相とは、衆生の心體はもと一實の眞如なるをいひ、一味とは、如來の教法は一實の理をあらはすをいふ。〔文句、七上〕一相、衆生之心、同一眞如相、是一地也、一味者、一乘之法、同詮二一理一。

【一相三昧】958 イッサウサンマイ 佛 禪定の名。眞如の世界は差別なく平等一味であると觀ずること。一行三昧。〔六祖壇經〕若於二一切處一而不レ住レ相、於二彼相中一不レ生二憎愛一、亦無二取捨一云云、此名二一相三昧一。

【一晌】959 i⁴ shang³ ❶いつとき。暫くの時間。一餉(973)に同じ。❷地積の計算に用ひる語。十畝。我が國の五反九畝十五步三合一七に當る。

【一晌地】960 i⁴ shang³ ti⁴ 北滿洲地方で地積を表はす單位の名。我が國の約六反步に當る。

【一倡】961 イッシャウ ひとたびとなへる。〔史記、淮南王傳〕高祖始於二豐沛一一倡、天下不レ期而響應者、不レ可レ勝レ數也。

【一倡三歎】962 イッシャウサンタン ❶宗廟の祭祀に樂を奏する時、一人が發聲すると、三人がこれに和して歌ふこと。一は又、壹に作る。〔禮、樂記〕清廟之瑟、朱絃而疏越、壹倡而三歎、有二遺音一者矣。〔注〕倡、發二歌句一也、三歎、三人從歎レ之耳。❷詩などの上手なことを賞めるに用ひる語。倡、一に唱に作る。〔蘇軾、答二張文潛縣丞一書〕其文如二其爲レ人、故汪洋澹泊、有二一唱三歎之聲一。

【一倡百和】963 イッシャウヒャクワ 一人が言ひ出して、百人が之に聲を合せる。一人の說に衆人が贊成すること。又、雷同すること。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕郢書燕說、一倡百和。

【一唱】964 イッシャウ ひとたびうたふ。〔陸機、擬東城一何高詩〕一唱萬夫歎、再唱梁塵飛。〔任昉、九日侍二宴樂游苑一詩〕一唱華鍾石、再撫被二絲笙一。〔皮日休、練瀆詩〕幾轉含二烟舟一、一唱來二雲曲一。

【一唱三歎】965 イッシャウサンタン 一倡三歎を見よ。〔呂覽、適音〕清廟之瑟、朱弦而疏越、一唱而三歎、有下進二乎音一者上矣。〔淮南子、泰族訓〕朱絃漏越、一唱而三歎、可レ聽而不レ可レ快也。

【一淌】966 i⁴ t'ang³ 一度。ちよつと。〔紅樓夢、二十回〕不過偶然去他那裡一淌就說這話。

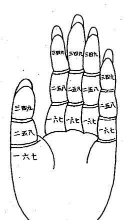
【一將】967 イッシャウ 一人の大將。〔尉繚子、制談〕百人一卒、千人一司馬、萬人一將。〔史記、秦紀〕桓公三年、晉敗二我一將一。〔張端、次三韻酬二馬國瑞都司一詩〕才難自レ古人興レ歎、一將賢二於萬里城一。

【一將功成萬骨枯】968 イッシャウコウナリテバンコツカル 一人の大將が功名を成す蔭には、多くの兵卒が命を棄ててゐる。功が徒らに將帥に歸するのをいふ。〔曹松、己亥歲詩〕澤國江山入二戰圖一、生民何計樂二樵蘇一、憑レ君莫レ話封侯事、一將功成萬骨枯。

【一章】969 イッシャウ ❶詩文のひとくぎり。〔易、乾、文言、乾元用九天下治也、注〕此一章、全以二人事一明レ之也。〔詩、豳風、東山序〕一章言二其完一也。❷一篇。〔孟郊、送二韓愈從軍一詩〕一章喩檄明、百萬心氣定。〔白居易、初與二元九一別云云悵然感懷因以レ此寄詩〕一章三遍讀、一句十廻吟。❸十九年をいふ。〔左氏、僖、五、日南至、疏〕計十九年而有二七閏一、古曆十九年爲二一章一、以二其閏餘盡一故也、步曆之始、以二朔旦冬至一爲二首曆之上元一、其年是十一月朔旦冬至、至二十九年一、閏餘盡、復得二十一月朔旦冬至一、故以二十九年一爲二一章一。〔周髀算經〕十九歲爲二一章一。

【一掌】970 イッシャウ ❶ひとつの手のひら。僅かな力の喩。〔後漢書、張儉傳論〕儉以二區區一掌一而欲三獨湮二江河一、終嬰二疾甚之亂一、多見三其不レ知レ量也。❷拔け出て聳える山の形容。〔張祜、題二杭州靈隱寺一詩〕峯巒開二一掌一、朱檻幾環延。〔吳萊、昭靈仙跡詩〕一掌嵯峨是玉京、連峯欲下向二鼎湖一傾上。❸草木の芽の形容。〔蘇軾、石芝詩〕土中一掌嬰兒新、爪指良具肌骨勻。

【一掌金】971 イッシャウキン 算法の名。手指に一定の數を配當して置いて、之を用ひて計算するもの。〔算法統宗、十三〕右圖、以二九數一置二於左手一、列爲二三行一、每指、左邊逆上一二三、中間順下四五六、右邊逆上七八九、以二五指一而定二位數一、大指爲レ百、二指爲レ十、中指爲レ兩、四指爲レ錢、五指爲レ分、或數大小亦可二權變一、算時、暗二於袖中一、用二左右兩手五指一、各指配合相對照、每指上定レ數、一二三、右指尖在二左指左旁一、四五六、右指尖在二左指中行一、七八九、右指尖在二左指右旁一、五指皆同務記二清白一、假如左右兩手中指搯、若下左中指右下爲レ七、錯記在二四指左一爲上一、此是以二前位七一而降二後位一一、數差悞非レ小、宜三謹二愼之一、如遇二位數多者一、二足底亦當二二位一、平立爲レ五、平指欹レ前爲レ四、平跟欹レ後爲レ六、側二於東南一爲レ三、側二於西南一爲レ九、欹二於東北一爲レ一、欹二於西北一爲レ七、學者須下依二暗讀一熟記上、自然慣便、不レ拘二乘除一、皆可レ用也。



一掌金定位圖
（曆法典）

【一掌風】972 イッシャウノカゼ 手のひら一ぱい程の風。微風をいふ。〔張碧、詩〕范蠡帆張一掌風。

【一餉】973 イッシャウ ❶一度食事する程の間。短い時間。一晌。片時。〔韓愈、醉贈二張祕書一詩〕雖レ得二一餉樂一、有レ如二聚飛蚊一。〔白居易、對レ酒詩〕一餉愁消直萬金。〔盧仝、感古詩〕萬世金石交、一餉如二浮雲一。❷軍の一給養。

【一餉時】974 イッシャウジ 一度食事をする程のわづかな時間。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕爲二陸行半日之程一、不二一餉時一而至。

【一上】975 イチジャウ ❶ひとたびのぼる。〔何遜、擬古聯句〕青山不レ可レ上、一上一惆悵。〔杜甫、白帝城詩〕江城含二變態一、一上一回新。❷イチノカミ 左大臣の異稱。太政官の事を總理したからいふ。一ノ大臣オトドともいふ。〔和漢三才圖會、官位部、左大臣〕孝德天皇大化元年、以二阿閉倉橋麿一爲二左大臣一、奉二行諸政一、故稱二一上一。

【一上手】976 i² shang⁴ shou³ 手始め。第一に着手する。最初に手を出す。

【一上一下】977 イチジャウイチゲ ❶或は上り、或は下る。〔呂覽、圜道〕精氣一上一下、圜周復雜、無レ所二稽留一。❷徹頭徹尾。〔管子、侈靡〕一上一下、唯利所レ處。

【一狀】978 イチジャウ 同じ形。〔列子、黃帝〕衆人守二一狀一、以求二至智一。

【一勺】979 イッシャク ❶ひとすくひ。〔中庸〕今夫水、一勺之多。〔疏〕言水初時、多少唯一勺耳。〔晉書、虞溥傳〕積二一勺一、以成二江河一。〔白居易、嗟二髮落一詩〕銀瓶貯二寒泉一、當レ頂傾二一勺一。❷枡目の名。一合の十分の一。〔四時祭式、上〕鹽一勺二撮。❸地積の名。一坪の百分の一。

【一灼】980 イッシャク 一度灼熱させる。燒く。〔關尹子、一宇〕一灼之火、能燒二萬物一、物亡而火何存。

【一灼之火】981 イッシャクノヒ ひと燃えのかすかな火。〔關尹子、一宇〕一灼之火、能燒二萬物一。

【一酌】982 イッシャク 酒一杯。ちよつと酒を酌みかはす。一獻。〔北史、袁聿修傳〕往往爲レ之駐レ馬、隨擧二一酌一、示レ領二其意一。〔韋應物、九日灃上作寄二崔主薄倬二李端繫一詩〕孰能同二一酌一、陶然冥二斯理一。

【一手】983 イッシュ ❶一本の手。〔魏志、曲韋傳〕韋一手建レ之。〔晉書、邵績傳〕欲レ去二一手一乎。❷ヒトツテ ㋑自分ひとり。唯一人の仕事。獨力。㋺ひと種類。㋩一つのてだて。圍棊・將棋・相撲等にい

ふ。㊁一部隊。〔太平記、十四、箱根竹下合戰事〕七千餘騎を一手になして。㊂最もすぐれた手段。

【一手揃】984 ヒトテソロヒ 内向の矢と外向の矢とが、ほぼ正しい方向を指して飛んで行くこと。轉じて、同じ様に揃ふこと。

【一手一足】985 イッシュイッソク 骨折りの少い喩。〔禮、表記〕后稷天下之爲レ烈也、豈一手一足哉。

【一手兒活】986 i⁴ shou³ êrh huo² 一緒になつて働く。

【一手遮レ天】987 イッシュテンヲサヘギル 一人の手で天下の人の目を蔽ふ。一人の手で衆人の目をくらます喩。〔曹鄴、讀二李斯傳一詩〕難下將二一人手一掩中得天下目上。

【一手托天】988 i⁴ shou³ t'uo¹ t'ien¹ 片手に天を載せる。到底不可能なことの喩。無謀なことの喩。

【一手包辦】989 i⁴ shou³ pao¹ pan⁴ 一手に請負つて處理する。一人で引受けて取扱ふ。

【一手販賣】990 イッテハンバイ 商品等を一手で賣買する。

【一手獨拍雖レ疾無レ聲】991 イッシュハヤシトイヘドモコヱナシ 片手だけでは、如何に疾く打つても音が出ない。君臣相須たなければ、聲譽を揚げることの出來ないといふ喩。〔韓非子、功名〕一手獨拍、雖レ疾無レ聲、人臣之憂、在レ不レ得レ一。

【一守】992 イッシュ ㊀一つの役。〔漢書、藝文志〕方技者、皆生生之具、王官之一守也。㊁一人の長官。守は、郡の長官。〔晉書、地理志上〕凡四十郡、郡一守焉。

【一炷】993 イッシュ ㊀一つの燈心。〔黃滔、湖心寺夜坐詩〕一炷殘燈何熠煜、半簷衰柳故崔嵬。㊁香のひとくゆり。〔楞嚴經、六〕於二身上一爇二一香炷一。〔司空圖、青龍師安上人詩〕清香一炷知二師意一、應下爲二昭陵一惜中老臣上。

【一炷香】994 イッシュカウ 一本の線香。〔王禹偁、書齋詩〕屏山獨臥千峯雪、御札時開一炷香。

【一首】995 イッシュ ㊀一つのくび。〔漢書、刑法志〕齊之技擊、得二一首一、則受二賜金一。〔唐書、韓全誨傳〕以二衛士十人一取二一首一。㊁詩歌などの一篇。〔盍簪錄〕後世、詩文一篇稱二一首一。〔皮日休、李處士郊居詩〕滿引紅螺詩一首、劉楨失卻病二心情一。〔徐鉉、送二黃梅江明府一詩〕一首新詩無限意。

【一株】996 イッシュ 草木のひとかぶ。〔述異記、上〕一株十枝、枝閒無レ葉。〔晉書、孫綽傳〕種二一株松一。〔南史、宋孝武紀〕生二嘉禾一、一株五莖。〔盧仝、喜レ逢二鄭三遊レ山詩〕寒流石上一株松。

【一株苗】997 イッシュノナヘ 一株の苗。〔顏氏家訓、涉務〕未丁嘗目觀丙起二一撥土一、耘乙一株苗甲。

【一株香雪小梨華】998 イッシュノカウセツセウリノハナ 梨花を香しい雪と見たてて詠じた句。〔龍仁夫、春日郎興詩〕枯藤處處領二春華一、遮莫東風顫二帽紗一、點破蕪菁黃世界、一株香雪小梨花。

【一種】999 イッシュ ㊀一つの種類。〔詩、召南、采蘋、于以采レ藻、疏〕陸機云、藻、水草也、生二水底一、有二二種一、其一種、葉如二雞蘇一、莖大如レ箸。㊁或る種類。〔本草、細辛〕集解、宗奭曰、襄漢閒、又有二一種細辛一、極細而直。㊂一種族。〔後漢書、鄧訓傳〕掩二擊迷唐盧落大豪一、多レ所二斬獲一、一種殆盡。〔注〕一種、謂二迷唐一也。㊃同じもの。〔元稹、同醉詩〕心源一種閑如レ水、同醉二櫻桃一林下春。㊄特別のもの。尋常でないこと。異樣。〔梁簡文帝、詠二美人觀レ畫詩〕分明淨眉眼、一種細腰身。〔裴交泰、長門怨〕一種蛾眉明月夜、南宮歌管北宮愁。〔朱子書節要〕近年一種議論。㊅イッス 酒の肴。一種一瓶を見よ。

【一種情】1000 イッシュジャウ 傳奇の名。明、沈璟撰。原本は既に亡佚し、今僅かに冥勘の一折だけがある。揚州の何氏の女と瞿興哥との生死因緣の事を記す。〔螾廬曲談〕一種情、原本已佚、今歌場所二流行一者、僅冥勘一折、尙有二拾釵一折一、其曲文見二納書楹曲譜一。

【一種物】1001 イッスモノ 各自に一種類づつの肴を持ち寄つて宴會を催すこと。又、其の酒肴。〔古事談、二〕花逍遙に一條一種物しけり。

【一種一瓶】1002 イッシュイッペイ イッスイッペイ 各自が一種の酒肴と一瓶の酒とを持ち寄つて宴會すること。一種物を見よ。〔東鑑、十一〕建久二年九月二十一日、各相二具一種一瓶一、於レ濱獻レ之。

【一銖】1003 イッシュ 目方の單位。〔說文〕銖、權十絫、黍之重也。〔淮南子、天文訓〕十二分而當二一銖一、十二銖而當二半兩一。〔說苑、辨物〕十六黍爲二一豆一、六豆爲二一銖一、二十四銖爲二一兩一。

【一竪】1004 イチジュ 漢字の一つの竪畫(丨)。〔書苑菁華、翰林密論二十四條、用筆法〕丨竪信法、口訣云、擡筆竪策、挫鋒、上下緊直、嘗尙字、中竪畫用。

【一樹】1005 イチジュ 一本の木。一木。〔禮、祭義〕夫子曰、斷二一樹一、殺二一獸一、不レ以二其時一、非レ孝也。〔管子、輕重戊〕一樹而百乘息二其下一。〔張翰、無題二首〕東鄰有二一樹一、三紀裁可レ拱。

【一樹百穫】1006 イチジュヒャククワク 人物養成の利をいふ。一たび樹ゑ育てると、百年の大計を得るとの意。〔管子、權修〕一年之計、莫レ如レ樹レ穀、十年之計、莫レ如レ樹レ木、終身之計、莫レ如レ樹レ人、一樹一穫者穀也、一樹十穫者木也、一樹百穫者人也。〔注〕人有二百年之壽一、雖レ使レ無二百年一、子孫亦有二嗣レ之而報レ德者一、故曰二百穫一也。

【一樹蔭一河流】1007 イチジュノカゲイチガノナガレ 佛共に一樹の蔭に宿り、一河の流を汲むのも、皆これ前世からの因緣であるといふ義。〔說法明眼論〕或處二一村一、宿二一樹下一、汲二一河流一、一夜同宿、一日夫婦、皆是先世結緣。

【一樹之果有酸有甜】1008 i² shu⁴ chih¹ kuo³ yu³ suan¹ yu³ t'ien² 同じ樹になつた果物にも、酸いのも甘いのもある。同じ兄弟にも賢愚・良否の質の差があり、同門の弟子にも賢不肖があることの喩。

【一終】1009 イッシュウ ㊀ひとめぐり。㋑十二年。歲星(木星)は十二年で天を一周する。〔左氏、襄、九〕十二年矣、是謂二一終一、一星終也。〔注〕歲星十二年而一二周天一。㋺二十年。〔淮南子、天文訓〕太陰元始、建二于甲寅一、一終而建二甲戌一、二終而建二甲午一、三終而復得二甲寅之元一。㋩一年。〔呂覽、季冬紀〕凡在二天下九州一之民者、無レ不下咸獻二其力一、以供二皇天上帝社稷寢廟山林名川之祀一、行中之令上、是此謂二一終一。〔注〕終、一歲十二月終也。㊁音樂を一度奏し終ること。〔禮、鄉飮酒義〕工入升歌三終。〔疏〕謂下歌二鹿鳴・四牡・皇皇者華一、每二一篇一而一終上也。㊂音樂の一曲。詩歌の一篇。〔呂覽、音初〕二女作二歌一終一曰、燕燕往飛、實始作二爲北音一。㊃一宗(1363)の㊁に同じ。

【一聚】1010 イッシュウ 一つの人のあつまり。一つのむらざと。一聚落。〔論衡、禍虛〕計二一聚之中一、生者百一、死者十九、可レ謂二無道一、至痛甚矣。

【一聚落】1011 イッシュウラク 一村落。一部落。

【一聚一散】1012 イッシュウイッサン 或はあつまり、或はちる。〔六韜、文韜、兵道〕外亂而內整、示レ飢而實飽、內精而外鈍、一合一離、一聚一散、陰二其謀一、密二其機一。

【一聚枯骨】1013 イッシュウココツ 一體の骨。神仙の術から出た語。〔神仙傳、老子〕老子問レ甲曰、汝久應レ死、吾昔賃レ汝、爲二官卑家貧一、無レ有二使役一、故以二太玄淸生符一與レ汝、所三以至二今日一、汝何以言レ吾、吾語三汝到二安息國一、固當下以二黃金一計レ直還上レ汝、汝何以不レ能レ忍、乃使二甲張一レ口向レ地、其太玄眞符、立出二於地一、丹書文字如レ新、甲成二一聚枯骨一矣。〔老學庵筆記、八〕紹興十六七年、李莊簡公在二藤州一、以レ書寄二先君一、有レ曰、某人汲汲求二少艾一、求而得レ之、自謂得レ計、今成二一聚枯骨一、世尊出來也、救レ他不レ得、一聚枯骨、出二神仙傳老子篇一、某人者、前執政留二守金陵一、暴得レ疾卒、故云。

【一戎】1014 イチジュウ ひといくさ。一戰。〔晉書、樂志上〕思二一戎而匡二九服一。〔周書、晉蕩公護傳〕聖如二姬武一、且曰二一戎一。

【一戎衣】1015 イチジュウイ ヒトタビジュウイス 一たび軍服を著ける。戰爭すること。一說に、戎は兵、衣は殷で、軍隊を率ゐて殷を伐つ義といふ。戎衣(5－11539・2)及び戎殷(5－11539・6)を見よ。〔書、武成〕一戎衣、天下大定。〔傳〕衣、服也、一著二戎服一而滅レ紂。〔中庸〕壹戎衣而有二天下一。〔注〕戎、兵也、衣讀如レ殷、聲之誤也、壹戎殷者、壹用レ兵伐レ殷也。〔疏〕鄭必以レ衣爲レ殷者、以下十一年觀二兵于孟津一、十三年滅レ紂、是再著二戎服一、不上レ得レ稱二一戎衣一、故以レ衣爲レ殷。〔杜甫、重經二昭陵一詩〕風塵三尺劍、社稷一戎衣。

【一戎大定樂】1016 イチジュウダイテイガク 唐代の樂の名。遼を伐つ時に作つたもの。一たび戎衣して、大いに天下を定める意。〔舊唐書、音樂志二〕上欲レ伐レ遼、於二屯營一教レ舞、召二李義府一、赴二洛城門一觀レ樂、

樂名二一戎大定樂一。

【一宿】1017 イッシュク ❶一夜やどること。一泊。〔左氏、莊、三〕凡師一宿爲レ舍、再宿爲レ信、過レ信爲レ次。〔莊子、天運〕止可二以一宿一。❷一夜。一晩。〔論衡、命義〕歷陽之都、一宿沈而爲レ湖。〔陳書、孔奐傳〕一宿之閒、得二數萬裹一。〔王建、宮詞〕堦前走馬人宣慰、天子南郊一宿回。

【一宿覺】1018 イッシュクノサトリ 一夜のさとり。溫州の永嘉禪師が六祖に謁し、悟を開いて一宿した故事。〔傳燈錄〕溫州永嘉禪師、初謁二六祖一、問答相契、便欲二辭去一、祖留一宿、謂二之一宿覺一。〔蘇軾、三朵花詩〕歸來且看一宿覺。

【一宿鳥】1019 イッシュクテウ 鳩の一種。鶻鳩(12－46934・・1)の異名。鶻鳩は宿木に對して心を專一に寄せるからいふ。〔爾雅、釋鳥、隹其鳺鴀、疏〕郭云、今鶻鳩、詩曰、翩翩者鵻、毛傳云、鵻、夫不也、一宿之鳥、鄭箋云、一宿者、一二意於所レ宿之木一。〔詩、小雅、南有嘉魚、翩翩者鵻、傳〕鵻、壹宿之鳥。〔箋〕壹宿者、壹二意於其所レ宿之木一也。

【一宿之行】1020 イッシュクノカウ 一晩どまりの旅行。〔戰國、韓策〕韓相國謂二田苓一曰、事急、願公雖レ疾、爲二一宿之行一。〔史記、韓世家〕事急、願公雖レ病、爲二一宿之行一。

【一粥】1021 イッシュク 食物の粗末なのを喩へていふ。〔元好問、過二劉子中新居一詩〕土銼疎烟纔一粥。

【一蹴】1022 イッシュク ひとけりする。一蹙。〔南史、劉瑀傳〕一蹙自造二青雲一。〔宋史、范致虛傳〕出二殽澠一、一二蹴于險一、則皆潰矣。〔蘇軾、申王畫馬圖詩〕揚レ鞭一蹙破レ霜蹄、萬騎如レ風不レ能レ及。

【一出】1023 イッシュツ ❶一たび出る。〔淮南子、脩務訓〕若二此九賢者一、千歲而一出、猶二繼レ踵而生一。〔韓愈、送二文暢師北遊一詩〕風塵一出レ門。❷ひとたび。一番。〔世說新語、文學〕今日與二謝孝一劇談一出來。〔傳燈錄〕藥山問二雲巖一、聞二汝解レ弄、師子弄得幾出、曰、弄得六出、藥山曰、我亦弄得、雲巖曰、和尚弄得幾出、曰、我弄得一出。〔通俗編、數目、一出〕俚俗、謂二一番一曰二一出一。

【一出一入】1024 イッシュツイチニフ 或は出で、或は入る。〔史記、孔子世家〕靈公使二公孫余假一出二一入一。〔荀子、勸學〕一出焉一入焉、塗巷之人也。

【一出而不レ可レ反者言也】1025 ヒトタビイデテカヘスベカラザルモノハゲンナリ 一度口に出せば、取りかへしがつかぬものは言葉である。言語の愼むべきをいふ。〔新書、政上〕一出而不レ可レ反者言也、一見而不レ可レ揜者行也。

【一術】1026 イチジュツ 一つの道。或るやり方。〔呂覽、孝行〕夫執二一術一、而百善至、百邪去。〔注〕一術、孝術。

【一春】1028 イッシュン ❶ひと春。〔江淹、雲山贊、王太子〕山無二一春草一、谷有二千年蘭一。〔常建、落二第長安一詩〕恐レ逢二故里鶯花笑一、且向二長安一度二一春一。❷一箇年。〔戴叔倫、將レ巡二郴永一途中詩〕行役留二三楚一、思レ歸又一春。

【一瞚】1028 イッシュン 僅かの時間。一瞬。〔呂覽、安死〕夫死其視二萬歲一、猶二一瞚一也。〔注〕瞚者、潁川人相視曰レ瞚也、一曰、瞚者、謂二人臥死覺一也。

【一瞬】1029 イッシュン ❶極めて短い時間。一瞚。〔陸機、文賦〕觀二古今於須臾一、撫二四海於一瞬一。〔蘇軾、赤壁賦〕蓋將自二其變者一而觀レ之、則天地曾不レ能二以一瞬一。〔容齋三筆、瞬息須臾〕僧祇律云、二十念爲二一瞬一、二十瞬名二一彈指一。❷ひとまたたき。ちらりとひとめに見る。一瞬千里を見よ。

【一瞬千里】1030 イッシュンセンリ ちらりとひと目で千里の遠い景色を見渡す。〔蘇轍、超然臺賦〕極二千里於一瞬一兮、寄二無盡於雲煙一、前二陵阜之洶湧一兮、後二平野之淤漫一。

【一旬】1031 イチジュン 十日間。〔說文〕旬、徧也、十日爲レ旬。〔周禮、秋官、朝士〕凡士之治、有二期日一、國中一旬、郊二旬。〔管子、揆度〕千乘之制二輕重一、毋レ過二一旬一。〔漢書、谷永傳〕待レ詔一旬、然後得レ見。

【一旬餓】1032 イチジュンノガ 十日間のうゑ。〔淮南子、說山訓〕寧一月饑、無二一旬餓一。

【一純】1033 イチジュン ❶純一で清い。〔國語、楚語下〕以二一純・二精・三牲・四時・五色・六律・七事・八種・九祭・十日・十二辰一以致レ之。〔注〕一純、心純一而潔。❷イチセン 二算をいふ。勝負を二度數へること。〔禮、投壺〕司射執レ算、曰、左右卒レ投、請レ數、二算爲レ純、一純以取。〔注〕純、全也。〔釋文〕純、音全。

【一準】1034 i⁴ chuen³ 必ず。きつと。必定。一定。

【一初】1035 イッショ 明、守仁(3－7071・・132)の字。

【一所】1036 イッショ ❶一つの場所。一箇所。一處。〔史記、倉公傳〕左右各一所。〔梁書、劉慧斐傳〕于二山北一構二園一所一、號曰二離垢園一。❷橋や建物などを數へる語。〔晉書、武帝紀〕有二玄石一所一、白畫成レ文。〔白居易、修香山寺記〕始レ自二寺前亭一所、登レ寺橋一所、連二橋廊七閒一、次至二石樓一所、連樓一所、連廊六閒一。❸ともに。同じく。一緒。〔狂言記、棒縛〕おのれも一所になつて。❹字號。㋑明、許三省(10－35298・・288)の字。㋺明、金賁亨(11－40152・・1375)の號。

【一所懸命】1037 イッショケンメイ 上から賜はつた一箇所だけの知行で生計を營むこと。轉じて、必死となつて事をする。今訛つて、一生懸命とも書く。〔古事談、二〕白川法皇召二顯季一曰、汝雖レ無二件庄一所一、全不レ可二事闕一、彼只一所懸命之由聞二食之一。〔庭訓往來、六月〕於二譜代相傳之分領、一所懸命之地一者、不レ可レ有二相違一者哉。

【一所房子】1038 i⁴ suo³ fang² tzŭ 一軒の家屋。

【一書】1039 イッショ ❶一通の文書。〔周禮、秋官、小行人〕其萬民之利害爲二一書一。〔陳書、何之元傳〕故開二此一書一、而分爲二六意一。❷一通の手紙。たより。一信。〔曹鄴、相思極詩〕三年得二一書一、猶レ在二湘之濱一。〔陳基、答二元善一詩〕時寄二一書一還。❸一つの書物。或る書物。〔漢書、藝文志〕每二一書已一、向輒條二其篇目一。〔唐書、于休烈傳〕送二官一書一、進二官一資一。

【一書價千金】1040 イッショノアタヒセンキン 音信の有難く思はれること。價値ある書面。〔李白、寄レ遠詩〕相思千萬里、一書價千金。

【一砠】1041 イッソ 一つの險しい石山。〔愛日樓文集、日光山行記〕過則得二一砠一。

【一處】1042 イッショ 一箇所。一所。〔詩、齊風、南山、葛屨五兩、疏〕同是婦人、聚二居一處一。〔晉書、羊祜傳〕上疏曰、以二一隅之吳一、當二天下之衆一、一處傾壞、則上下震蕩。〔王維、桃源行〕遙看一處攢二雲樹一、近入二千家一散二花竹一。

【一處房子】1043 i² ch'u⁴ fang² tzŭ ひと構への家屋。一箇所の建物。家屋一棟。

【一處不到一處迷】1044 i² ch'u⁴ pu² tao⁴ i² ch'u⁴ mi² 何事でも經驗のない事は解らぬものだ。

【一黍】1045 イッショ ❶一つぶのきび。〔漢書、律歷志上〕一黍之廣度レ之、九二十分黃鐘之長一。〔陸游、記レ夢詩〕試求二一黍一換二肝腸一、它日重來駕二黃鵠一。❷最少の目方。きび一粒の重さ。〔宋史、律歷志一〕每四毫一絲六忽有差爲二一黍一。

【一墅】1046 イッショ 一つの別莊。〔白居易、太湖石記〕唯東城置二一第一、南郭營二一墅一。

【一緒】1047 イッショ ❶一すぢ。緒は絲すぢ。〔晉書、陸機傳論〕一緒連レ文、則珠流璧合。❷ひとまとめ。同一。又、ともに。〔江淹、別賦〕故別雖二一緒一、事有二萬族一。

【一曙】1048 イッショ ひとあさ。一旦。一朝。〔呂覽、重己〕一曙失レ之、終身不二復得一。

【一如】1049 イッショ ❶純一なこと。同一なこと。平等。❷佛 イチニョ 眞如をいふ。不一不異の意。主觀と客觀とが未分、一味のさま。〔三藏法數、四〕不一不異、名曰二一如一、卽眞如之理也。〔法華經科注〕一如无二二如一。❸明の僧。上天竺寺に居り、敕命によつて禪宗語錄を作る。著に法華科注・大明三藏法數がある。〔續稽古略、三〕。

【一如觀音】1050 イチニョクワンオン 佛 三十三觀音の一。雲に乘つて飛行するといふ。「號。

【一如居士】1051 イチジョコジ 清、弘旿(4－9709・・39)の號。

【一如頓證】1052 イチニョトンショウ 佛 十方の人が、同じく一如の理によつて、速かにさとりをひらくこと。〔續本朝文粹〕開二此一如頓證之源一。

【一助】1053 イチジョ ❶たすけ。少しのたすけ。〔史記、留侯世家〕上知二此四人賢一、則一助也。❷殷代の租稅の法。田地を九區に分けて中央を公田とし、相助けて之を耕し、其の收入を官に納める。他の八區は八家が私有して、別々に耕す。〔詩、小雅、甫田、歲取二十千一、疏〕明二九中一助一也。〔孟子、滕文公上〕夏后氏五十而貢、殷人七十而助、周人百畝而徹、其實皆什一也。〔注〕民耕二五十畝一、貢二上五畝一、耕二七十畝一者、以二七畝一助二公家一、耕二百畝一者、徹二取十畝一以爲レ賦、雖レ異レ名、而多少同、故曰二皆什一一也。

【一敍】1054 イチジョ 一度のべる。

【一舒】1055 イチジョ 明、劉陽(2－2224・・621)の字。

【一升】1056 (イッショウ) ㊀或はのぼる。一つはのぼる。〔爾雅、釋天〕有鈴曰旂。〔疏〕諸侯建旂、然則旂者、畫二龍於上、一升一降。〔詩、大雅、文王〕文王陟降在帝左右。〔集傳〕一升一降、無時不在上帝之左右。㊁枡目の名。一合の十倍。〔史記、天官書〕率日食一升、至七升而極。〔注〕集解曰、孟康曰、正月一日雨、民有一升之食。〔說苑、辨物〕十龠爲一合、十合爲一升。

【一松】1057 (イッショウ) ㊀一本のまつ。〔庾信、詠畫屛風詩〕沙洲兩鶴迴、石路一松孤。〔李郱、同孫彦能遊山庵詩〕獨立一松勁、入門聽微鐘。〔葆化錄〕呂知隱於洞庭山、穿一松造草舍。㊁明、盧可久(**8**—**23050**‥188)の字。

【一秤】1058 i^2 $ch'\hat{e}ng^4$ ㊀目方を量る。秤にかける。㊁一秤だけの分量。

【一從】1058' (イッショウ) ひとたび合從する。或は合從する。〔戰國、韓策〕秦王曰、吾固患韓之難知、一從一橫、此其說何也。

【一稱】1059 (イッショウ) ㊀衣裳一かさね。又、袍(綿入の平服)と表(上に加へる禮服)との一かさね。〔禮、喪大記〕袍必有表不禪、衣必有裳、謂之一稱。㊁秤で一はかりかける。〔管子、君臣上〕衡石一稱、斗斛一量。㊂一たびとなへる。〔呂覽、重言〕周公旦可謂善說矣、一稱而令成王益重言。〔說苑、君道〕一稱而成王益重言。

【一縱】1060 (イッショウ) ㊀一たびはなつ。〔曹植、名都篇〕左挽因右發、一縱兩禽連。〔張華、遊獵篇〕機發應弦倒、一縱連雙肩。㊁ i^2 $tsung^4$ 思案する。しわめる。ひそめる。

【一縱一橫】1061 (イッショウイチワウ) ㊀或は縱になり、或は橫になる。網の絲などにいふ。〔王起、結網求魚賦〕一縱一橫、既克張於萬目。㊁或は合縱し、或は連衡する。縱は合縱で、六國連合すること。橫は連橫で六國各〻秦に事へること。

【一鍾】1062 (イッショウ) ㊀枡目の名。六斛四斗、又、八斛、又、十斛。〔小爾雅、廣量〕缶二謂之鍾。〔注〕八斛也。〔左氏、襄、二十九、注〕六斛四斗曰鍾。〔淮南子、要略〕一朝用三千鍾贛。〔注〕鍾、十斛也。㊁ i^4 $chung^1$ ひとコップ。一小杯。一盅。

【一鐘】1063 (イッショウ) ㊀一つの鐘。〔史記、禮書〕縣一鐘、尚拊膈。〔喩鳧、龍翔寺居喜胡權見訪因宿詩〕衝橋一水急、扣月一鐘殘。㊁一鍾の㊀に同じ。〔史記、河渠書〕收皆畝一鐘。

【一乘】1064 (イチジョウ) ㊀車一輛。馬四匹。車馬を數へるに用ひる。〔左氏、成、十八〕晉欒書・中行偃、使程滑弑厲公、葬之于翼東門之外、以車一乘。〔穀梁、文、十四〕長轂五百乘。〔注〕四馬曰乘、一乘、甲士三人、步卒七十二人。〔管子、乘馬〕一乘者、四馬也。〔後漢書、馬援傳〕賜援兵車一乘。㊁矢四本をいふ。〔儀禮、既夕禮〕猴矢一乘。〔注〕四矢曰乘。㊂[佛]如來の教法を車乘に喩へ、衆生を乘せ運んで生死を離脱させる意に用ひる。一佛乘。〔法華經、方便品〕十方佛土中、惟有一乘法。〔勝鬘經〕一乘即是一義乘。

【一乘經】1065 (イチジョウキャウ) [佛]法華經をいふ。〔古今著聞集〕左の手に一乘經をもつ。

【一乘家】1066 (イチジョウケ) [佛]一乘の法を弘める宗派。華嚴・天台などの宗派。

【一乘圓宗】1067 (イチジョウエンシュウ) [佛]天台宗の美稱。天台宗は一乘圓頓の妙義を弘め宣べるからいふ。

【一乘之使】1068 (イチジョウノツカヒ) ただ一乘の車輛を從へたほどの手輕な使者。〔漢書、韓信傳〕發一乘之使、奉咫尺之書。

【一乘之地】1069 (イチジョウノチ) 六里四方の地。〔管子、乘馬〕方六里爲一乘之地也。

【一乘妙典】1070 (イチジョウメウテン) [佛]一乘の理を說き明かす妙典。法華經をいふ。

【一乘顯性教】1071 (イチジョウケンシャウケウ) [佛]五教の最上の教。一切の有情に、其の本性たる佛性を顯明して、佛と同じくならしめるといふ教。〔華嚴原人論〕佛教自淺至深、略有五等、一人天教、二小乘教、三大乘法相教、四大乘破相教、五一乘顯性教。

【一色】1072 (イッショク) ㊀一つの色。又、同じいろ。〔詩、齊風、著、充耳以素乎而、疏〕豈有一色之絛。〔漢書、梅福傳〕一色成體謂之醇、白黑雜合謂之駁。〔王勃、滕王閣序〕秋水共長天一色。〔朱熹、入瑞巖道間得四絶句呈彥集充父二兄詩〕清溪流過碧山頭、空水澄鮮一色秋。㊁一種類。一類。〔郭湜、高力士傳〕不死則流、動逾千計、黔中道、此一色尤多。㊂ (イチシキ) [佛]些細なもの。〔摩訶止觀、一〕一色一香、無非中道。㊃ (イッシキ) 姓氏。

【一色衣】1073 (イッショクイ) 一色の衣をいふ。元の時代、內庭の大宴に服したもの。質孫(**10**—**36833**‥65)・濟遜(**7**—**18498**‥65)を見よ。〔王逢、古宮怨〕一色珠衣立露寒。〔元史、輿服志一、宣聖廟祭服〕質孫、漢言一色服也、內庭大宴則服之、冬夏之服不同、然無定制。

【一食】1074 (イッショク) 一度の食事。一飯。一餐。一飡。〔史記、魯世家〕一食三吐哺。

【一食頃】1075 (イッショクケイ・イチジキキャウ) 一度食事する間。短い時間。一餉時。一茶頃。〔無量壽經、下〕一食之頃、往詣十方無量世界。

【一食萬錢】1076 (イッショクマンセン) 一度の食事に一萬錢を費す。奢りの甚しい喩。〔晉書、何曾傳〕曾子字穎考、性奢豪、食日萬錢、猶曰無下箸處。子劭、字敬祖、一日之供、以錢二萬爲限。〔晉書、任愷傳〕愷既失職、乃縱酒耽樂、極滋味以自奉養、初何劭、以公子奢侈、每食必盡四方珍饌、愷乃踰之、一食萬錢、猶云無可下箸處。

【一食而三起】1077 (イッショクニミタビタツ) 一度の食事中に、三たびも起つて人を迎へる。賢者を迎へるに急なさま。夏の禹王の故事。一飯三吐哺(1901)を見よ。〔呂覽、謹聽〕昔者禹、一沐而三捉髮、一食而三起。

【一食費萬錢】1078 (イッショクニバンセンヲツヒヤス) 晉の何曾が、一日の食費に萬錢を費し、甚だ奢侈を極めた故事。〔晉書、何曾傳〕性奢豪、務在華侈、帷帳車服、窮極綺麗、廚膳滋味、過於王者、云云、食日萬錢、猶曰無下箸處。〔故事成語考、貧富〕何曾一食費萬錢。

【一觸】1079 (イッショク) 一度觸れること。一寸さはること。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕臣鎧袖一觸、皆自倒耳。

【一觸卽發】1080 (イッショクソクハツ) 一寸さはると、直ぐ事態が發生するやうな、對立狀態の危急なさまにいふ。

【一矚】1081 i^4 chu^3 ひと目見る。矚は氣をつけて見ること。

【一心】1082 (イッシン) ㊀一途のおもひ。專心。〔書、盤庚下〕式敷民德、永肩一心。〔淮南子、繆稱訓〕一心可以得百人。〔魏志、鮮卑傳〕是後一心守邊、不爲寇害。㊁多くの者の一致した心。同心。〔書、泰誓上〕予有臣三千、惟一心。㊂心を一つにする。〔國語、晉語四〕戮力一心。〔墨子、非攻〕一心戮力。〔戰國、秦策〕一心同力、死不旋踵。〔荀子、議兵〕百將一心、三軍同力。〔史記、秦始皇紀〕臣主一心、而憂海內之患。㊃こころ。〔莊子、天道〕一心定而王天下、云云、一心定而萬物服。㊄[佛]概念を離れ差別のすがたのない平等の世界、眞如をいふ。〔大乘起信論〕唯是一心、故名眞如。

【一心一計】1083 (イッシンイッケイ) 協心一致。

【一心一德】1084 (イッシンイットク) ㊀君臣心を併せて事を爲すこと。一德一心(1725)を見よ。㊁一心一計に同じ。

【一心合掌】1085 (イッシンガッシャウ) [佛]一意專心に合掌する。〔法華經、信解品〕右膝著地、一心合掌。

【一心歸命】1086 (イッシンキミャウ) [佛]一意專心佛に歸依する。〔淨土論〕世尊我一心、歸命盡十方無碍光如來。

【一心歸路】1087 (イッシンキロ) 一意專心、一事の遂行に熱中する。

【一心敬禮】1088 (イッシンキャウライ) [佛]雜念を去つて、專心に佛を敬ひ禮すること。〔法華懺法〕一心敬禮十方一切常住佛、一心敬禮十方一切常住法、一心敬禮十方一切常住僧。

【一心在上】1089 (イッシンザイジャウ) 精神を集注する。

【一心三觀】1090 (イッシンサングワン) [佛]天台宗の說く說で、一念の中に同時に、諸法は空なり、假なり、中なりと觀ずる法。〔法華經科注〕圓巧則修一心三觀、圓破三惑、圓證三諦、圓成三德也。

【一心正念】1091 (イッシンシャウネン) [佛]一心に正しく佛を念じて歸依すること。〔觀經疏、四〕西岸上有人、喚言、汝一心正念直來、我能護汝。

【一心稱名】1092 (イッシンショウミャウ) [佛]一心に佛の名をとなへる。〔法華經、普門品〕聞是觀世音菩薩、一心稱名。

【一心專念】1093 (イッシンセンネン) [佛]一心に專ら佛を念ずる。〔往生論〕心常作願、一心專念。

【一心同歸】1094 イツシンドウキ　心を一つにして、同じ目的に向ふ。〔淮南子、泰族訓〕上唱而民和、上動而下隨、四海之内、一レ心同レ歸。

【一心同體】1095 イツシンドウタイ　心を一つにし體を同じくする。しっくりと心を協せて、一致協力すること。

【一心二門】1096 イツシンニモン　㊀萬有の本體たる一心に二種の方面があること。卽ち心眞如門と心生滅門。〔起信論〕依二一心法一有二種門一云何爲レ二、一者心眞如門、二者心生滅門。

【一心念佛】1097 イツシンネンブツ　㊀一心に佛を念ずる。〔法華經、安樂行品〕須二獨入一時、但一心念佛。

【一心不亂】1098 イツシンフラン　㊀一筋に心を盡して亂さぬこと。〔阿彌陀經〕執二持名號一、一心不亂。〔慈恩、阿彌陀經疏〕一心不亂者、專注無レ散也。

【一心法界】1099 イツシンホッカイ　㊀一心中に森羅萬象が悉く具はるといふ華嚴教學の宇宙觀。〔華嚴經探玄記、十八〕一心法界、具含二門一、心眞如門、二心生滅門、雖二此二門一、皆各總二攝一切諸法一。

【一心一意的】1100 ㄧ ㄒㄧㄣ ㄧ ㄧˋ ㄉㄜ　協力一致して。

【一心無掛碍】1101 ㄧ ㄒㄧㄣ ㄨˊ ㄍㄨㄚˋ ㄞˋ　心配がない。自分の事ばかりを顧みて、他人の事は心配せぬ。

【一心可レ以事二百君一】1102 イツシンモツテヒャククンニツカフベシ　人臣は一つの眞心さへあれば、如何なる君にも仕へることが出來る。〔晏子、重而異者〕一心可レ以事二百君一、三心不レ可レ以事二一君一。〔淮南子、繆稱訓〕兩心不レ可レ以得二一人一、一心可レ以得二百人一。

【一身】1103 イッシン　㊀ひとつのからだ。〔史記、匈奴傳〕君臣簡易、一國之政、猶二一身一也。〔後漢書、鄧晨傳〕偉卿以二一身一從レ我、不レ如レ以二一郡一爲レ我北道主人。〔王維、老將行〕一身轉戰三千里、一劍曾當百萬師。㊁からだ全體。全身。一身を見よ。㊂身の丈。身長。〔論語、鄉黨〕必有二寢衣一、長二一身有半一。〔集說〕朱熹云、別有二寢衣一、其半蓋以覆レ足。㊃我が身。〔戰國、趙策〕今衆人不レ知、則爲二一身一。〔史記、魯仲連傳〕衆人不レ知、則爲二一身一。〔注〕索隱曰、非レ是自爲二一身一而憂死。㊄ひとりみ。獨身。

【一身田】1104 イッシンデン　王朝時代、其の人一代を限つて朝廷から賜はる田地。いしんでん。〔養老七年格〕其依二舊溝墾一者、給二其一身田一。

【一身衣裳】1105 ㄧ ㄕㄣ ㄧ ㄕㄤ　ひと襲ねの衣裳。衣服ひと組。

【一身一口】1106 ㄧ ㄕㄣ ㄧ ㄎㄡˇ　獨身。單獨。

【一身之迷】1107 イッシンノメイヨヒ　おのれ一人の迷。〔列子、周穆王〕一身之迷、不レ足レ傾二一家一。

【一身虱子】1108 ㄧ ㄕㄣ ㄕㄧ ㄗˇ　全身しらみだらけ。甚しく貧窮なことの形容。

【一身上下】1109 ㄧ ㄕㄣ ㄕㄤˋ ㄒㄧㄚˋ　上着から下着まで、身につけた全部。

【一身是膽】1110 イッシンコレタン　全身に膽力が充滿してゐるのをいふ。極めて勇氣あること。〔蜀志、趙雲傳、注〕子龍一身都是膽也。〔北史、王雅傳〕擧身悉是膽。〔元史、趙璧傳〕秀才、汝渾身是膽耶。〔故事成語考、身體〕趙子龍、一身都是膽。

【一身兩役】1111 イッシンリョウエキ　一人で二事を兼ね行ふ。又、役人の兼職すること。〔南史、張充傳〕張充、右臂鷹、左牽狗、緒曰、一身兩役、無二乃勞一乎。

【一身爲二輕舟一】1112 イッシンケイシウトナル　舟か人か、兩者が一體となつて、自他の意識の無い貌。〔常建、西山詩〕一身爲二輕舟一、落日西山際、常隨二去帆影一、遠接二長天勢一。

【一身去レ國六千里】1113 イッシンクニヲサルコトロクセンリ　唯一人で遠く故郷を離れて居ること。〔柳宗元、別二舍弟宗一詩〕一身去レ國六千里、萬死投レ荒十二年、桂嶺瘴來雲似レ墨、洞庭春盡水如レ天。

【一信】1114 イッシン　㊀一つの信義。賞罰を行ふに信あること。〔吳子、治兵〕武侯問曰、用レ兵之道何先、起對曰、先明二四輕・二重・一信一。云云、進有二重賞一、退有二重刑一。行レ之以レ信。㊁一通の手紙。一度の書信。〔漢書、西域上、大宛傳〕匈奴使、持二單于一信一到レ國。

【一眞】1115 イッシン　㊀眞如(8‒23235‥254)に同じ。一如。一實。〔楞嚴經、八〕清淨無漏、一眞無爲。

【一眞地】1116 イッシンチ　㊀眞法界の理を悟つた位。〔四十二章經〕視二平等一、如二一眞地一。

【一眞法界】1117 イッシンホッカイ　㊀華嚴宗で用ひる極理の稱。〔唯識論、九〕勝義勝義、謂二一眞法界一。〔三藏法數、四〕無二日一、不妄曰レ眞、交徹融攝、故曰二法界一云云、不生不滅、非空非有、離名離相、無内無外、唯一眞實、不可思議、是名二一眞法界一。

【一針】1118 イッシン　一本のはり。一鍼。〔後漢書、方術下、郭玉傳〕一針卽差。

【一針松】1119 ㄧ ㄓㄣ ㄙㄨㄥ　一本松。

【一新】1120 イッシン　盡く新たになること。總べてが革まること。〔宋史、曾鞏傳〕選授二新、除書日至。〔宋史、向宗回傳〕官舍弊廩一新。「ポック。

【一新紀元】1121 イッシンキゲン　一つの新しい時代。一エ

【一審】1122 イッシン　訴訟の第一次の審判。

【一鍼】1123 イッシン　一本のはり。〔管子、海王〕今鐵官之數曰、一女必有二一鍼一刀一。

【一人】1124 イチニン　㊀人ひとり。〔易、損〕三人行則損二一人一。〔詩、鄭風、野有蔓草〕有二美一人一、清揚婉兮。〔孟子、梁惠王下〕一人衡二行於天下一、武王恥レ之。〔管子、大匡〕令二一人爲負以レ車。㊁或る人。〔史記、商君傳〕有二一人一徙レ之。㊂天子。君王。人の中の一員に過ぎぬといふ意味からは、天子の謙辭となり、天下の唯一人者といふ意味からは、天子に對する尊稱となる。〔書、太甲下〕一人元良、萬邦以貞。〔傳〕一人、天子、天子有二大善一、則天下得二其正一。〔疏〕其義有二二一、一則天子自稱二一人一、是爲二謙辭一、言己是人中之一耳、一則臣下謂二天子一爲二一人一、是爲二尊稱一、言天下惟一人而已。〔書、君奭〕故一人有レ事于四方。〔詩、大雅、下武〕媚茲一人、應二侯順德一。〔禮、曲禮下〕君天下曰二天子一、朝諸侯、分レ職授レ政任レ功、曰二予一人一。〔管子、法法〕資有二天下一、制在二一人一。〔管子、小匡〕余一人之命、有レ事二於文武一。〔白虎通、號〕王者自謂二一人一者、謙也、欲レ言二己材能當二一人一耳、故論語曰、百姓有レ過、在二予一人一。㊃大臣。國政に預る人。〔書、秦誓〕邦之杌隉、曰由二一人一。〔傳〕一人所二任用一、國之傾危、曰レ由二所レ任不レ用レ賢。〔蔡傳〕國之危殆、繫二於所レ任一人之非一。國之榮安、繫二於所レ任一人之是一。㊄ひとりみ。獨身。

【一人稱】1125 イチニンウン　第一人稱(8‒25943‥34)に同じ。

【一人前】1126 イチニンマヘ　㊀一人に充てた分。一人分。㊁大人。成人。㊂力量が人並になること。

【一人敵】1127 イチニンテキ　一人の相手。劍をいふ。一夫之用。〔史記、項羽紀〕劍一人敵、不レ足レ學、學萬人敵一。

【一人永古】1128 イチニンエイコ　戲曲の篇名。清、李玉作。一棒雪・人獸關・永團圓・占花魁の四種の總稱。

【一人二失】1129 イチニンシツ　一人の身で、數々過失を重ねること。〔書、五子之歌〕一人二失、怨豈在レ明。〔傳〕二失、過非一也。〔蔡傳〕三失者、言二所レ失衆一也。

【一人當千】1130 イチニントウセン　一人の力で千人に匹敵し得ること。勇氣のある形容。一騎當千。〔李陵、答二蘇武一書〕疲兵再戰、一以當千。〔北史、唐邕傳〕邕一人當レ千。〔淮槃經、純陀品〕譬如二人王有二大力士一、其力當レ千、更無レ有下能降二伏之一者上、故此人稱二一人當千一。〔將門記〕將門が一人當千の兵有て。

【一人當百】1131 イチニントウヒャク　一人の力で百人に匹敵すること。勇氣のある形容。〔戰國、韓策〕以二韓卒之勇一、被二堅甲一、蹠二勁弩一、帶二利劍一、一人當レ百、不レ足レ言也。

【用二一人一爲二門戶一】1132 イチニンヲモッテモンコトナス　唯一人だけを樞要の地位に居らしめる。權柄を一人の臣に委任すること。〔韓非子、亡徵〕聽以レ爵不レ待二參驗一、用二一人一爲二門戶一者可レ亡也。

【一人做事一人當】1133 ㄧ ㄖㄣˊ ㄗㄨㄛˋ ㄕˋ ㄧ ㄖㄣˊ ㄉㄤ　自分の爲した事は自分で始末せよ。禍を人に嫁してはならぬ。浙江地方の俗語。

【一人唱而千人和】1134 イチニントナフレバセンニントモス　一人の人が先に唱へ出して、多くの人が之にあはせること。〔淮南子、說林訓〕善擧二事者一、若レ乘二舟而悲一謌、一人唱而千人和。

【一人出分不二容易一】1135 イチニンイヅルハヨウイナラズ　上一人、卽ち天子の行幸は容易の事でない。〔白居易、驪宮高詩〕吾君不レ遊有二深意一、一人出分不二容易一、六宮從分百司備、八十一車千萬騎。

【一人知レ儉一家富】1136 イチニンチケンヲシレバイッカトム　家長一人が節儉を知つて模範を示すと、其の家全體が富裕になる。〔譚子化書〕一人知レ儉則一家富、王

者知レ儉則天下富。

【一人不レ敵二衆人智一】1137 一人の智慧は衆智を集めたのに及ばない。〔通俗編、性情、一人不レ敵二衆人智一〕任子、一人之智、不レ如二衆人之愚一。

【一人有レ慶兆民賴レ之】1138 天子が善事を行つて天下の人民に教へれば、天下萬民が皆幸福になる。天子は政治を愼重にせねばならぬ意。〔書、呂刑〕一人有レ慶、兆民賴レ之、其寧惟永。〔傳〕天子有レ善、則兆民賴レ之、其乃安寧長久之道。〔疏〕天子有レ善、以二善事一教二天下一、則兆民蒙二賴之一。

【一人荷レ戟萬夫趦趄】1139 一人がほこをもつて守れば、如何なる大軍も進み得ない。極めて險阻狹隘な要害の地にいふ。〔晉書、張載傳〕矧茲狹二隘土之外區一、一人荷レ戟、萬夫趦趄、形勝之地、非レ親勿レ居。

【一人之治亂在二其心一】1140 行爲が立派であるかないかは、其の心の如何にある。人たる者は心の持ち方を愼まねばならぬ意。〔管子、七臣七主〕一人之治亂、在二其心一、一國之存亡、在二其主一。

【一人善射百夫決拾】1141 一人の武夫がよく射れば、百人の武夫が決や拾をつけて勵み戰ふ。一人の爲に衆人が勵まされるのをいふ。決・拾は、ゆがけとゆごて。共に弓を射る時、手につける道具。〔東坡集、十〕天下之大、可二以レ名劫一也、三軍之衆、可二以レ氣使一也、諺曰、一人善射、百夫決拾。

【一人治レ之十人食レ之】1142 田を作るもの一人のお蔭で、十人が之に養はれる。一人が田を作るお蔭で十人の生活が出來る。〔呂覽、上農〕一人治レ之、十人食レ之、六畜皆在二其中一矣。

【一人傳レ虛萬人傳レ實】1143 一人が出鱈目を言ひ出すと、衆人が本當の事として之を傳へる。〔節用集〕一人傳レ虛、萬人傳レ實。

【一人傳レ十十人傳レ百】1144 試驗場で、一人文を賣るものがあると、忽ち十人にも百人にも傳はること。雷同の多きをいふ。〔通俗編、數目、一人傳レ十十人傳レ百〕宋史選擧志、老儒賣レ文、場屋一人傳レ十、十人傳レ百、致三試文多有二雷同一、合二取卷一、參驗黜落。

【一人拌レ死千人莫レ當】1145 一人が決死になれば、千人でも之に敵對できない。〔通俗編、武功、一人拌レ死千人莫レ當〕吳子勵士篇、一人投レ命、足レ懼二千夫一、吳越春秋、越人作二離別辭一曰、一人判レ死兮、而當二百夫一。

【敬二一人一而千萬人說】1146 一人を尊敬することによつて千萬人がよろこぶ。孝悌を以て民を化するをいふ。〔孝經、廣要道章〕敬二其父一則子說、敬二其兄一則弟說、敬二其君一則臣說、敬二一人一而千萬人說。

【賞二一人一而天下譽レ之】1147 天子が一人の善行者を賞すれば、人民はこぞつて天子の公平な政治を譽める。〔淮南子、氾論訓〕賞二一人一而天下譽レ之、罰二一人一而天下畏レ之。

【一人守レ險千人不レ得レ上】1148 一人が險阻の地に居つて防ぎ守れば、千人の多數を以てしても進み上ることは出來ない。〔漢書、朱買臣傳〕買臣因言、故東越王居二保泉山一、一人守レ險、千人不レ得レ上。

【殺二一人一而失二天下之心一】1149 罪の無い者を一人殺した爲に、天下の人望を失ふこと。無辜の人を殺すことの害を教へたもの。〔魏志、武帝紀〕方今收二英雄一時也、殺二一人一而失二天下之心一不可。

【屈二一人之下一伸二萬人之上一】1150 初は一人の下に身を屈しても、終には萬人の上に立つて名聲を揚げること。〔任昉、宣德皇后令、注〕善曰、六韜、太公曰、屈二一人之下一、伸二萬人之上一、唯聖人能レ焉。〔通俗編、品目、一人之下萬人之上〕史記、蕭何諫二沛公一曰、能屈二于一人之下一、而信二于千人之上一者、湯武是也。

【難下將二一人手一掩中得天下目上】1151 一人の手では、天下の民の目を蔽ひかくすことは出來ない。輿論の力の強いこと。〔曹鄴、讀二李斯傳一詩〕欺レ暗尚不レ然、欺レ明當二自戮一、難下將二一人手一、掩中得天下目上。

【縱二一人之欲一以虐二萬夫之性一】1152 君主が、自分一人の欲望をほしいままにして、萬民の天性をしひたげる。〔說苑、君道〕縱二一人之欲一、以虐二萬夫之性一、非三所二以立レ君也。

【一仞】1153 ㊀周代の尺度。孔安國は八尺、鄭玄は七尺、應劭は五尺六寸と說き、小爾雅には四尺といふ。〔書、旅獒〕爲レ山九仞、〔傳〕八尺曰レ仞。〔儀禮、鄉射禮、杠長三仞、注〕七尺曰レ仞。〔漢書、食貨志上、石城十仞、注〕應劭曰、仞、五尺六寸也。〔小爾雅、廣度〕四尺謂二之仞一。㊁ひとひろ。一尋。〔宋書、符瑞志上〕周圍尋、中高一仞。

【一尋】1154 ㊀ひとひろ。八尺。一說に七尺。一仞。〔詩、魯頌、閟宮、是尋是尺、傳〕八尺曰レ尋。〔史記、張儀傳、蹄閒三尋、注〕索隱曰、七尺曰レ尋。㊁一たび尋ねる。〔羅隱、詠史詩〕蠹簡遺編試二一尋一、寂寥前事似二如今一。〔李端、送二馬尊師一詩〕武陵花木應二長在一、願與二漁人一更一尋。

【一稔】1155 一年。穀物は一年に一回みのるからいふ。稔はみのる。〔正字通〕稔、古人謂二一年一爲二一稔一、取二穀一熟一也。〔晉書、摯虞傳〕羨二一稔而三春一兮、尙含レ英以容豫。〔五代史、王朴傳〕一稔之後、可二以平レ邊。

【一水】1156 ㊀一すぢの水流。〔古詩十九首〕盈盈一水閒、脈脈不レ得レ語。〔梁簡文帝、登レ城北望詩〕一水斜開レ岸、雙城遙共レ雲。〔李白、寄二王漢陽一詩〕相思一水遙。㊁一滴の水。僅かなことの喩。〔茶錄〕相去一水兩水。

【一水牽レ愁】1157 うれへの盡きないさま。李白が橫江を渡らうとして、長い旅路の哀愁を感じて詠んだ句。〔李白、橫江詞〕橫江欲レ渡風波惡、一水牽レ愁萬里長。

【一水四見】1158 [佛]同じものでも、見る人によつて見方が違ふことの喩。一境四面。一境四心。〔溫故要略〕天見レ水思二琉璃一、人見レ水思レ水、鬼見レ水思レ火、魚見レ水思レ室、以レ之譬三所レ見各別二法門一。〔攝大乘論釋略疏、四〕今譯乃約二一水四見一、明二境非有一。

【一吹】1159 ㊀一度吹く。ひとふき。〔儀禮、鄉飮酒禮、乃閒二歌魚麗一笙二由庚一、注〕閒、代也、謂二一歌則一吹一。〔吳子、應變〕一吹而行、再吹而聚。〔洞冥記、三〕一吹長一尺、至二三尺一而止。〔元稹、賦二得雨後花一詩〕風光幸一吹。㊁[佛]劫滅の大火に對する人閒のひと吹き。極めて弱少な力の喩。〔佛藏經、上〕又以二一吹一還成二世界及諸天宮一。

【一炊】1160 一度飯をかしぐこと。〔會稽典錄〕十日一炊、不レ燃二官薪一。

【一炊之夢】1161 人生のはかない喩。邯鄲之夢（11－39330・16）を見よ。

【一醉】1162 少し醉ふ。又、全く醉ふ。〔詩、小雅、小宛、壹醉日富、箋〕童昏無知之人、飮レ酒一醉。〔左思、蜀都賦〕樂二飮今夕一、一醉累レ月。〔崔曙、九日登二望仙臺一呈二劉明府一詩〕陶然一醉菊花杯。

【一醉千日】1163 酒の極めてよい喩。中山酒（1－73・355）を見よ。〔博物志、雜說下〕昔劉元石、於二中山酒家一酤レ酒、酒家與二千日酒一、云云、俗云、元石飮レ酒、一醉千日。「酒は愁の玉箒。」

【一醉解千愁】1164 i² tsuei⁴ chieh³ ch'ien¹ ch'ou²

【一醉三千日】1165 酒の效能の強いこと。良酒の形容。〔張簡、醉樵歌〕斧柯爛盡不レ成レ仙、不レ如一醉三千日。

【一穗】1166 ㊀一つのほ。〔書、歸禾序、傳〕禾各生二一壟一而合爲二一穗一。〔宋史、五行志二下〕二禾合成二一穗一。㊁一すぢの穗の形をしたものの形容。〔盧綸、送三張成季往二江上一賦二得垂楊一詩〕一穗雨聲裏、千條池色前。〔蘇軾、佛日山榮長老方丈五絕〕千株玉槊攙レ雲立、一穗珠旒落レ鏡寒。

【一穗寒燈】1167 淋しいともしび。燈火は穗の形に見えるからいふ。〔木戶孝允、偶成詩〕一穗寒燈照レ眼明、沈思默坐無レ限情。

【一穗麥子】1168 i² suei⁴ mai⁴ tzŭ 麥の一穗。

【一樞】1169 清、鄭爾垣（11－39647・425）の字。

【一寸】1170 ㊀長さの單位。一尺の十分の一。〔淮南子、天文訓〕十二粟而當二一寸一、云云、故十寸而爲レ尺、十尺而爲レ丈。〔說苑、辨物〕以レ黍生之爲二一分一、十分爲二一寸一、十寸爲二一尺一、十尺爲二一丈一。㊁短い。僅か。〔晉書、庾亮傳〕以求二一寸之用一。〔南史、王彧傳〕一寸之草、亦悴二於踐蹋一。㊂ ㋑しばらく。㋺僅か。㋩やや。

【一寸暉】1171 僅かな日の光。短い時間。〔蘇

軾、與二王郎昆仲及兒子邁一云云晚入二飛英寺一分レ韻得二月明星稀一詩〕復尋二飛英一游、盡二此一寸暉一。

【一寸心】1172 イッスンノココロ 僅かな眞心。〔賀遂亮、贈二韓思彥一詩〕意氣百年內、平生一寸心。〔蘇軾、滕縣時同年西園詩〕我獨種二松柏一、守二此一寸心一。

【一寸英心】1173 イッスンノエイシン 胸の中に滿ちたすぐれた心。昔、心は胸一寸四方のうちにあると考へられてゐた。〔岡本韋庵、大日本中興先覺志〕一寸英心敵二萬夫一。

【一寸之眼】1174 イッスンノマナコ 人の眼をいふ。身體の中では顏が大切であり、顏の中では最も眼が大切であることから、轉じて、大切なところの意に用ひる。一尺之面(1266)を見よ。

【一寸之地】1175 イッスンノチ 僅かな土地。寸地。〔新書、五美〕一寸之地、一人之衆、天子無レ所レ利焉。

【一寸赤心】1176 イッスンノセキシン 一寸丹心に同じ。〔陸游、江北莊取レ米到作二飯香一甚有レ感詩〕飛霜掠レ面寒壓レ指、一寸赤心惟報レ國。

【一寸丹心】1177 イッスンノタンシン 僅かな赤誠。自分の眞心を謙遜していふ。〔杜甫、鄭駙馬池臺喜下遇二鄭廣文一同飮上詩〕白髮千莖雪、丹心一寸灰。

【一寸八寸】1178 カマツカ 姓氏。〔姓林全書〕。

【一寸法師】1179 イッスンボフシ 身の丈の低い人。矮人。侏儒。〔和漢三才圖會、人倫之用、侏儒〕侏儒、俗云一寸法師。

【一寸樓臺】1180 イッスンノロウダイ 蜂の巢の異名。小さくて樓臺の形をしてゐるからいふ。〔元亨涉筆〕一寸樓臺、蜂窠也。〔事物異名錄、昆蟲上、蜂〕清異錄、蜂窠曰二一寸樓臺一。

【一寸同心縷】1181 イッスンドウシンノル 夫婦仲のよい喩。縷はより絲で、二本からみ合つて一本となるから夫婦に喩へる。〔庾信、題二結綫袋子一詩〕一寸同心縷、千年長命花。

【一寸光陰不レ可レ輕】1182 イッスンノクワウインカロンズベカラズ 少しの時間も徒らに過してはならぬ。〔朱熹、偶成詩〕少年易レ老學難レ成、一寸光陰不レ可レ輕。

【一世】1183 イッセイ ❶三十年の稱。〔說文〕世、三十年爲二一世一。〔論語、子路、必世而後仁、集注〕三十年爲二一世一。〔論衡、宣漢〕孔子所謂一世、三十年也。❷其の世。其の時代。世の中。當世。〔莊子、天地〕垂二衣裳一、設二采色一、動二容貌一、以媚二一世一。〔莊子、外物〕夫不レ忍二一世之傷一、而驁二萬世之患一。〔呂覽、高義〕非三獨厲二一世之人臣一也。❸世の中のこらず。擧世。〔列子、天瑞〕一人失レ家、一世非レ之。〔漢書、禮樂志〕驅二一世之民一、濟二之仁壽之域一。❹人の一生涯。一代。一生。〔左氏、昭、元〕一世無道、國未レ艾也。〔史記、留侯世家〕人生一世間、如二白駒過一レ隙。〔淮南子、泰族訓〕夫以二一世之壽一、而觀二千歲之知一。❺第一代の皇帝。〔史記、秦始皇紀〕朕爲二始皇帝一、後世以レ計數、二世三世至二千萬世一、傳二之無窮一。❻一王朝。一王朝のつづく間。又、一血統のつづく間。〔論語、爲政、十世可レ知也、集注〕王者易レ姓受レ命、爲二一世一。❼佛 過去・現在・未來の三世の中の一つ。〔謠曲、仲光〕親と子の一世の契りの、二たび逢ふぞ嬉しき。

【一世紀】1184 イッセイキ 西曆年代の一區劃。百年の稱。

【一世冠】1185 イッセイノクワン 其の時代の第一人者。〔唐書、文藝傳序〕皆卓然以レ所レ長、爲二一世冠一。

【一世一元】1186 イッセイイチゲン 天皇の御一代中は、年號を只一つにする制。〔皇室典範、第二章、第十二條〕踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ。

【一世一期】1187 イッセイチゴ 一生涯を通じて。一生涯中。〔艷狩劍本地、二〕さりとは一世一期の迷惑。

【一世一代】1188 イッセイチダイ ❶一生涯。❷一に生涯只一度のこと。特に藝人が一生涯にただこれ限りの所作をいふ。〔戲場節用集、二〕一世一代、戲子舞臺納めをいふ。

【一世之雄】1189 イッセイノユウ 其の時代にあつて最もすぐれた英雄。〔蘇軾、赤壁賦〕固一世之雄也、而今安在哉。

【一世之利】1190 イッセイノリ 現在の世の利益。〔莊子、天地〕不下拘二一世之利一、以爲中己私分上。

【一世親王】1191 イッセイシンワウ 今上天皇の皇子。

【俯二仰一世一】1192 イッセイニフギヤウス この世に生活を續けること。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕夫人之相與、俯二仰一世一、或取二諸懷抱一、悟二言一室之內一。

【一世三十年】1193 イッセイサンジフネン 人の一代は平均三十年。一世の❶を見よ。

【一世破婚百世窮】1194 i^2 shih^4 p'o^4 huen^1 po^2 shih^4 ch'iung^2 一度他人の夫婦仲を裂けば、罰が廻つて百代も苦しむ。

【一世爲官七世打磚】1195 i^2 shih^4 wei^2 kuan^1 ch'i^2 shih^4 ta^3 chuan^1 官吏の貪婪私慾を呪ふ諺。一代官吏をすれば、七代乞食する。一代做官二代打椿(1445)に同じ。

【一生】1196 イッセイ イッシャウ ❶人の生きてゐる間。生涯。一世。〔晉書、畢卓傳〕便足レ了二一生一矣。〔晉書、阮孚傳〕未レ知二一生當レ箸二幾量屐一。〔世說、雅量〕未レ知二一生當レ著二幾量屐一。❷生きてゐること。語勢を強めていふ。一生一死の❷を見よ。❸一人の書生。〔後漢書、段翳傳〕有二一生一、來學積レ年。

【一生涯】1197 イッシャウガイ 人の生きてゐる間。一生。

【一生歡】1198 イッシャウノヨロコビ 其の人一生涯のよろこび。〔列子、楊朱〕欲下盡二一生之歡一、窮中當年之樂上。〔謝靈運、登二臨海嶠一初發二彊中一作與二從弟惠連一詩〕欲下抑二一生歡一、并中奔千里游上。

【一生人】1199 イッセイノヒト ❶初めて用ひられた人。うぶな人。新進。〔老學庵筆記、六〕都下買レ婢、謂下未三嘗入二人家一者上、爲二一生人一、喜三其多二淳謹一也、予在二蜀中一、與二何搢之一同閱二報狀一、見二新進驟用者一、搢之曰、渠是一生人、宜三其速進一。❷一人の見知らぬ人。

【一生二】1200 イチニヲシヤウズ 天地間の萬物の生ずる順序。太極から陰陽兩儀を生ずること。老子の道は無又は無極であつて、其の一は易の太極に當り、二は易の兩儀、則ち陰陽に當り、三は陰陽の交はる力をいふ。〔老子、四十二〕道生レ一、一生レ二、二生レ三、三生二萬物一。〔淮南子、天文訓〕一生レ二、二生レ三、三生二萬物一。

【一生面】1201 イッセイメン 新工夫。新機軸。

【一生一及】1202 イッセイイッキフ 父が死んで子が其の後を嗣ぐのを生といひ、兄が死んで弟が嗣ぐのを及といふ。一は或はの意。一繼一及。〔公羊、莊、三十二〕牙謂レ我曰、魯一生一及、君已知レ之矣。〔注〕父死子繼曰レ生、兄死弟繼曰レ及。

【一生一死】1203 イッセイイッシ ❶生れることと死ぬこと。生死。〔太玄經、玄攡〕一生一死、性命瑩矣。〔南齊書、周顒傳〕一往一來、一生一死。❷危難の際に遭遇すること。〔漢書、鄭當時傳〕一死一生、迺知二交情一。

【一生一代】1204 イッセイチダイ 死ぬまで。一生涯。〔駱賓王、代二女道士王靈妃一贈二道士李榮一詩〕相怜相念倍相親、一生一代一雙人。

【一生愧辱】1205 イッシャウノキジョク 其の人一代のはぢ。〔顏氏家訓、勉學〕何惜二數年勤學一、長受二一生愧辱一哉。

【一生果遂】1206 イッシャウクワスイ 佛 現世の一生涯中に、三往生を經歷すること。果遂(**6－14556‥59**)を見よ。

【一生懸命】1207 イッシャウケンメイ 命がけで事をする。一所懸命の訛。一所懸命(1037)を見よ。

【一生成佛】1208 イッシャウジャウブツ 佛 現世で佛果に到達することをいふ。〔大日經疏、二〕若一生度二此三妄執一、卽一生成佛、何論二時分一耶。

【一生不犯】1209 イッシャウフボン 佛 佛の戒律を守つて、一生涯、異性に接しないこと。むかし天台の座主になる資格の一とせられたもの。〔東鑑、一〕治承四年八月十八日、有下號二法音一之尼上云云、爲二一生不犯之者一。

【一生喫著不レ盡】1210 イッシャウキッシテモツクサズ 一生かかつても味ひ切れぬこと。著は助字。〔東軒筆錄〕或戲二王沂公一曰、狀元試二三場一、一生喫著不レ盡、沂公答曰、平生之志、不レ在二溫飽一。

【一生苦樂依二他人一】1211 イッシャウノクラクタニンニヨル 女の一生の苦樂は、夫次第によつてきまる。〔白居易、太行路〕人生莫レ爲二婦人身一、百年苦樂由二他人一。

【斷二送一生一惟有レ酒】1212 イッシャウヲダンソウスルハタダサケアルノミ 一生を送るには、ただ酒あるのみといふ意。斷は強めの語。〔韓愈、遣興詩〕斷二送一生一惟有レ酒、尋二思百計一不レ如レ閑。

【一成】1213 イッセイ ❶十里四方の土地。人家三百戶ばかりある土地。一成一旅を見よ。〔易、訟、疏〕三百戶者、一成之地也。❷音樂の一曲が終ること。〔書、益稷〕簫韶九成。〔蔡傳〕樂者、象レ成者也、故曰レ成。〔儀禮、燕禮、大師告二樂正一曰正歌備、注〕正歌者、聲歌及笙各三終、閒歌三終、合樂三終、爲二一備一、備亦成也。〔孟子、萬章下、孔子之

謂㆓集大成㆒〔集注〕若獨奏㆓一音㆒、則其一音自爲㆓始終㆒、而爲㆓一小成㆒。〔凝齋筆語〕孔子之謂㆓集大成㆒、樂一變爲㆓一成㆒。❸ひとかさなり。一重。成は重。〔爾雅、釋丘〕丘一成爲㆓敦丘㆒。〔注〕成、猶㆑重也。❹一たび下す。〔呂覽、長攻〕反㆑斗而擊㆑之、一成、腦塗㆑地。〔注〕一成、一下也。❺ i^4 ch'êng^2 一割。少しばかりの成功。❻[佛](イチジヤウ) 一人の成道。又、一事の成就。一成一切成を見よ。

【一成一旅】1214 (イッセイイチリョ) 土地が狹く、人の少いこと。一成は十里四方の地、一旅は五百人。〔左氏、哀、元〕有㆓田一成㆒、有㆓衆一旅㆒。〔注〕方十里爲㆑成、五百人爲㆑旅。〔疏〕田一成衆一旅、言、食㆓此一成之地㆒、其內有㆓爲㆑兵者五百人㆒。

【一成不變】1215 (イッセイフヘン) ❶國法等は一旦出來上つて了ふと、最早變更は出來ないこと。〔禮、王制〕刑者侀也、侀者成也、一成而不㆑可㆑變、故君子盡㆑心焉。❷ i^4 ch'êng^2 pu^2 pien^4 ㋑進步しないこと。㋺頑固で改めることを知らぬ。

【一成一切成】1216 (イチジヤウイチサイジヤウ) [佛]一人の成道は、萬人の成道。一事の成就は、萬事の成就。〔華嚴大疏、二〕理偏㆑事故、一成一切成。

【一阱】1217 (イッセイ) 一つのおとし穴。轉じて、金錢の流れ出す穴のこと。〔宋史、蘇轍傳〕國家內有㆓養㆑士養㆑兵之費㆒、外有㆓契丹・西夏之奉㆒、陛下又自爲㆓一阱㆒、以耗㆓其遺餘㆒。

【一姓】1218 (イッセイ) ❶同一の姓。又、其の者。同姓。〔左氏、昭、四〕是不㆓一姓㆒。〔漢書、楚元王傳〕明㆓天命所㆑授者博、非㆓獨一姓㆒也。❷一代。〔國語、周語下〕吾聞㆑之、曰、一姓不㆓再興㆒。〔注〕一姓、一代也。

【一征】1219 (イッセイ) ❶初めて征伐する。〔孟子、梁惠王下〕書曰、湯一征、自㆑葛始、天下信㆑之、東面而征、西夷怨、南面而征、北狄怨、曰、奚爲後㆑我。〔集注〕一征、初征也。❷一つの課稅。

【一性】1220 (イッセイ) ❶純一の性。〔韓詩外傳、五〕聖人養㆓一性㆒、而御㆓大氣㆒。〔白居易、睡起晏坐詩〕淡寂歸㆓一性㆒、虛閑遺㆓萬慮㆒。❷[佛](イッシヤウ) 萬有の本性。佛性。〔大藏法數〕一性者、正因佛性也。

【一青】1221 (イッセイ) ❶清、錢選(**11－40563**・・135)の號。❷(ヒトト) 能登國の地名。

【一青螺】1222 (イッセイラ) 一つの青い山。貝殼は磨くと翡翠色になることから喩へる。青螺(**12－42564**・・612)の❷を見よ。〔劉禹錫、望㆓洞庭㆒詩〕遙望洞庭山翠小、白銀盤裏一青螺。

【一星】1223 (イッセイ) ❶一つの星。〔史記、天官書〕旁有㆓兩星㆒、曰㆑衿、北一星曰㆑舝。〔江淹、赤虹賦〕稟㆓傳說之一星㆒、乘㆓夏后之兩龍㆒。❷ i^4 hsing^1 金銀を算へるに用ひる語。

【一星期】1224 i^4 hsing^1 ch'i^1 一週。日・月・火・水・木・金・土の七日間。

【一星一點】1225 i^4 hsing^1 i^4 tien^3 少しの。僅かの。

【一星半點】1226 i^4 hsing^1 pan^4 tien^3 少しの。

【一眚】1227 (イッセイ) 一つのあやまち。又、わづかの過。〔左氏、僖、三十三〕不㆘以㆓一眚㆒掩㆗大德㆖。〔注〕眚、過也。〔後漢書、祭肜傳論〕一眚之故、以致㆓感憤㆒。〔注〕眚、過也。

【一清】1228 (イッセイ) ❶一たび澄む。〔拾遺記、高辛〕黃河千年一清。〔白孔六帖〕見㆓一清于千年㆒、變㆓五色于一清㆒。❷十分の清味。〔朱熹、四時讀書樂詩〕地爐烹㆑泉然㆓活火㆒、一清足㆑稱讀書者。❸一たび清算する。❹字號。㋑明、王乾(**7－20823**・・351)の字。㋺清、許昌國(**10－35298**・・309)の字。

【一清一濁】1229 (イッセイイチダク) 或は澄み、或は濁る。〔莊子、天運〕一清一濁、陰陽調和。〔道德指揮論〕一清一濁、與㆑和俱行。

【一清一寧】1230 (イッセイイチネイ) 道を得て天は清く澄み、地は安定する。天地萬物は道のはたらきに依つて各〻其の所を得るをいふ。一は道の意。〔老子、三十九〕天得㆑一以清、地得㆑一以寧。

【一清二楚】1231 i^4 ch'ing^1 êrh^4 ch'u^3 すべて明瞭な。はつきりと。清楚(**7－17695**・・531)を見よ。

【一掣】1232 (イッセイ) ❶一たび引く。〔鄭元祐、古書行贈㆓吳孟思㆒〕三才萬物總㆓蒐討㆒、一掣㆓屋蔀㆒瞻㆓繁星㆒。❷ i^2 ch'ê^4 手元へ引込める。後へ曳く。

【一盛】1233 (イッセイ) ❶暫し盛なこと。一盛一衰を見よ。❷器に一もり。〔左氏、哀、十三〕旨酒一盛兮。〔注〕一盛、一器也。〔唐書、陸贄傳〕今獻㆓瓜一器㆒、果一盛㆒、則受㆑之。

【一盛一衰】1234 (イッセイイッスイ) 盛になつたり衰へたり。〔莊子、天運〕四時迭起、萬物循生、一盛一衰。〔吳越春秋、越王無余外傳〕一盛一衰、往來有㆑常。

【一聖】1235 (イッセイ) ひとりの聖人。〔戰國、齊策〕百世而一聖、若㆓隨㆑踵而至㆒也。〔論衡、語增〕一聖一賢、共論㆓一紂㆒、輕重殊㆑稱、多少異㆑實、紂之惡、不㆑若㆓王莽㆒。

【一精】1236 (イッセイ) ❶もつぱら。專一。〔列女傳、貞順、蔡人之妻傳〕夫有㆓惡疾㆒、意猶一精。〔潛夫論、五德志〕雖㆓一精思議㆒而復誤。❷純正の氣。〔春秋繁露、立元神〕天所㆓以剛㆒者、非㆓一精之力㆒。

【一齊】1237 (イッセイ) ❶ひとそろひ。又、ひとしい。一樣。同樣。〔莊子、秋水〕萬物一齊、孰短孰長。〔淮南子、主術訓〕天下一齊、無㆓以相過㆒也。❷平等に治める。〔史記、淮南王傳〕陛下臨㆓制天下㆒、一㆓齊海內㆒。❸一つの齊の國。〔戰國、燕策〕以㆑宋加㆓淮北㆒、強萬乘之國也、而齊幷㆑之、是益㆓一齊㆒也、云云、夫一齊之強、而燕猶不㆑能㆑支也。❹すべて。一齊分付與㆓東風㆒を見よ。❺ i^4 ch'i^2 いちどに。同時に。〔紅樓夢、四十回〕然後鎖上門、一齊纔下來。❻一緒に。

【一齊射擊】1238 (イッセイシヤゲキ) 一部隊が同時に敵を射擊すること。

【一齊分付與東風】1239 (イッセイブンプシテトウフウニアタフ) すべて東風にまかしあたへる。〔通俗編、天文、一齊分付與㆓東風㆒〕高則誠琵琶記、用㆓此語㆒、按、五燈會元、天衣哲云、一齊分付與㆓西風㆒。

【一齊人傳之衆楚人咻之】1240 (イチセイヒトコレニツタフルモシユウソヒトコレニカマビスシクス) 楚の國の人が齊の國の言葉を學ぶに當つて、ただ一人の齊の人が如何に躍氣となつて敎へても、多くの楚人が周圍に居て楚語で喧しく語り合つて居たのでは、齊語を十分に學ぶことが出來ない。環境の影響の大きい喩。〔孟子、滕文公下〕孟子謂㆓戴不勝㆒曰、子欲㆓子之王之善㆒與、我明告㆑子、有㆓楚大夫於此㆒、欲㆓其子之齊語㆒也、則使㆓齊人傳㆑諸、使㆓楚人傳㆑諸、曰、使㆓齊人傳㆑之、曰、一齊人傳㆑之、衆楚人咻㆑之、雖㆓日撻而求㆓其齊㆒也、不㆑可㆑得矣。

【一聲】1241 (イッセイ) ❶ひとこゑ。〔梁簡文帝、倡樓怨節詩〕一聲一囀煎㆑心。〔顧況、李供奉彈㆓箜篌㆒歌〕珊瑚席一聲、一聲鳴錫錫。〔柳宗元、漁翁詩〕煙銷日出不㆑見㆑人、欸乃一聲山水綠。❷變化のない聲。一本調子の聲。〔國語、周語下〕革木一聲。〔注〕一聲、無㆓清濁之變㆒。

【一聲喊】1242 i^4 shêng^1 han^3 ひと叫び。一喊聲。

【一聲雷】1243 (イッセイノライ) ❶雷の一鳴り。〔蘇軾、有美堂暴雨詩〕遊人腳底一聲雷、滿坐頑雲撥不㆑開。〔朱子文集、答㆓袁機仲㆒〕忽然半夜一聲雷、萬戶千門次第開。❷一喝する。ひとどなりする。

【一聲稱念罪皆除】1244 (イチシヤウシヨウネンザイカイヂヨ) [佛]一たび六字の名號を念ずれば、其の功德によつて今迄に作つた煩惱惡業が除かれる意。〔般舟讚〕利劍卽是彌陀號、一聲稱念罪皆除。

【一聲而非駟馬勿追】1245 (イッセイニシテヒナレバシバモオフナシ) 一言而非駟馬不㆑能㆑追(559)に同じ。

【一噬】1246 (イチゼイ) ひとかみ。一度かみつく。〔晉書、陳敏傳〕加㆓越次之禮㆒、授以㆓上將之任㆒、庶有㆓韓盧一噬之效㆒。

【一宵】1247 (イッセウ) 一晚。ある夜。一夕(1259)に同じ。〔董思恭、守歲詩〕共歡新故歲、迎送一宵中。〔李端、王敬伯歌〕徒結㆓萬重歡㆒、終成㆓一宵客㆒。

【一笑】1248 (イッセウ) ❶一度わらふ。ひとわらひ。〔史記、平原君傳〕欲㆘以㆓一笑之故㆒、殺㆗吾美人㆖。〔宋玉、登徒子好色賦〕嫣然一笑、惑㆓陽城㆒、迷㆓下蔡㆒。〔白居易、長恨歌〕回㆑眸一笑百媚生、六宮粉黛無㆓顏色㆒。❷一緒に笑ふ。〔漢書、薛宣傳〕一笑相樂。〔注〕師古曰、笑、古笑字也。❸わらひぐさ。一粲。笑柄。〔北史、劉昶傳〕聊復爲㆓一笑㆒耳。

【一笑散】1249 (イッセウサン) 戲曲の篇名。明の李開先の作つた園林午夢の類の總稱。〔周亮工、賴古堂集、注〕。

【一笑粲】1250 (イッセウサン) 笑ふ。ひと笑ひする。〔蘇軾、詛楚文詩〕遼哉千載後、發㆓我一笑粲㆒。

【一笑生】1251 (イッセウセイ) 明、陳所學(**11－41698**・・995)の號。

【一笑居士】1252 (イッセウコジ) 元、張昱(**4－9812**・・23)の號。

【一笑千金】1253 (イッセウセンキン) 美人の笑ひの得難いことにいふ。〔崔駰、七依〕迴頭百萬、一笑千金。〔楊師道、闕題詩〕一笑千金判是輕。

【一笑先生】1254 清、王樹穀(7−20823・・1654)の號。

【一笑釋仇恨】1255 笑つて仲直りをする。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕一笑釋仇恨、百金交弟兄。

【一笑兩齜牙】1256 i² hsiao⁴ liang⁴ tzŭ¹ ya² 極めて愛嬌のある顏を形容していふ。齜は口を開いて、かすかに齒を現すこと。

【一照】1257 ひとたびてらす。〔南齊書、王思遠傳〕謹冒鈇鉞、悉心以請、窮則呼天、仰祈一照。〔沈約、織女贈牽牛詩〕往秋雖一照、一照復還塵。〔竇叔向、寒食日恩賜火詩〕幸因榆柳暖、一照草茅貧。

【一樵】1258 字號。㊀明、朱端(6−14424・・449)の號。㊁明、邵敏(11−39343・・69)の字。

【一夕】1259 一宵。㊀ひとばん。一夜。一暮。〔左氏、哀、八〕吳子聞之、一夕三遷。〔列子、湯問〕一日一夕、飛相往來者。㊁ある夜。昨夜。〔白居易、夢裴相公詩〕五年生死隔、一夕魂夢通。〔鄭錫、千里思詩〕惟餘兩鄉思、一夕度關山。

【一夕話】1260 i⁴ hsi¹ hua⁴ 一晩もかかる長々しい物語。

【一尺】1261 長さの單位。一寸の十倍。一尺之面を見よ。

【一尺奏】1262 晉代に、三公を召すに用ひた一尺の札。〔正字通〕奏、又簡類、晉法、召三公、以一尺奏、王公以下、用一尺版。

【一尺版】1263 晉代に、王公以下を召すに用ひた一尺の札。一尺奏を見よ。

【一尺三寸】1264 中古時代に呼ばれた懷劍(4−11456・・59)の異名。〔法曹至要抄〕或偸隱短兵、插其懷、世諺謂之一尺三寸。

【一尺之筆】1265 文章をいふ。〔論衡、效力〕智能滿胷之人、宜在王闕、須三寸之舌、一尺之筆、然後自動。

【一尺之面】1266 人の顏をいふ。轉じて、大切なところ。要點。〔北史、皇甫玉傳〕人有七尺之形、不如一尺之面、一尺之面、不如一寸之眼。〔五代史、桑維翰傳〕爲人醜怪、身短而面長、常臨鑑、以自奇曰、七尺之身、不如一尺之面、慨然有志於公輔。

【一尺布尚可縫】1267 一尺程の僅かの布でも、尚衣服の用に供することが出來る。どんな貧乏生活でも睦じく暮さうと思へば出來ぬことはない。漢の淮南厲王兄弟の不和を當時の民が歌つた語。一斗粟尚可舂(1686)を見よ。〔史記、淮南衡山傳〕孝文十二年、民有作歌、歌淮南厲王曰、一尺布尚可縫、一斗之粟尚可舂、兄弟二人不能相容。

【一尺的孩子三尺布】1268 i⁴ ch'ih³ tê hai² tzŭ san¹ ch'ih³ pu⁴ 裁縫の定法。背丈一尺の子供に付いて布三尺の割合。

【一尺之棰日取其半萬世不竭】1269 一尺の棒を、毎日半分づつに折つて行けば、永遠に無となることがないといふ名家の議論。棰は杖のこと。〔莊子、天下〕一尺之棰、日取其半、萬世不竭。〔疏〕棰、杖也、取、折也、問曰、一尺之杖、今朝折半、逮乎後夕、五寸存焉、兩日之間、棰當窮盡、此事顯著、豈不竭之義乎、答曰、夫名以應體、體以應名、故以名求物、物不能隱也、是以執名責實、名曰尺棰、每於尺取、何有窮時、若於五寸折之、便虧名理、乃曰半尺、豈是一尺之義耶。

【一石】1270 ㊀一つの石。〔太平御覽、地部、石〕荊楚歲時記曰、張騫尋河源、得一石、示東方朔、朔曰、此石是天上織女支機石、何至於此。㊁目方の單位。四鈞をいふ。一鈞は、三十斤。〔淮南子、天文訓〕四時而爲一歲、故四鈞爲一石。〔說苑、辨物〕三十斤爲一鈞、四鈞重一石。㊂斛目の單位。十斗をいふ。〔史記、淳于髡傳〕臣飮一斗亦醉、一石亦醉。〔後漢書、盧植傳〕不好辭賦、能飮酒一石。

【一石二鳥】1271 一つの石で二羽の鳥を射おとす。一つの仕事で、二つの目的を果す喩。一擧兩得(346)一箭雙鵰(1337)に同じ。

【一昔】1272 ㊀一夜。一晩。〔左氏、哀、四〕爲一昔之期。〔唐書、三宗諸子傳〕帝憂之、一昔容髮爲變。㊁十年前。〔新撰六帖、六〕ふる里の花橘の枝折りに、かたみおぼゆる一昔かな。

【一席】1273 ㊀一枚のむしろ。〔後漢書、祭祀志〕率一席三神。〔韓愈、祭河南張員外文〕夜息南山、同臥一席。㊁一回。一場。一座。

【一席地】1274 i⁴ hsi² ti⁴ 極めて狹小な土地をいふ。少しばかりの場所。

【一迹】1275 ㊀ひとつの足あと。〔淮南子、氾論訓〕不結於一迹之塗、凝滯而不化。㊁足あとをふんで歩く。〔史記、酷吏、義縱傳〕南陽吏民、重足一迹。

【一隻】1276 ㊀船艦を數へる語。一艘。〔開河記〕民間有配著造船一隻者。〔白居易、初到忠州贈李六詩〕一隻蘭船當驛路、百層石磴上州門。㊁鳥獸を數へる語。一羽。一匹。〔後漢書、徐穉傳、設雞酒薄祭、注〕常於家豫炙雞一隻。㊂一雙の中の一つ。〔穆天子傳、三〕佩玉一隻。〔南齊書、張敬兒傳〕馬鐙一隻。

【一隻眼】1277 ㊀一箇の眼。一眼。〔元史、五行志下〕童謠云、石人一隻眼。㊁物を見拔く力のある一眼識。特種の鑑識あること。〔山谷題跋〕觀者能言之、許渠具一隻眼。〔滄浪詩話〕見方許具一隻眼。〔碧巖錄、垂示〕具一隻眼。

【一隻虎】1278 i⁴ chih¹ hu³ めつかち。かため。

【一隻手】1279 i⁴ chih¹ shou³ 一本の手。片手。

【一隻洋】1280 i⁴ chih¹ yang² 銀一圓をいふ。上海地方の方言。

【一跡】1281 一つのあと。狹い一面をいふ。〔淮南子、要略〕非循一跡之路、守一隅之指、拘繫牽連於物、而不與世推移也。

【一齣】1282 ㊀中國の南曲・傳奇でいふ語。戲曲の一段落。北曲の一折に當る。一幕。齣(12−48638)の字解を見よ。〔字彙補〕傳奇中、一迴爲一齣、俗讀作尺、或云、本是齝字、譌作齣、蓋齝、食之已久、復出嚼之、今傳奇進而復出、故有取于齝云。〔通俗編、俳優、齣〕青藤山人路史、高則誠琵琶、有第一齣第二齣、攷諸韻書、並無此字、必齝之誤也、牛食呑而復吐曰齝、似優人入而復出也、按、齝音笞、又音師、無讀作折音者、豈其字形既誤、而音讀亦因之誤耶。㊁ひとくさり。一節。一きり。一段。

【一切】1283 ㊀すべて。おしなべて。不揃ひのものを切つて一樣に揃へることからいふ。〔戰國、秦策〕請一切逐客。〔史記、范雎蔡澤傳〕范雎蔡澤、一切辯士。〔史記、李斯傳〕請一切逐客。〔注〕索隱曰、一切猶一例、言盡逐之也、言切者、譬若利刀之割、一運斤無不斷者。〔漢書、平帝紀〕吏在位二百石以上、一切滿秩如眞。〔注〕師古曰、一切者、權時之事、非經常也、猶如以刀切物、苟取整齊、不顧長短縱橫、故言一切。㊁同時。〔史記、燕世家〕皆高祖一切功臣。〔注〕索隱曰、此一切、猶一例、同時也。㊂一時。しばらく。〔管子、形勢解〕倫取一切。〔漢書、禮樂志〕以意穿鑿、各取一切。〔注〕師古曰、苟順一時、非正道。〔漢書、翟方進傳〕一切增賦。〔注〕張晏曰、一切、權時也。〔嵆康、養生論〕馳騁常人之域、故有一切之壽。〔注〕濟曰、一切、猶一時也、言、歷觀常人之間、故有一時苟且之壽。㊃佛 事物を兼ね備へる意。〔勝鬘經、寶窟中末〕一切止、是該羅之名。㊄一片の意。〔平家物語、四、南都牒狀事〕織延を一切も得ぬわれさへうす恥をかく數に入るかな。

【一切經】1284 佛 一切藏經の略。佛教に關する經典の總名。經・律・論の三藏の稱。唐の玄宗の開元十年、沙門智昇が、開元釋教目錄二十卷を著して、經論章疏、總べて五千四十八卷を詮次したのを大藏定數の初とする。後、漸く增加したが、元末の兵火に罹り、明に至つては、太祖の刻した南藏と、太宗の刻した北藏とがあるのみであつたが、萬曆年間に、密藏禪師が願を發して、方冊大藏を刻した。我が國では、寬文年間に、鐵眼禪師が六千七百七十一卷を刻し、明治十八年に至つて、弘教書院が大日本校訂大藏經八千五百三十四卷を刊行し、同三十八年には、卍藏經が、大正元年には大日本續藏經が刊行せられ、大正十三年より昭和九年に及ぶ十一年間、高楠順次郎博士監修の下に大正新脩大藏經(三千五十三部、八十五卷、附錄を合せて百卷)が大藏出版株式會社より刊行せられた。又セイロン、ビルマ、タイ、カンボヂア等の文字を用ひた巴利語の經典も現存し、之を國譯にした南傳大藏經(六十五卷)が同じく高楠博士監修の下に昭和十六年完成した。この外西

藏譯、蒙古譯の一切經も現存してゐる。大藏經(3—5831‥881)を見よ。〔隋書、經籍志四〕開皇元年、云云、而京師及幷州・相州・洛州等諸大都邑之處、並官寫一切經、置于寺內、而又別寫藏于祕閣。

【一切智】1285 イッサイチ 佛三智の一。一切のことがらに對する正しき智。又、一切空を知る智。〔倶舍論、破我品〕纔作意時、於所欲知境起無倒智、故名一切智、般若三慧品云、知一切法一相、故名一切智、又云、知種種相、故名一切種智。

【一切法】1286 イッセツノハフ ㊀刀で物をすつぱりと切る樣に、その場で立ちどころに裁決して容赦の無い法。〔海事碎錄、政事、刑法〕一切の法、一時之法、刀切物、不容舒縮也。㊁佛 イッサイホフ 一切萬有の事・理を總稱する語。一切萬法。〔智度論、二〕一切法、略說有三種、一者有爲法、二者無爲法、三者不可說法、此三已攝一切法。

【一切有情】1287 イッサイウジヤウ 佛一切衆生に同じ。〔大般若經、五百七十八〕一切有情如來藏。

【一切苦厄】1288 イッサイクヤク 佛總べての苦と災。〔般若心經〕照見五蘊皆空、度一切苦厄。

【一切之壽】1289 イッセツノジユ 短い命。〔嵇康、養生論〕馳騁常人之域、故有一切之壽。〔注〕濟曰、一切猶一時也、言、歷觀常人之閒、故有一時苟且之壽。

【一切衆生】1290 イッサイシユジヤウ 佛地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道にある總べての生命あるもの。一切有情。〔法華經、譬喩品〕一切衆生、皆是吾子。

【一切種識】1291 イッサイシユジキ 佛一切現象の原因たる種子を執持して失はない識。種子識ともいふ。阿賴耶識(アラヤシキ)の別名。〔成唯識論、二〕此能執持諸法種子、令不失、故名一切種。

【一切種智】1292 イッサイシユチ 佛三智の一。本體も現象も平等一如のすがたに於て觀取る最上の智慧。〔智度論、二十七〕一切智、是聲聞辟支佛事、道智是菩薩事、一切種智是佛事。

【一切所有】1293 イッサイシヨイウ あらゆる。凡ての。全部。

【一切諸佛】1294 イッサイシヨブツ 佛三世十方の諸佛を總括していふ。〔阿彌陀經〕汝等衆生、當信是稱讚不可思議功德、一切諸佛、所護念經。

【一切智句】1295 イッサイチク 佛佛の住處。句は住處の意。〔大日經、六〕於彼恒勤修、求一切智句。〔義釋、十四〕句是住處義、一切智之住處、卽佛住也。

【一切智舟】1296 イッサイチシウ 佛人を載せて一切智地に運ぶ舟。佛を舟に喩ふ。一切智地を見よ。〔教行信證、文類二〕能流入願海、乘一切智舟。

【一切智者】1297 イッサイチシヤ 佛一切智を有する人。大智者。佛。〔法華經、藥草喩品〕我是一切智者。

【一切智心】1298 イッサイチシン 佛一切智を求める心。〔往生要集、中〕一切智心者、是第一義空相應心、或可是願求佛種智心。

【一切智智】1299 イッサイチチ 佛總べての智中の智。直智。佛智。〔大日經、疏一〕梵云薩婆若那、卽是一切智、今謂一切智智、卽是中之智也。〔理趣釋〕一切智智者、唯佛自證之智。

【一切智地】1300 イッサイチヂ 佛一切智を了得する位。悟の境地。究竟一切智地。〔法華經、藥草喩品〕其所說法、皆悉到於一切智地。

【一切萬物】1301 イッサイマンモツ 佛一切萬有をいふ。一切法の㊁に同じ。〔無量壽經、下〕於一切萬物、隨意自在。

【一切經音義】1302 イッサイキヤウオンギ 書名。㋑二十五卷。唐、玄應撰。一名、玄應音義。貞觀の末に、藏經を拾つて其の音義注釋を施したもの。漢代の古聲を引用することが多いので、音韻學上に重んぜらる。〔四庫未收書目提要、二〕㋺一百卷。唐、慧琳撰。一名、大藏音義・慧琳音義。大般若經に始まり、小乘記傳に終る。玄應・雲公・慧苑・基師等の音義を集大成したもの。〔四庫未收書目提要、二〕

《參考書》【續一切經音義】十卷 釋希麟撰。

【一折】1303 イッセツ ㊀ひとたび挫ける。〔白居易、婦人苦詩〕一折不重生、枯死猶抱節。㊁一つの崖。〔王履、始入華山至西峯記〕予強盡一折、日少昃愈熱。㊂北曲で、音樂のひとふし。又、芝居の一幕。〔桃花扇、傳歌〕好好、又完一折了。

【一折一韻】1304 イッセツイチキン 北曲の韻法。北曲は一本が四折から成り、一折は必ず一調を用ひ、其の韻法は一韻到底により、其の韻目は中原音韻の十九部類による。一折一調を見よ。

【一折一調】1305 イッセツイッテウ 北曲は一本が四折から成り、一折は必ず一調に限られてゐるのをいふ。北曲(2—2574‥128)の㊁・宮調(3—7156‥191)・九宮(1—167‥128)・套數(3—5926‥24)・一折の㊂・一折一韻を見よ。

【一說】1306 イッセツ ㊀一つの說。ある說。〔魏志、衞覬傳〕建一言開一說哉。〔宋書、律歷志下〕偏據一說。〔孟郊、投所知詩〕一說淸嶰竹、二說變嶰谷。㊁イチゼイ 一たび勸め說く。〔戰國、秦策〕一說而立爲太師。〔史記、劉敬傳〕一說建萬世之安。〔漢書、蒯伍江息夫傳贊〕蒯通一說而喪三儁。

【一節】1307 イッセツ ㊀竹の一つのふし。〔高適、詠馬鞭詩〕工人截之爲長鞭、一節一目皆天然。〔李賀、竹詩〕三梁曾入用、一節奉王孫。㊁身體の一つのふし。〔列子、黃帝〕女之片體、將氣所不受、汝之一節、將地所不載。㊂一貫した操。〔晏子、不合經術者〕孔子行一節者也。〔孔叢子、陳士義〕夫君子之交於世士、亦取其一節而已。〔晉書、羅憲等傳論〕歷夷險而一節。㊃使者に與へる一つのしるし。〔禮、玉藻〕凡君召以三節、二節以走、一節以趨。〔注〕節、所以明信、輔君命也、使使召臣、急則持二、緩則持一。㊄十五日閒。〔淮南子、天文訓〕十五日爲一節。

【一節切】1308 ヒトヨギリ 竹の一節を切つて造つた、尺八に似た笛。一簡切(242)を見よ。〔好色二代男、五〕一節切の連れ吹き。

【一節動而百枝搖】1309 イッセツウゴキテヒヤクシユラグ 竹林中の一節が動けば、多くの枝が皆動く。一つの騷ぎが全般に及ぶ喩。〔鹽鐵論、申韓〕一人有罪、州里驚駭、十家奔亡、一節動而百枝搖。

【一絕】1310 イチゼツ ㊀一度たちきる。一たびたちきられる。一斷。〔傅玄、雜詩〕落葉隨風摧、一絕如流光。㊁最もすぐれた一つのもの。〔唐書、宋之問傳〕之問父令文、富文辭、且工書有力絕人、世稱三絕、云云、世謂、皆得父一絕。㊂一つの絕句。〔林逋、先生將終之歲、自作壽堂因書一絕以誌之詩〕。

【一捷】1311 イッセフ 一たび勝つこと。一度の勝。〔後漢書、荀彧傳〕臣衆怯沮以喪氣、有必敗之形、無一捷之勢。〔晉書、桓玄傳〕先臣以身報國、勤王之師、功非一捷。〔江淹、尙書符〕邀我百戰之軍、乘彼一捷之幸。

【一霎】1312 イッセフ ひとしきり。又、しばらく。一陣。〔鄭谷、乖慵詩〕一霎芰荷雨、幾迴簾幕風。〔陳造、宿商卿家詩〕蝶夢遽遽纔一霎、鄰雞啼罷又啼鴉。

【一霎雨】1313 イッセフノアメ ひとしきりの小雨。〔孟郊、春後雨詩〕昨夜一霎雨、天意蘇羣物。

【一霎閒】1314 i² sha⁴ chien¹ 少しの閒。ちよつとのま。

【一霎時】1315 i² sha⁴ shih² しばし。暫時。一寸。

【一千】1316 イッセン 百の十倍。〔說文〕千、十百也。〔白居易、代書詩一百韻〕狂吟一千字、因使寄微之。

【一千度祓】1317 イッセンドバラヒ 祓をする時に、祓の詞を千度唱へること。〔東鑑、一〕治承四年八月十六日、勸一千度御祓。

【一千八百】1318 i⁴ ch'ien¹ pa⁴ pai³ 幾らでも。澤山。

【一千二百功德】1319 イチセンニヒヤククドク 佛六根淸淨を得る爲の多くの功德。〔法華經、法師功德品〕是人當得八百眼功德、千二百耳功德、八百鼻功德、千二百舌功德、八百身功德、千二百意功德、以是功德、莊嚴六根、皆令淸淨。

【一川】1320 イッセン 一つのかは。又、川全體。一河。〔漢書、溝洫志〕獨一川兼受數河之任。〔魏志、胡昭傳〕一川瀨昭、咸無怵惕。〔司空圖、重陽山居詩〕四望交親兵亂後、一川風物笛聲中。

【一先】1321 イッセン まつさき。はじめに。〔鄭谷、寄碁客詩〕幾局賭山果、一先飮海僧。

【一串】1322 イッセン ひとくし。一さし。〔唐書、陸贄傳〕止受茶一串。〔范成大、妙喜泉詩〕法門泉味知多少、水桶繩頭一串穿。〔元史、成宗紀一〕金五十兩、珠一串。

【一串珠】1323 イッセンシユ 歌聲の麗しいことにいふ。一串驪珠を見よ。〔白居易、寄明州于駙馬使君詩〕何郎小妓歌喉好、嚴老呼爲一串珠。

【一串錢】1324 i² ch'uan⁴ ch'ien² ひとさしの錢。一緡錢。一弔錢。

【一串鈴】1325 イッセンレイ 明代、一緒に合せて徵收した雜稅を、各種の項目に分類して輸送する法。〔明

志、食貨志〕一串鈴、則夥收分解法也。

【一串驪珠】1326 イッカンリュウシュ　歌聲の音節がよく調和すること。〔一串珠を見よ。〔輟耕錄、雜劇曲名生唱論〕有二子母調一、有二姑舅兄弟一、有二字多聲少一、有二聲少字多一、所謂一串驪珠也。

【一泉】1327 イッセン　一つのいづみ。〔詩、小雅、四月、載清載濁、疏〕毛以爲、我視二彼泉水之流一、尚有二一泉則清、一泉則濁一。〔盧綸、同二薛存誠一登二栖巖寺一詩〕萬壑應二孤聲一、百花通二一泉一。

【一泉塢】1328 イッセンヲ　地名。一合塢(218)に同じ。〔晉書、劉聰載記〕劉曜濟自二盟津一將レ攻二河南一、將軍魏該、奔二于一泉塢一。

【一洗】1329 イッセン　❶一度洗ふ。〔南史、陰子春傳〕身服垢汙、腳數年一洗。❷殘らずあらひすすぐ。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一〕斯須九重眞龍出、一洗萬古凡馬空。〔戴叔倫、贈二月溪羽士一詩〕自知塵夢遠、一洗道心清。〔于佩遠、題二金鰲山一詩〕惜無二健筆驅一風雨一、一洗江川萬古愁。

【一扇】1330 イッセン　❶一本の扇子。〔晉書、袁宏傳〕臨レ別執二其手一、顧就二左右一取二一扇一、而授之曰、聊以贈レ行。〔高湘、和二李尚書命レ妓餞一崔侍御一詩〕謝安春渚餞、袁宏千里仁風一扇清。❷ㄧㄢˋ shan⁴ 帳簿など、一冊。

【一扇磨】1331 ㄧㄢˋ shan⁴ mo⁴　石臼、又は挽臼などの一個。

【一扇門】1332 ㄧㄢˋ shan⁴ men² 一枚の門扉。一門扉。

【一船】1333 イッセン　一艘の船。一舟。〔牡牧、鄭瓘協律〕廣文遺韻留二攄散一、雞犬圖書共一船。

【一搧】1334 ㄧ ㄕㄢ shan¹ 魚がひと跳りすること。

【一箭】1335 イッセン　一本の矢。一矢。〔晉書、桓石虔傳〕見二猛獸被一レ數箭一而伏、諸督將素知二其勇一、戲令レ拔レ箭、石虔因急往、拔得二一箭一、猛獸跳、石虔亦跳、高二于獸身一、猛獸伏、復拔二一箭一以歸。〔庾信、燕歌行〕願得二魯連一飛二一箭一、持二寄思レ歸燕將書一。〔杜甫、哀江頭詩〕翻身向レ天仰射レ雲、一箭正墜雙飛翼。〔劉禹錫、酬二鄭州權舍人見レ寄十二韻詩一〕彀中飛二一箭一、雲際落二雙鵰一。

【一箭道】1336 イッセンダウ　㊀里程の名。一矢で達する程の近距離。〔法華經、藥王品〕其樹去レ臺、盡二一箭道一。〔翻譯名義集〕一箭道、嘉祥云、二一里、或云、取二射垜一百五十步一、或云、一百三十步、或云、百二十步。〔通俗編、數目、一箭〕路至近、則曰二一箭道一、見二法華經一。

【一箭雙鵰】1337 イッセンサウテウ　一本の矢で二羽の鷲を射る。一石二鳥(1271)・一發雙貫(1857)に同じ。〔北史、長孫晟傳〕有二二鵰一、飛而爭レ肉、因以二箭兩隻一、與レ晟請二射取一レ之、晟馳往、遇二鵰相攫一、遂一發雙貫焉。〔陸游、遣興詩〕壯年一箭落二雙鵰一、野餉如今擷二藥苗一。

【一箭之地】1338 ㄧ ㄐㄧㄢˋ zhī¹ ㄉㄧˋ 一矢で達する程の近距離の地。

【一箭來遠】1339 ㄧ ㄐㄧㄢˋ lai² yüan³ 三尺許りの距離。弓の矢の長さほどの近距離。

【一箭貫雙鵰】1340 イッセンクワンサウテウ　一本の矢で二羽の鷲を射る。射に巧みなこと。一發貫二二鵰一(1858)に同じ。〔通俗編、禽魚、一箭貫二雙鵰一〕北史長孫晟傳、共二突厥一游獵、有二二鵰一、飛而爭レ肉、突厥以二兩箭一請二射取一レ之、晟馳往、遇二鵰相攫一、遂一箭雙貫焉。

【一線】1341 イッセン　❶一つの線。ひとすぢのいと。〔聞見近錄〕庾嶺險絕聞二天下一、予嘗至二嶺上一、仰視二青天如二一線一、然既過レ嶺、卽春松夾レ道以達二南雄州一。〔周必大、遊二廬山一錄〕紫霄峯劍立二衆山之間一、鐵塔堪如二一線一。❷直接敵と交戰する軍の最前線。第一線。

【一線天】1342 イッセンテン　細々と遠くから洞中に洩れるひかり。江蘇省吳縣の西、洞庭山の石公山、浙江省杭縣の靈隱山、浙江省樂清縣の雁蕩山の靈峯、福建省崇安縣の武夷山中の倉基嶺の西などに其の名がある。〔金華游錄〕有二天地深廣、四畔峻壁不レ可レ下、池之裏有レ崖、如二兩扉一而啓二其一一、極黑暗中、遠望二石扉啓處一、天光下燭、蓋洞天漏レ明、而人莫レ知二其處一、名二一線天一。

【一線分散】1343 イッセンブンサン　敵に接近した時、小隊が各分隊の距離間隔を開いて、一線上に分れ散ること。

【一線門路】1344 ㄧ ㄒㄧㄢˋ mên² lu⁴ 一つの手がかり。

【添二一線長一】1345 イッセンノナガサヲソフ　冬至後、日がだんだん長くなること。絲で日影を計るのに、冬至から毎日一線分だけづつ長くなるからいふ。〔歲時記〕晉魏間、宮中以二紅線一量二日影一、冬至後、日添二長一線一。

【一戰】1346 イッセン　ひといくさ。一度戰ふ。一戎。〔左氏、莊、十〕(曹劌曰)可レ以一戰一。〔孟子、告子下〕一戰勝レ齊、遂有二南陽一。〔國語、齊語〕一戰卽服三十一國一。

【一戰而擒】1347 イッセンシテトラフ　ひといくさしてとらへる。たやすくとらへる。〔魏志、荀彧傳、顏良文醜、一夫之勇耳、可二一戰而禽一也。〔通俗編、武功、一鼓而擒〕魏志荀彧傳、顏良文醜、一勇之夫耳、可二一戰而擒一也。

【一錢】1348 イッセン　一厘の十倍。轉じて、僅かの錢。〔史記、高祖紀〕賀錢萬、實不レ持二一錢一。〔李白、襄陽歌〕清風朗月不レ用二一錢買一。

【一錢如命】1349 ㄧ ㄑㄧㄢˊ ㄖㄨˊ mìng⁴ 金錢を命にも代へようとする程、吝嗇なこと。守錢奴。

【一錢尺帛】1350 イッセンセキハク　一枚の錢、一尺の帛。僅かの財物。〔魏書、崔巖傳〕崔孝伯等奉二孝芬一、盡二恭順之禮一。云云、一錢尺帛、不レ入二私房一。

【一錢太守】1351 イッセンタイシュ　後漢の劉寵をいふ。劉寵が會稽の太守を辭めた時、其の德に感じた人民が各〻百錢を贈つたが、清廉な寵は僅かに一大錢を受けただけであつたといふ故事。〔續漢書、劉寵傳〕劉寵由二會稽太守一、內二遷將作大匠一、山陰縣五六老人、相率共送、人齎二百錢一、寵謝レ之、爲選二一大錢一、故會稽號爲二一錢太守一。

【一錢不レ值】1352 イッセンモアタヒセズ　不レ直二一錢一に同じ。〔吳偉業、賀二新郎一病中有レ感詞〕脫二屣妻孥一非二易事一、竟一錢不レ值何須レ說。

【不レ直二一錢一】1353 イッセンニアタヒセズ　一文にもならぬ。何の價値もない。人の無能を嘲つていふ。直は、一に値に作る。〔史記、灌夫傳〕乃罵二臨汝侯一曰、生平毀二程不識一不レ直二一錢一。〔遊仙窟〕九泉下人一錢不レ直。〔黃庭堅、次韻任道食二荔支一有レ感詩〕一錢不レ直程衞尉、萬事稱好司馬公。

【不レ名二一錢一】1354 イッセンニナヅケズ　漢の鄧通が、文帝に寵愛せられて蜀の銅山を賜はり、自ら鄧氏錢を鑄て天下に流通せしめたが、帝の崩後、罪を獲て盡く家産を沒收せられ、遂には天下に一錢も鄧氏錢と名づけるものが無くなつたこと。〔史記、佞幸、鄧通傳〕竟不レ得レ名二一錢一、寄死人家。〔注〕索隱曰、按、始天下名二鄧氏錢一、今皆沒入、卒竟無二一錢名一之也。

【一錢不落虛空地】1355 ㄧ ㄑㄧㄢˊ pu² lao⁴ hsü⁴ k'ung¹ tì⁴ 一錢でも無駄に費さない。

【一襜】1356 イッセン　一つの前掛。襜は衣の前を蔽ふ前掛の類。〔詩、小雅、采綠〕終朝采レ藍、不レ盈二一襜一。〔傳〕衣蔽二前、謂二之襜一。

【一全】1357 イッセン　ひと揃ひ。〔禮、投壺、二算爲レ純、疏〕純、全也、二算合爲二一全一也。

【一善】1358 イチゼン　一つの善。〔中庸、得二一善一則拳拳服膺、而弗レ失レ之矣。〔國語、楚語下〕聞二一善一若レ驚。〔淮南子、說山訓〕上有二一善一、下有二二嚮一。

【廢一善則衆善衰】1359 イチゼンヲハイスレバシュウゼンオトロフ　善事を一つでも無視すると、多くの善い事が行はれなくなる。僅かの善事も重んずべき喩。〔三略、下略〕廢二一善一則衆善衰、賞二一惡一則衆惡歸。

【一喘】1360 イッセン　一たびあへぐ。轉じて、短い時間。〔蘇軾、乞二數珠一贈二南禪湜老一詩〕我老安能爲、萬劫付二一喘一。

【一墠】1361 イッゼン　一つの祭場。墠は神を祭るために地を除いて低くした所。〔禮、祭法〕王立二七廟、一壇一墠。〔注〕封レ土曰レ壇、除レ地曰レ墠。

【一疏】1362 イッソ　一つの申立文。〔日本外史、德川氏正記〕德川氏出二一疏于懷一獻焉。

【一宗】1363 イッソウ　❶一門。親族。一族(1386)に同じ。〔漢書、吳王濞傳〕天下一宗。〔注〕師古曰、猶レ言二同姓共爲二一家一。〔後漢書、樊儵傳〕吾家並受二榮寵一、一宗五侯。❷同じ種類。又、事物の一處に集まつてゐるもの。一まとめ。一終。〔新方言、釋言〕凡事有二始終期限一、曰二一成一、或曰二一終一、今公牘、轉作二一宗一、通俗、轉作二一樁一、皆終字也。〔游覽志餘〕嘲二杭州一諺云、好和レ歹立二一宗一。

【一奏】1364 イッソウ　❶一度上奏する。〔宋史、戚綸傳〕樂二於薦レ士、每二一奏一十數人、皆當時知名士。❷一度、樂器を吹き、又は彈ずる。〔晉書、桓伊傳〕聞君善吹笛、試爲レ我一奏。〔司空曙、和二王卿立秋卽事一詩〕一奏招商曲、空令二繼唱難一。

【一層】1365 イッソウ　❶ひとかさね。一階。〔王之渙、登

鸛鵲樓一詩〕欲レ窮二千里目一、更上二一層樓一。〔慧遠、廬山記〕其下似二一層浮圖一。❷ i⁴ ts'êng² 一事。事柄。❸ひときは。さらに。

〔一層院〕1366 i⁴ ts'êng² yüan⁴ 一つの庭。一個所の空地。一家屋の敷地。

【一總】1367 イツソウ 總體。合計。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕計二本日買價一、末行共結二一總一。

【一叢】1368 イツソウ ひとむら。ひと集り。〔謝朓、詠竹詩〕窗前一叢竹。〔庾信、春賦〕一叢香草足レ礙レ人。

〔一叢花〕1369 イツソウクワ 詞牌の名。〔過庭錄〕子野郎中一叢花詞云、沈恨細思、不レ如二桃杏猶解レ嫁二東風一、一時盛傳、永叔尤愛レ之、恨レ未レ識二其人一、子野家二南地一、以レ故至レ都、謁二永叔一、永叔倒レ屣迎レ之曰、此乃桃杏嫁東風郎中、東坡守レ杭、子野尚在、嘗預二宴席一、蓋年八十餘矣。

【一籔】1370 イツソウ 十六斗。籔は量の單位。一秉(2040)の❶を見よ。〔儀禮、聘禮〕十斗曰レ斛、十六斗曰レ籔、十籔曰レ秉。

【一增】1371 イチゾウ 佛人の定命の十歳から、百歳毎に一歳を增して、八萬四千歳の定命に達する間。〔佛祖統記、三十〕以二人壽八萬四千歳一、百年命減二一年一、至二十歳一、復增至二八萬四千歳一。

〔一增一減〕1372 イチゾウイチゲン 一方は增し、一方は減らす。或は增し、或は減す。〔同文算指、重準測法〕一增二四兩一、一減二三兩一。〔佛祖統紀、三十〕如レ是一減一增、爲二一小劫一、二十增減爲二一中劫一。

【一束】1373 イツソク ひとたば。ひとつかね。〔詩、小雅、白駒〕生芻一束、其人如レ玉。〔禮、雜記下〕納幣一束、束五兩、兩五尋。〔韓愈、示レ兒詩〕始我來二京師一、止攜二一束書一。

〔一束金〕1374 イツソクキン 草の名。にら。韭(**12**―**43236**)の異名。〔清異錄、蔬、一束金〕杜頤云、食不レ可レ無レ韭、人惡二其啾一、候二其僕市還一、潛取弃レ之、怒罵曰、奴狗奴狗、安得レ去二此一束金一也。

【一足】1375 イツソク 一本の足。〔禮、表記〕子曰、后稷天下之爲レ烈也、豈一手一足哉。〔漢書、彭宣傳〕三公鼎足承レ君、一足不レ任、則覆二亂美實一。

〔一足夔〕1376 イツソクキ ❶一本足の獸の名。夔(**3**―**5746**)の字解を見よ。〔莊子、秋水〕夔謂レ蚿曰、吾以二一足一跉踔而行、予無レ加矣。〔疏〕夔、是一足之獸。〔孔叢子、論書〕公曰、吾聞、夔一足、有レ異二於人一、信乎。〔新論、審名〕夔之一足、必有二獨脛一。〔蘇軾、軾欲二以レ石易レ畫云云詩〕鶡疑二鵬萬里一、蚿笑二夔一足一。❷學校などで用ひる物理學の實驗器械の一種。

〔一足飛〕1377 イツソクトビ ❶兩足をそろへて飛ぶこと。〔明烏夢泡雪、下〕手を取組んで一足飛び。❷急に走ること。又、何處へも寄らずに速かに行くこと。〔孕常磐、四〕くわらくわらと一足飛びに駈け上がり。❸轉じて、順序を踏まずに飛びこすこと。

〔一足之鳥〕1378 イツソクノトリ 商羊といふ一本足の鳥。大水の起るきざしといはれる。〔孔子家語、辨政〕齊有二一足之鳥一、飛二習於公朝一、下止二于前殿一、舒レ翅而跳、齊侯大怪レ之、使三使聘レ魯、問二孔子一、孔子曰、此鳥名曰二商羊一、水祥也。

【一則】1379 イツソク ❶一箇條。一條(1637)の❷に同じ。〔洞冥記、總目〕卷一、十一則。❷一つには。

〔一則仲父二則仲父〕1380 イチニモチユウホニニモチユウホ 齊の桓公がこれも仲父、あれも仲父と、凡て管仲の意見に從つて事を行つた故事。仲は管仲。父は男子の敬稱。〔韓非子、難二〕齊桓公之時、晉客至、有司請レ禮、桓公曰レ告二仲父一者三、而優笑曰、易哉爲レ君、一曰二仲父一、二曰二仲父一。〔呂覽、任數〕有司請二事於齊桓公一、桓公曰、以告二仲父一、有司又請、公曰、告二仲父一、若レ是三、習者曰、一則仲父、二則仲父、易哉爲レ君。

【一息】1381 イツソク ❶ひといき。〔增韻〕息、一呼一吸爲二一息一。〔陸雲、歲暮賦〕百年迅二於分噓一兮、千歲疾二於一息一。〔謝莊、悅二曲池一賦〕引二一息於魂内一、擾二百緒於眼前一。❷ひとやすみする。〔穀梁、昭、四〕慶封曰、子一息、我亦且二一言一。〔漢書、王褒傳〕周二流八極一、萬里壹息。❸しばらく。暫時。〔鮑照、東門行〕一息不二相知一、何況異鄉別。〔劉禹錫、桃源行〕翻然恐迷二鄉縣處一、一息不二肯桃源住一。

〔一息工夫〕1382 i⁴ hsi² kung¹ fu 暫時。しばらくの閒。浙江の方言。

〔一息尚存此志不レ容二少懈一〕1383 イツソクナホソンスレバコノココロザシスコシモオコタルベカラズ 苟も息の根の止らぬ限りは、道を行ふ志を堅持して、少しも怠つてはならない。息は氣息。〔論語、泰伯〕仁以爲二己任一、不二亦重一乎、死而後已、不二亦遠一乎。〔集注〕一息尚存、此志不レ容二少懈一、可レ謂レ遠矣。

【一簇】1384 イツソク イツソウ ひとむら。一群。〔杜甫、江畔獨步尋レ花詩〕桃花一簇開無レ主、可レ愛二深紅一愛二淺紅一。〔杜荀鶴、題二嶽麓寺一詩〕一簇楚江山、江山勝二此難一。

〔一簇瑞雲〕1385 イツソクズイウン ノ ひとむらのめでたい雲。簇はむらがる義。〔土屋鳳洲、奉レ賀二天皇卽位一表〕一簇瑞雲、爛揚二光輝一。

【一族】1386 イチゾク 一門。親族。一宗(1363)の❶に同じ。〔國語、周語上〕王御、不レ參二一族一。〔注〕一族、一父子也。〔北史、魏孝文帝紀〕夏殷不レ嫌二一族之婚一。

【一粟】1387 イチゾク ❶粟一粒。〔淮南子、天文訓〕故十二蔈而當二一粟一。❷小さいことの形容。〔歐陽脩、憎レ蚊詩〕惟爾於二其閒一、有レ形纔一粟。〔蘇軾、赤壁賦〕寄二蜉蝣於天地一、渺滄海之一粟。

〔一粟齋〕1388 イチゾクサイ 清、易本烺(**5**―**13814**・・222)の號。

〔一粟廬〕1389 イチゾクロ 清、于源(**1**―**252**・・43)の室名。

【一卒】1390 イツソツ ❶一人の兵卒。〔戰國、楚策〕吾被レ堅執レ銳、赴二強敵一而死、此猶二一卒一也。〔淮南子、道應訓〕願以レ技齎二一卒一。〔後漢書、張宗傳〕宗曰、愚聞、一卒畢レ力、百人不レ當、萬夫致レ死、可二以橫行一。❷一人の隊長。卒は率で、長をいふ。〔尉繚子、制談〕百人一卒、千人一司馬。

【一存】1391 イチゾン ❶一たびは存する。或はある。一存一亡を見よ。❷イチゾン おのれ一人の考。一料簡。

〔一存一亡〕1392 イチゾンイチバウ 或はあり、或は無い。又、存續するか、滅亡するか。〔說苑、至公〕雖レ然子亡レ之、我存レ之、於レ是乎、觀二楚一存一亡一也。〔論衡、無形〕龍之爲レ蟲、一存一亡、一短一長、龍之爲レ性也、變化斯須、輒復非レ常。

【一村】1393 イツソン 一つの村。また村全體。〔楊萬里、舟過二望亭一詩〕一村樹暗知二何處一、兩岸草青無二了時一。〔陸游、初歸偶到二近村一詩〕雨過一村暗、風回百草香。

〔一村而結レ好〕1394 イツソンニシテヨシミヲムスブ 朱と陳といふ二姓ばかり集まつた村があつて、代々此の閒で互に好婚を通じた故事。朱陳好。〔白居易、朱陳村詩〕徐州古澧縣、有レ村曰二朱陳一、去レ縣百餘里、桑麻青氛氳、云云、一村惟兩姓、世世爲二婚姻一。〔故事成語考、婚姻〕朱陳一村而結レ好。

【一飡】1395 イツソン 一度の食事。一食。一餐に同じ。

〔一飡之德〕1396 イツソンノトク 一度飯をふるまはれた程の少しの恩惠。一飯德。〔蜀志、法正傳〕一飡之德、睚眦之怨、無レ不二報復一。

【一尊】1397 イツソン ❶一つの尊いもの。定二一尊一を見よ。〔唐書、后妃上、高宗則天武后傳〕天子不二自安一、亦請三氏レ武示二一尊一。❷一つの酒樽。尊は樽・罇に同じ。❸一體の佛像、又は一門の大砲。尊は、佛像・砲などを數へる語。一尊礮。

〔定二一尊一〕1398 イツソンニサダマル 學說などが一つに定まること。〔史記、秦始皇紀〕別二黑白一而定二一尊一。〔史記、李斯傳〕別二白黑一而定二一尊一。

【一樽】1399 イツソン 一つの酒樽。一尊。一榼。一卣。〔沈約、別二范安成一詩〕勿レ言一樽酒、明日難二重持一。〔杜甫、春日憶二李白一詩〕何時一樽酒、重與細論レ文。〔白居易、酒功讚〕孕レ和者何、濁醪一樽。

【一罇】1400 イツソン 一樽に同じ。〔詩、大雅、江漢、秬鬯一卣、箋〕王賜二召虎一以二鬯酒一罇一。〔舊唐書、禮儀志五〕一罇之酒。

【一打】1401 イチダ ❶一たび打つ。〔南史、任忠傳〕喚二蕭郎一作二一打一。❷イチダース 十二個。

【一朶】1402 イチダ ひと枝。又、一枝の花。〔盧綸、九日奉二陪渾侍中一登二白樓一詩〕茱萸一朶映二華簪一。〔元稹、離思詩〕一朶紅蘇旋欲レ融。

〔一朶雲〕1403 イチダノクモ ❶一團の雲。〔竹坡詩話〕翦盡巫山一朶雲。〔長生殿、看襪〕儞看薄襯香綿、似二一朶仙雲輕又軟一。❷イチダウン 湖北省安陸縣に產する豆の一種。〔直省志書、德安府〕物產、菉豆、曰二摘菉一、曰二藤菉一、曰二一朶雲一。

〔一朶花〕1404 イチダノハナ 一枝の花。一塊りの花。〔盧頻、失題詩〕一朶花葉飛、一枝花光彩。〔陳陶、續古詩〕千根池底藕、一朶火中花。

〔一朶紅雲捧二玉皇一〕1405 イチダノコウウンギヨククワウヲササグ 一團の紅

色の雲が、玉帝（神人の名）を擁してゐること。〔蘇軾、上元侍二飲樓上一三首呈一同列一詩〕瀋月踈星遶二建章一、仙風吹下御爐香、侍臣鵠立通明殿、一朵紅雲捧二玉皇一。

【一垜】1406 ダイ 唐代、金六兩の稱呼。〔酉陽雜俎、物異〕金最上六兩爲二一垜一。

【一蛇】1407 ダイチ 一匹の蛇。〔史記、晉世家〕四蛇各入二其宇一、一蛇獨怒。

【一蛇一首】1408 イチジャ ニシュ 朝廷に二人の權力者があつて、國運の進歩を害する喩。一匹の蛇に二つの頭があつては前へ進むことが出來ぬ意。〔元史、姚天福傳〕古稱、一蛇九尾、首動尾隨、一蛇二首、不レ能二寸進一、今臺綱不レ張、有二一蛇二首之患一。

【一蛇無レ穴號二於中野一】1409 イチジャ アナナクヤニオケル 晉の文公の臣、介子推の故事。文公に從つて亡命した臣五人の中、子推だけ其の恩賞に洩れたのを、其の從者が憐んで城門に掲げた文句の一部。〔說苑、復恩〕推從者憐レ之、乃懸二書宮門一曰、有レ龍矯矯、頃失二其所一、五蛇從レ之、周二徧天下一、龍饑無レ食、一蛇割レ股、龍反二其淵一、安二其壤土一、四蛇入レ穴、皆有二處所一、一蛇無レ穴、號二於中野一。

【一唾】1410 イチダ 一たび唾を吐く。力を用ひることの極めて少い喩。〔韓偓、此翁詩〕嚴光一唾垂綏紫、何胤三遺大帶紅。〔佛藏經、上〕一唾劫火卽滅、一吹世界卽成。〔止觀、五下〕劫火起時、菩薩一唾、火卽滅。

【一馱】1411 ダ 馬一匹に負はせる荷物の重量。馱は駄。〔宋史、食貨志下七〕礬、以二一百四十斤一爲二一馱一。

【一泰】1412 イッタイ 一つのやすらかさ。〔白居易、與二元稹一書〕得レ同二寒煖飢飽一、此一泰也。

【一堆】1413 イッタイ ひとつもり。一かたまり。〔杜牧、初冬夜飲詩〕砌下梨花一堆雪、明年誰此凭二闌干一。

【一堆人】1414 yi¹ tuei¹ jen² 大勢の人。群集。

【一堆生】1415 yi¹ tuei¹ shêng¹ ひと積み重ね。

【一帶】1416 イッタイ ❶ひとすぢ。ひとつづき。〔冷朝陽、登二靈善寺塔一詩〕華岳三峯小、黃河一帶長。〔白居易、別二草堂一詩〕三間茅舍向二山開一、一帶山泉繞レ舍廻。〔元稹、度門寺詩〕門臨溪一帶、橋映竹千里。❷あたり一面。〔羊士諤、泛レ舟入二後溪一詩〕雨餘芳草淨二沙塵一、水綠灘平一帶春。〔陸龜蒙、新定陪二太守一百五夜南館翫レ月詩〕卻嫌殷浩南樓夕、一帶秋聲入レ恨長。〔元史、世祖紀一〕率二蒙古漢軍一、駐二燕京近郊太行一帶一。❸地方。地區。

【建て並べた數家屋。

【一帶群房】1417 yi¹ tai⁴ ch'ün² fang² 一個所に

【一隊】1418 イッタイ 一くみの兵士。〔左氏、襄、十〕狄虎彌建二大車之輪一、而蒙レ之以レ甲、以爲レ櫓、左執レ之、右拔レ戟、以成二一隊一。〔注〕百人爲レ隊。〔漢書、李陵傳〕願得二自當一レ隊。〔孔子家語、致思〕由當二一隊一而敵レ之、必也攘レ地千里。

【一諦】1419 イッタイ 〔佛〕眞如の道理をいふ。第一義諦を指す。〔智度論、八十六〕聲聞人以二四諦一得レ道、菩薩以二一諦一入レ道。

【一蹟】1420 イッセキ 一たびつまづく。〔淮南子、脩務訓〕以二一蹟之難一、輟レ足不レ行、惑也。

【一體】1421 イッタイ ❶身體の一部分。手一本、又は足一本。人の學德の一方面などに喩ふ。〔孟子、公孫丑上〕子夏・子游・子張、皆有二聖人之一體一。〔注〕一體者、得二一肢一也。〔史記、項羽紀〕各得二其一體一、五人共會二其體一皆是。❷同じ一つのからだ。離れ得ぬ親密な間柄。〔儀禮、喪服子夏傳〕父子一體也、夫婦一體也、昆弟一體也。〔公羊、宣、元〕夫人與レ公一體也。〔呂覽、精通〕父母之於二子也一、子之於二父母一也、一體而兩分。〔漢書、禮樂志〕損讓而天下治者、禮樂之謂也、二者並行、合爲二一體一。〔諸葛亮、前出師表〕宮中府中、俱爲二一體一。❸同じ體裁のもの。同類。〔莊子、大宗師〕孰知二死生存亡之一體一者。〔史記、酈布傳〕此三人者、同功一體之人也。❹一様。同樣に。〔史記、陳餘傳〕陳餘張耳、一體有レ功於趙。❺別の體裁。一つの體裁。〔詩品〕在二曹劉間一、別構二一體一。❻ぜんたいに。おしなべて。總體に。

【一體化】1422 イッタイカ 別々のものが、全體として一つにまとまること。

【一體全體】1423 イッタイゼンタイ もとをいへば。そもそも。

【一體同心】1424 イッタイドウシン 頭と手足との様に全く一つ心になること。元首と將卒とが一體となり、將卒は元首の心を我が心とすること。〔重野成齋、勅二諭陸海軍人一〕一體同心、其親特深。

【一體兩面論】1425 イッタイリョウメンロン 物心の二現象を、單一の實體の兩面と解する說。二面說。

【一大】1426 イチダイ 天の異稱。一大の二字を合すると天の字となるからいふ。〔說文〕天、顚也、至高無上、从二一大一。〔易乾鑿度〕天天氏云、一大之物自レ天、一塊之物自レ地、一炁之鬻名二混沌一。

【一大劫】1427 イチダイコウ 〔佛〕成劫・住劫・壞劫・空劫を各各一小劫といひ、この四小劫を併せた期間。極めて長い時間。〔祖庭事苑〕成住壞空謂二之劫一。

【一大事】1428 イチダイジ ❶容易ならぬ事件。重要な事柄。〔蘇軾、趙閻道高齋詩〕超然已了二一大事一、掛レ冠而去眞秋毫。〔朱子文集、答二陳才卿一書〕禮樂是一大事、不レ可レ不レ講。❷〔佛〕生死の世界其のまゝが實相（まことの世界）であるといふ妙理。一大は實相の妙理をさし、佛知見をいふ。一大事因緣を見よ。

【一大圠】1429 i² ta⁴ hsieh¹ 澤山な。多量な。豐富な。

【一大臣】1430 イチダイシン ❶一人の大臣。❷イチノオトド 左大臣の異稱。一の上。〔濱松中納言物語、一〕一の后の父、一の大臣。

【一大把】1431 i² ta⁴ pa³ 大きな握り柄。大把手。

【一大石渠】1432 イチダイセキキョ 石で疊んだ一つの大きなみぞ。〔荻生徂徠、峽中紀行〕是川亦一大石渠耳。

【一大片水】1433 i² ta⁴ p'ien⁴ shuei³ 一帶の洪水。

【一大事因緣】1434 イチダイジインネン 〔佛〕人々に實相（まことの世界）を知らせようとする佛の本意。〔法華經、方便品〕諸佛世尊、唯以二一大事因緣一、故出二現於世一。

【一代】1435 イチダイ ❶人の一生。一生涯。〔江淹、傷二友人一賦、拾二一代一而笑レ淺、訪二古人一而求レ深。❷其の世。其の時代。一世。〔杜甫、醉時歌〕德尊二一代一常坎軻、名垂二萬古一知何用。〔庾信、擬二詠懷一詩〕千年水未レ清、一代人先改。❸一つの王朝の存續する間。〔禮、文王世子、疏〕若二諸侯一、正立二時王一二代之學一、有二大學小學一耳。〔漢書、王莽傳中〕至二于哀之十四一而一代畢、協之於今、亦哀之十四也、赤世計盡終、不レ可二強濟一。〔魏志、王粲傳評〕興二一代之制一。〔吳志、韋曜傳〕漢氏承レ秦、則有二叔孫通一、定二一代之儀一。❹家系を數へる語。第一代。

【一代記】1436 イチダイキ 人一代の傳を記した書。〔曾我五人兄弟、五〕河津三郎が一代記を、京都にて書物に作り。

【一代教】1437 イチダイキョウ 〔佛〕釋迦如來の成道から滅度に至るまでの一代の間に說いた大小乘の諸教。〔止觀、義例下〕一代教法、會二在法華一。

【一代英雄】1438 イチダイノエイユウ 當時に最もすぐれた人物。〔晉書、王謐傳〕初劉裕爲二布衣一、衆未二之識一也、惟謐獨奇貴レ之、常謂レ裕曰、卿當レ爲二一代英雄一。

【一代楷模】1439 イチダイノカイボ 一世の手本。〔舊唐書、李靖傳〕欲二以公爲一二代楷模一。

【一代盛美】1440 イチダイノセイビ 其の時代中に於て、尤も盛で美しいこと。〔晉史〕如二唐文皇蘭亭一、豈非二一代盛美一。

【一代宗臣】1441 イチダイノソウシン 一世の人の仰慕する重臣。〔漢書、蕭何曹參傳贊〕唯何參擅二功名一、位冠二羣臣一、聲施二後世一、爲二一代宗臣一、慶流二苗裔一。

【一代談宗】1442 イチダイノダンソウ 一世の言談の大家と仰がれる人。〔晉書、潘京傳〕樂廣京州人也、共談累レ日、深歎二其才一謂レ京曰、君天才過レ人、恨不レ學耳、若學必爲二一代談宗一。

【一代文豪】1443 イチダイノブンガウ 其の當時に於て最もすぐれた文章家。〔歐陽脩、歸田錄二〕楊大年每欲レ作レ文、頃刻之際成二數千言一、眞一代之文豪也。

【一代五時佛法】1444 イチダイゴジブッポウ 〔佛〕天台宗で釋迦一代の教法を、華嚴・阿含・方等・般若・法華涅槃の五時に區別したもの。〔四教儀〕以二五時八教一判二釋東流一代聖教一、醫無レ不レ盡。

【一代做官二代打榰】1445 i² tai⁴ tsuo⁴ kuan¹ êrh⁴ tai⁴ ta³ chuang¹ 官吏の貪慾を呪ふ諺。一代官吏をすれば、其の後二代は苦勞をする。一世爲官七世打磚（1195）に同じ。

【一台】1446 イチダイ ❶一臺に同じ。❷芝居などのひときり。❸一揃ひ。

【一臺】1447 イチダイ ❶一つのうてな。〔左氏、襄、十七〕今君爲二一臺一而不二速成一、何以爲レ役。〔漢書、翼奉傳〕孝文欲レ作二一臺一、度用百金。❷一つの役所。〔唐書、狄兼謨傳〕一臺正、則朝廷治。〔沈佺

期、餞ニ唐郎中洛陽令一詩〕一臺推ニ往妙一、三史佇ニ來脩一。

【一臺戲】1448 i⁴ t'ai² hsi⁴ ひと舞臺の演劇。

【一臺二絶】1449 同じ尚書省に勤めてゐる二人の賢人。梁の伏曼容と袁粲とが倶に玄理を善くした故事。臺は官聽。絶はすぐれた人。〔南史、伏曼容傳〕爲ニ尚書外兵郎一、嘗與ニ袁粲一罷レ朝、相會言ニ玄理一、時論以爲ニ一臺二絶一。

【一臺二妙】1450 同じ尚書省に勤めてゐる二人の偉い書家。晉の尚書令衞瓘と、尚書郎索靖との二人が、倶に草書を善くした故事。臺は官聽。〔晉書、衞瓘傳〕瓘學問深博、明ニ習文藝一、與ニ尚書郎敦煌索靖一倶善ニ草書一、時人號爲ニ一臺二妙一。〔范梈、寄ニ友人一詩〕如レ此一臺兼ニ二妙一、令ニ人萬里破ニ千愁一。

【一擡】1451 i⁴ t'ai² 麻雀の點數計算に用ひられる一種の特典をいふ。

【一擡食盒】1452 i⁴ t'ai² shih² hê² 進物用の食物を入れる木櫃の小さいもの。

【一刀】1453 ㊀一口の刀。〔晉書、王濬傳〕濬夜夢、懸ニ三刀於臥屋梁上一、須臾又益ニ一刀一。㊁漢の貨幣の名。〔漢書、食貨志下〕王莽居レ攝、變ニ漢制一、云云、錯刀以ニ黃金一錯、其文曰、一刀直五千。㊂i⁴ tao¹ 一帖。一刀紙を見よ。㊃料理人が最初に切り下す庖丁。

【一刀紙】1454 i⁴ tao¹ chih³ 一たばの紙。紙百枚。

【一刀流】1455 伊東一刀齋景久の創始した劍術の一派。〔明良帶錄、二〕。

【一刀三禮】1456 佛佛像を刻むに、一刀を入れる度毎に三度禮拜すること。一刀三拜。〔廣隆寺由來記、大講堂〕長和元年、源信僧都、云云、來ニ于當寺一、瞻ニ禮尊像一、手親一刀三禮、刻ニ二尊像一。

【一刀兩斷】1457 一刀の下に物を眞二つに斷ち切ること。轉じて、決斷の神速なること。思ひ切つて物事を處置する喩。〔朱子語類、論語〕克レ己者、是從ニ根源上一、一刀兩斷、便斬絶了。〔通俗編、器用、一刀兩斷〕朱子語錄、聖人發レ憤便忘レ食、樂便忘レ憂、直是一刀兩斷。

【一刀割不斷】1458 i⁴ tao¹ kê¹ pu² tuan⁴ 一刀では斷ち切れない間柄。複雜な姻戚つづき。其の妻が姉妹なるか、或は其の夫が兄弟なるかの場合にいふ。

【一套】1459 ㊀ひと組。ひと揃ひ。〔同文算指〕問、用ニ金八十一兩一造レ杯、一套五箇。㊁一帙。

【一套書】1460 一帙の書籍。

【一套話】1461 i² t'ao⁴ hua⁴ 長話。陳腐な話。

【一搪】1462 i⁴ t'ang² 先登の斥候をいふ。

【一幢】1463 i⁴ ch'uang² ひと棟。一軒。

【一樁】1464 i⁴ chuang 一種、又はひと口。一つ。一件。もと一宗から轉訛したもの。〔燕子箋、偕征〕不是笑老兄、小弟有一樁心事。〔長生殿、疑讖〕要思量做一個頂天立地的男兒、幹一樁定國安邦的事業。

【一⿰車尚】1465 i² t'ang 一度。一回。一盪。一趟。

【一擣】1466 一たび打つ。一たびつく。〔淮南子、脩務訓〕及レ至ニ勇武攘捲一擣一、則擢レ脇傷レ幹。

【一盪】1467 i² t'ang 一度。一回。一次。一趟。

【一黨】1468 仲間。一派。〔太平記、八、四月三日合戰事〕伊東・松田・頓宮・富田判官が一黨。

【一堂】1469 ㊀一つの表座敷。一つの居室。〔漢書、鼂錯傳〕先爲築レ室、家有ニ一堂一。〔白居易、竹窗詩〕未レ暇レ作ニ廏庫一、且先營ニ一堂一。〔吳澄、客中郎事詩〕塵懸ニ萬里一只如レ此、孤ニ坐一堂一還可レ人。㊁堂中の者全體。堂中のこらず。滿堂。〔說苑、貴德〕今有ニ滿堂飲レ酒者一、有ニ一人一、獨索然向レ隅而泣、則一堂之人、皆不レ樂矣。㊂字號。㋑民國、王揖唐(**7**—**20823**‥1164)の字。㋺東條弘の號。東條一堂(**6**—**14499**‥859)を見よ。㋩赤澤一の號。赤澤一堂(**10**—**36993**‥457)を見よ。

【一堂授受】1470 一堂で教へる人と習ふ者。師弟の間柄をいふ。

【一道】1471 ㊀一つの道。同じ道。〔漢書、董仲舒傳〕三聖相受而守ニ一道一。〔宋史、選擧志三〕文武一道也。㊁一つの道理。一つの方法。〔孟子、公孫丑下〕夫豈不義而曾子言レ之、是或一道也。〔呂覽、愛類〕利民豈一道哉、當ニ其時一而已矣。㊂ひとすぢ。〔劉禹錫、詶ド楊八副使將レ赴ニ湖南一途中見レ寄一絶上詩〕一道巴江自レ此來。〔杜牧、汴人舟行答ニ張祜一詩〕一道帆檣畫ニ柳煙一。㊃一つの文書。一通の答案。〔白居易、才識兼茂明ニ於體用一科策一道〕對、臣聞、漢文帝時、賈誼上疏云、可ニ爲痛哭一者一、可ニ爲流涕一者二、可ニ爲長太息一者三。〔蘇洵、上ニ田樞密一書〕作ニ策二道一、曰ニ審勢審敵一。㊄一つの。一條。㊅佛眞如(**8**—**23235**‥254)に同じ。〔祕藏寶鑰、下〕明ニ法身・眞如・一道・無爲之眞理一、云云、名ニ入佛道初門一。

【一道官】1472 官員をいふ。〔通俗編、數目、一道〕洪葉暘谷漫錄、道字有ニ數義一、今俗語、指ニ官員一、亦謂爲ニ一道官一、大槩以レ道爲レ路、至ニ于官司符引據牒一、亦曰ニ幾道一、試士之文義策論、亦曰ニ幾道一、則未レ詳ニ其訓義一。

【一道兒】1473 i² tao⁴ êrh 一路。起點から到着點まで。

【一道法門】1474 佛阿字の一門をいふ。卽ち諸の事象は本來生滅あるものではなく、其のまま絶對のものであるといふ教。〔大日經、六〕吾今演ニ說差別道一道法門一。

【一撓】1475 一たびみだすこと。〔淮南子、俶眞訓〕濁レ之不レ過ニ一撓一、而不レ能レ察ニ方員一。

【一宅】1476 ㊀一つのすまひ。〔陶潛、戊申歲六月中遇レ火詩〕一宅無ニ遺宇一、舫舟蔭ニ門前一。〔唐書、辛替否傳〕今棄ニ一宅一造ニ一宅一、忘ニ前悔一忽ニ後禍一。〔皮日休、二遊詩〕一宅閑ニ林泉一、終身遠ニ囂雜一。㊁照井全都の號。照井一宅(**7**—**19226**‥205)を見よ。

【一宅分ニ兩院一】1477 一つの家を二つに分ける。〔通俗編、居處、一宅分爲ニ兩院一〕見ニ楊文奎兒女團圓劇一。

【一宅而寓ニ於不レ得レ已則幾矣】1478 心を虛無靜一の境地に安住せしめ、已むを得ずして動くといふ消極的態度をとつて居れば、道に近い。〔莊子、人閒世〕若能入遊ニ其樊一、而無レ感ニ其名一、云云、一宅而寓ニ於不レ得レ已、則幾矣。

【一噣】1479 一たび啄む。〔韓詩外傳、九〕五步一噣、終日乃飽。

【一諾】1480 一度承諾すること。〔史記、季布傳〕楚人諺曰、得ニ黃金百斤一、不レ如レ得ニ季布一諾一。〔李白、經ニ亂離一云云詩〕片辭貴ニ白璧一、一諾輕ニ黃金一。

【一諾千金】1481 然諾を重んずる義。確實な承諾。一諾を見よ。〔戎昱、上ニ湖南崔中丞一詩〕千金未ニ必能移一レ性、一諾從來許レ殺レ身。

【一達】1482 道などが一方に通ずること。一本道。〔爾雅、釋宮〕一達、謂ニ之道路一。

【一脫】1483 佛三德(法身德・般若德・解脫德)中の解脫の一德。〔文句記、四中〕三德中之一脫。

【一劄】1484 i¹ ta² ㊀いつしよに。㊁ひとかたまり。㊂ひとひねりの。㊃ひとかさねの紙、又は紙幣。一疊子。

【一搭】1485 一しよ。一くみ。〔通俗編、數目、一搭〕盧仝月蝕詩、當レ天一搭如ニ煤炱一、按、周禮掌客注、秭秅麻荅疏云、秅是束之總名、秭亦數之總號、荅是鋪名、刈レ麻者、數把共爲ニ一鋪一、觀レ此可レ知ニ一搭之義一。

【一搭泉】1486 i⁴ ta¹ ch'üan² 一個所の泉。一つ「の清水。

【一搭裏】1487 i⁴ ta¹ li³ 一しよに。〔元曲、黑旋風〕我把這兩顆頭、都拏將來、做ニ一搭裏放者。

【一搭開載】1488 i⁴ ta¹ k'ai¹ tsai⁴ 一々書き記す。逐一記載する。一しよに書く。

【一搭信紙】1489 i⁴ ta¹ hsin⁴ chih³ 一組の書簡箋。

【一榻】1490 一つの腰かけ。又、ねだい。〔後漢書、陳蕃傳〕特爲置ニ一榻一、去則懸レ之。〔項斯、李處士道院南樓詩〕滿壺邀レ我醉、一榻爲レ僧閑。

【一榻之外皆他人家】1491 自己の寢臺以外は凡て他人の家である。敵國がまだ滅びず、天下が猶我がものとならぬ意。宋の太祖が風雪を冒して夜中趙普を訪ねた時に言つた語。〔邵氏聞見錄〕帝曰、吾睡不レ著、一榻之外、皆他人家也。

【一旦】1492 或る朝。ひとあさ。一朝。轉じて、ひとたび。忽ち。又、他日。〔戰國、楚策〕可ニ一旦而盡一也。〔莊子、胠篋〕田成子一旦殺ニ齊君一、而盜ニ其國一。〔史記、趙世家〕一旦山陵崩、長安君何以自託ニ於趙一。〔史記、商君傳〕秦王一旦捐ニ賓客一而不レ立レ朝、秦國之所ニ以收レ君者、豈其微哉。

【一旦有レ急】1493 一たび危急なことがある。〔鹽鐵論、論功〕一旦有レ急、貫レ弓上レ馬而已。〔宋史、食貨志上二〕一旦有レ急、又將レ取ニ諸民一乎。

【一旦之功】1494 イッタンノコウ 只一度の功績。〔史記、蕭相國世家〕奈何欲下以二一旦之功一、而加中萬世之功上哉。

【一旦之用】1495 イッタンノヨウ 一旦緩急ある時の用。〔宋史、蠻夷三、撫水州蠻傳〕實南邊藩籬重地、故置二州縣一、籍二其丁壯一、以備二一旦之用一。

【一旦有二緩急一】1496 イッタンクワンキフアリ 一度緊急なことがおこる。〔漢書、爰盎傳〕一旦有二緩急一、寧足レ恃乎。〔後漢書、竇融傳〕一旦緩急、杜二絶河津一、足二以自守一。

【爭二一旦之命一】1497 イッタンノメイヲアラソフ のるかそるかの勝負をする。勝敗を爭ふこと。〔史記、楚世家〕秦且下率二諸侯一伐レ楚、爭中一旦之命上。〔漢書、韓王信傳〕將兵與二將軍一爭二一旦之命一、此三罪也。

【一旦豁然貫通】1498 イッタンクワツゼントシテクワンツウス 一朝にしてからりと悟る意。〔大學、傳五章、朱熹補傳〕至二於用レ力之久、而一旦豁然貫通一焉、則衆物之表裏精粗、無レ不レ到。

【一端】1499 イッタン ❶一つのはし。かたはし。一部分。〔禮、祭義〕夫言豈一端而已、夫各有レ所レ當也。〔春秋繁露、楚莊王〕得二一端一而博達レ之。〔班固、西都賦〕十分未レ得二其一端一。〔孔子家語、曲禮公西赤問〕夫言豈一端而已哉。❷二丈をいふ。〔小爾雅、廣度〕倍レ丈謂二之端一。〔左氏、昭、二十六、幣錦二兩、注〕二丈爲二一端一、二端爲二一兩一。❸ひと口。一事。

【一潭】1500 イッタン 一つのふち。潭は、水の淀んだところ。〔盧綸、題二天華觀一詩〕峯嶂徘徊霞景新、一潭寒水絶二纖鱗一。〔白居易、重修二香山寺一云云詩〕波翻二八灘雪一、堰護二一潭油一。〔許渾、守二風淮陰一詩〕一潭明月萬株柳、自去自來人不レ知。

【一擔】1501 イッタン ❶百斤をいふ。〔宋史、食貨志下五〕引法初行、百斤爲二一擔一。❷一石をいふ。〔通俗編、數目、一擔〕後漢書韋彪傳注、江淮人謂二一石一爲二一擔一、按、今不二特江淮爲一レ然。❸ひとかたげ。ひとになひ。❹一ピクル。

【一簞】1502 イッタン 竹で作つたひとつの食器。わりご。〔左氏、哀、二十〕與二之一簞珠一。〔阮籍、詠懷詩〕饑食幷一簞。

【一簞犒】1502′ イッタンノネギラヒ 一折の食物。一折の辨當。〔韓愈、薦士詩〕救レ死具二八珍一、不レ如二一簞犒一。

【一簞食】1503 イッタンノシ わりご一杯の飯。〔論語、雍也〕子曰、賢哉回也、一簞食、一瓢飲、在二陋巷一、人不レ堪二其憂一、回也不レ改二其樂一、賢哉回也。〔集注〕簞、竹器、食、飯也。〔孟子、告子上〕一簞食、一豆羹、得レ之則生、弗レ得則死。

【一簞之醪】1504 イッタンノラウ 一杯のにごり酒。〔三略、上略〕夫一簞之醪、不レ能レ味二一河之水一。

【一男】1505 イチダン ❶一人の男子。〔周禮、夏官、職方氏〕正南曰二荊州一、其民一男二女。〔史記、外戚世家〕太子幸二愛之一、生二三女一男一。❷イチナン 長男。〔江濃記〕道三に三子有り、一男、新九郎義糺といふ。

【一男一女】1506 イチダンイチヂョ 一人の男と一人の女。〔左氏、僖、十七〕梁嬴孕過レ期、卜招父與二其子一卜レ之、其子曰、將レ生二一男一女一。〔鹽鐵論、散不足〕古者、夫婦之好、一男一女、而成二家室之道一。

【一男兒耳】1507 イチダンジノミ 一箇の男子たるに過ぎぬ。〔賴山陽、立志〕古之賢聖如二孔孟一者、亦一男兒耳。

【一男半女】1508 i^4 nan^2 pan^4 nü^3 少數の家族。

【一段】1509 イチダン ❶ひときは。一層。〔李白、擣衣篇〕願作二陽臺一段雲一。〔李邕、詠レ雲詩〕散作二五般色一、凝爲二一段愁一。❷ひとくぎり。〔研北雜誌〕漢人喜レ獵、兩都・二京・三都・子虛賦・七發、皆說二一段獵事一。❸ひとくぎりの地。〔唐書、朱仁軌傳〕終身讓レ路、不レ枉二百步一、終身讓レ畔、不レ失二一段一。❹階段などの一つ。❺タン ㋑長さの單位。古、六間をいふ。〔和漢名數〕六間爲二一段一。㋺面積の單位。十畝。三百坪。段、一に反に作る。㋩大人一人の衣服を作るに要する布帛の丈。鯨尺で長さ二丈六尺、幅九寸。段、一に反・端に作る。

【一段頭】1510 イチダントウ 近古の田制上の用語。一段の十分の一、三十六步。〔拾芥抄〕凡田以二方六尺一爲二一步一、卅六步爲二一段頭一、一段爲二一町頭一、十段爲二一町積一。

【一段落】1511 イチダンラク ひとくぎり。ひときり。

【一段活用】1512 イチダンクワツヨウ 國文法用語。動詞の上・下一段活用。

【一段翠氣】1513 イチダンノスイキ 眉に一きは翠氣があること。顏貌のすぐれた形容。〔書言故事、顏貌類〕不レ瞻二一段翠氣一、山谷詩、眉宇之間如二大華一、一段翠氣連二終南一。

【一團】1514 イチダン ❶ひとかたまり。ひとむら。〔岑參、衞節度赤驃馬歌〕君家赤驃畫不レ得、一團旋風桃花色。〔戎昱、閏春宴二花溪嚴侍御莊一詩〕一團青翠色、云是子陵家。〔范梈、以二瓊扇一握一奉二致黃明府一詩〕拾得炎洲月一團。❷民國陸の一箇聯隊。

【一團嬌】1515 イチダンケウ 錦の名。〔段成式、矛卿解籍戲呈二飛卿一詩〕未レ有三長錢求二鄴鏡一、且令三裁二取一團嬌一。〔自注〕錦名。

【一團和氣】1516 イチダンノワキ なごやかな空氣。親密な和氣。〔伊洛淵源錄〕明道終日坐、如二泥塑人一、然接レ人渾是一團和氣、見二上蔡語錄一。

【一團茅草亂蓬蓬】1517 イチダンノバウサウミダレテホウホウタリ 一むらのかやが亂れて生え繁つてゐる。〔通俗編、草木、一團茅草亂蓬蓬〕許彦周詩話、宣和時、予游二嵩山極中院一、見三人題二一詩一云、一團茅草亂蓬蓬、驀地燒天驀地空、爭似三滿爐煨二榾柮一、漫騰騰地煖烘烘、溫公書二其旁一云、勿レ毀二此詩一、蓋有レ所二寄托一而云也、詩又載二張氏貴耳集一。

【一談】1518 イチダン ❶一度話す。又、或は話す。〔南史、胡蕃傳〕一詠一談。〔杜甫、人日詩〕一談一笑俗相看。❷一つの話。〔韓愈、平二淮西一碑〕萬口和附、幷爲二一談一、牢不レ可レ破。

【一斷】1519 イチダン ❶一度でたちきる。一たびたちきる。一絶。〔班固、答賓戲〕鉛刀皆能一斷。〔李白、宣城見二杜鵑花一詩〕一叫一廻腸一斷、三春三月憶二三巴一。❷專ら定める。すべてを決定する。〔史記、太史公自序〕法家不レ別二親疏一、不レ殊二貴賤一、一斷二於法一、則親親尊尊之恩絕矣。〔南史、齊豫章王嶷傳〕自レ此以來、此事一斷レ上。

【一斷一切斷】1520 イチダンイチサイダン 佛 一つの煩惱を斷ち切れば、一切の煩惱を斷ち切ることが出來る。〔五教章、三〕但如二法界一得一切得一故、是故煩惱亦一斷一切斷也。

【一地】1521 イッチ ❶一つの土地。同じ土地。〔詩、齊譜、疏〕以レ丘臨レ水、謂二之臨淄一、與二營丘一一地也。〔李山甫、送二李秀才入一レ軍詩〕弱柳貞松一地栽、不レ因二霜霰一自難レ媒。❷佛 イチヂ 十地の中の一。又、佛性（人の本來具へてゐる佛となる性質）をいふ。一切の草木種子が皆地から生ずるやうに、一切の善根功德は皆一佛性より生ずるからいふ。〔法華經、藥草喩品〕雖二一地所レ生、一雨所レ潤、而諸草木、各差別。

【一池】1522 イッチ 一つのいけ。池全體。〔盧綸、題二楊虢縣竹亭一詩〕遶レ堦二三逕雪、當レ戶一池冰。〔劉得仁、宿二宣義池亭一詩〕夜深斜舫月、風定一池星。〔薛能、詠レ島詩〕一池分二倒影一、空舸繫二荒根一。〔林逋、溪上春日詩〕一池春水綠二於苔一、水上花枝竹間開。

【一致】1523 イッチ 同一點に歸着すること。一つになる。〔漢書、敍傳上〕三仁殊而一レ致兮、夷惠舛而齊レ聲。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕二極一致、愛敬同歸。

【一致點】1524 イッチテン ❶相一致する箇所。❷左右網膜上の相對應した諸點。

【一致百慮】1525 イッチヒャクリョ おもむく所は同じでも、謀る所は樣々。一致を見よ。〔易、繫辭下〕天下同レ歸而殊レ塗、一レ致而百レ慮。〔後漢書、王充等傳論〕此其分レ波而共レ源、百レ慮而一レ致者也。

【一瓻】1526 イッチ 書物を借り、又は返す時、御禮として酒一瓻を送つた故事。瓻は酒を盛る器、卽ち、もたひ。書物を借り、又は返すことをもいふ。一癡に作るは訛。〔邵氏聞見錄〕俗語、借レ書與レ人爲二一癡一、還レ書爲二一癡一、嘗疑、借レ書還レ書、理也、何癡之云、後見下王樂道與二錢穆四一書上云、出師頌最絕妙、古語、借レ書一瓻、還レ書一瓻、乃知今人訛以レ瓻爲レ癡也。

【一肘】1527 イッチウ ひぢのつけねから、中指の末端に至るまでの長さ。一尺八寸、又は二尺位の長さ。〔度地論〕二尺爲二一肘一、四肘爲二一弓一。〔俱舍論、疏〕計二一肘一、有二一尺八寸一。

【一籌】1528 イッチウ ❶一つのかずとり。籌は勝負を爭ふ時の數取りの具。輸二一籌一を見よ。❷一つのはかりごと。一計。〔宋史、儒林四、蔡幼學傳〕其極至下於二九重一深拱、而羣臣盡廢、多士盈レ庭、而一籌不上レ吐。

【輸二一籌一】1529 イッチウヲユス 勝負に負ける。輸は負ける意。〔喬宇、遊二嵩山一記〕予歸顧而笑曰、若輸二

我一籌一矣。

【一籌莫レ展】1530 何等の方法もない。何の策もない。

【一軸】1531 ❶一つの掛軸。書畫など、掛物を數へる語。〔東觀餘論〕滌二一硯一、展二一軸一。〔蘇軾、遊二張山人園一詩〕壁間一軸煙蘿子、盆裏千枝錦被堆。❷一本。長いものを數へる語。〔李咸用、送レ人詩〕一軸煙花滿口香。

【一帙】1532 一つの帙。轉じて、一つの帙に入つた書。帙は書衣。一套。〔唐書、李密傳〕挂二漢書一帙角上一、行且讀。〔李端、雜歌、呈二鄭錫司空文明一〕胡麻作レ飯、瓊作レ漿、素書一帙在二柏牀一。

【一挃】1533 一つき。〔淮南子、兵略訓〕五指之更彈、不レ若二捲手之一挃一。〔注〕挃、擣也。

【一袠】1534 十年。〔野客叢書〕以二十年一爲二一袠一、其說見二白樂天集中一、詩云、年開第七袠、屈レ指幾多人、是時六十三元日詩也。

【一張】1535 ❶一度張る。一張一弛を見よ。〔水經、淹水注〕治二神弩一、一張一發、殺二三百人一。❷一はり。琴・弓・幕・皮・提灯などを數へる語。〔宋書、陶潛傳〕潛不レ解二音聲一、而畜二素琴一張一、無レ絃。〔白居易、秋池獨汎詩〕一隻短舫艇、一張班鹿皮。〔劉禹錫、罷レ郡歸二洛陽一閒居詩〕花間數盞酒、月下一張琴。❸一脚。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕用二長桌一張一、把堂皀隸抬二置當レ堂階上一。❹船の水棹一本をいふ。〔通俗編、數目、一張〕篙一枝曰二一張一、李白澁灘詩、漁人與二舟子一、撐折萬張篙。❺ i⁴ chang¹ 一枚。一葉。

【一張羅】1536 ただ一枚しか有たぬ晴れ衣。〔嬉遊笑覽、服飾、一ちやうら〕今部屋かたものの一ちやうらといふことは衣服もたぬものの只一つあるやうの事いふは後に轉りたるなり。

【一張一弛】1537 弦を、或は張り或は弛める。しめたりゆるめたり。或は嚴、或は寬。〔禮、雜記下〕一張一弛、文武之道也。〔疏〕喩二民一時須レ勞、一時須レ逸、勞逸相參一。〔王粲、耀レ德不レ觀レ兵賦〕得二允文允武之體一、臻二一張一弛之要一。

【一張鐵口】1538 i⁴ chang¹ t'ieh² k'ou³ 一言で決すること。〔長生殿、進果〕一張鐵口、盡聞名。

【一張眠床上困的】1539 i⁴ chang¹ mien² ch'uang² shang k'un⁴ tê 一つ床に眠つた程の閒柄。極めて親密な人をいふ。「語。

【一頂】1540 i⁴ ting³ 一箇。籠・帽子などを算へる語。

【一頂轎子】1541 i⁴ ting³ chiao⁴ tzŭ 一丁の乘物。轎子は二人で舁ぐ籠。

【一丈】1542 一尺の十倍。〔說苑、辨物〕十尺爲二一丈一。〔吳志、呂岱傳、注〕蝦鬚長一丈。

【一丈威】1543 隋の煬帝の槍の名。〔清異錄、武器、一丈威〕隋煬帝、將レ征レ遼、將軍麥鐵杖、誓二以レ死扞レ敵、帝賜二御副鎗一丈威一。

【一丈烏】1544 五代、梁の太祖の愛馬の名。〔五代史、梁臣、寇彥卿傳〕梁太祖、賜以二所レ乘愛馬一丈烏一。

【一丈紅】1545 藥草の名。日あふひ。蜀葵。其の花・葉・根は皆呼吸病に特效あり。〔夏日樂圃、同春、四月〕蜀葵、其色有レ五、俗名二一丈紅一、喜二腴無レ香。

【一丈青】1546 南宋の烈女の名。〔女世說〕馬皐被レ誅、閭勁周恤二其妻一丈青一、以爲二義女一云云、以二一丈青一妻レ之、遂爲二中軍統領一、有三二認旗在二馬前一、題曰二關西眞烈女、護國馬夫人一。

【一丈夫】1547 ❶天子をいふ。〔逸周書、文傳解〕横生盡以養二從生一、從生盡以養二一丈夫一。〔注〕一丈夫、天子也。❷一人の男子。

【一場】1548 ❶一つの場所。同じ場所。〔白居易、感二櫻桃花一因招二飲客一詩〕誰能聞レ此來相勸、共泥二春風一醉二一場一。〔司空圖、寓筆詩〕撩亂一場人更恨、春風誰道勝二輕飄一。❷試驗などの一回。一つの試驗。〔宋史、選擧志一〕敕二有司一併二試四場一、通二較工拙一、毋下以二一場得失一爲中去留上。❸ひととき。その場かぎりの。〔朱子文集、答二方耕道一書〕所謂只作二一場話說一務レ高而已者、不レ可二以不レ戒也。❹一度。一回。一席。

【一場雨】1549 i⁴ ch'ang² yü³ ひとしきりの雨。一降りの雨。

【一場禍】1550 i⁴ ch'ang³ huo⁴ 一禍災。一災難。

【一場面】1551 ❶舞臺の或る場面。一シーン。❷一つの光景。

【一場官司】1552 i⁴ ch'ang³ kuan¹ ssŭ 一訴訟事件。一裁判沙汰。

【一場春夢】1553 ❶其の場だけで跡かたもない春の夜の夢。春夢(**5**－**13844**・・718)を見よ。〔張泌、寄レ人詩〕倚レ柱尋思倍惆悵、一場春夢不二分明一。❷人の世のはかない喩。〔侯鯖錄、七〕東坡老人在二昌化一、嘗負二大瓢一、行二歌於田閒一、有二老婦一、年七十、謂レ坡曰、內翰昔日富貴、一場春夢、坡然レ之、里人呼二此媼一、爲二春夢婆一。

【一錠】1554 墨や藥などの一つ。錠は一定の形の銀貨。〔圖繪寶鑑〕磨出一錠兩錠墨、掃出千年萬年樹。

【一錠銀子】1555 i² ting⁴ yin² tzŭ 一塊の銀。

【一著】1556 ❶將棊・圍碁などで、最初の一手を下すこと。又、ひと手。一法。〔世說新語補、棲逸〕今日還須下讓二老夫一下中一著上。〔李孝光、碁詩〕人心險處千機變、局面危時一著安。❷佛一つの事柄。事件。一事(840)の❶に同じ。〔宗論、三〕向上一著、千聖不レ傳。❸第一番に到着する。

【一著先】1557 i⁴ chao¹ hsien¹ 機先を制する。〔桃花扇、鬨丁〕黑白須爭一著先。

【一搦】1558 一にぎり。一おさへ。腰などの細さを形容する語。〔李百藥、少年行〕千金笑裏面、一搦掌中腰。〔郝經、宣和內人圖詩〕腰肢一搦不レ勝レ衣。

【一中】1559 ❶一つの中の道。〔觀微子〕中和二者、一中焉盡レ之矣、一中之學、心學也。❷一たびあたる。〔陸龜蒙、感レ事詩〕豈知三讒箭利、一中成二赤族一。❸明、尚衡(**4**－**7493**・・21)の字。❹一中節の略。一中節は、京都の人、都一中が創めた淨瑠璃。❺佛 齋食を設けて、堂中の人全部に及ぼすこと。又、一堂・一座の意。又、日中一食のみとる意もある。〔聯燈會要、洞山价禪師章〕令三主事辨二愚痴齋一中一。

【一中劫】1560 佛時の名。一つの中劫。劫(**2**－**2316**)を見よ。

【一中派】1560′ 檜術の一派。元祿の頃、信濃の東梅龍軒一中が創案したもの。神道流一中派。

【一中一切中】1561 佛天台教義の一。空・假・中の三觀のうち、空・假の二觀も亦中であるとする。〔止觀、五上〕一中一切中、無二空假而不レ中、總中觀也。

【一注】1562 i² chu⁴ まとまつた金。〔元曲、殺狗勸夫〕單有一注閒錢、補笊籬。

【一注財】1563 i² chu⁴ ts'ai² 相當程度の金額。

【一柱】1564 ❶一本のはしら。〔白居易、代レ書詩〕千鈞勢易レ壓、一柱力難レ支。〔胡曾、銅柱詩〕一柱高標險塞垣、南蠻不三敢犯二中原一。〔郝經、題下楊之美尙書寄三王運使守二太原一書後上詩〕一柱數年支二大廈一、孤軍千里重二長城一。❷一本のことぢ。〔宋史、樂志十七〕設二二十五弦一、弦一柱、崇二寸七分。〔朱灣、箏柱子詩〕力微慙二一柱一、材薄仰二羣弦一。❸一つの貝柱。〔劉子翬、食二蠣房一詩〕江瑤貴二一柱一、嗟豈棟梁質。

【一柱觀】1565 一本の柱で支へた高樓。湖北省松滋縣の東、丘家湖上に在る。〔張說、一柱觀詩〕奈何任二一柱一、斯焉容二衆材一。〔渚宮故事〕宋臨川王義慶、于二羅公洲一立レ觀、甚大而惟一柱。〔名勝志〕一柱觀、在二松滋縣東、丘家湖中一。

【一柱樓】1566 清、徐述夔(**4**－**10110**・・485)の室名。

【一柱擎レ天】1567 一本の柱で天を支へる。一身で天下の重責に任ずる。〔宋史、劉永年傳〕生四歲、仁宗使レ賦二小山詩一、有二一柱擎レ天之語一。

【一盅】1568 i⁴ chung¹ 一つのコップ。一つの小さな盃の類。一鍾(1062)に同じ。

【一衷】1569 明、宋師襄(**3**－**7078**・・297)の字。

【一檦】1570 簞笥一さを。〔福惠全書、錢穀部、解給〕宜三另置二一檦一。

【一筯】1571 一本の箸。ひとはし。〔徐夤、嘉運詩〕晨炊一筯紅銀粒、憶著長安索レ米秋。〔五代史、四夷附錄第二〕與二其筯十餘隻一、教下其每レ走二十餘里一遺中一筯上。

【一儲】1572 一度、錢をまうけること。

【一女】1573 ❶一人の女。一男一女(1506)を見よ。〔詩、陳風、澤陂序、疏〕蒲荷二物、共喩二一女一。〔史記、劉敬傳〕呂后日夜泣曰、妾唯太子一女、奈何棄二之匈奴一。❷關名。雲南省洱源縣。〔明史、地理志七〕浪穹縣東北有二佛光山一、山後險仄、名二一女關一。❸長女(**11**－**41100**・・648)に同じ。

【一女不レ嫁二二夫一】1574 イチヂヨニフニカセズ 女子は二人の夫には嫁がない。婦人が貞操を守ることをいふ。貞女不レ更二二夫一(10―36658‥146)に同じ。〔左氏、莊、十四〕對曰、吾一婦人而事二二夫一、縱弗レ能レ死、其又奚言。〔孟郊、去婦詩〕一女事二一夫一、安可二再移レ天。

【一女不レ織民有二寒者一】1575 イチヂヨオラザレバタミコゴユルモノアリ 一人の女が機を織らなければ、人民の中にはこごえる者がある。機織の大切なこと。一夫不レ耕或受二之饑一(1970)を見よ。〔管子、揆度〕農有二常業一、女有二常事一、一農不レ耕、民有二爲レ之飢者一、一女不レ織、民有二爲レ之寒者一。

【一重】1576 イツチヨウ ❶重なりあふ。〔閻朝隱、奉三和聖製夏日遊二石淙山一詩〕千種岡巒千種樹、一重巖壑一重雲。❷一たびかさなる。或はかさなる。〔杜甫、嶽麓山道林二寺行〕一重一掩吾肺腑、山鳥山花共友于。〔程俱、偶作詩〕一重一掩藏二煙塢一、三沐三熏屛二世塵一。

【一直】1577 イツチヨク ❶一つの正直。一人の正直者。〔白居易、薛中丞詩〕百人無二一直一、百直無二一遇一。❷眞すぐな。〔竇牟、洛下閑居夜晴觀レ雪詩〕萬里瓊樹宮中接、一直銀河天上來。❸まつすぐに。

【一直線】1578 イツチヨクセン ❶一つの直線。❷まつすぐ。

【一直走】1579 i⁴ chih² tsou³ 眞すぐに行く。

【一枕】1580 イツチン ❶一つの枕。又、單に枕の意。〔花蕊夫人、宮詞〕歸來困頓眠二紅帳一、一枕西風夢裏寒。〔蘇軾、睡起聞三米元章冒レ熱到二東園一詩〕一枕清風直萬錢、無下人肯買二北窗一眠上。❷ひとたびまくらする。ひと寐いりする。一睡。〔丁仙芝、和三薦福寺英公新構二禪堂一詩〕一枕西山外、虛舟常浩然。〔黃庭堅、呻吟齋睡起詩〕江南一枕夢、高臥聽二鳴根一。

【一枕黃粱】1581 イッチンクワウリヤウノ 黃粱一炊夢(12―47926‥921)を見よ。

【一枕遊仙夢】1582 イッチンイウセンノユメ 遊仙の枕をして仙境に遊ぶことを夢みること。游仙枕(7―17792‥219)を見よ。〔長生殿、聞樂〕好憑二一枕遊仙夢一、暗授二千秋法曲音一。

【一陣】1583 イチヂン ❶風や雨などの一しきり。〔韓偓、嬾起詩〕昨夜三更雨、今朝一陣寒。〔裴說、聞レ砧詩〕一陣霜風殺二柳條一。〔劉克莊、扶胥詩〕一陣東風掃二曀霾一。❷戰陣の一隊。軍隊。轉じて、一いくさ。一戰。〔宋史、盧斌傳〕以二一陣之役一、比二於固守一、其利百矣。❸一番乘り。〔源平盛衰記、平家開二城戸口一〕熊谷は城戸口へ寄する事は一陣。

【一陣陣】1584 i² chen⁴ chen つぎつぎに。〔桃花扇、撫兵〕一陣陣拍手喧嘩、百忙中教我如何答話。

【一陣風】1585 イチヂンノカゼ ひとしきり吹く風。〔太平記、二、阿新殿事〕將レ首當二白刃一、截斷一陣風。

【一塵】1586 イチヂン ❶一つのちり。微細なものの喩。〔易、繫辭上、本義〕聖人具二三者之德一、而無二一塵之累一。〔唐彥謙、遊二清涼寺一詩〕一塵不レ到心源淨、萬有倶空眼界清。❷道家の語。一世をいふ。❸佛一つの對象・境界。塵(3―5388)の字解を見よ。〔涅槃經、十〕一塵一佛。〔諸法無常經偈〕皆碎爲二微塵一、一塵爲二一國一。

【一塵不染】1587 イチヂンフセン 物欲に染まぬこと。官吏などの清廉な喩。塵は物欲を指す。〔朱子全書、釋氏〕不レ染二一塵一、不レ捨二一法一、既不レ染二一塵一、卻如何不レ捨二一法一到了。〔長生殿、覓魂〕列二森森虎伏龍眠一、端的是一塵不レ染、衆妄都蠲。

【一塵法界】1588 イチヂンホツカイ 佛一つの微細な境界が卽ち一つの法界であること。〔圓悟錄、一〕一塵含二法界一、一念徧二十方一。〔華嚴經、五十一〕有二大經卷一、量等二三千界一、在二於一塵內一。

【一塵不到處】1589 イチヂンフタウシヨ 明、鍾禮(11―40672‥133)の室名。

【一椎】1590 イツツイ 一たびうつ。一椎便成を見よ。〔智覺、心賦〕如三王索二一椎之器一。

【一椎便成】1591 イチツイベンジヤウ 佛一言の下に悟りを開く。〔祖庭事苑、五〕一椎便成時如何。

【一對】1592 イツツイ ひとそろひ。一雙。〔皮日休、重玄寺雙矮檜詩〕應レ如二天竺難陀寺一、一對狻猊相枕眠。

【一通】1593 イツツウ ❶一つの文書。一つの書籍。〔後漢書、賈逵傳〕與二簡紙經傳各一通一。〔後漢書、崔寔傳〕凡爲二人主一、宜下寫二一通一置中之坐側上。❷何のへだても無い一つのものにする。〔新書、壹通〕罷レ關一二通天下一。❸太鼓の三百三十三槌をいふ。〔羣碎錄〕鼓三百三十三槌爲二一通一。〔書焦〕鼓三百三十三爲二一通一、鼓止角動十二聲爲二一疊一、昏鼓四通爲二大鼙一、夜半三通爲二晨戒一、旦明三通爲二發晌一。〔通俗編、數目、一通〕文選注、引二軍戰令一、嚴鼓一通、步騎士悉嚴、李衞公兵法、撾レ鼓三百三十三槌爲二一通一、鼓止角動吹十二聲爲二一疊一。❹ヒトトホリ あらまし。なみ。

【一通鼓】1594 イツツウコ 太鼓の三百三十三槌。一通の❸を見よ。

【一通故衣】1595 イツツウノコイ 一枚のふるぎ。〔南史、張融傳〕今送二一通故衣一、意謂、雖レ故乃勝レ新也。

【一丁】1596 イツテイ ❶一人の壯丁。〔晉書、慕容僞載記〕留二一丁一、餘悉發レ之。〔宋書、孝武帝紀〕家有二馬一匹一者、蠲二復一丁一。❷一個。丁は个の字の篆書から轉じ誤つたもの。不レ識二一丁字一を見よ。❸イツチヤウ ㋑揚弓・大弓等で錢を賭物にする時の百の隱語。㋺鍬・蠟燭等を數へる單位。

【一丁點兒】1597 i⁴ ting¹ tien³ êrh 小さい點。極めて些少な。微少な。

【拔二去一丁一】1598 イツチヤウヲヌキサル 眼中の釘を除き去る。一人の惡人又は一つの害を除き去る喩。丁は釘。〔五代史、雜第三十四、趙在禮傳〕在禮在二宋州一、人尤苦レ之、已而罷去、宋人喜而相謂曰、眼中拔レ釘、豈不レ樂哉。

【不レ識二一丁字一】1599 イツテイジヲシラズ まるきり文字を知らぬこと。丁は、个の字の篆書から誤つたもの。無二丁字一。〔正字通〕丁、續世說、一丁作二一个一、因二篆形相似一、傳寫譌作レ丁。〔唐書、張弘靖傳〕嘗曰、天下無事、而輩挽二兩石弓一、不レ如レ識二一丁字一、軍中銜レ之。〔洪容齋俗攷〕今文多用レ不レ識二一丁字一、謂祖二唐書一、以二出處一考レ之、乃个字、非二丁字一、蓋个與レ丁相類、傳寫悞焉。〔野客叢談、八、一丁字〕今文人多用レ不レ識二一丁字一、祖下唐書挽二兩石弓一不レ如レ識二一丁字一、出處考レ之、乃个字、非二丁字一、按、續世說書二此个字一、蓋个與レ丁相似、傳寫誤焉、後又觀二張翠微考異一、亦謂二个字一、乃知世說之言爲レ信、又觀二蜀志南史一、皆有下所レ識不レ過二十字一之語上、史通謂、王平所レ識僅通十字、恐是十字亦未レ可レ知二十與レ丁字又相似一、其文益有レ據也、此與下淮南子言二宋景公熒惑徙二三舍一之謬上同、史記謂二三度一。〔故事成語考、人事〕村夫不レ識二一丁一。

【一呈】1600 イツテイ 明、曹大章(5―14297‥281)の字。

【一定】1601 イツテイ ❶一つにさだまる。一つにきめる。又、變らぬこと。動かぬこと。〔漢書、刑法志〕不レ若三一二定律令一、律令一定、愚民知レ所レ避。〔後漢書、呂強傳〕自後五經一定、爭者用息。〔孟郊、雜怨詩〕樹有二百年花一、人無二一定顏一。〔韓嶼、贈二進士李守微一詩〕一定童顏老歲華、貧寒游歷貴人家。❷i⁴ ting⁴ きつと。必ず。「式。

【一定之規】1602 イツテイノキ 定まつた規則。一定の法。

【一定之論】1603 イツテイノロン 一定して易らぬ論。〔淮南子、原道訓〕士有二一定之論一、女有二不易之行一。〔班固、答賓戲〕聖人有二一定之論一、烈士有二不易之分一。

【一定不易】1604 イツテイフエキ 一つに定まつて易らぬこと。〔淮南子、主術訓〕今夫權衡規矩、一定而不レ易。〔輟耕錄、古銅器〕夏尙レ忠、商尙レ質、周尙レ文、其制器亦然、商器質素無レ文、周器彫篆細密、此固一定不易之論、而夏器獨不レ然。

【一停】1605 イツテイ ❶ひとたびとどまる。〔夢粱錄、駕詣二景靈宮一儀仗〕朱佩錦衣間、一停一擧、皆如レ節。❷i⁴ t'ing² 十分の一。一割。一部分。

【一第】1606 イツテイ 一つの屋敷。〔宋史、高顚傳〕家貧無二以存養一、願賜二一第一、庶獲二寸祿一以及二老父一。

【一棣】1607 イツテイ 淸、劉森峯(2―2224‥1083)の字。

【一程】1608 イツテイ ❶一つの路。一條の路。〔薛能、下第後夷門乘レ舟至二永城驛一題詩〕連レ浦一程兼二汴宋一、夾レ堤千柳雜二唐隋一。❷一日の道程。〔白居易、壽安歇レ馬重吟詩〕春衫細薄馬蹄輕、一日遲遲進二一程一。

【一程路】1609 i⁴ ch'êng² lu⁴ 一路程。道のり。

【一鼎】1610 イツテイ 一つのかなへ。又、かなへ全體。〔戰國、東周策〕昔周之伐レ殷得二九鼎一、凡一鼎而九萬人輓レ之。

【一鼎之調】1611 イツテイノテウ かなへの中の料理全體の出來ばえ。〔呂覽、察今〕嘗二一脟肉一、而知二一鑊之味、一鼎之調一。〔注〕調、和也。

【一遞】1612 イツテイ たがひに。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕一箇這壁、一箇那壁、一遞一聲長二吁氣一。

【一遞裏】1613 i⁴ ti⁴ li³ かはるがはる。更番。〔元

曲、殺狗勸夫〕一遞裏暗昏昏眼前花發、一遞裏古魯魯肚裏雷鳴。

〔一遞一答〕1614 i^2 ti^4 i^4 ta^2 一問一答して互に話し合ふこと。一提一答。

〔一遞一天〕1615 i^2 ti^4 i^4 t'ien^1 其の日其の日。一日一回。一日に一度づつ。

【一蔕】1616 イッテイ ひとつのへた。同一のへた。〔宋書、符瑞志下〕建康額檐湖、二蓮一蔕。〔梁簡文帝、詠芙蓉詩〕圓花一蔕卷、交葉半心開。〔張籍、董公詩〕甘瓜生場圃、一蔕實連中。〔南方草木狀〕吳黃武中、交趾太守士燮、獻橘、十七實同一蔕、以爲瑞異、羣臣畢賀。

〔一蔕十七實齋〕1617 イッテイジフシチジツサイ 清、吳其泰（2—3365‥488）の室名。

【一兆】1618 イッテウ ❶一度うらなふ。〔孔子家語、好生〕文仲三年而爲一兆、武仲三年而爲二兆。❷一つのきざし。

【一鳥】1619 イッテウ 一羽の鳥。一禽。〔劉孝先、和亡名法師秋夜草堂寺禪房月下詩〕數螢流暗草、一鳥宿疎桐。〔江總、詒孔中丞奐詩〕叢花曙後發、一鳥霧中來。〔虞世南、侍宴應詔賦、韻得前字詩〕橫空一鳥度、照水百花然。

〔一鳥不鳴山更幽〕1620 イッテウナカズヤマサラニイウナリ 山の靜かなさまをいふ。鳥鳴山更幽の反對をいつたもの。〔王安石、鍾山卽事詩〕茅簷相對坐終日、一鳥不鳴山更幽。〔藝苑巵言〕王籍、鳥鳴山更幽、雖遜古質、亦是雋語、第合上句蟬噪林逾靜讀之、遂不成章耳、又有可笑者、鳥鳴山更幽、本是反不鳴山幽之意、王介甫何緣復取其本意而反之、且一鳥不鳴山更幽、有何趣味、宋人可笑、大槩如此。

〔一鳥入林百鳥壓聲〕1621 i^4 niao^3 ju^4 lin^2 po^2 niao^3 ya^1 shêng^1 偉い一羽の鳥が林に入ると、他の鳥は聲をひそめる。鶴の一聲。

【一朝】1622 イッテウ ❶ひとあさ。一旦。一曙。又、一たび。〔孟子、滕文公上〕一朝而獲十禽。〔漢書、賈誼傳〕屠牛坦一朝解十二牛。〔劉廷芝、代悲白頭翁〕一朝臥病無相識、三春行樂在誰邊。❷朝早く。早朝。〔詩、小雅、彤弓〕鐘鼓既設、一朝饗之。〔箋〕一朝、猶早朝。❸一たび朝貢する。〔禮、王制〕諸侯之於天子也、比年一小聘、三年一大聘、五年一朝。❹一たび朝見する。〔史記、高祖記〕高祖五日一朝太公。❺朝廷全體。〔魏志、杜畿傳〕一朝皆不忠。❻わづかの間。俄かに。忽ち。〔國語、齊語〕士莫敢言一朝之便。〔莊子、逍遙遊〕今一朝而鬻技百金。〔晉書、景帝紀〕至是一朝而集。

〔一朝恥〕1623 イッテウノハヂ 一時のはぢ。〔元稹、陽城驛詩〕官刑一朝恥、公短終身羞。

〔一朝辨〕1624 イッテウニシテベンズ 極めて短時間に處理する。處理の速かなこと。〔後漢書、楊彪傳〕有武帝故瓦陶竈數千所、幷功營之、可使一朝而辨。

〔一朝一夕〕1625 イッテウイッセキ 極めて短い時間。〔易、坤〕文言曰、臣弑其君、子弑其父、非一朝一夕之故、其所由來者漸矣。〔列子、力命〕病非一朝一夕之故。

〔一朝之患〕1626 イッテウノウレヘ 一時のうれへ。〔禮、檀弓上〕故君子有終身之憂、而無一朝之患。〔孟子、離婁下〕君子有終身之憂、而無一朝之患。

〔一朝之忿〕1627 イッテウノイカリ 一時の腹だち。〔論語、顏淵〕一朝之忿、忘其身、以及其親、非惑與。

〔一朝如雨〕1628 i^4 chao^1 ju^2 yü^3 多數をいふ。

〔一朝富貴〕1628′ イッテウノフウキ 俄かに富貴になること。〔韓愈、短燈檠歌〕看書到曉那能眠、一朝富貴還自恣。〔通俗編、境遇、一朝富貴〕東坡居士詩、文章自足欺盲聾、誰使一朝富貴面發紅。

〔一朝變泰〕1629 i^4 ch'ao^2 pien^4 t'ai^4 忽ち運が善くなる。見る見る安泰になる。

〔一朝天子一朝臣〕1630 i^4 ch'ao^2 t'ien^1 tzŭ^3 i^4 ch'ao^2 ch'en^2 人間の世界にはどこにも閥があるということ。

〔一朝天步艱邦君身先淪〕1631 イッテウテンポナヤミハウクンミマヅシヅム 一たび非運にあひ、我が君が眞先に幽閉せられた。天步艱は時運の非。〔藤田東湖、正氣歌〕一朝天步艱、邦君身先淪、頑鈍不知機、罪戾及孤臣。

【一超】1632 イッテウ [佛]一度に飛躍する。〔證道歌〕一超直入如來地。

【一跳】1633 i^2 t'iao^4 ひと跳ねする。びつくりする。胸がどきどきする。

【一調】1634 イッテウ ❶音の調和すること。〔淮南子、說林訓〕趍舍之相合、猶金石之一調、相去千歲合一音也。❷一つのみつぎ。〔南齊書、王敬則傳〕租賦之外、更生一調。

【一鵰】1635 イッテウ 一羽のくまたか。〔范成大、晚步吳故城下詩〕拄杖前頭雙雉起、浮圖絕頂一鵰盤。

〔一鵰挾兩兔〕1636 イッテウリャウトヲワキバサム 一羽のくまたかが、二兎をわきばさむ。唐の李林甫の勢力が勝れてゐて、同位者の張九齡と裴耀卿とを下風に立たせたことをいふ。〔唐書、李林甫傳〕三宰相就位、二人磬折趨、而林甫在中、軒驁無少讓、喜津津出眉宇閒、觀者竊言、一鵰挾兩兔。

【一條】1637 イチデウ ❶一本の枝。〔陶潛、蜡日詩〕梅柳夾門植、一條有佳花。❷ひとすじ。〔李白、冬日歸舊山詩〕一條藤逕綠、萬點雲峯晴。❸一箇條。一則。〔唐書、選擧志上〕問大義一條。❹帶を數へる語。一腰（67）に同じ。〔老學庵筆記、六〕近世乃謂帶爲一條。❺同一の事。同じ事柄の連續。〔莊子、德充符〕以死生爲一條。❻山名。甘肅省平番縣。❼一匹。❽人皇第六十六代の帝諡。〔日本紀略、長保元年六月十六日丁卯〕今日天皇渡御一條大宮院。〔日本紀略、長元九年五月一日〕有可奉稱號之儀、相府命云、尋一條院御時例、無宣旨、只奉稱一條院。

〔一條城〕1638 イチデウジャウ 堡の名。明、置く。甘肅省楡中縣の東北。〔讀史方輿紀要、陝西、臨洮府、蘭州、金縣〕一條城、縣東七十里、亦謂之一條城堡、相傳、宋狄青巡邊時所築。

〔一條冰〕1639 イチデウヒョウ 宋の陳彭年が、翰林の一員となり、而も他に數職を兼ねた時の官位をいふ。〔國老談苑〕陳彭年在翰林、所兼十餘職、皆文翰清祕之目、時人謂其署銜爲一條冰。〔淵鑑類函、設官部、翰林院總載、一條冰〕陳彭年、翰林清祕人、謂官銜爲一條冰。

〔一條鞭〕1640 イチデウベン ❶明、萬曆の時の租稅の名。諸稅を統一して盡くこれを田賦に併せ、一畝每に一定額の稅金を徵發した簡便の稅法。鞭は偏・邊に作る。〔明史、食貨志二〕一條鞭法者、總括一州縣之賦役、云云、以及土貢方物、悉併爲一條、皆計畝徵銀、折辦於官、故謂之一條鞭。〔續文獻通考、田賦考、歷代田賦之制〕神宗九年、通行一條鞭法、一條鞭法者、總括一州縣之賦役、量地計丁、丁糧畢輸於官、一歲之役、官爲僉募、力差、則計其工食之費、量爲增減、銀差、則計其交納之費、加以贈耗。❷事の繁を删つて簡につくこと。條理の紊れぬこと。❶よりの轉義。〔通俗編、數目、一條鞭〕按、此法自明季創行、至今不改、而凡事之幷繁就簡、世俗亦借以言焉。

〔一條龍〕1641 i^4 t'iao^2 lung^2 吹き流しをいふ。

〔一條道兒走到黑〕1642 i^4 t'iao^2 tao^4 êrh tsou^3 tao^4 hei^1 一筋道に行暮れる。ただ一つの道に行詰る。方法が無い。到黑は、行暮れる意。

【一笛】1643 イッテキ 一つの笛。又、一つの笛の音。〔許渾、秋日寄茅山高拾遺詩〕一笛迎風萬葉飛、強攜刀筆換荷衣。〔李咸用、秋晚詩〕不及樵童樂、蒹葭一笛風。〔杜牧、題宣州開元寺水閣詩〕深秋簾幕千家雨、落日樓臺一笛風。〔沈彬、金陵雜題詩〕一笛月明何處酒、滿城秋色幾家砧。

【一摘】1644 イッテキ 一つまみ。〔舊唐書、承天皇帝倓傳〕一摘使瓜好、再摘令瓜稀。

【一滴】1645 イッテキ 一しづく。一たらし。〔王建、傷鄰家鸚鵡詞〕十日不飲一滴漿、淚漬綠毛頭似鼠。〔韓偓、秋霖夜憶家詩〕不知短髮能多少、一滴秋霖白一莖。

〔一滴禪〕1646 イッテキゼン [佛]一滴の水にも眞理が含まれてゐることを悟る禪家の教。〔唐庚、夢泉詩〕雖無十丈花、中有一滴禪。〔釋氏通鑑〕詔國師問、如何是曹溪一滴水、法眼曰、是曹溪一滴水、韶聞乃大悟、平生疑滯、渙若冰釋。

【一擲】1647 イッテキ ひとたび投げうつ。雙六の骰などを投げること。又、所有してゐるものを一度に投げ出す。一抛。〔晉書、孫綽傳〕何故捨百勝之長理、擧天下而一擲哉。〔晉書、袁耽傳〕就局十萬、一擲上百萬。〔李白、贈江夏韋太守詩〕天地賭一擲、未能忘戰爭。

〔一擲千金〕1648 イッテキセンキン 多額の金錢を、惜しげもなく一時に投げ出す。度胸のよい喩。〔吳象之、少年行〕一擲千金渾是膽、家無四壁不知貧。

〔蘇軾、答二王鞏一云云詩〕是家豪逸生有レ種、千金一擲頗黎盆。

【一擲百萬】1649 イツテキヒヤクマン　大きな賭けごと。又、大金を投げすてるやうに使ふこと。〔晉書、何無忌傳〕劉毅家無二儋石之儲一、樗蒲一擲百萬。〔宋書、武帝紀上〕劉毅家無二擔石之儲一、樗蒱一擲百萬。

〔一擲賭二乾坤一〕1650 イツテキケンコンヲトス　天下を賭け物として一勝負すること。乾坤一擲。〔韓愈、過二鴻溝一詩〕龍疲虎困割二川原一、億萬蒼生性命存、誰勸二君王一回二馬首一、眞成二一擲賭二乾坤一。

【一跌】1651 イツテツ　ひとたびつまづく。〔漢書、揚雄傳下〕不レ知二一跌將レ赤二吾之族一也。

【一徹】1652 イツテツ　短氣で一筋に押通すこと。一轍。〔傾城島原蛙合戰、二〕一徹千萬、むざむざと腹切つては。

〔一徹者〕1653 イツテツモノ　思ひ込んだ事をひとすぢに押通して、容易に變へぬ人。〔國姓爺後日合戰、二〕一徹者の機嫌がな損はん。

【一轍】1654 イツテツ　❶車のあとを一つにする。一つにまとまる。同一結果。一軌（255）の❶に同じ。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕惟同二大觀一、萬殊一轍。❷一つの路。〔摩訶止觀、五〕斯一轍之意。❸かたくな。いつこく。一徹に同じ。

〔一轍者〕1655 イツテツモノ　思ひ込んだことをひとすぢに押通して、容易に動かさぬ人。一徹者に同じ。

【一堞】1656 イツテフ　一つのひめがき。〔墨子、備城門〕行棧內閈、二關一堞、除二城場一外、去レ池百步。

【一牒】1657 イツテフ　文字を記した一つの札。〔論衡、別通〕通人胸中懷二百家之言一、不レ通者空腹、無二一牒之誦一。

【一帖】1658 イチデフ　❶紙などのひとをり。〔東觀餘論〕蚊幮一帖、梁陳閒人書。❷唐代、博士が直接學生を試驗するのに、千言の中から三言を擇んで經義の問題としたもの。卽ち墨義一條のこと。〔唐書、選擧志上〕博士考試、讀者千言、試二一帖一、帖三言、講者二千言、問二大義一條一、總三條、通レ二爲レ第、不レ及者有レ罰。❸藥一ぷく。〔白居易、聞二微之江陵臥レ病云云寄二微之一詩〕已題二一帖紅消散一、又封二一合碧雲英一。❹一册の法帖仕立ての書籍、又は折本。❺疊一枚。

【一貼】1659 イチデフ　藥一ぷく。一帖の❸に同じ。

【一天】1661 イツテン　❶一つの天。〔李白、奉レ餞十七翁二十四翁尋二桃花源一序〕三十六洞、別爲二一天一。〔雲笈七籤、三洞宗元〕最上一天、名曰二大羅一、在二玄都玉京之上一。❷そら一ぱい。そら一面。〔王建、宮詞〕內宴初秋入二三更一、殿前燈火一天明。〔李中、江行夜泊詩〕一天星斗寒。〔劉因、山中月夕詩〕一天明水月生レ潮。❸君主をいふ。〔後漢書、蘇章傳〕人皆有二一天一、我獨有二二天一。❹一天下の略。〔謠曲、正尊〕一天を靜め四海を澄ます。❺i^{4} t'ien^{1} ㋑一日。或る日。㋺空一面。

【一天下】1662 イツテンカ　天の下全體。全國中。〔宇都保物語、俊蔭〕一天下の人、皆いひあざみて。

【一天家】1663 i^{4} t'ien^{1} chia　一日中。終日。

【一天主】1664 イツテンノアルジ　一天萬乘の君。天下の主。天子。〔持統天皇歌軍法、四〕われ一天の主として。

【一天四海】1665 イチテンシカイ　天が下。世界。〔平家物語、一、鱸事〕一天四海を掌の中に握り給ふ上は。

【一天萬乘】1666 イツテンバンジョウ　天子。又、天子の位。萬乘（**9**－**31339**‥248）を見よ。〔夜討曾我狩場曙〕眞の君と仰ぎ奉るは、一天萬乘の君ばかり。

【一天一個現在】1667 i^{4} t'ien^{1} i^{4} kê hsien^{4} tsai^{4}　一日は一個の現在である。其の日其の日。

【一椽】1668 イツテン　❶一つのたるき。〔元史、王都中傳〕不レ增二一瞳一、不レ易二一椽一。❷小さい一軒の家。〔朱熹、次二張彥輔西原之作一詩〕無二處堪レ投レ跡、空山寄二一椽一。

【一廛】1669 イツテン　❶一つの住宅。廛は、一に壥に作る。〔周禮、地官、遂人〕上地夫一廛、田百畮。〔注〕鄭司農云、廛、居也、揚子雲有二田一廛一、謂二百畮之居一也、玄謂、廛、城邑之居、孟子所レ云、五畮之宅、樹レ之以二桑麻一者也。〔孟子、滕文公上〕願受二一廛一而爲レ氓。〔漢書、揚雄傳上〕有二田一壥一、有二宅一區一。〔注〕宋祁曰、壥、當レ作レ廛。〔蘇軾、和二歐陽少師一寄二趙少師一次韻詩〕何日揚雄一廛足。❷一つの店。

【一點】1670 イツテン　❶一つの點。一點一畫を見よ。❷漢字の書法の一畫。（丶）。一横畫（2379）を見よ。〔書苑菁華、永字八法〕丶一點爲レ側。❸ひとつ。すこし。〔岑參、送下李明府赴二陸州一便拜中覲太夫人上詩〕嚴灘一點舟中月。〔白居易、後宮詞〕雨露由來一點恩。〔黃庭堅、答二高子勉一詩〕安豐一點無二俗氣一。

【一點紅】1671 イツテンコウ　❶青葉の中の一輪の花。〔王安石、詠二柘榴一詩〕萬綠叢中紅一點、動レ人春色不レ須レ多。❷座中の一人の藝妓を指していふ。又、男の座中の只一人の女。紅一點。〔王齋詩話〕青州推官劉孚嘗云、念レ詩座上若有二一點紅一、斗筲之器成二千鐘一。〔故事成語考、女子〕一點紅無廉恥、謂二青樓之妓女殊レ名。

【一點子】1672 i^{4} tien^{3} tzŭ　少し。〔紅樓夢、二十五回〕這是吃了他們家一點子茶葉、便來使喚了。

【一點兒】1673 i^{4} tien^{3} êrh　少し。僅か。

【一點鐘】1674 i^{4} tien^{3} chung^{1}　❶一時。❷一時間。

【一點淚】1675 イツテンノナミダ　ひとしづくの淚。〔李白、寄レ遠詩〕遙將二一點淚一、遠寄二如レ花人一。

【一點一畫】1676 イツテンイツクワク　文字の一つの點、一つの畫。一措一畫。〔顏氏家訓、書證〕冥冥不レ知二一點一畫一。〔白居易、素屏謠〕吾不レ令レ加二一點一畫於其上一。〔輟耕錄、趙魏公書畫〕嘗見二千字文一卷一、以爲二唐人字一、絕無三一點一畫似二公法度一。

【一點黑痣】1677 イツテンノコクシ　一つの小さいほくろ。あざ。又、小陸地の譬。〔安積艮齋、閣龍傳〕四顧茫茫、惟天與レ水、不レ見二一點黑痣一。

【一點素心】1678 イツテンノソシン　純潔で物欲に染まぬ心。〔菜根譚、十五〕作レ人要レ存二一點素心一。

【一點失所若美人之病一目】1679 イツテントコロヲウシナヘバビジンノイチモクヲヤムガゴトシ　字の一點一畫の巧拙は、全體に關係するをいふ。〔王羲之、筆勢論〕一點失レ所、若三美人之病二一目一、一畫失レ節、如三壯士之折二一肱一。

【一轉】1680 イツテン　❶一度轉ずる。〔梁武帝、白紵辭〕短歌流目未二肯前一、含レ笑一轉私自憐。〔顧況、悲歌〕我心皎潔君不レ知、轆轤一轉一惆悵。❷杭州で柴四圓箍を數へるにいふ。〔通俗編、數目、一轉〕李詡俗呼小錄、湖州以二桑葉二十斤一爲二一箇一、杭州以二柴四圓箍一爲二一轉一。

【一轉機】1681 イツテンキ　一つの轉換の機會。

【一轉語】1682 イチテンゴ　❶或る言說をひつくり反す語。〔蘇軾、塵外亭詩〕戲留二一轉語一、千載起攘レ袂。❷佛參禪の時、相手を翻然と悟らせるほどの強い意味のある一語。〔傳燈錄、百文章〕黃檗曰、古人錯祇對二一轉語一。

【一傳】1683 イチデン　❶一度傳はる。又、一度傳へる。轉じて、直傳の門人。〔宋史、徐處仁傳〕此令一傳、則商賈弗レ行。❷一世。一代。〔新書、益壤〕如今之勢、豈過二一傳再傳一哉。❸一つの書物。〔穀梁、文、十二〕其一傳曰、許嫁以卒レ之也。〔陸游、送三杜起莘殿院出守二遂寧一詩〕白簡萬言幾慟哭、青編一傳可二前知一。

【一斗】1684 イツト　桝目の單位。一升の十倍。〔說苑、辨物〕十升爲二一斗一、十斗爲二一石一。〔史記、淳于髡傳〕臣飮二一斗一亦醉、一石亦醉。〔杜甫、飮中八仙歌〕李白一斗詩百篇、長安市上酒家眠。

【一斗泉】1685 イツトセン　泉の名。河北省房山縣の西南、上方山象王峯にある。後漢の時、華嚴慧晟禪師が、山中の淵に棲む龍を追拂はうとして錫杖で擊つた時、一斗許りの水が殘り、それが遂に泉となつたといふ。〔房山縣志〕一斗泉、在二房山縣上方山東北山坳閒一、俗呼爲二斗笠泉一、華嚴祖師開レ山、時有三龍居二東嶺潭中一、師逐レ之至二北峯一、飛レ錫一擊、遺レ水斗許、遂成レ泉。

【一斗粟尙可舂】1686 イツトノゾクナホウスツクベシ　僅かの食も兄弟互に分けて食ふべきことをいふ。漢の淮南王の兄弟の不和を當時の民が歌つた語。一尺布尙可レ縫（1267）を見よ。〔史記、淮南衡山傳〕孝文十二年、民有レ作レ歌、歌二淮南厲王一曰、一尺布尙可レ縫、一斗粟尙可レ舂、兄弟二人不レ能二相容一。

【一途】1687 イツト　❶一すぢの路。同じ路。一つの方法。或るやり方。一塗。〔梁簡文帝、悔賦〕豈止一途而已。〔劉峻、辨命論〕非レ可下以二一理一徵上、非レ可下以二一途一驗上。〔吳澄、送三人遊二武昌一詩〕丈夫落落志二四海一、俗士拘拘守二一途一。❷佛一つの義理。〔安樂集、上〕徑擧二大車一、亦是一途。❸イチヅ　ひとすぢに。專ら。〔吉野都女楠、四〕それも一づの軍法。

【一堵】1688 イツト　❶一つの垣。〔顏氏家訓、終制〕當レ築二一堵低墻於左右前後一。❷一丈四方の垣。三堵を以て一雉とする。〔左氏、隱、元、都城過二百雉一、注〕方丈曰レ堵、三堵曰レ雉、一雉之墻、長三丈、高一丈。❸簴（鐘かけ）に十六の鐘、又は磬を

懸けたものをいふ。〔周禮、春官、小胥〕凡縣二鍾磬一、半爲レ堵、全爲レ肆。〔注〕鍾磬者、編縣レ之、二八十六枚而在二一簴一、謂二之堵一、鍾一堵、磬一堵、謂二之肆一。

【一塗】1689 イット 一途（1687）に同じ。〔後漢書、蔡邕傳〕夫求レ賢之道、未二必一塗一。〔陸機、歎逝賦序〕或所下曾共遊二一塗一、同宴中一室上。

【一度】1690 イチド ㊀一回、又は一時。一たび。〔戎昱、別二公安賈明府一詩〕一度相思一度吟。〔司空圖、寓居有レ感詩〕一度秋風減二幾莖一。〔太平廣記、泓師〕張說兩男、一度合レ死。㊁一つの法度。一律。〔後漢書、張衡傳〕不レ能レ通二其變一、而一度以揆レ之。㊂法度を一に定める。〔淮南子、原道訓〕故聖人一レ度循レ軌、不レ變二其宜一、不レ易二其常一。〔注〕一、齊也。㊃温度・角度・經緯度等の單位。度（**4－7313**）を見よ。〔詩、小雅、十月之交、十月之交、疏〕日、日行二一度一、月、日行二十二度一。

【一度鳴驚レ人】1691 ヒトタビナカバヒトヲオドロカサン 雄大な志を抱いて長い間沈默して居た者が、一度起つに及んで人を驚かす程の大事を成遂げることをいふ。一鳴驚レ人（2190）を見よ。

【一怒】1692 イチド 一たび怒る。〔孟子、梁惠王下〕文王一怒、而安二天下之民一。〔孟子、滕文公下〕一怒而諸侯懼、安居而天下熄。〔管子、輕重甲〕是君朝令一怒。〔史記、主父偃傳〕古之人君、一怒必伏レ尸流レ血。

【一冬】1693 イットウ ひと冬。〔後漢書、鮮卑傳〕一冬二春、必能禽滅。〔杜甫、寄二楊五桂州譚一詩〕梅花萬里外、雪片一冬深。

【一豆】1694 イットウ ㊀一つのたかつき。一豆羹を見よ。㊁古の量名。四升をいふ。〔周禮、考工記、㮚氏〕其臀一寸、其實一豆。〔周禮、考工記、㮚氏、量レ之以爲レ鬴、注〕四升曰レ豆、四豆曰レ區、四區曰レ鬴。〔儀禮、士喪禮〕稻米一豆、實二於筐一。〔左氏、昭、三〕齊舊四量、豆區釜鍾、四升爲レ豆、各自二其四一、以登二於釜一。㊂古の目方の名。十六黍をいふ。一銖の六分の一。〔說苑、辨物〕十六黍爲二一豆一、六豆爲二一銖一、二十四銖爲二一兩一、十六兩爲二一斤一、三十斤爲二一鈞一、四鈞重一石。

【一豆羹】1695 イットウノカウ たかつき一杯のあつもの。〔孟子、告子上〕一簞食、一豆羹。

【一涷】1696 イットウ 禪僧。和泉の人。姓は源、名は紹滴、號は野棲子。京都紫野大德寺の百二十六世。後、堺の南宗寺に退く。後陽成天皇の御代、明堂古鏡禪師の號を賜ふ。慶長十七年寂、年七十四。〔堺市史〕。

【一登】1697 イットウ 明、劉天衢（**2－2224**・・1223）の字。

【一等】1698 イットウ ㊀階段の一段。〔儀禮、士冠禮〕賓筵前坐正レ纚、興降二西階一一等、執レ冠者升一等、東面授レ賓。〔論語、鄕黨〕出降二一等一、逞二顏色一、怡怡如也。〔集注〕等、階之級也。〔孔子家語、相魯〕孔子趨進、歷階而上、不レ盡二一等一。㊁位などの一級。〔左氏、隱、五〕葬レ之加二一等一。〔注〕加二命服之等一。〔後漢書、陳忠傳〕若有道之士對問高者、宜下垂二省覽一、特遷二位一等一、以廣中直言之路上。〔晉書、武帝紀〕文武增二一等一。㊂一番。第一。〔陸游、籌筆驛詩〕一等人間管城子。㊃一種の意。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕張生決不二是那一等沒行止的秀才一。㊄佛 イチトウ 一樣に平等なこと。〔無量壽經、上〕縱橫深淺、各皆一等。

【一等國】1699 イットウコク 國際間で最も優越な地位を占めてゐる強盛な國家。

【一等親】1700 イットウシン 親族を親疎によつて區分した等級の中の第一等に當る親族。等親の計算法は、羅馬法と寺社法とによつて、旁系親の計算に相違がある。前者は己を起點として、親を一等親とし、弟を二等親とする。後者は凡て同源のものを起點として、親から出た弟を一等親とし、祖から出た叔をも一等親とする。我が國の現行法は羅馬法に由り、六等親までを親族とし、父母・養父母・子・養子を一等親とす。又、古制では親族を五等に分けた。親等（**10－34918**・・196）を見よ。〔令義解、儀制令〕凡五等親者、父母・養父母・夫・子爲二一等一、謂養子亦同也。〔和漢三才圖會、親屬、五等親屬〕一等親、父・母・養父・養母・子・養子。

【一統】1701 イットウ ㊀一つにすべ合せる。統一。〔史記、秦始皇紀〕今海內賴二陛下神靈一、一統皆爲二郡縣一。㊁天下。萬物。〔管子、五行〕一者本也、二者器也、三者充也、治者四也、教者五也、守者六也、立者七也、前者八也、終者九也、十者然後具、五官於二六府一也、五聲於二六律一也、六月日至、是故人有二六多一、六多所三以街二天地一也、天道以レ九制、地理以レ八制、人道以レ六制、以レ天爲レ父、以レ地爲レ母、以開二乎萬物一、以總二一統一。〔纂詁〕天下統二於王一、故曰二一統一。㊂ひとすぢ。又、一つの系統。〔史記、秦始皇紀〕法令由二一統一。〔近思錄、家道〕性命孝弟、只是一統底事。〔傳習錄、上〕亦只是一統事。㊃碑などの一基。〔長生殿、改葬〕更立二新碑一統一、細把二淚痕一書。㊄前漢の劉歆が作つた三統曆に依れば、四千六百十七年を大週期として三統と稱し、それを三分した千五百三十九年を小週期として一統といふ。〔漢書、律曆志上〕終天之數、得二八十一一、以二天地五位之合一終二於十一者、乘レ之爲二八百一十分一、應二曆一統一。〔注〕十九歲爲二一章一、一統凡八十一章。〔論衡、調時〕積レ日爲レ月、積レ月爲レ時、積レ時爲レ歲、千五百三十九歲爲二一統一。㊅一同の義。〔竹崎五郎繪詞〕一とうにかけて、おものいに射るべきよし申さる。

【一統河】1702 イットウカ 伊通河。伊通（**1－432**・・97）を見よ。

【一統志】1703 イットウシ 地理の書。中國全土の地理を記載したもの。元・明・清に皆有る。元一統志一千卷（今なし）。明一統志九十卷。清一統志五百卷。明一統志（**5－13805**・・681）・大清一統志（**3－5831**・・1315）各條を見よ。

【一統碑】1704 イットウノヒ 一基の石碑。一統の㊃を見よ。

【大二一統一】1705 イットウヲダイニス 王者の一統事業を尙ぶの義。天に二日無く、土に二王無きが如きが是に當る。大にすとは尙ぶといふに同じ。王者が曆を作つて天下に分け與へ、天下が其の曆の下に統一せられること。〔公羊、隱、元〕何言二乎王正月一、大二一統一也。〔注〕統者、始也、摠繫之辭、夫王者始受レ命、改レ制布レ政、施二教於天下一、自二公侯一至二於庶人一、自二山川一至二於草木昆蟲一、莫レ不三一繫二於正月一、故云二政教之始一。〔疏〕王者受レ命、制二正月一以統二天下一、令二萬物無一レ不二一一皆奉一レ之以爲レ始、故言大二一統一也。〔漢書、王吉傳〕春秋所三以大二一統一者、六合同レ風、九州共レ貫也。

【一燈】1706 イットウ ㊀一つの燈火。〔劉長卿、龍門八詠、遠公龕詩〕入レ夜翠微裏、千峯明二一燈一。〔戎昱、題二招提寺一詩〕一燈傳二歲月一。㊁佛 イチトウ 智慧によつて今迄の迷の闇が明るく照される喩。〔華嚴經、七十八〕譬如下一燈入二於暗室一、百千年暗、悉能破盡上。〔楞嚴經、六〕身然二一燈一、燒二一指節一。

【一燈燃】1707 イットウモユ 唯一つの燈火がともつてゐる。もの靜かな光景。〔王維、過二盧員外宅一看二飯僧一共題詩〕不レ須レ愁二日暮一、自有二一燈燃一。

【一頭】1708 イットウ ㊀一つの頭。〔管子、水地〕蝺者、一頭而兩身、其形若レ虵。〔晉書、五行志下〕京都有レ豚、一頭二脊八足。㊁牛馬などを數へる語。〔漢書、翟方進傳〕上尊酒十石養牛一、〔注〕如淳曰、賜二上尊酒十斛、牛一頭一。〔宋書、禮志一〕皆用二白雁白羊各一頭、酒米各十二斛一。㊂特に牛を數へる時に用ひる。〔通俗編、數目、一頭〕左傳注、兵賦之法、因二其田財一、通出二馬一匹牛三頭一、云云、按、今俗惟牛之數、仍以レ頭計、驢羊等不レ然。㊃i^4 t'ou^2 一方。一面。

【一頭熱】1709 i^4 t'ou^2 jê^4 妓女が冷遇するにも拘らず、客だけが鮑魚の片想ひする。

【出二一頭地一】1710 イットウチヲイダス 頭の高さだけ拔け出る。人々から一段と高く優れ出ること。〔宋史、蘇軾傳〕嘉祐二年、試二禮部一、方二時文磔裂詭異之弊勝一、主司歐陽脩、思レ有二以救一レ之、得二軾刑賞忠厚論一驚喜、欲レ擢二冠多士一、猶疑二其客曾鞏所一レ爲、但寘二第二一、復以二春秋對義一居二第一一、殿試中二乙科一、後以レ書見レ脩、脩語二梅聖兪一曰、吾當レ避二此人出一頭地一。

【一頭三脚法】1711 イットウサンキャクハフ 文章法の名。一句が頭となり、それから三脚を生じて論旨を展開し、又一句で結ぶもの。

【一頭兩脚法】1712 イットウリヤウキャクハフ 文章法の名。始めに結論を掲げ、次に其の中から左右の兩脚を開いて、論旨を敷演するもの。〔文法詳論、句解〕單行散文中、以二對法一取レ勢、有二一頭兩脚法一。

【一竇】1713 イットウ 一つの穴。〔戴叔倫、賦二得古井一送二王明府一詩〕古井庇幽亭、涓涓一竇明。〔陸龜蒙、紫溪翁歌〕一竇之泉、其音淸也。

【一同】1714 イチドウ ㊀方百里の地。〔左氏、襄、二十五〕

一部 一

昔天子之地一圻、列國一同。〔注〕同、方百里。〔孔子家語、正論解〕昔天子一圻、列國一同。❷同時に。一緒にする。〔宋書、武帝紀上〕賞募投身赴義者一同登京城之科。〔羅隱、陝西晩思詩〕莫忘交遊分、從來事一同。❸みな。いづれも。〔平家物語、八、清經身投事〕一どう惜みたまへど、かひぞなき。

【一洞】1715 イチドウ 道家の上乘の教。眞をいふ。〔雲笈七籤〕第一洞、眞、爲上乘、第二洞、玄、爲中乘、第三洞、神、爲下乘。

【一動】1716 イチドウ 一たび動く。〔左氏、昭、十五〕禮、王之大經也、一動而失二禮、無大經矣。〔史記、淮南衡山傳〕昔文王一動、而功顯于千世、列爲三代。

【一動一靜】1717 イチドウイッセイ 或は動き、或は靜かなこと。又、動と靜。〔禮、樂記〕一動一靜者、天地之閒也。〔周敦頤、太極圖說〕一動一靜、互爲其根。

【一動不如一靜】1718 イチドウハイッセイニシカズ 徒らに動きまはるよりは、寧ろ靜かにして居る方が良い。〔山堂肆考〕宋孝宗、幸天竺靈隱寺、有僧淨輝者隨侍、上見飛來峯、問輝曰、既是飛來、如何不飛去、對曰、一動不如一靜。

【一得】1719 イットク ひとつの取りえ。一德。一得之愚を見よ。

【一得叟】1720 イットクソウ 元、馬道貫(**12**－**44572**‥879)の號。

【一得錄】1721 イットクロク 書名。一卷。岡田勝興著。文化十二年刊。儒教の性・命・仁の說に就いて論究したもの。

【一得一失】1722 イットクイッシツ 利益があると同時に損失もある。一利一害(2639)に同じ。〔無門關〕時有二僧、同去卷簾、眼曰、一得一失。

【一得之愚】1723 イットクノグ 己の意見を陳べるのに謙遜していふ語。愚人でも千たび考へれば、一つは得るところがある意。〔晏子、雜、下〕晏子曰、嬰聞之、聖人千慮、必有一失、愚人千慮、必有一得。〔史記、淮陰侯傳〕廣武君曰、臣聞、智者千慮、必有一失、愚者千慮、必有一得。

【一德】1724 イットク ❶純一の德。〔書、咸有一德〕惟尹躬暨湯、咸有一德、云云、惟民歸于一德、德惟一、動罔不吉、德二三、動罔不凶。〔書、咸有一德序、傳〕言、君臣有純一之德、以戒太甲。〔楚辭、天問〕聖人之一德。❷德を一にする。〔禮、王制〕考禮正刑一德。❸明、陳謨(**11**－**41698**‥555)の字。❹一得(1719)に同じ。〔庭訓往來、五月〕世間所有、無不愛用之、是偷盜之一德也。

【一德一心】1725 イットクイッシン 君と臣とが心を併せて事に當るのをいふ。一心一德。〔書、咸有一德〕惟尹躬暨湯、咸有一德。〔書、泰誓上〕予有臣三千、惟一心。〔傳〕三千一心、言同欲。

【一德格天】1726 イットクテンニイタル 德がよく天意に合するをいふ。宋の徽宗が、秦檜を信任して額に書いた語。〔宋史、姦臣三、秦檜傳〕帝親書一德格天、扁其閣。

【一櫝】1727 イットク 一つの箱。〔論衡、佚文〕疏一櫝、相遺以書。

【一頓】1728 イットン ❶一回。一次。食事の回數をかぞへるに用ひる。又、一度の食事。一食。〔世說新語、任誕〕聞卿祠欲乞一頓食耳。〔南史、徐湛之傳〕今日有一頓飽食、欲殘害我兒子。〔釋氏通鑑〕今日須餐一頓。❷食事をする休息所。又、一頓と一頓との間隔。頓は、宿食の設備をしてある一定の場所。〔通俗編、數目、一頓〕置食之所、因亦謂頓、北史、農爲中軍、寶爲後軍、相去各一頓。❸一度の休息。〔揚雄、太玄賦〕忽萬里而一頓兮、過列仙以託宿。❹一度打つ。一回打つ。〔唐書、刑法志〕當斬絞刑者、決重杖一頓處死。〔通俗編、數目、一頓〕又世俗計打曰頓、亦自唐人言之。❺一度に。にはかに。〔朱子全書、論語〕不似如今人直到服滿、一頓除脫了、便著華采衣服。❻ i² tuen⁴ 一回。一度。

【一頓挫】1729 イチトンザ ちよつとくじける。ちよつと失敗する。

【一衲】1730 イチナフ ❶一枚の僧衣。〔白居易、自遠禪師詩〕自出家來長自在、緣身一衲一繩牀。〔佛祖統記、慧思傳〕平昔禦寒、唯一艾衲。❷清、阮濬(**10**－**41569**‥19)の號。

【一二】1731 イチニ ❶ひとつふたつ。わづか。少し。〔公羊、宣、十二〕使帥一二耋老而綏焉。〔荀子、非相〕欲知億萬、則審一二。❷いちいち。一一。〔春秋繁露、竹林〕若是故、戰攻侵伐、雖數百起、必一二書、傷其害所重也。〔盧文弨校注〕一二、言次第不遺也。〔梁武帝、答皇太子請御講敕〕一二具如前敕。❸いちいちのべる。〔揚雄、長楊賦〕不能一二其詳。〔注〕不能審說。❹成績などの一番と二番。

【一二三】1732 ヒフミ イジミ ウタタネ 姓氏。〔姓林全書〕。

【一二八】1733 イチニハチ 一月二十八日の事件。卽ち第一次上海事變。一二八之役に同じ。

【一二三運】1734 イチニサンウン 清代、南方の各省から京へ粮米を運漕するのに、三回に分けて運んだこと。〔六部成語、戸部、一二三運、注解〕每年送京之南糧、共分三次、曰一二三運。

【一二三四】1735 イチニサンシ 文物法度などが算數の如く秩序整然として紊れない形容。〔莊子、天下〕以法爲分、以名爲表、以參爲驗、以稽爲決、其數一二三四是也。

【一二八之役】1736 イチニハチノエキ 昭和七年一月二十八日に起つた上海事變。一二八。

【一二三四五六七】1737 イチニサンシゴロクシチ 唐の羅隱が立春を詠じた詞の句。〔羅隱、京中正月七日立春詩〕一二三四五六七、萬木生涯是今日、遠天歸鴈拂雲飛、近水遊魚迸冰出。

【一肉】1738 イチニク 一片の肉。僅かの肉。一脟。〔史記、平津侯傳〕食一肉脫粟之飯。〔漢書、張禹傳〕日晏賜食、不過一肉。〔魏志、衞覬傳〕食不過一肉。

【一入】1739 イチニフ ❶一度入る。〔崔膺、別佳人詩〕嫦娥一入月中去、巫峽千秋空白雲。〔徐鉉、題白鶴廟詩〕一入仙鄕似舊山。❷染物を一度染汁に浸すこと。又、さうして染められた物。〔儀禮、士冠禮、纁裳純衣緇帶韎韐、注〕凡染絳、一入謂之縓、再入謂之赬、三入謂之纁、朱則一入與。❸ヒトシホ 一層。❷から轉じた語。〔古今和歌集、春上〕今ひとしほの色まさりける。

【一入再入】1740 イチジュサイジュ 幾度も染めるといふ意。〔和漢朗詠集、萓三品〕瑩日瑩風、高低千顆萬顆之玉、染枝染波、表裏一入再入之紅。〔平家物語、二、烽火〕その恩の深き色を按ずるに、一入再入の紅にもなほ過ぎたらむ。

【一任】1741 イチニン ❶一つの官位に卽いてゐる間。〔宋史、選擧志〕每一任近、卽一任遠。❷すべてまかせる。〔舊唐書、憲宗紀下〕一任貼典貨賣。〔宋史、仁宗紀三〕詔館閣官、須親民一任。〔皮日休、雨中遊包山精舍詩〕卻將塵土衣、一任瀑絲濺。❸さもあらばあれ。ままよ。〔司空圖、南至詩〕一任喧闐遶四鄰、閑忙皆是自由身。

【一寧】1742 イチネイ ❶元の僧、寧一山。元の世祖が來寇した時、一寧を使として降服を勸めさせた。北條貞時は之を伊豆に囚へ、後、南禪寺の主とした。國師號を贈らる。朱子の新注を傳へ、門徒に授く。〔本朝高僧傳、二十三〕。❷明、王濇(**7**－**20823**‥663)の字。

【一年】1743 イチネン ❶太陽曆では三百六十五日、太陰曆では三百六十日。〔禮、王制〕三年耕、必有一年之食。〔公羊、文、九〕一年不二君。〔莊子、寓言〕一年而野。❷年號などの最初の年。元年。〔漢書、董仲舒傳、臣謹案春秋謂一元之意、注〕師古曰、隱公始卽位、何不稱一年、而言元年也。

【一年景】1744 イチネンケイ 宋の欽宗の靖康年間に流行した婦人の衣の模様で、四時の桃・杏・荷花・菊花・梅花を一緒に染めたもの。〔老學庵筆記、二〕桃・杏・荷花・菊花・梅花、皆併爲一景、謂之一年景。

【一年根】1745 イチネンコン 一年限りで枯死する植物の根。一年生根。

【一年祭】1746 イチネンサイ 死後、滿一年目の祭典。

【一年草】1747 イチネンサウ 一年間に種子から花を開き、結實して枯れる草本。一年生草本。一年生植物。

【一年生】1748 イチネンセイ ❶第一學年に屬する生徒。❷一年根に同じ。

【一年到】1749 i⁴ nien² tao⁴ 頭をいふ。雲南石屛地方の方言。

【借一年】1750 イチネンヲカル いま一年お借りしたいといふ意。後漢の寇恂の善政を人民が喜んで、其の轉任を惜しんだ故事。〔後漢書、寇恂傳〕百姓遮道曰、願從陛下、復借寇君一年。

【一年一度】1751 (イチネンイチド) 一年間に一度。〔范成大、田園雜興詩〕一年一度遊二山寺一、不レ上二靈巖一卽虎丘。〔通俗編、時序、一年一度〕五燈會元、天衣懷擧二一年一度春一語。

【一年三秀】1752 (イチネンサンシウ) 一年に三度、花を開く。〔嵇康、幽憤詩〕煌煌靈芝、一年三秀。〔注〕濟曰、靈芝草藥、一年三開花秀、服レ之長生。

【一年三遷】1753 (イチネンサンセン) 一年間に三度も轉官して出世の早いこと。北朝、周の蘇亮の故事。一歲三遷(680)を見よ。〔北史、蘇亮傳〕亮自二大統一以來、無三歲不二轉官一、一年或至二三遷一、僉曰二才至一、不レ怪二其速一也。

【一年之資】1754 (イチネンノシ) 一年の費用。〔魏志、臧洪傳〕散二三年之畜一、以爲二一年之資一。

【一年生根】1755 (イチネンセイコン) 一年根に同じ。

【一年到頭】1756 i⁴ nien² tao⁴ t'ou² 一年中。年百年中。

【一年虛渡レ秋】1757 (イチネンムナシクアキヲワタル) 陰曆八月十五夜に、天が陰つて月が見えぬこと。〔古詩〕此夜若無レ月、一年虛渡レ秋。

【一年將レ盡夜】1758 (イチネンマサニツキントスルノヨル) 大晦日の夜。〔戴叔倫、除夜宿二石頭驛一詩〕一年將レ盡夜、萬里未レ歸人。

【一年生植物】1759 (イチネンセイショクブツ) 一年草に同じ。

【一年比一年】1760 i⁴ nien² pi³ i⁴ nien² 一年毎に。一年は一年より。

【一年之計在レ春】1761 (イチネンノケイハハルニアリ) 一年の計畫は、春に爲すべしとの意。〔月令廣義〕一日之計在レ晨、一年之計在レ春、一生之計在レ勤、一家之計在レ身。〔通俗編、時序、一年之計在二于春一〕一日之計在二于晨一見二梁元帝纂要一、婁元禮田家雜占、作二一日之計在二于寅一。

【一年小二年大】1762 i⁴ nien² hsiao³ êrh⁴ nien² ta⁴ 一年は小さいが、二年となれば大きい。歲月の經つのは速いものであるから、今年は來年はと怠けてはならぬといふ諺。

【一年有二一年工夫一】1763 (イチネンニハイチネンノクフウアリ) 一年には一年だけの仕事がある。急がずに段々と仕事を重ねて行くがよい。〔近思錄、治法〕一年有二一年工夫一。

【一年三百六十日】1764 (イチネンサンビャクロクジフニチ) 一年中。年が年中。〔施肩吾、春游樂詩〕一年三百六十日、賞心那似二春中物一。〔范成大、甲辰除夜吟〕一年三百六十日、日日三椽臥二衰疾一。〔通俗編、時序、一年三百六十日〕漢官志、周太常諺、一歲三百六十日、三百五十九齋。

【一年之計在二元日一】1765 (イチネンノケイハグワンジツニアリ) 一年の計畫は、年の始めの元旦に爲すべしとの意。一年之計在レ春に同じ。

【一年之計莫レ如レ樹レ穀】1766 (イチネンノケイハコクヲウウルニシクハナシ) 一年かかつて利を得る爲の計畫としては、五穀を植ゑるのが最も良い。〔管子、權修〕一年之計、莫レ如レ樹レ穀、十年之計、莫レ如レ樹レ木、終身之計、莫レ如レ樹レ人。

【一念】1767 (イチネン) ㊀一つのおもひ。又、ひとすぢな思ひ。〔宋史、湯漢傳〕一念之敬、上帝臨レ汝、祥風慶雲所二從出一也、一念之肆、上帝震怒、妖祲陰沴所二從生一也。〔陳鴻、長恨歌傳〕由二此一念一、又不レ得レ居レ此、復墮二下界一。㊁佛㋑極めて短い時間。〔仁王經、上〕一念中有二九十刹那一。〔無量壽經疏〕稱二南無阿彌陀佛一、經二此六字一頃、名二一念一。㋺一すじな思ひ。一心。〔教行信證文類〕一念云者、信心無二二心一、故曰二一念一、是名爲二一心一。

【一念三千】1768 (イチネンサンゼン) 佛天台の教義。人の一念中には、三千の法界を具へてゐる義。〔止觀、五、上〕夫一心具二十法界一、一法界又具二十法界、百法界一、一法界具二三十種世間一、百法界具二三千種世間一、此三千在二一念心一。

【一念十念】1769 (イチネンジフネン) 佛一遍の稱名、十遍の稱名。稱名の數の多少に拘らず、共に極樂往生の因となること。〔平家物語、十、維盛入水〕一念十念の憑有り。

【一念信解】1770 (イチネンシンゲ) 佛ひと思ひの間だけ佛法を信ずること。〔法華經、分別功德品〕其有二衆生一、聞二佛壽命、長遠如一レ是、乃至能生二一念信解一。

【一念隨喜】1771 (イチネンズイキ) 佛法を聞いて一念の間喜んで之に歸依すること。〔法華經、法師品〕聞二妙法華經一偈一句一、乃至一念隨喜者、我皆與二授記一。

【一念通レ天】1772 (イチネンテンニツウズ) ただ一筋に念ずれば、其の思が天に通じ、如何なることも爲し得る。〔參同契、注〕精勤不レ退、一念通レ天。

【一念不生】1773 (イチネンフシヤウ) 佛雜念を去り、念慮を超越した境界。卽ち佛の境界。〔五教章、二〕一念不生、卽是佛。

【一念萬年】1774 (イチネンマンネン) 刹那一念の心に、萬年の歲月を包含するをいふ。人の一念は無始無終であるから、無量劫であり萬年である。〔明儒學案、浙中王門學案、郎中王龍溪先生畿〕一念萬年、主宰明定、無二起作一、無二遷改一、正是本心自然之用。

【一念喜愛心】1775 (イチネンキアイシン) 佛如來の慈悲を一念の間だけ喜び愛づる信心。〔正信偈〕能發二一念喜愛心一、不レ斷二煩惱一得二涅槃一。

【一能】1776 (イチノウ) 一つのはたらき。一つの才能。一藝。〔呂覽、知度〕羣衆不レ周、而務成二一能一。〔淮南子、主術訓〕有二一能一者、服二一事一。

【一霸】1777 (イチハ) ㊀一軒の豪家。〔紅樓夢、四回〕無レ奈薛家原係二金陵一霸一、倚レ財仗レ勢。㊁i² pa⁴ 最も凶惡で傲然たるものをいふ。

【一把】1778 (イッパ) ㊀ひとたば。ひとにぎり。〔韓詩外傳、六〕背上之毛、腹下之毳、益二一把一、飛不二爲加一レ高、損二一把一、飛不二爲加一レ下。〔晉書、陶侃傳〕見二人持二一把未熟稻一。㊁i⁴ pa³ 一本。一箇。

【一把子】1779 (イッパシ) ㊀ひと組。一群。〔通俗編、數目、一把子〕北齊書、高阿那肱傳、一把子賊、馬上刺取、一二擲汾河中一、南史、陳武帝紀、一把子人、何足レ可レ打。㊁i⁴ pa³ tzŭ 一握りの。一束の。

【一把連】1780 (イッパレン) 明の宮中で、天子の侍者が天子の小刀を布で卷くことをいふ。〔明宮詞、注〕。

【一把兒頭】1781 i⁴ pa³ êrh t'ou² 滿洲旗人の婦女が結んだ髷の一種。

【一把子雜種】1782 i⁴ pa³ tzŭ tsa² chung³ 素性の分らぬ者。この混血兒奴(アイノコメ)。(人を罵る詞)。

【一把兒死拏】1783 i⁴ pa³ êrh ssŭ³ na² 一事を固執して離さない。頑固一點張りで、飽く迄も自我を通さうとする者。

【一波】1784 (イッパ) ㊀一つの波。〔孟郊、送二別崔寅亮下第一詩〕虬龍未レ化時、魚鱉同二一波一。〔范成大、寄二虎丘範長老一詩〕一波不レ動月空照、萬籟無情風自吟。〔陳基、夜泛二姚城江一詩〕一波不レ起魚龍靜、百穀初登海宇淸。㊁一つの波紋。一つの事件。〔宋史、蘇舜欽傳〕友讐一波、共起二謗議一。㊂漢字の書方の一畫。一波三折を見よ。〔姜堯章續書譜、用筆〕一點一畫、皆有二三轉一、一波一拂、皆有二三折一。

【一波瀾】1785 (イチハラン・ヒトハラン) ㊀一つの大波小波。㊁ひともめ。ひとさわぎ。ごたごた。㊂文章で、今まで平坦に述べて來て、急に其處から一段と躍動すること。

【一波三折】1786 (イッパサンセツ) 一筆の中に三段の變化を藏すること。波は永字八法の一つで、右下に拂ふ一筆。轉じて、文章の變化があるのに喩へる。〔宣和書譜〕釋曇林有二金書經目一云云、累二數千字一、終始一律、不レ失二行次一、便二於疾讀一、但恨、拘二窘法度一、無二飄然自得之態一、然其一波三折、筆之勢、亦自不レ苟。〔王羲之、題二衞夫人筆陣圖後一〕每レ畫二一波一、常三過二折レ筆一。

【一波動萬頃隨】1787 (イッパウゴキテバンケイシタガフ) 一つの波が起ると、萬頃の遠くまで波だつこと。頃は百畝の廣さ。小さい事が大きな影響を及ぼす意。〔釋惠洪、冷齋夜話〕華亭船子和尙偈曰、千尺絲綸直下垂、一波纔動萬頃隨。

【一波纔動萬波隨】1788 (イッパワヅカニウゴキテバンパシタガフ) 一つの波が僅かに動けば、千萬の波が隨つて動く。僅かな原因でも其の影響の及ぶ所が大であることの喩。一波動萬頃隨・一波動則萬波生に同じ。〔元好問、論レ詩詩〕奇外無レ奇更出レ奇、一波纔動萬波隨。

【一波動則萬波生】1789 (イッパウゴケバスナハチバンパシヤウズ) 一つの波が數知れぬ波を起す原因となる。小さい事が大きな影響を及ぼす意。一節動而百枝搖(1309)に同じ。

【一派】1790 (イッパ) ㊀一つの流れ。一つの分流。又、川のやうに細長い形をした一團。棚曳く霞などにいふ。〔李端、送二夏中丞赴二寧國任一詩〕楚縣入二青楓一、長江一派通。〔許渾、汴河亭詩〕廣陵花盛帝東游、先劈崑崙一派流。〔宋史、河渠志五〕導二胡盧河一、分爲二一派一、凡二百里。〔元好問、自題二寫眞一詩〕一派春煙淡不レ收、漁家已許借二扁舟一。〔耶

律楚材、贈二蒲察元帥一詩〕主人開レ宴醉二華胥一、一派絲篁沸二九衢一。❷主義、又は學問などの一つの流派。又、其れに屬する一團の人々。別派。〔圖繪寶鑑〕他以二蕭疎一爲レ能、余以二重密一爲レ巧、吾一派不レ讓二文湖州一也。

〔一派正氣〕1791 i² p'ai⁴ chêng⁴ ch'i⁴ 一個の良心。正義の心。

〔一派俗氣〕1792 i² p'ai⁴ su² ch'i⁴ 俗氣たつぷり。

【一馬】1793 (バイチ) ❶一匹の馬。〔管子、乘馬〕一馬其甲七、其蔽五。〔史記、樊噲傳〕沛公留二車騎一、獨騎二一馬一、與二樊噲等四人一步從。❷投壺といふ遊戯の際、一勝毎に立てる一本の馬(かずとり)。三馬(1－12‥1438)の❷を見よ。〔禮、投壺〕請爲二勝者一立レ馬、一馬從二二馬一。〔疏〕一馬從二二馬一者、每二一勝一、輒立二一馬一、禮以二三馬一爲レ成。

〔一馬一鞍〕1794 i⁴ ma³ i⁴ an¹ 夫婦さしむかひ。一頭の馬には鞍一つといふことから轉じて、一人の夫には一人の妻の意。一馬不レ跨二兩鞍一を見よ。

〔一馬一指〕1795 (イチバイッシ) 一指一馬(776)を見よ。

〔一馬三槍〕1796 i⁴ ma³ san¹ ch'iang¹ 馬が一定距離を走る間に、三たび銃を放つ。一馬三箭。

〔一馬兩首〕1797 i⁴ ma³ liang² shou³ 二股を懸ける。りやうてんびん。

〔一馬化爲レ龍〕1798 (イチバクワシテリヨウトナル) 晉の元帝の故事。五人の司馬氏が共に揚子江を渡つて江東に行つたが、其の中唯、元帝だけが天子となり得たことをいふ。馬は晉の姓。龍は天子の象。〔晉惠帝大安中童謠〕五馬浮渡レ江、一馬化爲レ龍。

〔一馬不レ跨二兩鞍一〕1799 (イチバリヤウアンヲコセズ) 一匹の馬は、二個の鞍を載せることは出來ぬ。貞女は兩夫に見えぬ喩。〔元史、列女二、衣氏傳〕衣氏、汴梁儒士孟志剛妻、志剛卒、貧而無レ子、有司給以二棺木一、衣氏給二匠者一曰、可三寬二大其棺一、吾夫有二遺衣服一、欲三盡置二其中一、匠者然レ之、云云、曰、吾聞、一馬不レ被二兩鞍一、吾夫既死、與レ之同レ棺共レ穴、可也、遂自刭死。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕道二不レ得一馬不レ跨二雙鞍一、可怎生父在時、曾許二下我一、父喪之後、母到悔レ親、這箇道理那裏有。

〔一馬之奔無二一毛而不一レ動〕1800 (イチバノハシルイチモウトシテウゴカザルナシ) 一匹の馬が走る時は、全身の毛が皆動く。附屬するものは、皆其の主體に從ふ喩。〔庾信、擬連珠〕一馬之奔、無二一毛而不一レ動、一舟之覆、無二一物而不一レ沈。

【一碼】1801 (イチヤード) 長さの單位。約三・〇一七尺にあたる。一ヤール。

【一杯】1802 (イッパイ) ❶一つのさかづき。又、さかづきに盛つた酒。或は單に酒をいふ。一盃。一桮。一盞。〔淮南子、要略〕一杯酒白。〔晉書、嵆康傳〕濁酒一杯、彈琴一曲。〔庾信、燕歌行〕蒲桃一杯千日醉。❷杯又は之に類した器物に盛つたものを數へる語。〔莊子、至樂〕不三敢食二一臠一、不三敢飮二一杯一、三日而死。〔李商隱、漢宮詞〕侍臣最有二相如渴一、不レ賜二金莖露一杯一。❸充滿してゐること。〔寶物集、五〕大なる手洗に一杯ありける。❹あらん限り。力いつぱい。

〔一杯酒〕1803 (イッパイノサケ) 一さかづきの酒。〔晉書、張翰傳〕使三我有二身後名一、不レ如二卽時一杯酒一。〔王維、送三元二使二安西一詩〕勸レ君更盡一杯酒、西出二陽關一無二故人一。

〔一杯水〕1804 (イッパイノミヅ) 僅かばかりの水。〔李白、送二魯郡劉長史一詩〕魯國一杯水、難レ容二横海鱗一。

〔一杯淡酒又不長久〕1805 i⁴ pei¹ tan⁴ chiu³ yu⁴ pu⁴ ch'ang² chiu³ 惡酒ですが一杯如何ですか。

〔以二一杯水一救二一車薪之火一〕1806 (イッパイノミヅヲモッテイッシャシンノヒヲスクフ) 僅かな水で大火を消し止めようとする。燒け石に水の喩。小仁の大不仁に勝ちがたい喩。一車薪は、車に滿載した薪。〔孟子、告子上〕仁之勝二不仁一也、猶三水勝一レ火、今之爲レ仁者、猶下以二一杯水一、救中一車薪之火上也。

【一拜】1807 (イッパイ) 一度禮拜すること。〔北山抄、一、二日二宮大饗事〕王卿進レ自レ座、跪二蘆蘗上一、取レ祿一拜、退出。

【一盃】1808 (イッパイ) 一杯(1802)の❶に同じ。〔李白、山中對酌詩〕兩人對酌山花開、一盃一盃又一盃。

【一敗】1809 (イッパイ) 一たびまける。又、全敗。〔唐書、魏徵傳〕威之所レ被半二天下一、然而一敗不レ振。〔唐書、柳宗元傳〕立レ身一敗、萬事瓦裂。〔徐夤、和三人經二隋唐閒戰處一詩〕孤軍前度戰、一敗一成功。

〔一敗塗レ地〕1810 (イッパイチニマミル) 全く敗れて、肝腦が地にまみれ散らばる。大敗して見る影もない形容。壹敗塗レ地(**3**－**5661**‥44)を見よ。〔史記、高祖紀〕高祖曰、天下方擾、諸侯竝起、今置レ將不レ善、壹敗塗レ地。〔注〕索隱曰、言、一朝破敗、使二肝腦塗一レ地。

【一桮】1811 (パイッ) 一杯(1802)の❶に同じ。一桮羹を見よ。

〔一桮羹〕1812 (イッパイノアツモノ) 一杯のあつもの。〔史記、項羽紀〕欲レ亨二而翁一、則幸分二我一桮羹一。

【一牌】1813 (パイッ) 一つの楯。〔宋史、兵志十一〕于二一弓一矢、一甲一牌之用一、無レ不レ盡レ心焉。

【一輩】1814 (パイッ) ❶一團隊。〔史記、大宛傳〕諸使二外國一一輩、大者數百、少者百餘人。〔宋史、周陳國大長公主傳〕共論二主第內臣一、多不レ謹、帝爲黜二都監梁懷一輩十餘人一。❷一輩子に同じ。

〔一輩子〕1815 i² pei⁴ tzŭ 一生涯。一代。〔紅樓夢、二十六回〕誰守誰一輩子呢。

〔一輩兒〕1816 i² pei⁴ êrh 同輩。朋輩。

〔一輩不如一輩〕1817 i² pei⁴ pu⁴ ju² i² pei⁴ 一代は一代に及ばぬ。段々惡くなる。

〔一輩爲官十輩擂磚〕1818 i² pei⁴ wei² kuan¹ shih² pei⁴ lei² chuan¹ 官吏が貪慾で、大いに人民を苦しめるのを諷刺した諺。一代役人した家は、其の子孫十代が乞食となる意。一世爲官七世打磚(1195)を見よ。

【一倍】1819 (イチバイ) 或る數量を二つ合せただけの分量。又、二つ合せること。〔越絕書、越絕計倪內經〕一歲再倍、其次一倍。〔李端、宿二淮浦一憶二司空文明一詩〕愁心一倍長二離憂一。

【一梅】1820 (イチバイ) 一つの梅の實。〔淮南子、說林訓〕百梅足三以爲二百人酸一、一梅不レ足三以爲二一人和一。

〔一梅先生〕1821 (イチバイセンセイ) 宋、蔣重珍(**9**－**31820**‥195)の尊稱。

【一方】1822 (イッパウ) ❶かたはう。かた一方。〔周禮、考工記、鮑人〕信レ之而枉、則一方緩、一方急也。〔呂覽、君守〕不レ可下以二一物一方一安中車上也。❷一方面。かなた。〔新書、解縣〕夫躄者一面病、痱者一方痛。〔詩、魏風、汾沮洳〕彼汾一方、言采二其桑一。〔詩、秦風、蒹葭〕所謂伊人、在二水一方一。〔蘇軾、前赤壁賦〕渺渺兮予懷、望二美人兮天一方一。❸一つ類。同類。〔淮南子、精神訓〕以二死生一爲二一化一、以二萬物一爲二一方一。〔注〕方、類也。❹一萬(錢の數)。萬は一に万に作り、万は方と形が近いからいふ。一干一方(223)の❶を見よ。❺四角な物の一個。又、一丈四方の地面。❻姓氏。〔姓氏全書〕。

〔一方主〕1823 (イッパウノシュ) 一方面のかしら。〔魏志、裴潛傳〕若乘レ閒守レ險、足三以爲二一方主一。

〔一方一干〕1824 (イツパウイツカン) 一方は一萬、一干は一千。共に賄賂に用ひる隱語。方と万と、干と千と、字形が似てゐることからいふ。一干一方(223)を見よ。

〔一方行爲〕1825 (イツパウカウヰ) 一方の意志表示によつて成立する法律行爲。單獨行爲(**2**－**3993**‥226)に同じ。

〔一方之藝〕1826 (イツパウノゲイ) 一事にすぐれたわざ。〔西京雜記、四〕有二一介之善、一方之藝一。

〔一方之任〕1827 (イツパウノニン) 一方を統べ治める職。〔漢書、終軍傳〕臣年少材下、孤二於外官一、不レ足三以亢二一方之任一。

〔一方水土養二一方人一〕1828 (イツパウノスイドハイツパウノヒトヲヤシナフ) 一地方の水土は一地方の人を養ふに足る。稼げば、何處の土地でも生活が出來るといふ諺。

【一包】1829 (イツパウ) ❶ひとつつみ。〔輟耕錄、還レ金絕レ交〕曹公克明鑑、號二以齋一、宛平人、爲二湖廣行省員外郎一日、麻陽士簿顧淵白、致レ書問訊、且以二辰砂一包一見レ寄。❷i⁴ pao¹ 悉皆。全部。

〔一包在內〕1830 i⁴ pao¹ tsai⁴ nei⁴ 一切其の內に含む。

【一抛】1831 (イツパウ) ひとたび投げうつ。一擲。〔白居易、對酒吟〕一抛二學士筆一、三佩二使君符一。〔溫庭筠、贈下鄭徵君家二匡山一首春與二丞相贊皇公一遊止上詩〕一抛二蘭棹一逐二燕鴻一、曾向二江湖一識二謝公一。

【一脬】1832 (イツパウ) 一きれの肉。脬は脟の字の訛といふ。一脟。一臠(2335)に同じ。〔呂覽、察今〕嘗二一脬肉一、而知二一鑊之味、一鼎之調一。〔集解〕畢沅曰、一脟、舊本作二一脬一、訛。

【一報】1833 (イツパウ) 一つのしらせ。又、一たび知らせる。〔李白、擬古詩〕安得二黃鶴羽一、一報二佳人一知。

【一橇】1834 (イツパウ) 數量の單位。四十斤。又、魚三十

斤。銀十兩。繭十斤。〔正字通〕槖、俗謂魚以三十斤爲一槖云云、集韻、槖、四十斤也、與今秤數不同。〔通俗編、數目、一槖〕按、今則以銀十兩爲一槖、又繭十斤爲一槖。

【一飽】1835 (イツパウ) 一たび飽く。〔淮南子、脩務訓〕今以爲學者之有過而非學者、則是以一飽之故、絶穀不食、以一蹪之難、輟足不行、惑也。〔陶潛、飲酒詩〕傾身營一飽、少許便有餘。

【一寶】1836 (イツパウ) ㊀一つのたから。〔戴昺、秋日獨倚東樓詩〕近喜書方添一寶、陶泓留得古端溪。㊁(イチホウ) 佛 一心の靈性。〔寶藏論〕夫天地之內、宇宙之間、中有一寶。

【一卯】1837 (イチバウ) 時刻の名。午前六時から八時まで。清代の官廳では、官吏の被選擧者は、選擧者と共に卯の刻に出勤した。〔福惠全書、筮仕部、投供驗到〕如一卯不到、卽行扣選。

【一房】1838 (イチバウ) ㊀一室。〔後漢書、侯瑾傳〕常以禮自牧、獨處一房、如對嚴賓焉。㊁(ヒトフサ) 葡萄の實などのやうに房をなしてゐるものを數へる語。

〔一房兒女〕1839 i^{4} fang^{2} êrh^{2} nü^{3} 一家族。全家族。

【一望】1840 (イチバウ) ㊀一たび見わたす。又、見渡す限り。〔沈約、餞謝文學離夜詩〕一望沮漳水、寧思江海會。〔錢起、樂游園晴望詩〕爽氣朝來萬里清、憑高一望九愁輕。〔張說、送梁六詩〕巴陵一望洞庭秋、日見孤峯水上浮。〔孟浩然、送杜十四之江南詩〕日暮征帆何處泊、天涯一望斷人腸。㊁(イチマウ) ただ一つの希望。〔孕常磐、五〕平氏追討の一望なり。

〔一望千頃〕1841 (イチバウセンケイ) 見渡す限りひろびろとしてゐるさま。頃は百畝をいふ。

【一帽】1842 (イチバウ) 一つの帽子。〔白居易、夏日作詩〕葛衣疏且單、紗帽輕復寬、一衣與一帽、可以過炎天。

【一榜】1843 (イチバウ) 官吏登用試驗に及第した者の全部をいふ。榜は、其の姓名を發表する掲示板。〔宋史、張齊賢傳〕及還語太宗曰、我幸西都、惟得一張齊賢、爾我不欲爵之以官、異時可輔汝爲相也、云云、上不悅、一榜盡與京官。〔邵氏聞見錄〕張齊賢赴廷試、帝欲其居上甲、有司置于丙科、帝降旨、一榜盡除京官通判。

【一白】1844 (イツパク) ㊀まつ白。全部白い。純白。㊁陰陽家の語。九星の一。休門。水星。本位は北、卽ち坎。九星(**1**－**167**‥387)を見よ。〔協紀辨方書、義例六、三元九星〕以休門爲一白、云云、一白・二黑・三碧、云云、一白居坎。㊂(イチビャク) 佛 一年をいふ。〔事物異名錄、歲時、年〕傳燈錄、我山林間、已經九白、按、梵言一年爲一白。㊃馬の肢の下端にのみ白い斑のあるもの。

〔一白一黃〕1845 (イツパクイツクワウ) 一は白く、一は黃色なこと。〔拾遺記、十〕獵得雙兎、一白一黃。

〔一白一黑〕1846 (イツパクイツコク) 一は白く、一は黑いこと。〔水經、溫水注〕兩神馬、一白一黑、盤戲河水之上。

【一泊】1847 (イツパク) 一晚とまる。一宿。〔白居易、題牛相公歸仁里宅新成小灘詩〕兩崖灔澦口、一泊瀟湘天。

【一迫】1848 (イチノハザマ) 陸前國の地名。

【一博】1849 (イツパク) 一度の博戲。博は一種の遊戲。〔潘岳、西征賦〕隕吳嗣於局下、蓋發怒於一博。〔注〕銑曰、景帝爲皇太子時、吳太子侍飮、博爭道不恭、皇太子、引博局提殺之。

【一麥】1850 (イチバク) ㊀一本のむぎ。〔石介、麥熟有感詩〕五月麥熟人民飽、一麥勝如四度赦。㊁(イチミヤク) 長さの單位。〔倶舍論、十二〕七蝨爲穬麥、七麥爲指節、三節爲一指。

【一幕】1851 (イチバク) ㊀一枚のまく。〔周禮、地官、司市〕夫人過市、罰一幕。〔劉因、五月二十三日登城樓詩〕物外此天才一幕、人間何事不秋毫。㊁(ヒトマク) 芝居などのひときりの演劇。

【一瀑】1852 (イチバク) 一つのたき。〔王逢、題趙善長畫山水詩〕一瀑天垂雪練紳、萬松花落黃金粉。

【一八】1853 (イチノハチ) ㊀曲尺で一寸八分の縫針。㊁(ハッチ) 鳶尾科植物の一種。漢名、鳶尾草。

【一鉢】1854 (イチハチ) ㊀一つのはち。又、其れに盛つたもの。〔北史、薛燈傳〕文帝又造二歃器、一爲二仙人共持一鉢、同處一盤鉢上。〔宋史、吳師禮傳〕造飯一鉢、以充饑、不復置庖爨及蓄僮僕。㊁佛 三衣一鉢と熟して、比丘の生活の質素なこと。㊂(ヒトハチ) 一つの鉢植。

【一發】1855 (イツパツ) ㊀矢や彈を一たび發射する。〔戰國、周策〕弓撥矢拘、一發不中、前功盡矣。〔晉書、慕容盛載記〕盜乃豎箭、盛一發中之。㊁一たび發病する。〔漢書、平帝紀〕每疾一發、氣輒上逆、害於言語。㊂十二本の箭を射ること。一說に、連りに矢を放つこと。〔漢書、匈奴傳、矢四發、注〕服虔曰、發、十二矢也、韋昭曰、射禮、三而止、每射四矢、故以十二爲一發也、師古曰、發、猶今言箭一放兩放也、今則以一矢爲一放也。〔琅琊代醉編、一發〕一發五豝、注謂、猶言中必疊雙也、猗覺寮雜言曰、世以射一矢爲一發、非也、射畢十二箭、方爲一發、十二箭乃能射五豕耳、豈能一箭而得五豕哉、退之作薛助敎志云、三發連三中的、亦誤也、按、十二箭爲一發、不知何出、然謂十二箭而得五豕、亦不足以見獸之多、愚謂、一發者、猶連中之意、固不可謂一箭、亦不必謂十二箭也、杜詩、一箭正墮雙飛翼、隋長孫晟、射雕、一發雙貫、雙貫已奇、況五貫乎、故一字不可泥讀。㊃i^{4} fa^{1} ㋑更に。益〻。愈〻。〔元曲、鴛鴦被〕出乖露醜、一發不好。㋺一樣に。いつしよに。〔水滸傳、二回〕太公道、這個不妨、我家也有頭口騾馬、敎莊客牽出後槽、一發喂養。

〔一發五豝〕1856 (イツパツゴハ・ゴハニイツパツス) 五豝を遠卷にして、其の中の一豝だけを射とめる。仁者の狩をいふ。豝は牝豕。〔詩、召南、騶虞〕彼茁者葭、壹發五豝。〔傳〕豕牝曰豝。〔箋〕君射一發、而翼五豝者、戰禽獸之命。必戰之者、仁心之至。〔補傳〕呂祖謙曰、一發五豝、獸之多、而取之鮮也。

〔一發雙貫〕1857 (イツパツサウクワン) 一矢で二羽を射とめる。一石二鳥。一箭雙鵰。〔隋書、長孫晟傳〕晟乃彎弓馳往、遇鵰相攫、遂一發而雙貫焉。

〔一發貫二鵰〕1858 (イツパツニテウヲツラヌク) 一矢で二羽の鵰を射とめる。射術の精妙なこと。一箭貫雙鵰。〔唐書、叛臣下、高駢傳〕駢曰、我且貴、當中之、一發貫二鵰焉。

【一墢】1859 (イツパツ) 一鍬の土を鋤き起すこと。〔國語、周語上〕王耕一墢、班三之、庶人終於千畝。

【一撥】1860 (イツパツ) ㊀一たびひらく。一度診斷する。〔史記、扁鵲傳〕上古之時、醫有兪跗、治病不以湯液・醴灑・鑱石・撟引・案扤・毒熨、一撥見病之應、因五藏之輸。㊁i^{4} po^{1} 一回。一度。

〔一撥土〕1861 (イツパツノド) 僅かな土。〔顏氏家訓、涉務〕未嘗目觀起一撥土、耘一株苗。

【一髮】1862 (イツパツ) ㊀一筋の毛髮。〔傅咸、櫛賦〕一髮不順、實以爲恥。㊁一筋の髮のやうに、遙か彼方に見える青山などの喩。〔蘇軾、澄邁驛通潮閣詩〕杳杳天低鶻沒處、青山一髮是中原。

〔一髮引千鈞〕1863 (イツパツセンキンヲヒク) 一筋の毛髮で千鈞の重い物を引く。極めて危險な喩。〔韓愈、與孟尙書書〕漢氏已來、羣儒區區修補、百孔千瘡、隨亂隨失、其危如一髮引千鈞。

〔牽一髮而全身動〕1864 (イツパツヲヒイテゼンシンウゴク) 髮の毛一本を引いた爲に全身が動く。瑣細な事が影響して大事に及ぶ喩。

【一法】1865 (イツパフ) ㊀一つの法則。又、一つの手だて、方法。〔荀子、王霸〕君者論一相、陳一法、明一指、以兼覆之、兼炤之、以觀其盛者也。〔注〕一法一指、皆謂綱紀也。㊁佛 (イツポフ) 一事一物の意。一切の事物は盡く法則を備へてゐるから、總べて法といふ。〔雲笈七籤、洞元靈寶定觀經〕不依一法、而心常住。〔華嚴經、十三〕惟以一法得出離。〔三藏法數、四〕法卽規則之義。

〔一法印〕1866 (イツポフイン) 佛 小乘の三法印に對して、大乘の諸法實相印をいふ。卽ち現實世界其のままが實相(眞理)であるといふ說。〔妙玄、八、上〕大乘經、但有一法印、謂諸法實相。

〔一法界〕1867 (イツポツカイ) 佛 眞如の理體をいふ。唯一無二であるから一といふ。〔大乘起信論〕心眞如者、卽是一法界、大總相法門體。

〔一法句〕1868 (イツポック) 佛 眞實正覺を悟つた智。又正覺を詮にする語句。〔往生論〕略說入一法句、一法句者、謂清淨句。〔往生論註記、五〕一法句者、一法是無爲法身、句謂能詮章句。

〔一法界心〕1869 (イツポツカイシン) 佛 有無を超絶し、差別を離れた心をいふ。〔二敎論、上〕一法界心、非百非、背千是。

〔一法通萬法通〕1870 (イツパフツウズレバ・バンパフツウズ) 一法に通ずれ

ば、萬法に通ずるを得ること。〔通俗編、數目、一法通萬法通〕莊子天地篇、引レ記曰、通二于一、而萬事畢、五燈會元、道膺頌曰、一法諸法宗、萬法一法通。

【一半】1871 イッパン はんぶん。〔後漢書、律曆志上〕六日律七寸、小分一半強。〔李白、短歌行〕麻姑垂二兩鬢一、一半已成レ霜。〔司空圖、攜仙籙詩〕一半晴空一半雲、遠籠二仙掌一日初曛。〔李益、登二天壇一夜見レ海詩〕九州下視杳未レ旦、一半浮生皆夢中。

【一半兒】1872 イッパンジ ❶曲牌の名。北曲では仙呂調隻曲に入る。末句に一半兒の三字を用ひる。〔曲譜〕竹坨集棄兒樂府內、一半兒甚多、清新俊爽、收不レ勝レ收。❷i² pan⁴ êrh 半分。半ば。僅か。

【一半點兒】1873 i² pan⁴ tien³ êrh 少し。僅か。一點兒(1673)に同じ。

【一帆】1874 イッパン ❶一つの帆。一颿。轉じて、一艘の舟。〔王灣、次二北固山下一詩〕潮平兩岸闊、風正一帆懸。〔常建、送二李十一尉臨溪一詩〕天際一帆影、預懸二離別心一。〔劉長卿、餞二別王十一南遊一詩〕長江一帆遠、落日五湖春。〔高啓、登二涵空閣一詩〕一帆暝色太湖船。❷清、褚汝航(**10－34457**・・43)の字。

【一帆風】1875 イッパンノカゼ 帆一杯にはらんだ風。勢に乘ずる喩。〔吳融、送二知古上人一詩〕登レ船忽挂一帆風。

【一帆風順】1876 イッパンフウジュン 追風を受けた船のやうに、運命の順調なこと。幸運の續くこと。

【一范】1877 イッパン 宋の范仲淹をいふ。一人の范仲淹といふ意。一韓(240)を見よ。

【一班】1878 イッパン ❶官吏の一地位。〔唐書、韋表微傳〕昌二游少年間一、取二一班一級一、不レ見二其味一。❷ひときは。一端。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕此航逸之一班矣。❸一列。ひとくみ。

【一般】1879 イッパン ❶一樣。同樣。〔齊己、翡翠詩〕水邊飛去青難レ辨、竹裏歸來色一般。❷一切。すべて。全體。〔司空曙、過二長林湖西酒家一詩〕門前桃杏一般花。〔邵雍、清夜吟〕一般清意味、料得少二人知一。❸普通。〔趙抃、和二沈太博小圃偶作一詩〕一般情緒怕二春寒一。〔隋唐嘉話〕崔湜之爲二中書令一、河東公張嘉貞爲二舍人一、湜輕レ之、常呼爲二張底一、後會商二量數事一、意皆出二人右一、湜驚美久レ之、謂二同官一曰、知下無二張底一、乃我輩一般人上。

【一般數】1880 イッパンスウ 文字で表はされる數。

【一般聲】1881 イッパンノコヱ 昔も今も變らぬ聲。〔邵雍、天津感レ事詩〕唯有二天津橋下水一、年年唯作二一般聲一。

【一般的】1882 イッパンテキ 同樣な。廣く全體に通じて。普通の。

【一般法】1883 イッパンハフ 普通一般に適用せられる法律。普通法。特別法(**7－20013**・・142)の對。

【一般會計】1884 イッパンクワイケイ 國家の歲出歲入の普通の場合に於ける會計。特別會計(**7－20013**・・145)の對。

【一般見識】1885 i⁴ pan¹ chieh⁴ shih⁴ 同樣の見解。普通の見解。〔通俗編、交際、一般見識〕元曲選、武漢臣老生兒劇、有和你一般見識語。

【一般方略】1886 イッパンハウリャク 軍隊の演習に於ける兩軍共通の方略。又、大體の作戰計畫。

【一般無二】1887 i⁴ pan¹ wu² êrh⁴ 同樣。同一。

【一般預金】1888 イッパンヨキン 日本銀行に對する政府預金以外の預金。俗稱、民間預金。

【一般經濟學】1889 イッパンケイザイガク 經濟の原理と應用とを兼ねて取扱ふ經濟學。

【一般消費稅】1890 イッパンセウヒゼイ 各個人又は各家庭が、一定期間に消費する財貨の總額に對して課する稅。

【一斑】1891 イッパン 豹の皮の一つの斑文。見る所の狹いことをいふ。又、一部分。〔蘇軾、贈二老謙一詩〕瀉レ湯舊得二茶三昧一、覓レ句近窺二詩一斑一。

【一斑評二全豹一】1892 イッパンモテゼンペウヲヒヤウス 物事の一部分を見て、其の全體を批評するにいふ。一斑は、豹の皮の一つの斑文。〔晉書、王獻之傳〕年數歲、嘗觀二門生樗蒲一曰、南風不レ競、門生曰、此郎亦管中窺レ豹、時見二一斑一。

【一飯】1893 イッパン 一度の食事。一椀のめし。一餐。〔公羊、昭、十九〕樂正子春之視レ疾也、復加二一飯一、則脫然愈、復損二一飯一、則脫然愈。〔漢書、鮑宣傳〕興與二宣女壻許紺一俱過レ宣、一飯去、宣不レ知レ情、坐繫レ獄自殺。

【一飯恩】1894 イッパンノオン 少しのめぐみ。〔唐書、劉從諫傳〕大丈夫、勿レ顧二一飯恩一。

【一飯德】1895 イッパンノトク 少しのめぐみ。一飡之德。一飯之德必償を見よ。

【一飯頃】1896 イッパンノケイ 飯食ふ暇。一度食事するだけの僅かな時間。

【一飯之頃】1897 イッパンノケイ 一食の閒。しばらく。食頃。〔剪燈新話、三山福地誌〕披レ頭露レ體、勢甚凶惡、一飯之頃、則自實復回。

【一飯之報】1898 イッパンノムクイ 少しの惠みに報いること。春秋、晉の靈輒の故事。靈輒(**12－42532**・・261)を見よ。〔後漢書、李固傳〕竊感二古人一飯之報一、況受二顧遇一而容レ不レ盡乎。

【一飯千金】1899 イッパンセンキン 一度の飯に千金の恩がある。漢の韓信が、初、漂母の惠みを受けて飢を凌ぎ、後、富貴となつて千金を報いたといふ故事。〔史記、淮陰侯傳〕召下所二從食一漂母上、賜二千金一。

【一飯不レ忘】1900 イッパンワスレズ 一飯の恩も忘れない。些小の恩をも記憶して居る。

【一飯三吐レ哺】1901 イッパンニミタビホヲハク 一度の食事中に、口中の食物を吐いて客を迎へることが三度までにも及んだ。賢者を迎へるのに熱心なこと。周公旦の故事。一食而三起。一沐三握レ髮(2214)を見よ。〔韓詩外傳、三〕一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺。〔史記、魯世家〕一飯三吐レ哺、起以待レ士。

【一飯之德必償】1902 イッパンノトクカナラズツグナフ 少しの惠みも、忘れずに必ず報いる。〔史記、范雎傳〕一飯之德必償、睚眦之怨必報。

【一飯未三嘗留二俗客一】1903 イッパンイマダカツテゾクカクヲトドメズ 俗客には一度の食事も供したことがない。〔杜甫、解悶詩〕一飯未三曾留二俗客一、數篇今見古人詩。〔通俗編、飲食、一飯未三嘗留二俗客一〕杜甫詩、按、俚俗句、淡飯須レ留二有意人一、本二于此一。

【一颿】1904 イッパン 一つの帆。一帆(1874)に同じ。〔王文治、沈華坪春江曉渡圖詩〕誰洗二琉璃一鋪二萬頃一、一颿如レ燕翦二東風一。

【一番】1905 イチバン ❶一度。〔詩、小雅、車攻、射夫既同、疏〕此射夫皆已射一番、若中得レ禽者、既同、復二將レ射之位一。〔劉昭禹、聞レ蟬詩〕一雨一番晴、山林冷落青。〔陸游、新涼詩〕一番風雨送二新涼一。❷一枚(2149)に同じ。〔唐書、王鍔傳〕況繼奉二天子詔一和解、能無三一番紙墜二此路一乎。〔聞見近錄〕出二紙一番一。❸銀貨一元をいふ。❹一段の。ひときは。一つの。一陣の。❺㋑第一。〔大學寮式、釋奠〕其貢進之次、以二左近一爲二一番一。㋺かりそめに。試みに。思ひ切つて一遍。㋩碁・將棋などの一回の勝負。〔今昔物語、四〕いちばん打ち畢はりて。㋥最も。何より。㋭ヒトツガヒ 一對。一組。

【一番草】1906 イチバングサ 植付後最初に行ふ稻田の草取り。三番草(**1－12**・・1505)を見よ。

【一番槍】1907 イチバンヤリ 眞先に敵陣に槍を入れること。一番鑓に同じ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕直言之功、愈二一番槍一。

【一番手】1908 イチバンテ 眞先に繰りだす人。又、其の集團。〔小松軍記〕一番手の中よりも。

【一番乘】1909 イチバンノリ 敵陣に向つて、眞先に乘り入れること。〔長澤聞書〕後藤又兵衞一番乘。

【一番鳥】1910 イチバンドリ 早曉、眞先に鳴く雞。一番雞。〔和漢三才圖會、原禽類、雞〕丑時始鳴者、稱二一番鳥一、寅時鳴者、稱二二番鳥一。

【一番目】1911 イチバンメ ❶第一番。❷芝居の舞臺で、初めに行ふ狂言。

【一番鑓】1912 イチバンヤリ 鑓を持つて眞先に敵陣に突入ること。一番槍。〔武功雜記、上〕一番に進み出でて、鑓を合はするを、一番鑓といふ。

【一盤】1913 イチバン ❶ひと皿。又、一つの臺。〔晉書、王祥傳〕糒脯各一盤。〔南齊書、豫章王嶷傳〕朔望菜食一盤、加以二甘菓一。〔李白、書懷贈二南陵常贊府一詩〕雖レ有二數斗玉一、不レ如二一盤粟一。❷平たい鉢等を數へる語。〔北史、薛燈傳〕文帝又造二二欹器一、一爲下二仙人共持二一鉢一、同處中一盤鉢上。

【一盤食】1914 イチバンノショク 僅かの食物。器食。〔漢書、鄭當時傳、器食、注〕猶三今言二一盤食一也。

【一盤散沙】1915 イチバンサンサ 皿の上に散らした砂のやうに人心が離散して結合力のないこと。

【一匕】1916 イッピ 一本のあひくち。〔齋藤監物、題下兒島高德書二櫻樹一圖上詩〕單蓑直入虎狼窟、一匕深探鮫鰐淵。

【一皮】1917 ヒトカハ ❶一枚の皮。皮一重。〔武者物語〕一皮內にある人間の心底をつもり、人を目利せ

ん事は。❷淺はかなこと。うはべだけのこと。〔甲陽軍鑑、五〕何事もひとかは斗りに分別し。

【一妃】1918 皇后の異稱。一后。

【一批】1919 i⁴ pʻi¹ ひと口。一通。一群。多くの。一回。一次。

【一飛】1920 ❶一たびとぶ。〔杜摯、贈二毌丘荊州一詩〕鵠飛擧二萬里一、一飛翀二昊蒼一。〔阮籍、詠懷詩〕一飛冲二青天一、曠世不二再鳴一。〔王建、烏夜啼〕一飛直欲二飛上一レ天、回回不レ離二舊棲處一。〔曹和、送下邵安石及第歸二連州一觀省上詩〕青雲重慶少、白日一飛高。❷字號。㋑宋、王翥(**7**―20823‥594)の字。㋺元、吳雄(**2**―3365‥390)の字。㋩清、凌霄(**2**―1669‥76)の字。

【一飛冲レ天】1921 一度飛べば高く天にも達する。一度奮起すれば、大業を成し遂げるの意。〔史記、滑稽傳〕此鳥不レ飛則已、一飛冲レ天、不レ鳴則已、一鳴驚レ人。

【一臂】1922 ❶片方のひぢ。片腕。轉じて、我が力となるべき人の喩。〔北史、薛道衡傳〕今爾之去、朕如レ斷二一臂一。❷一臂民に同じ。〔呂覽、求人〕禹西至二三危之國、云云、其肱一臂三面之鄕一。

【一臂民】1923 古の部族の名。〔淮南子、墜形訓〕凡海外三十六國、云云、一臂民・三身民。

【一臂力】1924 片腕だけの力。僅かの力。

【交二一臂一】1925 ❶臂を交へて並び立つこと。〔莊子、田子方〕吾終身與レ汝交二一臂一而失レ之、可レ不レ哀歟。❷手を拱く。拱手する。

【如レ失二一臂一】1926 自分の力となるべき人を失つた喩。片腕を失つたやうに思ふこと。〔唐書、薛元超傳〕帝幸二東都一、留二元超一輔二太子一監レ國、手敕曰、朕留レ卿、若レ失二一臂一。

【一匹】1927 ❶四丈をいふ。一兩。〔說文〕匹、四丈也。〔漢書、食貨志〕布帛、廣二尺二寸爲レ幅、長四丈爲レ匹。〔淮南子、天文訓〕四丈而爲レ匹。❷馬を數へる語。馬の長さが一匹ほどに見えるからともいひ、又、馬は夜、目前四丈を見得るからだともいふ。轉じて、動物を數へる語。一頭。〔詩、小雅、信南山、維禹甸レ之、疏〕成元年左傳服注引二司馬法一云、四邑爲レ丘、有二戎馬一匹、牛三頭一、是曰二匹馬丘牛一。〔羣書札記〕韓詩外傳、顏回望二吳門一、見二一匹練一、孔子曰、馬也、然則馬之光景一匹長耳、故後人號レ馬爲二一匹一、或曰、馬夜行、目明照二前四丈一、故曰二一匹一。❸一羽の鴨。匹は鳴の省字で、鴨をいふ。〔孟子、告子下、力不レ能レ勝二一匹雛一集注〕匹字、本作レ鳴、鴨也、從レ省作レ匹。

【一筆】1928 ❶一ふで。〔齊東野語、十二〕一筆作レ章。〔陸游、冬夜詩〕起提二一筆一掃二匹紙一。❷一つの短い文章。〔唐書、鍾傳傳〕十金易二一筆一、百金償二一篇一。❸一個。又、地面の一區域。

【一筆錦】1929 筆算法の名。算盤の代りに紙筆で計算する舊筆算法。一たび運算する每に數字を改め書く。

【一筆畫】1930 一筆で描いた畫。一說に、始めから終りまで筆勢が一氣で、氣脈の斷えぬのをいふ。〔繪妙〕王獻之、能爲二一筆書一、陸探微、能爲二一筆畫一、非レ謂二能一筆可一レ就也、乃自レ始及レ終、連綿相屬、氣脈不レ斷、所下以意存二筆先一、筆周二意內一、像應レ神全、思不レ竭而筆不上レ困也。〔圖繪寶鑑〕趙子雲能作二一筆畫一。

【一筆款】1931 i⁴ pi² kʻuan³ 一口の金子。

【一筆勾】1932 ❶一筆でけづり去る。轉じて、一切を除くこと。宋の范仲淹が、不才の人々を一筆で名簿から削り去つた故事。〔名臣言行錄、范仲淹〕公爲二參政一、與二韓富二樞一並命、銳二意天下之事一、患二諸路監司不才一、更用二杜杞張昷之輩一、公取二班簿一、視二不才監司一、每レ見二一人姓名一、一筆勾レ之、以レ次更易、富公素以レ丈事レ公、謂レ公曰、六丈則遺二一筆一、焉知二一家哭一矣、公曰、一家哭、何二如一路哭一耶、遂悉罷レ之。❷佛一切の塵緣を破除すること。〔蓮池大師、七筆勾歌訣〕。

【一筆書】1933 ひと筆で書いた書。ひとふでがき。〔墨藪〕張芝作二一筆書一。

【一筆賬】1934 i⁴ pi³ chang⁴ ひと勘定。張簿面の一口。

【一筆啓上】1935 手紙の初めに記す言葉。

【一筆勾消】1936 i⁴ pi³ kou¹ hsiao¹ 帳消しにする。一筆に沫殺する。過去の勘定を帳消にする。

【一筆三過】1937 書法の一。磔(乀)一畫を書くに、三度筆勢を變ずること。〔宣和畫譜〕後主又作二金錯刀畫一、亦清爽不レ凡、另爲二一格法一、後主金錯書、用二一筆三過之法一、晩年變而爲レ畫、故顫掣乃如二書法一。

【一筆三禮】1938 佛佛像を畫き、經文を寫すに、一筆每に三度禮拜すること。

【一百】1939 十の十倍。〔說文〕百、十十爲二一百一。〔孟子、公孫丑下〕王餽二兼金一百一、而不レ受。

【一百五】1940 ❶牡丹の一種。牡丹は冬至の翌日から數へて一百五日目、卽ち寒食の日から咲きつづくのでこの名がある。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、花品序〕蓮花萼、一百五、鹿胎花。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、花釋名〕一百五者、多葉白花、洛花以二穀雨一爲二開候一、而此花常至二一百五日一開、最先。❷一百五日に同じ。〔姚合、寒食書事詩〕今朝一百五、出レ戶雨初晴。

【一百歲】1941 百年。又、百歲の壽。〔白居易、對レ酒詩〕人生一百歲、通計三萬日。

【一百幀】1942 一百幅。幀は書畫を張ること。轉じて、書畫の一幅。〔安積艮齋、池無名傳〕先後所レ作富士山圖、凡一百幀。

【一百六】1943 寒食の日をいふ。冬至の當日から數へて一百六日目に當るからいふ。〔書言故事、時令類、淸明〕一百六、寒食、淸明節前一日、爲二寒食節一、元稹連昌宮辭、初過寒食一百六、冬至數至二寒食一、一百零六日、云云、荊楚歲時記、去二冬至一一百五日、有二疾風甚雨一、謂二之寒食一。〔注〕上文一百六日、蓋連二冬至之日一也、此言二一百五日一、除二去冬至之日一、以レ故少二一日一也。

【一百五日】1944 寒食の日をいふ。冬至の翌日から一百五日目に當るからいふ。寒食(**3**―7239‥217)を見よ。〔荊楚歲時記〕去二冬節一一百五日、卽有二疾風甚雨一、謂二之寒食一。〔容齋四筆、一百五日〕今人謂二寒食一爲二一百五一者、以下其自二冬至之後一至二淸明一、歷二節氣一五、凡爲二一百七日一、而先兩日爲中寒食上、故云、他節皆不レ然也、杜老有二鄜州一百五日夜對レ月一篇一、江西宗派詩、云下一百五日足二風雨一、三十六峯勞二夢魂一、一百五日寒食雨、二十四番花信風上之類、是也。〔崔櫓、春日長安卽事詩〕一百五日又欲レ來。

【一百八句】1945 一百八句の經文をいふ。〔李商隱、安平公詩〕一百八句在二貝葉一、三十三天長雨レ花。

【一百八十】1946 百以上。百餘り。

【一百八盤】1947 巫山の坂路の險阻なことをいふ。盤は屈曲の意。〔名山志〕南陵山、在二巫山一、高大、有レ路如レ綫、盤屈至レ頂一百八盤。〔黃庭堅、新喩道中寄二元明一詩〕一百八盤攜レ手上、至レ今猶夢繞二羊腸一。

【一百八遍】1948 佛一百八遍の念佛。一百八は煩惱の數。此の煩惱を退治する爲に行ふ。

【一百一十城】1949 佛善財童子が福城を起點として次第に南行し、善知識を求めた城邑の數。〔八十華嚴經、七十八〕此長者子、曩於二福城一受二文殊教一、展轉南行、求二善知識一、經二由一百一十善知識一已、然後而來、至二於我所一。

【一百二十行】1950 種々の商賣。又、全市の各營業の總稱。三百六十行(**1**―**12**‥1529)を見よ。行は店鋪。〔通俗編、藝術、三百六十行〕按、點鬼簿、鄭廷玉有二一百二十行販揚州樂府一、又屈彥英有二一百二十行院本一、元人但云二一百二十一。〔宣和遺事、前集下〕遂於二宮中內一、列爲二市肆一、令二其宮女賣レ茶賣一レ酒、及二一百二十行一、經紀賣買皆全。

【一百兩十行行出二狀元一】1951 商賣は色々あるが、其の商賣ごとにそれぞれすぐれた人がゐる。兩十は二十。行は店鋪。狀元は科擧に首席で及第したもの。

【一品】1952 ❶ひとしな。一つの種類。〔周禮、天官、外府、掌二邦布之入出一、注〕布、泉也、泉始、蓋一品。〔廣韻〕銅、金之一品。❷殊にすぐれたもの。逸品。絕品。〔南齊書、蕭惠基傳〕當時能レ基人、琅邪王抗第一品。〔白居易、司徒令公分二守東洛一云云詩〕天上中台正、人間一品高。❸官員の最上の位階。〔北史、周太祖紀〕作二九命之典一、以敍二內外官爵一、以二第一品一爲二九命一。❹古昔、親王の位階の第一。❺佛經中の一つの篇章。一品經を見よ。❻但馬國の地名。

【一品膏】1953 蟹肉の異名。〔淸異錄、魚、夾古蟲〕膚絳從弟純、以二蟹肉一爲二一品膏一。

【一品經】1954 佛法華經二十八品を、各〻一品づつ一軸の巻物に仕立てたもの。又、其の一

品づつを順次に讀誦すること。〔千載和歌集、釋教〕皇后宮に、一品經供養せられける時。

【一品紅】1955 イッピンコウ　灌木の名。しやうじやうぼく。たかとうだい科に屬す。

【一品傘】1956 イッピンサン　一品の位に在る人が用ひるかさ。〔金史、按荅海傳〕太祖賜以二一品傘一。

【一品集】1957 イッピンシフ　書名。二十卷。別集十卷。外集四卷。唐、李德裕撰。〔文獻通考、經籍考〕。

【一品妃】1958 イッピンヒ　當歸花の別名。おはぜり。かはぜり。〔香祖筆記〕門人汪洪度、有下詠二一品妃一詩上、自注云、當歸花、曾入二禁苑一、賜二此名一。

【一品宰相】1959 イッピンサイシヤウ　曾國藩のあだな。曾國藩が常に粗食に甘んじ、宰相となつてからも蔬菜一品で濟ませたからいふ。〔曾文正公軼事〕公每食只蔬菜一品、決不二多設一、雖三身爲二將相一、而自奉之嗇、無レ殊二寒素之時一、人以二其每食只菜一品一、因呼爲二一品宰相一云。

【一品白衫】1960 イッピンハクサン　進士の試驗を受ける者をいふ。今はなほ白のひとへの衣を著てゐるが、他日一品の位に登るべきものといふ義。〔摭言〕進士科盛二於貞觀一、歲貢常八九百人、謂二之白衣公卿一、一曰二一品白衫一。

【一夫】1961 イップ　㊀一人の男。一人の匹夫。〔書、說命下〕一夫不レ獲則曰、時予之辜。〔書、君陳〕無レ求二備于一夫一。〔孟子、梁惠王下〕殘賊之人、謂二之一夫一、聞レ誅二一夫紂一矣、未レ聞レ弑レ君也。〔孔叢子、陳士義〕吾猶二一夫一爾。㊁百畝の土地をいふ。夫(**3－5835**)の字解㊇を見よ。〔唐書、食貨志二〕古者、百畝地號二一夫一。

【一夫一婦】1962 イップイップ　一人の夫が、一人の妻を持つこと。一夫多妻・一妻多夫(2547)の對。〔漢書、王莽傳〕古者、設二廬井一、八家、一夫一婦、田百畝、什一而稅、則國給民富、而頌聲作。〔白虎通、爵〕庶人稱二匹夫一者、匹、偶也、與二其妻一爲レ偶、陰陽相成之義也、一夫一婦成二一室一、明二君レ人者、不レ當レ使四男女有三過レ時無二匹偶一也。〔文中子、魏相〕一夫一婦、庶人之職也。

【一夫之用】1963 イップノヨウ　一人だけに役立つもの。擊劍をいふ。一人敵(1127)に同じ。〔魏志、任城威王彰傳〕擊劍、此一夫之用、何足レ貴也。

【一夫出レ死】1964 イップシヲイダス　一人の男が死を覺悟する。匹夫でも、強く決心すれば、諸侯も恐れしめるの意。〔淮南子、說林訓〕一夫出レ死、千乘不レ輕。

【一夫多妻】1965 イップタサイ　一人の男が、同時に多くの妻を持つこと。一妻多夫(2547)の對。

【一夫夜呼】1966 イップヨルヨブ　一人の男が夜中に大聲で騷ぎ立てる。一人の男が亂を起して、天下が亂れることをいふ。五代、唐の李嗣源の部下の張破敗が突然亂を起した故事。〔五代史、伶官傳敍論〕一夫夜呼、亂者四應。

【一夫作レ難而七廟墮】1967 イップナンヲオコシテシチベウコボタル　一人の男が亂を起して、天子の七廟がこはされる。國が亡びることをいふ。〔賈誼、過秦論上〕一夫作レ難、而七廟墮、身死二人手一、爲二天下笑一者、何也。

【一夫當レ關萬夫莫レ開】1968 イップクワンニアタレババンプモヒラクナシ　一人の男が關所を守れば、萬人の兵を以てしても破ることが出來ぬ。極めて險阻なことをいふ。〔左思、蜀都賦〕一人守レ隘、萬夫莫レ向。〔李白、蜀道難〕劍閣崢嶸而崔嵬、一夫當レ關萬夫莫レ開。

【一夫得レ情千室鳴レ絃】1969 イップジヤウヲウレバセンシツゲンヲナラス　一人の長官が民情を握つて政治を行へば、人民は樂器を鳴らして安んじ樂しむ。〔後漢書、循吏傳贊〕一夫得レ情、千室鳴レ絃、懷二我風愛一、永載二遺賢一。〔注〕一夫謂二守長一也、千室謂二黎庶一、言、上得レ化二下之情一、則其下鳴レ絃而安樂也。

【一夫不レ耕或受二之饑一】1970 イップタガヤサザレバアルヒハコレガキヲウク　一人の男が耕さなければ、天下のものは饑ゑることがある。農耕の大切なこと。〔漢書、食貨志上〕古之人曰、一夫不レ耕、或受二之饑一、一女不レ織、或受二之寒一。〔後漢書、王符傳〕一夫不レ耕、天下受二其饑一、一婦不レ織、天下受二其寒一。

【一付】1971 i² fu⁴　藥・手袋などの一個。

【一府】1972 イップ　㊀役所中全部。〔晉書、卞壺傳〕壺前後居二師佐之任一、盡二匡輔之節一、一府貴而憚焉。㊁同じ場所に集まること。同一なことにいふ。府は倉の意。〔莊子、天地〕顯則明二萬物一府、死生同狀一。

【一部】1973 イチブ　㊀全體中の或る部分。一部分。〔後漢書、劉盆子傳〕將レ兵入二潁川一、分二其衆一爲二二部一、崇與二逢安一爲二一部一、徐宣・謝祿・楊音爲二一部一。㊁樂器などのひとくみ。〔周書、于謹傳〕賞二謹奴婢一千口、及梁之寶物、幷金石絲竹樂一部一。〔白居易、讀二鄂公傳一詩〕唯留二一部淸商樂一。㊂同類の書籍の一組。〔詩、周南、關雎詁訓傳第一、毛詩國風、疏〕詩者、一部之大名、國風者、十五國之總稱。〔拾遺記、吳〕於レ夢蒙誦二周易一部一。〔世說新語補、文學上〕果得二論衡一部一。

【一部分】1974 イチブブン　全體中の或る部分。一局部。

【一部始終】1975 イチブシジユウ　一部の書物の始めから終りまで。轉じて、物事の始めから終りまで。〔一言芳談〕一部始終を心得わたし。

【一部承付】1976 イチブシヨウフ　手形の一部引受。

【一部背書】1977 イチブハイシヨ　手形の一部裏書をいふ。

【一部判決】1978 イチブハンケツ　訴訟の一部分に就いて行ふ判決。一分判決。全部判決(**1－1424**・178)の對。

【一部主權國】1979 イチブシユケンコク　主權の一部分しか行使出來ない國。法的に他の國家權力に從屬する國家。保護國・屬國の類。半獨立國。半主權國。

【一部準備法】1980 イチブジユンビハフ　經濟界の必要と考へられる一定部分以上の銀行券の發行は、正貨準備がなければ絕對に禁止する制度。

【一部十七史從二何處一說起】1981 イチブノジフシチシハイヅレノトコロヨリカトキオコサン　古來の歷史は、記錄が大部で事柄がこみ入つてゐるから、容易に說き難いこと。十七史(**2－2695**・228)を見よ。〔宋元通鑑〕孛羅曰、且問、盤古至レ今、幾帝幾王、天祥曰、一部十七史、從二何處一說起、吾非レ應二博學宏詞科一、何暇二泛論一。

【一阜】1982 イチフウ　一つのをか。一丘。〔王士性、游梁記〕其地今止二夷山一阜一耳。

【一封】1983 イップウ　㊀一つの封書。一通の手紙。〔韓愈、左遷至二藍關一示二姪孫湘一詩〕一封朝奏九重天、夕貶二潮州一路八千。㊁金錢などの一つつみ。金一封。

【一封書】1984 イップウノショ　一通の手紙。〔史記、越世家〕爲二一封書一。〔于武陵、客中詩〕一封書未レ返。

【一封信】1985 i⁴ fêng¹ hsin⁴　一通の手紙。

【一封駞】1986 イッポウダ　一封橐駝に同じ。〔李商隱、鏡檻詩〕傳レ書兩行雁、取レ酒一封駞。

【一封軺傳】1987 イップウエウデン　一封の手紙。漢の制、傳車に乘つて、四方に行く者は、長さ一尺五寸の木で作つた札を封筒に入れ、封じ目に御史大夫の印章を捺したものを携行した。軺は馬車。〔漢書、平帝紀〕在所爲駕二一封軺傳一。〔注〕如淳曰、律、諸當二乘傳及發駕置傳一者、皆持二尺五寸木傳信一、封以二御史大夫印章一、其乘傳、參二封之一、參、三也、有二期會一、累二封兩端一、端各兩封、凡四封也、乘置馳傳、五封也、兩端各二、中央一也、軺傳、兩馬再二封之一、一馬一封也。

【一封橐駝】1988 イッポウタクダ　駱駝の一。脊に封土の如き高いこぶが一つあるもの。〔漢書、西域上、大月氏國傳〕與二安息一同、出二一封橐駝一。〔注〕師古曰、脊上有二一封一也、封、言三其隆高若二封土一也、今俗呼爲二封牛一也。

【一風】1989 イップウ　一たび風が吹く。又、一陣の風。〔論衡、是應〕五日一風、十日一雨。〔李白、贈二僧崖公一詩〕一風鼓二羣有一、萬籟各自鳴。〔陸龜蒙、和三襲美題二達上人藥圃一詩〕一雨一風皆遂レ性、花開花落盡忘レ機。

【一風迫】1990 イチノハザマ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【一風流】1991 イチフウリウ　㊀ひとつの風雅。〔晉書、李重傳〕評以二一風流一。㊁イップウリウ　氣質・態度などが普通の人に異なること。

【一伏】1992 イップク　第一線の伏兵。三伏の一。〔左氏、隱、九、衷二戎師一、注、戎前後及中三處受レ敵、疏〕前謂三第一伏逆二其前一也、中謂三第二伏擊二其中一也、後謂下祝聃與二後伏一逐中其後上也、謂三衷二戎師一者、謂三戎師在二三伏之中一。

【一伏時】1993 イップクジ　一晝夜。〔無免錄〕一伏時、猶二浹辰一也、自二今日子時一、至二明日子時一之類。

【一伏三仰】1994 ヨツキ　月夜をいふ。〔十訓抄、中、第七〕一伏三仰不レ來待。

【一服】1995 イップク　㊀周制、邦畿の外の每五百里をいふ。〔左氏、桓、二、今晉甸侯也、疏〕周公斥二大九州廣土萬里一、制爲二九服一、邦畿方千里、其外每五百里、謂二之一服一。㊁藥一回分の量。又、藥・茶・煙草等を一回のむこと。〔陸龜蒙、酬二襲美書事一詩〕藥須レ勤二一服一、春莫レ累二多情一。〔侯鯖錄、三〕

只消二一服清涼散一。㊂ひと休み。

【一服一錢】1996 イップクイッセン　昔、路傍で一服の煎茶を一錢で賣つたことをいふ。又、其の人。〔七十一番職人盡歌合〕一服一錢、こ葉の御茶召し候へ。

【一副】1997 イップク　一對。一そろひ。一簉。〔周必大、遊二玉女潭及諸巖洞一錄〕過二王廷修道人家一、獻二石棊子一副一。〔福惠全書、保甲部、調集符信〕每樣二枝爲二一副一。〔紅樓夢、一回〕又有一副對聯。

【一副一正】1998 i² fu⁴ i² chêng⁴　正副ひと組。

【一幅】1999 イップク　㊀手紙や布帛などの一つ。〔唐書、選擧志上〕學レ書日紙一幅、閒習二時務策一、讀二國語・說文・字林・三蒼・爾雅一。〔徐夤、廻文詩〕飛書一幅錦文回、恨寫二深情一寄レ雁來。㊁書畫の掛物一つ。又、一つの景色。〔李俊民、跋二魯直帖一詩〕雞毛不レ擇二三錢筆、䕺尾揮成一幅書。〔陸游、乍晴風日已和泛レ舟至二扶桑埭一徘二徊西村一久レ之詩〕接羅一幅煙霧薄、舴艋八尺鳧鷖輕。〔吳師道、江山秋色圖詩〕江南何處景、一幅淡含レ暉。

【一腹】2000 イップク　㊀一つの腹。同じ腹。〔晉書、五行志下〕兩頭八足兩尾、共二一腹一。㊁腹一杯。〔馬異、送二皇甫湜赴レ擧詩〕呑吐一腹文、八音兼二五色一。㊂單に腹といふ意。〔寒山詩〕當下取二一腹飽一、莫上令二兩腳傫一。〔陸龜蒙、蟬詩〕一腹淸何甚、雙翎薄更無。㊃ヒトツハラ　㋑同母。㋺同じ了簡。ぐる。

【一腹一生】2001 イップクイッシャウ　同腹の兄弟姊妹。兩親とも同じの兄弟姊妹。〔曾我物語、五、小次郎不二語得一事一〕一腹一生の兄ならば。

【一輻】2002 イップク　車輪の一本のや。〔淮南子、說林訓〕轂立二三十輻一、各盡二其力一、不レ得二相害一、使二一輻獨入一、衆輻皆棄、豈能致二千里一哉。

【一拂】2003 イチフツ　一たびはらふ。ひとはらひ。〔李白、春日獨坐詩〕長條一拂春風去、盡日飄揚無二定時一。〔翁卷、贈二陳管轄一詩〕一拂淸風一袖雪、紫陽容貌鶴精神。〔謝翺、玉麈尾詩〕一拂沈蘚文、再拂字不レ滅。〔陳樵、東飛伯勞西飛燕詩〕羽衣一拂千萬春、春花墮レ蕊齊二崑崙一。

【一拂鳥】2004 イチフッテウ　有毒鳥の名。鴆。あしものどり。頃刻蟲。〔淸異錄、禽、頃刻蟲〕後周武帝、置二官于瀘川一、釀二毒藥一爲レ酒、年以供進、而所レ用材品不レ一、名二野叉酒一、役者皆取二大辟一捨レ罪、而驅二策之一、官長歲頒二續命金一、金以二毒氣一薰炙、官吏被者多死、徒卒恐怯、呼レ鴆爲二一拂鳥・頃刻蟲一、螋蛇爲二霹靂盆一、蜂爲二小峭一。　「名。

【一拂樓】2005 イチフツロウ　淸、朱霞(6−14424‥66)の室

【一拂居士】2006 イツフツコジ　宋、鄭俠(11−39647‥111)の號。

【一佛】2007 イチブツ　佛一人の佛陀。〔涅槃經、十〕一塵一佛。

【一佛教】2008 イチブツケウ　佛台密の五大院安然が、教時問答を著して、顯密の諸教は、盡く大日如來の一教なることを明かにしたもの。

【一佛乘】2009 イチブツジョウ　佛一乘に同じ。三乘に對す。一乘(1064)の㊂を見よ。〔法華經、方便品〕十方佛土中、唯有二一佛乘一。

【一佛土】2010 イチブツド　佛㊀一佛世界に同じ。〔往生論〕於二一佛土一、身不二動搖一、而遍二十方一、種種應化。㊁同一の佛土。彌陀の淨土。

【一佛淨土】2011 イチブツジャウド　佛彌陀の淨土。〔十疑論〕偏讚二一佛淨土一、專二心一境一、卽得二往生一。

【一佛出世】2012 イチブツシュッセ　㊀佛一小劫每に一佛が世に出る。一人の舍人が出ると、其の親戚が喜んで之を祝賀する時の語。〔隋書、經籍志四〕每二一小劫一、則一佛出世。〔南唐書、浮屠傳〕淮北僧、號二小長老一、自言、慕レ化而來、後主大喜、謂二之一佛出世一。〔海錄碎事、臣職、中書舍人〕文宗尤重二內外制之任一、嘗謂二近臣一曰、詞臣之選、古今尤重、朕聞、朝廷除二一舍人一、六親相賀、諺以爲二一佛出世一、豈容易哉。〔續資治通鑑長編〕朝廷除二一舍人一、六親喜溢、諺云、一佛出世。㊁事が、誠に容易でない喩。又、人の顯達をいふ。

【一佛世界】2013 イチブツセカイ　佛一佛所化の世界。一佛の教化が、四方に普及する世界。一佛土。〔智度論、五〕如レ是等十方如二恆河一等世界、是一佛世界。

【一佛出世二佛涅槃】2014 イチブツシュッセニブツネハン　生かしたり殺したりすること。人を打つて半死半生の目にあはせること。出世は生、涅槃は死。〔水滸傳、三十九回〕打二得宋江一佛出世、二佛涅槃。

【一物】2015 イチブツ　㊀一つのもの。〔荀子、天論〕萬物爲二道一偏一、一物爲二萬物一偏一、愚者爲二一物一偏一。〔呂覽、貴公〕甘露時雨、不レ私二一物一。〔史記、周紀〕此一物、足三以釋二西伯一。〔淮南子、泰族訓〕樹二一物一、而生二萬葉一。㊁一事。又、一件。〔禮、文王世子〕行二一物一而三善皆得者、唯世子而已。〔疏〕物、猶レ事也。〔荀子、哀公〕平明而聽レ朝、一物不レ應、亂之端也。㊂一つの類。〔周禮、夏官、校人〕種馬一物、戎馬一物。㊃イチモツ　よからぬたくらみ。隱謀。〔丹波與作、中〕どうで心に一物有る。

【無二一物一】2016 イチブツナシ　何もない。無一物(7−19113‥49)を見よ。

【一物不レ知】2017 イチブツシラズ　一つの物をも知らぬ。實際に疎いこと。〔晉書、劉元海載記〕一物之不レ知者、固君子之所レ恥也。〔陔餘叢考、成語〕晉書、陶淵明謂二范隆一曰、一物不レ知、君子之恥。

【有二一物一添二一累一】2018 イチブツアレバイチルイヲソフ　一事を增せば、其れだけわづらはしさを增すこと。〔宋高僧傳〕莫下加二一物一而買中一累上。〔經祖堂雜志〕頃年畜二兩鶴一、云云、一日飛去、自レ是遂省二一事一、以レ此知下有二一物一、則添中一累上也。

【一分】2019 イチブ　㊀一部分。僅か。〔史記、騶衍傳〕以爲、儒者所謂中國者、於二天下一、乃八十一分、居二其一分一耳。㊁長さの單位。一寸の十分の一。一黍の長さ。〔漢書、律歷志上〕一黍之廣、度レ之九十分、黃鐘之長、一黍爲二一分一。〔說苑、辨物〕以レ黍生レ之爲二一分一、十分爲二一寸一。㊂イップン　目方の單位。〔淮南子、天文訓〕十二粟而當二一分一、十二分而當二一銖一。㊃時間の單位。一時間の六十分の一。㊄i⁴ fên¹　一錢。一角の十分の一。㊅イチブ　㋑昔、國司の下官たる史生の稱。〔職原抄、上〕史生、謂二之一分一。㋺十分の一。〔狂言、文藏〕十ぶんが一分にも足らねども。㊇イチブン　其の人の面目。分際。〔生玉心中、上〕こなたも一分すたること。

【一分銀】2020 イチブギン　德川時代の貨幣の一。一兩の四分の一に當る。壹分銀。〔吹塵錄、十八〕右壹分銀四つを以て、金壹兩之積り。

【一分兒】2021 i² fên⁴ êrh　一人分。一くみ。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕怎生帶得一分兒齋、追薦俺父母咱。

【一分鐘】2022 i⁴ fên¹ chung¹　一分間。

【一分判決】2023 イチブハンケツ　或る事件の一部分だけに就いての判決。一部判決(1978)に同じ。

【去二一分奢侈一便少二一分罪過一】2024 イチブノシャシヲサレバスナハチイチブノザイクワヲスクナクス　少しでも奢りを去れば、それだけ罪がへる。〔從政遺規〕去二一分奢侈一、便少二一分罪過一、省二一分經營一、便多二一分道義一。

【一份】2025 i² fên⁴　一部。ひと口。　「分。

【一份子】2026 i² fên⁴ tzŭ　一分子。其の內の一部

【一文】2027 イチブン イチモン　㊀一つの文章。〔詩、小雅、采菽、君子來朝言觀二其旂一、疏〕是一文而有二二意一。〔北史、邢邵傳〕自二孝明一之後、文雅太盛、邵彫蟲之美、獨二步當時一、每二一文初出一、京師爲レ之紙貴、讀誦俄徧二遠近一。㊁一點の斑紋。〔淮南子、說林訓〕見二虎一文一、不レ知二其武一、見二驥一毛一、不レ知二善走一。㊂錢の名。一錢。〔泉志〕一文錢、一面有レ字、點畫甚纖利、舊譜謂二之一文一。〔水經、漸江水注〕父老人持二百錢一出送、寵各受二一文一。㊃イチモン　一厘。一錢の十分の一。

【一文愿】2028 イチブンゲン　淸の咸豐初年、林則徐の立案した稅法。米一升について錢一文を徵收する法。釐金制の始めといはる。〔經世文續篇〕。

【一文字】2029 イチモンジ　㊀一つの文字。㊁一といふ文字。㊂一の字の如く眞直なこと。脇目もふらず。〔平家物語、九、宇治川事〕一文字にさつとわたつて向うの岸にぞ打ちあげたる。㊃兜の錏(シコロ)の名。鉢形に垂れたもの。㊄劇場で舞臺の正面に垂れる黑幕。㊅掛軸の表裝で、書畫の紙又は帛の上下に橫につける細い巾の名。

【一文錢】2030 イチブンセン イチモンセン　㊀錢の名。一文の㊂を見よ。㊁傳奇の名。明、徐復祚撰。〔柳南隨筆〕明季、復祚族有二一人一、並擅二高貲一、一豪奢、一吝嗇、吝者爲二諸生啓新一、復祚作二一文錢傳奇一、以誚レ之。㊂其の一箇が、當時の通用錢一文に當つた錢。〔憲法類編、九、國法〕。

【一文一武】2031 イチブンイチブ　或は文、或は武。〔六韜、龍韜、奇兵〕一喜一怒、一與一奪、一文一武、一徐一疾者、所下以調二和三軍一、制中一臣下上也。

【一文半字】2032 イチブンハンジ　僅かな文字。〔海錄碎事、帝王、詔命〕舊制、宣詔、以二謁者不レ知レ書、故用二拾遺一把レ麻、低レ聲摘レ句、以助レ之、後呂溫被レ喚、把レ麻不レ肯レ去、遂成二故事一、柳宗元戲言云、

幸識二一文半字一、何不レ與レ他把一也。

【一文不レ値】2033 一文の價値もない。〔鶴林玉露、淸廉〕士大夫若愛二一文一、不レ直二一文一。

【一文不通】2034 一字も知らぬあきめくら。文盲。〔砂石集、九、上〕武勇の道をのみ好みて、一文不通なりけるが。

【一文錢不レ鳴】2035 一文錢一個だけでは鳴らぬ。一人では事の出來ない喩。一人喧嘩は出來ぬ。孤掌不レ鳴。

【一文不値半文】2036 i^4 wen^2 pu^4 chih^2 pan^4 wen^2 一篇の文章が半文の價値もない。くだらぬ文章をいふ。

【一文錢憋倒英雄漢】2037 i^4 wen^2 ch'ien^2 pieh^1 tao^3 ying^1 hsiung^2 han^4 一文の錢でも英雄を凹ませる。金程怖いものはないといふ諺。

【一兵】2038 一つの兵器。轉じて、一人の兵士。〔戰國、秦策〕不レ費二斗粮一、未レ煩二一兵一、未レ戰二一士一。〔史記、田敬仲完世家〕是王不レ煩二一兵一、不レ傷二一士一。

【一並】2039 i^2 ping^4 一しよに。共に。全部。

【一秉】2040 ❶枡目の單位。十六斛。一籔（1370）を見よ。〔小爾雅、廣量〕秉、十六斛。〔儀禮、聘禮〕門外米三十車、車秉有五籔、設二于門東一、爲二三列一東陳。〔注〕秉籔、數名也、秉有五籔、二十四斛也。〔疏〕十斗曰レ斛、十六斗曰レ籔、十籔曰レ秉、若然、一秉十六斛、又有二五籔一爲二八斛一、摠二十四斛也。❷一把。一秉秆を見よ。

【一秉秆】2041 一把の藁。〔左氏、昭、二十七〕令尹使レ視二郤氏一、則有レ甲焉、云云、遂令攻二郤氏一且爇レ之、云云、國人弗レ爇、令曰、不レ爇二郤氏一、與レ之同レ罪、或取二一編菅一焉、或取二一秉秆一焉。〔注〕秉、把也、秆、藁也。

【一屛】2042 明、黃表（12－47926・・821）の字。

【一枰】2043 ❶一つの棊盤。又はすごろく盤。〔韋昭、博奕論〕然其所レ志、不レ出二一枰之上一、所レ務不レ過二方罫之閒一。❷ひとはかり。

【一併】2044 ❶一つに合せる。皆一緒に。〔福惠全書、刑名部、人命上、禁抄搶〕審二命案一莊地等、一併究懲。❷i^2 ping^4 悉皆。すべて。

【一弊】2045 ❶一つの弊害。〔宋史、張亢傳〕兵無二節制一、一弊無二奇正一、二弊無二應援一、三弊主將不レ一。❷i^2 pi^4 同じ弊害。

【一餅】2046 ひとかたまり。一片。〔後漢書、樂羊子妻傳〕羊子嘗行レ路、得二遺金一餅一、還以與レ妻。

【一表】2047 i^4 piao^3 外見押出しのよい容貌。

【一表人才】2048 i^4 piao^3 jen^2 ts'ai^2 風采の立派な人。才幹の衆に超えた人。

【一票】2049 一枚の書きつけ。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕其耳目一票出、非二其使令一不二敢差一。

【一瓢】2050 ❶ひとつのひさご。〔論語、雍也〕一簞食、一瓢飮。〔集注〕瓢、瓠也。〔王維、田園樂詩〕一瓢顏回陋巷、五柳先生對レ門。〔許渾、新卜二原上居一寄二袁校書一詩〕雪夜書千卷、花時酒一瓢。❷宋、翁森（9－28635・・38）の號。

【一瓢尙爲レ煩】2051 堯の時の隱士、許由が、世俗の煩を厭ひ、樹閒に掛けた瓢の風に吹かれる音までも、煩はしとして之を取り去つたといふ故事。〔琴操〕許由無二杯器一、常以レ手捧レ水、人以二一瓢一遺レ之、由操飮畢、以レ瓢掛レ樹、風吹レ樹瓢動、歷歷有レ聲、由以爲二煩擾一、遂取捐レ之。

【一廟】2052 一つのおたまや。士たる者の廟數。〔禮、王制〕天子七廟、諸侯五廟、大夫三廟、士一廟、庶人祭二於寢一。〔孔子家語、廟制解〕士立二一廟一。

【一辟】2053 一人の君。〔太玄經、玄瑩〕一辟、三公、九卿、二十七大夫、八十一元士。

【一碧】2054 一樣にみどりなこと。〔無名氏、燕山八景賦〕湛二長空於一碧一、涵二萬象於虛明一。〔楊維楨、皇媧補天謠〕紅絲穿レ餅補二天穿一、太虛一碧玻璃色。

【一碧萬頃】2055 靑々とした水が廣々とたたへてゐるさま。〔范仲淹、岳陽樓記〕上下天光、一碧萬頃。〔解酲語〕黃滔爲二文章一、如二澄湖不レ波、一碧萬頃一。〔董廷珪、衞源遊覽記〕秋水長天、一碧萬頃、心甚樂レ之。〔任洵、西湖詩〕湖光與二天色一、一碧千萬頃。

【一壁】2056 ❶一つのかべ。〔劉克莊、答二季泉州元善一詩〕要レ當レ堅二一壁一、詎可レ立二兩界一。❷i^2 pi^4 一方。一面。一部分。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇〕一壁寫書附京師去、喚鄭恆來。

【一壁廂】2057 i^2 pi^4 hsiang^1 一方。わき。かたわき。〔琵琶記、蔡公逼試〕一壁廂來辟召、自家力以親老爲辭。

【一癖】2058 一つのくせ。〔白居易、山中獨吟詩〕人各有二一癖一、我癖在二章句一。

【一撇】2059 漢字の書法の一畫（ノ）。〔歐陽詢書法、避就〕避レ密就レ疎、避レ險就レ易、避レ遠就レ近、欲二其彼此映帶得一レ宜、又如二廬字上一撇既尖、下一撇不レ當二相同一。

【一別】2060 一たびわかれる。〔傅玄、怨歌行朝時篇〕十五入二君門一、一別終二華髮一。〔顏延之、秋胡詩〕離居殊二年載一、一別阻二河關一。〔白居易、長恨歌〕含レ情凝レ睇謝二君王一、一別音容兩渺茫。〔歐陽脩、送二張生一詩〕一別相逢十七春、頹顏衰髮互相詢。

【一別二鈞顏一】2061 一たび貴下に拜別する。

【一別三春】2062 一たび別れてから三年になる。〔杜甫、贈二王二十四侍御契一四十韻詩〕一別星橋夜、三移斗柄春。

【一別如レ雨】2063 離別をいふ。〔王粲、贈二蔡子篤一詩〕風流雲散、一別如レ雨。

【一別無二消息一】2064 一度別れてから、何のたよりもない。〔于武陵、友人南遊不レ回詩〕一別無二消息一、水南蹤跡稀。

【一覕】2065 一樣に割くこと。覕は割。〔莊子、徐無鬼〕是以二一人斷制一、利二天下一、譬レ之猶二一覕一也。〔注〕覕、割也、萬物萬形、而以二一劑一割レ之、則有レ傷也。

【一瞥】2066 ちらりと見る。〔蘇軾、聚星堂雪賦〕歷亂瓦溝裁二一瞥一。〔范成大、光武廟詩〕冰河一瞥已通レ神、醉翁詩話誰續說。

【一片】2067 ひとひら。ひときれ。又、ひとつ。〔後漢書、周燮等傳序〕日買二猪肝一片一。〔南齊書、劉悛傳〕獻二蒙山銅一片、又銅石一片、平州鐵刀一口一。〔北史、崔光韶傳〕吾兄弟、自レ幼及レ老、衣服飮食、未二嘗一片不一レ同。〔庾信、遊山詩〕山根一片雨。〔李白、望二天門山一詩〕兩岸青山相對出、孤帆一片日邊來。〔杜甫、曲江詩〕一片花飛減二卻春一。

【一片月】2068 一つの月。〔李白、子夜吳歌〕長安一片月、萬戶擣レ衣聲。

【一片石】2069 ❶一つの石碑。〔朝野僉載〕惟有二韓陵一片石堪二共語一。❷傳奇小說の名。淸、蔣士詮作。藏園九種曲の一。明の寧王朱宸濠の妃なる婁氏の墓に碑を立てて表識した事を述ぶ。❸地名。河北省臨楡縣の東北。〔撫寧縣志〕烈女趙氏墓、在二縣東北一片石一。〔讀史方輿紀要、直隸、永寧府、撫寧縣〕一片石關、縣東七十里、董家口東第十二關口也。

【一片宮商】2070 奏樂の音調がよく整つてゐて、雜音がなく餘音の長いこと。一つの渾然たる宮商といふほどの意。宮・商は共に五音の一つ。〔北夢瑣言〕進士沈堯、有二洞庭樂賦一、韋岫謂二朝賢一曰、此賦、一片宮商也。

【一片孤雲】2071 ひとひらのちぎれ雲。〔李益、贈二毛仙翁一詩〕長愁忽作レ鶴飛去、一片孤雲何處尋。

【一片丹心】2072 聊かながら極めて篤い眞心。一片の赤心。〔大橋陶庵、獄中述懷時〕一片丹心七尺軀、維二持名教一在二眞儒一。

【一片冰心】2073 ひとひらの氷のやうに、極めて淸い心。〔王昌齡、芙蓉樓送二辛漸一詩〕洛陽親友如相問、一片冰心在二玉壺一。

【一片汪洋】2074 i^2 p'ien^4 wang^1 yang^2 水勢の猛烈なこと。

【一片嘴兩片舌】2075 i^2 p'ien^4 tsuei^3 liang^3 p'ien^4 shê^2 二枚舌。虛言を吐く喩。

【一片淸溪抱二遠莊一】2076 一すぢの淸い谷川が、山莊を廻つて流れてゐる。〔康乃心、如二盩厔一訪二一曲徵君一途中喜賦詩〕蒹葭蘆荻淺淺黃、一片淸溪抱二遠莊一。

【一片入レ口沈痾痊】2077 藕の一片を食べると、久しい病も全治する。藕は蓮の根。〔韓愈、古意詩〕太華峯頭玉井蓮、開花十丈藕如レ船、冷比二雪霜一甘比レ蜜、一片入レ口沈痾痊。

【一返】2078 一周して元に戻ること。ひとわたり。〔魏書、刁雍傳〕百餘日、乃得二一返一。

【一盼】2079 一たびながめる。〔陶潛、戊申歲六月遇レ火詩〕中宵竚遙念、一盼周二九天一。

【一偏】2080 ❶一方にかたよる。〔宋史、河渠志〕

二)梁壽言朝廷治河東流北流、本無一偏之私。〔朱子全書、學〕能如賢者兼集衆善、不倚於一偏者、或寡矣。㊁一部分。〔荀子、天論〕萬物爲道一偏、一物爲萬物一偏、愚者爲一物一偏。㊂一度。一回。一遍。

【一偏之見】2081 イッペンノケン 片寄つた意見。僻見。偏見。〔宋史、劉述傳〕安石任一偏之見、改立新議、以害天下大公。

〔一偏之論〕2082 イッペンノロン 片寄つた議論。偏頗な議論。僻論。〔宋史、陳亮傳〕又明足以照臨羣臣一偏之論。〔朱子文集、答沈叔晦〕前日務爲學而不觀書、此固一偏之論。

【一遍】2083 イッペン ㊀ひととほり。一度。〔魏志、賈逵傳〕好春秋左傳、及爲牧守、嘗自課讀之、月常一遍。㊁佛佛名、又は經文を一度誦むこと。〔觀世音菩薩祕密藏神呪經〕若讀誦此陀羅尼一遍、如上等事、悉得隨意。

〔一遍千言〕2084 イッペンセンゲン 一たび書を讀んだだけで千言も諳誦する。唐の常敬忠の故事。一過千言。〔封氏聞見記、穎悟〕開元初、潞州常敬忠、十五、明經擢第、數年之閒、遍能五經、上書自擧、幷云、一遍能誦千言、敕付中書考試、燕公問曰、學士能一遍誦千言、能十遍誦萬言乎、對曰、未嘗自試、燕公遂出一書、非人閒所見也、謂之曰、可十遍誦之、敬忠依命、危坐而讀、每遍畫地記、讀七遍、起曰、此已誦得、燕公曰、可滿十遍、敬忠曰、若十遍、卽是書十遍誦得、今七遍誦得、何要滿十。

【一篇】2085 イッペン 一つのまとまつた詩や文章。〔詩、大序、關雎后妃之德也、疏〕諸序、皆一篇之義、但詩理深廣、此爲篇端、故以詩之大綱併擧於此。〔漢書、陸賈傳〕賈凡著十二篇、每奏一篇、高帝未嘗不稱善。

〔一篇一詠〕2086 イッペンイチエイ 文の一篇、詩の一咏。轉じて、一言片句の詩文。〔林嵩、周朴詩集序〕一篇一詠、膾炙人口。

【一編】2087 イッペン ㊀一冊の書。〔史記、留侯世家〕出一編書曰、讀此則爲王者師矣。〔漢書、張良傳、出一編書、注〕師古曰、編、謂聯次之也、聯簡牘以爲書、故云一編。㊁ひとつらね。一編菅を見よ。

〔一編菅〕2088 イッペンノクワン 一あみの茅。〔左氏、昭、二十七〕或取一編菅焉、或取一秉秆焉。

【一翻】2089 i⁴ fan¹ ㊀一度。一番。㊁ひと宙返り。武技を演ずる俳優が一回宙返りする事。

【一邊】2090 イッペン ㊀一方。一面。片側。〔詩、秦風、蒹葭、在水一方、箋〕乃在大水之一邊、假喩以言遠。〔後漢書、五行志一〕墮馬髻者、作一邊。〔水經、耒水注〕村有圓水、廣圓可二百步、一邊暖、一邊冷。㊁かたはら。

【一變】2091 イッペン 一たびかはる。きはだつてかはる。全くかはる。〔易、夬、本義〕剛長乃終、謂一變則爲純乾也。〔論語、雍也〕子曰、齊一變、至於魯、魯一變、至於道。

【一鞭】2092 イチベン ひと鞭あてること。〔高観國、詞〕一鞭花陌曉、雙槳柳橋春。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕乃屈其所騎馬後足、一鞭而下。

【一瓣】2093 イチベン ㊀一つの花びら。〔本草、海芋〕集解、時珍曰、夏秋閒、抽莖開花、如一瓣蓮花。㊁果實の肉が幾つにも分れた一ひら。〔山傳拾遺〕羅公遠嗅柑、明皇取食之千餘枚、皆缺一瓣。

〔一瓣香〕2094 イチベンカウ 一つまみの香。人を敬ふ時にたく香。〔書言故事、謁見類〕近嘗修一瓣香之敬、宋陳思道、字無己、號后山、詩曰、向來一瓣香、敬爲曾南豐。

【一步】2095 イッポ ㊀ひと足。〔晉書、庾亮傳〕足下無過黿池一步也。〔阮籍、大人先生論〕以萬里爲一步、以千歲爲一朝。〔孟郊、游枋口詩〕一步復一步、出行千里幽。㊁いちだん。㊂ブイチ 面積の單位。土地六尺四方の稱。一坪。〔拾芥抄、中末、田藉〕凡田以方六尺爲一步。

〔一步一喘〕2096 イッポイッセン 一あし歩いて、一いきつく。嶮しい山路を行くさま。

〔一步運氣〕2097 i² pu⁴ yün⁴ ch'i⁴ 運。運勢。

〔一步三搖〕2098 i² pu⁴ san¹ yao² 一步步く每に體を三たびゆする。意氣揚々として歩くさま。

〔一步之閒〕2099 イッポノカン 一あしのあひだ。僅かの距離。〔柴野栗山、進學喩〕校之一步之閒、其所爭、雖多不能以寸、惟積數分之多、漸進而先也。

〔一步之功〕2100 イッポノコウ 一步一步の仕事。一步づつのつとめ。〔柴野栗山、進學喩〕請諸君期於數百里之外、而無忽一步之功也可。

〔一步田地〕2101 i² pu⁴ t'ien² ti⁴ 祥運。運勢。

〔一步高一步〕2102 イッポハイッポヨリモタカシ 一步一步、向上するをいふ。〔通俗編、祝誦、一步高一步〕廣德州志、梅應發、十歲能詩、郡守延而試之、曰、我本山中人、慣走山中路、不用倩人扶、一步高一步、後登淳祐進士。

〔一步倒不開〕2103 i² pu⁴ tao³ pu⁴ k'ai¹ 動きが取れぬ。金のやりくりがつかぬ。

〔一步登高就不認得老鄉親〕2104 i² pu⁴ têng¹ kao¹ chiu⁴ pu² jen⁴ tê lao³ hsiang¹ ch'in¹ 少しばかり高い地位に登ると、すぐ故舊親友を忘れる。僅かばかりの出世で昔の恩を忘れる。

【一畝】2105 イッポ ㊀司馬法では、六尺四方を步とし、百步を畝とする。畝(**7**—**21815**)の字解を見よ。㊁イッセ 三十坪。

〔一畝泉〕2106 イッポセン 河の名。源を河北省滿城縣の賢臺社に發し、一畝四方程の泉から流れ出るからいふ。東に流れて滱水に入る。一名、尙泉。〔讀史方輿紀要、直隸、保定府、淸苑縣〕一畝泉、府西三十里、一名尙泉。

〔一畝之宮〕2107 イッポノキユウ 僅か一畝ばかりの家。貧乏人の住居。宮は、家の意。〔禮、儒行〕儒有一畝之宮。〔疏〕儒有一畝之宮者、一畝、謂徑一步長百步爲畝、若折而方之、則東西南北、各十步爲宅也、牆方六丈、故云一畝之宮。〔蘇軾、次韻林子中蒜山亭見寄詩〕歸掃岷峨一畝宮。

【一脯】2108 イッポ 一枚の干魚。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕日食一脯、布衣袴褶、刀室不漆。

【一鋪】2109 イッポ ㊀一つのたてば。一つの宿場。〔日知錄、政事、驛傳〕今時十里一鋪、設卒以遞公文。㊁i² p'u⁴ ㋑一つの。㋺一つの店。

〔一鋪炕〕2110 i² p'u⁴ k'ang⁴ 一つの温床。

【一暮】2111 イチボ ひとばん。一夕(1259)に同じ。〔史記、殷紀〕亳有祥、桑穀共生於朝、一暮大拱。〔漢書、郊祀志上〕後八世帝太戊、有桑穀、生於廷、一暮大拱。〔高允、詠貞婦彭城劉氏詩〕因媒致幣、遘止一暮。

【一抔】2112 イッポウ ひとつまみ。一掊。〔張載、七哀詩〕毀壞過一抔、便房啓幽戶。〔注〕善曰、一抔、喩少也、翰曰、抔、謂一掬矣。

〔一抔土〕2113 イッポウド ㊀ひとつまみの土。僅かな土。一掬土。〔史記、張釋之傳〕假令愚民取長陵一抔土、陛下何以加其法乎。〔注〕索隱曰、案、禮運云、汙尊而抔飮、鄭氏云、抔、手掬之、字從手。㊁墳墓。〔駱賓王、代李敬業以武后臨朝移諸郡縣檄〕一抔之土未乾、六尺之孤安在。〔書言故事、墳墓類〕一抔土、墳土也。

【一朋】2114 イッポウ ㊀貨幣として用ひた二枚の貝。朋は二枚の貝。〔漢書、食貨志下〕大貝四寸八分以上、二枚爲一朋、直二百一十六、壯貝三寸六分以上、二枚爲一朋。㊁同じなかま。〔歐陽脩、朋黨論〕堯之時、小人共工・驩兜等、四人爲一朋、君子八元・八凱、十六人爲一朋。〔張建封、競渡歌〕輸岸一朋心似燒。

【一峯】2115 イッポウ ㊀一つのみね。〔陳後主、上巳宴麗暉殿詩〕一峯遙落日、數花飛映綬。〔孟浩然、題大禹寺義公禪房詩〕戶外一峯秀、堦前羣壑深。〔于鵠、過凌霄洞天謁張先生祠詩〕戢戢亂峯裏、一峯獨凌天。〔林逋、湖山小隱詩〕道着權名便絕交、一峯春翠濕衡苑。㊁字號。㋑元、黃公望(**12**—**47926**‥1089)の號。㋺明、彭定守(**4**—**10003**‥192)の號。㋩明、羅倫(**9**—**28397**‥278)の號。㋥清、康呂賜(**4**—**9376**‥201)の號。㋭大高坂季明の號。大高坂芝山(**3**—**5831**‥2618)を見よ。

〔一峯集〕2116 イッポウシフ 書名。十卷、附、夢稿二卷。明、羅倫撰。寓言が多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔一峯草堂〕2117 イッポウサウダウ 清、喬萊(**2**—**3990**‥56)の室名。

〔一峯山人〕2118 イッポウサンジン 清、吳晉元(**2**—**3365**‥680)の號。

〔一峯先生〕2119 イッポウセンセイ 元、鍾柔(**11**—**40672**‥61)の尊稱。

【一掊】2120 イッポウ 一つまみ。掊は抔に通ず。一抔。〔論衡、調時〕河決千里、塞以一掊之土。

【一篷】2121 イッポウ ㊀一つの舟のとま。〔李咸用、湘浦

有レ懷詩)鬼樹夜分千炬火、漁舟朝卷一篷霜。❶小舟をいふ。(皮日休、寄二懷南陽潤卿一詩)一篷衛レ雪返二華陽一。(賴山陽、舟發二大垣一赴二桑名一詩)一篷風雪下二濃州一。

【一眸】2122 イチボウ ひと目に見渡す。(崔珏、有レ贈詩)兩臉天桃從レ鏡發、一眸春水照レ人寒。

【一棒】2123 イチボウ 佛禪宗で、弟子を警醒する爲に棒を振つて打つこと。

【一夢】2124 イチボウ ひとゆめ。ひとねむり。(隋遺錄)或歌吹齊鼓、方就二一夢一。(蘇軾、龜山辯才師詩)五年一夢誰相對。

【一木】2125 イチボク ❶一本の木。(淮南子、齊俗訓)所レ用萬方、然一木之樸也。(後漢書、應奉傳)春一草枯、則爲レ災、秋一木華、則爲レ異。(陸機、弔嘉賦)託二雲林乎一木一。(庾信、擬連珠)千鈞之重、懸二於一木之枝一。❷未の時刻。午後一時から二時まで。一木の合字は未の字となるからいふ。賣卜者の語。

【一木腳道】2126 イチボクキャクダウ 船から陸へ架け渡す渡し板。あゆみいた。

【一木難レ支】2127 イチボクサヘガタシ 大きな家がくつがへる時には、一本の木で支へることは難しい。難事は、一人では負ひ切れぬ喩。(文中子、事君)大廈將レ顚、非二一木所レ支也一。(故事成語考、地輿)獨力難持、曰二一木焉能支二大廈一。

【一木破レ天】2128 イチボクテンヲヤブル 事の未だ機會に逢はぬのをいふ。未だしの意。未といふ字は、木が其の上に在る一を突き破つてゐる。一は天を表はす。(太平廣記、神仙)吳猛遊二江左一、會王敦作レ亂、曰、孤夢、將二一木上破一其天一、孤禪二帝位一、果十全乎、吳君曰、木上破レ天、是未字也、明公未可二妄動一、晉祚固未レ衰耳。(故事成語考、人事)一木撐レ天、晉王敦未レ可二擅動一。

【非二一木之枝一】2129 ニ イチボクノエダヌ 立派な建物は、小さい枝一本では出來ぬ。大事業は、一人の智略では出來ぬ喩。(史記、劉敬叔孫通傳贊)千金之裘、非二一狐之腋一也、臺榭之榱、非二一木之枝一也、三代之際、非二一士之智一也、信哉。(漢書、鄒陸朱婁叔孫通傳贊)廊廟之材、非二一木之枝一、帝王之功、非二一士之略一。

【一睦】2130 イチボク 一つの友好國。(左氏、昭、三)卑二一睦焉一、逆二羣好一也。

【一僕】2131 イチボク 一人の下男。(譚子化書)剩養一僕一問二楊朱一曰、去二子體之一毛一、以濟二一世一、汝爲レ之乎。(淮南子、說林訓)見二驥一毛一、不レ知二善走一。(朱熹、觀レ書有レ感詩)昨夜江邊春水生、蒙衝巨艦一毛輕。(王安石、江上詩)豈是明時惜二一毛一。

【一撲】2132 イチボク 一塊の土。(淮南子、說林訓)土勝レ水者、非下以二一撲一塞上江也。

【一墨】2133 イチボク 五尺をいふ。(小爾雅、廣度)五尺、謂二之墨一。

【一本】2134 イツポン ❶草木などの一株。一つの根本。(荀子、富國)瓜桃棗李一本、數以二盆鼓一。(淮南子、說林訓)見二其一本一而萬物知一。(薛士隆、靈芝賦)一本同レ柯、支生二十二一。❷源の同一なること。(孟子、滕文公上)且天之生二物也一、使二之一レ本、而夷子二レ本故也。(晉書、摯虞傳)一本不レ差、萬物皆正。❸一つの書物。又、或る書物。(王建、哭二孟東野一詩)但是洛陽城裏客、家傳一本杏殤詩。❹(イ)長い物を數へる語。(ロ)一太刀。(ハ)同じ仲間。(緋縮細卯月紅葉、上)今迄おのれら一本と思ひしに。(ニ)一人前の藝妓の稱。

【一本戲】2135 イツポンノシバヰ pen³ hsi⁴ 一日に演ずる劇。

【一本槍】2136 イツポンヤリ ❶戰爭に槍一つきで雌雄を決すること。(甲陽軍鑑、十一、品第十一)一本槍をつきたるほどに云ひまはれども。❷我武者らにおしとほすこと。❸其の人の得意とする唯一の技。(浮世風呂、初編上)ははあ、一本槍ぢやな。

【一本書】2137 i⁴ pen³ shu¹ 一冊の書物。

【一本一利】2138 イツポンイチリ 利息は元金の額を超過し得ず、其の利率は毎月元金の三分の一以下に止めるもの。清朝の法律に於て、利息は元金の百分の三を原則とし、利息の累計が元金と同額になると、それ以後は利息をとることを許さない。(清律、戶律、錢債)凡私放錢債、及典當財物、每月取レ利、並不レ得レ過二三分一、年數雖レ多、不レ得レ過二一本一利、違者、笞四十。

【一本四折】2139 イツポンシヤクヅヽ 元曲は皆一本又は數本から成り、其の各本は四折で、足らぬときは楔子を折首又は折間に加へる。折とは、芝居の一幕の意。

【一本調子】2140 イツポンテウシ 抑揚・變化のないこと。單調。始めは歌聲に就いていつたが、引いて文章・性行等にもいふ。

【一本萬利】2141 i¹ pen³ wan⁴ li⁴ 小資本を以て巨萬の利益を獲る事。大變結構な商賣ですねといふ祝ひ詞。

【一本御書所】2142 イツポンノゴシヨドコロ 天皇の御料に供へる爲に、普通に行はれてゐる書物を一部別に寫し取つて、皇室の御藏書として保管する役所。內裏の建春門の內、宣陽門の外にあり、侍從所・畫所と並んで、その南に在つた。(平治物語、光賴卿參內事)上皇は、一本の御書所に。

【一盆】2143 i¹ p'en² ひと鉢。

【一盆花】2144 i¹ p'en² hua¹ 人を拐かす常習者が、其の誘拐した婦女をいふ。

【一盆火兒似的】2145 i¹ p'en² huo³ ér shih⁴ tê 甚だ親密な。

【一麻一米】2147 イチマイチマイ 佛釋尊は、其の苦行の日には、一粒の麻の實と一粒の米しか食はなかつた故事。(智度論、三十四)如二釋迦文佛一、於二漚樓頻螺樹林中一、食二一麻一米一。

【一麻而肥】2148 i¹ ma² êrh² fei² 醜い人。おほあばたの太つちよ。

【一枚】2149 イチマイ ❶ひとつ。一箇。(漢官儀)賜二隃麋大墨二枚一。(宋書、禮志)虎皮二枚、錢二百萬、玉璧一枚、馬六頭。(晉書、山濤傳)賜二藜杖一枚一。(通俗編、數目、一枚)說文、枚、幹也、又、箇也、樹枝曰レ條、幹曰レ枚、故凡數事曰レ條、數物曰レ枚。❷特に薄く平なものを數へる語。一番。

【一枚棚】2150 イチマイダナ 兩側の外板が一枚の板で出來てゐる、吃水の淺い漁船。又、稻などを積んで、田の中を漕ぐ小舟。(和漢三才圖會、船橋類、划船)俗云二一枚棚一、水陸互用、便二於農事一。

【一枚目】2151 イチマイメ 主役をいふ。番附面の第一位にあるもので、主役を演ずる俳優の稱。

【一枚看板】2152 イチマイカンバン ❶俳優などで技術のすぐれた者の名や畫像を、他の者の其れと一緒にせず、別に一枚に大きく書いた看板。轉じて、俳優の座頭、又は一團體の長をいふ。(色芝居)京で食はれぬ赤下手を、一枚かんばんにして。❷所有してゐる唯一枚の衣。(婚禮葬禮御能拜見)一枚看板の一ちやうら。

【一毛】2153 イチマウ ❶一すぢの毛。極めて輕いものや僅かなものに喩へる。一毫。(列子、楊朱)禽子問二楊朱一曰、去二子體之一毛一、以濟二一世一、汝爲レ之乎。(淮南子、說林訓)見二驥一毛一、不レ知二善走一。(朱熹、觀レ書有レ感詩)昨夜江邊春水生、蒙衝巨艦一毛輕。(王安石、江上詩)豈是明時惜二一毛一。❷i¹ mao² 十錢。

【一毛作】2154 イチマウサク 年に一回穀物を取り入れる耕作の仕方。二毛作(1‥247‥1039)の對。

【一毛錢】2155 i¹ mao² ch'ien² 一元の十分の一。我が國の十錢に當る。

【一毛端】2156 イチマウタン 佛極少をいふ。(楞嚴經、二)不レ動二道場一、於二一毛端一、徧能含二受十萬國土一。

【一毛不拔】2157 イチマウフバツ ❶利己的なこと。拔二一毛一利二天下一不レ爲也を見よ。(通俗編、身體、一毛不レ拔)見二孟子一、文選、廣絕交論、莫二肯廢其半菽一、罕レ有レ落二其一毛一、東坡文集、與二陳季常一尺牘曰、鄉諺有レ云、缺口鍋子、君識レ之乎、自注、缺口鍋子、取二一毛不レ拔、恐未レ嘗聞一、故及。❷一本の毛でも人の爲には拔かない。極端に吝嗇な者の喩。けちん坊。

【拔二一毛利二天下一不レ爲也】2158 イチマウヲヌキテテンカヲリスルモナシ 一筋の毛を拔く程の僅かな犧牲を拂へば天下を利することが出來ても、其れをせぬ。自身の利益だけを圖つて、他人のことは毫も顧みぬ楊朱の利己主義をいふ。(孟子、盡心上)楊子取爲我、拔二一毛一而利二天下一、不レ爲也。(列子、楊朱)楊朱曰、云云、古之人、損二一毫一利二天下一、不レ與也、悉二天下一奉二一身一、不レ取也。

【一妄】2159 イチマウ 佛一つの迷の心。(宗鏡錄、一)一翳在レ目、千華亂レ空、一妄在レ心、恆沙生滅。

【一網】2160 イチマウ 一つのあみ。ひとあみ。(劉克莊、讀二邸報一詩)盡歸二一網一機猶淺、橫說二三綱一害最深。(張憲、一網謠)一網擧、萬目張、建二炎帝一、開二重光一。

【一網打盡】2161 イチマウダジン 一網で魚を取り盡くすやうに、一擧にして同類の者を捕へつくすこと。(宋史、范純仁傳)造謗者公相慶曰、一網打盡。(齊東野語、六)始陰諷二其二縗一終盡打二於一網一。

〔東軒筆錄〕劉元瑜、既彈二蘇舜欽一、連坐者甚衆、同時俊彥、爲レ之一空、劉見二宰相一曰、聊爲二相公一一網打盡。〔通俗編、器用、一網打盡〕宋史、江休復傳、坐三預進二奏院祠神落職一、同坐者皆有名士、言者喜曰、吾一網打盡矣。

【一抹】2162 イチマツ ❶一ぬり。一はけ。〔羅虬、比紅兒詩〕一抹濃紅傍レ臉斜、妝成不レ語獨攀レ花。〔宣和畫譜〕夫躡レ景追レ電、一抹千里、得二於心術之妙一者、足二以知一レ之。❷絃樂器を奏するとき、一度絃をおさへて抑揚をつけること。〔辛棄疾、賀二新郎一賦二琵琶一詞〕一抹梁州哀徹。

【一萬】2163 イチマン 一千の十倍。〔張正見、山賦〕崑崙五門、扶寧三石、峯高一萬、峭峙三百。〔杜甫、傷春詩〕關塞三千里、煙花一萬重。〔竇叔向、春日早朝應制詩〕宮花一萬樹、不三敢擧レ頭看一。〔李商隱、莫愁詩〕雪中梅下與レ誰期、梅雪相兼一萬枝。

【一萬春】2164 イチマンシユン 一萬年。極めて長年の意。〔杜甫、承二聞河北諸道節度入朝一歡喜口號絕句〕興王會靜妖氛氣、聖壽宜レ過二一萬春一。

【一萬田】2165 イチマダ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【一味】2166 イチミ ❶一に惟れの意。ひたすら。もつぱら。〔朱子全書、學〕力改二故習一、一味勤謹、則吾猶有レ望。〔隨園隨筆〕一味、口頭語也、猶レ云二一惟一、蓋專一之謂、王荊公詩、併作二南來一味涼一、是此意也。❷一つの味。又、一品だけの質素な料理。〔中論、治學〕嘉膳之和、非レ取二乎一味一。〔晉書、姚萇載記〕身食二一味一、妻不レ重レ綵。〔杜甫、秋日夔府詠懷詩〕敕レ廚唯一味、求レ飽或三鱣。〔高允、酒訓〕言レ所レ益者、止二于一味之益一、不二亦寡一乎。❸佛 如來の教法をいふ。其の理趣、唯一無二なるを以ていふ。〔法華經、藥草喩品〕雖二一地所レ生、一雨所レ潤、而諸草木、各位差別、乃至如來說法、一相一味。❹味の一樣なこと。一味雨を見よ。❺(イ)同じ仲間。〔源平盛衰記、四、涌泉喧嘩事〕一味の起請を書き。(ロ)藥品で、一つの品。

【一味雨】2167 イチミノアメ 佛 妙理が普遍的で、且つ其の教化の益の一切平等なこと。一味の雨露の意。其の物を潤すこと、一樣にして何等差別のないのに取る。〔法華經義疏、八〕一味、謂二一智味一、合二上一雨一也。

【一味禪】2168 イチミノゼン 佛 頓悟頓入の禪をいふ。〔琅琊代醉編、一味禪〕我這裏有二一味禪一、爲レ甚不レ學。

【一味的】2169 i^2 wei^4 tê 單一な。一途に。專らに。

【一味藥】2170 i^2 wei^4 yao^4 一種の成分から出來てゐる藥。一つの效力を具へた藥。

【一味里】2171 i^2 wei^4 li^3 いちづに。

【一味油嘴】2172 i^2 wei^4 yu^2 tsuei^3 非常に口がうまい。口上手。

【一味瀉甁】2173 イチミシヤビヤウ 佛 餘りのないこと。一甁の水を他の甁に瀉ぐに、一滴も殘さない意。如來の教法を少しも漏らさず傳へる意味。〔八宗綱要、上〕佛滅百年、寫甁無レ遺。

【一味同心】2174 イチミドウシン 心を一つにして、深く結びあふこと。又、其の人達。〔太平記、三十、薩埵山合戰事〕一味同心せし勢ばかりになりければ。

【一脈】2175 イチミヤク ひとすぢ。〔花木志〕葉中一脈如二筆跡一。〔趙元渡、洛口詩〕一脈寒流兩岸冰、斷橋無レ力強支撐。〔張養浩、秋日梨花詩〕只知千林秋色老、爭信陽和一脈存。

【一脈相通】2176 イチミヤクアヒツウズ ひとすぢの連絡がある。又、多少似た點がある。

【一民】2177 イチミン ❶一人の民。〔孟子、公孫丑上〕尺地莫レ非二其有一也、一民莫レ非二其臣一也。〔後漢書、王符傳〕以二一民之輕一、與二一縣一爲レ訟。❷明、張員(**4－9812・37**)の字。

【一名】2178 イチメイ ❶又の名。異名。別稱。〔書、堯典、昔在帝堯、疏〕言レ帝者、天之一名。〔晉書、李密傳〕李密、一名虔。❷官吏登用試驗に一番で及第すること。又、其の人。〔宋史、選擧志二〕第一名宣義郞。❸一人。〔福惠全書、蒞任部、堂規式〕承印吏一名、門子二名、至二宅門一侯候。

【一名代】2179 エンナシ 琉球の地名。

【一命】2180 イチメイ ❶一たび命ずること。又、一つの命令。❷一人の生命。いのち。〔駱賓王、幽縶書レ情通二簡知己一詩〕一命淪二驕餌一、三緘愼二禍胎一。〔庭訓往來、六月〕棄二一命一、被レ竭二粉骨合戰一者。❸始めて官吏となること。周代には、任官に一命から九命迄あり、天子の下士、列國公侯伯の士、子男の大夫は皆一命である。〔周禮、春官、大宗伯〕壹命受レ職。〔注〕始見レ命爲二正吏一、謂二列國之士、於二子男一爲二大夫一、王之下士、亦一命。〔禮、王制〕制、三公一命卷。〔禮、王制〕小國之卿與二下大夫一一命。〔左氏、襄、十九〕皆受二一命之服一。〔荀子、大略〕一命齒二於鄕一。〔北史、周太祖紀〕以二第一品一爲二九命一、第九品爲二一命一。

【一命以上】2181 イチメイイジヤウ 士分以上の者。一命の❸を見よ。〔十八史略、宋、哲宗〕顥嘗言、一命以上、苟存二心於愛レ物、於レ人必有レ所レ濟。

【一命之爵】2182 イチメイノシヤク 低い官爵。一命の❸を見よ。〔齋藤拙堂、諸葛亮比二管中・樂毅一論〕無二一命之爵一、而志在二天下一。

【一命而僂】2183 イチメイシテルス 一命を受けて士となつては、腰をかがめ身をつつしむ。孔子の先祖正考父が、恭儉を守つた故事。〔左氏、昭、七〕故其鼎銘云、一命而僂、再命而傴、三命而俯、循レ墻而走、亦莫二余敢侮一、饘二於是一、粥二於是一、以餬二余口一。

【一明】2184 イチメイ ❶一方のあかり。〔管子、侈靡〕津若レ出二於一明一。❷明、上官通(**1－13・206**)の字。❸佛 イチミヤウ 一つの陀羅尼。〔大日經疏、十二〕破二除一切無明煩惱之闇一、故名レ之爲レ明。

【一明一暗】2185 イチメイイチアン 一は明るく一は暗い。又、或は明るく、或は暗い。一明一味。〔宋史、選擧志二〕舊試二六題一、一明一暗。

【一明一味】2186 イチメイイチマイ 一明一暗に同じ。〔晉書、皇甫謐傳〕一明一味、得道之槩。

【一明兩暗】2187 i^4 ming^2 liang^3 an^4 一棟三間の家で、中央正面にある一室が大きく明るくて、其の兩側の二室が小さくて暗いもの。

【一鳴】2188 イチメイ 一度鳴く。一鳴驚レ人を見よ。

【一鳴集】2189 イチメイシフ 書名。十卷。唐、司空圖撰。其の詩文を輯む。

【一鳴驚レ人】2190 ヒトタビナカバヒトヲオドロカサン 一度奮起すると、人を驚かす程のことをする意。一度鳴驚レ人。〔史記、滑稽傳〕齊威王之時、喜レ隱好爲二淫樂長夜之飮一、沈湎不レ治、委二政卿大夫一、云云、淳于髡說レ之以レ隱曰、國中有二大鳥一、止二王之庭一、三年不レ蜚又不レ鳴、王知二此鳥何一也、王曰、此鳥不レ飛則已、一飛沖レ天、不レ鳴則已、一鳴驚レ人。

【一謎】2191 イチメイ 一つのなぞ。〔北史、魏文成五王、咸陽王禧傳〕試作二一謎一、當三思二解之一。

【一謎價】2192 i^4 mi^2 chia^4 ひといきに。〔長生殿、疑讖〕一謎價痛飮、興豪麤。

【一謎兒】2193 i^4 mi^2 êrh ひたすら。〔長生殿、倖恩〕一謎兒自逞心胸。

【一面】2194 イチメン ❶一方面の略。〔公羊、桓、十、此偏戰也、注〕据二十三年、師敗績一偏、一面也、結レ日定レ地、各居二一面一、鳴レ鼓而戰、不二相詐一。〔史記、留侯世家〕漢王之將、獨韓信、可下屬二大事一當中一面上。〔新書、解縣〕躄者一面病。〔後漢書、仲長統傳〕一方有レ警、一面被レ災。〔袁枚、赤壁詩〕一面東風百萬軍、當年此處定二三分一。❷一方。〔水滸傳、楔子〕一面降二赦天下罪囚一。〔福惠全書、刑名部、印官親驗〕一面差レ役先拿、星二赴驗所一。❸一度面會する。〔世說新語、賢媛〕一面契若二金蘭一。〔魏書、袁式傳〕泰常二年、歸レ國爲二上客一、賜二爵陽夏子一、與二司徒崔浩一一面、便盡二國士之交一。❹一寸顏を見る程の、僅かな時間。〔資治通鑑、宋紀〕(世祖、大明二年)裴子野論曰、況今萬品千羣、俄折二乎一面一。〔注〕一面、一覿面之頃也。❺一人。❻一個。❼全體。あまねく。〔相州兵亂記〕はやりを若者ども、一面に打つてかかる。❽碁盤・將棋盤等を數へる語。

【一面器】2195 イチメンキ 佛 護摩壇の四方に六器を飾るを四面器といひ、それを略して正面の一方にだけ置くのを一面器といふ。

【一面識】2196 イチメンシキ 一度逢つて顏を見知つて居る位の知りあひ。面識(**12－42618・63**)を見よ。

【一面坡】2197 イチメンピ 地名。滿州吉林省珠河縣下、螞蜒河の西濱。水陸交通の重要地。

【一面驅レ禽】2198 イチメンキンヲカル 一方から禽類を驅りたてる。殷の湯王が、四面に網を張つて鳥を捕へてゐるのを見て其の三方の網を解き、只一方からだけ鳥を驅りたてさせ、鳥獸にまで仁政を施した故事。〔呂覽、異用〕湯見二祝レ網者、置二四面一、其祝曰、從レ天墜者、從レ地出者、從二四方一來者、皆離二吾網一、湯曰、嘻盡レ之矣、非レ桀其孰爲レ此也、湯收二其三面一、置二其一面一、更教レ祝曰、昔蛛蝥

作二網罟一、今之人學レ紓、欲レ左者左、欲レ右者右、欲レ高者高、欲レ下者下、吾取二其犯一レ命者一。(史記、殷紀)湯出、見二野張二網四面一、祝曰、自二天下四方一皆入二吾網一。湯曰、嘻盡レ之矣、乃去二其三面一、祝曰、欲レ左左、欲レ右右、不レ用レ命、乃入二吾網一。(庚信、自レ古聖帝名賢讃、湯解祝網)三方落レ網、一面驅レ禽。

【一面の榮】2199 ノイチメンノエイ 一面識の光榮。面、一に眄に作る。(任昉、王文憲集序)一面之榮、鄭璞踰二于周寶一。(注)善、作レ眄。

【一面の雅】2200 ㄧˊ mien⁴ chih¹ ya³ 一日之雅(908)に同じ。

【一面之詞】2201 ㄧˊ mien⁴ chih¹ tʻzŭ² 一方の理由。一方の申立。一方の話。

【一面如レ舊】2202 イチメンジョキュウ 初めて面會して、舊交ある間柄のやうに忽ち親しくなること。一見如レ舊。(晉書、張華傳)陸機兄弟、志氣高爽、自以二吳之名家一、初入レ洛、不レ推二中國人士一、見レ華一面如レ舊、欽二華德範一、如二師資之禮一焉。

【一面承管】2203 ㄧˊ mien⁴ chʻêng² kuan³ 一切引受ける。全額引受。

【一目】2204 イチモク ❶一つの目。片方の目。(爾雅、釋畜)一目白、曰、二目白、魚。❷めっかち。かため。片眼。一眼。一目眇を見よ。(南史、王偉傳)湘東一目、寧爲二四海所一レ歸。❸ただ一め見る。一望。(譚子化書)一目可レ以見二大夫一。(朱熹、再用レ韻題二翠壁一詩)孤亭一目盡二天涯一、俯瞰烟村八九家。❹網の目の一つ。轉じて、全體の一小部分。一目羅を見よ。(禰衡、鸚鵡賦)雖二網維之備設、終一目之所レ加。(注)翰曰、網維雖レ廣、所中者、不レ過二網之一目一。❺國の名。(山海經、海外北經)一目國在二其東一、一目中二其面一而居。(淮南子、墜形訓)西北方曰二一目一。(注)國人一目、在二面中央一。(三才圖會、人物、十三)一目國在二北海外一、其人一目當二其面一而手足皆具也。❻一項目。❼碁盤の目一つ。

一目國(會圖三才)

【一目散】2205 イチモクサン わき目もふらずに。いつさんに。(續山井)くらべ馬も一もくさんや碁盤のり。

【一目眇】2206 イチモクベウ 一方の目が見えない。眇は、めっかち、すがめ。(晉書、殷仲堪傳)父病積レ年、仲堪衣不レ解レ帶、躬學二醫術一、究二其精妙一、執レ藥揮レ涙、遂眇二一目一。(五代史、唐莊宗紀)克用少驍勇、軍中號曰二李鴉兒一、其一目眇、及二其貴一也、又號二獨眼龍一。

【一目民】2207 イチモクミン 傳說上の一民族の名。一目の❺を見よ。(淮南子、墜形訓)自二東北一至二西北方一、有二跂踵民一。云云・一目民、無繼民一。

【一目羅】2208 イチモクラ 目一つのあみ。一目羅不レ可二以得一レ鳥を見よ。(錢起、江行詩)應レ防二一目羅一。

【一目連】2209 イチモクレン 中部地方の方言で、つむじ風をいふ。(和漢三才圖會、三、天象類)颶、按、勢州・尾州・濃州・駿州、有二不時暴風至一、俗稱二之一目連一以爲二神風一。

【一目十行】2210 イチモクジフカウ 一目に十行を讀む。書を讀む眼力の鋭いこと。(北齊書、河南王孝瑜傳)讀書敏速、十行俱下。(遼史、楊遵勗傳)簿書塡委、遵勗一目五行俱下、剖決如レ流。

【一目瞭然】2211 イチモクリョウゼン 一目見ただけでよくわかる。瞭、一に了に作る。

【一目羅不レ可二以得一レ鳥】2212 イチモクラフカヘモッテカラスヲエベカラズ 一つ目の網では鳥を捕へることは出來ない。❶禮を備へなければ、賢人を招致することの出來ない喩。(淮南子、說林訓)一目之羅、不レ可二以得一レ鳥、無餌之釣、不レ可二以得一レ魚、遇二士無一レ禮、不レ可二以得一レ賢。❷僅か一人に任せただけでは、多くの人を御し難い喩。(文子、上德)有レ鳥將レ來、張レ羅而待レ之、得レ鳥者、羅之一目、今爲二一目之羅一、卽無二時得一レ鳥。(注)任二一人之才一、難二以御一レ衆、一目之羅、無二由獲一鳥。

【一沐】2213 イチモク 一たび髮を洗ふ。一沐三握レ髮を見よ。

【一沐三握レ髮】2214 イチモクニニギル 一たび髮を洗ふ間に、三度も之を中止して人に會ふ。賢人を迎へるのに汲々たるさま。一飯三吐哺(1901)を見よ。(韓詩外傳、三)周公誡二レ之曰、吾於二天下一、亦不レ輕矣、然一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺。(史記、魯世家)然我一沐三捉レ髮、一飯三吐レ哺、起以待二士。(呂覽、謹聽)昔者、禹一沐而三捉レ髮、一食而三起、以禮二有道之士一。

【一門】2215 イチモン ❶一つの門。(左氏、襄、九)門其三門一、(注)晉果三分其軍一、各攻二一門一。❷一家族。同族。一黨。(後漢書、張酺傳)豈有二一門忠義、而爵賞不レ及乎。(舊唐書、温大雅傳)我起二義晉陽一、爲二卿一門一耳。(李白、萬憤詞投二魏郎中一詩)豫樟天南隔二老妻一、一門骨肉散二百草一。(李中、獻二中書湯舍人一詩)一門清貴古今稀。❸同一類をいふ。(淮南子、原道訓)百事之根、皆出二一門一。(張華、遊獵篇)築辱渾一門、安知二惡與一レ美。❹一派。(南齊書、劉繪傳)繪之言吐、頓挫有二風氣一、時人爲二之語一曰、劉繪貼宅、別開二一門一。❺大砲等を數へる語。❻㊀生死の出る道をいふ。(法華經、譬喩品)唯有二一門一、而復狹小。

【一門中】2215′ イチモンチュウ 親類中。親戚全體。(日本永代藏、二)ひとつも埒のあかぬ男、貧乏神の社人になれとて、一門中是を見かぎる。

【一門家督】2216 イチモンカトク 一門中の總領家。(東鑑、三十二)嘉禎二年七月二十四日、向後大番以下如レ此役、早可二相從一門家督之旨、今日重被二定レ之。

【一門百笏】2217 イチモンヒヤクコツ 一族の中から、象牙の笏を執る程地位が高く勢の有る人が百人も出る樣な盛な家。(隋書、李穆傳)於レ是穆子孫雖レ在二襁褓一、悉拜二儀同一、其一門執二象笏一者百餘人、穆之貴盛、當時無レ比。

【一門普門】2218 イチモンフモン ㊀一德・一智の法門を一門といひ、全德・全智の法門を普門といふ。密教では大日如來を普門の佛、阿閦・寶生・彌陀・不空成就等の如來を一門の佛といふ。又、一法に通ずれば一切法に達する道理をいふ。(大日經疏、二)從二此一門一得二入法界一、卽是普入二一切法界門一也。

【一門郎徒】2219 イチモンラウト 一家一族の家臣。一族家臣。家の子郎黨。

【一門之肝腦】2220 イチモンノカンナウ 一門の生命。肝腦は、一身の主要部。(日本外史、新田氏前記、楠氏論)擧二一門之肝腦一、竭二諸國家之難一。

【一問】2221 イチモン ❶一度問ひを出す。又、一つの質問。一問一答を見よ。❷一度訪問する。(荀子、大略)君於二大夫一三問、其疾、三臨、其喪、於レ士一問一臨。(方回、雪中憶レ昔詩)扁舟一問桃源路。❸一度慰問する。(管子、入國)八十以上、二日一問。❹一度審理する。

【一問一答】2222 イチモンイットウ ❶一問に對して一答する。又、之を繰返す式の會話。(杜預、春秋左氏傳序、疏)上一問一答、說作レ註。❷一問一答狀に同じ。

【一問一答狀】2223 イチモンイットウジヤウ 一問狀と一答狀。鎌倉時代の訴訟の書面。一問狀は、第一回に提出した訴狀、一答狀は、之に對應する辯論の答書。

【一問三不知】2224 ㄧˊ wen⁴ san¹ pu⁴ chih¹ 一つの問の中に、知らぬことが三つもある。何を問うても少しも知らぬこと。

【一聞】2225 イチモン 一たび聞く。又、一たび法を聞く。(宗鏡錄、二)上上根人、一聞千悟。

【一夜】2226 イチヤ ひとばん。或る晩。一夕。(穀梁、定、四)一夜而三敗二吳人一。(戰國、楚策)秦人一夜而襲レ之。(史記、吳王濞傳)周丘一夜得二三萬人一。(南史、阮孝緒傳)經二一夜一、忽然完復。(李白、子夜吳歌)明朝驛使發、一夜繁征袍。

【一夜酒】2227 イチヤザケ ひとよざけ。一夜造りの酒。あまざけなど。(古事記傳、總論)上古の酒は一夜酒とて、米を水に一晝夜ひたして、臼にて挽たるものなりと云へり。

【一夜的】2228 ㄧˊ yeh⁴ tê 夜通し。

【一夜撿挍】2229 イチヤケンカウ ❶江戸時代、千兩の金を納めて、一躍撿挍になつた盲人をいふ。(犬子集、十四)今日ははや衣を著かへ香を焚き、たしなみ深き一夜撿挍。❷轉じて、俄かに富裕になつたもの。にはかぶげん。(博多小女郎波枕、上)ちくら手くらの一夜撿挍。

【一夜三燭】2230 イチヤサンショク 一夜の中に三度も光り輝く。(漢書、武帝紀)朕躬祭二后土地祇一、見二光集于靈壇一、一夜三燭。

【一夜十起】2231 イチヤジッキ 後漢の第五倫は、兄の子が病の時、一夜に十たび起きて之を看護したが、床に入れば其の儘安眠出來た。處が自分の子の

病の時には、一度も起きて看護はしなかったが、遂に夜通し眠れなかったと云ふ故事。人間には、何としても私心があることをいふ。〔後漢書、第五倫傳〕或問レ倫曰、公有レ私乎、對曰、昔人有下與二吾千里馬一者上、吾雖レ不レ受、每三二公有レ所二選擧一、心不レ能レ忘、而亦終不レ用也、吾兒子常病、一夜十往、退而安寢、吾子有レ疾、雖レ不レ省視一、而竟夕不レ眠、若レ是者、豈可レ謂無レ私乎。〔注〕劉攽曰、厩延年云、唐睿宗下レ詔、用二十起一作二元子事一、本出二於此一、明當レ作二起也。

【一夜夫妻】2232 イチヤフサイ　夫婦同褥の期間の短いこと。又、かりそめの一夜のちぎり。〔桃花扇、守樓〕宮紗扇現有二詩題一、萬種恩情、一夜夫妻。〔通俗編、倫常、一夜夫妻百夜恩〕元曲用二此語一甚多。

【一夜起雷三日雨】2233 i² yeh⁴ ch'i³ lei² san¹ jih⁴ yü³　夜中に雷が鳴ると必ず陰雨になる。

【一夜征人盡望レ鄉】2234 イチヤセイジンジンバウキヤウ　出征した人々が、物のあはれを感じて故郷を思ふ様を詠じた句。〔李益、夜上二受降城一聞レ笛詩〕回樂峯前沙似レ雪、受降城外月如レ霜、不レ知何處吹二蘆管一、一夜征人盡望レ鄉。

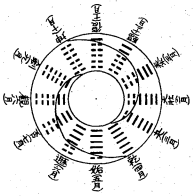
【一陽】2235 イチヤウ　❶易卦の一つの陽爻をいふ。〔易、震、本義〕震、動也、一陽始生二於二陰之下一、震而動也。〔宋史、律歷志七〕冬至、一陽爻生、而晷道漸升、夜漏益減、象二君子之道長一、故曰レ息。❷冬至をいふ。冬至は、一陽來復の時である。一陽節を見よ。〔杜牧、冬至示二小姪阿宜一詩〕今年我江外、今日生二一陽一。❸一陰一陽(2502)を見よ。❹明、謝復(10－35827‥199)の字。

【一陽軒】2236 イチヤウケン　李全直の號。李梅溪(6－14459‥1840)を見よ。

【一陽生】2237 イチヤウシヤウズ　冬至に、陽氣が初めて動くさまをいふ。一陽來復を見よ。

【一陽節】2238 イチヤウセツ　冬至をいふ。一陽の❶を見よ。〔曹植、冬至獻二襪履一表〕千載昌期、一陽嘉節、四方交泰、萬彙物蘇。

【一陽來復】2239 イチヤウライフク　陰暦十月に陰氣が極まり、十一月の冬至になつて、一陽が初めて生ずるのをいふ。十一月は復の卦にあたり、一陽が始めて生ずる。轉じて、冬が去り春が來る義に用ひ、又、新年の義にも、事物回復の意味にも用ひる。〔易、復、本義〕復、陽復生二於下一也、剝盡則爲二純坤一、十月之卦、而陽氣已生二於下一矣、積レ之踰レ月、然後一陽之體、始成而來復、故十有一月、其卦爲レ復、以二其陽既往而復反一、故有二亨道一云云、又自二五月姤卦、一陰始生一、至レ此七爻、而一陽來復、乃天運之自然。



一陽來復

【一樣】2240 イチヤウ　❶同じさま。似たもの。同樣。〔杜秉、寒夜詩〕尋常一樣窗前月、纔有二梅花一便不レ同。〔章碣、長安春日詩〕六宮羅綺同時泊、九陌煙花一樣飛。〔福惠全書、簽仕部、辭レ朝〕先于二午門外一齊集、用二一樣職名一二個一。❷一種。ひとしな。

【一樣的】2241 i² yang tê　同じい。同じやうに。

【一樣無二】2242 i² yang⁴ wu² êrh⁴　少しも違はない。全く同じもの。

【一侖】2243 イチリン　耕目の單位。一合の十分の一。〔周禮、春官、大師、黃鍾、注〕黃鍾長九寸、其實一侖。〔國語、周語下、律度量衡於是乎生、注〕黃鍾之管、容二秬黍千二百粒一、粒百爲レ銖、是爲二一侖一。〔說苑、辨物〕千二百黍爲二一侖一、十侖爲二一合一、十合爲二一升一、十升爲二一斗一、十斗爲二一石一。

【一躍】2244 イチヤク　ひととび。一足飛び。〔荀子、勸學〕騏驥一躍、不レ能二十步一。〔朱德潤、驄馬滾塵圖詩〕王良幸勿嘘二踶蹏一、一躍天衢千里沙。

【一庾】2245 イチユ　量の單位。十六斗。〔左氏、昭、二十六〕粟五千庾。〔注〕庾、十六斗。

【一豫】2246 イチヨ　一度のたのしみ。一樂。一游一豫(34)を見よ。

【一擁】2247 i¹ yung³　一かたまり。一むれ。

【一翼】2248 イチヨク　一つのつばさ。〔詩、大雅、生民、誕寘二之寒冰一、鳥覆二翼之一、傳〕大鳥來、一翼覆レ之、一翼藉レ之。〔宋書、符瑞志上〕又取而置二寒冰上一、大鳥來、以二一翼一藉覆レ之。

【一來】2249 イチライ　❶ひとたび來る。〔詩、鄭風、子衿、縱我不レ往子寧不レ來、傳〕不レ來者、言レ不二一來一也。〔左氏、襄、二十六、楚王是故昧二於一來一。❷i² lai² ㋑一つには云云。㋺一度來れば云云。

【一來一往】2250 i² lai² i² wang³　往つたり來たりする。往來する。交はる。交際する。一往一來(2374)の❶を見よ。

【一來二去】2251 i² lai² êrh⁴ ch'ü⁴　往つたり來たりする。次第に。追ひ追ひに。

【一來二來】2252 i² lai² êrh⁴ lai²　一つには云云、二つには云云。一者二來。

【一老】2253 イチラウ　❶ひとりの德の高い老人。〔詩、小雅、十月之交〕不下憖遺二一老一、俾中守二我王一。〔左氏、哀、十六〕旻天不レ弔、不下憖遺二一老一、俾中屏二余一人一、以在レ位。❷元老中の第一人者。〔親房卿被レ贈二結城一狀〕爲二先朝之一老一、具蒙二殷懃之顧命一。

【一老菴】2254 イチラウアン　清、徐柯(4－10110‥30)の號。

【一老吏】2255 イチラウリ　一人の年老いた官吏。〔國史略、村上天皇〕又嘗見二一老吏一、密問下當今與二前朝延喜之時一異同得失上。

【一牢】2256 イチラウ　一つのいけにへ。又、牛・羊・豕の一つ。〔左氏、僖、十五〕改館二晉侯一、饋二七牢一焉。〔注〕牛羊豕各一、爲二一牢一。

【一勞】2257 イチラウ　一たび骨折る。一勞永逸を見よ。〔無名氏、太學壁經賦〕雖二一勞之克定一、乃千載之不利。

【一勞永逸】2258 イチラウエイイツ　一度勞力を費せば、永く安樂を享ける。一時の勞苦によつて、永き安樂を得る。〔齊民要術、種苜蓿〕此者長生種者、一勞永逸、都邑負郭、所宜種レ之。〔宋史、禮志二〕先レ是、張杓爲二京尹一、議下築二齋宮一可中一勞永逸上、宇文价曰、陛下方經二略河南一、今築二青城一、是無二中原一也。〔東華錄、康熙六十一年〕以二河防務重一、屢勤二鑾輅一、指示二機宜一、遂得二地平天成一、一勞永逸一。

【一落】2259 イチラク　❶一かこひ。〔唐書、常山王承乾傳〕好二突厥言及所レ服、選二貌類レ胡者一、被以二羊裘縛髮一、五人建二一落一、張二氈舍一。❷一村落。一部落。❸ある事柄。一件(5117)に同じ。〔菅原傳授手習鑑〕此の一落は今日が日まで。

【一落索】2260 イチラクサク　❶ひとまとめにする。又、より合せた綱。一絡索。〔朱子文集〕答二呂子約一曰、請打二併了此一落索一、後看、卻須レ有二會心處一也。❷詞牌の名。又、曲牌の名。南曲で高大石調引に入る。〔三才圖會、詩餘圖譜上〕一落索、前段、四句三韻二十三字、後段同レ前、詞、朱希眞、慣被二好花留住一、蝶飛鶯語、少年場上醉鄉中、容易放レ春歸去、今日江南春暮、朱顏何處、莫下將二愁緒一比中飛花上、花有二數愁無數一。

【一落千丈】2261 イチラクセンヂヤウ　❶勢よく落下するさま。俄かにひどく落ちる。〔韓愈、聽二穎師彈レ琴詩一〕躋攀分寸不レ可レ上、失レ勢一落千丈強。❷退歩の速かなこと。相場の暴落をもいふ。

【一落草就死】2262 i² lao⁴ ts'ao³ chiu⁴ ssu³　小兒などが生れ落ちると直ぐ死ぬのをいふ。

【一樂】2263 イチラク　❶一つのたのしみ。一豫。〔孟子、盡心上〕父母俱存、兄弟無レ故、一樂也。〔列子、天瑞〕天生二萬物一、唯人爲レ貴、而吾得レ爲レ人、是一樂也。❷一たびたのしむ。〔新論、清神〕夫一哀一樂、猶レ寒二正性一。❸一樂織に同じ。

【一樂織】2264 イチラクオリ　浮き織りにした精巧な絹布。和泉の人、土屋一樂の發明。

【一樂編】2265 イチラクアミ　和泉の人、土屋一樂の工夫に始まつた籐細工。

【一臘】2266 イチラフ　❶年功を積んで長となつた者の稱。僧侶の一臘に本づく。〔今昔物語、二十八〕古へは金峰山の別當は、彼の山の一臘をなん用ひける。❷藏人所の首席藏人をいふ。極臘ともいひ、其の下に、二臘・三臘等がある。〔侍中羣要、十、分配〕臨時事、依二貫首若一臘藏人一、定二行之一。❸鎌倉幕府で、當番人の筆頭の稱。〔大日本史、伊東祐親傳〕祐經、少宿二衞京師一、爲二左衞門尉一、稱二工藤一臘一。❹舞樂の語。舞樂の時、舞人の第一の上首をいふ。

【一臘】2267 イチラフ　㊀一法臘の略。僧侶の得度以後の年數を計へるに用ひる。一臘は、毎年四月十六日より七月十五日に至る、一夏九旬の安居修道をいふ。臘はもと中國歲末の祭の名であるが、僧が安居を出るのは、俗人が臘祭を終へて

新年を迎へたやうなものであるからいふ。一臈。〔釋氏要覽、下、入衆〕夏臘卽釋氏法歲也、凡序長幼、必問夏臘、多者爲長、云云、今、釋氏自四月十六日、前安居入制、至七月十五日、爲受臘之日、若俗歲除日也、至十六日、是五分法身生養之日、名新歲也。❷人が生れて七日目。人が死んで七日目を忌といふに對す。〔夢粱錄、育子〕七日名一臘、十四日、謂之二臘、二十一日、名曰三臘。〔武林舊事、宮中誕育儀例略〕三日、一臘、兩臘、四節。〔王笑零音〕人之初生、以七日爲臘、人之初死、以七日爲忌、一臘而一魄成、故七七四十九日、而七魄具矣、一忌而一魂散、故七七四十九日、而七魂泯矣。

【一闌】2268 イチラン 一つの欄干。又、欄干の一かこひ。一欄。〔溫庭筠、夜看牡丹詩〕高低深淺一闌紅、把火殷勤遶露叢。〔眞山民、山間秋夜詩〕夜色秋光共一闌、飽收風露入脾肝。

【一欄】2269 イチラン 一つの欄干。一闌。〔白居易、山石榴寄元九詩〕爛漫一欄十八樹、根株有數花無數。〔劉禹錫、和令孤相公別牡丹詩〕平章宅裏一欄花、臨到開時不在家。〔貫名海屋、飛驒高山游中〕蓑袂笠檐時出沒、一欄煙雨似瀟湘。

【一覽】2270 イチラン ❶一度みる。一見。〔後漢書、禰衡傳〕雖一覽、猶能識之。〔晉書、范宣傳〕言談未嘗及老莊、客有問、人生與憂俱生、不知此語何出、宣云、出莊子至樂篇、客曰、君言不讀老莊、何由識之、宣笑曰、小時嘗一覽、時人莫之測也。❷ひと目に見渡す。〔杜甫、望嶽詩〕會當凌絶頂、一覽衆山小。

【一覽拂】2271 イチランバラヒ 手形の支拂方法の一。手形の呈示と同時に金額の支拂をする手形。

【一覽表】2272 イチランヘウ 諸種の事項を一見して分るやうに示した表。

【一覽樓】2273 イチランロウ 樓の名。松江縣超果寺に在る。〔明一統志〕一覽樓、在松江府超果寺。

【一覽成誦】2274 イチランシヤウヲナス 一覽便諷に同じ。〔宋史、眞宗紀一〕幼英睿、比就學受經、一覽成誦。

【一覽卽付】2275 イチランソクフ 一覽拂ひ。

【一覽不忘】2276 イチランワスレズ 一たび見れば忘れぬ。〔釋氏通鑑〕僧一行、凡經籍一覽、畢世不忘。

【一覽便諷】2277 イチランスナハチフウス 一度見てすぐにそらんずる。〔大唐新語〕奉古姓魏、一覽便諷、千餘言。

【一吏】2278 イチリ 一人の役人。一員。〔管子、山至數〕馮市門一吏。〔漢書、陳餘傳〕今見小辱、而欲死一吏乎。

【一里】2279 イチリ ❶三百六十步。我が國の五町十二間に當る。〔左氏、哀、元〕春、楚子圍蔡、報柏擧也、里而栽。〔注〕去蔡城一里。〔淮南子、天文訓〕假使視日出、入前表中一寸、是寸得一里也。〔呂溫、道州春遊歐陽家林亭詩〕道州城北歐陽家、去郭一里占煙霞。❷方一里の土地。❸一つの村落。一村。〔陸龜蒙、虎丘寺西小溪閒泛詩〕雲涯一里千萬曲、直是漁翁行也迷。❹大化二年制定の國郡の制。五十戶をいふ。❺三十六町。

【一里塚】2280 イチリヅカ 街道の一里每に塚形の堠を築き、榎を植ゑて標としたもの。初、織田信長が近畿地方に行ひ、德川氏になつて日本橋を起點とし、三十六町一里每に、東海・東山・北陸の諸道に築かせた。一里一堠を見よ。〔茗話〕近江の國安土より都まで一里塚を築き。

【一里一堠】2281 イチリイツコウ 一里塚。堠は土を盛りあげた壇。〔北史、韋孝寬傳〕廢帝二年、爲雍州刺史、先是、路側一里置一土堠、經雨頹毀、每須脩之、自孝寬臨州、仍勒部內、當堠處植槐樹代之、旣免脩復、行旅又得庇蔭、周文後見、怪問知之、曰、豈得一州獨爾、當令天下同之、於是令諸州夾道、一里種一樹、十里種三樹、百里種五樹焉。

【一理】2282 イチリ ❶一つの道理。一應の理由。〔劉峻、辨命論〕非可以一理徵、非可以一途驗。❷同一の道理。〔呂覽、審分〕夫治身與治國、一理之術也。〔華嚴大疏、二〕一理齊平。

【一理貫通萬事】2283 i⁴ li³ kuan⁴ t'ung¹ wan⁴ shih⁴ 一事が萬事といふ意味の諺。

【一流】2284 イチリウ ❶一つの流儀。一派。〔人物志、接識〕一流之人、能識一流之善、二流之人、能識二流之美。❷同類。〔世說新語、容止〕劉尹道桓公、鬢如反猬皮、眉如紫石稜、自是孫仲謀・司馬宣王、一流人。〔法華文句、八上〕此二千人、或是無學人、同是一流。❸最上級。第一流。〔世說新語、品藻〕第一流復是誰、劉曰、正是我輩耳。❹漢代の銀の量。〔漢書、食貨志下〕朱提銀、重八兩爲一流、直一千五百八十、它銀一流直千、是爲銀貨二品。

【一流人】2285 イチリウノヒト 最上級の人。第一流の人。

【一旒】2286 イチリウ ひとたれ。ひとながれ。旗などを數へる語。

【一溜】2287 ヒトタマリ ❶戰などで一時踏み止つて支へること。打消の語を伴ふ。❷ i² liu⁴ 一すぢの。

【一溜烟】2288 i² liu⁴ yen¹ 一すぢの煙の如く。すうつと。雲を霞と。〔紅樓夢、十二回〕賈瑞瞅的背著臉、一溜烟抱著肩、跑了出來。

【一律】2289 イチリツ ❶一つの音律。〔韓愈、南陽樊紹述墓誌銘〕從漢迄今用一律、寥寥久哉。〔宋史、律曆志〕一律而生五音。❷音樂の同じ調子。一樣の音律。〔淮南子、說林訓〕異音者、不可聽以一律。〔藝苑卮言〕白樂天詩、千篇一律。❸一つの法律。〔漢書、馮野王傳〕今有司以爲、予告得歸、賜告不得、是一律兩科、失省刑之意。❹一樣に。同時に。全部。〔金史、趙秉文傳〕筆勢縱放、不拘一律。

【一律現洋】2290 i² lü⁴ hsien⁴ yang² 全部現金賣。

【一笠】2291 イチリフ 一つのかさ。〔吳志、呂蒙傳〕遂到南郡、約令軍中、不得干歷人家有所求取、蒙麾下士、是汝南人、取民家一笠、以覆官鎧。〔黃庚、漁隱詩〕一笠戴春雨、扁舟寄此情。

【一粒】2292 イチリフ 米などの一つぶ。〔說文、粒糂也、段注〕今俗語、謂米一顆曰一粒。〔書、益稷、烝民乃粒、傳、米食曰粒、疏〕粒、糂也、今人謂飯爲米糂、遺餘之飯、謂之一粒兩粒。〔聞見後錄〕黃魯直稱杜子美詩、如靈丹一粒成點鐵金。

【一粒萬倍】2293 イチリフマンバイ ❶一つぶの米も、蒔けば萬倍となる。僅かなものも、非常な多數に殖える喩。〔新猿樂記〕春以一粒雖散地面、秋以萬倍納藏內。❷稻（**8−25216**）の異名。〔報恩經、四〕世閒求利、莫先耕田者、種一萬倍。

【一粒粟中藏世界】2294 イチリフノゾクチユウセカイヲザウス 佛 一粒のもみ米の中に世界を藏してゐる。佛法は目前の些細な事物の中にある喩。〔五燈會元〕一粒粟中藏世界、半升鐺內煑乾坤。

【一兩】2295 イチリヤウ ❶一匹（1927）の❶に同じ。布帛等を數へるに用ひる語。〔左氏、閔、二〕重錦三十兩。〔宋史、食貨志上一〕匹、婦之貢、絹三尺、綿一兩。❷車一乘。一輛。兩（**1−1436**）の字解㊂の❶を見よ。〔通俗編、數目、一兩〕史記貨殖傳、牛車千兩、師古注曰、一乘曰一兩、謂之兩者、言其車輪兩兩而偶。❸目方の單位。二十四銖をいふ。〔說文〕兩、二十四銖爲一兩。〔淮南子、天文訓〕故二十四銖爲一兩。❹一つ二つ。一二。〔宋書、袁粲傳〕談客文士所見、不過一兩人。〔庾信、擬詠懷詩〕橫石三五片、長松一兩株。❺一テール。重量及び貨幣の單位。一斤の十六分の一。❻ヒトブリ 紀伊國の地名。

【一兩日】2296 イチリヤウジツ 一日二日。〔柴野栗山、雛鶯說示塾生〕如此一兩日、乃能放喉縱囀、音響瀏亮、可愛云。

【一領】2297 イチリヤウ ❶甲冑や衣服などの一そろひ。一腰（67）を見よ。〔戰國、秦策〕張儀說秦王、云云、不用一領甲、不苦一民、皆秦之有也。〔晉書、盧志傳〕帝悅、賜志衣一襲、鶴綾袍一領。❷一枚。簟を數へる語。〔白居易、小院酒醒詩〕一領新秋簟、三間明月廊。〔通俗編、數目、一領〕能改齋漫錄、簟可言一領、世說、王大見王恭坐六尺簟、因語恭、卿東來、故應有此物、可以一領及我。❸專ら承はる。〔例〕一領示教。

【一旅】2298 イチリヨ ❶周代の制、兵士五百人の稱。〔左氏、哀、元〕有田一成、有衆一旅。〔注〕五百人爲旅。❷一個旅團。

【一慮】2299 イチリヨ ❶一つのかんがへ。〔唐書、高麗傳〕帝曰、誠然、但一慮之失而尤之、後誰爲我計者。❷心慮を專一にすること。〔歸敬儀、中〕論美四修、經歎一慮。

【一龍】2300 イチリヨウ ❶一頭の龍。〔後漢書、張衡傳〕雖一龍發機、而七首不動、尋其方面、乃知震之所在。〔五代史、楚馬希範世家〕希範又作九龍殿、以八龍繞柱、自言、身一龍也。〔崔塗、東晉詩〕秦國金陵王氣全、一龍正道始東遷。❷華歆・邴原・管寧の三人の稱。〔魏志、華歆傳、注〕魏略

曰、歆與二北海邴原・管寧一、倶遊學、三人相善、時人號二三人一爲二一龍一、歆爲二龍頭一、原爲二龍腹一、寧爲二龍尾一。㊂唐、賈會(**10－36755**‥43)の綽號。㊃宋、曾從龍(**5－14299**‥199)の初名。

【一龍一蛇】2301 イチリヨウイチダ ㊀或は龍となつて天に昇り、或は蛇となつて池中に潜む。其の出處が自在に變通して凝滯しない喩。又、治世には出で、濁世には隱れて、よく時代に順應する喩。〔莊子、山木〕一龍一蛇、與レ時倶化。〔疏〕龍、出也、蛇、處也。〔淮南子、兵略訓〕一龍一蛇、動無二常體一。〔後漢書、馮衍傳下〕風興雲蒸、一龍一蛇。㊁變化が速かで、測り知れないこと。〔管子、樞言〕周者、不レ出二于口一、不レ見二于色一、一龍一蛇、一日五化、之謂レ周。

【一龍一豬】2302 イチリヨウイツチヨ 一人は龍となり、一人は豬となる。學ぶと學ばぬとによつて、甚しく賢愚の差を生ずる喩。〔韓愈、符讀二書城南一詩〕兩家各生レ子、提孩巧相如、少長聚嬉戲、不レ殊二同隊魚一、云云、三十骨骼成、乃一龍一豬。〔尾藤二洲、習說〕迄二其壯一也、乃一龍一豬、奚啻韓子所レ言而已哉。

【一力】2303 イチリヨク ㊀一人の下僕。一僕。〔南史、隱逸、陶潛傳〕潛爲二彭澤令一、不下以二家累一自隨上、送二一力一給二其子一、書曰、汝旦夕之費、自給爲レ難、今遣二此力一、助二汝薪水之勞一、此亦人子也、可二善遇一之。㊁力をあはせる。協力。〔韓非子、功名〕人主者、天下一レ力以共載レ之、故安。〔呂覽、不二〕勇者不レ得レ先、懼者不レ得レ後、所二以一レ力也。〔唐書、吐蕃傳上〕上下一レ力、議レ事自下。㊂わずかの力。〔新序、刺奢〕聞、大王將レ起二中天臺一、臣願加二一力一。㊃自分一人の力。獨力。〔平治物語、經宗惟方遠流〕一力を以て凶徒を誅戮仕り。

【一林】2304 イチリン 一つの林。又、林中のこらず。滿林。〔庾信、道士步虛詞〕碧玉成二雙樹一、空青爲二一林一。〔錢起、宿遠上人蘭若詩〕香花閉二一林一、眞士此看レ心。〔鄭谷、江際詩〕萬頃白波迷二宿鷺一、一林黃葉送二殘蟬一。〔司空圖、率題詩〕一林高竹長遮レ日、四壁寒山更閏冬。

【一輪】2305 イチリン ㊀一つの輪。又、月などのやうな圓い物を稱する語。〔王貞白、胡笳曲〕一輪霜月落、萬里塞二天空一。〔金山志〕四山無レ人、一輪在二雲下一。㊁ひとかはり。一更替。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕半月一輪、上班之日、本役具二價領一。

【一輪月】2306 イチリンノツキ 一つの圓い月。〔孟郊、讀二張碧集一詩〕高秋數奏レ琴、澄潭一輪月。〔戴復古、靈洲梅花詩〕枝南枝北一輪月、山後山前兩履レ霜。〔趙文昌、歌扇詩〕唱到二春山小顰處一、一輪明月爲二花愁一。

【一輪插】2307 イチリンザシ 一二輪の花を花瓶などに活けること。又、其の器。

【一輪車】2308 イチリンシヤ 車輪一つの車。〔雲笈七籤〕天皇上眞、玉華三元君、云云、乘二神徊之車一、登二雲颷之宮一、入二流逸之室一、神徊者、是眞人一輪車名。

【一鱗】2309 イチリン ㊀一片のうろこ。〔虞喜志林〕東海之魚墜二一鱗一、崑崙之木落二一葉一。〔畫鑒〕畫二一龍一、一鱗如二一尺盤大一。㊁一匹の魚。〔曹植、答二崔文始一書〕臨レ江直釣、不レ獲二一鱗一。〔陳書、王固傳〕以二佛法一呪レ之、遂不レ獲二一鱗一。

【一鱗一爪】2310 イチリンイツサウ 雲中の龍の鱗や爪が見えかくれして摑むことが出來ぬこと。轉じて、端倪することの出來ぬ形容。〔趙執信、談龍錄〕清王士禎、與二門人一論レ詩、謂、當レ如二雲中之龍、時露二一鱗一爪一。

【一縷】2311 イチル 一すぢの絲。轉じて、僅かのつながり。〔陳師道、山口阻風詩〕九澤不レ滿レ眼、五丈方一縷。

【一縷一觸】2312 イチルイチソク 佛袈裟の絲一すぢを得るか、又は袈裟に一度觸れると、無限の功德があるのをいふ。〔文句記、三、中〕龍得二一縷一、牛角一觸。

【一縷之任係二千鈞之重一】2313 イチルノニンセンキンノオモキヲカク 一すぢの絲で千鈞も目方のある物を支へる。甚だ危險なことの喩。一髮引二千金一。〔枚乘、上書諫二吳王一書〕夫以二一縷之任一、係二千鈞之重一、上懸二之無極之高一、下垂二之不測之淵一、雖二甚愚之人一、猶知レ哀二其將レ絕也。

【一累】2314 イチルイ 一つのわづらひ。〔宋高僧傳〕莫下加二一物一而買中一累上。〔本朝文粹、紀長谷雄、醍醐天皇奉二答法皇一請レ停二尊號一書〕世尊猶有二十號一、上皇遂無二一累一。

【一類】2315 イチルイ ㊀一つの種類。同じ種類。〔呂覽、貴公〕陰陽之和、不レ長二一類一、甘露時雨、不レ私二一物一、萬民之主、不レ阿二一人一。〔歐陽脩、鳴蟬賦〕達士所レ齊、萬物一類。㊁同じ仲間。〔榮華物語、疑〕この御一類の外の殿ばら。

【一類往生】2316 イチルイワウジヤウ 佛佛道を修める一類の人だけが往生を遂げ、餘行を修めるものは往生出來ぬといふ說。

【一例】2317 イチレイ ㊀一つの定例。一つの規則。〔眞德秀、跋二虞復之春秋大義一文〕一日讀レ易、豁然有レ悟、曰、夫易之一卦一爻、爲レ義各異、而謂下春秋以二一例一該中衆事上、可乎、學者以レ義求レ經、而不二以レ例求レ經、庶三幾得二聖人之意一矣。㊁おしなべて。一樣。〔公羊、僖、元〕其稱レ子何、臣子一例也。〔史記、禮書〕諸侯藩輔、臣子一例、古今之制也。〔漢書、五行志中之上〕臣子一例、不レ得レ在二愍上一。㊂一つの例。

【一例證】2318 イチレイシヨウ 證據となる一つの實例。

【一例看待】2319 i^{2} li^{4} k'an^{4} tai^{4} 平等一樣に見做す。一樣に對遇する。

【一例相待】2320 i^{2} li^{4} hsiang^{1} tai^{4} 同樣にあしらふ。同一筆法で當る。

【一禮】2321 イチレイ ㊀一度禮をすること。一度の挨拶。〔費冠卿、九華山化成寺記〕一瞻一禮、必獻二桑土一。㊁禮儀を同じくする。〔南史、王准之傳〕朝野一レ禮、則家無二殊俗一。

【一禮四勿三省】2322 イチレイシコツサンセイ 清の李琡の修養說。禮の一事と、孔子の所謂意なく必なく固なく我なしといふ四勿と、曾子の所謂三たび反省することとをいふ。〔論學篇〕。

【一欐】2323 イチレイ 一隻の小舟。〔魏志、王朗傳、注〕獨與二老母一、共乘二一欐一。

【一靈】2324 イチレイ 清、屈大均(**4－7669**‥157)の字。

【一列】2325 イチレツ ㊀一つの列。一重の列。ひとならび。㊁一たび陳べる。〔楚辭、王褒、九懷、通路〕余深愍兮慘憺、願二一列一兮無レ從。〔注〕欲レ陳二忠謀一、道隔塞也。㊂㋑くみ。なかま。㋺第一の列。

【一列一隊】2326 イチレツイツタイ 同じたぐひ。同列。

【一脟】2327 イチレン 一脟(1832)を見よ。

【一連】2328 イチレン ㊀一つの連。連は地方區劃の稱。〔漢書、鼂錯傳〕古之制、邊縣以備レ敵也、使二五家爲レ伍、伍有レ長、十長一里、里有二假士一、四里一連、連有二假五百一、十連一邑、邑有二假候一。㊁洋紙の大判五百枚の稱。一嗹。㊂i^{4} lien^{2} 引續き。續けさまに。㊃一個中隊。

【一嗹】2329 イチレン 一連の㊁に同じ。

【一奩】2330 イチレン 一つの箱。一篋。〔曹植、謝レ賜レ柰表〕詔賜二臣等冬柰一奩一。〔朱德潤、對レ鏡寫レ眞詩〕兩面秋波隨二彩筆一、一奩冰影對二鈿花一。

【一蓮】2331 イチレン 一つの蓮華。又、同じ蓮臺。〔晉子夜歌〕果得二一蓮一時、流離嬰二辛苦一。

【一蓮一具】2331′ イチレンイチグ 同じ蓮華の上に一體となつてゐること。〔井筒業平河內通、一〕幄りをかかぐる佛壇に、一蓮一具の骸骨。

【一蓮託生】2332 イチレンタクシヤウ 佛㊀淨土に往生して、同一の蓮華の中に生れること。〔娥歌加留多、二〕先立ちし母め、一蓮託生と願ひしに。㊁衆人が皆同一の運命に遇ふこと。

【一聯】2333 イチレン 一つの對句。又、二句をいふ。〔周必大、游石鐘山錄〕爲二揚子次公一一聯。〔許彥國詩話〕一聯云、勢如二連璧友一、情若二臭蘭人一。

【一簾】2334 イチレン ㊀一つのすだれ。〔陳與義、清明詩〕一簾晚日看二收盡一、楊柳微風百媚生。㊁雨の降るさま。〔陳與義、石限病起詩〕六尺屛風遮二宴座一、一簾細雨獨題レ詩。〔范成大、水鄉酌別二但能之主管一能之將レ過二石康一詩〕一簾梅雨爐煙外、三疊陽關燭淚前。㊂玉などの連なつて下るさま。〔楊萬里、小雨詩〕似レ妒詩人山入レ眼、千峯故隔一簾珠。㊃木や竹の並び立つてゐるさま。〔范成大、初夏三絕呈二游子明王仲顯一詩〕一簾芳樹綠蔥蔥、胡蝶飛來覓二綺叢一。〔呂中孚、雪詩〕爐火已殘燈未レ燼、一簾疎竹白蕭蕭。

【一臠】2335 イチレン ひときれの肉。一脟。〔莊子、至樂〕不三敢食二一臠一、不三敢飮二一杯一。

【嘗二一臠肉一知二一鑊之味一】2336 イチレンノニクヲナメテイツクワクノアヂヲシル 一部分を以て全部を察知する喩。一臠肉は、一きれの肉。一鑊は、一鍋。〔淮南子、說山訓〕嘗二一臠肉一、知二一鑊之味一、懸二羽與レ炭、而知二燥濕之氣一。〔魏書、崔浩傳〕嘗二肉一臠一、識二鑊中之味一。

【一路】2337 イチロ ㊀一筋のみち。又、みち。〔儲光羲、

貽二王侍御出レ臺掾二丹陽一詩〕茅茨對二三峯一、梧桐開二一路一。❶旅のみち。道中。〔李華、春行寄興詩〕芳樹無レ人花自落、春山一路鳥空啼。〔白居易、香山避レ暑詩〕一路涼風十八里。〔鄭谷、送二徐渙端公南歸一詩〕一路春風裏、楊花雪滿レ衣。〔王禹偁、初入レ山聞二提壺鳥一詩〕商州未レ是無二人境一、一路山村有二酒沽一。❷一手段。一方法。〔五代史、劉承鈞世家〕爲二我語一承鈞一開二爾一路一以爲レ生。❹㊀悟に至る一つの道路。〔首楞嚴經、五〕十萬薄伽梵、一路涅槃門。㊁lu⁴ 同じ種類。

【一路貨】2338 i² lu⁴ huo⁴ 同一種類の貨物。ひと手の品。ひとつ口の品物。一標貨。

【一路哭】2339 イチロコク 宋の范仲淹が不才の監司を除いて民の嘆を救つた故事。一筆勾(1932)の❶を見よ。

【一路上】2340 i² lu⁴ shang 道中。途中。旅中。

【一路人】2341 i² lu⁴ jen² 一派の人。ぐるの人。

【一路走】2342 i² lu⁴ tsou³ 同行する。

【一路順風】2343 i² lu⁴ shun⁴ fêng¹ ❶追ひての風。事が順調に運ぶこと。❷一路平安に同じ。

【一路打恭】2344 i² lu⁴ ta³ kung¹ 一度に挨拶する。

【一路福星】2345 イチロフクセイ ❶善政を施す人をいふ。福星は、幸福を與へる星。〔山堂肆考、宋鮮于侁、字子駿、哲宗立、以侁爲二京東轉運司一比行、司馬光曰、今欲救二東土之敝一、非二子駿一不可、此一路福星也。〕〔戴翼、賀二陳待制一啓〕福星一路之歌謠、生佛萬家之香火。〔故事成語考、文臣〕鮮于子駿、寧非二一路福星一。❷i² lu⁴ fu² hsing¹ 人の旅行の平安を祈る語。御無事で。御機嫌ようの意。一路平安。

【一路平安】2346 i² lu⁴ p'ing² an¹ 道中御無事に御機嫌ようの意。旅立を見送る時の挨拶。〔紅樓夢、十四回〕細問一路平安信息。

【一爐】2347 イチロ 一つのるろり。〔司空圖、題二休休亭一詩〕一局棋一爐藥、天意時情可二料度一。

【一爐柴火三杯酒】2348 イチロサイクワサンパイノサケ 僅かな火で煖めた僅かの酒。寒夜に獨酌するさま。〔壺山、夜雪詩〕雪眼羞レ明夜轉飛、梅花未レ覺竹先知、一爐柴火三杯酒、誰記山陰有二戴逵一。

【一弄】2349 イチロウ 一曲を奏する。弄は樂器をかきならすこと。〔牛僧孺、琵琶行〕金谷園中草初綠、石崇一弄思歸曲。

【一弄兒】2350 i² nung⁴ ərh 芝居などの一場面。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕今夜這一弄兒、助你兩箇成親。

【一哳】2351 イチロウ 一たび囀る。〔柴野栗山、雜鶯說〕聞二老鶯一哳、便戢レ翼凝立、如二諦聽者一。

【一稜】2352 イチロウ 田の面積の單位。稜は一に棱に作る。〔陸龜蒙、奉二酬襲美苦雨見レ寄詩一〕我本曾無二一稜田一、平生嘯傲空二漁船一。〔范成大、詩〕汗萊一棱小周圍。〔通俗編、數目、一棱〕杜甫夔州詩、塹抵公畦棱、棱讀二去聲一、注云、京師農人、指二田遠近一、多曰二幾棱一、今稱二一稜兩稜一、是也。

【一樓】2353 イチロウ ❶一つのたかどの。又、樓中全體。滿樓。〔劉兼、中春登樓詩〕兩岸煙花春富貴、一樓風月夜淒涼。〔譚用之、河橋樓賦得羣公夜讌詩〕滿座馬融吹笛月、一樓張翰過二江風一。〔韓偓、無題詩〕渺瀰三島浪、平遠一樓春。〔杜牧、阿房宮賦〕五步一樓、十步一閣。❷清、黄達(12—479「室」26‥628)の號。

【一樓一底】2354 i² lou² i⁴ ti³ 樓上一室と下一室。

【一壟】2355 イチロウ 田畑の一うね。〔書、歸禾、序、傳〕禾各生二一壟一、而合爲二一穗一。〔白居易、知足吟〕不レ種二一壟田一、倉中有二餘粟一。

【一籠】2356 イチロウ 一かご。〔白居易、感レ秋懷二微之一詩〕各閉二一籠中一、歲晩同顦顇。〔蘇軾、子由在レ筠云云詩〕贈君一籠牢收取、盛取東軒長老來。

【一六】2357 イチロク ❶博奕に於て、采の目の一と六とが出ること。〔蔡邕、彈碁賦〕不レ遲不レ疾、如レ行如レ留、放一敵六、功無二與儔一。❷一六日の略。明治九年以前には、毎月一と六との日を休日とした。

【一六勝負】2358 イチロクショウブ ❶ばくち。采の目の一とか六とかの數に依つて勝負を爭ふことからいふ。❷いちかばちかの冒險。のるかそるかの冒險。〔小春穩沖津白浪〕爰で出逢ふが一六勝負。

【一篦】2359 イチヒ 一箱。篦は、竹を編んで作つた、書物を入れる箱。〔洪良浩、遊二耳溪一記〕書一篦。

【一王】2367 イチワウ 一代の王者。〔杜預、春秋左氏傳序、采二周之舊一、以會二成王義一、疏〕采二周公之舊典一、以會二成一王之大義一。〔漢書、儒林傳序〕因二魯春秋一、擧二十二公行事一、繩レ以二文武之道一、成二一王法一、至二獲麟一而止。

【一王之儀】2368 イチワウノギ 一代の王者の禮制。〔漢書、叔孫通傳贊〕叔孫通舍二枹鼓一、而立二一王之儀一。

【一王之法】2369 イチワウノハフ 一代の王者の立てた法則。〔史記、太史公自序〕壺遂曰、孔子之時、上無二明君一、下不レ得二任用一、故作二春秋一、垂二空文一、以斷二禮義一、當二一王之法一。

【一往】2370 イチワウ ❶一たびゆく。〔詩、豳風、破斧、周公東征、疏〕於レ時、成王已信二周公一、故可二每事一往一。〔李白、古風詩〕一往桃花源、千春隔二流水一。❷ひたすら。〔謝靈運、山居賦〕分二一往之仁心一、拔二萬族之險難一。❸一わたり。一通り。應。〔止觀、七、上〕一往然、二往不然。❹過去を表はす語。〔例〕虛擲一往。

【一往談】2371 イチワウノダン 一通りの話。〔宋書、孔琳之傳論〕孔琳之親二其末一、而不レ統二其本一、豈慮レ有二開塞一、將二一往之談一可レ然乎。

【一往幽折】2372 イチワウユウセツ 一すぢの小徑が曲折して遙かに續き、非常に幽邃の趣のあること。〔齋藤拙堂、遊二箕面山一記〕一往幽折、心甚樂レ之。

【一往一反】2373 イチワウイッパン 或は往き、或は反る。〔列子、天瑞〕死之與レ生、一往一反。

【一往一來】2374 イチワウイチライ ❶いつたり、きたり。〔周禮、秋官、司儀、凡諸侯之交、疏〕言レ交者、兩國一往一來、謂二之交一。〔荀子、賦〕一往一來、結レ尾以爲レ事。〔管子、內業〕一往一來、莫二之能思一。〔南齊書、周顒傳〕往一來、一生一死。❷i⁴ wang³ lai² 交際する。ゆきき。

【一往深情】2375 イチワウシンジヤウ 深い情味を理解すること。又、深く物事に感ずること。〔世說新語、任誕〕桓子野、每聞二清歌一、輒喚二奈何一、謝公聞レ之曰、子野可レ謂二一往有一深情一。

【一往直前】2376 i⁴ wang³ chih² ch'ien² まつしぐらに猛進する。邁往直進。

【一泓】2377 イチワウ 一たまりの深く清い水。〔白居易、酬二微之誇一鏡湖一詩〕一泓鏡水誰能羨、自有二胸中萬傾湖一。〔張方平、瑤池宴曲〕曉過扶桑水一易、酬二張十八訪一宿見贈詩〕落然頹簷下、一話夜達レ晨。〔趙元、答二裕之一詩〕行藏一話傾二心肺一、古律二詩淬一齒牙。

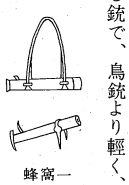
【一話一言】2361 イチワイチゲン ❶一つの話、一つの言。日常の瑣細な言語。〔書、立政〕自二一話一言一、我則末惟二成德之彥一、以乂二我受民一。〔蔡傳〕自二一話一言之間一、我則終思二成德之美士一。❷書名。五十卷。大田覃〔蜀山人〕著。隨筆集。

【一窩】2362 i¹ wo¹ 一家。〔紅樓夢、四回〕咱們這工夫、一窩一拖的奔了去。

【一窩狗】2363 i¹ wo¹ kou³ ❶一つ腹の犬。又、ひと箱の中に居る犬。❷同類。

【一窩風】2364 i¹ wo¹ fêng¹ 一氣に。

【一窩蜂】2365 ホイワウ ❶宋代に名の聞えた巨盜張遇の號。〔陸游、入蜀記〕建炎中、大盜張遇、號二一窩蜂一、擁レ兵過二廟下一、相率卜琰、一琰騰二空中一不レ下、一琰躍出二戶外一、羣盜惶恐引去、未レ幾遂敗。〔劉克莊、再和二實之春日一詩〕民散未レ收二蜂一窩一。〔注〕建炎有レ盜、名二一窩蜂一。❷武器の名。一發に百彈を發射する銃で、鳥銃より輕く、携帶に便利なもの。〔三才圖會、器用、一窩蜂〕其狀如二鳥銃之鐵幹一而短、其管口比二鳥銃一口稍寬、容二彈百枚一、燃レ藥則彈齊出、遠去四五里、鳥銃所レ發、止於一彈、所レ中止於一人、中則傷レ人、不レ中則無二所レ傷矣一、一窩蜂、一發百彈、漫レ空散去、豈無二中傷者一乎、其力量眞可レ以爲二佛郎機之亞一、但佛郎機、器重難レ帶、一窩蜂、輕二於鳥銃一、以二皮條一綴レ之、一人可二佩而行一、戰時以二小鐵足一駕レ地、昂二其首一三四寸、蜂尾另用二一小木一、粧二釘地一止レ之、誠行營之利器也、若欲レ爲二坐營之用一、則以二木床一載二於營門一、床身左右、各置二一輪一、以便二進退一、可二以爲一守營之寶一。❸i¹ wo¹ fêng¹ 蜂の巢をつついたやうに、大勢の者がやかましく騷ぎ立てる。


蜂窩一(會圖オ三)

【一窩兒八代】2366 i¹ wo¹ ərh pa² tai⁴ 全家內の人。一門の人々。北京の方言。

泓、下視中州塵九點。 「横(1061)を見よ。

【一横】2378 イチワウ 或は横に連なる。連衡する。一縦一横。

【一横畫】2379 イチワウクワク 漢字の一つの横の畫。〔王羲之、題衞夫人筆陣圖後〕昔宋翼常作是書、翼是鍾繇之弟子、繇乃咄之、翼三年不敢見繇、卽潛心改迹、每作一波、常三過折筆、每作一點、常隱鋒而爲之、每作一橫畫、如列陣之排雲、每作一戈、如百鈞之弩發、每作一點、如高峯之墜石、屈折如鋼鉤、每作一牽、如萬歲枯藤、每作一放縱、如足行之趨驟。

【一惑】2381 イチワク 一つのまどひ。〔歸敬義、中〕元立三學、同傾一惑、爲宗。

【一椀】2382 イチワン 一つの椀。又、椀に一杯。一盌。〔白居易、自題新昌居止因招楊郎中小飮詩〕春風小榼三升酒、寒食深爐一椀茶。〔耶律楚材、西域從王君玉乞茶云云詩〕紅爐石鼎烹團月、一椀和香吸碧霞。〔宋書、劉湛傳〕一盌酒。

【一灣】2383 イチワン 一つの灣。一つの入江。〔張說、同趙侍御乾湖作詩〕一灣一浦悵邅廻、千曲千溠悦迷哉。〔范成大、安鄕縣西晚泊詩〕一灣村縣過、百折暮江遲。

【近一】2384 イツニチカヅク 月が太陽を追つて九十度に近くなるのをいふ。一は周天の四分の一。〔後漢書、律曆志下〕日月相推、日舒月速、云云、近一遠三、謂之弦。

【執一】2385 イツヲトル ❶一道を固守すること。擧一廢百(2650)を見よ。〔孟子、盡心上〕執中無權、猶執一也、所惡執一者、爲其賊道也。❷誠一の道を執り守る。〔呂覽、爲欲〕聖王執一、四夷皆至者、其此之謂也。〔管子、心術下〕執一之君子、執一而不失、能君萬物、日月之與同光、天地之與同理。〔淮南子、齊俗訓〕聖王執一而勿失、萬物之情既矣、四夷九州服矣。❸一事に熱中すること。〔顏氏家訓、省事〕古人云、多爲少善、不如執一。

【借一】2386 イツヲカル 一戰して最後の雌雄を決する。〔左氏、成、二〕請收合餘燼、背城借一。〔注〕欲於城下復借一戰也。

【寧一】2387 イツニヤスンズ 天下が一統せられて平和になる。〔史記、曹相國世家〕載其清淨、民以寧一。〔隋書、高祖紀上〕今區宇寧一、陰陽順序。

【抱一】2388 イツヲイダク 一を取り守る。一は道又は德をいふ。〔老子、二十二〕聖人抱一、爲天下式。〔新書、道術〕言行抱一、謂之眞。

【斂一】2389 イツヲヲサム 精神を統一する。〔江淹、丹砂可學賦〕凝虛斂一、守仙閉方。

【一攧紅】2390 イチエンコウ 牡丹の別名。〔歐陽脩、洛陽牡丹記、花釋名〕一攧紅者、多葉淺紅花、葉杪深紅一點、如人以手指攧之。

【一迦那】2391 イツカナ 一千六百刹那をいふ。迦那は梵語 kaṇā の音譯。刹那(**2**―**1967**‥5)を見よ。〔西陽雜俎、貝編〕一千六百刹那、爲一迦那、倍六十、名橫呼律多、倍三十、名爲一日夜。

【一校隊】2392 イツカウタイ 軍隊の一部隊。一支隊。一校之隊(2509)を見よ。

【一窖塵】2393 イツカウノチリ 千古の英雄も、最後は空しく同じ墓場の塵と化すること。窖は穴ぐら。〔海錄碎事、天、光景〕百年奇特幾張紙、千古英雄一窖塵、謝濤詩。

【一閑張】2394 イツカンバリ 美濃紙を張り合せ、其の上に漆をかけた細工物。京都の飛來一閑の創案にかかるといふ。

【一九錢】2395 i⁴ chiu³ ch'ien² 全體の數の一割だけ惡質の錢を混ぜて一さしとしたもの。

【一休沐】2396 イツキウモク 唐の制度で、官吏に十日每に沐浴の爲に與へられる一日の休暇。〔朱熹、示四弟詩〕十日一洗沐、諸生各歸休。〔淵鑑類函、政術部、休暇〕唐制、十日一休沐。

【一錦被】2397 イツキンピ 一枚の、錦の掛蒲團。〔輟耕錄、鴛衾〕孟蜀主一錦被、其闊猶今之三幅布、而一梭織成、被頭作二穴、若雲版樣、蓋以叩于項下、如盤領狀、兩側餘錦、則擁覆于肩、此之謂鴛衾也。

【一伙兒】2398 i⁴ huo³ êrh 一しよに。ひと組。

【一鍋麵】2399 イツクワメン 愚物。糊塗(バカ)の別名。宋の眞德秀(西山先生)が、紙幣下落、物價騰貴の對策として、先づ道學を尊崇せよと說いた時、時人は之を以て時務に切ならずとし、西湖の水全部を用ひて僅かに一鍋の麵を作る樣な愚策だと評した故事から出た語。麵は麪にも作る。〔癸辛雜識〕眞西山負一時重望、時楮輕物貴、民生頗艱、于是爲諺曰、若欲百物賤、直待眞直院、及入朝敷陳之際、首以尊崇道學爲義、愚民無知、乃以爲不切時務、復以俚語足前句云、喫了西湖水、打作一鍋麵。〔通俗編、飮食、一鍋麵〕按、一鍋麪、蓋謂糊塗。

【一快壻】2400 イツクワイセイ 善い壻。一人の、意にかなつた壻。〔北史、劉延明傳〕延明十四、就博士郭瑀、瑀弟子五百餘人、瑀有女始笄、妙選良偶、有心於延明、遂別設一席、謂弟子曰、吾有一女、欲覓一快女壻、誰坐此席者、吾當婚焉、延明遂奮衣而坐、神志湛然曰、延明其人也、瑀遂以女妻之。

【一掛錢】2401 i² kua⁴ ch'ien² 一さしに繫ぎ纒めた錢。錢一貫。

【一掛鐘】2402 i² kua⁴ chung¹ 一つの掛時計。

【一恍兒】2403 i⁴ huang³ êrh 一寸の間に。瞬間に。

【一奚童】2404 イツケイドウ 一人の、子供の召使。奚は召使。〔邵長蘅、夜遊孤山記〕從一奚童、登放鶴亭。

【一夾道】2405 i⁴ chia¹ tao⁴ 路次。よこみち。〔紅樓夢、四回〕西南又有一角門、通一夾道。

【一研齋】2406 イツケンサイ 清、沈荃(**6**―**17189**‥259)の號。

【一蹇人】2407 イツケンジン 一人のびつこ。〔後漢書、五行志一〕童謠曰、出吳門、望緹羣、見一蹇人。

【一後生】2408 イツコウセイ 若年の一學生。〔小學、善行〕中閒一後生應聲。

【一茶閒】2409 i⁴ ch'a² chien¹ 少しの閒。一茶頃。

【一茶頃】2410 イツサケイ 一椀の茶を飮むほどの短い閒。〔癸辛雜識〕天裂、凡一茶頃、乃合。

【一嗓子】2411 i⁴ sang³ tzŭ 一言。一句。ひと唄ひ。

【一錯眼】2412 i² ts'o⁴ yen³ 一寸の不注意から閒違をおこす。一寸眼を離せば閒違ふ。

【一紮線】2413 i⁴ cha² hsien⁴ ❶一括りの絲、又は線。❷物を上下するのに便利なやうに圓く繫いだ綱。

【一剗兒】2414 i⁴ ch'an³ êrh 少しの。〔長生殿、復召〕咱一剗兒粗疏、不解他十分的嬌殢。

【一市人】2415 イツシノヒト 町中の人。〔史記、淮陰侯傳〕一市人皆笑、信以爲怯。

【一私人】2416 イツシジン 法律上、國家又は其の統治機關に對して、其の統治を受ける各個人をいふ。

【一思案】2417 ヒトシアン ひと分別。ひと考へ。

【一篩雨】2418 イツシノアメ 一ふるひ程の雨。僅かばかりの雨。〔海錄碎事、天、雨〕數抹晚霞憐野笛、一篩寒雨羨沙禽、林逋詩。

【一七令】2419 イチシチレイ 詞牌の名。〔塡詞名解〕一七令、從一字至七字成調、始自唐人送白樂天席上指物爲賦。

【一斜坡】2420 i⁴ hsieh² p'o¹ 鐵道線路などの一二度の勾配、又は傾斜。

【一榭園】2421 イツシヤエン 清、孫星衍(**3**―**6987**‥459)の室名。

【一裝束】2422 イツシヤウゾク 甲冑に附屬する五つの品。卽ち、こて・はいだて・かぶと・はちまき・すねあての總稱。

【一障者】2423 イツシヤウシヤ 佛 人の本來具へてゐる無明(覺のさまたげとなるもの)を喩へていふ。〔瑜祇經、第七品〕時會中有一障者、不從空生、亦不從他方而來、忽然而現。

【一須臾】2424 イツシユユ 佛 一少時閒。一日一夜を三十須臾に算へる。一牟呼栗多(梵語 muhūrta の音譯)ともいふ。〔容齋三筆、瞬息須臾〕僧祇律云、二十念爲一瞬、二十瞬名一彈指、二十彈指名一羅預、二十羅預名一須臾、一日一夜、有三十須臾。

【一順邊】2425 i² shun⁴ pien¹ 唄役者が下の句を重ねて歌ふ調子。

【一神教】2426 イツシンケウ 唯一神を信奉する宗教。基督教・回回教の類。多神教(**3**―**5756**‥299)の對。

【一小劫】2427 イチセウコフ 佛 一つの小劫。一增又は一減の閒を一小劫といひ、又、一增と一減とを合せて一小劫といふ。小劫(**4**―**7473**‥447)を見よ。〔法華經、化城喩品〕諸佛法不現在前、如是一小劫、乃至十小劫。

【一小時】2428 i⁴ hsiao³ shih² 小半時。小一時閒。

【一少快】2429 イチセウクワイ 僅かばかりの心地よさ。〔史記、齊世家〕桓公許、與魯會柯而盟、魯將盟、曹沫以匕首劫桓公於壇上曰、反魯之侵地、桓公許之、已而曹沫去匕首、北面就臣位、桓公後悔、欲無與魯地而殺曹沫、管仲曰、夫

劫許レ之、而倍レ信殺レ之、愈二一少快レ耳、而弃二信於諸侯一、失二天下之援一、不可。

【一截子】2430 i⁴ chieh² tzŭ 一片。一つ。一切片。

【一綫進】2431 i² hsien⁴ chin⁴ 一列に進むこと。

【一翦梅】2432 i⁴ chien³ mei² 詞牌の名。一名、臘梅香・玉簫秋。又、曲牌の名。南曲では南呂宮引に入る。〔詞譜〕。

【一闡提】2433 i² ch'an³ t'i² 梵語 Icchantika の音譯。一闡提迦の略。闡提。〔涅槃經、五〕無信之人、名二一闡提一、一闡提者、名二不可治一。

【一送兒】2434 i² sung⁴ êrh 乘物などの片道。一往路。來回(1－581‥80)の對。

【一卽二】2435 i² chi² êrh 佛 一乘教は卽ち二乘教の意。

【一卽十】2436 i² chi² shih² 佛 一が十を含んでゐること。萬法が圓融無礙であること。一卽一切、一切卽一、一卽多、多卽一として用ひられる。〔五教章、中〕。

【一卽六】2437 i² chi² liu⁴ 佛 六根の中、一根が眞性に返れば、他の五根も解脫を得ること。〔楞嚴經、六〕一根既返レ源、六根成二解脫一。

【一多廬】2438 i² to¹ lu² 清、殷樹柏(6－16627‥163)の室名。

【一太陽】2439 i² t'ai⁴ yang 道士が一日の功德をしたこと。

【一抬頭】2440 i² t'ai² t'ou² ❶文章を書き始める最初の行を、一字上げて書くこと。抬頭(5－11910‥6)を見よ。❷一寸頭をもたげれば。

【一袋烟】2441 i² tai⁴ yen¹ 一服の煙草。煙管に一つめの煙草。

【一宕開】2442 i² tang⁴ k'ai¹ くわっと開く。

【一當レ十】2443 i² tang¹ shih² 一人で十人に敵する。〔戰國、齊策〕使二彼罷弊老弱守二於王一、必一而當レ十、十而當レ百、百而當レ千。〔漢書、項籍傳〕諸侯皆從二壁上一觀、楚戰士、無レ不二一當一レ十。〔魏志、典韋傳〕皆殊死戰、無レ不二一當一レ十。

【一當レ百】2444 i² tang¹ pai³ 一人で百人に敵する。〔後漢書、光武紀上〕諸將既經二累捷一、膽氣益壯、無レ不二一當一レ百。

【一檔子】2445 i² tang⁴ tzŭ 一組。

【一達子】2446 i² ta² tzŭ 一帖・二帖とまとまつた紙の類。

【一剳兒】2447 i² ta² êrh ひと束。ひと縛り。

【一單甲】2448 i² tan¹ chia³ 一重のよろひ。〔近古史談、豐篇、飯田覺兵衞〕然而所レ著、不レ過二一單甲一。

【一彈指】2449 i² t'an² chih³ 佛 指を一つはじくだけの短い時間。彈指とは、食指を大指と中指とでおさへ急に食指を外して音をたてること。敬虔を表はす。一須臾(2424)・彈指(4－9865‥42)を見よ。〔俱舍論〕壯士二彈指頃、六十五刹那。〔翻譯名義集〕二十念爲二一瞬一、二十瞬爲二一彈指一。〔白居易、禽蟲詩〕何異浮生臨レ老日、一彈指頃報二恩讎一。〔蘇軾、過二永樂文長老一已卒詩〕三過二門閭一「か。老病死、一彈指頃去來今。

【一丟兒】2450 i² tiu¹ êrh 少しばかり。極めて僅かの梁王山。東流して北に折れ、東北で伊甸河に會ひ、姚安縣に至つて金沙江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府、十二關長官司〕一泡江、在二司南一、波流湍急、自二歸山西一東、歷二司城南一、東北流入二姚安府界一、注二於金沙江一。

【一晝夜】2451 i² chou⁴ yeh⁴ 午前零時から午後十二時まで。〔六書故〕日、日出而晝、入而夜、故一晝夜謂二之一日一。〔和漢三才圖會、造釀類、經山寺未醬〕浸レ水一晝夜、取二出之一。

【一揲手】2452 i² shê² shou³ 佛 長さの單位。中指と大指とを張っただけの長さ。揲は、磔・折等にも作る。一張手。〔行事鈔、中〕佛揲手、尺量不レ定、今總二會諸部一、校二勘是非一、僧祇佛揲手、長二尺四寸、明了論同レ之、善見云、中人三揲手長、佛一揲手、多論云、佛一揲手、凡人一肘半五分、佛揲手長二尺。〔資持記〕揲子當レ從レ石、張也、謂二拇指・中指相去一爲レ磔。

【一磔手】2453 i² che² shou³ 佛 一揲手に同じ。❷指で度る程の一小地域。ひと量り。

【一吊錢】2454 i² tiao⁴ ch'ien² 穴あき錢の一つなぎ。一緡錢。地方によつて、つなぐ數に夫々定數がある。

【一釣翁】2455 i² tiao⁴ wêng¹ 釣絲を垂れる一人の老人。〔篠崎小竹、嵐山雨景詩〕煙雲變幻山奇絶、付與橋頭一釣翁。

【一釣竿】2456 i² tiao⁴ kan¹ 一本のつりざを。〔伊藤仁齋、題二詩箋畫漁父一詩〕長把二巖頭一釣竿一、龐眉白髮暮江寒。

【一敵國】2457 i² ti² kuo² 我に匹敵する一國。轉じて、勢力の盛な者にもいふ。〔史記、游俠、朱家傳〕幸相得之、若得二一敵國一云。〔後漢書、吳漢傳〕吳公差強二人意一、隱若二一敵國一矣。

【一疊生】2458 i² tieh² shêng¹ 紙又は書類などの一かさね。ひと積。

【一都會】2459 i² tu¹ hui⁴ 一つの都會。〔國朝畫評、敍〕至二成弘嘉靖間一、復鍾二於吾郡一、名流輩出、竟成二一都會一矣。

【一嘟嚕】2460 i² tu¹ lu¹ ❶一房。一つながり。❷一つぶやき。

【一禿翁】2461 i² t'u¹ wêng¹ 一人の頭のはげた人。〔漢書、灌夫傳〕怒曰、與二長孺一共二一禿翁一、何爲二首鼠兩端一。

【一禿河】2462 i² t'u¹ ho² 河の名。伊通河。伊通(1－432‥97)を見よ。

【一禿乘】2463 i² t'u¹ ch'êng² 佛 功德の具はらぬ佛道を斥けていふ語。〔止觀、七、下〕祇一禿乘、無二一法門具度一。

【一讀會】2464 i² tu² hui⁴ 原案に對する第一回の討議會をいふ。

【一捻金】2465 i² nien³ chin¹ ❶藥の名。風邪などの特效藥。〔本草、假蘇〕發明、時珍曰、荊芥入二足厥陰經氣分一、其功長下於祛二風邪一、散二瘀血一、破二結氣一、消中瘡毒上、蓋厥陰乃風木也、主レ血而相火寄レ之、故風病・血病・瘡病爲二要藥一、其治レ風也、賈丞相稱爲二再生丹一、許學士謂有二神聖功一、戴院使評爲二產後要藥一、蕭存敬呼爲二一捻金一。❷菓子の名。黃色のねぢり菓子。

【一捻紅】2466 i² nien³ hung² ❶牡丹花の一種。楊家紅ともいふ。後、詞曲の名となる。〔全芳備祖〕唐明皇時、有下獻二牡丹一者上、時貴妃匀レ面、口脂在レ手、印二于花上一、詔栽二于仙春館一、來歲花開、瓣有二指印一、名爲二一捻紅一。〔事物紀原、草木花果部、一捻紅〕今牡丹中有二一捻紅一、其花葉紅、每二一花葉一、端有二深紅一點一、如二半指一、明皇時、民有下以二此花一上進者上、値二妃子正作レ粧、偶以二粧指一捻レ之、燕脂之痕染焉、植レ之、明年花開、俱有二其迹一、亦見二明皇雜錄一也。❷山茶花の一。〔羣芳譜、山茶〕有二雲茶・磬口茶・茉莉茶一、一捻紅・照殿紅一。

【一背拉】2467 i² pei⁴ la¹ 一緒にまぜて。こみにして。

【一排子】2468 i² p'ai² tzŭ 一荷。いつか。

【一泡江】2469 i² p'ao⁴ chiang¹ 河の名。源は雲南省祥雲縣の北の梁王山。東流して北に折れ、東北で伊甸河に會ひ、姚安縣に至つて金沙江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府、十二關長官司〕一泡江、在二司南一、波流湍急、自二歸山西一東、歷二司城南一、東北流入二姚安府界一、注二於金沙江一。

【一幫船】2470 i² pang¹ ch'uan² 一隊の船。

【一不幸】2471 i² pu² hsing⁴ 一人の罪のない者。〔孟子、公孫丑上〕行二一不義、殺二一不幸一、而得二天下一、皆不レ爲也。

【一浮漚】2472 i² fu² ou¹ 一つの浮いたあわ。人身のはかない喩。〔楞嚴經、二〕譬如下澄清百千大海弃レ之、唯認二一浮漚一上、鈍目爲二金潮一、窮二盡瀛渤一。

【一蚨錢】2473 i² fu² ch'ien² 一つなぎの青銅錢。一緡の錢。

【一標貨】2474 i² piao¹ huo⁴ ひとつ口の商品。ひと手の品。同じ向きの商品。一路貨(2338)に同じ。

【一標兵】2475 i² piao¹ ping¹ 一隊の兵。一聯隊。

【一眨眼】2476 i² cha² yen³ ひとまたたきする。瞬間。

【一蒲菴】2477 i² p'u² an¹ 清、闇修齡(11－41379‥73)の號。

【一捧雪】2478 i² p'êng³ hsüeh³ 玉杯の名。又、傳奇小說の名。清、李元玉作。明に莫懷古といふ者があつて、一捧雪と名づける玉杯を秘藏してゐたが、嚴世蕃がこれを手に入れようとして、大獄を興したといふ小說。莫懷古は王杼を指す。〔劉廷璣、在園雜誌〕有下曾見二玉杯一捧雪一者上、氣魄甚大、情色俱美。

【一蓬風】2479 i² p'êng² fêng¹ 遮二無二進むこと。

【一磨兒】2480 i² mo² êrh 一度。一回。

【一微塵】2481 i² wei² chên² 佛 それ以上分解出來ぬ最小限度の物質。〔首楞嚴經、三〕猶二彼十方虛空之中、吹二一微塵一、若存若亡。〔白居易、禽蟲詩〕一微塵內闢二英雄一。〔問疑新話、佛老類、韓退之闢二佛老一〕三千大千世界、藏在二一微塵一。

【一迷地】2482 i² mi² tê まつしぐらに。委細構はず一直線に。一迷的。

【一迷的】2483 i² mi² tê いちづに。もつぱら。一迷

地。一味。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕小孩兒家、口沒遮攔、一迷的將言語摧殘。

【一由旬】2484 イチユジユン　佛里程の單位。由旬は梵語 yojana の音譯。支那里の四十里・八十里・三十里・十六里とする諸説がある。由旬(**7—21724**‥22)を見よ。〔法華經〕菩提樹下、敷ニ師子座一、高一由旬。

【一與レ一】2485 イツアタルイツニ　❶一人が一人に敵對する。一對一。〔左氏、襄、二十五〕鮮虞曰、一與レ一、誰能懼レ我。❷ i¹ yü³ i¹　差し向ひ。二人きり。

【一與一奪】2486 イチヨイチダツ　或る時は與へ、或る時は奪ふ。與は一に予に作る。〔左氏、成、八〕詩曰、女也不レ爽、士貳ニ其行一、士也罔レ極、二ニ三其德一、七年之中、而一與一奪、二ニ三孰甚レ焉。〔六韜、龍韜、奇兵〕一喜一怒、一與一奪、一文一武、一徐一疾者、所下以調ニ和三軍一、制中一臣下上也。

【一輿羽】2487 イチヨウ　車一杯につんだ多くの鳥の羽。〔孟子、告子下〕金重ニ於羽一者、豈謂下一鉤金與ニ一輿羽一之謂上哉。

【一庸夫】2488 イチヨウフ　一人の平凡な人。なみの人。〔阪田警軒、日本刀説〕揚揚然橫ニ三尺秋水一、一庸夫當レ前焉、強夫則悍然抗レ之、懦夫則戰栗避レ之。

【一羅預】2489 イチラヨ　佛一少時間。須臾よりも更に短い時間。〔容齋三筆、瞬息須臾〕僧祇律云、二十念爲ニ一瞬一、二十瞬名ニ一彈指一、二十彈指名ニ一羅預一、二十羅預名ニ一須臾一、一日一夜、有ニ三十須臾一。

【一絡索】2490 イチラクサク　一落索(2260)の❶に同じ。

【一攔詞】2491 イチランシ　一つの言ひぬけのことば。〔福惠全書、刑名部、人命上、總論〕僅以ニ一攔詞一了レ事。

【一利咥】2492 イチリキ　複姓。〔唐書、回鶻下、薛延陁傳〕薛延陁、姓一利咥氏。

【一犁雨】2493 イチリノアメ　田地を耕すに程よい雨。犁は耕作に用ひるすき。〔蘇舜欽、田家詩〕山邊夜半一犁雨、田父高歌待ニ歲穫一。〔徐積、和ニ張文潛晚春一詩〕恰得ニ一犁雨一、田事正火急。

【一綹線】2494 i⁴ liu³ hsien⁴　一束の絲。絲十本一束。

【一亮子】2495 i² liang⁴ tzŭ　一營五百人の兵士。

【一亮兵】2496 i² liang⁴ ping¹　一亮子に同じ。

【喫ニ一驚一】2497 イツキヤウヲキツス　びつくりする。〔水滸傳、楔子〕大尉見了、又喫ニ一驚一。

【無ニ一可一】2498 イツノカナルナシ　一つとして取りどころがない。〔史記、司馬相如傳〕章ニ君之惡一、而傷ニ私義一、二者無ニ一可一、而先生行レ之。〔後漢書、朱穆傳〕如レ此、僕亦無ニ一可一耶。

【一以貫レ之】2499 イツモツテコレヲツラヌク　一理を以つて萬事を貫くこと。一貫(431)の❶を見よ。〔論語、里仁〕子曰、參乎、吾道一以貫レ之。

【一依ニ舊準一】2500 イツニキウジユンニヨル　亡官・失爵・禁錮・奪勞などに處せられた人々が、すべて大赦令によつて赦されて、もとの身分に復歸せしめられること。〔補宋書、刑法志〕長徒之身、特皆原遣、亡官・失爵・禁錮・奪勞、一依ニ舊準一。

【一有一无】2501 イチイウイチム　あつたり、なかつたり。〔易、乾、乾道變化、疏〕化、謂ニ一有一无忽然而改一、謂レ之爲レ化。

【一陰一陽】2502 イチインイチヤウ　天地間にある陰と陽との二氣。又、或は陰となり、或は陽となる。〔易、繫辭上〕一陰一陽之謂レ道、繼レ之者善也、成レ之者性也。〔楚辭、九歌、大司命〕壹陰兮壹陽、衆莫レ知ニ兮余所一レ爲。〔太玄經、玄圖〕一陰一陽、然後生ニ萬物一。〔班固、答賓戲〕一陰一陽、天地之方。

【一韻到底】2503 イチキンタウテイ　古詩韻法の一格。全篇を通じて一韻を用ひるものをいふ。〔王士禛、古詩平仄論〕。

【一盈一虛】2504 イチエイイツキヨ　或は盈ち、或は虛しい。〔六韜、文韜、盈虛〕文王問ニ太公一曰、天下熙熙、一盈一虛、一治一亂、所ニ以然一者、何也。

【一榮一落】2505 イチエイイチラク　一たびは榮え、一たびは衰へる。一榮一枯。〔菅家詩文集〕驛長莫レ驚時變改、一榮一落是春秋。

【一偃一仰】2506 イチエンイチギヤウ　或はふし、或はあふぐ。〔輟耕錄、寫山水訣〕大槩樹要ニ塡空一、小樹大樹、一偃一仰。

【一鹽基酸】2507 イチエンキサン　化學用語。金屬と置換し得る水素原子一箇を有する酸。鹽酸・硝酸など。一鹽基性酸。

【一階半級】2508 イツカイハンキフ　低い官位。小役人。一資半級。〔顏氏家訓、勉學〕或因ニ家世餘著一、得ニ一階半級一、便謂レ爲レ足。〔北史、序傳、涼仲擧傳〕仲擧曰、吾性本疏惰、少無ニ宦情一、豈以ニ垂老之年一、求ニ一階半級一。

【一校之隊】2509 イツカウノタイ　軍隊の一部隊。一支隊。〔魏志、陳思王植傳〕西屬ニ大將軍一、當ニ一校之隊一。〔曹植、求ニ自試一表〕使レ得下西屬ニ大將軍一、當中一校之隊上。

【一稿同畫】2510 i⁴ kao³ t'ung² hua⁴　一通の文書を、審查員が各〻檢閱して署名すること。

【一盒官粉】2511 i⁴ hê² kuan¹ fen³　一箱の白粉。

【一闔一闢】2512 イツカフイチビヤク　或は閉ぢ、或は開く。〔易、繫辭上〕一闔一闢、謂ニ之變一。〔晉書、郭璞傳〕一闔一開、兩儀之跡、一冲一溢、懸象之節。

【一乾二淨】2513 i⁴ kan¹ êrh⁴ ching⁴　少しも殘らず綺麗に。きれいさつぱりと。

【一閑一忙】2514 イツカンイチバウ　忙しかつたり、閑であつたり。〔白居易、寄ニ揚六一詩〕一閑復一忙、動作經レ時隔。〔桃花扇、餘韻〕江山江山、一忙一閑。

【一揮而就】2515 イツキニシテナル　一たび筆を揮へば、忽ち文が出來上る。詩や文章が速かに出來上ること。〔摭言〕王璘題ニ鳥散餘花落詩三十首一、援レ毫而就、時風雨暴至、數幅爲ニ廻飈所一レ卷、泥滓霑漬、不レ勝レ舒レ卷、璘曰、勿レ取、但將レ紙來、縱レ筆一揮、斯須復十餘篇。〔宋史、文天祥傳〕天祥以ニ法レ天不レ息爲レ對、其言萬餘、不レ爲レ藁、一揮而成、帝親拔爲ニ第一一。

【一貴一賤】2516 イツキイツセン　❶身分が尊くなつたり、賤しくなつたりする。〔漢書、鄭當時傳〕一貧一富、迺知ニ交態一、一貴一賤、交情迺見。〔李白、中山孺子妾歌〕一貴復一賤、關レ天豈由レ身。❷物價が上つたり、下つたりする。〔論衡、變動〕穀價低昂、一貴一賤矣。

【一跪三叩】2517 イツキサンコウ　清朝の敬禮法。一たびひざまづいて三たび頭を地につける禮。〔淸會典事例、太常寺、禮節〕太常寺卿、率ニ屬分一、詣ニ皇穹宇及兩廡一、各行ニ一跪三叩禮一。

【一跪三拜】2518 イツキサンパイ　淸朝の敬禮法。一たびひざまづいて三たび拜する禮。〔淸會典事例、太常寺、禮節〕贊引對引、恭導ニ皇帝一、入ニ黃幄左門一、詣ニ神位前一、行ニ一跪三拜禮一。

【一饋七起】2519 イツキニナナタビタツ　一度の食事中に七たびも席を起つ。夏の禹王が士を迎へるのに熱心であつた故事。一饋十起に同じ。〔新論、誡盈〕夏禹一饋而七起、周公一沐而三握レ髮。

【一饋十起】2520 イツキニトタビタツ　一度の食事をする間に十たびも席を起つ。夏の禹王が士を迎へるのに熱心であつた故事。一饋七起。〔鬻子、上禹政〕禹嘗據ニ一饋一而七十起、日中而不レ暇ニ飽食一。〔淮南子、氾論訓〕禹之時、以ニ五音一聽レ治、云云、當ニ此之時一、一饋而十起、一沐而三捉レ髮、以勞ニ天下之民一。

【一夔已足】2521 イツキステニタル　事を爲すには、專門の人一人あれば足りる。又、人間は、缺點は多くても、一つの取り柄があれば足りる。夔は堯舜時代の樂正の名。〔韓非子、外儲說左下〕魯哀公問ニ於孔子一曰、吾聞、古者有レ夔、一足、其果信有ニ一足一乎、孔子對曰、不也、夔非ニ一足一也、夔者忿戾惡心、人多不ニ說喜一也、雖レ然、其所ニ以得一レ免ニ於人害一者、以ニ其信一也、人皆曰、獨此一足矣、夔非ニ一足一也、一而足也、云云、一曰、哀公問ニ於孔子一曰、吾聞、夔一足、信乎、曰、夔、人也、何故一足、彼其無ニ他異一、而獨通ニ於聲一、堯曰、夔一而足矣、使レ爲ニ樂正一、故君子曰、夔有レ一足、非ニ一足一也。〔呂覽、察傳〕魯哀公問ニ於孔子一曰、樂正夔一足、信乎、孔子曰、昔者舜欲ニ以レ樂傳ニ教於天下一、乃令下重黎擧ニ夔於草莽之中一而進上レ之、舜以爲ニ樂正一、夔於レ是正ニ六律一、和ニ五聲一、以通ニ八風一、而天下大服、重黎又欲ニ益求一レ人、舜曰、云云、夔能和レ之、以平ニ天下一、若レ夔者、一而足矣、故曰、夔一足、非ニ一足一也。〔後漢書、曹褒傳〕昔堯作ニ大章一、一夔足矣。〔周必大、辭免ニ兼脩國史一奏狀〕作レ樂以ニ一夔一而足、所レ貴專門。

【一牛吼地】2522 イチギウコウチ　一匹の牛の鳴聲のとどく程の地域。一牛鳴地。〔翻譯名義集、數量〕拘盧舍、此云ニ五百弓一、亦云ニ一牛吼地一、謂ニ大牛鳴聲所ニ極聞一。

【一牛鳴地】2523 イチギウメイチ　一牛吼地に同じ。〔五車韻瑞〕佛書云、以ニ一牛鳴地一、爲ニ去五里一。〔王維、與ニ

蘇盧二員外二云云詩)廻看雙鳳闕、相去一牛鳴。

【一鞠躬禮】2524 i¹ chü² kung¹ li³ 民國元年に公布された禮制。上半身を前方に一度曲げる敬禮法。公宴・公禮式、並に通常の慶弔・交際・宴會に用ひる。三鞠躬禮(1‥12‥1944)を見よ。

【一琴一鶴】2525 イツキンイツカク 一張の琴と、一羽の鶴。官吏の清廉な喩。宋の趙抃の故事。(宋史、趙抃傳)匹馬入蜀、以二琴一鶴一自隨。

【一九之教】2526 イチクノオシヘ 佛阿彌陀如來の教。行業の差別に由つて、彌陀の淨土に九品の往生を得るといふ教。(迦才淨土論、上)二八弘規、盛乎西土、二九之教、陵二遲東夏一。

【一九之生】2527 イチクノショウ 佛彌陀淨土門で說く九品淨土往生。二八之觀の對。二八(1‥247‥919)の七を見よ。(迦才淨土論、上)二八之觀齊闇、一九之生回歸。

【一詘一信】2528 イックツイッシン 縮めたり、伸したり。一屈一伸。一縮一伸(25711)を見よ。(韓詩外傳、九)及二其升一於高一詘一信。

【一瓜共食】2529 イックワトモニクラフ 北齊の蘭陵王長恭が、將士を愛して一瓜でも之を分けて共に食つたといふ故事。(北史、齊宗室諸王下、蘭陵武王長恭傳)蘭陵王長恭爲レ將、躬勤二細事一、每レ得二甘美一、雖二一瓜數果一、必與二將士一共レ之。

【一瓦之覆】2531 イチガノオホヒ 一枚の瓦で覆つた家。見すぼらしい家。小さい家。(歐陽脩、瀧岡阡表)無二一瓦之覆、一壠之植一、以庇而爲レ生、吾何恃而能自守耶。

【一掛椽子】2532 i² kua⁴ ch'uan² tzŭ 一本のたるき。

【一晦一明】2533 イックワイイチメイ 夜と晝とが、交互に暗くなり、明るくなる。(莊子、田子方)消息滿虛、一晦一明、日改月化。(淮南子、兵略訓)一晦一明、孰知二其端緒一。

【一光三尊】2534 イチクワウサンゾン 佛と其の二侍者とを合せて三體の影像を彫刻し、又は畫き出したものをいふ。釋迦三尊、彌陀三尊等をいふ。(雜談集、十)一光三尊月蓋が家に現じ給ふ。

【一攫千金】2535 イッカクセンキン 一つかみに千金の利益を得る。ぬれ手で粟。冒險の手だてで、一時に大儲けをすること。

【一冠三載】2536 イックワンサンサイ 一つの冠を三年間用ひること。梁の武帝が儉約を守つた故事。(南史、梁武帝紀)身衣二布衣一、木綿皁帳、一冠三載、一被二年。

【一薰一蕕】2537 イックンイチイウ 薰は香草、蕕は臭草。此の兩草を一緒に置けば、善いかをりは失せて、惡臭だけが殘つて久しく消えぬ。善事は消え易く、惡事は除き難い喩。又、善人の勢力は惡人に及ばぬ喩。惡貨、良貨を逐ふ。(左氏、僖、四)卜人曰、筮短龜長、不レ如レ從レ長、且其繇曰、專之渝、攘二公之羭一、一薰一蕕、十年尙猶有レ臭。(注)薰、香草、蕕、臭草也、十年有レ臭、言二善易レ消、惡難レ除。

【一傾積愫】2538 i¹ ch'ing² chi¹ su⁴ 專ら久濶の情をのべる。積る思ひをはらす。愫はまこと。書翰文用語。

【一撅兩截】2539 i¹ chüeh² liang³ chieh² 二つ折りにする。折り返し。折つて二つにする。

【一謙四益】2540 イッケンシエキ 一つの謙遜は、天地神人の四者からの益を招く。(漢書、藝文志)易之嗛嗛、一謙而四益。(注)師古曰、四益、謂二天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙也、此謙卦彖辭。(後漢書、梁節王暢傳)一日克レ己復レ禮、天下歸レ仁、王其安レ心靜意、茂率二休德一、易不レ云乎、一謙而四益。

【一謙四益閣】2541 イッケンシエキカク 清、史善長(2‥3249‥238)の室名。

【一五一十】2542 i¹ wu³ i¹ shih² 一から十まで。始めから終りまで。一五は一伍とも書く。一部始終。

【一黑早兒】2543 i¹ hei¹ tsao³ êrh 未明の頃。

【一茶一房】2544 i¹ ch'a² i² fang² 家屋を借り入れる時に、別に一個月分の家賃を家主に與へること。敷金一つ。茶錢(9‥30915‥126)の㊁の㊂を見よ。

【一筌牙齒】2545 イッサガシ 杭州で一家内の人數をいふ語。牙齒の數で人數を表はす。(白獺髓、杭州流俗)行都人、語言無レ實、尤可レ誚、如下語二年甲一則曰二年未一、語二居止一則曰二只在一前面一、語二家口一則曰中一筌牙齒上。范成大、淨慈顯老爲二衆行化一詩)擔負一筌牙齒債、鐘鳴鼓響幾時休。

【一妻一妾】2546 イッサイイッセフ 一人の妻と、一人のめかけ。士は一妻一妾。(孟子、離婁下)齊人有二一妻一妾而處一室者。(獨斷)士、一妻一妾。

【一妻多夫】2547 イッサイクフ 一人の婦人が同時に多くの夫を有つこと。此の風習は、西藏・印度の納亞族の間に行はれてゐる。

【一猜便著】2548 i¹ ts'ai¹ pien⁴ chao² 推量しめへすれば當てられる。推察出來る。

【一材一藝】2549 イチザイイチゲイ 一事にすぐれた才能と、一藝にひいでた技量。(論語、爲政、君子不レ器、集注)非二特爲一材一藝一而已一。

【一想情願】2550 i¹ hsiang³ ch'ing² yüan⁴ 道理の如何を問はず、ただ自分の願ひのみを主張して、他人の思惑の如何を考へないこと。

【一臧一否】2551 イチザウイッピ 或は吉、或は凶。(左氏、昭、五)國之守龜、其何事不レ卜、一臧一否、其誰能常レ之。

【一錯二誤】2552 i² ts'uo⁴ êrh⁴ wu⁴ 一も誤り二も間違ひ。まちがいだらけ。

【一殺多生】2553 イッサツタシャウ 佛衆人を生かす爲に一人を殺すこと。一人を犧牲にして衆を生かす。(報恩經、七)有二婆羅門子一、聽明黠慧、受二持五戒一、護二持正法一、婆羅門子、緣レ事他行、有二五百人一共爲二徒侶一、前至二嶮路一、五百羣賊、常住二其中一、賊主密遣二一人一、歷二伺諸伴一、應レ時欲レ發、爾時賊中復有二一人一、先與二是婆羅門子一、親善知識、故先來告語、爾時婆羅門子、聞二此語一已、譬如二人噎一、既不レ得レ咽、又不レ得レ吐、欲レ告二語伴一、懼二畏諸伴一害二此一人一、若害二此人一、懼二畏諸伴沒一二惡道一、受二無量苦一、若默然者、賊當レ害レ伴、若害二諸伴一、賊墮二三惡道一、受二無量苦一、作是念已、我當設二大方便一、利二益衆生一、三惡道苦、是我所レ宜、思二惟是一已、卽便持レ刀斷二此賊命一、使二諸同伴安隱無一爲一。

【一酸鹽基】2554 イッサンエンキ 化學用語。一分子中に水酸鹽基一個を有する鹽基。苛性ソーダなど。一酸性鹽基。

【一酸化鉛】2555 イッサンクワエン 黃褐色或は黃赤色の鉛の粉末。硝子・蓄電池の製造などに用ひる。一氧化鉛。

【一市通脈】2556 i² shih⁴ t'ung¹ mo⁴ 取引。

【一弛一張】2557 イッシイッチャウ 一度はゆるめ、一度は張る。或は寬にし、或は嚴にする。緊張弛緩。(禮、雜記下)一張一弛、文武之道也。

【一視同仁】2558 イッシドウジン 誰彼の差別なく、人類をも禽獸をも平等に愛すること。(韓愈、原人)聖人一視而同仁、篤二近而舉一遠。

【一資半級】2559 イッシハンキフ 低い官位。小役人。一階半級(2508)に同じ。(柳氏家訓)急二於名宦一、懸二近權要一、一資半級、雖レ或得レ之、衆怒羣猜、鮮レ有二存者一。

【一識外道】2560 イッシキゲダウ 佛人の魂が、眼・耳・鼻・舌・身・意の六根を通して外境に接觸すること。(行事鈔、下)一識外道、如二一室六扇獼猴遍歷一、根亦如レ是、一識外道遊。

【一質一文】2561 イッシツイッブン 或は質樸、或は華奢。上代に、王朝の交替に伴つて禮制が改定せられる時、前の王朝が質に重きを置けば、次の王朝は文に重きを置くといふやうに、質と文とが交替して行はれること。例へば、夏は文を尙び、殷は質を尙び、周は文を尙んだ。(史記、平準書)一質一文、終始之變也。(春秋繁露、三代改制質文)王者以制二商一、夏一質一文、商質者主レ天、夏文者主レ地。(白虎通、三正)王者必一質一文者何、以承二天地一、順二陰陽一。

【一質一文一衰一盛】2562 イッシツイッブンイッスイイッセイ 世に文質の變化、又盛衰興亡の變化のあること。一質一文。(論衡、齊世)夫器業變易、性行不レ異、然而有二質朴文薄之語一者、世有二盛衰一、衰極久有レ弊也、譬猶二衣食之於一人也、初成二鮮完一、始熟二香潔一、少久穿敗、連日臭茹矣、文質之法、古今所レ共、一質一文、一衰一盛、古而有レ之、非二獨今一也。

【一汁一菜】2563 イチジフイッサイ 汁物一品と菜一品との、儉素な食事をいふ。(甲陽軍鑑、五)大身小身共に、一汁一菜の事。

【一者二來】2564 i⁴ che³ êrh⁴ lai² 一來二來(2252)に同じ。

【一射之地】2565 イッシャノチ 二支里(約十町餘)の距離に在る地。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕可ㇾ按ㇾ甲束ㇾ兵、退ニ一射之地ニ。

【一床褥子】2566 i⁴ ch'uang² ju⁴ tzŭ 一組の敷蒲團。敷蒲團一人分。

【一商一夏】2567 イッショウ 一質一文(2561)に同じ。〔說苑、脩文〕商者常也、常者質、質主ㇾ天、夏者大也、大者文也、文主ㇾ地、故王者ニ商ニ夏、再而復者也。

【一漿十餅】2568 イッショウジッペイ 僅かな飲食物。僅かな利益の喩。〔唐書、李師道傳〕大將崔承度獨進曰、公初不ㇾ示ニ諸將腹心ニ而今委以ニ兵、此皆嗜ㇾ利者、朝廷以ニ一漿十餅ニ誘ㇾ之、卽去矣。

【一觴一詠】2569 或は酒を飲み、或は詩を賦す。觴はさかづき。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕雖ㇾ無ニ絲竹管絃之盛ニ、一觴一詠、亦足ニ以暢ニ敍幽情ニ。〔陸游、丁未除夕前二日休假感懷詩〕新歲定尋林下約、一觴一詠ㇾ成ㇾ疎。

【一娶九女】2570 イッシュキュウジョ 古昔、諸侯は一度に九女を娶った。諸侯が一國から夫人を娶ると、他の二國から之に媵を送り、更に夫人並に媵には、夫々の姪娣が從ふから、合計九人となる。〔詩、大雅、韓奕、傳〕諸侯一娶九女、二國媵ㇾ之。〔公羊、莊、十九〕媵者何、諸侯娶ニ一國ニ則二國往媵ㇾ之、以ニ姪娣ニ從、姪者何、兄之子也、娣者何、弟也、諸侯含聘九女、諸侯不ニ再娶ニ。〔白虎通、嫁娶篇〕天子諸侯、一娶九女者何、重ニ繼傳ニ繼嗣ニ也。

【一縮一伸】2571 イッシュクイッシン 縮めたり、伸したり。一詘一信。〔埤雅〕今人布ㇾ指求ㇾ尺、一縮一伸、如ニ蠖之步ニ謂ニ之尺ニ。

【一順百順】2572 i² shun⁴ po² shun⁴ ❶何もかも萬事好都合に運ぶこと。❷お目出度うございます。商人の新年挨拶用語。

【一徐一疾】2573 イチジョイッシツ 或は徐にし、或は疾くする。〔六韜、龍韜、奇兵〕一喜一怒、一與一奪、一文一武、一徐一疾者、所下以調ニ和三軍一制中一臣上也。

【一勝一敗】2574 イッショウイッパイ 勝つたり、負けたり。一勝一負に同じ。〔梅堯臣、觀ニ何君寶畫ニ詩〕一勝一敗又苦似、勝者狠逐敗者趨。

【一勝一負】2575 イッショウイップ 勝つたり、負けたり。一勝一敗。〔孫子、謀攻〕知ㇾ彼知ㇾ己者、百戰不ㇾ殆、不ㇾ知ㇾ彼而知ニ己ニ、一勝一負、不ㇾ知ㇾ彼不ㇾ知ニ己ニ、每ㇾ戰必殆。〔唐書、裴度傳〕一勝一負、兵家常勢。

【一進一退】2576 イッシンイッタイ 或は進み、或は退く。〔荀子、修身〕一進一退、一左一右、六驥不ㇾ致。〔管子、霸言〕令ニ兵一進一退者、權也。

【一垂花門】2577 i⁴ ch'uei² hua¹ men² 上の桁ケタに唐草模様の彫刻のしてある門。一つの唐草門。〔紅樓夢、二回〕衆婆子步下園隨、至ニ一垂花門前ニ落下。

【一錘買賣】2578 i⁴ ch'uei² mai³ mai 今回限りの取引。これが最後の取引。

【一西一東】2579 イッセイイットウ 或は西し、或は東する。〔莊子、天運〕風起ニ北方ニ、一西一東、有ニ上彷徨ニ、執噓ニ吸是ニ、執居ニ無事ニ、而披ニ拂是ニ。

【一西居士】2580 イッセイコジ 清、張師誠(4—9812‥112 6)の號。

【一哨人馬】2581 i² shao⁴ jen² ma³ 小部隊の兵。

【一橈青翰】2582 イチセウノセイカン 一艘の小舟。青翰は青い鳥の羽で、小舟に譬へる。〔海錄碎事、服用、舟〕山下花明水上嚬、一橈青翰破ニ霞文ニ〔陸龜蒙詩。

【一綫之溜】2583 イッセンノリウ 絲一筋ほどの雨だれ。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕稽ㇾ天之瘵、不ㇾ能ニ終朝ニ而一綫之溜、可ニ以達ニ石者ニ一與ㇾ不ㇾ一故也。

【一祖三宗】2584 イッソサンソウ 作詩上、祖宗と仰ぐべき、杜甫(一祖)と黃庭堅・陳師道・陳與義(三宗)とをいふ。元の方回が其の著瀛奎律髓に於て倡へた說。〔四庫提要、集、瀛奎律髓〕大旨排ニ西崑ニ而主ニ江西ニ、倡爲ニ一祖三宗之說ニ、一祖者杜甫、三宗者、黃庭堅・陳師道・陳與義也。

【一措一畫】2585 イッソイッカク 一點一畫(1676)に同じ。〔愼思錄〕雖ニ造次顚沛間ニ、一措一畫、必如ニ法度ニ。

【一促一成】2586 i² ts'u⁴ i⁴ ch'eng² 急いで仕上げさせる。急いで一ぺんに捺へ上げさせてしまふ。一促而成。

【一卽一切】2587 イッソクイッサイ 倆一つが卽ち一切。一卽十(2436)を見よ。〔華嚴經、九〕一切中知ㇾ一、一中知ニ一切ニ。

【一續一離】2588 イチゾクイチリ 或は續き、或は離れる。〔成公綏、雲賦〕繁縟成ㇾ文、一續一離、或繡文錦章、依ㇾ微要妙。

【一抬夯兒】2589 i⁴ t'ai² hang¹ êrh 一同が力を協せて努める。北京の俗語。

【一替一興】2590 イッタイコウ 或はすたれ、或はおこる。〔晉書、摯虞傳〕陽降陰升、一替一興、流而爲ㇾ川、滯而爲ㇾ陵。

【一第溷子】2591 イチダイコンシ 官吏登用試驗に優等の成績で及第した秀才。溷は一に圂に作る。〔唐書、元結傳〕結擧ニ進士ニ、禮部侍郎楊浚見ニ其文ニ曰、一第圂子耳、有司得ㇾ子是賴、果擢ニ上第ニ〔稱謂錄、進士、一第溷子〕山堂肆考、人才登ニ高第ニ者、稱ニ一第溷子ニ。

【一塌糊塗】2592 i² t'a⁴ hu² t'u ひと崩れして亂雜となる。失敗して手の施しやうがない。

【一短一長】2593 イッタンイッチャウ 或は短く、或は長い。長所もあれば、短所もある。一存一亡(1399)を見よ。〔論衡、無形〕龍之爲ㇾ蟲、一存一亡、一短一長。

【一治一亂】2594 イッチイラン 或は治まり、或は亂れる。〔孟子、滕文公下〕天下之生久矣、一治一亂。〔越絕書、越絕外傳枕中〕三千五百歲、一治一亂、終而復始。

【一知半解】2595 イッチハンカイ なまものしり。半可通。〔滄浪詩話、詩辯〕有ニ透徹之悟ニ、有ニ但得ニ一知半解之悟ニ。〔唐宋詩醇、蘇軾、洵乎獨立千古、非ニ一代一人之詩ニ也、而陳師道顧謂、其初學ニ劉禹錫、晩學ニ李太白ニ、毋乃一知半解歟。

【一癡一醒】2596 イッチイッセイ 或る時は馬鹿のやうにし、或る時は賢いやうにする。癡はおろか。〔越絕書、越絕外傳紀策考〕結僊之時、一癡一醒、時人盡以爲ニ狂ニ。

【一癡道人】2597 イッチダウジン 清、李文田(6—14459‥191 8)の號。

【一丟丟兒】2598 i⁴ tiu¹ tiu êrh 僅か。極めて少々。

【一晝一夜】2599 イッチウイチヤ 一晝夜。又、晝から夜、夜から晝と明けくれすること。〔太玄經、玄攡〕一晝一夜、陰陽分索。〔太玄經、玄圖〕一晝一夜、然分れになる。互に背き合ふ。〔朱子文集、答ニ汪尚書ニ〕此其師生之間、分背矛盾、一南一北。

【一茅三脊】2613 イチバウサンセキ 三つの脊脈のある一本のちがや。祭に用ひる珍しいもの。〔漢書、郊祀志上〕江淮間、一茅三脊、所ニ以爲ㇾ藉也。〔注〕服虔曰、茅草有ニ三脊ニ也、張晏曰、謂ニ靈茅ニ也。

【一沖性子】2600 i⁴ ch'ung¹ hsing⁴ tzŭ かんしゃくもち。沖性子は急性子の意。腹立ち易い性質の人。

【一槌破碎】2601 イッツイハサイ 鐵槌の一擊によつて打壞すこと。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕一槌破碎、大道坦然。

【一貞居士】2602 イッテイコジ 元、張玉娘(4—9812‥938)の號。

【一提一答】2603 i⁴ t'i² i⁴ ta² 一問一答。問ひつ答へつ、互に話をする。

【一跕一跕】2604 i² tieh⁴ i² tieh⁴ 一步は低く一步は高く、足を引ずつて歩くこと。

【一疊疊的】2605 i⁴ tieh² tieh tê ひとかさねの。ひとつづつ重ねて。ひと積み一積みと。

【一顚一倒】2606 イッテンイットウ 或はつまづき、或は倒れる。〔王建、古諫〕一來一去道上客、一顚一倒池中麻。

【一肚子氣】2607 i² tu⁴ tzŭ ch'i⁴ 烈しい怒。滿腔の怒氣。

【一賭氣兒】2608 i⁴ tu³ ch'i⁴ êrh むかつ腹を立てて。激しく怒つて。

【一偷生鬼】2609 i⁴ t'ou¹ shêng¹ kuei³ とある惡兒童。碌でなしの惡童。一人の惡太郎。〔偸生鬼は無益に生きながらへる奴、卽ち、祿盜人の意。〕

【一鐙精舍】2610 イチトウシャウジャ 清、何秋濤(1—511‥289)の室名。

【一那由他】2611 イチナユタ 倆大きな數量。那由他は梵語 nayuta の音譯。十萬の二乘を一拘梨、一拘梨の二乘を一不變、一不變の二乘を一那由他といふ。〔本行經、十二〕那由他、隋言ニ數千萬ニ。

【一南一北】2612 イッナンボク ❶或は南し、或は北する。〔困學紀聞、周禮〕夏后鑄ニ鼎ニ、繇曰、逢逢白雲、一南一北、一西一東、九鼎旣成、遷ニ于三國ニ。❷分れ分れになる。互に背き合ふ。〔朱子文集、答ニ汪尚書ニ〕此其師生之間、分背矛盾、一南一北。

【一膀之力】2614 i⁴ p'ang² chih¹ li⁴ 一臂の力。片腕。一かどの手助け。

【一暴十寒】2615 イチバクジッカン 一日あたためて、十日ひやす。一日勤めて、十日怠る。暴は曝、晒す意。養ふ所少く、害することの多い喩。〔孟子、告子上〕雖レ有ニ天下易レ生之物一也、一日暴レ之、十日寒レ之、未レ有ニ能生者一也。吾見亦罕矣、吾退而寒レ之者至矣、吾如レ有レ萌焉何哉。〔集注〕暴、温レ之也、我見レ王之時少、猶ニ一日暴レ之也、我退則諂諛雜進之日多、是十日寒レ之也。

【一判一合】2616 イッパンイチガフ 或は分れ、或は合して、互に交錯する。〔太玄經、玄攡〕一判一合、天地備矣。

【一板一眼】2617 i⁴ pan³ i⁴ yen³ 音樂の拍子の一起一落の法。二拍子の中の前の一拍子を板といひ、後の一拍子を眼といふ。

【一板三眼】2618 i⁴ pan³ san¹ yen³ ❶少しの融通も利かせず、ただ生眞面目に終始すること。❷音樂の拍子の名。四拍子の中の前の三拍子を眼といひ、後を板といふ。

【一彼一此】2619 イッピイッシ 或は彼處でやり、或は此處でやる。〔左氏、昭、元〕疆場之邑、一彼一此、何常之有。〔青巖叢錄、佛教宗傳〕各立レ異以取レ勝、一彼一此、不ニ相出入一。

【一悲一喜】2620 イッピイッキ 或は悲しみ、或は喜ぶ。〔王琚、美女篇〕須臾破顏倏斂レ態、一悲一喜併相宜。

【一貧一富】2621 イッピンイップ 貧乏になつたり、富裕になつたり。〔漢書、鄭當時傳〕一貧一富、廼知ニ交態一。

【一貧如レ洗】2622 イッピンアラフガゴトシ 赤貧洗ふが如し。極めて貧しくて洗ひ流したやうに何も無いこと。一貧は極めて貧しい意。〔藤森弘庵、春雨樓記〕一貧如レ洗、無ニ以營ニ居宅一。

【一嚬一笑】2623 イッピンイッセウ 一たび顏をしかめ、一たび笑ふ。些細な行動。〔韓非子、内儲說上〕明主之愛ニ一嚬一笑一、嚬有ニ爲嚬一、笑有ニ爲笑一。〔梁簡文帝、龍笛曲〕金門玉堂臨レ水居、一嚬一笑千萬餘。

【一不拗衆】2624 i² pu⁴ niu⁴ chung⁴ ❶一人では多勢に押されてかなはない。❷一人では大勢に反對出來ない。

【一俯一仰】2625 イップイツガウ 一方は俯し、一方は仰ぐ。或は俯し、或は仰ぐ。〔爾雅、釋畜〕角一俯一仰、觭。〔申鑒、雜言下〕一俯一仰、乍進乍退。

【一傅衆咻】2626 イップシュウキウ 一人が如何に熱心に教へても、多勢の者が教へるはじから之を亂したのでは、教育は出來ぬ。傅は教、咻はやかましくする。〔孟子、滕文公下〕一齊人傅レ之、衆楚人咻レ之、雖ニ日撻而求ニ其齊一也、不レ可レ得矣。〔集注〕傅、教也、咻、讙也。

【一僨一起】2627 イップンイッキ たふれたり、おきたり。〔莊子、天運〕一死一生、一僨一起、所ニ常無レ窮、而一不レ可レ待。

【一病一瘳】2628 イッペイイッチウ 病んだり、癒えたり。〔法言、重黎〕一病一瘳、迄ニ始皇一、三載而咸。

【一病兩痛】2629 イッペイリャウツウ 一つの病が二通りに痛む。同じ原因から出た二つの弊害。〔傳習錄、中〕私欲客氣、一病兩痛、非ニ二物一也。

【一閉一合】2630 i² pi⁴ i⁴ hê² 閉ぢる。口又は目などをつぐむ。

【一無礙道】2631 イチムゲダウ 佛 生死の現實を離れて悟の理想があるのではないと達觀した境地。〔往生論注、下〕一道者、一無礙道也、無礙者、謂レ知ニ生死卽是涅槃一。

【一瞑不視】2632 イチメイフシ 死をいふ。死ねば瞑目して物を見ないことからいふ。〔戰國、楚策〕有下斷レ頭決レ腹、一瞑而萬世不レ視、不レ知レ所レ益、以憂ニ社稷一者上。

【一模一樣】2633 i⁴ mu² i² yang⁴ 甚だ似寄つたこと。全く同じやうな。一模似樣。

【一模似樣】2634 i⁴ mu² ssŭ⁴ yang⁴ 一模一樣に同じ。

【一模二樣】2635 i⁴ mu² êrh⁴ yang⁴ 一模一樣に同じ。

【一氧化鉛】2636 イチヤウクワエン 一酸化鉛(2555)に同じ。

【一氧化碳】2637 イチヤウクワタン 一酸化炭素(2667)に同じ。

【一亂一治】2638 イチランイッチ 亂れたり、治まつたり。〔新論、國體上〕政教不レ可ニ以施一、其極忠孝俱廢、而天人之道委レ地矣、然而一亂一治、天下之常勢也。

【一利一害】2639 イチリイチガイ 利益がある代りに、又、損害もある。一得一失。〔元史、耶律楚材傳〕興ニ一利一、不レ如レ除ニ一害一、生ニ一事一、不レ如レ省ニ一事一。

【一釐字錢】2640 イチリジセン 清朝の順治十年に鑄造した制錢。順治通寶の別名。錢背に一釐の二字を刻す。〔皇朝文獻通考、錢幣考〕本朝之一釐字錢、則紀ニ直銀之數一、古半兩五銖等錢、皆紀ニ銅之輕重一。

【一離一合】2641 イチリイチガフ 一たびはなれ、一たびあふ。或ははなれ、或はあふ。離合の常ないこと。〔法言、重黎〕二方分崩、一離一合。

【一硫化汞】2642 イチリウクワコウ 硫化水銀。天然には朱砂として產す。

【一氯化汞】2643 イチリョククワコウ 鹽化第一水銀(12－47579・25)に同じ。

【一了百淸】2644 i⁴ liao³ po² ch'ing¹ 一つの事をやつてしまへば後がさつぱりする。

【一了百當】2645 イチレウヒャクタウ 根本の一事を悟れば、他のすべてに通ずる。又、萬事都合よいこと。〔傳習錄、下〕不レ如ニ自家解化者、自一了百當一。

【一了百了】2646 イチレウヒャクレウ 根本の一事を悟れば、其の他の萬事に通ずる。〔傳習錄、下〕良知無ニ前後一、只知ニ得見在的幾一、便是一了百了。

【一彎殘月】2647 イチワンノザンゲツ 有明の弓張月。〔伊藤士龍、宿ニ足尾嶺一詩〕一彎殘月挂ニ峯稜一、人在ニ晃山最上層一。

【以レ一警レ百】2648 イツヲモッテヒャクヲイマシム 小事を以て大事の戒とする。一人を罰して衆人を戒める。警の字は儆にも作る。〔漢書、尹翁歸傳〕翁歸治ニ東海一、吏民賢不肖及姦邪罪名悉知レ之、其有レ所レ取也、以レ一警レ百、吏民皆服、恐懼改レ行自新。

【以レ一知レ萬】2649 イツヲモッテマンヲシル 一理を推して萬理を窮める。さとりの早いこと。〔荀子、非相〕以レ近知レ遠、以レ一知レ萬、以レ微知レ明、此之謂也。

【擧レ一廢レ百】2650 イチヲアゲテヒャクヲハイス 一事にこだはつて、他の百事を忘れる。〔孟子、盡心上〕所レ惡レ執レ一者、爲ニ其賊レ道也、擧レ一而廢レ百也。

【擧レ一反レ三】2651 イチヲアゲテサンヲハンス 物の一隅をあげて教へれば、自ら他の三隅を察知する。才智の優れてゐる喩。〔論語、述而〕不レ憤不レ啓、不レ悱不レ發、擧ニ一隅一、不下以ニ三隅一反上、則不レ復也。〔集注〕物之有ニ四隅一者、擧レ一可レ知ニ其三一、反者、還以相證之義。〔蔡邕別傳〕邕與ニ李則一遊學、時在ニ弱冠一、性通敏、擧レ一反レ三。

【屈レ一伸レ萬】2652 イツニクッシマンニノブ 一人の下に屈伏して、萬人の上に伸びる。僅かなことには屈伏して、大事を成す喩。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕專諸者、堂邑人也、伍胥之亡レ楚如レ吳時、遇ニ之於途一、專諸方與レ人鬭、將レ就レ敵、其怒有ニ萬人之氣一、甚不レ可レ當、其妻一呼卽還、子胥怪而問ニ其狀一、云云、專諸曰、子視ニ吾之儀一、寧類レ愚者也、何言之鄙也、夫屈ニ一人之下一、必伸ニ萬人之上一。

【掛レ一漏レ萬】2653 イチヲカケテマンヲモラス 僅かな事だけを記して、他の澤山の事を書き漏す。記事の甚だ不完全な喩。〔通俗編、數目、挂レ一漏レ萬〕韓退之詩、團レ辭試提挈、挂レ一念ニ萬漏一。〔馬建忠、文通序〕掛レ一漏レ萬、知レ所レ不レ免。

【教レ一識レ百】2654 イツヲヲシヘテヒャクヲシル 少しの事を教へただけで、他の多くの事を悟る。才智の優れてゐる喩。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕文王生而明聖、太任教レ之、以レ一而識レ百。

【識レ一忘レ十】2655 イツヲシリテジフヲワスル 一つの事を記憶する間に、十の事を忘れてしまふ。記憶力の乏しい喩。〔韓愈、別ニ趙子一詩〕瞿瞿以狙狙、識レ一已忘レ十。

【賞レ一勸レ百】2656 イツヲシャウシテヒャクヲススム 一人の善行を賞することによつて、多勢の人が進んで善を爲すやうにする。〔文中子、立命〕賞レ一以勸レ百、罰レ一以懲レ衆。

【諷レ一勸レ百】2657 イツヲフウシテヒャクヲススム 一つの事を諷刺して、百事をすすめる。〔文心雕龍、雜文〕自ニ桓麟七說一以下、左思七諷以上、枝附影從、十有餘家、或文麗而義暌、或理粹而辭駁、觀ニ其大抵所レ歸、莫レ不下高ニ談宮館一、壯ニ語畋獵一、窮ニ瓌奇之服饌一、極中蠱媚之聲色上、甘意搖ニ骨體一、豔詞動ニ魂識一、雖ニ始レ之以ニ淫侈一、而終レ之以ニ居正一、然諷レ一勸レ百、勢不ニ自反一。

【聞レ一增レ十】2658 イツヲキイテジフヲマス 人を譽めたり毀つたりする時には、事實を十倍にして云はぬと、聽く人が滿足しない。〔論衡、藝增〕譽レ人不レ增ニ其美一、則聞者不レ快ニ其意一、毀レ人不レ益ニ其惡一、則聽者不レ愜ニ於心一、聞レ一增以爲レ十、見レ百益以爲レ千。

【聞レ一知レ十】2659 イチヲキイテジフヲシル　ものごとの一端を聞いて其のことの全部をさとる。聰明を稱へる辭。〔論語、公冶長〕回也、聞レ一以知レ十、賜也、聞レ一以知レ二。〔集注〕一、數之始、十、數之終、二者、一之對也、顏子明睿所レ照、卽レ始而見レ終。

【聞レ一知レ二】2660 イチヲキイテニヲシル　ものごとの一面を聞いて其の裏面までもさとる。聞レ一知レ十を見よ。〔論語、公冶長〕賜也聞レ一以知レ二。

【問レ一得レ三】2661 イチヲトヒテサンヲウ　一事を尋ねて、三事を知る。〔論語、季氏〕陳亢退而喜曰、問レ一得レ三、聞レ詩聞レ禮、又聞三君子之遠二其子一也。

【一淵不二兩蛟一】2662 イチエンリヤウカウナラズ　一つの淵には二匹の蛟は栖まぬ。兩雄並び立たぬ喩。蛟は龍の一種、みづち。〔文子、上德〕一淵不二兩蛟一、一雌不二二雄一、一卽定、兩卽爭。〔注〕君主一則國安、人主一則心泰。

【一鹽基性酸】2663 イチエンキセイサン　化學用語。一鹽基酸(2507)に同じ。

【一球洋絲線】2664 i⁴ ch'iu² yang² ssŭ¹ hsien⁴　毛絲の一たま。ひと卷の毛絲。

【一假一切假】2665 イツケイツサイケ　佛 空・假・中の三觀中、假は假觀の一つをいふだけでなく、空・中の二觀も同樣に假であるといふこと。〔止觀、五、上〕一假一切假、無二空中而不レ假、總假觀也。

【一五一十的】2666 i⁴ wu³ i⁴ shih² tê　殘らず。すつかり。一部始終。

【一酸化炭素】2667 イツサンクワタンソ　化學用語。炭素或は有機物が不十分な酸素供給の下に燃える時に生ずる、無色無臭の氣體。劇毒がある。一氧化酸。

【一酸性鹽基】2668 イツサンセイエンキ　化學用語。一酸鹽基(2554)に同じ。

【一賜樂業教】2669 イスラエルケウ　モーゼの律法を基礎としたユダヤ人の宗教。紀元前四世紀頃から發達したもので、唯一の神エホバを信仰し、神國の實現を信じてゐる。以色列宗教。猶太教。

【一縮原燐酸】2670 イツシユクゲンリンサン　燐酸(**7**－**19417**‥6)に同じ。

【一錘子定更】2671 i⁴ ch'uei² tzŭ ting⁴ ching¹　ひと叩きで時刻が定まる。多くの愚論より賢者の一言。

【一正壓百邪】2672 i² chêng⁴ ya¹ po² hsieh²　一つの正義は百の邪惡をおさへる。

【一正一反法】2673 イツセイイツパンノハフ　文章法の名。或は正面から說き、或は反面から論じて、表裏互に照應させるのをいふ。

【一罎裏的醋】2674 i⁴ t'an² li³ tê ts'u⁴　瓶の中が凡てすつぱい。小人の中には君子はゐない。杭州地方の諺。

【一腸通肛門】2675 i⁴ ch'ang² t'ung¹ kang¹ men²　竹を割つた樣な氣性の人。又、正直一方な人。

【一鼻孔出氣】2676 i⁴ pi² k'ung³ ch'u¹ ch'i⁴　連帶の關係ある事を語るに、多數の人々が、異口同音なこと。

【一無賴子弟】2677 イチブライノシテイ　一人のならずもの。一人のごろつき。一人の不良青年。〔思辨錄、十〕不レ過二一無賴子弟一而已。

【一眇小丈夫】2678 イチベウセウチヤウフ　一人の小柄な男。〔賴山陽、高山彥九郎傳〕嘗在二板橋一、要レ人行レ刦、遇二一眇小丈夫一、瞋レ目呵レ我、憶レ之、今猶股栗也。

【一撲納心兒】2679 i⁴ p'u¹ na⁴ hsin¹ êrh　本氣で。一心に。一心不亂に。全力を盡す。

【一盲引二衆盲一】2680 イチマウシユウマウヲヒク　佛 一人の盲人が衆くの盲人を案內する。一人の愚者が他の多くの愚者に指圖する喩。〔無門關〕拚レ身能捨レ命、一盲引二衆盲一。

【一氧化二氮】2681 イチヤウクワニタン　亞酸化窒素(**1**－**274**‥115)に同じ。

【一梁拄二一柱一】2682 イチリヤウイツチユウニササヘラル　一本の梁が、一本の柱にささへられる。〔通俗編、居處、一梁拄二一柱一〕五燈會元、慶閑看僧堂云。

【一彎倒一彎】2683 i⁴ wan¹ tao⁴ i⁴ wan¹　ひとまがりして又ひとまがりする。あちこち奔走する。

【貸レ一而責レ十】2684 イチヲカシテジフヲセム　少しばかり貸し與へて、其の十倍もまきあげる。〔北史、齊幼主紀〕當レ勢者因レ之、貸レ一而責レ十焉。

【知レ一不レ知レ二】2685 イチヲシツテニヲシラズ　一方だけ知つて、他方を知らぬ。〔莊子、天地〕識二其一一、不レ知二其二一、治二其內一、而不レ治二其外一。〔漢書、高帝紀下〕上曰、公知二其一一、未レ知二其二一。〔晉書、王坦之傳〕識二其一一、不レ識二其二一。〔鹽鐵論、和親〕知レ文而不レ知レ武、知レ一而不レ知レ二。

【一搖鈴鐺就成】2686 i⁴ yao² ling² tang chiu⁴ ch'êng²　非常に容易なことの形容。鈴ひと振りの勞力。朝飯前の仕事。

【一蟹不レ如二一蟹一】2687 イツカイハイツカイニシカズ　料理が出れば出る程、其の品質の下ること。事の愈ゝ出て愈ゝ下る喩。陶穀が吳越に使して蟹を啖べた故事。〔聖宋掇遺〕陶穀奉二使吳越一、忠懿王宴レ之、以二其嗜一レ蟹、自二蝤蛑一至二蟛蚏一、凡羅二列十餘種一、穀笑曰、眞所謂一蟹不レ如二一蟹一也。

【一規八稜硯齋】2688 イツキハチリヨウケンサイ　清、徐廷華(**4**－**10110**‥582)の室名。

【一卦不問二事】2689 i² kua⁴ pu² wen⁴ êrh⁴ shih⁴　一つの占で二つの事柄を問ふものではない。

【一而再再而三】2690 i⁴ êrh² tsai⁴ tsai⁴ êrh² san¹　一から二となり、二から三となる。段々に多くなる。

【一杓行脚道人】2691 イツシヤクカウキヤクダウジン　清、瞿龍躍(**8**－**23747**‥49)の號。

【一卽一二卽二】2692 イチハスナハチイチニハスナハチニ　一は一、二は二。それだけのこと。〔通俗編、數目、一卽一、二卽二〕五燈會元、慈濟聰偈、一卽一、二卽二、把二定要津一、何處出レ氣。

【一腦門子的氣】2693 i⁴ nao³ men² tzŭ tê ch'i⁴　❶額に青筋を立てて。非常に立腹して。❷顏一面の怒氣を爆發させた。

【一不做二不休】2694 i⁴ pu² tsuo⁴ êrh⁴ pu⁴ hsiu¹　一度やつたらどこまでも。毒を食はば皿まで。やぶれかぶれ。〔水滸傳、四十回〕一不做二不休、眾好漢相助著晁某、直殺盡江州軍馬、方纔回梁山泊去。〔通俗編、行事、一不做二不休〕見二五燈會元、及關漢卿救風塵曲一。

【一布被二十年】2695 イチフヒニジフネン　一枚の衣を二十年間着通す。質素な喩。隋の太原府君王凝の故事。王凝は文中子の弟。一狐裘三十年。〔文中子、關朗〕(太原府君曰)居レ家不レ食レ肉、一布被二十年不レ易。

【一味地砍將來】2696 i² wei⁴ tê k'an³ chiang¹ lai　ひたむきに打つてかかる。

【知レ一而不レ知レ十】2697 イチヲシツテジフヲシラズ　一つの事だけを知つてゐて、全般の事を知らない。一部分の事だけを知つて他の事を知らぬ。餘り聰明でない喩。〔鹽鐵論、結和〕秦知二進取之利一、而不レ知二鴻門之難一、是以知レ一而不レ知レ十也。

【一憑二陰騭二二文章】2698 イチハインシツニヨリニハブンシヤウ　試驗は一つは運で、二は文章である。陰騭とは、天が冥々の中に民を安んじ定めること。故に運命の義となる。隲は定める。〔通俗編、文學、一憑二陰騭二二文章〕水東日記載、吳思菴遺二外孫錢昕習二科場句一。

【通二于一一而萬事畢】2699 イツニツウジテバンジヲハル　一事に通ずれば、推して萬事を知る。〔莊子、天地〕記曰、通二于一一而萬事畢、無二心得一而鬼神服。

【一鍬掘不了一口井】2700 i⁴ ch'iao¹ chüeh² pu liao³ i⁴ k'ou² ching³　一挺の鋤では井戸一つも掘りきれない。大事業は一人の力だけでは出來ない喩。

【一蚋嗜レ膚不レ寐至レ旦】2701 イチゼイフヲカミイネラレズシテタンニイタル　一匹のあぶが人の皮膚を嚙めば、人は夜通し寐ることが出來ぬ。僅かな故障のやうでも、大きな結果を來す喩。〔鶡冠子、天權〕一蚋嗜レ膚、不レ寐至レ旦、半糠入レ目、四方弗レ治。

【一農不レ耕民有二飢者一】2702 イチノウタガヤサザレバタミウウルモノアリ　一人の游民があると、國は其のために貧しくなる。〔管子、揆度〕一農不レ耕、民有二爲レ之飢者一、一女不レ織、民有二爲レ之寒者一。

【一不壓衆百不隨一】2703 i² pu⁴ ya¹ chung⁴ po² pu⁴ suei² i¹　寡は衆に敵せず。多數は少數の思ふ儘にはならぬ。

【不レ可レ無レ一不レ可レ有レ二】2704 イツナカルベカラズニアルベカラズ　一人はなくてはならぬが、二人はいらない。〔南齊書、張融傳〕太祖見レ融常笑曰、此人不レ可レ無レ一、不レ可レ有レ二。

【一慙之不レ忍而終身慙】2705 イチザンコレヲシノバズシテシユウシンハヅ　一時の僅かな慙を忍ばぬと、却つて終身の慙を受ける。〔左氏、昭、三十一〕子家子曰、君與レ之歸、一慙之不レ忍、而終身慙乎。

【埋二一魂一而天下歸二其義一】2706 イツコンヲウヅメテテンカソノギニキス　有

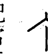
力者が無實の罪に死んだ者の罪を霽らして之を葬れば、天下の人心が其の人の德義に集まること。〔魏志、鄧艾傳〕葬二一人一而天下慕二其行一、埋二一魂一而天下歸二其義一。

【一呪十年旺越呪越結實】2707 i^{2} chou^{4} shih^{2} nien^{2} wang^{4} yüeh^{4} chou^{4} yüeh^{4} chieh^{1} shih 一たび呪へば、呪はれた人は却つて十年だけ達者になる。呪へば呪ふ程、丈夫になる。お前が如何に罵つても少しも自分は恐れない。

【一賞不レ可二以不一レ信一罰不レ可二以不一レ明】2708 賞すべきは必ず賞し、罰すべきは必ず罰して、賞罰を信にし明かにせねばならぬ。〔新論、賞罰〕空懸二小利一、足二以勸一レ善、虛設二輕威一、可二以懲一レ奸、矧復張二厚賞一以餌レ下、揀二大威一以駈レ民哉、故一賞不レ可二以不一レ信也、一罰不レ可二以不一レ明也。

一畫

【丁】2　㊀テイ チヤウ〔集韻〕當經切 ㄉㄧㄥ tīng^{1} 青　㊁タウ チヤウ〔集韻〕中莖切 ㄓㄥ chêng^{1} 庚

小篆 

㊀❶ひのと。十干の第四位。五行では火に屬し、方位では南に配當する。〔爾雅、釋天〕太歲在レ丁曰二強圉一、月在レ丁曰レ圉。〔禮、月令〕仲春之月、上丁命二樂正一習レ舞釋菜。〔呂覽、孟夏〕其日丙丁。〔注〕丙丁、火日也。❷あたる。出遭ふ。當(7―21890)に通ず。〔說文通訓定聲〕丁、借爲レ當、丁・當雙聲。〔爾雅、釋詁〕丁、當也。〔詩、大雅、雲漢〕寧丁二我躬一。〔傳〕丁、當也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕丁レ時逢レ殃、孰可二奈何一兮。〔注〕丁、當也。〔後漢書、岑彭傳〕我喜三我生獨丁二斯時一。〔注〕丁、猶レ當也。〔韓愈、贈二張籍一詩〕相見不二復期一、零落甘レ所レ丁。❸さかん。つよい。もと个(1―347)に作る。〔正字通〕丁、說文篆作レ个。〔說文〕个、夏時、萬物皆丁實、象形、丁承レ丙、象二人心一。〔段注〕丁實、小徐本、作二丁壯成實一、律書曰、丁者言二萬物之丁壯一也、律歷志曰、大盛二於丁一、鄭注二月令一曰、時萬物皆強大。〔廣雅、釋詁四〕丁、強也。〔史記、律書〕丁者、言二萬物之丁壯一也、故曰レ丁。❹壯年の男。唐の制度で、滿二十歲から滿五十九歲まで。〔史記、項羽紀〕丁壯苦二軍旅一。〔通典、食貨〕大唐武德七年定令、男女始生爲レ黃、四歲爲レ小、十六爲レ中、二十一爲レ丁、六十爲レ老。〔舊唐書、食貨志〕武德七年、始定二律令一、云云、男女始生者爲レ黃、四歲爲レ小、十六爲レ中、二十一爲レ丁、六十爲レ老。〔劉克莊、寄二何立可一詩〕赤手求レ丁修二險隘一。❺ひとかず。人口。公役に徵發せられる人。〔南史、何承天傳〕計レ丁課レ仗。❻男の召使。庖丁・畦丁・山丁など。〔莊子、養生主〕庖丁爲二文惠君一解レ牛。〔疏〕庖丁、謂二掌レ廚丁役之人一、今之供膳、是也、亦言、丁、名也。〔宋史、高宗紀〕團教峒丁槍仗手。〔宋史、何異傳〕異募二山丁一、捕二首レ亂者一。〔元史、博爾忽傳〕畬丁溪子。❼丁寧。〔藝文類聚、三十八〕五經通義曰、丁者、反覆丁寧也。❽魚の頭にある骨。〔爾雅、釋魚〕魚枕、謂二之丁一。〔注〕枕在二魚頭骨中一、形似二篆書丁字一。❾さそりの尾。〔六書正譌〕丁、蠆尾也、象形。❿くぎ。釘(11―40159)に通ず。〔說文通訓定聲〕丁、鐕也、象形、今俗用レ釘爲レ之。⓫諡。〔逸周書、諡法解〕述レ義不レ克曰レ丁、迷而不レ悌曰レ丁。⓬姓。〔太公金匱〕武王伐レ紂、丁侯不レ朝。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕丁氏、姜姓、齊太公生二丁公伋一、支孫以レ丁爲レ氏。〔吳志、孫匡傳、注〕江表傳曰、孫權因下孫匡燒二損茅芒一、以乏中軍用上、別二其族一爲二丁氏一。〔楓窗小牘〕宋有二無賴子于慶一、欲レ依二丁謂一、一老儒教三其改二姓丁一、後果得レ意。〔楊士奇、東里文集〕丁鶴年、其先西域人、西域人多レ名レ丁、既入二中國一、因以爲レ姓。㊁❶木を伐る聲。朾(6―14440)に通ず。〔集韻〕朾、伐木聲、或作レ丁。❷鳥の勢の盛な形容。丁丁。〔白居易、畫鵰贊〕鷙鳥之英、黑鵰丁丁。邦 ❶チヤウ ㋑二で割り切れる數。丁數。偶數。㋺まち。町の略字。㋩六十間。㋥書物の頁を數へる語。枚。ひら。丁數。又、豆腐などを數へるにも用ひる。㋭錢の意。米相場の用語。❷ヨボロ ㋑古、二十一歲から六十歲までの男子で、公役に就いた者。㋺越前國の古地名。㋩姓。❸ヨウロウ 播磨國の地名。❹ヨロヒ 紀伊國の地名。❺ヨロフ ヨウロ 姓氏。❻ヒノト 姓。

名乘 ノリ。

解字 象形。釘の形に象る。釘は物に入る義から、朾・打等の義に轉ずる。又、魚の骨の形。又、尾の形ともいふ。一說に、人は枝葉、丨は莖幹で、草木繁茂の貌。轉じて、さかん・壯年の男子・よぼろ等の義に用ひられるといふ。當と、古音が通ずる。

參考 丁(1―8)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕丁、丙丁之丁。丅、古下字。

【丁鞋】1 テイアイ 底に鋲を打つた雨天用の靴。丁鞵。釘鞋。〔葉適、送二呂子陽一云云詩〕火把起二夜色一、丁鞋明二齒痕一。

【丁晏】2 テイアン 淸、江蘇の山陽の人。字は儉卿、又、柘堂。號は石亭居士。若年にして鄭學を治む。道光の擧人。咸豐中、內閣中書から三品銜を加へらる。著に頤志齋叢書二十二種がある。〔淸史稿、四百八十八〕・〔續碑傳集、七十四〕。

【丁廙】3 テイイ 三國、魏の人。儀の弟。字は敬禮。博學。曹植の友人。曹操が曹植を後嗣としようとした時、之に與したので、文帝(曹丕)卽位の後、兄の儀と共に殺された。〔三國志、二十一〕。

【丁煒】4 テイキ 淸、晉江の人。字は瞻汝。又の字は雁水。官は湖廣按察使。詩に巧。著に涉江問山詩文集がある。〔淸史稿、四百八十九〕・〔淸史列傳、七十〕・〔碑傳集、八十一〕。

【丁謂】5 テイキ 宋、長州の人。字は謂之、後に公言と改めた。淳化の進士。官は昭文館大學士。封は晉國公。仁宗立ち、其の欺罔を知つて道州に貶す。機敏にして狡猾、圖畫・博奕・音律に通ず。〔宋史、二百八十三〕・〔宋史新編、八十六〕・〔東都事略、四十九〕・〔隆平集、四〕。

【丁憂】6 テイイウ 父母の喪に遭ふこと。丁艱。〔元史、廉希憲傳〕希進在二中書一、振二擧綱維一、綜二劾名實一、汰二逐冗濫一、裁二抑僥倖一、興レ利除レ害、事無レ不レ便、當時翕然稱レ治、典章文物、粲然可レ考、云云、至元元年、丁二母憂一。〔六部成語、吏部、丁憂、注解〕穿二考服一、又曰二丁艱一。

【丁憂交代】7 テイイウカウタイ 官吏が父母の喪に遭つた時、他の者が其の職に代れること。〔日知錄、禮制、丁憂交代〕昔時見三有司丁二父母憂一、聞レ訃奔レ喪、不レ出二半月一、近議必令二交代一、方許レ離レ任。

【丁憂守制】8 テイイウシユセイ 淸代、官吏が父母の喪に遇つた時、自宅で三年の喪に服することをいふ。其の期は二十七ケ月。〔淸國行政法汎論、官吏分限、守制〕官吏若遇レ有二父母之喪一、無レ論二去レ職與レ不レ去レ職、均不二敢執務一、必在レ家服二其喪一、謂二之丁憂守制一、其期以二二十七箇月一爲二定例一。

【丁焴】9 テイイク 宋、福津の人。字は晦叔。嘉定年間に利州路安撫使となり、興元府の長官を兼ね、吏民に信服せられた。〔宋史、四百八十六〕。

【丁筠】10 テイキン 金、宛平の人。州縣の吏として評判高く、退官後も、鄕人は訟ある每に筠に質した。〔金史、九十〕。

【丁傜】11 テイエウ 力役にあたる壯丁。丁役に同じ。〔宋史、刑法志二〕王存立言、嘉祐中、同學究出身、爲二碭山縣尉一、嘗納レ官贖二父配隸罪一、請下同二擧人法一、得上レ免二丁傜一、帝憫レ之、復賜二出身一、仍與二注

官。〔無名氏、南郊赦文〕丁徭若絕二其影占組織一、又去二其織奇一則農桑無レ荒、女工斯勸。

【丁役】12 テイエキ　力役にあたる壯丁。丁徭。〔唐律、名例、疏議〕其殘疾既免二丁役一、亦非二兼丁之限一。〔張籍、西州詩〕郡縣發二丁役一、夫夫各征行。

【丁翁】13 テイオウ　山女 ヒァの異名。丁父。〔本草、通草〕釋名、木通・附支・丁翁。

【丁家】14 テイカ　山名。浙江省杭縣、靈隱山の南高峯の支峯。勝景の地。一名、一天山。

【丁家洲】15 テイカシウ　地名。安徽省銅陵縣の東北。宋の德祐の初、賈似道の前鋒孫虎臣が陣した處。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、銅陵縣〕丁家洲口、縣東北二十里、發二源縣東南十五里之儀鳳嶺一、引而東會二於棲鳳湖一、通二鳳心閘一合二胡城順安之水一、二自二洲下口一、二自二洲下口一、達二於大江一。〔宋德祐初、賈似道師次二無湖一、使下孫虎臣爲二前鋒一、軍上于丁家洲。

【丁家道口】16 テイカダウコウ　地名。河南省商丘縣の東北。もと管河主簿の駐在した處。明は此の地に巡司を置く。〔虞城縣志〕丁家道口、在二縣西四十里一、又有二羅家口一在二縣北一、皆河防要地、亦作二丁鎭一。

【丁開】17 テイカイ　宋、長沙の人。字は復見。事に臨み敢言して避けず。上疏して安撫向士璧を辯護し、楊州に遷さる。

【丁香】18 テイカウ　●香木の名。ちやうじ。てんにんくわ科に屬す。熱帶に產する一種の香木。實を丁子といつて、香料・藥用に用ひる。一名、雞舌香。〔本草、丁香〕釋名、丁子香・雞舌香、藏器曰、雞舌香、與二丁香一同種、花實叢生、其中心最大者爲二雞舌一、擊破有二順理一、而解爲二兩向一如二雞舌一、故名、乃是母丁香也。〔杜甫、丁香詩〕丁香躰柔弱。〔柳宗元、賀二甘露表一〕樹有二丁香之珍一。〔李賀、巫山高曲〕丁香筯竹啼二老猿一。〔三才圖會、草木、丁香〕丁香出二交廣南蕃一、今惟廣州有レ之、木類レ桂、高丈餘、葉似レ櫟、凌レ冬不レ凋、花圓細黃色、其子出二枝上一、如二釘子一、長三四分、紫色、其中有レ竅大如二山茱萸一者、謂二之母丁香一、味辛溫、無レ毒、主レ温二脾胃一、止二霍亂・擁脹・風毒・諸腫・齒疳・蠹痛一。●荔枝の一種。〔蔡襄、荔枝譜、第七〕圓丁香、丁香荔枝、皆旁蔕大而下銳、此種體圓、與レ味皆勝。〔宋玨、荔枝譜、游蔡、第三〕曰沈香、曰丁香。●物を結び合せるもの。ボタンなど。〔桃花扇、卻奩〕交扣二丁香一。

丁香（三才圖會）

【丁香茄】19 テイカウ　蔓草の名。はりあさがほ。ひるがほ科に屬し、夏期、あさがほに似た紅紫色漏斗狀の花を梢上の葉腋に着ける。〔和漢三才圖會、蔬菜類、丁香茄〕農政全書云、丁香茄、延レ蔓而生、人家園籬邊多種、莖紫多レ刺、藤長丈餘、葉似二牽牛葉一甚大、開二粉紫花一、狀如二牽牛花樣一。

【丁香核】20 テイカウカク　荔枝の一種。〔曹蕃、荔枝譜〕丁香核、綠衣郎、柳鍾、虎皮斑、後四種漳州品也。

【丁香褐】21 テイカウカツ　繪具の名。〔輟耕錄、寫像祕訣〕采繪法、丁香褐、用二肉紅一爲レ主、入二少槐花一合。

【丁香魚】22 テイカウギョ　魚の名。ひしこ。馬鯊。臺灣の語。

【丁香花】23 テイカウクワ　丁香の花。〔許邦才、丁香花詩〕蘇小西陵踏レ月廻、香車白馬引二郎來一。

【丁香結】24 テイカウケツ　丁香の蕾。結んで解けぬ喩。〔李商隱、代贈詩〕芭蕉不レ展二丁香結一、同向二春風一各自愁。〔陸龜蒙、丁香詩〕愁勢解卻丁香結。〔李郢、春日題二山家一詩〕丁香正堪レ結、留レ步小庭隈。

【丁香子】25 テイカウシ　木の名。荔枝(9－30865‥9)の異名。〔事物異名錄、果蓏、丁香子〕開元遺事、明皇命二方士一、以レ藥傳二荔枝根一得レ核、小宮人呼爲二丁香子一。

【丁香柿】26 テイカウシ　果實の名。しなのがき。君遷子(2－3323‥246)の異名。〔本草、君遷子〕釋名、丁香柿。

【丁香竹】27 テイカウチク　竹の名。中國の南方に生ず。〔清異錄、木、丁香竹〕荊南判官劉彧、棄レ官遊二秦隴閩粵一、篋中收二大竹拾餘顆一、每レ有二客到一、則斫二取少許一煎飲、其芳香如二雞香湯一、人堅叩二其名一、曰、謂二之丁香竹一、非二中國所一レ產也。

【丁香頭】28 テイカウトウ　繪畫上の語。枝上の、葉を生ずる所をいふ。〔墨竹譜、畫レ枝、各有二名目一、生レ葉處、謂二之丁香頭一。

【丁香油】29 テイカウユ　丁香の蕾から製した香油。ちやうじあぶら。丁子油。

【丁香蓼】30 テイカウレウ　草の名。ちやうじたで。たごばう。あかばな科に屬す。水濕の地に生じ、葉は有柄、披針形で、夏、黃色の花を開く。

【丁皋】31 テイカウ　清、丹陽の人。字は鶴洲。號は義閒。寫生畫に巧。著に傳眞心領がある。

【丁玨】32 テイカク　明、山陽の人。永樂年間、刑科給事中に拔擢せらる。性貪食欲で、廉恥を顧みず、後、邊境に謫戍せらる。〔明史、三百八〕・〔萬斯同明史、三百八〕。

【丁邯】33 テイカン　後漢、陽陵の人。字は叔春。官は尚書郎。後、汾陰令から漢中太守に遷る。〔東觀漢記〕。

【丁艱】34 テイカン　父母の喪に遭ふ。丁憂(6)を見よ。〔晉書、周光傳〕初陶侃微時、丁艱將レ葬。〔陳書、謝貞傳〕貞十四丁二父艱一、號頓二於地一、絕而復蘇者數矣。

「tincture

【丁幾】35 テイキ　固形藥料を酒精にとかした藥品。

【丁毅】36 テイキ　明、無爲の人。字は士弘。永樂の進士。庶吉士に選ばる。〔尚友錄、十一〕。

【丁璣】37 テイキ　明、丹徒の人。字は玉夫。成化の進士。中書舍人となり、直諫して退けられたが、孝宗の時に廣東提學副使となる。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、二百四十五〕・〔明名臣言行錄、三十七〕。

【丁義】38 テイギ　●漢の人。謚は齊。高祖に從つて留から起り、漢に入り、三秦を定め、項籍の軍を滎陽に破り、騎郎將となる。鍾離昧を固陵に破り、宣曲侯に封ぜらる。〔前漢書、十六〕。●晉、建城の人。醫術に通じ、白鶴山に丹を錬る。〔晉書、九十五〕。●明の人。字は宜民。號は芸嶼。官は刑部主事。著に康山詩集がある。〔萬姓統譜〕。

【丁儀】39 テイギ　三國、魏の沛の人。字は正禮。曹植と親交があり、曹操が植を後嗣に立てようとするのに與し、後に文帝(曹丕)に殺さる。丁廙の兄。〔三國志、十九〕。

【丁強】40 テイキャウ　つよくさかん。又、つよくさかんな人。〔論衡、無形〕身氣丁強、超乘不レ衰。

【丁恭】41 テイキョウ　後漢、東緡の人。字は子然。封は關內侯。官は侍中祭酒騎都尉。光武帝の左右に在つて其の諮詢に備はる。公羊嚴氏春秋に通じ、子弟數千人。〔後漢書、一百九〕。

【丁凝】42 テイギョウ　清、長興の人。字は琴山。號は靜者。康熙の擧人。詩を善くす。著に靜音詩集がある。〔鶴徵後錄、五〕。

【丁玉】43 テイギョク　明、河中の人。初名は國珍。平羌將軍となつて功績あり。官は大都督府左都督。後、胡惟庸の親戚なるに坐して誅せらる。〔明史、一百二十四〕・〔萬斯同明史、一百八十〕・〔明史稿、一百三十〕・〔國朝列卿記、四・六十九・一百十三〕。

【丁銀】44 テイギン　●丁賦に納める銀。人頭稅。丁賦(182)を見よ。〔劉光濟、差役疏〕止納二丁銀一、有レ丁有レ糧者、必係二中戶一。〔皇朝通志、食貨略〕缺二地丁銀一、共二百五十八萬。〔福惠全書、編審部、總論〕照レ產派レ役、不レ重二丁銀一。●銀の一種。江戶時代の銀貨幣で、海鼠のやうな形をし、常是の字、寶の字、及び大黑の像等の極印あるもの。大概一枚四十匁內外。卽ち慶長丁銀・元祿丁銀・寶字丁銀・永字丁銀・三寶丁銀・四寶丁銀・享保丁銀・元文丁銀・新文字丁銀・天保丁銀・安政丁銀の類。明治元年五月、其の通用を廢せられた。〔好色二代男、五〕丁銀入れし箱。

【丁翊】45 テイク　人名。●明、海豐の人。成化の進士。官は戶部主事。後、雲南副使。劉瑾に忤つて、獄に繫がる。●清、長興の人。字は羽玉。號は覺民。著に聞知錄及び詩文集がある。〔國朝耆獻類徵、四百一〕。

【丁科】46 テイクワ　丁賦(182)に同じ。〔皇朝通典、食貨、田制〕審二人丁一按二丁科一。

【丁快】47 テイクワイ　家來と捕手。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕率二丁快一四鄉巡查。

【丁會】48 テイクワイ　五代、後唐の壽春の人。字は道隱。朱溫に從つて昭義軍節度使となり、後、莊宗に降つて都招討使となる。〔五代史、四十四〕。

【丁黃】49 テイクワウ　壯男を丁といひ、幼を黃といふ。

字解㊀の㊃を見よ。〔唐律、戶婚上、丁黃、釋文〕

按、禮、壯爲レ丁幼爲レ黃、衰爲レ老。

【丁寬】50 クヮン 漢、梁の人。字は子襄。易を田何に學び、古義を周王孫に受け、易說三萬言を作る。玉函山房輯佚書に周氏丁氏傳二卷を收錄する。景帝の時、梁の孝王の將として吳楚を拒ぎ、丁將軍と號せらる。〔前漢書、八十八〕。

【丁寬易東】51 テイクヮンエキトウ 蒙求の標題。漢の丁寬が、田何に從つて易を受け、學成つて東に歸る時、田何が易已に東すといつた故事。〔漢書、儒林、丁寬傳〕丁寬、字子襄、梁人也、初梁項生從二田何一受レ易、時寬爲二項生從者一讀レ易精敏、材過二項生一、遂事レ何、學成、何謝レ寬、寬東歸、何謂二門人一曰、易以東矣。

【丁桂】52 テイケイ 清、歸安の人。字は景顏。號は子香。書室を歐餘山房といふ。著に歐餘山房文集がある。

【丁敬】53 テイケイ 清、錢塘の人。字は敬身。號は龍泓山人、又、鈍丁・硯林・玩茶叟・研林外史、無不敬齋・勝怠老人・孤雲石叟。金石を好み、篆刻に巧。著に武林金石錄・龍泓山館詩鈔がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十六〕・〔國朝先正事略、四十一〕。

【丁蛵】54 テイケイ 蜻蛉の一種。やんま。一說に、蜻蛉は誤といふ。町蛵(10－32811‥上)を見よ。〔說文〕蛵、丁蛵、負勞也。〔段注〕釋蟲文、郭曰、卽蜻蛉也、江東呼二孤蟧一所レ未レ聞、按、許意非二蜻蛉一也、許下文蜻下云、蜻蛉也、一名、桑根、不二與レ此爲レ伍、則許意不レ謂二蜻蛉一可レ知。

【丁杰】55 ケツ 清、歸安の人。字は升衢、又、小疋(小雅)。乾隆の進士。四庫全書の校勘を助く。書室を小西山房といふ。著に周易鄭注後定・大戴禮記繹・小西山房文集がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝先正事略、三十五〕。

【丁權】56 ケン 宋、會稽の人。字は子卿。竹を畫くに巧。著に竹譜がある。〔京口耆舊傳、六〕。

【丁顯】57 ケン 明、建陽の人。字は彥偉。洪武の進士第一。官は翰林修撰承務郎。〔本朝分省人物攷、七十二〕・〔尚友錄、十一〕。

【丁原】58 ゲン 後漢、東緡の人。字は建陽。騎射を善くす。官は幷州刺史。靈帝が崩ずるや、兵を率ゐて洛陽に詣り、何進と共に諸黃門を誅せんと謀り、執金吾に拜せられたが、何進の敗亡後、董卓に誘殺された。〔後漢書、九十九〕・〔英雄記鈔〕。

【丁鉉】59 ゲン 明、豐城の人。字は用濟。謚は襄愍。永樂の進士。右侍郎に陞り、駕に從つて北征し、土木の難に卒す。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十二〕。

【丁儼】60 ゲン 元、新健の人。字は主敬。吳澄に學ぶ。著に金閨彝訓・小溪集・寓興などがある。〔宋元學案、九十二〕。

【丁固】61 コ ㊀項羽の將。丁公(67)の㊁を見よ。〔後漢書、馮衍傳上〕昔高祖賞二季布之罪一、誅二丁固之功一。〔注〕季布項羽將、數窘二漢王一、漢王卽レ位、赦布以爲二郎中一、丁固季布母弟、爲二項羽將一、亦窘二高祖一、高祖急顧謂二丁固一曰、兩賢豈相戹哉、丁公引還、高祖卽レ位、丁固謁見、高祖曰、使二項王失一レ天下一者、丁公也、遂斬レ之。㊁三國、吳の人。丁賢の子。字は子賤、司徒となる。丁固夢・丁固生松を見よ。〔三國志、四十八〕。

【丁固夢】62 コノ 官途で榮達する意。丁固生松を見よ。

【丁固生松】63 テイコセイショウ 蒙求の標題。三國、吳の丁固は、嘗て松が腹の上に生ずるのを夢みて、後、十八年にして公とならんと豫言したが、果して其の通りになつたといふ故事。蓋し松字は十八公の合字。〔吳志、孫皓傳〕以二左右御史大夫丁固孟仁一爲二司徒司空一。〔注〕吳書曰、初固爲二尚書一、夢二松樹生二其腹上一、謂レ人曰、松字十八公也、後十八歲、吾其爲レ公乎、卒如レ夢焉。

【丁沽】64 コ 丁字沽(93)に同じ。

【丁口】65 テイコウ ㊀壯年の男兒。〔元稹、古築城曲〕丁口傳二父口一。〔蘇軾、論二役法差雇利害一起二請畫一狀〕丁口進減、放不二常定一。㊁人民。男を丁といひ、女又は未丁者を口といふ。〔清會典、戶部〕凡民、男曰レ丁、女曰レ口、未レ成レ丁亦曰レ口、丁口繫二於戶一、凡復民計以二丁口一。

【丁口錢】66 センコウ 人頭稅。丁錢。〔資治通鑑、後梁紀〕均王、貞明四年、今使二民輸レ錢、是教二民棄レ本逐レ末也一、請蠲二丁口錢一。〔注〕程大昌演繁露曰、今之丁錢、卽漢世算錢也、以二其計レ口輸レ錢、故亦名二口賦一也、漢四年、初爲二算賦一、如淳曰、漢儀注、民年十五以上至二五十六一出二賦錢人百二十一爲二一算一、唐制、成丁而就レ役、不レ役、則計レ日收二其庸一、末世所謂丁口錢、本レ此。

【丁公】67 コウ ㊀周、呂伋(2－3386‥35)の諡。㊁漢、薛の人。名は固、季布の同母異父弟。項羽の將となつて高祖を苦しめ、項羽の滅後、高祖に斬らる。丁公被レ戮を見よ。〔史記、九十一〕。

【丁公藤】68 テイコウトウ 蔓性灌木の名。あけび。丁翁通草。丁公寄。丁父。附支。〔廣雅、釋草〕丁父、陳藏器云、卽丁公寄、一名二丁父一、陳藏器云、卽丁公藤。

【丁公遽戮】69 テイコウキョリク 蒙求の標題。丁公被レ戮を見よ。

【丁公鑿レ井】70 テイコウセイヲウガツ 春秋、宋の丁公が井を穿つて、水汲の一人の手間を省いたところ、世間で、井中から一人の人を得たと誤り傳へた故事。世の流說が信用出來ない喩。〔呂覽、察傳〕宋之丁氏、家無二井而出一レ汲、常一人居レ外、及二其家穿一レ井、告二人曰、吾穿レ井得二一人一、有二聞而傳一之者一、曰、丁氏穿レ井得二一人一、國人道レ之、聞二之於宋君一、宋君令二人問一レ之於丁氏一、丁氏對曰、得二一人之使一、非レ得二一人於井中一也、〔論衡、書虛〕俗傳言曰、丁公鑿レ井、得二一人於井中一、夫人生レ於レ人、非レ生レ於レ土也、穿レ土鑿レ井、無二爲得一レ人、〔風俗通、正失、丁氏家穿レ井得二一人一〕俗說、丁氏家穿レ井、得二一人於井中一也。

【丁公被レ戮】71 リクセラル 漢の高祖が楚の將丁公を誅戮して、不臣の罪をあらはした故事。丁公の㊁を見よ。〔史記、季布傳〕季布母弟丁公爲二楚將一、丁公爲二項羽一、逐窘二高祖彭城西、短兵接、高祖急顧二丁公一曰、兩賢豈相戹哉、於レ是丁公引レ兵而還、漢王遂解去、及二項王滅一、丁公謁二見高祖一、高祖以二丁公一徇二軍中一、曰、丁公爲二項王臣一不忠、使二項王失一レ天下一者、廼丁公也、遂斬二丁公一曰、使下後世爲二人臣一者、無レ效二丁公一。〔班固、幽通賦〕丁繇惠而被レ戮。

【丁洪】72 コウ 明、鉛山の人。張昺に登用せらる。〔明史、百六十一〕。

【丁鴻】73 コウ 後漢、定陵の人。紳の子。字は孝公。桓榮に歐陽尚書を受く。建初年間に、白虎觀で五經を論定した時、鴻の論は最も明晰であつた。和帝の時、司徒となり、權を擅にする者竇憲、及び其の弟等を自殺させた。〔後漢書、六十七〕。

【丁差】74 サ 十六歲から六十歲までの夫役にあたる人。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕夏稅秋糧、丁差徭役。

【丁祭】75 サイ 先聖・先師を祀る祭。仲春・仲夏・仲秋・仲冬の四仲月、又は仲春二月、仲秋八月の上丁の日に行ふ。〔禮、月令〕仲春之月、上丁命二樂正一習二舞釋菜一。〔隋書、禮儀志四〕隋制、國子寺、每歲以二四仲月上丁一、釋二奠於先聖先師一。〔唐書、禮樂志五〕其中春中秋、釋二奠於文宣王武成王一、皆以二上丁上戊一。

【丁蔡】76 サイ 福建省建州に產する龍團茶をいふ。龍團茶は茶葉を板狀に固めて龍などの紋を印した茶で、大龍團・小龍團の別があり、宋の丁謂(管國公に封ぜらる)・蔡襄(字は君謨)によつて創始されたからいふ。〔蘇軾、荔支歎〕君不レ見武夷溪邊粟粒芽、前丁後蔡相籠加。〔注〕大小龍茶、始二於丁晉公一、而成二於君謨一。歐陽永叔聞二君謨進一二小龍團一、驚歎曰、君謨士人也、何至レ作二此事一。

【丁壯】77 ソウ ㊀さかんなこと。〔史記、律書〕丁者、言二萬物之丁壯一也。㊁血氣盛な男子。壯丁。〔管子、輕重戊〕丁壯者、胡レ丸操レ彈、居二其下一、終日不レ歸。〔史記、項羽紀〕丁壯苦二軍旅一、老弱罷二轉漕一。〔淮南子、人間訓〕當二此之時一、易子而食、析レ骸而炊、丁壯者死、老病童兒、皆上城、牢守而不レ下。〔資治通鑑綱目集覽〕所謂丁者、人壽百年爲レ期、一幹十年、則丁當二四十彊壯之時一、故曰二丁也。

【丁冊】78 サツ 戶籍簿。〔皇朝通典、食貨、戶口丁中〕十五年、定レ編審二丁冊一。〔皇朝通志、食貨略、戶口丁中〕額二定丁冊數一。

【丁產】79 サン 人夫と生業。〔福惠全書、錢穀部、催

徵、各里丁產、照レ則均派。

【丁算】80 賦稅の一種。壯丁への賦課。丁賦(18)を見よ。〔王守仁、頒二定里甲一雜辨〕人丁二、丁算一分。

【丁酸】81 酪酸(11－39847・)に同じ。

【丁瓚】82 明、鎭江の人。字は點白。嘉靖の進士。官は温州知府。著に素問鈔補正がある。〔四庫提要、一百五〕。

【丁子】83 ❶丁の字と子の字。丁子有レ尾を見よ。❷おたまじやくし。〔正字通〕丁、按、莊子古注、丁子、科斗也、卽蝦蟇子、初生如二丁有一レ尾。〔潛確類書〕科斗、一名、丁子、聞二雷震一則尾脫足生。〔顧況、露青竹杖歌〕浮漚丁子珠聯聯。❸ting¹ tzii³ 人をいふ。❹丁香(18)の❶を見よ。❺ヨホロガ下總國の地名。❻ヨホロコ姓氏。〔日用重寶記〕。

【丁子引】84 唐紙の地紙に茶色の細線を引いたもの。

【丁子香】85 ちやうじ。ライラック。丁香(18)の❶に同じ。〔本草、丁香〕釋名、丁子香、雞舌香。〔夢溪筆談、藥議〕予集靈苑方論、雞舌香以爲二丁香母一、蓋出二陳氏拾遺一、今細考レ之、尙未レ然、按、齊民要術云、雞舌香、世以二其似一丁子一、故一名二丁子香一、卽今丁香是也。

【丁子色】86 黃を帶びた淡紅色。

【丁子染】87 丁子色に染めること。かうぞめの稍〻黑いもの。〔源氏物語、藤裏葉〕丁子ぞめのこがるるまでしめる、白き綾のなつかしきをき給へる。

【丁子頭】88 燈心の燃えさしの頭に出來る塊。丁子の果實に似てゐるからいふ。俗にこれを油の中に入れると貨財を得ると言ひ、吉兆とする。〔今物語〕丁子がしらの香や匂ふらむ。

【丁子有レ尾】89 上方にあるものを首となし、下方にあるものを尾とし、又右に左に曲りくねることを尾といふ文字の通念に從へば、丁と子の二字の下部は共に左に曲つてゐるから、丁と子との二字にも尾があることになるといふ、古の名家の詭辯。一說、丁字はおたまじやくし。〔莊子、天下〕馬有レ卵、丁子有レ尾、火不レ熱。

【丁氏】90 姓。字解㊀の㊉を見よ。

【丁氏井】91 丁公鑿レ井(70)を見よ。

【丁氏粟】92 春秋戰國時代の齊の世族であるる丁氏が、其の家は富み多くの粟米を有したといふ故事。〔管子、山權數〕還四年伐二孤竹一、丁氏之家粟、可レ食二三軍之師一、行五月。〔管子、輕重丁〕其稱貸之家、丁惠高國、多者五千鍾。

【丁字】93 ❶丁の字。丁字形。〔元好問、過二晉陽故城一書レ事詩〕官街十字改二丁字一。❷一箇。一个。丁は个字の誤。不レ識二一丁字一(1－1・1599)を見よ。「の海口。

【丁字河】94 河の名。山東省海陽縣の西南

【丁字港】95 港灣の名。山東省海陽縣の西南。丁字灣。

【丁字矩】96 丁字形の定規。

【丁字沽】97 地名。一名、丁沽・丁沽河頭。沽は水の名。河北省天津縣の北。七十二沽の一。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、靜海縣〕丁字沽、在二天津衞東北五里一。

【丁字尺】98 丁字形の定規。丁字板。丁定規。

【丁字水】99 河の名。福建省南平縣の東。建溪・西溪・沙溪の合流點。

【丁字節】100 鐵管などの丁字形に交はる部分を連結するに用ひる丁字形の管。

【丁字板】101 丁字尺に同じ。

【丁字簾】102 ❶丁の字の形に卷いた簾。〔錢謙益、留二題秦淮丁家水閣一詩〕夕陽凝望春如レ水、丁字簾前是六朝。❷地名。江蘇省江寧縣。明末に、多くの妓女が居たところ。〔桃花扇、寄扇〕桃根桃葉無二人問一、丁字簾前是斷橋。

【無二丁字一】103 文字を知らない。無學者。不レ識二一丁字一(1－1・1599)に同じ。〔楊萬里、詩〕莫レ羞空腹無二丁字一、且免秋陽晒二殺人一。

【丁鎡】104 明の人。恕の子。字は永時。官は兩浙都轉鹽運使。後、刑部左侍郎。〔國朝獻徵錄、四十六〕・〔國朝列卿記、五十九〕・〔明名人傳、十八〕。

【丁隋】105 宋、武進の人。字は公點。嘉祐の進士。蘇軾等の推薦で太常博士に除せられ、後、處州の長官となる。〔尙友錄、十一〕・〔宋元學案、四〕。

【丁日】106 二・四・六など偶數の日。

【丁實】107 草木の繁茂して充實すること。〔說文〕丁、夏時、萬物皆丁實。〔段注〕丁實、小徐本作二壯成實一、律書曰、言二萬物之丁壯一也。

【丁匠】108 官府の工匠。御用大工。番匠。〔北史、袁充傳〕因レ加二程課一、丁匠苦レ之。〔唐書、百官志一〕十九曰、功課皆充、丁匠無レ怨、爲二役使之最一。

【丁若】109 複姓。〔通志、氏族略、以二邑謚一爲レ氏〕丁若、姜姓、風俗通、齊丁公子懿伯、食二采於若一因氏焉。

【丁肅】110 後漢、濟陰の人。靈帝の宦者。精忠の人。〔後漢書、一百八〕。

【丁俊】111 明、豐城の人。字は秉存。永樂の進士。御史に任ぜられて福建を巡按した時、豆腐以外に何も食べなかつたので、時人は、豆腐御史と呼んだ。性剛直、權貴に忤つて致仕す。〔蘭臺法鑒錄、七〕・〔尙友錄、十一〕。

【丁申】112 清、錢塘の人。字は竹舟。咸豐中、杭城が再び陷り、文瀾閣の藏書が散佚するや、申は殘書を拾ひ集めて、之を藏し、一萬册を保存した。又、弟丙と杭郡詩三輯を編す。

【丁信】113 後燕の人。萬姓統譜に丁信言に作り、圖書集成、氏族典が之を其の儘承けてゐるのは誤。字は道運。慕容盛に事へて七兵尙書となる。〔十六國春秋〕・〔萬姓統譜〕。

【丁洊】114 五代、吳の金壇の人。字は德祥。初、楊行密に仕へ、都知兵馬使となつたが、自ら安んぜず、病と稱して辭し歸る。〔尙友錄、十一〕・〔十國春秋〕・〔京口耆舊傳、六〕。

【丁水】115 河の名。〔水經、泗水注〕泗水、又東南流、丁溪水注レ之。

【丁推】116 少壯のもの。丁稚の別稱。丁は丁年。推は稚を諱んで字を改めたもの。壯丁の義。丁稚(141)の❶を見よ。〔春明退朝錄、一〕吳正肅言、律令有二丁推一、推字不レ通、少壯之意、當二是丁稚一、唐以二大帝諱一避レ之、損二其點畫一云。

【丁數】117 ❶一つ宛割り切れる數。❷書册の枚數。

【丁姓】118 漢、梁の人。字は子孫。魯の榮廣に從つて穀梁春秋を受け、宣帝の時、博士となる。官は中山太傅。〔前漢書、八十八〕。

【丁稅】119 人頭稅。壯年者の頭數によつて課する賦稅の一種。〔宋史、尤袤傳〕袤得二台州一、州五縣、有レ丁無レ產者、輸二二年丁稅一、凡萬有二三千家一。〔清會典事例、戶部、戶口〕民丁屯丁稅、共四十二萬四千四百四十四兩一錢九分八釐。

【丁紹】120 晉、譙國の人。字は叔倫。廣平の太守となり、敎化大いに行はれ、後、冀州の刺史として功あり、冀州の諸軍を監す。〔晉書、九十〕。

【丁積】121 明、寧都の人。字は彥誠。成化の進士。新會縣の長官となり、邑人の陳獻章に師事し、善政が多い。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百九十〕。

【丁籍】122 人夫帳。丁簿。〔宋史、姚仲孫傳〕主吏夜索二丁籍一盡給レ之。〔遼史、兵衞志下〕三京丁籍可レ紀者、二十二萬六千一百。

【丁川】123 明、浙江新昌の人。字は大容。天順の進士。官は監察御史。後、僉都御史に至る。延綏を巡撫し、安邊十策を進む。〔國朝列卿記、一百二十八〕・〔蘭臺法鑒錄、十〕・〔明名人傳、十八〕。

【丁瑄】124 明の人。正統の間、御史として沙縣の亂賊鄧茂七を伐つ。後、廣東副使となる。〔明史、一百六十五〕・〔萬斯同明史、二百二十一〕。

【丁錢】125 人頭稅。丁賦。丁口錢(66)を見よ。〔舊唐書、懿宗紀〕安南管內被二蠻賊驅劫一處、本戶兩稅丁錢等、量放二年。

【丁璿】126 ❶瞿越帝、丁部領の次子。太平十年帝位に卽き、僅かに八箇月で國を黎桓に奪はれ、天福元年、廢せられて衞王となる。後、矢に當つて薨ず。〔宋史、四百八十八〕。❷明、上元の人。字は仲衡。永樂の進士。雲南麗川を平定す。官は左副都御史。〔明史、一百五十九〕・〔萬斯同明史、二百八〕。

【丁屬】127 丈夫ども。〔福惠全書、保甲部、防救失火〕村長莊頭、督二丁屬一于要區一。

【丁泰】128 清、平湖の人。字は禮安。號は卯橋。嘉慶の進士。官は內閣中書。著に仙卉廬詩集・禮記隨筆がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十四〕。

【丁丁】129 タウタウ チヤウチヤウ ❶木を伐る音。〔爾雅、釋訓〕丁丁、嚶嚶、相切直也。〔注〕丁丁、斫レ木聲。〔詩、小雅、伐木〕伐レ木丁丁。〔傳〕丁丁、伐レ木聲也。〔釋文〕丁、陟耕反。〔集傳〕丁音爭。❷杙をうつ音。〔詩、周南、兔罝〕椓レ之丁丁。〔傳〕丁丁、椓レ杙聲也。❸碁をうつ音。〔王禹偁、黃州新建二小竹樓一記〕宜レ圍レ棊、子聲丁丁然。❹琵琶を彈ずる音。〔許渾、聽二琵琶一詩〕紫槽紅撥夜丁丁。❺鳥の鳴聲。〔杜牧、池州送二孟遲先輩一詩〕好鳥響丁丁。❻鷙鳥の勢の盛なさま。〔白居易、畫鵰贊〕鷙禽之英、黑鵰丁丁。❼佩玉の響。〔李商隱、詩〕雙璫丁丁聯二尺素一。❽雨の降る音。〔元稹、景中秋詩〕丁丁窗雨繁。❾水時計の音。〔白居易、和二微之一和レ望レ曉詩〕丁丁漏向レ盡、鼕鼕鼓過半。❿漢の丁令威を指していふ。〔薛能、陳州刺史寄レ鶴詩〕撫レ毛千萬喚二丁丁一。⓫チヤウチヤウ 物を續けてうつ聲。〔古今著聞集、十六〕ちやうちやうと物騷がしげに打ちて。

【丁丁碑】130 テイテイヒ 葉有道の碑。唐の李邕の書。其の碑文は、李邕が夢に感じて書いたもので、丁字の下數字で終つているので、俗に丁丁碑といふ。又、追魂碑ともいふ。〔處州府志〕葉法善、求下邕爲二其祖有道先生國重一作上レ碑、邕從レ之、文成、請二幷書一、弗レ許、一夕夢二法善再求レ書、邕喜而爲レ書、未レ竟、鐘鳴夢覺、至二丁字下數點一而止、法善刻畢、持二墨本一往謝、邕驚曰、始以爲レ夢、乃眞耶、世又稱二此碑一爲二追魂碑一。

【丁丁發止】131 チヤウチヤウハッシ 互に打ち合う音。

【丁丁列列】132 ting¹ ting¹ lieh⁴ lieh⁴ 話をするやうす。〔還魂記、冥誓〕俺丁丁列列、吐出在丁香舌。

【丁丁漏水】133 テイテイタルロウスイ 丁丁と音をたててゐる水時計。〔王涯、秋夜曲〕丁丁漏水夜何長、漫漫輕雲度二月光一。

【丁倒】134 テイタウ 顚倒(**12**‥**43628**‥28)に同じ。〔宋彭城王、讀曲歌〕鹿轉方相頭、丁倒欺二人目一。

【丁當】135 タウタウ 玎璫。❶佩玉の聲。丁冬。〔杜牧、冬至日寄二小姪阿宣一詩〕我家公相家、劍珮嘗丁當。❷金釵の聲。〔溫庭筠、郭處士擊レ甌歌〕蘭釵委レ墜垂二雲髮一、小響丁當逐二廻雪一。

【丁當丁山】136 テイタウテイザン 山名。博南山の俗稱。一名、金浪巓山。雲南省永平縣の西南。西陲の通路。〔讀史方輿紀要、雲南、永昌軍民府、永平縣〕博南山、漢武通二博南山一、卽此、一名金浪顚山、俗訛爲二丁當丁山一、極險隘、爲二蒲蠻出沒之所一。

【丁璫】137 タウタウ 玉石等の觸れ合ふひびき。丁當に同じ。玎璫。丁東。〔正字通〕璫、丁璫、玉佩聲、詩緝、玉珮鳴丁璫、一作二丁當一、或作二丁東一、東卽當也。〔鄭嵎、津陽門詩〕月中祕樂天半聞、丁璫玉石和二塤篪一。

【丁湛】138 テイタン 明、彭澤の人。字は子一。嘉靖の進士。浙江副使の時、海賊を鎭め得なかつた爲に嚴嵩に罪せらる。〔明史、二百五〕。

【丁潭】139 テイタン 晉の人。司徒固の孫。字は世康。諡は簡。同郡の孔愉字は康茂、張茂字は偉康と名を齊しくし、會稽の三康と號す。官は太興中、東陽太守。成帝の時、侍中となり、蘇峻の亂に、帝が石頭に難を避けた際、隨從して離れず、峻が誅せられて後、爵永安伯を賜はる。康帝の時、光祿大夫を以て致仕す。〔晉書、七十八〕。

【丁男】140 テイダン わか者。壯丁。字解㈠の❹を見よ。〔史記、主父偃傳〕發二天下丁男一、以守二北河一。〔漢書、嚴安傳〕丁男被レ甲、丁女轉輸。〔淸乾隆帝、從軍行〕三邊烽火照二軍營一、十萬丁男夜練レ兵。

【丁稚】141 テイチ ❶少壯のもの。丁推。〔春明退朝錄、二〕吳正肅言、律令有二丁推一、推字不レ通、少壯之意、當二是丁稚一、唐以二大帝諱一避レ之、損二其點畫一云。❷デッチ 工場・商店などに年限を定めて召使はれる幼少者の稱。〔西鶴織留、二〕丁稚に行燈掃除させ。

【丁丑】142 テイチウ ❶ひのとうし。〔春秋、桓、八〕夏五月丁丑、烝。❷年號。隋末の恭帝(楊侑)の時、長樂王の竇建德が干支を以て年號としたもの。(617)

【丁杲】143 テイチヤウ 明、蒙化の人。字は德輝。成化の進士。石阡府の長官となり、善政多し。

【丁娘】144 テイヂヤウ 隋の樂曲の名。丁娘十索の❶を見よ。

【丁娘子】145 テイヂヤウシ 布の名。丁氏の娘の織物から名を取る。〔松江府志〕東門外雙廟橋、有二丁氏者一、彈二棉花一極純熟、花皆飛起、用以織レ布、尤爲二精軟一、號二丁娘子一、一名二飛花布一。

【丁娘十索】146 テイヂヤウノジフサク ❶隋の妓、丁六娘の作つた歌十首。每首の末句に、從レ郞索二衣帶一とか、從レ郞索二花燭一などの索の字を用ひてあるので、この名がある。今四首を存している。〔樂府詩集、近代曲辭、丁六娘、十索四首〕樂苑曰、十索、羽調曲也。❷ting¹ niang² shih² suo³ 妓女が遊客に祝儀を爭ひ索めること。

【丁場】147 チヤウバ 宿驛と宿驛との閒の路程。〔東海道中膝栗毛、四、下〕これから二里半の長丁場ぢや、安うして召さぬかい。

【丁中】148 テイチユウ 戶役の年齡をいふ。北齊に始まる。晉では正丁・次丁といひ、宋は全丁・半丁といふ。隋になつて、男女三歲以下を黃とし、十歲以下を小とし、十七歲以下を中とし、十八歲以上は丁として、課役に從事させ、六十歲以上を老とした。唐は生れたばかりの子を黃とし、四歲を小とし、十六歲を中とし、二十一歲を丁とし六十歲を老とする。字解㈠の❹を見よ。〔唐書、楊炎傳〕炎請爲二兩稅法一、戶無二主客一、以二見居一爲レ簿、人無二丁中一、以二貧富一爲レ差、租庸雜徭悉省、而丁額不レ廢。〔古今治平略、三、漢唐戶役〕民年二十一爲レ丁、十六爲レ中。〔蘇轍、民賦敍〕戶無二主客一、以二見居一爲レ簿、人無二丁中一、以二貧富一爲レ差。〔日知錄、考證、丁中〕唐高祖武德六年三月、人始生爲レ黃、四歲爲レ小、十六爲レ中、二十一爲レ丁、六十爲レ老、玄宗天寶三載十二月癸丑、詔曰、云云、自レ今宜下以二十八已上一爲中中男上、二十三已上成上レ丁、杜子美新安吏詩、府帖昨夜下、次選二中男一行、是十八以上、皆發レ之也、然史文多有下言二丁中一者上、擧二丁中一、可三以該二黃小一矣、遼史耶律學古傳、多張二旗幟一、雜二丁黃一、爲二疑兵一、蓋中小皆雜二用之一、而史文代以二黃字一、黃者四歲以下、何可レ雜二之兵閒一邪。

【丁女】149 テイヂヨ ❶年ざかりの女。力役に堪へる女子。一二三十歲の女。〔史記、主父偃傳〕丁男被レ甲、丁女轉輸。❷火をいふ。丁は五行の火に當る。〔蘇軾、眞一酒歌詩〕壬公飛レ空丁女藏、三伏遇レ井了不レ嘗。〔注〕丁女、言レ火也。

【丁綝】150 テイチン 後漢、定陵の人。字は幼春。王莽の末に潁陽の尉となり、光武帝の時、河南・陳留・潁川の二十一縣を下し、功によつて河南太守となる。封は新安鄉侯・陵陽侯。〔後漢書、六十七〕。

【丁覘】151 テイテン 梁、洪亭の人。文を善くし草隸に巧で、同時の智永と世に丁眞永草と稱せらる。官は尙書儀曹郞。後、晉安王侍讀となる。〔顏氏家訓、慕賢〕。

【丁傳】152 テイデン 淸、錢塘の人。敬の子。字は希曾。號は魯齋。乾隆の諸生。著に三代姓原がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十一〕・〔淸儒學案小識、九〕。

【丁渡】153 ヨウホノワタリ 越前國の地名。〔運步色葉集〕。

【丁奴】154 テイド 丁年に達した奴僕。〔唐書、百官志一〕凡居作者、差以二三等一、四歲以上爲レ小、十一以上爲レ中、二十以上爲レ丁、丁奴三當二一役一、中奴丁婢二當二一役一、中婢三當二一役一。

【丁度】155 テイド ❶宋、祥符の人。逢吉の子。字は公雅。諡は文簡。仁宗の時、端明殿學士。後、參知政事・觀文殿學士・尙書左丞等に歷任す。學術に精通し、著に邇英聖覽・龜鑑精義・編年總錄・武經總要・集韻・釋文互注・禮部韻略・貢擧條式等がある。〔宋史、二百九十二〕・〔宋史新編、九十〕・〔東都事略、六十三〕・〔隆平集、八〕。❷チヤウド ㋑あたかも。〔狂言記、布施無〕ちやうど貧僧のかさね齋と申すが、これでござる。㋺端數のないこと。きつかり。㋩程よく。工合よく。〔狂言記、猿替勾當〕是れ是れ一つありさうな、ちやうどござる。

【丁冬】156 タウタウ 玉石などの觸れ合ふひびき。丁東・丁當(135)に同じ。〔韋莊、擣練篇詩〕臨風縹緲疊二秋雪一、月下丁冬擣二寒玉一。〔馬臻、詩〕風檐微動玉丁冬。〔還魂記、鬧傷〕弄悠揚風馬丁冬。

【丁東】157 タウタウ ❶佩玉などの音。又、東丁・丁冬に作る。〔李商隱、五言四十韻獻上詩〕鮑壺冰皎潔、王佩玉丁東。❷風鈴の音。〔韓偓、雨後月中玉堂閑坐詩〕玉堂西畔響丁東。

【丁東水】158 テイトウスイ 泉の名。四川省樂山縣の舊府學の前百歩許りの所にある。洞中から水が湧き出て、其の聲恰も佩環の觸れ合ふ如くであるから、此の名がある。宋の黃庭堅が、名を方響洞と改めた。〔嘉定州志〕方響洞、在二州學前一、舊

名丁東、黄山谷更二今名一レ詩、古人題作二丁東水一自レ古丁東直至レ今、我爲二名方響洞一、信知山水有二清音一。

【丁董】159 トウ ●後漢の丁原と董卓とを併せていふ。〔魏志、呂布傳〕明公不レ見二布之事一丁建陽及董太師一乎。●宋の丁大全と董宋臣とを併せていふ。〔西湖志餘〕董宋臣用レ事、丁大全作レ相、與爲二表裏一、一日、内宴雜劇、一人專打レ鑼、一人撲レ之曰、今日排當、丁丁董董不レ已、何也、曰、方今事皆丁董、吾安得レ不二丁董一。

【不レ知二丁董一】159 シラズ 人が愚昧で事を解せぬのをいふ。丁董の● 及び不レ知二董董一(9－32137‥2)を見よ。〔陔餘叢考、成語〕不レ識二丁董一、曹操既擒二呂布一、欲レ緩二其縛一、劉備曰、公不レ見二丁建陽董太師一乎。

【丁那】160 ルナー ユーゴースラヴィヤの貨幣の名。Dinar の音譯。

【丁寧】161 ネイ ●手厚い。親切な。手厚く。親切に。〔蘇軾、屈到嗜芰論〕丁寧之言。●再三懇切に戒める。〔詩、小雅、采薇、采薇采レ薇、箋〕重言二采薇采薇一者、丁二寧行期一也。〔漢書、谷永傳〕以丁二寧陛下一。〔後漢書、郎顗傳〕惟陛下丁寧再三、留二神於此一。〔北史、劉曠傳〕有二諍訟一者、輒丁寧曉以二義理一。〔韓愈、月蝕詩〕丁寧附二耳莫一漏洩。〔通俗編、言笑、丁寧〕按、國語、戰以二錞于丁寧一、徼二其民一也、丁寧、本取二徼戒一爲レ義、不レ必定二著言辭一、加レ口爲二叮嚀字一、訓爲二囑辭一、始見二於景祐集韻一、陸游和二張功父一詩、叮寧一語宜二深聽一、丁字用レ口、而寧未レ然。●どら。鉦・鐘の類。〔左氏、宣、四〕伯棼射レ王、云云、著二於丁寧一。〔注〕丁寧、鉦也。〔國語、晉語五〕戰以二錞于丁寧一、徼二其民一也。〔注〕丁寧、謂レ鉦也。

【丁年】162 ネンイ 滿二十歳をいふ。字解〔二〕の四を見よ。〔李陵、答二蘇武一書〕丁年奉レ使、皎首而歸。〔注〕善曰、丁年、謂二丁壯之年一也。

【丁年者】163 シテイネン 丁年に達した人。丁年は二十歳。成年者。

【丁年玉筍志】164 ヂテイネンギョクシュンシ 書名。一卷。清、楊懋建撰。俳優の傳記品評を記す。

【丁馬】165 ting¹ ma³ 字指し。字つき棒。

【丁澎】166 ハイ 清、仁和の人。字は飛濤。號は藥園。順治の進士。官は禮部郎中。詩に巧で、陸圻・柴紹炳・毛先舒・孫治・張丹・吳百朋・沈謙・虞黄昊・陳廷會と西泠十子と稱せられ、又、宋琬・施閏章・張譍明・周茂原・嚴沆・趙錦帆と燕臺七子と號せられる。書室を白燕樓・扶荔堂といふ。著に扶荔堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕〔國朝耆獻類徵、一百四十〕〔國朝先正事略、三十七〕。

【丁卯】167 ●ひのとう。〔左氏、桓、六〕九月丁卯、子同生、以二太子生之禮一擧レ之、接以二大牢一。紹炳・毛先舒・孫治・張丹・吳百朋・沈謙・虞黄昊・陳廷會と西泠十子と稱せられ、又、宋琬・施閏章・張譍明・周茂原・嚴沆・趙錦帆と燕臺七子と號せられる。書室を白燕樓・扶荔堂といふ。著に扶荔堂集がある。〔清史稿、四百八十九〕〔國朝耆獻類徵、一百四十〕〔國朝先正事略、三十七〕。

【丁卯】167 ●ひのとう。〔左氏、桓、六〕九月丁卯、子同生、以二太子生之禮一擧レ之、接以二大牢一。●橋の名。江蘇省丹徒縣の城南にある。晉の元哀が水運の爲に堰埭の構築を申請し、丁卯の日に許可が下りたので、其の上に架した橋を丁卯橋と名付けた。〔鎭江府志〕丁卯橋、在二城南三里一、晉元帝子哀鎭二廣陵一、運レ糧出二京口一、爲二水涸一、奏二請立レ埭、以二丁卯日一制可、後人構レ橋、因名、唐許渾築二別墅於其側一、渾有下歸二丁卯港一詩上、明楊文驥一清、有二丁卯橋別業一。

【丁卯集】168 ティバウシフ 書名。二卷・續集二卷・續補一卷・集外遺詩一卷。唐、許渾撰。渾の詩を集めたもの。渾の別業が丁卯橋の側にあったので、之を丁卯莊と呼び、集の名も之に因つた。〔四庫提要、集、別集類〕。

【丁卯虜亂】169 ティバウリョランノ 朝鮮仁宗五年丁卯の年、當時未だ後金國と稱してゐた清の太宗が、朝鮮の毛文龍討伐を名として、第一次の朝鮮征伐を起した。之を丁卯の虜亂といふ。貝勒阿敏・濟爾哈朗・阿濟格・多鐸等の率ゐる金の大軍は各所に朝鮮の軍を破り、大同江以北は悉く金軍に侵された。三月三日、朝鮮では姜弘立・朴蘭英・劉海等を江都に派して金との和議を成立せしめ、爾後、金國に兄事し、且、犒軍の資を贈ることになつた。〔太宗實錄〕。

【丁八】170 ting¹ pa¹ 俳優の用語。役者の一種。末角をいふ。

【丁抹】171 デンマーク 國の名。丹麥。Denmark の音譯。

【丁半】172 チャウハン ●偶數と奇數。●雙六のさいの目の二・四・六を丁、一・三・五を半といひ、之を言ひあてる勝負ごと。〔有德院殿御實紀附錄、四〕。

【丁斑】173 ting¹ pan¹ 小魚の一種。めだか。うきためだか。めめざこ。

【丁婢】174 ティ 丁年に達した下婢。丁奴(154)を見よ。

【丁斐】175 ティ 三國、魏の沛國の人。字は文侯。曹操に事へて典軍校尉となる。財貨を好み、屢〻法を犯したが、曹操は之を盜狗に喩へ、小害はあるが鼠を捕へる功があるといつた。〔魏略〕。

【丁謐】176 テイヒツ 三國、魏の人。斐の子。字は彦靖。曹爽に用ひられて尚書となつたが、司馬懿の恨を受けて爽等と倶に殺さる。〔三國志、九〕。

【丁賓】177 ヒン 明、嘉善の人。字は禮原。謐は清惠。隆慶の進士。御史となつたが、張居正に忤つて去る。後、南京工部尚書から太子太保となる。善く百姓を賑救す。〔明史、二百二十一〕。〔萬斯同明史、二百三十六〕。

【丁夫】178 フ ●二十歳前後の男子。〔晉書、蔡謨傳〕丁夫戰二于外一、老弱穫二于內一。〔王渾、輓漕篇〕漫村赴二丁夫一、所在沸二官府一。●正役に當る者を丁といひ、雜徭に當る者を夫といふ。〔唐律、捕亡、丁夫雜匠亡、疏義〕丁謂二正役一、夫謂二雜徭一。

【丁父】179 テイフ 蔓性灌木の名。あけび。〔通草(11－38892‥164)の別名。木通。丁公籐。葡萄子。山女。丁翁。〔廣雅、釋草〕丁父、附支、蓮草也。

【丁附】180 テイフ 書物の頁數の順を記すこと。

【丁傅】181 テイフ 漢の哀帝の外戚である丁氏と傅氏。〔漢書、外戚、定陶丁姬傳下〕丁傅以二二年間一、暴興尤盛。

【丁賦】182 テイフ 丁年に達したものに課する稅。人頭稅。丁算ともいふ。漢の高祖の四年に、年十六歳以上五十六歳以下に課す。清に至つて、地稅に入れて地丁といふ。丁科。〔十國春秋、南漢梁嵩傳〕請レ蠲二本州一歳丁賦一。

【丁部】183 テイ 書籍分類の一部門。晉の中經簿では總べての書籍を甲乙丙丁に分け、丁部は經史子集の四部書中の集部に當る。四庫(3－4682‥26)を見よ。〔隋書、經籍志一〕魏祕書郎鄭默、始制二中經一、祕書監荀勗、又因二中經一、更著二新簿一、分爲二四部一、總二括羣書一、云云、四曰、丁部、有二詩譜・圖讚・汲冢書一。〔唐六典、祕書省、祕書郎〕丁部爲レ集、其類有レ三、一曰楚詞、二曰別集、三曰總集。

【丁復】184 テイフク 元、天台の人。字は仲容。書室を檜亭、又、雙檜亭といふ。延祐の初年、京師に遊び、官に薦められたが就かず、晩年、金陵に僑居す。其の詩は、たくまずして自ら高尚な風韻を具へた。著に檜亭集がある。〔四庫提要、一百六十七〕。

【丁丙】185 ヘイ 清、錢塘の人。申の弟。字は嘉魚。別の字は松生。晩號は松存・師讓菴。諸生。同治の間に、左宗棠を助く。武林掌故叢編・武林往哲遺著・杭郡詩三輯を輯刊し、又、祖父丁韻の八千卷樓を繼いで、後八千卷樓・小八千卷樓を作り、多く善本を藏す。書室を當歸草堂・嘉惠堂・善本書室といふ。著に善本書室藏書志・庚辛泣杭錄・北隅贅錄・續東河擢歌・三塘漁唱がある。〔續碑傳集、八十一〕。

【丁鼒】186 ボ 宋、石球の人。字は文伯。淳熙の進士。官は成都制置使。嘉熙中、元兵を討つて成都に死んだが、理宗は詔を發して爲に廟を立てた。〔宋史、四百五十四〕〔南宋書、六十〕〔宋史翼、十七〕〔宋季忠義錄、四〕〔南宋制撫年表、六十一・四十九〕。

【丁奉】187 ホウ 三國、吳の安豐の人。字は承淵。孫亮が位に卽くと共に冠軍將軍となり、次いで大將軍に遷る。後、事に坐して家を臨川に遷された。〔三國志、五十五〕〔英雄記鈔〕。

【丁逢】188 ホウ 宋、晉陵の人。字は端叔。進士。金主が其の塡烏林荅天錫を來朝させた時、天錫は貴を怙んで驕黠であつたので、逢は上書して之を斬らうと乞うたが、孝宗は、其の材氣を嘉して召對した。逢は國子監書庫官となり、後、寶謨閣待制に終る。〔尙友錄、十一〕。

【丁鳳】189 ホウ 明、蠡縣の人。字は應詔。成化の進士。兵部右侍郎となり、武功があつた。〔國朝列卿記、五十二・八十二・一百二十三・一百四十一・一百五十七〕・〔明名人傳、十八〕・〔本朝分省人物攷、五〕。

【丁穆】190 ボク 晉、譙國の人。字は彥遠。封は眞定侯。順陽の太守であつた時、苻堅に執へられたが、仕へず。後、長安を襲はうとして、謀がも

れ、害せられた。〔晉書、八十九〕。

【丁盆】191 ting² pên² たかつき。菓子盆の類。

【丁密】192 テイミツ 後漢、岑溪の人。字は靖公。性質清介で、家で織つた着物でなければ着ず、自分が耕して得た穀物でなければ食はず、人の贈物は一切受付けぬといふ風であつた。父母の喪に遭ひ、心喪三年の後、更に墓側に廬を作つて喪に服すこと三年、雙鳧が來て、廬旁の小池に游び、人を見て馴れ伏した。時人は之を孝感とした。〔尚友錄、十一〕。

【丁明】193 テイメイ 漢、瑕丘の人。寬の玄孫。妹の定陶共王姬の生んだ哀帝が卽位するに及んで、陽安侯に封ぜられ、大司馬驃騎將軍となつたが、王莽の爲に官爵を免ぜらる。〔前漢書、九十七〕。

【丁茂】194 テイモ 後漢、合浦の人。字は仲盧。少くして孤貧、母に事へて至孝。母卒するや、自ら土を負つて墳を作り、松柏を植ゑたところ、白鹿が其の下に來つて馴れ游んだといふ。太守は其の至孝に感じて孝廉に擧げたが、遂に辭して就かなかつた。〔廣東通志〕。

【丁夜】195 テイヤ 丑の刻。今の午前二時。一夜を五更に分けて、甲夜（午後八時）・乙夜（十時）・丙夜（十二時）・丁夜（午前二時）・戊夜（午前四時）とする。〔唐書、天文志、二〕長慶九年六月丁酉、自レ昏至二於丁夜一流星二十餘、縱橫出沒。

【丁野】196 テイヤ ㊀近江國の地名。㊁姓氏。〔日用重寶記〕。

【丁鏞】197 テイヨウ 明、上元の人。字は鳳儀。成化の進士。官は南京刑部郎中。最も文學を嗜み、詩に耽る。〔萬姓統譜〕。

【丁老】198 テイラウ 丁年のものと老年のもの。〔資治通鑑、唐紀〕請、百姓年二十三爲レ丁、五十九免レ役。〔注〕唐制、二十一爲レ丁、六十爲レ老。〔冊府元龜〕十八以上爲レ丁、以從二課役一六十爲レ老、乃免。

【丁犖】199 テイラク 善い牛。丁櫟（213）に同じ。〔說文〕犖、駁牛也、櫟與レ犖通。〔廣雅、釋獸〕郭朴、丁犖。〔疏證〕說文、犖、駁牛也、藝文類聚引二桓譚新論一云、夫畜生賤也、然有二尤善者一、皆見二記識一、故馬稱二驊騮・驥騄一、牛譽二郭朴・丁櫟一、朴與レ朴通、櫟與レ犖通。

【丁蘭】200 テイラン 後漢、河内の人。母の像を木に刻んで仕へた孝子。丁蘭刻木を見よ。

〔丁蘭刻木〕201 テイランコクボク 蒙求の標題。後漢の丁蘭は母の死後、木を刻んで其の像を造り、之に事ふること生に事ふる如くしたといふ。至孝の故事。〔風俗通、愆禮〕世間共傳、丁蘭剋レ木而事之。〔孫盛、逸士傳〕丁蘭者、河内人也、少喪二考妣一、不レ及二供養一、乃刻レ木爲レ人、髣髴親形一、事レ之若レ生、朝夕定省、後鄰人張叔妻、從二蘭妻一借レ物、看二蘭妻跪一、投二木人一、木人不レ悅、不二以借レ之、叔醉酣來、罵二木人一、以杖敲二其頭一、蘭還見二木人色不一レ懌、問二其妻一、具以告レ之、卽奮レ劍殺二張叔一、吏捕レ蘭、辭二木人一去、木人見レ蘭、爲レ之垂レ淚、郡縣嘉二其至孝一、通二於神明一、圖二其形像於雲臺一也。〔孝子傳〕丁蘭事レ母孝、母亡、刻レ木爲レ母事レ之、蘭婦誤以レ火燒二母面一、應レ時髮落如レ割。

【丁覽】202 テイラン 三國、吳の山陰の人。字は孝連。潔淨で、孫權に重んぜらる。〔三國志、五十七〕。

【丁糧】203 テイリャウ 壯年の人が耕作して得る米粟。〔王守仁、頒定里甲雜辨〕一年丁糧、共該一千一百二十六分半。〔皇朝通典、食貨、田制〕卽以二是年丁糧之數一、作爲定額。

【丁力】204 テイリョク 一人前の男の力。〔金史、食貨志、二〕聽下以二丁力等一者贖上之。〔清會典事例、戶部、遭運〕丁力未レ免二拮据一。

【丁琳】205 テイリン 清、平湖の人。字は貞琳。號は甘山。繪畫及び行楷書に巧。好んで異人に接し、天文地理より馬・杜二氏の學に至るまで精通せざるはなかつた。著に香草菴草がある。

【丁令】206 テイレイ 漢代の夷狄の種族。丁零（210）に同じ。〔漢書、蘇武傳〕丁令盜二武牛羊一。〔張衡、東京賦〕北燮二丁令一。〔注〕善曰、漢書曰、匈奴北服二丁令一、或作二丁零一。

〔丁令溪水〕207 テイレイケイスイ 河の名。甘肅省成縣の西北。〔水經、漾水注〕漢水、又東南于二盤頭郡南一、與二濁水一合、水出二濁城北東一、流與二丁令溪水一會、其水北出二丁令谷南一、逕二武街城西東一、南入二濁水一。〔成縣志〕今有二東河一、在二縣東一、源出二秦州一南入二龍峽一、合二南河一、卽丁令溪也。

【丁洽】208 テイカフ 泉の聲。〔賈島、石淙別業詩〕寒水長繩汲、丁洽數滴翻。

【丁玲】209 テイレイ 民國、湖南省常德縣の人。本名は蔣偉文。丁玲は筆名。省立第一女子師範・上海大學等を卒業して作家生活に入り、在黑暗中等で文壇に賣り出したが、夫の胡也頻が國民黨の爲に銃殺せられたのを契機として、其の思想は極端に左傾した。作品には水・母親・一個人的誕生・韋護等がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【丁零】210 テイレイ 漢代の夷狄の種族。匈奴の屬國となる。今の露領イルクーツク地方にゐたもの。丁令。丁靈。釘靈。〔漢書、匈奴傳〕後北服二渾窳・屈射・丁零・隔昆・龍新犂之國一。

【丁禮】211 テイレイ ㊀漢の人。諡は節。高祖に從つて中涓となり、漢に入り、三秦を定めて、正奉侯となる。都尉を以て項羽を擊ち、灌嬰に屬し、龍且を殺し、更に樂成侯となる。〔前漢書、十六〕。㊁明、丹徒の人。字は思敬。號は蘭室。吟詠に耽り、書札に巧。官は南陽府知。永樂中、周禮補注を獻じた。又、著に三餘集・蘭室吟稿がある。

【丁靈】212 テイレイ 漢代の夷狄の種族。丁零（210）に同じ。〔史記、匈奴傳〕後北服二渾庾・屈射・丁靈・鬲昆・薪犂之國一。

【丁櫟】213 テイレキ 善い牛。丁犖。〔駢雅、釋獸〕丁櫟、駃牛也。〔桓譚新論、求輔〕夫畜生賤也、然有二尤善者一、皆見二記識一、故馬稱二驊騮・驥騄一、牛譽二郭朴・丁櫟一。

【丁藶】214 テイレキ 藥草の一種。いぬなづな。其の實は味少し辛く、專ら利尿劑とする。〔本草、草藶〕釋名、丁藶・葶藶・大室・大適・狗薺。

【丁惟曜】215 テイヰヤウ 明、休寧の人。字は貞白。著に海陽山水志がある。

【丁惟寧】216 テイヰネイ 明、諸城の人。字は少濱。嘉靖の進士。官は御史。後、鄖襄兵備副使。〔蘭臺法鑒錄、十八〕。

【丁暐仁】217 テイヰジン 金の人。筠の子。字は藏用。皇統の進士。官は陝西轉運使。〔金史、九十〕。

【丁韙良】218 テイヰリャウ アメリカ人。本名はマルチン。長老會の宣教師。道光三十年に中國に渡り、文化事業に盡力す。著に天道溯原・勸善喩道傳・格物入門・公法便覽・公法會通・星軺指掌がある。William Alexander Parsons Martin

【丁一焯】219 テイイツシャク 清、清泉の人。字は日峯。康熙の諸生。草書に巧であつた。〔國朝耆獻類徵、四百三十一〕。

【丁允元】220 テイインゲン 宋、常州の人。字は叔中。淳熙中、官は少卿。忠諫によつて潮州の守に謫せらる。韓江の西岸に石洲四を增置し、梁を其の上に架す。民、これを丁公橋といふ。〔尚友錄、十一〕。

【丁雲鵬】221 テイウンホウ 明、休寧の人。字は南羽。號は聖華居士。畫に巧で、人物・山水・佛像等に皆精妙であつた。〔明人小傳、四〕・〔明畫錄、一〕。

【丁詠淇】222 テイエイキ 清、錢塘の人。字は瞻武。號は菉濱居士。室名は二須堂。著に二須堂集がある。

【丁鋭義】223 テイエイギ 清、長沙の人。字は篁村。咸豐の進士。官は鹽運司運同。李續賓に從ひ、皖を征討して戰死す。〔清史稿、四百十四〕・〔續碑傳集、五十九〕。

【丁燿亢】224 テイエウカウ 清、諸城の人。字は西生。號は野鶴。順治中の貢生。官は惠安知縣。著に丁野鶴詩鈔・赤松遊・表忠記がある。〔國朝詩人徵略初編、十四〕。

【丁易東】225 テイエキトウ 宋、武陵の人。字は漢臣。號は石壇。咸淳の進士。官は編修。元朝になつて屢〻徵されたが仕へず、石壇精舍を築き、生徒に教授して世を終る。著に周易象義・周易上下經解・大衍索隱がある。〔萬姓統譜〕。

【丁益琳】226 テイエキリン 清、金山の人。字は桂山。號は子香。國子生。好學にして畫詩を善くす。〔清畫家詩史、甲下〕。

【丁堰鎭】227 テイエンチン 地名。㊀江蘇省如皐縣の東、運鹽河のほとり。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、泰州、如皐縣〕丁堰鎭、縣東四十里、嘉靖中、倭賊嘗犯此。㊁江蘇省武進縣の東南、運河の北岸にあたる。

【丁應斗】228 テイオウト 朝鮮李朝、羅州の人。字は樞卿。諡は忠靖。官は左贊成。〔人物考〕。

【丁應壁】229 テイオウヘキ 明、壽光の人。字は爲章。嘉靖

の進士。兵部主事を授けられ、振武の兵變が勃發するや、他事に假りて其の首魁を除き、爲に全軍たちどころに鎭定した。官は大同兵備道。〔壽光縣志〕。

【丁拐兒】230 テイカイジ 骰の目の二。〔兩般秋雨庵隨筆〕衙門向二呼官親一、曰二火腿繩子一、以下其高而無レ名、兼有中股二削脂膏一之意上也、今易二其名一曰二丁拐兒一。

【丁好禮】231 テイカウレイ 元、蠡州の人。字は敬可。官は參知政事。國家の財政に功績があつた。明に至つて殺さる。〔元史、一百九十六〕。

【丁項郎】232 テイカウラウ 瞿越帝、丁部領の少子。兄を越えて太平九年太子と爲る。翌年春、長兄南越王璉の爲に殺さる。〔宋史、四百八十八〕。

【丁鶴年】233 テイカクネン 元、回回の人。號は友鶴山人。母に至孝なので、時人は爲に丁孝子傳を撰した。著に海巢集がある。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕。

【丁鶴年集】234 テイカクネンシフ 書名。一卷。元、丁鶴年撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【丁噶奴】235 トレンガヌ 馬來半島東岸の酋長國。丁機宜。特稜加努。Trengganu

【丁鑑修】236 テイカンシウ 滿州遼寧省蓋平縣の人。字は幹元。我が國の早稻田大學卒業。滿洲事變が起るや、日本軍と共同して地方治安の維持に努力し、滿洲國成立と共に交通部大臣・實業部大臣となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【丁希顏】237 テイキガン 宋の人。字は令子。書畫皆精妙で、畫く所の孝經圖は李公麟に似てゐる。

【丁希亮】238 テイキリヤウ 宋、黃巖の人。字は少詹。葉適・陳亮・呂祖謙に從學す。著に少詹集がある。

【丁其譽】239 テイキヨ 清、如皐の人。字は蜚公。順治の進士。官は行人司行人。著に壽世祕典がある。

【丁貴嬪】240 テイキヒン 梁、譙國の人。名は令光。謚は穆。武帝の妃。簡文帝を生む。篤く佛教を信じた。〔梁書、七〕。

【丁魁楚】241 テイクワイソ 明、永城の人。瞿式耜と共に桂王を立て、清兵の至るや、王を奉じて岑溪に走り、李成棟の爲に捕へられて殺さる。〔明史、二百六十〕・〔萬斯同明史、三百六十五〕。

【丁外艱】242 テイグワイカン 父の喪に遭ふ。外艱は、父の喪。丁は、あたること。丁外憂。〔春明夢餘錄〕江陵丁二外艱一。

【丁外人】243 テイグワイジン 漢、河間の人。昭帝の長姉鄂邑蓋長公主に通ず。或はいふ、外人とは公主の御氣に入りの男と云ふ意味であり、丁は其の姓であると。〔前漢書、九十七〕・〔日知錄、二十五〕。

【丁奚城】244 テイケイジヤウ 城の名。寧夏省靈武縣の界。後漢永初六年に、羌零昌の將軍杜季貢のゐた所。後元初二年、司馬鈞の拔く所となる。〔讀史方輿紀要、陝西、靈州守禦千戶所〕丁奚城、在二所南一、後漢永初六年、漢陽賊杜季貢、降二於滇令羌一、別二居丁奚城一、東觀記、丁奚城、在二北地郡靈洲縣一、元初二年、司馬鈞等、分レ道擊二叛羌一、鈞獨進攻二拔丁奚城一。

【丁啓睿】245 テイケイエイ 明の人。魁楚の從子。萬曆の進士。崇禎の時、右僉都御史となる。後、李自成が開封を圍むや、兵を督して之に赴き、戰はずして潰走す。〔明史、二百六十〕・〔萬期同明史、三百六十五〕・〔明史稿、二百四十三〕。

【丁景鴻】246 テイケイコウ 清、仁和の人。字は弋雲。號は鷺峯。鄉薦に擧げられた。山水畫を善くし、詩畫社を兩峯三竺間に結び、唱酬を以て樂しみとした。〔淸畫家詩史、甲下〕。

【丁橋街】247 テイケウガイ 地名。湖北省鄂城縣の西。橋は丁橋港上にかかる。西武昌縣に入る要路。

【丁乾學】248 テイケンガク 明、浙江山陰の人。字は天行。號は擁膝齋。謚は文忠。萬曆の進士。魏忠賢を刺して其の怒にふれ、挫辱せられて、憤鬱して卒す。著に擁膝齋文集がある。〔明史、二百四十五〕・〔萬斯同明史、三百五十二〕・〔明史稿、二百三十二〕。

【丁元吉】249 テイゲンキツ 明、鎭江の人。易洞先生と稱す。書室を九鶴山房といふ。著に陸右丞蹈海錄がある。

【丁元公】250 テイゲンコウ 清、嘉興の人。字は原躬。布衣。書に巧。繆篆に精通し、兼ねて山水人物佛像畫を善くす。晚年、僧となり、淨伊と名づけ、願庵と字した。〔國朝耆獻類徵、四百六十四〕・〔淸畫家詩史、甲下〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、一〕。

【丁元薦】251 テイゲンセン 明、長興の人。字は長孺。萬曆の進士。中書舍人となつて滿一箇月で封事萬言を上り、時弊を極陳したため、罪に坐して外官に遷さる。後、官は禮部主事。書室を尊拙堂といふ。著に尊拙堂文集・西山雜記がある。〔明史、二百三十六〕・〔萬斯同明史、三百三十八〕・〔明史稿、二百十九〕・〔明名臣言行錄、七十七〕・〔明人小傳、三〕。

【丁公著】252 テイコウチヨ 唐、吳の人。字は平子。明經に擧げらる。官は右補闕。太子諸王侍讀となり、太子諸王訓十篇を著す。穆宗立ち、太常卿に遷る。〔舊唐書、一百八十八〕・〔唐書、一百六十四〕。

【丁侯病】253 テイコウヤム 周の太公望が、入朝を肯んじなかつた丁侯を、呪禱によつて發病させ、遂に入朝せしめた故事。〔太公金匱〕武王伐レ紂、丁侯不レ朝、尚父乃畫二丁侯於策一、三旬射レ之、丁侯病大劇、問二卜者一、占云、祟在レ周、丁侯恐懼、乃遣二使者一詣二武王一、請三擧レ國爲二臣虜一、武王許レ之、尚父謂レ使曰、歸矣、吾已告二諸神一言、丁侯前畔レ義、今已來、無レ死、使者歸、子之君、自愈矣、使者辭去、尚父乃以二甲乙日一、拔二其頭箭一、丙丁日拔二其目箭一、戊己日拔二其腹箭一、庚辛日拔二其股箭一、壬癸日拔二其足箭一、及レ至、丁侯病稍愈、四夷聞レ之皆懼、各以二其職一來貢、越裳氏獻二白雉一。

【丁國珍】254 テイコクチン 丁玉(43)を見よ。

【丁皁保】255 テイサウホ 清、漢軍正黃旗人。號は鶴亭。謚は文恪。官は內務府總管。卒年九十九。〔國朝耆獻類徵、五十八〕。

【丁士源】256 テイシゲン 民國、浙江省吳興縣の人。字は門槎。上海聖約翰大學卒業後、英國に留學す。前淸時代諸役を歷任し、第一革命の際は段祺瑞の副官となつた。後、京漢・京綏鐵路管理局長となつたが、奉直戰後、安福派の沒落によつて職を去り、其の後、一九三二年の國際聯盟には滿洲國代表として出席し、歸國後、初代駐日公使となる。著に世界海軍現狀等がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【丁士美】257 テイシビ 明、淮安淸河の人。字は邦彥。謚は文恪。嘉靖の進士。官は萬曆の初、史部左侍郎。父の喪に遭ひ、哀毀して卒す。〔萬斯同明史、三百十七〕・〔明史分稿殘編、下〕。

【丁子復】258 テイシフク 清、嘉興の人。字は見堂。號は小鶴。貢生。著に見堂文鈔がある。

【丁之鴻】259 テイシコウ 明、孝感の人。字は漸齋。號は素石。崇禎の擧人。其の學は、明道・象山を宗とする。著に易經象意・漸齋遺書がある。〔孝感縣志〕。

【丁此呂】260 テイシリヨ 明、新建の人。字は右武。萬曆の進士。官は浙江右參政。〔明史、二百二十九〕・〔萬斯同明史、三百二十五〕・〔明史稿、二百十三〕・〔蘭臺法鑒錄、十九〕・〔明人小傳、三〕。

【丁思孔】261 テイシコウ 清、奉天廣寧の人。字は景行、號は泰巖。順治の進士。康熙年間、偏沅の巡撫となつて文教を振興し、後、雲貴總督となる。〔淸史稿、二百四十五〕・〔滿洲名臣傳、十六〕。

【丁嗣徵】262 テイシチヨウ 清、嘉善の人。字は集虛。號は雪菴。藏書に富む。著に雪菴詩存がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【丁時習】263 テイジシフ 宋、邵武の人。字は行可。初、有司に試みられたが合はず、遂に仕官の志を棄てた。晚年に及び、節操益〻高く、文は愈〻奇を加へた。〔萬姓統譜〕。

【丁柔立】264 テイジウリツ 唐の人。官は左拾遺。李德裕の冤を上書して南陽の尉に貶せらる。〔唐書、一百八十〕。

【丁日昌】265 テイジツシヤウ 清、豐順の人。字は雨生。號は持靜齋。官は江蘇巡撫。曾國藩を助けて功があつた。著に撫吳公牘・百蘭山館集・持靜齋藏書目がある。〔淸史稿、四百五十四〕・〔淸史列傳、五十五〕。

【丁昌期】266 テイシヤウキ 宋、永嘉の人。明經篤行を以て後進の師表となる。醉經堂を建て、自ら記を作る。鄉人は經行先生と尊稱した。〔萬姓統譜〕。

【丁昌遂】267 テイシヤウスイ 清、懷寧の人。字は秀崖。著に典引輯要がある。〔四庫提要、一百三十九〕。

【丁將軍】268 テイシヤウグン 漢の丁寬をいふ。丁寬(50)を見よ。〔國朝經師經義目錄、易〕丁將軍、丁寬也。

【丁常任】269 テイジヤウジン 宋、晉陵の人。字は卿季。官

は戶部侍郎。後、大中大夫寶謨閣待制。〔尚友錄、十一〕・〔南宋制撫年表、五〕。

【丁若鏞】270 テイジャクヨウ　朝鮮李朝、羅州の人。字は美鏞、又、頌甫。號は俟菴、又、茶山。謚は文度。官は刑曹參議。後、竄せられて康津に居る。著に毛詩講義・梅氏尚書平・尚書古訓・尚書知遠錄・喪禮四箋・四禮家式・樂書孤存・周易心箋・易學緒言・春秋考徵・論語古今注・孟子要義・中庸自箴・中庸講義補・大學公義・熙政堂大學講錄・小學補箋・心經密驗・詩律・雜文・經世遺表・牧民心書・欽欽新書・我邦備禦攷・疆域考・異禮考・大東水經・小學珠串・雅言覺非・麻科會通がある。〔俟菴年譜〕。

【丁取忠】271 ジンチュウ　清、長沙の人。字は果臣。號は雲梧。數學に長じ、嘗て白芙堂算學叢書を刊行した。著に數學拾遺・粟布演草・四元玉鑑補章・對數詳解がある。〔清史稿、五百十二〕・〔清史列傳、三十七〕・〔碑傳集補、四十二〕。

【丁壽崐】272 ジテイコン　朝鮮李朝、羅州の人。字は不騫。官は監察・承文校理。〔人物考〕。

【丁壽昌】273 ジテイジュショウ　❶清、江蘇山陽の人。字は頤伯。號は菊泉。書室を思專館・竹均軒・靈鵲書巢といふ。道光の進士。官は嚴州の知府。博學で、最も說文に精しい。著に臺垣疏稿・讀易會通・說文諧聲略例・山陽文徵・睦州存稿がある。〔清史稿、四百五十七〕・〔續碑傳集、三十八〕。❷清、合肥の人。字は樂山。洪秀全の亂などに戰功があつた。官は直隸按察使。

【丁閏銀】274 テイジュンユン　古來、太陰曆を用ひた結果、閏年には、平年に較べて政費一箇月分の增加を生ずるから、稅銀を徵收する場合に、若干加徵するのを例とする。之を遇閏銀といふ。丁賦も同樣加徵する。之を丁閏銀といふ。〔清國行政法、財務行政、收入、賦稅〕地賦加徵、加閏、支那歷代、率ニ行夏曆一、數年一閏、加二月、各項政費、亦遇レ閏加二月之數、此其所レ於ニ賦稅一有レ㆗遇閏加徵之法一也、惟加閏之法、專行之於折徵之地丁、名曰ニ遇閏銀一、亦曰ニ閏耗銀一、其本徵之稅糧、云云、凡加閏之銀、其屬ニ地賦一者、曰ニ地閏銀一、屬ニ丁賦一者、曰ニ丁閏銀一。

【丁汝夔】275 ジテイキ　明、霑化の人。字は大章。正德の進士。嘉靖の初、大禮を爭ひて廷杖を被る。官は兵部尚書。〔明史、二百四〕・〔萬斯同明史、二百九十四〕・〔明史稿、一百八十八〕・〔國朝列卿記、一百・一百十八・一百二十・一百三十〕。

【丁汝謙】276 テイジョケン　明、吉州の人。字は子益。正德の進士。官は太常寺博士・禮科給事中。

【丁汝昌】277 ジテイジョショウ　清、安徽の人。字は禹廷。北洋艦隊の提督となり、日清戰役の時、威海衞に敗れて降り、毒死した。〔清史稿、四百六十八〕。

【丁世雄】278 セイイウ　宋、溫嶺の人。字は少雲。周禮を挾んで擧に應じたが、合はずして罷め、四方の名士を招致して游んだ。

【丁少微】279 セウビ　宋、眞源の人。道士。〔宋史、四百六十一〕。

【丁仙芝】280 センシ　唐、曲阿の人。字は元禎。開元の進士。詩に巧。〔萬姓統譜〕・〔全唐詩、四〕。

【丁善淵】281 ゼンエン　金、垣曲の人。字は湛然。洪慶觀に居り、紫衣を賜はり、通玄と號し、尋いで法籙を授けらる。厲鬼を禁じて顯應があり、又、眞祐の末、紀邦瑞が葛伯城の鎭となつて好んで民を誅殺した際、善淵の諷諫によつて死を免れる者が甚だ多かつた。

【丁善慶】282 ゼンケイ　清、清泉の人。字は伊輔。號は養齋。道光の進士。官は翰林院侍講學士。易・春秋に精通し、著に左氏兵論がある。〔清史列傳、六十七〕・〔續碑傳集、十八〕。

【丁大全】283 タイゼン　宋、鎭江の人。字は子萬。嘉熙の進士。官は寶祐中、右丞相。論劾を受け、貴州に竄せられ、後、海島に徙されんとし、舟にて勝州を過ぎ水に落ちて死す。〔宋史、四百七十四〕・〔宋史新編、一百八十七〕・〔南宋書、五十六〕。

【丁泰運】284 タイウン　明、澤州の人。字は孟尚。崇禎の進士。官は武陟縣の長官。後、流賊の難に卒す。〔明史、二百九十四〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百七十六〕。

【丁尼生】285 ソニ　十九世紀に於ける英國の詩人。Alfred Tennyson

【丁定規】286 テイヤウキ　丁字形の製圖用定規。丁字尺(98)を見よ。

【丁中翰】287 テイチウカン　清、丁泰(1838)をいふ。

【丁仲修】288 テイチウシウ　宋、溫州の人。字は敏之。方臘の亂に賊を樂灣に防ぎ、戰死す。〔宋史、四百五十三〕。

【丁廷枚】289 テイテイバイ　清、長興の人。字は二陶。號は嗜閑老人。貢生から一躍、州同知を授けらる。兄の爾俊と共に雙丁と稱せられた。〔清畫家詩史、甲、上〕。

【丁督護】290 テイトクゴ　樂府清商曲、吳聲曲辭。宋の武帝、唐の李白に歌辭がある。〔樂府詩集、清商曲辭、吳聲曲辭、丁督護歌〕一曰ニ阿督護一、宋書樂志曰、督護歌者、彭城內史徐逵之、爲ニ魯軌所レ殺、宋高祖、使ニ府內直督護丁旿收ニ斂殯一埋之一、逵之妻、高祖長女也、呼レ旿至ニ閤下一、自問ニ殮送之事一、每レ問輒歎息曰、丁督護、其聲哀切、後人因ニ其聲一廣ニ其曲一焉、唐書樂志曰、丁督護、晉宋間曲也、今歌是宋武帝所ニ製云一。〔宋武帝、丁督護歌〕督護北征去、前鋒無ニ不平一、朱門垂ニ高蓋一、永世揚ニ功名一。李白、丁都護歌〕雲陽上征去、兩岸饒ニ商賈一、吳牛喘レ月時、拖レ船一何苦、水濁不レ可レ飲、寧飲半成レ土、一唱ニ都護歌一、心摧淚如レ雨、萬人鑿ニ盤石一、無レ由レ達ニ江湄一、君看石芒碭、掩レ淚悲ニ千古一。

【丁德輿】291 テイトクヨ　明、定遠の人。謚は武襄。屢〻征伐に從つて大功を樹てて、鳳翔衞指揮使となる。後、徐達に從つて張士誠を討ち、湖州を下し、平江を圍み、軍に卒したが、洪武の初、濟國公に追封し、功臣廟に列祀せらる。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【丁德裕】292 テイトクユウ　宋、臨洺の人。官は西川都巡檢使・常潤州等の經略巡檢使。〔宋史、二百七十四〕・〔宋史新編、七十八〕・〔北宋經撫年表、十〕。

【丁內憂】293 テイナイウ　母の喪に遭ふ。丁內艱。內憂(1－1418‥7)の❷を見よ。〔梁書、袁昂傳〕昂丁ニ內憂一。

【丁內艱】294 テイナイカン　母の喪に遭ふ。丁內憂に同じ。〔陳書、司馬暠傳〕年十二丁ニ內艱一。〔五代史、雜第四十二李琪傳〕其兄珽云云、丁ニ內艱一。〔宋史、張齊賢傳〕齊賢丁ニ內艱一、水漿不レ入レ口者七日。

【丁寶臣】295 テイハウシン　宋、晉陵の人。字は元珍。兄、宗臣と俱に文聲あり、二丁と稱せらる。景裕中、兄弟共に進士に登る。官は祕閣校理。歐陽脩と親交あり。〔萬姓統譜〕。

【丁寶楨】296 テイホウテイ　清、貴州平遠の人。字は稚璜。謚は文誠。咸豐の進士。苗の亂を平げて功あり。官は山東巡撫・四川總督に至る。〔清史稿、四百五十三〕・〔續碑傳集、二十八〕。

【丁伯桂】297 テイハクイ　宋、莆田の人。字は元暉。嘉泰の進士。官は中書舍人。後、給事中。〔宋史翼、十五〕・〔南宋館閣續錄、七・九〕。

【丁飛擧】298 テイヒキョ　唐、濟陽の人。字は翰之。老子莊周の書を讀んで、養生の道を善くした。

【丁未禍】299 テイビ ノ　朝鮮李朝第十三代の王、明宗の二年丁未に起つた士林の禍獄。先帝仁宗が卽位して大いに士林の名士、李彦迪・柳灌・成世昌等を擧用した時、志を得ぬ徒輩は尹元衡の下に集り、士林を目して尹任の黨とした。明宗卽位の年、この兩黨の對立は愈〻激化して、遂に乙巳の士禍を惹起し、尹元衡の一派は尹任の黨を排し、士林の名士は多く禍を蒙つたが、更に其の二年丁未の禍を起すに至つた。卽ち乙巳の禍獄に罪しなかつた其の餘の者を處斷し、鳳城君峘・宋麟壽等二十餘名が死刑又は流竄に處せられた。以後、士林は十四代宣祖の頃まで振はなかつた。〔明宗實錄、六〕。

【丁普郎】300 テイフラウ　明、黃陂の人。初、陳友諒の將となり、後、太祖に降り、友諒と鄱陽湖に戰つて戰死す。濟陽郡公を贈られ、康郎山に廟を立てて祀らる。〔黃陂縣志〕。

【丁部領】301 テイブレイ　大黃華閭洞の人。南越に帝を稱し、國を瞿越といひ、華閭洞に都して大勝明皇帝と稱す。太平十年、弑せらる。〔宋史、四百八十八〕。

【丁福保】302 テイフクホウ　民國、江蘇無錫の人。字は仲祜。號は疇隱・破衲・濟陽破衲・晉陵上工。日本醫科大學出身。歸國後、醫を業としたが、後、文明書局に入り編輯に從事し、一九一二年、上海に醫學書局を創設し、醫學書を出版す。著に全漢三國晉南北朝詩・說文解字詁林・清詩話・老子道德經箋注・陶淵明詩箋注がある。

【丁文盛】303 テイブンセイ 清、奉天廣寧の人。鑲黃旗漢軍に隸屬した。官は山東巡撫。〔清史稿、二百四十五〕。

【丁逢吉】304 テイホウキツ 宋、祥符の人。醫術を以て眞宗の藩邸に事へ、又、書籍を聚めることを好み、當時の儒者と交游した。〔宋史、二百九十二〕。

【丁懋遜】305 テイボウソン 明、霑化の人。萬曆の進士。官は吏科給事中・左侍郎。〔明史、二百三十三〕・〔萬斯同明史、三百三十七〕・〔明史稿、二百十五〕。

【丁茂桂】306 テイモケイ 明、壽光の人。字は承休。平谷・柏鄉二縣の長官となり、政績あり。〔勝朝殉節諸臣錄、六〕。

【丁養浩】307 テイヤウカウ 明、仁和の人。字は師孟。成化の進士。官は雲南布政使。著に西軒效唐集錄がある。

【丁履恆】308 テイリコウ 清、武進の人、字は若士、又の字は道久。號は東心。嘉慶の拔貢。官は肥城知縣。書室を寫韶齋・宛芳閣・思賢閣・望雲聽雨山房といふ。著に春秋公羊例・左氏通義・毛詩名物志・說文諧聲類篇・宛芳閣雜著・望雲聽雨山房札記・思賢閣寫韻齋諸集がある。〔續碑傳集、七十六〕。

【丁立鈞】309 テイリツキン 清、丹徒の人。字は叔衡。光緒の進士。官は沂州知府。南菁書院に書を講じた。風疾のため右手の自由を失つたが、猶左手を以て書畫を書き、世に珍重された。〔碑傳集補、二十六〕・〔清畫家詩史、壬上〕。

【丁令威】310 テイレイヰ 漢、遼東の人。道を靈虛山に學び、後、鶴となつて去つた。丁令威化ㇾ鶴を見よ。

丁令威（三才圖會）

【丁令威化ㇾ鶴】311 テイレイヰツルニクワス 漢の丁令威が、仙術を學んで、鶴に化して天に昇つた故事。〔搜神後記〕丁令威、本遼東人、學㆓道于靈虛山㆒、後化ㇾ鶴歸ㇾ遼、集㆓城門華表柱㆒、時有㆓少年㆒、擧ㇾ弓欲ㇾ射ㇾ之、鶴乃飛、徘㆓徊空中㆒而言曰、有ㇾ鳥有ㇾ鳥丁令威、去ㇾ家千年今始歸、城郭如ㇾ故人民非、何不ㇾ學ㇾ仙塚壘壘、遂高上沖ㇾ天、今遼東諸丁云、其先世有㆓升仙者㆒、但不ㇾ知㆓名字㆒耳。

【丁六娘】312 テイロクヂヤウ 隋の妓女の名。丁娘十索(146)を見よ。〔丁六娘、十索〕裙裁孔雀羅、紅綠相參對、映以㆓蛟龍錦㆒、分明奇可ㇾ愛、麤細君自知、從ㇾ郎索㆓衣帶㆒。

【丁酉三凶】313 テイイウノサンキヨウ 朝鮮李氏中宗の二十六年、權臣金安老及び其の一黨の許沆・蔡無澤の三人は、政權を壟斷して暴政を擅にしたが、同三十二年、王及び外戚尹元老等の爲に誅せられた。時に丁酉の年であつたので、時人は之を丁酉の三凶と呼んだ。〔燃藜室記述、九〕。

【丁一確二】314 テイイチカクニ 的確なこと。〔朱子全集、易〕脩辭便是立誠、如㆘今人持㆓擇言語㆒丁一確二㆖、一字是一字、一句是一句、便是立誠。

【丁形定規】315 テイケイヂヤウギ 丁定規(286)に同じ。

【丁侯朝ㇾ周】316 テイコウシウニテウス 丁侯が、周の太公望の呪咀を恐れて周に入朝した故事。丁侯病(253)を見よ。

【丁巳殘人】317 テイシザンジン 清、高鳳翰(**12**－**45313**‥1334)の號。

【丁辛老屋】318 テイシンラウヲク 清、王又曾(**7**－**20823**‥1138)の室名。

【丁眞永草】319 テイシンエイサウ 梁の丁覘の眞書と智永の草書とを併せていふ。〔書斷〕丁覘善㆓隸書㆒、時人云㆓丁眞永草㆒。

【丁盡戶絕】320 テイジンコゼツ 丁男が死に盡きて、其の一家が斷絕すること。〔大學衍義補、嚴㆓武備㆒、郡國之守〕按、今州縣軍戶、多有㆓丁盡戶絕者㆒、其人居宅田產、必有㆓承而受ㇾ之者㆒、除㆓生前立ㇾ契明賣者㆒外、行清軍・御史・會同・布政使、及府州縣官、挨究歸ㇾ官、有㆘願ㇾ代㆓其役㆒者㆖、卽給以㆓本軍絕戶之田㆒。

【丁隨ㇾ地派】321 テイハチニシタガツテハス 丁賦を地租に附屬して納入させる。地丁(**3**－**4890**‥329)を見よ。〔皇朝通典、食貨、戶口丁中〕有㆓丁隨ㇾ地派者㆒、有㆓丁隨ㇾ丁派者㆒。

【丁兆聖妻】322 テイテウセイノツマ 清の人。王端淑(**7**－**20823**‥1900)を見よ。

【丁保余原】323 ヨウロホヨバラ 安藝國の地名。

【丁布各都】324 チンブクツー アフリカの都市の名。廷巴克圖(**4**－**9571**‥153)に同じ。「の號。

【丁戊山人】325 テイボサンジン 明、傅汝舟(**1**－**939**‥177)

【丁鐸爾現象】326 チンダルゲンシヤウ 膠狀溶液に束狀の光線をあてる時、螢光を發する現象。アイルランドのチンダルの研究。Tyndall phenomena

【丂】3 カウ コウ 〔集韻〕苦浩切 皓。

小篆

㊀**氣が伸びようとして、礙げられるさま。**〔說文〕丂、氣欲㆓舒出㆒、丿上礙㆓於一㆒也。㊁巧(**4**－**8721**)に通ず。〔段注〕此則同音段借。㊂亏(**1**－**253**)に通ず。〔說文〕丂、古文㠯爲㆓亏字㆒。又㠯爲㆓巧字㆒。〔段注〕亏與ㇾ丂音不ㇾ同、而字形相似、字義相近、故古文或以ㇾ丂爲ㇾ亏。㊃考(**9**－**28843**)に通ず。〔正字通〕丂、通作ㇾ考。㊄注音符號の聲符の一。舌後音。發音法はㄍと同じであるが、ㄍよりも氣息を烈しく外洩せしめる、有氣音。コ。kʻ。正形はㄎ。此の符號を單獨で讀むときは、韻符ㄜを加へて、コオ、kʻê と讀む。

解字 指事。氣が伸び出でんとして礙げられて居るさま。丿は氣の伸び出るさま。▽イ（甲骨文）象形。柄の曲がつた雕刻刀に象る。

【𠀀】4 カ 〔集韻〕虎何切 歌。

小篆

㊀**氣が伸びる。**〔說文〕𠀀、反丂也、讀若ㇾ呵。〔六書正譌〕𠀀、舒也。〔六書精蘊〕𠀀、氣出而易也、反ㇾ丂見ㇾ意、重ㇾ之、爲㆓大笑聲㆒、借㆓譴怒聲㆒、皆動㆓於聲氣㆒也。㊁呵(**2**－**3459**)の本字。〔正字通〕𠀀、呵本字。㊂注音符號の韻符の一。單韻母。舌の後部を半ば高くし、口を半ば閉ぢ、上下の脣を略〻圓形にして、氣息を自由に外洩させると、此の音になる。オ。o。正形はㄛ。

解字 指事。𠀀は丂の反字で、氣の伸びるさま。

【ㄜ】5 注音符號の韻符の一。單韻母。舌の中央部やや下降し、口は半開、平たくしㄛの音を咽喉元へ押しつめた心持で發音すると此の音となる。オエ。ê。もとㄜ(1－98)に作る。

【七】6 シツ シチ 〔集韻〕戚悉切 質。 ㄑ丨 chʻi

小篆 小篆（聲定訓通）

㊀**なゝつ。なな。**〔廣韻〕七、數也。〔詩、召南、摽有梅〕摽有ㇾ梅、其實七兮。〔詩、唐風、無衣〕豈曰ㇾ無㆓衣七㆒兮。〔儀禮、公食大夫禮〕下大夫、則若七若九。㊁**なゝたび。**〔左氏、文、十六〕七遇皆北。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕漢晉春秋曰、七縱七禽。㊂**他のものと配することに因つて次の㋑より㋬までの意味を表はす。**㋑天地人四時の始。〔漢書、律歷志上〕七者、天地四時人之始也。㋺陽數。〔說文〕七、易之正也、从㆓一微侌從ㇾ中衺出㆒也。〔易、繫辭上〕天七地八。〔白虎通、嫁娶〕陽數七。㋩易の震卦の數。〔易、既濟、虞注〕震爲ㇾ七。㋥火の數。〔管子、幼官〕用㆓七數㆒。〔注〕七亦火之成數。㋭南方の數。火の二、土の五、合せて七となるからいふ。〔南齊書、樂志〕南方有㆓火二土五㆒、故數七。㋬西方をいふ。〔素問、五常政大論〕眚㆓於七㆒。〔注〕七、西方也。㊃柒(**6**－**14620**)・桼(**6**－**14818**)・漆(**7**－**18108**)に通ず。〔正字通〕七、或曰、七通作㆓柒・桼・漆㆒。㊄**文體の**

名。賦騷の一種。次表を見よ。

題名	時代	作者名	題名	時代	作者名
七發	前漢	枚乘	七華	魏	魏氏
七激	後漢	傅毅	七華	魏	劉劭
七興	後漢	劉廣世	七命	晉	張協
七依	後漢	崔駰	七誨	晉	傅巽
七款	後漢	李尤	七諷	晉	左思・段業
七說	後漢	桓麟	七唱	晉	成公綏
七蠲	後漢	崔琦	七徵	晉	陸機
七舉	後漢	劉梁	七歡	晉	湛方生
七辯	後漢	張衡	七濟	宋	謝靈運
七蘇	後漢	崔瑗	七繹	宋	顏延之
七厲	後漢	馬融	七要	齊	竟陵王
七啓	魏	曹植	七契	梁	蕭統
七喻	魏	徐幹	七勵	梁	簡文帝
七釋	魏	王粲	七誘	梁	蕭子範
七訓	魏	楊氏	七觀	元	袁桷

〔文體明辯、七〕按、七者文章之一體也、詞雖二八首一、而問對凡七、故謂二之七一、七者、問對之別名、而楚詞七諫之流也。❻姓。〔萬姓統譜〕七希賢、施州衞人、正德中永春縣訓道。 邦なゝつ。寅の刻(午前四時)。申の刻(午後四時)。

解字 指事。說文に依れば、七は陽の正位で、一は地平線、乚は地中の氣の出づるさまといふ。朱駿聲は、此の說は迂遠で通じ難い。造字の始、畫して以て數を記しただけで深意なく、唯其の形を異にしたのであると說く。〔說文、七、陽之正也、从二一微陰从レ中衺出一也、通訓定聲〕此說紆遠難レ通、造字之始、畫以紀レ數、本無二深意一、但別二異其形一耳。 ▽十(甲骨文) 指事。縱橫に切りつけたさまから、きるの意を示す。なゝつの意は假借。

參考 金錢に關しては、字畫の變更を恐れ、現在は多く柒、又は桼・漆を用ひ、商業上では、亠を用ひる。〔六書故〕一、今惟財用出內之簿書、用二壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌一、以防二姦易一。〔通俗編、數目〕按、唐張參五經文字、每部後、凡幾字之題、皆作二壹貳參等一、惟七作二漆字一。

【七哀】1 シチアイ 七つの悲しみ。痛んで哀しみ、義にして哀しみ、感じて哀しみ、怨んで哀しみ、耳目聞見して哀しみ、口歎じて哀しみ、鼻酸にして哀しむをいふ。〔曹植、七哀詩序、注〕向曰、七哀、謂二痛而哀、義而哀、感而哀、怨而哀、耳目聞見而哀、口歎而哀、鼻酸而哀一也。

【七哀詩】2 シチアイシ 詩篇の名。魏の曹植・王粲・阮瑀、晉の張載等に同題の作がある。曹植の七哀詩は、夫妻別離の悲劇を寫し、王粲以下の七哀詩は、皆死別の悲哀を敍す。七哀を見よ。〔阮瑀、七哀詩〕丁年難二再遇一、富貴不二重來一、良時忽一過、身體爲二土灰一。〔曹植、七哀詩〕明月照二高樓一、流光正徘徊、上有二愁思婦一、悲歎有二餘哀一。〔王粲、七哀詩〕西京亂無レ象、豺虎方遘レ患、復棄二中國一去、遠レ身適二荊蠻一。〔江總、在二陳旦一解レ酲共哭二顧舍人一詩〕獨酌一樽酒、高詠七哀詩。

【七惡】3 シチアク 七つの善からぬ行。〔逸周書、酆保解〕七惡、一、以レ物角レ兵、二、令二美其前一、而厚二其傷一、三、閒二於大國一、安得二吉凶一、四、交二其所レ親、靜レ之以レ物、則以流二其身一、五、率二諸侯一、以朝二賢人一、而已猶不レ往、六、令二之有レ求、遂以生レ尤、七、見二親レ所レ親、勿二與深謀一、命二友人疑一。〔集訓校釋〕以二微物一興レ兵、如二吳楚以レ爭レ桑起レ釁、令、善也、貌恭情險、如二句踐參レ吳、安得二吉凶一、言二吉凶由二大國一、靜、謀也、流、沈溺也、如下越獻二西施一因以招中吳也、率、歡也、尤、過也、本令レ有レ求、卻府レ罪以沽レ潔、所レ親、所レ當レ親者、命、令也、友人、友邦君也、如下漢以二草具一閒中范增于項羽上是也。

【七案】4 シチアン 宋代、三司のうち、鹽鐵使の分掌した七つの政案。兵案・胄案・商稅案・都鹽案・茶案・鐵案・設案。〔宋志、職官志二〕鹽鐵分二掌七案一、一曰兵案、二曰胄案、三曰商稅案、四曰都鹽案、五曰茶案、六曰鐵案、七曰設案。

【七依】5 シチイ 後漢、崔駰の「七」の題名。〔後漢書、崔駰傳〕所レ著詩・賦・銘・頌・書・記・表・七依・婚禮・結言・達旨・酒警、合二十一篇。

【七緯】6 シチヰ ❶日・月と水・火・木・金・土の五星。〔新論、兵術〕明二天時一者、察二七緯之情一、洞二五行之趣一、聽二八風之動一、鑑二五雲之候一。〔新論、思愼〕七緯順レ度、以光二天象一、五性順レ理、以成二人行一。〔注〕七緯、日月五星。〔鮑照、河淸頌〕如二彼七緯一、累レ璧重レ珠。❷七種の緯書。易緯・書緯・詩緯・禮緯・樂緯・春秋緯・孝經緯。〔後漢書、方術上、樊英傳〕善二風角星算、河洛七緯、推步災異一。〔注〕七緯者、易緯、稽覽圖・乾鑿度・坤靈圖・通卦驗・是類謀・辨終備也、書緯、璇璣鈐・考靈耀・刑德放・帝命驗・運期授也、詩緯、推度災・記歷樞・含神務也、禮緯、含文嘉・稽命徵・斗威儀也、樂緯、動聲儀・稽耀嘉・汁圖徵也、孝經緯、援神契・鉤命決也、春秋緯、演孔圖・元命包・文耀鉤・運斗樞・感精符・合誠圖・考異郵・保乾圖・漢含孳・佑助期・握誠圖・潛潭巴・說題辭也。❸書名。三十八卷。淸、趙在翰輯。

【七友】7 シチイウ 舜の七人の友人。雄陶・方回・續牙・伯陽・東不訾(東不識)・秦不虛(秦不空)・靈甫。〔戰國、齊策〕堯有二九佐一、舜有二七友一。〔聖賢羣輔錄〕舜七友、雄陶・方回・續牙・伯陽・東不訾(或云不識)・秦不虛(或云不空)・靈甫、右舜七友、幷爲二歷山雷澤之游一。

【七游】8 シチイウ 竹林の七游。七賢(107)の❶の㈡を見よ。

【七誘】9 シチイウ 梁、蕭子範の「七」の題名。〔蕭子範、七誘〕幽遁公子、不レ遊二義路一、不レ入二禮門一、人主焉得レ爲レ臣、公侯難二以爲レ客、有二暴勢大夫一、驅二美澤之車一、策二千里之馬一、乃至二公子之所一居。

【七有】10 シチウ 佛 衆生が後世に生れる七種のありかた。地獄有・傍生有・餓鬼有(鬼界有)・天有・人有・業有・中有をいふ。七生。〔婆娑論、六十〕如レ說二七有一、一地獄有、二傍生有、三鬼界有、四天有、五人有、六業有、七中有。

【七有依福業】11 シチウエフクゴフ 佛 無量の福德を得ることのできる七つの施し。一、客人に施す、二、行人に施す、三、病人に施す、四、看病人に施す、五、園林を諸寺等に施す、六、常食を衆僧に施す、七、寒風熱等の時に應じて隨時の飮食衣藥等を施す。〔俱舍論、十八〕如二七有依福業事中一、先說レ應レ施二客・行・病・侍・園林・常食・寒風熱隨時衣藥一。

【七羽】12 シチウ 燕樂で、羽聲の七調をいふ。〔樂府雜錄〕平聲羽七調、第一運中呂調、第二運正平調、第三運高平調、第四運仙呂調、第五運黃鐘調、第六運般涉調、第七運高般涉調。〔宋史、樂志十七〕羽聲七調、曰般涉調、曰高般涉調、曰中呂調、曰正平調、曰南呂調、曰仙呂調、曰黃鐘調、皆生二於南呂一。〔燕樂考原〕燕樂、七羽一均、卽琵琶之第四弦、分爲二七調一、此弦最細、得二宮弦之半一、名爲二七羽一、實太簇之淸聲、故其調名、多與二七宮一相應、七羽第一調、爲二般涉調一、應二七宮之正宮一、第二調爲二高般涉調一、應二七宮之高宮一、餘類推、樂府雜錄、羽七調、以二第一運一爲二中呂調一者、黃鐘均南呂爲レ羽、七羽、唐人首二南呂一、則中呂調乃黃鐘羽、故爲二第一運一、七調以二黃鐘一爲二次序一也、南宋燕樂七羽、亦用二黃鐘以下之七律一、則般涉調卽黃鐘羽、與二樂府雜錄一不レ同、七羽一均、元人雜劇皆不レ用、蓋已附二入於七宮及七商一矣。

【七雲】13 シチウン 淸、吳襄(2-3365‥218)の字。

【七要】14 シチエウ 南齊、竟陵王の「七」の題名。〔蕭子良、賓僚七要〕松旣レ煙而接レ漢、竹緣レ嶺而負レ筠、哀二過鴻於月曉一、悲二夜猨於霜旻一、乃鶴駕之非レ遠、信羽車之可レ鄰。

【七曜】15 シチエウ ❶日(太陽)・月(太陰)と、火(熒惑)・水(辰星)・木(歲星)・金(太白)・土(塡星・鎭星)の五星とをいふ。七耀。七政(285)の❶に同じ。〔素問、天元紀大論〕七曜周旋。〔注〕七曜、謂二日月五星一。〔後漢書、劉陶傳〕陶著書數十萬言、又作二七曜論一。〔羣書拾唾、天文造化〕七曜亦曰二七政一、書曰、在二璇璣玉衡一、以齊二七政一、日月木火土金水。〔宿曜經、上〕夫七曜、日月五星也、其精上曜二于天一、其神下直二于人一、所下以司二善惡一、而主中理吉凶上也、其行一日一易、七日一周。〔唐書、藝文志三〕吳伯善陳二七曜曆五卷一。〔通志、天文略〕七曜、日、循二黃道一東行、一日一夜行二一度一、云云、月者、太陰之精也、云云、歲星曰、東方、春、木、於二人五常一仁也、云云、熒惑曰、南方、夏、火、禮也、云云、塡星曰、中央、季夏、土、信也、云云、太白曰、西方、秋、金、義也、云云、辰星曰、北方、冬、水、智也。❷㋑七曜を一週七日の日毎に配當した稱。七曜日を見よ。㋺紋所の名。

【七曜供】16 グシチエウ 佛 七曜を祭供する法。七曜攘

災決一卷・七曜星辰別行法一卷等の書がある。

【七曜日】17 シチヨウ 猶太教・基督教に於ける暦の一週の名。日・月・火・水・木・金・土の曜日。

【七曜星】18 シチヨウ ❶北斗七星。❷昴(5－13865)に同じ。

【七曜御暦】19 シチヨウノ 日・月・火・水・木・金・土の七曜を記した暦。〔中務省式〕官人率二陰陽寮一入レ自二建春門一進二七曜御暦一。

【七耀】20 シチヨウ 日・月・歳星・熒惑・太白・辰星・鎮星。七曜(15)の❶に同じ。〔范甯、穀梁傳序〕七耀爲二之盈縮一。〔釋文〕耀、本又作レ曜。〔疏〕日月五星、皆照二天下一、故謂二之七曜一。五星者、卽東方歳星、南方熒惑、西方太白、北方辰星、中央鎮星、是也。〔新論、妄瑕〕以二夫二儀七耀之聖一、不レ能レ無二虧診一。

【七繹】21 シチヤク 南朝宋の顔延之の「七」の題名。〔顔延之、七繹〕北岳生刻レ迹埋レ名、身閒事盡、道畜二山扃一、東國進士、謬與レ遷焉。

【七葉】22 シチヨウ 七代。〔左思、詠史詩〕金張藉二舊業一、七葉珥二漢貂一。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦二士表一〕七葉重光、海内冠レ冕。

【七葉巖】23 シチヨウガン 印度の地名。王舍城の側に在り、巖窟の上に七葉樹があるから名づける。佛の滅後、第一次に五百大阿羅漢が佛の遺法を結集したところ。七葉窟。〔毘婆尸佛經、下〕王舍城七葉巖。

【七葉樹】24 シチヨウジュ 樹の名。❶娑羅樹(3－6294・11)の異名。〔洛陽名園記〕苗師園、故有二七葉一樹對峙、高百尺、春夏望レ之如レ山、然今創二堂其北一。〔江寧府志〕今高座詩寺、有二娑羅樹一、幹直而多レ葉、葉必七數、一曰二七葉樹一。❷とちの木。とちのき科に屬す。橡。栃。〔倭名類聚抄、果蓏部、果蓏類、杼、箋注〕小野氏曰、木一名七葉樹。

【七葉衍祥】25 シチヨウエンシヤウ 清代、曾祖父から玄孫までの七代にわたる一族の人が生存した時、天子から賜はる旌表の文字。七代めでたしの意。衍はさかん。〔清會典事例、禮部、風教〕親見七代一、五世同レ堂、實爲二昇平盛事一、著二加恩賞一給二七葉衍祥扁額字樣一。〔清國行政法汎論、皇室、旌表、高齢〕凡長壽者、固有二積善之德一、且爲二太平之祥瑞一。故按二年齢一、許二建坊一、且給二銀幣一、云云、壽民而上事二祖父一、下逮二玄孫一、躬親通二覩七代家業一、則給二與七葉衍祥字樣一。

【七葉共居】26 シチヨウキヨキヨ 家門互に睦じくて、七世同居すること。隋の郭儁の故事。〔隋書、孝義、郭儁傳〕家門雍睦、七葉共居、犬豕同レ乳、烏鵲通レ巢、時人以爲二義感之應一。

【七葉樹科】27 シチヨウジユカ 植物分類上の一部門。種子植物門、被子植物亞門、雙子葉植物綱、古生花被亞綱、むくろじ目中の一科。喬木又は灌木で、葉は對生し、羽狀複葉をなし、托葉を有せず。花は兩性又は單性、左右相稱で、概ね五數性。子房は上位で、三室を具へる。果實は蒴果、圓形、大形の無胚乳種子を含む。

【七葉一枝花】28 シチヨウイツシクワ 蚤休(10－32893・7)の異名。凡て三層あり、一層毎に七葉を生じ、莖頭に一花を開くことからいふ。〔本草、蚤休〕釋名、蚩休、螫休、紫河車、重臺、重樓金線、三層草、七葉一枝花、草甘遂、白甘遂、集解、時珍曰、凡二三層、毎二一層一七葉、莖頭夏月開レ花一花、七瓣有二金絲蕊一。

【七音】29 シチイン ❶宮・商・角・徴・羽の五音と、變宮・變徴の二音との七つの樂調。七聲(3112)の❶を見よ。〔左氏、昭、二十〕六律七音。〔釋文〕七音、宮・商・角・徴・羽・變宮・變徴也。❷等韻學で脣・舌・牙・齒・喉・半舌・半齒音の稱。〔通志、七音略〕七音之韻、起二自西域一、流二入諸夏一。

【七音略】30 シチインリヤク 通志の一篇。〔鄭樵、通志總序〕天籟之本、自成二經緯一、縱有二四聲一、以成レ經、橫有二七音一、以成レ緯、皇頡制レ字、深達二此機一、江左四聲、反沒二其旨一、凡爲二韻書一者、皆有レ經無レ緯、字書眼學、韻書耳學、眼學以レ母爲レ主、耳學以レ子爲レ主、母主レ形、子主レ聲、二家俱失レ所レ主、今欲レ明二七音之本一、擴二六合之情一、然後能宣二仲尼之教一、以及二人閒之俗一、使二夷裔夷之俘一、皆知レ禮義一、故作二七音略一。

【七音笛色】31 シチインテキシヨク 笛の六孔の開閉によって七つの音色を出すこと。第二・三の孔を閉ぢて吹けば凡となり、古の變徴、洋樂のシにあたる。第一孔を閉ぢれば工、古の角、洋樂のラ。第一・二孔を閉ぢれば尺、古の商、洋樂のソ。上の三孔を閉ぢれば上、古の宮、洋樂のファ。上の四孔を閉ぢれば一、古の變宮、洋樂のミ。上の五孔を閉ぢれば四、古の羽、洋樂のレ。六孔全部を閉ぢれば合、古の徴、洋樂のド。近時、洋樂のドレミファソラシドをハニホヘトイロに改めるものもある。

【七娥】32 ガ 七人の美人。七人の娥眉。〔晉書、束晳傳〕夕宿二七娥之房一、朝享二五鼎之食一。

【七介】33 シチカイ 七人のかいぞへ。〔禮、聘義、聘禮、上公七介、侯伯五介、子男三介、所二以明一貴賤一也。

【七海】34 シチカイ 佛妙高山と七金山との閒に在るといふ七つの大海。內海ともいふ。〔俱舍論、十一〕妙高爲レ初、輪圍最後、中閒八海、前七名レ內。

【七開】35 chʻi¹ kʻai¹ 結局。

【七開八得】36 chʻi¹ kʻai¹ pa¹ te² 幾回ともなく。結局。あげく。

【七醢】37 シチイ 七種のしほから。醯・醢・醢・醢・蚳・魚・兔・臡。〔周禮、天官、醢人〕以二五齊一、七醢・七菹・三臡、實レ之。〔注〕七醢、醯・醢・醢・醢・蚳・魚・兔・臡。

【七巧】38 カシチ たなばた。七夕に裁縫など技藝の上達を乞ふ故事から起る。七夕(313)に同じ。〔琅琊代酔編、七夕〕七夕乞レ巧、其來已久、續博物志、山東風俗、正月、云云、亦有二乞レ巧事一、然不レ如下七夕瓜果陳列、穿レ針弄レ絲、爲有二風致一。

【七巧圖】39 シチカウ ❶書名。清、養拙居士編。清の嘉慶刊、並に補遺。❷chʻi¹ chʻiao³ tʻu² 智慧を試す玩具。智慧の板。七巧板を見よ。

【七巧板】40 chʻi¹ chʻiao³ pan³ 玩具の積木。智慧の板。方形の板を七つに切つて作る。七巧圖。

【七香】41 シチカウ 七種の香。陳皮・茯苓・地骨皮・肉桂・當歸・枳殼・甘草。〔禪林象器箋、十七〕。

【七香車】42 シチカウシヤ 樣々の香木で作つた美しい車。〔魏文帝、與二太尉楊文先一書〕謹贈二足下錦裘二領一云云四望通幰・七香車一乘一。〔梁簡文帝、烏棲曲〕青牛丹轂七香車、可レ憐今夜宿二倡家一。〔盧照鄰、長安古意〕長安大道連二狹斜一、青牛白馬七香車。〔李商隱、七夕詩〕已駕二七香車一、心心待二曉霞一。

【七香牋】43 シチカウセン 樣々の香料を加へて製した紙。〔皮日休、寒夜文宴有二泉字一詩〕分明競レ襞七香牋、玉朗風姿盡二列仙一。

【七香湯】44 シチカウタウ 樣々の香料を加へて立てた湯。〔飛燕外傳〕后浴二五蘊七香湯一。

【七香齋主人】45 シチカウサイシユジン 藤澤恒の號。藤澤南岳(9－32340・71)を見よ。

【七校】46 シチカウ 漢代に置かれた中壘・屯騎・歩兵・越騎・長水・射聲・虎賁の七校尉。〔漢書、刑法志〕至二武帝一、平二百粵一、內增二七校一。〔注〕晉灼曰、百官表、中壘・屯騎・歩兵・越騎・長水・胡騎・射聲・虎賁、凡八校尉、胡騎不二常置一、故此言二七也一。〔高適、信安王幕府詩〕雷霆七校發。

【七角】47 シチカク 燕樂で、角聲の七調をいふ。〔唐書、禮樂志十二〕大食角・高大食角・雙角・小食角・歇指角・林鐘角・越角爲二七角一。〔宋史、樂志十七〕角聲七調、皆生二於應鐘一。〔燕樂考原〕燕樂、七角一均、卽琵琶之第三弦、分爲二七調一、名爲二七角一、實亦應鐘變宮聲、非二正角聲一也。調名皆與二七商一均相應、大石角、應二大石調一、實應鐘聲、高大石角、應二高大石調一、實黃鐘聲、雙角應二雙調一、實太簇聲、小石角、應二小石調一、實姑洗聲、歇指角、應二歇指調一、實蕤賓聲、林鐘角、應二林鐘商一、越角應二越調一、實南呂聲、宋教坊以來、不レ用二七角一均一、以下其與二七商一相應上也。

【七角井】48 シチカクセイ 設治局の名。民國、置く。新疆省鄯善縣の東北。本の七角井鎭。

【七格】49 シチカク 清、滿州鑲藍旗人。姓は富勒瑚氏。乾隆年間、金川の役に功があつた。官は直隸正定鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百二〕・〔國史列傳、三十一〕。

【七覺】50 シチカク 佛修道の時、其の眞僞善惡を觀察覺了するを覺支といひ、之を七つに分ける。一、擇法覺支、智慧を以て法の眞僞を簡擇する。二、精進覺支、勇猛心を以て邪行を離れ眞法を行ずる。三、喜覺支、心に善法を得て歡喜を生ずる。四、輕安覺支、又は除覺分、身心を輕利安適ならしめる。五、念覺支、常に定慧を明記して忘れず、之を均等ならしめる。六、定

覺支、心を一境に住めて散亂せしめぬ。七、行捨覺支、諸の妄謬、一切の法を捨てて、平心坦懷となる。七等覺支。七菩提分。七道。七聖覺。〔止觀、七〕心浮動時、以二除覺一除二身口之麁一、以二捨覺一捨二觀智一、以二定心一入レ禪。若心沈時、以二精進擇喜一起レ之、念通緣二兩處一。

【七學】52 ガクシチ 唐代、國子監の掌つた七つの學校。即ち、國子・太學・廣文・四門・律・書・算の七學。後、廣文が廢せられて六學となる。〔唐書、百官志〕國子監、掌二儒學訓導之政一。掄二國子・太學・廣文・四門・律・書・算凡七學一。〔小學紺珠、職官類、七學〕國子・太學・廣文・四門・律・書・算。

【七旱】53 シチカン 湯の時あつた、八年に七度の旱魃。〔莊子、秋水〕湯之時、八年七旱、而崖不レ爲加損一。〔故事成語考、地輿〕湯有二七年之旱災一。

【七諫】54 シチカン 楚辭の篇名。漢、東方朔作。文體の「七」は此から始まる。〔楚辭、東方朔、七諫、章句〕七諫者、東方朔之所レ作也、云云、古者、人臣三諫不レ從、退而待レ放、屈原與二楚同姓一、無二相去之義一、故加爲二七諫一云云、或曰、七諫者、法二天子有二爭臣七人一也、東方朔、追二憫屈原一、故作二此辭一、以述二其志一、所レ以昭二忠信一、矯二枉曲朝一也。

【七奇】55 シチキ 五代、南漢の王定保が作つた賦名。〔五代史、南漢劉龔世家〕劉龔作二南宮、王定保、獻二南宮七奇賦一、以美レ之。

【七奇圖說】56 シチキノヅセツ 書名。清、南懷仁著。天下の七奇を記したもの。

【七起】57 シチキ 七たび起ち上る。一度の食事中に七度も席を起つて賢士を迎へること。一饋七起(1－1‥2519)を見よ。〔新論、誡盈〕夏禹一饋而七起、周公一沐而三握レ髮。

【七貴】58 シチキ ❶漢の外戚、權要の七族。〔潘岳、西征賦〕窺二七貴於漢庭一。〔注〕翰曰、漢庭七貴、呂・霍・上官・丁・趙・傅・王、幷后族也。〔小學紺珠、氏族類、七貴〕呂・霍・上官・王・趙・丁・傅。❷七人の貴い人。㋑隋の段達・王世充・元文都・盧楚・皇甫無逸・郭文懿・趙長文をいふ。〔北史、越王侗傳〕以二段達一爲二納言一云云、王世充爲二納言云云一、元文都爲二內史令一云云、盧楚亦內史令、皇甫無逸爲二兵部尚書一云云、郭文懿爲二內史侍郎一、趙長文爲二黃門侍郎一、委以二機務一、爲二金書鐵券一、藏二之宮掖一、于時洛陽稱二段達等一爲二七貴一。㋺隋の牛弘・蘇威・宇文述・張瑾・虞世基・裴蘊・裴矩をいふ。〔小學紺珠、氏族類、附錄、七貴〕七貴、牛弘・蘇威・宇文述・張瑾・虞世基・裴蘊・裴矩。❸元の順帝の時の七人の宮嬪。〔元氏掖庭記〕順帝宮嬪、進御無レ紀、佩二夫人貴妃印一者、不レ下二百數一、如二淑妃龍瑞嬌・程一寧・戈小娥・麗嬪張阿元・支祁氏・才人英英・凝香兒一、尤見二寵愛一、所レ好成レ之、所レ惡除レ之、位在二皇后之下一、而權則重二於禁闥一、宮中稱二七貴一云。❹權要の家をいふ。〔張謂、贈二喬林一詩〕如今五侯不レ待レ客、羨君不レ問二五侯宅一、如今七貴方自尊、羨君不レ過二七貴門一。

【七光】59 シチクワウ 七種の光。光はえびすの名。〔後漢書、西南夷、冉駹夷傳〕其山有二六夷・七羌・九氐一。

【七薀】60 シチウン 清、改琦(5－13114‥20)の號。

【七逆】61 ギシチヤク 佛七つの大惡事。一に父を殺す、二に母を殺す、三に阿羅漢を殺す、四に衆僧の和合して佛道を修業するのを防げる、五に僧に流血の傷害を加へる、六に和尚を殺す、七に阿闍梨を殺す。〔輔行、二〕言二五逆一者、謂レ殺レ父、殺レ母、殺二阿羅漢一、破二僧出一レ血、云云、若大乘中、加レ殺二和尚一、殺二阿闍梨一、以爲二七逆一。

【七宮】62 シチキウ 燕樂で、宮聲の七調をいふ。〔唐書、禮樂志〕正宮・高宮・中呂宮・道調宮・南呂宮・仙呂宮・黃鐘宮、爲二七宮一。〔宋史、樂志十七〕宮聲七調、皆生二於黃鐘一。〔燕樂考原〕燕樂、七宮一均、即琵琶之第一弦、分爲二七調一、琵琶以二第一弦一爲二黃鐘宮一、故曰二七宮一、七宮生二於黃鐘一、則用二黃鐘・大呂・夾鐘・仲呂・林鐘・夷則・無射七律一也、燕樂、以二字譜一爲レ主、但以二律呂之名一、緣二飾之一、殺聲用二某字一、即爲二某宮調一、所謂黃鐘宮、今爲二正宮一、用二六字一者、今琵琶之六字調也、大呂宮、今爲二高宮一、用二四字一者、今琵琶之四字調也、夾鐘宮、今爲二中呂宮一、用二一字一者、今琵琶之一字調也、仲呂宮、今爲二道調宮一、用二上字一者、今琵琶之上字調也、林鐘宮、今爲二南呂宮一、用二尺字一者、今琵琶之尺字調也、夷則宮、今爲二仙呂宮一、用二工字一者、今琵琶之工字調也、無射宮、今爲二黃鐘宮一、用二凡字一者、今琵琶之凡字調也。

【七去】63 シチキョ 上代、妻を離別し得る七つの條件。不レ順二父母一、無レ子・淫・妒・惡疾、多言・竊盜。七出。〔大戴禮、本命〕婦有二七去一、不レ順二父母一去、無レ子去、淫去、妬去、有二惡疾一去、多言去、竊盜去。〔列女傳、賢明、宋鮑女宗傳〕七去之道、妬正爲レ首。

【七擧】64 シチキョ ❶食禮で、牲體を七度擧げること。〔周禮、秋官、大行人〕饗禮七獻、食禮七擧。❷七たびえらびあげる。〔宋史、仁宗紀二〕禮部貢院、諸科擧人、七擧者、不レ限レ年。❸夏をいふ。七は火の成數、〔管子、幼官〕七擧時節、君服二赤色一。〔注〕火成數七、火氣擧、君則順二時節一而布レ政。❹後漢、劉梁の「七」の題名。〔劉梁、七擧〕丹楹縹壁、紫柱虹梁、桷榱朱綠、藻棁玄黃。〔傅玄、七謨序〕七激・七興・七依・七說・七諷・七擧之篇。

【七興】65 シチキョウ 後漢、劉廣世の「七」の題名。七擧の❹を見よ。〔劉廣世、七興〕子康子有レ疾、王先生往焉、曰、駿馳之馬、憘不レ征レ路、其荷衡也、曜以驚レ禽、其卽行也、翬若二游鷹一、飄駭風逝、電發波騰、影不レ及レ形、塵不レ暇レ興。

【七曲】66 シチキョク 道路などの幾重となく曲りくねつてゐること。ななまがり。九折。九十九折。〔彭年林水錄〕楢溪赤木、盤蛇七曲、盤羊烏欖、氣與レ天通。

【七曲山】67 シチキョクザン 山名。四川省梓潼縣の北。〔太平寰宇記〕郡國志云、張惡子、昔至二長安一、見二姚萇一、謂曰、卻後九年、君當レ入レ蜀、若至二梓潼七曲山一、幸見レ尋、至二建元十二年一、萇隨二楊安一南伐、未レ至七曲山一、迷レ道、遊騎忽見二一鹿一、逐至二廟門一、鹿自死、追騎共剝レ之、有レ頃萇至、悟曰、此是張君爲レ吾設二主客之禮一、享食而去。

七曲山（古今圖書集成）

【七擒】68 シチキン 七たびとらへる。七度擒にする。七禽。七縱七擒(262)を見よ。

【七九】69 シチク 冬至から六十三日目をいふ。〔帝京景物略〕十一月冬至、百官賀レ冬、畢吉服、云云、附以二九九之歌一、述二其寒燠之候一、歌曰、一九二九、相喚不レ出レ手、云云、七九六十三、行人把二衣單一。

『七九河開』70 ch'i¹ chiu³ hê² k'ai¹ 冬至から六十三日で氷が解けて船が通ずること。

【七垢】71 シチク 佛七つの心のけがれ。煩惱。欲・見・疑・慢・憍・惰眠・慳。〔翻譯名義集〕瑜珈七垢者、一欲二見二疑四慢五憍六惰眠七慳也。

【七虞】72 シチグ 諸侯が七たび虞の禮を行ふこと。虞とは、葬式が終つた後、家に歸つて死者の靈を迎へ、殯宮に祀つて之を安んずる禮をいひ、諸侯はこれを七度行ふ。〔禮記、雜記下〕士三虞、大夫五、諸侯七。

【七華】73 シチクワ ❶三國、魏の魏氏、及び劉劭の「七」の題名。七誨(75)を見よ。〔劉劭、七華、玄休先生、棄二世遁一名、藏二身于虛廓一、絕二影于無形一。〕❷佛シチケ ㋑七覺支に喩へる。七覺支(51)を見よ。〔維摩經、佛道品、偈〕無漏法林樹、覺意淨妙華。〔注〕七覺、以二開悟一爲レ道、無染爲レ淨、華之法者也。㋺七種の淨。戒・心・見・度疑・分別道・行斷知見・涅槃。〔維摩經、偈〕布以二七淨華一、浴二此無垢人一。

『七華八裂』74 シチクワハチレツ 佛裂け破れて、七となり八となる。

【七誨】75 シチクワイ 晉、傅巽の「七」の題名。〔傅玄、七謨序〕天魏英賢迭作、有二陳王七啓、王氏七釋、楊氏七訓、劉氏七華、從父侍中七誨、並陵レ前而邈レ後、揚二清風于儒林一、亦數篇焉。〔陸羽、茶經〕傅巽七誨、蒲桃宛柰、齊柿燕栗。

【七患】76 シチクワン 國に災を起す七つの患。〔墨子、七患〕國有二七患一、七患者何、城郭溝池不レ可レ守、

而治二宮室一、一患也、邊國至レ境、四鄰莫レ救、二患也、先盡二民力無用之功一、賞二賜無能之人一、民力盡二於無用一、財寶虛二於待一レ客、三患也、仕者持レ祿、游者愛レ佼、君脩二法討一レ臣、臣懾而不二敢拂一、四患也、君自以爲二聖智一而不レ問レ事、自以爲二安疆一、而無二守備一、四鄰謀レ之、不レ知レ戒、五患也、所レ信者不レ忠、所レ忠者不レ信、六患也、畜種菽粟、不レ足二以食一レ之、大臣不レ足二以事一レ之、賞賜不レ能レ喜、誅罰不レ能レ威、七患也、以二七患一居レ國、必無二社稷一、以二七患一守レ城、敵至國傾、七患之所レ當、國必有レ殃。

【七款】77 シチクワン 後漢、李尤の「七」の題名。〔李尤、七款〕奇宮閒館、迴庭洞門、井幹廣望、重閣相因。

【七歡】78 シチクワン 晉、湛方生の「七」の題名。〔湛方生、七歡〕有二巖棲先生者一、學レ道養レ生、離レ親絕レ俗。

【七觀】79 シチクワン ❶書經を讀めば、美（堯典）・事（禹貢）・治（皐陶謨）・度（洪範）・義（六誓）・仁（五誥）・誡（甫刑）の七事を見ることが出來る意。〔尚書大傳、略說〕六誓可二以觀一レ義、五誥可二以觀一レ仁、甫刑可二以觀一レ誡、洪範可二以觀一レ度、禹貢可二以觀一レ事、皐陶謨可二以觀一レ治、堯典可二以觀一レ美。〔文心雕龍、宗經〕易張二十翼一、書標二七觀一。❷元、袁桷の「七」の題名。〔袁桷、七觀〕翰林先生、納レ榮息レ機、謝二白玉之堂一、將レ歸二乎廡源之山一。

【七觀齋】80 シチクワンサイ 明、朱天麟(**6**—**14424**・・942)の號。

【七訓】81 シチクン 三國、魏の楊氏の「七」の題名。七誨(75)を見よ。

【七軍】82 シチグン 七つの軍隊。〔通典、兵典一、立軍〕大唐衞公李靖兵法曰、諸大將出征、且約授二兵二萬人一、卽分爲二七軍一、如或少、臨時更定、中軍、云云、左右虞候各一軍、云云、左右廂各二軍。

【七計】83 シチケイ 彼我兩國の勝敗を推定すべき七つの理由。兩國の中、君主は何れが有道か、將帥は何れが有能か、天地の理法は何れが得てゐるか、法令は何れがよく行はれてゐるか、兵の素質は何れが強いか、兵の訓練は何れがよく出來てゐるか、賞罰は何れが明かかの七事。〔孫子、始計〕校レ之以レ計、而索二其情一曰、主孰有レ道、將孰有レ能、天地孰得、法令孰行、兵衆孰強、士卒孰練、賞罰孰明、吾以レ此知二勝負一矣。〔注〕曹操曰、以二七事一計レ之、知二勝負一矣。

【七契】84 シチケイ 梁の昭明太子の「七」の題名。〔梁昭明太子、七契〕奚斯逸士、肥遁棄レ榮、蓮峯於レ焉剗レ跡、灌木是用庇レ形、口不レ悅二於五味一、心不レ娛二於八聲一。

【七啓】85 シチケイ 三國、魏の曹植の「七」の題名。〔曹植、七啓序〕昔枚乘作二七發一、傅毅作二七激一、張衡作二七辯一、崔駰作二七依一、辭各美麗、予有レ慕レ之焉、遂作二七啓一、幷命二王粲一作焉。

【七經】86 シチケイ ❶七つの經書。十三經(**2**—**2695**・・146)を見よ。㋑詩・書・禮・樂・易・春秋・論語。〔後漢書、張純傳、注〕。㋺書・詩・三禮・公羊傳・論語。〔七經小傳〕。㋩易・書・詩・春秋・三禮。〔傳咸、七經詩・七經義綱・七經論・御纂七經・七經精義・七經要說・七經圖〕。㋥易・詩・書・春秋・禮・孝經・論語。〔經史問答〕。㋭易・詩・書・春秋・禮・論語・孟子。〔七經小記〕。㋬易・書・詩・左傳・禮記・論語・孝經。〔七經孟子考文補遺〕。㋣易・書・詩・左傳・論語・中庸・孟子。〔七經逢原〕。㋠易・詩・書・禮記・左傳・論語・孟子。〔雕題略〕。㋷易・書・詩・左傳・孝經・論語・孟子。〔七經剳記〕。〔參考書〕【七經小傳】三卷。宋、劉敞撰。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【七經圖】七卷。明、吳繼仕撰。〔四庫提要、經、五經總義類存目〕。【御纂七經】二百八十三卷。清、康熙・乾隆敕撰。【七經要說】三十九卷。清、李元春撰。【七經精義】三十卷。黃淦撰。【七經同異考】三十四卷。清、周象明撰。〔清史稿、藝文志〕。【七經逢原】中井履軒撰。【七經剳記】八卷。岡田欽撰。❷〔佛〕シチキヤウ 淨土の七種の經。無量清淨平等覺經・大阿彌陀經・無量壽經・觀無量壽經・阿彌陀經・稱讚淨土佛攝受經・鼓音聲二陀羅尼經。

【七經樓】87 シチケイロウ 清、蔣湘南(**9**—**31820**・・172)の室名。

【七經孟子考文】88 シチケイマウシカウブン 書名。補遺共百九十九卷。山井鼎撰、荻生觀補。此の書は、山井鼎が荻生徂徠の教によつて足利文庫に古鈔本、宋槧諸經のあることを知り、享保三年、伊豫の西條侯に仕へて後、其の友、根本遜志と共に足利に赴き、古版十三經中、易・書・詩・春秋左傳・禮記・論語・孝經・孟子を校勘して作つた。享保十一年、之を淨寫して西條侯に獻じたが、鼎は疲勞の爲、遂に十三年正月に沒した。其の六月、西條侯から之を幕府に獻上した。幕府は其の翌月、荻生觀に命じて補遺を作らせ、十五年十二月完成して、十六年六月刊行された。此の書は其の後幾くも無く支那に傳はり、乾隆の初年、四庫全書館を開いて遍く書籍を採訪した時、杭州の飛鴻堂汪啓淑が其の藏書進獻六百餘種の中に入れたので、遂に四庫全書に收められ、其の後、中國の校勘學に重大な影響を與へた。〔四庫提要、經、五經總義類〕。

【七藝】89 シチゲイ 歐洲中古の學校の科目。三學（文法・修詞學・論理學）と四術（算學・音目・幾何學・天文學）。Seven liberal arts

【七教】90 シチケウ ❶父子・兄弟・夫婦・君臣・長幼・朋友・賓客に關する七つの教をいふ。〔禮、王制〕明二七教一、以興二民德一、云云、七教、父子・兄弟・夫婦・君臣・長幼・朋友・賓客。〔荀子、大略〕脩二六禮一、明二十教一。〔注〕十或爲レ七也。〔集解〕王念孫曰、王制曰、司徒脩二六禮一、以節二民性一、明二七教一、以興二民德一、云云、則作二七教一者、是也。❷敬老・順齒・樂施・親賢・好德・惡貪・強果の七つの教をいふ。孔子家語、王言篇には、順齒を尊齒、強果を廉讓に作る。〔大戴禮、主言〕孔子曰、云云、是故昔者、明王內脩二七教一、外行二三至一、云云、曾子曰、敢問、何謂二七教一、孔子曰、上敬レ老、則下益レ孝、上順レ齒、則下益レ悌、上樂レ施、則下益レ諒、上親レ賢、則下擇レ友、上好レ德、則下不レ隱、上惡レ貪、則下恥レ爭、上強果、則下廉恥、民皆有レ別、則貞則正、亦不レ勞矣、此謂二七教一、七教者、治レ民之本也。〔小學紺珠、治道類、七教〕敬老・尊齒・樂施・親賢・好德・惡貪・廉讓。

【七橋】91 シチケウ 清、周農(**2**—**3441**・・408)の號。

【七竅】92 シチケウ ❶人の顏にある七つの穴。耳・目・鼻・口をいふ。七孔(118)の❶を見よ。〔莊子、應帝王〕人皆有二七竅一、以視聽食息。〔靈樞經、脈度〕五藏不レ和、則七竅不レ通。❷聖人の胸にあるといふ七つの穴。〔史記、殷紀〕聖人心有二七竅一。

【七激】93 シチゲキ 後漢、傅毅の「七」の題名。〔後漢書、傅毅傳〕毅以二顯宗求レ賢不一レ篤、士多隱處一、故作二七激一以爲レ諷。〔曹植、七啓序〕昔枚乘作二七發一、傅毅作二七激一。

【七月】94 シチゲツ シチグワツ ❶年の第七に當る月。ふみづき。ふづき。〔詩、豳風、七月〕七月流火、九月授レ衣。〔公羊、桓、九〕秋七月。❷七箇月の間。ななつき。〔新書、胎教〕青史氏之記曰、古者、胎教之道、王后有レ身、七月而就二蔞室一、太師持レ銅而御二戶左一。❸詩經、豳風の篇名。周の王業を述べた詩。〔詩、豳風、七月序〕七月、陳二王業一也、周公遭レ變、故陳下后稷先公風化之所レ由、致二王業一之艱難上也。

【七月菊】95 シチゲツギク 菊の一種。陰曆六七月頃開花し、高さ約一尺、花の色は茄花に似ている。〔羣芳譜、七月菊〕七月菊、外夾瓣、中鑲瓣、突起如二紫薇一、花色如二茄花一、徑寸有半、厚寸餘、其葉似二五月翠菊一、六七月花、一株不レ過二數朶一、高僅一二尺。

【七月七】96 シチゲツシチ 七月七日。七夕。たなばた。〔王禹偁、七夕詩〕去年七月七、直廬閑二獨坐一。

【七月半】97 シチゲツハン 中元をいふ。七月十五。俗に盆といふ。〔淸嘉錄〕宋本顏之推家訓、終制篇云、有二時齋供及七月半一、盂蘭盆望二于汝一、是稱二中元一爲二七月半一、由來已久。

【七月革命】98 シチグワツカクメイ 一八三〇年七月、フランスのパリに起つた革命。此の結果、佛王シャルル十世は英國に奔り、オルレヤン公がルイ・フイリップ王となつた。

【七月十五】99 シチゲツジフゴ 中元。七月半に同じ。〔事物原始、中元〕七月十五、謂二之中元一。〔雲笈七籤〕僖宗皇帝中和元年辛丑七月十五、詔二內臣元易簡、刺史王玆、縣令崔正規一、與レ朕詣二青城山一、修二醮封一、爲二五岳大人希夷眞君一。

【七月七日】100 シチゲツシチジツ 少陽の數の重つた日で、古來から此の日を靈日とし、牽牛・織女の傳說を傳へる。たなばた。七夕(313)に同じ。〔續齊諧記〕桂楊成武丁、有二仙道一、常在二人閒一、忽謂二其弟一曰、七月七日、織女當レ渡レ河、諸仙悉還レ宮。〔白居易、長恨歌〕七月七日長生殿、夜半無レ人私

語時。

【七月戰爭】101 シチゲツセンサウ 一八七〇年の普佛戰爭をいふ。約七箇月續いたから此の名がある。

【七月七日曝レ腹】102 シチゲツシチジツハラヲサラス 晉の郝隆が、七月七日に、仰臥して腹を日に曝して居たので、人が其の故を尋ねたところ、腹中の書を曝すのだと答へた故事。〔世說新語、排調〕郝隆、七月七日、出二日中一仰臥、人問二其故一、答曰、我曬レ書。

【七月七日曬レ衣】103 シチゲツシチジツコロモヲサラス 古、七月七日に衣を干した風習。〔晉書、阮咸傳〕七月七日、北阮盛曬二衣服一、皆錦綺粲レ目、咸以レ竿挂二大布犢鼻於庭一、人或怪レ之、答曰、未レ能レ免レ俗、聊復爾耳。

【七月便識二之無二字一】104 シチカゲツスナハチシムノニジヲシル 唐の白居易が生後七箇月で、之無の二字を覺えて誤らなかつた故事。〔唐書、白居易傳〕其始生七月、能展レ書、姆指二之無兩字一、雖レ試二百數一不レ差。〔故事成語考、文事〕白居易生七月、便識二之無二字一。

【七業】105 シチゲフ 五經と史記と漢書。〔小學紺珠、氏族類、七業〕晉劉毅有二七子一、各授二一經一、一子授二太史公一、一子授二漢書一、一門之內、七業俱興。

【七見】106 シチケン ❶七つ見える。〔雲笈七籤、總說星〕北斗九星、七見二隱、其第八第九、是帝皇太尊精神也。❷七たび見る。〔令狐楚、夏至日衡陽郡齋書懷詩〕一來江城守、七見江月圓。❸佛七種の斷見（世間及び我ガは斷滅して何物ものこさぬといふ誤つた見方）。〔長阿含、十四〕是第七斷滅、是爲二七見一。

【七賢】107 シチケン ❶七賢人。㋑春秋の七賢。伯夷・叔齊・虞仲・夷逸・朱張・柳下惠・少連。〔論語、微子〕逸民、伯夷・叔齊・虞仲・夷逸・朱張・柳下惠・少連、子曰、不レ降二其志一、不レ辱二其身一、伯夷・叔齊與、謂二柳下惠・少連一、降レ志辱レ身矣、言中レ倫、行中レ慮、其斯而已矣、謂二虞仲・夷逸一、隱居放言、身中レ清、廢中レ權、我則異二於是一、無レ可、無二不可一。㋺後漢の七賢。袁祕・封觀・陳端・范仲禮・劉偉德・丁子嗣・張仲然。〔後漢書、袁閎傳〕二弟忠・弘、節操皆亞二於閎一、云云、忠子祕、爲二郡門下議生一、黃巾起、祕從二太守趙謙一擊レ之、軍敗、祕與二功曹封觀等七人一、以レ身扞レ刃、皆死二於陳一、謙以得レ免、詔二祕等門閭一、號曰二七賢一。〔注〕謝承書曰、祕、字永寧、封觀與二主簿陳端門下督范仲禮・賊曹劉偉德・主記史丁子嗣・記室史張仲然・議生袁祕等七人一、擢レ刃突レ陳、與戰並死也。㋩漢魏の七賢。衞颯・茨充・許荆・欒巴・度尙・周昕・唐羌。〔明一統志〕七賢堂、在二衡州府桂陽州學一、祀二東漢桂太守衞颯・茨充・許荆・欒巴・度尙・周昕・臨武長唐羌一。㋥晉の竹林の七賢。竹林の七遊ともいふ。阮籍・嵇康・山濤・向秀・劉伶・阮咸・王戎。〔晉書、嵇康傳〕所二與神交一者、惟陳留阮籍・河內山濤、豫二其流一者、河內向秀・沛國劉伶・籍兄子咸・琅邪王戎、遂爲二竹林之游一、世所謂竹林七賢也。〔世說新語、任誕〕陳留阮籍・譙國嵇康・河內山濤・沛國劉伶・陳留阮咸・河內向秀・琅邪王戎、七人常集二于竹林之下一、肆意酣暢、故世謂二竹林七賢一。〔宋書、顏延之傳〕延之甚怨憤、乃作二五君詠一、以述二竹林七賢一、山濤・王戎、以二貴顯一被レ黜。㋭宋の夔州府の七賢。魯有開・張兪・范鎭・蘇洵・蘇軾・蘇轍・黃庭堅。〔明一統志〕七賢堂、在二夔州府萬縣治東一、取下宋魯有開・張兪・范鎭・蘇洵・蘇軾・蘇轍・黃庭堅、先後經二行于此一者詩翰上、刻置二堂上一、仍繪二七賢像一、宋陳損作レ記。㋬宋の西安府の七賢。張載・呂大忠・呂大防・呂大均・呂大臨・范育・蘇昞。〔明一統志〕七賢祠、在二西安府學一、祀二宋張載・呂大忠・呂大防・呂大均・呂大臨・范育・蘇昞一、皆有二繪像一。㋣宋の福州府の七賢。王忠竭・鄭仲賢・鄭謹淨・鄭守道・鄭誠・王子元・王子淸。〔明一統志〕七賢祠、在二福州府西門內一、宋建炎初建、以祀二王忠竭・鄭仲賢・鄭謹淨・鄭守道・鄭誠・王子元・王子淸一、七人者、皆濟州鉅野人、後唐天成中、羣盜嘯二聚此境一、賴レ神以全、故立レ祠焉。❷古代ギリシヤの七賢人。通常、ソロン(Solon)・タレス(Thales)・ピツタコス(Pittokos)・ビヤス(Bias)・キロン(Kilon)・ペリアンドロス(Periandros)・クレオボロス(Kleoboulos)の七人をいふ。❸佛 ゲンシチ ㋑七種の修行位にある人々。五停心觀・別相念住・總相念住の三賢位と、煖法・頂法・忍法・世界第一法の四善根とをいふ。七方便位。〔止觀、三、下〕如二毗曇所明七賢七聖四沙門果一。㋺大乘で認めた七賢人。〔仁王經、天台疏上〕一、初發心人、二、有相行人、三、無相行人、四、方便行人、五、習種性人、六、性種性人、七、道種性人、倶在二地前一、調レ心順レ道、名爲二七賢一。

【七賢過レ關】108 シチケンクワンヲヨギル 畫圖の題。七人の賢人が關を過ぎるさまを畫いたもの。〔識小錄〕楊用修云、世傳二七賢過レ關圖一、或以爲二竹林七賢一、觀二其畫一、衣冠騎從、當二是晉魏間人物意態一、若二將レ避レ地者一、或云、是開元日、冬雪後、張說・張九齡・李白・李華・王維・鄭虔・孟浩然、出二藍田關一、游二龍門寺一、鄭虔圖レ之、虞伯生有下題二孟浩然像一詩上、風雨空堂破帽温、七人圖裏一人存、是必有レ所レ傳也。

【七獻】109 シチケン シチコン 七たび酒を進める。〔周禮、秋官、大行人〕饗禮七獻。〔禮、禮器〕一獻質、三獻文、五獻祭、七獻神。

【七獻引出物】110 シチコンノヒキデモノ 古、武家で酒宴の引出物として、初度に馬、二度目に太刀、三度目に鎧又は腹卷、四度目に弓と征矢、五度目に沓と行縢（ムカバキ）、六度目に刀、七度目に小袖を與へたのをいふ。〔貞丈雜記〕。

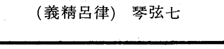
【七斶】111 シチケン 後漢、崔琦の「七」の題名。〔崔琦、七斶〕寒門邱子有レ疾、玄野子謂レ之曰、藍沼淸池、素波朱瀾、金鉤芳餌、纖繳華竿緡、沈魚浮。

【七元】112 シチゲン ❶日・月・五星の元。元は四千五百六十年。日月五星が運行して此の年數を歷ること。〔後漢書、律曆志下〕日月五緯、各有二終原一、而七元生焉。〔王先謙集解〕李銳曰、七元、謂二日月五星之元一。❷四百二十日間に甲子の日が七度來ること。二十八宿を六十の甲子に配當し、一元の甲子は虛から起り、以下二元・三元・四元・五元・六元・七元は夫々奎・畢・鬼・翼・氐・箕から起る、之を七甲子といふ。〔協紀辨方書、本原一〕考原云、日有二六十一、宿有二二十八一、四百二十日而一週、四百二十者、以下六十與二二十八一俱可中以度盡上也、故有二七元之說一、一元甲子日起レ虛、以二子象レ鼠、而虛爲レ日鼠也、二元甲子起レ奎、三元甲子起レ畢、四元甲子起レ鬼、五元甲子起レ翼、六元甲子起レ氐、七元甲子起レ箕、至二七元一盡、而甲子又起レ虛、周而復始、但一元起二於何年月日一、則不レ可二得而考一矣。❸耳・目・鼻・口の七つの孔から出る元氣。〔黃庭內景經〕七元之子、主二調氣一。〔注〕七元、七竅之元氣也。〔宋史、王仔昔傳〕自言、遇二許遜一、得二大洞隱書豁落七元之法一。

【七弦】113 シチゲン 七絃琴に同じ。〔風俗通、聲音、琴〕琴七弦者、法二七弦一也。

【七絃】114 シチゲン 七絃琴の略。〔嵇康、酒會詩〕但當レ體二七絃一、寄心在二知己一。〔南史、江夏王鋒傳〕以二琴道一授二羊景之一、景之著レ名、而江夏掩二能於世一、非二唯七絃而已一。

【七絃琴】115 シチゲンキン 宮・商・角・徵・羽・少宮・少商の七つの絃のある琴。七絲。〔小學紺珠、律曆類、琴七絃〕宮・商・角・徵・羽・少宮・少商、五絃象二五行一、大絃爲レ君、小絃爲レ臣、文王・武王加二二絃一、以合二君臣之恩一。〔宋史、樂志四〕絲部有レ五、曰一絃琴、云云、曰七絃琴。



七弦琴 (律呂精義)

【七古】116 シチコ 七言古詩(133)の略。〔輶軒語、古今詩體〕五古忌二散緩垜積一、七古忌二空廓平直一。

【七公】117 シチコウ 星の名。〔晉書、天文志上〕七公七星、在二招搖東一、天之相也、三公之象也、主二七政一。

【七孔】118 シチコウ ❶人の顏にある七つの穴。七竅(92)の❶を見よ。〔列子、仲尼〕七孔、四支之所レ覺。❷胸臟にある七つの孔。〔史記、扁鵲倉公傳、注〕正義曰、心重十二兩、中有二七孔三毛一。❸籥の七つの孔。〔詩、邶風、簡兮、左手執レ籥、釋文〕廣雅云、七孔。

【七孔針】119 シチコウシン 七孔鍼に同じ。〔海錄碎事、天、七夕〕漢宮女、七夕穿レ針、皆會二于開襟樓一。

【七孔鍼】120 シチコウシン 七つの孔をあけた針。たなばたの夕に婦女が色絲を通すもの。〔西京雜記、一〕漢綵女、常以二七月七日一、穿二七孔鍼於開襟樓一、倶以習レ之。〔荊楚歲時記〕七月七日、爲二牽牛・織女聚會之夜一、是夕、人家婦女、結二綵縷一、穿二七孔鍼一、或以二金銀鍮石一爲レ鍼。

【七孔笛】121 シチコウトウ 樂器の名。ふえ。笛(8-2591)

7）の異名。〔玉篇〕笛、七孔笭也。

【七扣】122 ch'i¹ k'ou⁴ 七掛け。三割引。

【七紅】123 ch'i¹ hung² 顔に紅く隈取りした七人の役者。崑曲の七紅とは、八義圖中の屠岩賈、雙紅記中の崑崙奴磨勒、九蓮燈中の炳靈公、双珠記中の王靈官、三國志中の關壯繆、邯鄲夢中の漢鍾離、風雲會中の趙匡胤の七人をいふ。演ずる時には皆顔に赤く隈取りするのを常とする。

【七克】124 シチコク ❶七度勝つ。〔戰國、趙策〕今趙非有二七克之威一也。❷書名。七卷、明、龐迪我撰。天主教の伏傲・平妬・解貪・熄忿・塞饕・坊淫・策怠の七忌を說いたもの。〔四庫提要、子、雜家類存目〕。

【七國】125 シチコク ❶戰國の七國、秦・楚・齊・燕・韓・魏・趙。七雄。七王。〔史記、蘇秦傳〕燕王曰、子所謂明王者何如也、對曰、臣聞、明王務レ聞二其過一、不レ欲レ聞二其善一、臣請、謁二王之過一、夫齊・趙者、燕之仇讎也、楚・魏者、燕之援國也、今王奉二仇讎一、以伐二援國一、非二所レ以利一レ燕也、王自慮之、此則計過無二以聞一者、非二忠臣一也、王曰、夫齊者、固寡人之讎、所レ欲レ伐也、直患二國敝力不一レ足也、子能以二燕伐一レ齊、則寡人舉二國委一レ子、對曰、凡天下戰國七、燕處二弱焉一、獨戰則不レ能、有レ所レ附則無不レ重、南附レ楚楚重、西附レ秦秦重、中附二韓・魏一、韓・魏重、且苟所レ附之國重、此必使二王重一矣。〔小學紺珠、地理類、七國形勢〕秦、四塞之國、被レ山帶レ渭、東有二關河一、西有二漢中一、南有二巴蜀一、北有二代馬一、燕、東有二朝鮮・遼東一、北有二林胡・樓煩一、西有二雲中・九原一、南有二嘑沱・易水一、南有二碣石・雁門之饒一、趙、西有二常山一、南有二河漳一、東有二清河一、北有二燕國一、韓、北有二鞏洛・成皐之固一、西有二宜陽・商阪之塞一、東有二宛穰・洧水一、南有二陘山一、魏、南有二鴻溝・陳・汝南・許郾・昆陽・召陵・舞陽・新都・新鄭一、東有二淮潁・奏棗一、無胥、西有二長城之界一、北有二河外・卷衍・酸棗一、齊、南有二泰山一、東有二瑯邪一、西有二清河一、北有二渤海一、楚、西有二黔中・巫郡一、東有二夏州・海陽一、南有二洞庭・蒼梧一、北有二陘塞・郇陽一。❷漢の文帝が齊を分けて作つた七國。卽ち、齊・城陽・濟北・濟南・菑川・膠東・膠西。〔史記、齊悼惠王世家〕孝文帝、以二所レ封悼惠王子一、分レ齊爲レ王、齊孝王將閭、以二悼惠王子楊虛侯一爲二齊王一、故齊別郡、盡以王二悼惠王子一、子志爲二濟北王一、子辟光爲二濟南王一、子賢爲二菑川王一、子印爲二膠西王一、子雄渠爲二膠東王一、與二城陽・齊一、凡七王。❸漢の景帝の時の七國。吳・楚・趙・膠西・濟南・菑川・膠東。〔史記、孝景紀〕晁錯刻二削諸侯一、遂使二七國俱起一、合從而西鄉。〔小學紺珠、地理類、七國〕吳・楚・趙・膠西・濟南・菑川・膠東。

【七國考】126 シチコクコウ 書名。十四卷。明、薛說撰。戰國時代の七國の制度を採掇して十四門に分け、諸書を援引して之を立證したもの。〔四庫提要、史、政書類〕。

【七國之亂】127 シチコクノラン 漢の景帝の時、吳・楚・趙・膠西・濟南・菑川・膠東の七國が同時に起した亂。又、吳楚七國の亂ともいふ。〔史記、鼂錯傳〕錯父曰、云云、遂飮レ藥死、曰、吾不レ忍レ見二禍及一レ吾身一、死十餘日、吳・楚七國果反、以レ誅二錯爲一レ名。

【七國象戲】128 シチコクシャウギ 象棋の名。宋の司馬光の作つたもの。又、古局象棋といふ。古局象棋圖(2—3233‥590)を見よ。〔司馬光、古局象棋圖〕七國象戲、用二百有二十一周一、七國各十有七、周黃、秦白、楚赤、齊青、燕黑、韓丹、魏綠、趙紫、周居二中央一、不レ動、諸侯亡得レ犯、秦居二西方一、韓・楚居二南方一、魏・齊居二東方一、燕・趙居二北方一。

【七言】129 シチゴン 一句七字の詩。七言詩。〔漢書、東方朔傳〕朔之文辭、此二篇最善一、其餘有下封二泰山一、責二和氏璧一、及皇太子生祿屏風殿上柏梁銘觀賦獵、八言七言上下、從二公孫弘借レ車。〔注〕晉灼曰、八言七言詩、各有二上下篇一、〔摯虞文章流別論、詩〕七言者、交交黃鳥止二于桑一之屬、是也。

【七言古】130 シチゴンコ 七言古詩の略。〔張蔚然、西園詩麈、律難〕四言古難二于五言古一、五言古難二于七言古一、七言古難二于絕一、絕難二于律一。

【七言詩】131 シチゴンシ 每句皆七字の詩。七古・七絕・七律・七排等がある。其の起源は一に漢の武帝の柏梁臺聯句に始まるといはれてゐるが、又、詩經、邶風の桑中の詩、王風の黍離の詩、又は離騷中の七言句に基くといひ、或は皇娥・白帝の二歌、荊軻の易水歌、項羽の垓下歌、漢の高祖の大風歌等を起源とする說もあり、又、寗戚の飯牛歌に起るともいひ、歸一するところがない。周末から漢初に亙つて、七言詩は却つて五言詩に先だつて發達し、後漢の張衡の四愁詩に至つて、起句以外は純然たる七言句を爲し、魏文帝の燕歌行、晉の陸機の百年歌、又は晉の白紵舞歌詩等に至つて純七言體となつた。併し、其の句數の多少は一定せず、唐に入つてから絕句となつた。〔文章緣起〕七言詩、始二於漢武帝柏梁殿聯句一。〔古文苑、詩、柏梁詩〕漢武帝元封三年、作二柏梁臺一、詔二羣臣二千石一、能爲二七言詩一、乃得二上座一。〔事物紀原、經籍藝文、七言〕劉義慶世說曰、王子鄭詣二謝公一云、詩何七言、子鄭獻曰、昂昂若二千里之駒一、泛泛若二水中之鳧一、此語出二離騷一、東方朔傳曰、漢武在二柏梁臺上一、使二羣臣作一七言一、七言之作、始起二于此一也。〔陔餘叢考、七言〕金玉詩話、謂二七言起二於柏梁一、然劉勰謂レ出二自詩騷一、孔穎達、擧レ如二彼築レ室於レ道謀一、爲二七言之始一、然不レ特レ此也、如下自レ今伊始歲其有、君子有二穀貽一孫子一等句上甚多、顧寧人謂、楚詞招魂、大招、去二其些只一、卽是七言、按、遷レ藏就レ岐何所レ依、殷有二惑婦一何所レ譏等句、本無二些只一、則竟是七言也、特尙未レ以爲二全篇一、至二柏梁一、則通體皆七言、故後世以爲二七言之始一耳。

【七言律】132 シチゴンリツ 七言律詩の略。〔王世懋、秇圃擷餘、論詩〕李于鱗七言律、俊潔響亮。

【七言古詩】133 シチゴンコシ 古詩の一體。每句七字で、句數に制限がない。〔徐師曾文體明辯、七言古詩〕按、本朝徐禎卿云、七言沿起、咸曰二柏梁一、然寥戚叩牛、已肇二南山之篇一矣、其爲則也、聲長字縱、易レ以成レ文、故蘊レ氣瑰レ辭、與二五言一略異、漢魏諸作、既多二樂府・唐代名家一、又多二歌行一、故此類所レ錄無レ幾、然樂府・歌行、貴抑揚頓挫、古詩則優柔和平、循二守法度一、其體自不レ同也。

【七言三體】134 シチゴンサンタイ 七言詩の三體。純粹の七言を七言古體、句に長短のあるものを長短句體、詩經及び離騷・詩餘の類を雜古體といふ。〔元詩體要〕。

【七言絕句】135 シチゴンゼックク 詩の一體。七字四句、二十八字の詩。平起り・仄起りの二種がある。平仄式も一定し、平起りを正格とし、仄起りを偏格とする。

其の平仄式は左の通り。

正　格（平起式）

起 ◑ ○ ◑ ● ○
承 ◑ ● ◑ ○ ◑
轉 ● ● ○ ○ ●
結 ◑ ○ ◑ ● ○

韻　韻　韻　韻

偏　格（仄起式）

起 ◑ ● ◑ ○ ◑
承 ◑ ○ ◑ ● ○
轉 ◑ ◑ ● ○ ●
結 ● ● ○ ◑ ○

韻　韻　韻　韻

平仄（4—9167‥400）・絕句（8—27407‥56）を見よ。〔滄浪詩話、詩法〕五言絕句、難二於七言絕句一。〔謝榛、詩家直說、統二論作詩之法一〕凡作二七言絕句一、起如二爆竹斬然而斷一、結如二撞鐘餘響一レ輟、此法之正也。

【七言對筆】136 chʻi¹ yen² tui⁴ pi³ 水筆。仿古湖筆（1—420‥7）。

【七言排律】137 シチゴンハイリツ 詩の一體。七言の排律。七排。排律（5—12256‥143）を見よ。〔陔餘叢考、五七律排〕五七律及排律、雖レ創二於初唐沈宋諸人一、然六朝已開二其端一。

【七言八語】138 chʻi¹ yen² pa¹ yü³ あちこちから口を出す。議論まちまち。

【七言律詩】139 シチゴンリツシ 詩の一體。七言（字）八句、五十六字より成る詩。七律。其の平仄式は左の通り。

正　格（平起式）

起聯 ◑ ○ ◑ ● ○
頸聯 ◑ ● ◑ ○ ◑
頷聯 ◑ ◑ ● ○ ●
尾聯 ◑ ○ ◑ ● ○

韻　韻　韻　韻

偏格（仄起式）		
起聯	◑◑	○韻
	○●	韻
頷聯	◑◑	○韻
	●○	韻
頸聯	◑◑	○韻
	○●	韻
尾聯	◑◑	●韻
	○●	韻

律詩（4—10097‥32）・五言律詩（1—257‥316）を見よ。〔滄浪詩話、詩法〕律詩難二於古詩一、七言律詩、難二於五言律詩一。

【七佐】140 サ 殷の湯王を輔佐した七人の名臣。慶輔・伊尹・湟里且・東門虛・南門蘷・西門疵・北門側。〔鬻子、湯政天下至紂〕湯之治二天下一也、得二慶輔・伊尹・湟里且・東門虛・南門蘷・西門疵・北門側一、得二七大夫一佐、以治二天下一。〔許敬宗、唐幷州都督鄂國公尉遲恭碑〕抑二揚七佐一、錡二錡五官一。

【七座】141 ザ 鎌倉時代に置いた七つの專賣店。絹座・炭座・米座・檜物座・千朶積座・相物座・馬商座。〔庭訓往來、四月〕七座之店。

【七座公人】142 クジンザ ノ 延曆寺に於ける四門内・維那・綸取・出納・庫主・政所・專當の七公人をいふ。公人は公役に出た者。卑賤でも公方の祿を食むからいふ。

【七座呪咀祭】143 ジュソサイ 七人の陰陽師によつて行はれる呪咀祭。〔東鑑、三十三〕爲二二棟御方御產平安御祈一、被レ行二七座呪咀祭一、維範・親職・資宣・晴貞・晴平・廣資・範定等、奉二仕之一。

【七采】144 シチ 七色。〔江淹、丹砂可レ學賦〕爛二七采之照耀一、漫二五色之氳氤一。

【七菜】145 シチ なくさ。七種菜。七種(238)を見よ。〔揚雄、蜀都賦〕五肉七菜、朦歟腥臊。〔荊楚歲時記〕正月七日爲二人日一、以二七種菜一爲レ羹。

【七財】146 ザイ 佛七聖財(309)を見よ。〔梁簡文帝、爲レ人造二丈八夾紵金薄像一疏〕四寶屢空、七財多匱。

【七草】147 クサ ㊀秋に咲く七種の草花。萩・桔梗・尾花・藤袴・女郎花・撫子・葛。又、桔梗を除いて朝顏を加へる。㊁春の七草は七種(238)の㊁の㋑を見よ。〔年中行事、延曆十八年正月七日〕後院進二七草若菜一。

【七策】148 サク 七筴に同じ。

【七筴】149 サク 七つの貢物。礪礪・白金・文皮・黃金・珠・曾青・玉。筴は貢を奉る札。〔管子、揆度〕桓公問二於管子一曰、吾聞、海內玉幣、有二七筴一、可二得而聞一乎、管子對曰、陰山之礪礪、一筴也、燕之紫山白金、一筴也、發・朝鮮之文皮、一筴也、汝・漢水之右衝黃金、一筴也、江陽之珠、一筴也、秦明山之曾青、一筴也、禹氏邊山之玉、一筴也。

【七札】150 サツ 鎧の七枚の札。札はさね。鐵片又は革で作る。〔左氏、成、十六〕潘尪之黨、與二養由基一蹲甲而射レ之、徹二七札一焉。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕七札俱穿、五犯同レ穴。

【七殺】151 サツ 殺人の七つの種類。劫殺・謀殺・故殺・鬬毆殺・誤殺・戲殺・過失殺。〔福惠全書、刑名部、人命上〕人命有レ眞有レ假、眞者不レ離二乎七殺一、曰劫殺、曰謀殺、曰故殺、曰鬬毆殺、曰誤殺、曰戲殺、曰過失殺。

【七殺碑】152 ヒ 碑の名。文中に七つの殺字を連書することから名づける。明末の流寇、張獻忠が殺人を好み、自ら書いたものといふ。其の文は、天生二萬物一以養レ人、人無二一善以報一レ天、殺殺殺殺殺殺殺。

【七煞】153 サツ 家相の方位。金神方位上の凶神。〔臞仙、肘後神樞、年方凶神〕浮天空亡、金神七煞、破二敗五鬼一。〔協紀辨方書、利用、陰府太歲〕宗鏡曰、舊說、陰府單占二坐山一、以正二五行之七煞一剋レ之。

【七匝】154 ソウ 七めぐりする。〔南齊書、魏虜傳〕宏與二僞公卿一、從二二十餘騎一、戎服繞レ壇、宏一周、公卿七匝、謂二之踢壇一。〔日本外史、源氏前記、平氏〕重盛云云、與二源義平一、大戰二宸殿前一、七匝櫻橘樹一。

【七山】155 サン 山名。江蘇省沛縣の西南。一名、戚山。〔讀史方輿紀要、江南、徐州、沛縣〕七山、縣西南三十里、亦曰二戚山一、縣之鎭山也。

【七山砦】156 サイ とりでの名。江蘇省沛縣の西南、七山の下。俗に栖山圩といふ。咸豐十一年に築いた。

【七子】157 シ ㊀七人の子供。〔詩、邶風、凱風序〕衞之淫風流行、雖二有七子之母一、猶不レ能レ安二其室一、故美二七子能盡一レ其孝道一、以慰二其母心一、而成二其志一爾。㊁春秋時代の鄭の大夫、子展・子西・子產・伯有・子大叔・子石・伯石をいふ。七穆(44㋑)を見よ。〔左氏、襄、二十七〕鄭伯享二趙孟于垂隴一、子展・伯有・子西・子產・子大叔・二子石從、趙孟曰、七子從レ君以寵レ武也、請皆賦以卒二君貺一、武亦以觀二七子之志一。㊂漢の婦官の名。〔漢書、外戚傳〕漢興、因二秦之稱號一、帝母稱二皇太后一、祖母稱二太皇太后一、適稱二皇后一、妾皆稱二夫人一、又有二美人・良人・八子・七子・長使・少使之號一焉。〔注〕八七、祿秩之差也。㊃建安の七子。漢末、建安年中に文名を馳せた孔融・陳琳・王粲・徐幹・阮瑀・應瑒・劉楨の七人をいふ。或は、鄴中七子ともいふ。〔魏文帝、典論、論文〕今之文人、魯國孔融文擧・廣陵陳琳孔璋・山陽王粲仲宣・北海徐幹偉長・陳留阮瑀元瑜・汝南應瑒德璉・東平劉楨公幹、斯七子者、于レ學無レ所レ遺、于レ辭無レ所レ假、咸以自騁二驥驎于千里一、仰齊足而並馳、以此相服、亦良難矣。〔小學紺珠、名臣類下、建安七子〕孔融字文擧・陳琳字孔璋・王粲字仲宣・徐幹字偉長・阮瑀字元瑜・應瑒字德璉・劉楨字公幹。㊄明代、文學の七氏。㋑前七子。李夢陽・何景明・徐禎卿・邊貢・康海・王九思・王廷相。〔明史、李夢陽傳〕又與二景明・禎卿・貢・海・九思・王廷相一、號二七才子一、皆卑二視一世一、而夢陽尤甚。㊁後七子。李攀龍・謝榛・梁有譽・宗臣・王世貞・徐中行・吳國倫。嘉靖七子。〔明史、李攀龍傳〕與二濮州李先芳・臨清謝榛・孝豐吳維岳・翰一、倡二詩社一、王世貞初釋褐、先芳引入レ社、遂與二攀龍一定レ交、明年、先芳出爲二外吏一、又二年、宗臣・梁有譽入、是爲二五子一、未レ幾、徐中行・吳國倫亦至、乃改稱二七子一、諸人多二少年一、才高氣銳、互相標榜、視二當世一無レ人、七才子之名、播二天下一。㊅山東省海陽縣の西北。一山に八つの峯があり、其の內大きい一つの峯を中央にして、七つの峯が子供の樣に其の周圍を圍んでゐる。〔明一統志〕七子山、在二登州府萊陽縣東南九十里一、山有二八峯一、大峯居レ中、七峯旁列、若二其子一然、故名。㊆江蘇省吳縣の西南、陸墓山の西。㊇倆人・天・二乘・藏・通・別三教の菩薩に譬へる。〔涅槃經、疏、二十〕或以二七方便根性一爲二七子一、謂二人・天・二乘・三乘菩薩一。㊈ナナ 織物の名。絹布の織方の一種で、二本乃至數本づつ竝んだ經緯絲を平織に織つたもの。魚子。鮫子。〔嬉遊笑覽、器用、七子〕帛にもなること云ふあり。

【七子鏡】158 キョウジ まはりに七つの小さい鏡があつて、七曜の紋のやうな形をした鏡。ななつごのかがみ。〔梁簡文帝、望レ月詩〕形同二七子鏡一、影類二九秋霜一。

【七子樏】159 ルイ 盤に似て、中に七つの區劃のある器。わりご。〔神仙傳〕仙女杜蘭香、降二於洞庭包山張碩家一、贈二瓦樽酒、幷七子樏一。

【七子均養】160 キンヤウ 鳲鳩が七羽の子を公平に養ふこと。之を鳲に均一の德ありといふ。〔詩、曹風、鳲鳩〕鳲鳩在レ桑、其子七兮。〔傳〕鳲鳩之養二其子一、朝從二上下一、莫從レ下上、平均如一。〔曹植、上二責躬應詔詩一表〕七子均養者、鳲鳩之仁也。

【七子八壻】161 ハッセイ 多數の子女。一門の繁昌する喩。〔琵琶記、蔡公逼レ試〕你又沒二七子八壻一。

【七支】162 シ 倆身二・口四の惡業。身二とは、殺生・偸盜・邪淫、口四とは、妄語・綺語・惡口・兩舌。〔藕子良、淨住子、序〕以二沙門淨一身口七支一。〔法苑珠林〕七支淨二三業一、五分滿二金容一。〔琅琊代醉編、七支業〕七支業、謂二三身業一、四口業。

【七支八搭】163 chʻi¹ chih¹ paʻ taʻ 言葉がもつれて、辻褄が合はぬこと。

【七死】164 シ ㊀人民が死に至る七つの道。〔漢書、鮑宣傳〕有二七死一、酷吏毆殺、一死也、治獄深刻、二死也、冤二陷亡辜一、三死也、盜賊橫發、四死也、怨讐相殘、五死也、歲惡飢餓、六死也、時氣疾疫、七死也。㊁七度死ぬこと。七死七生を見よ。

【七死七生】165 シチジシャウ 七度死し、七度生れかはる。〔四十二章經〕七死七生、便證二阿羅漢一。

【七死八活】166 chʻi¹ ssu³ paʻ huo² 生きるか死ぬか。半死半生。半殺し。〔水滸傳、九回〕若不得人情時、這一百棒、打得七死八活。

【七志】167 シ 書名。四十卷。宋、王儉撰。前漢、

劉歆の七略に倣つて作つた典籍の分類書。其の分類は、一、經典志(六經・小學・史記・雜傳)、二、諸子志(今古諸子)、三、文翰志(詩賦)、四、軍書志(兵書)、五、陰陽志(陰陽及び圖緯)、六、術藝志(方伎)、七、圖譜志(地域及び圖書)。外に方外之經(道佛の書)を附す。〔隋書・經籍志・二〕王儉作ニ志ニ。〔南史、王儉傳〕依ニ七略ニ撰ニ七志四十卷ニ。〔小學紺珠、藝文類、七志〕經典・諸子・文翰・軍書・陰陽・術藝・圖譜、道佛附見。

【七使】168 シチ 佩七つの煩惱。欲・恚・愛・慢・無明・見・疑。〔釋氏通鑑〕欲・恚・愛・慢・無明・見・疑、爲ニ七使ニ。

【七始】169 シシ 漢の音樂の名。音律を天・地・人、四時の七つの始めに擬す。〔漢書、禮樂志〕七始華始。〔注〕孟康曰、七始、天・地・人・四時之始、華始、萬物英華之始也、以爲ニ樂名ニ。〔小學紺珠、律歷類、七始〕黃鐘・林鐘・太簇、爲ニ天地人之始ニ、姑洗・蕤賓・南呂・應鐘、爲ニ春夏秋冬之始ニ。

【七祀】170 シシ 王が群姓の爲に立てる七つの祠。司命・中霤・國門・國行・泰厲・戶・竈。〔禮、祭法〕王爲ニ羣姓ニ立ニ七祀ニ。曰ニ司命ニ、曰ニ中霤ニ、曰ニ國門ニ、曰國行、曰泰厲、曰戶、曰竈。

【七絲】171 シシ 七絃琴(115)をいふ。〔劉長卿、聽レ彈ニ琴詩〕泠泠七絲上、靜聽ニ松風寒ニ。〔孟昶、戒レ石文〕政存ニ三異ニ、道在ニ七絲ニ。

【七絲緞】172 シシュン 繻紵の類で、七本絲織の絹織物をいふ。しちん。〔和漢三才圖會、絹布類、七絲緞〕繻珍、按、七絲緞、出ニ於廣東ニ、似ニ緞子ニ、而絲黏少、其織文純色者、爲ニ緞子ニ、黃赤等襍色者、爲ニ七絲緞ニ。

【七絲羅】173 ch'i¹ ssū¹ luo² 絹織物の一種。七本絽の類をいふ。

【七絲之音】174 シシノ 琴の音をいふ。〔本朝文粹、四、大江朝綱、爲ニ貞信公ニ辭ニ太政大臣ニ第三表〕水無レ入レ柱、綠波暗驚ニ七絲之音ニ。

【七字】175 シジ 七つの文字。七言の句。〔元稹、見ニ人咏ニ韓舍人新律ニ詩〕七字排ニ居敬ニ、千詞敵ニ樂天ニ。〔陸龜蒙、和ニ襲美病後春思ニ詩〕七字篇章看ニ月得、百勞言語傍レ花聞。

【七字法】176 シジホウ 書法で、筆を執るときの指の使ひ方。書法運筆の撥鐙法。擫・壓・鉤・揭・抵・導・送の七種。七字書訣に同じ。〔李後主書述〕書有ニ七字法ニ、謂ニ之撥鐙ニ、自ニ衞夫人幷鍾王ニ家ニ、傳ニ於歐・虞・褚・顏等ニ、所謂七法者、擫・壓・鉤・揭・抵・導・送、是也。

【七字舍人】177 シチジシャジン 宋、呂溱(2—3386··99)の綽號。溱は賓客に接する際にも、數語以上は用ひなかつたので、此の綽名を得た。〔宋史、呂溱傳〕溱開敏善ニ議論ニ、一時名輩皆推許、然自貴重、在ニ杭州ニ、接ニ賓客ニ、不レ過ニ數語ニ、時目爲ニ七字舍人ニ云。

【七字書訣】178 シジショケツ 書道運筆法の七つの祕訣。擫・壓・鉤・揭・抵・導・送。〔筆元要指、七字書訣〕擫、凡壓之法、蓋用ニ大指ニ捺レ之作レ側、云云、壓、凡壓之法、作ニ橫畫ニ用レ之、乃中指運筆、以筆心ニ壓者也、云云、鉤、作ニ努豎ニ用レ之、亦中指運法、云云、揭、作ニ策啄ニ用レ之、大指擫ニ腕法也、云云、抵、名指運法、作ニ趯及諸戈ニ用レ之、云云、導、作ニ掠用ニ之、謂下撚向ニ懷中ニ來上、中指運法也、云云、送、作ニ磔用ニ之、謂下揭向ニ右邊ニ去上、亦中名指運法也。

【七字昉】ニ於柏梁ニ」179 シチジホウハクリョウ 七言の詩は漢の武帝の柏梁臺の詩に始まるとの意。七言詩(131)を見よ。〔文章緣起〕七言詩、始ニ於漢武帝柏梁殿聯句ニ。〔雅俗故事讀本、文事〕七字昉ニ於柏梁ニ。

【七事】180 シチジ ❶政治上の七つの大事。祭祀・朝覲・會同・賓客・軍旅・田役・喪荒。〔周禮、天官、小宰〕以ニ濛掌ニ祭祀・朝覲・會同・賓客之戒具ニ、軍旅・田役・喪荒、亦如レ之、七事者、令ニ百官府共ニ其財用ニ、治ニ其施舍ニ、聽ニ其治訟ニ。〔注〕七事、謂ニ先四、如レ之者ニ也。❷天地と民と四時の務。〔國語、楚語下〕是以先王之祀也、以ニ一純・三精・三牲・四時・五色・六律・七事・八種・九祭・十日・十二辰ニ、以致レ之ニ。〔注〕七事、天地・民、四時之務也。❸極の七事。〔逸周書、文酌解〕欲有ニ一極ニ極有ニ七事ニ、云云、七事、一、騰レ名信レ志、二、援拔濟レ謀、三、聚レ疑沮レ事、四、騰レ屬威レ衆、五、處レ寬身降、六、陵レ塞勝備、七、錄レ兵免レ戎。❹唐代、軍中必須の七つの物。佩刀・刀子・礪石・契芯眞・噦厥・針筒・火石。〔唐書、車服志〕武官五品以上、佩ニ銙鞢七事ニ、佩刀・刀子・礪石・契芯眞・噦厥・針筒・火石、是也。〔唐書、五行志一〕高宗嘗內宴、太平公主、紫衫玉帶、皀羅折上巾、具ニ紛礪七事ニ、歌ニ舞于帝前ニ。〔唐書、天竺國傳〕帝以ニ錦袍金革帶魚袋幷七事ニ賜レ之。❺七つの政策。〔明史、趙文華傳〕文華獻ニ七事ニ、首以レ祭ニ海神ニ爲レ言、請遣レ官望ニ祭江陰常熟ニ、次令ニ有司掩骼輕レ徭、次增ニ募水軍ニ、次蘇ニ松常鎭ニ民田ニ、夫過ニ百畝ニ者、重科ニ其賦ニ、且預徵ニ官田稅ニ三年、次募ニ富人ニ輸ニ財力ニ、自效事寧論ニ功、次遣ニ重臣ニ督ニ師、次招ニ通番舊黨ニ、並海鹽徒ニ、易以ニ忠義之名ニ、令下偵ニ伺賊情ニ、因以爲ニ間ニ、兵部尚書聶豹議行ニ其五事ニ、惟增ニ田賦ニ、遣ニ重臣ニ二事不レ行。

【七事八事】181 ch'i¹ shih⁴ pa¹ shih⁴ 多忙なことをいふ。何や彼や用向の多い喩。

【七州】182 シシュウ 七つの國。東晉の七州をいふ。〔謝靈運、述ニ祖德ニ詩〕高揖ニ七州外ニ、拂ニ衣五湖裏ニ。〔注〕善曰、舜分ニ天下ニ、爲ニ十二州ニ、時晉有レ七、故云ニ七州ニ也。

【七七】183 シチシチ ❶七七日の略。人の死後四十九日間。又、其の第四十九日。人の死後四十九日の間は魂が中有に迷つて轉生しないといふので、此の間は、七日毎に供養追善して死者の冥福を祈る。〔北史、胡國珍傳〕詔自ニ始薨ニ至ニ七七ニ、皆爲設ニ千僧齋ニ。〔潛邱劄記〕今人、以ニ初喪四十九日ニ居ニ柩側ニ、謂ニ之七七日ニ。〔陔餘叢考、七七〕田藝蘅、春雨逸響云、人之初生、以ニ七日ニ爲レ朏、死以ニ七日ニ爲レ忌、一朏而一魄成、一忌而一魄散、楊用修亦云、人生四十九日、而七魄全、死四十九日、而七魄散。❷ch'i¹ ch'i¹ 小盜人。こそどろ。

【七七忌】184 シチシチキ 人の死後は七日目毎に祭を營んで佛事を修めるが、其の七回目の日、卽ち四十九日をいふ。

【七七期】185 シチシチキ 四十九日開をいふ。〔幼科全書、治疹雜科〕疹家禁忌、是魚鷄瘥後、當ニ過ニ七七期ニ、鹽酸五辛通ニ云云、五辛食レ之、令ニ人驚熱ニ、所ニ以通レ禁、必待ニ四十九日之後ニ方無レ禁也。

【七七齋】186 シチシチサイ 七七の❶に同じ。〔陔餘叢考、七七〕唐李翺集、有ニ楊垂讌喪儀ニ、其一篇云、七七齋、翺以爲ニ非禮ニ、特論去レ之。

【七七日】187 シチシチジツ 七七の❶に同じ。〔瑜伽論、一一〕此中有ニ若未レ得ニ生緣ニ、極ニ七日ニ住、若極ニ七日ニ未レ得ニ生緣ニ、死而復生、極ニ七日ニ住、如レ是展轉、未レ得ニ生緣ニ、乃至ニ七七日ニ住、自レ此已後、定得ニ生緣ニ。

【七七五分】188 シチシチゴブン ❶姓氏。〔下學集〕。❷姓氏。〔日用重寶記〕。

【七七之祭】189 シチシチノマツリ 人の死後七日目毎に祭を營んで佛事を修めるが、その第七回目の日、卽ち四十九日目の祭を七七の祭といふ。七七忌に同じ。〔陔餘叢考、七七〕皇甫湜所レ譔昌黎神道碑云、遺命喪葬無レ不レ如レ禮、凡俗習畫ニ寫浮屠ニ、日以ニ七數ニ之、及陰陽家所謂吉凶、一無レ汙レ我、云云、棄謂、日以ニ七數ニ之者、卽今世逢ニ七設奠ニ是也、然七七之祭、實不レ始ニ於唐ニ。

【七七百日】190 シチシチヒャクニチ 一般の民家で、人の死後七日目毎に營む佛事の初七日から百箇日に至る期間をいふ。〔通俗編、釋道、七七百日〕北齊書、孫靈暉傳、南陽王綽死、每下至ニ七日ニ至ニ百日上、靈暉恆爲請僧、設ニ齋行道ニ云云、吹劍錄、載ニ温公語ニ曰、世俗信ニ浮屠ニ、以ニ初死七日ニ、至ニ七七日百日小祥大祥ニ、必作ニ道場功德ニ、則滅ニ罪生レ天、否則入ニ地獄ニ云云、李習之去ニ佛齋ニ說、深詆ニ佛家七七之說ニ、則知下唐人固多用ニ七七百日ニ以爲ニ治喪之節ニ矣。

【七七天癸絕】191 シチシチテンキゼツ 婦人が四十九歲で月經の閉止すること。天癸は月經のこと。〔素問、上古天眞論〕七七任脉虛、太衝脉衰少、天癸竭、地道不レ通、故形壞而無レ子也。〔本草、婦人月水〕釋名、時珍曰、女子二七天癸至、七七天癸絕、其常也。

【七失】192 シチシツ 七つの惡い事。〔逸周書、大開武解〕國有ニ四戚・五和・七失・九因・十淫ニ云云、七失、一、立ニ在レ廢ニ、二、廢在レ祇、三、比在レ門、四、謟在レ內、五、私在レ外、六、私在レ公、七、公不レ違。

【七日】193 シチジツ ❶七日間。なぬか。なのか。〔詩、小雅、小宛、螟蛉有レ子蜾蠃負レ之、疏〕陸璣云、云云、蜾蠃、土蜂也、似レ蜂而小腰、取ニ桑蟲ニ負レ

之、於二木空中一、七日而化。〔禮、檀弓上〕曾子謂二子思一曰、伋、吾執二親之喪一也、水漿不レ入二於口一者七日。㊀月の第七日。なぬか。〔宋書、後廢帝紀〕七月七日、昱乘二露車一、從二二百許人一。〔白居易、長恨歌〕七月七日長生殿、夜半無レ人私語時。

【七日爲レ人】194シチジツヲヒトトナス　正月七日をいふ。七日占レ人(193)を見よ。〔魏書自序〕帝宴二百僚一、問、何故名二人日一、皆莫二能知一、收對曰、晉議郎董勳答問稱、俗云、正月一日爲レ鷄、二日爲レ狗、三日爲レ猪、四日爲レ羊、五日爲レ牛、六日爲レ馬、七日爲レ人。

【七日關白】195シチジツクワンパク　藤原道兼をいふ。道兼は僅か七日間關白となつた。〔日本政記、一條天皇〕長德元年、五月、道兼薨、在レ職僅七日、世曰二七日關白一。

【七日七夜】196シチジツシチヤ　七日間の晝夜を合せていふ。七日間夜晝通して。なぬかななよ。〔莊子、庚桑楚〕南榮趎贏レ糧、七日七夜、至二老子之所一。〔史記、伍子胥傳〕包胥立二於秦廷一、晝夜哭、七日七夜、不レ絕二其聲一。

【七日占レ人】197ナヌカウラナフヒト　正月七日には人を占ふ。故に七日に人日の名がある。〔事物紀原、正朔曆數部、人日〕六日占レ馬、七日占レ人、八日占レ穀。

【七日來復】198シチジツライフク　七箇月目に陰と陽とが入れ替ること。例へば、易の復䷗は十一月に當り、それから七ケ月を經た姤䷫は五月に當るが、其の二卦の陰陽は互に來復するといふ意。此の七日の日は、卽ち月をいふ。〔易、復〕復亨、出入无レ疾、朋來无レ咎、反二復其道一、七日來復、利レ有レ往。〔近思錄、道體、七日來復、注〕日卽月也、以二卦配一レ月、則自二五月陽始消而爲一レ姤、至二十一月陽生而爲一レ復、自レ姤至レ復、凡七月也。〔履齋、示兒編、七日來復〕七日來復者、昔之計レ月、非二其正歲一、則以レ日數レ之、卽幽詩一之日二之日、是也、謂、陰自レ姤而遯、而否、而觀、而剝、而坤、蓋六日耳、及二陽受一レ之而復、乃七日焉、其來也、剝而至レ復、已歷二七日一、是天數之運也。

【七十】199シヂフ　㊀十の七倍。〔孟子、滕文公上〕殷人七十而助。㊁七十年。七十歳。ななそぢ。〔禮、曲禮上〕七十曰レ老、而傳。

【七十一】200シチジフイチ　清、滿洲正藍旗人。字は椿園。乾隆の進士。著に西域聞見錄がある。

【七十五】201シチジフゴ　清、滿洲正黃旗人。姓は瓜勒佳氏。乾隆中、金川の役に功があり、嘉慶の初年、四川に轉戰して善く士卒を撫した。〔清史稿、三百五十二〕〔國朝耆獻類徵、二百九十八〕。

【七十子】202シチジフシ　孔子の弟子中のすぐれた人人。七十二弟子を見よ。〔孟子、公孫丑上〕如二七十子之服一、孔子一也。〔史記、十二諸侯年表〕王道備、人事浹、七十子之徒、口受其傳指一。〔邵氏聞見後錄、八〕太史公曰、子貢在二七十子之徒一最饒。

【七十鳥】203シヂフテウ　鳥の名。のがん。鴇(12—4673)の異名。鴇は淫亂の鳥で、他の如何なる鳥とでも交はる。七十とは、交はる鳥の種類の多いをいふ。〔事物異名錄、禽鳥、鴇〕庶物異名疏、陸佃云、鴇性最淫、逢レ鳥則與レ之交、其字七十鳥爲レ鴇、爲二其多鳥相交一故也。

【七十二】204シチジフニ　多數の意を表はした概數。天地陰陽五行の成數。古書には往々此の數を用ひる。七十二家〔管子、封禪〕・七十二黑子〔漢書、高帝紀〕・七十二福地〔太平寰宇記〕・七十二弟子〔史記、仲尼弟子傳〕・七十二候〔禮、月令〕等の類。〔漢書、高帝紀上〕左股有二七十二黑子一。〔三餘偶筆〕七十二、乃天地陰陽五行之成數、亦盈數也、故言二數之至多者一、每極二之七十二一。〔輟耕錄、七十二〕〔玉臺詩、入門時左顧、但見二雙鴛鴦一、鴛鴦七十二、羅列自成レ行、孟東野和二薔薇歌一、仙機軋軋飛二鳳凰一、花開七十有二行、詩皆用二七十二一、不レ知二何所一レ祖。

【七十一聖】205シチジフイセイ　古昔、天下を保有した七十一人の君主。〔呂覽、求人〕古之有二天下一也者、七十一聖、觀二於春秋一、自二魯隱公一以至二哀公一、十有二世、其所二以得一レ之、所二以失一レ之、其術一也。

【七十而肉】206シチジフアニシテ　七十歳の者が肉を食ふことを得ること。七十歳になれば血氣が衰へるから肉を食はせて手厚く養ふ。〔孟子、梁惠王上〕雞豚狗彘之畜、無レ失二其時一、七十者可二以食一レ肉矣。〔集注〕七十非レ肉不レ飽、未二七十一者一、不レ得レ食也。

【七十天供】207シチジフテンキヨウ　㊀眞言密教の修法の一。〔安鎭法日記、上、村上御時日記〕修二七十天供一。

【七十二家】208シチジフニカ　古來、泰山に封禪したといふ人君、七十二人。〔管子、封禪〕管仲曰、古者封二泰山一、禪二梁父一者、七十二家。〔史記、封禪書〕封禪七十二王。

【七十二行】209シチジフニギヤウ　農工商の生業を營むものの總稱。行は店舖。廣東では商家を七十二行行商といふ。三百六十行(1—12・1529)を見よ。

【七十二沽】210シチジフニコ　河北省の水の名。天津、寶坻、寧河の三縣に散在してゐる。

【七十二候】211シチジフニコウ　太陰曆で、自然現象に基づく七十二の季節の區分。禮記月令によると、五日を一候とし、三候を一氣とし、六候を一月とし、七十二候を一年とする。今、左に表示する。

正月		二月		三月		四月		五月		六月		七月	
立春	東風解レ凍	驚蟄	桃始華	清明	桐始華	小滿	苦菜秀	芒種	螳螂生	大暑	腐艸爲レ螢	立秋	涼風至
雨水	獺祭レ魚	春分	玄鳥至	穀雨	萍始生	立夏	蠅蟈鳴	夏至	鹿角解	小暑	温風始至	處暑	鷹乃祭レ鳥
驚蟄	桃始華	清明	桐始華	立夏	蝼蟈鳴	芒種	螳螂生	小滿	蚯蚓出	立秋	涼風至	白露	天地始粛
春分	玄鳥至	穀雨	萍始生	小滿	苦菜秀	夏至	鹿角解	大暑	腐艸爲レ螢	處暑	鷹乃祭レ鳥	秋分	禾乃登
清明	桐始華	立夏	蝼蟈鳴	芒種	螳螂生	小暑	温風始至	立秋	涼風至	白露	鴻雁來	寒露	鴻雁來賓
穀雨	萍始生	小滿	苦菜秀	夏至	鹿角解	大暑	腐艸爲レ螢	處暑	鷹乃祭レ鳥	秋分	雷始收レ聲	霜降	豺乃祭レ獸
立夏	蝼蟈鳴	芒種	螳螂生	小暑	温風始至	立秋	涼風至	白露	鴻雁來	寒露	鴻雁來賓	立冬	水始冰
小滿	苦菜秀	夏至	鹿角解	大暑	腐艸爲レ螢	處暑	鷹乃祭レ鳥	秋分	雷始收レ聲	霜降	豺乃祭レ獸	小雪	虹藏不レ見
芒種	螳螂生	夏至	鹿角解	小暑	温風始至	立秋	涼風至	白露	鴻雁來	寒露	鴻雁來賓	大雪	鵲旦不レ鳴
夏至	鹿角解	小暑	温風始至	大暑	腐艸爲レ螢	處暑	鷹乃祭レ鳥	秋分	雷始收レ聲	霜降	豺乃祭レ獸	冬至	蚯蚓結
小暑	温風始至	大暑	腐艸爲レ螢	立秋	涼風至	白露	鴻雁來	寒露	鴻雁來賓	立冬	水始冰	小寒	雁北鄉
大暑	腐艸爲レ螢	處暑	鷹乃祭レ鳥	秋分	雷始收レ聲	霜降	豺乃祭レ獸	立冬	水始冰	小雪	虹藏不レ見	大寒	雞乳
處暑	鷹乃祭レ鳥	秋分	雷始收レ聲	寒露	鴻雁來賓	立冬	水始冰	小雪	虹藏不レ見	大雪	鵲旦不レ鳴	立春	東風解レ凍
秋分	雷始收レ聲	寒露	鴻雁來賓	霜降	豺乃祭レ獸	小雪	虹藏不レ見	大雪	鵲旦不レ鳴	冬至	蚯蚓結	雨水	獺祭レ魚
寒露	鴻雁來賓	霜降	豺乃祭レ獸	立冬	水始冰	大雪	鵲旦不レ鳴	冬至	蚯蚓結	小寒	雁北鄉	驚蟄	桃始華
霜降	豺乃祭レ獸	立冬	水始冰	小雪	虹藏不レ見	冬至	蚯蚓結	小寒	雁北鄉	大寒	雞乳	春分	玄鳥至
立冬	水始冰	小雪	虹藏不レ見	大雪	鵲旦不レ鳴	小寒	雁北鄉	大寒	雞乳	立春	東風解レ凍	清明	桐始華
小雪	虹藏不レ見	大雪	鵲旦不レ鳴	冬至	蚯蚓結	大寒	雞乳	立春	東風解レ凍	雨水	獺祭レ魚	穀雨	萍始生
大雪	鵲旦不レ鳴	冬至	蚯蚓結	小寒	雁北鄉	立春	東風解レ凍	雨水	獺祭レ魚	驚蟄	桃始華	立夏	蝼蟈鳴
冬至	蚯蚓結	小寒	雁北鄉	大寒	雞乳	雨水	獺祭レ魚	驚蟄	桃始華	春分	玄鳥至	小滿	苦菜秀
小寒	雁北鄉	大寒	雞乳	立春	東風解レ凍	驚蟄	桃始華	春分	玄鳥至	清明	桐始華	芒種	螳螂生
大寒	雞乳	立春	東風解レ凍	雨水	獺祭レ魚	春分	玄鳥至	清明	桐始華	穀雨	萍始生	夏至	鹿角解

〔禮、月令〕東風解レ凍、蟄蟲始振、魚上レ冰、獺祭レ魚、鴻鴈來。〔疏〕按、三統厤、正月節立春雨水中、二月節驚蟄春分中、三月節穀雨清明中、四月節立夏小滿中、五月節芒種夏至中、六月節小暑大暑中、七月節立秋處暑中、八月節白露秋分中、九月節寒露霜降中、十月節立冬小雪中、十一月節、大雪冬至中、十二月節小寒大寒中、云云、凡二十四氣、氣有二十五日有餘一、每氣中半分レ之爲二四十八氣一、氣有二七日半有餘一、故鄭注周禮二云、有二四十八箭一、是二氣易二一箭一也、凡二十四氣、每二分之七十二氣一、氣閒五日有餘、故一年有二七十二候一也、故通卦驗、冬至之前五日、蕆賈不レ行、兵甲伏匿、人主與二羣臣左右一、從レ東爾五日、以二五日一候一也。〔玉海、律曆、時令〕夏小正、具二十二月一、而無二中氣一、有二候應一、而無二日數一、至二于時訓一、乃五日爲レ候、三候爲レ氣、六十日爲レ節、云云、方氏曰、積二六候一而成レ月、故一歲則有二七十二候一、三候爲二一氣一、積二六氣一而成レ時、故一歲則有二二十四氣一。

【七十二鑽】212シチジフニサン　七十二回卜すること。鑽は龜甲を灼く前に穴を穿つこと。〔莊子、外物〕刳レ龜七十二鑽、而無二遺筴一。〔釋文〕鑽、慶藩案、

文選郭景純江賦注、引二司馬一云、鑽、命レト以二所レト事一而灼レ之。

【七十二泉】213 シチジフニセン 山東省歷城縣に在る泉の總稱。泉名は、一に次の如くいはれる。金線・趵突・皇華・柳絮・臥牛・東高・漱玉・無憂・石灣・酒泉・湛露・滿井・北黃糖・散水・溪亭・濯纓・灰泉・知魚・硃砂・劉氏・雲棲・登州・望水・洗鉢・淺井・馬跑・舜井・珍珠・香泉・鑑泉・杜康・金虎・黑虎・東密脂・西密脂・孝感・玉環・羅姑・混沙・灰池・南珍珠・芙蓉・滴水・灰灣・賢清・雙桃・溫泉・汝泉・龍門・染池・懸泉・都泉・柳泉・車泉・黃糠・爐泉・白虎・甘露・林汲・白泉・金沙・白龍・花泉・獨孤・醴泉・漿水・南黃糠・苦苣・慰斗・鹿泉・龍居・章丘百脈。〔山東通志、濟南府〕七十二泉、按二一統志、濟南名泉七十二、趵突爲レ上、金線・珍珠次レ之、其餘不レ能下與二三泉一侔上矣、今按、趵突・金線・珍珠・杜康・舜泉、舊志已收、其曰二皇華一、曰二柳絮一、曰二臥牛一、在二金線東一、曰二東高一、曰二南漱玉一、北漱玉一、在二金線南一、曰二無憂一、曰二石灣一、在二趵突南一、或云、在二檻泉西南一、曰二酒泉一、曰二湛露一、在二無憂西一、曰二滿井一、曰二黃糠一、在二趵突北一、曰二散水一、曰二溪亭一、在二北珍珠東一、曰二劉氏一、曰二濯纓一、在二北珍珠西一、曰二灰泉一、在二濯纓西北一、曰二知魚一、在二灰泉東南一、曰二硃砂一、在二灰泉西一、曰二白雲一、在二劉氏南一、曰二登州一、曰二望水一、在二萬竹園內一、曰二洗鉢一、在二登州東北一、曰二淺井一、曰二馬跑一、在二洗鉢西南一、曰二香泉一、在二舜泉西一、曰二鑑泉一、在二舜泉南一、或云、卽檻泉也、曰二金虎一、在二李承務巷一、或云、卽黑虎也、曰二東密脂一、在二金虎西南一、曰二西密脂一、在二東密脂西一、曰二孝感一、在二孝感坊內一、曰二玉環一、在二布政司前一、曰二羅姑一、在二塔巷街東一、曰二混沙一、曰二灰池一、在二城西南角場下一、曰二芙蓉一、在二姜家亭前一、曰二滴水一、在二西務北一、曰二灰灣一、曰二賢清一、在二城西五龍堂東一、曰二雙桃一、在二城西丁字街北一、曰二溫泉一、在二城西石橋北城下一、曰二汝泉一、在二神童寺內一、曰二龍門一、在二神童寺東一、曰二染池一、在二龍門東一、曰二懸泉一、在二中宮東一、或云、在二龍洞口一、曰二都泉一、在二中宮鎭東南一、曰二柳泉一、曰二車泉一、在二中宮東一、曰二黃糠一、在二四里山南一、曰二爐泉一、在二南山下一、曰二甘露一、在二大佛山一、曰二林汲一、在二佛谷內一、曰二白泉一、在二玉舍莊北五里一、曰二金沙一、曰二白龍一、在二龍銅山一、曰二花泉一、在二張家泊一、曰二獨孤一、曰二靈巖寺一、或云、在二天麻嶺下一、曰二金泉一、在二章丘釁堂嶺一、或云、卽醴泉也、北曰二漿水一、在二龍山鎭東南一、曰二南黃糠一、在二蠋山窩北一、曰二苦苣一、在二柳鋪東一、一名二萵苣一、曰二熨斗一、在二梨峪門家莊一、曰二鹿泉一、在二石固寨一、曰二龍居一、在二章丘一、長城嶺西、合二趵突諸泉一、及章丘百脉泉一、總七十二、見二名泉碑一、齊乘曰、濟南名泉碑、論二七十二泉一、遠至二中宮靈巖諸泉一具載、而華不注之華泉、明水鎭之淨明泉、皆失不レ取、況其名亦未二雅稱一、蓋殘二金俗筆一也、永樂閒、山東僉事晏璧、作二七十二泉詩一、其泉視二名泉碑所一レ載、閒亦不レ同、蓋歲久、泉源淤塞者多、好事附會訛傳、固亦不レ足レ辨云。〔晏璧、濟南七十二泉詩幷序〕有二此天地一、卽有二此山川一、山爲二地之形勢一、水爲二地之脈絡一、云云、今濟南、環レ城不二一舍許一、而七十二泉、獻レ秀呈レ奇、是造物者、爲二之於中州一、使二千百年不一レ得二一售一、其技亦勞、而無二用於神一者、予故取而詠レ之。

【七十二灣】214 シチジフニワン 多くの灣。〔倪瓚、題二秋江圖一詩〕七十二灣月明夜、荻花楓葉覆二漁船一。

【七十家賦鈔】215 シチジッカフセウ 書名。五卷。清、張惠言撰。先づ楚辭家を錄し、次に周・漢・魏・晉・宋・齊・梁・陳・北周と時代を逐つて輯錄す。清史稿藝文志に著錄す。其の七十家は左の如し。

屈原	宋玉	景差	賈誼
淮南小山	東方朔	莊忌	劉向
揚雄	枚乘	曹植	張協
荀悅	鄒陽	公孫乘	漢武帝
司馬相如	淮南王安	孔臧	董仲舒
司馬遷	中山王文	王褒	班婕妤
劉歆	班彪	梁鴻	崔篆
馮衍	杜篤	梁竦	班固
傅毅	張衡	王延壽	馬融
蔡邕	邊韶	邊讓	禰衡
王粲	文帝	邯鄲淳	何晏
卞蘭	嵇康	阮籍	向秀
張華	木華	陸機	陸雲
左思	潘岳	摯虞	成公綏
郭璞	孫綽	傅亮	謝惠連
謝莊	顏延之	鮑照	張融
梁簡文帝	江淹	沈約	陸倕
江總	庾信		

【七十二威儀】216 シチジフニイギ 佛沙彌に定められてゐる七十二種の威儀。〔扶桑略記〕沙彌十戒七十二威儀。

【七十二疑冢】217 シチジフニギチョウ ノ 魏の曹操の七十二の墓。曹操は死に臨んで、己の冢が人に發かれるのを恐れ、其の所在を晦ます爲に七十二の疑冢を作つた。〔輟耕錄、疑冢〕曹操疑冢七十二、在二漳河上一、宋俞應符有レ詩、題レ之曰、生前欺レ天絕二漢統一、死後欺レ人設二疑冢一、人生用レ智死卽休、何有二餘機一到二丘壟一、人言二疑冢一我不レ疑、我有二一法一君未レ知、直須三盡發二疑冢七十二一、必有三一冢藏二君屍一、此亦詩之斧鉞也。

【七十二地煞】218 シチジフニチサツ 水滸傳に現れて來る七十二人の頭領。宋江等が忠義堂で得た石碑に、地煞星に配して記されてゐたもの。地煞 (**3**‥**4890**‥50)を見よ。〔水滸傳、七十一回〕何道士乃言、前面有二天書三十六行一、皆是天罡星、背後也有二天書七十二行一、皆是地煞星、下面註二着衆義士的姓名一。

【七十二弟子】219 シチジフニテイシ 孔子の弟子の中での秀れた者、七十二人をいふ。七十二は多數を意味する語。史記、仲尼弟子傳に據つて、左に其の姓名を列擧す。

姓名		字	姓名		字
一	顏回	子淵	四〇	顏高	子驕
二	閔損	子騫	四一	漆雕徒父	
三	冉耕	伯牛	四二	壤駟赤	子徒
四	冉雍	仲弓	四三	商澤	
五	冉求	子有	四四	石作蜀	子明
六	仲由	子路	四五	任不齊	選
七	宰予	子我	四六	公良孺	子正
八	端木賜	子貢	四七	公處	子里
九	言偃	子游	四八	秦冉	開
一〇	卜商	子夏	四九	公夏首	乘
一一	顓孫師	子張	五〇	奚容蒧	子晳
一二	曾參	子輿	五一	公肩定	子中
一三	澹臺滅明	子羽	五二	顏祖	襄
一四	宓不齊	子賤	五三	鄡單	子家
一五	原憲	子思	五四	句井疆	
一六	公冶長	子長	五五	罕父黑	子索
一七	南宮括	子容	五六	秦商	子丕
一八	公晳哀	季次	五七	申黨	周
一九	曾蒧	晳	五八	顏之僕	叔
二〇	顏無繇	路	五九	榮旂	子祈
二一	商瞿	子木	六〇	縣成	子祺
二二	高柴	子羔	六一	左人郢	行
二三	漆彫開	子開	六二	燕伋	思
二四	公伯僚	子周	六三	鄭國	子徒
二五	司馬耕	子牛	六四	秦非	子之
二六	樊須	子遲	六五	施之常	子恆
二七	有若		六六	顏噲	子聲
二八	公西赤	子華	六七	步叔乘	子車
二九	巫馬施	子旗	六八	原亢籍	
三〇	梁鱣	叔魚	六九	樂欬	子聲
三一	顏幸	子柳	七〇	廉絜	庸
三二	冉孺	子魯	七一	叔仲會	子期
三三	曹卹	子循	七二	顏何	冉
三四	伯虔	子析	七三	狄黑	晳
三五	公孫龍	子石	七四	邦巽	子斂
三六	冉季	子產	七五	孔忠	
三七	公祖句茲	子之	七六	公西輿如	子上
三八	秦祖	子南	七七	公西箴	子上
三九	漆雕哆	子斂			

孔子家語、七十二弟子解には、顏何を脫した七十六人を揭げ、秦冉・公伯僚の代りに、琴牢・陳亢の二人を擧げてゐる。その他、多少文字に異同がある。〔史記、仲尼弟子傳〕孔子曰、受レ業身通者、七十有七人、皆異能之士也。〔史記、孔子世家〕弟子蓋三千焉、身通二六藝一者、七十有二人。

【七十二福地】220 シチジフニフクチ 七十二箇處の靈地。道家の語。〔太平寰宇記〕麗水縣括蒼山洞道書、爲二七十二福地之一一。

【七十二烈士】221 シチジフニレツシ 清の宣統三年三月二十九日に、黃興等と兩廣督署を襲つて死んだ七十二人の革命黨の人。黃花岡に葬る。黃花岡

烈士。

〖七十二絃琵琶〗222 七十二本の絃のある琵琶。〔元史、郭侃傳〕得二七十二絃琵琶、五尺珊瑚燈檠一。

〖七十二公之堂〗223 淸、王曇（7―2082 3‥866）の室名。

〖七十二峯主人〗224 淸、周金然（2―34 41‥613）の號。

〖七十二潭漁夫〗225 淸、陳瑚（11―416 98‥239）の號。

【七舍】226 室・堂・庭・門・巷・術・野をいふ。〔淮南子、天文訓〕陰陽刑德、有二七舍一、何謂二七舍一、室・堂・庭・門・巷・術・野。

〖七舍之形〗227 七舍の有樣。七舍を見よ。〔新論、兵術〕辨二地勢一者、識二七舍之形一、別二九地之勢一。

【七生】228 ❶佛㋑七度生れかはる。〔四十二章經〕七死七生、便證二阿羅漢一。㋺七有(10)に同じ。❷姓氏。〔運歩色葉集〕。

〖七生報國〗229 七たび生れかはつて國恩に報いる。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕願、七生二人間一、以殺二國賊一。〔賴山陽、謁二楠河州墳一有レ作詩〕北向再拜天日陰、七生二人間一滅二此賊一。〔廣瀨武夫、正氣歌〕誠哉誠哉斃不レ已、七生二人間一報二國恩一。

【七相】230 七人の宰相。漢の車千秋・黃霸・王商・王嘉・韋賢・平當・魏相をいふ。〔班固、西都賦〕冠蓋如レ雲、七相五公。〔注〕向曰、七相、謂二車千秋・黃霸・王商・王嘉・韋賢・平當・魏相一。〔唐書、柳沖傳〕齊諸田、楚屈景、皆右姓也、其後進二拔豪英一、論而錄レ之、蓋七相五公之所二由興一也。

【七唱】231 晉、成公綏の「七」の題名。〔成公綏、七唱〕奮二長袖一以颷廻、擢二纖腰一以烟起、鎭二抗首一而委蛇、颭頓足而立跱、紛龍轉而鳳翔、忽若レ倒而中止。

【七商】232 音樂で、商聲の七調をいふ。〔唐書、禮樂志十二〕越調・大食調・高大食調・雙調・小食調・歇指調・林鐘商、爲二七商一。〔宋史、樂志十七〕商聲七調、皆生二於太簇一。〔燕樂考原〕燕樂、七商一均、卽琵琶之第二弦、分爲二七調一、琵琶以二第二弦一爲二太簇商一、故曰二七商一、考、琵琶第二弦、其鉅細、如二今三弦之老弦一、第三弦・第四弦、如二今三弦之中弦子弦一、蓋今琵琶之七調、卽唐人燕樂之七宮、聲濁能合レ簫、而不レ能レ合二今度曲家之笛一、今三弦之七調、卽唐人燕樂之七商、與二今笛一正相應、是今之俗樂、又高二於唐人燕樂二一律矣、燕樂、七商生二於太簇一、是用二太簇・夾鐘・仲呂・林鐘・南呂・無射・黃鐘七律一也、琵琶商弦、旣與二三弦之老弦一相應、則所謂太簇、今爲二大石調一、殺聲用二四字一者、卽三弦之四字調也、夾鐘商、今爲二高大石調一、用二一字一者、卽三弦之一字調也、仲呂商、今爲二雙調一、用二上字一者、卽三弦之上字調也、林鐘商、今爲二小石調一、用二尺字一者、卽三弦之尺字調也、南呂商、今爲二歇指調一、用二工字一者、卽三弦之工字調也、無射商、今爲二林鐘商一、用二凡字一者、卽三弦之凡字調也、黃鐘商、今爲二越調一、用二六字一者、卽三弦之六字調也、今俗樂旣高二於唐人燕樂二一律、則古燕樂之七商、爲二今俗樂之七宮一矣、故今樂工、猶謂二四字調一爲二正宮調一、六字調爲二越調一也。

【七情】233 七つの感情。❶喜・怒・哀・懼・愛・惡・欲。〔禮、禮運〕何謂二人情一、喜・怒・哀・懼・愛・惡・欲、七者弗レ學而能、云云、故聖人之所下以治二人七情一、脩二十義一、講レ信脩レ睦、尙二慈讓一、去レ爭奪上、舍レ禮、何以治レ之。〔蘇軾、睡鄕記〕昏然不レ生二七情一、茫然不レ交二萬事一。❷佛喜・怒・憂・懼・愛・惡・欲。九思(1―167‥292)を見よ。〔淨住子、淨行法門、滌除三業門〕書云、檢二七情一、務二九思一、思無レ邪、動必正、七情者、喜・怒・憂・懼・愛・惡・欲者也、九思者、視思レ明、聽思レ聰、色思レ溫、貌思レ恭、言思レ忠、事思レ敬、疑思レ問、忿思レ難、見レ利思レ義、此皆所下以洗二除胸懷一、去レ邪務上レ正。

〖七情六慾〗234 人間の喜怒哀樂(2―395 7‥121)と嗜慾(2―4089‥19)との總稱。

【七襄】235 星が一日に七たび其の躔次を移すこと。轉じて、屢〻移ること。襄は駕。〔詩、小雅、大東〕跂彼織女、終日七襄。〔箋〕襄、駕也、駕、謂レ更二其肆一也、從レ旦至レ莫七辰、辰一移、因謂二之七襄一。〔集傳〕蓋天有二十二次一、日月所レ止舍、所謂肆也、經星一晝一夜、左旋一周而有レ餘、則終日之間、自レ卯至レ酉、當レ更二七次一也。〔顏延之、夏夜呈二從兄散騎車長沙一詩〕九逝非レ空レ思、七襄無レ成レ文。〔注〕翰曰、言、我魂一夕九往、豈空自悲思、所レ思者君也、但恨二七反而不レ成二文章一也。

【七主】236 ❶七樣の君主。申主・惠主・侵主・芒主・勞主・振主・芒主。〔管子、七臣七主〕或以二平虛一、請レ論二七主之過一、得二六過一是一、以還自鏡、以知二得失一、以繩二七臣一、得二六過一是一、嗚呼美哉、成レ事疾、申主、任レ勢守レ數、以爲レ常、周二聽近遠一、以續レ明、皆要審、則法令固、賞罰必、則下服レ度、不二備待一而得レ和、則民反レ素也、惠主、豐賞厚賜、以竭レ藏、赦レ姦縱レ過、以傷レ法、藏竭、則主權衰、法傷、則姦門闓、故曰、泰則反敗矣、侵主、好惡反レ法、以自傷、喜決レ難レ知、以塞レ明、從狙而好二小察一、事無レ常、而法令申、不レ悟、則國失レ勢、芒主、目伸二五色一、耳常二五聲一、四鄰不レ計、司聲不レ聽、則臣下恣行、而國權大傾、不レ悟、則所レ惡及レ身、勞主、不レ明二分職一、上下相干、臣主同レ則、刑振以豐、豐振以刻、去レ之而亂、臨レ之而殆、則後世何得、振主、喜怒無レ度、嚴誅無レ赦、臣下振怒、不レ知レ所レ錯、則人反二其故一、不レ悟、則法數日衰、而國失レ固、芒主、通二人情一以質レ疑、故臣下無レ信、盡自治二其事一則事多、多則昏、昏則緩急俱植、不レ悟、則見レ所レ不レ善、餘力、自失而罰。〔纂詁〕冢田虎云、下有二芒主一、此芒疑亡之誤。❷七人の君主。〔南齊書、禮志上〕二漢由二太子一而嗣レ位者、西京七主、東都四帝。

【七首】236′ 七つの首。〔後漢書、張衡傳〕雖二一龍發一レ機、而七首不レ動。

【七衆】237 佛佛の弟子を七種に分けた稱。比丘・比丘尼・式叉摩那・沙彌・沙彌尼(以上出家)・優婆塞・優婆夷(以上在家)をいふ。〔智度論、十〕佛弟子有二七衆一、比丘・比丘尼・學戒尼・沙彌・沙彌尼・優婆塞・優婆夷、優婆塞・優婆夷是居家、餘五衆是出家。

【七種】238 ❶七つの種類。なないろ。〔北史、勿吉國傳〕其部類、凡有二七種一。〔唐書、天竺國傳〕水有二七種色一。❷㋑春の七種の菜。芹・薺・御幸・繁蔞・佛座・菘・蘿蔔の稱。七草。七種粥を見よ。㋺秋の七草。七草(147)の❶を見よ。〔萬葉集、八〕秋の野に咲きたる花を、および折りかき數ふれば七種の花。

〖七種語〗239 佛因語・果語・因果語・喩語・不應說語・世流布語・如意語をいふ。〔涅槃經、二十五〕。

〖七種菜〗240 七種類の菜草。七草。〔湖廣志書、雨夢縣〕人日採二七種菜一。

〖七種食〗241 佛五欲を制御して涅槃を求めるやうに、佛が食の喩で弟子に說いたこと。眼は眠りを食とし、耳は聲を食とし、鼻は香を食とし、舌は味を食とし、身は細滑を食とし、意は法を食とし、涅槃は不放逸を食とす。〔增一阿含、三十二〕一切諸法由レ食而存、非レ食不レ存、眼者以レ眠爲レ食、耳者以レ聲爲レ食、鼻者以レ香爲レ食、舌者以レ味爲レ食、身者以二細滑一爲レ食、意者以レ法爲レ食、我今亦說二涅槃有一レ食、云云、涅槃者以二無放逸一爲レ食。

〖七種粥〗242 ❶昔、正月七日に七種を入れて炊いた粥。其の年の邪氣を拂ひ、萬病を除くといふ。〔荊楚歲時記〕正月七日、爲二人日一、以二七種菜一爲レ羹、翦レ綵爲レ人。〔和漢三才圖會、造釀類、七種粥〕荊楚歲時記云、正月七日、俗以二七種菜一作レ羹、食レ之人無二萬病一云云、延喜十一年正月七日、始供二七種若菜一。〔本朝食鑑、一、穀〕粥、古者、上元日、兼二赤豆粥一、同獻二七種粥一、七種者、米・小豆・大角豆・黍・粟・菫子・薯蕷、或曰、白穀・大豆・小豆・粟・栗・柹・大角豆也、今俗、正月七日上下薺粥中、入二燒餅子一而嘗レ之、此擬二七種菜一、則迎レ新之意乎。❷正月十五日に、米・赤小豆・粟などの七種を入れて炊く粥。〔主水司式〕正月十五日供御七種御粥、中宮亦同、米一斗五升、粟・黍子・稗子・葟子・胡麻子・小豆各五升。

〖七種寶〗243 七寶(393)の❶に同じ。

〖七種辯〗244 佛佛・菩薩のすぐれた七種の辯。七辯ともいふ。捷疾辯・利辯・不盡辯・不可斷辯・隨應辯・義辯・一切世間最上辯。〔智度論、五十五〕當レ得二捷疾辯・利辯・不盡辯・不可斷辯・隨應辯・義辯・一切世間最上辯一。

〖七種菜羹〗245 七種粥をいふ。〔遵生八

牋〕荊土、人日採二七種菜一作二羹湯一、以食レ之。

【七種不淨】246 シチシュフジョウ 〔佛〕正道を妨げる七つの不淨。種子・受生・住處・食噉・初生・擧體・究竟。

【七種無上】247 シチシュムジョウ 〔佛〕無上の覺が具へてゐる七種のもの。身無上・道無上・正無上・智無上・神力無上・斷障無上・住無上。〔菩薩地持經、三〕無上菩提者、具二七無上一、於二一切菩提一最爲二無上一、云何七無上、一者身無上、二者道無上、三者正無上、四者智無上、五者神力無上、六者斷無上、七者住無上。

【七種無常】248 シチシュムジョウ 〔佛〕外道にある七種の無常。作捨・處壞・即色・轉變・性・性無性・不生。〔楞嚴經、四〕。

【七種寶納記】249 シチシュホウナフキ 書名。寫本一卷。教訓書。女子の修養書。

【七趣】250 シチシュ 〔佛〕地獄・餓鬼・畜生・人・神仙・天・阿修羅をいふ。衆生の死後に赴くところであるから趣といふ。〔楞嚴經、九〕如レ是地獄・餓鬼・畜生、人及神仙、天洎修羅、精二研七趣一、皆是昏沈、諸有爲相、妄想受レ生、妄想隨レ業。

【七宗】251 シチシュウ 〔佛〕七つの宗派。律・法相・三論・華嚴・天台・眞言・禪。〔元亨釋書、諸宗志〕。

【七戎】252 シチジュウ 西方にゐる七つのえびす。〔爾雅、釋地〕九夷・八狄・七戎・六蠻・謂二之四海一。〔注〕七戎レ西。〔墨子、節葬下〕舜西教二乎七戎一。〔顏延之、赭白馬賦〕掩二七戎一而得レ駿。

【七宿】253 シチシュク 七つの星宿。東西南北の四方にそれぞれ七宿づつある。二十八宿（1－247：497）を見よ。〔詩、豳風、七月、七月流火、疏〕西方北方俱七宿。〔張衡、天象賦〕七宿書レ野以分レ區。〔隋書、禮樂志二〕星辰七宿。

【七出】254 シチシュツ ❶妻を離別する七つの理由。七去（63）を見よ。〔儀禮、喪服、出妻之子爲レ母、疏〕七出者、無レ子、一也、淫泆、二也、不レ事二舅姑一、三也、口舌、四也、盜竊、五也、妬忌、六也、惡疾、七也、天子諸侯之妻、無レ子不レ出、唯有二六出一耳。〔孔子家語、本命解〕婦有二七出三不去一。七出者、不レ順二父母一者・無レ子者・淫僻者・嫉妒者・惡疾者・多二口舌一者・竊盜者。❷七たび出る。〔史記、衞青傳〕大將軍青、凡七出擊二匈奴一。

【七述】255 シチジュツ 宋の晁補之の作つた文章の名。〔晁補之、七述序〕予嘗獲レ侍二於蘇公一、〔蘇公爲レ予道二杭之山川人物、雄秀奇麗、夸靡饒侈、名不レ能二殫者一、且稱二枚乘曹植七發七啓之文一、以謂引二物連レ類、能究二情狀一、退而深思、倣二其事一、爲二七述一、意者、述二公之言一、而非レ作也。

【七術】256 シチジュツ ❶君主が臣下に臨むに必要な七つのてだて。參觀・必罰・信賞・一聽・詭使・挾知・倒言。〔韓非子、內儲說上〕主之所レ用也七術、所レ察也六微、七術、一曰、衆端參觀、二曰、必罰明レ威、三曰、信賞盡レ能、四曰、一聽責下、五曰、疑詔詭使、六曰、挾レ知而問、七曰、倒レ言反レ事、此七者、主之所レ用也。❷大夫種が越王句踐に上言した、呉を伐つ爲の七つの方策。越絶書並に呉越春秋は、七術を九術に作る。〔史記、越王句踐世家〕越王乃賜二種劍一曰、子教二寡人伐一呉七術、寡人用二其二而敗一呉、其四在レ子、子爲レ我從二先王一試レ之、種遂自殺、句踐卒。〔注〕正義曰、越絶云、九術、一曰、尊二天事一鬼、二曰、重二財幣一、以遺二其君一、三曰、貴二糴粟一糶、以空二其邦一、四曰、遺二之好美一、以熒二其志一、五曰、遺二之巧匠一、使下起二宮室一高臺上、以盡二其財一、以疲中其力上、六曰、貴二其諛臣一、使二之自殺一、八曰、邦家富而備二器利一、九曰、堅レ甲利レ兵、以承二其弊一。❸鬼谷子の用ひた兵家の七つの術。盛神（威神）・養志・實意・分威・散勢・轉圓・損兌。〔鬼谷子、本經陰符〕盛神法二五龍一、云云、養志法二靈龜一、云云、實意法二螣蛇一、云云、分威法二伏熊一、云云、散勢法二鷙鳥一、云云、轉圓法二猛獸一、云云、損兌法二靈蓍一。〔小學紺珠、藝文類、七術〕威神法二五龍一、養志法二靈龜一、實意法二螣蛇一、分威法二伏熊一、散勢法二鷙鳥一、轉圓法二猛獸一、損兌法二靈蓍一。

【七旬】257 シチジュン 七十日。〔書、大禹謨〕七旬有苗格。

【七順】258 シチジュン 人の德を進める七つの道。天・地・民・利・德・仁・道の七つに順ふこと。〔逸周書、小開武解〕七順、一、順レ天得レ時、二、順レ地得レ助、三、順二民得一レ和、四、順レ利財足、五、順レ德助レ明、六、順レ仁無レ失、七、順レ道有レ功。

【七書】259 シチショ ❶七種の兵書。孫子・吳子・司馬法・尉繚子・三略・六韜・李衞公問對をいふ。又、武經七書ともいふ。晁公武の郡齋讀書志に、宋の元豐年間に之を武學に頒ち、號して七書といふとある。〔宋史、選擧志二〕凡武學生、習二七書兵法騎射一。〔小學紺珠、藝文類、七書〕孫子・吳子・六韜・司馬法・三略・尉繚子・李靖問對。〔參考書〕【七書講義】二十五卷。金、施子美撰。〔明史、藝文志〕。❷清の曾國藩が六經の外に學習すべきものとした七種の書。卽ち、史記・漢書・莊子・韓文・文選・說文・通鑑。

【七菹】260 シチソ 韭・菁・茆・葵・芹・菹・筍の七種の漬物をいふ。〔周禮、天官、醢人〕七醢七菹。〔注〕七菹、韭・菁・茆・葵・芹・菹・筍菹。

【七縱】261 シチショウ 七たびゆるす。七度釋放する。七縱七擒を見よ。

【七縱七擒】262 シチショウシチキン 敵を七たび逃がしてやつて、七たびとらえる。蜀漢の諸葛孔明が孟獲を擒にした故事。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕漢晉春秋曰、亮至二南中一、所在戰捷、聞二孟獲者爲二夷漢所レ服、募二生致之一、既得使レ觀二於營陣之間一、問曰、此軍何如、獲對曰、向者不レ知二虛實一、故敗、今蒙レ賜觀二看營陣一、若秖如レ此、卽定易レ勝耳、亮笑縱、使二更戰一、七縱七擒、而亮猶遣、獲止不レ去、曰、公天威也、南人不二復反一矣、遂至二滇池一、南中平。〔章孝標、諸葛武侯廟詩〕七縱七擒何處在、茅花櫪葉蓋二神壇一。〔楊愼、八陣圖記〕使二夫八陣之妙一、不レ得レ加二於二曹三馬之梟敵一、而乃止試二於七縱七擒之孟獲一。

【七縱八橫】263 ch'i¹ tsung⁴ pa¹ hêng² 散々に「なる。

【七色】264 シチショク ❶七つの色。なないろ。〔江淹、雜三言、構二象臺一〕雲八重兮七色、山十影兮九形。〔雲笈七籤〕有二道士、著二七色法衣一。❷七種類。〔元史、祭祀志六〕教坊司雲和署、掌二大樂鼓・板杖鼓・簫・篳・龍笛・琵琶・箏・篴、七色一、凡四百人。❸赤・黃・青・綠・紫・紺・樺の七つの色。又、光學上ではプリズムに依る日光分解色の順により、紫・藍・青・綠・黃・橙・赤。

【七色冠】265 シチショクカン 孝德天皇の大化の改新の際に定められた冠制。〔日本書紀、孝德紀〕大化三年、是歲、制二七色一十三階之冠一、一曰織冠、有二大小二階一、以レ織爲レ之、其冠之緣、服色並同二織冠一、三曰紫冠、有二大小二階一、以レ紫爲レ之、以二織裁一レ冠之緣一、服色並用二淺紫一、四曰錦冠、有二大小二階一、其大錦冠、以二大伯仙錦一爲レ之、以二織裁一レ冠之緣一、其小錦冠、以二小伯仙錦一爲レ之、以二大伯仙錦一裁レ冠之緣一、服色並用二眞緋一、五曰青冠、以二青絹一爲レ之、有二大小二階一、其大青冠、以二大伯仙錦一裁レ冠之緣一、其小青冠、以二小伯仙錦一裁二冠之緣一、服色並用レ紺、六曰黑冠、有二大小二階一、其大黑冠、以二車形錦一裁レ冠之緣一、其小黑冠、以二蔆形錦一裁レ冠之緣一、服色並用レ緣、七曰建武（初位、又名立身）、以二黑絹一爲レ之、以二紺裁一レ冠之緣一。〔國史略、孝德天皇〕大化二年、是歲制二七色冠一、定二位十三階一、一曰織冠、二曰繡冠、三曰紫冠、四曰錦冠、五曰青冠、六曰黑冠、各分二大小二等一、七曰建武、一名立身、初位之冠也、以上十三級。

【七色板】266 シチショクバン 圓盤上に七色を塗り、中心に軸を附けて回轉出來るようにした器具。之を回轉すれば、盤面は白色に見える。

【七飾】267 シチショク 書院の硯屛・硯・水入・軸物・印籠・卦算・水甁の飾り樣をいふ。〔御飾記〕書院の飾りは七飾ともいふなり。

【七臣】268 シチシン 七樣の人臣。法臣・飾臣・侵臣・亂臣・諂臣・愚臣・姦臣。〔管子、七臣七主〕或以二平虛一請レ論二七主之過一、得二六過一是、以還自鏡、以知二得失一、以繩二七臣一、云云、飾臣、克二親貴一、以爲レ名、恬二爵祿一、以爲レ高、好二名則無一レ實、爲レ高則不レ御、故記曰、無レ實則無レ勢、失レ轡、則馬焉制、侵臣、事二小察一、以折二法令一、好佼反二而行一私情一、故私道行、則法度侵、刑法繁、則姦不レ禁、主嚴誅、則失二民心一、亂臣、多造二鐘鼓一、衆飾二婦女一、以惛二上、故上惛、則隙不レ計、而司聲直祿、是以諂臣貴、而法臣賤、此之謂二微孤一。愚臣、深罪厚罰、以爲レ行、重賦斂、多二兌道一、以爲レ上、使二身見憎一、而主受二其謗一、故記稱レ之曰、愚忠讒賊、此之謂也、姦臣、痛二言人情一、以驚レ主、開二罪黨一、以爲レ讎、除レ讎、則罪二不辜一、罪二不辜一、則與二讎居一、故善言可レ惡、以自信、而主失レ親、亂臣、自爲辭功

祿、明爲下請二厚賞、居爲二非母、動爲二善棟、以レ非貿レ名、以レ是傷レ上、而衆人不レ知、之謂二微功一。

【七臣七主】269 シンチシン　管子の篇名。

【七信】270 シチシン　七つの明かにすべきもの。仁・智・勇・族・商・農・貴。〔逸周書、文酌解〕七信、一仁之愼散、二智之完巧、三勇之精富、四族之寡賄、五商之淺資、六農之小積、七貴之爭寵。〔注〕孔曰、七者、所レ宜二信明之一也。

【七眞】271 シンシン　道教の神の名。〔顧況、步虛詞〕逈步遊二三洞一、清心禮二七眞一。〔陸龜蒙、和二懷茅山一詩〕一片輕帆背二夕陽一、望二三峯一拜二七眞堂一。

【七推】272 シチスイ　七度鍬で土をおこすこと。〔白虎通、耕桑〕祭義曰、天子二推一、三公五推、卿大夫士七推。

【七推八阻】273 シチスイハッソ　さまざまにかこつける。〔琵琶記、蔡公逼レ試〕你卻七推八阻、有二這許多說話一、是何道理。

【七萃】274 シチスイ　周代の禁衞軍。七隊。〔穆天子傳、三〕七萃之士高奔戎、刺二其左驂之頸一、取二其青血一以飮二天子一。〔魏書、肅宗紀〕奮二七萃于西戎一。〔虞羲、詠二霍將軍北伐一詩〕雲屯七萃士。〔詩說〕祈招、穆王西征、七萃之士咸怨、祭公謀父、作二此詩一以諷諫。

【七萃甲】275 シチスイノカブト　禁衞軍のよろひ。轉じて、兵士が駐屯して居る所。〔黃佐、南征詞〕雲屯二七萃甲一風迎二九關符一。

【七騶】276 スウ　●七人の馬かひ。騶は廐御。〔禮、月令〕命二僕及七騶一咸駕。〔疏〕七騶者、皇氏云、天子馬有二六種一、種別有レ騶、則六騶也、又有二總主之人一、并二六騶一爲レ七、故爲二七騶一。〔李子卿、駕二幸九成宮一賦〕七騶按レ隊、千乘扈蹕。●馬前の七人の卒をいふ。〔宋史、蔡齊傳〕齊舉二進士第一一云云、詔二金吾一給二七騶一、傳呼以寵レ之、狀元給レ騶、自レ齊始也。

【七世】277 シチ　七代。七世之廟を見よ。〔詩、邶鄘衞譜〕七世至二頃侯一、當二周夷王時一。

【七世子孫】278 シンチセイノ　孫・曾孫・玄孫・來孫・昆孫・仍孫・雲孫をいふ。〔爾雅、釋親〕子之子爲レ孫、孫之子爲二曾孫一、曾孫之子爲二玄孫一、玄孫之子爲二來孫一、來孫之子爲二昆孫一、昆孫之子爲二仍孫一、仍孫之子爲二雲孫一。〔伊藤東涯、釋親考〕子之子爲レ孫、孫之子爲二曾孫一、曾孫之子爲二玄孫一、玄孫之子爲二來孫一、來孫之子爲二昆孫一、昆孫之子爲二仍孫一、仍孫之子爲二雲孫一、右釋二本親七世子孫之稱一。

【七世之廟】279 シチセイノビョウ　太祖の廟と二昭・二穆とをいふ。七廟(433)を見よ。〔書、咸有一德〕七世之廟、可二以觀一レ德。〔蔡傳〕天子七廟、二昭二穆、與二太祖之廟一七。

【七世同居】280 シチセイドウキョ　七代の人が同居する。家族の睦じいこと。〔清會典事例、禮部、風教〕乾隆二年題准、山西省翼城縣生員李煊、七世同居、給二銀建一坊、於二忠孝節義祠內一題碑。

【七世同財】281 シチセイドウザイ　七代の人が財產を同じくして生活する。家族の睦じいこと。〔陶潛、與二子儼等一書〕濟北氾稚春、晉時操行人也、七世同財、家人無二怨色一。

【七世不レ異レ居】282 シチセイフイキョ　七代の人が同居して生活する。家族の睦じいこと。〔陔餘叢考、累世同居〕高崇文之先、七世不レ異レ居、崔鄶四世共居。

【七正】283 シチセイ　日・月と五星。七政(285)の●に同じ。〔史記、律書〕七正、二十八舍。〔注〕索隱曰、七正、日月五星、七者、可二以正一レ天時一、又、孔安國曰、七正、日月五星、各異二政也一。

【七成】284 シチセイ　●中古歐洲の騎士教育で、騎・泳・射・劍・狩・棊・詩の七科を修業すること。●ch'i ch'eng。七割。十分の七。

【七政】285 シチセイ　●日・月・五星（水・火・金・木・土）。七曜（15）の●を見よ。〔書、舜典〕以齊二七政一。〔傳〕七政、日月五星也。〔故實成語考、天文〕日月五星、謂二之七政一。●北斗七星。〔星經〕北斗星、謂二之七政一。●天・地・人・四時。〔尚書大傳、唐傳〕正月上日、受二終于文祖一、在二璇璣玉衡一、以齊二七政一、齊、中也、七政者、謂二春秋冬夏・天文・地理・人道一、所二以爲一レ政也一。〔小學紺珠、天道類、七政〕天・地・人・四時。●司馬法の兵法で、人・正・辭・巧・火・水・兵の七つをいふ。〔司馬法、定爵〕一曰人、二曰正、三曰辭、四曰巧、五曰火、六曰水、七曰兵、是謂二七政一。

【七政之節】286 シチセイノセツ　笙の七つの音節。宮・商・角・徵・羽・少宮・少商。〔白虎通、禮樂〕笙有二七政之節一焉、有二六合之和一焉。〔疏證〕七政者、四禮疏引二斗威儀一云、宮主レ君、商主二臣、角主レ父、徵主レ子、羽主レ夫、少宮主レ婦、少商主レ政、是法二北斗一而爲二七政一也

【七政推步】287 シチセイスイホ　書名。七卷。明、貝琳撰。回回曆の書。〔四庫提要、子、天文算法類〕

【七政全書】288 シチセイゼンショ　書名。八冊。清、秦文淵撰。曆數の書。

【七星】289 シチセイ　●北斗七星。㋑天樞・璇・璣・權・衡・開陽・搖光をいふ。〔史記、天官書〕北斗七星、所謂璇璣玉衡、以齊二七政一。〔注〕索隱曰、案春秋運斗樞云、斗第一天樞、第二璇、第三機、第四權、第五衡、第六開陽、第七搖光。㋺貪狼星・巨門星・祿存星・文曲星・廉貞星・武曲星・破軍星をいふ。〔五行大義、黃帝斗圖〕云、一名二貪狼一、子生人所レ屬、二名二巨門一、丑亥生人所レ屬、三名二祿存一、寅戌生人所レ屬、四名二文曲一、卯酉生人所レ屬、五名二廉貞一、辰申生人所レ屬、六名二武曲一、巳未生人所レ屬、七名二破軍一、午生人所レ屬。●二十八宿の一。南方朱鳥七宿の一。七星から成る星宿。〔禮、月令〕季春之月、日在二胃一、昏七星中、云云、孟冬之月、日在二尾一、昏危中、旦七星中。〔孫希旦集解〕七星、南方朱鳥之第四宿。●七つの星のやうな痣。〔晉書、桓溫傳〕姿貌甚偉、面有二七星一。〔南史、陶弘景傳〕右膝有二數十黑子一、作二七星文一。㊃七箇の星に象つた玉の飾り。〔宋史、輿服志三〕綴レ玉爲二七星一。㊄樂器の名。〔通典、樂典、竹〕七星、不レ知二誰所レ作、其長盈尋。〔舊唐書、音樂志二〕今世又有レ篴、其長盈尋、曰二七星一。〔宋史、禮樂志〕七簧者曰二七星一。㊅山名。㋑福建省霞浦縣の東南。㋺廣東省文昌縣の北。〔輿地紀勝〕七星山、在二文昌縣界海濱一狀如二七星連一珠。〔明一統志〕七星山、有二七峯一、亦名二七洲洋山一。㋩廣西省桂林縣の東。一名、七星巖。〔桂海虞衡志、志巖洞〕棲霞洞、在二七星山一七星山者、七峯位置、如二北斗一、又一小峯在レ傍、曰二輔星石一。〔讀史方輿紀要、廣西、桂林府、臨桂縣〕七星山、府城東三里、隔レ江、舊名七星巖、峯巒駢列、如二星象一然。㋥貴州省都匀縣の北。〔貴州通志〕七星山、山內有レ洞、頗清迥、中有二深潭一、風疾濤沸、寒氣逼レ人。㋭貴州省畢節縣の西。七星關の●を見よ。

【七星河】290 シチセイカ　河の名。貴州省畢節縣。烏江の上流。七星關の下を流れる。清一統志には七星關水とある。

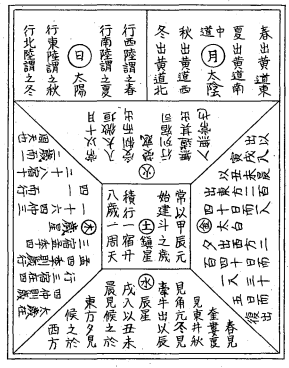
【七星巖】291 シチセイガン　巖山の名。●福建省崇安縣の武夷山。峭壁千尺、崖腹に樓閣がある。●廣東省高陽縣城の北。七峯があつて、其の中の一峯には、數百人を容れる大巖穴があり、奇觀を呈す。〔三才圖會、地理十二、七星巖圖考〕七星巖、在二肇慶郡城北一、其峯嶙峋蔥鬱、森列碁布、如二隕星麗一レ地錯落。〔康海、遊二七星巖一詩〕天墜二北斗精一、人間書二景福一、巖石駢二七峯一、漠漠太古色。●七星の㋅の㋑を見よ。

【七星魚】292 シチセイギョ　魚の名。鱧魚(12－46542‥1)の異名。〔郡縣志〕駱谷東曰二赤谷一、俗呼二紅河一、源出二太白湫一、名二太白峽一、水灾二山巖一噴飛、類二瀑布一、名二瀑布泉一、泉產レ魚、岐背斑文若レ梅、名二七星魚一、人弗レ食云。〔事物異名錄、水族、鱧〕養魚經、黑魚者、鱧魚也、一名烏魚、又名二七星魚一。

【七星會】293 ch'i hsing hui　無盡講の一種。講元たる會主は、會友六人を集め、會費を六十串として六十組織する。

【七星檜】294 シチセイカイ　檜の古木の名。〔都穆、遊二茅山一記〕古檜十四、傳爲二許長史手植一、予平生見二樹之古者一、惟常熟之七星檜、錢唐之九里松、及此而已、七星檜植二於梁一、九里松植二於唐一。

【七星關】295 シチセイカン　關の名。●四川省茂縣の南。關前の山に、小孔が七つ、大孔が一つあつて、恰



七政●（張果星宗）

も七星が月に隨ふ狀をなしてゐる。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、茂州、雜宗關〕七星關、在ㇾ州南四十五里ニ與ニ雜宗ㇾ相近、或曰、卽唐所ㇾ置望星關也。㊁貴州省畢節縣の西。七星山の上ニ下は七星河に臨む。元來、大理段功追ガ明の玉珍を破つたところ。〔讀史方輿紀要、四川、烏撒軍民府〕七星關、府東南一百七十里、有ニ七星山ㇾ置ㇾ關、其上有ニ七星關巡司ㇾ與ニ貴州畢節衞ㇾ接ㇾ界。㊂貴州省平越縣の北五里。〔黔記〕府境東北、由ニ七星關地松水洞・阿亮寨・打鐵關・翁埋寨・上塘陂洞ニ至ニ平越行府ㇾ共九十餘里。

【七星橋】296 シチセイケウ 其の名に星の字を配した七つの橋の名。四川省成都縣の西にあつて、秦守李冰が造つたと傳へる。漢の光武ガ安ㇾ軍宜ㇾ在ニ七星間ㇾと謂つたのは是である。〔益州記〕七星橋、一、長星橋、今名ニ萬里ニ、二、員星橋、今名ニ安樂ニ、三、璣星橋、今名ニ建昌ニ、四、夷星橋、今名ニ笮橋ニ、五、尾星橋、今名ニ禪尼ニ、六、沖星橋、今名ニ永平ニ、七、曲星橋、今名ニ昇仙ㇾ

【七星劍】297 シチセイケン 吳の伍子胥の所有した劍。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕伍員奔ㇾ吳、至ㇾ江、漁父既渡、云云、欲ㇾ去ニ胥、乃解ニ百金之劍ㇾ以與ニ漁者ㇾ此吾前君之劍、中有ニ七星ㇾ價直ニ百金ㇾ

【七星草】298 シチセイサウ 草の名。うらぼし。金星草(11—40152：642)の異名。其の葉は硬く、背上に七星のやうな黃點がある。〔本草、金星草〕釋名、金釧草、鳳尾草、七星草、集解、頌曰、七星草、生ニ江州山谷石上ニ、葉如ㇾ柳而長、作ニ蔓延ㇾ、長ニ三尺ニ、其葉堅硬、背上有ニ黃點ㇾ如ニ七星ㇾ、采無ㇾ時。

【七星散】299 シチセイサン 神仙の藥の名。〔神仙傳〕陳永伯、得ニ淮南王七星散方ㇾ、試按合服ㇾ之、二十一日、忽不ㇾ知ㇾ所在、兄子增族亦服ㇾ之、其父繫ニ其足ㇾ、閉ニ密室中ㇾ、晝夜使ニ人守視ㇾ、二十八日、亦復不ㇾ見。

【七星椿】300 シチセイ 技擊家が練習に用ひる杙。七本の杙を地に立てて脚で之を蹴倒す。

【七星團】301 シチセイダン 古代希臘のカリマカスCallimachus 等七人の詩人。又、十六世紀に於けるフランスのロンザール Ronsard 等七人の詩人。

死者を殮める時、棺内に入れる板。杉で造り、七つの錢形の穴を穿つたもの。〔顏氏家訓、終制〕床上唯施ニ七星板ㇾ。〔通典、禮典、凶、喪制、大斂〕加ニ七星板於梓宮內ㇾ。〔通俗編、器用、七星板〕識小錄、今人棺底用ㇾ板、名ニ七星ㇾ、或仍ニ其製ㇾ、但云ニ牀上似ㇾ不ㇾ在ニ棺中ㇾ。

【七星旗】303 シチセイキ 旗の名。北斗七星を畫いたもの。大常(3—5831：1084)を見よ。〔左氏、桓二、三辰旂旗、疏〕九旗之物、惟日月爲ㇾ常、不ㇾ言ㇾ畫ㇾ星者、蓋大常之上、又畫ㇾ星也、穆天子傳稱、天子葬ニ盛姬ㇾ、建ニ日月七星ニ、蓋畫ニ北斗七星ㇾ也。〔戰國、齊策〕從ニ七星之旗ㇾ、此天子之位也。

【七星額子】304 ch'i¹ hsing¹ ə² tzŭ 演劇用の冠物の一種。女形の額に結ぶもの。

【七星居士】305 シチセイコジ 明、劉鴻(2—2224：281)の號。

【七星八落】306 ch'i¹ hsing¹ pa² luo⁴ こな微塵となる。

【七聖】307 シチセイ ㊀七人の聖人。㋑黃帝・方明・昌寓・張若・謵朋・昆閽・滑稽。〔莊子、徐無鬼〕黃帝將ㇾ見ニ大隗乎具茨之山ㇾ、方明爲ニ御、昌寓驂乘、張若・謵朋前馬、昆閽・滑稽後車、至ニ於襄城之野ㇾ、七聖皆迷、無ニ所ㇾ問ㇾ途。㋺黃帝・元女・文王・周公・孔子・天老・董仲舒。〔協紀辨方書、辨譌、上吉七聖〕七聖者、黃帝・元女・文王・周公・孔子・天老・董仲舒也。㊁佛ジブツ 聖とは正智を以て修行する人。其の聖者を隨信行・隨法行・信解・見至・身證・慧解脫・俱解脫の七種に分ける。〔俱舍論、二十五〕學無學位有ニ七聖者ㇾ、一切聖者、皆此中攝、一、隨信行、二、隨法行、三、信解、四、見至、五、身證、六、慧解脫、七、俱解脫。

【七聖覺】308 シチシャウカク 佛七覺支(51)に同じ。〔涅槃經、十一〕有ニ七聖覺ㇾ、故名ニ聖人ㇾ

【七聖財】309 シチシャウザイ 佛佛道を修める人のもつべき財寶。㊀信・戒・慙・愧・聞・施・慧の七財。〔長阿含、九十〕云何七成法、謂七財、信財・戒財・慙財・愧財・聞財・施財・慧財爲ニ七財ㇾ。㊁信・精進・戒・慚愧・聞捨・忍辱・定慧の七財。〔報恩經〕猛火燒ニ世間財ㇾ、惡口燒ニ七聖財ㇾ。〔注〕一信、二精進、三戒、四慚愧、六忍辱、七定慧、七者能資用成佛、故名ニ七聖財ㇾ。

【七聖刀】310 シチセイタウ 演戲の名。〔東京夢華錄〕駕登ニ寶津樓ㇾ、諸軍百戲、呈ニ於樓下ㇾ、爆仗一聲、煙火湧出、煙中有ニ七人ㇾ、皆披髮文身、著ニ青紗短後之衣ㇾ、錦繡圍ㇾ肚、內一人、金花小帽、執ニ白旗ㇾ、餘皆頭巾、執ニ眞刀ㇾ、相擊刺、謂ニ之七聖刀ㇾ

【七濟】311 シチセイ 南朝宋、謝靈運の「七」の題名。(謝靈運、七濟)朝食既畢、摘ニ果堂陰ㇾ、春惟枇杷、夏則林檎。

【七聲】312 シチセイ ㊀五音の宮・商・角・徵・羽と二變の變徵・變宮とをいふ。後世、樂家は上・尺・工・凡・六・四・乙の七聲に分ける。七律。〔魏書、樂志〕聲有ニ七聲ㇾ、調有ニ七調ニ。〔隋書、音樂志中〕中間有ニ七聲ニ。㊁佛ブツ 梵語の名詞・形容詞・代名詞の七種の格變化。體ガ・業ヲ・具ヲ以テ・爲ニ・從ヨリ・屬ノ・依ニ於テ・呼ヨ)の八格の中、呼格を除いた七格をいふ。七轉・七例ともいふ。

【七夕】313 シチセキ たなばた。乞巧奠。七巧。陰曆七月七日の晚。又、其の祭。此の日牽牛彦星)・織女(棚機)の二星が天河を渡つて相會ふといふ傳說から、兒女が紙や絲を捧げて、裁縫など技藝の上達を祈る。琅琊代醉編、卷二に見ゆ。〔庾肩吾、奉ニ使江州ニ舟中七夕詩〕九江逢ニ七夕ㇾ、初弦值ニ早秋ㇾ。〔荊楚歲時記〕七月七日、爲ニ牽牛織女聚會之夜ㇾ、是夕、人家婦女結ニ綵縷ㇾ、穿ニ七孔鍼ㇾ、或以ニ金銀鍮石ㇾ爲ニ鍼ㇾ、陳ニ瓜果於庭中ㇾ、以乞ㇾ巧、有ニ喜子網於瓜上ㇾ、則以爲ニ符應ㇾ。故事成語考、歲時〕七夕、牛女渡ニ河ㇾ、家家穿ニ乞巧之針ㇾ。

【七夕樂】314 シチセキガク 樂の名。隋、煬帝作。〔海錄碎事、音樂、樂〕藏鈎樂・七夕樂・相逢樂・萬歲樂、皆隋煬帝所ㇾ造。

【以七夕而見瑞】315 イシチセキヲモツテズイヲミル 唐の郭子儀が曾て七夕の夜、空中に天女の現はれるのを見、それに因つて富貴の身となり、長壽を保つた故事。〔感遇集〕郭子儀至ニ銀州ㇾ、夜見ニ左右皆赤光、仰視ニ空中ㇾ、駢車繡幄、中有ニ一美女ㇾ、自天而下、子儀拜祝、今七月七夕、必是織女降臨、願賜ニ長壽富貴ㇾ、女笑曰、大富貴亦壽考、言訖、冉冉升ㇾ天、子儀後立ㇾ功貴盛、年九十餘薨。〔精註雅俗故事讀本、上、歲時〕郭子儀以ニ七夕ㇾ而見ㇾ瑞、富貴壽考。

【七尺】316 シチセキ ㊀一尺の七倍。七尺の脊丈。〔史記、田敬仲完世家〕田常乃選ニ齊國中女子、長七尺以上ㇾ爲ニ後宮ㇾ。㊁年、二十をいふ。〔周禮、地官、鄉大夫〕國中、自ニ七尺ㇾ、以及ニ六十ㇾ者、七尺謂ニ年二十ㇾ、知者、案、韓詩外傳、二十行役、與ニ此國中七尺ㇾ同、則知ニ年二十ㇾ謂ニ二十ㇾ大人をいふ。大人のからだ。七尺之軀に同じ。〔魏書、李琰之傳〕豈爲ニ聲名ㇾ、勞ニ七尺ㇾ也。〔沈約、齊太尉王儉碑〕傾ニ方寸ㇾ、以奉ニ國ㇾ、忘ニ七尺ㇾ、以事ニ君ㇾ。

【七尺單】317 シチセキタン 佛禪堂內の僧の坐牀。七尺は其の廣さ、單は名札。其の席に名札を貼るからいふ。一に六尺單といふ。〔碧巖錄〕三條緣下、七尺單前、試去參詳看。

【七尺渡】318 シチセキト 地名。浙江省雲和縣の西。龍泉縣の界に接す。群山が四方から集まつた、險阻な土地。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、雲和縣〕七尺渡、縣西三十里、尺亦作ニ赤ㇾ、又西至ニ龍泉縣之武溪隘ㇾ十里、兩縣接ニ境處ㇾ也。

【七尺之軀】319 シチセキノク 身長七尺のからだ。大人のからだ。〔戰國、趙策〕然而不ㇾ以ニ環寸之躁ニ害ニ七尺之軀ㇾ者、權也、今有ニ國、非ニ直七尺軀ㇾ也。〔荀子、勸學〕小人之學也、入ニ乎耳ㇾ、出ニ乎口ㇾ、口耳之間、則四寸耳、曷足ニ以美ニ七尺之軀ㇾ哉。

【七尺之形】320 シチセキノケイ 一人まへ。七尺之軀に同じ。〔淮南子、脩務訓〕七尺之形、心知ニ憂愁勞苦ㇾ。

【七尺之節】321 シチセキノセツ 長さ七尺の節杖。〔後漢書、徐璆傳〕昔蘇武困ニ於匈奴ㇾ、不ㇾ墜ニ七尺之節ㇾ。

【七尺去不ㇾ踏ニ師影ㇾ】322 シチシャクカフフマズシエイ 弟子たる者はよく師を尊び、師に從つて行く場合には、七尺位間隔を置いて、其の影をも踏まぬ樣にせよとの戒め。〔敎誡律儀〕若隨師行、不ㇾ得ニ喧笑ㇾ、不ㇾ得ニ蹋ニ師影ㇾ、相去可ニ七尺ㇾ。〔沙彌威儀經〕弟子從ニ師行ㇾ、不ㇾ得ニ以ニ足蹈ニ師影ㇾ。〔童子敎〕弟子去ニ七尺ㇾ、師影不ㇾ可ㇾ蹈。

【七赤】323 シチセキ 陰陽家の語。九星の一。驚門。金星。本位は西、卽ち兌。九星(1—167：387)の㊅

を見よ。〔協紀辨方書、三元九星〕驚門爲二七赤一、云云、六白・七赤・八白、云云、七赤居レ兌。

【七釋】324 シチセキ シチシャク 三國、魏の王粲の「七」の題名。〔王粲、七釋〕潛虛丈人、違レ世遁レ俗、恬淡淸玄、渾沌淳樸、薄禮愚學、無爲無欲、均二同死生一、混二齊榮辱一。

【七折】325 ch'i¹ chê² 七掛け。三割引き。

【七折對折】326 ch'i¹ chê² tuei⁴ chê² 七折は七がけ、對折は五がけ。三割引、五割引。

【七折八扣】327 ch'i¹ chê² pa² k'ou⁴ 無理遣りに割引させる。

【七說】328 シチセツ 文章の名。或は後漢の桓麟の作といひ、或は其の子の彬の作といひ、或は父子二人各〻作るともいふ。〔後漢書、桓彬傳〕所レ著、七說及書凡三編。〔文心雕龍、雜文〕自二桓麟七說一以下、左思七諷以上、枝附影從、十有餘家。

【七節】329 シチセツ ❶七つの竹のふし。ななふし。〔宋史、五行志二上〕竹出レ地七節、分爲二兩莖一。❷七夕のこと。〔紅樓夢、三十七回〕秋容殘淡映二重門一、七節攢成雪滿レ盆。

【七節鞭】330 シチセツベン 武器の名。柄を合せて八節ある鐵の鞭。

【七絕】331 シチゼツ ❶七言絕句(135)の略。〔陔餘叢考、絕句〕楊伯謙云、五言絕句、唐初變二六朝子夜體一也、七言絕句、初唐尙少、中唐漸甚、然梁簡文夜望二單鴈一一首、已是七絕、云云、其時尙未レ有二律詩一、而音節和諧已若レ此、豈非二五七絕之濫觴一乎。❷柹をいふ。柹には壽命が長い、木蔭が多い、鳥の巢が無い、蟲が無い、霜葉が美しい、實が美味い、落葉が大きいといふ七つの勝れた點があるからいふ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕柹、俗謂二柹樹有二七絕一、一、壽、二、多レ陰、三、無二鳥巢一、四、無レ蟲、五、霜葉可レ翫、六、嘉實、七、落葉肥大。

【七泉】332 シチセン 湖南省道縣の東にある七つの泉。漶泉・淲泉・涫泉・汸泉・涍泉・漫泉・東泉。〔元結、七泉銘序〕道州東郭、有二泉七穴一、或吐二於淵竇一、或瀠二於嵌臼一、皆澄流淸漪、旋沿相奏、又有二鑿石欹缺一、爲二之島嶼一、殊怪相異、不レ可二名狀一、此邦豈世無二好レ事者一邪、而令下自レ古荒レ之、乃修二其水木一、爲二休暇之處一、每レ至二泉上一、便思老焉、於戲、凡人心、若淸惠而必忠孝、守二方直一、終不レ惑也、故命二五泉一、其一曰二漶泉一、次曰二淲泉一、次曰二涍泉・汸泉・涫泉、銘二之泉上一、欲下來者飮二漱其流一、而有上レ所二感發一者矣、留二一泉一、名曰二漫泉一、蓋欲下自旌二漫浪一、不上レ厭二歡醉一者也、一泉出二山東一、故命レ之曰二東泉一、引來垂流、更復殊異、各刻レ銘以記レ之。〔明一統志〕七泉在二永州府道州東一。

【七遷】333 シチセン 七たびうつる。又、七陵に徙り住む。〔班固、西都賦〕三選七遷。〔注〕善曰、七遷、謂レ遷二於七陵一也。

【七善】334 シチゼン 佛❶人間の身體と精神とを七種(果・因・滅・對治道・味・患・離)の方面から善く觀察すること。七處善ともいふ。〔雜阿含、二〕云何比丘七處善、比丘如實知レ色、如實知二色集・色滅・色滅道跡・色味・色患・色離一、如レ是受想行識、如實知二識集・識滅・識滅道跡・識味・識患・識離一。❷佛の境界は其のまま教化の意味のある文字で、それに七つの功德があるといふ意。〔涅槃經疏、名字功德品〕文中擧二七善七譬一、釋二此經名一、謂語善・義善・文善・純備具足是獨一善・淸淨是行善・梵行是慈善・金剛寶藏是備具善。

【七祖】335 シチソ ❶七世の祖先。〔黃庭經〕勿レ令三七祖受二冥患一。〔注〕傳非二其人一、殃及二先世一。❷佛㋑禪宗の第七世の祖。懷讓ヱジャウ(4—11456‥102)をさす。〔傳燈錄〕初祖達摩、至二六祖慧能一、以二法及衣一相傳、自二七祖一以後、不レ傳レ衣。㋺禪宗の七祖。達摩・慧可・僧璨・道信・弘忍・慧能・荷澤神會禪師。〔傳燈錄〕。㋩華嚴宗の七祖。馬鳴・龍樹・杜順・智儼・法藏・澄觀・宗密。〔八宗綱要〕。㋥淨土眞宗の七祖。龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空。〔正信偈〕。

【七僧】336 シチソウ ❶七人の僧侶。〔北史、張元傳〕請二七僧一、燃二七燈一。❷佛大法會のとき主なる役をつとめる七人の僧。講師・讀師・呪願師・三禮師・唄師・散華師・堂達をいふ。〔拾芥抄、五〕七僧、一、講師、二、讀師、三、呪願師、四、三禮師、五、唄師、六、散華師、七、堂達。〔二中歷、四、僧職〕七僧、講・呪・讀・禮・唄・華・達。

【七僧齋】337 シチソウサイ 佛金錢財物、或は莊田を寺院に寄附し、七僧を限つて常に齋食を供すること。〔俱舍光記、十八〕日別爲レ我設二七僧齋一。

【七僧居士】338 シチソウコジ 北山皓の號。北山七僧(2—2574‥217)を見よ。

【七則】339 シチソク 七箇條。〔吉田松陰、士規七則〕雖レ然、有レ所レ知矣、不レ能レ不レ言、人之至情也、古人言二諸古一、今我言二諸今一、亦詎傷焉、作二士規七則一。

【七族】340 シチゾク ❶曾祖・祖・父・己・子・孫・曾孫をいふ。〔史記、鄒陽傳〕然則荊軻之湛二七族一、要離之燒二妻子一、豈足レ道哉。〔注〕集解曰、張晏曰、七族、上至二曾祖一、下至二曾孫一。❷父の族・姑の子・姊妹の子・女子ムスメの子・母の族・從子・妻の父母をいふ。〔史記、鄒陽傳、注〕索隱曰、張晏云、七族、上至二曾祖一、下至二玄孫一、又一說云、七族、父之姓一也、姑之子二也、姊妹之子三也、女子之子四也、母之姓五也、從子六也、及妻父母、凡七。❸殷の七族。陶・施・繁・錡・樊・饑・終葵。〔左氏、定、四〕殷民七族、陶氏・施氏・繁氏・錡氏・樊氏・饑氏・終葵氏。

【七屬】341 シチゾク 事業をなすに當つて任用すべき七種類の人々。貴・貞・長・師・宗・主・賢。〔大戴禮、文王官人〕倫有二七屬一、屬有二九用一、用有二六徵一、云云、九用有レ徵、乃任二七屬一、一曰、國則任レ貴、二曰、鄉則任レ貞、三曰、官則任レ長、四曰、學則任レ師、五曰、族則任レ宗、六曰、家則任レ主、七曰、先則任レ賢。〔小學紺珠、人倫類、七屬〕國任レ貴、鄉任レ正、官任レ長、學任レ師、族任レ宗、家任レ主、先任レ賢。

【七體】342 シチタイ ❶顏にある七つの孔。目・耳・口・鼻。〔國語、鄭語〕正二七體一、以役レ心。〔注〕七體、七竅也、目爲レ心視、耳爲レ心聽、口爲レ心談、鼻爲レ心芳也。❷道義の內容をなす七種類の德目。孝悌慈惠、恭敬忠信、中正比宜、整齊撙詘、纖嗇省用、敦懞純固、和協輯睦。〔管子、五輔〕義有二七體一、七體者何、曰、孝悌慈惠、以養二親戚一、恭敬忠信、以事二君上一、中正比宜、以行二禮節一、整齊撙詘、以辟二刑僇一、纖嗇省レ用、以備二飢饉一、敦懞純固、以備二禍亂一、和協輯睦、以備二寇戎一、凡此七者、義之體也。❸犧牲の體の七つの部分。〔儀禮、士冠禮、三醮有二乾肉折俎一、疏〕或爲二豚解而七體、以乾レ之、謂二之乾肉一。〔儀禮、士喪禮〕載二兩髀于兩端一、兩肩亞、兩胉亞、脊肺在二於中一。〔注〕凡七體皆覆、爲レ塵。〔疏〕凡七體者、前左右肩臂、臑屬焉、後左右髀、肫胳屬焉、幷左右脅通レ脊、爲二七體一也。〔禮、禮運、腥二其俎一、孰二其殽一、疏〕案、士喪禮、小斂之奠、載二牲體一兩髀・兩肩・兩胉幷脊、凡七體也、士虞禮、主人不レ視二豚解一、注云、豚解、解二前後脛脊脅一而已、是豚解七體也。

【七大】343 シチダイ 佛萬物生成の七つの根元。大は大種ともいひ、存在の根源。地・水・火・風・空・識・根をいふ。〔楞嚴經、三〕識性無レ源、因二於六種根一塵妄出、云云、若此識心本無レ所レ從、當レ知二了別見聞覺知、圓滿湛然性非二從所一、兼二彼虛空・地・水・火・風一、均名二七大性眞圓融一。

【七大家】344 シチダイカ 唐・宋時代における七人の文章の大家。韓愈・柳宗元・歐陽脩・蘇軾・蘇轍・曾鞏・王安石。〔李紹、蘇文忠公集序〕古今文章、作者非二一人一、其以レ之名二天下一者、惟唐昌黎韓氏・河東柳氏・宋廬陵歐陽氏・眉山二蘇氏・及南豐曾氏・臨川王氏、七大家。

【七大寺】345 シチダイジ 奈良の七つの大寺。東大寺・興福寺・西大寺・元興寺・大安寺・藥師寺・法隆寺をいふ。〔將門記〕本天皇請二十日之命一、於二佛天厥內一屈二名僧一於二七大寺一祭禮。

【七大洲】346 シチダイシウ アジヤ洲・ヨーロッパ洲・北アメリカ洲・南アメリカ洲・大洋洲・アフリカ洲・南極洲をいふ。

【七大夫】347 シチタイフ 爵位の名。秦に始まる。第七級に位する。公大夫。〔漢書、高帝紀〕七大夫以上、皆令レ食レ邑。〔注〕師古曰、七大夫、公大夫也。

【七大奇蹟】348 シチダイキセキ 世界の七不思議。埃及の金字塔、アレキサンドリアの燈明臺、バビロンの架空園、エフイサスのアーテミス神殿、オリムピアのジユース神像、ハリカーナサスの靈廟、ローヅの巨像。

【七代】349 シチダイ ❶上古の黃帝・顓頊・帝嚳・堯・舜・禹・湯の七代をいふ。〔禮、祭法〕大凡生二於天地之閒一者、皆曰レ命、其萬物死、皆曰レ折、人死曰レ鬼、此五代之所レ不レ變也、七代之所二更立一者、禘二郊宗祖一、其餘不レ變也。〔注〕五代謂二黃帝・堯・

舜・禹・湯、七代通ニ數顓頊及譽一也。❶我が國、神代の七代。〔日本書紀、神代紀上〕自ニ國常立尊一、迄ニ伊弉諾尊・伊弉冉尊一、是謂ニ神代七代一者矣。

【七臺】350 シチダイ 山名。❶福建省邵武縣の東南。〔方輿勝覽〕七臺山、上有ニ七級一峯巒相比、故名。〔讀史方輿紀要、福建、邵武府、邵武縣〕七臺山、府東南百五十里、跨ニ汀・延・邵三郡界一、高二十餘里、上有ニ七臺一。❷四川省萬源縣の南。清の嘉慶の初年に、教匪が洞窟を造つて據つた所。

【七島】351 シチタウ ❶七つの島。又、伊豆七島。❷七島藺・七島表の略。

【七島表】352 シチタウヲモテ 七島藺で織つた疊表。

【七島藺】353 シチタウヰ 草の名。莎草屬の多年生草。水田に栽培し、刈り取つて蓆を織る。

【七堂】354 シチダウ 佛寺院の建物で、山門・佛殿・法堂・庫裏・僧堂・浴室・東司の稱。〔尺素往來〕七堂者、山門・佛殿・法堂・庫裏・僧堂・浴室・東司也。

【七堂伽藍】355 シチダウガラン 佛七堂の揃つた寺。宗派によつて幾分差はあるが、最古のものは百濟式で、それは法隆寺の如く、南大門から中門を經て、金堂と塔とが中央に位置し、廻廊が其の周圍にあり、其の北に講堂、講堂の東に鼓樓・東室、西に鐘樓・西室、北に北室がある。唐樣の七堂は、塔は二基で、廻廊の外に在つて相對し、金堂は廻廊の後の中央にある。一說に、七箇の堂宇で、唐樣の七堂は、東方丈・西方丈・鐘樓・鼓樓・方塔・佛殿・山門をいひ、眞言では、金堂・講堂・五重塔・大門・經藏・鼓樓)中門・鐘樓の類を稱すといふ。〔安齋漫筆〕。

【七道】356 シチダウ ❶函谷關以東の七道。〔十道四蕃志〕關以東七道、凡二百十一州。❷佛七つの法。念覺分・擇法覺分・精進覺分・喜覺分・輕安覺分・定覺分・捨覺分。七覺支(ニ)を見よ。〔守護國界主陀羅尼經〕復有ニ七道一是解脫道、云何爲レ七、所謂念覺分・擇法覺分・精進覺分・喜覺分・輕安覺分・定覺分・捨覺分。❸東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道をいふ。

【七道具】357 シチダウグ ❶具足・刀・太刀・矢・弓・母衣・兜の七つの武具の稱。一說に、鎌・鋸・槌・斧等の小道具。〔義殘後覺、楢崎信定兄弟於ニ北條陣一勇力)七つ道具に柄三間に拵へて是れを指す。❷大名などの行列に用ひる槍・長刀・臺笠・立傘・大鳥毛などの稱。〔堀川波鼓、中〕七つ道具の臺笠・たて傘・馬印、これぞと名にし大鳥毛。❸婦人の懷中持ちに用ひる鋏・小刀・針・耳かき・毛ぬき・絲卷・匙などの稱。❹一組揃つて携帶する、さまざまの道具。❺活花で、しん・小しん・うけ・流し・控へ・添へ・前おきをいふ。〔槐記、享保十五年正月二十一日〕しん・小しん・うけ・ながし・ひかへ・そへ・まへおき、これを七つ道具と云ふ。❻質種(シチ)のこと。〔俚言集覽〕質物を七道具と云、質を七と云に因て云也。

【七澤】358 シチタク ❶雲夢などの七つの沼澤。湖北省の境に在る。〔司馬相如、子虛賦〕臣聞、楚有ニ七澤一、嘗見ニ其一一未レ親ニ其餘一也、臣之所レ見、蓋特其小小者耳、名曰ニ雲夢一。〔南齊書、謝朓傳〕東亂ニ三江一、西浮ニ七澤一。❷明、袁士瑜(10-3415 2‥201)の號。

【七旦】359 シチタン 遼の大樂の七聲をいふ。〔遼史、樂志〕大樂調、雅樂有ニ七音一、大樂亦有ニ七聲一、謂ニ之七旦一、自レ隋以來、樂府取ニ其聲四旦二十八調一爲ニ大樂一。

【七治】360 シチヂ 佛比丘を處罰する七種の方法。〔行事鈔、上二〕此七治法、寔爲ニ良藥一。

【七知】361 チチ 佛世間にはたらきつつ佛道を修める七つの方法。七等法ともいふ。知法・知義・知時・知足・知自・知衆・知人尊卑をいふ。吳の支謙の譯した七知經一卷がある。〔增一阿含、三十三〕云何爲ニ七法一、於レ是比丘知レ法、知レ義、知レ時、又能自知、復能知レ足、亦復知下入ニ衆中一觀ニ察衆人一、是謂ニ七法一。

【七秩】362 シチチツ 七十歳。一秩は十年。〔容齋隨筆、十年爲ニ一秩一〕白公詩云、已開第七秩、飽食仍安眠。

【七中】363 ch'i-chung 人の死後、四十九日の內。

【七重】364 シチヂウ ❶七層に重なる。〔史記、天官書〕平城之圍、月暈參畢七重。〔梁元帝、攝山栖霞寺碑〕七重欄楯、七寶蓮花。❷ななへ。七つかさね。又、多くのかさね。

【七重草】365 シチヂウサウ 草の名。くりんさう。さくさう科に屬す。莖頂に數花輪生し、數層をなす。

【七重網】366 シチヂウアミ 佛幾重にもあみ重ねた、寶の網。佛の功德の喩。〔阿彌陀經〕七重欄楯、七重羅網。

【七重行樹】367 シチヂウギヤウジユ 七重寶樹に同じ。〔阿彌陀經〕極樂國土、七重欄楯、七重羅網、七重行樹、皆是周帀圍繞。

【七重寶樹】368 シチヂウホウジユ 佛金樹・銀樹・瑠璃樹・玻璃樹・珊瑚樹・瑪瑙樹・硨磲樹が七重に並んだ極樂の寶樹。一說に、黃金の根・紫金の莖・白銀の枝・瑪瑙の條・珊瑚の葉・白玉の華・眞珠の菓の七つが重なつて出來た寶の樹。〔觀無量壽經〕一一觀レ之、作ニ七重寶珠想一。

【七徵】369 シチチヨウ 管、陸機の「七」の題名。一に七微に作る。七微(421)を見よ。〔陸機、七微、嚴可均校輯〕又作ニ七徵一、案、此假ニ通微大夫一以爲レ說、疑作レ微是。

【七珍】370 シチチン 佛七つの珍重すべき寶。七寶(393)の❶を見よ。〔法苑珠林〕象馬七珍、不レ可ニ稱計一。〔沈約、彌陀佛銘〕七珍非ニ羨、三達斯仰。

【七珍萬寶】371 シチチンマンポウ 佛よろづのたから。萬は多數を表はす。〔平家物語、一、我身榮花事〕七珍萬寶一つとして闕けたることなし。

【七調】372 シチテウ 音樂の七つの調子。宮・商・角・羽に各〻七調がある。〔魏書、樂志〕崔九龍言、聲有ニ七聲一、調有ニ七調一、以ニ今七調一合ニ之七律一、起於黃鐘、終於中呂、今古雜曲、隨ニ調擧一之、將ニ五百曲一。〔宋史、樂志十七〕宮聲七調、曰正宮、曰高宮、曰中呂宮、曰道宮、曰南呂宮、曰仙呂宮、曰黃鐘宮、皆生於黃鐘、商聲七調、曰大食調、曰高大食調、曰雙調、曰小食調、曰歇指調、曰商調、曰越調、皆生於大簇、羽聲七調、曰般涉調、曰高般涉調、曰中呂調、曰正平調、曰南呂調、曰仙呂調、曰黃鐘調、皆生於南呂、角聲七調、曰大食角、曰高大食角、曰雙角、曰小食角、曰歇指角、曰商角、曰越角、皆生於應鐘、此其四聲二十八調之略也。

【七條】373 シチデウ ❶七くだり。七箇條。〔舊唐書、傅仁均傳〕考ニ二家得失七條一。〔宋史、眞宗紀二〕作ニ文武七條一、戒ニ官吏一。❷七絃琴をいふ。〔薛能、秋夜聽ニ任郎中琴一詩〕七條絲動雨修修。〔方干、聽ニ段處士彈レ琴詩〕幾年調弄七條絲。❸佛七幅の袈裟。三衣の中の中衣。〔張羽、送下僧還ニ天台一省ニ親詩一〕慈母焚レ香製ニ七條一。

【七轉】374 シチテン 七たび轉ずる。〔吳均、以ニ服散鎔ニ贈殷鈞一詩〕九沸翻成レ緩、七轉良爲レ功。〔唐書、高定傳〕七轉而六十四卦、六甲八節備焉。

【七轉八倒】375 シチテンパツタウ ころげまはる。又、もがき苦しむさま。七顚八倒。

【七等】376 シチトウ ❶七つの等級。〔宋史、寧宗紀四〕試ニ法官七等之制一。❷常人に勝れた人の七等級。〔茂選、俊・英・賢・傑・聖。〔白虎通、聖人〕禮別名記曰、五人曰レ茂、十人曰レ選、百人曰レ俊、千人曰レ英、倍レ英曰レ賢、萬人曰レ傑、萬レ傑曰レ聖。❸孔子の春秋に於ける褒貶の七等。州・國・氏・人・名・字・子。〔公羊、隱、題疏〕七等者、州・國・氏・人・名・字・子、是也。❹孫以下の七世。孫・曾孫・玄孫・來孫・昆孫・仍孫・雲孫。〔爾雅、釋親〕子之子爲レ孫、孫之子爲ニ曾孫一、曾孫之子爲ニ玄孫一、玄孫之子爲ニ來孫一、來孫之子爲ニ昆孫一、昆孫之子爲ニ仍孫一、仍孫之子爲ニ雲孫一。

【七燈】377 シチトウ 七つの燈火。佛前の飾とするもの。〔法苑珠林〕勸然七層之燈、一層七燈、燈如ニ車輪一。〔陰鏗、遊ニ巴陵空寺一詩〕網交雙樹葉、輪斷七燈輝。

【七頭】378 シチトウ ❶七匹の動物。〔闇朝隱、鸚鵡猫兒篇〕高視七頭金駱駝。❷足利時代、三職に次ぐ重役の家柄。山名・一色・土岐・赤松・京極・上杉・伊勢の七家。〔貞丈雜記〕。

【七德】379 シチトク ❶武の七つの德。禁暴・戢兵・保大・定功・安民・和衆・豐財。〔左氏、宣、十二〕楚子曰、夫武禁レ暴・戢レ兵・保レ大、定レ功、安レ民、和レ衆、豐レ財、云云、武有ニ七德一。❷政治上必要な七つの德。尊貴・明賢・庸勳・長老・愛親・禮新・親舊。〔國語、周語中〕王曰、利何如而內、何如而外、對曰、尊レ貴、明レ賢、庸レ勳、長レ老、愛レ親、禮レ新、親レ舊、云云、若七德離判、民乃攜貳。〔注〕七德、謂ニ尊貴至ニ親舊一。❸詩に必要な七つの德。識理・高古・典麗・風流・精神・質幹・體裁。〔詩式、詩有ニ七德一〕一識理、二高古、三典麗、四風流、五精神、六質幹、七體裁。

【七德歌】380 シチトク　武の七德をうたつた歌。七德舞を見よ。

【七德舞】381 シチトクブマヒ　唐の太宗の武の七德に基づいて作つた舞曲の名。本名は秦王破陣樂。七德の●に本づく。〔白居易、七德舞〕七德舞七德歌、傳自二武德一至二元和一。〔唐書、禮樂志十一〕七德舞者、本名二秦王破陣樂一、太宗爲二秦王一、破二劉武周一、軍中相與作二秦王破陳樂曲一、及卽位、宴會必奏レ之、後令下魏徵與二員外散騎常侍虞世南・太子右庶子李百藥一、更製中歌辭上、名曰二七德舞一。

【七難】382 シチナン　●佛七つの災難。㋑日月失度難・星宿失度難・衆火難・時節難・惡風難・亢陽難・惡賊難。〔仁王經、受持品〕。㋺人民疾疫難・他國侵逼難・自界叛逆難・星宿變怪難・日月薄蝕難・非時風雨難・過時風雨難。〔藥師經〕。㋩火難・水難・羅刹難・王難・鬼難・枷鎖難・怨賊難。〔觀音義疏、上〕。●人の容色に關する種々の缺點。

【七生】383 シチセイ　ななとせ。〔論語、子路〕善人教レ民七年、亦可二以卽一戎矣。〔孟子、離婁上〕師二文王一、大國五年、小國七年、必爲二政於天下一矣。

【七年旱】384 シチネンノカン　七年間續く旱魃。殷、湯王の時の旱魃。〔荀子、富國〕禹十年水、湯七年旱。〔管子、山權數〕湯七年旱、禹五年水。〔墨子、七患〕夏書曰、禹七年水、殷書曰、湯五年旱。〔淮南子、主術訓〕湯之時、七年旱、以レ身禱二於桑林之際一而四海之雲湊、千重之雨至。

【七年忌】385 シチネンキ　七回忌。〔鳩嶺雜事記〕應安三年七月七日、光嚴院法皇御七年忌也、於二禁中一被レ行二宸筆八講一。

【七年戰爭】386 シチネンセンソウ　一七五六年から七年間續いた、オーストリヤとプロシヤとの戰爭。

【七年而天成】387 シチネンニシテテンセイナリ　七年の修業によつて天と融合する。〔莊子、寓言〕六年而鬼入、七年而天成、八年而不レ知レ死、不レ知レ生。〔疏〕合二自然一成。

【七年不レ飮酒不レ食レ肉】388 シチネンサケヲノマズニクヲクラハズ　七年の間、酒を飮まず肉を食はない。奎の戰に齊軍が敗れてから、齊侯が心をひきしめて自ら人に下り、國力の復興を計つた故事。〔公羊、成八〕奎之戰、齊師大敗、齊侯歸弔レ死視レ疾、七年不レ飮レ酒、不レ食レ肉、晉侯聞レ之曰、嘻、奈何使二人之君七年不レ飮レ酒不レ食レ肉、請、皆反二其所一レ取侵地一。

【七年之病求二三年之艾一】389 シチネンノヤマイニサンネンノモグサヲモトム　七年間も寢てゐる重病人に、これから二年間も乾かさねばならぬ艾を求めてゐたのでは、間に合はぬ。平生蓄へが無ければ、事ある時に臨んで急に求めようとしても不可能であるといふ喩。〔孟子、離婁上〕今之欲レ王者、猶二七年之病一、求二三年之艾一也、苟爲不レ畜、終身不レ得。〔注〕艾可二以爲一灸一人病一、乾久益善、故以爲レ喩。〔集注〕夫病已深、而欲レ求二乾久之艾一、固難二卒辨一。

【七排】390 シチハイ　七言排律(137)の略。〔陔餘叢考、五七律排〕蔡孚打毬篇云、德陽宮北苑東隈、雲作二高臺一月作レ樓、云云、此又七排濫觴也。

【七方】391 シチホウ　漢方の藥劑を量の大小、作用の緩急、組合せの奇偶で區別する、七つの方法。〔本草、序例〕七方者、大小・緩急・奇偶複、是也。

【七方便】392 シチホウベン　●佛佛位に到る七つの條件又は資格。●小乘の七賢位。七賢(107)の●の㋑に同じ。●人乘・天乘・聲聞乘・緣覺乘・藏教の菩薩乘・通教の菩薩乘・別教の菩薩乘をいふ。〔法華玄義、六〕章安云、或以二七方便根性一爲二七子一、謂二人天二乘三教菩薩一。

【七寶】393 シチホウ　●七つの寶。七珍。〔白居易、素屛謠〕五金七寶相玲瓏。〔宋史、交趾傳〕金銀七寶、裝二交椅一。㋑金・銀・瑠璃・硨磲・瑪瑙・琥珀・珊瑚。〔般若經〕。㋺金・銀・瑠璃・玻璃・硨磲・赤珠・瑪瑙。〔阿彌陀經〕。㋩金・銀・瑠璃・硨磲・瑪瑙・眞珠・玫瑰。〔法華經、授記品〕。㋥金・銀・瑠璃・頗梨・珊瑚・瑪瑙・車渠。〔無量壽經、上〕。㋭金・銀・瑠璃・眞珠・硨磲・明月珠・摩尼珠。〔恆水經〕。●唐、武后の頃あつた七珍。金輪寶・白象寶・女寶・馬寶・珠寶・主兵臣寶・主藏臣寶。佛教の輪王七寶の說に基づく。〔唐書、后妃上、高宗則天武后傳〕太后又自加二號金輪聖神皇帝一、置二七寶於廷一、曰金輪寶、曰白象寶、曰女寶、曰馬寶、曰珠寶、曰主兵臣寶、曰主藏臣寶。●㋑七寶燒の略。㋺繪模樣の一種。㋩紋所の名。

【七寶羹】394 シチホウカウ　●魏の陳思王の作つた羹の名。〔異物彙苑〕陳思王、製二駝蹄一爲レ羹、一甌直二千金一、號爲二七寶羹一。●なくさ粥。〔湖廣志書、雲夢縣〕人日採二七種菜一、和二米粉一食レ之、曰二七寶羹一。

【七寶花】395 シチホウハナ　●花の名。〔金部方物略記〕七寶花贊、擢穎挺挺、盛夏則榮、丹紫合レ英、以レ寶見レ名。●ジンチホウ　●佛七寶で出來た蓮華。七寶華。〔法華經〕爾時、佛告二羅睺一、汝於二來世一、當レ作レ佛、號二踏七寶花如來一。〔無量壽經、下〕得二生無量壽國一、於二七寶華中一、自然化生。

【七寶繫】396 シチホウツナギ　模樣の名。七寶の模樣をつなぎ並べたもの。

【七寶釵】397 シチホウサイ　かんざしの名。〔西京雜記、一〕同心七寶釵、黃金步搖。〔海錄碎事、服用、釵珥〕又有下誦二相如大人賦一者上、曰、吉初學時、爲二趙昭儀一、抽二七寶釵一鞭レ予、痛實不レ徹。

【七寶山】398 シチホウセン　山名。●山東省莒縣。銅を產す。●山東省膠縣。金剛石を產す。●安徽省無爲縣の東北。濡須塢と相對し、濡須塢を東關、七寶山を西關といふ。〔廬州府志、無爲州〕七寶山、在二城東北五十里一、坐二太平鄉七圖一、與二濡須塢一相對、下臨二大河一、有二煙霞亭一、山川險阻、最爲二控阨之雄一、吳魏時、濡須爲二東關一、七寶爲二西關一、宋張孝祥詩、二關形勝千年壯、卽此。●浙江省杭縣の吳山の南。山に七寶寺がある。●綏遠省歸綏縣の東。〔明一統志〕山下有二金屯兵城一、或曰、卽漢五原郡。●湖南省沅陵縣。〔明一統志〕七寶山、在二辰州府黔陽縣南一百里一、產二楠木及七里香花一。

【七寶車】399 シチホウシャ　七寶で飾つた車。〔北史、隋文獻皇后傳〕上以下后不レ好二華麗一、時齊七寶車及鏡臺絕二巧麗一、使レ毀レ車、而以二鏡臺一賜レ后。

【七寶牀】400 シチホウショウ　七寶で飾つた牀。〔西京雜記、二〕武帝爲二七寶牀一、〔北史、韓務傳〕郢州刺史務、獻二七寶牀象牙席一。〔李陽冰、李白草堂集序〕天寶中、皇祖下詔、徵就二金馬一、降二輦步迎一、如見二綺皓一、以二七寶牀一賜レ食、御手調レ羹、以飯レ之。

【七寶粥】401 シチホウガユ　●陰曆十二月八日、乳蕈・胡桃・百合等で七寶粥を作り、佛及び僧などに供す。臘八粥。〔市肆紀、粥〕七寶素粥・五味粥・粟米粥。〔吳存楷、江鄉節物詩、臘八粥詩、小序〕臘八粥、亦名二七寶粥一、本僧家齋供、今則居室者亦爲レ之矣。

【七寶燒】402 シチホウヤキ　其の面に琺瑯を用ひて花鳥人物等を燒出した銅器、又は陶器。景泰藍。

【七寶塔】403 シチホウトウ　●隋、文帝の作つた塔の名。〔名畫記〕大雲寺東浮圖北有レ塔、俗呼爲二七寶塔一、隋文帝造。●多寶塔(3—5756‥225)をいふ。〔法華經、見寶塔品〕爾時、佛前有二七寶塔一、高五百由旬、縱橫二百五十由旬、從二地湧出一。

【七寶鎭】404 シチホウチン　地名。江蘇省青浦縣の東南。青浦・松江・上海三縣の界にある商業地。〔松江府志、青浦縣〕府西北五十四里爲二青浦一、東至二七寶鎭一、上海縣界二五十四里一、至二上海縣一九十里。

【七寶盌】405 シチホウワン　七寶で飾つた椀。盌は椀の古字。〔隋書、高祖紀下〕開皇十一年、突厥遣レ使、獻二七寶盌一。

【七寶硯爐】406 シチホウケンロ　凍つた硯をあぶる爐で、七寶で飾つたもの。〔開元天寶遺事、七寶硯爐〕內庫中、有二七寶硯爐一所一、曲盡其巧一、每下至二冬寒一、硯凍上置二於爐上一、硯冰自消、不レ勞レ置レ火、冬月帝常用レ之。

【七寶莊嚴】407 シチホウショウゴン　●佛七寶で莊重に飾ること。〔北方毘沙門天王隨軍護眞言〕七寶莊嚴衣。

【七寶合成】408 シチホウガッセイノ　鄭仁本の母方の從弟の某が月光の美麗なのを形容していつた語。〔西陽雜俎、天咫〕太和中、鄭仁本表弟、不レ記二姓名一、常與二一王秀才一遊二嵩山一、云云、見下一人布衣甚潔白、枕二一襆物一、方眠熟、卽呼レ之曰、君知二月乃七寶合成一乎、月勢如レ丸、其影日爍二其凸處一也、常有二八萬二千戶一修レ之、予卽一數。〔精註雅俗故事讀本、上、天文〕月乃上天之使、重輪絳耀、七寶合成。

【七亡】409 シチボウ　人民が生業を失つて塗炭に苦しむに至る七つの道。〔漢書、鮑宣傳〕凡民有二七亡一、陰陽不レ和、水旱爲レ災、一亡也、縣官重責、更賦稅租二亡也、貪吏並公、受取不レ已、三亡也、豪強大姓、蠶食亡レ厭、四亡也、苛吏繇役、失二農桑時一、五亡也、部落鼓鳴、男女遮道、六亡也、盜賊劫

略、取二民財物一、七亡也。

【七拍】410 シチハク 歌の調子。〔蔡琰、胡笳十八拍〕七拍流レ恨兮、惡居二於此一。

【七魄】411 シチハク 人の身にある七つの魄。身中の濁鬼。尸狗・伏矢・雀陰・吞賊・非毒・除穢・臭肺をいふ。〔抱朴子、地眞〕欲レ得レ通レ神、當二金水分形一、形分、則自見二其身中之三魂七魄一。〔黄庭內景經、注敍〕人身有二七魄一、修道者、有下制二鍊七魄一之法上。〔雲笈七籤、魂神、制二七魄一法〕其第一魄、名二尸狗一、其第二魄、名二伏矢一、其第三魄、名二雀陰一、其第四魄、名二吞賊一、其第五魄、名二非毒一、其第六魄、名二除穢一、其第七魄、名二臭肺一、此皆七魄之名也、身中之濁鬼也。

【七魄悠悠】412 ch'i¹ huen² yu¹ yu¹ 驚きの餘り氣の拔けたやうになること。〔水滸傳、一回〕驚得太尉三魂蕩蕩、七魄悠悠。

【七發】413 シチハツ ㊀七たび矢を發する。〔北史、豆盧寧傳〕嘗與二梁仚定一、遇二于平涼川一、相與肆レ射、乃相去百步、縣二莎草一以射レ之、七發五中、仙定服二其能一。〔宋史、符彥卿傳〕太祖七發皆中レ的、彥卿貢二名馬一稱レ賀。㊁漢、枚乘の「七」の題名。梁の孝王に仕へた時、太子に啓告するために作る。楚辭の七諫に類するもので、文選、卷三十四に載す。〔枚乘、七發、注〕善曰、七發者、說二七事一、以起二發太子一也、猶二楚詞七諫之流一、漢書云、枚乘、字叔、淮陰人也、云云、孝王之時、恐二孝王反一、故作二七發一以諫レ之、七者、少陽之數、欲レ發二陽明於君一也。

【七法】414 シチハフ ㊀七つの法。〔守護國界主陀羅尼經〕復有二七法一、能爲二障礙一。㊁管子の篇名。

【七半】415 シチハン 昔行はれた博奕の一種。〔古今著聞集、十二〕若きも老いたるも、七半を打ちて。

【七槃】416 シチハン 楚の舞の名。七盤。〔宋書、樂志〕晉初有二桮槃舞・公莫舞一、史臣按、桮槃、今之齊世寧也、張衡舞賦云、歷二七槃一而縱躡、王粲七釋云、七槃陳二於廣庭一、近世文士顏延之云、遞二間關於槃扇一、鮑照云、七槃起二長袖一、皆以二七槃一爲レ舞也。

【七盤】417 シチハン ㊀七まがり。坂路がうねうねとまがりくねつて居ること。〔陸機、日出東南隅行〕姸迹陵二七盤一。〔注〕善曰、南都賦曰、結二九秋之增傷一、怨二西荊之折盤一、張衡舞賦曰、歷二七盤一而屣躡。〔盧照隣、分水嶺詩〕曾冰橫二九折一、積石凌二七盤一。㊁楚の舞の名。七槃に同じ。〔陸機、日出東南隅行、注〕銑曰、九秋、曲名、七盤、楚舞。㊂縣名。唐、置く。今の四川省巴中縣。〔通典、州郡典、古梁州上〕淸化郡、領二縣十一、化城、云云、七盤。㊃關名。四川省廣元縣の北、七盤嶺上にある。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、廣元縣、朝天嶺〕七盤嶺、在二縣北百七十里一、與二陝西甯羌州一接レ界、一名五盤嶺、自レ昔爲二秦蜀分界處一、有二七盤關一。

【七盤山】418 シチバンザン 山名。㊀陝西省藍田縣の南。一名、七盤嶺。〔唐書、尙可孤傳〕朱泚之難、召二可孤一、可孤率レ兵、道二襄鄧一而西、屬賊兵銳、乃壁二七盤一。㊁陝西省褒城縣の北。〔元稹、褒城驛詩〕迤麗七盤路。〔褒城縣志〕七盤山、在二縣北雞頭關下一、由レ此入二連雲棧一、最爲二險峻一。㊂四川省巴中縣の西。〔四川通志〕唐久視元年、於二七盤山東南一、置二七盤縣一、因レ山爲レ名、卽此。

【七盤嶺】419 シチバンレイ 山名。㊀滿洲遼寧省寬甸縣の東。石炭を產す。〔奉天府志、蓋平縣〕七盤嶺、城東九十里。㊁四川省廣元縣の北。一名、五盤嶺。嶺に七盤關がある。明末に、李自成が此の關を破つて蜀に入つた。〔明一統志〕七盤嶺、在二保寧府廣元縣北一百七十里一。㊂七盤山の㊀に同じ。

【七美】420 シツビ 但馬國の舊郡名。

【七微】421 シチビ 晉、陸機の「七」の題名。又、七徵に作る。〔陸機、七微〕玄虛子耽、性冲素、雍容玄泊、棄二時俗一而弗レ徇、甘二漁釣於一壑一、乃有二通微大夫一、怨二皇后之失一レ寶、傷二鴻誓之後聞一、策二玄黄於榛險一、憑二穴岩一而放言、云云。

【七閩】422 シチビン 東南のえびす。七種に分れ、今の福建全省と浙江省南部とに居住した。轉じて、福建省の別名。〔周禮、夏官、職方氏〕辨二其邦國都鄙・四夷・八蠻・七閩・九貉・五戎・六狄之人民、與二其財用、九穀・六畜之數要一。〔注〕玄謂、閩、蠻之別也、國語曰、閩芋蠻矣、四八七九五六、周之所レ服國數也。〔疏〕叔熊居レ濮如レ蠻、後子從分爲二七種一、故謂二之七閩一也。〔蘇軾、送二張職方吉甫赴二閩漕一六和寺中作詩〕空使二吳兒怨不一レ留、靑山漫漫七閩路。

【七扶】423 シチフ 一尺五寸位の長さ。一扶は四指をならべた長さ。〔禮、投壺〕籌、室中五扶、堂上七扶、庭中九扶。〔注〕籌、矢也、鋪二四指一曰レ扶。

【七符】424 シチフ 梁、元帝（1―1340‥450）の小字。

【七賦】425 シチフ 五穀と桑と麻の七種の租稅。〔法言、問道〕五政之所レ加、七賦之所レ養。〔注〕七賦、五穀・桑・麻也。

【七諷】426 シチフウ ㊀晉、左思の「七」の題名。〔文心雕龍、指瑕〕左思七諷、說二孝而不一レ從、反レ道若レ斯、餘不レ足レ觀矣。㊁晉、段業の「七」の題名。〔晉書、呂光載記〕因療二疾于天梯山一、作二表・志・詩・九歎・七諷十六篇一、以諷焉、光覽而悅レ之。

【七福】427 シチフク ㊀七つの利益。人民の銅の所有を禁止すれば、それに因つて國に七福があるといふ。〔漢書、食貨志下〕故銅布二於天下一、其爲レ禍博矣、今博禍可レ除、而七福可レ致也、何謂二七福一、上收レ銅勿レ令レ布、則民不レ鑄レ錢、黥罪不レ積、一矣、僞錢不レ蕃、民不二相疑一、二矣、采レ銅鑄作者、反二於耕田一、三矣、銅畢歸二於上一、上挾二銅積一、以御二輕重一、錢輕則以レ術斂レ之、重則以レ術散レ之、貨物必平、四矣、以作二兵器一、以假二貴臣一、多少有レ制、用別二貴賤一、五矣、以臨二萬貨一、以調二盈虛一、以收二奇羨一、則官富貴而末民困、六矣、制二吾棄財一、以與二匈奴一、逐二爭其民一、則敵必懷、七矣。㊁[佛]七つの福。〔仁王經、受持品〕七難卽滅、七福卽生。

【七福因】428 シチフクイン 七つの福を得る七つの因緣。上善水・火薪・香藥・浴衣・澡豆・淨巾・密湯の七藥をいふ。〔雲笈七籤〕七福因者、一、上善水、二、火薪、三、香藥、四、浴衣、五、澡豆、六、淨巾、七、密湯、此七福因者、能成二七果一、一、常生二中國一、爲二男子身一、二、身相具足、三、身體光明、眼瞳徹視、四、髭髮紺青、圓光映頂、五、脣朱口香、四十二齒、六、兩手過膝、七、心聰意慧、通二了三洞經法一。

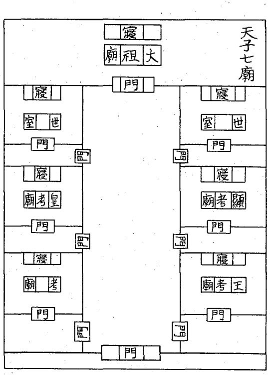
【七福神】429 シチフクジン 七はしらの福の神。大黑・夷子・毘沙門・辨天・布袋・福祿壽・壽老人。其の福神の名も屢〻變動があつて、かく定まつたのは德川時代の末である。〔書言字考節用集、數量門〕七福神。〔注〕辨財天・毘沙門天・大黑天・惠比須・福祿壽・布袋和尙・猩猩。

【七覆】430 シチフク 七箇處の伏兵。〔左氏、宣、十二〕士季使二鞏朔韓穿帥二七覆于敖前一。〔注〕覆、爲二伏兵七處一也。

【七佛】431 シチブツ [佛]過去の人類を教化するため釋尊以前に六佛が出た。これに釋尊を加へて七佛といふ。過去七佛ともいふ。毘婆尸（Vipaśyin）・尸棄（Śikhin）・毘舍浮（Viśvabhū）・拘留孫（Krakucchanda）・拘那含牟尼（Konāgamana）・迦葉（Kāśyapa）・釋迦牟尼（Śākya-muni）の稱。〔傳燈錄〕七佛、一、毘婆尸佛、二、尸棄佛、三、毘舍浮佛、四、拘留孫佛、五、拘那含牟尼佛、六、迦葉佛、七、釋迦牟尼佛。

【七兵】432 シチヘイ ㊀七種の兵器。〔書、顧命〕二人雀弁、執レ惠立二于畢門之內一、四人綦弁、執レ戈上レ刃、夾二兩階戺一、一人冕、執レ劉立二于東堂一、一人冕、執レ鉞立二于西堂一、一人冕、執レ戣立二于東垂一、一人冕、執レ瞿立二于西垂一、一人冕、執レ銳立二于側階一。〔疏〕此所レ執者、凡有二七兵一。㊁官名。後魏の時、七兵尙書を置く。〔通典、職官典、尙書下、兵部尙書〕魏置二五兵尙書一、五兵、謂二中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵一也、晉初無、大康中、乃有二五兵尙書一、而又分二中兵・外兵一、各爲二左右一、按、晉雖下分二中兵外兵一爲二左右一、與二舊五兵一爲中七曹上、然尙書唯置二五兵一而已、無二七兵尙書之名一、至二後魏一、始有二七兵尙書一耳。

【七廟】433 シチベウ 天子のおたまや。天子には七つの廟がある。中央に太祖の廟があつて、左右に三昭と三穆とを配す。尤も天子七廟說は劉歆などに始まり、王肅などに至つて強く主張せられたのであるが、其の論據となるものは、禮記王制・禮器、荀子禮論、穀梁僖十五年等の文である。之に對して、天子も五廟であると主張する韋元成・鄭玄・朱子などの說もある。其の論據とする所は、儀禮喪服小記・禮緯稽命徵・孝經鉤命訣等である。なほ禮記の祭法は、七廟說の根據ともなれば、五廟說の根據ともなる樣である。〔禮、王制〕天子七廟、三昭三穆、與二太祖之廟一而七。〔注〕此周制、七者、太祖及文王・武王之祧、與二親廟四一、太祖后稷。〔疏〕周所二以七一者、



七　廟　（禮器圖）

以二文王・武王受命一、其廟不レ毀、以爲二二祧一、并二始祖后稷及高祖以下親廟四一、故爲レ七也、若二王肅一、則以爲、天子七廟者、謂二高祖之父及高祖之祖廟一爲二二祧一、并二始祖及親四一爲レ七。〔禮、祭法〕王立二七廟一、一壇一墠、曰考廟、曰王考廟、曰皇考廟、曰顯考廟、曰祖考廟、皆月祭レ之。

【七辨】434 シチベン　左右の大辨、左右の中辨、左右の少辨と、中少辨のうち、權官一人を補せられるのを合せていふ。〔太平記、十一、還幸事〕七辨五位六位內外の諸司。

【七辯】435 シチベン　㊀後漢、張衡の「七」の題名。〔後漢書、張衡傳〕所レ著詩・賦・銘・七言・靈憲・應閒・七辯・巡誥・縣圖、凡三十二篇。㊁辯舌の巧なこと。〔梁簡文帝、玄圃園講頌序〕七辯懸流、雙因俱啓。

【七步】436 シチホ　七步、步む。〔書、牧誓〕今日之事、不レ愆二于六步七步一、乃止齊焉。

【七步蛇】437 シチダ　佛毒蛇をいふ。螫されてから七步步む閒に死ぬといふ。〔婆娑論、四十六〕爲二七步毒蛇所一レ螫、大種力故、能行二七步一、毒勢力故、不レ至二第八一。

【七步之才】438 シチホノサイ　作詩の敏捷な喩。魏の曹植が、七步あるく閒に詩を作つた故事による。七步之詩を見よ。〔北史、魏收傳〕節閔帝立、妙簡二近侍一、詔試レ收、爲二封禪書一、收下レ筆便就、不レ立二藁草一、文將二千言一、所レ改無レ幾、時黃門郎賈思、同侍立、深奇レ之、白レ帝曰、雖二七步之才一、無二以過一レ此。〔唐書、柳公權傳〕幸二未央宮一、帝駐レ輦曰、朕有二一喜一、邊戎賜衣之不レ時、今仲春而衣已給、公權爲二數十言一稱レ賀、帝曰、當二賀レ我以一詩一、宮人迫レ之、卽應レ聲成レ文、婉切而麗、詔令二再賦一、復無レ停レ思、天子甚悅曰、子建七步、爾乃三焉。〔唐詩金粉、敏悟〕史靑上書、自薦レ能レ詩云、子建七步、臣五步之內、可レ塞二明詔一、明皇試以二除夕・上元・竹火籠等詩一、應レ口而出、上稱賞、授以レ官。〔書言故事、詩詞賦類〕美二詩成敏速一、有二七步之才一。

【七步之詩】439 シチホノシ　魏の曹植が文帝に迫られて七步あるく閒に作つた詩をいふ。〔世說新語、文學〕文帝嘗令二東阿王七步中作一レ詩、不レ成者、行二大法一、應レ聲便爲レ詩曰、煮レ豆持作レ羹、漉レ菽以爲レ汁、萁在二釜下一然、豆在二釜中一泣、本自二同根一生、相煎何太急、帝深有二慙色一。

【七步成レ詩】440 シチホシヲナス　詩才が極めて優れて敏捷な喩。七步之詩を見よ。

【七浦】441 シチホ　江蘇省常熟縣の東南。西は陽城湖、南は巴城湖、北は白茆港に通じ、東は太倉界に入つて海に注ぐ。又、七雅浦・七了浦・七浦塘の名がある。〔蘇州府志、水〕七浦、在二縣西北三十里一、一名七浦塘、亦曰二七鴉浦一、自二常熟縣界一來、北通二白茆港一、西通二陽城諸湖一、東南出二石橋圩一、又東經二太倉之直塘沙頭一入レ海、謂二之七鴉口一、自レ宋以來、爲二常熟崑山五大浦之一一、浦旁舊有二支渠四十六一、漑レ田可二萬頃餘一、其西有二謝堰一、東南去レ縣三十四里、與二常熟一分レ境、舊設レ此以防二常熟崑承諸湖及江海衝決之水一。

【七輔】442 シチホ　黃帝の政を助けた七人の人々。風后・天老・五聖・知命・窺紀・地典・力墨。力墨は又、力牧に作る。〔聖賢羣輔錄、黃帝七輔〕風后受二金法一、天老受二天籙一、五聖受二道級一、知命受二糾俗一、窺紀受二變復一、地典受二州絡一、力墨受二準斥一、右黃帝七輔。

【七謨】443 シチボ　晉、傅玄の「七」の題名。〔傅玄、七謨序〕昔枚乘作二七發一、而屬文之士、若二傅毅・劉廣・崔駰・李尤・桓麟・崔琦・劉梁・桓彬之徒一、承二其流一而作レ之者紛焉、七激・七興・七依・七說・七蠲・七擧之篇、於二通儒大才馬季長・張平子一、亦引二其源一而廣レ之、馬作二七厲一、張造二七辯一、或以恢二大道一而導二幽滯一、或以黜二瑰麥一而託二諷詠一、揚暉播烈、垂二於後世一者、凡十有餘篇、自二大魏一、英賢迭作、有二陳王七啓・王氏七釋・揚氏七訓・劉氏七華・從父侍中七誨一、並陵レ前而邈レ後、揚二淸風於儒林一、亦數篇焉、世之賢明、多稱二七激一爲レ工、餘以爲レ未レ盡レ善也、七辯似也、非二張氏至思一、比二之七激一、未レ爲レ劣也、七釋、僉曰、妙哉、吾無レ閒矣、若二七依之卓轢一致、七辯之纏綿精巧、七啓之奔逸壯麗、七釋之精密閑理一、亦近代之所レ希也。

【七峯】444 シチホウ　山名。山西省大同縣の西南。七つの峯が並列してゐるからいふ。一名、玉龍山。〔大同府志〕七峯山、在二城西南四十五里一、又名二玉龍山一、有二石洞天橋一。

【七峯草堂】445 シチホウサウダウ　室名。㊀淸、馬曰琯(**12－44572**・700)の室名。㊁淸、汪士愼(**6－17154**・233)の室名。

【七穆】446 シチボク　春秋時代の鄭の大夫、子展・子西・子產・伯有・子大叔・子石・伯石。皆穆公の後裔であるから七穆といふ。七子(157)の㊁を見よ。〔左氏、襄、二十六〕叔向曰、鄭七穆、罕氏其後亡者也。〔注〕鄭穆公十一子、子然二子孔三族已亡、子羽不レ爲レ卿、故唯言二七穆一。〔釋文〕鄭七穆、謂、子展、公孫舍之、罕氏也、子西、公孫夏、駟氏也、子產、公孫僑、國氏也、伯有、良霄、良氏也、子大叔、游吉、游氏也、子石、公孫段、豐氏也、伯石、印段、印氏也。〔唐書、武平一傳〕日用曰、魯三桓・鄭七穆奈何、答曰、慶父・叔牙・季友、桓三子也、孟孫至レ堯、凡九世、叔孫舒・季孫肥、凡八世、鄭穆公十一子、子然及士子子孔三族亡、子羽不レ爲レ卿、故稱二七穆一、子罕・子駟・子良・子國・子游・子印・子豐也、一坐驚服。

【七毛】447 ナナツゲ　手足の指に生える毛。〔其角句〕ななつげの蚊に苦しむや足疾鬼。

【七無】448 シチム　有つてはならない七つの事。諾責・財怨・專利・苟說・伐善・棄人・畜憾。〔文中子、魏相〕仇璋謂二薛收一曰、子聞二三有・七無一乎、收曰、何謂也、璋曰、無二諾責一、無二財怨一、無レ專レ利、無二苟說一、無レ伐レ善、無レ棄レ人、無レ畜レ憾。

【七命】449 シチメイ　㊀諸侯となること。禮記王制疏に據れば、次國の君卽ち諸侯は、七命して祭服に粉米・火・藻・宗彝・華蟲・龍・山の模樣あるものを用ひる。〔周禮、春官、大宗伯〕壹命受レ職、再命受レ服、三命受レ位、四命受レ器、五命賜レ則、六命賜レ官、七命賜レ國。〔注〕王之卿六命、出封加二一等一者、鄭司農云、出就二侯伯之國一。〔疏〕此後鄭先鄭所レ云、皆據二典命一而言、以二其王之卿六命一、出封加二一等一、卽七命、是侯伯之國者也。〔禮、王制〕制、三公一命卷、若有レ加則賜也、不レ過二九命一、次國之君不レ過二七命一。〔疏〕虞夏之制、天子祭服、自二日月一而下、十有二章、故尙書臯陶云、予欲レ觀二古人之象一、日・月・星辰・山・龍・華蟲作レ會、宗彝・藻・火・粉米・黼・黻絺繡、是也、日一也、月二也、星辰三也、山四也、龍五也、華蟲六也、此六者、皆畫二於衣一、故言レ作レ會、以法二於天一、其數六者、法二天之陽氣之六律一也、宗彝七也、藻八也、火九也、粉米十也、黼十一也、黻十二也、此六者、皆繡二於裳一、故云二絺繡一云云、按、臯陶謨云、五服五章哉、鄭注云、五服、十二也、九也、七也、三也、如二鄭之意一、九者、謂二公侯之服一、自レ山而下、七也、是伯之服、自二華蟲一而下、五也、謂二子男之服一、自レ藻而下、三也、卿大夫之服、自二粉米一而下。㊁七つの名。命は名。〔史記、天官書〕兔七命、曰、小正・辰星・天攙・安周星・細爽・能星・鉤星。〔注〕索隱曰、謂二星凡有二七名一、命者、名也、小正、一也、辰星、二也、天兔、三也、安周星、四也、細爽、五也、能星、六也、鉤星、七也。㊂晉、張協の「七」の題名。〔張協、七命〕沖漠公子、含レ華隱レ曜、嘉遯龍盤、翫世高蹈、遊二心于浩然一、翫二志乎眾妙一、絕二景乎大荒之遐阻一、吞二響乎幽山之窮奧一、于レ是、徇華大夫、聞而造焉。〔晉書、張協傳〕屛二居草澤一、守レ道不レ競、以二屬詠一自娛、作二七命一。

【七夜】450 シチヤ　㊀七晚。〔周禮、考工記、㡛氏〕晝暴二諸日一、夜宿二諸井一、七日七夜、是謂二水湅一。㊁子が生れてから七日目の祝の夜。〔源氏物語、柏木〕七夜は內より、それもおほやけざまなり。

【七喩】451 シチユ　㊀魏、徐幹の「七」の題名。〔徐幹、七喩〕有二逸俗先生者一、耦二耕乎巖石之下一、栖二遲乎窮谷之岫一、萬物不レ干二其志一、王公不レ易二其好一、寂然不レ動、莫二之能懼一云云。㊁佛法華經の七喩。如來が七つの喩によつて、大乘の教に導くことを說いたもの。一、火宅喩（第二卷、譬喩

品)、二、窮子喩(第二卷、信解品)、三、藥草喩(第三卷、藥草喩品)、四、化城喩(第三卷、化城喩品)、五、衣珠喩(第四卷、授記品)、六、髻珠喩(第五卷、安樂行品)、七、醫子喩(第六卷、壽量品)。

【七雄】452 ●戰國時代の七強國。齊・楚・秦・燕・趙・魏・韓。七國(125)の●に同じ。〔班固、答賓戲〕七雄虓闞、分裂諸夏。〔注〕翰曰、七雄、秦・楚・齊・趙・燕・韓・魏也。〔新論、隨時〕法術以禦二七雄之世一、德義以柔二中國之心一。●我が國、戰國時代の七雄。織田信長・毛利元就・今川義元・武田信玄・上杉謙信・北條氏康・豐臣秀吉。

【七踊】453 國君の死んだ日から、大斂に至るまでの間に七たび踊哭すること。〔禮、檀弓下、辟踊哀之至也、疏〕諸侯七踊、舍二死日一六日而殯、初死日一、明日襲又一、至二三日小斂朝一、當二小斂時一又一、四日無レ事一、五日又一、至二六日朝一不レ踊、亦當二大斂時一又一、凡六日七踊。〔禮、雜記上〕公七踊。〔疏〕公諸侯、去二死日一五日而殯、則合二死日一六日也、七踊者、始死一踊、明日襲之時又一踊、襲明日朝、又明日小斂朝一踊、爲レ四也、其日晚小斂時又一踊、是小斂日再踊、就二於前二日一爲レ五也、小斂明日朝又踊、爲レ六也、至二明日大斂之朝一不レ踊、當二大斂時一乃踊、凡爲二七踊一也。

【七牢】454 立派な御馳走。牛・羊・豕の料理が各〻一種類だけのものを一牢といひ、各〻が七種類あるものを七牢といふ。〔禮、禮器〕諸侯七介七牢。〔左氏、僖、十五〕改館二晉侯一饋二七牢一焉。〔注〕牛羊豕各一爲二一牢一。

【七旒】455 リッチ 七すぢの冠の垂れ。諸侯及び卿大夫の用ひたもの。〔漢官儀〕天子冠通天、諸王冠遠遊、三公諸侯冠、進賢三梁、卿大夫、尚書・二千石・博士冠兩梁、千石以下至二小史一冠一梁、天子公卿・特進諸侯、祀二天地明堂一皆冠二平冕一、天子十二旒、三公九旒、卿大夫、諸侯七旒。〔儲光羲、同二張侍御一宴二北樓一詩〕今之太守古諸侯、出入雙旌垂二七旒一。

【七律】456 ●音樂の七つの音律。黃鐘(宮)・大簇(商)・姑洗(角)・林鐘(徵)・南呂(羽)・應鐘(變宮)・蕤賓(變徵)。七音。七聲。〔國語、周語下〕王曰、七律者何。〔注〕周有二七音一、王問二七音之律一、意謂下七律爲二音器一、用二黃鐘一爲上宮、大簇爲レ商、沽洗爲レ角、林鍾爲レ徵、南呂爲レ羽、應鍾爲二變宮一、蕤賓爲二變徵一上。●七言律詩(139)の略。〔陔餘叢考、五七律排〕陳後主聽二箏、一首又皆七言、屬對絕似二七律一、惟篇末、雜以二五言一句一耳。

【七略】457 リャク 前漢の劉向の別錄に本づいて、其の子の歆が作つた書籍分類目錄。又、七略別錄ともいふ。書目錄の祖で、輯略・六藝略・諸子略・詩賦略・兵書略・術數略・方技略の七略に分類する。併し、此の中、輯略は六藝略以下の六略の總說ともいふ可きものであるから、書物の分類としては實は六種である。〔漢書、藝文志〕至二成帝時一、以二書頗散亡一、使二謁者陳農求二遺書於天下一、詔二光祿大夫劉向一、校二經傳諸子詩賦一、步兵校尉任宏校二兵書一、太史令尹咸校二數術一、侍醫李柱國校二方技一、每二一書已一、向輒條二其篇目一、撮二其指意一、錄而奏レ之、會向卒、哀帝復使二向子侍中奉車都尉歆卒一父業、歆於是總二羣書一而奏二其七略一、故有二輯略一、有二六藝略一、有二諸子略一、有二詩賦略一、有二兵書略一、有二術數略一、有二方技略一、今刪二其要一、以備二篇籍一。〔隋書、經籍志〕向卒後、哀帝使二其子歆嗣一父之業一、乃徙二溫室中書於天祿閣上一、歆遂總二括羣篇一、撮二其指要一、著爲二七略一、一曰集略、二曰六藝略、三曰諸子略、四曰詩賦略、五曰兵書略、六曰術數略、七曰方技略、大凡三萬三千九十九卷、王莽之末、又被二焚燒一。

【七略別錄】458 シチリャクベツロク 七略を見よ。

【七龍】459 リュウ ●七匹の龍。〔梁簡文帝、鏡象詩〕後挂二七龍網一、前發二四珠光一。●七人の勝れた兄弟。〔小學紺珠、氏族類、七龍〕陸徵兄弟七人、號二七龍一、崔徵兄弟七人、號二七龍一。●源氏相傳の八領の鎧の一。〔異制庭訓往來〕凡源氏相傳鎧、七龍・八龍・月數・日數・源太産衣・膝丸・薄金・小袖等。

【七林】460 リン ●「七」の體の作七篇。枚乘の七發、傅毅の七激、崔駰の七依、崔瑗の七蘇、馬融の七厲、曹植の七啓、王粲の七釋、左思の七諷をいふ。〔太平御覽、文部、七辭、摯虞文章流別論曰、七發造二於枚乘一、云云、傅子集二古今七篇一而論二品之一、署曰二七林一。●書名。隋、許善心撰。七錄に倣つて作つた書籍分類目錄。今佚す。〔北史、許善心傳〕時祕藏圖籍、尚多二淆亂一、善心效二阮孝緒七錄一、更制二七林一、各爲二總敘一、冠二于篇首一。

【七厘】461 リン ●一厘の七倍に當る。●こんろの類。土製のもの。價七厘の炭で煮物の用に足るから此の名があるといふ。七釐。〔和漢三才圖會、庖厨具、火爐〕七釐、爐中有二鐵簀一盛レ炭、簀下橫有二風口一、火自熾、以煎レ藥煖レ酒、炭價纔不レ至二一分一、因稱二七厘一。

【七厘釜】461 シチリンガマ 七厘の●に同じ。〔西鶴置土産、四〕七厘釜にて、せんそくを沸かしざし鯖を霜月ににくふ人の目からは、たはけのやうにおもふべけれど。

【七厲】462 レイ ●人民を奬勵する七つの方法。〔逸周書、酆保解〕一、翼勤厲務、二、動正厲民、三、靜兆厲武、四、翼藝厲物、五、翼言厲復、六、翼敬厲衆、七、翼知厲道。●後漢、馬融の「七」の題名。〔傅玄、七謨序〕馬作二七厲一、張造二七辯一。

【七勵】463 レイ 梁、簡文帝の「七」の題名。〔梁簡文帝、七勵〕藏名外臣、體レ道好レ異、遁レ跡理レ影、剗二心人事一、任二性於蓼水之側一、放二心於自得之場一云云。

【七歷】464 レキ 七種類のこよみ。〔晉書、律歷志〕漢末宋仲子集二七歷一、以考二春秋一、案、其夏周二歷術數一、皆與二藝文志所レ記不レ同、故更レ名爲二眞夏眞周歷一也。

【七葷】465 シン 七種類の葷菜。葷菜はてぐるま。〔小學紺珠、器用類、七葷〕大鳳・大芳・小輕仙遊・芳亭・大玉・小玉。

【七錄】466 ロク ●書名。梁の阮孝緒が定めた書籍分類目錄。體裁は、劉歆の七略に基いて之を少し改めてゐる。其の目は、一、經典錄(六經・小學)、二、記傳錄(史傳)、三、子兵錄(子書・兵書)、四、文集錄(詩文)、五、技術錄(天文・曆算・刑法・方伎)、以上、內篇五錄。六、佛法錄(佛經)、七、仙道錄(仙術・符圖)、以上、外篇二錄。今佚す。〔隋書、經籍志一〕普通中、有二處士阮孝緒一云云、更爲二七錄一、一曰、經典錄、紀二六藝一、二曰、記傳錄、紀二史傳一、三曰、子兵錄、紀二子書兵書一、四曰、文集錄、紀二詩賦一、五曰、技術錄、紀二數術一、六曰、佛錄、七曰、道錄。〔南史、阮孝緒傳〕所レ著七錄削繁等一百八十一卷、並行二于世一。●宋の鄭寅が其の藏書を經・史・子・藝・方技・文・類の七種に分つて、之を七錄と名付けた。

【七錄齋】467 サイ 字號。●明。張溥(4—9812‥647)の號。●清、阮葵生(11—41569‥58)の號。

【七王】468 ワン ●戰國時代の七國。七國(125)の●に同じ。〔晉書、地理志上〕至二於戰國一、遂有二七王一。〔注〕韓・魏・趙・燕・齊・秦・楚。●宋の韓蘄王・劉鄜王・張循王・岳鄂王・楊和王・玠涪王・璘信王をいふ。〔小學紺珠、名臣類下、七王〕韓世忠蘄・劉光世鄜・張俊循・岳飛鄂・楊存中和・吳玠涪・吳璘信。

【七王國】469 ワンコク アングロサクソン族がイングランドに建てたケント等の七つの王國。

【七椀】470 ワン 椀に七杯。七盌。七椀茶を見よ。

【七椀茶】471 チャワン 椀に七杯の茶。茶の效用を述べた語。一椀は喉吻を潤ほし、二椀は孤悶を破り、三椀は枯腸を搜り、四椀は輕汗を發し、五椀は肌骨を清々しくし、六椀は仙靈に通じ、七椀は飮み終らぬに兩腋に清風の生ずるのを覺えるといふ。〔盧仝、走レ筆謝二孟諫議寄一新茶一詩〕一椀喉吻潤、兩椀破二孤悶一、三椀搜二枯腸一、唯有二文字五千卷一、四椀送二輕汗一、平生不平事、盡向二毛孔一散、五椀肌骨清、六椀通二仙靈一、七椀喫不レ得也、唯覺二兩腋習習清風生一。〔蘇軾、遊二諸佛舍一、一日飮二釀茶七盞一、戲書二勉師壁一詩〕何須魏帝一丸藥、且盡盧仝七椀茶。〔耶律楚材、和二楊彥廣韻一詩、探二玄渾一似二三杯酒一、清興何消七椀茶。

【七一軒】472 ケンイツ 清、劉青蓮(2—2224‥1120)の室名。

【七引店】473 テンイン 地名。安徽省英山縣の北。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、六安州、英山縣〕柳林關、又七引關、在二縣北七十里一、亦曰二七引店一、道通二霍山縣一、有二巡司一戍焉。

【七加家】474 カナダ 姓氏。〔姓林全書〕。

【七家茶】475 チャ 立夏の日に、新茶を烹て之に果實を添へて、親戚近隣へ贈るもの。〔西湖遊

覽志〕立夏之日、人家各烹ニ新茶一、配以ニ諸色細果一、餽ニ送親戚比鄰一、謂ニ之七家茶一、富室競レ侈、果皆雕刻、飾以ニ金箔一、而香湯名目、若ニ茉莉・林禽・薔薇・桂蕋・丁檀・蘇杏一、盛以ニ哥汝瓷甌一、僅供ニ一啜一而已。

【七姬廟】476 シチキベウ 廟の名。江蘇省吳縣城の北の任蔣橋の西南。明、張士誠の壻、潘元紹の七人の妾の廟。皆、事勢を諭されて同時に縊死したといふ烈婦。〔朱象賢、聞見偶錄〕。

【七級鎭】477 シチキフチン 鎭の名。❶山東省陽穀縣の東北運河の東。聊城縣に出る路。唐、田眞兄弟が活紫荊を哭した所と傳へる。〔陽穀縣志〕其河自ニ荊門上閘一、達ニ七級下閘一、三十八里、屬ニ陽穀縣界一。❷山西省臨晉縣の西南。永濟縣に通ずる。

【七金山】478 シチキンザン ❶山名。滿洲熱河省平泉縣の東にある。老哈河の東岸。山に七つの峯があるからいふ。蒙古名は和爾博勒津山。〔遼史、地理志三〕聖宗嘗過ニ七金山土河之濱一、南望ニ雲氣一、有ニ郛郭樓闕之象一、因議建レ都。〔金史、地理志上〕北京路大定府、有ニ七金山一。❷佛 シチコンセン 古代印度の世界構造說でいふ、須彌山を圍繞する七種の金山。即ち踰健達羅山(Yugandhara)・伊沙多羅山(Isādhara)・竭地洛迦山(Khadiraka)・蘇達梨舍那山(Sudarśana)・頞溼縛羯拏山(Aśvakarna)・毘那怛迦山(Vinataka)・尼民達羅山(Nimindhara)。〔倶舍論、十一〕・〔神皇正統記、一〕。

【七科讁】479 シチクワタク 邊塞を戍る七種類の罪科の徒。讁は流謫された者。〔漢書、武帝紀〕發ニ天下七科讁及勇敢士一。〔注〕張晏曰、吏有レ罪一、亡人二、贅壻三、賈人四、故有ニ市籍一五、父母有ニ市籍一六、大父母有ニ市籍一七、凡七科也。

【七回忌】480 シチクワイキ 七年目の回忌。七年忌。〔宣胤卿記〕永正四年四月十二日、今日北堂尊靈七回忌也、於ニ眞如堂盛壽院一修善。

【七卿表】481 シチケイヘウ 明史に有る表。洪武十三年庚申から世宗即位の八月に至る間の六部尙書、及び左右都御史の任免を記す。〔明史、七卿年表序〕七卿前史無レ表也。

【七溪嶺】482 シチケイレイ 嶺の名。江西省寧岡縣の北。其の山に七溪があるからいふ。〔吉安府志、永寧縣〕七溪嶺、在ニ縣北十里一。

【七件事】483 シチケンジ 日常生活に無くてはならぬ七種類の品。柴・米・油・鹽・醬・醋・茶。〔夢粱錄、鯗鋪〕蓋人家每日不レ可レ闕者、柴・米・油・鹽・醬・醋・茶。〔葉兒樂府〕七件事。

【七間樓】484 シチケンロウ 明、嚴嵩の居址。北京宣武門外南橫街東南北斜丞相胡同にある。

【七五三】485 シチゴサン ❶銅鑼と太鼓とで出す一種の調子。〔揚州畫舫錄〕鑼鼓盛ニ於上元・中秋二節一、以ニ鑼鼓・鐃鈸一、考擊成レ文、有ニ七五三・鬧元宵・跑馬・雨夾雪諸名一、謂ニ之粗鑼鼓一。❷佛 稱名の譜。〔天台山不斷念佛發願表白〕高和ニ七五三之唱一。❸㋑祝儀に用ひるめでたい數。三・五・七は何れも奇數即ち陽數で、陽は物を生成させることからいふ。㋺饗應で七獻・五獻・三獻の御馳走をすること。〔嬉遊笑覽、飮食、七五三〕。㋩メシ 標繩。注連。〔和漢三才圖會、神祭佛具、注連〕端出之繩、七五三繩、和名、之利久倍奈波、俗云、之米奈波。❹シメカケ シメ 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【七五三懸】486 シメカケ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【七五三祝】487 シチゴサンノイハヒ 男子が三歲と五歲、女子が三歲と七歲に當る年の、十一月十五日に行ふ祝儀。通例、新調の衣服を着せて、氏神に參詣させる。

【七五三場】488 バシメ 下總國の地名。

【七才子】489 シチサイシ 七人の才子。七子(157)の❺に「同じ。」

【七姊妹】490 シチシマイ 草花の一種。花は薔薇に似て小さい。十姊妹(2−2695・・662)の一種。〔草花譜〕十姊妹・七姊妹、花小而一蓓十花、故名、其色自ニ一蓓中一分ニ紅・紫・白・淡紫四色一、或云、色因ニ開久一而變、有ニ七朶一蓓者一、名ニ七姊妹一云。

【七姊妹星團】491 シチシマイセイダン 星團の一。七星から成る。其の大部分は牡牛座に屬す、昴宿。プレアデス星團。

【七紙禮】492 シチシノライ 書狀に七枚の紙を使用する禮。即ち、書狀には七紙禮・五紙禮・三紙禮の別があるが、七紙禮は其の中の最上の禮で、紙三枚を重ねて狀を書き、禮紙二枚、包紙即ち立紙を二枚にするもの。

【七洲洋】493 シチシウヤウ 海洋の名。廣東省陵水縣楡林港の東南。西沙群島の在る所。〔海國聞見錄〕七洲洋、凡往ニ南洋一者、必經レ之、其東北有ニ長沙石塘等礁一、舟行宜レ愼、相傳、洋中有ニ箭鳥一、凡船到ニ洋中一、輒飛來引導。

【七所借】494 ナナトコガリ 諸方から借り集めること。

【七頌堂】495 シチショウダウ 清、劉體仁(2−2224・・1154)の室名。

【七頌堂識小錄】496 シチショウダウシキセウロク 書名。一卷。清、劉體仁撰。書畫古器について凡そ七十四條を記す。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【七進法】497 シチシンハフ 或る位の七倍を其の上位の一として累進する記數法。

【七井子】498 シチセイシ 地名。滿洲黑龍江省開通縣治。洮遼の東、白廟寺の西南。清の光緒三十年、哈剌烏蘇から縣治を移し置いた。

【七省翁】499 シチセイオウ 宋、劉玶(2−2224・・593)の號。

【七淸華】500 シチセイグワ 清華の七家。花山院・西園寺・大炊御門・久我・三條(轉法輪)・德大寺・今出川(菊亭)。淸華(7−17695・・211)を見よ。

【七蕉痘】501 ch'i¹ chiao¹ tou⁴ 發病後七日で全治する天然痘。

【七緵布】502 シチソウフ 目のあらい粗末な布。緵は升で、八十縷。七升即ち五百六十縷の絲すぢを織った布。〔史記、景帝紀〕令ニ徒隸衣ニ七緵布一。〔注〕正義曰、緵、八十縷也、與レ布相似、七升布、用ニ五百六十縷一。

【七搭子】503 ch'i¹ ta¹ tzŭ 不器量な女。醜い女。

【七段備】504 シチダンソナヘ 布陣の仕方で、陣を、先・先備・脇備・旗本・後備・小荷駄奉行・遊軍の七段に備へること。〔兵法神武雄備集、二十三、陣練〕七段備といふは、一先、二にて先備、三にて脇備、四に旗本、五に後備、六に小荷駄奉行、七に遊軍。

【七女津】505 シチヂョシン 渡津の名。山東省東平縣の西北。南朝、宋の元嘉七年、到彥之等の諸軍が會した所。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、東平州〕七女津、在ニ州西北一、昔時河津也、宋元嘉七年、到彥之等、復ニ河南地一、沿レ河置レ守、還保ニ東平一、北魏主燾、遣レ兵來寇、諸軍會ニ於七女津一、謀ニ南渡一。

【七女池】506 シチヂョチ 池の名。陝西省城固縣の北。洋縣の界に接してゐる。〔水經、沔水注〕元嘉六年、大水破レ墳、墳崩出レ銅、不レ可ニ稱計一、得ニ一塼刻一、云、項氏伯無レ子、七女造レ埒、世人疑、是項伯冢、水北有ニ七女池一。〔明一統志〕七女池、在ニ漢中府洋縣一、漢中記、昔人無レ男、養ニ七女一、父沒、女於レ此負レ土、各爲ニ一冢一、遂成ニ此池一、其冢三在ニ城固縣一、四在ニ洋縣一。

【七鳥日】507 シチテウニチ 陰陽家で、夏の丙子・丁亥の日をいふ。惡日として忌む。〔曆林問答集、下〕四季惡日、云云、夏丙子・丁亥、爲ニ七鳥日一。〔簠簋內傳、二〕四季惡日、云云、夏丙子・丁亥、七鳥日、七鳥者、七頭鳥也。

【七奠拌】508 シチテンパン 食器の名。〔海錄碎事、飮食、食器〕晉書、桓溫爲ニ大司馬征西大將軍一、性儉、每レ燕、惟下ニ七奠拌茶果一而已、拌、音盤。

【七筆勾】509 シチヒッコウ 明の蓮池大師の作った勸世歌訣七首。皆一筆勾の字で結んである。一筆勾(1−1・・1932)を見よ。

【七本鎗】510 シチホンヤリ 賤ケ嶽の七本鎗。福島正則・加藤清正・加藤嘉明・平野長泰・脇坂安治・糟屋武則(日本外史、糟谷に作る)・片桐且元。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕秀吉命ニ駛卒五十人一先往、募ニ沿道民一曰、吾將レ赴ニ賤岳一、炬火導レ我、酒食餉レ我、云云、秀吉顧ニ左右一、縱レ兵乘レ之、加藤清正・福島正則・加藤嘉明・平野長泰・脇坂安治・糟谷武則・片桐且元、爭レ先奮擊、多レ所ニ斬獲一、云云、世呼曰ニ賤岳七槍一。

【七面鳥】511 シチメンテウ 鳥の名。雉科に屬す。其の頭頸部は裸出し、疣狀突起と膨皺とを有し、赤色・蒼白色・蒼色などに變ずるので此の名がある。肉は美味。吐綬雞。

【七門灘】512 シチモンダン 急流の名。四川省江津縣の西。〔輿地紀勝〕七門灘、有ニ大石一橫レ江、凡七處、望レ之如レ門、因名。

【七老會】513 シチラウクワイ 唐の白居易と老年の友人胡・吉・劉・鄭・盧・張等の六人との會合をいふ。各〻が七言六韻詩を賦した。〔白居易、七老會詩序〕胡・吉・劉・鄭・盧・張等六賢、皆多ニ年壽一、余亦次焉、偶於ニ東都敝居履道坊一、合ニ成尙齒之會一、七老相顧、既醉且歡、靜而思レ之、此會希レ有、因各賦ニ七言六韻詩一章一以紀レ之、或傳ニ諸好事者一、會昌

五年三月二十四日、於二白家履道宅一同宴、宴罷賦レ詩。〔盧眞、七老會詩〕先時共作二朝貴、今日猶逢七老翁一。

【七老圖】514 シチラウ 嶺の名。興安嶺の支脈。滿洲熱河省圍場縣の西。

【七里海】515 シチリカイ 湖泊の名。河北省寧河縣の西南。もと寶坻縣に屬した。古の九十九淀の一。北運河の引河、及び天津各引河の水を受け、南流して薊運河を合せ、北塘から海に注ぐ。〔畿輔通志〕七里海、卽北運河青龍灣、藉以蓄レ洩者也、地形窪下、聚潦鱗焉、水盛則極目無レ涯、歲旱、諸淀皆涸、惟七里海、尙有二寧軍沽一道一下通二北塘潮汐一。然水淺道狹、舟楫不レ至、淸雍正五年、怡賢親王、濬二寧軍沽河一起二淮魚洵一達二北塘口一長百四十里、估帆遂通。

【七里岡】516 シチリ 地名。安徽省六安縣の西。明、正德中、流賊趙風子が官兵に敗られた所。

【七里香】517 シチリカウ ❶樹の名。沈丁花(チンチヤウ)(6—171 89··597)の異名。高さ二四尺。枝幹繁茂して、多く二叉をなし、葉は互生し、細長くして厚く、花は香氣が烈しい。春の半ばに開く。瑞香。山礬。〔薛季宣、丁香花詩〕別是南州種、寒花七里香。〔自注〕鄂人號レ此爲二七里香一。〔西湖志引百花藏譜〕山礬生二杭之西山一、三月開レ花、細小而繁、香馥甚遠、卽俗名七里香也、種レ之易レ活。❷香草の名。〔邵氏聞見後錄、二十九〕芸草、云云、遇二秋則葉上微白、如二粉汗一、南人謂二之七里香一。〔夢溪筆談、辨證一〕古人藏レ書、辟二蠹用一レ芸、芸、香草、今人謂二之七里香一。

【七里澗】518 シチカン 地名。❶河南省洛陽縣の東。晉、大安二年、成都王穎の前鋒となつた陸機の軍が、此の地で長沙王乂に破られ、戰死者の死骸が多く積み重なつて、爲に水が流れなかつたといふ。〔水經、穀水注〕其水又東左合二七里澗一、云云、澗有二石梁一、卽旅人橋也。❷河南省陝縣の西。曹陽墟(6—14297··321)の俗稱。〔元和志〕曹陽墟、俗名二七里澗一。❸七里關の❶を見よ。

【七里關】519 クワンリ 關の名。❶湖南省常德縣の北の萬金村。古名を七里澗といふ。〔南史、沈約傳〕司馬休之・鬳郭亮之、招二集蠻一、晉屯二據武陵一、武陵大守王鎭惡出奔、沈林子率レ軍討レ之、斬亮之於七里澗一而納二鎭惡一。❷陝西省洵陽縣の南。楚蜀の衝地。もと附近にあつた銅錢關を、後に、七里溝に移したので此の名が生じた。淸初、守備を置き、後改めて都司を置く。〔洵陽縣志〕七里關堰、在二縣南一百五十里一。

【七里市】520 シリ 地名。江西省贛縣の東、貢水の北岸。〔九域志〕贛縣有二七里鎭一。

【七里絲】521 ch'i¹ li³ ssī¹ 浙江省の菱湖南潯地方に產する座繰絲の稱。

【七里灘】522 グンリ 地名。一名、七里瀨。浙江省桐盧縣嚴陵山の西。七里の長きに亙つて兩岸の山々が相對して絶壁をなし、水流は極めて速い。諺にも「有レ風七里、無レ風七十里」とあつて、舟行頗る困難であるといはれる。〔後漢書、逸民、嚴光傳、後人名二其釣處一爲二嚴陵瀨一焉、注〕顧野王輿地志曰、七里瀨、東陽江下與二嚴陵瀨一相接。〔淸一統志〕七里瀨、一名七里灘、在二桐盧縣嚴陵山西一、元和郡縣志、在二建德縣東四十里一。太平寰宇記、七里瀨、卽富春渚也、葉夢得避暑錄話、七里灘、兩山聳起壁立、連亙七里、土人謂二之瀧一、舊志、七里灘上距二嚴州一四十里、又下數里乃至二釣臺一。兩山夾峙、水駛如レ箭、諺云、有レ風七里、無レ風七十里、言下舟行難二於牽挽一、惟視レ風爲中遲速上也。

【七里店】523 シチリテン 地名。河南省開封縣の北。五代漢の隱帝の末、郭威を防いで漢軍が潰走した時、帝は獨り三相及び從官數十人と此處に宿つた。〔五代史、漢隱皇帝紀〕泰寧軍節度使慕容彥超、軍二于七里店一。

【七里沔】524 ベンリ 川の名。湖北省沔陽縣の東。屈原が漁父に會つた所といふ。〔太平寰宇記〕夏水合二諸水一入レ漢、漢人名二七里沔一、卽屈原逢二漁父一處。

【七里瀨】525 シチリライ 七里灘(522)に同じ。

【七輪扇】526 シチリンセン 長安の巧工丁緩の作つた扇。七つの扇を連ねて作る。〔西京雜記、一〕長安巧工丁緩者、爲二常滿燈七龍五鳳一云云、又作二七輪扇一、連二七輪一、大皆徑丈、相連續、一人運レ之、滿堂寒顫。

【七輪風】527 シチリンゼ 七輪扇を用ひて起した風。七輪扇を見よ。〔劉孝威、行二幸甘泉宮一歌〕輦廻百子閣、扇動七輪風。

【七令丞】528 シチリョウジョウ 漢代の官名。將作大匠の屬官。〔漢書、百官公卿表上〕將作少府、秦官、云云、景帝中六年、更レ名將作大匠、屬官有二石庫・東園主章・左右前後中校・七令丞一。

【七階選人】529 シナイカイセンジン 宋の制度で、一定の順序に由つて官吏が次々に遷つてゆく七つの官職。卽ち、從政郎・宣教郎・文林郎・通直郎・承直郎・承議郎・奉議郎をいふ。〔宋史、職官志九〕崇寧初、因二刑部尙書鄧洵武請一、又換二選人七階一。

【七休居士】530 シチキウコジ 明、董宜陽(9—31433··18 9)の號。

【七行俱下】531 シチギヤウトモニクダル 書を讀むに七行を一度に讀む。非常に聰明な喩。〔南史、宋孝武帝紀〕少機穎神明爽發、讀書七行俱下、才藻甚美。

【七檜山房】532 シチクワイサンバウ 明、楊儀(6—15112··82)の室名。

【七俠五義】533 シチケフゴギ 淸代の小說の名。忠烈俠義傳卽ち三俠五義を、俞樾が少しく訂正したもので、三俠五義の第一回を史傳に基いて書き改め、次に南俠北俠雙俠は四人であるから三俠の名は正しくないとして、小俠艾虎を之に加へて五義とし、黑妖狐智化と小諸葛沈仲元を五鼠に加へて七俠とし、七俠五義と改名した。三俠五義(1—12··1956)を見よ。

【七股八叉】534 ch'i¹ ku³ pa¹ ch'a¹ もつれ亂れる。目茶苦茶な。七叉八股。

【七歲到老】535 ch'i¹ sue⁴ tao⁴ lao³ 三つ兒の魂百まで。

【七抓八拏】536 ch'i¹ chua¹ pa¹ na² 手當り次第に持出す。無暗に取る。

【七嘴八舌】537 シチシハチゼツ 意見が多い。あちこちから意見を吐く。〔袁枚、牘外餘言〕楚公子圍、爲二號之會一、其時、子圍篡二國之妖、人人知レ之、皆有二不平之意一、故晉大夫七嘴八舌、冷譏熱嘲、皆由二於心之大公一也。

【七修類稿】538 シチシウルイカウ 書名。五十一卷。明、郎瑛撰。天地・國事・義理・辨證・詩文・事物・奇謔の七門に分ける。〔四庫提要、子、雜家類存目〕。

【七週戰爭】539 シチシウセンサウ 一八六六年のプロシヤとオーストリヤとの戰爭。七週間で終つたからいふ。普墺戰爭。

【七上八下】540 ch'i¹ shang⁴ pa² hsia⁴ 心中混亂する。あれやこれやと迷つて決心がつかない。〔水滸傳、二十六回〕那胡正卿、心頭十五個弔桶打水、七上八下、暗暗地尋思道、既是好意請我們喫酒、如何卻這般相待、不許人動身。〔通俗編、數目、七上八下〕見二趙德麟侯鯖錄一、元賈仲名曲、作二七上八落一。

【七上八落】541 ch'i¹ shang⁴ pa² luo⁴ めちやくちやに亂れる。

【七手八脚】542 ハチシュハチキヤク ❶あれこれと手を出すこと。〔通俗編、身體、七手八脚〕五燈會元、德光上堂偈云、七手八脚、三頭兩面、耳聽不レ聞、眼覷不レ見、苦樂順逆、打成一片。❷ch'i¹ shou³ pa¹ chiao³ 大勢の人々が天手古舞すること。〔紅樓夢、三十三回〕衆人答應、七手八脚、忙把寶玉送入怡紅院內自己床上臥好。

【七處平滿】543 ヒヤウマン 佛如來三十二相の一。兩足・兩手・兩肩及び額の七箇處が、皆ふくやかで端正なこと。〔琅琊代醉編、七處平滿〕十住論云、佛身七處平滿、謂二兩手肩兩足及額一。

【七升之布】544 シチシンジョウ 目のあらい粗末な布。五百六十縷を織つたもの。一升は八十縷。〔國語、魯語上〕衣不レ過二七升之布一。〔注〕八十縷爲レ升。

【七松處士】545 シチショウ 唐、鄭薰(11—39647··10 二)の號。庭に七本の松を植ゑて、之を號とした。〔唐書、鄭薰傳〕薰端勁、再知二禮部一、擧二引寒俊、士類多レ之、既老號二所居一爲二隱巖一、蒔二松于庭一、號二七松處士一云云。

【七寸五分】546 クワクワン 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【七千夜叉】547 シチセンヤシヤ 佛藥師十二神將の眷屬の總稱。〔藥師經〕此十二藥叉大將、一一各有二七千夜叉一、以爲二眷屬一。

【七談八火】548 ch'i¹ t'an² pa¹ huo³ 話に條理がない。出鱈目な話をする。口から出まかせ。

【七扭八歪】549 ch'i¹ niu³ pa¹ wai¹ 曲つたり歪んだりすることの甚しい形容。

【七長八短】550 chʻi¹ chʻang² pa¹ tuan³ ㊀長短不揃ひな。㊁是非を論ずる。彼れ此れと批評する。㊂不幸な事件。
【七張八嘴】551 chʻi¹ chang¹ pa¹ tsuei³ うるさくしやべり合ふ。
【七顚八起】552 ナナコロビヤオキ 人の運命の浮き沈みのはげしい形容。七轉八起。
【七顚八倒】553 シチテンバッタウ ㊀幾度もころびたふれる。世の中が甚しく亂れることをいふ。〔朱子語類〕當二商之季一、七顚八倒、上下崩頽。〔朱子全書、諸子、釋氏〕少閒用處都差、所二以七顚八倒、無レ有二是處一。〔碧巖錄〕到二這裏一、七顚八到、於二一切時中一、得二大自在一。㊁chʻi¹ tien¹ pa¹ tao³ 忙しくてたまらぬ。てんてこ舞ひの忙しさ。㊂シチテンバッタウ 苦痛に堪へず、のたうちもがくこと。〔聖德太子繪傳記、一〕七顚八倒悶絕し。
【七八成兒】554 chʻi¹ pa¹ chʻêng² êrh 七八分通り。十中の七八割。
【七品堂官】555 シチヒンダウクワン 知縣の異名。知縣（**8―23935**··64）を見よ。〔唐書、百官志四下〕中縣令一人、正七品、云云、下縣令一人、從七品。〔日知錄、政事、州縣品秩〕唐則州有二上中下三等一、縣有二京畿上中中下下六等一、品各有レ差、太祖實錄、吳元年定、縣有二上中下三等一、稅糧十萬石已下爲二上縣一、知縣從六品、縣丞從七品、主簿從八品、六萬石已下爲二中縣一、知縣正七品、縣丞正八品、主簿從八品、三萬石以下爲二下縣一、知縣從七品、丞簿如二中縣之秩一。
【七摒八湊】556 chʻi² ping⁴ pa² tsʻou⁴ 無理算段する。無理に集め合せる。
【七返靈砂】557 シチヘンレイサ 仙藥の名。還丹。〔雲笈七籤〕七返靈砂論曰、火之成數是七、七度變轉、以應二陽九之極體一也。〔劇談錄〕有二張孺華者一、知二隱堯出レ世修煉一、徑往二洞庭一詣レ之、隱堯俾三坐守二藥爐一、謂曰、爐中煉藥、乃七返靈砂也、餌レ之、可二還レ魂返レ魄。
【七菩提分】558 シチボダイブン 佛七覺支(51)に同じ。
【七輿大夫】559 シチヨタイフ 春秋戰國時代の官名。公伯に屬する副車七乘を主る七人の大夫をいふ。〔左氏、僖、十〕郤芮曰、幣重而言甘、誘レ我也、遂殺二丕鄭・祁舉、及七輿大夫、左行共華・右行賈華・叔堅・騅歂・纍虎・特宮・山祁一。〔疏〕周禮大行人云、侯伯七命、貳車七乘、貳卽副也、每車、一大夫主レ之、謂二之七輿大夫一。〔左氏、襄、二十三〕唯魏氏、及二七輿大夫一與レ之。〔注〕七輿、官名。〔史記、晉世家〕遂殺二丕鄭及里克、丕鄭之黨、七輿大夫一。
【七里結界】560 シチリケッカイ ㊀佛障魔を入れぬため、七里四方の所に界をたてて、結護すること。〔佛說安宅神呪經、結界呪文〕伽婆致、伽波呵、悉波呵、東方大神龍王、七里結界、金剛宅、南方大神龍王、七里結界、金剛宅、西方大神龍王、七里結界、金剛宅、北方大神龍王、七里結界、金剛宅、如レ是三說。㊁シチリケッパイ 物事を忌みきらつて近づけぬこと。㊀の語の訛り。〔室町千疊敷、一〕諫言申す人は七里けつぱい。
【七里之郭】561 シチリノクワク 七里四方の城郭。小さい町。〔孟子、公孫丑下〕三里之城、七里之郭、環而攻レ之、而不レ勝。
【七里先生】562 シチリセンセイ 宋、江端友（**6―17140**··485）の號。
【七離七遭】563 シチリシチサウ 何度もわかれたり會つたりすること。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕兄弟竝突二入陸軍一、七離七遭、欲レ獲二直義一。
【七稜八瓣】564 chʻi¹ lêng² pa² pan⁴ 四分五裂。又、凸凹で甚だ醜いこと。
【七零八碎】565 chʻi¹ ling² pa² suei⁴ 粉微塵になる。
【七零八落】566 シチレイハチラク ㊀おちぶれる。〔宣和遺事、前集下〕使レ得三七零八落、或撞二著村沙子弟一。㊁chʻi¹ ling² pa² luo⁴ 支離滅裂になる。
【七歪八扭】567 chʻi¹ wai¹ pa¹ niu³ まがりくねる。
【七紫三羊毫】568 chʻi¹ tzŭ³ san¹ yang² hao² 水筆の一種。羊毛の割合から名づける。
【七變而爲九】569 シチヘンジテキウトナル 易の少陽が變じて老陽となる義。七は少陽の數、九は老陽の數。〔列子、天瑞〕易變而爲レ一、一變而爲レ七、七變而爲レ九、九變者究也。〔注〕一變而爲二七九一、不レ以二次數一者、全二擧陽數一、領二其都會一。
【七姨兒八姥姥】570 chʻi¹ i² êrh pa¹ lao³ lao 多くの伯母さん。
【七朝紀事本末】571 シチテウキジホンマツ 書名。二百四十一卷。五朝紀事本末に、淸の張鑑の西夏紀事本末三十二卷、淸の楊陸榮の三藩紀事本末四卷を加へたもの。九朝紀事本末（**1―167**··754）を見よ。
【七個不依八個不饒】572 chʻi² kê pu⁴ i¹ pa² kê pu⁴ jao² 如何になだめてもお互に相讓らぬ。

【丄】7
シヤウ 上（**1―13**）の古字。〔說文〕上、丄、篆文上。〔集韻〕上、古作レ丄。

【丅】8
カ ㊀下（**1―14**）の古字。〔說文〕下、丅、篆文下。〔正字通〕下、說文、作レ丅。㊁注音符號の聲符の一。舌前音。舌前部を上升して輕く硬口蓋と接觸させ、舌面を摩擦する樣にして齒縫を通じて氣息を外洩させると、此の音になる。シhs。正形はT。此の符號を單獨で讀む時は、韻符ㄧを加へて、シイhsi と讀む。
參考 丅（**1―2**）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕丅、丙丁之丁。丅、古下字。

【丂】9
シツ ㊀七（**1―6**）の本字。〔正字通〕七、篆作レ丂、六書統、作レ七、同文舉要、作レ丂、从二說文一爲レ正。㊁注音符號の聲符の一。舌齒音。發音法はㄗと同じであるが、ㄗよりも氣息を烈しく外洩させる有氣音。ツtzʻŭ。正形はㄘ。

二畫

【万】10
㊀バン マン 〔集韻〕無販切 ㄨㄢˋ wan⁴ 願
㊁ボク モク 〔集韻〕密北切 ㄇㄛˋ mo⁴ 職

㊀㊀**數の單位**。千の十倍。通じて萬（**9―31339**）に作る。〔集韻〕万、數也、通作レ萬。〔韻會小補〕万、廣韻、十千爲レ万、通作レ萬。㊁姓。〔于烈碑〕陰山之北、有下山號二万紐于一者上、奕葉居レ之、遂以爲レ氏。㊂注音符號の聲符の一。（今は使用せず）。上齒を下唇の少し內側に著けて息の通路を塞ぎ、聲を出して其の閉鎖を破ると、此の音になる。元は三十六字母の微母の字を注音するのに用ひたが、今はㄨを以て之に代へ、万は唯地方音・外國音にのみ用ひる。此の符號を單獨で讀むときは、韻符ㄛを加えて、ヴォ vo と讀む。㊁万俟は複姓。或は寐（**4―9017**）に作る。〔集韻〕万、万俟、虜姓、或作レ寐。
名乘 カズ。
參考 西域では萬の數を表はすに卍を用ひる。万の字は其の卍の變形である。〔正字通〕万、今俗、借レ萬爲レ卍、不レ識二萬爲一レ蠭王一也、楊桓・周伯琦・朱謀㙔・吳元滿皆謂、萬、古作レ卍、俗作レ万、按、梵書華嚴音義曰、卍、本非レ字、大周長壽二年、主上權制二此字一、著二于天樞一、音萬、謂二吉祥萬德所一レ集。
【万俟】1 ボクキ 複姓。〔元和姓纂〕拓拔氏後、有二万俟氏一。〔姓譜〕万俟氏、因二万俟部落一而爲レ姓。〔尙友錄〕万俟、後魏獻帝季弟之後、爲二十姓一、官氏志、稱二万俟氏一。
【万俟卨】2 ボクキセツ 宋、陽武の人。字は元忠。諡は忠靖。岳飛を恨み、秦檜に讒言して、飛の父子を獄死させた。官は尙書左僕射。〔宋史、四百七十四〕。
【万俟普】3 ボクキフ 北齊、太平の人。字は普撥。其の先は匈奴の別種。魏に降り、齊に歸服して、朔州刺史となる。〔北齊書、二十七〕・〔北史、五十三〕。
【万俟洛】4 ボクキラク 北齊の人。普の子。字は受洛干。諡は武。父に隨つて魏に降り、建昌郡公に封ぜられ、勇名があつた。〔北齊書、二十七〕・〔北史、五十三〕。
【万俟雅言】5 ボクキガゲン 宋の詞人。自ら詞隱と號

す。崇寧中、大晟府制撰となる。著に大聲集がある。

【万代】6 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

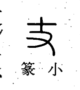
【万刀】7 姓氏。〔姓林全書〕。

【万木】8 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【万年馬】9 姓氏。〔和爾雅〕。

【万里小路】10 ❶京都市の地名。❷姓氏。

【丈】11 チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕雉兩切 ㄓㄤˋ chang⁴ 養


小篆

❶十尺の長さ。もと支(5―13061)に作る。〔集韻〕支、隷作レ丈。〔說文〕支、十尺也、从二又持一レ十。〔段注〕夫部曰、周制、八寸爲レ尺、十尺爲レ丈。〔漢書、律歷志〕十分爲レ寸、十寸爲レ尺、十尺爲レ丈。〔左氏、哀、元〕廣丈高倍。〔禮、曲禮上〕席間函レ丈。❷地を度ること。〔左氏、襄、九〕度二守備之處一。〔疏〕十尺爲レ丈、巡二行其城一、巡丈レ城。〔注〕巡、行也、丈、度也、云云、行以二丈一度レ之、故云レ丈レ城。〔未信篇〕八月初三日開レ丈。❸たけ。長さ。〔左氏、昭、三十二〕計二丈數一。〔注〕計二所レ當レ城尺數一也。❹長老、又は朋友の稱。〔易、師〕師貞、丈人吉。〔鄭注〕丈人能以二法度一長二於人一、丈之言、長。〔五朝名臣言行錄、七〕范六丈、聖人也。❺俗に丈(1―26)に作る。〔正字通〕丈、俗加レ點作レ丈、尤非。❻つゑ。杖(6―14469)に通ず。〔六書正譌〕丈、借爲二扶レ行之杖一、老人持レ杖、故曰二丈人一。❼姓。〔萬姓統譜〕丈、見二姓苑一。邦❶鎌倉・室町時代に行はれた地積の單位。七十二步。一段の五分の一。❷藝人などの名に添へて呼ぶ敬語。大夫の二字を詰めた字。

名乘 タケ。トモ

解字 會意。ヌは右手、十は十尺の義。周の制度では、八寸を尺となし、十尺を丈とする。身長八尺ある者を丈夫といふ。古は、手で物の長短を計つたが、兩臂を伸ばした長さが周の丈にあたる。〔說文、丈、段注〕夫部曰、周制、八寸爲レ尺、十尺爲レ丈、人長八尺、故曰二丈夫一、然則伸レ臂一尋、周之丈也、故从二又持一レ十。

【丈篙】1 chang⁴ kao¹ 地積の測量に用ひる檢棹。測量竿。

【丈勘】2 chang⁴ k'an⁴ 土地田畑を測量する。

【丈起】3 chang⁴ ch'i³ 土地などの竿打ちを始める。測量し始める。

【丈器】4 chang⁴ ch'i⁴ 田地測量の器械。

【丈菊】5 チヤウギク ひまはり。日車草。向日葵。〔羣芳譜、丈菊〕丈菊、一名、西番菊、一名、迎陽花、莖長丈餘、幹堅粗如レ竹、葉類レ麻、多直生、雖レ有二傍枝一、只生二一花一、大如二盤盂一、單瓣色黃、心皆作レ窠、如二蜂房狀一、至レ秋、漸紫黑而堅、取二其子一種レ之、甚易レ生、花有レ毒、能二墮胎一。〔植物名實圖考、羣芳類、丈菊〕此花向レ陽、俗閒通二呼向日葵一。

【丈缺】6 chang⁴ ch'üeh¹ 測量に手をつける。檢地の打ちこみをする。

【丈册】7 チヤウサク 土地測量に關する檢地帳。〔福惠全書、淸丈部、立二丈冊一〕今則立二一丈冊之法一。

【丈山】8 チヤウザン 石川凹の號。石川丈山(8―24024‥479)を見よ。

【丈室】9 チヤウシツ 方丈の室。一丈四方の狹い部屋。〔白居易、秋居書レ懷詩〕丈室可レ容レ身、斗儲可レ充レ腹。〔薛能、雕堂詩〕丈室久多病、小園晴獨遊。〔維摩經〕來入二維摩丈室一。〔書言故事、釋教類〕長老所レ歸室、曰二方丈・丈室一。

【丈尺】10 チヤウシヤク ❶長さの單位。寸尺。寸法。〔禮、月令〕日夜分則同二度量一、〔注〕丈尺曰レ度、斗斛曰レ量。〔禮、明堂位〕頒二度量一、〔注〕度謂二丈尺高卑廣狹一也。〔史記、商君傳〕平二斗桶權衡丈尺一。❷丈尺にあてて物の長さをはかること。〔淮南子、泰族訓〕太山不レ可二丈尺一也。❸長さ一丈の物指。〔古今著聞集、十〕丈尺にてうちて見れば。

【丈尺權衡】11 チヤウシヤクケンカウ 長短をはかるさをと、輕重をはかるはかり。〔近思錄、致知〕論孟如二丈尺權衡一相似、以レ此去量二度事物一、自然見レ得長短輕重一。

【丈出】12 チヤウシユツ 土地を測量して舊面積から量出し得た步數。〔六部成語、戶部、丈出、注解〕淸丈所レ得之數也。

【丈人】13 チヤウジン ❶老人。丈は杖、老人は杖を曳くからいふ。〔六書正譌〕丈、借爲二扶レ行之杖一、老人持レ杖、故曰二丈人一。〔淮南子、道應訓〕狐邱丈人。〔注〕丈人、老而杖二於人一者。❷德行ある長老の稱。又、聖人。〔易、師〕師貞、丈人吉。〔陸績注〕丈人者、聖人也。〔論語、微子〕遇二丈人以レ杖荷一レ蓧。〔皇疏〕丈人者、長宿之稱也。〔淮南子、脩務訓〕以二年之少一、爲二閭丈人一說。〔注〕丈人、長老之稱。❸妻の父。岳父。泰山は五嶽の長で、其の上に丈人峯があることから、此の名がある。或はいふ。丈人行及び丈人峯を見よ。〔陔餘叢考、丈人〕王充論衡、人形一丈正也、故名二男子一爲二丈夫一、尊二公嫗一爲二丈人一也、至レ壻、呼二婦翁一曰二丈人一。〔釋親考〕會典、妻父母、卽丈人・丈母、類書纂要、嶽夫・嶽丈・丈人・婦翁・外父・嶽公・嶽翁、並稱二妻父一也、泰山爲二五岳之長一、其上有二丈人峯一、故稱二妻父一爲二泰山岳父一、云云、野客叢書云、今人呼二丈人一爲二泰山一、或者謂、泰山有二丈人峯一、故云、據二雜俎一云云、與二前說一不レ同、余觀二三國志裴松之注一、獻帝舅車騎將軍董句下、謂古無二丈人之名一、故謂二之舅一、按、裴松之宋元嘉時人、呼二婦翁一爲二丈人一、已見二此時一。❹祖父。〔顏氏家訓、書證〕今世俗、猶下呼二其祖考一爲中先亡丈人上。❺父の友をいふ。〔稱謂錄、父之友、丈人〕講藝記、丈人、吾父之友。❻父の姉妹をいふ。〔稱謂錄、父之姉妹、丈人〕風操篇、吾嘗問二周宏謙一曰、父母中外姉妹、何以稱レ之、周曰、亦呼爲二丈人一、自レ古未レ見三丈人之稱施二於婦人一也、吾親表所レ行若二父屬一者、爲二某姓姑一、母屬者爲二某姓姨一。❼兎。〔抱朴子、登涉〕卯日、稱二丈人一者、兎也。❽星の名。軍市・西南の二星。〔晉書、天文志上〕軍市西南二星、曰二丈人一。

【丈人行】14 チヤウジンカウ ❶妻の父の排行にあること。轉じて、年長の尊者をいふ。〔史記、匈奴傳〕自謂、我兒子、安敢望二漢天子一、漢天子、我丈人行也。〔杜甫、李潮八分小篆歌〕豈知吾甥不二流宕一、丞相中郎丈人行。❷老人の仲間。〔唐子西、二月見レ梅詩〕只今已是丈人行、肯與二年少一爭二春風一。❸義兄弟の間で、一方の父を指す詞。〔資治通鑑、唐記、注〕滉與二元佐一結爲二兄弟一、視二其父一爲二丈人行一。

【丈人觀】15 チヤウジンクワン 宮觀の名。晉、置く。四川省灌縣に在る。五岳丈人(1―257‥122)を見よ。〔海錄碎事、道釋、宮觀〕丈人觀、在二青城縣一、青城山記云、昔寧封先生、棲二於此岩之上一、黃帝築レ壇、拜爲二五岳丈人一、晉代置レ觀焉。

【丈人峯】16 チヤウジンホウ 峯の名。山東省泰安縣にあり、泰山の一峯。其の形は背の曲つた老人に似てゐる。〔泰山道里記〕絕巓西里許、爲二丈人峯一、狀如二老人傴僂一。

【丈增】17 チヤウゾウ 土地測量の結果、其の畝數が增加すること。〔六部成語、戶部、丈增、注解〕因二丈量一、而知二其畝數增加一。

【丈單】18 chang⁴ tan¹ 耕地の證明書。土地權利證。地券。

【丈長】19 タケナガ ❶奉書紙の類で、縱一尺六寸五分、橫二尺三寸あるもの。〔持統天皇歌軍法〕此の萬九に向かつて紙穿鑿は、舌長・丈長。❷丈長の紙で作つた平元結。〔雪女五枚羽子板、上〕小枕捨て丈長も、より元結に大髻。

【丈丈】20 チヤウチヤウ 尊長の稱。〔蘇軾、答二范蜀公一尺牘〕顚仆罪戾、世所二鄙遠一、而丈丈獨賜二收錄一。〔唐詩紀事、鄭谷〕谷字守愚、遠州人、故永州刺史之子、幼年、司空圖與二刺史一同院、見而奇レ之曰、曾吟二得丈丈詩一否、曰、吟得。

【丈亭】21 チヤウテイ 地名。浙江省慈谿縣の西境。慈谿の分流する處。宋の紹興の時、舊亭を改めて丈亭館を建てた。今、滬杭甬鐵道が通じてゐる。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、慈谿縣〕丈亭渡、縣西南四十五里、慈谿江分流處也、舊建二丈亭於其上一、宋紹興閒、改爲二丈亭館一。〔寧波府志〕丈亭館、在二縣西南四十五里一。

【丈度】22 チヤウド 一丈の物指。又、たけ。長さ。〔漢書、律歷志〕度者、分寸尺丈引也、所二以度一長短一也、本起二黃鐘之長一、以二子穀秬黍中者一、一黍之

廣度レ之、九ニ十ー分黄鐘之長一、一爲ニ一分一、十分爲レ寸、十寸爲レ尺、十尺爲レ丈、十丈爲レ引、而五度審矣、其法用レ銅、高一寸、廣二寸、長一丈、而分寸尺丈存焉。〔三才圖會、度圖考〕度、以レ銅爲レ之、長一丈、廣二寸、高三寸。

【丈二】23 チャウニ 一丈二尺。〔漢書、嚴助傳〕陛下以ニ方寸之印、丈二之組一、塡ニ撫方外一。

【丈八】24 チャウハチ 一丈八尺。〔通俗文〕矛長丈八。〔通俗編、武功、丈八蛇矛〕釋名、矛長丈八曰レ矟。

【丈八溝】25 チャウハチコウ 地名。㊀河南省中牟縣の西南。古の圃田澤の遺跡。澤に九溝があり、丈八溝は其の中の一つ。今は東北流して賈魯河に注ぐ。㊁陝西省長安縣の西南。唐の杜甫が諸公子に陪して納涼した地。潏水の上流。〔張禮、遊城南記〕下杜城之西、有ニ丈八溝一。〔長安縣志〕丈八溝、今城中通濟渠水、從レ此分入。

【丈八炭】26 chang⁴ pa¹ t'an⁴ 石炭の一種。

【丈八蛇矛】27 チャウハチダボウ 矛の名。長さ一丈八尺。〔晉書、劉曜載記〕安、左手奮ニ七尺大刀一、右手執ニ丈八蛇矛一、近交則刀矛俱發、輙害ニ五六一、隴上人爲レ歌曰、七尺大刀奮如レ湍、丈八蛇矛左右盤、十盪十決無レ當レ前。〔通俗編、武功、丈八蛇矛〕李青蓮集、送ニ鄭灌從軍一、丈八蛇矛出ニ隴西一、彎弧拂箭白狼啼。

【丈八燈臺照遠不照近】28 chang⁴ pa¹ têng¹ t'ai² chao⁴ yüan³ pu² chao⁴ chin⁴ 燈臺もと暗し。身邊の事は却て知れぬ。

【丈匹】29 チャウヒツ 丈は一丈、匹は四丈。共に布帛の長さ。〔後漢書、列女、樂羊子妻傳〕此織生レ自ニ蠶繭一、成ニ于機杼一、一絲而累以至ニ於寸一、累レ寸不レ已、遂成ニ丈匹一、今若斷ニ斯織一也、則損ニ失成功一、稽ニ廢時月一、夫子積レ學、當下日知ニ其所一レ亡、以就中懿德上、若中道而歸、何異レ斷ニ斯織一乎。

【丈夫】30 チャウフ ㊀をとこ。ますらを。〔說文〕夫、周制、以ニ八寸一爲レ尺、十尺爲レ丈、人長八尺、故曰ニ丈夫一。〔易、隨〕係ニ小子一、失ニ丈夫一。〔公羊、定、八〕如ニ丈夫一何。〔注〕丈夫、大人稱也。〔穀梁、文、十二〕男子二十而冠、冠而列ニ丈夫一。〔孟子、滕文公上〕彼丈夫也、我丈夫也。〔孟子、滕文公下〕丈夫之冠也、父命レ之。〔大戴禮、本命〕謂ニ之丈夫一、丈者、長也、夫者、扶也、言レ長ニ萬物一也。㊁才能の、衆に過ぎた人。〔正字通〕夫、按、丈者、尊稱之辭、倚仗義近、非ニ盡長八尺而後謂一レ之丈夫一、如必人長八尺、則凡長不レ滿ニ八尺一、才能過レ人者、皆不レ可レ爲ニ丈夫一、世安得ニ人人皆長八尺一也。㊂chang⁴ fu をつと。夫。㊃ ヂヤウブ ㋑健康。強いこと。〔狂言記、梟〕日比丈夫なもので御座るが。㋺堅固。かたいこと。

【丈夫國】31 チャウフコク 國の名。㊀古、海外にあった國。〔山海經、海外西經〕丈夫國、在ニ維鳥北一、其爲レ人、衣冠帶レ劍。㊁北印度にあった國。天親菩薩の生國。〔婆藪槃豆傳〕既居ニ此地一、顯ニ丈夫能一、因レ此立レ名、稱ニ丈夫國一。

【丈夫子】32 チャウフシ 息子。男の子。〔戰國、燕策〕非ニ徒不レ愛レ子也、又不レ愛ニ丈夫子一獨甚。〔史記、仲尼弟子傳〕瞿年四十後、當レ有ニ五丈夫子一。〔注〕集解曰、五男也。

【丈夫神】33 チャウフシン 男神。をがみ。

【丈夫女】34 チャウフヂヨ 丈夫の樣な行ひのある女。女丈夫。〔吳越春秋、王僚使公子光傳〕適會ニ女子擊ニ綿於瀨水之上一、筥中有レ飯、子胥遇レ之、謂曰、夫人可レ得ニ一餐一乎、女子曰、妾獨與レ母居、三十未レ嫁、飯不レ可レ得、子胥曰、夫人賑ニ窮途少飯一、亦何嫌哉、女子知レ非ニ恆人一、遂許レ之、發ニ其簞筥一、飯ニ其盎漿一、長跪而與レ之、子胥再餐而止、女子曰、君有ニ遠逝之行一、何不ニ飽而餐一レ之、子胥已餐而去、又謂ニ女子一曰、掩ニ夫人之壺漿一、無レ令ニ其露一、女子歎曰、嗟乎、妾獨與レ母居三十年、自守ニ貞明一、不レ願ニ從適一、何宜下饋レ飯而與ニ丈夫一、越虧中禮儀上、妾不レ忍也、子行矣、子胥行、反顧ニ女子一、已自投ニ於瀨水一矣、於乎、貞明執レ操、其丈夫女哉。

【丈夫拜】35 チャウフハイ 佛女人の拜をいふ。座拜。

【丈夫民】36 チャウフノタミ 古の丈夫國の人民。丈夫國を見よ。〔淮南子、墬形訓〕凡海外三十六國、自ニ西北一至ニ西南方一、有ニ丈夫民一。〔注〕丈夫民、其狀皆如ニ丈夫一、衣ニ黃衣一、冠帶レ劍。

【丈夫淚】37 チャウフノナミダ 節義の爲に流す男子の淚。丈夫非レ無レ淚不レ灑ニ離別閒一を見よ。

【丈夫志幹】38 チャウフシカン 佛意志強固な勇者。永い間の修行に堪へて德を積む、勇猛精進の菩薩。

【丈夫會應有知己】39 チャウフカナラズマサニチキアルベシ 大丈夫には必ず知己が出來る。〔張謂、贈ニ喬琳一詩〕丈夫會應レ有ニ知己一、世上悠悠何足レ論。

【丈夫爲志窮當益堅】40 チャウフノココロザシタルキユウスレバマサニマスマスカタカルベシ 丈夫の志は、困窮すればする程、益〻堅固になるべきである。〔後漢書、馬援傳〕常謂ニ賓客一曰、丈夫爲レ志、窮當ニ益堅一、老當ニ益壯一。

【丈夫非無淚不灑離別閒】41 チャウフナミダナキニアラズリベツノカンニソソガズ 大丈夫とても非情なのでは無いけれども、離別の際などの事に淚は流さない。〔陸龜蒙、別離詩〕丈夫非レ無レ淚、不レ灑ニ離別閒一、仗レ劍對ニ樽酒一、恥レ爲ニ游子顏一。

【丈夫生不五鼎食死則五鼎亨】42 チャウフイキテゴテイニクラハザレバシシテスナハチゴテイニニラレン 男と生れた以上、生きてゐる中に五鼎の御馳走を食ふ身分に榮進せぬ樣ならば、寧ろ死んで鼎鑊の誅を受たけ方がよい。榮達を希ひ望む喩。五鼎食(**1**—**257**‥860)・五鼎食(**1**—**257**‥861)を見よ。〔漢書、主父偃傳〕偃曰、臣結髮游學、四十餘年、身不レ得レ遂、親不ニ以爲一レ子、昆弟不レ收、賓客棄レ我、我阸日久矣、丈夫生不ニ五鼎食一、死則五鼎亨耳。〔注〕張晏曰、五鼎食、牛羊豕魚麋也、諸侯五、卿大夫三、師古曰、五鼎亨レ之、謂レ被ニ鑊亨之誅一。

【丈部】43 ハセツカベ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、三〕。

【丈母】44 チャウボ ㊀父方の伯叔父の妻。〔顏氏家訓、風操〕中外丈人之婦、猥俗呼爲ニ丈母一。㊁義兄弟の母。〔資治通鑑、唐紀〕(德宗、貞元二年)滉曰、滉力可レ及、弟宜ニ早入朝一、丈母垂白。〔注〕韓滉與ニ劉玄佐一結爲ニ兄弟一。㊂妻の母。〔柳宗元、祭ニ獨孤氏丈母一文〕某以ニ清酌之奠一、祭ニ于獨孤氏丈母之靈一。〔猗覺寮雜記〕今專稱ニ外姑一曰ニ丈母一、柳子厚有下祭ニ楊詹事丈人獨孤氏丈母一文上、則知ニ唐已如一レ此。〔通俗編、稱謂、丈母〕史記刺客傳注、尊ニ婦嫗一爲ニ丈人一者、漢書、謂ニ淮陽憲王外王母一爲ニ丈人一、詩云、丈人故嫌レ遲、則稱ニ其翁丈人一、應レ得下幷ニ其嫗一曰中丈母上。

【丈母娘】45 chang⁴ mu³ niang² 妻の母。姑。

【丈餘】46 ヂヤウヨ 一丈餘り。〔山海經、中山經〕其上有レ草焉、生而秀、其高丈餘。〔樂府讀曲歌〕登店賣ニ三葛一、郞來賣ニ丈餘一。〔國史略、高倉天皇〕八月、有レ蚊集ニ閑院南殿一、丈餘。

【丈量】47 ヂヤウリヤウ ㊀一丈を單位として長さをはかる。〔漢書、枚乘傳〕夫銖銖而稱レ之、至レ石必差、寸寸而度レ之、至レ丈必過、石稱丈量、徑而寡レ失。㊁土地の面積を測量すること。〔明史、食貨志一〕顧鼎臣請ニ履畝丈量一、丈量之議、由レ此起、江西安福、河南裕州首行レ之。〔六部成語、戶部、丈量、注解〕丈ニ量畝數一、淸ニ理界限一也。〔淸會典事例、戶部、田賦〕丈量、順治十年覆准、直省州縣魚鱗老冊、原載ニ地畝坵段坐落田形四至等項一、閒有ニ不淸者一、印官親自丈量。

【丈六】48 ヂヤウロク ㊀佛身のたけ一丈六尺ある佛像。釋迦出世時代の印度人の身長は普通八尺であつたが、後世の佛敎徒は釋迦を尊敬の餘り、其の像を作るのに一般人の倍尺である一丈六尺とした。〔後漢書、西域、天竺傳〕西方有レ神、名曰レ佛、其形長丈六尺、而黃金色。〔北史、胡叟傳〕鑄ニ丈六金像一。〔傳燈錄〕西方有レ佛、其形長丈六。〔佛說十二遊經〕調達身丈五四寸、佛身長丈六尺。〔行事鈔、下〕明了論云、人長八尺、佛則倍レ之丈六。〔古事談、五〕某奉レ造ニ立數體之丈六一、於ニ御菩提一不レ可ニ疑思召一。㊁あぐらを組む。又、其の形。丈六佛の結跏に似てゐるからいふ。〔かなほし〕安座し給へと云ふ事をぢやうろくかき給へといふ詞は、佛の丈六の像の膝を組みおはする樣より出でたる歟。

【丈六佛】49 ヂヤウロクホトケ 佛身長一丈六尺の佛像。〔日本書記、欽明紀〕六年秋九月、是月、百濟造ニ丈六佛像一、製ニ願文一曰、蓋聞、造ニ丈六佛一、功德甚大。

【丈六金身】50 ヂヤウロクコンシン 佛佛像の名。丈六佛に同じ。

【丈六八尺】51 ヂヤウロクハツシヤク 身長八尺の佛を尊敬し、之を二倍して稱すること。〔觀無量壽經〕阿彌陀佛、神通如レ意、於ニ十方國一、變現自在、或現ニ大身一、滿ニ虛空中一、或現ニ小身一、丈六八尺、所レ現之形、皆眞金色。

【丈一丈二】52 ヂヤウイチヂヤウニ 布帛の長さが一丈に少し餘る時、之を丈一丈二といふ。一丈一尺・一丈

二尺の意。〔通俗編、數目、丈一丈二〕容齋續筆、俗謂㆓米一石有畸㆒、曰㆓石一石二㆒、帛長一丈有畸、曰㆓丈一丈二㆒之類、據㆓考工記㆒、殳長尋有四尺、注云、長丈二也、史記張儀傳、尺一之檄、漢淮南王安書、丈一之組、匈奴傳、尺一牘、後漢、尺一詔、唐語、城南韋杜、去㆑天尺五、則亦有㆑所㆑本云。

【三】12

㊀サン 〔集韻〕蘇甘切 ㄙㄢ san¹ ㄙㄚ sa¹ 覃
㊁サン 〔集韻〕蘇暫切 ㄙㄢ san⁴ 勘
㊂シン 〔韻補〕疏簪切 侵

三 小篆　弎 古文

㊀㊀みつ。み。〔左氏、昭、七〕政不㆑可㆑不㆑愼、務㆑三而已。〔孟子、離婁上〕不孝有㆑三、無㆑後爲㆑大。〔老子、四十二〕道生㆑一、一生㆑二、二生㆑三。〔史記、律書〕數始㆓於一㆒、終㆓於十㆒、成㆓於三㆒。㊁みたび。たびたび。〔左氏、定、十三〕三折㆑肱、知㆑爲㆓良醫㆒。〔釋文〕三、如㆑字、又、息暫反。㊂みつにする。〔周禮、考工記、廬人〕凡兵無㆑過㆑三㆓其身㆒。㊃天・地・人の道。〔說文〕三、數名、天地人之道也、於㆑文一耦㆑二爲㆑三、成數也。〔段注〕王下曰、三者、天・地・人也。㊄君・父・師をいふ。〔國語、晉語一〕民生㆓於三㆒、事㆑之如㆑一。〔注〕三、君・父・師也。㊅東方をいふ。〔素問、五常政大論〕眚㆓於三㆒。〔注〕三、東方也。㊆をはり。〔太玄經、進〕三歲不㆑還。〔注〕三者、終也。〔後漢書、袁紹傳〕結㆓恨三泉㆒、〔注〕三者、數之小終。㊇星の名。心。〔詩、召南、小星〕嘒彼小星、三五在㆑東。〔傳〕三、心。㊈參(**2**－**3098**)に通ず。〔廣雅、釋言〕參、三也。〔易、說卦〕參天兩地。〔虞注〕參、三也。㊉古は弎(**4**－**9662**)に作る。〔說文〕弎、古文三。⑪姓。〔萬姓統譜〕三、姓。

㊁みたび。しばしば。たびたび。〔論語、公冶長〕季文子三思而後行。〔釋文〕三、息暫反。〔論語、先進〕南容三㆓復白圭㆒、孔子以㆓其兄之子㆒妻㆑之。〔集解〕南容讀㆑詩至㆑此、三反㆓復之㆒。〔集注〕三・妻、並去聲、云云、南容一日三㆓復此言㆒。㊂三つ。〔詩、召南、摽有梅〕摽有㆑梅、其實三兮。〔集傳〕三、叶㆓疏簪反㆒。邦さん。三味線の第三の絲。

名乘 タダ。ミ。ミツ。カズ。ミル。

解字 會意。一と二との合字。說文に、三は數の名、天地人の道なりといふ。陳煥曰く、數とは易の數なり、三は陰陽の數を兼ねて言ふと。轉じて、三以上の數の義を表はし、しばしばと訓ずる。〔說文〕三、數名、天地人之道也。〔段注〕陳煥曰、數者、易數也、三、兼㆓陰陽之數㆒言。

參考 ㊀我が國では、ザウ・ザ・サなどと讀む。㊁法令上は字畫の變更を恐れて、金錢及び帳簿類には參を用ひ、商業上、〣を用ひる。〔六書故〕一、今惟財用出內之簿書、用㆓壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌㆒、以防㆓姦易㆒。

【三丫】1 san¹ ya¹ 鼻下の髭・頷髭及び頰髭をいふ。三牙(129)に同じ。

【三阿】2 サンア 地名。江蘇省高郵縣の西北。今の北阿鎭。〔高郵州志〕東晉時、嘗僑㆓置幽州㆒、太元四年、苻秦將句難彭超、圍㆓幽州刺史田洛於三阿㆒、去㆓廣陵㆒百里、卽此。

【三阿彌】3 サンアミ 室町時代の畫家、能阿彌・藝阿彌・相阿彌をいふ。

【三椏】4 サンア 樹木の名。みつまた。和紙の製造に用ひる。〔蘇軾、次㆔韻正輔同游㆓白水山㆒詩〕恣傾㆓白蜜㆒收㆓五稜㆒、細劚㆓黃土㆒栽㆓三椏㆒。〔蘇軾、紫團參寄㆓王定國㆒詩〕欲㆘待㆓三椏根㆒、往侑㆗九轉鼎㆖。

【三鴉】5 サンア 鎭の名。魯陽關をいふ。一名、平高城。河南省南召縣の東北。魯山縣の界に接する。後周、鎭を置いて齊を防ぐ。〔北史、韋閬傳〕但三鴉嶮要、非㆑卿無㆓以守㆒也。

【三哀】6 サンアイ 敵國の困窮を哀れむ可き、三つの場合。喪荒にて空虛なる時。喪のある人。親を失つて輔がない者。〔逸周書、大武解〕三哀、一、要㆓不嬴㆒、二、喪人、三、擯㆓厥親㆒。〔集訓校釋〕孔曰、哀㆓敵人之困窮㆒如㆑此、要、當㆑爲㆑惡、擯、一作㆑損、葛其仁曰、惡㆓喪荒㆒也、嬴、當㆑爲㆑嬴、盈也、因㆓喪荒㆒而空虛、故爲㆑可㆑哀、損㆓其親㆒而無㆑輔、亦在㆓可㆑哀之列㆒。

【三惡】7 サンアク ㊀三つの惡い事。暴・虐・頗。〔左氏、昭、十四〕三言而除㆓三惡㆒、加㆓三利㆒。〔注〕三惡、暴・虐・頗也。㊁三人の惡人。舜の父と母と弟とをいふ。〔書、堯典、疏〕其父頑、母嚚、其弟字象、性又傲慢、家有㆓三惡㆒。㊂佛三惡道を見よ。

【三惡覺】8 サンアクカク 佛一、欲覺、卽ち貪欲の知覺。二、瞋覺、卽ち瞋恚の知覺。三、害覺、卽ち他を侵害する知覺、瞋覺の增長したもの。一切の凡夫は必ず此の三惡覺を具へてゐるといふ。〔無量壽經、上〕積㆓殖菩薩無量德行㆒、不㆑生㆓欲覺・瞋覺・害覺㆒。

【三惡趣】9 サンアクシュ 佛三惡道に同じ。〔增一阿含、十三〕若比丘有㆓此三不善根㆒者、墮㆓三惡趣㆒、云何爲㆑三、所謂地獄・餓鬼・畜生。

【三惡道】10 サンアクダウ・サンナクダウ 佛惡行をする衆生の趣く三つの道。地獄道と餓鬼道と畜生道。三惡趣。〔無量壽經、上〕人天壽終之後、復更㆓三惡道㆒。

【三握】11 サンアク 三たびにぎる。一沐三握㆑髮(**1**－**1**‥**2214**)を見よ。〔梁元帝、上㆓忠臣傳㆒表〕三握再吐、夙奉㆓紫庭之慈㆒。〔韓愈、上㆓宰相㆒書、後廿九日復上書〕方㆓一沐㆒、三握㆓其髮㆒。

【三安】12 サンアン 三つの安らかな事。〔逸周書、文酌解〕三安、一、定㆑居安㆑帑、二、貢㆑貴得㆑布、三、刑㆑罪布㆑財。

【三案】13 サンアン ㊀宋の蘇轍が弊害ありとして論じた三つの事件。分河渠案・分胥案・分脩造案。〔宋史、蘇轍傳〕宜㆔隨㆑事措置、以塞㆓弊原㆒、謹具㆓三弊㆒以聞、其一曰、分河渠案、以爲㆓都木監㆒、其二曰、分胥案、以爲㆓軍器監㆒、其三曰、分脩造案、以爲㆓將作監㆒、三監皆隸㆓工部㆒、則本部所㆑專、其餘無㆑幾、出納損益、制在㆓他司㆒、頃者、司馬光秉㆑政、知㆓其爲㆑害、嘗使㆔本部收㆓攬諸司利權㆒、當時所㆑收、不㆑得㆓其要㆒、至㆑今、三案猶爲㆓他司所㆑擅、深可㆑惜也。㊁明代、東林黨と非東林黨とが極力爭議した三つの問題。梃擊(**6**－**14827**‥2)・紅丸案(**8**－**27243**‥105)・移宮(**8**－**25045**‥16)をいふ。各條を見よ。〔明史、光宗紀贊〕光宗潛德、久彰㆓海內㆒、屬㆑望而嗣㆑服一月、天不㆑假㆑年、措施未㆑展、三案構爭、黨禍益熾、可㆑哀也夫。〔廿二史劄記、三案〕此三案者、本各有㆓其是㆒、梃擊雖㆑不㆑能㆑不㆑致㆓疑於鄭氏㆒、然安知㆑非㆓龐保・劉成等之行㆑險倖㆑功、故當時、孫承宗已謂、事關㆓太子㆒、不㆑可㆑不㆑問、事連㆓貴妃㆒、不㆑可㆓深問㆒、龐保・劉成而下可㆑問、龐保・劉成而上不㆑可㆑問、此亦善爲㆓調停㆒之說也、紅丸之案、據㆔韓爌具㆓述進藥始末㆒、謂、可灼進㆑藥時、諸大臣皆在、皆未㆓阻止㆒、而愼行獨責㆓從哲㆒以㆓殺逆㆒、本屬㆓深文㆒、故疏出、擧朝共覺㆓其過當㆒、特以㆔其援㆓引春秋許世子不㆑嘗㆑藥之例㆒、其論自不㆑可㆑沒、至㆓移宮一事㆒、光宗在位日淺、李選侍素無㆓勢權㆒、不㆑比㆘鄭貴妃之在㆓萬麻中㆒、數十年薰灼㆖也、卽暫居㆓乾淸㆒、亦豈遂能垂㆑簾稱㆑制、特熹宗年尙幼、不㆑可㆑不㆑慮㆓其久而挾㆑制、此楊漣等趣㆓移宮㆒之深意也、旣移㆑宮後、自當㆔待以㆓恩禮㆒、乃忽有㆘薄㆓待先朝嬪御㆒之流言㆖、則賈繼春之請㆑安㆓選侍㆒、亦未㆑爲㆑過、故倪元璐之論、此三案、謂、主㆓梃擊㆒者、力護㆓東宮㆒、爭㆓梃擊㆒者、計㆑安㆓神祖㆒、主㆓紅丸㆒者、仗㆑義之詞、爭㆓紅丸㆒者、原㆑情之論、主㆓移宮㆒者、弭㆓變於幾先㆒、爭㆓移宮㆒者、持㆓平於事後㆒、各有㆓其是㆒、不㆑可㆓偏非㆒、此說最得㆓情理之平㆒。

【三闇】14 サンアン 用兵上の三惡事。守闇・戰闇・外闇。〔管子、小問〕夫民不㆓必死㆒、則不㆑可㆔與出㆓乎守戰之難㆒、不㆓必信㆒、則不㆑可㆓恃而外知㆒、夫恃㆓不死之民㆒、而求以㆓守戰㆒、恃㆓不信之人㆒、而求以㆓外知㆒、此兵之三闇也。〔注〕苟不死不信、則守闇・戰闇・外闇、故曰㆓三闇㆒。

【三夷】15 サンイ ㊀三種の夷。〔左氏、哀、十九〕秋、楚沈諸梁伐㆓東夷㆒、三夷男女、及㆓楚師㆒盟㆓于敖㆒。〔注〕從㆑越之夷三種。〔張衡、週天大象賦〕天稷播㆓五稼之勤㆒、東歐表㆓三夷之類㆒。㊁父族・母族・妻族の三族を絕やす。三族(1140)を見よ。〔荀子、君子〕亂世則不㆑然、刑罰怒㆑罪、爵賞踰㆑德、以㆑族論㆑罪、以㆑世擧㆑賢、故一人有㆑罪、而三族

皆夷、德雖レ如レ舜、不レ免二刑均一、是以レ族論レ罪也。〔注〕三族、父・母・妻族也、夷、滅也。

【三衣】16 サンネ 佛僧侶の用ひる三種の衣服。僧伽梨 Saṃghāṭi（儀式用の袈裟）・鬱多羅僧 Uttarāsaṃgha（上衣）・安陀會 Antarvāsaka（下衣）。〔圓覺經〕一曰、僧伽梨、卽大衣也、二曰、鬱多羅僧、卽七條也、三曰、安陀會、卽五條也、此是三衣。〔劉禹錫、送二元簡上人適一越詩〕更入二天台一石橋路、垂珠璀璨拂二三衣一。〔賈島、送二去華法師一詩〕秋江洗二一鉢一、寒日曬二三衣一。

【三衣匣】17 サンエカフ 佛僧の三衣を入れる箱。〔倭名類聚抄、調度部、僧坊具、三衣匣〕金玉義林云、僧六物、其一曰二衣匣一、俗云、佐无江乃波古、三衣者、一、僧伽梨、云二大衣一、二、鬱多羅僧、云二中衣一、三、安陀會、云二下衣一。

【三衣袋】18 サンエタイ 佛僧の三衣を入れて持ち行く袋。〔顯密威儀便覽、下、三衣袋〕密家三衣袋、須下用二黃羅或青綾一複製之上。

【三姨】19 サンイ 三人目の妹。〔剪燈餘話、江廟泥神記〕是夕、大姊又送二三姨一至、生欲二俱留一レ之。

【三異】20 サンイ 二つの奇異なこと。害蟲が國境を犯さぬ、化が鳥獸に及ぶ、子供にまで仁心があるといふ三奇異。後漢の中牟令の魯恭が、善政を以て國を治めたために、上の三つの奇異が起つた故事。〔後漢書、魯恭傳〕拜二中牟令一、恭專以二德化一爲レ理、不レ任二刑罰一、云云、建初七年、郡國螟傷レ稼、犬牙緣レ界、不レ入二中牟一、河南尹袁安聞レ之疑二其不レ實、使二仁恕掾肥親往廉一レ之、恭隨行阡陌、俱坐二桑下一、有二雉過止一其傍一、傍有二童兒一、親曰、兒何不レ捕レ之、兒言、雉方將レ雛、親瞿然而起、與レ恭訣曰、所二以來一者、欲レ察二君之政迹一耳、今蟲不レ犯レ境、此一異也、化及二鳥獸一、此二異也、豎子有二仁心一、此三異也、久留徒擾二賢者一耳、還レ府、具以レ狀白レ安、是歲嘉禾生、恭便二坐廷中一、安因上書言レ狀、帝異レ之、〔趙秉文、中牟陽氷篆詩〕中牟三異今則四、斷碑殘缺陽氷書。

【三醫】21 イサン ●古の三名醫。矯氏・兪氏・盧氏。〔列子、力命〕其子弗レ曉、終謁二三醫一、一曰、矯氏、二曰、兪氏、三曰、盧氏、診二其所一レ疾。〔范成大、問天醫賦〕十巫遞進、三醫更謁。●佾上醫・中醫・下醫。上醫は聲で病を見分け、中醫は顏色で見分け、下醫は脈を診て病を知る。〔止觀、八之一〕。

【三位】22 サンミ ●第二の位階。正・從二位の稱。●二種の人格、及び神體。三位一體を見よ。

【三位一體】23 イサンイタイ 基督教で一體の神に聖父と聖子と聖靈との二位があるといふこと。

【三畏】24 サン ●君子のおそれ愼むべき二つのもの。天命と大人と聖人の言。〔論語、季氏〕君子有二三畏一、畏二天命一、畏二大人一、畏二聖人之言一。〔聞見錄〕王文穆夫人悍妬、後圃中作レ堂、名二三畏一、楊文公戲言曰、可二改作一四畏一、公問二其故一、曰、兼畏二夫人一。●元の拜住が畏れた二つの事。祖宗を辱しめること、識見の足らぬこと、年少で才幹の足らぬこと。〔元史、拜住傳〕臣有二所レ畏者三、畏レ辱二祖宗一、畏二天下事大、識見有レ未レ盡、畏下年少不レ克二負荷一、無二以上報一レ聖恩上。

【三畏齋】25 サンイサイ 字號。●宋、尹焞（4－7631‥76）の號。●明、朱吉（6－14424‥114）の號。

【三畏堂】26 サンイダウ 宋、王時敏（7－20823‥1614）の室名。

【三違】27 サンイ ●三たび官を去る。三度官をはなれる。〔禮、表記〕子曰、事レ君三違、而不レ出レ境、則利レ祿也。〔注〕違、猶レ去也。●三たびたがふ。三年、會はない。三年そこにゐない。〔杜甫、寄二張十二山人彪一詩〕獨臥嵩陽客、三違潁水春。

【三緯】28 サン 詩の六義の內、比・賦・興を三緯とし、風・雅・頌を三經とした。卽ち三緯は文章の修辭上の區別で、三經が文體上の區別と思はれるのに對する。朱子語類の說はこれに反す。〔詩經疑問、序〕舜牧自序曰、嘗讀二三經三緯之說一、竊有レ疑焉、三經、風雅頌是已、三緯、曰賦、曰比、曰興、蓋通融取レ義、謂二所レ賦之有レ比有レ興耳、非截然謂二此爲レ賦、此爲レ比、此爲レ興也、惟然分而爲二三、於レ是、求レ之不レ得二其說一、則將レ爲二賦而興又比也、賦而比又興也、而寖失二其義一矣、此三緯之說之可レ疑者、而猶其小者也、若斷章取義、凡詩皆可二通用一矣。〔朱子語類、八十〕三經、是賦・比・興、是做二詩底骨子一、云云、如二風・雅・頌一卻是裏面橫串底、都有二賦・比・興一、故謂二之三緯一。

【三又】29 イサン 罪を赦す可き二つの場合。不識・過失・遺忘。又は有。二有(38)の●に同じ。〔禮、王制〕王三又、然後制レ刑。〔注〕又、當作レ宥、宥、寬也、一有曰不識、再有曰過失、三有曰遺忘。〔疏〕王三又者、三、三事也、又、當レ爲レ宥、宥、寬也、王得二三公之告一、則以二三事一命寬之也。

【三友】30 イサン ●二人の友。㈠子桑戶・孟子反・子琴張。〔莊子、大宗師〕子桑戶・孟子反・子琴張、三人相與友。〔小學紺珠、名臣類下、三友〕子桑戶・孟子反・子琴張。㈡宋の南山の二友。高懌・張鼐・許勃。〔宋史、高懌傳〕與二同時張鼐・許勃一、號二南山三友一。〔小學紺珠、名臣類下、三友〕高懌・張鼐・許勃、從二种放一、號二南山三友一。㈢李舒・李展・張舜儀。〔小學紺珠、名臣類下、三友〕李舒・李展・張舜儀、李子長爲二邠州一、得二善士三人一、圖二其像於學館一、名二堂曰三友一。〔浮休集〕●二益友(83)の●・二損友(1148)の各條を見よ。〔論語、季氏〕益者三友、損者三友、友レ直、友レ諒、友二多聞一、益矣、友二便辟一、友二善柔一、友二便佞一、損矣。●琴・酒・詩をいふ。〔白居易、北窗三友詩〕三友遞相引、循環無二已時一、一彈愜二中心一、一詠暢二四支一、猶恐二中有レ閒、以レ醉彌レ縫之。㈣松・竹・梅をいふ。〔月令廣義〕。㈤雲山・松竹・琴酒。一說に、山水・松竹・琴酒。〔元結、丐論〕天寶戊子中、元子遊二長安一、與二丐者一爲レ友、或曰、君友二丐者一、不二太下一乎、對曰、古人、鄕無二君子一、則與二雲山一爲レ友、里無二君子一、則與二松竹一友、坐無二君子一、則與二琴酒一友。〔陔餘叢考、歲寒三友〕元次山論云、古人、鄕無二君子一、則與二山水一爲レ友、里無二君子一、則以二松竹一爲レ友、坐無二君子一、則以二琴酒一爲レ友、東坡詩、風景兩部樂、松竹二益友。㈥酒をいふ。三酉。〔通俗編、飲食、三友〕何劭酒爾雅、樂天以二詩酒琴一爲二三友一、今人指二三友一爲レ酒、音同之訛、留青日札、今稱二酒曰一三酉一、皆言二三點水加一レ酉也、然當レ作二三友一、按、酒雖二三友之一、未レ可レ以一該二三一、俗情自拆二酒字一爲レ辭、未二必本一樂天事一。

【三有】31 イサン ●三有事を見よ。●明、徐士俊(4－10110‥437)の字。●佾サン 三界（欲・色・無色）に生死流轉するもの。迷を破り得ない人間をさす。〔新譯仁王經、中〕三有業果、一切皆空。〔琅琊代醉編、三有〕三有、欲有・色有・無色有、有者何、謂二一切有漏法一、是佛言二若業、能令二後生相續一、是有、又云二生滅一、故名レ有、墮二苦集諦中一、是有。

【三有事】32 ジサンイウ 周代、諸侯の司徒・司馬・司空をいふ。三卿(410)の●に同じ。〔詩、小雅、十月之交〕擇二三有事一、亶侯多藏。〔傳〕擇二三有事一、有司國之三卿。

【三有俊】33 サンイウシュン 剛・柔・正直の三德のある人。又、常伯・常任・準人の三才のある者。三俊(893)の●に同じ。〔書、立政〕曰二三有俊一、克卽俊。〔傳〕又曰、能用二剛柔正直一、三德之俊一。〔蔡傳〕三俊、謂下有二常伯・常任・準人之才一者上。

【三有宅】34 タサンイウ 惡人を三所に分けて置くこと。一說に、常伯・常人・準人の位に居る者。三宅(1233)に同じ。〔書、立政〕乃用二三有宅一、克卽宅一。〔傳〕湯乃用下二有レ居二惡人之法一上、蔡傳）三宅、謂下居二常伯・常人・準人之位一者上。

【三有禮】35 サンイウ 國を去り行く臣に對して君主の取るべき二つの禮法ある態度。卽ち、臣が國を去る時、君は人を遣はし、防衛して國境を出でしめる。豫め往く所の地に於て其の賢を稱道する。其の人が去つてから二年閒は、田祿里居を其の儘に据ゑ置く。〔孟子、離婁下〕諫行言聽、膏澤下於民一、有二故而去一、則君使二人導一之出レ疆、又先二於其所一レ往、去二三年不一レ反、然後收二其田里一、此之謂二三有禮一焉、如此則爲二之服矣。〔集注〕導之出レ疆、防二剽掠一也、先二於其所一レ往、稱二道其賢一、欲二其收一用之一也、三年而後收二其田祿里居一、前此猶望二其歸一也。

【三酉】36 サン 酒をいふ。酒は酉に三水（氵）を加へるからいふ。三友。〔留青日札〕今稱二酒曰一三酉一、皆言二三點水加一レ酉也、然當レ作二三友一。

【三佾】37 サンイツ ●祭の時、尸に三度食をすすめること。三宥。〔周禮、春官、大司樂〕王大食、三侑、皆令二奏一鐘鼓一。〔注〕侑、猶レ勸也。●三宥の●に同じ。〔管子、法法〕文有二三侑一、武毋二一赦一。〔纂註〕侑、有通。

【三宥】38 イサン ●周代、罪を赦すべき二つの場合。

卽ち不識・過失・遺忘の三。三侑。〔周禮、秋官、司刺〕掌三三刺・三宥・三赦之灋一、云云、壹宥曰二不識一、再宥曰二過失一、三宥曰二遺忘一。㊁王族が罪を犯した時に、王が三度赦罪を命じ、然る後に刑を施す法。〔禮、文王世子〕公族無二宮刑一、獄成、有司讞二于公一、其死罪則曰、某之罪在二大辟一、其刑罪則曰、某之罪在二小辟一、公曰、宥レ之、有司又曰、在レ辟、公又曰、宥レ之、有司又曰、在レ辟、及二三宥一、不レ對走出、致二刑于甸人一。〔蘇軾、論二始皇漢宣二〕古者公族有レ罪、三宥然後制レ刑。㊂三侑の㊀に同じ。

【三遊】39 サンイウ 遊俠・遊說・遊行(時好に合し、虛譽を立てて權利と爲すこと)をいふ。皆德の賊とせられてゐる。〔前漢紀、孝武紀一〕荀悅曰、世有二三遊一、德之賊也、一曰、遊俠、二曰、遊說、三曰、遊行、立二氣勢一作二威福一、結二私交一以立二強於世一者、謂二之遊俠一、飾二辨辭一設二詐謀一、馳二逐於天下一、以要二時勢一者、謂二之遊說一、色取レ仁以合二時好一、連二黨類一立二虛譽一以爲二權利一者、謂二之遊行一、此三遊者、亂之所二由生一也、傷レ道害レ德、敗レ法惑レ世、失二先王之所一レ愼也。

【三遊洞】40 サンイウドウ 洞の名。湖北省宜昌縣の西北。唐の白居易が嘗て弟の知退、及び元稹と此處に遊んだので、此の名を得た。三遊洞。〔白居易、三遊洞序〕以二吾三人始遊一、故因爲二三遊洞一、洞在二峽州上二十里北峯下、兩崖相欹閒一。

【三域】41 サンヰキ 中國地方の地を三地方に別けていふ。〔小學紺珠、地理類、三域〕自二蔥嶺一以東、流沙以西、爲二一域一、姑墨以南、月氏以北、爲二一域一、兩海之閒、水澤以南、爲二一域一。

【三育】42 サンイク 教育學用語。智育・德育・體育をいふ。又、美育を加へて四育といふ。

【三一】43 サンイツ ㊀天一・地一・泰一の三神をいふ。〔史記、封禪書〕古者天子、三年壹用二太牢一、祠二神三一一、天一・地一・太一。〔注〕索隱曰、宋均云、天一・太一、北極神之別名、石氏云、天一・太一、各一星、在二紫宮門外一立、承二事天皇大帝一。〔漢書、郊祀志〕古者天子、三年一用二太牢一、祠二三一一、天一・地一・泰一。㊁天・地・人の始。太極元氣をいふ。〔漢書、律歷志上〕太極元氣、函レ三爲レ一。〔注〕孟康曰、元氣始起二於子一、未レ分之時、天地人混合爲レ一、故子數獨一也。㊂道家の語。精・神・氣の三が混じて一となつた虛無の道。〔雲笈七籤、三洞經教部、經、老君太上虛無自然本起經〕氣包レ神、神包レ精、故曰、白包レ黃、黃包レ赤、赤包レ三、三包レ一、三一混合、名曰二混沌一、云云、夫道爲二三一一者、謂二虛無空一、空者、白也、白包レ無、無者、黃也、黃包レ赤、赤爲レ虛。㊃三位一體の義。〔唐景教碑〕三一妙身、无元眞主阿羅訶。㊄san¹ i¹ 三年に一度用ひる。㊅ サンピン ㋑雙六で、二箇の賽の目に、三と一との出ること。㋺三一奴の略。

【三一神】44 サンイツシン 基督教で三位一體の神。

【三一奴】45 サンピンヤツコ 祿の低い者を賤しめた語。一年に僅か三兩と一人扶持とをあてがはれてをる奴の義から起る。

【三一律】46 サンイツリツ 演劇上の語。劇中の時間・場所・動作の三者を一致せしめること。

【三邑】47 サンイフ 三つの都會。〔左氏、莊、元、齊師遷二紀郱・鄑・郚一、〔注〕齊欲レ滅レ紀、故徙二其三邑之民一、而取二其地一也。〔左氏、襄、二十六〕乃受二三邑一。

【三揖】48 サンイフ ㊀三たび揖の禮を行ふこと。揖は拱いた手を或は上下、或は左右、或は推引して行ふ敬禮。琅琊代醉編、卷三十七に見ゆ。〔儀禮、士冠禮〕三揖至二于階一。㊁卿・大夫・士をいふ。此の三者は夫々位があつて、王の揖するところである。〔周禮、夏官、司士〕孤卿特揖、大夫以二其等一旅揖、士旁三揖。〔注〕鄭司農云、卿・大夫・士、皆君之所レ揖。〔左氏、哀、二〕君夫人在レ堂、三揖在レ下。〔注〕三揖、卿・大夫・士也。

【三揖一辭】49 サンイフイチジ 三たび揖して進み、一たび辭して退く。君子は進仕に愼重で、退くに輕易であること。〔禮、表記〕子曰、事レ君、難レ進而易レ退、則位有レ序、易レ進而難レ退、則亂也、故君子三揖而進、一辭而退、以遠レ亂也。〔注〕進難者、爲二主人之擇一レ己也、退速者、爲二君子之倦一也。

【三揖三辭】50 サンイフサンジ 三たび揖して三たび辭すること。〔周禮、秋官、司儀〕三揖三辭拜受、車送三還再拜。

【三揖三讓】51 サンイフサンジヤウ 三たび揖して三たび讓る。〔周禮、秋官、司儀〕賓三揖三讓、登再拜。

【三尹】52 サンイン 主簿の古名。〔淸國行政法汎論、地方官署・地方官署種類〕主簿云二三尹一。

【三因】53 サンイン 佛生因(結果を生ずべき直接の原因、草木に於ける種)と習因(結果を生ずべくつとめること、草木に於ける太陽・水)と依因(結果の生ずるよりどころ、草木に於ける土)。〔釋籤、十之一、補注、十四〕。

【三因佛性】54 サンインブツシヤウ 佛正因・了因・緣因の三佛性。人間の本來具へてゐる佛性を顯はす三つの因。正因佛性は一切の邪非を離れた中正の眞如、了因佛性は眞如の理を了知する智慧、緣因佛性は了因を助けて正因を開發する一切の善行。〔金光明玄義〕云何三佛性、佛名爲レ覺、性名二不改一、不改卽是非常非無常、如二土內金藏一、天魔外道不レ能レ壞、名二正因佛性一、了因佛性者、覺智非常非無常、智與レ理相應、如三人能知二金藏一、此智不レ可二破壞一、名二了因佛性一、緣因佛性者、一切非常非無常、功德善根、資二助覺智一、開二顯正性一、如下耘二除草穢一、掘中出金藏上、名二緣因佛性一。

【三陰】55 サンイン ㊀易の三本の陰爻。又、陰氣をいふ。〔易、否、初六、注〕動則入レ邪、三陰同レ道。〔禮、月令、疏〕三陰爲レ坤、坤體在レ上。〔魏書、崔浩傳〕今年己巳三陰之歲、歲星襲レ月。㊁太陰と少陰と厥陰。三陰三陽を見よ。〔史記、倉公傳〕三陰俱搏者如レ法。

【三陰三陽】56 サンインサンヤウ 身體にあるもの。太陰・少陰・厥陰の三陰と、太陽・少陽・陽明の三陽とをいふ。〔素問、陰陽離合論〕帝曰、願聞二三陰三陽之離合一也。

【三酳】57 サンイン 三度酒をのむ。〔儀禮、士昏禮〕三酳用レ卺、亦如レ之。

【三隱】58 サンイン ㊀南朝宋の時に於ける、潯陽の三人の隱者。釋慧遠・劉遺民・陶淵明。〔宋書、周續之傳〕入二廬山一、事二沙門釋慧遠一、時彭城劉遺民、遁二迹廬山一、陶淵明、亦不レ應二徵命一、謂二之潯陽三隱一。㊁梁代の三人の隱者。劉訏・阮孝緖・劉歊。〔南史、劉訏傳〕張稷、辟爲二主簿一、主者檄召、訏乃挂二檄於樹一而逃、陳留阮孝緖、博學隱居、不レ交二當世一、訏族兄歊、又履二高操一、三人日夕招攜、故都下謂二之三隱一。〔貧士傳〕劉訏、字彥度、幼貧、性不レ欲レ仕、時有レ辟レ之者一、訏卽挂二檄於樹一而逃、事息乃還、亦不レ願レ娶、與二陳留阮孝緖及族兄歊一、日夕招攜、都下謂二之三隱一。㊂地名。三隱宅の略。安徽省全椒縣。〔潛確類書〕三隱宅、在二全椒縣桑根山下一、南隱・北隱・中隱、皆古隱者所レ居。

【三隱集】59 サンインシフ 書名。寒山子詩集(**3－7239**・・160)に同じ。

【三院】60 サンヰン 御史臺の臺院・殿院・察院をいふ。〔唐書、百官志三〕御史臺、大夫一人、中丞爲二之貳一、其屬有二三院一、一曰、臺院、侍御史隸焉、二曰、殿院、殿中侍御史隸レ焉、三曰、察院、監察御史隸レ焉。〔宋史、呂誨傳〕三院御史。〔事物紀原、持憲儲闈部、三院〕唐憲府故事、侍御・殿中・監察、呼二三院一、故今亦斥二殿中一曰二殿院一、監察曰二察院一、自二唐室一始也。〔書言故事、御史類〕御史臺有二三院一。

【三韻】61 サンヰン 律詩の一で、六句の詩のこと。隔句に押韻する故、三韻の詩は六句となる。〔白居易、與二微之一書〕餘習所レ牽、便成二三韻一。〔滄浪詩話〕有下律詩止二百五十韻一者上、有下律詩止二三韻一者上。

【三韻律】62 サンヰンリツ 詩體の一。三韻を用ひたからいふ。又、六句から成るから六句格ともいふ。〔李白、送三內尋二廬山女道士騰空一詩〕君尋騰空子、應レ到碧山家、水舂雲母碓、風掃石楠花、若戀二幽居好一、相邀弄二紫霞一。

【三雨】63 サンウ 雨が三度降る。〔黃庭堅、次二韻張昌言給事喜一レ雨詩〕三雨全淸六合塵、詩翁喜レ雨句淩レ雲。

【三烏】64 サンウ 複姓。〔唐書、柳沖傳〕氏二於志一、則三烏五鹿。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕三烏氏、風俗通、凡氏二於職一、三烏五鹿、有二三烏大夫一、因氏焉、漢有二三烏羣一、爲二上郡計一。

【三雲】65 サンウン 漢の宮殿の名。〔西京雜記、一〕成帝設二雲帳・雲幄・雲幕於甘泉紫殿一、世謂二三雲殿一。〔梁武帝、上雲樂、方丈曲〕挹二八玉一御二三雲一。〔潘炎、九日紫氣賦〕御二三雲之殿一。

【三慧】66 サンヱ 佛さとりを開く三つの智。聞慧(法を聞いて得た智)・思慧(法を正しく考察し

て得た智)・修慧(修行して得た智)。聞所成慧・思所成慧・修所成慧ともいふ。(婆娑論、四十二)若於三三藏十二分教、受持轉讀究竟流布、是生得慧、依レ此發二生聞所成慧一、依レ此發二生思所成慧一、依レ此發二生修所成慧一。(法苑珠林)以二三字一爲レ門、二慧爲二出入路一。

【三慧經】67 サンエキョウ 佛書名。一卷。經論中の種々の因緣や法義を說いた經。(南史、梁武帝紀)中大同元年春二月庚戌、幸二同泰寺一講二金字三慧經一、仍施レ身。

【三英】68 サンエイ ❶皮ごろもの飾。(詩、鄭風、羔裘、三英粲兮、集傳)三英、裘飾也。(毛詩紬義)郭璞說二三英一云、英謂下古者以二素絲英一飾上裘、卽素絲五紽也、段昌武曰、蓋以二素絲一織爲二組紃一、以英飾二裘縫一也、二者、其數也。❷剛克・柔克・正直の三德。(詩、鄭風、羔裘、三英粲兮、傳)三英、三德也。(箋)三德、剛克・柔克・正直也。

【三影】69 サンエイ 宋の張先、字は子野)の異稱。平生得意なものとして、花弄レ影、捲二花影一、輕無レ影の句をあげたからいふ。張先は都官郎中となつたので、又、三影郎中ともいふ。(樂府紀聞)客謂二張子野一曰、公爲二張三中一、謂二公詞有三心中事・眼中淚・意中人一也、子野曰、何不レ謂二之張三影一、客不レ喩、子野曰、雲破二月來花弄レ影、嬌柔嬾起、簾壓二花影一、柳逕無レ塵、墜絮輕無レ影、此生平得意者。(玉照新志、一)本朝有二兩張先一、皆字子野、一則樞密副使遜之孫、與二歐陽文忠一同在二洛陽幕府一、其後文忠爲作二墓誌銘一、稱二其志守端方、臨レ事敢決一者、一與二東坡先生一遊、東坡推爲二前輩一、詩中所謂、詩人老去鶯鶯在、公子歸來燕燕忘、能爲二樂府一、號二張三影一者。

【三影齋】70 サンエイサイ 明、施紹莘(5－13629‥164)の室名。

【三影樓】71 サンエイロウ 清、馮揩芳(12－44579‥164)の室名。

【三影郎中】72 サンエイランチュウ 三影(69)に同じ。

【三營】73 サンエイ ❶三つの兵營。(宋史、高宗紀八)紹興二十年春正月、云云、甲辰定二御輦院一爲二營兵額一、爲二九百人一。❷地名。雲南省洱源縣の蓮花山の下。元の世祖が軍を此處に留めたので名づける。(讀史方輿紀要、雲南、大理府、鄧川州、浪穹縣)三營、在二縣東北蓮花山下一、南詔時設二營於此一、蒙古取二大理一、復設二三營萬戶一、以守レ之。❸三個大隊。

【三衙】74 サンガ ❶唐代、禁衞軍の親衞・勳衞・翊衞をいふ。(舊唐書、職官志三)左右衞、云云、長史、掌判二諸曹親勳翊五府一云云、親府、勳一府、勳三府、翊二府、翊等五府、每府中郎一人、中郎將一人、左右郎將各一人、中郎將領二本府之屬一、以宿衞、左右郎將貳レ之、若二大朝會巡幸一、以二鹵簿之法一、以領二其儀仗一。(唐書、李密傳)何事二三衙開一哉。❷宗代の三衙をいふ。(宋史、徽宗紀)改二三衙一爲二侍郎一。(宋史、職官志)渡江草刱、三衙之制未レ備。(洪汝奎、盤洲集校記)三衙、卽三衙、惟此隸二殿前司一、與下皇城司所レ隸親衞・勳衞上翊衞稱二三衙一者上不レ同。❸明の成祖が滿洲吉林省の邊に置いた建州・海西・野人の三衞。❹建州の三衞。建州(4－9574‥73)を見よ。

【三要】75 サンヨウ ❶心を修める二つの要點。仁・明・武。(小學紺珠、治道類、修レ心三要)仁・明・武。❷國を治める二つの要點。㋑官人・信賞・必罰。(小學紺珠、治道類、治國三要)官人・信賞・必罰。㋺民生を養ふ、民性を復す、民非を禁ずる。(從政錄)養二民生一、復二民性一、禁二民非一、治二天下一之三要。❸口と鼻との三つの穴。(金丹諸眞元奧)問曰、何謂二外三要一答曰、口之與レ鼻、共三竅、是神氣往來之門戶。❹口・目・耳・(陰符經、上)九竅之邪、在乎三要一、可レ以動靜。(注)太公曰、三要者、耳・目・口也。(天機經)九竅之急、在乎三要一、太公曰、耳・目・口也、耳・目・口者、心之佐助也、神之門戶也、智之樞也、人之禍福也。❺山名。陝西省雒南縣の東南。(雒南縣志)其地、南出二青草河一、可レ通二武關一、東出二卽盧氏通衢一、北望二閿卿・靈寶一、皆有二捷徑一、因名二三要一。❻足利學校十六代の校主、僧元佶の一名。

【三謠】76 サンヨウ 文章の名。唐、白居易作。銘の如きもの。蟠木謠・素屛謠・朱藤謠をいふ。(白居易、三謠銘序)余廬山草堂中、有二朱藤杖一・幡木几・素屛風二一、時多杖二藤而行一、隱レ几而坐、掩二屛而臥一、宴息之暇、筆研在レ前、偶爲二三謠一、各導二其意一、亦猶二座右陋室銘之類一爾。

【三曜】77 サンヨウ 日・月・星。(張協、遊仙詩)亭館籠二雲構一、修梁流二三曜一。(孫綽、潁州府君碑)金龜二曜、沖懷冉發。(謝莊、爲二朝士一與二袁顗一書)德洞二九幽一、功貫二三曜一。

【三易】78 サンエキ ❶易の三類。㋑連山・歸藏・周易をいふ。これに就いて兩說がある。一は三易を朝代の名とむすぶ說で、孔穎達等は連山は烈山の假借、烈山は神農の起つた地であるから、神農を烈山氏といひ、從つて、連山は神農の易、周易は岐陽の地、周に起つた周氏の易、歸藏は恐らく黃帝の易といふ。二は三易をその內容からみる說で、後漢の杜子春は、連山を伏羲、歸藏を黃帝に當てるのに對して、鄭玄等は夏に連山、殷に歸藏、周に周易といふとしてゐる。卽ち三易は各卦の順序を異にし、連山は艮卦を首とし、艮は山上山下の卦であるから連山といふ。歸藏は坤卦を首とし、坤は地を表象し、地は萬物の歸藏するところであるから歸藏といふ。周易は乾卦を首とし、乾は天の象で、天は周普至らざるところ無いので名づけるといふ。(周禮、春官、大卜)掌二三易之灋一、一曰、連山、二曰、歸藏、三曰、周易。(注)名曰二連山一、似二山出一內氣一也、歸藏者、萬物莫レ不二歸而藏一於其中一、杜子春云、連山、虙戲、歸藏、黃帝。(疏)云下名曰二連山一、似二山出一內氣一也上者、此連山易、其卦以二純艮一爲レ首、艮爲レ山、山上山下、是名二連山一、雲氣出二內於山一、故名レ易爲二連山一、歸藏者、萬物莫レ不二歸而藏一於其中一者、此歸藏易、以二純坤一爲レ首、坤爲レ地、故萬物莫レ不二歸而藏一於中一、故名爲二歸藏一也、鄭雖レ不レ解二周易一、其名周易一者、連山・歸藏、皆不レ言二地號一、以レ義名レ易、則周非二地號一、以下周易以二純乾一爲上首、乾爲レ天、天能周中於四時上、故名レ易爲レ周也。(周易正義、論二三代易名一)案、周禮春官大卜、三易云、一曰、連山、二曰、歸藏、三曰、周易、杜子春云、連山伏犧、歸藏黃帝、鄭玄易贊及易論云、夏曰二連山一、殷曰二歸藏一、周曰二周易一、鄭玄又釋云、連山者、象二山之出レ雲連連不レ絕、歸藏者、萬物莫レ不二歸二藏於其中一、周易者、言二易道周普、无所不レ備、鄭玄雖レ有二此釋一、更无二所據之文一、先儒因レ此、遂爲二文質之義一、皆煩而无レ用、今所不レ取、案、世譜等羣書、神農一曰二連山氏一、亦曰二列山氏一、黃帝一曰二歸藏氏一、既連山・歸藏、並是代號、則周易稱レ周、取二岐陽地名一、毛詩云、周原膴膴、是也、又、文王作レ易之時、正在二羑里一、周德未レ興、猶是殷世也、故題レ周別二於殷一、以二此文王所演一、故謂二之周易一。❷伏羲・文王・孔子の易。(四庫提要、子、術數類、三易洞璣)其曰二三易一者、謂二伏羲之易・文王之易・孔子之易一也。❸ゲン 文を作る場合に、從ふべき二つの法則。書いてある事を見易くする、文字を知り易くする、讀誦し易くする。(顏氏家訓、文章)沈隱侯曰、文章當レ從二三易一、見レ事一也、易識字二也、易二讀誦一二也。❹明白で知り易い二つのこと。二易之數を見よ。

【三易之數】79 サンイノスウ 明白で知り易い二つの術數。(韓非子、用人)君人者、釋二三易之數一、而行二一難知之心一、如レ此、則怒積二於上一、而怨積二於下一。

【三易洞璣】80 サンエキドウキ 書名。十六卷。明、黃道周撰。其の書は、天文曆數を約して易に歸せしめた。洞璣とは、易の天道を測るもの。(四庫提要、子、術數類)。

【三易備遺】81 サンエキビイ 書名。十卷。宋、朱元昇撰。(四庫提要、經、易類)。

【三益】82 サンエキ ❶交はつて我が利益となる三種の友人。三益友の❷の略。(後漢書、馮衍傳下)臣自惟、無二三益之才一、不レ敢處二三損之地一。(摯虞、答二杜育一詩)賴二茲三益一、如琢如切。(江淹、雜體、陶徵君潛田居詩)素心正如レ此、開レ徑望二三益一。(劉禹錫、酬二楊八庶子云見レ贈詩一)琢磨三益重、唱和五音調。❷字號。㋑明、高友(12－45313‥17)の字。㋺明、章溢(8－25761‥4)の字。

【三益友】83 サンエキユウ ❶交はつて我が利益となる三種の友人。正しい人・誠實な人・多聞な人の稱。(論語、季氏)益者三友、損者三友、友直、友諒、友多聞、益矣、友便辟、友善柔、友便佞、損矣。(集注)友直則聞二其過一、友諒則進二於誠一、友多聞則進二於明一。❷風流人が梅・竹・石をいふ。(蘇軾、贊二文與可梅石竹一)梅寒而秀、竹瘦而壽、石醜而文、是爲二三益之友一。

【三益主義】84 サンエキシユギ 勞働問題解決の一方法として、利益金は資本主と經營に當る事務家と勞働とに三分すべしとする說。

【三越】85 サンエツ ❶吳越・南越・閩越の地。〔晉書、文帝紀〕威加ニ南海一、名懾ニ三越一。❷古の越シコの國。越前(加賀・能登を含む)・越中・越後。

【三葉】86 サンエフ ❶三世。三代。〔後漢書、張衡傳〕三葉而遘レ武。〔魏武帝、上書讓ニ增ニ封武平侯及費亭侯一表〕三葉累寵。〔蔡邕、太尉楊賜碑〕是以三葉相承、研ニ其精義一。〔晉書、元帝紀〕三葉重レ光、四聖繼レ軌。〔崔顥、江畔老人愁詩〕父兄三葉皆尙レ主、子女四代爲ニ妃嬪一。〔劉越石、勸進表〕三葉重レ光。❷ミツバ 野菜の名。繖形科に屬する香氣ある草。葉莖共に食用となる。鴨兒芹。

【三葉芹】87 ミツバゼリ みつば。鴨兒芹。野蜀葵。〔和漢三才圖會、葷草類、野蜀葵〕俗云ニ三葉芹一、按、野蜀葵、農政全書所レ圖之畫、則此云三葉芹也、二月濕地生レ苗、一本叢生、莖稍附ニ三葉一、面背潤青色、似ニ芎藭葉一、而微團大、而一莖三葉、有ニ細刻齒一。

【三葉酸】88 サンエフサン 草の名。かたばみ。酢漿草(**11**―**39824**‥2)の異名。〔本草、酢漿草〕釋名、三葉酸。

【三葉蟲】89 サンエフチユウ 古生代に棲息した動物。甲殼類に屬す。今、化石として發見せられる。

【三葉白】90 サンエフハク 草の名。片白草。又、三白草ともいふ。〔本草、三白草〕集解、藏器曰、此草初生無レ白、入レ夏、葉端半白如レ粉、農人候レ之蒔レ田、三葉白、則草便秀、故謂ニ之三白一、時珍曰、俗云一葉白食ニ小麥一、二葉白食ニ梅杏一、三葉白食ニ黍子一。

【三葉空木】91 ミツバウツギ 木の名。みつばうつぎ科の落葉灌木。葉は三出し、果實は膀胱狀。省枯油。〔和漢三才圖會、灌木類、楊櫨〕三葉空木、葉似ニ山空木一、而開ニ四瓣白花一攢簇、每ニ三葉一抱レ梗對生。

【三淵】92 サンエン 星座の名。〔漢書、天文志〕三淵、蓋五車之三柱也。〔韻府引農家占驗〕星守ニ三淵一、辰入ニ五車一、皆大水。

【三厭】93 サンエン 忌んで食べない三つのもの。雁には夫婦の倫あり、狗には扈主の誼あり、烏魚には忠敬の心ありとして、此の三者は食ふに忍びずとされる。〔湧幢小品〕俗有ニ五葷三厭之說一、厭字義殊不レ解、後讀ニ孫眞人歌一、謂、天厭レ雁、地厭レ狗、水厭ニ烏魚一、雁有ニ夫婦之倫一、狗有ニ扈主之誼一、烏魚有ニ忠敬之心一、故不レ忍レ食。

【三緣】94 サンエン・サンネン 佛❶淨土門の敎。念佛に三つの功力があるといふ。ここでは、緣は佛に濟度されるゆかりの意。親緣(衆生が口に佛名を唱へると佛は之を聞き、身に佛を敬すれば佛之を見、心に佛を念ずると佛之を知る)・近緣(衆生が佛を見ようとすれば、念に應じて、目前に至る)・增上緣(衆生が念佛を誦すると、念念に多劫の罪を除き、死ぬ時は佛聖衆の來迎がある)の三をいふ。〔觀經、定善義〕。❷淫・殺・盜。〔楞嚴經〕三種相續、三緣斷故。

【三燕】95 サンエン 三たび宴會すること。燕は宴。〔周禮、秋官、掌客〕三饗三食三燕、若弗レ酌、則以レ幣致レ之。

【三垣】96 サンエン 星座の名。紫微垣・太微垣・天市垣。〔小學紺珠、天道類、三垣〕上垣太微・中垣紫微・下垣天市。〔廖道南、瑞應河清賦〕五星聚而三垣輝、七緯順而九道平。

【三怨】97 サンエン ❶三つの怨み。爵の高いもの、官の大きなもの、祿の厚いもの。此の三者は他から怨み嫉みを買ふ。〔列子、說符〕狐丘丈人謂ニ孫叔敖一曰、人有ニ三怨一、子知レ之乎、孫叔敖曰、何謂也、對曰、爵高者人妬レ之、官大者主惡レ之、祿厚者怨逮レ之。❷怨を持つ三人の者。春秋、晉の公子、申生・重耳・夷吾をいふ。〔左氏、僖、九〕三怨將レ作、秦晉輔レ之。〔注〕三公子之徒也。

【三苑】98 サンエン 唐の禁中の三つの園。西內苑・東內苑・禁苑。〔小學紺珠、地理類、唐三苑〕西內苑・東內苑・禁苑。

【三袁】99 サンエン 明の萬曆中の公安派の文士、袁宗道・袁宏道・袁中道の兄弟をいふ。公安派(**2**―**1452**‥6)を見よ。

【三猿】100 サンエン 庚申のこと。青面金剛の使者で、三匹の猿が各自耳・目・口を塞いで、見ざる・聞かざる・言はざるを表象する。老子の三尸經、孔子家語の三緘の故事を取つて、好事家が作つたもの。〔尤草子、物言はぬもの〕都、粟田口に三猿堂と云へるあり、中尊はいはざるとて口をふさぎてあり、脇立はみざる、きかざるなり。

【三遠】101 サンエン ❶山を畫く法。山下から山巓を仰ぐのを高遠といひ、山前から山後を窺ふのを深遠といひ、近山から遠山を望むのを平遠といふ。〔郭熙、山水訓〕山有ニ三遠一、自ニ山下一而仰ニ山巓一、謂ニ之高遠一、自ニ山前一而窺ニ山後一、謂ニ之深遠一、自ニ近山一而望ニ遠山一、謂ニ之平遠一、高遠之色清明、深遠之色重晦、平遠之色、有レ明有レ晦、高遠之勢突兀、深遠之意重疊、平遠之意、沖融而縹緲。〔輟耕錄、寫山水訣〕山論ニ三遠一、從レ下相連不レ斷、謂ニ之平遠一、從レ近隔開相對、謂ニ之闊遠一、從ニ山外遠景一、謂ニ之高遠一。❷佛佛の尊號。〔沈約、謝ニ齊竟陵王示ニ華嚴瓔珞一啓〕受ニ三遠十號之尊崇一、建ニ四辨八聲之極法一。

【三溫】102 サンヲン 精製糖の一種。分蜜粗糖工場で製造する一番糖で、精糖の三番糖に匹敵する。三本引。

【三下】103 サンカ ❶三更の時。〔還魂記、硬拷〕早朝三下聽ニ鳴鞭一。❷サンサガリ 三味線の調子の一。

【三下五除二】104 サンカゴヂヨニ 算法の用語。九九八十一(**1**―**167**‥119)を見よ。〔算法統宗、九九八十一〕一上一・二上二・三下五除二・四下五除一。

【三下之漁陽】105 サンカノギヨヤウ 三下は三度打つこと。漁陽は漁陽摻撾の略。漁陽摻撾は鼓曲の名。後漢の禰衡が鼓を打つて曹操を罵つた故事。〔世說新語、言語〕禰衡被ニ魏武謫一爲ニ鼓吏一、正月半試レ鼓、衡揚レ枹爲ニ漁陽摻撾一、淵淵有ニ金石聲一、四坐爲レ之改レ容。

【三加】106 サンカ ❶加冠の禮。始、緇布冠を冠し、次に皮弁を加へ、次に爵弁を加へる。加は施の義。〔禮、冠義〕冠ニ於阼一、以著レ代也、醮ニ於客位一、三加彌尊、加有レ成也。〔注〕冠者、初加ニ緇布冠一、次加ニ皮弁一、次加ニ爵弁一。〔故事成語考、衣服〕士人初冠有ニ三加一。❷三たび、兵を加へる。三たび攻める。〔左氏、定、九〕請レ師以伐レ魯、曰、三加必取レ之。〔注〕三加ニ兵於魯一也。❸三度、官を加へられる。〔唐書、趙犨傳〕弟昶三加ニ檢校太保一。

【三加彌尊】107 サンカイヨイヨタツトシ 人が新たに冠を戴くのを慶賀する辭。〔書言故事、冠履類〕賀ニ人新冠一、曰ニ恭審ニ三加彌尊一、禮記、適子故冠ニ於阼一以著レ代也、醮ニ於賓位一、三加彌尊、冠而字レ之、成人之道也。

【三何】108 サンカ 南朝宋の何思澄・何遜・何朗の三人をいふ。皆、文名があつた。〔南史、何思澄傳〕初思澄與ニ宗人遜及子朗一、俱擅ニ文名一、時人語曰、東海三何一。

【三河】109 サンカ ❶河南・河東・河內。〔史記、貨殖傳〕昔唐人都ニ河東一、殷人都ニ河內一、周人都ニ河南一、夫三河、在ニ天下之中一、若ニ鼎足一、王者所ニ更居一也。〔水經、沁水注〕王莽以爲ニ河內一、故河內郡治也、舊ニ三河之地矣、韋昭曰、河南・河東・河內爲ニ三河一也。❷河南・河東・河北。〔後漢書、光武紀贊〕三河未レ澄、四關重擾。〔注〕三河、河南・河北・河東也。〔阮籍、詠懷詩〕李公悲ニ東門一、蘇子狹ニ三河一。〔注〕沈約曰、河南・河東・河北、秦之三川郡、古人呼レ水、皆爲レ河。❸黃河・賜支河・湟河。〔後漢書、西羌傳〕遂俱亡入ニ三河閒一。〔注〕續漢書曰、遂俱亡入ニ河湟閒一、今此言ニ三河一、卽黃河・賜支河・湟河也。〔小學紺珠、地理類、三河〕黃河・析支河・湟中河。❹黃河・淮河・洛河をいふ。❺郡名。後涼、置く。今、青海省西寧縣の南。三河とは金城河・賜支河・湟河をいふ。〔讀史方輿紀要、陝西、西甯鎭、白土城〕後涼呂光置ニ三河郡一、治白土縣、三河謂ニ金城河・賜支河・湟河一也、時光自稱ニ三河王一、因置ニ三河郡一。❻縣名。唐、置く。今、河北省北京の東。三河とは七渡・臨泃・鮑邱の三水をいふ。〔讀史方輿紀要、直隸、通州、三河縣〕本潞縣地、唐開元四年、分ニ潞縣一置ニ三河縣一、以ニ地近ニ七渡・鮑邱・臨泃三水一而名。〔淸史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、三河。❼鎭の名。㋑安徽省合肥縣の南。淸の咸豐八年、李續賓・曾國華が洪楊と戰つて敗死した所。㋺廣東省大埔縣の西南。大靖溪・梅江・韓江の合流するところ。〔大埔縣志〕地界ニ閩廣一、舟車要津、明設ニ巡司於此一、亦名ニ三河壩市一。❽㋑ゴサウ 丹後國の地名。㋺カハミ 今の愛知縣東部の古名。

【三河戍】110 ミカワ 戍の名。浙江省蘭谿縣の西北。今、永泉鎭といひ、又、永昌鎭とも、二河關ともいふ。二河の渡場がある。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、建德縣、烏石關〕二河關、在二府南四十里一、有二三河渡一、卽東陽江渡口也、唐置二三河戍一于此一。

【三河治】111 ミカワ 地名。河北省涿源縣の南。〔元和志〕二三河治、舊置レ爐鑄レ錢、至德以後廢、元和七年、中書侍郎李吉甫奏、於二飛狐縣一三河治一銅山一鑄レ錢、時易レ定・河東・久用二鐵錢一、人不レ堪レ弊、至レ是復受レ利焉。

【三河口鎭】112 サンガコウ 鎭の名。❶江蘇省武進縣の東北。❷陝西省華陰縣の東北。

【三河武士】113 ミカハ 戰國時代、德川氏配下の三河國の武士をいふ。勇壯無比、忠義の心が厚く、當時、武士の理想としたもの。

【三河領袖】114 サンガリョウシュウ 河南・河東・河內の首領。〔魏書、裴駿傳〕世祖大悅、顧謂二崔浩一曰、裴駿有二當世才具一、浩亦深器レ駿、目爲二三河領袖一。故事成語考、衣服〕三河領袖、崔浩羨二裴駿之超一羣。

【三夏】115 サンカ ❶夏の三箇月の稱。孟夏(四月)・仲夏(五月)・季夏(六月)。〔子夜、四時歌〕情知二三夏熱、今日偏獨甚。〔李顒、夏日詩〕炎光燦二南溟一、潛暑融二三夏一。❷二度の夏。〔墨經〕凡新墨不レ過二三夏一、殆不レ堪レ用。❸樂曲の名。㋑王夏・肆夏・韶夏。〔周禮、春官、大司樂〕王出入、則令レ奏二王夏一、尸出入、則令レ奏二肆夏一、牲出入、則令レ奏二韶夏一。〔注〕三夏、皆樂章名。㋺肆夏・韶夏・納夏。天子の元侯を享するもの。〔周禮、春官、鍾師、凡樂事以二鍾鼓一奏二九夏一、注〕國語曰、金奏肆夏・繁遏・渠、天子所レ以享二元侯一、肆夏・繁遏・渠、所謂二三夏一矣。〔左氏、襄、四〕晉侯享レ之、金奏肆夏之三不レ拜。〔注〕肆夏、樂曲名、周禮、以二鍾鼓一奏二九夏一、其二曰肆夏、一名樊、三曰韶夏、一名遏、四曰、納夏、一名渠、蓋擊レ鍾而奏二此三夏曲一。

【三家】116 サンカ ❶二皇(369)に同じ。〔後漢書、馬融傳〕軼二越三家一、馳二騁五帝一。〔注〕三家、二皇也。❷魯の三公族。孟孫氏・叔孫氏・季孫氏。三桓。〔論語、八佾〕三家者、以レ雍徹。〔集注〕三家、魯大夫孟孫・叔孫・季孫之家也。❸晉の三家。韓・魏・趙。三晉。〔史記、天官書〕三家分レ晉、竝爲二戰國一。〔注〕正義曰、周安王二十六年、魏武侯・韓文侯・趙敬侯、共滅二晉靜一、而三分其地一。❹詩經の三家。齊・魯・韓。〔後漢書、儒林傳序〕詩、魯・齊・韓。❺書經の三家。歐陽・大夏侯・小夏侯。〔後漢書、劉陶傳〕陶明二尙書春秋一、爲二之訓詁一、推二三家尙書一。〔後漢書、儒林傳序〕尙書、歐陽・大小夏侯。❻禮經の三家。大戴・小戴・慶氏。〔漢書、儒林傳〕由レ是禮有二大戴・小戴・慶氏之學一。❼春秋の三家。左氏・公羊・穀梁。〔國朝漢學師承記、卷一〕於二春秋一則採二三家之精華一、斥二安國之迂謬一。❽夏・殷・周。〔論衡、正說〕案、禮、夏・殷・周三家、相損益之制、較著不レ同。❾古代天文の三家。蓋天・宣夜・渾天。〔晉書、天文志上〕古言レ天者、有二三家一、一曰、蓋天、二曰、宣夜、三曰、渾天。❿僅かな家。〔皮日休、胥口卽事詩〕舸艫二家五家。〔陸游、野意詩〕隄長逾二十里一、村小只二家一。⓫二つの名家。朝家では、閑院・久我・花山院。〔一說に閑院・花山院・中院〕。上杉家では山內・犬懸・扇谷。毛利家では、宍戸・小早川・吉川。德川家では、尾張・紀伊・水戸。

【三家詩】117 サンカ 漢代、詩經を傳へた齊・魯・韓の三家の詩。齊詩は齊人轅固生が之を傳へ、魯詩は魯人申培が傳へ、韓詩は燕人韓嬰の傳へたもの。魯人毛亨の傳へた毛詩を加へて之を四家詩といふ。四家詩は全く別系統のものだと說かれてゐるが、韓詩は魯詩の系統、毛詩は齊詩の系統だとも見られる。三家詩は漢の景帝の時に學官に立てられ、後漢の光武の建武元年に詩經三家博士を置かれたが、毛詩が盛になるに及んで、齊詩は魏に亡び、魯詩は西晉に亡んで、僅かに韓詩が外傳を傳へるだけとなつた。今、其の斷片は、淸の馬國翰の玉函山房輯佚書に收められてゐる。毛詩(6—16772‥91)を見よ。

【參考書】【魯詩故】二卷 漢、申培撰。【齊詩傳】二卷 漢、后蒼撰。【韓詩故】二卷 漢、韓嬰撰。【韓詩內傳】卷 漢、韓嬰撰。【韓詩說】卷 漢、韓嬰撰。〔玉函山房輯佚書、詩類、第十五・十六・十七冊〕。【詩攷】一卷 宋、王應麟撰。〔玉海、詩攷〕・〔學津討原、二集〕。【詩考補注補遺】三卷 淸、丁晏之撰。〔頤志齋叢書、八・九冊〕。【三家詩拾遺】十卷 淸、范家相撰。〔四庫提要、經、詩類〕。【三家詩補遺】三卷 淸、阮元撰。〔觀古堂彙刻書、一集、一冊〕。【三家詩異文疏證】二卷 補遺一卷 淸、馮登府撰。〔皇淸經解、三百六十冊〕。【三家詩遺說考】十五卷 淸、陳喬樅撰。〔皇淸經解續編、二百四十五—二百五十六冊〕。【四家詩異文考】五卷 淸、陳喬樅撰。〔皇淸經解續編、二百五十八—二百六十二冊〕。【詩三家集義疏】二十八卷 淸、王先謙撰。

【三家藷】118 サンショカ 甘藷(7—21643‥92)の異名。〔淸異錄、果、玉枕藷〕嶺外多レ藷、云云、味極甘香、人多自食、未レ嘗貨二于外一、本名二玉枕藷一、又號二三家藷一。

【三家村】119 サンカソン 戶數の少い村。私塾の師を嘲つて二家村先生といふ。〔蘇軾、次二韻滕大夫雲浪石詩〕削成山東二百郡、氣壓代北三家村。〔陸游、詩〕屏二迹三家村一。

【三家店】120 サンケンテン 地名。❶河北省宛平縣の西。平綏鐵道の平門支線が通つてゐる。❷河南省臨潁縣の東南。

【三家宮詞】121 サンカキュウシ 書名。二卷。明、毛晉編。三家とは、唐の王建・五代蜀の花蕊夫人費氏・宋の王珪をいふ。皆、宮詞の祖。〔四庫提要、集、總集類〕。

【三家尙書】122 サンカショウショ 漢代に傳へられた三家の尙書。夏侯建・夏侯勝・歐陽和伯の尙書。〔後漢書、劉陶傳〕推二三家尙書及古文一、是正文字一。

【三笴】123 サンカン 九尺のこと。笴は矢の幹で、長さ三尺。〔儀禮、鄕射禮〕堂前三笴。〔注〕笴、矢幹也。〔疏〕案、矢人注、矢幹長三尺、是去二堂九尺一也。

【三箇】124 サンカ 三つ。〔北史、西突厥傳〕若有二兩箇三箇日一、萬物何以得レ安。

【三箇津】125 サンガづ ❶筑前國の博多津・伊勢國の安濃津・薩摩國の坊の津。或は安濃津を除いて和泉國の堺津を加える。❷京都と大阪と堺。〔攝陽羣談、六津〕世俗、京・大阪・堺を指して、三箇の津と稱す。

【三箇都】126 サンガノミヤコ 三都(1351)の㈦に同じ。

【三箇日】127 サンガニチ 正月の元日・二日・三日の稱。〔狂言記、米市〕三箇日さへ仕舞ひますれば。

【三箇重事】128 サンガノジュウジ 御卽位・御禊、及び大嘗會の三箇の重大な朝廷の式事。〔夏山雜談〕三箇の重事とは、御卽位・御禊・大嘗會也。

【三牙】129 sān yá 頰髭・顎髭・鼻下髭をいふ。

【三峨】130 サンガ 蜀の峨眉山をいふ。大峨・中峨・小峨の三峯に分れる。〔臥遊錄〕三峨高出五嶽、秀二甲九州一。〔范成大、凌雲九頂詩〕江搖二九頂一風雷過、雲抹二三峨一日夜浮。〔范成大、三峨山記〕峨眉有二三山一爲二一列一、曰二大峨・中峨・小峨一。〔方輿勝覽〕大峨・中峨・小峨相連、是爲二三峨一。

【三雅】131 サンガ 四川省閬中縣にある池の名。伯雅・仲雅・季雅をいふ。其の池を修めた人の持つてゐた三つの盃から其の名を得たといふ。〔梁昭明太子、七契〕百味交馳、三雅開出。〔春渚紀聞〕古有二修二此池一者一、得二三銅器一、狀如二酒盃一、各有二三篆一、曰二伯雅・仲雅・季雅一、或謂、劉表二子好レ酒、嘗製二三爵一、大曰二伯雅一、受二一斗一、次曰二仲雅一、受二七升一、小曰二季雅一、受二五升一、蓋此池、因二三爵一得レ名也。

【三衙】132 ガン ❶宋代の殿前司・侍衞司馬軍・步軍の二司をいふ。〔宋史、欽宗紀〕邊將有二威望一者、爲二三衙一。〔小學紺珠、職官類、三衙〕殿前司・侍衞司馬軍・步軍、兩司二衙、合十二員、分二天下兵一領レ之。❷san¹ ya² 地方官署の小役人。

【三駕】133 サンガ ❶三たび兵をおこすこと。〔左氏、襄、九〕三駕、而楚不レ能二與爭一。〔注〕三駕、三興レ師。❷三たび馬車に乘ること。〔北史、魏太祖道武皇帝紀〕二年春正月乙丑、赦二京師一、始制二三駕之法一。〔顏氏家訓、歸心〕六舟三駕。

【三介】134 サンカイ ❶三人の從者。介は從者。子・男は介三人を定則とする。〔禮、聘義〕侯伯五介、子男二介。❷サンケン 常陸介・上野介・上總介。

【三戒】135 カイ ❶三つの戒め。㋑女色・鬪爭・利得。〔論語、季氏〕君子有二三戒一、少之時、血氣未レ定、戒レ之在レ色、及二其壯一也、血氣方剛、戒レ之在レ鬪、及二其老一也、血氣旣衰、戒レ之在レ得。㋺

妄りな出入・言語・憂慮。〔困學紀聞、雜識〕齊斎倪公三戒、不二妄出入一、不二妄語言一、不二妄憂慮一。❷動物に擬した三鑑戒。柳宗元の文に基づく。㋑臨江の麋・黔の驢・永の鼠の三獸に假りて鑑戒としたもの。〔柳宗元、三戒序〕吾恆惡下世之人不レ知レ推二己之本一、而乘レ物以逞上、或依レ勢以干レ非二其類一、出レ技以怒強、竊レ時以肆暴、然卒迨二于禍一、有レ客談二麋驢鼠三物一、似二其事一、作二三戒一臨江之麋、云云、黔之驢、云云、永某氏之鼠。㋺福の馬嘉魚・江淮の蜂蟹・蜀の封溪の猩猩。〔齊東野語、十四〕又效二柳河東三戒一、作二三說一、其一曰、福之馬嘉魚、云云、江淮之蜂蟹、云云、蜀封溪之猩猩。

【三戒壇】136 サンカイダン 大和國の東大寺、下野國の藥師寺、筑前國の觀音寺。聖武天皇の勅によつて築かれた戒壇（戒をさづける式場）をいふ。〔砂石集、三、下〕南都の東大寺、鎭西の觀世音寺、下野の藥師寺、三の戒壇を建て給ひ。

【三契】137 サンカイ 佛頌文を三べん唱へること。〔行事鈔、下〕圍繞三匝、唄讚三契。〔資持記、下三〕三契、契者猶レ遍也。

【三界】138 サンカイ ❶三つ目。第三番目。〔宋史、職官志五〕作二坊物料庫一、第三界掌下儲二積材物一、以備中給用上。❷三つの段階。〔元史、選擧志二〕都監歷二三界一陞二務使一、一週歲爲レ滿、月日不レ及者通理、務使歷二三界一陞二提領一。❸san¹ chieh⁴ 天・地・人。又は上・中・下。❹佛 サンガイ ㋑一切の衆生の生死輪廻する三種の世界。欲界（欲望のみの方面）と色界（欲は離れたが、物質世界が自己の心と對立している方面）と、無色界（三昧の世界に入つて、欲もなく、物はすべて自己の心に溶入つた方面）。又三有ともいふ。〔雜阿含經、十七〕有二三界一、云何三、欲界・色界・無色界。〔倶舍論、世間品、三界義〕。

欲界
- 地居
- 虛空居
- 四天王天 ＝ 持國天・增長天・廣目天・多聞天
- 忉利天
- 須夜摩天
- 兜率天
- 化樂天
- 他化自在天

色界
- 初禪天：梵天・梵衆天・梵輔天・大梵天
- 二禪天：少光天・無量光天・光音天
- 三禪天：少淨天・無量淨天・徧淨天
- 四禪天：無雲天・福生天・廣果天
- 淨梵地：無想天・無煩天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天・和音天・大自在天

無色界
- 空無邊處
- 識無邊處
- 無所有處
- 非想非非想處

㋺過去・現在・未來をいふ。三世（973）の❻を見よ。㋩世界。此の世。〔法華經、譬喩品〕三界無レ安、猶如二火宅一。❺㋑或る語に添へて遠い所をさしていふ語。くんだり。〔增補松の落葉、五〕江戶三界へ往かしやんして。㋺或る語に添へて其の語の範圍を強めていふ語。〔浮世風呂、四、中〕茶は土瓶で拵へりや、一日さんがい餘る。

【三界眼】139 サンガイゲン 佛佛の德稱。佛は三界の人の眼となつて、生死の險難を避けしめる。〔佛般泥洹經、下〕佛爲二大明一、三界中眼。

【三界藏】140 サンガイザウ 佛三界のこと。〔仁王經、上〕一切衆生煩惱、不レ出二三界藏一。

【三界市】141 サンカイシ 地名。安徽省定遠縣の東、池水の南岸。定遠・滁・盱眙の三縣の界にあるからいふ。

【三界牀】142 サンガイシヤウ 佛三界の苦を病床に喩へていふ語。〔智度論、七十二〕從二三界牀一起、我當レ作レ佛。

【三界尊】143 サンガイソン 佛佛をいふ。佛は三界で最も尊いもの。〔維摩經、佛國品〕我今稽二首三界尊一。

【三界坊】144 サンガイバウ 世の中をさまよひ歩く者。〔津國女夫池、二〕我れは是より三界坊。

【三界空花】145 サンガイクウゲ 佛三界は實なく、虛空の中の花の如しとの意。空花は實際にないものを有ると迷ふことの喩。三界空華。〔楞嚴經、六〕三界若二空花一。

【三界之外】146 サンガイノソト 過去・現在・未來の三界の外。時と處とを超越してゐる意。〔孟郊、謁二智遠禪師一詩〕禪心三界外、宴坐天地中。

【三界無常】147 サンガイムジヤウ 佛三界の變轉常なきことをいふ。〔止觀、一〕三界無常、一篋偏苦。

【三界唯一心】148 サンガイユイイツシン 佛三界の諸〻の現象はただ一心のはたらきによるものであるといふ說。唯識論・起信論等の有名なる大乘佛教の論書はこの思想を根源としている。三界唯心。三界一心。〔六十華嚴經、二十五〕三界虛妄、但是心作。〔十地經論、八〕一切三界、唯心轉故。〔自行略記〕夫三界唯一心、心外無二別法一、心佛及衆生、是無二差別一。

【三海】149 サンカイ 池の名。❶北京の新華門內の太液池をいふ。原名は西華潭。南海・中海・北海の三に分れてゐるからいふ。〔北京指南、地理、疆域、西苑〕西苑內海一帶、在二前淸時一、向爲二禁地一、苑內臺榭景物、無レ從二瞻覽一、紀元後、亦行二開放一、人民得三由レ此往來經行一、自由無レ阻、幷可四眺三覽三海風景名蹟、如二金鰲玉蝀橋、瓊島、及寶月樓舊址等處一。❷湖北省江陵縣の東北。三國、吳の時、江陵の北に水を溜めて魏兵を防いだ。北海と號し、上中下に分れて、古嶺・先鋒・三汊と稱するので三海といふ。宋の時、孟珙が修繕して蒙古を防いだ。〔荊州府志〕宋汪葉倅二江陵郡一、郡有二三海八櫃一、恃爲二險固一。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、江陵縣〕三海、在二城東北江陵一、孫吳時、引二諸湖及沮漳水一、浸二江陵以北地一、以拒二魏兵一、號爲二北海一、以レ水爲レ險、云云、開禧二年、守臣劉甲、以二南北兵端既開一、再築二上中下三海一。

【三階】150 サンカイ ❶土を三段に積んだ壇。又、三だん。〔管子、君臣上〕立二三階之上一。〔班固、西都賦〕於レ是左城右平、重軒三階。〔注〕濟曰、三階、言二南面之階有レ三。❷星の名。三台（1205）の❶に同じ。〔漢書、東方朔傳、泰階六符、注〕應劭曰、黃帝泰階六符經曰、泰階者、天之三階也、上階爲二天子一、中階爲二諸侯公卿大夫一、下階爲二士庶人一、上階上星爲二男主一、下星爲二女主一、中階上星爲二諸侯三公一、下星爲二卿大夫一、下階上星爲二元士一、下星爲二庶人一、三階平、則陰陽和、風雨時、社稷神祇、咸獲二其宜一、天下大安、是爲二太平一。❸サンガイ 隋の僧。名は信行。三階法を創め、三階集錄など四十餘卷を撰す。〔續高僧傳、十四〕。❹二階の上に更に一層ある家。三層樓。❺ミハシ 石見國の地名。

【三階九級】151 サンガイクキフ 奈良朝以後に制定せられた僧官。三階とは僧正・僧都・律師をいひ、九級とは大僧正・僧正・權僧正の三と、大・權大・少・權少の四僧都と、律師・權律師の二とをいふ。

【三階佛法】152 サンガイブツポフ 佛隋の信行禪師の立てた教義。根機に就いて三階を立て、最上利根の一乘のたぐひを第一階とし、利根の三乘のたぐひを第二階とし、鈍根で常人、凡夫を第三階とする。三階敎ともいふ。〔開元釋教錄、十八〕開皇二十年有レ敕、禁斷不レ聽二傳行一、而其徒既衆、蔓莚彌廣、既以二信行一爲二敎主一、別行二異法一、似レ同天授立二邪三寶一、云云、開元十三年乙丑歲六月三日、敕二諸寺三階院一、並令二除去一。

【三亥】153 サンガイ 亥の日が正月中に三度あること。かかる年には、多く水災があるといふ。〔浩然齋、視聽抄〕吳諺、正月逢二三亥一、湖田變成レ海、謂、壬辰年正月初六日己亥、十八日辛亥、三十日癸亥、是歲大澇、湖田顆粒不レ收、癸巳正月、亦有二三亥一、然一亥在二立春前一、是歲無二水災一。

【三垓】154 サンガイ 三重。三段。三陔に同じ。〔史記、武帝紀〕壇放二薄忌泰一壇一、壇三垓。〔史記、封禪書〕祠壇放二薄忌太一壇一、壇三垓。〔注〕索隱曰、鄒氏云、垓、一作レ陔、言、壇階三重。

【三陔】155 サンガイ 三重。三段。〔漢書、郊祀志上〕祠壇放二亳忌泰一壇一、三陔。〔注〕師古曰、陔、重也、三陔、三重壇也、音該。

【三害】156 サンガイ ❶朝廷に生ずる三つの害。〔論衡、累害〕夫鄕里有二三累一、朝廷有二三害一、云云、位少

人衆、仕者爭レ進、進者爭レ位、見レ將相毀、增二加傳致一、將味不レ明、然二納其言一、一害也、將吏異レ好、清濁殊レ操、清吏增二郁郁之白一、擧二涓涓之言一、濁吏懷二恚恨一、徐求二其過一、因二纖微之謗一、被以二罪罰一、二害也、將或幸二佐吏之身一、納二信其言一、佐吏非二清節一、必拔レ人越レ次、迕二失其意一、毀レ之過レ度、清正之仕、抗行伸志、遂爲レ所レ憎、毀二傷於將一、三害也。❷渠を作らぬ爲に民に生ずる三つの損害。〔漢書、溝洫志〕通レ渠有二三利一、不レ通有二三害一、民常罷二於救水一、半失二作業一、水行二地上一、湊潤上徹、民則病二濕氣一、木皆立枯、鹵不レ生レ穀、決溢有レ敗、爲二魚鼈食一、此三害也。〔張祜、晩次二荊溪館一呈二崔明府一詩〕況是無二三害一、弦歌初政成。〔李俊民、三害圖詩〕慷慨平西氣不レ衰、勇二于三害欲レ除一時。❸晉の周處が力強く亂暴であつたので、時人は南山の白額の虎、長橋の蛟と共に天下の三害といつた故事。〔晉書、周處傳〕處膂力過レ人、好二馳騁田獵一、不レ修二細行一、縱情肆慾、州曲患レ之、處自知レ爲二人所一レ惡、乃慨然有二改勵之志一、謂二父老一曰、今時和歲豐、何苦而不レ樂邪、父老歎曰、三害未レ除、何樂之有、處曰、何謂也、答曰、南山白額猛獸、長橋下蛟、幷レ子爲レ三矣、處曰、若レ此爲レ患、吾能除レ之、父老曰、子若除レ之、則一郡之大慶、非二徒去レ害而已一、處乃入レ山射二殺猛獸一、因投レ水搏レ蛟、蛟或沈或浮、行數十里、而處與レ之俱經二三日三夜一、人謂死、皆相慶賀、處果殺レ蛟而反。

【三街】157 サンガイ　三方へ通じた町。〔陸厥、邯鄲行〕長袖曳二三街一、兼金輕二一顧一。

【三蓋】158 サンガイ　❶三つのおほひ。三蓋車を見よ。❷三層に重ねる。三かさね。

〔三蓋車〕159 サンガイシャ　漢代の車の名。三蓋があるので名づける。天子親耕の時、之に乘る。又、芝車ともいふ。〔通典、禮典、嘉、耕根車〕漢制、耕根車、如二副車一、有二三蓋一、一曰芝車、置二轓耒耜之箙一、上親耕所レ乘也、云云、晉因レ之、駕レ駟、天子親耕所レ乘、置二耒耜於軾上一、一名二三蓋車一。

【三繫】160 サンガイ　馬具の羈(オモガイ)・鞅(ムナガイ)・鞦(シリガイ)をいふ。三鞅。

【三交】161 サンカウ　城の名。❶山西省陽曲縣の北。〔宋史、太宗紀一〕太平興國四年、命二潘美一、屯二河東三交口一。〔太平寰宇記〕皇朝平レ晉、移二幷州於三交寨一、陽曲縣界。❷陝西省寶雞縣の西。三國、魏の司馬懿が築いた。晉の建元二年、張瓘が此の城を攻めた。〔讀史方輿紀要、鳳翔府、寶雞縣、桃虢城〕三交城在二縣西三十里一、志云、魏司馬懿、與二武侯一相二持於此一、因築二是城一、晉建元二年、涼州將張瓘、攻二後趙將王擢於三交城一。

【三伉】162 サンカウ　複姓。〔路史〕三伉、子姓、微子之後。

【三好】163 サンカウ　三つのこのみ。音律・書・酒。〔南史、蕭琛傳〕琛常言、少壯三好、音律・書・酒、年長以來、二事都廢、唯書籍不レ衰。

【三江】164 サンカウ　❶河の名。三江の名には色々あり、左表の如くである。

江・漢・彭蠡	初學記引鄭玄書經注・蘇軾・金履祥・鄭曉・周洪謨・馬中錫・邵寶・張吉・章潢・郝敬・袁黃・胡渭・蔣廷錫。
南江・北江・中江	漢書、地理志・司馬貞・顏師古。
吳淞江・婁江・東江	庾仲初、揚都賦注・經典釋文引顧夷吳地記・吳越春秋、夫差內傳・張守節・薛季宣・朱長文・蔡沈。
揚子江上流	初學記引山海經注。
岷江・松江・浙江	水經、沔水注・歸有光・全祖望・顧炎武。
吳江・錢塘江・浦陽江	國語、越語、韋昭注。
浙江・浦江・剡江	吳越春秋。
江・湘・沅	山海經、中山經、郭璞注。

〔書、禹貢〕揚州、云云、三江既入。〔周禮、夏官、職方氏〕揚州、其川三江。〔國語、越語上〕三江環レ之、民無レ所レ移。〔荀子、成相〕疏二三江一。❷蜀の三江。岷江・涪江・沱江。〔楊愼、病榻手吹〕蜀之三江、外水岷江・中水涪江・內水沱江也。❸浙の三江。〔明一統志〕三江在二台州府城西十里一、其源有レ三、一自二天台關嶺一、一自二仙居・永安二溪一、至レ此合爲二靈江一、故曰二三江一。❹安南の三江。洮江・沱江・宣光江。〔讀史方輿紀要、廣西附考、安南、三江府〕三江在二府西一、洮江・沱江・宣光江合流之口也。❺雲南の三江。李仙江・阿墨江・把邊江。〔普洱府志〕李仙江、在二城南三百五十里一、合二阿墨・把邊二江一、南入二交趾一。❻江蘇・安徽・江西三省をいふ。❼省名。滿洲國康德元年、舊吉林・黑龍江兩省の地を分割して成立し、省公署を佳木斯に置き、十四縣を統轄した。❽縣名。㋑宋、置く。湖南省會同縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、靖州、會同縣〕崇甯初置二三江縣一、二年、改曰二會同縣一、屬二靖州一。㋺民國、置く。廣西省馬平縣の北。もと廣西柳江道に屬した。潯・溶・融の三江によつて名づける。❾鎭の名。㋑浙江省紹興縣の東北、浮山の北麓。東海の門戶で、海鹽を產す。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、山陰縣〕三江鎭、在二府東北四十里浮山北麓一。㋺廣西省貴縣の西。明の萬曆中、鎭を置き城を築く。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州府、貴縣〕三江鎭、縣西、五十里鬱江上、云云、萬曆中、置二三江城一。㋩貴州省黎平縣の北。❿城の名。㋑浙江省紹興縣の東北、浮山の南。明の洪武の時築いた城。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府附見〕三江守禦千戶所、在二府東北三十七里浮山之陽一、洪武二十年建レ城、周三里有奇、有二大閘關一。㋺廣東省連縣の西、高良水の北岸。清の康熙の時建てた城。

【三江營】165 サンカウエイ　地名。江蘇省江都縣の東、大江の北岸。もと營を置く。

【三江墟】166 サンカウキヨ　地名。❶廣東省三水縣の東北、三江水のほとり。明・清共に巡司を置いた。❷廣東省新會縣の東南、鯉魚洲の西。

【三江溪】167 サンカウケイ　河の名。湖北省利川縣に源を發してゐる龍嘴溪・冷箐溪の二つが沙子關で合流して三江溪となる。

【三江口】168 サンカウコウ　地名。❶滿洲遼寧省遼源縣の東南、遼河の西岸。河を隔てて大民屯と對してゐる。滿蒙の重要市場。❷滿洲吉林省和龍縣の西。❸江蘇省吳江縣の北。吳淞江・婁江・東江の分流する所。〔吳越春秋、夫差內傳〕越王將下選二死士一出二三江之口一、入中五湖之中上。〔注〕今其地亦名二三江口一、卽范蠡乘レ舟所レ出之地。❹江西省南昌縣の南、贛江の東岸。❺福建省莆田縣の東南海岸。❻湖北省黃岡縣の西、渡場がある。〔輿地紀勝〕在二團風鎭之下一、有レ江、三レ路而下、至レ此會合爲レ一。❼湖北省鄂城縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、武昌縣〕三江口鎭、縣西四十里、云云、三江合流、延袤廣闊、明初設二巡司於此一。❽湖南省岳陽縣の北。洞庭湖の水が揚子江に入る所。一名、西江口。〔水經、湘水注〕巴陵西對二長洲一、其洲南分二湘浦一、北屆二大江一、故曰二三江一也、三水所レ會、亦或謂二之三江口一矣。〔元和志〕巴陵城、對二三江口一、岷江爲二西北一、澧江爲二中江一、湘江爲二南江一。❾四川省の嘉陵江が合川縣に入る界。渠江・涪江と會す。❿廣東省治の東南。鬱水(西江)・浪水(東江)・湞水(北江)の合するところ。⓫廣西省蒼梧縣の西南で、藤江が繡江・桂江と會する所。

【三江漁父】169 サンカウギヨホ　清、迮雲龍(11－38801‥4)の號。

【三考】170 サンカウ　三年に一度づつ、九年に三度、官吏の賢否、政事の得失を考査すること。〔書、舜典〕三載考レ績、三考黜二陟幽明一、庶績咸熙。〔疏〕言、帝命二羣官一之後、經二三載一、乃考二其功績一、經二三考一、則九載黜二陟幽明一、明者升レ之、闇者退レ之。〔後漢書、朱浮傳〕以二堯舜之盛一、猶加二三考一。〔唐書、選擧志下〕憲宗時、李吉甫定二考選之格一、五品以上及臺省官、皆三考、餘皆四考。〔白居易、代書詩一百韻寄二微之一〕兩衙多二請假一、三考欲レ成レ資。

【三行】171 サンカウ　❶三つの善い行。㋑父母に孝、賢良に友、師長に順。〔周禮、地官、師氏〕一曰孝行、以親二父母一、二曰友行、以尊二賢良一、三曰順行、以事二師長一。〔小學紺珠、性理類、三行〕孝行・友行・順行。㋺親の生と死と祭とに爲すべき行。〔論語、爲政〕生事レ之以レ禮、死葬レ之以レ禮、祭レ之以レ禮。㋩君臣・父子・長幼間の行。〔禮、冠義〕以正二君臣一、親二父子一、和二長幼一、君臣正、父子親、長幼和、而后禮義立。〔注〕言二三始既備、乃可レ求以二三行一也。〔小學紺珠、人倫類、三行〕正二君臣一、親二父子一、和二長幼一。㊁孝・信・廉。〔戰國、燕策〕蘇代謂二燕昭王一曰、今有レ人於此一、孝如二曾參・孝巳一、信如二尾生高一、廉如二鮑焦・史鰌一。〔小學紺珠、人倫類、三行〕孝如二曾參・孝巳一、信如二尾生高一、廉

如二鮑焦・史鰌一。㊁三つの行ひ方。安んじて行ひ、利して行ひ、勉強して行ふこと。〔中庸〕或安而行レ之、或利而行レ之、或勉強而行レ之、及二其成レ功一也。〔小學紺珠、性理類、三行〕安而行レ之、利而行レ之、勉強而行レ之。㊂三つの軍隊。晉はもと三軍であつたが、更に三行を增して、天子六軍の名を犯すことを避けた。〔左氏、僖、二十八〕晉侯作二三行一、以禦レ狄。〔注〕晉置二上中下三軍一、今復增置二三行一、以辟二天子六軍之名一。〔小學紺珠、制度類、三行〕中行・右行・左行。㊃三度めぐる。〔法言、脩身〕賓主百拜、而酒三行、不二已華一乎。〔宋史、樂志十三〕酸斝三行、盛儀斯擧。㊄三つのならび。三列。〔吳子、勵士〕武侯設二坐廟庭一、爲二三行一、饗二士大夫一、上功坐二前行一、餚席兼二重器上牢一、次功坐二中行一、餚席器差減、無功坐二後行一、餚席無二重器一。㊅サンギャウ みくだり。〔柳宗元、段九秀才處見二亡友呂衡州書迹一詩〕袖中忽見二三行字一、拭レ淚相看是故人。㊆[佛]㋑福行と罪行と不動行。福業・非福業・不動業に同じ。福行は十善等の福を行つて、天上人間の樂を受けるもの。罪行は十惡等の罪を行ひ、三惡道の苦を受けるもの。不動行は禪定を修して、不苦不樂の果を感ずるもの。善惡の行のやうに受ける果が動かぬから不動といふ。〔智度論、八十八〕善・不善・不動、善名二欲界中善法喜樂果報一、不善名二憂悲苦惱果報一、不動名下生二色・無色界一因緣業上、菩薩知二是三種業皆是虛誑不實一。㋺正行・助行・雜行。正行は佛名を稱へること。助行は讀誦・觀察・禮拜・讚歎・供養。雜行は上の五者以外の一切の善行。

【三孝】172 サンカウ 三つの孝行の道。㊀親を尊ぶ、親を辱しめない、親を能く養ふ。〔禮、祭義〕曾子曰、孝有レ三、大孝尊レ親、其次弗レ辱、其下能養。〔小學紺珠、人倫類、三孝〕大孝尊レ親、其次弗レ辱、其下能養。㊁小孝は力を用ひ、中孝は勞を用ひ、大孝は博く施し、物を備へること。〔禮、祭義〕孝有レ三、小孝用レ力、中孝用レ勞、大孝不レ匱、思二慈愛一忘レ勞、可レ謂レ用レ力矣、尊レ仁安レ義、可レ謂レ用レ勞矣、博施備レ物、可レ謂レ不レ匱矣。〔陳注〕博施、謂下德教加二於百姓一、刑中于四方上也、備レ物、謂下四海之內、各以二其職一來助上祭、可レ謂レ不レ匱矣。〔小學紺珠、人倫類、三孝〕小孝用レ力、中孝用レ勞、大孝不レ匱。㊂親の生存する時は養ひ、沒する時は喪し、喪畢る時は祭る。〔禮、祭統〕是故孝子之事レ親也、有二三道一焉、生則養、沒則喪、喪畢則祭、養則觀二其順一也、喪則觀二其哀一也、祭則觀二其敬而時一也、盡二此三道一者、孝子之行也。〔小學紺珠、人倫類、三孝〕養・喪・祭。㊃親に事へ、君に事へ、身を立てる。〔孝經、開宗明義章〕夫孝、始二於事一レ親、中二於事一レ君、終二於立一レ身。〔小學紺珠、人倫類、三孝〕始二於事一レ親、中二於事一レ君、終二於立一レ身。

【三更】173 サンカウ ㊀子の時。午後十二時から午前二時までの間。よなか。五更(**1**―**257**··98)を見よ。〔宋書、律曆志中〕到二三更一一唱。〔李商隱、夜半詩〕三更三點萬家眠。〔崔顥、七夕詩〕班姬此夕愁無レ限、河漢三更看二斗牛一。㊁宋の陳象輿の綽名。常に三更まで友の家に會したことからいふ。〔宋史、趙昌言傳〕時鹽鐵副使陳象輿、與二昌言一善、知制誥胡旦、度支副使董儼、皆昌言同年、右正言梁顥、嘗在二大名幕下一、四人者、日夕會二昌言之第一、京師爲レ之語曰、陳三更董半夜。

【三更棗】174 san¹ kêng¹ tsao³ 三更早く來れといふ意。粳と更、棗と早と音が通ずる。一僧が五祖に參問した時、五祖は答へずして粳米三粒、棗一個を與へて、三更早く來れとの意を寓した故事に本づく。〔西廂記、張君瑞害相思雜劇〕包籠著二三更棗一。

【三庚】175 サンカウ 夏の暑い時。三伏(1567)の㊀を見よ。〔田家四時占〕八月云、三卯三庚、麥出低坑、三庚三卯、麥出坳巧。

【三郊】176 サンカウ 都邑の外の三郊野。諸侯の地で國都の外二十里を郊といふ。〔書、費誓〕魯人、三郊三遂。〔蔡傳〕國外曰レ郊、郊外曰レ遂、天子六軍、則六鄕六遂、大國三軍、故魯三郊三遂也。〔北史、許善心傳〕三郊遞襲、五勝相沿。

【三香】177 サンカウ ㊀川の名。〔明一統志〕三香水、在二平涼靈臺縣東五十里一、源出二麟遊縣一、亦名二三交川水一。㊁ san¹ hsiang¹ 梅・水仙・蘭をいふ。

【三校】178 サンカウ 三人の將校。〔漢書、趙充國傳〕卽夜遣二三校一、銜レ枚先渡。

【三高】179 サンカウ ㊀三人の德の高い人。㋑前漢の王霸・後漢の摯恂・申屠蟠をいふ。〔陸龜蒙、漢三高士贊〕王霸仲儒、淸節是理、有レ息躬耕、黃頭歷齒、云云、摯先生恂、伯陵之孫、學通二五經一、居二於渭濱一、弟子累レ百、云云、外黃申屠、少負二名節一、義女報レ仇、令レ欲レ論レ殺、蟠以二同縣一、陳レ情上レ讞。〔小學紺珠、名臣類下、三高〕漢、王霸・摯恂・申屠蟠。㋺梁の何胤・何求・何點をいふ。〔南史、何胤傳〕初胤二兄求・點、並棲遁、求先卒、至レ是、胤又隱、世號レ點爲二大山一、胤爲二小山一、亦曰二東山一、兄弟發レ迹雖レ異、克終皆隱、世謂二何氏三高一。㋩越の范蠡・晉の張翰・唐の陸龜蒙をいふ。江蘇省吳江縣の東に三高祠がある。〔齊東野語、七〕吳江三高亭祠、鴟夷子皮・張季鷹・陸魯望、而議者以二子皮一爲二吳大仇一、法不レ當レ祀、前輩有レ詩云、可レ笑吳癡忘二越恨一、卻誇二范蠡一作二三高一。㋥唐の高釴・高銖・高鍇をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三高〕高釴・銖・鍇、三高竝秀。㊁馬の頭から鼻に至る間に、溝のやうに凹んだ所。

【三高遺墨樓】180 サンカウヰボクロウ 淸、凌霞(**2**―1669··19)の室名。

【三峭】181 サンカウ 山名。河南省洛寧縣の西北。峭山(**4**―**8206**··6)に同じ。〔讀史方輿紀要、河南、名山、三峭〕三峭山、亦曰二二峭一、一名、嵚崟山、在二今河南府永甯縣北六十里一。

【三港】182 サンカウ 河の名。中港・西港・後港の三つをいふ。安徽省南陵縣治の前にあつて、源は西南の諸山。皆、淮水の下流で合す。〔明一統志〕三港水、在二撫州府金谿縣東五十里一、源出二崖山一、歷二白蓮港一、至二黎盆渡一、與二青田港水一合。

【三絳】183 サンカウ 縣名。漢、置く。四川省會理縣の東南。〔漢書、地理志上〕越巂郡、縣十五、三絳。

【三綱】184 サンカウ ㊀君臣・父子・夫婦の道をいふ。君は臣の綱たり、父は子の綱たり、夫は婦の綱たるが爲だといひ、又、三綱は六紀に對する語で、師長は君臣の紀なり、諸父兄弟は父子の紀なり、諸舅朋友は夫婦の紀なりともいふ。綱はおほづな、紀はこづな。〔禮緯含文嘉〕君爲二臣之綱一、父爲二子之綱一、夫爲二婦之綱一。〔漢書、谷永傳〕勤二三綱之嚴一、修二後宮之政一。〔春秋繁露、基義〕天爲レ君而覆二露之一、地爲レ臣而持二載之一、陽爲レ夫而生レ之、陰爲レ婦而助レ之、春爲レ父而生レ之、夏爲レ子而養レ之、王道之三綱、可レ求二於天一。〔白虎通、三綱六紀〕三綱者、何謂也、謂二君臣・父子・夫婦一也、云云、君臣父子夫婦六人也、所三以稱二三綱一何、一陰一陽、謂二之道一、陽得レ陰而成、陰得レ陽而序、剛柔相配、故六人爲二三綱一、云云、六紀者爲二三綱之紀一者也、師長、君臣之紀也、諸父兄弟、父子之紀也、諸舅朋友、夫婦之紀也。〔宋書、禮志一〕夫崇二三綱之始一、以定二乾坤之儀一、安有下天父之尊、而稱二臣下之命一、以納中伉儷上、安有下臣下之卑、而稱二天父之名一、以行中大禮上。㊁[佛]各寺に設ける三人の役務で、上座（寺內の長老）・寺主（寺事を司る僧）・維那（大衆を率ゐ綱紀を維持する職。維は綱維の維、那は梵語の音譯羯磨陀那 Karmadāna の那）。或は上座・維那・典座（寺主に同じ）といふ。〔翻譯名義集〕隋知琳、潤洲刺史李海遊、命レ琳爲二斷事綱維一、爾護寺立二三綱一、上座・維那・典座也。㊂我が國で諸大寺、及び朝廷から封戶を寄せられた諸寺に置いた三種の僧官。上座・寺主・都維那をいふ。有職權三綱。〔日本書紀、天武紀下〕朱鳥元年正月庚戌、請二三綱律師及大官大寺知事佐官竝九僧一、以二俗供養一養レ之、仍施二絁緜布一、各有レ差。〔職原抄〕僧官位、上座・寺主・都維那、謂二之三綱一。

【三綱五常】185 サンカウゴジャウ 三綱と五常。君臣・父子・夫婦の道と、仁・義・禮・智・信。三綱の㊀・五常(**1**―**257**··550)を見よ。〔文中子、天地〕薛收曰、吾嘗聞二夫子之論一レ詩矣、上明二三綱一、下達二五常一。

【三綱六紀】186 サンカウロクキ ㊀三綱と六紀。三綱は君臣・父子・夫婦の道、六紀は諸父・兄弟・族人・諸舅・師長・朋友の道。〔白虎通、三綱六紀〕三綱者、何謂也、謂二君臣・父子・夫婦一也、六紀者、謂二諸父・兄弟・族人・諸舅・師長・朋友一也。㊁白虎通の篇名。

【三綱實繫レ命】187 サンカウジツニメイヲツナグ 三綱卽ち君臣・父子・夫婦の道は、實に此の正氣によつて命脈をたもつ。〔文天祥、正氣歌〕三綱實繫レ命、道義爲二之根一。

【三綱領八條目】188 サンカウリョウモク 大學の三綱領である明明德・親民・止至善と、八條目である格物・致知・誠意・正心・修身・齊家・治國・平天下とをいふ。宋の朱熹が大學一篇の綱要として摘出したもので、其の內容は儒教の主義と目的とを最も組織的に敍述したものである。〔大學〕大學之道、在レ明二明德一、在レ親レ民、在レ止二於至善一。〔章句〕此三者、大學之綱領也。〔大學〕古之欲レ明二明德於天下一者、先治二其國一、欲レ治二其國一者、先齊二其家一、欲レ齊二其家一者、先脩二其身一、欲レ脩二其身一者、先正二其心一、欲レ正二其心一者、先誠二其意一、欲レ誠二其意一者、先致レ知、致レ知在レ格レ物。〔章句〕此八者、大學之條目也。

【三衡】189 サンカウ ❶二人の衡人。衡は山を掌る官。〔國語、齊語〕澤立二虞一、山立二衡一。〔注〕周禮、有二山虞・林衡之官一。衡、平也、掌レ平二其政一。❷星座の名。〔王勃、七夕賦〕循二五緯一而淸二黃道一、正二三衡一而澄二紫落一。〔觀象玩占〕三台六星、兩兩而居、一曰二三衡一。

【三羭】190 サンユ 羊羹と鹽羹と猪羹との稱。

【三號】191 サンガウ ❶三度さけぶ。〔禮、喪大記〕北面三號、捲レ衣投レ于前。〔疏〕三號、號呼之聲、三徧也、必三者、一號レ於レ上、冀二神在レ天而來一也、一號於下、冀二神在レ地而來一也、一號二於中一、冀二神在一天地之間一而來也。〔莊子、養生主〕三號而出。〔史記、曆書〕時雜三號、卒明。❷三度、年號を改める。〔南齊書、海陵王紀論〕晉惠帝永安二年、長沙王乂專、敗二成都王穎一、改二元爲一永安一云云、復改二元爲一永興一歲、一號也。❸三つの名。〔宋書、百官志上〕中鎭撫二號比二四鎭一。

【三號雜誌】192 サンガウザッシ 第三號位まで發行しただけで廢刊となる雜誌。發行後、續刊の見込みのない雜誌を嘲っていふ語。

【三豪】193 サンガウ 宋の石曼卿(延年)の詩と歐陽永叔(脩)の文と杜師雄(默)の歌をいふ。〔石介、三豪詩送二杜默師雄一并序〕本朝八十年、文人爲レ多、若二老師宿名一、不二敢論一、數二近世作者一、石曼卿之詩、歐陽永叔之文辭、杜師雄之歌篇、豪二於一代一矣、師雄學二於予一辭歸、作二三豪詩一以送レ之、曼卿豪二於詩一、社壇高二數層一、永叔豪二於辭一、擧世絕二儔朋一、師雄歌亦豪、三人宜二同稱一。〔小學紺珠、名臣類下、三豪〕石曼卿詩・歐陽永叔文・杜師雄歌。

【三(一)角】194 サンカク ❶二つの稜のある形。〔詩、小雅、大東、跂彼織女、疏〕然則三星鼎足、而成二三角一。❷犀・二角羊・三角牛など、一匹の獸のもつ二つのつの。〔山海經、南山經、注〕犀似二水牛一、云云、三角、一在二頂上一、一在二額上一、一在二鼻上一。〔宋書、五行志〕大明七年、永平郡獻二三角羊一。〔金史、五行志〕皇統七年十一月、完顏秉德進二三角牛一。❸山名。㋑湖北省蘄水縣の東。其の山に三角寺がある。伏虎禪師の居たところ。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、蘄水縣〕三角山、縣東北六十里、山有二三峯一、如二角之一竪一。㋺湖北省黃安縣の東。〔黃州府志〕三角山、在二縣東三十里一、三峯品峙如二筆架一。㋩廣東省東莞縣の南。俗名、蓮花峯。〔廣州府志〕蓮花峯、在二縣東北六里一、九峯峻聳、又名二三角山一。㋥三角形、又は三角法の略。〔國朝漢學師承記、戴震〕今人所用二三角八線之法一、本出二於句股一。〔國朝漢學師承記、陳厚耀〕以二三角形一、令レ求二中線一。㋭ san¹ chiao³ 三十錢。

【三角江】195 サンカクカウ 潮流の爲に浸蝕せられて、喇叭狀に開いた河口。

【三角筋】196 サンカクキン 肩の鎖骨・肩胛骨から起り、上膊骨に終る筋。

【三角形】197 サンカクケイ 三直線で圍まれた平面形。

【三角髻】198 サンカクケイ 三つの角のさまに結んだ髮。〔漢武帝內傳〕(上元夫人)頭作二三角髻一、餘髮散垂至レ腰。〔雲笈七籤、月中五夫人、頭並頹二三角髻一、髮垂垂至レ腰。〔李白、上元夫人詩〕嵯峨三角髻。

【三角座】199 サンカクザ 星座の名。北三角座(2-257 4·538)に同じ。

【三角酸】200 サンカクサン 草の名。かたばみ。酸漿草。酢漿草(11-39824·2)の異名。〔本草、酢漿草〕釋名、三角酸。

【三角獸】201 サンカクジウ 三つの角のある靈獸の名。先王の法度が修まれば、世に現はれるといふ。〔宋書、符瑞志中〕三角獸、先王法度修則至。〔元史、輿服志二〕三角獸旗、赤質、赤火焰腳、繪レ獸、其首類二白澤一、綠髮、三角青質、白腹、跋尾綠色。〔三才圖會、三角獸〕西凸山有二三角獸一、乃瑞獸也、先王法度修明則至。

三角獸(三才圖會)

【三角洲】202 サンカクシウ 河口に土沙が沈積して出來た三角形の洲。デルタ。

【三角錐】203 サンカクスイ 底面が三角形をなす角錐。

【三角墻】204 サンカクシャウ 三角柱に同じ。

【三角柱】205 サンカクチウ 底面が三角形をなす柱體。三稜柱。二稜體。三角墻。

【三角塚】206 サンカクチョウ 埃及のピラミツドをいふ。〔中井櫻洲、埃及古蹟詩〕唯有二巍然三角塚一、塔尖高在二半天雲一。

【三角亭】207 サンカクテイ 奥田士亨の號。奥田三角(3-5981·99)を見よ。

【三角淀】208 サンカクデン 淀の名。古の邕奴水。河北省武淸縣の南、王慶坨の東。昔は周圍三十里の大きな淀。今は平地になつている。〔畿輔通志〕武淸縣、三角淀、在二武淸縣南一、周匝二百餘里一、或云、卽古雍奴地也。

【三角法】209 サンカクハフ 三角函數の性質を論ずる數學の一分科。平面三角法と球面三角法との二部門がある。

【三角板】210 サンカクバン 三形定規。

【三角比】211 サンカクヒ 三角函數(215)に同じ。

【三角風】212 サンカクフウ 草の名。〔本草、三角風〕時珍曰、一名二角尖、取二石上者一、尤良、主二風濕流注疼痛及癰疽腫毒一。

【三角楓】213 サンカクフウ 木の名。たうかへで。かくみの。はなかづら。かへで科の喬木。葉は長柄を有し二つに淺く裂ける。雌雄異株。

【三角表】214 サンカクヒョウ 三角函數の値と其の對數とを記載した表。

【三角函數】215 サンカクカンスウ 一つの角の正弦(sine、サイン)・餘弦(cosine、コサイン)・正切(tangent、タンゼント)・餘切(cotangent、コタンゼント)・正割(secant、セカント)・餘割(cosecant、コセカント)をいふ。任意の角∠BACの一邊AC上の一點PからABに垂線を下して、其の交點をPMとすれば、∠BACの正弦はAP，餘弦はAM，正切はPM/AM，餘切はAM/PM，正割はAP/AM，餘割はAP/PMとなる。

【三角關係】216 サンカクカンケイ 男女一組の戀人の中に、男又は女に更に一人の戀人がある時、其の三者の關係をいふ。三角戀愛。

【三角測量】217 サンカクソクリャウ 三角法を應用して廣大な地域に行ふ測量。

【三角同盟】218 サンカクドウメイ 三國、又は三者間に締結された盟約をいふ。

【三角戀愛】219 サンカクレンアイ 三角關係(216)に同じ。

【三角方程式】220 サンカクハウテイシキ 三角函數の未知數を含む方程式。

【三恪】221 サンカク 周の武王は、虞・夏・殷の後を封じて三恪とした。恪は敬で、王者が先世を敬する義。又、黃帝・堯・舜の後ともいふ。諸侯よりは尊く、二王よりは卑い地位に置く。〔左氏、襄二十五〕晉人問二陳之罪一、對曰、昔虞閼父爲二周陶正一、以服二事我先王一、云云、而封二諸陳一、以備二三恪一。〔注〕周得二天下一、封二夏殷二王後一、又封二舜後一、謂二之恪一、并二二王之後一爲二三國一、其禮轉降、示レ敬而已、故曰二三恪一也。〔會箋〕郊特牲云、天子存二二代之後一、猶尊レ賢也、尊賢不レ過二二代一、鄭玄以此謂二杞宋一爲二二王之後一、薊祝陳爲二三恪一、鄭說是也、薊、黃帝之後、祝、帝堯之後、陳、帝舜之後、是謂二三恪一、尊二于諸侯一、卑二于二王之後一。〔詩、陳譜〕帝舜之胄、有二虞閼父者一、爲二周武王陶正一、武王賴二其利器用一、與二其神明之後一、封二其子嬀滿於陳一、都二於宛丘之側一、是曰二陳胡公一、以備二三恪一。〔疏〕襄二十五年左傳稱、子產曰、昔虞閼父爲二周陶正一云云、封二諸陳一以備二三恪一、是鄭所據之文也、云云、恪者、敬也、王者敬二先代一、封二其後一、鄭駁異議云、三恪尊二於諸侯一、卑二於二王之後一、則杞宋以外、別有二三恪一、謂二黃帝堯舜之後一也、唯杜預云、周封二夏殷二王後一、又封二舜後一、謂二之恪一、并二二王之後一、爲二三國一、其禮轉降、示レ敬而已、故三恪以爲二陳與杞宋一、共爲二三一、案、樂記云、武王未レ及レ下レ車、封二黃帝之後於薊一、封二帝堯之後於祝一、封二帝舜之後於陳一、下レ車、乃封二夏后氏之後於杞一、封二殷之後於宋一、明陳與薊祝、共爲二三恪一、

杞宋別爲二王之後一矣。

【三革】222 サンカク ❶甲・冑・盾の稱。〔國語、齊語〕定二三革一、隱二五刃一。〔注〕三革、甲・冑・盾也。❷犀・兕・牛の稱。〔荀子、儒效〕反而定二三革一、偃二五兵一。〔注〕三革、犀也、兕也、牛也。❸車・馬・人の上におほふ革甲。〔管子、小匡〕定二三革一、偃二五兵一。〔注〕車馬人皆有二革甲一、曰二三革一。❹革命（甲子年）・革運（戊午年）・革命（辛酉年）をいふ。〔詩緯〕十周二聚、氣生二神明一、戊午革運、辛酉革レ命、甲子革レ政。〔易緯〕辛酉爲二革命一、甲子爲二革令一。

【三革說】223 サンカクセツ 書名。一卷。一條兼良撰。

【三革五刃】224 サンカクゴジン 甲・冑・盾の三革と刀・劍・矛・戟・矢の五刃。〔國語、齊語〕定二三革一隱二五刃一。〔注〕三革、甲・冑・盾也、五刃、刀・劍・矛・戟・矢也、說云、三革、甲・盾・鼓、非也、兵事息則禮樂興焉、得レ廢レ鼓也。

【三閣】225 サンカク ❶祕書郎（8—24663‥54）の異名。中外三閣の經書を掌るからいふ。〔北史、牛弘傳〕魏文代レ漢、更集二經典一、皆藏在二祕書內外三閣一、遣二祕書郎鄭默一、刪二定舊文一。〔陸機、謝二平原內史一表〕身登二三閣一、官成二兩宮一。〔注〕向曰、三閣、謂二祕書郎掌一內外三閣經書一也。❷陳後主の建てた三つの閣の名。臨春・結綺・望仙。〔南史、張貴妃傳〕至德二年、乃於二光昭殿前一起二臨春・結綺・望仙三閣一、高數十丈、並數十間、其窗牖壁帶、縣櫳欄檻之類、皆以二沈檀香一爲レ之。〔蕭貢、陳宮詞〕三閣花深白晝迷、酒催狎客賦二宮詞一。

【三閣詞】226 サンカクシ 樂府、清商曲辭、吳聲歌曲の名。三閣の❷に本づく。唐の劉禹錫に歌辭がある。〔樂府詩集、清商曲辭、吳聲歌曲、三閣詞〕三閣詞、劉禹錫所レ作吳聲曲也、南史曰、陳後主至德二年、於二光昭殿前一起二臨春結綺望仙三閣一、云云、後主自居二臨春閣一、張貴妃居二結綺閣一、龔孔二貴嬪一居二望仙閣一、並二復道一、交相往來。〔劉禹錫、三閣詞〕貴人三閣上、日晏未レ梳レ頭。

【三學】227 サンガク ❶三つの學校。❷唐代、國子學（文武三品以上の子弟を教へる）・太學（五品以上の子弟を教へる）・四門學（七品以上の子弟及び庶民の俊秀なものを教へる）をいふ。〔唐書、儒學傳序〕貞觀六年、詔罷二周公祠一、更以二孔子一爲二先聖一、顏氏爲二先師一、盡召二天下惇師老德一、以爲二學官一、數臨幸觀二釋菜一、命二祭酒博士一、講二論經義一、賜以二束帛一、生能通二一經一者、得二署吏一、廣二學舍一千二百區一、三學益二生員一、并置二書算二學一、皆有二博士一。❸宋代、外舍・內舍・上舍の三舍をいふ。〔宋史、職官志五〕熙寧初、詔用二經術一取レ士、廣二闢餐舍一、分爲二三學一、增二置生徒總一千八百人一、隸籍有レ數、給食有レ等、庫書有レ官、治疾有レ醫。〔宋史、選擧志三〕及二三舍法行一、則太學始定置二外舍生二千人・內舍生三百人・上舍生百人一。❹宋代、武學（兵法・武術を教ふ）・太學（大學に同じ）・宗學（宗室に教ふ）をいふ。〔春明夢餘錄〕宋時武學、與二太學宗學一、共稱二三學一。❺山名。四川省金堂縣の東北。〔明一統志〕三學山、在二成都府金堂縣東北十里一。❻佛比丘の修めるべき三種の學問。戒學・定學・慧學。之を三藏に配すれば、戒學は律、定學は經、慧學は論に當る。〔翻譯名義集、示二學法〕道安法師云、世尊立レ教、法有二三焉一、一者戒律、二者禪定、三者智慧、斯之三者、至道之由戶、泥洹之關要、戒乃斷二三惡一之干將也、禪乃絕二分散一之利器也、慧乃濟二藥病一之妙醫也。

【三學士】228 サンガクシ 唐代、翰林院・弘文館・集賢院の學士をいふ。〔唐書、百官志一〕唐之學士、弘文・集賢、分二隸中書・門下省一、而翰林學士、獨無レ所レ屬。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕玉堂金馬三學士。

【三割】229 サンワリ 中國の商人が外國品を輸入するとき、手數料・倉敷料・利息の三つの雜費を定價から差引くべきことを外國商人に要求すること。

【三甲】230 サンコウ ❶進士の試驗の三等。〔宋史、選擧志〕太平興國八年、進士始分二三甲一。❷宋代の戶籍の分類。人口の增否によつて、上中下の三等に分ち、更に各等を三甲に分つて籍を置く。〔宋史、選擧志六〕紹興二年、云云、命以二戶口增否一、別立二守令課一、分二上中下三等一、每等分二三甲一置」籍。❸術數家の語。此の形が背にあれば長壽の相といふ。〔魏志、管輅傳〕背無二三甲一、腹無二三壬一、此皆不壽之驗。

【三合】231 サンゴウ ❶三たび會合する。〔左氏、昭、元〕再二合諸侯一、三合大夫。❷三たび鋒を交へる。〔史記、項羽紀〕楚挑レ戰二合、樓煩輒射殺レ之。〔北史、王春傳〕從レ寅至レ午、三合二離、將士懼。❸三度、交接する。〔神異經、中荒經〕西方深山有レ獸焉、面目手足、毛色如レ猴、體大如レ驢、善緣二高木一、皆雌無レ雄、名綢、順レ人三合、而有レ子。❹三つのものが一緒になる。〔雲笈七籤〕夫道得レ三乃成、故言二合成一德、自レ不レ滿レ三、諸事不レ成。❺陰氣・陽氣・天氣が相合すること。〔穀梁、莊三〕獨陰不レ生、獨陽不レ生、獨天不レ生、三合然後生。〔疏〕陰能成レ物、陽能生レ物、天能養レ物、而總云レ生者、凡萬物初生、必須二三氣合、四時和一、然後得レ生。❻十二支を五行の水・木・火・金の四者に配當して、水には申・子・辰、木には亥・卯・未、火には寅・午・戌、金には巳・酉・丑とする。此等の同氣の三つ（生・旺・墓）が合ふこと。〔月令廣義〕如二子月逢二子年或申辰年一、皆爲二一氣一、宜レ配二申子辰日一、謂二之三合年月日一。〔齊東野語、四〕淳熙中、孝宗及皇太子、朝二上皇於德壽宮一、置レ酒賦レ詩爲レ樂、從臣皆和、周益公詩云、一丁扶二火德一、三合鞏二皇基一、蓋高宗生二於大觀丁亥一、孝宗生二於建炎丁未一、光宗生二於紹興丁卯一故也。〔協紀辨方書、本原〕考原曰、三合者、取二生・旺・墓三者一、以合レ局也、水生二於申一、旺二於子一、墓二於辰一、故申・子・辰合二水局一也、木生二於亥一、旺二於卯一、墓二於未一、故亥・卯・未合二木局一也、火生二於寅一、旺二於午一、墓二於戌一、故寅・午・戌合二火局一也、金生二於巳一、旺二於酉一、墓二於丑一、故巳・酉・丑合二金局一也。❼縣名。民國、置く。貴州省獨山縣の東。天河・大河・馬場河の三河が合流するからいふ。

【三合葉】232 サンゴウヨウ クローバー。

【三合墟】233 サンゴウキョ 地名。廣東省臺北縣の西。新寧鐵道の西南の支線が通つてゐる。

【三合會】234 サンゴウカイ 清代の祕密結社。又、天地會ともいふ。康熙十三年、少林寺の僧が官のために焚殺せられてから、其の報復のために組織せられた。乾隆年間の林爽文の亂は、この黨の所爲。又、民國革命にも與かつて力があつた。其の會員は大抵道教・佛教を信奉した。

【三合索】235 san¹ he² suo³ 三つくりの繩。

【三合星】236 サンゴウセイ 天文學用語。三星が一つの中心を圍繞する如くにつらなつてゐるもの。

【三合土】237 サンゴウド たたき。又、モルタル。石灰に砂と土とを混じて作る。三和土。膠泥。宋代から既に有つた。又、混凝土（コンクリート）をいふ。〔江鄰幾雜志〕江南王公大人墓、莫レ不レ爲二村人所一レ發、取レ甎以賣レ之、近日江南有識之家、不レ用二甎葬一、惟以二石灰一和二篩土一築實、其堅如レ石。

【三合房】238 san¹ he² fang² 正房と左右の廂房とから成る家。中國家屋の普通の構造。

【三竿】239 サンカン ❶三本の竿。〔庾信、小園賦〕一寸二寸之魚、三竿兩竿之竹。❷日の高く昇つたさま。竿を三本つぎ足した程の高さ。卽ち二丈程の高さ。午前八時頃をいふ。又、朝寢の喩。〔南齊書、天文志〕永明五年十一月丁亥、日出高二竿、朱色赤黃。〔歲華紀麗〕花非二一種一、日上二三竿一。〔陸游、病退詩〕美睡三竿日、安禪半篆香。〔張養浩、登二泰山一詩〕萬古齊州煙九點、五更滄海日三竿。〔書言故事、天文類〕日晏、曰二日已三竿一。

【三寒四溫】241 サンカンシオン ❶氣候不順で、暖氣に向つて居ながら、幾度か寒いことがあつて又暖くなること。❷冬季・晚秋・初春の候、三日程寒い日が續けば、其の後四日程溫い日が續くこと。

【三監】242 サンカン ❶昔、天子が方伯の國を監督せしめた三人の官。〔禮、王制〕天子使下其大夫爲二三監一、監二於方伯之國一上。〔三國二人。❷周時代、殷の遺民の統治に任じた官。武庚と管叔と蔡叔。一說に管叔と蔡叔と霍叔。〔書、大誥序〕武王崩、三監及淮夷叛。〔傳〕三監、管・蔡・商、淮夷、徐奄之屬、皆叛周。〔疏〕武王既崩、管叔・蔡叔、與二紂子武庚一、二人監二殷民一者。〔詩、邶鄘衞譜〕乃分二其地一、置二三監一、使二管叔・蔡叔・霍叔尹而教之一。〔禮、王制〕天子使下大夫爲二三監一、監二方伯之國一上。〔孫希旦集解〕武王既滅二殷一、殷之畿內千里、分其地一、以封二武庚・管・蔡等一、班固及尚書孔傳、以二武庚・管・蔡一爲二三監一、鄭康成、以二管・蔡・霍一爲二三監一、監卽諸侯也、書云、王啓レ監、厥亂爲レ民、

周禮大宰職、立ニ其監一、是也、殷之監不レ止ニ於三、曰ニ三監一者、據ニ其爲レ亂者三人一也。〔漢書、地理志下〕以監ニ殷民一、謂ニ之ニ監一。㊂二つの軍監。〔唐書、兵志〕其後益ニ置八監於鹽州、三監於嵐州一。㊃宋代に於ける三箇所の鐵錢鑄造所。惠民・豐遠・濟州。〔宋史、食貨志〕鐵錢有ニ三監一、卬州曰ニ惠民一、嘉州曰ニ豐遠一、興州曰ニ濟衆一。㊄金代の三造幣所。寶源・寶豐・利用。〔金史、食貨志二〕正隆三年二月、中都置ニ錢監一、東曰ニ寶源一、西曰ニ寶豐一、京兆置ニ監一、曰ニ利用一。〔三監鑄錢、文曰、正隆通寶。㊅女が父母・夫・子に監督せられて之に從ふこと。二從(871)の異名。〔勝鬘經、寶窟上本〕女人穢陋、兼以ニ五礙一、三監ニ〔法句譬喩經、二〕我等裏レ形、生爲ニ女人一、從レ少至レ老、爲ニ三事所レ監、不レ得ニ自由一。

【三緘】243(サン) 三重に口を封ずる。緘は封で、言を謹む意。三、又、參に作る。〔說苑、敬愼〕孔子之レ周、觀ニ於太廟一、右階之前、有ニ金人一焉、三ニ緘其口一、而銘ニ其背一曰、古之愼言人也。〔孔子家語、觀周〕孔子觀レ周、遂入ニ太祖后稷之廟一、廟堂右階之前、有ニ金人一焉、參ニ緘其口一、而銘ニ其背一曰、古之愼言人也。〔晉書、鄭袤等傳論〕晉氏中朝、承ニ累世之資一、建ニ兼幷之業一、衣冠斯盛、英彦如レ林、惜其三緘於論道之辰一、獨善於兼濟之日一。〔書言故事、讒佞類〕謹レ言避レ讒、曰ニ三緘一。

【三緘主人】244(サンカンシュジン) 貫名苞の號。貫名海屋(10—36681‥78)を見よ。

【三諫】245(サン) 二度いさめる。人臣は三たび諫めて聽かれなければ其の君を去り、人子は三たび諫めて聽かれなければ泣いて親の意に從ふ。〔禮、曲禮下〕爲ニ人臣之禮一、不ニ顯諫一、三諫而不レ聽、則逃レ之、子之事レ親也、三諫而不レ聽、則號泣而隨レ之。〔公羊、莊二十四〕何賢乎曹羈、戎將レ侵レ曹、曹羈諫曰、戎衆以無レ義、君請勿ニ自敵一也、曹伯曰、不可、三諫不レ從、遂去レ之、故君子以爲レ得ニ君臣之義一也。〔史記、日者傳〕賢之行也、直道以正諫、三諫不レ聽則退。

【三韓】246(サン) ㊀前漢の初め頃から朝鮮の南部に據つて國を建てた馬韓・忠清・全羅二道)・辰韓(慶尚道東北部)・弁韓、慶尚道西南部)の總稱。〔後漢書、東夷傳〕韓有ニ三種一、一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰、云云、三韓之地。〔南史、百濟傳〕有ニ三韓國一、一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁韓、弁韓・辰韓、各十二國、馬韓有ニ五十四國一。㊁遼東をいふ。〔日知錄、外國、三韓〕今人謂ニ遼東一爲ニ三韓一者、云云、東夷傳、韓有ニ三種一、一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰、云云、是以ニ內地一而目レ之爲ニ外國一也、原ニ其故一、本ニ於天啓初失ニ遼陽一、以後章奏之文、遂有レ謂ニ遼人一爲ニ三韓一者上、外レ之也、今遼人乃以レ之自稱、夫亦自外也已。〔注〕弁辰、晉梁二書、作ニ弁韓一。㊂前漢の末に起つた高勾麗(コマ)・新羅(シンラ)・百濟(クダラ)の總稱。弁・辰・馬の三韓の地に當る。〔國姓爺合戰〕御出陣と勇ましは、三韓退治の神功皇后。

【三韓館】247(サンカンノヤカタ) 古、三韓から來朝した使者を宿泊させたやかた。〔日本書紀、舒明紀〕二年、是歲改修ニ理難波大郡及三韓館一。

【三韓之變】248(サンカンノヘン) 天智天皇の初、阿曇比羅夫等を派遣し、百濟を援けて新羅を伐つた事變。

【三韓通寶】249(サンカンツウホウ) 高麗の肅宗の時、海東通寶などと共に鑄造せられた貨幣の名。〔宋史、高麗傳〕崇寧後、始學ニ鼓鑄一、有ニ海東通寶・重寶・三韓通寶三種錢一、然其俗不レ便也。

【三鑑】250(サンカン) 三種のかがみ。鏡と古と人。人の心身を正しくする標準となるもの。〔申鑑、雜言上〕君子有ニ三鑒一、世人鏡鑒、前惟順、人惟賢、鏡惟明。〔唐書、魏徵傳〕徵薨、帝後臨レ朝、歎曰、以レ銅爲レ鑑、可レ正ニ衣冠一、以ニ古爲レ鑑、可レ知ニ興替一、以ニ人爲レ鑑、可レ知ニ得失一、朕嘗寶ニ此三鑑一、內防ニ己過一、今魏徵徂逝、一鑑亡矣。

【三眼】251(サン) ㊀三つ眼。〔元史、五行志一〕至正十五年、京師童謠云、一陣黃風一陣沙、千里萬里無ニ人家一、回ニ頭雪消不レ堪レ看、三眼和尚弄ニ瞎馬一。㊁泉の名。甘肅省岷縣。〔明一統志〕三眼泉、在ニ岷州衞西周城北一、流注ニ白水江一。㊂san¹ yen³ 劇調の音節。

【三眼銃】252(サンガンジュウ) 一個の台に三個の銃を載せ、一緒に擊つ鐵砲。〔福惠全書、保甲部、保甲之制〕列ニ長鎗馬刀八杆一、三眼銃一杆一、以備ニ倉卒之用一。

【三眼說】253(サンガンセツ) 肉眼で外界を觀、理眼で內界を觀、心眼で超自然界を視る。フランスのユーゴーの說。

【三眼花翎】254(サンガンレイ) 三輪狀の花模樣の羽。清代の高官高位者の帽子に着けたもの。三眼孔雀翎を見よ。〔清會典事例、理藩院、封爵〕候ニ賞雙眼三眼花翎一。〔清國行政法汎論、皇室、翎隻〕翎隻亦賞ニ給文武官有ニ武功一者上之物、五品以上、謂ニ之花翎一、有ニ三種類一、云云、三眼花翎、謂ニ孔雀毛有ニ三眼一者上、非ニ皇族及有ニ大軍功一者上、不レ得レ受レ之。

【三眼孔雀翎】255(サンガンクジャクレイ) 孔雀の羽に三輪狀のあるものを帽子に着けた清時代の制度。高位高官のものだけが許されたもの。〔清會典事例、禮部、冠服〕凡貝子朝冠、頂ニ金龍二層一、飾ニ東珠六一、上銜ニ紅寶石一、戴ニ三眼孔雀翎一。

【三巖】256(サンガン) ㊀地名。㋑今の西康省武成縣の地名。上巖・中巖・下巖に分かれ、もと蕃人の居た所。清の時、討伐した。㋺浙江省麗水縣城の西四里の地。〔明一統志〕三巖、在ニ處州府城西四里一、有ニ飛泉一瀉落、其右曰ニ清虛一、中曰ニ白雲一、左曰ニ晨曦一。㊁亭の名。湖南省零陵縣城內。〔明一統志〕三巖亭、在ニ永州府治一巖出中一者凡九、跨レ池爲レ橋、而構ニ亭池上一。㊂瀧の名。〔尹廷高、三巖瀑布詩〕。

【三危】257(サン) ㊀危難を招く二つの事。德が少くて寵が多く、才が卑くて位が高く、大功が無くて厚祿を受けること。〔淮南子、人間訓〕天下有ニ三危一、少レ德而多レ寵、一危也、才下而位高、二危也、身無ニ大功一、而有ニ厚祿一、三危也。㊁地名。古來異說多く、或は二つとし、或は三つとし、又、指す所の地も各〻異なつてゐる。㋑西裔の山。〔書、舜典〕竄ニ三苗于三危一、〔傳〕三危、西裔。〔書、禹貢〕三危既宅。〔傳〕西裔之山、已可レ居。〔疏〕舜典云、竄ニ三苗於三危一、是三危爲ニ西裔之山一也、其山必是西裔、未レ知ニ山之所レ在。〔蔣廷錫、尚書地理今釋〕按、蔡傳、三危西裔之地、卽禹貢所謂三危既宅者、是矣、若ニ導川黑水所レ經之三危一、自在ニ大河之南一、與ニ竄三苗於三危一之三危上爲レ二。㋺甘肅省敦煌縣にある。〔書、禹貢、導ニ黑水一、至ニ于三危一、入ニ于南海一。〔疏〕案、酈道元水經、黑水出ニ張掖雞山一、南流至ニ燉煌一、過ニ三危山一、南流入ニ于南海一、然張掖・燉煌・並在ニ河北一、所以黑水得ニ越レ河入ニ南海一者、河自ニ積石一以西、皆多伏流、故黑水得ニ越而南一也。〔左氏、昭九、故允姓之姦居ニ于瓜州一、注〕允姓、陰戎之祖、與ニ三苗俱放ニ於三危一者、瓜州今敦煌。〔淮南子、墜形訓〕三危在ニ樂民西一。〔注〕三危、西極之山名也。〔水經、江水注〕又東過ニ江陽縣南一、洛水從ニ三危山一、東過ニ廣魏洛縣南一、東南注之、洛水出ニ洛縣漳山一、亦言、出ニ梓潼縣柏山一、山海經曰、三危在ニ燉煌南一、與ニ嶓山一相接、山南帶ニ黑水一、又山海經、不レ言ニ洛水所レ導、經曰、出ニ三危山一、所レ未レ詳。㋩甘肅省鳥鼠山の西にある。〔書、禹貢〕三危既宅。〔疏〕鄭玄引ニ地記書一云、三危之山、在ニ鳥鼠之西一、南當ニ岷山一、則在ニ積石之西南一。〔楚辭、天問〕黑水玄趾、三危安在。〔補注〕張揖云、三危山、在ニ鳥鼠之西一、黑水出ニ其南一。〔漢書、司馬相如傳〕直徑馳乎ニ三危一。〔注〕張揖曰、三危山、在ニ鳥鼠山之西一、與ニ嶓山一相近、黑水出ニ其南陂一。〔後漢書、郡國志、隴西郡首陽有ニ鳥鼠同穴山一、渭水出、注〕地道記曰、有ニ三危一、三苗所ニ處。〔水經注、禹貢山水澤地所在〕三危山、在ニ燉煌縣南一、山海經曰、三危之山、三青鳥居レ之、是山也、廣圓百里、在ニ鳥鼠山西一。㋥甘肅省天水縣にある。〔莊子、在宥、釋文〕三崐、音危、本亦作レ危、三崐、西裔之山也、今屬ニ天水一。㋭甘肅省にある。古の疊州の西に當る。〔尚書地理今釋〕三危山、在ニ大河南一、今陝西岷州衞臺外古疊州西。㋬雲南の境にある。〔通志、地理略〕三崇山、在ニ州西五里一、壁立萬仞、人跡罕到、有レ行至ニ半山一者上、雷雨沙石而止、相傳、卽古三危山。㋣四川省にある。〔山海經、西山經〕又西二百二十里、曰ニ三危之山一。〔畢沅注〕山當レ在ニ今四川省一。㋠夷狄の者が三つ峯のある山を三危といふ。〔尚書表注〕戎人凡山有ニ三峯一者、便指以ニ三危一。㋡西藏をいふ。〔尚書古今文集解〕衞在ニ打箭爐西南一、俗稱ニ前藏一、藏在ニ衞西南一、俗稱ニ後藏一、喀木在ニ衞東南一、三處總名ニ三危一、卽禹貢導ニ黑水一至ニ於三危一也。

【三奇】258(サンキ) ㊀陽爻の三つをいふ。又、乾卦のこ

と。〔易、乾、本義〕三奇之卦、名之曰レ乾。〔易林〕三奇六偶相隨。❶術數家は乙・丙・丁を天上の三奇、甲・戊・庚を地下の三奇、辛・壬・癸を人間の三奇といふ。〔三命通會、論三奇〕珞琭子曰、奇爲レ貴也、奇者、異也、猶二物以貴爲一レ奇也、乙丙丁出二於貴人干德配支之妙一、陽貴甲德起レ子、則乙德在レ丑、丙德在レ寅、丁德在レ卯、三干相聯而無レ間、陰貴甲德起レ申、乙在レ未、丙在レ午、丁在レ巳、三干相聯而無レ間、以隨二貴人一在レ天、故曰二天上三奇一、十干惟此爲レ異、餘則或間二羅網一、或間二天空一、或不二重臨一、又不二相聯一、不レ可レ以爲レ奇、玉霄寶鑑謂、古人以二正月一爲二歲之始一、日出二於乙一、故以レ乙爲二日奇一、老人星見爲レ瑞、見二於丁位一、故以レ丁爲二星奇一、月照レ夜、到二丙位一而天下明、故以レ丙爲二月奇一、若甲戊庚、亦以爲二天上三奇一、以二甲戊庚一俱臨二丑未一、乃貴人家、在二斗牛之次一、出二乎井鬼之舍一、先後天起レ貴、而三干適臨レ之、與二別干一不レ同、其理亦通、三車一覽、以レ甲爲二陽木之魁一、戊爲二陽土之君一、庚爲二陽金之精一、一地有二此三物一爲レ奇、謂二之地三奇一、其說則鑿、太乙經、以二辛壬癸一爲二水奇一、謂二之人間三奇一、其說無レ據、但辛壬癸天干連珠、謂二之三台一、亦爲レ難レ得、紫虛局、又有二四奇之說一、夫奇、奇數也、四則偶矣、謂二之奇一、可乎、三奇要二順布一不レ欲二倒亂一、如二乙丙丁甲戊庚天干年月日時順布一爲レ吉。〔蘭臺妙選、上〕乙丙丁、乃天上之三奇、甲戊庚、乃地下之三奇、壬癸辛、乃人中之三奇。❷星の名。三台(1205)の❶に同じ。〔觀象玩占〕三台六星、兩兩而居、一曰二三奇一。

【三奇戍】259(サンキジュ) 地名。四川省灌縣。〔困學紀聞、評詩〕按、唐地理志、彭州導江縣、有二三奇戍一。

【三季】260(サンキ) ❶夏・殷・周三代の末世。〔漢書、敍傳下〕三季之後、厥事放紛。〔注〕師古曰、三季、三代之末也。〔董仲舒、士不遇賦〕丁二季之末俗一。〔班固、典引〕承二三季之荒末一。〔注〕三季、三王之季也。〔魏志、陳思王植傳〕五帝之世非二皆智一、三季之末非二皆愚一。❷春秋、魯の昭公の時の季孫氏・仲孫氏・叔孫氏。〔呂覽、察微〕魯季氏與二邱氏一鬬レ雞、云云、仲孫氏・叔孫氏、云云、三家爲レ一、云云、以二魯國一恐不レ勝二一季氏一、況於二三季一同レ惡固相助一。❸印度では、一年を乾季・暑季・雨季の三季とする。❹江戸時代、端午・重陽・歲暮の三つの禮日をいふ。

【三奏】261(サンソウ) 亭の名。三奏亭を見よ。

【三奏亭】262(サンソウテイ) 亭の名。唐の顏眞卿が陸羽の爲に今浙江省吳興縣の杼山に建てたもの。癸酉癸月癸日に建てたからいふ。〔顏眞卿、題二杼山癸亭一詩、敍構二三癸亭一、實爲二陸生一故。〔天中記〕代宗時、顏眞卿由二吉州司馬一遷二撫湖二州刺史一、於二烏程杼山一、立二三癸亭一、時癸年癸月癸日、故名。〔輿地紀勝〕三癸亭、顏眞卿爲二處士陸羽一造。

【三皈】263(サンキ) 佛二歸(276)の❹に同じ。

【三紀】264(サンキ) 三十六年。一紀は十二年。〔書、畢命〕既歷二三紀一。〔傳〕十二年曰レ紀。〔宋史、歐陽脩傳〕脩嘗因二水災一、上疏曰、陛下臨御二三紀一、而儲宮未レ建。

【三氣】265(サンキ) 太初・太始・太素の氣。又、天・地・人の氣。〔廣雅、釋天〕太初、氣之始也、生二於酉仲一、清濁未レ分也、太始、形之始也、生二於戌仲一、清者爲レ精、濁者爲レ形也、太素、質之始也、生二於亥仲一、已有二素朴一而未レ散也、三氣相接、至二於子仲一、剖判分離、輕清者上爲レ天、重濁者下爲レ地、中和爲二萬物一。〔宋書、禮志一〕易通卦驗曰、王者必改二正朔一、易二服色一、以應二天地三氣三色一。

【三起】266(サンキ) ❶三たび起る。〔春秋繁露、官制象レ天〕吾聞、聖王所レ取、儀二金天之大經一、三起而成、四轉而終、官制亦然者。〔晉書、庾翼傳〕大會二僚佐一、陳二旌甲一、親授二孤矢一曰、我之行也、若二此射一矣、遂三起三疊、徒衆屬目、其氣十倍。〔陸游、甲子日晴詩〕壟麥行可獲、吳蠶亦三起。❷三たび造る。〔春秋繁露、王道〕魯莊公好二宮室一、一年三起レ臺。

【三起三倒】267(サンキサンタウ) 三たび起き三たび倒れる。〔通俗編、數目、三起三倒〕李商隱賦、不レ及二苑中人柳一、終朝剩得二三眠一、注云、漢苑有二人形柳一、一日三起三倒。

【三期】268(サンキ) ❶取引所用語で、當期・中期・先期をいふ。❷結核・梅毒などの病氣で、治療困難に陷つた時期をいふ。

【三貴】269(サンキ) 高位に居る三人。北齊の韓鳳(12-43159‥213)・高阿那肱(12-45313‥1038)・穆提婆(8-25251‥91)の三人をいふ。〔北齊書、恩倖、韓鳳傳〕韓鳳、字長鸞、與二高阿那肱一、穆提婆一、共處二衡軸一、號曰二三貴一、損二國害一政、日月滋甚。

【三葵】270(アフヒ) 葵の葉を三方に置いた紋所の名。〔紳書、三〕神祖御旗は白地に二つ葵の丸也。

【三麾】271(サンキ) 諸侯の旌旗。卽ち天子の五麾、青・赤・白・黃・黑)の中から、黑・黃を去つたもの。〔穀梁、莊、二十五〕天子救レ日、置二五麾一、陳二五兵五鼓一、諸侯置二三麾一、陳二三鼓三兵一。〔疏〕五麾者、槩信云、各以二方色之旌一、置二之五處一也、云云、諸侯三者、則云二降殺以兩一、去二黑黃二色一、是非二六鼓之類也。

【三器】272(サンキ) ❶國を治める三つの手段。號令・斧鉞・祿賞。〔管子、重令〕凡先王治二國之器一、云云、三器者、何也、曰、號令也、斧鉞也、祿賞也、云云、三器之用、何也、曰、非二號令一、毋二以使一レ下、非二斧鉞一、毋二以威一レ衆、非二祿賞一、毋二以勸一レ民。❷三種神器(852)の略。〔日本外史、新田氏前記、楠氏論〕不レ有二楠氏一、雖レ有二三器一、將安託焉、以繫二四方望一哉。〔會澤正志齋新論、國體上〕治二天下一傳二於皇孫一、而手授二三器一。

【三機】273(サンキ) 政治上敬愼すべき三つのもの。一は疑冢、卽ち威權で主を脅かす者、二は疑德、卽ち僞行、三は質士、卽ち不學の士。〔逸周書、五權解〕政有二三機一、五權、汝敬レ格之哉、云云、三機、一、疑冢、二、疑德、三、質士、疑冢無二授レ衆、疑德無二擧レ士、質士無二遠齊一、吁敬レ之之哉、天命無レ常、敬在二三機一。〔注〕疑冢、威權震レ主者、疑德、僞行也、質士、不レ學之士、擧レ士、擧而任之事也、齊、如二荀子以國齊レ義之齊一、言、任以二遠大一、而不レ克レ濟也。

【三龜】274(サンキ) ❶卜の玉兆・瓦兆・原兆の三つをいふ。玉兆(7-20821‥681)・瓦兆(7-21438‥82)・原兆(8-2973‥162)を見よ。二兆。〔書、金縢〕乃卜二三龜一。〔傳〕以二三王之龜卜一。〔疏〕周禮太卜、掌二三兆之法一、一曰玉兆、二曰瓦兆、三曰原兆、三兆各別、必二三代法也一。❷山名。四川省樂山縣の東。〔明一統志〕三龜山、在二嘉定州沿東一、其形似レ龜、因名。

【三徵】275(サンキ) 魏の張烈、字は徽仙、及び、崔徽伯・房徽叔の三人の併稱。〔魏書、張烈傳〕烈、字徽仙、清河東武城人也、高祖賜レ名曰レ烈、乃以二本名一爲レ字焉、烈少孤貧、涉二獵經史一、有二氣概一、時青州有二崔徽伯・房徽叔一、與レ烈並有二令譽一、時人號曰二三徽一。

【三歸】276(サンキ) ❶齊の管仲が贅澤に用ひたもの。三歸の內容には二說あり、異姓の三婦人を娶ることといひ、地名なりといひ、又、臺名なりともいふ。〔論語、八佾〕曰、管氏有二三歸一。〔史記、平津侯傳〕管仲相レ齊、有二三歸一、侈擬二於君一。❷異姓の婦人三人を娶る。歸は女の嫁すること。〔論語、八佾、集解〕包咸曰、三歸、娶二三姓女一。〔戰國、東周策〕管仲故爲二三歸之家一。〔漢書、禮樂志〕陪臣管仲季氏之屬、三歸雍徹、八佾舞レ廷。〔注〕師古曰、三歸、取二三姓女一也、婦人謂レ嫁曰レ歸、故曰二三歸一。蓋謂二管仲一耳。❸地名。〔晏子、雜、下〕先君桓公、有二管仲一、恤レ勞二齊國一、身老、賞レ之以二三歸一。❹臺の名。〔論語、八佾、集注〕三歸、臺名、事見二說苑一。〔說苑、善說〕管仲故築二三歸之臺一、以自傷二於民一。❺臺を築く法をいふ。算術家の語。〔論語、八佾、大全〕仁山金氏曰、三歸之臺、據二算家一、有二築臺三歸法一、蓋方臺也、其自相乘、凡爲二若干尺一、下方又自相乘、爲二若干尺一、又以二上下方一相乘、爲二若干尺一、卻以勾股法、三分損二一一、爲二中方之數一、合二上下中方一、凡幾千尺、以二高尺一統レ之、用二積冪法一、得二方臺積尺之數一、凡幾方尺、謂二之三歸法一、如レ此、則但言二其臺榭之盛一、家臣之多一、爲非儉爾。❻寺の名。廣州の開元寺をいふ。〔海錄碎事、道釋、宮觀、廣開元寺、昔外國僧伽摩、來二南海一、駐錫、值二郭璞南遊一、至二此地一、號爲二三皈觀一。❼佛歸依佛・歸依法・歸依僧。卽ち三寶に歸依すること。三皈。〔魏書、釋老志〕其始修心、則歸二依佛法僧一、謂二之三歸一。〔釋氏要覽、上〕阿含經云、於二受一歸戒一前一、先須三懺悔一、然後受二三歸一。

【三義】277(サンギ) ❶三つの意義。〔孔穎達、周易正義、序〕易緯乾鑿度云、易一名而含二三義一、所謂易也、變易也、不易也。❷三つの徵候。周の亡

びる徴候、漢の興る瑞兆、孔子の沒せんとする徴候。〔公羊、哀、十四、西狩獲ㇾ麟孔子曰吾道窮矣、疏〕麟之來也、應ニ於三義ㇾ一爲ニ周亡之徴ㇾ云云、二爲ニ漢興之瑞ㇾ云云、三則見ニ孔子將ㇾ沒之徴ㇾ故此孔子曰、吾道窮矣、是也。❸義にあつい三人の兄弟。明の韋權・韋贇・韋鉅。〔三輔決錄〕韋子才三子、兄弟孝友、逢ㇾ盜俱死、時人號ニ韋三義ㇾ。

【三義記】278 キサンギ 書名。一卷。明代小說の篇名。佚存書の一。〔佚存書目〕。

【三疑】279 ギサン ❶六韜の武韜の篇名。❷儕自らを疑ひ、師を疑ひ、法を疑ふ。〔禪波羅蜜門、三〕。

【三儀】280 ギサン ❶天・地・人。〔太玄經、玄攡〕ニ儀同ㇾ科、厚薄相劑。〔注〕三儀、謂ニ天・地・人ㇾ也。〔宋書、天竺迦毘黎國傳〕白曰、三儀靈ㇾ長於宇宙、萬品盈ㇾ生於天地ㇾ孰是空哉。❷赤道と冬至と夏至との三線。〔遼史、歷象志下〕設ニ三儀ㇾ以明ニ度分ㇾ。❸禮の三儀。禮を脩めて志を立て、禮を思うて身を脩め、禮を脩めるに仁義を以てする。〔說苑、脩文〕禮有ニ三儀ㇾ、知ㇾ之乎、對曰、不ㇾ識也、曾子曰、坐語ㇾ汝、君子脩ㇾ禮以立ㇾ志、則貪欲之心不ㇾ來、君子思ㇾ禮以脩ㇾ身、則怠惰慢易之節不ㇾ至、君子脩ㇾ禮以ニ仁義ㇾ、則忿爭暴亂之辭遠。

【三疑】281 ギサン 三つの高い峯。〔明一統志〕三山在ニ徐州城東南二十里ㇾ、有ニ三疑ㇾ、故名。

【三魏】282 ギサン ❶地名。魏郡(12－45872‥43)の❶を見よ。〔水經、濁漳水注〕漢高帝十二年、置ニ魏郡ㇾ、治ニ鄴縣ㇾ、王莽更名ニ魏城ㇾ、後分ニ魏郡ㇾ、置ニ東西都尉ㇾ、故曰ニ三魏ㇾ。〔宋哲、廣田農議〕州司十郡、土狹人繁、三魏尤甚。〔晉書、謝玄傳〕遣ニ晉陵太守滕恬之ㇾ、渡ニ河守ニ黎陽ㇾ、三魏皆降。❷明末の魏際瑞・魏禧・魏禮の三人。文章を以て名高く、世に寧都の三魏といふ。三魏文集を見よ。

【三魏文集】283 サンギブンシフ 書名。八十三卷。清、道光年間の刊。編者未詳。其の目は、第一－十卷、魏伯子(魏際瑞)文集。第十一－十六卷、魏興士(魏傑)文集。第十七－十九卷、魏叔子(魏禧)日錄。第二十－四十一卷、魏叔子文集。第四十二－四十九卷、魏叔子詩集。第五十－六十五卷、魏季子(魏禮)文集。第六十六－七十五卷、魏昭士(魏儼)文集。第七十六－八十三卷、魏敬士(魏儼)文集。

【三犧】284 ギサン 天・地・宗廟を祭るいけにへ。六畜の中、毛羽の完全に備はるもの。又、鴈・鶩・雉ともいふ。〔左氏、昭、二十五〕爲ニ六畜ㇾ五牲・三犧ㇾ、以奉ニ五味ㇾ。〔注〕祭ニ天地宗廟ㇾ二物者、謂ニ之犧ㇾ。〔疏〕祭ニ天地宗廟ㇾ之牲、謂ニ之犧牛ㇾ也。云云、鄭玄云、犧牲、毛羽完具也。云云、六畜之內、取ニ其毛羽完具ㇾ、別養以共ニ祭祀ㇾ者、乃名爲ㇾ犧、故與ニ六畜ㇾ異ㇾ言之ㇾ也、服虔云、三犧、鴈・鶩・雉也。〔班固、東都賦〕於ㇾ是、薦ニ三犧ㇾ效ニ五牲ㇾ、禮ニ神祇ㇾ、禋ニ百靈ㇾ。〔注〕善曰、杜預曰、三犧、祭ニ天地宗廟三者ㇾ之犧也。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕季孫樹ニ於六槫ㇾ、葛盧辨ニ於三犧ㇾ。

【三九】285 サンク ❶三公九卿の略。〔後漢書、郎顗傳〕顗上言、陛下踐阼以來、勤ニ心衆政ㇾ、而三九之位、未ㇾ見ニ其人ㇾ。〔注〕三公九卿也。〔顏氏家訓、勉學〕三九公讌。〔范成大、再次韻呈ニ宗偉溫伯詩〕槐棘位ニ三九ㇾ。❷二十七。〔宋書、律曆志上〕黃鐘之律、長九寸、物以ニ二生ㇾ、三三九、三九二十七、故幅廣二尺七寸、古之制也。〔宋史、禮志二〕廣五十四丈、三成用ニ三九之數ㇾ。❸二種の韮菜。韮と九とは音通の語。清貧の喩。〔南齊書、庾杲之傳〕杲之清貧自業、食惟有ニ韮菹瀹韮生韮雜菜ㇾ、或戲之曰、誰謂ニ庾郎貧、食ㇾ鮭常有ニ二十七種ㇾ、言ニ三九ㇾ也。〔蘇軾、後杞菊賦〕何侯方丈、庾郎三九。〔劉子翬、詠ニ韭詩ㇾ〕肉食嘲ニ三九ㇾ、終憐氣韻清。❹冬至から九日毎に數えて、第一の九日を一九、第二を二九、第三を三九といふ。冬の最も寒い時。〔農政全書、農事占候〕至後九九氣、諺云、一九二九、相喚弗ㇾ出ㇾ手、三九二十七、籬頭吹ニ觱篥ㇾ。

【三九位】286 サンクキノ 三公九卿の位。三九の❶を見よ。

【三九相公】287 サンクキウカウ 唐の鄭畋(11－39647‥288)の綽號。鄭畋、十九歲にて擧に赴き、十九年にて登第し、又、十九年にて相となつたからいはれる。〔琅琊代醉編、三九相公〕鄭畋年十九赴ㇾ擧、凡十九年登第、又十九年入相、時號ニ三九相公ㇾ、紀異錄。

【三丘】288 ❶仙人の居處。蓬萊・方丈・瀛州の三神山。三山。〔張衡、思玄賦〕指ニ三丘於句芒ㇾ。〔注〕向曰、三丘、蓬萊・方丈・瀛州、羣仙所ㇾ居也。❷山名。浙江省東陽縣の南。晉の義熙年間に、殷仲文が東陽に守となり、嘗て此の山に登つたが、後人はこれを羊叔子に比して、山を峴山と名づけた。峴山は羊叔子の登つた山で、墮淚碑がある。〔方輿勝覽〕東陽峴山、去ニ東陽縣ㇾ亦三里、舊名ニ三丘山ㇾ、宋殷仲文、素有ニ詩望ㇾ、自謂、必與ニ六奮ㇾ異ㇾ言之ㇾ也、服虔云、三犧、鴈・鶩・雉也。〔班固、東都賦〕於ㇾ是、薦ニ三犧ㇾ效ニ五牲ㇾ、禮ニ神祇ㇾ、禋ニ百靈ㇾ。〔注〕善曰、杜預曰、三犧、祭ニ天地宗廟三者ㇾ之犧也。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕季孫樹ニ於六槫ㇾ、葛盧辨ニ於三犧ㇾ。

【三休】289 ❶三度やすむ。〔新書、退讓〕翟王使ニ使至ㇾ楚、楚王誇ニ使者ㇾ以ニ章華之臺ㇾ、臺甚高ㇾ、三休乃至、楚王曰、翟國亦有ニ此臺ㇾ乎、使者曰、否、翟窶國也、惡見ニ此臺ㇾ也、云云。〔王禕、花萼樓賦〕橫邏迤而十丈、上ニ崚嶒ㇾ而三休。〔何遜、七召〕步ニ三休ㇾ而未ㇾ半、塗中宿而方迷。❷亭名。浙江省玲瓏山上にある。〔臨安圖經〕玲瓏山、在ニ縣西十二里ㇾ、山兩屹起、盤屈九折、上通ニ絕頂ㇾ、名曰ニ九折巖ㇾ、行百許步有ㇾ亭、下瞰百里、名ニ三休亭ㇾ。〔蘇軾、登ニ玲瓏山ㇾ詩〕三休亭上工延ㇾ月、九折巖前巧貯ㇾ風。❸漢の金尚(字は元休)・第五巡(字は文休)・韋端(字は休甫)の三人。〔小學紺珠、名臣類下、三休〕金尚元休・第五巡文休・韋端休甫、號ニ京兆三休ㇾ。

【三休臺】290 サンキウダイ 楚王の作つた臺の名。章華之臺ともいふ。三休の❶を見よ。〔劉孝綽、江津寄ニ劉之遴ㇾ詩〕經ニ過一柱觀ㇾ、出ニ入三休臺ㇾ。

【三休居士】291 サンキウコジ 宋、嚴參(12－4589‥110)の號。

【三邱】292 サンキウ 複姓。〔通志、氏族略、以ㇾ地爲ㇾ氏〕三邱氏、蜀志、有ニ三邱務ㇾ。

【三敬】293 サンケイ 倕讖誦文一通の中に、始・中・終の三所に敬の字を置くこと。始に「敬白讖誦之事」、次に「仍所ㇾ修如ㇾ件敬白」、後に「于時某年某月日弟子等敬白」と書く。〔諸法會儀則、上〕讖誦文、三敬及年號、本山高聲讀ㇾ之、仁和醍醐安流、微音讀ㇾ之。

【三鄉】294 サンキヤウ ❶二區分に分たれた商賣人の居る處。〔國語、齊語〕工商之鄉六、云云、市立ニ三鄉ㇾ。〔注〕市、商也、商處ニ市井ㇾ、故曰ニ市。❷三つの邑里。〔國語、齊語〕三鄉爲ㇾ縣、縣有ニ縣帥。❸地名。〔白居易、和ㇾ微之任ニ校書郎ㇾ日過ニ三鄉ㇾ詩〕三鄉過日君年幾、今日君年五十餘。〔劉谷、和ニ三鄉ㇾ詩〕羊羅山下無ニ窮意ㇾ、併在ニ三鄉惜別時ㇾ。〔李羣玉、送ニ鄭子寬歸ニ女几ㇾ詩〕迴車三鄉路、仙菊正堪ㇾ摘。

【三境】295 サンキヤウ 倕認識の對象を三別したもの。性境・獨影境・帶質境。性境は主觀から獨立の存在性を有する對象。獨影境は唯、妄想の對象(羽のある馬、兎の角)。帶質境は心の內に映つた實體を帶びてゐる對象(鏡面に映つた像)。三類境。〔唯識論樞要、上末〕・〔唯識論了義燈、一末〕性境不ㇾ隨ㇾ心、獨影唯從ㇾ見、帶質通ニ情本ㇾ。

【三鏡】296 サンキヤウ 水鏡・大鏡・增鏡をいふ。

【三饗】297 サンキヤウ 三度もてなす。〔周禮、秋官、掌客〕三饗・三食・三燕。

【三腳】298 サンキヤク ❶三本の足。三足。〔五代史、杜重威傳〕轉運使李穀、教ニ重威以ニ三腳木ㇾ爲ㇾ橋、募ニ敢死士ㇾ、過ㇾ河擊ニ賊ㇾ。❷三本脚の椅子。

【三腳子】299 san¹ chiao³ tzŭ 五德の類。火架。

【三腳貓】300 サンキヤクメウ 三本足の猫。歩き方は拙いが、よく鼠を捕へたといふ。轉じて、正規の方法を盡さないのに成績のよい喩。〔七修類稿〕嘉靖間、南京神樂觀有ニ三腳貓ㇾ一頭、極善捕ㇾ鼠、而走不ㇾ成步。〔通俗編、獸畜、三腳貓〕輟耕錄、張明善作ニ北樂府ㇾ譏ㇾ時云、說英雄誰是英雄、兩頭蛇南陽臥龍、三腳貓渭水飛熊。

【三腳耬】301 サンキヤクロウ 種を蒔くに用ひる器。三叉の犂の上に種を盛る器を取りつけたもの。〔農政全書、耬車〕崔寔論曰、漢武帝、以ニ趙過ㇾ爲ニ搜粟都尉ㇾ、教ニ民耕殖ㇾ、其法、三犂共ニ一牛ㇾ、一人將ㇾ之、下ニ種耬ㇾ耬云云、自注云、按ニ三犂共ニ一牛ㇾ、若今ニ三腳耬ㇾ矣、然則耬之制不ㇾ同、有ニ獨腳・兩腳・三腳之異ㇾ。

【三腳蝦蟇】302 ガマンキヤク 三足の蛙。月中に住むといふ。搜し求めようのない喩。〔通俗編、禽魚、三腳蝦蟇〕五燈會元、楊大年與ニ石霜圓ㇾ參證、楊曰、三腳蝦蟇跳ニ上天ㇾ圓曰、一任ニ跻跳ㇾ按、俗

言、蝦蟇惟月中者三脚、因有二三脚蝦蟇沒レ處尋之諺一。

『二脚毛兒』303 san¹ chiao³ mao² ərh 古武技の拳術と蹴術とをいふ。

【二逆】304 ㊀提婆（Devadatta）といふ惡比丘が佛に反抗して行つた五逆中の二大罪。一に破僧（僧團の秩序を亂す）、二に傷佛（佛に石を投げてきづつける）、二に殺比丘尼（路上で會つた比丘尼を撲つて殺す）。〔法華文句、八〕。

【二宮】305 ❶諸侯の二夫人の宮。又、三夫人をいふ。〔禮、祭義〕吉者天子諸侯、必有二公桑蠶室一、云云、卜二宮之夫人、世婦之吉者、使レ入蠶二于蠶室一。〔注〕諸侯夫人二宮、半レ王后一也。〔穀梁、桓、十四〕天子親耕、以共二粢盛一、王后親蠶、以共二祭服一云云、曰二旬粟一而內二之二宮一、三宮米、而藏二之御廩一。〔注〕二宮二夫人也。〔疏〕禮、王后六宮、諸侯夫人二宮也、故知二宮是二夫人宮一也。㋑漢の哀帝の時は、長信宮（太皇太后）・永信宮（傅太后）・中安宮（丁姬）をいふ。〔漢書、王嘉傳〕宗廟二宮。〔補注〕劉敞曰、予謂、是時太皇太后、稱二長信宮一、傅太后、稱二永信宮一、而丁姬中安宮、故以二三宮一爲レ言。㋺唐の穆宗の時は、興慶宮（懿安太后）・慶安殿（寶曆太后）・大內（后）をいふ。〔唐書、貞獻皇后蕭氏傳〕初大和中、懿安太后、居二興慶宮一、寶曆太后、居二慶安殿一、后居二大內一、號二三宮一。〔李愿、奉レ和聖製從二蓬萊一向二興慶一閣道中留レ春雨中春望一應制詩〕三宮路轉鳳凰臺。❷天子・太后・皇后の宮。〔漢書、王嘉傳〕自レ貢二獻宗廟三宮一、猶不レ至レ此。〔注〕師古曰、三宮、謂二天子・太后・皇后一。❸明堂・辟雍・靈臺をいふ。〔張衡、東京賦〕乃營二三宮一、布レ政頒レ常、複廟重屋、八達九房、規二天矩一地、授レ時順レ鄉。〔注〕綜曰、三宮、明堂・辟雍・靈臺。〔李尤、辟雍賦〕太學既崇、三宮既章、靈臺司レ天、曁耀彌光。〔唐武后、明堂樂章〕載延二百辟一、爰集二三宮一。❹音樂の三宮。㋑正聲・下徵・清角。〔宋書、律曆志上〕凡笛體用二角律一、其長者八レ之、短者四レ之、空中實容、長者十六、三宮二十一變也、伏孔四、所レ以便二事用一也。〔注〕一曰正聲、二曰下徵、三曰清角。〔小學紺珠、律曆類、三宮〕正聲・下徵・清角。㋺天宮夾鐘・地宮林鐘・人宮黃鐘。〔小學紺珠、律曆類、三宮〕天宮夾鐘・地宮林鐘・人宮黃鐘。❺食・視・聽。又、目・耳・鼻口をいふ。〔雲笈七籤〕上有二三宮一、兩目爲二絳宮一、兩耳爲二玉堂宮一、鼻口爲二明堂宮一。〔小學紺珠、人事類、三宮〕食・視・聽。❻㋑太皇太后宮・皇太后宮・皇后宮。〔日本外史、足利氏正記、足利氏中〕終至二太政大臣一、進二三宮一。㋺伊勢の三宮。內宮・外宮・伊雜宮。

【二窮】306 人、窮すれば詐り、獸、窮すれば攫み、鳥、窮すれば啄むをいふ。〔荀子、哀公〕鳥窮則啄、獸窮則攫、人窮則詐。〔徐鉉、文獻太子挽歌詞〕故臣偏感咽、曾是歎二三窮一。

【二居】307 流刑の三等の居。四裔・九州の外・千里の外。〔書、舜典〕五宅三居。〔傳〕五刑之流、各有レ所レ居、五居之差、有二三等之居一、大罪四裔、次九州之外、次千里之外。

【二莒】308 地名。春秋時代に於ける、周の莒と齊の莒と魯の莒父。〔讀史方輿紀要、山東、莒州、莒縣〕地志、春秋時、莒有二二、一爲二齊東境之莒邑一、左傳昭三年、齊侯田二於莒一、云云、是也、一爲二周境內邑一、昭二十六年、陰忌奔レ莒以叛、是也、一爲二魯之莒父邑一、定十四年、城二莒父及レ霄、又子夏爲二莒父宰一、是也。

【二擧】309 ❶三たび事をあげる。〔五代史、敬翔等傳論〕凡三十年間、三擧而三敗、以至二殭一遭二至弱一、而如レ此。❷二度、牲を殺して膳に盛ること。〔周禮、天官、膳夫〕王日一擧、云云、王齊日三擧。〔疏〕言二王日一擧者、謂二一日一大牢一、云云、齊必變レ食、故加二牲體一、至二三大牢一。❸二度、聲をあげて泣く。〔孔叢子、陳士義〕門人喜作難、右宰死レ之、還車而臨、三擧而歸。❹二度、受驗を停止すること。殿三擧の略。殿擧 6－16651‥23）を見よ。〔宋史、選擧志一〕進士文理紕繆者、殿五擧、諸科初場十不、殿五擧、第一第三場十不、殿三擧、第二至第三場九不、並殿一擧、殿擧之數、朱二書于試卷一。❺㊀比丘尼の戒律の中の罪名。一に罪を犯して他人が忠告しても自ら罪を認めぬ人、二に肯へて懺悔せぬ人、三に婬欲は道を障げぬと說く人、これらの罪を擧げて罪すること。〔行事鈔、上一〕三擧之人、謂不二見不一レ懺惡邪一不捨。

【二魚】310 二匹の魚。〔齊東野語、莫子及泛レ海〕吳興莫汲子及、云云、暇日具二大舟一、招二一時賓友之豪一、泛レ海以自快、將レ至二北洋一、海之尤大處也、舟人畏不二敢進一、子及大怒、脅レ之以レ劍、不レ得レ已從レ之、及レ至二其處一、四顧無レ際、須臾風起浪涌、舟掀簸如二桔槹一、見二三魚一、皆長十餘丈、浮二弄日光一、其一若二大鮎狀一、其二狀類尤異。

【二魚堂】311 清、陸隴其（11－41708‥437）の室名。〔茶餘客話〕陸隴其曾祖溥爲二豐城縣丞一、嘗督レ運、夜過二采石一、舟漏、跪祝曰、舟中一錢非レ法、願葬二魚腹一、漏忽止、旦視レ之、則水荇裹二三魚一、塞二其罅一、溥子東遷居二泖上一、築二堂名二三魚一。

【二魚堂文集】312 書名。十二卷、外集六卷、附錄二卷。清、陸隴其撰。隴其が歿して九年後に、其の從子禮徵、門人侯銓の共編したもの。其の目は、雜著四卷、書一卷、尺牘二卷、序二卷、記一卷、墓表・志銘・壙記・傳一卷、祝文・祭文一卷。外集六卷は、奏議・條陳・表策・申請・公移等、末に行狀及び詩を附す。〔四庫提要、集、別集類〕。

【二魚堂賸言】313 書名。十二卷。清、陸隴其撰。其の甥、金山の陳濟編輯。五經を說くもの四卷、四書性理を說くもの二卷、諸儒の得失を說くもの二卷、子史及び雜事を說くもの四卷。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【二曲】314 ❶筑紫琴・胡弓・三味線。又、琴・三味線・尺八。❷流泉・啄木・楊眞操の琵琶の三祕曲。

【二局】315 太政官中の少納言局・左辨官局・右辨官局の稱。後に左辨官局・右辨官局・外記局の稱。〔令義解、職員令〕太政官內、總有二二局一、少納言・左辨官・右辨官是也。〔職原抄〕太政官中有二二局一、左右辨官・外記、是也。

【二極】316 ❶天・地・人の三つ。極は至極。三才。〔易、繫辭上〕六爻之動、三極之道也。〔疏〕言、六爻遞相推動、而生二變化一、是天地人三才至極之道也。〔逸周書、小開武解〕三極一、維天九星、二、維地九州、三、維人四左。❷關尹子の篇名。

【二極眞空管】317 プレート・グリッド・フイラメントの二極を封入した眞空管。ラジオの檢波器などに用ひる。

【二金】318 ❶金・銀・銅の三つをいふ。〔李嶠、寶劍篇〕吳山開越溪涸、二金合冶成二寶鐏一。❷㊀三密金剛の略稱。三密の功德の堅固なのに喩へたもの。身密と語密と意密。〔沈約、爲二臨川王一九日侍二太子宴一詩〕三金廣設、六羽高陳。〔顯密不同頌〕顯理無二六境一、密照二之二金一。

【二覲】319 三たび王に見えること。參覲。〔左氏、僖、二十八〕受レ策以出、出入二覲一。〔注〕出入猶二去來一也、從レ來至レ去、凡三見レ王也。

【二霝】320 ❶三つのきず。〔劉峻、廣絕交論〕敗レ德殄レ義、禽獸相若、一霝也、難固易レ攜、讎訟所レ聚、二霝也、名陷二鑽鑿一、貞介所レ羞、三霝也、古人知二三霝之爲一レ梗。〔注〕善曰杜預左氏傳注曰、霝、瑕隙也。❷三度、體に香を塗ること。三霝三浴を見よ。

【二霝三浴】321 からだに度々香を塗り、度々ゆあみして身を潔めること。〔三浴三薰。〕〔國語、齊語〕比レ至二三霝三浴之一。〔注〕以二香塗一身曰レ霝、霝、或爲レ熏。〔黃庭堅、元勛字說〕三霝三沐、而字之曰二不伐一。

【二苦】322 ㊀苦苦・壞苦・行苦。卽ち苦事の成るに由つて生ずる苦と、樂事の去るによつて生ずる苦と、一切の法の遷流無常に由つて生ずる苦と、〔無量壽經、上〕以二諸法樂一救二療三苦一。

【二毆】323 三驅（325）の❶に同じ。〔張衡、東京賦〕成〔禮〕三毆。〔注〕五臣作二驅一、綜曰、周易曰、王用二三毆一、失二前禽一也、毆、與二驅同一。

【二懼】324 王者の懼るべき三つの事。尊位に居つては過を聞かぬことを恐れ、志を得ては驕を恐れ、天下の至道を聞いては行ふことの出來ぬのを恐れる。〔韓詩外傳、七〕孔子曰、明王有三懼一、一曰、處二尊位一、而恐レ不レ聞二其過一、二曰、得レ志而恐レ驕、三曰、聞二天下之至道一、而恐レ不レ能レ行。〔唐太宗、執契靜三邊詩〕衣宵寢二難一、食旰餐二懼一。

【二驅】325 ❶先王田獵の制。三方は圍むが、一

方は開いて、完全には包圍しないこと。三敺。〔易、比〕九五、顯比、王用二三驅一、失二前禽一。〔本義〕天子不三合圍一、故開二一面之網一、來者不レ拒、去者不レ追、故爲レ用二三驅一。㊁田獵を行ふ三つの場合、及び其の禮。乾豆の爲にし、賓客の爲にし、君の庖を充たす爲にす。〔穀梁、桓、四〕四時之田用二三焉、唯其所二先得一、一爲二乾豆一、二爲二賓客一、三爲レ充二君之庖一。〔漢書、五行志上〕田狩有二三驅之制一。〔注〕師古曰、三驅之禮、一爲二乾豆一、二爲二賓客一、三爲レ充二君之庖一也。

【三衢】326 サンク ㊀地名。浙江省衢縣。〔明一統志〕三衢、浙江省衢州府。㊁山名。浙江省常山縣の北。〔衢州府志、常山縣〕三衢山、在二縣北二十五里一、按、隋志、昔有二洪水暴出一、派二茲山一爲二三道一、因謂二之三衢一、州名以レ此。㊂第三番目のちまた。衢は四達の道。〔管子、輕重甲〕昔者桀之時、女樂三萬人、端譟晨樂、聞二於三衢一。〔纂詁〕聞二於三衢一、音樂之聲、達二於城外第三衢一也。

【三具】327 サング 仁・義・威の三つが具はること。〔荀子、王制〕彼王者不レ然、仁眇二天下一、義眇二天下一、威眇二天下一。仁眇二天下一、故天下莫レ不レ親也、義眇二天下一、故天下莫レ不レ貴也、威眇二天下一、故天下莫二敢敵一也、以二不敵之威一、輔二服レ人之道一、故不レ戰而勝、不レ攻而得、甲兵不レ勞、而天下服、是知二王道一者也、知二此三具一者、欲レ王而王、欲レ霸而霸、欲レ彊而彊矣。

【三具足】328 サングソク 香爐・衣瓶・燭臺をいふ。

【三虞】329 サング ㊀古の喪制で、士が三度虞の祭を行ふこと。〔儀禮、士虞禮〕始虞用二柔日一、云云、再虞皆如レ初、云云、三虞卒哭、他用二剛日一、亦如レ初。〔禮、雜記下〕士三虞、大夫五、諸侯七。㊁三人の虞人。虞は川澤を掌る官。〔國語、齊語〕澤立二三虞一。〔注〕周禮、有二澤虞之官一、虞、度也、掌下度中知川澤之大小、及所二生育一者上。

【三偶】330 サングウ 三組、六人の農夫。偶は二人の農夫が並んで耕すこと。〔說苑、敬愼〕子贛之レ承、或在レ塗、見二道側巾弊布擁蒙而衣一レ衰、其名曰二舟綽一、子贛問レ焉曰、此至レ承幾何、嘿然不レ對、子贛曰、人問二乎己一而不レ應、何也、屛二其擁蒙一而言曰、望而黷レ人者仁乎、覩而不レ識者智乎、輕二侮人一者義乎、子贛下レ車曰、賜不仁、過問、三言可二復聞一乎、曰、是足二於子一矣、吾不レ告レ子、於レ是子贛三偶則式、五偶則下。〔纂註〕偶、對也、通作レ耦、農夫之耕、二耜相耦、廣一尺共起二一伐一、子贛遇二三偶一則式、遇二五偶一則下。

【三隅】331 サングウ ㊀三方のすみ。〔論語、述而〕擧二一隅一、不下以二三隅一反上、則不レ復也。㊁三角。〔詩、秦風、小戎〕厹矛鋈錞、傳〕厹、三隅矛也。〔疏〕厹矛、三隅矛、刃爲二三角一、蓋相傳爲レ然也。㊂山名。一名、飛泉山。四川省仁壽縣の城外。〔元和郡縣志〕三隅山、有二東隅・南隅・西隅一、三峯相對、去二陵井一各一里、故名。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、仁壽縣〕三隅山、在二縣城外一、東西南三隅相對。

【三耦】332 サングウ 三組、六人の射手。弓を射る時、二人づつ並んで射るのを一耦といふ。〔儀禮、鄕射禮〕三耦、俟二于堂西一、南面東上。〔注〕司正既立、司射選二弟子之中、德行道藝之高者一、以爲二三耦一、使レ俟二事於此一。〔左氏、襄、二十九〕范獻子來聘、拜レ城杞也、公亨レ之、展莊叔執レ幣、射者三耦。〔注〕二人爲レ耦。

【三窟】333 サンクツ 三つの隱れ穴。狡猾な人が常に多くの隱れ家を持つてゐることの喩。戰國、齊の馮諼が、狡兎に三つの隱れ穴のあることを說いた故事。〔戰國、齊策〕馮諼曰、狡兎有二三窟一、僅得レ免二其死一耳、今君有二一窟一、未レ得二高レ枕而臥一也、請、爲レ君復鑿二二窟一。〔吳質、答二東阿王一書〕無二馮諼三窟之效一。

【三火】334 サンクワ 佛三つの煩惱。貪・瞋・痴をいふ。其の苦しみが熾烈であるから火といふ。〔寶積經、九十六〕我見二諸衆生、三火所二熱惱一。〔海錄碎事、道釋、經〕貪火既爾、嗔癡亦然、三火熾盛、由二我爲一レ本、欲レ滅二三火一、當レ斷二我本一。

【三火下店】335 サンクワカテン 團子を賣る店。〔事物異名錄、郡邑、市〕白獺髓、紹定初、御街中瓦前賣二團子一者、目爲二三火下店一。

【三火之卦】336 サンクワノケ 易の離☲をいふ。其の象は火で、八卦の中第三番目にあるから三火といふ。〔風流御前義經記、三〕其上三火の卦殊に火生にて長運なり。

【三果】337 サンクワ 果實の名。なんばんくるみ。毗梨勒(6－16752‥48)の異名。〔本草、毗梨勒〕釋名、三果、集解、恭曰、戎人謂二之三果一、樹似二胡桃一、子形亦似二胡桃一。

【三花】338 サンクワ 三華。㊀三花樹の略。〔李頎、寄二焦鍊師一詩〕悠悠孤峯頂、日見二三花春一。㊁三花馬の略。〔白居易、和二春深一詩〕何處春深好、春深學士家、鳳書裁二五色一、馬鬣剪二三花一。㊂三つの花。かざりに用いる。〔元好問、同二希顏欽叔一玉華谷還二會善寺一卽事詩〕鐵笛不三曾從二一草一、頭巾久已挂二三花一。〔楊維楨、贈二馬閑雲鍊師一詩〕相約丹陽尋二祖武一、三花髻子市中來。㊃三切れ。〔還魂記、圓駕〕浙另另的紫筋肝、剁二作三花一。㊄道家修養の法。〔琅琊代醉編、三花〕三花聚レ頂、五氣朝レ元、道家修養之法也、三花落則死矣、三花未レ落、乘レ興來過、言下有生之年、未死之日、猶上レ有二再會之期一也。

【三花臉】339 san¹ hua¹ lien³ 男の道化役者で、小官・從者・卜者などに扮する者。戲曲中の語、丑(1－23)に同じ。

【三花樹】340 サンクワジユ 一年に三度花を開く樹。貝多樹。〔雲笈七籤〕亦皆瑠璃水精、中有二三花之樹、五色之實一。〔楊炯、少室山少姨廟碑〕餘基隱嶙、仍知二萬歲之亭一、古木摧殘、尙辨二三花之樹一。〔李白、鳴皐歌〕去時應レ過二嵩少閒一、相思爲折二三花樹一。〔注〕三花樹、卽貝多樹也。

【三花馬】341 バサンクワ 鬣を翦り、三つに編んで飾とした馬。〔唐書、百官志二〕尙乘局、掌二內外閑廏之馬一、凡外牧歲進二良馬一、印以二三花飛鳳之字一。〔名畫要錄〕唐開元天寶閒、多愛二三花飾馬一、三花者、剪レ騣爲二三辮一、白樂天詩云、馬鬣翦二三花一、是也。〔畫斷〕唐人尙二翦騣一、馬三騣者曰二三花一。

【三科】342 サンクワ 三つのしな。又、三段階。㊀上・中・下の三科。〔論語、八佾、爲レ力不レ同レ科、集解〕馬融曰、爲レ力、力役之事、亦有二上・中・下一、設二三科一焉、故曰、不レ同レ科。㊁三箇條。〔後漢書、虞詡傳〕詡爲二朝歌長一、設二令三科一、以募二求壯士一。㊂役の上の三科。尙書・刺史・諸侯大傅。〔漢書、孔光傳〕是時博士選二三科一、高第爲二尙書一、次爲二刺史一、其不レ通二政事一、以二久次一、補二諸侯大傅一。㊃雋乂の三科。茂異・賢良・幹蠱。〔唐書、陸贄傳〕三科登二雋乂一、云云、三科曰二茂異・賢良・幹蠱一。

【三科九旨】343 サンクワキウシ 公羊學派の說。春秋の筆法に三科九旨の法があるといふ。何休は新周・故宋と、春秋を以て新王に當てるのを一科三旨とし、見るところ辭を異にし、聞くところ辭を異にし、傳聞するところ辭を異にするを二科六旨とし、其の國を內にして諸夏を外にし、諸夏を內にして夷狄を外にするのを三科九旨(夷狄進みて爵に至るといふ一旨を加へるべきである)といふ。宋氏は三科は三世を張る、三統を存す、外內を異にする、九旨は時・月・日・王・天王・天子・譏・貶・絕とする。又、淸の孔廣森は春秋の書を以て、上、天道に本づき、中、王道を用ひ、下、人情を理めるものとして、天道を時・月・日の三、王法を譏・貶・絕の三、人情を尊・親・賢の三として、之を三科九旨と呼ぶ。淸朝の公羊學者が公羊學を以て革命思想に附會したのは、此の三科九旨說による所が多い。〔公羊、隱、元、疏〕問曰、春秋說云、春秋設二三科九旨一、其義如何、答曰、何氏之意、以爲、三科九旨、正是一物、若總言レ之、謂二之三科一、科者、段也、若析而言レ之、謂二之九旨一、旨者、意也、言三三个科段之內、有二此九種之意一、故何氏作二文謚例一云、三科九旨者、新周故宋、以二春秋一當二新王一、此一科三旨也、又云、所レ見異レ辭、所レ聞異レ辭、所二傳聞一異レ辭、二科六旨也、又內二其國一而外二諸夏一、內二諸夏一而外二夷狄一、是三科九旨也、問曰、案、宋氏之注二春秋說一、三科者、一曰、張二三世一、二曰、存二三統一、三曰、異二外內一、是三科也、九旨者、一曰時、二曰月、三曰日、四曰王、五曰天王、六曰天子、七曰譏、八曰貶、九曰絕、時與二日月一、詳略之旨也、王與二天王・天子一、是錄二遠近親疏之旨一也、譏與二貶絕一、則輕重之旨也、如レ是、三科九旨、聊不二相干一、何故然乎、荅曰、春秋之內、具二斯二種理一、故宋氏又有二此說一、賢者擇レ之。〔孔廣森、公羊通義敍〕春秋之爲レ書也、上本二天道一、中用二王法一、而下理二人情一、不レ奉二天道一、王法不レ正、不レ合二人情一、王法不レ行、天道者、一曰時、二曰月、三曰日、王法者、一曰譏、二曰貶、三曰絕、人情者、一曰尊、二曰

親、三曰賢、此三科九旨。

【三華】344 ㊀二花(338)に同じ。㊁山名。㋑四川省瀘州に在る。〔明一統志〕三華山、在二瀘州城北一。㋺四川省重慶府大足縣東。二峰が屹立するからいふ。〔重慶府志〕三華山、在二治西二里一、高一里、三峯峭立無レ路。㊂清、榮連(6－1527 3‥167)の字。

【三華集】345 書名。十八卷。明、錢公善編。錢子正の綠苔軒集六卷・錢子義の種菊庵四卷・錢仲益の錦樹集八卷を合せていふ。三華とは三人の作であるからいふ。〔四庫提要、集、總集類〕。

【三華山人】346 清、梁機(6－14825‥46)の號。

【三華聚頂】347 道家修鍊の術。三華卽ち精・氣・神を以て互に化し、遂に虛を化することと。三花聚頂。〔潛確類書〕以レ精化レ氣、以レ氣化レ神、以レ神化レ虛、名二三華聚頂一。

【三過】348 ㊀三たびよぎる。〔漢武故事〕東郡獻二短人一。帝呼二東方朔一。朔至、短人指レ朔曰、西王母種レ桃、三千年一著レ子、此兒不レ良、已三過偸レ之矣。㊁三つのあやまち。食・嗔・癡。〔黃庭堅題跋〕治レ心養レ性、先防二三過一、美食則貪、惡食則嗔、終日食、而不レ知二食之所一レ從來一、則癡。㊂書法で、一畫に三度筆勢を變へること。〔書法三昧〕點之祖蹲鴟之勢、三過側法也。㊃山名。浙江省慈溪縣の西。〔明一統志〕三過山、在二寧波府慈溪縣西二十里一、山勢臨レ江、潮水縈紆、舟人憚レ於經過一、雖二一過一、猶二三過一焉、故名。㊄堂名。浙江省秀水縣本覺寺に在る。〔明一統志〕三過堂、在二嘉興府秀水縣本覺寺一、宋蘇軾與二文長老一、皆有レ詩、後人因建レ堂命レ名焉。㊅㒰身・口・意の三つの過ち。三業から生ずる過。

【三過二其門一不レ入】349 禹が治水の爲、三度家門を通りながら入らなかつた故事。自己の職分に熱心なこと。〔孟子、離婁下〕禹稷當二平世一、三過二其門一而不レ入。

【三過門閒老病死一彈指頃去來今】350 人を三度訪問する閒に、其の人が或は老い、或は病み、或は死ぬ。過去・將來・現在といつても一本の指を彈く閒に過ぎない。人生の測り難い喩。〔蘇軾、過二永樂文長老一已卒詩〕三過門閒老病死、一彈指頃去來今、存亡慣見渾無レ淚、鄉井難レ忘尙有レ心。

【三寡】351 思慮・嗜欲・言語の三つをすくなくする養生法。〔養生雜訣〕養生三寡一、寡二思慮一以養レ神、二、寡二嗜欲一以養レ精、三、寡二言語一以養レ氣。

【三會】352 ㊀三たび會合する。〔詩、齊風、南山序、疏〕春秋經、莊二年、夫人姜氏會二齊侯於禚一。四年、夫人姜氏享二齊侯於祝丘一。五年、夫人姜氏如二齊師一。是夫人復會二齊侯一、如二齊師一也、以言二齊侯淫一。於其妹一、終說二其淫之事一。若然、按、經莊七年春、夫人姜氏會二齊侯於防一、冬夫人姜氏會二齊侯於穀一、亦是淫事、此不レ言者、略二擧其先三會一、以包二其後二會一也。〔雲笈七籤〕飛元之氣、三會成レ音。㊁砦の名。四川省巫山縣の東。〔宋史、劉廷讓傳〕連破二松木・三會・巫山等砦一。㊂溪の名。福建省仙遊縣。〔明一統志〕三會溪、在二興化府仙遊縣西一、其水合二瀨溪一而流。㊃圈(サン)三度の法會。㋑彌勒菩薩が成佛して、華林園中の龍華樹の下で三會の說法をすること。〔嘉祥法華義疏、八〕彌勒有二三會一者、度二釋迦餘殘三根衆生一也。㋺北京(ホク)(京都)の三會。法華會・大乘會・最勝會。㋩南京(ナン)(奈良)の三會。維摩會・御齊會。金光明會。又は維摩會・法華會・最勝會。

【三會院】353 山城國葛野郡嵯峨村臨川寺の境内に在る開山塔。〔夢窗國師年譜〕觀應二年八月二十九日云云、門人以二遺命一奉二全身一、塔二於三會院一。

【三會寨】354 寨の名。四川省巫山縣の東。宋の乾德三年、劉光義等が蜀を伐つて此の寨を收復した。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、巫山縣〕跳石鎭、三會寨、在二縣東一、宋乾德三年、劉光義等伐レ蜀、收復二三會・巫山等寨一、拔二夔州一卽此。

【三槐】355 周時代、外朝に植ゑた三本の槐の木。槐は懷と音通、人をここに懷け來す義がある。三公が之に向つて坐したことから、轉じて、三公をいふ。槐位。〔周禮、秋官、朝士〕朝士、掌下建二邦外朝一之灋上、左二九棘一、孤・卿・大夫位焉、羣士在二其後一、右二九棘一、公・侯・伯・子・男位焉、羣吏在二其後一、面二三槐一。三公位焉、州長衆庶在二其後一。〔注〕樹レ棘以爲レ位者、取二其赤心而外刺一、象下以二赤心一三刺上也。〔後漢書、袁紹傳〕使二三槐九棘議一臣罪戾一。

【三槐山人】358 明、余庭(1－515‥45)の號。

【三槐之望】359 三公の位に登らうとするのぞみ。〔晉書、荀崧傳〕前祕書光祿大夫荀公、生有二三槐之望一。

【三槐王氏】360 宋の王祐が庭に三槐を植ゑて、其の子、旦が三公となつた故事。三槐堂を見よ。〔宋史、王旦傳〕父祐尙書兵部侍郎、以二文章一顯二于漢周之際一。事二太祖太宗一爲二名臣一。云云、世多稱二其陰德一。祐手植二三槐于庭一、曰、吾之後世、必有下爲二三公一者上。此其所二以志一也。〔故事成語考、花木〕王佑知子必貴、手植二三槐一。

【三魁】361 宋代、殿試の魁選に及第した三人の進士。又、廷試及第の上席二人、卽ち狀元(第一席)・榜眼(第二席)・探花(第三席)の三進士の稱ともいふ。〔歐陽元、泰定丁卯八月十二日崇天門傳臚賜二進士一詩〕居然國子先生館、三五魁鱗拜二座前一。

【三懷】362 明、洪恩(6－17402‥25)の字。

【三光】363 ㊀日・月・星、〔莊子、說劍〕上法二圓天一、以順二三光一。〔淮南子、原道訓〕紘二宇宙一、而章二三光一。〔注〕三光、日・月・星也。〔白虎通、封公侯〕天有二三光一。日・月・星。〔班固、靈臺詩〕三光宣レ精、五行布レ序。㊁房・心・尾の三星。〔禮、鄉飮酒義〕鄉飮酒之義、立レ賓以レ象レ天、立レ主以レ象レ地、設二介僎一以レ象二日月一、立二三賓一以レ象二三光一、古之制レ禮也。經之以二天地一、紀之以二日月一、參之以二三光一、設教之本也。〔注〕三光、三大辰也。〔疏〕爾雅云、大辰、房・心・尾也。

【三光尉】364 能(ノウ)の假面(メン)の一種。

【三光鳥】365 深山に棲む鳥の名。ひたき科に屬す。其の鳴聲は日月星といふ樣に聞える。〔練鵲〕〔和漢三才圖會、林禽類、鳥鳳〕今云二三光鳥一、按、鳥鳳近年有レ之、紺碧色、背上帶レ赤、腹白、羽黑而微赤、項毛亂起、頂上有レ冠、眼大而瞼青、其尾長者一尺半許、而能廻轉、其聲清越、如レ言二日月星一、今稱二三光鳥一、其雌似レ雄而色淺尾短、俱性勇悍。㊀まめまはしの別名。

【三光天】366 圈日天子・月天子・明星天子。〔法華文句、二〕或云、是三光天子耳、名月是寶吉祥月天子、大勢至應作、普光是明星天子、虛空藏應作、寶意是寶意日天子、觀世音應作。

【三光之明】367 日・月・星三辰の明光。〔新論、妄瑕〕雖二天地之大、三光之明、聖賢之智一、猶未レ免二乎訾一也。

【三光碼子】368 san¹ kuang¹ ma³ tzŭ 宿無し

者の雅號。三光とは、吃光・用光・當光、即ち、食ひ盡くし、費ひ盡くし、質を置き盡くすこと。當は典當、即ち質のこと。

【三皇】369 サンクワウ　上古の著名な三人の帝王。㊀天皇・地皇・人皇。〔史記、三皇紀〕一說、三皇、謂二天皇・地皇・人皇一爲二三皇一。〔玉函山房輯佚書、三五歷記〕神靈一人十三頭、號曰二天皇一、有二神聖人一十二頭、號二地皇一、有二神聖人一九頭、號二人皇一、天皇・地皇・人皇爲二太古一。㊁天皇・地皇・泰皇。〔史記、秦始皇紀〕古有二天皇一、有二地皇一、有二泰皇一。㊂伏羲・女媧・神農。〔風俗通、皇霸〕春秋運斗樞說、伏羲・女媧・神農、是三皇也。〔陔餘叢考、三皇五帝〕鄭康成、依二運斗樞一註二尚書中候一、則以二伏羲・神農爲二三皇一。㊃伏羲・神農・祝融。〔禮緯號謚記〕禮曰、伏羲・神農・祝融、三皇也。㊄燧人・伏羲・神農。尚書大傳には燧人を遂人に作る。又、白虎通は燧人を神農の後に置く。〔尚書大傳、略說〕遂人以レ火紀レ火、太陽也、陽尊、故託二遂皇於天一、伏羲以二人事一紀、故託二戲皇於人一、蓋天非レ人不レ因、人非レ天不レ成也、神皇悉二地力一種二穀疏一、故託二農皇於地一、天地人之道備、而三五之運興矣。〔白虎通、號〕三皇者、何謂也、伏羲・神農・燧人也。㊅伏羲・神農・黃帝。〔孔安國、尚書序〕伏羲・神農・黃帝之書、謂二之三墳一。〔釋文〕伏羲、一號二包羲氏一、三皇之最先。〔疏〕神農、炎帝也、姜姓、母曰二女登一、以二火德一王、三皇之二也、黃帝、軒轅也、姬姓、少典之子、母曰二附寶一、以二土德一王、三皇之三也。

【三皇易】370 サンクワウエキ　伏羲の小成易、神農の連山易、黃帝の歸藏易をいふ。

【三皇后】371 サンクワウコウ　太皇太后・皇太后・皇后の「稱。

【三皇五帝】372 サンクワウゴテイ　三皇と五帝1－257‥84∞）とを見よ。〔呂覽、孟秋紀、禁塞〕上稱二三皇五帝之業一、以愉二其意一、下稱二五伯名士之謀一、以信二其事一。〔陔餘叢考、三皇五帝〕大戴禮五帝德、及史遷五帝本紀、皆專言二五帝一、不レ言二三皇一、然三皇之號、見二於周禮外史掌三皇五帝之書一、不レ得レ謂二三代以前無一此稱一也。

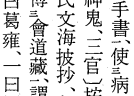
【三皇五帝之書】373 サンクワウゴテイノショ　三皇五帝のことを記した書。三墳五典に同じといひ、或は尚書の原據ともいふ。〔周禮、春官、外史〕掌二三皇五帝之書一。〔注〕楚靈王所謂二三墳五典一。

【三號】374 サンクワク　春秋時代の國の名。東虢と小虢（西虢）と北虢。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、春秋、虢〕今河南陝州城東南、有二上陽城一、即古虢仲國都也、杜預謂二之西虢一、其鄭州汜水縣、古虢叔所レ都、謂二之東虢一、杜佑曰、陝州之虢爲二北虢一、汜水之虢爲二東虢一、又陝西鳳翔府南二十五里一、有二虢城一、謂二之西虢一、亦曰二小虢一、東虢爲二鄭所レ滅、在二春秋之前一、小虢爲二秦所レ滅、在二魯莊公之季一、北虢爲二晉所レ滅、在二僖公五年一、是爲二三虢一也。

【三猾】375 サンクツ　三人のわるがしこいもの。項羽・陳勝・胡亥。〔孝經緯鉤命決〕蕭何爲二昴精一、項羽・陳勝・胡亥爲二三猾一。〔拾遺記、前漢上〕星精爲二輔佐一、以殲二木衰火盛、此爲二異兆一也。

【三官】376 サンクワン　三つのつかさ。㊀天子の三官。大司徒・大司馬・大司空。〔禮、王制〕大司徒・大司馬・大司空、齊戒受レ質、百官各以二其成一質二於三官一、大司徒・大司馬・大司空、以二百官之成一質二於天子一。㊁諸侯の三官。司馬・司徒・司空。三卿。〔左氏、昭、四〕使二三官書一之、吾子爲二司徒一、實書名、夫子爲二司馬一、與二工正一書レ服、孟孫爲二司空一、以書レ勳。㊂國事分擔の三つの官。公・國子・高士。〔國語、齊語〕公帥二五鄕一爲、國子帥二五鄕一爲、高士帥二五鄕一爲、參二國起一レ案、以爲二三官一。〔注〕參、三也、案、界也、分二國事一、以爲二三也。㊃漢代、上林苑中にあつた均輸・鍾官・辨銅の三官。錢を鑄るところ。〔史記、平準書〕於レ是悉禁二郡國一無レ鑄レ錢、專令二上林三官鑄一。〔注〕集解曰、漢書百官表、水衡都尉、武帝元鼎二年初置、掌二上林苑一、屬官有二上林均輸・鍾官・辨銅令一、然則上林三官、其是此三令乎。㊄田師・市師・器師をいふ。〔荀子、解蔽〕農精二於田一、而不可二以爲一田師一、賈精二於市一、而不可二以爲一市師一、工精二於器一、而不可二以爲一器師一、有二人也一、不能二此三技一、而可二使治一三官一、曰、精二於道一者也。㊅戰爭の時の三官。鼓・金・旗。進むには鼓を以てし、退くには金を以てし、偃すには旗を以てする。〔管子、兵法〕三官不レ繆、五教不レ亂云云、三官、一曰鼓、鼓所二以任一也、所二以進一也、二曰金、金所二以坐一也、所二以退一也、三曰旗、旗所二以立一兵也、所二以利一兵也、所二以偃一兵也、此之謂二三官一。有二三令一、而兵法治也。㊆耳・目・心。〔呂覽、任數〕凡耳之聞也、藉二於靜一、目之見也、藉二於昭一、心之知也、藉二於理一、君臣易レ操、則上之三官者廢矣。㊇食（口）・視（目）・聽（耳）。三關。〔淮南子、詮言訓〕三官交爭、以義爲レ制者、心也。〔注〕三官、三關、謂二食視聽一也。㊈道家の奉ずる神。天官・地官・水官。〔後漢書、劉焉傳、注〕典略曰、初熹平中、妖賊大起二漢中一、有二張脩一、爲二太平道一、張角爲二五斗米道一、云云、請禱之法、書二病人姓字一、說二服罪之意一、作二三通一、其一上二之天一、著二山上一、其一埋二之地一、其一沈二之水一、謂二之三官手書一、使二病者家出一米五斗一以爲レ常。〔通俗編、神鬼、三官〕按、此天・地・水三官造端之確據、謝氏文海披抄、郎氏七修類稿、各以二木金水一臆說傅二會道藏一、謂二三官俱周幽王諫臣一、一曰唐宏、一曰葛雍、一曰周實、皆未レ有二實徵一也、其神之尊二奉于世一、由レ漢以來、蓋未二嘗絕一。

【三官錢】377 サンクワンセン　漢代、上林苑で鑄た錢。三官の㊃を見よ。〔史記、平準書〕錢既多、而令二天下一、諸非二三官錢一不レ得レ行、諸郡國所二前鑄一錢、皆廢二鎖之一、輸二其銅三官一。



【三官殿鎮】378 サンクワンデンチン　鎮の名。㊀河南省濟源縣。銅を產す。㊁湖北省光化縣の西。㊂安徽省無爲縣の東。

【三冠】379 サンクワン　二代の冠。夏后氏の母追、殷の章甫、周の委貌。〔儀禮、士冠禮〕委貌、周道也、章甫、殷道也、母追、夏后氏之道也。〔注〕三冠、皆所二常服一以行レ道也、其制之異同、未二之聞一。

【三桓】380 サンクワン　春秋、魯の大夫仲孫・叔孫・季孫。共に魯の桓公から出たからいふ。仲孫氏は後に孟孫氏と改稱した。三家。

桓公
- 莊公
  - 慶父（仲孫氏）
  - 叔牙（叔孫氏）
  - 季友（季孫氏）

【三患】382 サンクワン　三つの心配ごと。㊀耳に聞くことの出來ないこと、聞いてそれを學ぶことの出來ないこと、學んでそれを實行出來ないことの三つの憂。〔禮、雜記下〕君子有二三患一、未二之聞一也、患弗レ得レ聞也、既聞レ之、患弗レ得レ學也、既學レ之、患弗レ得レ行也。㊁心配の多いこと、仕事の多いこと、恥辱の多いことの三つの憂。〔莊子、天地〕多二男子一則多レ懼、富則多レ事、壽則多レ辱、云云、三患莫レ至。

【三管】383 サンクワン　笙と笛と篳篥の三種の樂器。〔樂家錄、三管總論〕名二三管一之說、號管者、以レ吹物謂爾、笙・篳篥・笛之三也、故號二之三管一也。

【三管領】384 サンクワンリャウ　室町時代の三家の執事職。斯波・畠山・細川。〔南朝紀傳、下〕斯波・細川・畠山、號二三管領一。

【三澣】385 サンカン　㊀月の上旬・中旬・下旬の稱。澣は沐浴すること。漢唐の制度で、官吏に十日毎に沐浴の爲の休暇一日を賜はつたことから、轉じて、旬の義とする。三浣〔古今詩話〕俗以二上澣・中澣・下澣一、代二上旬・中旬・下旬一、蓋本二唐制十日一休沐一故白居易詩、公暇月三旬、韋應物詩、九日馳驅一日閒。〔故事成語考、歲時〕月有二三浣一、初旬十日爲二上澣一、中旬十日爲二中浣一、下旬十日爲二下澣一。㊁三たび衣服を洗ふ。唐の文宗が儉約を尊んだ故事。三浣。〔唐書、柳公權傳〕（文宗）常與二六學士一對二便殿一、帝稱二漢文帝恭儉、因擧レ袂曰、此三澣、學士皆質、公權對（禮、郊特牲）大夫而饗レ君、非レ禮也、大夫強而君殺レ之、義也、由二三桓一始也。〔注〕三桓、魯桓公之子、莊公之弟、公子慶父・公子牙・公子友。〔左氏、哀二十七〕公患二三桓之侈一也、欲レ以二諸侯去一之。〔論語、季氏〕故夫三桓之子孫微矣。〔集解〕孔安國曰、三桓、謂二仲孫・叔孫・季孫一、三卿皆出二桓公一也、故曰二三桓一也、仲孫氏、改二其氏一稱二孟氏一、至二哀公一皆衰。

【三浣】381 サンカン　㊀月の上旬・中旬・下旬の稱。三澣（388）の㊀に同じ。㊁三たび衣服を洗ふ。三澣（388）の㊁に同じ。〔太平廣記、廉儉〕唐韓擇木奏賀二肅宗節儉一、上因出二衣袖一、以示レ之曰、朕此三浣矣。

曰、人主當レ進レ賢退二不肖一、納二諫諍一、明賞罰上、服二澣濯之衣一、此小節耳。

【三館】386 ㊀漢の公孫弘が人材を招致するために開いた三つの館。欽賢・翹材・接士。〔小學紺珠、制度類、三館〕欽賢・翹材・接士。㊁文學の三つの館。昭文館(もと修文館といふ。唐の武德四年、弘文館と改め、又、神龍元年、昭文館と改めた)・史館・集賢殿(もと集仙殿といひ、宋では集賢院といふ)。〔宋史、職官志二〕國初以レ史館・昭文館・集賢院一爲二三館一、皆寓二崇文館一。〔梁谿漫志〕唐三館者、昭文館・史館・集賢院、是也、云云、修史・藏書・校讎、皆其職也。〔王禹偁、暴富送二孫何入レ史館一詩〕躍レ身入二三館一爛目閱二四庫一。㊂學生勉學の館。㋑唐代は弘文館・崇文館・國子館。〔唐書、歸崇敬傳〕遣二國子・太學・四門三館各立二五經博士一、品二秩生徒一有レ差。㋺宋代は廣文館・太學・律學館。〔宋史、選擧志三〕然試レ藝給レ牒、充二廣文・太學・律學三館一學生多致二千餘一就レ試、試已、則生徒散歸、講官倚レ席。

【三關】387 ㊀身體の三つの大切な場所。㋑耳(聽)・口(言)・目(視)。三官。〔淮南子、主術訓〕夫目妄視則淫、耳妄聽則惑、口妄言則亂、夫三關者、不レ可レ不二愼守一也。㋺腦後にある玉枕關、夾脊にある轆轤關、水火の際にある尾閭關の二箇所。〔金丹諸眞玄奧〕問二背後三眞、答曰、腦後曰二玉枕關一、夾脊曰二轆轤關一、水火之際曰二尾閭關一。〔呂鏄、玉書賦〕五氣理二於先後一、三關啓二其戶牖一。㋩手と口と足。〔黃帝內景經、三關章〕三關之中精氣深、九微之內幽且陰。(注)據二下文一、口手足爲二三關一。㋥元陽子は明堂・洞房・丹田をいふ。又、正骨術で食指の三節を命二氣・風の三關とする。〔黃帝內景經、三關章、注〕元陽子以二明堂・洞房・丹田一爲二三關一。㊁三つの關所。〔周禮、地官、序官、司關、疏〕王畿千里、王城在二中面一、有二五百里界一、首面置二三關一、則亦十二關。〔易林〕一旅三關、結縕不レ便。㊂關の名。㋑河南省信陽縣の南。平靖關(西關、春秋の冥阨)・武陽關(武勝關・東關、春秋の直轅)・黃峴關(百雁關、春秋の大隧)。〔南齊志〕義陽有二三關之險一。㋺山西省の上黨關・壺口關・石陘關。〔後漢書、馮衍傳上〕上黨之地、有二四塞之固一、東帶二三關一。〔注〕三關、謂二上黨關・壺口關・石陘關一也。㋩蜀の陽平關・江關・白水關。〔吳志、賀邵傳〕劉氏據二三關之險一。〔漢南記〕蜀有二陽平關・江關・白水關一、此爲二三關一。㋥後周では瓦橋・益津・淤口をいふ。皆、河北省にある。一說に、淤口を草橋に代へる。〔五代史、周恭帝紀〕及二北取二三關一、遇レ疾。〔小學紺珠、地理類、三關〕益津・瓦橋・淤口。㊄明代、居庸・紫荊・倒馬を內三關といひ、山西の雁門・寧武・偏頭を外三關といふ。〔讀史方輿紀要、直隸、倒馬關〕以二雁門・甯武・偏頭一爲二外三關一、而居庸・紫荊・倒馬爲二內三關一。㊅佛法を知る三つの關門。㋑宋の慈雲の發した三問題。楞嚴三關。〔佛祖統記、慈雲傳〕慈雲法師導式居二天竺一、有二貴宦一、註二楞嚴一、求二師印可一、師亮二烈燄一謂レ之曰、閣下留二心佛法一、誠爲二希有一、今先申二三問一、若答之契レ理、當レ爲二流通一、若其不レ合、當付二此火一、宦許レ之、師曰、眞精妙元性淨明心、不レ知如何註釋、二四四三宛轉十二流變三疊一十百千、爲是何義、二十五聖所レ證圓通、既云實無二優劣一、文殊何獨得レ取二觀音一、其人罔レ措、師卽擧付二火中一、於レ是楞嚴三關、自レ茲而出。㋺宋の黃龍山の普覺禪師が人に接するとき、挨拶の代りに發した三問題。一、人人個の生緣あり如何か是れ汝が生緣。二、我が手何ぞ佛手に似たる。三、我が脚何ぞ驢脚に似たる。黃龍三關一。〔五燈會元、十七〕㋩地名。㋑美濃國の不破、越前國の愛發、伊勢國の鈴鹿をいふ。後に愛發を廢して、近江の逢阪を加へる。㋺磐城國の白河・勿來、羽前國の念珠をいふ。㋩近江國の勢多、伊勢國の鈴鹿、美濃國の不破をいふ。〔和漢三才圖會、家宅類、關〕三關、勢多江州、鈴鹿勢州、不破濃州。

【三關國】388 三關の一つを有する國々。三關の㋑を見よ。〔令抄〕三關國、愚謂、伊勢鈴鹿關、美濃不破關、越前愛發關、謂二之三關國一。

【三丸】389 昔の城廓の二の丸を圍んだ外廓。〔信長記、一下、芥川小清水瀧山城開退事〕終ひに三の丸迄押し詰め。

【三願】390 三つの願ひ。世間の好い人物を識り盡くす、好い書物を讀み盡くす、好い山水を看盡くすことの三つの願。〔愼蒙、山樓志〕趙季仁曰、某生平有二三願一、一願、識二盡世間好人一、二願、讀二盡世間好書一、三願、看二盡世間好山水一。〔論語、子罕〕子曰、三軍可レ奪二帥也一、匹夫不レ可レ奪二志也一。〔集注〕侯氏曰、三軍之勇在レ人、匹夫之志在レ己、故帥可レ奪、而志不レ可レ奪、如可レ奪、則亦不レ足レ謂二之志一矣。

【三軍五兵之運德之末也】397 軍を動かし兵器を振つて武力に訴へることは德の末である。五兵は五つの武器。弓・殳・矛・戈・戟。〔莊子、天道〕三軍五兵之運、德之末也、賞罰利害五刑之辟、教之末也。〔集釋〕五兵者、一弓、二殳、三矛、四戈、五戟也。運、動也、夫聖明之世、則偃武修レ文、逮二德下衰一、則偃レ文修レ武、偃レ武修レ文、則四民安レ業、德之本末、自レ此可レ知也。

【三刑】398 十二支を三つづつ四方に配し、それを刑殺するものをいふ。巳・酉・丑は刑が西方に在り、寅・午・戌は刑が南方に在り、亥・卯・未は刑が東方に在り、申・子・辰は刑が北方にある。歲刑(6－16326‥43)を見よ。〔唐書、呂才傳〕初値二空亡一、長平坑二降卒一、非二俱犯一レ刑、南陽多二近親一、非二俱當一レ合。〔三命通會、論二刑一〕陰符經曰、恩生二於害一、害生二於恩一、三刑生二於三合一、亦如二六害生一於六合一之義。

【三圭】399 三つの圭玉で、公は桓圭、侯は信圭、伯は躬圭を執ることから、轉じて、公・侯・伯をいふ。〔楚辭、大招〕三圭重侯。(注)三圭、謂二公・侯・伯一也。公執二桓圭一、侯執二信圭一、伯執二躬圭一、故言二三圭一也。重侯、謂二子男一也。

【三形】400 土地の三つの形。高・下・平。〔白虎通、封公侯〕地有二三形一、高・下・平。〔張衡、靈憲〕天有二三辰一、地有二三形一、有象可レ効、有形可レ度。

【三形花】401 植物學用語。同一植物の花が互に花柱の長さを異にし、長いもの、短いもの、中間のものの三種に分れ、それに隨つて雄蕊著生の場所の高低に三種の別あるもの。えぞみそはぎの類。

【三計】402 一年・十年・終身の三樣の計畫。穀を樹ゑ、木を樹ゑ、人を樹ゑること。人を樹ゑるである。之に反し、匹夫でも固く守る所があれば、其の志は奪ひ去ることが出來ぬ。人の志の貴ぶべきことをいふ。〔論語、子罕〕子曰、三軍可レ奪二帥也一、匹夫不レ可レ奪二志也一。〔集注〕侯氏曰、三軍之勇在レ人、匹夫之志在レ己、故帥可レ奪、而志不レ可レ奪、如可レ奪、則亦不レ足レ謂二之志一矣。

とは、賢才を擧げて之に任ずること。〔管子、權修〕一年之計、莫レ如レ樹レ穀、十年之計、莫レ如レ樹レ木、終身之計、莫レ如レ樹レ人。〔史記、貨殖傳〕居レ之一歲種レ之以レ穀、十歲、樹レ之以レ木、百歲、來レ之以德、德者、人物之謂也。

【三計塾】403 サンケイジュク 安井息軒の私塾。〔安井息軒、三計塾記〕三計者何、一日之計在レ朝、一年之計在レ春、一生之計在二少壯之時一也。

【三徑】404 サンケイ 庭の三つの小路。隱遁者の門庭をいふ。漢の蔣詡が庭中に三徑を作り、松・菊・竹を植ゑた故事に基づく。〔三輔決錄〕蔣詡舍中三徑、惟羊仲求仲從レ之游。〔陶潛、歸去來辭〕三徑就レ荒、松菊猶存。〔陸厥、奉二答內兄希叔一詩〕杜レ門清二三徑一、坐レ鑑臨二曲池一。〔聯珠詩格、十八鄭門山涉趣園詩云、三徑歸來正自佳、注、三徑、松菊竹徑也。〔精註雅俗故事讀本、下、宮室〕柴桑處士、三徑猶存。

【三徑堂】405 サンケイ 清、蔣珣(9—31820‥58)の室名。

【三徑草堂】406 サンケイソウドウ 明、蔣之翹(9—31820‥166)の室名。

【三徑之資】407 サンケイノシ 庭の小路を作る隱居の費用。〔晉書、陶潛傳〕謂二親朋一曰、聊欲二弦歌以爲二三徑之資一可乎、執事者聞レ之、以爲二彭澤令一。

【三珪】408 サンケイ 諸侯の三卿。皆珪を執る。三旌(1010)を見よ。〔莊子、讓王〕子綦爲二我延一之、以二三旌之位一。〔釋文〕三旌、司馬本作二三珪一云、謂二諸侯之三卿一皆執レ珪也。

【三荊】409 サンケイ 州名。後魏が荊州を穰縣に、南荊州を安昌縣に、東荊州を泌陽に置いた。之を三荊といふ。穰は今の鄧縣、安昌は確山縣、泌陽は泌陽縣に當る。皆、河南省の境である。〔孟浩然、峴山送二蕭員外之二荊州一詩〕行立二荊使一、看二君駟馬旋一。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州、後魏盛時、亦置二荊州於穰縣一、以控二臨沔北一、其後、宇文泰欲レ經二略江漢一、使二楊忠都一督二荊一鎭二穰城一、而沔口以西、遂拱手取レ之矣。

【三卿】410 サンケイ ❶ 周代、諸侯の司徒・司馬・司空。三官。〔禮、王制〕大國三卿、皆命二於天子一。〔云云、次國三卿、二卿命二於天子一、一卿命二於其君一。〔疏〕崔氏云、三卿者、依二周制一而言、謂下立二司徒一、兼二冢宰之事一、立二司馬一、兼二宗伯之事一、立二司空一、兼中司寇之事上、故春秋左傳云、季孫爲二司徒一、叔孫爲二司馬一、孟孫爲二司空一、此是三卿也。〔公羊、襄、十一〕三軍者何、三卿也。❷ キョウ 德川氏の別家、田安・一橋・清水の三家。〔武家聲要、御三卿〕田安中納言、德川兵部卿、稱二一橋一、德川式部卿、稱二清水一。

【三惠】411 サンケイ 清の惠周惕、其の子惠士奇、士奇の次子、惠棟の三人。惠氏三代が經學を以て世に著れたからいふ。〔國朝漢學師承記、一〕至二本朝一、三惠之學、盛二於吳中一、江永・戴震諸君、繼起二於歙一。〔經學歷史、經學復盛時代〕惠周惕・子士奇・孫棟、三世傳レ經。

【三景】412 サンケイ ❶ 日・月・星。三光。〔雲笈七籤、三洞經教〕第一洞眞・第二洞玄・第三洞神、乃三景之玄旨、八會之靈章。〔黃帝內景經、上有章、注〕列宿三景也。〔黃帝內景經、靈臺章、注〕太上大道君次乘二三景之輿一。❷ 道教で二景に隨つて鍛鍊したものの稱。〔唐書、玉眞公主傳〕號二上淸元都大洞三景師一。〔太上八素眞經〕凡遵二三景一、稱二三景弟子一、已度二三人一、從傳授、得レ稱二三景法師一。❸ 日本に於ける三つの絶景の地。㋑松島・嚴島・天橋立。〔靑山鐵槍、大八洲游記〕是其所二以稱一二三景一、實則非レ爲二觀美一也。㋺ 和歌浦（弱浦）・鹽竈・切渡の文珠。〔合類節用集〕日本三景、弱浦・千賀鹽竈・切渡文珠。

【三溪】413 サンケイ ❶ 縣名。唐、置き、宋、廢す。縣內に棘溪・東溪・葛溪の三溪が合流するので此の名がある。故城は今の四川省綦江縣の東南。〔明一統志〕三溪縣城、在二重慶府南川縣一唐貞觀中置、屬二南州城一、甚高險。❷ 字號。㋑明、徐珊（4—10110‥140）の號。㋺ 菊池純の號。菊池三溪（9—31153‥95）を見よ。

【三溪釣徒】414 サンケイチョウト 宋、張蘭（4—9812‥501）の號。

【三經】415 サンケイ ❶ 君主が國を維持するに必要な三つの大づな。天植（心をいふ、心は天が人に命じて萬事を植立せしめるもの）を正し、風雨が選ぶ所のないように公平無私に施し、遠近高下をして各〻其の業を嗣ぐことを得させて生活を保證する。〔管子、版法〕凡將レ立レ事、正二彼天植一、云云、風雨無レ違、遠近高下、各得二其嗣一、三經既飭、君乃有レ國。〔注〕三經、謂二天植・風雨・高下一也。❷ 唐代、大經（禮記・春秋左氏傳）・中經（詩・周禮・儀禮）・小經（易・尚書・春秋公穀傳）をいふ。〔琅琊代醉編、三經〕唐制、以二禮記・春秋左氏傳一爲二大經一、詩・周禮・儀禮爲二中經一、易・尚書・春秋公穀傳爲二小經一、是以二簡帙繁簡一爲二次第一。❸ 三種の經書。十三經(2—2695‥146)を見よ。〔韓詩外傳、七〕三經之席。㋑易經・詩經・春秋。〔漢書、五行志下之下〕是故聖人重レ之、載二于三經一。〔注〕謂二易・詩・春秋一。㋺ 詩經・書經・易經。清の李重華に三經附義六卷がある。〔四庫提要、經、五經總義類存目、三經附義、六卷〕是編所レ說、凡易經二卷・書經二卷・詩經二卷。㋩ 書經・周禮・儀禮。宋の王安石に三經新義があり、楊時に三經義辯がある。〔小學紺珠、藝文類、三經〕書・詩・周禮。㋥ 論語・孟子・大學中庸。〔譚貞默、三經見聖〕。㋭ 孝經・論語・孟子。〔黃不烈、三經音義〕。㋬ 周易・禮經・孝經。〔曹元弼、三經學合刻〕。㋣ 周易・論語・孟子。〔太田錦城、三經談〕。❹ 詩の六義の內、風・雅・頌をいふ。三緯(28)を見よ。

【三經義疏】416 サンキョウギショ 倭書名。聖德太子御撰。法華義疏・維摩義疏・勝鬘義疏。法華・維摩・勝鬘三經の御註釋。

【三經三緯】417 サンケイサンイ 詩經の六義の中、風・雅・頌は詩の性質の上の分類で、之を詩の三經といひ、賦・比・興は詩の體裁上の分類で、之を詩の三緯といふ。〔朱子語類、八十三〕三經、是風・雅・頌、是做レ詩底骨子、賦・比・興、卻是裏面穿串底、故謂二之三緯一。

【三經新義】418 サンケイシンギ 書名。宋、王安石撰。詩・書・周禮の三經に訓釋したもので、先儒の傳注は一切用ひず、獨特の新見によつた。詩書の二新義は大半、子雱の撰であるが、周官だけは全く安石の自筆で、安石はこれによつて新法に理論づけようとした。詩書の二新義は其の後亡佚したが、周官新義と考工記解だけは四庫全書中に收められた。〔經義考、羣經〕。

【三教】419 サンケウ ❶ 夏・殷・周三代の教。忠・敬・文。〔白虎通、三教〕王者設二三教一何、夏人之王、教以レ忠、殷人之王、教以レ敬、周人之王、教以レ文。❷ 儒教・佛教・道教。〔北史、李士謙傳〕士謙善談二玄理一、客又問二三教優劣一、士謙曰、佛、日也、道、月也、儒、五星也。〔輟耕錄、三教〕李木魯狮子罩公在二翰林一時、進講罷、上問曰、三教、何者爲レ貴、對曰、釋如二黃金一、道如二白璧一、儒如二五穀一、上曰、若然則儒賤邪、對曰、黃金白璧、無亦何妨、五穀於レ世、豈可二一日闕一哉、上大說。〔翻譯名義集、吳主問二三教一、尚書令闞澤對曰、孔老設レ教、法レ天制レ用、不二敢違一天、佛之設レ教、諸天奉行。❸ 白虎通の篇名。❹ 倭 ㋑ 南中二教。齊朝から以後、江南の諸師の立てた教。漸教・頓教・不定教。〔華嚴經玄談、四〕。㋺ 光統二教。後魏の光統の立てた教。漸教・頓教・圓教。〔五教章、上〕。㋩ 三時教。第一時教・第二時教・第三時教。〔華嚴玄談、四〕。㋥ 南山三教。性空教・相空教・唯識圓教。〔行事鈔、中四〕。㋭ 天台三教。㋬ 頓教・漸教・不定教。〔法華玄義、十〕大綱三種、一頓・二漸・三不定、此三名同二舊義一異也。㋣ 漸教・頓教・圓教。〔唐決〕淨名經廣疏云、圓・頓・漸三教也。㋒ 三藏教・通教・別教。〔法華經科注〕執二所レ入之一理、疑二三教之能門一。❺ 神道・儒教・佛教。

【三教人】420 サンケウニン 乞食の一。〔東京夢華錄〕十二月、卽有二貧者三教人一、爲二一火一、裝二婦人神鬼一、敲二鑼鼓一、巡門乞錢。

【三教九流】422 サンケウクリウ 各種の異つた學問や職業を總括していふ。轉じて、人の何でも知つている喩。九流三教(1—167‥631)に同じ。〔星宗、玉衡經〕尙淸高二好レ道、主二九流三教一。

【三教外人】423 サンケウグワイジン 宋、鄧牧(11—39630‥10)の號。

【三教指歸】424 サンケウシキ 書名。弘法大師撰。もと聾瞽指歸と名づけた。大師十八歲の時の作で、出家の決意を一族に述べた書。儒・老・佛の三教を比較して、其の優劣淺深を批判したもので、序文の外、上卷は龜毛先生論と題して儒教を說き、中卷は虛亡隱士論と題して道教を說き、下卷は假名乞兒論と題して佛教を說く。二十四歲の時、此の書を再治して三教指歸と名づ

けた。

【三教主人】425 サンケウシジン 服部天游の號。服部蘇門(5—14345‥114)を見よ。

【三教珠英】426 サンケウシュエイ 書名。一千三百卷、目十二卷。張昌宗・李嶠・崔湜・閻朝隱・徐彦伯・張說・沈佺期・宋之問・富嘉謨・喬侃・員半千・薛曜等撰。開成の初、書名を海内珠英と改めた。〔唐書、藝文志〕。

【三教先生】427 サンケウセンセイ 明、林兆恩(6—14551‥406)の號。

【三教布衣】428 サンケウフイ 南唐、陳陶(11—41698‥447)の號。〔海錄碎事、人事、時號數稱〕唐陳陶、以ㇾ詩名、兼ニ釋老學一、自號ニ三教布衣一。

【三教論衡】429 サンケウロンカウ 書名。●一卷。唐、白居易撰。儒・道・佛三教に關する所見を述ぶ。〔說郛、第八冊〕。●一卷。僧慧訓著。延享二年成る。儒・佛・道三教の異同を述べ融合を說き、更に諸家諸宗の概略に及んでゐる。

【三教一致論】430 サンケウイツチロン 儒教と道教と佛教とを一致せしめて說く議論。北齊の顏之推・孫綽が儒佛二教の一致を說き、張融・周顒・顧歡が道佛二教の一致を說き、顧歡は孔老は卽ち佛なりといひ、隋には王通は文中子に於て、道教と佛教とは治國の教としては儒教に及ばないが、孰れも排斥すべきでないとし、唐の譚峭は道教を基礎として儒教の五倫を說き、五代の陳摶は三教合一を提唱した。

【三教平等會】431 サンケウビヤウドウクワイ 全眞教(1—1424‥105)を見よ。

【三教遺逸子孫】431 サンケウイツソン 宋、趙孟僩(10—37171‥896)の號。

【三橋】432 サンケウ ●河の名。廣東省電白縣の西。●埠の名。浙江省武康縣の西北。明初、稅課局を置く。●鎭の名。㋑安徽省懷縣の西北。㋺陝西省長安縣の西北。

【三堯】433 サンケウ 宋の陳堯叟と其の二弟堯咨・堯佐の三人。三陳(1299)の●を見よ。

【三郤】434 サンゲキ 春秋、晉の大夫郤犨・郤至・郤錡をいふ。〔左氏、成、十七〕必先ニ三郤一族大多ㇾ怨。

【三戟】435 サンゲキ 三人の高官。戟は高官の家の門に立てる儀衞のほこ。棨戟(6—14965‥2)を見よ。●唐の崔琳と其の二弟珪・瑤の三人を二戟崔家といふ。〔唐書、崔神慶傳〕琳與ニ弟太子詹事珪・光祿卿瑤一、俱列ニ棨戟一、世號ニ三戟崔家一。●唐の張儉の兄弟二人を二戟張家といふ。〔舊唐書、張儉傳〕唐制、二品已上、門列ニ棨戟一、儉兄弟三院、門皆立ㇾ戟、時人榮ㇾ之、號爲ニ三戟張家一。

【三傑】436 サンケツ 三人のすぐれたもの。●漢の高祖の臣、張良・蕭何・韓信。〔史記、高祖紀〕夫運ニ籌策一帷帳之中一、決ニ勝於千里之外一、吾不ㇾ如ニ子房一、鎭ニ國家一、撫ニ百姓一、給ニ饋饟一、不ㇾ絕ニ糧道一、吾不ㇾ如ニ蕭何一、連ニ百萬之軍一、戰必勝、攻必取、吾不ㇾ如ニ韓信一、此三者皆人傑也。〔小學紺珠、名臣類下、漢三傑〕留文成侯張良・鄭文終侯蕭何・淮陰侯韓信。●三國、蜀の諸葛亮・關羽・張飛。〔傅子、附錄〕徵士傅朝曰、劉備寬仁有ㇾ度、能得ニ人死力一、諸葛亮達ニ治知ㇾ變、正有ㇾ謀而爲ニ之相一、張飛・關羽、勇而有ㇾ義、皆萬人之敵、而爲ニ之將一、此二人者、皆人傑也、以ニ劉備之略一、三杰佐ㇾ之、何爲而不ㇾ濟也。〔小學紺珠、名臣類下、三傑〕諸葛亮・張飛・關羽。●唐の溫彦博の三兄弟。皆卿相のオありと稱せられた。〔唐書、溫彦博傳〕大雅性至孝、與ニ弟彦博・大有一、皆知ㇾ名、薛道衡見ㇾ之、嘆曰、三人者、皆卿相才也。〔精註雅俗故事讀本、上、兄弟〕才稱ニ三傑一。〔注〕唐、溫彦博兄弟三人、皆卿相才。●唐の玄宗の臣、宋璟・張說・源乾曜。〔唐書、宋璟傳〕璟、十七年、爲ニ尚書右丞相一、而張說爲ニ左丞相一、源乾曜爲ニ太子少傅一、同日拜、有ㇾ詔、太官設ㇾ饌、太常奏ㇾ樂、會ニ百官尚書省東堂一、帝賦ニ三傑詩一、自寫以賜。●宋の韓琦・富弼・歐陽脩。〔蘇軾、范文正公文集序〕且曰、韓・范・富・歐陽、此四人者、人傑也。云云、自以、八歲知ニ敬ニ愛公一、今四十七年矣、彼三傑者、皆得ニ從ㇾ之游一、公獨不ㇾ識、以爲ニ平生之恨一。●宋の程顥・張山甫・朱光庭。〔小學紺珠、名臣類下、三傑〕程顥鄂縣簿・張山甫武功簿・朱光庭萬年簿、關中號爲ニ三傑一。●明、治維新の三傑。西鄕隆盛・大久保利通・木戸孝允。

【三鼓】437 サンコ ●太鼓を三度打つ。太鼓を一度打ち終るごとに車が一轉する。〔周禮、夏官、大司馬〕鼓戒三鼜。〔注〕鼓壹鼜車、壹轉。●歌が三度終ること。〔禮、郊特牲〕樂ニ三闋一、然後出ㇾ牲。〔疏〕樂ニ三闋一、然後出迎ㇾ牲者、闋、止也、奏樂ニ徧止、乃迎ㇾ牲入殺ㇾ之。

【三闕】438 サンケツ 春秋の三傳に夫々一つづつ、合せて三つの闕點のあること。左氏傳は其の說膏肓、公羊傳は墨守、穀梁傳は廢疾の缺點のあること。後漢の何休は左氏膏肓・公羊墨守・穀梁廢疾を作る。〔拾遺記、後漢〕門徒有ニ問者一、則爲ニ註記一、而口不ㇾ能ㇾ說、作ニ左氏膏肓・公羊墨守・穀梁廢疾一、謂ニ之ニ闕一。

【三月】439 サングワツ ●年の第三月。〔春秋、隱、元〕三月、公及ニ邾儀父一、盟ニ于蔑一。●三箇月。みつき。〔詩、王風、采葛〕一日不ㇾ見、如ニ三月一兮。

【三月紅】440 サンゲツコウ 楚の項羽が秦の宮室を燒いた時、其の紅の火が三箇月に亙つて燒けつづけた故事。〔史記、項羽紀〕項羽引ニ兵西、屠ニ咸陽一、殺ニ秦降王子嬰一、燒ニ秦宮室一、火三月不ㇾ滅。〔曾鞏(一說に許彦國)、虞美人草詩〕咸陽宮殿三月紅、霸業已隨ニ煙燼一滅。

【三月盡】441 サングワツジン 三月の末日、陰暦で春の終りの日。やよひのつごもり。〔白居易、三月三十日作詩〕今朝三月盡、寂寞春事畢、黃鳥漸無ㇾ聲、朱櫻新結ㇾ實。〔倭漢朗詠集、三月盡〕留ㇾ春不ㇾ用ニ關城固一。

【三月雪】442 ノユキ 春の雪。〔白居易、和ニ春深一詩〕濤翻ニ三月雪一、浪吐ニ四時花一。

【三月革命】443 サンガツカクメイ 西暦一九一七年三月のロシヤの革命。ロシヤ暦で二月にあたるので、二月革命ともいふ。

【三月狂言】443 サンガツキヤウゲン 三月に上演する狂言。江戸時代の中期以後に、三月三日を初日とした興行。また、その出しものをいふ。三月芝居。

【三月三日】444 サングワツジンジツ 上巳(1—13‥327)を見よ。〔荊楚歲時記〕三月三日、士人並出ニ江渚一、池沼間、爲ニ流杯曲水之飮一。

【三月之喪】445 サンゲツノモ 儒家の二年の久喪に對し、墨子の主張した僅か三箇月の喪。〔墨子、公孟〕子墨子曰、子以ニ三年之喪一非ニ三月之喪一、是猶ニ偰謂ニ撅者不恭一也。

【三月而沐】446 サンゲツモクニ 人が喪に在るときは、三日を經て食し、三月を經て沐するを禮とする。〔孔子家語、本命解〕三日而食、三月而沐。

【三月不ㇾ庭】447 サンゲツテイニセズ 三箇月の長い間、庭に出ない。物思ひに沈み、又、身を愼めるため。三月、一に三日に作る。〔莊子、山木〕莊周反入ニ三月不ㇾ庭。〔釋文〕一本作ニ三日一、司馬云、不ニ出坐一庭中一三月。

【三月不ㇾ知ニ肉味一】449 サンゲツニクノアヂハヒヲシラズ 三箇月間、肉を食べても其の味の旨いのを覺えないほど心が一物に凝つて、他事を忘れる義。一說に、三月の二字は上句に屬するといふ。〔論語、述而〕子在ニ齊聞ㇾ韶、三月不ㇾ知ニ肉味一、曰、不ㇾ圖ニ爲ㇾ樂之至於斯一也。〔集注〕蓋心一ニ於是一、而不ㇾ及ニ乎他一也。

【三月正當三十日】450 サンゲツマサニアタルサンジフニチ 三月三十日に當るといふこと。〔賈島、三月晦日贈ニ劉評事一詩〕三月正當三十日、風光別ニ我苦吟身一、共君今夜不ㇾ須ㇾ睡、未ㇾ到ニ曉鐘一猶是春。

【三月打雷麥堆堆】451 san¹ yüeh⁴ ta³ lei² mai⁴ tui¹ tui¹ 三月に雷が鳴れば麥が豐作となる。湖北地方の農家の俚諺。

【三月三日晴桑上掛ニ銀瓶一】452 サンゲツサンジツハレハクワジヤウニギンペイヲカク 三月三日が晴天なれば、桑の出來がよい。〔通俗編、時序、三月三日晴桑上掛ニ銀瓶一〕紀歷撮要及楊升菴集引古諺、云云、玉芝堂談薈述、有ニ下二句一云、三月三日雨、桑葉無ニ人取一。

【三月無ニ卯田家米不ㇾ飽】453 サンゲツムバウデンカコメアカズ 三月に卯の日が三度ない年は豐年でない。〔通俗編、時序、三月無ニ三卯一田家米不ㇾ飽〕見ニ周益公日記一。

【三月嬰兒軒冕在ㇾ前弗ㇾ知ㇾ欲】454 サンゲツエイジニハケンベンマヘニアルトモシラズホッス 生れて三月位の嬰兒は立派なものが前にあつても欲しいとは思はない。唯、慈母の誠の愛だけを求めるといふ喩。軒は大夫以上の乘る車。冕は冠。〔呂覽、具備〕三月嬰兒、軒冕在ㇾ前、弗ㇾ知ㇾ欲也、斧鉞在ㇾ後、弗ㇾ知ㇾ惡也、慈母之愛謟焉、誠也。

【三枘】455 サンゼイ 三つのひこばえ。枘は蘖。三蘖を

見よ。〔漢書、敘傳下〕三柄之起、本根既朽。〔注〕劉德曰、詩云、包有三三柄一。

【二蘗】456 ニゲツ 三つのひこばえ。悪人についてゐる三人の黨類。〔詩、商頌、長發〕苞有三三蘗一。〔集傳〕言二一本生三三蘗一也、本則夏桀、蘗則韋也、顧也、昆吾也、皆桀之黨也。〔劉琨、答二盧諶一詩〕二族偕覆、三蘗並ㇾ根。

【二劫】457 ニゴウ ●君主に對する二つのおびやかし。明劫・事劫・刑劫。〔韓非子、三守〕凡劫有ㇾ二、有二明劫一、有二事劫一、有二刑劫一。云云、羣臣持ㇾ祿養ㇾ交、行ㇾ私道一、而不ㇾ效二公忠一、此謂二明劫一。鬻ㇾ寵擅ㇾ權、矯ㇾ外以勝ㇾ內、險ㇾ言禍福得失之形一、以阿二主之好惡一、人主聽ㇾ之、卑ㇾ身輕ㇾ國以資ㇾ之、事敗與二主分一其禍一、而功成則臣獨專ㇾ之、諸用ㇾ事之人、壹ㇾ心同ㇾ辭、以語二其美一、則主言惡者、必不ㇾ信矣、此謂二事劫一。至二於守司・閤閭・禁制・刑罰一、人臣擅ㇾ之、此謂二刑劫一。三守不ㇾ完、則三劫者起、三守完、則三劫者止。三劫止塞則王矣。●㊀眞言宗で說く三妄執の異名。一に麁妄執、實我があると執着すること。二に細妄執、實法があると執着すること。三に極細妄執、中道の理にくらいこと。〔大日經疏、二〕梵云二劫跛一有二二義一、一時分二妄執、若祕密釋、越二一劫一瑜祇行ㇾ即是度二百六十心等一重麁妄執、名二一阿僧祇劫一、超二二劫一瑜祇行、又度二百六十心等一重細妄執、名二阿僧祇劫一、眞言門行者、復越二一劫一、更度二百六十心等一重極細妄執、得ㇾ至二佛慧初心一。㊁過去・現在・未來の三世。〔佛祖統記、三十〕。

【二夾】458 ニゴウ 河の名。江蘇省寶山縣の東に當る。吳淞江と長江とが會流する所。

【二夾地】459 sanㇾ chiaㇾ tiˋ 三角形の土地。

【二峽】460 ニゴウ 四川・湖北兩省の境にある揚子江上流の二つのはざま。〔左思、蜀都賦〕控二三峽之崢嶸一、攝二五軋之蹇淫一。〔李白、峨眉山月歌〕夜發二清溪一向二三峽一、思ㇾ君不ㇾ見下渝州一。●瞿唐峽・巫峽・西陵峽。〔讀史方輿紀要、湖廣、重險〕西陵・西陵峽在二荊州府夷陵州西二十五里一、峽長二十里、層崖萬仞、三峽之一也。三峽者、一爲二廣漢峽一、卽瞿唐峽也、在二四川夔州府奉節縣東三里一、酈道元曰、江水自二巴東魚復縣東一、東逕二廣漢峽一、爲二三峽之首一、中有二瞿唐黃龜二灘一、是瞿唐卽廣漢之異名矣、昔禹鑿以通ㇾ江、所謂巴東之峽也、一爲二巫峽一、巫峽在二夔州府巫山縣東三十里一、因ㇾ山爲ㇾ名、首尾一百六十里、一爲二西陵峽一也。●巫峽・西陵峽・歸峽。〔水經、江水注〕故漁者歌曰、巴東三峽巫峽長、猿鳴三聲淚沾ㇾ裳。〔郝郊、入蜀紀〕見二巫峽・西陵峽・歸峽一、並稱二三峽一。●巫山峽・明月峽・廣澤峽。〔輿地志〕巴陵楚地有二三峽一、明月峽・巫山峽・廣澤峽。㊁巫峽・瞿唐峽・歸峽。〔錦字箋〕。㊂廣溪峽・巫峽・西陵峽。〔小學紺珠、地理類、三峽〕廣溪峽・巫峽・西陵峽。

【三峽澗】461 サンカウ 谷川の名。江西省星子縣の廬山五老峯の西。〔南康府志〕三峽澗、在二府北十五里棲賢寺右一、水聲如ㇾ雷。

【三箋】462 サンセン ●三はこ。〔漢書、張安世傳〕上行二幸河東一、嘗亡二書三篋一、詔問莫ㇾ能知二唯安世識一之。〔梁元帝、特進蕭琛墓誌銘〕學類二五行一、書倅二三篋一。●㊀三藏(603)の●に同じ。〔大唐三藏聖教序〕八藏三篋之文。〔可洪音義、一〕三篋、篋、藏也、謂二菩薩藏・獨覺藏・聲聞藏一爲二三篋一。

【二見】463 ニケン ●三たび見る。〔白居易、客中月詩〕悠悠行旅中、三見清光圓。〔崔道融、對ㇾ早梅一寄二友人一詩〕憶得前年君寄ㇾ詩、海邊三見早梅詞。●三度あらはれる。〔宋書、符瑞志中〕晉武帝太康元年八月、白龍三見二于永昌一。

【三見三笞】464 ミタビ ムチウタル 周の伯禽と康叔とが周公に三度見えて三度笞うたれた。そこで、二人が商子に其の譯を尋ねると、商子は二子に橘といふ木を見よと云つた。見ると、實つて仰いでゐる。商子はそれが父の道だと教へた。又、梓を見よといふ。見ると、實つて俯してゐる。商子はこれが子の道だと教へた。かくて、伯禽・康叔の二人は、商子によつて子の道を學んだのである。此の話は尚書大傳又は周書として、世說新語排調注・文選王文憲集序注を始め太平御覽五百十八、宗親部、子・藝文類聚八十九、說苑等の諸書に見えて居るが、文にはそれぞれ異同がある。〔說苑、建本〕伯禽與二康叔封一、朝二于成王一、見二周公一、三見而三笞、康叔有二駭色一、謂二伯禽一曰、有二商子者一、賢人也、與二子見一之、康叔封與二伯禽一、見二商子一曰、某某也、日吾二子者一、朝乎成王、見二周公一三見而三笞、其說何也、商子曰、二子盍二相與觀一乎南山之陽一、有ㇾ木焉、名曰ㇾ橋、二子者往、觀二乎南山之陽一、見ㇾ橋、竦焉實而仰、反以告二乎商子一、商子曰、橋者父道也、商子曰、二子盍二相與觀一乎南山之陰一、有ㇾ木焉、名曰ㇾ梓、二子者往、觀二乎南山之陰一、見ㇾ梓、勃焉實而俯、反以告二商子一、商子曰、梓者子道也、二子者明日見二乎周公一、入門而趨、登ㇾ堂而跪、周公拂二其首一、勞而食ㇾ之、曰、安見二君子一、二子對曰、見二商子一、周公曰、君子哉商子也。

【三建】465 サンケン 藥草の名。天雄・烏頭(川烏)・附子をいふ。共に建平地方から出る。〔本草、天雄〕集解、弘景曰、今采用二八月中旬一、天雄似二附子一、細而長、乃至二四寸許一、此與二烏頭一附子一、三種本出二建平一、故謂二之三建一。〔謝靈運、山居賦〕三建異形而同出。〔自注〕三建者、附子・天雄・烏頭。〔癸辛雜識、一〕三建湯、所用附子・川烏・天雄。

【三堅】466 サンケン 藥草の一種。ばりん。馬蘭(12－445 72：638)の異名。利尿劑に用ひる。〔本草、蠡實〕釋名、荔實、馬蘭子、馬棟子、馬薤、馬帚、鐵掃帚、劇草、旱蒲、豕首、三堅。

【三愆】467 サンケン ●三つのあやまち。躁(尊長者がまだ話しかけないのに、先だつて言ふこと)・隱(尊長者が話しかけても默して言はぬこと)・瞽(尊長者の顏色を見ないで勝手に話しかけること。瞽はめくら)。〔論語、季氏〕孔子曰、侍二於君子一有二三愆一、言未ㇾ及ㇾ之而言、謂二之躁一、言及ㇾ之而不ㇾ言、謂二之隱一、未ㇾ見二顏色一而言、謂二之瞽一。●㊀貪・瞋・癡をいふ。〔可洪音義、二〕愆、廣韻、愆、惣俗字。丘乾反、意有二三業一也、謂二貪瞋邪見一也。

【三劍】468 サンケン 三振りの劍。●莊子が趙の文王に說いた三つの劍。天子の劍は天下の形勢を知るに在り、諸侯の劍は人材の賢否を知るに在り、庶人の劍は只一人の勇のみとの喩。〔莊子、說劍〕臣有二三劍一、唯王所用、請先言而後試、王曰、願聞二三劍一、曰、有二天子劍一、有二諸侯劍一、有二庶人劍一、曰、天子之劍何如、曰、天子之劍、以二燕谿石城一爲ㇾ鋒、齊岱爲ㇾ鍔、晉魏爲ㇾ脊、周宋爲ㇾ鐔、韓魏爲ㇾ夾、包以二四夷一、裹以二四時一、繞以二渤海一、帶以二常山一、制以二五行一、論以二刑德一、開以二陰陽一、持以二春夏一、行以二秋冬一。此劍直ㇾ之無ㇾ前、擧ㇾ之無ㇾ上、案ㇾ之無ㇾ下、運ㇾ之無ㇾ旁、上決浮雲、下絕二地紀一。此劍一用、匡二諸侯一、天下服矣、此天子之劍也。文王芒然自失、曰、諸侯之劍何如、曰、諸侯之劍、以二知勇士一爲ㇾ鋒、以二淸廉士一爲ㇾ鍔、以二賢良士一爲ㇾ脊、以二忠勝士一爲ㇾ鐔、以二豪傑士一爲ㇾ夾、此劍直ㇾ之亦無ㇾ前、擧ㇾ之亦無ㇾ上、案ㇾ之亦無ㇾ下、運ㇾ之亦無ㇾ旁、上法二圓天一、以順二三光一、下法二方地一、以順二四時一、中和二民意一、以安二四鄕一、此劍一用、如二雷霆之震一也、四封之內、無二不ㇾ賓服而聽一從君命一者一矣、此諸侯之劍也、王曰、庶人之劍何如、曰、庶人之劍、蓬頭突鬢、垂冠曼胡之纓、短後之衣、瞋ㇾ目而語難、相ㇾ擊於前一、上斬二頸領一、下決二肝肺一、此庶人之劍、無ㇾ異二於鬬雞一、一旦命已絕矣、無ㇾ所ㇾ用二於國事一。●歐冶子と干將とが楚王の爲に作つた三振りの劍。龍淵・泰阿・工布。〔越絕書、越絕外傳記寶劍〕歐冶子・干將、鑿二茨山一、洩二其溪一、取二鐵英一、作二爲鐵劍三枚一、一曰二龍淵一、二曰二泰阿一、三曰二工布一、畢成・風胡子、奏二之楚王一、楚王見二此三劍之精神一、大悅。

【三賢】469 サンケン ●書道の三賢。小野道風・藤原佐理・藤原行成。〔尺素往來〕道風・佐理・行成、稱二之三賢一候哉。●連歌が勃興した時代の二條良基・救濟法師・周阿法師をいふ。●㊀十住・十行・十廻向の菩薩の位。迷を脫するから賢といふ。

【三賢十聖】470 サンゲンジッシャウ ㊀十住・十行・十廻向の菩薩を三賢とし、初地から十地迄の聖者を十聖といふ。賢は解を發して惑を伏する位。聖は眞智を發して惑を斷ずる位。〔仁王經、上〕三賢十聖忍中行、唯佛一人能盡ㇾ原。

【三檢】471 サンケン 三つのしめくくり。家檢・國檢・天下檢。〔法言、修身〕天下有二三檢一、衆人用二家檢一、賢人用二國檢一、聖人用二天下檢一。

【三獻】472 サンケン ●酒を三度酌むこと。㊀圓丘・宗廟の祭の朝踐に於て、王が先づ泛齊を酌んで獻ずるのが一獻、次に大宗伯が醴齊を酌んで獻ずるのが二獻、孰を薦めて後、王が盎齊を酌んで獻

ずるのが三獻。〔禮、郊特牲〕郊血、大饗腥、三獻爓、一獻孰。〔疏〕故鄭注ニ周禮ニ云、大ニ事于大廟ニ備ニ五齊ニ酒ヲ、則圓丘之祭與ニ宗廟祫ニ同、朝踐王酌ニ泛齊ニ以獻、是一獻也、后無ニ祭天之事、大宗伯次酌ニ醴齊ニ以獻、是爲ニ二獻ニ也、王進ニ爵ヲ時、皆奏ニ樂、但不ニ皆六變ニ次薦ニ熟、王酌ニ盎齊ニ以獻、是爲ニ三獻ニ也、宗伯次酌ニ醍齊ニ以獻、是爲ニ四獻ニ也、次尸食之訖、王酌ニ朝踐之泛齊ニ、是爲ニ五獻ニ也、又次宗伯酌ニ饋食之醍齊ニ以獻、是爲ニ六獻ニ也、次諸臣爲ニ賓長ニ酌ニ泛齊ニ以獻、是爲ニ七獻ニ也、以外皆加爵、非ニ正獻之數ニ、其尸酢レ王以ニ清酒ニ、酢ニ宗伯ニ以ニ昔酒ニ、酢ニ諸臣ニ以ニ事酒ニ云云。〔後漢書、百官志二〕光祿勳、郊祀之事、掌ニ三獻ニ。〔宋史、樂志十二〕禮備ニ三獻ニ、樂成ニ七均ニ。㊀大夫が祭畢はつて尸を室中に禮する時、尸との間に三度酒を酌み交はすこと。〔儀禮、有司徹〕主人就ニ筵ニ、尸作ニ三獻之爵ニ、司士羞ニ湆魚ニ、縮執レ俎以升、尸取ニ膴祭ニ祭之、祭酒卒レ爵、司士縮奠ニ俎于羊俎南ニ、橫載ニ于羊俎ニ、卒乃縮執レ俎以降、尸奠レ爵拜、三獻北面荅拜受レ爵、酌獻侑、侑拜受、三獻北面荅拜、司馬羞ニ湆魚ニ、如ニ尸禮ニ、卒レ爵拜、三獻荅拜受レ爵、酌致ニ主人ニ、主人拜受レ爵ニ、三獻東楹東、北面荅拜、司士羞ニ湆魚ニ、如ニ尸禮ニ、卒レ爵拜、三獻荅拜受レ爵、尸降筵、受ニ三獻爵ニ、酌以酢レ之、ニ三獻西楹西、北面拜受レ爵、尸在ニ其右ニ以授レ之。●サン 宴席で酒盃が三巡することの。又、酒ニ三盃ヲ一獻といふ。式ニ三獻。

【三權】473サン ●二つの權力。〔管子、兵法〕定ニ二至ニ、行ニ二要ニ、縱ニ二權ニ、施ニ四教ニ、發ニ五機ニ、設ニ六行ニ、論ニ七數ニ、守ニ八應ニ、審ニ九器ニ、章ニ十號ニ、故能全勝。〔注〕自ニ一至ニ已下、管氏不レ言ニ其數ニ、無ニ得而知ニ也。●政治を爲す者に必要な二つの威力。高い地位と、富と、君主の親任の三つ。〔說苑、尊賢〕齊桓公使ニ管仲治レ國、管仲對曰、賤不レ能レ臨レ貴、桓公以爲ニ上卿ニ而國不レ治、桓公曰、何故、管仲對曰、貧不レ能レ使レ富、桓公賜ニ之齊國市租一年ニ而國不レ治、桓公曰、何故、對曰、疏不レ能制レ親、桓公立以爲ニ仲父ニ、齊國大安、而遂霸ニ天下ニ、孔子曰、管仲之賢、不得ニ此三權者ニ、亦不レ能レ使ニ其君南面而霸ニ矣。●立法・司法・行政の權。

【三權分立】474サンケンブンリツ 立法・司法・行政を各〻獨立した三種の機關に分配して、相互に相侵さしめないようにし、それによつて人民の自由を保護しようとする、國家統治上の主義。

【二元】475ゲン ●天・地・人。〔王昌齡、夏月花萼樓酺宴應制詩〕土德ニ元正、堯心萬國同。〔鄭餘慶、享ニ太廟ニ樂章〕ニ元告ニ命、四極駿奔。●道家で天・地・水をいふ。ニ官(376)の九に同じ。〔晉書、潘尼傳〕ニ元迭運、五德代微、黃精既亢、素靈乃暉。〔集仙錄〕張道陵龍虎山修ニ三元默朝之道ニ。●術數家では六十甲子を九宮に配して三分し、其の第一甲子を上元、第二甲子を中元、第三甲子を下元とする。〔晉書、荀堅載記下〕從ニ上元人皇ニ起、至ニ中元、窮ニ於下元ニ、天地一變、盡ニ三元ニ而止。〔庾信、道士步虛詞〕中和煉ニ九氣ニ、甲子謝ニ三元ニ。〔十六國春秋〕盡ニ三元ニ而止。四正月元日をいふ。年・月・日のはじめの義。ニ始。〔南齊書、武帝紀〕緣ニ淮戍將、久處ニ邊勞ニ、ニ元行始、宜レ沾ニ恩慶ニ。〔資治通鑑、齊紀〕明帝、建武三年〕朝廷盛禮、莫レ若ニ三元ニ。〔注〕玉燭寶典曰、正月爲ニ端月ニ、其一日爲ニ上日ニ、亦云ニ三元ニ、謂ニ歲之元・月之元・時之元ニ也。五正月・七月・十月の十五日をいふ。〔盧撰、中元日觀ニ法事ニ詩〕四孟逢ニ秋序ニ、三元得ニ氣中ニ。〔陔餘叢考、三官〕其以ニ正月七月十月之望ニ爲ニ三元日ニ、則自ニ元魏ニ始。六郷試・會試・廷試の三試驗に首席を占めたもの。即ち、解元・會元(省元)・狀元をいふ。琅琊代醉編、卷十三、陔餘叢考、卷二十八に見ゆ。〔青瑣高議〕大丞相王會南州解元・南省省元・殿前狀元、樞密馮兄鄂州解元・南省省元・殿前狀元、楊學士賞開封府解元・南省省元・殿前狀元、本朝太平百餘年、文物最爲ニ隆盛ニ、數路得ニ人、推ニ進士ニ爲ニ上第ニ、天聖ニ元、纔ニ人耳。〔袁業泗、盧州ニ元閣記〕按、盧洲盧狀元肇讀レ書處ニ、云云、一郡士夫同心捐助、ニ元閣不レ日成矣。〔書言故事、科第類〕解省殿皆魁、曰ニ三元ニ、元者首也。七明代、進士の試驗の及第者の中、首席から第ニ位までの人。〔李東楊、壽ニ少保商先生七十ニ詩ニ〕本朝科甲重ニ三元ニ。〔狀元事略、正統十年乙丑科〕商輅字弘載、一字尚賢、云云、及レ長、與ニ其師洪士直ニ宿ニ學舍中ニ、輅夢レ有ニ提ニ人首ニ顆ニ投ニ之ニ、覺而語レ洪、洪曰、吉夢也、果ニ三元應ニ之ニ。

【三元記】476キゲン 戲曲の名。明、沈受光作。六十種曲本の一。此の篇は陰陽說による勸戒劇で、江夏の馮商といふものには、子が無かつたが善行を積んだ報いにより、天上玉帝が文曲星君を謫下して子とし、又、織女星を謫下して丞相富弼の女とし、兩家の兒女を婚姻させた結果、男馮京を生み、京は後に三元、即ち、郷試・會試・殿試に合格するに至つたことを演じたもの。

【三元方程式】477サンゲンホウテイシキ 三つの未知數を含む方程式。

【三玄】478ゲン 老子・莊子・周易。〔顏氏家訓、勉學〕莊・老・周易、總謂ニ三玄ニ。

【三玄紫杏】479サンゲンシキョウ 果實の名。仙人が食ふもの。〔海錄碎事、草木、果實〕南岳夫人傳、仙人有ニ三玄紫杏ニ。

【三言】480サンゲン ●二つの言葉。みこと。〔戰國、齊策〕靖郭君將レ城レ薛、客多以諫、靖郭君謂ニ謁者ニ無ニ爲ニ客通ニ齊人有ニ請者ニ、曰、臣請ニ三言ニ而已矣、益ニ一言ニ臣請烹。●三つの言葉で述べた道理。イ其の賄を擧げ責めること、其の詐を稱へ明かにすること、其の貪を主張することの三つをいふ。〔左氏、昭、十四〕平丘之會、數ニ其賄ニ也、以寬ニ衞國ニ晉不レ爲ニ暴、歸ニ魯季孫ニ稱ニ其詐ニ也、以寬ニ魯國ニ晉不レ爲ニ虐、邢侯之獄、言ニ其貪ニ也、以正ニ刑書ニ晉不レ爲レ頗、三言而除ニ三惡ニ、加ニ三利ニ、殺レ親益榮。ロ關市は檢察するだけで稅を取らず、田賦は十分の一を取り、刑罰を弛めることの三。〔晏子、雜、下〕君商漁鹽ニ關市譏而不ニ征、耕者十取ニ一焉、弛ニ刑罰ニ、若ニ死者ニ刑、若ニ刑者ニ罰、若ニ罰者ニ免、若ニ此三言者ニ、嬰之祿、君之利也。ハ一善を見て百非を忘れること、人の善を見て己の善の如く思ふこと、善を聞けば必ず實行することの三。〔孔子家語、六本〕曾子侍曰、參、昔者常聞ニ夫子之ニ言ニ、而未ニ之能ニ行也、夫子見ニ人之ニ善ニ而忘ニ其百非ニ、是夫子之易ニ事也、見ニ人之有レ善、若ニ己有レ之、是夫子之不レ爭也、聞レ善必躬ニ行之ニ、然後導レ之、是夫子之能勞也。ニ肉食の獸を去り、食粟の鳥を去り、絲罝の網を去ることの三。〔呂覽、愼小〕齊桓公卽位、二年ニ言、而天下稱レ賢、羣臣皆說、去ニ肉食之獸ニ、去ニ食粟之鳥ニ、去ニ絲罝之網ニ。〔注〕是ニ言也。ホ內に疎かにして外に親しむことをせず、身不善にして他人を怨まず、患至つて後天を呼ばぬことの三。〔韓詩外傳、二〕曾子曰、君子有ニ三言ニ、可ニ貫而佩ニ之ニ、一曰、無ニ內疎而外親ニ、二曰、身不善而怨ニ他人ニ、三曰、患至而後呼レ天。ヘ人心を結び、風俗を厚くし、綱紀を存することの三。〔宋史、蘇軾傳〕時安石創ニ行新法ニ、軾上書、論ニ其不便ニ、曰、臣之所ニ欲言者ニ、三言而已、願陛下結ニ人心ニ、厚ニ風俗ニ、存ニ綱紀ニ。ト夫婦別あり、父子親あり、君臣嚴あるをいふ。〔禮、哀公問〕公曰、敢問、爲レ政如レ之何、孔子對曰、夫婦別、父子親、君臣嚴、三者正、則庶物從レ之矣、公曰、寡人雖ニ無ニ似也、願聞ニ所ニ以行ニ三言ニ之道ニ者、則上經夫婦別、父子親、君臣嚴、是也。チ詩の形式の一。三言の詩歌。〔宋書、樂志〕荀勗則曰、魏氏歌詩、或二言、或三言、或四言、或五言、與ニ古詩ニ不レ類。〔宋書、自序〕林子雖ニ在ニ攻旅ニ、語不レ及ニ軍事ニ、所ニ著詩・賦・贊・三言・箴・祭文・樂府・表牋・書・記・白・事啓・事論・老子一百二十一首。〔滄浪詩話〕三言、起ニ於晉夏侯湛ニ。リ小說の三種。醒世恆言・警世通言・喩世明言の三つをいふ。

【三言詩】481シサンゴン 詩體の一。上一下二、又は上二下一の二種がある。其の源流と見るべきものは、書經益稷の股肱元首の歌で、形式上は四言であるが、每句第三字に押韻し、句末に哉字を添へてゐるので、實際は三言詩である。これと同種のものには詩經邶風の擊鼓、陳風の月出の類がある。純粹の三言詩としては、漢の安世房中歌十六章中の安其所・豐草葽・雷震震の三章、郊祀歌十九首中の練時日・太乙貺・天馬徠等がある。又、漢の廣川王去が寵姬望卿のために作つた歌、及び修成のために作つた歌の類がある。〔陔餘叢考、三言詩〕三言詩、金玉詩話謂、起ニ於高貴鄉公ニ、然漢安世房中歌、豐草葽及雷

震震一章、郊祀歌之練時日、太乙貺、天馬徠等章、已創二其體一、則不レ始二於魏末一矣、劉勰又引二喜起歌一、爲二三言之首一、而謂、詩之有二三五言一、多成二於西漢一、蓋國風、山有レ榛、隰有レ苓、周頌、綏二萬邦一、屢豐年之類、古詩中、原有二此句法一、特漢初以レ之爲二全篇一、遂成二此三言之一體一耳、後世亦罕有二爲レ之者一、劉伯温集、有下思二美人一一篇上、懷麓堂詩話、羅明仲謂、三言亦可レ爲レ體、因出二樹處一韻一、迫二西涯一題レ扇、西涯援レ筆、題云、揚二風帆一、出二江樹一、家遙遙、在二何處一、又有二鄞人金埴專一、工二三言一、多至二千篇一、今已不レ傳、近日朱竹垞・査初白、間亦爲レ之。

【三言市虎】482 サンゲンシコ　市に虎がゐると三たび言ふこと。虚を眞にする喩。三人成レ虎(1404)を見よ。

【三原】483 サンゲン　縣名。漢の池陽縣の地。明・清の時、陝西省西安府に屬す。今、陝西省高陵縣の西北。〔明一統志〕三原縣、在二西安府城南九十里一。〔清史稿、地理志〕陝西、西安府、縣十五、三原。

【三原色】484 サンゲンショク　赤・綠・青、又は、赤・黃・青。

【三原灣】485 サンゲンワン　大食家、健啖家の異名。〔永嘉郡記〕樂城縣三原亭、去レ郡百二十里、溪水清如レ鏡、曩昔有下得二一鮎一者上、髻大五六圍、一髻輒得二數十斛鮓一、此灣無レ所レ不レ容、人有二能食者一、常自譬、腹如二三原灣一。

【三原學派】486 サンゲンガクハ　明の儒者三原の王恕一派の學をいふ。韓邦奇・韓爵等が之に屬し、薛瑄は其の本宗といふことが出來る。〔明儒學案、三原學案〕關學大概宗二薛氏一、三原、又其別派也、云云、端毅王石渠先生恕、云云、恭簡韓苑洛先生邦奇、忠介楊斛山先生爵。

【三原顏料】487 サンゲンガンレウ　赤・黃・青の三原色の顏料。

【三軒】488 サンゲン　芝居の髷の一種。

【三絃】489 サンゲン　❶三すじの絲を張つた樂器。三弦。〔舊唐書、音樂志〕樂用二鍾一架・磬一架・琴一・三弦琴一・擊琴一一。〔詞品、三弦所レ始〕今之三弦、始二于元時一、小山詞云、三弦玉指・雙鉤・草字題贈二玉娥兒一。❷三味線。〔和漢三才圖會、樂器類、三線〕五雜組云、三絃常合レ簫而鼓レ之、然多淫哇之詞、倡優之所レ習耳、夫子謂、鄭聲淫、淫者、靡也、巧也、非二淫慾之淫一、言二樂而過レ度也、艷而無レ實也、按、其絃三、故名二三線一、琉球國好多用レ之、然不レ爲二樂器一、婦女里子等、毎鼓レ之遊舞、其皮用二蛇皮一焉、本朝亦爲二嬉戲必用物一、其棹以二花櫚木一爲レ上、如二鐵刀木・紫檀一、最愛二樏之美一、桑木次レ之、樒木爲二下品一、其皮皆以二猫革一、八乳者爲レ良、狗子皮爲レ下。

三絃❶（清會典圖）

【三絃溝】490 サンゲンコウ　地名。今の東京都台東區三味線堀の漢譯。〔藤森弘庵、春雨樓記〕爲買二宅於三絃溝之西一。

【三絃草】491 サンゲンサウ　草の名。なづな。薺(9-32208)の異名。〔和漢三才圖會、柔滑菜、薺菜〕和名奈都那、俗云二三線草一、結レ實三角、末大本窄、似二三絃之撥一、小兒以二其二一相摩、則有レ音、故名二三絃草一。

【三鉉】492 サンゲン　三公をいふ。鼎を天位に比し、其の三足又は鉉を、三公又は輔佐の大官に比す。鉉は鼎の耳づる。〔晉書、劉琨等傳論〕各運二奇才一、並騰二英氣一、遇二時屯一而感激、因二世亂一以驅馳、陳レ力、危邦犯二疾風一而表レ勁、勵二其貞操一、契二寒松一而立レ節、咸能自致二三鉉一、成二名一時一。〔陳書、高祖武帝紀上〕相國秩踰二三鉉一、任總二百司一。

【三戶】493 サンコ　❶僅かな戶數。陔餘叢考、卷五に見ゆ。〔史記、項羽紀〕楚雖二三戶一、亡レ秦必楚也。〔注〕集解曰、瓚曰、楚人怨レ秦、雖二三戶一、猶足二以亡レ秦也。❷楚の三大姓。昭・屈・景。〔史記、項羽紀、索隱〕韋昭以爲、三戶、楚三大姓、昭・屈・景也。❸山名。今の三固山。山東省平度縣の西南。〔漢書、郊祀志下〕祀二太室山於卽墨、三戶山於下密一。❹津の名。河南省臨漳縣の西。楚の項羽が蒲將軍に軍を引いて渡らせた所。〔史記、項羽紀〕項羽使二蒲將軍日夜引レ兵度二三戶一、軍二漳南一、與レ秦戰、再破レ之。〔注〕集解曰、孟康曰、在二鄴西三十里一。〔括地志〕北經二三戶峽一、爲二三戶津一、在二相州滏陽縣界一。❺城の名。㋑河南省淅川縣の西南、丹水の北に當る。春秋、魯の哀公四年、晉人が戎蠻子を執へて楚師に與へた所。後漢の桓帝の時、河閒孝王の子博が三戶亭侯に封ぜられた。〔左氏、哀、四〕蠻子聽レ卜、遂執レ之、與二其五大夫一、以畀二楚師于三戶一。〔注〕今丹水縣北、有二三戶亭一。〔水經、丹水注〕丹水又東南逕二一故城南一、名曰二三戶城一。㋺陝西省商縣の南。〔水經、丹水注〕丹水又東南逕二一故城南一、名曰二三戶城一、昔漢祖入レ關、王陵起二兵丹水一、以歸二漢祖一、此城疑陵所レ築也。

【三古】494 サンコ　❶古代を大別して上・中・下の三時に分けていふ。或は伏羲を上古、神農を中古、五帝を下古とし、或は伏羲を上古、文王を中古、孔子を下古とする。〔禮、禮運、夫禮之初始二諸飮食一、疏〕伏羲爲二上古一、神農爲二中古一、五帝爲二下古一、若二易歷二三古一、則伏羲爲二上古一、文王爲二中古一、孔子爲二下古一。〔漢書、藝文志〕人更二三聖一、世歷二三古一。〔注〕孟康曰、易繫辭曰、易之興、其於二中古一乎、然則伏羲爲二上古一、文王爲二中古一、孔子爲二下古一。〔魏書、律曆志〕三古所二共行一、百王不レ能レ易。❷佛三鈷(507)に同じ。

【三古圖】495 サンコヅ　古器物を集めて圖にしたもの。宋代、考古圖・博古圖・玉古圖の三書を合せて之を三古圖といふ。

【三呼】496 サンコ　❶三たび呼ぶ。〔左氏、昭、十七〕三呼皆迭對。〔莊子、山木〕三呼邪、則必以二惡聲一隨レ之。❷萬歲の義に用ひる。三呼二萬歲一を見よ。一に山呼に作る。

【三呼萬歲】497 ミタビバンザイトヨブ　三度、萬歲と叫ぶ。〔漢書、武帝紀〕吏卒咸聞下呼二萬歲一者三上。

【三股】498 サンコ　佛三鈷(507)に同じ。

【三姑】499 サンコ　❶人の体内にあつて害をする三つの蟲。三尸(630)を見よ。〔酉陽雜俎、玉格〕三尸、一日三朝、上尸青姑、伐二人眼一、中尸白姑、伐二人五藏一、下尸血姑、伐二人胃一。❷山名。安徽省にある。〔輿地志〕黟縣東有二靈山一、山有二三峯一、名爲二三姑一、百姓放レ火燒レ之、輒降レ雨。❸浙江省にある石名。〔明一統志〕三姑石、在二建寧府武夷山一、相傳、秦時有二三女一、遊二戲於此一、化爲レ石、今三石相聯望レ之、有二姝麗之態一、故名。❹蠶の收穫をいふ語。〔馬臻、詩〕村婦相逢還笑問、把レ蠶今歲是三姑。〔高啓、養蠶詞〕三姑祭後今年好、滿簇如レ雲繭成早。〔通俗編、禽魚、三姑把レ蠶〕月令廣義、凡四孟年、大姑把レ蠶、四仲年、二姑把レ蠶、四季年、三姑把レ蠶。❺尼姑(女僧)・道姑(女の道士)・卦姑(占をする人)。三姑六婆を見よ。

【三姑山】500 サンコザン　島の名。浙江省定海縣の西北の海中。〔定海廳志〕。

【三姑六婆】501 サンコロクバ　三姑と六婆。家に此の中の一人でもをれば、多くは姦盜の因を爲すといふ。三姑は、三姑の❺に同じ。六婆とは、牙婆(やりて婆)・媒婆(なかうど婆)・師婆(みこ、女巫。一名、跳神婆)・虔婆(無賴婆)・藥婆(藥で病を治す婆)・穩婆(產婆)をいふ。陔餘叢考、卷三十八に見ゆ。〔輟耕錄、三姑六婆〕三姑者、尼姑・道姑・卦姑、六婆者、牙婆・媒婆・師婆・虔婆・藥婆・穩婆也、蓋與二三刑六害一同也、人家有レ一二于此一、而不レ致二姦盜一者、幾希矣、若能謹而遠レ之、如レ避二蛇蠍一、庶二乎淨宅之法一。

【三孤】502 サンコ　❶官名。少師・少傅・少保。三公の副として天子を輔佐した三つの官。三少。〔書、周官〕少師・少傅・少保、曰二三孤一。〔傳〕孤、特也、言、卑二於公一、尊二於卿一、特置二此三者一。❷三人の孤兒。〔風俗通、十反〕妾幸有二三孤一。❸大納言の唐名。〔職原抄〕大納言、異朝少師・少傅・少保、是云二三孤一。

【三虎】503 サンコ　❶三人の偉い人。㋑後漢の賈彪(字は偉節)の兄弟三人をいふ。〔後漢書、賈彪傳〕彪兄弟三人、並有二高名一、而彪最優、故天下稱曰二賈氏三虎、偉節最怒一。〔元稹、曲江老人詩〕繼黜二三彪一賈、羣擢八龍荀。〔精註雅俗故事讀本、上、兄弟〕賈氏三虎、其彪獨優。㋺北齊の陸曄の兄弟をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三虎〕北齊陸曄・弟寬、兄弟並有レ才、呼爲二三虎一。❷三人の惡者。宋の楊紘・王鼎・王綽。共に他人から怨まれた人。〔宋史、楊紘傳〕紘御レ下急、云云、與二王鼎 王綽一、號二江東三虎一。〔宋史、王鼎傳〕鼎提二點江東刑獄一、與二轉運使楊紘・判官王綽一、競擿二發吏一、至二微隱罪一、無レ所レ貸、於レ是所部官吏怨レ之、目爲二三虎一。

【三胡】504 サンコ　❶清の學者、胡匡東・胡培翬・胡春

喬の幷稱。〔清代學術概論、二〕戴震之在ニ郷里一、衍ニ其學一者、有ニ金榜・程瑤田・淩廷堪・三胡（匡衷・培翬・春喬）等一。❷唐、李元吉（**6**―**14459**・・1161）の小字。

【三庫】505 サンコ ❶三つの庫。〔宋書、五行志四〕明年妖賊盧竦、率ニ其屬數百人一、入レ殿略ニ取武庫三庫甲仗一。❷元代の禁中にあつた三つの庫。内藏・右藏・左藏。〔元史、世祖紀九〕禁中出納分ニ三庫一、御用寶玉遠方珍異、隷ニ内藏一、金銀只孫衣段、隷ニ右藏一、常課衣段綺羅縑布、隷ニ左藏一。❸清代、戸部に屬した三つの庫。銀庫・緞疋庫・顏料庫。銀庫は戸部にあつて、各省の賦税を入れ、緞疋庫は東華門の外にあつて、各省から貢する布類等を入れ、顏料庫は西安門の外にあつて、各省から貢する金屬顏料等を入れる。〔清會典事例、戸部、庫藏〕國初設ニ立戸部三庫一、一曰ニ銀庫一、在ニ部署一、一曰ニ緞疋庫一、在ニ東華門外一、一曰ニ顏料庫一、在ニ西安門内一、銀庫爲ニ天下財賦總匯一、出納均有ニ常經一、各省歲輸ニ田賦・鹽課・關税・雜賦一、除ニ存ニ留本省支用一外、凡起レ運至レ京者咸入焉、緞疋庫、凡各省解ニ到紬緞・絹布・皮絲綿綫麻等項一、均付レ庫收存、顏料庫、凡各省解ニ到銅鐵・鉛錫・硃砂・黄丹・沈香・降香・黄茶・白蠟・黄蠟・紙桐油・並花梨・紫榆等木一、均付レ庫收存、又專辨成ニ造香燭一、以供ニ祭祀一、以備ニ内用一。

【三壺】506 サンコ ❶神仙が住んでゐるといふ海中の三つの山。卽ち、方壺・蓬壺・瀛壺の三神山。〔史記、封禪書〕使三人入レ海求ニ蓬萊・方丈・瀛州一、此三神山者、其傳在ニ渤海中一。〔拾遺記、高辛〕三壺、則海中三山也、一曰ニ方壺一、則方丈也、二曰ニ蓬壺一、則蓬萊也、三曰ニ瀛壺一、則瀛州也、形如ニ壺器一。❷ san¹ hu² 商家の見習丁稚をいふ。常に夜壺（夜用ひる尿瓶）・茶壺（茶つぼ）・烟壺（煙草盆）の掃除などを司るからいふ。

【三鈷】507 サンコ 佛主として眞言宗で用ひる佛具。鈷はもと天竺の兵器で、煩惱を破るといふ意義があり、金屬製で兩端に尖つた爪がある。其の一尖あるのを獨鈷、三尖あるのを三鈷、五尖あるのを五鈷といふ。金剛杵。三股。三古。〔和漢三才圖會、神祭佛具、三鈷〕按、獨鈷・三鈷・五鈷之三品、謂ニ之杵一、眞言家用レ之。

【三鈷松】508 サンコノマツ san¹ ku³ sung¹ ❶松樹の一種。さんよの松。❷佛弘法大師が日本の眞言密教開拓地をトするため、唐から三鈷を投げたところ、高野山の一松樹に達した、これを靈松として今日に傳へてゐる。〔雪玉葉〕三鈷の松、昔の燒けて、其の種生とて、忌垣しめぐらしたるを見て。

【三鼓】509 サンコ ❶三度、鼓を叩く。〔周禮、夏官、大司馬〕鼓人、皆三鼓。〔左氏、莊、十〕劌曰、未レ可、齊人三鼓、劌曰、可矣。❷古、日食の時に打つた三種の鼓。〔穀梁、莊、二十五〕諸侯置ニ三麾一、陳ニ三鼓・三兵一。❸羯鼓・太鼓・鉦鼓。〔樂家錄、三鼓總論〕夫羯鼓・太鼓・鉦鼓者、雖ニ其器各異一、而擊レ之爲レ節、皆同類也。❹夜の十二時。三更。〔程鉅夫、寄ニ閻子靜・唐靜卿一翰長一詩〕獨徹ニ宮蓮三三鼓後。❺サンノツヅミ 雅樂器。細腰鼓の一種。中古以來、主として高麗樂に用ひらる。〔倭名類聚抄、調度部、音樂具、腰鼓〕唐令云、高麗伎一部、橫笛・腰鼓各一、腰鼓、俗云ニ三鼓一。〔箋注〕那波本、作ニ俗云三乃豆豆美一。

【三顧】510 サンコ ❶三度、顧みる。〔左氏、定、十四〕太子三顧。❷三たび訪ねる。蜀漢の劉備が、三度諸葛孔明を其の草廬に訪ねた故事。〔諸葛亮、前出師表〕先帝不レ以ニ臣卑鄙一、猥自枉屈、三顧ニ臣於草廬之中一。〔杜甫、蜀相詩〕三顧頻繁天下計、兩朝開濟老臣心。〔故事成語考、文臣〕孔明有ニ王佐之才一、嘗隱ニ草廬之中一、先主慕ニ其芳名一、乃三顧ニ其廬一。

【三顧隱客】511 サンコインカク 宋、蕭楚（**9**―**32012**・・205）の號。

【三五】512 サンゴ ❶十五日。〔禮、禮運〕天秉レ陽垂ニ日星一、地秉レ陰竅ニ於山川一、播ニ五行於四時一、和而后月生也、是以三五而盈、三五而闕。〔疏〕是以三五十五日、而得ニ盈滿一、又三五十五日、而虧闕也。〔管輅別傳〕三五盈月、清耀燭レ夜。〔呂諲、蓂莢賦〕二八而落、三五而滿。❷十五夜。〔古詩十九首〕三五明月滿、四五蟾兔缺。〔魏文帝、雜詩〕天漢廻西流、三五正縱橫。〔謝靈運、怨ニ曉月一賦〕昨三五兮既滿。❸十五才。年の若いこと。〔鮑照、中興歌〕三五容色滿、四五妙華歇。〔江總、内殿賦ニ新詩一詩〕三五二八佳年少、百萬千金買ニ歌笑一。〔陸瑜、東飛伯勞歌〕新妝年幾纔三五、隱レ幔藏レ羞臨ニ網戶一。〔王琚、美女篇〕含レ嬌欲レ笑出ニ洞房一、二八三五閨心切。❹星の名。三は心、五は噣。〔詩、召南、小星〕嘒彼小星、三五在レ東。〔傳〕三、心、五、噣、四時更見。〔易林〕西多ニ小星一、三五在レ東。❺三辰五星の略。三辰（930）・五星（**1**―**257**・・699）の❶を見よ。〔史記、天官書〕爲ニ天數一者、必通ニ三五一。〔注〕索隱曰、三、謂ニ三辰一、五、謂ニ五星一也。❻三辰五行の略。三辰（930）・五行（**1**―**257**・・78）の❶を見よ。〔國語、晉語一〕郭偃曰、口、三五之門也、是以讒口之亂、不レ過ニ三五一。〔注〕口、所ニ以紀ニ三辰一、宣中五行上也。❼三正と五行。王者の代を改める時をいふ。三正（993）の❶・五行（**1**―**257**・・78）の❶を見よ。〔後漢書、郎顗傳〕臣聞、天道不レ遠、三五復反。〔注〕春秋合誠圖曰、至道不レ遠、三五而反、宋均注云、三、三正也、五、五行也、三正五行、王者改代之際會也、能於ニ此際一自新如レ初、則通ニ無窮一也。❽三皇五帝（372）。又、三王五伯（1815）。各條を見よ。〔楚辭、九章、抽思〕望ニ三五一以爲レ像兮、指ニ彭咸一以爲レ儀。〔注〕三王五伯、可ニ修法一也。〔楚辭、劉向、九歎〕背ニ三五之典刑一兮、絕ニ洪範之辟紀一。〔注〕言、君施行背ニ三皇五帝之常典一、絕ニ去洪範之法紀一、任意妄爲、故失レ道也。〔班固、東都賦〕勳兼ニ乎在昔一、事勤ニ乎三五一。〔注〕善曰、史記、楚子西曰、孔丘述ニ三五之法一、明ニ周召之業一、春秋元命苞曰、伏羲・女媧・神農爲ニ三皇一、史記五帝本紀曰、黃帝・顓頊・帝嚳・帝堯・帝舜。〔班固、幽通賦〕東鄰虐而殲レ仁兮、王合ニ位乎三五一。〔范甯、穀梁傳序〕拯ニ頹綱一、以繼ニ三五一。❾三酒と五齊。三酒（847）及び五齊（**1**―**257**・・708）を見よ。〔詩、小雅、信南山〕祭以ニ清酒一〔箋〕清、謂ニ玄酒一也、酒、謂ニ鬱鬯與ニ五齊三酒一也。〔疏〕司尊彝又注云、唯大ニ事于太廟一、備ニ五齊三酒一、此不ニ必大事一、言ニ五齊三酒一者、以下獻饋必醴盎在ニ五齊之中一、諸臣所レ酢必當上レ用レ酒、故因言ニ五齊一耳、不ニ必此祭備ニ三五一也。❿人體内の三田五藏。〔雲笈七籤、黃庭内景經治生章〕立坐室外三五元。〔注〕三田五藏、眞氣調柔、無ニ災病一。⓫日月星の三光、珠玉金の三寶、耳鼻口の三生、及び木火土金水の五行。〔雲笈七籤、五行章〕五行相推反歸レ一、三五合レ氣九九節。〔注〕元妙經云、三者、在レ天爲ニ日月星一、名曰ニ三光一、在レ地爲ニ珠玉金一、名曰ニ三寶一、在レ人爲ニ耳鼻口一、名曰ニ三生一、天地人凡三而各懷ニ五行一、故曰ニ三五一。⓬三は三十歲で一小變し、五は五百歲で一大變すること。故に三と五は特に愼むべしといふ。〔史記、天官書〕爲レ國者、必貴ニ三五一。〔注〕索隱曰、三五、謂ニ三十歲一小變、五百歲一大變一。⓭九宮術で、三は生、五は死に當る。兵を用ひるに三・五と、年との配當を考へて行ふこと。〔江淹、詣ニ建平王一上書〕備ニ鳴盜淺術之餘一、豫ニ三五賤伎之末一。〔注〕善曰、抱朴子軍術曰、大將軍當下明案ニ九宮一視上レ年、在レ宮常就レ三居レ五、五爲レ死、三爲レ生、能知ニ三五一、橫ニ行天下一。⓮三つ五つ。㋑わづか。〔韋應物、寄ニ釋子良史酒一詩〕秋山僧冷病、聊寄ニ三五杯一。〔韓愈、飮ニ城南道邊古墓一詩〕偶上城南土骨堆、共傾春酒三五盃。〔杜牧、冬至日寄ニ小姪阿宣一詩〕今年始讀レ書、下レ口三五行。㋺ちらほら。まばらなさま。〔趙秉文、和ニ舜元一雜詩〕三五殘星闕ニ角東一、淡黃楊柳月明中。〔程鉅夫、板橋午食詩〕縣郭十二里、板橋三五家。㋩三人、五人。〔楊維楨、吳下竹枝歌〕採菱三五唱歌去、五馬行レ春駐ニ大堤一。⓯明、王有禮（**7**―**20823**・・1149）の字。⓰佛唯識の法相。三性と五事（法）。三性は、事物の三つの在り方について遍計所執性・依他起性・圓成實性をさす。五事（法）は、諸法の五つの見方、相・名・分別・正智・眞如をさす。事實上は三性五事別々のことではない。〔唯識論、八〕三性五事相攝云何。⓱琵琶の異稱。〔歌舞品目、三、八音紀源〕琵琶、云云、三五、又妙音殿下の撰み給ひし琵琶の譜をば、三五要略と題せられしは、風俗通に見えたる琵琶長三尺五寸といふ本文に取り玉ひしなるべし。

【三五月】513 サンゴノツキ 十五夜の月。特に陰曆八月十五夜の月。〔王僧孺、月夜詠ニ陳南康新有レ所レ納詩〕二八人如レ花、三五月如レ鏡。〔徐陵、關山月詩〕關山三五月、客子憶ニ秦川一。〔劉孝綽、林下映レ

月詩〕明明三五月、垂影當高樹。〔李如璧、明月詩〕二五月華流、烱光、可ン憐懷ン歸郢路長。〔白居易、遊悟眞寺詩〕是時秋月中、三五月正圓。〔段成式、觀ニ山燈一獻ニ徐尚書一詩〕分明三五月、傳照百千燈。

【三五春】514 サンゴノハル　十五歳。十五歳の若い春。〔祇園南海、咏ニ紅梅一詩〕花尚呼成ニ未開紅一人去難ン逢ニ三五春一。

【三五夕】515 サンゴセキ　三五夜に同じ。〔謝靈運、南樓中望ニ所遲客一詩〕與ン我別所ン期、期在ニ三五夕一。

【三五夜】516 サンゴヤ　陰暦の十五日の夜。特に八月十五日の夜をいふ。三五夕。〔梁元帝、登ニ顏園故閣一詩〕高樓ニ三五夜、流影入ニ丹墀一。〔吳均、詠ン燈詩〕能方ニ三五夜、桂樹月中生。〔劉孝綽、月半夜泊ニ鵲尾一詩〕客行三五夜、息ン棹隱ニ中洲一。〔荀仲擧、銅雀臺詩〕誰堪ニ三五夜、空對ニ月光圓一。〔高瑾、上元夜效ニ小庾體一詩〕初年三五夜、相知一兩人。〔白居易、效ニ陶潛體一詩〕中秋三五夜、明月在ニ前軒一。

【三五之位】517 サンゴノクライ　三皇五帝の位。〔白居易、策林七、不ン勞而理〕後代之位、三五之位也。

【三五之運】518 サンゴノウン　三皇五帝の運德。〔風俗通、皇霸、三皇天地人道備、而三五之運興矣。

【三五之化】519 サンゴノカ　三皇五帝の德化。〔本朝文粹、六、大江匡衡、請下蒙ニ天恩一依ニ檢非違使勞一兼中任越前尾張等國守闕上狀〕三五之化漸彰、二八之臣如ン舊。

【三五之人】520 サンゴノヒト　三皇五帝時代の人。〔白居易、策林七、不ン勞而理〕後代之人、三五之人也。

【三五之隆】521 サンゴノリュウ　三皇五帝の隆盛な世。〔漢書、郊祀志下〕夫周之末、三五之隆。〔注〕師古曰、三、謂ニ三皇一、五、謂ニ五帝一。〔谷永、論ニ神怪一文〕周秦之末、三五之隆。

【三五七言】522 サンゴシチゲン　三言と五言と七言とから成る詩。唐の李白から始まる。三五七言。陔餘叢考、卷二十二に見ゆ。〔李白、三五七言詩〕秋風清、秋月明、落葉聚還散、寒鴉棲復驚、相思相見知何日、此時此夜難ン爲ン情。

【三五主義】523 サンゴシュギ　孫文の三民主義と五權憲法とを併稱していふ。

【三五成ン羣】524 サンゴグンヲナス　三三五五、群をなすこと。凶惡の少年が徒を聚めてわるだくみをすること。〔六部成語、刑部、三五成羣、注解〕凶惡少年、聚ニ徒生一事也。

【三五歷記】525 サンゴレキキ　書名。一卷。三國吳、徐整著。三五五帝に就いて述べた書物。〔玉函山房輯佚書、史編、史類〕。

【三五之天下】526 サンゴノテンカ　三皇五帝の天下。〔白居易、策林七、不ン勞而理〕後代之天下、三五之天下也。

【三五七言詩】527 サンゴシチゲンシ　三五七言を見よ。

【三五夜中新月色】528 サンゴヤチュウノシンゲツノイロ　陰暦八月十五日の月色が鮮かで美しい。新は、鮮明であることを表はす。〔白居易、八月十五日夜禁中獨直對ニ月憶ニ元九一詩〕銀臺金闕夕沈沈、獨宿相思在ニ翰林一。〔三五夜中新月色、二千里外故人心、渚宮東面煙波冷、浴殿西頭鐘漏深、猶恐清光不ニ同見一、江陵卑濕足ニ秋陰一。〕

【三吳】529 サンゴ　㊀地名。㋑吳興・吳郡・會稽。〔水經、漸江水注〕後分爲ニ三世一、號ニ三吳一、吳興・吳郡・會稽、其一焉。㋺吳郡・吳興・丹陽。〔通典、州郡典〕晉宋亦爲ニ吳郡、興ニ吳興・丹陽一、爲ニ三吳一。〔小學紺珠、地理類、三吳〕吳郡・吳興・丹陽。㋩蘇州・常州・湖州。〔指掌圖〕。㋥姑蘇・廣陵・建鄴。〔李白、永王東巡歌〕秋毫不ン犯ニ三吳悅一。〔注〕齊賢曰、吳王夫差都ニ姑蘇一、吳王濞都ニ廣陵一、孫權都ニ建鄴一、是謂ニ三吳一。㋭蘇州・潤洲・湖州。〔名義考〕三吳、蘇州東吳也、潤州中吳也、湖州西吳也。㊁鎭の名。安徽省婺源縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府、婺源縣〕五福鎭、在ニ縣西北四十里一、唐成通六年置、又有ニ三吳鎭一、在ニ縣東七十五里一。

【三吳水考】530 サンゴスイコウ　書名。十二卷。明、張內蘊、周大韶の二人合撰。〔四庫提要、史地理類〕。

【三吳水利錄】531 サンゴスイリロク　書名。四卷。明、歸有光撰。〔四庫提要、史、地理類〕。

【三語】532 サンゴ　三つの言葉。〔宋史、邵伯温傳〕趙鼎少從ニ伯温一游、及ン當ン相乞ン行ニ追錄一、始贈ニ祕閣修撰一、嘗表ニ伯温之墓一曰、以ニ學行一起ニ元祐一、以ニ名節一居ニ紹聖一、以ン言廢ニ於崇寧一、世以ニ此三語一、盡ニ伯温出處一云。

【三語掾】533 サンゴノジョウ　晉の阮瞻をいふ。王戎が、聖人の名教と老莊の自然との差異を尋ねたところ、阮瞻が將ン無同の三語を以て答へた爲、激賞せられて掾の官に登庸せられたといふ故事。〔晉書、阮瞻傳〕戎問曰、聖人貴ニ名教一、老莊明ニ自然一、其旨同異、瞻曰、將ン無同、戎咨嗟良久、卽命辟ン之、時人謂ニ之ニ語掾一。〔楊萬里、通吳制置啓〕旋辟ニ阮瞻ニ語之掾一。

【三護】534 サンゴ　㊀孤女の護となる三つのもの。幼少の時は父母に護られ、嫁しては夫壻に護られ、老いては兒子に護らる。〔華嚴經音義〕女人志弱、故藉ニ三護一、幼小父母護、適ン人夫壻護、老邁兒子護。

【三公】535 サンコウ　㊀周代の官名。㋑太師・太傅・太保。〔周禮、天官、宰夫〕正ニ王及三公・六卿・大夫・羣吏之位一。〔書、周官〕立ニ太師・太傅・太保一、茲惟三公。〔禮、王制〕三公・九卿・二十七大夫・八十一元士。〔老子、六十二〕故立ニ天子一、置ニ三公一。〔荀子、儒效〕大儒者、天子三公也。〔通典、職官典、三公〕周以ニ太師・太傅・太保一爲ニ三公一。㋺司馬・司徒・司空。〔漢書、百官公卿表上〕或說、司馬主ン天、司徒主ン人、司空主ン土、是爲ニ三公一。四岳、謂ニ四方諸侯一。㋩前漢の官名。㋑丞相・大司馬・御史大夫。〔史記、張釋之傳〕三公九卿盡會立。〔通典、職官典、三公〕漢以ニ丞相・大司馬・御史大夫一爲ニ三公一。㋺大司徒・大司馬・大司空。〔漢書、王莽傳中〕甄邯爲ニ大司馬一、承新公、云云、王尋爲ニ大司徒一、章新公、云云、王邑爲ニ大司空一、隆新公、是爲ニ三公一。㋩後漢以來の官名。太尉・司徒・司空。〔通典、職官典、三公〕後漢又以ニ太尉・司徒・司空一爲ニ三公一。㋥黃帝の三公。風后・天老・五聖。〔小學紺珠、名臣類上、黃帝三公〕風后配ニ上台一、天老配ニ中台一、五聖配ニ下台一、帝王世紀、謂ニ之三公一。㋭禹・皐陶・后稷。〔史記、殷紀〕古、禹・皐陶、久勞ニ于外一、其有ン功ン乎民、民乃有ン安、東爲ニ江、北爲ニ濟一、西爲ニ河一、南爲ニ淮一、四瀆已修、萬民乃有ン居、后稷降播、農ニ殖百穀一。〔三公咸有ン功ニ于民一、故后有ン立。㋬星の名。太一星の旁の三星。〔史記、天官書〕中宮天極星、其一明者、太一常居也、旁三星、三公。㋣山名。安徽省無爲縣の西南。三峯があり、皆東向してゐるので、唐の天寶の時、東巔山と改めた。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、婺源縣〕三公山、寰宇記、三公山、唐天寶六載、改爲ニ東巔山一、以ニ山頂皆東向一也。㋭太政大臣。左右大臣。後には左右大臣・內大臣。〔故實叢書、拾要、十〕三公。

【三公曹】536 サンコウソウ　漢代の官名。斷獄を掌る。〔後漢書、陳忠傳〕司徒劉愷、擧ニ忠明ニ習法律一、宜ン備ニ機密一、於ン是擢拜ニ尚書一、使ン居ニ三公曹一。〔宋書、禮志二〕尚書三公曹、奏ニ讀秋令一。

【三公子】537 サンコウシ　春秋、晉の三人の公子。申生・重耳・夷吾をいふ。〔左氏、僖、九〕以ニ三公子之徒一作ン亂。〔注〕三公子、申生・重耳・夷吾。

【三公鋤】538 サンコウショ　魏・吳・蜀の三國が滅びて司馬晉の興るべきを豫言した語。三公は魏・吳・蜀、鋤はすき平げられること。〔海錄碎事、帝王、識記、三公鋤〕孫休、永安二年、將守質子羣聚嬉戲、有ニ異小兒一、忽來言曰、三公鋤、司馬如ン又曰、我非ン人、熒惑星也、言畢上昇、仰視若ン曳ニ一匹練一、有ン頃沒、於ン寶曰、後四年而蜀亡、六年而魏廢、二十一年而吳平、於ン是九服歸ン晉、魏與ニ吳蜀一、並戰國、三公鋤、司馬如之謂也。

【三公尚書】539 サンコウショウショ　漢代の官名。斷獄を掌る。〔資治通鑑、晉紀、惠帝、元康九年、三公尚書劉頌復上疏曰。〔注〕晉志、漢成帝置ニ三公尚書一、主ニ斷獄一、光武以ニ三公曹一、主ニ歲盡考課州郡事一。

【三公鼎足】540 サンコウテイソク　三公を鼎に象つていふ。鼎は三足。〔漢書、彭宣傳〕三公鼎足承ン君、一足不ン任、則覆ニ亂美實一。

【祀三公山碑】541 シサンコウザンヒ　河北省元氏縣に在り、漢の元初四年に、隴西の馮君が立てたもの。書體は隸書に近い篆文で十行、一行約二十字。〔寰宇訪碑錄、漢祀ニ三公山一碑、八分書、元初四年、直隸元氏。

【三孔】542 サンコウ　㊀三つのあな。〔漢書、司馬相如傳上、管籥之音、注〕師古曰、籥二孔、並以ン竹爲ン之。〔後漢書、輿服志上、金錢方鉅插ニ翟尾一、注〕方鉅鐵也、廣數寸、在ニ馬駿後一、後有ニ三孔一。㊁政令の出る三つの途。政令が君と臣と民との三途から出

る。〔管子、國蓄〕利出二於一孔一者、其國無レ敵、出二二孔一者、其兵不レ詘、出二三孔一者、不レ可二以擧一レ兵、出二四孔一者、其國必亡。〔纂詁〕孔、穴也、猶レ言レ門、出二於一孔一、專出二於君一也、二孔、君與レ相也、三孔・四孔、則分出二於臣民一也。㊂宋の孔文仲と其の弟の武仲・平仲の三人。〔宋史、孔文仲傳〕文仲與二弟武仲・平仲一、皆以二文聲一起二江南一、時號二三孔一。〔周必大、徐商老參議詩〕三孔三劉歳月賒、後來儒術數二君家一。

【三后】543 サンコウ ㊀三人のきみ。㋑禹・湯・文王。〔楚辭、離騷〕昔三后之純粹兮。〔注〕后、君也、謂二禹・湯・文王一也。㋺禹・契・后稷。〔淮南子、人閒訓〕禹鑿二龍門一、辟二伊闕一、平二治水土一、使三民得二陸處一、百姓不レ親、五品不レ愼、契、教以二君臣之義、父子之親、夫妻之辨、長幼之序一、田野不レ脩、民食不レ足、后稷、乃教二之辟レ地墾レ草、糞レ土種レ穀、令三百姓家給人足一、故三后之後、無レ不二王者一、有二陰德一也。㋩大王・王季・文王。〔詩、大雅、下武〕三后在レ天、王配二于京一。〔傳〕三后、大王・王季・文王。㋥虞・夏・商。〔左氏、昭、三十二〕社稷無二常奉一、君臣無二常位一、自レ古以然、三后之姓、於レ今爲レ庶、主所レ知也。〔注〕三后、虞・夏・商也。㋭伯夷・禹・后稷。〔書、呂刑〕乃命二三后一、恤二功于民一、伯夷降レ典、折レ民惟刑、禹平二水土一、主二名山川一、稷降二播種一、農二殖嘉穀一。㋬周公・君陳・畢公。〔書、畢命〕三后協レ心、同底二于道一。〔小學紺珠、名臣類上、三后〕周公・君陳・畢公。㋣漢の宣・景・文の三帝。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦詩〕三后始基、世武丕承。〔注〕善曰、三后、謂二宣・景・文一也。㊁三人の皇后。〔後漢書、王襲傳〕三后生自二新野一。〔注〕光烈皇后・和帝陰后・鄧后、並新野人。㊂太皇太后・皇太后・皇后の總稱。三宮ともいふ。三皇后。

【三侯】544 サンコウ ㊀三つの的。侯は、弓を射るまと。〔周禮、夏官、射人〕射二三侯一。〔注〕三侯、熊・虎・豹也。〔小學紺珠、制度類、三侯〕天子、虎・熊・豹、諸侯、熊・糝・豻、畿內諸侯、熊・豹。㊁三人の諸侯。㋑後漢の鄧禹・李通・賈復。〔小學紺珠、名臣類下、三侯〕高密侯鄧禹・固始侯李通・膠東侯賈復。㋺南朝宋の沈攸之・譚金・童泰壹。〔南齊書、柳世隆傳〕攸之與二譚金・童泰壹等一、暴レ寵狂レ朝、並爲二心膂一、同レ功共レ體、世號二三侯一。㋩唐の韓弘・韓充・韓公武。〔小學紺珠、氏族類、一時三侯〕韓弘・弟充・子公武。

【三侯之章】545 サンコウノシャウ 樂府の名。漢の高祖が作つた大風歌をいふ。侯と兮とは古韻が通じ、大風歌に兮字が三つあるからいふ。〔史記、樂書〕高祖過レ沛詩、三侯之章。〔注〕索隱曰、按、過レ沛詩、卽大風歌也。沛詩有二三兮一、故云二三侯一也。〔陳旅、和二蕭秀才歌風臺一詩〕臺前小兒更擊レ筑、筑聲更似二三侯章一。

【三告】546 サンコク 宰相・翰林學士・御史が、それぞれ中書・本院・朝堂に告げること。〔夢溪筆談、故事二〕三司、開封府、外州長官、升二廳事一、則有二衙吏、前導告一レ喝、國朝之制、在二禁中一、唯三告官打二杖子一、告二於中書一、翰林學士告二于本院一、御史告二于朝堂一、皆用二朱衣吏一、謂二之三告一。

【三谷】547 サンコク ㊀明、璩光岳(7－21271··1)の號。㊁ヤミ 姓氏。〔日常重寶語〕。

【三刻】548 サンコク 一刻の三倍。約四十五分閒。一刻(1－1··625)の㊀を見よ。〔衞宏、漢舊儀〕立夏立秋晝六十二刻、夏至晝六十五刻、夜漏不レ盡二五刻一擊二五鼓一、夜漏不レ盡二三刻一擊二三鼓一。

【三哭】549 サンコク 喪中、一日に三度哭すること。〔禮、奔喪〕於二三哭一、猶括レ髮成レ踊。

【三穀】550 サンコク 三種の穀物。粱・稻・菽。〔穀粱、襄、二十四〕三穀不レ升、謂二之饉一。〔格物總論、穀總〕穀種之美者也、其爲レ種也不レ一、考二之前載一、有下言二三穀一者上、粱・稻・菽、是也。

【三國】551 サンゴク ㊀三つの國。〔左氏、隱、八〕齊公使三來告レ成二三國一。〔韓非子、外儲說左下〕晉平公問二趙武一曰、中牟三國之股肱。〔注〕趙・齊・燕也。〔史記、夏記〕三國致レ貢二其名一。㊁魏 吳・蜀。〔晉書、陳壽傳〕撰二魏・吳・蜀三國志、凡六十五篇一。〔袁宏、三國名臣序贊、注〕濟曰、三國、魏・吳・蜀也。㊂新羅・百濟・高麗。〔唐書、東夷、百濟傳〕帝詔二義慈一曰、海東三國開レ基舊矣、地固犬牙、比者隙爭侵校無二寧歲一。〔小學紺珠、地理類、海東三國〕新羅・高麗・百濟。㊃崑崙・析支・渠叟。〔小學紺珠、地理類、西戎三國〕崑崙・析支・渠叟。㊄日本・唐・天竺。三國一を見よ。

【三國一】552 サンゴクイチ ㊀日本・唐・天竺を通じて第一等たること。〔寬永發句帳〕智ならで三國一や雲の月。㊁甘酒の異名。一夜づくりの義。駿河・甲斐・相模三國一の名物たる富士山は、孝靈天皇の時、琵琶湖と共に一夜に出來たとの傳說から起つた語。〔皇都午睡、三、上〕醴酒は一夜酒とも云へば、孝靈年閒、駿河の富士は一夜の內に顯ぜしと云ふ心にて、三國一と云ふなるべし。

【三國司】553 サンコクシ 阿波の國司一宮・伊勢の國司北畠・飛驒の國司姉小路。

【三國志】554 サンゴクシ 書名。六十五卷。晉、陳壽撰。魏・蜀・吳の三國の歷史を記したもの。宋、裴松之の注は引據博洽で、其の文は本文に數倍して居る。魏志三十卷は、本紀四卷、列傳二十六卷に分れ、蜀志は列傳十五卷、吳志は列傳二十卷で、何れも本紀がなく、表・書は三志共に無い。〔四庫提要、史、正史類〕。

『參考書』【三國志辨誤】三卷 撰者未詳。時代も亦詳かでない。蘇州府志所載に據れば、陳景雲の撰した三國志校誤が此の書に以て居るといふが、未だ其の眞僞は決し難い。此の書、辨ずる所の陳壽の本書及び裴注の誤は、凡そ魏志二十八條・蜀志八條・吳志二十一條。〔四庫提要、史、正史類〕。【三國志補注】六卷 清、杭世駿撰。裴松之の三國志注の遺を補ふ。博洽を以て松之に勝らうとした爲、細大捨てず、瑕瑜互見して、蕪雜の譏りがないではないが、尙、考證に資するに足る。凡そ魏志四卷・蜀志・吳志各一卷。〔四庫提要、史、正史類〕。【諸史然疑】一卷 清、杭世駿撰。三國志補注の末に附せられ、史文の疎漏を正す。凡そ後漢書十四條・三國志六條・晉書三條・宋書三條・魏書八條・北史六條・陳書三條。蓋し後人が其の遺稿を鈔寫して帙を成したものである。〔四庫提要、史、正史類〕。【補三國藝文志】四卷 清、侯康撰。【三國職官表】三卷 清、洪飴孫撰。【補三國疆域志】三卷 清、洪亮吉撰。【三國志考證】八卷 清、潘眉撰。清史稿、藝文志に著錄されている。

【三國演義】555 サンゴクエンギ 三國志通俗演義(565)を見よ。

【三國會要】556 サンゴククワイエウ 書名。二十二卷。清、楊晨撰。十五門に分ち、三國時代の制度を記す。

【三國雜事】557 サンゴクザツジ 書名。二卷。宋、唐庚撰。〔四庫提要、史、史評類〕。

【三國史記】558 サンゴクシキ 書名。五十卷。高麗、金富軾奉勅撰。朝鮮の古代及び高句麗・新羅・百濟の事を記す。

【三國時代】559 サンゴクジダイ ㊀後漢の後に於ける蜀漢・魏・吳の三國鼎立時代。三國の㊁を見よ。㊁朝鮮に於ける新羅・高麗・百濟の三國鼎立時代。三國の㊂を見よ。

【三國通覽】560 サンゴクツウラン 書名。一卷。林子平撰。朝鮮・蝦夷・琉球の風俗・土產・地理等を記す。

【三國鼎立】561 サンゴクテイリツ 三國が鼎の足のやうに對立すること。三分鼎足(1592)を見よ。〔晉書、周處傳〕處對曰、漢末分崩、三國鼎立、魏滅二於前一、吳亡二於後一。

【三國傳來】562 サンゴクデンライ 〔佛〕佛教が日本に傳へられたこと。先づ印度で流傳し、次に中國又は朝鮮で再傳し、後に我が邦で三傳した。經典・佛像・佛具等に就いてもいふ。〔太平記、十三、龍馬進奏〕此の八句の偈の文、三國傳來して。

【三國文類】563 サンゴクブンルイ 書名。六十卷。撰者未詳。宋史に著錄す。漢末から晉初までの文を收む。〔四庫提要、集、總集類〕。

【三國無雙】564 サンゴクムサウ 日本・唐・天竺を通じて第一等たること。三國一。〔和漢三才圖會、山類、富士山〕三國無雙名山、關八州望レ之。

【三國志通俗演義】565 サンゴクシツウゾクエンギ 書名。二百四十卷。全書百十二回。俗に、三國演義・三國志演義といふ。後漢、靈帝の中平元年から、晉、武帝太康元年、吳の滅亡まで、九十七年閒のことを記す。明、羅貫中撰と傳へてはゐるが、唐、李義山の驕兒詩に、或謔二張飛胡一、或笑二鄧艾吃一の句があるし、東坡集にも、小兒薄劣、爲二其家所一レ厭苦、輒與二數錢一、令三聚聽二說古話一、至レ說二三國事一、聞二玄德敗一則有二出レ涕者一、聞二曹操敗一則喜の句があるから、唐宋時代にも已に此の種の小說は存在してゐたらしい。清の毛宗岡が之に改竄を加へ、第一才子書と

稱したので、又、聖歎外書の稱がある。〔金聖歎、三國志演義序〕演二三國一者、又古今爲二小說之一大奇手一也。

【三業】566 サンゴフ ❶佛㋑身と口と心との三つのはたらき。身業と口業と意業。〔琅琊代醉編、三業〕如來以二身口意三業難一調伏一也、淨戶羅以息二其內一行住坐臥四威儀攝二善心一也、明布薩以照二其外一。㋺福業(樂果をもたらすはたらき)と非福業(苦果をもたらすはたらき)と不動業(苦樂の果をもたらさない禪定に入つてゐる心)。〔俱舍論、十五〕。㋩善業(佛の說にかなつたはたらき)と惡業(佛の說にかなはぬはたらき)と無記業(善とも惡ともいへぬが、未來に結果を及ぼすはたらき)。〔大乘義章、七〕。㋥漏業(生死をくりかへす凡夫のはたらき)と無漏業(自己の迷だけを滅した小乘の人のはたらき)と非漏非無漏業(ただ自己の迷を滅するに止らず、他人の迷をも滅する大乘の人のはたらき)。〔止觀、三之上〕。㋭順現受業(現在に果を受けるべき現在のはたらき)と順生受業(他世に果を受けるべき現在のはたらき)と順後受業(此の世・他世よりも後に果を受けるべき現在のはたらき)。〔雜集論、八〕。㋬曲業(諂)と穢業(瞋)と濁業(貪)。〔俱舍論、十五〕。㋣順樂受業(樂果を受けるべきはたらき)と順苦業(苦果を受けるべきはたらき)と順不苦不樂受業(苦樂の果を受けぬ禪定の中の心)。〔俱舍論、十五〕。❷サンゲフ 藝者屋・料理屋・待合茶屋の三つの業者。

【三業戒】567 サンゴフカイ 佛身・口・意の三業の犯す罪を誡めた戒律。身三(殺生・偸盜・邪婬)・口四(妄語・惡口・兩舌・綺語)・意三(貪欲・瞋恚・愚癡)。

【三恨】568 サンコン 三つのうらみ。〔隋唐嘉話〕薛中郎元超、謂レ所レ親曰、吾不才、富貴過レ分、然平生有二三恨一、始不下以二進士一擢上レ第、娶二五姓女一、不レ得レ修二國史一。

【三魂】569 サンコン 人の心に有る三箇の靈魂。台光・爽靈・幽精。三精。〔大藏法數、十三〕三魂亦云二三精一、道書云、身中三精、一台光、二爽靈、三幽精。

【三魂七魄】570 サンコンシチハク すべての魂魄。〔抱朴子、地眞〕欲レ得レ通レ神、當二金水分形一、形分則自見二其身中之三魂七魄一。〔黃庭內景經、注敍〕使下調二和三魂一、制中鍊七魄上。

【三叉】571 サンサ ❶みつまた。わかれみち。〔蘇軾、縱筆詩〕谿邊古路三叉口、獨立二斜陽一數二過人一。❷河の名。其の水は、西は安徽省の巢湖に通じ、東は大江に通じ、北は銅城閘に通じて、三叉を爲して居るから名づけた。〔讀史方輿紀要、江南、和州、含山縣〕三叉河、縣南八十里、其水西通二巢湖一、東通二大江一、北通二銅城閘一、因名。

【三叉路】572 サンサロ みつまたの辻。三方面に岐れる道。〔陸游、初晴野步詩〕入二市路三叉一、緣二山港半斜一。

【三叉神經】573 サンサシンケイ 腦神經の第五對。大部と小部とに分れ、大部は眼窩神經・上顎神經・下顎神經の三枝に分れて知覺を司り、小部は咀嚼運動などを司る。

【三汊】574 サンサ 河の名。❶安徽省合肥縣の南。諸河を合せて東南に流れ巢湖に注ぐ。〔梁書、韋叡傳〕魏攻陷二懷靜城一、乘レ勝至二叡堤下一、諸將又請走保二三汊一。〔讀史方輿紀要、江南、廬州府、合肥縣〕三汊河、府南九十里。❷江蘇省邳縣の南。❸滿洲遼寧省海城縣の西南。渾河・太子河・遼河の合流するところ。古の遼澤。三岔河。

【三汊河】575 サンサカ 鎭の名。❶安徽省含山縣の南、新裕河の北岸。淸、同治元年の冬、楊岳斌が粤軍を此處で敗つた。❷湖南省澧縣の東北。守禁の要地。

【三汊埠】576 サンサフ 地名。湖北省孝感縣の東。一名、三家步店。平漢鐵道が通つてゐる。

【三汊口城】577 サンサコウジヤウ 城の名。山東省陵縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、陵縣〕三汊口城、在二縣東南一。〔唐書、李師古傳〕棣州有二蛤蜍鹽池一、歲產二鹽數十萬斛一、李長卿以レ州入二朱滔一、獨蛤蜍爲三納所二據以專レ利、後德・棣入二王武俊一、納乃築二壘德州南一、跨レ河以守二蛤蜍一、謂二之三汊一。

【三沙】578 サンサ ❶地名。江蘇省崇明縣の東北。〔蘇州府志〕宋、建中靖國初、又湧二一沙於姚劉少西北一、曰二三沙一、鼎二立海心一、亦謂二之崇明沙一。❷海灣の名。福建省霞浦・寧德二縣の間にある。一名、三都澳。光緒二十四年、商港となる。三都島(1354)を見よ。

【三沙堡】579 サンサホ 堡の名。福建省霞浦縣の東の海濱。〔讀史方輿紀要、福建、福寧州〕三沙塞在二州東北一相近、又有二淸灣寨一。

【三沙彌】580 サンシヤミ 佛沙彌を年齡に區分した三種。驅烏沙彌(七歲から十三歲)・應法沙彌(十四歲から十九歲)・名字沙彌(二十歲以上)。沙彌は梵語 Śrāmanera の音譯、僧に仕へて勤める出家。〔行事鈔、下四〕。

【三髽】581 サンサ ❶婦人が喪中に結ぶ髻の三通り。麻髽・布髽・露紒髽。〔禮、喪服小記、免レ髽、疏〕髽者、形有二多種一、有レ麻、有レ布、有二露紒一也、此三髽之殊、是皇氏說。❷三つに結んだもとどり。〔陸游、詩〕三髽初得二牧牛童一、兩扇新成鈎二舸篷一。

【三才】582 サンサイ ❶天・地・人の稱。才ははたらき。三極。三材(595)の❶を見よ。〔易、說卦〕立二天之道一、曰二陰與一レ陽、立二地之道一、曰二柔與一レ剛、立二人之道一、曰二仁與一レ義、兼二三才一而兩レ之、故易六畫而成レ卦。〔邢昺、爾雅注疏敍〕夫混元闢而三才肇レ位、聖人作而六藝斯興。〔任昉、王文憲集序〕體二三才之茂典一、踐二得一之庶幾一。〔注〕善曰、周易曰、有二天道一焉、有二地道一焉、有二人道一焉、兼二三才一而兩レ之、翰曰、三才、天・地・人道也。〔故事成語考、天文〕天地與レ人、謂二之三才一。❷三人の才能ある人。㋑晉の潘滔・劉輿・裴邈。〔晉書、劉輿傳〕時稱、越府有二三才一、潘滔大才・劉輿長才・裴邈淸才。㋺北齊の魏收・溫子昇・邢子才。〔北史、魏收傳〕與二濟陰溫子昇・河閒邢子才一齊レ譽、世號二三才一。❸顏面の三つの部分、卽ち額門・準頭・地角。三停。三表。〔神相全編、十觀〕三停者、額門・準頭・地閣、此面部三停也、又爲二三才一、又爲二三主一、又名二三表一。❹唐の高宗の作つた舞。上元舞(**1**—**13**・・251)を見よ。

【三才圖會】583 サンサイヅヱ 書名。一百六卷。明、王圻撰。天文・地理・人物等を圖繪で說明したもの。其の目は、天文・地理・人物・時令・宮室・器用・身體・衣服・人事・儀制・珍寶・文史・鳥獸・草木。〔四庫提要、子、類書類存目〕。

【三災】584 サンサイ 佛❶大三災。國土をそこなふ火・水・風の三つの災厄。〔俱舍論、十二〕初火災興由二七日現一、次水災起由二雨霖淫一、後風災生由二風相擊一、此三災力壞二器世閒一。❷小三災。人をそこなふ刀兵・疫病・飢饉の三つの災厄。〔俱舍論、十二〕三災者、一刀兵、二疾疫、三饑饉。

【三采】585 サンサイ ❶三つの色模樣。朱・白・蒼。〔周禮、春官、典瑞〕三采三就。〔注〕三采、朱・白・蒼。〔儀禮、聘禮〕三采六等、朱・白・蒼。〔禮、雜記下〕藻三采六等。〔注〕三采六等、以二朱・白・蒼一畫レ之。〔禮、喪服大記〕三采三貝。❷三つの采地。家邑・小都・大都。〔周禮、地官、小司徒、注〕采地食者、皆四之一、其制三等、百里之國凡四都、一都之田稅入二於王一、五十里之國凡四縣、一縣之田稅入二於王一、二十五里之國凡四甸、一甸之田稅入二於王一。〔周禮、地官、載師、注〕家邑、大夫之采地、小都、卿之采地、大都、公之采地、王子弟所レ食邑也。〔小學紺珠、地理類、三采〕家邑、大夫之采地、小都、卿之采地、大都、公之采地、王子弟所レ食邑。

【三宰】586 サンサイ 三人の卿。三卿。〔國語、齊語〕臣立二三宰一。〔注〕三宰、三卿也、使レ掌二羣臣一也。

【三祭】587 サンサイ 三たび酒を酌んで祭ること。〔書、顧命〕王三宿、三祭、三咤。〔傳〕王三進レ爵、三祭レ酒、三奠レ爵。〔儀禮、鄕射禮〕俎與レ薦、皆三祭。

【三歲】588 サンサイ ❶三年間。みとせ。〔易、同人〕九三、伏二戎于莽一、升二其高陵一、三歲不レ興、象曰、伏二戎于莽一、敵剛也、三歲不レ興、安行也。〔詩、王風、采葛〕彼采レ艾兮、一日不レ見、如二三歲一兮。〔周禮、秋官、大行人〕其外方五百里、謂二之男服一、三歲壹見、其貢二器物一。〔古詩十九首〕置二書懷袖中一、三歲字不レ滅。❷年齡の三歲。〔詩、豳風、七月〕言私二其豵一、獻二豜于公一。〔傳〕豕一歲曰レ豵、三歲曰レ豜。〔漢書、貢禹傳〕古民亡二賦算口錢一、起下武帝征二伐四夷一、重中賦於民上、民產レ子三歲、則出二口錢一、故民重困、至二於生レ子輒殺一、甚可二悲痛一。〔王建、勵レ學詩〕誰言三歲童、還能分二善惡一。

【三歲一考】589 サンサイイツカウ 三年に一度、官吏の賢否、政事の得失を考へしらべること。三考(170)を見よ。〔書、舜典〕三載考レ績、三考黜二陟幽明一。〔史記、五帝紀〕三歲一考レ功、三考絀陟、遠近衆功咸

興。

【三歳一祫】590 サンサイイツカフ　三年目毎に祖先を合祭する大祭を行ふこと。祫は祖先を合せて祭ること。〔太平御覽、禮儀部、禘祫〕五經通義曰、王者諸侯所ニ以三年一祫、五年一禘一何、三年一閒、天道小備、故三年一祫、祫者皆取ニ未レ遷廟主一合ニ食太祖廟中一、五歳再閒、天道大備、故五歳一禘、禘者諦也、取ニ已遷廟主一、合ニ食太祖廟中一。

【三歳至老】591 サンサイシラウ　三つ子の魂百までもの喩。〔通俗編、時序、三歳至老〕王文祿沂陽子、引レ諺云。

【三歳大比】592 サンサイニシテダイヒス　三年大比（1420）に同じ。〔周禮、地官、遂大夫〕三歳大比、則帥ニ其吏一而興レ氓。

【三載】593 サンサイ　三年。載は年。〔書、舜典〕帝曰、格汝舜、詢レ事考レ言、乃言底レ可レ績ニ三載一、汝陟ニ帝位一。〔注〕汝言致レ可レ以立レ功ニ三年一矣。〔漢書、食貨志〕衣食足而知ニ榮辱一、廉讓生而爭訟息、故三載考レ績。〔注〕師古曰、言ニ主治レ民者一、三年一考ニ其功一也。〔李陵、與ニ蘇武一詩〕嘉會難ニ再遇一、三載爲ニ千秋一。〔白居易、與ニ微之一書〕僕自レ到ニ九江一、已涉ニ三載一。

【三際】594 サンサイ　●詩緯の五際の中の第三番目の時期。〔詩、大序、是謂ニ四始一、詩之至也、疏〕卯爲ニ陰陽交際一、三際也。●佛前際・後際・中際。即ち過去・未來・現在。三世（973）の六に同じ。〔頌疏、九〕前際、即是過去、二後際、即是未來、三中際、謂ニ現在世一。

【三才】595 サンザイ　●天・地・人をいふ。三才（582）の●を見よ。〔易、繫辭下〕有ニ天道一焉、有ニ人道一焉、有ニ地道一焉、兼ニ三才一而兩之、故六、六者、非レ它也、三才之道也。〔校勘記〕毛本作ニ才、石經初刻作レ才、後改レ材。●水・木・火。〔呂覽、本味〕五味三材。〔注〕三材、水・木・火。●三人の才ある人。春秋、晉の孤偃・趙衰・賈佗。〔國語、晉語四〕三材傳之、天胙レ之矣。〔注〕謂ニ狐・趙・賈三人一也。〔小學紺珠、名臣類上、三材〕狐偃・趙衰・賈佗。四轂・輻・牙。〔周禮、考工記、輪人〕輪人爲レ輪、斬ニ三材一必以ニ其時一。〔注〕三材、所ニ以爲一轂輻牙一也。〔小學紺珠、器用類、三材〕轂・輻・牙。

【三倉】596 サンサウ　●三つの倉。〔南史、陳伯之傳〕臺家府庫空竭、無ニ復器仗一、三倉無レ米。●漢代の辭書。三蒼（602）に同じ。〔晉書、郭璞傳〕又注ニ三倉一方言・穆天子傳・山海經及楚辭・子虛・上林賦一、數十萬言、皆傳ニ於世一。

【三倉制度】597 サンサウセイド　中國の中古及び日本に於て、饑饉時の豫備食糧として穀物を貯藏せしめた社倉・義倉・常平倉等の制度。

【三草】598 サンサウ　●麻・藍・紅花。〔大和本草、一、數目〕三草、麻・藍・紅花。●木綿・麻・藍。〔地方要集錄〕三草は麻・木綿・藍なり。

【三曹】599 サンサウ　三國、魏の曹操即ち武帝と、其の長子曹丕即ち文帝、及び丕の弟陳思王植の三人を併稱していふ。皆、文才あり。

【三曹對案】600 san¹ ts'ao² tui⁴ an⁴　三度取調べられること。三曹とは刑部・都察院・大理寺。〔紅樓夢、二十八回〕想昨宵幽期、私訂在茶蘼架、一個偷情、一個尋挐、挐住了ニ三曹對案、我也無回話。

【三想】601 サンサウ　●欲想と瞋想と害想。〔無量壽經、上〕不レ生ニ欲覺・瞋覺・害覺一、不レ起ニ欲想・瞋想・害想一。〔淨影疏〕名レ之爲レ覺、對レ緣生レ心、說爲ニ三想一。●怨想と親想と中人想。〔智度論、七十二〕一切衆生法各行ニ三分一、怨・親・中人、佛今教ニ菩薩等一心、一切衆生皆有ニ親愛想一、莫レ生ニ怨心一、莫レ生ニ中人心一。

【三蒼】602 サンサウ　●漢初の辭書。もと蒼頡篇・爰歷篇・博學篇の三篇あつたのを、後、合して蒼頡篇と稱し、之をニ蒼といふ。〔說文繫傳、二十九〕蒼頡・爰歷・博學、通謂ニ之三蒼一。〔小學紺珠、藝文類、三蒼〕蒼頡篇・爰歷篇・博學篇、通謂ニ之三蒼一。●魏晉以後は、蒼頡篇を上卷、楊雄の訓纂篇を中卷、賈訪の滂喜篇を下卷とし、又、之を三蒼といふ。〔隋書、經籍志一〕三蒼三卷。〔注〕郭璞注、秦相李斯作ニ蒼頡篇一、漢楊雄作ニ訓纂篇一、後漢郎中賈魴作ニ滂喜篇一、故曰ニ三蒼一。〔小學紺珠、藝文類、三蒼〕蒼頡篇・訓纂篇・滂喜篇。

【三藏】603 サンザウ　●經・律・論の總稱。經は定學、律は戒學、論は慧學を說く。藏とは一切法義を包藏する義。三藏には次の三種がある。㋑小乘の三藏。四部の阿含經等を經藏とし、四分・五分・十誦律等を律藏とし、六足・發智論等を論藏とする。〔智度論、百〕。㋺大乘の三藏。華嚴經を經藏とし、梵網經等を律藏とし、阿毘達磨經等を論藏とする。〔玄奘譯、世親攝論釋、一〕。㋩大小乘を通じての三藏。㊀聲聞藏と緣覺藏と菩薩藏。〔嘉祥法華義疏、十〕。㋥聲聞藏と菩薩藏と佛藏。〔釋氏要覽、中〕。●經・律・論の三藏に通じ、三學に達した者をいふ。〔柳氏舊聞〕聖善寺有ニ天竺乾僧無畏一、號ニ三藏一。〔明一統志〕世傳、唐ニ藏遊ニ西域一、經行植ニ梨杖于此一。

【三藏法師】604 サンザウホッシ　唐、玄奘（7－20814‥180）をいふ。

【三朔】605 サンサク　●夏・殷・周の朔日の定め方。夏は平明を朔とし、殷は雞鳴を朔とし、周は夜半を朔とす。〔尚書大傳、略說〕夏以ニ十三月一爲レ正、色尚レ黑、以ニ平明一爲レ朔、殷以ニ十二月一爲レ正、色尚レ白、以ニ雞鳴一爲レ朔、周以ニ十一月一爲レ正、色尚レ赤、以ニ夜半一爲レ朔。●正月元日。〔玉燭寶典〕正月一日爲ニ元旦一、亦云ニ上日一、亦云ニ正朔一、亦云ニ三元一、亦云ニ三朔一。

【三朔日】606 サンサクジツ　德川時代の語。正月朔日・六月朔日・八月朔日（八朔）をいふ。

【三索】607 サンサク　易の第三位の地點に於て他の性の爻を求めること。例へば、乾☰に於てニ索すれば兌☱となり、坤☷に於てニ索すれば艮☶となるの類をいふ。之に對して、第一位に於て索むるを一索、第二位に於て索むるを再索といふ。索は求めて取る義。〔易、說卦〕艮ニ三索而得ニ男一、故謂ニ之少男一。〔疏〕王氏云、索、求也、以ニ乾坤一爲ニ父母一、而求ニ其子一也、得ニ父氣一者爲ニ男一、得ニ母氣一者爲ニ女一、云云、坤ニ求得ニ乾氣一爲レ艮、故曰ニ少男一。〔敬括、八卦賦〕表ニ三索於永終一、瞻ニ萬物於資始一。

【三策】608 サンサク　三つのはかりごと。三計。〔史記、蘇秦傳〕此ニ三策者、不レ可レ不ニ孰計一也。〔白居易、代書詩〕萬言經濟略、三策太平基。

【三殺】609 サンサツ　●三つの犧牲。牛・羊・豕。三牲。〔宋史、禮志〕蒐狩之禮、四時異レ議、禮有ニ損益一、時代不レ同、今既無レ復、四方之祭、三殺之儀、曠廢來久。●サイ　服喪の三つの差等。大功・小功・緦麻。殺は順次に減ずること。〔北史、張普惠傳〕任城王澄、重ニ其學業一、爲ニ其聲價一、爲ニ雍州刺史一、啓ニ普惠一爲ニ府錄事參軍一、尋行ニ馮翊郡事一、澄功衰在レ身、欲下七月七日集ニ文武北園一馬射上、普惠奏ニ記於澄一曰、竊聞、三殺九親、別ニ疎昵之敍一、五服六術、等ニ衰麻之心一、皆因ニ事飾一レ情、不易之道者也。

【三殺三宥】610 サンサツサンイウ　裁判を決定するに愼重なこと。獄吏が死罪を定める場合、三刺・三宥などの法により反覆詳議して決すること。三刺（646）の●・三宥（38）の●を見よ。〔周禮、秋官、司刺〕司刺、掌ニ三刺三宥三赦之灋一、以贊ニ司寇聽ニ獄訟一、壹刺曰レ訊ニ羣臣一、再刺曰レ訊ニ羣吏一、三刺曰レ訊ニ萬民一、壹宥曰ニ不識一、再宥曰ニ過失一、三宥曰ニ遺忘一、壹赦曰ニ幼弱一、再赦曰ニ老旄一、三赦曰ニ惷愚一、以ニ此三灋者一、求ニ民情一、斷ニ民中一、而施ニ上服下服之罪一、然後刑殺。〔注〕刺、殺也、訊而有レ罪則殺レ之、有レ寬也、赦、舍也。

【三匝】611 サンサウ　三めぐり。〔史記、高帝紀〕黎明圍ニ宛城一三匝。〔魏武帝、短歌行〕繞ニ樹三匝一、何枝可レ依。〔北史、陽休之傳〕休之呪曰、柱轉三匝、吾至ニ三公一、柱遂三匝而止。

【三三】612 サンサン　九十日。〔燕子箋、寫箋〕三三春月日長天。

【三三九度】613 サンサンクド　婚禮の式に、夫婦互に三杯づつニ度杯を取り交はす禮。合巹。〔壽門松、下〕手拍子に口拍子、仕合せ拍子の三三九度。

【三三見九】614 サンサンケンキウ　かけ算に用ひる語、三三が九。九九合數（1－167‥112）を見よ。〔宋書、律曆志上〕黃鐘之律、長九寸、物以ニ生一、三三九、三九二十七。

【三三五五】615 サンサンゴゴ　三人又は五人、ばらばらと散亂するさま。〔李白、采蓮曲〕岸上誰家遊冶郎、三三五五映ニ垂楊一。〔薛惠、元夕篇〕三三五五長安陌、夜夜經過許史家。〔施肩吾、襄陽曲〕大堤女兒郎莫ニ尋、三三五五結ニ同心一。

【三三兩兩】616 サンサンリャウリャウ　三三五五に同じ。〔晉樂錄、嬌女詩〕行不ニ獨自去一、三三兩兩俱。

【三山】617 サンザン　●山名。㋑滿洲遼寧省綏中縣の前

衞西北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧前屯衞〕三山、在ニ衞西北三十里一、高數千仞、三峯並秀。㋺江蘇省江寧縣の西南。一名、護國山。晉の王濬、吳を伐つ時、此處に至る。〔太平寰宇記〕其山積レ石、濱ニ於大江一、有ニ三峯一、南北相接、吳時爲ニ津濟所一。〔李白、登ニ金陵鳳凰臺一詩〕三山半落青天外。㋩江蘇省江寧縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕三山、在ニ府城西南六十七里一、三峯排列、下臨ニ大江一。㋥江蘇省吳縣の西南。〔水經、沔水注〕太湖中有ニ大雷小雷三山一、亦謂ニ之三山湖一。〔皎然、古別離詩〕太湖三山口、吳王在時道。㋭安徽省繁昌縣の東北。老子・方丈・秦望の三峯がある。〔讀史方輿紀要、江南、太平府、繁昌縣〕三山磯、縣東北四十里。㋬安徽省來安縣の東。〔讀史方輿紀要、江南、滁州、來安縣〕三山、在ニ縣東二十里一、三峯並峙。㋣福建省城の中。〔曾鞏、道山亭記〕城之中三山、西曰ニ閩山一、東曰ニ九仙一、北曰ニ粵王山一。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、侯官縣〕越王山、在ニ府城北一、蟠ニ城外一、東聯ニ治山一、一名屏山、以ニ形若ニ屏扆一也、亦曰ニ平山一、又名ニ泉山一、以ニ山有ニ天泉池一也、云云、九仙山、在ニ府城內東南隅一、云云、又、烏石山、在ニ府城內西南隅一、與ニ九仙山一、東西對峙、唐天寶八載、改曰ニ閩山一、宋熙寧間、郡守程師孟、改曰ニ道山一、有ニ薛老峯鄰霄臺諸勝一、三山皆在ニ城中一、故郡有ニ三山之名一。㋠廣東省揭陽縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、潮州府、揭陽縣〕三山、在ニ縣西百五十里一。❷三つの仙山の名。蓬萊・方丈・瀛洲。三神山。三壺。三丘。〔史記、封禪書〕四曰ニ陰主一、祠ニ三山一。〔注〕索隱曰、小顏以爲、下所謂ニ三神山一。〔史記、封禪書〕使ニ人入レ海、求ニ蓬萊・方丈・瀛洲、此三神山者、其傳在ニ渤海中一。〔拾遺記、高辛〕三壺則海中三山也、一曰方壺、則方丈也、二曰蓬壺、則蓬萊也、三曰瀛壺、則瀛洲也、形如ニ壺器一、此三山、上廣中狹下方、皆如ニ工制一、猶ニ華山之似ニ削成一。〔謝靈運、初發ニ石首城一詩〕越レ海陵ニ三山一、游レ湘歷ニ九疑一。〔注〕翰曰、三山、蓬萊・方丈・瀛洲也。〔沈約、鍾山詩〕勢隨ニ九疑一高、氣與ニ三山一壯。〔注〕善曰、漢書曰、蓬萊・方丈・瀛洲、此三神山者、僊人在レ焉。❸北平にある香山・玉泉山・萬壽山。❹日本を指す。〔王維、送ニ祕書晁監還ニ日本國一詩序〕扶桑若レ薺、鬱島如レ萍、沃ニ白日一而簸ニ三山一、浮ニ蒼天一而呑ニ九域一。❺明、徐行可(**4**−**10110**・・355)の字。❻大和國の畝傍山と香山と耳梨山。〔播磨國風土記、揖保郡〕大倭國畝火・香山・耳梨、三山相鬭。

【三山冠】618 サンザンクワン 冠の一。古、朝賀・御卽位の禮に、主殿・圖書・贊者等の官人が禮服にかぶるもの。〔深窻祕抄〕三山、唐冠之時用レ之。

【三山島】619 サンザンタウ 島の名。山東省掖縣の北。〔史記、封禪書〕八神、四曰ニ陰主一、祠ニ三山一。〔注〕索隱曰、顧氏按ニ地理志一、東萊曲成有ニ參山一、卽此三山也、非ニ海中之三神山一也。〔漢書、地理志上〕東萊郡、曲成有ニ參山萬里沙祠一。〔注〕索隱曰、參山、卽三山也。〔漢書、郊祀志下〕(宣帝)又祀ニ參山八神於曲城、蓬山石社石鼓於臨朐、之罘山於腄、成山於不夜、萊山於黃一。

【三山鎭】620 サンザンチン 鎭の名。❶安徽省繁昌縣の東北。三山の❶の㋭を見よ。❷浙江省餘姚縣の東北にある金家山。

【三山諸島】622 サンザンショタウ 大連灣の東にあり、南北に列なる。北を北三山、南を南三山、中を中三山といふ。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、金州衞〕三山島、在ニ城南海中一。

【三山小隱】623 サンザンセウイン 宋、何異(**1**−**511**・・5)の號。

【三山老人】624 サンザンラウジン 宋、胡舜陟(**8**−**29400**・・501)の號。

【三山半落青天外】625 サンザンナカバセイテンノソトニオツ 唐の李白が金陵の鳳凰臺に登り、古を懷ひ、因つて身の讒廢を傷んだ詩の句。三山の❶の㋺を見よ。〔李白、登ニ金陵鳳凰臺一詩〕鳳凰臺上鳳凰遊、鳳去臺空江自流、吳宮花草埋ニ幽徑一、晉代衣冠成ニ古丘一、三山半落青天外、一水中分白鷺洲、總爲ニ浮雲能蔽レ日、長安不レ見使ニ人愁一。

【三子】626 サンシ ❶三人。〔沈約、相逢狹路閒詩〕三子俱入レ門、赫奕多ニ羽翼一。〔庾肩吾、長安有狹斜行〕三子俱來入、高軒映ニ彩旒一。〔蘇頲、送ニ光祿姚卿還レ都詩〕九卿朝已入、三子暮同來。❷魯の三卿。季孫・孟孫・叔孫。三家。三桓。〔論語、憲問〕公曰、告ニ夫三子一。〔集注〕三子、三家也。❸子路・子貢・冉求。〔論語、雍也〕季康子問、仲由可レ使レ從レ政也與、子曰、由也果、於レ從レ政乎何有、曰、賜也可レ使レ從レ政也與、曰、賜也達、於レ從レ政乎何有、曰、求也可レ使レ從レ政也與、曰、求也藝、於レ從レ政乎何有。〔集注〕程子曰、季康子、問ㇳ三子之才、可ニ以從レ政乎ㇾ、夫子答以ニ各有レ所レ長、非ニ惟三子一、人各有レ所レ長、能取ニ其長一、皆可レ用也。〔小學紺珠、聖賢類、三子〕由也果、賜也達、求也藝。❹宰我・子貢・有若。〔孟子、公孫丑上〕宰我・子貢・有若、智足ニ以知ニ聖人一、汙不レ至レ阿ニ其所レ好。〔集注〕三子智足ニ以知ニ夫子之道一。❺子路・子貢・顏淵。〔韓詩外傳、九〕子路曰、人善レ我、我亦善レ之、人不レ善レ我、我不レ善レ之、子貢曰、人善レ我、我亦善レ之、人不レ善レ我、我則引レ之進退而已耳、顏回曰、人善レ我、我亦善レ之、人不レ善レ我、我亦善レ之、三子所レ持各異。〔小學紺珠、聖賢類、三子〕子路・子貢・顏淵。❻子路・冉有・公西華。〔論語、先進〕三子者出、曾晳後、曾晳曰、夫三子者之言何如。〔義疏〕子路・求・赤三人。❼伯夷・伊尹・柳下惠。〔孟子、告子下〕孟子曰、居ニ下位一、不ニ以レ賢事ニ不肖一者、伯夷也、五就レ湯、五就レ桀者、伊尹也、不レ惡ニ汙君一、不レ辭ニ小官一者、柳下惠也、三子者不レ同レ道、其趨一也、一者何也、曰、仁也、君子亦仁而已矣、何必同。❽孟子・荀子・揚子。〔小學紺珠、藝文類、三子〕孟子好ニ詩書一、荀子好レ禮、楊子好レ易、孟子之文、直而顯、荀子之文、富而麗、楊子之文、簡而奧。❾老子・列子・莊子。宋の林希逸に三子口義、明の朱得之に三子通義がある。〔翰院名臣錄〕錢喜・鶡冠語、皆祖ニ述三子一、而莊列則本ニ老子一、老子則尊ニ黃帝一、三子之外、卿以レ禮、嬰以レ儉、夷吾以レ法。❿周の子頹・叔帶・子朝。〔陸機、五等諸侯論〕放レ命者七臣、干レ位者三子。〔注〕向曰、三子、一曰子頹、二曰叔帶、三曰子朝、是皆爲ニ亂王室一者也。〔小學紺珠、氏族類附錄、三子〕子頹・叔帶・子朝。⓫[佛]第一子は、父母に孝順で且知慧がある。第二子は、父母に孝順ではないが利根である。第三子は、父母に孝順でなく而も鈍根で世閒を知らぬ。第一子を菩薩に、第二子を聲聞に、第三子を闡提に譬ふ。〔涅槃經、三十三〕。⓬san¹ tzŭ³ ㋑小兒・老人・盲人。㋺兒子コドモ・鬍子ゲヒ及び銀子カネ。三子不全(629)を見よ。

【三子單】627 サンシタン 孝子閔損が繼母を離緣せんとする父を止めて、もしさうなれば三子ともに薄物を着るであらうと云つた故事。閔損衣單(**11**−**41251**・・23)を見よ。

【三子言レ性】628 サンシセイヲイフ 孟子の性善說、荀子の性惡說、揚子の性善惡混說をいふ。〔小學紺珠、性理類、三子言レ性〕孟子言ニ人性善一、荀子言ニ人性惡一、揚子言ニ人性善惡混一。

【三子不全】629 san¹ tzŭ³ pu⁴ ch'üan² 一人で三子を完全に持つことは出來ぬ。三子とは、鬍子ゲヒの大きいこと、兒子の孝行なこと、銀子(財貨)の多いこと。

【三尸】630 サンシ 道家の說で、人の體內に在つて害をなす三つの蟲。庚申の夜出でて人の密事を天帝に告げるといふ。三蟲。三彭。三姑。〔酉陽雜俎、玉格〕七守庚申三尸滅、三守庚申三尸伏。〔柳宗元、罵ニ尸蟲一文〕有ニ道士一言、人皆有ニ尸蟲三一、處ニ腹中一、伺ニ人隱微失誤一、日庚申、出讒ニ于帝一。〔太上三尸中經〕上尸名ニ彭倨一、在ニ人頭中一、中尸名ニ彭質一、在ニ人腹中一、下尸名ニ彭矯一、在ニ人足中一。〔玉樞經注〕上尸名ニ青姑一、中尸名ニ白姑一、下尸名ニ血姑一。〔避暑錄話、四〕道家有レ言ニ三尸一、或謂ニ之三彭一、以爲、人身中皆有ニ是三蟲一、能記ニ人過失一、至ニ庚申日一、乘ニ人睡一去、而讒ニ之上帝一、故學レ道者、至ニ庚申日一、輒不レ睡、謂ニ之守庚申一、或服レ藥以殺ニ三蟲一、小人之妄誕、有ニ至レ此者一。

【三巳】631 サンシ 上巳。三月三日に當るから云ふ。〔王廙、春可樂篇〕禊號ニ三巳一、臨レ川濫レ舟。〔沈佺期、三日梨園侍レ宴詩〕九重馳道出、三巳禊堂開。

【三支】632 サンシ ❶[佛]㋑支讖(支婁迦讖、支は月支國出身の稱、婁迦讖は Lokarakṣa の音譯)・支亮・支謙の三高僧をいふ。〔高僧傳〕支謙受ニ業于支亮一、支亮受ニ業于支讖一、世稱、天下博知、不レ出ニ三支一。〔陳師道、別ニ寶講主一詩〕暫息ニ三支論一、重參ニ二祖禪一。㋺因明(印度の論理學)の宗(結論)と因(理由)と喩(理由を強めるための喩)とをいふ。〔因明大疏、上本〕所レ立量、宗・因・喩三支。❷十二支を東西南北の四方に配當した各方の

三箇の稱。北方は亥・子・丑、東方は寅・卯・辰、南方は巳・午・未、西方は申・酉・戌。〔平治物語、賴朝擧二義兵一事〕。

【三支作法】633 サンシサホフ 㑨宗・因・喩の三支によつて一つの判斷を構成すること。

【三仕】634 サンシ 三度、仕へる。〔史記、管晏傳〕管仲曰、吾嘗三仕、三見レ逐二於君一。

【三仕三已】635 サンシサンイ 春秋、楚の令尹子文が、三度令尹となつても喜ばず、三度已めさせられても不平の色のなかつた故事。〔論語、公冶長〕令尹子文、三仕爲二令尹一、無二喜色一、三已レ之、無二慍色一。

【三史】636 サンシ 三つの歷史。❶六朝では、史記・漢書・東觀漢記をいふ。〔晉書、劉耽傳〕明習二詩・禮・三史一。〔北史、劉延明傳〕延明以二三史文繁一、著二略記百三十篇八十四卷一。〔四庫提要、史、東觀漢記〕晉時以二此書一、與二史記漢書一爲二三史一。❷唐以後では、史記・漢書・後漢書をいふ。〔唐書、選擧志上〕其科之目有二秀才一、云云、有二三史一。〔殷侑、請レ試二史學一奏〕其三史皆通者、請レ錄奏聞、特加二奬擢一、仍請レ班下二兩都一。〔小學紺珠、藝文類、三史〕司馬遷史記・班固漢書・范曄後漢書。〔十七史商榷〕直至二唐宋以來一、學者恆言、乃皆曰二五經三史一、則專指二馬・班・范一矣。❸戰國策・史記・漢書。〔後漢書、郡國志一〕錄二中興以來郡縣改異、及春秋三史會同征伐地名一、以爲二郡國志一。〔十七史商榷〕三國吳志・呂蒙傳注、引二江表傳一曰、權謂レ蒙曰、孤統レ事以來、省二三史諸家兵書一、大有レ益、三史似レ指二戰國策・史記・漢書一。❹書經・詩經・春秋。〔文中子、王道〕昔聖人述レ史三焉。〔小學紺珠、藝文類、三史〕書・詩・春秋。

【三史拾遺】637 サンシシフキ 書名。五卷。淸、錢大昕撰。〔潛研堂五種全集、第五十七・五十八冊〕。

【三史同名錄】638 サンシドウメイロク 書名。三十五卷。總錄二卷。附錄一卷。敍錄一卷。淸、汪輝祖撰。汪繼培補。

【三司】639 サンシ ❶漢の三公、太尉・司空・司徒。後漢、太尉を改めて大司馬とす。〔後漢書、順帝紀、歸二任三司一、注〕三司、三公也、卽太尉・司空・司徒。〔謝承後漢書〕陳謙字伯玉、云云、謙曰、位不レ可二妄假一レ人、三司位重、上和二陰陽一、下訓二五品一。〔稱謂錄、師傅保總稱、三司〕書敍指南、蔡邕稱二太尉・司徒・司空一曰二三公一。❷唐の御史大夫・中書・門下。〔唐書、百官志三〕御史臺、大夫一人正三品、中丞二人正四品下、大夫掌下以二刑法典章一、糾中正百官之罪惡上、中丞爲二之貳一、其屬有二三院一、一曰臺院、侍御史隸焉、二曰殿院、殿中侍御史隸焉、三曰察院、監察御史隸焉、凡冤而無レ告者、三司詰レ之、三司、謂二御史大夫・中書・門下一也。❸唐の理獄の官。侍御史・給事中・中書舍人が冤訟を受けることを三司受事といひ、事の重大な場合に、詔して尙書刑部・御史臺・大理寺の三者をして審議せしめることを三司推事といふ。三司使の❶を見よ。〔唐書、百官志三〕侍御史六人、從六品下、掌下糾二擧百寮一、及入閤・承詔・知推・彈雜事上、凡三司理事與二給事中・中書舍人一、更直二朝堂一、若三司所レ按而非、其長官則與二刑部郎中・員外郎・大理司直評事一、往訊彈劾、云云、次一人知二西推贓贖三司受事一、號二副端一。〔舊五代史、職官志〕後唐天成三年三月壬戌、御史臺奏、按、六典侍御史掌下糾二擧百寮一、推中鞫獄訟上、居レ上者判臺知二公廨雜事一、次知二西推贓贖、三司受事一、次知二東推理匭一、敕宜レ依二舊制一。❹鹽鐵使・度支使・戶部使。唐に始まる。宋に至つては、唐・五代よりも更に樞要の地を占め、錢穀食貨の政令は皆其の權能に歸した。後、三司を廢して其の事務を戶部に合併した。〔唐書、食貨志〕判度支盧坦、兵部尙書判戶部事王紹、鹽鐵使王播、請許下商人於二戶部・度支・鹽鐵三司一、飛錢每二千錢一增中給百錢上。〔舊五代史、職官志〕後唐同光二年正月、敕二鹽鐵・度支・戶部三司一、凡關二錢物一並委二租庸一使二管轄一、踵二梁之舊制一也、天成元年四月、詔廢二租庸院一、依レ舊爲二鹽鐵・戶部・度支三司一、委二宰臣一人一專判。〔宋史、職官志二〕三司使、使・副使・判官・鹽鐵使・度支使・戶部使、三司之職、國初沿二五代之制一置レ使、以總二國計一、應二四方貢賦之入一、朝廷不レ預、一歸二三司一、通二管鹽鐵・度支・戶部一、號曰二計省一、位亞二執政一、目爲二計相一、其恩數廩祿、與二參樞一同、云云、以上並屬二三司使一、元豐官制行、罷二三司使一並歸二戶部一。❺明の都指揮使・布政使・按察使。〔明史、職官志一〕分二大都督府一爲レ五、而征レ調、隸二於兵部一、外設二都・布・按三司一、分二隸兵刑錢穀一。❻淸代の布政使・按察使・提學使。〔淸國行政法汎論、行政組織、地方官署、淸制梗概、地方官署種類〕備考、光緖末葉、改二各省學政一爲二提學使一、與二布按二使一並列。❼琉球の重官の元俟・法司・紫巾官。❽三つの司廳。〔明史、河渠史一〕帝切責レ之、令二山東三司一、築二沙灣一。

【三司使】640 サンシシ ❶唐代、刑部尙書侍郎と御史中丞と大理卿とを三司使といひ、三者相會して審判上重大な事件に就いての審議をしたのを三司使會審といふ。〔唐書、百官志一〕凡鞫二大獄一、以二尙書侍郎與二御史中丞・大理卿一爲二三司使一、凡國有二大赦一、集二囚徒于闕下一以聽、刑部主事四人、都官主事二人、比部主事四人、司門主事二人。〔歷代職官表、刑部、唐〕謹案、今制、以二刑部都察院大理寺一爲二三法司一、其名始レ自二明代一、而實昉二于唐之三司使一、其時有二大獄一、則以二刑部・御史臺・大理寺一、爲二三司使一、以鞫レ之、謂二之太三司使一、若三司所レ按、非二其長官一、則侍御史與二刑部郎中員外郎大理司直評事一往訊レ之、謂二之小三司使一。❷五代後唐、鹽鐵使・度支使・戶部使を置き、後、之に因る。三司の❹を見よ。〔舊五代史、職官志〕後唐同光二年正月、敕二鹽鐵・度支・戶部三司一、凡關二錢物一並委二租庸一使二管轄一、踵二梁之舊制一也、云云、明宗嗣レ位、乃詔削二除使名一、但命二重臣一人一判二其事一、曰二判三司一、至レ是延朗自二許州一入、再掌二國計一、白二於樞密使一、請置二三司名一、宣二下中書一議二其事一、宰臣以二舊制一覆奏、授二延朗特進行工部尙書一、充二諸道鹽鐵轉運等使一、兼判戶部度支事、從二舊制一也、明宗不レ從、竟以二三司使一爲レ名焉。〔宋史、職官志二〕三司使、使・副使・判官、鹽鐵使・度支使・戶部使。

【三司會計司】641 サンシクワイケイシ 宋、神宗置く。幣貨の統制を目的として設立した官。〔宋史、職官志一〕三司會計司、熙寧七年、置二於中書一、以二宰相韓絳一提擧、先レ是、絳言、總二天下財賦一、而無三考二較盈虛之法一、乃置二是司一、既而事多濡滯、八年絳坐レ此罷レ相、局亦尋廢。

【三市】642 サンシ 三つの市。❶大市・朝市・夕市。〔周禮、地官、司市〕大市、日昃而市、百族爲レ主、朝市、朝時而市、商賈爲レ主、夕市、夕時而市、販夫販婦爲レ主。〔疏〕此三市、皆於二一院內一爲レ之。❷金市・南市・馬市。〔洛陽記〕三市、大市名也、金市、在二大城西一、南市、在二大城南一、馬市、在二大城東一。

【三矢】643 サンシ 三本の矢。〔左氏、宣、四〕吾先君文王、克レ息獲二三矢一焉。〔唐書、薛仁貴傳〕時九姓、衆十餘萬、令二驍騎數十來挑一レ戰、仁貴發二三矢一、輒殺二三人一。

【三死】644 サンシ ❶三つの死罪。〔左氏、哀、十五〕三死無レ與。〔注〕三死、死罪三。❷死を致す三つのもと。病・刑・兵。〔說苑、雜言〕人有二三死而非二命也者一。〔孔子家語、五儀解〕孔子對曰、然人有二三死而非二其命一也、己自取也、夫寢處不レ時、飮食不レ節、逸勞過度者、疾共殺レ之、居二下位一而上干二其君一、嗜欲無レ厭、求不レ止者、刑共殺レ之、以二少犯一レ衆、以レ弱侮レ強、忿怒不レ類、動不レ量レ力、兵共殺レ之。

【三至】645 サンシ ❶國を治めるに大切な三つの法。至禮・至賞・至樂。〔大戴禮、主言〕曾子曰、敢問、何謂二三至一、孔子曰、至禮不レ讓而天下治、至賞不レ費而天下之士說、至樂無レ聲而天下之民和。❷用兵の上に於て大切な三つの法。不完全で軍をやるべきでない所に處らしめてはならぬ。不勝を擊たしめてはならぬ。百姓を欺かしめてはならぬ。〔荀子、議兵〕可レ殺而不レ可レ使レ處二不完一、可レ殺而不レ可レ使レ擊二不勝一、可レ殺而不レ可レ使レ欺二百姓一、夫是之謂二三至一。❸三回往く。三度至る。〔呂覽、下賢〕齊桓公見二小臣稷一、一日三至、弗レ得レ見。❹屢〻起る。〔曹植、當牆欲高行〕讒言三至、慈母不レ親。

【三刺】646 サンシ ❶罪狀をしらべる三方法。群臣に訊ひ、群吏に訊ひ、萬民に訊ふ。刺は殺。三方法で訊問して、罪が定まれば之を殺すからいふ。〔周禮、秋官、小司寇〕以二三刺一斷二庶民獄訟之中一、一曰訊二羣臣一、二曰訊二羣吏一、三曰訊二萬民一。〔注〕刺、殺也、三訊罪定、則殺レ之。〔禮、王制〕以聽二獄訟一、必三刺。〔精註雅俗故事讀本、下、訟獄〕

訊二三刺一以二簡孚一。❷三たび刺す。〔周禮、夏官、大司馬〕鼓戒三闋、車三發、徒三刺。〔注〕徒壹刺、三而止。〔孫詒讓正義〕徒壹刺者、所謂一伐、書牧誓云、不レ愆二于四伐五伐六伐七伐一、乃止齊焉、詩周頌孔疏引二鄭書注一云、伐、謂二擊刺一、一擊一刺曰二一伐一是也。

【三始】647 サンシ ❶正月元旦をいふ。歲のはじめ、月の始、日の始。三元。三朝。〔尙書大傳、三朝〕正月一日、爲二歲之朝、月之朝、日之朝一、故曰二三朝一、亦曰二三始一、始猶レ朝也。〔漢書、鮑宣傳〕今日蝕二於三始一、誠可二畏懼一。〔注〕如淳曰、正月一日爲二歲之朝、月之朝、日之朝一、始猶レ朝也。❷三つの身嗜み。容體を正す、顏色を齊へる、辭令を順にする。これを禮義の始とする。〔禮、冠義〕禮義之始、在下於正二容體一、齊二顏色一、順中辭令上、容體正、顏色齊、辭令順、而后禮義備、以正二君臣一、親二父子一、和二長幼一。〔注〕言、三始既備、乃可レ求二以三行一也。〔小學紺珠、人事類、三始〕正二容體一、齊二顏色一、順二辭令一。

【三枝】648 サンシ ❶三つの枝。〔楊萬里、午憩詩〕日烘二細草一香無レ價、況有二三枝兩朶花一。❷三つの支族。〔孫鎭、許氏雙柱圖詩〕許家二一柱聯翩秀、孫氏三枝次第春。❸サイクサ ㋑地名。〔倭名類聚抄〕。㋺姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【三枝松】649 サヘクサ 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。

【三枝部】650 サイクサ 姓氏。〔和爾雅〕。

【三枝禮】651 サンシノレイ 鳩は親鳥のとまる枝から三枝下にとまる。禮讓のあること。〔學友抄〕烏有二反哺之孝一、鳩有二三枝之禮一。

【三枝九葉草】652 サンシキウエフサウ 草の名。いかりぐさ。淫羊藿(7―17678‥153)の異名。〔本草、淫羊藿〕釋名、仙靈脾・放杖草・棄杖草・千兩金・乾雞筋・黃連祖・三枝九葉草・剛前、集解、頌曰、關中呼爲二三枝九葉草一、苗高一二尺許、根葉倶堪レ用。

【三祀】653 サンシ ❶大夫の祭る三つの祀。族厲(祭るべき主のない人鬼)・門・行(道路)。〔禮、祭法〕大夫立二三祀一、曰二族厲一、曰レ門、曰レ行。❷大祀・中祀・小祀。〔周禮、春官、肆師〕立二大祀一用二玉帛牲牷一、立二次祀一用二牲幣一、立二小祀一用レ牲。〔注〕鄭司農云、大祀天地、次祀日月星辰、小祀司命已下、玄謂、大祀又有二宗廟一、次祀又有二社稷・五祀・五嶽一、小祀又有二司中・風師・雨師・山川百物一。〔小學紺珠、制度類、三祀〕大祀用二玉帛牲牷一、次祀用二牲幣一、小祀用レ牲。❸三年。〔崔篆、慰志賦〕乃稱レ疾而屢復兮、歷二三祀一而見レ許。

【三芝】654 サンシ 靈草。仙草。❶石芝・靈芝・肉芝。〔沈約、鍾山詩、應二西陽王教一〕淹留訪二五藥一、顧步佇二三芝一。〔注〕向曰、三芝、石芝・靈芝・肉芝也。❷參成・木渠・建木。〔抱朴子、仙藥〕參成芝、赤色有レ光、扣二之枝葉一、如二金石之音一、折而續レ之、卽復如レ故、木渠芝、寄二生大木上一、如二蓮花一、九莖一叢、其味甘而辛、建木芝、實生二於都廣一、其皮如二纓蛇一、其實如二鸞鳥一、此三芝得レ服レ之、白日昇レ天也。❸黃盧子・尋木華・玄液華。〔抱朴子、仙藥〕黃盧子・尋木華・玄液華、此三芝生二於泰山要鄕及奉高一、有二得而服レ之、皆令二人壽千歲一。❹雲芝・水芝・土芝。〔嵇含、瓜賦〕世云三芝、瓜處レ一焉、故植二根玉巖一、潤二葉飛泉一、攬レ之者壽、食レ之者仙、是謂二雲芝一、芙蕖振采、濯二莖玄瀨一、流葩映レ川、莫二此爲レ最、是謂二水芝一、甘瓜普植、用薦二神祇一、其名龍膽、其味亦奇、是謂二土芝一、乃剖二甘瓜一、旣淳且馨、荒者饗レ之、忘レ困解レ酲、流味通二其五臟一、冷氣反二其迷精一。〔小學紺珠、動植類、三芝〕雲芝・水芝・土芝。

【三思】655 サンシ ❶三たび思ふ。丁寧過ぎるほど思案すること。琅琊代醉編、卷十一に見ゆ。〔論語、公冶長〕季文子三思而後行、子聞レ之曰、再斯可矣。〔後漢書、公孫述傳〕天下神器、不レ可二力爭一、宜レ留二三思一。❷長・死・窮の三を思ふ。幼い時に、長じてからの事を思つて學び、老いては、死後のことを考へて子孫を教へ、富有の時には、他日困窮に至つた時のことを思つて人に施すこと。〔荀子、法行〕孔子曰、君子有二三思一、而不レ可レ不レ思也、少而不レ學、長無レ能也、老而不レ教、死無レ思也、有而不レ施、窮無レ與也、是故君子少思レ長則學、老思レ死則教、有思レ窮則施也。〔孔子家語、三恕〕君子有二三思一、少思二其長一則務レ學、老思二其死一則務レ教、有思二其窮一則務レ施。

【三師】656 サンシ ❶太師・太傅・太保をいふ。後魏以後の稱。〔唐書、蕭瑀傳〕晉王爲二皇太子一、拜二太子太保同中書門下三品一、帝曰、三師以レ德導二太子一者也。〔通典、職官典、三公總敍〕後魏以二太師・太傅・太保一、謂二之三師一、云云、師二範一人一、儀二刑四海一。❷唐の長孫無忌・房玄齡・蕭瑀をいふ。〔小學紺珠、名臣類下、三師〕長孫無忌・房玄齡・蕭瑀。❸三國の軍をいふ。〔左氏、隱、十〕癸亥克レ之、取二三師一焉。〔注〕三國之軍在レ戴、故鄭伯合二圍之一、師者、軍旅之通稱。❹三人の樂師。〔左氏、襄、十一〕鄭人賂二晉侯一以二師悝・師觸・師蠲一、〔疏〕服虔見三下有二鐘・鎛・磬一、卽云、三師、鐘師鎛磬師、云云、三師必是能二鐘磬一者。❺星の名。〔宋史、天文志二〕三公三星、在二北斗杓南及魁第一星西一、在二魁西一者、名二三師一。❻佛 授戒式をつとめる三僧。一に戒和尙(正しく戒を授けるもの)・二に羯磨師(表白及び羯磨の文を讀むもの)・三に教授師(受者に威儀作法を教へるもの)。東大寺に於ては此の三師を律宗の三職と稱する。

【三師七證】657 サンシシチシヨウ 佛 授戒の式に必要な三師と七人の證明師。〔行事鈔、上、三〕。

【三徙】658 サンシ 三たび住居を遷す。三遷(1080)の❶を見よ。〔莊子、徐無鬼〕舜有二羶行一、百姓悅レ之、故三徙成レ都。〔呂覽、貴因〕舜一徙成レ邑、再徙成レ都、三徙成レ國。〔藝文類聚、十一〕尸子曰、舜一徙成レ邑、再徙成レ都、三徙成レ國。

【三徙教】659 サンシノヲシヘ 三遷教(1081)に同じ。〔魏武帝、善哉行〕既無二三徙教一。

【三趾】660 サンシ ❶三つの足。みつあし。三足。〔張衡、東京賦〕王鮪岫居、能鼈三趾。〔注〕山海經曰、陽狂水、西南流注二于伊水中一、有二三足鼈一、爾雅曰、鼈三足曰レ能。〔左思、魏都賦〕莫二黑匪レ烏、三趾而來儀、莫二赤匪レ狐、九尾而自擾。〔李雲卿、京兆府獻二三足烏一賦〕步二芳草一而三趾徐來、遡二祥風一而六翮徵舞。❷天・地・人の三禮。趾は體。〔班固、幽通賦〕嬴取二威於百儀一兮、姜本二支乎三趾一。〔注〕善曰、姜、齊姓也、趾、禮也、齊伯夷之後、伯夷爲二虞舜一典二三天地人鬼之禮一。❸鼎の三足。〔繁欽、硯頌〕鈞二三趾于夏鼎一兮、象二辰宿之相扶一。

【三絲】661 san1 ssŭ1 肉を蒸煮にした料理の名。

【三絲海參】662 san1 ssŭ1 hai3 shen1 絲切りの鷄豚肉と筍を混ぜた海參イリコ料理。

【三絲魚翅】663 san1 ssŭ1 yü2 chʻih4 絲切りの鷄豚肉と筍とを混ぜた鱶の鰭料理。

【三資】664 サンシ ❶地を廣め、民を富まし、德を博くすること。〔史記、張儀傳〕司馬錯曰、不レ然、臣聞レ之、欲レ富レ國者、務レ廣二其地一、欲レ彊レ兵者、務レ富二其民一、欲レ王者、務レ博二其德一、三資者備、而王隨レ之矣。❷三階級。〔宋史、理宗紀一〕(紹定)五年秋七月甲申詔、近歲北兵再入二利閬一、迫二近順慶一、承奉郞胡元琰攝二郡事一、能收二散卒一定二居民一、諭二叛將一以全二閬郡一、以レ功特轉二官三資一。〔宋史、兵志十〕慶曆四年、詔二捧日天武一、選二退將校一、超二三資一、餘超二二資一、悉補二外職一。〔宋史、選擧志四〕若非レ次轉レ勞、有下遷二三資一、或止二一資一者上、至二左右司郞中一、爲二知制誥一。

【三字】665 サンジ ❶三つの文字。〔晉書、張天錫傳〕天錫、字純嘏、駿少子也、少名獨活、初字公純嘏、入レ朝人笑二其三字一、因自改焉。〔南齊書、祥瑞志〕永明九年、秣陵縣鬭場里、安明寺、有二古樹一、衆僧改二架屋宇一、伐以爲レ薪、剖二樹木裏一、自然有二法大德三字一。〔彥周詩話〕李邯鄲公作二詩格一、句自二三字一至二九字十一字一、有二五句成レ篇者一、盡二古今詩之格律一、足三以資二詳博一、不レ可レ不レ知也。❷古文・篆・隸の三字體。〔北史、劉芳傳〕昔漢世造二三字石經於大學一、學者文字不レ正、多往質焉。❸唐代、知制誥の異名。〔容齋四筆、官稱別名〕知制誥爲二三字一。

【三字經】666 サンジキヤウ 書名。一卷。宋、王應麟撰と傳ふ。一說に、區適子撰、黎貞の續成といふ。村塾の課本で、毎句三字。韻をふむ。〔訂譌類編〕應麟困學紀聞、尊レ蜀抑レ魏、不レ當二於此書一、又云、魏・蜀・吳、爭二漢鼎一。〔廣東新語〕宋末、區適子撰二三字經一、適子廣東順德人、字正叔、入レ元、抗節不レ仕。〔邵晉涵詩〕讀得二黎貞三字訓一。〔自注〕三字經、南海黎貞所レ撰。〔三字經〕人之初、性本善、性相近、習相遠、苟不レ教、性乃遷、教之道、貴二以專一、昔孟母、擇二隣處一、子不レ學、斷二機杼一、竇燕山、有二義方一、教二五子一、名倶揚、養不レ教、父之過、教不レ嚴、師之惰、子不レ學、非レ所レ宜、幼不レ學、老何爲、玉不レ琢、不レ成レ器、人不レ學、不レ知レ義、爲二人子一、方二少時一、親二師友一、習二禮儀一、香九

齢、能温レ席、孝二於親一、所レ当レ執、融四歳、能譲レ梨、弟二於長一、宜二先知一、首二孝弟一、次見聞、知二某数一、識二某文一、一而十、十而百、百而千、千而萬、三才者、天地人、三光者、日月星、三綱者、君臣義、父子親、夫婦順、曰春夏、曰秋冬、此四時、運不レ窮、曰南北、曰西東、此四方、應二乎中一、曰火水、木金土、此五行、本二乎數一、曰仁義、禮智信、此五常、不レ容レ紊、稻粱菽、麥黍稷、此六穀、人所レ食、馬牛羊、雞犬豕、此六畜、人所レ飼、曰喜怒、曰哀懼、愛惡欲、七情具、匏土革、木石金、絲與レ竹、乃八音、高曾祖、父而身、身而子、子而孫、自二子孫一、至二玄曾一、乃九族、人之倫、父子恩、夫婦從、兄則友、弟則恭、長幼序、友與レ朋、君則敬、臣則忠、此十義、人所レ同、凡訓レ蒙、須二講究一、詳二訓詁一、明二句讀一、爲レ學者、必有レ初、小學終、至二四書一、論語者、二十篇、羣弟子、記二善言一、孟子者、七篇止、講二道德一、說二仁義一、作二中庸一、子思筆、中不レ偏、庸不レ易、作二大學一、乃曾子、自二修齊一、至二平治一、孝經通、四書熟、如二六經一、始可レ讀、詩書易、禮春秋、號二六經一、當二講求一、有二連山一、有二歸藏一、有二周易一、三易詳、有二典謨一、有二訓誥一、有二誓命一、書之奥、我周公、作二周禮一、著二六官一、存二治體一、大小戴、注二禮記一、述二聖言一、禮樂備、曰國風、曰雅頌、號二四詩一、當レ諷詠、詩既亡、春秋作、寓二褒貶一、別二善惡一、三傳者、有二公羊一、有二左氏一、有二穀梁一、經既明、方讀レ子、撮二其要一、記二其事一、五子者、有二荀揚一、文中子、及老莊、經子通、讀二諸史一、考二世系一、知二終始一、自二羲農一、至二黄帝一、號二三皇一、居二上世一、唐有レ虞、號二二帝一、相揖遜、稱二盛世一、夏有レ禹、商有レ湯、周文武、稱二三王一、夏傳レ子、家二天下一、四百載、遷レ夏社一、湯伐レ夏、國號レ商、六百載、至レ紂亡、周武王、始誅レ紂、八百載、最長久、周轍東、王綱墜、逞二干戈一、尚二遊說一、始二春秋一、終二戰國一、五霸強、七雄出、嬴秦氏、始兼幷、傳二二世一、楚漢爭、高祖興、漢業建、至二孝平一、王莽簒、光武興、爲二東漢一、四百年、終二於獻一、魏蜀吳、爭二漢鼎一、號二三國一、迄二兩晉一、宋齊繼、梁陳承、爲二南朝一、都二金陵一、北元魏、分二東西一、宇文周、與二高齊一、迨レ至レ隋、一二土宇一、不二再傳一、失二統緒一、唐高祖、起二義師一、除二隋亂一、創二國基一、二十傳、三百載、梁滅之、國乃改、梁唐晉、及漢周、稱二五代一、皆有レ由、炎宋興、受二周禪一、十八傳、南北混、十七史、全在レ茲、載二治亂一、知二興衰一、讀レ史者、考二實錄一、通二古今一、若二親目一、口而誦、心而惟、朝於斯、夕於斯、晉仲尼、師二項橐一、古聖賢、尚勤レ學、趙中令、讀二魯論一、彼既仕、學且勤、披二蒲編一、削二竹簡一、彼無レ書、且知レ勉、頭懸レ梁、錐刺レ股、彼不レ教、自勤苦、如二囊螢一、如映レ雪、家雖レ貧、學不レ輟、如負レ薪、如挂レ角、身雖レ勞、猶苦レ卓、蘇老泉、二十七、始發憤、讀二書籍一、彼既老、猶悔レ遲、爾小生、宜二早思一、若二梁灝一、八十一、對二大廷一、魁二多士一、彼既成、衆稱レ異、爾小生、宜レ立レ志、瑩八歳、能咏レ詩、泌七歳、能賦レ碁、彼穎悟、人稱レ奇、爾幼學、當レ效レ之、蔡文姫、能辨レ琴、謝道韞、能咏レ吟、彼女子、且聰敏、爾男子、當二自警一、唐劉晏、方七歳、舉二神童一、作二正字一、彼雖レ幼、身已仕、爾幼學、勉而致、有レ爲者、亦若レ是、犬守レ夜、鷄司レ晨、苟不レ學、曷爲レ人、蠶吐レ絲、蜂釀レ密、人不レ學、不レ如レ物、幼而學、壯而行、上致レ君、下澤レ民、揚二名聲一、顯二父母一、光二於前一、裕二於後一、人遺二子一、金滿レ籯、我教レ子、惟一經、勤有レ功、戯無レ益、戒之哉、宜二勉力一。

【參考書】【三字經訓詁】一卷 清、王相撰。

【三字缺】667(サンジケツ) 清代、地方官職の一。一字缺(1—1‥801)を見よ。

【三字獄】668(サンジゴク) 莫須有の獄。怪しげな獄。宋の秦檜が岳飛を罪に陥れたとき、韓世忠が秦檜に岳飛の罪跡の不明なのを尋ねた所が、秦檜が「莫ラン レ須キュー レ有ル」の三字を以て答へ、岳飛を誣ひた故事。〔宋史、岳飛傳〕獄之將レ上也、韓世忠不レ平、詣レ檜詰二其實一、檜曰、飛子雲與二張憲一書、雖レ不レ明、其事體莫レ須有、有二世忠曰一、莫須有三字、何以服二天下一。

【三字姓】669(サンジセイ) 二字の姓をいふ。〔琅琊代酔編、三字姓〕又有二三字姓一、侯莫陳穎・阿史那忠・白馬公氏。

【三字禪】670(サンジゼン) 僊公案の名。顧(自分に顧みる)・咦(一切を超越して自適する)・鑑(他人に鑑みる)の三字で禪を説いた雲門の宗風。雲門三字禪(12—42235‥610)の略。〔碧巖錄、第六則、本則、評唱〕雲門尋常愛說二三字禪一、顧・鑑・咦。

【三字名】671(メイジ) 二字の名。楚、闘穀於菟の類。琅琊代酔編、巻五に見ゆ。

【三字令】672(レイジ) 詞牌の名。全體が三字句より成るから名づく。又、曲牌の名。南曲では正宮正曲に入る。又、羽調引に入る。

【三字石經】673(サンジセキケイ) 三國、魏の正始中、洛陽太學の西側に建てられた石經。古文・篆・隷の三體を用ひ、古文尚書・春秋・左氏傳(莊公中葉迄)の二經を刻した。石數凡て三十五。一名、三體石經。又、正始石經といふ。邯鄲淳の手に成ると傳へられるが、異説多く、一人の書ではない。光緒二十二年、其の殘石と稱せられるものが出土し、現在、拓本には書經、左傳がある。石經(8—24024‥238)を見よ。〔晉書、衛恆傳〕孔壁書、漢世祕藏、希得見之、魏初傳古文者、出二於邯鄲淳一、恆祖敬侯寫二淳尚書一、後以示レ淳、而淳不レ別、至二正始中一、立二三字石經一、轉失二淳法一、因二科斗之名一、遂效二其形一。

【參考書】【經義考】第二百八十七—二百九十一卷。清、朱彝尊撰。【魏三體石經遺字攷】一卷 清、孫星衍撰。〔平津館叢書、第五冊〕【正始三體石經考】一卷 民國、章炳麟撰。【歷代石經考】民國、張國淦撰。【正始石經尚書春秋殘石跋】民國、羅振玉撰。【新出漢魏石經考】四卷 民國、吳維撰。

【三次】674(サンジ) ❶二つのやどり。〔詩、豳風、七月、流火、疏以其東方南方皆三次、鶉火・大火居二其中一。❷三度。三回。〔宋史、選擧志二〕許二納レ敕三次一、爲二定制一焉。❸三處。野と朝と市。〔國語、魯語上〕五刑三次。〔注〕次、處也、三次、謂二野朝市一。❹三回。(ミヨシ)

【三次函數】675(サンジカンスウ) 備後國の郡名。

【三次函數】676(サンジカンスウ) 函數内の自變數の最高乘冪が三なるもの。

【三事】677(サンジ) ❶天に事へ、地に事へ、人を治めること。〔書、立政〕立レ政、任二人準夫一、牧、作二三事一。〔疏〕任人、謂二六卿一準夫者、平レ法之人、謂二理獄官一也、牧者、九州之牧、治二爲天地人之三事一。❷三公の位。三事大夫を見よ。〔漢書、韋賢傳〕天子我監、登二我三事一。〔注〕三事、三公之位、謂二丞相一也。〔班固、典引〕三事岳牧之寮。〔左思、魏都賦〕位副二三事一、官踰二六卿一。❸政をなすに大切な三箇條。㋑正德・利用・厚生。〔書、大禹謨〕六府三事。〔蔡傳〕三事、正德・利用・厚生也。〔左氏、文、七〕正德・利用・厚生、謂二之三事一。㋺倡德・和亂・終齊。〔逸周書、武穆解〕三事、一倡德、二和亂、三終齊。㋩高原・低濕、平地に於ける農事。三農(1432)の❶に同じ。〔詩、大雅、常武〕三事就レ緒。〔箋〕女二農之事一、皆就二其業一。㋥人としてつかへるべき三長者。君・父・師。〔禮、檀弓上〕事二親有レ隱而無レ犯、左右就養無レ方、服勤至レ死、致喪三年、事二君有レ犯而無レ隱、左右就養有レ方、服勤至レ死、方喪三年、事二師無レ犯無レ隱、左右就養無レ方、服勤至レ死、心喪三年。〔國語、晉語一〕民生二於三一、事レ之如一、父生レ之、師教レ之、君食レ之。〔小學紺珠、人倫類、三事〕事レ親、有レ隱而無レ犯、事レ君、有レ犯而無レ隱、事二師一、無レ犯無レ隱。❹武・文・忠信。〔國語、楚語下〕王曰、三事者何也、對曰、天事レ武、地事レ文、民事二忠信一。❺任官する人の三つの心得。清・愼・勤。〔呂本中、官箴〕當レ官之法、惟有二三事一、曰清、曰愼、曰勤。❻儛①衣・食・住。明の李豫亨に三事遡眞一巻がある。㊐身・口・意。これを愼むことを三事戒といふ。

【三事大夫】677(サンジタイフ) 三公・六卿・大夫をいふ。〔詩、小雅、雨無正〕三事大夫、莫二肯夙夜一。〔集傳〕三事、三公也、大夫、六卿及中下大夫也。

【三事忠告】678(サンジツウコク) 書名。四巻。元、張養浩撰。政道を記したもの。牧民忠告二巻、拜命上任、聽訟、御下、宣化、愼獄、救荒、事長、受代、居閑、凡そ十篇、風憲忠告、一巻(自律・示教・詢訪・按行・審錄・薦擧・糾彈・奏對・臨難・全節、凡そ十篇)、廟堂忠告、一巻(修身・用賢・重民・遠慮・調燮・任怨・分謗・應變・獻納・退休、凡そ十篇)。〔四庫提要、史、職官類〕。

【三事六府】679(サンジロクフ) 書、大禹謨の六府三事。三事は正德・利用・厚生。六府は水・火・金・木・土・穀。清初、顔元・李塨の顔李學派は教育の主點を此の三事六府に置いた。三事の❸の㋑及び六府(2—1453‥518)を見よ。〔存學編、上、太倉陸桴亭先生、書〕其爲レ此懼、著二存學一編、申二明堯舜周

孔二事六府六行六藝之道。

【三侍】680(サンジ) 三侍學士をいふ。三侍學士を見よ。〔周必大、辭免レ兼二侍講一奏狀〕若尚續二漢殿六經之業一、殆將レ兼二唐人三侍之榮一。

【三侍學士】681(サンジガクシ) 唐の王起・許康佐・柳公權をいふ。〔小學紺珠、職官類、三侍〕侍講學士王起・許康佐・侍書學士柳公權、謂二之三侍學士一、文宗召入二便殿顧問一。

【三兒】682(サンジ) 三人の子供。〔南齊書、陳皇后傳〕后歎曰、我三兒誰當レ應レ之。〔南齊書、沈沖傳〕我三兒皆作二御史中丞一。

【三時】683(サンジ) ❶農業に大切な三つの時節。春耕・夏耘・秋收。〔左氏、桓、六〕謂二其三時不一レ害、而民和年豐也一。〔注〕三時、春・夏・秋。〔國語、周語上〕三時務レ農。〔注〕三時、春・夏・秋。❷學問をなすに於ける三つの時期。一生の中の時、一年の中の時、一日の中の時。〔四書逸箋、論語、時習〕邢昺論語疏引皇氏云、學有二三時一、一、身中時、二、年中時、三、日中時、按、宋儒謂二時習一爲二學之不一已、自兼二三時一言、從來講章、皆未之及一。❸夏至の後、半月を三時といふ。〔農甫六書〕頭時三日、中時五日、三時七日。❹(サンジ)印度の三季節。熱時・雨時・寒時。〔法苑珠林、卻量篇、時節〕如來聖教、歲爲二三時一、正月十六日至二五月十五日一、熱時也、五月十六日至二九月十五日一、雨時也、九月十六日至二正月十五日一、寒時也。㊁佛法の興廢を基準にして區分した三つの時をいふ。正法時(佛法が最も正しく行はれる間、佛が世を去つて五百年といはれてゐる)・像法時(正法時についで佛法が行はれる間、後の千年といはれる)・末法時(佛法が行はれず世の亂れる時期、像法時の後をいふ)。一般には正・像の二時を說き、雜阿含・俱舍論は正法のみを說き、大悲經だけが三時を說く。諸說がある。〔嘉祥法華義疏、五〕佛雖レ去レ世、法儀未レ改、謂二正法時一、佛去レ世久、道化訛替、謂二像法時一、轉復微末、謂二末法時一。〔青龍仁王經疏、下二〕有レ教有レ行、有レ得二果證一、名爲二正法一、有レ教有レ行、而無二果證一、名爲二像法一、唯有二其教一、無レ行無レ證、名爲二末法一。

【三時教】684(サンジキョウ) ㊁教法を三種の方面から見て、これに時間的順次を當てて說いた教。❶法相宗の戒賢論師の說。四大・五蘊を實有とし、人我の空無を說くのを第一時教とし、一切諸法皆空の理を說くのを第二時教とし、非空非有の中道を說くのを第三時教とするもの。❷空宗(破相宗)の智光論師の說。主觀も客觀も俱に有であることを說くのを第一時教とし、客觀は空、主觀は有であると說くのを第二時教とし、主觀も客觀も俱に空であることを說くのを第三時教とするもの。

【三時業】685(サンジゴウ) ㊁心・身のはたらきによつて果報を受ける時間的の三つの區分。現生の業によつて現生の果を受けるものを順現受業、現生の業によつて次生の果を受けるものを順次受業、現生の業によつて二生以後の果を受けるものを順後受業とする。

【三時祭】686(サンジサイ) 齋宮の奉祀の一。五月・八月・十一月の晦に、川又は海で禊をする。〔齋宮寮式〕齋內親王參二三時祭一禊料。

【三時山】687(サンジサン) 唐の張詢が昭覺寺に畫いた名畫。〔益州名畫錄〕張詢、南海人也、久住二帝京一、精二於小筆一、與二昭覺寺休夢長老一故交、一日長老請二於寺一後、畫二一堵早景・一堵午景・一堵晚景、謂二之三時山一、畫畢之日、遇憶宗駕二幸茲寺一、盡日歎賞。

【三時殿】688(サンジデン) ㊁淨飯王が其の子悉達太子(後の釋尊)のために建てた宮殿。〔本行經、淨飯王爲二太子一造二三時殿一、一暖殿、以擬二隆冬一、二涼殿、以擬二夏暑一、三中殿、用擬二春秋一。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕製二三時之殿一、聳二四柱之臺一。

【三時坐禪】689(サンジザゼン) ㊁早晨の坐禪、晡時の坐禪、黃昏の坐禪。〔禪林象器箋、九〕。

【三辭】690(サンジ) 三たび辭讓すること。〔周禮、秋官、司儀〕皆旅擯再勞二三辭一三揖、登拜受拜送。〔儀禮、士冠禮、賓禮辭許、注〕禮辭、一辭而許、再辭而許、曰二固辭一三辭曰二終辭一不レ許也。〔禮、禮器〕三辭二讓而至一不レ然則已褻。

【三州】691(サンシュウ) ❶二つの州。〔南齊書、劉繪傳〕南康是二州喉舌一。❷複姓。〔通志、氏族略、以地爲レ氏〕孝子傳、有二三州昏一。〔萬姓統譜〕三州、孝子傳、有二三州昏一。

【三州府】692(サンシュウフ) 舊英領海峽殖民地をいふ。シンガポール・ペナン・マラツカの三州より成るからいふ。

【三秀】693(サンシュウ) 芝草。靈草。〔爾雅翼、芝〕芝、瑞草、一歲一華、故楚辭謂二之三秀一。〔楚辭、九歌、山鬼〕采二三秀兮於山間一。〔注〕三秀、謂二芝草一也。〔江淹、雜體、謝惠連贈別詩〕靈芝望二三秀一。〔沈約、早發二定山一詩〕眷言採二三秀一、徘徊望二九仙一。〔注〕善曰、三秀、謂二芝草一也。〔元好問、贈二答普安師一詩〕金芝二秀詩壇瑞、寶樹千花佛界春。〔羣芳譜、芝〕芝、瑞草也、一名二三秀一、一名菌蠢一。

【三周】694(サンシュウ) ❶三度めぐる。又、幾度もめぐる。〔左氏、成、二〕齊師敗績、遂レ之二三周華一不注。❷三箇年。〔南史、循吏傳序〕郡縣居レ職、以二三周一爲二小滿一。❸㊁法華經を正說・領解・述成・授記の四段に分けて聲聞を敎化することを一周といひ、聲聞に上中下三根があるから、三周といふ。法說周・譬喩周・因緣周。三周說法ともいふ。〔法華玄義、十〕如二法華三周說法一、辭二衒聲聞一、咸歸二一實一。

【三周忌】695(サンシュウキ) 三回忌(1834)に同じ。〔尺素往來〕一周忌、謂二之小祥忌一、三周忌、謂二之大祥忌一。

【三周之御】696(サンシュウノギョ) 親迎の時、壻が婦の車を御して車輪が三度めぐる迄すむ儀をいふ。〔儀禮、士婚禮〕壻御二婦車一、授レ綏、姆辭不レ受、婦乘以几、姆加二景、乃驅一、御者代、壻乘二其車一、先俟二于門外一。〔注〕驅、行也、行二車輪三周一、御者乃代レ壻。〔禮、昏義〕父親醮レ子而命之迎、男先二於女一也、子承レ命以迎、主人筵二几於廟一、而拜迎二于門外一、壻執二鴈入一、揖讓升レ堂、再拜奠レ鴈、蓋親受之於父母也、降出御二婦車一、而壻授レ綏、御レ輪三周、先俟二于門外一。〔陳注〕以二輪三周一爲レ節者、取二陰陽奇偶之數成一也。〔書言故事、婚姻類、三周之御〕親迎啓用、展二三周之御一。

【三洲】697(サンシュウ) ❶三つのしま。〔王廷相、悼レ時賦〕涉二洪河一以揚レ舲兮、汎二滄海之三洲一。❷淮水のほとりにある地。〔詩、小雅、鼓鍾〕鼓鍾伐鼛、淮有二三洲一。〔傳〕三洲、淮上地。〔馬融常、雜詠詩〕百丈牽レ船浜二上流一、清淮從レ古有二三洲一。❸山名。廣東省香山縣の東。〔明一統志〕三洲山、在二廣州府香山縣東一。❹地名。江西省豐城縣の北。〔明一統志〕三洲、在二南昌府豐城縣北三里一、諺云、三洲相連出、狀元謂、楊林洲・金鷄洲・牛宿洲也。❺巖の名。廣東省德慶縣の東、附近に宋の周敦頤を祀つた三洲書院がある。〔明一統志〕三洲巖、在二肇慶府德慶州東七十里一、取二蓬萊第三洲之名一、一名玉乳、巖中有二石室一、室中有二石乳一、蒼綠色、聞類二佛像鐘磬玉麟遊魚之屬一、相傳、有二皓叟一、修二眞于此一、宋周敦頤嘗游二蘇軾有二題識一。❻書院の名。宋の周敦頤を祀つたもの。三洲巖の畔にある。〔明一統志〕三洲書院、在二肇慶府德慶洲東七十里三洲巖畔一、祀二宋濂溪周敦頤一。❼長茨の號。長三洲(11－41100‥922)を見よ。

【三洲歌】698(サンシュウカ) 樂府清商曲西曲の歌辭の名。陳後主・唐の溫庭筠に歌辭がある。〔樂府詩集、清商曲、西曲、三洲歌〕唐書樂志曰、三洲、商人歌也。〔古今樂錄〕曰、三洲歌者、商客數遊二巴陵三江口一往還、因共作二此歌一、其舊辭曰、啼將レ別共來、梁天監十一年、武帝於二樂壽殿一道義竟、留二十大德法師一、設レ樂敕レ人、人有レ問引二經奉答一、次間二法雲一、聞、法師善解二音律一、此歌何如、法雲奉答、天樂絕妙、非二庸淺所一レ聞、愚謂、古辭過レ質、未レ審可レ改以不、敕云、如二法師語一音、法雲曰、應二歡會一而有二別離一、啼將別可二改爲一歡將樂一、故歌、歌和云、三洲斷江口、水從二窈窕一河、傍流歡將レ樂、共來長相思、舊舞十六人、梁八人。〔古樂府、三洲歌〕送歡板橋彎、相待三山頭、遙見千幅帆、知是逐二風流一、風流不二暫停一、三山隱二行舟一、願作二比目魚一、隨レ歡千里遊、湘東鄱醞酒、廣州龍頭鐶、玉樽金鏤椀、與レ郎雙飯杯行。

【三秋】699(サンシュウ) ❶秋三箇月をいふ。初秋・仲秋・晚秋。〔王褒、九日從駕詩〕律改二三秋節一、氣應九鍾霜。〔胡濟、黃甘賦〕三秋迭運、初寒履レ霜。❷九箇月。秋は三箇月あるから、三秋は九箇月。一說に三度の秋を經過する。三箇年の稱。〔詩、王風、采葛〕一日不レ見、如二三秋一兮。〔疏〕年有二四時一、時皆三月、三秋、謂二九月一也、設言二春三夏一、其義亦同。〔陸機、挽歌詩〕三秋猶是收、萬

世安可レ思。〔陸游、舍北野望詩〕藥石三秋病、風波萬里身。

【三秋思】700 サンシウノオモヒ 一日逢はねば三年逢はぬやうな心地がする。切なおもひ。一日千秋(1—1・906)を見よ。 三

【三秋岸雪花初白】701 サンシウノガンセツハナハジメテシロシ 秋の風物を詠じた詩句。〔溫庭筠、盤石寺留二別成公一詩〕槲葉蕭蕭帶二葦風一、寺前歸客別二支公一、三秋岸雪花初白、一夜林霜葉盡紅、山疊楚天雲壓レ塞、浪遙吳苑水連レ空、悠然旅榜頻廻レ首、無三復松窻半偈同一。

【三就】702 サンシウ ❶罪人の刑を施すのに三つの場處に於て行ふこと。〔書、舜典〕五刑有レ服、五服三就。〔傳〕行レ刑當レ就二三處一、大罪於二原野一、大夫於レ朝、士於レ市。❷三色を用ひて出來上ること。就は成ること。〔儀禮、既夕禮〕薦二馬纓一三就、入レ門北面。〔注〕就、成也、諸侯之臣、飾レ纓以二三色一而三成。〔周禮、春官、典瑞〕三采三就。❸三たびなる。〔易、革〕革言三就、有レ孚。〔疏〕三爻並成就不レ虛、故曰二革言三就一。

【三式】703 サンシキ ❶術數家の語。雷公・太乙・六壬をいふ。一說に六壬・遁甲・太乙(乙、或は一に作る)。〔唐六典、太常寺、太卜署〕太卜令、占二辨三式之同異一、一曰、雷公式、二曰、太乙式、並禁二私家畜一、三曰、六壬式、士庶通二用之一。〔五代史、趙延義傳〕仕レ蜀爲二司天監一、蜀亡、仕レ唐爲二星官一、延義兼二通三式一、頗善相レ人。〔事物紀原、伎術醫卜部、三式〕風后演二河圖一爲二一千八百局一曰二遁甲一、周太公約爲二七十二一、漢張良定爲二一十八一以二六甲相遁而起一、故名二遁甲一、幷二太一・六壬一是爲二三式一、黃帝內傳曰、王母使三玄女授二帝法一、有二九天九地八門六甲之術一、卽今遁甲也、蓋自二黃帝一始。〔四庫提要、子、術數類、六壬大全〕六壬與二遁甲・太乙一、世謂二之三式一、而六壬、其傳尤古。❷潛夫論の篇名。❸san¹ shih⁴ 耳搔・爪楊枝・毛拔。

【三識】704 サンシキ 佛 大乘佛教でいふ三種の心、一切の現象はこの心のはたらきに由ると說く。❶眞識(阿賴耶識の本體)と現識(阿賴耶識の現象)と分別事識(末那識及び前六識に當る)との稱。〔四卷楞伽、一〕又諸識略說三種識、卽眞識・現識・分別事識。❷一に異熟(又は阿賴耶 Alaya)識、心のはたらきの根源、二に思量(又は末法 Manas)識、前者を我と執着するはたらき、三に了別境(又は前六)識、眼・耳・鼻・舌・身・意の六識のはたらき。又順次に、心・意・識ともいふ。〔唯識三十頌〕彼依二識所變一、此能變唯三、謂異熟・思量、及了別境識。

【三七】705 サンシチ ❶二十一のこと。又、二百十年。〔漢書、路溫舒傳〕溫舒從二祖父一受二曆數天文一、以爲、漢厄三七之閒。〔注〕三七、二百一十歲也、自二漢初一至二哀帝元年一、二百一十年也。〔陳琳、神女賦〕漢三七之建安、荊野蠢而作レ仇。〔宋書、符瑞志上〕赤厄三七、三七二百一十年、有二外戚之簒一。〔梁昭明太子、春日宴二晉熙王一詩〕百六鐘期數、三七厄時中。❷廣東人參の類。さんしちさう。ちどめ。オランダぐさ。きく科に屬す。山漆。血止藥として用ひる。〔本草、三七〕釋名、時珍曰、彼人言、其葉左三右四、故名二三七一、蓋恐不レ然、或云、本名二山漆一、主治、止レ血散レ血定レ痛、金刃箭傷、跌撲杖瘡、血出不レ止者、嚼爛塗、或爲レ末摻レ之、其血卽止。

【三七忌】706 サンシチキ 三七日忌の略。死後二十一日目の佛事供養。孝力忌。光善忌。

【三七錢】707 san¹ ch'i¹ ch'ien² 質の粗惡な銅錢三割を普通の銅錢中に混じて授受すること。商人の語。

【三七日】708 サンシチニチ ❶二十一日間。又、二十一日目。〔和漢三才圖會、造釀類、酢〕每七日一次攪レ之、三七日而成。❷人の死後、二十一日目。此の日に佛事を修める。みなのか。三七忌。〔梵網經、下〕父母兄弟、和上阿闍梨、亡滅之日、及三七日、乃至七七日、亦應下讀二誦講二說大乘經律一、齋會求上レ福。❸出產後、二十一日目。又、其の日の祝。まくらなほし。

【三七言格】709 サンシチゲンカク 詩格の一つ。始に三言の句を置き、終りに七言の句を置く。例へば李白の將進酒詩に、五花馬、千金裘、呼レ兒將三出換二美酒一、與レ爾同銷萬古愁といふの類。

【三七日忌】710 サンシチニチキ 死後二十一日目の佛事供養。三七忌。

【三疾】711 サンシツ 氣質の上の三疾患。狂・矜・愚。〔論語、陽貨〕古者民有二三疾一、今也或是之亡也、古之狂也肆、今之狂也蕩、古之矜也廉、今之矜也忿戾、古之愚也直、今之愚也詐而已矣。

【三日】712 サンジツ ❶みつかの間。〔易、蠱〕元亨、利レ涉二大川一、先レ甲三日、後レ甲三日。〔禮、王制〕用二民之力一、歲不レ過二三日一。〔論語、鄕黨〕祭肉不レ出二三日一、出二三日一不レ食レ之矣。❷月の第三日。〔潘尼、三月三日洛水詩〕聊爲二三日遊一、方駕結二龍旂一。❸正月元日・二日・三日の三日間をいふ。❹德川時代の三式日。朔日・十五日・二十八日。❺ミッカビ 遠江國の地名。

【三日香】713 サンジツカウ 三日の間は、かんばしい。新しく珍しいものは、僅かの間は人が注意するが、遂には厭はしくなることをいふ。〔上官儀、和二太尉戲贈二高陽公一詩〕天津一別九秋長、豈若二隨聞三日香一。

【三日月】714 ミカヅキ 陰曆三日の月。〔和漢三才圖會、天部、朏〕前月大、則初二日明始生、前月小、則三日明始生、云云、凡三日月相去四十度許、斜向借二日光一、故如二日入レ乾月在レ庚、則其月形如二懸弓一。

【三日哭】715 サンジツノコク 廟の燒けた時、三日間、泣哭する禮。〔禮、檀弓下〕有レ焚二其先人之室一、三日哭。

【三日三夜】716 サンジツサンヤ 三晝夜。〔史記、孟子荀卿傳〕後淳于髡見、壹語連二三日三夜一無レ倦。

【三日而食】717 サンジツニシテショクス 喪のあつた時は、其の子は三日間食はず、三日目に始めて食事をする。〔孔子家語、本命解〕三日而食、三月而沐。

【三日耳聾】718 サンジツミミロウス 人から一喝されて三日間も耳が聞えないこと。〔傳燈錄〕百丈參二馬祖一、祖便喝、百丈大省、後云、我被二馬大師一喝一、直得二三日耳聾一。

【三日新婦】719 サンジツシンプ 新婚三日の花嫁。極めて窮屈な喩。〔南史、曹景宗傳〕(景宗)性躁動、出行常欲レ褰二車帷幔一、左右輒諫、以三位望隆重人所二具瞻一、不レ宜レ然、景宗謂レ所レ親曰、云云、閉置二車中一、如二三日新婦一、此邑邑使二人氣盡一。

【三日成レ魄】720 ミツカニシテハクヲナス 月が消えてから三日間で魄を生ずる。魄とは、月の微光。〔禮、鄕飮酒義〕月者三日則成レ魄、三月則成レ時。〔疏〕謂二月盡之後三日、乃成レ魄、魄謂三明生傍有二微光一也、此謂二月明盡之後而生レ魄、非レ必二月三日一也。

【三日天下】721 ミツカテンカ 三日の間、天下を取る。少しの間、勢がある。

【三日僕射】722 サンジツノボクヤ 政事を怠ること。晉の周顗が、酒を飲んで政を行はなかつた故事。〔晉書、周顗傳〕顗以二雅望一獲二海內盛名一、後頗以レ酒失、爲二僕射一、略無二醒日一、人號爲二三日僕射一。

【三日不レ擧レ樂】723 サンジツガクヲアゲズ 妻を娶る人が、親が老衰して代がはりすることを思ひ悲しんで、三日の間、音樂を奏しないこと。〔禮、曾子問〕孔子曰、嫁レ女之家、三夜不レ息レ燭、思二相離一也、取レ婦之家、三日不レ擧レ樂、思レ嗣レ親也。

【三日不レ擧レ火】724 サンジツヒヲアゲズ 食を忘れて、三日間炊がぬ。〔莊子、讓王〕顏色腫噲、手足胼胝、三日不レ擧レ火。

【三日黃塵九日晴】725 san¹ jih⁴ huang² ch'en² chiu³ jih⁴ ch'ing² 三日風吹けば九日晴れる。湖南省の俗諺。

【三日不レ弔則斷レ之】726 サンジツテウセザレバスナハチコレヲタツ 親しい間柄でも、同じ城內にありながら喪三日の間に弔問しないものは絕交する。〔顏氏家訓、風操〕若相知者、同在二城邑一、三日不レ弔、則斷レ之、除レ喪雖二相遇一、則避レ之。

【三日不レ讀レ書語無レ味】727 サンジツショヲヨマザレバゴアヂハヒナシ 僅かに三日間でも讀書しなければ、心が卑しくなつて、言語にも面白味がない。〔世說新語補、言語〕黃太史云、士大夫三日不レ讀レ書、則理義不レ交二於胸中一、便覺二面貌可レ憎、語言無レ味。〔晉書、殷仲堪傳〕仲堪能淸レ言、善屬レ文、每云、三日不レ讀二道德論一、便覺二舌本閒強一。

【三日不レ飮レ酒覺二形神不一レ相親一】728 サンジツサケヲノマザレバケイシンアヒシタシマザルヲオボユ 三日の間、酒を飮まねば、肉體と精神と離ればなれになるやうな心地がする。〔世說新語、任誕〕王佛大歎言、三日不レ飮レ酒、覺二形神不一レ復相親一。

【三襲】729 サンシフ みかさね。三重。〔唐書、拂菻傳〕王宮有二三襲門一。

【二十】730 ●十の二倍。〔詩、小雅、無羊〕三十維物、爾牲則具。〔禮、王制〕封二方百里者、三十國。〔左氏、宣、三〕成王定二鼎于郟鄏一、卜レ世三十、卜レ年七百。〔樓蠻、除夜詩〕九冬三十夜、寒與レ暖分開。●三十年。④三十歳。年齢、三十。〔梁簡文帝、戯贈麗人詩〕自矜二心所レ愛、三十侍二中郎一。〔崔顥、贈二王威古一詩〕三十羽林將、出身常事レ邊。〔白居易、歸田詩〕三十爲二近臣一、腰間鳴二佩玉一。⑪三十年の間。〔江淹、雜體、王侍中粲懐レ徳詩〕去レ郷三十載、幸遇二天下平一。〔顔眞卿、使過二瑤臺寺一有レ懐二圓寂上人一詩〕上人居二此寺一、不レ出三十年。〔權德輿、古興詩〕人生大限雖二百歳一、就レ中三十稀二一世一。

【三十階】731 位階の三十等。勅授には、正從一位・正從二位・正從三位・正從四位上下・正從五位上下、奏授には正從六位上下・正從七位上下、判授には、正從八位上下・大小初位上下。〔制度通、官侠位階正從事〕諸王諸臣三十階圖。

【三十講】732 ⑪法華經二十八品と開經の無量壽經一卷、結經の普賢觀經一卷とを合せて、一日に一卷づつ論議する法會。〔釋家官班記、下〕東塔二十講、於二常行堂一勤レ之。

【三十客】733 三十種の植物に一一客の名を附したもの。貴客(牡丹)・清客(梅)・幽客(李)・妖客(桃)・艶客(杏)・溪客(蓮)・嚴客(木樨)・蜀客(海棠)・山客(躑躅)・淡客(梨)・閨客(瑞香)・壽客(菊)・醉客(木芙蓉)・才客(酴醾)・寒客(臘梅)・仙客(瓊花)・韻客(素馨)・情客(丁香)・忠客(葵)・佞客(含笑)・狂客(楊花)・刺客(玫瑰)・癡客(月季)・時客(木槿)・村客(安石榴)・田客(鼓子花)・俗客(棣棠)・惡客(曼陀羅)・窮客(孤燈)・鬼客(棠梨)。〔西溪叢語〕平長兄伯聲、嘗得二三十客一、牡丹爲二貴客一、梅爲二清客一、李爲二幽客一、桃爲二妖客一、杏爲二艶客一、蓮爲二溪客一、木樨爲二嚴客一、海棠爲二蜀客一、躑躅爲二山客一、梨爲二淡客一、瑞香爲二閨客一、菊爲二壽客一、木芙蓉爲二醉客一、酴醾爲二才客一、臘梅爲二寒客一、瓊花爲二仙客一、素馨爲二韻客一、丁香爲二情客一、葵爲二忠客一、含笑爲二佞客一、楊花爲二狂客一、玫瑰爲二刺客一、月季爲二癡客一、木槿爲二時客一、安石榴爲二村客一、鼓子花爲二田客一、棣棠爲二俗客一、曼陀羅爲二惡客一、孤燈爲二窮客一、棠梨爲二鬼客一。

【三十子】734 梁の王僧辨が、一蔕に三十箇の實のついてゐる橘を得て梁の武帝に獻じた故事。〔梁書、元帝紀〕大寶元年正月辛亥朔、左衛將軍王僧辨、獲二橘三十子共蔕一以獻。〔陸龜蒙、襲美以二春橘一見レ惠兼二之雅篇一因次韻酬謝詩〕珍重更過二三十子一、不レ堪二分二付野人邊一。〔珍珠船、陸龜蒙橘詩、珍重更過二三十子一、不レ堪二分二付野人邊一、王僧辨嘗爲二荆南一、得二橘一蔕三十子一、以獻二梁武帝一。

【三十帥】735 六軍の卿に屬する武官。一軍毎に五帥なれば、六軍では三十帥。〔左氏、襄、二十五〕六正・五吏・三十帥、三軍之大夫。〔注〕五吏文職、三十帥武職、皆軍卿之屬官。

【三十棒】736 ⑪三十たびの打擊。きびしい打擊。〔碧巖錄、第六則〕莫レ動著、動著三十棒。

【三十六】737 數の三十六。〔埤雅〕鯉三十六鱗、具二六六之數一。〔漢書、天文志〕春秋二百四十二年間、日蝕三十六。〔北史、魏先世紀〕統國三十六、大姓九十九、威振二北方一。〔范成大、放魚行〕背負二玄鱗一三十六。〔王庭珪、題二宣和御畫一詩〕玉鎖宮扉三十六。〔王旬、宮詞〕水殿雲廊三十六、不レ知何處月明多。

【三十有(一)室】738 男子は三十歳で妻を娶る。〔禮、曲禮上〕三十曰レ壯、有レ室。〔禮、內則〕三十而有レ室、始理二男事一。〔孔叢子、論書〕禮、丈夫三十而室。〔易林〕三十無レ室、長女獨宿。〔白居易、贈二友詩一〕三十男有レ室、二十女有レ歸。

【三十一品】739 芍藥の花を三十一種に分つて品評形容したもの。冠羣芳・賽羣芳・寶妝成・盡天工・曉妝新・點妝紅・疊香英・積嬌紅・醉西施・道妝成・掬香瓊・素妝殘・試梅妝・淺妝勻・醉嬌紅・擬香英・妒嬌紅・縷金囊・怨春紅・妒鵝黃・醾金香・試濃妝・宿妝殷・取次妝・聚香絲・簇紅絲・效殷妝・會三英・合歡芳・擬繡毬・銀含稜。〔王觀、芍藥譜〕。

【三十九族】740 部落の名。西藏拉薩の東。三十九族に分る。所巴。窮播。

【三十五擧】741 書名。一卷。元、吾丘衍編。印章篆刻の事を記す。〔陀進齋叢書、十五冊〕・〔嘯園叢書、第七冊〕。

【三十五日】742 五七日(1－257・1153)に同じ。小練忌。〔尺素往來〕凡三十五日、謂二之小練忌一、四十九日、謂二之大練忌一、望二百箇日一號二卒哭忌一。

【三十五品】743 菊花の品目三十五種をいふ。龍腦菊・新羅菊・都勝菊・玉毬・王鈴・御愛菊・金萬鈴・大金鈴・銀臺・棣棠菊・蜂鈴・鵝毛菊・毬子菊・夏金鈴・秋金鈴・金錢菊・鄧州黃・鄧州白・薔薇菊・黃二色・玉盃菊・甘菊・醉醾菊・銀盆菊・繡毬菊・白菊・夏萬鈴・秋萬鈴・垂絲粉紅・荔枝菊・楊妃菊・紅二色・桃花菊・順聖淺紫・合蟬菊。〔劉蒙、菊譜〕。

【三十三所】744 ⑪觀音の靈所。我が國の西國三十三番札所は、一番(如意輪觀音)紀州那智山・二番(十一面觀音)紀州三井寺・三番(千手觀音)紀州粉河寺・四番(千手觀音)泉州槇尾寺・五番(千手觀音)河州藤井寺・六番(千手觀音)和州壺坂寺・七番(如意輪觀音)和州岡寺・八番(十一面觀音)和州長谷寺・九番(不空羂索觀音)奈良南圓堂・十番(千手觀音)山城三室・十一番(准胝觀音)山城上醍醐寺・十二番(千手觀音)江州岩間寺・十三番(如意輪觀音)江州石山寺・十四番(如意輪觀音)大津三井寺・十五番(千手觀音)洛外今熊野・十六番(千手觀音)東山清水寺・十七番(十一面觀音)東山六波羅蜜寺・十八番(如意輪觀音)洛陽六角堂・十九番(千手觀音)洛陽革堂・二十番(千手觀音)山城良峯・二十一番(聖觀音)丹州穴太・二十二番(千手觀音)攝州總持寺・二十三番(千手觀音)攝州勝尾寺・二十四番(十一面觀音)攝州中山寺・二十五番(千手觀音)播州清水寺・二十六番(千手觀音)播州法華寺・二十七番(如意輪觀音)播州書寫山・二十八番(聖觀音)丹州成相寺・二十九番(馬頭觀音)丹州松尾寺・三十番(千手觀音)江州竹生島・三十一番(十一面觀音)江州長命寺・三十二番(千手觀音)江州觀音寺・三十三番(十一面觀音)美濃谷汲。

【三十二身】745 ⑪觀音が衆生を濟度するために三十二體に變化することをいふ。佛身・辟支佛身・聲聞身・梵王身・帝釋身・自在天身・大自在天身・天大將軍身・毘沙門身・小王身・長者身・居士身・宰官身・婆羅門身・比丘身・比丘尼身・優婆塞身・優婆夷身・長者婦女身・居士婦女身・宰官婦女身・婆羅門婦女身・童男身・童女身・天身・龍身・夜叉身・乾闥婆身・阿修羅身・迦樓羅身・緊那羅身・摩睺羅迦身・執金剛身。〔法華經、普門品〕。

【三十二祖】746 ⑪禪宗で摩訶迦葉より慧能尊者に至る三十三人の祖師をいふ。二十八祖に五尊者を加へたもの。〔釋氏稽古錄〕。

【三十二天】747 ⑪忉利天の譯。欲界の第二天で、須彌山の頂に在るもの。中央を帝釋天とし、四方に各〻八天があるから、合して三十二天といふ。〔佛地經論、五〕三十二天、謂此山頂四面、各有二八大天王一、帝釋居レ中、故有二此數一。

【三十而立】748 三十歳で學問や見識が上達し、道德の上に強く立つて動かぬ。〔論語、爲政〕三十而立、四十而不レ惑。〔集注〕有三以自立一則守レ之固、而無二所レ事志一矣。

【三十七尊】749 ⑪金剛界曼陀羅の第一根本成身會の一千六十一尊中の五佛、卽ち大日如來・阿閦如來・寶生如來・無量壽如來・不空成就如來と、大日如來に屬する四波羅蜜菩薩(金剛波羅蜜菩薩・寶波羅蜜菩薩・法波羅蜜菩薩・業波羅蜜菩薩)と、他の四佛に屬する各四親近、卽ち十六大菩薩(彌勒菩薩・不空菩薩・除憂菩薩・除惡菩薩・香象菩薩・大精進菩薩・虛空藏菩薩・智幢菩薩・無量光菩薩・賢護菩薩・網明菩薩・月光菩薩・文殊菩薩・辨積菩薩・金剛藏菩薩・普賢菩薩)、內の四供養(嬉戲菩薩・鬘菩薩・歌菩薩・舞菩薩)、外の四供養(香菩薩・華菩薩・燈菩薩・塗香菩薩)の八供、及び四攝菩薩(金剛鉤菩薩・金剛索菩薩・金剛鎖菩薩・金剛鈴菩薩)の三十七。〔三十七尊出生義〕。

【三十二應】750 ⑪觀音が衆生を濟度するために三十二身に變化せるもの。卽ち、佛身・獨覺身・緣覺身・聲聞身・梵王身・帝釋身・自在天身・大自在天身・天大將軍身・四天王身・四天王身

太子身・人王身・長者身・居士身・宰官身・婆羅門身・比丘身・比丘尼身・優婆塞身・優婆夷身・女主國夫人命婦大家身・童男身・童女身・天身・龍身・藥叉身・乾闥婆身・阿修羅身・緊那羅身・摩睺羅迦身・人身・非人身。〔楞嚴經、六〕我身成二三十二應一入二諸國土一。

【三十二相】751（サンジフニサウ）　佛偉大な佛が具へてゐた三十二の身體の特長。若し人がこれを具へると大國王になるといふ印度の人相説。一、足安平相(足裏に凹處の無いもの)。二、千輻輪相(足下に輪形のあるもの)。三、手指纖長相(手指の細長いもの)。四、手足柔軟相(手足の柔かなもの)。五、手足縵網相(手足の指に纖緯があつて相交はるもの)。六、足跟滿足相(踵が圓滿で凹處のないもの)。七、足趺高好相(足背が高起して圓滿なもの)。八、腨如鹿王相(股肉の纖圓なもの)。九、手過膝相(手が膝より長いもの)。十、馬陰藏相(馬陰のやうに男根が體内に藏するもの)。十一、身縱廣相(身長が兩手を張つた長さに等しいもの)。十二、毛孔生青色相(毛穴から青色の一毛を生じて雜亂せぬもの)。十三、身毛上靡相(身毛の頭右旋し上に向つて偃伏するもの)。十四、身金色相(身體の色の黄色の如きもの)。十五、常光一丈相(身から光明を放つこと四面各〻一丈なもの)。十六、皮膚細滑相(皮膚の軟滑なもの)。十七、七處平滿相(兩足下・兩掌・兩肩並に頂中の缺陷のないもの)。十八、兩腋滿相(腋下充滿したもの)。十九、身如師子相(獅子王のやうに身體平正、威儀嚴肅なもの)。二十、身端直相(身形の端正なもの)。二十一、肩圓滿相(兩肩の圓滿なもの)。二十二、四十齒相(四十齒を具足したもの)。二十三、齒白齊密(齒白淨で緊密なもの)。二十四、四牙白淨相(四牙の最も白く大なるもの)。二十五、頰車如師子相(兩頰の隆滿したもの)。二十六、咽中津液得上味相(咽喉中に津液があつて食物が上味を得るもの)。二十七、廣長舌相(舌が廣く長く柔かく薄く、之を展べると面を覆つて髮際に至るもの)。二十八、梵音深遠相(音聲が清淨で遠く聞えるもの)。二十九、眼色如紺青相(眼睛の色の紺青なもの)。三十、眼睫如牛王相(牛王のやうに眼毛の殊勝なもの)。三十一、眉間白毫相(兩眉の間に白毫があり、右旋して常に光を放つもの)。三十二、頂成肉髻相(頂上に肉があり、隆起して髻の形をなすもの)で、三藏法數、四十八に見えて居る。其の他、多少異説がある。〔智度論、八十八〕隨二此閻浮提中天竺國人所一好、則現二三十二相一。

【三十二將】752（サンジフニシヤウ）　後漢の三十二人の武將。鄧禹・馬成・吳漢・王梁・賈復・陳俊・耿弇・杜茂・寇恂・傅俊・岑彭・堅鐔・馮異・王霸・朱祐・任光・祭遵・李忠・景丹・萬脩・蓋延・邳彤・姚期・劉植・耿純・臧宮・馬武・劉隆・王常・李通・竇融・卓茂。〔事類全書〕後漢顯宗、追二感前世功臣一、圖二畫二十八將於南宮一、始二鄧禹一終二耿純一、其外又有二王常・李通・竇融・卓茂一、合二三十二人一、惟馬援以二椒房一、故獨不レ及。

【三十二天】753（サンジフニテン）　天の三十二の異名。東方八天（黄曾天・玉完天・何童天・平育天・擧文天・摩夷天・越衡天・蒙翳天・南方八天（和陽天・恭華天・宗飄天・皇笳天・堂曜天・端靜天・恭慶天・極瑤天・孔昇天・皇庢天・極風天・孝芒天・翁重天・江山天・阮樂天・曇誓天）、北方八天（霄慶天・元洞天・妙成天・禁上天・常融天・玉隆天・梵度天・賈奕天）。〔羣書拾唾〕黄曾天・玉完天・何童天・平育天・擧文天・摩夷天・越衡天・蒙翳天・和陽天・恭華天・宗飄天・皇笳天・堂曜天・端靜天・恭慶天・極瑤天・孔昇天・皇庢天・極風天・孝芒天・翁重天・江山天・阮樂天・曇誓天・霄慶天・元洞天・妙成天・禁上天・常融天・玉隆天・梵度天・賈奕天。

【三十二品】754（サンジフニホン）　●菊花の品目三十二種。大金黄・小金黄・勝金黄・疊金黄・疊羅香・麝香黄・大眞黄・深色御袍黄・淺色御袍黄・十樣菊・蓮花菊・芙蓉菊・茉莉菊・喜容千葉・鴛鴦菊・木香菊・白麝香・艾葉菊・野菊・波斯菊・佛頂菊・臙脂菊・銀杏菊・樓子佛頭・御衣黄千葉・單葉小金錢・腦子菊・添色喜容・單心菊・纏枝菊・金盃玉盤・紫菊。〔羣書拾唾〕。●荔枝（レイチ）の品目三十二種。藍家江・周家紅・何家紅・法石白・綠核・虎皮・牛心・硫黄・圓丁香・珠瑁紅・朱柿・莆桃・蚶殼・龍牙・水荔枝・丁香茄・密荔・雙髻・眞珠・火山・大丁香・十八娘・將軍荔・釵頭顆・粉紅・中元紅。〔蔡君謨、荔枝譜〕。

【三十番神】755（バンジフジン）　佛天台及び日蓮宗で祀る神。法華守護の神を月の三十日に割當てたもの。熱田・諏訪・廣田・氣比・氣多・鹿島・北野・江文・貴船・伊勢・八幡・加茂・松尾・大原野・春日・平野・大比叡・小比叡・聖眞子・客人・八王子・稻荷・住吉・祇園・赤山・健部・三上・兵主・苗鹿・吉備津の神。〔叡岳要記、下〕延久五年、勸二請日本國三十神一、爲二如法堂守護神一、楞嚴院長吏阿闍梨良正、一日熱田大明神、二日諏訪大明神、三日廣田大明神、四日氣比大明神、五日氣多大明神、六日鹿島大明神、七日北野天神、八日江文大明神、九日貴船神、十日天照皇太神、十一日八幡大明神、十二日加茂大明神、十三日松尾大明神、十四日大原野大明神、十五日春日大明神、十六日平野大明神、十七日大比叡山王、十八日小比叡山王、十九日聖眞子山王、二十日客人權現、廿一日八王子山王、廿二日稻荷大明神、廿三日住吉大明神、廿四日祇園大明神、廿五日赤山大明神、廿六日健部大明神、廿七日三上大明神、廿八日兵主明神、廿九日苗鹿大明神、三十日吉備大明神。

【三十里埠】756（サンジフリフ）　地名。江蘇省南通縣の西北。一名、平湖鎭。此の北に四十里鎭・五十里鎭がある。

【三十里堡】757（サンジフリホ）　地名。●大連の北方。南滿鐵道が通つてゐる。●山東省莒縣の東北、袁公水の西岸。

【三十六雨】758（サンジフロウ）　一年間に降る雨の回數。十日一雨の計算による。〔太平御覽、天部、雨〕京房易飛候曰、太平之時、十日一雨、凡歲二十六雨、此休徵時若之應。〔太平御覽、天部、雨〕春秋説題辭曰、一歲二十六雨、天地之氣宣、十日小雨、應二天文一也、十五日大雨、以二斗運一也。

【三十六苑】759（サンジフロクエン）　漢代にあつた三十六の牧苑。〔三輔黄圖、四、苑囿〕三十六苑、漢儀注、太僕牧師諸苑三十六所、分二布北邊西邊一、以レ郎爲二苑監一、宦官奴婢三萬人、養二馬三十萬疋一、養二鳥獸者一、通名爲レ苑、故謂二之牧馬處一爲レ苑。

【三十六行】760（サンジフロクカウ）　諸種の職業を總括していふ。いろいろの商賣。三百六十行（1529）を見よ。〔清稗類鈔〕三十六行者、種種職業也、就二其成數一而言、俗爲レ之一一指定分配者、罔也、宋田汝成游覽志餘、又有二三百六十行之稱一、謂二杭州三百六十行各有二市語一也。

【三十六宮】761（サンジフロクキウ）　漢の宮殿の數。轉じて、廣く帝王の宮殿をいふ。〔班固、西都賦〕離宮別館三十六所。〔韓子蒼、背面美人圖詩〕睡起昭陽淡淡粧、不レ知緣レ底背二斜陽一、若教二轉眄一回首一、三十六宮無二粉光一。〔駱賓王、帝京篇〕漢家離宮三十六。

【三十六曲】762（サンジフロクキヨク）　琴曲の品目三十六種。河間離弄・蔡氏五弄・雙鳳・離鸞・歸風・送遠・幽蘭・白雪・長清・短清・長側・短側・清調・大遊・小遊・明君・胡笳曲・白魚歎・廣陵散・楚妃歎・風入松・烏夜啼・楚明光・石上流泉・臨汝侯・流漸涸・雙燕離・陽春弄・悦人弄・連珠弄・中揮清・暢志清・蟹行清・看客清・便辟清・宛轉清。〔通志、樂略〕。

【三十六禽】763（サンジフロクキン）　術數家は二十六禽を十二時に分配してトをなす。鳥獸、共に禽といふ。五行大義によれば、其の配合左の如し。子（燕・鼠・蝠）、丑（牛・蟹・蠵）、寅（狸・豹・虎）、卯（蝟・兎・貉）、辰（龍・蛟・魚）、巳（鱣・蚓・蛇）、午（鹿・獐・馬）、未（羊・鷹・雁）、申（猫・猿・猴）、酉（雉・鷄・烏）、戌（狗・狼・豺）、亥（豕・蜼・猪）。又、佛家で三十六の動物を十二時に配し、各〻其の時に來つて坐禪を惱ますものとす。大集經の十二獸の説に本づくもので、其の説、前説と略〻同じ。〔五行大義、論三三十六禽一〕禽蟲之類、名數甚多、今解三十六者、蓋取二六甲之數一、式經所レ用也、其十二屬配十二支一、支有二三禽一、故三十有六禽、所二以支有一三者一、分二一日一爲二三時一、旦及晝暮也、云云、此等皆上應二天星一、下屬二年命一也、三十六禽各作二方位一、禽蟲之長領、三百六十寸而倍レ之、至二三千六百一、並配二五行一。〔琅琊代醉編、三十六禽〕用修云、古者術數、又有二三十六禽一、蓋每辰而三、世少レ知レ之、子則鼠也・蝙也・燕也、丑則

水牛・黃牛・兕牛、寅則虎・豹・貙、卯則兔・狐・貉、辰則龍・蛟・虬、巳則蛇・蚓・蛞蝓、午則馬・鹿・獐、未則羊・犴・羚、申則猿・猴・犹、酉則雞・雉・烏、戌則狗・狼・豺、亥則豚也・貐也・蒿猪也、陶隱居本草注略引レ之。〔止觀〕一時爲レ三、十二時卽有二三十六獸一、寅有レ三、初是猩、次是豹、次是虎、卯有レ三、狐・兔・貉、辰有レ三、龍・蛟・魚、此九屬二東方木一也、巳有レ三、蟬・鯉・蛇、午有レ三、鹿・馬・麞、未有レ三、羊・雁・鷹、此九屬二南方火一也、申有レ三、狖・猿・猴、酉有レ三、烏・雞・雉、戌有レ三、狗・狼・豹、此九屬二西方金一也、亥有レ三、豕・貐・猪、子有レ三、猫・鼠・伏翼、丑有レ三、牛・蟹・鼈、此九屬二北方火一也。

〔三十六郡〕764 サンジフロクグン 秦の始皇が天下統治上分けた三十六郡。〔史記、秦始皇紀〕二十六年、分二天下一以爲二三十六郡一。〔注〕集解曰、三十六郡者、三川・河東・南陽・南郡・九江・鄣郡・會稽・潁川・碭郡・泗水・薛郡・東郡・琅邪・齊郡・上谷・漁陽・右北平・遼西・遼東・代郡・鉅鹿・邯鄲・上黨・太原・雲中・九原・鴈門・上郡・隴西・北地・漢中・巴郡・蜀郡・黔中・長沙、凡三十五、與二內史一爲二三十六郡一。

〔三十六計〕765 サンジフロクケイ 戰をなす種々の計策。三十六計不レ如レ遁を見よ。

〔三十六國〕766 サンジフロクコク 漢代西域の三十六國。〔漢書、西域傳上〕西域以二孝武時一始通、本三十六國、其後稍分至二五十餘一。〔王先謙補注〕三十六國者、婼羌・樓蘭・且末・小宛・精絕・戎盧・扜彌・渠勒・于闐・皮山・烏秅・西夜・子合・蒲犂・依耐・無雷・難兜・大宛・桃槐・休循・捐毒・莎車・疏勒・尉頭・姑墨・溫宿・龜茲・尉犂・危須・焉耆・姑師・墨山・劫・狐胡・渠犂・烏壘。〔後漢書、班超傳〕前世議者、皆曰、取二三十六國一、號爲レ斷二匈奴右臂一。〔魏志、東夷傳、注〕西域諸國、漢初開二其道一、時有二三十六一、後分爲二五十餘一。

〔三十六獸〕767 サンジフロクジウ 三十六禽に同じ。

〔三十六體〕768 サンジフロクタイ 唐の李商隱・溫庭筠・段成式の三人の文體。三人が相呼號して淸麗の文を鼓吹し、世にこれを三十六體といふ。三人の排行が倶に十六であつたからいふ。〔唐書、李商隱傳〕商隱初爲レ文奇古、及レ在二令狐楚府一、楚本工二章奏一、因授二其學一。商隱儷偶長短、而繁縟過レ之、時溫庭筠・段成式、倶用レ是相夸、號二三十六體一。〔小學紺珠、藝文類、三十六體〕李商隱・溫庭筠・段成式三人、皆行第十六。

〔三十六灘〕769 サンジフロクタン 數多いなだ。三十六は多數をあらはす。〔藪孤山、赤馬關詩〕三十六灘行欲レ盡、天邊始見鎭西山。

〔三十六峒〕770 サンジフロクドウ 洞穴の名。廣西省扶南・隆安・橫・綏淥等の縣の境。其の名は全部は判明してゐない。

〔三十六陂〕771 サンジフロクヒ 三十六の陂ツツミ。㊀河南省中牟縣にある。〔太平寰宇記〕圃田澤在二中牟縣一、爲レ陂者三十有六。〔中牟縣志〕今爲レ澤者八、爲レ陂者三十六、實圃田一澤之所レ分也。㊁江蘇省江都縣にある。〔方輿勝覽〕江都縣有二三十六陂一、宋王安石題二西太一宮壁一詩、三十六陂春水、白頭相二見江南一。

〔三十六物〕772 サンジフロクブツ 佛人の身に在る三十六の不淨物。外相の十二、卽ち髮・毛・爪・齒・眵・淚・液・唾・尿・溺・垢・汗と、身器の十二、卽ち皮・膚・血・肉・筋・脈・骨・髓・肪・膏・腦・膜と、內含の十二、卽ち肝・膽・腸・胃・脾・腎・心・肺・生藏・熟藏・赤痰・白痰とをいふ。〔大疏演義鈔、三十〕。

〔三十六峯〕773 サンジフロクホウ ㊀河南省登封縣にある嵩山の三十六峯をいふ。朝嶽峯・望洛峯・太陽峯・少陽峯・石城峯・石笋峯・檀香峯・丹砂峯・鉢盂峯・香爐峯・連天峯・紫霄峯・羅漢峯・七佛峯・靈隱峯・來仙峯・淸涼峯・寶勝峯・瑞應峯・瓊壁峯・紫蓋峯・翠華峯・藥堂峯・紫薇峯・白道峯・天德峯・卓劍峯・白雲峯・金牛峯・明月峯・凝碧峯・迎霞峯・玉華峯・寶柱峯・繫馬峯・白麓峯。河南府志に見ゆ。〔樓異、嵩山三十六峯賦〕雖三華以レ九而巫以二十二一兮、未レ覩二奇峰之六六一。㊁京都の東山の別稱。三十六は多數をあらはす。〔菊池溪琴、三樹酒亭與二摩島子穀一同賦詩〕朦朧三十六峰寺、箇箇鐘聲緩出レ花。

〔三十六鱗〕774 サンジフロクリン 魚の名。こひ。鯉(**12－46182**)の異名。脇から尾まで一列三十六鱗あるによる。〔夢溪筆談、書畫〕鯉魚當レ脇、一行三十六鱗、鱗有二黑文一、如二十字一、故謂二之鯉文一。〔彥周詩話〕段成式與二溫庭筠雲藍紙一詩序曰、予在二九江一、出レ意造二雲藍紙一、輒分送二一十枚一、其詩云、三十六鱗充レ使時、數番猶得表二相思一。

〔三十六灣〕775 サンジフロクワン 數多い水曲。三十六は多數をあらはす。〔森春濤、岐阜竹枝詩〕香魚欲レ上桃花落、三十六灣春水來。

〔三十漢瓦軒〕776 サンジフカングワケン 淸、翁樹培(**9－28635**・76)の室名。

〔三十五峯園〕777 サンジフゴホウエン 淸、汪士鍾(**6－17154**・232)の室名。

〔三十三觀音〕778 サンジフサンクワンオン 佛楊柳觀音・龍頭觀音・持經觀音・圓光觀音・遊戲觀音・白衣觀音・蓮臥觀音・瀧見觀音・施藥觀音・魚籃觀音・德王觀音・水月觀音・一葉觀音・靑頸觀音・威德觀音・延命觀音・衆寶觀音・岩戶觀音・能靜觀音・阿耨觀音・阿麼提觀音・葉衣觀音・瑠璃觀音・多羅尊觀音・蛤蜊觀音・六時觀音・普慈觀音・馬郞婦觀音・合掌觀音・一如觀音・不二觀音・持蓮觀音・灑水觀音。觀音が三十三身を示現する說に本づいたもの。

〔三十三間堂〕779 サンジフサンゲンダウ 京都洛東蓮華王院本堂の俗稱。後白河天皇の御建立。一千一體の千手觀音を安置す。觀世音が三十三變身して衆生を救ふといふ佛說に因む。堂の長さが六十六間あつて、二間每に柱を立てたから、俗に此の稱がある。三十三軒堂。〔和漢三才圖會、兵器、閱射大矢數〕按、洛外大佛殿境內有レ堂、名二德長壽院一、今號二蓮華王院一、有二三十三格子一、因以爲二三十三軒堂一、(其長六十四間餘)射人居二堂庭一、今昏至二翌日昏一、以二所レ通矢數一、超二過於他一者、稱二弓天下一一、慶長十一年淺岡五兵衞始通二五十一矢一、其名鳴二于世一。

〔三十二祖傳〕780 サンジフニソデン 佛書名。淸の世宗が名僧三十二人の像を畫かせ、之に傳讚を附したもの。もと、石に刻して宮中に置いた。後、民間に傳はる。

〔三十年戰爭〕781 サンジフネンセンサウ 西曆一六一八年ボヘミヤの新敎徒の亂に端を發し、三十年間續いた戰爭。新舊兩敎徒の爭を中心とす。

〔三十六英雄〕782 サンジフロクエイユウ 五代、楊行密の部下三十六人の豪雄。〔五代史、吳徐溫世家〕徐溫少以レ販レ鹽爲レ盜、楊行密起二合淝一、隸二帳下一、行密所二與起一レ事、劉威陶雅之徒、號二三十六英雄一、獨溫未二嘗有二戰功一。

〔三十六鷗亭〕783 サンジフロクオウテイ 淸、趙昱(**10－37171**・10)の室名。

〔三十六歌仙〕784 サンジフロクカセン 一條天皇の時、藤原公任の選んだ三十六人の歌よみ。其の他、中古三十六歌仙・新三十六歌仙・女房三十六歌仙・釋門三十六歌仙・後六六選等がある。圖表を見よ。

三十六歌仙	中古三十六歌仙	新三十六歌仙
柿本人丸・紀貫之・凡河內躬恆・伊勢・大伴家持・山部赤人・在原業平・僧正遍昭・素性法師・紀友則・猿丸太夫・小野小町・藤原兼輔・藤原朝忠・藤原敦忠・藤原高光・源公忠・壬生忠岑・齋宮女御・大中臣賴基・藤原敏行・源信明・源宗于・源順・藤原淸正・源重之・藤原興風・淸原元輔・坂上是則・藤原元眞(一說在原行平)・小大君・藤原仲文・大中臣能宣・壬生忠見・平兼盛・中務。(一條天皇の時、藤原公任撰)。	後鳥羽院・藤原定家・宮內卿・藤原雅經・能因法師・藤原良經・藤原俊成・寂蓮法師・藤原賴實・藤原基俊・源賴政・慈鎭・顯昭・鴨長明・藤原有家・宜秋門院丹後・俊成女・西行法師・久我通光・藤原家隆・源通具・藤原秀能・式子內親王・崇德院・藤原兼實・二條院讚岐・後德大寺實定・源俊賴・藤原知家・西園寺公經・八條院高倉・小侍從・源經信・藤原良忠・藤原兼宗・藤原淸輔。	後鳥羽院・土御門院・順德院・後嵯峨院・雅成親王・宗尊親王・道助入道親王・式子內親王・藤原良經・藤原道家・藤原公經・久我通光・藤原實氏・源實朝・藤原基家・藤原家良・慈鎭・行意・源通具・藤原定家・八條院高倉・俊成卿女・宮內卿・藻壁門院少將・藤原爲家・藤原雅經・藤原家隆・藤原知家・藤原有家・藤原光俊・藤原信實・藤原隆祐・藤原具親・源家長・鴨長明・藤原秀能。

女房三十六歌仙

小野小町・式子內親王・伊勢・宮內卿・中務・周防內侍・齋宮女御・藤原俊成女・右近少將季繩女・待賢門院堀川・藤原道綱女・宜秋門院丹後・馬內侍・嘉陽門院越前・赤染衞門・二條院讚岐・和泉式部・小侍從・女藏人左近・後鳥羽院下野・紫式部・辨內侍・小式部內侍・少將內侍・伊勢大輔・殷富門院大輔・淸少納言・土御門院小宰相・大貳三位・八條院高倉・高內侍・後嵯峨中納言典侍・一宮紀伊・式乾門院御匣・相模・藻壁門院少將。

釋門三十六歌仙

達磨和尙・菩提僧正・大僧正行基・傳敎大師・弘法大師・慈覺大師・智證大師・沙彌滿誓・僧都玄賓・僧正遍昭・喜撰法師・僧正聖寶・素性法師・空也上人・日藏上人・蟬丸・性空上人・少僧都源信・惠慶法師・能因法師・良暹法師・律師永觀・登蓮法師・大僧正行尊・僧正永緣・俊惠法師・道因法師・西行法師・大僧正慈圓・二品親王守覺・法橋顯昭・寂蓮法師・寂念法師・僧正行意・貞慶上人・高辨上人。（正平元年、勸修寺榮海撰）。

後六六選

和泉式部・相模・惠慶法師・赤染衞門・能因法師・伊勢大輔・曾禰好忠・道命阿闍梨・藤原實方・藤原道信・平貞文・淸原深養父・大江嘉言・源道濟・藤原道雅・僧基法師・藤原公任・大江千里・在原元方・藤原輔親・藤原高遠・馬內侍・藤原義孝・紫式部・藤原道綱母・藤原長能・藤原定賴・上東門院中將・兼覽王・在原棟梁・文屋康秀・藤原忠房・菅原昭輔・大江匡衡・安法法師・淸少納言。（藤原範兼撰）。

【三十六江樓】785 サンジフロクカウロウ　廣東三水縣江口に行臺が有つたが、後、これを肇啓府に遷したので、阮元が其の跡を書院にした。其の地が、三十六江に臨んでゐるので三十六江樓の名がある。北江のもの九、卽ち湞江・始興江・墨江・錦江・翁江・廡江・滃江・政賓江・蒼江、西江のもの二十七、北盤江・南盤江・龍塘江・思覽江・牂牁江・柳江・灕江・鬱江・潯江・西洋江・洛靑江・馱蒙江・黃龍江・橘江・荔江・藤江・繡江・橫槎江・邕江・秋風江・賀江・新江・白馬江・金城江・綠蘿江・蕉花江・武陽江。皆この地に會する。〔兩般秋雨盦隨筆〕。

【三十六詩仙】786 サンジフロクシセン　石川丈山の選んだ漢から宋に至るまでの詩家、三十六人。其の像を狩野探幽に詩仙堂の四壁に畫かしめた。左壁に蘇武・謝靈運・杜審言・李白・王維・高適・儲光羲・韋應物・韓愈・劉禹錫・李賀・杜牧・寒山・林逋・梅堯臣・歐陽脩・黃庭堅・陳與義の十八人、右壁に陶潛・鮑照・陳子昂・杜甫・孟浩然・岑參・王昌齡・劉長卿・柳宗元・白居易・盧仝・李商隱・靈徹・邵雍・蘇軾・陳師道・曾幾・蘇舜欽の十八人を列す。其の題詩並に像を模寫したものは、三橘成烈の詩仙堂志四卷、並に石川丈山の詩仙圖像七卷に見ゆ。〔柴野栗山、詩仙堂詩序〕選下漢魏至二唐宋一詩人三十有六人詩上、扁二列楣閒一。

【三十六字母】787 サンジフロクジボ　漢字發音の基礎となる三十六の子音を表はす文字。唐末の僧、守溫の傳へたもの。司馬溫公の切韻指掌圖によれば、脣・舌・牙・齒・喉の五音を取つて、見・溪・羣・疑の四字を牙音とし、端・透・定・泥の四字を舌頭音とし、知・徹・澄・娘の四字を舌上音とし、幫・滂・並・明の四字を重脣音とし、非・敷・奉・微の四字を輕脣音とし、精・心・淸・從・斜の五字を齒頭音とし、照・審・穿・牀・禪の五字を正齒音とし、影・曉・匣・喩の四字を喉音とし、來・日の二字を半舌半齒音として居る。又、淸濁を分つて、見・端・知・幫・非・精・心・照・審・影を全淸、溪・透・徹・滂・敷・淸・穿・曉を次淸、羣・定・澄・並・奉・從・牀・匣を全濁、疑・泥・娘・明・微・喩・來・日を不淸不濁、斜・禪を半濁半淸とす。〔通志、七音略序〕此書雖レ重二百譯之遠、一字不通之處一、而音義可レ傳、華僧從而定レ之、以二三十六一爲二之母一、重輕淸濁不レ失二其倫一、天地萬物之音備二於此一矣。〔徐溥、韻學集成序〕按、司馬溫公三十六字母、約爲二一百四十四聲一、辨二開闔一以分二輕重一、審二淸濁一以訂二虛實一、極二五音六律之變一、分爲二四聲八轉之異一。〔王圻續文獻通考、三十六字母切韻法〕。

見 經電 經經堅見、　溪 牽奚 牽輕牽溪、　羣 衢云 衢勤虔羣、
疑 魚其 魚銀言疑、　端 多官 多丁顚端、　透 他候 他汀天透、
定 徒經 徒廷田定、　泥 年題 年寧年泥、　知 珍離 珍珍邅知、
徹 敕列 敕稱燀徹、　澄 持陵 持陳廛澄、　孃 女良 女寧年孃、
幫 博旁 博賓邊幫、　滂 普郎 普娉偏滂、　並 部迴 部頻蠙並、
明 眉兵 眉民綿明、　非 匪微 匪分蕃非、　敷 芳無 芳芬番敷、
奉 父勇 父墳煩奉、　微 無非 無文頑微、　精 子盈 子津煎精、
淸 七情 七親千淸、　從 牆容 牆秦錢從、　心 思尋 思新仙心、
邪 徐嗟 徐錫涎邪、　照 之笑 之征氈照、　穿 昌緣 昌稱輻穿、
牀 仕莊 仕秦前牀、　審 式荏 式身羶審、　禪 時連 時展然禪、
影 於警 於殷焉影、　曉 馨鳥 馨馨衿曉、　匣 轄甲 轄刑賢匣、
喩 兪戍 兪勻緣喩、　來 郎才 郎隣連來、　日 入質 入仁然日。

【三十六儒仙】788 サンジフロクジユセン　三十六人の儒者。仙は美稱。伏羲・神農・黃帝・帝堯・帝舜（五帝）・禹王（夏）・湯王（殷）・后稷・子氏契・皐陶（唐虞）・伊尹・傅說（殷）・文王・武王・周公・孔子・顏子・曾子・子思・孟子・（周）董仲舒（前漢）・文中子（隋）・韓昌黎（唐）・歐陽子・周濂溪・程明道・程伊川・張橫渠・司馬溫公・邵康節・陸象山・朱文公・張南軒・眞西山（宋）・許文正（元）・王陽明（明）。〔儒仙〕帝代二燧人一、降二于成紀一、八卦五行、自然而理、敎作二佃漁一、官號二龍氏一、從レ是生民漸得二其利一。（伏羲）。出レ姜都レ耆、生而聖神、市爲二交易一、藥辯二君臣一、帝德不レ煩、火紀二秋春一、夙沙就レ戮、萬國向レ淳。（神農）。有熊肇立、居二軒轅丘一、位代二炎帝一、威擒二蚩尤一、雲師土德、畫レ野分レ州、華胥入レ夢、自德悠悠。（黃帝）。這智如レ神、那旽嘷嘷、更相受禪、冥二合天道一、出游二康衢一、見二鼓腹老一、政化流行、一變二海鳥一。（帝堯）。姚墟有レ鰥、因レ考登庸、相擧二十六一、賊去二回凶一、都兪吁咈、垂拱雍容、陟二方蒼野一、白雲護レ封。（帝堯）。洪水橫流、帝曰咨禹、乃載二冀州一、櫛レ風沐レ雨、居レ外八年、奄二有下土一、千古優名、鐫有二峋嶁一。（禹王）。方二夏之昏一、商修二仁義一、不レ輸二苞苴一、不レ殖二貨利一、更誓二亳都一、用爽二厥師一、湯武異レ時、其事一レ致。（湯王）。姜源克禋、時維生レ棄、成人好レ農、廡麥正穗、佐レ帝有レ功、遂封二邰地一、淸廟生民、洋洋不レ已。（后稷）。唐虞隆盛、匪二一士烈一、明明陛趍、穆穆布列、就レ中功勞、彼子氏契、五敎之名、各自品節。（子氏契）。高陽玄孫、爲二唐虞吏一、五刑之常、九德之治、君臣颺言、是難是議、乃賡裁レ歌、欽哉庶事。（皐陶）。天啓二有殷一、君生二空桑一、始終一德、從レ桀從レ湯、旣紬二夏命一、奉二事嗣王一、太甲之訓、嘉言孔彰。（伊尹）。夢裏神會、高宗得レ之、置二諸左右一、作レ相作レ師、朝夕納レ海、霖雨時施、一旦厭レ世、去附二南箕一。（傅說）。太王至レ岐、行道兌矣、維此文王、聖智慈理、或居二靈臺一、或囚二羑里一、繫二辭於易一、以決二臧否一。（文王）。自レ昌至レ發、良大二其家一、扶佐夾弼、有二姜氏牙一、慈休二虎賁一、長返二牛車一、瞻二彼亨レ國一、遠而又遐。（武王）。周公攝レ祚、因二嗣王种一、罪人斯得、我來レ自レ東、禮樂始備、侯伯會同、吁文之德、非二旦之功一。（周公旦）。忽垂二成童一、起レ憤忘レ食、文武周公、祖述潤色、達者三千、人人含レ德、這箇顏曾、衣鉢以得。（孔子）。仲尼之門、分レ科者四、曰閔與レ顏、維廊廟器、怒正不レ移、過亦不レ貳、其德遺レ芳、歷世賜レ謚。（顏子）。參也質魯、三省成レ功、踐履淸白、一貫流通、杏壇諸子、傳レ道惟公、戰戰兢兢、克二孝之終一。（曾子）。時際二戰國一、孰賢二其賢一、夫子胸宇、洋洋無邊、鳶魚之外、道在二目前一、若不二近思一、懸隔天淵。（子思）。亞聖大人、出レ自二魯鄒一、壯歲歷聘、躡二齊梁途一、性善養氣、世人爲レ迂、被髮救レ鬭、豈好レ辯乎。（孟子）。我遘二之子一、巍然老儒、才出二秦漢一、道倡二泗洙一、天人三索、一如レ合レ符、公孫忌レ焉、終相二江都一。（董仲舒）。隋有二王子一、隨レ師辛勤、述作大就、接二續皇墳一、累徵不レ起、倡二道河汾一、優游而卒、宜哉曰レ文。（文中子）。讀レ書爲レ文、百子搜抉、諫諍盡レ言、人主不レ悅、光範之門、藍關之雪、於惟韓公、名節奐集。（韓昌黎）。一生精力、志在レ論レ唐、屬辭比事、筆吐二光芒一、嗚呼若訥、曷惡二忠良一、官舍未三必勝二六一堂一。（歐陽子）。韓歐屢倡、斯文益劣、濂溪一

呼、孔道漸晰、決ㇾ獄免ㇾ囚、澤及ニ孥子一、瀟洒襟懷、池蓮方ㇾ潔、（周濂溪）。天地純粹、儘鍾ニ於公ニ一段和氣、襲ㇾ人融融、若知ニ心樂一、陋巷閟宮、九品以上、必有ニ成功一、（程明道）。聞ニ道濂溪一、講ニ書崇政一、口誦ニ法言一、心存ニ誠敬一、乃如ㇾ之人、中方外正、涪江浪高、佳名雷轟、（程伊川）。古人之學、直到ニ眞源一、心統ニ性情一、道準ニ乾坤一、多年黽勉、大程氏門、明以爲ㇾ諡、曷背ニ公論一、（張横渠）。鳴戲文正、緊九分人、族出ニ司馬一、書續ニ獲麟一、或問ニ厥道一、曰不ㇾ欺ㇾ神、且十餘歲、洛陽賞ㇾ春、（司馬溫公）。塵土危險、孰知ニ君康一、日月來往、天地消長、探ㇾ頤索ㇾ隱、波瀾渺茫、雝雝肅肅、得ニ安樂方一、（邵康節）。之子頓悟、豈有ニ舌端一、論議易簡、令ニ人永嘆一、四方分内、六經一貫、沕乎九淵、冰映霜寒、（陸象山）。河增山高、令ニ人仰鑽一、多藝多材、宛如ニ公旦一、造ニ聖賢域一、游ニ禮法場一、潛ニ心於易一、遁ニ衰世網一、（朱文公）。獻公次子、晦翁友生、決勇行力、玩索講評、將ㇾ絕之書、忠告眷眷、好言令色、盍ニ汗滿ㇾ面一、（張南軒）。北虜勢熾、南宋祚衰、眞子參ㇾ政、人望ㇾ有ㇾ爲、黨禁既開、濟世得ㇾ時、言敷ニ方冊一、豈曰ㇾ不ㇾ施、（眞西山）。俊豪之材、負ㇾ世而出、復ニ古於今一、隨ㇾ宜而已、生登ニ中書一、死無ニ墓誌一、欲ㇾ識ニ家傳一、邈乎洙泗、（許文正）。質稟ニ清氣一、學本ニ五流一、右ㇾ文左ㇾ武、斬ㇾ馘擒ㇾ酋、代嘉ニ厥勛一、封ㇾ伯贈ㇾ侯、餘風寥邈、人仰ニ謨猷一、（王陽明）。

〔三十六天罡〕789 サンジフロクテンカウ 天罡は北斗星で、道家の説によれば、其の中に凡そ三十六神ありといふ。又、水滸傳などで之に配した三十六人の頭領。〔宣和遺事、前集下〕把ニ開天書一卷一、仔細看覷、見ㇾ有ニ三十六將的姓名一、那三十六人、道ニ箇甚底一云云、宋江看ニ了人名一、末後有ニ一行字一、寫道、天書付ニ天罡院三十六員猛將一、使下呼保義宋江爲ㇾ帥、廣行ニ忠義一、殄中滅奸邪上。〔水滸傳、七十一回〕石碣前面書、梁山泊天罡星三十六員。

〔三十六洞天〕790 サンジフロクドウテン 道家に於ては、天地の間に三十六天があるといふ。〔述異記、下〕人間三十六洞天、知ㇾ名者十耳、餘二十六天、出ニ九微志一、不ㇾ行ニ於世一也。〔魏書、釋老志〕二儀之間、有ニ三十六天一、中有ニ三十宮一、宮有ニ一主一。

〔三十六武仙〕791 サンジフロクブセン 三十六人の武人。太公望・管仲・田穰苴・范蠡・孫武・吳起・樂毅・田單・白起・王翦（周）・張良・韓信・曹參・周勃・周亞夫・趙充國（前漢）・吳漢・馮異（後漢）・諸葛亮・司馬懿・周瑜・關羽（三國）・王濬・謝玄（晉）・檀道濟・斛律光・韋孝寬（南北朝）・韓擒虎（隋）・李勣・李靖・郭子儀・李光弼（唐）・曹彬・狄青・岳飛・韓世忠（宋）。〔武仙〕殷亡周勃興、謀使ニ呂公能一、早喚ニ孟津兕一、終揚ニ牧野鷹一、（太公望）。仲父豈恩讎、霸君忘ㇾ射ㇾ鉤、包茅纔問ㇾ罪、功首在ニ葵丘一、（管仲）。齊師捍ニ晉燕一、司馬執ニ兵權一、莊賈汝何晏、嚴明日表前、（田穰苴）。鳴ㇾ鼓滅ニ三吳一、浮ㇾ舟歸ニ五湖一、深機先見處、文種愧ニ陶朱一、（范蠡）。擧揚正正旗、孫子計尤奇、驚破吳王膽、令嚴斬ニ愛姬一、（孫武）。吳公能用ㇾ兵、楚魏共馳ㇾ名、説ㇾ與ニ西河守一、吮ㇾ疽得ニ士情一、（吳起）。曾被ニ燕昭選一、徇ㇾ齊幾鏖戰、多哉七十城、一擧爲ニ郡縣一、（樂毅）。安平眞剛果、能免ニ亡國禍一、千牛怒驚馳、燕軍一面火、（田單）。長平千歲冤、四十萬人魂、一劍霜空落、杜郵野草繁、（白起）。王氏攻皆克、荊燕悉敗北、老將軍最精、二秦幷ニ六國一、（王翦）。幄籌如ㇾ有ㇾ神、書授ㇾ自ニ邳垠一、一代眞男子、從容似ニ婦人一、（張良）。多多益辦處、登壇帥ニ師旅一、一ニ洗胯下羞一、王ㇾ齊又王ㇾ楚、（韓信）。一身七十創、采邑食ニ平陽一、功在ニ酇侯次一、莫ㇾ疑遽趣ㇾ裝、（曹參）。安ㇾ劉卽立ㇾ文、漢室策ニ功勳一、左袒一呼後、應ㇾ聲南北軍、（周勃）。條侯威名震、七國不ㇾ得ㇾ進、細柳營下風、吹徹北虜陣、（周亞夫）。虎臣班鬢齡、自試討ニ先零一、數奏屯田議、偉功垂ニ殺青一、（趙充國）。炎政再御ㇾ極、居多子顏力、稍安不ㇾ忘ㇾ危、隱如ニ一敵國一、（吳漢）。大樹唯吾獨、諸將功爭逐、嘗ㇾ艱供ニ至尊一、麥飯與ニ豆粥一、（馮異）。益州顧ニ孔明一、相悅水魚情、白扇出師處、一揮八陣兵、（諸葛亮）。仲達一猛將、擅ㇾ魏氣勢壯、倒ニ了公孫淵一、走ニ于諸葛亮一、（司馬懿）。三分割據年、公瑾屬ニ孫權一、南岩鳥林路、東風赤壁船、（周瑜）。官渡斬ニ顏良一、樊城威武揚、堪ㇾ憐功未ㇾ就、遺廟雜ニ關王一、（關羽）。長城壞了時、宋曆自ㇾ茲衰、沙與ニ餘糧一白、魏人疑不ㇾ追、（檀道濟）。幼度掃ニ兇姦一、接ㇾ兵閒水閒、喜聞風鶴捷、草颭八公山、（謝玄）。半夜夢ニ刀州一、一旗降ニ石頭一、樓船風勢急、孫皓作ニ俘囚一、（王濬）。叔裕誰敢敵、神武屢敗績、玉壁無ニ雲梯一、守ㇾ城勝ニ墨翟一、（韋孝寬）。邙山與ㇾ周戰、明月兵衆練、猛將有ニ威容一、彪身又馬面、（斛律光）。驄馬氣揚揚、一朝人建康、井中擒ニ叔寶一、地下作ニ閻王一、（韓擒虎）。萬里破ニ遼東一、勇名配ニ衞公一、鬢灰良藥外、天子不ㇾ忘ㇾ功、（李勣）。秦王軍氣發、衞公勤ニ征伐一、唐儉亦任也、快然破ニ突厥一、（李靖）。唐家再造辰、尙父戰功新、單騎見ニ回紇一、一身社稷臣、（郭子儀）。臨ㇾ淮威且武、嚴整領ニ部伍一、察ニ得史賊心一、百越爲ニ降虜一、（李光弼）。國華有ニ威察一、金陵一時拔、圖籍載ニ歸舟一、南征不ㇾ專ㇾ殺、（曹彬）。崑崙奏ニ凱旋一、賊首到ㇾ京傳、卜ニ擲軍勝術一、誰知兩字錢、（狄青）。武穆戰功立、精忠誰敢及、閫外屬ニ將軍一、長恨金牌急、（岳飛）。南北不ニ混一一、淸隱軍有ㇾ律、龍王廟畔天、網疎漏ニ兀朮一、（韓世忠）。

〔三十三尊觀音〕792 サンジフサンソンクワンオン 佛觀音が衆生を濟度するために三十三種の身に變化せるもの。不空羂索・不空勾・夜輸多羅・忿怒勾・阿魯利迦・如意輪・圓滿意願・大隨求・利樂金剛・滅惡趣・一髻羅刹・多羅女・蓮華發生・披葉衣・千手千眼・十一面・大吉祥明・水吉祥・大吉祥變・大勢至・大明白身・毘俱胝・大吉大明・及豐財・馬頭・白身・白處尊と六大（**2**—**1453**‥417）といふ。〔二中歷、三〕。

〔三十而五經立〕793 サンジフニシテゴケイタツ 三年で一經に通ずるから、十五歲の時始めて經を學べば、三十歲にして五經に通ずることをいふ。三年通ニ一經一（1425）を見よ。〔漢書、藝文志〕古之學者、耕且養、三年而通ニ一藝一、存ニ其大體一、玩ニ經文一而已、是故用ㇾ日少、而畜ㇾ德多、三十而五經立也。

〔三十娶二十嫁〕794 サンジフニシテメトリニジフニシテカス 男は三十歲で娶り、女は二十歲で嫁す。三十有ㇾ室を見よ。〔周禮、地官、媒氏〕媒氏掌ニ萬民之判一、凡男女自ニ成名一以上、皆書ニ年月日名一焉、令ニ男三十而娶、女二十而嫁一。

〔三十二勢長拳〕795 サンジフニセイチヤウケン 拳術の名。宋の太祖に始まるといふ。〔武備志、拳〕宋太祖有ニ三十二勢長拳一。

〔三十二芙蓉齋〕796 サンジフニフヨウサイ 清、龔鼎孳（**12**—**48837**‥86）の室名。

〔三十輻共ニ一轂一〕797 サンジフフクイツコクヲトモニス 三十の車輻が共に一つの車轂に集まる。轂の空虛があつてこそ車が動くといふので、虛空無爲の貴ぶべきことを示した喩。〔老子、十一〕三十輻共ニ一轂一、當ニ其無一、有ニ車之用一。〔注〕共ニ一轂一者、轂中有ㇾ孔、故衆輻共湊ㇾ之、治ㇾ身者、當ㇾ除ㇾ情去ㇾ欲、使ニ五藏空虛一、神乃歸ㇾ之也。

〔三十六湖草堂〕798 サンジフロクコサウダウ 清、李必恆（**6**—**14459**‥1879）の室名。

〔三十六峰外史〕799 サンジフロツポウグワイシ 賴襄の號。賴山陽（**10**—**36861**‥36）を見よ。

〔三十六螺書屋〕800 サンジフロクラショヲク 清、羅文俊（**9**—**28397**‥406）の室名。

〔三十六計不ㇾ如ㇾ遁〕801 サンジフロクケイニグルニシカズ かれこれと計畫するより、逃げて身を全くするのが第一の良計であるといふ意。三十六策走是上計に同じ。〔冷齋夜話〕淵才曰、三十六計、走爲ニ上計一。

〔三十六策走是上計〕802 サンジフロクサクハシルコレジヤウケイ 三十六計逃ぐるに如かず。戰の禍中に入るより、逃げる方が上策である。逃げるべき時に逃げるのが最上の策である。轉じて、面倒なことを避ける時にいふ。〔南齊書、王敬則傳〕東昏侯在ニ東宮一、議ㇾ欲ㇾ叛、使三人上ㇾ屋望ニ見征虜亭失火一、謂ニ敬則至急裝欲ㇾ走、有下告ニ敬則一者上、敬則曰、檀公三十六策、走是上計、汝父子唯應ニ急走一耳。

〔三十年弄ニ馬騎一今日被ニ驢撲一〕803 サンジフネンバキヲロウシコンニチロニウタル 三十年閒馬を乘り廻しながら、今日驢馬に蹴られた。〔通俗編、獸畜〕三十年弄ニ馬騎一今日被ニ驢撲一〕傳燈錄、趙州謂、茱萸和尙寶應謂ニ襄州僧一、巖頭謂ニ匡仁一、投子謂ニ疎山證一、均有ニ此語一。

〔三車〕804 サンシヤ 佛❶牛車・羊車・鹿車をいふ。大乘・聲聞乘・緣覺乘に喩へる。〔法華經、譬喩品〕火宅喩ニ三車一。〔謝靈運、緣覺聲聞合〕肇ニ元三車一、翻ニ乘一道一。〔楊炯、盂蘭盆賦〕上可三以荐ニ完符於七廟一、下可三以納ニ羣動於三車一。❷唐の僧の名。三車和尙、窺基（**8**—**25633**‥9）の異稱。〔宋高僧傳、窺基傳〕行駕累ニ載前之所欲一、故關輔語曰、三

車和尙、卽貞觀二十二年也。〔神僧傳〕釋窺基、字洪道、姓尉遲氏、爲二玄奘弟子一、不レ斷二情慾一、行駕累載、關輔語曰、三車和尙。

【三車法師】805 唐、窺基(8−25633‥9)の尊稱。

【三社】806 ❶大社(3−5831‥1024)・王社(7−20823‥494)・亳社(1−312‥7)各條を見よ。〔通典、禮典、吉、社稷〕周制、天子立二三社一、祭法云、王爲二羣姓一立レ社、曰二大社一、於二庫門內之西一立レ之、王自爲立レ社、曰二王社一、於二籍田一立レ之、亡國之社、曰二亳社一、廟門之外立レ之。〔小學紺珠、制度類、三社〕大社・王社・亳社。❷國社(3−4798‥295)・侯社(1−634‥40)・亳社(1−312‥7)各條を見よ。〔通典、禮典、吉、社稷〕諸侯立二三社一、祭法云、諸侯爲二百姓一立レ社、曰二國社一、於二皋門之西一立レ之、自爲立レ社、曰二侯社一、亦於二籍田中一立レ之、亳社。〔小學紺珠、制度類、三社〕國社・侯社・亳社。❸土神・穀神・句龍棄。〔小學紺珠、制度類、三社〕社土神・稷穀神・句龍棄配食。❹伊勢神宮・石清水八幡宮・春日明神。〔日本記略、九〕寛和二年十一月一日、於二八省院一、奉二幣三社幣使一。

【三舍】807 ❶九十里。一舍は軍隊一日の行程で三十里。避二三舍一を見よ。〔左氏、莊、三〕凡師出、一宿爲レ舍。再宿爲レ信、過レ信爲レ次。〔穆天子傳、六、五舍、注〕三十里爲レ舍也。❷三星宿の距離。〔淮南子、覽冥訓〕日爲レ之反三舍。〔注〕舍、次宿也。〔郭璞、遊仙詩〕廻レ日向二三舍一。❸宋代の官吏試驗の三つの學舍。外舍・內舍・上舍。三舍之法を見よ。❹關の名。四川省松潘縣の東北。一名、三舍堡。

【避二三舍一】808 一舍は軍隊一日の行程で三十里。三日の行程だけ引き退く。轉じて、自ら彼に及ばずとして一目置くこと。憚つて避けること。〔左氏、僖、二十三〕楚子謂二重耳一、若反二晉國一、則何以報二不穀一、云云、對曰、若以二君之靈一、得レ反二晉國一、晉楚治レ兵、遇二於中原一、其避レ君三舍。〔會箋〕古者師行三十里而舍、三舍爲二九十里一。

【三舍之法】809 宋代の官吏登用試驗の法。神宗の時、初めて學に入る者を外舍といひ、其の數は七百人。外舍から內舍に升る者の數は二百人。內舍から上舍に升る者の數は一百人。人ごとに一經を治め、月々其の業を試驗し、順次に舍を升せる。上舍の者には發解及び禮部式・召試を免じて第を賜ふ。〔宋史、哲宗紀二〕(元符二年十一月)乙未、詔二諸州一置二教授者一、依二大學三舍法一、考二選生徒一升補。〔宋史、選擧志三〕三舍法行、則大學始定、置二外舍生二千人、內舍生三百人、上舍生百人一。〔宋史、職官志五〕宣和三年、詔罷二天下三舍一、太學以二三舍一考選、開封府及諸路、以二科擧一取レ士、州學未レ行二三舍一以前、應下置二學宮及養士去處一依中元豐舊制上。

【三赦】810 罪を赦されるべき三種の者をいふ。幼弱(七歲以下)・老耄(八十歲以上)・庸愚。〔周禮、秋官、司刺〕壹赦曰二幼弱一、再赦曰二老旄一、三赦曰二惷愚一。〔注〕鄭司農云、幼弱老旄、若二今律令一、年未レ滿二八歲一、八十以上、非二手殺一レ人、他皆不レ坐。〔漢書、刑法志〕三赦、一曰幼弱、二曰老眊、三曰惷愚。

【三謝】811 ❶三度、禮する。〔李白、宿二五松山下荀媼家一詩〕令三人慚二漂母一、三謝不レ能レ餐。❷南朝宋の謝靈運・謝惠連と南齊の謝朓(字は玄暉)の三人をいふ。〔竇臮、述書賦〕博哉四庾、茂矣六郄、三謝之盛、八王之奇。〔小學紺珠、藝文類、三謝詩〕靈運・惠連・玄暉。

【三邪】812 三つの惡いこと。禮・樂・喪の三者に度を過すこと。〔晏子、不合經術者〕今品レ人飾レ禮、煩レ事羨レ樂、淫レ民崇レ死、以害レ生、三者聖王所レ禁也、賢人不レ用、德毀俗流、故三邪得レ行二于世一。

【三生】813 佛❶前世・現世・後世をいふ。過去・現在・未來の三世に轉生すること。〔白居易、自レ罷二河南一云云詩〕世說二三生一如レ不レ謬、共疑巢許是前身。〔李商隱、題二僧壁一詩〕若信二貝多眞實語一、三生同聽一樓鐘。〔朱鶴齡注〕佛家、以二過未現一爲二三生一。❷成佛に至る三つの段階。㋑俱舍の三生。初生に法を聞いて佛道に志し、第二生に修行し、第三生に悟つて阿羅漢となる。〔俱舍論、二十三〕極速三生、方得二解脫一。❸天台の三生。種(發心)・熟(修行)・脫(解脫)。〔法華文句、一〕。❹華嚴の三生。見聞生(前世に佛を見、法を聞く位)・解行生(現世に修行をつくす位)・證入生(後生に佛の境地に入る位)。〔探玄記、十八〕依二圓教宗一、有二其三位一、一見聞位、云云、二是解行位、云云、三證入位。

【三生債】814 三生の負債。〔劉迎、贈二董丞一詩〕俗緣不レ脫三生債、豪氣都無二萬丈畏一。〔王大用、燕子圖詩〕莫レ償恩義三生債、分付平安七字篇。

【三生石】815 浙江省杭縣、天竺寺の後山にある石。唐の圓觀が再生して李源と此處に再會した故事。〔甘澤謠〕李源與二圓觀一爲二忘言交一、自二荊江一上レ峽、見二婦人錦襠負レ罌而汲一、圓觀曰、是某託レ身之所、更後十二年、杭州天竺寺外、與レ君相見、是夕圓觀亡、後十二年、源詣二餘杭一、赴二其所レ約、有二牧豎一、歌二竹詞枝一、乃圓觀也、歌曰、三生石上舊精魂、賞レ月吟レ風不レ要レ論、慚愧情人遠相訪、此身雖レ異性長存。〔貫休、酬二張相公見一レ寄詩〕感通未レ合三生石、騷雅歡擎九轉金。〔丁鶴年、悼二湖心寺壁東文上人一詩〕雲迷圓澤三生石。〔藤原兼良、亂後出レ京到二江州水口一詩〕憶得三生石上緣、一菴風雨夜無レ眠。

【三生有レ幸】816 ❶三度生れかはつて、其の都度幸福を受ける樣に、事に奇緣有るをいふ。〔傳燈錄〕有二一省郞一、夢至二碧巖下一老僧前一、烟穗極微、云、此是檀越結願、香烟存而檀越已三生矣、第一生、明皇時劍南安撫巡官、第二生、憲皇時西蜀書記、第三生、卽今生也。〔故事成語考、人事〕事有二奇緣一、曰二三生有一レ幸。❷三生の幸福。非常な幸福。非常な光榮。

【三生二萬物一】817 三とは一元氣と陰陽とをいふ。或は陰陽の交はる力をいふ。これから天下の萬物が皆生出する。〔老子、四十二〕道生レ一、一生レ二、二生レ三、三生二萬物一。〔司馬光、老子注〕道生レ一、自レ無而有、一生レ二、分レ陰分レ陽、二生レ三、陰陽交而生レ和、三生二萬物一、和氣合而生レ物。

【三性】818 佛❶善・惡・無記の三つの性。善性は信等の善心、及びそれから起る一切の善のはたらき。惡性は貪等の惡心、及びそれから起る一切の惡のはたらき。無記性は善でも惡でもないもので、ただ善又は惡のはたらきに引かれて人格性を構成してゆく一種の心の性質。儒教の性の三品說に當る。〔唯識論、三〕記謂善・惡、有二愛非愛果一及殊勝自體可二記別一、故此非二善・惡一、故名二無記一。❷心のはたらきにもとづく諸法の三つの在り方。一つに遍計所執性。一切の現象は相依相成のもので、一として獨立して存在するものはないのに、我・法といふ單獨性があると迷ふこと。二に依他起性。上述の道理によつて見られた一切萬法。三に圓成實性。悟つてみれば依他起性が卽ち本來の眞實のすがたであること。眞如。法性。又、三自性、三種自性ともいふ。〔唯識論、八〕應レ知三性亦不レ離レ識、云云、此遍計所執自性無二所有一、依他起自性緣所レ生、圓成實於レ彼常遠二離前一性、故此與二依他一非レ異非二不異一。

【三性花】819 雜性花(11−42122‥232)に同じ。

【三唱】820 三度となへる。又、三度歌ひ或は鳴くこと。〔花蕊夫人、宮詞〕雞人報レ曉纔二三唱一、玉井金床轉二轆轤一。

【三啇】821 約四十五分間。三刻(548)の❶に同じ。啇は漏箭の刻む所をいふ。啇(2−3803)の字解を見よ。〔通雅、天文〕三啇、三刻也。〔詩、齊風、東方未明、不レ能二辰夜一、不レ夙則莫、疏〕尙書緯、謂レ刻爲レ啇、鄭作二士昏禮目錄一云、日入三啇爲レ昏、擧二全數一以言耳。〔儀禮、士昏禮、題疏〕鄭目錄云、士娶レ妻之禮、以レ昏爲レ期、因而名焉、必以レ昏者、陽往而陰來、日入三啇爲レ昏。

【三章】822 ❶文章の三つの段落。〔詩、周南、關雎、詁訓傳〕關雎五章、章四句、故言二三章、一章四句、二章章八句。❷漢の高祖が定めた三箇條の法律。轉じて、簡明な規則。法三章(6−17290‥372)に同じ。〔史記、高祖紀〕吾當レ王二關中一、與二父老一約、法三章耳、殺レ人者死、傷レ人及盜抵レ罪、餘悉除二去秦法一。〔班固、述高紀〕三章是紀。〔精註雅俗故事讀本、下、訟獄〕漢祖三章。❸三つの模樣。〔周禮、春官、司服、鷩冕、注〕其衣三章、裳四章、凡七也。

【三湘】823 ❶地名。湘郷・湘潭・湘陰。〔太平寰宇記〕以二湘郷・湘潭・湘陰一爲二三湘一。❷河の名。㋑沅湘・瀟湘・蒸湘。一説に、瀟湘・瀟湘・蒸湘。〔長沙府志〕湘江在二縣西一、環レ城而下、湘者、相也、言レ有レ所レ合也、長沙舊名臨湘縣、本レ此、三湘者、瀟湘・蒸湘・沅湘也、後人謂二湘郷・湘潭・湘陰一者、非。㋺揚子江・湘江・沅江。〔小學紺珠〕地理類、三湘〕江・湘・沅、文選注、二湘一謂二三江一也。

【三湘浦】824 地名。湖南省岳陽縣の北の城陵磯。一名、侯景浦。梁の侯景が、王僧辨と戦つて敗れた處。〔元和志〕侯景浦、本名二湘浦一、景既克二建業一、自統レ兵西趨二荊峽一、先遣二其將宋子仙・任約・襲二郢州一、湘東王繹令二王僧辨拒レ之、景軍大敗、繞レ營退走。

【三象】825 ❶周公の樂の名。一説に、武王の樂の名。〔呂覽、古樂〕商人服レ象、爲二虐于東夷一、周公遂以師逐レ之、至二于江南一、乃爲二三象一、以嘉二其德一。〔注〕三象、周公所レ作樂名。〔淮南子、齊俗訓〕其樂、大武・三象・棘下。〔注〕三象・棘下、武王樂也。❷日・月・星。〔沈約、齊武帝謚議〕含二精靈于五緯一、駕二貞明于三象一。

【三障】826 ㊀煩惱(貪・瞋・癡等の惑)・業(五逆・十惡の業)・報(地獄・餓鬼・畜生等の苦報)。又、皮煩惱(貪・瞋等の惑)・肉煩惱(斷見・常見など内心の分別に屬する惑)・心煩惱(眞心に迷つて生ずる無明の惑)の稱。障は正道を障害すること。〔梁簡文帝、重請二御講一啓〕心花成レ樹共轉二六塵一、鏡裏得レ珠俱開二三障一。

【三殤】827 ❶未成年で死んだ者の三區別。長殤(十六歲乃至十九歲)・中殤(十二歲乃至十五歲)・下殤(八歲乃至十一歲)。〔儀禮、喪服傳〕年十九至二十六一爲二長殤一、十五至二十二一爲二中殤一、十一至二八歲一爲二下殤一。❷三人の横死したもの。横死を殤といふ。〔謝瞻、張子房詩〕力政吞二九鼎一、苛慝暴二三殤一。〔注〕翰曰、横死曰レ殤、孔子過二太山一、有レ婦人哭二於墓一者而哀、使二子貢問一レ之、曰、吾舅死二於虎一、吾夫又死焉、今吾子又死焉、曰、何不レ去也、曰、無二苛政一、孔子曰、小子志レ之、苛政猛二於虎一也。秦之苛法天下怨レ之、其暴甚二於此一三殤一也。

【三觴】828 三度、さかづきを受ける。〔論衡、語增〕尊者之前、三觴而退。〔司空曙、和二耿拾遺元日觀レ早朝一詩〕壽酒三觴退、簫韶九奏停。

【三上】829 ❶作文の工夫を凝らす最適の三つの場所。馬上・枕上・厠上。(雪隱)。〔歸田錄、二〕余因謂二希深一曰、所作文章、多在二三上一、乃馬上・枕上・厠上也、蓋惟此尤可二以屬一レ思爾。❷三度たてまつる。〔宋史、禮志二〕搢二圭跪一三上レ香。〔宋史、陳師錫傳〕元祐初、蘇軾三上レ章。

【三城】830 三つの城。〔戰國、秦策〕三國且レ去、吾特以二三城一從レ之。〔杜甫、西山詩〕辛苦二城戍、長防萬里秋。

【三常】831 常に定つて變らぬ三つのもの。❶天の象・地の刑・人の禮。〔管子、君臣上〕天有二常象一、地有二常形一、人有二常禮一、一設而不レ更、此謂二三常一。❷政の幹・禮の宗・國の常。〔國語、晉語四〕愛二糞土一以毀二三常一。〔注〕三常、政之幹、禮之宗、國之常也。

【三淨】832 ㊀色界の第三禪の三天。少淨・無量淨・遍淨。〔新譯仁王經、上〕九梵二三淨一。

【三淨肉】833 小乘戒中で比丘の食ふことを許した三種の淨肉。一、自ら其の殺すのを見ないもの。二、自分のために殺したと聞かないもの。三、自分のために殺した疑のないもの。〔十誦律、三十七〕我聽レ噉二三種淨肉一、何等三、不見・不聞・不疑。

【三襄】834 蜀郡にゐた夷狄の一種。〔後漢書、西南夷、莋都夷傳〕安帝永初元年、蜀郡二襄種夷一、與レ徼外汙衍種一、并レ兵三千餘人、反叛攻二三陵城一。

【三壤】835 上・中・下三等の土地。壤は耕した地。〔書、禹貢〕六府孔脩、庶土交正、底レ愼財賦一、咸則二三壤一、成二賦中邦一。〔蔡傳〕九州穀土、又皆品二節之一、以二上・中・下一三等一。

【三讓】836 ❶三たび讓る。〔論語、泰伯〕泰伯其可レ謂二至德一也已矣、三以二天下一讓、民無二得而稱一焉。〔史記、高祖紀〕漢王三讓、不レ得レ已、乃卽二皇帝位汜水之陽一。〔史記、宋世家〕宋宣公病、讓二其弟和一、和亦三讓而受レ之、是爲二穆公一。❷賓主の禮。三揖三讓を以て禮とする。〔儀禮、士冠禮〕三揖至二于階一、三讓。〔禮、禮器〕三辭三讓而至。❸三度、責める。〔周禮、地官、司救〕凡民之有二衰惡一者、三讓而罰。〔疏〕云二三讓而罰一者、凡欲二治二罰人一者、皆先以二言語一責二讓之一、乃行二治罰一。

【三錫】837 清、倪賜(1－792：14)の字。

【三爵】838 ❶酒を三ばい飲むこと。〔詩、小雅、賓之初筵〕三爵不レ識、矧敢多又。〔禮、玉藻〕禮已三爵、而油油以退。〔左氏、宣、二〕臣侍二君宴一、過二三爵一、非レ禮也。〔北史、齊高祖紀〕少能二劇飲一、自當二大任一、不レ過二三爵一。〔拾遺記、前漢上〕南人受二此釀法一、今言二雲陽出一美酒一、兩聲相亂矣、帝飲二三爵一、色悅心歡。❷獻・酬・酢をいふ。〔小學紺珠、器用類、三爵〕獻・酢・酬。❸介爵・酢爵・僎爵をいふ。〔小學紺珠、器用類、三爵〕介爵・酢爵・僎爵。

【三主】839 顏面の額門・準頭・地角(地閣)。三停(1309)の❶の㋺に同じ。〔神相全編、十觀〕三停者、額門・準頭・地閣、此面部三停也、又爲二三才一、又爲二三主一、又爲二三表一。

【三守】840 韓非子の篇名。

【三首】841 ❶三つのくび。〔易林〕三首六身、莫二適所一聞、更伏搖動、動失二事宜一、箕子佯狂、國乃不レ昌。〔易林〕三首六目、政多煩惑、梟陶瘡聾、亂不レ可レ從。❷三つの文。又は三つの詩。〔晉書、禮志下〕古者冠婚皆有二醮、鄭氏醮文三首具存一。〔羅隱、廣陵秋夜讀二進士常修三篇一因題詩〕入レ蜀歸レ吳三首詩、藏二於笥篋一重二於師一。❸古代あつたといふ國の名。其の國人は皆、一身三首だといふ。〔山海經、海外南經〕三首國、在二其東一、其爲レ人、一身三首。〔郭璞、山海經圖、三首國贊〕雖レ云二一氣一呼吸異レ道、觀則俱見、食則皆飽。〔三才圖會、人物、十四〕三首國、在二夏后啓北一、其人一身三首。

三首國(會圖三才)

【三首日】842 月の一日と十一日と二十一日の稱。〔日次紀事、一、正月〕凡每月朔日、十一日、二十一日、三首日、神明二十一社詣。

【三珠】843 ❶珍木の名。三珠樹の❶を見よ。〔庾闡、揚都賦〕林蔚八桂之叢、色耀三珠之華。〔庾信、傷心賦〕至レ如二三虎一、三龍、三珠兩鳳、並有二山澤之靈一、各入二熊羆之夢一。〔程俱、古釣臺歌〕投竿百轄何足レ道、直拂二三珠一挂二瑤草一。❷三珠符に同じ。〔薩都剌、送二管十班監憲除一廣西宣慰使一詩〕花驄一日行二千里一、金虎三珠照二百蠻一。

【三珠釵】844 美しいかんざし。〔崔瑗、三珠釵銘〕元正上日、百福孔靈、髣髴如レ雲、乃象二衆星一、三珠璜釵、攝髮贊レ瑩。

【三珠樹】845 ❶一種の珍木の名。〔山海經、海外南經〕三珠樹、在二厭火北一、生二赤水上一、其爲レ樹如レ柏、葉皆爲レ珠。〔淮南子、墜形訓〕三珠樹、在二其東北方一。〔郭璞、山海經圖、三珠樹贊〕三珠所レ生素水之際。〔張九齡、感遇詩〕側見雙翠鳥、巢在二三珠樹一。❷唐の王勮・王勃・王勃をいふ。三人のすぐれた兄弟の喩。〔唐書、王勃傳〕初勔・勮・勃皆著二才名一、故杜易簡稱二三珠樹一。

【三珠符】846 元代の三種の兵符で、鐵符・金符・銀符に玉飾をつけたもの。〔元史、兵志一〕萬戶千戶百戶、分二上中下一、萬戶佩二金虎符一、符趺、爲二伏虎形一、首爲二明珠一、而有二三珠一珠之別一、千戶金符、百戶銀符。

【三酒】847 三つの酒。事酒、卽ち事あつて飲む酒と、昔酒、卽ち、久しく釀して熟し、事無くして飲む酒と、及び清酒、卽ち祭に飲む酒。〔周禮、天官、酒正〕辨二三酒之物一、一曰事酒、二曰昔酒、三曰清酒。〔注〕鄭司農云、事酒、有レ事而飲也、昔酒、無レ事而飲也、清酒、祭祀之酒。

【三種】848 ❶三種類。みしな。三品。〔禮、喪大記〕熬、君四種八筐、大夫三種六筐、士二種四筐、加二魚腊一焉。〔宋史、職官志三〕凡內外軍校封贈、綾紙三種、分二四等一、大綾紙二等、中綾紙一等、小綾紙一等。❷三種類の穀。黍・稷・稻。〔周禮、夏官、職方氏〕東北曰二幽州一、其畜宜二四擾一、其穀宜二三種一。〔注〕三種、黍・稷・稻。

【三種加持】849 ㊀眞言を唱へて師尚・弟子及び曼荼羅の二を加持すること。〔大日經義釋、十二〕前品說レ入二祕密漫荼羅一方便、所謂三種加持也、謂、以二眞言一加二師之身及所入之壇一、并加二弟子一、令レ住二堅固一。

【三種教相】850 サンシュケウサウ 佛 ㋑法華經が他の經に對し三種の特色があることを說いたもの。一に人の利・鈍に應じて經が說かれてゐる、二に種が熟し實る如く進歩の順に應じて說かれてゐる、三に人は本來佛智を具へてゐると說く。(法華玄義、一上)教相爲二三、一根性融不融相、二化導始終不始終相、三師弟遠近不遠近相。㋺南山の諸家に通用する頓・漸・不定の三教。(玄義、十)南地通用三種教相、一頓、二漸、三不定。

【三種清淨】851 シジャウジャウ 佛 ㊀般若を修學する菩薩の三種の清淨。心清淨・身清淨・相清淨。(智度論)。㊁身・語・意の三業が惡行を遠ざけ、惑垢を離れて清淨なることをいふ。(俱舍論、十六)諸身語意三種妙行、名二身語意三種清淨一暫永離一切惡行煩惱垢一故名爲二清淨一。㊂世間に於ける清淨と、佛道に於ける清淨と、悟の位に於ける清淨の三つ。(唯識論、四)諸清淨法亦有三種一世・出世・道・斷果別故。

【三種神器】852 サンシュジンギ 天孫降臨の際、天照大神から授けられ、皇位の標識とした歷朝相傳の三つの御寶物。みくさのかんだから。八咫鏡カガミ・八坂瓊曲玉マガタマ・天叢雲劍アメノムラクモノツルギ。三種寶物に同じ。(神皇正統記、神代)三種の神器の世に傳ふることは、日月星の天にあるに同じ。(日本政記、神武天皇)己未歲、奉二三種神器於正殿一、曰劍、曰鏡、曰璽、以二天種子命・天富命一主二祭祀一。(明治四年、九月十四日詔)朕恭ク惟ルニ神器ハ天祖威靈ノ憑ル所、歷世聖皇ノ奉シテ以テ天職ヲ治メ玉フ所ノ者ナリ。

【三種神寶】853 サンシュノカンダカラ 三種神器に同じ。(吉野都女楯、五)三種の神寶內裡に殘り給ひしを。(國史略、繼體天皇)金村跪上二三種神寶一勸進。

【三種寶物】854 サンシュノホウモツ 三種神器に同じ。(日本書紀、神代紀、下)一書曰、云云、天照大神乃賜二天津彦彦火瓊瓊杵尊一、八坂瓊曲玉及八咫鏡・草薙劍、三種寶物一。

【三銖】855 シュ 漢代に行使された貨幣の名。三銖錢を見よ。

【三銖錢】856 サンシュセン 漢の武帝の建元の初に鑄た銅錢。圓形で、四角の孔があり、三銖の二字を記す。(史記、平準書)令下縣官銷二半兩錢一、更鑄中三銖錢上、文如二其重一。(漢書、武帝紀)五年春、罷二三銖錢一、行二半兩錢一。

【三受】857 サンジュ ㊀三たび受ける。(王建、贈二王侍御一詩)三受主人辟、方出二咸陽城一。㊁佛果報に對する三種の感じ方。苦受・樂受・不苦不樂受の三つ。(唯識論、五)皆容下與二三受一相應上、皆領二順違非二相一、故領二順境相一、適悅身心一、說名二樂受一、領二違境相一、逼迫身心一、說名二苦受一、領二中容境相一、於レ身於レ心非レ逼非レ悅、名二不苦樂受一。

【三受降城】858 サンジュカウジャウ 敵の降伏を受ける三つの城。中受降城と東受降城と西受降城とをいふ。唐の張仁愿が築いたもので、今の蒙古・綏遠地方にある。(唐書、張仁愿傳)始朔方軍與二突厥一以レ河爲レ界、北虜有二拂雲祠一、云云、仁愿請乘レ虛取二漠南地一、於二河北一築二三受降城一、云云、六旬而三城就、以二拂雲一爲二中城一、南直二朔方一、西城南直二靈武一、東城南直二榆林一、三壘相距、各四百餘里、其北皆大磧也、斥レ地三百里一而遠。

【三壽】859 サンジュ ㊀二卿(410)の㊀をいふ。(詩、魯頌、閟宮)三壽作レ朋、如レ岡如レ陵。(箋)三壽、三卿也。㊁二老をいふ。上壽(百歲)・中壽(八十歲)・下壽(六十歲)。(詩、魯頌、閟宮)三壽作レ朋、如レ岡如レ陵。(傳)壽、考也。(陳奐傳疏)傳釋レ壽爲レ考、二考義未レ聞、疑、考、乃老之誤。(張衡、東京賦)送迎拜レ乎二壽一。(注)綜曰、三壽、三老也。㊂國の名。路史には平壽とあり、今、山東省濰縣に故城がある。

【三壽客】860 サンジュカク 位の尊貴な人。三壽の㊀を見よ。(揮麈後錄)神宗朝、詔修二仁英兩朝國史一、開レ局日賜レ筵、時提擧二府及修史官一、席上成レ詩、王禹玉云、簪纓三壽客、筆削兩朝書。

【三綬】861 サンジュ 二つの官を兼ねること。古は官を兼ねるものは更に一綬を帶び、二官兼職の者は三綬を帶びた故にいふ。(朱浮、爲二幽州牧一與二彭寵一書)豈有下身帶二三綬一、職典二大邦一、而不レ顧二恩義一、生二心外叛一者上乎。

【三儒】862 サンジュ 二人の儒者。漢の董仲舒・公孫弘・兒寬。(漢書、循吏傳序)惟江都相董仲舒・內史公孫弘・兒寬、居レ官可レ紀、三人皆儒者、通二於世務一、明二習文法一、以二經術一潤二飾吏事一。(小學紺珠、名臣類下、三儒、董仲舒・公孫弘・兒寬。

【三樹】863 ミキ 賴醇の號。賴鴨厓(10－36861‥29)を見よ。

【三宗】864 サンシュウ 佛 ㊀奈良時代の三宗。華嚴宗・法相宗・三論宗。㊁教義の內容から見た三宗。法相宗(諸法の構成を說く)・破相宗(諸法に實體のないことを說く)・法性宗(諸法の本來のすがたを說く)。

【三宗寶】865 san tsung pao3 燧石・鋼鐵・引火

【三終】866 サンシュウ 歌樂を三度歌ひ終ること。(禮、鄉飲酒義)工入升歌、三終、主人獻レ之。(荀子、樂論)間歌三終、合樂三終。

【三衆】867 サンシュ 中國には人が多く、大秦國には寶が多く、月氏には馬が多いこと。(史記、大宛傳、有二蒲陶酒一多二善馬一、注)索隱曰、案二外國傳一云、外國稱、天下有二三衆一、中國人衆、大秦寶衆、月氏馬衆。

【三聚】868 シュウ ㊀三箇處に集まる。(宋書、天文志三)建安二十二年、四星又聚、二十五年而魏文レ禪、此爲二四星三聚而易一レ行矣、蜀臣亦引二後聚一爲二劉備之應一。按、太元十九年、義熙二年九月、四星各一聚、而宋有二天下一與レ魏同也。㊁佛 サンジュ 三聚淨戒を見よ。(王勃、四分律宗記序)懼二六和之紊一緒、悼二三聚之乖一宗。

【三聚戒】869 サンジュカイ 佛 三聚淨戒に同じ。(心地觀經)應レ受二菩薩三聚戒、饒益一切有情戒、修攝一切善法戒。修證一切律儀戒一。

【三聚淨戒】870 サンジュジャウカイ 佛 大乘菩薩戒をいふ。一、攝律儀戒(一切の惡を離れて心を放逸せぬ戒)。二、攝善法戒(諸善を積み萬行を修する戒)。三、攝衆生戒(一に饒益有情戒、大慈大悲を起して一切衆生を利益する戒)。三聚戒。(唯識論、九)戒學有二三、一攝律儀戒、謂正遠二離所レ應レ離法一、二攝善法戒、謂正修二證所レ修證一法一、三饒益有情戒、謂正利二樂一切有情一。

【三從】871 サンジュウ 婦人の一生を三期に分けて、其の從ふべき者を示した教。幼い時は親に從ひ、嫁しては夫に從ひ、老いては子に從ふ。(儀禮、喪服傳)婦人有三三從之義一、無二專用之道一、故未レ嫁從レ父、既嫁從レ夫、夫死從レ子。(大戴禮、本命)女子者無二專制之義一、有二三從之道一、在レ家從レ父、適レ人從レ夫、夫死從レ子、無所二敢自遂一也。(故事成語考、女子)何謂二三從一、從レ父、從レ夫、從レ子。

【三從兄】872 サンジュウ 年上の三いとこ。高祖を同じくする年長のいとこ。三從兄弟を見よ。(西陽雜俎、黥)成式三從兄遘、貞元中嘗過二黃坑一。(釋親考續編、兄弟姊妹)三從兄弟、三從兄、三從弟。

【三從姊】873 サンジュウ 三いとこ姊。三從兄弟を見よ。(釋親考續編、兄弟姊妹)三從姊妹、三從姊、三從妹。

【三從叔】874 サンジュクシュク 三いとこ叔父。(穆員、祕書監穆公夫人裴氏元堂誌)員三從叔寂感、太夫人少長子愛レ之。

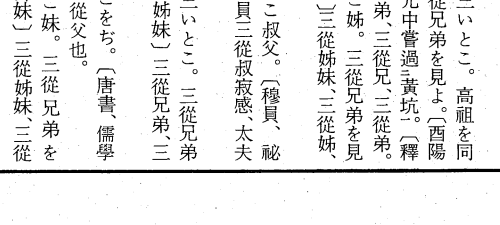
【三從弟】875 サンジュウテイ 年下の三いとこ。三從兄弟を見よ。(釋親考續編、兄弟姊妹)三從兄弟、三從兄、二從弟。

【三從父】876 サンジュウフ 三いとこをぢ。(唐書、儒學下、盧僎傳)吏部尚書從願三從父也。

【三從妹】877 サンジュウマイ 三いとこ妹。三從兄弟を見よ。(釋親考續編、兄弟姊妹)三從姊妹、三從姊、二從妹。

【三從高祖】878 サンジュウカウソ 三いとこをぢ。(困學紀聞、史記正誤)鯀則舜之五世從祖父也、而及レ舜共爲二堯臣一、堯則舜之三從高祖、而妻二其女一。

【三從兄弟】879 サンジュウケイテイ またいとこ。三いとこ。高祖を同じくする兄弟。その年長者を三從兄といひ、年少者を三從弟といふ。三從兄弟は再從兄弟(曾祖を同じくする兄弟)及び從兄弟(祖父を同じくする兄弟)に對する語。



(儀禮、喪服、族昆弟、疏)云二族昆弟一者、己之三從兄弟、皆名爲レ族、族屬也。(通典、禮典、五宗、注)孔穎達曰、別子之後族人衆多、繼二高祖一者、與二三從兄弟一爲レ宗。(圖書編、宗法總敍)其繼二

高祖一者、三從兄弟爲二之服一。

【三從昆弟】880 サンジュウコンテイ　三いとこ。三從兄弟に同じ。〔唐書、朱敬則傳〕敬則字少連、永城人、以二孝義一世被二旌顯一、一門六闕相望、與二三從昆弟一居四十年、貲產無レ異。

【三從四德】881 サンジュウシトク　賢婦人の德操をいふ。三從は幼い時は親に從ひ、嫁しては夫に從ひ、老いては子に從ふ。四德は婦德・婦言・婦容・婦功。〔儀禮、喪服傳〕婦人有二三從之義一。〔詩、周南、葛覃、言告二師氏一傳〕古者女師敎以二婦德・婦言・婦容・婦功一。〔疏〕皆昏義文也、彼注云、云云、欲下以二內則之文一充中四德上。

【三從姊妹】882 サンジュウシマイ　をんな三いとこ。三從兄弟を見よ。〔通典、禮典、五服制度、成人正服〕爲二族兄弟一。〔注〕三從兄弟、三從姊妹、出嫁卽無レ服。

【三從七去】883 サンジュウシチキョ　女子としての三つの規範と、妻が夫の家を去るべき七つの場合。三從と七去(**1**−**6**・・63)を見よ。

【三從族人】884 サンジュウゾクジン　三いとこに相當する同族。〔通典、禮典、五宗〕是故祖遷二於上一、宗易二於下一。〔注〕四代之時、仍宗二三從族人一、至二五代一、不三復宗二四從族人一、各自隨レ近爲レ宗。

【三從伯祖】885 サンジュウハクソ　三いとこをぢ。〔釋親考續編〕三從伯祖、又云、事文別集、二、九代三從伯祖、晉中書令獻之。

【三從伯父】886 サンジュウハクフ　三いとこをぢ。〔酉陽雜俎、雷〕成式至德坊三從伯父、少時於二陽羨家一乃親故也。

【三從兄弟姊妹】887 サンジュウケイテイシマイ　をとこ三いとこと、をんな三いとこ。〔釋親考〕族父之子、相謂爲二族昆弟一、會典、族兄弟、及族姊妹、謂二三從兄弟姊妹一同二高祖一者。

【三宿】888 サンシュク　㊀三度、杯を進める。宿は杯を進めること。〔書、顧命〕王三宿、三祭、三咤。〔傳〕宿、進レ爵也、禮成二於三一、故酌者實二三爵於王一、王三進レ爵、三祭レ酒、三奠レ爵。㊁三日とまる。三泊。〔孟子、公孫丑下〕予三宿而出レ晝、於二予心一、猶以爲レ速。〔白居易、答二微之詠一レ懷見レ寄詩〕分レ袂二一年勞二夢寐一、並レ牀三宿話二平生一。㊂戀戀として忘れられない意。〔黃滔、次韻答二蔣春卿一詩〕握レ手遽成二三宿戀一、論レ心那覺十年遲。〔元好問、望二崧少一詩〕結習尙餘三宿戀、殘年多負半生閑。㊃三つの星宿。〔淮南子、天文訓〕太陰在二四仲一、則歲星行二三宿一。㊄山名。廣東省四會縣の西。〔明一統志〕三宿山、在二肇慶府四會縣西、一百四十里一、山有二三峯一、若二列宿一。㊅地名。湖南省江華縣の西南。〔江華縣志〕竹子尾宿・且久宿・平岡宿、號爲二三宿一、在二縣西南一、皆平地猺也。

【三肅】889 サンシュク　軍中の禮拜の仕方。肅は肅拜で、立つたまま、體を少し曲げ手を下げて禮をする拜しかた。〔左氏、成、十六〕爲二執事一之故、敢肅二使者一、三二肅使者一而退。〔注〕肅手至レ地、若二今撎一。〔疏〕周禮大祝、辨二九拜一、九曰、肅拜、鄭司農云、肅拜、但俯下レ手、今時撎、是也。〔國語、晉語六〕爲二使者故一、敢三二肅之一。

【三出】890 サンシュツ　㊀雹をいふ。雪を六花といふのに對する語。〔埤雅〕雹形如二半球一、其粒三出、蓋雪六出而成レ華、雹三出而成レ實、此陰陽之辨也。㊁陝西鳳州の三つの出色のもの。妓女の纖白な手、柳樹の翠色、公庫の美酒。〔遯齋閒覽〕陝西鳳州、妓女雖レ不二盡妖麗一、然手皆纖白、州境內所レ植柳、翠色尤可レ愛、與二他處一不レ同、又公庫多二美醞一、故世言二鳳州有二三出一、謂二手柳酒一也。

【三術】891 サンジュツ　㊀三つの方法。〔列子、說符〕彼三術相反。㊁帝道・王道・霸道。一說に、王道・霸道・富國強兵の道。〔班固、答二賓戲一〕商鞅挾二三術一。〔注〕翰曰、三術、謂二帝道・王道・霸道一。〔漢書、敍傳上〕商鞅挾二三術一以鑽二孝公一。〔注〕應劭曰、王霸富國強兵爲二三術一也、師古曰、王一也、霸二也、富國強兵三也。

【三術撮要】892 サンジュツサツエウ　書名。一卷。撰者未詳。五行の研究上、參考となるもの。〔四庫未收書目提要、一〕。

【三俊】893 サンシュン　三儁。㊀剛・柔・正直の三德を備へた人。一說に常伯・常任・準人の才ある者。〔書、立政〕克用二三宅三俊一。〔傳〕能用二剛柔正直、三德之俊一。〔蔡傳〕三俊、謂下有二常伯・常任・準人之才一者上。㊁三人のすぐれた人。㋑漢の酈食其・田橫・韓信をいふ。〔漢書、蒯伍江息夫傳贊〕蒯通一說、而喪二三儁一。〔注〕應劭曰、亨二酈食其一、敗二田橫一、驕二韓信一也。㋺晉の顧榮・陸機兄弟をいふ。〔晉書、顧榮傳〕吳平、與二陸機兄弟一同入レ洛、時人號爲二三俊一。〔小學紺珠、名臣類下、三俊〕顧榮・陸機・陸雲。㋩唐の李紳・李德裕・元稹をいふ。〔唐書、李紳傳〕紳爲レ人短小精悍、於レ詩最有レ名、時號二短李一、穆宗召爲二右拾遺翰林學士一、與二李德裕・元稹一同レ時、號二三俊一。〔小學紺珠、名臣類、三俊〕李紳・李德裕・元稹、同レ時爲二翰林學士一、號二三俊一。

【三春】894 サンシュン　㊀春、三箇月の稱。孟春・仲春・季春。〔班固、終南山賦〕三春之季、孟夏之初。〔晉書、摯虞傳〕聽二賦政於三春一。〔陸機、答二賈長淵一詩〕游跨二三春一、情固二二秋一。〔注〕言、同游經二越三春一、情之堅固、亦已二二秋一也。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕心契二九秋幹一、目翫二三春荑一。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕三春行樂在二誰邊一。㊁三年をいふ。三度の春。〔杜甫、贈二王二十四侍御契一詩〕一別星橋夜、三移斗柄春。

【三春暉】895 サンシュンノキ　春、三箇月の日の光。親の惠のあたたかくあまねき喩。〔孟郊、遊子吟〕誰言寸草心、報二得三春暉一。

【三旬】896 サンジュン　月の上旬・中旬・下旬。又、三十日間の稱。〔周禮、地官、質人〕國中一旬、郊二旬、野三旬。〔春秋繁露、官制象天〕三旬而成レ月、三月而成レ時。〔和漢名數、二、節序〕三旬、十日曰レ旬、又曰二三澣・三浣一。

【三旬九遇食】898 サンジュンココノタビショクニアフ　三十日間に九度食事をとる。極貧の生活をいふ。〔陶潛、擬古詩〕東方有二一士一、被服常不レ完、三旬九遇レ食、十年著二一冠一、辛苦無二此比一、常有二好容顏一、我欲レ觀二其人一、晨去越二河關一、青松夾レ路生、白雲宿二簷端一、知二我故來意一、取レ琴爲レ我彈、上弦驚二別鶴一、下弦操二孤鸞一、願留就レ君住、從レ今至二歲寒一。

【三巡】899 サンジュン　三たび巡つて警戒する。〔周禮、夏官、掌固〕晝三巡レ之、夜亦如レ之。

【三准】900 サンジュン　穀と幣と財。准は準に同じ。〔管子、輕重甲〕故知二三准同策一者、能爲二天下一。〔纂詁〕穀・幣・財、爲二三准一。

【三準】901 サンジュン　㊀文章の三つの標準。卽ち情・事・辭。〔文心彫龍、鎔裁〕草二創鴻筆一、先標二三準一。㊁琴の聲調の三つの基準。一徽から四徽までを上準、四徽から七徽までを中準、七徽から龍齦までを下準とす。徽は抑揚をつけるために、絃上に附する標識をいふ。〔宋史、樂志〕姜夔樂議、分レ琴爲二三準一、自二一暉一至二四暉一、謂二之上準一、自二四暉一至二七暉一、謂二之中準一、自二七暉一至二龍齦一、謂二之下準一。

【三所】901′ サンショ サンジョ　三つの場所。〔平家物語、七、願書〕八幡大菩薩は日域朝廷の本主、累世明君の曩祖也、云云、三身の全容をあらはし、三所の權扉をおしひらき給へり。

【三署】902 サンショ　五官署・左署・右署をいふ。〔後漢書、和帝紀〕引二三署郞一、召二見禁中一。〔注〕漢官儀云、三署、謂、五官署也、左右署也、各置二中郞將一、以司レ之、郡國擧二孝廉一、以補二三署郞一、年五十以上屬二五官一、其次分在二左右署一。〔司空圖、狂題詩〕十年三署讓レ官頻、認得無レ才又索レ身。

【三助】903 サンジョ　㊀三つの助。貧を助け、困を助け、葬を助けることをいふ。〔李塨、族約〕三助、助レ貧、助レ困、助レ葬。㊁サンスケ 湯屋で湯を沸し、客の背を流す人。〔浮世風呂、二編、上〕おいねえ三助だのう。

【三徐】904 サンジョ　州の名。後魏の時、下邳(東徐州)・瑯邪(北徐州)・彭城(徐州)の稱。下邳は江蘇省邳縣、瑯邪は山東省臨沂縣、彭城は江蘇省銅山縣。

【三恕】905 サンジョ　㊀臣・子・弟に對する三つの思ひやり。〔荀子、法行〕君子有二三恕一、有レ君不レ能レ事、而有レ臣求二其使一、非レ恕也、有レ親不レ能レ報、有レ子而求二其孝一、非レ恕也、有レ兄不レ能レ敬、有レ弟而求二其聽一レ令、非レ恕也。㊁孔子家語の篇名。

【三松】906 サンショウ　㊀臺の名。廣東省南雄縣の城東。〔明一統志〕三松臺、在二南雄府城東三里一、其地隆然高阜、上有二松三株一、蒼翠如レ蓋。㊁字號。㋑明、蔣嵩(**9**−**31820**・・67)の號。㋺明、朱稚征(**6**−**14424**・・919)の號。

【三松堂】907 サンショウダウ　清、潘奕雋(**7**−**18236**・・12「5」)の室名。

【三勝】908 サンショウ　日本三景をいふ。嚴島・天橋立・松島。〔齋藤竹堂、竹堂遊記〕此島與二天橋・松島一、稱二三勝一。

【三稱】909 サンショウ　㊀衣の三揃ひ。稱は衣の單複の

具はるもの。〔儀禮、士喪禮〕乃襲ニ三稱一。❷三度となへる。三唱。〔無名氏、冊ニ上公一太常奏ニ雅樂一詩〕聖壽三稱內、天歡九奏中。〔宋史、禮志十三〕百官再拜舞蹈、三ニ稱萬歲一。

【三椿】910 san¹ chuang¹ 三つのことがら。三件。〔桃花扇、阻奸〕二祖列宗、經營垂創、吾皇辛苦力竭、一旦傾移、誰能重續滅絕、詳列、福藩罪案三椿大、五不可勢局當歇。

【三證】911 サンショウ 三つの證據のこと。〔魏書、劉芳傳〕論語曰、哀公問ニ社於宰我一、宰我對曰、夏后氏以レ松、殷人以レ柏、周人以レ栗、是乃土地之所レ宜也、此其三證也。

【三宂】912 サンジョウ 三つのむだなこと。一は、定官があつて限員がない。二は、天下の廂軍(諸州の鎭兵)が、戰爭をしないでただ衣食を消費する。三は、僧・道が日々に多くして定數がない。〔宋史、宋庠傳〕朝廷大有ニ三宂一、小有ニ三費一、何謂ニ三宂一、天下有ニ定官一無ニ限員一、一宂也、天下廂軍不レ任レ戰而耗ニ衣食一、二宂也、僧道日益多而無ニ定數一、三宂也、三宂不レ去、不レ可レ爲レ國。

【三乘】913 サンジョウ ❶三つの乘物。又、乘馬三頭。〔周禮、夏官、校人〕乘馬一師四圉、三乘爲レ皁。〔禮、少儀〕上大夫五乘、下大夫三乘。❷道家の三乘。洞眞部は元始天尊の流演するところで大乘上法といひ、洞元部は太上老君の流演するところで中乘中法といひ、洞神部は太上老君に出て、これを小乘初法といふ。〔雲笈七籤〕三乘之中乘、各有ニ十二部一、故合ニ成三十六部一也。❸回教の三乘。禮乘・道乘・理乘。〔天方典禮釋要解〕法備ニ三乘一、初曰ニ禮乘一、方云舍禮二一、總載ニ天道人道一切事功之條例一、進曰ニ道乘一、方云脫禮格、總載ニ人理物理盡人合天之法一、終曰ニ理乘一、又名ニ眞乘一、方云合幾格、總載ニ無我無物天人一致之微言一。❹佛 三つの教法。乘は人を乘せて目的地(佛位)へ運ぶ乘物、卽ち教法の意。㋑大乘の三乘。聲聞乘(小乘)・緣覺乘(辟支佛乘)・菩薩乘(大乘)。〔法華經、譬喩品〕若有ニ衆生一、內有ニ智性一、從ニ佛世尊一聞レ法信受、慇懃精進、欲ニ速出ニ三界一、自求ニ涅槃一、是名ニ聲聞乘一云云、若有ニ衆生一、從ニ佛世尊一聞レ法信受、慇懃精進、求ニ自然慧一、獨樂善寂、深知ニ諸法因緣一、是名ニ辟支佛乘一云云、若有ニ衆生一、從ニ佛世尊一聞レ法信受、勤修精進、求ニ一切智・佛智・自然智・無師智・如來知見・力無所畏一、愍ニ念安ニ樂無量衆生一、利ニ益天人一、度ニ脫一切一、是名ニ大乘一。㋺小乘の三乘。小乘・中乘・大乘。〔五教章、上二〕大乘・中乘・小乘爲ニ三乘一云云、如ニ小論中自有ニ聲聞緣覺法及佛法一。㋩大小合論の聲聞・緣覺・菩薩の三乘。〔五教章、上二〕融ニ一乘一同ニ大乘一、合ニ愚法一同ニ小乘一、唯三也。㊁一に一乘、華嚴・法華の如く一切皆成佛を明かにするもの。二に三乘法、深密・般若の如く三乘の得道を別立するもの。三に小乘、四阿含等の所明に執して一切大乘の教理を信ぜざるもの。〔五教章、上〕。

【三色】914 サンショク サンシキ ❶三つの色。〔詩、齊風、著、充耳以レ素乎而、箋〕人君五色、臣則三色而已。❷三種のもの。みいろ。〔周禮、考工記、弓人〕角長二尺有五寸、三色不レ失レ理、謂ニ之牛戴牛一。〔注〕三色、本白・中青・末豐。❸三つの顏色。鐘鼓の色(歡忻愛悅)、衰絰の色(愁悴哀憂)、兵革の色(猛厲充實)。〔韓詩外傳、四〕管仲曰、何謂ニ三色一、曰、歡忻愛說、鐘鼓之色也、愁悴哀憂、衰絰之色也、猛厲充實、兵革之色也。❹三つの原色。黃・赤・青。❺佛サンシキ 三種の色法(**9**―**30602**‥80)。五根(眼・耳・鼻・舌・身の五つの器官)・五境(五根の對象である色・聲・香・味・觸の五つの感覺)・無表(感覺されないが宇宙を形成してゐる或るもの)。〔俱舍論、一〕色者唯五根・五境及無表。

【三色旗】915 サンショクキ 三種の色に染めた旗。フランス共和國の國旗、舊ロシヤ帝國の國旗、舊ドイツ帝國の國旗の類。

【三色菫】916 サンシキスミレ 草の名。すみれ科の一二年草。莖は分枝し、各枝端から花梗を出し、高さ三寸餘に及ぶ。葉は長柄を有し、心形或は長楕圓形で、緣邊に鈍鋸齒、別に羽狀の托葉を具ふ。春夏の候、黃・白・紫或は絞り等の菫花を開く。歐州の原產。

【三色兒】917 san¹ sê⁴ êrh 胸間にさげる牙籤ジャウ・耳挖子ミミカキ・鑷子ケヌキ。

【三色性】918 サンショクセイ 橄欖石などのやうに、異なつた三方向から見ると、夫々に異なつた三色を呈する性質。

【三色說】919 サンショクセツ 光覺を三原色の複合關係から說明せんとする視覺說。三原色說。

【三色版】920 サンショクバン 黃・赤・青の三原色を刷り重ねて原圖と同じ色彩を得る製版印刷法。

【三食】921 サンショク ❶三度、食する。三飡。〔周禮、秋官、掌客〕三饗・三食・三燕。〔戰國、齊策〕士三食不レ得レ饜、而君鵝鶩有ニ餘食一。❷三度の日食。〔漢書、五行志下之下〕三復三食。❸三通りの方法で生計を立てる。莊卽ち穀物を賣つて食ふ(蝗蟲)、書を鬻いで食ふ(蠹魚)、奴婢を賣つて食ふ(大蟲)。三變。〔北夢瑣言〕唐咸通中、荊州有ニ書生號ニ唐五經一者上、云云、常謂レ人曰、不肖子弟有ニ三變一、第一變爲ニ蝗蟲一、謂ニ鬻レ莊而食一也、第二變爲ニ蠹魚一、謂ニ鬻レ書而食一也、第三變爲ニ大蟲一、謂ニ賣ニ奴婢一而食上也、三食之輩、何代無レ之。

【三蜀】922 サンショク 蜀をいふ。蜀郡・廣漢・犍爲の三つに分けるからいふ。〔晉書、李流載記〕三蜀百姓、並保レ險結レ塢、城邑皆空。〔左思、蜀都賦〕三蜀之豪、時來時往。〔注〕劉曰、三蜀、蜀郡・廣漢・犍爲也、本一蜀國、漢高祖分置ニ廣漢一、漢武帝分置ニ犍爲一。

【三心】923 サンシン ❶三つの心。〔晏子、重而異者〕三心不レ可ニ以事ニ一君一。❷佛ジン ㋑一、至誠心(眞實に淨土に往生せんと願ふ心)。二、深心(深く淨土に往生せんと願ふ心)。三、廻向發願心(修めた功德を廻らせて淨土に往生せんと願ふ心)。〔觀無量壽經〕一者至誠心、二者深心、三者廻向發願心、具ニ三心一者、必生ニ彼國一。㋺根本心・依本心・起事心。〔宗境錄、八十九〕。㋩無量壽經第十八願中に說く至心・信樂・欲生我國の三つをいふ。〔文類信卷〕本願三心之願。㊁道綽禪師が、淨土論註の意に依つて立てた三心。一、淳心(信心の深厚なこと)。二、一心(信心の純一なこと)。三、相續心(信心の相續いて餘念の雜らぬこと)。〔安樂集、上〕若能相續、則是一心、但能一心、卽是淳心、具ニ此三心一若不レ生者、無レ有ニ是處一。㋭一、入心(初めて其の地に入つた時分)。二、住心(其の地に住する時分)。三、出心(將に其の地を出でて後地に入らんとする時分)。㋬過去・現在・未來の三世の心。三世心。〔金剛經〕過去心不レ可レ得、現在心不レ可レ得、未來心不レ可レ得。

【三汛】924 サンシン 春・夏・秋の三季の出水。桃花開く時の出水を桃汛、夏日入伏前の出水を伏汛、立秋以降の出水を秋汛といふ。〔淸國行政法、內務行政、土木、治水〕河防工程、按、河防有ニ汛候一、每歲淸明節後二十日爲ニ桃汛一、蓋二月桃始華、冰泮雨積、川流匯集、波瀾盛漲云、自ニ桃汛一至ニ立秋一節、爲ニ伏汛一、蓋深山幽谷、冰堅晚泮、迨レ至ニ盛夏一消釋方盡、併流ニ於河一云、自ニ立秋一至ニ霜降一節、爲ニ秋汛一、是爲ニ三汛一。

【三臣】925 サンシン 三人の臣。❶衞の仲叔圉・祝鮀・王孫賈。〔論語、憲問〕孔子曰、仲叔圉治ニ賓客一、祝鮀治ニ宗廟一、王孫賈治ニ軍旅一。〔集注〕仲叔圉、卽孔文子也、三人皆衞臣。〔小學紺珠、名臣類上、衞三臣〕仲叔圉治ニ賓客一、祝鮀治ニ宗廟一、王孫賈治ニ軍旅一。❷魯の仲孫・叔孫・季孫。〔禮、檀弓下〕君之三臣猶設レ之。〔注〕三臣、仲孫・叔孫・季孫氏。

【三岑】926 サンシン 唐の岑羲・岑仲翔・岑仲休をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三岑〕岑羲・仲翔・仲休。

【三身】927 サンシン ❶古代の國の名。其の國の人は皆、一首三身だといふ。〔山海經、海外西經〕三身國、在ニ夏后啓北一、一首而三身。

三身國（三才圖會）

〔山海經、大荒南經〕大荒之中、有ニ不庭之山一、有レ人三身、帝俊妻娥皇、生ニ此三身之國一、姚姓、黍食、使ニ四鳥一。〔三才圖會、人物、十四〕三身國、在ニ鑿齒國東一、其人一首三身。❷佛ジン 佛が身を變じて世に現はれた三つの姿。又、人が各自の功德によつて得る三種の佛位。㋑法身・報身・應身。〔天台光明玄〕法報應、是爲ニ三一、三種法聚、故名レ身、所謂理法聚名ニ法身一、智法聚名ニ報身一、功德法聚名ニ應身一。㋺法相宗の三身。自性身・受用身・變化身。〔佛地論、三〕佛具ニ三種身一、

一者自性、二者受用、三者變化。㋩法身・應身・化身。〔最勝王經、分別三身品〕一切如來有三三種身一、一者化身、二者應身、三者法身、如レ是三身具足、攝二受阿耨多羅三藐三菩提一。㋥法身・報身・化身。〔圓覺經、注〕六祖曰、清淨法身、汝之性也、圓滿報身、汝之智也、千百億化身、汝之行也。
❸ミツ 三四歲の小兒の衣服。

【三身民】928 古の蠻國の名。海外三十六國の一つ、西北から西南に居たもの。三身の❶を見よ。〔淮南子、墬形訓〕丈夫民・奇股民・一臂民・三身民。

【三身之金容】929 佛佛の金色の尊い姿をいふ。三身如來。〔盛衰記、二十九、新八幡願書事〕爲レ守二寶祚一、爲レ利二蒼生一、改二三身之金容一、開二三所之權扉一。

【三辰】930 日・月・星。〔左氏、桓、二〕三辰旂旗、昭二其明一也。〔注〕三辰、日・月・星也。〔左氏、昭、三十二〕天有二三辰一、地有二五行一。〔國語、魯語上〕帝嚳、能序二三辰一以固レ民。〔成公綏、天地賦〕三辰燭耀、五緯重光。

【三辰酒】931 唐の玄宗皇帝の作つた酒。〔史諱錄〕唐明皇置二麴清潭一、砌以二銀磚一、泥以二石粉一、貯二三辰酒一萬車一、賜二當制學士一。

【三辰龍章之服】932 日・月・星と山龍の模樣を描いた衣。〔後漢書、仲長統傳〕無二半通青綸之命一、而竊二三辰龍章之服一。〔注〕三辰、日・月・星也、龍章、謂二山龍之章一、皆畫二於衣一也。

【三津】933 ❶三つの渡し場。〔水經、若水注〕至二嶮難三津之阻一、行者苦レ之。❷さんがのつ。薩摩國の坊の津・筑前國の博多・伊勢國の阿濃津。一説に阿濃津を除いて和泉國の堺を加ふ。❸トミ 伊豆國の地名。

【三晉】934 春秋の時、趙・魏・韓の三氏は晉に仕へて卿となつてゐたが、後、晉を分つて獨立したので三晉といふ。山西省・河南省及び河北省西南部の地。三家。〔孟子、梁惠王上〕晉國天下莫レ強焉、注〕韓・魏・趙、本晉六卿、當二此時一號二三晉一。〔戰國、趙策〕及三三晉分二智氏一、趙襄子最怨二智伯一。〔史記、周紀〕赧王五十八年、三晉距レ秦。

【三晉派】935 先秦の北方哲學の流派を大別すれば、齊魯派と三晉派とから成る。三晉派に屬するものは、趙の荀子(儒家)、公孫龍(名家)、愼到、鄭の申不害、衞の商鞅、韓の韓非(以上、法家)等の數子がある。

【三眞】936 ❶宋代、宰相・內翰・御史の三つの職に在つた傑人の稱。富(富弼)・韓(韓琦)は眞宰相、歐公(歐陽脩)は眞內翰、張康節は眞御史。故に三眞といふ。〔曲洧舊聞、一〕宋張康節爲二御史中丞一、論二宰執一不レ已、云云、當時有二三眞之語一、謂、富・韓二公爲二眞宰相一、歐公爲二眞內翰一、而康節爲二眞御史一也。❷道家の神の名。〔雲笈七籤、存大洞眞經、三十九眞法〕三眞元生君、眞氣赤雲之色。❸梁の王彬の能書を形容した語。三眞六草を見よ。❹書簡を書く時、敬意を盡し、文字を正し、宛所をくづさずに書くこと。

【三眞六草】937 梁の王彬及び其の兄の王志をいふ。兄弟共に書家として名高い。三番目の王志は眞書を善くし、六番目の王彬は草書に巧であつたからかくいふ。〔南史、王彬傳〕好二文章一、習二篆隸一、與二(兄)志一齊レ名、時人爲二之語一曰、三眞六草、爲二天下寶一。

【三神】938 三柱の神。❶天神・地祇・山岳。〔史記、司馬相如傳〕挈二三神之驩一。〔注〕索隱曰、如淳謂、地祇・天神・山岳也。〔漢書、揚雄傳上〕感二動天地一、逆二釐三神一者。❷趙襄子の拜した霍大山の三人の天使。〔史記、趙世家〕襄子再拜、受二三神之令一。❸人の體內に在つて害をなす三種の蟲。三尸蟲。三尸(630)を見よ。〔黃庭內景經〕內養二三神一可二長生一。〔諸眞玄奧〕三神、一居レ腦、二居二明堂一、三居二腹胃一、能爲二人害一。❹東海廣淵王・西海廣德王・北海廣澤王。〔剪燈新話、水宮慶會錄〕發レ使詣二南西北三海一、請三其王赴二慶殿之會一、翌日三神皆至、從者千乘萬騎。❺ジン ㋑造化の三神。天御中主神・高皇產靈神・神皇產靈神。㋺五穀守護の三神。稚產靈神・倉稻神・保食神。㋩和歌の三神。(甲)住吉社・天滿宮・玉津島社。〔橘窓自語、下〕和歌三神、住吉社・天滿宮・玉津島姬社の三柱たること後奈良院宸記にあり。(乙)住吉社・玉津島社・人丸社。〔和漢三才圖會、藝能、和歌三神〕玉津島神・住吉大明神・柿本人麿。(丙)柿本人麿・山部赤人・衣通姬。〔和訓栞〕。

【三神山】939 蓬萊・方丈・瀛洲の三山。渤海中に在つて、神仙が住んでゐるといふ。三島。三壺。三山。〔史記、秦始皇紀〕海中有二三神山一、名曰二蓬萊・方丈・瀛洲一、僊人居レ之。〔史記、封禪書〕自二威宣燕昭一使三人入レ海求二蓬萊・方丈・瀛洲一、此三神山者、其傳在二渤海中一、去レ人不レ遠、患二且レ至則船風引而去一、蓋嘗有二至者一、諸僊人及不死之藥、皆在焉、其物禽獸盡白、而黃金銀爲二宮闕一、未レ至、望レ之如レ雲、及レ到、三神山反居二水下一、臨レ之風輒引去、終莫二能至一云。

【三秦】940 國の名。❶雍・塞・翟の三國。項羽が關中を三分して秦の降將三人を封じた國。章邯を雍王、司馬欣を塞王、董翳を翟王とした。雍國は今の陝西省中部の西境の地。塞國は陝西省中部の東境の地。翟國は陝西省北部の地。〔史記、秦始皇紀〕滅レ秦之後、各分二其地一爲レ三、名曰二雍王・塞王・翟王一、號曰二三秦一。〔漢書、蕭何傳〕收二用巴蜀一、還定二三秦一、天下可レ圖也。❷五胡十六國時代の前秦・後秦・西秦をいふ。〔晉書、苻洪載記〕其孫堅、背有二草付字一、遂改二姓苻氏一、自稱二大將軍大單于三秦王一。

【三寢】941 高寢・路寢・小寢をいふ。〔公羊、莊、三十二〕路寢者何、注〕天子諸侯、皆有二三寢一、一曰高寢、二曰路寢、三曰小寢。

【三審】942 律令用語。告訴人に對して、日を異にして三度、其の告訴が事實でなければ誣告反坐の罪に當ることを告げて、後、其の告訴を聽くこと。〔養老令、獄令〕凡告二言人罪一、非二謀叛以上一者、皆令二三審一。

【三親】943 ❶三つの極めて親しいもの。夫婦・父子・兄弟。〔顏氏家訓、兄弟〕自レ茲以往、至二于九族一、皆本二於三親一焉。〔小學紺珠、人倫類、三親〕夫婦・父子・兄弟。❷父・母・妻の族。三族(1140)の❶に同じ。

【三親四友】944 san¹ ch'in¹ssŭ⁴ yu³ 親戚友人を總稱していふ。

【三親六故】945 san¹ ch'in¹ liu⁴ ku⁴ 親戚友人を總稱していふ。

【三仁】946 殷末の三人の忠臣。微子・箕子・比干。〔論語、微子〕微子去レ之、箕子爲二之奴一、比干諫而死、孔子曰、殷有二三仁一焉。〔列子、力命〕不レ出二三仁之上一。〔揚雄、解嘲〕三仁去而殷墟。

【三壬】947 術數家の語。腹に在つて長命の兆となるもの。〔魏志、管輅傳〕輅曰、吾額上無二生骨一、眼中無二守精一、鼻無二梁柱一、腳無二天根一、背無二三甲一、腹無二三壬一、此皆不壽之驗。〔劉禹錫・白樂天、樂天是月長齋鄙夫此時愁臥云云因以寄レ懷詩〕鑒レ容稱二四皓一、捫レ腹有二三壬一。

【三仭】948 一仭は周の八尺、また七尺、また四尺。仭(1－379)の字解を見よ。〔淮南子、原道訓〕昔者夏鯀作二三仭之城一、諸侯背レ之。〔注〕八尺曰レ仭。〔唐書、虞世南傳〕今所レト地勢卽平、宜下依二周制一爲中三仭之墳上。

【三訊】949 三度問ふ。罪を決定するには群臣に問ひ、群吏に問ひ、又萬民に問うて愼重を期する意。三刺(646)の❶を見よ。〔孔子家語、刑政〕大司寇正レ刑明レ辟、以察レ獄、獄必三訊焉。〔注〕一曰、訊二羣臣一、二曰、訊二羣吏一、三曰、訊二萬民一也。

【三水】950 ❶縣名。㋑漢、置く。故城は甘肅省固原縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、鎭原縣〕三水城、在二縣東北百里一、漢置二三水縣一、屬二安定郡一。㋺漢の栒邑縣。後魏改めて三水縣を置く。故治は陝西省栒邑縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、邠州〕三水縣、後魏移置二縣於此一。〔清史稿、地理志〕陝西、邠州直隸州、縣三、三水。㋩漢の番禺・四會二縣の地。明、三水縣を置く。廣東省番禺縣の西。縣內で西江・北江が合して一水となり、兩江と併せて三水となるに因つて名づく。〔讀史方輿紀要、廣東、廣東州府〕三水縣、嘉靖五年析置。〔清史稿、地理志〕廣東、廣州府、縣十四、三水。❷鎭の名。㋑金、置く。陝西省鄜縣の南。㋺明、置く。廣東省三水縣の東南。〔九域志〕高要縣有二三水鎭一。❸關の名。四川省廣漢縣の東南。關の下に渡場がある。湔・綿の二河が合流する所。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、漢州〕三水關、州東十里、關下有レ渡、卽綿水渡口也。❹ズイ 漢字の偏の名。氵をいふ。散水。〔國姓爺合戰、二〕軍法の法の字は、三水に去ると書く。❺

信濃國の地名。

【三垂】951 サンスイ 北・東・南の邊境をいふ。〔漢書、諸侯王表序〕周三市三垂。〔注〕師古曰、三垂、謂二北・東・南一也。〔漢書、谷永傳〕三垂晏然。〔鹽鐵論、地廣〕定二三垂之難一。

【三垂岡】952 サンスイコウ 地名。山西省潞城縣の西南。一名、三垂山。唐の李克用が置酒した所。又、李存勗が兵を伏せた所。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、潞城縣〕三垂山、縣西二十里、云云、五代梁開平二年、晉王存勗救二潞州一、伏レ兵於三垂岡下一。

【三衰】953 サンスイ 三つの徳のおとろへ。〔淮南子、說山訓〕上有二三衰一、下有二九殺一。

【三推】954 サンスイ ❶藉田(9－32242・4)の時、天子が親ら耕す禮。耒耜を三度おす。〔禮、月令〕天子親載二耒耜一、帥二三公九卿一、躬耕二帝藉一、天子三推、三公五推、卿諸侯九推。〔釋文〕推、出隹反、又、吐回反。〔潘岳、藉田賦〕三推而舍、庶人終畝。❷雙陸(11－42116・270)の異名。〔事物異名錄、玩戲、雙陸〕譜雙番曷雙陸名有レ五、曰下噴、曰二推一、曰囉贏、曰不打、曰佛雙陸、下噴二推難一、囉贏不打易、佛雙陸止孺兒爲レ之、凡閭閻皂隸輩、皆能二此戲一。

【三推六問】955 san¹ t'uei¹ liu⁴ wen⁴ 幾度も問ひただして調べること。〔水滸傳、十二回〕牛二家又沒苦主、把款狀都改得輕了、三推六問、卻招做一時鬬毆殺傷、誤傷人命。

【三遂】956 サンスイ 郊外三十里四方の地三つ。遂は三十里。三遂。〔書、費誓〕魯人、三郊三遂。〔蔡傳〕國外曰レ郊、郊外曰レ遂、天子六軍、則六鄉六遂大國三軍、故魯三郊三遂也。

【三醉】957 サンスイ ❶大いに醉ふ。〔于邵、送二蘭侍御史還一序〕清絃發越、洋洋乎盈二耳、一夕三醉、主人曰、未也。❷草花の名。芙蓉。一日に三度色を換へるといふ。〔王世懋花疏、芙蓉〕芙蓉特宜二水際一、有下三醉者上、一日間凡三換色。

【三隧】958 サンスイ ❶軍に將たる者は、上、天道を知り、下、地形に習ひ、中、人情に達すべきこと。隧とは人の從ふべき道をいふ。〔淮南子、兵略訓〕將者必有二三隧一、四義・五行・十守、所謂三隧者、上知二天道一、下習二地形一、中察二人情一。〔鴻烈集解〕凡此三事者、人所レ從蹊隧。❷三遂(956)に同じ。隧は郊外。〔史記、魯世家〕魯人三郊三隧。〔注〕集解曰、王肅曰、邑外曰レ郊、郊外曰レ隧。「東南。

【三穗】959 サンスイ 縣名。民國、置く。貴州省鎭遠縣の區別。〔齊民要術、養牛馬驢騾〕飲食之節、食有二三芻一、飲有二三時一、何謂也、一曰惡芻、二曰中芻、三曰善芻。

【三崇】961 サンスウ 山名。雲南省雲龍縣の西。頂に三峯があるから三峯山ともいふ。〔滇志〕三崇山、名二三危山一、瀾滄經二其麓一、其地有二黑水祠一、或以爲、卽古二危山一。

【三寸】962 サンスン 一寸の三倍。〔禮、玉藻〕笏度二尺有六寸、其中博三寸、其殺二六分一而去レ一。〔左氏、昭、二十六〕師及齊師、戰于炊鼻、齊子淵捷從二洩聲子一、射レ之中二楯瓦一、繇レ朐レ軨、匕入者三寸。〔史記、孔子世家〕孔子獨立二郭東門一、鄭人或謂二子貢一曰、東門有レ人、其顙似レ堯、其項類二皐陶一、其肩類二子產一、然自レ要以下、不レ及レ禹三寸。〔朱灣、題二段上人院壁畫古松一詩〕掃成三寸五寸枝、便是千年萬年物。

【三寸氣】963 サンスンノキ 氣息。呼吸。いぶき。〔呂巖、七言詩〕解接往年三寸氣、還將二運動一周天一。

【三寸舌】964 サンスンシタ 舌をいふ。三寸は其の長さ。轉じて、人の言語をいふ。〔史記、平原君傳〕平原君曰、云云、毛先生以二三寸之舌一、彊二於百萬之師一。〔史記、留侯世家〕留侯乃稱曰、家世相レ韓、及二韓滅一、不レ愛二萬金之資一、爲レ韓報二讎彊秦一、天下振動、今以二三寸舌一、爲二帝者師一、封二萬戶一、位二列侯一、此布衣之極、於レ良足矣、願棄二人間事一、欲從二赤松子一游上耳。

【三寸金蓮】965 san¹ ts'un⁴ chin¹ lien² 婦人の小足を黃金の蓮に形容した語。婦人の步を蓮步といふ。美人の意。

【三寸雞毛】966 サンズンノケイマウ 筆のさき。〔福惠全書、莅任部、攷代書〕所下以空中樓閣、祇憑二三寸雞毛一、座上秦銅莫レ辨二五里昏霧一。

【三寸之轄】967 サンズンノカツ 轄は車のくさび。車のくさびは僅か三寸に過ぎないけれども、これが無ければ車の用をなさぬ。物事の主要なものに喩ふ。〔淮南子、人間訓〕車之所二以能轉一千里一者、以二其要在一二寸之轄一。

【三寸弱翰】968 サンズンジャクカン 筆の異名。〔揚雄、答二劉歆書一〕會者雄常把二三寸弱翰一、齎二油素四尺一、以問二其異語一。

【三寸不律】969 サンズンフツリツ 長さ三寸の筆。不律は筆の異名、蜀・吳地方の方言。不律の合音は筆。〔爾雅、釋器〕不律、謂二之筆一。〔注〕蜀人呼レ筆爲二不律一也。〔義疏〕不律者、蓋筆之合聲、說文云、聿、所二以書一也、楚謂二之聿一、吳謂二之不律一、燕謂二之弗一、秦謂二之筆一、郭云、蜀人呼レ筆爲二不律一、可レ知、此皆方俗語音、輕二重其義一、卽存二乎聲一也。

【掉三寸舌】970 サンズンノシタヲフルフ 雄辯をふるふ。〔史記、淮陰侯傳〕酈生一士、伏レ軾掉二三寸之舌一、下二齊七十餘城一。〔揚雄、解嘲〕掉二三寸之舌一、建二不拔之策一。

【三寸鳥七寸觜】971 サンズンノトリニ シチスンノクチバシ 觜の長いものは語ることが出來ぬといふところから、言語の謹むべきを戒めた言葉。後、轉じて、能辯の者を嘲ける語となつた。〔通俗編、禽魚、三寸鳥七寸觜〕莊子徐無鬼篇、仲尼曰、某願有二喙三尺一、郭注云、凡人閉レ口、未レ是不レ言、蓋鳥喙長者、多不レ能レ言也、按、鄙俗嘲二能言者一、曰二三寸鳥七寸嘴一、義適相反、然唐陸餘慶、善論レ事、而嘲レ之者曰、論レ事則喙長二尺一、已候二用莊子文一矣。

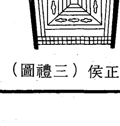
【三施】972 サンセ 佛❶財施(他人の財物を犯さず、又、已が財を他に施與する)・法施(能く人の爲に法を說いて開悟得道させる)・無畏施(一切衆生皆死を畏れるが、持戒の人は殺害の心がないから、衆生を畏れさせぬ)。〔智度論、十一〕❷物施(❶の財施に同じ)・供養恭敬施(信心清淨にして恭敬禮拜する等をいふ)・法施(法を開演することの)。〔智度論、十二〕❸飲食施(飲食を人に施す)・珍寶施(珍寶を人に施す)。身命施(身命を以て人に施す)。〔華嚴大疏鈔、二〕。

【三世】973 サンセイ ❶祖父・父・子。〔禮、曲禮下〕醫不二三世一、不レ服二其藥一。〔疏〕凡人病疾、蓋以二筋血不一レ調、故服レ藥以治レ之、其藥不レ愼レ於レ物、必無二其徵一、故宜レ戒レ之、擇二其父子相承至二三世一也、是愼二物調一齊也。〔論語、季氏〕陪臣執二國命一、三世希レ不レ失矣。〔集解〕陪、重也、謂二家臣一、陽氏爲二季氏家臣一、至レ虎三世。❷春秋に於て、己と父との世(見る所の世)、祖父の時の世(聞く所の世)、曾祖・高祖の世(傳聞する所の世)をいふ。清代の公羊學派はこれを衰亂・升平・太平の三世とし、社會進化の過程を示すものと說く。〔公羊、隱、元〕所レ見異レ辭、所レ聞異レ辭、所二傳聞一異レ辭。〔注〕所レ見者、謂二昭・定・哀一、己與レ父時事一也、所レ聞者、謂二文・宣・成・襄一、王父時事一也、所二傳聞一者、謂二隱・桓・莊・閔・僖・高祖・曾祖時事一也、云云、於二所二傳聞一之世一、見二治起一於衰亂之中一、云云、於二所レ聞之世一、見二治升平一、云云、至二所レ見之世一、著二治太平一。❸醫家で黃帝鍼灸・神農本草・太素脈訣をいふ。〔禮、曲禮下〕醫不二三世一、不レ服二其藥一。〔疏〕三世者、一曰、黃帝針灸、二曰、神農本草、三曰、素女脈訣、又云、夫子脈訣、若不レ習二此三世之書一、不レ得レ服二食其藥一。〔宋濂、贈二醫師葛某一序〕古之醫師、必通二於三世之書一、所謂三世者、一曰、針灸、二曰、神農本草、三曰、太素女脈訣、脈訣所二以察一レ證、本草所二以辨一レ藥、針灸所二以祛一レ疾、非レ是三者一、不レ可二以言一レ醫、故記禮者有レ云、醫不二三世一、不レ服二其藥一也、傳經者既明載二其說一。❹三年。〔禮、曲禮下〕去レ國三世。〔釋文〕盧王云、世、歲也。❺神學の世・哲學の世・科學の世。フランスのコントの說。❻佛ゼ過去・現在・未來。三際。〔觀無量壽經〕三世諸佛、定業正因。

【三世相】974 サンゼソウ 佛說と陰陽道とによつて人の生死・人相等を說き、又、過去・現在・未來の三世に至る因果應報を判斷する法。又、その書。〔生玉心中、中〕この前さる人に三世相見て貰ひしに。

【三世將】975 サンセイノショウ 祖・父・子三代續いて將となること。又、其の三代目の人。道家では之を忌む。〔史記、王翦傳〕陳勝之反レ秦、秦使二王翦之孫王離擊一レ趙、或曰、王離、秦之名將也、擊二之必矣、客曰、不レ然、夫爲二三世一者必敗、今王離、其二三世將一矣、居無二何、項羽救一レ趙、擊二秦軍一、果虜二王離一。〔後漢書、耿弇傳論〕三世爲レ將、道家所レ忌。

【三世報】976 サンセホウ　小說の名。隔簾花影(11－417 83‥62)の異稱。
【三世佛】977 サンゼブツ　佛過去・現在・未來の三世に出現する諸佛。迦葉諸佛・釋迦牟尼佛・彌勒諸佛をいふ。三世諸佛。〔張說、善法堂贊〕至哉初上人、建二立善法堂一、彩二翠三世佛、莊嚴淸淨眼。
【三世王】978 サンセイワウ　皇曾孫(8－22701‥299)に同じ。
【三世一爨】979 サンセイイツサン　三代にわたる同族が、一つの竈で炊ぎ住む。三世同爨に同じ。〔唐書、崔邠傳〕字處仁、貝州武城人、父倕、三世一爨、當時言二治家一者、推二其法一。
【三世一身】980 サンセイイツシン　養老七年、開墾奬勵の爲に、墾田に就いて定めた方法。新たに溝池を穿ち山野を開墾したものには、其の地を三世に傳へさせ、舊溝池に就いて開墾した者には、其の人一代を限り其の地を所有させる制。〔續日本紀、十五、天平十五年五月乙丑〕自レ今以後、任レ爲二私財一、無レ論二三世一身一、悉咸永年莫レ取。
【三世因果】981 サンゼノイングワ　佛過去・現在・未來の三世を通じて、因果の理法により善惡の應報のあること。〔涅槃經、憍陳如品〕善惡之報、如二影隨レ形、三世因果、循環不レ失。
【三世諸佛】982 サンゼノショブツ　佛三世に出現する諸佛。迦葉諸佛は過去佛、釋迦牟尼佛は現在佛、彌勒諸佛は未來佛。三世の❻を見よ。〔法華經、方便品〕三世諸佛、說法之儀式。
【三世探花】983 サンセイタンクワ　父・子・孫の三代續いて探花に及第する。探花とは、殿試に第三人目で及第した者の稱。〔琅琊代醉編、三世探花〕父・子・孫探花、李宗諤子昭遘、十八歲瑣廳及第、昭遘子果卿、果卿子士廉、皆不レ逾二是歲一、凡三世倶爲二探花郞一。
【三世傳學】984 サンセイデンガク　親子三代の人が同じ學問を傳へる。〔南齊書、賈淵傳〕淵、字希境、平陽襄陵人也、祖弼之、晉員外郎、父匪之、驃騎參軍、世傳二譜學一、云云、淵父及淵、三世傳レ學。
【三世同居】985 サンセイドウキヨ　三世の同族が一諸に住む。同族の睦しさを表はす。〔魏書、許絢傳〕絢、字伯禮、頗有レ業、尙二閨門一雍睦、三世同居、吏部尙書李神儁、稱二其家風一。〔南史、劉瑜傳〕元嘉七年、南豫州擧レ所レ統、西陽縣人董陽、三世同居、外無二異門一、內無二異煙一、詔二榜門一曰、篤行董氏之閭、蠲二一門租レ布。
【三世同財】986 サンセイドウザイ　三代にわたる同族の人が財產を共有して暮す。同族の睦しさを表はす。〔南齊書、封延伯傳〕遂不レ至二京師一、三世同レ財。
【三世同爨】987 サンセイドウサン　三代にわたる同族の人が、かまどを同じにして住む。三世同居に同じ。〔元史、趙毓傳〕唐州人、父福、遷二鄭之管城一、其先三世同爨。
【三世不レ異レ居】988 サンセイキヨヲコトニセズ　三世同居に同じ。〔唐書、崔玄暐傳〕三世不レ異レ居、家人怡怡如也。
【三世不相待】989 サンゼフサウダイ　佛過去・現在・未來の諸法は、常に生滅して少しも留らぬ。〔維摩經、弟子品〕一切法、生滅不レ住、如レ幻如レ電、諸法不二相待一、乃至一念不レ住。
【三世不レ分レ財】990 サンセイザイヲワカタズ　三世同財に同じ。〔後漢書、蔡邕傳〕邕與二叔父・從弟一同居、三世不レ分レ財、鄕黨高二其義一。
【三世仕レ家君レ之】991 サンセイイヘニツカフレバコレヲキミトス　或る者が親子三代に亙って或る家に仕へれば、其の者は、其の家の主人に對して恰も國君に仕へるが如くにし、主人に酬いるに死を以てする。〔國語、晉語八〕三世仕レ家君レ之、再世以下主レ之、事レ君以レ死。〔注〕三世爲二大夫家臣一、事レ之如二國君一也、大夫稱レ主。
【三世仕宦方會二着衣吃飯一】992 サンセイシクワンマサニチヤクイキツパンヲクワイス　役人の三代目は、ただ衣服を着ることと、飯を食ふことを知るだけで、無能である。會は、一に解に作る。〔老學庵筆記、五〕隆興閒、有三揚州帥二貴戚一也、宴席閒、語レ客曰、諺謂、三世仕宦方解二著衣喫飯一。〔通俗編、飮食、三世仕宦方解二着衣喫飯一〕明道雜志、載二錢文穆公云云一、老學庵筆記、載二諺云云一。〔陔餘叢考、成語〕三世仕宦方會二着衣吃飯一、本下魏文帝詔書、三世長者知二衣服一、五世長者知中飮食上。
【三正】993 サンセイ　❶建子・建丑・建寅の三正。夏・殷・周の三代の曆をいふ。曆は正月を始めとするから正といふ。夏の曆は、建寅、卽ち歲星(木星)が、寅の方角にある月を建てて正月とし、之を人統又は人正といふ。殷の曆は建丑、卽ち歲星が丑の方角にある月を建てて正月(夏の十二月にあたる)とし、之を地統又は地正といふ。周の曆は建子、卽ち歲星が子の方角にある月を建てて正月(夏の十一月にあたる)とし、之を天統又は天正といふ。統とは總べ御める意で、正月は歲首で餘月を統御するからいふ。一說に、建は北斗星の斗柄が或る方向を指す義で、夏の曆では斗柄が夕刻に寅の方向を指す月を正月とし、殷の曆では斗柄が夕刻に丑の方向を指す月を正月とし、周の曆では斗柄が夕刻に子の方向を指す月を正月とする。日知錄、卷四に見ゆ。又、三正は、王朝の交替と共に循環して行はれるものと言はれ、漢の董仲舒は人正を黑統、地正を白統、天正を赤統と言ひ、三統の循環を說いてゐる。三統(1375)の❶及び正朔(6－16255‥183)を見よ。〔書、甘誓〕有扈氏威二侮五行一、怠二棄三正一。〔釋文〕馬云、建子・建丑・建寅、三正也。〔蔡傳〕三正、子丑寅之正也。〔史記、歷書〕夏正以二正月一、殷正以二十二月一、周正以二十一月一、蓋三王之正、若二循環一、窮則反レ本、天下有レ道、則不レ失二紀序一、無レ道則正朔不レ行二於諸侯一。〔春秋繁露、三代改制質文〕三正以二黑統一初。〔白虎通、三正〕十一月之時、陽氣始養二根株黃泉之下一、萬物皆赤、赤者盛陽之氣也、故周爲二天正一、色尙レ赤也、十二月之時、萬物始牙而白、白者陰氣、故殷爲二地正一、色尙レ白也、十三月之時、萬物始達、孚レ甲而出、皆黑、人得レ加レ功、故夏爲二人正一、色尙レ黑。〔後漢書、章帝紀〕春秋於レ春每月書レ王者、重二三正一、愼二三微一也。〔注〕三正、謂二天地人之正一。〔謝瞻、張子房詩〕神武睦二三正一、裁成被二八荒一。〔注〕善曰、漢書曰、三正、子爲二天正一、丑爲二地正一、寅爲二人正一。〔陔餘叢考、三正〕夏正建寅、商正建丑、周正建子、此三正也、然夏書甘誓云、有扈氏怠二棄三正一、則夏之前、已有二三正一矣、孔安國因三商周在二夏之後一、故不下敢以二子丑寅一釋上之、而但謂二天地人之正道一、王肅亦云、惟殷周改レ正、自レ夏以上、皆以二建寅一爲レ正、然尙書大傳云、王者存二二代之後一、以備二三正一、馬融注二甘誓一亦云、子・丑・寅也、鄭康成注二堯典正月上日一云、帝王易レ代、莫レ不二改レ正建レ朔、堯正建丑、舜正建子、此時未レ改二堯正一、故云、正月上日卽位、乃改二堯正一、故云二月正元日一、則三正迭建、固不レ始二於三代一矣、蔡傳亦云、唐虞以前、當二已有レ之。❷天地人の正道をいふ。〔書、甘誓、怠二棄三正一、傳〕怠二惰棄三廢天地人正道一。❸夏・殷・周三代をいふ。〔班固、幽通賦〕匝二三正一而滅レ姬。〔注〕善曰、曹大家曰、三正、謂二夏・殷・周一也。〔陸機、皇太子宴二玄圃宣猷堂一有レ令賦レ詩〕三正迭紹、洪聖啓レ運。〔注〕善曰、三正、夏・殷・周也、周建子爲二正月一、殷建丑爲二正月一、夏建寅爲二正月一、云云、良曰、三正、夏・殷・周也。❹三綱の道の正しいこと。〔禮、哀公問〕夫婦別・父子親・君臣嚴、三者正則庶物從レ之矣。❺まと。的。三正侯を見よ。〔周禮、夏官、射人〕諸侯以二四耦一射二二侯一、二獲・二容、樂以二貍首一、七節、三正。❻白虎通の篇名。
【三正考】994 サンセイカウ　書名。二卷。淸、吳鼒撰。李濂の夏周正辨疑と張以寧の春王正月考とを本として、若干の刪定を加へたもの。〔四庫提要、經、春秋類〕。
【三正侯】995 サンセイコウ　射儀に用ひる的の一種。中は朱、次は白、次は蒼になつてゐるもの。〔周禮、夏官、射人〕王以二六耦一射二三侯一、三獲・三容、樂以二騶虞一、九節、五正、諸侯以二四耦一射二二侯一、二獲・二容、樂以二貍首一、七節、三正。〔注〕玄謂、三侯者、五正・三正・二正之侯也、二侯者、三正・二正之侯也、云云、正之言、正也、射者、內志正則能中焉、畫二五正一之侯、中朱・次白・次蒼・次黃、玄居レ外、三正損二玄・黃一、二正去二白・蒼一、而畫以二朱綠一、其外之廣、皆居二侯中參分之一一、中二尺。〔三禮圖、三正侯圖說〕此三正七十弓之侯、亦分二其侯一、正居レ一焉、三正之侯、去二玄黃一、餘同二五正一、還以二朱・白・靑三色一、畫二雲氣一、以飾二其側一、此是諸侯朝レ王、爲二賓所レ射之侯一也、凡畫二雲氣一、用レ丹爲レ地、以三丹淺二於赤一也、故於二丹上一得レ見二赤色之雲一、諸侯於二己國一射二三正・二正之侯一、樂以二貍首一、十節。


三正侯（三禮圖）

【三正堂】996 サンセイダウ 清、朱綬(6－14424‥378)の室名。

【三西】997 サンセイ 山西・江西・陝西の三省。卽ち、三つの西の意。〔五雜俎、地部二〕仕宦諺云、命運低得二三西一、謂二山西・江西・陝西一也。

【三成】998 サンセイ ❶三たびなす。〔後漢書、班固傳〕是故横二被六合一、三成二帝畿一。〔注〕三成、謂二周秦漢並都一レ之也。❷三度、樂を奏する。〔禮、樂記〕三成而南。〔注〕成、猶レ奏也。❸音樂が三度終る。〔儀禮、燕禮〕笙入三成、遂合二鄕樂一。〔注〕三成、三終也。❹三重。〔周禮、秋官、司儀〕令レ爲二壇三成宮旁一門一。〔注〕鄭司農云、三成、三重也。❺san¹ ch'êng² 三割。

【三制】999 サンセイ 人を制するもの、人に制せられるもの、人にも制せられず人をも制しないもの、此の三つをいふ。〔管子、樞言〕凡國有二三制一、有二制レ人者一、有下爲二人之所一レ制者上、有二不レ能レ制レ人、人亦不一レ能レ制者一。

【三姓】1000 サンセイ ❶三つの氏族。〔史記、匈奴傳〕此三姓、其貴種也。〔易林〕男女合レ室、三姓同レ食。❷地名。滿洲吉林省依蘭縣の別名。清の康熙五十四年に城を築き、日支の北京條約により、開放して商埠とした。〔吉林外記〕三姓者、努雅喇克・宜克勒・祜什哈哩三族黑斤人所レ居、滿語曰二依蘭喀喇一、三姓、其譯義也。

【三星】1001 サンセイ ❶三つの星。〔晉書、天文志上〕杓南三星、及魁第一星西三星、皆曰二三公一。❷星の名。或は心星ともいひ、或は參星ともいひ、我が國では犂星(からすき星)といふ。三星在レ天を見よ。〔詩、唐風、綢繆〕三星在レ天。〔傳〕三星、參也。〔箋〕三星謂二心星一也。❸福・祿・壽の三星。轉じて、三福神の意。〔星宗、八格賦〕母星・令星俱陷、官宿・福宿皆空、天殺會合、地殺交攻、祿元破、壽元虧、齊到二殺鄕一、端可レ慮。❹ミツボシ 星を上に一つ下に二つ組合せた紋所の名。〔太平記、十七、山門攻事〕連錢・三星、云云、家の紋を畫いたる旗。

【三星在レ戸】1002 サンセイコニアリ ❶心星が傾いて戸の方向に在る。五月の末から六月の中頃までの季節に於て此の現象を見る。〔詩、唐風、綢繆〕綢繆束レ楚、三星在レ戸。〔箋〕心星在レ戸、謂二五月之末、六月之中一。❷san¹ hsing¹ tsai⁴ hu⁴ 福・祿・壽星が家に居る。幸福・幸運の喩。

【三星在レ天】1003 サンセイテンニアリ 婚姻の期をいふ。毛傳は三星を參星といひ、これが始めて東方に見える時は、婚姻すべき時といふ。鄭玄は三星を心星と解し、これが夕刻始めて東方に見えるのは、三月の末から四月の中頃で、婚姻の時期の過ぎたことを歎じたものと說く。〔詩、唐風、綢繆〕綢繆束レ薪、三星在レ天、今夕何夕、見二此良人一。〔傳〕三星、參也、在レ天、謂二始見二東方一也、男女待レ禮而成レ婚、若下薪芻待二人事一而後束上也、三星在レ天、可二以嫁娶一矣。〔箋〕三星謂二心星一也、心有二尊卑夫婦父子之象一、又爲二二月之合宿一、故嫁娶者以爲レ候焉、昏而火星不レ見、嫁娶之時也、今我束二薪於野一、乃見二其在一レ天、則三月之末、四月之中、見二於東方一矣、故云レ不レ得二其時一。

【三牲】1004 サンセイ ❶牛・羊・豕の三種のいけにへ。〔禮、祭統〕三牲之俎、八簋之實、美物備矣。〔書、微子、傳〕牛・羊・豕曰レ牲。〔國語、楚語下〕一純・二精・三牲。❷御馳走。親にそなへる御馳走。〔列子、周穆王〕引二三牲一以進レ之。〔資治通鑑、漢記〕桓帝延熹七年、郭林宗猶減二三牲之具一、以供二賓旅一。〔注〕三牲之具、謂二養レ親之具一也、孝經曰、日用二三牲之養一。❸夏・殷・周の三代の夫々が用ひた犧牲の總稱。夏は玄(黑色)の犧牲を、殷は白色の犧牲を、周は騂(赤色)の犧牲を用ひた。〔禮、檀弓上〕夏后氏尙レ黑、大事斂用レ昏、戎事乘レ驪、牲用レ玄、殷人尙レ白、大事斂用二日中一、戎事乘レ翰、牲用レ白、周人尙レ赤、大事斂用二日出一、戎事乘レ騵、牲用レ騂。〔禮、明堂位〕夏后氏牲尙レ黑、殷白牡、周騂剛。〔小學紺珠、動植類、三牲〕夏牲尙レ黑、殷白牡、周騂剛、云云、三牲、夏牲用レ玄、殷牲用レ白、周牲用レ騂。❹俗に雞・魚・豕をいふ。

【三牲五鼎】1005 サンセイゴテイ 御馳走。三牲の❷及び五鼎(1－257‥859)を見よ。〔琵琶記、蔡母嗟レ兒〕三牲五鼎供二朝夕一。

【三牲之養】1006 サンセイノヤウ 親に御馳走をすること。親孝行の意。〔孝經、紀孝行章〕雖三日用二三牲之養一、猶爲二不孝一也。〔曹植、靈芝篇〕刻木當二嚴親一、朝夕致二三牲一。〔孟浩然、送下莫氏甥兼諸昆弟從二韓司馬一入中西軍上詩〕坐棄二三牲養一、行觀二八陣形一。

【三牲大牢】1007 サンセイタイラウ 美肉、馳走をいふ。大牢は、三牲と同義。〔孔叢子、居衞〕夫錦繢紛華、所レ服不レ過レ溫レ體、三牲大牢、所レ食不レ過レ充レ腹、知二以レ身取一レ節者、則知レ足矣。

【三省】1008 サンセイ ❶一日に三度我が身を反省すること。一說に、三は屢〻の意といひ、又、不忠・不信・不習の三つを指すと云ふ。三は、一に參に作る。〔論語、學而〕曾子曰、吾日三二省吾身一、爲レ人謀而不レ忠乎、與二朋友一交而不レ信乎、傳不レ習乎。〔疏〕弟子曾參嘗曰、吾每日三自省二察己身一、爲レ人謀レ事、而得レ無レ不レ盡二忠心一乎、與二朋友一結レ交、而得レ無レ不二誠信一乎、凡所二傳授一之事、得レ無下素不二講習一而妄傳上乎。〔集注〕曾子以二此三者一、日省二其身一。〔荀子、勸學〕君子博學、而參二省乎己一。〔東晳、補亡詩、白華〕終晨三省。〔注〕翰曰、盡一日、三度省二察己之所一レ行事一。❷小倉三省(4－7473‥470)を見よ。❸サンシャウ 三つの官廳。㋑唐の官制では中書省・門下省・尙書省の稱。〔唐書、百官志一〕唐因二隋制一、以二三省之長、中書令・侍中・尙書令一、共議二國政一、此宰相之職也。〔小學紺珠、職官類、唐三省〕中書・門下・尙書。㋺我が國の古制で、八省の中の式部省・民部省・兵部省をいふ。

【三省四勿】1009 サンセイシブツ 身を愼むこと。曾子の三省及び顏子の非禮を視聽言動しないことをいふ。顏李の學に於て、李塨は特に此の修養を主張した。三省及び四勿(3－4682‥695)を見よ。〔朱熹、齋居感興詩〕顏生躬四勿、曾子日三省。

【三旌】1010 サンセイ 三公の意。三公の車服には旌の區別があるからいふ。一に三珪に作り、三卿の義とす。〔莊子、讓王〕子綦爲レ我延レ之、以二三旌之位一。〔釋文〕三旌、三公位也、司馬、本作二三珪一、云、謂二諸侯之三卿皆執一レ珪也。

【三淸】1011 サンセイ ❶道教の三神。玉淸元始天尊・上淸靈寶道君・太淸太上老君。又、仙人の居る所の玉淸・上淸・太淸をいふ。因つて又、宮觀の名とす。〔崔國輔、九日侍レ宴應制詩〕金籙二三淸降、瓊筵五老巡。〔五代史、王繼鵬傳〕昶起二三淸臺一、三層、以二黃金數千斤一鑄二寶皇及元始天尊・太上老君像一。〔通俗編、釋道、三淸〕明史禮志、佛生二西方竺國一、宗二其教一者、以二本性一爲二法身一、德業爲二報身一、幷二眞身一爲レ三、其實一人耳、道家以二老子一爲レ師、朱子有レ云、玉淸元始天尊、既非二老子法身一、上淸靈寶道君、又非二老子報身一、設有二二像一、又非下與二老子一爲上レ一、別自爲二太淸太上老君一、蓋倣二釋氏一、而又失レ之者也。〔茶香室叢鈔〕唐楊鉅翰林院舊規、道門靑詞、例云、謹稽二首上三啓虛無自然元始天尊・太上道君・太上老君、三淸衆聖一、按二道家之書一、四人天外、曰二三淸境一、玉淸・上淸・太淸、又云二聖登玉淸・眞登上淸・仙登太淸一、今道觀供二養三淸一、本レ此。❷郡縣の三つの等級。〔魏書、辛雄傳〕上疏曰、治二天下一者、惟在二守令一、最須二簡置以康一二國道一、請、上等郡縣爲二第一淸一、中等爲二第二淸一、下等爲二第三淸一。❸山名。江西省玉山縣の西北。山上に三淸觀がある。〔廣信府志〕三淸山、在二縣北一百二十里玉山鄕一、高七百餘丈、周圍二百餘里、界二衢・饒・信三州之境一、三峯峻拔、與二懷玉山一並峙、山嶺有二方士羽化壇・老子宮觀一、又有二金沙冰玉洞・靈濟廟・羅漢洞・李尙書鐵爐諸奇勝一。

【三甥】1012 サンセイ 三人の甥。春秋時代の鄧國の騅甥・聃甥・養甥の三人。〔左氏、莊、六〕楚文王伐レ申過レ鄧、鄧祁侯曰、吾甥也、止而享レ之、騅甥・聃甥・養甥、請レ殺二楚子一、鄧侯弗レ許、三甥曰、亡二鄧國一者、必此人也。〔史通、品藻〕楚王過二鄧三甥一。〔注〕聃甥・騅甥・養甥。

【三聖】1013 サンセイ ❶三人の聖人。㋑伏羲・文王・孔子。〔漢書、藝文志〕人更二三聖一、世歷二三古一。〔注〕韋昭曰、伏羲・文王・孔子。㋺堯・舜・禹。〔公羊、隱、五、注〕王者治定制レ禮、功成作レ樂、未二制作一之時、取下先王之禮樂宜二於今一者上用レ之、堯曰二大章一、舜曰二簫韶一、夏曰二大夏一、殷曰二大護一、周曰二大武一、各取二其時民所一レ樂者名レ之、堯時民樂二其道章明一也、舜時民樂三其修二紹堯道一也、夏時民樂レ大二其三聖相承一也。〔董仲舒、賢良策三〕道之大原出二于天一、天不レ變、道亦不レ變、是以、禹繼レ舜、舜繼レ堯、三聖相受而守二一道一。㋩禹・周公・孔子。〔孟子、滕文公下〕我亦欲下正二人心一息二邪

説一、距二詖行一放二淫辭一、以承上三聖上者、豈好レ辯哉、予不レ得レ已也。〔集注〕三聖、禹・周公・孔子也。㋥文王・武王・周公。〔漢書、諸侯王表〕三聖制レ法。〔注〕師古曰、三聖謂二文王・武王及周公一也。〔小學紺珠、聖賢類、三聖〕文王・武王・周公。㋭孔子・釋迦・老子。三聖圖を見よ。㋬孔子と釋迦とクリスト。❷其の道に於て最も優れた三人の人。㋑歌道の三聖。柿本人麿・山部赤人・衣通姫。〔諸神記、中〕和歌兩神事、云云、三聖、人丸・赤人・衣通姫。㋺書道の三聖。弘法大師・菅原道眞・小野道風。〔夜鶴庭訓抄、能書人人〕弘法・天神・道風、三聖之由、見二世事要略一。㋩俳諧の三聖。荒木田守武・山崎宗鑑・飯尾宗祇。〔羇旅漫錄、下〕許六が俳諧三聖の圖にはばせをの贊あり。〔自注〕三聖は宗祇・宗鑑・守武。❸〖佛〗（サンシャウ）三人の聖者。㋑法華の三聖。二乘・通教の菩薩・別教の菩薩。〔法華玄義、一〕横二破凡夫之四執一、竪二破三聖之證得一。㋺華嚴の三聖。毘盧舍那佛・文殊菩薩・普賢菩薩。㋩彌陀の三聖。阿彌陀佛・觀世音菩薩・勢至菩薩。㋥震旦(支那)の三聖。老子・孔子・顏回。〔止觀、五〕我遣二三聖一化二彼眞丹一。〔同輔行〕清淨法行經云、月光菩薩、彼稱二顏回一、光淨菩薩、彼稱二仲尼一、迦葉菩薩、彼稱二老子一。

【三聖圖】1014 サンセイヅ　孔子と釋迦と老子との三人を畫いた圖。三教圖。〔齊東野語、十二〕理宗朝、有二待詔馬遠一、畫二三教圖一、黃面老子、則跏趺中坐、猶二龍翁儼二立於傍一、吾夫子乃作二禮於前一、此蓋內璫、故令レ作二此、以侮二聖人一也、云云、公卽贊レ之曰、釋氏趺坐、老聃傍睨、惟吾夫子、絕倒在レ地。

【三精】1015 サンセイ　❶日・月・星をいふ。〔後漢書、光武帝紀贊〕九縣飇廻、三精霧塞。〔注〕三精、日・月・星也。〔韋昭、吳鼓吹曲〕三精垂レ象、符靈表レ德。〔陸機、吳大帝誄〕體二和二合一、以察二三精一。❷三魂(569)に同じ。❸古書、八索中の篇名。〔雲笈七籤〕後有二八帝一、次二三皇一而治、又各受二一卷一、亦以二禮靈之教一治二天下一、上三卷曰二三精一、次三卷曰二三變一、次二卷曰二二化一、凡八卷、號曰二八索一。

【三齊】1016 サンセイ　❶齊の三國。項羽が齊を分けて膠東・齊・濟北の三國とした。膠東は今の山東省東北部の地、濟北は今の山東省中部の地、齊は膠東と濟北との間。〔史記、項羽紀〕榮因自立爲二齊王一、而西擊殺二濟北王田安一、幷王二三齊一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、齊與二濟北・膠東一。正義曰、三齊記云、右卽墨、中臨淄、左平陸、謂二之三齊一。❷齊國の三倍に當る勢力。〔戰國、燕策〕蘇代乃遺二燕昭王書一曰、云云、今乃以二三齊一臨レ燕、其禍必大矣。

【三聲】1017 サンセイ　❶三度、鳴る。又、幾度も鳴る。〔南齊書、五行志〕雷鳴頻續三聲。〔崔塗、隴上逢二江南故人一詩〕三聲戍角邊城暮、萬里鄉心塞草春。❷三度、鳴く。又、幾度も鳴く。頻りに鳴く。〔水經、江水注〕漁者歌曰、巴東三峽巫峽長、猿鳴三聲淚沾レ裳。〔梁元帝、遺二武陵王一詩〕四鳥嗟二長別一、三聲悲二夜猿一。〔常建、嶺猿詩〕相思嶺上相思淚、不レ到二三聲合一斷腸一。

【三聲猿後垂二鄉淚一】1018 サンセイエンゴキャウルイヲタル　猿の聲に故鄉を憶ふこと。〔白居易、舟夜贈レ內詩〕三聲猿後垂二鄉淚一、一葉舟中載二病身一、莫下凭二水窗一南北望上、月明月闇總愁レ人。

【三澨】1019 サンゼイ　❶河の名。㋑湖北省京山縣の潼泉山から出る。一說に、地名といふ。〔書、禹貢〕嶓冢道レ漾、東流爲レ漢、又東爲二滄浪水一、過二三澨一、至二于大別一。〔鄭注〕三澨、水名、在二江夏竟陵之界一。〔孔傳〕三澨、水名、入レ漢。〔史記、夏紀〕過二三澨一。〔注〕索隱曰、水經云、三澨、地名、在二南郡邔縣北一、孔安國・鄭玄、以爲二水名一。㋺泌河。〔金履祥、尚書注〕三澨、卽泌河、其一源名二三家河一、又一源名二三里河一、西南流至二鄧州一、東南合二白河一、潔水河入レ漢、是名二三澨一也。❷三つの水涯、或は水邊。〔說文〕澨、埤二增水邊土一人所レ止者、云云、夏書曰、過二三澨一。〔侯楨、禹貢古今注通釋〕孔鄭以二三澨一爲二水名一、不レ及二許氏之確一。❸襄陽縣の地で、淯水が漢水に入る三處の名。〔胡渭、禹貢錐指〕三澨當レ在二淯水入レ漢處一、一在二襄城北一、卽大隄、一在二樊城南一、一在二三州口東一、皆襄陽縣地、在二邔縣之北一也。

【三小】1020 サンセウ　弩の祕法。〔後漢書、孝明八王、陳敬王羨傳、注〕華嶠書曰、寵射、其祕法、以二天覆地載一、參連爲レ奇、又有二三微三小一、三微爲レ經、三小爲レ緯、經緯相將、萬勝之方、然要在二機牙一。

【三小子】1021 san¹ hsiao³ tzǔ　奴婢の下に使はれる者。

【三少】1022 サンセウ　❶少師・少傅・少保をいふ。三孤。〔大戴禮、保傅〕置二三少一、皆上大夫也、曰、少保・少傅・少師、是與二太子一宴者也。〔漢書、百官公卿表序〕立二三少一爲二之副一、少師・少傅・少保。❷三度若くなる。〔韻府引列女傳〕夏姬挾二技術一、老而復少者三、諺曰、夏姬得レ道、鷄皮三少。❸若くして名のあつた三人。㋑晉の王羲之・王承・王悅を王氏の三少といふ。〔晉書、王羲之傳〕目二羲之與二王承・王悅一、爲二王氏三少一。㋺唐の李嗣眞・劉獻臣・徐昭。〔唐書、李嗣眞傳〕嗣眞直二弘文館一、與二學士劉獻臣・徐昭一、皆少有レ名、號二三少一。

【三消】1023 サンセウ　病名。消渴病の上消・中消・下消の併稱。病が上焦に在るのを上消、中焦に在るのを中消、下焦に在るのを下消といふ。三焦及び消渴(**6—17529··11**)を見よ。

【三笑】1024 サンセウ　晉の惠遠法師が廬山で陶淵明・陸士靜二人を送つて虎溪を過ぎり、虎の鳴くのを聞いて常には避けて通らない虎溪を通つたことに心づき、因つて三人が大笑した故事。虎溪三笑(**9—32675··39**)・三笑亭を見よ。

【三笑亭】1025 サンセウテイ　亭の名。江西省星子縣の廬山。虎蹊三笑の遺蹟。〔廬山記〕惠遠居二廬山東林寺一、送レ客不レ過レ溪、一日與二陶淵明・道士陸士靜一共話、不レ覺レ踰レ之、虎輒驟鳴、三人大笑而別、後建二三笑亭一。

【三焦】1026 サンセウ　六腑の一。水穀の通路で、上焦は胃の上口に在つて、飲食物を胃に入れることを掌り、中焦は胃の中院に在つて、消化を掌り、下焦は膀胱の上口に在つて、排泄を掌るといふ。三膲。〔素問、靈蘭祕典論〕三焦者、決瀆之官、水道出焉。〔史記、扁鵲傳〕別下二於三焦膀胱一。〔難經、三十一難〕三焦者、水穀之道路、氣之所二終始一也、上焦在二胃上口一、主レ內而不レ出、中焦在二胃中院一、不レ上不レ下、主二腐二熟水穀一、下焦當二膀胱上口一、主三分二別清濁一、主レ出而不レ內。

【三樵】1027 サンセウ　淸、茹敦和(**9—30921··47**)の字。

【三燒】1028 san¹ shao¹　燒酒をいふ。

【三夕】1029 サンセキ　❶三晚。三夜。〔宋史、張方平傳〕張二燈城門一、三夕不レ閉。〔齊東野語、十九〕世婦二十七人爲二三夕一。❷三夕の和歌の略。秋の夕暮をよんだ三首の著名な歌。浦の苫屋・鴫立つ澤・槇立つ山を詠ず。「見渡せば花も紅葉も無かりけり浦の苫屋の秋の夕暮」(藤原定家)、「心なき身にもあはれは知られけり鴫立つ澤の秋の夕暮」(西行法師)「さびしさは其の色としも無かりけり槇立つ山の秋の夕暮」(寂蓮法師)。〔合類節用集、十、數量門〕詠歌三夕、浦苫屋、鴫立澤、槇立山。

【三尺】1030 サンセキ サンジャク　❶一尺の三倍。〔周禮、考工記、車人〕柯長三尺、博三寸。〔禮、禮器〕天子之堂九尺、諸侯七尺、大夫五尺、士三尺。❷劍をいふ。三尺劍を見よ。〔辛德源、白馬篇〕寶劍提二三尺一、雕弓韜二六鈞一。❸法律。古は三尺の竹簡に法律を書いたからいふ。〔史記、酷吏、杜周傳〕客有レ讓二周一曰、君爲二天子一決レ平、不レ循二三尺法一、專以二人主意指一爲レ獄、獄者固如レ是乎、周曰、三尺安出哉、前主所レ是、著爲レ律、後主所レ是、疏爲レ令、當時爲レ是、何古之法乎。〔注〕集解曰、漢書音義曰、以二三尺竹簡一書二法律一也。❹刑具の名。脚のくるぶしを挾んで苦痛を與へるもの。夾棍。〔六部成語、刑部、三尺、注解〕三尺木之刑、俗名二夾棍一、最重之刑也。❺へこおび。三尺帶の略。

【三尺劍】1031 サンジャクノツルギ　劍をいふ。劍の長さが凡そ三尺あるからいふ。〔戰國、齊策〕曹沫奮二三尺之劍一、一軍不レ能レ當。〔史記、高祖紀〕吾以二布衣一提二三尺劍一取二天下一、此非二天命一乎。〔杜甫、重經二昭陵一詩〕風塵三尺劍、社稷一戎衣。

【三尺水】1032 サンジャクスイ　劍をいふ。三尺は長さ、水は冴え渡つた色の形容。三尺秋水。〔李賀、劍歌〕先輩匣中三尺水、曾入二吳潭一斬二龍子一。

【三尺土】1033 サンセキノド　墓をいふ。〔琵琶記、張公遇レ使〕敎二凭レ誰看二你三尺土一。

【三尺法】1034 サンセキノハフ　法律を云ふ。三尺の❸を見よ。

【提二三尺一】1035 サンジャクヲヒッサグ　三尺の劍をひつさげる。〔漢書、高帝紀下〕吾以二布衣一提二三尺一取二天下一。

【三尺秋水】1036 サンジャクノシウスイ　劍をいふ。秋水は冴え

渡つた色の形容。三尺の●及び三尺水・秋水(8－24940‥213)を見よ。〔阪田警軒、日本刀說〕揚揚然横二三尺秋水一、一庸夫當レ前焉。

【三尺童子】1037 サンセキノドウジ 六七歳のわらべ。尺は二歳半。〔胡銓、上二高宗一封事〕夫三尺童子、至無知也、指二夫家一而使二之拜一、則怫然怒。

【三尺之泉足レ止二軍之渴一】1038 サンジャクノカンヅミハヘサングンノカツヲトドムルニタル 少しの水も大軍の渴を止め得る。〔尉繚子、治本〕百里之海、不レ能レ飲二一夫一、三尺之泉、足レ止二三軍之渴一。

【三石】1039 サンセキ 明、吳文獻(2－3365‥855)の字。

【三石子】1040 サンセキシ 明、喬世寧(2－3990‥80)の號。

【三石草堂】1041 サンセキサウダウ 明、全整(1－1424‥116)の室名。

【三脊】1042 サンセキ 三つの角ド。又、三脊茅に同じ。〔管子、封禪〕江淮之間、一茅三脊、所二以爲一籍也。〔漢書、郊祀志〕江淮間、一茅三脊、所二以爲一籍也。〔注〕服虔曰、茅草有二三脊一也。

【三脊茅】1043 サンセキバウ たまほ。三脊、卽ち三つのかどある茅。〔宋史、眞宗紀二〕大中祥符元年九月戊午、岳州進二三脊茅一。〔劉敞、三脊茅記〕三脊茅、出二江淮之間一、皆楚越國也、有二王者一則後服、無二王者一則先叛、故封禪者、必以二三脊茅一、其意以爲、能服二楚越一、則三脊茅可レ致、而封禪乃宜矣。

【三迹】1044 サンセキ 三人の能筆家。兼明親王・藤原行成・藤原佐理をいふ。或は、兼明親王を除いて小野道風を加へる。三蹟(1047)を見よ。〔國史略、一條天皇〕佐理、清愼公之孫。云云、以レ善レ書名、世稱二前中書王兼明・亞相行成及佐理一爲二三迹一。各有二風體一。

【三隻】1045 サンセキ 三つ。〔清異錄、釋族、三隻鷰〕去習者、雲行至二峨眉山一而隱、蓄二三隻鷰一、常用二一補一。歲久裂帛交雜、望其葺焉、自呼爲二獅子鷰一。

【三隻手】1046 san¹ chih¹ shou³ 掏兒リス。小泥棒。かっぱらひの類。

【三蹟】1047 サンセキ 三人の能筆家。蹟は筆跡。小野道風・藤原佐理・藤原行成。三迹(1044)を見よ。〔合類節用集、十數量門〕本廟三蹟、道風・佐理・行成。

【三鼓】1048 サンコ 夜警をする三つの鼓。〔周禮、春官、鎛師〕凡軍之夜、三鼓皆鼓レ之。

【三折】1049 サンセツ ●三度、戰爭に敗れること。三敗。〔史記、魏世家〕寡人不佞、兵三折於外。●三度折れ曲がる。〔沈約、白馬篇〕赤坂途三折、龍堆路九盤。

【三折肱】1050 サンセツコウ 醫者が、幾度も人の肱を折つて、始めて良醫となることをいふ。一說に、幾度も自分の肱を折つて自ら治療し、始めて良醫となる。經驗を積んで老練になる喩。九折。〔左氏、定、十三〕三折肱、知レ爲二良醫一〔會箋〕三折、屢傷折也、此言、屢自毀自醫、而知二所一以醫レ人也。〔孔叢子、嘉言〕夫三折肱、爲二良醫一。〔說苑、雜言〕語不レ云乎、三折肱、而成二良醫一。〔劉禹錫、效二阮公體一詩〕百勝難レ慮レ敵、三折乃良醫。〔書言故事、身體說類〕言人更二歷事變一、曰二三折肱一。

【三折一律】1051 サンセツイチリツ 反切法の一種。一名、唐人切。助紐を用ひて反切するもの。反切(2－3127‥158)を見よ。〔韻鏡序〕每レ翻二一字一、用二切母及助紐一歸納、凡三折、總歸二一律一。

【三接】1052 サンセツ 三度會ふ。三度交はる。〔易、晉〕晝日三接。〔左思、魏都賦〕三接三捷、既晝亦月。

【三節】1053 サンセツ ●三つのふし。〔風俗通、六國〕竹三節莫レ通。●蚩尤・五觀・殷紂をいふ。〔逸周書、嘗麥解〕頌二審三節一、無レ思。〔注〕三節、蚩尤・五觀・殷紂也。●san¹ chieh² ①年節(正月元旦或は年末)・端午(五月五日)・中秋(八月十五日)の節。この期に商家にては決算を行ふ。㊁商家で財神・端午・中秋をいふ。

【三節會】1054 サンセチエ 古昔、正月元日・七日・十六日に行つた節會。

【三節棍】1055 サンセツコン 武器。●棍棒の端に、鐵索で短棍二つを綴り付けて、敵を打つもの。北方地方で多くこれを用ひる。連珠雙鐵鞭。〔武備志〕。●同じ長さの三つの棍棒を鐵索で連ねたもの。三截棍。

【三節祭】1056 ミツマツリ 伊勢大神宮で行はれる年中の三大祭、卽ち六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭とをいひ、內宮では各十七日に、外宮では各十六日に行ふ。〔伊勢大神宮式〕凡齋內親王、三節祭時、參二神宮一。

【三節淸算】1057 san¹ chieh² ch'ing¹ suan⁴ 五月五日の端午節、八月十五日の中秋節、十二月晦日の年節の三節の前に行ふ商取引上の決算。

【三絕】1058 サンゼツ ●すぐれて上手な三つのもの。①魏の受禪碑に於ける王朗の文と、梁鵠の書と、鍾繇の鐫字とをいふ。〔尙書故實〕魏受禪碑、王朗文・梁鵠書・鍾繇鐫字、謂二之三絕一。㊁晉の顧愷之の才絕・畫絕・癡絕をいふ。〔晉書、顧愷之傳〕俗傳、愷之有二三絕一、才絕・畫絕・癡絕。㊂晉の袁山松の行路難と、羊曇の唱樂と、桓伊の挽歌とをいふ。〔晉書、袁山松傳〕山松善二音樂一、舊歌有二行路難一、曲辭頗疏質、山松好レ之、乃文二其辭句一、婉二其節制一、每因二酣醉一、縱レ歌之、聽者莫レ不二流涕一。初羊曇善二唱樂一、桓伊能二挽歌一、及二山松行路難繼レ之、時人謂二之三絕一。㊃晉の義熙年間に獅子國から獻じた玉の佛像と、戴安道の作つた佛像と、顧長康の維摩の畫圖とをいふ。〔南史、師子國傳〕晉義熙初、始遣レ使獻二玉像一、經二十載一乃至、像高四尺二寸、玉色潔潤、形制殊特、殆非二人工一、此像歷二晉宋一在二瓦官寺一、先有二徵士戴安道手製佛像五軀一、及顧長康維摩畫圖一、世人號二之三絕一。㊄南朝宋の謝瞻が喜霽詩を作り、謝靈運が之を寫し、謝朓が之を詠じたのを、王弘が三絕と稱した。〔南史、謝瞻傳〕與二從叔混・族弟靈運一、俱有二盛名一、嘗作二喜霽詩一、靈運寫レ之、混詠レ之、王弘在レ坐、以爲二三絕一。㊅梁の元帝の畫いた孔子の像と贊と書とをいふ。〔南史、梁元帝紀〕帝工二書善一レ畫、自圖二宣尼像一、爲二之贊一、而書レ之、時人謂二之三絕一。㊆隋の田僧亮・楊契丹・鄭法士の三人が京師の光明寺の塔の壁に畫いた繪の稱。〔歷代名畫記〕田僧亮・楊契丹與二鄭法士一、同于二京師光明寺一畫二小塔一、鄭圖二東壁北壁三田圖一西壁南壁、楊畫二外邊四面一、是稱二三絕一。㊇唐の鄭虔が自作して玄宗に獻じた詩と畫と書とをいふ。〔唐書、鄭虔傳〕嘗自寫二其詩幷畫一、以獻、帝大二署其尾一曰、鄭虔三絕。㊈唐の李揆の、門地の高いことと、文學に秀れてゐることと、人物の立派なことをいふ。〔唐書、李揆傳〕揆美二風儀一、善二奏對一、帝嘆曰、卿門地・人物・文學、皆當世第一、信朝廷羽儀乎、故時稱二三絕一。㊉唐の宋之問の父なる令文が、文辭があり、書を善くし、又、力の強いことをいふ。〔唐書、宋之問傳〕之問父令文、富二文辭一、工レ書、有二力絕一人、世稱二三絕一。㊊唐の韋嗣の名判と、李巨の巧書と、徐彥伯の文辭とを河南の三絕といふ。〔唐書、徐彥伯傳〕司戶韋嗣善レ判、司士李巨工レ書、彥伯屬レ辭、時稱二河南三絕一。㊋吳の趙夫人の織錦を機絕といひ、刺繡を針絕といひ、毛髮を以て織つた幔を絲絕といふ。〔拾遺記、吳〕吳主趙夫人、丞相達之妹、善畫巧妙無雙、能於二指間一以採レ絲、織二雲霞龍蛇之錦一、大則盈レ尺、小則方寸、宮中謂二之機絕一。云云、姜能刺繡作二列國方帛之上一、寫以二五岳河海城邑行陣之形一、既成、乃進二於吳主一、時人謂二之針絕一。云云、夫人乃折レ髮以二神膠一續レ之、神膠出二鬱夷國一、接二弓弩之斷絃一、百斷百續也、乃織爲二羅穀一、累月而成、裁爲二幔一、內外視レ之、飄飄如二烟氣一、輕動而房內自涼、時權常在二軍旅一、每以二此幔一自隨、以爲二征幔一、舒レ之則廣縱一丈、卷レ之則可レ內二於枕中一、時人謂二之絲絕一、故吳有二三絕一。㊌唐の玄宗が行幸の儀容を畫かせた時、山川は陳宏、車旗は韋之秦、人畜は吳道子が畫いたものをいふ。〔開天傳信記〕明皇幸二潞洲一、道由二金橋一、羽儀甚盛、命圖レ之、山川、陳宏主レ之、車旗、韋之秦主レ之、人畜、吳道子主レ之、時謂二之三絕一。㊍唐の李白の詩と、裴旻の劍舞と、張旭の草書とをいふ。〔唐書、李白傳〕文宗時、詔以二白歌詩・裴旻劍舞・張旭草書一爲二三絕一。㊎唐の張璪の古松の畫と、符載の讚と、衡象の詩とをいふ。〔酉陽雜俎、語資〕張璪常畫二古松於齋壁一、符載讚レ之、衡象詩レ之、亦一時三絕。●三たび斷絕する。孔子が易を讀んで、韋編の三絕した故事。〔史記、孔子世家〕孔子晩而喜レ易、序二彖・繫・象・說卦・文言一、讀レ易韋編三絕。〔蘇軾、夜夢詩〕易韋三絕丘猶然、如レ我當レ以二犀革一編。●三首の絕句。芳野三絕の類。〔白居易、家園三絕詩〕湓浪峽水子陵灘、路遠江深欲レ去難。〔容齋五筆、唐人草堂詩句〕白公有二別草堂三絕句一。

【三絕鐘銘】1059 サンゼツノメイ 山城國高雄山神護寺に

ある橘廣相の詞、菅原是善の銘、藤原敏行の書をいふ。〔古京遺文〕神護寺鐘名、云云、廣相・是善・敏行、竝是顯人、俗稱爲三絶鐘銘一、非レ虛也。

【三川】1060 サン セン ●一三つの川。(イ)涇・渭・洛。〔小學紺珠、地理類、三川〕涇・渭・洛。(ロ)涇・渭・汧。〔淮南子、俶眞訓〕嶢山崩、三川涸。〔注〕三川、涇・渭・汧也。(ハ)涇・渭・汭。〔國語、周語上〕幽王三年、西周三川皆震。〔注〕三川、涇・渭・汭、出於岐山一也。(ニ)河・洛・伊。〔小學紺珠、地理類、三川〕河・洛・伊。(ホ)華池水・黑水・洛水。●二河の名。河北省安次縣の東。〔東安縣志〕大石橋之流爲東川一、西浮橋之流爲西川一、八里橋迤西之流爲南川一、是爲三川一、晉劉琨守レ此、以拒石勒一。●三唐代に、劍南の西川・東川及び山南の西道をいふ。〔唐書、杜甫傳〕會祿山亂一、天子入レ蜀、甫避走三川一。〔小學紺珠、地理類、三川〕劍南西川・東川・山南西道、通鑑三川。●四郡名。秦、置く。境内に河・洛・伊の三川があるからいふ。漢には河南郡と改む。故治は今の河南省滎澤縣の西南。〔史記、秦始皇紀〕滅二周一、置三川郡一。〔漢書、高帝紀上〕沛公與項羽一西略レ地至雍丘一、與秦軍一戰、大敗レ之、斬三川守李由一。〔注〕應劭曰、三川、今河南郡也、韋昭曰、有河・洛・伊一、故曰三川一也。●五縣名。(イ)後魏の長城縣。西魏の時に三川縣と改む。故城は今の陝西省鄜縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州〕三川城、州南六十里、苻秦置長城縣一、西魏改爲三川縣一。(ロ)宋の三川砦。金は縣とす。故治は今の甘肅省固原縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、固原州〕三川城、州東南百里、宋天聖中、置三川砦一。●六複姓。三川の地名を姓としたもの。〔楊震碑陰〕。●七明、包大中(2‥2506‥160)の號。

【三尖】1061 サン セン 山名。湖北省巴東縣の西南。〔宋史、趙方傳〕師由光化境一出、砦于三尖山一、拔順陽縣一、金人率レ衆仰攻、大敗。

【三尖瓣】1062 サンセン ベン 心臟の右心耳と心室との間にある先端の尖つた三片の舌。心耳・心室の通路の開閉を司るもの。

【三泉】1063 サン セン ●一深い泉。〔史記、秦始皇紀〕穿三泉一、下レ銅而致レ椁。〔注〕正義曰、顏師古云、三重之泉、言レ至レ水也。〔淮南子、俶眞訓〕下揆三泉一、上尋九天一。〔漢書、鮑宣傳〕退入三泉一。〔漢書、賈山傳〕下徹三泉一。〔注〕師古曰、三重之泉、言其深一也。●二地下。〔後漢書、袁紹傳〕無レ念愚臣結恨三泉一。〔注〕三者、數之小終、言レ深也。

【三泉鎭】1064 サンセン チン 鎭の名。●一山西省新絳縣の西北。●二山西省汾陽縣の西南に在り、砦がある。

【三扇】1065 ミツ アフギ 紋所の名。三枚の扇子を、其の要を中心として結びつけた形。〔明良洪範續、十三〕豆州の紋所は、云云、養家の三つ蝶に准じ、三つ扇を付けられしにや。

【三孱】1066 サン セン 多數の劣弱者。〔黃庭堅、次韻楊明叔詩〕匹士能光レ國、三孱不レ滿レ隅。

【三睘】1067 サン セン 三たび回轉する。睘は還に同じ。〔墨子、節葬下〕以レ此求レ治、譬猶レ使人三睘而毋レ負レ己也。〔閒詁〕王引之云、睘與レ還同、還讀周還折還之還一、謂轉折一也。

【三銓】1068 サン セン 唐代の文武官銓試の法。一人の銓衡に三度の手を經る。文官は吏部尙書が銓衡し、武官は兵部待郎が之を銓衡した。〔唐書、百官志〕吏部掌文選一、以三銓之法一官天下之材一。〔唐書、百官志〕文選、吏部掌レ之、武選、兵部掌レ之、皆爲三銓一、尙書侍郎分主之一。

【三線】1069 サミ セン 絃樂器の名。三味線。三絃。〔和漢三才圖會、樂器類、三線〕按、其絃三、故名三線一、琉球國、好多用レ之。

【三線草】1070 サミセン グサ 草の名。ぺんぺんぐさ。なづなの俗稱。三絃草。〔和漢三才圖會、柔滑菜、薺菜〕和名奈都那、俗云三線草一。

【三線蝶】1071 サンセン テフ 蝶の一。みすぢてふ。たてはてふ科に屬す。翅の表面は黑褐色で、三條の白斑がある。

【三線譜】1072 サンセン フ 三條の平行線を基礎として音の位置を表はす樂譜。

【三戰】1073 サン セン 三たび戰ふ。〔左氏、哀、十一〕東郭書曰、三戰必死。〔公羊、成、二〕壹戰不レ勝請レ再、再戰不レ勝請レ三、三戰不レ勝、則齊國盡子之有也。〔史記、五帝紀〕軒轅與炎帝一戰於阪泉之野一、三戰、然後得其志一。〔史記、平原君傳〕〔毛遂謂楚王一〕曰、白起小豎子耳、云云、一戰而擧鄢郢一、再戰而燒夷陵一、三戰而辱王之先人一。

【三戰神】1074 サン センジン 佛戰を司る三はしらの神。摩利支天・大黑天・毘沙門天。

【三戰三勝】1075 サンセン サンショウ 三たび戰つて三たび勝つ。三戰三捷。〔戰國、齊策〕成侯鄒忌爲齊相一、田忌爲レ將、不相說一、鄒忌以爲レ然、乃說レ王、而使田忌伐レ魏、田忌三戰三勝、鄒忌以告公孫閈一、公孫閈乃使下人操十金一、而往卜於市上、曰、我田忌之人也、吾三戰而三勝、聲威天下一、欲レ爲大事一、亦吉否、卜者出、因令人捕一、爲レ人卜者、亦驗其辭於王前一、田忌遂走。

【三戰三捷】1076 サンセン サンセフ 三戰三勝に同じ。〔宋史、牛皐傳〕皐討劇賊楊進於魯山一、三戰三捷、賊黨奔潰。

【三戰三走】1077 サンセン サンソウ 三たび戰つて三たび逃る。三戰三北。〔史記、管仲傳〕吾嘗三戰三走、鮑叔不以レ我爲レ怯、知我有老母一也。

【三戰三敗】1078 サンセン サンパイ 三たび戰つて三たびやぶれる。〔五代史、唐莊宗紀〕大順元年十一月、濬及克用、戰于陰地一、濬軍三戰三敗、濬建遯歸。

【三戰三北】1079 サンセン サンボク 三戰三走に同じ。〔國語、吳語〕三戰三北、乃至于吳一、越師遂入吳國一、圍王宮一。〔列子、力命〕吾嘗三戰三北、鮑叔不以レ我爲レ怯、知我有老母一也。〔韓詩外傳、十〕卞莊子好レ勇、母無レ恙時、三戰而三北、交游非レ之、國君辱レ之。

【三遷】1080 サン セン 三度移る。●一其の人の官職の變ることにいふ。〔史記、越世家〕太史公曰、范蠡三遷、皆有榮名一。●二居所を移すことにいふ。子供を教育する爲に、墓所の近くから市場へ、市場から學校の傍へと、三度家を遷した孟子の母の故事。三遷教。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕鄒孟軻之母也、號孟母一、其舍近レ墓、孟子之少也、嬉遊爲墓閒之事一、踊躍築埋、孟母曰、此非吾所以居處子一、乃去舍市傍一、其嬉戲、爲賈人衒賣之事一、孟母又曰、此非吾所以居處子一也、復徙舍學宮之傍一、其嬉遊、乃設俎豆一、揖讓進退、孟母曰、眞可以居吾子一矣、遂居レ之、及孟子長一、學六藝一、卒成大儒之名一。

【三遷教】1081 サンセンノ ヲシヘ 三遷の●二を見よ。〔趙岐、孟子題辭〕孟子生有淑質一、幼被慈母三遷之教一。

【三選】1082 サン セン ●一官吏登用の三度の試驗。鄉で試み、有司が試み、諸侯が又自ら試みる。〔國語、齊語〕選其官之賢者一而復用レ之曰、有レ人、居我官一、有功休德、云云、足以補官之不善政一、桓公召而與レ之語、訾相其質一、云云、退問其鄉一、以觀其所レ能、而無大厲一、升以爲上卿之贊一、謂之三選一。〔管子、小匡〕令下選官之賢者一而復上、曰、有レ人、居我官一、有功休德、維順端愨、以待時使一、云云、公宣問其鄉里一而有考驗一、乃召而與レ之坐、省相其質一、云云、退而察問其鄉里一、以觀其所レ能、而無大過一、登以爲上卿之佐一、名レ之曰三選一。●二七相五公・豪傑・貨殖の三通りの人を選ぶこと。〔班固、西都賦〕三選七遷、充奉陵邑一。〔注〕善曰、三選、謂レ選三等之人一、向曰、三選、一曰七相五公、二曰豪傑、三曰貨殖。

【三錢】1083 サン セン ●一錢三枚。〔三輔決錄〕安陵道者、有次仲仙一、飮馬渭水一、每投三錢一。〔任昉、答陸倕感知己賦〕不一飯以忘レ過、每三錢以投レ渭。〔駱賓王、海曲書レ情詩〕江濤讓雙璧一、渭水擲三錢一。〔賓退錄〕唐太宗時、米斗三錢、後世以爲美談一、天監四年、米斛三十錢、唐元和六年、天下米斗有直二錢者一。●二三種類の錢。三錢之府を見よ。●三目方。三兩の十分の一。〔石室祕籙、小便不通〕方用人參・蓮子・茯苓・車前子・王不留行各三錢、白果二十個、甘草一錢、肉桂三分一。

【三錢之府】1084 サンセン ノフ 黃金・白銀・赤銅の三種の貨幣を藏する府庫。〔史記、越世家〕王乃使使者封三錢之府一、楚貴人驚告朱公長男一曰、王且レ赦。〔注〕集解曰、國語曰、周景王時、將レ鑄大錢一、賈逵說云、虞夏商周、金幣三等、或赤或白或黃、黃爲上幣一、銅錢爲下幣一、韋昭曰、錢者、金幣之名、所下以貿買物一通中財用上也、云云、封三錢之府一者、錢幣至重、慮人或逆知レ有レ赦盜竊之一、所下以封錢府一備中盜竊上也。

【三還】1085 サン セン 三たび回轉する。三睘。三還三辭を見よ。

【三還三辭】1086 サンセン サンジ 他國の使者が聘問の禮を

終つて辭去する時、三度禮を轉じて主國の君に向ひ、送るのを三度辭退すること。〔周禮、秋官、司儀〕三還三辭告レ辟。

【三鱣】1087 サンセン 三匹の海へび。三公の象とせられてゐる。〔後漢書、楊震傳〕有二冠雀一銜二三鱣魚一、飛集二講堂前一、都講取レ魚進曰、蛇鱣者、卿大夫服之象也、數三者、法二三台一也、先生自レ此升矣。〔注〕鱣魚、長者不レ過二三尺一、黃地黑文、故都講云、蛇鱣、卿大夫之服象也。〔梁簡文帝、司徒始興忠武王誄〕三鱣表レ服、二鹿隨レ輪。

【三鱣堂】1088 サンセンダウ 堂の名。河南省閿鄉縣の西。一名、校書堂。後漢の楊震が隱居して教授した所。雀が三鱣魚を銜んで堂前に集まつたので名づけた。三鱣を見よ。〔明一統志〕三鱣堂、在二河南閿鄉縣西二一里一、一名、校書堂、漢楊震、隱居教授、有下雀銜二三鱣魚一集中堂前上、時以爲二三公之象一、堂因以名。

【三千】1089 サンゼン ㊀一千の三倍。〔梁簡文帝、昇仙篇〕幾廻三千年。〔孔穎達、毛詩正義序〕時經二五代一、篇有二三千一。㊁長いこと、又は多いことにいふ。〔李白、秋浦歌〕白髮三千丈、緣レ愁似レ箇長。〔李益、揚州早雁詩〕江上三千雁、年年過二故宮一。

【三千營】1090 サンゼンエイ 明の成祖が邊外の降丁三千を得て立てた軍營。三大營の一。〔明史、職官志五〕京營、永樂二十二年、置二三大營一、曰、五軍營、曰、神機營、曰、三千營。

【三千士】1091 サンゼンノシ 三千人の兵。〔史記、平原君傳〕得二敢死之士三千人一。〔郭鈺、送三朱鵬擧照磨赴二江西省掾一詩〕英雄舊總二三千士一、美譽新傳二十一州一。

【三千里】1092 サンゼンリ ㊀極めて廣い面積。〔王粲、從軍詩〕拓レ地三千里、往返速如レ飛。〔宋書、武帝紀中〕拓レ土三千里、申威二龍漢一。㊁極めて遠い距離。〔莊子、逍遙遊〕水擊三千里、搏二扶搖一而上者九萬里。〔陳琳、飮馬長城窟行〕長城何連連、連連三千里。〔張翰、思二吳江一歌〕三千里兮家未レ歸、恨レ難レ得兮仰レ天悲。

【三千威儀】1093 サンゼンノヰギ 數多くの威儀作法。〔中庸〕禮儀三百、威儀三千。〔漢書、藝文志〕禮經三百、威儀三千。〔大部輔注、十一〕三千威儀、約二二百五十戒一、各有二四威儀一、行住坐臥、合爲二一千一、循二三世一、轉爲二三千威儀一。

【三千宮女】1094 サンゼンノキユウヂヨ 澤山の宮女。〔趙嘏、送二沈單作レ尉二江都一詩〕三千宮女自塗レ地、十萬人家如二洞天一。〔白居易、七德舞詩〕怨女三千放出レ宮、死囚四百來歸レ獄。

【三千珠履】1095 サンゼンノシユリ 戰國時代の楚の春申君が、食客三千人に珠の履をはかせた故事。極めて贅澤なこと。〔史記、春申君傳〕趙使欲レ夸レ楚、爲二瑇瑁簪一、刀劍室以二珠玉一飾レ之、請二命春申君客一、春申君客三千餘人、其上客皆躡二珠履一以見二趙使一、趙使大慙。〔武元衡、送二裴戡行レ軍詩〕珠履三千醉不レ歡、玉人猶苦二夜氷寒一。〔杜牧、春申君詩〕三千賓客總珠履、欲レ使二何人殺二李園一。

【三千食客】1096 サンゼンノショクカク 食客の多いこと。戰國時代の孟嘗君・信陵君等が多數の食客を養つた故事。〔史記、孟嘗君傳〕食客三千人、邑入不レ足二以奉レ客。〔史記、信陵君傳〕致二食客三千人一。〔羅隱、寄二酬鄴王羅令公一詩〕十萬貔貅趨二玉帳一、三千賓客珥二金貂一。

【三千世界】1097 サンゼンセカイ ㊀佛小千世界・中千世界・大千世界の稱。須彌山の周圍に七山八海があり、其の外を大鐵圍山が圍んでゐるのを一小世界とし、小世界一千を小千世界、小千世界一千を中千世界、中千世界一千を大千世界とする。三千大千世界の略。〔倶舍論、十一〕如レ是總說爲二一小千一、千二倍小千一名二一中千界一、千中千界總名二一大千一。〔釋氏要覽〕此山(須彌山)有二八山一遶レ外、有二大鐵圍山一周廻圍繞、并一日月晝夜回轉、照二四天下一、名二一國土一、積二一千國一、各二小千世界一、積二千箇小界一、名二中千世界一、積二一千中世界一、名二大千世界一、以二三積レ千、故名二三千大千世界一。〔白居易、春日題二乾元寺上方最高峯亭一詩〕危亭絕頂四無レ隣、見盡三千世界春。㊁廣い世界。〔御所櫻堀河夜討〕母親ばかりで出來る子が、三千世界にあらうか。

【三千寵愛】1098 サンゼンノチヨウアイ 多くの侍女にかける寵愛。〔白居易、長恨歌〕後宮佳麗三千人、三千寵愛在二一身一。

【三千弟子】1099 サンゼンノテイシ 弟子の多いこと。孔子の門人が三千人あつたことからいふ。〔史記、孔子世家〕孔子以二詩書禮樂一教、弟子蓋三千焉。〔孔子家語、觀周〕遠方弟子之進、蓋三千焉。〔阮籍、孔子誄〕養レ徒三千、升レ堂七十。〔杜甫、又示二宗武一詩〕十五男兒志、三千弟子行。〔劉滄、經二曲阜城一詩〕三千弟子標二青史一、萬代先生號二素王一。

【三千年桃】1100 サンゼンネンノモモ ミチトセノモモ 仙界に在つて、三千年に一度咲くといふ桃。みちくさ。みちよぐさ。三千年一結レ子(1104)を見よ。

【三千鍾不レ洎】1101 サンゼンシヨウナレドモオヨバズ 今は三千鍾(鍾は枡目の單位)の祿を得て富んでも、已に親が無くて之に奉ずることが出來ない悲しみ。〔莊子、寓言〕曾子曰、吾及レ親仕、三釜而心樂、後仕、三千鍾不レ洎、吾心悲。〔注〕洎、及也。〔疏〕六斗四升曰レ釜、六斛四斗曰レ鍾、洎、及也、曾參至孝、求レ祿養レ親、故前仕親在、祿雖レ少而歡樂、後仕親沒、祿雖レ多而悲悼。

【三千六百釣】1102 サンゼンロクピヤクテウ 周の太公望が、年八十で、渭水で毎日釣をしてゐたが、九十で文王に登用せられた故、此の十年間に於ける釣は、三千六百釣となるとの故事。〔李白、梁父吟〕廣張三千六百釣、風期暗與二文王一親。

【三千大千世界】1103 サンゼンダイセンセカイ ㊀佛三千世界の㊀に同じ。〔釋氏要覽〕以二三積レ千、故名二三千大千世界一。㊁廣い世界。〔宇都保物語、菊宴〕あこ君の御舞君の御さうは、三千大千世界にかたきはあらじかし。

【三千年一結レ子】1104 サンゼンネンニヒトタビシヲムスブ 仙人世界の桃。三千年に一たび花を開き實を結ぶ。〔漢武故事〕東郡送二一短人一、長五寸、衣冠具足、上疑二其精一、召二東方朔一至、朔呼二短人一曰、巨靈、阿母還來否、短人不レ對、因指謂レ上、王母種レ桃、三千年一結レ子、此兒不良、已三遇偸レ之、故被レ謫來レ此、上大驚、始知三朔非二世中人一也。〔漢武帝內傳〕帝食輒收二其核一、王母問レ帝、帝曰、欲レ種レ之、母曰、此桃三千年一生レ實。〔故事成語考、花木〕王母蟠桃、三千年開レ花、三千年結レ子、故人借以祝二壽曰一。

【三善】1105 サンゼン 三つの善事。㊀臣が君に事へ、子が父に事へ、幼者が長者に事へること。〔禮、文王世子〕行二一物一而三善皆得者、唯世子而已、云云、父子・君臣・長幼之道得而國治。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕協二隆三善一、仰二敷四德一。〔注〕銑曰、三善、謂二事レ君、事レ父、事レ長也。〔溫子昇、生二皇太子一赦詔〕有二國三善一、事屬二元良一。〔小學紺珠、人倫類、三善〕父子之道、君臣之義、長幼之節。㊁恭敬以て信、忠信以て寬、明察以て斷。〔孔子家語、辯政〕子路治レ蒲三年、孔子過レ之、入二其境一曰、善哉、由也、恭敬以信矣、入二其邑一曰、善哉、由也、忠信而寬矣、至レ廷曰、善哉、由也、明察以斷矣、子貢執レ轡而問曰、夫子未レ見二由之政一、而三稱二其善一、其善可二得聞一乎。〔小學紺珠、治道類、三善〕恭敬以信、忠信以寬、明察以斷。㊂人の一善を見ては其の百非を忘れ、人の善有るを見ては恰も己が之を有してゐるかのやうに喜び、善を聞けば必ず親ら之を行ふ。〔說苑、雜言〕曾子曰、吾聞二夫子之三言一、未二之能一レ行也、夫子見二人一善一而忘二其百非一、是夫子之易レ事也、夫子見二人有レ善、若二己有レ之、是夫子之不レ爭也、聞レ善必躬親行レ之、然後道レ之、是夫子之能レ勞也。〔小學紺珠、性理類、三善〕見二人之一善一而忘二其百非一、見二人有レ善、若二己有レ之、聞レ善、必躬親行レ之、然後道レ之。

【三善根】1106 サンゼンコン 佛三つの善根。布施・慈心・智慧。〔新譯仁王經、中〕治二貪・瞋・癡三不善根一、起二施・慈・慧三種善根一。

【三俎】1107 サンソ 三つの俎(イタナ)に載せた犧牲、卽ち豕・魚・腊をいふ。〔禮、玉藻〕特牲三俎。〔注〕三俎、豕・魚・腊。

【三胙】1108 サンソ 三つのさいはひ。〔國語、晉語四〕今晉公子有二三胙一焉、天將レ啓レ之。

【三祖】1109 サンソ ㊀三人の祖先。㋑太祖・高祖・烈祖。〔小學紺珠、歷代類、三祖〕太祖・高祖・烈祖。㋺皇祖・烈祖・文祖。〔左氏、哀、二〕衞大子禱曰、曾孫蒯聵敢昭告二于皇祖文王・烈祖康叔・文祖襄公一、鄭勝亂從、晉午在レ難、不レ能レ治レ亂、使二鞅討一レ之、蒯聵不二敢自佚一、備レ持レ矛焉、敢告、無レ絕レ筋、無レ折レ骨、無二面傷一、以集二大事一、無レ作二三祖羞一、大命不二敢請一、佩玉不二敢愛一。㋩太祖・太宗・高祖。〔北史、齊孝昭帝紀〕詔議定二三祖樂一

有司奏、太祖獻武皇帝廟、宜下奏二武德之樂一、舞中昭烈之舞上、世宗文襄皇帝廟、宜下奏二文德之樂一、舞中宣政之舞上、高祖文宣皇帝廟、宜下奏二文正之樂一、舞中光大之舞上。㈡高祖・太宗・高宗。〔金史、禮志一〕兩漢・魏・晉以來、皆配以二一祖一、至二唐高宗一、始以二高祖・太宗一崇配、垂拱初、又加以二高宗一、遂有二三祖同配之禮一。❸畫家の三祖。晉の顧長康・張僧繇・陸微。〔因話錄〕晉以二顧長康・張僧繇・陸微一爲二畫家三祖一。㊂山名。安徽省潛山縣の西北。〔明一統志〕三祖山、梁高僧誌公隱居處、有二唐僧三祖禪師塔一峭壁間、刻二杜牧金陵懷古詩一。〔安徽通志〕三祖山、有二瓔僧塔一、一名、山谷、宋黃庭堅僑二居於此一、取以自號。

【三素】1110ソサン　紫・白・綠の三色。又、此の三色の雲。一說に、紫・白・黃の三色ともいふ。〔黃庭內景經〕四氣所レ合、列宿分、紫煙上下二三素雲一。〔注〕三素者、紫素・白素・黃素也。〔鮑溶、蕭史圖歌〕仙路迢遙煙幾重、女衣清淨雲二三素一。〔李商隱、和二韓錄事一送二宮人入道一詩〕九枝燈下朝二金殿一、三素雲中侍二玉樓一。〔雲笈七籤〕立春清明日、北望、有二紫・綠・白雲一、爲二三元君雲一、二素也。〔徐鉉、步虛詞〕整レ服乘二三素一、旋レ綱躡二九星一。〔顧瑛、新安梅和二張師夔一詩〕山僧分得維摩供、二三素雲中別有レ春。

【三素雲】1111クモソノ　紫・綠・白、三色の雲。立春の日、北方に飛ぶといふ。道家の三元君、此の雲に乘る。〔修眞入道祕言〕立春日、清朝北望、有二紫・綠・白雲一、爲二三元君二三素飛雲一也、二元君、是日、乘二八景之輿一、上詣二天帝一。

【三素望】1112バウソウ　宋の阮萬齡・袁豹・江夷が相繼いで孟昶の朝に立つたのを、時人が二三素望一と號した。〔南史、王弘之傳〕萬齡、少知レ名、爲二孟昶建威長史一、時袁豹・江夷、相係爲二昶司馬一、時人謂二昶府有二三素望一。

【三組】1113ソン　❶三つの印形に附けた三本のくみ紐。二職を兼ねてゐることをいふ。〔漢書、酷吏、楊僕傳〕懷二銀黃一垂二三組一、夸二鄉里一。〔注〕師古曰、銀、銀印也、黃、金印也、僕爲二主爵都尉一、又爲二樓船將軍并將梁侯一、三印故三組也、組卽綬也。〔杜牧、謝二周相公一啟〕楊僕三組垂レ腰、蘇秦六印在レ手。〔余靖、送二劉學士知二衡州一詩〕晝垂二三組一、鄉紛過、春擁二雙旌一嶽寺遊。❷ミツグミ　三つ組み合はす。又、其の物。

【三楚】1114サン　地名。❶東楚・西楚・南楚。㋑西楚は淮北・沛・陳・汝南・南郡。東楚は彭城以東、東海・吳・廣陵。南楚は衡山・九江・江南・豫章・長沙。〔史記、貨殖傳〕自二淮北、沛・陳・汝南・南郡、此西楚也、彭城以東、東海・吳・廣陵、此東楚也、衡山・九江・江南・豫章・長沙、是南楚也。㋺江陵（南楚）・吳（東楚）・彭城（西楚）。〔漢書、高帝紀、注〕孟康曰、舊名二江陵一爲二南楚一、吳爲二東楚一、彭城爲二西楚一。㋩郢（西楚）・彭城（東楚）・廣陵（南楚）。〔太平寰宇記〕楚文王、徙二都於郢一、是爲二西楚一、漢封二元王交於彭城一、是爲二東楚一、又封二厲王胥於廣陵一、是爲二南楚一。❷郢・鄂・壽春。〔阮籍、詠懷詩〕三楚多二秀士一。〔注〕三楚、謂下楚文王都郢、昭王都レ鄂、孝烈王都中壽春上。❸五代の時、馬殷は長沙に據り、周行逢は武陵に據り、高季興は江陵に據つたが、皆、楚の地であつたので、三楚と稱する。〔三楚新錄〕。

【三楚隱士】1115サンソインジ　宋、蕭楚（9－32012‥205）の號。

【三楚新錄】1116サンソシンロク　書名。三卷。宋、周羽翀撰。三楚の興亡を誌したもの。〔四庫提要、史、載記類〕。

【三蘇】1117ソサン　宋の蘇洵（老泉）及び其の二子軾（東坡）・轍（潁濱）の三人。洵を老蘇、軾を大蘇、轍を小蘇といふ。〔蘇軾、次二韻子由使一契丹一至二涿州一見寄詩〕氈毳年來亦甚都、時時鴈舌問二三蘇一。〔明一統志〕三蘇祠、在二眉州治西南一、卽宋蘇洵故宅。〔羣書拾唾、古今人品〕眉山人時語云、眉山生二三蘇一、蜀中草亦枯。

【三蘇李】1118サンソリ　漢の蘇武・李陵、唐の蘇味道・李嶠、及び蘇頲・李乂。〔小學紺珠、氏族類、三蘇李〕蘇武・李陵、蘇味道・李嶠、蘇頲・李乂。

【三蘇年表】1119サンソネンペウ　書名。二卷。宋、孫汝聽撰。蘇洵・蘇軾・蘇轍の傳記を誌したもの。もと三卷、今、一卷を佚す。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

【三蘇文粹】1120サンソブンスイ　書名。七十卷。明代の書であるが撰者未詳。蘇洵の文十一卷、蘇軾の文三十二卷、蘇轍の文二十七卷を採錄したもの。〔四庫提要、集、總集類存目〕。

【三蘇熟喫羊肉】1121サンソジュクキツヨウニク　宋の時、三蘇の文章が大いに行はれた爲に、當時、其の文を熟讀すれば試驗に及第し、羊肉を喫し得る立派な身分となれるといはれた。〔老學庵筆記、八〕建炎以來尚二蘇氏之文章一、學者翕然從レ之、而蜀士尤盛、亦有レ語曰、蘇文熟喫二羊肉一、蘇文生喫二菜羹一。

【三奏】1122サンソウ　❶三度、樂を奏する。又、曲調の名。〔馬融、琴賦、昔師曠二奏而神物下降。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕三奏四上之調、六莖九成之曲。〔注〕善曰、韓子曰、師曠奏二清徵一、一奏有二玄鶴二八一來集、再奏而列二三奏延レ頸而鳴、擾翼而舞。❷三度、申上げる。〔宋史、孝宗紀三〕詔二百官一、輪對、毋レ過二三奏一。〔宋史、李邴傳〕百官章奏、三奏二答一。

【三嶧】1123サンソウ　山名。山西省屯留縣の西北。除陵山とも麟山とも靈山ともいふ。三嶧。〔揚雄、羽獵賦〕爾廼虎二路三嶧一、以爲二司馬一。〔注〕善曰、郭璞三倉注曰、三嶧山在二聞喜一。〔漢書注〕三嶧、三峯聚之山也。〔司馬相如、上林賦、凌二三嶧之危一。

【三朡】1124ソウ　古の國の名。三朡（1131）に同じ。〔書、典寶序〕湯遂從レ之、遂伐二三朡一。〔傳〕三朡、國名、桀走保レ之、今定陶也。

【三層】1125ソウ　❶三階づくり。〔賈島、送二劉知新往二襄陽一詩〕花木三層寺、煙波五相樓。〔王建、早登二西禪寺閣一詩〕上方臺殿第三層、朝壁紅窗日氣凝。〔白居易、題二崔少尹上林坊新居一詩〕高下三層盤二野徑一、沿洄十里汎二魚舟一。〔章碣、寄二友人一詩〕登レ樓夜坐三層月、接レ果春看五色花。❷三重。〔王建、宮詞〕玉蟬金雀三層插、翠髻高叢綠鬢虛。❸草の名。きぬがささう。蚤休（10－32893‥7）の異名。〔本草、蚤休、釋名、三層草。

【三層閣】1126サンソウカク　三階造りの樓閣。〔李商隱、春遊詩〕徙倚三層閣、摩挲七寶刀。

【三層艦】1127サンソウカン　三階造りの樓艦。〔南齊書、柳世隆傳〕平西將軍黃回軍至二西陽一、乘二三層艦一、作二羌胡伎一、泝レ流而進。

【三層塔】1128サンソウタフ　三階造りの塔。〔沈炯、同二庚中庶肩吾周處士弘讓一遊二明慶寺一詩〕鷲嶺三層塔。

【三層樓】1129サンソウロウ　三階造りの家。〔梁書、處士、陶弘景傳〕永元初、更築二三層樓一、弘景處二其上一、弟子居二其中一、賓客至二其下一、與レ物遂絶、惟一家僮、得レ侍二其旁一。〔洛陽伽藍記序〕大夏門嘗造二三層樓一、去地二十丈。

【三蠭】1130サンホウ　蛤の一種。〔玉篇〕三蠭、蛤屬。〔郭璞、江賦〕三蠭蚌江。〔注〕善曰、臨海水土物志曰、三蠭、似二蚌蛤一。

【三朡】1131ソウ　古の國の名。今の山東省曹縣の西南。三朡。〔後漢書、郡國志二〕定陶、本曹國、古陶堯所レ居、有二三朡亭一。

【三足】1132ソク　❶三本の足。みつあし。三脚。三趾。〔搜神記、六〕定襄有二牡馬一、生レ駒、三足。❷三足烏。〔班固、典引〕三足軒二翥於茂樹一。〔後漢書注〕古今注曰、元和二年、甘露降二河南一、三足烏集二沛國一、軒翥、謂二飛二翔上下一也。❸石川凹の號。石川丈山（8－24024‥479）を見よ。

【三足烏】1133サンソクウ　太陽の中に居るといふ三本足のからす。一說に、西王母のために食をとつた青鳥であるといふ。金烏。踆烏。〔史記、司馬相如傳〕幸有二三足烏一爲二之使一。〔注〕正義曰、張云、三足烏、青鳥也、主レ爲二西王母一取レ食、在二昆墟之北一。〔周書、武帝紀上〕渭州獻二三足烏一。〔春秋元命苞〕日中有二三足烏一。〔治部省式〕祥瑞、云云、赤烏・三足烏〔日之精也〕。

【三足龜】1134サンソクキ　三本足のかめ。〔本草、貢龜釋名、三足龜。〔山海經、中山經〕大騩之山、其陽狂水出焉、西南流、注二于伊水一、其中多二三足龜一。

【三足鼎】1135サンソクテイ　鼎の足は三本あるので、二方に割據することに喩へていふ。鼎立。〔劉禹錫、蜀先主廟詩〕勢分二三足鼎一、業復五銖錢。

【三足烏】1136サンソクウ　三本足の鳥。〔南史、梁武帝紀〕有二三足烏一、集二殿之東戶一。

【三足鼈】1137サンソクベツ　三本足のすつぽん。〔本草、能鼈、釋名、三足鼈、集解、時珍曰、爾雅云、鼈三足爲レ能、時珍曰、按、姚福庚已編云、大倉民家、得二三足鼈一、命レ婦烹、食畢入臥、少頃、形化爲二血水一、止存レ髮耳、鄰人疑二其婦謀害一、訟二之官一、時知縣

黃廷宣、鞫問不決、乃別取二足鑿一、前烹治一、取二死囚一食レ之、入レ獄、亦化如二前人一、遂辨二其獄一。

【二足鼎立】1138 テイリツ　鼎の三本足の様に三方に並び立つこと。

【二足富士】1139 フジアン　越後國彌彦山をいふ。

【二族】1140 ゾクク　㊀親族。三つの親族。古文家は同姓のみとして、父・子・孫、又は父の昆弟、己の昆弟・子の昆弟と解し、今文家は異姓を含むものとし、父族・母族・妻族と解く。㋑父・子・孫。（周禮、春官、小宗伯）掌二三族之別一。（注）三族謂二父・子・孫、人屬之正名一。（禮、仲尼燕居）故三族和也。（注）三族、父・子・孫也。㋺父の昆弟、己の昆弟、子の昆弟。（儀禮、士昏禮）惟是三族之不虞。（注）三族謂二父昆弟・己昆弟・子昆弟一。㋩父母・兄弟・妻子。（史記、秦紀）法初有二三族之罪一。（注）集解曰、張晏曰、父母・兄弟・妻子也。㋥父族・母族・妻族。（大戴禮、保傅）三族輔レ之。（注）三族、父族・母族・妻族也。（荀子、君子）三族皆夷。（注）三族、父母妻族也。（史記、秦紀、注）集解曰、如淳曰、父族・母族・妻族也。㊁三家族をいふ。〔左氏、僖、七〕洩氏・孔氏・子人氏三族、實違二君命一。㊂三つの集團。（國語、齊語）臣立二三宰一、工立二三族一。

【夷二三族一】1141 サンゾクヲホロボス　犯罪者の三族を連坐させて誅滅すること。謀反などの大罪に科する罰。三族之罪を見よ。（史記、秦紀）武公三年、誅二三父等一、而夷二三族一。

【三族之罪】1142 サンゾクノツミ　三族を連坐させる罪。三族の㊀を見よ。（史記、秦紀）文公二十年、法初有二三族之罪一。（漢書、文帝紀）除二三族皋一。

【三屬】1143 サンゾク　㊀三族（1140）の㊀に同じ。（後漢書、章帝紀）一人犯レ罪、禁至二三屬一。（注）卽三族也、謂二父族・母族及妻族一。（資治通鑑、漢紀）章帝、元和元年、詔、前以二妖惡一、禁錮二三屬者一、皆蠲二除之一。㊁上身・髀褌・脛繳の三屬から成る鎧。（荀子、議兵）魏氏之武卒、云云、衣二三屬之甲一。（注）如淳曰、上身一、髀褌一、脛繳一、凡三屬也。（漢書、刑法志）衣二三屬之甲一。（注）上身一、髀褌一、脛繳一、凡三屬也。㊂三度そそぐ。屬は注。（儀禮、士昏禮）酌二玄酒一、三屬二於尊一。（注）屬、注也。

【三飡】1144 サンサン　三度、食事をする。三食。（莊子、逍遙遊）三飡而反。（疏）往二於郊野一、來去、三飡。

【三尊】1145 サンソン　㊀人の敬ふ可き三つの尊い者。君・父・師。（白虎通、封公侯）人有二三尊一、君・父・師。㊁㒵サンソン　㋑佛・法・僧をいふ。（四十二章經）三尊者、佛・法・僧也。㋺彌陀の三尊。阿彌陀・觀音・勢至。㋩藥師の三尊。藥師・日光・月光。㊂

【三尊來迎】1146 サンゾンライガウ　㒵念佛の行者の臨終に彌陀・勢至・觀音の三尊が出現して淨土へ迎へ導くこと。（源平盛衰記、法皇三井灌頂事）九品上生の蓮臺に、三尊來迎の御心を運び給へり。

【三損】1147 サンソン　二種の損。三損友を見よ。（後漢書、馮衍傳、下）臣自惟、無二三益之才一、不二敢處一三損之地一。

【三損友】1148 サンソンイウ　交はつて損失を招く三種の友人。便辟な人、善柔な人、便侫な人。（論語、季氏）損者三友、云云、友二便辟一、友二善柔一、友二便侫一、損矣。

【三多】1149 サンタ　㊀文章の上達に必要な三條件。多く讀む、多く作る、多く推敲する。（王海、辭學指南、作文法）歐陽公曰、爲レ文有二三多一、看多・做多・商量多。（後山詩話）歐陽永叔謂、爲レ文有二三多一、看多・做多・商量多也。㊁學者に大切な三つのこと。多く讀む、持論が多い、著述が多い。（通俗編、祝誦、二多）三多惟見二王海、楊文莊公言曰、學者當取二三多一、乃看讀多、持論多、著述多也。㊂祝儀の詞。多レ福、多レ壽、多レ男子一の意。一說に、吉語ではないといふ。（隨園隨筆）莊子天地篇、華封人祝レ堯曰、使二聖人富一、使二聖人壽一、使二聖人多レ男、無二三多之文一。堯辭レ之、則多レ富多レ事、多レ壽多レ辱、多レ男多レ懼、方二三多之文一、是三多非二吉語一也。（通俗編、祝誦、三多）今俗云、多福、多壽、多男子、無レ所レ出、華封人但言二多男一、不レ可二強合一。㊃民國、滿州正白旗人。杭州に生る。字は六橋。前清時代、歸化城副都統を經て庫倫辦事大臣となり、第一革命後、盛京副都統より北京政府國務院局長に至る。將軍府に列せられ、爾後、張作霖の下に在つた。

〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。㊄㒵多く善友に近づく、多く法音を聞く、多く不淨觀を修する。又、多く佛を供養し、多く善友に事へ、多く法要を問ふこと。（四教集解、中）言二三多一者、長阿含云、三多成就、一近二善友一、二聞二法音一、三惡二露觀一、大般若云、多供二養佛一、多事二善友一、於多佛所、請二問法要一。

【三多斯】1150 トスン　南米ブラジルの港市。聖多斯。Santos の音譯。

【三岔】1151 タン　㊀鎭の名。㋑江蘇省句容縣の西南。㋺甘肅省天水縣の東、渭水の南岸。㋩驛の名。㋥陝西省鳳縣の南に在り、清代に驛丞を設けた。㋭明初に置く。今の甘肅省漳縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、漳縣〕三岔驛、縣西三十里、明初置。㊁河の名。㋑一名、三汊河。滿洲遼寧省海城縣の西。古の遼澤。㋺寧夏省寧夏縣の東南。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭〕三岔河、在二鎭東南黃河西岸一、卽河流曲折處也。㊂三つに岐れる。三つまた。二岔路（1156）をも見よ。

【三岔口】1152 サンタ　地名。㊀河北省寶坻縣の北。㊁滿洲黑龍江省東甯縣の土名。㊂滿洲吉林省扶餘縣の北。㊃河南省南陽縣の西北。

【三岔子】1153 シンタ　地名。㊀滿洲遼寧省臨江縣の西、渾江のほとりに在り、石炭を產する。㊁滿洲遼寧省長白縣の北。

【三岔坪】1154 ヘイタ　地名。湖南省乾城縣の西南。

【三岔堡】1155 ホサンタ　砦の名。㊀未置く。今の甘肅省隴西縣の北。㊁山西省五寨縣の北。明の嘉靖年間に築く。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、岢嵐州〕三岔堡、在五寨北五十里、堡城、嘉靖十八年築、萬曆九年增修、堡當二四達之衝一、偏關商旅、盡出二其途一、亦要地也。

【三岔路】1156 san¹ ch'a⁴ lu⁴　三つまたの道。〔水滸傳、六回〕又行不過五七里、到一箇三岔路口。

【三岔河集】1157 サンタカシフ　地名。㊀雲南省文山縣の西南。㊁雲南省馬關縣の西南、南溪河のほとり。

【三岔路口】1158 san¹ ch'a⁴ lu⁴ k'ou³　三叉路の岐れ口。三本路の會合點。三岔路を見よ。

【三岔河土司】1159 サンタカドシ　土司の名。明、置く。今の雲南省景東縣の北。

【三咤】1160 タン　盃を三度神座に置くこと。（書、顧命）三宿三祭三咤。（傳）王三進レ爵、三祭レ酒、三奠レ爵、告三已受二羣臣所レ傳顧命一。（蘇軾、明日南禪和詩不レ到故重賦二數珠篇一、以督レ之詩）三咤故自醒、一吠何由喘。

【三埭】1161 タン　鎭の名。江蘇省高郵縣の東。宋の建炎中、岳飛が軍を此所に屯し、楚州の爲に聲援して敵と戰ひ、三戰三捷した。〔讀史方輿紀要、江南、揚州府、高郵州〕州東四十里、宋建炎中、金人攻二楚州一、詔遣二泰鎭撫使岳飛一、援レ之、飛屯二軍三埭鎭一、爲二楚州聲援一、寇至、三戰三捷。

【三儻】1162 ダン　三月・八月・十二月に、おにやらひの儀式を行ふこと。（論語、鄕黨、鄕人儺、皇疏）儺者、逐二疫鬼一也、爲二陰陽之氣不一レ卽レ時退、疫鬼隨而爲レ人作レ禍、故天子使下方相氏、黃金四目、蒙二熊皮一、執二戈揚一レ楯、玄衣朱裳、口作二儺儺之聲一、以毆中疫鬼上也、一年三過爲レ之、三月・八月・十二月也。

【三太】1163 タイ　太師・太傅・太保をいふ。（唐書、儀衞志、上）東宮官、居二上臺官之次一、王府官、又次レ之、唯三太・三少・賓客・庶子・王傅、隨二本品一。

【三太夫】1164 サンタイフ　華族の家令・家扶・家從。又、富豪の家事・家計などを扱ふ人を戲れていふ。

【三殆】1165 タイ　三つの危いこと。國の險をたのみ、馬の多きをたのみ、隣國の難儀を己の利としたること。（左氏、昭、四）恃二險與一レ馬、而虞二鄰國之難一、是三殆也。

【三碓】1166 ミカラウス　大和國の地名。

【三態】1167 サンタイ　㊀三つの在り方。㊁物質の三つの樣態。固體・液體・氣體をいふ。

【三撞】1168 サンタン　㊀撞頭の最も鄭重な書式。文章を書くに、尊敬の意を表はす爲に三字文高くあげる書式。（清國行政法汎論、皇室、撞寫、撞寫有二單撞・雙撞・三撞之別一、撞頭一格稱曰二單撞一、二格曰二雙撞一、三格曰二三撞一。）㊁麻雀の點數計算に用ひる特惠恩典の一種。

【三體】1169 サンタイ　㊀易の卦の意義を歎稱する三つの樣式。其の一は、ただ時を歎じ、其の二は、時と用とを歎じ、其の三は、時と義とを歎ずる。（易、豫、豫之時義大矣哉、疏）此歎二卦也、凡言不レ盡レ

意者、不レ可ニ煩文具說一、且歎レ之以示レ情、使下後生思ニ其餘蘊一、得レ意而忘上レ言也、然歎レ卦有ニ三體一、一直歎レ時、如ニ大過之時大哉之例一、是也、二歎ニ時并用一、如ニ險之時用大矣哉之例一、是也、三歎ニ時并義一、豫之時義大矣哉之例、是也。❷詩經の三體。風・雅・頌。〔詩、豳風、七月、疏〕諸詩未レ有ニ一篇之內、備有ニ風・雅・頌一、而此篇獨有ニ三體一者、周召陳ニ王化之基一、未レ有ニ雅頌成功一、故爲レ風也、鹿鳴陳下燕ニ勞羣臣一之事上、文王陳ニ祖考天命之美一、雖ニ是天子之政一、未レ得ニ功成道洽一、故爲レ雅、天下太平、成功告レ神、然後謂ニ之爲レ頌、然則始爲レ風、中爲レ雅、成爲レ頌、言ニ其自レ始至レ成別一、故爲ニ三體一、周公陳ニ豳公之教一、亦自レ始至レ成、述ニ其政教之始一、則爲ニ豳風一、述ニ其政教之中一、則爲ニ豳雅一、述ニ其政教之成一、則爲ニ豳頌一、故今一篇之內、備有ニ風・雅・頌一也。❸文章の三體。啓心閑繹(ゆるやかな氣持で筆を起す)、緝事比類(巧な對句などを用ひる)、發唱驚挺(調子に緩みのない様にする)。〔南齊書、丘靈鞠結傳論〕今之文章、作者雖レ衆、總而爲レ論、略有ニ三體一、一則啓心閑繹、托辭華曠、雖レ存ニ巧綺一、終致ニ迂回一、宜レ登ニ公宴一、本非ニ准的一、而疏慢闡緩、膏肓之病、典正可レ採、酷不レ入レ情、此體之源、出ニ靈運一而成也、次則緝事比類、非レ對不レ發、博物可レ嘉、職成ニ拘制一、或全借ニ古語一、用申ニ今情一、崎嶇牽引、直爲ニ偶說一、唯覩ニ事例一、頓失ニ精采一、此則傳咸五經、應璩指事、雖レ不ニ全似一、可ニ以類從一、次則發唱驚挺、操調險急、雕藻淫豔、傾炫心魂、亦猶下五色之有ニ紅紫一、八音之有中鄭衞上、斯鮑照之遺烈也。❹書の三體。㋑眞・行・草。〔唐書、柳公權傳〕作ニ眞・行・草三體奇祕一。㋺古文・秦篆・漢隸。三體石經を見よ。〔小學紺珠、藝文類、三體〕古文・秦篆・漢隸。㋩大篆・小篆・八分。〔宋史、句中正傳〕嘗以ニ大小篆・八分三體書孝經一、摹石、咸平三年、表上レ之。㊁銘石の書、章程の書、行押(花押)の書。〔法書要錄〕鍾書有ニ三體一、一曰、銘石之書、最妙者也、二曰、章程書、傳ニ祕書一、教ニ小學一也、三曰、行押書、相聞者也、三法皆世人所レ喜。㋭俗字・通字・正字。〔干祿字書〕以ニ平上去入四聲一爲レ次、具合ニ俗通正三體一。

【三體詩】1170 サンタイシ 三體唐詩を見よ。

【三體石經】1171 サンタイセキケイ 古文・篆・隸の三體の文字で書かれた石經。漢三體石經・魏三體石經の別が有る。一說に、漢の石經は三體に非ずといふ。三字石經(673)を見よ。〔後漢書、儒林傳序〕熹平四年、靈帝乃詔ニ諸儒一、正ニ定五經一、刊ニ於石碑一、爲ニ古文・篆・隸三體書法一、以相參檢、樹ニ之學門一。〔隸續〕魏三體石經、左傳遺字、古文三百七、篆文二百七十、隸書二百九十五。〔金石錄〕後漢書儒林傳敍、云レ爲ニ古文・篆・隸三體一者、非也、蓋邕所レ書乃八分、而三體石經乃魏時所レ建也。〔三體石經考〕宋蘇望所レ摹ニ三體石經、洪氏錄ニ入隸續一、洪氏考ニ水經注一、乃知下正始所レ刻、與ニ熹平蔡邕所レ書者一異上レ事、前レ此、後漢書・經典釋文・資治通鑑、皆誤以ニ三體書一爲ニ熹平所レ立、趙明誠先辨レ之、衞恆既與レ淳有レ舊、歿時、去ニ正始一才五十年、而范曄去ニ正始一幾二百年、以ニ三體一歸ニ之蔡邕一、傳聞之與ニ目覩一、虛實易レ辨、不レ須ニ博徵一也。

【三體唐詩】1172 サンタイタウシ 書名。六卷。宋、周弼撰。元、釋圓至注。清、高士奇補注。三體とは、七言絕句・七言律詩・五言律詩を指す。〔四庫提要、集、總集類〕。〔參考書〕【箋注唐賢絕句三體詩法】二十卷 元、釋圓至撰。【增注唐賢絕句三體詩法】三卷 裴庾撰。【三體詩備考大成】二十卷 熊谷立閑撰。

【三體雄蕊】1173 サンタイユウズイ 多數の花絲が三束に結合した合生雄蕊。

【三大】1174 サンダイ ❶三才。又は三公。〔徐陵、勸ニ進梁元帝一表〕擬ニ茲三大一、賓ニ是四門一。❷佛 眞如の三つの要素。體(本來の性質)・相(現はれたすがた)・用(はたらき)をいふ。〔大乘起信論〕一者體大、謂一切法眞如平等不ニ增減一故、二者相大、謂如來藏具ニ足無量性功德一故、三者用大、能生ニ一切世間出世間善因果一故。

【三大營】1175 サンダイエイ 五軍營・神機營・三千營をいふ。明の永樂年間に、京軍を分けて置いたもので、五軍營は五軍都督府番上の兵、神機營は交阯を討つて得た鐵砲を置くところ、三千營は邊外の降丁三千で立てたもの。〔續文獻通考、兵考、兵制〕永樂十八年、定ニ三大營之制一、京軍三大營、一曰五軍、一曰三千、一曰神機。

【三大橋】1176 サンダイケウ ❶山崎・宇治・勢多の三つの橋。山崎橋が廢絕した後は、淀大橋を加へる。〔伊呂波字類抄〕三大橋、山崎・勢田・宇治。〔京羽二重、四〕三大橋、宇治橋、山城宇治川の流に渡す、淀大橋、山城木津川の流に渡す、勢田橋、江州湖水に渡す。❷江戶の三大橋。兩國・千手・六鄉の三橋。〔江戶鹿子、五〕三大橋、兩國橋、武藏下總堺に懸けたる橋なり、千手橋、淺草川上に渡る、六鄉橋、川崎村。❸大阪の三大橋。天滿・天神・難波の三橋。〔和漢名數、地理〕大阪大橋三、天滿橋・天神橋・難波橋。

【三大守】1177 サンタイシュ 常陸守・上野守・上總守。

【三大書】1178 サンダイショ 宋代の三大著。李昉の太平御覽、王欽若の冊府元龜の二類書と、李昉等の文苑英華の總集との併稱。何れも一千卷ある。

【三大節】1179 サンダイセツ ❶宋代に、冬至・元正・寒食をいふ。〔茶香室叢鈔〕宋王楙野客叢書云、國家官私、以ニ冬至・元正・寒食三大節一爲ニ七日假一、所謂前三後四。❷清代に萬壽・元旦・冬至をいふ。〔清會典事例、鴻臚寺、建置〕凡恭遇ニ萬壽・元旦・冬至三大節一、用ニ二十餘人一。❸端午・中秋・冬至をいふ。❹嘗て行はれた三つの大きな祝祭日。正月元旦の四方拜(天地四方及び歷代の皇靈を祈る)、二月十一日の紀元節(建國記念祭)、天長節(今上陛下御誕生の祝日)。昭和二年以後は十一月三日の明治節を加へて四大節とした。

【三大戰】1180 サンダイセン 永祿・元龜の際に於ける嚴島・河越・桶峽閒(桶峽)の三戰をいふ。〔日本政記、後奈良天皇〕弘治三年、賴襄曰、吾觀ニ永祿元龜之際一、有ニ三大戰一、毛利氏有ニ嚴島之戰一、北條氏有ニ河越之戰一、織田氏有ニ桶峽之戰一、此三戰者、皆所下以著ニ威天下一、以興中其業上者也。

【三大全】1181 サンタイゼン 五經大全・四書大全・性理大全。永樂大全(**6**－**17088**‥254)を見よ。

【三大佛】1182 サンダイブツ 東大寺(大和)・大平寺(河內)・關寺(近江)の大佛。〔節用集、十、數量門〕三大佛、和州東大寺、河州大平寺、江州關寺。

【三大變】1183 サンダイヘン 千五百年。一紀をいふ。一大變は五百歲。〔史記、天官書〕夫天運三十歲一小變、百年中變、五百載大變、三大變一紀。

【三大門】1184 サンダイモン 昔の平安京の外廓の三大門。羅生門・朱雀門・應天門。

【三大洋】1185 サンダイヤウ 太平洋・大西洋・印度洋。

【三大倆】1186 san^1 ta^4 lia^3 銅貨三つに付き、品物二つを賣買する意。銅貨三つで二つ買ふ。

【三大禮】1187 サンダイレイ 唐の玄宗が天寶元年二月十八日に、親ら老子を太淸宮に享し、十九日に太廟を享し、二十日に天地を南郊に合祭したのをいふ。〔大學衍義補、秩ニ祭祀一、郊ニ祀天地一之禮〕唐玄宗天寶元年二月、敕、凡所ニ祠享一、必在ニ躬親一、其皇地祇、宜下就ニ南郊一合祭上、是月十八日、親享ニ玄元皇帝于太淸宮一、十九日、親享ニ太廟一、二十日、合ニ祭天地于南郊一、謂ニ之三大禮一。

【三大機關】1188 サンダイキクワン 統治權の作用である立法行政・司法をいふ。

【三大奇書】1189 サンダイキショ ❶清の顧祖禹の讀史方輿紀要と、梅文鼎の歷算全書と、李淸の南北史合抄とを併せていふ。〔國朝漢學師承記、顧祖禹〕名曰ニ讀史方輿紀要一、云云、世所レ稱ニ三大奇書、此其一也、其二則梅文鼎歷算全書、李淸南北史合抄。❷元の小說水滸傳と、明の小說西遊記・金瓶梅との併稱。之に三國志演義を加へて、四大奇書といふ。

【三大徽班】1190 サンダイキハン 清の咸豐中、北京に流行した花部戲劇の班名。春臺・三慶・四喜の總稱。四大徽班(**3**－**4682**‥546)を見よ。

【三大發明】1191 サンダイハツメイ 近世初期の三つの大きな發明。羅針盤・火藥・活字。

【三大偏關】1192 サンダイヘンクワン 關の名。西康省碩督縣丹達山の西北に在る。

【三大戶之役】1193 サンダイコノエキ 鄕中の一百戶を一團とし、鄕中の富豪三人を擧げて團長とし、年の豐凶、民家の姦盜を糾察させること。〔蘇軾、上ニ神宗皇帝一書〕今世三大戶之役、自ニ公卿一以降、無ニ得レ免者一。

【三代】1194 サンダイ ❶上代の三王朝。夏・殷・周。三正。〔禮、表記〕昔三代明王、皆事ニ天地之神明一。〔論語、衞靈公〕斯民也、三代之所ニ以直道而行一也。

〔集注〕三代、夏・商・周。〔荀子、儒效〕道過二三代一。❷祖父・父・子。〔王維、李陵詠〕漢家李將軍、三代將門子。〔盧綸、送下彭開府往二雲中一觀中使君兄上詩〕一門三代貴。❸曾祖父・祖父・父。

【三代集】1195 サンダイシフ 勅撰の歌集二十一種の中で、殊に有名な三つの集。古今和歌集（醍醐天皇の延喜年代の撰）・後撰和歌集（村上天皇の天曆年代の撰）・拾遺和歌集（一條院の長德年代の撰）。

【三代格式】1196 サンダイキャクシキ サンダイカクシキ 朝廷の儀式を記した三書。弘仁格式・貞觀格式・延喜格式。

【三代相恩】1197 サンダイサウオン 父祖以來、主君の恩澤を受けること。〔生寫朝顏日記〕あなた樣の祖父秋月兵部樣には三代相恩。

【三代之風】1198 サンダイノフウ 夏・殷・周、三代の風氣。〔宋名臣言行錄、曾鞏〕辭約義盡、論者謂、有二三代之風一、上亦數稱二其曲雅一。

【三代實錄】1199 サンダイジツロク 六國史の一。菅原道眞等奉勅撰。天安二年八月から仁和三年八月まで、清和・陽成・光孝三代の史事を記したもの。

【三代殊レ繼】1200 サンダイケイヲコトニス 夏・殷・周三代の帝位の繼承法が異なること。或は禪讓により、或は放伐によつて成る。〔莊子、秋水〕帝皇殊レ禪、三代殊レ繼。〔注〕三代、夏・殷・周、禪、授也、繼、續也、或宗族相承、或讓與二他姓一、故言レ殊レ禪也、或父子相繼、或興レ兵簒弑、故言レ殊レ繼也。

【三代同堂】1201 サンダイドウダウ 曾祖父・祖父・父三代が、一家族として揃つて存命すること。

【三代亡レ國】1202 サンダイクニヲホロボス 妹喜・妲己・褒姒の三人が、それぞれ夏・殷・周三代の各國を滅亡に導いた故事。〔列女傳、孽嬖、夏桀末喜傳〕頌曰、末喜配レ桀、維亂驕揚、桀既無道、又重二其荒一、姦宄是用、不レ恤二法常一、夏后之國、遂反爲レ商。〔列女傳、孽嬖、殷紂妲己傳〕頌曰、妲己配レ紂、惑亂是修、紂既無道、又重相謬、指笑二炮炙一、諫士刳囚、遂敗二牧野一、反レ商爲レ周。〔列女傳、孽嬖、周幽褒姒傳〕頌曰、褒神龍變、寔生二褒姒一、興配二幽王一、廢二后太子一、擧レ烽致レ兵、笑二寇不一レ至、申侯伐周、果滅二其祀一。〔故事成語考、女子〕三代亡レ國、夏桀以二妹喜一、商紂以二妲己一、周幽以二褒姒一。

【三代之名醫】1203 サンダイノメイイ 父祖相承けて修業を積んだ名醫。練達の醫者をいふ。〔禮、曲禮下〕醫不二三世一不レ服二其藥一。〔本朝文粹、七、藤原隆家、請レ被下殊蒙二哀憐一、聽丙歸レ京且加二身病療治一、且訪乙老母晨昏甲狀〕將下訪二晨昏於六旬之老母一、令上レ治二疾痾於三代之名醫一矣。

【三代以下惟恐レ不レ好レ名】1204 サンダイイカタダナヲコノマザルヲオソル 後世の士は、唯だ利にのみ趨つて名譽を顧みぬ故、三代以下の世に於て士を求めるとすれば、名譽を好む人であれば滿足す可きだ。〔宋史、陳塤傳〕塤曰、好レ名、孟子所レ不レ取也、夫求二士於三代之上一、惟恐二其好一レ名、求二士於三代之下一、惟恐二其不一レ好レ名耳。

【三台】1205 サンダイ サンタイ ❶星の名。紫微星を守る三つの星。上台星・中台星・下台星。一名、天柱。三能。天階。泰階。三階。三衡。三奇。台階。〔史記、天官書〕魁下六星、兩兩相比者、名曰二三能一。〔注〕集解曰、蘇林曰、能、音台。〔晉書、天文志〕三台六星、兩兩而居、起二文昌一列抵二太微一、一曰二天柱一、三公之位也、在レ人曰二三公一、在レ天曰二三台一、主二開德宣符一也、西近二文昌一二星曰二上台一、爲二司命一、主レ壽、次二星曰二中台一、爲二司中一、主二宗室一、東二星曰二下台一、爲二司祿一、主レ兵、所二以昭レ德塞一レ違也、云云、三台爲二天階一、太乙躡以上下、一曰二泰階一、上階上星爲二天子一、下星爲二女主一、中階上星爲二諸侯三公一、下星爲二卿大夫一、下階上星爲レ士、下星爲二庶人一、所下以和二陰陽一而理中萬物上也。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕三台摛レ光、四岳增レ峻。〔注〕三台、星名也。〔故事成語考、文臣〕三公上應二三台一。❷三公。大尉・司徒・司空。三星に配す。三台之座。〔周禮、春官、大宗伯、疏〕上台司命、爲二大尉一、中台司中、爲二司徒一、下台司祿、爲二司空一。〔後漢書、劉玄傳〕三公在レ天爲二三台一。❸黃帝の時の風后・天老・五聖をいふ。〔金樓子、興王〕黃帝以二風后一配二上台一、天老配二中台一、五聖配二下台一。❹山名。㋑江蘇省宿遷縣の北。縣中第一の山。㋺江蘇省蕭縣の北。〔讀史方輿紀要、江南、徐州、蕭縣〕三台山、在二今城北城東里許一、有二龍蟠山一、西一里曰二虎踞山一、又三僊臺山在二舊城南一里一。㋩陝西省紫陽縣。石炭を產す。㋥廣東省台山縣の北。三峯聳秀、縣中第一の山。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新寧縣〕三台山、縣北一里、一名、上坑山、縣之主山也、迤東一里曰二連珠山一、有二三岡一如二連珠一、其西曰二寶鴨山一、與二三台一並峙。㋭廣東省蕉嶺縣の北。㋬雲南省建水縣の東北。俗名、三尖山。山上に梁王城がある。㋣雲南省呈貢縣の北。〔讀史方輿紀要、雲南、雲南府、晉寧州、呈貢縣〕三台山在二縣治北一、三山相屬如二台星一、因名、一名、萬福山。❺縣名。四川省治の東北、三臺とも書く。〔淸史稿、地理志〕四川、潼川府、縣八、三臺。

【三台星】1206 サンダイセイ 星の名。三台の❶に同じ。

【三台鎭】1207 サンダイチン 地名。❶河北省安新縣の西北。❷新疆省孚遠縣の西。

【三台之座】1208 サンタイノザ ❶三公の地位。三能之座。三台の❷を見よ。〔宋書、顏延之傳〕沙門釋慧林、以二才學一爲二太祖所一レ賞愛、每二召見一、常升二獨榻一、延之甚疾レ焉、因レ醉白レ上曰、此三台之座、豈可レ使二刑餘居一レ之。❷兜の眉庇を鉢に取附ける爲に打つた三つの鋲。三公の銘。

【三台文獻錄】1209 サンダイブンケンロク 書名。二十三卷。明、李時漸編。唐から明の嘉靖に至るまでの、台州における、二百九十六人の詩文を集めたもの。〔四庫提要、集、總集類存目〕。

【三柰】1210 サンダイ 草の名。ばんうこん。山柰（**4—7869**・・714）の異名。〔本草、山柰〕釋名、三柰、時珍曰、山柰、俗訛爲二三柰一、又訛爲二三賴一、皆土音也、或云、本名二山辣一、南人舌音呼レ山爲レ三、呼レ辣如レ賴、故致二謬誤一、其說甚通。

【三能】1211 サンダイ サンタイ ❶星の名。三台（1205）の❶に同じ。〔史記、天官書〕魁下六星、兩兩相比者、名曰二三能一、三能色齊、君臣和、不レ齊、爲二乖戾一。〔注〕集解曰、蘇林曰、能、音台。❷三公をいふ。三台（1205）の❷に同じ。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕上穆二三能一、下敷二五典一。〔注〕能、五臣本作レ台、銑曰、三台、星名、主二三公位一也。

【三臺】1212 サンダイ ❶三つの役所。尚書（中臺）・御史（憲臺）・謁者（外臺）。〔後漢書、袁紹傳〕坐召二三臺一、專制二朝政一。〔注〕晉書曰、漢官、尚書爲二中臺一、御史爲二憲臺一、謁者爲二外臺一、是謂二三臺一。〔晉書、應詹傳〕三臺九府、中外諸車。❷三つの樓臺。㋑古の天子の三臺。靈臺・時臺・囿臺。〔五經異義〕天子有二三臺一、靈臺以觀二天文一、時臺以觀二四時施化一、囿臺以觀二鳥獸魚鼈一、諸侯卑不レ得レ觀二天文一、無二靈臺一、但有二時臺・囿臺一也。㋺魏の曹操の作つた銅雀臺・金虎臺（金鳳臺）・冰井臺。〔左思、魏都賦〕三臺列峙而崢嶸。〔注〕向曰、三臺、銅雀臺・冰井臺・金鳳臺也。〔小學紺珠、制度類、三臺〕銅爵・金虎・冰井。〔河南通志〕銅雀臺在二臨漳縣西一、魏曹操築、幷二金虎・冰井一、三臺相去各六十步、其上複道、樓閣相通、中央懸絕、鑄二大銅雀一、高一丈五尺、置二之樓頂一。㋩北齊の文帝の作つた金鳳臺・聖應臺・崇光臺。〔北史、齊文宣帝紀〕營二三臺於鄴一、因二其舊基一、而高二博之一、云云、改二銅爵一曰二金鳳一、金武曰二聖應一、冰井曰二崇光一。❸詞曲の名。唐の韋應物・王建等に其の作がある。其の名義に就いては數說があるが、資暇錄に依れば、昔、鄴中に三臺があつて、石季龍が常に宴遊し、樂人が此の曲を造つて其の飮酒を促し、其の曲に三臺と名づけたといふ。三臺の中に上皇三臺・突厥三臺・宮中三臺・江南三臺等がある。又、古調笑を一に三臺令といふ。調笑令（**10—35609**・・98）を見よ。〔樂府詩集、雜曲歌辭、三臺〕後漢書曰、蔡邕爲二侍御史一、又轉二持書侍御史一、遷二尙書一、三日之閒、周二歷三臺一、馮鑑續事始曰、樂府、以二邕曉二音律一、製二三臺曲一、以悅二邕希二其厚遺一、劉禹錫嘉話錄曰、三臺送レ酒、蓋因レ此、北齊高洋毀二銅雀臺一、築二三箇臺一、宮人拍手呼、上レ臺送レ酒、因名二其曲一爲二三臺一、李氏資暇曰、三臺三十拍、促曲名、昔鄴中有二三臺一、石季龍常爲二宴遊之所一、樂工造二此曲一以促レ飮、未レ知二孰是一、鄴都故事曰、漢獻帝建安五年、曹操破二袁紹於鄴一、十五年、築二銅雀臺一、十八年、作二金虎臺一、十九年、造二冰井臺一、所謂鄴中三臺也、北史曰、齊文宣天保中、營二三臺於鄴一、因二其舊基一而高二博之一、九年、臺成、改二銅爵一曰二金鳳一、金虎曰二聖應一、冰井曰二崇光一云、按二樂苑一、唐天寶中、羽調曲有二三臺一、又有二急三臺一。〔韋應物、三臺詩〕一年一年老去、明日後日花開、未レ報二長安平定一、萬國豈得レ銜レ杯、冰泮寒塘始綠、雨餘百草皆生、朝來門閭無レ事、晚下高齋有レ情。〔韋應物、上皇三臺

詩〕不レ寐倦ニ長更一、披レ衣出レ戸行、月寒秋竹冷、風切夜牕聲。〔韋應物、突厥三臺詩〕雁門山上雁初飛、馬邑欄中馬正肥、日旰山西逢ニ驛使一、慇懃南北送ニ征衣一。〔王建、宮中三臺〕池北池南草綠、殿前殿後花紅、天子千年萬歲、未央明月清風。〔王建、江南三臺〕楊州橋邊小婦、長干市裏商人、三年不レ得ニ消息一、各自拜レ鬼求レ神。㊃山名。㋑安徽省盱眙縣の西南に在る。〔盱眙縣志〕三臺山有ニ三峯一、東・南・西鼎立、上可レ屯ニ十萬衆一、宋建炎中、劉綱保ニ聚於此一。㋺四川省三臺縣の西に在る。㊄縣名。三台(1205)の㊄を見よ。

【三諦】1213 サンダイ 〘佛〙天台宗の教義、諸法皆空と觀ずる空諦、諸法皆有と觀ずる假諦、空にあらず有にあらずと觀ずる中諦の三つをいふ。諦とは、眞理の義。〔南史、梁昭明太子傳〕太子素信ニ三寶一、偏ニ覽衆經一、乃於ニ宮內一別立ニ慧義殿一、專爲ニ法集之所一、招ニ引名僧一、自立ニ三諦法身義一。〔始終心要、一〕夫三諦者、天然之性德也、中諦者、統ニ一切法一、眞諦者、泯ニ一切法一、俗諦者、立ニ一切法一。〔法華玄義〕諦者、諦審也、謂ニ諦ニ審一切法一、卽空・卽假・卽中、卽空是眞諦、卽假是俗諦、卽中是中諦、此三隔歷、卽是次第三諦、三一無礙、卽是圓融三諦。

〔三諦卽是〕1214 サンダイソクゼ 〘佛〙三諦は、其の中の一が三諦の理を具へ、同時に又各〻の三は各中諦の理に外ならぬといふ天台の極意。三諦圓融ともいふ。三諦を見よ。

【三刀】1215 サンタウ 州の字の隱語。州の字は、昔は三刀、卽ち刕に作る。晉の王濬が三刀に一刀を益すを夢みたところ、後、果して益州の刺史となつた故事。〔晉書、王濬傳〕濬、夜夢懸ニ三刀於其臥屋梁上一、須臾又益ニ一刀一、意甚惡レ之、李毅賀曰、三刀爲ニ州字一、又益レ一者、明府、其臨ニ益州一乎、云云、果遷レ濬遷ニ益州刺史一。〔李商隱、街西池館詩〕太守三刀夢、將軍一箭歌。

〔三刀之夢〕1216 サンタウノユメ 官吏が出世する吉兆の夢をいふ。晉の王濬の故事。三刀を見よ。

【三到】1217 サンタウ 讀書に必要な三事。眼到り、口到り、心到る。到は專一の義。朱子の唱へた讀書法。〔訓學齋規〕余謂、讀書有ニ三到一、心到・眼到・口到、云云、三到之中、心到最急。

【三倒】1218 サンタウ 晉の王平子が衞玠の話を聽き、感歎して三度倒れたといふ故事。〔世說新語、賞譽〕王平子、邁世有ニ儁才一、少レ所ニ推服一、每レ聞ニ衞玠言一、輒歎息絕倒。〔注〕玠別傳曰、玠、少有ニ名理一、善通ニ莊老一、琅邪王平子、高氣不羣、邁世獨傲、每下聞ニ玠之語議一、至中于理會之閒、要妙之際上、輒絕ニ倒於坐一、前後三聞、爲レ之三倒、時人遂曰、衞君談レ道、平子三倒。〔孟浩然、襄陽公宅飮詩〕談レ天光ニ六義一、發レ論明ニ三倒一。

【三唐】1219 サンタウ 唐代を初唐・盛唐・晚唐の三つの時代に區分した稱。或は盛唐の次に中唐を加へて四唐とする。四唐(**3**—**4682**‥555)を見よ。〔西園詩麈、三唐〕近體師レ唐固也、世動稱、不レ作ニ大曆以後語一、則晚可レ廢乎、初唐有レ篇而無レ句、晚唐有レ句而無レ篇、初唐有レ骨而無レ聲、晚唐有レ聲而無レ骨、盛唐篇與レ句稱レ聲偕レ骨、勻隨レ所ニ意探一、毋レ爲ニ耳食一、化而裁レ之存ニ乎變一、神而明レ之存ニ乎人一。

【三島】1220 サンタウ ㊀仙人の住むといふ三つの海島。三壺。三神山(939)を見よ。〔神仙傳〕海上有ニ三神山一、曰蓬萊、曰方丈、曰瀛洲、謂ニ之三島一。〔精註雅俗故事讀本、上、地輿〕海中之山、有ニ三島一。㊁篠崎應道の號。篠崎三島(**8**—**26328**‥23)を見よ。㊂我が國の本州・四國・九州をいふ。又、英國のイングランド、スコツトランド、アイルランドをいふ。

〔三島里〕1221 ミガシマガリ 肥前國の地名。

〔三島中洲〕1222 ミシマチユウシウ 備中の人。名は毅。通稱は貞一郎。號は中洲・繪莊・桐南。松山藩儒・東京帝國大學文科大學教授・東宮御用掛・宮中顧問官。大正八年歿す、年九十。著に詩書輯說・禹貢圖・三天圖・尙書今古文系表・漢書百官志圖・明史職官志圖・温史通論・明史名臣及宰相品第・古今人文集・涉獵日記・權輿雜錄・問津稿・探梅日記・探邊日記・皆夢文詩・霞浦遊藻・小圖南錄・南峽詩錄・三日文詩・歸展日誌・消夏漫言・論學三百絕・繪原有聲畫集・中洲詩稿・中洲文稿・孟子講義・莊子內篇講義・史記論贊段解・日本政記論文段解・唐宋八家文段解・日本外史論文段解・文章軌範評注・大學私錄・中庸私錄・論語私錄・孟子私錄・詩經私錄・書經私錄・易經私錄・老子私錄がある。〔自撰、三島毅碑銘〕。

【三桃】1223 サンタウ ㊀荊桃・冬桃・榹桃。〔小學紺珠、動植類、三桃〕荊桃・冬桃・榹桃。㊁侯桃・櫻桃・胡桃。〔潘岳、閑居賦〕三桃表ニ櫻胡之別一。〔注〕翰曰、三桃、侯桃・櫻桃・胡桃也。

【三盜】1224 サンタウ ㊀國を亂す三種の盜人。〔穀梁、哀、四〕春秋有ニ三盜一、微ニ殺大夫一、謂ニ之盜一、非レ所レ取而取レ之、謂ニ之盜一、辟ニ中國之正道一、以襲レ利、謂ニ之盜一。㊁天地・萬物・人。〔陰符經、中篇〕天地、萬物之盜、萬物、人之盜、人、萬物之盜、三盜既宜、三才既安。㊂耕作上、邪魔になる三つのもの。地の瘠せてゐること、苗の劣惡なこと、雜草。〔呂覽、辨土〕夫四序參發、大レ甽小レ畝、爲ニ青魚胠レ苗、若ニ直獵一、地竊レ之也、既種而無レ行、耕而不レ長、則苗相竊也、弗レ除則蕪、除レ之則虛、則草竊レ之也、故去ニ此三盜一者、而後粟可レ多也。

【三黨】1225 サンタウ ㊀父族・母族・妻族をいふ。三族。〔爾雅、釋親〕父之黨爲ニ宗族一、母與レ妻之黨、爲ニ兄弟一。〔說苑、臣術〕晏子曰、臣以ニ君之賜一、臣父之黨、無ニ不レ乘レ車者一、母之黨、無下不レ足ニ於衣食一者上、妻之黨、無ニ凍餒者一。㊁宋の哲宗の時の三つの黨派。卽ち、洛黨・蜀黨・朔黨をいふ。〔小學紺珠、名臣類下、元祐三黨〕洛黨、程頤爲ニ領袖一、朱光庭賈易等爲ニ羽翼一、蜀黨、蘇軾爲ニ領袖一、呂陶等爲ニ羽翼一、朔黨、劉摯爲ニ領袖一。

【三堂】1226 サンダウ 唐の虢州刺史の宅の庭園の名。〔韓愈、奉レ和ニ虢州劉給事使君三堂一詩序〕虢州刺史宅、連ニ水池竹林一、往往爲ニ亭臺島渚一、目ニ其處一爲ニ三堂一、劉兄自ニ給事中一出刺ニ此州一、頗復增飾、又作ニ二十一詩一、以詠ニ其事一、流ニ行京師一、文士爭和レ之、余與レ劉善、故亦同作。〔白居易、東歸詩〕前夕宿ニ三堂一、今旦遊ニ申湖一。〔明一統志〕三堂在ニ河南府靈寶縣舊虢州治內一、唐岐薛二王刺史時建、取ニ人臣在レ三之義一、呂温作レ記、韓愈有下和ニ虢州刺史劉伯芻三堂新題二十一詠一幷序上。

【三道】1227 サンダウ ㊀三つの道。三つの方面。〔左氏、昭、四、三塗、注、在ニ河南陸渾縣南一、疏〕或曰、三塗、伊闕・大谷・轘轅三道也。〔北史、齊武成帝紀〕自ニ恆州一分爲ニ三道一、殺ニ掠吏人一。㊁親に事へる三つの道。卽ち、養と喪と祭。〔禮、祭統〕孝子之事レ親也、有ニ三道一焉、生則養、沒則喪、喪畢則祭。㊂國家の大體に明かなことと、人事の終始に通ずることと、直言極諫することとをいふ。〔漢書、鼂錯傳〕選下賢良明ニ於國家之大體一、通ニ於人事之終始一、及能直言極諫者上、各有ニ人數一、將ニ以匡ニ朕之不逮一、二三大夫之行、當ニ此三道一。〔注〕張晏曰、三道、國體・人事・直言也。㊃三つの文章。道とは、首尾完結した詞章。〔唐書、選擧志上〕答ニ時務策三道一。

〔三道河〕1228 サンダウカ ㊀河の名。山西省介休縣の境。㊁地名。綏遠省五原縣の極西の境、阿拉善額魯特旗の東境。淸の光緒の中頃、天主教が禮拜堂を設けた。

〔三道具〕1229 ミツダウグ 突棒・刺又・袖搦の稱。

〔三道橋〕1230 サンダウケウ 橋の名。雲南省鄧川縣の北。

〔三道溝〕1231 サンダウコウ 地名。㊀山西省大同縣。㊁雲南省永善縣。㊂貴州省冊亨縣の西。㊃綏遠省土默特右翼六甲。㊄滿洲遼寧省通化縣。㊅滿洲遼寧省本溪縣の東南。㊆滿洲遼寧省寬甸縣の東北。㊇滿洲吉林省延吉縣の西。㊈滿洲吉林省開島和龍縣の西。㊉滿洲吉林省琿春縣の東北。⓫滿洲黑龍江省拜泉縣の東南。⓬滿洲熱河省平泉縣。

〔三道嶺〕1232 サンダウレイ 山名。滿洲吉林省永吉縣の北。松花江に臨み、江南の諸峯と遙かに相對峙してゐる。

【三宅】1233 サンタク ㊀常伯・常任・準人の三つの職をおくこと。宅は、置く意。轉じて、其の三つの職。〔書、立政〕宅ニ乃事一、宅ニ乃牧一、宅ニ乃準一、茲惟后矣、謀レ面用丕訓レ德、則乃宅レ人、茲乃三宅無ニ義民一。〔蔡傳〕蘇氏曰、事則向所謂常任也、牧則向所謂常伯也、準則向所謂準人也。〔小學紺珠、職官類、三宅〕宅ニ乃事一、常任、宅ニ乃牧一、常伯、宅ニ乃準一、準人。㊁㋑ミワケ 日向國の地名。㋺ミヤケ 大和國の地名。㈧ミヤケ 姓氏。

〔三宅島〕1234 ミヤケジマ 伊豆七島の一。

〔三宅寄齋〕1235 ミヤケキサイ 和泉の人。名は島。字は亡

羊。號は寄齋、又、江南野水翁。通稱も寄齋、或は玄蕃。慶安二年沒す、年七十。著に寄齋文集がある。〔先哲叢談、後、一〕。

【二宅觀瀾】1236 京都の人。石庵の弟。名は絹明。字は用晦。號は觀瀾。通稱は十九郎。水戸藩儒。著に觀瀾文集・觀瀾餘錄・斜光集・助字雅・支機閑談・絲尾餘簡・中興鑑言・復讐錄・萍集がある。〔先哲叢談、正、五〕。

【二宅二俊】1237 常伯・常任・準人の三職に居る者と、其の職に任ずる才德のある者。三宅を見よ。〔書・立政〕嚴惟丕式、克用二三宅三俊一。〔傳〕言湯所二以能嚴威、惟可一大法象一者、以能用二三居三德之法一。〔蔡傳〕三宅、謂下居二常伯一常任・準人之位一者上。三俊、謂下有二常伯・常任・準人之才一者上。

【二宅尚齋】1238 播磨の人。名は重固。號は尚齋。通稱は儀左衞門、後、丹治。武州忍藩儒。崎門三傑の一。著に狼狽錄・祭祀來格記・來爲學要記・爲貧說・家禮筆記・鉤戈錄・洪範全書續錄・五經筆記・四書筆記・尚齋先生行狀・尚齋文集・尚齋和歌集・愼術說・靜坐說・小學筆記・太極圖說筆記・中國夷狄說・獨愼要記・白雀錄・默識錄がある。〔近代名家著述目錄〕、〔先哲叢談、正、五〕。

【二宅昌尚】1239 京都の人。道乙(一)(肇革齋)の長子。名は可三。字は伯省。號は衡雪。〔先哲叢談、續、二〕。

【二宅石庵】1240 京都の人。名は正名。字は實文。號は石庵、又、萬年。〔先哲叢談、正、五〕。

【二宅肇革齋】1241 京都の人。名は道乙。字は子燕。號は肇革齋、又、大遺齋・研山樵夫。通稱は忠兵衞、後、道乙。延寶三年歿す、年六十二。著に祭禮節解・喪禮節解・愼修筆記・小學集說・大遺齋文集・詩集・和歌集・通鑑綱目校點がある。〔先哲叢談、後、一〕・〔先哲叢談、續、二〕。

【三度】1242 ❶三つの事を考へはかる。〔管子、五輔〕所謂三度者何、曰、上度二之天祥一下度二之地宜一中度二之人順一。此所謂三度、故曰、天時不祥、則有二水旱一、地道不レ宜、則有二飢饉一、人道不レ順、則有二禍亂一。❷三つの尺度。〔周禮、考工記、輈人〕輈有二三度一、軸有二三理一、國馬之輈、深四尺有七寸、田馬之輈、深四尺、駑馬之輈、深三尺有二寸一。❸三回。三遍。

【三度笠】1243 菅笠の一種。〔守貞漫稿、二十九、笠〕三度笠、大深ともいふ、三度飛脚用ゐる故に名とする。

【三達】1244 ❶道などが二方に通ずる。〔爾雅、釋宮〕二達謂二之劇旁一。❷漢の韋孟達・公孫伯達・魏仲達の三人をいふ。〔聖賢羣輔錄、三達〕大鴻臚韋孟達・上黨太守公孫伯達・河陽長魏仲達、右扶風平陵人、同時齊名、世號二三達一。❸佛羅漢で三明といふのを、佛では三達といふ。即ち天眼(未來の生死因果を知る)・宿命(過去の生死因果を知る)・漏盡(現在の煩惱を知つて之を斷つ)。〔大乘義章、二十〕知レ之究盡、說二三達一。〔梁書、沈約傳〕歸二妙軫於一乘一、啓二玄扉於三達一。

【三達尊】1245 天下中どこにでも通じて尊ばれる二つのもの。即ち、朝廷では爵位、鄕黨では年齒、民の上に立つには德を尊ぶ。〔孟子、公孫丑下〕天下有二達尊三、爵一、齒一、德一、朝廷無レ如レ爵、鄕黨無レ如レ齒、輔二世長一民無レ如レ德。

【三達德】1246 天下中どこにでも通じて至上の德とせられる三つのもの。知・仁・勇。三德(1390)の❶の㊟を見よ。〔中庸〕知・仁・勇三者、天下之達德也。

【三旦】1247 ❶三朝。三日間の朝。〔戰國、燕策〕蘇代爲レ燕說レ齊、云云、先說二淳于髡一曰、人有下賣二駿馬一者上、比二三旦立一市、人莫二之知一、往見二伯樂一曰、云云、比二三旦立一於市一、人莫二與言一。❷元日の朝。三朝。

【三袒】1248 喪に居て三度はだぬぐこと。袒とは、喪の踊をなす爲に上衣を脫すること。〔禮、喪服小記〕三日而五哭三袒。〔注〕三袒者、始至袒、與二明日又明日之朝一而三也。

【三軍】1249 三部隊から成る軍隊。〔詩、大雅、公劉〕其軍三軍。〔傳〕三軍、相襲也。〔疏〕軍レ衣謂二之襲一。三軍相襲者、謂二三行皆單而相重爲レ軍也。

【三歎】1250 ❶幾度か感嘆する。深く感心すること。〔左氏、昭、二十八〕吾子置レ食之間三歎、何也。〔國語、晉語九〕吾子一食之間而三歎、何也。❷樂を奏するこき、一人の發聲に和して三人が唱和すること。一唱三歎(1－1：965)を見よ。〔蘇軾、答二張文潛一書〕汪洋瀠泊、有二一唱三歎之聲一、而其秀傑之氣、終不レ可レ沒。

【三端】1251 文士の筆端、武士の鋒端、辯士の舌端。〔韓詩外傳、七〕君子避二三端一、避二文士之筆端一、避二武士之鋒端一、避二辯士之舌端一。〔梁簡文帝、舌賦〕夫二端所レ貴、三寸著レ名。〔庾信、哀江南賦〕末二深思一於五難、先自擅二於三端一。

【三嘆】1252 三歎(1250)に同じ。

【三潭】1253 潭の名。浙江省杭縣の西湖の中に三つの潭があつて、深さが測り知れないと傳へられてゐる。三潭印月を見よ。

【三潭印月】1254 西湖にある小島の名。宋の蘇軾が杭州に赴任して西湖に至つた時、月光が潭に映じて塔影を三つに分けたといふ。〔浙江通志〕南屏晚鐘、三潭印月。

【三男】1255 ❶三人の男子。〔周禮、夏官、職方氏〕正西曰二雍州一、其民二男二女。〔戰國、齊策〕臨淄之中七萬戶、臣竊度レ之、下戶三男子、三七二十一萬、不レ待レ發二於遠縣一、而臨淄之卒、固已二十一萬矣。❷みつご。〔元史、五行史一〕妻靳氏一產二三男一。❸ナンバースリー。第三番目の男子。〔江濃記〕三男喜平次と云ふ、是れは當腹なり。

【三段】1256 三階の段。三等。〔水經、江水注〕江中有二節度石二段一、廣百步、高五六丈、是西陽武昌界、分二江于斯石一也。

【三段飛】1257 陸上競技の一。ホップ、ステップ、ジャンプの三段の跳躍形式を連續して行ふ。ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ。略してホ・ス・ジャンプといふ。

【三段碑】1258 天發神讖碑をいふ。もと江寧城南の巖山にあつたが、後、江寧府學に移した。三國吳の天璽元年の刻石で、其の字は怪偉である。清の周在浚に釋文一卷がある。〔寰宇訪碑錄、吳〕紀功碑、篆書、天璽元年八月、俗稱二三段碑一。〔江寧縣志、金陵金石攷〕吳後主紀功二段石碑、一名二天發神讖碑一、又曰二天璽華覈文皇象書一、非レ篆非レ隸、最爲二奇古一、在二府學尊經閣下一。

【三段教授】1259 教授法の一形式。豫備・提示・應用、或は、直觀・總括・應用の三階段を以てする教授法。

【三段推理】1260 三段論法に同じ。

【三段論法】1261 大前提・小前提から斷案を引き出す論理の法式。三段推理。

【三壇】1262 三つの祭壇。❶周公が太王・王季・文王を祭る爲に設けた三つの祭壇。〔史記、魯周公世家〕周公於レ是、乃自以爲二質一、設二三壇一。❷登封壇・降禪壇・朝覲壇。〔小學紺珠、制度類、三壇〕。

【三池】1263 ❶星の名。〔晉書、天文志上〕九坎閒十星曰二天池一、一曰二三池一。❷膽・口・小腹の三箇所。〔黃庭經、注〕膽爲二中池一、口爲二華池一、小腹爲二玉池一、故有二三池之名一。❸姓氏。〔日用重寶記〕。

【三知】1264 ❶天分の三等。生れながらに知り、學んで知り、困しんで知る。〔論語、季氏〕孔子曰、生而知レ之者上也、學而知レ之者、次也、困而學レ之、又其次也、困而不レ學、民斯爲下矣。〔小學紺珠、性理類、三知〕生而知レ之、學而知レ之、困而知レ之。❷命・禮・言の三つを知ること。〔論語、堯曰〕孔子曰、不レ知命、無二以爲一君子一也、不レ知レ禮、無二以立一也、不レ知レ言、無二以知一人也。〔小學紺珠、性理類、三知〕知レ命、知レ禮、知レ言。❸由つて起るところの三つを知ること。即ち、治國・平天下は、修身・齊家に本づくことを知り、外に著はれる態度・風采は、內にある心の邪正によることを知り、心內に在る微小なものも外に顯はれることを知る。〔中庸〕君子之道、淡而不レ厭、簡而文、溫而理、知二遠之近一、知二風之自一、知二微之顯一、可二與入一レ德矣。〔集疏〕有レ爲レ己之心、而又知二此三者一、則知所レ謹、而可レ入レ德矣。〔小學紺珠、性理類、三知〕知二遠之近一、知二風之自一、知二微之顯一。

【三智】1265 ❶一切智(聲聞・緣覺の智)・道智(菩薩の智)・一切種智(佛智)。〔智度論、二十七〕佛自說二一切智一、是聲聞・辟支佛事、道智是諸菩薩事、一切種智是佛事。❷世間智(凡夫外道の智)・出世間智(聲聞・緣覺の智)・出世間上上智(佛・菩薩の智)。〔四卷楞伽、二〕彼智有二三

種、謂二世間・出世間・出世間上智一。

【三遲】1266 チン 宴席に於て、酒十巡に及ぶまで遅參した者に、罰杯を科すること。轉じて、酒又は酒宴の異名。〔西宮記、臨時、八、後到〕五巡後到著者、可レ行二三盃・七巡後到者、可レ行二五盃一、十巡以上到者、可レ行二七盃一、一遲不レ得二通風・二遲・酒間架勾・三遲・非錄事・措二手簪一。〔和漢朗詠集、九月九日〕先三二遲一而吹二其花一。

【三尼】1267 ヂン 三つの止むべき事。尼は止に同じ。〔逸周書、文酌解〕答有二三尼一、云云、三尼、一、除レ戎答レ醜、二、申レ親考レ疏、三、假レ時權レ要。〔注〕尼、止。

【三持】1268 ヂン 明、錢世楨（11－40563・366）の字。

【三肘】1269 チウ 五六尺。肘は、尺度の名。二尺とも、又、一尺五寸ともいふ。〔白虎通、聖人〕湯臂三肘、是謂二柳翼一、攘二去不義一、萬民蕃息。

【三竹】1270 サンチク 清、胡栗（9－29400・360）の號。

【三竺】1271 ヂク 浙江省杭縣の天竺山を上・中・下に分ち、之を二天竺一といひ、略して二竺一ともいふ。〔許月卿、西湖詩〕斷猿二竺曉、殘柳六橋春。〔戴表元、送二旨上人遊一西湖一詩〕六橋水煖初楊柳、二竺山深未二杜鵑一。

【三竺六橋】1272 サンヂクリクケウ 二竺も六橋も、共に名勝の地。浙江省杭縣にある。二竺‥六橋（2－1453‥179）の●を見よ。

【三長】1273 チサンチャウ ●三種類の首長。黨長・里長・隣長。〔魏書、高祖紀下〕太和十年、初立二黨・里・隣三長一、定二民戸籍一。〔小學紺珠、制度類、三長〕五家立二鄰長一、五鄰立二里長一、五里立二黨長一。●史家に必要な三つの長所。才智・學問・識見。〔唐書、劉知幾傳〕禮部尚書鄭惟忠、嘗問二自レ古文士多レ史才少一、何耶、對曰、史有二三長一、才・學・識、世罕レ兼レ之、故史者少。

【三長月】1274 サンチャウゲツ 佛教でいふ三つの精進月。即ち、正月・五月・九月。此の月には死刑を行はぬ。〔釋氏智論〕天帝釋、以二大寶鏡一、照二四部神州一、每月一移察二善惡一、正・五・九月照二南贍州一、唐人于此三月、不レ行二死刑一、曰二三長月一。

【三長物齋】1275 サンチャウブツサイ 清、黃本驥（12－47926‥1330）の室名。

【三長兩短】1276 san¹ ch'ang² liang³ tuan³ 何の彼のと思ひがけない事に遇ふ。

【三長物齋書】1277 サンチャウブツサイ 書名。清、黃本驥輯。其の目は、第一－六冊、聖域述聞二十八卷（清、黃本驥）。第七・八冊、皇朝經籍志六卷（清、黃本驥）。第九・十冊、歷代紀元表一卷（清、黃本驥）。第十一－十三冊、郡縣分韻考十卷（清、黃本驥）。第十四・十五冊、三志合編七卷（清、黃本驥）。第十六－十八冊、歷代職官表六卷（清、黃本驥）。第十九冊、避諱錄五卷（清、黃本驥）。第二十－二十七冊、古誌石華三十卷（清、黃本驥）。第二十八－三十冊、姓氏解紛十卷（清、黃本驥）。第三十一・三十二冊、湖南方物志八卷（清、黃本驥）。第三十三冊、詩韻檢字一卷（清、黃本驥）。第三十四・三十五冊、癡學八卷（清、黃本驥）。第三十六－四十七冊、顏魯公文集三十卷・補一卷・年譜一卷（唐、顏眞卿）。第四十八－五十三冊、集古錄十卷・目五卷（宋、歐陽脩）。第五十四－五十九冊、金石錄三十卷・目一卷（宋、趙明誠）。第六十冊、明尺牘墨華三卷（清、黃本驥）。第六十一・六十二冊、賢母錄四卷・旌節錄一卷（清、黃本驥）。第六十三－六十五冊、大潙山房遺稿九卷（清、黃湘南）。第六十六・六十七冊、紅雪詞鈔四卷・附二卷（清、黃湘南）。第六十八－七十一冊、三十六灣草廬稿十卷（清、黃本驥）。第七十二冊、茶香閣遺草一卷・附一卷（清、黃婉璚）。第七十三－七十六冊、嶠山甜雪十二卷（清、黃本驥）。第七十七・七十八冊、三長物齋詩略五卷・夏小正疏帖一卷（清、黃本驥）。第七十九・八十冊、三長物齋文略六卷・年號分韻錄一卷（清、黃本驥）。

【三張】1278 チサンチャウ ●後漢の張陵・張衡・張魯。共に天師道を傳へた人。〔魏書、釋老志〕太上老君謂二寇謙之一曰、汝宣二吾新科一、清二整道教一、除二去三張僞法一、租米錢稅及男女合氣之術。●晉の張載（字孟陽）・張協（字景陽）・張亢（字季陽）。〔晉書、張載・張協・張亢傳論〕二陸入レ洛、三張減レ價。〔晉書、張亢傳〕時人謂二載・協・亢・陸機・雲一曰二陸三張一。●唐の張嘉貞・延賞・弘靖。〔小學紺珠、氏族類、三張〕。

【三張二陸兩潘一左】1279 リサンチャウニリクリャウパンイッサ 晉の太康年間の文章家なる張載・張協・張亢・陸機・陸雲・潘岳・潘尼・左思をいふ。〔鍾嶸詩品、上品序〕迄二於有晉太康中一、三張・二陸・兩潘・一左一、勃爾復興。

【三娘】1280 ヂサンニャウ 三人の女子。三女。〔金史、后妃上、海陵諸嬖傳〕有二勝哥者一、阿里虎、與レ之同臥起、如二夫婦一、廚婢三娘、以告二海陵一。

【三娘子】1281 サンニャウ 明の順義王俺答の外孫女で、韃靼王擒力克の妻になつた人。初、俺答の孫なる把漢那吉に嫁し、後、俺答に奪はれ、俺答の卒後、擒力克に嫁し、前後二王に歷配して權力を有した。〔明史、韃靼傳〕十年春、俺答死、帝特賜二祭七壇・綵緞十二表・裏布百匹一、示二優恤一。其妻哈屯、率二子黃台吉等一上表、進二馬謝一、復賜二幣布一有レ差、封二黃台吉一爲二順義王一、改二名乞慶哈一、立三歲而死、朝廷給二恤典一如レ例、十五年春、子擒力克嗣、其妻三娘子、故俺答所レ奪之外孫女而爲二婦者一也、歷二配三王一、主二兵柄一、爲二中國一守二邊保塞一、衆畏二服之一、乃敕封爲二忠順夫人一。

【三場】1282 ヂサンヂャウ 科擧に於ける初場・二場・三場の三層の試驗。各場で何を試驗するかは、時代によつて違つてゐる。日知錄、卷十六に見ゆ。〔宋史、選擧志二〕內雜出六題一、分爲二三場一、每場體製、一古一今。〔明史、選擧志二〕初設二科擧一時、初場試二經義一道・四書義一道一、二場論一道、三場策一道、中式後十日、復以二騎射書算律五事一試之、後頒二科擧定式一。〔事物紀原、擧校貢擧部、三場〕貢士、前漢唯射策、唐初幷試二雜文一、天寶十三載、擧人問策外、更詩賦幷雜文貼經、爲二三場試一也。通典云、搢言曰、進士與二俊秀一同レ源異レ派、兩漢有二射策對策一、唐高宗垂拱元年、吳師道等及第、敕批云、略觀二其策一、並未盡レ善、調露二年、劉思玄、請加二試雜文一、神龍元年、方行二三場試一云。〔通俗編、仕進、三場〕宋史選擧志、建炎二年、定以二三場一取レ士、第一場、詩賦經義、各試二所習一、二場並論、三場並策、紹興十三年、從高閌、請二參合三場一、以經義一爲レ首、詩賦次レ之、論策又次レ之。〔六部成語訂正、禮部、三場、注解〕從前鄉會試、一場、試二四書文三篇、五言八韻詩一首一、二場、詩書易禮春秋五經文五篇、三場、策問五道。

【三場文選】1283 サンヂャウブンセン 書名。●七十二卷。元、劉貞撰。類編歷擧二場文選一といふ。元代、科擧應試の準備として、江浙・江西・湖廣・燕南の各鄉試、中書堂會試並に御試の三場の答案を蒐む。十集から成る。●元、周旻撰。皇元大科三場文選といふ。江西・江浙・湖廣の會試登科の英俊の答案を輯錄したもの。

【三場名筆】1284 san¹ ch'ang² ming² pi³ 水筆の一種。小楷用仿古湖筆の一名稱。

【三忠】1285 サンチウ ●三種類の忠義。大忠・次忠・下忠。〔荀子、臣道〕有二大忠者一、有二次忠者一、有二下忠者一。〔小學紺珠、人倫類、三忠〕大忠・次忠・下忠。●三人の忠臣。〔逸周書、程典解〕文王弗レ忍、乃作二程典一、以命二三忠一。●宋代に忠と謚した三人。歐陽脩（文忠公）・楊邦乂（忠襄公）・胡銓（忠簡公）。〔小學紺珠、名臣類下、三忠〕歐陽文忠公・楊忠襄公・胡忠簡公、廬陵三忠堂、周益公記。

【三注】1286 サンチウ ●三たび矢をつがへる。〔晉書、宣紀帝、嚴世上〕樓引弩、將レ射二帝、孫謙止レ之曰、事未レ可レ知、三注三止、皆引二其肘一、不レ得レ發。●三たびしるす。三注三唱を見よ。●我が國の京都の五山で、胡曾の詠史詩注、李暹の千字文注、李瀚の蒙求注の併稱。〔下學集〕。

【三注三唱】1287 サンチウサンシャウ 唐代の官吏登庸試驗の法。唐代に於ける吏部の銓法は、先づ書（書法）・判（法例）を試み、次に身（容貌）・言（辯辭）を察して銓考し、其の材を注記し、其の官員を注記して之を讀み上げる。これを三度行ふから三注三唱といふ。〔資治通鑑、唐紀〕玄宗、天寶十一載〕故事、兵・吏部尚書知二政事一者、選事、悉委二侍郎以下一、三注三唱、仍過二門下省一審。〔注〕唐制、六品以下赴レ選、始集而試、觀二其書・判一、已試而銓、察二其身・言一、已銓而注、詢二其便利一而擬、已注而唱、不レ厭者得二反通一、其辭一三唱而不レ厭者、聽二冬集一、厭者爲レ甲、上二于僕射一、乃上二門下省給事中一讀レ之、黃門侍郎省レ之、侍中審レ之、然後以

聞、主者受レ旨而奉行焉、謂ニ之奏受一。

【三柱】1288 サンチウ　二つの星。咸池（星名）の近傍にある。又、奎・婁・胃の三星をもいふ。〔史記、天官書〕五漢五帝車舎、云云、中有ニ三柱一柱不レ具、兵起、奎曰ニ封豕一爲ニ溝瀆一婁爲ニ聚衆一胃爲ニ天倉一。

【三柱里】1289 サンチウリ　唐の劉仁軌の一族が、三人までも上柱國に任ぜられたので、其の居處を三柱里といつた。〔唐書、劉仁軌傳〕咸亨五年、爲ニ雞林道大總管一、進ニ爵爲レ公、子及兄子、授ニ上柱國一者二人、州黨榮レ之、號ニ所レ居、爲ニ樂城鄉三柱里一。

【三蟲】1290 サンチウ　人の腹中にあつて病を起す三種の蟲。ニ戸（630）を見よ。〔後漢書、方術下、華佗傳〕佗授ニ以漆葉青黏散一、漆葉屑一斗、青黏十四兩、以レ是爲レ率、言、久服去ニ三蟲一、利ニ五臟一、輕レ體、使ニ人頭不レ白。〔論衡、商蟲〕人腹中有ニ三蟲一。〔柳宗元、捕蛇者說〕去ニ死肌一殺ニ三蟲一。

【三黜】1291 サンチユツ　三度しりぞけられる。柳下惠が三たび官を退けられて、憤る志の無かつた故事。〔論語、微子〕柳下惠爲ニ士師一、三黜、人曰、子未レ可ニ以去一乎、曰、直レ道而事レ人、焉往而不ニ三黜一。枉レ道而事レ人、何必去ニ父母之邦一。〔袁宏、三國名臣序贊、柳下以之〕三黜。

【三瀦】1292 サンヂヨ　筑後國の郡名。

【三女】1293 サンヂヨ　❶三人のむすめ。〔孔子家語、本姓解〕顏氏有ニ三女一、其小曰ニ徵在一。〔宋書、禮志二〕舊說、後漢有ニ郭虞者一、有ニ三女一、以ニ三月上辰一、產ニ二女一、上巳產ニ一女一、二日之中而三女竝亡。❷三人のをんな。〔國語、周語上〕恭王遊ニ於涇上一、密康公從、有ニ三女一奔レ之。〔易林〕三女求レ夫、不レ見ニ復關一、伺ニ候山隅一、長思憂歎。❸第三女。

【三女河】1294 サンヂヨカ　河の名。河北省豐潤縣の西南。三女の投水によつて名を得たといふ。〔豐潤縣志〕三女河、在ニ城南三十里一、相傳、元末有ニ姊妹三人一、避ニ兵亂一至レ此、恐遭ニ汙辱一、相攜投レ水死、因得レ名、一說、有ニ屠夫一、好レ酒不レ事レ事、強ニ有力者一、議略ニ其三女一、三女攜レ手赴レ水死、今村中關廟中、尚塑有ニ三女攜レ手像一。

【三女神】1295 サンヂヨシン　天照大神が素戔嗚尊とうけひして生み給うた三柱の女神。多紀理毘賣命（田心姫命）・多岐津比賣命（湍津姫命）・市寸島比賣命（市杵島姫命）。〔日本書紀、神代紀、上〕田心姫、次湍津姫、次市杵島姫、凡ニ三女矣、云云、又敕曰、故此ニ女神、悉是爾兒。

【三重】1296 サンチヨウ　天下に王たるについての三つの重大なこと。〔中庸〕王ニ天下一有ニ三重一焉、其寡レ過矣乎。❶禮を議すること、度を制すること、文を考へることをいふ。〔中庸章句〕呂氏曰、三重、謂ニ議レ禮、制レ度、考レ文、惟天子得ニ以行一之、則國不レ異レ政、家不レ殊レ俗、而人得レ寡レ過矣。❷夏・殷・周三王の禮をいふ。〔禮、中庸、注〕三重、三王之禮。〔疏〕言爲ニ君王一有ニ天下一者、有ニ三種之重一焉、謂ニ夏殷周三王之禮一、其事尊重、若能行レ之、寡ニ少於過一矣。❸德と位と時とし、之を善・尊・徵の三者に配して說く。〔伊藤仁齋、中庸發揮〕三重、反覆言ニ德與レ位與レ時三者甚重一也、有ニ此三者一、則民能信而從レ之、寡レ過者、謂下愜ニ人心一順ニ風俗一、而無ニ所過一也。〔荻生徂徠、中庸解〕重、愼重也、善、謂ニ德、徵、謂下施ニ於民一有ニ益一、尊、謂ニ位、言王ニ天下一制ニ禮樂一、以ニ此三者一、愼ニ重之一而不ニ敢輕制一作、則寡ニ失也一、鄭玄以ニ三重一爲ニ三王之禮一、呂大臨以爲ニ議レ禮制レ度考レ文、皆迂回弗ニ通矣一、藤原佐世以爲ニ德位時三者一爲得焉。

【三徵】1297 サンチウ　三度、天子に召し出されること。〔後漢書、楊綰傳〕前後三徵、皆以ニ直諫一不レ合。〔晉書、劉兆傳〕武帝時、五辟ニ公府一、三徵ニ博士一。〔李頎、送ニ劉四赴ニ夏縣一詩〕明年九府議レ功時、五辟ニ三徵當一レ茲。

【三徵七辟】1298 サンチヨウシチヘキ　たびたび召し出される義。徵は天子の御召、辟は州郡の召。〔晉書、王裒傳〕裒痛ニ父非命一、隱居教授、三徵七辟、皆不レ就。

【三陳】1299 サンヂン　❶軍陣の名。天陳・地陳・人陳をいふ。三陣。㋑太公望が周の武王に說いたといふ。〔六韜、虎韜、三陳〕武王問ニ太公一曰、凡用ニ兵、爲ニ天陳・地陳・人陳一、奈何、太公曰、日月星辰斗杓、一左一右、一向一背、此謂ニ天陳一、丘陵水泉、亦有ニ前後左右之利一、此謂ニ地陳一、用レ車用レ馬、用レ文用レ武、此謂ニ人陳一、武王曰、善哉。㋺天陳は天の時、地陳は地の利、人陳は人の和。唐の員半千が太宗の間に對し、孟子の公孫丑下篇にある天時・地利・人和によつて答へたもの。〔唐書、員半千傳〕高祖御ニ武成殿一、問ニ兵家有ニ三陳一、何謂邪、衆未レ對、半千進曰、臣聞、古者、星宿孤虛、天陳也、山川相背、地陳也、偏伍彌縫、人陳也、臣謂、不レ然、夫師以レ義出、沛若ニ時雨一、得ニ天之時一爲ニ天陳一、足食約レ費、且耕且戰、得ニ地之利一爲ニ地陳一、擧ニ三軍士一如ニ子弟從父兄一、得ニ人之和一爲ニ人陳一、捨レ是則何以戰、帝曰、善。❷末代の三人の陳姓の人。陳堯叟・陳堯佐・陳堯咨。又、陳宗召・陳貴謙・陳貴誼。〔小學紺珠、氏族類、三陳〕陳堯叟・堯佐・堯咨、云云、陳宗召・貴謙・貴誼。❸六韜の中の虎韜の篇名。

【三陳九卦】1300 サンヂンキウクワ　宋の陳摶の龍圖。易の繫辭下傳第七章によつて說を立てたもので、先づ卦名を釋し、次に卦體をいひ、終りに卦用を記したもの。宋儒は多くこれに從ふ。九卦は、履・謙・復・恆・損・益・困・井・巽。ニ陳は、一は、履德之基、謙德之柄、復德之本、恆德之固、損德之修、益德之裕、困德之辨、井德之地、巽德之制。二は、履和而至、謙尊而光、復小而辨ニ於物一、恆雜而不レ厭、損先難而後易、益長裕而不レ設、困窮而通、井居ニ其所一而遷、巽稱而隱。三は、履以和レ行、謙以制レ禮、復以自知、恆以一レ德、損以遠レ害、益以興レ利、困以寡レ怨、井以辨レ義、巽以行レ權。〔陳摶、易龍圖序〕原ニ夫龍馬負レ圖、出ニ於羲皇之代一、在ニ太古之先一、今存ニ已合之位一、猶或疑レ之、況更陳ニ其未合之數耶一、然則何以知レ之、於ニ仲尼三陳九卦之義一、探ニ其旨一、所ニ以知一レ之也。

【三途】1301 サンヅ　㊀三惡道。卽ち、火途（地獄道）・血途（畜生道）・刀途（餓鬼道）。ニ塗。〔輔行、一〕四解脫經、以ニ三途一名ニ火・血・刀一也、途、道也、作ニ此塗一者悞。

【三途川】1302 サンヅカハ　㊀人が死んで閻魔の廳に至る途中に三途川がある。川に三つの瀨があり、三瀨は各〻其の緩急を異にし、亡者は其の生前の作業の善惡に應じて、渡る瀨を振りあてられる。川の岸には、懸衣翁・奪衣婆の二匹の鬼が居て、亡者の衣を奪つて樹に懸けるといふ。みつせ川。〔十王經〕見レ渡ニ亡人名一奈河津一、所レ渡有ニ三一山水瀨一、二江深淵一、有ニ橋渡。

【三途八難】1303 サンヅハツナン　㊀三途は地獄・畜生・餓鬼。之に鬱單越（聖人が出ぬため、佛を見て法を聞くことの出來ぬもの）・長壽天（外道が多く生じて、佛を見て法を聞くに障りあるもの）・聾盲瘖啞（佛が世に出でても見ることが出來ず、佛が法を說いても聞くことの出來ぬもの）・世智辨聰（外道の書に習つて、正法を信ぜぬもの）・佛前佛後（佛を見ず、法を聞かぬもの）を加へて八難といふ。〔維摩經、方便品〕菩薩成佛時、國無ニ有ニ三途八難一。〔淨心誡觀法、上〕四百四種病、宿食爲ニ根本一、三途八難苦、女人爲ニ根本一。

【三通】1304 サンツウ　❶二度、通ずる。〔南史、蔡撙傳〕停ニ車三通一、不レ報。〔張祜、塞上曲〕磧迥三通角、山寒一點旗。〔吟窗雜錄〕黃損詩曰、三通明主詔、一片白雲心。❷制度に關する三種の書。通典（二百卷、唐、杜佑撰）・通志（二百卷、宋、鄭樵撰）・通考（三百四十八卷、元、馬端臨撰）。三書には皆續篇がある。九通（1－167‥462）の❷を見よ。

【參考書】【三通序】四卷　清、康綸鈞輯。

【三亭】1305 サンテイ　❶三つの高殿。〔墨子、雜守〕爲ニ築ニ三亭一。❷亭の名。〔史記、范雎傳〕先生待ニ我於三亭之南一。〔注〕索隱曰、按、三亭、亭名、在ニ魏境之邊道一亭也。

【三貞】1306 サンテイ　❶義婦・節婦・烈婦。〔剪燈新話、愛卿傳〕玉碎花飛、要レ學ニ三貞一、須捨ニ一死一。❷三人の節義のあつた女。馬妙祈の妻義、王元憤の妻姬、趙蔓君の妻華。〔華陽國志、巴志〕永初中、廣漢漢中羌反、虐及ニ巴郡一、有ニ馬妙祈妻義・王元憤妻姬・趙蔓君妻華一、夙喪レ夫、執ニ共姜之節一、守ニ二醮之禮一、號曰ニ三貞一、遭ニ亂兵迫レ匿、懼レ見ニ拘辱一、三人同時自沈ニ於西漢水一而沒死、有ニ黃鳥一鳴ニ其葬處一、徘徊焉。

【三貞九烈】1307 サンテイキウレツ　婦女の甚だ貞節のあること。ニ貞は多數を表はし、九は數の極。〔蝴蝶夢傳奇〕婦人家ニ貞九烈、四德ニ三從一、到レ是站得腳頭定的。

【三庭】1308 サンテイ　人體内にある三つの大切な場所。内景・外景・中景をいふ。〔黃庭内景經〕三庭嘉穀生ニ皇螟一。〔蘇軾、芙蓉城詩〕願君收視觀ニ三庭一、

勿レ與ニ佳穀生ニ蝗螟一。

【三停】1309 ㊀相術家の分けた人體及び面部の三箇所。㋑體では、頭が上停、腰が中停、足が下停。〔純陽相法入門、一〕三停八卦求ニ相稱一。〔注〕王篤云、三停、頭・足・要也。㊁顏では、天中から印堂までが上停、山根から準頭までが中停、人中から地閣(地角)までが下停。〔神相全編、十觀〕三停者、額門・準頭・地閣、此面部三停也、又爲ニ三才一、又爲ニ三主一、又名ニ三表一、俱要ニ平等一、上停長、少年忙、中停長、福祿昌、下停長、老吉祥、三停平等、一生衣祿無レ虧。㊂章・意などの如く、文字の結構が上・中・下の三段に分れるもの。〔王氏法書苑、李淳大字結構八十四法〕三停、章意素累。㊃san¹ tʻing² 十分の三。

【三鼎】1310 ㊀三つの鼎に盛つたもの。豚鼎・魚鼎・腊鼎。一說に、三は、單に鼎の數についていひ、鼎に盛る品物の數をいふのではないといふ。〔儀禮、士昏禮〕期初昏、陳ニ三鼎于寢門外東方一、北面、北上。〔注〕鼎ニ者、升レ豚・魚・腊一也。〔儀禮、士虞禮〕陳ニ三鼎于門外之右一、北面、北上。〔孟子、梁惠王下〕前以ニ三鼎一而後以ニ五鼎一與。〔注〕禮、士祭ニ三鼎一、大夫祭五鼎故也。〔四書逸箋〕儀禮鼎數圖、一鼎、特豚無レ配、二鼎、特豚而以ニ魚腊一配レ之、五鼎、皆用ニ羊豕一而魚腊配レ之。㊁黃帝の作つた三つの鼎。〔漢書、郊祀志上〕黃帝作ニ寶鼎三一象ニ天・地・人一。〔魏文帝、鑄ニ五熟釜一成與ニ鍾繇一書〕昔者黃帝ニ三鼎、周之九寶。〔小學紺珠、器用類、三鼎〕黃帝作ニ寶鼎三一象ニ天・地・人一。

【三鼎甲】1310′ 科擧の殿試は、一甲三名で、一名を狀元といひ、二名を榜眼といひ、三名を探花といつた。世に之を三鼎甲といふ。

【三麞】1311 麞・鹿・麋の肉と骨とをまぜたしほから。〔周禮、天官、醢人〕七菹三麞。〔注〕三麞、麞・鹿・麋麞也。

【三兆】1312 ㊀三つの卜形。顓頊の玉兆、堯帝の瓦兆、周の原兆。三龜。〔周禮、春官、太卜〕掌ニ三兆之法一、一曰玉兆、二曰瓦兆、三曰原兆。〔注〕兆者、灼レ龜發ニ於火一、其形可レ占者、其象似ニ玉・瓦・原之覺罅一、是用名レ之焉。原、原田也、杜子春云、玉兆、帝顓頊之兆、瓦兆、帝堯之兆、原兆、有周之兆。〔疏〕覺罅、謂ニ破而不ニ相離一也、謂レ似ニ玉・瓦・原之破裂一。云ニ原、原田也一者、謂レ若ニ左氏僖二十八年傳一云ニ原田每耕、以レ其原與ニ原田字一同上、故爲ニ此解一也。〔孫詒讓、正義〕左氏杜注云、高平曰レ原、高卬之田、坼如ニ龜文一、故曰ニ原田一、兆之覺罅、有レ似ニ高卬之田一、故曰ニ原兆一。㊁二度、占ふこと。〔孔子家語、好生〕孺子容、二年爲ニ三兆一。

【三鳥】1313 ㊀青鍾・鶴・燕子の三鳥をいひ、書翰を傳へるものといふ。〔易林〕三鳥鴛鴦相隨俱行。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕三鳥飛以自レ南兮、覽ニ其志一而欲レ北、願レ寄ニ言于三鳥一兮、去飄疾而不レ可レ得。〔注〕博物志、王母來見ニ武帝一、有ニ三青鳥如ニ烏大一、夾ニ王母一、三鳥、王母使也。〔瑯嬛記〕西王母有ニ三鳥一、一曰青鍾、二曰鶴、三曰燕子、常今ニ三鳥送ニ書於漢武一也。㊁㋑古今集中の祕傳とした三種の鳥。呼子鳥・稻負鳥・都鳥。㊂料理上の語。鶴・雉子・雁。

【三朝】1314 ㊀正月元旦は、歲の朝、月の朝、日の朝であるから斯く呼ぶ。三元。三旦。〔漢書、五行志下〕正月朔日、是爲ニ三朝一。〔班固、東都賦〕春王三朝、會ニ同漢京一。〔注〕善曰、三朝、歲首朔日也、翰曰、三朝、歲月日之朝。㊁三日の意。〔晉書、賈充傳〕咸寧二年、日食於ニ三朝一。〔李白、上ニ三峽詩〕三朝上ニ黃牛、三暮行大遲。㊂天子には內朝・治朝・燕朝があり、諸侯には內朝・路寢朝・外朝がある。周代では王朝を內朝・外朝に大別し、外朝の政事は朝士が掌り、內朝は天子が掌る。內朝には治朝と燕朝とがあり、治朝は路門の外にあつて、天子が每日臨御して政事を視、燕朝は路寢ともいひ、路門內にあつて燕居の所。五門(1－257：1047)を見よ。〔禮、玉藻、朝服以日視ニ朝於內朝一、注〕天子・諸侯、皆ニ三朝一。〔疏〕云ニ天子・諸侯、皆ニ三朝者、大僕云、掌ニ燕朝之服位一、注云、燕朝、朝ニ於路寢之庭一、是一也、司士云、正ニ朝儀之位一、注云、此日視ニ朝事於路門外一、是二也、朝士云、掌ニ外朝之灋一、注云、外朝在ニ庫門之外一、皐門之內一、是三也、諸侯三朝者、文王世子云、公族朝ニ於內朝一、路寢朝、是一也、世子又云、其在ニ外朝一、司士爲レ之、與ニ此視ニ朝於內朝一、皆謂ニ路寢門外一、每日視レ朝、是二也、此但云ニ內朝一者、對ニ中門外朝一謂爲ニ內也一、文王世子云ニ外朝一、對ニ路寢庭一爲ニ外一、此據ニ路寢門外而稱ニ內朝一明ニ知中門外一、別更有ニ朝也一、諸侯三門、是中門外、大門內、又有ニ外朝一、是三朝也。㊃三代の王。〔劉長卿、送ニ徐大夫赴ニ廣州一詩〕遠人來ニ百越一、元老事ニ三朝一。〔梁補闕、贈ニ米都知一詩〕供奉三朝四十年、聖時流落髮衰殘。㊄一日に三度朝すること。〔禮、文王世子〕文王之爲ニ世子一、朝ニ於王季一、日三。〔注〕三、皆日レ朝、以ニ其禮同一。〔小學紺珠、制度類、三朝〕朝朝、暮夕、日中又朝。㊅明堂・靈臺・辟雍をいふ。〔後漢書、明帝紀〕光武帝建ニ三朝之禮一。〔注〕三朝之禮、謂ニ中元年初起ニ明堂・辟雍・靈臺一也。㊆小兒が生れて三日目をいふ。此の日、客を招いて祝宴を開き、小兒に湯をつかはせる。洗二(6－17379：31)に同じ。〔夢梁錄、育子〕足月既坐レ蓐分娩、親朋爭送ニ細米炭醋一、三朝與レ兒落ニ臍炙一。㊇(ミササ)㋑伯耆國の地名。㊁(ミサキ)伯耆國の地名。

【三朝記】1315 (サンテウキ) 書名。孔子ニ三朝記(3－6933：102)を見よ。

【三朝山】1316 (ミサヤマ) 山の名。伯耆國に在る。

【三朝要典】1317 (サンデウエウテン) 書名。二十四卷。明、熹宗勅撰。專ら闇黨の手に成つたために、議論が紛紛として起り、崇禎の初、遂に其の版を燒かせた。日知錄、卷十八に見ゆ。〔明史、熹宗紀〕六年春正月戊午、修ニ三朝要典一。

【三朝温泉】1318 (サンテウセン) 伯耆國に在る温泉。

【三朝北盟會編】1319 (サンデウホクメイクワイヘン) 書名。二百五十卷。宋、徐夢莘編。三朝とは、宋の徽宗・欽宗・高宗をいひ、北方なる金の國との盟約書類を集めたものであるから北盟會編と名づけた。政和七年から紹興三十二年まで、凡て四十五年間の勅制・誥・國書・書疏・奏議・記・序・碑志等を載せて居る。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。

【三調】1320 (サンテウ) ㊀樂曲の一種。平調・清調・側調をいふ。〔謝靈運、會吟行〕三調佇ニ繁音一。〔注〕善曰、今ニ三調一、蓋清・平・側也。㊁三種のみつぎもの。粟・帛・雜調。〔資治通鑑、齊紀〕武帝、永明十一年、蠲ニ除ニ三調及衆逋一。〔注〕三調、謂ニ調粟・調帛、及雜調一也。

【三條】1321 (サンデウ) ㊀三つまたの道。〔盧照鄰、長安古意〕南陌北堂連ニ北里一、五劇三條控ニ三市一。㊁人皇第六十七代の帝諡。㊂三つの申し條。三箇條。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕某袖ニ關白手書一、亦有ニ三條一。㊃三本。みすぢ。

【三條燭】1322 (サンデウシヨク) 唐代、科擧のとき、夜に給せられる燭。日が暮れて燈心三條をともすまでは執筆を許される。〔天中記〕唐制、擧人試日既暮、許ニ燒燭三條一。韋永貽、試日先畢、作詩云、白蓮千朵照レ廊明、一片昇平雅頌聲、才唱第三條燭盡、南宮風月盡難成、而舊說亦言、擧人試日已晚、主文權德輿、於ニ簾下一戲云、三條燭盡燒ニ殘擧子之心一。擧人遽答云、八韻賦成、驚ニ破侍郎之膽一。

【三條腿】1323 san¹ tʻiao² tʻuei³ 劇調に於て、上句の調子を重ねることをいふ。

【三條路】1324 (サンデウノミチ) 三すぢの道。〔後漢書、班固傳上〕披ニ三條之廣路一、立ニ十二之通門一。〔注〕周禮、國方九里、旁ニ三門一、每レ門爲ニ大路一、故曰ニ三條一。〔劉禹錫、訓ニ鄭州權舍人見ニ寄十二韻一詩〕憶昔三條路、居鄰數仞墻。

【三條椽下】1325 (サンデウテンカ) 座禪の床。床は横が二尺、その上に椽が三條あるからいふ。〔碧巖錄、二十五則評〕爾諸人若見得與ニ蓮華峯庵主一同參、其或未レ然、三條椽下七尺、單前試去參詳看。

【三翟】1326 (サンテキ) 王后・貴妃が祭の時に着る二種の衣。褕衣・揄翟・闕翟、揄、一に褕に作る。〔周禮、天官、內司服〕掌ニ王后之六服一、褕衣・揄狄・闕狄。鞠衣・展衣・緣衣・素沙。〔注〕玄謂、狄、當レ爲レ翟、翟雉名、云云、此三者皆祭服、從ニ王祭ニ先王一、則服ニ褕衣一、祭ニ先公一、則服ニ揄翟一、祭ニ羣小祀一、則服ニ闕翟一、今世有ニ桂衣者一、蓋ニ翟之遺俗一。〔南史、梁武帝紀〕貴妃以下、六宮褕揄三翟之外、皆衣不レ曳地。

【三適】1327 (サンテキ) 意に適つて快い三つのこと。卽ち、早起して髮を理める、午に到つて坐睡する、夜臥して足を濯ふこと。宋の蘇東坡の故事。〔羣書拾唾、人倫禮用〕東坡三適、曰、東坡謫ニ居海南一、有ニ三詩一詠レ之、旦起理レ髮、午窻坐睡、夜臥

濯レ足。

【三哲】1328 サンテツ　三人のすぐれた人。〔南史、謝莊傳、求賢表〕成子學二三哲一、而身致二魏輔一、應侯任二二士一、而已捐二秦相一。㊀漢の劉向・谷永・耿育をいふ。三悊を見よ。〔小學紺珠、名臣類下、三哲〕劉向・谷永・耿育。㊁三國の劉備・孫權・曹操をいふ。〔陸機、答二賈長淵一詩〕乃眷二三哲一。〔注〕三哲、劉備・孫權・曹操也。㊂北魏の遵業・袁翻・王誦をいふ。〔北史、王遵業傳〕遵業有レ譽、當時與二中書令陳郡袁翻・尚書琅邪王誦一、並領二黃門郎一、號曰二三哲一。

【三悊】1329 サンテツ　三人のすぐれた人。漢の劉向・谷永・耿育をいふ。悊は哲。三哲の㊀に同じ。〔漢書、敍傳下〕救在二三悊一。〔注〕鄭氏曰、三悊、謂二劉向・谷永・耿育一。

【三疊】1330 サンデフ　㊀詩歌の三節。〔唐書、王維傳〕客有下以二按樂圖一示者上、無二題識一、維徐云、此霓裳第三疊最初拍也。〔唐書、南蠻、驃傳〕一章三疊而成。〔唐國史補〕人有レ畫二秦樂圖一、維熟視而笑、或問二其故一、維曰、此霓裳羽衣曲第三疊第一拍。㊁三度かさねて歌ふ。陽關三疊（**11**－**41725**・・78）を見よ。〔仇池筆記〕古本陽關、毎句皆再唱、而第一句不レ疊、乃知二唐本三疊如レ此、樂天詩云、相逢且莫二推辭去一、聽レ唱二陽關第四聲一、第四聲、勸レ君更盡一杯酒也。㊂泉の名。江西省星子縣の廬山五老峯の後にあり、流れ落ちる水が瀧を成し、其れが三段になつてゐるから名づける。上段は飄雲の練をひくが如く、中段は玉龍が潭に走るが如く、下段は玉氷を摧くが如く、天下の絶景である。〔李洞、廬山記〕四面巒障欲レ合、泉若二瓊簾一、從レ空懸レ布、爲二三疊一面下。〔戴復古、廬山詩〕九疊屛風三疊水、更無三詩句可二形容一。

【三疊紀】1331 サンデフキ　地質學用語。中生代の最古の時代。地殼の變動が少く、氣候溫暖で、軟體動物・兩棲類・爬蟲類・哺乳類等が棲息し、羊齒科・松柏科・蘇鐵科の植物が榮えた。

【三疊系】1332 サンデフケイ　三疊紀に屬する地層。

【三疊琴心】1333 サンデフノキンシン　心琴に觸れる三疊の歌を聞いた樣に、恍惚無我の境涯に至ること。〔黃庭內景經〕三疊琴心化二胎仙一。〔李白、廬山謠〕早服還丹無二世情一、琴心三疊道初成。

【三天】1334 サンテン　㊀三つの天文書。渾儀・宣夜。周髀。〔宋書、律曆志序〕三天之說、紛然莫レ辨。㊁道家では、淸微天・禹餘天・大赤天をいふ。又、三淸ともいふ。三淸（1011）の㊀を見よ。〔雲笈七籤〕三淸境者、玉淸・上淸・太淸也、亦名二三天一、其三天者、淸微天・禹餘天・大赤天、是也。〔王貞白、洗竹詩〕有レ時記得三天事。㊂佛㋑佛家の三界。欲界・色界・無色界。〔宋之問、登二禪定寺閣一詩〕梵宇出二三天一、登臨望二八川一。㋺摩利支天・大黑天・辨財天。㊃sān¹ t'ien¹ 三日間。

【三天使】1335 サンテンシ　佛老・病・死の三つをいふ。天使は、閻魔王の使の意。〔起世經、四〕有二三天使一、在二於世間一、所謂老・病・死也。

【三天門】1336 サンテンモン　地名。安徽省青陽縣の九華山に在る。

【三天子鄣】1337 サンテンシシヤウ　山名。今の安徽省黟縣の南に在る黟山山脈中の率山。但し、異說がある。〔山海經、海內南經〕三天子鄣山、在二閩西海北一。〔注〕今在二新安歙縣東一、今謂二之三王山一、浙江出二其邊一云云、卽三天子都也。〔淸一統志〕歙縣東三字、爲二黟縣南訛文一、三王山亦在レ黟、不レ在レ歙也。〔水經、廬江水〕廬江水出二三天子都北一、過二彭澤縣西一、北入二于江一。〔注〕山海經、三天子都、一曰二天子鄣一。

【三典】1338 サンテン　三つの法典。新國を刑する輕典、平國を刑する中典、亂國を刑する重典。〔周禮、秋官、大司寇〕掌下建二邦之三典一、以佐レ王刑二邦國一、詰中四方上、一曰、刑二新國一用二輕典一、二曰、刑二平國一用二中典一、三曰、刑二亂國一用二重典一。〔漢書、刑法志〕昔周之法建二三典一。〔資治通鑑、漢紀〕（獻帝、建安五年）制二三典之刑一、以平二治亂一。

【三典之隱括】1339 サンテンノインクワツ　三典といふ、物事を正すの標準。隱括は曲木を正す器。三典を見よ。〔長孫無忌、進二律疏一表〕寔三典之隱括。

【三點】1340 サンテン　㊀夜、一更毎に鳴らす鐘。〔杜甫、至日遣レ興奉レ寄二北省舊閣老兩院故人一詩〕去歲茲辰捧二御牀一、五更三點入二鵷行一。〔雍陶、酬二李紺歲除送レ酒詩〕一夜四乘傾二鑿落一、五更三點把二屠蘇一。〔李商隱、夜半詩〕三更三點萬家眠、露欲レ爲霜月墮レ煙。〔元史、兵志四〕夜禁之法、一更三點、鐘聲絕、禁二人行一、五更三點、鐘聲動、聽二人行一。㊁三つのしづく。〔李山甫、寒食詩〕有レ時三點兩點雨、到處十枝五枝花。〔楊萬里、芭蕉雨詩〕三點五點俱可レ聽、萬籟不レ生秋夕靜。㊂三つ。〔徐璣、訪レ梅詩〕欲レ開未レ開時、三點兩點白。

【三點會】1341 サンテンクワイ　淸の道光の時の祕密結社。上帝教を奉じ、洪秀全が其の首領であつた。上帝教（**1**－**13**・・582）を見よ。

【三纏】1342 ミツカネ　出雲國の地名。

【三田】1343 サンデン　㊀田獵する三つの場合。三驅（325）の㊁に同じ。〔禮、王制〕天子諸侯、無レ事則歲三田、一爲二乾豆一、二爲二賓客一、三爲レ充二君之庖一。㊁佛菩薩・聲聞・闡提の三つを喩へていふ。三種田の略。〔涅槃經、三十二〕善男子如二三種田一。㊂タミ ㋑東京都の地名。㋺姓氏。

【三田制】1344 サンデンセイ　三田耕作に同じ。

【三田耕作】1345 サンデンカウサク　耕地を三分して、其の二區を耕作し、一區を休養させる耕作法。三田制。三圃式農法。

【三傳】1346 サンデン　㊀三代、傳はること。〔左氏、昭、三〕自二郤稱一以別、三傳矣。㊁春秋三傳（**5**－**13844**・・345）の略。左氏傳・公羊傳・穀梁傳。〔范甯、穀梁傳序〕研二講六籍一、次及二三傳一、左氏則有二服・杜之注一、公羊則有二何・嚴之訓釋一、穀梁傳者、雖レ近二十家一、皆膚淺末學、不レ經二師匠一。〔文中子、天地〕三傳作、春秋散。〔注〕公羊高・穀梁喜・左丘明、皆孔子門人。

【三傳科】1347 サンデンクワ　科擧の課目の名。唐代、科擧に公羊・穀梁・左氏の三傳を課したもの。〔唐書、選擧志上〕立二史科及三傳科一。〔事物紀原、學校貢擧部、三傳〕會要曰、穆宗長慶二年二月、裔侑奏、置二三傳及三史科一。

【三傳比較】1348 サンデンヒカク　春秋三傳は各〻得失があり、公羊・穀梁の二傳は、意を釋經の上に注ぎ、義理を以て勝り、左氏傳は、記事の上に力を盡くし、史學的の價値が多い。漢の武帝以後、三傳の優劣論は數百年間の宿題であつたが、遂に最後の勝利は左氏傳に歸した。（經義考）

	左氏傳	公羊傳	穀梁傳
鄭玄	左氏善二於禮一	公羊善二於讖一	穀梁善二於經一
范甯	左氏豔而富、其失也巫	公羊辯而裁、其失也俗	穀梁淸而婉、其失也短
劉歆	左氏拘二於赴告一	公羊牽二於讖緯一	穀梁窘二於日月一
崔子方	左氏失二之淺一	公羊失二之險一	穀梁失二之迂一
晁說之	左氏之說專而縱	公羊之失雜而拘	穀梁司二典刑一而不レ縱、崇二信義一而不レ拘、有レ意三乎蹈二道一而知二變通一矣、不レ免レ失二之隨一也
胡安國	事莫レ備二於左氏一、或失二之誣一	例莫レ明二於公羊一、或失二之亂一	義莫レ精二於穀梁一、或失二之鑿一
朱熹	左氏史學、事詳而理差	公・穀經學、理精而事誤	
何異孫	左氏善二於考事一、而義理則疏、公穀於二義理一頗精、考事則略、左氏理不レ勝レ文、公穀文不レ勝レ理、左氏之得、公穀失レ之、公穀之得、左氏失レ之。		

《參考書》【春秋三傳異同說】一卷 漢、馬融撰。〔玉函山房輯佚書、第四十二冊〕。【春秋三傳辨疑】二十卷 元、程端學撰。〔四庫提要、經、春秋類〕。【春秋三傳異同考】一卷 淸、吳陳琰撰。〔四庫提要、經、春秋類存目〕。【春秋三傳異文釋】十二卷 淸、李富孫撰。〔別下齋叢書、第五十八冊〕。【春秋三傳折諸】四十卷首二卷 淸、張尙瑗撰。【春秋三傳比】二卷 淸、李調元撰。〔函海、第六十九冊〕。【春秋三傳折中】一卷 民國、季邦俊撰。〔六譯館叢書、第三十一冊〕。

【三殿】1349 サンデン　㊀三つの御殿。〔唐書、敬宗紀〕寶曆二年六月甲子、觀二驢鞠角觝于三殿一。〔蔣防、

望二禁苑祥光一詩〕樹搖二三殿側一、日映九城傍。〔貢師泰、和二馬伯庸擬古宮詞一詩〕城上鴉啼曙色催、五門三殿一時開。〔柳貫、送三南竺澄講主校經後卻還二杭州一詩〕五城銀色界、三殿寶花筵。㊁麟德殿の別名。一殿に三面があるからいふ。〔雍錄〕三殿者、麟德殿也、一殿而有二三面一、故曰二三殿一。㊂宋代に、太皇太后・皇太后・皇后を三殿といつた。又、天子・太后・皇后が俱に行幸せられる時、之を三殿といふ。〔演繁露〕宋有二太皇太后一時、幷二皇太后・皇后一、稱二三殿一、其後、天子乘輿行幸、奉二太后一偕二皇后一以出、亦曰二三殿一。㊃清代に、保和殿・中和殿・太和殿をいふ。〔清國行政法汎論、內務府、三大殿〕三殿者、謂二保和殿・中和殿・太和殿一也。㊄三卿(410)の㊁に同じ。卽ち、江戶時代に、將軍家の親族田安・一橋・清水の三家をいふ。八代將軍吉宗の時に置く。

【三吐】1350 サント 來客を迎へるために、食事中に三度も口中の食を吐き出すこと。人君たる者が、人を接見するに力めること。吐哺握髮。〔史記、魯世家〕周公戒二伯禽一曰、我於二天下一、亦不レ賤矣、然我一沐三捉レ髮、一飯三吐レ哺、起以待レ士。

【三都】1351 サント 三つの都。㊀漢の三都。長安・洛陽・南陽。〔通志、都邑略〕兩漢都、西漢都二長安一、謂二之西都一、後漢都二洛陽一、謂二之東都一、光武又以二南陽一爲二別都一、謂二之南都一。㊁京兆(西都)・河南(東都)・太原(北都)。〔小學紺珠、地理類、三都〕京兆・河南・太原。㊂魯の三桓の所有した都城。費(季孫氏)・郈(叔孫氏)・成(孟孫氏)。〔左氏、定、十二〕仲由爲二季氏宰一、將レ墮二三都一。〔注〕三都、費・郈・成也。㊃蜀・吳・魏の三國の都。蜀の都は成都、今の四川省成都縣。吳の都は建業、今の江蘇省江寧縣。魏の都は鄴、今の河南省安陽縣。三都賦を見よ。〔謝靈運、會吟行〕兩京愧二佳麗一、三都豈能似。〔小學紺珠、地理類、三都〕蜀・吳・魏。㊄宋の三都。開封・歸德・河南。㊅蜀の三都。卽ち、成都・廣都・新都。〔水經、江水注〕洛水又南逕二新都縣一、蜀有二三都一、謂二成都・廣都一、此其一焉。〔小學紺珠、地理類、三都〕成都・廣都・信都。㊆東京・京都・大阪。

【三都澳】1352 サントアウ 海灣の名。三沙(578)の㊁を見よ。

【三都谷】1353 サントコク 地名。甘肅省甘谷縣の西。三都は、一に三府に作る。〔宋史、曹瑋傳〕喃斯囉、率二衆數萬一、大入寇、瑋迎二戰三都谷一。

【三都島】1354 サントタウ 島の名。福建省寧德縣の東、三沙灣中に在る。周圍約七十里餘。茶を產す。

【三都賦】1355 サントノフ 晉の左思の蜀都賦・吳都賦・魏都賦をいふ。此の賦は、左思が十年を費して苦心構想したもので、其の成るや、豪貴の家では競つて傳寫し、洛陽の紙價がために貴くなると稱せられた。陸機が洛に入つた時、之を作らうとしたが、此の作を見て歎服し、遂に筆を輟めたといふ。文選四・五・六卷に載す。〔晉書、左思傳〕造二齊都賦一、一年乃成、復欲レ賦二三都一、會妹芬入レ宮、移二家京師一、乃詣二著作郞張載一、訪二岷卭之事一、構レ思十年、門庭藩溷、皆著二筆紙一、遇レ得二一句一、卽便疏レ之、自以二所レ見不一レ博、求爲二祕書郞一、及二賦成一、時人未二之重一、思自以、其作不レ謝二班張一、恐以レ人廢レ言、安定皇甫謐有二高譽一、思造而示レ之、謐稱レ善、爲二其賦序一、張載爲注二魏都一、劉逵注二吳蜀一、云云、於レ是豪貴之家、競相傳寫、洛陽爲レ之紙貴。〔左思、三都賦序、注〕善曰、臧榮緒晉書曰、左思、字太沖、齊國人也、少博覽二史記一、欲レ作二三都賦一、乃詣二著作郞張載一、訪二岷卭之事一、遂構レ思十稔、門庭藩溷、皆著二紙筆一、遇レ得二一句一、卽疏レ之、徵爲二祕書一、賦成、張華見而咨嗟、都邑豪貴、競相傳寫、三都者、劉備都二益州一、號レ蜀、孫權都二建業一、號レ吳、曹操都レ鄴、號レ魏、思作レ賦時、吳・蜀已平、見二前賢文之是非一、故作二斯賦一、以辨二衆惑一。

【三塗】1356 サント ㊀㋑山名。河南嵩縣西南、伊水の北にあり、俗に崖口、又は水門といふ。〔左氏、昭、四〕四嶽三塗。〔注〕在二河南陸渾縣南一也。〔逸周書、度邑解〕我南望、過二于三塗一。〔後漢書、馬融傳〕左轡二三塗一、右概二嵩嶽一。〔注〕三塗、山名、在二陸渾縣西南一。㋺一說に、洛陽から四方に通ずる大行・轘轅・崤澠の三すぢの道。三道。〔左氏、昭、四〕四嶽三塗。〔疏〕服虔云、三塗、大行・轘轅・崤澠也、謂二三塗一爲二三處道一也。〔釋文〕三塗、山名、服云、大行・轘轅・崤黽也。㊁佛 サンヅ 三途(1301)に同じ。〔玄應音義、四〕三塗、又作二途廷二形一、同、達胡切、言二三塗一者、俗書春秋有二三塗危險之處一、借レ此爲レ名、塗、猶レ道也。

【三蠹】1357 サント 三匹のしみ。國家を害する三人の惡者。梁の武帝の時の朱异・陸驗・徐驎をいふ。〔南史、恩倖、陸驗傳〕陸驗・徐驎、云云、散レ貲以事二權貴一、朱异其邑子也、云云、驗・驎並以二苛刻一爲レ務、百賈畏レ之、异尤與レ之昵、世人謂二之三蠹一。

【三斗】1358 サンド 一斗の三倍。量の多い形容。〔南史、蕭穎胄傳〕素能飮レ酒、噉二白肉膾一至二三斗一。〔杜甫、飮中八仙歌〕汝陽三斗始朝レ天、道逢二麴車一口流レ涎。〔李羣玉、春日寄レ友詩〕請レ君三斗酒、醉臥白羅岑。

【三斗八升】1359 シトツテ 越後國の地名。

【三斗坪鎭】1360 サンドヘイチン 地名。湖北省宜昌縣の西北、大江南岸。民船が多く集まる商業地。

【飮二三斗醋一】1361 サンドノスヲノム 多量の醋を飮んで苦しむ意。飮二三斗塵一に同じ。〔北史、崔弘度傳〕寧飮二三斗醋一、不レ見二崔弘度一。

【飮二三斗塵一】1362 サンドノチリヲノム 嚴刻な人を恐れる喩。多くの塵を飮んで苦しい思をしても、まだ其の人に逢ふよりはましだとの喩。三斗は多量の義。〔唐書、權懷恩傳〕擢二萬年令一、賞罰明、見レ惡輒取、時語曰、寧飮二三斗塵一、無レ逢二權懷恩一。

【灸二三斗艾一】1363 サンドノモグサヲキウス 多量の艾を用ひて灸をする。極めてつらい思を耐へしのぶこと。飮二三斗塵一を見よ。〔北史、崔弘度傳〕寧灸二三斗艾一、不レ逢二屈突蓋一。

【三冬】1364 サントウ 冬季三箇月の倂稱。孟冬(陰曆十月)・仲冬(十一月)・季冬(十二月)。一說に、三度冬を經ること。三年。〔漢書、東方朔傳〕年十二學レ書、三冬文史足レ用。〔王先謙補注〕先謙案、三冬、謂二三年一、猶レ言二三春三秋一耳。〔杜甫、奉レ送二十七舅下二邵桂一詩〕絕域三冬暮、浮生一病身。〔孟簡、惜二分陰一詩〕三冬勞二聚學一、駟景重二兼金一。

【三冬二夏】1365 サントウニカ 二年三年。二三年。〔後漢書、段熲傳〕今若以二騎五千、步萬人、車三千兩一、三冬二夏、足二以破定一。〔通俗編、時序、三冬二夏〕後漢書段熲傳、三冬二夏、足二以破定一、按、俚語約二計歲時一、曰二三箇黃梅、四箇夏一、猶レ此。

【三冬文史】1366 サントウブンシ 貧者は冬の三箇月の農事の暇に讀書するといふ義。〔漢書、東方朔傳〕上書曰、臣朔、少失二父母一、長養二兄嫂一、年十三、學レ書、三冬文史足レ用。〔注〕如淳曰、貧子冬日乃得レ學レ書、言二文史之事足一レ可レ用也。〔陸游、老病追二感壯歲讀書之樂一作二短歌一詩〕少年志力強、文史富二三冬一。

【三豆】1367 サントウ ㊀三つの豆トウに盛つて供へた御馳走。年六十のものに供する。豆は、食物を盛つて薦める禮器。〔禮、鄕飮酒義〕六十、三豆、七十、四豆。㊁三種のまめ。〔宋書、五行志四〕晉武帝咸寧二年八月、平原安平上黨秦郡霜、害二三豆一。

【三偸】1368 サントウ ㊀三つの盜み。語を偸み、意を偸み、勢を偸むことを、詩の三偸といふ。〔詩苑類抄〕詩有二三偸一、偸レ語最是鈍賊。㊁三度ぬすむ。偸桃(**1**−**901**··71)を見よ。〔漢武故事〕此兒不レ良、已三偸レ之。

【三登】1369 サントウ 諸種の技術家・工藝家の業が三たび進むこと。一說に、登は成で、三度五穀が豐かに熟すること。〔漢書、食貨志〕三考二黜陟一、餘二三年食一、進業曰レ登、再登曰レ平、餘二六年食一、三登曰二泰平一、二十七歲、遺二九年食一。〔注〕鄭氏曰、進二上百工之業一也、或曰、進二上農工諸事業一、名曰レ登。〔補注〕沈欽韓曰、此謂二農功畢上一レ場、論語、新穀既升、喪服注、升字當レ爲レ登、登、成也、此專言二五穀成熟一耳、注非。

【三登樂】1370 サントウガク 詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では南呂宮引に入る。

【三等】1371 サントウ ㊀三つの等級。〔周禮、夏官、槀人〕槀人、掌下受二財于職金一、以齎中其工上、弓六物爲二三等一、弩四物亦如レ之。〔注〕三等者、上・中・下也、各有レ所レ宜。〔公羊、隱、五〕王者之後稱レ公、其餘大國稱レ侯、小國稱二伯子男一、注、大國謂二百里一也、小國謂二伯七十里、子男五十里一、疏、王制文、彼注云、此地殷所レ因、夏爵三等之制也、春秋變二周之文一、從二殷之質一、合二伯・子・男一爲レ一、則殷爵三等者、公・侯・伯也。〔國語、周語下、景王二十一年將レ鑄二大錢一、注〕錢者、金幣之名、賈侍中云、虞夏商周、金幣三等、或赤、或白、或黃。〔史記、平準書〕金有二三等一、黃金爲レ上、白金爲レ中、赤金爲レ下。㊁三段。〔史記、孔子世家〕會二齊侯夾谷一、爲二壇

位、土階三等。

【三等親】1372 サンシンウ　親族を親疏の關係で區分した中の第三等に當る親族。自己又は配偶者の曾祖父・曾祖母・伯父・叔父・伯母・叔母・甥・姪・曾孫をいふ。古制では曾祖父・曾祖母・伯婦・叔婦、夫の甥、從父兄弟姉妹・異父兄弟姉妹、夫の祖父、夫の祖母、夫の伯叔姑、繼父、甥の妻。親等（10－34918‥196）を見よ。〔和漢三才圖會、人倫、親五等親屬〕三等親、曾祖父・曾祖母・伯婦・叔婦・夫甥・從父兄弟姉妹・異父兄弟姉妹・夫祖父・夫祖母・夫伯叔姑・繼父・甥婦。

【三等數】1373 スウ　❶古、萬以上の命數法に、上・中・下の三等の別があつた。之を三等數といふ。〔數術記遺〕三等者、謂二上中下一也、其下數者、十十變レ之、若下言二十萬一曰レ億、十億曰レ兆、十兆曰レ京、中數者、萬萬變レ之、若下言二萬萬一曰レ億、萬萬億曰レ兆、萬萬兆曰レ京、上數者、數窮則變、若下言二萬萬一曰レ億二億億曰レ兆、兆兆曰レ京也。❷書名。一卷。晉、葛洪撰。北周、甄鸞注。數學書。唐代には、明算科で十書の外に此の書を兼習せしめた。〔唐書、選擧志上〕記遺・三等數、皆兼二習之一。

【三等田】1374 デン　❶上・中・下の三等に分けた田地。〔晉書、慕容皝載記〕聖王之宰レ國也、薄レ賦而藏二于百姓一、分レ之以二三等之田一、十一而稅之。❷上・中・下の三等に分つた田地の中の下に屬するもの。

【三統】1375 トウ　❶夏・殷・周三代の正朔。即ち、天統・地統・人統をいふ。二正。正朔（6－16255‥18）を見よ。〔論語、爲政、所二損益一可レ知也、集解〕所二損益一、謂二文質一二統一。〔疏〕建子之月爲レ正者、謂二之天統一、以下天之陽氣始生、爲中百物得二陽氣一微稍動變、故爲天統、建丑之月爲二地統一者、以下其物已吐牙、不レ爲二天氣始動一、物又未レ出、不レ得レ爲レ人、所レ施功、唯在二地中一、含二養萌牙一、故爲地統、建寅之月爲二人統一者、以下人物出二於地一、人功當中須脩理、故謂二之人統一、統者本也、謂二天地人之本一。〔集注〕三統、謂下夏正建寅爲二人統一、商正建丑爲二地統一、周正建子爲中天統上。〔孔叢子、答問〕各自用二其正朔一、二代與レ周、是謂二三統一。〔逸周書、周月解〕以垂二三統一。〔注〕統、本也、寅爲二人統一、丑爲二地統一、子爲二天統一。〔漢書、成帝紀〕蓋聞、王者必存二二王之後一、所以通二三統一也。〔注〕師古曰、天地人、是爲二三統一、二王之後、并レ己爲レ三。〔漢書、律歷志上〕三統者、天施・地化・人事之紀。〔風俗通、五霸〕蓋三統者、天地人之始、道之大綱也。❷夏・殷・周三代を指していふ。〔漢書、藝文志〕聖王必正二歷數一、以定二三統服色之制一。❸三統歷の略。二統歷を見よ。❹姓氏。〔日用重寶記〕。

【三統歷】1376 レキ　夏・殷・周三代の歷に本づいて、漢の劉歆の作つた歷。其の名は、十九年を一章とし、二十七章を一會とし、三會を一統とし、三統を一元とし、所謂天地人の三統は、一元に合し、太極上元に復し、無窮に還運するといふ原理に基づく歷法といふ意味で附けられた。其の内容は、漢の武帝の太初歷法制定の際に採用せられた鄧平の八十分法に、百四十四年の超辰法を附加したもので、前漢末、劉歆によつて完成せられた。漢書律歷志は、此の歷法を傳へてゐる。〔漢書、劉歆傳〕考二定律歷一、著二三統歷譜一。〔漢書、律歷志上〕歆究二其微眇一、作二三統歷及譜一、以說二春秋一。〔宋書、律歷志中〕歆作二三統歷一。

【三頭】1377 トウ　鄉試・會試・廷試の三度の試驗に首席となること。三元（4.75）の七に同じ。〔唐詩紀事、張又新〕時號二又新張三頭一、謂二進士狀頭・宏詞勅頭・京兆解頭一。

【三頭民】1378 ミン　古の蠻族の名。海外三十六國の一つで、西南から東南に居るもの。其の身に三つの頭がある。〔淮南子、墜形訓〕鑿齒民・三頭民・修臂民。〔注〕三頭民、身有二三頭一也。

【三頭政治】1379 セイジ　三人の首領が鼎立して政權を執る政治組織。ローマの共和時代に行はれた。

【三頭對案】1380 タイアン　原告・被告・證人が對審・對決すること。

【三頭二面】1381 ニメン　詭り變はる。對手方の顏色を見ては其の態度を變へること。先方の樣子によつて巧に媚び諂ふ者をいふ。〔李義山雜俎、愚昧〕三頭二面、趨二奉人一。

【三頭八臂】1382 ハッピ　才能が縱橫に働いて、何事にも手出しする。狡獪な人の喩。三面六臂。〔法苑珠林〕修羅道者、體貌麤鄙、每懷二瞋毒一、稜層可レ畏、並出二三頭一、重二安八臂一、跨レ山蹋レ海、把レ日擊レ雲。

【三頭兩緒】1383 リョウショ　事が煩雜であつて統整の取れぬことをいふ。〔朱熹、答二張敬夫一書〕外面未レ有二一事一時、裏面已是二三頭兩緒一、不レ勝二其擾擾一矣。

【三頭六臂】1384 ロッピ　三頭八臂に同じ。

【三闕】1385 トウ　多くの寶玉などで飾つた帶。〔薛田、詩〕九苞綰就佳人髻、三闕裝成子弟纏。〔自注〕三闕、卽鬧裝帶也。

【三洞】1386 ドウ　道藏の諸經の三つの部分。一は洞眞部（大乘上法）、二は洞玄部（中乘中法）、三は洞神部（小乘初法）。佛の三藏に擬す。〔道門大論〕三洞者、洞言通也、通玄達妙、其統有レ三、故云二三洞一。

【三童】1387 ドウ　❶國の名。三瞳（1389）に同じ。〔通典、邊防典〕三童在二軒渠國西南千里一、人皆眼有二三睛一、珠一或有二四五一者、能爲二一種聲一、亦能俱レ語。〔文獻通考、四裔考〕三童。❷山名。浙江省黃巖縣の西南。〔明一統志〕三童山、在二台州府黃巖縣西南一、上有二三峯一、各高數丈、狀如二童子一。

【三儂】1388 ドウ　清、汪价（6－17154‥16）の字。

【三瞳】1389 ドウ　國の名。其の國人は、眼に三つの瞳があるといふ。三童。〔劉克莊、跋二李伯時畫二十國圖一文〕三童國人、眼皆有二三睛一、童・瞳、通用、此誤題爲二三瞳一。

【三德】1390 トク　❶三つの德目。〔書、皐陶謨〕日宣二三德一。〔傳〕三德、九德之中、有二其三一。㋑正直・剛克・柔克をいふ。〔書、洪範〕三德、一曰正直、二曰剛克、三曰柔克。〔書、呂刑〕惟敬二五刑一、以成二三德一。〔傳〕次敎以二惟敬五刑一所二以成一剛・柔・正直之三德一也。㋺至德・敏德・孝德をいふ。〔周禮、地官、師氏、掌下以媺詔王、以二三德一敎中國子上、一曰至德、以爲二道本一、二曰敏德、以爲二行本一、三曰孝德、以知二逆惡一。㋩天德・地德・人德をいふ。〔大戴禮、四代〕有二天德一、有二地德一、有二人德一、此謂二三德一。㋥上德・中德・下德をいふ。〔莊子、盜跖〕凡天下有二三德一、生而長大、美好無レ雙、少長貴賤、見而皆說レ之、此上德也、知維二天地一、能辯二諸物一、此中德也、勇悍果敢、聚レ衆率レ兵、此下德也。㋭智・仁・勇をいふ。〔中庸〕知仁勇三者、天下之達德也。〔疏〕言下百王用二此三德一、以行中五道上。㋬賓を禮することに、親を親しむこと、善を善みすること。〔國語、晉語四〕齊莊子言二於公一曰、夫禮、國之紀也、親・民之結也、善・德之建也、云云、此三者、君之所レ愼也、今君棄レ之、無二乃不可一乎。晉公子善人也、而衞親也、君不レ禮焉、棄二三德一矣。〔注〕三德、謂二禮レ賓親レ親善一善也。❷三老をいふ。〔大戴禮、曾子本孝〕任レ善不敢臣二三德一。〔注〕三德、三老也。❸清、滿州鑲紅旗人。姓は瓜勒佳氏。乾隆の間、金川・緬甸を征し、又、甘肅の回を平げて功があつた。官は廣西提督。〔國朝耆獻類徵、二百九十一〕・〔碑傳集、一百十六〕。❹佛㋑法身（佛の悟の本體）・般若（迷を出でた佛の妙智）・解脫（自在無礙の妙法）。〔涅槃經、二〕。㋺諸佛の自利・利他のはたらき。智德・斷德・恩德をいふ。〔俱舍論、光記、一〕智德有爲、是故先說、斷德無爲、是故後明、云云、拔二衆生一出二生死泥一、此顯二恩德一。㋩諸佛の修行・得果・濟度の三つが圓滿してゐる德。因圓德・果圓德・恩圓德をいふ。〔俱舍論、二十七〕諸有智者、思二惟如來二種圓德・深生二愛敬一、其三者何、一因圓德、二果圓德、三恩圓德。㋥印度哲學諸派中のサンキヤ學派の說、現象を構成してゐる三要素の意。薩埵（sattva 存在性）・剌闍（rajas 活動性）・答摩（tamas 翳形性）をいふ。〔唯識述記、一末〕三德合成故、能生二諸諦一、三德者、梵云二薩埵一、此云二有情一、亦言二勇健一、今取二勇義一、梵云二剌闍一、此名爲レ微、牛毛塵等皆名二剌闍一、亦名二塵坌一、今取二塵義一、梵云二答摩一、此名爲レ闇。㊄㋑紙入の一種。江戸時代に流行した。〔賤苧環〕三德と云ふもの流行り出て、鼻紙袋の通り仕立て、云云、中に鼻紙をはさむやうにしたる物なり。㋺燈心押へ。筑後國の方言。

【三毒】1391 ドク　佛貪毒・瞋毒・痴毒の三つの煩惱。さとりの障礙になるから毒といふ。〔智度論、三十一〕有下利二益我一者上生二貪欲一、違二逆我一者、而

生ニ瞋恚一、此結使不レ從レ智生、從ニ狂惑一生、故是名爲レ痴、三毒爲ニ一切煩惱根本一。

【三獨】1392 三獨坐に同じ。〔晉書傳玄等傳論〕位居ニ三獨一、彈擊是司、遂能使ニ臺閣生レ風一。〔錢起、送ニ鮑中丞赴ニ太原軍營一詩〕龍兼ニ三獨任一、威肅ニ貳師營一。〔蔣冽、臺中書懷詩〕坐居ニ三獨中一、立在ニ百僚外一。

【三獨坐】1393 御史中丞・司隷校尉・尚書令のこと。朝會の時に皆一人で席を專らにするからいふ。〔後漢書、宣秉傳〕光武特詔ニ御史中丞與ニ司隷校尉・尚書令一、會同並專レ席而坐、故京師號曰ニ三獨坐一。

【三讀】1394 議會の第三讀會をいふ。

【三讀會】1395 議案につき、一讀會・二讀會を經て、第三回目に行ふ討議で、只議案の文句を修正するに止まるもの。〔議院法、第二十七條〕法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スベシ。

【三屯】1396 三つの屯營。〔晉書、郭默傳〕曜列ニ三屯一圍レ之、欲レ使ニ餓死一。

【三屯營】1397 營の名。河北省遷安縣の西北に在り、沿邊の重鎭である。明の成祖が、重兵を南京から移して、此を守つた。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、遷安縣〕縣西北百二十里、景山之北、城周四里、云云、明初、置ニ營於此一、隆慶初、爲ニ三屯車營兵駐頓處一、因改ニ今名一。

【三難】1398 ❶三つの災難。〔漢書、谷永傳〕三難異レ科、雖ニ焉同一會。❷三つのむつかしいこと。㋑人物の知り難いこと、愛憎の防ぎ難いこと、情僞の明かにし難いこと。〔晉書、劉毅傳〕上疏曰、臣聞、立レ政者、以ニ官才一爲レ本、官才有ニ三難一、而興替之所レ由也、人物難レ知、一也、愛憎難レ防、二也、情僞難レ明、三也。㋺經學を修める上に於ける三難。卽ち、淹博難・識斷難・精審難。清の戴震の說。〔戴震、與ニ是仲明一論ニ學書一〕於ニ經學一、蓄有ニ三難一、淹博難・識斷難・精審難。

【三難軒】1399 明、戴金（5－11685‥40）の室名。

【三乳】1400 三つの乳。〔唐書、高祖紀〕仁公生ニ高祖於長安一、體有ニ三乳一。〔元史、世祖紀十〕眞定民劉驢、兒有ニ三乳一。

【三人】1401 ❶みたり。三にんの人。三子。〔易、需〕入ニ于穴一、有ニ不レ速之客三人來一、敬レ之、終吉。〔書、洪範〕三人占、則從ニ二人之言一。〔李白、月下獨酌詩〕擧杯邀ニ明月一、對レ影成ニ三人一。❷三國、魏の正始年間の三人の名士。夏侯太初・何平叔・王輔嗣。〔小學紺珠、名臣類下、正始名士三人〕夏侯太初・何平叔・王輔嗣。

【三人稱】1402 文法用語。人代名詞の中、對話者以外のものの名に代へて用ひるもの。「かれ」の類。

【三人一龍】1403 三人の親友の喩。〔魏略〕華歆・邴原・管寧、三人共遊學、時人謂ニ三人一爲ニ一龍一、歆爲ニ龍頭一、原爲ニ龍腹一、寧爲ニ龍尾一。

【三人成レ虎】1404 實の無いことも、言ふ者が衆ければ、聞くものは之を信じて、遂には眞實とする喩。衆口鑠金。ニ言市虎。〔戰國、秦策〕三人成レ虎、十夫揉レ椎、衆口所レ移、毋レ翼而飛。〔戰國、魏策〕龐蔥謂ニ魏王一曰、今一人言ニ市有レ虎、王信レ之乎、王曰、寡人疑レ之矣、三人言ニ市有レ虎、王信レ之乎、王曰、寡人信レ之矣、龐蔥曰、夫市之無レ虎明矣、然而三人言而成レ虎。

【三人爲ニ市虎一】1405 市に虎の居る筈は無いが、三人まで虎がゐるといふと、遂に之を信ずるに至るといふ意。三人成レ虎に同じ。〔淮南子、說山訓〕衆議成レ林、無レ翼而飛、三人爲ニ市虎一、一里撓レ椎。

【三人證龜作レ鼈】1406 ㊀三人の證人が立てば、龜でも鼈と云はれる。世上の事物に定相のない喩。〔傳燈錄〕。

【三人行必有ニ我師一】1407 我と他の二人と、三人が同じく事を行ふとき、他の善を見ては之に從ひ、他の不善を見ては自ら省みる。故に善と不善とに拘らず、皆我が師となり得るといふ意。尙、何晏は行を事を行ふ義とし、朱子は道を行く義に解してゐる。〔論語、述而〕子曰、三人行、必有ニ我師一焉、擇ニ其善者一而從レ之、其不善者而改レ之。

【三佞】1408 三人の佞人。北齊の胡長仁に結託した鄒孝裕・陸仁惠・盧元亮をいふ。〔北齊書、胡長仁傳〕、長仁累ニ遷右僕射及尙書令一、世祖崩、預ニ參朝政一、封ニ隴東王一、左丞鄒孝裕・郎中陸仁惠・盧元亮、厚相結託、長仁每レ上レ省、孝裕必乃駕而來、省務旣繁、簿案堆積、令史欲レ諮ニ都座一、始也、二代同レ之、故孟子曰、三年之喪、齊衰之服、三代共レ之、淮南子齊俗訓曰、武王伐紂、載レ尸而行、海內未定、故不レ爲ニ三年之喪一、許愼注云、三年之喪、始ニ于成王一。❶二十五箇月とする說。士虞禮の中月而禫の中月を、閏月と解することから起る。漢の鄭玄などは此の說を取る。〔禮、檀弓上、疏〕鄭康成則二十五月大祥、二十七月而禫、二十八月而作樂復平常、鄭必以爲二十七月禫者、以ニ雜記云ニ父在爲レ母爲レ妻、十三月大祥、十五月禫、爲レ母爲レ妻、尙祥禫異レ月、豈容ニ二年之喪、祥禫同レ月、若以ニ父在爲レ母屈而不レ伸、故延ニ禫月一、其爲レ妻、當ニ亦不レ申、祥禫異レ月乎、若以ニ中月而禫一爲ニ月之中間一、應ニ云月中而禫一、何以言ニ中月一乎。〔陔餘叢考、三年喪王鄭二說不同〕三年喪、鄭康成與ニ王肅之說一、各不レ同、按、禮記ニ三年間曰、三年之喪、二十五月而畢、檀弓曰、祥而縞、是月禫、徙レ月樂、王肅曰、是祥之月而禫、禫之明月可ニ以樂一矣、喪服小記曰、再期之喪ニ三年也、春秋閔公二年公羊傳曰、三年之喪、實二十五月、此古來三年喪二十五月之明文也、故王肅注ニ儀禮士虞禮、朞而小祥、又期而大祥、中月而禫、是月吉祭、以爲ニ再期大祥、二十五月也、中月而禫、卽此月之中也、是月吉祭、則此月已吉也、而鄭康成則謂ニ中者間也、與ニ大祥一間ニ一月一、自レ喪至レ中、凡二十七月也、晉人喪服、陽貨）三年喪、期已久矣。〔事物紀原、吉凶典制部、喪紀〕上古親死、葬ニ之中野一、而喪期無レ數、至ニ虞舜一、二十有八載一、放勳徂落、百姓如レ喪ニ考妣一、三載、四海遏ニ密八音一、則三年之喪、自ニ堯舜一始也、二代同レ之、故孟子曰、三年之喪、齊衰之服、三代共レ之、淮南子齊俗訓曰、武王伐レ紂、載レ尸而行、海內未定、故不レ爲ニ三年之喪一、許愼注云、三年之喪、始ニ于成王一。❶二十五箇月とする說。士虞禮の中月而禫の中月を、月中と解することから起る。魏の王肅、宋の朱熹などは此の說を取る。〔禮、三年問〕三年之喪、二十五月而畢。〔禮、檀弓上、孟獻子禫縣而不レ樂、疏〕閒傳云、三年之喪、二十五月而畢、又、士虞禮、中月而禫、是祥月之中也、與ニ尙書、文王中身享ニ國一、謂ニ身之中閒一同、又、文公二年冬、公子遂如レ齊納幣、是僖公之喪、至ニ此二十六月一、左氏云、納レ幣禮也、故王肅以ニ二十五月禫除喪一畢。〔公羊、閔二〕三年之喪、實以ニ二十五月一。〔荀子、禮論〕三年之喪、二十五月而畢。❶二十七箇月とする說。士虞禮の中月而禫の中月を、閏月と解することから起る。漢の鄭玄などは此の說を取る。〔禮、檀弓上、疏〕鄭康成則二十五月大祥、二十七月而禫、二十八月而作樂復平常、鄭必以爲二十七月禫者、以ニ雜記云ニ父在爲レ母爲レ妻、十三月大祥、十五月禫、爲レ母爲レ妻、尙祥禫異レ月、豈容ニ二年之喪、祥禫同レ月、若以ニ父在爲レ母屈而不レ伸、故延ニ禫月一、其爲レ妻、當ニ亦不レ申、祥禫異レ月乎、若以ニ中月而禫一爲ニ月之中間一、應ニ云月中而禫一、何以言ニ中月一乎。〔陔餘叢考、三年喪王鄭二說不同〕三年喪、鄭康成與ニ王肅之說一、各不レ同、按、禮記ニ三年間曰、三年之喪、二十五月而畢、檀弓曰、祥而縞、是月禫、徙レ月樂、王肅曰、是祥之月而禫、禫之明月可ニ以樂一矣、喪服小記曰、再期之喪ニ三年也、春秋閔公二年公羊傳曰、三年之喪、實二十五月、此古來三年喪二十五月之明文也、故王肅注ニ儀禮士虞禮、朞而小祥、又期而大祥、中月而禫、是月吉祭、以爲ニ再期大祥、二十五月也、中月而禫、卽此月之中也、是月吉祭、則此月已吉也、而鄭康成則謂ニ中者間也、與ニ大祥一間ニ一月一、自レ喪至レ中、凡二十七月也、晉人喪服、

【三年忌】1411 三年目の回忌。〔梵舜日記、慶長十三年七月六日〕宗喜大姊三年忌、雖レ爲ニ來月一、當月取越。

【三年喪】1412 三年間、喪に服すること。斬衰・疏衰（齊衰）の別がある。斬衰三年喪は、子が父に、諸侯が天子に、臣が君に、父が長子に、人の後嗣が其の後と爲る所に、妻が夫に、妾が君に、未だ嫁がない女子が父に對して服するもの。疏衰三年喪は、父の歿後の母に、繼母に、慈母に、母が長子に對して服するもの。又、天子が后に對しても三年喪に服す。唐の高宗以後、父の在世中、母に齊衰三年を行ひ、五代の後唐の時、婦が舅姑に三年喪を行ふことを定め、明の太祖は、子が父母に、庶子が母に、皆斬衰三年喪を行ふことを制定した。日知錄、卷五に見ゆ。尙三年喪の實際の期間を、二十五箇月とする說と、二十七箇月とする說とがある。下文の❶❷を見よ。又、陔餘叢考、卷三十二に、三年喪不レ計レ閏の說がある。〔儀禮、喪服傳〕何以三年也、正レ體於上一。〔禮、王制〕三年之喪、自ニ天子一達。〔左氏、昭、十五〕王太子壽卒、云云、王穆后崩、云云、王一歲有ニ三年喪一焉。〔注〕天子絕レ期、唯服ニ三年一、故后雖レ期、通謂ニ之三年之喪一。〔論語、

俱用二肅説一、以二二十五月一爲レ斷、至二宋武帝一、始詔改依二鄭康成一、二十七月而後除、接按、是時王淮之奏曰、康成注二禮三年喪一二十七月而去、古今學者多謂、得二禮之宜一、晉初用二王肅議一、祥禫共レ月、故二十五月而除、然撙紳多從二康成一云、武帝改レ制、本二此奏一也、唐時、又有二王元感者一、著レ論、以二三年喪宜二三十六月一、張柬之駁レ之曰、三年喪二二十五月、不刊之典、按、春秋魯僖公三十三年十二月、公薨、文公二年冬、公子遂如レ齊納レ幣、左傳曰、禮也、杜預注云、僖公喪終二此年十一月一納幣在二十二月一、故稱レ禮也、公羊傳曰、納幣不レ書、此何以書、譏也、喪、娶在二三年之外一、何以譏二三年之內不一レ圖レ婚、何休注云、僖公以二十二月一薨、至二此冬一未レ滿二二十五月一、故譏也、何休以下公薨在二十二月一、至二此冬十一月一纔二十四月、非中二十五月上、故曰レ未二三年一而圖レ婚也、合二二注一以觀、雖二公薨之月不一レ同、然所レ爭、惟爭二一月一、不レ爭二一歲一、此春秋二年喪、二十五月之証也、尚書、惟元祀十有二月、伊尹奉二嗣王一祗二見厥祖一、孔安國注云、湯以二元年十一月一崩、二年十一月小祥、三年十二月大祥、故太甲中篇云、惟元祀十有二月、伊尹以二冕服一奉二嗣王一歸二於亳一、是十二月大祥、記十二月卽服吉也、此尚書二年喪、二十五月之明驗也、禮記、三年之喪、二十五月而畢、哀痛未レ盡、思慕未レ忘、然而服以レ是斷之者、豈不レ以二送死有レ已、復生有レ節哉、又喪服四制云、變而從レ宜、故大祥鼓二素琴一、告レ人以レ終、又閒傳云、期而小祥、食二菜果一、又期而大祥、有二醯醬一、中月而禫、食二酒肉一、又喪服小記云、再期之喪、三年也、期之喪、二年也、此禮記二年喪、二十五月之明驗也、儀禮云、期而小祥、又期而大祥、中月而禫、是月也、吉祭、此禮周公所レ制、則儀禮三年喪、二十五月之明驗也、惟鄭康成注二中月而禫一、以二中月一爲レ閒二一月一、故自死至レ禫、凡二十七月、然踰レ月入レ禫、禫既復レ常、則二十五月爲二免喪一矣、此東之王二王肅之說一、更爲二援引曲暢一、朱子語類亦云、喪禮只二十五月、是月禫、徙レ月樂、二十五月祥、後便禫、看來、當レ如二王肅之說一、愚按、期之喪、十三月而祥、閒二一月一、爲二十五月而禫一、二年之服、爲二再期一、二十五月而祥、亦宜下閒二一月一而禫上、則自當下以二二十七月一爲上是、宋英宗治平二年、禮院奏曰、喪服、王肅主二二十五月一、鄭康成主二二十七月一、通典用二鄭說一、又加二至二十七月終一、則是二十八月畢一喪、二十九月始吉、蓋失レ之也、天聖中、更定二五服年月一、敕以二二十七月一爲レ斷、望仍遵用從レ之、此又近世定二二十七月一之由來也。

【三年塞】1413 サンネンフサガリ　大將軍星の方向にあたつた時は、三年間何事も爲すことが出來ぬといふ陰陽家の說。〔假名曆略註〕大將軍、云云、萬物を殺伐する事を主る、則ち俗家に所謂三年塞是れ也。

【三年問】1414 サンネンモン　禮記の篇名。問答の體を以て喪服の制を記す。〔禮、三年問、疏、案、鄭目錄云、名曰二三年問一者、善二其問以知一レ喪服年月所一レ由、此於二別錄一屬二喪服一。

【三年有レ成】1415 サンネンナルアリテシテ　三年で治功を成就する。〔論語、子路〕子曰、苟有レ用レ我者、朞月而已可也、三年有レ成。

【三年之外】1416 サンネンノホカ　三年の後。〔孟子、滕文公上〕昔者孔子歿、三年之外、門人治二任將一レ歸。

【三年之畜】1417 サンネンノチクヘツノ　三年間を保つに足るだけの貯藏物資。畜、又蓄に作る。〔禮記、王制〕國無二九年之畜一、曰二不足一、無二六年之畜一曰レ急、無二三年之畜一、曰二國非一レ其國一也。〔穀梁、莊、二十八〕臧孫辰告二糴于齊一、國無二三年之畜一、曰二國非一レ其國一也、云云、國無二九年之畜一、曰二不足一、無二六年之畜一曰レ急、無二三年之畜一、曰二國非一レ其國一也。〔魏志、臧洪傳〕散二三年之畜一、以爲二一年之資一。

【三年之儲】1418 サンネンノチクハヘノ　二年之畜に同じ。〔魏志、司馬芝傳〕無二三年之儲一、國非二其國一。

【三年而通】1419 サンネンニシテツウズ　三年にして道を得ること。〔莊子、寓言〕三年而通、四年而物。

【三年大比】1420 サンネンニシテタイヒス　三年目毎に地方の民數及び財物を簡ばせること。又、三年目毎に官吏及び處士の賢能を調査して擧用すること。三歲大比。〔周禮、地官、小司徒〕及二三年一則大比、大比則受二邦國之比要一。〔注〕大比、謂レ使二天下更簡二閱民數及其財物一也。〔周禮、地官、鄉大夫〕三年則大比、攷二其德行道藝一而興二賢者能者一。

【三年博士】1421 サンネンハカセ　唐の韓愈が三年閒博士となつたこと。俗に三爲二博士一に作るは誤り。〔韓愈、進學解〕三年博士、冗不レ見レ治。〔注〕樊謂、公元和元年六月爲二博士一、四年六月、遷二都官史一、謂二三歲一爲レ眞、蓋三年也。

【三年不レ雨】1422 サンネンフラズ　齊の孝婦に冤罪を蒙らせた有司の不明を責め、天が二年閒雨をふらせなかつた故事。〔漢書、于定國傳〕東海有二孝婦一、少寡亡レ子、養レ姑甚謹、姑欲レ嫁レ之、終不レ肯、姑謂二鄰人一曰、孝婦事レ我勤苦、哀二其亡一レ子守レ寡、我老、久叅二丁壯一、奈何、其後姑自經死、姑女告レ吏、婦殺二我母一、吏捕二孝婦一、孝婦辭不レ殺レ姑、吏驗治、孝婦自誣服、具レ獄上レ府、于公以爲、此婦養レ姑十餘年、以二孝聞一、必不レ殺也、太守不レ聽、于公爭レ之、弗レ能レ得、乃抱二其具獄一、哭二於府上一、因辭レ疾去、太守竟論二殺孝婦一、郡中枯旱三年、後太守至、卜二筮其故一、于公曰、孝婦不レ當レ死、前太守彊斷レ之、咎黨在レ是乎、於レ是、太守殺レ牛、自祭二孝婦冢一、因表二其墓一、天立大雨、歲孰、郡中以此大敬二重于公一。〔故事成語考、天文〕齊嫗含レ冤、三年不レ雨。

【三年不レ蜚】1423 サンネントバズ　三年間、飛ばない。長い間、無爲に過してゐることの喩。又、久しく雌伏することの喩。〔史記、楚世家〕莊王卽位三年、不レ出二號令一、日夜爲レ樂、令二國中一曰、有二敢諫者一、死無レ赦、伍擧入諫、莊王左抱二鄭姬一、右抱二越女一、坐二鐘鼓之閒一、伍擧曰、願有レ進レ隱、曰、有レ鳥在二於阜一、三年不レ蜚不レ鳴、是何鳥也、莊王曰、三年不レ蜚、蜚將レ沖レ天、三年不レ鳴、鳴將レ驚レ人、擧退矣、吾知レ之矣、居數月、淫益甚、大夫蘇從、乃入諫、王曰、若不レ聞レ令乎、對曰、殺身以明二君、臣之願也一、於レ是、乃罷二淫樂一、聽レ政、所レ誅者數百人、所レ進者數百人、任二伍擧一、蘇從一以政、國人大說。〔史記、滑稽傳〕淳于髡說レ之以隱曰、國中有二大鳥一、止二王之庭一、三年不レ蜚又不レ鳴、王知二此鳥何一也、王曰、此鳥不レ飛則已、一飛沖レ天、不レ鳴則已、一鳴驚レ人。

【三年不レ鳴】1424 サンネンナカズ　三年間、鳴かない。長い間、無爲に過してゐることの喩。又、久しく雌伏することの喩。三年不レ蜚を見よ。

【三年通二一經一】1425 サンネンイツケイニツウズ　三年間でもつて一部の經書に通曉すること。經は、或は藝に作る。意、同じ。〔漢書、藝文志〕古之學者、耕且養、三年而通二一藝一、存二其大體一、玩二經文一而已、是故、用日少、而畜德多、三十而五經立也。〔法言、寡見〕古者之學、耕且養、三年通二一經一、今之學也、非二獨爲一之華藻一也、又從而繡二其鞶帨一。

【三年不レ窺レ園】1426 サンネンウカガハズ　一室に閉ち籠つて、三年間、庭にも出でずに苦學すること。漢の董仲舒の故事。〔漢書、董仲舒傳〕〔仲舒〕少治二春秋一、孝景時爲二博士一、下二帷講誦一、蓋三年不レ窺レ園、其精如レ此。

【三年不レ目レ月】1427 サンネンツキヲモクセズ　三年間も日月の光を見なければ、目が見えなくなり、精神が朦朧として來る。修養を怠るなとの喩。〔法言、修身〕日有レ光、月有レ明、三年不レ目レ日、視必盲、三年不レ目レ月、精必朦。

【三年不レ目レ日】1428 サンネンヒヲモクセズ　三年不レ目レ月を見よ。

【三年不レ言不レ笑】1429 サンネンイハズワラハズ　昔、賈の國の大夫の容貌が醜くて、美人の妻が三年間口もきかず笑いもしなかつたが、雉を射止めた其の才に感じて、遂に口を開くに至つた故事。才があれば、言はず笑はぬ人をも、言ひ且笑はせることが出來る喩。〔左氏、昭、二十八〕昔賈大夫惡、娶レ妻而美、三年不レ言不レ笑、御以如皐、射レ雉獲レ之、其妻始笑而言、大夫曰、才之可二以已一、我不レ能レ射、女遂不レ言不レ笑夫。

【三年耕必有二一年之食一】1430 サンネンタガヤセバカナラズイチネンノショクアリ　三年閒耕せば、一年閒分の食料を畜へることが出來る。〔禮、王制〕國無二九年之畜一、曰二不足一、無二六年之畜一、曰レ急、無二三年之畜一、曰二國非一レ其國一也、三年耕、必有二一年之食一、九年耕、必有二三年之食一。〔淮南子、主術訓〕夫天地之大計、三年耕而餘二一年之食一、率九年而有二三年之畜一、十八年而有二六年之積一、二十七年而有二九年之儲一、云云、故國無二九年之畜一、謂二之不足一、無二六年之積一、謂二之閔急一、無二三年之畜一、謂二之窮乏一。〔故事成語考、貧富〕二年耕而有二一年之食一、九年耕而有二三年之食一、庶幾遇レ荒有レ備。

【三年無レ改二於父之道一可レ謂レ孝】1431 サンネンチチノミチヲアラタムルナキハカウトイフベシ 父の死後三年間、父の生前に爲した事を其の儘にして置いて變更せぬのは、孝子の行と謂ひ得る。〔論語、學而〕子曰、父在觀二其志一、父沒觀二其行一、三年無レ改二於父之道一、可レ謂レ孝矣。

【三農】1432 サンノウ ❶平地農と山農と澤農。一說に、原農と隰農と平地農とであるといふ。〔周禮、天官、太宰〕三農生二九穀一。〔注〕鄭司農云、三農、平地・山・澤也、玄謂、三農、原・隰及平地。〔白居易、賀雨詩〕有レ死降二五刑一、責レ己寬二三農一。❷春耕と夏耘と秋收。〔楊士奇、甘露歌〕百穀登レ場、三農畢レ務。❸清、朱雒模(6－14424・・1012)の號。

【三農外史】1433 サンノウグワイシ 清、汪价(6－17154・・16)の號。

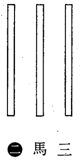
【三巴】1434 サンパ ❶巴の字のつく三郡。卽ち、後漢の時の巴・巴東・巴西の三郡をいふ。巴郡(永寧郡)は、今の四川省巴縣以東忠縣に至るまでの地、巴東郡(固陵)は、今の雲陽奉節縣等の地、巴西郡は今の閬中縣の地。〔華陽國志〕劉璋改二永寧一爲二巴郡一、以二固陵一爲二巴東一、徙二龐羲一爲二巴西太守一、是爲二三巴一。〔三巴記〕閬苑白水東南流、曲折三迴如二巴字一、故名二三巴一。〔駱賓王、餞二鄭安陽入レ蜀詩〕地是三巴俗、人非二百里材一。〔盧僎、南樓望詩〕去レ國三巴遠、登レ樓萬里春。❷郡名。南齊、置く。

【三巴丁子】1435 san¹ pa¹ ting¹ tzŭ 草花の一種。仙壽菊。

【三壩】1436 サンパ 廳名。清末に置く。今の西康省義敦縣。〔清史稿、地理志〕四川、巴安府、廳一、三壩廳。

【三壩塘】1437 サンパタウ 地名。西康省義敦縣の土名。清、三壩廳を置く。

【三馬】1438 サンバ ❶三匹の馬。〔說文〕驂、駕二三馬一也。〔宋書、樂志四〕君馬黃、臣馬蒼、三馬同逐、臣馬良。❷三本の馬。馬は投壺のかずとり。〔禮、投壺〕請下爲二勝者一立上レ馬、一馬從二二馬一、三馬既立。❸北齊の馬子結・馬子廉・馬子尙三人をいふ。〔北史、孫馬子結傳〕馬子結者、其先扶風人、世仕二涼土一、魏太和中、入レ洛、父祖俱清官、子結及兄子廉・子尙三人、皆涉二文學一、陽休之牧二西兗一、子廉・子尙・子結、與二諸朝士一、各有二贈詩一、陽總爲二一篇酬答詩一云、三馬皆白眉者也。



三馬❷(三禮圖)

【三馬同槽】1439 サンバドウサウ 三匹の馬が一つの馬草桶で共に食ふこと。三馬は、晉の司馬懿と、其の子の師・昭に喩へていふ。〔晉書、宣帝紀〕魏武嘗夢三三馬同食二一槽一、甚惡焉、因謂二太子丕一曰、司馬懿非二人臣一也。

【三拜】1440 サンパイ ❶三度、繰返して拜する。陔餘叢考、卷三十一に見ゆ。〔儀禮、鄉飮酒禮〕南面三二拜衆賓一。〔左氏、僖、十五〕秦獲二晉侯一以歸、云云、晉大夫三拜稽首。〔左氏、襄、四〕歌二鹿鳴之三一、三拜。〔國語、楚語上〕湫舉降三拜。〔北周書、宣帝紀〕詔二諸應拜者一、皆以二三拜一成レ禮。〔日知錄、九頓首三拜〕古但有二再拜稽首一、無二三拜一也、申包胥之九頓首、晉大夫之三拜也。❷佛 佛教で三度拜するのは、身・口・意の三業の敬意を示す爲である。〔釋氏要覽、中〕俗中兩拜者、蓋法二陰陽一也、今釋氏以二三拜一者、蓋表二三業歸敬一也。

【三拜九叩】1441 サンパイキウコウ 最敬禮。三跪九叩(1939)に同じ。拜(5－11891)・叩(2－3238)を見よ。

【三拜九拜】1442 サンパイキウハイ ❶幾度となく禮拜する。❷書翰などで、極めて厚い敬意を表はすに用ひる語。

【三敗】1443 サンパイ 三たび敗れる。三折。〔左氏、僖、十五〕晉饑、秦輸二之粟一、秦饑、晉閉二之糴一、故秦伯伐レ晉、卜徒父筮レ之、吉、涉レ河侯車敗、詰レ之、對曰、乃大吉也、三敗必獲二晉君一。〔潘岳、西征賦〕明三敗而不レ黜、卒陵レ晉以雪レ恥。〔五代史、李存信傳〕從二太祖一討二劉仁恭一、大敗二于安塞一、太祖大怒、顧二存信一曰、昨日吾醉、公不レ能二爲レ吾戰一邪、古人三敗、公已二矣、將レ殺レ之、存信叩頭謝レ罪而免。

【三敗之辱】1444 サンパイノハヅカシメ 三度敗れたはづかしめ。魯の曹沫の故事。〔李陵、答二蘇武一書〕曹沫不レ死二三敗之辱一。〔注〕善曰、曹沫者魯人、以二勇力一事二魯莊公一、爲二魯將一、與レ齊戰、三戰三北、莊公懼、乃獻二遂邑之地一以和、猶復以爲レ將、齊桓公許三與レ魯會二于柯一、桓公與二莊公一、既盟二于壇上一、曹沫執二匕首一劫二齊桓公一、桓公問曰、子將何欲、曹沫曰、齊強魯弱、而大國侵レ魯、亦已甚矣、今魯城壞壓レ境、君其圖レ之、桓公乃許三盡還二魯之侵城一。

【三輩】1445 サンパイ 佛彌陀の淨土に往生する人の行業の深淺による上中下の三類。上輩は、出家して沙門となり、菩提心を發して、一向に往生を念ずるもの。中輩は、沙門であつても、大いに功德を修することは出來ぬが、佛を信じ造塔供養し、沙門に供養する等、多少の功德を修するもの。下輩は、ただ菩提心を發し、佛を信じ乃至十念するもの。〔無量壽經、下〕十方世界諸天人民、其有下至心願レ生二彼國一者上、凡有二三輩一。

【三輩子】1446 san¹ pei⁴ tzŭ 三世。三代。三輩兒に同じ。

【三輩兒】1447 san¹ pei⁴ êrh 三つの輩行。父祖三代。三輩子。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕則是俺三輩兒、不招白衣女壻。

【三杯】1448 サンパイ 盃に三つの酒。杯は桮で、盃に同じ。〔賈至、對酒曲〕一酌千愁散、三杯萬事空。〔冷齊夜話〕又謂二睡美一爲二黑甜一、飮酒爲二軟飽一、故東坡詩曰、三杯軟飽後、一枕黑甜餘。

【三杯後一眞自得唯知素琴横レ月短笛吟レ風】1449 サンパイノノチイッシンジトクスレバタダソキンツキニヨコタヘタンテキカゼニギンズルヲシル 僅か三杯の酒に醉つて、天地の眞の風味を十分自得すれば、粗末な琴を月下に取り出し、或は風に吹かれながら短い横笛を吹く位のことで、無限の興趣を覺える。〔菜根譚、後、八十九〕三杯後、一眞自得、唯知二素琴横レ月、短笛吟レ風。

【三倍】1450 サンバイ 或數に三を乘じた數。〔易、說卦〕爲レ近二利市三倍一。〔管子、大匡〕吾參二圍之一、〔纂詁〕尹知章云、吾以二三倍之兵一圍レ之則安能圉レ我。

【三方】1451 サンパウ ❶三つの方角。三方にあるもの。〔書、旅獒、惟克〕商遂通二道于九夷八蠻一、〔疏〕八蠻在二南方一、六戎在二西方一、五狄在二北方一、上下二文、三方數目不レ同。〔班固、白雉詩〕三方歸服、不レ以二兵威一。〔晉書、宣帝紀論〕逮二乎魏室一、三方鼎峙、干戈不レ息。❷貴人に食を供し、儀式に物を供へる器。三方に孔があるからいふ。〔三內口決盤、四方三方〕大臣以上は四方、大納言以下は三方也。

【三方便】1452 サンパウベン 佛密教で身・口・意の三密門をいふ。〔大日經疏、一〕一者、身密門、二者、語密門、三者、心密門、行者、以二此三方便一、自淨二三業一、卽爲二如來三密之所一加持。

【三邦】1453 サンパウ 三つの邦。三國。〔書、禹貢〕惟箘・簬・楛、三邦底貢、厥名。〔傳〕三物皆出二雲夢之澤一、近レ澤三國、常致二貢之一。

【三梆】1454 サンパウ 三度目の拍子木。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕候二三梆坐レ堂、照レ牌次序喚審。

【三彭】1455 サンパウ 人の體內に在つて害をなす三つの蟲。彭は、蟲の姓。三尸(630)に同じ。〔宣室志〕僧契虛、游二稚川一、眞君問曰、爾絕二三彭之仇一乎。〔三尸中經〕上尸名二彭琚一、中尸名二彭質一、下尸名二彭矯一。〔蘇軾、游二羅浮山一詩〕道華亦嘗啖二一棗一、契虛正欲レ仇二三彭一。

【三寶】1456 サンパウ サンボウ ❶三つのたから。㋑土地・人民・政事。〔孟子、盡心下〕孟子曰、諸侯之寶三、土地・人民・政事、寶二珠玉一者、殃必及レ身。〔小學紺珠、治道類、三寶〕土地・人民・政事。㋺慈と儉と、天下の先とならぬこととをいふ。〔老子、六十七〕我有二三寶一、持而保レ之、一曰慈、二曰儉、三曰、不三敢爲二天下先一。㋩代馬と胡犬と昆山の玉。〔史記、趙世家〕代馬・胡犬、不二東下一、昆山之玉不レ出、此三寶者、亦非二王有一已。㋥食物・材料・製品。〔史記、貨殖傳〕商不レ出、則三寶絕。㋭大農・大工・大商。〔六韜、文韜、六守〕太公曰、大農・大工・大商、謂二之三寶一。㋬劍・珠・玉。〔新序、雜事一〕夫劍產二于越一、珠產二江漢一、玉產二昆山一、此三寶者、皆無レ足而至。㋣道家で、耳・目・口を外三寶、元精・元炁・元神を內三寶といふ。〔參同契〕耳・目・口三寶、閉塞勿二發通一。㋠道家の三つの神。天寶・靈寶・神寶。〔雲笈七籤、九天生神意經〕天寶君者、太洞之尊神、天寶丈人、則天寶君之祖氣也、靈寶君者、洞元之尊神、靈寶丈人、則靈寶君之祖氣也、神寶君者、卽洞神之尊神、神寶丈人、則神寶君之祖氣也、三寶皆三氣之尊神、號生二三氣一、三號合生二九氣一。㋷璿璣・玉衡・律

度。〔春秋潛潭巴〕天子有二三寶一、謂二璿璣・玉衡・律度一也。㋦佛・法・僧。〔觀無量壽經〕聞二三寶名一、卽得二往生一。〔日本書紀、推古紀〕十二年四月、皇太子親肇作二憲法十七條一、云云、二曰、篤敬二三寶一、三寶者、佛・法・僧也。❷隋の文帝の作つた塔の名。〔名畫記〕大雲寺東、浮圖北、有レ塔、俗呼爲二三寶塔一、隋文帝造。❸淸、滿洲正紅旗人。姓は伊爾根覺羅氏。諡は文敬。乾隆の間に繙譯進士。官は東閣大學士・閩浙總督。春華日覽を著して、諸皇子に教授した。〔淸史稿、三百二十六〕・〔淸史列傳、二十一〕。❹單に意味を強める語。南無三寶。

【三寶記】1457 書名。隋、費長房撰。一切經の目錄。歷代三寶記ともいふ。〔書林淸話、書有二刻板一之始〕據二陸深河汾燕閒錄一、引下隋開皇十三年十二月八日、敕廢像遺經悉令二雕板一之語上、云云、然陸氏此語、本二隋費長房三寶記一。

【三寶鳥】1458 鳥の名。佛法僧(1－517‥178)の異名。又、佛法僧鳥ともいふ。深山に棲む、鳩に似た鳥。

【三寶奴】1459 聖武天皇が佛を拜して自ら稱せられた語。〔國史略、聖武天皇〕率二皇后太子百官一、行二幸東大寺一、拜レ佛、自稱二三寶奴一。〔弘道館記述義、上〕至二於聖武一、自稱二三寶奴一。

【三寶盤】1460 方形の折敷を檜の白木で造り、三方に孔のある臺をつけたもの。貴人に食物を奉るとき、又は儀式に物を供へる時に用ひる。三方。〔近古史談、織篇、右府營二皇宮一〕近衞公國歌會、盛二餐團於三寶盤一、以供レ客。

【三寶物】1461 佛 ❶三寶(佛・法・僧)に屬すべき物。佛物・法物・僧物は、神聖であるから、俗用に當てること、及び盜用することを許さないといふ。〔梵網經、下〕善守二三寶物一、莫レ無二度用如二自己有一。❷信者からの施物。

【三寶壠】1462 ジヤワの港市。三馬壠。Samarang の音譯。

【三亡】1463 國家を滅亡に導く三つの徑路。亂を以て治を攻めること、邪を以て正を攻めること、逆を以て順を攻めること。〔韓非子、初見秦〕世有二三亡一、云云、以レ亂攻レ治者亡、以レ邪攻レ正者亡。

【三忘】1464 將士たる者が出征して行く時の覺悟。命を受けては家を忘れ、軍に臨んでは親を忘れ、戰の鼓の急を聞いては身を忘れること。〔史記、司馬穰苴傳〕穰苴曰、將受レ命之日、則忘二其家一、臨レ軍約束、則忘二其親一、援レ枹鼓レ之急、則忘二其身一。

【三房】1465 ❶三人の妻。〔宋史、蠻夷三、撫水州傳〕其酋皆蒙姓同出、有二上中下三房一。❷三つの內臟。明堂と明房と丹田の房。〔黃庭內景經〕常念二三房相通達一。〔注〕三房、謂二明堂・明房・丹田之房一也。❸sān¹ fáng² 三番目の妻。三人目の妾。

【三泖】1466 湖の名。今の泖湖。江蘇省松江縣の西、金山縣の西北。今は大半平地になつてゐる。上・中・下の三泖があり、上泖を圓泖、中泖を大泖、下泖を長泖ともいふ。

【三泖漁莊】1467 淸、王昶(7－20823‥791)の室名。

【三茅】1468 ❶三脊卽ち三つの角のある菁茅。〔晉書、禮志上〕其吉禮也、則三茅不レ翦、日觀停レ瑄。❷三人の仙人。大茅君盈、及び其の弟の固・衷。今の江蘇省句容縣句曲山で修行をした人。三茅君。〔神仙傳〕大茅君、名盈、次弟名固、小弟名衷、太上老君、拜レ盈爲二司命眞君一、固爲二定祿君一、衷爲二保命君一、故曰二三茅一。〔南史、陶弘景傳〕句容句曲山、名二金陵華陽之天一、昔、漢有二咸陽三茅君一、得レ掌二此山一。

【三望】1469 ❶山・海・川の祭。例へば、魯では、岱山・海・淮水を祭る。望祭(5－14368‥65)を見よ。〔詩、魯頌譜〕初、成王以下周公有中太平制二典法一之勳上、命レ魯郊二祭天一、三望、如二天子之禮一。〔春秋、僖、三十一〕夏四月、四卜レ郊、不レ從、乃免レ牲、猶三望。〔疏〕三望、謂二淮・海・岱一也。〔左氏、僖、三十一〕猶二三望一、亦非レ禮也。〔公羊、僖、三十一〕三望者何、望、祭也、然則曷祭、祭二泰山・河・海一。❷三望車の略。〔晉書、輿服志〕位至レ公、或四望三望、夾望車、油幢車、駕牛、形制如二皁輪一、但不レ漆レ轂耳、王公大臣、有二勳德一者、特給レ之。

【三望車】1470 三公の乘る車の名。〔宋書、沈慶之傳〕前廢帝卽レ位、加二慶之几杖一、給二三望車一乘一、慶之每二朝賀一、常乘二猪鼻無幰車一、左右從者、不レ過二三五人一、騎レ馬履二行園田一、政一人視レ馬而已、每二農桑劇月一、或時無二人遇レ之者一、不レ知二三公一也、及レ加二三望車一、謂レ人曰、我每遊二履田園一、有レ人時與レ馬成レ三、無レ人則與レ馬成レ二、今乘二此車一、安所レ之乎。

【三望坡】1471 坂の名。四川省峨眉縣の峨眉山の中峯寺の左に在る。

【三白】1472 ❶藥の一種。〔聞見近錄〕寇忠愍爲二執政一、尙少、帝嘗語レ人曰、寇準好宰相、但太少耳、忠愍乃服二何首烏一、而食二三白一、鬚髮遂變、於レ是拜レ相。〔寥道南、瑞應河淸賦序〕顧二茲一陽之時一、豫占二三白之兆一。❷正月に降る雪。〔蘇軾、次二韻王覿正言喜レ雪詩一〕行當見二三白一。〔陳與義、春雪詩〕連夜拋日三白瑞、及レ時驚動五辛盤。❸臘(冬至後、第三の戌の日に行ふ祭)の前に降る雪。〔楊萬里、上元前大雪卽晴詩〕臘前三白已奇絕。〔陶朱公書〕臘前得二兩三番雪一、謂二之臘前三白一。❹飯・大根・白湯。〔漫笑錄〕錢穆父、一日折簡召二東坡一、食二皛飯一、及レ至、乃設二飯一盃、蘿蔔一碟、白湯一盞一而已、蓋以二三白一爲レ皛也。❺西瓜の皮・實・種の白いもの。〔燕京歲時記、西瓜〕六月初旬、西瓜已登、有二三白・黑皮・黃沙瓤・江沙瓤各種一。❻淸、沈復(6－17189‥341)の字。

【三白渠】1473 白渠のこと。北白・中白・南白の三つに分れてゐる。陝西省涇陽縣。〔五代史、張筠傳〕以爲二牙內指揮使・三白渠營田制直使一。〔宋史、仁宗紀〕景祐三年二月丁卯、修二陝西三白渠一。

【三白草】1474 草の名。かたしろぐさ。はんげしやう。おしろいかけ。はんげしやう科に屬する多年生の草本で、水際に自生する。莖は二尺許り。葉は楕圓形、葉上に三つの黑點がある。三葉白。〔本草、三白草〕集解、蘇恭曰、三白草、生二池澤畔一、高尺許、葉似二水葒一、亦似レ蕺、又似二菝葜一、葉上有二三黑點一、非レ白也、古人祕レ之、隱レ黑爲レ白爾、根如二芹根一、黃白色而粗大。

【三白食】1475 佛 僧の食ふ三つの潔く白い食物。乳・酪・飯。〔十一面神呪心經〕行者唯應レ食二三白食一、乳・酪・飯。

【三白酒】1476 宋代の酒の名。〔酒小史、酒名〕顧氏三白酒。

【三白法】1477 佛 佛法を學ぶ者の三白食の法で、ただ牛乳・牛酪・白飯を食ふをいふ。〔宋高僧傳、元慧傳〕立レ志持二三白法一。

【三白草科】1478 植物分類上の一部門。種子植物門、被子植物亞門、双子葉植物綱、古生花被植物亞綱、こせう目中の一科。草本で、油細胞を有す。葉は單葉で互生し、托葉を具ふ。花は兩性で、花被を缺き、穗狀花序に排列す。子房は三室乃至六室、或は一室。果實は蓇葖・蒴又は漿果。種子は外胚乳及び內胚乳を含む。半夏生科。

【三白和尙】1479 唐、元慧(1－1340‥38)の稱。

【三帛】1480 三色のきぬ。纁帛・玄帛・黃帛。一說に、赤繒・黑繒・白繒。〔書、舜典〕五玉三帛。〔傳〕三帛、諸侯世子執レ纁、公之孤執レ玄、附庸之君執レ黃。〔宋書、樂志二〕五玉旣獻、三帛是薦。〔小學紺珠、制度類、三帛〕高陽氏之後用二赤繒一、高辛氏之後用二黑繒一、其餘用二白繒一。

【三柏】1481 ❶三本のこのてがしはの木。〔宋史、廖德明傳〕初爲二潯州教授一、爲二學者一講二明聖賢心學之要一、手植二三柏於學一、潯士愛二敬之一、如二甘棠一。❷ミツガシハ 紋所の名。三枚の柏の葉を三方に並べたもの。〔奧州葛西實記〕虛空より三つ葉の柏吹下り、云云、淸重太郎盃の臺にして猶酒宴を祝し、目出度しとて家の紋になせり、葛西の三つ柏の紋是れ也。

【三亳】1482 地名。〔書、立政〕三亳・阪尹。❶後漢の鄭康成の說では、湯の舊都の民が文王に服して、三邑に分れたものをいふ。東成皐・南轘轅・西降谷。〔書、立政、鄭注〕三亳者、湯舊都之民、服二文王一者、分爲二三邑一、其長居レ險、故云二阪尹一、蓋東成皐・南轘轅・西降谷也。❷晉の皇甫謐の說では、南亳(穀熟)・北亳(景亳)・西亳(偃師)の三地。南亳・北亳は、今の河南省商丘縣。西亳は今の偃師縣。後世の學者は、多く此の說に從つてゐる。〔書、立政、疏〕皇甫謐以爲、三亳、

三處之地、皆名爲ㇾ亳、蒙爲ニ北亳一、穀熟爲ニ南亳一、偃師爲ニ西亳一。㊂淸の魏源の說では、景亳（偃師）・東亳（商邱）・西亳（商州）をいふ。〔書古微・湯誓序發微〕蓋徙ニ都偃師之景亳一、而建ニ東亳於商邱一、仍ニ西亳於商州一、各設ㇾ尹以治ㇾ之。

【三縛】1483 サンバク 佛衆生を束縛して解脫を得しめない三つの煩惱。貪縛・瞋縛・癡縛をいふ。〔入阿毘達磨論、上〕契經中、復說ニ三縛一、一、貪縛、謂ニ一切貪如ニ受結相一說、二、瞋縛、謂ニ一切瞋如ニ恚結相一說、三、癡縛、謂ニ一切癡如ニ無明結相一說。

【三法】1484 サンパフ 三つの方法。㊀三刺・三宥・三赦の法。〔周禮、秋官、司刺〕以ニ此三法一者、求ニ民情一斷ニ民中一。〔疏〕三法、謂ニ三刺・三宥・三赦之法一。〔蘇軾、三法求ニ民情一賦〕用ニ三法一而下究、求ニ輿情一而上通。㊁筮の三方法。三代の筮の方法。〔左氏、僖、四、卜ㇾ之不ㇾ吉筮ㇾ之吉、疏〕崔靈恩以爲、國之大事、先ㇾ筮而後ㇾ卜、筮凶則止不ㇾ卜者、筮必以ニ三代之法一、若ニ三法皆凶一、則止不ㇾ卜、若兩法是凶、一法爲ㇾ吉、名爲ニ筮逆一、猶是疑限、故更卜以決ㇾ之。㊂朱子讀書の三法。少看熟讀・反覆體驗・埋頭理會。〔朱子語類、十〕大凡讀ㇾ書、少看熟讀、一也、不ㇾ要ニ鑽研立ㇾ說、只要ニ反覆體驗一、二也、埋頭理會、不ㇾ要ㇾ求ㇾ效、三也、學者當ㇾ守ㇾ此。㊃サンボフ 佛㋑教・行・證の三法。教法は、釋迦が其の一代に說いた教。行法は、教に因つて修行すること。證法は、行に依つて果を證する菩提・涅槃の二果。〔十地論、三〕第二大願有ニ三種一、一切諸佛所說法輪、皆悉受持者、謂ニ教法一、修多羅等、書寫供養讀誦受持、爲ㇾ他演說故、攝ニ受一切佛菩提一者、所謂證法、證ニ三種佛菩提法一、攝ニ受此證法一教化轉授故、一切諸佛所ニ教化一法皆悉守護者、謂ニ修行法一、於ニ修行時一、有ニ諸障難一、攝護救濟故。㋺正・像・末の三法。正法の時は、佛世を去るも法儀未だ衰へず、教有り行有り、果證を得る時。像は似の意。眞正の法儀行はれず、唯像似の佛法を行ひ、教有り行有るも、證果無き時。末は微の意。道化微末にして、但教有つて行無く證無き時。三時（683）の㊃の㋺を見よ。

【三法印】1485 サンボフイン 佛佛教と他の哲學・宗教との別を知る三種のしるし。諸行無常印（一切諸法の變化極りないことを說く）・諸行無我印（靈魂又は實體なるものはないと說く）・涅槃寂靜印（四諦の法によつて一切の苦を滅すれば涅槃に至ることができると說く）。〔法華玄義〕釋論云、諸小乘經、若有ニ無常無我涅槃三印一、卽是佛說、無ニ三法印一卽魔說、大乘但有ニ一法印一、謂ニ諸法實相一。

【三法司】1486 サンパフシ 明・淸時代、刑部・都察院・大理寺をいふ。〔通俗編、仕進、三法司〕商子定分篇、天子置ニ三法官一、按、後世三法司稱、由ㇾ此起。〔淸會典事例、大理寺、官制〕二品滿州卿一員、三品漢卿一員、云云、與ニ刑部都察院一爲ニ三法司一、與ニ六部都察院通政使一稱ニ九卿一。〔淸會典事例、吏部、處分例〕奉ㇾ旨交ニ軍機大臣一、會ニ同該部一議奏、及ニ三法司一覈議速奏。〔淸國行政法汎論、刑部〕其裁判、必須ニ三法司九卿合議一、三法司、謂ニ刑部・都察院・大理寺一。

【三法輪】1487 サンボフリン 佛釋迦一代の說法を三種に分けたもの。輪は教法を轉輪すること、傳へること。㊀眞諦三藏の立て方。一に轉法輪（如來の法を說くこと）、二に照法輪（法を以て衆生界をてらすこと）、三に持法輪（中道を說くこと）。〔法華經玄贊、一〕金光明經、亦說ニ三法輪一、謂ニ轉・照・持、轉ニ四諦法一、以ㇾ空照ㇾ有、非ㇾ有非ㇾ空、可ニ任持一故。㊁吉藏の立て方。一に根本法輪、二に枝末法輪、三に攝末歸本法輪。〔法華遊意〕欲ㇾ說ニ三種法輪一故說ニ此經一、言ニ三種一者、一者、根本法輪、二者、枝末之教、三者、攝末歸本。

【三法三到】1488 サンパフサンタフ 宋の朱子の讀書法。三法とは、少看熟讀・反覆體驗・埋頭理會をいひ、三到とは、心到・眼到・口到をいふ。三法（1484）の㊂及び三到（1217）を見よ。

【三乏】1489 サンバフ 三つの武器。乏は革で作り、矢を防ぐもの。〔周禮、春官、車僕〕大射共ニ三乏一。〔張衡、東京賦〕設ニ三乏一、厞ニ司旌一。〔注〕綜曰、言、大射張ニ三侯一、故設ニ三乏一、乏以ㇾ革爲ㇾ之、護ㇾ旌者之禦ㇾ矢也。

【三反】1490 サンパン ㊀天子親耕の時、天子が土を三度鋤き反すこと。〔白虎通、耕桑〕天子耕ニ東田一而三ニ反之一。㊁三度往復すること。〔史記、孟嘗君傳〕三反而不ㇾ致ニ一人一。㊂三つの矛盾した事柄。〔魏志、王肅傳評、注〕王肅亮直多聞、劉寔以爲、肅方ニ于事ㇾ上、而好ニ下佞ㇾ己、此一反也、性嗜ニ榮貴一而不ㇾ求ニ苟合一、此二反也、吝ニ惜財物一、而治ㇾ身不ㇾ穢、此三反也。〔日知錄、世風、三反〕今日人情有ニ三反一、曰、彌謙彌僞、彌親彌汎、彌奢彌吝。㊃三度、叛くこと。〔晉書、劉牢之傳〕廣陵相高雅之、欲ㇾ據ニ江北一以距ㇾ玄、集ニ衆大議一、參軍劉襲曰、事不可、莫ㇾ大ニ于反一、而將軍往年反ニ王兗州一、近日反ニ司馬郎君一、今復欲ㇾ反ニ桓公一、一人而三反、豈得ㇾ立也、語畢趨出。

【三反田】1491 サンダミタ 常陸國の地名。

【三犯】1492 サンパン ㊀三度觸れる。〔南齊書、天文志下〕永明五年五月庚子、太白三犯ニ畢左股第一星西南一尺一。㊁三度罪を犯す。〔唐書、食貨志四〕鹽鐵轉運使裴休著ニ條約一、私鬻ㇾ茶三犯、皆三百斤、乃論ㇾ死、四犯至ニ千斤一者、皆死。〔元史、太宗紀〕再犯笞、三犯杖、四犯論ㇾ死。

【三板】1493 サンパン ㊀幅一丈（一說に八尺）高さ二尺の板を三つ重ねた高さ。卽ち六尺。三版。〔禮、檀弓上〕今一日而三斬ㇾ板、而已ㇾ封。〔孫希旦集解〕三斬ㇾ板者、築ㇾ墳之法、側ニ板於兩邊一、用ㇾ繩約ㇾ板令ㇾ立、內ニ土板中一、築ㇾ之、土與ㇾ板平、則斬ニ斷所ㇾ約板繩一而更置、三偏如ㇾ此、則墳成、而已ニ止其封一也、板廣二尺、三板斜殺、惟高四尺耳。〔戰國、趙策〕城之不ㇾ沈者三板。〔蔡邕、朱穆墳前方石碑序〕封ㇾ墳三板、不ㇾ起ニ棟宇一。㊁小船の名。舢板のこと。〔裨海紀遊〕三板、卽腳船也、海船大、不ㇾ能ㇾ近ㇾ岸、凡欲ニ往來一、則乘ニ三板一、至ㇾ欲ニ開行一、又拽ニ上大船一載ㇾ之。

【三板船】1494 san¹ pan³ ch'uan² 傳馬船。短艇。小船。番船。三板の㊁に同じ。

【三版】1495 サンパン ㊀三板（1493）の㊀に同じ。〔史記、趙世家〕城不ㇾ浸者三版。㊁第三回目の出版。

【三班】1496 サンパン ㊀三班奉職を見よ。〔宋史、太宗記〕雍熙四年秋七月、置ニ三班院一。〔宋史、禮志十九〕垂拱殿起居、則內侍省都知押班、率ニ內供奉官以下、并寄班等一先起居、次客省閤門使以下、次三班使臣。㊁官署の下役。皂・壯・快をいふ。孰れも今の傭員級の者。三班六房を見よ。

【三班奉職】1497 サンパンホウショク 官名。宋代の武臣の職官。東班・西班・橫班をいふ。凡そ仕へるものは、三班借職から三班奉職となり、進んで節度使となる。〔宋史、太宗紀二〕淳化二年春正月乙酉、置ニ內殿崇班、左右侍禁一、改ニ殿前承旨一爲ニ三班奉職一。〔國老茹談〕田錫知ニ制誥一、太宗命ニ三班奉職一、出使回上ㇾ殿、因訪ニ民間利病一、錫上言曰、陛下苟令ニ三班奉職上ㇾ殿言ㇾ事、未ニ審設一、呂蒙正已下、何用乃罷ㇾ之。

【三班六房】1498 サンパンロクバウ 淸代の各州縣の役所に置かれた役人。三班とは、皂班（牢獄の看守、又は罪人を鞭つもの）・壯班（召捕の事を爲すもの）・快班（探偵のことをするもの）の三者をいひ、六房とは吏・戶・禮・兵・刑・工をいふ。

【三飯】1499 サンパン ㊀三度飯を食べること。〔儀禮、士昏禮〕三飯卒ㇾ食、贊洗ㇾ爵酌、酳ニ主人一。〔禮、玉藻〕飯ㇾ飱者三飯也。㊁複姓。〔論語、微子〕三飯繚適ㇾ蔡、四飯缺適ㇾ秦。〔通志、氏族略、以ㇾ官爲ㇾ氏〕三飯繚之後。

【三幡】1500 サンパン 三つの旗。色・色空・觀の三事に喩へる。道家の語。〔孫綽、游ニ天台山一賦〕釋ニ二名之同出一、消ニ一無於三幡一。〔注〕善曰、三幡、色、一也、色空、二也、觀、三也。

【三藩】1501 サンパン ㊀三つの都督府。㋑千乘・淮陽・濟陰。〔後漢書、孝明八王傳贊〕三藩夙齡、黨惟荒忒。〔注〕謂ニ千乘・淮陽・濟陰並早沒一。㋺會稽・南徐州・南交州。〔任昉、爲ニ范始興一作求ㇾ立ニ太宰碑一表〕六府臣僚、三藩士女。〔注〕善曰、子良又爲ニ會稽太守、南徐州刺史、又南交州刺史一、斯謂ニ之三藩一也。㋩明末の福王・唐王・桂王を前三藩といふ。㋥淸の吳三桂・耿精忠・尙可喜の封ぜられた三つの藩を後三藩といふ。三藩之亂を見よ。〔淸史稿、吳三桂傳論〕聖祖初親政、擧ニ大事一書ニ殿柱一、卽首ニ三藩一。㊁舊金山（サンフランシスコ）の別名。

【三藩之亂】1502 サンパンノラン 淸初、吳三桂・耿精忠・尙可喜の三人が封ぜられて勢があつたので、康熙帝は之を除かうとした。爲に吳三桂は雲南に兵を擧げ、耿精忠・尙之信（可喜の子）が之に味

方した。之を三藩の亂といふ。後、遂に清の爲に滅された。

【三藩紀事本末】1503 サンパンキジホンマツ 書名。四卷。清、楊陸榮撰。三藩の亂の始末を記錄す。其の目は、三藩僭號・四鎭・兩案・馬阮之奸・王師平二南浙一・王師平レ閩・金王收二江右一・李成棟收二粵東一・魯藩據二浙東一・益藩擾二湖東一・楊劉万殉レ贛・金王之亂南征・何蟒蛟殉レ楚・瞿式耜殉レ粵・孫李構レ隙・孫李奔レ北・永明入レ緬・檄緬取レ王・蜀亂・鄭成功之亂・襍亂の二十二篇。（四庫提要、史、紀事本末類存目）。

【三番】1504 バン ❶大射の禮で、三度射を行ふ。（詩、齊風、猗嗟、四矢反兮、疏）大射皆三番、射訖止、而不二復射一、是禮射三而止也。❷三つの組。（李庾、西都賦）天子穆清、環衛陳レ兵、將軍之號、三番六營。（宋史、夏國傳）六班分二三番一以宿衛。❸二度交代する。（蒲紹簡、登瀛洲賦）分二六子一以並直、各三番而遞更。❹兩二度。又、幾度も幾度も。

【三番草】1505 グサンバン 三番目の稻田の草取り。一番草（1－1‥1906）・二番草（1－247‥932）の對。（日次紀事、五月）植終後、至レ秋二度取二田間之莠一、是稱二一番草・二番草・三番草一。

【三番叟】1506 サンバソ ❶猿樂で、翁の曲に出る老人。（淀鯉出世瀧德、上）三番叟も高砂も、皆猩猩の亂れかと思ひますとぞ笑ひける。❷芝居では、幕明に祝儀として行ふ舞の名。轉じて、物事のはじめ。略して、三番（サン）ともいふ。

【三番兩次】1507 san¹ fan¹ liang³ ts'u⁴ 度々。屢々。

【三盤】1508 サンバン 取引所などの語。第三回目に出來た相場。二場。相場の第三節。

【三蠻】1509 サンバン 國の名。（三才圖會、人物十四、三蠻國）三蠻國民食レ土。

【三比】1510 サンピ 古の戶籍法に於て、第三回目の比校をいふ。（民部省式）凡勘籍者、位子幷雜色三比、諸衞五比、若有レ不レ合、隨卽還卻。

【三比西】1511 サンピシ 贅鼻齊。アフリカ州の河の名。Zambezi の音譯。

【三費】1512 サンピ 三つのつひえ。❶君子の三費。若い時に學んだことを長じて忘れる、君に仕へて功のあつたものが輕々しく之に負く、久しく交はつた友と中絶する。（韓詩外傳、九）子夏過二曾子一、曾子曰、入食、子夏曰、不レ爲二公費一乎、曾子曰、君子有二三費一、飮食不レ在二其中一云云、子夏曰、敢問二三費一、曾子曰、少而學、長而忘、此一費也、事君有レ功、而輕負レ之、此二費也、久交レ友、而中絶レ之、此三費也。❷朝廷の三費。道場齋醮の空費、京師寺觀の空費、使相節度の空費。（宋史、宋庠傳）朝廷大有二三冗一、小有二三費一、何謂二三費一、一曰、道場齋醮、無レ有二虛日一、二曰、京師寺觀、或多設二徒卒一、添二置官府一、衣糧率二三倍他處一、三曰、使相節度、不レ隸二藩要一。

【三碑】1513 ピサン 三つの名高い石碑。❶晉の大傅羊祜碑・鎭南將軍杜預碑・安南將軍劉儁碑。（水經、沔水注）襄陽郡、城南門道東、有二三碑一、一碑是晉太傅羊祜碑、一碑是鎭南將軍杜預碑、一碑是安南將軍劉儁碑。❷陸前國多賀城碑・上野國多胡碑・下野國那須國造碑。

【三尾】1514 サンビ 三つの尾。（郭璞、山海經圖、獸鵸鵌鳥贊）鵸鵌三頭、獸獸三尾。

【三尾川】1515 ミトカハ 紀伊國の地名。

【三尾野】1516 ミヲヌ 越前國の地名。

【三備】1517 サンビ 備前・備中・備後。

【三微】1518 サンビ ❶天・地・人三正の始。三正の始は、萬物が皆微かであるからいふ。三正(999)の❶を見よ。（易乾鑿度）天氣三微而成二一著一、三著而成二一體一。（漢書、律歷志上）三微之統既著、而五行自レ青始。（後漢書、章帝紀）春秋於レ春每月書二王者一、重二三正一、愼二三微一也。（注）三正、謂二天地人之正一、三微者、三正之始、萬物皆微。（後漢書、陳寵傳）三微成著、以通二三統一。（注）三體義宗曰、三微、三正也、言、十一月、陽氣始施、云云、微而未レ著、云云、故周以二天正一爲レ歲、十二月、萬物始牙、故殷以二地正一爲レ歲、十三月、萬物始達、云云、人得二加功一以展二其業一、夏以二人正一爲レ歲、云云、故曰二三微一。❷三つの機微なこと。（後漢書、孝明八王、陳敬王羨傳、寵善二弩射一、十發十中、注）華嶠書曰、寵射、其祕法、以二天覆地載、參連爲レ奇、又有二三微三小一、三微爲レ經、三小爲レ緯、經緯相將、萬勝之方、然要在二機牙一。

【三筆】1519 サンピツ ❶南朝宋の劉孝儀をいふ。三筆六詩を見よ。❷三人の能書家。嵯峨天皇・橘逸勢・僧空海。（和漢三才圖會、技藝、本朝能書）三筆、嵯峨天皇・弘法大師・但馬守橘逸勢。

【三筆六詩】1520 サンピツロクシ 南朝宋の劉孝儀の文と、劉孝威の詩とをいふ。三は、三男の孝儀。六は、六男の孝威。（南史、劉潛傳）孝儀幼孤、與二諸兄弟一相勗以レ學、並工屬レ文、孝綽嘗云、三筆六詩、三卽孝儀、六謂二孝威一也。

【三病】1521 ビヤウ ❶癩の俗稱。病名彙解には、風毒・濕毒・傳染の二因から生ずるので、三病といふとあるが、大寶令の戶令に、殘疾・廢疾・篤疾の三疾を別け、各病名を記した條に惡疾の目があつて、令義解に、惡疾、謂二白癩也、癩、或作レ癘也とあるのが轉訛したのだともいふ。❷佛㋑貪病・瞋病・癡病をいふ。（涅槃經、三十九）㋺無佛性なる謗大乘・五逆罪・一闡提を難治の二病といふ。（涅槃經、十一）。

【三百】1522 サンビヤク ❶多數を表はす語。百の三倍。（書、牧誓序）武王戎車三百兩、虎賁三百人。（詩、魏風、伐檀）不レ稼不レ穡、胡取二禾三百廛一兮。（呂覽、首時）親射二王宮一、鞭二荊平之墳一三百。（尉繚子、武議）死士三百、戰士三萬。❷詩經の篇數の概數を表はす語。（論語、爲政）詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪。（疏）今毛詩序、凡三百一十一篇、內六篇亡、今其存者、有二三百五篇一、今但言二三百篇一、故曰二篇之大數一。（論語、子路）誦二詩三百一。（墨子、公孟）誦二詩三百一、弦二詩三百一、歌二詩三百一。

【三百篇】1523 サンビヤク 詩經三百十一篇の概數。論語の、詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪に本づく。詩經を三百篇の稱で表はした書には、明の張爾然の三百篇聲譜、清の徐士俊の三百篇鳥獸草木記等がある。三百の❶を見よ。（史記、太史公自序）詩三百篇、大抵賢聖發憤之所二爲作一也。

【三百瀨】1524 ミヲ 紀伊國の地名。

【三百五篇】1525 サンビヤク 詩經の篇數。轉じて、詩經をいふ。尙、毛傳は、三百十一篇の篇名を揭げてゐるが、其の中の六篇は篇名のみがあつて其の辭がない。（史記、孔子世家）古者詩三千餘篇、及レ至二孔子一、去二其重一、取レ可レ施二於禮義一、上采二契・后稷一、中述二殷周之盛一、至二幽靈之缺一、始二於衽席一云云、三百五篇、孔子皆弦二歌之一。（漢書、藝文志）孔子純取二周詩一、上采二殷、下取二魯、凡三百五篇、遭二秦而全者一、以其諷誦、不二獨在一レ竹帛一故也。（漢書、儒林、王式傳）對曰、臣以二詩三百五篇一、朝名授レ王。

【三百諸侯】1526 サンビヤクショコウ 德川時代の大名の總稱。

【三百代言】1527 サンビヤクダイゲン ❶訴訟・談判など、辯護士に類する事を取扱ふ人。もぐりの辯護士。❷辯護士を卑しめていふ語。

【三百兩銀藥】1528 サンビヤクリヤウギンヤク 草の名。うまのすずくさ。馬兜鈴（12－44572‥901）の異名。（本草、馬兜鈴）釋名、三百兩銀藥、時珍曰、嶺南人用治レ蠱、隱二其名一、爲二三百兩銀藥一。

【三百六十行】1529 サンビヤクロクジフカウ 種々の職業をいふ。行は商店の意。七十二行（1－6‥209）を見よ。（田汝成、游覽志餘）杭州三百六十行、各有二市語一。（通俗篇、藝術、三百六十行）按點鬼簿、鄭廷玉有二一百二十行販揚州樂府一、又屈彥英有二一百二十行院本一、元人但云二一百二十一、增多爲二三百六十一、乃明人言耳。

【三百六十寺】1530 サンビヤクロクジ 西湖の邊の多數の寺をいふ。（蘇軾、懷二西湖一寄二晁美叔同年一詩）三百六十寺、幽尋遂窮レ年。

【三百六十節】1531 サンビヤクロクセツ 人の身體にある三百六十の骨節をいふ。（呂覽、本生）天全則神和矣、目明矣、耳聰矣、鼻臭矣、口敏矣、三百六十節、皆通レ利矣。（淮南子、天文訓）天有二十二月一、以制二三百六十日一、人亦有二十二肢一、以使二三百六十節一。

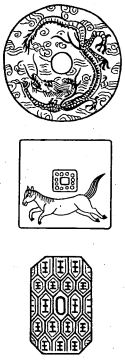
【三百六十日】1532 サンビヤクロクジツ 一年をいふ。（施肩吾、春遊樂詩）一年三百六十日、賞心那似二春中物一。

【三百六十六節】1533 サンビヤクロクセツ 三百六十節を見よ。淮南子、精神訓、三百六十六節に作るは、今本の誤といふ。（淮南子、精神訓）天有二四時・五行・九解・三百六十六日一、人亦有二四支・五藏・九竅・三百六十六節一。（集解）王念孫云、三百六十六日・三百六十六節、本作二三百六十日・三百六十節一、後人以二堯典言二朞三百有六旬有六日一、故

於二上句一加二六字一、因併二下句一而加レ之也、不レ知下三百六十日但擧二大數一言レ之上。

〔三百有六旬有六日〕1534（サンビヤクイウロクジュンイウロクジツ）一年の日數。〔書、堯典〕朞二百有六旬有六日、以二閏月一定二四時一、成レ歲。

【三品】1535（ヒン）みしな。三種。❶乾豆と賓客と充庖。〔易、巽〕田獲二三品一。〔本義〕三品者、一爲二乾豆一、一爲二賓客一、一以充レ庖。❷金・銀・銅。〔書、禹貢〕厥貢、惟金三品。〔傳〕金・銀・銅也。〔史記、平準書〕虞夏之幣、金有二三品一、或黃、或白、或赤。〔精註雅俗故事讀本、珍寶〕書著二三品之美一。❸漢の貨幣の三品。龍幣・馬幣・龜幣。三幣。〔史記、平準書〕故白金三品、其一曰、重八兩、圜レ之、其文龍、名曰二白選一、直三千、二曰、重差小、方レ之、其文馬、直五百、三曰、復小、橢レ之、其文龜、直三百。〔注〕索隱曰、顧氏案、錢譜、其文爲二龍形一、隱起肉好、皆圓文、又作二雲霞之象一、選、蘇林音選擇之選、包愷及劉氏、音息戀反、云云、漢書作レ撰、二字音同也。〔漢書、食貨志下〕從二建元一以來用少、縣官往往即二多銅山一而鑄レ錢、民亦盜鑄、不レ



漢武帝三幣（金石索）

可二勝數一、錢益多而輕、物益少而貴、有司言曰、古者皮幣、諸侯以聘享、金有二三等一、黃金爲レ上、白金爲レ中、赤金爲レ下、今半兩錢、法重四銖、而姦或盜二摩錢質一而取レ鉛、錢益輕薄而物貴、則遠方用レ幣、煩費不レ省、乃以二白鹿皮方尺一、緣以二繢爲一皮幣一、直四十萬、王侯宗室、朝覲聘享、必以二皮幣薦璧一、然後得レ行、又造二銀錫白金一、以爲、天用莫レ如レ龍、地用莫レ如レ馬、人用莫レ如レ龜、故白金三品、其一曰、重八兩、圜レ之、其文龍、名二白撰一、直三千、二曰、以二重差小一方レ之、其文馬、直五百、三曰、復小、橢レ之、其文龜、直三百。❹性の三品。上品・中品・下品。三品說を見よ。〔韓愈、原性〕性之品、有二上中下三一。❺繪又は書の三品。神品・妙品・能品。〔圖繪寶鑑〕三品、氣韻生動、出二於天成一、人莫レ窺二其巧一者、謂二之神品一、筆墨超絕、傳染得レ宜、意趣有レ餘者、謂二之妙品一、得二其形似一、而不レ失二規矩一者、謂二之能品一。❻一品から九品迄の中で、第三番目の官位。品は官位の高下を表はす稱呼。〔宋書、禮志一〕三品以下帶レ刀、皆騎乘。❼政の三品。王者の政・霸者の政・彊者の政。〔說苑、政理〕政有二三品一、王者之政化レ之、霸者之政威レ之、彊者之政脅レ之、夫此三者、各有レ所レ施、而化レ之爲二貴矣一、夫化レ之不レ變、而後威レ之、威レ之不レ變、而後脅レ之、脅レ之不レ變、而後刑レ之、夫至二於刑一者、則非二王者之所一レ貴也。❽取引所用語。大阪三品取引所の略稱。三品とは、棉花・綿絲・綿織物をいふ。❾（ボサン）佩上中下三種類の懺悔。懺悔の深淺によつて區別する。〔往生禮讃〕懺悔有二三品一、上中下、上品懺悔者、身毛孔中血流、眼中血出者、名二上品懺悔一、中品懺悔者、偏身熱行、從二毛孔一出、眼中血流者、名二中品懺悔一、下品懺悔者、偏身徹熱、眼中淚出者、名二下品懺悔一。

【三品石山】1541（サンピンセキザン）山名。甘肅省隴西の西。俗に安家山と呼ぶ。復に三つの巨石が品の字のやうに並んでゐる。〔鞏昌府志〕三品石山、在二府城西北七里一、自二岷嶺一蜿蜒而來、其上、寬平可レ耕、山復有二三巨石一、列如二品字一、按二舊志一、在二府西七里一、俗名二安家山一。

【三父】1542（サンフ）三父八母を見よ。

【三父八母】1543（サンフハチボ）一七九頁明律圖を見よ。尚、三父には左表のやうに數說がある。

	三父	八母
朱子家禮	同居繼父 先同異居繼父 不同居繼父	養母・嫡母・繼母・慈母・庶母・乳母・嫁母・出母
元典章	同居繼父 不同居繼父 從繼母嫁人夫	
明律	同居繼父 不同居繼父 從繼母嫁	
清律		
大清律例	生父 嗣父 繼父	

【三巫】1544（サンフ）古の地名。周の武王が殷に勝つて九鼎を遷したところ。〔逸周書、克殷解〕乃命二南宮百達史佚一、遷二九鼎三巫一。〔注〕三巫、地名。

【三府】1545（サンフ）❶三公の府。〔公羊注疏、漢司空掾任城樊侯休序、疏〕司空者、漢二公官名也、掾者卽其下屬官也、若二今之三府掾一、是也。〔後漢書、李雲傳〕乃露布上書移二副三府一。〔後漢書、馬援傳〕援北二隴西一上書言、宜レ如二舊鑄一五銖錢一、事下二三府一、三府奏以爲未レ可レ許。〔南史、任昉傳〕始梁武與レ昉、遇二竟陵王西邸一、從容謂レ昉曰、我登二三府一、當レ以二卿爲一記室。❷官名。通判（11－3889 2‥371）の古名。〔清國行政法汎論、行政組織、地方官署、地方官署種類〕通判有二別駕・通府・三府等名一。❸東京府・京都府・大阪府。

【三釜】1546（サンプ）一釜の三倍。僅かの俸祿。一釜は六斗四升。三鬴。〔莊子、寓言〕曾子再仕、而心再化、曰、吾及親仕、三釜而心樂、後仕三千鍾、不レ洎、吾心悲。〔陸游、歲暮感懷詩〕三釜不レ及レ親、顧爲二妻子一留。

【三釜養】1547（サンプヤウ）親に孝養を盡すため、薄給を厭はず仕官すること。〔楊維楨、憂釋賦〕饑饉降レ喪兮艱二我水菽一、三釜需レ養兮風搖二庭木一。〔陸游、對食作詩〕少壯已辜二三釜養一、飄零敢道二一袍單一。〔書言故事、孝養類〕仕宦而親在、曰二三釜之養一。

【三婦】1548（サンプ）三人の女。又、三人の嫁。三人の妻。〔易林〕〔三婦同レ夫、志不二相思一、心懷不レ平、至二常愁悲一。〔顏氏家訓、書證〕古樂府歌詞、先述二三子一、次及二三婦一、婦是對二舅姑一之稱、其末章云、丈人且安坐、調レ弦未二遽央一、古者子婦供二事舅姑一、旦夕在レ側、與二兒女一無レ異、故有二此言一、近代文士頗作二三婦詩一、乃爲二匹嫡並耦一、已之羣妻之意、又加二鄭衞之辭一、何其謬乎。〔駱賓王、和二孫長史秋日臥病一詩〕調レ弦三婦至、置レ驛五侯來。

【三婦艷】1549（サンプエン）樂府相和歌辭、清調曲の名。相逢行から出たもの。古辭の末段の大婦織二綺羅一、中婦織二流黃一、小婦無レ所レ爲、挾レ琴上二高堂一の語から名づける。相逢行（8－23151－302）を見よ。〔劉鑠、三婦艷詩〕大婦裁二霧穀一、中婦牒二冰練一、小婦端二清景一、含歌登二玉殿一、丈人且俳徊、臨レ風傷二流霰一。

【三婦艷體】1550（サンプエンタイ）詩體の名。農家の婦女を假りて來て、作者の意中を寓するもの。宋の劉鑠・齊の王融・梁の蕭統・唐の吳均等が主として此の體の詩を作る。又、變體詩の一種である。三婦艷を見よ。〔文體明辯、雜體詩〕十四曰、三婦艷體、齊王融詩曰、大婦織二綺羅一、中婦織二流黃一、小婦獨無レ事、挾レ瑟上二高堂一、丈夫且安坐、調レ絃詎未レ央、又梁蕭統詩曰、大婦舞二輕巾一、中婦拂二華茵一、小婦獨無レ事、紅黛潤二芳津一、良人且高臥、方欲レ薦二梁塵一、是也、按、梁吳均・王筠・劉

三父八母服圖

名	説明	服
同居繼父	兩無二大功親一、謂三繼父無レ子、己身亦無二伯叔兄弟之類一、	期年。
同居繼父	兩有二大功親一、謂下繼父有二子孫一、自己亦有中伯叔兄弟之類上、	齊衰三月。
不同居繼父	先曾與二繼父一居、今不二同居一、	齊衰三月。
不同居繼父	自來不下曾隨レ母與二繼父一同居上、	無レ服。
從繼母嫁	謂下父死、繼母再嫁二他人一、隨去者上、	齊衰杖期。
養母	謂三自レ幼過二房與レ人。	斬衰三年
嫡母	謂三妾生子稱二父之正妻一。	斬衰三年
繼母	謂三父娶二後妻一。	斬衰三年
慈母	謂下所三生母死、父令二別妾撫育一者上。	斬衰三年
嫁母	謂下親母因二父死一再嫁中他人上。	齊衰杖期
出母	謂三親母被二父出一。	齊衰杖期
庶母	謂二父有レ子妾嫡子衆子一、齊衰杖期、所レ生子、斬衰三年。	
乳母	謂二父妾乳哺者、即妳母一、緦麻。	

（明律圖）

孝綽・陳後主、皆有二此體一、今不レ錄。

【三符】1551 サンプ 戰國時代の韓の申不害が韓を治めるに用ひた三符驗の術。〔淮南子、泰族訓〕商鞅之啓塞、申子之三符。〔注〕申不害治レ韓、有二三符驗之術一。

【三賦】1552 サンプ ❶三つの詩賦。〔江總、賦得一日成二三賦一應レ令詩〕下レ筆成二三賦一。〔杜甫、莫相疑行〕憶レ獻二三賦蓬萊宮一。❷租・庸・調の三種の稅。〔羣書拾唾、文武制度〕唐三賦、租、有レ田則有レ租、租出二米穀一、庸、有レ身則有レ庸、庸出レ絹、調、有レ戸則有レ調、調出二繒纊布麻一。

【三鬴】1553 サンプ 並の人一箇月間の食米。鬴は、六斗四升をいふ。轉じて、僅かの俸祿。三釜(1546)に同じ。〔周禮、地官、廩人〕凡萬民之食、食者人四鬴、上也、人三鬴、中也。〔注〕此皆謂二一月食米一也、六斗四升曰レ鬴。

【三武】1554 サンブ ❶北魏の道武帝、北周の武帝、唐の武宗をいふ。皆佛を禁じ、僧尼を還俗せしめた。佛家では、これを三武の厄といふ。〔護法論〕上世有二三武之君一。❷星の名。〔晉書、天文志上〕河鼓三星、一曰、三武。❸北魏の、陸恭之・陸曄・陸寛の三人をいふ。〔北史、陸俟傳〕恭之所レ著文章詩賦、凡千餘篇、子曄、字仁崇、篤志二文學一、弟寛、字仁惠、兄弟並有二才品一、議者稱爲二三武一。

【三武一宗厄】1555 サンブイッソウノヤク 中國に於ける廢佛毀釋の顯著な法難四回を併稱した語。三武は三武の❶を見よ。一宗は、後周の世宗をいふ。この四帝は、皆佛教を禁壓した。

【三部】1556 サンブ ❶三つのくみ。〔北史、源賀傳〕督二三道諸軍一、屯二漠南一、時每歲秋冬遣レ軍、三道並出、以備二北寇一、至二春中一乃班歸、賀以下勞二役京都一、又非中禦レ邊長計上、乃上言、請下募二諸州鎭、有二武勇一者三萬人上、復二其徭賦一、厚加二振恤一、分爲二三部二鎭之間築レ城、城置二萬人一、給二強弩十二牀、武衞三百乘一、弩一牀、給二牛六頭一、武衞一乘、給二牛二頭一、多造二馬槍及諸器械一、使三武略大將二人以鎭二撫之一。❷三つの部分。〔翟褚澄、褚氏遺書〕脈分二兩手一、手分二三部一、隔二寸尺一者、命レ之曰レ關、去レ肘度レ人曰レ尺、門前一寸爲レ寸、左手之寸極レ上、右手之寸極レ下。

【三部樂】1557 サンブガク 詞牌の名。〔詞譜〕調見二東坡詞一、按、唐書禮樂志、明皇分レ樂爲二二部一、堂下立奏、謂二之立部伎一、堂上坐奏、謂二之坐部伎一、又酷愛二法曲一、選二坐部伎子弟三百一、教二於梨園一、爲二法曲部一、三部之名、疑出二於此一。

【三部經】1558 サンブキヤウ 佛 三部の經文。❶彌陀三部。無量壽經・觀無量壽經・阿彌陀經。❷大日三部。大日經・金剛頂經・蘇悉地經。❸鎭護國家三部。仁王經・金光明經・法華經。❹法華三部。無量義經・妙法蓮華經・觀普賢菩薩行法經。❺彌勒三部。觀彌勒菩薩上生兜率天經・彌勒下生經・彌勒大成佛經。

【三部曲】1559 サンブキョク ❶同種類で而も相互に或る關係と對照とを示す題材による三つの歌劇又は樂譜の組合せ。❷三部作に同じ。

【三部會】1560 サンブクヮイ フランスのフイリツプ四世がローマ法王と爭ひ、國民の支持を得るために一三〇二年に召集した議會。貴族・僧侶・市民の三階級の代表者で構成した。三民會。三級會。

【三部作】1561 サンブサク 內容的に相關聯する三つの戲曲、又は小說。三部曲。

【三部合唱】1562 サンブガッシャウ 高・中・低の三部の聲音から成る合唱。

【三部九候】1563 サンブキウコウ 人體の脈に關する部分。撓骨動脈部に三指を竝置して、手首の方から寸關尺を三部といひ、この三部每に浮中沈の三脈候があり、合せて九候といふ。〔難經本義〕脈有二三部九候一、云云、三部者、寸關尺也、九候者、浮中沈也、上部法レ天、主二胸以上、至レ頭之有レ疾也、中部法レ人、主二鬲以下、至レ臍之有レ疾也、下部法レ地、主二臍以下、至レ足有レ疾也。

【三部神道】1564 サンブシンタウ 神道の唯一神道・兩部神道・習合神道をいふ。

【三風】1565サンプウ 巫・淫・亂の三つの悪風習。三風十愆を見よ。

【三風十愆】1566サンプウジッケン 巫・淫・亂の三つの悪風習と、其の内容を爲す恆舞・酣歌貨色・遊・畋・侮二聖言一・逆二忠直一・遠二耆德一・比二頑童一の十の罪過。〔書・伊訓〕敢有レ恆二舞于宮一、酣二歌于室一、時謂二巫風一、敢有レ殉二于貨色一、恆二于遊畋一、時謂二淫風一、敢有レ侮二聖言一、逆二忠直一、遠二耆德一、比二頑童一、時謂二亂風一、惟茲三風十愆、卿士有レ一二于身一、家必喪。

【三伏】1567サンプク ●夏の暑い時。夏至後の第三庚を初伏、第四庚を中伏、立秋後の初庚を末伏といふ。伏は火氣を恐れて金氣が伏藏する義。伏日（1－438・76）を見よ。〔太平御覽、時序、伏日〕歷忌釋曰、伏者何也、金氣伏藏之日也、四時代謝、皆以相生、立春、木代レ水、水生レ木、立夏、火代レ木、木生レ火、立冬、水代レ金、金生レ水、至二於立秋一、以レ金代レ火、金畏レ火、故至二庚日一必伏、庚者金也。〔注〕陰陽書曰、候夏至後第三庚爲二初伏一、第四庚爲二中伏一、立秋後初庚爲二後伏一、謂二之三伏一、曹植謂二之三旬一也、梁昭明太子、林鐘六月啓、三伏漸終、九夏將レ謝。〔白居易、答二蘇六一詩〕但喜レ暑隨二三伏去一、不レ知レ秋送二二毛來一、更無二別計相寬慰一、故遣二陽關勸一盃。●三重の伏兵。〔左氏、隱、九、衷二戎師一、注、前後及レ之三處受レ敵、疏〕前、謂二第一伏一、逆二其前一也、後、謂二祝聃及後伏一、逐二其後一也、中、謂二第二伏一擊二其中一也、衷二戎師一者、謂二戎師在三伏之中一。〔唐書、契丹傳、爲二三伏伺一之。〔唐書、僕固懷恩傳〕設二三伏一以待レ賊。

【三服】1568サンプク ●三通りの服裝。㋑首服・冬服・夏服。〔詩、鄘風、君子偕老、其之展也、疏〕三服之色以見矣。〔漢書、元帝紀〕齊二服官一。〔注〕李斐曰、齊國舊有二三服之官一、春獻二冠幘一、縦爲二首服一、紈素爲二冬服一、輕綃爲二夏服一、凡三。㋺皮弁素積・玄衣素裳・緇衣玄端。〔小學紺珠、制度類、三服〕皮弁素積・玄衣素裳・緇衣玄端。●夷服・鎭服・蕃服をいふ。皆夷狄の地であつて、中國にある六服（侯・甸・男・采・衞・要）に對していふ。六服（2－1453・526）を見よ。〔左氏、桓、二、今、晉甸侯也。〔疏〕侯・甸・男・采・衞・要六服、爲二中國一、夷・鎭・蕃三服、爲二夷狄一。●唐の韓雲卿の文辭・李陽冰の篆書・韓擇木の八分をいふ。三つの勝れて感服すべきもの。〔小學紺珠、名臣類下、三服〕韓雲卿文辭・李陽冰篆書・韓擇木八分。〔韓愈、科斗書後記〕愈叔父當二大歷世一、文辭獨行二中朝一、天下之欲下銘二述其先人功行一、取中信來世上者、咸歸二韓氏一、於二時李監陽冰一、獨能二篆書一、而同姓叔父擇木、善二八分一、不レ問可レ知二其人一、不レ如レ是者、不レ稱二三服一。

【三服官】1569サンプクカン 春秋、齊國の官名。天子の服裝を作る職。漢時代まで齊地に存續した。三服の●を見よ。〔漢書、貢禹傳〕故齊時三服官、輸レ物不レ過二十笥一、方今齊三服官、作工各數千人、一歲費數鉅萬。〔注〕師古曰、三服官、主二作天子之服一、在二齊地一。

【三復】1570サンプク 二度、繰りかへす。いくたびも繰りかへす。〔論語、先進〕南容三復二白圭一。〔疏〕南容讀レ詩至レ此、三反二覆之一。〔孔子家語、弟子行〕一日三復二白圭之玷一、是宮絰之行也。〔漢書、律歷志〕律長九寸、百七十一分而終復、三復而得二甲子一。

【三復居士】1571サンプクコジ 明、朱祖文（6－14424・894）の號。

【三福】1572サンプク 佛幸福の因となる三種の善行。●世福・戒福・行福をいふ。〔觀無量壽經〕欲レ生二彼國一者、當レ修二三福一、一者、孝二養父母一、奉二事師長一、慈心不レ殺、修二十善業一、二者、受持二歸一、具二足衆戒一、不レ犯二威儀一、三者、發二菩提心一、深信二因果一、讀誦大乘、勸進行者。●施類福・戒類福・修類福をいふ。

【三福田】1573サンプクデン 佛供養して福報を受ける三つのもの。一に報恩福田（父母師長）、二に功德福田（佛法僧の三寶）、三に貧窮福田（貧窮困苦の人）。〔優婆塞戒經、二〕。

【三覆】1574サンプク ●三箇所の伏兵。覆は伏兵。〔左氏、隱、九、君爲二三覆一。〔注〕覆、伏兵也。〔宋史、劉錡傳〕設二三覆一以待レ之。●三度、征服する。覆はくつがへす意。〔戰國、燕策〕齊王曰、善、遂興レ兵伐レ宋、三覆宋、宋遂擧。

【三佛】1575サンブツ 佛●法佛・報佛・化佛。〔法華論〕示現三種佛菩提、一者、應化佛菩提、隨所應見、而爲二示現一故、二者、報佛菩提、下地行滿足得二常涅槃證一故、三者、法佛菩提、謂二如來藏性涅槃常恆清涼不レ變故。●太平の佛鑑禪師慧勤、龍門の佛眼禪師清遠、天寧の佛果禪師克勤の三人をいふ。臨濟宗楊岐派の第三祖、五祖山法演の法嗣で、楊岐の二佛、演門の二傑ともいふ。〔釋門正統、三〕楊岐二佛、最爲二競爽一。

【三佛子】1576サンブッシ 佛自性住佛性（一般人に本具して、自性として常住のもので、三惡の人はこれだけを有す）・引出佛性（修業によつて本有の佛性を知るもの）・至得果佛性（修因滿足して、本有的に佛性のあるもの）。〔華嚴、孔目章〕。

【三佛性】1577サンブッショウ 佛三佛子に同じ。

【三佛齊】1578サンブツサイ 國の名。南朝では干陀利といひ、唐では室利佛逝といひ、宋では三佛齊といひ、明代では舊港國といふ。世々中國に入貢す。爪哇に近い。巴鄰旁。〔宋史、外國五、三佛齊傳〕三佛齊國、蓋南蠻之別種、與二占城一爲二鄰、居二眞臘闍婆之閒一。

【三佛頂】1579サンブッチョウ 佛釋迦の右方に在つて、胎藏界の三部の衆德を表はす尊形。廣大佛頂・極廣大佛頂・無邊音聲佛頂をいふ。〔大日經、二〕於二毫相之右一、復畫二三佛頂一、初名二廣大頂一、次名二極廣大及無邊音聲一、皆應二善安立一。

【三佛土】1580ドンブツ 佛法性土（法身の住處）・受用土（受用身の住處）・變化土（變化身の住處）。〔義林章、七末〕身既有二三、土隨亦爾、一法性土、二受用土、此二唯淨一、三變化土、通二淨及穢一。

【三佛鐵路】1581テツロブツ 廣東省三水縣から佛山鎭に至る鐵道をいふ。廣三鐵路の一部。

【三佛菩提】1582サンボダイブツ 佛法・報・化の三身の佛果。法身菩提・報身菩提・化身菩提をいふ。〔安樂集、上〕菩提有二三種一、一者、法身菩提、二者、報身菩提、三者、化身菩提。

【三物】1583サンブツ ●民を教へる三つの事柄。六德（知・仁・聖・義・忠・和）、六行（孝・友・睦・婣・任・恤）、六藝（禮・樂・射・御・書・數）。〔周禮、地官、大司徒〕以二鄕三物一教二萬民一而賓興之一、一曰六德、知仁・聖・義・忠・和、二曰六行、孝・友・睦・婣・任・恤、三曰六藝、禮・樂・射・御・書・數。●盟をする時に歃る所の血を取る三つの動物。豕・犬・鷄。〔詩、小雅、何人斯〕出二此三物一、以詛二爾斯一。〔傳〕三物、豕・犬・雞也、民不二相信一、則盟詛レ之、君以レ豕、臣以レ犬、民以レ雞。〔故事成語考、鳥獸〕犬豕與レ鷄、謂二之三物一。●人に應對する時の三つの心得。一、問はれて答へ、問はれねば言はぬ。二、君の行を諫める爲には、問はれずして言ふ。三、國家の危急を救ふには、問はれずして言ふ。〔墨子、公孟〕公孟子謂二子墨子一曰、君子恭レ己以待、問焉則言、不レ問焉則止、譬若レ鐘然、扣則鳴、不レ扣則不レ鳴、子墨子曰、是言有二三物一焉、子乃今知二其一一耳也。

【三墳】1584サンプン 古代の書名。三墳五典八索九丘を見よ。〔孔安國、尚書序〕伏犧神農黃帝之書、謂二之三墳一、言二大道一也。〔故事成語考、文事〕三墳五典、乃三皇五帝之書。

【三墳書】1585サンプンショ 書名。一卷。撰者未詳。山墳・氣墳・形墳の三つに分けて三易を說く。山墳を天皇伏羲氏の易、卽ち連山とし、氣墳を人皇神農氏の易、卽ち歸藏とし、形墳を地皇軒轅氏の易、卽ち乾坤易とする。說くところは道家易で、恐らく五代頃の道家者流が、古書の三墳に名を假りて僞作したもの。〔說郛、第五冊〕。

【三墳五典八索九丘】1586サンプンゴテンハッサクキュウ 古書の名。左表の如き諸說がある。

	三墳	五典	八索	九丘
孔安國尚書序	伏犧・神農・黃帝之書	少昊・顓頊・高辛・唐虞之書	八卦之說	九州之志
周禮春官外史鄭注	三王之書	五帝之書		
賈逵	三王之書	五帝之典	八王之法	九州亡國之戒
張平子	三禮	五帝之常道	周禮八議之刑	周禮之九刑
馬融	三氣	五行	八卦	九州之數

劉原父	九共
左氏會箋	三皇五帝八卦九疇

（左氏、昭、十二）左史倚相趨過、王曰、是良史也、子善視レ之、是能讀二三墳・五典・八索・九丘一。（注）皆古書名。（疏）孔安國尚書序云、伏犧・神農・黃帝之書、謂二之三墳一云云、少昊・顓頊・高辛・唐・虞之書、謂二之五典一云云、八卦之說、謂二之八索一云云、九州之志、謂二之九丘一云云、周禮・外史掌二三皇五帝之書一、鄭玄云、楚靈王所謂二墳五典一、是也、賈逵云、三墳二王之書、五典、五帝之典、八索、八王之法、九丘、九州亡國之戒、張平子說、三墳、三禮云云、三禮、天地人之禮也、五典、五帝之常道也、八索、周禮八議之刑云云、九丘、周禮之九刑、馬融說、三墳、三氣陰陽始生、天地人之氣也、五典、五行也、八索、八卦、九丘、九州之數也、此諸家者、各以意言、無二正驗一、杜所レ不レ信、故云、皆古書名耳。（會箋）三墳、五典、爲二三皇一、五帝、八索・九丘、爲二八卦・九疇一。（孔安國尚書序）伏犧・神農・黃帝之書、謂二之三墳一、言二大道一也、少昊・顓頊・高辛・唐・虞之書、謂二之五典一、言二常道一也、云云、八卦之說、謂二之八索一、求二其義一也、九州之志、謂二之九丘一、丘、聚也、言九州所レ有、土地所レ生、風氣所レ宜、皆聚二此書一也。（小學紺珠、藝文類、九丘）劉原父云、卽九共九編、古文、丘與レ共相近、故誤爲レ共。

【二分】1587（サンブン）●二つにわける。（左氏、襄十一）二分公室、而各有レ其一。（諸葛亮、前出師表）今天下二分、益州疲弊。●（サン）十分の三。僅か。些少。（詩、召南、摽有梅、疏）其十分之中、尚七分未レ衰、惟二分衰耳。（榮根譚、十五）交レ友須レ帶二三分俠氣一。

【二分國】1588（サンブンコク）蜀・魏・吳の三國をいふ。三國。（趙翼、赤壁詩）千秋人物三分國、一片山河百戰場。（安井息軒、錦山神祠改建記）夫羽仕二三分之國一、一敗就レ擒。

【二分髮】1589（ハツブン）宋代の婦人の髮の結ひ方。（宋書、五行志一）宋文帝元嘉六年、民間婦人結レ髮者、二二分髮、抽二其鬢一直向レ上、謂二之飛天紒一。

【二分一銀】1590（サンブンイチギン）アルミニウムと、其の重量の凡そ二分の一の銀との合金。

【二分損益】1591（ソンエキ）音樂の律管の長さを算出する法。黃鐘の長さ九寸を基準とし、三分の一を減じて六寸、これを林鐘とし、又、其の三分の一を增して太簇を生じ、順次に十二律を生ずるやり方をいふ。六律六呂（2－2695：457）及び十二律（2－1453：569）を見よ。（漢書、律歷志）參分損一、下生二林鐘一、參二分林鐘一益一、上生二太族一。

【二分鼎足】1592（サンブンテイソク）鼎の足のように、三者が天下を三分して並び立つこと。鼎立。（史記、淮陰侯傳）莫レ若二兩利而俱存一之、三分天下、鼎足而居。（後漢書、竇融傳）欲二三分鼎足、連衡合從一、亦宜二以時定一。

【二分春色二分塵】1593（サンブンシュンショクニブンチリ）二分は春景色で、二分は塵にけがれてゐるといふ意。（頃庾老、清明雨詩）三分春色二分塵、天到二清明一濁更昏、行客要レ尋沽レ酒處、被二雲偷卻一杏花村。

【二兵】1594（ヘイ）●二つの兵器。矛・戟・鉞。（穀梁、莊、二十五）天子救日置二五麾一、陳二五兵一五鼓、諸侯置二三麾一、陳二三鼓三兵一。（疏）五兵者、徐邈云、矛在レ東、戟在レ南、鉞在レ西、楯在レ北、弓矢在二中央一云云、諸侯三者、則云二降殺以兩一、去二黑黃二色一。●南朝宋の官名。從事中郎の屬官。（宋書、百官志上）晉元帝爲二鎭東大將軍及丞相一、置二從事中郎一、無二定員一、分二掌諸曹一、有二錄事中郎・度支中郎・二兵中郎一。●弓・劍・槍の併稱。（日本書紀、持統紀）三年十一月己卯朔丙戌、閑二於三兵一、賜レ物。●歩兵・騎兵・砲兵の三戰鬪兵種の總稱。

【二聘】1595（ヘイ）賢人を二度も三度も強ひて招聘すること。賢人を熱望するのをいふ。三顧。（孟子、萬章上）湯三使往聘レ之。（宋史、陳烈傳）或勉レ之求レ仕、則曰、伊尹守レ道、成湯三聘以幣、呂望既老、文王載之俱歸、今天子仁聖好レ賢、有二湯文之心一、豈無二先覺如一伊呂一者乎。（書言故事、聘召類）賀二人赴一召、云二榮膺三二聘之寵一。

【二幣】1596（ヘイ）●二種の貨幣。㋑珠玉を上幣、黃金を中幣、刀布を下幣といふ。（管子、國蓄）以二珠玉一爲二上幣一、以二黃金一爲二中幣一、以二刀布一爲二下幣一、二幣握レ之、則非レ有レ補二於煖一也、食レ之、則非レ有レ補二於飽一也。㋺漢の二種の貨幣。龍幣・馬幣・龜幣。二品（1595）の●に同じ。（金石索）

【二表】1597（ヒョウ）●言論の三つの標準。本・原・用。（墨子、非命上）故言必有二三表一、何謂二三表一、子墨子言曰、有二本之者一、有二原之者一、有二用之者一。●五行の法に於て、水と金、金と木、並に金木水火相互の三つの關係をいふ。（越絶書、越絶外傳枕中）越王曰、請二問三表一、范子曰、水之勢勝レ金、陰氣蓄積大盛、水據レ金而死、故金中有レ水、如二此者一、歲大敗、八穀皆貴、金之勢勝レ木、陽氣蓄積大盛、金據二木而死一、故木中有レ火、如二此者一、歲大美、八穀皆賤、金木水火更相勝、此天之三表者也。●漢の賈誼が立てた匈奴懷柔策の、仁道と常義と然諾とをいふ。三表五餌を見よ。㋺顏面の額門・準頭・地角をいふ。三才（588）の●を見よ。㋩san¹ piao³ 表・中・裏。

【二表新】1598（サンピョウシン）san¹ piao³ hsin¹ 表・中・裏の新しいこと。

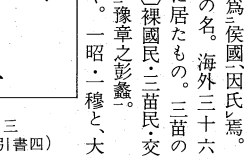
【二表五餌】1599（サンピョウゴジ）漢の賈誼の匈奴懷柔策。三表とは、仁道と常義と然諾とを期すべきこと。五餌とは、目・耳・口・腹・心の滿足を與へて懦弱に導くこと。（新書、匈奴）陛下爲二臣建一三表一設二五餌一、以此與二單于一爭二其民一、則下匈奴一猶振二槁也一、云云、愛二人之狀一、好二人之技一、仁道、信爲二大操一、帝義也、愛好有レ實、已諾可レ期、十死一生、彼必將レ至、此謂二三表一云云、故牽二其耳一、牽二其目一、牽二其口一、牽二其腹一、四者已牽、又引二其心一、安得レ不二來下一、胡抑扼也、此謂二五餌一。（蘇軾、上二神宗皇帝一書）三表五餌、人知二其疎一。

【二豹】1600（ニヒョウ）唐代の苛酷な警察官、李鳳・李全交・王旭の三人をいふ。（唐書、王旭傳）官數遷、常兼二御史一、其爲二人苛急一、少二縱貸一、人莫二敢與忤一。云云、時監察御史李鳳・李全交、皆嚴酷取レ名、與二旭埒一、京師號二三豹一、鳳爲レ赤、全交爲レ白、旭爲レ黑、里閭至相詛、曰二若違一教値二三豹一。

【二苗】1601（ニビョウ）●堯舜時代に江・淮・荆州（今の湖南省・湖北省・江西省）に據つた蠻族の名。四凶の一。三鱓。（書、舜典）竄二三苗于三危一。（蔡傳）三苗、國名、在二江南荆揚之閒一。（左氏、昭、元）虞有二三苗一、夏有二觀扈一。（國語、楚語下）其後二三苗復二九黎之德一。（荀子、成相）禹勞二心力一、堯有レ德、于戈不レ用、三苗服。（史記、五帝記、注）正義曰、吳起云、三苗之國、左二洞庭一、而右二彭蠡一、云云、今江州・鄂州・岳州、三苗之地也。●複姓。（萬姓統譜）三苗、姜姓、炎帝之後、爲二侯國一、因氏焉。

【三苗民】1602（サンビョウミン）古の蠻族の名。海外三十六國の一つで、西南から東南に居たもの。三苗の●に同じ。（淮南子、墜形訓）裸國民・三苗民、交股民。（注）三苗、國名也、在二豫章之彭蠡一。

【三廟】1603（サンビョウ）大夫のおたまや。一昭・一穆と、大祖の廟。七廟（1－6：433）を見よ。（禮、王制）大夫三廟、一昭・一穆、與二大祖之廟一而三。（禮、祭法）大夫立二三廟一壇。



（解圖略蒙引書四）

【三鱓】1604（サンセン）三苗（1601）の●に同じ。鱓は苗に通ず。（楊愼、外集）三苗、路史作二三鱓一。

【三辟】1605（サンペキ）●二代の刑法。夏の禹刑・殷の湯刑・周の九刑。（左氏、昭、六）三辟之興、皆叔世也。（會箋）三辟、謂二禹刑・湯刑・九刑一也。（謝朓、三日侍二宴曲水一應詔詩）九疇式序、三辟載清。●草堂の名。（秦系、山中枉皇甫溫大夫見レ招書詩）三辟草堂仍被レ褐、數行書札忽臨レ門。

【三碧】1606（サンペキ）陰陽家の語。九星の一。傷門。木星。方位は東、卽ち震。九星（1－167：387）を見よ。（協紀辨方書、義例六、三元九星）傷門爲二三碧一、云云、二黑三碧、云云、三碧居レ震。

【三邊】1607（サンペン）三つの邊地。●匈奴・南越・朝鮮。（史記、律書）高祖有二天下一、三邊外畔。●延綏・寧夏・甘肅の三鎭をいふ。明の時、三邊に都督を置く。三邊總制を見よ。（崔浞、折二楊柳一詩）二月風光半、三邊戍不レ還。（清乾隆帝、從軍行）三邊烽火照二軍營一、十萬丁男夜練レ兵。

【三邊總制】1608（サンペンソウセイ）官名。明の憲宗の成化十年、王越に命じて延綏・甘肅・寧夏の三邊を守ら

せた時の官名。〔明史、憲宗紀一〕十年癸卯、王越總ニ制延綏・甘肅・寧夏三邊一駐ニ固原一。

【三變】1609 ●三つの變化。㋑君子の容貌言語の三つの變化。之を望めば儼然、之に就けば温、其の言を聞けば厲。〔論語、子張〕君子有ニ三變一、望レ之儼然、卽レ之也温、聽ニ其言一也厲。㋺子道・武道・臣道の三つの道に變化すること。〔韓詩外傳、七〕孔子曰、昔者周公事ニ文王一、行無ニ專制一、事無ニ由レ己、身若レ不レ勝レ衣、言若レ不レ出レ口、有ニ奉持於前一、洞洞焉、若レ將レ失レ之、可レ謂レ孑矣、武王崩、成王幼、周公承ニ文武之業一、履ニ天子之位一、聽ニ天子之政一、征ニ夷狄之亂一、誅ニ管蔡之罪一、抱ニ成王一而朝ニ諸侯一、誅賞制斷、無所ニ顧問一、威動ニ天地一、振ニ恐海内一、可レ謂ニ能武一矣、成王壯、周公致レ政、北面而事レ之、請然後行、無ニ伐矜之色一、可レ謂レ臣矣、故一人之身能ニ三變一者、所ニ以應ニ時也。㋩天運の三變。三十年で小變し、百年で中變し、五百年で大變すること。〔史記、天官書〕天運三十歲一小變、百年中變、五百載大變、三大變一紀。㋥不肖の子弟の三つの變化。第一は蝗蟲となり、穀物を賣つて食ふ。第二は蠹魚となり、書を賣つて食ふ。第三は大蟲となり、奴婢を賣つて食ふ。三食。〔北夢瑣言〕唐咸通中、荊州書生唐五經、嘗謂ニ人曰一、不肖子弟有ニ三變一、第一變爲ニ蝗蟲一、謂ニ鬻ニ莊而食一也、第二變爲ニ蠹魚一、謂ニ鬻ニ書而食一也、第三變爲ニ大蟲一、謂ニ賣ニ奴婢一而食一也、三食之輩、何代無レ之。㋭唐一時代に於ける文章の三變。一、王勃・楊烱等の時代。尚、六朝の餘風を脱けきらぬ。二、張説・燕國公）・蘇頲（許國公）の時代。浮華を去り、雅風を興す。三、韓愈・柳宗元の時代。完成時代。〔唐書、文藝傳、序〕唐有ニ天下一三百年、文章無慮三變、高祖太宗、大難始夷、沿ニ江左餘風一、緡句繪章、揣合低卬、故王楊爲ニ之伯一、玄宗好ニ經術一、羣臣稍厭ニ雕琢一、索ニ理致一、崇ニ雅黜一浮、氣益雄渾、則燕許擅ニ其宗一、是時、唐興已百年、諸儒爭自名ニ家一、大曆正元間、美才輩出、擩ニ嚆道眞一、涵ニ泳聖涯一、於ニ是、韓愈倡レ之、柳宗元・李翺・皇甫湜等和レ之、排ニ遂百家一、法度森嚴、抵ニ轢晉魏一、上ニ軋漢周一、唐之文、完然爲ニ一王法一、此其極也。㋬宋の楊畏の三變。元豐の時に官に進み、元祐の時に顯れ、紹聖の時に遷さる。〔宋史、楊畏傳〕天下於ニ是目爲ニ楊三變一、謂下其進ニ於元豐一、顯ニ於元祐一、遷中於紹聖上也。㋣禾の三變。種から苗になり、苗から穗になる、粟・苗・穗の三變化。〔淮南子、繆稱訓〕夫子見ニ禾之三變一也、滔滔然曰、狐鄉レ丘而死、我其首ニ禾乎一。〔注〕三變始ニ於粟一、生ニ於苗一、成ニ於穗一也。㋭固體が液體に變じ、液體が氣體に變ずる、或は氣體が液體に變じ、液體が固體に變ずる化學上の三變化。●宋、柳永（6－14662‥13）の初名。

【三辨】1610 墨子の篇名。

【三保】1611 ●三つの室。保は室の意。〔晏子、諫、上〕三保之妾、俱足ニ梁肉一。●明、鄭和（11－39647‥287）の小字。

【三保鎭】1612 地名。察哈爾省延慶縣の東南、居庸關の中にある。平綏鐵道が通つてゐる。

【三保太監】1613 明の鄭和（11－39647‥287）をいふ。三保は鄭和の小字。太監は官名。〔明史、鄭和傳〕鄭和、雲南人、世所謂ニ三保太監一者也。

【三畝】1614 一畝の三倍。わづかのはたけ。〔列子、楊朱〕梁王曰、先生有ニ一妻一妾一、而不レ能レ治ニ三畝之園一、而不レ能レ芸、而言下治ニ天下一如上運ニ諸掌一何也。〔劉禹錫、江令宅詩〕池臺竹樹三畝餘、至レ今人道江家宅。〔盧綸、送ニ姊弟裴均一詩〕舊業廢ニ三畝一、弱年成ニ一門一。〔杜牧、贈ニ宣州元處士一詩〕蓬蒿三畝居、寬ニ於一天下一。

【三畝宅】1615 僅かな宅地。〔淮南子、原道訓〕任ニ一人之能一、不レ足ニ以治ニ三畝之宅一也。〔王維、送ニ丘爲落第歸ニ江東一詩〕五湖三畝宅、萬里一歸人。〔蘇軾、次ニ荊公韻一詩〕勸レ我試求ニ三畝宅一、從レ公已覺ニ十年遲一。

【三晡】1616 たそがれの時。申の刻。今の午後四時頃。晡は夕食の時、卽ち申の刻。〔江斐、讓レ婚表〕召必以ニ三晡一爲レ期、遣必以ニ日出一爲レ限。〔庾信、春賦〕百丈山頭日欲レ斜、三晡未レ醉莫レ還レ家。

【三輔】1617 漢代、長安以東を京兆尹、長陵以北を左馮翊、渭城以西を右扶風とし、之を三輔といふ。其の長官は、共に長安城中を治む。後、京に隣接する附近の地をいふ。〔史記、大宛、大夏傳〕漢發ニ三輔罪人一。〔漢書、景帝紀〕其官屬三輔・擧レ不レ如ニ法令一者上。〔注〕應劭曰、京兆尹・左馮翊・右扶風、共治ニ長安城中一、是爲ニ三輔一。

【三輔黃圖】1618 書名。六卷。撰者未詳。宋の晁公武は、梁陳の間の人の作といひ、程大昌は、唐の肅宗以後の作といふ。此の書は、主として長安の古蹟を記して居る。其の目は、次の如く二十六篇に分れ、記事頗る詳密である。三輔沿革・三輔治所・咸陽故城・宮・漢長安故城・秦漢風俗・都城十二門・長安九市・長安八街九陌・長安城中閭里・漢宮・長樂宮・未央宮・建章宮・北宮・甘泉宮・苑囿・池沼・臺榭・辟廱・明堂・圜丘・太學・宗廟・南北郊・社稷・觀・閣・署・庫・倉・廐・圏・橋・陵墓・雜錄。〔四庫提要、史、地理類〕。

【三輔決錄】1619 書名。二卷。漢、趙岐撰。晉の摯虞の注あり。〔五朝小説、第六冊〕。

【三母】1620 周の三賢母。太姜・太任・太姒をいふ。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕三母者、太姜・太任・太姒。〔後漢書、文苑上、崔琦傳〕昔在帝舜、德隆ニ英皇一、周興ニ三母一。

【三母堂】1621 王敬伯の夫人季姜が、母としての模範であり、又、其の子の妻、孫の妻も、季姜の教に從つて共に賢名があつたので、三母堂といはれた。〔華陽國志〕季姜、梓潼文氏女、王敬伯夫人、少讀ニ詩禮一、敬伯前夫人子博、女紀流、季姜生ニ康雅芝一女始示、凡前後八子、撫育恩愛、親繼若ニ一堂一、博妻犍爲楊進、及博子遵婦蜀郡張叔紀、服ニ姑之教一、皆有ニ賢訓一、號ニ三母堂一。

【三謨】1622 尚書の大禹謨・皐陶謨・益稷の併稱。堯舜當時、在朝の禹・皐陶・益稷等の群臣が、堯舜を中心として、互に政治道德に就いて隔意のない論議應答を交へた記錄。皆、夏の史官の記述に係るといふ。〔明史、宋濂傳〕尚書二典三謨、帝王大經大法畢具。

【三封】1623 縣名。漢、置く。今の綏遠省の境、內蒙古鄂爾多斯右翼後旗。黃河の西岸。〔漢書、地理志〕朔方郡、縣十、三封。

【三峯】1624 ●三つの峯。㋑華山の三峯。連華・毛女・松檜の諸峯。〔述征記〕華山有ニ三峯一、直上數千仞。〔白居易、新構ニ亭臺一、詩〕東窗對ニ華山一、三峯碧參差。〔杜牧、八松小石詩〕且看小三峯。㋺衡山の三峯。〔荊州記〕衡山有ニ三峯一、極秀一峯、名ニ芙蓉峯一、最爲ニ竦桀一、自非ニ清霽一、常不レ可ニ望見一。●山名。㋑河南省禹縣。石炭を産す。㋺江西省貴溪縣の南。一名、天冠山。●宋、張三丰（4－9812‥1075）の一名。●字號。㋑清、錢希孔（11－40563‥268）の號。㋺清、萬應隆（9－31339‥562）の號。

【三峯歌】1625 羅公遠の作。道家のことを歌つたもの。〔感遇傳〕羅公遠作ニ三峯歌八首一、大旨皆素女廣成赤松之訣、還ニ嬰泝一流之事。

【三鳳】1626 ●三羽の鳳。〔宋史、五行志二下〕白州有ニ三鳳一、自ニ東來一入ニ城中一。●三人の秀才。㋑河東の三鳳。唐の薛元敬・薛收・薛德音をいふ。〔唐書、薛元敬傳〕元敬與ニ收及族兄德音一、齊名、世稱ニ河東三鳳一。〔故事成語考、兄弟〕河東伯仲、有ニ三鳳之美名一。㋺宋の仙井の何裳・何棠・何棨の兄弟。〔尚友錄、何棠〕宋、仙井人、云云、兄裳弟棨、俱有レ名、當時號爲ニ三鳳一。㋩明の羅欽順・羅欽德・羅欽忠の兄弟。〔尚友錄、羅欽順〕明、字允升、太和人、云云、弟欽德・欽忠、先後舉ニ進士一、時稱ニ羅氏三鳳一。㋥婁東の三鳳。明の張泰・陸鈇・陸容。〔明史、張泰傳〕張泰、字亨父、太倉人、陸鈇、字鼎儀、崑山人、陸容、字文量、亦太倉人、三人少齊名、號ニ婁東三鳳一。㋭明の從化の黎民表・黎民悅・黎民懷の兄弟。㋬清の嘉定の錢東垣・錢繹・錢侗の兄弟。

【三夢】1627 周禮の大卜の占夢の法の名。致夢（夏代に始まる）・觭夢（殷代に始まる）・咸陟（周代に始まる）をいふ。〔周禮、春官、大卜〕掌ニ三夢之法一、一曰致夢、二曰觭夢、三曰咸陟。〔注〕夢者、人精神寤可ニ占者一、致夢、言ニ夢之所ニ致、夏后氏作焉一、咸、皆也、陟之言、得也、言ニ夢之皆得一、周人作焉、杜子春云、觭讀爲ニ奇偉之奇一、其字、直當レ爲レ奇、玄謂、觭讀如ニ諸戎掎ニ人一之掎、亦得也、亦言ニ夢之所ニ得、殷人作焉。〔韓詩外傳、十〕傳曰、卜莊子好レ勇、母無ニ恙時一、三戰而三北、交游非レ之、國君辱レ之、卜莊子受レ命、顏色不レ變。〔晉

書、劉琨傳〕上疏謝曰、於昔曹沫三北、而收二功於柯盟一、馮異垂レ翅、而奮二翼澠池一、皆能因レ敗爲レ成、以レ功補レ過、陛下宥レ過之恩已隆、而臣自新之善不レ立。〔皮日休、魯望昨以二五百言一見レ貽過有二褒美一云云亦迭和二之微旨一也詩〕雖レ然未二三北一、亦可レ輸二千鐉一。

【三卜】1629 サンボク 三たび卜する。內、二度吉が出れば、それによつて事を決する。〔左氏、襄、七〕夏四月、三卜レ郊不レ從、乃免レ牲。〔公羊、定、十五〕三卜之運也。

【三木】1630 サンボク ㊀三本の木。〔韓詩外傳、五〕若夫合二三木一而爲レ一、應二乎心一動二乎體一、其不レ可二得而傳一者也。㊁罪人の頸・手・足にはめる三本の木。かせ。桎梏。〔漢書、司馬遷傳〕衣二赭衣一、關二三木一。〔注〕師古曰、三木、在二頸及手足一。〔司馬遷、報二任少卿一書、注〕銑曰、關二穿三木一、謂二杻・械・枷一也。㊂古今和歌集で三つの祕傳とした木。相生の松・をがたまの木・めどのけづり花。㊃ミガキ ㋑相模國の地名。㋺美濃國の地名。㋩ミウキ 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。

【三木一草】1631 サンボクイッサウ 南朝の四人の功臣。三木とは、結城キウ宗廣・伯耆ハウキ守名和長年・楠クスノキ正成。一草とは、千種チグサ顯忠をいふ。〔太平記、十七、山門牒送二南都一〕此頃、天下に結城・伯耆・楠・千種頭中將、三木一草といはれて。

【三木三鳥】1632 サンボクサンテウ 三木は、三木の㊂を見よ。三鳥とは稻負鳥イナオホセドリ・呼子鳥ヨブコドリ・百千鳥モモチドリ。一說に、百千鳥を都鳥ミヤコドリとする。

【三木樓訾】1633 サンボクロウシ 後漢の頃、北匈奴に服屬してゐた貲虜の中、三木樓山附近に居住してゐた一種。後漢の建初八年、三木樓訾大人稽留斯等は、衆三萬八千・馬二萬・牛羊十餘萬を率ゐて五原塞に至り、後漢に降つた。〔後漢書、南匈奴傳〕八年、北匈奴三木樓訾大人稽留斯等、率二三萬八千人、馬二萬匹、牛羊十餘萬一、款二五原塞一降。

【三牧】1634 サンボク 三つの牧場。〔逸周書、糴匡解〕三牧五庫補攝。〔集訓校釋〕盧曰、三牧、謂二戎馬・田馬・駑馬三物之牧一也。

【三墨】1635 サンボク 墨子の後が分れた三派。相里氏・相夫氏・鄧陵氏の三派。或は、宋鈃（鈃、一に鉶に作る）・尹文の一派と、相里勤・五侯子の一派と、苦獲・已齒・鄧陵子の一派との三派。〔莊子、天下〕相里勤之弟子五侯之徒、南方之墨者、苦獲・已齒・鄧陵子之屬、俱誦二墨經一、而倍譎不レ同、相謂二別墨一、云云、宋鈃・尹文、聞二其風一而悅レ之、作二爲華山之冠一以自表。〔韓非子、顯學〕世之顯學、儒墨也、云云、有二相里氏之墨一、有二相夫氏之墨一、有二鄧陵氏之墨一、故孔墨之後、儒分爲レ八、墨離爲レ三。〔聖賢羣輔錄、三墨〕不レ累二於俗一、不レ飾二於物一、不レ尊二於名一、不レ忮二於衆一、此宋鉶・尹文之墨、裘褐爲レ衣、跂蹻爲レ服、日夜不レ休、以自苦爲レ極者、相里勤・五侯子之墨、俱稱レ經、而背譎不レ同、相二謂別墨一、以二堅白一、此苦獲・已齒・鄧陵子之墨。〔北史、周武帝紀〕遂使二三墨八儒、朱紫交競一。

【三本】1636 サンポン ㊀三つの根本。㋑禮の三本。天地・先祖・君師。〔荀子、禮論〕禮有二三本一、天地者生之本、先祖者類之本、君師者治之本。㋺政治の三本。爵位・蓄祿・政令。〔墨子、尙賢上〕爵位不レ高、則民弗レ敬、蓄祿不レ厚、則民不レ信、政令不レ斷、則民不レ畏。㋩治亂の三本。德・功・能。〔管子、立政〕君之所レ審者三、一曰、德不レ當二其位一、二曰、功不レ當二其祿一、三曰、能不レ當二其官一、此三本者、治亂之原也。㊁正本・副本・貯本の三つの書物。〔北史、邢卲傳〕卲請レ置レ學、奏曰、炎漢勃興、更修二儒術一、故西京有二六學之義一、東都有二三本之盛一。〔唐書、百官志二〕掌二四部圖籍一、以二甲乙丙丁一爲レ部、皆有二三本一、一曰レ正、二曰レ副、三曰レ貯、凡課寫功程、皆分判。

【三盆】1637 サンボン ㊀三盆レ手を見よ。〔楊撝、繭館賦〕繅所レ獻之毫芒、手二三盆一而奚足。〔劉聞、繭館賦〕后翼翼以祇承兮、曰二三盆之有一レ常。㊁上等の白砂糖。三盆白の略。糖霜。

【三盆レ手】1638 ミタビテヲボンニス 繭を盆の中に置いて、手で三度之をいとくり、いとくる每に其の緒を振り出す。〔禮、祭儀〕及二良日一、夫人繅、三盆レ手。〔注〕三盆レ手者、三淹也、凡繅、每淹大揔、而手振レ之、以出レ緒也。

【三摩】1639 サンマ 佛㊀釋迦如來が三たび諸菩薩の頂をなでて、法華經が弘く行はれるやうに付囑したこと。〔法華經、屬累品〕爾時釋迦牟尼佛、從二法座一起、現二大神力一、以二右手一摩二無量菩薩摩訶薩頂一、而作二是言一、我於二無量百千萬億阿僧祇劫一、修二習是難レ得阿耨多羅三藐三菩提法一、今以付二囑汝等一、汝等應下當一心流二布此法一、廣令中增益上、如レ是三摩二諸菩薩摩訶薩頂一、而作二是言一、云云、廣宣二此法一、令三一切衆生普得二聞知一。㊁梵語、三摩地の略。〔性靈集、十〕信二一覺之妙行一、修二三摩之難思一。

【三摩地】1640 サンマヂ 佛梵語 Samādhi の音譯。三昧（1650）の㊄に同じ。

【三摩呾吒】1641 サマタタ Samataṭa の音譯。東印度の古國。其の都城は、今のカムタに當り、疆域は、大體ガンジス、ブラマプトラ兩河の三角地帶に亙るものといはれる。〔大唐西域記、十〕三摩呾吒國、周三千餘里、濱二近大海一、地遂卑濕、人性剛烈、形卑色黑。

【三魔】1642 サンマ 佛魔は魔羅 Māra の略、さまたげの意。四魔の中から他化自在天子魔を除いた他の三魔。卽ち煩惱魔・陰魔・死魔をいふ。等覺の菩薩が此の三魔を除く。〔義林章、六本〕三魔體者、一切見・修煩惱障品名二煩惱魔一、因レ惑所レ感五蘊語法名二蘊魔一、依二此五蘊無常死沒一、將死已死名二死魔一。

【三妹】1643 サンマイ 明、景翩翩（5－13983‥354）の字。

【三枚】1644 サンマイ 魚を料理するのに、頭を切り、脊骨を界として兩側の肉を割くこと。肉二枚と骨とで三枚となる。〔狂言記、惣八〕是れは三枚におろすと申す。

【三枚桛】1645 サンマイダナ 小船の一種。兩側と底とが三枚の板から出來てゐる細長い船。三枚棚。〔和漢船用集、五、舟名數江湖川船〕三枚桛。

【三枚襲】1646 サンマイガサネ 小袖三枚を重ねて着ること。

【三枚兜】1647 サンマイカブト 錏シコロの板が三枚ある兜。〔半井本保元物語、義朝白河殿夜討事〕三板兜に染羽の矢負ひ。

【三枚帆】1648 サンマイホ 小舟の帆。

【三枚目】1649 サンマイメ ㊀歌舞伎劇などで、看板の順位が三板目にあることから、滑稽の役をいふ。又、專らそれに扮する役者をいふ。㊁屋根を破つて屋內に侵入する盜賊をいふ。

【三昧】1650 サンマイ ㊀妙處。極致。蘊奧。〔宋史、李之儀傳〕之儀能爲レ文、尤工二尺牘一、軾謂レ入二刀筆三昧一。〔蘇軾、贈二老謙一詩〕瀉レ湯舊得二茶三昧一、覓レ句近窺二詩一斑一。〔書言故事、讚嘆類〕得二妙處一、曰レ得二三昧一。〔故事成語考、釋道鬼神〕儒家曰二精一、釋家曰二三昧一、道家曰二貞一一、總言二奧義之無レ窮。㊁束縛から解放せられること。〔翰林志〕學士每二下レ直出一レ門、謂二之小三昧一、出二銀臺門一上レ馬、謂二之大三昧一、言、去二纏縛一而就二解脫一也。㊂葬場をいふ。〔雍州府志、古蹟門、上〕倭俗、葬場謂二三昧一。㊃明、景翩翩（5－13983‥354）の字。一に三妹に作る。㊄佛梵語 Samādhi の音譯。一心になつて務め專らに思ひ、靜かに想ふ義。正受・正見・正定などと譯す。三摩地。〔金剛經、注〕三昧、梵語、此云二正受一、又云二正見一、遠離九十六種邪一、名二正見一。

【三昧火】1651 サンマイノヒ 佛釋迦の傳へたといふ火。釋迦が入滅後、其の身から發したといふ火。又、法華堂の長夜燈をいふ。〔傳法正宗記〕釋迦以二化期一爲レ近、乃命二迦葉一、以二清淨法眼、及金縷僧伽梨衣一付レ汝、一旦往二拘尸那城一、右脇而臥、泊然大寂、內二之金棺一、待二迦葉至一、而後三昧火燔然而焚、舍利光燭二天地一。〔大乘一覽〕迦葉告言、大聖寶棺、三界之火所レ不レ能レ焚、何況汝之力而能燒乎、於レ時如來胸中三昧之火、隨レ聲而發、迸二出棺外一、漸漸茶毗、經二七日一而香薪乃盡。

【三昧齋】1651′ サンマイサイ 清、錢元章（11－40563‥299）の號。

【三昧場】1652 サンマイバ 僧に死者の冥福を祈らせるところ。墓場。墓地。茶毗所。〔合類節用集、二、乾坤〕三昧場、本朝俗、斥二葬所一云爾、西域所謂尸陀林、是矣。

【三昧耶】1653 サンマヤ 佛梵語 Samaya の音譯。平等・本誓・驚覺・除垢障・不違越等の諸義に用ふ。

【三昧耶曼荼羅】1654 サンマヤマンダラ 佛梵語 Samayamaṇḍala の音譯。四種曼荼羅の一。佛・菩薩・明王・諸天の持つてゐる寶珠・五鈷・刀劍・印契等で組織した曼荼羅で、諸佛の本誓（教化する本來のちかひ）を表はすもの。〔祕藏記、本〕三昧耶曼荼羅、尊等所二執持一器杖・印契、平等義。

【三毛】1655 サンマウ ㊀三本の毛。〔晉書、顧愷之傳〕嘗

圖二裴楷象一、頰上加二三毛一、觀者覺二神明殊勝一。〔急就篇、三、六蓄蕃息豚豕豬、注〕豕之三毛聚者曰レ豬。❷心臟にあるといふ三本の毛。〔史記、扁鵲倉公傳、注〕正義曰、心重十二兩、中有二七孔三毛一。

【三猛】1656 サンマウ 明代、雲南省境內の部落の名。猛猛・猛撒・猛緬をいふ。猛撒は今の瀾滄縣の東境、猛緬は緬寧縣、猛猛は瀾滄縣の北境。〔明史、土司傳〕雲南順寧附境、有二猛猛・猛撒・猛緬一、所謂三猛也、猛猛最強、部落萬人、時與二二猛一爲レ難。

【三萬】1657 サンマン 一萬の三倍。又、數の多いのをいふ。〔詩 魯頌、閟宮〕公徒三萬。〔國語、吳語〕吳爲二帶甲三萬一。〔史記、蘇秦傳〕車不レ過二三百乘一、卒不レ過二三萬一。〔宋書、樂志四、靈芝篇〕陛下三萬歲、慈母亦復然。

【三萬衞】1658 サンマンエイ 衞の名。明、置く。元の開元路。今の滿州遼寧省開原縣の縣城。

【三萬六千頃】1659 サンマンロクセンケイ 廣い土地、又は湖水などにいふ。〔後漢書、郡國志四、震澤在レ西、後名二具區澤一、注〕湖周三萬六千頃。

【三萬六千日】1660 サンマンロクセンニチ 百年の日數。〔李白、襄陽歌〕百年三萬六千日、一日須レ傾二三百杯一。〔故事成語考、老壽幼誕〕在世百年、那有二三萬六千日之樂一。

【三密】1661 サンミツ 佛身密・語密・意密。卽ち身・語・意の三業。密は祕密の意。身・語・意の三業は、法佛自證の境で、凡人の分でないから密といふ。之を如來の三密といふ。又、修行三密は、身に印契を結ぶのを身密、口に眞言を誦するのを語密、意に理を觀ずるのを意密といふ。衆生が之を行へば、如來の三密と平等となり、衆生の三密と如來の三密とは、無二無別となる。三金。〔大藏法數〕密卽祕密、謂二如來身口意三業一、或現レ通、或說レ法、或思惟、皆非三諸菩薩等之所二思義一、故曰二三密一。〔菩提心論〕所レ言三密者、一、身密者、如下結二契印一召中請聖衆上也、二、語密者、如下密誦二眞言一令丙文句了了分明無乙謬誤甲也、三、意密者、如下住二瑜伽相應白淨月圓滿一觀中菩提心上也。

【三藐】1662 サンミャク 佛 Samyak 正等と譯す。〔摩訶般若波羅蜜多心經〕三世諸佛、依二般若波羅蜜多一、故得二阿耨多羅三藐三菩提一。

【三藐院】1663 サンミャクキン 近衞信尹をいふ。近衞流書風の祖。

【三藐三佛陀】1664 サンミャクサンブッダ 佛 Samyaksambud-dha 舊譯は正遍智、新譯は正等覺。遍く諸法の眞理に通達した智。〔智度論、二〕何名二三藐三佛陀一、三藐名レ正、三名レ遍、佛名レ知、是言二正遍知一切法一。

【三藐三菩提】1665 サンミャクサンボダイ 佛阿耨多羅アノクタラ三藐三菩提 Anuttara-samyak" sambodhi の略。正遍智と譯す。遍アマネく一切の法を知る無上の智慧。〔維摩經、佛國品、肇注〕三藐三菩提、秦言二正遍知一。

【三眠】1666 サンミン ❶三度眠る。〔三輔故事〕漢苑中柳、狀如二人形一、曰二人柳一、一日三眠三起。❷蠶が蛹となるまでの閒の三度目の脫皮。〔李白、寄二東魯二稚子一詩〕吳地桑葉綠、吳蠶已三眠。〔蠶書〕寸二十分、晝夜五食九日、不レ食一日一夜、謂二之初眠一、又七日、再眠如レ初、又七日、三眠如レ初、又七日、謂二之大眠一。

【三眠柳】1667 サンミンリウ 漢の園中にあつた柳。人の形に似て、一日に三度倒れ、三度起きるといふ。〔本草、檉柳〕釋名、三眠柳、時珍曰、三輔故事云、漢武帝苑中有レ柳、狀如レ人、號曰二人柳一、一日三起三眠。〔事文類聚後集、二十三〕三眠柳、漢園中有レ柳、狀如レ人、號曰二人柳一、一日三起三倒。

【三務】1668 サンム 春・夏・秋の三季の農務。〔左氏、昭、二十三〕民狎二其野一、三務成レ功。〔注〕春・夏・秋三時之務也。〔管子、君臣下〕民有二三務一、不レ布二其民一、非二其民一也。〔注〕三務、謂二春夏秋務レ農、人不レ務レ三、則餒餓成レ變、故民非二其民一也。

【三無】1669 サンム 無聲の樂と無體の禮と無服の喪。卽ち形體なくして、其の精神のあること。〔禮、孔子閒居〕子夏曰、五至既得而聞レ之矣、敢問、何謂二三無一。孔子曰、無聲之樂、無體之禮、無服之喪、此之謂二三無一。〔疏〕無聲之樂、無體之禮、無服之喪、此三者、皆謂二行レ之在レ心、外無二形狀一、故稱レ無也。

【三無私】1670 サンムシ 天・地・日月の公平なこと。天に私覆なく、地に私載なく、日月に私照がない。〔禮、孔子閒居〕孔子曰、天無二私覆一、地無二私載一、日月無二私照一、奉二斯三者一、以勞二天下一、此之謂二三無私一。

【三無性】1671 サンムシャウ 佛唯識宗の用語。相無性・生無性・勝義無性の三つをいふ。遍計所執性・依他起性・圓成實性の三性を佛智から見たときの名稱。三無自性・三種無性ともいふ。三性(812)の❷を見よ。〔唯識論、九〕依二此前所レ說三性一、立二彼後說三種無性一、謂卽相・生・勝義無性。

【三無坐處】1672 サンムザショ 宰相・御史・員外官の人數が、官廳に其の坐席の無いほど多くて、其の實、用のないこと。〔通典、職官典、一〕逮二乎景龍一、官紀大紊、復有二斜封一無二坐處一之誦興焉。〔注〕政出二多門一、遷除甚衆、自二宰相一至二於內外員外官、及左右臺御史一、多者則數踰二十倍一、皆無三廳事可二以處一レ之、故時人謂二之三無坐處一、謂二宰相御史及員外官一也。

【三無差別】1673 サンムシャベツ 佛心無差別・佛無差別・衆生無差別の三つをいふ。〔華嚴經〕心佛及衆生、是三無差別。

【三無道人】1674 サンムダウジン 清、李對(**6**－**14459**‥742)の號。

【三無漏學】1675 サンムロガク 佛佛教を奉ずる者がひとしく學ぶべき戒・定・慧の三學をいふ。戒によつて定を資け、定によつて慧を發し、慧によつて遂にさとりを得て無漏の身となる。〔楞嚴經、六〕攝レ心爲レ戒、因レ戒生レ定、因レ定發レ慧、是則名爲二三無漏學一。

【三名】1676 サンメイ 公・卿・大夫。〔賈公彥、周禮正義序〕是以易通卦驗云、天地成レ位、君臣道生、君有二五期一、輔有二三名一、注云、三名、公・卿・大夫。

【三名法】1677 サンメイハフ 三命名法(1682)に同じ。

【三命】1678 サンメイ ❶周制で、大國・次國の卿、並に天子の上士に任ぜられること。〔周禮、春官、大宗伯〕三命受レ位。〔周禮、春官、典命〕小國之君、其卿三命。〔禮、王制〕大國之卿、不レ過二三命一。〔禮、玉藻〕一命、縕紱幽衡、再命、赤紱幽衡、三命、赤紱葱衡。〔左氏、成、二〕三命三服。〔左氏、昭、十二〕三命踰二父兄一。〔國語、周語上〕三命、而後卽冕服。〔荀子、大略〕三命、族人雖二七十一、不二敢先一。❷人が天から受ける三つの運命。受命・遭命・隨命。〔孝經緯援神契〕命有二三科一、有二受命一、以保レ慶、有二遭命一、以謫レ暴、有二隨命一、以督レ行。〔注〕受命、謂二年壽一也、遭命、謂二行レ善而遇レ凶也、隨命、謂下隨二其善惡一而報上レ之。❸人が天から受ける三つの壽齡。上壽(百二十)・中壽(百)・下壽(八十)。〔孫楚、征西官屬送二於陟陽侯一作詩〕三命皆有レ極。〔注〕善曰、養生經、黃帝曰、上壽百二十、中壽百年、下壽八十。❹三度敎誡する。〔皇甫謐、女怨詩〕施レ衿結レ帨、三命丁寧。

【三命之服】1679 サンメイノフク 三命の者に賜はる服。三命の❶を見よ。

【三命而俯】1680 サンメイセラレテフス 官位が進むに隨つて益〻謙遜すること。〔左氏、昭、七〕一命而僂、再命而傴、三命而俯。

【三命通會】1681 サンメイツウクワイ 書名。十二卷。撰者未詳。星命のことを記す。〔四庫提要、子、術數類〕。

【三命名法】1682 サンメイメイハフ 生物學で學名の書き方の一。ラテン語で屬名の次に種名を書くのを二命名法(又、二名法)といふに對し、種名の次に更に亞種或は變種の名を書き加へる方式を三命名法といふ。三名法。

【三命指迷賦】1683 サンメイシメイフ 書名。一卷。宋、岳珂補注。術家の書。原本が早く散佚したので、宋志には著錄せられてゐない。元・明人の書中に多く引用せられてゐるから、恐らく宋人の作であらうと思はれる。〔四庫提要、子、術數類〕。

【三明】1684 サンメイ ❶前漢の段紀明・皇甫威明・張然明の三人をいふ。〔後漢書、段熲傳〕熲、字紀明、云云、初熲與二皇甫威明・張然明一、並知名顯達、京師稱爲二涼州三明一云。〔後漢書、皇甫規等傳贊〕山西多レ猛、三明儷蹤。❷晉の諸葛恢・荀闓・蔡謨の三人をいふ。三人倶に道明を其の字とした。〔晉書、諸葛恢傳〕恢、字道明、於レ時、潁川荀闓、字道明、陳留蔡謨、字道明、與レ恢倶有二名譽一、號曰二中興三明一、人爲レ之語曰、京都三明、各有レ名、蔡氏儒雅、荀葛淸。❸日・月・星。〔古今注、問答釋義〕

程雅問二董仲舒一曰、自レ古、何謂稱二三皇五帝一、對曰、三皇、三才也、五帝、五常也、三王、三明也、五霸、五嶽也。㊃淸、張翼星(4-9812・・1566)の字。㊄佛サンミヤウ 佛に在つては三達、羅漢に在つては三明といふ。明とは、智の法を知ることが顯かなのをいひ、智明又は智證明ともいふ。一は宿命明(自他の宿世の生死の相を知る)、二は天眼明(自他の未來世の生死の相を知る)、三は漏盡明(現在の苦相を知り、一切の煩惱を斷つ智)である。又、宿住智證明、死生智證明、漏盡智證明と名づける。〔倶舍論、二十七〕言二三明一者、一、宿住智證明、二、死生智證明、三、漏盡智證明。〔王巾、頭陀寺碑文〕氣茂二三明一、情超二六入一。〔注〕善曰、僧肇曰、天眼・宿命・漏盡、爲二三明一。

【三明六通】1685 サンミヤウロクツウ 佛三種の智と六種の自在な神通。阿羅漢の德。三明を見よ。〔倶舍論、二十七〕通有二六種一、一、神境智證通、二、天眼智證通、三、天耳智證通、四、他心智證通、五、宿住隨念智證通、六、漏盡智證通。

【三面】1686 サンメン ❶三つの顏。三面人を見よ。❷三つの平面。〔周禮、春官、小胥、注〕軒縣三面、其形曲。❸三つの方面。三方。〔漢書、張良傳〕南有二巴蜀之饒一、北有二胡苑之利一、阻二三面一而固守、獨以二一面一東制二諸侯一。〔帝王世紀〕解二其三面一、而置二其一面一。〔嚴遂成、題二介白亭一詩〕遶レ亭三面水如レ烟、好是霏微釀レ雨天。❹三花面。小花面ともいふ。戲曲俳優の丑。〔揚州畫舫錄〕三面以レ陳二嘉言一爲レ最、一出二鬼門一、令二人大笑一。❺新聞紙の第三紙面。普通に世俗の出來事を記載する所。社會面。

【三面角】1687 サンメンカク 三つつ平面が一點に會して成す角。

【三面種】1688 サンメンダネ 新聞紙の三面記事となる種。

【三面人】1689 サンメンジン 頭の三方に顏のある人。〔山海經、大荒西經〕大荒之中、有レ山、名曰二大荒之山一、日月所レ入、有レ人焉、三面、是顓頊之子、三面一臂、三面之人不レ死。〔注〕人頭三邊、各有レ面也。〔山海經、海外南經〕三首國在二其東一、其爲レ人、一身三首。〔畢注〕淮南子墬形訓、有二三頭氏一、呂氏春秋云、禹西至二三面之鄉一。

【三面網】1690 サンメンノアミ 殷の湯王が四面に張つた網の三面をはづして、鳥獸にまで仁を及ぼした故事。〔史記、殷紀〕湯出、見二野張二網四面一、祝曰、自二天下四方一、皆入二吾網一、湯曰、嘻、盡レ之矣、乃去二其三面一、祝曰、欲レ左左、欲レ右右、不レ用レ命者、乃入二吾網一。

【三面記事】1691 サンメンキジ 新聞が四頁の頃、第三紙面に載せられた世俗又は社會の記事。社會記事。

【三面記者】1692 サンメンキシヤ 新聞記者で、世俗の出來事、又は社會記事を擔當するもの。三面記事擔當の新聞記者。

【三文】1693 サンモン ❶一文錢三つの稱。又、その値。〔川傍柳、五〕三文と附木へ書いてけちな梨子。❷極めて價値の低いこと。

【三文判】1694 サンモンバン 出來合ひの粗末な印判。

【三門】1695 サンモン ❶開門・休門・生門。〔後漢書、高彪傳〕天有二太一一、五將三門、地有二九變丘陵山川一。〔注〕太乙式、凡擧レ事、皆欲下發二三門一、順中五將上、發二三門一者、開門・休門・生門。〔梁簡文帝、從軍行〕三門應二遁甲一、五壘學二神兵一。〔庾信、慕容公碑〕野闞二三門之陣一。❷人の行を情欲・禮義・獨智の三つに分け、夫々の行に入る三つの入口をいふ。〔法言、修身〕天下有二三門一、由二於情欲一、入レ自二禽門一、由二於禮義一、入レ自二人門一、由二於獨智一、入レ自二聖門一。❸山名。㋑砥柱のこと。河南省陝縣の東北、黃河の中に在る。〔水經、河水注〕昔禹治二洪水一、山陵當レ水者鑿レ之、故破レ山以通レ河、河水分流、包レ山而過、山見二水中一、若レ柱然、故曰二砥柱一也、三穿既決、水流疏分、指狀表目、亦謂二之三門一矣。〔趙冬曦、三門賦序〕砥柱山六峯、皆生二河之中流一、最北有二兩柱一相對、距レ崖而立、卽三門也、次於二其南一有二孤峯揭起一、西有二孤石數丈一、復次其南有二三峯一。〔陝州志〕三門、中神門、南鬼門・北人門、惟人門修廣、可レ行レ舟、鬼門尤險、舟筏入者、罕レ得レ脫、三門之廣、約三十丈。㋺浙江省寧海縣の東の海中に在る。三門灣を見よ。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、甯海縣〕三門山、在二縣東二百五十里海中一。❹佛㋑山門の制で、空門・無相門・無作門をいふ。共に三解脫門をあらはしてゐる。尙、唯一門でも三門といふ。〔釋氏要覽、上〕凡寺院有下開二三門一者上、只有二一門一、亦呼爲二三門一者、何也、佛地論云、大宮殿・三解脫門、爲二所レ入處一、大宮殿、喩二法空涅槃一也、三解脫門、謂二空無相無作一、今寺院、是持戒修道、求レ至二涅槃一人居レ之、故由二三門一入也。㋺智慧門・慈悲門・方便門の稱。㋩教・律・禪の稱。

【三門灣】1696 サンモンワン 海灣の名。浙江省象山半島の南、寧海縣の東。南田島が外蔽をなしてゐる。灣內には群島が羅列し、其の中に三門山がある。氣候は溫和、物產は豐富。〔讀史方輿紀要、浙江、甯波府、象山縣〕三門港、在二縣西南百里一、港口爲二石浦巡司一。

【三問】1697 サンモン ❶他國の境に入れば其の禁制を問ひ、國に入れば風俗を問ひ、又、人の門を入れば先人の諱を問ふこと。〔禮、曲禮上〕入レ境而問レ禁、入レ國而問レ俗、入レ門而問レ諱。❷三たび訪問する。三たび見舞ふ。〔周禮、秋官、大行人〕三問三勞。〔荀子、大略〕君於二大夫一、三問二其疾一、三臨二其喪一。

【三問三答】1698 サンモンサンタフ 鎌倉・室町時代に、官府が訴狀を受理する時に、問狀を被告にも發してその答解を求め、訴人と被告と、互に書面を以て訴陳すること三回に及ぶのをいふ。〔庭訓往來、八月〕番二三問三答訴陳一、於二御前一、遂二對決一、任二雌雄是非一。

【三陽】1699 サンヤウ ❶易の卦の三つの陽爻。〔易、需〕有二不レ速之客三人來一。〔疏〕以二一陰一而爲二三陽之主一。〔禮、月令、疏〕正月、三陽既上、成爲二乾卦一。❷木の數。〔書、洪範〕三曰、木。〔疏〕正月爲レ春、木位也、三陽已生、故三爲二木數一。❸古代の醫學に於て、手足に在るといふ太陽・少陽・陽明。三陽五會を見よ。〔史記、扁鵲傳〕乃使二弟子子陽厲二鍼砥石一、以取二外三陽五會一。〔韓詩外傳、十〕三陽五輸。❹唐の宮殿の名。〔唐書、武后紀〕久視元年、復二于神都一、作二三陽宮一。❺晉の張孟陽(載)・張景陽(協)・張季陽の三人。〔張說、洛州張司馬集序〕晉則三陽藻綴。❻山陽・東陽・曁陽の三地。〔世說新語、雅量、注〕中興書曰、初郭璞筮、冰子孫必有二大禍一、唯固二三陽一可二以有レ後、故希求レ鎭二山陽一、弟友爲二東陽一、希自家二曁陽一。❼正月。三陽交泰を見よ。❽歌曲の名。〔宋書、樂志四、白紵舞歌〕鳴弦淸歌、及二三陽一。

【三陽橋】1700 サンヤウケウ 地名。江西省宜春縣の北。三陽橋水のほとり。

【三陽集】1701 サンヤウシフ 地名。江西省進賢縣の北。武陽・洞陽二湖の水が南陽湖に會する所にあるので名を得た。

【三陽交泰】1702 サンヤウカウタイ 新年の壽詞。易の泰卦䷊は、三陽が下にあつて、正月に當るから、新年の意となる。〔翰墨全書、節序門、送禮翰〕元旦、三陽交泰、萬象昭蘇。〔歲時百問〕立春半月、三陽交泰、雪消爲レ雨、降爲レ水、故曰二雨水一。

【三陽五會】1703 サンヤウゴクワイ 醫家の語。手足にある太陽・少陽・陽明の三陽と、百會・胸會・聽會・氣會・臑會の五會。三陽五輸。〔史記、扁鵲傳〕乃使二弟子子陽厲二鍼砥石一、以取二外三陽五會一。〔注〕正義曰、素問云、手足各有二三陰三陽一、太陰・少陰・厥陰、太陽・少陽・陽明也、五會、謂二百會・胸會・聽會・氣會・臑會一也。

【三陽五輸】1704 サンヤウゴユ 三陽五會に同じ。〔韓詩外傳、十〕扁鵲入砥二鍼礪石一、取二三陽五輸一。

【三楊】1705 サンヤウ 三人の楊姓の人。❶晉の楊駿・楊珧・楊濟。〔晉書、楊駿傳〕帝自二太康一以後、天下無事、不二復留一心萬機一、惟耽二酒色一、始寵二后黨一、請謁公行、而駿及珧・濟、勢傾二天下一、時人有二三楊之號一。❷唐の楊憑・楊凝・楊凌の兄弟三人の文士。〔唐書、楊憑傳〕善二文辭一、與二弟凝・凌一、皆有レ名、大曆中、踵二躍進士第一、時號二三楊一。❸明の仁宗の時の、楊士奇・楊榮・楊溥の三名匠。其の三人の詩風を臺閣體といふ。又、三楊の住居の在る所によつて、士奇を西楊、榮を東楊、溥を南楊ともいふ。〔王鏊、贈二少傅徐公一序〕國家有二天下一百三十年、名臣稱二三楊一、至レ公始克纘二其美一。〔吾學編〕楊溥傳、正統四年、進二少保一、兼二武英殿大學士一、時稱二三楊學士一、文貞爲二西楊一、文敏東楊、公南楊。

【三養】1706 サンヤウ ❶福を養ひ、氣を養ひ、財を養ふことの三つ。〔羣談採餘〕東坡在二黃州一、嘗自書云、東坡居士、自レ今以往、早晚飮食、不レ過二一爵一肉一、云云、有二三養說一、一曰、安レ分以養レ福、二曰、

寬レ胃以養レ氣、二曰、省レ費以養レ財。❶神を養ひ、精を養ひ、氣を養ふことの三つ。〔養生雜訣〕寡二思慮一以養レ神、寡二嗜欲一以養レ精、寡二言語一以養レ氣。

【二養基】1707キ　肥前國の郡名。

【二役】1708ヤク　❶江戸時代、幕府の領地に賦課した御料所村村御傳馬宿入用米と六尺給米と御藏前入用との稱。〔地方凡例錄、五、二役〕御料村村御傳馬宿入用米・六尺給米・御藏前入用、是れを二役といひて、高懸りに加納む。❷相撲の大關・關脇・小結の稱。

【二藥】1709ヤク　清、汪德鉞(6－17154‥320)の字。

【二躍】1710ヤク　三たび飛び上がる。〔史記、刺客、豫讓傳〕於レ是、襄子大義レ之、乃使二使持レ衣與一レ豫讓一、豫拔レ劍三躍而擊レ之。

【二雄】1711ユウ　二人の英傑。❶漢の韓信・彭越・英布。〔晉書、伏滔傳〕黥布以二三雄之選一、功成二陔下一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕矯矯二雄、至二於垓下一。〔注〕善曰、三雄、韓信・彭越・英布。❷三國の曹操・劉備・孫權。〔潘岳、爲二賈謐一贈二陸機一詩〕三雄鼎足、孫啓二南吳一。〔注〕善曰、三雄、卽三國之主、銑曰、三雄、魏曹操・蜀劉備・吳孫權。

【二餘】1713ヨン　❶冬は歲の餘、夜は日の餘、陰雨は時の餘。學問をするには、此の剩餘の時間で足りるとの意。〔魏志、王肅傳、注〕魏略曰、董遇善治二老子一、云云、從學者云、苦二渴無一レ日、遇言、當レ以二三餘一、或問二三餘之意一、遇言、冬者歲之餘、夜日之餘、陰雨時之餘也。〔庾信、奉二和永豐殿下言一志詩〕託レ情忻二六學一、遊レ目愛二三餘一。〔任昉、天監三年策二秀才一文〕聽覽之暇、三餘靡レ失。〔懷風藻、犬上王、遊二覽山水一詩〕暫以二三餘暇一、遊息瑤池濱。❷餘干・餘姚・餘杭をいふ。〔水經、漸江水注〕漢末童謠云、天子當レ興二東南三餘之間一。〔小學紺珠、地理類、三餘〕餘干・餘姚・餘杭。

【二餘齋】1714サイ　清、鄧大林(11－39630‥176)の號。

【二餘集】1715シュウ　書名。四卷。宋、黃彦平撰。別本に、黃次岑・黃季岑の作とあるのは、皆傳寫の誤か。〔四庫提要、集、別集類〕。

【二餘堂】1716ダウ　清、馮文昌(12－44579‥282)の室名。

【二餘偶筆】1717グウヒツ　書名。十六卷。續筆十二卷。清、左暄撰。

【二餘贅筆】1718ゼイヒツ　書名。一卷。明、都印撰。見聞を雜錄し、間〻辨論を載せてゐる。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【二雍】1719ヨウ　禮を講ずるところ。明堂・辟雍・靈臺をいふ。二雍宮。〔後漢書、章帝紀〕備二二雍之教一、躬二養老之禮一。〔後漢書、儒林傳序〕中元元年、初建二二雍一。〔班固、東都賦〕盛二二雍之上儀一、修二袞龍之法服一。〔注〕善曰、應劭曰、辟雍・明堂・靈臺也、銑曰、二雍、講レ禮之處。

【二雍宮】1720キュウ　二雍に同じ。〔漢書、河間獻王德傳〕武帝時、獻王來朝、獻二雅樂一、對二二雍宮一。〔注〕應劭曰、辟雍・明堂・靈臺也、雍、和也、言二天地・君臣・人民皆和一也。

【二踊】1721ヨウ　喪に當つて、二度踊り上つて哭すること。士の身分の者の禮。〔禮、雜記上〕公七踊、大夫五踊、婦人居レ間、士二踊、婦人皆居レ間。〔左氏、宣、十八〕既復命、袒括レ髮、卽レ位哭、三踊而出、遂奔レ齊。〔史記、齊太公世家〕枕二公尸一而哭、三踊而出。

【二弋】1722ヨク　弋(イグルミ)で捕へた三種の鳥。〔晏子、雜、下〕晏子相二景公一、食二脫粟之食一、炙二三弋一、五卵菁菜耳矣、云云、炙二三弋一、士之二乞也、五卵士之二乞也。

【二浴】1723ヨク　三たび浴する。〔國語、齊語〕莊公使二束縛以予一レ齊使一、齊使受レ之而退、比レ至、三二浴三浴之一、桓公親逆二之于郊一。

【二浴三薰】1724サンヨクサンクン　三浴三薰(321)を見よ。

【二欲】1725ヨク　❶君が民に欲求する三つのもの。卽ち、求・禁・令。〔管子、法法〕君有二三欲於民一、三欲不レ節、則上位危、三欲者何也、一曰求、二曰禁、三曰令、求必欲レ得、禁必欲レ止、令必欲レ行。❷㈠飲食・睡眠・淫。〔翻譯名義集〕。㈡形貌欲・姿態欲・細觸欲。〔涅槃經、十二〕。

【二翼】1726ヨク　舟の名。大翼・中翼・小翼の三つをいふ。戰船の快捷なもの。轉じて、輕捷の喩。琅琊代醉編、卷二十二に見ゆ。〔張協、七命〕爾乃浮二三翼一、戲二中沚一。〔注〕善曰、越絕書、伍子胥水戰、兵法內經曰、大翼、一艘長十丈、中翼、一艘長九丈六尺、小翼、一艘長九丈。〔謝靈運、撰征賦〕迅二三翼一、以魚麗、襲二兩服一、以鴈逝。〔駱賓王、晩泊二江鎭一詩〕四運移レ陰律、三翼泛二陽侯一。

【二籟】1727ライ　三種の音響。天籟・地籟・人籟の稱。〔莊子、齊物論〕汝聞二人籟一、而未レ聞二地籟一、汝聞二地籟一、而未レ聞二天籟一。

【二老】1728ラウ　❶二人の長老。三老五更を見よ。❷祭酒をいふ。古、賓客が主人の酒食を受ける時、其の中の一人の長老が酒を擧げて地を祭つたのに本づく。〔通典、職官典、諸卿下、國子監〕孫卿在レ齊、爲二三老一、稱二祭酒一。胡廣曰、凡官名祭酒、皆一位之元長、古者賓得二主人饌一、則老者一人、擧レ酒以祭レ地、故以二祭酒一爲レ稱。〔稱謂錄、祭酒、三老〕通典、孫卿在レ齊爲二三老一、稱二祭酒一。❸漢代に、一鄕中の長老で、敎化を掌つた人。〔漢書、高帝紀上〕二年二月癸未、擧二民年五十以上有二脩行一、能帥二衆爲一レ善、置以爲二三老一、鄕一人、擇二鄕三老一人一爲二縣三老一、與二縣令丞尉一、以レ事相敎、復勿二繇戍一。〔後漢書、光武紀上〕所到部縣輒見二二千石長史三老官屬一至二佐史一、考察黜陟、如二州牧行一レ部事。〔後漢書、王景傳〕父閎爲二郡三老一。❹家老。〔逸周書、大匡解〕王乃召二冢卿三老一、吏大夫百執事之人一、朝二于大庭一。〔月令章句〕三老、國老也。❺工老・商老・農老をいふ。〔左氏、昭、三〕公聚二朽蠹一而三老凍餒。〔服注〕三老者、工老・商老・農老。❻上壽(百歲)・中壽(九十歲)・下壽(八十歲)をいふ。三壽。〔左氏、昭、三〕三老、注‥三老、謂二上壽・中壽・下壽一、皆八十已上、不レ見二養遇一。〔疏〕杜以爲、上中下壽、言二皆八十以上一、則上壽百年以上、中壽九十以上、下壽八十以上、此亦以意言レ之、釋二此文一耳。❼水夫。船頭。〔杜甫、夔州歌〕長年三老長歌裏、白晝攤レ錢高浪中。〔古今詩注〕川峽以二篙手一爲二三老一。❽宋の三老。文彥博・張方平・范鎭。〔小學紺珠、名臣類下、三老〕文彥博・張方平・范鎭。❾宋の和州の三老。傅堯俞・范純仁・劉摯。〔小學紺珠、名臣類下、三老〕傅堯俞・范純仁・劉摯。❿後漢の樊崇(6－15414‥39)の自稱。〔後漢書、劉盆子傳〕瑯琊人樊崇、起二兵於莒一、自號二三老一、初崇等、以二困窮一爲レ寇、無二攻城徇地之計一、衆既浸盛、乃相與爲レ約、其中最尊者、號二三老一、次從事、次卒吏、汎相稱曰二臣人一。

【二老五更】1729ゴカウ　周代、天子は三老五更を設け、父兄の禮を以て之を養つた。三老五更の人數に就いては二說がある。〔禮、文王世子〕適二東序一、釋二奠於先老一、遂設二三老五更羣老之席位一焉。〔禮、樂記〕食二三老五更於大學一。㈠三老五更を各一人とする說。〔禮、文王世子、注〕三老五更、各一人也、皆年老更事、致仕者也、天子以父兄養レ之、示二天下之孝悌一也、名以二三五一者、取レ象二辰五星一、天所二因以照一明天下一者。〔禮、樂記、注〕三老五更、互言之耳、皆老人更知二三德五事一者也、三德、謂二正直剛柔一、五事、謂二貌言視聽思一也。㈡三老を二人とし、五更を五人とする說。〔禮、文王世子、疏〕蔡邕以爲、更字爲二叟老稱一、又以二三老一爲二二人一、五更爲二五人一。

【三老人間一年】1730サンラウジンカンネン　三人の老人が年齡を問ひ合つた故事。〔東坡志林〕有二三老人一、相逼問レ年、一曰、海水變二桑田一輒下二一籌一、今滿二十籌一矣。

【三郎】1731ラウ　❶二つの官。㈠中郎・外郎・散郎。一說に、議郎・中郎・散郎。又、郎中・車郎・戶郎。〔史記、秦始皇紀〕以二罪過一、連二逮少近官三郎一、無二得レ立者一。〔注〕索隱曰、謂二中郎・外郎・散郎一正義曰、漢書百官表云、有二議郎・中郎・散郎一、又有二左右三將一、謂二郎中・車郎・戶郎一。㈡中郎・郎中・侍郎。〔小學紺珠、職官類、三郎〕中郎・侍郎・郎中。❷神の名。漢の武帝に殺されて夜郎侯を祠つたもの。〔後漢書、西南夷傳〕武帝元鼎六年、平二南夷一、爲二牂牁郡一、夜郎侯迎降、天子賜二其王印綬一、後遂殺レ之、云云、封二其子一爲レ侯、死配二食其父一、今夜郎縣有二竹王三郎神一、是。❸唐の玄宗の小名。〔開天傳信記〕天寶初、上遊二華淸宮一、有二劉朝霞者一、獻レ賀レ幸、温泉一詞一、曰、遮莫你古時五帝、豈如二我今日三郎一。〔懶眞子〕開元中有レ人、獻二俳文於明皇一、其略云、說二甚三皇五帝一、不レ如二來告三郎一、三郎、謂二明皇一也。〔黃庭堅、再和二熊主簿梅花十絕一、詩〕莫下將二花與一レ楊妃一、比上能與二

三郎作禍胎。❹サブラウ 三男をいふ。〔伊勢物語〕さぶらうなりけるこ。

【三郎坂】1732 サイサカ 姓氏。〔姓林全書〕。

【三勞】1733 サンラウ 三度ねぎらふ。丁寧にねぎらふ。〔周禮、秋官、大行人〕三問三勞。

【三樂】1734 サンラク ❶三つの樂しみ。㋑孟子の所謂三樂。一は、父母倶に存し、兄弟事故無く、一家團圝を得ること。二は、俯仰天人に愧ぢず、公明正大なこと。三は、天下の英才を教育すること。〔孟子、盡心上〕孟子曰、君子有三樂、而王天下、不與存焉、父母倶存、兄弟無故、一樂也、仰不愧於天、俯不怍於人、二樂也、得天下英才、而教育之、三樂也。㋺曾子の三樂。一は、親有つて畏る可く、君有つて仕ふ可く、子有つて遺す可きこと。二は、親有つて諫む可く、君有つて去る可く、子有つて怒る可きこと。三は、君有つて喩す可く、友有つて助く可きこと。〔韓詩外傳、九〕子夏曰、敢問三樂、曾子曰、有親可畏、有君可事、有子可遺、此一樂也、有親可諫、有君可去、有子可怒、此二樂也、有君可喩、有友可助、此三樂也。㋩此の世に生れて得た三つのよろこび。卽ち、人と生れ、男であり、長壽を得ること。〔列子、天瑞〕孔子遊於太山、見榮啓期、鹿裘帶索、鼓琴而歌、孔子問曰、先生所爲樂、何也、天生萬物、唯人爲貴、而吾得爲人、是一樂也、男女之別、男貴女卑、既吾得爲男矣、是二樂也、人生不見日月、有不免襁褓者、吾年九十矣、是三樂也。❷春・夏・秋の三時の務を勵まし、其の業をたのしましめること。〔國語、越語下〕范蠡對曰、四封之內、百姓之事、時節三樂。〔注〕三樂、三時之務、使之勸事樂業也。❸サンガウ 三つの願ひ望むもの。これに、益と損とあり、禮樂を節し、人の善を言ひ、賢友の多いのを好み望むのは益。驕樂・佚遊・宴樂を好み望むのは損。〔論語、季氏〕益者三樂、損者三樂、樂節禮樂、樂道人之善、樂多賢友、益矣、樂驕樂、樂佚遊、樂宴樂、損矣。〔集注〕樂、五教反。

【三樂居士】1735 サンラクコジ 宋、高翥（12－45313‥618）の號。

【三臘】1736 サンラフ 人が生れてから廿一日目をいふ。臘は七日。〔夢粱錄、育子〕足月既坐蓐分娩、云云、七日名一臘、十四日、謂之二臘、廿一日、名曰三臘。

【三巒】1737 サンラン 觀の名。又、封巒觀ともいふ。〔揚雄、甘泉賦〕度三巒兮偈棠黎。〔注〕善曰、晉灼曰、黃圖無三巒、相如傳、有封巒觀、三巒、卽封巒觀也。

【三吏】1738 サンリ 三公（535）の❶に同じ。又、三卿の吏。〔左氏、成、二〕王使委于三吏。〔注〕三吏、三公也、三公者、天子之吏也。〔逸周書、大匡解〕王乃召冢卿・三老・三吏・大夫・百執事之人。〔注〕三吏、三卿也。〔杜弼、爲東魏檄梁文〕位在三吏、邑啓千社。

【三利】1739 サンリ 三つの利益。三益。〔左氏、昭、十四〕仲尼曰、叔向古之遺直也、云云、三言而除三惡、加三利、殺親益榮、猶義也夫。〔漢書、溝洫志〕通渠有三利、不通有三害。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕得一夫而失一國、除三惡而加三利。

【有三利必有三患】1740 サンリアレバカナラズサンクワンアリ 三つの利があれば、必ず三つの心配もある。爵位の高いものは人に妬まれ、官の立派なものは主君に惡まれ、祿の多いものは怨を受ける。〔韓詩外傳、七〕孫叔敖遇狐丘丈人、狐丘丈人曰、僕聞之、有三利、必有三患、子知之乎、孫叔敖蹵然易容曰、小子不敏、何足以知之、敢問、何謂三利、何謂三患、狐丘丈人曰、夫爵高者、人妬之、官大者、主惡之、祿厚者、怨歸之、此之謂也。

【三李】1741 サンリ ❶三本の李の樹。❷後魏の李詵・李靈・李遐をいふ。〔北史、高允傳〕趙實名區、世多奇士、山岳所鍾、挺生三李。〔小學紺珠、氏族類、三李〕李詵・靈・遐、高允徵士頌、山嶽所鍾、挺生三李。

【三李堂】1742 サンリダウ 清、金學蓮（11－40152‥1216）の室名。

【三里】1743 サンリ ❶一里の三倍。又、三里四方。〔孟子、公孫丑下〕三里之城、七里之郭。❷脛の上外方の、稍〻くぼんだ所。灸點の名どころ。〔書言字考節用集、五、肢體〕三里、灸穴。〔徒然草、百四十八〕四十以後の人、身に灸を加へて、三里をやかざれば、上氣の事あり。

【三里管】1744 サンリクワン 地名。廣西省上林縣の東北。巡業・撫安・古城等の里をいふ。清、三里營を置く。

【三里橋市】1745 サンリケウシ 地名。❶江蘇省無錫縣の門外。運河に臨み、米の集散地。❷湖南省益陽縣の南、資江の南岸。一名、江南市。

【三流】1746 サンリウ 三等の流刑。二千里・二千五百里・三千里。〔唐律、名例〕流刑三、二千里・二千五百里・三千里。〔疏議〕又曰、五流有宅、五宅三居、大罪投之四裔、或流之于海外、次九州之外、次中國之外、蓋始於唐虞、今之三流、卽其義也。

【三綹】1747 san¹ liu³ 口髭と兩頰の髭。

【三劉】1748 サンリウ ❶宋の劉攽（字は貢甫）・劉敞（字は原甫）兄弟と、敞の子奉世（字は仲馮）との三人をいふ。〔郤掃編〕劉貢甫・原甫・子仲馮、皆精於漢書、每讀隨所得釋之、後成一編、號三劉漢書、正前人之失。❷宋の劉渙（字は凝之）と劉恕（字は道原）と劉義仲（字は壯輿）とをいふ。〔經學歷史、經學復盛時代〕至宋、有三劉宋祁之校史。

【三劉家集】1749 サンリウカシフ 書名。一卷。宋、劉元高編。劉渙・劉恕・劉義仲の文集。渙・恕・義仲の祖孫父子三代は、並に剛直で知られた人々であるが、其の文が散佚したので、咸淳中、元高が始めて集めて此の書を作つた。〔四庫提要、集、總集類〕。

【三力】1750 サンリキ 佛 大日經に說く三つの力。自己の功德力（人の修行の力）・如來の加持力（佛の衆生を攝受する力）・法界の力（世間の力）をいふ。〔大日經、悉地出現品〕以我功德力・如來加持力、及與法界力、周遍衆生界。

【三陸】1751 サンリク ❶晉の陸機・陸雲・陸耽の三兄弟をいふ。〔晉書、陸雲傳〕雲弟耽、爲平東祭酒、亦有清譽、與雲同遇害、大將軍參軍孫惠、與淮南內史朱誕書曰、不意三陸、相攜闇朝、一旦湮滅、道業淪喪、痛酷之深、荼毒難言、國喪俊望、悲豈一人。❷南齊の陸慧曉の三子、僚・任・倕をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三陸〕陸慧曉三子、僚・任・倕。〔陔餘叢考、兩三陸〕南齊書、陸慧曉之子、僚・任・倕、並有美名、人稱三陸。❸宋の陸九韶・陸九淵・陸九明をいふ。〔明一統志〕三陸先生祠、在撫州府學西、祀宋陸九韶・九淵・九明。❹陸前・陸中・陸奧の三國をいふ。

【三立】1752 サンリツ 清、上官鉉（1－13‥194）の字。

【三律】1753 サンリツ 櫛で三度頭をとかす。〔荀子、禮論〕濡櫛三律。〔注〕律、理髮也。

【三良】1754 サンリヤウ 三人の良臣。❶春秋時代の鄭の三人の良臣。叔詹・堵叔・師叔。〔左氏、僖、七〕鄭有叔詹・堵叔・師叔三良、爲政。❷秦の穆公に殉死した三良臣。奄息・仲行・鍼虎。〔詩、秦風、黃鳥序〕黃鳥哀三良也。〔箋〕三良、三善臣也、謂奄息・仲行・鍼虎也。〔左氏、文、六〕秦伯任好卒、以子車氏之三子、奄息・仲行・鍼虎爲殉、皆秦之良也、國人哀之、爲之賦黃鳥。〔史記、蒙恬傳〕昔者秦穆公、殺三良而死。〔潘岳、寡婦之賦〕感三良之殉秦兮。❸晉の王導・郗鑒・庾亮をいふ。〔晉書、陸玩傳〕時、王導・郗鑒・庾亮、相繼而薨、朝野咸以爲三良既沒。

【三兩】1755 サンリヤウ 二つ三つ。兩三。二三。〔元稹、送友封詩〕心斷洛陽三兩處、窈娘提抱古天津。〔岑參、山房春事詩〕梁園日暮亂飛鴉、極目蕭條三兩家。〔林逋、詠小梅詩〕摘索又開三兩朶、團欒空遶百千迴。〔李俊民、暗香亭詩〕三兩橫斜鶴膝枝、一朝須有返魂時。

【三兩聲】1756 サンリヤウセイ 二聲三聲。〔白居易、琵琶行〕轉軸撥絃三兩聲、未成曲調先有情。

【三兩人】1757 サンリヤウニン 二三人。兩三人。〔漢書、蕭何傳〕諸君獨以身從我、多者三兩人、蕭何擧宗數十人皆隨我、功不可忘也。

【三梁】1758 サンリヤウ 地名。❶南梁の地。〔史記、穰侯傳〕梁惠王伐趙、戰勝三梁。〔注〕索隱曰、三梁、卽南梁也。❷桂管、卽ち今の廣西桂林縣の地。〔李商隱、爲滎陽公桂州謝上表〕三梁路阻、九嶠山遙。〔注〕三梁、在桂管。

【三量】1759 サンリヤウ 佛 認識作用の三つの標準。❶唯識家の古來の說。一、現量。鏡が物を映す如く、現在の境をありのままに量り知ること。二、比

量。直接知り得ないことを、既知の事實から推し量つて知ること。三、非量。誤謬の認識。但しこれは認識そのものでないから、現代の研究では量として數へられない。〔因明正理門論〕謂若有レ智於二色等境一遠二離一切種類名言一假立無レ異、諸門分別、由二不共緣一現現別轉故、名二現量一云云、當レ說二比量一云云、謂智是前智、餘從二如レ所レ說能立因一生、是緣レ彼義。〔因明大疏、下末〕應レ知、非量不二要執心一但不レ稱レ境、別作二餘解一卽名二非量一。〔百法問答抄、二〕問、心心所緣境一之時、三量不同、其義如何、答、先二量者、現量・比量・非量是也、問、何名二現量一耶、答、現量者無二迷亂一心緣二現前境一之時、離二名等諸分別一現任稱二境自相一、是名二現量一也、云云、問、何名二比量一耶、答、不二迷亂一心於二不顯現境一比知分別不レ得二境自相一心、名二比量一心也、云云、問、何名二非量一耶、答、迷亂心於二現・不現前境一錯亂分別取二不實事一心也。●因明（印度の論理學）で、現量・比量・聖言量をいふ。現量・比量は●に記したものに同じ。聖教量は、經文を正確な而も權威ある論據と認めること。但しこれは論理の本質からは意味が異なつてゐるから現代の研究では量として數へられない。〔因明大疏、上本〕諸量之中、古說二或三一現量・比量及聖教量。

【三略】1760 リャク　兵書の名。三卷。六韜と併稱せられる。上略・中略・下略に分け、三略といふ。舊本に題して、黃石公が圯上で張良に授けたものとあるが、其の文章は秦漢の頃の書と異なつてゐて、後人の僞撰であることに疑ひがない。〔四庫提要、子、兵家類〕。

【三閭】1761 サンレョ　●七十二家をいふ。閭は二十四家。〔華嚴經、第六十七音義、卷下〕尙書大傳曰、六家爲レ鄰、三鄰爲レ閭、三閭爲レ里。●戰國時代の楚の屈・景・昭の三王族。三閭大夫を見よ。〔小學紺珠、氏族類、三閭〕昭・屈・景。●楚の屈原を指す。屈原が三閭大夫となつたことからいふ。〔史記、屈原傳〕漁父見而問レ之曰、子非二三閭大夫一歟。〔陸機、擬古詩〕三閭結二飛轡一。〔注〕良曰、三閭大夫、謂二屈原一也。〔元史、仁宗紀三〕加二封楚三閭大夫屈原一。四廟の名。屈原を祀る。江西省高安縣。〔明一統志〕三閭廟、在二瑞州府治東三里一、祀二楚三閭大夫屈原一。五複姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕羋姓、楚屈原爲二三閭大夫一、因氏レ焉。

【三閭小玉】1762 サンリョショウギョク　草の名。白芷（8－22678：ｷ98）の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕三閭小玉、白芷。

【三閭大夫】1763 サンリョタイフ　楚國の職名。楚の三王族、昭・屈・景のことを掌る。〔楚辭、王逸、離騷序〕屈原、名平、與二楚同姓一、仕二於懷王一、爲二三閭大夫一、三閭之職、掌二王族三姓一、曰二昭・屈・景一、屈原序二其譜屬一、率二其賢良一、以厲二國士一。

【三稜】1764 リョウ　●草の名。みくり。うきやがら。荊三稜。〔本草、荊三稜〕釋名、京三稜、草三稜、雞爪三稜、黑三稜、石三稜、頌曰、三稜葉、有二三稜一也、生二荊楚地一、故名二荊三稜一、以著二其地一、開寶本草作レ京者、誤矣、集解、藏器曰、三稜、總有二三四種一、京三稜、黃色體重、狀若二鯽魚一而小、又有二黑三稜一、狀如二烏梅一而稍大、體輕、有レ鬚相連、蔓延作二漆色一、時珍曰、三稜、多生二荒廢陂池濕地一、春時叢生、夏秋抽二高莖一、莖端復生二數葉一、開レ花六七枝、花皆細碎成レ穗、黃紫色苗有二細子一、其葉莖花實、俱有二三稜一、並與二香附苗葉花實一一樣、但長大爾、其莖光滑三稜、如二棱之葉莖一、莖中有二白穰一、剖レ之織レ物、柔勒如レ藤。●三つかど。又、三角。〔本草、荊三稜〕集解、時珍曰、云云、其葉莖花實、俱有二三稜一。

【三稜鏡】1765 サンリョウキョウ　硝子などで作つた三角柱。プリズム。稜鏡。

【三稜草】1766 サンリョウソウ　草の名。みくり。うきやがら。かはすげ。矢柄草。〔倭名類聚抄、草木部、草類、三稜草、美久里。

【三稜洲】1767 サンリョウシュウ　地文學の語。大河の河口にある二角形の洲。三角洲。

【三稜錐】1768 サンリョウスイ　三つめぎり。〔天工開物〕凡鍼、冶鐵爲レ之、中國則二三稜錐象也。〔和漢三才圖會、百工具、錐〕鑽、三稜錐、俗云二三目錐一。

【三稜銀杏】1769 san¹ lêng² yin² hsing⁴　みつかどいてふ。

【三稜腹筋】1770 サンリョウフクキン　腹部にある扁平三角形の小筋肉。稜錐筋。

【三龍】1771 リョウ　●二匹の龍。〔易林〕三龍北行、道逢二六狼一。〔李白、留二別金陵諸公一詩〕海水昔飛動、三龍紛戰爭。●二人のすぐれた人。㋑漢の蔡邕・崔寔を並稱といひ、又、許受と併稱して三龍といふ。〔海錄碎事、人事部、時號喩物〕蔡邕・崔寔、號二並鳳一、又與二許受一號二三龍一、玉箱雜記。㋺宋の孫逢吉・逢年・逢辰の兄弟三人をいふ。〔宋史、孫逢吉傳〕孫逢吉、字從之、弟逢年・逢辰、皆有二文學行義一、時稱二孫氏三龍一。㋩蜀、李朝の兄弟二人をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三龍〕李朝兄弟二人、號二李氏三龍一。㋥五代、閩の王潮・王審知の兄弟三人をいふ。〔五國故事〕閩忠懿王、諱審知、光州固始人、長兄潮、次兄恙及審知、軍中號爲二三龍一。

【三倫】1772 リン　君・役人・近臣をいふ。〔孔子家語、入官〕君上者、民之儀也、有司執政者、民之表也、邇臣便辟者、羣僕之倫也、故儀不正、則民失、表不端、則百姓亂、邇臣便辟、則羣臣汙矣、是以、人主不レ可レ不レ敬二乎三倫一。

【三輪】1773 リン　●佛が身を自在に變現し、口によつて教法を、意によつて衆生の力量をはかつて說法すること。又、地下にあつて世界を維持する金輪・水輪・風輪をいふ。〔光明文句記、一〕身業現レ化、名二神通輪一、口業說レ法、名二正教輪一、意業鑑レ機、名二記心輪一。●淘宮術で、人の生れた年月日の干支。又、その干支の相會すること。●ミツワ　婦人の髻の末を三つに分けて結ぶ髮の結ひ方。〔蟬丸、四〕頭の雪もみつわぐむ。●ミワ　姓氏。

【三輪會】1774 サンリンエ　淘宮術で、其の人の生年月日の干支が相會する時に行ふ賀會。

【三輪草】1775 サンリンソウ　草の名。うまのあしがた科。高さ約六寸、根生。葉は長柄を具へて三出し、小葉は二又は三に分裂す。莖上には、三枚の總苞様の葉がある。初夏の候、莖頂に二つ又は三つの白色の花を開く。

【三輪執齋】1776 ミワシッサイ　京都の人。名は希賢。字は善藏。號は執齋。又の號は躬耕齋。寬保四年、歿す、年七十六。著に、易手記・堯典和歌・救饑法・京都救饑大意・古本大學校・古本大學和解・四言教講義・四書講義・執齋雜著・正享問對傳習錄首書・日用心法・養蠶後編抜書・陽明學名義がある。〔先哲叢談、正、六〕。

【三鄰】1777 サンリン　●三つのとなり國。〔左氏、昭、七〕備二禦二鄰一。〔注〕言二齊晉越將一レ伐レ魯而取レ之。●二十四家。卽ち閭又は明をいふ。鄰は八家。〔太平御覽、州郡部、敍州〕尙書大傳曰、古之處師、八家而爲レ鄰、三鄰而爲レ明。〔華嚴經、第六十七音義下〕尙書大傳曰、八家爲レ鄰、三鄰爲レ閭。

【三累】1778 ルイ　●三つのわざはひ。〔鄧析子、無厚〕君有二三累一、臣有二四責一、何謂二三累一、惟親レ所レ信、一累、以レ名取レ士、二累、近レ故親レ疏、三累、〔論衡、累害〕夫鄉里有二三累一、朝廷有二三害一、累生於鄉里、害發於朝廷。●山名。陝西省韓城縣の西北。一名二峽山一。〔水經、河水注〕水出二三累山一、其山、層密二成、故俗以二三累一名レ山。

【三類】1779 ルイ　●詩經の風・雅・頌。〔左氏、昭、二十一〕氣二體三類一。注、風・雅・頌。●德行・才用・勞效。〔宋史、選擧志六〕文彥博又奏、唐六典所載、以二德行・才用・勞效三類一察二在選之士一、參辯能否一。●經星・金星・行星。〔夢溪筆談、象數一〕星有二三類一、一經星、北極爲二之長一、二舍星、大火爲二之長一、三行星、辰星爲二之長一、故皆謂二之辰一。●孝行・仁恕・義斷。〔小學紺珠、人倫類、三類、孝行著於家門、仁恕稱於九族、義斷行於鄉黨一。

【三令】1780 レイ　三令五申（1782）を見よ。

【三令節】1781 セツレイ　二月朔・三月上巳・九月九日をいふ。〔唐書、李泌傳〕帝以下前世上巳九日皆大宴集、而寒食多與二上巳一同レ時、欲下以二三月名一節、自我爲レ古、若何而可、泌謂、廢二正月晦一、以二三月朔一爲二中和節一云云、帝悅、乃著レ令、與二上巳九日一、爲二三令節一。

【三令五申】1782 サンレイゴシン　再三訓令を出して戒め告げる。申は重ねて告げること。〔史記、孫子傳〕約束既布、乃設二鈇鉞一、卽三令五二申之一。〔孔叢子、問軍禮〕三令五申既畢、遂禱レ戰、祈二克於上帝一。

【三禮】1783 サンレイ　●天神・地祇・人鬼を祀る禮。〔書、

舜典〕帝曰、咨四岳、有能典朕三禮。〔傳〕三禮、天地人之禮。❷サンライ 儀禮・周禮・禮記。漢以後の稱。〔後漢書、董鈞傳〕中興、鄭衆傳周官經、後馬融作周官傳、授鄭玄、玄作周官注、玄本習小戴禮、後以古經校之、取其義長者、故爲鄭氏學、玄又注小戴所傳禮記四十九篇、通爲三禮焉。〔後漢書、盧植傳〕以疾去官、作尚書章句、三禮解詁。〔吳志、嚴畯傳〕少耽學、善詩書三禮。〔五經通論、三禮〕三禮之名、起於漢末、在漢初、但曰禮而已、漢所謂禮、卽今十七篇之儀禮、專主經言、則曰禮經、合記而言、則曰禮記、其後禮記之名、爲四十九篇之記所奪、乃以十七篇之禮經、別稱儀禮、又以周官經爲周禮、合稱三禮。〔參考書〕【三禮義宗】四卷 梁、崔靈恩撰。〔玉函山房輯佚書〕。【三禮敍錄】一卷 元、吳徵撰。【三禮傳經測】六十八卷 明、湛若水撰。【三禮纂注】四十九卷 明、貢汝成撰。【三禮義疏】一百七十八卷 淸、乾隆十三年敕撰。【三禮約編】十九卷 淸、汪基撰。【三禮會通】二卷 淸、張必剛撰。【學禮質疑】二卷 淸、萬斯大撰。【讀禮志疑】六卷 淸、陸隴其撰。【郊社禘祫問】一卷 淸、毛奇齡撰。【大小宗通釋】一卷 淸、毛奇齡撰。【禮箋】三卷 淸、金榜撰。【禮論】四卷 淸、凌曙撰。❸佛 三拜(1440)の❷に同じ。

【三禮科】1784 サンライクワ 科擧の科目の名。儀禮・禮記・周禮を試驗科目としたもの。〔事物紀原、學校貢擧部、三禮〕唐會要曰、德宗正元五年五月五日、置三禮科、唐百官志則云、二月、勅置三禮開元禮科。

【三禮圖】1785 サンライヅ 舊三禮圖は、凡そ六種。隋書經籍志は、鄭玄・阮諶等の三禮圖を列擧し、唐書藝文志には、夏侯伏朗・張鎰等の三禮圖がある。崇文總目には、梁正の三禮圖があり、宋史藝文志は、唐の開皇中の敕撰三禮圖を載錄して居るが、皆傳はらない。今存するものには、聶氏三禮圖二十卷、宋、聶崇義撰・三禮圖四卷、明、劉績撰がある。〔四庫提要、經、禮類〕。〔參考書〕【三禮圖集注】二十卷 宋、聶崇義撰。三禮圖に、鄭玄・阮諶・夏侯・伏朗・張鎰・梁正、及び開皇中敕撰の六圖を參互考訂して作る。〔四庫提要、經、禮類〕。

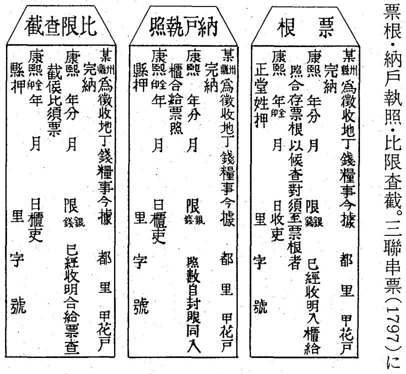
【三靈】1786 サンレイ ❶天・地・人。〔班固、典引〕答三靈之蕃祉、展放唐之明文。〔注〕善曰、三靈、天地人也。❷日・月・星。〔漢書、揚雄傳上〕上獵三靈之流、下決醴泉之滋。〔注〕如淳曰、三靈、日月星、垂象之應也。❸靈臺・靈囿・靈沼。〔詩、大雅、靈臺、疏〕大雅靈臺一篇之詩、有靈臺、有靈囿、有靈沼、有辟廱、其如是也、則辟廱及三靈、皆同處在郊矣。❹天神・地祇・人鬼。〔資治通鑑、後晉紀〕高祖、天福三年、臣光曰、然彥珣之惡、三靈所不容。〔注〕三靈、天神・地祇・人鬼。

【三靈山人】1787 サンレイサンジン 宋、程惟象(**8－25081**・・15)の號。

【三鋝】1788 サンレツ サンセツ 目方の名。鋝は鍰に同じ。鋝(**11－40470**)の字解を見よ。〔周禮、考工記、冶氏〕重三鋝。〔注〕鄭司農云、鋝、量名也。〔釋文〕鋝、色劣反、又音劣。

【三連】1789 サンレン ❶三十國。卒といふ。連は十國。〔公羊、隱、二、莒人入向、疏〕謂五國爲屬、屬有長、二屬爲連、連有帥、三連爲卒、卒有正。❷三枚つづき。〔福惠全書、錢穀部、比較〕三連串中、査截一票。❸san¹ lien² 木板類を商ふ商人が、長さ二丈七尺の木をいふ。

【三連串票】1790 サンレンセンペウ 三枚續きの租稅領收書。票根・納戶執照・比限査截。三聯串票(1797)に同じ。〔福惠全書、錢穀、催徵、三連串票〕串票者、納糧花戶執之以爲據者也、然花戶有執、而排里臨限、無憑査截、勢必問之流水、未免號雜而難稽、故截串之不可不並設也、抑排里有截、而在官完納、無從稽考、勢必憑之日報、又未免止銀數、而少花名、故票根之不可不俱存也、合而用之、名曰三連串票、其法、三式相同、云云、票式、詳列于左。



三聯串票（福惠全書）

【三廉】1791 サンレン 藥草の名。いたちぐさ。連翹(**11－38902**・・73)の異名。〔爾雅、釋草、連異翹、疏〕一名軹、一名三廉。〔太平御覽、果部、三廉〕陳祁暢異物志曰、三廉大實、實不但三、食之多汁、味酸且甘。

【三斂】1792 サンレン 戰爭をするに大切な三要件。一、男女が離れ離れにならぬこと。二、百工が宿舍に就くこと。三、好んで兵を用ひ、人を殺すやうなことのないこと。〔逸周書、大武解〕三斂、一、男女比、二、工次、三、祇人死。

【三聯】1793 サンレン ❶三つつらなる。〔張說、玄武門侍射詩〕貫心精四返、飲羽妙三聯。❷北京で鳩を飛ばす時に、其の尾につける小笛の名。十一眼(**2－2695**・・14)を見よ。

【三聯單】1794 サンレンタン ❶切取線によつて各葉切離されるやうになつてゐる三葉續きの證明書。〔皇朝通典、食貨典、賦稅下、關権〕又定江西九江、贛州關鈔、課三聯單例、凡商人納銀入櫃、後發給一聯、一存稅署、一交巡撫衙門。❷san¹ lien² tan¹ 外國商人が、內地から地方物産を購買移出する時、內地の釐金、其の他の稅を納入する煩を避ける爲に設けられた免許狀。內地から貨物を購買移出する時、一葉は、運送路第一の關局に提出し、一葉は、貨物仕向地海關へ、一葉は、海關監督へ送る。

【三聯匯票】1795 san¹ lien² huei⁴ p'iao⁴ 手形の一。三枚續きの爲替手形。送金爲替手形。

【三聯收據】1796 san¹ lien² shou¹ chü⁴ 三聯の領收證。三聯串票に同じ。

【三聯串票】1797 サンレンセンペウ 三枚續きの租稅領收書。三連串票(1790)に同じ。〔皇朝文獻通考、田賦考、田賦之制〕雍正八年、申明三聯串票之法、倉場侍郞岳爾岱等言、聯三版串之法、應令有漕地方、畫一通行、嗣後、州縣徵收糧米之時、預將各里各甲花戶的名、塡定聯三版串、一給納戶執照、一給經承銷冊、一存州縣査對。

【三露】1798 サンロ 黑・黃・青の三色の露。これを飮むと、老者は若くなり、疾病の者は癒えるといふ。〔本草、露水〕發明、藏器曰、漢武帝時、有吉雲國出吉雲草、食之不死、日照之、露皆五色、東方朔得玄青黃三露、各盛五合、以獻於帝、賜群臣、服之病皆愈。〔鮑照、白雲詩〕龍駕渡蓬山、淩厓采三露。〔呂諲、冥莢賦〕承榮金殿、旁沾三露之滋、毎奉玉階、上蔭五雲之施。

【三漏】1799 サンロウ ❶三つの穴。〔白虎通、聖人〕禹耳三漏。〔故事成語考、身體〕耳有三漏、大禹之奇形。❷佛 さとりを障げる三つのもの。欲と有と無明。〔雜阿含、十八〕有漏三有漏、謂欲有漏・有有漏・無明漏。

【三六】1800 サンロク 十八のこと。〔梁簡文帝、東飛伯勞歌〕少年年幾方三六、含嬌聚態傾人目。〔蕭子顯、日出東南隅行〕三六前年暮、四五今年朝。

【三六寸】1801 サンロクスン 馬術用語。手綱の取り方の三法。〔大坪流馬書〕三六寸之有口傳。

【三六版】1802 サンロクバン 書籍の型。縱六寸橫三寸の大きさのもの。さぶろくばん。

【三勒】1803 サンロク 勒の字のつく三つの果物の汁をしぼつて作つた酒。〔國史補〕酒有三勒、漿類、酒法出波斯、三勒者、謂菴摩勒・毘梨勒・訶梨勒。

【三論】1804 サンロン ❶三つの論。〔呂覽、應言〕秦王立帝宜陽、令許綰誕魏王、魏王將入秦、魏敬謂王曰、以河內孰與梁重、王曰、梁重、又曰、梁孰與身重、王曰、身重、又曰、若使秦求河內、則王將與之乎、王曰、弗與也、魏敬曰、河內三論之下也、身三論之上也、秦索其下、而王弗聽、索其上、而王聽之、臣竊不取也、王曰、甚然、乃輟行。❷論語の三種。齊論語・魯論語・古論語。論語(**10－35658**・・35)を見よ。〔何晏、論語集解敍〕齊論有問王知道、多於魯論二篇、古論亦無此二篇、分堯曰下章子張問、以爲一篇、有兩子張、凡二十一篇、篇次不與齊魯論同。〔疏〕此辨三論篇章之異也。❸佛 三

論宗で用ひる三つの論書。中論・百論・十二門論。諸法の實在を否定し、又その否定をも否定し、あらゆる概念・分別を否定して還つてこの現實そのままが實相（本來のすがた）であることを說いたもの。〔僧肇、中論序〕百論治レ外以閑レ邪、斯文祛レ內流レ滯、大智釋論之淵博、十二門觀之精詣。〔陳書、徐孝克傳〕後東游居二於錢塘之佳義里一、與二諸僧一討二論釋典一、遂通二三論一。〔南史、傅縡傳〕篤信二佛教一、從二興皇寺慧朗法師一受二三論一、盡通二其學一。

【三論宗】1805（サンロンシユウ） ［佛］佛教の宗派の一。龍樹の中論・十二門論、提婆の百論の三論によつて宗を立てる。文殊菩薩を高祖、馬鳴を次祖、龍樹を三祖とす。一名、法性宗。空宗。〔寄歸傳、一〕所レ云大乘、無レ過二二種一、則中觀、乃二瑜伽、中觀則俗有眞空、體虛如レ幻、瑜伽則外無內有、事皆唯識。

【三和】1806（サンワ） ❶［佛］認識の三要素である根・境・識が和合すること。例へば、櫻樹（境）に對し、眼根（根）と眼識（識）がはたらいて心內に「さくら」の印象を生ずること。〔唯識論、三〕根・境・識、更相隨順、故名二三和一、觸依レ彼生。❷ 備中國の地名。

【三和尙】1807（サンヲシヤウ） 崑曲中の三和尙。祝髮記中の達摩祖師、西廂記中の惠明、昊天塔中の楊五郎をいふ。

【三和土】1808（サンワド） たたき。敲土。〔江休復雜誌〕江南王公大人墓、莫レ不レ爲二村人所一レ發、取レ甎以賣レ之、近日江南有識之家、不レ用二甎葬一、惟以二石灰一和二篩土一築實、其堅如レ石。

【三淮】1809（サンワイ） 川の名。淮水の三河。〔列女傳、辨通、趙津女娟傳〕禱二祠九江三淮之神一。

【三王】1810（サンワウ） ❶夏の禹王、殷の湯王、周の文王又は武王をいふ。又一說に、文王・武王を併せて一として數へる。〔禮、學記〕三王四代、惟其師。〔孟子、告子下〕五霸、三王之罪人也。〔注〕三王、夏禹・商湯・周文王、是也。〔集注〕夏禹・商湯・周文武也。〔白虎通、號〕三王者、何謂也、夏・殷・周也。〔風俗通、皇霸〕禮號諡記說、夏禹・殷湯・周武王、是三王也。❷楚の頃襄王の先祖をいふ。〔荀子、彊國〕負二三王之廟一。〔注〕此楚頃襄王之時也。❸漢の齊王閎・燕王旦・廣陵王胥をいふ。〔小學紺珠、氏族類、漢三王〕齊王閎・燕王旦・廣陵王胥。❹漢の印成侯・王商・王鳳。〔漢書、王商史丹傳贊〕外戚興者、許史三王丁傅之家。〔注〕師古曰、三王、謂二印成侯、及商・鳳三家一也。〔小學紺珠、氏族類、三王〕邛成・樂昌・陽平。❺後魏の濟南王彧・安封王延明・中山王熙をいふ。〔北史、太武五王傳〕三王楚琳琅、未レ若三濟南備二員方一。〔小學紺珠、氏族類、三王〕濟南王彧・安封王延明・中山王熙。❻漢の王尊・王章・王駿をいふ。〔漢書、王吉傳〕出レ駿爲二京兆尹一、先レ是、京兆有二趙廣漢・張敞・王尊・王章・王駿一、皆有二能名一、故京師稱曰、前有二趙張一、後有二三王一。〔潘岳、西征賦〕趙張三王之尹レ京。〔注〕善曰、漢書曰、王尊、字子貢、涿郡人也、爲二諫大夫一、守二京輔都尉一、行二京兆尹事一、旬月閒、盜賊清、又曰、王章、字仲卿、泰山人也、章以レ選爲二京兆尹一、又曰、王駿、瑯邪人也、爲二京兆尹一。❼唐の王珣・王璵・王瑨をいふ。〔唐書、王珣傳〕字伯玉、與二兄璵弟瑨一以二文學一稱、時號二三王一。❽唐の王勃・王緒・王仲舒をいふ。〔韓愈、新修二滕王閣一記〕竊喜載二名其上一、詞列二三王之次一、有二榮耀一焉。〔陔餘叢考、三王〕唐滕王閣、有二三王一、則王勃作レ序、王緒作レ賦、王仲舒作二修閣記一也。❾宋の王安石・王安國・王安禮をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三王〕王安石・安國・安禮。❿宋の王回・王向・王冏をいふ。〔小學紺珠、氏族類、三王〕王回・向・冏。⓫琉球の中山・山南・山北の三王。〔明史、外國四、琉球傳〕洪武初、其國有二三王一、曰二中山一、曰二山南一、曰二山北一、皆以レ尙爲レ姓、而中山最強。⓬清初の畫家、王時敏・王原祁・王鑑をいふ。

【三王陵】1811（サンワウリヨウ） 陵の名。河南省洛陽縣の西南。秦山の巓。周の景王・悼王・定（或は敬）王の陵といふ。〔水經、洛水注〕又東北逕二三王陵東北一出、三王、或言、周景王・悼王・定王也、魏司徒公崔浩、注二西征賦一云、定當レ爲レ敬、子朝作レ難、西周政弱人荒、悼敬二王與二景王一、俱葬二于此一、故世以二三王一名レ陵。

【三王尹京】1812（サンワウインケイ） 蒙求の標題。漢代に京兆尹となつて能名があつた王姓のもの三人をいふ。成帝の時、王駿が京兆尹となつて大いに治績をあげたが、それ以前、趙廣漢・張敞・王尊・王章の四人の名尹があつたので、當時の京師の人が、前に趙張あり、後に三王ありといつた故事。三王（1810）の❻を見よ。

【三王可レ四】1813（サンワウシニスベシ） 三王に猶一王を加へる義。夏・殷・周の三王に比すべき盛德の意で、天子の德を賞讚した言葉。〔魏志、高堂隆傳〕三王可レ四、五帝可レ六。

【三王外記】1814（サンワウゲキ） 書名。二卷。太宰春臺撰。德川五代將軍綱吉・同六代將軍家宣・同七代將軍家繼の三世の事蹟を記す。

【三王五伯】1815（サンワウゴハ） 三王と五伯とをいふ。三王の❶及び五伯（**1**－**257**・・930）の❷を見よ。〔楚辭、九章、抽思〕望二三五一以爲レ像兮。〔注〕三王五伯、可レ修レ法也。

【三王之佐】1816（サンワウノサ） 夏・殷・周の三王を助ける程の賢人。〔呂覽、務本〕三王之佐、皆能以レ公及二其私一矣。

【三王不レ同レ龜】1817（サンワウキヲオナジクセズ） 夏・殷・周の三王は、卜を爲すのに同じ龜卜を用ひない。〔史記、龜策傳〕三王不レ同レ龜、四夷各異レ卜。

【三惑】1818（サンワク） ❶酒・色・財のまどひ。〔後漢書、楊秉傳〕嘗從容言曰、我有二三不惑一、酒・色・財也、云云、贊曰、震畏二四知一、秉去二三惑一。〔法苑珠林〕財色與レ酒、名爲二三惑一。❷［佛］（サンナク） ㋑貪・瞋・癡の三煩惱。㋺天台宗でいふ三種の妄惑。見思惑・塵沙惑・無明惑をいふ。見思惑は、邪見を以て道理を分別する見惑と、事物に對して眞理を明かにせず、貪・瞋・癡等を起す思惑とをいふ。塵沙惑は、菩薩が人を敎化するには、塵沙の樣な無數の法門に通ずる必要があるのに、心性闇昧にして、之に通ずることが出來ぬのをいふ。無明惑は、中道實相の理を蔽ひ障げる惑。思惑は、枝葉の事にいひ、無明惑は、根本の理體に就いていふ。〔法華經科注〕三觀爲レ所レ脩、三惑爲レ所レ破、三諦爲レ所レ證。〔楞嚴經〕欲レ得二菩提一、要レ除二三惑一。

【務レ三】1819（サンヲツトム） 人を擇び、民により、時に從ふといふ三つの政策に努力する。〔左氏、昭、七〕務レ三而已、一曰擇レ人、二曰因レ民、三曰從レ時。

【三賀尻】1820（ミガシリ） 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【三賀日】1821（サンガニチ） 三箇日（127）に同じ。

【三改元】1822（サンカイゲン） 昔、定例として元號を改められた三つの年。卽ち、御代始めとしての御卽位の翌年、革命の年としての辛酉の年、革令の年としての甲子の年。三革（222）の❹を見よ。〔夏山雜談〕三改元とは、御代始（御卽位翌年）・革命（辛酉年）・革令（甲子年）也。

【三希堂】1823（サンキダウ） 堂の名。北京城內月華門の西、養心殿の西室。清の高宗の時、王羲之・王獻之・王珣の三人の墨蹟を此の堂に珍藏したので名づけられた。三希堂法帖を見よ。〔淸會典事例、工部、宮殿〕月華門之西、相對者爲二遵義門一、門西南嚮者、爲二養心門一、門內爲二養心殿一、云云、西暖閣有レ室、曰二三希堂一。

【三希堂法帖】1824（サンキダウハフデフ） 法帖の集。凡て三十二帖。淸の乾隆帝は、王羲之の快雪帖、王獻之の中秋帖、王珣の伯遠帖の三帖を寶愛し、其の室を三希堂と名づけた。此の集帖は、前記の三帖を主とし、內府所藏の魏晉より元明に至る諸法帖に就いて、儒臣に命じて鉤摸上石させたもので、楷・行・草體の優れたものは概ね備はつてゐる。

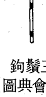
【三觭龍】1825（サンキリユウ） 化石動物の名。爬蟲類に屬す。體長三丈餘、頭に一對の角がある。白亞紀の地層に發見せられる。

【三騎射】1826（サンキシヤ） 笠懸（カサガケ）・流鏑馬（ヤブサメ）・犬追物（イヌオフモノ）をいふ。

【三宜休】1827（サンギキウ） 人が休息すべき三つの場合。才を量る、分を揣る、耄して聵す。唐の司空圖の故事。〔唐書、卓行、司空圖傳〕圖居二中條山一、作二亭觀素室一、名レ亭曰二休休一、曰、量レ才、一宜レ休、揣レ分、二宜レ休、耄而聵、三宜レ休。〔司空圖、耐辱居士歌〕休休休、莫莫莫、一局棋、一爐藥。

【三裘葛】1828（サンキウカツ） 三年をいふ。裘は冬に着るかはごろもで、葛は夏に着る服。故に一裘葛とは、一年が經過したのをいふ。〔本朝虞初新誌、鍛工助弘傳〕生在二師門一、辱二提命一者、三二裘葛于茲一。

【三框欄】1829 san¹ k'uang⁴ lan² 部首の匚をいふ。
【三櫺翁】1830 淸、許棫(**10**－**35298**・・221)の號。
【三近子】1831 宇都宮的の號。宇都宮遯庵(**3**－**7067**・・108)を見よ。
【三卦說】1832 虞氏易の說。淸の錢大昕は、三卦は卽ち變卦で、虞仲翻が易を說くには、專ら旁通と三卦とを取る。旁通とは乾と坤、坎と離、艮と兌、震と巽とが交〻相變ずるのをいひ、三卦とは、卽ち兩爻を入れ易へて一卦を得るのをいふと說明してゐる。
【三瓦戒】1833 屋を葺くのに、瓦三枚を缺いて、盈滿を戒めること。輟耕錄、卷二十六・琅琊代醉編、卷十四に見ゆ。〔史記、龜策傳〕物安可全乎、天尚不全、故世爲屋、不成三瓦而陳之。
【三回忌】1834 佛人の死後、滿二年目の忌日。大祥。三周忌。〔管見記〕永享五年十月九日、慶壽院殿三回忌也。
【三廻部】1835 相模國の地名。
【三解脫】1836 佛三種の解脫。空・無想・無作をいふ。三空。三昧。〔法華經、信解品〕但念空・無想・無作。
【三桂堂】1837 宋、曹傳(**5**－**14297**・・171)の室名。
【三慶班】1838 淸の乾隆中、安徽の役者の班名。高朗亭が北京に入つて、安慶の花部に京・秦の兩腔を合はせ、其の班を三慶班といつた。〔夢華鎖簿〕。
【三硯齋】1839 字號。❶淸、袁廷檮(**10**－**34152**・・235)の號。❷淸、康愷(**4**－**9376**・・17)の號。
【三互法】1840 朋黨を防ぐ漢末の制度。婚姻の家と其の出身地兩州の人との三つが、該地方の官に交互に就くことが出來ない規定。〔後漢書、蔡邕傳〕初朝議、以州郡相黨、人情比周、乃制婚姻之家、及兩州人士、不得對相監臨、至是、復有三互法、禁忌轉密、選用艱難。〔注〕三互、婚姻之家及兩州人、不得交互爲官也。
【三工官】1841 少府の屬官。考工室・右工室・東園匠の三。〔漢書、貢禹傳〕三工官費五千萬。
【三座塔】1842 地名。滿洲熱河省朝陽縣。遼金時代の三塔が今に殘つてゐるので、土人はこれを三座塔といふ。
【三齋月】1843 佛心や身をいみ淸めて愼む三つの月。卽ち、正月・五月・九月。この月には、帝釋天が人の善惡の行を監視するといふ。〔梵網經、下〕於六齋日年三長齋月、作殺生劫盜破齋犯戒者、犯輕垢罪也。
【三竈山】1844 島の名。廣東省香山縣の南の海に中ある。竈のやうな石が三つあるので名づける。元末、海賊の劉進がこれに據つた。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、香山縣、浮盧山〕三竈山、在縣南三百里海中、周回三百里、林木葱翠、有三石如竈。
【三參岡】1845 姓氏。〔姓林全書〕。
【三酸圖】1846 畫の名。元、趙松雪作。宋の佛印禪師・蘇軾・黃庭堅の三人が、桃花醋を嘗めて眉をしかめたところが畫いてある。〔學海餘滴〕。
【三之日】1847 夏の正月、卽ち周の三月をいふ。一の日とは、十の餘の一、卽ち十一月、二の日とは、十の餘の二、卽ち十二月、三の日は、十の餘の三、卽ち正月をいふ。皆、夏の曆によつていふ。若し周の曆によれば、一の日は正月、二の日は二月、三の日は三月に當る。〔詩、豳風、七月〕一之日觱發、云云、三之日于耜。〔傳〕一之日、十之餘也、一之日、周正月也、三之日、夏正月也。
【三四成】1848 san¹ ssŭ⁴ ch'êng² 三四割。
【三姝媚】1849 詞牌の名。又、曲牌の名。南曲で、小石調正曲に入る。
【三鬚鉤】1850 武器の名。長さ一丈五尺七寸。鉤は各〻七寸で三つあり、雞の爪のやうに曲つてゐる。柄は竹で作り、長さ一丈五尺。〔淸會典圖、武備圖、三鬚鉤〕三鬚鉤、鍊鐵、通長一丈五尺七寸、鉤各長七寸、分置三面、下曲如雞距、竹柄、長一丈五尺、圍一寸八分、髹朱、東藤八道。



三鬚鉤（淸會典圖）

【三梭布】1851 san¹ suo¹ pu⁴ 目の細かい織物の一種。金巾の類に似寄つたもの。
【三竦縮】1852 蛇はなめくぢを恐れ、なめくぢは蛙を恐れ、蛙は蛇を恐れるといふ樣な三者三縮の關係。三方から互に制し合つて、行動の自由を得ない喩。〔合類節用集、九、言辭門〕三竦縮、蝦蟇・蜈松・蛇、三物相值、皆不動、彼此畏食也。
【三進法】1853 或る位の三倍を、其の上の位の一として累進する記數法。
【三刃枝】1854 武器の名。戟の一種。雄戟。三つ刃のついた、槍のやうなもの。〔方言、九〕三刃枝、南楚宛郢、謂之匽戟、其柄、自關而西、謂之柲、或謂之殳。〔注〕今戟中有小孑刺者、所謂雄戟也。
【三數畝】1855 三四畝。〔金昌恊、自萬瀑洞至摩訶衍記〕潭廣自七八畝、至三數畝。
【三靑鳥】1856 仙鳥の名。〔山海經、大荒東經〕三靑鳥。〔海錄碎事、鳥獸、飛鳥〕龜山西王母、有三靑鳥、主爲母收食、出山海經。
【三靑蔓】1857 樹木の名。くこ。枸杞(**6**－**14588**・・7)の異名。〔事物異名錄、藥材下、木〕表異錄、仙家呼枸杞爲三靑蔓。
【三毳山】1858 下野國にある山。
【三惜齋】1859 淸、盧浙(**8**－**23050**・・107)の號。
【三仙湯】1860 san¹ hsien¹ t'ang¹ 支那料理の一種。鮑・鷄肉・海參を合はせて煮た吸物の類。
【三仙丹】1861 赤色の結晶性粉末。醫藥・顏料に用ひる。赤色酸化第二水銀。氧化貢。
【三鮮湯】1862 san¹ hsien¹ t'ang¹ 支那料理の一種。なまこ・鮑魚・豚肉の汁。
【三捉髮】1863 周公が、一たび沐浴する間に三度も髮を握つて出て、賢士人に面接した故事。〔史記、魯世家〕周公戒伯禽曰、我文王之子、武王之弟、成王之叔父、我於天下、亦不賤矣、然我一沐三捉髮、一飯三吐哺。
【三朶花】1864 仙人の名。常に三朶の花を頭に戴いて居たからいふ。〔蘇軾、三朶花詩序〕房州通判許安世、以書遺余言、吾州有異人、常戴三朶花、莫知其姓名、郡人因以三朶花名之、能作詩、皆神仙意、又能自寫眞人、有得之者、許欲以一本見惠、乃爲作此詩。
【三脫麪】1865 筍・蕈・枸杞を入れた羹を用ひて作つた湯餠をいふ。湯餠は麥粉を煮て作つたもの、うどんの類をいふ。〔山家淸供〕嫩筍・小蕈・枸杞、菜油炒作羹、趙竹溪密夫酷嗜此、或作湯餠、以奉親、名三脫麪。
【三脫門】1866 佛三解脫門の略。空・無相・無願の三つをいふ。〔新譯仁王經、中〕位三脫門、空解脫門、無相解脫門、無願解脫門、此是菩薩摩訶薩、從初發心至一切智、諸行根本。
【三奪槊】1867 戲曲の名。元、尙仲賢撰。唐の尉遲敬德が、善く敵の槊を奪つたことを演ずる。一名、單騎奪槊。
【三旦八】1868 元、西夏の人。字は山堂。號は飛山子。官は雲南行省右丞。〔陝西通志〕。
【三致志】1869 深く意を用ひること。〔史記、屈原傳〕其存君興國、而欲反覆之、一篇之中、三致志焉。
【三中氣】1870 春夏秋冬、四季三月のそれぞれの中氣。春は、驚蟄・春分・淸明。夏は、小滿・夏至・大暑。秋は、處暑・秋分・霜降。冬は、小雪・冬至・大寒。〔逸周書、周月解〕月中氣、以著時應、春三月中氣、云云、春分、云云、夏三月中氣、小滿・夏至・大暑、秋三月中氣、處暑・秋分・霜降、冬三月中氣、小雪・冬至・大寒。
【三中子】1871 淸、尤侗(**4**－**7543**・・34)の號。
【三重韻】1872 書名。虎關禪師撰。聚分韻略の今本を三欄に分けて平上去の三聲の字を塡め、別に入聲字を卷末に附してゐるので、三重韻と稱せられる。
【三褚衣】1873 綿の厚薄に由つて分けた上中下三通りの綿いれ。〔漢書、南粵王趙佗傳〕上褚五十衣、中褚三十衣、下褚二十衣、遺王。〔注〕師古曰、以緜裝衣曰褚、上中下、綿之多少、厚薄之差也。
【三奠子】1874 詞牌の名。〔詞譜〕調見錦機集、按、崔令欽教坊記、有奠壁子小曲、此或因奠酒奠穀奠璧爲三奠、取以名詞也。

【三得レ相】1875 三たび、宰相の位に卽く。〔史記、孫叔敖傳〕三得レ相而不レ喜、知二其材自得レ之也一、三去レ相而不レ悔、知レ非二己之罪一也。

【三內聲】1876 印度の悉曇にある聲韻の名。喉韻・舌韻・脣韻の三韻をいふ。

【三二年】1877 二三年。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕共レ事三年、始爾未レ爲レ久。〔南史、元徐妃傳〕帝三二年一入レ房。

【三如來】1878 佛二體の如來。善光寺の阿彌陀如來、嵯峨清涼寺の釋迦如來、京都因幡堂の藥師如來をいふ。

【三波川】1879 上野國の地名。

【三盃酢】1880 食物の調味に用ひるもの。酒又は味醂と、醬油と酢とを等分に加へたもの。

【三拼音】1881 注音符號の一聲符と二韻符とを綴り合せて表はす音。

【三寶柱】1882 元、畏吾兒の人。字は廷珪。官は兵部員外郎。後、浙東副使。〔萬姓統譜〕。

【三八制】1883 八時間勞働制。一日の中、八時間勞働して八時間休息し、八時間睡眠する。八小時制。

【三八節】1884 社會主義者の定めた國際婦女記念日。國際婦人デー。三月八日。

【三般若】1885 佛❶實相・觀照・方便の三般若。實相般若は、般若の理體。觀照般若は、實相を觀照する實智。方便般若は、諸法を分別する權智。〔金光明玄義、上〕云何三般若、般若名二智慧一、實相般若、非レ寂非レ照、卽一切種智、觀照般若、非レ照而照、卽一切智、方便般若、非レ寂而寂、卽道種智。❷實相・觀照・文字の三般若。文字般若は、般若經をいふ。〔般若心經略疏〕總以二三種般若一爲レ宗、一實相、謂所觀眞性、二觀照、謂能觀妙慧、三文字、謂詮上之教。

【三避賢】1886 二たび黜けられて、而も賢たるを失はぬ人。楚の孫叔敖をいふ。孫叔敖が楚の相となつて、三度迄其の位を去つたが、自分の責任の爲ではないのを知つて、悔いなかつた故事。避は退けられること。〔史記、循吏、孫叔敖傳〕孫叔敖者、楚之處士也、云云、三得レ相而不レ喜、知二其材自得レ之也一、三去レ相而不レ悔、知レ非二己之罪一也。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕事躓二兩如直一、心愜二三避賢一。〔注〕善曰、史記曰、孫叔敖相レ楚、三去レ相而不レ悔、知二其非一己罪一也、三避、三黜也。

【三拍子】1887 二つの樂器で拍子を取ること。轉じて、二とほりの條件の揃ふこと。

【三不開】1888 五代、周の馬裔孫の異稱。口・印・門の三つを開かなかつたからいふ。〔舊五代史、馬裔孫傳〕少見二賓客一、時人目レ之爲二三不開一、謂二口不レ開、印不レ開、門不レ開也。

【三不孝】1889 三種の不孝。一、親の意に阿つて調子を合せ、親を不義に陷れる。二、貧乏で且親が年老いても、官途につかぬ。三、娶らずして子がなく、父祖の祀を絶つ。〔孟子、離婁上、注〕於レ禮有二不レ孝者三事一、謂、阿レ意曲從、陷二親不義一、一不孝也、家貧親老、不レ爲二祿仕一、二不孝也、不レ娶無レ子、絶二先祖祀一、三不孝也、三者之中、無レ後爲レ大。

【三不幸】1890 三つの不仕合せな事柄。年少で科擧の試驗に最高位で及第すること、父兄の勢力に因つて美官を得ること、才能秀れて文章に巧なこと。宋の程伊川の語。〔伊川文集〕人有二三不幸一、少年登二高科一、一不幸、席二父兄之勢一爲二美官一、二不幸、有二高才一能二文章一、三不幸也。

【三不歸】1891 三不去（1894）に同じ。

【三不欺】1892 上位のものが下位のものに欺かれない三つの法。德と察と刑。〔史記、滑稽傳〕傳曰、子產治レ鄭、民不レ能レ欺、子賤治二單父一、民不レ忍レ欺、西門豹治レ鄴、民不二敢欺一（注）集解曰、魏文帝問二羣臣一、三不欺於二君德一、孰優、太尉鍾繇・司徒華歆・司空王朗對曰、臣以爲、君任レ德、則臣感レ義、而不レ忍レ欺、君任レ察、則臣畏レ覺、而不レ能レ欺、君任レ刑、則臣畏レ罪、而不二敢欺一。

【三不朽】1893 三つの朽ちない事柄。立德・立功・立言。〔左氏、襄、二十四〕大上有レ立レ德、其次有レ立レ功、其次有レ立レ言、雖レ久不レ廢、此之謂二不朽一。

【三不去】1894 妻を去ることの出來ぬ三つの條件。娶つたものの歸すべき里がないもの、舅に父母の三年の喪に服したもの、始貧しくて後に富んだとき。三不歸。〔大戴禮、本命〕有二三不去一、有レ所レ取無レ所レ歸、不レ去、舅更二三年喪一、不レ去、前貧賤後富貴、不レ去。〔孔子家語、本命解〕孔子曰、婦有二七出三不去一、二三不去者、謂下有レ所レ取無レ所レ歸、舅共更二三年之喪一、先貧賤後富貴上、凡此聖人所レ以順二男女之際一、重二婚姻之始一也。

【三不管】1895 ❶地名。㋑天津の地名。南門外、舊日本租界の西。其の地は佛租界に近く、日・佛・支三國の何れの管理にも屬しないとの意で土民の名づけたもの。〔謝彬、新疆遊記〕天津拳匪亂後、外強皆夾二白河一拓二闢租界一、我國官商、亦於二各國租界西面一、開二闢南市一、藉二保利權一、南市、俗名二三不管一、蓋鄉愚無レ知、見下其地介二中國與一日・法二國租界一之間上、遂以爲二三國皆不管也。㋺浙江省吳興縣烏鎭北柵頭の四亭子地方。江蘇省の吳江縣と、浙江省の桐鄉・吳興二縣とが接する地。もと、經界不明で、三縣共に管轄出來なかつたからいふ。❷懶惰な者（衣・食・住の三者を營まない）、又、凶橫な者、天・地・人の三者を畏れない）をいふ。

【三不祥】1896 三つの不吉。❶國に不吉なもの三つ。賢人の有るのを知らない、知つても用ひない、用ひても任じない。〔晏子、諫、下〕晏子對曰、國有二三不祥一、是不レ與焉、夫有レ賢而不レ知、一不祥、知而不レ用、二不祥、用而不レ任、三不祥也。❷己に不吉なもの三つ。幼いのに年長者に事へぬ、賤しいのに貴人に事へぬ、不肖なのに賢者に事へぬ。〔荀子、非相〕人有二三不祥一、幼而不二肯事一レ長、賤而不二肯事一レ貴、不肖而不二肯事一レ賢、是人之二不祥也。

【三不食】1897 喪禮大功の時、二度食事を廢すること。〔禮、閒傳〕斬衰三日不レ食、齊衰二日不レ食、大功二不レ食。

【三不知】1898 始と中と終とを知らぬ。轉じて、忙しいこと。〔左氏、哀、二十七〕文子曰、君子之謀也、始衷終皆擧之、而後入焉、今我三不知而入レ之、不二亦難一乎。〔靑溪暇筆〕俗謂二忙處一曰二三不知一、卽始中終三者、皆不レ能レ知也。

【三頫圖】1898 孔子と釋迦と老子との三人を畫いた圖。又、三聖圖・三教圖・三聖連步圖・三教吸酸圖などともいふ。頫は俯と同じ。我が國の美濃派の俳人は、會を興行する時、床の間にこの畫軸をかける。三聖を畫いた上方に「あふ向くもうつむくも淋し百合の花　獅子老人」と、支考の句を記し、中庸を行くべきことを教へてゐる。

【三不得】1899 三つの不得。陳秀公が閎壯な邸宅を作りながら、其の時既に疾甚しく、十分其の樂を盡し得なかつた故事。居り得ず、脩め得ず、賣り得ぬことの三つ。〔夢溪筆談、雜誌二〕丞相陳秀公、治二第于潤洲一、極爲二閎壯一、池館綿亙數百步、宅成、公已疾甚、唯肩輿一登二西樓一而已、人謂二之三不得一、居不レ得、脩不レ得、賣不レ得。

【三不能】1900 佛佛に不可能な三事。一、定業を滅する能はず。二、無緣のものは度する能はず。三、無量の衆生を度するも衆生界を盡す能はず。〔景德傳燈錄、元珪傳〕佛能空二一切相一、成二萬法智一、而不レ能二卽滅二定業一、佛能知二羣有性一、窮二億劫事一、而不レ能二化導無緣一、佛能度二無量有情一、而不レ能レ盡二衆生界一、是謂二三不能一也。

【三不剌】1901 州名。元、置く。甘肅省靖遠縣の西北、黃河の外。縣の北に三不剌川がある。明初、孫興祖が戰死した所。賽音布拉克。〔讀史方輿紀要、陝西、靖遠衞〕三不剌川在二衞北境一、其西爲二五郎口一、明初、孫興祖戰死於此。

【三不惑】1902 酒と色と財との三つに惑はぬこと。〔後漢書、楊秉傳〕嘗從容言曰、我有二三不惑一、酒、色、財也。

【三布衣】1903 ❶清の朱彝尊。嚴繩孫、及び潘耒をいふ。〔國朝先生事略、文苑、朱竹垞先生事略〕康熙己未、詔開二博學鴻詞科一、其時、以二布衣一除二檢討一者、凡四人、富平李因篤天生、無錫嚴繩孫蓀友、吳江潘耒次耕、而其一則秀水朱彝尊竹垞也、未幾、李君告二養歸一、三布衣均預二纂修明史一、越二年、上命添二設日講官知起居注一、則三布衣悉與焉、而竹垞先生爲二之魁一。❷清の朱彝尊。嚴繩孫、及び姜宸英をいふ。清の聖祖が嘗て侍臣に向ひ、朕聞く、江南に三布衣ありと、尙未だ仕へざるかと言つたのに本づく。〔國朝先

生事略、文苑、姜西溟先生事略〕聖祖嘗謂二侍臣一曰、聞、江南有二三布衣一、尚未レ仕耶、三布衣者、秀水朱彝尊・無錫嚴繩孫、及先生(姜宸英)也。

【三布口】1904 サンフコウ 地名。山東省肥城縣の東。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、肥城縣〕三布口、在二縣東一、云云、蓋與二太山一相近。

【三布剌】1905 サンフラ 甘肅省靖遠縣の西北。三不剌(1901)に同じ。賽音不拉克。

【三奉行】1906 サンブギヤウ 德川時代の三長官。寺社奉行・勘定奉行・町奉行。〔有司勤仕錄〕。

【三富部】1907 ミトベ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十三〕。

【三幅對】1908 サンプクツイ 三つならべて掛ける樣に揃へて作つた軸もの。轉じて、三つで一組になるもの。みつぞろひ。〔博多小女郎波枕、中〕何や狩野の三幅對。

【三瓶山】1909 サンベサン 石見國と出雲國の境にある山。古くは、さひめ山といふ。〔老牛餘喘〕ある人三瓶山とかくなりといへり、云云、其のさんべい山といふは、さひめ山といふべきを訛りたるなり。

【三扁担】1910 san¹ pien³ tan¹ 崑劇中に出る千鐘粟の程濟・爛柯山の朱買臣・翠屏山の石秀をいふ。皆扁担(天平棒の類)を持つ。

【三鞭酒】1911 シヤンペンシユ シヤンパン。香賓酒。フランス國から產する白葡萄酒。三鞭は地名 Champagne の音にあてた字。

【三菩提】1912 サンボダイ 佛 ❶正覺の義。阿耨多羅三藐三菩提(**11**－41599・・493)を見よ。❷三種の菩提。菩提(**9**－31205・・18)を見よ。

【三捧舍】1913 サンホウシヤ 地名。貴州省獨山縣の東南。廣西省の南丹土州と接す。清の光緒三十年、陸榮廷が匪衆を破つたところ。

【三蓬萊】1914 サンホウライ 富士・熱田・熊野をいふ。三所蓬萊。

【三棒鼓】1915 サンボウコ 三本の棒で鼓を打つ技。吳越の閒で婦女の行ふもの。〔通俗編、俳優、三棒鼓〕吳越留青日札、吳越閒、婦女用二三棒一、上下擊レ鼓、謂二之三棒鼓一、江北鳳陽、男子尤善、卽唐三杖鼓也、咸通中、王文擧好弄二三杖鼓一、打撩萬不レ失レ一、是也、杖音與二歌聲一、句拍附和爲レ節、又能夾二一刀一弄レ之。

【三滿樓】1916 サンマンロウ 清、錢朝鼎(**11**－40563・・395)の室名。

【三蔓草】1917 サンマンサウ 木の名。ひひらぎ。巴戟天(**4**－**8745**・・27)の異名。〔本草、巴戟天〕釋名、不凋草、三蔓草。

【三味線】1919 サミセン 俗曲に用ひる樂器。三絃を張り、撥で彈ずる。三絃。〔譚海、四〕三味線。

【三脈法】1920 サンミヤクハフ 浮・中・沈の三脈を看る法。浮は、皮膚の上。中は、皮膚の下、肌肉の閒。沈は、肌肉の下、筋骨の閒。〔陶華六書〕傷寒用二浮・中・沈三脈法一。

【三民會】1921 サンミンクワイ 三部會(1560)に同じ。

【三妙音】1922 サンメウオン 三つの勝れた音。幽泉漱玉・清聲搖空・秋蟬曳緖。〔澠水燕談錄、二〕晁文元公迥、少聞二方士之術一、凡人耳有二靈響一、目有二神光一、其後聽二於靜中一、若二鈴聲遠聞一、耆年之後、愈覺二清徹一、公名レ之曰二三妙音一、一曰、幽泉漱玉、二曰、清聲搖空、三曰、秋蟬曳緖。

【三鯠魚】1923 san¹ lai² yü² 魚の名。ひらこのしろ。鰣(**12**－**46378**)の異名。廣東人の語。

【三率法】1924 サンリツハフ 比例の外項(二外率)と內項(二內率)との中の三項(三率)を知つて、他の一項を求める算法。今有率。三率準測法。

【三陵屯】1925 サンリヨウトン 地名。滿洲吉林省寧安縣の西南。人口稠密で、商業地。東に渤海王の墓、又は金代の某女王の墓と傳へられる古墳が三つあるから名づける。

【三論湖】1926 サンリンコ 湖の名。湖北省漢陽縣の北。〔淸一統志〕元、至元十一年、伯顏伐レ宋、次二漢口一、兵不レ得レ進、千戶馬福言、論湖口、可下通二沙蕪一入上江、乃自二漢口一開レ壩、引レ船入二論湖一、逕趨二沙蕪大江一、蓋卽論湖、非下孝感入二漢川一之論河上也。

【三鰵魚】1927 サンレイギヨ 魚の名。ひらこのしろ。鰣(**12**－**46378**)の異名。〔正字通〕鰵、鰣別名、廣州謂二之三鰵之魚一。

【三列宿】1928 サンレツシユク すぐれた三人兄弟。唐代、同時に省に在つた韋季武・叔諧・叔謙をいふ。〔唐書、韋湊傳〕韋湊、字彥宗、京兆萬年人、祖叔諧、貞觀中爲二庫部郎中一、與二弟吏部郎中叔謙、兄主爵郎中季武一同レ省、時號二三列宿一。

【三鬣松】1929 サンレフシヨウ 松の一種。さんえふの松。三葉松。三本葉の松。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕俗謂二孔雀松一、三鬣松也。〔西溪叢語、名山記〕松有二兩鬣・三鬣・五鬣者一、言レ如二馬鬣形一、李賀有二五粒小松歌一、云、新香幾粒洪崖飯、五粒未レ詳。

【三路煤】1930 san¹ lu⁴ mei² 石炭の一種。

【三盧會】1931 サンロクワイ 酒を嗜み、與に山水に遊ぶことを好んだ五代の、盧會・盧質・盧重の三人をいふ。〔海錄碎事、人事、時號數稱〕五代盧會、分二司洛下一、與二右僕射盧質、散騎常侍盧重一、嗜レ酒好レ遊二山水一、朝士目爲二三盧會一。

【重二三譯一】1932 サンヤクヲカサヌ 三國の通譯を重ねて來る。遠方の國から來るにいふ。〔應禎、晉武帝華林園集詩、越裳重レ譯、注〕善曰、尙書大傳曰、成王之時、越裳重レ譯而來朝、曰、道路悠遠、山川阻深、恐二使之不一レ通、故重二三譯一而朝也。

【三鹽化燐】1933 サンエンクワリン 温めた燐に鹽素を通ずるとき生ずる無色の液體。三氯化磷。

【三音正譌】1934 サンオンセイクワ 書名。二卷。釋文雄撰。卷首に漢文の三音總論があり、次に、韻鏡四十二轉の文字を各轉吳音・漢音・華音の三に分けて說明し、且其の譌を正した。

【三音諾顏】1935 サインノヤン 蒙古地方の部族の名。外蒙古四部の一、賽音諾顏のこと。又、賽因諾延に作る。外蒙古喀爾哈の一部で齊々爾克盟に屬し、二十二旗より成る。もと土謝圖部に屬して居たが、淸の雍正帝の時に土謝圖汗部より分割された。〔淸國行政法汎論、藩部、外蒙古之行政區劃〕喀爾喀、有二四盟一、爲二六部八十六旗一、云云、齊爾里克盟、三音諾顏部 The Sain-noin tribe 二十二旗。

【三價元素】1936 サンカゲンソ 原子價三の元素。

【三覺侍郎】1937 サンカクジラウ 宋の趙叔問は、睡を好み、賓客をいとひ、常に歇息牌を門首に掛けて、自ら三覺侍郎と呼んだ。朝から歸る時、飯の後、歸邸の三つの時だけ目覺めるとの意。〔鷄肋編〕趙叔問爲二天官侍郎一、肥而喜レ睡、又厭二賓客一、在レ省還レ家、常掛二歇息牌於門首一、呼爲二三覺侍郎一、謂二朝回飯後歸第一也。

【三鬲六翼】1938 サンカクリクヨク 九鼎のこと。鬲は、中空の足をつけた鼎。翼は、耳の着いて居る鼎。九鼎の中に鬲が三、翼が六あるのでいふ。三棘六異(1946)を見よ。〔說文、鬲、段注〕楚世家、楚武公曰、居二三代之傳器一、登二三鬲六翼一以高二世主一、小司馬曰、鬲亦作レ甗、云云、按、鬲者、甗之叚借字、翼者甗之叚借字、九鼎、款足者三、附二耳於外一者六也、爾雅曰、鼎款足、謂二之鬲一、附二耳外一、謂二之釴一。〔史記、楚世家〕吞二三鬲六翼一、以高二世主一。〔注〕索隱曰、鬲、亦作レ甗、同、音歷、三鬲六翼、亦謂二九鼎一也、空足曰レ鬲、六翼卽六耳、翼近二耳旁一、事具二小爾雅一。

【三跪九叩】1939 サンキキウコウ 淸朝の敬禮法。三たび跪き、九たび頭を地に著けて拜する禮。〔淸會典事例、太常寺、禮節〕禮部尙書、詣二皇穹宇各香案前一、三上レ香、退二出門檻外一、行二三跪九叩禮一。〔福惠全書、敎養部、擇二鄕約一〕分二東西兩班一、行二三跪九叩頭禮一。

【三跪九拜】1940 サンキキウハイ 淸朝の敬禮法。三たび跪いて九たび拜する禮。三拜九叩。〔淸會典事例、太常寺、禮節〕至二少昊金天氏陵門前一、降レ輿、由二中門一入、至二殿內一、詣二香案前一、三上二瓣香一、行二三跪九拜禮一、仍由二原進門一出升レ輿。

【三驥軺車】1941 サンキエウシヤ 隋の趙芬が退職の時、朝廷から賜はつた車の名。〔北史、趙芬傳〕趙芬、字士茂、云云、拜二尙書右僕射一、以二老病一出爲二蒲州刺史一、云云、上表乞二骸骨一、徵還二京師一、賜以二三驥軺車、几杖被褥一、歸二於家一。

【三祇百劫】1942 サンギヒヤクコフ 佛 菩薩の修行年時をいふ。三阿僧祇劫(菩薩の五十の階位を三期に分つた稱。阿僧祇劫とは無數の長時の意)の閒に六度の行を修め、更に百劫の閒に三十二相を感ずる福業を修め、成佛する。〔大乘止觀、三〕三阿僧祇劫修二六度行一、使二功德身肥一、百劫種二相好一、獲二五神通一。

【三牛爲レ犇】1943 サンギウヲホンナス 三つの牛の字を合すると犇といふ字になる。宋の王安石は字說を作つて、凡ての文字を會意で說明しようとした。そこで劉貢父が三牛は犇となつてハシル と讀

むが、牛は鹿より足が遲いから、三鹿を犇とした方がよいではないかと云つて安石を嘲つた。〔聞見後錄〕王荆公喜說字、至以成俗、劉貢父戲之曰、三鹿爲麤、鹿不如牛、三牛爲犇、牛不如鹿、謂宜三牛爲麤、三鹿爲犇。

【三鞠躬禮】1944 san^1 chü^2 kung^1 li^3 民國元年に公布された禮制。一鞠躬禮を同時に三たび繰返して行ふ最敬禮。慶典・祀典・婚禮・喪禮・聘問の時に用ひる。一鞠躬禮(1－1‥2524)を見よ。

【三級跳遠】1945 san^1 chi^2 t'iao^4 yüan^3 フイールド競技の一。三段跳。

【三棘六異】1946 サンキョクロクイ 九鼎のこと。三翮六翼(1938)に同じ。〔墨子、耕柱〕三棘六異、此諸侯之所謂良寶也。〔閒詁〕史記楚世家云、居三代之傳器、吞三翮六翼、以高世主、索隱云、翮亦作鬲、三翮六翼、亦謂九鼎、空足曰翮、六翼卽六耳、翼近耳旁、宋翔鳳云、棘同翮、異同翼、亦謂九鼎也、爾雅釋器、附耳外謂之釴、翼釴字通、釋器又云、款足者謂之鬲、卽翮也、漢書郊祀志、鑄九鼎、其空足曰鬲、以象三德、蘇林曰、足中空不實者、名曰鬲也。

【三釁三浴】1947 サンキンサンヨク 何度も香を身に塗り、髮を洗ふ。三沐三薰(1995)に同じ。〔國語、齊語〕於是、嚴公使束縛以予齊使、齊使受而以退、比至、三釁三浴之。〔注〕以香塗身曰釁、釁或爲薰。

【三瓦兩舍】1948 サングワリヤウシヤ ㊀民家をいふ。瓦三枚舍二つ位の簡陋さであるからいふ。〔水滸傳、六十五回〕城中各處宮觀寺院佛殿法堂中、各設燈火、慶賞豐年、三瓦兩舍、更不必說。㊁san^1 wa^2 liang^3 shê^4 妓樓。遊女屋。

【三外野人】1949 サングワイヤジン 宋、鄭思肖(**11－39647**‥417)の號。

【三完老人】1950 サンクワンラウジン 明、丘集(**1－33**‥46)の號。

【三環九轉】1951 san^1 huan^2 chiu^2 chuan^3 事情が込入つて面倒な。

【三薰三沐】1952 サンクンサンモク 三沐三薰(1995)を見よ。

【三羣之蟲】1953 サングンノムシ 水に居る蟲、肉を食ふ蟲、草を食ふ蟲。〔呂覽、本味〕三羣之蟲、水居者腥、肉玃者臊、草食者羶。

【三逕之居】1954 サンケイノキヨ ささやかな住宅。せまい屋敷。三徑(404)を見よ。〔本朝文粹、六、藤原篤茂、請被殊蒙天恩拜大內記紀伊輔木工頭源方光申他官所竝淡路國守闕狀〕老而無宅、蔣生猶有三逕之居。

【三逕老人】1955 サンケイラウジン 宋、杜杞(**6－14477**‥56)の號。

【三俠五義】1956 サンケフゴギ 小說の名。淸、石玉崑撰。原名は忠烈俠義傳。此の書は、明の龍圖公案に基づき、包拯といふ者が、南俠展昭・北俠歐陽春・雙俠丁兆蘭と丁兆蕙との三俠四人、及び、鑽天鼠盧方・徹地鼠韓彰・穿山鼠徐慶・翻江鼠蔣平・綿毛鼠白玉堂の五鼠の大盜を感化して役人とし、人民の害を除いて政府のために働かした事蹟を述べたもの。兪樾は少しく訂正を加へ、三俠に小俠・艾虎を增し、五鼠に黑妖狐智化・小諸葛沈仲元を加へて七俠五義と改題した。〔中國小說史略〕。

【三個十九】1957 san^1 kê shih^2 chiu^3 江蘇地方で、正月・二月・三月の各十九日をいふ。

【三在道人】1958 サンザイダウジン 淸、張潮(**4－9812**‥578)の號。

【三飡果腹】1959 サンサンクワフク 近郊に行く者は三度飯を食べただけで腹がもつてゐる。〔莊子、逍遙遊〕適莽蒼者、三飡而反、腹猶果然。

【三旨宰相】1960 サンシサイシヤウ 三旨相公に同じ。

【三旨相公】1961 サンシシヤウコウ 無能な宰相を嘲つていふ。宋の王珪が、御殿に上つて君に進呈するときには、聖旨を取るといひ、可否を上り訖れば、聖旨を領すといひ、退いて下の者に諭すには、既に聖旨を得たりといつた故事。〔宋史、王珪傳〕自執政至宰相、凡十六年、無所建明、率道諛將順、當時目爲三旨相公、以其上殿進呈、云取聖旨、上可否訖、云領聖旨、退諭稟事者、云已得聖旨也。

【三豕己亥】1962 サンシキガイ 三豕金根を見よ。

【三豕金根】1963 サンシキンコン 己亥を三豕、金根を金銀と、共に文字を誤つた故事。文字の誤用誤讀の諭。三豕涉河を見よ。〔孔子家語、七十二弟子解〕卜商反衞、見讀史志者云、晉師伐秦、三豕渡河、子夏曰、非也、己亥耳、問諸晉史、果曰、己亥、于是衞以子夏爲聖。〔尙書故實〕韓退之子昶闇劣、爲集賢校理、史傳有金根車、韓昶以爲誤、改根爲銀。

【三豕涉河】1964 サンシセフカ 己亥に河を涉ると讀むべき所を、己を三に、亥を豕に誤つて、三豕河を涉ると讀んだ故事。文字を誤用又は誤讀する諭。三豕渡河。〔呂覽、察傳〕子夏之晉過衞、有讀史記者曰、晉師三豕涉河、子夏曰、非也、是己亥也、夫己與三相近、豕與亥相似、至於晉而問之、則曰、晉師己亥涉河也、多類非而是、多類是而非、是非之經、不可不分、此聖人之所愼也。

【三豕渡河】1965 サンシトカ 三豕涉河・三豕金根に同じ。〔蔡邕、月令問答〕蓋書有轉誤、三豕渡河之類也。〔新論、審名〕掘井得人、言、自土而出、三豕渡河、云、彘行水上、凡斯之類、不可勝言。

【三紙無驢】1966 サンシロナシ 驢を買ふのに、紙三枚にも餘る書券を作り乍ら、其の中に必要な驢の字は一字もない。文辭の要領を得ない諭。〔顏氏家訓、勉學〕問一言、輒酬之數百、責其指歸、或無要會、鄴下諺云、博士買驢、書券三紙、未有驢字。

【三耳秀才】1967 サンジシウサイ 聰明な人、又、狡猾な人の諭。張審通が、兩耳の外、更に額に一耳を生じ、まことに聰明を極めた故事。〔張君房、脞說〕時人語曰、天上有九頭鳥、人閒有三耳秀才。〔續搜神記〕袞州張審通、爲泰山府君所召、額上安一耳、既醒、額癢、果生一耳、尤聰俊、時號三耳秀才。

【三獸渡河】1968 サンジウカハヲワタル 佛象と馬と兔とが河を渡るのに、兔は浮いて渡り、象は沈んで渡り、馬は半ば浮き、半ば沈んで渡る。如來の教を河に、象を菩薩に、馬を緣覺に、兔を聲聞に諭へ、同一の教を聞いても、機根の高下、造詣の深淺によつて悟の異なるを云ふ。〔優婆塞戒經、一〕如恆河水三獸俱渡、兔馬香象、兔不至底、浮水而過、馬或至底或不至底、象則盡底、恆河水者、卽是十二因緣河也、聲聞渡時、猶如彼兔、緣覺渡河、猶如彼馬、如來渡河、猶如香象、是故、如來得名爲佛、聲聞緣覺、雖斷煩惱、不斷習氣、如來能拔一切煩惱習根原、故名爲佛。〔傳燈錄〕同在佛所、聞說一味之法、然所證各有淺深、譬兔馬象三獸渡河、兔渡則浮、馬渡則及半、象徹底截流。

【三斜晶形】1969 サンシヤシヤウケイ 結晶系の一。結晶の三軸の長さが相異なり、凡て不等の斜角をなして交はる樣な晶族を含む晶系。斧石など。

【三相張家】1970 サンシヤウチヤウカ 唐の張嘉貞は玄宗の相となり、張延賞は德宗の相となり、張弘靖は憲宗の相となつたので、三相張家といはれる。〔實賓錄〕三相張家、唐張嘉貞相玄宗、延賞相德宗、弘靖相憲宗、時號三相張家。

【三株畫法】1971 サンシユグワハフ 三株の樹を並べて畫く畫法。〔芥子園畫傳〕三株畫法、雖屬雁行、最忌根頂俱齊、狀如束薪、必須左右互讓、穿插自然。

【三所權現】1972 サンシヨゴンゲン 紀州熊野の三山。本宮・新宮・那智。〔傾城反魂香〕南無日本第一大靈驗、三所權現と伏し拜み。

【三所蓬萊】1973 サンシヨホウライ 三蓬萊(1914)に同じ。

【三處傳心】1974 サンシヨデンシン 佛禪宗で、釋迦が三處で迦葉に心を傳へたのをいふ。一は、靈山の拈花微笑、二は、多子塔に半座を分け、三は雙林樹下に棺中から足を出したのをいふ。〔禪宗象鑑〕世尊三處傳心者、爲禪旨。

【三請三進】1975 サンセイサンシン 三たび請ひ三たび進める。〔周禮、秋官、司儀〕三請三進、再拜。

【三照相公】1976 サンセウシヤウコウ 宋の范宗尹(字は覺民)は、美男子であつたが、宰相と爲つて、朝起きた時、冠をつける時、巾をおびる時、必ず鏡をとつて姿見をしたので、三照相公といはれた。〔鷄肋編〕范覺民作相、方三十二歲、肥白如冠玉、旦起與裹頭帶巾、必皆攬鏡、時謂三照相公。

【三則不赦】1977 ミタビスレバスナハチユルサズ 罪を三度も犯せば、赦す譯にゆかぬ。佛の顏も三度。〔國語、齊語〕一再則宥、三則不赦。

【三蛇九鼠】1978 サンダキウソ 一畝の地に三匹の蛇と九匹の鼠と居ること。害物の多い諭。〔通俗編、禽

魚、三蛇九鼠〕羅願爾雅翼、載ニ俗諺一、一畝之地、三蛇九鼠。

【二茶一房】1979 san¹ ch'a² i² fang² 家を借用する時、一箇月分の家賃を家主に前納し、三箇月分の家賃に相當する金を、割増金として與へることをいふ。

【二丈之木】1980 ㊥ノキ 秦の孝公の時、商鞅が三丈の木を國都の市中の南門に立て、北門に移せば賞金を與へると約束し、其の約の通り賞與して、政令に僞のない事を示した故事。〔史記、商君傳〕令既具、未レ布、恐ニ民之不レ信レ己、乃立ニ三丈之木於國都市南門一、募レ民、有レ能徙ニ置北門一者予ニ十金一、民怪レ之、莫ニ敢徙一、復曰、能徙者、予ニ五十金一、有ニ一人一徙レ之、輒予ニ五十金一、以明レ不レ欺、卒下レ令、令行ニ於民一。

【二住老人】1981 ㊥ジンジュウ 金、施宜生(5－13629‥13)の號。

【二底四半】1982 san¹ ti³ ssu⁴ pan⁴ 上海で、錢業者間の銀元受渡期日。舊暦三月末日、及び四月十五日をいふ。

【二碘甲烷】1983 ㊥カアジアン 藥品の名。臭氣ある黄色の結晶。醫藥に用ひる。ヨードフォルム。

【二轉法輪】1984 ㊥ボアリン 佛が苦集滅道の四諦を説くに用ひた示・勸・證の三轉の教法。從つて十二種の教法があるからこれを十二行相といふ。示轉は、四諦の法を示すこと。勸轉は、四諦の修行を勸めること。證轉は、佛が自身を擧げて證することを。〔法華經、化城喩品〕三轉十二行法輪。〔俱舍論、二十四〕此苦聖諦、此應ニ徧知一、此已徧知、是名ニ三轉一。

【二念五念】1985 ㊥ニネン 佛を三遍五遍唱へること。〔法事讃、下〕種種法門皆解脱、無過ニ念佛往ニ西方一、上盡ニ一形一、至ニ十念三念五念一、佛來迎。

【三婆兩婢】1986 ㊥サンバアカア 宋代に吏部の役人が賄賂などで私腹を肥したのを評した語。〔老學庵筆記、六〕自ニ元豐一官制、尚書省復ニ二十四曹一、繁簡絶異、云云、及ニ大駕幸ニ臨安一、喪亂之後、士大夫亡ニ失告身批書一者多、又軍賞百ニ倍平時一、賂賄公行、冒濫相乘、饒ニ軍日滋一、賦斂愈繁、而刑獄亦衆、故吏戸刑三曹、吏胥人人富饒、他曹寂莫彌甚、吏輩又爲ニ之語一曰、吏勳封考、三婆兩婢、戸度金倉、細酒肥羊。

【二放三收】1987 san¹ fang⁴ asi¹ shou¹ 巧妙に掛引する。活殺自在に掛引する。

【二八運動】1988 ㊥ウンドウ 三八制を實現せんとする勞働運動。三八制(1893)を見よ。

【二平二滿】1989 ㊥ニヘイニマン ㊀滿足を表はす語。〔黄庭堅、四休居士詩序〕大醫孫居昉、字景初、爲ニ士大夫一發レ藥、多不レ受、謝、自號ニ四休居士一、山谷聞ニ其說一、四休笑曰、麤茶淡飯、飽卽休、補破遮レ寒、暖卽休、三平二滿、過卽休、不貪不レ妨、老卽休、山谷曰、此安樂法也、夫少レ欲者、不伐之家也、知レ足者、極樂之國也。㊁おかめ。おたふく。〔傾城反魂香、上〕三平二滿の口べに。

【二浦竹溪】1990 ㊥フタウラチクケイ 江戸の人。名は義質。字は子彬。號は竹溪。通稱は平太夫。濱松藩儒。寶曆六年歿す、年六十八。著に、射學正宗國字解・明律譯義・竹溪文集がある。〔先哲叢談、後、五〕。

【二浦梅園】1991 ㊥ミウラバイエン 豐後の人。名は晉。字は安貞。號は梅園。又の號は巒山・洞仙・東川・季山・二子山人・無事齋主人。杵築藩儒。寬政元年歿す、年六十七。著に、價原・敢語・歸山錄・寓意・教證玄熙論・玄語・孤竹・五靈集・造物餘譚・五月雨抄・子歳漫錄・死生譚・詩轍・塾制・春遊草・書翰集・身生餘譚・垂綸子・贅語・先考三浦虎角居士行狀・答多賀墨卿書・通語・鐵幾訓・東遊草・獨嘯集・梅園三語・梅園詩稿・梅園詩集・梅園拾英・梅園拾葉・梅園後拾葉・梅園隨筆・梅園叢書・梅園讀法・梅園文稿・梅園文集・豐後跡考・丙午封事・名字私議・養生訓・愈婉錄がある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔梅園全集〕・〔行狀記〕・〔近世叢語、正、一〕。

【二孟不遇】1992 ㊥フグウ 周の孟子・唐の孟浩然。後周の孟賁の三人が、不遇であつたことをいふ。〔人見卜幽軒、東見記〕。

【二民主義】1993 ㊥サンミンシュギ 民國の孫文が唱道した政治上の主義。民族主義・民權主義・民生主義。民族主義とは、一民族の國際的地位の平等を求めること。民權主義とは、國民の政治的地位の平等を求めること。民生主義とは、國民の經濟的生活の平等を求めること。

【二目八臂】1994 ㊥ニモクハッピ ㊀目が三つ、腕が八つあること。又、其れを具備する摩醯首羅天をいふ。〔智度論、二〕摩醯首羅天、秦云ニ大自在一、八臂二眼、騎ニ白牛一。㊁一人で數人分の働をすること。八面六臂。

【二沐三薰】1995 ㊥ニモクサンクン 何度も湯で髪を洗ひ、香を身に塗つて、身を清める。三薰三沐。三爇三浴。三浴三薰。薰沐。〔范琮、荆山璞賦〕廼三沐而三薰兮、曁仆襲以珍藏、〔韓愈、答ニ呂毉山人一書〕方將下坐ニ足下一、三浴而三中薰之上、元好問、懷ニ叔能詩一〕三沐三薰知レ有レ待、一鳴一息定ニ誰先一。

【二氧化硫】1996 ㊥ニサンカリュウ 無水亞硫酸と空氣との混合物を、白金を觸媒として處理して得る結晶性物質。硫酸製造其の他に用ひる。硫酐。三酸化硫黄。無水硫酸。

【二氯化鐵】1997 ㊥ニリョクカテツ 鹽化第二鐵(12－47579‥24)に同じ。

【二氯化磷】1998 ㊥ニリョクカリン 三鹽化燐(1933)に同じ。

【二鹿爲ㇾ麤】1999 ㊥ニロクヲソレトナス 鹿といふ字を三つ合せると麤といふ字になる。王安石の字說を嘲つた語。三牛爲ㇾ犇(1948)を見よ。〔聞見後錄〕劉貢父戲レ之曰、三鹿爲ㇾ麤。

【二鹿郡公】2000 ㊥ニロクグンコウ 粗雜な人の形容。三鹿は麤の意。〔雲仙雜記〕袁利、見性頑獷、方棠謂、袁生已封ニ三鹿郡公一。

【二彎九轉】2001 san¹ wan¹ chiu² chuan³ 事情が込入つて面倒な。

【掣二作四】2002 na² san¹ tsuo⁴ ssu⁴ 二を四とする。無法者を云ふ。〔紅樓夢、三十九回〕比不得那個狂三詐四的那些人。

【不レ成ニ三瓦一】2003 ㊥フセイサンガ 屋根を葺く時、三枚だけ瓦を缺いておくこと。完全を望まぬ喩。三瓦戒(1833)を見よ。〔史記、龜策傳〕物安可レ全乎、天尚不レ全、故世爲ニ屋、不レ成ニ三瓦一、而陳レ之、以應ニ之天一、天下有レ階、物不レ全、乃生也。

【三級三審制】2004 ㊥サンキュウサンシンセイ 中國の法院組織の名。三級は、地方法院・高等法院・最高法院をいひ、三審は、第一審・第二審・第三審をいふ。

【二吾寄漫子】2005 ㊥ニゴキマンシ 明、鄧球(11－39630‥3)の號。

【二吾鴻景齋】2006 ㊥コウケイサイ 清、何元錫(1－511‥2)64)の室名。

【二硝基苯醇】2007 ㊥ニショウキホンジュン 苦味酸。

【二箭定天山】2008 ㊥ニセンヲサダムテンザン 唐の薛仁貴が、三本の矢を放つて三人を殺し、遂に天山を平定した故事。〔唐書、薛仁貴傳〕爲ニ鐵勒道行軍總管一、時九姓衆十餘萬、令ニ驍騎數十來挑レ戰、仁貴發ニ三矢一、輒殺ニ三人一、虜氣懾皆降、軍中歌曰、將軍三箭定ニ天山一、壯士長歌入ニ漢關一。〔精註雅俗故事讀本、上、武職〕三箭定ニ天山一、薛仁貴之名甚赫。〔唐書、薛仁貴傳〕爲ニ鐵勒道行軍總管一、時九姓衆十餘萬、令ニ驍騎數十來挑レ戰、仁貴發ニ三矢一、輒殺ニ三人一、虜氣懾皆降、軍中歌曰、將軍三箭定ニ天山一、壯士長歌入ニ漢關一。〔精註雅俗故事讀本、上、武職〕三箭定ニ天山一、薛仁貴之名甚赫。

【二圃式農法】2009 ㊥ニホシキノウホウ 三田耕作(1945)に同じ。

【二硫化二銻】2010 ㊥ニリュウカニアンチモン アンチモン鹽水溶液に硫化水素を通じて得られる橙赤色無定形の固體。顔料に用ひる。硫化アンチモン。

【二賜不レ及ニ車馬一】2011 ㊥ニシヲヨバズバ 古、仕へる者は一命で爵を受け、再命で衣服を受け、三命で位と車馬とを受ける。車馬に及ばずとは、三命の時に、孝子が其の父に遠慮して、位だけを受けて車馬を戴かないこと。〔禮、曲禮上〕夫爲ニ人子一者、三賜不レ及ニ車馬一、故州閭鄉黨、稱ニ其孝一也。〔注〕三賜、三命也、凡仕者、一命而受ニ爵、再命而受ニ衣服一、三命而受ニ車馬一、車馬而身所ニ以尊一者備矣、卿大夫士之子不レ受、不下敢以成ニ尊、比中踰於父上、天子諸侯之子不レ受、自卑遠ニ於君一。

【二縮二原磷酸】2012 ㊥ニサンシュクニゲンリンサン 焦燐酸(7－19119‥144)に同じ。

【二漪陀跋捺羅】2013 ㊥パダラ 梵語 Samantabhadra の音譯。菩薩の名。普賢と譯す。又、三曼陀颰陀・三曼陀颰陀羅・三曼跋陀に作る。〔仁王經儀軌〕三滿多者、此云ニ普、亦云ニ徧、亦云ニ等、跋捺羅、此云ニ賢也。

【上】 13

㊀シャウ ジャウ 〔集韻〕時亮切 漾 尸尢 shang⁴

㊁シャウ ジャウ 〔集韻〕是掌切 養 尸尢ˇ shang³

上

丄 小篆(説文)　篆文(段注本)　上 篆文(説文)　二 古文(段注本)

[一]❶うへ。かみ。物の上。おもて。〔易、渙〕風行二水上一渙。〔左氏、襄、二十九〕猶三燕之巢二于幕上一。〔史記、高祖紀〕羽爲三高俎一、置二太公其上一。❷たかい。古は二(1－248)に作り、篆文は丄(1－7)に作る。〔正字通〕上、古文作レ二。〔説文〕二、高也、此古文丄、指事也、丄、篆文上。❸いただき。頂上。〔史記、趙世家〕藏二寶符於常山上一。〔雲笈七籤〕上方九天之上。❹そら。天空。〔書、堯典〕格二于上下一。〔書、文侯之命〕昭升二於上一。〔注〕上、謂レ天。❺尊い位。〔易、乾、文言〕本二乎天一者親レ上。〔史記、太史公自序〕上無二明君一。〔獨斷、上〕上者、尊位所レ在也。❻君。天子の尊稱。轉じて、身分あるもの。〔廣雅、釋詁一〕上、君也、太上、極尊之稱。〔易、剝〕上以厚レ下、安宅。〔注〕上、君也。〔孝經、士章〕忠順不レ失、以事二其上一。〔史記、淮陰侯傳〕上自將而征。〔史記、魏其傳〕上初卽レ位。❼めうへ。〔儀禮、喪服〕尊者、尊統レ上。〔呂覽、論威〕君臣上下。〔注〕上、長。❽たつとぶ。〔左氏、僖、二十八〕胥臣佐二下軍一、上レ德也。〔史記、平津侯主父偃傳〕上二篤厚一。〔注〕上、猶レ尚也、貴也。〔漢書、賈誼傳〕上レ親。❾上等のもの。すぐれたもの。〔書、禹貢〕厥田惟上上。〔淮南子、氾論訓〕令行爲レ上。〔注〕上、最也。❿はじめ。〔呂覽、義賞〕雍季在レ上。〔注〕上、首也。⓫むかし。前。〔呂覽、安死〕自レ此以上者。〔注〕上、猶レ前也。〔史記、屈原傳〕上稱二帝嚳一、下道二齊桓一。⓬ひさしい。〔呂覽、蕩兵〕兵之所二自來一者、上矣。〔注〕上、古。⓭おもい。〔方言、十三〕上、重也。〔孟子、離婁上〕善戰者服二上刑一。〔注〕上刑、重刑也。⓮ゆたか。〔禮、禮器〕禮之薄厚、與二年之上下一。〔注〕用二年之豐凶一也。〔疏〕上、猶レ豐也。⓯さかん。〔淮南子、時則訓〕堅致爲レ上。〔注〕上、盛也。⓰一方には。〔漢書、東方朔傳〕上以安二主體一、下以便二萬民一。⓱ほとり。かたはら。〔論語、雍也〕吾必在二汶上一矣。〔史記、孔子世家〕唯子貢廬二於冢上一。〔注〕索隱曰、蓋上者、亦是邊側之義。⓲助辭。〔戰國、秦策〕人生二世上一、勢位富厚。〔陶潛、讀二山海經一詩〕雖レ非二世上寶一、爰得二王母心一。⓳姓。〔萬姓統譜〕上、商音、見二姓苑一。〔奇姓通〕上纘、字承之、號二竹齋一、宋內侍入道。⓴[現]㋑位置・場所、又は或る目的地を示す時に用ひる語。某某へ。㋺云云し始めた。云云し出した。㊇助動詞。上に加へる意。㊁語尾に附す助詞。ほぼ。了(1－226)に同じ。[二]❶たかい。〔集韻〕上、説文、高也。❷あがる。のぼる。〔廣韻〕上、登也、升也。〔易、需〕雲上二於天一。〔注〕上、升也。〔莊子、逍遙遊〕搏二扶搖一而上者九萬里。❸のぼす。のせる。〔儀禮、士喪禮〕毋レ上二於面一。❹くはへる。〔論語、顔淵〕草上二之風一、必偃。〔劉寶楠正義〕此注云二加レ草以レ風、亦訓レ上爲レ加也。❺しのぐ。〔左氏、桓、五〕君子不レ欲二多上一レ人。〔國語、周語中〕民可レ近也、而不レ可レ上也。〔注〕上、陵也。❻すすめる。たてまつる。〔釋名、釋書契〕下言二於上一曰レ表、又曰レ上、示二之於上一也。〔漢書、東方朔傳〕朔上二三千奏牘一。❼大きくなる。自分を大きくする。〔淮南子、説山訓〕是以能上レ之。〔注〕上、大也。❽こひねがはくは。尙(4－7493)に通ず。〔詩、魏風、陟岵〕上愼旃哉、猶來無レ止。〔集傳〕上、猶レ尙也。❾至れること。〔後漢書、竇憲傳〕昭銘二上德一。〔注〕上、猶レ至也。❿四聲の一。上聲(474)を見よ。⓫樂譜の記號。中呂を表はす。〔宋史、樂志〕中呂用二上字一。⓬助辭。程よく成す意を表はす。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕將二言詞一説上。⓭[現]任地に至る。官に著く。

[邦]❶(ミカ)庶人の妻。❷地名。㋑(ムウ)丹波國に在り。㋺(カ)和泉國に在り。❸(カミ・ウヘ)姓。

[名乘] カミ。ウラ。タカ。ヒサ。

[解字] 指事。一は一定の位置を示し、｜は其の位置より高い場所を指す。古文は丄又は二と書く。一説に、丄を古文とするのは誤。〔説文、上、段注〕各本、誤以レ丄爲二古文一、則不レ得レ不レ改。

【上衣】1 ジヤウイ ❶うはぎ。表面に著る衣服。上服。〔説文〕表、上衣也。〔段注〕上衣者、衣之在レ外者也。〔論語、鄕黨、必表而出、集解〕孔安國曰、必表而出、加二上衣一也。〔虞集、贈二星上人一詩〕雲氣上衣身欲レ飄。〔董越、朝鮮賦〕上衣則皆過レ膝、下裳則皆垂レ堂。❷[佛]ジヤウエ 大衣。二十五條の鬱多羅僧衣。三衣(1－12‥16)の一。〔法華文句、十四〕言二上衣一者、卽大衣也。

【上意】2 ジヤウイ 君の御心。〔管子、八觀〕量二上意一、察二國本一。〔漢書、元帝紀〕人人自以爲レ得二上意一。〔漢書、魏相傳〕甚稱二上意一。

【上意下達】3 ジヤウイカタツ お上の意のある所が、下下にまで徹底すること。〔日本政記、正親町天皇〕天正五年、賴襄曰、當二國之創建一也、上意下達、下情上通、歡然無レ間。

【上醫】4 ジヤウイ すぐれた醫師。〔國語、晉語八〕上醫醫レ國、其次疾人。〔唐書、裴度傳〕帝擇二上醫一護治。〔稱謂錄、醫、上醫〕史傳、六十賢人隱二於醫一曰二上醫一。

【上位】5 ジヤウヰ ❶うへのくらゐ。高い位。〔易、乾〕居二上位一而不レ驕。〔左氏、襄、二十一〕在二上位一者、洒二濯其心一。〔中庸〕在二上位一不レ陵レ下。〔漢書、劉向傳〕賢人在二上位一。❷上座。〔新序、雜事一〕秦使者至、昭奚恤曰、君客也、請就二上位一。

【上威】6 ジヤウヰ 上の御威光。〔管子、七法〕百匿傷二上威一、姦吏傷二官法一、姦民傷二俗敎一、賊盜傷二國衆一、威傷則重在レ下。

【上尉】7 ジヤウヰ 陸海軍の將校の階級の名。大尉に當る。

【上油】8 shang^4 yu^2 油を塗る。

【上囿】9 ジヤウイウ 天子が禽獸を飼ふ苑。〔班固、西都賦〕西郊則有二上囿禁苑一。〔注〕善曰、上囿禁苑、卽林苑也。

【上游】10 ジヤウイウ ❶上流。又、上流附近の地。〔史記、項羽紀〕古之帝者、地方千里、必居二上游一。〔郭璞、遊仙詩〕赤松臨二上游一。〔薛能、昇平詞〕瑞氣遶二宮樓一、皇居信上游。❷たかい地位。高位高官にある身分。〔羅隱、春日投二錢塘元帥尙父一詩〕征東幕府十三州、敢望非才忝二上游一。❸上位の成績。試驗の上成績。〔宋史、文苑、黃伯思傳〕甫冠入二大學一、校藝屢占二上游一。❹空に上り遊ぶ。〔楚辭、劉向、九歎〕駕二鸞鳳一以上游兮。〔阮籍、詠懷詩〕上二游園圃籬一。❺出かける。〔桃花扇、和戰〕江北淮南數上游。

【上猶】11 ジヤウイウ ❶川の名。舊名は益漿水。湖南省汝城縣の益漿鎭に源を發す。❷縣名。五代、唐の楊吳が上猶場を置き、南唐になつて縣に改めた。今、江西省贛縣の西。上猶江が流れてゐるので名づける。〔讀史方輿紀要、江西、南安府〕上猶縣、府東北二百里、云云、本南康縣地、五代唐同光二年、楊吳析置二上猶場一、以二上猶水一爲レ名、南唐保大十年、升爲レ縣。〔清史稿、地理志〕江西、南安府、縣四、上猶。

【上印】12 shang^4 yin^4 官吏などが任務に就くこと。

【上寅】13 ジヤウイン ❶月のはじめの寅の日。〔元稹、代二曲江老人一詩〕校獵求二初吉一、先農卜二上寅一。〔雲笈七籤〕軒轅本紀、黃帝於レ是祭レ天、圜丘將レ求二至道一、卽師二事九元子一、以二地皇元年正月上寅一

日、齋二於首山一。❷七月の上の寅の日。始は七月七日に麴を作つてゐたが、後、七月上寅の日に之を作ることになつた。〔齊民要術、造神麴〕神麴法、以二七月上寅日一作。〔崔寔、四民月令〕七月七日、遂作レ麴。

【上淫】14 ジヤウイン 自分より身分の尊い女と私通すること。上烝。〔左氏、桓、十六〕初衞宣公烝二於夷姜一生二急子一、〔注〕夷姜、宣公之庶母也、上淫曰レ烝。〔疏〕訓レ烝爲レ進、言、自進與レ之淫也。

【上院】15 ジヤウヰン ❶立派な屋敷。〔陸游、詩〕花如二上院一常成レ市、酒似二新豐一不レ値レ錢。❷二院制の議會に於て、貴族若しくは勳功者を以て組織された一院。民主國では、下院と別の方法で選出した議員を以て組織する。我が國の參議院に當るもの。上議院。

〖上院議員〗16 ジヤウヰンギヰン 上院の議員。我が國の參議院議員に當るもの。

【上羽】17 ノボリバ 鳥が空にのぼる時の羽ばたき。〔今川了俊和歌所へ不審の條條〕あけぼのの鳴ののぼりばかきつかん。

【上雨】18 ジヤウウ ❶よい潤ひの雨。甘雨。❷あまもり。上雨旁風を見よ。

〖上雨旁風〗19 ジヤウウバウフウ 上からは雨が漏り、横からは風が吹き込む。破れ家のさま。〔韓愈、南海神廟碑〕上雨旁風、無レ所二蓋障一。

【上雲】20 ジヤウウン 道教の神の姓。〔雲笈七籤〕據斗眞人、號曰二太上宮青城玉樓九晨君一、姓上雲、諱法嬰容。

〖上雲樂〗21 ジヤウウンガク 樂府淸商曲の名。梁、武帝作。七曲あり、多く神仙飛昇の事をいふ。〔古今樂錄〕上雲樂七曲、梁武帝製、以代二西曲一、一曰、鳳臺曲、二曰、桐柏曲、三曰、方丈曲、四曰、方諸曲、五曰、玉龜曲、六曰、金丹曲、七曰、金陵曲、取二首闋鳳臺曲一、和二上雲眞樂萬春語一、以名レ樂、諸曲所レ言、多二飛昇之事一、故名二上雲樂一。

【上映】22 ジヤウエイ 映畫を映寫興行すること。

〖上映土州〗23 ジヤウエイドシウ 州名。宋、置き、土官の許氏が世襲した。淸代、廣西省鎭安府に屬す。今の廣西省向都縣の南の地。〔淸史稿、地理志〕廣西、鎭安府、土州三、上映土州。

【上榮】24 ジヤウエイ ❶家のひさしの兩端のそりあがつたところ。屋翼。〔揚雄、甘泉賦〕列宿迺施二于上榮一兮、日月纔經二於柍振一。〔注〕善曰、韋昭曰、榮、屋翼也、翰曰、榮、博風也。❷上が榮える。〔易林〕下枯上榮、家乃不レ寧。

【上睿】25 ジヤウエイ 淸、吳縣の人。字は潯濬(尋濬)。號は目存・蒲室子・童心行者。山水花鳥の畫に巧。著に餘習吟がある。〔國朝書畫家筆錄、四〕・〔國朝書人輯略、十四〕・〔淸畫家詩史、壬、下〕。

【上窰】26 ジヤウエウ 鎭の名。安徽省懷遠縣の南。〔宋史、李穀傳〕(周顯德三年)穀敗二吳軍數千于來遠一、又破二千餘人于山口鎭一、進攻二上窰一。

【上謁】27 ジヤウエツ ❶面會を求めること。名刺を上る。謁は今の名刺。〔史記、張儀傳〕張儀之レ趙上謁、求レ見二蘇秦一。〔漢書、雋不疑傳〕盛服至レ門上謁。❷尊者に面會すること。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕池田・淺野等、亦撤レ備上謁。

【上葉】28 ジヤウエフ ❶上代。上世。〔宋書、武帝紀中〕昔在上葉、深鑒二茲道一。〔南齊書、高帝紀上〕勛華弘二風於上葉一、漢魏垂二式於後昆一。❷バウハ うへの葉。

【上衍】29 ジヤウエン 佛上乘(422)の❸の㋑に同じ。衍は梵語 yāna の音譯で、乘の義。〔淨土論注、上〕此無量壽經優婆提舍、蓋上衍之極致、不退之風航者也。

【上演】30 ジヤウエン 演劇を舞臺にのぼせて演ずること。上場。

【上苑】31 ジヤウエン 天子の庭園。上林。〔庾信、徵調曲〕上苑有二烏孫學一レ琴。〔唐書、蘇良嗣傳〕采二怪竹江南一、將レ蒔二上苑一。〔宋史、樂志十五〕寶閣珠樓臨二上苑一、百卉弄二春柔一。

【上圓】32 ジヤウエン ❶上部の圓いこと。〔大戴禮、明堂〕以レ茅蓋レ屋、上圓下方。〔孝經緯援神契〕明堂上圓下方。〔漢書、王莽傳上〕浚レ井得二白石一、上圓下方、有二丹書著石一。❷そら。天。〔陸倕、石闕銘〕色法二上圓一、制模二下矩一。〔注〕善曰、上圓、天也、下矩、地也。

【上屋】33 ジヤウヲク ❶屋上にのぼる。〔史記、魏世家〕痤因上レ屋騎レ危。〔漢書、哀帝紀〕夜持レ火上レ屋。❷家屋中の一番主なる室。正房(6-16255・・372)に同じ。〔牛弘、明堂議〕服虔亦云、太室、太廟太室之上屋也。❸上を覆ふ屋根。〔釋名、釋船〕其上屋曰レ廬、象二廬舍一也。❹ shang⁴ wu¹ 上等の部屋。❺稅關の構內で陸上げした貨物を留置若しくは貯藏する建物。

〖上屋敷〗34 カミヤシキ 江戸時代、諸大名が自分の常住用として江戸に設けた屋敷。〔蘆名家記〕松本が上屋敷は三の丸に有りしを。

〖上屋裏〗35 shang⁴ wu¹ li³ 家屋中の一番主なる室。正房。

【上下】36 シヤウカ ジヤウゲ ❶かみしも。うへとした。〔周禮、春官、卜師〕辨二龜之上下左右陰陽一。〔注〕上、仰者也、下、俯者也。❷君と臣。又、在位の人としもの民。〔書、周官〕治二神人一、和二上下一。〔周禮、夏官、訓方氏〕上下之志。〔注〕上下、君臣也。〔孟子、梁惠王上〕上下交征レ利、而國危矣。〔孝經、開宗明誼章〕上下無レ怨。❸上位のものと下位のもの。〔易、序卦〕有二君臣一、然後有二上下一。〔禮、曲禮上〕君臣上下、父子兄弟、非レ禮不レ定。〔釋文〕上謂二公卿一、下謂二大夫士一。〔疏〕上謂二公卿大夫一、下謂レ士也。❹長幼。〔呂覽、論威〕君臣上下親疏之所二由起一也。〔注〕上、長、下、幼。❺天と地。上下神祇を見よ。〔書、堯典〕光二被四表一、格二于上下一。〔傳〕其名聞充二溢四外一、至二于天地一。〔書、湯誥〕上下神祇。〔後漢書、馮異傳、注〕上下、天地也。❻山と澤。又、山と平地。〔書、舜典〕疇若二予上下草木鳥獸一。〔傳〕上、謂レ山、下、謂レ澤。〔漢書、揚雄傳上〕昔者禹任二益虞一、而上下和、草木茂。〔注〕師古曰、上、山也、下、平地也。❼豐年と凶年。〔周禮、地官、廩人〕以二歲之上下一、數二邦用一、以知二足否一。〔疏〕上下、卽豐凶。〔禮、禮器〕禮之薄厚、與二年之上下一。〔注〕用二年之豐凶一也。〔疏〕上猶レ豐也、下猶レ荒也。❽のぼるとくだると。又、のぼすとくだすと。〔周禮、秋官、司儀〕從二其爵一而上二下之一。〔注〕上下、猶二豐殺一也。〔疏〕爵尊者禮豐、卑者禮殺、以二一等一爲二豐殺一也。〔韓愈、答二陳商一書〕吾瑟鼓レ之、能使二鬼神上下一。❾上品のうちの下位。〔墨經、松〕可二揭而起一、視レ之而明者、曰二揭明松一、品惟上下。❿ shang⁴ hsia⁴ ㋑約云云くらゐ。ほど。ばかり。㋺おまへ。汝。⓫ジヤウゲ ㋑裃カミシモ。肩衣カタギヌと袴とを上下ともに同色に染めたもの。德川時代の主な禮服。又、直衣・水干・素袍などと袴とを合せていふ。〔貞丈雜記、五、裝束〕。㋺乘物で往復する。

〖上下江〗37 シヤウカカウ ❶川の名。上江は、西江卽ち鬱水をいふ。下江は、南江卽ち瀧水をいふ。廣東省羅定縣の西。西江(10-34763・・89)を見よ。❷安徽・江蘇の二省をいふ。上江は安徽、下江は江蘇。

〖上下畫〗38 shang⁴ hsia⁴ hua⁴ 上から見ても下から見ても同じ形の畫。古鏡の背などに多く畫いてある。圓轉畫。

〖上下限〗39 shang⁴ hsia⁴ hsien⁴ 敷居と鴨居。

〖上下鎖〗40 シヤウカサ 宋の官名。船の稅金を掌る。〔宋史、職官志五〕汴河上下鎖、蔡河上下鎖、掌レ收二舟船木筏之征一。

〖上下牀〗41 シヤウカシヤウ 上座と下座。僅かの差をいふ。〔魏志、陳登傳〕君求レ田問レ舍、言無レ可レ采、是元龍所レ諱也、何緣當二與レ君語一、如丁小人欲丙臥二百尺樓上一、臥乙君於地甲、何但上下牀之閒邪。

〖上下動〗42 ジヤウゲドウ 地震で上下にゆれること。水平動(6-17083・・755)の對。

〖上下忙〗43 シヤウカバウ 賦稅の錢糧を上下の二期に分納すること。唐の德宗の兩稅法に始まる。上忙(649)・下忙(1-14・・475)を見よ。〔皇朝文獻通考、田賦考、田賦之制〕雍正十三年、寬下徵二收錢糧一之限上、定例地丁錢糧、二月開徵、五月停忙、八月接徵、十一月全完、時又以下物土異レ宜、樹二藝穀麥一、紡二績絲布一、收穫成就、早晚多寡、各省不上同、令下督撫按二照地方情形一、酌量徵收上、不三必拘二定四月完半之數一。

〖上下芒〗44 シヤウカバウ 上下忙に同じ。

〖上下平〗45 シヤウカヒヤウ 韻の上平と下平。上平(701)の❷を見よ。

〖上下力〗46 shang⁴ hsia⁴ li⁴ 倉庫營業に於て貨物の倉出・倉入・運搬に對する人夫賃をいふ。

〖上下有レ等〗47 シヤウカトウアリ 上下の間に差等がある。〔莊子、天下〕貴賤有レ儀、上下有レ等。

〖上下有レ服〗48 シヤウカフクアリ 上下の身分によつて服制を異にする。〔左氏、襄、三十〕子產使下都鄙有レ

章、上下有レ服、田有二封洫一、廬井有レ伍。

【上下一レ心】49 シヤウカイツシン 上下の人が心を合せる。上下同レ心。〔淮南子、詮言訓〕上下一レ心、君臣同レ志。

【上下咸讓】50 シヤウカカンジヤウ 上下の人が悉く禮讓に厚くなる。〔史記、五帝記〕伯夷主レ禮、上下咸讓。

【上下咸和】51 シヤウカカワス 上下の人々が悉く和合する。〔潘勗、冊二魏公九錫一文〕君敦二尚讓讓一、俾二民興行一、少長有レ禮、上下咸和。

【上下其手】52 shang⁴ hsia⁴ ch'i² shou³ 自分の都合により法をまげる。

【上下之際】53 シヤウカサイ 上下の人が互に理解し合ふ。際は接合すること。〔禮、祭統〕明君在レ上、則竟內之民、無二凍餒者一矣、此之謂二上下之際一。〔疏〕際、接也、至尊與二賤者一、其道接也。

【上下之分】54 シヤウカノブン 上下尊卑の差別。〔漢書、高帝紀下〕又加二惠於諸侯王一、有レ功者一使レ得レ立二社稷一、地分已定、而位號比擬、亡二上下之分一。〔注〕師古曰、言、大王與レ臣、等並稱レ王、是爲二比類相擬一、無二尊卑之差別一也。

【上下相親】55 シヤウカアヒシタシム 上下の人が互に親しみ合ふ。〔禮、經解〕上下相親、謂二之仁一。

【上下神祇】56 シヤウカシンギ 天地の神々。神は天神、祇は地神。八百萬の神。〔論語、述而〕誄曰、禱二爾于上下神祇一。〔集注〕上下、謂二天地一、天曰レ神、地曰レ祇。

【上下齊同】57 シヤウカセイドウ 君と臣とが心を一つにする。〔資治通鑑、漢紀〕〈獻帝、建安十三年〉與レ彼協レ心、上下齊同。

【上下天光】58 テンカクワウ 空も水も一様に光り輝くこと。天光は空の光。〔范仲淹、岳陽樓記〕上下天光、一碧萬頃。

【上下凍州】59 トウシウ 古の州名。廣西省龍州縣の西。元、置く。清には土州。民國、龍州縣に併入した。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕上下凍州、本西源農洞地、宋置二凍州一、隸二太平寨一、元分二上凍下凍二州一、隸二太平路一、旋合爲二一州一、隸二龍州萬戶府一、明初仍曰二上下凍州一、屬二太平府一。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、上下凍土州。

【上下同レ心】60 コウカドウシン 上下一レ心(49)に同じ。〔淮南子、兵略訓〕上下同レ心、氣意俱起。〔後漢書、和帝紀〕若上下同レ心、庶或有レ瘳。

【上下同門】61 シヤウカドウモン 姑の壻と姪の壻との互稱。〔因話錄〕姑之壻與二姪之壻一、謂二之上下同門一。

【上下二關】62 シヤウカニクワン 雲南省に在る二つの關門。上關は龍首關、下關は龍尾關といふ。〔讀史方輿紀要、雲南、大理府、大和縣〕龍首關、府北七十里、亦曰二石門關一、又謂二之上關一、城有二四門一、一府南二十里爲二龍尾關一、亦曰二下關一、城有二三門一。

【上下八方】63 シヤウカハツパウ 天地八方。〔列子、湯問〕殷湯曰、然則上下八方、有二極盡一乎。

【上下不レ和】64 シヤウカフワ 上下のものが和合せぬ。〔漢書、董仲舒傳〕上下不レ和、則陰陽繆盭、而妖孽生矣。

【上下无レ常】65 シヤウカムジヤウ 或は上位に行き、或は下位に降つて一定しない。〔易、乾〕子曰、上下无レ常、非爲二邪一也。

【上下無レ怨】66 シヤウカムエン 上下のものが互に和合する。〔左氏、昭、二十〕若二有德之君一、外內不レ廢、上下無レ怨。

【上下兩院】67 シヤウカリヤウヰン 上院と下院。我が國の參議院と衆議院。

【上下和合】68 シヤウカワガフ 上下のものが互に睦み合ふ。〔史記、魏世家〕國人稱レ仁、上下和合、未レ可レ圖也。

【上下往復】69 シヤウワウフク 官職の升降と、中央と地方との出入とをいふ。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕上下往復、感二世路之崎嶇一。

【上下怨疾】70 エンシツ 上下のものが互に怨み合ふ。〔左氏、昭、二十〕外內頗邪、上下怨疾。

【上下彀不着】71 shang⁴ hsia⁴ kou⁴ pu chao² 帶に短し、襷スキに長し。

【上家】72 カミ ❶地位の高い人。上流。〔蜀志、李嚴傳、注〕君以二中郎參軍一、居二府方之氣類一、猶爲二上家一。❷ shang⁴ chia¹ 麻雀で、胴親の左手に座する人。北家。

【上荷】73 ニウ ❶馬上につける荷。❷運送荷物の上部のもの。

【上荷船】74 アゲニ 大船が港を出入する時、その荷物だけを載せて運ぶ小舟。はしけぶね。〔和漢三才圖會、船橋類、上荷舟〕宇波尒布禰、按、上荷舟者、海船入レ津、其貨物可レ卸、而船未レ能着レ岸、故先僱二小船一、分載上貨卸レ之、船稍輕而得レ着也、又多載レ物出レ津時亦然、謂二之上荷取一、凡可レ載二二十斛一。

【上歌】75 ジヤウカ 謠曲の曲節の一。下歌に比し上音で、悠々とうたふもの。

【上價】76 ジヤウカ 高いあたひ。よい値段。高價。〔漢書、張禹傳〕極二膏腴上價一、他財物稱レ是。〔宋史、食貨志上三〕州郡告レ歡、則折二收上價一。

【上賀】77 ガジ ❶天子に對して慶びを申上げる。〔晉書、孫楚傳〕時龍見二武庫井中一、羣臣將二上賀一。❷宋代に、婚禮の時、嫁の家で新壻に禮物を獻ずること。今は新しく來た人の禮物をいふ。〔夢粱錄、嫁娶〕親家廣設二華筵一、款二待新壻一、名曰二會郎一、亦以二上賀禮物一與レ其壻一。

【上衙】78 shang⁴ ya² 役所に出る。

【上衙門】79 shang⁴ ya² men 役所に出る。

【上駟】80 ジヤウシ 最もすぐれた馬。上驂。〔詩、鄭風、大叔于田、兩服上襄、箋〕襄、駕也、上駟者、言レ爲二衆馬之最良一也。

【上駕女兒哭是笑】81 shang⁴ chia⁴ nü³ êrh² k'u¹ shih⁴ hsiao⁴ 婚禮に赴く爲、輿に乘らうとする女子の泣くのは實は笑ひだ。輿に乘る時泣くのは、父母と別れるのを悲しむ意で、禮とせられてゐる。

【上屆】82 shang⁴ chieh⁴ ❶前回。先達て。❷上半期。前期。前半期。

【上屆派餘】83 shang⁴ chieh⁴ p'ai⁴ yü² 上期利益繰越金。

【上界】84 ジヤウカイ ❶天上の世界。〔賈島、題二戴勝一詩〕能傳二上界春消息一、若到二蓬山一莫二放歸一。〔雲笈七籤〕上界宮館生二於窈冥一、皆有二五色之氣一而結成。❷佛の居る所。天上界。天國。〔張九齡、祀二紫蓋山一經二玉泉山寺一詩〕上界投二佛影一、中天揚二梵音一。皎然、題二報恩寺惟照上人房一詩〕上界雨色乾、涼宮日遲遲。

【上海】85 シヤンハイ 縣名。又、市名。江蘇省松江縣の東北。もと華亭縣の地で、華亭海といふ。別稱、上洋。宋の紹興中、其の地に市舶提擧司及び権貨場を置き、上海鎭といふ。其の位置が海の上洋にあるから上海と名づけた。清代は、江蘇省松江府に屬したが、民國の初、江蘇滬海道の治となり、十三年江浙戰爭の後、寶山縣の吳淞鎭及び附近の市鄉を合して松滬特別市區となり、十七年、縣境の十一市鄉及び寶山縣の一部を劃して上海特別市となり、十九年、上海市と改稱し、行政院に直隸した。市境に滬瀆があるから、略して滬といひ、又、黃浦江は一名、春申江ともいふから、申ともいふ。其の地は、吳淞江と黃浦江との合流點で、東西洋の衝に當る。清の道光二十二年、英支南京條約によつて開いた中國第一の通商港。滬南閘北の間には、佛租界・共同租界地があつて、京滬・滬杭甬・淞滬三鐵道の交叉點となる。交通發達し、商工業殷盛を極め、居民は三百餘萬人といふ。〔元史、世祖紀〕分二華亭之上海一爲レ縣。〔清史稿、地理志〕江蘇、松江府、縣七、上海。

【上海協定】86 シヤンハイケフテイ 昭和七年五月、上海に於て結ばれた日中間の停戰協定。

【上海巴巴】87 shang⁴ hai³ pa¹ pa 婦人の髷マゲの一種。上海風の髷。

【上開】88 shang⁴ k'ai¹ 上記。前記。右。

【上階】89 カイ ❶上方にある階段。上の階級。〔史記、天官書、注〕索隱曰、天子之三階、上階上星爲二男主一。❷三位以上の位階の稱。〔江家次第、二、七日節會〕近例有二上階一時、用二納言一。

【上艾】90 ジヤウガイ 縣名。漢、置く。山西省平定縣の東南。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、上艾。

【上街】91 shang⁴ chieh¹ ❶町に行く。街路へ出る。❷商店工場等の外交員。

【上檐】92 ジヤウエン 上部の屋根の端。〔張協、玄武館賦〕飛甍四注、上檐浮霄。

【上爻】93 ジヤウカウ 易の卦の最上段の爻。〔張行成、元包數〕上爻不レ變。

【上交】94 ジヤウカウ ❶上に交る。〔兪允文、玉屏山居賦〕森藝蓍之菁蔥兮、掩霞紛而上交。❷目上の人とつきあふ。上流の人と交際する。〔易、繫辭下〕君子上交不レ諂、下交不レ瀆。〔法言、脩身〕上交不レ諂、下交不レ驕。〔孔子家語、弟子行〕上交

下接、若レ截焉。❸善良な交際。深いまじはり。〔戰國、趙策〕秦與レ韓爲二上交一、秦禍安移二於梁一矣。〔說苑、雜言〕上交者、不レ失二其祿一。❹明、陳泰來（平湖の人）(**11**－41698··1110）の字。

【上好】95 ジヤウカウ ❶上の好むところ。〔潘尼、釋奠頌〕上好如レ雲、下效如レ川。❷shang^4 hao^3 上等の。

【上好下甚】96 カミコノメバシモハナハダシ 上に立つ人が好む所のものは下々がまねてそれよりも一層好む。〔禮、緇衣〕上好二是物一、下必有二甚者一矣、故上之所レ好惡、不レ可レ不レ愼也、是民之表也。〔孟子、滕文公上〕上有二好者一、下必有二甚焉者一矣。

【上好行頭】97 shang^4 hao^3 hsing^2 t'ou 上等の道具。〔桃花扇、偵戲〕發出那一副上好行頭。

【上江】98 ジヤウカウ ❶揚子江の上流をいふ。〔李密、與二郇王慶一書〕上江米船、皆被二抄截一。〔資治通鑑、唐紀〕高祖、武德元年、隋煬帝曰、朕方欲レ歸、正爲二上江米船未レ至。〔注〕夏口以上爲二上江一。❷川の名。江蘇省吳縣の東南、三江口に會す。一名、東江。〔史記、夏紀、注〕正義曰、三江者、在二蘇州東南三十里一、名二三江口一、云云、一江東南上七十里、至二白蜆湖一、名曰二上江一、亦曰二東江一。❸安徽省をいふ。江蘇省を下江といふの對。❹廣東地方で、鬱水を上江、又は西江といふ。瀧水を下江といふの對。西江（**10**－34763··89）を見よ。❺ Shang^4 chiang^1 揚子江をさかのぼる。

【上考】99 ジヤウカウ 官吏の成績の最上級。又、其の精勤者。〔唐書、百官志〕流外官以二行能功過一爲二四等一、清謹勤公爲レ上、執レ事無レ私爲レ中、不レ勤二其職一爲レ下、貪濁無レ狀爲二下下一。〔唐書、盧邁傳〕俄會二考課一、遂以レ不レ滿レ歲、固二辭上考一。

【上行】100 ジヤウカウ ❶上に進む。〔易、謙〕地道卑而上行。〔王褒、九懷〕載レ象兮上行。❷上の人が行ふ。又、其の行。〔唐書、陸贄傳〕上行則下從レ之。〔宋史、賈昌朝傳〕上行下戾。❸上坐。上の列。〔漢書、霍光傳〕其鄰人灼爛者、在二於上行一。❹上のおほせ。上役のさしづ。〔福惠全書、保甲部、守禦〕今奉二上行一、小民不二敢不一レ遵。❺下級官吏から上級官吏へ奉る公文書。〔淸會典、禮部〕凡官文書、上行・下行・平行、各別二其制一。

【上行車】101 shang^4 hsing^2 ch'ê^1 上り列車。

【上行首】102 shang^4 hang^2 shou^3 ❶役者の頭取。やくがしら。❷妓樓の亭主。

【上行星】103 ジヤウカウセイ 八大行星の內の軌道が地球軌道の外にあるもの、火星・木星・土星・天王星・海王星をいふ。外行星ともいふ。下行星（**1**－14··48）の對。

【上行文】104 ジヤウカウブン 凡そ人民が行政官廳に對し、及び下級官廳が直轄上級官廳に對し、陳述・陳情・申談をなす公文書。上行の❺を見よ。

【上行下效】105 カミオコナヒシモナラフ 上の行ふ所は下之にならふ。〔周禮、天官、太宰、疏〕上行レ之、下效レ之。〔史記、樂書、移レ風易レ俗天下皆寧、注〕正義曰、上行謂二之風一、下習謂二之俗一。

【上佼】106 ジヤウカウ 立派な行。〔史記、趙世家〕齊之事レ王、宜レ爲二上佼一。〔注〕索隱曰、佼、猶レ行也。

【上杭】107 ジヤウカウ 縣名。宋、置く。唐の龍巖縣の地。福建省長汀縣の南。〔宋史、五行志一上〕上杭縣水圯田盧壞。〔淸史稿、地理志〕福建、汀州府、縣八、上杭。

【上肴】108 ジヤウカウ よいさかな。貴重なさかな。嘉肴。〔臨海水土志〕又多二魚肉一、倭取二生魚肉一、雜二貯大瓦器一、以鹽二鹵之一、歷二月餘日一、乃啖二食之一、以爲二上肴一也。

【上香】109 ジヤウカウ ❶香を焚く。燒香する。〔淸會典事例、國子監、典禮〕凡朔日行二釋菜禮一、應レ用二香蠟酒果一、望日行二上香禮一、應レ用二香蠟等項一。❷お詣りする。

【上香使】110 shang^4 hsiang^1 shih^4 祭祀などに於ける燒香の使者。代香者。

【上校】111 ジヤウカウ ❶上にならふ。〔管子、牧民〕不レ敬二宗廟一、則民乃上校。〔注〕校、効也、君無レ所レ尊、人亦効レ之。❷陸海軍の將校の名。大佐にあたる。

【上高】112 ジヤウカウ ❶高い處。〔詩、邶風、新臺序、釋文〕上高曰レ臺。❷縣名。南唐、置く。江西省高安縣の西南。〔五代史、職方考〕高安・上高・萬載・淸江四縣。〔淸史稿、地理志〕江西、瑞州府、縣三、上高。

【上高川】113 ジヤウカウセン 河の名。陝西省西鄕縣の東。

【上高樓】114 ジヤウカウロウ 刑の名。犯人の足をつりあげ、頭を下向にして臥させること。〔福惠全書、刑部名、監禁〕將二犯人足一弔起、頭下向臥、名曰二上高樓一。

【上腔】115 shang^4 ch'iang^1 浮浪人が仇敵を尋ね求めることをいふ。

【上項】116 ジヤウカウ 上記。前記。前述。右。

【上綱】117 ジヤウカウ ❶弓のまとの上をつなぐ綱。〔周禮、考工記、梓人〕上綱與二下綱一出レ舌尋。〔注〕綱、所三以繫二侯于植一者也。❷通判をいふ。〔稱謂錄、通判、上綱〕易雄傳、擧二孝廉一爲二州主簿一、遷二別駕一、自以二門寒不一レ宜三久處二上綱一、謝レ職還レ家。❸ジヤウガウ 僧位三職中の上座。〔平家物語、一、願立〕山門の上綱等、子細を奏聞の爲に、夥しく下洛す。

【上衡】118 ジヤウカウ ❶胸より高く物をささげること。〔禮、曲禮下〕執二天子之器一、則上衡。〔注〕謂レ高二于心一、彌敬也、此衡、謂二與レ心平一。〔疏〕上、猶レ高也、衡、平也、平、謂二人之拱手、正當レ心平一、故謂レ心爲レ衡、天子至尊、器不レ宜レ下、故臣爲二擎奉一、皆高二于心一、彌敬也、此衡、謂二與レ心平一也。❷上の橫木。〔墨子、備蟻傅〕以二鐵璅一敷二縣二脾上衡一、爲二之機一。❸複姓。〔逸周書、史記解〕林氏上衡氏、爭レ權。

【上客】119 ジヤウカク 上等の賓客。上賓。又、上等の食客。下客（**1**－14··52）の對。〔禮、曲禮上〕食至起、上客起。〔戰國、秦策〕乃延入坐、爲二上客一。〔荀子、儒效〕擧二其上客一。

【上格】120 ジヤウカク ❶高い位置。下格に對していふ。〔南史、康絢傳〕荊山爲二上格一、浮山爲二下格一。〔庾信、和二趙王美人一詩〕新藤亂二上格一。❷すぐれた資格。上等の格式。

【上假】121 ジヤウカ 天に上る。假は至るの意。升遐。〔史記、司馬相如傳〕乘二虛無一而上假兮、超無レ友而獨存。〔注〕集解曰、徐廣曰、假、至也。

【上學】122 ジヤウガク ❶最上の學問。最上の學び方。〔文子、道德〕上學以レ神聽、中學以レ心聽、下學以レ耳聽。❷學校に行く。入學する。〔元稹、哭子詩〕鐘聲欲レ絕東方動、便是尋常上學時。〔趙孟頫、題二耕織圖一詩〕東隣方迎レ師、收拾令レ上レ學。

【上顎】123 ジヤウガク うはあご。

【上顎骨】124 ジヤウガクコツ 頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨。上頷骨。

【上甲】125 ジヤウカフ ❶ついたち。甲は始。上日。〔穀梁、哀、元〕六月上甲、始庀レ牲。〔漢書、天文志〕正月上甲、風從二東方一來。❷科擧の試驗合格者の最優秀の部類。〔金史、選擧志二〕上甲第二第三人、初除二上簿一。

【上甲板】126 ジヤウカンパン 船の一番上の甲板。

【上合】127 ジヤウガフ ❶上の方でくつつき合ふ。〔水經、淇水注〕淇水出二沮洳山一、水出二山側一、頹波瀾注、衝二激橫山一、山上合下開、可レ減二六七十步一。❷順合（**12**－43349··15）に同じ。天文學上、內惑星が軌道を運行して、地球と太陽とを結ぶ直線上に來り、太陽が其の惑星と地球との間にある時を、其の內惑星の順合といふ。故に順合の時は、地球の動徑と惑星の動徑とは、平角卽ち百八十度となる。

【上干】128 ジヤウカン 上をかす。〔戰國、楚策〕上干二主心一、下牟二百姓一。〔王粲、鸚鵡賦〕登二衡幹一以上干、嗷二哀鳴一而舒レ憂。〔謝朓、遊二敬亭山一詩〕上干蔽二白日一、下屬帶二迴谿一。

【上干溪】129 ジヤウカンケイ 川の名。江西省玉山縣の東。信江の上流。〔太平寰宇記〕源出二懷玉山一、溪源淺涸、秋冬不レ通二舟楫一、故名二乾溪一、或謂二干字之誤一也。

【上坎】130 ジヤウカン ❶易の坎卦の上の坎☵。下坎（**1**－14··64）の對。〔周易集解〕已成二旣濟一、上坎爲レ雲、下坎爲レ雨、故雲行雨施。❷ shang^4 k'an^3 口腔の上壁をいふ。❸門の上部にある橫桁。門上の鴨居に類するもの。

【上閒】131 ジヤウカン ❶天子の暇な時。〔史記、李斯傳〕請、爲レ君候二上閒一語レ君。❷佛 ジヤウケン 禪林の用語。堂に向つて己が身の右をいふ。〔禪林象器箋、二〕。❸ウヒマ 琉球の地名。

【上閒爵】132 ジヤウカンシヤク 戰國時代の爵名。〔史記、樊噲傳〕破二李由軍一、斬首十六級、賜二上閒爵一。〔注〕集解曰、如淳曰、閒或作レ聞、呂氏春秋曰、魏文侯、東勝二齊於長城一、天子賞二文侯一、以二上閒爵一。

【上鑒】133 ジヤウカン 淸、吳琪（**2**－3365··87）の名。

【上岸】134 ジャウガン 船から上陸する。〔魏書、崔浩傳〕勁躁之人、不レ顧二後患一、今若塞二其西路一、裕必上レ岸北侵、如レ此則姚無レ事、而我受レ敵。

【上眼】135 shang⁴ yen³ 注意して見る。注目する。よく見る。

【上姫】136 ジャウキ 姫姓の長。〔穆天子傳、六〕姫姓也、盛柏之子也、天子賜二之上姫之長一、是曰二盛門一。〔注〕令三盛柏爲二姫姓之長位一、位在レ上也。

【上氣】137 ジャウキ ❶せきをすること。〔周禮、天官、疾醫〕冬時有二嗽上氣疾一。〔注〕嗽、欬也、上氣逆喘也。❷上方の氣。〔雲笈七籤〕上氣曰レ始、中氣曰レ元。❸のぼせること。逆上。〔孕常磐、四〕顔は上氣の濃い紅葉。❹狂氣。發狂。

『上氣不接下氣』138 shang⁴ ch'i⁴ pu⁴ chieh¹ hsia⁴ ch'i⁴ 老年或は病者などが、氣息キイが續かないで息切れするのをいふ。

【上期】139 カミキ ジャウキ 市場用語。營業の報告決算の關係上、年初から六月までの期間をいふ。下期(1－14··74)の對。

【上機】140 ジャウキ ❶最上の機根。〔太平記、二十四、依二山門嗷訴一公卿僉議事〕上機は人我無相なれば心に懸かることもなし。❷上等の織物を織るに用ひる織機。〔和漢三才圖會、女工具、木綿機〕有二上機下機之二品一、而上機、和州多用織二庣布及細一、下機、常織二木綿一。

『上機嫌』141 ジャウキゲン 機嫌のよいこと。〔五十年忌歌念佛、中〕九左衞門上機嫌。

【上義】142 ジャウギ ❶義の、上なるもの。〔老子、三十八〕上義爲レ之而有二以爲一。❷上位の者が義を尚ぶ。〔新語、無爲〕未レ有二上仁而下殘、上義而下爭者一也。

【上儀】143 ジャウギ 立派な禮儀。〔班固、東都賦〕盛二三雍之上儀一、修二袞龍之法服一。〔宋史、樂志十三〕昭二衍尊名一、鋪二張上儀一。

【上九】144 ジャウキウ ❶易の最上の陽爻。〔易、乾〕上九、亢龍有レ悔。❷九月九日をいふ。〔風土記〕俗尙二九月九日一、謂爲二上九一。❸每月二十九日をいふ。下九(1－14··78)を見よ。〔採蘭雜志〕九爲二陽數一、古人以二二十九日一爲二上九一。

【上求】145 ジャウキウ ❶上のもとめ。〔淮南子、本經訓〕老者不レ養、死者不レ葬、贅レ妻鬻レ子、以給二上求一。〔後漢書、第五倫傳〕殊未レ有下寛博之選、以應二上求一者上也。❷佛 上求菩提の略。

『上求菩提』146 ジャウグボダイ 佛上に向つてさとりの道を求めること。下化衆生(1－14··120)の對。この二つが菩薩の道とされる。〔止觀、一、上〕上求二菩提一、下化二衆生一。

『上求レ材臣殘レ木』147 カミザイヲモトムレバシンハキヲソコナフ 上の者が材木を求めると、臣下は其の意を迎へて大木を濫伐するに至る。君の好惡がすぐ臣の態度にうつること。〔淮南子、說山訓〕上求レ材臣殘レ木、上求レ魚臣乾レ谷、上求レ楫而下致レ船。

【上吉】148 ジャウキツ ❶大吉(3－5831··424)に同じ。〔易、訟〕食二舊德一、從二上吉一也。〔易、大有〕大有上吉、自レ天祐也。❷清、禹之鼎(8－24885··89)の字。

【上級】149 ジャウキフ ❶上の階。上階。〔水經、濰水注〕十二年所レ作臺基三層、層高三丈、上級平敞、方二百餘步。❷石臼の上方。うはうす。上の階級。うへのくみ。

【上鄕】150 ジャウキャウ 漢の侯國の名。山東省の境にあつた。〔漢書、地理志上〕北海郡、上鄕。〔自注〕侯國。

【上逆】151 ジャウギャク ❶のぼせる。逆上。〔素問、生氣通天論〕秋傷二於濕一、上逆而欬。❷上に向つて逆流する。〔漢書、平帝紀〕每二疾一發一、氣輒上逆。〔楓牕小牘〕予至二江上一、於レ時海潮上逆、狂濤東瀉。

【上穹】152 ジャウキウ 天。〔張淵、觀象賦〕江河炳著二于上穹一。〔宋史、食貨志下八〕朕受二命上穹一。〔剪燈餘話、泰山御史傳〕奏二聞上穹一、已正二典憲一。

【上宮】153 ジャウキウ ❶地名。河南省濬縣の西にあり。〔詩、鄘風、桑中〕期二我乎桑中一、要二我乎上宮一。〔江淹、別賦〕桑中衞女、上宮陳娥。〔清一統志〕上宮臺、在二河南濬縣西一。❷戰國、滕の宮殿の名。〔孟子、盡心下〕孟子之レ滕、館二於上宮一。〔集注〕上宮、別宮名。

『上宮疏』154 ジャウグウショ 書名。聖德太子の法華經・維摩經・勝鬘經の義疏。三經義疏(1－12··416)を見よ。

【上宮太子】155 ジャウグウタイシ 聖德太子の別稱。〔和漢三才圖會、地理、大和、法隆寺〕聖德太子者、父帝愛敬、居二宮南上殿一、故名二上宮皇子一。

【上擧】156 ジャウキョ 第一等の人物。後世の甲科の類。〔管子、大匡〕成而不レ悔、爲二上擧一。〔纂詁〕上擧、猶三後世稱二甲科一。

【上御】157 ジャウギョ 天子の鹵簿。〔後漢書、清河孝王慶傳〕賜二什物一、皆取二乘輿上御一。

【上供】158 ジャウキョウ ❶唐の憲宗の時から始まつた國稅。天下の賦の三分の一を中央政府の用に供したもの。〔唐書、食貨志〕分二天下之賦一以爲レ三、一曰上供、二曰送使、三曰留州。〔宋史、職官志三〕六曰、會場、曰上供、曰糴糶。❷天子に獻上する品物。〔六部成語、戶部、上供、注解〕供二獻皇上一之品物。❸ shang⁴ kung⁴ 神佛に供へる。❹佛 佛前などに供物を供へること。〔禪林象器箋、十四〕。

【上局】159 ジャウキョク ❶上官。上司。又は上官のゐる處。❷ツボネ 主上のおはす所に近く設けた局。女官が宿直する時の休息所。〔源氏物語、桐壺〕うへつぼねに賜はす。

【上棘】160 ジャウキョク 城の名。河南省禹縣の西北。〔左氏、襄、十八〕楚師伐レ鄭、右師城二上棘一、遂涉レ潁。

【上極】161 ジャウキョク 天中星。〔雲笈七籤〕中極、一名爲二天中一、上極星也、是最居二天之中一。

【上均】162 ジャウキン 清、姜兆錫(3－6205··113)の字。

【上金】163 ジャウキン 縣名。民國、置く。もと上龍土司、金龍土峒の地。廣西省崇善縣の西南。

【上禁】164 ジャウキン 上の禁令をいふ。〔史記、韓長孺傳〕今大王列二在諸侯一、悅二一邪臣浮說一、犯二上禁一、橈二明法一。

【上緊】165 ジャウキン ❶勉強する。緊張する。〔明儒學案、河東學案、文簡呂涇野先生柟〕這裏工夫卻要二上緊做一。❷ shang⁴ chin³ 至急に。喫緊に。急いで。

【上愚】166 ジャウグ 馬鹿ではないが、かたよつた意見を持つた人。〔荀子、儒效〕是之謂二上愚一。〔注〕有二偏僻之見一、非二昧然無知一、然亦不レ免二於愚一、故曰二上愚一。

【上虞】167 ジャウグ ❶縣名。秦、置き、隋、廢し、唐、復置く。浙江省紹興縣の東。虞賓ともいふ。舜が丹朱を避けた所であるからかくいふ。〔漢書、地理志上〕會稽郡、縣二十六、上虞。〔水經、漸水注〕上虞縣南王莽之會稽也、云云、地名二虞賓一、晉太康地記曰、舜避二丹朱于此一、故以名レ縣、百官從レ之、故縣北有二百官橋一、亦云、禹與二諸侯一會レ事訖、因相虞樂、故曰二上虞一。〔清史稿、地理志〕浙江、紹興府、縣八、上虞。❷江名。浙江省上虞縣の西。卽ち曹娥江。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、上虞縣〕上虞江、縣西三十里、卽曹娥江也。

【上空】168 ジャウクウ 上の方の空。天空。

【上卦】169 ジャウクワ 易の六爻中の、上部の三爻をいふ。〔易、乾、九三君子終日乾乾、疏〕三是上卦之下、下體之極。

【上果】170 ジャウクワ 佛すぐれたむくい。佛果。よい果報。〔魏收、繕二寫三部一切經一願文〕藉二我願力一、同登二上果一。

【上科】171 ジャウクワ 第一の品科。〔柳宗元、送下嚴公貺下第歸二興元一覲省上詩序〕繼登二上科一、以及二於子一。〔宋史、陳靖傳〕果知名士卽寘二上科一。

【上課】172 shang⁴ k'ê⁴ 課業に就く。授業に出る。仕事に着手する。仕事を始める。

【上臥】173 ウヘブシ 宮中に宿直すること。うはぶし。〔平家物語、二、少將請受事〕院の御所、法住寺殿に上臥して。

【上回】174 ジャウクワイ ❶のぼりめぐる。〔漢書、揚雄傳上〕漂二龍淵一而還二九垠一兮、窺二地底一而上回。❷ shang⁴ huei² 前回。先般。この閒。

【上廻】175 ジャウクワイ 上回の❶に同じ。〔揚雄、甘泉賦〕窺二地底一而上廻。〔任公叔 通天臺賦〕既玉女之下視、復金烏之上廻。

【上掛】176 カミガカリ 謠曲で觀世・寶生の兩派をいふ。〔猿樂傳記、上〕觀世寶生は京に住みて、直ちに勸むれば、上掛といふ。

【上會】177 shang⁴ huei⁴ 會合に行く。會する。

『上會下』177′ カミエゲ 武藏國の地名。

【上繪】178 ウハヱ 布帛などの染色の上に、更に繪具で畫き添へた繪。

【上皇】179 ジャウクワウクワウ ❶天帝。上帝。〔莊子、天運〕天下戴レ之、此謂二上皇一。〔注〕順二其自爾一故也。〔疏〕道合二自然一、德均二造化一、故衆生樂推而不レ

厭、百姓荷戴而不レ辭、可レ謂三返レ樸還二淳上皇之治一也。❷上古の帝王。〔詩譜序〕上皇道質、故諷諭之情寡。〔疏〕上皇、謂三伏羲三皇之最先者二。〔北史、許善心傳〕反二澆季之末流一、登二上皇之獨道一。❸讓位せられた帝王。〔唐書、肅宗紀〕天寶十五載七月甲子、卽二皇帝位於靈武一、尊二皇帝一曰二上皇天帝一。〔李白、上皇西巡二南京一歌〕劍閣重關蜀北門、上皇歸馬若レ雲屯。〔元結、大唐中興頌〕太子卽二位於靈武一、上皇還二京師一。❹星の名。東皇太一をいふ。〔楚辭、九歌、東皇太一〕吉日兮辰良、穆將レ愉二兮上皇一。〔注〕上皇、謂二東皇太一一也。

【上皇院本】180 ジヤウクワウヰンポン 宋代に行はれた脚本の名。上皇は宋の徽宗をいふ。凡て十四本あり。院本（**11**－**41665**・・31）を見よ。〔輟耕錄、院本名目〕上皇院本、壺春堂・太湖石・金明池・戀鰲山・六變妝・葛歲山・打草陣・賞花燈・錯入內・問想思・探花術・斷上皇・打毬會・春從天上來。

【上黃】181 ジヤウクワウ ❶五行の土の色。黃色。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕穆穆優游、嘉二服上黃一。❷縣名。㋑晉、置く。故城は湖北省南漳縣の東南五十里。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、南漳縣〕上黃城、酈道元云、晉平レ吳、割二中盧之南鄕・臨沮之北鄕一、置二上黃縣一、治二軨鄕一、屬二襄陽郡一。㋺南宋、置く。湖北省荊門縣の境に當る。

【上官】182 ジヤウクワン ❶うはやく。上級の官吏。上司。〔後漢書 任延傳〕善事二上官一、無レ失二名譽一。〔晉書、惠羊皇后傳〕今上官已犯レ闕。〔杜甫、垂老別詩〕男兒既介冑、長揖別二上官一。❷戰國、楚の官名。〔史記、屈原傳〕上官大夫與レ之同レ列、爭レ寵而心害二其能一。❸複姓。〔唐書、宰相世系表三下〕上官氏、出レ自二芈姓一、楚王子蘭、爲二上官大夫一、以レ族爲レ氏、漢徙二大姓一以實二關中一、上官氏、徙二隴西上邽一。

【上官安】183 ジヤウクワンアン 漢の人。桀の子。其の女は昭帝の后となり、桑樂侯に封ぜらる。霍光を殺し、帝を廢して、父桀を立てようとし、發覺して族滅せらる。〔前漢書、九十七〕。

【上官怡】184 ジヤウクワンイ 宋、邵武の人。字は友先。文詞に巧。母に事へてよく孝養をつくす。〔尙友錄 二十四〕。

【上官愔】185 ジヤウクワンイン 宋の人。均の子。字は仲雍。政和中の進士。二帝が北行した時、愔は宰相に上書し、康王を迎へて速かに大位に卽かせようとした。官は吏部員外郞。後に南劍州知。著に尙書小傳・論語孟子略解・史統・史旨がある。〔南宋館閣錄、七・八〕。

【上官鑑】186 ジヤウクワンカン 清、翼城の人。字は金之。書室を一經樓といふ。順治の進士。官は河南參議。著に一經樓集がある。〔鶴徵錄、五〕・〔己未詞科錄、七〕。

【上官基】187 ジヤウクワンキ 宋の人。恢の曾孫。字は中立。官は衡州推官。趙汝愚が零陵に謫せられ、途中の衡陽で卒した時、時人は、韓侂胄を畏れ、敢て喪事を營まなかつたが、基は獨り行つて殯殮した。

【上官喜】188 ジヤウクワンキ 明、光澤の人。號は金雨。草書に巧。

【上官儀】189 ジヤウクワンギ ❶唐、陝州の人。字は游韶。貞觀の進士。詩文に巧で、上官體を創む。麟德の初、梁王忠の事に坐して獄死した。上官體(203)を見よ。〔唐書、一百五〕・〔舊唐書、八十〕。❷明、福建沙縣の人。字は必達。永樂の進士。咸寧縣の長官となり、德望があつた。書畫に巧。〔咸寧縣志〕。

【上官凝】190 ジヤウクワンギヨウ 宋、邵武の人。字は成叔。慶曆の進士。官は銅陵尉・尙書職方員外郞・處州通判。至る處で名聲があつた。〔尙友錄、二十四〕。

【上官均】191 ジヤウクワンキン 宋の人。凝の次子。字は彥衡。熙寧の進士。青苗を罷め、冗官を裁し、詩賦を以て士を取るを罷めることを論じた。官は龍圖閣學士。〔宋史、三百五十五〕・〔宋元學案、十九〕。

【上官恢】192 ジヤウクワンクワイ 宋の人。均の從子。字は閎中。元豐中、進士に登第。官は中大夫。〔尙友錄、二十四〕。

【上官桀】193 ジヤウクワンケツ 漢、上邽の人。霍光と共に少主を輔佐し、安陽侯に封ぜらる。後、昭帝を廢せんとして族滅さる。〔前漢書、九十七〕。

【上官鉉】194 ジヤウクワンゲン 清、翼城の人。字は三立。號は松石。明の崇禎の進士。官は左副都御史。滇・廣・閩の三藩跋扈の狀を彈劾して太常卿に左遷せられた。室名は誠正齋。著に誠正齋集がある。〔淸史列傳、七〕・〔國朝耆獻類徵、四十三〕。

【上官悟】195 ジヤウクワンゴ 宋の人。均の子。字は仲達。建炎中、東京を留守した。時に、劉豫が叛いて金に降り、人を遣して悟に說かしめたが、悟は其の使を斬つたので、城陷るに及び、唐州に至つて殺された。〔宋史翼、三十〕。

【上官后】196 ジヤウクワンコウ 漢、上官安の女。六歲にして昭帝の后となる。霍光の外孫。昌邑王賀が卽位するに及んで皇太后となり、宣帝が立つに及んで太皇太后となる。〔前漢書、九十七上〕。

【上官周】197 ジヤウクワンシウ 淸、長汀の人。字は文佐。號は竹莊。書室を晚笑堂といふ。詩に巧。著に晚笑堂詩集及び畫傳がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十六〕・〔淸畫家詩史、乙、下〕。

【上官章】198 ジヤウクワンシヤウ 淸、陝西乾州の人。字は闇然。著に周易解翼がある。〔四庫提要、十〕。

【上官拯】199 ジヤウクワンジヨウ 宋、光澤の人。字は公濟。慶曆の進士。官は上杭縣令。〔尙友錄、二十四〕・〔萬姓統譜〕。

【上官藎】200 ジヤウクワンジン 明、曲沃の人。字は忠赤。官は順義縣の長官。淸兵を禦いで破れ、首をくくつて死す。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【上官正】201 ジヤウクワンセイ 宋、開封の人。字は常淸。官は左龍武大將軍・平州防禦使。〔宋史、三百八〕・〔宋史新編、八十五〕・〔隆平集、十八〕。

【上官損】202 ジヤウクワンソン 宋の人。恢の從曾孫。字は益之。官は汀州武平簿。〔尙友錄、二十四〕。

【上官體】203 ジヤウクワンタイ 唐の上官儀の始めた詩風。〔舊唐書、上官儀傳〕工二於五言詩一、好以二綺錯婉媚一爲レ本、儀既貴顯、當時多有下斅二其體一者上、時人謂爲二上官體一。

【上官倬】204 ジヤウクワンタク 明、光澤の人。字は子立。嘉靖の貢生。官は台州通判。性、剛直にして至孝。〔光澤縣志〕。

【上官燈】205 ジヤウクワンチヨウ 宋の人。凝の孫。字は正平。元豐の進士。官は永城縣丞。廉正を以て聞ゆ。〔尙友錄、二十四〕。

【上官通】206 ジヤウクワンツウ 明の人。字は一明。豐儀蒼古にして、楷書に巧。〔建寧府志〕。

【上官謐】207 ジヤウクワンヒツ 宋、邵武の人。字は安國。朱熹の門人。官は永州推官。〔尙友錄、二十四〕・〔宋元學案、六十九・七十〕。

【上官賁】208 ジヤウクワンフン 宋、邵武の人。字は濟叔。官は貴州推官。〔尙友錄、二十四〕。

【上官婉兒】209 ジヤウクワンヱンジ 唐、上官儀の孫女。諡は惠文。長じて機警、詩文に巧。武后の時、詔制を掌つて、婕妤を拜し、中宗の時、尤も信任されて昭容となつたが、後、武三思に黨し、韋后の敗と共に臨淄王に誅せらる。〔舊唐書、五十一〕。

【上官渙酉】210 ジヤウクワンクワンイウ 宋、邵武の人。字は元之。嘉定の進士。官は集英殿修撰。〔尙友錄、二十四〕。

【上官渙然】211 ジヤウクワンクワンゼン 宋の人。渙酉の弟。字は文之。淳祐の進士。官は司農丞・右司郞中。〔尙友錄、二十四〕。

【上官粹中】212 ジヤウクワンスイチユウ 宋の人。均の再從曾孫。字は德厚。官は武岡軍簽判。嘗て零陵の重囚を裁き、片言を以て之を定む。〔萬姓統譜〕

【上官昭容】213 ジヤウクワンセウヨウ 上官婉兒(209)を見よ。

【上官端義】214 ジヤウクワンタンギ 宋、邵武の人。字は方叔、建安縣丞となり惠政を行ひ、名聲あり。〔尙友錄、二十四〕。

【上官必克】215 ジヤウクワンヒツコク 宋の人。愔の曾孫。字は復之・師善。官は全州錄事參軍。〔萬姓統譜〕。

【上浣】216 ジヤウクワン 上旬。浣は、唐代、十日每に官吏に休沐を許したことに本づく。上澣(219)を見よ。〔中村敬宇、西國立志編〕孟夏上浣。

【上脘】217 ジヤウクワン 胃の上口をいふ。〔正字通〕脘、胃之受二水穀一者曰レ脘、臍上五寸爲二上脘一。

【上款】218 $shang^4$ $k'uan^3$ 書畫の落款に、某某先生の爲にとあるのをいふ。爲め書き。これに對して筆者の姓名・號を書くのを下款といふ。

【上澣】219 ジヤウクワン 一箇月を上・中・下の三つに分けた上の十日間。一日から十日まで。唐代、官吏に十日每に休沐を許したことからいふ。上浣。上旬。〔丹鉛總錄、時序〕俗以二上澣・中澣・下澣一

爲上旬・中旬・下旬、蓋本唐制十日一休沐。(古今詩話)俗以上澣・中澣・下澣、爲上旬・中旬・下旬、蓋本唐制、十日一休沐。

【上還】220 shang⁴ huan² 返納する。返信する。

【上館】221 上客を置くやかた。(孔子家語、辨物)孔子在陳、陳惠公賓之上館。(楊衒、病中赴袁州次香舖詩)病輿趨上館、線繞向山隅。

【上關】222 ❶門を閉ぢる。門をかける。(庾肩吾、南苑看人還詩)洛橋初度燭、青門欲上關。❷唐代に關所を上・中・下に分けた其の一つ。(唐六典)司門郎中、凡關二十有六、爲上中下之差、上關六、中關一十三、下關七。❸龍首關をいふ。雲南省大理縣の北。㊢ shang⁴ kuan¹ 役所に行くこと。

【上願】223 ❶最上のねがひ。(史記、刺客、荊軻傳)此丹之上願、而不ㇾ知所委命。❷南朝梁の武帝(蕭衍)の時、鮮于琛の僭年號。(535)

【上勛】224 shang⁴ hsün¹ 上級の位階。高官の位。

【上軍】225 軍の名。昔は軍を分つて上軍・中軍・下軍とした。(左氏、僖、二十八)狐毛狐偃、以二上軍一夾攻二子西一。(史記、晉世家)公將二上軍一。

【上郡】226 郡名。❶秦、置く。陝西省の北部と綏遠省の鄂爾多斯左翼の地。(史記、秦始皇紀)(三十五年)使二扶蘇北監一蒙恬於上郡一。(史記、項羽紀)立二董翳一爲二翟王一、王二上郡一。❷隋、置く。今の陝西省鄜縣治。(讀史方輿紀要、陝西、延安府)鄜州、春秋時白翟地、云云、隋大業三年、改爲二鄜城郡一、尋又改二上郡一。❸大寶の制で、郡の等級を五等に分けた第一位の郡。即ち、十二里以上十六里以下の郡の稱。(戶令)凡郡、以二廿里以下十六里一爲二大郡一、十二里以上爲二上郡一。

【上郡屬國城】227 城の名。漢の上郡屬國都尉のゐた所。故城は陝西省榆林縣。

【上刑】228 最も重いしおき。極刑。重刑。上戮。(書、呂刑)上刑適ㇾ輕、下服。(傳)重刑有ㇾ可二以虧減一、則之ㇾ輕服二下罪一。(孟子、離婁上)善戰者、服二上刑一。

【上刑部】229 備中國の地名。

【上系】230 上世をいふ。(傳玄、朝會賦)仰二二皇之文象一、詠二帝德乎上系一。

【上京】231 ❶天子の都。帝京。京師。(後漢書、朝鮮傳)東夷始通二上京一。(班固、幽通賦)有二羽儀於上京一。(潘岳、關中詩)飛二檄秦郊一、告二敗上京一。❷京に上る。上洛。(馬祖常、丁卯上京詩)。❸地名。㋑唐代の渤海國の王城。肅愼の故地で、龍泉府といふ。今の滿洲吉林省寧安縣の西南。㋺遼の上京は臨潢府、今の內蒙古巴林の東北百四十里にある波羅城。(遼史、地理志二)上京臨潢府、本漢遼東郡西平安之地。㋩金の上京は會寧府。今の滿洲吉林省阿城縣の南四里にある白城。(讀史方輿紀要、州域形勢、金)史略、金人以二會寧府一爲二上京一。㋥みやこへのぼること。東京に來ること。

【上計】232 ❶すぐれたはかりごと。上策。(戰國、西周策)趙之上計、莫ㇾ如ㇾ令二秦魏復一戰。(史記、樂毅傳)臣之上計也。❷漢代に、每歲郡國から會計吏を上京させて會計報告をさせる制。(漢書、武帝紀)徵ㇾ吏民有ㇾ明二當時之務一習二先聖之術一者、縣次續食、令二與ㇾ計偕一。(注)計者、上計簿使也、郡國每歲遣下詣二京師一上ㇾ之、偕者、俱也、令ㇾ所ㇾ徵之人、與二上計者一俱來上。(後漢書、和帝紀)是歲初復二郡國上計一。❸ケイ 但馬國の地名。

【上邽】233 縣名。❶古の邽戎の地。秦、邽縣を置き、漢、上邽と改む。今の甘肅省天水縣の西南。(漢書、地理志下)隴西郡、縣十一、上邽。❷南朝宋、置く。陝西省南鄭縣の地。❸南朝宋、置く。今の四川省の境。

【上珪】234 唐、周寶(2－3441‥416)の字。

【上啓】235 ❶上に申し上げる。上書。(梁昭明太子、止二三郡民丁就レ役疏)苟有二愚心一、願得二上啓一。❷諸司が、事を錄して皇太子・皇后・皇太后・太皇太后に呈上すること。

【上卿】236 ❶上級の卿。(左氏、桓、三)凡公女嫁二于敵國一、姊妹則上卿送レ之。(戰國、秦策)秦王曰、善、與二之上卿一、以相迎二之齊一。(史記、甘茂傳)甘羅還報レ秦、乃封二甘羅一、以爲二上卿一。❷南朝宋、置く。陝西省南鄭縣の地。

【上客】237 白雀(8－22678‥557)の異名。張堅が白雀を封じた故事。(事物異名錄、禽鳥上、雀)西陽雜俎、張堅少不ㇾ羈、常張ㇾ羅、得二一白雀一、愛而養ㇾ之、後封二白雀一爲二上卿侯一。

【上聲】238 清、彭桂(4－10003‥28)の字。

【上教】239 上の教。(張衡、西京賦)故帝者因二天地一以致ㇾ化、兆民承二上教一以成ㇾ俗。(宋書、樂志二)上教如ㇾ風、下應如ㇾ卉。

【上竅】240 耳・目・口・鼻をいふ。(素問、陰陽應象大論)清陽出二上竅一、濁陰出二下竅一。(注)上竅謂二耳目鼻口一。

【上月】241 ❶空に上つた月。(劉孝綽、餞二張惠紹一應令詩)鮮雲積二上月一、凍雨晦二初陽一。❷先月。去月。(紅樓夢、二回)其母上月竟亡故了。

【上肩】242 ❶自分の位の上に居る人。禪林の語。(禪林象器箋、五)。

【上賢】243 ❶すぐれたもの。(漢書、翼奉傳)周至二成王一、有二上賢之材一、因二文武之業一。(趙岐、孟子題辭)當世取レ士、務先二權謀一、以爲二上賢一。(沈約、齊故安陸昭王碑文)公以二密戚上賢一、俄而奉レ職。❷賢人をたつとぶ。(禮、王制)上賢以崇レ德。(淮南子、氾論訓)兼愛上賢、右二鬼非一レ命。❸六韜、文韜の篇名。㊃黑子の篇名。尚賢(4－7493‥41)の❷に同じ。

【上憲】244 ❶おかみのおきて。官紀。官憲。(王延壽、魯靈光殿賦)規矩應天、上憲紫陬。❷長官。上司。上役。(福惠全書、蒞任部、馭衙役)倘上憲聞レ之、深爲二未便一。

【上練】245 かとりぎぬを獻ずること。(後漢書、東海恭王彊傳)元初中復上練萬匹、以助二國費一。

【上縣】246 ❶戶口・富の程度などで分けた、縣の等級の一。(舊唐書、職官志三)上縣、令一人、丞一人、主簿一人、尉二人。❷カミアガタ 對馬國の郡名。

【上獻】247 はじめに酒肴などをすすめる者。(左氏、襄、二十八)慶虎爲二上獻一。(注)上獻、先獻者也。

【上元】248 ❶陰曆正月十五日。此の夜、觀燈する。民國では太陽曆の一月十五日を上元とする。上元日。(曹唐、小遊仙詩)上元元日、豁二明堂五帝一。(舊唐書、中宗紀)景龍四年上元夜、帝與二皇后一微行觀レ燈。(資治通鑑、唐僖宗紀、胡三省注)道書、以二正月十五日一爲二上元一、七月十五日爲二中元一、十月十五日爲二下元一。(容齋三筆、上元張レ燈)太平御覽所レ載史記樂書曰、漢家祀太一、以二昏時一祠到レ明、今人正月望日、夜遊觀レ燈、是其遺事、而今史記無二此文一、唐韋述兩京新記曰、正月十五日、夜勅二金吾一弛レ禁、前後各一日、以看レ燈。❷術數家が六十甲子を九宮に配するとき、必ず百八十年で元にかへるので、第一甲子の六十年を上元、次の六十年を中元、次の六十年を下元といふ。(漢書、律歷志、日月如合レ璧五星如連レ珠、注)孟康曰、謂、太初上元甲子夜半、朔旦冬至時、七曜皆會二聚斗牽牛分度一。(晉書、律歷志下)以二甲子一爲二上元一。❸古の曆名。(史記、天官書)其紀上元。(注)正義曰、其紀上元、是星古曆、初起二上元一之法也。㊃古代醫學で腦をいふ。(雲笈七籤)人有二三丹田一、上元・中元・下元、是也、上元丹田腦也、亦名二泥丸一。㊄門の名。江蘇省江寧縣の北。長江の邊。明の洪武中に建てた十六外郭門の一つ。❹縣名。唐、置く。江蘇省江寧縣の一部。(唐書、地理志五)昇州江寧郡、縣上元、本江寧。(清史稿、地理志)江蘇、江寧府、縣七、上元。❺年號。㋑唐の高宗(李治)稱す。(674－676)㋺唐の肅宗(李亨)の時、南詔(大理國)の孝恒帝(異牟尋)稱す。(794－798)

【上元節】249 陰曆正月十五日に膏粥を作つて門戶を祠る日で、或は角戲をなし、提燈を釣り、士女も夜遊する。現在も、皆職を休み宴を張つて樂しむことになつてゐる。(荊楚歲時記)正月十五日、作二豆糜一、加二油膏其上一、以祠二門戶一、先以二楊枝一插レ門、隨二楊枝所一レ指、仍以二酒醊飮食及豆粥一、插レ箸而祭レ之、其夕迎二紫姑一以卜。(玉燭寶典)正月十五日作二膏粥一、以祠二門戶一。(開元天寶遺事、百枝燈樹)韓國夫人、置二百枝燈樹一、高八十尺、上元夜點レ之、百里皆見二光明奪二

月色一也。

【上元日】250 ジャウゲンニチ 上元の日。上元の㊀に同じ。〔舊唐書、睿宗紀〕景雲二年上元日夜、上皇御二安福門一觀レ燈。

【上元舞】251 ジャウゲンノマヒ 唐の高宗の作つた舞。大祠享に用ひる。〔唐書、禮樂志十二〕上元舞者、高宗所レ作也、舞者百八十人、衣下畫二雲五色一衣上、以象二元氣一、其樂有二上元・二儀・三才・四時・五行・六律・七政・八風・九宮・十洲・得一・慶雲之曲一、大祠享皆用レ之。

【上元甲子】252 ジャウゲンカフシ 術數家は第一甲子を上元甲子といふ。上元の㊁に同じ。〔太乙淘金歌、數命源流太乙入局法〕求二甲子一者、以二上元甲子一爲レ始推算也、諸將者二目併二主客大小將一也、求二上元一者、截至二元世祖至元元年甲子一、爲二元上第一紀一、起算、是也、自二帝堯甲子一、至二正統甲子一、共六十三甲子。

【上元弟子】253 ジャウゲンテイシ 清、陳書(**11―41698**‥352)の號。

【上元夫人】254 ジャウゲンフジン 道家の仙女。〔漢武帝内傳〕王母乃遣二侍女郭密香與二上元夫人一相問。〔李白、上元夫人詩〕上元誰夫人、偏得二王母嬌一。〔三洞經教部序〕元封元年、西王母上元夫人、同授二漢武帝靈飛六甲上清十二事一。

【上元老人】255 ジャウゲンラウジン 明、張風(**4―9812**‥650)の號。

【上元甲子百歳翁】256 ジャウゲンカフシヒャクサイオウ 清、李遇孫(**6―14459**‥1038)の號。

【上玄】257 ジャウゲン ㊀天をいふ。〔揚雄、甘泉賦〕郊二上玄一、定二泰時一。〔注〕善曰、上玄、天也。〔隋書、高祖文帝紀下〕受二命上玄一、廓二清區宇一。〔南史、梁武帝紀〕仰迫二上玄之眷一、俯惟二億兆之心一。㊁心をいふ。〔黄庭經〕心爲二上玄一。

【上言】258 ジャウゲン ㊀上に申し上げる。言上する。〔韓非子、外儲說左上〕王登爲二中牟令一、上二言於襄王一。〔後漢書、朱儁傳〕嵩乃上二言其狀一、而以レ功歸レ儁。㊁上の人の言葉。〔淮南子、說山訓〕楚王亡二其猨一、而林木爲レ之殘、宋君亡二其珠一、池中魚爲レ之殫、故澤失レ火而林憂、上求レ材臣殘レ木、上求レ魚臣乾レ谷、上求レ楫而下致レ船、上言若レ絲、下言若レ綸。

【上弦】259 ジャウゲン ㊀ゆみはりづき。陰暦八九日頃の月。上旬の弦月。滿月後二十二三日頃の半圓形の月を下弦といふのに對する語。〔釋名、釋天〕弦、月半之名也、其形一旁曲、一旁直、若二張レ弓施レ弦也。〔詩、小雅、天保、如二月之恆一、疏〕弦有二上下一、云云、八月九日、大率月體正半、云云、似二弓之張一而弦直、謂二上弦一也。〔後漢書、律曆志下〕得二上弦一。〔王褒、詠レ月贈レ人詩〕上弦如二半璧一、初魄似二蛾眉一。〔山堂肆考〕世傳、初七初八、謂二之上弦一、二十二・二十三、謂二之下弦一。〔書言故事、歳月〕每月初八日爲二上弦一、月之未レ圓。㊁shang^{4} hsien^{2} ㋑時計のねぢを卷く。㋺唄に習熟した後、胡琴に和すること。

【上原】260 ジャウゲン ㊀城の名。河北省元氏縣の西。〔史記、趙世家〕孝成王十一年、城二元氏縣上原一。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、元氏縣〕上原城、在二縣西一、亦趙邑也、史記、趙孝成王城二元氏縣上原一。㊁元、徐愷(**4―10110**‥39)の字。㊂ウバル 琉球の地名。

【上源】261 ジャウゲン ㊀上流。〔水經、晉水注〕昔智伯之遏二晉水一、以灌二晉陽一、其川上泝、後人踵二其遺跡一、蓄以爲レ沼。〔述異記〕登二細流于上源一。〔前秦錄〕開二涇水上源一。㊁驛の名。河南省開封縣城の南。後梁の朱全忠が李克用を謀殺しようとした處。〔舊五代史、唐武皇紀上〕武皇追レ賊至二于曹州一、是月班レ師過レ汴、汴帥迎二勞于封禪寺一、請二武皇休二于府第一、乃以二從官三百人及監軍使陳景思一、館二于上源驛一、是夜張レ樂陳二宴席一、汴帥自佐レ饗出二珍幣一、侑二勸武皇一、酒酣戲二諸侍妓一、與二汴帥一握レ手、敍二破レ賊事一以爲レ樂、汴帥素忌二武皇一、乃與二其將楊彥洪一密謀、竊發二彥洪于巷陌一、連二車樹柵一以扼二奔竄之路一、時武皇之從官皆醉、俄而伏兵竊發、來攻二傳舍一、武皇方大醉、譟聲動レ地、從官十餘人捍レ賊、云云、有レ頃、煙火四合、復大雨震電、武皇得二從者薛鐵山・賀回鶻等數人一而去。

【上戸】262 ジャウコ ㊀富民。〔唐書、南詔傳〕凡田五畝曰レ雙、上官授二田四十雙一、上戸三十雙、以レ是而差。〔宋史、食貨志上六〕今法徒能優二便上戸一、而三等四等戸、困苦日甚。㊁大寶の制で、戸を分ち、一戸の内、六丁以上、八丁以下の戸の稱。〔田令〕凡課二桑漆一、上戸桑三百根・漆一百根以上、中戸桑二百根・漆七十根以上、下戸桑一百根・漆卅根以上。㊂ゴジャウ 酒を多く飮む人。酒好きの人。下戸(**1―14**‥146)の㊁の對。〔經史摘語〕按、以二飮酒一爲二大小戸一、三國之時語也、今以レ嗜レ酒號二上戸一、以三上頓與二戸大一幷言也。〔翠雨軒詩話〕我俗謂二多飮レ酒者一爲二上戸一、不レ能二多飮一者爲二下戸一、猶下在二漢土一稱中大戸小戸上也。㊃カミノト 清涼殿の東方に出る戸口。〔名目抄〕上戸。

【上古】263 ジャウコ ㊀おほむかし。太古。〔易、繫辭下〕上古結レ繩而治。〔莊子 大宗師〕長二於上古一、而不レ爲レ老。〔荀子、非相〕舍二後王一、而道二上古一。〔韓非子、五蠹〕上古之世、人民少而禽獸多。㊁歷史上の時代區分の一つ。我が國では神武天皇から大化改新の頃までをいふ。

【上古之書】264 ジャウコノショ 上古の書。尙書をいふ。書經。〔孔安國、尙書序〕濟南伏生、年過二九十一、失二其本經一、口以傳授、裁二十餘篇一、以二其上古之書一、謂二之尙書一。

【上虎】265 ジャウコ 清、彭殿元(**4―10003**‥198)の字。

【上午】266 ジャウゴ 午前。晨から正午以前の時間。今は夜半一時から正午に至る間。下午(**1―14**‥150)の對。〔本城問亭、佐久間大尉事略〕至二十四日上午十時一。

【上口】267 ジャウコウ ㊀上部に在る口。〔史記、扁鵲傳、別下於二三焦膀胱一、注〕正義曰、下鬲在二胃上口一也。㊁shang^{4} k'ou^{3} 口づける。

【上口字】268 shang^{4} k'ou^{3} tzŭ^{4} 戲曲で音韻の讀法が北京の方言と異なるものをいふ。

【上工】269 ジャウコウ ㊀技能のすぐれた職人。〔周禮、考工記、弓人〕上工以レ有レ餘、下工以レ不レ足。㊁すぐれた醫師。良醫。〔史記、扁鵲傳、良工取レ之、注〕正義曰、解二一藏一爲二下工一、解二二藏一爲二中工一、解二五藏一爲二上工一。〔金匱要略〕上工治レ未レ病。㊂仕事をはじめる。〔農政全書〕二月初二日、東作興、俗謂二之上工日一。㊃shang^{4} kung^{1} 仕事を始める。仕事に取り掛る。

【上公】270 ジャウコウ ㊀周代に三公の首領(九命のもの)及び二王の後をいふ。〔書、微子之命〕庸建二爾于上公一。〔蔡傳〕王者之後稱レ公、故曰二上公一。〔周禮、春官、典命〕上公九命爲レ伯。〔注〕上公、謂二王之三公、有レ德者、加レ命爲二二伯一、二王之後亦爲二上公一。〔漢書、翟方進傳〕春秋之義、尊二上公一、謂二之宰一、海内無レ不レ統焉。㊁漢代に太保・太傅をいふ。三公の上にあるによる。後漢では太傅一人をいふ。〔後漢書、吳漢傳論〕常居二上公之位一。〔通典、職官典、三公總敍〕後漢惟有二太傅一人一、謂二之上公一。㊂星の名。〔史記、天官書〕亢爲二疏廟一、太白廟也、太白大臣也、其號上公。㊃shang^{4} kung^{1} 公爵の尊稱。

【上功】271 ジャウコウ ㊀功あるものをたつとぶ。〔周禮、秋官、大司寇〕以二五刑一糾二萬民一、一曰野刑、上レ功糾レ力。㊁最上の功あるもの。〔吳子、勵士〕上功坐二前行一。㊂功を上申する。〔風俗通、正失、孝文帝〕吏士爭居レ前、樂盡二死力一、斬レ首上レ功、誤差二數級一、下二之吏一、尙竟抵レ罪。

【上句】272 ジャウコウ ㊀車の柄の、手で持つところ。〔周禮、考工記、車人〕上句者二尺有二寸。〔疏〕句者、謂二人手執レ之處一、二尺有二寸也。㊁ジャウク 詩などの上の一節。〔詩、周南、卷耳、陟二彼崔嵬一、我馬虺隤、疏〕故上句欲二君子知二其勞一、下句欲三君子加二其賞一也。㊂カミノク 和歌の五七五の三句。〔謠曲、雨月〕歌の下の句なり、此の上の句を繼がせ給はば。

【上狃】273 ジャウコウ のぼりあがる。〔元結、引極、思元極〕思二假翼一兮鸞鳳、乘二長風一兮上狃。

【上貢】274 ジャウコウ 高麗の貢士の三等の一つで、王城から貢せられるもの。〔宋史、外國三、高麗傳〕貢士三等、王城曰二上貢一、郡邑曰二鄕貢一、他國人曰二賓貢一。

【上控】275 shang^{4} k'ung^{4} 上告する。控訴する。

【上鉤】276 shang^{4} kou^{1} わなにかかる。上檔(528)の㊀に同じ。

【上告】277 ジャウコク 上訴の一つ。法律の違背を理由として、第二審判決の破棄變更を上級裁判所に申立てること。

【上告審】278 ジャウコクシン 上告に對して行ふ審判。

【上告裁判所】279 ジャウコクサイバンショ 上告を裁判する役所。

【上谷】280 ジャウコク ㊀郡名。㋑秦、置く。察哈爾省延

慶縣の北。戰國の時、趙の公子嘉が、自立して代王となり、軍した處。〔讀史方輿紀要、州域形勢、秦〕秦上谷、今保定府河間府、及順天府之南境西境、又延慶・保安二州、至宣府鎭境內、皆是。㊁後魏、置く。故治は河北省廣靈縣の西。㊂隋、易州を改めて置く。河北省易縣治。❶清、榮林（6－15273‥166）の字。

【上刻】281 ジョウコク 古、ひと時（二時間）を二分した初の部分の稱。中刻（1－73‥299）・下刻（1－14‥155）の對。〔丹波與作、上〕刻限は巳の上刻との定めにて。

【上國】282 ジョウコク ❶王都に近い諸國の稱。上邦。かみがた。中國。〔左氏、昭、二十七〕吳子云云、使ニ延州來季子聘ニ于上國ニ。〔左氏、定、四〕吳爲ニ封豕長蛇ニ、以荐ニ食上國ニ。〔呂覽、知化〕必行ニ於上國ニ。〔史記、吳世家〕季札心知レ之、爲レ使ニ上國ニ未レ獻。〔後漢書、陳蕃傳〕垂耀在レ天、下應ニ分レ土藩ニ屛上國ニ。❷川の上流にある國。〔左氏、昭、十四〕楚子使下然丹簡ニ上國之兵於宗丘ニ、且撫中其民上。〔注〕上國、在ニ國都之西ニ、西方居ニ上流ニ、故謂ニ之上國ニ。❸中國の自稱。㊃他國に對する敬稱。貴國。おくに。㊄大寶令の制で、國の等級を四等に分けた、其の第二位の國の稱。山城・攝津など。〔職員令〕上國、守一人・介一人・掾一人・目一人・史生三人。〔職原抄〕上國。

【上國掾】283 ジョウコクジョウ 大寶令の制で、上國の屬官。上國の㊄を見よ。〔職員令〕上國掾一人。〔職原抄〕上國、掾。

【上國介】284 ジョウコクスケ 大寶令の制で、上國の屬官。上國の㊄を見よ。〔職員令〕上國、介一人。〔職原抄〕上國、介。

【上國守】285 ジョウコクノカミ 大寶令の制で、上國の長官。上國の㊄を見よ。〔職員令〕上國、守一人。〔職原抄〕上國、守。

【上國目】286 ジョウコクノサクワン 大寶令の制で、上國の屬官。上國の㊄を見よ。〔職員令〕上國、目一人。〔職原抄〕上國、目。

【上笏】287 ジョウコツ 大夫の爵。〔江淹、雜體、袁大尉從駕詩〕和惠頒ニ上笏ニ、恩渥洽ニ下筵ニ。〔注〕良曰、上笏、謂ニ大夫之爵ニ。

【上根】288 ジョウコン 根氣の強いこと。すぐれた性質。〔魏書、釋老志〕初根人爲ニ小乘ニ、行ニ四諦法ニ、中根人爲ニ中乘ニ、受ニ十二因緣ニ、上根人爲ニ大乘ニ、則修ニ六度ニ。〔傳燈錄、吾戒・定・慧、勸ニ上根ニ、上智ニ入ニ。

【上紺】289 ジョウコン 上等の紺色。

【上衮】290 ジョウコン 上相（372）の❶に同じ。〔後漢書、牟伏侯等傳贊〕牟公簡レ帝、身終ニ上衮ニ。

【上懇】291 ジョウコン 願ひ奉る。〔福全惠書、澄任部、稟帖贅說〕敢瀆」誠上懇。

【上佐】292 サジョウ 官名。別駕・長史・司馬などをいふ。〔晉書、王舒傳〕明帝之爲ニ東中郎將ニ、妙ニ選上佐ニ、以レ舒爲ニ司馬ニ。〔通典、職官典、總論郡佐〕大都督府司馬、有ニ左右二員ニ、凡別駕・長史・司馬、通謂ニ之上佐ニ。〔稱謂錄、同知典、上佐〕周必大入、通判廳記云、郡丞秦官、惟掌ニ兵馬ニ、自レ漢迄ニ唐、其名不レ常、曰別駕、曰司馬、曰治中、曰長史、雖ニ均號ニ上佐ニ、其實從事之長耳。

【上差】293 ジョウサシ 箙に矢を盛り、其の左方に指し添へる二本の矢。〔今昔物語、二十七〕此の負ひたる胡籙の上差の箭を一筋。

【上坐】294 ジョウザ かみくら。上席。上座。〔史記、高祖紀〕遂坐ニ上坐ニ、無レ所ニ詘ニ。〔史記、酈生傳〕延ニ酈生上坐ニ謝レ之。

【上座】295 ジョウザ ❶上坐に同じ。❷㊀釋尊の弟子中、學行のすぐれた特定の人たち。又上座部ともいふ。〔三論玄義〕如來二月十五日入ニ涅槃ニ、諸聖弟子四月十五日、於ニ王舍城祇闍崛山中ニ、結ニ集三藏ニ、爾時卽有ニ二部名字ニ、一上座部、謂ニ迦葉爲ニ上座ニ、云云、二大衆部、卽界外大衆、乃有ニ萬數ニ、婆師波羅漢爲レ主。㊁僧官。三綱の一つ。年長・高才の僧で、法事等を掌るもの。座首。上首。生年上座・世俗上座・法性上座を三上座といふ。〔職原抄〕僧官位、上座・寺主・都維那、謂ニ之ニ綱ニ。〔五分律〕上更無ニ人名ニ上座ニ。〔行事鈔、下三之二〕二十夏至四十九夏、名ニ上座ニ。〔資持記〕今時禪衆無レ論ニ老少ニ、例稱ニ上座ニ。

【上才】296 ジョウサイ すぐれたはたらき。又、其の人。〔後漢書、馮衍傳贊〕體兼ニ上才ニ、榮微ニ下秩ニ。〔沈約、應ニ王中丞思遠詠レ月詩〕西園游ニ上才ニ。

【上宰】297 ジョウサイ ❶宰相の稱。上輔。〔潘岳、河陽縣作詩〕再升ニ上宰朝ニ。〔震據、雜詩〕天子命ニ上宰ニ作ニ蕃于漢陽ニ。❷星の名。〔宋史、天文志二〕紫微垣東蕃八星、第一星爲ニ左樞ニ、第二星爲ニ上宰ニ。

【上埒】298 ジョウラツ 陸前國の地名。

【上彩】299 shang⁴ ts'ai³ 役者が面上に脂粉を施し、眉を畫き、目にくまどること。勾臉（2－2500‥19）と似てゐるが、彩色を用ひない點が異なる。

【上殺】300 ジョウサイ 上の方がそげて細いこと。〔川田甕江、岩倉公所レ藏正宗鍛刀記〕莖長五寸七分二釐、廣九分強、下豐上殺、穿ニ二孔ニ。

【上祭】301 ジョウサイ ❶お祭をする。〔史記、周紀〕九年、武王上ニ祭于畢ニ。〔左思、蜀都賦〕其深則有ニ白黿鼉鼈、玄獺上祭ニ。❷㊀供物を壇に上げて祭をする。〔禪林象器箋、十四〕。❸shang⁴ chi⁴ 祭の席に列する。

【上菜】302 shang⁴ ts'ai⁴ ❶主人と家族の者とが食べる料理。❷料理を食卓に並べ出す。

【上裁】303 ジョウサイ 上の御裁決。上奏裁可。〔清國行政法汎論、皇族、宗室覺羅之刑罰〕先將ニ該事件奏聞ニ、以仰ニ上裁ニ。

【上歲】304 ジョウサイ 豐作の年。豐年。〔史記、天官書〕東北爲ニ上歲ニ。〔注〕集解曰、韋昭曰、歲大穰。

【上蔡】305 ジョウサイ ❶縣名。㋑漢、置く。河南省汝南縣の北。もと春秋蔡國の都。〔漢書、地理志上〕汝南郡、縣三十七、上蔡。〔清史稿、地理志〕河南、汝寧府、縣八、上蔡。㊁後漢、置き、隋、廢す。故治は江西省上高縣の西。〔讀史方輿紀要、江西、瑞州府〕上高縣、本建成縣地、後漢中平中、汝南上蔡民、分徙ニ於此ニ、因立ニ上蔡縣ニ屬ニ豫章郡ニ。㋒南齊、置き、唐、省く。故城は湖北省鍾祥縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、鍾祥縣〕漢東城、隋志、後齊僑置ニ上蔡縣及齊興郡ニ。❷宋、謝良佐の號。謝良佐（10－35827‥372）を見よ。〔明一統志〕上蔡書院、在ニ台州府東湖上ニ、宋景定中、州守王華甫建、祀ニ上蔡謝良佐ニ。

【上蔡學派】306 ジョウサイガクハ 宋の謝良佐の學派。謝良佐は上蔡の人であるからかくいふ。其の學は仁を以て心の本體とし、窮理・持敬を以て致力の方法とした。洛學の魁となり、又、後の陸象山の學の本づく所といふ。〔宋元學案、上蔡學案〕祖望謹案、洛學之魁、皆推ニ上蔡ニ、晦翁謂、其英特過ニ于楊游ニ、蓋上蔡之才高也、然其墮ニ入蔥嶺ニ處、決裂亦過ニ于楊游ニ、或曰、是江民表之書、誤入ニ上蔡語錄中ニ、述ニ上蔡學案ニ。

【上蔡語錄】307 ジョウサイゴロク 書名。三卷。謝良佐の語錄。胡安國之を錄し、後、朱子が刪定した。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【上蔡先生】308 ジョウサイセンセイ 宋、謝良佐（10－35827‥372）の尊稱。

【上顋】309 ジョウサイ 昆蟲の口器。上脣の左右にある。大顎。上腮。大腮。

【上罪】310 ジョウザイ 極罪。重罪。〔周禮、秋官、司圜〕上罪、三年而舍。

【上爭】311 ジョウソウ 上り爭ふ。〔史記、扁鵲傳〕陽脈下遂、陰脈上爭。

【上倉】312 ジョウソウ くらに入れる。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕凡百姓上ニ倉交レ糧。〔六部成語、戶部、上倉、注解〕收レ米入レ倉、曰ニ上倉ニ。

【上裝】313 shang⁴ chuang¹ ❶荷物を積み込む。❷婚禮の世話女が新婦に化粧をしてやることをいふ。

【上蒼】314 ジョウソウ 天。上天。〔越絕書、越絕請糴內傳〕昔者上蒼以レ越賜ニ吳ニ。〔杜甫、入ニ衡州ニ詩〕烈火發ニ中夜ニ、高煙焦ニ上蒼ニ。

【上艙】315 shang⁴ ts'ang¹ 船の荷物倉。

【上鏘】316 shang⁴ ts'ao² 四川地方に流通する銀の一種。

【上竈】317 ジョウソウ 宋、郭士竈（11－39474‥303）の一名。

【上造】318 ジョウゾウ 秦の爵位の名。功勞を賞する爲に置く。漢も秦制を承け、第二級の爵とした。〔漢書、百官公卿表〕爵一級曰ニ公士ニ、二曰ニ上造ニ、云云、十五少上造、十六大上造。〔注〕師古曰、造、成也、言ニ有レ成ニ於上ニ也。〔漢書、食貨志〕爵ニ上造ニ。〔注〕師古曰、上造、第二等爵也。

【上冊】319 shang⁴ ts'e² ❶書籍の上卷。❷冊子を提出する。書冊を捧呈する。

【上作】320 ジョウサク ❶名作。傑作。善い出來。❷豐作をいふ。

【上策】321 ジヤウサク すぐれたはかりごと。上計。上略。〔漢書、溝洫志〕千載無レ患、故謂二之上策一。〔漢書、匈奴傳下〕後世三家周・秦・漢征レ之、然皆未レ有下得二上策一者上也。

【上刹】322 shang⁴ ch'a⁴ ❶塔の九輪。寺。❷御坊。他の寺院を敬稱する語。

【上參】323 ジヤウサン まゐる。いたる。參上。〔謝靈運、山居賦〕聆二清哇一以下聽、載二王子一而上參。

【上算】324 ジヤウサン ❶よい方策。上策。〔周書、異域傳論〕擧無二遺策一、謀多二上算一。〔隋書、梁睿傳〕周無二上算一、漢收二下策一。❷謀がうまくあたること。〔儒林外史、十五回〕馬二先生恍然大悟、他原來結二交我一、是要下借レ我騙中胡三公子上、幸得二胡家時運高一、不レ得二上算一。❸ shang⁴ suan⁴ 算盤に合ふ。割に合ふ。利益がある。便宜を得る。

【上山】325 ジヤウザン ❶淺田寬の號。淺田上山(7－17697・・130)を見よ。❷ shang⁴ shan¹ ㋑山へ登る。登山。㋺蠶が上簇して繭を作ること。浙江地方の語。山は簇を指していふ。

【上士】326 ジヤウシ ❶德の高くすぐれた士。〔老子、四十一〕上士聞レ道、勤而行レ之、中士聞レ道、若レ存若レ亡、下士聞レ道、大笑レ之。〔墨子、明鬼下〕爲二上士於天下一、此非下所三以爲二上士一之道上也。❷士の階級中、最上の身分。周代では士の位を上・中・下に別けた。〔周禮、考工記、弓人〕上士服レ之。〔孟子、萬章下〕大夫倍二上士一、上士倍二中士一。〔孟子、萬章下〕上士一位、中士一位、下士一位。❸㋑文官官秩の一。文官官秩(5－13450・・247)を見よ。㋺軍士の等級の一。軍士は上・中・下の三級に分れる。❹佛菩薩の異名。自利と利他の行にすぐれてゐるもの。〔釋氏要覽、上、上士〕瑜伽論云、無二自利利他行一者名二下士一、有二自利一無二利他一者名二中士一、有二二利一名二上士一。

【上巳】327 ジヤウシ ジヤウミ 陰曆三月の第一の巳の日。此の日、流水のほとりで禊をして、年中の不祥を祓ふ。魏以後には三月三日と定めたので、三日を上巳と呼ぶ。雛の節供。桃の節供。琅琊代醉編、卷二、及び陔餘叢考、卷二十一に見ゆ。〔周禮、春官、女巫、掌二歲時祓除釁浴一注〕歲時祓除、如下今三月上巳如二水上一之類上。〔後漢書、禮儀志上〕是月上巳、官民皆絜二於東流水上一。〔荊楚歲時記〕三月三日、士民並出二江渚一、爲二流杯曲水之飲一。〔顏延之、三月三日曲水詩序、注〕善曰、韓詩曰、三月桃花水之時、鄭國之俗、三月上巳、於二溱洧兩水之上一、執レ蘭招レ魂、祓二除不祥一也、宋書禮志曰、自レ魏以後、但用二三日一、不レ以レ巳。〔和漢三才圖會、時候類、上巳〕十節錄云、昔周幽王淫亂、羣臣愁二苦之一、于レ時設二河上曲水宴一、或人作二草餅一貢二幽王一、嘗二其味一爲レ美也、王曰、是餅珍物也、可レ獻二宗廟一、周世大治、遂致二太平一、後人相傳、作二草餅一、是日進二于祖靈一、從レ此始也、然韓詩・初學記亦皆謂、曲水宴、起二於周公一也。

【上巳日】328 ジヤウシノヒ ジヤウミノヒ 陰曆三月三日の節供のこと。〔荊楚歲時記〕上巳日、取二黍麴一、和レ菜作レ羹、以厭二時炁一。〔月令圖經〕上巳日、可下採二艾幷蔓菁花一、以療中黃病上。〔故事成語考、歲時〕三月三、爲二上巳辰一。

【上之】329 ジヤウシ 清、黃達(12－47926・・628)の字。

【上之回】330 ジヤウシクワイ 漢の鐃歌の名。十八曲の一。武帝が回中道を通じ、數々遊幸せるを讚美して作る。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌〕古今樂錄曰、漢鼓吹鐃歌十八曲、字多二訛誤一、云云、四曰、上之回。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌、上之回〕漢書曰、孝武十四年、匈奴入二朝那蕭關一、遂至二彭陽一、使三騎兵入燒二回中宮一、候騎至レ雍、甘泉回中地在二安定一、其中有レ宮也、武帝紀曰、元封四年冬十月、行二幸雍一、祠二五時一、通二回中道一、遂北出二蕭關一、吳兢樂府解題曰、漢武通二回中道一、後數出遊幸焉、沈建廣題曰、漢曲皆美二當時之事一、按、石關、宮闕名、近二甘泉宮一、相如上林賦云、蹷二石關一歷二封巒一、是也。〔漢鐃歌、上之回〕上之回所二中益一、夏將レ至行將レ北、以承二甘泉宮寒暑德一、游二石關一望二諸國一、月支臣匈奴服、令下從二百官一疾驅上、千秋萬歲樂無レ極。

【上之所レ好下必甚レ焉】331 カミノコノムトコロ シモカナラズコレヨリハナハダシ 上の人の好む所は、下の者が之に倣ひ、一層好むやうになる。〔孟子、滕文公上〕上有二好者一、下必有二甚焉者一矣。

【掩二上之明一汙二下之行一】332 カミノメイヲオホヒテ シモノオコナヒヲケガス 君の近侍のものが上の者の明察を掩ひ、下の者の行を汚すこと。〔晏子、雜、下〕是掩二上之明一、汙二下之行一、不可。

【上之化レ下猶二風之靡一レ草】333 カミノシモヲクワスルハ ナホカゼノクサヲナビカスガゴトシ 上の者の德が下の者を教化する喩。〔論語、顏淵〕君子之德風也、小人之德草也、草上二之風一、必偃。〔新語、無爲〕於レ是楚國逾奢、君臣無レ別、故上之化レ下、猶二風之靡一レ草也。

【上之所レ爲民之所レ歸也】334 カミノナストコロハ タミノキスルトコロナリ 上の爲すことは、民が手本としてまねる。〔左氏、襄、二十一〕夫上之所レ爲、民之所レ歸也、上所レ不レ爲、而民或爲レ之。

【上司】335 ジヤウシ ❶上位の官吏。上官。〔後漢書、楊震傳〕吾蒙レ恩居二上司一。〔魏志、崔林傳〕以レ不レ事二上司一、左遷。〔鍾會、移レ蜀檄文〕擧レ衆內附、位爲二上司一。❷うはやく。長官をいふ。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕承二事上司一。〔六部成語、吏部、上司、注解〕有下管二轄此官之權一者上、皆爲二官之上司一。

【上市】336 shang⁴ shih⁴ 市場に現はれる。

【上旨】337 ジヤウシ 君の御意。上指。〔史記、公孫弘傳〕皆倍二其約一、順二上旨一。

【上志】338 ジヤウシ ❶上代の書きもの。志は誌。〔呂覽、務大〕嘗試觀二于上志一。❷君の御意。〔墨子、號令〕常伺二上志一、隨而行。

【上使】339 ジヤウシ ❶上から下へつかはす使者をいふ。❷將軍家から大小名へつかはす使者。御上使。御使者。〔平家女護島、二〕上使を切つたる科によつて。

【上枝】340 ジヤウシ ❶上の枝。かみつえだ。かみつえ。〔山海經、海外東經〕水中有二大木一、九日居二下枝一、一日居二上枝一。〔杜甫、枯柟詩〕上枝摩二皇天一、下根蟠二厚地一。❷カミツエダ 古語で、兄をいふ。このかみ。〔藻鹽草、十五〕かみつ枝、兄也。

【上肢】341 ジヤウシ 兩手の稱。兩足を下肢(1－14・・207)といふのに對する語。

【上肢筋】342 ジヤウシキン 上肢に分布する筋群。肩筋・上膊筋・前膊筋・手筋の總稱。

【上肢骨】343 ジヤウシコツ 上肢を形成する骨。

【上肢帶】344 ジヤウシタイ 肩帶(9－29288・・31)に同じ。

【上思】345 ジヤウシ ❶州名。唐、置く。廣西省上思縣の南。〔讀史方輿紀要、廣西、南甯府〕上思州、唐初羈縻蠻洞地、尋置二上思州一、屬二邕州都督府一、宋屬二邕州遷隆寨一、元屬二思明路一、明初因レ之、宏治十八年、改屬二南甯府一。❷直隷廳の名。清、置く。廣西省上思縣の地。〔清史稿、地理志〕廣西、上思直隸廳、順治初因二明舊一、光緒十三年、改屬二太平府一、十八年、升爲二直隸廳一。❸縣名。民國、置く。廣西省邕寧縣の西南。漢の鬱林・合浦二郡の地。

【上指】346 ジヤウシ ❶上をさす。〔史記、項羽紀〕瞋レ目視二項王一、頭髮上指。❷君の御意。上旨(337)に同じ。〔漢書、張湯傳〕湯承二上指一、請下造二五金及五銖錢一、籠中天下鹽鐵上。

【上虒】347 ジヤウシ 漢代の亭の名。今、山西省沁縣の南に當る。〔漢書、地理志上〕上黨郡、銅鞮有二上虒亭一。〔水經、濁漳水注〕銅鞮水、又東逕二李憙墓一、墓前有レ碑、碑石破碎、李氏以二太和元年一立レ之、其水又東逕二故城北一、城在二山阜之上一、下臨二岫壑一、東西北三面阻、袤二里、世謂二之斷梁城一、卽故縣之上虒亭也。

【上廁】348 shang⁴ ssŭ⁴ 廁にゆく。雪隱にゆく。

【上梓】349 ジヤウシ 書物を出版すること。上木。梓は板木の良材。〔康熙字典〕梓、俗謂レ鋟二文書於板一曰レ梓。〔會澤正志齋新論、國體上〕或至下於有中著レ書上梓、欲二以レ夷變一レ夏者上。

【上嗣】350 ジヤウシ 太子をいふ。〔周書、蕭圓肅傳〕易稱二明兩一、禮云二上嗣一。〔韓愈、順宗實錄、一〕自レ膺二上嗣一、毓二德春闈一。

【上資】351 ジヤウシ 唐代、勳功を賞する最上の等級。〔唐書、百官志一〕凡酬レ功之等、見任前資常選曰二上資一、文武散官衞官勳官五品以上曰二次資一、五品以上子孫、上柱國柱國子、勳官六品以下曰二下資一、白丁鄕士曰二無資一。

【上賜】352 ジヤウシ 天子のたまもの。〔漢書、佞幸、董賢傳〕僮僕皆受二上賜一。

【上駛】353 ジヤウシ はしつて上る。

【上駟】354 ジヤウシ 最もよい駟馬。轉じて、最もすぐれたものの稱。〔史記、孫子傳〕以二君之下駟一與二彼上駟一。〔韓愈、入レ關詠レ馬詩〕歲老豈能充二上駟一。

【上駟院】355 ジヤウシヰン 清代の役所の名。蒙古地方

の牧政を掌る。長官を上駟院卿といふ。初、御馬監といひ、尋いで阿敦衙門と改め、康熙中、上駟院に改む。〔清會典事例、內務府、官制〕上駟院、初名二御馬監一。

【上齒】356 ❶うはば。〔呂覽、博志〕凡有レ角者、無二上齒一。〔孔子家語、執轡〕戴レ角者、無二上齒一。❷年長者を尊ぶ。上は尚んで上に居らしめこると。尚齒。〔禮、王制〕習二鄉上レ齒一。〔疏〕於レ鄉學二習鄉飲酒之禮一、令二老者居一上。

【上劑】357 周代に鄉師が、上等の役法によつて民を集めること。下劑(1－14‥220)を見よ。〔周禮、地官、遂人、凡治レ野以二下劑一致レ甿、孫詒讓正義〕惠士奇云、六鄉役レ民以二上劑一。

【上識】358 古い事をよく知る。〔管子、戒〕朋之爲レ人、好二上識而下問一。〔纂詁〕識、音志、呂覽作レ志、上識二多識前言往行一、以畜二其德一也。

【上次】359 ❶上のつぎ。〔孟子、萬章下〕上農夫食二九人一、上次食二八人一。❷ shang⁴ tz'ŭ⁴ 前回。先般。

【上事】360 ❶上の事柄。〔詩、周南召南譜、疏〕是故者、緣二上事一、生二下勢一之稱。❷君の事。〔漢書、嚴助傳〕貢酎之奉、不レ輸二大內一、卒之用、不レ給二上事一。❸事を申し上げる。〔後漢書、明帝紀〕先帝詔書、禁二人上レ事言一聖。

【上時】361 秦の靈公が黃帝を祀つたところ。五時(1－257‥463)を見よ。

【上秋】362 秋のはじめ。陰曆の七月。初秋。〔梁元帝纂要〕七月曰二孟秋一、首秋、初秋、上秋、肇秋、蘭秋、又曰二涼月一。

【上日】363 ❶月のはじめの日。一日。朔日。上甲。〔書、舜典〕正月上日、受二終于文祖一。〔傳〕上日、朔日也。〔宋書、禮志一〕維某年某月上日。❷よい日。良日。〔杜甫、蘇端薛復筵簡二薛華一醉歌詩〕愛客滿堂盡豪傑、開筵上日思二芳草一。❸出勤日。當番の日。〔式部省式、上〕其參議以上及少納言、並聽二通二計內裏上日一。❹昨日。前日。

【上日佐】364 筑前國の地名。

【上襲】365 中に着た着物を汚さぬために着るうはぎ。

【上車】366 shang⁴ ch'ê 車に乘る。乘車する。

【上舍】367 ❶上等の邸宅。〔戰國、齊策〕於レ是舍二之上舍一。〔注〕上舍、上傳也、一曰二甲第一也。〔史記、張儀傳〕楚懷王聞二張儀來一、虛二上舍一而自館レ之。❷宋代の大學の三舍の一。三舍(1－12‥805)の❷を見よ。〔宋史、選擧志三〕置二外舍生二千人、內舍生二百人、上舍生百人一。❸清代の國子監の學生をいふ。〔剪燈新話、天台訪隱錄〕自稱二太學陶上舍一。

【上射】368 ❶射の禮を行ふ時の射手の一人。下射(1－14‥827)の❶の對。〔儀禮、鄉射禮〕上射升レ堂、少左、下射升、上射揖、並行。❷上手な射方。〔唐書、禮樂志六〕凡射獸、自レ左而射レ之、達二于右腢一爲二上射一。

【上謝】369 shang⁴ hsieh⁴ 御禮を述べる。

【上邪】370 ❶上の者のよこしまなこと。〔宋書、樂志四〕上邪下難レ正、衆枉不レ可レ矯。❷漢の鐃歌の名。十八曲の一。首句に上邪の二字があるからいふ。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌〕古今樂錄曰、漢鼓吹鐃歌十八曲、字多二訛誤一云云、十五曰、上邪。〔漢鐃歌、上邪〕上邪、我欲レ與レ君相知、長命無レ絕、衰山無レ陵、江水爲レ竭、冬雷震震、夏雨雪、天地合、乃敢與レ君絕。〔晉書、樂志下〕改二上邪一爲二太和一。

【上庠】371 古の大學の稱。又、右學といふ。小學を下庠、又、左學といふに對する語。〔禮、王制〕有虞氏養二國老于上庠一、養二庶老于下庠一。〔注〕上庠、右學、大學也、在二西郊一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕大予協レ樂、上庠肆レ教。

【上相】372 ❶朝覲會同に禮を助ける人。かいぞへ。〔周禮、春官、大宗伯〕大宗伯之職、云云、朝覲會同、則爲二上相一。〔注〕相、詔二王禮一也、出接二賓曰一擯、入詔二禮曰一相。❷宰相の尊稱。又、宋代、宰相の首位に在るものをいふ。〔書、咸有一德〕將二告歸一、乃陳二戒于德一、疏〕伊尹、湯之上相、位爲二三公一。〔史記、陸賈傳〕足下位爲二上相一、食二三萬戶一。〔漢書、陸賈傳〕賈曰、足下位爲二上相一。〔後漢書、楊震傳論〕延光之間、震爲二上相一。〔宋史、職官志一〕宋承二唐制一、以二同平章事一爲二眞相之任一、無二常員一、有二二人一則分レ日知レ印、以承郎以上至二三師一爲レ之、其上相爲二昭文館大學士一、監二修國史一、其次爲二集賢殿大學士一。❸星の名。〔晉書、天文志上〕東蕃四星、南第一曰二上相一。❹ kan⁴ 美作國の地名。

【上將】373 ❶首席の大將。武官の最も尊顯な位の稱號。〔詩、大雅、大明、涼、彼武王、箋〕佐二武王一者、爲二之上將一。〔孫子、地形〕料レ敵制レ勝、計二險阨遠近一上將之道也。〔史記、陳涉世家〕陳王使二使賜一田臧楚令尹印一、使レ爲二上將一。❷星の名。〔史記、天官書〕斗魁戴匡六星曰二文昌宮一、一曰二上將一、二曰二次將一。〔晉書、天文志上〕文昌六星在二北斗魁前一、天之六府也、主二集計天道一、一曰二上將一、大將軍建二威武一。❸民國の陸海軍の將校の名稱。大將に當る。

【上將軍】374 ❶全軍の總大將。上將の❶に同じ。〔老子、三十一〕上將軍處レ右。〔史記、項羽紀〕王召二宋義一與計レ事、而大說レ之、因置以爲二上將軍一。❷官名。漢、始めて置き、呂祿を上將軍とす。三國魏・吳に至つて、並に上大將軍を置く。周・隋は武散官とし、唐は天策上將軍を置く。唐の太宗以後は上大將軍を改めて上將軍とし、大將軍の上に位し、各衙に皆置いて環衛の官とした。宋は之に因り、金・元皆置き、三品以上の武散官とした。明は置かず。民國は將軍府を建て、上將軍を置いて府中最高級の官とした。〔通典、職官典、武官下、雜號將軍〕漢以二呂祿一爲二上將軍一。〔通典、職官典、武官下、大將軍〕魏黃初中、又有二上大將軍一、以二曹眞一爲レ之、吳亦以二陸遜一爲二上大將軍一、諸葛恪爲二大將軍一。明帝青龍三年、晉宣帝、自二大將軍一爲二大尉一、然則大將軍在二三司下一矣、其後又在二三司上一、自二漢東京一大將軍不二常置一、爲二之者皆擅一朝權一至二晉景帝一爲二大將軍一、亦受二非常之任一、後以二叔父孚一爲二太尉一、奏改二大將軍一在二太尉後一、位次二三司下一、後復レ舊在二三司上一、後周建德四年、增置二上大將軍一、隋並以爲二武散官一、不レ理レ事、上大將軍從二品、大將軍正三品、大唐貞觀二年九月、敕二六軍一、先已各置二統軍一人一、今十六衞宜二各置一上將軍一人一、秩從二品一、其左右衞、及左金吾衞上將軍、俸料隨軍人馬等並同、六軍統軍、其諸衞上將軍各一人、從二品一、大將軍各一人、正三品。〔注〕貞元二年、初置二十六衞上將軍左右衞一有レ錄事一人、府一人、史二人、亭長八人、掌固四人一。〔宋史、職官志六〕環衞官、左右金吾衞上將軍、左右衞上將軍、左右驍衞上將軍、左右武衞上將軍、左右屯衞上將軍、左右衞官軍衞上將軍、左右監門衞上將軍、左右千牛衞上將軍、諸衞上將軍・大將軍・將軍、並爲二環衞官一。

【上章】375 ❶君主、又は官府へ上表文をたてまつること。又、其の表文。〔晉書、王獻之傳〕獻之遇疾、家人爲二上章一。〔晉書、百官志〕凡吏民上章、四方貢獻。❷かのえの歲の異名。史記曆書、商橫に作る。〔爾雅、釋天〕太歲在二庚曰一上章。〔淮南子、天文訓〕申在二庚曰一上章。〔注〕言、陰氣上升、萬物畢生、故曰二上章一也。❸前章。上文。❹清、沈天成(6－17189‥612)の本名。

【上翔】376 ❶空を飛びかける。〔說苑、使物〕飛鳴曰二上翔一。〔謝朓、七夕賦〕軹二帝車一而揖二玦、凌二天津一而上翔。❷鳳凰の飛びつつ鳴くことをいふ。〔廣雅、釋鳥〕鳳凰擧鳴曰二上翔一。

【上裳】377 mo⁴ 裳の上に更に重ねて着る裳。〔和訓栞、前編、宇〕うはもは上裳なるべし。

【上賞】378 最上の賞與。〔戰國、齊策〕羣臣吏民、能面二刺寡人過一者、受二上賞一。〔呂覽、當賞〕導レ我以レ禮者、吾以爲二上賞一。〔管子、大匡〕善、爲二上賞一、不レ善、吏有レ罰。

【上上】379 上の上。第一をいふ。最上。〔書、禹貢〕厥賦惟上上錯。〔傳〕上上、第一。〔張衡、西京賦〕厥田上上。

【上上月】380 shang⁴ shang⁴ yüeh⁴ 先先月。

【上上門】381 shang⁴ shang⁴ shuan¹ 門のくわんぬきをかける。門を締める。

【上上手】382 前任者。前のかかり。〔福惠全書、澄任部、查交代〕弔二上上手交代民欠冊一、並糧里認レ完花戶冊一。

【上上島】383 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【上上人】384 佛念佛者をいふ。

【上上官席】385 shang⁴ shang⁴ kuan¹ hsi² 最上等の宴席をいふ。

【上城】386 shang⁴ ch'êng² ❶町に行く。〔紅樓夢、

四十回〕我們郷下人、到了年下、都上城來買畫兒貼。㊁カミゴスク 大隅國の地名。

【上裏】387 ジヤウジヤウ 最も良い馬。上駕。裏は駕。〔詩、鄭風、大叔于田〕兩服上裏 兩驂鴈行。〔箋〕裏、駕也、上駕者、言、爲二衆馬之最良一也。〔拾遺錄〕進則充二服於上裏一、而驂二驪於瑤輅一。

【上壤】388 ジヤウジヤウ 最上の土壤。上等の穀物の取れる土地。〔管子、乘馬數〕以二上壤之滿一、補二下壤之衆一。〔晉書、赫連勃勃載記〕土苞上壤、地跨二勝形一。

【上手】389 ジヤウシユ ジヤウズ ㊀技術の巧なこと。巧者。〔顏氏家訓、雜藝〕卜筮者云云、十中二六七一、以爲二上手一。〔隋書、楊素傳〕素箭爲二第一上手一。㊁前任者。さきのかかり。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕其徵收有二前任上手交レ下存レ庫者一。㊂ shang⁴ shou³ ㋑賭場で、壺を管理する係りの者をいふ。㋺仕事に着手すること。㋩輕業師が勝つこと。儲けることをいふ。㋥位置の高いこと。㋭左手。㋬從前。以前。㋣上手な。巧みな。㊃ジヤウシユ 佛上方をいふ。〔禪林象器箋、二〕。㊄カミテ ウハテ ㋑魚の網の左方。〔袖中抄、二十〕左の網をばかみてと云ひ、右の網をば下手と云ふ。㋺上の方。

【上主】390 ジヤウシユ ㊀賢明な主君。〔漢書、谷永傳〕臣聞、上主可二與爲一レ善、不レ可二與爲一レ惡。〔新書、連語〕上主者、可二引而上一、不レ可二引而下一。㊁ shang⁴ chu³ 天帝。天主。神。

【上首】391 ジヤウシユ ㊀かしら。かみ。首座。〔梁武帝、十喩、夢詩〕出家爲二上首一、入仕作二梁棟一。〔白居易、畫西方幀記〕莫レ不下率以二阿彌陀佛一爲中上首上。〔雲笈七籤〕吾爲二上首一、作レ王。㊁動物をいふ。植物を下首(1－14・・258)といふに對す。〔大戴禮、曾子天圓〕曾子曰、天之所レ生上首、地之所レ生下首。〔孔廣森補注〕上首謂二動物一、下首謂二植物一。㊂うはやく。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕上首係二薦倖陞遷一。㊃佛一座大衆中の主位に在るもの。必ずしも一人に限らず。〔觀無量壽經〕三萬二千菩薩衆中、擧二文殊師利一人一爲二上首一。〔無量壽經〕一萬二千比丘衆中、擧二三十一比丘一爲二上首一。

【上首功】392 ジヤウシユコウ 戰場で敵の首級を獲た者を重く賞することをいふ。上はたふとぶこと。〔史記、魯仲連傳〕彼秦者、弃二禮義一而上二首功一之國也。

【上首尾】393 ジヤウシユビ よい出來ばえ。好結果。

【上珠】394 ジヤウシユ よい珠玉。すぐれた珠。〔晉書、陶璜傳〕自二十月一訖二二月一、非下採二上珠一之時上、聽二商旅往來一如レ舊。

【上酒】395 ジヤウシユ よい酒。美酒。

【上種】396 ジヤウシユ よいたね。〔史記、貨殖傳〕長二石斗一、取二上種一。

【上趣】397 ジヤウシユ 佛色界、又は無色界。〔歸敬儀、上〕無識不三徒生二於上趣一。

【上壽】398 ジヤウジユ ㊀最も年高いもの。㋑百歲。〔莊子、盜跖〕〔盜跖曰〕人上壽百歲、中壽八十、下壽六十。〔故事成語考、老壽幼誕〕百歲曰二上壽一。㋺百二十歲。〔左氏、僖、三十二〕爾何知中壽爾墓之木拱矣。〔疏〕上壽百二十歲、中壽百、下壽八十。〔嵇康、養生論〕或云、上壽百二十、古今所レ同。〔後漢書、郡國志四、酈侯國、注〕仰飲二此水一、上壽百二十三十、中壽百餘。㋩九十歲。〔論衡、正說〕或說、春秋二百四十二年者、上壽九十、中壽八十、下壽七十。㊁酒を酌んで誕生を祝ふ。ことほぎを奉る。無窮の壽を祝ふこと。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕奉レ觴上レ壽。〔漢書、郊祀志〕羣臣更上レ壽。〔事物紀原、朝廷注措部、上壽〕通典曰 禮有二獻醻一、無二上壽一、惟詩大雅云、虎拜稽首、天子萬壽、豳風曰、爲二此春酒一、以介二眉壽一、非二灼然明文一、要是彷二彿其事一、古者詩工皆歌レ之、故得而言也、漢興、叔孫通定レ議、七年長樂宮成、諸侯朝禮畢、置二酒殿上一、尊卑次起上レ壽、其事本起二于此一、史記、項羽與二漢王一飲二鴻門一、項莊入爲レ壽、則茲事已見二于漢初一矣、案二淳于髡傳一、髡對二齊威王一、有下侍二酒於前一、奉レ觴上レ壽之語上、及楚莊王置酒、優孟前爲レ壽、皆戰國時事、蓋不二自レ漢始一也、春秋之閒、亦無レ聞焉、疑卽七雄之禮云。

【上樹】399 ジヤウジユ 樹にのぼる。上樹拔梯を見よ。

【上樹跳井】400 shang⁴ shu⁴ t'iao⁴ ching⁴ 自分で禍を招く。死を急ぐ。

【上樹拔梯】401 ジヤウジユバツテイ 木にのぼらせて、梯子を引く。人を誘ひ出して、退引きならぬやうにする。〔羅湖野錄〕黃魯直與二興化海老一手帖云、莫三送レ人上レ樹、拔二卻梯一也。

【上襦】402 ジヤウジユ 上に著る短衣。〔古詩、陌上桑〕緗綺爲二下裙一、紫綺爲二上襦一。

【上衆】403 ジヤウズ 身分の高い人をいふ。搢紳。長者。賤人を下衆ゲス(1－14・・262)といふの對。〔源氏物語、帚木〕おぼえいとやんごとなく、上ずめかしけれど。

【上宿】404 ジヤウシユク ㊀上に宿る。〔李白、古意詩〕中巢雙翡翠、上宿紫鴛鴦。㊁shang⁴ su⁴ とのゐ。宿直。㊂㋑アブシヘ 古昔、天皇御寢の後、鬼の閒に宿直すること。〔辨内侍日記、上〕ここのへの雲のうへぶし袖さえて。㋺ジヤウヤド 上等の宿屋。〔川中島合戰、衞門姬道行〕木賃入らずの上宿。

【上孰】405 ジヤウジユク 豐年を上・中・下の三等に分けた第一番目。平年作の四倍。上熟。孰は熟に同じ。〔漢書、食貨志〕歲有二上中下孰一、上孰其收自四、餘二四百石一、中孰自三、餘二三百石一、下孰自倍、餘二百石一。〔遼史、食貨志上〕歲登上孰、移二屯鎭州一。

【上熟】406 ジヤウジユク ㊀上孰に同じ。㊁ shang⁴ shou² 江蘇省靖江縣にて、冬季播種し、春季收穫する麥類をいふ。春栽培して夏成熟する大豆・稻・棉の類を下熟といふの對。

【上述】407 ジヤウジユツ 上にのべたこと。前述。

【上術】408 ジヤウジユツ 最もよい手段方法。〔後漢書、梁統傳論〕匡レ朝恤レ患、未レ聞二上術一。

【上春】409 ジヤウシユン 春の初の月。孟春。〔周禮、天官、内宰〕上春詔二王后一、帥二六宮之人一。〔疏〕上春者、亦謂二正歲一、以二其春事將一レ興、故云二上春一也。〔周禮、春官、天府〕上春釁二寶鎭及寶器一。〔梁元帝纂要〕孟春曰二上春・初春・開春・發春・獻春・首春一。〔江淹、別賦〕珠與レ玉兮豔二暮秋一、羅與レ綺兮嬌二上春一。

【上旬】410 ジヤウジユン 月の一日から十日までの閒。上浣。〔周禮、天官、太宰、帥二執事一而卜レ日遂戒、疏〕天子郊、以二夏正上旬之日一。〔漢書、趙充國傳〕七月上旬、齎二三十日糧一、分レ兵竝出。〔京氏易略〕初爻、十日爲二上旬一。

【上所】411 ジヤウシヨ 昔、手紙の宛名の上に進上・謹上・謹上と書くこと。下輩には用ひず。〔貴嶺問答〕上所事、進上字、中古職事奉二大臣一狀如レ此。

【上書】412 ジヤウシヨ ㊀天子に書を奉ること。又、其の文體の名。〔戰國、齊策〕上書諫二寡人一者、受二中賞一。〔史記、秦始皇紀〕李斯上書說。〔事物紀原、公式姓諱部、上書〕太甲旣立不明、伊尹作レ書以戒、此上書之始也、七國時臣子、言二事于其君一、皆曰二上書一、秦改曰レ奏。〔文體明辯、上書〕按、字書云、書者、舒也、舒二布其言一、而陳二之簡牘一也。㊁書名。〔雲笈七籤〕此經或名二九素上書一。

【上書房】413 ジヤウシヨバウ 清代に皇子の讀書する所。乾西宮の左に在る。皇子が六才になれば此所に入つて讀書する。〔清會典事例、工部、宮殿〕乾清宮、宮廣九楹、云云、又南轉而北嚮者、爲二上書房一。〔注〕皇子皇孫、肄レ業之所。

【上書救レ父】414 ジヤウシヨシテチチヲスクフ 漢の淳于意の娘緹縈が、上書して父が肉刑を被るのを救つた故事。〔史記、太倉公傳〕文帝四年中、人上書言レ意以二刑罪一、當三傳西之二長安一、意有二五女一、隨而泣、意怒罵曰、生レ子不レ生レ男、緩急無レ可レ使者、於レ是少女緹縈、傷二父之言一、乃隨レ父西、上書曰、妾父爲レ吏、齊中稱二其廉平一、今坐レ法當レ刑、妾切痛、死者不レ可二復生一、而刑者不レ可二復續一、雖レ欲二改レ過自新一、其道莫レ由、終不レ可レ得、妾願入レ身爲二官婢一、以贖二父刑罪一、使レ得二改レ行自新一也、書聞、上悲二其意一、此歲中、亦除二肉刑法一。〔故事成語考、女子〕至レ若二緹縈上書而救レ父、盧氏冒レ刃而衞レ姑、此女之孝者。

【上書奏事】415 ジヤウシヨソウジ 上書は、凡ての題・奏・章・疏をいひ、奏事は、御前に咫尺して申上げることをいふ。〔明律、吏律 公式〕凡上書若奏事、誤犯二御名及廟諱一者、杖八十。〔淸律、吏律、公式、輯注〕上書、謂二一應題奏章疏一、奏事、則御前面陳之語也。

【上處】416 ジヤウシヨ 一番よいところ。國中で最上の處。〔詩、陳風、東門之枌、南方之原、箋〕以二南方原氏之女一、可三以爲二上處一。〔疏〕上處者、言二是一國最上之處一也。

【上如】417 ジヤウジヨ 清、朱圭(6－14424・・251)の字。

【上升】418 ジヤウシヨウ ㊀上にのぼる。上昇。上騰。〔漢書、揚雄傳下〕翼二疾風一、虛擧而上升。〔論衡、龍虛〕

孔子曰、游者可レ爲レ網、飛者可レ爲レ矰、至二于龍一也、吾不レ知下其乘二風雲一上升上、今日見二老子一、其猶レ龍乎。〔左思、吳都賦〕淵魚踈レ鱗而上升。❷shang⁴ shêng¹ 逆上する。のぼせる。

〖上升韻母〗419 ジャウショウキンボ 升元音(2—2702‥115)に同じ。

【上昇】420 ジャウショウ 上升(418)の❶に同じ。昇は升の俗字。〔楚辭、王逸、九思〕載二靑雲一兮上昇。

【上衝】421 ジャウショウ ❶つきあがる。〔戰國、燕策〕士皆瞋レ目、髮盡上衝レ冠。❷shang⁴ ch'ung¹ のぼせ。逆上。

【上乘】422 ジャウジョウ ❶四馬の車。〔左氏、哀、六〕嘗獻二馬於季孫一、不レ入二於上乘一。〔左氏、哀、十七、良夫乘二衷甸兩牡一、疏〕蓋以二四馬一爲二上乘一。❷最上の教法。第一洞眞。〔雲笈七籤〕三洞合成二三十六部尊經一、第一洞、眞、爲二上乘一、第二洞、玄、爲二中乘一、第三洞、神、爲二下乘一。❸佛㋑一切の煩惱を去つて、眞理を悟ること。又、其のさとり。最上乘禪。上衍。〔傳燈錄〕禪有二深淺階級一、悟二我空偏眞之理一而修、是小乘禪、悟二吾法空所顯眞理一而修者、是大乘禪、若頓下悟自心本來清淨、元無二煩惱一、無二漏智一、本自具足上、此心卽佛、依レ此而修者、是上乘禪。〔李中、宿二山中寺一詩〕瞑目忘二塵慮一、談レ空入二上乘一。㋺大乘をいふ。下乘(1—14‥282)の❸に對す。〔寶積經〕諸佛如來正眞正覺所行之道、彼乘名爲二大乘一、名爲二上乘一。〔世親攝論、一〕如レ是三藏、下乘上乘有二差別一、故則成二二藏一。❹物事の最もよい出來。又、其の物事をいふ。尤物。上上。

〖上乘禪〗423 ジャウジョウゼン 佛上乘の❸の㋑を見よ。

【上烝】424 ジャウジョウ ❶むしのぼる。〔西京雜記、五〕人得二其暖一、而上烝成レ雪矣。❷目上の人に淫する。上淫(14)に同じ。

【上色】425 ジャウショク ❶美人。〔江淹、山中楚辭〕舞二燕趙之上色一、激二河淇之名謳一。❷尊い色。〔韓愈、送二區弘南歸一詩〕佩服上色紫與レ緋。❸上等な。秀でた。〔宋史、食貨志二〕估價之初、以二上色之產一、輕立二價貫一。

〖上色好酒〗426 shang⁴ sê⁴ hao² chiu³ 上等の酒。

【上食】427 ジャウショク 食物を奉る。進食。〔史記、外戚世家〕寢廟上食祠如レ法。

〖上食滿〗428 カミケマ 攝津國の地名。

【上心】429 ジャウシン ❶上に在る人の心。〔風俗通、十反〕克厭二上心一。〔白居易、賀レ雨詩〕上心念二下民一、懼二歲成一災凶一。❷shang⁴ hsin¹ 氣が附く。胸に浮ぶ。

【上申】430 ジャウシン 事を官に申し上げる。上陳。

【上臣】431 ジャウシン よい臣下。立派なけらい。〔事文類聚〕上臣事レ君以レ人。

【上辛】432 ジャウシン 一箇月中の第一の辛の日。〔穀梁、哀、元〕我以二十二月下辛一、卜二正月上辛一、如不レ從、則以二正月下辛一、卜二二月上辛一、如不レ從、則以二二月下辛一、卜二三月上辛一、如不レ從、則不レ郊矣。〔注〕郊必用二上辛一者、取二其新潔莫一レ先也。〔史記、樂書〕漢家常以二正月上辛一、祠二太一甘泉一。

【上辰】433 ジャウシン 一箇月中の第一の辰の日。〔宋書、禮志二〕舊說、後漢有二郭虞者一、有二三女一、以二三月上辰一、產二二女一、上巳產二一女一。〔庾信、周祀圓丘歌、昭夏歌〕日至大禮、豐犧上辰。

【上信】434 ジャウシン 江淮地方で七八月頃に吹く東北風をいふ。〔國史補〕江淮船泝レ流而上、待二東北風一、謂二之信風一、七八月有二上信一、三月有二鳥信一、五月有二麥信一。

【上津】435 ジャウシン ❶上流の渡場で、神仙の住む處。〔李商隱、戊辰會二靜中一出貽二同志二十韻詩〕我本玄元胄、稟レ華由二上津一、中迷二鬼道樂一、沉爲二下土民一。❷縣名。隋、置く。清初、廢す。故城は湖北省鄖西縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府〕上津縣、漢商錫二縣地、劉宋置二北上洛郡一、齊因レ之、梁始置二上津縣一、尋改置二南洛州一、兼置二上津郡一。

〖上津役〗436 カウヂヤク 筑前國の地名。

〖上津堡〗437 ジャウシンポ 塞の名。湖北省鄖西縣の西、甲水の東岸。

【上脣】438 ジャウシン うはくちびる。上脣。〔國史略、崇德天皇〕天治二年、二條大宮女子產レ兒、耳目各一、無二上脣一、有二牙齒一。

【上眞】439 ジャウシン 最も勝れた仙人。上仙。〔李商隱、同學彭道士參寥詩〕莫レ羨仙家有二上眞一、仙家暫謫亦六千春。〔雲笈七籤〕八素眞經云、太上之道有レ三、上眞之道有レ七、中眞之道有レ六、下眞之道有レ八。〔雲英夫人、嘆二楊眞人許長史一詩〕上眞吟二瓊室一、高仙歌二琳房一。

【上神】440 ジャウシン ❶天上にいます先祖のみたま。又、天の神。〔禮、禮運〕脩二其祝嘏一、以降三上神與二其先祖一。〔疏〕上神、謂二在レ上精魂之神一、卽先祖也指二其精氣一、謂二之上神一、指二其亡親一、謂二之先祖一、協句而言之、分而爲レ二耳、皇氏・熊氏等云、上神謂二天神一也。〔孔子家語、問禮〕以降三其上神與二其先祖一。〔注〕上神、天神。❷至極の神人。〔莊子、天地〕上神乘レ光、與レ形滅亡。❸カヅ 伯耆國の地名。❹ワニ 姓氏。〔姓氏錄抄〕。❺ハヒ 姓氏。〔姓氏錄抄〕。

【上神吉】441 カミカンキ 姓氏。〔姓林全書〕。

〖上神谷〗442 カミカベヤ 磐城國の地名。

【上進】443 shang⁴ chin⁴ 學業が進歩する。向上する。

【上愼】444 ジャウシン 明、戴英(5—11685‥5)の字。

【上人】445 ジャウジン ❶すぐれた人。〔新書、脩政語〕周成王曰、寡人聞レ之、有二上人者一、有二下人者一。❷shang⁴ jên² 僮僕が主人をいふ呼稱。又、卑幼のものが長者をいふ呼稱。❸佛シャウニン 德のすぐれた人。轉じて、僧の尊稱。琅琊代醉編、卷三十二に見ゆ。〔摩訶般若經、十七〕若菩薩摩訶薩一心行二阿耨多羅三藐三菩提一、心不二散亂一、是名二上人一。〔十誦律〕人有二四種一、一麤人、二濁人、三中間人、四上人。〔釋氏要覽、上〕增一經云、夫人處レ世、有レ過能自改者、名二上人一、律缾沙王、呼二佛弟子一、爲二上人一。〔維摩經、問疾品〕文殊師利白レ佛、世尊二彼上人一者、難レ爲二酬對一。〔鮑照、秋日示二休上人一詩〕枯桑葉易レ零、疲客心易レ驚。〔通俗編、釋道、上人〕能改齋漫錄、唐人多以レ僧爲二上人一、如二杜子美已上人茅屋一、是也。〔書言故事、釋教類〕僧曰二上人一。❹法眼に次ぐ僧位の名。法橋に當る。❺ジャウニン 氣立ての善い人。正直で溫和な人。

【上仁】446 ジャウジン 最上の仁。又、其の人。〔老子、三十八〕上仁、爲レ之而無二以爲一。〔顏延之、赭白馬賦序〕少盡二其力一、有レ惻二上仁一。

【上衽】447 ジャウジン 深衣の前襟。衽、一に袵に作る。〔詩、周南、芣苢、薄言袺レ之、疏〕孫炎曰、持二衣上衽一。〔禮、問喪〕扱二上衽一、交レ手哭。〔說苑、復恩〕鮑叔死、管仲擧二上衽一而哭レ之、泣下如レ雨。

【上水】448 ジャウスイ ❶上に水があること。〔易、井〕象曰、巽二乎水一而上レ水井。〔子華子、陽城胥渠問〕上水而下火、二氣升降以相濟。❷水を汲み上げる。❸流に逆つてのぼる。さかのぼる。〔王建、水夫謠〕逆風上水萬斛重。❹關卡(國內の稅關)を經て遡流すること。❺のみみづ。飲料水。又、それを通ずる溝。汙水を下水(1—14‥303)といふの對。

〖上水魚〗449 shang⁴ shui³ yü² 外科病の名。腿部が彎曲・腫脹して魚形紋を現はすをいふ。

〖上水船〗450 shang⁴ shuei³ ch'uan² 河を遡る船の樣にのろいこと。文章を作ることが敏捷でない喩。下水船(1—14‥304)の❶を見よ。

〖上水道〗451 ジャウスイダウ 飲料用・日常用・製造工業・消火・撒水等の水を供給する施設。水道。下水道(1—14‥305)の對。

〖上水流〗452 カミツル 日向國の地名。

【上遂】453 ジャウスイ のぼりすすむ。〔莊子、天下〕其於レ宗也、可レ謂二稠適而上遂一矣。

【上瑞】454 ジャウズイ 目出度いしるし。天が善政に感じて降す吉兆。〔唐書、百官志一〕白狼赤兎、爲二上瑞一。〔韓愈、賀二慶雲一表〕斯爲二上瑞一、實應二太平一。

【上數】455 shang⁴ shu⁴ 右に記した數。前記の數。上記の數。

【上世】456 ジャウセイ おほむかし。上古。上系。下世(1—14‥313)の❷の對。〔禮、檀弓下〕自二上世一以來、未二之有一舍也。〔孟子、滕文公上〕蓋上世嘗有下不レ葬二其親一者上。〔墨子、非命上〕昔上世之窮民、貪二於飲食一、惰二於從一レ事。

【上生】457 ブウ 肥後國の地名。

〖上生野〗458 カウイノ 但馬國の地名。

〖上生子房〗459 ジャウセイシバウ 子房が花の諸器官の上部、花托の中央部に位置するもの。上位子房。

【上成】460 ジャウセイ 複姓。〔後漢書、方術下、上成公傳〕上成公者、密縣人也。

【上制】461 ジャウセイ ❶最長の弓。制(2—1961)の字解を見よ。〔周禮、考工記、弓人〕弓長六尺有六寸、謂二之上制一。❷天子が直接天下を制すること。

〔晉書、殷仲湛傳〕天下新定、權由二上制一。

【上青】462 ジヤウセイ 上の青いこと。〔詩、周南、關雎、參差荇菜、疏〕上青下白。

【上旌】463 ジヤウセイ 旗を立てる。〔周禮、地官、司市〕上二旌于思次一以令レ市。

【上清】464 ジヤウセイ ㊀天をいふ。玉清・太清と相配して、道家の三清の一つ。〔雲笈七籤〕上清之天、在二絶霞之外一、有二八皇老君一、運二九天之仙一、而處二上清之宮一也。〔靈寶本元經〕四人天外、曰二三清境一、玉清・太清・上清、亦名二三天一。〔太眞經〕三清之閒、各有二正位一、聖登二玉清一、眞登二上清一、仙登二太清一。〔沈彬、憶仙謠〕詩酒近來狂不レ得、騎レ龍卻憶二上清遊一。〔長生殿 情悔〕泉路茫茫、隔二上清一。㊁下婢をいふ。唐の竇參知が、上清宮に入つて宮婢となつてから、遂に婢を上清と呼ぶ。〔正字通〕婢、又婢亦謂二之上清一。〔稱謂錄、婢、上清〕司馬光攷異、柳珵上清傳言、竇參知敗屬二上清一、爲二宮婢一、當レ爲二白上一、後果入レ宮、今人呼レ婢、遂謂二之上清一。㊂宮殿の名。四川省灌縣の高臺山上。晉、建つ。〔五代史、王衍世家〕乾德五年、起二上清宮一。〔吳船錄〕宮在二峯頂一、岷山數百峯、悉在二闌檻下一、如二翠浪起伏一、勢皆東傾。㊃道教の寺の名。江西省貴溪縣の龍虎山上。漢の張道陵の子孫が、世々此處に居た。唐には眞仙館といひ、宋には上清觀、淸には太上清宮といふ。

【上清溪】465 ジヤウセイケイ 川の名。江西省貴溪縣の南。

【上清珠】466 ジヤウセイシユ 珠の名。唐の玄宗の時、罽賓國から奉獻したもの。水旱・兵革等の災の時、之に祈れば皆應驗があつたといふ。〔酉陽雜俎、物異〕上清珠、肅宗爲レ兒時、常爲二玄宗所一レ器、每レ坐二於前一、熟二視其貌一、謂二武惠妃一曰、此兒甚有二異相一、他日亦吾家一有レ福、天子因命取二上清玉珠一、以二絳紗一裹レ之、繫二于頸一、是開元中罽賓國所レ貢、光明潔白、可レ照二一室一、視レ之、則仙人玉女、雲鶴絳節之形、搖二動於其中一、及二卽位一、寶庫中、往往有二神光一、異日掌レ庫者、具以レ事告、帝曰、豈非二上清珠一耶、遂令レ出レ之、絳紗猶在、因流泣、遍示二近臣一曰、此我爲レ兒時、明皇所レ賜也、遂令レ貯レ之、以二翠玉一函二置之于臥內一、四方忽有二水旱兵革之災一、則虔懇祝レ之、無レ不二應驗一也。

【上清外史】467 ジヤウセイグワイシ 元、薛玄曦(9−32123・・176)の號。

【上清仙史】468 ジヤウセイセンシ 明、姚綬(3−6202・・66)の號。

【上清童子】469 ジヤウセイドウシ 銅錢の名。又、銅錢の精。唐の岑文本が、上清童子の來訪を受け、之を送つて突然姿を見失つたが、其の場に古錢を得たので、かくいふ。〔本草、古文錢〕釋名、泉、孔方兄、上清童子、青蚨、時珍曰、昔有二錢精一、自稱二上清童子一。〔博異記〕岑文本、避二暑山亭一、有二叩レ門者一曰、上清童子元寶、命入、乃年二十以下道士也、語訖、送出二山亭一、於二院牆下一、瞥然不レ見、掘レ之得二古錢一枚一、乃悟二上清童子是銅名、元寶、錢之文一也。

【上聖】470 ジヤウセイ 上代の聖人。〔商子、弱民〕今當世之用レ事者、皆欲レ爲二上聖一、擧法之謂也。〔晉書、干寶傳〕至德大勳、等二蹤上聖一。〔王融、三月三日曲水詩序〕皇帝體二膺上聖一。

【上製】471 ジヤウセイ 上等の製作。

【上齊】472 ジヤウセイ ㊀上にのぼる。上躋。上升。齊は、のぼること。〔禮、樂記〕地氣上齊、天氣下降。〔疏〕地氣上齊者、齊、升也、謂二地氣上升一レ天。㊁書法の一つ。左右兩部から成り立つ字の左(偏)が畫數少ない時、兩部の上端を揃へて書くこと。右(旁)が少ない時、兩部の下端を揃へるのを下齊といふに對する語。〔夢溪筆談、書畫〕寡在レ左則取二上齊一、寡在レ右則取二下齊一、如二從レ口從レ金喻一、卽取二上齊一、釦則取二下齊一、如二從レ赤從レ又、及從レ口從レ胃、三字合者、多寡不レ同、則叔當レ取二下齊一、喟當レ取二上齊一、如レ此之類、不レ可レ不レ知。㊂ジヤウサイ 銅と錫の合金で、錫の含有の少いもの。〔周禮、考工記、輈人〕攻金之工、築氏執二下齊一、治氏執二上齊一。〔注〕少レ錫爲二上齊一、鐘鼎斧斤戈戟也。

【上請】473 ジヤウセイ ㊀上に請ふ。上願。〔唐無名氏、賑給判〕事雖二上請一、恩未二下頒一。〔杜甫、故右僕射國相張公九齡詩〕向時禮數隔、制作難二上請一。㊁唐代に禮部で詩賦を考試する時、受驗者が題意を上に問ふこと。〔石林燕語〕唐禮部試二詩賦題一、不二皆有レ所レ出、或自以レ意爲レ之、故擧子皆得二進問二題意一、謂二之上請一。

【上聲】474 ジヤウセイ ジヤウシヤウ 漢字の四聲の一。董・腫・講・紙・尾・語・麌・薺・蟹・賄・軫・吻・阮・旱・潸・銑・篠・巧・晧・哿・馬・養・梗・迥・有・寢・感・琰・豏の二十九韻。皆、仄字。今、北京官話で、第三聲をいふ。賞聲。四聲(3−4682・・480)を見よ。〔釋神珙、反紐圖譜〕上聲厲而擧。〔釋眞空、玉鑰匙歌訣〕上聲高呼猛烈強。

【上聲歌】475 ジヤウセイカ ジヤウシヤウカ 樂府吳聲歌曲の名。上聲が促つて響高く、哀音を發するから名づける。古歌辭があり、又、梁の王金珠に歌辭がある。〔樂府詩集、淸商曲辭、吳聲曲辭、上聲歌〕古今樂錄曰、上聲歌者、此因二上聲促柱一得レ名。〔王金珠、上聲歌〕花色過二桃杏一、名稱重二金瓊一、名歌非二下里一、含レ笑作二上聲一。

【上隮】476 ジヤウセイ 上にのぼる。上齊(472)の㊀に同じ。〔史記、樂書〕地氣上隮、天氣下降。

【上躋】477 ジヤウセイ 上にのぼる。上齊。〔班固、西都賦〕神明鬱其特起、遂偃蹇而上躋。〔摯虞、思游賦〕攀二招搖一而上躋兮、忽蹈レ廓而淩レ虛。

【上稅】478 shang4 shuei4 稅金を納入する。

【上稅單】479 shang4 shuei4 tan1 課稅表。

【上焦】480 ジヤウセウ 胃腑の上をいふ。三焦(1−12・・1026)を見よ。〔史記、扁鵲傳〕三焦膀胱。〔注〕正義曰、八十一難云、三焦者、水穀之道路、氣之所二終始一也、上焦在二心下一、下鬲在二胃上口一也。

【上饒】481 ジヤウゼウ ㊀川の名。信江をいふ。江西省上饒縣の境。〔讀史方輿紀要、江西、廣信府、上饒縣〕上饒江、在二府城南一、源出二懷玉山一、分二流兩道一。㊁縣名。三國吳、置く。江西省廣豐縣の西。〔讀史方輿紀要、江西、廣信府〕上饒縣、漢豫章郡鄱陽縣地、孫吳析置二上饒縣一、屬二鄱陽郡一。〔淸史稿、地理志〕江西、廣信府、縣七、上饒。

【上赤】482 ジヤウセキ 赤色をたつとんで用ひる。赤は、五行では火に配す。漢は赤帝の子で、赤色をたつとび、火德をもつて天子となつたので、旗幟等皆赤を用ひた。尙赤。〔史記、高祖紀〕由レ所レ殺蛇白帝子、殺者赤帝子一、故上レ赤。

【上席】483 ジヤウセキ かみざ。上座。〔南史、江淹傳〕常升以二上席一、甚加レ禮焉。〔姚崇、春日洛陽城侍宴詩〕堯樽臨二上席一、舜樂下二前溪一。

【上泄】484 ジヤウセツ 上にもれ出る。〔禮、月令〕孟春行二春令一、則凍閉不レ密、地氣上泄。

【上說】485 ジヤウセツ ㊀上のものに道をとくこと。〔莊子、天下〕上說下教。㊁上に說くところ。上述のこと。〔孔穎達、周禮正義序〕自二少皡一以上、官數略如二上說一。

【上說天堂下說蘇杭】486 カミテンダウヲトキシモソカウヲトク 杭州の景勝を贊へた語。天の天堂と地の蘇杭とが並ぶといふ意。〔通俗編、地理、上說二天堂一下說二蘇杭一〕七修類稿引レ諺、云云、鄧林初入レ杭詩、遊遍二江湖一未レ到レ杭、不レ知人世有二天堂一、按、劉壽樹萱錄、員半千有レ莊、在二焦戴川一、極二風景之勝一、里諺曰、上有二天堂一、下有二員莊一、蘇杭之諺、乃倣二于此一。

【上截】487 ジヤウセツ うへ。上の方。物の上部を切り取つたもの。〔本草、地楡〕發明、時珍曰、止レ血取二上截一切片炒用。

【上睫】488 ジヤウセフ うはまつげをいふ。〔皇極經世書〕走之類、上睫接レ下、飛之類、下睫接レ上、類使二之然一也。

【上仙】489 ジヤウセン ㊀仙人になること。〔枕中書〕上仙受二天任一者、一日三朝二元都太眞人一也、雖レ有二億萬里一、往還如二一步一耳。㊁仙人中の一番すぐれたもの。上眞。〔墉城集仙錄〕世之昇天之仙、凡有二九品一、第一號二上仙一、第二號二次仙一、第三號二太上眞人一、第四號二飛天眞人一、第五號二靈仙一、第六號二眞人一、第七號二靈人一、第八號二飛仙一、第九號二仙人一、凡此品次、不レ可二差越一。〔司空圖、攜二仙籙一詩〕別就二滄洲一贊二上仙一。㊂帝王の崩御をいふ。〔澠水燕談錄、名臣〕眞宗上仙時、雖二仲春一、而大雪苦寒。

【上船】490 ジヤウセン 船にのる。乘船。〔杜甫、飮中八仙歌〕天子呼來不レ上レ船、自稱臣是酒中仙。

【上牋】491 ジヤウセン 表をたてまつる。上表。〔南史、柳惲傳〕梁武帝至二建業一、惲候二謁石頭一、以爲二征東府司馬一、上牋請下城平之日先收二圖籍一、及遵中漢高寬大之義上、帝從レ之。

【上僊】492 ジヤウセン 上仙(489)に同じ。㊀俗世を避け

て仙人になること。〔莊子、天地〕千歲厭レ世、去而上僊、乘二彼白雲一至二於帝鄉一。㊁帝王の崩御をいふ。〔行營雜錄〕後二日、宜仁上僊。㊂shang⁴ hsien¹ 死去する。逝去する。

【上僭】493 ジョウセン 下のものが、僭越の行をする。〔詩、邶風、綠衣〕綠兮衣兮、綠衣兩レ裏、非二其禮制一也、故以喩二妾上僭一。〔詩、衞風、碩人序〕莊公惑二於嬖妾一、使二驕上僭一。〔新書、服疑〕上僭則誅。

【上甎】494 ジョウセン 上屋根の瓦。〔韓愈、張中丞傳後序〕抽レ矢射二佛寺浮圖一、矢著二其上甎一半箭。

【上饌】495 ジョウセン 上等の膳部。上等の御馳走。〔和漢三才圖會、介貝類、玉珧〕其大者徑二寸許一、味甘美、爲二上饌一。

【上前】496 ジョウゼン ㊀陛下の前。〔元史、朶爾直班傳〕在二上前一、數二陳經義一。㊁shang⁴ ch'ien² 前の方へ進み出る。

【上善】497 ジョウゼン ㊀最上の善。至善。〔老子、八〕上善若レ水、水善利二萬物一而不レ爭。〔謝朓、奉二和隨王殿下一詩〕上善叶二淵心一、止レ川測二動性一。㊁shang⁴ shan⁴ 優れた。最上。上上。

【上膳】498 ジョウゼン 上等の御馳走。上饌。〔本草、黃鼠〕集解、時珍曰、遼・金・元時、以二羊乳一飼レ之、用供二上膳一、以爲二珍饌一。

【上泝】499 ジョウソ 水流をさかのぼる。上遡。〔曹植、洛神賦〕冀二靈體之復形一、御二輕舟一而上泝。

【上祖】500 ジョウソ ㊀先祖を崇ぶこと。〔左氏、文、二〕禹不レ先レ鯀、湯不レ先レ契、文武不レ先二不窋一、宋祖二帝乙一、鄭祖二厲王一、猶上レ祖也。㊁祖師をいふ。〔貫休、遇二五天僧一入二五臺一詩〕十萬里到レ此、辛勤詎可レ論、唯云吾上祖、見買給二孤園一。

【上疏】501 ジョウソ 天子に書をたてまつる。又、その文書。上書。〔史記、三王世家〕上二疏皇帝陛下一。

【上訴】502 ジョウソ ㊀上にうったへる。〔班固、東都賦〕下民號而上訴、上帝懷而降鑒。〔陸機、謝二平原內史一表〕銜レ口結レ舌、不二敢上訴所天一。㊁古、訴訟の裁斷に服しない訴人が、不理狀を請うて、漸次其の裁決を上級の官司に仰ぐこと。〔公式令〕斷訖、訴人不レ服、欲二上訴一者、請二不理狀一、以レ次上陳。㊂民事又は刑事の判決又は決定に對して不服ある者が、其の裁判確定前に、上級裁判所に其の取消變更を求める申立。

【上宗】503 ジョウソウ 宗伯。禮を掌る官。〔書、顧命〕太保・太史・太宗、皆麻冕彤裳、太保承二介圭一、上宗奉二同瑁一。〔傳〕太宗、上宗、卽宗伯也。

【上奏】504 ジョウソウ ㊀天子に申し上げる。奏上。〔漢書、路溫舒傳〕上奏畏レ卻、則鍛鍊而周二內之一。〔說苑、指武〕遂上奏以聞。㊁帝國議會・會計檢査院等の國家機關が、事實又は意見を天皇に申し上げること。

【上奏案】505 ジョウソウアン 議會の討議によつて可否を決せられる、上奏の案文。

【上層】506 ジョウソウ ㊀上の段。上の重なり。〔北史、崔弘度傳〕登二樓至二上層一、去レ地四五丈。〔齊己、暮遊二岳麓寺一詩〕寺樓高出碧崖稜、城裏誰知在二上層一。㊁上の階級。上流。㊂shang⁴ ts'êng² 書籍のかしらがき。

【上層建築】507 ジョウソウケンチク 經濟組織を社會の基礎とし、法律・政治・其の他の文物を、其の上に立つ建築物であるとするマルクス主義の學說。

【上總】508 カズサ ㊀國の名。今の千葉縣の一部。㊁サズ 伊豫國の地名。

【上足】509 ジョウソク ㊀高弟。高足の弟子。〔元稹、琵琶歌〕段師弟子數十人、李家管兒稱二上足一。〔雲笈七籤〕弟子數十人、唯王遠知・陸逸沖、稱二上足一焉。〔游宦紀聞〕包敏道、象山先生之上足也。〔無畏口經〕釋迦如來、上足弟子。㊁良馬。〔南史、蕭圓正傳〕馬八千匹、上足者、置二之內廐一。㊂上の者が滿ち足る。〔唐書、食貨志一〕上足而下不レ困。

【上則】510 ジョウソク ㊀一番よい方策。最上の策。㊁すぐれた田から出す賦。〔皇朝通典、食貨典、賦稅上〕田賦有レ二、曰民田、曰屯田、皆分二上中下三則一、有二本徵者一、有二折徵者一、有二本折各半者一。

【上族】511 ジョウゾク 蠶のあがり。蠶が十分發育して、體が透きとほるやうになつた時、繭を作るために蔟にあがること。蔟は、まぶし。上山。

【上尊】512 ジョウソン ㊀祭の時、上位に置かれる酒樽。〔禮、郊特牲〕黃目、鬱氣之上尊也。〔疏〕祭祀時、列二在諸尊之上一、故云レ上也。〔禮、少儀〕尊者、以二酌者之左一爲二上尊一。㊁上等の酒。上尊酒を見よ。㊂上の者が貴いこと。〔呂覽、愼小〕六曰、上尊下卑。〔管子、法法〕上尊而下從。㊃尊ぶこと。〔史記、晉世家〕齊頃公如レ晉、欲下上二尊晉景公一爲上王。

【上尊酒】513 ジョウソンシュ 上等の酒。米一斗から酒一斗をとつたもの。〔漢書、平當傳〕賜二君養牛一、上尊酒十石一。〔注〕如淳曰、律、稻米一斗、得二酒一斗一、爲二上尊一、稷米一斗、得二酒一斗一、爲二中尊一、粟米一斗、得二酒一斗一、爲二下尊一、師古曰、中尊者、宜レ爲二黍米一、作レ酒有二澆醇之異一、爲二上中下一耳、非二必繫二之米一。〔漢書、匡衡傳〕賜二上尊酒一・養牛一。

【上樽】514 ジョウソン ㊀上尊(512)の㊀に同じ。㊁人が携へて來た酒をほめていふ。〔書言故事、酒類、上樽〕謝二人攜レ酒、辱賜二上樽一。

【上帶】515 ジョウタイ ㊀著物の最も外に締める帶。〔岡本記〕白きうはおびをして。㊁鎧の腰の邊を締める帶。〔平治物語、六波羅合戰事〕既に腹を切らんと上帶を押切り。

【上替】516 ジョウタイ 君主の威光が衰へること。替は、すたれる。〔左氏、昭、十八〕於レ是乎、下陵上替、能無レ亂乎。〔後漢書、禮儀志上〕若君亡二君之威一、臣亡二臣之儀一、上替下陵、此謂二大亂一。

【上代】517 ジョウダイ ㊀おほむかし。上古の代。上世。〔晉書、武帝紀〕通二上代之不レ通、服二前王之未レ服。〔陸雲、答兄平原一詩〕昔在上代、軒虞篤生。㊁shang⁴ tai⁴ 先祖。

【上台】518 ジョウダイ ㊀星の名。三台の一。壽を司る。〔晉書、天文志一〕西近二文昌一二星曰二上台一、爲二司命・主レ壽。〔隋書、庾季才傳〕上台有レ變、不レ利二宰輔一。㊁上官。長官。上臺。〔阮籍、奏記詣二蔣公一文〕以二含一之德一、據二上台之位一。〔權德輿、和二李相公早朝一詩〕辨色趨二中禁一、分レ班列二上台一。㊂shang⁴ t'ai² 俳優などが登場すること。

【上第】519 ジョウダイ ㊀試驗成績の優等なもの。又は及第者。〔後漢書、獻帝紀〕〈初平四年〉九月甲午、試二儒生四十餘人一、上第賜二位中郎一、次太子舍人、下第者罷之一。〔晉書、杜預傳〕每歲言二優者一人一爲二上第一、劣者一人爲二下第一。〔唐書、選擧志上〕每間二經十條一、對策三道、皆通爲二上第一。㊁最も善いもの。上等。〔後漢書、梁冀傳〕四方調發、歲時貢獻、皆先輸二上第於冀一。

【上臺】520 ジョウダイ ㊀天子の御座所。天子の宮殿。〔南齊書、鄱陽王鏘傳〕鏘以下上臺兵力、既悉度二東府一、且慮中事難上捷、意甚猶豫。〔白居易、病中辱下張常侍題二集賢院一詩上因以繼和詩〕騎省通二中掖一、龍樓隔二上臺一。〔宋史、洪湛傳〕官職聯次、與二上臺一無レ異。㊁うはやく。憲臺。上台(518)の㊁に同じ。〔福惠全書、蒞任部、定貢辦〕上臺保薦、必以不レ除二取行戶一爲二淸廉之事實一。〔陸龜其、尺牘〕新春卽擬二趨侍函丈一、緣下上臺以越境爲上嫌、不レ能得上請。㊂shang⁴ t'ai² 要人が出仕すること。

【上臺容易下臺難】521 shang⁴ t'ai² jung² i⁴ hsia⁴ t'ai² nan² 事業を擴張することは容易であるが、縮小することは容易でないといふ諺。

【上盜】522 ジョウトウ ㊀大盜。大どろぼう。〔孔叢子、刑論〕知レ審二此二者一、則上盜息。㊁既に劫盜を行つたもの。〔六部成語、刑部、上盜、注解〕已行レ劫也。

【上當】523 shang⁴ tang¹ ㊀瞞される。ぺてんにかかる。上檯。上檔。㊁損をする。

【上當學乖】524 ジョウトウガクカイ 瞞されて損をすると、懲りて見識が高くなる。〔淫詛彙錄〕上當學乖、言吃虧處、卽是長二見識一處也。

【上當自一回】525 shang⁴ tang¹ tzu⁴ i² hui² 一度ぺてんにかかれば、二度とは瞞されぬ。

【上越】526 shang⁴ t'ang⁴ 前回。上盪。上輪。

【上輪】527 shang⁴ t'ang² 先般。前回。先度。上盪。上趟に同じ。

【上檔】528 shang⁴ tang⁴ ㊀ぺてんにかかる。欺瞞される。一杯食ふ。上當。㊁歌唄ひが本唄ひすることをいふ。

【上檔子】529 shang⁴ tang⁴ tzu 文書に記載する。戶籍に錄する。

【上盪】530 shang⁴ t'ang⁴ 前回。以前。上趟。上輪。

【上黨】531 ジョウトウ ㊀郡名。今の山西省の東南部。戰

國時代の韓の地。秦は天下を併せて此の郡を置く。其の地極めて高く、天と黨を爲してゐるから名づくといふ。漢は郡治を長子縣の西に置いたが、後漢末に董卓が亂を作し、郡治を壺關城(長治縣の東南)に移した。尚、上黨郡の變遷は銅熨斗齋隨筆に詳しい。〔史記、秦紀〕秦攻韓上黨、上黨降趙。〔漢書、地理志上〕上黨郡、秦置、屬幷州。❷縣名。㋑東晉、置く。故城は安徽省蕪湖縣の西南。〔讀史方輿紀要、江南、太平府、蕪湖縣〕上黨城、東晉太元中、以上黨流民、僑置上黨郡及襄垣縣、後省郡爲上黨縣、屬淮南郡。㋺南宋、置く。今、缺く。江蘇省宿遷縣の境に當る。㋩隋、置く。今の山西省長治縣治。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府〕長治縣、漢壺關縣也、隋置上黨縣。

〖上黨之國〗532 中國の稱。黨は所。〔國語、越語上〕上黨之國、我攻而勝之。〔注〕黨、所也、上所之國、謂中國。

〖上黨剛肅王〗533 北齊、高渙(**12**−45313‥230)の封謚號。

【上堂】534 ❶堂にのぼる。〔禮、曲禮上〕將上堂、聲必揚。〔後漢書、趙岐傳〕乃得死友、迎入上堂饗之。❷佛㋑法を説く爲に堂に上る。上法堂。〔撮壤集、上、諸宗〕上堂小參。㋺粥飯を喫する爲に堂に上る。上僧堂。〔禪林象器箋、二〕。❸shang^4 t'ang^2 ㋑教室に上る。㋺役所へ出勤する。㋩裁判官が法廷に出る。㋥上はぐき。上齒莖。上腭。上膛。

〖上堂回話〗535 shang^4 t'ang^2 huei^2 hua^4 出るべき所へ出てから返答する。法廷で返辭する。

【上道】536 ❶中正の道。〔易、節〕安節之亨、承上道也。❷北極に近い太陽の軌道。〔隋書、禮儀志〕自開皇已來、日近北極、行於上道。❸複道の上の道。〔嚴維、酬謝侍御喜王宇及第見賀不遇之作詩〕柳映三橋發、花連上道明。❹神仙の道。〔雲笈七籤〕上道之綱紀、太虛之元宗。❺出發する。〔李密、陳情表〕郡縣偪迫、催臣上道、州司臨門、急於星火。❻shang^4 tao^4 診察料。❼姓氏。〔姓名錄抄〕。❽姓氏。〔姓名錄抄〕。

【上膛】537 shang^4 t'ang^2 上はぐき。上齒莖。上腭。

【上宅】538 上等の宅地。〔韓非子、內儲說上〕有能徙此南門之外者、賜之上田上宅、人莫之徙也。

【上達】539 ❶上手になる。善い方に進歩する。高明の域に達する。一説に、德義に曉達する。〔論語、憲問〕君子上達、小人下達。〔疏〕君子小人所曉達不同也、本爲上、謂德義也。〔集注〕君子循天理、故日進乎高明。〔論語、憲問〕下學而上達。〔淮南子、主術訓〕士處卑隱、欲上達。〔琅琊代醉編、上達下達〕君子上達、謂、士人君子、學成行尊、優入聖賢之域、故曰上達、小人下達、謂、農工商賈、各治其事、遂其終身之業、故曰下達。❷上にとどく。上に達する。〔張衡、西京賦〕干雲霧而上達。〔張說、唐封泰山樂章、豫和〕志上達歌下迎。❸字號。㋑宋、許克昌(**10**−35298‥284)の字。㋺宋、王勳(**7**−20823‥315)の字。㋩明、高明(貴溪の人)(**12**−45313‥868)の字。❹shang^4 ta^2 申し上げる。

〖上達部〗540 公卿をいふ。大臣・大中納言・三位以上の殿上人。又、參議は四位でも此の列に入る。〔枕草子、一〕上達部・殿上人・四位・五位・六位。

【上站】541 shang^4 chan^4 前の驛。今通過して來た停車場。

【上段】542 ❶上の段。高い段。家の中で床を一段高く造った室。〔秦山集、甲乙錄四〕攝家之宅有上段、備行幸也、故四足門亦有之。❷劍術で劍を高く頭上に振りかざす身構への稱。〔長唄、鞍馬山〕上段下段早速の働き。❸高所に上る階段。

【上地】543 ❶上等の土地。〔周禮、地官、小司徒〕乃均土地、以稽其人民、而周知其數、上地家七人、可任也者家三人、中地家六人、可任也者二家五人、下地家五人、可任也者家二人。〔管子、乘馬〕上地方八十里、萬室之國。〔宋書、孔羊沈傳論〕膏腴上地、畝直一金。❷地名。今の山西省に在つた。上黨の一名といふ。〔韓非子、內儲說上〕董閼于爲趙上地守、行石邑山中。〔史記、秦始皇紀〕王翦將上地。❸琉球の地名。

【上治】544 北宋の哲宗・徽宗の時に亙る、南詔の高昇泰(一に富有聖德表正皇帝)の年號。(1099「一說に1095」—1104)

【上知】545 生れながらにして知る人。最上の智。上智。上知與下愚不移を見よ。

〖上知與下愚不移〗546 生れながら知る人は境遇の如何によつて惡くなることはない。同時に、至つて愚かな人はどんなに教育しても賢者にはならぬ。〔論語、陽貨〕子曰、唯上知與下愚不移。〔集注〕程子曰、所謂下愚有二焉、自暴・自棄也。

【上値】547 市場用語。今迄よりも相場の高い値段をいふ。

【上智】548 生れながらにして知る人。上知(545)に同じ。〔後漢書、王暢傳〕以明府上智之才、日月之曜、敷仁惠之政。〔顏氏家訓、教子〕上智不教而成、下愚雖教無益、中庸之人、不教不知也。〔愼思錄、二〕非上智、卽是下愚也。

【上晝】549 上半日。午前。〔月令通考〕上巳卽初三日、聽蛙聲占水旱、諺云、上晝叫、上鄉熟、下晝叫、下鄉熟、終日叫、上下齊熟。

〖上晝點心〗550 shang^4 chou^4 tien^3 hsin^1 晝前に食する間食。

【上長】551 ❶目うへの人。自分より地位の高い人。❷市場用語。賣人氣の旺盛なこと。賣方の店が買方の店よりも數多い場合のこと。

〖上長官〗552 陸海軍の佐官、卽ち大佐・中佐・少佐の稱。又、其の相當官の稱。

【上昶】553 城の名。湖北省安陸縣の西北。〔魏志、王基傳〕基又表城上昶、徙江夏郡治之、以偪夏口。

【上漲】554 shang^4 chang^3 値上り。騰貴する。

【上賬】555 shang^4 chang^4 帳面につける。

【上聽】556 天子がおききになること。上聞。〔唐書、劉蕡傳〕得通上聽、一悟主心。〔樂府雜錄〕翊日達上聽。

【上廳】557 最上の房。〔燕子箋、寫像〕落籍上廳行首。

【上場】558 ❶劇場の舞臺から見て左方。かみて。❷役者が登場する。劇場の幕が開く。

〖上場詩〗559 shang^4 ch'ang^3 shih^1 役者が舞臺に出た時、最初に唱ふ二句又は四句の歌。

【上中】560 上品のうちの中位。上の中。〔書、禹貢〕厥田、惟上中。〔墨經、松〕根幹肥大、脂出若珠者、曰脂松、品惟上中。

〖上中下〗561 三等の別を表はす辭。〔論語、雍也〕子曰、中人以上、可以語上也、中人以下、不可以語上也。〔疏〕人之才識、凡有九等、謂上上・上中・上下、中上・中中・中下、下上・下中・下下也、上上則聖人也、下下則愚人也、皆不可移也。〔韓愈、原性〕性之品、有上中下三。〔地持論〕十方無量世界、上中下。

〖上中下輩〗562 上・中・下三等の夫々に屬するもの。〔史記、孫子傳〕馬有上中下輩。

【上著】563 ❶衣服の最も上に著るもの。〔枕草紙、一二〕すはうの薄物のうはぎなどにて。❷重ねた小袖の一番上のもの。〔大名出仕記〕上著とはいち上にきられ候ふ袖のことにて候。

【上褚】564 綿が多量に入つたわたいれ。〔漢書、南粵王趙佗傳〕上褚五十衣、中褚三十衣、下褚二十衣、遺王。〔注〕師古曰、以綿裝衣曰褚、上中下者、綿之多少薄厚之差也。

【上女】565 ❶一番、働きの出來る女。〔管子、揆度〕上女衣五、中女衣四、下女衣三。❷上方の女。

〖上女中〗566 大家で奥向きの用をする女中をいふ。

【上除】567 陰曆三月の上巳の日をいふ。上巳(317)を見よ。〔左思、齊都賦〕太陽季月、上除之辰、無大無小、祓于水陽。〔山堂肆考〕三月建辰、則巳爲除日、故上巳一日上除。

【上冢】568 墓まゐり。墓祭。上墓。上墳。〔漢書、張良傳〕每上冢伏臘、祠黃石。〔後漢書、王常傳〕歸家上冢。

【上塚】569 上冢に同じ。〔剪燈新話、金鳳釵記〕擧家而上塚。

【上澄】570 液體などの上方の澄んだ部分。

【上徵】571 上から召し求める。上からの徵發をいふ。〔管子、治國〕凡農者、月不足、而歲

有レ餘者也、而上徵暴急無レ時、則民倍貸、以給二上之徵一矣。

【上寵】572 ジヤウチヨウ　上の人の恩愛。君主の寵愛などにいふ。

【上直】573 ジヤウチヨク　官吏などが當直に出かける。〔晉書、王濟傳〕和嶠性至儉、家有二好李一、帝求レ之、不レ過二數十一、濟候二其上直一、率二少年一詣レ園共啖、畢伐レ樹而去。〔司空曙、晩秋西省寄二上李韓二舍人一詩〕仍聞勞二上直一、晩歩二鳳池頭一。

【上直筋】574 ジヤウチヨクキン　眼球筋の一。眼球を上行させる作用をする。

【上直根】575 カミヒタネ　羽後國の地名。

【上鎭】576 ジヤウチン　一番大きい鎭臺。唐代、始めて置く。〔舊唐書、職官志二〕凡天下上鎭二十、中鎭九十、下鎭一百三十五。〔金史、儀衞志下〕上鎭七十人、中鎭六十五人、下鎭六十人。

【上鎭錄事】577 ジヤウチンロクジ　鎭守府軍曹の唐名。〔職原抄〕鎭守府軍曹、唐名、上鎭錄事。

【上陣】578 shang^4 chen^4　出陣する。出征する。

【上通】579 ジヤウツウ　㊀下の者の務め方が上の者に認められること。〔禮、儒行〕幽居而不レ淫、上通而不レ困。〔注〕上通、謂三仕道達二於君一也。㊁下情を上に通ずる。〔管子、明法〕下情求不二上通一、謂二之塞一。〔纂詁〕解無二求字一、亦是。〔歐陽脩、論二修河一第三狀〕下情如レ此、誰爲上通。

【上丁】580 ジヤウテイ　㊀陰曆二月の上の丁(トヒノ)の日。此の日、釋奠の禮を行ふ。〔禮、月令〕(仲春之月)上丁命二樂正一習レ舞、釋菜。〔疏〕必用レ丁者、取二其丁壯成就之義一、欲レ使二學者藝業成一故也。〔淮南子、時則訓〕上丁入レ學、習レ吹。㊁孔子を祀る日。二月と八月の上の丁(トヒノ)の日に擧行するからいふ。〔唐書、禮樂志〕開元二十八年詔、春秋二仲上丁、以二三公一攝レ事、若會二大祀一則用二中丁一、州縣之祭、上丁。〔唐書、劉禹錫傳〕今州縣咸以二春秋上丁一、有レ事二孔子廟一、其禮不レ應レ古、甚非二孔子意一。〔書言故事、二月〕二月上旬丁日祭二孔子一、曰二上丁一。㊂壯丁をいふ。〔南齊書、柳世隆傳〕盡戸上丁、蟻二聚郭邑一。㊃カハヨホロウ　越前國の地名。

【上帝】581 ジヤウテイ　㊀天の神。天帝。〔易、豫〕殷二薦之上帝一、以配二祖考一。〔書、舜典〕肆類二于上帝一、禋二于六宗一。〔詩、小雅、正月〕有二皇上帝一、伊誰云憎。〔禮、禮器〕魯人將レ有レ事二於上帝一。〔中庸〕郊社之禮、所三以事二上帝一也。〔國語、周語上〕上帝之粢盛、於レ是乎出。〔史記、封禪書〕宗二祀文王於明堂一、以配二上帝一。㊁君。王者。〔詩、大雅、板〕上帝板板、下民卒癉。〔傳〕上帝、以稱二王者一也。㊂上古の帝王。〔素問、移精變氣論〕岐伯曰、色脈者、上帝之所レ貴也、先師之所レ傳也。〔注〕上帝、謂二上古之帝一。㊃基督教の奉ずる神。天主。

【上帝教】582 ジヤウテイケウ　清の道光の時、廣東の人、朱九濤(清史稿は疇に作る)が基督教にならひ、天を父とし、キリストを天の長子とし、己を天の次子と稱した教。〔清史稿、洪秀全傳〕有二朱九疇者一、倡二上帝會一、亦名二三點會一、秀全及同邑馮雲山師二事之一、九疇死、衆以二秀全一爲二教主一。

【上帝鬼神】583 ジヤウテイキシン　天の神と祖先の靈。〔史記、封禪書〕禹收二九牧之金一、鑄二九鼎一、皆嘗二鬺上帝鬼神一。

【上帝不レ常】584 ジヤウテイツネナラズ　天は人に對して、一定の好惡なく、常に善人に與して幸を與へることをいふ。〔書、伊訓〕上帝不レ常、作レ善、降二之百祥一、作二不善一、降二之百殃一。

【上停】585 ジヤウテイ　人相術で、頭をいふ。又、天中から印堂に至る迄をいふ。三停(**1**－**12**‥1309)の㊀を見よ。〔神相全編、純陽相法入門〕玉莖云、身上三停、頭・足・腰、看二他長短一、欲二勻調一、上停長者、人多貴、長短無レ差、福不レ饒、冥度經云、凡天中至二印堂一、曰二上停一、山根至二準頭一、曰二中停一、人中至二地閣一、曰二下停一。

【上程】586 ジヤウテイ　㊀旅行の門出。旅程に上る。㊁議案を會議にかけること。

【上弔】587 ジヤウテウ　縊死する。弔は吊の本字。懸掛する義に用ひる。〔吳下言玫〕俗稱二自經一、曰二上弔一。

【上朝】588 ジヤウテウ　朝廷へ出る。政府へ出る。出府する。〔清會典事例、宗人府、職制、上朝〕俱隨レ旗上朝、以二日出時一、府屬官員稽察、考二其勤惰一。

【上潮】589 ジヤウテウ　あげしほ。潮の滿ちること。〔枚乘、七發〕江水逆流、海水上潮。〔鮑照、遊思賦〕雲徑兮海衢、上潮兮送レ風。〔徐陵、秋日別二庾正員一詩〕朔氣凌二疎木一、江風送二上潮一。

【上條】590 ジヨウデウ　㊀上の箇條。中條(**1**－**13**‥636)・下條(**1**－**14**‥424)の對。〔禮、王制、凡執レ技論レ力、疏〕執技之士有二三條一、上條、論下課二試武夫技藝一之事上。㊁shang^4 t'iao^2　㋑活版工が植字すること。㋺漢口で行はれる錢業者發行の小切手。

【上哲】591 ジヤウテツ　聖人をいふ。聖哲。〔崔駰、達旨〕誦二上哲之高訓一。〔孫綽、樽銘〕德齊二上哲一。〔文心雕龍、徵聖〕陶二鑄性情一、功在二上哲一。

【上堞】592 ジヤウテフ　城壁上の女牆(ヒメガキ)。〔墨子、備城門〕維敷二上堞一、爲二斬縣梁一。

【上天】593 ジヤウテン　㊀そら。天空。上蒼。〔詩、小雅、信南山〕上天同レ雲、雨レ雪雰雰。〔漢書、禮樂志〕飛龍秋游二上天一。㊁天帝。上帝。天の神。〔書、湯誥〕上天孚佑二下民一。〔荀子、禮論〕郊者、幷二百王於上天一、而祭二祀之一也。㊂冬の天。〔爾雅、釋天〕冬爲二上天一。〔注〕言、時無レ事、在レ上臨レ下而已。〔疏〕言、冬氣閉藏、無二他生殺之事一、唯在二於上一監二於下一而已也、李巡注云、冬陰氣在レ上、萬物伏藏、故曰二上天一。㊃天にのぼる。〔易、需〕象曰、雲上二於天一需。〔史記、封禪書〕世皆曰、秦穆公上レ天。〔後漢書、馮異傳〕我昨夜夢、乘二赤龍一上レ天。

【上天衣】594 shang^4 t'ien^1 i^1　死人に着せるきもの。經帷衣の類。

【上天梯】595 ジヤウテンテイ　天に上る梯子。空想を描くことをいふ。〔元曲選、王粲登樓〕老兄也百忙裏尋、不レ見二上天梯一。

【上天之使】596 ジヤウテンノツカヒ　天からの使者。日と月とをいふ。〔淮南子、天文訓〕四時、天之吏也、日月者、天之使也。〔精註雅俗故事讀本、天文〕月乃上天之使。

【上典】597 ジヤウテン　いにしへのきまり。古典。〔陸機、豪士賦〕於レ是禮極二上典一、服盡二暉崇一。

【上展】598 ジヤウテン　黃河の水が沿岸に逆漲するのをいふ。これに對して、順漲するのを下展といふ。〔宋史、河渠志一〕黃河水侵レ岸、逆漲謂二之上展一、順漲謂二之下展一。

【上簟】599 ジヤウテン　むしろを上にする。簟はむしろ。〔詩、小雅、斯干〕下レ莞上レ簟、乃安斯寢。〔儀禮、士喪禮〕下レ莞上レ簟。

【上轉】600 ジヤウテン　佛 迷を破つてさとりへ向上すること。又、修行して佛位に向つて行くことをいふ。下轉(**1**－**14**‥429)の對。〔釋摩訶衍論、二〕諸染法有レ力、諸淨法無レ力、背レ本下下轉、名爲二下轉門一、諸淨法有レ力、諸染法無レ力、向レ原上上轉、名爲二上轉門一。

【上轉石】601 shang^4 chuan^3 shih^2　うはうす。石臼の上部にあるもの。

【上田】602 ジヤウデン　㊀上等の田地。地味が肥えて收穫の多い田。〔韓非子、內儲說上〕有下能徙二此南門之外一者上、賜二之上田上宅一、人莫二之徙一也。〔史記、貨殖傳〕以爲二上田一。〔漢書、食貨志上〕民受レ田、上田夫百畮、中田夫二百畮、下田夫三百畮。㊁タカツ　淡路國の地名。

【上殿】603 ジヤウデン　宮殿にのぼる。昇殿。〔漢書、蕭何傳〕上曰善、於レ是乃令二何第一一、賜下帶二劍履一上レ殿、入レ朝不上レ趨。

【上都】604 ジヤウト　㊀天子の都。京都。〔班固、西都賦〕寔用西遷、作二我上都一。〔注〕銑曰、上都、西京。㊁地名。陝西省長安縣治。〔唐書、地理志一〕京城、肅宗元年、曰二上都一。㊂路名。元、置く。開平府をいふ。察哈爾省多倫縣の東南。〔元史、地理志一〕上都路、唐爲二奚契丹地一。㊃佛 帝釋殿。天帝の居る所

【上都河】605 ジヤウトカ　川の名。灤河の上流。元の上都路を流れてゐるからいふ。

【上塗】606 ウハヌリ　㊀中塗りした壁を更にぬり上げること。㊁物事の上に更に添へ加へること。

【上冬】607 ジヤウトウ　冬三箇月の上の月をいふ。陰曆十月の稱。孟冬。〔梁元帝纂要〕十月曰二孟冬一、亦曰二上冬一。

【上凍】608 shang^4 tung^4　河などの凍ること。凍りはじめる。氷結する。

【上棟】609 ジヤウトウ　㊀むなぎを上にする。家屋の構造についていふ。上梁。〔易、繫辭下〕上古穴居而野處、後世聖人易レ之以二宮室一、上レ棟下レ宇、以待二風雨一、蓋取二諸大壯一。〔隋書、煬帝紀上〕上レ棟下レ宇、願同二比屋一。㊁むねあげ。家を建てる時、棟・梁などを組立てて、其の上に棟木をあげる例式。〔匠家故實錄、中〕上棟之例式。

【上棟牌】610 ジヤウトウハイ 社寺或は其の他の建造物を造營又は修繕する時、其の年月日や建立者の名等を記して棟木に打付けて置く札。むなふだ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕上棟牌亦不㆑如㆑式。

【上登】611 ジヤウトウ あがる。登る。山や樓臺等に上る。〔樂府詩集、雜曲歌辭、君子有所思行〕宋鮑照云、西上㆓登雀臺㆒。〔和漢三才圖會、山類、嶺〕按、嶺、山坂上登、當㆓下行㆒之界也。

【上等】612 ジヤウトウ ❶上位の段。〔周禮、秋官、司儀〕及㆓其擯㆑之、各以㆓其禮㆒、公於㆓上等㆒、侯伯於㆓中等㆒、子男於㆓下等㆒。〔注〕上等中等下等者、謂㆓所㆑奠㆑玉處㆒也。壇三成、云云、諸侯各於㆓其等㆒奠㆑玉、降拜、升成㆑拜、明㆓臣禮㆒也。❷よい位。上位。〔宋書、鮮卑吐谷渾傳論〕爵班㆓上等㆒、秩擬㆓台光㆒。❸品物などのすぐれてよいこと。

【上等婚】613 shang⁴ têng³ huen¹ 男女の相性が最も適合する婚姻。

【上等兵】614 ジヤウトウヘイ 陸軍の兵卒の四階級中、第二の階級。兵長の次。

【上筩】615 ジヤウトウ 上部にある竹の筒。〔潘岳、笙賦〕越㆓上筩㆒而通㆓下管㆒。〔注〕善曰、說文曰、筩、斷竹也。

【上頭】616 ジヤウトウ ❶女子が十五歲に達して、始めて笄をさす禮。男兒の加冠に當る。くしあげ。〔晉樂府、歡好曲〕窈窕上頭歡、那得㆑及㆓破瓜㆒。〔花蕊夫人、宮詞〕年初十五最風流、新賜雲鬟便上頭。〔桃花扇、眠香〕上頭吉日。〔通俗編、儀節、上頭〕世但以㆓女子始笄㆒、曰㆓上頭㆒。❷男子の加冠の禮。〔南史、華寶傳〕父豪、晉義熙末、戍㆓長安㆒、臨㆑別謂㆑寶曰、須㆓我還㆒、當㆓爲㆑汝上頭㆒。❸先頭。〔詩、邶風、簡兮、在㆓前上處㆒、箋〕在㆓前列上頭㆒也。〔古詩、陌上桑〕東方千餘騎、夫壻居㆓上頭㆒。❹以上の。これまでの。又、其の當時。〔元史、泰定帝紀一〕遵㆓守正道㆒行來的、上頭數年之間、百姓得㆑安㆑業。〔通俗編、時序、上頭〕元典章、至元二十八年旨、官人每㆓一路過去㆒、上頭百姓每生受、又延祐四年奏、百姓爲㆓饑荒㆒、上頭流㆓移江南等路㆒、按、上頭乃指㆓謂其時㆒之辭。❺上の方。上方。〔顧況、送㆓李秀才游㆓嵩山㆒詩〕嵩山石壁挂㆓飛流㆒、無限神仙在㆓上頭㆒。❻處女の娼妓が初めて客に接すること。水あげ。〔輟耕錄、上頭入月〕今世女子之笄、曰㆓上頭㆒、而倡家處女、初得㆔薦㆓寢於人㆒、亦曰㆓上頭㆒。〔委巷叢談〕娼女初薦㆓寢於人㆒、亦曰㆓上頭㆒。❼ shang⁴ t'ou ㋑上の方。㋺優等の成績。㋩上位の人。上級者。㋥陛下。㋭點。ところ。㋬弓の末弭。

【上騰】617 ジヤウトウ ❶上にのぼる。〔禮、月令〕(孟春之月)天氣下降、地氣上騰。❷ shang⁴ t'êng² 市價の上ることをいふ。騰貴する。

【上同】618 ジヤウドウ 上のものに附き從つて氣に合ふやうにする。尙同。〔荀子、不苟〕不㆓上同以疾㆑下。〔墨子、尙同上〕上同而不㆓下比㆒者、此上之所㆑賞、而下之所㆑譽也。

【上洞】619 カボラ 紀伊國の地名。

【上童】620 ウヘワラハ 宮中、又は貴族の家に召使はれる童男、又は童女。〔源氏物語、椎本〕御供にさぶらふうへわらはのをかしきして、奉り結ふ。

【上德】621 ジヤウトク ❶最上の德。〔老子、四十一〕上德若㆑谷、大白若㆑辱。〔莊子、盜跖〕少長貴賤、見而皆說㆑之、此上德也。❷帝王の立派な德。〔班固、兩都賦序〕或以抒㆓下情㆒而通㆓諷諭㆒、或以宣㆓上德㆒而盡㆓忠孝㆒。〔注〕銑曰、宣㆓君上之德㆒、盡㆓忠孝之心㆒。❸德を尙ぶこと。〔左氏、僖、二十八〕原軫將㆓中軍㆒、胥臣佐㆓下軍㆒、上㆑德也。❹呂氏春秋、離俗覽の篇名。❺北宋の神宗の時、南詔の上德帝(段連義)の年號。(1075—1076)

【上德不㆑德】622 ジヤウトクハトクトセズ 最上の德ある者は、其の德を誇らない。〔老子、三十八〕上德不㆑德、是以有㆑德、下德不㆑失㆑德、是以無㆑德。

【上頓】623 ジヤウトン 晉の王忱が酒を嗜んで自ら號した語。轉じて、大いに酒を飮むことをいふ。〔世說新語、任誕〕王佛大歎言、三日不㆑飮㆑酒、覺㆓形神不㆓復相親㆒。〔注〕晉安帝紀曰、忱少慕㆑達好㆑酒、在㆓荊州㆒轉甚、一飮或至㆓連日㆒不㆑醒、遂以㆑此死、宋明帝文章志曰、忱嗜㆑酒、醉輒經㆑日、自號㆓上頓㆒、世喭以㆓大飮㆒爲㆓上頓㆒、起㆑自㆑忱也。〔朝野僉載〕王忱嗜㆑酒、一醉或連日不㆑醒、自號㆓上頓㆒、時人以㆓大飮㆒爲㆓上頓㆒。

【上頓渡】624 ジヤウトント 渡津の名。江西省臨川縣の西南。寶唐水の邊。

【上納】625 ジヤウナフ ❶上等品を納入する。〔還魂記、三十一齣〕儹緊上納。❷官に納めること。〔福惠全書、錢穀部、比較〕逢㆑限上納、無㆓顧㆑此失㆑彼之虞㆒。

【上入】626 ジヤウニフ ❶家などに入ること。〔詩、豳風、七月〕我稼既同、上入執㆓宮功㆒。〔傳〕入爲㆑上、出爲㆑下。〔箋〕可㆘以上㆓入都邑之宅㆒、治㆗宮中之事㆖矣。❷カウジヤウ 筑前國の地名。

【上任】627 shang⁴ jen⁴ 任務につく。赴任する。任地に至る。

【上年】628 ジヤウネン ❶よい年。豐年。〔林滋、春望詩〕淑春海鏡㆓長天㆒、青郊麗㆓上年㆒。〔傳昭、北郊詩〕淑氣符㆓首節㆒、光風臨㆓上年㆒。❷道家の語。二十歲三十歲の者をいふ。〔雲笈七籤〕修眞之品有㆑三、上年中年下年、上年者、二十三十也、中年者、四十五十也、下年者、六十七十也。❸ shang⁴ nien² 去年。昨年。

【上農】629 ジヤウノウ ❶上等の農夫。上農夫。〔管子、揆度〕上農挾㆑五。〔易林〕新田宜㆑粟、上農得㆑穀。❷農業を重んずること。〔史記、秦始皇紀〕上㆑農除㆑末。❸呂氏春秋、士容論の篇名。

【上農夫】630 ジヤウノウフ 上農の❶に同じ。〔孟子、萬章下〕上農夫食㆓九人㆒。〔集注〕一夫一婦、佃田百畝、加㆑之以㆑糞、糞多而力勤者爲㆓上農㆒。〔論衡、別通〕耕夫多殖㆓嘉穀㆒、謂㆓之上農夫㆒、其少者、謂㆓之下農夫㆒。

【上馬】631 ジヤウバ ❶上等の馬。上駟。〔魏書、成淹傳〕乃賜㆓淹龍廏上馬㆒。❷馬に乘る。乘馬。〔史記、廉頗傳〕被㆑甲上㆑馬、以示㆓尙可㆑用。〔北史、傅永傳〕上㆑馬能擊㆑賊、下㆑馬作㆓露布㆒。〔陸游、太息詩〕切勿㆑輕㆓書生㆒、上㆑馬能擊㆑賊。

【上馬宴】632 ジヤウバエン 清代、鄉試を行ふ前に、府尹が試驗の官員及び受驗者を饗應する宴會。〔清國行政法汎論、順天府衙門〕鄉試前後、府尹饗㆓應正副考官以下及關㆓係試驗㆒之官員、並受驗者㆒、試前稱㆓上馬宴㆒、試後稱㆓鹿鳴宴㆒。

【上馬嬌】633 ジヤウバケウ 美女が馬に乘つて姿容を作ること。唐、楊貴妃の圖の故事。〔輟耕錄、題跋〕陳伯敷先生、題㆓楊妃上馬嬌圖㆒云、此索㆓清平調㆒、赴㆓沈香亭㆒時耶、抑聞㆓漁陽鼙鼓聲㆒、赴㆓馬嵬㆒時耶、上馬固相似、情狀大不㆑同、觀者當㆑審㆑諸。

【上馬袴】634 ジヤウバコ 馬乘り袴。〔事物原始、袴〕今時武士大口袴、是魏文上馬袴也。

【上馬桑】635 ジヤウバサウ 馬に積んだ桑。〔元好問、秋蠶詩〕室人篋中無㆓寸縷㆒、一笳秋蠶課㆓諸女㆒、朝來飼卻上馬桑、隔㆑簇仍聞竹間雨。

【上馬石】636 ジヤウバセキ 馬に乘る時の踏臺。門の礎の前に置く二段の大石。〔通俗編、居處、上馬石〕升菴外集、今之上馬臺、古之乘石也。

【上馬錢】637 shang⁴ ma³ ch'ien² 醫者の往診料。

【上馬杯】638 ジヤウバハイ 馬に乘つて出立する時勸める酒。上馬盃。〔名臣言行錄、寇準〕臣觀㆓參政欽若㆒、福祿未㆑艾、宜㆑可㆑爲㆑守、於㆑是卽時進㆑殿出㆑勅、退召㆓欽若㆒、諭以㆓上意㆒、云云、遽酌㆓大白㆒飮㆑之、命曰㆓上馬杯㆒。

【上拜】639 shang⁴ pai⁴ 花嫁が初めて新岳父と新岳母とに禮拜する式をいふ。

【上輩】640 ジヤウハイ ❶[佛]家を捨て慾を棄てて沙門となり、菩提心を發して一向に無量壽佛を念ずるもの。〔無量壽經、下〕其上輩者、捨㆑家棄㆑欲、而作㆓沙門㆒、發㆓菩提心㆒、一向專㆓念無量壽佛㆒。❷ shang⁴ pei⁴ 自分より排行の上の尊族。一代上の人。前世。先輩。

【上梅】641 shang⁴ mei² つゆのいり。入梅の始。

【上方】642 ジヤウハウ ❶うへのかた。天上。〔溫庭筠、月中宿㆓雲居寺上方㆒詩〕圓月上方明。〔雲笈七籤〕上方九天之上。❷北と東とをいふ。〔漢書、翼奉傳〕上方之情樂也。〔注〕孟康曰、上方、謂㆓北與㆑東也、陽氣所㆓萌生㆒、故爲㆑上。❸天子の御物を作り、又、之を藏する官署。尙方(**4—7493**‥130)に同じ。〔漢書、董賢傳〕上方珍寶。〔王翰、飛燕篇〕安得㆓上方斷馬劍㆒、斬㆓取朱門公子頭㆒。❹地勢の最も高い所。〔杜甫、山寺詩〕上方重閣晩、百里見㆓纖毫㆒。❺[佛]㋑山寺。〔韋應物、上方僧詩〕見㆓月出東山㆒、上方高處禪。〔故事成語考、釋道鬼神〕曰㆓上方㆒、曰㆓梵刹㆒、總是佛場。㋺住持。〔禪林象器箋、五〕。❻カミガタ 畿內地方の稱。上國。〔狂言記、

秀句大名」上方を見物いたさぬほどに。

【上方山】643 ジヤウハウザン 山名。㊀河北省房山縣の西南。最高峯を摘星岮といふ。山中の雲水洞中には、奇景が百餘あるといふ。㊁楞伽山(6―15149・・3)をいふ。

【上方置換】644 ジヤウハウチクワン 化學實驗で發生するガスを、倒立せる管の底に導き、空氣と入れ換へて捕集すること。空氣より輕い氣體に用ひる。下方置換(1―14・・473)の對。向上置換法。

【上方不レ足下比有レ餘】645 ジヤウハウタラズカヒアマリアリ 上にくらべれば足らぬが、下にくらべれば餘がある。方も比も、くらべる意。〔晉書、王湛傳〕王時人謂、湛上方ニ山濤一不レ足、下比ニ魏舒一有レ餘。〔張華、鷦鷯賦〕鷦螟巢ニ於蚊睫一、大鵬彌ニ乎天隅一、將ニ以上方不レ足、而下比有一レ餘。

【上邦】646 ジヤウハウ 王都に近い諸國。上國。〔左思、吳都賦〕習ニ其敝邑一、而不レ覿ニ上邦一者、未レ知ニ英雄之所一レ躔也。

【上報】647 ジヤウハウ 君主の恩に報いる。〔晉書、石崇傳〕刻レ肌碎レ首、未レ足ニ上報一。〔李密、陳情表〕非ニ臣隕レ首、所ニ能上報一。〔隋書、鍾士雄母傳〕母子聚集、沒レ身不レ能ニ上報一。

【上寶】648 ジヤウハウ 最上のたから。珠の異名。〔事物異名錄、珍寶、珠〕述異記、越俗、以レ珠爲ニ上寶一、生レ女爲ニ珠娘一、生レ男爲ニ珠兒一。

【上忙】649 ジヤウバウ 租稅徵集期のうちの前半期をいふ。每年二月に始まり四月に終る。又、其の稅金。上芒。〔淸會典事例、戶部、田賦〕貴州省、酌定以ニ年底一完半、作ニ爲上忙一、次年三月作ニ爲下忙一、通飭依レ限完解。〔淸國行政法、財務行政、收入、賦稅〕徵ニ收地丁一、通ニ設斯限一、徵ニ收地丁一、分爲ニ夏秋兩限一、其夏限以ニ二月一開辦、至ニ四月一輸ニ納本年應レ輸賦額之半一、謂ニ之上忙一。

【上芒】650 ジヤウバウ 上忙に同じ。

【上房】651 ジヤウバウ ㊀以前のかかり。前任者。〔福惠全書、錢穀部、解給〕上房駁査補解。㊁ shang^4 fang^2 正面の上等室。上段の閒。正房。

【上帕】652 ジヤウハク 村の名。雲南省に屬す。其の區域は雲南省蘭坪・維西二縣の西、知子羅の北。西は緬甸に接する。

【上膊】653 ジヤウハク 二のうで。かひな。うでの肩から臂までの稱。〔北史、流求國傳〕凡有ニ宴會一、扶ニ女子上膊一、搖レ手而舞。

【上膊筋】654 ジヤウハクキン 上膊に分布する筋肉。

【上膊骨】655 ジヤウハクコツ 上膊部の柱狀長骨。

【上半】656 ジヤウハン ㊀二つに分けた上の半分。又、前の半分。㊁shang^3 pan^4 語調の關係で、尾音を截去した、上聲の音。

【上半期】657 カミハンキ 商取引で、一月から六月までをいふ。下半期(1―14・・490)の對。

【上半天】658 shang^4 pan^4 t'ien^1 午前。

【上班】659 shang^4 pan^1 當番。當直。

【上番】660 ジヤウバン ㊀第一番の義。唐代の方言。〔杜甫、三絶句詩〕會須ニ上番看ニ成竹一、客至從レ嗔不ニ出迎一。㊁番に上る。任務の當番に就く。役所に出勤する。當番。當直。〔舊唐書、職官志二〕若有ニ差行一、上番折ニ衝府一。〔宋史、兵志五〕帝常問ニ陳升之一曰、侯叔獻ニ言義勇上番一何如。㊂shang^4 fan^1 はつもの。初物。

【上盤】661 shang^4 p'an^2 株式、又は其の他の取引所で、其の取引品を上場すること。

【上礬】662 ジヤウバン 絹に繪を畫くとき、明礬を水に溶かし、之に膠を少し加へて繪絹に塗ること。

【上比】663 ジヤウヒ 古にくらべならべる。上のものとくらべる。〔莊子、人閒世〕成而上比者、與レ古爲レ徒。〔元好問、戲題ニ新居一二十韻詩〕上比下比良易レ見、好惡且當レ隨レ所レ遇。

【上皮】664 ジヤウヒ 表皮(10―34105・・128)に同じ。

【上邳】665 ジヤウヒ 地名。山東省滕縣の南。昔の邳邑。〔漢書、王子侯表〕上邳侯郢客、楚元王子。〔漢書、地理志上〕東海郡、下邳。〔注〕臣瓚曰、有ニ上邳一、故曰ニ下邳一也。

【上陴】666 shang^4 p'i^2 墻塀を守ること。

【上尾】667 ジヤウビ 詩の八病の一つ。一聯中の上句の尾字と下句の尾字とを同聲とする病。又、五言の詩の第五字と第十字とを同聲とする病。例へば青青河畔草、鬱鬱園中柳の詩に於て、草と柳とは同聲であるから之を忌む如き類。〔南史、陸厥傳〕沈約・陳郡謝朓・琅邪王融、以ニ氣類一相推轂、汝南周顒善識ニ聲韻一、約等文皆用ニ宮商一、將ニ平上去入四聲一、以レ此制レ韻、有ニ平頭上尾蠭腰鶴膝一。〔詩法詳論、律詩〕詩有ニ八病一、云云、二曰、上尾、第五字不レ得下與ニ第十字一同聲上、如ニ青青河畔草、鬱鬱園中柳一、草柳皆上聲。

【上美】668 ジヤウビ ㊀上部に在つて美しいもの。〔左氏、昭、十二〕遇ニ坤之レ比、曰、黃裳元吉、云云、中美能黃、上美爲レ元、下美則裳。㊁美しく立派なもの。〔魏文帝、車渠椀賦〕料ニ珍怪之上美一、無ニ茲椀之獨靈一。

【上備】669 ジヤウビ 斷獄の書が官府に保存されて、完全に備具する〔書、呂刑〕其刑上備〔傳〕其斷刑文書、上ニ王府一、皆當ニ備具一。

【上謬】670 shang^4 miu^4 反駁する者。逆ふ者。

【上弼】671 ジヤウヒツ 星の名。龍座中の星に當る。上輔。〔宋史、天文志二〕東蕃近ニ閶闔門一、第一星爲ニ左樞一、第二星爲ニ上宰一、三星曰ニ少宰一、四星曰ニ上弼一、五星爲ニ少弼一。

【上冰】672 ジヤウヒヨウ 酷寒中、水底に居た魚が少し暖くなつて氷の近くまで浮び上ること。〔禮、月令〕東風解レ凍、蟄蟲始振、魚上レ冰。〔疏〕魚當ニ盛寒之時一、伏ニ於水下一、逐ニ其溫暖一、至ニ正月陽氣既上一、魚游ニ水上一、近ニ於冰一。

【上品】673 ジヤウヒン ㊀家がらのよいこと。品位の高尚なこと。上等な品物。〔晉書、劉毅傳〕上品無ニ寒門一、下品無ニ勢族一。〔顏氏家訓、勉學〕如レ此諸賢、故爲ニ上品一。〔澠水燕談〕龍鳳團茶、最爲ニ上品一。㊁佛 ジヤウボン 九品の中の上品上生・上品中生・上品下生の總稱。九品(1―167・・551)の㊆を見よ。

【上品寺】674 ジヤウボンジ 大和國の地名。

【上品下生】675 ジヤウボンゲシヤウ 佛九品往生の第三位。因果を信じて佛敎を信奉し、無上道心を發した者の受ける果報。〔觀無量壽經〕上品下生者、亦信ニ因果一、不レ謗ニ大乘一、但發ニ無上道心一、云云、是名ニ上品下生者一。

【上品中生】676 ジヤウボンチユウシヤウ 佛九品往生の第二位。深く因果を信じて佛敎を信奉し、淨土往生を願ふ者の受ける果報。〔觀無量壽經〕上品中生者、不四心取ニ持讀ニ誦方等經典一、善解ニ義趣一、於ニ第一義一心不ニ驚動一、云云、是名ニ上品中生者一。

【上品蓮臺】677 ジヤウボンレンダイ 佛極樂に往生する三輩中、上輩生の者が化生する、七寶池中の七寶の大蓮華をいふ。蓮臺(9―31722・・105)を見よ。

【上賓】678 ジヤウヒン ㊀上席に着くべき賓客。上客。〔漢書、枚乘傳〕乘久爲ニ大國上賓一、與ニ英俊一竝游、得ニ其所一レ好。〔漢書、蒯通傳〕皆以爲ニ上賓一。〔後漢書、李固傳〕爲設ニ上賓之位一。㊁飛んで天に昇る。轉じて、帝王の死をいふ。〔埤雅序〕編纂將レ終、而永裕上賓矣。〔酉陽雜俎續集、支諾皐中〕據ニ仙經一曰、和而服レ之、卽時換骨上賓。㊂上位のかいぞへ役。賓は儐と通ず。天子の九賓中では宗伯が上賓。〔徐灝、說文解字注箋〕戴氏侗曰、賓者、以ニ禮幣一來賓也、賓而進レ之爲ニ賓相一、去聲、天子九賓、宗伯爲ニ上賓一、嗇夫爲ニ下賓一。

【上嬪】679 ジヤウヒン 宮嬪の一稱。〔隋書、禮儀志二〕夫人終獻、上嬪獻ニ于禖神一訖。

【上布】680 ジヤウフ ㊀上にひろがる。〔書勢〕雲委蛇而上布、星離離以舒レ光。㊁㋑麻織物の名。㋺上等の麻布の稱。〔經濟要錄、四、衣服〕夏布は薩州の上布より良なるは莫し。

【上府】681 ジヤウフ 自分が所屬する役所。又、格の高い役所。〔漢書、貢禹傳〕擇下便ニ巧史書一、習ニ於計簿一、能欺ニ上府一者上、以爲ニ右職一。〔注〕師古曰、上府、謂ニ所屬之府一。〔南齊書、庾杲之傳〕杲之歷ニ在上府一。

【上附】682 ジヤウフ 上に附き從ふ。〔詩、周南、樛木、葛藟纍レ之、箋〕衆妾上附事レ之。

【上附下附】683 ジヤウフカフ 上に附くことと下に附くこと。〔禮、服問〕傳曰、罪多而刑五、喪多而服五、上附下附列也。

【上浮】684 ジヤウフ 上にのぼる。上升(418)の㊀に同じ。〔楚辭、遠遊〕質菲薄而無レ因兮、焉託乘而上浮。〔漢書、司馬相如傳下〕載ニ雲氣一而上浮。

【上敷】685 ウハシキ すべて物の上に敷くもの。〔爲忠百首、上〕峯にむす苔にむしろの露のうはしき。

【上膚】686 ジヤウフ 表皮。皮膚。〔史記、太倉公傳〕蟯瘕爲レ病、腹大、上膚黃麤、循レ之戚戚然。

【上部】687 ジヤウブ ㊀上の部分。〔史記、扁鵲傳、盡見ニ五藏癥結一、注〕正義曰、上部者濡結。㊁古、百濟國の部落の名。五部の一。〔北史、百濟國傳〕分爲ニ五部一、曰、上部・前部・中部・下部・後部。

【上風】688 ❶かざかみ。風の吹き起る方。下風(1－14··521)の❶の對。〔莊子、天運〕蟲雄鳴於上風、雌應於下風而化。〔孫子、火攻〕火發上風、無攻下風。〔淮南子、泰族訓〕螣蛇雄鳴於上風、雌鳴於下風。❷shang⁴ fêng¹ 中國內地の稅局で功勞あることをいふ。

〖上風官司〗689 shang⁴ fêng¹ kuan¹ ssŭ¹ 確實な訴訟事件。

〖上風頭兒〗690 shang⁴ fêng¹ t'ou² êrh¹ ❶風上かざかみ。❷優越の地位。最上を占めた人。

【上服】691 ❶上級の重罪に服する。下服(1－14··523)の❶の對。〔書、呂刑〕下刑適重上服。〔傳〕一人有二罪、則之重而輕幷數。〔蔡傳〕事在下刑而情適重、則服上刑。❷刑罰の名。面に施すもの、墨・劓をいふ。下服(1－14··523)の❷の對。〔周禮、秋官、小司寇〕以施上服下服之刑。〔注〕上服、劓墨也、下服、宮刖也。〔疏〕墨劓施於面、故爲上服、宮刖施於下體、故爲下服。❸うちかけ。身體の表部に着る服。上衣。〔釋名、釋衣服〕婦人上服曰袿。〔魏書、契丹國傳〕嫁娶之際、以青氈爲上服。

【上拂】692 君意にもとる。〔管子、重令〕毋上拂之事、毋下比之說。

【上物】693 ❶貴人の食物の敬稱。〔左氏、哀、七〕制禮上物不過十二。〔注〕上物、天子之牢也。❷㋑貴人の食物。㋺神佛などへの供物。

【上吻】694 shang⁴ wen³ うはくちびる。

【上墳】695 shang⁴ fen² 墓參り。

【上糞】696 shang⁴ fen⁴ 肥料を施す。

【上文】697 ❶學問をたつとぶ。上文右武を見よ。❷文をたつとぶ。文は、文飾。〔漢書、董仲舒傳〕殷上敬、周上文。❸前にある文章。前に陳べた文章。前文。下文(1－14··525)の❶の對。〔詩、大序、疏〕上文未有詩字。❹宋、黃學行(12－47926··1017)の字。

〖上文右武〗698 文武共に尊ぶこと。〔漢書、公孫弘傳〕守成上文、遭遇右武。

【上聞】699 天子に奏聞する。又、下のことが朝廷に聞える。〔韓非子、五蠹〕令尹誅、而楚姦不上聞。〔史記、秦始皇紀〕天下已亂、姦不上聞。〔淮南子、主術訓〕臣情得上聞。〔漢書、武帝紀〕積行之君子、雍於上聞也。

〖上聞爵〗700 天子の上聞に達するやうな勳功を建てた人に與へる爵。〔漢書、樊噲傳〕下戶牖、破李由軍、斬首十六級、賜上聞爵。〔注〕張晏曰、得徑上聞也、如淳曰、呂氏春秋曰、魏文侯、東勝齊於長城、天子賞文侯以上聞。

【上平】701 ❶書牘の中で尊稱の語を、行を改めて前の行と平に書くこと。〔魏志、陳留王奐傳〕凡詔命制書奏事上書、諸稱燕王者、可皆上平。❷平は四聲の一。平聲の三十韻を、上平と下平とに分ける。上平は、東・冬・江・支・微・魚・虞・齊・佳・灰・眞・文・元・寒・刪の十五韻。今、中國語で第一聲をいふ。四聲(3－4682··480)を見よ。〔古今韻會擧要、凡例〕舊韻上平・下平・上・去・入五聲、凡二百六韻、今依平水韻併通用之韻、爲一百七韻。〔嘯餘譜、中原音韻起例〕陰陽字平聲有之、上・去俱無、上・去各止一聲、平・上・去有三聲、有上平聲、有下平聲、上平聲非指一東至二十八山、而言下平聲、非指一先至二十七咸。❸關の名。㋑山西省石樓縣の西北。〔資治通鑑、後梁紀〕太祖、開平二年、延州節度帥胡敬璋、寇上平關。㋺金、置く。山西省隰縣の境にある。

【上兵】702 すぐれた兵略。〔孫子、謀攻〕百戰百勝、非善之善者也、不戰而屈人之兵、善之善者也、故上兵伐謀、其次伐交、其次伐兵、其下攻城。

【上幣】703 上等の貨幣。❶珠玉。〔管子、國蓄〕以珠玉爲上幣、以黃金爲中幣、以刀布爲下幣。❷黃金。〔國語、周語下〕景王二十一年、將鑄大錢。〔注〕賈侍中云、虞夏商周、金幣三等、或赤或白或黃、黃爲上幣。〔史記、平準書贊〕黃金以溢名、爲上幣、銅錢識曰半兩、重如其文、爲下幣。〔漢書、食貨志下〕秦兼天下、幣爲二等、黃金以溢爲名、上幣。〔注〕孟康曰、二十兩爲溢、二等之中、黃金爲上。

【上表】704 表をたてまつる。又、其の表。上書。上牋。〔唐書、百官志一〕每歲上表、願駕幸。〔南史、顧歡傳〕上表進政綱一卷。

〖上表弦〗705 shang⁴ piao³ hsien² 懷中時計の螺をかける。表は時計、弦はねぢのこと。

【上票】706 shang⁴ p'iao⁴ 錢莊で扱ふ手形の一種。號數を記さず、錢莊の檢印を押さないもの。

【上膘】707 shang⁴ piao¹ 獸類などが肥滿すること。

【上鰾】708 shang⁴ piao⁴ 膠づけする。

【上廟】709 shang⁴ miao³ 寺へ行く。神社へ詣る。

【上篇】710 書籍などの最初の一篇。中篇(1－73··752)・下篇(1－14··532)の對。〔南史、梁元帝紀〕武帝嘗問所讀書、對曰、能誦曲禮、武帝使誦之、卽誦上篇。

【上邊】711 ❶上部。又、上の邊。〔元史、天文志一、景符〕舊法以表端測晷、所得者日體上邊之景、今以橫梁取之、實得中景、不容有毫末之差。❷うはべ。表面。外面。

【上變】712 急變を上聞する。〔史記、淮陰侯傳〕舍人弟上變、告信欲反狀於呂后。〔漢書、周亞夫傳〕亞夫子爲父買工官尙方甲楯五百被可以葬者、取庸苦之、不與錢、庸知其盜買縣官器、怨而上變告子、事連汙亞夫。

【上駢】713 耳目を生ぜしめる神の名。〔淮南子、說林訓〕黃帝生陰陽、上駢生耳目、桑林生臂手、此女媧所以七十化也。〔注〕上駢・桑林、皆神名。

【上輔】714 ❶宰相の尊稱。上宰。〔元史、伯顏傳〕詔以伯顏爲大丞相、加號元德上輔。❷星の名。〔宋史、天文志二〕紫微垣東蕃、第三星爲上輔、第四星爲少輔。

【上舖】715 shang⁴ p'u⁴ 上段の寢臺。

【上戊】716 陰曆二月と八月との第一の戊の日。大社などの祭日。〔唐書、禮樂志五〕仲春・仲秋上戊、祭之。〔隋唐嘉話〕十九年夏、詔京師、置太公廟於孔子廟之西、以秋春仲月上戊日致祭。

【上墓】717 墓參り。上冢。〔唐玄宗、許士庶寒食上墓詔〕寒食上墓、禮經無文。

【上簿】718 簿を上る。又、役人の功罪を記し、升黜の材料に供するため、朝廷に上る帳簿。〔漢書、李廣傳〕大將軍長史急責廣之莫府上簿、廣曰、諸校尉亡罪、乃我自失道、吾今自上簿。〔注〕師古曰、簿、謂文狀也。〔文獻通考、選擧考、考課〕宋英宗元豐三年詔、御史臺六察、案官以所糾劾官司、稽違失職事多寡、爲殿最、中書置簿、以時書之、任滿取旨升黜、云云、朝廷用其言斷罰、人方爲糾劾、帝批曰、或上簿亦可。

【上奉】719 最上の俸給。〔墨子、號令〕隊二人賜上奉。〔閒詁〕畢云、玉篇云、俸、房用切、俸祿也、此作奉、古字。

【上峯】720 ❶高い峯。〔沈約、霜來悲落桐詩〕上峯百丈絕、下趾萬尋懸。❷shang⁴ fêng¹ 上官。上役。

【上木】721 ❶木版にほる。木版で印刷する。❷出版する。上梓。

【上本】722 shang⁴ pên³ ❶文書を長上官に差出すことをいふ。上書する。❷上等の書物。

【上米】723 市場用語。各地の產米を上・中・下の三等級に分けた中の上等にあたるもの。中米(1－73··765)・下米(1－14··544)の對。

【上毛】724 ❶かみつけ。かうづけ。上毛野。上野國をいふ。今の群馬縣。〔芳野金陵、新建新田公祠堂記〕上毛金山、公玄孫明純之所築焉以據也。❷姓氏。〔和爾雅〕。

〖上毛坑〗725 shang⁴ mao² k'êng¹ 便所へ行く。

〖上毛野〗726 ❶上毛の❶に同じ。❷姓氏。〔新撰姓氏錄考證、三〕。

【上慢】727 ❶上慢下暴を見よ。❷佛 七慢中の一。增上慢のこと。未だ さとりを得ないのに、得たと心のたかぶること。〔倶舍論、十九〕慢隨眠、差別有七、一慢、二過慢、三慢過慢、四我慢、五增上慢、六卑慢、七邪慢、云云、於未證得殊勝德中、謂已證得、名增上慢。

〖上慢下暴〗728 上のものは怠り、下のものは亂暴する。〔易、繫辭上〕上慢下暴、盜思伐之矣。〔漢書、五行志中之上〕上慢下暴、則陰氣勝。〔蜀志、譙周傳〕上慢下暴、則瓦解之形起。

【上味】729 ❶すぐれたあぢ。最もおいしい物。〔楞嚴經〕酥酪醍醐、名爲上味。〔尙書故實〕百越人、以蝦蟆爲上味。❷市場用語。相場上昇の氣配あるをいふ。

【上務】730 ジョウム 最上の務。〔漢書、敍傳上〕取舍者、昔人之上務。〔桓溫、薦譙元彥二表〕聖喆之上務。

【上命】731 ジョウメイ ❶上の命令。上令。〔邯鄲淳、答贈詩〕我受二上命一、來隨二臨淄一。〔庾信、奉報趙王惠レ酒詩〕始聞傳二上命一、定是贈二中樽一。❷命令をたっとぶ。〔周禮、秋官、大司寇〕上レ命糾レ守。❸長命(11－41100‥814)に同じ。〔白虎通、壽命〕習二壽命一者、上命也。

【上明】732 ジョウメイ ❶城の名。湖北省松滋縣の西。東晉の太元中、桓沖が築く。〔水經、江水注〕江水又東、逕二上明城北一。❷北宋の神宗の時代に當る、南詔の上明帝(段壽輝)の年號。(1080－1081 一說に1081)

【上明不レ知二下暗一】733 カアンヲシラズ 上の明かなものは下の暗いことを知らない。下情の通じ難い喩。〔通俗編、政治、上明不レ知二下暗一〕見二張國賓薛仁貴劇一。

【上面】734 ジョウメン うはつら。表面。〔宋書、武帝紀上〕根本既定、不レ憂二上面不レ平也。〔紅樓夢、三十五回〕上面鑿著有豆子大小。

【上門】735 shang⁴ men² ❶門を締める。商家で用ひる語。❷雨戸を閉める。

【上門牙】736 shang⁴ men² ya³ 上前齒。

【上夜】737 ジョウヤ 宿直。とまり番。〔魚魯愚抄〕瀧口二藏已上、上夜事。

【上洋】738 ジョウヤウ ❶上海(85)の別名。〔剪燈新話、華亭逢二故人一記〕上洋人、錢鶴皐。❷ shang⁴ yang² 海外へ出掛ける。外遊。

【上洋市】740 ジョウヤウシ 地名。福建省建甌縣の西。商業地。

【上陽】741 ジョウヤウ ❶天上にある陽氣。〔漢書、五行志上〕劉歆以爲、上陽施不二下通一、下陰施不二上達一。❷地名。河南省陝縣の東南。周代、虢國の都。〔左氏、僖、五〕八月甲午、晉侯圍二上陽一。〔注〕上陽、虢國之都、在二弘農陝縣東南一。❸宮殿の名。河南省洛陽縣治に在る。隨の故の洛陽城の西南隅。南は洛水に臨み、西は穀水を距て、北は西苑に連る。皆、唐の高宗が建て、武后の修築したもの。〔唐書、地理志二〕東都上陽宮、在二禁苑之東、高宗之季常居以聽レ政。〔唐書、則天武皇后紀〕丁未徙二后于上陽宮一。戊申上二后號一、曰二則天大聖皇帝一。〔韋應物、雪中聞二李儋過一レ門不レ訪聊以寄贈詩〕乍迷金谷路、稍變上陽宮。❹複姓。〔路史〕劉康公後有二上陽氏一、又云、虢叔後有二上陽氏一。

【上陽花】742 ジョウヤウクワ 上陽宮の花木。美人に喩へる。上陽宮は唐の玄宗の時、美人を移し置いたところ。上陽白髮人を見よ。〔王建、上陽宮詩〕上陽花木不二曾秋一、洛水穿レ宮處處流。〔燕子箋、寫像〕怎肯下學二毛延壽一、批中點壞上陽花上。

【上陽子】743 ジョウヤウシ 字號。❶元、陳致虛(11－41698‥1126)の號。❷明、卓晩春(2－2741‥85)の號。

【上陽人】744 ジョウヤウジン ❶上陽宮の宮女。上陽宮は唐の玄宗の時、楊貴妃が、帝の寵を獨占し、後宮中の美色ある者を妬んで移し棲はせたところ。上陽白髮人を見よ。❷宮女の不遇な喩。〔榮花物語、木綿四手〕彼の上陽人の、春ゆき秋きたれども年を知らずといふやうに。

【上陽白髮人】745 ジョウヤウハクハツノヒト 唐の新樂府の名。上陽は宮殿の名。玄宗の時、楊貴妃が寵を專らにした結果、六宮の美色あるものが上陽宮に遠ざけられて年老いたことを歌つたもの。唐の元稹・白居易、共に此の樂府を作る。〔樂府詩集、新樂府辭、新題樂府、上陽白髮人〕白居易傳曰、天寶五載已後、楊貴妃專レ寵、後宮無二復進幸一、六宮有二美色一者、輒置二別所一。上陽其一也、貞元中尚存焉。〔元稹、上陽白髮人〕天寶年中花鳥使、擇花狎鳥含二春思一、滿懷墨詔求二嬪御一、走上二高樓一半酣醉。〔白居易、上陽白髮人〕上陽人、紅顏暗老白髮新、綠衣監使守二宮門一、一閉上陽多少春。

【上樣】746 サウヤウ ❶高貴な人を尊んでいふ。❷足利・德川時代、將軍の尊稱。〔太平記、二十八、直冬朝臣蜂起事〕是はいかにも、上樣の自ら御下り候て、御退治なくては叶ふまじきにて候。❸商人が書附に客の名の代りに記す敬稱。❹ザウ(上の方。上部。〔宇治拾遺物語、十二〕三度うへざまへ蹴上げ蹴上げして。

【上藥】747 ジョウヤク ❶一番よい藥。〔嵇康、養生論〕神農曰、上藥養レ命、中藥養レ性。〔嵇康、答レ難二養生論一〕上藥希寡、艱而難レ致、五穀易レ殖、農而可レ久。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕厭二上藥一而用二下品一。❷グワンヤク 陶器の上などに塗る藥。

【上臾】748 ジョウユ 肥沃な土地。上腴。〔管子、乘馬數〕管子對曰、郡縣上臾之壤、守レ之若干、閒壤守レ之若干、下壤守レ之若干。

【上腴】749 ジョウユ 肥沃な田地。上臾。〔班固、西都賦、華實之毛、則九州之上腴焉。〔潘岳、芙蓉賦〕藹二蘭池之豐沼一、育二沃野之上腴一。

【上諭】750 ジョウユ ❶みことのり。〔元史、阿里海牙傳〕上二諭伯顏一。❷清代、皇上又は太后の下す綸旨をいふ。內閣又は軍機處が奉じて下に宣するを例とし、冒頭に上諭の二字を冠し、結末に欽此の二字を書す。〔清會典、辦理軍機處〕諭旨明降者、既述則下二於內閣一。〔注〕特降者爲レ諭、因レ所二奏請一而降者爲レ旨、其或因レ所二奏請一而卽以宣二示中外一者、亦爲レ諭、其式諭曰二內閣奉一上諭一、旨曰レ奉レ旨、各載二其所一奉之年月日一。❸法令・條約又は豫算等を公布するに當り、其の前に附けて天皇の御裁可があつたことを表示する文。

【上諭內閣】751 ジョウユナイカク 書名。一百五十九卷。清、和碩莊親王允祿等奉敕編。雍正元年から十三年迄の上諭を收む。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【上諭八旗】752 ジョウユハッキ 書名。十三卷。清、和碩莊親王允祿等奉敕編。八旗に關係ある諭旨を集めたもの。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【上諭旗務議覆】753 ジョウユキムギフク 書名。十二卷。清、和碩莊親王允祿等奉敕編。諭旨の後に大臣の議を附したもの。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【上勇】754 ジョウユウ 道義の爲には何物にも屈しない勇氣。〔荀子、性惡〕天下有レ中、敢直二其身一、先王有レ道、敢行二其意一、上不レ循二於亂世之君一、下不レ沿二於亂世之民一、仁之所レ在無二貧窮一、仁之所レ亡無二富貴一、天下知レ之、則欲レ與二天下一同苦中樂之上、天下不レ知レ之、則傀然獨立天地之閒而不レ畏、是上勇也。

【上輿】755 ジョウヨ 車に乘ること。〔易林〕登レ丘上輿、駕レ駟南海游。

【上用】756 ジョウヨウ 天子の御用。上の御用。〔商子、賞刑〕出死而爲二上用一也。

【上用レ目則下飾レ觀】757 カミモノウンヂテフレバカザル 上の者が明察に過ぎる時は、下の者は其の行をかざる。〔韓非子、有度〕上用レ目、則下飾レ觀、上用レ耳、則下飾レ聲。

【上庸】758 ジョウヨウ ❶郡名。㋑後漢、置く。故治は湖北省竹山縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府、竹山縣〕上庸城、本庸國、云云、又遣二劉封一、自二漢中一乘レ沔水一、與レ達會攻二上庸一、上庸太守申耽降、蓋是時已分二漢水一、置二上庸郡一也。㋺後漢、東上洛郡を置き、上庸郡と改めた。故治は陝西省山陽縣治。❷縣名。秦、置く。㋑古の庸國。故城は湖北省竹山縣の東南。〔戰國、楚策〕奉以二上庸六縣一爲二湯沐邑一。〔漢書、地理志上〕漢中郡、縣十二、上庸。㋺南齊の新豐縣を隋が改めたもの。故城は湖北省竹溪縣の東。

【上雍】759 ジョウヨウ ❶雍の地。土地が高いので上雍といふ。〔漢書、郊祀志〕其秋上雍、且郊。〔注〕師古曰、雍地形高、故云二上也一。❷辟雍、卽ち天子の大學をいふ。〔韻府引、陸機頌〕天子乃臨二上雍一、崇二禮讓一、師尹羣卿、攝齊東向。

【上來】760 shang⁴ lai² ❶上つて來る。❷云云して來た。云云し出した。

【上來海】761 カミマチ 出雲國の地名。

【上牢】762 ジョウラウ 牛羊家の珍味。大牢(3－5831‥272)を見よ。〔吳子、勵士〕餚席兼二重器上牢一。

【上闐】763 shang⁴ lang² 鴨居。

【上洛】764 ジョウラク ❶都へ上る。上京。洛は洛陽。〔北史、齊高祖紀〕遣二兼僕射行臺汝陽王暹・司徒高昂等一趣二上洛一。❷縣名。㋑春秋の時、晉の邑。四雒とも書く。今の陝西省商縣治。〔左氏、哀、四〕司馬起二豐析與一狄戎、以臨二上雒一。〔戰國、秦策〕楚魏戰二於陘山一、魏許レ秦以二上洛一。㋺南朝宋、置く。今の湖北省の境に當る。㋩南朝宋、置く。今の陝西省白河縣の地。㋥後魏、置く、今の陝西省の境に當る。

【上臕】765 ジョウラウ ❶圊僧の出家受戒の後、年數を多く經た者をいふ。正しくは臘字を用ひる。僧が出家受戒して一夏を竟るを一の臘、二夏を竟

るを二の臘といふ。佛家は俗年を用ひず、此の臘の數を以て順序を定める。我が國の上臘は之に基づく。（僧史略）所言臘首、經律中、以二七月十六日是比丘五分法身生來歲首一、則七月十五日是臘除也、比丘出レ俗、不以俗年爲レ計、乃數二其臘一耳。❶㋑二位・三位の典侍、禁色を聽された大臣の女又は孫をいふ。上臘女房。（職原抄）上臘、不レ謂二是非一、二三位典侍號二上臘一、著二赤青色一、候二御陪膳一也、不レ補二是等職一、聽レ色大臣女或大臣孫也。㋺身分のよい女。貴婦人。貴女。㋩明治二年十月十二日に置かれた宮中の女官。女房の次に位するもの。同四年七月二十四日、廢された。

【上臈隨身】766 ジョウラフズイシン 近衞府の舍人。番長。

【上藍】767 ジョウラン 山名。（傳燈錄）洪州令超禪師、初住二筠州上藍山一、後於二洪井一創二禪院一、還以二上藍一爲レ名。

【上蘭】768 ジョウラン 觀の名。❶陝西省長安縣の西。漢代、上林苑中に上蘭觀があつた。（班固、西都賦）歷二上蘭一、六師發逐。❷河北省延慶縣の西。（史記、絳侯周勃世家）屠二渾都一、破二綰軍上蘭一。（注）正義曰、括地志云、嬀州懷戎縣東北、有二馬蘭谿一水、恐是也。

【上覽】769 ジョウラン 天子が御覽になる。後、僭して將軍家にも用ひた。天覽。叡覽。（詩話總龜、稱賞）上覽以第二優劣一。

【上鸞】770 ジョウラン 晉、公孫鳳（2‥1452‥504）の字。

【上利】771 ジョウリ ❶戶の食を佐ける賓。上利と下利とある。佐食（1－506‥35）を見よ。（儀禮、少牢饋食禮）佐食上利升二牢心舌一。（儀禮、特牲饋食禮、注）利、佐食也。❷葬るに良い處。（舊唐書、呂才傳）古之葬者、並在二國都之北一、域兆既有二常所一、何取二姓墓之義一、趙氏之葬、並在二九原一、漢之山陵、散在二諸處一、上利下利、蔑爾不論、大墓小墓、其義安在。❸上部の銳いこと。（耒耜經）鑱表二上利一、壁形二下圓一。㊃リア 姓氏。

【上里】772 ザウ 琉球の地名。

【上理】773 ジョウリ 政治が良く行屆いて治まること。善治。（福惠全書、保甲部、獎擧善惡）非二敦厚風俗一、興二起淳良一之上理一哉。

【上流】774 ジョウリウ ❶みなかみ。上游。かはかみ。かみて。上源。（左氏、昭、十七）我得二上流一、何故不レ言。（史記、淮陰侯傳）滿二盛沙一、壅二水上流一。❷すぐれた品位。上品。（羅隱、題二方干一詩）顧我論二佳句一、推二君最上流一。❸貴い身分。上家。（南史、謝晦等傳論）身處二上流一、兵權總レ已。

【上流社會】775 ジョウリウシャクワイ 地位・身分の高い人々の仲間。

【上六】776 ジョウリク 易卦で六爻の最上にある陰爻の稱。六は陰爻。（易、坤）上六、龍戰二于野一。（徐陵、孝義寺碑、德佐二初九一、道暉二上六一。

【上陸】777 ジョウリク 船から陸へあがること。

【上陸稅】778 ジョウリクゼイ 外國に上陸した時に、荷物に課せられる關稅などの稱。

【上巳】779 ジョウリ 上刑（228）に同じ。（韓詩外傳、七）昔者越王句踐令二諸大夫一曰、聞レ過而不二以告一我者、爲二上巳一。

【上栗】780 ジョウリツ 地名。江西省萍鄉縣。

【上梁】781 ジョウリャウ ❶棟上げ。上棟。上梁文を見よ。❷うつばり。上梁。

【上梁文】782 ジョウリャウブン 文體の名。上棟式の祝文。六朝に始まる。文は駢語を用ひ、末に詩を附し、上下東西南北の六章から成る。文の首及び每章の詩首に、兒郎偉の三字を冠する。（文體明辯、上梁文）按、上梁文者、工師上梁之致語也、世俗營二構宮室一、必擇レ吉上レ梁、親賓裹レ粽、雜二他物一稱レ慶、而因以犒二匠人一、於レ是匠人之長、以レ粽拋レ梁、而誦二此文一、以祝之、其文首尾皆用二儷語一、而中陳二六詩一、詩各三句、以按二四方上下一、蓋俗禮也。

【上梁不正】783 ジョウリャウフセイ 上の者が不正の事をするのをいふ。（元曲、曲江池）月館風亭、則爲二這虔婆上梁不正一、這些時消二疎了燕燕鶯鶯一。

【上樑】784 ジョウリャウ うつばり。上梁。（六部成語、工部、上樑、注解）築二造房屋一、按上橫樑大木也。

【上略】785 ジョウリャク ❶最上の策略。上策。（魏志、陳留王植傳）致人而不レ致二於人一、兵家之上略。❷文書の、上の文句を略するをいふ。前略。

【上旅】786 ジョウリョ 腰から上のこと。旅は膂。（周禮、考工記、函人）權二其上旅與二其下旅一。（注）上旅、謂二腰以上一、下旅、謂二腰以下一。

【上陵】787 ジョウリョウ 漢の鐃歌カウの名。十八曲の一。神仙の事を述ぶ。（樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌）古今樂錄曰、漢鼓吹鐃歌十八曲、字多訛誤、云云、八曰上陵。（樂府詩集、鼓吹曲辭、漢鐃歌、上陵）古今樂錄曰、漢章帝元和中、有二宗廟食舉六曲一、加二重來一、上陵二曲一、爲二上陵食舉一、後漢書禮儀志曰、正月上丁、祠二南郊一、明堂・高廟・世祖廟、謂二之五供一、禮畢以次二上陵一、西都舊有二上陵一、東都之儀太官上食、太常樂二奏食舉一、按、古詞大略言二神仙事一、不レ知二與食舉曲一同否一、宋何承天上陵者篇曰、上陵者相追攀、但言升レ高望レ遠、傷レ時怨歎而已。（漢鐃歌、上陵）上陵何美美、下津風以寒、問客從レ何來、言從二水中央一、桂樹爲二君船一、青絲爲二君笮一、木蘭爲二君擢一、黃金錯二其間一、滄海之雀赤翅鴻、白雁隨二山林一、乍開乍合、曾不レ知二日月一、明二醴泉之水一、光澤何尉尉、芝爲レ車龍爲レ馬、覽遨二遊四海外一、甘露初二年、芝生二銅池中一、仙人下來飲、延壽千萬歲。

【上龍】788 ジョウリョウ ❶龍にのる。（史記、武帝紀）羣臣後宮從上レ龍、七千餘人。❷リョウ 上にのぼる龍の姿を描いた畫。（慕京集）二つの引龍ののぼり龍の紋つけたるさしもの。

【上龍土司】789 ジョウリョウドシ 土司の名。明、置く。清、廣西省龍州廳に屬す。民國、上金縣を置く。（清史稿、地理志）廣西、太平府、土司一、上龍土司。

【上力】790 shang, li 倉庫へ貨物を搬入する手間賃。力は力錢。

【上林】791 ジョウリン ❶天子の苑の名。㋑秦代の御苑。陝西省長安縣の西に在る。秦の始皇帝が開き、漢の武帝が更に增し廣めて周回三百里とし、中に苑三十六、宮十二、觀二十五を置き、天下の珍禽奇獸、百卉異草を集めたといふ。（史記、秦始皇紀）（三十五年）乃營二作朝宮渭南上林苑中一。（漢書、蕭何傳）何爲二民請一曰、長安地隘、上林中多二空地棄一、願令レ民得二入田一、毋レ收レ藁爲二獸食一。（揚雄、羽獵賦）武帝廣二開上林一、云云、周袤數百里。㋺河南省洛陽縣の東。後漢、置く。桓帝の屢〻行幸した處。❷縣名。廣西省武鳴縣の東。漢の領方縣の地。（清史稿、地理志）廣西、思恩府、縣三、上林。❸土縣名。宋、置く。今、廣西省に屬す。（清史稿、地理志）廣西、百色直隸廳、土縣一、上林土縣。㊃リンヤン 姓氏。（日用重寶記、二）。

【上林尉】792 キジャウリン 漢代、上林苑を司つた官。（史記、張釋之傳）上聞二上林尉諸禽獸簿一。（注）索隱曰、漢書表、上林有二八丞・十二尉一、百官志云、尉秩二百石一。（漢書、百官公卿表上）水衡都尉、武帝元鼎二年初置、掌二上林苑一、云云、上林有二八丞・十二尉一、云云、甘泉上林四丞一。

【上林春】793 ジョウリンシュン 明代の戲曲の戲名。唐の武后が上林に遊ぶことを演ず。

【上林署】794 ジョウリンショ 主水司の唐名。（職原抄）主水司、唐名上林署。

【上林丞】795 ジョウリンジョウ 主水佑の唐名。（職原抄）主水司、佑、唐名上林丞。

【上林賦】796 ノウフ 文章の名。漢、司馬相如作。子虛賦についで作つたもので、子虛賦が諸侯の遊獵を敍したのに對し、天子の上林苑中の狩獵のさまを述べたもの。文選、卷八に載す。

【上林令】797 レイジャウリン 官名。❶漢代、上林苑を司つた官。（史記、張釋之傳）拜二釐夫一爲二上林令一。❷唐の官名。司農の屬。苑囿・縣地の事を掌る。（資治通鑑、唐紀）（則天順聖皇后、神功元年）上林令侯敏、素諂二事俊臣一。（注）唐司農之屬、有二上林署令一、從七品下、掌二苑囿縣地之事一、凡植レ果樹蔬、以供二朝會祭祀一、及季冬藏冰、皆主レ之。

【上林樂府】798 ジョウリンガフ 樂府の名。鄭の音樂。（漢書、禮樂志）內有二掖庭材人一、外有二上林樂府一、皆以二鄭聲一、施二於朝廷一。

【上林監事】799 カンジ 主水令史の唐名。（職原抄）主水司、令史、唐名上林監事。

【上林藏冰】800 ザウヒョウ 主水正の唐名。（拾芥抄、中本、官位唐名）主水正、上林藏冰。（職原抄）主水司、正一人、唐名上林藏冰。

【上林三官】801 サンカン 上林苑中に在る均輸・鍾官・辨銅の三官をいふ。（史記、平準書）於レ是悉禁二郡國一、無レ鑄レ錢、專令二上林三官一鑄。（注）集解曰、漢書百官表、水衡都尉、武帝元鼎二年初

置、掌ニ上林苑一、屬官有ニ上林均輸・鍾官・辨銅令一、然則上林三官、其是此三令乎。
【上僂】802 ジヤウル せむし。〔左氏、昭、四〕顧而見レ人、黑而上僂。〔注〕上僂、肩傴也。
【上令】803 ジヤウレイ 上の命令。上命。〔左氏、昭、二十九〕中行寅爲ニ下卿一、而干ニ上令一、擅作ニ刑器一。〔管子、立政〕私議自貴之說勝、則上令不レ行。
〔上令下從〕804 ジヤウレイカジユウ 上に在る者は命令をくだし、臣下は之に服從すること。〔弘道館記述義、上〕上令下從、男唱女和、亦猶ニ天施而地生、而萬物各遂ニ其性一焉。
【上厲】805 ジヤウレイ あがる。〔史記、司馬相如傳〕嶮侵潯而高縱兮、紛鴻涌而上厲。
【上禮】806 ジヤウレイ ㊀最上の禮。〔老子、三十八〕上禮爲レ之、而莫ニ之應一、則攘レ臂扔レ之。〔道德指歸論〕上禮之君、性和而情柔。㊁物を贈る禮。〔晉書、石勒載記〕勒晨至レ薊、叱ニ門者一開レ門、疑レ有ニ伏兵一、先驅ニ牛羊數千頭一、聲ニ言上禮一。㊂最上の待遇。〔江淹、爲ニ蕭相國一拜ニ齊王一表〕超居ニ上禮一、邈乘ニ峻爵一。
〔上禮拜〕807 shang4 li3 pai4 ㊀前週。㊁前の日曜日。
【上靈】808 ジヤウレイ 上帝のみたま。〔晉書、樂志上〕我其夙夜、祇事ニ上靈一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕思對ニ上靈之心一。
〔上靈曲〕809 ジヤウレイキヨク 曲の名。漢の戚夫人の侍女賈佩蘭が、陰暦十月十五日に靈女廟に入つて奏したもの。〔西京雜記、三〕戚夫人侍兒賈佩蘭、後出爲ニ扶風人段儒妻一、云云、又說、在ニ宮內一時、十月十五日、共入ニ靈女廟一、以ニ豚黍一樂レ神、吹レ笛擊レ筑、歌ニ上靈之曲一。
【上繚】810 ジヤウレウ 地名。漢の昌邑王、置く。今、江西省建昌縣に上繚營がある。
【上列】811 ジヤウレツ ㊀高い位。又、すぐれた人。〔後漢書、趙典傳〕身從ニ衣レ褐之中一、致ニ位上列一。〔江淹、雜體、陸平原羇宦詩〕服レ義追ニ上列一。〔注〕良曰、上列、謂ニ枚乘・相如・劉楨・應瑒等一。㊁上の席。〔劉楨、遂志賦〕翼ニ儁乂于上列一、退ニ仄陋于下場一。〔杜甫、後出塞詩〕斑白居ニ上列一。㊂shang4 lieh4 前記。左記。
【上聯】812 ジヤウレン 對聯の初めの一幅。

【上路】813 ジヤウロ ㊀道路をいふ。〔漢書、枚乘傳〕游ニ曲臺一臨ニ上路一、不レ如ニ朝夕之池一。〔陸瑜、隴頭水詩〕前旌去不レ見、上路杳無レ期。〔王勃、滕王閣序〕儼ニ驂騑于上路一、訪ニ風景于崇阿一。㊁元代、行政區劃上、十萬戶以上の地をいふ。〔元史、百官志七〕定ニ十萬戶之上者一、爲ニ上路一、十萬戶之下者、爲ニ下路一、當ニ衝要一者、雖レ不レ及ニ十萬戶一、亦爲ニ上路一。㊂shang4 lu4 旅立つ。出立する。
【上樓】814 ジヤウロウ 高樓に上る。階上に登る。登樓。〔王建、烏樓曲〕章華宮人夜上レ樓、君王望レ月西山頭。
【上祿】815 ジヤウロク ㊀最上の祿。〔左氏、襄、二十七〕下有ニ上祿一、亂也。㊁縣名。㋑漢、置く。故治は甘肅省成縣の西南。〔漢書、地理志下〕武都郡、縣九、上祿。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、成縣〕上祿廢縣、漢置レ縣、屬ニ武都郡一、後漢因レ之。㋺南宋、置く。陝西省南鄭縣の地。㋩隋、置く。故城は甘肅省成縣の西北。
【上和】816 ジヤウワ 上位の人がなごやかな氣分になること。〔唐玄宗、端午三殿宴ニ羣臣一探得ニ神字一詩序〕以ニ式宴一陳レ詩、上和下暢者也。〔王勃、拜ニ南郊一頌〕上和下悅、神歆神聚。
〔上和下睦〕817 ジヤウワカボク 上の者も下の者も皆、和し睦みあふこと。世の太平の形容。〔千字文〕上和下睦。〔十七條憲法〕一曰、以レ和爲レ貴、云云、然上和下睦、諧ニ於論一レ事、則事理自通、何事不レ成。
【上匄】818 カトリ 姓氏。〔姓名錄〕。
【上圷】819 カミアクツ 常陸國の地名。
【上籾】820 カミモミ 美作國の地名。
【親レ上】821 カミニシタシム 上の人に親しむ。〔易、乾〕本ニ乎天一者、親レ上、本ニ乎地一者、親レ下。
【上愛子】822 カミアヤシ 陸前國の地名。
【上安曇】823 カミアヅマ 伯耆國の地名。
【上有智】824 カウヅチ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。
【上一光】825 ミカリ 越前國の地名。
【上一上】826 shang4 i2 shang4 門をしめる。門の扉に錠をかける。
【上殷台】827 ジヤウインダイ 縣名。漢、置く。滿洲遼寧省境に當る。〔漢書、地理志下〕玄菟郡、縣三、上殷台。〔自注〕莽曰ニ下殷一。

【上遠野】828 アタノ ㊀姓氏。〔姓林全書〕。㊁カドホノ カドノ 姓氏。〔日用重寶記、二〕。
【上溫谷】829 カミヌクダニ 越前國の地名。
【上改心】830 ジヤウカイシン 地名。雲南省瀾滄縣の北。小黑江の北岸。清、巡檢を置く。
【上頜骨】831 ジヤウガンコツ 上顎骨(124)に同じ。
【上喜撰】832 ジヤウキセン 宇治茶の名。
【上議院】833 ジヤウギヰン 上院(15)に同じ。
【上曲陽】834 ジヤウキヨクヤウ 縣名。漢、置く。故城は河北省曲陽縣の西。戰國の趙邑。〔漢書、地理志上〕常山郡、縣十八、上曲陽。〔漢書、灌嬰傳〕降ニ曲逆・盧奴・上曲陽・安國・安平一。
【上圈套】835 shang4 ch'üan1 t'ao4 わなにかかる。だまされる。上套兒(866)に同じ。
【上伍堡】836 ジヤウゴホ 地名。湖南省江華縣の西南。廣西省、賀・富川二縣の境に接し、夙に鐵及び錫を產し、今は錫を以て著る。
【上砂井】837 カミイサゴヰ 下總國の地名。
【上西門】838 ジヤウサイモン 平安京の大內裏の外郭、西面北端に在る掖門。屋根なし。上東門(876)と對す。〔有職抄、二、禁中殿門〕上西門。
【上三旗】839 ジヤウサンキ 清代、滿洲の鑲黃・正黃・正白の三旗を上三旗といふ。正紅・鑲白・鑲紅・正藍・鑲藍を下五旗といひ、合して滿洲八旗といふ。〔說文通訓定聲〕旗、天子所ニ自將一爲ニ上三旗一。〔淸會典、兵部〕陳ニ上三旗一。
【上三路】840 shang4 san1 lu4 石炭の一種。粘結性淡褐色のもの。
【上四軍】841 ジヤウシグン 捧日・天武・龍衞・神衞の四廂を警衞する軍隊。〔宣和遺事、後集〕都城惟衞士上四軍。
【上私都】842 カミキサイチ 因幡國の地名。
【上呰部】843 カミアザベ 備中國の地名。
【上二路】845 shang4 êrh4 lu4 石炭の一種。粘結性暗灰色のもの。
【上兒木】846 カミイチゴノキ 越後國の地名。
【上社鎭】847 ジヤウシヤチン 鎭の名。山西省盂縣の北。
【上斜筋】848 ジヤウシヤキン 眼筋の一。眼球を斜下に轉ずる機能を有す。
【上莊錢】849 shang4 chuang1 ch'ien2 湖北省で小作契約締結の際、小作人から地主に納める保證金。

【上柘植】850 カミツゲ 伊賀國の地名。
【上株嶺】851 ジヤウシユレイ 山名。一名、仙居嶺。江西省西萍縣の西境。
【上埴生】852 カミハブ 上總國の郡名。
【上霄石】853 ジヤウセウセキ 廬山の南にある高い石。〔水經、廬江水注〕廬山之南、有ニ上霄石一、高壁緬然、與ニ霄漢一連接、秦始皇三十六年、嘆ニ斯嶽遠一、遂記爲ニ上霄一焉。
【上樵木】854 カミカリキ 京都市の地名。
【上石西】855 ジヤウセキセイ 州名。今の廣西省明江縣の地。〔讀史方輿紀要、廣西、太平府〕上石思州、古蠻峒地、元置ニ羈縻石西州一、屬ニ邕州都督府一、宋初因レ之、嘉祐閒、改爲ニ上石西州一、屬ニ永平寨一。
【上千鳥】856 ウハチドリ 都鳥の一名。
【上川山】857 ジヤウセンザン 島の名。廣東省台山縣の南。西に下川山がある。附近の諸島中、上川山が最も大きいので、上川諸島といふ。明の正德の時、ポルトガル人の居留した地。〔讀史方輿紀要、廣東、廣州府、新寧縣〕上川山、在ニ縣南二百三十里海中一。
【上川島】858 ジヤウセンタウ 上川山を見よ。
【上扇磨】859 shang4 shan4 mo4 石臼の上の部分。
【上甑島】860 カミコシキジマ 薩摩國の西方の海中にある島。
【上村主】861 カンスグリ 姓氏。〔姓名錄抄〕。
【上打穴】862 カミウタ 美作國の地名。
【上大人】863 ジヤウタイジン 中國で、童兒が初めて習字をする時に學ぶ文字。孔子が其の父に上つた書の始めの一句を取つたもの。〔雲谿集〕小兒初習レ字、必令レ書ニ上大人一、丘乙巳化ニ三千七十士一爾、小生八九子佳、作レ仁、可レ知レ禮也、天下同然、不レ知ニ何起一。〔祝枝山猥談〕此孔子上ニ其父一書也、上ニ大人一、丘乙巳化ニ三千七十士一爾、小生八九子佳、作レ仁、可レ知レ禮也。〔五燈會元、睦州陳尊宿條〕問、如何是一代時教、師曰、上大人丘乙巳。
【上大夫】864 ジヤウタイフ 大夫の上位のもの。大夫(3-58

31・・1995)及び文官官秩(5－13450・・247)を見よ。〔左氏、桓、三〕於二小國一、則上大夫送レ之。〔論語、鄕黨〕與二上大夫一言、誾誾如也。

【上唐梯】865 ジヤウタウテイ 漢代の百遊戲の一。梯子上りの輕業師。〔山堂肆考〕鹽鐵論言、漢代百戲之目、有レ曰二上唐梯一、即今之上高竿也。

【上套兒】866 shang^{4} t'ao^{4} êrh わなにかかる。だまされる。ぺてんにかかる。上檔。上圈套。

【上丹田】867 ジヤウタンデン 眉間をいふ。〔黃庭經、注〕兩眉閒爲二上丹田一。

【上淡河】868 カミアフゴ 播磨國の地名。

【上池水】869 ジヤウチスイ まだ地に落ちない露。又、竹木の上にたまつた露の類。之を取つて藥に合せて飲む。〔史記、扁鵲傳〕出二其懷中藥一予二扁鵲一飲レ是以二上池之水一。〔注〕索隱曰、案、舊說云、上池水、謂二水未レ至レ地、蓋承二取露及竹木上水一、取レ之以和レ藥、服レ之三十日、當レ見二鬼物一也。

【上柱國】870 ジヤウチユウコク ㊀官名。㋑戰國、楚、置く。大功ある者に與へらる。〔戰國、齊策〕楚之法、覆レ軍殺レ將者、其官爵何也、昭陽曰、官爲二上柱國一。〔史記、項羽紀〕拜レ梁爲二楚王上柱國一。㋺北周、置き、隋唐以後、勳官の最も尊いものとなる。清代に廢せらる。〔隋書、百官志下〕上柱國郡王國公開國郡縣公、爲二從一品一。〔通典、職官典、勳官〕上柱國・柱國、皆楚之寵官、楚懷王使二柱國昭陽將レ兵攻レ齊、陳軫問二楚國之法一、破レ軍殺レ將者、何以貴レ之、昭陽曰、其官爲二上柱國一、是也、歷代無レ聞、云云、後周建德四年、增二置上柱國大將軍一、隋置二上柱國柱國一、以酬二勳勞一、並爲二散官一、實不レ理レ事、大唐改爲二上柱國、及柱國一。㊂正二位の唐名。〔職原抄〕正二位、唐名特進、或上柱國。

【上筋原】871 カミアドハラ 播磨國の地名。

【上延生】872 カミノブ 下野國の地名。

【上調子】873 ウハテウシ ㊀三味線で、特に銳い調子。〔津國女夫池、三〕詞てんてん上調子。㊁淨瑠璃でつれびきに出る三味線ひき。㊂落ちつかぬ調子。輕薄な性質。浮調子。

【上堵吟】874 ジヤウトノギン 三國、魏の孟達が吟じた歌辭。〔水經、沔水注〕又有二白馬山一、山石似二馬望之逼眞一、側水謂二之白馬塞一、孟達爲レ守、登レ之而歎曰、劉封申耽、據二金城千里一、而更失レ之乎、爲二上堵吟一、音韻哀切、有レ惻二人心一、今水次尙歌レ之。

【上土方】875 カミヒヂカタ 遠江國の地名。

【上東門】876 ジヤウトウモン ㊀洛陽の城門の名。〔漢書、賈誼傳〕擇二良日一、立二諸子洛陽上東門之外一。〔阮籍、詠懷詩〕步出二上東門一。㊁平安京の大內裏の外郭、東面北端に在る掖門。上西門と對す。

【上樋口】877 カミトヨクチ 羽後國の地名。

【上燈時】878 sangh^{4} têng^{1} shih^{2} 燈火を點す時。黃昏。たそがれ時。夕まぐれ。

【上燈夜】879 ジヤウトウヤ 正月十三日の夜。〔王嗣奭、詩〕立春之日上燈夕。〔自注〕正月十三夕、俗稱二上燈夜一。

【上芳野】880 カミホノ 大和國の地名。

【上芳養】881 カミハヤ 紀伊國の地名。

【上望陀】882 カミマウダ 上總國の地名。

【上白水】883 カミシロウツ 筑前國の地名。

【上發知】884 カミホツチ 上野國の地名。

【上百百】885 カミトド 越後國の地名。

【上扶持】886 ブウハチ 扶持(5－11840・・90)に同じ。

【上富居】887 カミフゴ 越中國の地名。

【上分別】888 ジヤウフンベツ すぐれた善い考。〔雙生隅田川、二〕景逸も上分別の圖に乘つて。

【上封寺】889 ジヤウホウジ 寺の名。湖南省衡山縣の西北、祝融峯の上。〔方輿勝覽〕寺在二祝融絕頂一、早秋已冰、夏亦夾衣、木之高大者、不レ過二六七尺一、謂二之矮松一、上有二雷池一、題詠甚多。

【上北面】890 ジヤウホクメン 昔、北面の武士で、昇殿を許された四位・五位の大夫。〔源平盛衰記、四、鹿谷酒宴事〕下北面より上北面に移り。

【上茂木】891 カミモテギ 上野國の地名。

【上畱田】892 ジヤウリウデン 樂府の名。上畱田の人が、隣人が父母の死後、たつた一人の弟を養はぬのを悲しんで作る。〔古今注、音樂〕上畱田、地名也、人有下父母死不レ字二其孤弟一者上、隣人爲二其弟一作二悲歌一、以風二其兄一、故曰二上畱田一。

【上椚田】893 カミクノギダ 武藏國の地名。

【獲二乎上一】894 カミニエラル 君に信任せられる。上位の人に信ぜられる。〔中庸〕獲二乎上一有レ道、不レ信二乎朋友一、不レ獲二乎上一矣。

【不レ援レ上】895 カミヲヒカズ 上の者によりすがつて出世を求めようとしない。〔中庸〕在二上位一不レ陵下、在二下位一不レ援レ上。〔鄭注〕援、謂三牽二持之一也。

【上一輩的】896 shang^{4} i^{2} pei^{4} tê 年長のもの。〔紅樓夢、二回〕上一輩的、卻也是從弟兄而來的。

【上援下推】897 ジヤウエンカスイ 推輓の意。上の人より引き立てられ、下の者より推される。〔禮、儒行〕上弗レ援、下弗レ推。〔大戴禮、曾子制言〕上云、人之相與也、譬如二舟車一然、相濟達也、己先則援レ之、彼先則推レ之。〔韓愈、與二于襄陽一書〕豈上之人無レ可レ援、下之人無レ可レ推歟。

【上應二列宿一】898 カミレツシユクニオウズ 郎官の位は天の列宿に應じたものである。〔後漢書、明帝紀〕館陶公主、爲レ子求レ郎、不レ許而賜二錢千萬一、謂二羣臣一曰、郎官上應二列宿一、出宰二百里一、苟非二其人一、則民受二其殃一。

【上竿塘山】899 ジヤウカンタウザン 島の名。福建省連江縣の東北の海中にある。下竿塘山と並峙してゐる。明の洪武二年、全部の民を內地に徙したので、今では住民はない。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、連江縣〕上竿塘山、縣東北八十餘里大海中、峯巒屈曲、有二竹扈湖尾等六澳一。

【上竿踢弄】900 shang^{4} kan^{1} t'i^{1} lung^{2} 竿上りの曲藝を演ずる輕業師。

【上諱下諱】901 ジヤウキカキ 二字名を避諱する時に、上の字を上諱、下の字を下諱といふ。〔野客叢書〕炳之、僕曾大父也、上字諱伯、下字諱虎。〔遊宦紀聞〕先伯諱二上大下正一。

【上距下觜】902 ジヤウキヨカシ 雞は寒ければ距足を縮め、鴨は寒ければ、口ばしを翼の間につつこむ。〔老學庵筆記、二〕淮南諺曰、雞寒上レ樹、鴨寒下レ水、驗レ之皆不レ然、有二一媼一曰、雞寒上レ距、鴨寒下レ觜耳、上レ距、謂レ縮二一足一、下レ觜、謂レ藏二其喙于翼閒一。

【上擊水車】903 ジヤウゲキスイシヤ 水車の一。水を樋で導き、水車の上から落下させて車を回轉させるもの。

【上貳下貳】904 ジヤウジカジ 兩手、兩足。〔國語、晉語一〕上貳代擧、下貳代履。〔注〕上、手也、云云、下、足也。

【上川鐵路】905 ジヤウセンテツロ 江蘇省上海縣より川沙縣に至る鐵道。

【上筋生田】906 カミアザフタ 越前國の地名。

【上飯山滿】907 カミハサマ 下總國の地名。

【上穆下親】908 ジヤウボクカシン 上下のものが和らぎ親しむ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕上穆下親、名蓋二羣后一。

【上密下疏】909 ジヤウミツカソ 竹は上の方が繁つてゐて露を防ぎ、下部はまばらで風通しがよい。〔竹譜〕蓋竹所レ生、大抵江東、上密防レ露、下疏來レ風。

【上漏下濕】910 ジヤウロウカシフ 貧家の形容。上は雨がもり、下は濕氣が上る。〔莊子、讓王〕原憲居レ魯、環堵之室、云云、上漏下濕、匡坐而弦。〔淮南子、原道訓〕蓬戶甕牖、揉レ桑爲レ樞、上漏下濕。

【損レ上益レ下】911 カミヲソンシシモヲエキス 上位のものには少く與へ、下民には多くあたへること。上に薄く下に厚くする。〔魏志、王烈傳〕躬秉二勞謙一、引二喩周秦一、損レ上益レ下、受レ詔之日、精魄飛散、靡レ所投レ死。

【在レ上不レ忘レ降】912 カミニアリテクダルコトヲワスレズ 上位にあつてよく謙遜禮讓すること。〔左氏、襄、二十七〕子展其後亡者也、在レ上不レ忘レ降。

【上不レ上下不レ下】913 ノボルニノボラレズクダルニクダラレズ 上るにも登られず、降るにも降られない。進退谷まる。途方に暮れる。〔陔餘叢考、成語〕上不レ上下不レ下、田季安傳、譚忠說二季安歸正一之言。

【上不レ正下參差】914 カミタダシカラザレバシモシンシタリ 上の者が惡いと自然下の者がそれについて惡くなる。參差は亂雜なこと。〔通俗編、政治、上不レ正下參差〕楊泉物理論、引レ語、云云。

【上不得下不得】915 shang^{4} pu^{4} tê^{2} hsia^{4} pu^{4} tê^{2} どうにも斯うにもしやうがない。退引ノツピキならぬこと。

【上有二丹沙一下有二黃金一】916 ウヘニタンサアレバシタニワウゴンアリ 山で上に丹沙のあるところには、其の下に黃金がある。〔管子、地數〕上有二丹沙一者、下有二黃金一、上有二慈石一者、下有二銅金一、上有二陵石一者、下有二鉛錫・赤銅一、上有レ赭者、下有レ鐵、此山之見榮者也。

【上炕認女下炕認錢】917 shang^{4} k'ang^{4} jen^{4} nü^{3} hsia^{4} k'ang^{4} jen^{4} ch'ien^{2} 火床(おんどるの

床）に上れば女を欲しがり、火床を下りれば錢を欲しがる。品性劣等の人間をいふ。

【上揆二天道一下質二人情一】918 カミ テンダウニハカリ シモ ニンジヤウニタダス　孔子が上は天道に則り、下は人情にもとづいて春秋を制作したこと。〔漢書、董仲舒傳〕孔子作二春秋一、上揆二之天道一、下質二諸人情一。

【上葱下銀上薤下金】919 ジヤウソウカギン ジヤウカイカキン　山上に葱が生えて居れば、其の下に銀があり、薤があれば其の下に金がある。〔酉陽雜俎、廣動植之一〕山上有レ葱、下有レ銀、上有レ薤、下有レ金。

【上無二道揆一下無二法守一】920 カミニダウキナク シモニハフシユナシ　上の者は道理を以て物事をはかり定めることなく、下の者は法度を以て自ら守らない。〔孟子、離婁上〕上無二道揆一也、下無二法守一也。〔集注〕道揆、謂下以二義理一度中量事物上而制中其宜上、法守、謂下以二法度一自守上。

【在レ上不レ驕高而不レ危】921 カミニアツテオゴラザレバ タカクシテアヤフカラズ　人君が民の上に居て高ぶることがなければ、位は如何に高くとも、決して心配はない。〔孝經、諸侯章〕在レ上不レ驕、高而不レ危、制レ節謹レ度、滿而不レ溢。

【無レ天二于上一無レ地二于下一】922 カミニテンナク シモニチナシ　上、天に制せられることなく、下、地に制せられず、己の思ふままに爲し得る。軍中に於ては將軍が最上で、君命によつて左右されない意。〔六韜、龍韜、立將〕軍中之事、不レ聞二君命一、皆由レ將出、臨レ敵決戰、無レ有二二心一、若レ此則無二天於上一、無二地於下一、無二敵於前一、無二君於後一。

【上可レ陪二玉皇大帝一下可レ陪二悲田院乞兒一】923 カミギヨククワウタイテイニバイスベク シモヒデンヰンノキツジニバイスベシ　上は天帝に陪從し、下は乞食と共に居る。〔通俗編、神鬼、上可レ陪二玉皇大帝一下可レ陪二悲田院乞兒一〕東坡白道語、見二高文虎蓼花洲閑錄一、按、今諺有レ云、上與二王公一並坐、下與二乞丐一同眠、本二于此一。

【下】14

㊀カ ゲ 〔集韻〕亥雅切 T一Y hsia⁴ 馬

㊁カ ゲ 〔集韻〕亥駕切 禡

丅 小篆（說文）　篆文（段注本）　篆（說文）文　古文（段注本）

㊀❶した。〔易、乾、文言〕本二乎地一者親レ下。❷そこ。もと。古は二(**1－8**)に作り、古文篆文は丅(**1－249**)に作る。〔正字通〕二、古文下。〔說文〕二、底也、从レ反レ二爲レ二、丅、篆文下。〔詩、唐風、采苓〕采レ苦采レ苦、首陽之下。〔呂覽、功名〕善釣者出二魚乎十仞之下一。〔注〕下、猶レ底也。❸**下方**。〔淮南子、脩務訓〕墝埆高下。〔注〕下、溼也。〔王勃、滕王閣序〕下臨二無地一。❹**地**。土地。〔書、堯典〕格二于上下一。〔論語、雍也〕禱二爾于上下神祇一。❺**腰から下**。又、**足**。〔素問、厥論〕陽氣衰二於下一、則爲二寒疾一。〔注〕下、謂レ足。❻**賤しいもの**。〔廣韻〕下、賤也。〔儀禮、喪服〕卑者尊統レ下。〔左氏、襄、二十三〕下妾不レ得レ與二郊弔一。〔注〕下、猶レ賤也。❼**めした**。臣。しもじも。幼者。〔易、繫辭下〕下交不レ瀆。〔侯注〕下、謂二凡庶一。〔中庸〕爲レ下不レ倍。〔呂覽、論威〕君臣上下。〔注〕下、幼。〔呂覽、圜道〕所三以立二上下一。〔注〕下、臣。〔北史、齊文宣帝紀〕推レ誠接レ下。〔韓愈、上二宰相一書〕上之化レ下、得二其道一。❽**のち**。**すゑ**。**うしろ**。〔廣韻〕下、後也。〔詩、大雅、下武〕下武維周。〔箋〕下、猶レ後也。〔中庸章句〕其下十章、蓋子思引二夫子之言一。❾**主君の處**。〔儀禮、士相見禮〕始見二于君一、執レ摯至レ下。〔注〕下、謂二君所一。〔疏〕不レ言レ所而言レ下者、凡臣視二袷已下一、故不レ言レ所、言レ下也。❿**下級**。低級。劣等。〔書、禹貢〕厥賦下上。⓫**一方には**。上(**1－13**)の對。〔漢書、東方朔傳〕上以安二主體一、下以便二萬民一。⓬現つぎ。㊁❶**くだる**。**くだす**。おとす。上から下に行く。上から下にやる。〔禮、射儀〕下而飮。〔注〕下、降也。〔孟子、梁惠王下〕從レ流下。〔呂覽、功名〕下二鳥乎百仞之上一。〔注〕下、猶レ隕也。〔史記、吳起傳〕浮二西河一而下。〔後漢書、宋弘傳〕糟糠之妻、不レ下レ堂。❷**落ちる**。ふらす。〔爾雅、釋詁〕下、落也。〔孟子、梁惠王上〕沛然下レ雨。〔史記、高祖紀〕慷慨傷悵、泣數行下。❸**降參する**。降參させる。〔荀子、成相〕啓乃下。〔注〕下、降也。〔呂覽、爲欲〕七日而原不レ下。〔史記、田單傳〕惟獨莒卽墨不レ下。〔史記、樂毅傳〕下二齊七十餘城一。〔史記、項羽紀〕已下二東陽一。❹**へり下る**。〔玉篇〕下、行レ下也。〔易、屯〕以レ貴下レ賤、大得レ民也。〔荀子、堯問〕賜爲二人下一而未レ知也。〔呂覽、愼人〕讓レ賢而下レ之。❺**劣る**。及ばぬ。〔詩、召南、何彼穠矣序〕車服不レ繫二其夫一、下二王后一一等。❻**以下になる**。〔史記、蘇秦傳〕不レ下二戶三男子一。❼**除去する**。のぞく。削る。〔周禮、夏官、司士〕歲登二下其損益之數一。〔注〕下、猶レ去也。〔周禮、秋官、司民〕司民掌レ登二萬民之數一、自二生齒一以上、皆書二於版一、辨二其國中與二其都鄙及其郊野一、異二其男女一、登二下其死生一。〔注〕登、上也、下、猶レ去也、每歲更著レ生去レ死。〔戰國、西周策〕溫囿不レ下。〔注〕下、猶レ減也。❽**命令などを出す**。〔史記、孫子傳〕趣使二使下一レ令。❾**軍隊などを出す**。〔戰國、秦策〕下二兵三川一。❿**手をつける**。著手する。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一〕將軍下レ筆開二生面一。⓫**ふせ倒す**。〔禮、王制〕天子殺則下二大綏一。〔注〕下、謂レ弊レ之。〔疏〕謂レ弊レ之者、謂三弊二仆於地一也。⓬**ふす**。うつむく。〔周禮、春官、卜師〕辨二龜之上下左右陰陽一。〔注〕下、俯者也。⓭現㋑降る。行く。㋺ふりかける。出す。㋩費す。下りる。下ろす。次の。㋥生む。㋭泊る。㋬決定の助動詞。邦 モシ **姓**。

名乘 モト。

解字 指事。一は一定の位置を示し、丨は其の位置より低き場所を指す。古文は二又は丅と書く。

【下秧】1 カアウ　苗を植ゑる。〔劉克莊、春旱詩〕清明未レ雨下秧難、小麥低低似二剪殘一。

【下壓】2 カアツ　下に押しつける。のしかかる。〔吳融、沃焦山賦〕北渚下壓、南箕上承。〔羅隱、巫山高〕下壓二重泉一上千仞、香雲結レ夢西風緊。

【下鞍】3 シタグラ　馬具の名。鞍の下で、馬の兩脇に當てるもの。藁、又は毛氈で作り、毛皮・韋などで被ふ。〔字鏡〕韉、志太久良。

【下衣】4 hsia⁴ i⁴　❶下着。❷褌や女の腰卷などの類。

【下衣文】5 シモツフミ　三河國の地名。

【下意】6 カイ　❶へりくだる。又、素志を曲げる。〔漢書、蒯通傳〕彼東郭先生梁石君、齊之俊士也、隱居不レ嫁、未二嘗卑レ節下一レ意以求レ仕。〔後漢書、和熹鄧后紀〕諸兄每レ讀二經傳一、輒下レ意難問。❷下位に居る人の意見。

【下意識】7 カイシキ　無意識的意識作用のこと。潛在意識。

【下位】8 カヰ　いやしいくらゐ。又、下座の位。〔易、乾、文言〕賢人在二下位一而无レ輔。〔中庸〕在二下位一不レ援レ上。〔左氏、昭、十五〕子亦長矣、而在二下位一辱。〔孟子、告子下〕居二下位一不三以レ賢事二不肖一者、伯夷也。〔新序、節士〕禹趨就二下位一而問焉。

【下位子房】9 カヰシバウ　下生子房(316)に同じ。

【下帷】10 カヰ　とばりを下す。轉じて、塾を開いて子弟に教授する。又、深居して讀書に專心すること。〔漢書、董仲舒傳〕下レ帷講誦、弟子傳以二久次一相二授業一、或莫レ見二其面一。〔應璩、與二侍郎曹長思一書〕才劣二仲舒一、無二下帷之思一。〔還魂記、肅苑〕繡戶女郎閑鬭レ草、下帷老子不レ窺レ園。

【下帷宿學之人】11 カキガクノシュクヒト 漢の董仲舒を指す。とばりを下して子弟を教へ、學問が深遠であつたからいふ。轉じて、其の様な立派な學者をいふ。下帷を見よ。〔本朝文粹、江匡衡、入道大相國〔公重上表〕陛下以二賢才一爲二城郭一、臣未レ學二下帷宿學之人一。

【下痿】12 hsia^4 wei^3 腰がぬける。

【下游】13 カイウ ❶下流附近の土地。下流(584)の❸に同じ。轉じて、ひくい身分。下位。上游(**1**－**13**‥10)の❶の對。❷游泳する。〔說苑、脩文〕今舟中水而運甚殆、治二裝衣一而下游乎。❸下方に至る。〔爾雅、釋天、疏〕鄭注二考靈耀一云、地蓋厚三萬里、春分之時、地正當レ中、自レ此地漸漸而下、至二夏至之時一、地下游萬五千里。

【下邑】14 カイフ ❶國都に對して、邑をいふ。〔春秋、莊、二十八、冬築レ郿、杜注〕郿、魯下邑。〔疏〕國都爲レ上、邑爲レ下。❷邊地に在る縣。〔南齊書、張岱傳〕張東遷、親貧須レ養、所三以栖二遲下邑一。❸縣名。㋑秦、置く。戰國、楚の邑。故城は江蘇省碭山縣の東。〔史記、吳王濞傳〕走二條侯軍一、會二下邑一。㋺漢、置く。河南省夏邑縣治。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府〕夏邑縣、戰國時下邑地、秦屬二碭郡一、漢置二下邑縣一、屬二梁國一。㋩後魏、置く。故城は安徽省亳縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、亳州〕長垣城、又有二下邑城一、在二州東北五十里一、後魏僑二置下邑縣一、屬二馬頭郡一。

【下姻】15 カイン 降嫁(**11**－**41620**‥9)に同じ。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕天寵方隆、王姬下姻。

【下陰】16 カイン ❶地下の陰氣。上陽(**1**－**13**‥741)の對。〔漢書、五行志上〕上陽施不二下通一、下陰施不二上達一。❷地名。春秋、楚の地。湖北省光化縣の西。〔左氏、昭、十九〕楚工尹赤遷二陰於下陰一。

【下院】17 カヰン ❶末寺。佛寺の末流。〔揚州畫舫錄、草河錄上〕靈鷲庵、在二碧天觀後一、向爲二天寧下院一。❷二院制の議會の一。人民の公選した議員の組織するもの。上院(**1**－**13**‥15)の對。

【下宇】18 ウカ たるきを下にする。家屋の構造についていふ。宇はたるき。〔易、繫辭下〕上レ棟下レ宇。〔隋書、煬帝紀上〕上レ棟下レ宇、願同二比屋一。

【下雨】19 ウカ 雨を降らす。雨が降る。降雨。〔孟子、梁惠王上〕天油然作レ雲、沛然下レ雨。

【下營】21 カエイ 兵を駐屯させる。陣取る。〔竹添井井、棧雲峽雨日記上〕一見知レ爲二武侯下營處一。

【下役】22 カエキ ❶下層の地位に居て働くこと。〔仕學大乘〕官莫レ患三乎任二下役一也。❷シタヤク ㋑部下の役人。また、下級の役目。下級の役人。〔色道大鏡、十一〕諸寺の下役をする者に火番といふあり。㋺江戸時代、町の雜務をつとめ、夜番をも兼ねた者。

【下役人】23 シタヤクニン 下級の官吏。下吏。

【下葉】24 カエフ 根に近い方の葉。したば。〔韓愈、庭楸詩〕下葉各垂レ地、樹顚各雲連。

【下筵】25 カエン 下位の席次にあるむしろ。又、そこに坐する身分の低い人。〔江淹、雜體、袁大尉淑從駕詩〕和惠頌二上笏一、恩渥浹二下筵一。

【下嚥】26 カエン 飲み下す。嚥下。〔石室祕籙、乳蛾〕喉門腫痛、痰如レ鋸不レ絕、茶水一滴、不レ能二下嚥一。

【下苑】27 カエン 苑の名。曲江池をいふ。〔漢書、元帝紀〕水衡禁囿、宜春下苑。〔注〕師古曰、宜春下苑、卽京城東南隅曲江池、是也。〔韋應物、歎二楊花一詩〕纔縈二下苑曲一、稍滿二東城路一。

【下下】28 カカ ゲゲ ❶下の下。最下等。上中下(**1**－**13**‥561)を見よ。〔書、禹貢〕厥田惟下下。〔墨經、松〕其出二歷青之餘一者、曰二脂片松一、品惟下下、其降レ此外、不レ足二品第一。❷シタジタ シモジモ しもじも。官に對して人民をいふ。〔狂言記、瓜盜人〕總じて下下は、どれも此の様なことぢや。

【下下月】29 hsia^4 hsia^4 yüeh^4 再來月 サライゲツ。來「來月。

【下下田】30 ゲゲデン 最も惡い田地。〔主稅寮式〕下下田、一百五十束。

【下家】31 hsia^4 chia^1 ❶麻雀で其の胴親の右手に席を占める人をいふ。南家(**2**－**2750**‥68)の❷に同じ。❷ヤシタ 母家に附屬した小さな家。〔曾根崎心中〕男はしたやに顔出し。❸ワタラヒ 姓氏。〔國史姓名譜〕。❹クワタシ 姓氏。〔姓名錄〕。

【下家子】32 hsia^4 chia^1 tzŭ 卑賤の者。げす。

【下家司】33 シモゲイシ 家司の下役。親王及び攝關・大臣又は職事の三位以上の家に祗候す。武家では政所の案主・知家事等が、此の職掌に當る。〔職原抄〕關白家、家司・下家司。

【下家兒】34 hsia^4 chia^1 êrh 取引上に於ける買手のこと。買ひ方。次の者。次の番のもの。

【下嫁】35 カカ 天子の女が臣下にとつぐこと。下降。降嫁。〔書、堯典〕釐二降二女于嬀汭一。〔疏〕舜爲二匹夫一、帝女下嫁、以レ貴適レ賤。〔詩、召南、何彼穠矣、序〕雖二則王姬一、亦下二嫁於諸侯一。〔唐書、長沙公主傳〕公主下二嫁馮少師一。

【下歌】36 サゲウタ 謠曲の曲節の一。中音でうたひ出し、拍子にあはせて節こまかにうたふもの。

【下屆】37 hsia^4 chieh^4 ❶次回。❷後期。下半期。

【下界】38 カカイ ゲカイ ❶平地。城邑村市の類をいふ。〔綦毋潛、題二靈隱寺山頂禪院一詩〕招提此山頂、下界不二相聞一。❷人間の住む所。人間界。上界(**1**－**13**‥84)の❶の對。〔中黃眞經、注〕上界宮館、生二於窈冥一、皆有二五色之氣一、而結二成下界土地一、皆是水氣橫凝扶住。〔顧況、五源訣〕下界功滿、方超二上界一。〔雲笈七籤〕徘徊哀二下界一。

【下海】39 カカイ ❶役者の社會で、素人藝人が藝を賣るために役者となることをいふ。❷海に乘出して外國に行くこと。〔齊藤拙堂、山田長政傳〕時下海無レ禁。

【下開】40 hsia^4 k'ai^1 左記。下記。

【下開發】41 シモカイホチ 美濃國の地名。

【下交】42 カカウ ❶目下の人とつきあふ。尊貴の人が微賤の者と交はる。〔易、繫辭下〕君子上交不レ諂、下交不レ瀆。〔史記、信陵君傳〕信陵君之接二巖穴隱者一、不レ恥二下交一、有レ以也。❷卑しい交際。〔說苑、雜言〕下交者不レ離二於患一。

【下向】43 ゲカウ ❶高い所から低い所へ下りて行く。❷都から田舍へ行く。〔源平盛衰記、二一、日向太郎通良縣首事〕家貞西府に下向して。❸參詣した神社佛閣から歸り來ること。〔枕草紙、八〕ひつじに下向しぬべし。

【下江】44 カカウ ❶江を下る。〔楚辭、九章、哀郢〕將下運レ舟而下浮兮、上二洞庭一而下上江。❷江蘇省のこと。長江の下流地方の意。安徽省を上江といふに對す。❸川の名。㋑婁江の異名。江蘇省吳縣の東。太湖の支流。〔史記、夏紀、注〕正義曰、三江者、在二蘇州東南三十里一、名二三江口一、云云、一江東北下三百餘里入レ海、名曰二下江一、亦曰二婁江一。㋺廣東の南江をいふ。廣東省羅定縣の西に在る。❹廳名。清、置く。今の下江縣の地。❺を見よ。〔清史稿、地理志〕貴州、黎平府、廳二、下江廳。❺縣名。民國、置く。貴州省榕江縣の東南。清の下江廳の地。

【下江井】45 シモエネキ 磐城國の地名。

【下江兵】46 カカウヘイ 後漢の王常等の起した軍名。〔後漢書、王常傳〕久之與二王鳳・王匡等一、起二兵雲杜綠林中一、聚二衆數萬人一、以レ常爲二偏裨一、攻二傍縣一、後與二成丹張卬一別入二南郡藍口一、號二下江兵一。

【下行】47 カカウ ❶縱書のこと。上から下へ書き下す書方。〔法苑珠林〕少者蒼頡、其書下行。❷上級官廳より下級官廳、又は一般人民に對して發する公文書で、令・佈告・任命狀・批・指命・訓令等の種類がある。〔清會典、禮部〕凡官文書、上行・下行・平行、各別二其制一。❸ゲギヤウ くだしたまはること。又、其のもの。〔前太平記、三十六、義光義忠追レ北事〕是れまで追ひかけたる下行なりと笑ひ興じ、諸軍之を配分せり。❹シタユキ 市場用語。相場が持ち直さず、次第に低落して行くこと。

【下行星】48 カカウセイ 八大行星中の水星・金星をいふ。地球の軌道の內を運行するもの。內行星ともいふ。上行星(**1**－**13**‥103)の對。

【下降】49 カカウ ❶くだる。落ちる。降下。〔禮、樂記〕地氣上齊、天氣下降。〔疏〕天氣下降者、謂下降下與二地氣一交合上。〔淮南子、覽冥訓〕昔者師曠、奏二白雪之音一、而神物爲レ之下降。〔漢書、揚雄傳上〕雲霏霏而來迎兮、澤滲灕而下降。❷天子の女が下の人に嫁すること。下嫁。降嫁。〔宋史、禮志十八〕公主下降。

【下降韻母】50 カカウヰンボ 開元音(**11**－**41233**‥111)に同じ。

【下衡】51 カカウ 頭を腰から下に下げる。稽首。〔荀子、大略〕平衡曰レ拜、下衡曰二稽首一。

【下客】52 カカク 下等の賓客。下賓。又、下等の食客。上客(**1**－**13**‥119)の對。〔後漢書、齊武王縯傳〕豈游俠下客之爲哉。〔南史、謝靈運傳〕飴以二下客之食一。

【下格】53 カカク ❶ひくい位。上格（1－13··120）の對。〔南史、康絢傳〕荆山爲ニ上格一、浮山爲ニ下格一。❷挌鬪する。〔韓詩外傳、六〕於レ是兩寇肩ニ逐我君一、拔レ矛下格而還。❸hsia⁴ ko² かけごの下部。

【下學】54 カガク ❶最下の學問。最下の學び方。〔文子、道德〕上學以レ神聽、中學以レ心聽、下學以レ耳聽。❷手近い所から學ぶ。下學上達を見よ。〔戰國、齊策〕君主無レ羞ニ亟問一、不レ愧ニ下學一、是故成ニ其道德一、而揚ニ功名於後世一。❸學校から歸る。〔陸游、東吳女兒曲〕阿弟貪レ書下學遲。

【下學齋】55 カガクサイ 字號。❶清、葉奕苞（9－31387··163）の號。❷清、項名達（12－43343··88）の號。

【下學集】56 カガクシフ 書名。二卷。著者未詳。序には東麓破衲と記す。分類體の漢和字書で、天地門・時節門等十八門に分ち、漢字を擧げて之に片假名で和訓を附け、漢文で注解す。室町時代の古書で、國語資料として貴重なものである。

【下學堂】57 カガクダウ 清、熊賜履（7－19294··150）の室名。

【下學之功】58 カガクノコウ 手近なことから學んで行く努力。〔愼思錄〕苟下學之功、日進不レ息、久則可ニ以上達一也。

【下學上達】59 カガクジヤウタツ 手近い所から學んで後に奥義に達する。人事を覺つて天理に通ずる。〔論語、憲問〕不レ怨レ天不レ尤レ人、下學而上達。〔集解〕孔安國曰、下學ニ人事一、上知ニ天命一。〔集注〕程子曰、蓋凡下學ニ人事一、便是上達ニ天理一。〔漢書、五行志下之下〕下學而上達。〔說苑、至公〕下學而上達、知レ我者其天乎。〔阮籍、詠懷詩〕下學而上達、忽忽將ニ如何一。

【下顎】60 カガク したあご。

【下顎骨】61 カガクコツ したあごの骨。下頷骨。

【下甲】62 カカフ ❶科擧の試驗の下位及第者をいふ。〔金史、選擧志二〕二十三年格、進士、上甲、初錄事、防判、二下令、三中令、中甲、初中簿、二上簿、三下令、下甲、初下簿、二中簿、三下令。❷シモギ 伯耆國の地名。

【下合】63 カガフ 天文學用語。内惑星が太陽・地球と一直線上に在り、且、太陽と地球との中間に位する場合をいふ。内合。

【下坎】64 カカン ❶易の坎卦の下の坎☵。上坎（1－13··130）の對。〔周易集解〕已成ニ既濟一、上坎爲レ雲、下坎爲レ雨、故雲行雨施。❷hsia⁴ k'an³ 門の下部にある橫桁。

【下疳】65 ゲカン 性病。花柳病の一。惡性な傳染病で、生殖器及び口脣などを侵す。硬性下疳と軟性下疳とに分れる。下疳瘡。〔外科正宗、下疳〕下疳者、邪淫欲火、鬱滯而成、其來有レ三、一由下男子慾念萌動、陽物興擧、淫火猩狂、而未レ經ニ發泄一者、以致ニ敗精一、濁血流滯、中途結而爲上レ腫者、一也、二由下婦人陰器瘀精、濁氣未レ淨、接與交媾、以致ニ淫精一、傳襲而成上者、二也、三由下房術熱藥、塗ニ抹玉莖一、洗ニ搽陰氣一、興ニ助陽火一、煽ニ動陰精一、僥倖不レ衰、久頓不レ泄、多致ニ火鬱一、未レ發而成上者、三也。〔景岳全書、下疳〕下疳一證、本肝腎濕熱證也。

【下疳瘡】66 ゲカンサウ 腫物の名。下疳。疳瘡。〔醫學入門、丹溪方、治ニ下疳瘡一〕蛤粉・臘茶・苦參・青黛・密陀僧、右用ニ河水一洗レ瘡淨レ臘、猪脂調敷、幷治ニ臁瘡一。

【下間】67 ゲカン ❶佛堂に入つて己が身の左方をいふ。〔禪林象器箋、二〕。❷シモツマ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【下瞰】68 カカン 下を見おろす。下視。俯瞰。下矚。下臨。〔劇談錄〕樓櫓可ニ以下ニ瞰城中一。〔宋史、趙鼎傳〕左顧ニ川陝一、右控ニ湖湘一、而下ニ瞰京洛一。

【下己】69 キカ 唐、李巨川（6－14459··1022）の字。

【下氣】70 キカ ❶氣を押へておとなしくする。下氣怡聲を見よ。〔韓愈、答ニ張籍一書〕若ニ商論不レ能レ下レ氣、或似レ有レ之。❷hsia⁴ ch'i⁴ 溫順な性質。内氣な。

【下氣湯】71 カキタウ 藥の名。下熱劑。〔史記、扁鵲傳〕臣意卽爲レ之作ニ下氣湯一以飮レ之。

【下氣怡聲】72 カキイセイ 子が親に事へる道。心をおとなしくし、音聲を和らげること。〔禮、内則〕及レ所、下レ氣怡レ聲、問ニ衣燠寒、疾痛疴癢一、而敬抑搔レ之。〔禮、内則〕父母有レ過、下レ氣怡レ色、柔レ聲以諫。

【下記】73 キカ ❶上官から下のものに書牘を送ること。〔後漢書、鍾離意傳〕意少爲ニ都督郵一時、部縣亭長有下受ニ人酒禮一者上、府下レ記案ニ考之一、意封還レ記、入言ニ於太守一曰、今宜ニ先清ニ府内一、且闊ニ略遠縣細微之愆一。❷下に記してゐる條項。

【下期】74 hsia⁴ ch'i² ❶次回。次期。このつぎ。❷シモキ 營業の決算報告で七月から年末までの期間をいふ。上期（1－13··139）の對。

【下棊】75 hsia⁴ ch'i² 圍棋を打つ。

【下器】76 キカ 昔、禁中の節會などで酒を群臣に賜はる時、酒の肴（下物）を入れた器。かつき。〔江家次第、六、二孟旬、御臺盤一脚、注〕内膳下器立ニ第一間一。

【下儗】77 ギカ 下の人と相談すること。儗は擬、はかること。〔管子、法法〕軒冕不ニ下儗一、而斧鉞不ニ上因一。〔纂詁〕儗、度、軒冕不ニ下儗ニ度於民一。

【下九】78 カキウ 舊曆月の十九日。二十九日を上九と爲し、九日を中九と爲すに對す。此の日、酒宴を開いて、婦女の歡を爲す。名づけて陽會といふ。〔古詩、爲ニ焦仲卿妻一作〕初七及ニ下九一、嬉戲莫ニ相忘一。〔瑯嬛記〕九爲ニ陽數一、古人以ニ二十九日一爲ニ上九一、初九日爲ニ中九一、十九日爲ニ下九一、每月下九、置酒爲ニ婦女之歡一、名曰ニ陽會一、蓋女子陰也、待レ陽以成、故女子於ニ是夜一爲ニ藏鉤諸戲一、以待ニ月明一、至レ有ニ忘レ寐而達レ曙者一。

【下九台】79 カキウダイ 地名。滿洲吉林省永吉縣の西北、柳城邊の内。もと哂嘛哈台といひ、該地の東方二哩の上九台と共に、邊防斥堠の地。吉長鐵道の沿線。附近は農產物の集散地として、農產物出廻期には非常に繁昌する。

【下休】80 hsia⁴ hsiu¹ 官吏などの休暇。

【下究】81 カキウ 下に至る。下に行き渡る。又、しもじも。下層階級。〔漢書、武五子、燕剌王傳〕主恩不レ及ニ下究一。〔淮南子、主術訓〕是故號令能下究。

【下級】82 カキフ ひくい階級。下のくみ。

【下竟】83 カキヤウ 下の階級。〔漢書、王莽傳上〕振ニ車騎一、奉ニ羊酒一、勞ニ遺其師一、恩施ニ下竟同學一。

【下鄕】84 カキヤウ ❶地名。淮陰に屬す。〔漢書、韓信傳〕信從ニ下鄕南昌亭長一食。〔王珪、詠ニ淮陰侯一詩〕千金答ニ漂母一、百錢酬ニ下鄕一。❷田舍へ出張する。上京（1－13··231）の對。

【下腳】85 カキヤク ❶脚を下ろす。脚を整へる。〔晉書、陶侃傳〕貢初橫ニ腳馬上一、侃言訖、貢斂レ容下レ腳、辭色甚順。❷馴染の妓女に與へる祝儀。

【下宮】86 カキユウ ❶親廟をいふ。〔禮、文王世子〕公若有ニ出疆之政一、云云、諸子諸孫守ニ下宮下室一。〔注〕下宮、親廟也。〔五代史、四夷附錄第一〕若中國陵寢下宮之制。❷後宮をいふ。〔戰國、齊策〕下宮糅ニ羅紈一、曳ニ綺縠一。〔注〕下宮、猶ニ後宮一也。❸音樂の調子。宮調の低いもの。〔國語、周語下〕王以ニ黃鐘之下宮一、布ニ戎于牧之野一。

【下去】87 hsia⁴ ch'ü⁴ ❶くだり行く。❷終る。❸衰へる。鎭まる。

【下据】88 シモシガラミ 越前國の地名。

【下圉】89 カギヨ 下等の廏。轉じて、低い位地。〔拾遺錄〕退則羈ニ棄于下圉一。

【下御】90 ゲギヨ 貴人が、車馬からおりること。〔建武年中行事、六月〕すけ代はらす下御、神嘉殿のひさしより入らせ、御大床子の御座に就かせ給ふ。

【下曲】91 カキヨク 下等な音樂。〔管子、侈靡〕聲好ニ下曲一、食好ニ鹹苦一。

【下曲陽】92 カキヨクヤウ 縣名。漢、置く。後漢の皇甫嵩が黃巾張寶を斬つた處。故城は河北省晉縣の西。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、下曲陽。〔十三州志〕常山有ニ上曲陽一、故此加レ下。

【下緊】93 hsia⁴ chin³ 劇しく降る。小止みなく降る。

【下句】94 クカ ❶詩などの下の句。〔詩、周南、卷耳、陟ニ彼崔嵬一、疏〕故上句欲ニ君子知ニ其勞一、下句欲ニ君子加ニ其賞一也。❷シモノク 和歌の第四・第五句。〔謠曲、雨月〕歌の下の句なり。

【下矩】95 クカ 地球。地の形は四角だと考へられたからいふ。〔陸倕、石闕銘〕色法ニ上圓一、制模ニ下矩一。〔注〕善曰、下矩、地也。

【下愚】96 グカ ❶甚だおろかな者。至愚の人。〔論語、陽貨〕上知與ニ下愚一不レ移。〔墨子、非攻下〕雖レ使ニ下愚之人一、必曰レ將レ爲ニ其上中ニ天之利一。〔史記、儒林傳〕董仲舒弟子呂步舒、不レ知ニ其師書一、以爲ニ下愚一。❷自己の謙稱。〔稱謂錄、謙稱、下愚〕華竅自責文、猥ニ命草對一、潤ニ彼下愚一。

【下愚之性不レ可レ移】97 カグノセイハウツスベカラズ 上知與ニ下

愚ニ不レ移(1－13··546)を見よ。

【下火】98 カクワ ㊀下に火があること。上水(1－13··448)の㊀を見よ。㊁佛コア 葬場で導師が炬を棺に下して法語をする佛事。〔輟耕錄、爇梅花文〕周申父寒夜擁レ爐爇レ火、見ニ缾内所レ插、拆枝梅花、水凍而枯一、因取投ニ火中一、戲作ニ下火文一云、寒勒ニ銅瓶一凍未レ開、南枝春斷不ニ歸來一云云、卻愁零落一枝春、好與ニ茶毗三昧火一。㊂シタビ ㋑火災の時、火勢の衰へること。㋺すべて物事の勢の衰へること。

【下找】99 hsia^4 chao^3 送料先拂の手紙。

【下科】100 カクワ 下等。下等のもの。科はしな。〔陳琳、爲ニ曹洪一與ニ魏文帝一書〕昔鬼方聾昧、崇虎讒凶、殷辛暴虐、三者皆下科也。〔魏志、王肅傳、注〕余以爲、是則下科耳。

【下回】101 hsia^4 huei^2 この次。次回。

【下懷】102 hsia^4 huai^2 私の胸中。謙遜の語。

【下光】103 カクワウ 公然と一般に沙汰すること。上からの達しを光に喩ふ。〔和長記〕延德四年七月十八日改元、傳奏被レ談曰、年號字事、今度被レ略ニ下光一。

【下括】104 ゲグクリ 室町時代以後、指貫サシヌキの裾を足くびの所でくくること。〔裝束要領抄〕下括のとき、指貫の下に用レ之。

【下官】105 カクワン ㊀下等の官吏。屬吏。〔晉書、毛寶傳〕下官能留レ之。㊁官吏の自稱の謙辭。〔晉書庾敳傳〕下官家有ニ二千萬一、隨ニ公所レ取。〔梁書、曹景宗傳〕高祖數讌ニ見功臣一、共道ニ故舊一、景宗醉後謬忘、或誤稱ニ下官一。〔江淹、詣ニ建平王一上書〕下官每レ讀ニ其書一、未ニ嘗不ニ廢レ卷流涕一。〔陔餘叢考、下官〕戲本凡官員自稱、皆曰ニ下官一。㊂王國の臣僚。臣といふ代りに用ひる。宋の孝武帝の制。〔事物紀原、公式姓諱部、下官〕通典曰、宋孝武帝多ニ猜忌一、諸國吏人、於ニ本國君一、不レ得レ稱ニ下官一、事在ニ孝武建中一也、本爲ニ王國避ニ臣之稱一、而今人或以自謂也。

【下官不職】106 カクワンフシヨク 汝の下役人が仕事に忠實でない。大臣が其の任に堪へないことを責める時に婉曲にいふ言葉。〔漢書、賈誼傳〕古者、大臣有ド坐ニ不廉一而廢者上、不レ謂ニ不廉一、曰ニ簠簋不レ飾、坐ニ汙濊淫亂男女亡レ別者、不レ謂ニ汙濊一、曰ニ帷薄不レ脩、坐ニ罷軟不レ勝レ任者、曰ニ下官不レ職、故貴大臣定有ニ其辜一矣、猶未ニ斥然正以謼レ之也。

【下浣】107 ゲクワン 一箇月の末の十日。下旬。下澣。上澣(1－13··219)を見よ。

【下脘】108 カクワン 胃の下口。〔正字通〕脘、臍上二寸當ニ胃下口一、爲ニ下脘一。〔靈樞經、四時氣〕在ニ下脘一、則散而去レ之。

【下莞】109 カクワン ゐむしろを下にする。上簟(1－13··599)を見よ。

【下款】110 hsia^4 k'uan^3 書畫に筆者自身の姓名、又は號を落款するをいふ。上款(1－13··218)を見よ。

【下管】111 カクワン 儀式の時に堂下で行ふ吹奏樂をいふ。堂上で人聲を主として行はれる升歌に對し、堂下で笙等の管樂器を主として行はれるからいふ。〔周禮、春官、大師〕大祭祀、帥レ瞽登歌、令レ奏ニ擊拊一、下管播ニ樂器一、令レ奏ニ鼓朄一、大饗亦如レ之。〔注〕鄭司農云、下管、吹レ管者在ニ堂下一。〔疏〕凡樂歌者在レ上、匏竹在レ下、故云ニ下管播ニ樂器一、樂器卽笙簫及管皆是、聲出曰レ播。〔周禮、春官、小師〕大祭祀、登歌擊レ拊、下管、擊ニ應鼓一、大饗亦如レ之。〔儀禮、燕禮〕升歌ニ鹿鳴一、下管ニ新宮一、笙入三成。〔注〕管之入三成、謂ニ三終一也。〔疏〕謂ド笙奏ニ新宮一三終上、申說ニ下管之義一。〔禮、明堂位〕升歌清廟、下管象。〔注〕以レ管播レ之。〔疏〕下管象者、下、堂下也、管匏竹在ニ堂下一、故云ニ下管一也、象謂ニ象武詩一也、堂下吹レ管以播ニ象武之詩一、故云ニ下管象一也。〔陸機、文賦〕象ニ下管之偏疾一。〔注〕善曰、類ニ乎下管一、其聲偏疾、云云、王肅家語注曰、下管、堂下吹レ管。

【下澣】112 ゲクワン 一箇月の末の十日間。下浣。下旬(272)に同じ。上澣(1－13··219)を見よ。〔故事成語考、歲時〕下旬十日爲ニ下澣一。

【下館】113 カクワン 下屋敷。〔後漢書、崔駰傳〕駰幸得下充ニ下館一列中後陳上。〔魏書、高閭傳〕出ニ靈丘下館之粟一。

【下關】114 カクワン ㊀上關(1－13··222)の㊁を見よ。㊁地名。江蘇省江寧縣の儀鳳門の外。南京の西北部。大江に臨み、滬漢汽船が停泊する。京滬鐵道・津浦鐵道の終點。浦口鎭と江を隔てて相對す。清の咸豐八年の英・支天津條約により、光緒二十三年開いて貿易港とした。㊂關の名。龍尾關をいふ。雲南省大理縣の南。㊃シモノセキ 山口縣の地名。㊄城外の町はづれ。

【下關事件】115 シモノセキジケン 文久三年五月十日、攘夷決行期日の夜、長州藩は米・佛・蘭の艦船を下關に擊攘したので、翌元治元年、英米佛蘭の聯合艦隊が關門に迫り砲臺を收む。よつて和を講じ、賠償金支拂其の他を約して局を結ぶ。馬關砲擊。

【下關條約】116 シモノセキデウヤク 日清戰爭の平和條約。明治二十八年一月、我が全權伊藤博文と陸奥宗光とが、清國全權李鴻章と下關春帆樓に會し、同四月、朝鮮獨立確認・遼東半島臺灣其の他の割讓等十一條の媾和條約が締結せられた。

【下讙】117 カクワン 地名。春秋、魯の邑。山東省肥城縣の西南。〔春秋、桓、三〕九月、齊侯送ニ姜氏于下讙一。〔杜注〕讙、魯地、濟北蛇丘縣西有ニ下讙亭一。

【下軍】118 カグン ㊀軍の名。古は軍を分つて上中下とした。〔左氏、宣、十二〕中軍下軍爭レ舟、舟中之指可レ掬也。〔國語、周語中〕昔先大夫荀伯、自ニ下軍之佐一以レ政。㊁複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕左傳、晉欒黶爲ニ下軍大夫一、支孫因氏焉。

【下化】119 ゲゲ 佛下化衆生の略。

【下化衆生】120 ゲケシユジヤウ 佛菩薩が衆生を濟ふこと。菩薩の行ふべき道。上求菩提(1－13··146)の對。〔往生要集、上末〕總言ニ之願レ作レ佛心一、亦名下上求ニ菩薩一、下化ニ衆生一心上。〔止觀、一、上〕上求ニ佛道一、下化ニ衆生一。

【下刑】121 カケイ 最も輕いしおき。〔書、呂刑〕下刑適レ重上服。〔傳〕一人有ニ二罪一、則之レ重、而輕幷レ數。

【下勁】122 hsia^4 ching^4 力を出す。努力する。

【下計】123 カケイ つまらぬはかりごと。〔史記、黥布傳〕上曰、何謂下廢ニ上中計一而出中下計上。

【下邽】124 カケイ 縣名。㊀漢、置く。故城は陝西省渭南縣の東北。〔史記、封禪書〕於ニ下邽一有ニ天神一。〔漢書、地理志上〕京兆尹、縣十二、下邽。㊁南朝宋、置く。四川省の境。㊂南齊、置く。陝西省南鄭縣の地。

【下卿】125 カケイ 下級の卿。上卿(1－13··236)の對。〔左氏、桓、三〕凡公女嫁ニ于敵國一、姊妹則上卿送レ之、以禮ニ於先君一、公子則下卿送レ之。

【下教】126 カケウ 下のものに教へる。〔莊子、天下〕以レ此周ニ行天下一、上說下教、雖ニ天下不レ取、強聒而不レ舍者也。

【下竅】127 カケウ 肛門と陰部とをいふ。〔素問、陰陽應象大論〕清陽出ニ上竅一、濁陰出ニ下竅一。〔注〕下竅、謂ニ前陰後陰一。

【下擊】128 カゲキ 下り擊つ。又、落雷する。〔淮南子、覽冥訓〕雷電下擊、景公臺隕、支體傷折。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕上天亦宜下怒ニ狼虎之噬レ人食レ物、而雷霆下擊、早已除ニ其兇一、而絕中其類上矣。

【下擊水車】129 カゲキスイシヤ 水車の一。水車の下部に流水をあてて其の衝擊で車を廻轉させるもの。

【下血】130 カケツ ゲケツ 血の下ること。又、血の下る病氣。〔金匱要略、下血〕下血煩欬者、必吐血、下血先便後血、此遠血也、黃土湯主レ之、下血先血後便、此近血也、赤小豆當歸散主レ之。

【下月】131 hsia^4 yüeh^4 來月。翌月。次の月。

【下欠】132 hsia^4 ch'ien^4 殘金。借金の殘額。不足額。

【下見】133 シタミ ㊀下檢查。豫め檢查を行ふこと。㊁下よみ。文などを公共の場所などで讀む前に、豫め讀んでおくこと。

【下賢】134 カケン ㊀賢者にへりくだる。〔禮、表記〕彰ニ人之善一、而美ニ人之功一、以求レ下レ賢。〔唐書、選擧志〕有司以ニ隸人一待レ之、非ニ下賢意一。㊁呂氏春秋、愼大覽の篇名。㊂唐、沈亞之(6－17189··412)の字。

【下縣】135 カケン ㊀都市の四郊に在つて郡の管轄外の縣。〔漢書、文翁傳〕又脩ニ起學官於成都市中一、招ニ下縣子弟一、以爲ニ學官弟子一。〔注〕師古曰、下縣、四郊之縣、非ニ郡所レ治也。㊁シモアガタ 對馬國の郡名。

【下鍵】136 hsia^4 chien^4 錠を下ろす。

【下臉】137 hsia^4 lien^3 俳優が舞臺から下りて顏を洗ひ清めること。

【下元】138 カゲン ㊀陰曆十月十五日。下元日。〔退朝錄、然燈〕中元下元、御ニ東華門一。〔法天生意〕十月

初四日、勿ニ責ニ罰人一云云、十五日爲ニ下元一、二日戒ニ夫婦入房一。❶術數家が第二甲子をいふ。下元甲子を見よ。❷古代醫學で腎部をいふ。〔雲笈七籤〕人有ニ三丹田一、上元・中元・下元、是也、上元丹田、腦也、亦名ニ泥丸一、中元丹田、心也、亦名ニ絳宮一、下元丹田、氣海也、亦名ニ精門一。❸仙人の名。〔雲笈七籤、五十九〕下眞之道、總而行レ之、則爲ニ上清下元眞人一。

【下元日】139 カゲンジツ 陰曆十月十五日。此の日朝早く祖先を祀る。〔兗州府志〕下元日質明、祀レ先畢、場功設ニ醮讌一。

【下元節】140 カゲンセツ 陰曆十月十五日。下元日。〔宋史、禮志十六〕太平興國五年十月下元節、依ニ中元例一、張燈三夜。

【下元甲子】141 カゲンシ 術數家が第二甲子をいふ。二元(1－12‥475)の❷を見よ。〔太乙局、求ニ甲子年歲一計一太乙一〕自ニ上古天皇上元甲子一起、至ニ大明天啓四年甲子一、計一千零一十五萬五千五百四十一年、云云、今下元甲子太乙入ニ兌宮一、一年、理天也。

【下元古辰】142 カゲンシン 下元のめでたい日。〔修眞指要〕十五日下元吉辰、可レ修ニ謝過齋一。

【下言】143 ゲゲン 下の人のいふ言葉。〔淮南子、說山訓〕上言若レ絲、下言若レ綸。

【下弦】144 ゲゲン 陰曆二十二・三日頃の半圓の月。しもつゆみはり。上弦(1－13‥259)の❶を見よ。〔後漢書、律曆志下〕加ニ得望次下弦一、又後月朔。〔參同契〕下弦艮、亦八。〔書言故事、歲月〕每月二十三日爲ニ下弦一、月之又缺。

【下限】145 ゲゲン 次の日限。〔福惠全書、錢穀部、比較〕希レ挨ニ下限一。

【下戶】146 ゲコ ❶貧民。〔史記、酷吏、楊僕傳〕巧ニ詆下戶之猾一。〔宋史、高宗紀七〕蠲レ被レ災下戶積欠租稅一。❷酒のあまり飲めない人。上戶(1－13‥262)の❶の對。〔翠雨軒詩話〕我俗謂ニ多飲レ酒者一爲ニ上戶一、不レ能ニ多飲一者爲ニ下戶一。

【下古】147 ゲコ 二古(1－12‥494)を見よ。

【下袴】148 ゲコ ❶表袴の下に著用する袴。赤大口、〔和漢三才圖會、衣服類、下袴〕下袴、一名赤大口、表袴之下著之、用ニ生平絹一染レ緋、故名ニ赤大口一、壯年人晴日用レ之、宿老人白張也。❷ふんどし。褌。犢鼻褌。

【下顧】149 カコ ❶下界を見る。〔杜甫、陪ニ王侍御一同登ニ東山最高頂一寮ニ姚通泉一晚携ニ酒泛ニ江詩一〕東山高頂雄ニ珍羞一、下ニ顧城郭一銷ニ我憂一。❷愛顧。お引立てを乞ふ。

【下午】150 ゲゴ 午後。上午(1－13‥266)の對。〔齋藤拙堂、遊ニ箕面山一遂入レ京記〕二十七日下午發ニ大阪一。

【下午些】151 hsia⁴ wu³ hsieh¹ 書過ぎ。午後。

【下口】152 カコウ ❶下方に在る出入口。下の出入口。〔水經、江水注〕秋夏水通ニ下口一、上下口門相距三十餘里。❷ hsia⁴ k'ou³ ❹下酒物。くちとり。㊁咬む。噛みつく。

【下工】153 カコウ ❶拙いわざ。不器用。拙劣。〔周禮、考工記、弓人〕上工以有レ餘、下工以不レ足。❷工事を停止する。

【下谷】154 カコク ❶下の谷。〔程俱、太湖泛檄西原道卽事詩〕上崖下谷鳥道中、前騶後卒魚貫從。❷ ❹クダニ 周防國の地名。㊁ヤシタ 東京都の地名。

【下刻】155 ゲコク 古、ひと時(二時間)を三分した最後の部分の稱。上刻(1－13‥281)・中刻(1－73‥298)の對。

【下國】156 カコク ❶諸侯の國。天下。〔書、泰誓中〕流毒ニ下國一。〔詩、檜風、匪風、顧ニ瞻周道一、傳〕下國之亂、周道滅也。〔疏〕下國、謂ニ諸侯一、對ニ天子一爲ニ下國一。〔詩、魯頌、閟宮〕奄ニ有下國一、俾ニ民稼穡一。〔詩、商頌、長發〕受ニ小球大球一、爲ニ下國綏旒一。〔荀子、榮辱〕爲ニ下國駿豪一。❷なか。地方。上國(1－13‥288)の對。〔陶潛、述酒詩〕山陽歸ニ下國一、成名猶不レ勤。❸己の國を謙遜していふ。敝國。〔左氏、哀、十一〕天若不レ識ニ不衷一、何以使ニ下國一。❹小國。〔禰衡、鸚鵡賦〕背ニ蠻夷之下國一、待ニ君子之小儀一。❺ ❹ゲゴク ❹都から地方に行く。〔東鑑、四十三、建長五年七月十七日〕豐後四郎左衛門下國。㊁大寶の制で、國の等級を四等に分つた最下等の諸國の稱。〔職員令〕下國、〔職原抄〕下國。

【下國掾】157 ゲコクジョウ 下國の屬官。〔職原抄〕下國、掾。

【下國守】158 ゲコクシュ 下國の長官。〔職原抄〕下國、守。

【下國目】159 サコクジュン 下國の屬官。〔職原抄〕下國、目。

【下黑】160 カコク ❶下の方が黑い。雲の形容。〔史記、天官書〕凡望ニ雲氣一、仰而望レ之三四百里、云云、自レ華以南、氣下黑上赤、嵩高三河之郊、氣正赤、恆山之北、氣下黑上青。❷ hsia⁴ hei¹ 夜間。夜中。

【下穀】161 カコク 安い米穀。〔史記、貨殖傳〕欲レ長レ錢、取ニ下穀一。

【下獄】162 カゲゴク 牢屋に入る。入牢。入獄。又、牢屋に入れる。〔漢書、高帝紀下〕九年十二月、行如ニ雒陽一、貫高等謀逆發覺、逮ニ捕高等一、并捕ニ趙王敖下レ獄。〔漢書、劉向傳〕堪・更生下レ獄、及望之皆免レ官。

【下悃】163 hsia⁴ k'uen³ 自分のまごころ。微衷。悃に同じ。

【下根】164 コン ❶下方にある根。〔杜甫、枯柟詩〕上枝摩ニ皇天一、下根蟠ニ厚地一。❷ゲコン 根性の劣つたもの。根機の弱いもの。〔華嚴經、十七〕利根乃與ニ中下根一。〔涅槃經、十四〕極下根者、如來終不ニ爲轉ニ法輪一。

【下鎖】165 hsia⁴ suo³ 錠ガチャウを下ろす。

【下坐】166 ゲザ しもの坐席。坐は座に通ず。〔史記、孟嘗君傳〕客之居ニ下坐一者、有下能爲ニ鷄鳴一者上。〔晉書、張憑傳〕欲レ詣ニ劉惔一、惔處ニ之下坐一、神意不レ接。

【下座】167 ゲザ ❶下坐に同じ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕擯者出延ニ利長一、坐ニ之下座一。❷貴人に對して平伏すること。❸芝居で舞臺の右手にあたる所。囃子方。

【下才】168 カサイ 才能の劣つたもの。下材。〔列子、說符〕臣之子皆下才也、可ニ告以ニ良馬一、不レ可ニ告以ニ天下之馬一也。

【下妻】169 カサイ めかけ。小妻。陏餘叢考、卷三十六に見ゆ。〔漢書、王莽傳中〕不レ知ニ何一男子、遮ニ臣建車前一、自稱、漢氏劉子輿、成帝下妻子也。〔注〕師古曰、下妻、猶レ言ニ小妻一也。〔後漢書、光武紀下〕所略爲ニ奴婢下妻一、欲ニ去留一者恣聽レ之。

【下采】170 カサイ 結納をやること。〔故事成語考、婚姻〕下采、卽是納幣。

【下柴】171 シタバ 木の蔭などに生える柴。〔新後撰和歌集、秋、下〕下柴ふかき秋の山本。

【下祭】172 カサイ 佐食が供物をとり下して尸に與へ、尸が之を地中に埋めて祭ること。陏(11－751)の字解を見よ。〔儀禮、士虞禮、祝命ニ佐食一墮祭、注〕下祭曰ニ墮、墮之言、猶ニ墮下一也、周禮曰、既祭則藏ニ其墮一、謂レ此也。

【下菜】173 hsia⁴ ts'ai⁴ 奴僕の食ふ料理。副食物。

【下載】174 カサイ 下に在つて萬物を載せる。〔舊唐書、吐蕃傳下〕昊穹上臨、黃祇下載。

【下蔡】175 カサイ ❶縣名。漢、置く。春秋の州來の邑。安徽省鳳臺縣治。〔左氏、哀、二、十有一月、蔡遷ニ于州來一、會箋〕蔡從ニ新蔡一遷レ此、謂ニ之下蔡一。〔宋玉、登徒子好色賦〕迷ニ下蔡一。〔漢書、地理志上〕沛郡、縣二十七、下蔡。❷郡名。㋑北魏、置く。故城は今の安徽省壽縣の北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、壽州〕下蔡城、州北二十里、古州來也、云云、建武二年、魏置ニ下蔡郡一。㋺北魏、置く。安徽省潁上縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、潁州〕潁上縣、州東南百二十里、云云、東魏置ニ下蔡郡一。

【下顎】176 カサイ 節肢動物の口器の一部。小顎。小林傳〕若ニ下材及不レ能レ通ニ一藝一、輒罷之。〔淮南子、道應訓〕臣之子、皆下材也。

【下材】177 カザイ 才能の低いもの。下才。〔史記、儒

【下財】178 ゲザイ 石やかねを掘出す人夫。かねほり。

【下財禮】179 ゲザイレイ 婚禮の時、支度金として、官會や銀錠を送ることを云ふ。〔夢粱錄、嫁娶〕又送官會銀錠一、謂ニ之下財禮一、云云、名ニ下財禮一、則女氏得ニ以助ニ其虛費一耳。

【下罪】180 カザイ 輕い罪。輕罪。〔周禮、秋官、司圜〕能改者、上罪ニ三年而舍、中罪一年而舍、下罪一年而舍。

【下灶】181 hsia⁴ tsao⁴ 料理屋の料理人。

【下埽】182 カソウ 堤防の下へ別に作つた土堤。〔六部成語、工部、下埽、注解〕河堤之下、另作ニ土堤一、曰ニ下埽一。

【下莊】183 カソウ 地名。河北省房山縣の石經山の下。山明水秀の鄉。

【下遭】184 hsia⁴ tsao¹ 次回。このつぎ。

【下霜】185 カソウ 霜の下ること。〔淮南子、時則訓〕三

月失レ政、九月不レ下レ霜。〔賈島、送二于中丞使一廻紇册立一詩〕調角寒城邊色動、下霜秋磧雁行疎。

【下藏】186 ゲザウ 下にをさまる。〔史記、律書〕日冬至則一陰下藏。〔白虎通、五行〕十月謂二之應鍾一何、鍾、動也、言二萬物應レ陽而動、下藏一也。

【下乍】187 hsia⁴ cha⁴ 衣の裾の褄。

【下作】188 hsia⁴ tsuo⁴ ❶下等な。賤しい行爲。一 ❷惡いでき。まづい出來。

【下作人】189 hsia⁴ tsuo⁴ jen² 下等の人。

【下作東西】190 hsia⁴ tsuo⁴ tung¹ hsi¹ 下作人に同じ。罵る言葉。〔紅樓夢、三十六回〕不得好死的下作東西、別作娘的春夢。

【下策】191 ゲサク へたなはかりごと。拙い計略。上策(1－13・321)の對。〔漢書、匈奴傳下〕周得二中策一、漢得二下策一、秦無レ策焉。〔李衞公問對、中〕孫子用レ間、最爲二下策一。

【下噴】192 サツ 雙陸の異名。〔事物異名錄、玩戲、雙陸〕譜雙番禺雙陸名有レ五、曰下噴、曰二推、曰囉贏、曰不打、曰佛雙陸、下噴二推難、囉贏不打易、佛雙陸止孺兒爲レ之、凡閭閻皂隷輩、皆能二此戲一、士大夫則否。

【下卡】193 hsia⁴ ch'ia³ 次の內地稅關。次の釐金「局。

【下牐】194 サカ 城門を閉ぢる。〔廣韻〕牐、下牐、閉二城門一也。

【下訓】195 サン 下民のそしり。〔白居易、得景爲二錄事參軍一刺史有二違法事一判〕既非二下訓一難レ抑二上聞一。

【下山】196 ザン 山をおりる。〔南史、隱逸、鄧郁傳〕足不レ下レ山、斷穀三十餘載。

【下山新】197 ヤマシン 越中國の地名。

【下士】198 シカ ❶士の、身分の最下のもの。士(3－5635)の字解を見よ。〔禮、王制〕諸侯之上大夫・卿・下大夫・上士・中士・下士、凡五等。〔孟子、萬章下〕中士倍二下士一、下士與二庶人在一レ官者一同レ祿。〔漢書、王莽傳中〕三百石曰二下士一。❷愚な人。〔老子、四十一〕下士聞レ道、大笑レ之。❸背の低い人。〔周禮、考工記、弓人〕下士服レ之。〔疏〕此上士・中士・下士、以二長者一爲二上士一、次者爲二中士一、短者爲二下士一。❹草野の士。〔張載、詩〕中朝方有レ道、下士實同レ休。❺賢士にへり下り交はること。〔吳志、孫和傳〕好レ學下レ士。

【下士】199 hsia⁴ shih⁴ 陸軍伍長に當る軍官。❼傭ジ 凡夫をいふ。〔瑜伽論〕無二自利他行一者、名二下士一。上士(1－13：326)の對。❽シカ 陸軍下位の士官、伍長・軍曹・曹長。下士官。

【下士官】199 クワシン 下士の❽に同じ。

【下子】200 カシ ❶碁石を下す。〔衞谷、寄二碁客一詩〕覆圖聞二夜雨一下子對二秋燈一。❷種子を播く。播種。〔范成大、詩〕種レ葵如レ種レ麥、隔歲已下レ子。❸hsia⁴ tzŭ³ 蟲などが子を產む。❹hsia⁴ tzŭ 回數をあらはす數詞。

【下仕】201 ソシモヘ 院・宮・親王・攝家などの下ざまの雜事を勤める女房。〔枕草子、六〕わらは二人、しもづかへよたりしてもて參る。

【下司】202 スゲ ひくく輕い役。したづかさ。下官。微官。卑官。賤職。〔枕草子、四〕常にだいばん所の人・げすなどに乞ひて。

【下市】203 hsia⁴ shih⁴ 其の日の最終の出來相場。引け相場。

【下阯】204 シカ 山のふもと。下趾(215)に同じ。〔史記、武帝紀〕禪二泰山下阯、東北肅然山、如下祭二后土一禮上。

【下使】205 シシ 使者の自稱。〔稱謂錄、欽差、下使〕書敍指南、使自稱、曰二得レ充二下使一。

【下枝】206 シカ 木の下の方のえだ。しづえ。しもつえ。したえだ。〔山海經、海外東經〕下有二湯谷一、湯谷上有二扶桑一、云云、水中有二大木一、九日居二下枝一、一日居二上枝一。

【下肢】207 シカ からだの臀リシ以下の稱。あし。上肢(1－13・341)の對。

【下肢筋】208 キン 下肢部に分布せる諸筋肉。

【下肢骨】209 コツ 下肢の骨骼。大腿骨・下腿骨・足骨より成る。

【下肢帶】210 タイ 軀幹と下肢とを連結する骨骼。腰帶。

【下思】211 オモヒ ❶心に祕めてあるおもひ。❷部下を憐むこと。

【下紙】212 ガシ 文書に張下げて、意見、又は理由などを認めたもの。附箋。

【下虎】213 シカ 臺の名。〔劉歆、遂初賦〕過二下虎一而歎息兮、悲二平公之作一臺。

【下虎聚】214 シカコシウ 地名。山西省襄垣縣の西。昔の銅鞮縣の地。〔漢書、地理志上〕上黨郡銅鞮云云、有二上虎亭一、下虎聚一。〔宋史、陳恩讓傳、廣順元年、與二都監向訓張仁謙等一云云、至二虎亭一。

【下趾】215 シカ 足。又、木の根もと。下阯。〔馬融、長笛賦〕秋潦漸レ其下趾兮。〔注〕善曰、爾雅曰、趾、足也、翰曰、趾、根也。〔沈約、霜來悲二落桐一詩〕上峯百丈絕、下趾萬尋懸。

【下視】216 シカ 高い處から見くだす。下瞰。〔墨子、非儒〕高拱下視。〔揚雄、甘泉賦〕攀二旋璣一而下視兮。〔舊唐書、王方慶傳〕山徑危險、石路曲狹、上矚駭レ目、下視寒レ心。

【下資】217 シシ 唐代の制度で、勳功を賞する第三級。上資(1－13：351)を見よ。

【下賜】218 シカ 陛下から下し賜はる。御下賜。

【下駟】219 シカ 劣等の馬。轉じて、下等の人及び物。又、自らを謙遜する語。〔史記、孫子傳〕孫子曰、今以二君之下駟一、與二彼上駟一、取二君上駟一、與二彼中駟一、取二君中駟一、與二彼下駟一、既馳三輩、而田忌一不レ勝而再勝、卒得二王千金一。〔宋書、顏竣傳〕議者言、互市之利在レ得レ馬、今棄二此所レ重、得二彼下駟一。〔李綱、荔支後賦〕漢貢南海、唐驛西川、皆荔支之下駟、乃並駕二乎中原一。

【下劑】220 シカ ❶周官の遂人が、下等の役法によつて民を集めること。劑は人役の帳簿。劑の上下は人數の多少による。鄉には上といひ、遂には下といふ。〔周禮、地官、遂人〕凡治レ野、以二下劑一致レ甿。〔注〕民雖レ受二上田中田下田一、及レ會レ之、以二下劑一爲レ率、謂二可任者家二人一。〔孫詒讓正義〕惠士奇云、六鄉役レ民以二上劑一、六遂役レ民以二下劑一、劑者、州里之役要、而司空之辟也、案、惠說是也、劑卽徒役之凡要、以二所任之多少一爲二上下一、故鄉師謂二之役要一、要、劑、名異而義同、云云、下劑致レ甿、謂下依二下等役法一、徵聚遂徒、輕二其力役一、以惠二遠也。❷ザイ 通じをつける藥。

【下次】221 シジ ❶下りやどる。くだり居る。〔國語、晉語四〕公以二二軍一下二次于陽樊一。❷其の後。次回。このつぎ。下回。〔宋史、兵志八〕並於二下次軍營一升塡。

【下耳】222 ニシモ 姓氏。〔姓名錄〕。

【下時】223 ジシ まつりのには。五時(1－257・463)を見よ。〔漢書、郊祀志上〕祭二黃帝一作二下時祭一。

【下貳】224 カジ 兩足。〔國語、晉語一〕上貳代舉、下貳代履。〔注〕下、足、履、步也。

【下周】225 シウ あまねく下に行き渡る。〔韓非子、揚權〕道者下周於事、因二稽而命一、與二時生死一。

【下失】226 hsia⁴ shih¹ 小便する。失は小便。

【下室】227 シシツ ❶內室。〔儀禮、既夕禮〕朔月若薦レ新、則不レ饋二于下室一。〔注〕下室、如二今內堂一。〔疏〕下室旣爲二燕寢一。❷牢獄に入ること。下獄。〔南史、江淹傳〕昔上將之恥、絳侯幽レ獄、名臣之羞、史遷下レ室。❸下賤の家をいふ。

【下日】228 hsia⁴ jih⁴ ❶次の日。翌日。あくる日。❷出勤せぬ日。非番の日。

【下日佐】229 タジモ 筑前國の地名。

【下濕】230 シツ 低く濕り氣のあること。又、其の土地。濕は又、溼・隰に作る。〔書、禹貢、傳〕下濕曰レ隰。〔漢書、馮立傳〕下濕病レ痺。〔後漢書、城陽恭王祉傳〕地勢下溼。

【下襲】231 ガシフサネ ❶束帶の時、半臂の下に着るもの。〔和漢三才圖會、衣服類、下襲〕按、攝家下襲、表綾以二白粉一張レ瑩二浮線綾之丸紋一、裏亦綾立菱之紋。❷したぎ。

【下沙】232 シサ 鎭の名。江蘇省南匯縣の西。一名、鶴沙。東は北二四竈港に對し、西は鹽鐵塘に接す。

【下車】233 ゲシヤ ❶車からおりる。〔禮、樂記〕未レ及下車一而封二黃帝之後于薊一。〔韓詩外傳、九〕於是太子再拜而後退、田子方遂不二下車一。〔後漢書、桓榮傳〕帝幸二其家一、問二起居一、入街下車。❷官吏が初めて任地に到ること。赴任。〔後漢書、循吏、劉寵傳〕自二明府下車一以來、狗不二夜吠一、民不レ見レ吏。〔李白、與二韓荊州一書〕昔王子師爲二豫章一、未二下車一、卽辟二荀慈明一、既下車、又辟二孔文擧一。〔書言故事大全、仕進類〕初到レ任、曰二下車之初一。❸葬るとき墓穴の中に入れる車。〔左氏、襄、二十五〕丁亥、葬二諸士孫之里一、四翼不レ躋、下車七乘。〔會箋〕下車、謂下納二壙中一者上也。❹hsia⁴ ch'ē 新來の妓女。

【下車泣罪】234 ゲシヤキフザイ 夏の禹王が罪人を見て車

を下りて泣いた故事。聖人が位に在れば罪人の出る道理は無いからである。〔說苑、君道〕禹出見二罪人一、下レ車問而泣レ之、云云、禹曰、堯舜之人、皆以二堯舜之心一爲レ心、今寡人爲レ君也、百姓各自以二其心一爲レ心、是以痛レ之也。〔王僧孺、與二何烱一書〕解レ網祝レ禽、下レ車泣レ罪。

【下車馮婦】235 ゲシヤヒヨウフ 血氣の勇。晉の馮婦が人の請ひにまかせて車から下り、臂をまくつて虎を打つた故事。〔孟子、盡心下〕晉人有二馮婦者一、善搏レ虎、卒爲二善士一、則之レ野、有レ衆逐レ虎、虎負レ嵎、莫二之敢攖一、望二見馮婦一、趨而迎レ之、馮婦攘レ臂下レ車、衆皆悅レ之、其爲レ士者笑レ之。

『下車灣市』236 カシヤワンシ 地名。湖北省監利縣の東南。西は大江に濱す。北に中車灣市・上車灣市があり、倶に大江の左岸。

【下射】237 カシヤ ❶射の禮を行ふ時の射手の一。上射(1－13‥368)の❶の對。〔儀禮、鄉射禮〕上射升レ堂、少左、下射升、上射揖、並行。❷下手な射方。〔唐書、禮樂志六〕凡射レ獸云云、左髀達二于右髃一爲二下射一。❸上方から下方に向つて射下すこと。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕榊原康政、起二土山一下二射城中一。

【下牀】238 hsia⁴ ch'uang² 床離れする。起きる。

『下牀荅拜』239 カシヤウタフハイ 後漢の樊英が病氣の時、其の妻が下婢をして見舞はせたところ、樊英が牀を下りて荅拜しようとした故事。〔後漢書、樊英傳〕潁川陳寔、少從レ英學、嘗有レ疾、妻遣二奴婢拜問一、英下レ牀將二荅拜一、寔怪而問レ之、英曰、妻、齊也、共奉二祭祀一、禮無レ不レ答、其恭謹若レ是。

【下庠】240 カシヤウ 古代の小學をいふ。又、左學といふ。大學を上庠(1－13‥371)又、右學(2－3250‥15)といふの對。〔禮、王制〕養二國老于上庠一、養二庶老于下庠一。〔注〕下庠、左學小學也、在二國中一。

【下相】241 カシヤウ 縣名。秦、置く。故城は江蘇省宿遷縣の西。相水の下流に在るから下相といふ。項羽は下相の人。又、三國の時、曹操が徐州を攻めて男女四十萬人を屠つた所。〔史記、項羽紀〕項籍者、下相人也、字羽。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、下相。

【下將】242 カシヤウ 最も戰略の拙い大將。〔淮南子、兵略訓〕下將之用レ兵也、博聞而自亂。

【下裳】243 カシヤウ ❶はかま。〔董越、朝鮮賦〕上衣則皆過レ膝、下裳則皆垂レ堂。〔孔平仲、君住詩〕哀哉中截錦繡段、上襦下裳各一半。❷したも。女が衣の下に着る裳。〔韓偓、晝寢詩〕撲レ紛更添香體滑、解レ衣唯見下裳紅。

【下殤】244 カシヤウ わかじに。八歲から十一歲までに死ぬものをいふ。夭死を長殤・中殤・下殤・無服之殤の四つに分けた、其の三番目。〔儀禮、喪服〕傳曰、年十九至二十六一爲二長殤一、十五至二十二一爲二中殤一、十一至二八歲一爲二下殤一、不レ滿二八歲一以下、皆爲二無服之殤一。〔禮、喪服小記〕下殤小功。

【下上】245 カジヤウ ❶或は上にし、或は下にする。〔詩、邶風、燕燕〕燕燕于飛、下二上其音一。❷下の上。上中下(1－13‥561)を見よ。〔書、禹貢〕厥田惟下上。〔漢書、古今人表〕下上・下中・下下。〔墨經、松〕無二膏油一而漫若二糖茸一然者、曰二糖松一、品惟下上。

【下城】246 シモゴスク 大隅國の地名。

『下城父』247 カジヤウフ 地名。安徽省蒙城縣の西北。〔史記、陳涉世家〕陳王之二汝陰一、還至二下城父一、其御莊賈殺以降レ秦。

【下情】248 カジヤウ ❶しもじもの樣子。人民の情況。又、人民の意思。民心。〔漢書、宣帝紀〕令下羣臣得丙奏二封事一、以知乙下情甲。〔班固、兩都賦、序〕或以抒二下情一、而通二諷諭一。❷微意。自分の心情をいふ謙辭。〔南齊書、豫章王嶷傳〕下情所二竊未一レ安。

『下情上通』249 カジヤウジヤウツウ しもじもの樣子なり意向なりがお上のものによく通ずること。下意上達。〔管子、明法〕下情求レ不二上通一、謂二之塞一。下情上而道止、謂二之侵一。〔日本政記、正親町天皇論〕天正五年、賴襄曰、上意下達、下情上通、歡然無レ閒、而天下治。

【下壤】250 カジヤウ 穀物のよく出來ない下等の地。〔管子、乘馬數〕故以二上壤之滿一、補二下壤之衆一。

【下借】251 カシヤク ゆるす。容赦する。假借(1－835‥79)の❷に同じ。〔後漢書、李充傳〕鄧隲貴戚傾レ時、無レ所二下借一。

【下若】252 カジヤク 酒の名產地。一に下箬に作る。下若酒を見よ。

『下若酒』253 カジヤクシユ 美酒の稱。下若は浙江省長興縣の若溪の一部の名。其の水で釀す酒。一名、若下酒。〔太平御覽、地部、江南諸水、若下水〕輿地志曰、南岸曰二上若一、北岸曰二下若一、乃村名也、村人取二若下水一以釀レ酒、醇美勝二于雲陽一。〔東坡集、注〕湖州有二若溪一、南岸曰二上若一、北曰二下若一、人取二下若水一、釀レ酒極美、俗稱二下若酒一。

【下手】254 カシユ ゲシユ ❶手をくだす。自分でやる。手をつける。著手する。〔唐律、鬪訟〕諸同謀共毆二傷人一者、各以二下手重者一爲二重罪一。〔傳燈錄〕若敎二某甲自射一、直是無二下レ手處一。〔揮麈三錄〕碑工李仲寧、太守使レ劖二黨籍姓名一、曰、不レ忍二下手一。❷カシユ 其の次の役人。あとのかかり。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕交二與下手欠數多者一。❸hsia⁴ shou³ ㋑右手。㋺次のもの。次の番のもの。㋩助手。手下。㋥後任の吏員。❹㋑ヘタ つたない。上手ジヤウズ(1－13‥389)の對。〔運步色葉集〕下手起二於碁一也。㋺シタテ 人にくだる。人のしたにつく。人後。㋩シモテ 下の方。下方。

『下手書』255 カシユシヨ 指形のわりてがた。畫指券。〔周禮、地官、司市〕以二質劑一結レ信而止レ訟、〔注〕質劑、謂二兩書一札而別レ之也、若二今下手書一。〔疏〕漢時下手書、卽今畫指券。

『下手人』256 ゲシユニン 自分で手をくだして人を殺した者。〔唐律、鬪訟、疏議〕被二傷殺一者、不レ知二下手人名一。〔明會典、刑〕孝宗弘治五年令、私自淨身者、幷下手之人處レ斬。〔六部成語、刑部、下手之人、注解〕動レ手傷レ人之凶犯。

【下主】257 カシユ 德の低い君。上主(1－13‥390)の❶の對。〔新書、連語〕下主者、可二以引而下一、不レ可二引而上一。

【下首】258 カシユ ❶下げた首。〔易、說卦〕其於レ馬也、爲二美脊一、爲二亟心一、爲二下首一。❷植物をいふ。動物を上首(1－13‥391)といふの對。〔大戴禮、曾子天圓〕曾子曰、天之所レ生上首、地之所レ生下首。〔孔廣森補注〕上首謂二動物一、下首謂二植物一。❸hsia⁴ shou³ しもて。〔水滸傳、三回〕李忠對席、史進下首坐了。

『下首裏』259 hsia⁴ shou² li³ 下座に。

【下酒】260 カシユ 酒のさかなにする。〔宋高宗、幸張府節略〕下酒第十四盞、水母膾、二色璽兒羹。

『下酒物』261 カシユブツ 酒のさかな。酒を甘く飲ませる義。〔遊仙窟〕少時桂心將二下酒物一至。〔中吳紀聞〕正獻見レ之、大笑曰、有二如レ此下酒物一、一斗誠不レ爲レ多也。

【下衆】262 ゲシユ ❶佛沙彌・沙彌尼・學法女・出家男・出家女・優婆塞・優婆夷をいふ。〔天台戒疏、上〕。❷スゲ ㋑賤しい者。賤民。上衆(1－13‥403)に對す。〔大和物語、四〕いとげすにはあらざりけれど。㋺賤しい。げびてゐる。

【下種】263 カシユ ❶たねをおろす。下子。〔致富奇書〕下レ種核宜レ排、子宜レ撒。❷スゲ 身分卑しい者。下司。下衆。

『下種根性』264 ゲスコンジヤウ 根性の甚だいやしいこと。

【下壽】265 カジユ 人の壽命を上・中・下の三段に分けた、最下の年齡。六十歲。一說に八十歲。上壽(1－13‥398)の❶を見よ。〔左氏、僖、三十二、疏〕下壽八十歲。〔左氏、昭、三〕三老凍餒。〔注〕三老、謂二上壽・中壽・下壽一、皆八十已上。〔疏〕上壽百年以上、中壽九十以上、下壽八十以上。〔莊子、盜跖〕人上壽百歲、中壽八十、下壽六十。〔故事成語考、老壽幼誕〕六十曰二下壽一。

【下儒】266 カジユ ❶術士をいふ。〔稱謂錄、術士、下儒〕漢書司馬相如傳、下儒、術士之類。❷つまらぬ學者。へつぽこ儒者。又、儒者の謙辭。〔羅隱、簡令生日詩〕自顧下儒何以祝、柱天功業濟時才。

【下從】267 カジユウ ❶殉死する。主の死に殉ずる。〔近古史談、豐篇、戶川肥後〕寡人且將レ入レ地、汝等能殉二於我一乎、皆曰、臣等受二君洪恩一、爲レ日久矣、今日下從、何敢辭。❷hsia⁴ tsung⁴ 供の人。從者。

【下宿】268 hsia⁴ su⁴ ❶㋑住む。宿る。㋺婚禮などの行列の人夫を、終日雇ひ定めること。❷ゲシユク ㋑奉公人又は宮仕へする者が、主人に暇を貰つて一時實家にもどり居ること。㋺食費・部屋代などを拂つて永く他家に寄寓する。又、其の家。

【下孰】269 カジユク 豐年を上・中・下の三等に分つた、第三番目。平年作の二倍。孰は熟。〔漢書、食貨志〕歲有二上中下孰一、上孰其收自四、餘二四百石一、

中孰自三、餘二三百石一、下孰自倍、餘二百石一。

【下熟】270 hsia⁴ shou² 江蘇省靖江縣地方で、春季に植ゑ、夏季に熟する棉・稻及び大豆の類をいふ。上熟(1—13・406)を見よ。

【下雋】271 カシュン 縣名。漢、置く。故城は湖南省沅陵縣の東北。〔漢書、地理志下〕長沙國、縣十三、下雋。〔後漢書、馬援傳〕援征二五溪一、軍次二下雋一。〔注〕下雋、縣名、屬二長沙國一、故城今辰州沅陵縣。

【下旬】272 ゲジュン 一箇月の末の十日。下浣。〔周禮、天官、太宰、前レ期十日、疏〕下旬之日。〔京氏易略〕三爻十日爲二下旬一。

【下純】273 カジュン ねまきの下部の縁。〔禮、深衣〕純二袂緣一、純レ邊、廣各寸半。〔注〕純、謂レ緣レ之也、緣袂謂二其口一、緣、緆也。〔疏〕緣、讀爲レ緆、謂二深衣之下純一也。

【下所】274 hsia⁴ suo³ 場所。とどけどころ。

【下書】275 hsia⁴ shu¹ ㊀文を屆ける。㊁シタガキ したがき。草案。〔心中萬年草、上〕下書書いて渡せしが。

〖下書人〗276 hsia⁴ shu¹ jen² 文を持つて行く人。

【下處】277 カショ ㊀旅館、又は休息の所。下宿のやど。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕應レ送二下處一、送二米麵下程一。〔兒女英雄傳、二十三回〕早有二張進寶等一、在二德勝關一帶一預備下二下處一。㊁hsia⁴ ch'u⁴ ㋑謁見の時、宮中で臣下の休息する所。㋺最下等の妓樓。

【下緒】278 サゲヲ 刀の鞘などに結び付けて下げる緒。〔東鑑、三十五〕寛元二年四月二十一日、御刀、鶴卷、在二下緒一。

【下舂】279 カショウ 夕日の沒せんとする頃。日の入り。日沒。〔淮南子、天文訓〕(日)至二于淵虞一、是謂二高舂一、至二于連石一、是謂二下舂一。〔注〕連石、西北山名也、言、將欲二冥下一、象二悉舂一、故曰二下舂一。

【下賸】280 hsia⁴ shêng⁴ のこり。剩餘。

【下鐘】281 hsia⁴ chung¹ 時をあらはす語。

【下乘】282 カジョウ ㊀足ののろい馬。駑馬。轉じて、下等な者に喩へる。〔陳琳、爲二曹洪一與二魏文帝一書〕園囿之凡鳥、外廐之下乘也。〔韓愈、爲レ人求レ薦書〕雖三日累二千萬人一、未レ爲三不材與二下乘一也。㊁道家の第三洞の教。神をいふ。〔雲笈七籤〕三洞合成二三十六部尊教一、第一洞、眞、爲二上乘一、第二洞、玄、爲二中乘一、第三洞、神、爲二下乘一。㊂佛 小乘をいふ。上乘(1—13・422)の㊂の㋺の對。〔世親攝論〕如是三歲、下乘上乘、有二差別一故、則成二二歲一。㊃ゲジョウ ㋑乘物から降りること。㋺乘打(ノリウチ)を禁ずる。〔和漢三才圖會、神祭佛具、下馬〕下乘、按、諸伽藍地、門傍竪二石或木一、書二下馬下乘等文字一、自レ此而內、乘二車馬一不レ可レ入之制禁也。㊄シタノリ 他人の馬を乘馴らす人。〔小笠原入道宗賢記〕。

【下剩】283 カジョウ 殘餘。のこり。剩餘。〔紅樓夢、二十五回〕下剩的我寫二個欠銀子文契一給レ儞。

【下色】284 カショク ㊀下等。〔宋史、食貨志上二〕其間下色之地、與二柴蕘之地一不二相遠一。㊁hsia⁴ sê⁴ 黑色。平民の着る衣服の色。㊂シタイロ ㋑下地の色。㋺末となつて衰へること。

【下昃】285 カショク 日の傾き下ること。日の暮れる時。〔春秋、定、十五〕戊午、日下昃、乃克葬。

【下食】286 カショク 下りてきて食ふ。〔史記、田單傳〕飛鳥悉翔二舞城中一下食。〔杜甫、晴詩〕下食遭レ泥去、高飛恨二久陰一。

〖下食滿〗287 シモケマ 攝津國の地名。

【下蜀】288 カショク 鎭の名。江蘇省句容縣の北。俗に官港といふ。京滬鐵路、之を通過す。〔宋史、虞允文傳〕以二苗定一駐二下蜀一爲レ援。〔明一統志〕下蜀港、在二江寧府上元縣東北一百里一、俗呼曰二官港一。

【下稷】289 カショク 日暮れ時。下昃(285)に同じ。〔穀梁、定、十五〕戊午、日下稷、乃克葬。〔注〕稷、昃也、下昃、謂二晡時一。

【下職】290 カショク いやしい職務。〔應璩、與二尚書諸郎一書〕運二籌帷幄一、顯二揚豐積一、豈久沈二滯于下職一、契二闊于貧悴一乎。

【下矚】291 カショク 見おろす。下瞰。〔韓愈、酬二司門盧四兄雲夫院長望秋一作詩〕樂遊下矚無二遠近一、綠槐萍合不レ可レ芟。

【下心】292 シタゴコロ ㊀心の底。心の中。〔枕草子、四〕下心にはいと嬉しけれど。㊁かねて心に期すこと。かねてのたくらみ。心がまへ。〔續狂言記、六地藏〕下心があつて申した事で御座る。

【下臣】293 カシン ㊀君に對する時のけらいの自稱。〔儀禮、士相見禮〕凡自稱二於君一、士大夫則曰二下臣一。〔左氏、宣、十五〕寡君有二信臣一、下臣獲レ考、死又何求。〔左氏、成、二〕下臣不幸、屬當二戎行一、無レ所二逃隱一。㊁上大夫の自稱。〔禮、玉藻〕上大夫曰二下臣一、云云、下大夫自名。〔疏〕上大夫、卿也、自於二己君之前一、稱曰二下臣一、云云、下大夫自名者、謂下對二己君一稱レ名而已上、不三敢稱二下臣一、卑遠二於卿一也。

【下伸】294 シタノビ 市場用語。相場が現在より以上に低落すること。

【下忱】295 hsia⁴ ch'ên² 微意。微衷。

【下身】296 カシン ㊀身をへりくだす。謙遜する。〔後漢書、明帝紀贊〕永懷二廢典一、下レ身遵レ道。㊁hsia⁴ shen¹ ㋑下半身。體の下部。㋺妓樓のやりて婆が下働きの傭女をいふ呼稱。㋩男子の陽物。

【下振】297 シタブリ 相場の安いこと。上振の對。

【下神】298 シモヅワ 伯耆國の地名。

〖下神代〗299 シモカウシロ 備中國の地名。

〖下神人〗300 シモジニン 下役の神職。

【下針】301 hsia⁴ chen⁴ 鍼醫が針を刺すこと。

【下人】302 カジン ㊀下部(シモベ)又は奴隸。げにん。〔摭言〕措大喫レ酒點レ鹽、下人喫レ酒點レ酢。㊁つまらぬ人。いやしい人。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕曾孫體近、下人乃關內侯。〔注〕師古曰、言、曾孫之身、於レ帝爲二近親一、縱其人材下劣、尙作二關內侯一。〔新書、修政語下〕有二上人者一、有二下人者一。㊂人にへりくだる。〔易、繫辭上〕語下以二其功一下レ人者上也。〔左氏、宣、十二〕其君能下レ人、必能信二用其民一矣。〔論語、顏淵〕慮以下レ人。㊃下土の人。天に對していふ。〔楚辭、王逸、招魂〕虎豹九關、啄二害下人一些。

【下水】303 カスイ ㊀水を流す。〔戰國、東周策〕東周欲レ爲レ稻、西周不レ下レ水。㊁流に順つて下る。〔水經、江水注〕其水並浚激奔暴、魚鼈所レ不レ能レ游、行者苦レ之、袁山松曰、自レ蜀至レ此五千餘里、下レ水五日、上レ水百日也。〔陸游、將レ至二京口一詩〕船頭坎坎回レ帆鼓、旗尾舒舒下レ水風。㊂hsia⁴ shui³ ㋑豚の五臟。㋺水に入る。水中へ下り行く。㋩花柳界で、妓女が新たに客に應ずるをいふ。水揚げ。初みせ。㊃ゲスイ 飲用水の上水に對して、汚水をいふ。又、其のみぞ。みづはき。

【下水船】304 カスイセン ㊀流を下る船。文書を作ることの敏捷な喩。唐の裴廷裕の故事。上水船(1—13・450)を見よ。〔摭言〕唐裴廷裕在二內廷一、文書敏捷、號二下水船一、梁太祖受レ禪、姚洎爲二學士一、上問及二裴廷裕一、對曰、向在二翰林一、號二下水船一、上曰、卿便是上水船也、洎有二慚色一、議者以レ洎爲二急灘頭上水船一。〔郡齋讀書志〕沈顏少有二詞藻一、琴棋皆臻レ妙、場中語曰二下水船一、言、爲レ文敏速、無レ不レ載也。㊁詞牌の名。〔能改齋漫錄〕廖明略與二晁无咎一同登科、明略所レ遊田氏、麗妹也、一日明略邀二无咎一、晨過二田氏一、田遽起、對レ鑑理レ髮、且盼、且語、草草妝扮、以與レ對レ客、无咎以二明略故有一レ意而未レ傳也、因賦二下水船一闋一、上客驪駒繫、驚喚銀屛睡起、云云。

【下水道】305 ゲスイダウ 下水のみぞ。排水溝。上水道(1—13・451)の對。

【下水流】306 シモツル ㊀日向國の地名。㊁薩摩國の地名。

〖下水禮〗307 hsia⁴ shui² li³ 船舶の進水式。

【下垂】308 カスイ 下にたれる。下遂。〔杜甫、朝二獻太清宮一賦〕九天雲下垂。

【下衰】309 カスイ 衰へる。〔莊子、繕性〕逮二德下衰一、及二燧人伏羲一、始爲二天下一。

【下遂】310 カスイ 下垂(308)に同じ。〔史記、扁鵲傳〕陽脈下遂、陰脈上爭、會氣閉而不レ通。

【下隧】311 カスイ 下り隨ふ。禮を以て卑下する。下遺に同じ。〔荀子、非相〕莫二肯下隧一、式居屢驕。〔注〕隧、讀爲レ隨。

【下遺】312 カズイ 謙虛にして禮を以て相卑下すること。下隧。〔詩、小雅、角弓〕莫二肯下遺一、式居婁驕。〔箋〕遺、讀曰レ隨、云云、今王不下以二善政一啓中小人之心上、則無下肯謙虛、以レ禮相卑下、先レ人而後レ己、用レ此自居處、斂二其驕慢之過一者上。

【下世】313 カセイ ㊀死ぬ。世を去り、下つて土中に入る。〔管子、大匡〕吾君卜世。〔纂詁〕卜、下字之壞、下世、謂レ死。〔曹植、三良詩〕秦穆先下世、三臣皆自殘。〔陸游、跋二鄭虞任昭君曲一文〕自二張文潛下世一、樂府幾絕。㊁下りての世。後世。

上世(1－13‥456)の對。〔商子、開塞〕下世貴レ貴而尊レ官。〔淮南子、泰族訓〕上世養レ本、而下世事レ末。❶下界。〔雲笈七籤〕度二寫妙形一、傳二流下世一。

【下世話】314 セワ 世俗のうはさ。又、世俗のよく口にする言葉。又、世諺。俗諺。〔春花五大力〕下世話でいふ智慧つけのため。

【下生】315 シヤウ 姓氏。〔姓林全書〕。

【下生子房】316 シヤウシバウ 蓐片・花冠より下方に著生する子房。下位子房。

【下制】317 カセイ 弓の長短の制で、六尺のものをいふ。上制(1－13‥461)を見よ。〔周禮、考工記、弓人〕弓長六尺、謂二之下制一。下士服レ之。

【下姓】318 カセイ 姓の卑いもの。姓の卑い家柄。〔江家次第、二、攝政時敍位〕諸官給、雖二下姓一敍二內階一。

【下牲】319 カセイ 常よりも格を降したいけにへ。例へば、天子諸侯の常祭には大牢を用ひるのを、凶年でもあれば、格を降して少牢を用ひるのを、凶禮、雜記下〕凶年則乘二駑馬一、祀以二下牲一。〔注〕下牲、少牢若特豕特豚也。〔疏〕祀以二下牲一者、諸侯常祭大牢、若凶荒則用二少牢一、大夫士各降二一等一、並用二下牲一也、云云、云二下牲、少牢若特豕特豚也一者、天子諸侯及天子大夫、常祭用二大牢一、若凶年、降用二少牢一、諸侯之卿大夫常祭用二少牢一、降用二特豕一、士常祭用二特豕一、降用二特豚一、如レ此之屬、皆爲二下牲一也。

【下齊】320 ❶下のすそ。もすそ。〔禮、深衣〕下齊如二權衡一、以應レ平。❷銅と錫の合金で、錫を多く含むもの。〔周禮、考工記、輪人〕攻金之工、築氏執二下齊一、冶氏執二上齊一。〔注〕多レ錫爲二下齊一、大刃、削殺矢、鑒燧也。❸書法の一。左右の兩部分から成る字の旁が少畫の時に、下端をそろへて書くこと。上齊(1－13‥472)の❷を見よ。

【下濟】321 カセイ 下に行きわたる。〔易、謙〕天道下濟而光明。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作詩〕宣遊弘二下濟一、翫レ遠凝二聖情一。

【下濟之恩】322 カセイノオン 下、人民に行きわたる恩惠。〔白居易、策林、三策尾〕垂二下濟之恩一。

【下聲】323 カセイ 低く大きな聲。〔周禮、春官、典同〕正聲緩、下聲肆。〔注〕下謂二鍾形大下一、下大也、下則聲出去、放肆。

【下梢】324 カセウ 結果。相當に纏まつた結末。終局。結局。〔朱子全書、論語〕曾子便是著實步步做二工夫一、到二下梢一方有レ所レ得。

【下焦】325 カセウ ❶臍の下、膀胱の上口に當るところ。〔史記、扁鵲傳〕三焦膀胱。〔注〕正義曰、下焦在二臍下一、當二膀胱上口一也。❷ゲンガル 心に思ひこがる。〔柿本集、上〕下焦れつつ我が戀ふらくは。

【下照】326 カセウ 下界を照す。下界に輝く。〔韓駒、送二倪巨濟將レ仕詩〕赤日下照烘二朝霞一、腹鳴肩擧氣喘吁。

【下石】327 カセキ ❶石をおとす。轉じて、人の困つてゐるものを、いやが上に苦しめること。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕落陷穽一、不二一引レ手救一、反擠レ之、又下二石焉一者、皆是也。❷ロオシ ㋑美濃國の地名。㋺姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【下石西】328 カセキセイ 州名。宋、置く。廣西省思樂縣の西。〔讀史方輿紀要、廣西、思明府〕石西州、本蠻峒地、唐置二石西州一、宋嘉祐間、分二置下石西州一、屬二永平砦一。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、下石西土州。

【下席】329 ❶席から下りる。人に敬意を表すること。〔說苑、政理〕景公乃下レ席而謝レ之。〔孔子家語、王言解〕曾子起下レ席而對曰、敢問、何謂二王者言一。〔南齊書、劉懷傳〕京師士子貴遊、莫レ不二下レ席受業一。❷下の席。下座。〔沈約、侍レ宴云應制詩〕飲和陪二下席一、論レ道光二上筵一。

【下積】330 シタヅミ ❶他の物の下に積むこと。又、其の物。〔釋迦如來誕生會、四〕先づ兩舌の婆將軍、汝們が死骸の下積み。❷船舶の吃水を深くする爲に、船底に積むもの。バラスト。❸犧牲になること。

【下襖】331 カオ 下に着る雨衣。〔梅堯臣、和二孫端叟寺丞農具一、襪襖詩〕上襪與二下襖一、青蓑苦二能織一。

【下折】332 ソリ 加賀國の地名。

【下拙】333 ゲセツ 自分を卑下していふ、謙遜の稱。〔傾城反魂香、上〕下拙ことは、狩野の四郎二郎元信と申すわづかの繪かき。

【下泄】334 ゲセツ 下に泄れる。腹くだり。〔史記、倉公傳〕故血下泄。〔高啓、答二余新鄭一詩〕舟中感レ瘧得二下泄一。

【下接】335 ❶下のものに接する。〔孔子家語、弟子行〕上交下接。❷hsia⁴ chieh¹ 饂飩屋で賣る麵の一種。

【下截】336 カセツ 下の方。下部。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕蓆下截有二損裂長縫一條一。

【下節】337 ❶節操の低いもの。〔韓非子、說難〕所レ說出二於爲二名高一者也、而說レ之以二厚利一、則見二下節一而遇二卑賤一、必弃遠矣。❷下のふし。〔元史、五行志二〕其上節云、天下太平、其下節云、天下刀兵。〔雲笈七籤〕蠟二封下節穿中一、而印以二五帝之音一。❸卑しい音曲。下曲。〔張協、雜詩〕陽春無二和者一、巴人皆下節。

【下妾】338 カセフ わらは。女が己を卑下していふことば。〔左氏、襄、二十三〕齊侯歸、遇二杞梁之妻於郊一、使レ弔レ之、辭曰、云云、下妾不レ得レ與二郊弔一。

【下睫】339 カセフ 下まぶたのまつげ。上睫(1－13‥458)を見よ。

【下摺】340 シタジリ 版のためしずり。試刷。

【下染】341 ソメシタ 染色法の一。二種以上の染料にて染色する時、兩者を混用し得ぬ場合には、先づ或る染料にて染め、次に他の染料にて染色する。前者を下染といひ、後者を本染、又は上掛といふ。〔和漢三才圖會、濕草類、紅花〕黃汁爲二絹布下染之用一。

【下泉】342 ❶流れくだるいづみ。〔詩、曹風、下泉〕洌彼下泉、浸二彼苞稂一。〔傳〕下泉、泉下流也。❷よみぢ。黃泉。〔劉峻、廣絕交論〕范張款二款於下泉一。〔白居易、思二舊詩一〕再思今何在、零落歸二下泉一。❸詩經、曹風の篇名。曹人が、共公の暴虐にして下民を害するを憫み、明王賢伯を思つて作る。〔詩、曹風、下泉序〕下泉、思二治也一。曹人疾二共公侵一刻下民一、不レ得二其所一、憂而思二明王賢伯一也。

【下泉人】343 ノカセンヒト 黃泉の人。死者。〔王粲、七哀詩〕悟彼下泉人、喟然傷二心肝一。

【下船】344 ゲセン 船から上がる。上陸する。〔日知錄、杏壇〕有二漁父者一、下レ船而來。

【下賤】345 ゲセン ❶いやしい。卑賤の者。〔春秋、襄、二十九、闍弑二吳子餘祭一、杜注〕闍守レ門者、下賤非レ士。〔新書、瑰瑋〕今雖二刑餘鬻妾下賤一、衣服得下過二諸侯一擬上天子。❷カセン 目下の人にへりくだる。〔易、屯〕以二貴下一賤、大得二民也。

【下賤猪狗】346 hsia⁴ chien⁴ chu¹ kou³ 人を罵る語。畜生奴。

【下遷】347 カセン 官等などが下位にうつる。〔史記、韓長孺傳〕後稍斥疏下遷。〔唐書、韓愈傳〕數黜レ官又下遷。

【下傔】348 ソ 下に向ふ。地に向ふ。傔は向ふこと。〔陸機、演連珠〕是以寸管下傔、天地不レ能以レ氣欺一。〔注〕濟曰、傔、向也。

【下走】349 ソウ ❶自分を謙遜していふことば。走は走卒。やつがれ。下奴。下僕。〔漢書、蕭望之傳〕下走、將レ歸二延陵之墓一。〔注〕師古曰、下走者、自謙言二趨走之役一也。〔阮籍、奏記詣二蔣公一〕開府之日、人人自以爲二掾屬一、辟書始下、下走爲レ首。〔注〕善曰、走、僕也。❷車から下りて走る。〔韓非子、外儲說左上〕以二煩且之良、而驅子韓樞之巧一、而以爲レ不レ如二下走一也。〔韓非子、外儲說右上〕今釋二車輿之利一、捐二六馬之足一、與二王良之御一、而下走逐レ獸、則雖二樓季之足一、無二時及レ獸矣。

【下層】350 ❶下の階段。❷下方の階級。

【下足】351 ❶走ることの遲い馬。〔史記、孝文紀、置傳、注〕索隱曰、如淳云、下足爲二乘置一。❷微賤の人。又、鄙賤の人を罵る語。〔直語補證〕下足、微賤之稱、傳燈錄、黃蘗云、擧足卽佛、下足卽眾生。❸㋑脫ぎすてたはきもの。又、下足番・下足料の略。㋺足をさげること。〔謠曲、卷絹〕高足下足の舞の手を盡し。

【下則】352 ソク 下等の田賦をいふ。〔皇朝通典、食貨、賦稅上、田賦〕田賦有レ二、曰民田、曰屯田、皆分二上中下三則一。

【下屬】353 ソク 下につらなる。〔漢書、司馬相如傳上〕罷池陂陁下二屬江河一。〔謝朓、遊二敬亭山一詩〕上干蔽二白日一、下屬帶二迴谿一。

【下尊】354 ソン 下等な酒。

【下駄】355 ゲタ 鼻緒をすげて足にはく木製の履物。❶木をくりぬいて齒を作りつけにしたもの。駒下駄。ぼくりげた。〔物類稱呼〕中國にて、ぼくり又はぶくりと云物は江戸にていふ下駄のこ

となり。❶ひらあしだ。足駄の歯の低いもの。〔義經記、三、書寫山炎上事〕片頬には、書寫法師の下駄にはく、と書きて。

【下墮】356 ゲダ 落ちる。〔漢書、武五子、燕剌王傳〕流星下墮、后姬以下皆恐。

【下胎】357 ゲタイ 墮胎する。又、流産する。〔古今圖書集成、藝術典、醫部、婦人臨産門〕蟹爪散、下レ胎極效、姙娠有レ病、欲レ去胎者、宜レ此。

【下帶】358 シタオビ ❶ふんどし。こしまき。〔好色盛衰記、二〕これぞ下帶の錦、人の見ぬ事に結構を盡くし。❷サゲオビ 古、婦人の禮服に用ひたおび。〔持統天皇歌軍法、一〕錦の下げ帶二筋取り出ださせ給ひ。

【下帶祝】359 シタオビノイハヒ 昔、男子が成長して初めて下帶をつける時の祝。

【下逮】360 ゲタイ 下々にまで及ぼす。〔庾肩吾、謝二東宮賚一檳榔一啓〕登二玉案一而上陳、出二珠盤一而下逮。〔眞德秀、謝二丞相一啓〕隆恩下逮。

【下腿】361 カタイ 下肢の下部で、膝と足との間の部分。

【下腿筋】362 カタイキン 下腿部の筋肉。

【下腿骨】363 カタイコツ 下腿部の骨骼。脛骨と腓骨とより成る。

【下體】364 ゲタイ ❶からだの下部。植物では根と莖とをいふ。〔詩、邶風、谷風〕采レ葑采レ菲、無レ以二下體一。〔傳〕下體、根莖也。〔李白、秦女卷衣詩〕願君采二葑菲一、無レ以二下體一妨。❷身をかがめる。節を屈する。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕欲レ卑レ身下レ體兮、心隱側而不レ置。❸陰部をいふ。〔漢書、五行志中之上〕時則有二下體生一上之痾一。

【下體骨】365 hsia⁴ t'i³ ku³ かぶら骨。

【下台】366 ゲダイ 星の名。三台(1－12‥1205)の❶を見よ。〔晉書、天文志上〕東二星曰二下台一、爲二司祿一。

【下第】367 ゲダイ ❶試驗に落第する。〔後漢書、獻帝紀〕試二儒生四十餘人一云云、下第者罷之。〔舊唐書、劉貴傳〕李部謂レ人曰、劉貴下第、我輩登科、實無二厚顏一矣。〔姚合、送二崔約下第歸一楊州一詩〕春風下第時稱レ屈、秋卷呈レ親自東歸。〔宋史、蔡幼學傳〕歲允文尤惡レ之、遂得二下第一。❷試驗の成績が劣等なもの。劣等生。〔晉書、杜預傳〕每歲言二優者一人爲二上第一、劣者一人爲二下第一。〔晉書、石勒載記下〕答策上第者拜二議郎一、中第中郎、下第郎中。❸hsia⁴ t'i² 控邸。しもやしき。

【下桃】368 カタウ 城の名。陝西省南鄭縣の東。南朝宋の元嘉中、梁州の刺史蕭思話が楊難當を討つた時、難當の將、薛健と蒲甲子とが退いて此の城を守つた。〔南齊書、高帝紀上〕薛健退屯二下桃一。

【下趟】369 hsia⁴ t'ang⁴ 次回。此の次ぎ。〔城〕。

【下輪】370 hsia⁴ t'ang⁴ 次回。他日。此の次ぎ。

【下盪】371 ゲタウ ❶下にいたる。〔鬼塚志〕日光下盪、雲氣上溫。❷hsia⁴ t'ang⁴ 次回。このつぎ。下輪。下趟。

【下堂】372 ゲダウ ❶堂から下る。〔禮、郊特牲〕天子不レ下レ堂而見二諸侯一。❷妻を離縁する。〔後漢書、宋弘傳〕貧賤之交不レ可レ忘、糟糠之妻不レ下レ堂。❸hsia⁴ t'ang² ㋑教室を出る。㋺役所からさがる。㋩官吏が執務を了る。

【下道】373 ゲダウ ❶ぬけみち。間道。〔左氏、莊、九〕秦子梁子、以二公旗一避二于下道一。❷hsia⁴ tao⁴ 惡い道。❸シモツミチ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【下達】374 ゲタツ ❶惡い方へとおもむく。財利に達する。〔論語、憲問〕子曰、君子上達、小人下達。〔集注〕小人徇二人欲一、故日究二乎汙下一。〔疏〕末爲レ下、謂二財利一也。❷私事を以て君に通ずること。〔禮、表記〕子曰、事二君不一レ下レ達。❸媒介者を通して、壻の家から嫁の家へ結婚を申込むこと。〔詩、周南、漢廣、疏〕昏禮下達、納采用レ鴈。〔儀禮、士昏禮〕下達納采用レ鴈。〔注〕達、通也、將二欲與一レ彼合一昏姻一、必先使二媒氏下一通其言一。〔南齊書、武帝紀〕婚禮下達、人倫攸レ始。❹下は云云に達する。〔張昔、御注孝經臺賦上奏〕君德、下達二人情一。❺上の人の意向が下の人によく理會されること。上意下達(1－13‥3)を見よ。

【下沓】375 シタグツ 束帶の時、靴の下に用ひる、帛で作つた足袋の如きもの。したうづ。襪。〔和漢三才圖會、履襪類、襪〕今云二之太宇豆一、按、襪、下沓也、官家足衣也。

【下榻】376 ゲタフ ❶賓客を迎へ留める喩。後漢の陳蕃が、郡内の高士周璆の爲に特に一つの腰かけを用意した故事。榻は腰かけ。〔後漢書、陳蕃傳〕那人周璆高潔之士、前後郡守招命、莫二肯至一、唯蕃能致焉、字而不レ名、特爲置二一榻一、去則縣レ之。〔後漢書、徐穉傳〕蕃在レ郡不レ接二賓客一、唯穉來特設二一榻一、去則縣レ之。〔沈約、和二謝宣城一詩〕賓至下塵榻、憂來命二綠尊一。〔王勃、滕王閣序〕徐孺下二陳蕃之榻一。❷家庭教師が家庭に入つて宿泊する。投宿する。〔桃花扇、闖榭〕我二人不レ回レ寓、就下二榻此間一了。

【下端】377 タン 下のはし。〔晉書、衞恆傳〕似二水露絲絲凝垂一下端一。

【下段】378 ゲダン ❶したのだん。〔蟬丸、四〕持佛の下段の戸を押しあけ。❷刀、又は槍を低く構へて相手に對すること。〔川中島合戰、三〕下段に來るを木履の齒にてはつしと踏み止め。

【下灘】379 ゲタン ❶早瀬を下る。下瀨。❷hsia⁴ t'an¹ 海水に近い鹽田。

【下地】380 チ ❶土地。地面。上天(1－13‥593)の❶の對。〔書、金縢、用能定二爾子孫于下地一、〔國語、楚語下〕重實二上天一、黎實二下地一。〔宋書、天文志序〕去二其下地一八萬里矣。❷下等な地。〔周禮、地官、小司徒〕下地家五人、可レ任也者二人。〔管子、乘馬〕下地方百二十里。❸hsia⁴ ti⁴ 地面に下り來る。❹シタジ ㋑下準備。下ごしらへ。㋺醬油の異名。〔皇都午睡、三編上〕。

【下地獄】381 hsia⁴ ti⁴ yü² ❶地獄へ落ちてゆく。❷入獄する。

【下地方】382 hsia⁴ ti⁴ fang 娼妓となる。又、遊廓。

【下雉】383 チチ 縣名。漢、置く。湖北省陽新縣の東南。〔漢書、地理志上〕江夏郡、縣十四、下雉。

【下馳】384 チ はせ下る。〔揚雄、甘泉賦〕陳二衆車於東阮一兮、肆二玉軑一而下馳。

【下知】385 ゲヂ ❶下の者に知らせる。號令する。命令する。〔三代實錄、十一〕貞觀七年十一月十七日、下二知東海・東山・北陸・山陰・南海道一、依レ件行レ之。〔日本政記、陽成天皇〕元慶二年、宜下二知牧宰、細校依レ實、言上上。❷鎌倉・室町時代に裁判の判決、及び判決文をいふ。〔庭訓往來、八月〕就二探題意見一所レ加二下知一也。

【下知狀】386 ゲヂジヤウ 一種の公文書。封建時代に、公事奉行が將軍の命令を奉じて之を下民に知らせる文書。〔雍州府志、古蹟門、上〕自レ古有二綸旨及御教書下知狀一、職事勤レ之。〔を見よ。

【下晝】387 ゲチウ 下半日。午後。上晝(1－13‥549)

【下晝點心】388 hsia⁴ chou⁴ tien³ hsin¹ 晝後の間食。點心は茶菓子の類。

【下祟】389 ゲスイ めかけ。妾御。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕逐二下祟於後堂一兮。〔注〕下祟、謂二妾御一也。〔補注〕集韻、祟、音秩、祭有レ次也。

【下秩】390 チツ 低い位。〔後漢書、馮衍傳贊〕體兼二上才一、榮微二下秩一。〔劉太眞、房州刺史杜府君碑〕優二游下秩一、想二象高冥一。

【下茶】391 ゲチヤ 結婚の時、禮物として贈る茶。喫茶。〔茶疏〕茶不レ移レ本、植必生レ子、古人結婚、必以レ茶爲レ禮、取下其不レ移二植子一之意上也、今人猶名二其禮一曰二下茶一、亦曰二喫茶一。〔還魂記、硬拷〕我女已亡故二年一、不二說到納采下茶一。

【下町】392 シタマチ ❶低い處にある町。〔狂言記、長光〕此の櫛拂はいくらぞ、やあ下町も高いが、上の町も高いまでい。❷東京で、淺草・下谷・神田・日本橋・京橋・芝・深川・本所等、低地に在つて商家などの多い繁華な町をいふ。山の手の對。

【下場】393 ゲバ ❶終りの方。〔長生殿、私祭〕風流陡然沒二下場一。❷下のならび。下の位。〔劉楨、遂志賦〕翼二僊父于上列一、退二仄陋于下場一。❸hsia⁴ ch'ang² ㋑試驗を受ける。㋺舞臺から見て右方の場所。㋩職務から去る。爲すべきことを爲さぬ。㋥結末をつける。成りゆき。㋭賣買物件の單位。取引用語。

【下場詩】394 hsia⁴ ch'ang² shih¹ 戲曲に用ひる詩。渡り臺詞の類。南曲では優人が幕の終りに舞臺から下りる時、唱ふ詩句をいふ。下場對。上場詩(1－13‥559)を見よ。〔琵琶記、副末開場、下場詩〕極二富極一貴牛丞相、施二仁施一義張廣才、有二貞有一烈趙眞女、全二忠全一孝蔡伯喈。

【下場人】395 hsia⁴ ch'ang² jen² 其の地位、又は職務から去つた人。退場した人。

【下場對】396 hsia⁴ ch'ang² tuei⁴ 下場詩に同じ。

【下場白】397 hsia⁴ ch'ang² pai² 俳優が、舞臺を退く時のせりふ。

【下著】398 シタギ 上衣の下に著る衣。〔和漢三才圖

會、衣服類、大帷）大帷之小者、名二汗衫一、共官家之下著也。

【下中】399 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄨㄥ 下品のうちの中位。上中下（1－13：561）を見よ。（墨經、松）無二膏油一而類レ杳者、曰二李松一品惟下中。

【下忠】400 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄨㄥ 一番、劣る忠義。（韓詩外傳、四）有二大忠者一、有二次忠者一、有二下忠者一。

【下注】401 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄨˋ ●下文の注。下方にある注の文。（詩、召南、鵲巢序、釋文）行、下孟反、下注同。●下に注ぐ。（潘尼、苦雨賦）雨紛射而下注兮、潦波湧而横流。●hsia⁴ chu⁴ 賭場のはり方。

【下廚】402 ㄒㄧㄚˋ ㄔㄨˊ 戰國、齊の孟嘗君が下等の食客に給した食膳。（稱謂錄、廚、下廚）列士傳、孟嘗君食客三千、廚有二三列一、上客食レ肉、中客食レ魚、下客食レ菜、有二乞レ食人馮煖一、經レ冬無レ袴而有二饑色一、願レ得二下廚一。

【下女】403 ㄒㄧㄚˋ ㄋㄩˇ ●身分の低い女。在野の賢人の喩。（楚辭、離騷）及二榮華之未レ落兮、相二下女之可レ詒。（注）祝二天下賢人一。●一番、働きのない女。（管子、揆度）上農挾レ五、中農挾レ四、下農挾レ三、上女衣レ五、中女衣レ四、下女衣レ二。●ㄍㄨˋ めしつかひの女。はしため。下婢。（東鑑、一）治承四年、八月十七日、此男日來、嫁二殿內下女一。

【下直】404 ㄒㄧㄚˋ ㄓˊ ●宿直の終ること。（翰林志）學士每二下直一、謂二之小三昧一、及二出銀臺門一上レ馬、謂二之大三昧一、言、去二纏縛一、就二解脫一也。（鮑防、元日早朝行）文昌隨彩禮樂正、太平下直旌旗紅。●ㄍㄜˋ やすね。安値。廉價。（狂言記、末廣がり）そのような下直な物ではない。

【下直筋】405 ㄒㄧㄚˋ ㄓˊ ㄐㄧㄣ 下向させる筋肉。

【下直根】406 ㄒㄧㄚˋ ㄓˊ ㄍㄣ 羽後國の地名。

【下陳】407 ㄒㄧㄚˋ ㄔㄣˊ したのならび。下列。後列。轉じて、宮女の居る室。後宮。（戰國、齊策）狗馬實二外廐一、美人充二下陳一。（晏子、不合經術者）願得二入レ身比二數於下陳一焉。（李斯、上二書秦始皇一）以飾二後宮一、充二下陳一。（注）善曰、下陳、猶二後列一也、銑曰、陳、列也。

【下鎭】409 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄣˋ ●上・中・下三等の藩鎭中の最下のもの。（舊唐書、職官志二）凡天下上鎭二十、中鎭九十、下鎭一百三十五。●沈むこと。沈下。（庾信、終南山義谷銘）夢廓上浮、崢嶸下鎭。

【下塵】410 ㄒㄧㄚˋ ㄔㄣˊ ●風に吹かれて來るほこり。下風（521）の●に同じ。しもて。承二下塵一を見よ。●ㄍㄥˋ 界の塵境。俗事。俗界をいふ。（釋門歸敬儀）生身不二徒委一於下塵一。

【承二下塵一】411 ㄔㄥˊ ㄒㄧㄚˋ ㄔㄣˊ ㄨㄣˇ 後陣に居る。下手に居る。（戰國、楚策）敝甲鈍兵、願承二下塵一。

【下墜】412 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄨㄟˋ 降り落ちる。墜落。（嵇康、琴賦）天吳踊レ躍於重淵一、王喬披レ雲而下墜。（注）向曰、披雲而下來聽レ之也、墜、落也。

【下縋】413 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄨㄟˋ 繩につけておろす。（洞天清錄）箏火下縋方得レ之。

【下通】414 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄨㄥ 下に通ずる。（漢書、五行志上）上陽施不二下通一。

【下丁】415 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄥ 越前國の地名。

【下定】416 hsia⁴ ting⁴ 賣買の約束が出來て手付金を渡すこと。又は結婚の約束が成立して結納を送ること。

【下定禮】417 hsia⁴ ting⁴ li³ 結納の式をする。

【下停】418 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄧㄥˊ 人相術で、足をいふ。又、鼻下から地閣に至る迄をいふ。三停（1－12：1309）を見よ。（照膽經、上、三停所主）眉上至二髮際一爲二上停一、眉下至二準頭一爲二中停一、鼻下至二地閣一爲二下停一。（神相全編、麻衣金鎖賦）下停短兮上停長、必爲二幸相一侍二君王一。

【下碇】419 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄧㄥˋ 碇泊する。篙（ふなざを）で船を止めて碇泊すること。（新方言、釋器）今杭越間、繫レ船不レ以二纜索一、其船首有二一孔一、用レ篙插入、謂二之下鼎一、俗字作レ椗。

【下程】420 ㄒㄧㄚˋ ㄔㄥˊ ●下る時間。（陸游、宿二武連縣驛一詩）野店風霜似裝早、縣橋燈火下程遲。●餞別。はなむけ。（長生殿、進果）下程酒飯。（福惠全書、雜課部、蘆課）下程茶果、與二夫眼隨酒食一。

【下碇】421 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄧㄥˋ 錨をおろす。投錨。碇泊する。下碇稅を見よ。

【下碇稅】422 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄧㄥˋ ㄕㄨㄟˋ 船の碇泊した時に取る稅金。（唐書、孔戣傳）戣拜二嶺南節度使一、蕃舶泊步有二下碇稅一、始至有二閩貨宴一所レ餉犀琲、下及二僕隸一幾禁絶無レ所二求索一。

【下貂】423 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄧㄠ 武藏國の地名。

【下條】424 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄧㄠˊ 下の箇條。上條（1－13：590）の●及び中條（1－73：636）の對。（禮、王制、凡執レ技論レ力、疏）下條論二執技之人一不レ得二更爲一レ事、以二其賤一、故不二與レ士齒一。

【下徹】425 ㄒㄧㄚˋ ㄔㄜˋ 物の底までとほる。（柳宗元、至二小丘西小石潭一記）日光下徹、形布二石上一。

【下帖】426 hsia⁴ tieh² 招待狀を送る。案內狀を發する。

【下店】427 hsia⁴ tien⁴ 宿をとる。旅店に着く。

【下展】428 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄢˇ 黃河の水が沿岸に次第に漲ること。上展（1－13：598）を見よ。

【下轉】429 ㄒㄧㄚˋ ㄓㄨㄢˇ 倒流轉をいふ。本來具へてゐる佛性（さとり）が迷に覆はれて、心がとらはれのはからひをすること。又、佛が下に向つて衆生を教化すること。上轉（1－13：600）の對。（釋摩訶衍論、二）諸染法有レ力、諸淨法無レ力、背二本下轉一、名爲二下轉門一、諸淨法有レ力、諸染法無レ力、向二原上上轉一、名爲二上轉門一。

【下田】430 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄧㄢˊ ●地味の惡い田。上田（1－13：602）の●の對。（呂覽、上農）下田、夫食二五人一。（漢書、食貨志上）民受二田一、上田夫百畝、中田夫二百畝、下田夫三百畝。●山下の田。（漢書、溝洫志）高田五倍、下田十倍。（謝靈運、田南樹レ園激レ流植レ援詩）靡迤趨二下田一、迢遞瞰二高峯一。●ㄙㄚ 越中國の地名。

【下杜】431 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄨˋ ●城の名。陝西省長安縣の南。故の杜縣の西。杜陵の下の聚落であつたから名づく。（漢書、宣帝紀）尤樂二杜鄠之間一、率常在二下杜一。（水經、渭水注）渼水又西北逕二下杜城一、卽杜伯國也。●長安城の覆盎門。

【下都】432 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄨ ●地上に在る天帝の都。（山海經、海內西經）海內崑崙之墟在二西北一、帝之下都。●地名。今の洛陽の故城。周の敬王が都を徙した所。河南省洛陽縣の東。（讀史方輿紀要、河南、河南府）敬王以二子朝之亂一、出居二狄泉一、晉定公使二魏舒率二諸侯之大夫一、會於狄泉一、城レ之而居二敬王一、卽下都也。

【下土】433 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄨˇ ●大地。下界。上天（1－13：598）の●の對。（詩、邶風、日月）日居月諸、照二臨下土一。（詩、小雅、小明）明明上天、照二臨下土一。（墨子、明鬼下）下土之葆。（漢書、魏相傳）執レ繩司二下土一。●低い土地。低地。（書、禹貢）厥土惟壤、下土墳壚。（蔡傳）其土有二高下之不一同、故別二言之一。●鄙野の地方。（漢書、劉輔傳）新從二下土一來、未レ知二朝廷體一。

【下土師】434 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄨˇ ㄕ 常陸國の地名。

【下奴】435 ㄒㄧㄚˋ ㄋㄨˊ ●めしつかひ。しもべ。●己を卑下していふ。やつがれ。下僕。下走。●人を罵つていふ。そやつ。

【下投】436 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄡˊ 茶を先に入れて、後に湯をさすこと。（和漢三才圖會、味果類、茗）茶湯、凡投二茶于器一有レ序、先レ茶後レ湯、謂二之下投一。

【下投彈】437 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄡˊ ㄉㄢˋ 飛行機より投下する爆彈等。

【下等】438 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄥˇ わるいしな。ひくいくらゐ。劣等。（周禮、秋官、司儀）侯伯於二中等一、子男於二下等一。

【下等人】439 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄥˇ ㄖㄣˊ 言行の修まらぬ人。品性下劣の人。（小學、嘉言）言不二忠信一、下等人也、行不二篤敬一、下等人也、過而不レ知レ改、下等人也、悔而不レ知レ改、下等人也。

【下等植物】440 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄥˇ ㄓˊ ㄨˋ 組織の極めて簡單な植物。隱花植物など。

【下等動物】441 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄥˇ ㄉㄨㄥˋ ㄨˋ ●組織の極めて簡單な動物。●品性の極めて劣つた人を罵るときに用ひる。

【下頭】442 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄡˊ ●頭をさげる。（劉克莊、白社逆客詩）送迎不レ是祠官事、偶見青山一急下レ頭。●下方。下部。（丹元子、步天歌）天倉六箇婁下頭、天廚二星食東腳。

【下童】443 ㄒㄧㄚˋ ㄊㄨㄥˊ 雜役に從ふ兒童。（源氏物語、蜻蛉）かしこに侍りけるしもわらはの。

【下德】444 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄜˊ 下等の德。上德（1－13：621）の對。（老子、三十八）下德爲レ之、而有二以爲一（莊子、盜跖）聚二衆率一レ兵、此下德也。

【下讀】445 ㄒㄧㄚˋ ㄉㄡˋ ●人の前で書を讀み又は講ずるに當つて、豫め調べておくこと。下見。●或る場所にて卽座の作として發表せんが爲、豫め歌などを詠んで置くこと。下詠。（和泉流狂言、萩大名）萩を見に行くとあつて、歌の下讀をして置

かれたを。

【下黷】446 カトク 下が、けがれ亂れること。〔陸機、漢高祖功臣頌〕茫茫宇宙、上墋下黷。〔王巾、頭陀寺碑文〕淳源上派、澆風下黷。

【下男】447 ゲナン 召使ひのをとこ。下僕。

【下入】448 hsia⁴ ju⁴ 積み込む。

【下乳】449 hsia⁴ ju³ 子女が生れて一箇月以内に、友人親戚が鷄卵・麵類などを産婦に贈ること。

【下年】450 カネン ❶次の年。來年。後年。〔元史、河渠志〕今秋收成、下年農隙擧行。〔福惠全書、莅任部、査交代〕在者實在、謂下解給所レ存、在レ庫爲二下年舊管一者上。❷道家の語。六・七十歳の者をいふ。上年(1－13・・628)の❷を見よ。

【下農】451 カノウ 下等の農夫。上農(1－13・・629)の❶の對。〔禮、王制〕下農夫食二五人一。〔管子、揆度〕下農挾レ三。

【下濃】452 スソゴ 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【下巴】453 hsia⁴ pa¹ 頷。あぎと。あご。

【下巴頦兒】454 hsia⁴ pa¹ k'ê¹ êrh 下巴に同じ。

【下爬】455 hsia⁴ p'a¹ 下巴に同じ。

【下馬】456 ゲバ ❶馬からおりる。下乘。〔南史、傅永傳〕上レ馬殺レ賊、下レ馬作二露布一。〔唐書、薛仁貴傳〕仁貴脫二兜鍪一見レ之、突厥下レ馬羅拜、遁去。❷官吏などが任地に到着すること。下馬威を見よ。❸劣つた馬。下等の馬。〔馬寮式〕細馬十疋、中馬五十疋、下馬二十疋。❹乘りいれを禁ずること。下乘。〔和漢三才圖會、神祭佛具、下馬〕下乘、按、諸伽藍地、門傍竪二石或木一、書二下馬下乘等文字一、自レ此而内、乘二車馬一不レ可レ入之制禁也。

【下馬威】457 ゲバヰ 官吏が初めて任地に到つた時、嚴法を用ひて屬吏等を處置すること。〔李漁、蜃中樓傳奇〕取二家法一過來、待三我賞二他個下馬威一。

【下馬札】458 ゲバフダ それから内へ馬の乘り入れを禁ずるしるしに建てた札。

【下馬酒】459 hsia⁴ ma² chiu³ 歡迎の宴。下馬の❷を見よ。

【下馬石】460 ゲバセキ 馬から降りるに用ひる石。上馬石(1－13・・636)を見よ。

【下馬仙】461 ゲバセン 藥草の名。たかとうだい。大戟(3－5831・・667)の異名。〔本草、大戟〕釋名、下馬仙、時珍曰、其根辛苦、戟二人咽喉一、故名、今俚人呼爲二下馬仙一、言二利レ人甚速一也。

【下馬牌】462 ゲバハイ 陵又は廟の入口に建てた下馬札。〔淸會典、工部、屯田淸吏司、昭西陵、注〕東西下馬石牌各一。

【下馬板】463 ゲバイタ 下馬札に同じ。〔季瓊日錄、寛正六年六月二十二日〕門前馬臺前下馬板、自二鹿苑院龍崗和尙一使三集箴首坐書二下馬大字一重揭二示之一。

【下馬飯】464 hsia⁴ ma³ fan⁴ 歡迎の宴。下馬の❷を見よ。

【下馬碑】465 ゲバヒ 廟門に立てた下乘の石碑。明代に始まる。

【下馬評】466 ゲバヒヤウ ❶德川時代、江戸城の下馬札のあたりで、下々の者が將軍などの批評をしたこと。又、其の評判。❷しろうと批評。門外漢の批評。

【下馬陵】467 ゲバリヨウ 地名。陝西省長安縣城の南。もと、漢の董仲舒の墓があつた。門人が通り過ぎる時、皆馬を降りたからかくいふ。後、訛して蝦蟆陵といふ。〔國史補〕董仲舒墓、門人過、皆下レ馬、故謂二之下馬陵一、後人語訛爲二蝦蟆陵一。

【下馬威風】468 hsia⁴ ma³ wei¹ fêng¹ 官吏などが初めて下僚に威嚴を示すこと。下馬威を見よ。

【下拜】469 カハイ ❶下座で拜する。又、堂を下つて拜すること。〔左氏、僖、九〕齊侯將二下拜一、孔曰、且有二後命一、天子使二孔曰一、以二伯舅耋老一、加勞賜二一級一、無二下拜一。〔史記、孟嘗君傳〕馮驩結レ轡下拜。〔後漢書、陳元傳〕留二思聖埶一、眷二顧儒雅一、採二孔子下拜之義一、卒二淵聖獨見之旨一。❷馬・輿等の乘物から下りて拜禮を行ふこと。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕公每レ過必下拜。

【下配】470 hsia⁴ p'ei⁴ すそわけ。分配してやる。

【下輩】471 カハイ ゲハイ しもざまの者。下等の人。〔史記、灌夫傳〕稠人廣衆、薦二寵下輩一、士亦以レ此多レ之。〔元稹、戒二勵風俗一德音〕小則綜覈之權、見レ侵二于下輩一。

【下方】472 カハウ ❶したのかた。下部。〔史記、龜策傳〕寫二取龜卜事一、編二于下方一。〔釋處默、聖果寺詩〕遙天浸二白波一、下方城郭近。❷人間界。〔周朴、桐柏觀詩〕人在二下方一衝レ月上。〔宋史、禮志七〕七月一日下降、總二治下方一。❸地勢の低い地。〔張九齡、白羽扇賦〕彼鴻鵠之弱羽、出二江湖之下方一。❹下部が、方形なこと。〔大戴禮、明堂〕以レ茅蓋レ屋、上圓下方。〔孝經緯援神契〕明堂、上圓下方。❺南と西とをいふ。陰氣の萠す所であるから名づく。〔漢書、翼奉傳〕下方之情哀也。〔注〕孟康曰、下方、謂二南與一レ西也、陰氣所二萌生一、故爲レ下。❻hsia⁴ fang¹ 厦門地方で、夜をいふ。❼シモツカタ シタカタ 貴人に對して、平民の稱。下民。

【下方置換】473 カハウチクワン 置換の一。化學實驗で、發生する瓦斯を管で容器の底に導き、空氣と入れかへしめて捕集するをいふ。空氣より重い氣體の捕集に用ひる。上方置換(1－13・・644)の對。

【下卯】474 カバウ 節氣の名。〔管子、幼官〕十二下卯。

【下忙】475 カバウ 下半期の地租を上納する季節。大抵八月から起り十一月まで。〔淸會典、戶部、蠲恤〕又緩二徵湖南省武陵・龍場二縣被水地方下忙錢糧一。〔淸國行政法、財務行政、收入、賦稅〕徵二收地丁一、通設期限、徵二收地丁一、分爲二夏秋兩限一、其秋限以二八月一接辦、至二十一月一辦完、謂二之下忙一。

【下芒】476 カバウ 下忙に同じ。

【下房】477 カバウ ❶しもての部屋。〔史記、武帝紀〕祠二后土於下房一、以二二十太牢一。❷卑しい部屋。天帝に對して天子の宮殿を謙遜して言つた言葉。〔漢書、武帝紀〕上帝博臨、不レ異二下房一、賜二朕弘休一。❸hsia⁴ fang² ㋑下男下女の住む部屋。㋺寢室。

【下望】478 カバウ 下を望み見る。〔宋玉、高唐賦〕登二巉巖一而下望兮、臨二大阺之稸水一。

【下望陀】479 シモマウダ 上總國の地名。

【下博】480 カハク 縣名。漢、置く。故城は河北省深縣の東。北周の時、縣治を今の深縣の南に移した。〔漢書、地理志下〕信都國、縣十七、下博。〔後漢書、光武帝紀〕更始二年、進至二下博城西一、遑惑不レ知レ所レ之。

【下箔】481 hsia⁴ po² 簾を下ろす。

【下膊】482 カハク 上肢の一部。上膊と手との間。

【下膊骨】483 カハクコツ 腕のほね。

【下髮】484 カハツ ❶頭髮を剃る。坊主になる。剃髮。〔資治通鑑、宋紀〕文帝、元嘉二十九年、魏主、親爲二沙門師賢等五人一下レ髮。〔注〕下髮、剃髮也、亦謂二之祝髮一。❷サゲガミ 婦人が髻を束ねて背後に垂れ下げたかみ。〔浮世風呂、三下〕お下髮は、五節句などのお規式でございますのさ。

【下凡】485 hsia⁴ fan² 神仙が俗界に下る。凡は塵の世をいふ。

【下反】486 シモソリ 下野國の地名。

【下反田】487 シモソリタ 羽前國の地名。

【下半】488 カハン 下の半分。

【下半旗】489 カハンキ 哀傷の意を表するために、竿頭より下げて揭げた旗。弔旗。

【下半期】490 シモハンキ 經濟用語。收支計算などを年二回に分けて行ふ場合の後の半期。七月から十二月まで。上半期(1－13・・657)の對。

【下半天】491 hsia⁴ pan⁴ t'ien¹ 午後。下午。

【下阪】492 カハン ❶下り路の阪。下阪走レ丸を見よ。❷㋑クダリザカ 物事の衰へかかること。〔夫木和歌抄、三十三〕くだり阪なる身にこそ有りけれ。㋺ハゲン 都の方から大阪に行く。

【下阪走レ丸】493 カハンタマヲハシラス 阪に丸をころばす。すばやくて止らない喩。〔開元天寶遺事、走丸之辯〕張九齡善談論、毎與二賓客一議二論經旨一、滔滔不レ竭、如二下阪走レ丸也、時人服二其俊辯一。

【下班】494 カハン ❶席次の末。末席。末班。〔孟浩然、贈二蕭少府一詩〕鴻漸昇二台羽一、牛刀列二下班一。❷hsia⁴ pan¹ 役所から退出する。退廳する。

【下飯】495 カハン ❶菜肴の類をもつてめしのさいとすること。又、めしのさい。おかず。副食。下は下酒物の義。〔朱子語類〕文只如二喫飯時下飯一耳。〔過庭錄〕王子野羅二列珍品一、謂二水生一曰、何物可二下飯一乎、生曰、惟饑可二下飯一耳。❷hsia⁴ fan⁴ 副食物。飯の菜。

【下蕃】496 カハン 下藩に同じ。〔宋書、謝誨傳〕周歎二貴於獄吏一、終二下蕃一而靡レ鞠。

【下藩】497 カハン 諸侯の國。〔晉書、宣五王文六王傳論〕徙二侯服於下藩一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕身終二下藩一。〔注〕濟曰、諸侯之國、曰二下藩一。

【下番】498 カバン 當番あけ。又、其の日。非番。〔南宋市肆記〕毎庫有二祇直者數人一、名曰二下番一。

【下盤】499 hsia^4 pʻan^2 後場。後市(4－10098··299)の㊁に同じ。

【下比】500 カヒ 下のものと黨派を結ぶ。〔荀子、不苟〕不二下比以闇レ上。〔墨子、尚同上〕上同而不二下比一者。

【下皮】501 カヒ 眞皮(8－23235··268)に同じ。

【下妃】502 カヒ 下位のきさき。妃に、元・二・下の三等がある。〔左氏、昭、八〕陳哀公元妃鄭姬、生二悼大子偃師一、二妃生二公子留一、下妃生二公子勝一。

【下卑】503 カヒ ㊀下の者のいやしいこと。上尊(1－13··512)の㊂を見よ。㊁ゲビ いやしい。卑下。下賤。

【下邳】504 カヒ ㊀郡名。南朝宋、置く。唐の時、廢す。江蘇省邳縣の下邳故城。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府〕邳州、古徐州地、云云、宋齊倶爲二下邳郡一。㊁縣名。㋑秦、置く。古の邳國。韓信が楚王となつて都した所。又張良が黃石公に出逢つた所。故城は江蘇省邳縣の東。金の時、今の邳縣の治に移る。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、下邳。〔李白、經二下邳圯橋一懷二張子房一詩〕潛匿遊二下邳一、豈曰レ非二智勇一。〔讀史方輿紀要、江南、淮安府、邳州〕下邳城、州治東、云云、秦置二下邳縣一。㋺南朝宋、置く。江蘇省の境。

〔下邳惠王〕505 カヒケイワウ 後漢、劉衍(2－2224··56)の封謚號。

〔下邳獻王〕506 カヒケンワウ 晉、司馬晃(2－3257··249)の封謚號。

【下飛】507 シタトビ 市場用語。相場が前の相場から飛び放れて下落すること。

【下婢】508 カヒ 下女。めしつかひの女。

【下賁】509 hsia^4 pi^4 御降臨。上位者が下に臨む。賁は光ること。

【下美】510 カビ 下部に在つて美しいもの。上美(1－13··668)の㊀の對。〔左氏、昭、十二〕上美爲レ元、下美則裳。

【下筆】511 カヒツ 筆を下す。詩文を作る。又、筆跡。下筆遒勁を見よ。〔漢書、賈捐之傳〕君房下レ筆、言語妙二天下一。〔後漢書、趙壹傳〕下レ筆氣結、汗流竟レ趾。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一詩〕將軍下レ筆開二生面一。

【下筆遒勁】512 カヒツシウケイ 筆勢の強いこと。〔舊唐書、褚遂良傳〕徵曰、褚遂良下筆遒勁、甚得二王逸少體一。

〔下レ筆成レ章〕513 フデヲクダセバシヤウヲナス 文章を作ることの速い喩。〔魏志、文帝紀〕文帝天資文藻、下レ筆成レ章。〔魏志、陳思王植傳〕言出爲レ論、下レ筆成レ章。

〔下レ筆便就〕514 フデヲクダセバスナハチナル 下レ筆成レ章に同じ。〔北史、魏收傳〕詔試レ收爲二封禪書一、收下筆便就、不レ立レ藁。〔梁書、范雲傳〕少機警有レ識、且善屬レ文、便尺牘下レ筆輒成、未二嘗定一レ藁、時人毎疑二其宿構一。

【下平】515 カヒヤウ ㊀四聲中の平聲三十韻を上下に分けた下半分。卽ち先・蕭・肴・豪・歌・麻・陽・庚・青・蒸・尤・侵・覃・鹽・咸の十五韻。上平(1－13··701)の㊁を見よ。〔古今韻會擧要、凡例〕舊韻、上平・下平・上・去・入五聲、凡二百六韻、今依二平水韻一、倂二通用之韻一、爲二一百七韻一。㊁北京語の第二聲で、音尾の上つて微かに消えるもの。

【下品】516 カヒン ㊀卑しい地位。〔晉書、劉毅傳〕上品無二寒門一、下品無二勢族一。㊁下等の品。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕厭二上藥一而用二下品一。㊂佛 ゲボン 彌陀の淨土に往生する人に九等ある。其の中で下の三種を下品といふ。卽ち下品上生・下品中生・下品下生。〔觀無量壽經〕。㊃ゲヒン 卑しいこと。凡俗。

【下貧】517 カヒン 甚だ貧乏な者。極貧。〔後漢書、明帝紀〕郡縣每因二徵發一、輕爲二姦利一、詭責二羸弱一、先急二下貧一。〔後漢書、和帝紀〕賜二下貧一。〔束皙、貧家賦〕無二原憲之厚德一、有二斯民之下貧一。

【下附】518 カフ ㊀下に附く。〔禮、服問〕傳曰、罪多而刑五、喪多而服五、上附下附列也。㊁官廳、又は貴人から、下の者に授け與へる。

【下武】519 カブ ㊀後の人がよく先人の跡を繼ぐことをいふ。下は後、武は繼ぐ意。〔詩、大雅、下武〕下武維周、世有二哲王一。〔傳〕武、繼也。〔箋〕下、猶レ後也、後人能繼二先祖一者。〔王融、三月三日曲水詩序〕運鍾二下武一。㊁詩經、大雅文王之什の篇名。武王が文王に繼いで、よく先人の功を昭かにしたことを歌ふ。〔詩、大雅、下武、序〕下武、繼レ文也、武王有二聖德一、後受二天命一、能昭二先人之功一焉。

【下部】520 カブ ㊀下の部分。下方。〔素問、三部九候論〕帝曰、何謂二三部一、岐伯曰、有二下部一、有二中部一、有二上部一。㊁古、百濟國の都の區劃の名。五部の一。〔北史、百濟國傳〕都下有二萬家一、分爲二五部一、曰、上部・前部・中部・下部・後部。㊂シモベ めしつかひ。下男。〔紫式部日記、上〕宮の下部、綠の衣の上に、白き當色著て、御湯參る。

【下風】521 カフウ ㊀かざしも。かざした。上風(1－13··688)の㊀の對。〔孫子、火攻〕火發二上風一、無レ攻二下風一。〔淮南子、泰族訓〕雄鳴二於上風一、雌鳴二於下風一。㊁人の下位。人の支配下。下方。〔左氏、僖、十五〕皇天后土、實聞二君之言一、羣臣敢在二下風一。〔戰國、楚策〕秦王、使三使臣獻二書大王之從車下風一。〔莊子、漁父〕丘不肖、未レ知レ所レ謂、竊待二於下風一。〔莊子、天地〕禹趨就二下風一。㊂アラシ・オロシ 山から吹き下す風。〔萬葉集、一〕三吉野の山下風の寒けくに。㊃シオロ 姓氏。〔和爾雅〕。

【下伏】522 カフク 夏の末。三伏の中の末伏。三伏(1－12··1567)の㊀を見よ。〔姚合、酬二光祿田卿末伏見レ寄詩〕下伏秋期近、還知扇漸疏。

【下服】523 カフク ㊀下罪に服する。〔書、呂刑〕上刑適レ輕下服。〔傳〕重刑有レ可二以虧減一、則之レ輕服二下罪一。㊁刑罰の名。宮刑。面に施す墨劓を上服といふに對して、下體に施すから名付ける。〔周禮、秋官、小司寇、注〕上服、劓墨也、下服、宮刑也。〔疏〕墨劓施二於面一、故爲二上服一、宮刑施二於下體一、故爲二下服一。㊂下となつて事へる。〔戰國、韓策〕若夫安二韓魏一而終身相、公之下服、此主尊而身安矣。〔注〕服、事也。

【下物】524 カブツ ㊀酒のさかな。酒を噉みくだしめる物の義。〔世說新語、豪爽〕有二如レ此下物一、一斗不レ足レ多也。〔注〕下レ酒物。㊁賤しい物。〔唐書、五行志一〕文宗時、吳越間織二高頭草履一、織如二綾縠一、前代所レ無、履、下物也、織レ草爲レ之(又非二正服一)。

【下文】525 カブン ㊀下にある文章。上文(1－13··697)の㊂の對。〔公羊、隱、元〕王者孰謂、注、欲レ言二時王一則無レ事、疏〕應レ如四下文秋七月天王使三宰咺來歸二惠公仲子之賵一。㊁クダシブミ 古、官府から下した命令書。又、政所から下す公文。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕改二公文所一稱二政所一、凡事以二政所下文一行。

【下聞】526 シタギキ 豫め聞きおくこと。

【下聘】527 hsia^4 pʻing^4 ㊀結納を取りかわす。㊁シタドヒ 忍んで女の許に通ふこと。〔古事記、下〕志多杼比にわがとふ妹を。

〔下聘禮〕528 hsia^4 pʻing^4 li^3 結納。

【下幣】529 カヘイ ㊀刀布をいふ。珠玉を上幣と爲すに對する語。〔管子、國蓄〕以二珠玉一爲二上幣一、以二黃金一爲二中幣一、以二刀布一爲二下幣一。㊁銅錢をいふ。〔國語、周語下、景王二十一年將レ鑄二大錢一、注〕賈侍中云、虞夏商周、金幣三等、或赤、或白、或黃、黃爲二上幣一、銅鐵爲二下幣一。〔史記、平準書贊〕銅錢識曰二半兩一、重如二其文一、爲二下幣一。

【下票】530 hsia^4 pʻiao^4 ㊀手形を出す。切符を發行する。㊁令狀を發する。

【下錨】531 カベウ ㊀いかりをおろす。㊁船が港についてとまる。投錨。碇泊。

【下篇】532 カヘン 書物の最後の一篇。上篇(1－13··710)・中篇(1－73··752)などの對。〔書斷〕以二蒼頡一爲二上篇一、訓纂爲二中篇一、滂喜爲二下篇一、所謂三蒼也。

【下邊】533 カヘン したの方。底。下のふち。〔元史、天文志一、簡儀〕下邊又爲二龍柱二一。

〔下邊兒〕534 hsia^4 pien^1 êrh 下の方。

【下辨】535 カベン 縣名。㊀後漢、置く。漢の下辨道。故城は甘肅省成縣の西。〔漢書、地理志下〕武都郡、縣九、下辨道。〔華陽國志〕下辨、一曰二武街一。㊁南朝宋、置く。四川省綿竹縣の西北。㊂南齊、置く。四川省の境。

【下辯】536 カベン 下辨の㊀に同じ。〔史記、曹相國世家〕從還定二三秦一、初攻二下辯故道雍斄一。

【下保】537 hsia^4 pao^3 保證する。引受ける。

【下晡】538 カホ 申の半頃。午後五時頃。下餔。〔素問、標本病傳論〕一日腹脹、二日身體痛、二日不レ已死、冬雞鳴、夏下晡。〔注〕下晡、謂下日下二於晡一時上、申之後五刻也。〔漢書、天文志〕旦至レ食爲レ麥、食至二日昳一爲レ稷、昳至レ晡爲レ黍、晡至二下晡一爲レ叔、下晡至二日入一爲レ麻。〔宋書、王鎭惡

傳）下晡間、於二金城東門北二十歩一、鑿レ城作二一穴一。

『下晡時』539 hsia⁴ pu¹ shih² 午後二・四時すぎの頃。七つさがり。

【下舖】540 hsia⁴ pu⁴ 下段の寢臺。

【下餔】541 ホ 下晡(538)に同じ。餔は晡。〔史記、天官書〕舖至二下餔一爲レ莽、下舖至二日入一爲レ晡。

【下謀】542 ボウ 神農氏の樂名。〔周禮、春官、大司樂、疏〕案、孝經緯云、伏羲之樂曰二立基一、神農之樂曰二下謀一、祝融之樂曰二屬續一。〔孝經緯鉤命決〕伏羲樂爲二立基一、神農樂爲二下謀一、祝融樂爲二祝續一。

【下僕】543 ボク 男の召し使ひ。しもべ。〔南史、明僧紹傳〕比屋之甿、又無二下僕一。

【下米】544 マイ 市場用語。各地の產米を上・中・下の三等級に分けた中の下等の米。四等米以下をいふ。上米(1－13‥723)・中米(1－73‥765)の對。

【下毛】545 シモツケ 下野國。今の栃木縣。上毛(1－13‥724)の對。〔藤森弘庵、春雨樓記〕今茲丙卯夏、遊二於下毛一。

【下毛野】546 シモツケ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證〕。

【下毛類】547 ルイ 動物分類上の一部門。原生動物門、滴蟲綱、纖毛蟲亞綱中の一目。此の類の體は、背腹の兩面が、著しく形を異にしてゐる。背面は隆起し、腹面は平坦で、纖毛の癒合になる若干の棘狀乃至鉤狀の突起物を有し、他物の上を匍匐する。

【下密】548 ミツ 縣名。●漢、置く。故城は山東省昌邑縣の東南。〔漢書、地理志下〕膠東國、縣八、下密。●南齊、置く。江蘇省の境。●後魏、置く。江蘇省東海縣の境。

【下民】549 ミン 世の人。たみ。下土の民。〔書、益稷、洪水滔天、浩浩懷山襄陵、下民昏墊。〕書、洪範〕惟天陰二騭下民一、協二厥居一。〔詩、豳風、鴟鴞〕今女下民、或敢侮二予一。〔集傳〕此下土之民、誰敢有二侮予者一。〔詩、大雅、皇矣〕萬邦之方、下民之王。〔左氏、僖、十五〕下民之孽。

【下民惟草】550 カミノハコレクサ 草の風に靡くやうに、民は天子の德に敎化せられることをいふ。〔書、君陳〕爾惟風、下民惟草。〔論語、顏淵〕君子之德風也、小人之德草也、草上二之風一必偃。

【下名】551 カメイ ●己の名を卑下していふ。賤名。又、單に自分をいふ謙稱。●下に記してある名。下記の人。

【下命】552 カメイ ●命令を下す。號令する。●上から下つた命令。「席」

【下面】553 hsia⁴ mien⁴ ●下の方。●下座。下の

【下沐】554 モク 官吏の休暇。昔、官吏が五日に一度、洗沐の爲として休暇を頂いたことからいふ。告假。休沐(1－440‥125)を見よ。〔事物異名錄、人事、告假〕漢官儀、五日一假洗沐、亦曰二休沐一、又字典、一曰二下沐一、一曰二旬休一。

【下門】555 モン ●漢代、長安の門名。〔三輔黃圖、一、都城十二門〕故曰二下門一、又曰二端門一。●複姓。〔續通志、氏族略、補遺、複姓〕姓氏辨證曰、國語、周景王大夫下門子之後、因氏焉、世本、晉有二大夫下門聽一。●hsia⁴ mên² 門を開ける。戸をあける。

【下門子】556 シモンノ 周の大夫、王子猛の傳。〔國語、周語下〕景王既殺二下門子一。〔注〕下門子、周大夫、王子猛之傳也。

【下問】557 カモン 目したに物をたづねる。後輩に敎を受ける。〔論語、公冶長〕敏而好レ學、不レ恥二下問一。〔管子、戒〕好二上識一而下問一、沈約、冠子祝文〕無レ恥二下問一、乃致二高車一。

【下夜】558 hsia⁴ yeh⁴ 夜番をする。

【下夜拏賊】559 hsia⁴ yeh⁴ na² tsei² 夜廻りして賊を捉へる。

【下野】560 ヤ ●退隱すること。政權の地に居たものが、其の地位を去つて官界を隱退すること。野にくだる。野は朝に對する語。●ツケノ國の名。下毛野(シモツケノ)。今の栃木縣。

【下陽】561 カヤウ ●地名。春秋時代の北虢の都。山西省平陸縣の東北。〔春秋、僖、二〕虞師晉師滅二下陽一。〔杜注〕下陽、虢邑。●複姓。〔續通志、氏族略、補遺、以レ邑爲レ氏〕春秋公子譜曰、姬姓、虢叔之後、上陽・下陽、虢之二邑也。

【下様】562 シモザマ いやしい品・身分。又、其のもの。下等社會。下方。〔津國女夫池、二〕しもざまならぬ女のふぜい。

【下藥】563 ヤク 投藥する。藥を與へる。〔元稹、病醉詩〕那知下レ藥還沽レ底、人去人來剩二一巵一。

【下錀】564 ヤク 鍵をかけること。錠をおろすこと。〔唐書、玄宗貴妃楊氏傳〕高力士知二帝旨一、是夕請召レ妃、還二錀宮興坊門一馳入、妃見レ帝伏レ地謝、帝釋然、撫慰良渥。

【下勇】565 カユウ 下等な勇氣。ただ勝つことだけを競ふ勇氣。〔荀子、性惡〕以レ期レ勝レ人爲レ意、是下勇也。

【下餘】566 hsia⁴ yü² 殘餘。剩餘。

【下輿】567 ヨカ ●輿から下りる。〔梁書、鄧元起傳〕元起下レ輿、持二楯叱一レ之、衆辟易不二敢進一。●サゲゴシ手を腰のあたりにさげて舁く輿。

【下來】568 カライ ●下りて來る。〔詩、王風、君子于役〕日之夕矣、羊牛下來。●hsia⁴ lai² ㋑出て來る。下りて來る。㋺歸る。

【下來往】569 シモキヨウ 播磨國の地名。

【下瀨】570 カライ ●はやせを下る。下灘。〔張仲素、漲昆明池賦〕鼉鼛亂響、如レ習二乎下瀨之師一。●漢の將軍の名號。〔漢書、武帝紀〕甲爲二下瀨將軍一、下二蒼梧一。〔漢書、南粵傳〕粵侯爲二戈船、下瀨將軍一。

【下瀨船】571 カライセン 早瀨を下る船。書や文章の早く出來る喩。下水船。〔漢書、武帝紀、甲爲二下瀨將軍一、注〕臣瓚曰、瀨、湍也、吳越謂二之瀨一、中國謂二之碛一、伍子胥書有二下瀨船一。

【下郎】572 ラウ しもべ。下僕。〔保元物語、白河殿夜討事〕下郎の射る矢、立つか立たぬか御覽ぜよ。

【下閬】573 hsia⁴ lang⁴ しきみ。戸じきみ。

【下落】574 ラク ●行方(ユクヘ)。在處(アリカ)。〔紅樓夢、二回〕今二其好生養贍一、以待二尋女兒下落一。●落著する。〔朱子全書、學〕然須是看二得六十四卦三百八十四爻都有二下落一、方始說二得此話一。●縣名。漢、置く。察哈爾省涿鹿縣の西。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、下落。●hsia⁴ luo⁴ 居所。寓所。五ラク等級・物價などの下ること。

【下落傘】575 hsia⁴ luo⁴ san³ 落下傘。

【下臕】576 ラク ●㒳年數の少いもの。上臕(1－13‥765)の●を見よ。●㋑諸侍、及び賀茂・日吉社司等の女をいふ。〔職原抄〕下臕、諸侍、賀茂日吉社司等女也。㋺官位のまだ低い者、又、身分の卑い者。上臕(1－13‥765)の對。〔伊勢物語〕國經の大納言、まだ下らふにて。

【下吏】577 リ ●下役人。官の卑い役人。〔左氏、哀、十五〕吊二君之下吏一。〔史記、仲尼弟子傳〕敢修二下吏一。〔淮南子、主術訓〕大臣專レ權、下吏持レ勢。〔孔叢子、對魏王〕臣竊以爲、下吏之過也。●法官に渡して取調べさせる。吏にくだす。吏は法官。〔史記、李將軍傳〕李蔡以二丞相一坐二侵二孝景園壖地一、當二下レ吏治一。

【下利】578 リ ●祭の時、尸の食を佐ける賓。上利(1－13‥771)の●を見よ。〔儀禮、少牢饋食禮〕佐食、上利執二羊俎一、下利執二豕俎一。●葬るにわいい處。上利(1－13‥771)の●を見よ。●ゲリ下痢(583)に同じ。〔魏志、華佗傳〕小男二歲、得レ疾下利、常先啼。

【下里】579 リカ ●死者の魂の集まる處。死者は蒿里に歸して地下に葬られるからいふ。〔漢書、田延年傳〕茂陵富人焦氏貿氏、以二數千萬一陰積二貯炭葦諸下里物一。〔注〕孟康曰、死者歸二蒿里、葬二地下一、故曰二下里一。〔漢書、韓延壽傳〕賣二偶車馬、下里爲物者、棄之市道。〔注〕張晏曰、下里、地下蒿里爲物也。●むらざと。又、田舍。〔說苑、至公〕臣竊選二國俊下里之士一、曰二孫叔敖一。〔陸機、文賦〕綴二下里於白雪一。〔注〕善曰、言、以二此庸音一而偶二彼嘉句一。譬下以二下里鄙曲一綴中於白雪之高唱上。

【下里場】580 ゲリバ 地名。福建省莆田縣の東南。海鹽を產す。

【下里巴人】581 カリハジン 下等な歌曲の名。下里は村里。巴は巴蜀で、古は蠻地とせられた。るなかの蠻歌の意。〔宋玉、對二楚王問一〕客有レ歌二於郢中一者、其始曰二下里巴人一、國中屬而和者數千人。〔注〕翰曰、下里巴人、下曲名也。

【下俚】582 リ ●卑しい歌曲。ひなうた。下里巴人を見よ。〔南史、庾肩吾傳〕巴人下俚、更合二郢中之聽一。●下品。いやしいこと。

【下痢】583 リゲ 腹くだし。〔齊民要術、藥果蓏菜茹非二中國物產一者、橘〕南中八郡志曰、交趾特出二好橘一、大且甘、而不レ可二多噉一、令二人下痢一。

【下流】584 リウ ●川しも。下に流れる。〔書、禹貢、冀州既載、疏〕以二水性下流一、當レ從レ下

而泄。〔老子、六十二〕大國者下流。〔淮南子、主術訓〕君德不ㇾ下ㇾ流於民。●下々にしき及ぶ。〔尉繚子、武議〕殺ㇾ之貴ㇾ大、賞ㇾ之貴ㇾ小、當ㇾ殺而雖ㇾ貴重ㇾ必殺ㇾ之、是刑上究也、賞及ㇾ牛童馬圉ㇾ者、是賞下流也、夫能刑上究、賞下流、此將之武也。●ひくく卑しい地位。下位。又、品行のよくないもの。上流(1－13‥774)の對。〔論語、陽貨〕惡ㇾ居ㇾ下流ㇾ而訕ㇾ上者。〔疏〕謂ㇾ人居ㇾ下位ㇾ而誇ㇾ毀在上ㇾ所ㇾ以惡ㇾ之也。

【下流人】585 hsia⁴ liu² jen² 流民、又は無賴漢。

【惡ㇾ居ㇾ下流】586 平素汚賤の行のあるものには、凡ての惡名が其の身に聚まるから、そこで下流に居ることを嫌ふ。〔論語、子張〕子貢曰、紂之不善、不ㇾ如ㇾ是之甚也、是以君子惡居ㇾ下流ㇾ天下之惡皆歸焉。〔集注〕下流、地形卑下之處、衆流之所ㇾ歸、喩ㇾ人身有ㇾ汙賤之實、亦惡名之所ㇾ聚也。〔應璩、百一詩〕下流不ㇾ可ㇾ處、君子愼ㇾ厥初。

【下律】587 轉下する。ころばしおとす。律は肆。〔枚乘、七發〕上擊下律。〔注〕善曰、律、當ㇾ爲ㇾ肆。

【下梁】588 上流から來る魚を捕へる爲の梁。一に下簗に作る。〔俳諧季題、秋、太祇句選〕ものの葉に魚のまとふや下り簗。

【下略】589 ●兵書ニ略の篇名。●文章の終の部分を省く。以下省略の義。

【下旅】590 鎧の草ずり。腰の下。上旅(1－13‥786)を見よ。〔和漢三才圖會、兵器、甲冑〕裳、一名下旅、又名ニ腰甲一、腰以下卽裳也、俗云ニ下散一。

【下陵】591 今云ニ久左豆利一、屬綴之義乎。下のものが上のものをしのぐ。下陵上替を見よ。

【下陵上替】592 下が上をしのいで、上はすたれ衰へる。世の亂れたさま。〔左氏、昭、十八〕於ㇾ是乎、下陵上替、能無ㇾ亂乎。〔後漢書、禮儀志上〕上替下陵、此謂ニ大亂一。〔後漢書、袁紹傳〕下陵上替、海內寒心。

【下力】593 hsia⁴ li⁴ ●力を出す。一所懸命になる。●貨物の船卸しに拂ふ人夫賃。力は力錢。

【下臨】594 見下すこと。下瞰。〔魏書、崔浩傳〕從ニ太宗幸ニ西河太原一、登ニ憩高陵之上一、下ニ臨河流一傍ニ鸞川域一、〔杜甫、寄ニ董卿嘉榮十韻詩一〕下ニ臨千雲嶺一却ニ背五繩橋一。

【下淚】595 泣く。涙を流す。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、南呂八月〕聽ニ鳥聲一而雙雙下ㇾ淚。〔魏書、閹官、孟鸞傳〕靈太后聞ニ其死一爲ㇾ之下ㇾ淚。

【下料】596 hsia⁴ liao⁴ 農夫が肥料を施すこと。

【下僚】597 ひくい官吏。末僚。下官。〔後漢書、班固傳〕得下及ニ明時一、秉ニ筆事一僚上。〔左思、詠史詩〕英俊沈ニ下僚一。

【下歷】598 鎭の名。江西省定南縣の東北。明、嘉靖中、土賊の據つた處。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府、定南縣〕下歷鎭、縣東四十里、有ニ巡司一云云、嘉靖四十五年、撫臣吳百朋、平ニ下歷逋賊一撥ニ官兵一鎭守、以禦ニ岑岡餘孽一、因築ニ磚城一、周里許。

【下列】599 ●最後のもの。〔張衡、七辯〕立事有ㇾ二、言爲ニ下列一。●低い位。〔梁肅、代ニ太常一答ニ蘇端駁ニ楊綰謚議一〕爰自ニ下列一、至ニ于宰司一。●hsia⁴ lieh⁴ 左記。下記。

【下劣】600 卑しくおとつてゐること。卑劣。陋劣。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳、下ニ人乃關內侯、注〕師古曰、縱其人材下劣、尚作ニ關內侯一。

【下劣乘】601 儕小乘をそしつていふ。〔止觀、五、上〕設厭ㇾ世者、翫ニ下劣乘一、攀ニ附枝葉一、狗狎ㇾ務、敬ニ彌猴一爲ニ帝釋一、宗ニ瓦礫一爲ニ明珠一、此黑暗人、豈可ㇾ論ㇾ道。

【下聯】602 hsia⁴ lien² 詩の聯の下句。對聯の第二の幅。

【下簾】603 ●簾を下げる。〔漢書、王貢兩龔鮑傳序〕閉ニ肆下ㇾ簾而授ニ老子一。〔盧詢、樂府〕下ㇾ簾還憶ㇾ月、挑ニ燈更惜ㇾ花。●車の簾の中に懸けるとばり。多く白絹を用ひる。車帷。〔西宮記、臨時八〕車、下簾、古時三位已上懸ニ之一、近代納言已上用ㇾ之。

【下露】604 地に下りた露。したつゆ。〔毛詩名物解〕詩曰、野有ニ蔓草一、零露溥兮、言ニ天之下露高一矣。〔遵生八牋、述仙記〕八月一日、以ニ絹囊一承取ニ柏樹下露如ニ珠子一、取拭ニ兩目一、明爽無ㇾ疾。

【下漏】605 水又は砂を下して時をはかること。〔史記、司馬穰苴傳〕立ニ表下ㇾ漏待ㇾ賈。〔注〕索隱曰、下ㇾ漏、謂ニ下ニ滴漏一、以知ニ刻數一也。

【下樓】606 二階から下りる。樓から下る。〔許渾、秋日侯扇詩〕環珮珊珊月下ㇾ樓。

【下祿】607 少い祿高。少祿。〔太玄經、玄數〕九人、一爲ニ下人一、二爲ニ平人一、三爲ニ進人一、四爲ニ下祿一、五爲ニ中祿一、六爲ニ上祿一、七爲ニ失志一、八爲ニ疾瘀一、九爲ㇾ極。

【下淮】608 地名。浙江省桐廬縣の東。富陽縣の境に接す。陳の天嘉二年、留異が沈恪を破つた處。又、唐の永徽四年、婺州の刺史崔義元が、妖賊陳碩眞の黨を破つた處。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、桐廬縣〕下淮、在ニ縣東五十里一、與ニ富陽ニ接ㇾ境、云云、陳天嘉二年、詔ニ沈恪ㇾ襲ニ留異于東陽一、異敗ニ恪于下淮一云云、又唐永徽四年、婺州刺史崔義元、敗ニ妖賊陳碩眞黨于下淮一。

【下圩】609 常陸國の地名。低い方に向つて流れる。〔孟子、梁惠王上〕誠如ㇾ是也、民歸ㇾ之、由ニ水之就ㇾ下沛然一。

【就ㇾ下】610 下の者に親しむ。〔易、乾〕本ニ「乎地」者、親ㇾ下一。

【親ㇾ下】611

【下愛子】612 陸前國の地名。

【下一光】613 越前國の地名。

【下延生】614 下野國の地名。

【下屋敷】615 昔、大名が郊外などに設けて別莊とした屋敷。〔會津陣物語〕一人も不ㇾ殘下屋敷へ出だし。

【下溫谷】616 越前國の地名。

【下改心】617 地名。雲南省瀾滄縣の東、黑河の北岸。清、巡檢を置く。今、雙江縣に屬す。

【下高家】618 豐前國の地名。

【下高巖】619 地名。湖南省乾城縣の西北。永綏縣の上高巖と接す。

【下頷骨】620 下顎骨(61)に同じ。

【下碁子】621 hsia⁴ ch'i² tzŭ 碁石を置く。碁石を打ちおろす。

【下議院】622 下院(17)の●に同じ。上議院(1－13‥833)の對。

【下窟鳥】623 鳥の名。みさご。鶚(12－47105)の異名。〔本草、鶚〕釋名、下窟鳥、時珍曰、能入ㇾ穴取ㇾ食、故謂ニ之下窟鳥一。

【下花園】624 地名。察哈爾省宣化縣の東南。遼の蕭太后が花を植ゑた處と傳へられる。平綏鐵道に沿ふ。

【下五旗】625 八旗の中の正紅・鑲白・鑲紅・正藍・鑲藍をいふ。上三旗に對する語。八旗兵(2－1450‥74)を見よ。〔說文通訓定聲、旗〕天子所ニ自將一爲ニ上三旗一、正紅・鑲白・鑲紅・正藍・鑲藍爲ニ下五旗一。〔清會典事例、八旗都統、佐領〕下五旗包衣、原定ニ下五旗包衣佐領一、正紅旗滿洲佐領六、滿洲管領二、滿洲分管三、旗鼓分管七、鑲白旗滿洲佐領三、旗鼓分管二、鑲紅旗滿洲佐領四、旗鼓佐領一、滿洲管領二、滿洲分管一、鑲藍旗滿洲佐領六、旗鼓佐領三、滿洲管領一。

【下剋上】626 下が上をしのぐ。臣下が君主よりも勢の強いこと。下克上。〔三命通會、寶義制伐四事顯朝〕尊生ㇾ卑曰ㇾ寶、卑生ㇾ尊曰ㇾ義、上剋ㇾ下曰ㇾ制、下剋ㇾ上曰ㇾ伐。

【下捕帶】627 hsia⁴ ch'a¹ tai⁴ 壻の家から結納を送つて、之を嫁に手渡すこと。

【下二賴】628 hsia⁴ san⁴ lai⁴ 游民。無賴漢。下三濫。

【下三濫】629 hsia⁴ san⁴ lan⁴ 最下流の人。下三賴に同じ。

【下二爛】630 hsia⁴ san⁴ lan⁴ 最も卑賤な妓女。北方花柳界の語。

【下二聯】631 近體詩句の下二字の全部に、平字(又は仄字)を用ひることをいふ。二字とも平字の を平二聯、二字とも仄字の を仄二聯といふ。下三連。作詩法(1－518‥79)を見よ。

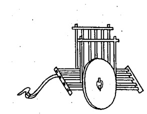
【下些部】632 備中國の地名。

【下二櫃】633 hsia⁴ erh⁴ kuei⁴ 少しづつの錢をけちに貯へる番頭。黑鼠。

【下兒木】634 越後國の地名。

【下執事】635 一家の事務を執る下役人。轉じて、貴人に對する敬稱。侍史、執事の類。〔賴山陽、上ニ樂翁公一書〕於ㇾ是忘ニ其無穢一、出以納ニ下執事一。

【下斜筋】636 カシャキン 眼球を外上方に向はせる筋肉。
【下埴生】637 シモハブ 下總國の郡名。
【下星期】638 hsia^{4} hsing^{1} ch'i 次の週。來週。
【下請負】639 シタウケオヒ 物品の製作若しくは工事の請負の受託者から、更に其の全部又は一部分の請負をすること。
【下川島】640 カセンタウ 島の名。廣東省台山縣の南の海中にある。明の正德中、葡萄牙人の居留を許したところ。
【下村主】641 シモノスグリ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十八〕
【下沱市】642 カタシ 地名。湖北省枝江縣の東南。大江が枝江に至つて別れて沱となり、下流に至つて又合する。其の分れる處を上沱といひ、合する處を下沱といふ。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、枝江縣〕下沱市、在二縣東南沱江上一。
【下打穴】643 シモウタ 美作國の地名。
【下大夫】644 カタイフ 下位の大夫。大夫(3－5831)を見よ。〔禮、王制〕諸侯之上大夫卿、下大夫、上士中士下士、凡五等。〔論語、鄕黨〕朝與二下大夫一言、侃侃如也。〔漢書、王莽傳中〕千石曰二下大夫一。
【下臺所】645 シモダイドコロ 貴族の屋敷にて、下々の人の食事する所。上臺所に對する。〔百合若大臣野守鏡、四〕下臺所の仲間共。
【下澤車】646 カタクシヤ 轂の短い車。澤を行くに乘るもの。〔後漢書、馬援傳〕乘二下澤車一、御二款段馬一、鄕里稱二善人一、斯可矣。〔注〕周禮曰、車人爲レ車、行レ澤者、欲レ短レ轂。〔三才圖會、器用五、下澤車〕下澤車、田閒任載車也、云云、今俗謂二之板轂車一。


下澤車（三才圖會）

【下丹田】647 カタンデン 人體の下腹部。臍の下。下元(138)の㊁を見よ。
【下壇詩】648 カダンシ 扶乩が神を降す時に唱へる詩。〔閱微草堂筆記〕有二扶乩者一、自二江南一來、其仙自稱二臥虎山人一、不レ言二休咎一、惟與レ人唱二和詩詞一、嘗面見、下壇一絕云、愛殺嫣紅映レ水開、小停白鶴一徘徊、花神怪レ我衣襟綠、纔藉二莓苔穩睡一來。

【下筋原】649 シモアザハラ 播磨國の地名。
【下斗女】650 シモトメ 姓氏。〔日用重寶記、二〕
【下透了】651 hsia^{4} t'ou^{4} la 雨の充分なこと。
【下得去】652 hsia^{4} tê ch'ü^{4} ㊀差支へない。何とか事を濟ませる。㊁品物などが全然駄目にならないで、幾分役に立つこと。まだ使へる。㊂下りられる。下りることが出來る。
【下得來】653 hsia^{4} t'ê lai^{2} 下得去に同じ。何とかして面目を立て得られる。
【下南關】654 カナンクワン 關の名。四川省慶符縣の東。明の天啓の初、石砫土司の秦良玉が、弟の明屛に設けさせたもの。
【下百百】655 シモドウ 越後國の地名。
【下百百女木】656 シモトトメキ 加賀國の地名。
【下不來】657 hsia^{4} pu lai^{2} ㊀下りて來られない。㊁面目玉が潰れる。
【下不來臺】658 hsia^{4} pu lai^{2} t'ai^{2} 乘りかかつた船で退くに退かれぬ。下不了臺(679)に同じ。
【下不來馬】659 hsia^{4} pu lai^{2} ma^{3} 乘りかかつた船で退引きならぬ。退くにも退かれぬ。
【下浮穴】660 シモウケナ 伊豫國の郡名。
【下埠集】661 カフシフ 地名。江西省進賢縣の東南。一名、王家巷。
【下富居】662 シモフゴ 越中國の地名。
【下米宮】663 アメノミヤ 姓氏。〔日用重寶記、二〕
【下茂木】664 シモモテギ 上野國の地名。
【下北面】665 ゲホクメン 昔、院の御所を守護した武士。〔名目抄〕下北面、五六位皆譜代侍。
【下洋兵】666 カヤウヘイ 水兵。〔稱謂錄、水勇、下洋兵〕枝山前聞、洋兵鄧老謂レ予言、南歷二諸國一、惟地上之物有レ異耳、其天象大小遠近顯晦之類、雖二遠國一視レ之、一切與二中國一無レ異。
【下狼塚】668 シモオイツカ 陸前國の地名。
【下禮拜】669 hsia^{4} li^{3} pai^{4} 次の週間。來週。
【下了藥】670 hsia^{4} la yao^{4} 藥を盛る。
【下笹子】671 シモジネコ 羽後國の地名。
【不レ陵レ下】672 シモヲシノガズ 下に在る者を輕んじ侮らない。陵は淩、輕侮すること。〔中庸〕在二上位一、不レ陵レ下、在二下位一、不レ援レ上。
【下阿毘緣】673 シモアビレ 伯耆國の地名。

【下死勁兒】674 hsia^{4} ssŭ^{3} ching^{4} êrh 懸命に努力する。
【下死命的】675 hsia^{4} ssŭ^{3} ming^{4} tê 一所懸命に。精神を集注して。
【下坡溜的】676 hsia^{4} p'o^{1} liu^{1} tê 見込みのない人。墮落したもの。
【下不爲例】677 hsia^{4} pu^{4} wei^{2} li^{4} ただ今回限りの特例。今後は例としない。
【下不去手】678 hsia^{4} pu ch'ü^{4} shou^{3} 手の附けやうがない。手を入れられぬ。
【下不了臺】679 hsia^{4} pu liao^{3} t'ai^{2} 退くにも退かれぬ。下不來臺(658)に同じ。
【下雷土州】679′ カライドシウ 土州の名。宋、置く。土官許氏が世襲して之を治めた。民國十六年、雷平縣に併入す。〔淸史稿、地理志〕廣西、歸順直隸州、土州一、下雷土州。
【下汖垂網】680 カリウスイマウ 少し下を見るさま。汖は流。〔新書、容經〕喪紀之視、下汖垂網。
【下了架子】681 hsia^{4} la chia^{4} tzŭ 疲れ果てたこと。落ちついたこと。
【下了工了】682 hsia^{4} la kung^{1} la 辭職した。仕事を罷めた。山東地方の語。
【下了水了】683 hsia^{4} la shuei^{3} la 婦女が泥水に身を沈めた。妓女が初めて客を取つた。
【下旺土司】684 カワウドシ 土司の名。明、置く。故治は、今の廣西下旺司の東。民國の初、廣西省田南道に屬す。〔淸史稿、地理志〕廣西、百色直隸廳、土司一、下旺土司。
【每レ下愈況】685 クダルゴトニイヨイヨタトフ 喩を設ける每に、いよいよ卑近の喩となる。況は喩。〔莊子、知北遊〕每レ下愈況、汝唯莫レ必。〔釋文〕問レ道亦況二下賤一、則知レ道也。
【下治而上通】686 シモヲサマリテカミツウズ 下民が治まつて上司の意が行はれる。〔韓詩外傳、五〕夫是之謂二下治而上通一。下治而上通、頌聲之所二以興一也。
【下則爲二河嶽一上則爲二日星一】687 クダリテハスナハチカガクトナリノボリテハスナハチジツセイトナル 天地の間に正氣が流行し、其の正氣が地に下つては河や嶽となり、天に上つては日や星となる。河は黃河、嶽は五嶽。〔文天祥、正氣歌〕天地有二正氣一、雜然賦二流形一、下則爲二河嶽一、上則爲二日星一。

【丌】15 キ 〔集韻〕居之切 ㄐㄧ chi^{1} 支

小篆 ㊀臺。物を載せて出すだい。〔說文〕丌、下基也、荐レ物之丌、象形、讀若レ箕、同。㊁其(2－1472)の古字。〔集韻〕其、古作レ丌。㊂姓。〔奇姓通〕唐丌實左軍副使。㊃臺灣語「其」の慣用字。キイと讀む。

解字 象形。物を薦める具。上部は平かで、下に足がある。

【丌官】1 キクワン 複姓。〔孔子家語、本姓解〕孔子至二十九一、娶二於宋之丌官氏一。〔姓氏尋源〕丌與レ笄同、掌レ笄官之後。

【𠀃】16 ㊀シヨ ㊁キ ㊀且(1－29)の古字。〔說文〕𠀃、古文㠯爲レ且。〔段注〕㠯爲二字衍文也。〔正字通〕且、古文作レ𠀃。㊁几(2－1737)に同じ。〔說文〕𠀃、又㠯爲二几字一。〔段注〕又以爲二几字一者、古文叚借之法、几亦箸二於地一、故几且同字。

【丒】17 ㊀ケイ・エ ㊁エイ・エ ㊀惠(4－10822)の略字。一說に、慧(4－11116)の略字。㊁衞(10－34074)に假借す。

【丏】18 カイ 注音符號の複韻符の一。複韻母。舌體下降のㄚ韻母より、舌前上昇して、一韻母に連續すれば此の音となる。アイ。ai。正形は丏。

三畫

【不】19

㊀ホツ ホチ 〔正韻〕逋沒切 ㄅㄨˋ pu⁴ 月
㊁フツ フチ 〔集韻〕分物切 物
㊂フ フウ 〔集韻〕俯九切 ㄈㄡˇ fou³ 有
㊃フ フウ 〔集韻〕方鳩切 ㄈㄡ fou¹ 尤
㊄フ 〔集韻〕風無切 虞
㊅ヒ 〔韻補〕補美切 紙
慣ブ

小篆

㊀㊁㊂❶打消しの辭。㋑ず。せず。〔詩、邶風、日月〕胡能有ㇾ定、報ㇾ我不ㇾ述。〔中庸〕雖ㇾ不ㇾ中不ㇾ遠。〔禮、射義〕好ㇾ學不ㇾ倦、好ㇾ禮不ㇾ變。〔史記、蔡澤傳〕聖人不ㇾ相。㋺あらず。非(12－42585)に通ず。〔說文通訓定聲〕不非、一聲之轉。〔中庸〕苟不㆓至德㆒、至道不ㇾ凝焉。〔疏〕不、非也。㋩なし。無(7－19113)に通ず。〔說文通訓定聲〕不無、一聲之轉。〔詩、王風、君子于役〕不ㇾ日不ㇾ月。〔箋〕無㆓月日㆒。〔禮、三年問、無易之道也、注〕無、猶ㇾ不也。㋥しからず。可ならず。〔正字通〕不、不ㇾ然也、不ㇾ可也。㋭いまだし。〔正韻〕不、未也。❷なかれ。禁止の辭。〔書、召誥〕王不㆓敢後㆒。〔孟子、滕文公上〕夷子不ㇾ來。❸はなれる。さる。もと𠀚(1－44)に作る。〔正字通〕不、說文、不篆作ㇾ𠀚。〔說文〕𠀚、鳥飛上翔、不㆓下來㆒也、从ㇾ一、一猶ㇾ天也、象形。❹發聲の辭。〔爾雅、釋丘〕夷上洒下不漘。〔注〕不、發聲。〔爾雅、釋魚〕龜左倪不類、右倪不若。〔疏〕不、發聲也。❺弗(4－9708)に通ず。〔廣雅、釋詁四〕弗、不也。〔集韻〕不、通作ㇾ弗。❻否(2－3340)に通ず。〔正字通〕不、與㆓可否之否㆒通。〔易、否、大人否亨、虞注〕否、不也。〔詩、大雅、烝民〕邦國若否。〔釋文〕否、不也。❼古は芣(2－1778)に作る。〔字彙補〕芣、古文不字。㊃❶いなや。未定の辭。〔集韻〕不、一曰、辭也。〔古詩、日出東南行〕寧可㆓共載㆒不。❷鳥の名。或は鴀(12－46719)に作る。〔集韻〕不、鳥名、夫不隹也、或从㆓鳥不㆒。❸姓。〔通志、氏族略、平聲〕不氏、甫鳩切、晉時有㆓汲郡人不準㆒、姚興時有㆓安遠將軍不蒙世㆒。㊄❶はなぶさ。へた。花萼。柎(6－14616)に通ず。〔集韻〕柎、艸木房爲ㇾ柎、一曰、華下萼、或作ㇾ不。〔詩、小雅、常棣〕鄂不韡韡。〔箋〕不、當ㇾ作ㇾ柎。❷おほきい。丕(1－30)に通ず。〔說文通訓定聲〕不、段借爲ㇾ丕、詩、清廟、不顯不承。〔書、大誥、爾丕克遠省、今古文注疏〕丕作ㇾ不、云云、丕爲ㇾ不、經典多通用。〔詛楚文〕不顯大神巫咸。㊅いやしむ。〔說文通訓定聲〕不、段借爲ㇾ鄙。〔荀子、賦〕君子所ㇾ敬、而小人所ㇾ不者與。

解字 指事。一は天、𣎴は鳥の飛ぶさま。鳥が高く飛び上つて、下りて來ない義。至の字の反。否に通じて打消の意となり、丕に通じて大の意となる。〔說文〕不、鳥飛上翔、不㆓下來㆒也、从ㇾ一、一猶ㇾ天也。▽(甲骨文) 象形。花のめしべの子房に象る。

參考 不(6－14417)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕不、音卜、弗也。不、岸入聲、木折復生㆓旁支㆒。

【不亞】1 pu⁴ ya³ 劣らない。讓らない。

〘不亞如〙2 pu⁴ ya³ ju² 全く云云の樣だ。云云そつくりである。

【不壒】3 フアイ 八種の功德ある水の一つ。〔丹陽志〕七、不壒、八、蠲痾。

【不安】4 フアン ❶安らかでない。心がおちつかない。〔禮、問喪〕口不ㇾ甘ㇾ味、身不ㇾ安ㇾ美也。〔論語、陽貨〕居處不ㇾ安。〔漢書、董仲舒傳〕天下耗亂、萬民不ㇾ安。❷恐縮する。

〘不安分〙5 pu⁴ an¹ fen⁴ 身分に安んぜぬ。出すぎもの。

【不菴】6 フアン 淸、王艮(7－20823‥408)の❹の號。

【不夷】7 フイ 複姓。〔路史〕微子後有㆓不夷氏㆒。

〘不夷不惠〙8 フイフケイ 伯夷のやうな潔癖でもなく、柳下惠のやうに寛に過ぎもせぬ。中庸の道を得ること。〔法言、淵騫〕不夷不惠、可否之閒也。〔注〕隨ㇾ時之義、治亂若ㇾ鳳。〔孟子、公孫丑上〕孟子曰、伯夷隘、柳下惠不恭、隘與㆓不恭㆒、君子不ㇾ由也。

【不倚】9 フイ 片よらない。〔中庸〕君子和而不ㇾ流、強哉矯、中立而不ㇾ倚、強哉矯。

【不移】10 フイ 明、梁蘭(6－14825‥192)の字。

【不意】11 フイ だしぬけ。豫想外のところ。思ひがけなく。〔戰國、秦策〕專ㇾ軍幷ㇾ兵、觸㆓魏之不意㆒。〔管子、幼官〕奇擧發㆓不意㆒、則士歡ㇾ用。〔孫子、始計〕攻㆓其無ㇾ備、出㆓其不意㆒。〔史記、荊軻傳〕羣臣皆愕、卒起㆓不意㆒、盡失㆓其度㆒。〔淮南子、兵略訓〕運㆓於無形㆒、出㆓於不意㆒。

〘不意討〙12 フイウチ 出しぬけに敵をうつこと。

【不韋】13 フヰ ❶縣名。漢、置く。今の雲南省保山縣。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、不韋。〔後漢書、西南夷、滇傳〕明年正月、追至㆓不韋㆒。〔華陽國志〕武帝置㆓不韋縣㆒。❷人名。呂不韋のこと。呂不韋(2－3386‥256)を見よ。

【不爲】14 フヰ 爲さぬ。しようとせぬ。云云としない。〔詩、衞風、淇奧〕善戲謔兮、不ㇾ爲ㇾ虐兮。〔孟子、梁惠王上〕故王之不ㇾ王、不ㇾ爲也、非ㇾ不ㇾ能也。

〘不爲罪〙15 フヰザイ 不罰(894)に同じ。

【不違】16 フヰ 明、何通(1－511‥161)の字。

【不謂】17 フヰ ❶死ぬこと。謂は諱の誤ならんといふ。不諱(161)の❸に同じ。〔莊子、徐無鬼〕仲父之病、病矣、可㆓不謂云㆒。〔集解〕力命篇、作㆓可不諱云㆒、言、不ㇾ可㆓復諱而不ㇾ言也、謂字誤。❷思はざりき。意外にも。思ひがけず。

【不韙】18 フヰ ❶よろしからぬこと。不善。〔左氏、隱、十一〕犯㆓五不韙㆒。〔注〕韙、是也。❷ばけもの。〔張衡、東京賦〕京室密淸、罔ㇾ有㆓不韙㆒。〔郭璞、山海經圖讚、南山經、獂獸〕君子服ㇾ之、不ㇾ逢㆓不韙㆒。

【不友】19 フイウ 兄が弟をいつくしまぬこと。〔書、康誥〕惟不孝不友。〔顏氏家訓、治家〕兄不友、則弟不恭。

【不一】20 フイツ ❶同一定でない。ふぞろひ。〔後漢書、襄楷傳〕夫龍形狀不ㇾ一、大小無ㇾ常。〔郭璞、省ㇾ刑疏〕夫法令不ㇾ一、則人情惑。❷一々詳しくは述べぬ。書翰の結尾に用ひる語。晉の王羲之の帖の結尾に、不一一とあるより出たといふ。不乙。不悉。不備。不一一を見よ。〔翰墨全書、更換事實、不備類〕不悉、不一、不次。〔注〕謂㆓哀苦中言語㆒、卽次序也、或慰㆓他人㆒、亦用ㇾ之、以㆓悼亡㆒故也、惟有㆓具慶㆒下、不ㇾ可ㇾ用ㇾ之。

〘不一一〙21 フイツイツ 書翰の結尾の語。不一。不具。〔王羲之、問慰諸帖上〕雨寒、卿各佳不、諸患無ㇾ賴、力書不一一、羲之問。〔王羲之、紫石散帖〕力不一一、王羲之報。〔通俗編、數目、不一一〕車若水腳氣集、王右軍帖、多于㆓後結㆒寫㆓不具㆒、猶ㇾ言㆓不備㆒也、其不具草書、似㆓不一一㆒、蔡君謨並寫㆓不一一㆒、然亦不ㇾ失ㇾ理。

【不乙】22 フイツ 書翰の結尾の語。古く讀書の際、筆で其の止める所に乙と誌したことから起る。意未だ盡きぬ意。不悉。不盡。不備。不具。不宣。〔漢書、東方朔傳〕朔初上書、人主從㆓上方㆒讀ㇾ之、止輒乙㆓其處㆒、讀㆓二月乃盡。

【不佚】23 フイツ たのしまない者。境遇の惡い者。〔孔子家語、弟子行〕不ㇾ侮㆓不佚㆒、不ㇾ傲㆓無告㆒。

【不壹】24 フイツ 德を二三にして、終始一ならぬこと。〔左氏、成、十三〕不穀惡㆓其無ㇾ成ㇾ德、是用宣ㇾ之、以懲㆓不壹㆒。〔會箋〕不壹、應㆓二三其德㆒。

〘不㆓壹而足㆒〙25 イツニシテタラズ 一度では十分でない。〔公羊、襄、二十九〕吳子使㆓札來聘㆒、云云、春秋賢者不ㇾ名、此何以名、許㆓夷狄㆒者、不㆓壹而足㆒也。

【不允】26 フイン 信じられぬ。敬信せられぬ。又、承知しない。承諾しない。〔左氏、文、四〕逆㆓婦姜於齊㆒、卿不ㇾ行、非ㇾ禮也、君子是以知㆓出姜之不ㇾ允㆓於魯㆒也。〔注〕允、信也、始來不ㇾ見㆓尊貴㆒、故終不ㇾ爲㆓國人所㆒㆓敬信㆒也。

【不勻】27 pu⁴ yün² 不平均な。勻は均に通ず。
【不韻】28(フオン) 不風雅。不風流。〔世說新語、言語〕支道林常養二數匹馬一、或言二道人畜レ馬不韻一、支曰、貧道重二其神駿一。
【不運】29(フウン) ふしあはせ。不幸。不遇。〔今昔物語、二十九、紀伊國晴澄、値二盜人一語〕此れは我が兵の道に不運なるを致す所也。
【不要】30 pu² yao⁴ ❶いらない。不必要。〔近思錄、爲學類〕學者須二是務レ實。不レ要レ近レ名方是。❷云云してはならない。不消。
【不要緊】31 pu² yao⁴ chin³ 大丈夫だ。差支ない。大した事はない。構はぬ。
【不要臉】32 pu² yao⁴ lien³ 恥知らず。
【不繇】35 pu⁴ yu² 承諾しない。
【不曜】36(フエウ) 唐、仲長子光(1－403·333)の字。
【不易】37(フエキ) ❶かはらぬ。又、かへぬ。〔易、乾〕子曰、龍德而隱者也、不レ易二乎世一、不レ成二乎名一。〔易乾鑿度〕易一名而含二三義一、易也、變易也、不易也。〔禮、王制〕修二其教一不レ易二其俗一、齊二其政一不レ易二其宜一。〔荀子、禮論〕無適不易之術也。〔史記、律書〕百王不易之道也。❷イフ 安からぬ。多難。又、やさしくない。〔書、盤庚中〕今予告二汝不レ易、永敬大恤一。〔蔡傳〕告二汝不レ易、卽上篇告二汝于難之意一。〔詩、大雅、大明〕不レ易維王。〔集傳〕不レ易、難也。〔左氏、襄、三〕以二歲之不易一。〔論語、子路〕爲二君難、爲レ臣不レ易。
【不易居齋】38(フエキキヨサイ) 清、宋湘(3－7078·125)の號。
【不易之教】39(フエキノケウ) 永久にかはらない教。〔孔子家語、曲禮子貢問〕此先王不易之教也。
【不易之道】40(フエキノミチ) 永久にかはらない道。〔莊子、天道〕上必無レ爲、而用二天下一必有レ爲、爲二天下用一、此不易之道也。
【不易之地】41(フエキノチ) 每年種をつけることの出來る肥沃な土地。〔周禮、地官、大司徒〕不易之地、家百畝。〔注〕鄭司農云、不易之地、歲種レ之、地美、故家百畝。
【不易之典】42(フエキノテン) 永久にかはらない法則。〔顏延之、赭白馬賦〕敎二敬不易之典一、訓二人必書之擧一。
【不易之法】43(フエキノハフ) 容易に改めることを許さぬ法則。〔貞永式目〕右大將家御時以來、至二于當世一、無二其子一之女人等、讓二與所領於養子一事、不易之法、不レ可二勝計一。
【不易之分】44(フエキノブン) かはらない操。〔班固、答二賓戲一〕賓戲二主人一曰、蓋聞、聖人有二一定之論一、烈士有二不易之分一。
【不懌】45(フエキ) ❶疾の癒えぬこと。懌はよろこぶ。不豫。不釋。〔書、顧命〕惟四月、哉生魄、王不レ懌。〔釋文〕馬本作二不釋一云、不釋、疾不レ解也。❷pu² i⁴ 不愉快な。喜ばない。
【不緣】46(フエン) ❶夫婦になれぬこと。成立せぬ緣。えんが無いこと。❷夫婦わかれ。離緣。破鏡。〔大江俊矩記〕お柔不緣一件に付、先達及二契約一置。
【不翁】47(フオウ) 清、梁同書(6－14825·306)の號。
【不應】48(フオウ) ❶こたへない。應じない。〔孟子、公孫丑下〕孟子去レ齊、宿二於晝一、有下欲二爲二王留一レ行者上、坐而言、不レ應、隱二几而臥一。❷易の六爻に於て、初と四、二と五、三と上とが、夫々共に陰又は共に陽たること。之に對して、初と四、二と五、三と上とに於て、一が陰、他が陽たる場合には之を應といふ。〔易、艮〕上下敵應不二相與一也。〔疏〕凡應者、一陰一陽、二體不レ敵、今上下之位、雖二復相當一、而爻皆峙敵不二相交與一、故曰二上下敵應不一相與一也、然八純之卦、皆六爻不レ應、何獨於二此言一之者、謂此卦旣止而不レ加レ交、又峙而不レ應、與二止義一相協、故兼二此以明一之也。
【不應爲】49(フオウヰ) 犯罪事實に對して、法律の正條に其の罪名を規定してない罪。
【不應該】50 pu⁴ ying¹ kai¹ 云云してはならない。云云であるべき筈はない。
【不億】51(フオク) 數の甚だ多いこと。億のみならず。〔詩、大雅、文王〕商之孫子、其麗不レ億。
【不穩】52(フヲン) ❶おだやかでない。〔杜甫、促織詩〕草根吟不レ穩、牀下夜相親。❷治安を亂す恐れのあること。又、そのさま。
【不穩當】53(フヲンタウ) おだやかでないこと。又、道理にあてはまらないこと。
【不穩文書】54(フヲンブンシヨ) 穩かでない事柄を書いた文書。
【不穩平衡】55(フヲンヘイカウ) 物理學用語。物體の支點が重心より下に在るので、物體に外力を加へると直ちに倒れ、外力を去つても原位置に復することが出來ない樣な狀態をいふ。
【不下】56 pu² hsia⁴ 云云できない。云云以上。
【不下驢】57(フカロ) 己を惡む者をいふ。北齊の湯惕が、己に對して驢から下りて挨拶しなかつた者は一切之を選用しなかつた故事。〔事物紀原、布帛雜事部、不下驢〕演義曰、北齊湯惕、字遵彥、爲二吏部尚書一、昔遭二屯厄一、一飡之惠、酬荅甚厚、性命之讐、赦而不レ問、及典レ選、多以二貌言恩舊一、時致レ謗曰、有二選人魯漫漢一、自言獨不レ見レ識、悟曰、前日在二元子思一、方騎二禿列章驢一、以二方麴一障レ面、見レ我不レ下レ驢、何云不レ識、竟不レ爲二選用一、今俗以二惡レ己者一、謂二何處見不レ下レ驢、蓋起二于此一、今或有二此語一。
【不可】58(フカ) ❶さうでない。善くない。〔詩、大雅、桑柔〕涼曰不可、覆背善詈。〔左氏、襄、二十七〕雖曰不可、必將レ許レ之。〔論語、先進〕顏淵死、門人欲二厚葬一レ之、子曰、不可。❷承知せぬ。きかず。〔左氏、昭、十三〕晉人將レ尋レ盟、齊人不レ可。〔長編〕以二杜衍不可一告レ之。❸pu⁴ k'ê³ 云云すべからず。よろしくない。
【不可解】59(フカカイ) 理解出來ぬ。合點がゆかぬ。
【不可諱】60(フカキ) 死ぬこと。死は人の忌み避けることの出來ぬものであるからいふ。不諱之變。〔資治通鑑、周紀〕〔顯王、八年〕〔公叔病、如有二不可諱一、將レ奈二社稷一何。〕〔注〕不可諱、謂レ死也、俗語有レ之、人不レ諱レ死。
【不可說】61(フカセツ) ❶言葉では言へない。❷規定に基づかない。良くない。〔禁祕抄、下〕不可說裝束、中中無二沙汰一事也。❸㒵文字や言語では佛陀の深意は到底說き盡くすことが出來ないこと。
【不可能】62(フカノウ) 人の力でなし得ぬこと。不能。
【不可分】63(フカブン) 分つことが出來ない。分割することが出來ない。
【不可抗力】64(フカカウリヨク) 人のはたらきだけでは何とも自由にならぬ力。人の力で防ぎきれぬ外界の威力。
【不可救藥】65 pu⁴ k'ê⁵³ chiu⁴ yao⁴ 救濟すべき方法なし。
【不可思議】66(フカシギ) ❶㒵思ひはかることができない。考へても知り得ない。又、其のこと。不思議。轉じて、怪しいこと。異樣。〔資治通鑑、唐紀、僖宗光啓三年、建二黃鎌齋一、注〕以爲二功德三昧力不レ可二思議一。❷唐の僧。靈妙寺に住す。善無畏三藏の弟子。大日經第七卷供養次第法を譯す。世にこれを不思議疏といふ。
【不可知論】67(フカチロン) 物の本質、實在の最後の根據は認識し得ずとなし、すべての經驗を超越する形而上學的存在の問題を拒否する哲學說。
【不可入性】68(フカニフセイ) 二物體が同時に同一場所を占有することの出來ないこと。「質。
【不可避性】69(フカヒセイ) 避けることが出來ない性質上、分離することを許さぬ債務をいふ。
【不可逆反應】70(フカギヤクハンオウ) 化學反應の一つ。反應の事情(溫度・壓力・濃度など)を變ずることによつて、逆反應の起らないものをいふ。
【不可窮之辯】71(フカキユウベン) 窮め得ないほど深い辯舌。〔宋史、儒林四、蔡元定傳〕不可屈之志、不可窮之辯。
【不可屈之志】72(フカクツノココロザシ) 曲げることの出來ぬ志。堅い志。不可窮之辯を見よ。
【不可分債務】73(フカブンサイム) 民法上、其の目的が、性質上、分離することを許さぬ債務をいふ。
【不可趕盡殺絕】74 pu⁴ k'ê² kan³ chin⁴ sha¹ chieh² 一條の活路を殘せ。袋叩きをするな。
【不佳】75(フカ) ❶よろしくない。又、身體の具合が惡い。〔資治通鑑、漢紀〕〔桓帝、延熹七年〕泰嘗不佳。〔注〕謂二體中有一不二節適一也、語曰二不佳、微有レ疾也。❷云云が續かない。
【不咖】76 pu⁴ chieh¹ 否。いいえ。北京の方言。
【不戒】77 pu² chieh⁴ 注意しない。不謹愼な。
【不屆】78(フトドキ) 不埒フラチ。けしからぬこと。〔諸藝太平記、七〕不屆に被二思召一候はば。
【不解】79(フカイ) 怠らない。不懈に同じ。〔詩、大雅、假樂〕不レ解二於位一、民之攸レ壓。
【不解得】80(フカイトク) 解し得ぬこと。不會得(259)を見よ。
【不懈】81(フカイ) 怠らない。不解。〔國語、周語中〕

以レ敬承レ命則不レ違、以恪守レ業則不レ懈。〔管子、弟子職〕朝益暮習、小心翼翼、一レ此不レ懈、是謂二學則一。

【不又】82 ガイ　治まらない。〔後漢書、五行志一〕言之不レ從、是謂二不又一。〔注〕鄭玄注曰、又、治也、君言不レ從、則是不レ能レ治二其事一也。

【不咳】83 ガイ　差支へない。妨げない。不礙。不碍。〔列子、黃帝〕雲霧不レ咳二其視一、雷霆不レ亂二其聽一。〔陸游、江亭晚思詩〕太空不レ咳二雲舒卷一、高枕寧論二夢短長一。

【不該】84 ガイ　宜しくない。〔燕子箋、駝泄〕今早又不該在二窗下一親把二文章一謄寫。

【不向】85 ムキ　好みに合はぬこと。又、似合はぬこと。適應せぬこと。

【不好】86 カウ　❶好くない。惡い。〔楚辭、離騷〕吾令二鴆爲一レ媒兮、鴆告レ余以二不好一。❷好まぬ。すかぬ。〔老學庵筆記、六〕漢兒不レ好二北人一、指曰二漢兒一。❸pu⁴ hao³　云云しにくい。

【不好看】87 pu⁴ hao³ k'an⁴　みにくい。美しくない。

【不好吃】88 pu⁴ hao³ ch'ih¹　まづい。うまくない。

【不好過】89 pu⁴ hao³ kuo⁴　❶生活の困難な。❷病氣の爲に意の儘にならぬ。

【不好走】90 pu⁴ hao³ tsou³　歩きにくい。

【不好意思】91 pu⁴ hao³ i⁴ ssŭ　氣の毒がる。堪へがたい。恥かしい。

【不行】92 カウ　❶行はれぬ。すたれる。〔書、呂刑〕勿用レ不レ行。❷行かぬ。堤防等がやぶれて河水などの溢れることをいふ。〔周禮、考工記、匠人〕凡溝逆二地防一、謂二之不行一。〔注〕不行、謂二決溢一也。❸pu⁴ hsing² 不可。いけない。よくない。

【不行屆】93 フユキトドキ　物事の行屆かぬこと。

【不行儀】94 フギギヤウ　不作法。不行跡。不行狀。

【不行跡】95 フギヤウセキ　良からぬ行爲。不行狀。不行儀。〔娥歌加留多、三〕不行跡の浮名を厭ひ。

【不行犯】96 pu⁴ hsing² fan⁴　法律上、爲すべき事をしない罪。

【不行而行】97 フギヤウニシテギヤウ　〔佩眞如の理をさとれば、ことさら努めなくても、一擧手一投足がその まま佛道に合ふこと。〔往生論注、下〕眞如是諸法正體、體如而行則是不行、不行而行、名二如實修行一。

【不孝】98 カウ　❶親に對して、子たる道を盡さぬこと。〔書、康誥〕惟不孝不友。〔禮、曲禮上〕比二於不慈不孝一。〔孝經、五刑章〕子曰、五刑之屬三千、而罪莫二大於不孝一。〔孟子、離婁下〕匡章、通國皆稱二不孝一焉。〔荀子、宥坐〕今殺二人一以戮二不孝一。❷子が親の喪にある時の自稱。清初に始まる。〔柳南續筆〕人子喪中用レ帖、稱二不肖子一、近世士大夫、凡中二科甲一、及仕宦中人、皆改稱二不孝一。❸カウ　④古の律にいふ八虐の第七。祖父母・父母に不孝なこと。〔唐律疏、十惡〕七曰、不孝。〔注〕謂、告二言詈一祖父母・父母、及祖父母・父母在、別レ籍異レ財、居二父母喪一、身自嫁娶、若作レ樂釋レ吉、聞二祖父母・父母喪一、匿不レ擧、哀、詐稱二祖父母・父母死一、紿二父祖妾一。㊁不孝者として勘當すること。不興。〔砂石集、一下〕父母是れを聞きて大に怒りて、やがて不孝したりければ。

【不孝鳥】99 フカウテウ　鳥の名。ふくろふ。梟(6－14861)の異名。〔說文〕梟、不孝之鳥也、日至捕レ梟磔レ之、从二鳥在一レ木上一。

【不孝流】100 フカウル　大寶の制で、五つの流罪の一。祖父母・父母の事を訴へるものあるとき、其の首犯を絞罪とし、其の從犯を流罪とすること。〔名例律〕不孝流及會赦猶流者、各不レ得二減贖一。

【不孝有三】101 フカウニサンアリ　不孝に三つの種類ある。一に、おもねり從つて親を不義に陷れること。二に、家貧しく親が年老いてゐるのに官に仕へぬこと。三に、娶らず、後嗣なくして、先祖の祭祀を絶つこと。〔孟子、離婁上〕不孝有二三一、無レ後爲レ大。〔集注〕於レ禮不孝者有二三事一、謂、阿意曲從、諂二親於不義一、不孝也、家貧親老、不レ爲二祿仕一、不孝也、不レ娶無レ子、絶二先祖祀一、三不孝也、三者中、無レ後爲レ大。

【不孝之刑】102 フカウノケイ　不孝ものを罰する刑。〔周禮、地官、大司徒〕以二鄉八刑一糾二萬民一、一曰二不孝之刑一。

【不孝之子】103 フカウノコ　孝行をつくさぬ子。〔孔子家語、致思〕將恐不孝之子、棄二其親一不レ葬。

【不更】104 カウ　❶爵位の名。秦の制度。漢では第四位。〔左氏、成、十三〕獲二秦成差及二不更女父一。〔注〕不更、秦爵。〔漢書、百官公卿表上〕四不更、五大夫。❷複姓。〔路史〕微子後有二不更氏一。〔英賢傳〕秦大夫不更女父之後。

【不幸】105 カウ　❶ふしあはせ。不運。〔左氏、宣、十六〕民之多幸、國之不幸也。〔論語、雍也〕不幸短命死矣。〔孟子、公孫丑下〕不幸而有レ疾。〔莊子、達生〕不幸遇二餓虎一。〔史記、扁鵲傳〕聞、太子不幸而死。❷死ぬこと。〔玉篇〕幸、吉而免レ凶曰レ幸、故死謂二之不幸一。〔漢書、昭帝紀〕有二不幸一者、祠以二中牢一。〔漢書、蘇武傳〕來時大夫人已不幸、陵送葬至二陽陵一。

【不效】106 カウ　しるしが無い。利き目がない。効果があがらない。〔蜀志、諸葛亮傳〕恐二付託不レ效、以傷二先帝之明一。

【不羹】107 カウ　春秋時代の國の名。楚の別都となる。東西二不羹があり、一は河南省襄城縣東南、一は舞陽縣西北に當る。〔左氏、昭、十一〕楚子城二陳・蔡・不羹一。〔注〕襄城縣東南有二不羹城一、定陵縣西北有二不羹亭一。〔左氏、昭、十二〕今我大城二陳・蔡・不羹一云云、是四國者、專足レ畏也。〔注〕四國、陳・蔡・二不羹。〔國語、楚語上〕靈王城二陳・蔡・不羹一。〔注〕三國、楚別都也。

【不高】108 pu⁴ kao¹　下手。高くない。

【不客】109 pu² k'ê⁴　英米の枡目の名。Peckの譯。

【不恪】110 カク　つつしまぬこと。恪は敬。〔左氏、文、九〕卿不レ書、緩也、以懲二不恪一。〔李衞公問對、上〕其實用二九伐之法一、以威二不恪一。

【不慤】111 カク　まことでない。〔孔子家語、五儀解〕故弓調而後、求二勁焉一、馬服而後、求二良焉一、士必慤而後、求二智能者一焉、不慤而多能、譬之豺狼一、不可レ邇。

【不覺】112 カク　❶さとらぬ。〔白居易、與微之書〕封題之時、不レ覺欲レ曙。❷目がさめない。〔戰國、魏策〕易牙乃煎熬燔炙、和二調五味一、而進二之桓公食一之而飽、至旦不レ覺。❸佩眞如の理に對して、我々の內に本來ひそんでゐる迷をいふ。覺(10－34973)の對。〔起信論〕所言不覺義者、不二如レ實知一眞如法一一故、不覺心起而有二其念一。

【不合】117 ガフ　❶合はぬ。〔孔叢子、記義〕不合則去。❷なすまじきこと。不都合。〔福惠全書、刑名部、問擬憑招眼一用二不合一。

【不合格】118 フガフカク　資格に適合せぬ。試驗に及第せぬ。檢査にはねられること。落第。

【不合式】119 pu⁴ ho² shih⁴　工合が惡い。不適當な。似合はない。

【不合理】120 リガフ　無理。道理に合はぬ。

【不合卯榫】121 pu⁴ ho² mao² suen³　調子が合はない。しつくりしない。

【不合經術者】122 フガフケイジュツシャ　晏子春秋の篇名。

【不合作運動】123 フガフサクウンドウ　印度のガンヂーの唱へた反英運動で、英國との一切の關係を拒絶する消極運動。

【不刊】124 フカン　磨滅しないこと。滅びないこと。刊は削。昔は漆に以て竹に文字を書いたが、不用の部分は之を削り去つた。これから、不刊を磨滅せぬ意に用ひた。〔晉書、禮志〕昔周姬公制以二六典一職方一、陳二其九貢一、頒二財內府一、永爲二不刊一。

【不刊之書】125 フカンノショ　永く世に傳はつて滅びぬ書籍。〔杜預、春秋左氏傳集解序〕左丘明受二經於仲尼一、以爲、經者不刊之書也。〔歐陽脩、禮樂志〕

論〕禮記不刊之書。

〖不刊之法〗126 フカンノハフ 永久にかはらぬ法。〔晉書、禮志上〕垂二百官之範一、置二不刊之法一。

【不咸】127 フカン ❶心の合はぬもの。咸は同。〔左氏、僖、二十四〕周公弔二二叔之不咸一。〔注〕咸、同也。❷遍く行きわたらぬ。〔國語、魯語上〕小賜不レ咸。〔注〕咸、徧也。❸心に充たない。〔左氏、昭、二十一〕心億則樂、窕則不レ咸。〔注〕不三充二滿人心一。〔釋文〕咸、本或作レ感、戸暗反。❹山名。滿洲遼寧省の長白山。〔山海經、大荒北經〕大荒之中、有レ山、名曰二不咸一、有二肅愼氏之國一。

【不堪】128 フカン ❶堪へ難い。甚しい。ひどい。〔左氏、隱、元〕君將レ不レ堪。〔南史、沈攸之傳〕攸之至二建鄴一、詣二領軍將軍劉遵考一、求レ補二白丁隊主一、遵考以爲二形陋不堪一。❷pu^4 k'an^1 甚だ。ひどく。

〖不堪田〗129 フカンデン 不堪佃田に同じ。

【不堪佃田】130 フカンデンデン 古昔、荒廢して耕種に堪へない田地の稱。不堪佃田と過分不堪佃田との別があり、前者は其の損害の十分の一まで、後者は其の損害の十分の二以上の田地をいふ。不堪田。〔類聚三代格、七〕仁壽四年十月一日、太政官符、應下依レ實言中上損弁不堪佃田・疫死百姓・賑給飢民及破損官舍堤防等上事。

〖不堪佃田奏〗131 フカンデンデンノソウ 古、九月七日に諸國の國司より太政官に上つた不堪佃田の申文を、大臣以下議定して奏聞する公事。不堪田奏。〔名目抄、恒例諸公事〕不堪佃田奏。

【不敢】132 フカン ❶敢て云云しない。〔孟子、公孫丑下〕不三敢以陳二於王前一。❷pu^4 kan^3 どう致しまして。云云できない。

【不敢當】133 フカンタウ ❶謙語。進んで當ることはしない。それには値ひしない等の意。〔儀禮、士相見禮、非二敢求一レ見、注〕言レ不二敢求一レ見、嫌レ褻二主人一、不二敢當一也。〔史記、刺客、聶政傳〕不三敢當二仲子之賜一。〔呂覽、審應〕弊邑不二敢當一也。❷pu^4 kan^3 tang^1 どう致しまして。恐れ入ります。

〖不敢惹官惹皀隸〗134 pu^4 kan^2 jê^3 kuan^1 jê^3 tsao^4 li^4 怒を他に移す。やつあたり。

【不閒】135 フカン 猶豫がない。ひまがない。〔左氏、昭、三十〕若其不レ閒、雖二士大夫一、有レ所レ不レ獲レ數矣。

【不幹】136 pu^2 kan^4 ❶云云しない。❷ひまを取る。

【不忌】137 キフ 忌まぬ。人を忌みきらはぬ。〔左氏、僖、九〕無レ好無レ惡、不レ忌不レ克之謂也。〔列子、湯問〕不レ驕不レ忌。〔孔子家語、弟子行〕不レ克不レ忌。

【不其】138 キフ ❶山名。山東省卽墨縣の東南。一名、馴虎山。〔漢書、武帝紀〕太始四年夏四月、幸二不其一。〔注〕如淳曰、山名、因以爲レ縣。❷縣名。漢、置く。もと侯國。不其山に因つて名づく。故城は山東省卽墨縣の西南。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、不其。〔讀史方輿紀要、山東、萊州府、膠州、卽墨縣〕不其城、縣西南二十七里、漢不其縣、屬二琅邪郡一。

〖不其山人〗139 フキサンジン 清、陳景元(**11－41698**・・786)の號。

【不洎】140 キフ 及ばない。不曁。〔莊子、寓言〕曾子曰、吾及レ親仕、三釜而心樂、後仕三千鍾、不レ洎、吾心悲。〔釋文〕洎、及也。

【不軌】141 キフ 國家の法を守らぬこと。叛逆を謀る。軌は法。〔左氏、隱、五〕不軌不物、謂二之亂世一。〔注〕言、器用衆物、不レ入二法度一、則爲二不軌不物一。〔左氏、襄、二十七〕所下以威二不軌一而昭中文德上也。〔莊子、列禦寇〕孰敢不軌。〔史記、漢興以來諸侯年表〕大者叛逆、小者不レ軌二于法一、以危二其命一。

〖不軌之臣〗142 フキノシン 國家の法則を守らない臣。不法の民。〔史記、秦始皇紀〕無二離レ上之心一、則不軌之臣、無三以飾二其智一。〔漢書、卜式傳〕此非二人情一、不軌之臣、不レ可二以爲レ化而亂レ法。

〖不軌之徒〗143 フキノト 謀叛を起す者。〔近古史談、德篇下、節婦一〕事涉二暴亂一、而不レ正二刑典一、何以威二制天下一、懲二後世不軌之徒一乎。

〖包二藏不軌一〗144 フキヲハウザウス 不忠の心を胸に持つ。〔事實文編、山鹿素行傳〕包二藏不軌一。

【不起】145 キフ ❶病氣が癒えないで、遂に死に至ること。〔公羊、莊、三十二〕寡人卽不レ起二此病一。❷pu^4 ch'i^3 云云せぬ。云云出來ぬ。

〖不起訴〗146 フキソ 檢事が犯罪搜査の結果、公訴を提起しないこと。

【不既】147 pu^2 chi^4 書翰文の末尾の語。既はつくす。草々不盡の意。

【不規】148 キフ 不正。惡事。

〖不規則〗149 フキソク きまりがない。規則立たぬ。不規律。

〖不規律〗150 フキリツ 不規則に同じ。

【不幾】151 キフ こひねがはない。又、妄りに希求してはならぬ。又、希求してもできない。〔漢書、鄒陽傳〕此皆國家之不レ幾者也。〔注〕應劭曰、言、不レ可二庶幾一也、師古曰、言、漢朝之安、諸侯不レ當三妄起二邪意一、應說是也。〔王先謙補注〕國家謂レ吳、言、高帝之成功有二天命一、非二今所一レ可二幾幸一也。

【不期】152 キフ 料らずも。豫期せぬ。〔公羊、隱、四〕遇者何、不レ期也。〔史記、周紀〕是時諸侯不レ期而會二盟津一者、八百諸侯。

【不棄】153 キフ ❶すてない。すてず。〔詩、小雅、伐木、序〕伐木、燕二朋友故舊一也、自二天子一至二于庶人一、未レ有二不レ須レ友以成者一、親レ親以睦、友レ賢不レ棄、不レ遺二故舊一、則民德歸レ厚矣。❷字號。㋑明、楊名時(**6－15112**・・790)の字。㋺清、許遇(**10－35298**・・56)の字。

【不愧】154 キフ はぢぬ。〔詩、大雅、抑〕尚不レ愧二于屋漏一。

【不匱】155 キフ ともしからず。すくなくない。つきることがない。〔詩、大雅、既醉〕孝子不レ匱、永錫二爾類一。〔傳〕匱、竭也。〔箋〕孝子之行、非レ有二竭極之時一、長以與二女之族類一、謂三廣レ之以教二道天下一。〔禮、祭義〕大孝不レ匱。〔左氏、隱元〕詩曰、孝子不レ匱。〔左氏、襄、二十九〕用而不レ匱。〔國語、魯語上〕財用不レ匱、莫レ不二共祀一。

【不器】156 キフ 成德の士は、單に一事にすぐれてゐるばかりでなく、何の用にも融通の利くのをいふ。器は一つの用にのみ適するもの。〔禮、學記〕君子曰、大德不レ官、大道不レ器、大信不レ約、大時不レ齊、察二於此四者一、可三以有二志於學一矣。〔注〕聖人之道、不レ如二器施二於一物一。〔論語、爲政〕君子不レ器。

〖不器用〗157 ブキヨウ 上手に出來ない。下手。〔薰風雜話、二〕たとへ手足は不器用にても。

【不器量】158 フキリヤウ ❶技倆のないこと。❷不見識。❸顏だちのみにくいこと。

〖不器之器〗159 フキノキ 何の用にでも融通の利くうつは。〔白居易、君子不レ器賦〕抱二不器之器一、成二乎有用之用一。

【不曁】160 キフ 至らない。曁は至ること。又、及ぶこと。不洎。〔左氏、隱、六〕善レ鄭以勸二來者一、猶懼レ不レ旣。〔注〕旣、至也。〔校勘記〕衆經音義十二、引作二不曁一案、曁旣、古今字。〔國語、周語中〕上求不レ曁。〔注〕曁、至也。

【不諱】161 キフ ❶君父の名を忌み避けぬこと。琅琊代醉編、卷四に見ゆ。〔禮、曲禮上〕卒哭乃諱、禮、不レ諱二嫌名一、二名不二偏諱一、云云、詩書不レ諱、臨レ文不レ諱、廟中不レ諱。❷いみ憚らぬ。直言して諫めること。〔楚辭、卜居〕寧正言不レ諱、以危レ身乎。❸死をいふ。不可諱(60)の略。死は人の諱み避けることの出來ぬものだからいふ。〔史記、商君傳〕公叔病有レ如有レ不レ可レ諱、將奈二社稷一何。〔漢書、丙吉傳〕上自臨問レ吉曰、君卽有二不諱一、誰可二以自代一者。〔注〕師古曰、不諱、言二死不レ可二復諱一也。〔後漢書、桓榮傳〕如有二不諱一。❹pu^2 hui^4 隱さぬこと。

〖不諱之朝〗162 フキノテウ 臣下が直言するのを忌まぬ朝廷。〔揚雄、解嘲〕遭二明盛之世一、處二不諱之朝一。

〖不諱之變〗163 フキノヘン 死ぬこと。不可諱(60)を見よ。〔後漢書、申屠剛傳〕不諱之變、誠難二其慮一。

〖不諱之門〗164 フキノモン 直言のみち。〔說苑、君道〕規諫必開二不諱之門一。

〖不諱之路〗165 フキノミチ 直言のみち。〔後漢書、安帝紀〕閒令下公卿郡國、擧二賢良方正一、遠求博選、開二不諱之路一、冀得二至謀一、以鑒中不逮上。

【不歸】166 キフ ❶かへらない。轉じて、死ぬこと。〔詩、邶風、式微〕式微式微、胡不レ歸。〔史記、循吏、子產傳〕田器不レ歸。〔新論、防慾〕人有二牛馬放逸不一レ歸、必知レ收レ之、情慾放逸、而不レ知レ收レ之。❷pu^4 kuei^1 歸着しない。まとまらない。

〖不歸客〗167 フキキヤク 歸らぬ旅に出た人。死出の旅路に上つた人。

〖不歸責人〗168 pu^4 kuei^1 tse^2 jen^2 責を人に歸せぬ。不可抗力の意。

【不羈】169 キフ つながれぬ。束縛せられぬ。縱横の

才。〔左思、詠史詩〕當世貴二不羈一、遭レ難能解レ紛。
【不羈之才】170 非凡の才。才識衆に超えて羈束することの出來ないものをいふ。〔漢書、司馬遷傳〕少負二不羈之才一。〔新語、資質〕或懷二不羈之才一。〔向秀、思舊賦序〕其人竝有二不羈之才一。
【不羈之士】171 束縛してつなぎとめて置くことの出來ない士。〔鄒陽、於レ獄上書自明一首〕使下不羈之士、與二牛驥一同上レ皁。
【不羈之民】172 束縛することの出來ない民。〔鹽鐵論、論功〕不牧之地、不羈之民。
【不宜】173 よろしくない。理に當つてゐない。〔漢書、郊祀志下〕八人不下按二經䕶一考中古制上、而以爲四不宜無法之議、難三以定二吉凶一。
【不宜講】174 pu^4 i^2 chiang^3 いひにくい。話しにくい。云ふべきでない。
【不宜諾斯艾利斯】175 アルゼンチンの首都。倍諾斯愛勒。Buenos Aires の音譯。
【不欺】176 あざむかない。〔易傳〕无妄之謂レ誠、不レ欺其次矣。〔韓詩外傳、九〕買二東家豚肉一以食レ之、明レ不レ欺也。
【不欺室】177 清、梁一峯(**6－14825**・・207)の室名。
【不義】178 ㊀よからぬ行。正しくない。又、不誼。〔易、繫辭下〕不レ畏二不義一。〔書、太甲上〕玆乃不義。〔左氏、隱、元〕公曰、多行二不義一必自斃。〔孟子、公孫丑上〕行二一不義一、殺二一不辜一、而得二天下一皆不レ爲也。㊁姦通。密通。〔本朝若風俗、三〕私宅に御歸し遊ばしては、其の儘不義仕るなれば。
【不義者】179 ㊀義に背いた人。〔槍權三重帷子、上〕夫ある身を踏付けにする不義者。㊁男女の私通するもの。〔川中島合戰、二〕不義者の男女。
【不義理】180 ㊀義理を缺くこと。人としての交際上の道を盡さないこと。又、其の行爲。㊁借金の濟まないこと。
【不義之財】181 正しからぬ道によつて得た財產。齊の田稷の母が不義の金を返さしめた故事。〔列女傳、母儀、齊田稷母傳〕齊田稷子之母也、田稷子相レ齊、受二下吏之貨金百鎰一、以遺二其母一、母曰、子爲レ相三年矣、祿未二嘗多若レ此也、安所レ得レ此、對曰、誠受二之于下一、其母曰、云云、不義之財、非二吾有一也、不孝之子、非二吾子一也、子起、田稷子慙而出、反二其金一、自歸二罪於宣王一、請レ就レ誅焉、宣王聞レ之、大賞二其母之義一、遂舍二稷子之罪一。〔精註雅俗故事讀本、女子〕田稷母子、弗レ受二不義之財一。
【不義富貴】182 不義にして得た富貴。〔論語、述而〕子曰、飯二疏食一飮レ水、曲レ肱而枕レ之、樂亦在二其中一矣、不義而富且貴、於レ我如二浮雲一。
【擧二不義一以行二不義一】183 不義の者をあげ用ひて、不義の政治を行ふ。〔呂覽、審應〕魏惠王、使三人謂二韓昭侯一曰、夫鄭、乃韓氏亡レ之也、願三君之封二其後一也、此所謂存レ亡繼レ絕之義、君若封レ之、則大名、昭侯患レ之、公子食我曰、臣請往對レ之、公子食我至二於魏一、見二魏王一曰、大國命二弊邑一、封二鄭之後一、弊邑不二敢當一也、弊邑爲二大國所レ患、昔出公之後聲氏、爲二晉公一拘二於銅鞮一、大國弗レ憐也、使二弊邑存レ亡繼レ絕、弊邑不二敢當一也、魏王慙曰、固非二寡人之志一也、客請勿二復言一、是擧二不義一以行二不義一也。
【不疑】184 ㊀うたがはぬ。うたがはれぬ。〔左氏、桓、十一〕對曰、卜以決レ疑、不レ疑何卜。〔史記、韓非傳〕深計而不レ疑、交爭而不レ罪。㊁字號。㋑宋、孔宜(**3－6933**・・31)の字。㋺宋、邵必(**11－39343**・・63)の字。㋩宋、曾易占(**5－14299**・・163)の字。㋥宋、張師正(**4－9812**・・1125)の字。㋭明、朱多炡(**6－14424**・・904)の字。
【不疑償レ金】185 不疑誣金を見よ。〔書言故事、金寶類〕是非不レ辨、曰二不疑償一レ金。
【不疑誣金】186 蒙求の標題。漢の直不疑が郞となつた時、同舍郞の告歸する者が、誤つて其の同舍郞の金を持つて歸つた。同舍郞は、金のなくなつたことを覺り、不疑を疑つた。不疑は詫を入れて、その金を償つたが、後、不疑の罪無きことが明かとなつたので、金を失つた者が大いに慙ぢた故事。〔漢書、直不疑傳〕直不疑、南陽人也、爲レ郞事二文帝一、其同舍有二告歸一、誤將二持其同舍郞金一去、已而同舍郞覺レ亡、意二不疑一、不疑謝レ有レ之、買レ金償、後告歸者至、而歸レ金、亡レ金郞大慙、以レ此稱二長者一。
【不儀】187 不善(650)に同じ。〔管子、侈靡〕不儀之母レ助、章明之毋レ滅。〔注〕儀、善也。
【不誼】188 不義(178)の㊀に同じ。〔漢書、汲黯傳〕黯曰、天子置二公卿輔弼之臣一、寧令三從諛承レ意、陷二主於不誼一虖。
【不朽】189 永久にくちない。永く傳はる。〔左氏、襄、二十四〕太上有レ立レ德、其次有レ立レ功、其次有レ立レ言、雖レ久不レ廢、此之謂二不朽一。〔新語、輔政〕名傳二於不朽一。〔史記、甘茂傳〕寡人死不レ朽矣。〔曹昭、東征賦〕唯令德爲二不朽一兮。
【不朽作】190 長く朽ち滅びない作品。藝術作品の傑作などにいふ。
【不朽居士】191 清、年汝鄰(**4－9168**・・292)の號。
【不朽之勳】192 後世までくちぬいさを。〔鄭亞、李德裕集序〕成二諸侯不朽之勳一、尊二元后無私之化一。
【不朽之芳】193 永久に朽ちぬ名聲。〔新論、薦賢〕身受二進賢之賞一、名有二不朽之芳一。
【不朽之盛事】194 文章をいふ。後世まで傳はる立派な事の意。〔魏文帝、典論、論レ文〕文章經國之大業、不朽之盛事。
【不究】195 きはまらぬ。不窮。〔管子、宙合〕其處レ大也不レ究、其入レ小也不レ塞。〔房注〕究、窮也。
【不救】196 救はぬ。救はれぬ。〔左氏、隱、九〕勝不二相讓一、敗不二相救一、云云、後者不レ救、則無レ繼矣。〔後漢書、耿純傳〕明旦至レ營與二諸將一俱勞レ純曰、昨夜困乎、云云、大兵不レ可二夜動一、故不二相救一耳。〔吳志、陵遜傳〕安東公族見レ圍已困、奈何不レ救。
【不吉】197 目出度くない。不祥。〔書、盤庚中〕各設二中于乃心一、乃有二不吉不迪一。〔左氏、僖、四〕初晉獻公欲下以二驪姬一爲中夫人上、卜レ之、不吉。〔史記、伍子胥傳〕隨人卜レ與二王於吳一、不吉。
【不吉利】198 pu^4 chi^2 li^4 緣起が惡い。
【不及】199 ㊀及ばぬ。至らぬ。〔易、小過〕象曰、不レ及二其君一、臣不レ可レ過也。〔左氏、桓、十三〕楚子使二賴人追一レ之、不レ及。〔大戴禮、曾子本孝〕惡言不レ出二於口一、煩言不レ及二於己一。㊁pu^4 chi^2 云云せられぬ。云云できない。云云すること能はず。
【不及秋】200 短いはかま。〔青箱雜記〕天祐末、廣陵人競服二短袴一、謂二之不及秋一、後徐知訓爲二朱瑾所一レ殺、則不及秋之應也。
【不及之法】201 無用の法。〔莊子、駢拇〕使二天下簧鼓、以奉二不及之法一、非乎。
【不急】202 ㊀いそがぬこと。さしあたり必要のないこと。不急官を見よ。㊁急にしない。いそがない。何をおいてもとは考へない。〔左氏、成、九〕鄭人圍レ許、示二晉不一レ急レ君也。
【不急官】203 さしあたり必要のない役。冗官。〔戰國、秦策〕吳起爲二楚悼一罷二無能一、廢二無用一、損二不急之官一、塞二私門之請一。〔史記、吳起傳〕損二不急之官一。〔漢書、昭帝紀〕日者省レ用罷二不急官一。
【不急之察】204 必要もなく急でもない事を妄りに觀察する。〔荀子、天論〕無用之辯、不急之察、棄而不レ治、若二夫君臣之義・父子之親・夫婦之別一、則日切磋而不レ舍也。〔漢書、梅福傳〕閒者、愚民上疏、多觸二不急之法一。
【不給】205 ㊀足らぬ。不足。〔左氏、宣、十二〕獸人無乃不レ給二於鮮一。〔孟子、告子下〕秋省レ斂而助二不給一。㊁pu^4 kei^3 與へない。足らぬ。
【不享】206 ㊀朝貢せぬ諸侯。轉じて、朝廷に從はぬもの。享は貢獻。〔書、洛誥〕識三其有二不享一。〔傳〕奉レ上謂二之享一。〔蔡傳〕享、朝享也。〔史記、五帝紀〕習二用干戈一、以征二不享一。㊁聘禮の君小なるものに於ては、使をやる國から主國の君へ幣物を贈らない。これを不享といふ。〔儀禮、聘禮〕小聘曰レ問、不レ享有レ獻。
【不況】207 景氣がよくないこと。不景氣。好況(**3－6035**・・82)の對。
【不姜】208 河の名。〔山海經、大荒南經〕不姜之山、黑水窮焉。〔柳宗元、天對〕黑水淫淫、窮二于不姜一。
【不強】209 pu^4 ch'iang^2 よくない。割がよくない。
【不竟】210 pu^2 ching^4 ただに云云のみならず。
【不窮】211 きはまらぬ。〔老子、四十五〕其用

不レ窮。〔莊子、讓王〕故內省而不レ窮ニ於道一、臨レ難而不レ失ニ其德一。〔孔子家語、三恕〕今欲ニ身亦不レ窮、道亦不レ隱、爲レ之有レ道乎。

【不居】212 フキヨ 止まらないこと。〔禮、月令〕師興不レ居。〔注〕不レ居、象ニ風行不ニ休止一也。

〔不居之宮〕213 フキヨノキユウ 人の住まぬ宮殿。〔漢書、元帝紀〕衞ニ於不居之宮一。

〔不居之室〕214 フキヨノシツ 人の居らない室。〔孔叢子、雜訓〕毀ニ不居之室一。

〔不居之地〕215 フキヨノチ 居ることの出來ない土地。〔漢書、嚴助傳〕以爲、不居之地、不牧之民、不レ足ニ以煩ニ中國一。〔注〕師古曰、地不レ可レ居、而民不レ可ニ牧養一也。

【不許】216 フキヨ 許さぬ。許容せぬ。〔儀禮、士昏禮〕使者曰、某使ニ某受ニ命吾子一、不レ許。〔左氏、閔、二〕及レ密、使ニ公子魚請一、不レ許。

【不御】217 フギヨ 統御しない。又、統御されない。〔漢書、五行志下之下〕亡レ師茲謂ニ不御一。〔新書、階級〕可ニ以託ニ不御之權一。

〔不御脂粉〕218 pu² yü⁴ chih¹ fen³ 紅白粉を使はぬ。脂粉を施さない。

【不漁】219 フレフ しけ。魚がとれぬ。

【不共】220 フキヨウ ❶つつしまぬ。つつしみがない。不恭に同じ。〔左氏、僖、二十七〕公卑レ杞、杞不レ共也。〔釋文〕共音恭、本亦作レ恭。〔國語、魯語上〕職貢業事之不レ共而獲レ戾。〔管子、四稱〕倨敖不共、不レ友ニ善士一。❷具へない。準備しない。〔國語、魯語下〕具レ舟除レ隧、不レ共有レ法。〔注〕共、具也。❸佛 フグウ 共通でない。獨自の。共(2－1458)の對。〔唯識論、五〕名ニ不共一者、如ニ不共佛法、唯此識有故。

〔不共業〕221 フグウゴフ 佛個人獨自のはたらき。一個人のみの報を引起すはたらき。卽ち刻々變化してゐる自己を其の人の一種のはたらきと考へること。共業(2－1458‥46)の對。〔阿毘達磨集論、四〕云ニ何不共業一、若業能令ニ有情世間種種差別一、或復有レ業、令ニ諸有情展轉增上一、由ニ此業力一說ト諸有情更互相望爲中增上緣上。

【不供】222 フキヨウ 不共の❶に同じ。

【不恭】223 フキヨウ 人をないがしろにする態度をとり、つつしみが無いこと。不敬。不肅。〔書、大禹謨〕昏迷不恭。〔孟子、萬章下〕萬章曰、卻レ之、卻レ之爲ニ不恭一、何哉。〔國語、魯語下〕諸侯謂ニ秦不恭一而討レ之。

〔不恭不恭〕224 pu⁴ kung¹ pu⁴ kung¹ 甚だ失禮致しました。

【不興】225 フキヨウ ❶起きぬ。おこらぬ。又、おこさぬ。〔禮、學記〕不レ興ニ其藝一、不レ能レ樂レ學。〔後漢書、五行志六〕以爲、繼嗣不興之象。❷機嫌が惡い。立腹する。〔心中重井筒、上〕いふ顏の不興なれば。❸勘氣。勘當。〔謠曲、小袖曾我〕この三年不興蒙る。❹興の醒めること。座のしらけること。〔春花五大力〕よしないことで座の不興。

【不極】226 フキヨク ❶きはまらず。極は窮極の極。〔孔子家語、儒行解〕過言不レ再、流言不レ極。〔注〕流言相毀、不ニ窮極一也。❷中正の道にあたらぬ。極は中。〔漢書、董仲舒傳〕不正不直、不忠不極。〔注〕師古曰、極、中也。

【不禁】227 フキン 禁ぜず。忍ばれぬ。耐へられない。〔夷堅志〕紫姑詠ニ美人手一詩云、笑折ニ櫻桃一力不レ禁、時攀ニ楊柳一弄ニ春陰一。

〔不禁嘔〕228 pu² chin⁴ ou⁴ 怒りつぽい。腹立ち易い。

〔不禁夜〕229 フキンヤ 遊觀を自由にする爲に、夜禁をゆるくする。又、その夜。〔退朝錄〕本朝太宗時、三元不レ禁レ夜、上元御ニ乾元門一、中元・下元御ニ東華門一、後罷ニ中元・下元二節一、而初元遊觀之盛、冠ニ于前代一。

〔不禁不由〕230 pu² chin⁴ pu⁴ yu² 知らず識らず。知らぬ間に。

【不謹】231 フキン つつしまない。謹愼でない。〔史記、張釋之傳〕文帝免レ冠謝曰、教ニ兒子一不レ謹。〔司馬相如、喩ニ巴蜀一檄〕父兄之教不レ先、子弟之率不レ謹。〔舊唐書、柳宗元劉禹錫傳論〕蹈レ道不レ謹、昵ニ比小人一。〔六部成語、吏部、不謹、注解〕居レ官者作ト一切不レ合ニ官體一之事上、皆曰ニ不謹一。

【不具】232 フグ ❶そなはらぬ。不備。〔後漢書、祭祀志上〕文書散亡、舊典不レ具。〔孔子家語、本命解〕人始生、而有ニ不具者五一焉。❷かたは。畸形。〔晉書、苻生傳〕既自有ニ目疾一、其所レ諱不足不具。❸書翰の終に書く語。不乙。不備。不宜。〔王羲之、問慰諸帖上〕匆匆力不具、王羲之白。

〔不具者〕233 フグシヤ かたはもの。からだに缺陷のある者。

〔不具備花〕234 フグビクワ 蕚・花冠・雄蕊・雌蕊の四部の中、何れか一部を缺いた花をいふ。

【不虞】235 フグ ❶はかられない。思ひがけない。意外。〔孟子、離婁上〕有ニ不虞之譽一。❷思ひまうけぬ災。又、不慮の死。〔易、萃〕君子以除ニ戎器一、戒ニ不虞一。〔詩、大雅、抑〕用戒ニ不虞一。〔後漢書、同譽傳〕若悲愁生レ疾、一旦不虞、主上將ニ何以令ニ乎天下一。

〔不虞之道〕236 フグノミチ 思ひがけない方法。〔孫子、九地〕由ニ不虞之道一、攻ニ其所レ不レ戒也。

〔不虞之難〕237 フグノナン 思ひがけない災難。〔鹽谷宕陰、送ニ安井仲平東遊一序〕孑然僑ニ居乎三千里外一、竈突未レ黔、累逢ニ不虞之難、人倫之變一。

〔不虞之變〕238 フグノヘン 思ひがけない變事。〔漢書、趙充國傳〕又恐ニ它夷卒有ニ不虞之變一。

〔不虞之譽〕239 フグノホマレ 思ひがけなく得た名譽。〔孟子、離婁上〕孟子曰、有ニ不レ虞之譽一、有ニ求レ全之毀一。

【不空】240 フクウ 唐の僧。不空三藏に同じ。

〔不空三藏〕241 フクウサンザウ 唐の高僧。印度の錫蘭島の人。梵名は Amogha-vajra（阿目佉跋折羅、不空金剛と譯す）。號は智藏國師。諡は大辨正廣智三藏。開元の時、漢土に入る。後、印度に還り、諸經論五百餘部を求め、天寶中、再び唐に入り、京兆の大興善寺に居り、密嚴仁王等の經七十七部を譯した。密教で付法（法を傳へること）の第六祖、傳持（大日經・金剛頂經を傳へること）の第四祖。大曆中、入寂す。〔宋高僧傳、一〕。

【不偶】242 フグウ 時にあはない。不遇に同じ。〔論衡、命義〕不偶之害、不レ能レ留也。

【不遇】243 フグウ 時に合はぬ。世に容れられぬ。轉じて、不運。不耦。不偶。〔詩、邶風、柏舟序〕仁人不遇、小人在レ側。〔史記、霍去病傳〕留落不遇。〔論衡、刺孟〕夫如レ是不遇之議、一在レ人也。〔孔子家語、在厄〕夫遇不遇者、時也。〔劉琨、答ニ盧諶一詩序〕遇與ニ不遇一也。〔新論、遇不遇〕賢不賢、性也、遇不遇、命也。

【不耦】244 フグウ ふしあはせ。不幸で時に遇はない。不遇に同じ。〔漢書、霍去病傳〕諸宿將、常留落不耦。

【不屈】245 フクツ ❶初の志をまげぬ。節を變へぬ。〔漢書、鄭子眞傳〕子眞不レ屈。〔晉書、王長文傳〕刺史知ニ其不屈一、禮遣レ之。❷服從せぬ。挫けぬ。降伏せぬ。〔唐書、張巡傳〕巡不レ屈。❸盡きぬ。〔老子、五〕虛而不レ屈、動而愈出。〔注〕言ニ空虛无レ有ニ屈竭時一。❹呂氏春秋、審應覽の篇名。

〔不屈不撓〕246 フククツフタウ 志がくじけず、たゆまないこと。

【不果】247 フクワ ❶果さぬ。濟まさぬ。〔易、說卦〕巽爲レ木爲レ風、云云、爲ニ進退一爲ニ不果一。〔左氏、哀、十五〕欲ニ與レ之伐レ公、不レ果。❷勇決でないこと。〔國語、吳語〕莫ニ如レ此志行不果一。〔注〕果、勇決也。

【不花】248 フクワ ❶獸の名。うし。牛の異名。〔世史正綱〕虜呼レ牛爲ニ不花一。❷元、董士元(9－31433‥203)の一名。

【不華】249 フクワ 花が咲かない。〔中論、夭壽〕且夫信無レ過ニ於四時一、而春或不レ華、夏或隕レ霜、秋或雨レ雪、冬或無レ冰。

【不過】250 フクワ ❶かまきり。螳螂。〔爾雅、釋蟲〕不過、蟷蠰。〔疏〕不過、一名蟷蠰、方言云、三河之域、謂ニ之螳蜋一。〔禮、月令〕小暑至、螳蜋生。〔疏〕舍人云、不蝸名ニ蟷蠰一、今之螳蜋也。❷云云に過ぎない。それ以上に出ない。〔左氏、隱、元〕大都不レ過ニ參レ國之一一。❸pu² kuo⁴ ㋑非常に。㋺云云出來ない。㋩忍びない。云云して居られぬ。

〔不過意〕251 pu² kuo⁴ i⁴ 氣の毒に思ふ。

【不課】252 フクワ 大寶令の制で、租・義倉の外、調・庸・雜徭を課せぬこと。又、課せられぬ人。〔戶令〕戶內、云云、無ニ課口一者、爲ニ不課戶一。〔注〕不課、謂ニ皇親及八位以上、男年十六以下、幷蔭子・耆・廢疾・篤疾・妻妾女・家人・奴婢一。

〔不課戶〕253 フクワコ 大寶令の制で、課口のない戶。〔戶令〕戶內有ニ課口一者爲ニ課戶一、無ニ課口一者爲ニ不課戶一。

【不蝸】254 フクワ 蟲の名。かまきり。〔集韻〕蝸、不蝸、

蟲名、螗蜋也。

【不快】255 フクワイ ❶心よからぬこと。不愉快なこと。面白からぬこと。不愜。〔易、旅〕我心不レ快。〔戰國、秦策〕蔡澤入則揖二應侯一、應侯不レ快。〔漢書、趙充國傳〕張安世始嘗不レ快レ上。〔後漢書、何進傳〕先帝嘗與二太后一不レ快、幾至二成敗一。〔通俗編、性情、不快〕按、世謂二不レ可レ意曰二不快一、有レ疾亦曰二不快一。❷疾あること。わづらひ。病氣。〔後漢書、華陀傳〕體有二不快一、起作二一禽之戲一、怡而汗出。〔魏志、華陀傳〕有二一士大夫不快一、陀云、君病深、當二破レ腹取一。〔輟耕錄、不快〕世謂レ有レ疾曰二不快一、陳壽作二華陀傳一、亦然。❸手堅くて遲い。放縱でないこと。〔戰國、趙策上〕恭二于教一而不レ快。〔鮑注〕快、爲二縱逸一。❹相互の關係がよくないさま。また、仲が惡くなること。❺pu² k'uai⁴ ㋑速くない。遲い。㋺不愉快。

【不快活】256 フクワイクワツ 快活でない。氣象がさわやかにはつきりしてゐないこと。〔朝野僉載〕桑維翰曰、居二宰相一、如レ著二新鞋襪一、外面好看、其中不二快活一也。

【不會】258 フクワイ ❶不和(1091)に同じ。〔運步色葉集〕不會。❷pu² huei⁴ 出來ぬ。云云の筈がない。

【不會得】259 フクワイトク 解し得ぬこと。不解得。〔方言藻〕姜夔詞、樹若二有情時一、不三會二得青青如レ此、不會得、猶レ云二不解得一、方言也。

【不光】260 フクワウ 僅かに云云のみならず。〔木皮詞〕不三光是徐常沐鄧稱二猛將一。

【不皇】261 フクワウ いとまがない。皇は遑。不遑(263)に同じ。〔左氏、昭、七〕社稷之不レ皇。〔注〕皇、暇也。〔國語、楚語上〕周書曰、文王至二于日中昃一、不レ皇二暇食一。

【不偟】262 フクワウ 不遑に同じ。〔法言、君子〕忠臣孝子、偟乎不レ偟。〔注〕偟、暇。

【不遑】263 フクワウ 暇がない。ひまがない。不皇。〔詩、小雅、小弁〕心之憂矣、不レ遑二假寐一。〔左氏、襄、八〕夫婦男女、不レ遑二啓處一。

【不完】264 フクワン まつたからず。完全でない。〔荀子、議兵〕可レ殺、而不レ可レ使レ處二不完一。

【不完全】265 フクワンゼン 完全でない。

【不完全葉】266 フクワンゼンエフ 植物學用語。葉身・葉柄・托葉の三部を完備してゐない葉をいふ。

【不完全花】267 フクワンゼンクワ 植物學用語。蕚・花冠・雄蕊・雌蕊の中、何れかを缺く花をいふ。

【不完全變態】268 フクワンゼンヘンタイ 動物學用語。昆蟲の發生經過中、幼蟲と蛹との時代が不明瞭な變態をいふ。

【不官】269 フクワン 役を勤めぬ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕有二逃亡不官者四項一。

【不管】270 pu⁴ kuan³ ❶構はぬ。❷云云に拘らず。

【不管好歹】271 pu⁴ kuan³ hao² tai³ 委細構はぬ。何としても。

【不管三七二十一】272 pu⁴ kuan³ san¹ ch'i¹ êrh⁴ shih² i¹ 何事にも無頓着な。一切構はぬ。

【不君】273 フクン 君たる道に背くこと。〔左氏、宣、二〕晉靈公不君。〔注〕失二君道一也。〔論語、顏淵〕信如君不レ君、臣不レ臣、父不レ父、子不レ子、雖レ有レ粟、吾豈得而食レ諸。

【不羣】274 フグン ❶群衆を離れて超出する。〔楚辭、九章、惜誦〕行不羣以巓越兮、又衆兆之所レ咍也。〔漢書、景十三王傳贊〕夫惟大雅、卓爾不羣、河閒獻王近レ之矣。〔白虎通、喪服〕練不レ羣、立不レ旅。❷淸、馬芳(**12**−**44572**‥491)の字。

【不刑】275 フケイ ❶刑を行ふに節度を失ふこと。〔左氏、襄、五〕楚共王於レ是不刑。〔會箋〕不刑者、言レ不レ得二用レ刑之道一也。❷刑せず。刑を用ひぬ。〔孔叢子、論書〕一人不レ刑、而天下治。

【不惠】276 フケイ ❶なさけがない。不慈。無慈悲。〔詩、小雅、小弁〕君子不惠、不二舒究レ之。〔墨子、兼愛下〕爲二人君一者之不惠也。❷さとくない。不慧(287)に同じ。惠は慧。〔漢書、武五子、昌邑哀王傳〕淸狂不惠。

【不敬】277 フケイ つつしまぬ。禮を缺く。〔周禮、夏官、祭僕〕誅二其不敬者一。〔禮、祭義〕祭不レ欲レ數、數則煩、煩則不レ敬。〔論語、爲政〕至二於犬馬一、皆能有レ養、不レ敬何以別乎。

【不敬罪】278 フケイザイ 皇室の尊嚴を冒瀆する一切の言動に因つて生ずる罪。〔刑法、第七十四條〕。

【不敬事實】279 フケイジジツ 天皇・太皇太后・皇太后・皇后・皇太子又は皇太孫、或は神宮・皇陵及び皇族に對して、其の尊嚴を冒瀆した事實。

【不經】280 フケイ ❶常法に違ふこと。經は常。〔書、大禹謨〕與三其殺二不辜一、寧失二不經一。〔傳〕經、常、寧失二不常之罪一。〔左氏、襄、二十六〕夏書曰、與三其殺二不辜一、寧失二不經一。❷道理に合はぬ。不合理。〔史記、孟軻傳〕其語閎大不經。〔漢書、郊祀志〕視二其書不經一、疑二其妄言一。〔注〕不レ合二經典一也。❸經過しない。無經驗な。不經事を見よ。

【不經意】281 フケイイ 不注意。〔圖繪寶鑑〕古人畫稾、謂二之粉本一、前輩多寶二畜之一、蓋其草草不經意處、有二自然之妙一。

【不經濟】282 フケイザイ 物を無駄に使ふこと。經濟的でない。

【不經事】283 フケイジ 經驗がない。〔晉書、桓沖傳〕雖レ遣二諸不經事少年一、衆又寡弱、天下事可レ知。

【不經之談】284 フケイノダン 道理に合はぬ說。〔羊祜、戒レ子書〕無レ傳二不經之談一、無レ聽二毀譽之語一。

【不經一事不長一智】285 pu⁴ ching¹ i² shih⁴ pu⁴ chang³ i² chih⁴ 一事を經驗せねば一智を增すことが出來ぬ。

【不詣】286 フケイ 至らない。行かぬ。〔世說新語補、識鑑〕許子將嘗到二潁川一、多二長者之游一、唯不レ詣二陳仲弓一。

【不慧】287 フケイ さとくない。不智。不才。不惠。〔列子、湯問〕甚矣、汝之不慧。

【不稽】288 フケイ かんがへられぬといふ義で、根據のないこと。虛妄。荒誕。無稽。〔孔子家語、三恕〕奇偉不稽、則道不レ信。

【不諟】289 フケイ したがはぬもの。まつろはぬもの。〔司馬相如、封禪文〕義征二不諟一。〔注〕善曰、諟、順也。〔魏志、鍾會傳〕仁育二羣生一、義征二不諟一。

【不警】290 フケイ いましめぬ。用心しない。不用心。不注意。〔左氏、昭、十三〕鮮虞人聞二晉師之悉起一也、而不レ警レ邊、且不レ脩レ備。〔近古史談、織篇、右府祭儆〕織田之門、無二懈惰不警之士一。

【不蠲】291 フケイ 淸らかでない。不潔。〔周禮、秋官、蜡氏〕令二州里一除二不蠲一。〔注〕蠲、讀如二吉圭惟饎之圭一、圭、絜也。

【不教】292 フケウ 教へない。教育しない。〔論語、堯曰〕不レ教而殺、謂二之虐一。〔孔子家語、三恕〕老而不レ教、死莫二之思一也。

【不教之教】293 フケウノヲシヘ 普通の所謂教へるといふ形式に依らず、其の言動が自然に教となるやうな教。〔呂覽、君守〕不教之教、無言之詔。

【不教嘴受窮】294 pu² chiao⁴ tsuei³ shou⁴ ch'iung² 口やめずに喰ふ。人の貪食を諷する語。河北の諺。

【不激】295 フゲキ ふるひおこさない。〔文中子、王道〕子曰、小人不レ激不レ勵、不レ見レ利不レ勸。

【不決】296 フケツ 決せず。決定しない。〔國史略、文武天皇〕議レ立二太子一、衆口不レ決。

【不絜】297 フケツ 不潔に同じ。〔孟子、盡心下〕狂者又不レ可レ得、欲下得二不レ屑二不絜一之士上而與甲レ之。〔注〕不絜、汙穢也、既不レ能レ得二狂者一、欲丙得下有レ介之人、能恥二賤汙行一不レ絜者上、則可乙與言甲矣。

【不潔】298 フケツ きたない。けがれ。汚穢。不絜。〔孟子、離婁下〕西子蒙二不潔一、則人皆掩レ鼻而過レ之。〔管子、心術上〕掃二除不潔一、神乃留處。〔新書、勸學〕以二西施之美一而蒙二不潔一。

【不潔在レ面人皆恥レ之不潔在レ心人不二肯媿一】299 フケツメンニアルハヒトミナコレヲハヅ フケツココロニアルハヒトアヘテハヂズ 顏が汚れてゐると、人々は皆それを恥かしいと思ふが、心の汚れてゐることは、恥しいとは思はない。〔新論、心隱〕不潔在レ面、人皆恥レ之、不潔在レ心、人不二肯媿一、以二面露レ外、而心伏レ內、故善飾二其情一、潛レ姦隱レ智、終身不レ可二得而見一也。

【不月】300 フゲツ 婦人が月經を見ないこと。〔正字通〕月、女子天癸、謂二之月事一、以レ時下曰二入月一、過レ時不レ下爲二不月一。

【不協】301 フケフ むつまじくない。協和しない。不和。〔左氏、成、十二〕謀二其不協一、而討二不庭一。〔會箋〕不協、不二相睦一也。

【不協和音】302 フケフクワオン 高さを異にする二つの音を同時に鳴らすと、調和しないで混濁した感じを與へる。其の二つの音をいふ。

【不愜】303 フケフ 快く思はぬ。不快。〔宋書、庾登之傳〕登之與レ晦俱曹氏壻、名位本同、一旦爲二之佐一、意甚不愜。

【不見】304 ㊀見ない。見えない。會はない。〔易、艮〕行二其庭一、不レ見二其人一。〔詩、豳風、東山〕自二我不レ見、于レ今三年。㊁pu² chien⁴ 會はない。云云せられない。

【不見識】305 見識のないこと。人格に重みが無いこと。

【不見得】306 pu² chien⁴ tê 必ずしもさうではない。云云とは見えない。

【不見之見】307 見ないで悟ること。〔呂覽、大樂〕不見之見、不聞之聞。

【不見面是臘月】308 pu² chien⁴ mien⁴ shih⁴ la⁴ yüeh⁴ 顔を合はせねば、人情が自然と冷淡になること。

【不見棺材不下淚】309 pu² chien⁴ kuan¹ ts'ai² pu² hsia⁴ lei⁴ 棺を見ねば自然涙も出ぬ。轉じて、不孝者などの喩。

【不倦】310 うまぬ。うみ厭きない。〔禮、射義〕好レ學不レ倦。〔左氏、昭、十三〕施舍不レ倦、求レ善不レ厭。〔論語、述而〕誨人不レ倦。〔戰國、趙策〕並驅而走者、五里而罷、乘レ驅而御レ之、不レ倦而取レ道多。〔歐陽脩、吉州學記〕善教者、以二不レ倦之意一、須二遲久之功一。〔蘇軾、和二子由記園中草木一詩〕微物豈足レ觀、汝獨觀不レ倦。

【不虔】311 神佛を敬はぬ。不信心。〔晉書、文帝紀〕章二厥天威一、以糾二不虔一。〔柳宗元、柳州文宣王新修廟碑〕苟神之在、曷敢不レ虔。

【不愆】312 あやまらない。たがはない。〔詩、大雅、假樂〕不レ愆不レ忘、率二由舊章一。〔箋〕愆、過也。〔左氏、昭、四〕禮義不レ愆、何恤二於人之言一。

【不賢】313 賢くないこと。偉くない。〔論語、子張〕不賢者、識二其小者一。〔史記、燕世家〕昆弟少、又不賢。

【不險】314 危險がない。〔孔子家語、弟子行〕其可レ謂二不險一矣。

【不顯】315 pu⁴ hsien³ 云云とは思はれない。云云の樣でない。

【不顯湯】316 pu⁴ hsien³ t'ang¹ 缺點・短所・失策を見せない。ぼろを出さぬ。

【不驗】317 確證がなくてあやしいこと。〔賈公彥、序周禮廢興〕武帝知二周官未世潰亂不驗之書一。〔論衡、死僞〕不驗之語也。

【不言】318 物をいはぬ。無言。〔書、說命上〕王言惟作レ命、不レ言、臣下罔レ攸レ稟レ令。〔莊子、齊物論〕大辯不レ言。〔管子、心術上〕知二不言無爲之事一。〔孫綽、遊二天台山一賦〕等二寂默于不言一。〔新論、清神〕是以、聖人清レ目而不レ視、靜レ耳而不レ聽、閉レ口而不レ言、棄レ心而不レ慮、貴レ身而忘レ賤。

【不言樂】319 鳥の舞（伽陵頻伽の鳥に擬して舞ふ舞）の異稱。〔樂家錄、二十八、中華曲〕壹越調、迦陵頻、云云、一名二不言樂一、又、鳥。

【不言之化】320 言葉に現はさないで自然に德に感じて行はれる教化。〔晉書、劉寔傳〕實著二崇讓論一曰、人人無レ所レ用二其心一、任二衆人之議一而天下自化矣、不言之化行、巍巍之美、於レ此著矣。〔南史、王儉傳〕明公不言之化。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕不言之化、若二門到戶說一矣。

【不言之花】321 物いはぬ花。桃や李の花をいふ。〔史記、李廣傳〕諺曰、桃李不レ言、下自成レ蹊。

【不言之教】322 言葉に現はさないで、自然に教をなすもの。特に老莊の無爲自然の教をいふ。〔老子、二〕行二不言之教一。〔老子、四十三〕是以聖人、處二無爲之事一、行二不言之教一。〔莊子、德充符〕固有二不言之教一。

【不言之言】323 意味を言外に含めた言葉。〔莊子、徐無鬼〕丘也聞二不言之言一矣。

【不言之聽】324 言語にあらはれない言外の意味をきくこと。〔呂覽、精諭〕周公旦能以二不言一聽二此之謂一二不言之聽一、不言之謀、不聞之事一。

【不言之辯】325 無言の雄辯。言葉では言はないが、自然とある物事を顯示すること。〔莊子、徐無鬼〕此之謂二不言之辯一。

【不言實行】326 彼れ此れと宣傳せずに、默つて實行すること。

【不古】327 人情の薄いこと。古の純朴さがない。

【不辜】328 つみのない人。法律に觸れぬ人。無辜。〔書、大禹謨〕與二其殺二不辜一、寧失二不經一。〔左氏、昭、二十七〕今又殺二三不辜一。〔孟子、公孫丑上〕行二一不義一、殺二一不辜一、而得二天下一、皆不レ爲也。〔荀子、宥坐〕殺二不辜一也。〔韓非子、難一〕若非二罪人一而勸レ之以殉、勸レ之以殉、是重二不辜一也。〔呂覽、愼行〕殺二衆不辜一。〔管子、權脩〕殺二不辜一而赦二有罪一。〔晏子、諫下〕刑二殺不辜一。〔淮南子、本經訓〕虐二殺不辜一。

【不辜之民】329 罪のない人民。〔呂覽、聽言〕誅二不辜之民一以來レ利。

【不楛】330 器物が粗惡でないこと。〔荀子、王霸〕百工莫レ不二忠信一、不楛一矣。〔注〕楛、謂二器惡不一牢固一也。

【不仵】331 さからはぬ。仵は忤に通ず。〔莊子、天下〕以二觭偶不仵之辭一相應。

【不語】332 物を言はぬ。かたらぬ。不言。〔蘇軾、維摩像唐楊惠之塑在二天柱寺一詩〕至レ今遺像兀不レ語、與二昔未レ死無一增虧一。

【不語仙】333 蓮の花の異稱。

【不語先生】334 唐の白居易の白氏六帖をいふ。〔海錄碎事、文學、圖籍〕牛羊日曆、以二白居易六帖一爲二不語先生一。

【不語楊家】335 五代の楊行密の子に啞があり、時人が之を不語楊家と稱した。〔實賓錄〕不語楊家、五代中、楊行密有二一子病レ瘖、鄉里號二不語楊家一。

【不公】336 公平でない。不公平。〔呂覽、審應〕阿レ黨不レ公。〔說苑、至公〕吾不公之心、明二著於國一也。

【不公平】337 公平でない。かた手おち。

【不公不法】338 公平でなく、法律に從はない。〔通俗編、政治、不公不法〕司馬光與二姪帖一、不可下恃二賴我勢一、作二不公不法一、攪中擾官方上。

【不勾】339 足らぬ。不足な。

【不勾上手】340 pu⁴ kou¹ shang⁴ shou³ 手に入らぬ。手を著けるに足らぬ。

【不拘】341 pu⁴ chü¹ 云云にかかはらず。拘泥せぬ。遠慮せぬ。

【不肯】342 がへんぜぬ。承知せぬ。〔戰國、齊策〕得レ志、不レ慙爲二人主一、不レ得レ志、不レ肯爲二人臣一。〔史記、衞青霍去病傳〕擧二大將軍故人門下一、多去事二驃騎一、輒得二官爵一、唯任安不レ肯。〔隋書、柳述傳〕尚書不レ肯。

【不肯干休】343 pu⁴ k'ên³ kan¹ hsiu¹ 無事に濟ますことを肯じない。

【不苟】344 ㊀いやしくもせぬ。〔周禮、地官、大司徒〕一曰、以二祀禮一教レ敬、則民不レ苟。㊁荀子の篇名。㊂呂氏春秋、不苟論の篇名。

【不苟論】345 呂氏春秋の篇名。六論の一。

【不貢】346 入貢しない。〔左氏、桓、十五〕諸侯不レ貢二車服一。〔史記、周紀〕有レ刑二不祭一、伐二不祀一、征二不享一、讓二不貢一、告二不王一。

【不鉤】347 秦の方士の徐福が始めて秦の始皇の爲に作つた簾の名。鉤を用ひないで自然に捲き開きするから名づけた。〔記事珠〕徐福爲二始皇一作二自然之簾一、縣二於宮門一、始皇抱二文珠一置二膝下一、其簾便下、去レ之則簾自捲、不レ事レ鉤也、故名二不鉤一。

【不彀】348 pu⁴ kou⁴ 足らない。

【不彀本】349 pu⁴ kou⁴ pen³ 引き合はぬ。本に足らぬ。損をする。

【不彀一句】350 pu⁴ kou⁴ i² chü⁴ 條理のない出鱈目の話。

【不克】351 ㊀かたない。〔左氏、桓、二〕晉潘父弑二昭侯一、而立二桓叔一、不レ克。㊁あたはず。云云することが出來ぬ。〔春秋、宣、八〕雨不レ克レ葬。

【不告】352 告げない。〔左氏、襄、二十一〕穆叔聞、王子爲レ政何如、對曰、吾儕小人、云云、焉與二知政一、固問焉、不レ告。〔孟子、離婁上〕舜不レ告而娶、爲レ無レ後也。

【不告不理】353 訴訟のない犯罪に就いては、裁判所は之を審理しないこと。

【不穀】354 一種の自稱代名詞。自らを謙遜して言ふ語。不善の意。穀は善。㊀諸侯の自稱。〔左氏、僖、四〕齊侯曰、豈不穀是爲。〔注〕孤・寡・不穀、諸侯謙稱也。〔老子、三十九〕貴以レ賤爲レ本、高必以レ下爲レ基、是以、侯王自謂二孤・寡・不穀一。〔淮南子、人間訓〕不穀親傷。〔注〕不穀、不祿也、人君謙以自稱也。㊁四夷の君長の自稱。〔禮、曲禮下〕其在二東夷・北狄・西戎・南蠻・雖レ大曰レ子、于レ內自稱曰二不穀一。〔注〕與二民言之謙稱一、穀、善也。㊂王者自ら貶する辭。〔左氏、僖、二十四〕王使來告レ難曰、不穀不德、云云、天子凶服降レ

名、禮也。〔注〕降レ名稱二不穀一。

【不根】355 フコン あとかたがない。よりどころがない。不根持論を見よ。

〔不根持論〕356 フコンノヂロン 根據のない持論。〔漢書、嚴助傳〕朔・皐不根持論、上頗俳優畜レ之。〔注〕師古曰、論議委隨不レ能レ持レ正、如三樹木之無二根柢一也。

【不差】357 フサ ❶違はない。〔後漢書、蔡邕傳〕謚曰二貞定公一、〔注〕謚法曰、純行不レ差曰レ定。❷pu⁴ ch'a¹ 差異がない。似てゐる。

〔不差甚麼〕358 pu⁴ ch'a¹ shen² mê ❶いくらもちがはない。❷大體。あらまし。大方。

〔不差往來〕359 pu⁴ ch'a¹ wang³ lai² 不差甚麼に同じ。

【不做】360 pu² tsuo⁴ しない。

〔不做人家〕361 pu² tsuo⁴ jen² chia¹ 儉約しない。浙江省餘杭地方の方言。

〔不做和尚不知頭冷〕362 pu² tsuo⁴ hê² shang pu⁴ chih¹ t'ou² lêng³ 坊主にならなければ、頭の冷たさを知らぬ。物事は體驗を經て始めてわかるものだ。

【不才】363 フサイ ❶才能が無いこと。又、其の人。おろか。不慧。愚鈍。〔左氏、成、三〕臣不才、不レ勝二其任一。〔孟子、離婁下〕才也養二不才一。〔孔叢子、獨治〕吾不才、無二軍旅之任一。〔蜀志、諸葛亮傳〕如其不才君可二自取一。〔孟浩然、歲暮歸二南山一詩〕不才明主棄、多病故人疎。❷自己の謙稱。

〔不才子〕364 フサイシ 才德のない子供。惡人。〔左氏、文、十八〕昔帝鴻氏有二不才子一云云、少皥氏有二不才子一云云、顓頊氏有二不才子一。

【不倸】365 フサイ 禮を具へない。人を禮せざること。一に、不採・不睬に作る。〔陔餘叢考、倸〕俗語不レ禮レ人、爲二不倸一、亦有レ所レ本、北史齊後主緯穆皇后之母、名輕霄、本穆子倫婢也、后既封、以二陸令萱一爲レ母、更二不倸輕霄一。

【不採】366 フサイ ❶不倸に同じ。〔北史、齊後主皇后穆氏傳〕后既以レ陸爲レ母、提婆爲レ家、更二不採輕霄一。❷pu⁴ ts'ai³ とりあはぬ。相手にしない。

【不濟】367 フサイ ❶わたらない。〔左氏、襄、十四〕及レ涇不レ濟。〔新論、賞罰〕若二舟之循レ川、車之遵レ路、亦奚向而不レ濟、何行而弗レ臻矣。❷すくはれぬ。たすからぬ。〔十六國春秋、北燕錄、馮跋〕吾患當レ不レ濟、卿等善相二吾子一。❸成就しない。〔左氏、僖、九〕其濟、君之靈也、不レ濟、則以レ死繼レ之。〔國語、周語下〕民所二曹好一、鮮二其不レ濟也。〔管子、大匡〕施伯進對二魯君一曰、管仲有レ急、其事不レ濟。❹良くない。わるい。〔北史、宋繇傳〕高隆之不レ同、於レ是反誣二游道一云云、朝士皆分、爲二游道不濟一。

〔不濟事〕368 フサイジ 役に立たぬ。埒があかぬ。〔北齊書、高昻傳〕高祖曰、高都督、純將漢兒、恐不レ濟レ事。〔兩世姻緣傳奇〕咳、多分是不濟事了。

【不在】369 フザイ ❶其の所に居らぬ。其の位に居らぬ。〔左氏、哀、二十七〕多陵レ人者、皆不レ在、知伯其能久乎。〔李白、湖邊採蓮婦詩〕長兄行不レ在、莫レ使二外人逢一。❷死去することをいふ。〔程史、七、朝士留刺〕昔有二一朝士一、出謁未レ歸、有レ客、投二刺於門一、閽者告レ之、以二某官不在一、留二門狀一、俟レ歸呈稟、客忽然發レ怒、叱レ閽曰、汝何敢爾、凡人之死者、乃稱二不在一。

〔不在家〕370 pu² tsai⁴ chia¹ 留守。不在。

〔不在行〕371 pu² tsai⁴ hang² ❶其の道の事に熟してゐない。しろうと。❷不性な。働かない。

〔不在乎〕372 pu² tsai⁴ hu¹ 何々を問題にしない。

〔不在者〕373 フザイシヤ 民法上、從來の住所又は居所を去つて所在不明な人をいふ。

〔不在地主〕374 フザイヂヌシ 其の所有する土地の所在地に居住してゐない地主をいふ。

〔不在篇兒〕375 pu² tsai⁴ p'ien¹ êrh 據り所がない。根據の不確實な。

〔不在話下〕376 pu² tsai⁴ hua⁴ hsia⁴ 暫くさておく。話の限りではない。

【不材】377 フザイ ❶役に立たない材木。〔莊子、山木〕此木以二不材一、得レ終二其天年一。❷不才(363)の❶に同じ。〔國語、魯語下〕沃土之民不材、淫也。〔注〕不材、器能少也。〔荀子、正論〕不材不中。〔史記、司馬相如傳〕女至不材、我不レ忍レ殺。❸食べられぬ。料理されぬ。〔國語、魯語下〕夫苦匏不レ材二於人一、共レ濟而已。〔注〕材、讀若レ裁也、不レ裁二於人一、言レ不レ可レ食也。

【不皁】378 フサウ 淡い黑色の縑帛。〔天祿識餘〕宋時、縑帛中有二淡皁色一、謂二之不皁一。

【不爭】379 フサウ 爭はない。〔老子、三〕使二民不レ爭。〔列子、湯問〕不レ競不レ爭。

〔不爭氣〕380 pu⁴ chêng¹ ch'i⁴ おとなしい。

〔不爭之術〕381 フサウノジユツ 爭はない方法。〔呂覽、爲欲〕不爭之術存、因不レ爭。

【不爽】382 フサウ たがはぬ。〔詩、小雅、蓼蕭〕其德不レ爽、壽考不レ忘。〔傳〕爽、差也。

【不造】383 フザウ ❶作らない。〔史記、孝景紀〕爲二歲不レ登、禁二天下一、食不レ造。❷成らない。轉じて、不幸。〔詩、周頌、閔予小子〕閔予小子、遭二家不レ造一、嬛嬛在レ疚。〔傳〕造、爲。〔潘岳、寡婦賦〕嗟二余生之不レ造兮、哀二天難之匪レ忱。〔注〕良曰、造、成也、忱、誠也、言、我生遭二家不レ成而喪レ父、是天降二禍難一。❸至らない。〔世說新語、識鑑〕仲擧性峻、峻則少レ通、故不レ造也。

〔不造之艱〕384 フザウノカン 不幸の難。不造の❷を見よ。〔蜀志、先主劉備傳〕遭二厄運不造之艱一。

【不像】385 フザウ ❶不體裁。不都合。〔紅樓夢、六回〕就是管レ家爺們看著也不像。❷pu² hsiang⁴ 似ない。似よらぬ。云云の樣でない。

〔不像意〕386 pu² hsiang⁴ i⁴ 思ふやうにゆかぬ。

〔不像樣〕387 pu² hsiang⁴ yang⁴ ❶劣つた。❷似合はぬ。❸お話にならない。

【不臧】388 フザウ 善くない。又、善いとしない。臧は善。〔書、仲虺之誥〕帝用不レ臧、式レ商受レ命、用爽二厥師一。〔詩、邶風、雄雉〕不レ忮不レ求、何用不レ臧。〔莊子、人閒世〕吾食也執レ粗而不レ臧。〔釋文〕臧、作郎反、善也。

【不作】389 フサク ❶作らぬ。耕さぬ。〔史記、趙世家〕耕事方急、一日不レ作、百日不レ食。❷起らぬ。世に出でぬ。〔禮、樂記〕暴民不レ作、諸侯賓服。〔孟子、滕文公下〕聖王不レ作、諸侯放恣。❸凶作。〔八木の話、米相場豐凶直段極意〕五分已上の不作は、決して無きことと。

〔不作爲〕390 フサクヰ 民法上、或る事を行はないことをいふ。

〔不作聲〕391 pu² tso⁴ shêng¹ 聲を立てぬ。默たる。

【不作法】392 ブサハフ ぞんざいな擧動。ぶしつけ。〔武家義理物語、六〕下人の不作法とは、世の聞こえ迷惑至極の處なり。

〔不作之馬〕393 フサクノウマ 弱くて立たない馬。〔說苑、指武〕不レ能下以二弊車不作之馬一、趨疾而致上レ遠。

〔不作第二人想〕394 pu² tsuo⁴ ti⁴ êrh⁴ jen² hsiang³ 第一等を占める心掛けでなければならぬ。二番目となつてはならぬ。

【不索】395 pu⁴ suo³ 求めない。必要としない。〔水滸傳、四回〕不索哥哥說、洒家都依了。

【不錯】396 pu² ts'uo⁴ ❶違はない。成る程。其の通り。間違ひがない。❷可なり良い。

【不煞】397 pu² sha⁴ 甚だしくない。

【不參】398 フサン 行かぬ。參らぬ。出席せぬ。〔日本紀略、後篇、二、朱雀院〕天慶五年十二月八日、止二除目一、依二太政大臣不參一也。

【不算】399 pu² suan⁴ 勘定に入れない。云云といふ方ではない。

【不山】400 フザン 清、程令觀(**8**－**25081**・301)の字。

【不子】401 フシ 子たる道にそむくこと。又、よくない子供。〔論語、顏淵〕齊景公問二政於孔子一、孔子對曰、君君、臣臣、父父、子子、公曰、善哉、信如君不レ君、臣不レ臣、父不レ父、子不レ子、雖レ有レ粟、吾豈得而食レ諸。〔荀子、子道〕可二以從一而不レ從、是不子也。

【不止】402 フシ ❶やまない。止まらない。〔左氏、襄、十八〕止將レ爲二三軍獲一、不レ止將レ取二其衷一。❷ただ云云ばかりではない。云云に限らない。〔洪武正韻〕翅、不翅、猶レ言二不止一也。

【不死】403 フシ ❶死なない。ながいきする。〔左氏、僖、三十〕晉侯使二醫衍酖二衞侯一、甯兪貨レ醫、使レ薄二其酖一、不レ死。〔莊子、齊物論〕人謂二之不死一。〔莊子、大宗師〕殺レ生者不レ死。〔列子、湯問〕食レ之、皆不レ老不レ死。〔史記、封禪書〕封禪者合二不死之名一也。❷佛涅槃。不死門を見よ。

〔不死國〕404 フシノクニ 不老長壽の人が棲むと傳へられる國。〔三才圖會、外夷人物、不死國〕不死國、在二穿胸國東一、其人、黑色、長壽不死、居二圓丘上一、有二不死樹一、食レ之乃壽、在二赤泉一、飲レ之不レ老。〔和漢三才圖會、外夷人物、不死國〕三才圖會

云、不死國、在ニ穿胸國東一、其人、黑色、長壽不レ死、居ニ園丘上一、有ニ不死樹一、食レ之乃壽、在ニ赤泉一、飲レ之不レ老。

不死國（三才圖會）

【不死草】405 ❶枯れない草。〔淮南子、墜形訓〕南方有ニ不死之草一。❷草の名。やますげ。麥門冬（**12**－**47717**‥113）の異名。〔本草、麥門冬〕釋名、不死草、時珍曰、俗作ニ門冬一、便ニ于字一也、可ニ以服食斷一レ穀、故又有ニ餘糧不死之稱一。

【不死樹】406 食へば壽を得るといふ木。〔山海經、大荒南經〕有ニ不死之國一、阿姓、甘木是食。〔注〕甘木、卽不死樹、食レ之不レ老。〔淮南子、墜形訓〕珠樹・玉樹・琁樹・不死樹、在ニ其西一。〔博物志、物產〕員丘山上有ニ不死之樹一、食レ之乃壽。

【不死身】407 打つても痛まず、切つても血が出ぬといふからだ。〔俚諺集覽〕ふじみ、不死身也。

【不死民】408 死なない民。又、その民の居る國。〔山海經、海外南經〕不死民、在ニ其東一、其爲レ人黑色、壽不レ死、一曰、在ニ穿匈國東一。

【不死麪】409 藥草の一種。まつほど。ぶくりやう。茯苓(**9**－**30906**‥2)の異名。〔本草、茯苓〕釋名、不死麪。〔藥譜〕琥珀孫・松脂、賊參・薺苨不死麪・茯苓。

【不死門】410 佛涅槃を不死といひ、涅槃に入る道を不死門といふ。〔無常經〕共捨ニ無常處一、當レ行ニ不死門一。

【不死之鄕】411 不死の民の居る鄕。〔呂覽、求人〕南至ニ交阯・孫樸・續樠之國、云云、羽人裸民之處、不死之鄕一。

【不死之師】412 永遠の生命のある師匠。〔淮南子、精神訓〕夫至人倚ニ不拔之柱一、行ニ不關之塗一、稟ニ不竭之府一、學ニ不死之師一、無ニ往而不一レ遂。

【不死之道】413 死なない方法。〔莊子、山木〕予嘗言ニ不死之道一。〔列子、說符〕昔人有下言レ知ニ不死之道一者上。

【不死之藥】414 ❶飲めば永久に死なぬといふ仙藥。〔韓非子、說林上〕有下獻ニ不死之藥於荊王一者上。〔史記、封禪書〕自ニ威・宣・燕昭一、使下人入レ海求中蓬萊・方丈・瀛洲上、此三神山者、其傳在ニ渤海中一、去レ人不レ遠、患且レ至、則船風引而去、蓋嘗有ニ至者一、諸僊人及不死之藥、皆在焉。〔漢書、郊祀志上〕不死之藥可レ得、僊人可レ致也。❷佛雪山の上にある香草。人が之を見れば無量の壽を得るといふ。〔往生十因〕雪山不死藥。〔涅槃經、二十五〕雪山之中、有ニ上香藥一、名曰ニ娑訶一、有レ人見レ之、得レ壽無量、無レ有ニ病死一、往生十因、曰ニ雪山不死藥一。

【不死不生】415 死にもせず生きもしない。不生不死。〔莊子、大宗師〕無ニ古今一、而後入ニ於不死不生一。

【不死脫層皮】417 pu^{4} ssŭ^{3} t'uo^{1} ts'êng^{2} p'i^{2} 罪業の深い人。

【不私】419 私心のないこと。〔忠經、廣至理章〕不私而天下自公。

【不祀】420 神を祀らぬこと。先祖を祀らぬこと。〔史記、周紀〕伐ニ不祀一征ニ不享一。〔後漢書、齊武王縯傳論〕痛ニ明堂之不一レ祀也。

【不翅】421 ただに云云のみならず。一に止まらない。多い。不啻。〔洪武正韻〕翅、不翅、猶レ言ニ不止一也。〔王粲、公讌詩〕見レ眷良不レ翅。〔注〕善曰、不翅、猶ニ過多一也。

【不啻】422 ただに云云のみならず。一に止まらない。不翅。〔六書故〕啻、猶レ止也、不啻猶レ言ニ何止一也、亦通作レ翅。〔書、秦誓〕不下啻如中自ニ其口一出上。

【不訾】423 ❶はかられぬ。數へきれぬ。轉じて、財產の甚だ多い意。不貲。〔管子、七臣七主〕百姓之不レ田、貧富之不レ訾。〔纂詁〕尹知章云、訾、限也。〔史記、貨殖、倚頓傳〕家亦不レ訾。〔注〕正義曰、言ニ資財衆多、不一レ可ニ訾量一。〔王粲、詠史詩〕受レ恩良不レ訾。〔注〕良曰、訾、量也。〔資治通鑑、漢紀〕不訾之費發矣。❷そしらない。〔禮、曲禮上〕不ニ苟訾一。

【不訾之器】424 量ることの出來ない程貴い器。〔孔叢子、居衞〕卒成ニ不訾之器一。

【不訾之軀】425 量ることの出來ない程貴い身。不貲之身。〔漢書、蓋寬饒傳〕用ニ不訾之軀一、臨ニ不測之險一。

【不訾之賞】426 はかることのできない程の賞。莫大の賞。〔顏氏家訓、省事〕上書陳レ事、起レ自ニ戰國一、云云、幸而感ニ悟人主一、爲ニ時所一レ納、初獲ニ不訾之賞一、終陷ニ不測之誅一。

【不訾之損】427 はかることの出來ない程の損失。莫大の損。〔魏志、司馬芝傳〕然於ニ一統之計一、已有ニ不訾之損一。

【不訾之祿】428 數へ切れぬ程に澤山な俸祿。〔陳琳、檄ニ吳將校部曲一文〕建ニ丘山之功一、享ニ不訾之祿一。

【不貲】429 不訾(423)の❶に同じ。〔魏志、高柔傳〕羣鹿犯暴、殘ニ食生苗一、所レ傷不レ貲。〔晉書、傅玄傳〕天下羣司猥多、不レ可レ不レ審レ得ニ其人一也、不レ得ニ其人一、一日則損不レ貲、況積日乎。

【不貲之身】430 はかることが出來ないほど貴い身。不貲之軀。〔青山延光、大高源吾訣レ母書〕嗚呼、先君不レ惜ニ不貲之身一、不レ顧ニ數世之社稷一、以洩ニ積憤於一擊之閒一。

【不肆】431 伸びない。〔老子、五十八〕直而不レ肆、光而不レ曜。〔注〕肆、申也。

【不緇】432 黑く染まらぬ。〔論語、陽貨〕不レ曰レ堅乎、磨而不レ磷、不レ曰レ白乎、涅而不レ緇。

【不齒】433 人と列を同じくせぬ。齒は、竝ぶ義。人を鄙しむ場合と、人を尊ぶ場合とある。〔周禮、地官、黨正〕壹命齒ニ于鄕里一、再命齒ニ于父族一、三命而不レ齒。〔禮、王制〕終身不レ齒。〔注〕齒、猶レ錄也。〔疏〕古者謂レ年曰レ齡、齒亦齡也、以レ年相次、是錄ニ其長幼一、故云、齒猶レ錄也。〔左氏、隱、十一〕寡人若朝ニ于薛一、不下敢與ニ諸任一齒上。〔注〕齒、列也。

【不儩】434 pu^{2} ssŭ^{4} 云はんと欲してつくさない意。不盡。書簡の結尾に多く用ひる。儩は盡きること。

【不二】435 ❶二樣にせぬ。〔荀子、成相〕精神相反、一而不レ二、爲ニ聖人一。❷呂氏春秋、審分覽の篇名。❸二つとない。無雙。❹富士山をいふ。❺佛本體と現象とが夫々異なつたものではないこと。本體といふものが別にあるのではなくして、現象のうちに本體は含まれてゐる、卽ち、高遠なものと思はれてゐる本體なるものも、實は現象其のものである意。中道(**1**－**73**‥579)の❼に同じ。〔大乘義章、一〕言ニ不二一者、無異之謂也、卽是經中一實義也。

【不二齋】436 明、張元汴(**4**－**9812**‥1012)の號。

【不二門】437 佛不二法門に同じ。〔白居易、不二門詩〕唯有ニ不二門一、其閒無ニ夭壽一。

【不二之老】438 二心のない老人。〔干寶、晉紀總論〕又加レ之以下朝寡ニ純德之士一、鄕乏中不二之老上。

【不二頭陀】439 明の僧。若年の時、永昌郡の吏であつたが、出家して德普寺に住居した。〔新續高僧傳、二十六〕。

【不二法門】440 佛不二の教。中道の教。大乘の異稱。〔維摩經、入不二法門品〕文殊曰、善哉善哉、無レ有ニ文字語言一、是眞不二法門也。

【不字】441 許嫁（いひなづけ・結婚の約束）せぬこと。字は、あざな。古は字して後、許嫁した。〔易、屯〕女子貞不レ字、十年乃字。〔本義〕字、許嫁也。

【不次】442 順序によらぬこと。又、順序の亂れてゐること。〔歐陽脩、論ニ臺諫官唐介等宜ニ早牽復一劄子〕蒙ニ陛下不次拔擢一。

【不次之位】443 順序によらずに、拔擢して授けられる位。〔漢書、東方朔傳〕待以ニ不次之位一。〔魏志、高柔傳〕待以ニ不次之位一。

【不而】444 縣名。漢、置く。故の縣城は今の朝鮮咸鏡南道咸興府の北。魏志の毋丘儉傳には不耐に作る。〔漢書、地理志下〕樂浪郡、縣二十五、不而。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮〕不而城在ニ咸興府北一、漢縣屬ニ樂浪郡一、東部都尉治レ此、後漢廢、魏正始中、幽州刺史毋丘儉、擊ニ高句麗一、屠ニ丸都一、銘ニ不耐城一、卽此、耐・而通。

【不事】445 ❶つかへない。〔孔子家語、儒行解〕上不レ臣ニ天子一、下不レ事ニ諸侯一。❷仕事としない。專念しない事とせず。

【高ニ不事之心一】446 王侯に事へず、隱退の心を高く持つことをいふ。〔韓愈、爭臣論〕若ニ蠱之上九一、居ニ無用之地一、而致ニ匪躬之節一、以ニ

塞之六二、在二王臣之位一而高二不事之心一。

【不恃】447 フジ たのまぬ。自己の力だとしないこと。〔老子、十〕生レ之畜レ之、生而不レ有、爲而不レ恃、長而不レ宰。

【不時】448 フジ ❶時ならぬ。其の時でない。〔周禮、秋官、野廬氏〕不時者、不物者。〔禮、月令〕雨水不レ時。〔論語、鄉黨〕不レ時不レ食。〔晏子、不合經術者〕晏子不レ時而入見。❷思ひがけぬ時。臨時。不時之需を見よ。❸なんどきにても。時々。隨時に。〔福惠全書、澄任部、出堂規〕許二不時抱レ牌告一。四 pu⁴ shih² pu² chin⁴ 行き届かない。

【不時會】449 エフジノ 不時に來客があつて催す茶の會。〔南方錄、二〕不時之會。

【不時之需】450 モトジノ 時ならぬ際の要求。思ひがけない時の要求。〔蘇軾、後赤壁賦、婦曰、我有二斗酒一藏レ之久矣、以待二子不時之需一。

【不時著陸】451 フジヤクリク 航空機が豫定時刻でない時に、或は豫定地でない所へ、事故の爲に著陸すること。不時著。

【不時不盡】452 pu⁴ shih² pu² chin⁴ 行き届かない。

【不貳】453 ジフ ❶二心のないこと。又、道理にそむかないこと。〔左氏、襄、二十六〕敢拜二鄭君之不レ貳也一。〔左氏、襄、二十九〕爲レ之歌二小雅一曰、美哉、思而不レ貳、〔注〕思二文武之德一无二貳叛之心一也。〔荀子、天論〕修二道而不レ貳。〔注〕貳、卽倍也。〔列子、仲尼〕此其所二以事一吾而不レ貳也一。〔楚辭、九章、惜誦〕事レ君而不レ貳兮、迷不レ知二龍之門一。〔張衡、思玄賦〕恭二夙夜一而不レ貳兮。❷ふたたびせず。二度くりかへさない。〔論語、雍也〕有二顏回者一、好レ學、不レ遷レ怒、不レ貳レ過。〔集解〕不レ貳レ過者、有二不善一未二嘗復行一也。

【不慈】454 ジフ いつくしまぬ。〔禮、曲禮上〕比二於不慈不孝一。〔左氏、僖、三十二〕康誥曰、父不レ慈、子不レ祇。〔墨子、兼愛下〕父者之不慈也。〔呂覽、舉難〕人傷レ堯以二不慈之名一。〔楚辭、九章、哀郢〕衆讒人之嫉妒兮、被以二不慈之僞名一。〔新論、妄瑕〕堯有二不レ慈之誹一、舜有二囚レ父之謗一、湯有二放レ君之稱一、武有二殺レ主之譏一。

【不周】455 シフ ❶公平に人と親まぬ。黨派を作る。〔論語、爲政〕小人比而不レ周。❷風名。西北の風。〔說文〕風、西北曰二不周風一。〔易緯通卦驗〕立冬、不周風至。〔史記、律書〕不周風、居二西北一、主二殺生一。〔淮南子、天文訓〕闔闔風至、四十五日、不周風至。〔白虎通、八風〕四十五日、不周風至。❸山名。崑崙山の西北に在るといふ。〔山海經、大荒西經〕有レ山、而不レ合、名曰二不周一。〔楚辭、離騷〕不周以左轉兮、指二西海一以爲レ期。四 不行届。〔例〕招待不周。

【不周延】456 フシウエン 論理學用語。或る判斷が或る概念の外延の全部にわたらないこと。周延〈2-3441‥32〉の對。

【不周風】457 フシウノ 西北方の風。不周の❷を見よ。〔淮南子、墜形訓〕隅強、不周風之所レ生也。

【不周之山】458 フシウノ 不周の❸に同じ。〔列子、湯問〕怒而觸二不周之山一。〔淮南子、墜形訓〕西北方曰二不周之山一、曰二幽都之門一。

【不周之粟】459 フシウノ 不周山の粟。〔呂覽、本味〕玄山之禾、不周之粟。

【不售】460 シウ 賣れない。〔詩、邶風、谷風〕賈用不レ售。〔韓非子、外儲說右上〕爲レ酒甚美、縣レ幟甚高著、然不レ售。〔說苑、政理〕酒酸不レ售。

【不售女】461 pu² shou⁴ nü³ 醜婦。しこめ。

【不識】462 シキ ❶知らぬ。又、しらせぬ。不知。〔詩、大雅、皇矣〕帝謂二文王一、予懷二明德一、不レ大二聲以色一、不二長レ夏以革一、不レ識不レ知、順二帝之則一。〔莊子、則陽〕匿爲物而愚不レ識。〔列子、仲尼〕不レ識不レ知、順二帝之則一。〔六韜、龍韜、軍勢〕謀莫レ善二於不識一。❷知らずに行つた罪。〔周禮、秋官、司刺〕壹有曰二不識一。

【不識庵】463 フシキアン 上杉謙信の號。〔日本外史、足利氏後記、上杉氏〕謙信築二精舍一春日山、號二不識庵一。

【不識酥】464 ソフシキ 酥チヽルをさへ知らぬもの。愚者をいふ。〔通俗編、飲食、不識酥〕稗編、唐皇謂二安祿山一曰、信是胡兒只識レ酥、按、俗識二闇味者一、乃云二幷レ此不レ識。「ぬ。

【不識之無】465 pu² shih⁴ chih¹ wu² 字を知らず。

【不識水性】466 pu² shih⁴ shui³ hsing⁴ 水ごころを知らぬ。相手の心が解らぬこと。

【不識抬擧】467 pu² shih⁴ t'ai² chü³ 圖に乘る。つけあがる。

【不識泰山】468 pu² shih⁴ t'ai⁴ shan¹ 少しも眼識がない。

【不失】469 シツ ❶失はぬ。無くさない。〔易、隨〕出門交有レ功、不レ失也。❷誤りがない。のがさない。〔老子、七十三〕天網恢恢、疏而不レ失。

【不失足】470 pu⁴ shih¹ tsu² 處女が其の節操を失はないこと。

【不疾】471 シツ 怠慢なこと。〔荀子、臣道〕事レ人而不レ順者、不疾者也。〔注〕不レ疾、言二怠慢一也。

【不悉】472 シツ つくさない。手紙の末尾に書く語。不乙。不一。不盡。〔孔融、論二盛孝章一書〕欲二公崇二篤斯義一也、因表、不レ悉。

【不日】473 ジツ ❶期間の長いこと。日を以て數へきれないといふ意。〔詩、王風、君子于役〕君子于役、不レ日不レ月。〔箋〕行役反無二日月一、何時而有二來會期一。❷日ならず。幾日も經たぬ。又、其の中に。〔詩、大雅、靈臺〕庶民攻レ之、不レ日成レ之。❸曇つて太陽が見えぬ。〔詩、邶風、終風〕終風且噎、不レ日有曀。〔箋〕既竟日風且復噎、不レ見二日矣一。四日を書かぬ。〔穀梁、隱、元〕不レ日、其盟渝也。〔注〕不レ日、謂レ不レ書レ日也。

【不實】474 ジツ ❶親切氣がない。誠實でない。ことがない。〔左氏、文、五〕華而不レ實、怨之所レ聚也。〔漢書、王莽傳下〕訾レ民不レ實。〔後漢書、明帝紀〕今選擧不レ實、邪佞未レ去。❷みのらぬ。不升。〔禮、月令〕〔孟夏之月〕秀草不レ實。〔新論、履信〕雨不レ信、則百穀不レ實。

【不戢】475 シフ ❶あつまらぬ。〔詩、小雅、桑扈〕不レ戢不レ難。〔傳〕戢、聚也。❷書翰文用語。不盡(575)の❶に同じ。

【不借】476 シヤ 草履の異名。誰でも持つべきもので、人に貸與すべからざるものだからいふ。〔方言、四〕履麤作レ之者、謂二之不借一。〔釋名、釋衣服〕齊人謂二韋屨一曰レ扉、扉、皮也、以レ皮作レ之、或曰二不借一、言二賤易一有、宜各自蓄レ之、不レ假二借人一也。〔儀禮、喪服、傳曰繩屨者繩菲也、注〕繩菲、今時不借也。〔疏〕漢時謂二之不借一者、此凶屨荼不レ得二從レ人借一、亦不レ得レ借レ人也。〔丹鉛總錄〕不借、草鞋也、言二其價賤一、不レ須レ借也。〔中華古今注〕不借、草屨也。

【不賒】477 pu⁴ she¹ 掛賣りせぬ。

【不生】478 フシヤウ ❶生きない。〔莊子、大宗師〕殺レ生者不レ死、生レ生者不レ生。❷生じない。起らぬ。〔新論、貴農〕食饒足、奸邪不レ生。❸倜 フシヤウ ④本不生の意。一切のことがらは眞如のすがたに於て常に存してゐるもので突然と生ずるものではないこと。〔大日經、一〕我覺二本不生一、出二過語言道一。㊀如來〈3-6060‥122〉の異名。〔楞伽經、四〕不生、卽如來異名。㊁阿羅漢〈11-41099‥4442〉の異名。〔智度論、三〕阿名レ不、羅漢名レ生、後生中更不生、是名二阿羅漢一。四 ズウマ 子を生まぬこと。うまず。又、不生女ズウマの略。〔賀古教信七墓廻、一〕出家させて夫婦うまずの業をはらし。

【不生産】479 サンセイ ものを生ぜぬこと。

【不生女】480 ズウマ 子を生まぬ女の稱。〔愚管抄、四〕つひにうまずめにて、御子の出來ざりければ。

【不生産者】481 フサンシヤ 物を作り出す力の無い者。小兒・癈病者の類。又、農業者の外を凡て不生産者ともいふ。

【不生産的】482 フサンテキ 生産に直接の關係がないもの。役立たないもの。又、其のやうな。生産的の對。

【不生主人】483 フシヤウシユジン 釋顯常の號。釋大典〈11-40129‥99〉を見よ。

【不生不死】484 フシヤウフシ ❶生きもせず死にもせぬ。不死不生(415)を見よ。❷倜生ずることもなく、死ぬこともない。眞如實相のこと。不生不滅。〔楞伽經〕乃不生不死之地、一切修行之所二依歸一。

【不生不滅】485 フシヤウフメツ 倜諸法は本來其のまま眞如のすがたであつて、生じたり滅したりしないこと。〔般若波羅蜜多心經〕不生不滅、不垢不淨。〔王巾、頭陀寺碑文〕覩聽之外、若レ存若レ亡、心行之表、不レ生不レ滅。

【不將】486 シヤウ ❶送らぬ。將は送。〔莊子、應帝王〕不レ將不レ迎。〔疏〕將、送也。❷陰陽家の語。陰陽の強さが互に他に勝らない日。吉日とせられて居る。〔協紀辨方書、義例二、陰陽不將、天寶曆曰、陰陽不將者、以二月建一爲レ陽、謂二之陽建一

正月起レ寅、順二行十二辰一、月厭爲レ陰、謂二之陰建一、正月起レ戌、逆二行十二辰一、分二於卯酉一、會二於子午一、厭前枝幹自相配者、爲二陽將一、厭後枝幹自相配者、爲二陰將一、厭後枝幹配二厭前枝一者、爲二陰陽俱將一、厭前幹配二厭後枝一者、爲二陰陽不將一也、陽將傷レ夫、陰將傷レ婦、陰陽俱將、夫婦俱傷、陰陽不レ將、夫婦榮昌、戊巳之幹、位在二中央一、戊爲二陽土一、寄二於艮一、巳爲二陰土一、寄二於坤一、經曰、春冬巳不レ將、秋夏戊不レ將。

【不祥】487 フショウ　めでたくない。よくない。不吉（197）に同じ。〔易、困〕入二于其宮一、不レ見二其妻一、不祥也。〔書、君奭〕其終出二于不祥一。〔禮、祭義〕忌日不レ用、非二不祥一也。〔左氏、僖、三〕弃レ德不祥。〔孟子、離婁下〕不祥之實、蔽レ賢者當レ之。〔國語、周語中〕棄レ親即レ讐、不祥。〔老子、三十一〕夫唯兵者、不祥之器。〔韓非子、内儲説上〕魏王聞レ之曰、主欲レ治而不レ聽レ之、不祥。〔韓愈、送二李愿歸二盤谷一序〕鬼神守護兮、呵二禁不祥一。

【不祥事】488 フショウジ　めでたくないこと。不吉なこと。

【不祥人】489 フショウヒト　不吉なる人物。縁起のわるい人。〔左氏、成、二〕楚之討二陳夏氏一也、莊王欲レ納二夏姫一云云、巫臣曰、是不祥人也。〔莊子、大宗師〕夫造化者、必以爲二不祥之人一。

【不祥鳥】490 フショウトリ　不吉な鳥。〔漢書、賈誼傳〕誼、爲二長沙傅一三年、有二服飛入一誼舍一、止二於坐隅一、服似レ鴞、不祥鳥也。

【不祥之金】491 フショウノキン　不吉な金。〔莊子、大宗師〕今大冶鑄レ金、金踊躍曰二我且必爲二鏌鋣一、大冶必以爲二不祥之金一。

【不祥之言】492 フショウノゲン　縁起の悪い言葉。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕但使二謝レ過祈レ福、不レ得二妄生一不祥之言一。

【不祥之木】493 フショウノキ　不吉な木。〔淮南子、説林訓〕佐二祭者得一レ嘗、救二鬬者得一レ傷、蔭二不祥之木一、爲二雷電所一レ撲。

【不莊】494 pu¹ chuang¹　書簡を行書又は草書で書いた場合に、結尾に附ける語。莊重を缺くの意。

【不詳】495 フショウ　❶つまびらかでない。不審。〔韓愈、原道〕荀與レ揚也、擇焉而不レ精、語焉而不レ詳。❷不祥に同じ。〔易、大壯〕不レ能レ退、不レ能レ遂、不詳也。〔校勘記〕釋文、不詳、鄭・王肅、作レ祥。〔公羊、宣、十二〕告レ従不レ赦、不詳。〔荀子、成相〕百家之説、誠不詳。

【不詳少者】496 フショウショウシャ　不祥な少年。よくない少年。詳は祥に通ずる。〔荀子、脩身〕惕悍而不レ順、險賊而不レ弟焉、則可レ謂二不詳少者一矣。

【不請】497 フショウ　❶㊀請ひ求めぬこと。菩薩は、衆生が請ひ求めることがなくとも、其の大慈悲を以て濟度すること。不請之友を見よ。〔無量壽經、上〕以二不請之法一、施二諸黎庶一。❷氣の向かぬこと。いやいやすること。不精不精。〔王海〕元暦元年八月廿一日、文覺頗有二不請之氣一。

【不請之友】498 フショウノトモ　㊀菩薩が大悲を以て、衆生の請求を待たずに、其の友となつて利益を與へること。〔無量壽經、上〕爲二諸庶類一作二不請之友一、荷二負羣生一。

【不請之法】499 フショウノホウ　㊀人から請はれなくても、其の機をみて利益の法を説くことをいふ。〔無量壽經、上〕以二不請之法一、施二諸黎庶一。

【不上不下】501 pu² shang⁴ pu² hsia⁴　宙ぶらり。どつち附かず。進退きはまる。

【不常】502 フジョウ　いつも斯うするとは定つてない。一定の方針がない。やり方が一定してゐない。〔書、伊訓〕惟上帝不レ常、作善降二之百祥一。

【不情】503 pu² ch'ing²　無躾な。無情。

【不淨】504 フジョウ　❶けがれ。又、けがれたもの。〔論衡、雷虚〕人食二不淨之物一。〔晉書、謝重傳〕卿居二心不淨一。❷大小便。又、便所。又、月經。

【不淨行】505 フジョウギョウ　㊀淫欲の行。いろごと。非梵行。〔大經、望西樓鈔〕愛染汙レ心、名爲二不淨行一。

【不淨觀】506 フジョウカン　㊀五停心觀の一。自身と他身との不淨を觀じて貪心を治すること。〔大乘義章、十二〕言二停心一者、停是息止安住之義、云云、相狀云何、不淨觀中、略有二二種一、一厭二他身一觀レ他不淨、二厭二自身一觀レ自不淨、觀二他身一中、有二其九相一、一者死相、二者脹相、三者青瘀相、四者膿爛相、五者壞相、六者血塗相、七者蟲噉相、八者骨鎖相、九者離壞相。

【不淨場】507 フジョウバ　❶きたない所。❷便所。

【不淨門】508 フジョウモン　❶下肥、即ち大小便をかついで出入りする門。❷死者を送り出す門。

【不若】509 フジャク　ばけもの。若は順。妖怪不順の怪物の義。〔左氏、宣、三〕民入二川澤山林一、不レ逢二不若一。〔注〕若、順也。〔會箋〕不若、即螭魅罔兩也。〔張衡、西京賦〕蚩二禦不若一。

【不弱】510 フジャク　減ぜぬ。劣らぬ。〔岑參、梁州對レ雨云云贈二余新一詩〕二人事二慈母一、不レ弱二古老榮一。

【不手】511 テフ　市場用語。相場が意の如くならず、損續きの者のこと。

【不手際】512 ぶてぎわ　手際がまづい。やり方が下手。

【不首】513 フシュ　罪に伏しないこと。〔漢書、梁平王襄傳〕王陽病二抵讁一、置レ辭驕嫚、不レ首二主令一。〔注〕師古曰、不首、謂レ不レ伏二其罪一也。

【不首尾】514 フシュビ　結果のよくないこと。〔好色一代男、四〕簀の子の下に道をつけて、不首尾なれば脱けさすなり。

【不須】515 フシュ　❶不須鞭を見よ。❷pu² hsü¹　云云しない。云云に及ばぬ。用ひず。

【不須鞭】516 フシュベン　馬見愁と云ふ獣の皮で作つた馬鞭の名。一たび揚げれば、須ひない中に、馬が恐れて忽ち走るから名づけた。須は用。〔瑯嬛記〕西域有レ獣、如レ犬、含レ水噴レ馬、則馬瞑眩欲レ絶、故凡馬畏レ之、名曰二馬見愁一。唐玄宗時、國人獻二其皮一、帝賜二羣臣一、編爲二馬鞭一、一揚即走、謂二之不須鞭一。

【不種】517 フシュ　種を植ゑぬ。〔後漢書、劉般傳〕至二於不種之處一、亦通爲レ租。

【不輸】518 フユ　❶送らぬ。運搬せぬ。〔左氏、昭、二十五〕宋樂大心曰、我不レ輸レ粟、我於二周爲一レ客、若二之何一使レ客。❷おとさぬ。こぼさぬ。〔詩、小雅、正月〕屢顧二爾僕一、不レ輸二爾載一。〔箋〕輸、墮也。❸不輸租田を見よ。

【不輸租田】519 フユソデン　租税を官に送らぬ田。所得の全部を其の領主たる神社・寺院・國司・御巫等に歸する田。即ち神田・寺田・戒本田・放生田・公廨田・御巫田・采女田・射田・學校田・勸學田・勅旨田等の類。不税田。輸は、おくる、いたす。〔東大寺正倉院文書、十九、相模國司解申、天平七年封戸租〕不輸租田、壹仟貳伯肆拾肆町參段壹伯陸拾壹歩。〔主税寮式、上〕船瀬功德田・造船瀬料田、竝爲二不輸租田一。

【不樹】520 フジュ　樹を植ゑぬ。〔易、繫辭下〕古之葬者、不レ封不レ樹。〔孔子家語、相魯〕因二丘陵一爲レ墳、不レ封不レ樹。

【不從】521 フジュウ　❶したがはぬ。〔論語、子路〕其身正、不レ令而行、其身不レ正、雖レ令不レ從。❷よくない。不吉（197）に同じ。〔左氏、僖、三十一〕夏四月、四卜レ郊、不レ從、乃免レ牲、非二禮也一。〔漢書、五行志中之上〕不レ昭不レ從。

【不淑】522 フシュク　よくない。不善。淑は善。日知錄の卷三十二に見ゆ。〔詩、鄘風、君子偕老〕子之不レ淑、云如二之何一。〔國語、楚語下〕周言棄レ德不レ淑也。❷不幸のこと。即ち、死喪・饑饉をいふ。〔詩、王風、中谷有蓷〕條其歗矣、遇二人之不レ淑矣一。〔集傳〕淑、善也、古者謂二死喪・饑饉、皆曰二不淑一、蓋以二吉慶一爲二善事一、凶禍爲二不善事一。〔禮、雜記上〕如何不レ淑。〔陳澔、集説〕如何不レ淑、慰問之辭、言二何爲而罹一二此凶禍一也。❸國の亡びること。〔逸周書、度邑解〕王乃升二汾之阜一、以臨二商邑一、永嘆曰、嗚呼、不淑。❹人の愚なこと。〔韓愈、對二禹問一〕傳二之子一、而當二不淑一、則奈何。

【不肅】523 フシュク　つつしまない。不恭。〔漢書、五行志中之上〕貌之不恭、是謂二不肅一。

【不熟】524 フジュク　❶果物や五穀などが熟せぬこと。〔禮、月令〕麥乃不レ熟。〔公羊、莊、二十八〕一年不レ熟、告糴、譏也。❷食物がよく煮えぬ。なまにえ。〔左氏、宣、二〕宰夫胹熊蹯不レ熟。❸物事になれぬ。未熟。〔晉書、蔡謨傳〕卿讀二爾雅一不レ熟、幾爲二勸學一死。❹話合ひがつかぬ。解決せぬ。

【不出】525 フシュツ　外に出ぬこと。外に出さぬこと。門外不出。〔運歩色葉集〕不出。

【不恤】526 フジュツ　憂へぬ。あはれまぬ。救濟せぬ。〔書、湯誓〕我后不レ恤二我衆一。

【不恤緯】527 フジュツイ　❶機織を事とする寡婦が、其の緯の少いのを憂へないで、宗周の亡びることを憂へた故事。轉じて、自己の職を棄て置いて

國事を憂へる喩。〔左氏、昭、二十四〕抑人亦有レ言、曰、嫠不レ恤二其緯一、而憂二宗周之隕一、爲レ將レ及焉。〔注〕恐二禍及一レ已也。㊁書名。蒲生君平撰。一冊。〔近代著述目錄後篇〕。

【不恤之刑】528 フジュツノケイ あはれむべき人に惠を施さぬ者を罰する刑。〔周禮、地官、大司徒〕六曰、不恤之刑。〔疏〕六曰二不恤之刑一者、謂下見二災危一而不二憂恤一亦刑上レ之。

【不准】529 pu⁴ chuen³ 云云することを許さぬ。云云を禁止する。聞き屆けぬ。

【不准稍色】530 pu⁴ chuen³ shao¹ sê⁴ 割引なし。

【不純】531 フジュン 純でない。〔逸周書、大開武解〕德不純、民乃失レ常。〔漢書、刑法志〕夫訓道不純、而愚民陷焉。

【不順】532 フジュン ㊀道理にしたがはぬ。道にたがふ。一定の次序に依らないこと。〔詩、大雅、桑柔〕維彼不順、自獨俾レ臧。〔孟子、盡心上〕予不レ狎二于不順一。〔荀子、脩身〕愓悍而不順。〔史記、武帝紀〕天下有二不順者一。㊁具合が惡い。

【不順眼】533 pu² shuen⁴ yen³ 目障りになる。氣に入らぬ。

【不順溜】534 pu² shuen⁴ liu¹ 工合が惡い。順調に行かない。

【不準】535 フジュン ㊀晉、汲郡の人。魏の襄王の墓を盜發して竹簡の古書十餘萬言を得、之を宮中の祕府に藏した。汲冢周書(**6**―**17163**‥37)を見よ。〔晉書、束晳傳〕太康二年、汲郡人不準、盜二發魏襄王墓一、或言二安釐王冢一、得二竹書數十車一。㊁pu⁴ chuen³ 確かでない。不確かな。又、不准に同じ。

【不準成】536 pu⁴ chuen³ ch'êng² 確實でない。

【不醇】537 フジュン 手厚くない。不親切。〔魏志、明帝紀〕朕訓導不レ醇、俾二民輕一レ罪。

【不如】538 フジョ しかず。及ばない。云云に越したことはない。〔論語、八佾〕夷狄之有レ君、不レ如二諸夏之亡一也。〔戰國、齊策〕對曰、晩救レ之、韓且三折而入二於魏一、不レ如二早救一レ之。〔岑參、石犀詩〕始知李太守、伯禹亦不レ如。

【不如意】539 フニョイ ㊀思ふやうにならぬこと。まならぬこと。〔魏志、曹爽傳〕萬一有二不如意一。〔晉書、羊祜傳〕天下不レ如レ意者、恆十居二七八一。㊁貧しい。不足がち。〔醒睡笑、一〕手前不如意なれば孝養のいとなみも調へがたし。

【不如歸】540 フジョキ 鳥の名。ほととぎす。杜鵑(**6**―**14477**‥99)の異名。其の鳴く聲が不如歸去と聞えるからいふ。〔本草、杜鵑〕釋名、時珍曰、其鳴、若レ曰二不如歸去一。〔蜀王本紀〕爲二蜀望帝淫二其臣鼈靈妻一、乃禪レ位亡去、時此鳥鳴、故蜀人見二杜鵑鳴一而悲二望帝一、其鳴如レ曰二不如歸去一。

【不如歸去】541 フジョキキョ 歸心を表はす語。歸るに如かず。杜鵑の鳴聲に本づく。不如歸を見よ。〔范成大、湘口夜泊詩〕遠遊雖レ好不レ如レ歸、一聲鶗鴂花如レ洗。〔朱熹、不如歸去詞〕不レ如二歸去一、孤城越絕三春暮。〔戴昺、不レ如二歸去一、不レ如二歸去一〕不レ如二歸去一、千山萬水家鄉路。

【不如無子】542 フニョムシ 佛惡い子を有するよりは、全然子の無い方がよいといふ意。〔無量壽經、下〕父母教誨、瞋レ目怒譍、言令不レ和、違戾反逆、譬如二怨家一、不レ如レ無レ子。

【不升】543 フショウ ㊀のぼらない。〔儀禮、聘禮〕主人不二筵几一、不二禮面一、不レ升。㊁實らぬ。不實。不登。〔韓詩外傳、一〕四穀不レ升曰二飢荒一、五穀不レ升曰二大侵一。

【不稱】544 フショウ ㊀似つかはしくないこと。適當でない。〔詩、曹風、候人〕彼其之子、不レ稱二其服一。㊁任に勝へない。〔資治通鑑、周紀〕(赧王、五十五年)卽如有二不稱一、妾請、無二隨坐一。〔注〕不稱、言レ不レ勝レ任也。

【不食】545 フショク 物を食はぬ。〔論語、衞靈公〕終日不レ食。〔史記、灌夫傳〕不レ食欲レ死。

【不食之地】546 フショクノチ 開墾の出來ぬ地。耕されぬ地。〔禮、檀弓上〕擇二不食之地一、而葬レ我焉。〔戰國、秦策〕此皆廣川大水、山林谿谷、不食之地。〔資治通鑑、周紀〕(赧王、四十二年)山林谿谷、不食之地。〔注〕不食、謂レ不二墾耕一。

【不殖】547 フショク 繁殖しない。又、そだてない。〔書、仲虺之誥〕不レ殖二貨利一。〔左氏、昭、元〕其生不レ殖。〔國語、楚語下〕生乃不レ殖。〔漢書、食貨志下〕凡田不レ耕爲二不殖一。

【不職】548 フショク 職務にたへぬ。任に勝へぬ。〔漢書、賈誼傳〕下官不職。〔唐書、循吏傳序〕遣二使者一、循二行天下一、劾二擧不職一。〔六部成語、吏部、不職、注解〕其才短、不レ能レ當レ任。

【不心】549 フシン 眞實の心がない。〔法言、學行〕朋而不レ心、面朋也、友而不レ心、面友也。

【不臣】550 フシン ㊀臣たる道を盡さぬ。〔左氏、成、二〕於レ是乎、不臣。〔論語、顏淵〕君不レ君、臣不レ臣。〔列子、湯問〕不レ君不レ臣。〔漢書、王尊傳〕倨慢不臣。㊁臣下の禮を以て扱はぬ。尊敬すること。〔漢書、郊祀志上〕五利將軍、亦衣二羽衣一、立二白茅上一、受レ印、以視二不臣一也。

【不臣木】551 フシンボク 木の名。まつ。松の異名。〔孟郊、罪レ松詩〕松乃不臣木、青青獨何爲。

【不伸】552 フシン のびぬ。〔漢書、五行志下之下〕日白不レ溫、明不レ動、辟公行、玆謂二不伸一。

【不辰】553 フシン ㊀其の時を得ないこと。よい時節に遇はないこと。〔爾雅、釋訓〕不辰、不時也。〔疏〕不辰者、言レ不レ得二其時一也。〔詩、大雅、桑柔〕我生不レ辰。㊁齊、哀公(**12**―**48560**‥271)の名。

【不信】554 フシン ㊀まことがない。〔禮、緇衣〕言不レ信則義不レ壹。〔左氏、襄、二十七〕匹夫一爲二不信一。〔論語、學而〕爲レ人謀而不レ忠乎、與二朋友一交而不レ信乎、傳不レ習乎。〔新論、履信〕春之得レ風、風不レ信、則花蕚不レ茂、花蕚不レ茂、則發生之德廢、夏之德炎、炎不レ信、則草木不レ長、草木不レ長、則長贏之德廢、秋之得レ雨、雨不レ信、則百穀不レ實、百穀不レ實、則收成之德廢、冬之得レ寒、寒不レ信、則水土不レ堅、水土不レ堅、則安靜之德廢。㊁信用しない。さうは思はぬ。

【不信任】555 フシンニン 信用してまかされぬ。安心して任せて置かれぬ。

【不信用】556 フシンヨウ あてにならぬ。信賴し難い。

【不信任案】557 フシンニンアン 不信任の意を表示する議案。

【不信之至欺二其友一】558 フシンノイタリハソノトモヲアザムク 不信實の極みは、其の朋友をさへ欺く。〔韓詩外傳、二〕不仁之至、忽二其親一、不信之至、欺二其友一。

【不侵】559 フシン ㊀侵さぬ。〔左氏、襄、十四〕不侵不叛之臣。㊁呂氏春秋、季冬紀の篇名。

【不侵略條約】560 フシンリャクデウヤク 二箇國、又は數箇國が、互に侵略しないことを約する條約。不可侵條約。

【不振】561 フシン ㊀ふるはぬ。衰へる。〔孔叢子、執節〕今日山東之國、弊而不レ振。㊁救はない。〔漢書、酷吏傳序〕上下相遁、至二於不振一。

【不浸】562 フシン ひたさぬ。水につからぬ。〔史記、趙世家〕引二汾水一灌二其城一、城不レ浸者三版。

【不神】563 フシン 靈妙でないこと。神の靈力を失ふこと。〔老子、六十〕以レ道莅二天下一、其鬼不レ神、非二其鬼不一レ神、其神不レ傷レ人。〔汪遵、西河詩〕自二從明宰投一レ巫後、直至二如今一鬼不レ神。

【不進】564 フシン 進まない。〔論語、雍也〕非二敢後一也、馬不レ進也。〔楚辭、九章、涉江〕船容與而不レ進兮、淹二回水一而凝滯。

【不斟】565 フシン 增したり減つたりすること。又、病勢の一時衰へて又重くなること。〔方言、三〕斟、益也、南楚、凡相益而又少、謂二之不斟一、凡病少愈而加レ劇、亦謂二之不斟一、或謂二之何斟一。

【不寢】566 フシン 寢ない。寢に就かない。〔論語、衞靈公〕子曰、吾嘗終日不レ食、終夜不レ寢。

【不審】567 フシン ㊀詳らかでない。よくしらべない。不詳。〔呂覽、察微〕公怒不レ審。〔淮南子、人間訓〕不レ可レ不レ審。㊁覺束なく思ふこと。〔蘇軾、與二司馬溫公一書〕久稽二裁謝一、悚作無レ已、比日不審、台候何如。㊂佛僧侶相見の禮語。〔僧史略上、禮儀沿革〕如二比丘相見一、曲躬合掌、口曰二不審一者何、此三業歸仰也。㊃邦㋑疑はしい。いぶかしい。〔保元物語、法皇熊野御參詣事〕御不審の事あり。㋺嫌疑を被る。〔義經記、六、靜參二詣若宮八幡一事〕御ふしんの身にて召し下され候ひしかば。

【不審訊問】568 フシンジンモン いぶかしいかどがあるとして調べただすこと。

【不仁】569 フジン ㊀仁の德のないこと。〔易、繫辭下〕小人不レ恥二不仁一。〔左氏、文、二〕仲尼曰、臧文仲、其不仁者三、不知者三。〔論語、八佾〕人而不仁、如レ禮何、人而不仁、如レ樂何。〔孟子、公孫丑上〕仁則榮、不仁則辱。〔國語、周語中〕以レ怨報レ德、不仁。〔墨子、法儀〕此法二不仁一也。㊁手足のしびれること。〔後漢書、班超傳〕超年最長、今且二七十一、衰老被レ病、頭髮無レ黑、兩手不仁。〔注〕

不仁、猶二不遂一也。〔朱子全書、性理、仁〕醫家以レ不レ識二痛癢一爲二不仁一。

【不仁者】570 仁德のない者。〔論語、顏淵〕舜有二天下一、選二於衆一擧二皐陶一、不仁者遠矣。〔孟子、離婁上〕不仁者可二與言一哉。

【不仁之器】571 仁德をそこなふ器。兵器をいふ。〔蘇洵、上二韓樞密一書〕授レ之以二不仁之器一。

【不仁之君】572 仁德を有せぬ君。〔列子、力命〕見二不仁之君一、見二諂諛之臣一。

【不仁者以レ身發レ財】573 不仁者は命がけで金儲けをする。〔大學〕仁者以レ財發レ身、不仁者以レ身發レ財。

【不仁者不レ可二以久處レ約】574 仁心のない人は、長く窮約に堪へることが出來ない。困窮すれば必ず濫れる。〔論語、里仁〕子曰、不仁者不レ可二以久處レ約、不レ可二以長處レ樂。

【不盡】575 ㊀つきない。つくさない。〔禮、王制〕西不レ盡二流沙一、南不レ盡二衡山一。㊁手紙の末尾に書く語。不戩。不悉(472)に同じ。㊂富士山。

【不盡意】576 ㊀言外に含まれる深意。〔詩人屑言〕含二不盡之意一。㊁十分に心を言ひあらはしえぬ。〔易、繫辭上〕書不レ盡レ言、言不レ盡レ意。

【不盡根】577 數學用語。代數的に開き得ない冪根をいふ。不盡數。

【不盡木】578 永久になくならない木。〔神異經、南荒經〕南荒外有二火山一、其中生二不盡之木一、晝夜火燃、得二暴風一不レ猛、猛雨不レ滅。

【不盡小數】579 數學用語。無限に連續する小數。無限小數。

【不粹】580 ㊀いきでない。〔守貞漫稿、九、女扮、上〕卑なれども野ならざるを婀娜(其人をあたものと云)と云、反レ之を不意氣、或は野暮、京坂にては不粹と云。㊁人情に通ぜぬ。通人でない。無骨。無風流。又、其の人。無骨漢。木石漢。〔端唄、春は花〕浮かれ浮かれて、すゐもぶすゐも物語り。

【不隨】581 ㊀隨はない。〔管子、白心〕人不レ唱不レ和、天不レ始不レ隨。㊁心のままならぬ。手足がしびれて自由にならぬ。

【不隨意筋】582 生理學用語。意思と關係なく運動する筋肉。

【不隨群兒】583 pu⁴ sue² ch'ün² êrh 人眞似しない。附和雷同しない。

【不隨意動作】584 心理學用語。意志の支配を受けない動作、又は運動神經の刺戟によつて不隨意に起る動作をいふ。

【不是】585 ㊀正しくない。不善。〔孟子、離婁上、舜盡二事レ親之道一、集注〕昔羅仲素語レ此云、只爲二天下無二不是底父母一。〔莊子、齊物論〕是之異二乎不是一也。〔史記、陳涉世家〕令之不レ是者、繫而罪レ之。㊁pu² shih⁴ ㋑惡事。罪。過失。㋺云云ではない。㋩否。いいえ。

【不是好惹】586 pu² shih⁴ hao² jê³ 煮ても燒いても食へぬ。

【不是玩兒的】587 pu² shih² wan² êrh tê 冗談云つてはいけない。冗談ぢやない。

【不世】588 世に稀な。非常といふ意。希代。〔後漢書、袁紹傳〕詒二大夫人不測之患一、損二先公不世之業一。〔曹植、求二自試一表〕出二不世之詔一。〔晉書、劉毅傳〕有二不世之功一者、宇內不レ容。

【不世出】589 世々には出ない。世に稀な。すぐれた。〔史記、淮陰侯傳〕功無レ二二於天下一、而略不二世出一者也。〔淮南子、泰族訓〕夫欲レ治之主、不二世出一。〔韓愈、與二于襄陽一書〕側聞、閤下抱二不世出之才一。〔蘇轍、爲二兄軾下レ獄上書〕少抱二有爲之志一、而遇二不世出之主一。

【不世之勳】590 世にまたとないすぐれた勳功。〔國史略、正親町天皇〕若能肅二淸輦下一、修二整宮闕一、興二廢滯一、振二乏絕一、使三庶尹百司各得二其所一、以策二不世之勳一、則予一人以懌。

【不世之功】591 世に稀な立派な功績。〔後漢書、隗囂傳〕足下將下建二伊・呂之業一、弘中不世之功上。〔魏志、陳思王植傳〕書曰、有二不世之君一、必能用二不世之臣一、用二不世之臣一、必能立二不世之功一。〔蘇洵、上二韓昭文一論二山陵一書〕立二不世之功一。

【不世之材】592 めつたに世に出ない、すぐれた才のある人。不世之才。〔韓愈、送二許郢州一序〕于公身居二方伯之尊一、蓄二不世之材一、而能與二卑鄙庸陋一、相應答如二影響一。〔松林飯山、林子平畫像記〕嗟呼、負二不世之才一、抱二絕人之明一、而轗軻困頓、不レ得レ施二於用一。

【不世之姿】593 世に稀な樣子。〔曹冏、六代論〕賴三光武皇帝挺二不世之姿一、禽二王莽于已成一。〔注〕濟曰、不世、謂二希世一也。

【不世之臣】594 世に稀な立派な臣。〔魏志、陳思王植傳〕書曰、有二不世之君一、必能用二不世之臣一、必能立二不世之功一。

【不正】595 ㊀ただしくない。〔論語、子路〕其身不レ正、雖レ令不レ從。〔漢書、五行志上〕天戒若曰、去レ貴近二逸遊不正之臣一、將レ害二忠良一。〔新書、保傅〕不レ能レ無二不正一。㊁稅をとらぬ。不征。〔管子、戒〕關幾而不レ正、市正而不レ布。〔注〕布、謂レ錢也、卽二其物一而正レ之、不二必分レ錢。㊂易卦の六爻では、下から數へて奇數を陽位とし、偶數を陰位とする。陽位に陽爻が來り、陰位に陰爻が來れば、位を得たりといひ、又正といふ。之に反して、陽位に陰爻が來り、陰位に陽爻が來れば、位を得ずといひ、又不正といふ。〔易、艮、艮二其輔一以二中正一也、疏〕位雖レ不レ正、以三居得二其中一、故不レ失二其正一。

【不正氣】596 pu² chêng⁴ ch'i⁴ 不埒な。不都合な。

【不正行爲】597 知りながら故意にする不正な行爲。

【不成】598 ㊀成就しない。〔史記、項羽紀〕學レ書不レ成、去學レ劍。㊁未だ元服しない。未だ成人に達せぬこと。〔左氏、哀、五〕齊燕姬生レ子、不レ成而死。〔注〕不レ成、未レ冠也。㊂云云とはいへない。まさか云云ではあるまい。宋人の方言。難道(**12**―**42145**‥72)に同じ。〔方言藻〕高觀國詞、不成日日春寒去、不成、猶三今云二難道一、宋人方言也。〔元曲、殺狗勸夫〕難二道三著你死一、你就死了不成。㊃pu⁴ ch'êng² ㋑いけない。㋺出來ない。

【不成格】599 pu⁴ ch'êng² kê² 體裁をなさい。御粗末。失禮。

【不成功】600 目的とする事をなし遂げぬこと。成功せぬこと。

【不成人】601 不具の人。かたは。禮を知らぬ人に喩へる。〔禮、禮器〕禮也者、猶レ體也、體不レ備、君子謂二之不成人一。

【不成文】602 文書にあらはしてない法律。不文律。

【不成立】603 成りたたぬ。ものに成らぬ。成就せぬ。

【不成格局】604 pu⁴ ch'êng² kê² chü² 御粗末でございます。謙辭。

【不成就日】605 陰陽家の說。陰曆で萬事成らずといふ日。〔簠簋內傳〕一切不成就日、正・七者、三日・十一日・十九日・廿七日、二・八者、二日・十日・十八日・廿六日、三・九者、一日・九日・十七日・廿五日、四・十者、四日・十二日・廿日・廿八日、五・霜者、五日・十三日・廿一日・廿九日、六・雪者、六日・十四日・十二日・晦日。

【不成文法】606 法律の形式は具へないが、法律と同樣の效力あるもの。成文法に對する語。自然法・習慣法などをいふ。

【不成文律】607 不文法。不文律(936)に同じ。

【不淸】608 pu⁴ ch'ing¹ はつきりせぬ。

【不淸楚】609 pu⁴ ch'ing¹ ch'u 不明瞭な。はつきりせぬ。はつきり計算が終らぬ。

【不淸爽】610 pu⁴ ch'ing¹ shuang³ さつぱりとせぬ。氣分がよくない。

【不逝】611 戰國、衞成侯(**10**―**34074**‥154)の一名。

【不勢】612 市場用語。市場に活氣が衰へ、相場が下落に向ふこと。好勢(**3**―**6053**‥225)の對。

【不精】613 ㊀くはしくない。綿密でない。〔孔叢子、記義〕多レ慮則意不レ精。〔宋書、律曆志下〕測候不レ精、遂乃乘除翻謬。㊁㋑精を出さぬ。なまける。〔狂言記、雞立江〕殊の外ぶしやうにござつて。㋺手まめでない。物事にかまはぬ。

【不齊】614 ㊀そろはぬ。不平均。〔說文〕儳、儳互、不齊也。㊁隋、崔仲方(**4**―**8178**‥307)の字。

【不整】615 とゝのはぬ。〔左氏、宣、十二〕盈而以竭、夭且不レ整、所二以凶一也。

【不整頓】616 きまりがない。物事が整はぬ。

【不整齊花】617 植物學用語。蕚・花冠・雄蕊・雌蕊の四部の中、何れかの一部が大小・形狀

を異にしてゐるもの。蠶豆の花の類。

【不贅】618 pu² chuei⁴ 書翰文の末尾の用語。不盡。

【不少】619 ㄅㄨˋ ㄕㄠˇ 少くない。多い。〔書、大誥〕弗弔レ天、降二割于我家一。

【不肖】620 ㄅㄨˋ ㄒㄧㄠˋ 不才の人、天に似ぬ義。又、愚かな子、父に似ぬ義。〔說文〕肖、骨肉相似也、不レ似二其先一、故曰二不肖一也。〔禮、雜記下〕某之子不肖。〔中庸〕賢者過レ之、不肖者不レ及也。〔孟子、公孫丑下〕前日不レ知二虞之不肖一、使二虞敦一匠事一。〔孟子、萬章上〕丹朱之不肖、舜之子亦不肖。〔老子、六十七〕我大似二不肖一。〔荀子、脩身〕致二不肖一而欲二人之賢己一也。〔管子、立政〕賢・不肖不レ分。〔墨子、非命中〕愚・不肖。〔史記、五帝紀〕堯知二子丹朱之不肖一。〔注〕索隱曰、鄭玄云、肖、似也、不レ似、言レ不レ如レ父也。〔漢書、刑法志、人肖二天地之貌一、注〕庸妄之人、謂二之不肖一言二其狀貌無一レ所二象似一也。〔論衡、自然〕不レ遵二道德一、不レ似二天地一、故曰二不肖一。不肖者、不似也。〔六部成語、吏部、不肖、注解〕行止不レ像二爲レ官之人一、即性情卑劣也。

【不肖子】621 ノ ㄒㄧㄠˋ ㄗˇ ●親に似ない愚かな子。〔莊子、天地〕世俗謂二之不肖子一。〔漢書、張良傳〕終不レ使二不肖子居一レ愛子上一。●親の喪に居る時の自稱。〔柳南續筆〕人子喪中用帖稱二不肖子一、大約是謙光之辭、近世士大夫、凡中二科甲一及仕宦中人、皆改稱二不孝一、按二家禮一、喪稱二哀子哀孫一、祭稱二孝子孝孫一、從未有稱二不孝一者。

【不肖臣】622 ノ シン 愚かな臣。〔莊子、天地〕孝子不レ諛二其親一、忠臣不レ諂二其君一、云云、君之所レ言而然、所レ行而善、則世俗謂二之不肖臣一。

【賤不肖】623 ヲ 愚かなものをいやしむ。〔孔子家語、賢君〕在二於尊賢一、而賤二不肖一。

【不肖之主】624 ノ 愚かな君。〔呂覽、至忠〕賢主之所レ說、不肖之主之所レ誅也。〔論衡、福虛〕案、惠王之吞レ蛭、不肖之主也、有二不肖之行一、天不レ祐也。

【不肖之心】625 ノ 愚かな心。〔莊子、人間世〕必有二不肖之心一應レ之。

【不肖之父】626 ノ 愚かな父。〔孔子家語、七十二弟子解〕冉雍生二於不肖之父一。

【不肖份子】627 pu² hsiao⁴ fên⁴ tzŭ 不良分子。

【不肖者自賢】628 ハ 愚かな者は、自ら賢者だと思つてゐる。〔晏子、雜、上〕愚者多レ悔、不肖者自賢。

【不昭】629 ㄅㄨˋ あきらかでない。〔漢書、五行志中之上〕不レ道不レ恭、不レ昭不レ從。

【不消】630 ㄒㄧㄠ 其れに及ばぬ。不要(30)の●に同じ。消は、もちひる意。〔朱子語類、論語〕尹氏云、命不レ足レ道、蓋不レ消レ言レ命也。〔桃花扇、阻奸〕不レ消說、又是講二迎立之事一了。

【不消化】631 ㄏㄨㄚ 食物のこなれがわるいこと。

【不消得】632 ㄉㄜˊ ●用ひ得ずの義。消は用ひること。〔五燈會元〕巖頭見二婆子抱レ兒曰、不レ遇二知音一、祇這一個也不二消得一。●云云するに及ばぬ。

【不消費物】633 ㄈㄟˋ ㄨˋ 器械・器具の類の如く、長く使用しても、尚從來の形體を存するか、又は久しく本來の用途に堪へ得るものをいふ。非消費物。

【不擾】634 ㄖㄠˇ みだれぬ。〔後漢書、和帝紀論〕雖二頗有二弛張一而俱存二不擾一。

【不蹟】635 ㄐㄧ 道にしたがはぬこと。〔爾雅、釋訓〕不遹、不蹟也。〔疏〕謂二不レ循レ道者一曰二不蹟一。

【不屑】636 ㄒㄧㄝˋ ●いさぎよしとせぬ。こころよしとせぬ。〔詩、鄘風、君子偕老〕髮髮如レ雲、不レ屑レ髢。〔孟子、公孫丑上〕不レ受也者、是亦不レ屑レ就已。〔孟子、告子下〕教亦多レ術矣、予不レ屑二之教誨一也者、是亦教二誨之一而已矣。● pu² hsieh⁴ 心に止めぬ。氣にかけぬ。ものともせぬ。

【不屑之教誨】637 ㄒㄧㄝˋ ㄓ ㄐㄧㄠˋ ㄏㄨㄟˋ 人を啓發せしめんが爲に、わざと教へないで、却つて其の人を奮勵させ、自ら悟らしめること。〔孟子、告子下〕孟子曰、教亦多レ術矣、予不レ屑二之教誨一也者、是亦教二誨之一而已矣。

【不竊】638 ㄑㄧㄝˋ ぬすまぬ。〔論語、顏淵〕荀子不レ欲、雖レ賞レ之不レ竊。

【不宣】639 ㄒㄩㄢ ●宣揚しない。〔左氏、昭、十二〕寵光之不レ宣。●友人間の書牘の末尾に記す語。十分述べ盡してゐない。不宣備を見よ。〔香祖筆記〕宋人書簡、以レ尊與レ卑曰二不具一、以レ卑上レ尊曰二不備一、朋友交馳曰二不宣一、見二東軒筆錄一、今人多不レ辨、然三字分別、殊亦未レ解。

【不宣備】640 ㄅㄟˋ 書翰文用語。十分の意を盡くさないこと。不備。不盡。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕反答造次、不レ能二宣備一、脩死罪死罪。〔浩然齋視聽鈔〕今人札云二不宣備一、本下文選楊脩答二臨淄侯一牋末曰二造次不レ能二宣備一。

【不染】641 ㄖㄢˇ そまらぬ。うつらぬ。けがれぬ。〔晉書、庾袞傳〕父老咸曰、異哉、此子始疑二疫癘之不一レ相染一也。〔李白、遊昌禪師山池詩〕花將レ色不レ染、水與レ心俱閑。〔黃裳、觀蓮亭詩〕不レ著故不レ染、走盤珠自忙。

【不染居士】642 ㄐㄩˊ ㄕˋ 森尚謙の號。森儼塾(6－14974‥40)を見よ。

【不染汗無知】643 ㄨㄢˋ ㄨˊ ㄓ 佛事物の道理や法門の義理を知らないこと。これは、物に執著する煩惱から生ずる無知でないから、不染汚といふ。不染無知ともいふ。染汚無知(6－14621‥8)の對。〔俱舍光記、一〕不染無知、以二未レ成佛來所一レ有一切有漏無染劣慧一爲レ體。

【不揃】644 ㄗㄨㄛˇ そろはぬこと。不齊。

【不詹】645 ㄓㄢ 足りない。詹は、足りること。不贍。〔呂覽、適音〕不レ充則不レ詹。〔注〕詹、足也。

【不戩】646 pu⁴ chien³ いふ所を盡さぬ。不盡。不宣。

【不鮮】647 ㄒㄧㄢ 少くない。一說に、善くない。又、夭死せぬ。鮮は、夭壽を以て終らぬこと。〔詩、邶風、新臺〕籧篨不レ鮮。〔箋〕鮮、善也。〔集傳〕鮮、少也。〔左氏、昭、五〕葬二鮮者一自二西門一。〔注〕不レ以壽終一爲レ鮮。〔史記、陸賈傳〕數見不レ鮮。

【不鮮明】648 ㄒㄧㄢ ㄇㄧㄥˊ あざやかでない。鮮明(12－46133‥114)の對。

【不贍】649 ㄕㄢˋ 足りない。贍は詹。不詹。〔禮、大傳〕民無二不レ足、無二不レ贍者一。〔孟子、梁惠王上〕救二死而恐一不レ贍。

【不善】650 ㄕㄢˋ よくないこと。不良。〔書、伊訓〕作二不善一、降二之百殃一。〔左氏、襄、二十九〕善之代二不善一、天命也。〔老子、二二〕知二善之爲一レ善、斯不善已。〔荀子、勸學〕其善者少、不善者多、桀・紂・盜跖也。

【不善政】651 ㄕㄢˋ よくない政事。〔左氏、昭、七〕公曰、詩所レ謂、彼日而食、于レ何不レ臧者、何也、對曰、不善政之謂也。

【不善人】652 ㄖㄣˊ よくない人。〔左氏、宣、十六〕禹稱二善人一、不善人遠。〔老子、六十二〕不善人之所レ保。

【不善之行】653 ㄒㄧㄥˊ ノ ㄒㄧㄥˊ 善くない行。〔莊子、至樂〕將子有二不善之行一。

【不善進二不善一】654 ㄐㄧㄣˋ ㄅㄨˋ ㄕㄢˋ 不善人は不善人を進め用ひる。〔國語、晉語六〕不善進二不善一、善亦蔑二由至一矣。

【有二不善一必懼】655 ㄧㄡˇ ㄅㄨˋ ㄕㄢˋ ㄅㄧˋ ㄐㄩˋ 善くない點があれば、必ず心におそれて之を戒める。〔國語、楚語下〕有レ過必悛、有二不善一必懼。

【不善人善人之資】656 ㄕㄢˋ ㄖㄣˊ ㄕㄢˋ ㄖㄣˊ ㄓ ㄗ 不善人は善人の爲に用ひられるもの。又、善人の爲に反省の材料を供給するもの。〔老子、二十七〕故善人者、不善人之師、不善人者、善人之資。

【與二不善人一居如レ入二鮑魚之肆一】657 ㄩˇ ㄅㄨˋ ㄕㄢˋ ㄖㄣˊ ㄐㄩ ㄖㄨˋ ㄅㄠˋ ㄩˊ ㄓ ㄙˋ 惡人と一緒に居ると、鹽漬けの魚を賣る店に入つた時の樣に、己の身も自然と臭氣に化する。〔孔子家語、六本〕與二善人一居、如レ入二芝蘭之室一、久而不レ聞二其香一、即與レ之化矣、與二不善人一居、如レ入二鮑魚之肆一、久而不レ聞二其臭一、亦與レ之化矣、是以、君子必愼下其所二與處一者上焉。

【不然】658 ㄖㄢˊ ●さうでない。然りとせぬ。〔孟子、萬章上〕孟子曰、否、不然也。〔莊子、齊物論〕無二物不一レ然。●然らざれば。〔胡銓、上二高宗一封事〕不レ然、臣有レ赴二東海一而死耳。●燃えぬ。然は、燃に通ずる。〔舊唐書、元璹傳〕邊亭息レ警、燧火不レ然。●行はぬ。〔詩、大雅、板〕出レ話不レ然、爲レ猶不レ遠。〔箋〕其出二善言一而不レ行レ之也。●命を用ひぬもの。〔左氏、莊、二十二〕征伐以討二其不一レ然。●はかられない。非常の變。不慮。〔墨子、辭過〕府庫實滿、足二以待一レ不然一。〔閒話〕不然。謂二非常之變一也。〔漢書、五行志中之下〕如有二不然一、老母安得二處所一。

【不送】659 pu⁴ sung⁴ お送り致しませぬ。主人が客に對して云ふ語。

【不送氣聲】660 ㄅㄨˋ ㄙㄨㄥˋ ㄕㄥ 發音の時、氣息を烈しく口

外に迗出しない音。注音符號の中、ㄅㄉㄍㄐㄓㄗの諸音が之に屬する。不迗氣類。無氣音。

〖不迗氣類〗661 フソウキルイ 不迗氣聲に同じ。

〖不迗不迗〗662 pu^2 sung^4 pu^2 sung^4 お見迗りしません。此處で失禮します。不迗。

【不足】663 フソク ❶たらぬ。數に滿たぬこと。不給。〔左氏、襄、三十一〕教二其不一レ知、而恤二其不一レ足。〔論語、顏淵〕百姓足、君孰與不レ足、百姓不レ足、君孰與足。〔荀子、富國〕爲二天下一憂二不足一。〔管子、八觀〕觀二民產之所一レ有餘不足一。❷不滿足。不平の義。

〖不足一〗664 フソクイツ 一點の不足。漢の萬石君の子どもの建が馬の字を誤書した故事。〔史記、萬石君傳〕建爲二郎中令一、書奏レ事、事下、建讀レ之曰、誤書、馬者、與レ尾當レ五、今乃四、不レ足一、上譴死矣、甚惶恐、其爲二謹愼一、雖レ他皆如レ是。

〖不足稅〗665 フソクゼイ 郵稅の不足な郵便物に對して、倍額を徵收する稅。

【不束】666 フツツカ ❶下品で見苦しい。〔源氏物語、夕顏〕旅裝いとふつつかに。❷ぶしつけ。客に對していふ語。❸修養が出來て居らぬ。

【不則】667 フソク 法度にしたがはぬこと。〔漢書、賈誼傳〕帝入二大學一、承レ師問レ道、退習而考二於太傳一、太傳罰二其不則一、而匡二其不及一。

〖不則聲〗668 フソクセイ 沈默する。默つて行ふ。〔癸辛雜識〕天台徐子淵、賦二一翦梅一、以譏二某長官一云、道學從來不則聲、行也東銘、坐也西銘。

〖不則一日〗669 pu^4 tsê^2 i^2 jih^4 日ならず。不日。

【不卽】670 フソク つかない。おもむかぬ。〔公羊、桓、十六〕屬負二茲舍一、不レ卽レ罪爾。

〖不卽不離〗671 フソクフリ つかずはなれずの關係を保つこと。〔圓覺經〕不レ卽不レ離、無レ縛無レ脫。

【不息】672 フソク ❶やまない。休息せぬ。〔易、乾〕象曰、天行健、君子以自強不レ息。〔荀子、堯問〕天下之紀不レ息。❷清、何屬乾(**1**－**511**・・327)の字。

〖不息不休〗673 フソクフキウ 少しもやすまぬ。

【不速】674 フソク まねかない。招待せられないで來た客。速は招。不速客を見よ。〔書言故事、鋪啜類〕人不レ與レ召而自來、曰、作レ不レ速。

〖不速客〗675 フソクノカク おしかけ客。不意の來客。招かないのに來た客の義。〔易、需〕有二不レ速之客三人來一、敬レ之、終吉。

【不測】676 フソク ❶はかりがたい。思ひがけない。又、其の事。其の物。〔易、繫辭上〕陰陽不レ測、之謂レ神。〔注〕神也者、變化之極、妙二萬物一而爲レ言、不レ可二以レ形詰一者也。〔莊子、秋水〕淪二于不測一。〔史記、荊軻傳〕提二一匕首一、入二不測之彊秦一。〔潘岳、關中詩〕功亦不レ測。❷pu^2 t'se^4 萬一のこと。死。

〖不測之淵〗677 フソクノフチ 深さの知れぬふち。危險な地、又は不安な所の譬。〔戰國、魏策〕今秦不レ可レ知之國也、猶二不測之淵一也。〔史記、袁盎傳〕乘二六乘傳一、馳二不測之淵一。〔說苑、正諫〕上懸二之無極之高一、下垂二之不測之淵一。

〖不測之罪〗678 フソクノツミ はかることの出來ぬ程大きな罪。又、思ひもよらぬ罪。〔史記、春申君傳〕孰三與身臨二不測之罪一乎。〔漢書、東方朔傳〕足下私侍二漢主一、挾二不測之罪一。

〖不測之深〗679 フソクノフカサ はかることの出來ない程のふかさ。〔孔叢子、嘉言〕下垂二之於不測之深一。

〖不測之智〗680 フソクノチ はかり得ない程深い智惠。〔鬼谷子、本經陰符〕以二不測之智一而通二心術一。

〖不測之誅〗681 フソクノチュウ はかられぬほどの手嚴しい誅罪。又、思ひもよらぬ誅罪。〔顏氏家訓、省事〕初獲二不貲之賞一、終陷二不測之誅一。

【不俗】682 フゾク 世俗に勝れたこと。いやしからぬ。〔魏志、公孫淵傳、注〕奉車都尉鬷弘、冠族子孫、少好二學問一、博通二書記一、多レ所二關涉一、口論速捷、辯而不レ俗。

【不存】683 フソン 安存することが出來ない。思ひもよらぬ危險な。不存之地を見よ。

〖不存之地〗684 フソンノチ 必死の地。必ず死する地。〔司馬相如、上書諫レ獵文〕駭二不存之地一。〔注〕不存、謂二勢不レ可二以存一也。〔資治通鑑、漢紀〕武帝、建元三年、今陛下好下陵二阻險一、射中猛獸上、卒然遇二逸材之獸一、駭二不存之地一。〔注〕師古曰、不存、不レ可レ得二安存一也、貢父曰、不存、猶レ言二不虞一。

【不損】685 フソン 清、項眞(**12**－**43343**・・30)の字。

【不孫】686 フソン ❶傲慢で人に下らぬこと。不遜。〔論語、陽貨〕子貢曰、惡二不孫以爲レ勇者一、惡二訐以爲レ直者一。❷從はぬ。不遜。不順。〔禮、學記〕雜施而不レ孫、則壞亂而不レ脩。〔疏〕雜施而不レ孫、則壞亂而不レ脩者、雜施謂レ敎二雜亂一、無レ次越レ節、則大才輕二小業一、小才苦二大業一、並是壞亂之法、不レ可二復脩治一也。

【不遜】687 フソン ❶傲慢で人に下らぬこと。不孫。〔論語、述而〕奢則不遜、儉則固、與二其不遜一也、寧固。〔荀子、子道〕辭不遜。〔管子、小稱〕相二爲不遜一。〔墨子、公孟〕謂二之不遜一。❷從はぬ。不孫。不順。〔書、舜典〕百姓不レ親、五品不レ遜。〔傳〕遜、順也。

〖不遜語〗688 フソンゴ 傲慢な言葉。無禮な言葉。〔蘇洵、審敵〕曩者幸吾、有二西羌之變一、出二不遜之語一、以撼二中國一。

【不打】689 ダフ 雙陸(**11**－**42116**・・270)の一種。〔事物異名錄、玩戲、雙陸〕譜雙、番禺雙陸名有レ五、曰下嚲、曰三推、曰囉嬴、曰不打、曰佛雙陸、下嚲・三推難、囉嬴・不打易、佛雙陸、止孺兒爲レ之、凡閭閻皀輩、皆能二此戲一、士大夫則否。

〖不打緊〗690 pu^4 ta^2 chin^3 構はぬ。大した事はない。〔水滸傳、四十三回〕這兩個小虎、且不打緊、那兩個大虎、非同小可。

〖不打不交〗691 pu^4 ta^3 pu^4 chiao^1 雨降つて地固まる。爭はねば懇意にならぬ。

【不妥】692 pu^4 t'uo^3 ❶都合が惡い。〔紅樓夢、八回〕更或可巧遇見他父親、更爲不妥、寧可遶遠路罷了。❷確でない。

【不怠】693 フタイ 怠らない。〔大戴禮、曾子立孝〕微諫不レ倦、聽從而不レ怠。

【不殆】694 フタイ ❶あやふくない。〔老子、十六〕歿レ身不レ殆。❷怠らない。〔墨子、雜守〕養レ勇高奮、民心百倍、多執數少、卒乃不レ怠。〔閒詁〕王云、怠・殆、古字通。

【不耐】695 フタイ 城の名。今の朝鮮の咸興府の北に在つた。漢の不而縣。不而(444)を見よ。〔魏志、毋丘儉傳〕高句驪、刊二丸都之山一、銘二不耐之城一。

〖不耐煩〗696 pu^2 nai^4 fan^2 煩に堪へぬ。煩はしい。厄介な。

【不退】697 フタイ 佛不退轉に同じ。〔太平記、十二、解脫上人〕行業不退にして。

〖不退轉〗698 フタイテン 佛勇猛精進して佛道を修めること。不退輪。〔無量壽經、上〕聞二我名字一、不三卽得二至不退轉一者、不レ取二正覺一。

〖不退輪〗699 フタイリン 佛不退轉法輪の意。佛菩薩の說法を法輪といふ。〔維摩經、佛國品〕能已隨順、轉二不退輪一。

【不逮】700 フタイ 及ばない。行きとどかぬ。不行屆。ふつつか。逮は、及ぶ義。〔書、冏命〕交修レ不レ逮。〔傳〕皆當下勉二汝君爲レ德、更代修中進其所上不レ及。〔漢書、文帝紀〕匡二朕之不逮一。〔後漢書、章帝紀〕各貢二忠誠一、以輔二不逮一。

〖不逮門女〗701 フタイモンヂョ 夜聞、門限に後れた女。春秋時代、魯の柳下惠が、其の女と衣をともにして同宿して、而も人に疑はれなかつた故事。〔詩、小雅、巷伯〕哆兮侈兮成二是南箕一、〔傳〕昔者顏叔子、獨處二于室一、鄰之釐婦、又獨處二于室一、夜暴風雨至而室壞、婦人趨而至、顏叔子納レ之而使レ執レ燭、放二乎旦一而蒸盡、縮レ屋而繼レ之、自以爲、辟レ嫌之不レ審矣、若其審者、宜下若二魯人一然上、魯人有二男子一、獨處二于室一、鄰之釐婦、又獨處二于室一、夜暴風雨至而室壞、婦人趨而託レ之、男子閉レ戶而不レ納、婦人自レ牖與レ之言、曰、子何爲不レ納レ我乎、男子曰、吾聞レ之也、男子不二六十一不二閒居一、今子幼、吾亦幼、不レ可二以納一レ子、婦人曰、子何不下若二柳下惠一然上、嫗二不レ逮レ門之女一、國人不レ稱二其亂一、男子曰、柳下惠固可、吾固不可、吾將以二吾不可一、學二柳下惠之可一、孔子曰、欲レ學二柳下惠一者、未レ有レ似二於是一也。〔荀子、大略〕柳下惠、與二後レ門者一同レ衣、而不レ見レ疑、非二一日之聞一也。

【不對】702 pu^2 tuei^4 違ふ。正しくない。あはない。

〖不對眼〗703 pu^2 tui^4 yen^3 少し訝かしい。少少不審な。けげんな。

〖不對手〗704 pu^2 tui^4 shou^3 相手にならぬ。

〖不對勁兒〗705 pu^2 tui^4 chin^4 êrh 氣が合はぬ。仲が好くない。睦まじくない。

【不憝】706 フタイ 怨み惡まぬ。〔說文〕憝、怨惡也、周書曰、凡民罔レ不レ憝。〔書、康誥〕殺二越人于貨一、

愍不レ畏レ死、罔レ弗レ慤。

【不體】707 ㄈㄨˋ ㄊㄧˇ 禮にかなはない。禮がない。體は禮を指していふ。〔左氏、定、十五〕嘉事不レ體、何以能久。〔會箋〕嘉事不レ體、朝而無レ禮之謂。

【不體裁】708 ㄈㄨˋ ㄊㄧˇ ㄘㄞˊ 體裁がよくない。みにくい。

【不大】709 pu² ta⁴ ❶大きくない。❷大して云云でない。

【不大離】710 pu² ta⁴ li² たいした相違はない。可成りよい。相當によい。

【不第】711 ㄈㄨˋ ㄉㄧˋ ❶試驗に合格せぬ。及第せぬ。落第。〔唐書、選擧志上〕其不レ第則習業如レ初。〔韋應物、送二別覃孝廉一詩〕思レ親自當レ去、不レ第未二蹉跎一。〔宋史、邢敦傳〕擧二進士一不レ第。❷複姓。〔潛夫論、志氏姓〕帝乙元子微子開、紂之庶兄也、武王封二於宋一、今之睢陽、是也、宋孔氏・祝其氏、云云、不第氏。❸ただに云云のみならず。不啻。

【不題】712 pu⁴ t'i² 言出さぬ。引出さぬ。

【不到】713 ㄈㄨˋ ❶いたらぬ。〔詩、大雅、韓奕〕蹶父孔武、靡二國不一到。❷到着しない。

【不到頭】714 ㄈㄨˋ ㄉㄠˋ ❶さきの尖つた靴の名。足指が尖端に到らぬからいふ。〔睽車志〕逆旅自制二尖靴一、頭極長銳、云、便二於鐙一、而足指所レ不レ及、謂二之不到頭一。❷pu² tao⁴ t'ou² 終りまで行かぬ。

【不當】715 ㄈㄨˋ ㄉㄤ ❶理にかなはぬ。道理に合はぬ。〔禮、月令〕毋レ有二不當一。〔公羊、昭、十三〕其意不當也。〔漢書、賈捐之傳〕以爲二不當一。❷pu⁴ tang¹ ㋑適當でない。相當せぬ。㋺辭職する。

【不當人】716 ㄈㄨˋ ㄉㄤ ㄖㄣˊ 道理にはづれた亂暴なことをするもの。人道に背いた事をする人。無法な人。〔平家物語、二、教訓〕西光といふ下賤の不當人。

【不當課稅】717 ㄈㄨˋ ㄉㄤ ㄎㄜˋ ㄕㄨㄟˋ 規定以外の、不當な稅を課すること。

【不當得利】718 ㄈㄨˋ ㄉㄤ ㄉㄜˊ ㄌㄧˋ 不當利得に同じ。

【不當利得】719 ㄈㄨˋ ㄉㄤ ㄌㄧˋ ㄉㄜˊ 民法上、他人の財產又は勞務に因つて不當に受ける利益をいふ。又、其の利益を受けることに依つて、他人に損害を及ぼした事實をいふ。

【不當家花拉】720 pu⁴ tang¹ chia¹ hua¹ la 輕微な事でない。兒戲とは異なる。

【不撓】721 ㄈㄨˋ ㄋㄠˊ たゆまぬ。たわまぬ。不屈。〔漢書、敍傳下〕樂昌篤實、不レ撓不レ詘。〔後漢書、酷吏傳序〕成二其不撓之威一。〔蔡邕、太尉橋玄碑〕有下百折不撓、臨二大節一而不レ可レ奪之風上。

【不檔】722 pu² tang⁴ 役者が文・武・生・旦の各役を兼ね演じ得ること。

【不詔】723 ㄈㄨˋ ㄓㄠˋ ❶變らない。たがはない。詔は疑。〔左氏、昭、二十六〕天道不レ詔、不レ貳二其命一。〔注〕詔、疑也。〔會箋〕不詔、謂二一定不レ變。〔逸周書、鄧謀解〕帝念不レ詔。❷へつらはぬ。〔孔叢子、論書〕辭順而不レ詔。

【不黨】724 ㄈㄨˋ ㄉㄤˇ 偏頗な黨を組まない。〔論語、述而〕吾聞、君子不レ黨。〔莊子、馬蹄〕一而不レ黨。〔呂覽、士容〕士不レ偏不レ黨。

【不道】725 ㄈㄨˋ ㄉㄠˋ ❶道理に背く。無道。〔左氏、僖、二〕今虢爲二不道一、保二於逆旅一。〔國語、吳語〕越爲二不道一、背二其齊盟一。〔老子、五十五〕謂二之不道一。〔史記、秦始皇紀〕操二國事一不道。❷はかりごとがない。思ひがけなく。〔李商隱、贈二華陽宋眞人一〕兼寄清都劉先生詩〕不道劉盧是世親。❸無罪の一家三人を殺す等の罪名。明・清時代の刑律では、十惡の一に數へる。〔漢書、翟方進傳、注〕如淳曰、律、殺二不辜一家三人一爲二不道一。〔明律、名例律、十惡〕五曰、不道、謂殺二一家非二死罪一三人一及支二解人一、若采レ生造二畜蠱毒魘魅一。

【不道人】726 ㄈㄨˋ ㄉㄠˋ ㄖㄣˊ 道理に背く人。無道の人。〔荀子、解蔽〕以二其不一可レ道之心一取レ人、則必合二於不道人一而不レ知二合二於道人一。

【不道德】727 ㄈㄨˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜˊ 道にそむいた行。不德義。

【不道之道】728 ㄈㄨˋ ㄓ ㄓ 普通に所謂道とは異なる道。繩墨には當らないが、眞理にかなふ道。〔老子、一〕道可レ道、非二常道一。〔莊子、齊物論〕不言之辯、不道之道。

【不托】729 ㄈㄨˋ ㄊㄨㄛ 食物の名。湯の中に餅を入れたもの。餺飥。〔五代史、李茂貞傳〕一日食レ粥、一日食二不托一。〔歸田錄、二〕湯餅、唐人謂二之不托一、今俗謂二之餺飥一矣。〔通俗編、飮食、不托湯餅、一名二餺飥一、亦曰二不托一、李文正刊誤曰、舊未レ就二刀鉆一時、皆掌托烹レ之、刀鉆既具、乃云二不托一、言レ不二以レ掌托一也、俗傳二餺飥字一、非。

【不託】730 ㄈㄨˋ ㄊㄨㄛ 食物の名。不托に同じ。〔金鑒密記〕一日食レ粥、一日食二不託一。

【不達】731 ㄈㄨˋ ㄉㄚˊ ❶わからぬ。道理に通達せぬ。〔孔子家語、好生〕彼不達之君子、豈不レ殆哉。❷とどかない。不著。

【不脫】732 ㄈㄨˋ ㄊㄨㄛ ぬけない。〔老子、五十四〕善建者不レ拔、善抱者不レ脫。

【不丹】733 ㄅㄨˋ ㄉㄢ 國の名。布丹(4－8778：178)を見よ。

【不端】734 ㄈㄨˋ ㄉㄨㄢ 正しくない。不正。〔左氏、昭、二十六〕咸黜二不端一。〔顏延之、祭二屈原一文〕昭・懷不レ端。〔注〕向曰、端、正也。

【不男】735 ㄈㄨˋ ㄋㄢˊ 房事を行ひ得ぬ男をいふ。〔南史、后妃上、宋後廢帝陳太妃傳〕人間言、明帝不男、故皆呼二爲廢帝一爲二李氏子一。

【不斷】736 ㄅㄨˋ ㄉㄨㄢˋ ❶たえず。つねに。たゆまぬ。又、斷絶しない。〔漢書、劉向傳〕持二不斷之意一者、開二羣枉之門一。〔隋書、突厥傳〕重疊親舊、子子孫孫、乃至二萬世一不レ斷。❷思切りが惡い。ぐづぐづ。〔漢書、元帝紀〕牽二制文義一、優游不斷。〔魏志、楊阜傳〕袁公寬而不レ斷、好レ謀而少レ決。❸つねづね。日常。〔織留、五〕不斷の身だしなみも、自然とそこそこにして。

【不斷香】737 ㄅㄨˋ ㄉㄨㄢˋ ㄒㄧㄤ 絶間なくかをる香。〔平家物語、十二、大原御幸〕薫破れては、霧不斷の香を燒き。

【不斷草】738 ㄅㄨˋ ㄉㄨㄢˋ ㄘㄠˇ 菜の名。たうぢさ。いつもな。蒸菜。〔和漢三才圖會、柔滑菜、蒸菜〕蒸菜、俗云二唐苣一、無二苦汁一、柔脆、不時不レ種生、四時有レ之、故名二不斷草一。

【不斷著】739 ㄅㄨˋ ㄉㄨㄢˋ ㄓㄨㄛˊ 家に居て平日著用する衣服。禮服(8－24844：204)・晴著(5－13994：57)の對。〔好色一代男、一〕御寮人樣の不斷著。

【不斷工作週】740 ㄅㄨˋ ㄉㄨㄢˋ ㄍㄨㄥ ㄗㄨㄛˋ ㄓㄡ 職工を若干組に分け、交替に仕事に從事させ、機械を連續して運轉させる制度。蘇聯が五箇年計畫遂行の爲に用ひたもの。

【不治】741 ㄅㄨˋ ㄓˋ ❶をさまらぬ。をさめぬ。〔孟子、離婁上〕治レ人不レ治、反二其智一。禮レ人不レ答、反二其敬一。〔史記、孝文紀〕天示レ之以レ菑、以誡二不治一。❷到底なほらぬ。〔史記、扁鵲傳〕驕恣不レ論二於理一、二不治也。

【不知】742 ㄅㄨˋ ㄓ ❶知らぬ。認めない。〔詩、王風、黍離〕不レ知二我者一、謂二我何求一。〔論語、學而〕人不レ知而不レ慍。❷わからない。知識がない。〔論語、爲政〕不レ知爲レ不レ知。❸知慧が少い。〔左氏、襄、三十一〕教二其不知一而恤二其不足一。

【不知音】743 ㄅㄨˋ ㄓ ㄧㄣ 音聲を理解せぬ。音階や音の調子を知らない。〔禮、樂記〕不レ知二音者一、不レ可二與言一レ樂。

【不知火】744 ㄅㄨˋ ㄓ ㄏㄨㄛˇ ❶陰曆七月頃、有明海に現はれる燐光。❷筑紫の古名。肥前・肥後地方。

【不知山】745 ㄅㄨˋ ㄓ ㄕㄢ 姓氏。〔姓林全書〕。

【不知足】746 ㄅㄨˋ ㄓ ㄗㄨˊ 分限に滿足せぬ。其の分に甘んせず。知足(8－23935：133)を見よ。〔遺教經〕雖レ處二天堂一、亦不レ稱レ意、不レ知足者、雖レ富而貧。

【不知道】747 pu⁴ chih¹ tao⁴ ❶知らない。❷如何でせうか。云云かしら。

【不知哉川】748 ㄅㄨˋ ㄓ ㄗㄞ ㄔㄨㄢ 近江國の地名といふ。〔字林拾集〕。

【不值】749 pu⁴ chih² ❶あたひせず。云云にもならぬ。値打がない。❷つまらない。

【不恥】750 ㄅㄨˋ ㄔˇ 恥づべきことを恥ぢぬ。〔公羊、昭、十三〕大夫執、何以致レ會、不レ恥也。〔法言、脩身〕行不レ恥者、孔子憚焉。

【不智】751 ㄅㄨˋ ㄓˋ 智慧が無い。不慧。〔左氏、文、三〕其不智者二。〔戰國、秦策下〕弗レ知而言、爲二不智一。〔孔子家語、致思〕子路曰、昔管仲、云云、欲レ立二公子糾一而不レ能、是不智也。

【不暱】752 ㄅㄨˋ ㄋㄧˋ したしまぬ。〔左氏、隱、元〕不義不暱、厚將レ崩。〔注〕不レ義二於君一、不レ親二於兄一、非二衆所一レ附、雖レ厚必崩。

【不著】753 ㄅㄨˋ ㄓㄠˊ ❶とどかぬ。不達(731)の❶に同じ。❷pu⁴ chao² 云云出來ない。著は着。

【不著意】754 pu⁴ chuo² i⁴ 不注意な。

【不中】755 ㄅㄨˋ ㄓㄨㄥˋ ❶當らない。〔左氏、襄、二十三〕樂射レ之、不レ中。〔論語、子路〕刑罰不レ中、則民無二所レ措二手足一。〔大學〕雖レ不レ中不レ遠矣。〔荀子、正論〕不レ材不レ中。〔注〕不レ中、謂二處レ事不レ當也。❷中正を得ない。又、中和の德の無いもの。

〔易、乾〕重剛而不レ中。〔孟子、離婁下〕中也養二不中一、才也養二不才一。〔注〕中者、履二中和之氣一所レ生、謂二之賢一。㊂落第する。〔李賀、送二沈亞之一歌序〕文人沈亞之、元和七年、以二書不レ中レ第、返二歸於吳江一。㊃易の六爻に就いて、二と五とは各〻內卦外卦の中であるから之を中と呼び、それ以外のもの、卽ち初・三・四・上の四爻を不中といふ。〔易、乾〕文言、九三重剛而不レ中。〔疏〕不レ中者、不レ在二二五之位一、故不レ中也。

【不中意】756 pu² chung⁴ i⁴ 氣に入らぬ。

【不中訾】757 フチユウシ 資本が不十分な。〔史記、游俠、郭解傳〕解家貧、不レ中レ訾。〔注〕索隱曰、案、訾不レ滿二三百萬已上一、爲レ不レ中。

【不忠】758 フチユウ ㊀臣たる道を盡さぬ。〔戰國、秦策下〕張儀說二秦王一曰、臣聞レ之、弗レ知而言、爲二不智一、知而不レ言、爲二不忠一。〔荀子、臣道〕敬而不レ順者、不忠者也。〔晏子、問、下〕暴強不忠。㊁人の爲に眞心を盡さぬ。〔論語、學而〕爲レ人謀而不レ忠乎。

【不忠不孝】759 フチユウフカウ 君に忠義を盡さず、親に孝行せぬ。〔淸會典、禮部、大祀〕朕萬年後、斷不レ可レ行二郊配之禮一、誣レ朕以二不德不孝一、若繼體之君、顧命之臣、不レ遵二朕諭一、任意強行、則是甘爲二我大淸之不孝不忠之人一矣、後之人、其以レ朕爲レ法乎、不二以レ朕爲一レ法也、嗚呼、必有二知レ朕者一焉。

【不衷】760 フチユウ ㊀心の正しくないこと。心に誠がない。〔左氏、昭、二十二〕無下亢二不衷一以弊中亂人上、孤之望也。〔疏〕正義曰、亢、高也、衷、善也、弊、勸也、無下高二貴不善之事一、以勸中亂人爲上レ惡也。〔左氏、僖、二十四〕君子曰、服レ之不レ衷、身之災也。〔國語、楚語下〕直而不レ顧、不衷也。㊁あたらない。〔左氏、昭、十六〕發レ命之不レ衷、出レ令之不レ信。〔注〕衷、當也。㊂物の中庸を得ないこと。〔資治通鑑、齊紀〕武帝、永明八年、凡鑄錢、與二其不衷一、寧重無レ輕。〔注〕不衷者、不レ得二輕重之中一也。

【不住】761 フチユウ ㊀とどまらぬ。〔沈約、千佛讚〕不レ常不レ住、非レ今非レ曩。〔李白、早發二白帝城一詩〕兩岸猿聲啼不レ住、輕舟已過萬重山。㊁pu² chu⁴ ㋑やめられない。㋺出來ない。

【不住子】762 フヂユウシ 僧をいふ。〔山堂肆考〕僧曰二不住子一、唐詩、精廬不住子、自有二無生鄉一。

【不住的】763 pu² chu⁴ tê 常々。絕えず。

【不住口兒】764 pu² chu⁴ k'ou³ êrh 喋りつづける。

【不窋】765 フチユツ 周の始祖后稷棄の子。今、甘肅省慶陽縣の東南に不窋の故城がある。〔史記、周紀〕后稷卒、子不窋立。

【不直】766 フチヨク 正しくない。〔漢書、董仲舒傳〕其不正不直、不忠不極、在二于執事一。

【不通】767 フツウ ㊀とほらぬ。とほさぬ。〔公羊、莊、十〕宋人遷レ宿、遷レ之者何、不レ通也。〔漢書、孫寶傳〕杜レ門不レ通二水火一。㊁言語・文字を解せぬ。〔論衡、別通〕通人猶二富人一、不通者猶二貧人一也、通人、胸懷二百家之言一、不通者、空腹無二一牒之誦一。〔通典、選擧典、歷代制中〕年未二三十一、不レ通二一經一者、不レ得レ爲レ官。㊂文理が通じない。譯が分らぬ。〔六部成語、禮部、不通、注解〕文理不レ通。㊃共にせぬ。共通にせぬ。〔禮、內則〕外內不レ共レ井、不レ共二湢浴一、不レ通二寢席一、不レ通二乞假一、男女不レ通二衣裳一。

【不弟】768 フテイ 兄長に從順でないこと。不悌(784)に同じ。〔左氏、隱、元〕段不弟。〔荀子、脩身〕險賊而不弟焉。〔淮南子、時則訓〕孟秋之月、求二不孝不弟一。

【不弟之刑】769 フテイノケイ 兄長に從順でないものを罰する刑。〔周禮、地官、大司徒〕四曰、不弟之刑。〔注〕不弟、不レ敬二師長一。

【不定】770 フテイ ㊀一定しない。かはりやすい。〔莊子、天地〕神生不定者、道之所レ不レ載也。㊁佛 フヂヤウ 一定しない。あてにならぬ。〔隨聞記〕老少不定。㊂pu² ting⁴ 決定せぬ。不定。

【不定芽】771 フテイガ 植物學用語。植物體に傷をつけた爲か、又は其の他の原因で、莖頂又は葉腋以外の場所に生ずる芽をいふ。

【不定形】772 フテイケイ ㊀形、又は樣式の、一定せぬものをいふ。㊁數學用語。比、或は分數が、其の內に含む文字の値によりて、時として不定の形をなすことあるをいふ。

【不定教】773 フヂヤウケウ 佛天台宗の化儀の四教の一。如來が不思議の力を以て、衆生をして、小乘を說く中で大乘の益を得しめ、大乘を說く中で小乘の益を得しめること。

【不定業】774 フヂヤウゴフ 佛業力が微弱で、其の果報が一定してゐないはたらき。〔成實論、六業品〕不定報業者、下善不善業、是業或地獄・餓鬼・畜生・人天中受、云云、若小地獄中暫有二停息一。

【不定根】775 フテイコン 植物學用語。莖及び其の變形物たる鱗莖・地下莖等から生ずる根をいふ。插木などはこの性質を利用する。

【不定稱】776 フテイシヨウ 文法用語。他稱代名詞中、其の指す事物の定まらぬものをいふ。誰・何・何處など。

【不定級數】777 フテイキフスウ 數學用語。其の項の選び方により、種々な數を其の總和として得るやうな無限級數をいふ。振動級數。

【不定計算】778 フテイケイサン いろいろの原因から不確定のままに計算すること。

【不定問題】779 フテイモンダイ 數學用語。無數の解答が得られる問題。

【不定方程式】780 フテイハウテイシキ 數學用語。未知數の値に制限のない限り、無數の解答のある方程式。

【不亭】781 フテイ 正しくないもの。又、朝享せぬもの意。一に不享に作る。〔史記、五帝紀〕以征二不享一。〔注〕索隱曰、謂下用二干戈一以征中諸侯之不二朝享一者上、本或作レ亭、亭訓レ直、以征二諸侯之不直者一。

【不貞】782 フテイ ㊀操が正しくない。〔漢書、杜欽傳〕不レ信不レ貞、萬物不レ生。〔說苑、善說〕事二所レ射之君一、非二不貞一也。〔孔子家語、致思〕事二所レ射之君一、是不貞也。㊁婦德をやぶる。妻たる道を守らぬ。〔越絕書、越絕外傳記范伯〕衒女不貞。

【不庭】783 フテイ まつろはぬ。王室に來朝しない。又、其のもの。下のものが上に事へるには、凡て庭中で事を行つたことから、上にまつろはぬものを不庭といふ。一說に、庭は直、不庭は、道に違つて不直なことであるといふ。〔詩、大雅、韓奕〕幹二不庭方一、以佐二戎辟一。〔傳〕庭、直也。〔箋〕當丙爲下不直違二失法度一之方上、作二楨幹一、而正二平之一、以佐乙助女君甲。〔集傳〕不庭方、不二來庭一之國。〔左氏、隱、十〕以二王命一討二不庭一。〔國語、周語中〕待二不庭不虞之患一。〔莊子、山木〕吾所二以不庭一也。

【不悌】784 フテイ 從順でない。不弟(768)に同じ。〔福惠全書、敎養部、置善惡簿〕某人行二某悖亂不悌一。

【不逞】785 フテイ ㊀わがままにふるまふこと。又、其の人。逞は檢束（シメククリ）。〔左氏、襄、十〕五族聚二羣不逞之人一。〔後漢書、史弼傳〕外聚二剽輕不逞之徒一。〔張衡、思玄賦〕遇二九皐之介鳥一兮、怨二素意之不逞一。㊁滿足せぬこと。逞は快。〔左氏、隱、十一〕鬼神實不レ逞二于許君一。

【不霆】786 フテイ 雷を畏れぬ。〔山海經、中山經〕服レ之者不霆。〔注〕不レ畏二雷霆辟礰一也。

【不弔】787 フテウ ㊀とむらはぬ。〔禮、檀弓上〕死而不レ弔者三、畏・厭・溺。〔左氏、襄、十四〕有レ君不レ弔。㊁よしと認められない。愍まれない。弔は善。〔詩、小雅、節南山〕不レ弔二昊天一、不レ宜レ空二我師一。〔傳〕弔、至。〔箋〕至、猶レ善也、不レ善二乎昊天一、愬レ之也。〔集傳〕旣不レ見三愍二弔於昊天一矣、則不レ宜三久在二其位一。〔左氏、襄、十三〕君子以レ吳爲二不弔一。〔注〕不下用二天道一相弔恤上。〔左氏、襄、二十三〕敢告二不弔一。〔注〕不レ爲三天所二弔恤一。〔日知錄、考證、不弔〕古人言二不弔一者、猶レ曰二不仁一。㊂フテキ 至らぬ。〔書、費誓〕𢽳二乃干一、無二敢不一レ弔。〔傳〕無二敢不一レ令レ至。〔蔡傳〕弔、音的。

【不凋】788 フテウ 淸、崔華(**4**－**8178**‥54)の字。

【不凋草】789 フテウサウ 草の名。巴戟天(**4**－**8745**‥27)の異名。〔本草、巴戟天〕不凋草、三蔓草。

【不凋木】790 フテウノキ 四時しぼまぬ木。〔本草、不凋木〕集解、藏器曰、生二太白山巖谷一、樹高二三尺、葉似レ槐、莖赤有レ毛、如二棠梨一、四時不レ凋。

【不祧】791 フテウ 廟制で、親が盡きれば、祧といつて、木主を太祖の廟に遷す。然るに有功有德の祖先の廟は、特別に扱つて、親が盡きて後も遷すことがない。之を不祧といふ。轉じて、永久に廢しないものの喩。〔元稹、遷廟議狀〕太戊・武丁之徒、雖レ有二中宗・高宗之名一、蓋子孫加二之懿號一而已、亦無二不祧之說一。

【不窕】792 フテウ 滿たぬ。充滿せぬ。〔大戴禮、王言〕布二諸天下一而不レ窕。〔淮南子、人間訓〕布二諸天下一而不レ窕。

【不蜩】793 フテウ 大きな蜩。不は、丕の轉で、大の義。〔爾雅、釋蟲〕不蜩、王蛄。〔郝懿行義疏〕翟氏補レ郭云、不、詩書及古金石文、多通レ丕、丕、大也、王蛄亦大之稱、此必蜩中之大者。

【不調】794 フテウ ❶折り合はない。調和せぬ。〔漢書、元帝紀〕陰陽不レ調。〔後漢書、章帝紀〕比年陰陽不レ調。❷まとまらぬ。

【不調法】795 フテウハフ ❶物事に行きとどかぬ。氣がつかぬ。拙い。〔狂言記、俄道心〕わたくし不調法な者でござれども。❷そさう。粗忽。あやまち。〔長町女腹切、上〕よい年して不調法、過つた、免してもらを。

【不調和】796 フテウワ うつりが惡い。和合せぬ。融和せぬ。似合はぬ。

【不雕】797 フテウ 清、崔華(4－8178・54)の字。

【不迪】798 フテキ 道にしたがはぬ。迪は道。〔書、盤庚中〕乃有二不吉不迪一、顚越不恭、暫遇姦宄。〔傳〕不善不道、謂二囚人一。

【不敵】799 フテキ ❶敵對出來ない。相手にならぬ。〔左氏、桓、十一〕師克在レ和、不レ在レ衆、商・周之不レ敵、君之所レ聞也。〔荀子、王制〕以二不敵之威一輔二服レ人之道一。❷敵を敵とも思はぬこと。大膽なこと。〔源平盛衰記、三十六、鷲尾一谷案內事〕子息の小冠者は不敵の奴。

【不適】800 フテキ ただに云はばかりでない。適は當。〔戰國、秦策〕疑レ臣者、不二適三人一。〔注〕適・當、同。

【不適意】801 pu⁴ shih⁴ i⁴ 思ふ樣にゆかぬ。意のままにならぬ。

【不適當】802 フテキタウ あてはまらぬ。つり合はぬ。又、其のこと。

【不哲】803 フテツ 賢明でない。不悳。〔左氏、襄、二〕季孫於レ是爲レ不哲一矣。

【不悳】804 フテツ 不哲に同じ。悳は哲の古字。〔後漢書、五行志〕視之不明、是謂二不悳一。

【不天】805 フテン 天に祐けられない。天祐がない。〔左氏、宣、十二〕孤不天、不レ能レ事レ君。〔注〕不レ爲二天所佑一。〔左氏、襄、二十三〕我實不天、子無レ紿焉。〔注〕言レ我雖レ不レ爲二天所一レ祐、子無二大紿一。故可レ因。

【不典】806 フテン ただしくない。〔書、多方〕爾乃自作二不典一。〔集傳〕爾乃自爲二不法一。〔孔叢子、刑論〕乃惟終自作二不典一。〔班固、典引〕靡而不典。

【不典兵】807 フテンヘイ 清代、文官の從軍して戰死したものをいふ。〔嘉慶會典、不典之典、作レ管〕其指二文官臨レ戰死亡者一、固無レ可レ疑、其曰二不典兵一者、蓋文官素非二可レ統レ兵者一、而時遇二變亂一、臨レ戰陳亡之意歟。〔清國行政汎論、官吏法、國卹金、陳亡賜金〕會典兵部武選清吏司恩卹條、有二不典兵之一品官一、不典兵之二品官等語一。

【不腆】808 フテン 粗末なこと。厚くないこと。又、粗品。厚くない品。腆は厚・善の意。自己の贈物を謙遜していふ語。〔儀禮、士昏禮〕辭無二不腆一。〔注〕腆、善也。〔左氏、僖、三十三〕不腆敝邑、爲二從者之淹一、居則具二一日之積一、行則備二一夕之衞一。〔注〕腆、厚也。〔左氏、文、十二〕不腆先君之弊器。〔公羊、昭、二十五〕寡人有二不腆一。〔國語、吳語〕不腆吳國之役。

【不諂】809 フテン へつらはない。〔易、繫辭下〕君子上交不レ諂、下交不レ瀆。

【不傳】810 フテン ❶つたへない。又、つたはらない。〔史記、五帝紀贊〕孔子所レ傳、宰予問二五帝德及帝繫姓一、儒者或不レ傳。〔文子、精誠〕精誠形二乎內一、而外喩二於人心一、此不傳之道也。〔十八史略、宋〕周公沒、聖人之道不レ傳、孟子死、聖人學不レ傳。❷移さない。〔禮、內則〕父母舅姑之衣衾簟席枕几、不レ傳。〔集說〕傳、移也、此數者、每日置之有二常處一、子與レ婦、不レ得二輒移一置他所一也。

【不圖】811 フト ❶思ひがけない。〔論語、述而〕不レ圖、爲レ樂之至二於斯一也。〔後漢書、光武紀上〕不レ圖、今日復見二漢官威儀一。❷料らざりき。意外にも。

【不度】812 フド 禮にしたがはぬ。節度が無い。〔左氏、襄、二十一〕居喪而不レ哀、在レ戀而有二嘉容一、是謂二不度一。不度之人、鮮不レ爲レ患。〔注〕言二其嬉戲無一度。

【不怒】813 フド 怒らない。〔淮南子、說林訓〕怒出二於不レ怒一、爲出二於不レ爲一。

【不豆】814 フトウ 簠簋や籩豆（共に神に供へる食物を盛る器）を陳列することをしない。〔呂覽、貴公〕大庖不レ豆。〔注〕但調二和五味一、使二神人享レ之而已一、不二復自列二簠簋籩豆一也。

【不登】815 フトウ ❶登らない。〔左氏、文、二〕周志有レ之、勇則害レ上、不レ登二於明堂一、死而不レ義、非レ勇也。❷五穀がみのらぬ。不實。〔禮、曲禮下〕歲凶、年穀不レ登。〔孟子、滕文公上〕五穀不レ登。〔國語、晉語九〕不レ哀二年之不登一。

【不登木】816 pu⁴ têng¹ mu⁴ 圓徑一尺未滿の木材。

【不等】817 フトウ ひとしくない。

【不等號】818 フトウガウ 數學用語。兩式が等しくないといふ意を表はす符號をいふ。≠・＞・＜・≯等の如きもの。

【不等式】819 フトウシキ 數學用語。等式に對していふ。不等の二つの代數式を不等號で連ね、其の値の相等しくないことを示した式をいふ。

【不等拍子】820 フトウヒャウシ 音樂用語。相等しくない拍子を以て組立てられた樂曲をいふ。

【不等速運動】821 フトウソクウンドウ 力學用語。時及び場所によつて、物體の方向・大きさ、或は遲速の一定せぬ運動。等速運動(8－25992・104)の對。

【不等邊三角形】822 フトウヘンサンカクケイ 數學用語。三邊の各邊が相等しくない三角形をいふ。斜三角形。

【不慬】823 pu¹ tung² わからない。通じない。

【不同】824 フドウ ❶おなじくない。ふぞろひ。〔易、睽〕其志不レ同。❷共に云云はせぬ。不同戴天を見よ。

【不同意】825 フドウイ 同意せぬこと。不贊成。

【不同戴天】826 フドウタイテン 同じくは天を戴かぬ。此の世に共には生存してゐられない。父母の讎をいふ。不俱戴天。〔公羊、莊、四、譔二與レ讎狩一也、注、禮、父母之讐、不二同戴天一、兄弟之讎、不レ同レ國、九族之讎、不レ同二鄉黨一、朋友之讎、不レ同二市朝一。

【不同不二】827 フドウフジ 同じではないが、また別物でもないといふ場合にいふ語。

【不同居繼父】828 フドウキョケイフ 同居してゐない繼父。三父八母(1－12・1543)を見よ。〔明律、三父八母服圖〕不同居繼父、先曾與二繼父一同居、今不二同居一、齊衰三月、自來不レ曾隨レ母與二繼父一同居、上無レ服。

【不動】829 フドウ ❶動かぬ。動かさぬ。ゆるぎない。〔易、繫辭上〕寂然不動、感而遂二天下之故一。〔孟子、公孫丑上〕我四十不レ動レ心。❷佛不動明王の略。

【不動穀】830 フドウコク 古、正稅の中から割いて、不時の需要に供する爲に貯へ置かれた米穀。〔三代實錄、二十三〕元慶二年正月十五日、敕以二播磨國不動穀六十斛一轉充二和泉國一、班二給百姓一。

【不動倉】831 フドウサウ ❶王朝時代に、不動穀を蓄へておいた倉。〔續日本紀、二十四〕天平寶字七年三月丁卯、令二天下諸國進二不動倉鉤匙一、以二國司交替因レ茲多レ煩也。❷常に開かないで、不時の用に供する物を貯藏する倉。〔宇津保物語、吹上、上〕おとどのふどうのみくら開きて。

【不動産】832 フドウサン 其の物の性質上、其れを他に移動させることの出來ない財産。卽ち、土地及び其の定著物。動産(2－2390・38)の對。〔民法、第八十六條〕。

【不動尊】833 フドウソン ❶俗に錢をいふ。〔清異錄、人事、不動尊〕宣武劉訓錢民也、鑄レ鐵爲二算子一、其子薄游、妓求二鈑金一、劉子辭之、妓曰、郎君家庫裏許多青銅、教做二不動尊一。❷佛明王の一。不動明王に同じ。

【不動地】834 フドウチ 佛十地の中の第八地。菩薩が、食・瞋・痴等の惑を斷じて、萬法の無相を觀じ、自然に任せて動作をする境地。

【不動關節】835 フドウクワンセツ 生理學用語。關節の一。縫合、又は軟骨によつて、二骨が單に聯接するだけで、運動の機關のないもの。

【不動如來】836 フドウニョライ 佛金剛界曼荼羅の東方に位する阿閦如來をいふ。〔大教王經〕結二破魔印一、右手舒二五指一、以按レ地、左手五指執二持衣角一、入二東方不動如來三昧一。

【不動明王】837 フドウミャウワウ 佛明王の一。略して不動ともいふ。相貌獰惡、右手に降魔の劍を持ち、左手に縛の繩を握り、背に火焰を負ひ、左右に

制陀迦(セイタカ)・矜羯羅(コンガラ)の二童子を侍らせてゐる。よく一切の障礙煩惱を降伏するといふ。大日如來の教令輪身(力をふるつて導くやうに身を現したもの)。不動尊。不動金剛明王。〔大日經疏、五〕畫二不動明王一、如來使者、作二童子形一、右持二大慧刀印一、左持二羂索一、頂有二莎髻一、屈髮垂在二左肩一、細閉二左目一、以二下齒一嚙二右邊上脣一、其左邊下脣稍翻レ外出、額有二皺文一、猶如二水波狀一、坐二於石上一、其身卑而充滿肥盛、作二奮怒之勢一、極忿之形一、是其密印幖幟相也、云云、鎭二其重障磐石一、使二復不一レ動、成二菩提心妙高山王一、故云三安住在二磐石一也。

【不動産銀行】838 フドウサンギンカウ 不動産を抵當として長期の貸附けをなし、債券の發行によつて其の資金を調達する銀行をいふ。不動産抵當銀行。

【不動金剛明王】839 フドウコンガウミヤウワウ 佛不動明王の異名。〔安鎭軌〕毘盧遮那如來、爲レ拔二濟一切有情一、於二三界中一、現二威德光明自在之身一、號曰二不動金剛明王一。

【不動産登記法】840 フドウサントウキハフ 不動産に關する權利の設定・保存・移轉・變更・處分の制限・消滅等を登記する手續法をいふ。

【不忒】841 フトク とり守る所があつて、疑ひたがふことがない。〔詩、曹風、鳲鳩〕淑人君子、其儀不レ忒。〔傳〕忒、疑也。〔箋〕執レ義不レ疑。

【不得】842 フトク ㊀得ない。出來ぬ。〔左氏、襄、二十八〕求二崔杼之尸一、將レ戮レ之、不レ得。〔公羊、莊、四〕有二明天子一、則襄公得レ爲二若行一乎、曰、不レ得也、不レ得、則襄公曷爲爲レ之。㊁云云してはならない。云云するな。

【不得意】843 フトクイ ㊀意を得ない。心のままにならぬ。氣に合はぬ。〔公羊、莊、六〕得レ意致レ會、不レ得レ意致レ伐。〔史記、虞卿傳〕(虞卿)不レ得レ意、乃著レ書。㊁不得手。下手。

【不得空】844 pu^4 tê^2 k'ung^1 暇がない。

【不得勁】845 pu^4 tê^2 chin^4 面目ない。力がない。

【不得策】846 フトクサク 爲にならぬはかりごと。利益にならぬこと。

【不得手】847 フエテ 得意でないこと。〔源氏烏帽子折、三、烏帽子折名盡〕茶の湯・連歌は不得手なれども。

【不得心】848 フトクシン ㊀心に求めて得ぬ。思ひ起せぬ。合點がゆかぬ。〔孟子、梁惠王上〕反而求レ之、不レ得二吾心一。㊁氣に入らぬこと。不承知。〔源平盛衰記、十四、木下馬〕我れだにも猶見飽かず、不得心なりと思ひて。

【不得了】849 pu^4 tê^2 liao^3 やりきれぬ。たまらない。了不得(**1**－**226**・51)に同じ。

【不得意人】850 フトクイノヒト ㊀望みを得ぬ人。失意の人。〔白居易、醉後聽レ唱二桂華曲一詩〕莫レ教二不得意人聽一。㊁不得手な人。下手な人。

【不得要領】851 フトクエウリヤウ 要領を得ぬ。一向譯がわからぬ。〔漢書、張騫傳〕不レ能レ得二月氏要領一。

【不得次第】852 pu^4 tê^2 t'zŭ^4 ti^4 後先がない。順序に拘はらない。順序不同。

【不得不失】853 フトクフシツ 佛不來不去(1023)に同じ。〔智度論〕卽知一切法、不レ得不レ失、不レ來不レ去。

【不得魚也要得蝦】854 pu^4 tê^2 yü^2 yeh^3 yao^4 tê^2 hsia^1 魚は得られない迄も、蝦だけでも得たい。せめて一つだけでも成し遂げたい。

【不德】855 フトク ㊀身に德の無いこと。〔書、伊訓〕爾惟不德罔レ大、墜二厥宗一。〔左氏、莊、八〕我實不德。〔國語、晉語九〕不德而賄。〔管子、宙合〕名レ之曰二不德一。〔史記、秦始皇紀〕以重二吾不德一也。㊁德をあらはさない。恩にきせない。〔易、繫辭上〕有レ功而不レ德。〔老子、三十八〕上德不レ德。〔荀子、哀公〕言忠信而心不レ德。〔注〕不二自以爲一レ有レ德。

【不德漢】856 フトクカン 道德にそむいた行爲をする人。漢は男の意。

【不德義】857 フトクギ 義理人情に外れてゐること。

【不瀆】858 フトク けがれぬ。〔易、繫辭下〕君子、上交不レ諂、下交不レ瀆。

【不入】859 フニフ はいらぬ。〔左氏、成、二〕孫桓子還二於新築一、不レ入。

【不入岡】860 フニヲカ 伯耆國の地名。

【不入斗】861 イリオマズ 地名。㊀上總國の地名。㊁イリヤマズ 相模國の地名。㊂武藏國の地名。〔續昆陽漫錄〕。㊃安房國の地名。

【不入八分公】862 フニフハチブンコウ 八分は淸の天命年間に定まつた官爵。貝子以上は倶に八分に入るが、特恩の封公、親王の餘子の封公は、之に入らない。之を不入八分公といふ。〔淸會典、宗人府〕凡宗室封爵之等十有二、曰和碩親王、曰多羅郡王、曰多羅貝勒、曰固山貝子、曰奉恩鎭國公、曰奉恩輔國公、曰不入八分鎭國公、曰不入八分輔國公。

【不任】863 フニン たへない。しのびきれない。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕不レ任二荷懼之至一。〔資治通鑑、周紀〕赧王、五十六年、武安君病、不レ任レ行。〔注〕不任、謂二不堪一也。〔資治通鑑、漢紀〕獻帝、建安十九年、操後以レ事入見二殿中一、帝不レ任二其懼一。〔注〕不任、猶レ言二不勝一也。

【不任咎】864 pu^2 jen^4 chiu^4 責任を負はない。

【不任之刑】865 フニンノケイ 朋友の賴みに背いた罪に對する刑罰。任(**1**－**416**)の字解を見よ。〔周禮、地官、大司徒〕五曰、不任之刑。〔注〕鄭司農云、任、謂二朋友相任一。

【不忍】866 フニン ㊀忍ばない。こらへない。〔論語、衞靈公〕小不レ忍則亂二大謀一。㊁忍びない。情深い。〔孟子、公孫丑上〕先王有二不レ忍レ人之心一、斯有二不レ忍レ人之政一矣。〔管子、幼官〕藏二不忍一、行二毆養一。〔漢書、高帝紀〕君王爲レ人不レ忍。

【不認】867 フニン ㊀みとめない。㊁pu^2 jen^4 白狀しない。

【不認可】868 フニンカ ゆるさぬ。認可せぬ。

【不認親】869 フニンシン 明の崇禎の時、北方の人が被つた頭巾。簷(チフ)を低くして目までも蔽はれるやうにしたもの。〔蠡勺編〕崇禎時、北方小民製レ幘、低二側其簷一、自掩二眉目一、名曰二不認親一、其後、寇亂民散、途遇二親戚一、有下飲レ泣不二敢言一、或掉レ臂去レ之者上。

【不佞】870 フネイ ㊀口才がない。口不調法。〔論語、公冶長〕雍也、仁而不レ佞。〔集注〕佞、口才也。㊁不才。轉じて、自己の謙稱。〔左氏、成、十三〕寡人不佞。〔服注〕佞、才也。〔左氏、昭二十五〕羈也不佞。〔國語、魯語上〕寡君不佞。〔戰國、燕策〕臣不佞、不レ能下奉二承先王之教一、以順中左右之心上。〔戰國、趙策〕不佞寢レ疾、不レ能二趨走一。〔史記、趙世家〕臣不佞。〔稱謂錄、謙稱、不佞〕案、佞、乃定切、音寧、才也、故自稱二不才一曰二不佞一。〔故事成語考、人事〕不佞・鯫生、皆自謙之語。

【不寧】871 フネイ 安らかでない。〔易、比〕不レ寧方來。〔禮、月令〕(季秋之月)邊竟不レ寧、土地分裂。〔史記、宋微子世家贊〕國以不レ寧者十世。

【不寧唯是】872 フネイキシ むしろただにこれのみならんや。ただそれだけではなくの意。〔左氏、昭、元〕若野賜レ之、是委二君貺於草莽一也、云云、不寧唯是、又使三圍蒙二其先君一。〔會箋〕不寧、寧也、不寧唯是、與二隱十一年無寧茲一同、言不二啻是一也。

【不能】873 フノウ ㊀よくせぬ。力に餘る。又、其の事。〔左氏、定、五〕人各有レ能有二不能一。〔荀子、不苟〕君子能亦好、不能亦好。〔管子、形勢〕毋レ彊二不能一。㊁愚鈍。不才。無能。〔論語、爲政〕擧レ善而教二不能一則勸。〔論語、泰伯〕以レ能問二於不能一、以レ多問二於寡一。㊂云云することが出來ない。

【不能彀】874 フノウコウ ㊀力が無くて、弓を張ることが出來ぬ。轉じて、任にたへぬ。意に滿たぬ。氣に入らぬ。〔漢書、匈奴傳上〕平城之下、亦誠苦、七日不レ食、不レ能レ彀レ弩。〔唐書、張巡傳〕士才千餘人、皆癯劣不レ能レ彀。㊁出來ない。

【不能犯】875 フノウハン 法律用語。犯罪行爲に着手しても、其の性質上、到底遂行することの出來ない場合をいふ。

【不能條件】876 フノウデウケン 法律用語。不能のことを條件とすることをいふ。

【不能問題】877 フノウモンダイ 數學用語。題意が不能の結果を與へる問題、又は解法の不能な問題をいふ。

【不配】878 pu^2 p'ei^4 不釣合な。不適合な。資格がない。

【不方】879 フハウ 正しくない。〔管子、侈靡〕不方之政、不レ可二以爲一レ國。

【不卯】880 フバウ 仲の惡いこと。〔紅樓夢、二十一回〕倆兩個不卯。

【不妄】881 フバウ 宋、高斯得(**12**－**45313**・1191)の字。

【不妨】882 pu^4 fang^2 構はぬ。差支へない。よろしい。

【不忘】883 フバウ 忘れない。忘れ得ない。〔書、微子之命〕恪愼克孝、肅二恭神人一、予嘉二乃德一、曰、篤不レ忘。

【不忘失】884 pu² wang⁴ shih¹ 忘れない。忘却しない。

【不防】885 ㄅㄨˋ 忽ち。不意に。うつかり。〔紅樓夢、六回〕不防到嚇的一轉眼。

【不防頭】886 pu⁴ fang² t'ou² 豫め防がない。

【不發】887 ㄈㄚ 一矢を射放たない。〔孟子、盡心上〕君子引而不ㇾ發躍如也。一開かぬこと。〔左氏、莊、二十八〕縣門不ㇾ發。二明かにしない。導いてやらぬ。〔論語、述而〕不ㇾ悱不ㇾ發。四淫情の起らぬこと。〔沙石集、八下〕には不發になる藥なりと云ふ。五銃彈丸・砲彈丸・花火等の發火せぬこと。

【不發市】888 pu⁴ fa¹ shih⁴ 商ひがない。

【不伐】889 ㄈㄚˊ 功に誇らぬ。〔易、繫辭上〕勞而不ㇾ伐。〔論語、雍也〕孟之反不ㇾ伐。

【不拔】890 ㄅㄚˊ ぬきとられぬ。堅くて動かぬ。陷らぬ。〔易、乾〕確乎其不ㇾ可ㇾ拔。〔禮、樂記〕奮疾而不ㇾ拔。〔老子、五十四〕善建者不ㇾ拔、善抱者不ㇾ脫。〔韓非子、解老〕不ㇾ能ㇾ引ㇾ之謂ㇾ不拔。〔宋史、宗室世系表一〕崇獎維持、以成ㇾ不拔之基。

【不拔之策】891 ㄅㄚˊ ㄓ ㄘㄜˋ 堅固な策略。〔揚雄、解嘲〕掉ㇾ三寸之舌、建ㇾ不拔之策。

【不拔之志】892 ㄅㄚˊ ㄓ ㄓˋ 物事にくじけぬ意志。〔南史、沈約傳〕執ㇾ不拔之志、高ㇾ臥東南。

【不拔之柱】893 ㄅㄚˊ ㄓ ㄓㄨˋ ぬけない柱。堅固な柱。〔淮南子、精神訓〕至ㇾ人倚ㇾ不拔之柱。

【不罰】894 ㄈㄚˊ 刑法用語。犯罪不成立にして處罰し得ざる場合をいふ。不爲罪。次の如き場合がそれである。法令又は正當の業務によつて爲した行爲。急迫不正の侵害に對し、自己又は他人の權利を防衛する爲、已むことを得ざるに出でた行爲。十四歲に滿たない者の行爲。罪を犯す意思のない行爲。心神喪失者の行爲。

【不法】895 ㄈㄚˇ 法則に從はぬ。道理に合はぬ。不律。〔左氏、莊、二十三〕君擧必書、書而不ㇾ法、後嗣何觀。〔荀子、成相〕觀ㇾ法不法、見ㇾ不視。〔六部成語補遺、吏部、不法、注解〕官員所ㇾ爲不ㇾ依ㇾ法則ㇾ也。

【不法行爲】896 ㄈㄚˇ ㄒㄧㄥˊ ㄨㄟˊ 一法律の命令又は禁制に違反する行爲。二民法上、債務の不履行にあらずして、故意・過失等によつて他人の權利を侵し、人に損傷をかける行爲をいふ。

【不法監禁】897 ㄈㄚˇ ㄐㄧㄢ ㄐㄧㄣˋ 法律によらずに他人の身體を監禁すること。

【不法契約】898 ㄈㄚˇ ㄑㄧˋ ㄩㄝ 事項を內容とする契約。

【不法拘禁】899 ㄈㄚˇ ㄐㄩ ㄐㄧㄣˋ 其の權利がないのに、他人をとらへとどめおくこと。

【不法射擊】900 ㄈㄚˇ ㄕㄜˋ ㄐㄧ 法や規約を犯して銃砲の彈丸をうち出すこと。

【不法占據】901 ㄈㄚˇ ㄓㄢ ㄐㄩ 法や規約に背いて、他國や他人の地物を占領し、それに據ること。

【不法發砲】902 ㄈㄚˇ ㄈㄚ ㄆㄠˋ 法や規約に背いて銃砲彈を發射すること。

【不反】903 ㄈㄢˇ 返らない。〔左氏、成、十五〕多ㇾ大功ㇾ國人與ㇾ之、不ㇾ反、懼ㇾ桓氏之無ㇾ祀ㇾ於宋ㇾ也。

【不反芻類】904 ㄈㄢˇ ㄔㄨˊ ㄌㄟˋ 動物分類上の一部門。反芻をせぬもの。脊椎動物門、哺乳綱、偶蹄目中の一亞目。齒は諸種完備し、犬齒は往々強大となる。胃は單一、時に二房から成るが、反芻をしない。四肢各四趾を有し、掌骨・蹠骨は癒著してゐない。河馬・野猪の類がこれに屬する。非反芻類。

【不叛】905 ㄆㄢˋ そむかぬこと。〔左氏、襄、十四〕以爲ㇾ先君不ㇾ侵不叛不臣、至ㇾ于今ㇾ不ㇾ貳。

【不比】906 pu⁴ pi³ 比較しない。

【不避】907 ㄅㄧˋ 避けない。〔漢書、酷吏、義縱傳〕不ㇾ避ㇾ貴戚。〔後漢書、循吏、王渙傳〕不ㇾ避ㇾ豪右。

【不備】908 ㄅㄟˋ 一完備せぬ。そなはらぬ。そなへをせぬ。〔左氏、隱、五〕不ㇾ備ㇾ不虞、不ㇾ可ㇾ以師。〔左氏、昭、二十四〕邊人不ㇾ備。〔孟子、滕文公下〕衣服不ㇾ備、不ㇾ敢以祭。〔漢書、禮樂志〕去ㇾ小不備、而就ㇾ大不備。〔劉歆、移ㇾ書讓ㇾ太常博士ㇾ書〕以ㇾ尚書ㇾ爲不備。二書簡文の終りに書く語。目上に奉る時に用ひる。不具。不悉。不盡。〔香祖筆記〕宋人書簡、以ㇾ尊與ㇾ卑曰不具、以ㇾ卑上ㇾ尊曰不備、朋友交馳曰不宣、見東軒筆錄、今人多不辨、然三字分別、殊亦未ㇾ解。

【不寐】909 ㄇㄟˋ ねない。まどろまない。〔詩、小雅、小宛〕明發不ㇾ寐、有ㇾ懷ㇾ二人。〔不寐道人〕910 ㄉㄠˋ ㄖㄣˊ 明、金俊明(11－40152‥1298)の號。

【不必】911 pu⁴ pi⁴ 必ずしも云云するに及ばぬ。云云を要せぬ。

【不必要】912 ㄅㄧˋ ㄧㄠˋ ㄧㄠˋ 必要がない。無くともよい。「ぬ。

【不必說了】913 pu⁴ pi⁴ shuo¹ la いふに及ばずとくない。賢くない。轉じて、自己の謙稱。魯鈍。不才。〔儀禮、士冠禮〕某不敏、恐不ㇾ能ㇾ共ㇾ事。〔禮、雜記下〕寡君不敏。〔左氏、僖、二十三〕辟ㇾ不敏也。〔論語、顏淵〕回雖ㇾ不敏、請事ㇾ斯語ㇾ矣。〔孝經、開宗明誼章〕參不敏、何足ㇾ以知ㇾ之。〔荀子、賦〕弟子不敏。

【不憫】915 ㄈㄣˇ あはれ。不便(95ネ)の一に同じ。

【不扶】916 ㄈㄨˊ 共謀しない。〔六部成語、刑部、不扶、注解〕不ㇾ與同謀ㇾ也。

【不婦】917 ㄈㄨˋ 婦德の無いこと。〔左氏、襄、三十〕女而不ㇾ婦。〔孔叢子、居衛〕吾妻殆不ㇾ婦。

【不敷】918 pu⁴ fu¹ 不足。足らない。

【不敷衍】919 pu⁴ fu¹ yen³ いい加減にごまかさない。

【不武】920 ㄨˇ 武道の心得がない。武勇がない。〔左氏、襄、三〕君師不ㇾ武、執事不ㇾ敬、罪莫ㇾ大ㇾ焉。

【不服】921 ㄈㄨˊ 一從はぬ。又、其のもの。得心せぬ。〔左氏、僖、二十八〕冬會于溫、討ㇾ不服ㇾ也。〔論語、季氏〕遠人不ㇾ服。〔荀子、彊國〕其誅ㇾ不服ㇾ也審。二馴れない。

【不服氣】922 pu⁴ fu² ch'i⁴ 屈服しない。負けて居ない。

【不服手】923 pu⁴ fu² shou³ 手におへない。手に合はぬ。

【不服輸】924 pu⁴ fu² shu¹ 屈服せぬ。強情を張つて服さぬ。

【不服之心】925 ㄈㄨˊ ㄓ ㄒㄧㄣ 服しない心。〔莊子、盜跖〕有ㇾ不服之心ㇾ者、小人所ㇾ賤也。

【不服水土】926 pu⁴ fu² shui³ t'u³ 其の土地の風氣になれない。

【不服老羊不吃麥苗】927 pu⁴ fu² lao³ yang² pu⁴ ch'ih¹ mai⁴ miao² 老いた羊は使はずとも、麥の苗は食はずとも。事に十分の目あてがある意。直隸省の諺。

【不物】928 ㄨˋ 珍異なもの。かはつたもの。〔周禮、秋官、野廬氏〕不時者、不物者。〔周禮、地官、司稽〕掌ㇾ巡ㇾ市而察ㇾ其犯ㇾ禁者、與ㇾ其不物者ㇾ、而搏ㇾ之。〔注〕不物、衣服視占、不ㇾ與ㇾ衆同ㇾ、及所ㇾ操物、不ㇾ如ㇾ品式ㇾ。

【不忿】929 ㄈㄣˋ 一いからない。〔禮、坊記〕從ㇾ命不ㇾ忿。〔北史、劉晝傳〕曾以ㇾ賦呈ㇾ魏收、而不ㇾ拜、收忿之、謂曰、賦名ㇾ六合ㇾ、已是大愚、文又愚ㇾ於六合ㇾ、晝不ㇾ忿、又以示ㇾ邢子才ㇾ。二いかりに勝へないといふ俗語。〔剪燈新話、令狐生冥夢錄〕謨聞之、尤其不忿。

【不分】930 ㄈㄣ いかでか。いかんせん。〔靈鬼志、唐晅〕不分殊ㇾ幽顯ㇾ。

【不分皂白】931 pu⁴ fen¹ tsao⁴ pai² 是非がわからぬ。兎に角。

【不分彼此】932 pu⁴ fen¹ pi² t'zu³ 隔てのない。非常に親密な。

【不文】933 ㄨㄣˊ 一飾りが無い。〔孝經、喪親章〕禮無ㇾ容、言不ㇾ文。〔荀子、禮論〕三年之喪、哭之不ㇾ文也。二文章の拙いこと。又、學問のないこと。無學。〔重野成齋、橋本景岳墓表〕不下敢以ㇾ不文ㇾ辭上。〔川田甕江、立憲頌德碑〕剛雖ㇾ不文ㇾ、身列ㇾ議員ㇾ。三(イ)文事に暗いこと。文字を知らぬこと。〔醒睡笑、八〕一向不文なる者。(ロ)文字や文章で書きあらはさぬこと。

【不文的】934 pu⁴ wen² ti 不風流な。

【不文法】935 ㄈㄨˊ 法律の文面には載つて居なくとも、古來の習慣等で法律上の效力を生じるもの。文字に書き表はさない法律の義。不成文律。不文律。

【不文律】936 ㄌㄩˋ 不文法に同じ。

【不平】937 ㄆㄧˊ 一平でない。平かでない。〔莊子、列禦寇〕以ㇾ不平ㇾ平、其平也不ㇾ平。二意に不滿を抱くこと。不滿。〔史記、絳侯周勃世家〕條侯心不ㇾ平。〔韓愈、送ㇾ孟東野ㇾ序〕大凡物不ㇾ得ㇾ其平ㇾ則鳴。三公平でない。不公平。〔漢書、項羽傳〕項王爲ㇾ天下宰ㇾ不ㇾ平。〔漢書、鼂錯傳〕朕之不德、吏之不平。

【不平家】938 カヘイ よく不平を言ふ人。
【不平均】939 フヘイキン 平均でないこと。
【不平生】940 セヘイ 木の名。ゑんじゅ。槐樹(6—15323‥33)の異名。〔清異錄、木、不平生〕崔鳳、蹉跎失レ志、洛南天慶觀頗幽雅、常陪二友生一夏月招二涼于古槐下一、戲曰、予不レ登二九品一、此槐不レ得レ爲二手板一、想亦助二不平一也、是後、朋從呼レ槐爲二不平生一。
【不平黨】941 タウヘイ 不平を鳴らすやから。
【不平等】942 ビヤウドウ 平等でないこと。
【不平之氣】943 フヘイノキ 不平の心。不平の事を見て怒ること。〔六部成語、刑部、不平之氣、注解〕見二不平之事一、因而生レ怒也。
【不平之鳴】944 フヘイノメイ 物が其の當を得なければ必ず鳴ることをいふ。又、不平を洩らすこと。〔韓愈、送二孟東野一序〕大凡物不レ得二其平一則鳴。〔故事成語考、訟獄〕世人惟不平則鳴、聖人以レ無レ訟爲レ貴。
【不平等條約】945 フビヤウドウデウヤク 其の內容が、締結當事國間に對等でない條約をいふ。
【不偏】946 フヘン かたよらないこと。〔禮、樂記〕禮備而不レ偏者、其惟大聖乎。
【不偏不黨】947 フヘンフタウ どちらにも片寄らず味方せぬこと。中立。無偏無黨。〔呂覽、士容〕士不レ偏不レ黨。〔後漢書、霍諝傳〕不偏不黨、其若レ是乎。
【不變】948 フヘン かはらぬ。不易。〔禮、射義〕好レ禮不レ變。〔公羊、閔、元〕季子至而不レ變也。〔史記、太史公自序〕不レ變不レ革。
【不變色】949 フヘンシヨク 何時までもかはらない色。
【不變態】950 フヘンタイ 動物學用語。昆蟲の閒接發生中、卵・幼蟲・蛹・成蟲の各變態の段階が判然としない變態をいふ。
【不變期閒】951 フヘンキカン 法律用語。訴訟行爲を爲すべき法定の期閒で、變更することの出來ない期閒をいふ。
【不變之法】952 フヘンノハフ 永久に變らない法則。〔尹文子、大道上〕不變之法、君臣上下、是也。
【不變資本】953 フヘンシホン 經濟用語。工場・機械・原料其の他の補助材料等の如く、直接剩餘價値を產まない資本をいふ。
【不便】954 ベン ●便利でない。勝手がわるい。不都合。〔戰國、秦策〕或謂二敎之便一、或謂二敎之不便一。〔荀子、議兵〕女所謂便者、不便之便也。〔史記、春申君傳〕秦踰二黽隘之塞一而攻レ楚不レ便。〔漢書、高后紀〕或以爲不レ便。●ビン あはれ。憫然。不憫。〔古今著聞集、十〕隨身公春を不便に思召し。●云云することが出來ない。
【不便當】955 フベンタウ 不都合な。都合が悪い。〔通俗編、境遇、不便當〕元典章、額外令下試驗人員在二地方一待闕、侵二官蠹一民、實于二公私一兩不二便當一。
【不便之家氏】956 フベンノカシ 家に役立たぬ婦人。家氏は婦氏。〔呂覽、不屈〕此非二不便之家氏一也。
【不勉】957 フベン つとめない。なまける。〔左氏、襄、十七〕宋皇國父爲二大宰一、爲二平公一築レ臺、云云、子罕聞レ之、親執レ扑以行二築者一、而扶二其不レ勉者一。
【不辨】958 フベン 物事の思ふやうにならぬこと。不如意がちのこと。貧乏のこと。〔甲陽軍鑑、十三〕武道を心がくる共、不辨にて事たらずば、心に存しても萬成がたし。
【不辨者】959 フベンノモノ 貧しき人。〔醒睡笑、六〕ある侍のさし物にふべんものと書きたり。
【不辯】960 フベン 辯舌のまづいこと。〔孔子家語、致思〕昔管仲說二襄公一、公不レ受、是不辯也。
【不朋】961 フホウ 宋、孫介(8—6987‥26)の字。
【不封】962 フホウ 墳墓などに土を盛らないこと。〔易、繫辭下〕古之葬者、不レ封不レ樹。〔孔子家語、相魯〕因二丘陵一爲レ墳、不レ封不レ樹。
【不蒙】963 フボウ 複姓。西羌の姓。夫蒙(8—5835‥7)に同じ。又、不夢に作る。〔通志、氏族略、關西複姓〕不蒙氏、晉夢、西羌人、後魏書、不蒙蛾。
【不睦】964 フボク むつましくない。又、むつましくしない者。不和。〔左氏、宣、九〕會于扈一、討二不睦一也。
【不睦之刑】965 フボクノケイ 睦しくしないものを罰する刑。〔周禮、地官、大司徒〕三曰、不睦之刑。
【不睦之條】966 フボクノデウ 和睦しないものを取締る罰則。〔六部成語、刑部、不睦之條、注解〕有レ犯二於不和睦一之條例也。
【不沒】967 フボツ 水に沈まぬ。かくれぬ。轉じて、無くならぬこと。〔陸機、辨亡論上〕智伯灌溉之害、注〕善曰、史記曰、晉智伯攻二晉陽一、歲餘、引レ汾水一灌二其城一、不レ沒者二版。
【不殞】968 フボウ 天壽を全くせぬ。殞は沒の古字。〔左氏、僖二十二〕楚王其不レ殞乎。〔注〕不レ以レ壽終。
【不凡】969 ボン 尋常でない。非凡。非常。不凡子を見よ。〔唐書、后妃上、高祖后竇氏傳〕父毅常謂レ主曰、此女有二奇相一、且識不レ凡、何可二妄與一人。
【不凡子】970 ノボンコ 人なみで無い賢い子。他人の子をほめていふ語。〔汝南先賢傳〕足下有二不凡子一、吾來候レ之。〔書言故事、子孫類〕稱二人子一、曰二不凡之子一。
【不犯】971 フボン ●佛僧侶が邪淫戒を犯さないこと。色慾を絶つこと。〔東鑑、一〕治承四年八月十八日、號二法音之尼一、云云、爲二一生不犯之者一。●pu⁴ fan⁴ 云云を免れる。云云するに當らぬ。
【不磨】972 フマ すりへらぬ。磨滅しない。なくならぬ。〔後漢書、南匈奴傳〕嗚呼千里之差、興レ自二毫端一、失得之源、百世不レ磨。
【不磨大典】973 フマタイテン 不朽の大法。〔憲法發布勅語〕此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス。
【不昧】974 フマイ ●くらからぬこと。あきらかなこと。物欲にくらまされないこと。〔大學、大學之道在レ明二明德一、章句〕明德者、人之所レ得二乎天一、而虛靈不昧、以具二衆理一、而應二萬事一者也。〔老子、十四〕其下不レ昧。●字號。④清、呂留良(2—3886‥275)の字。㊁松平治鄕の號。
【不毛】975 フマウ ●五穀の生えないこと。又、その土地。毛は、草をいふ。不毛地を見よ。〔諸葛亮、出師表〕深入二不毛一。●五穀を植ゑないこと。〔周禮、地官、載師〕凡宅不レ毛者、有二里布一。〔注〕鄭司農云、宅不レ毛者、謂不レ樹二桑麻一也。〔漢書、食貨志〕城郭中宅、不レ樹レ藝者、爲二不毛一。●畜類の毛色の純一でないもの。〔公羊、文、十三〕魯祭二周公一、何以爲レ牲、周公以二白牡一、魯公用二騂犅一、羣公不毛。〔注〕不毛、不純色、所二以降一于尊祖一。
【不毛地】976 フマウチ 地味が惡くて、草木五穀が生育せぬ地。〔公羊、宣、十二〕君如矜二此喪人一、錫二之不毛之地一。〔新序、雜事四〕錫二之不毛之地一、故事成語考、地輿、磽地、曰二不毛之地一。
【不滿】977 マン ●みたぬ。一杯になぬ。〔文子、精誠〕田者不レ強、困倉不レ滿。●氣に入らない。心に滿足しない。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕楊炎・盧杞、既相二德宗一、益惡二公所一レ爲、連斥レ之、猶不レ滿レ意。
【不滿足】978 フマン 不滿の●に同じ。
【不瞞】979 pu⁴ man² 欺かない。ごまかさない。
【不味】980 ミ ●味のないこと。甘くないこと。まづいこと。●市場用語。人氣が引立たず、景氣のよくないこと。
【不眠】981 ミン 眠らない。ねられない。〔列子、周穆王〕其民常覺而不レ眠。〔後漢書、第五倫傳〕竟夕不レ眠。
【不眠症】982 シンケウ ねむられぬやまひ。
【不眠不休】983 フミンフキウ 眠らず又休まぬこと。
【不明】984 メイ ●道理をわきまへぬこと。事理に暗いこと。道に悖ること。おろか。〔史記、孝文紀〕以二不敏不明一、而久撫二臨天下一。〔史記、宋微子世家〕紂既立不明。〔漢書、董仲舒傳〕長吏不明。●はつきりと見えない。わからない。不分明。〔後漢書、五行志〕極、中也、昧、不明也。
【不明白】985 pu⁴ ming² pai ●不明瞭な。分らぬ。明かならぬ。●諒解せぬ。
【不明亮】986 フメイリヤウ 明かでない。不明瞭。
【不明瞭】987 フメイレウ 明かでない。不明亮。
【不妙】988 pu⁴ miao⁴ 事情が旨く運ばない。
【不滅】989 メツ ●ほろびない。不朽。不磨。〔後漢書、馮衍傳〕福祿流二於無窮一、功烈著二於不滅一。●火の消えぬこと。〔齋藤竹堂、竹堂遊記〕所レ置神燈、至レ今不レ滅。
【不滅不生】990 フメツフシヤウ 刪滅せず生ぜぬ意で、涅槃のこと。不生不滅(4—65)に同じ。〔王巾、頭陀寺碑文〕視聽之外、若レ存若レ亡、心行之表、不レ生不レ滅。
【不免】991 メン ●まぬがれぬ。〔國語、晉語八〕陽子行二廉直於晉國一、不レ免二其身一、其知不レ足レ稱也。●さあ云云しよう。〔長生殿、聞樂〕不免召二他夢魂一重聽二此曲一。

【不問】992 モフン ●とはぬ。とがめぬ。捨ておくこと。〔周禮、秋官、大行人〕出入三積、不レ問二竟勞一。〔漢書、丙吉傳〕死傷橫レ道、吉過レ之不レ問。●何々の別無しに。

【不問天地】993 pu⁴ wen⁴ t'ien¹ ti⁴ どことい ふことなしに。

【不也】994 シカラザル 然らず。否。いやいや。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕不也、使二吾弓如二叔父鎭西八郎之弓一、則可。

【不夜】995 ヤ ●燈影や月光などで、夜も暗くないこと。〔李子卿、聚レ雪爲二小山一賦玉林不夜、瑤草先レ春。●縣名。漢置く。故城は今の山東省榮城縣の西北。不夜城の●を見よ。〔漢書、地理志上〕東萊郡、縣十七、不夜。〔齊地記〕古有レ日夜出、見二於東萊一、故萊子立二此城一、以二不夜一爲レ名。

【不夜菴】996 アンヤ 清、傅山(1—939‥56)の號。

【不夜侯】997 ヤコウ 茶(9—30915)の異名。多く飲めば眠られぬからいふ。〔清異錄、茗荈、不夜侯〕胡嶠飛龍餉飮茶詩曰、沾牙舊姓餘甘氏、破レ睡當封二不夜侯一。新奇哉、嶠宿學舊材未レ達、爲二耶律德光所一虜、北去後聞道復歸。〔胡嶠、飮茶詩〕破レ睡須レ封二不夜侯一。

【不夜城】998 フヤジャウ ●東萊郡不夜縣にあった城。昔、夜、日が出たから名づけたといふ。不夜の●を見よ。〔三齊略記〕不夜城、在二陽遷東南一、蓋古有レ日夜出、此城以二不夜一名、異二之也。〔蘇軾、雪後到二乾明寺一遂宿詩〕風花誤入長春苑、雲月長臨不夜城。〔注〕齊地記曰、齊有二不夜城一。●ともしびの光の明るいさま。又、月夜・雪夜などの景色の形容。〔蘇頲、廣達樓下夜侍二酺宴一應制詩〕樓臺絕勝宜春苑、燈火還同不夜城。●行燈(10—34029‥398)の異名。〔書蕉、今之燈、亦謂二不夜城一。●遊廓など、夜のあそびを專らとする所の稱。

【不夜珠】999 ジュ 珠の一種。其の光彩が、月の夜を照らすが如く、甚だ美艶なもの。〔海錄碎事、帝王、后妃〕眞臘夷獻二萬年蛤一、不夜珠、光彩皆若二月、照レ人亡一妍醜一、絕美艶、帝以レ蛤賜二趙后一、珠賜二婕妤一。

【不夜菴老人】1000 フヤアンラウジン 清、傅山(1—939‥56)の號。

【不颺】1001 フヨウ 風采があがらぬこと。容貌の醜いこと。〔左氏、昭、二十八〕今子少不レ颺、子若無レ言、吾幾失二子矣一。〔注〕顏貌不二揚顯一。〔書傳故事、惡貌類〕貌醜、曰二不颺一。

【不渝】1002 フユ かはらぬ。不變。〔詩、鄭風、羔裘〕彼其之子、舍命不レ渝。〔孔叢子、執節〕雖レ賤不レ渝、君子人也。

【不勇】1003 フユウ いさましくない。臆病。卑怯。〔日本外史、足利氏後記、上杉氏〕謙信聞レ之、寄二書信玄一曰、聞、氏康・氏眞、困レ君以レ鹽、不勇不義。

【不融】1004 フユウ とほらぬこと。徹底せぬ。〔蜀志、先主甘后傳〕載育二聖躬一、大命不レ融。

【不預】1005 フヨ ●あづからず。關係しない。〔晉書、庾亮傳論〕逡巡在レ夏、靡レ與二高稷一同驅、似氏居レ周、不レ預二燕齊等一列。●天子の御病氣をいふ。不豫。〔國史略、一條天皇〕八年、帝不預、讓二位皇太子一、尋崩。

【不豫】1006 フヨ ●心に悅ばぬ。樂しまぬ。〔孟子、梁惠王下〕吾王不レ豫、吾何以助。〔集注〕豫、樂也。●天子の病氣をいふ。不預。御不例。〔書、金縢〕王有レ病弗レ豫。〔史記、魯世家〕武王克レ殷二年、武王有レ疾不レ豫。〔漢書、五行志中之上〕天子不豫。●前以てしない。思ひがけない。〔中庸〕不レ豫則廢。〔莊子、應帝王〕何間之不豫也。

【不豫色】1007 フヨノイロ 喜ばしからぬ顏色。不愉快らしい顏つき。〔孟子、公孫丑下〕夫子若有二不豫色一、然、前日、虞聞二諸夫子一、曰、君子不レ怨レ天、不レ尤レ人。

【不用】1008 フヨウ ●用に立たぬ。〔孫子、計〕兵、詭道也、故能而示二之不能一、用而示二之不用一。〔謝觀、大衍虛其一賦〕以二不用一爲二用端一。●五代吳越、無作(7—19113‥333)の字。●pu² yung⁴ 何々するに及ばぬ。ならない。入用でない。

【不用意】1009 フヨイ ●意を用ひず、自然であること。〔李攀龍、唐詩選序〕蓋以二不用意一得レ之。●手廻しの惡いこと。手ぬかり。不注意。

【不用處】1010 フヨウトコロ 用のない所。〔董仲舒、元光元年擧賢良對策〕陰常居二大冬一、而積二于空虛不用之處一。〔白居易、睡起宴坐詩〕本是無有鄉、亦名二不用處一。

【不用心】1011 フヨウジン 用心のよくないこと。〔國姓爺後日合戰、相生參宮〕不用心の命知らず。

【不用說】1012 pu² yung⁴ shuo¹ 云はずともきまつて居る。云ふ迄もない。勿論のこと。

【不用之學】1013 フヨウノガク 不必要な學問。〔孔叢子、獨治〕爲二不用之學一、殆非二子情一也。

【不容】1014 フヨウ ●容れられぬ。又、ゆるさない。〔論語、鄉黨〕入二公門一、鞠躬如也、如レ不レ容。●世に用ひられぬ。〔史記、孔子世家〕不レ容何病、不レ容、然後見二君子一。

【不容趾】1015 pu⁴ jung² chih³ 足が踏み込めない。

【不容分說】1016 pu⁴ jung² fen¹ shuo¹ いひ分けを肯かぬ。辯解をゆるさぬ。

【不容間位律】1017 フヨウカンキリツ 排中律(5—12256‥150)に同じ。

【不欲】1018 フヨク 欲がない。無欲。寡欲。〔論語、憲問〕臧武仲之智、公綽之不欲。〔老子、三十七〕不欲以靜、天下將二自定一。

【不來】1019 フライ ●獸の名。貍(10—36561)の異名。〔史記、封禪書、注〕徐廣曰、貍、一名二不來一。●出來ない。〔紅樓夢、二十八回〕我不レ來、別レ算レ我。

【不來子】1020 シンライ 清、杜濬(6—14477‥149)の號。

【不來梅】1021 メン 獨逸西北部に在る港市。一に布勒門に作る。Bremen の音譯。

【不來坂】1022 コズサカ 丹波國の地名。

【不來不去】1023 フライフキョ 佛ののり。法は、元來、空なもので、得ることもなく失ふこともなく、來ることもなく去ることもないといふ義。〔智度論〕卽知一切法、不レ得不レ失、不レ來不レ去。

【不賴】1024 pu² lai⁴ こはれない。欺かない。

【不老】1025 フラウ ●いつまでも老いぬこと。不老不死を見よ。●オエ 越前國の地名。

【不老門】1026 フラウモン ●洛陽城の門の一。〔淵鑑類函、居處部、門〕漢宮殿疏曰、洛陽有二泰夏・閶闔・萬春・蒼龍・千秋・景福・永巷・丙舍・鴻都・含華・不老・章臺・濯龍・定鼎之門一。〔倭漢朗詠集、祝〕長生殿裏春秋富、不老門前日月長。●大內裏の豐樂院の北面にある門。〔和漢三才圖會、家宅類、宮〕不老門、豐樂院之北面外大門也、無レ額。

【不老不死】1027 フラウフシ 人の極めて長壽なこと。〔列子、湯問〕珠玕之樹、皆叢生、華實皆有二滋味一、食レ之皆不レ老不レ死。〔法華經、藥王品〕衆人有レ病、得レ聞二此經一、病卽消滅、不レ老不レ死。

【不老不死老人】1028 フラウフシラウジン 黑田玄鶴の號。黑田瘦松翁(12—48038‥376)を見よ。

【不牢】1029 フラウ 堅くない。〔淮南子、時則訓、苦慢、注〕慢、不牢也。

【不羹】1030 フカウ 地名。東不羹と西不羹とある。西不羹は、今の河南省襄城縣の東南。東不羹は、今の河南省舞陽縣の西北。〔左氏、昭、十二〕楚子城二陳蔡不羹一。〔注〕襄城縣東南有二不羹城一。定陵西北有二不羹亭一。〔釋文〕羹、舊音郎。〔會箋〕羹、漢書地理志、作レ吏字一、蓋讀レ羹如レ剛、云云、東不羹、卽定陵之不羹亭也。〔後漢書、郡國志二〕襄城有二西不羹、定陵有一東不羹一。

【不落】1031 フラク ●おちない。〔白居易、歎二髮落一詩〕隨レ梳落去何須レ惜、不レ落終須二變作一絲。●さかづき。〔清異錄、器具、水晶不落〕白樂天送二春詩云、銀花不落從レ君勸、不落、酒器也。

【不落家】1032 pu² luo⁴ chia¹ 兩粵地方で、女子が嫁して後一度實家に逃げ返り、將に出產しようとする頃に、再び男の家に往くことをいふ。

【不落荄】1033 フラクガイ 食物の名。粽、又は饅頭の類。〔戒庵漫筆〕鎭江醫官張天民、在二湖廣榮王府一、端午賜二食不落荄一、云卽今之粽子一。〔天咫偶聞〕丸而餡之者、謂二之窩窩一、卽古之不落夾。

【不落手】1034 pu² luo⁴ shou³ 手を離さぬ。

【不落樹】1035 フラクジュ 木の名。かしは。槲(6—15375)の別名。亦、梓櫃と名づけるのは、不落の轉音である。〔王沛恂、紀山蠶說〕、巾箱拾羽〕

【不落套】1036 pu² luo⁴ t'ao⁴ 人に籠絡せられないこと。又、時流に從はぬこと。

【不落道】1037 フラクダウ 他道に踏み込まぬこと。文詞が錯雜して順序次第を失ふ義とするは誤。〔白居易、小童薛陽陶吹二觱栗一歌〕衆音靚縷不落道、有レ如二部仵隨一將軍一。〔通俗編、文學、不落道〕

按、此謂㊀其不ニ旁ニ越他道一、今反以ニ文詞錯雜失ル次、爲ニ不落道一、非。

【不埒】1038 フラチ 法に從はぬ。埒外、卽ち境界外に踏み出す。不法。不屆。〔本朝若風俗、一〕この分にしては不埒に思召せども。

【不埒證文】1039 フラチショウモン 江戸時代に於て、一定の方式に違つた證文をいふ。これを犯すものは罰せられる。〔德川禁令考後聚、十四〕右體不埒證文に付。

【不利】1040 リフ ●ためにならぬ。利益がない。〔書、金縢〕管叔及其羣弟、乃流ニ言於國一曰、公將ル不ル利ニ於孺子一。〔左氏、襄、五〕穆叔以ル屬ル鄫爲ニ不利一。〔孟子、告子下〕我將ル言ニ其不利一也。〔管子、乘馬〕國之不利也。●戰にまける。勝利を得ぬ。〔墨子、非攻下〕今夫師者之相ニ爲不利一者也。〔史記、魏世家〕與ル秦戰、我不ル利。

【不利市】1041 フリシ 才を有してゐながら、而も運の惡いこと。夏侯孜を時人が稱した語。〔北夢瑣言〕夏侯孜未ル偶、徐ニ傳風塵一、所ニ跨蹇驢一、無ニ故墜ル井、每ル及ニ朝士之門一、舍ニ逆旅之館一、多自齟齬、時人號曰ニ不利市秀才一。

【不利之名】1042 フリノナ 戰に勝てないといふ名目。〔呂覽、高義〕將ニ皆依ニ不利之名一而效ニ臣遁一。

【不理】1043 リフ ●道理にあはぬ。又、理解出來ない。〔漢書、五行志上〕追誅不ル解、茲謂ニ不理一。〔後漢書、胡廣傳〕廣、字伯始、達ニ練事體一、明ニ解朝章一、故京師諺曰、萬事不ル理、問ニ伯始一。●不利(1040)の●に同じ。〔孟子、盡心下〕務稽曰、稽大不ル理ニ於口一。〔注〕爲ニ衆口所ニ訕、理、賴也一。〔焦循正義〕賴、利也、不ル理ニ於口一、猶ニ云不ル利ニ於人口一也。●pu⁴ li³ 構はない。放任する。

【不離】1044 フリ ●離れぬ。〔禮、曲禮上〕鸚鵡能言、不ル離ニ飛鳥一。〔莊子、馬蹄〕其德不ル離。●pu⁴ li² ㋐違はない。㋑可なり。

【不流】1045 リウ 流れない。〔穀梁、成、五〕梁山崩、壅ニ遏河一、三日不ル流。

【不流沙】1046 フルサ 古印度の犍陀羅國の首都。今の印度西北邊境州ペシヤワールに當る。一に富樓沙・弗樓沙に作り、大唐西域記は布路沙布邏に作る。Purusapura

【不立】1047 リフ ●立たぬ。〔孟子、盡心上〕知ニ命者、不ル立ニ乎巖牆之下一。●立派な人になれぬ。一人前になれぬ。〔孔子家語、致思〕不ル飽無ル類、無ル類失ル親、失ル親不ル忠、不ル忠失ル禮、失ル禮不ル立。

【不立文字】1048 フリュウモンジ 佛文字を用ひぬ義。禪學では、道は文字を以て傳へ得るものでなく、心を以て悟るべきものであるといふ。〔無門關、世尊拈花〕世尊在ニ靈山會上一、拈ル花示ル衆、云云、獨有ニ金色頭陀、破顏微笑、世尊言、吾有ニ正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法門一、不立文字、教外別傳一、付ニ囑大迦葉一。〔釋門正統〕禪宗者、始ニ菩提達摩一、遠越ニ葱嶺一、來ニ於此土一、初無ニ不立文字之說一、南泉普願始倡ニ別傳不立文字見性成佛一。〔高僧傳〕達磨曰、我法一心、不ル立ニ文字一。

【不律】1049 フリツ ●筆(8－25987)の異名。不律ヲツの反切は筆ヒツ。〔說文〕聿、所ニ以書一也、楚謂ニ之聿一。吳謂ニ之不律一。〔爾雅、釋器〕不律、謂ニ之筆一。〔注〕蜀人呼ニ筆爲ニ不律一也、語之變轉。●法を守らぬこと。又、其の者。〔元史、來阿八赤傳〕斬ニ之、以懲ニ不律者一。

【不粒】1050 リフ 米粒を食べぬ。〔顏氏家訓、涉務〕三日不ル粒、父子不ル能ニ相存一。

【不良】1051 リヤウ ●よくない。又、よくない者。不善。〔詩、陳風、墓門〕夫也不ル良、國人知ル之。〔禮、月令〕毋ニ或不良一。〔左氏、昭、七〕孟繫之足不ル良。〔後漢書、章帝紀〕今吏多不ル良。●唐代、誰何を掌る役。不良人を見よ。〔嘉話錄〕李勉爲ニ畿縣尉一、時有ニ不良、潛納ニ入賄一。

【不良死】1052 フリヤウシ 橫死。非業の死。〔日本政記、後深草天皇〕關白之薨、世稱ニ不良死一云。

【不良人】1053 フリヤウジン 不良の●に同じ。〔稱謂錄、隸、不良人〕說鈴續云、緝事番役、在ニ唐稱爲ニ不良人一、有ニ不良師主一之、卽漢之大誰何也。

【不良事】1054 フリヤウコト よくないこと。わるいこと。〔賴山陽、高山彦九郎傳〕不ル可ル使ニ吾鄉有ニ此不良事一。

【不良之吏】1055 フリヤウノリ よくない役人。〔漢書、元帝紀〕今不良之吏、覆ニ案小罪一。〔後漢書、陳寵傳〕事類溷錯、易ル爲ニ輕重一、不良吏得ル生ニ因緣一。

【不良少年】1056 フリヤウセウネン 素行の善くない少年。

【不良導體】1057 フリヤウダウタイ 物理學用語。熱又は電氣をよく傳導しないものをいふ。コルクの類。

【不良不莠】1058 pu⁴ liang² pu⁴ yǔ² よくもなく、惡くもない。どつちつかず。

【不良分子】1059 フリヤウブンシ なかまの中の不良の者。分子は、一團中の個人。

【不亮】1060 リヤウ まことでない。〔漢書、敍傳下〕膠東不亮、常山驕盈。〔注〕如淳曰、亮、信也。

【不慮】1061 リヨ ●思ひがけぬ。〔杜荀鶴、經ニ廢宅一詩〕不ル慮有ニ今日一。●思案を用ひぬ。〔孟子、盡心上〕所ニ不ル慮而知一者、其良知也。〔莊子、天下〕不ル慮而對。

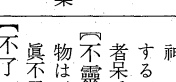
【不力】1062 フリキ つとめない。努力しない。〔六部成語、戶部、不力、注解〕承ル催不ル用ニ心力一、以致ル有ニ遲延之咎一。

【不倫】1063 リン ●類を同じくせぬ。順序が立たぬ。〔孔安國、尚書序〕雖ニ設ニ教不倫一、雅誥奧義、其歸一揆。〔疏〕倫、類也。〔漢書、文三王傳〕年齒不倫。〔後漢書、向栩傳〕性卓詭不倫。●人たる道にはづれる。人倫にそむく。

【不倫瑞克】1064 ビツリンスイク 國の名。獨逸職邦の一。Brunswick の音譯。

【不磷】1065 リン 明、邵堅(11－39343・23)の字。

【不壘】1066 ルイ 樂器の名。竹で作る。ビルマの樂器。後、支那にも用ひられた。〔清會典圖、樂器、不壘〕



不壘(圖典會清)

【不類】1067 フルイ ●善くない。不善。不良。類は善。〔詩、大雅、瞻卬〕威儀不ル類。〔傳〕類、善。〔晉書、元帝紀〕抗ニ明威一、以攝ニ不類一。●類せぬ。合はない。たぐひがない。無類。〔左氏、襄、十六〕齊高厚之詩不ル類。〔莊子、齊物論〕其與ニ是不ル類乎。〔墨子、經、上〕不ル合不ル類。

【不令】1068 レイ よくない。〔詩、小雅、十月之交〕不ル寧不ル令。〔箋〕天下不ル安、政教不ル善之徵。

【不令支】1069 シレイ 國の名。令支(1－387・7)を見よ。〔逸周書、王會解〕孤竹・距虛・不令支・玄模。〔注〕皆東北夷。

【不令民】1070 フレイノタミ 命令をきかない民。〔呂覽、安死〕君之不令民、父之不孝子。

【不令之臣】1071 フレイノシン 命令をきかぬ臣下。〔左氏、昭、二十二〕寡君聞下君有ニ不令之臣一、爲中君憂上。〔國語、齊語〕寡君有ニ不令之臣一。〔管子、小匡〕寡君有ニ不令之臣一。〔商子、算地〕生有ニ不令之臣一。

【不例】1072 フレイ ●常ならぬ。不斷と違ふ。●病む。わづらふ。病氣にかかる。又、病氣。〔平家女護島、四〕御不例の御容體。

【不領】1073 pu⁴ ling³ ●了解せぬ。●受け取らぬ。

【不禮】1074 フレイ ●禮を以て應對しない。敬禮しない。〔左氏、隱、六〕鄭伯如ニ周、始朝ニ桓王一也、王不ル禮焉。〔前燕錄、段氏兄弟、專尚ニ武勇一、不ル禮ニ士大夫一。〔五燈會元〕洪州法達禪師、禮ニ拜六祖一、頭不ル至ル地、祖訶曰、禮不ル投ル地、何如不ル禮。●無禮なこと。ゐやなし。〔國史略、安康天皇〕大草香不ル奉ル詔、且其言不禮也。

【不靈】1075 レイ ●靈驗のないこと。靈妙な力の無いこと。〔史記、龜策傳〕龜藏則不ル靈、蓍久則不ル神。〔韓愈、鱷魚文〕冥頑不ル靈。●愚圖愚圖する。敏捷でない。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕濕者呆重不ル靈也。●藥が效ない。

【不靈頑物】1076 フレイガンブツ さとくない馬鹿もの。頑物は、愚かなもの。〔齋藤拙堂、陪ニ游笠置山一記〕眞不靈頑物耳。

【不了】1077 レウ ●すまぬ。終らぬ。〔晉書、庾純傳〕有ニ小市井事不ル了、是以來後。●さとらぬ。了解せぬ。明かでない。〔春秋、莊、二十四、郭公、杜注〕公羊・穀梁之說、已不ル了。〔南史、蔡撙傳〕武帝曰、卿殊不ル了ル事。●pu⁴ liǎo 云云しきれない。云云することが出來ない。

【不了義】1078 フレウギ 佛佛典中、實義を隱覆して方便の說をなすもの。未了未盡の說であるからいふ。了義1－226・12)の對。〔寶積經、五十二〕若諸經中、有ル所ニ宣說厭ニ背生死一欣ル樂涅槃一、名ニ不了義一。

【不了簡】1079 フレウケン 惡い考。不心得。不料簡。〔日本武尊吾妻鑑、一〕大身に似合はぬ不了簡。

【不了語】1080 フレウゴ 不了とは、意の完結せぬこと也・矣等の斷語に對するもので、疑を存して斷

じない辭である。例へば史記の項羽紀の宋義論「武信君之軍必敗、居數日、軍果敗」の文に於て、必敗の必の如きをいふ。必ず敗れるであらうと疑を存し、下文に於て果敗と述べて斷案とする。

【不了事】1081 フリョウジ　事に通曉しない。〔南史、蔡撙傳〕武帝曰、卿殊不ㇾ了ㇾ事、云云、撙曰、臣撙少而仕宦、未ㇾ嘗有ニ不了事之目一。

【不了不當】1082 pu⁴ liao³ pu⁴ tang¹ さつぱり埒があかない。

【不料】1083 フリョウ　はかられぬ。料らざりき。思ひがけなく。〔耿湋、屏ニ居蘇屋ニ詩〕百年心不ㇾ料、一卷日相知。

【不料簡】1084 フレウカン　不了簡(1079)に同じ。

【不獵】1085 フリョウ　獵の獲物が無いこと。

【不廉】1086 フレン　●角を立てぬこと。〔周禮、考工記、輪人〕外不ㇾ廉、而內不ㇾ挫。〔注〕廉、絕也。〔疏〕凡屈ㇾ木、多外廉ニ絕理一。●廉潔でない。〔史記、甘茂傳〕茍賤不廉。〔漢書、賈誼傳〕古者、大臣有下坐ニ不廉而廢者上。〔孔子家語、致思〕贖人受ㇾ金、則爲ニ不廉一。〔南史、朱异傳〕卿年少、何乃不廉。〔韓愈、苦寒詩〕顓頊固不廉。

【不廉於書之室】1087 フレンオショノシツ　清、李士棻(6—1445 59··1280)の室名。

【不祿】1088 フロク　●士の死をいふ。祿を受け終らぬ義。〔禮、曲禮下〕天子死曰ㇾ崩、諸侯曰ㇾ薨、大夫曰ㇾ卒、士曰ニ不祿一。〔注〕不祿、不ㇾ終ニ其祿一。〔疏〕士曰ニ不祿一者、士祿以代ㇾ耕、而遂死、是不ㇾ終ニ其祿一。〔公羊、隱、三〕曷爲或言ㇾ崩、或言ㇾ薨、天子曰ㇾ崩、諸侯曰ㇾ薨、大夫曰ㇾ卒、士曰ニ不祿一。〔故事成語考、疾病死喪〕士死曰ニ不祿一。●諸侯の死を他國に告げる時の謙辭。諸侯の身分ではあるが、士分の語を用ひる。〔禮、雜記上〕君訃ニ於他國之君一、曰ニ寡君不祿、敢告ニ於執事一。〔國語、晉語二〕重ㇾ之、以ニ寡君之不祿一。〔注〕士死曰ニ不祿一、禮、君死赴ニ於他國一、曰ニ寡君不祿、謙也。

【不論】1089 フロン　●論ぜぬ。論議せぬ。● pu² lun⁴ 云云に論なく。云云を問はず。

【不論罪】1090 フロンザイ　刑法上、罪として論ぜぬ義で、犯罪の成立せぬこと。

【不和】1091 フワ　●むつまじくない。融合しない。なかたがひ。不睦。〔書、多方〕自作ニ不和一、爾惟和哉。〔論語、子路〕小人同而不ㇾ和。〔漢書、劉向傳〕此皆不和、賢不肖易ㇾ位之所ㇾ致也。●顏色のやはらがないこと。〔史記、趙世家〕太后不和之色少解。

【不王】1092 フワウ　王としての道をつくさぬこと。又其の王。〔史記、周紀〕讓ニ不貢一、告ニ不王一。

【不枉】1093 フワウ　●曲げぬ。くじけぬ。● pu⁴ wang³ 無駄な事ではない。かひがある。

【不枉法】1094 フワウホウ　規則等を枉げ用ひぬこと。

【不枉法贓】1095 フワウホウザウ　古、監臨の官が部下の者より賄賂を受けても、其の爲め法を枉げずに處斷したこと。又其の贓物。

【不惑】1096 フワク　●まどはぬ。〔禮、月令〕田事既飭、先定ニ準直、農乃不ㇾ惑。〔論語、子罕〕知者不ㇾ惑。〔後漢書、楊秉傳〕我有ニ三不惑一、酒・色・財也。●四十歳をいふ。孔子が四十歳にして惑はない境地に立つたことからいふ。〔論語、爲政三〕十而立、四十而不ㇾ惑。〔應璩、答ニ韓文憲一書〕足下之年、甫在ニ不惑一。〔陶潛、飲酒詩〕行行向ニ不惑一、淹留遂無ㇾ成。

【不惑年】1097 フワクノトシ　不惑の●に同じ。〔黃滔、穎川陳先生集序〕方起ニ於鄉薦一、求ニ試貢闈一、已過ニ不惑之年一矣。

【不惑道人】1098 フワクダウジン　小島知足の號。小島成齋(4—7473··1567)を見よ。

【不愛臉】1099 pu² ai⁴ lien³ 面目を重んじない。破廉恥漢。碌でなし。臉は、顏又は面目。

【不案內】1100 アンナイ　勝手が知れぬこと。様子がわからぬこと。其の道に暗いこと。無案內。〔源平盛衰記、三十一、勢多軍事〕思ふに北國不案內の奴原にぞあるらん。

【不由的】1101 pu⁴ yu² tê　●思はず。覺えず。●云云せずに居られぬ。已むを得ず。

【不雲木】1102 フウンボク　藥木の名。〔宣和遺事、後集〕賴ニ監者阿計替寬容見ㇾ勉、以ニ不雲木一煎ㇾ湯饋ㇾ之、云、此中無ニ藥物一、有ㇾ疾者、只煎ニ此木一作ㇾ湯飲ㇾ之、自愈、其不雲木者、初生無ニ枝葉一、暗地中生、城北最甚、天氣晴朗、則掘ㇾ地求ㇾ之、色如ニ枯楊柳一、大小如ㇾ筋、蔓延數十步、屈曲而生。

【不噎鳥】1103 フエツテウ　鳥の名。はと。鳩(12—46648)の異名。鳩は噎せばぬ鳥だといはれるので此の名がある。鳩杖(12—46648··34)を見よ。〔續漢儀注〕民年七十者、授ニ以玉杖一、端以ニ鳩爲ㇾ飾、鳩者不ㇾ噎之鳥、欲ニ老人不ㇾ噎也。「名。

【不遠堂】1104 フヱンダウ　清、惲日初(4—10857··11)の室名。

【不開眼】1105 pu⁴ k'ai¹ yen³ 世間の道理を辨へぬ。世上の常識を解せぬ。

【不開缺】1106 フカイケツ　清代に於て、疾病又は事故があつて休職してゐる中に原職を免ぜられた官吏が、復職する時には、文官は吏部を經て補用せられる。其のことをいふ。開缺(11—41233··10七)の對。〔清國行政法汎論、官吏法、給假〕凡官吏在ㇾ職間、遇ㇾ有ニ疾病及其他事故一、則得下遵ニ其方式一、呈ニ請給假一、而得ニ給假之官吏一、或有下其事故未ニ消滅一間、帶ニ其原官職一、事故已經ニ消滅一時、出ニ仕于原衙門一者上、或有下給假之時、命撤ニ其職一、方欲ニ再就一實缺一時、在ニ文官一、乃經ニ吏部一、或補ニ用原衙門一、或以ニ原官一、補ニ用他衙門一者、稱ニ其前者一曰ニ開缺一、其後者曰ニ不開缺一。

【不碍事】1107 pu⁴ ai⁴ shih⁴ 大事ない。差支へない。邪魔にならぬ。

【不確定】1108 フカクテイ　しかときまらぬ。確定しない。

【不確定期限】1109 フカクテイキゲン　民法上、其の期限の日時の確定しないのをいふ。

【不恰好】1110 フカッカウ　かつかうがよくない。形がみにくい。

【不干涉】1111 フカンセフ　干渉しない。〔通俗編、交際〕不干涉」金史撒離喝傳、撻不野曰、太師梁王以ニ陝西事一屬ニ公、不野固不ニ敢干涉一。

【不看穿】1112 pu⁴ k'an⁴ ch'uan¹ 心に不服である。

【不感症】1113 フカンシヤウ　●男女の性交に於て快感を覺えぬやまひ。●●の意味から轉じて、鈍感の意に用ひられる。

【不含糊】1114 pu⁴ han² hu ●物事の處理に曖昧の點がなく明晰なこと。●技能・能力の十分な。確實な。

【不氣味】1115 フキミ　きみが惡いこと。不快・恐怖などの氣分にいふ。無氣味。

【不記得】1116 pu² chi⁴ tê 覺えぬ。記憶しない。

【不機嫌】1117 フキゲン　機嫌のわるいこと。又、氣分のわるいこと。氣持がさつぱりしないこと。機嫌(6—15561··61)の對。〔狂言、箕かつぎ〕喜ばうはずを其の如くに不機嫌にするは。

【不龜手】1118 フキシュ　手足にひびやあかぎれのきれぬこと。龜手は、手の甲のひびが、龜文の樣にわれてゐること。龜は皹と通ず。〔莊子、逍遙遊〕宋人有下善爲ニ不龜手之藥一者上、世世以ニ洴澼絖一爲ㇾ事、客聞ㇾ之、請ㇾ買ニ其方百金一、聚ㇾ族而謀、曰、我世世爲ニ洴澼絖一、不ㇾ過ニ數金一、今一朝而鬻ニ技百金一、請與ㇾ之、客得ㇾ之、以說ニ吳王一、越有ㇾ難、吳王使ニ之將一、冬、與ニ越人一水戰、大破ニ越人一、裂ㇾ地而封ㇾ之、能不ㇾ龜ニ手一也、或以封、或不ㇾ免ニ於洴澼絖一、則所ニ用ㇾ之異也。〔釋文〕龜、愧悲反、徐、舉倫反、司馬云、文坼如ニ龜文一也、又云、如ニ龜攣縮一也。〔集釋〕李楨曰、龜手、釋文云、徐、擧林反、蓋以ニ龜爲ニ皹之段借一、按、龜皹雙聲。

【不求人】1119 フキウジン　●俗に孫の手といふ。背中などを掻くに用ひるもの。〔通俗編、器用、不求人〕陳定宇集、有ニ不求人贊一云、雖ㇾ不ㇾ求ニ人兮一、未ㇾ免ㇾ求ニ木奴之指一、孰若反ㇾ掌以自掻兮、君子求ニ諸己一云云、按、不求人與ニ如意一同原、而其本名爲ニ爪杖一也。●書名。十八卷。撰者未詳。醫・卜・星・相・博弈・書畫・風月などの事を記す。

【不求堂】1120 フキウダウ　吉田清の號。吉田鷲湖(2—3289··227)を見よ。

【不局面】1121 pu⁴ chü² mien⁴ 規律を守らぬ。だらしがない。

【不均等】1122 フキントウ　均等でないこと。差等があること。平均して居ないこと。偏頗。均等(8—4916··67)の對。

【不灰木】1123 ポクワイボク　石綿。燒いても灰とならぬから名づける。〔遁甲開山圖〕徐無山、出ニ不灰之木一。〔太平寰宇記〕不灰木、燒ㇾ之成ㇾ炭而不ㇾ灰。

【不活潑】1124 フクワツパツ　活潑でないこと。元氣がないこと。活潑(5—17423··99)の對。

【不換金】1125 フクワンキン　琴曲十小調の一。〔冷齋夜話〕世傳、琴曲有ニ十小調一、皆隋賀若弼所ㇾ製、一、不換金、二、不換玉。

【不景氣】1126 人氣が引きたたぬ。商賣が振はぬ。引いて、物事の勢のないことにいふ。〔東牖子、二〕本邦の商賈、あきなひの寂しきを不景氣と云へり。

【不繫舟】1127 つながぬ舟。不繫之舟(1229)に同じ。

【不繫舟漁集】1128 書名。九卷。附錄一卷。元、陳高撰。其の文格は頗る雅潔で、詩は陶潛・杜甫の風を承け、元末詩人中の錚々たるもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【不繫舟漁者】1129 元、陳高(11－41698‥78)の號。

【不曉事】1130 事理に通じない。〔楊脩、答臨淄侯牋、修家子雲、老不レ曉レ事、彊著二一書一悔二其少作一〕「ぬ。

【不曉得】1131 pu⁴ hsiao³ tê 解らぬ。合點がゆかぬ。

【不結果】1132 結果がよくない。不成功。

【不枯岸】1133 珠を生ずる淵は、其の岸の草木が枯れないといふ。他人の文章を譽めて、珠を生ずる淵に喩へていふ。〔海錄碎事、文學、文章〕處二無價之場一、率然占レ玉、立二不枯之岸一、粗爾論レ珠、序二人文章一而云、四六集。〔荀子、勸學〕玉在レ山而草木潤、淵生レ珠而崖不レ枯。

【不忽木】1134 元の人。一名、時用。字は用臣。諡は文貞。剛正を以て名があつた。世祖の崩後、伯顏等と遺詔を受けて後嗣を定めた。〔元史、一百三十〕。

【不跟脚】1135 pu⁴ ken¹ chiao³ 足に合はぬ。

【不跟瑠】1136 pu⁴ keu¹ liu² 埒が明かぬ。

【不賽因】1137 伊兒汗國第九代の王。旭烈兀の後裔。十七歲で卽位し、小亞細亞に於て勢を得たが、其の多くは功臣チユバーンの努力に依つたので、行政軍事の實權は、主として彼にあつた。其の死後、國力衰退す。Abū Sa'īd

【不相應】1138 ふさはしくない。ふつりあひ。過分。〔梅翁隨筆、二〕御役不相應、家中不取締、身持不埒の輩。

【不相干】1139 互に關係しない。關係がない。〔淮南子、原道訓〕聖人使レ人各處二其位一、守二其職一、而不レ得二相干一也。

【不相能】1140 相能からず。不和である。睦じくない。〔左氏、襄、二十一〕欒桓子娶二於范宣子一、生レ懷子一、范鞅以二其亡一也、怨二欒氏一、故與二欒盈一爲二公族大夫一、而不二相能一也。

【不殺兵】1141 人を殺さぬ武器。威德によつて他を服すること。〔文中子、魏相〕君子有二不言之辯一、不殺之兵一。

【不仔細】1142 pu⁴ tzŭ³ hsi⁴ 不注意な。

【不仕合】1143 不幸。不運。〔狂言記、三〕人片輪に定めて此のうちの不仕合故、來たであらう。

【不刺頭】1144 爪哇國で短刀を腰に佩びるをいふ。〔事物異名錄、武器、刀〕瀛涯勝覽、爪哇國、腰佩二短刀一曰二不剌頭一。

【不始末】1145 きまりを附けぬ。しめくくりが無い。亂雜。不都合。

【不思議】1146 いぶかしい。思ひはかられぬ。不可思議。〔維摩經、上〕諸如來諸菩薩、有二八不思議門一。

【不脂戶】1147 無口なこと。油をささぬ戶は閉閉が容易でないことからいふ。〔淮南子、說山訓〕人有二多言者一、猶二百舌之聲一、人有二少言者一、猶二不脂之戶一也。

【不自由】1148 ❶自由でないこと。自由にならぬこと。思ふままにならぬこと。❷便利がわるいこと。自由(9－30095‥15)の對。

【不秀氣】1149 pu² hsiu⁴ ch'i⁴ 立派でない。すぐれてゐない。子供らしい。

【不秋草】1150 竹(8－25841)の異名。秋枯れを知らぬ草の義。〔馬天來、詠レ竹詩〕人天解種不秋草。「におへぬ。

【不受辦】1151 pu² shou⁴ pan⁴ やりにくい。始末

【不所存】1152 考へなし。不心得。〔春花五大力〕不所存な拙者を御見捨もなく。

【不舒坦】1153 pu⁴ shu¹ t'an³ 加減が惡い。愉快でない。

【不舒服】1154 pu⁴ shu¹ fu 氣持が惡い。身體の工合が惡い。又、きづまりな。

【不鯽澠】1155 おろかな人。鯽澠は、就の延音。不就は、出來上がらぬ意。不卽令。〔俗呼小錄〕說二人之不慧一、曰二不鯽澠一。〔宋祁筆記〕孫炎作二反切語一、本出二於俚俗常言一、故謂レ就爲二鯽澠一、凡人不慧者、卽曰二不鯽澠一、唐盧仝詩云、不鯽澠鈍漢。

【不深切】1156 丁寧でない。よく世話をしない。不親切。深切(7－17687‥235)の對。

【不親切】1157 人情が薄い。ねんごろでない。丁寧でない。同情心がない。不深切。

【不睡龍】1158 五代、吳越の錢鏐が用ひた圓木の枕。熟睡すると轉覆するので、睡らせぬ爲の枕と云つたもの。警枕。〔吳越備志〕武肅王錢鏐在二軍中一、未二嘗安寢一、用二圓木一作レ枕、睡熟則敧、由レ是得レ寤、名曰二警枕一、又號二浙中不睡龍一。

【不誠意】1159 誠意がない。まごころがないこと。誠意(10－35537‥5)の對。

【不脆聲】1160 pu² ts'uei⁴ shêng¹ 話がてきぱきしない。齒切れの良くない話。

【不藉木】1161 戰船に用ひる武器。長さ二尺ばかりで、兩端の尖つたもの。捷老鴉。〔老學庵筆記、一〕捷木老鴉、一名二不藉木一、取二堅重木一爲レ之、長纔二尺許一、銳二其兩端一、戰船用レ之、尤爲二便捷一。

【不殺生】1162 僧戒律の一。生物を殺さぬこと。〔智度論、十三〕一、不殺生、二、不盜、三、不婬、四、不妄語、五、不飮酒。

【不全身】1163 完全でない身體。〔新書、諭誠〕一夕二易レ臥、見二不全身一。

【不走落】1164 宋代の髷の一種。〔宋史、五行志三〕宋理宗朝宮妃、云云、梳二高髻於頂一、曰二不走落一。

【不湊巧】1165 pu² ts'ou⁴ ch'iao³ 折惡しく。間が惡い。機を得ない。

【不湊趣】1166 pu² ts'ou⁴ ch'ü⁴ 面白くない。

【不乃羹】1167 羊・鹿・雞・豬などの肉と骨とを一緒にして煮た羹。交趾地方の語。〔嶺表錄異〕交趾之人重二不乃羹一、以二羊・鹿・雞・豬肉一和レ骨、同二釜爨一之、令レ極二肥濃一、漉去肉、進二葱薑一調以二五味一、貯以二盆器一、置二之盤中一、羹中有二銀杓一可レ受二一升一、主人先擧、斟二一杓一、內レ鼻入鼻、仰首徐傾レ之、飮盡傳レ杓、如レ酒巡二行之一、喫レ羹了、然後續以二諸饌一、謂二之不乃會一。

【不乃會】1168 交趾地方で、不乃羹を食べる宴會をいふ。不乃羹を見よ。

【不倒翁】1169 起きあがり小法師。玩具の一種。〔陔餘叢考、不倒翁〕兒童嬉戲有二不倒翁一。

【不導體】1170 熱や電氣を傳へぬ物體。

【不但空】1171 佛天台化儀の四教中、別・圓二教の空觀。菩薩は一切法の空を見るのみでなく、不空をも見るからいふ。

【不鍛鍊】1172 ふなれな事。〔慶長見聞集〕。

【不長進】1173 ❶進歩のないこと。轉じて、後進を訓戒する語。〔宋書、前廢帝紀〕子業啓二參承起居一、書迹不レ謹、上詰讓之、子業啓レ事陳謝、上又答曰、書不二長進一、此一條耳、聞、汝素都懈怠、狷戾日甚、何以頃固乃爾邪。〔世說新語、文學〕支道林、初從レ東出、住二東安寺中一、王長史宿二構精理一、幷撰二其才藻一、往與レ支語、不レ大當對一、王敍致作二數百語一、自謂、是名理奇藻、支徐徐謂曰、身與レ君別多年、君義言了不二長進一、王大慚而退。❷pu⁴ chang³ chin⁴ 子供らしい。大人らしくないこと。

【不杖期】1174 喪服の一。期、卽ち一年間の喪に杖期・不杖期の二種があり、不杖期は、步行を扶ける杖を持たぬこと。祖父母の爲、或は世父母・叔父母のため等にする。杖期(6－14469‥13)の對。〔儀禮、喪服〕夫之適子、爲レ妻、傳曰、何以期也、父之所二不降一、子亦不二敢降一也、何以不レ杖也、父在則爲二妻不一レ杖。〔文公家禮〕服有四制、云云、二曰、加服、謂二本輕而加レ之爲レ重、如二嫡孫爲一レ祖不杖期、承レ重則斬衰三年之類一、三曰、降服、謂二本重而降レ之爲レ輕、如二爲一レ妻杖期、姑在則不レ杖之類。

【不重樣】1175 pu⁴ ch'ung² yang⁴ 同樣でない。

【不沈船】1176 潛水艇の攻擊を避ける爲に特別の設備をした船。樓船式汽船。

【不都合】1177 ❶勝手が惡い。つがふがわるい。❷ふとどき。ふらち。

【不停當】1178 pu⁴ t'ing² tang 事が落着かぬ。事が都合よく運ばぬ。

【不徹底】1179 物事を根本から解決することの出來ないこと。やり方の中途半端なこと。やり方のなまぬるいこと。不澈底。

【不徹頭】1180 fu¹ ch'e² t'ou² 木の短い柄のある、竹骨の扇。〔老學庵筆記、三〕竹骨扇、以レ木爲レ柄舊矣、忽變爲二短柄一、止插至二扇半一、名二不徹頭一、服妖也。

【不輟齋】1181 fu¹ cho² chai¹ 伊藤宗恕の號。伊藤坦庵(1－4 32‥216)を見よ。

【不屠何】1182 fu¹ t'u² ho² 國の名。不屠河。〔逸周書、王會解〕不屠何青能。

【不屠河】1183 fu¹ t'u² ho² 不屠何に同じ。〔墨子、非攻中〕雖二北者且不著何一〔閒詁〕不著何、卽不屠河也。

【不凍港】1184 fu¹ tung⁴ kang³ 冬期にも海水の凍らぬ港。〔清史稿、兵志〕海軍、秦皇島東控二山海關一爲二不凍之港一。

【不兜攬】1185 pu⁴ tou¹ lan³ 相手にならぬ。取合はぬ。手を掛けない。

【不透明】1186 pu⁴ t'ou⁴ ming² ●すきとほらない。物體に光の通らぬこと。●市場用語。相場の見透しがつかぬこと。

【不透明體】1187 pu⁴ t'ou⁴ ming² t'i³ 物理學用語。金・石・土・木等の如く、光を透過させない物體をいふ。

【不奈何】1188 pu⁴ nai⁴ ho² 鳥の名。かささぎ。鵲(12－47 014)の異名。〔清異錄、禽、唾十二〕僞漢蒙州刺史龍驤武人、極諱二己名一、又父名碓、子名邛、亦諱レ之、郡人呼レ臬曰二唾十三一鵲曰二不奈何一。

【不人氣】1189 pu⁴ jen² ch'i⁴ 人氣がない。不評判。

【不人情】1190 pu⁴ jen² ch'ing² 情のないこと。不深切。

【不妊症】1191 pu⁴ jen² cheng⁴ 妊娠しない婦人病。不妊症。

【不粘法】1192 pu⁴ nien² fa³ 律詩の第一句の第二字が平であれば、第二句の第二字は必ず仄、次に第三句の第二字も仄で、第四句の第二字を平で承けることを粘といひ、之に反するものを不粘といふ。拗體で、變格に屬す。〔詩法詳論、律詩、拗詩體〕朱飮山曰、拗體者、詩之變聲、謂二當平反仄、當仄反平、與レ律相拗而不レ順也、亦皆有二一定平仄一云云、故唐人凡拗律詩、無二純拗者一、其中必有二諧句一、如二上四拗下四諧、上六拗下二諧一、或中間拗前後諧一、上下句亦須二帶粘一、若不レ粘不レ諧、則古詩矣。

【不把牢】1193 pu⁴ pa³ lao² 厄弱の。弱々しい。

【不品行】1194 pu⁴ p'in³ hsing² 行がわるい。身持がわるい。

【不風流】1195 pu⁴ feng¹ liu² 風流でないこと。みやびやかでないこと。又、風流心のないこと。趣味を解せぬこと。〔曠集、沈樞謫二筠州一、携二一鬟一去、數年歸嫁、皆處子、潘方壽以レ詩寄曰、鐵石心腸延壽藥、不二風流一處卻風流。

【不伏老】1196 pu⁴ fu² lao³ ●戲曲の名。元、楊梓撰。徐勣が尉遲敬德に請うて山を出で、後に尉遲敬德が詐り瘋した事蹟を記したもの。今の集成曲譜には、北詐の一折のみ錄してある。●戲曲の名。明、馮惟敏作。梁顒といふ者が、十數回も會試に應じて及第せず、八十二歲に至つて初めて狀元に中つたことを演ずる。盛明雜劇二集の一。

【不復去】1197 pu² fu⁴ ch'ü⁴ 返事せぬ。

【不甫能】1198 pu⁴ fu³ neng² ●始めから云云することが出來ない。未だ曾て云云するを得ず。甫は、はじめ。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕不二甫能離一了心上一又早眉頭、忘了時依然還又、〔五劇箋疑〕不甫能、猶言二未レ曾得一也。●始めて能く云云する。不は、無意味の助辭。〔元曲、賺蒯通〕不甫能平二定了劉家天下一、纔得做二大漢司馬一。

【不本意】1199 pu⁴ pen³ i⁴ 內心では欲せぬこと。心ならぬこと。

【不妄語】1200 pu⁴ wang⁴ yü³ 佛虛妄不實の言をなさぬ戒。十戒の第四戒。五戒の第四戒。八戒齋の一。〔十善戒經〕八戒齋者、是過去現在諸佛如來、爲二在家人一制二出家法一、一者不殺、二者不盜、三者不婬、四者不妄語、五者不飮酒、六者不レ坐二高廣大牀一、七者不レ作二倡伎樂一、故往觀聽一、不レ著二香薰衣一、八者不二過レ中食一。

【不名數】1201 pu⁴ ming² shu⁴ 數學用語。數に單位の名を添へないものをいふ。例へば5・3の類。名數(2－3297‥194)の對。

【不面目】1202 pu⁴ mien⁴ mu⁴ 面目をけがす。面目が立たぬ。

【不與取】1203 pu⁴ yü³ ch'ü³ 佛他人の與へぬものを取る。卽ち偸盜。五戒中の第二戒。〔智度論、十三〕不與取者、知二他物一生二盜心一、取レ物去、離二本處一物屬レ我、是名レ盜。

【不闌帶】1204 pu⁴ lan² tai⁴ 溪蠻の女が髮を束ねる帶樣のもの。〔溪蠻叢笑〕不闌帶、蠻女以二織帶一束レ髮、狀如二經帶一、不闌者、斑也。

【不履行】1205 pu⁴ lü³ hsing² 民法上、期限が到來しても債務を履行しないことをいふ。又、一般に約束などを實行せぬこと。

【不列等】1206 pu² lieh⁴ têng³ 等しくない。一樣でない。又、一緒にならぬ。

【不弄鬼】1207 pu⁴ nung⁴ kuei³ 碌でもない事をするな。又、惡いことはしない。

【不依不饒】1208 pu⁴ i¹ pu⁴ jao² 承知せぬ。聞入れぬこと。

【不由分說】1209 pu⁴ yu² fen¹ shuo¹ 有無をいはせぬ。理窟なしに。

【不因人熟】1210 pu⁴ yin¹ jen² jê⁴ 獨立心に富み、依賴心のない人。

【不姻之刑】1211 pu⁴ yin¹ chih¹ 異姓の親族と親しまぬ者を罰する刑。姻は婣。婣(3－6250)の字解を見よ。〔周禮、地官、大司徒〕三曰、不姻之刑。

【不淫之度】1212 pu⁴ yin² chih⁴ 自然の適度に安んじて、過度にならない。淫は、物事の度の過ぎること。〔莊子、達生〕處二乎不淫之度一、而藏二乎無端之紀一。

【不壞金剛】1213 pu⁴ huai⁴ chin¹ kang¹ 佛諸佛の常住してゐることは金剛寶のやうに堅固で破壞出來ないといふ意。〔二教論、下〕謂二不壞金剛一者、總歎二諸尊常住身一。

【不圓脣音】1214 pu⁴ yüan² shun² yin¹ 口を圓形にしないで發する母音。不圓脣元音(1282)に同じ。

【不開港場】1215 pu⁴ k'ai¹ kang³ ch'ang³ 外國と通商貿易を許さぬ港。〔船舶法、第三條〕。

【不硬不軟】1216 pu² ying⁴ pu⁴ p'i² 硬からず軟からぬ。しなしなする。

【不乾性油】1217 pu⁴ kan¹ hsing⁴ yu² 空氣中に置いても乾燥して固まらない油。椿油など。

【不毀之制】1218 pu⁴ hui³ chih¹ chih⁴ こはれない制度。變化せぬ制度。〔魏志、文昭甄皇后紀〕未レ著二不毀之制一、懼論レ功報レ德之義、萬世或闕焉。

【不吃勁兒】1219 pu⁴ ch'ih¹ chin⁴ êrh 力が無い。しつかりして居ない。老人・病人などの形容。

【不逆之君】1220 pu⁴ ni⁴ chih¹ chün¹ 道にさからはぬ君。〔晏子、問下〕君子懷二不逆之君一。

【不俱戴天】1221 pu⁴ chü¹ tai⁴ t'ien¹ 俱に天を戴かず。復讐せねば已まぬ恨、父の讐をいふ。不同戴天。禮記曲禮上の、「父之讐、弗二與共戴一レ天、兄弟之讐不レ反レ兵、交遊之讐不レ同レ國」の語に出づ。

【不換紙幣】1222 pu⁴ huan⁴ chih³ pi⁴ 不兌換紙幣。本位貨幣と交換し得ない紙幣。法律上の力に依つて發行し、政府の信用と強制とによつて流通する紙幣。

【不關緊要】1223 pu⁴ kuan¹ chin³ yao⁴ 重要ならざる。大切でない。

【不關之途】1224 pu⁴ kuan¹ chih¹ t'u² 行きづまりのない道。關は門をとざすこと。〔淮南子、精神訓〕夫至人倚二不拔之柱一、行二不關之途一。

【不關痛養】1225 pu⁴ kuan¹ t'ung⁴ yang³ お互に何等關係がない。痛痒を感じない。

【不葷不素】1226 pu⁴ hun¹ pu⁴ su⁴ 腥でもなく、精進でもない。どつち付かず。葷は、葱・韮などで、臭味のあるもの。なまぐさもの。素は、淡白な精進もの。

【不傾之地】1227 pu⁴ ch'ing¹ chih¹ 危險でない土地。〔管子、度地〕聖人之處二國者一、必於二不傾之地一。

【不輕居士】1228 pu⁴ ch'ing¹ chü¹ shih⁴ 松平定常の號。松平冠山(6－1456‥388)を見よ。

【不繫之舟】1229 pu⁴ hsi⁴ chih¹ chou¹ つながぬ舟。●虛心平氣無念無想の心の喩。〔莊子、列禦寇〕汎若二不繫之舟一、虛而遨遊者也。●飄泊して定めない喩。〔賈誼、鵩鳥賦〕泛乎若二不繫之舟一。

【不瞽不聾】1230 pu⁴ ku³ pu⁴ lung² 時には盲となり、つんぼとならねば、立派な君とはなれぬ。轉じて、舅姑が嫁の行動に對して大目に見て行くこと。不癡不聾(1261)に同じ。〔愼子、君人〕不レ聽不レ明、不レ能レ王、不レ瞽不レ聾、不レ能レ公、海與レ山爭レ水、海必得レ之。

【不際之際】1231 pu⁴ chi⁴ chih¹ chi⁴ はてしない際。〔莊子、知北遊〕不際之際、際之不際者也。

【不察煩他】1232 pu⁴ ch'a² fan² t'a¹ 人に迷惑をかけて何とも思はぬ。

【不三不四】1233 pu⁴ san¹ pu⁴ ssu⁴ ●斯うでもなく、ああでもない。辻褄が合はない。碌でもない。得體の知れぬ。●程良い。

【不衫不履】1234 pu⁴ shan¹ pu⁴ lü³ 服裝などに頓著しないこと。〔張說、虯髯客傳〕不レ衫不レ履、裼裘而來。●pu⁴ shan¹ pu⁴ li³ 放浪すること。

【不自暇齋】1235 フジカ サイ 清、馮登府(12－44579・27 5)の號。

【不自慊齋】1236 フジケン サイ 清、徐廣陛(4－10110・360)の號。

【不脩春秋】1237 フシュウ シュンジュウ 魯國の史記をいふ。孔子が未だ筆削しない以前の春秋を指す。春秋(5－13844・335)を見よ。〔公羊、莊、七〕不脩春秋曰、雨レ星、不レ及レ地尺而復。

【不櫛進士】1238 フシツ シンシ 女子で文學に通達してゐる者を稱譽する語。文學に於ては進士の資格があるが、惜しいことには女のたしなみを忽せにして髮を櫛けづらぬ義。〔南楚新聞〕關圖一妹甚聰慧、文學書札皆妙、圖常語レ人曰、某家有二一進士一、惜不レ櫛耳。〔劉納言、諧噱錄〕關圖有レ妹、能文、每語レ人曰、有二一進士一、所レ恨不レ櫛耳。

【不射之射】1239 フシャノ シャ 射ないで中てること。〔莊子、田子方〕是射之射、非二不射之射一也。

【不遮山閣】1240 フシャサンカク 清、沈朝初(6－17189・61 1)の室名。

【不遮山樓】1241 フシャサンロウ 清、王約(7－20823・1021)の室名。

【不惜身命】1242 フシャクシンミョウ 佛己の身命を惜しまないで、佛道の爲に力を盡す。〔法華經、譬喩品〕若人精進、常修二慈念一、不レ惜二身命一、乃可二爲說一。

【不受抬擧】1243 pu⁴ shou⁴ t'ai² chü³ 人の好意を無にする。折角の好意を受けない。

【不受不施】1244 フジュフセ 佛日蓮宗の一派。不受不施派の略。文祿四年に、備前國、妙覺寺の僧日奧が唱へ、妙覺寺を總本山とす。〔釋門事物紀源、一上〕日蓮宗、不受不施派。

【不終之藥】1245 フシュウノヤク 死なない藥。不死之藥。終は、命のたえること。〔漢書、郊祀志下〕言下有二僊人一、服中食不終之藥上。

【不筍久竹】1246 フジュンキュウチク 筍を生じない老竹。〔列子、天瑞〕羊奚比乎不筍久竹一。

【不承不承】1247 フショウフショウ 不承知ながら。いやいやながら。〔大藏流狂言記、止動方角〕後からうせいと云ふに、あの不承不承な面は。

【不勝之國】1248 フショウノクニ 勝たない國。負けてばかりをる國。〔左氏、成、二〕將レ奔レ齊、齊師新敗、曰、吾不レ處二不勝之國一、遂奔レ晉、而因二郤至一。

【不勝之任】1249 フショウノニン たへ得ないほどの重任。〔淮南子、人間訓〕得下無二損墮之勢一、而無中不勝之任上矣。

【不深之度】1250 フシンド 深くない程度。自然の適度。〔列子、黃帝〕處乎不深之度、而藏乎無端之紀。

【不腥不臭】1251 pu⁴ hsing¹ pu² ch'ou⁴ 事の運びがてきぱきせぬ。

【不召之臣】1252 フショウノ シン 敬意を拂つて迎ふべき賢臣。招きよせることの出來かねる賢人。不賓之士。〔孟子、公孫丑下〕故將二大有レ爲之君一、必有二所レ不レ召之臣一。〔後漢書、楊秉傳〕夫明主之世、必有二不レ召之臣一。

【不占殉車】1253 フセンホンシャ 蒙求の標題。齊の崔杼が莊公を弑した時、陳不占といふ者が、君の難を聞いて赴かんとし、戰鬪の聲を聞いて駭き死んだので、時人が、不占を仁者の勇と嘲つた故事。〔蒙求、下、不占殉車〕新序曰、齊崔杼弑二莊公一、有二陳不占者一、聞二君難一將レ赴レ之、比レ去餐則失レ匕、上車失レ式、御者曰、怯如レ是、去有レ益乎、曰、死レ君義也、無勇私也、不二以私害一レ公、遂往、聞二戰鬪之聲一、恐駭而死、人曰、不占可レ謂二仁者之勇一也。

【不占之書】1254 フセンノ 讖緯の書。確かなしるしのない書物。占は占驗、しるし。〔後漢書、張衡傳〕律歷卦候九宮風角、數有二徵效一、世莫二肯學一、而競稱二不占之書一。〔注〕謂二競稱一讖家一也。

【不戰條約】1255 フセンジョウヤク 國際間の戰爭をなくすることを目的とする條約。米國の提案により、一九二八年調印せられた。

【不增不減】1256 フゾウフゲン 佛❶一切のことがらは、其のままが眞如であつて、そこを越えていかなる眞理もあり得ないから、はからひの心もなく、而も又否定すべき何ものもないといふ意。〔般若心經〕諸法空相、不生不滅、不垢不淨、不增不減。❷衆生は念々に成佛するが、生佛二界共に增減のないことをいふ。〔不增不減經〕。

【不貸之圃】1257 フタイノホ 人に貸さぬはたけ。眞を守つて自ら藏する喩。〔莊子、天運〕食二荀簡之田一、立二於不貸之圃一。

【不代替物】1258 フダイタイ 法律用語。代替物に對して、取引上、其の個性に重きを置き、同種・同量・同質の他のものを以て替へることを得ないものをいふ。

【不蒼失里】1259 シブダ 元、文宗の皇后。弘吉剌部の出。父は駙馬琱阿不剌。母は順宗答剌麻八剌の女、魯國大長公主、祥哥剌吉。天歷元年、册立されて皇后となる。順帝の時、太皇太后であつたが、後、東安州に流されて死を賜はる〔元史、一百十四〕・〔新元史、一百四〕。

【不担沈重】1260 pu⁴ tan¹ ch'en² chung⁴ 責任を重んじない。無責任な。

【不癡不聾】1261 フチフロウ 時には癡となり、聾となつて、子女の罪を見逃がしてやらねば、立派な舅姑にはなれぬといふこと。不瞽不聾。〔宋書、庾仲文傳〕仲文嘗言、不癡不聾、不レ爲二姑公一。〔資治通鑑、唐紀〕〔代宗、大曆二年〕郭曖嘗與二昇平公主一爭言、曖曰、汝倚二乃父爲二天子一邪、我父薄二天子一不レ爲、公主恚、奔レ車奏レ之、上曰、此非二汝所レ知、彼誠如レ是、使二彼欲レ爲二天子一、天下豈汝家所レ有邪、慰諭令レ歸、子儀聞レ之、囚二曖入待レ罪、上曰、鄙言有レ之、不癡不聾、不レ作二家翁一、兒女子閨房之言、何足レ聽也。

【不持勁兒】1262 pu⁴ ch'ih² chin⁴ êrh 力が入らない。力が出ない。恃みにならぬ。

【不長不短】1263 pu⁴ ch'ang² pu⁴ tuan³ どちらにしても。どつちつかず。

【不渡手形】1264 フトテガタ ❶支拂準備のない手形。支拂を拒絶された手形。略して、不渡ともいふ。❷轉じて、實現を見ない言說、又は約束など。

【不敗之地】1265 フハイチ 決して敗れることのない要害の地。〔孫子、軍形〕善戰者、立二於不敗之地一、而不レ失二敵之敗一也。

【不芒道人】1266 フバウドウジン 元、方從義(5－13620・546)の號。

【不白之誣】1267 フハクノシ 無實のいひがかり。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕幾蒙二不白之誣一乎。

【不賓之士】1268 フヒンノシ 必ずしも國王の命令通りにのみは從はぬ人物。賓は服。爭臣(7－19663・47)又は不召之臣(1252)と同義。〔後漢書、周黨傳〕天子以示二公卿一、詔曰、自レ古明王聖主、必有二不賓之士一。

【不聞之事】1269 フブンノ 耳で聞かず、心で聞くこと。〔呂覽、精諭〕勝書能以二不言一說、而周公旦能以不言一聽、此之謂二不言之聽一、不言之謀、不聞之事、殷雖レ惡、周不レ能レ疵矣。

【不聞之聞】1270 フブンノ 聞こえない事を聞くこと。耳で聞かないで、心で聞くこと。〔莊子、人間世〕無二聽レ之以レ耳、而聽レ之以レ心。〔呂覽、大樂〕道也者、視レ之不レ見、聽レ之不レ聞、不レ可レ爲レ狀、有下知二不見之見、不聞之聞、無狀之狀一者上則幾二於知一之矣。

【不牧之地】1271 フボクチ 牛馬などを養ふことの出來ない荒れた土地。〔鹽鐵論、論功〕不牧之地、不羈之民。

【不牧之民】1272 フボクノ 支配せられぬ民。〔漢書、韓安國傳〕不牧之民、不レ足レ煩二中國一也。

【不藥早占】1273 pu² yao⁴ tsao³ chan⁴ 病氣見舞の書翰文などに慣用する語。日ならずして御全快あることは請合ひといふ意。勿藥早占(2－2501・29)に同じ。

【不翼而飛】1274 フヨクジヒ ❶神通の力を得て居ること。〔莊子、人間世〕聞二以有一翼飛者一矣、未レ聞二以無一レ翼飛者一也。❷pu² i⁴ êrh² fei¹ いつの間にかなくなる。

【不郎不秀】1275 フロウフシュウ 明代の俗語で、人を輕んじ卑しめる言葉。郎は郎官、秀は秀才で、高からず低からずの意。一說に、郎は卑賤の人、秀は名族の人。〔通俗編、品目、不郎不秀〕留青日札、元時、稱レ人以二郎官秀一爲二等第一、不郎不秀、是言二其不レ高不レ下也一、按、日札著有二二說一、其一說謂、卽詩不レ稂不レ莠之說、牽強不レ足レ取。〔瞥曝雜記〕公餘日錄云、明初、民間稱呼有二二等一、一曰秀、謂二故家右族類出之輩一、一曰郎、則微裔末流羣小之輩、稱レ秀則曰二某幾秀一、稱レ郎則曰二某幾郎一。

【不拉干薩】1276 プラガンザ ポルトガルの王朝の名。西曆一六四〇年ジョン四世の卽位から、一九一〇年エマニュエル二世の退位まで繼續した。Bragança 又は Braganza の音譯。

【不里阿耳】1277 プリガル ヴォルガ河の東岸カマ河に臨

む豐饒な地域を占めてゐた國の名。首都はヴオルガ河畔にあり、この國と同名で、中世商業の一中心地であつた。後に速不台や拔都の爲、國は滅んだが、首都のみは商業交通上の要市として殘つた。それもやがてテイムルに破壞され、之に代つてカザン市が隆昌するに至つた。

【不列顚洋】1278 pu^2 lieh^4 tien^1 yang^2 西曆一八九四年發行の英貨。重量〇・八六六六オンス、成質十分の九、純銀〇・七八オンス。

【不連續線】1279 フレンゾクセン 温帶地方からの暖風と、寒帶地方からの冷風とが接觸して、氣壓・溫度・風等の氣象要素が段階的に急變する地域を劃する線。天候が急に變る原因となるもの。

【不連續量】1280 フレンゾクリヤウ 數學用語。一單位より少い量では、增すことも減らすことも出來ない數量をいふ。例へば人數など。

【坐ニ不闚堂一】1281 フキダウニザス 窺はざるの堂に坐す意で、妄に物を見ないことの喩。〔資治通鑑、漢紀〕獻帝、初平元年、張孟卓東平長者、坐ニ不闚堂一。〔注〕賢曰、坐ニ不闚堂一、言レ不ニ妄視一也。

【不圓脣元音】1282 フエンシンゲンオン 口を自然に開き、脣を圓形にしないで發音する母音。注音符號のㄝㄜㄚの四韻符。不圓脣音。不圓脣韻。自然脣音。

【不加列斯多】1283 ブカレスト ルーマニヤの首府。Bucharest 又は Bukharest の音譯。

【不礙雲山樓】1284 フガイウンザンロウ 淸、周綸(2－3441··517)の室名。

【不兌換紙幣】1285 フダクワンシヘイ 不換紙幣(1222)に同じ。

【不飽化合物】1286 フハウクワガフブツ 化學用語。炭素原子が二重又は三重結合をなし、且つ添加物を作るものをいふ。不飽和炭水化物。

【不蘭他日奈】1287 プランタジネット 英國の王朝の名。西曆一一五四年ヘンリ二世の卽位から、一四八五年リチヤード三世の死に至るまで十四代繼續した。Plantagenet

【不列顚帝國】1288 ブリテンテイコク 英帝國の別名。British Empire

【与】20 ヨ 〔集韻〕演女切 語

小篆 **あたえる**。與(**9－30212**)に通ず。〔說文〕与、賜予也、一勺爲レ与、此與レ予同意。〔廣韻〕与、同レ與。

解字 會意。一と勺の合字。段玉裁によれば、一は推し予へる意、勺は杓子、卽ち杓子の物を推し與へる意で、以て賜予の義を表はす。一說に、一勺は勺(說文、挹取也)を一にする、卽ち酌み取ることを均一にする、均等に分予する意から、あたへるの義を表はすといふ。〔說文、与、段注〕下从レ勺、一者、推而予レ之、云云、以レ一推レ勺、猶ニ以レ丨推レ㐅也、故曰ニ同意一。〔繫傳〕鍇曰、不レ患レ少而患レ不レ均、故從ニ一勺一。〔說文通訓定聲〕与、賜予也、一勺爲レ与、會意。

參考 与の本義は「あたへる」、與の本義は「くみする」で、與をあたへると用ひるのは与の假借。今は与を與の俗字として用ひてゐるが、實は与が本字。〔說文、与、段注〕與、攩與也、从レ舁、義取ニ共舉一、不レ同レ与也、今俗以レ與代レ与、與行而与廢矣。

【丏】21 ベン メン 〔集韻〕彌殄切 ㄇㄧㄢˇ mien^3 銑

小篆 ❶**みえぬ**。蔽ふ。壅ぐ。〔說文〕丏、不レ見也、象ニ雝蔽之形一。〔繫傳〕左右壅蔽、面不レ分也。❷**矢をさける低い土塀**。〔字彙〕丏、避レ箭短牆也。

解字 象形。正がふさぎ蔽はれた形に象る。丏(正)の右旁の鉤畫を彎曲して下方に曳いた形。卽ち正を蔽つて見えざらしめる意。一說に、指事、丏(乏の篆字、射に獲を告げる者が身を蔽ふ具、やふせぎ)の畫をまげて、おほはれ見えざる義を示すといふ。又一說に、古文兦に造り、匚と人の合字で、匚は面前を蔽ふ布の形に象るといふ。〔說文通訓定聲〕丏、不レ見也、象ニ擁蔽之形一、或曰、从レ乏而勾ニ其畫一、指事、乏、告獲者所ニ以蔽レ身也。

參考 丏(**1－22**)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、丏、音勉、避レ箭短牆。丐、音蓋、乞也。

【丐】22 ㊀カイ 〔集韻〕居太切 ㄍㄞˋ kai^4 泰 ㊁カツ カチ 〔字彙〕居曷切 曷

㊀㊁❶**こふ。求め願ふ**。匃(**2－2504**)の俗字。〔正字通〕丐、俗匃字。〔一切經音義、三〕求願曰レ丐。〔史記、外戚世家、竇太后〕丐レ沐沐レ我。〔注〕索隱曰、丐者、乞也。〔唐書、李宗閔傳〕納ニ于丐一取レ士。〔宋史、高登傳〕士民丐レ留、不レ獲。❷**とる**。〔集韻〕丐、取也。❸**あたへる**。〔廣雅、釋詁三〕丐、予也。〔唐書、盧龍傳〕飢寒無レ所ニ貸丐一。〔唐書、杜甫傳〕殘膏賸馥、沾ニ丐後人一。❹**こじき**。ものもらひ。〔柳宗元、寄ニ許京兆孟容一書〕皁隷庸丐、皆得レ上ニ父母邱墓一。❺**姓**。〔路史〕東樓公之後、有ニ丐氏一。

參考 丐(**1－21**)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、丏、音勉、避レ箭短牆。丐、音蓋、乞也。

【丐嫗】1 kai^4 yü^4 乞食婆。

【丐頡】2 カイケツ 奪ひ取り求める。掠め求める。〔唐書、段秀實傳〕白晝羣行、丐ニ頡於市一、有レ不レ嗛、輒擊ニ傷市人一。

【丐戶】3 カイコ 江蘇省浙江地方の賤民の一種。元人は怯憐戶といひ、明に至つて、太祖は戶籍を定め、其の門に扁して丐といふ。主として雜役に任じ、良民と婚姻すること、及び官吏となることを禁じた。相傳へて、宋の罪俘の子孫といふ。又、墮民ともいふ。〔祝允明、猥談〕奉化有ニ所謂丐戶一。〔淸會典事例、戶部、戶口、改正戶籍〕江南蘇州府屬之常熟・昭文二縣丐戶、與ニ浙江惰民一無レ異。

【丐子】4 kai^4 tzŭ こじき。丐兒。

【丐兒】5 カイジ こじき。乞兒(**1－170··35**)を見よ。〔日本外史、足利氏後記、後北條氏〕早雲、伊勢丐兒也。

【丐者】6 カイシヤ こじき。〔資治通鑑、唐紀〕玄宗、開元二十二年、十二月、禁ニ京城丐者一。〔元結、丐論〕學ニ丐者之言辭、與ニ丐者之相逢一。

【丐取】7 カイシュ 乞ひもらふ。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕羣行丐ニ取於市一。

【丐人】8 カイジン 乞食。物貰ひ。〔桂苑叢談〕僖宗末、廣陵有ニ窮丐人杜可均者一。

【丐籍】9 カイセキ 乞食の戶籍。〔淸會典事例、戶部、改正戶籍〕嗣後削ニ除丐籍一。

【丐剝】10 カイハク 乞食をいふ。〔稱謂錄、丐、丐剝〕鷄林類事、方言、丐曰ニ丐剝一。

【丐婦】11 カイフ 乞食の妻。〔明史、列女一、石門丐婦傳〕石門丐婦、湖州人、莫レ詳ニ其姓氏一。

【丐命】12 カイメイ 命の助かることをねがふ。助命をもとめる。乞命(**1－170··72**)を見よ。〔宋史、岳飛傳〕賊呼丐レ命、飛令レ勿レ殺、受ニ其降一。

【丐沐】13 カイモク 米の白水を乞ふこと。沐は米をといだしろみづのことで、髮を洗ふに用ひる。〔史記、外戚世家〕丐レ沐沐レ我、請レ食飯レ我、乃去。〔注〕索隱曰、丐者、乞也、沐、米潘也、謂ニ乞レ潘爲レ弟沐一也。

【丐養】14 カイヤウ 養子。義兒。〔五代史、義兒傳序〕開平顯德五十年間、天下五代而實八姓、其三出ニ於丐養一。

【丐留】15 カイリウ とどまらんことを乞ふ。〔宋史、高登傳〕士民丐レ留、不レ獲。

【丐論】16 カイロン 唐の元結の作つた文。〔元結、丐論〕於戲丐者、言語如レ斯、可下編爲ニ丐論一、以補中時規上。

【丑】23 チウ チユ 〔集韻〕敕九切 ㄔㄡˇ ch'ou^3 有

小篆 ❶**うし**。十二支の第二位。㋑方位では北東。〔淮南子、時則訓〕招搖指レ丑。〔禮、月令、季冬之月、日在ニ婺女一、注〕季冬者、日月會ニ於玄枵一、斗建レ丑之辰也。㋺うしの年。〔爾雅、釋天〕太歲在レ丑、曰ニ赤奮若一。㋩うしの月。十二月。〔說文〕丑、十二月、萬物動用レ事。〔郝經、長星行〕玉虹千丈月合レ丑。㋥うしの日。〔春秋、桓、

五〕正月甲戌己丑。㋭うしの時。今の午前二時頃。〔隋書、天文志〕春秋二分、日出卯正、入酉正、晝五十刻、夜五十刻、子四刻、丑亥七刻。㋬五行では土。〔論衡、物勢〕丑、土也。㋣獸では牛。〔論衡、物勢〕丑、其禽牛也。❷はじめ。はじまる。起きて始めて手をあげる。又、生れて始めて手をあげる。〔說文〕丑、紐也、十二月、萬物動用レ事、象二手之形一日加レ丑、亦擧レ手時也。〔說文句讀〕味爽爲レ丑、人皆起有レ爲也。〔六書正譌〕丑、象二子初生擧一レ手。〔漢書、律歷志〕孳二萌於子一、紐二牙於丑一。❸むすぶ。つかねる。紐(**8−27268**)に通ず。〔釋名、釋天〕丑、紐也、寒氣自屈紐也。〔史記、律書〕丑、紐也。〔白虎通、五行〕丑者、紐也。❹やしなふ。〔太玄經、玄數〕辰戌丑未。〔注〕丑之言、畜也、畜二養萌芽一也。❺とざす。〔淮南子、天文訓〕丑爲レ閉。❻手かせ。〔六書正譌〕丑、手械也、从レ又、手也、有二物以縶一レ之、象形。❼道化役者。ちやり。演劇脚色の一つ。粉墨を面に塗る者。〔徐渭、南詞敍錄〕以二墨粉一塗レ面、其形甚醜、今省文爲レ丑。〔堅瓠集〕優伶有二生・旦・淨・丑之名一、樂記注謂、俳優雜戲、如二獼猴之狀一、乃知二生、狌也、旦、狚也、淨、猙也、丑、狃也一、謂二俳優如二四獸一。❽或は丑(**1−38**)に作る。〔中華大字典〕丑、別作レ丑、楊統碑、三月癸丑、丑卽丑。❾姓。〔奇姓通〕丑、南齊有二丑千一、滎陽人、元有二丑閭一、明時、鬱林・三山・武陵等處、皆有二此姓一。〔尚友錄〕丑、丑千、滎陽人、蕭道成受禪之年、千於二嵩山東一見二天雨一レ石。

名乘 ウシ。

解字 指事。又と丨との合字。又は右手。丨を以て手の三指を聯綴して、寒氣の爲に、未だ事を爲し得ぬ意を示し、寒氣が解けるのを待ち、將に手を擧げて仕事をし始めようとする義を表はす。〔說文、丑、段注〕淮南天文訓・廣雅釋言、皆曰、丑、紐也、糸部曰、紐、系也、一曰、結而可レ解、十二月、陰氣之固結已漸解、故曰レ紐也、云云、人於レ是擧レ手有レ爲、又者、手也、从レ又而聯二綴其三指一、象二欲レ爲而凓冽氣寒未一レ得レ爲也。▽
(金文) 象形。手指に力をこめてひねる形に象る。

【丑寅】1 ウシトラ 東北の方角。俗にいふ鬼門。艮。〔柳筥初、二十六〕丑寅の閒から見て談じ合ひ。

『丑寅除』2 ウシトラヨケ 鬼門よけ。

【丑雨】3 ウシアメ 丑の時に降る雨。丑の雨。直ぐに霽れるといふ。

【丑起】4 ウシオキ 早起。丑の時、卽ち午前二時頃に起き出ること。〔孕常磐、五〕牛若丸のうし起に。

【丑脚】5 チウキャク 俳優の一種。小花臉のこと。三花臉(**1−12**・・339)を見よ。

【丑月】6 ウシヅキ 陰曆十二月の異名。〔說文〕丑、十二月、萬物動用レ事。〔郝經、長星行〕玉虹千丈月合レ丑。

【丑紅】7 ウシベニ 寒中、丑の日に買ふ紅。口中の病に效ありといふ。

【丑座】8 チウザ 唐の牛僧孺が宰相となつたのを誹つた語。李逢吉があだ名していつた語。丑は牛、座は宰相の座の意。〔東軒筆錄〕。

【丑三】9 チウサン ❶支那演劇で、丑角等が用ひる鬚の髩の一種。色は黑く、長さ一尺ばかり。❷ウシミツ 時刻の名。丑の時の第三刻。深更。丑滿。〔伊勢物語〕子一つより丑三つまであるに。

【丑兒】10 ch'ou³ êrh 俳優。役者。「者、牛也。

【丑日】11 チウジツ うしの日。〔靈寶經〕丑日稱二書生一

『丑日書生』12 チウジツショセイ 獸の名。うし。牛(**7−19922**)の異名。〔事物異名錄、獸畜部、牛〕抱朴子、山中丑日稱二書生一者、牛也。

【丑旦】13 チウタン 支那演劇の役者の名。丑と旦。丑は道化役者、旦はおやま。脚色(**9−29712**・・32)及び三花臉(**1−12**・・339)を見よ。

【丑肉】14 チウニク 牛肉。〔事物異名錄、飮食、諸牲肉〕宣室志、某願終身不レ食二丑肉一。

【丑寶】15 チウハウ 藥の名。牛の陰囊。犀黃牛黃の別名。牛黃(**7−19922**・・54)を見よ。〔本草、牛黃〕釋名、丑寶、時珍曰、牛屬レ丑、故隱二其名一。

【丑平】16 チウヘイ 隋末・唐初(617−618)に亘る永樂の郭子和の年號、正平の別稱。

【丑滿】17 チウマン ❶中國の演劇に於て、道化役者の着ける鬚の髩をいふ。❷ウシミツ 丑三(9)の❷に同じ。

【丑閭】18 チウリヨ 蒙古の人。字は時中、統初の進士。安陸府の長官となり、賊を罵つて殺され、妻の侯氏もこれに死す。〔元史、一百九十五〕。

【丑時參】19 ウシノトキマヰリ ❶祈願することがあつて丑の刻に神佛に參詣すること。〔謠曲、鐵輪〕御身は都より丑の時參り召さるる御方にて渡り候か。❷嫉妬深い女子が、他人を呪咀する爲、丑の刻に神佛に祈願すること。〔蟬丸、一〕ああもう丑の時參り、仇と情と怨念と、三つの鐵輪に燃ゆる火に。

【丑相公】20 ch'ou³ hsiang⁴ kung¹ 牌九と名づける中國の賭戲。五六牌のこと。

【且】24 シヨ 且(**1−29**)の古字。〔玉篇〕且、且古文。

【丘】25 キウ 丘(**1−33**)に同じ。〔字彙補〕丘、同レ丘。

【丈】26 ヂヤウ 丈(**1−11**)の俗字。〔正字通〕丈、俗加レ點作レ丈、非。

【丘】27 キウ 丘(**1−33**)の闕字。孔子の諱を避けて作る。〔辭海〕丘、同レ丘。〔十駕齋養新錄〕孔齊至正直記云、丘字、聖人諱也、子孫讀二經史一、凡云二孔丘一者、則讀作レ某、丘字以二朱筆一圈レ之。

【刄】28 チウ 丑(**1−23**)の俗字。

四畫

【且】29

[一] シヤ 〔集韻〕淺野切 [馬] ㄑㄧㄝˇ ch'ieh³
[二] シヨ 〔集韻〕子余切 [魚] ㄐㄩ chü¹
[三] ゾ 〔集韻〕叢租切 [虞]
[四] シヨ 〔集韻〕之與切 [語]
[慣] シヨ

小篆

古文

[一] ❶**かつ**。語辭。〔說文、且、段注〕且、古音俎、所三以承二藉進物一者、引二伸之一、凡有レ藉之詞、皆曰レ且、凡語助云レ且者、必其義有レ二、有レ藉而加レ之也、云二姑且・苟且一者、謂二僅有レ藉而無レ所レ加、粗略之詞也。㋑まして。いはんやその上に。〔論語、季氏〕且在二邦域之中一矣。㋺さても。未定の辭。〔禮、檀弓上〕夫祖者且也、且胡爲其不レ可二以反宿一也。〔注〕且者、未定之辭。㋩ふたたび。〔國語、齊語〕且有二後命一。〔注〕且、猶レ復也。㋥よしや。たとひ。もし。假設の辭。〔廣雅、釋詁二〕且、借也。〔經傳釋詞、八〕且、猶レ若也。〔公羊、隱、元〕且如桓立、則恐二諸大夫之不一レ能レ相二幼君一也。〔論語、子罕〕且予與三其死二於臣之手一也、無寧死二於二三子之手一乎。㋭それ。發語の辭。〔經傳釋詞、八〕且、猶レ夫也。〔荀子、性惡〕且順二情性一、好レ利欲レ得。〔注〕且、發辭也。〔墨子、非攻〕今且天下之王公大人。㋬それとも。抑〻。〔經傳釋詞、八〕且、猶レ抑也、云云、齊策曰、王以二天下一爲レ尊レ秦乎、且尊レ齊乎、史記魏世家曰、富貴者驕レ人乎、且貧賤者驕乎、且

字、並與レ抑同義。〔禮、曾子問〕葬引至二於坂一、日有レ食レ之、則有レ變乎、且不乎。㊦なほ。すら。でも。〔經傳釋詞、八〕且、猶レ尚也。〔易、乾、文言〕天且不レ違。〔孟子、公孫丑下〕聖人且有レ過與。㊧はた。意味を強める語。〔莊子、齊物論〕誰獨且無レ師乎。㊨其の上。また。〔經傳釋詞、八〕且、猶レ又也。〔詩、小雅、魚麗〕君子有レ酒、多且旨。〔詩、魯頌、閟宮〕孔曼且碩。〔春秋、文、五〕王使二榮叔來歸一含且賵一。〔穀梁、文、五〕其曰レ且、志レ兼也。〔韓愈、送二李愿歸一盤谷一序〕飲且食兮。㊀しばらく。〔經傳釋詞、八〕且、姑且也。〔詩、唐風、山有樞〕且以喜樂、且以永レ日。㊁ここに。これ。此(6－16259)に通ず。〔說文通訓定聲〕且、叚借爲レ此。〔詩、周頌、載芟〕匪二且有一。〔傳〕且、此也。㊂まさに。將(4－7438)に通ず。〔戰國、秦策〕城且レ拔矣。〔注〕且、將也。〔呂覽、音律〕歲且二更起一。〔注〕且、將也。㊃かりそめ。〔詩、陳風、東門之枌、穀旦于差、釋文〕旦、本又作レ且、苟且也。〔莊子、庚桑楚〕與レ物且者、其身不レ容、焉能容レ人。〔注〕且者、姑與レ物爲二雷同一、而志不レ在也。㊄とる。取(2－3158)に通ず。〔說文通訓定聲〕且、叚借爲レ取。〔老子、六十七〕今捨レ慈且レ勇。〔注〕且猶レ取也。㊅はじめる。〔莊子、庚桑楚〕與レ物且者。〔釋文〕且、始也。㊆姓。〔姓苑〕高陽氏臣、且嗚氏之後。〔萬姓統譜〕且簡、觀城人、正德中任二潞州判官一。

□㊀つくる。まないた。〔說文〕且、所二以薦一也、从几、足有二橫一、一其下地也。㊁多いさま。〔詩、大雅、韓奕〕籩豆有レ且。〔箋〕且、多貌。㊂語の餘聲。助字。〔詩、王風、君子陽陽〕其樂只且。〔集傳〕只且、語助辭。〔詩、鄭風、山有扶蘇〕乃見レ狂且。〔傳〕且、辭也。〔集傳〕且、語辭也。〔張衡、西京賦〕其樂只且。㊃ゆく。徂(4－10078)に通ず。〔說文通訓定聲〕且、叚借爲レ徂。〔詩、鄭風、溱洧〕士曰既且。〔釋文〕且、往也。㊄陰暦六月の異名。〔爾雅、釋天〕六月爲レ且。〔郝懿行義疏〕且者、次且、行不レ進也、六月陰漸起、欲二遂上一畏レ陽、猶次且也。㊅すすまない。前進しない。超(10－3795)・趄(10－37475)に同じ。〔易、夬〕其行次且。〔釋文〕且、本作レ趄、又作レ趑。㊆駔(12－44665)に同じ。乘且は駿馬の名。〔新書、匈奴〕御二驂乘且一。〔漢書、王褒傳〕驂乘旦。〔王先謙補注〕王念孫曰、乘旦、當レ爲二乘且一、字之誤也、且、與レ駔同。㊇古は丑(1－16)・且(1－24)に作る。〔說文〕且、丑、古文旨爲レ且。〔玉篇〕且、且古文。□助詞。一の㊀に同じ。〔集韻〕且、語辭。四㊀多いさま。〔詩、周頌、有客〕有二萋有一レ且。〔傳〕萋・且、敬愼貌。

解字 象形。供物を盛る丈高きつくゑの形に象る。冂は几、横の二畫は足に設けた横桟、下の一はつくゑを置く地に象る。字解□㊀を見よ。▽𠀋(甲骨文)象形。神への供物を載せ、積み重ねる臺の形に象る。

【且菴】1ショアン 清、顧約文(12－43689・363)の號。
【且于】2ショウ 地名。㊀春秋、莒の地。今、山東省莒縣に在る。〔左氏、襄、二十二〕遂襲二莒、門于且于一。㊁複姓。〔姓考〕且于、莒大夫食邑、因氏。
【且園】3シュエン 字號。㊀明、范景文(9－30834・16)の號。㊁清、高其佩(12－45313・1083)の號。㊂清、王岱(7－20823・736)の號。
【且翁】4シオウ 清、張鉴(4－9812・219)の號。
【且喜】5シャ 佩禪錄中の語。一應、前人の說を肯定して、次いで又、否定すること。〔種電鈔、一〕且喜、一往隨順許レ之辭。
【且居】6キョ 縣名。漢、置く。今、河北省宣化縣。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、且居。
【且渠】7キョ 匈奴の官名。〔史記、匈奴傳〕當戶・且渠之屬。
【且月】8ゲツ 陰暦六月の異名。〔爾雅、釋天〕六月爲レ且。〔郝懿行義疏〕且者、次且、行不レ進也、六月陰漸起、欲二遂上一畏レ陽、猶次且也。
【且軒】9ケン 宋、兪澂(1－1437・55)の號。
【且字】10ジ かりのあざな。正字に對する名。且は、しばらく、又は借の意。周制では、二十歲の時に某甫といひ、之を且字とする。五十歲に至つて伯仲を加へて字をつけ、之を正字とする。〔公羊、桓、四〕其稱二宰渠伯糾一何。〔注〕且字。〔陳立義疏〕如レ言二仲山甫一、山甫爲二且字一、合二仲乃爲一レ字、檀弓云、五十以二伯仲一、是正字、二十之時曰二某甫一、是且字、言二且爲一レ之立レ字。
【且如】11ジョジョ 縣名。漢、置く。又、沮洳城ともいふ。故城は今の察哈爾省興和縣地方。〔漢書、地理志下〕代郡、縣十八、且如。〔魏書、太宗紀〕神瑞二年、幸二沮洳城一。
【且湜】12ショクショク 清、張渭(4－9812・12)の字。
【且碩】13セキ 清、程庭(8－25081・105)の字。
【且泄】14セツ 漏れる。沮泄。〔呂覽、仲冬〕地氣且泄、是謂レ發二天地之房一。
【且說】15ch'ieh¹ shuo¹ さて。却說。
【且先】16ch'ieh¹ hsien¹ 暫く先づ。先づ先づ。
【且苴】17ソショ 雜草の名。草履を作るに用ひる。〔墨子、兼愛下〕大布之衣、牂羊之裘、且苴之屨。
【且住】18ジュウ ㊀それはさておき。〔燕子箋、拾箋〕且住、昨日行雲爲二錯、失二了春容一。㊁暫く留まる。暫くして。且住爲レ佳を見よ。「の號。
【且住菴】19アン 清、汪喜孫(6－17154・196)
【且住爲レ佳】20ジョチュウヲカトナス 暫く留まる方がよい。〔詞苑叢談〕天氣殊未レ佳、汝定成レ行否、寒食近、且住爲レ佳爾、此晉無名氏帖中語也、辛稼軒融化作二霜天曉角詞一曰、玉人留レ我醉、明日落花寒食、得二且住一爲レ佳爾、晉人語本入レ妙、而詞又融二化之一如レ此、可レ謂二珠璧相照一。
【且亭】21テイ 清、楊思聖(6－15112・575)の號。
【且宜】22トウジ 祭祀に食物を盛る器。俎豆(1－679・8)に同じ。〔字學指南〕且宜、與二俎豆一同。
【且彌】23ビシ 國の名。東西二國に分る。漢代の西域の國。今の新疆省昌吉・綏來二縣の地。〔漢書、西域下、西且彌國傳〕王治二天山東于大谷一、云云、東且彌國王治二天山東兌虛谷一。
【且夫】24ソフ 發語のことば。且つ夫れ。〔蘇軾、赤壁賦〕且夫天地之間、物各有レ主。
【且朴】25ボク 清、周清原(2－3441・742)の號。
【且末】26マツ ㊀漢代の西域三十六國の一。今の新疆省且末縣の北。梁書には末國、辨機西域記には折摩馱那といふ。〔漢書、西域傳〕且末國王、治二且末城一。㊁縣名。民國、置く。俗に卡墻河ともいふ。新疆省于闐縣の東北。㊂複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕且末氏、西域人。
【且慢】27ch'ieh³ man⁴ 暫くまて。まあ控へろ。ゆるやかに。徐ろに。
【且慢且慢】28ch'ieh³ man⁴ ch'ieh³ man⁴ 「爾雅」。くお待ちなさい。
【且來】29ソライ ㊀紀伊國の地名。㊁アツソウ 姓氏。〔和
【且老】30ラウ 宋、劉龜年(2－2224・787)の字。
【且蘭】31ランラン ㊀漢代、南夷の國。武帝之を滅し、故且蘭縣を置く。今の貴州省遵義縣は故の且蘭侯の邑。〔史記、西南夷傳〕且蘭君恐二遠行旁國虜一其老弱一。㊁縣名。晉、置く。漢の故且蘭縣の地。今の貴州省遵義縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、遵義府、遵義縣〕且蘭廢縣、在二府南一、漢初南彝且蘭侯邑、武帝平二南彝一、置二故且蘭縣一、云云、晉曰二且蘭一。
【且慮】32ロ 縣名。漢、置く。今、河北省盧龍縣の東。〔漢書、地理志下〕遼西郡、縣十四、且慮。有二高顯一、莽曰二鉏慮一。〔注〕師古曰、且、子余反、慮音廬。
【且道人】33ショウドウジン 清、高其佩(12－45313・1083)の號。
【且莫車】34シャバク 漢代、匈奴の搜諧若鞮單于の弟。兄に次いで立ち、車牙若鞮單于となる。〔前漢書、九十四〕。
【且甌小隱】35ショオウインイン 清、戴咸弼(6－11685・157)

の號。

【且看山人】36 ショカンサンジン 清、姚東之(3－6202・・141)の號。

【且顧眼前】37 ch'ieh³ ku⁴ yen³ ch'ien² ただ眼前の事のみ顧慮する。目先の事許りに囚はれる。

【且食二蛤蜊一】38 カツカフリヲクラヘ これくらゐのことを知らねば蛤でも食ひ給への意。南齊の沈昭略と王融の故事。〔南史、王融傳〕詣二王僧祐一、因遇二沈昭略一、未二相識一、昭略屢顧盼、謂二主人一曰、是何年少、融殊不レ平、謂曰、僕出二於扶桑一、入二於湯谷一、昭二耀天下一、誰云レ不レ知、而卿此問、昭略云、不レ知二許事一、且食二蛤蜊一。

【且作二死馬醫一】39 シバラクシバノイトナル 死馬の醫者となる。手段方法の盡きたものに對し、尚之を救はんと努力する喩。〔猗覺寮雜抄〕作二死馬醫一、自レ唐已有二此語一、傳燈錄、雲門亦擧二揚之一、其初出二郭璞一、有二主人良馬死者一、璞教令二一人東行一、遇二林木一、以レ杖擊レ之、得二一物如レ猿、持歸見二死馬一、卽吹二其鼻一、少頃活、故世俗於レ無レ可二奈何一、尚欲レ救レ之者、謂二之死馬醫一。〔春渚紀聞〕有下名士爲二泗倅一者上、病既久、其子不慧、有二名醫一、自二都下一還、其子謁レ之曰、大人病勢雖レ淹、願二左右一顧一、且作二死馬醫一也、聞者無レ不二絕倒一。

【且鞮侯單于】40 ショテイコウゼンウ 漢代、匈奴の王。漢の太初四年、句黎湖單于の死後、其の弟左大都尉が立つて單于となつたのが且鞮侯單于である。時に漢の武帝は天漢二年以後、李廣利・公孫敖・路博德・李陵等をして之を攻略せしめんとしたが、彼も亦大軍を以て之に當り、互に勝敗があつた。漢の將李陵が匈奴に降り、また蘇武が彼に抑留されて北海に置かれたのも此の時である。漢の太始元年、歿す。〔史記、一百一〕・〔前漢書、九十四上〕・〔漢紀、十四〕。

【且盡生前有レ限杯】41 シバラクツクセセイゼンカギリアルノサカヅキ 短い人生に飲める酒には限りがある。まあまあ、酒を飲んで樂しむがよい。〔杜甫、絕句漫興詩〕二月已破三月來、漸老逢レ春能幾回、莫レ思二身外無窮事一、且盡生前有レ限杯。

【且論二三萬六千是一】42 シバラクサンマンロクセンノゼヲロンゼヨ 太陰暦で一年は三百六十日だから、三萬六千日は百年。未來百年の是とする所を論ぜんといふこと。〔駱賓王、帝京篇〕且論二三萬六千是一、寧知四十九年非。

【丕】30 ヒ 〔集韻〕攀悲切 ㄆㄧ p'i¹ 支

小篆

❶**おほきい**。おほいに。〔說文〕丕、大也、从レ一不聲。〔爾雅、釋詁〕丕、大也。〔書、大禹謨〕嘉二乃丕績一。〔左氏、僖、二十八〕奉二揚天子之丕顯休命一。〔孟子、滕文公下〕丕顯哉。❷**うける**。〔漢書、郊祀志〕丕二天之大律一。〔注〕奉二天之大法一也。❸**はじめ**。もと。本(6－14421)に通ず。〔書、金縢〕是有二丕子之責于天一。〔蔡傳〕丕子、元子也。〔漢書、匡衡傳、未三丕揚二先帝之盛功一、補注〕丕字、或作レ本。❹**おごそか**。さかん。〔小爾雅、廣言〕丕、莊也。〔說文通訓定聲〕丕、按、奘也、壯也。❺**すなはち**。上を承ける語。〔經傳釋詞、十〕不、或作レ丕、云云、其承二上文一者、書禹貢曰、三危既宅、三苗丕敍、丕乃承レ上之詞、猶レ言二三苗乃敍一也。❻不(1－19)に通ず。〔說文通訓定聲〕丕、叚借爲レ負、實爲レ不、書金縢、是有二丕子之責於天一、史記周公世家、作レ負、按、丕子者、不慈也。〔左氏、襄、十一〕生二秦丕茲一。〔釋文〕一本、秦不茲。❼邳(11－39340)に通ず。〔史記、秦紀〕使二丕鄭謝一レ秦。〔史記、晉世家〕使二邳鄭謝一レ秦。❽坯(4－7995)に同じ。〔康熙字典〕丕、同レ坯。〔國語、周語上〕檮杌次二於丕山一。〔注〕丕、大邳山。❾或は伾(2－2716)に作る。〔說文通訓定聲〕丕、字亦作レ伾。❿**姓**。〔路史〕丕、仲虺之後、有二丕氏一。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕伾氏、亦作レ丕、晉大夫伾鄭之後也。

名乘 ヒロ。

【丕應】1 ヒオウ 大いに應ずる。〔書、益稷〕惟動丕應徯レ志。〔傳〕帝先安レ所レ止、動則天下大應レ之、順レ命以待二帝志一。

【丕基】2 ヒキ 大いなるもとゐ。鴻基。丕址。〔書、大誥〕嗚呼、天明畏、弼二我丕丕基一。

【丕休】3 ヒキウ 大いなる喜。〔范仲淹、明堂賦〕頒二金玉之宏度一、集二神人之丕休一。

【丕欽】4 ヒキン 大いにつつしむ。〔書、盤庚上〕王用丕欽。〔傳〕王用大敬二其政教一。

【丕訓】5 ヒクン 大いなるをしへ。大なるいましめ。〔書、君陳〕爾惟弘二周公丕訓一。

【丕業】6 ヒゲフ 大きなしごと。大事業。洪業。〔史記、司馬相如傳〕王者之丕業。〔宋史、樂志七〕肇二基丕業一。

【丕愆】7 ヒケン おほいなるとが。大なるあやまち。〔書、文侯之命〕嗚呼、閔予小子、嗣造二天丕愆一。

【丕顯】8 ヒケン ❶大いに明か。〔書、君牙〕丕顯哉、文王謨。〔書、文侯之命〕丕顯文武。〔左氏、僖、二十八〕重耳敢再拜稽首、奉二揚天子之丕顯休命一。〔孟子、滕文公下〕丕顯哉、文王謨。〔張衡、東京賦〕昧旦丕顯、後世猶怠。❷宋、林謨(6－14551・・224)の字。

【丕顯德】9 ヒケンノトク 大いに明かな德。〔書、洛誥〕公稱二丕顯德一、以二予小子一、揚二文武烈一。

【丕后】10 ヒコウ 大いなる君。后は、きみ。〔書、冏命〕惟予弗レ克二于德一、嗣二先人一、宅二丕后一。〔傳〕繼二先人一、居二大君之位一。

【丕構】11 ヒコウ 大いなる事業。大事業。〔封敖、懿安皇太后冊文〕誕二元良一而立レ極、纘二丕構一而圖レ昌。〔劉蕡、賢良方正策〕荷二丕構一而不二敢荒寧一、奉二若謨訓一、而罔レ有二怠忽一。

【丕山】12 ヒザン 山名。〔國語、周語上〕商之興也、檮杌次二於丕山一。

【丕子】13 ヒシ 天の元子。天子・皇帝をいふ。丕は元。或は、丕は不であつて、丕子は卽ち不慈であるといふ。字解の❸及び❻を見よ。〔書、金縢〕若爾三王、是有二丕子之責于天一、以レ旦代二某之身一。〔蔡傳〕丕子、元子也。

【丕址】14 ヒシ 大なるもとゐ。丕基。〔蔡襄、祀二南郊一詩〕擁二純格禧一、益厚二丕址一。

【丕祉】15 ヒシ 大きいさいはひ。大なる幸福。〔東晳、補亡詩〕勖增二爾虔一、以介二丕祉一。

【丕時】16 ヒジ 盛な時。盛時。〔書、君奭〕其汝克敬レ德、明二我俊民一、在レ讓二後人于丕時一。〔蔡傳〕他日在レ汝推二遜後人于大盛之時一。

【丕茲】17 ヒジ 春秋魯、秦商(8－24995・・91)の字。

【丕緒】18 ヒショ 大きいいさを。丕績。〔宋史、樂志十〕植二丕緒一啓二宗祊一。

【丕敍】19 ヒジョ よく秩序を整へる。或は丕は、すなはちと訓ずるといふ。字解の❺を見よ。〔書、禹貢〕三危既宅、三苗丕敍。〔傳〕三苗之族、大有二次敍一。

【丕承】20 ヒショウ ❶立派に受けつぐ。〔書、君牙〕丕顯哉、文王謨、丕承哉、武王烈。〔法言、問明〕或問二丕承一。〔舊唐書、禮儀志五〕天子之孝、莫レ大二於丕承一、人倫之義、莫レ大二於嗣續一。❷宋、饒烈(9－31820・・17)の字。

【丕紹】21 ヒセウ 清、蔣衡(長洲の人)(12－44400・・56)の字。

【丕績】22 ヒセキ 大なるいさを。丕緒。〔書、大禹謨〕予懋二乃德一、嘉二乃丕績一。〔韓愈、送二王秀才一序〕有レ意二貞觀開元之丕績一。

【丕闡】23 ヒセン 大いにあらはれる。〔宋史、禮志十七〕聲明丕闡、輪奐一新。

【丕祚】24 ヒソ 天子の位。寶祚。〔趙岐、孟子題辭〕余生二西京一、世尋二丕祚一、有二自來一矣。〔元史、禮樂志三〕嗣二承丕祚一、累洽重熙。

【丕大】25 ヒダイ 大きい。

【丕誕】26 ヒタン おほいなること。大功。〔班固、西都賦〕騁二文成之丕誕一。

【丕天】27 ヒテン 天のやうに大きいこと。〔班固、典引〕汪汪乎丕天之大律。〔注〕濟曰、丕、大、云云、言二其德深如レ水、道大如一レ天。

【丕圖】28 ヒト 大いなるはかりごと。皇圖。〔白居易、答二黃裳一請レ上二尊號一表〕朕以二薄德一、嗣守二丕圖一。〔元史、禮樂志三〕纂二成前烈一、底二定丕圖一。

【丕丕】29 ヒヒ 非常に大きなさま。〔爾雅、釋訓〕丕丕、大也。〔書、大誥〕嗚呼、天明畏、弼二我丕丕基一。〔書、立政〕以並受二此丕丕基一。

【丕文】30 ヒブン 字號。㊀明、呂獻(2―3386‥63)の字。㊁清、繆謨(8―27855‥44)の字。

【丕平】31 ペパン フランク王。カロリンガ朝の祖。法王に土地を獻じて法王領の基礎を作る。Pepin le Bref

【丕懋】32 p'i¹ mao⁴ 盛大な。盛な。

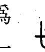
【丕命】33 ヒメイ 大命。天子たるべき命。〔北史、蘇綽傳〕朕將二丕命一、女以二厥官一。

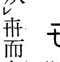
【丕揚】34 ヒヤウ 大いにあげる。〔柳宗元、道州文宣王廟碑〕丕二揚厥聲一、以告二太史一。

【丕烈】35 ヒレツ 大いなるいさを。鴻烈。〔後漢書、馮衍傳〕衍上書陳二八事一、其一曰、顯二文德一、其二曰、褒二丕烈一。

【丕塞他】36 ペセタ ㊀スペインの通貨 Pesetaの音譯。㊁ピアストル トルコの通貨 Piastre の音譯。

【世】31 セイ 〔集韻〕始制切 shih⁴ 霽 慣セ


小篆（段注本）


小篆（通訓定聲）

㊀よ。三十年。代。〔說文〕世、三十年爲二一世一、从レ卉而曳二長之一、亦取二其聲一。〔論語、子路〕如有二王者一、必世而後仁。〔集解〕孔安國曰、三十年曰レ世。㊁よよ。よよにする。父子相つぐこと。〔周禮、秋官、大行人〕世相朝也。〔注〕父死子立、曰レ世。〔國語、晉語一〕非レ德不レ及レ世。〔注〕世、嗣也。〔戰國、秦策〕取二世監門子梁之大盜趙之逐臣一。〔注〕父死子繼、曰レ世。〔史記、周紀〕世二后稷一。〔注〕集解曰、父子相繼、曰レ世。㊂人の一生涯。〔大學〕沒レ世不レ忘也。〔戰國、秦策〕歿レ世事レ秦。〔注〕世、身。㊃一王朝。一王室の統治期間。〔易、繫辭下〕其當二殷之末世一。㊄とし。歲。〔禮、曲禮下〕去レ國三世。〔釋文〕世、歲也、萬物以レ歲爲レ世。〔漢書、食貨志〕世之有二飢穰一、天之行也。㊅よのなか。人間。〔莊子、天地〕千載厭レ世、去而上僊。㊆其の世。時代。時勢。〔論語、微子〕豈若レ從二辟レ世之士一哉。〔楚辭、漁父〕擧レ世皆濁。〔史記、屈原傳〕能與レ世推移。㊇世人。〔唐書、宋之問傳〕世稱二三絕一。㊈うまれる。〔逸周書、本典解〕本生二萬物一、曰レ世。〔列子、天瑞〕亦如二人自レ世之レ老、皮膚爪髮、隨世隨落。〔注〕世、音生。㊉時に。其の時其の時に。時(5―13890)に通ず。〔書、呂刑〕刑罰世輕世重。〔後漢書、應劭傳〕刑罰時輕時重。⑪太(3―5834)に通ず。〔禮、曲禮下〕不下敢與二世子一同上名。〔注〕世、或爲レ太。〔春秋、桓、九、曹伯使二其世子射姑來朝一、疏〕古者世之與レ太、字義通也。⑫古は卋(2―2714)に作る。〔集韻〕世、古作レ卋。⑬姓。〔通志、氏族略、去聲〕世氏、戰國時有二秦大夫世鈞一、漢有二九江尉世寵一、又世顧著二子書一。⑭佛 ものごとについての時間的區分、卽ち過去・現在・未來。〔楞嚴經、四〕過去・未來・現在爲レ世。

解字 會意・形聲。卉と乀との合字。乀は又聲。卉は三十、乀は引く意。之を合して三十年一世の義を表はす。一說に指事、卉の末畫を長く引いて三十年の義を示すといふ。〔說文、世、段注〕末筆曳長、卽爲二十二篇之乀一、从二反厂一、亦是抴引之義、世合二卉乀一、會意、亦取二乀聲一爲レ聲、讀如レ曳也。〔說文通訓定聲〕世、三十年爲二一世一、从レ卉而曳二長之一、指事。

【世鞅】1 セイアウ 世間のほだし。世間の束縛。〔王褘、詩〕不レ受二世鞅羈一、歸釣東海岸。

【世安】2 セイアン 字號。㊀隋、周搖(2―3441‥27)の字。㊁明、劉寧(2―2224‥536)の字。

【世怡】3 セイイ 北周、蕭泰(9―32012‥210)の字。

【世醫】4 セイイ ㊀代々、醫を業とするもの。〔漢書、遊俠傳〕樓護字君卿、齊人、父世醫也。㊁ shih⁴ i¹ 藪醫者のこと。

〖世醫得効方〗5 セイイトクカウハウ 書名。二十卷。元、危亦林撰。高祖以下五世の經驗の藥方を集め、分けて七科と爲し、孫思邈の養生法を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【世威】6 セイヰ 字號。㊀後漢、馮胄(12―44579‥121)の字。㊁明、杭雄(6―14494‥17)の字。

【世偉】7 セイヰ 晉、張輔(4―9812‥672)の字。

【世緯】8 セイヰ 書名。一卷。明、袁袠撰。二十篇。世俗の弊風を述べ、時世を憂へる激切の語が多い。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【世游】9 セイイウ 後漢、庾乘(4―9398‥25)の字。

【世廕】10 セイイン いへがら。門閥。〔事物紀原、官爵封建部、世廕〕尙書大禹謨、皐陶稱二舜之德一曰、賞延二于世一、則世廕之始、蓋起二於有虞氏一也。

【世蔭】11 セイイン いへがら。門閥。〔唐書、路嗣恭傳〕以二世蔭一爲二鄴尉一。

【世運】12 セイウン ㊀よのまはりあはせ。世の成りゆき。時勢の氣運。〔班彪、王命論〕稽二帝王之世運一。〔謝靈運、述二祖德一詩〕賢相謝二世運一。㊁成漢、李期(6―14459‥179)の字。

〖世運隆替〗13 セウンリユウタイ 世の氣運が或は榮え或は衰へること。〔元田東野、幼學綱要序〕雖二世運隆替、學科迭興一、而至二教レ之之要一、則莫二復加一焉。

【世英】14 セイエイ ㊀すぐれた人。〔荀子、賦〕天下幽險、恐レ失二世英一。〔注〕天下幽暗凶險如レ此、必恐二時賢不レ見レ用也。㊁字號。㋑後漢、黃瓊(12―47926‥326)の字。㋺晉、陶璜(11―41705‥52)の字。㋩晉、魯芝(12―46013‥69)の字。㋥隋、薛世雄(9―32123‥212)の字。㋭宋、朱庭傑(6―14424‥934)の字。㋬明、艾傑(9―30648‥18)の字。㋣明、簡祖英(8―26520‥216)の字。㋠明、戚雄(5―11594‥46)の字。㋷明、王奇(7―20823‥181)の字。㋦清、馮越(12―44579‥16)の字。

【世榮】15 セイエイ ㊀世上の榮耀。富貴官祿などをいふ。〔先賢行狀〕徐幹輕レ官忽レ祿、不レ耽二世榮一。〔韋應物、幽居詩〕自當レ安二蹇劣一、誰謂レ薄二世榮一。㊁字號。㋑後魏、王顯(7―20823‥367)の字。㋺明、孫仁(3―6987‥178)の字。

【世纓】16 セイエイ 明、秦紘(8―24995‥63)の字。

【世要】17 セイエウ 世のつとめ。世務(349)に同じ。〔魏志、杜恕傳〕所レ存非レ所レ務、所レ務非二世要一。

【世緣】18 セイエン 世の中のゆかりのこと。俗緣。塵緣。〔戴叔倫、暉上人獨坐亭詩〕去レ住渾無レ跡、青山謝二世緣一。

【世遠】19 セイエン ㊀時代が遠くへだたる。〔晉書、禮志上〕昔周室太祖世遠、故遷有レ所レ歸。㊁字號。㋑後魏、衞雄(10―34074‥114)の字。㋺南齊、孔逷(3―6933‥186)の字。

〖世遠年湮〗20 shih⁴ yüan³ nien² ch'en² 古いこと。年月の久しく過ぎ去つたこと。

【世應】21 セイオウ 漢の京房の易學の語で、卦爻の相應ずることをいふ。〔經學歷史、經學昌明時代〕飛伏世應、多近二術數一。

【世家】22 セイカ ㊀代々、扶持を受ける家がら。世祿を食む家。世族。世門。〔孟子、滕文公下〕仲子、齊之世家也。〔管子、輕重甲〕功臣世家。〔史記、平準書〕所忠言、世家子弟、富人、或鬭レ雞、走二狗馬一、弋獵博戲、亂二齊民一。〔注〕集解曰、如淳曰、世家、世世有二祿秩一家。㊁史記に於て、諸侯・王の事を記したものを世家といふ。開國の時から世世相續く意に取る。本紀と其の編次の體を同じくす。史記(2―3249‥31)を見よ。〔史記、吳太伯世家、注〕索隱曰、系家者、記二諸侯本系一也、言、其下及二子孫一、常有レ國、故孟子曰、陳仲子齊之系家、又董仲舒曰、王者封二諸侯一、非レ官レ之也、得二以代代爲一レ家也。〔史通、世家〕自レ有二王者一、便置二諸侯一、列以二五等一、疏爲二萬國一、周之東遷、王室大壞、於レ是禮樂征伐、自二諸侯一出、迄二乎秦世一、分爲二七雄一、司馬遷之記二諸國一也、其編次之體、與二本紀一不レ殊、蓋欲下抑二彼諸侯一、異中乎天子上、故假以二他稱一名爲二世家一、其爲レ義也、豈不レ以二開レ國承レ家、世代相續一。〔王安石、讀二孔子世家一〕太史公敍二帝王一、則曰二本紀一、公侯傳レ國、則曰二世家一、公卿特起、則曰二列傳一、此其例也。

〖世家大族〗23 セイカタイゾク 代々由緒ある名族。昔からの大家。名望家。舊家。

【世暇】24 セイカ 晉、杜錫(6―14477‥175)の字。

【世雅】25 セイガ 後魏、姬澹(3―6230‥69)の字。

【世界】26 セイカイ ㊀此の世。〔白居易、贈二別宣上人一

詩〕上人處二世界一。❷宇宙。天地。〔溫庭筠、宿二松門寺一詩〕白石青崖世界分。❸下界をいふ。〔岑參、與二高適・薛據一同登二慈恩寺浮圖一詩〕登臨出二世界一。❹一區劃を成した所。〔楊萬里、過二臨平蓮蕩一詩〕荷花世界柳絲鄕。❺佛過去・現在・未來の三つを世といひ、上下四方を界といふ。卽ち時と所との全體の稱。衆生の住む山川國土。〔楞嚴經、四〕阿難、云何名爲二衆生世界一、世爲二遷流一、界爲二方位一、汝今當レ知、東西南北・東南・西南・東北・西北・上下爲レ界、過去・未來・現在爲レ世。❻地球上にある總べての國。萬國。❼同種類のものの一群、又、其の社會。

【世界觀】27 セカイクワン 世界の本質・意義などに關する全體的統一的な見解。

【世界語】28 セカイゴ ポーランドのザメンホフの創案した世界共通の語。子音二十八、母音五より成る。エスペラント。

【世界主】29 セカイシユ 佛娑婆世界の主、卽ち梵天。婆羅門教では梵天 Brāhman がこの世界を創造したといふ。世主天。〔大集經、五十五〕娑婆世界主大梵天王、向レ佛合掌。〔雜阿含、四十四〕瞿梨言、汝是誰、梵天答言、娑婆世界主梵天。

【世界線】30 セカイセン 世界點(33)を見よ。

【世界定】31 セカイサダメ 劇場で次回に興行する脚本を定めること。〔戲場年中鑑、中〕顏見世、世界定。

【世界的】32 セカイテキ ❶國土又は一地方に限らず、四海萬國に關係を有する場合にいふ。❷物事を大きくいふに用ひる。

【世界點】33 セカイテン 相對性理論の特質を明瞭ならしめる爲、導入された概念で、空間の三次元と時間の一次元とを合せたる四次元の連線體の一點をいひ、物體の空間的位置を示すと共に、其の位置にあつた時刻をも表はし、此の點の運動狀態を表はす一つの線を世界線といふ。

【世界記錄】34 セカイキロク 萬國を通じての最高記錄。

【世界主義】35 セカイシユギ 世界人類社會の進步發達を目的として、種々工作する主義。

【世界四大詩聖】36 セカイシダイシセイ 希臘のホーマー・伊太利のダンテ・獨逸のゲーテ・英國のシエークスピヤをいふ。

【藏二世界於一粟一】37 セカイヲイチゾクニヲサム 一粒のもみ米の中に、世界を藏す。佛法の普遍な喩。〔五燈會元〕一粒粟中藏二世界一、半升鐺內煑二乾坤一。〔故事成語考、釋道鬼神〕藏二世界于一粟一、佛法何其大。

【世諧】38 セイカイ 清、李鍾佐(**6**－**14459**・・1501)の字。

【世交】39 セイカウ 祖先より交際せる間柄。世誼。世好。〔杜荀鶴、秋晨有レ感詩〕吟髮不二長黑一、世交無二久情一。

【世好】40 セイカウ ❶世の中の好むところ。風尚。〔蘇軾、題二王逸少帖一詩〕顚張醉素兩禿翁、追二逐世好一稱二書工一。❷世交に同じ。〔翰墨全書、聘定翰、舅子聘二姑女一〕瑾性似二我家一、夙敦二世好一。

【世行】41 セイカウ 明、孫如法(**3**－**6987**・・445)の字。

【世亨】42 セイカウ 字號。❶明、喬通(**2**－**3990**・・45)の字。❷明、劉泰(**2**－**2224**・・472)の字。

【世高】43 セイカウ 梁、謝礼(**10**－**35827**・・91)の字。

【世康】44 セイカウ 字號。❶晉、丁潭(**1**－**2**・・139)の字。❷宋、薛惟吉(**9**－**32123**・・139)の字。

【世講】45 セイカウ 朋友の子孫。明・清時代の語。世々講學の誼ある意。又、師匠が弟子を稱するにも用ひるといふ。〔官箴〕同僚之契、交承之分、有二兄弟之義一、至二其子孫一亦世講レ之、前輩專以レ此爲レ務、今人知レ之者、蓋少矣。

【世學】46 セイガク 明、萬文(**9**－**31339**・・480)の字。

【世幹】47 セイカン 世務を成すべき才能。世わたりの手腕。〔魏書、崔覽傳〕崔忻、字伯悅、有二世幹一。

【世鑒】48 セイカン 世のかがみ。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕永爲二世鑒一。

【世其】49 セイキ 明、孫繼芳(**3**－**6987**・・388)の字。

【世奇】50 セイキ 明、李偉(**6**－**14459**・・11)の字。

【世紀】51 セイキ ❶帝王の系譜などを記した書。〔皇甫謐、帝王世紀〕。❷西曆で、紀元元年から前後に百年づつ區分して算へる年數の稱。Centuryの譯語。❸時代。年代。❹隋、韋綱(**12**－**43108**・・21)の字。

【世紀末】52 セイキマツ 西曆十九世紀末期、科學の進步により、在來の理想主義的人生觀が打破せられて、惡魔的・頹廢的・懷疑的・厭世的・虛無的・放縱的な傾向が人心を支配した時期をいふ。

【世基】53 セイキ 字號。❶北齊、獨孤永業(**7**－**20725**・・90)の字。❷宋、康德輿(**4**－**9376**・・191)の字。

【世規】54 セイキ よのり。世の法度。社會の規律。〔列士傳〕執レ義可三以爲二世規一。「の字。

【世期】55 セイキ 南朝宋、裴松之(**10**－**34362**・・144)

【世熙】56 セイキ 明、劉杲(**2**－**2224**・・99)の字。

【世輝】57 セイキ 元、張榮(**4**－**9812**・・52)の字。

【世機】58 セイキ 世の中との交涉。〔富弼、贈二邵康節一詩〕欒レ道安レ閒絕二世機一。

【世麒】59 セイキ 明、彭世騏(**4**－**10003**・・174)の一名。

【世僞】60 セイギ 世間の虛僞。〔張華、鷦鷯賦〕任二自然一以爲レ資、無三誘二慕於世僞一。

【世儀】61 セイギ ❶世々の手本。〔淮南子、齊俗訓〕北人無擇非レ舜、而自投二淸冷之淵一、不レ可三以爲二世儀一。❷字號。㋑晉、錢鳳(**11**－**40563**・・213)の字。㋺北周、申徽(**7**－**21726**・・21)の字。㋩梁、蕭範(**9**－**32012**・・236)の字。

【世誼】62 shih^{4} i^{2} 世交(39)に同じ。

【世議】63 セイギ ❶世間のうはさ。〔鮑照、白頭吟〕人情賤二恩舊一、世議逐二衰興一。❷三國吳、呂據(**2**－**3386**・・43)の字。

【世仇】64 セイキウ 代々のかたき。世讎。〔徐鉉、陳覺放還至二泰州一以レ詩見レ寄作レ此答レ之詩〕朱雲曾爲二漢家一憂、不レ怕交親作二世仇一。

【世休】65 セイキウ 隋、史祥(**2**－**3249**・・85)の字。

【世舊】66 セイキウ 世々のちなみ。一代だけでないふるなじみ。〔唐書、杜甫傳〕武以二世舊一、待レ甫甚善、親至二其家一、甫見レ之、或時不レ巾、而性褊躁傲誕。〔宋史、王素傳〕帝曰、朕眞宗皇帝之子、卿王旦之子、有二世舊一、非二他人比一也。〔蘇軾、陶子駿佚老堂詩〕文擧與二元禮一、尙得レ稱二世舊一。

【世及】67 セイキフ 父子が次々に世を嗣ぐこと。世襲。〔禮、禮運〕大人世及以爲レ禮。〔後漢書、朱祐等傳論〕朝有二世及之私一。〔注〕世及、謂二父子相繼一也。〔陸機、五等諸侯論〕故諸侯享二食土之實一、萬國受二世及之祚一矣。

【世擧】68 セイキヨ 梁、褚翔(**10**－**34457**・・24)の字。

【世恭】69 セイキヨウ 字號。❶梁、蕭諮(**9**－**32012**・・150)の字。❷宋、晁宗恪(**5**－**13889**・・20)の字。

【世顒】70 セイギヨウ 明、許昂(**10**－**35298**・・32)の字。

【世曲】71 セイキヨク 世の中の細事。曲は細かい一つ一つのこと。〔淮南子、要路〕知二道德一、而不レ知二世曲一、則無三以耦二萬方一。

【世局】72 セイキヨク 時局、又は時事。〔盧播、阮籍銘〕頤神太素、簡曠世局。

【世玉】73 セイギヨク 字號。❶後魏、胡國珍(**9**－**29400**・・468)の字。❷明、李元瑫(**6**－**14459**・・1173)の字。

【世訢】74 セイキン 梁、蕭續(**9**－**32012**・・208)の字。

【世謹】75 セイキン 梁、蕭績(**9**－**32012**・・199)の字。

【世華】76 セイクワ 字號。❶後魏、常英(**4**－**8955**・・21)の字。❷梁、庾曼倩(**4**－**9398**・・75)の字。

【世禍】77 セイクワ 世間の禍。世厄。〔班固、幽通賦〕安二慆慆一不レ葩兮、卒隕二身乎世禍一。

【世迴】77′ セイクワイ 晉、李矩(**6**－**14459**・・225)の字。

【世外】78 セグワイ 浮世のわづらひのそと。又、其の土地。塵世の寰外。〔晉書、許邁傳〕相與爲二世外之交一。〔蘇軾、登州海市詩〕人間所レ得容二力取一、世外無レ物誰爲レ雄。

【世外桃源】79 セグワイタウゲン 隱居の所をいふ。晉の陶淵明が桃花源記に述べた所の、世外の生活の話に本づく。〔陶潛、桃花源記〕自云、先世避二秦時亂一、率二妻子邑人一、來二此絕境一、不二復出一焉、遂與二外人一閒隔、問、今是何世、乃不レ知レ有レ漢、無レ論二魏晉一。

【世光】80 セイクワウ 明、何鏜(**1**－**511**・・28)の字。

【世官】81 セイクワン 代々、同じ官を嗣ぐこと。〔孟子、告子下〕士無二世官一、官事無レ攝。

【世患】82 セイクワン 世の中のわづらひ。〔吳志、孫策傳、注〕若放二於外一、必作二世患一。

【世貫】83 セイクワン 世々の人別帳。貫は貫籍。〔唐書、呂向傳〕呂向、字子回、亡二其世貫一。

【世觀】84 セイクワン 明、秦偉(**8**－**24995**・・2)の字。

【世玩】85 セイグワン 世の中のもてあそびもの。〔書品〕故遺二斯紙一以爲二世玩一。「邪術一以營二世君一。

【世君】86 セイクン 一般の君主。〔墨子、非儒〕繁二飾

【世勳】87 セイクン 清、范西屛(**9**－**30834**・・218)の名。

【世兄】88 セイケイ ❶先代から交際せる家の同年輩の者に對する尊稱。世兄弟に同じ。〔桃花扇、訪翠〕侯世兄怎肯到レ此、難レ得難レ得。❷ shih^{4} hsiung^{1} ㋑師匠の子。㋺他人の子の敬稱。御令息。

【世兄弟】89 shih^{4} hsiung^{1} ti^{4} 代々交際ある人

で自分より年少者に用ふ。

【世系】90 セイケイ 血すぢ。世々相續の血統。系統。〔唐書、李多祚傳〕其先靺鞨酋長、後入ニ中國一、世系湮遠。〔顏眞卿、尚書刑部侍郎云云孫文公集序〕至レ若ニ世系閥閱一、蓋存ニ諸別傳一、此不ニ復云一。

【世京】91 セイケイ 明、鍾同(11－40672・・93)の字。

【世卿】93 セイケイ ❶世襲の卿大夫。〔公羊、隱、三〕其稱ニ尹氏一何、貶、曷爲貶、譏ニ世卿一、世卿、非レ禮也。〔注〕世卿者、父死子繼也。❷字號。㋑宋、沈繼宗(6－17189・・494)の字。㋺宋、熊兆(7－19294・・95)の字。㋩明、杭濟(6－14494・・13)の字。㋥明、倪尚忠(1－792・・51)の字。㋭明、顧慶恩(12－43689・・255)の字。㋬明、李承箕(6－14459・・1490)の字。

【世慶】94 セイケイ 後魏、孫紹(3－6987・・190)の字。

【世馨】95 セイケイ 明、田蘭(7－21723・・319)の字。

【世繼】96 ヨツギ ❶家の跡目を嗣ぐこと。又、其の人。家督相續人。〔神皇正統記〕天皇の世繼を記せる文、昔より今にいたるまで。❷中古の、國文で記した歷史を、六國史などの漢文で記した正史と區別していふ稱。〔五代帝王物語〕神代より代々の君のめでたき御事どもは國史世繼家家の記に委しく見えて。

【世教】97 セイケウ ❶世のをしへ。世の風教。〔漢書、敍傳〕既繫ニ攣於世教一矣。❷儒教をいふ。〔孫綽、喩道論〕纏ニ束世教之閒一、肆ニ觀周孔之跡一。

【世喬】98 セイケウ 明、鄧遷(11－39630・・77)の字。

【世傑】99 セイケツ 字號。❶金、党懷英(1－1381・・6)の字。❷明、孔文英(3－6933・・365)の字。❸明、侯英(1－633・・6)の字。❹明、葉子奇(9－31387・・194)の字。❺明、賴瑛(10－36861・・2)の字。

【世業】100 セイゲフ ❶先祖から代々傳はつて來た職業。〔孔叢子、執節〕仲尼重レ之以ニ大聖一、自レ玆以降、世業不レ替。〔班固、幽通賦〕違ニ世業之可レ懷。〔左思、魏都賦〕世業之所ニ日用一、耳目之所ニ聞覺一。❷先祖からの遺產。〔南史、張融傳〕世業清貧。〔舊唐書、食貨志上〕所レ授之田、十分之二爲ニ世業一、八爲ニ口分一、世業之田、身死則承レ戶者、便授レ之、口分則收ニ入官一。❸世のつとめ。濟世の業。世務。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十三年、冬十月)今爲ニ君計一、莫レ若下遣ニ腹心一、自結ニ於東一、以共濟中世業上。〔注〕世業、猶レ言ニ世事一也。❹北濟、郎基(11－39431・・10)の字。

【世堅】101 セイケン 晉、沈勁(6－17189・・131)の字。

【世閒】102 セケン ❶よ。よの中。このよ。〔史記、淮南王傳〕人生ニ一世閒一、安能邑邑如レ此。〔江淹、別賦〕惟世閒兮重レ別。〔李白、夢遊ニ天姥一吟ニ留別一詩〕世閒行樂亦如レ此。❷佛世の中。世のさま。〔唯識述記、一本〕言ニ世閒一者、可ニ毀譽一故、有ニ對治一故、隱ニ眞理一故、名レ之爲レ世、墮ニ世中一故、爲ニ世閒一。❸交際の範圍。

【世閒解】103 セケンゲ 佛佛の十號の一。世閒の有情非情の事を能く理解してゐるからいふ。〔智度論〕路迦憊、路迦、秦言レ世、憊、秦言レ知、是名レ知ニ世閒一。

【世閒向】104 セケンムキ 世閒の一般の人にむく。世人の好みに合ふ。

【世閒眼】105 セケンゲン 佛世閒人の眼となつて正道を示す義から、轉じて、菩薩の尊稱となる。〔法華經、序品〕讚ニ妙光菩薩一、汝爲ニ世閒眼一。

【世閒口】106 セケングチ 世閒ばなし。又、世閒の人の口。〔出世景淸、四〕觀音經讀誦の外、世閒口を閉ぢたれば。

【世閒魂】107 セケンダマシヒ 世俗の事に關する心のはたらき。〔大鏡、下、道長〕せけんだましひはしも、いとかしこく侍るをとり所にして。

【世閒師】108 セケンシ 世なれて惡がしこい人。

【世閒雀】109 セケンスズメ 世閒なれて面白くはしやぎ暮す人。〔京七百五十韵〕世閒雀は友にもまるる。

【世閒體】110 セケンテイ 世閒の人に對する體面。〔丹波與作〕他人の世閒體、三吉といふ馬追ひが、乳兄弟にあるなど。

【世閒並】111 セケンナミ 世閒普通。よのつね。〔艶狩劍本地、二〕二世三世とは、世閒並で淺い事。

【世閒不レ見】112 セケンミズ 世閒の事情に暗いこと。世閒知らず。

【世閒如ニ車輪一】113 セケンハシヤリンノゴトシ 佛世界が常に轉變するのに喩へた語。〔智度論、一〕世界如ニ車輪一、時變如ニ輪轉一。

【世閒何物催レ人老】114 セケンナニモノカヒトヲモヨホシテオイシムル 世の中で、何物が人をせきたてて老いさせるのであろうか。〔王九齡、題ニ旅店一詩〕曉覺茅簷片月低、依稀鄕國夢中迷、世閒何物催レ人老、半是雞聲半馬蹄。

【世閒好物不ニ堅牢一】115 セケンノカウブツハケンラウナラズ 世閒のもてはやす物は、多く永續し難い。〔白居易、簡簡吟〕世閒好物不ニ堅牢一、彩雲易レ散琉璃脆。

【世閒甲子須臾事】116 セケンカフシシユユノコト 月日の經つことの疾い喩。甲子は十干十二支で、歲月のこと。〔許渾、送ニ宋處士歸レ山詩〕賣レ藥修レ琴歸去遲、山風吹落桂花時、世閒甲子須臾過、逢ニ著仙翁一莫レ看レ棋。

【公ニ道世閒一惟白髮】117 セケンニコウダウナルハタダハクハツ 世の中で、貴賤の區別なく公平なのは、ただ白髮だけである。貴人も賤人も一樣に老いてゆくこと。〔許渾、送ニ隱者一詩〕無レ媒逕路草蕭蕭、自レ古雲林遠ニ市朝一、公ニ道世閒一惟白髮、貴人頭上不ニ曾饒一。

【世賢】118 セイケン ❶鶡冠子の篇名。❷字號。㋑明、瞿能(8－23747・・27)の字。㋺明、李思齊(6－14459・・1317)の字。「字。

【世謙】119 セイケン 南朝梁、蕭綜(9－32012・・207)の字。

【世顯】120 セイケン 字號。❶後魏、李璨(6－14459・・368)の字。❷宋、薛奕(9－32123・・6)の字。❸明、黃孔昭(12－47926・・1091)の字。❹明、陳嘉謨(11－41698・・688)の字。

【世元】121 セイゲン 字號。❶明、鄔中涵(11－39570・・12)の字。❷明、范初(9－30834・・57)の字。

【世彥】122 セイゲン 晉、李宏(6－14459・・244)の字。

【世眼】123 セゲン 佛佛の異名。佛が世の眼となつて正道を示す意。〔無量壽經、上〕今日世眼、住ニ導師行一。

【世嘐】124 セイゲン 世諺に同じ。〔世說新語、任誕、三日不レ飮レ酒、注〕世嘐以ニ大飮一爲ニ上頓一。

【世諺】125 セイゲン 世のことわざ。俚諺。

【世故】126 コセ 世閒一切の事柄。世の俗事。世事。〔列子、楊朱〕家累ニ萬金一、不レ治ニ世故一、放ニ意所レ好。〔潘尼、迎ニ大駕一詩〕世故尙未レ夷、崤函方嶮澁。

【世語】127 ゴセ 佛世閒の言語論說。〔無量壽經、下〕不レ欣ニ世語一、樂在ニ正論一。

【世功】128 セイコウ 代々の功績。〔左氏、隱、八〕官有ニ世功一、則有ニ官族一。〔江淹、雜體、盧郞中諶感レ交詩〕英俊著ニ世功一、多士濟ニ斯位一。

【世弘】129 セイコウ 晉、傅宣(1－939・・83)の字。

【世洪】130 セイコウ 三國吳、虞汜(9－32723・・127)の字。

【世告】131 セイコク 諸蕃國で、其の首長が立つ每に、必ず中國の天子に其の旨を告げる制。〔禮、明堂位〕四塞世告至。〔孫希旦集解〕世告至者、謂下無ニ朝貢常期一、每ニ父死子立、及嗣王卽位一、乃一來至上。

【世根】132 セイコン 晉、成帝(5－11544・・230)の字。

【世婚】133 セイコン 一代のみならず、世々婚姻關係を結ぶこと。〔海錄碎事、人事、婚娶〕羊鄧是世婚、言ニ世世爲ニ婚姻一也。

【世佐】134 セイサ 宋、戚舜臣(5－11594・・55)の字。

【世才】135 セイサイ 社會のことがらに通じてゐる才。處世のはたらき。俗才。世智。

【世濟】136 セイサイ 宋、劉美(2－2224・・564)の字。

【世濟ニ其美一】137 ヨヨソノビヲナス 代々其の美德を成就する。〔左氏、文、十八〕世濟ニ其美一、不レ隕ニ其名一。

【世濟美堂】138 セイサイビダウ 明、項元汴(12－43343・・65)の室名。

【世相】139 セサウ 世の狀態。世態。〔法華經、方便品〕世閒相常住。

【世纘】140 セイサン 梁、簡文帝(8－26520・・221)の字。

【世士】141 セイシ 世の中の士人。〔孔叢子、陳士義〕君子之交ニ於世士一。〔後漢書、馬融傳〕俗儒世士。

【世子】142 セイシ ❶諸侯のあとつぎ。もと天子のよつぎの稱。後世區別して天子に太子、諸侯に世子といふ。世とは世々絕えざるの意。或は、世と太とは古く通用し、世子は太子に同じといふ。世嗣。〔儀禮、聘禮〕世子之喪。〔疏〕世子、惟據ニ天子諸侯之子一。〔禮、文王世子〕文王之爲ニ世子一也。〔公羊、昭、元〕爲レ殺ニ世子偃師一貶。〔孟子、滕文公上〕滕文公爲ニ世子一。〔白虎通、爵〕所ニ以名レ之爲ニ世子一何、言、欲ニ其世世不レ絕也。〔兩般秋雨盦隨筆〕太・世二字、大約古人有レ時而通、明堂世室、公羊・穀梁、俱作ニ太室一、衞太叔儀、公羊作ニ世叔一、齊樂太心、作ニ樂世心一、鄭子太叔、論語作ニ世叔一、天子之子曰ニ太子一、而春秋傳曰、會ニ王世子于首止一、諸侯之子曰ニ世子一、而申

生子華終生等、並稱二太子一。〔黃生、字詁〕太、古音替、故或作レ世、如下太叔爲二世叔一、太室爲二世室一、太子爲二世子一、太祖爲二世祖一之類上、是也、觀二屜字以レ世、便得二世・太轉音之義一。㊁淸朝で、宗室爵位の第二等。〔淸會典、宗人府〕世子、不入八分公。〔淸國行政法汎論、皇族、有爵宗室〕凡宗室封爵、等級十四、一、和碩親王、二、世子、三、多羅郡王、四、長子。㊂書名。二十一篇。春秋陳、世碩撰。人性の善惡について言ふ。今、亡ぶ。玉函山房輯佚書に輯本を收む。〔漢書、藝文志〕世子二十一篇。〔注〕名碩、陳人也、七十子之弟子。㊃人名。世碩(207)をいふ。〔春秋繁露、兪序〕世子曰、功及二子孫一、光二輝百世一、聖世之德、莫レ美二於恕一、故予先言二春秋一、詳レ己而略レ人。

【世之】143 セイシ 南朝宋、劉鍾(**2**—**2224**・・388)の字。

【世氏】144 セイシ 世系氏族。〔漢書、平帝紀〕各以二世氏一、郡國置二宗師一以糾レ之。

【世祀】145 セイシ よよに傳へ行ふまつり。〔左氏、僖十二〕管氏之世祀也、宜哉、讓不レ忘二其上一。〔任昉、王文憲集序〕遠協二神期一、用彰二世祀一。〔謝朓、和二伏武昌登二孫權故城一詩〕參差世祀忽。

【世嗣】146 セイシ ㊀諸侯のあとつぎ。世子(142)の㊀に同じ。〔白虎通、三軍〕須二其有二世嗣一。㊁晉、蘇紹(**9**—**32427**・・121)の字。

【世資】147 セイシ ㊀代々扶持を受ける家柄。〔沈約、宋書恩倖傳論〕徒以憑二藉世資一、用相陵駕。㊁天下の財產。〔左思、魏都賦〕同二賑大內一、控二引世資一。㊂世人が師として仰ぐこと。〔揚雄、解嘲〕是故鄒衍以二頡頏一而取二世資一。〔注〕銑曰、頡頏、猶二詭異一也、世人取レ資、以爲レ師學。

【世次】148 セイジ 年代の前後。〔宋史、禮志八〕並加二封爵一、以二世次先後一。

【世事】149 セジ ㊀世の中の事。世上の事。世故(126)の㊀に同じ。〔列子、周穆王〕尹氏、心營二世事一、慮鍾二家業一。〔史記、屈原傳〕上稱二帝嚳一、下道二齊桓一、中述二湯武一、以刺二世事一。〔李白、怨歌行〕一朝不レ得レ意、世事徒爲レ空。㊁世のつとめ。士農工商などの仕事。〔周禮、地官、大司徒〕以二世事一教レ能。〔注〕世事、謂二士農工商之事一。㊂㋑人に應對するのに愛想がよいこと。おせじ。世辭。〔傾城買二筋道〕又、文里さんのせじが始まつた。㋺昔、僧侶は一日一食を例としたが、其れ以外の食事の稱。〔雜談集、三〕法師ばら坂本へ下りぬれば、夕方寄り合ひて、事と名づけて我我世事して食す。

【世事火】150 セジビ 庫裏などで使用する火。〔左記、行法聞故實事〕以二世事火一用二燈明・燒香等一事、甚以可レ禁者也。

【世事賢】151 セジガシコシ 世渡り上手なことをいふ。交際上手。

【世事者】152 セジモノ 世事に巧な人。追從上手な人。〔浮世風呂、二上〕ほんにおめへのかかさんは、せじ者だなう。

【世事所】153 セジドコロ 寺院の臺所。〔明惠上人傳記〕世事所に置いて小用しに出でたる跡に、放猫來て皆食ひ散らしたり。

【世事顚倒】154 セジテンタウ 世事のさかしまなこと。〔近古史談、豐篇、太閤雜事〕皆曰、不レ解、公乃曰、世事顚倒矣。

【世事紛冗】155 shih⁴ shih⁴ fen³ jung³ さわがしいこと。世紛。

【世事浮雲何足レ問】156 セジノフウン ナンゾトフニタランヤ 俗界のことは浮雲の如きもので、問ふに足りない詰らぬものであるといふこと。〔王維、酌レ酒與二裴迪一詩〕酌レ酒與レ君君自寬、人情翻覆似二波瀾一、白首相知猶按レ劍、朱門先達笑二彈冠一、草色全經二細雨一濕、花枝欲レ動春風寒、世事浮雲何足レ問、不レ如高臥且加レ飡。

【世辭】157 セジ 人の氣に入る樣な追從のことば。

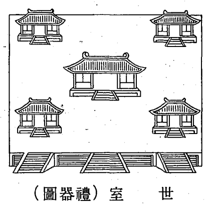
【世周】158 セイシウ 明、王伯稠(**7**—**20823**・・2038)の字。

【世修】159 セイシウ 明、謝省(**10**—**35827**・・141)の字。

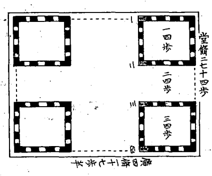
【世修二降表一李家】160 ヨヨカウヘウヲヲサムルノリカ 後蜀の李昊は四たび降表卽ち降服の申込狀を撰したので、蜀人が憤つて其の門に此の六字を書いて罵つた故事。〔實賓錄〕世修二降表一李、蜀李昊、四爲二降表一、蜀人憤レ之、有下潛書二其門一者上、云下世修二降表一李家上。

【世讎】161 セイシウ 先代からのかたき。家代々のかたき。世仇。〔書、泰誓下〕乃汝世讎。〔傳〕乃是汝累世之讎。〔宋史、李舜臣傳〕金人世讎、無二可レ和之義一。

【世室】162 セイシツ 明堂をいふ。夏には世室といひ、殷には重屋、周には明堂といふ。天子が五帝を祀り諸侯を朝せしめる處。又、宗廟をいふ。世々毀たぬ廟の意。周には文王の文世室、武王の武世室あり。明堂(**5**—**13805**・・399)を見よ。〔周禮、考工記、匠人〕夏后氏世室。〔注〕世室者、宗廟也、魯廟有二世室一。〔孫詒讓正義〕夏后氏世室者、以下皆記二三代明堂制度之異一、世室者、卽夏之明堂、史記五帝本紀正義、引二尙書帝命驗一云、五府者、夏謂二之世室一、殷謂二之重屋一、周謂二之明堂一、皆祀二五帝一之所也、三輔黃圖云、明堂、夏后曰二世室一、云云、注云二世室者、宗廟也一者、鄭謂、此世室卽



世 室（禮器圖）



夏 世 室（名物圖）

夏宗廟、與二殷路寢・周明堂一相配也、玉海郊祀引二禮記外傳一云、夏謂二太廟一爲二世室一、不毀之義、卽本二鄭義一、戴震云、王者而後有二明堂一、其制、蓋起二於古遠一、夏曰二世室一、殷曰二重屋一、周曰二明堂一、三代相因、異レ名同レ實、明堂在二國之陽一、祀二五帝一、聽レ朔、會二同諸侯一、大政在レ焉、世室猶二大室一也、夏曰二世室一、擧レ中以該二四方一、猶下周曰二明堂一、擧レ南以該中三面上也、孔廣森云、世室者、明堂之中室、夏以レ室擧、周以レ堂稱、異レ名而同レ實、故周公作レ洛、立二文武之廟一、制如二明堂一、謂二之文世室・武世室一、洛誥曰、王入二太室一祼、太室猶二世室一也、春秋、世室屋壞、左氏經爲二太室一、古者世・太字多通用、阮元云、世室、乃明堂五室之中、猶二尙書大傳所レ言大室一、夏特取レ此爲レ名、概二其餘一耳、匠人言、三代明堂之制、皆郊外明堂也、自二室中一度、以二几以下一、乃通言二城中王宮之制一、非三專指二明堂一、鄭注謂二世室一爲二宗廟一、殆以二魯世室一例レ之耳、其實夏之名二世室一、非二專爲レ祀レ祖、案、戴阮二說、是也。〔禮、明堂位〕魯公之廟、文世室也、武公之廟、武世室也。〔注〕世室者、不毀之名也。〔公羊、文、十三〕世室屋壞、世室者何、魯公之廟也、周公稱二太廟一、魯公稱二世室一、羣公稱レ宮、此魯公之廟也、曷爲謂二之世室一、世室猶二世室一也、世世不レ毀也。〔穀梁、文、十三〕大室猶二世室一也。〔注〕世世有二此室一、故曰二世室一。

【世襲】163 セイシフ セシフ 父から子、子から孫へと、子子孫孫、世を承け嗣ぐことをいふ。世及。〔後漢書、質帝紀〕世二襲封爵一。〔魏志、武帝紀、注〕漢高祖之起、曹參以レ功封二平陽侯一、世二襲爵土一、至二今適嗣一。

【世襲官銜】164 shih⁴ hsi² kuan¹ hsien² 世々其の官に居ること。其の官を世襲すること。

【世襲財產】165 セシフザイサン 親子代々ついできた財產。

【世襲罔替】166 セシフバウタイ 世襲して遞減しない。淸朝の爵の世襲に二種類があり、一は代每に遞減承襲するもの。一は遞減せぬもの。後者の場合は特に上諭中に世襲罔替と明記するのを常とする。〔淸會典事例、宗人府、封爵〕經二皇考特旨恩一、有二世襲罔替之旨一。〔淸國行政法汎論、皇族、有爵宗室〕世襲罔替之宗室、一般有爵之室宗、遞次降襲、是爲二定例一、既如二前述一、然此定例外、有下受二世襲罔替之特權一者上、國初懿親有二佐命之勳一、其功績尤顯著者、及昇平之世、盡二忠國家一者、並使二其子孫、永世承襲一。

【世襲財產臺帳】167 セシフザイサンダイチヤウ 嘗ての宗秩寮にあつて、華族の世襲財產、及び之に關する事を記入した臺帳。

【世匠】168 セイシヤウ 當代の政權を執るもの。〔沈約、七賢論〕自二嵇・阮一之外、山・向五人、止是風流器度、不レ爲二世匠所一レ駭。

【世姓】169 セシヤウ 佛俗姓をいふ。〔元亨釋書、一〕釋空海、世姓佐伯氏、讚州多度郡人。

【世昌】170 セイシヤウ 字號。㊀宋、朱京(**6**—**14424**・・252)の字。㊁宋、杜衍(**6**—**14477**・・21)の字。㊂宋、彭興宗(**4**—**10003**・・148)の字。㊃宋、欒崇吉(**6**—**15947**・・28)の字。㊄明、姚福(**3**—**6202**・・105)の字。㊅明、王越(**7**—**20823**・・72)の字。

【世將】171 セイシヤウ ㊀世間普通の大將。〔尉繚子、制談〕古者士有二什伍一、車有二偏列一、鼓鳴旗麾、先登者、未三嘗非二多力國士一也、先死者、亦未三嘗非二

多力國士一也、損レ敵一人、而損レ我百人、此資レ敵而傷レ我甚焉、世將不レ能レ禁。❷晉、王廙(7－20823‥8)の字。

【世賞】172 セイシャウ 晉、陶延(11－41705‥19)の字。

【世上】173 セジャウ よの中。このよ。世間。〔戰國、秦策〕人生二世上一、勢位富厚。〔陶潛、擬古詩〕厭レ聞二世上語一。

【世上風波老不レ禁】174 セジャウノフウハオイテキンゼズ 世の荒い波風は、老の身にも容赦なく吹いてくる。〔白居易、戊申歲暮詠懷詩〕人間禍福愚難レ料、世上風波老不レ禁。

【世情】175 セイジャウ セジャウ 世間の實情。世態人情。又、俗世間の趣。〔鄭常、寄二刑逸人一詩〕羨君無二外事一、日與二世情一違。〔元稹、寄二樂天一詩〕世情誰是舊雷陳。

【世爵】176 セイシャク 代々傳襲する爵位。清朝では公・侯・伯・子・男の五等爵と、輕車都尉・騎都尉・雲騎尉・恩騎尉との四つ。〔淸會典事例、宗人府、封爵〕軍功世爵世職嫡派子孫、既世襲罔レ替。

【世主】177 セイシュ 時の君主。人君をいふ。〔莊子、漁父〕上以忠二於世主一。〔史記、孟軻傳〕干二世主一。〔淮南子、主術訓〕世主莫二之能察一。〔後漢書、何敞傳〕歷二觀世主時臣一、無レ不四各欲三爲レ化垂二之無窮一。

【世主天】178 セシュテン 佛❶梵天の異名。世界主(29)を見よ。〔玄應音義〕世主天、是梵天之異名也。❷大自在天の異名。〔唯識述記〕世主卽是大自在天、爲二世間主一。

【世守】179 セイシュ 祖先代々守り來る。〔孟子、梁惠王下〕世守也、非三身之所二能爲一也。

【世儒】180 セイジュ ❶輕薄な世間にもてはやされる俗な儒者。〔史記、律書〕世儒闇二於大道一、不レ權二輕重一。〔曹植、贈二丁翼一詩〕君子通二大道一、無レ願レ爲二世儒一。❷世間の學者。〔柳宗元、唐故給事中皇太子侍讀陸文通先生墓表〕門人世儒、是以增慟。❸字號。㋑晉、王彬(7－20823‥915)の字。㋺明、劉士儒(2－2224‥950)の一名。

【世叔】181 セイシュク ❶父の兄弟。伯父・叔父のこと。世は伯に同じ。〔爾雅、釋親〕父之晜弟、先生爲二世父一、後生爲二叔父一。〔白虎通、三綱六紀〕父之昆弟不レ倶、謂二之世叔一。❷學者間で、太老師の子をいふ。〔詞林典故〕翰林於二太老師之子一、稱二世叔一。❸複姓。〔路史〕鄭衞公族、並有二世叔氏一。❹$shih^4$ shu^2 代々交際せる間柄の父の友で、父より年下の者の稱呼。❺春秋鄭、游吉(7－17792‥67)をいふ。❻後漢、應奉(4－11330‥219)の字。

【世雋】182 セイシュン 隋、郭儁(11－39474‥122)の一名。

【世準】183 セイジュン 世のてほん。世の標準。〔柳宗元、塗山銘序〕當レ位作レ聖、著爲二世準一。

【世詢】184 セイジュン 梁、蕭紀(9－32012‥62)の字。

【世繩】185 セイジョウ よのかかづらひ。世の係累。〔魏志、陳思王植傳、注〕羈二絆於世繩一。

【世職】186 セイショク 世襲の職。〔宋史、范純仁傳〕純仁知二慶州一、過レ闕入對、神宗曰、卿父在レ慶、著二威名一、今可レ謂二世職一。〔淸國行政法汎論、武官、世職〕凡有二世爵一者、世二襲武職一、固爲二當然一、此外又有下因二特別理由一、世二襲武職一者上、總二稱之一曰二世職一。

【世心】187 ヨゴコロ 男女の情を解する心。色氣。色情。〔伊勢物語〕世心つける女。

【世心地】188 ヨゴコチ ❶よの中に住んでゐる心地。❷多くの世人の惱まされる病氣。流行病。〔撰集抄、七〕其の里に、世ごこちおびただしくはやりて。

【世臣】189 セイシン ❶代々國家に功ある家臣。又、譜代の臣。〔禮、曲禮下〕大夫不レ名二世臣姪婦一。〔孟子、梁惠王下〕所謂故國者、非レ謂下有二喬木一之謂上也、有二世臣一之謂也。〔孔叢子、論書〕盤庚擧二其事一、以厲二其世臣一。〔後漢書、蔡邕傳〕世臣門子替御之族。❷字號。㋑明、戚勳(5－11594‥15)の字。㋺明、張元勳(4－9812‥1006)の字。

【世箴】190 セイシン 世の中のいましめ。〔元結、二風詩、亂風・至荒〕此心敢正亡、王永爲二世箴一。

【世親】191 セイシン ❶父子代々親しい間柄に在ること。〔潘岳、懷舊賦〕隆二世親之愛一。〔注〕銑曰、謂二子父各相友、代代相親愛一。❷佛 セシン 人名。梵名は Vasubandhu 婆藪槃豆。世親は譯名。佛滅後九百年にして、印度阿踰陀國に生れ、倶舍論・唯識論など千餘部を作る。〔世親傳〕。

【世人】192 セジン ❶世間の人。世の中の人。〔新語、術事〕世人莫レ覩二其兆一。〔漢書、劉向傳〕世人莫レ見、更生父德、武帝時、治二淮南獄一得二其書一。〔李白、玉壺吟〕世人不レ識東方朔。〔雍陶、峽中行〕楚客莫レ言山勢險、世人心更險二於山一。❷佛 セニン 出世間の人に對する俗人。〔無量壽經、下〕世人不レ信二作レ善得レ善、爲レ道得レ道。

【世人結レ交須二黃金一】193 セジンマジハリヲムスブニワウゴンヲモチフ 世間の人は金錢を用ひ、慾得で交際を結ぶ。〔張謂、題二長安主人壁一詩〕世人結レ交須二黃金一、黃金不レ多交不レ深、縱令然諾暫相許、終是悠悠行路心。

【世仁】194 セイジン 後魏、元繼(1－1340‥176)の字。

【世衰】195 ヨオトロフ 天子微弱、諸侯放恣にして、爲に政治の振はなくなること。〔孟子、滕文公下〕世衰道微、邪說暴行有作。

【世世】196 セイセイ ヨヨ よよ。だいだい。〔書、微子〕世世享レ德。〔禮、檀弓下〕世世萬子孫毋レ變也。〔左氏、僖、二十六〕世世子孫、無二相害一也。〔墨子、天志下〕是以攻伐世世而不レ已者。〔史記、酈商傳〕與二諸侯一剖レ符、世世勿レ絕。

【世世子】197 ヨヨノコ 代々の子孫。〔公羊、僖、五〕世子、猶二世世子一也。

【世世祖】198 ヨヨノソ 代々の祖先。〔儀禮、喪服傳〕若二公子之子孫一、有下封爲二國君一者上、則世世祖、是人也。

【世世生生】199 セセシャウジャウ 佛現世にも來世にも。生れ代る每に。生生世世。〔心地觀經、三〕或爲二父母一、或爲二男女一、世世生生、互有レ恩。

【世世守レ之】200 ヨヨコレヲマモル 代々守る。〔史記、陳杞世家〕舜重レ之以二明德一、至二於遂一、世世守レ之。

【世成】201 セイセイ 宋、黃文晟(12－47926‥1310)の字。

【世盛】202 ヨザカリ ❶榮華を極めること。全盛。〔平家物語、一、禿童事〕此の禪門世盛りの程は、聊ゆるがせに申す者なし。❷若盛り。〔源平盛衰記、四十四、癩人法師口說言事〕入道殿世盛りにて失せられぬ。

【世誠】203 セイセイ 梁、元帝(1－1340‥450)の字。

【世笑】204 セイセウ 世間の物わらひ。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一〕三夫不レ寤、終爲二世笑一。

【世戚】205 セイセキ 親戚。外戚。〔後漢書、酷吏、陽球傳〕案、松覽等、皆出二於微蔑一、斗筲小人、依二憑世戚一、附二託權豪一。

【世戚傳】206 セイセキデン 金史の傳の名。金室の外戚を記したもの。〔金史、世戚傳序〕金昭祖娶二徒單氏一、后妃之族、自レ此始見、世祖時、烏春爲レ難、世祖欲三求レ昏以結二其驩心一、烏春曰、女直與二胡里改一、豈可レ爲レ昏、世宗時賜二夾谷淸臣族一、同國人淸臣、胡里改人也、然則四十七部之中、亦有下不レ通二昏因一者上矣、其故則莫二能詰一也、有二國家一者、昏因有二恆族一、能使二風氣淳固、親義不一レ渝、而貴賤等威有レ別焉、蓋良法也歟、作二世戚傳一。

【世碩】207 セイセキ 春秋、陳の人。一說に、周の人といふ。人の性に善と惡とありと主張す。孔門七十子の弟子。著に世子二十一篇がある。〔漢書、藝文志、世子、注〕名碩、陳人也、七十子之弟子。〔論衡、本性〕周人世碩、以爲、人性有レ善有レ惡、擧二人之善性一、養而致レ之、則善長、性惡養而致レ之、則惡長。

【世績】208 セイセキ 明、儲懋(1－1284‥64)の字。

【世說】209 セイセツ ❶世のうはさ。〔荀子、正論〕世俗之爲レ說者。❷セセツ 書名。世說新語を見よ。

【世說新語】210 セセツシンゴ 書名。三卷。南朝宋、臨川王劉義慶撰。後漢から東晉までの逸事瑣語を取つて三十六門に分つ。世說の名は漢の劉向に始まつたが、其の書は亡びて傳はらぬ。義慶は其の名を取つて世說といひ、向の舊著に對して、新書といつたが、後人は更に改めて新語と名付けた。劉孝標が注してから後、注する者が多い。其の目は左の通りである。德行・言語・政事・文學・方正・雅量・識鑒・賞譽・品藻・規箴・捷悟・夙惠・豪爽・容止・自新・企羨・傷逝・棲逸・賢媛・術解・巧藝・寵禮・任誕・簡傲・排調・輕詆・假譎・黜免・儉嗇・汰侈・忿狷・讒險・尤悔・紕漏・惑溺・仇隙。〔四庫提要、子、小說家類〕。

〔參考書〕【世說新語】四卷明、何良俊撰。【世說新語】八卷明、李紹文撰。【世說新語】三卷梁、劉峻注。【世說鈔撮】四卷釋顯常撰。【世說筆解】四冊卷數未定、野村公臺撰。

【世節】211 セイセツ 明、孫艾(3－6987‥27)の字。

【世仙】212 セセン 佛世間の仙人。〔演密鈔、六〕世仙卽是成二就世間長年隱形自在一之者。〔性靈集、便

蒙、一〕説二世仙一云云、著二仙家逍遙自得之風一致。

【世染】213 セン　世のけがれ。世の俗事。俗塵。〔穆員、同徳寺會集序〕境捐二世染一、坐對二天涯一。

【世禪】214 ゼンジ　代々、相傳へること。禪は傳授の意。〔後漢書、崔寔傳贊〕世禪雕龍。〔注〕言二鄒奭脩飾之文一、若二雕龍文一也、禪、謂二相傳授一也。

【世胙】215 ソ　代々、報いる。〔左氏、襄、十四〕世胙二大師一、以表二東海一。〔注〕胙、報也、表、顯也、謂下顯二封東海一、以報二大師之功一上也。〔北史、咸陽王禧傳〕禧清明有二惠政一、請世胙二冀州一。

【世祖】216 セイソ　帝王の廟號。一世の祖の義。有功を祖と爲し、有德を宗と爲す。〔後漢書、光武紀〕世祖光武帝。〔注〕禮、祖有功而宗有德、光武中興、故廟稱二世祖一。〔張衡、東京賦〕我世祖忿、之。〔注〕綜曰、世祖、光武也。❶後漢、第一代の光武帝。劉秀(2－2224‥328)を見よ。❷三國魏、第一代の文帝。曹丕(5－14297‥161)を見よ。❸西晉、第一代の武帝。司馬炎(2－3257‥223)を見よ。❹五胡十六國、後燕、慕容垂(4－11088‥64)の廟號。❺五胡十六國、前秦、苻堅(9－30825‥3)の廟號。❻五胡十六國、夏、赫連勃勃(10－37010‥52)の廟號。❼北魏、太武帝。拓跋燾(5－11958‥57)を見よ。❽南朝宋、第四代の武帝。劉駿(2－2224‥368)を見よ。❾南齊、第二代の武帝。蕭賾(9－32012‥133)を見よ。❿梁、第二代の元帝。蕭繹(9－32012‥19)を見よ。⓫北齊、第六代の武成帝。高湛(12－45313‥638)を見よ。⓬陳、第二代の文帝。陳蒨(11－41698‥413)を見よ。⓭五代漢、劉旻(2－2224‥570)の廟號。⓮金、完顏劾里鉢(3－7079‥146)の廟號。⓯元、第一代の皇帝。忽必烈(4－10405‥47)を見よ。⓰清、第三代の章帝。清世祖(7－17695‥881)を見よ。⓱朝鮮李朝、第七代の王。諱は珠、字は粹之、世宗の第二子。在位十四年、五十二を以て薨ず。⓲現安南王の始祖。姓は阮、名は福映、又は映。阮福映(11－41569‥76)を見よ。

【世祖武帝】217 セイソブテイ　南齊、蕭賾(9－32012‥133)の廟諡號。

【世祖文帝】218 セイソブンテイ　陳、陳蒨(11－41698‥413)の廟諡號。

【世祖孝元帝】219 セイソカウゲンテイ　梁、蕭繹(9－32012‥19)の廟諡號。

【世祖孝武帝】220 セイソカウブテイ　南朝宋、劉駿(2－2224‥368)の廟諡號。

【世祖太武帝】221 セイソタイブテイ　北魏、拓跋燾(5－11958‥57)の廟諡號。

【世祖武成帝】222 セイソブセイテイ　北齊、高湛(12－45313‥638)の廟諡號。

【世祖章皇帝聖訓】223 セイソシヤウクワウテイセイクン　書名。六卷。清、聖祖康熙帝編。世祖の聖訓凡そ一百十三則を收め、三十二目に分つ。乾隆四年、皇上御製の序文を刊刻して頒行す。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【世祚】224 ソ　代々の位。〔後漢書、盧植傳〕比世祚不レ競、仍外求レ嗣、可レ謂レ危矣。

【世宗】225 セイソウ　帝王の廟號。一世の宗の意。有功を祖と爲すに對し、有德を宗と爲す。❶前漢、第五代の武帝。劉徹(2－2224‥521)を見よ。❷晉、司馬師(2－3257‥264)の廟號。❸五胡十六國、前秦、苻健(9－30825‥2)の廟號。❹後魏、第七代の宣武帝。元恪(1－1340‥90)を見よ。❺北齊、第二代の文襄帝。高澄(12－45313‥670)を見よ。❻北周、第三代の明帝。宇文毓(3－7067‥36)を見よ。❼遼の第三世。耶律阮(11－39137‥52)を見よ。❽五代周の第二世。柴榮(6－14664‥3)を見よ。❾金の第五世。完顏雍(3－7079‥43)を見よ。❿明、第二代の肅帝。朱厚熜(6－14424‥773)を見よ。⓫清、第五代の憲帝。清世宗(7－17695‥883)を見よ。⓬朝鮮李朝第四世、李祹。⓭安南黎朝、第十四代の王。英宗の第五子。名は維潭。洪福二年、鄭松に擁立され、僅か七歳を以て卽位。嘉泰と年號した。時に鄭松專横を極め、英宗を弑逆し、黎室は唯虛器を遺存したに止まる。〔欽定越史通鑑綱目、二十九・三十〕。

【世宗廟】226 セイソウベウ　郡縣廟の一。漢の宣帝の本始二年、父、孝武帝の廟を郡縣に建てさせたもの。郡縣廟に尊號を加へた最初である。〔漢書、宣帝紀〕六月庚午、尊二孝武廟一爲二世宗廟一、奏二盛德文始五行之舞一。

【世宗明帝】227 セイソウメイテイ　北周、宇文毓(3－7067‥36)の廟諡號。

【世宗宣武帝】228 セイソウセンブテイ　後魏、元恪(1－1340‥90)の廟諡號。

【世宗文襄帝】229 セイソウブンジヤウテイ　北齊、高澄(12－45313‥670)の廟諡號。

【世宗孝武皇帝】230 セイソウカウブクワウテイ　安南廣南朝、第八帝、阮福溫の廟諡號。

【世宗憲皇帝聖訓】231 セイソウケンクワウテイセイクン　書名。三十六卷。乾隆五年敕修。清の世宗の聖訓九百十六則を收め、三十類に分つ。宮庭の謨誥は、多く之から出る。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【世宗憲皇帝文集】232 セイソウケンクワウテイブンシフ　書名。三十卷。清、世宗憲皇帝御集。文は二十卷、十二體に分つ。詩は十卷。前三卷は雍邸集といひ、康熙辛丑以前の作を集め、後七卷は四宜堂集といひ、雍正癸卯以後の作を集めてゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【世宗憲皇帝硃批諭旨】233 セイソウケンクワウテイシユヒユヰン　書名。三百六十卷、清制では內外の奏章は悉く皇帝から親しく硃筆を以て批示し、特降の旨も亦多く硃筆を用ひて、帝の親筆たるを明かにした。世宗は摺奏尤も勤め、批する所卽ち數千言になつたのを、雍正十年に勅を奉じて校刊し、乾隆三年に完成し、之を雍正硃批諭旨といつた。載する所の臣工奏摺、凡そ二百二十三人。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【世則】234 セイソク　❶世々守るべき法則。〔中庸〕世爲二天下一則。❷字號。㋑後魏、鄺範(11－39753‥12)の字。㋺宋、龔愼儀(12－48837‥77)の字。㋩宋、雷度(12－42245‥116)の字。

【世俗】235 ゼゾク　❶世の中。世間。〔戰國、趙策〕子言、世俗之間。〔墨子、魯問〕世俗之君子。❷俗世のならはし。通俗。〔孟子、梁惠王下〕寡人非二能好一先王之樂一也、直好二世俗之樂一耳。❸世間の風俗。〔史記、循吏傳〕上下和合、世俗盛美。〔淮南子、脩務訓〕世俗廢衰、而非二學者多一。❹世間の人。世人。〔莊子、天下〕與二世俗一處。〔楚辭、離騷〕非二世俗之所一服。〔史記、武帝紀〕其所レ語、世俗之所レ知也。❺㑹假に有ると立てられたもの。吾人の經驗するもの。勝義(2－2409‥15)の對。〔俱舍論、二十二〕施設有故、名二世俗一。〔唯識述記、一〕世、謂二覆障可一レ毀壞一義、俗、謂二顯現隨一レ流義一。

【世俗智】236 セゾクチ　㑹❶世俗凡夫の智。❷世間の俗事を知る智。凡俗・聖者に通じていふ。〔俱舍論、二十六〕謂二世俗智一、法智・類智、前有漏智總名二世俗一、多取二瓶等世俗境一故。

【世俗之儥】237 セゾクノアキウド　世間じみたつぐなひ。〔莊子、徐無鬼〕今也然有二世俗之儥一焉。

【世俗所謂不孝者五】238 セゾクノイハユルフカウナルモノアリ　世上で言ふところの不孝に五通りある。一に四肢を惰り父母の養を顧みず、二に博奕飲酒して父母の養を顧みず、三に貨財を好み妻子に私して父母の養を顧みず、四に耳目の欲を縱ままにして父母を辱かしめ、五に人と無鬪に爭つて父母を危くする。〔孟子、離婁下〕孟子曰、世俗所謂不孝者、五、惰二其四支一、不レ顧二父母之養一、二不孝也、博奕好二飮酒一、不レ顧二父母之養一、三不孝也、好二貨財一、私二妻子一、不レ顧二父母之養一、四不孝也、好レ勇鬪很、以危二父母一、五不孝也。

【世族】239 セゾク　世祿を食む家。世家(22)の❶に同じ。〔列子、黃帝〕子革之門徒、皆世族也。〔魏志、文德郭皇后紀〕必取二先代世族之家一。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕昭哉世族。

【世尊】240 セソン　㑹❶佛の尊號。佛の十號の一。三世十方世界中の尊いものの意。梵語の Lokanātha 路迦那他、又 Bhagavat 薄伽婆の譯。釋迦をいふ。〔淨影大經疏〕佛具二衆德一、爲二世欽仰一、故號二世尊一。〔成實論、一〕如此九種功德具足、於二三世十方世界中一尊、故名二世尊一。❷毘盧遮那如來などの如き、釋迦以外の他の佛をいふ。〔大日經、一〕摩訶毘盧遮那世尊、告二金剛手一言。

【世尊指地】241 セソンシヂ　㑹禪家の公案。佛が一地を指して、ここに寺を建てよと命じたところが、賢首長者は標をそこに插して、刹を建て已はんぬと答へたといふ故事。〔五燈會元、世尊章〕。

【世尊寺流】242 セソンジリウ　書道の流派。藤原伊尹の家を世尊寺といつたことから、其の一門の行成の書風を世尊寺流といふ。

【世尊初生】243 セソンショジョウ 佛禪家の公案。佛が始めて生れたとき、一手は天を指し、一手は地を指し、七歩めぐり歩き、天上天下唯我獨尊といったといふ故事。〔五燈會元、雲門章〕。

【世尊大恩】244 セソンダイオン 佛佛が衆生を開悟に導く大恩。〔法華經、信解品〕世尊大恩、以ニ希有事一憐ニ愍教ニ化利一益我等一。

【世尊拈華迦葉微笑】245 セソンネンゲカショウ 佛、以心傳心の妙處をいふ。釋迦が蓮華を拈れつて衆に示したのに、衆人は解し得なかつたが、弟子の迦葉は此の意を悟つて微笑したので、教外の別傳を迦葉に授けたといふ故事。〔聯燈會要、釋迦牟尼佛章〕世尊在ニ靈山會上一拈ニ華示一衆、是時衆皆寂然、惟迦葉尊者、破顏微笑、世尊云、吾有ニ正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法門、不立文字、教外別傳、付ニ囑摩訶迦葉一。

【世帶】246 セタイ ❶身に帶びる所の物。財產。所帶。❷家を持つて生活してゆくこと。所帶。生計。家計。〔狂言記、箕潛〕世帶を營むすきずきに。❸同一家庭に在つて共同生活を營む狀態をいふ。〔國勢調査施行令〕。

【世帶道具】247 セタイドウグ 世帶をもつに必要な道具の總稱。所帶道具(5－11715‥81)に同じ。

【世態】248 セタイ 世の中のありさま。世相。世情。〔羅隱、謝ニ江都鄭長官一啓〕因ニ循世態一、放ニ蕩宦游一。〔鄭谷、送ニ進士韋序赴ニ舉詩一〕波浪不レ能レ成ニ世態一、鸞鳳應レ得レ入ニ吾曹一。

【世態炎涼】249 セイタイノエンリョウ 世態の盛衰。人情の反覆。〔故事成語考、歲時〕可レ厭者、世態炎涼。

【世諦】250 セタイ 佛世俗の道理。世俗諦。俗諦。勝義諦(2－2409‥15)の對。〔仁王經、上〕世諦、幻化起。〔日本政記、清和天皇〕貞觀四年夏四月、薦ニ辨官一、云云、及凡諸僧綱曾經ニ八省講師一、通ニ熟世諦一者上。

【世代】251 セイダイ よ。又、よよ。代々。〔左氏、襄、二十四〕大上有ニ立德一、其次有ニ立功一、其次有ニ立言一、疏〕此三者、雖レ經ニ世代一、當不ニ朽腐一。〔漢書、外戚恩澤侯表〕世代雖レ殊、其揆一也。〔魏志、楊阜傳〕世代之初、所ニ以明赫一、及季世所ニ以衰弱一、至ニ於泯滅一。

【世代交番】252 セダイコウバン 生物學上同一種の生物で、無性生殖と有性生殖とが交替に連續して表はれる現象。世代交換。世代交代。世代變換。

【世代書香】253 shih⁴ tai⁴ shu¹ hsiang¹ 代々學者の家柄。昔からの學問の家柄。

【世臺】254 shih⁴ t'ai² 數代前から交際した懇意の人に對する敬稱。老世臺(9－28842‥509)に同じ。

【世道】255 セイダウ ❶世の中の道。〔列子、楊朱〕不レ知ニ世道之安危一。〔李白、古風詩〕世道日交喪、澆風散ニ淳源一。❷晉、傅暢(1－939‥93)の字。

【世道人心】256 セダウジンシン 世の道と人の心。風教。〔清高宗、乾隆二十七年諭〕歷代流傳舊書內、有下闡ニ明性學治法一、關ニ繫世道人心一者上、自當ニ首先購覓一。

【世澤】257 セイタク 祖先の遺澤。餘澤。遺蔭。〔孟子、離婁下〕君子之澤、五世而斬。

【世澤堂】258 セイタクドウ 清、張照(4－9812‥473)の室名。

【世澤樓】259 セイタクロウ 清、胡培翬(9－29400‥595)の室名。

【世達】260 セイタツ 梁、蕭特(9－32012‥231)の字。

【世短】261 セイタン 人世の短いこと。〔班固、幽通賦〕道脩長而世短。〔注〕善曰、天道長遠、人世促短。

【世短意多】262 ヨミジカクオホシ 人の生涯は短いのに、憂る所は極めて多い。〔鶴林玉露、天、世短意多〕古詩云、人生不レ滿レ百、常懷ニ千歲憂一、而淵明以ニ五字一盡ニ之一、曰、世短意常多、是也、東坡云、意長日月促、則倒ニ轉陶句一爾。

【世男】263 セイダン 清、佟世南(1－522‥17)の別名。

【世談】264 セイダン 世間話。世話。

【世治】265 セイチ 治世。太平の世。〔韓非子、有度〕古者世治之民、奉ニ公法一、廢ニ私術一。

【世治則禮詳】266 ヨヲサマレバレイツマビラカナリ 世の中が治まると禮儀がととのふ。〔魏志、袁渙傳〕世治則禮詳、世亂則禮簡。

【世智】267 セチ ❶佛世間なみのちゑ。〔維摩經〕世智辨慧。❷世わたりのちゑ。世に處する才。世才。俗才。〔永代藏、二、世界の借屋大將〕親の世智なる事を見習ひ。

【世智辛】268 セチガラシ 世渡りの困難なこと。又、利害打算にたけてゐること。〔吉原雜話、三〕近年は人の心せちがらくなりてより。

【世智辨】269 セベン ❶吝嗇な人を賤めていふ語。〔下學集、下〕世智辨。❷世智辨聰の略。

【世智辨聰】270 セチベンソウ 佛八難の一。外道の書物に耽つて、出世の正法を信じ得ないもの。〔人天眼目〕世智辨聰、不レ要ニ拈出一。

【世智辨囊】271 セチベンノウ 昔時、旅行者の刀の柄袋の頭にかけた小さい袋。物を惜しむ結果なので、此の名がある。

【世智辨坊】272 セチベンバウ 吝嗇な人を賤しめていふ語。〔宗長手記、大永三年〕心みなせちべんばうや文殊院。

【世胄】273 セイチウ ❶世々祿を受け繼ぐ家。又、其のあとつぎ。世家。〔晉書、顧榮紀瞻等傳論〕南金東箭、世胄高門。〔左思、詠史詩〕世胄躡ニ高位一、英俊沈ニ下僚一。〔梁書、武帝紀上〕諸君咸世胄。〔徐陵、報ニ尹義尚一書〕三秦世胄、六輔良家。❷北齊、元韶(1－1340‥377)の字。

【世長】274 セイチャウ 字號。❶晉、潘京(7－18236‥26)の字。❷宋、李繼昌(6－14459‥1113)の字。

【世中】275 セチュウ 世間をいふ。〔論語、里仁〕有ニ能一日用ニ其力於仁一矣乎、皇疏〕世中蓋亦當レ有ニ一日行レ仁者。

【世沖】276 セイチウ 隋、韋沖(12－43108‥113)の字。

【世忠】277 セイチュウ ❶代々の忠義。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕朕深嘉ニ汝世忠一。❷子號。㋑梁、袁君正(10－34152‥183)の字。㋺明、鄒良佐(11－39570‥13)の字。㋩明、萬武(9－31339‥440)の字。

【世忠堂】278 セイチュウドウ 清、鄒鳴鶴(11－39562‥124)の室名。

【世重】279 セイヂウ 明、郭楠(11－39474‥183)の字。

【世屯】280 セイチュン 世の艱難。屯は難の意。〔謝靈運、述ニ祖德一詩〕委ニ講綴一、道論ニ改服康一、世屯ニ〔注〕翰曰、屯、難也。

【世寵】281 セイチョウ 代々の恩寵。〔蜀志、劉備傳〕皆馮ニ世寵一、藉ニ履國權一、窮ニ凶極レ亂、社稷幾危。

【世珍】282 セイチン 字號。❶後魏、竇瑗(8－25695‥6)の字。❷後魏、王瓊(7－20823‥329)の字。❸北周、韋瑱(12－43108‥123)の字。

【世塵】283 セジン 世の中のうるさきを塵に喩へていふ。世の俗事。塵事。〔江淹、雜體、嵇中散言志詩〕曰余不ニ師訓一、潛レ志去ニ世塵一。

【世通】284 セイツウ 南朝宋、郭世道(11－39474‥348)の一名。

【世程】285 セイテイ 世の中の方式。〔張說、五君詠〕百事貪ニ朝問一、三章廣ニ世程一。〔王惲、御レ驟出レ廄圖詩〕萬古爲ニ世程一。

【世調】286 セイテウ 字號。❶梁、蕭綸(9－32012‥277)の字。❷明、張鼐、華亭の人(4－9812‥522)の字。❸清、湯之錡(7－17874‥172)の字。

【世嫡】287 セイテキ 親の家を嗣ぐべき男子。嫡嗣。冢嫡。〔漢書、成帝紀〕爲ニ世嫡皇孫一。〔北史、李彪傳〕恢ニ崇儒術一、以訓ニ世嫡一。

【世哲】288 セイテツ ❶すぐれた人。皇太子をいふ。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕思ニ皇世哲一、體レ元作レ嗣。〔注〕銑曰、皇、美也、世哲、謂ニ太子一也。❷代々の哲王。代々のすぐれた帝王。〔顏延之、應レ詔讌ニ曲水一作詩〕祚融ニ世哲一、業光ニ列聖一。〔注〕善曰、毛詩曰、世有ニ哲王一。

【世典】289 セイテン ❶世間に傳はる典籍。〔後漢書、列女傳序〕世典咸漏焉。❷世間に行はれるのり。〔景德傳燈錄、四、第一世法融禪師〕儒道世典、非ニ究竟法一。❸佛セテン ㋑佛教以外の書。特に婆羅門の書。〔長阿含、十五〕異學三部諷誦通利、種種經書盡能分別、世典幽微靡レ不ニ綜練一。〔維摩經、方便品〕雖ニ明ニ世典一、常樂ニ佛法一。㋺博覽多識の婆羅門の名。〔增一阿含、八〕爾時、世典婆羅門、云云、云何諸君、此中頗有ニ沙門、婆羅門、及世俗人、能與ニ吾共論議一乎。〔法苑珠林〕有ニ婆羅門、名曰ニ梵天一、亦名ニ世典一、博ニ覽墳籍、圖書祕讖、天文地理、無レ不ニ關練一、故名ニ世典一。

【世傳】290 セイデン ❶世々相傳へる。〔莊子、天下〕舊法世傳之史、尙多有レ之。〔後漢書、桓郁傳〕子普嗣傳レ爵、至ニ曾孫一、郁中子焉、能世傳ニ其家學一。❷代々の系圖。〔史記、匈奴傳〕其世傳、不レ可ニ得而次一云。

【世傳御料】291 セイデンゴリョウ 皇室御所有の土地・物件で、世々相傳へ、分割讓與することを許さない

もの。〔皇至典範、第四十五・四十六條〕

【世途】292 セイト 世の中。世に處する道。世渡りに險夷のあることを道路に比していふ。世塗。世路。〔李白、古風詩〕世途多二飜覆一、交道方嶮巇。

【世塗】293 セイト 世途に同じ。〔魏氏春秋〕委二身世塗一。

【世統】294 セイトウ 代々うけついで來た血すぢ。先祖代々。〔宋書、禮志三〕尊二祀世統一、以昭二功德一。

【世同】295 セイドウ 晉、康帝(4－9376‥117)の字。

【世得】296 セイトク 清、李鍾倫(6－14459‥1504)の字。

【世德】297 セイトク ❶父祖以來代々の積德。〔詩、大雅、下武〕王配二于京一、世德作レ求。〔箋〕以二其世世積德一、庶レ爲二終成一其大功一。〔陸機、文賦〕詠二世德之駿烈一、誦二先人之清芬一。❷字號。㋑宋、陳光祖(11－41698‥764)の字。㋺元、傒列箴(1－893‥4)の字。㋩明、高胤先(12－45313‥1049)の字。

【世德堂】298 セイトクダウ 清、王鉞(7－20823‥73)の室名。

【世南】299 セイナン 清、陳邦彥(11－41698‥1183)の字。

【世難】300 セイナン 世の亂離。〔吳志、妃嬪、權步夫人傳〕朕以二世難未一レ夷、大統未一レ一。〔盧綸、長安春望詩〕誰念爲レ儒逢二世難一、獨將二衰髮一客二秦關一。

【世寧】301 セイネイ 北齊、竇泰(8－25695‥41)の字。

【世年】302 セイネン 世代や年月。としつき。年月。〔隋書、北狄、突厥傳〕多歷二世年一。

【世念】303 セイネン 名利を求める心。俗念。〔陸游、夜雨思二括蒼遊一詩〕道心退惰如二風鷁一、世念堅彊似二火牛一。

【世沛】304 セイハイ 清、周世臣(2－3441‥731)の本名。

【世方】305 セイハウ 三國吳、虞忠(9－32723‥120)の字。

【世枋】306 セイハウ 清、陸棻(11－41708‥136)の原名。

【世寶】307 セイハウ 代々の寶。〔魏志、張猗傳〕實有二魏之祖命一、東序之世寶一。

【世伯】308 セイハク ❶後魏、程駿(8－25081‥31)の字。❷shì² pò² 代々交際せる間柄の父の友人で、父より年長者をいふ。

【世法】309 セイホフ 俗世間のならはし。〔黃庭堅、書贈二俞清老一〕米蔽元章、冠帶衣襦、多不レ用二世法一。〔勝鬘經、大悲安二慰衆生一、爲二世法母一。〔唐華嚴經、二〕佛觀二世法一、如二光影一。

【世範】310 セイハン ❶代々の模範。世の手本。〔任昉、王文憲集序〕永貽二世範一。❷書名。三卷。宋、袁采著。睦親・處己・治家の三門に分け、立身處世の道を反覆詳述す。一名、袁氏世範。〔四庫提要〕

【世武】321 セイブ 北周、史雄(2－3249‥155)の字。

【世風】322 セイフウ 世間の風俗。

【世復】323 セイフク 宋、魏必昌(12－45872‥275)の字。

【世福】324 セイフク 儷觀無量壽經の三福の一つ。忠孝仁義を行つて、人天の福果を感じるもの。〔觀無量壽經、觀經散善義〕。

【世物】325 セブツ 世を經た古い物。〔權德輿、寄二侍御從舅一詩〕世物自多レ故、達人心不レ羈。

【世芬】326 セイフン 明、方一桂(5－13620‥481)の字。

【世紛】327 セイフン 世の中のもつれ。うき世のごたごた。〔後漢書、班固傳贊〕彪識二皇命一、固迷二世紛一。〔顏延之、陶徵士誄序〕解二體世紛一、結二志區外一。

【世雰】328 セイフン 世の中の煩はしさ。〔白居易、和レ送二劉道士遊一天台一詩〕輕擧超二世雰一。

【世黃】329 セイフン 清、李鍾旺(6－14459‥1505)の字。

【世文】330 セイブン 字號。❶隋、韋藝(12－43108‥39)の字。❷隋、李德饒(6－14459‥1827)の字。❸成漢、李班(6－14459‥669)の字。❹明、張綏(4－9812‥72)の字。

【世平】331 セイヘイ 明、徐昇泰(4－10110‥499)の字。

【世兵】332 セイヘイ 鶺冠子の篇名。

【世表】333 セイヘウ ❶世次を記した表。史記には黃帝以下、周の共和の世に至るまでを敍した三代世表があり、唐書には宰相世系表がある。〔史記、三代世表序〕於レ是以五帝繫諜・尚書集二世紀一、黃帝以來訖二共和一爲二世表一。❷浮世の外。〔陸機、歎逝賦〕精浮神淪、忽在二世表一。❸世の模範。〔北史、盧昌衡傳〕德爲二世表一、行爲二士則一。

【世標】334 セイヘウ 世の手本。世間の模範。世範。〔江淹、齊故司徒右長史檀超墓銘〕君實淵哉、行爲二世標一。「信二景鑠一、揚二世廟一、正二雅樂一。

【世廟】335 セイベウ 高祖の廟。〔班固、東都賦〕鋪二鴻藻一。

【世辟】336 セイヘキ 世々の君。辟はきみ。〔史記、樂書〕封君世辟、名顯二鄰州一。

【世變】337 セイヘン 世の中が變化すること。世事の變遷。又、世に起つた變事。〔書、畢命〕既歷二三紀一、世變風移、四方無レ虞。〔淮南子、人間訓〕知二仁義一而不レ知二世變一者也。

【世青】338 セイセイ 明、胡纘宗(9－29400‥473)の字。

【世輔】339 セイホ 後魏、陽弼(11－41725‥219)の字。

【世母】340 セイボ 伯母。父の兄の妻。をば。世父(317)を見よ。〔爾雅、釋親〕父之兄妻曰二世母一。〔禮、曾子問〕父母不レ在、則稱二伯父世母一。

【世模】341 セイボ 世の手本。世範。〔謝靈運、山居賦〕國史以載二前紀一、家傳以申二世模一。〔柳宗元、箕子碑〕時詘而伸、卒爲二世模一。

【世懋】342 セイボウ ❶明、林士敏(6－14551‥331)の名。❷明、謝績(10－35827‥146)の字。

【世僕】343 セイボク 安徽省寧國地方で特殊階級視された一族。清の雍正五年、上諭で解放された。〔清會典事例、戶部、改正戶籍〕近聞、江南徽州府、則有二伴儅一、寧國府則有二世僕一。〔清國行政法汎論、官吏法、當爲二官吏之資格一、備考〕近聞、江南徽州府、則有二伴儅一、寧國府則有二世僕一、本地呼爲二細民一。

【世穆】344 セイボク 隋、韋沈(12－43108‥33)の字。

【世本】345 セイホン 書名。器物の創作者、及び氏姓の出所を記す。〔漢書、司馬遷傳〕によれば、遷は史記の著作に當り、世本を參考したといふから、此の書は多分、秦漢の間の作と想像せられる。〔漢書、藝文志〕に世本十五篇を著錄し、〔隋書、經籍志〕に世本二卷劉向撰、世本四卷宋衷撰を載せ、其の他、顏氏家訓の書證篇、史通の正史篇などにも世本に關する記述があるが、諸書のいふ所は必ずしも一致しない。其の書は久しく佚してゐたが、今日では清の孫馮翼・張澍・秦嘉謨等の輯本、雷學淇の校輯がある。〔槐廬叢書、四〕・〔畿輔叢書、二百五十六〕。

【世網】346 セイマウ 世の中の係累。〔嵇康、答二向子期難養生論一書〕奉レ法循理、不レ絓二世網一。〔陸機、赴洛道中作詩〕世網嬰二吾身一。〔北史、魏彭城王傳〕長嬰二世網一。〔顏氏家訓、雜藝〕値二世網嚴密一。

【世味】347 セイミ うき世のあぢはひ。世のふりあひ。世態人情。〔小學、嘉言〕人須レ是一切世味、淡薄方好。〔陸游、臨安春雨初霽詩〕世味年來薄似レ紗、誰令二騎一馬客二京華一。

【世民】348 ❶代々の民。〔晏子、不合經術者〕嬰則齊之世民也。❷唐、太宗(3－5834‥320)の諱。〔唐書、太宗紀〕太宗文武大聖大廣孝皇帝、諱世民、高祖次子也。

【世務】349 當世の國家社會の爲に爲すべき仕事。時務。又世の累ひ。世累。〔史記、禮書〕明二於世務刑名一。〔漢書、主父偃傳〕上書言二世務一。〔孔叢子、獨治〕陳王郊迎、而執二其手一議二世務一。〔隋書、柳莊傳〕江南人有二學業一者、多不レ習二世務一、習二世務一者、又無二學業一。

【世務罕レ攖】350 榮利の念を捨てた結果、世の累によつて心をみださない。〔李昌齡、樂善錄〕李丞相沅厭二榮利一、世務罕二以攖一レ心。

【世明】351 字號。❶晉、伍朝(1－435‥28)の字。❷晉、侯馥(1－633‥81)の字。❸晉、沈警(6－17189‥138)の字。❹後凉、呂光(2－3386‥48)の字。❺梁、何子朗(1－511‥281)の字。

【世面】352 世の中。世間。〔老殘遊記、十二回〕俺們是鄉下沒見過世面的孩子。

【世門】353 世祿を食む家。世家(22)の❶に同じ。〔十六國春秋〕秦雍之世門。

【世問】354 世間の質問及び期待。〔晉書、夏侯湛傳〕答二世問一、不レ過レ顯レ所レ知、而僕已竭二心思一、盡二才學一。

【世瑜】355 晉、劉超(2－2224‥517)の字。

【世雄】356 ❶字號。㋑北周、陸逞(11－41708‥202)の字。㋺陳、王猛(7－20823‥991)の字。❷佛の異名。佛は世間に於て最も勇猛で、一切の煩惱を除去するからいふ。〔無量壽經、上〕今日世雄、住二佛所住一。〔淨影大經疏〕世雄、佛之異名、佛於二世間一最爲二雄猛一、故曰二世雄一。

【世雄兩足尊】357 佛世雄は佛の異名。兩足尊とは、兩足ある有情中の最も尊いものの意。〔別譯雜阿含、十五〕婆伽婆·世雄·佛陀·兩足尊。

【世譽】358 一世のほまれ。〔莊子、逍遙遊〕舉レ世而譽之。〔南齊書、柳世隆傳〕甚獲二世譽一。

【世用】359 ❶世間の用。又、世務を處理する才能。〔管子、宙合〕世用器械。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕今者絕二世用一、〔北齊書、封隆之傳〕弟延之、少明辨、有二世用一。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕卒死二於窮裔一、材不レ爲二世用一、道不レ行二於時一也。❷字號。㋑宋、喬夢符(2－3990‥88)の字。㋺明、江淵(6－17140‥25)の字。㋩明、高穀(12－45313‥330)の字。㋥明、瞿俊(8－23747‥14)の字。㋭明、余繼登(1－515‥78)の字。

【世容】360 晉、李含(6－14459‥167)の字。

【世庸】361 明、皇甫錄(8－22701‥245)の字。

【世膺】362 唐、呂從慶(2－3386‥214)の字。

【世翼】363 ❶唐、蕭翼(9－32012‥263)の本名。❷梁、蕭象(9－32012‥160)の字。

【世羅】364 ❶世を治める法則。世の紀綱。〔陸機、吳趨行〕大皇自二富春一、矯レ手頓二世羅一。〔注〕善曰、世羅、猶二皇綱一也、言、大皇生レ自二富春一、矯レ手而整二天網一也。❷姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【世來】365 清、李天寵(6－14459‥1801)の字。

【世朗】366 陳、馬明(12－44572‥569)の字。

【世樂】367 ❶靈鳥の名。時樂鳥。〔駢雅、釋鳥〕世樂、靈鳥也。〔太平御覽、羽族部、世樂〕臨海異物志曰、世樂鳥、五色、頭上有レ冠、丹喙赤足、有レ道則見。〔三才圖會、鳥獸〕世樂鳥、按、南方異物志、有二時樂鳥一、卽世樂也、此鳥本南海貢來、與二鸚鵡一狀同、而毛尾全異、其心聰性辯、護レ主扳レ主、尤非二凡禽一、臨海山、有二世樂鳥一、其狀五色、丹喙赤首有レ冠、王者有二明德一、天下太平、則見。❷北周、侯莫陳瓊(1－633‥147)の字。

世樂鳥（三才圖會）

【世亂】368 世の中の亂れ。〔鮑照、出自二薊北門一行〕時危見二臣節一、世亂識二忠良一。〔杜甫、奉レ送二魏少府之二交廣一詩〕窮途仗二神道一、世亂輕二土宜一。〔國史略、正親町天皇〕乘二世亂一、頗封殖焉。

【世亂識二忠臣一】369 世が亂れて、始めて眞の忠臣がわかる。〔唐書、崔圓傳〕帝省レ書、泣下曰、世亂識二忠臣一、卽日拜二中書侍郎一。

【世亂則禮簡】370 世の中が亂れると禮儀が疏略にされて用ひられない。世治則禮詳(266)を見よ。

【世亂奴欺レ主】371 亂世になると、召使までが主人を欺くに至る。〔陔餘叢考、成語〕世亂奴欺レ主、年衰鬼弄レ人、海枯終見レ底、人死不レ知レ心、皆杜荀鶴詩、堅瓠集亦載レ之、俗語云、勢敗奴欺レ主。

【世吏】372 親子代々役人となつてゐる者。〔漢書、趙廣漢傳〕所居好用二世吏子孫一、新進年少者一。〔注〕師古曰、言二舊吏家子孫一、而其人後出求レ進、又年少也。〔後漢書、鄧展傳〕世吏二千石一。

【世里】373 遼の本姓。耶律と譯す。〔五代史、四夷附錄第一〕曰二世里一、譯者謂二之耶律一。

【世良】374 宋、晁説之(5－13889‥21)の字。

【世略】375 字號。❶隋、源雄(7－17926‥51)の字。❷隋、劉權(2－2224‥256)の字。

【世隆】376 字號。❶宋、折御勳(5－11890‥227)の字。❷明、危行(2－2849‥9)の字。❸明、雍泰(11－42000‥36)の字。

【世龍】377 ❶唐、劉義節(2－2224‥796)の本名。❷字號。㋑晉、虞聳(9－32723‥95)の字。㋺後趙、石勒(8－24024‥865)の字。㋩梁、夏侯亶(3－5720‥112)の字。

【世霖】378 明、郭汝霖(11－39474‥331)の別名。

【世累】379 世の中のわづらひ。俗累。〔嵇康、東方朔至清詩〕不レ爲二世累所一レ攖、所レ欲不レ足レ無レ營。〔白居易、早春西湖閑遊云云偶成二十八韻一寄二微之一詩〕野情遺二世累一、醉態任二天眞一。

【世類】380 世俗のたぐひ。世の常のならはし。〔漢書、樊酈滕灌傅靳周傳贊〕仲尼稱、犂牛之子、騂且角、雖レ欲レ勿レ用、山川其舍レ諸、言二士不レ繫二於世類一也。

【世禮】381 後魏、高遵(12－45313‥467)の字。

【世齡】382 後蜀、韋皡(12－43108‥16)の字。

【世廉】383 明、王文祿(7－20823‥2085)の字。

【世路】384 ❶世の中。處世の道。世渡り。世途。〔後漢書、張衡傳〕以思二世路一、斯何遠矣。〔王粲、贈二蔡子篤一詩〕悠悠世路。〔白居易、迂叟詩〕冷煖俗情諳二世路一。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕上下往復、感二世路之崎嶇一。❷㋑有爲法(常に變り移るもの)をいふ。有爲法は過去·現在·未來の三世の法が通行する路であるからいふ。〔俱舍論、一〕諸有爲法、謂二色等五蘊一、亦世路。〔俱舍頌疏〕有爲法、是二三世一、世之路、故名爲二世路一。又此有爲法、可二破壞一、故名レ之爲二世一、無常所依、故名爲レ路、世卽是路、名爲二世路一。

【世路難】385 世路が困難で、意の如くならぬのをかこつ語。〔唐書、楊再思傳〕或曰、公位尊、何自屈折、答曰、世路孔難。

【世路風波】386 世の中の難儀なことがら。人生の波瀾。世を渡ることの平穩でないのをいふ。〔白居易、除夜寄二微之一詩〕世路風波仔細諳。

【世祿】387 ❶子孫代々、扶持を賜はること。又、其の扶持。世襲の秩祿。〔書、畢命〕我聞、曰、世祿之家、鮮二克由レ禮、以レ蕩陵レ德。〔傳〕特言二我聞一、自レ古有レ之、世有二祿位一、而無二禮教一、少レ不レ以二放蕩一陵二邈有德一者一。〔左氏、襄、二十四〕此之謂二世祿一。〔孟子、滕文公上〕夫世祿、滕固行レ之矣。❷後燕、崔蔭(4－8178‥8)の字。

【世祿臣】388 父祖代々仕へて君祿を受けてゐる臣。〔近古史談、德篇下、杉田壹岐〕抑吾輩新進之士、與二公等世祿之臣一不レ同。

【世論】389 ❶世間の議論。人々の意見。輿論。〔陸游、夜讀二了翁遺文一有レ感詩〕吾曹自欲レ期二千載一、世論何曾待二百年一。❷世の中のはなし。〔神僧傳〕佛圖澄、身長八尺、風姿甚美、妙二解深經一、旁通二世論一。

【世和】390 字號。❶梁、蕭脩(9－32012‥154)の字。❷明、陶諧(11－41705‥29)の字。

【世話】391 ❶よの中の取りさた。世間の評判。〔俳諧新選〕世話きかぬ、耳に薄の、騷ぎけり。❷世俗の言ひ草。ことわざ。世諺。〔後撰夷曲集〕僞を云ふを、世話にて、鐵砲を放すと云へば。❸面倒を見る。斡旋。周旋。〔生玉心中、上〕世話をやんで病み死にの。❹當世の出來事。俗間に起つた事件。世俗の狀態。

【世話字】392 世間普通に使はれる變則の文字。俗字。〔俚言集覽〕世話字とはシカト(慥)トクト(得與)アツバレ(適)などの類をいふ。

【世話場】393 世話物を演ずる場面。

【世話人】394 世話する人。世話役。世話掛り。

【世話物】395 其の當時の世の中の出來事を

仕組んだ芝居狂言。〔浮世風呂、三下〕世話物でも跡へ附けるか。

【世話役】396 世話をする人。

【世話女房】397 所帶じみた女房。

【世話淨瑠璃】398 世話物を仕組んだ淨瑠璃をいふ。〔諸事聞書往來、上、竹本芝居〕近松門左衞門始めて世話淨瑠璃の作意、古今の大あたり也。

【就レ世】399 死ぬこと。世を終へること。卽レ世に同じ。〔國語、越語下〕先人就レ世。〔注〕就レ世、終也。

【涉レ世】400 世の中を暮す。世を送る。〔佐藤一齋、言志後錄〕人涉レ世、如ニ行旅一然。

【卽レ世】401 世を終へる。死ぬこと。就レ世。〔左氏、成、十三〕穆・襄卽レ世。〔箋〕越語、先人就レ世、韋注、就レ世、終レ世也、就卽同義、就訓爲レ成、成字、其終卒之義。〔角田九華、不レ欲レ使レ習レ奢〕先君貧素卽レ世。

【布レ世】402 世間に弘める。〔元田永孚、幼學綱要序〕令ニ鋟レ梓以布レ世。

【世恩堂】403 清、王頊齡(**7**−**20823**・・1328)の室名。

【世家寶】404 明、北庭の人。字は觀益。官は洪武の初、大理寺卿となり、刑部尙書に進む。〔萬斯同明史、一百七十三〕・〔國朝獻徵錄、四十四〕・〔國朝列卿記、四十三・五十五〕・〔皇朝中州人物志、一〕・〔開國臣傳、十一〕。

【世翰堂】405 明、倪岳(**1**−**792**・・3)の室名。

【世經堂】406 室名。❶明、徐階(**4**−**10110**・・37)の室名。❷清、徐旭旦(**4**−**10110**・・377)の室名。「名。

【世綵堂】407 宋、廖瑩中(**4**−**9464**・・39)の堂

【世滋堂】408 清、陸敷樹(**11**−**41708**・・417)の室名。

【世捨人】409 ❶世を避けて隱遁した人。❷僧侶の異稱。〔源平盛衰記、四十五、內大臣關東下向事〕蟬丸と言ひし世捨人。

【世壽堂】410 崑山の周壽誼の建てた堂名。子孫が皆百歲であつたからいふ。〔中州野錄〕崑山周壽誼、年百一十三歲、生ニ於宋一、而鄕ニ飮於洪武六年一、子孫皆百歲、家建ニ世壽堂一。

【世善堂】411 明、陳第の藏書堂の名。世善堂書目がある。〔知不足齋叢書、百五十一・百五十二〕。

【世柱國】412 代々、宰相となる。又、立派な宰相。〔稱謂錄、相臣古稱、世柱國〕後漢書楊震傳贊、楊氏載德、仍世ニ柱國一、注、言ニ世爲ニ國柱臣一也、亦稱ニ大柱國一、攷ニ陸凱疏一曰、宰相、國之柱也。

【世弟兄】413 shih^4 ti^4 hsiung 先代から交際のある人の兄弟。

【世渡扉】414 古、京都の市中に於ける小庵の稱。禪家の語。〔下學集〕世渡扉 京町中之小庵、謂ニ之世渡扉一也。

【世俘解】415 逸周書の篇名。

【世富慶】416 琉球の地名。

【世名城】417 琉球の地名。

【世綸堂】418 宋、陳卓(**11**−**41698**・・453)の室名。

【世輕世重】419 時勢に應じて輕くしたり、重くしたりする。〔書、呂刑〕刑罰世輕世重。〔傳〕言ニ刑罰隨レ世輕重一也、刑ニ新國一用ニ輕典一、刑ニ亂國一用ニ重典一、刑ニ平國一用ニ中典一。〔梁武帝、祠ニ南郊一詔〕世輕世重、隨レ時約レ法。

【世自在王】420 佛阿彌陀佛の前身で、四十八願を立てて出家した王法藏比丘の師。よく世間を觀察して衆生を救ふ人。觀自在菩薩と同じともいはれる。世饒王ともいふ。〔無量壽經、上〕世自在王如來、云云、時有ニ國王一、聞ニ佛法一、懷ニ心悅豫一、尋發ニ無上正眞道意一、棄レ國捐レ王、行作ニ沙門一、號曰ニ法藏一。〔無量壽經鈔、二〕世自在王是別號、云云、世間利益自在、故言ニ世自在一、亦言ニ世饒一、卽自在義爲レ王。

【世掌ニ絲綸一】421 代々、宰相と爲つて、制詔を掌る。又、その家柄。絲綸は天子の詔。〔杜甫、和ニ賈至舍人早朝ニ大明宮一詩〕欲レ知下世掌ニ絲綸一美上、池上于レ今有ニ鳳毛一。〔注〕趙曰、賈至、曾之子也、曾於ニ開元閒一、與ニ蘇晉一同掌ニ制誥一、玄宗幸レ蜀、拜至ニ起居舍人一、帝曰、昔先天誥命、乃父爲ニ之辭一、今茲命册、乃爾爲レ之、兩朝盛典、出ニ卿家一、父子可レ謂レ繼レ美矣。

【世擾俗亂】422 亂世となつて風俗がみだれること。〔論衡、治期〕世擾俗亂、災害不レ絕、遂以破レ國亡レ身滅レ嗣。

【世篤ニ忠貞一】423 代々忠貞を篤く行ふ。〔書、君牙〕惟乃祖乃父、世篤ニ忠貞一、服ニ勞王家一。〔朱之瑜、楠公贊〕父子兄弟、世篤ニ忠貞一、節孝萃ニ於一門一。

【世不レ廢レ業】424 代々家業を受繼ぐ。〔孔叢子、記問〕世不レ廢レ業、其克昌乎。

【世無ニ常貴一】425 世の中にいつまでも貴いままのものはない。〔鬼谷子、忤合〕世無ニ常貴一、事無ニ常師一。

【世無ニ知音一】426 世に己を知る者のゐないこと。伯牙が知己鍾子期の死を悲しんで、琴を彈ずることをやめた故事。〔書言故事、不遇類〕無ニ見知者一、曰ニ世無ニ知音一、伯牙撫レ琴、志在ニ泰山一、鍾子期曰、善哉巍巍乎、志在ニ泰山一、俄而志在ニ流水一、子期曰、善哉洋洋乎、志在ニ流水一、子期死、伯牙以爲、世無ニ知音一、終身不ニ復鼓レ琴。

【世利之華】427 浮世の利益の華やかさ。〔班固、答賓戲〕見ニ世利之華一、闇ニ道德之實一。

【傲レ世忘レ榮】428 世に屈せず、身の榮華などを度外におくこと。隱逸者をいふ。〔成公綏、嘯賦〕逸羣公子、體レ奇好レ異、傲レ世忘レ榮、絕ニ棄人事一。

【耦レ世接レ俗】429 世俗の人にならび接して、調子を合せる。世事に賢いこと。〔呂覽、贊能〕耦レ世接レ俗、說レ義調レ均、以適ニ主心一、子不レ若レ我也。

【拓レ世貽レ統】430 世代を廣め其の事業のこぐちを後世に殘し傳へる。拓レ世垂レ統。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕拓レ世貽レ統、固ニ萬葉一而爲レ量者也。〔注〕濟曰、拓、廣也、貽、遺、統、緒也、言廣ニ世葉一、以遺ニ後緒一、使下堅ニ萬代一而成中平大道上也。

【拓レ世垂レ統】431 拓レ世貽レ統に同じ。〔海錄碎事、帝王部、帝王〕拓レ世垂レ統、固ニ萬葉一而爲レ量。

【同レ世而立】432 同じ世に存在する。同時に存立する。〔韓非子、難、一〕夫不レ可レ陷之盾、與ニ無レ不レ陷之矛一、不レ可ニ同レ世而立一。

【不レ易ニ乎世一】433 世俗の爲に其の操守を變へない。〔易、乾〕子曰、龍德而隱者也、不レ易ニ乎世一。〔注〕不レ爲ニ世俗所ニ移易一也。〔疏〕不レ易ニ乎世一者、不ニ移ニ易其心一、在ニ於世俗一、雖レ逢ニ險難一、不レ易ニ本志一也。

【沒レ世無レ聞】434 一生涯世の中に名が聞えぬ。一說に、沒レ世はヨヲボツシテと讀み、死後とする。〔論語、衞靈公〕君子疾ニ沒レ世而名不レ稱焉。〔論語集說〕皇侃云、沒レ世、謂ニ身沒以後一也、物茂卿云、沒レ身、終レ身也。〔曹植、求ニ自試一表〕沒レ世無レ聞、徒榮ニ其軀一、而豐ニ其體一。

【與レ世偃仰】435 世俗に隨つて行動する。世に逆らはない。〔荀子、非相〕與レ時遷徙、與レ世偃仰。

【與レ世推移】436 與レ世偃仰に同じ。〔楚辭、漁父〕聖人不レ凝ニ滯於物一、而能與レ世推移。

【與レ世沈浮】437 與レ世偃仰に同じ。〔史記、游俠傳序〕豈若ニ卑論儕レ俗、與レ世沈浮、而取ニ榮名一哉。

【與レ世俯仰】438 與レ世偃仰に同じ。〔宋史、米芾傳〕芾爲レ文奇險、特妙ニ于翰墨一、又不レ能ニ與レ世俯仰一。

【厲レ世摩レ鈍】439 世をはげましすすめて人材を振作する。〔漢書、梅福傳〕爵祿束帛者、天下之底石、高祖所ニ以厲レ世摩レ鈍也。

【世無ニ渭陽情一】440 親子代々、舅を敬愛する心情のないこと。渭陽は舅。詩經、秦風の渭陽の詩に基づく語。〔晉書、謝朗傳〕子絢、字宣瑛、曾於ニ公座一、戲調無レ禮ニ於其舅袁湛一、湛甚不レ堪レ之、謂曰、汝父昔已輕レ舅、汝今復來加レ我、可レ謂ニ世無ニ渭陽情一也、絢父重、卽王胡之外孫、與レ舅亦有ニ不協之論一、湛故有ニ此及一云。

【處レ世若ニ大夢一】441 浮世にあるのは宛ら大きな夢のやうなものである。〔李白、春日醉起言レ志詩〕處レ世若ニ大夢一、胡爲勞ニ其生一、所以終日醉、頹然臥ニ前楹一、覺來盼ニ庭前一、一鳥花閒鳴、借問此何時、春風語ニ流鶯一、感レ之欲ニ歎息一、對レ酒還自傾、浩歌待ニ明月一、曲盡已忘レ情。

【避二世金馬門一】442 ヨヲキンバモンニサク 朝廷に入つてうるさい世間を避ける。金馬門とは、未央宮前の門をいひ、門の傍に銅馬を置いたから此の名がある。前漢の東方朔の故事。〔史記、滑稽、東方朔傳〕朔曰、如二朔等一所謂避二世於朝廷閒一者也、古之人、乃避二世於深山中一、時坐席中酒酣、據レ地歌曰、陸二沈於俗一、避二世金馬門一、宮殿中可二以避レ世全レ身、何必深山之中、蒿廬之下、金馬門者、宦署門也、門傍有二銅馬一、故謂レ之曰二金馬門一。

【擧レ世盡從二愁裏一過】443 ヨヲアゲテコトゴトクシウリニシタガツテスグ 世の中の人は皆愁の中に一生を送る。〔陔餘叢考、成語〕擧レ世盡從二愁裏一過、何人肯向二死前一休、杜荀鶴詩。

【世】32 セイ 世(1−31)に同じ。〔正字通〕世、同レ世、古碑文作レ世。

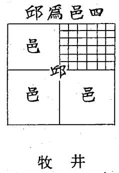
【丘】33 キウ ク 〔集韻〕祛尤切 くーヌ chʻiu¹ 尤

小篆

古文

❶をか。自然の小山。一說に、四方が高く、中央の凹んだ山。もと丠(1−45)に作る。〔正字通〕丘、本作レ丠。〔說文〕丠、土之高也、非二人所一レ爲也、从レ北从レ一、一、地也、人尻在二北南一、故从レ北、中邦之尻、在二昆侖東南一、一曰、四方高中央下爲レ丘、象形。〔方言、十三〕小者爲レ塿、大者爲レ丘。〔漢書、司馬相如傳〕以登二介丘一。❷はか。王者のはか。丘墓(100)・丘封(101)を見よ。〔方言、十三〕冢自レ關而東、謂二之丘一、小者謂二之塿一、大者謂二之丘一。❸おほきい。巨(4−8722)に通ず。〔說文通訓定聲〕丘、叚借爲レ巨。〔管子、侈靡〕丘老不レ通。〔注〕丘、大也。❹としうへ。〔漢書、楚元王傳〕過二其丘嫂一食。〔注〕張晏曰、丘、大也、長嫂稱也。❺むなしい。〔廣雅、釋詁三〕丘、空也。〔漢書、息夫躬傳〕寄二居丘亭一。〔注〕張晏曰、丘亭、野亭名、師古曰、此說非也、丘、空也。❻古くあつたものの廢れた跡。墟(3−5457)に通ず。〔說文通訓定聲〕丘、左、昭、十二傳、八索九丘、賈注、九丘、九州亡國之戒、按、以レ墟訓也、北卽虛、楚辭哀郢、曾不レ知二夏之爲レ丘兮、注、墟也。❼あつまる。〔釋名、釋州國〕丘、聚也。〔字彙〕丘、聚也。〔書、孔安國序〕九州之志、謂二之九丘一、丘、聚也、言三九州所レ有、皆聚二此書一也。❽むら。〔廣雅、釋詁二〕丘、居也。〔左氏、僖、十五〕敗二于宗丘一。〔注〕丘、猶レ邑也。❾田里の區劃上の一名目。四井を邑といひ、四邑を丘(邱)といふ。方四里、十六井にあたる。區(2−2691)に通ず。〔說文通訓定聲〕丘、叚借爲レ區、釋名、釋典藝、九丘、丘、區也。〔周禮、地官、小司徒〕四邑爲レ丘。〔注〕丘、方四里。〔孟子、盡心下〕是故得二乎丘民一。〔注〕丘、十六井也。〔漢書、刑法志〕四井爲レ邑、四邑爲レ丘、丘、十六井也。

四邑爲邱



井牧
(禮器圖)

❿古は𡊋(3−5084)に作る。〔說文〕丠、𡊋、古文从レ土。⓫或は邱(11−39335)に作る。〔說文通訓定聲〕丘、今字避二孔子諱一、以レ邱爲レ之。⓬孔子の名。〔字彙〕丘、宣聖名。〔史記、孔子世家〕生而首上圩頂、故因名曰レ丘云。⓭姓。〔通志、氏族略、以レ地爲レ氏〕丘氏、姜姓、太公封二於齊一、而都二營丘一、其支庶居二於營丘一者、遂以レ丘爲レ氏、其地在二今齊州臨淄一、或云、濰州昌樂有二營丘故城一、左傳有二邾大夫丘弱一、丘氏世居二扶風一、又有二丘林氏・丘敦氏一、並改爲二丘氏一、魏姓也。〔姓氏急就篇、丘氏〕丘氏、陳有二宛丘一、居者以爲レ姓、又邾有二丘弱一、後亦爲レ氏、又風俗通、魯左丘明之後、又齊太公封二營丘一、支庶以レ地爲レ氏、世居二扶風一、漢末、丘俊持二節江淮一、王莽簒レ位、遂留二江左一、居二吳興一、又後魏丘敦氏、改二丘氏一。

名乘 ヲカ。タカ。

解字 會意。北と一の合字。一は地、人の住居はをかを背にして其の南に構へるから、北と一とを合して、人の住居の北に在るもの、卽ちをかの義を表はす。又、丘は四方が高く中央の低い山の意で、其の形に象つた象形字であるともいふ。字解の❶を見よ。▽(甲骨文) 象形。

參考 後世、孔子の諱を避けて𠀉・邱に作る。𠀉(1−27)及び字解の⓫を見よ。

【丘阿】1 キウア をかの曲がつて入込んだ所。〔詩、小雅、緜蠻〕緜蠻黃鳥、止二于丘阿一。〔傳〕丘阿、曲阿也。

【丘猶】2 キウイウ 地名。〔左氏、昭、四〕田二於丘猶一、遂遇レ疾焉。

【丘允】3 キウイン 宋、長溪の人。字は執中。元符の進士。官は朝議大夫。〔尚友錄、十三〕

【丘蚓】4 キウイン みみず。蚓は又、螾に作る。丘螾。〔呂覽、孟夏〕螻蟈鳴、丘蚓出。〔淮南子、時則訓〕螻蟈鳴、丘螾出。

【丘永】5 キウエイ 淸、仁和の人。字は星河。又の字は雲涇。乾隆の擧人。學正に補せらる。著に雲涇雜錄、並に雜志詩文などがある。〔國朝耆獻類徵、一百四十六〕

【丘塋】6 キウエイ はか。墓所。丘冢。丘墳。〔潘岳、揚荊州誄〕退守二丘塋一、杜レ門不レ出。

【丘悅】7 キウエツ 唐、河南の人。岐王の傅となる。〔唐書、一百十二〕・〔舊唐書、一百九十〕

【丘園】8 キウエン ❶小高い所に在る花園。轉じて、隱居の地をいふ。〔易、賁〕六五、賁二于丘園一、束帛戔戔、吝終吉。〔疏〕賁二于丘園一者、丘園、是質素之處、六五處得二尊位一、爲二飾之主一、若能施飾、在二於質素之處一、不レ華二侈費用一、則所レ束之帛、戔戔衆多也。〔何晏、景福殿賦〕醴泉涌二于池圃一、靈芝生二于丘園一。〔謝靈運、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕彼美二丘園道一、喟焉傷二薄劣一。〔注〕善曰、毛詩曰、彼美孟姜、周易曰、六五賁二于丘園一、束帛戔戔、王肅曰、失レ位無レ應、隱二處丘園一。〔北史、韋夐傳論〕養二素丘園一。❷淸、常熟の人。字は嶼雪。山水畫に巧で、詩には元人の風あり。〔國朝耆獻類徵、四百七十四〕・〔淸畫家詩史、乙上〕・〔國朝畫識、五〕

【丘園子】9 キウエンシ 宋、程賁(8−25081‥124)の號。

【丘園枯槁】10 キウエンノコカウ 失意に在つて、恩を人に求めること。〔書言故事、天文類〕求二恩於人一、曰二丘園枯槁一、願借二吹噓一、李寓庵詩、丘園有二枯槁一、未二必雨師知一。

【丘下】11 キウカ をかの下。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕高綱僕牽二池月一至、過二丘下一。

【丘軻】12 キウカ 孔子と孟子。丘は孔子の名。軻は孟子の名。〔韓愈、石鼓歌〕方今太平日無レ事、柄二任儒術一崇二丘軻一。〔馬存、浩浩歌〕直須三爲弔二天下人一、何必嫌恨傷二丘軻一。

【丘昂】13 キウカウ 晉、吳興の人。字は公表。家貧しくて學を好み、畚を織つて自ら給す。弟の給事中夷・太守矩と共に學術を以て世に著はれ、當時、之を三丘といふ。〔萬姓統譜〕

【丘岡】14 キウカウ をか。丘阜(96)に同じ。

【丘玨】15 キウカク 宋、邵武の人。字は玉甫。又、玉父に作る。朱子の門人。主敬問答の著がある。〔宋元學案、六十〕

【丘岳】16 キウガク ❶をかと山。岳は嶽。〔後漢書、袁紹傳〕貴二名位於丘岳一。❷宋の人。字は山甫。官は兩淮制置使。封は東海侯。〔尚友錄、十三〕・〔南宋制撫年表、十六・二十一・二十五〕❸淸、吳縣の人。字は青谷、又の字は退谷。號は五游・五明。明末に生まれる。書畫を以て名がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕・〔國朝畫識、二〕

【丘壑】17 キウガク をかとたに。轉じて、隱者の住居。又、其の樂しみをいひ、又、畫家を形容していふ。〔晉書、簡文帝紀〕自二足山水一、棲二遲丘壑一。〔晉書、謝安傳〕安雖三放二情丘壑一、然每二遊賞一、必

以二妓女一從。(世說新語、巧藝)顧長康畫二謝幼輿一在二巖石裏一、人問二其所以一、顧曰、謝云、一丘一壑、自謂過之、此子宜レ置二丘壑中一。(謝靈運、齋中讀書詩)昔余遊二京華一、未二嘗廢一丘壑一。(洛陽伽藍記、二)(揚元愼父甜)自二得丘壑一、不レ事二王侯一。(龐鑄、雪谷曉裝圖詩)楊侯胸中富二丘壑一、醉裏筆端驅二雪落一。

【丘甲】18 キュウカウ 春秋、魯の田賦の法。丘から出す兵賦の意。一丘からは戎馬一匹・牛三頭を出す。又、四丘を甸とし(甸は六十四井)、甸からは長轂(兵車の轂は大車に比べれば長い)一乘と、戎馬四匹・牛十二頭・甲士三人・歩卒七十二人を出す。(春秋、成、元)三月作二丘甲一。(杜注)周禮、九夫爲レ井、四井爲レ邑、四邑爲レ丘、丘十六井、出二戎馬一匹・牛三頭一、四丘爲レ甸、甸六十四井、出二長轂一乘・戎馬四匹・牛十二頭・甲士三人・歩卒七十二人一、此甸所レ賦、今魯使二丘出一レ之、(漢書、刑法志)至二魯成公一、作二丘甲一。

【丘葵】19 キュウキ 宋、同安の人。字は吉甫。號は釣磯翁。朱子學を治め、呂大圭・洪天錫に親炙す。著に易解義・書解義・詩口義・春秋通義・周禮補亡がある。(宋季忠義錄、十五)。

【丘義】20 キュウギ 宋、建陽の人。字は通濟。朱子と交り、易に深い。(萬姓統譜)。

【丘牛】21 キュウギュウ 一丘から出す兵賦の牛。丘甲(18)を見よ。(杜預、論二水利一疏)古者匹馬丘牛、居則以耕、出則以戰。

【丘吉】22 キュウキチ 明、歸安の人。字は大佑。號は執柔。性、澹約朴素。古文・詩に長じ、吳興の詩人の領袖となる。著に執柔集がある。(明人小傳、二)・(明詩綜、二十三)・(明詩紀事、乙、二十一)・(列朝詩集小傳、乙)。

【丘虛】23 キュウキョ 丘墟に同じ。一說に、空虛なところ。がらあき。又、をか。丘陵。(漢書、公孫弘傳)自レ蔡至レ慶、丞相府客館、丘虛而已。(注)師古曰、虛、讀曰レ墟。(王先謙補注)郭嵩燾曰、息夫躬傳、寄二居丘亭一、師古曰、丘、空也、當時或名二空虛一爲二丘虛一、依二師古前注一、則此不レ當レ讀レ虛爲レ墟。(王褒、洞簫賦)原夫簫幹之所レ生兮、于二江南之丘墟一。

【丘墟】24 キュウキョ をか。墟ももか。又、荒れはてた遺跡。丘も墟も荒れた遺跡。丘虛。坵墟。廢墟。(管子、八觀)衆散而不レ收、則國爲二丘墟一。(史記、李斯傳)紂殺二親戚一、不レ聽二諫者一、國爲二丘墟一。(左思、吳都賦)茲乃喪亂之丘墟、顚覆之軌轍。

【丘訢】25 キュウキン 後漢、扶風の人。字は季春。俗人と交らず、高士を以て稱せらる。(高士傳、下)。

【丘隅】26 キュウグウ 丘のすみ。(詩、小雅、緜蠻)緜蠻黃鳥、止二于丘隅一。(箋)丘隅、丘角也。

【丘窟】27 キュウクツ いはや。岩穴。轉じて、隱栖の住居。(荀璞、平刑疏)退未レ絕二其丘窟之願一、進無二以塞一其逋逃之門一。(沈約、卻出東西門行)一念起二關山一、千里顧二丘窟一。

【丘和】28 キュウクワ 唐、洛陽の人。諡は襄。官は隋の交阯太守。唐の高祖が卽位するに及んで、稷州刺史となる。(唐書、九十)。

【丘皇】29 キュウクワウ 地名。河南省信陽州の境。(左氏、昭、二十五)城二丘皇一、遷二訾人一。(會箋)丘皇、在二今河南汝寧府信陽州境一。

【丘荒】30 キュウクワウ 丘墟となつて荒れはてたること。又、其の地。(後漢書、梁冀傳)包二含山藪一、遠二帶丘荒一。(陸機、歎逝賦、懋)城闕之丘荒一。(注)銑曰、城闕亦丘墟荒蕪。

【丘奐】31 キュウクワン 宋、仙游の人。字は明遠。紹興の初、恢復の計をいひ、湖北安撫司幹辦公事に擢んでらる。後、三京宣諭司幹官を歷、荆南の帥劉錡の幕下となり功があつた。(尚友錄、十三)。

【丘迥】32 キュウケイ 清、江蘇山陽の人。象升の子。字は爾求。號は翼堂・桐園。雍正の貢生。著に雜錄・筆記・翼堂詩稿がある。(鶴徵後錄、十)。

【丘經】33 キュウケイ 明、安吉の人。字は正夫。弘治の進士。官は監察御史・山東布政司右參議。(蘭臺法鑒錄、七)。

【丘傑】34 キュウケツ 南朝宋、吳興の人。字は偉時。孝子。(南史、七十三)。

【丘縣】35 キュウケン 縣名。元、置く。山東省臨清縣の西。(讀史方輿紀要、山東、東昌府、臨清州)丘縣、州西北二十里、漢斥二丘縣地一屬二魏郡一。云云、元至元二十六年、改置二丘縣一、屬二東昌路一、明初因レ之、宏治二年、改二今屬一。

【丘言】36 キュウゲン 俗間のことば。俚言。丘里之言(15)を見よ。

【丘原】37 キュウゲン をかとのはら。(宋武帝、登二作樂山一詩)遂登二丘尋首一、表裏望二丘原一。

【丘吾】38 キュウゴ 周の孝子。皋魚(8－22714・8)に同じ。(南史、孝義下、韓懷明傳)與二鄉人郭巖一俱師二南陽劉虬一、虬嘗一日廢講、獨居涕泣、懷明竊問二虬家人一、答云、是外祖亡日、時虬母亦已亡矣、懷明聞レ之、卽日罷レ學還レ家就レ養、虬嘆曰、韓生無二丘吾之恨一矣。(梁武帝、孝思賦)仲由念二枯魚一而永慕、丘吾感二風樹一而長悲。

【丘弘】39 キュウコウ 明、上杭の人。字は寬叔。天順の進士。官は都給事中。當時、毛弘と共に二弘と稱せらる。(明史、二百八十)・(萬斯同明史、二百三十四)・(明史稿、一百六十三)。

【丘嫂】40 キュウサウ 長兄の妻。第一のあによめ。長嫂。丘は大の意。(漢書、楚元王傳)初高祖微時、常避レ事、時時與二賓客一過二其丘嫂一食。(注)應劭曰、丘、姓也、孟康曰、西方謂二亡女壻一爲二丘壻一、丘、空也、兄亡空有二嫂也一。張晏曰、丘、大也、長嫂稱也。晉灼曰、禮謂二家婦一爲二家婦一。師古曰、史記、丘字作レ巨、丘・巨皆大也、張晉二說、其義得レ之。

【丘索】41 キュウサク 八索九丘(2－1450・206)の略。古書・古學の意。墳典。(宋書、禮志三)丘索著明者、尚有二遺炳一。

【丘山】42 キュウザン ❶をかと山。丘山積レ卑而爲レ高を見よ。(荀子、脩身)累レ土而不レ輟、丘山崇成。(陶潛、歸二園田居一詩)少無二適俗韻一、性本愛二丘山一。❷物の多い喩。(史記、張儀傳)秦虎賁之士、百餘萬、積粟如二丘山一。(漢書、王莽傳上)皆蒙二丘山之賞一。❸靜かに止まつてゐる樣子の喩。(淮南子、丘略訓)止如二丘山一、發如二風雷一。❹重大なことの喩。(劉琨、謝レ拜二大將軍都督幷州一表)丘山之釁已彰。

【丘山之功】43 キュウザンノコウ 丘や山のやうに高く大きい功績。(陳琳、檄二吳將校部曲一文)故乃建二丘山之功一、享二不訾之祿一。(注)善曰、答客難曰、所レ欲、必得二功若二丘山一。

【丘山積レ卑而爲レ高】44 キュウザンツミテヒクキヲナス 丘や山は低い土を積んで高くなる。大きいものも、小さいものを段々積んで行つて、始めて大きくなるといふ喩。塵も積つて山となる。(莊子、則陽)丘山積レ卑而爲レ高、江河合レ水而爲レ大。

【丘子】45 qiū zǐ 墳墓。丘墳。土饅頭。

【丘集】46 キュウシュウ 明、嘉定の人。字は子成。寒谷先生・三完老人・黃泥田父と稱す。室名は陽春草堂・顧桂堂・敦義堂。三禮に精し。著に陽春草堂集・西行山稿・橫槊小稿がある。

【丘翔】47 キュウシャウ 宋、建寧の人。字は元鳳。官は梧州教授。著に食芹集がある。(建寧縣志)。

【丘錫】48 キュウシャク 明、崇安の人。字は永錫。官は建昌教授。永樂大典・太宗實錄を纂修するに預かる。(本朝分省人物攷、七十二)。

【丘首】49 キュウシュ 其の本初を忘れぬ喩。狐は死ぬ時にもと住んでゐた丘の方に首を向けて死ぬといふ。(禮、檀弓上)古之人有レ言曰、狐死、正丘首、仁也。(注)正丘首、猶二正首レ丘也。

【丘樹】50 キュウジュ 墓に生えてゐる樹木。(任昉、爲二卞彬一謝レ脩二卞忠貞墓一啓)碑表蕪滅、丘樹荒毀。

【丘峻】51 キュウシュン ❶明の人。字は進涉。官は大理評事。(萬姓統譜)。❷清、仁和の人。字は清巖。著に南湖紀略稿・泉刀匯纂がある。(四庫提要、七十八)。

【丘樗】52 キュウシュン 明、諸城の人。字は懋實。諡は簡肅。嘉靖の進士。官は南京吏部尚書。(明史、二百二十六)・(萬斯同明史、三百七)・(明史稿、二百十一)。

【丘濬】53 キュウシュン ❶宋、黟の人。字は道源。號は迂愚叟。天聖の進士。官は殿中丞。(明外史)・❷明、瓊山の人。字は仲深。號は深菴・瓊山先生・瓊臺。諡は文莊。景泰の進士。官は文淵閣大學士。尤も朱子學に精通す。著に大學衍義補・遺稿・朱子學的・家禮儀節などがあり、又、五倫全備・投筆記・擧鼎記・羅囊記の傳奇四種などもある。(明史、一百八十一)・(萬斯同明史、二百三十七)・(明史稿、一百六十四)。

【丘緒】54 キュウショ 明、鄞の人。字は繼先。孝子。(明史、二百九十七)・(萬斯同明史、三百九十三)・(明史稿、二百七十八)。

【丘如】55 キウジヨ 丘のやうに高いさま。〔柳宗元、永州新堂記〕積レ之丘如、蠲レ之瀏如。

【丘乘】56 キウジヨウ 丘と乘。古の土地區劃の名。〔周禮、地官、稍人〕掌レ令二丘乘之政令一。〔注〕丘乘、四丘爲レ甸。〔疏〕四井爲レ邑、四邑爲レ甸、甸出二長轂一乘一、故云二丘乘一。〔禮、郊特牲〕唯社丘乘共二粢盛一。〔注〕丘、十六井也、四丘六十四井曰レ甸、或謂二之乘一、乘者、以下於二車賦一出中長轂一乘上、乘或爲レ鄰。

【丘榛】57 キウシン 丘の雜木林。〔陸雲、答二張士然一詩〕通波激二枉渚一、悲風薄二丘榛一。

【丘隧】58 キウスイ 墓の封土と道。隧は、はかみち。〔周禮、春官、冢人〕以度爲二丘隧一。〔注〕隧、羨道也。度下丘與二羨道一廣袤所上至。

【丘崈】59 キウスウ 宋、江陰の人。字は宗卿。謚は忠定。隆興の進士。〔宋史、三百九十八〕・〔宋史新編、一百四十七〕・〔南宋書、四十七〕・〔宋元學案、七十九〕。

【丘井】60 キウセイ ❶昔の田里の區劃。丘は十六井。井は九百畝。〔管子、小匡〕陵陸丘井田疇、均則民不レ惑。〔李衞公問對、上〕黃帝始立二丘井之法一。〔宋史、范如圭傳〕奏、今宜下籍二荆淮曠土一、畫爲二丘井一、倣二古助法一、別爲中科條上。❷轉じて、田舍、草野。〔魏書、張彝傳〕使下魏代所レ採之詩、不上レ堙二於丘井一、臣之願也。❸佛 クシヤウ 丘墟の枯井。朽井。身の老いて役に立たない喩。〔維摩經、方便品〕是身如二丘井一、爲二老所一レ逼。〔注〕什曰、丘井、丘墟枯井也。〔天台會疏、三〕什師云、丘井者、朽井也。不レ任二受用一。

【丘壻】61 キウセイ 死亡した娘のむこ。丘は空で、死亡の意。〔漢書、楚元王傳、過二其丘嫂一食、注〕孟康曰、西方謂二亡女壻一爲二丘壻一、丘、空也。

【丘霽】62 キウセイ 明、鄱陽の人。字は時雍。天順の進士。蘇郡の守となり治績大いに擧る。〔萬姓統譜〕・〔尚友錄、十三〕。

【丘潛】63 キウセン 五代後蜀、丘文播(164)の一名。

【丘漸】64 キウゼン 宋、黃巖の人。字は子木。杜煜に師事し、道學を講明す。

【丘側】65 キウソク をかの傍。〔詩、小雅、緜蠻〕緜蠻黃鳥、止二于丘側一。〔箋〕丘側、丘旁也。〔孫綽、聘士徐君墓頌〕徘二徊丘側一、淒焉流レ襟。

【丘泰】66 キウタイ 宋、高安の人。字は儀仲。孝子。〔尚友錄、十三〕。

【丘堆】67 キウタイ 後魏、代の人。官は太僕。宜城王奚斤と軍を合して赫連昌を拒ぎ、斤が捕へられるに及び、恐れて長安に走り誅せらる。〔魏書、三十〕・〔北史、二十五〕。

【丘禱】68 キウタウ 孔子が祈つた故事。丘之禱久(176)を見よ。〔唐書、裴度傳〕帝賜レ詩曰、注レ想待二元老一、識レ君恨レ不レ早、我家柱石衰、憂來學二丘禱一。

【丘鐸】69 キウタク 明、祥符の人。字は文振。眞孝子と稱せらる。〔明史、二百九十六〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【丘段】70 キウダン 田のしきり。田地の區劃。田畑の境界。方圓なる土地の一區を丘といひ、丘中の分界を段といふ。〔清律、戶律、田宅、欺二瞞田糧一、附注〕方圓一區曰レ丘、丘中分レ界曰レ段。

【丘壇】71 キウダン 土を築いて丘と爲し、壇を設けて祭品を陳列し、空を望んで天を拜する處をいふ。〔宋書、禮志一〕遂於二東南巳地一、創二立丘壇一。〔六部成語、禮部、丘壇、注解〕壇者、無二神像一、皆築レ土爲レ丘、設レ壇陳二列祭品一、望レ空而拜、謂二之丘壇一、大凡、平日不レ設二神像及牌位一者曰レ壇、設者曰レ廟、此壇廟之分也。

【丘坻】72 キウチ こやま。をか。坻は川の中洲。〔晉書、潘尼傳〕譬猶下丘坻之望二華岱一、恒星之繫中日月上。

【丘遲】73 キウチ 梁の人。靈鞠の子。字は希範。詩文の才あり。官は永嘉太守。〔梁書、四十九〕。

【丘中】74 キウチユウ をかの中。〔詩、王風、丘中有麻〕丘中有レ麻、彼留子嗟。〔束皙、補亡詩〕黍華二陵嶺一、麥秀二丘中一。

〖丘中麻〗75 キウチユウノマ 丘の中の麻。丘中有麻に同じ。

〖丘中有麻〗76 キウチユウイウマ 詩經、王風の篇名。周の莊王の不明なため賢人が放逐せられたのを、國人が慕つて作つた詩。一說に、婦人が密通してゐる男の來ぬのを、別に女が出來て留めてゐるのではないかと疑つて作つた淫詩といふ。〔詩、王風、丘中有麻序〕丘中有麻、思レ賢也、莊王不明、賢人放逐、國人思レ之、而作二是詩一也。〔集傳〕婦人望下其所二與私一者上而不レ來、故疑三丘中有レ麻之處、復有二與レ之私而留レ之者一、今安得二其施施然而來一乎。

【丘仲】77 キウチユウ 樂工の名。笛の製作を業とした。〔宋書、樂志一〕按、馬融長笛賦、此器起二近世一、出二於羌中一、京房備二其五音一、又稱、丘仲工二其事一、不レ言二仲所一レ造、風俗通則曰、丘仲造レ笛、武帝時人。

【丘冢】78 キウチヨウ 丘のやうに築いた塚。はか。丘墓。丘塋。丘塚。〔史記、吳王濞傳〕燒二殘民家一、掘二其丘冢一。〔論衡、薄葬〕蘇秦爲レ燕、使下齊國之民、高二大丘冢一、多藏中財物上。〔梅堯臣、留侯廟下詩〕赤松不レ見天地長、黃石共葬丘冢荒。

【丘塚】79 キウチヨウ 丘冢に同じ。〔宋史、韓綜傳〕會河溢二金堤一、民依二丘塚一者數百家、綜令曰、能濟二一人一、予二千錢一、民爭操二舟栰一以救、已而丘塚多潰。

【丘沉】80 キウチン 晉、山都縣の吏。張昌が江夏を保有した時、姓名を劉尼と改めて天子となり、國を漢と稱したが、誅せらる。〔晉書、一百〕。

【丘珍】81 キウチン 明、莆田の人。字は若寶。嘉靖の間、倭難に死す。〔莆田縣志〕。

【丘亭】82 キウテイ あきや。空屋。〔漢書、息夫躬傳〕躬歸レ國、未レ有二第宅一、寄二居丘亭一。〔注〕張晏曰、丘亭、野亭名、師古曰、此說非也、丘、空也。

【丘兆】83 キウテウ 神を祭る壇域。〔逸周書、作雒解〕設二丘兆于南郊一、以祀二上帝一、配以二后稷一。

【丘迪】84 キウテキ 宋の人。字は彥啓。熊天慵に師事す。著に玉淵雜著がある。〔萬姓統譜〕。

【丘垤】85 キウテツ 小さいをか。垤は蟻づか。〔孟子、公孫丑上〕泰山之於二丘垤一、河海之於二行潦一、類也。〔韓愈、至二鄧州北一寄二上襄陽于相公一書〕丘垤之山、高不レ能レ踰二尋丈一。

【丘甸】86 キウデン むらざと。丘乘(56)を見よ。〔周禮、地官、小司徒〕四丘爲レ甸、四甸爲レ縣。〔儲光羲、述二韋昭應畫二犀牛一詩〕隉閣飛二嘉聲一、丘甸盈二仁心一。

【丘土】87 キウド をか。〔曾鞏(一說に許彥國)、虞美人草詩〕滔滔逝水流二今古一、漢楚興亡兩丘土。

【丘同】88 キウドウ 區域を同じうして居る意。丘は古代行政區劃の名。又、區と通ず。〔墨子、大取〕丘同・鮒同。〔閒詁〕丘與レ區通、云云、謂下同二區域一而處上。

【丘敦】89 キウトン 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕丘敦氏、後魏獻帝弟、爲二丘敦一、爲二十姓一、孝文改爲二丘氏一。

【丘楠】90 キウナン 明の人。方國珍と共に太祖に降り、官は韶州知府に至る。〔明史、一百二十三〕。

【丘背】91 キウハイ をかのうしろ。〔爾雅、釋丘〕丘背有レ丘、爲二負丘一。

【丘方】92 キウハウ 宋、連城の人。字は正叔。寶慶中、寧都丞となり、治績があつた。〔萬姓統譜〕。

【丘八】93 キウハチ 兵を輕蔑した呼稱。兵字を分解して丘八となしたもの。〔十六國春秋、慕容垂傳〕權翼夜私遣二壯丁一、邀二垂於河橋南空舍中一擊レ之、垂是夜夢、行レ路路窮、顧見二孔子墓一傍墓有レ八、覺而惡レ之、召二占レ夢者一占レ之、曰、行路窮、道盡不レ可レ行也、孔子名丘、八以配レ丘、此兵字也、路必有二伏兵一。〔鑒誡錄〕前蜀王太祖、問二馮大夫涓一、擊掄之戲、創レ自二誰人一、大夫對曰、丘八所レ置、上爲二大笑一。

〖丘八爺〗94 ch'iu¹ pa¹ yeh² 兵卒殿の意。

【丘樊】95 キウハン 丘とまがき。〔謝莊、月賦〕臣東鄙幽介、長レ自二丘樊一。〔白居易、中隱詩〕丘樊太冷落。

【丘阜】96 キウフ をか。小やま。丘陵。丘岡。〔管子、地圖〕陵陸丘阜之所レ在。〔淮南子、說林訓〕累積不レ輟、可レ成二丘阜一。〔漢書、鼂錯傳〕經川丘阜。〔說苑、辨物〕陵陸丘阜。

【丘賦】97 キウフ 一丘、即ち百二十八家の民から出す稅で、馬一匹・牛三頭。鄭の子產に始まる。賦は稅。〔左氏、昭、四〕鄭子產作二丘賦一、國人謗レ之。〔注〕丘、十六井、當レ出二馬一匹・牛三頭一。

【丘福】98 キウフク 明、鳳陽の人。官は太子太師。封は淇國公。後、大將軍となり、塞外に出でて殺さる。〔明史、一百四十五〕・〔萬斯同明史、一百八十九〕・〔明史稿、一百三十四〕。

【丘墳】99 キウフン ❶をか。こやま。墳は土を盛つたもの。〔史記、司馬相如傳〕馳二乎丘墳一。〔王安石、知制誥知江寧府謝上表〕久寄二託於丘墳一、粗諳二知其閭里一。❷古書。九丘と三墳。三墳五典八索九丘(1-12‥1586)を見よ。〔梁書、昭明太

子傳〕遍該二綢素一、殫極二丘墳一。㊀墳墓をいふ。〔班昭、東征賦〕遽氏在二城之東南一兮、民亦尚二其丘墳一。〔注〕善曰、廣雅曰、墳、高也、春秋說題辭曰、丘者、墓也。〔韓愈、題二廣昌館一詩〕丘墳發掘當二官路一、何處南陽有二近親一。

【丘墓】100キウボ　はか。墳墓。〔史記、范雎傳〕今雎之先人丘墓亦在二魏一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕亦何面目復上二父母之丘墓一乎。〔新序、節士〕脫二千金之劍一兮帶二丘墓一。〔阮籍、詠懷詩〕丘墓蔽二山岡一、萬代同一時。

【丘封】101キウホウ　墓。王公には丘といひ、諸臣には封といふ。〔周禮、春官、冢人〕以二爵等一爲二丘封之度一。〔注〕王公曰レ丘、諸臣曰レ封。

【丘北】102キウホク　縣名。清、置く。雲南省廣南縣の西にある。〔清史稿、地理志〕雲南、廣西直隸州、縣三、邱北。

【丘木】103キウボク　墓のほとりの木。墓木。墓標。〔禮、曲禮下〕爲二宮室一不レ斬二於丘木一。〔注〕丘、壟也。〔後漢書、崔駰傳〕吳札結二信於丘木一。

【丘民】104キウミン　田里の野人。賤しいもの。農民。或は相當な數の民。十六井を丘といふ。百姓。〔孟子、盡心下〕民爲レ貴、社稷次之、君爲レ輕、是故得二乎丘民一而爲二天子一。〔注〕丘、十六井也。〔疏〕此云二丘十六井也一者、案、司馬法云、六尺爲レ步、步百爲レ畝、畝百爲レ夫、夫三爲レ屋、屋三爲レ井、井十爲レ通、通十爲レ成、是一丘爲二十六井一、而一井爲二九夫之地一也。〔集注〕丘民、田野之民、至微賤也。

【丘明】105キウメイ　春秋、魯の太史。左丘明（4－8720：114）を見よ。

【丘明之傳】106キウメイノデン　左丘明の作つた春秋の傳。卽ち、春秋左氏傳をいふ。〔杜預、春秋左氏傳序〕今其遺文可レ見者、十數家、大體轉相祖述、進不レ成爲錯二綜經文一、以盡二其變一、退不レ守二丘明之傳一、於二丘明之傳一有レ所不レ通、皆沒而不レ說、而更膺二引公羊穀梁一、適足二以自亂一。

【丘門】107キウモン　孔子の家。孔子の門下。丘は孔子の名。〔列子、仲尼〕乃反二丘門一、絃歌誦書、終身不レ輟。

【丘瑜】108キウユ　明、宜城の人。天啓の進士。官は東閣大學士。後、都城が陷るに及んで戰死す。〔明史、二百五十一〕・〔萬斯同明史、三百五十七〕・〔明史稿、二百三十八〕。

【丘輿】109キウヨ　地名。春秋、魯の邑。山東省費縣の西。〔左氏、哀、十四〕司馬牛又致二其邑一焉、而適レ吳、云云、卒于魯郭門之外、阬氏葬二諸丘輿一。〔注〕泰山南城縣西北有二輿城一。

【丘耒】110キウライ　宋の人。礪の子。字は少潛。官は朝奉大夫。〔南宋書、六十四〕。

【丘老】111キウラウ　老人を貴んでいふ。丘は大。〔管子、侈靡〕丘老不レ通。〔注〕丘、大也。

【丘老四】112シキウラウ　盜賊の首魁の名。一說に、賊を祓ふ神の名。〔花當閣叢談〕村老委談言、里中有二丘老四者一、賊魁也、著二一書一、名二勝篋祕訣一、有二庠生者一、從レ之盜、按、舊時廟社中有レ神、曰二丘老四一、相傳、丘以捕レ賊名、凡有二竊盜一、則祀レ之、冀二早獲一盜、則丘老四、固非二賊魁一而流俗誤焉者也。

【丘落】113キウラク　をかと垣根。丘陵籬落。〔鹽鐵論、散不足〕名宮之旁、廬舍丘落、無二生レ苗立レ樹。

【丘里】114キウリ　みなか。さと。丘里之言を見よ。

【丘里之言】115キウリノゲン　里俗の言。俚言。鄙諺。又、出たらめの言。丘言。〔莊子、則陽〕少知問二大公調一曰、何謂二丘里之言一、大公調曰、丘里者、合二十姓百名一、以爲二風俗一也。〔釋文〕李云、四井爲レ邑、四邑爲レ丘、五家爲レ鄰、五鄰爲レ里。〔莊子雪〕擧二丘里一、猶云二鄉邑一也、丘里之言、謂下合二乎人心之公一、而非中一人之私論上、可二以通一之鄉邑一、卽可二以通一之天下一者也。〔新方言、釋言〕今淮南謂二空言無レ實、爲二丘里一。

【丘陵】116キウリョウ　㊀をか。〔易、習坎〕地險、山川丘陵也。〔周禮、地官、大司徒〕三曰、丘陵。〔禮、曲禮上〕從二長者一而上二丘陵一、則必鄉二長者所一視。〔禮、月令〕善相二丘陵・阪險・原隰、土地所レ宜、五穀所レ殖。〔孟子、滕文公下〕比而得二禽獸一雖レ若二丘陵一、弗レ爲也。〔孟子、離婁上〕爲レ高必因二丘陵一、爲レ下必因二川澤一。〔莊子、則陽〕丘陵草木之緡。〔楚辭、天問〕何環二穿自二閶社丘陵一。〔漢書、鼂錯傳〕土山丘陵。㊁相術家の語。流年運氣（6－17：431‥307）を見よ。㊂明、蘭陽の人。字は志高。號は芸菴。官は山西左布政使。著に芸菴集がある。〔萬斯同明史、二百十一〕・〔國朝獻徵錄、九十七〕・〔明名人傳、二十〕・〔本朝分省人物攷、八十五〕。

【丘林】117キウリン　㊀をかと林。〔陸雲、答二孫顯世一詩〕乃眷二丘林一、樂哉河曲。〔阮瑀、駕出北郭門行〕顧聞二丘林中一、嘷嘷有二悲啼一。㊁代北の複姓。後、改めて丘氏といふ。〔後漢書、南匈奴傳〕丘林氏。〔魏書、官氏志〕丘林氏、後改爲二丘氏一。

【丘鱗】118キウリン　宋、連城の人。字は起潛。嘉定の間、贛縣尉に除せられ、廉聲あり。紹定の寇を鎭めて功あり、知邵武軍となる。〔萬姓統譜〕。

【丘累】119キウルイ　をかのやうに重なり合つて多いこと。〔揚雄、羽獵賦〕創淪輪夷、丘累陵聚。

【丘礪】120キウレイ　宋、朐山の人。字は師說。政和の進士。官は福建提刑。〔萬姓統譜〕。

【丘烈】121キウレツ　宋、常熟の人。字は希文。官は奉直大夫。〔萬姓統譜〕。

【丘壟】122キウロウ　をか。丘墳。丘隴。又、墳墓をいふ。〔禮、月令〕塋二丘壟之大小高卑、厚薄之度、貴賤之等級一。〔孫希旦集解〕墓域曰レ塋、其封レ土而高者、曰二丘壟一。〔呂覽、安死〕世之爲二丘壟一也、其高大若レ山。〔淮南子、時則訓〕營二丘壟之小大高庫一。〔漢書、吳王濞傳〕燒二殘民家一、掘二其丘壟一、甚爲二虐暴一。〔漢書、劉向傳〕黃帝葬二於橋山一、堯葬二濟陰一、丘壠皆小、葬具甚微。〔注〕晉灼曰、冢墳也。〔漢書、王莽傳贊〕丘壠發掘、害偏二生民一。

【丘隴】123キウロウ　をか。又、墳墓。丘壟に同じ。〔墨子、節葬下〕丘隴必巨。〔漢書、劉向傳〕丘隴彌高。〔鮑照、蕪城賦〕井徑滅兮丘隴殘。〔李紳、晏安寺詩〕丘隴漸平連二茂草一、九原何處不二心傷一。

【丘籠】124キウロウ　をかを作るに用ひる籠器。〔周禮、地官、遂師〕共二丘籠及蜃車之役一。〔疏〕土曰レ丘、謂下共二爲レ丘之籠器一以盛上土也。

【丘維屏】125キウイヘイ　清、寧都の人。字は邦士。翠微峯下に隱居す。俗に松下先生と稱す。尤も泰西の算術に精通す。著に周易勦說・文集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百〕・〔碑傳集、一百三十六〕・〔國朝先正事略、三十七〕。

【丘一中】126イツチウ　元、橫山の人。字は履常。官は武學博士。詩文に巧。〔萬姓統譜〕。

【丘雲霄】127ウンカウ　明、崇安の人。字は凌漢。號は止山。官は柳城知縣。著に南行・東遊・北觀・山中等の集がある。〔明人小傳、二十四〕・〔明詩綜、四十八〕・〔明詩紀事、己、十九〕。

【丘延翰】128キウエンカン　唐、開喜の人。字は翼之。范越鳳の高弟で文名あり。泰山に遊び石室中で神人に遇ひ、海角經を受く。官は亞大夫。著に天機素書がある。〔四庫提要、一百十一〕。

【丘淵之】129キウエンシ　南朝宋、烏程の人。字は思玄。文帝の時、官は吳郡の太守。著に文章一百卷がある。〔宋書、八十一〕。

【丘應辰】130キウオウシン　宋、泉溪の人。字は詠性。著に憂憂集がある。〔宋季忠義錄、十二〕。

【丘何奴】131キウカド　後魏、洛陽の人。握槊（博戲）に巧。〔魏書、九十一〕。

【丘嘉穗】132キウカスイ　清、上杭の人。字は實亭。書室を東山草堂といふ。康熙の擧人。官は歸善知縣。著に考定石經太學經傳解・東山草堂邇言及び文集がある。〔四庫提要、三十七〕。

【丘開來】133キウカイライ　清、黔陽の人。字は覺吾。嘉慶の歲貢。詩文に巧。詩社を立てて陶潛・杜甫・白居易等を祀る。書室を授山草堂といふ。著に授山草堂詩集及び詩話がある。〔國朝耆獻類徵、四百四十一〕。

【丘季智】134キウキチ　後漢、雲中の人。郭泰に知られて名を成す。〔後漢書、九十八〕。

【丘仰文】135キウギヤウブン　清、滋陽の人。字は襄周。號は省齋。雍正の進士。官は四川定遠知縣。著に省齋自存草がある。〔國朝耆獻類徵、二百三十一〕・〔碑傳集、一百五〕。

【丘巨源】136キウキヨゲン　南齊、蘭陵の人。宋の孝武帝に知られ、羽林監・武昌太守・餘杭令に歷任す。南齊の明帝が吳興太守の時、秋胡の詩を作つて譏刺して殺さる。〔南齊書、五十二〕・〔南史、七十二〕。

【丘禾嘉】137キウクワカ　明、貴州新添衞の人。萬曆の鄉試に擧げらる。官は遼東・山海・永平等の巡撫。〔明史、二百六十一〕・〔萬斯同明史、三百六十四〕

〔明史稿、二百三十六〕。

【丘郭倫】138 キウクワクリン 山名。山東省博山縣の西南。土は赤色で、水で淘すれば金砂が得られる。

【丘冠先】139 キウクワンセン 南齊、烏程の人。字は道元。節義の士。蠕蠕國に使し、王を拜すことを逼られて肯ぜず、遂に殺さる。〔南史、七十三〕。

【丘元復】140 キウゲンフク 清、諸城の人。字は漢標。號は峒菴。著に禮記提綱集解がある。〔四庫提要、二十四〕。

【丘士任】141 キウシニン 清、上杭の人。字は昌文。號は仁菴。良醫。著に脈訣類纂・經驗諸方がある。〔國朝耆獻類徵、三百八十二〕。

【丘之陶】142 キウシタウ 明の人。瑜の子。李自成に降つて襄陽を守る。後、密書を孫傳庭に貽つて內應を約し、謀漏れて殺さる。〔明史、二百五十一〕〔萬斯同明史、三百五十七〕。

【丘之陸】143 キウシリク 清、瀏陽の人。字は穀士。監生。著に律音彙攷がある。〔國朝耆獻類徵、四百一十二〕。

【丘志廣】144 キウシクワウ 清、諸城の人。字は粟海。號は洪區・蝶菴。順治中の貢生。官は長清訓導。著に柴村集がある。〔四庫提要、一百八十二〕。

【丘象升】145 キウシヤウシヨウ 清、江蘇山陽の人。字は曙戒。號は南齋。室名は白雲草堂。順治の進士。官は大理寺左寺副。著に轂音・入燕・嶺海・白雲草堂の諸集がある。〔清史列傳、七十一〕〔國朝耆獻類徵、一百十五〕〔碑傳集、四十四〕〔國朝先正事略、三十九〕〔尚友錄、十三〕。

【丘象隨】146 キウシヤウスイ 清の人。字は季貞。號は西軒。康熙の拔貢生。官は洗馬。俸祿を割いて義田を置く。著に西山紀年集がある。〔清史列傳、七十〕〔國朝耆獻類徵、一百十五〕〔國朝先正事略、三十九〕。

【丘上儀】147 キウジヤウギ 清、武進の人。字は維正。明の崇禎の武進士。江西都司より海鹽參將を歷任して惠政を布く。〔國朝耆獻類徵、四百七十〕。

【丘寂之】148 キウジヤクシ 南朝宋、烏程の人。字は德元。官は主簿。後、漳の令となる。有能廉潔を以て稱せらる。〔萬姓統譜〕。

【丘從周】149 キウジユウシウ 明の人。長安の小吏。氣力あり、李自成を罵つて、遂に殺さる。〔明史、二百六十三〕・〔萬斯同明史、三百六十九〕・〔明史稿、二百四十五〕。

【丘處機】150 キウシヨキ 元、棲霞の人。號は長春子。深く太祖の意を得て神仙と稱せられ、卒後、長春演道主教眞人の號を贈らる。〔元史、二百二〕。

【丘鍾仁】151 キウシヨウジン 清、崑山の人。字は近夫。康熙中、鴻博に擧げられ、中書舍人を賜はる。著に春秋遵經集說がある。〔國朝耆獻類徵、四百十三〕・〔清儒學案小識、十四〕・〔己未詞科錄、四〕・〔四庫提要、三十一〕。

【丘神勣】152 キウシンキ 唐の人。行恭の子。官は左金吾將軍・大將軍。章懷太子を殺し、天授中、謀反の罪を以て誅せらる。〔唐書、二百九〕・〔舊唐書、百八十六〕。

【丘祖德】153 キウソトク 明、成都の人。字は念修。崇禎の進士。京師が陷つた時、華陽に奔つて義兵を起さうとし、清兵の爲に殺さる。〔明史、二百七十七〕・〔明史稿、二百五十八〕。

【丘道隆】154 キウダウリユウ 明、上杭の人。字は懋之。正德の進士。官は給事中。嚴明果斷を以て聞ゆ。〔尚友錄、十三〕。

【丘仲起】155 キウチユウキ 南齊、武康の人。字は子震。清廉の士。官は廷尉。〔南齊書、五十三〕。

【丘仲孚】156 キウチユウフ 梁の人。靈鞠の從孫。字は公信。齊、永明の國子生。官は豫章內史。著に皇典・南宮故事がある。〔梁書、五十三〕。

【丘庭澖】157 キウテイジユ 清、長洲の人。字は孟直。號は雪蘭・醒蘭。乾隆の擧人。官は給事中。山水畫を善くする。〔清畫家詩史、丁上〕・〔墨香居畫識、五〕。

【丘庭溶】158 キウテイヨウ 清の人。丘庭澖の弟。字は鴻章。號は靜堂。官は安徽糧道。山水を善くし、書に巧。

【丘兆麟】159 キウテウリン 明、臨川の人。字は毛伯。書室を樂餘園・水暄亭・玉書亭といふ。萬曆の進士。官は御史より、崇禎の初、河南巡撫に至る。著に樂餘園・水暄亭・玉書亭等の集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十〕。

【丘的篤】160 キウテキトク 婚禮・喪儀などのあつた家に行つて、贈物を強請するたかりの一種。もと、丘的篤と綽名せられた人から起つた。〔王逋、蚓庵瑣語〕明萬曆中、天寧寺富僧物故、凡往弔者、厚有贈貼、名曰程儀、同時鄉紳鍾姓者効之、有諸生丘某者、形體侏儒、人稱之爲丘的篤、與死者素不相識、利其贈金、備禮往弔、自後民家婚喪、必往賀弔、出俟于門、遣僕入促、甚至索添錙銖、往返數次、丘死而傳其衣鉢者、皆故家子弟、聊倒無聊之徒、猶以斯文自居、至今此風不變、民間遇見此輩、輒稱之爲丘的篤云、崑山有喪蟲、亦此類。

【丘天祐】161 キウテンイウ 明、莆田の人。字は恒吉。成化の進士。官は監察御史。

【丘天民】162 キウテンミン 清、曲江の人。字は獨醒。諸生。畫に巧。〔國朝耆獻類徵、四百二十九〕・〔國朝畫識、三〕。

【丘富國】163 キウフコク 宋、建安の人。字は行可。宋末元初の儒者。業を朱子の門に受け、淳祐年間、登第して丹陽僉判となる。宋滅亡の後は、退いて再び仕へず。著に周易輯解・經世遺書・學易說約がある。〔宋季忠義錄、二十〕・〔新元史、二百四十九〕。

【丘文播】164 キウブンバ 五代、蜀の廣漢の人。又の名は潛。畫に巧。弟の文曉、子の仁慶・餘慶も皆畫を善くした。〔宣和畫譜〕。

【丘懋煒】165 キウボウキ 明、漳浦の人。字は以鄂。萬曆の進士。官は兵科給事中。立太子の議の未だ定まらざるを以て、上疏して先づ鄭泰國を斬り、然る後、自分を斬つて鄭妃に謝せんことを請うた。〔漳浦縣志〕。

【丘懋素】166 キウボウソ 明の人。懋樸の弟。崇禎の鄉試に擧げられ、南陽の守となり、流寇に殺さる。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【丘懋樸】167 キウボウボク 明、貴定の人。字は若木・節愍。崇禎の鄉試に擧げられ、官は刑南僉事。性孝友にして、文章を能くし、流寇の難に死す。〔南疆繹史摭遺、六〕・〔崇禎忠節錄、十六〕。

【丘穆陵】168 キウボクリヨウ 複姓。丘目陵(170)に同じ。〔魏書、官氏志〕丘穆陵氏、後改爲二穆氏一。

【丘民仰】169 キウミンギヤウ 明、渭南の人。字は長白。官は右僉都御史。清兵が松山を圍むや、之を固守し、城陷つて死す。〔明史、二百六十一〕・〔萬斯同明史、三百六十九〕・〔明史稿、二百四十五〕。

【丘目陵】170 キウモクリヨウ 複姓。一に丘穆陵に作る。〔魏書、官氏志〕丘目陵氏、後改爲二穆氏一。

【丘養浩】171 キウヤウカウ 明、泉州の人。字は以義。正德の進士。官は江西巡撫。〔國朝獻徵錄、六十二〕・〔國朝列卿記、九十四・一百十三〕・〔蘭臺法鑒錄、十五〕・〔本朝分省人物攷、七十一〕。

【丘老虎】172 キウラウコ 清、丘聯恩の綽名。丘聯恩(175)を見よ。〔方宗誠、南陽鎭總兵丘公傳〕公居心忠純、時以殺賊自任、臨レ敵果勇異レ常、賊畏レ之、號爲二丘老虎一云。

【丘良功】173 キウリヤウコウ 清、同安の人。諡は剛勇。官は浙江提督。戰功あり、封は三等男。〔清史稿、三百五十六〕・〔清史列傳、三十一〕・〔國朝耆獻類徵初編、三百八〕・〔國史列傳、八十〕。

【丘靈鞠】174 キウレイキク 南齊、烏程の人。宋時代にあつて文名が高い。著に江左文章錄序・文集がある。〔南齊書、五十二〕・〔南史、七十二〕。

【丘聯恩】175 キウレンオン 清の人。良功の子。字は偉堂。諡は武烈。官は南陽鎭總兵。軍功あり。後、舞陽にて戰死す。俗に其の勇敢を稱して丘老虎といふ。丘、一に邱に作る。〔清史稿、四百三十四〕・〔續碑傳集、六十五〕。

【丘之禱久】176 キウノイノルコトヒサシ 孔子の言。自分は平生身を愼んで居るから、特別な禱はしなくてもそれが直ちに禱であつて、自分の神祇に對する禱は久しいと言へるとの意。〔論語、述而〕子疾病、子路請レ禱、子曰有レ諸、子路對曰、有レ之、誄曰、禱二爾于上下神祇一、子曰、丘之禱久矣。

【丘南小隱】17 キウナンセウイン 清、汪琬(6－17154‥13)の號。

【移レ丘換レ段】178 イキウクワンダン みだりに土地の區劃を改易して私利を圖ることをいふ。〔明律、戶律、田宅、欺隱田糧〕若將二田土一移二丘換一段、那移等則、以二高作一下、減二畸糧額一及詭二寄田糧一影射差役、并受寄者、罪亦如レ之。

【經レ丘尋レ壑】179 ケイキウジンガク 山水を遊覽して樂し

むをいふ。〔書言故事、地理類〕遊覽自娛、曰レ得ニ經レ丘尋レ壑之樂一、陶淵明歸去來辭、或命ニ巾車一、或棹ニ孤舟一、既窈窕以尋レ壑、亦崎嶇而經レ丘。

【如レ丘而止】180 キウノゴトクニシテトドマル　小成に安んじて、進步を求めぬ喩。〔荀子、宥坐〕孔子曰、如レ垤而進、吾與レ之、如レ丘而止、吾已矣。

【丘豆伐可汗】181 キウトウバツカカン　後魏、蠕蠕の可汗、社崙が自稱した號。社崙(**8**－**24631**‥122)を見よ。

【丘除車林鞮單于】182 キウヂヨシヤリンテイゼンウ　後漢、南匈奴の王。永平五年、醢僮尸逐侯鞮單于適が薨じ、丘浮尤鞮單于の子蘇が立つて南單于となつた。既ち丘除車林鞮單于で、位に卽いて數月にして薨じた。〔後漢書、一百十九〕。

【丘浮尤鞮單于】183 キウフイウテイゼンウ　後漢、南匈奴の王。中元元年、醢落尸逐鞮單于比が薨じ、弟の左賢王莫が立つて丘浮尤鞮單于といふ。時に、光武帝は使を派し、璽書を齎して鎭慰し、且璽綬を授け、冠幘・絳單位三襲・童刀佩刀・緄帶各一を遺つた。これが、以後、後漢を通じての例となるに至つた。中元二年卒。〔後漢書、一百十九〕。

【北】34

キウ　丘(**1**－**33**)に同じ。〔字彙〕北、同レ丘。

【丙】35

㊀ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕補永切　梗
㊁ヘイ ヒヤウ　〔集韻〕陂病切　敬　ㄅㄧㄥˇ ping³

小篆 丙

㊀❶**ひのえ**。十干の第三位。五行では火。南方の位。萬物成つて明かなさま。〔說文〕丙、位ニ南方一、萬物成炳然、会氣初起、昜氣將レ虧、从ニ一入冂一、一者、昜也、丙承レ乙、象ニ人肩一。〔爾雅、釋天〕太歲在レ丙曰ニ柔兆一云云、月在レ丙曰レ修。〔淮南子、時則訓〕其日丙丁。〔注〕丙丁、火日也。❷**あきらか**。〔玉篇〕丙、又光明也。〔釋名、釋天〕丙、炳也、物生炳然、皆著見也。〔白虎通、五行〕丙者、其物炳明。❸**つよい**。〔廣雅、釋天〕丙、剛。❹**魚の尾**。〔爾雅、釋魚〕魚尾、謂ニ之丙一。❺**姓**。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕邴氏、亦作レ丙、晉大夫邴豫、食ニ邑于邴一、因以爲レ氏、齊亦有ニ邴邑一、而亦有ニ邴氏一云云、又李陵降ニ匈奴一、裔孫歸レ魏、見ニ丙殿一、因賜ニ氏焉。㊁**日の名**。〔集韻〕丙、日名。

解字　會意。一と入と冂(おほひの義)との合字。一は陽氣を示し、陽氣が冂の中に入るのは、陰氣始めて起つて、陽氣將に虧けんとする義を表はす。一說に、古文炏に作り、わざはひの義。一(上の古文二の省形)と內(炏の省形)とを合せて、火が燃え上つてわざはひを爲す義を表はすといふ。〔說文、丙、段注〕合ニ一入冂三字一、會意、陽入レ冂伏臧、將レ虧之象也。〔說文通訓定聲〕丙、烖也、古文作レ炏、从ニ火燒レ宀、會意、說文以爲ニ烖之或體一誤、今移ニ于此一、義同而聲異、丙亦古文也、火炎上、从ニ古文上省一、與ニ帝旁一同意、从ニ古文灾省一、非ニ內字一。▽ 𠔃(金文) 象形。脚の張り出た臺に象る。

【丙鑒】1 ヘイカン　あきらかにみる。〔福惠全書、筮仕部、四六小啓式〕無レ任ニ寅恭一仰祈ニ丙鑒一、謹啓。

【丙魏】2 ヘイギ　漢の宣帝の名臣、丙吉と魏相。〔漢書、丙吉傳贊〕孝宣中興、丙魏有レ聲。

【丙吉】3 ヘイキツ　漢、魯國の人。字は少卿。謚は定。漢の宣帝を補佐した名臣。封は博陽侯。〔前漢書、七十四〕。

【丙吉牛喘】4 ヘイキツギウゼン　蒙求の標題。丙吉問ニ牛喘一」を見よ。

【丙吉問ニ牛喘一】5 ヘイキツウシノアヘグヲトフ　漢の丙吉が牛の喘ぐのを見て、時氣が節を失ふことを悟つた故事。〔漢書、丙吉傳〕吉又嘗出、逢ニ淸レ道羣鬭者、死傷橫レ道、吉過レ之不レ問、掾史獨怪レ之、吉前行、逢ニ人逐レ牛、牛喘吐レ舌、吉止駐、使ニ騎吏問一逐レ牛行幾里一矣、掾史獨謂、丞相前後失レ問、或以譏レ吉、吉曰、民鬭相殺傷、長安令京兆尹、職所レ當ニ禁備逐捕一、歲竟、丞相課ニ其殿最一、奏ニ行賞罰一而已、宰相不レ親ニ小事一、非レ所レ當ニ於道路問一也、方春少陽用レ事、未レ可ニ大熱一、恐牛近行、用レ暑故喘、此時氣失レ節、恐有レ所ニ傷害一也、三公典ニ調ニ和陰陽一、職所レ當レ憂、是以問レ之、掾史迺服、以吉知ニ大體一。

【丙火】6 ヘイクワ　火のひかり。火光。〔謝良輔、秋霧賦〕丙火方馳、騰蛇欲レ飛。

【丙科】7 ヘイクワ　試驗成績の第三等級。唐人は諱を避けて景科に作る。〔史記、匡衡傳〕數射策不レ中、至レ九乃中ニ丙科一。〔漢書、儒林傳序〕歲課ニ甲科四十人一、爲ニ郎中一、乙科二十人、爲ニ太子舍人一、丙科四十人、補ニ文學掌故一云。〔稱謂錄、甲第總稱、丙科〕按、漢之甲科、猶ニ今之第一甲一、而漢之乙科・丙科、猶ニ今之二甲・三甲一矣、自レ唐以後、進士登ニ甲科一者、益覺ニ貴重一。

【丙穴】8 ヘイケツ　嘉魚を產する洞穴の名。❶大丙山の穴。山は陝西省略陽縣の東南にあり、沔縣の境に接す。〔水經、沔水注〕穴口向レ丙、故曰ニ丙穴一。〔左思、蜀都賦〕嘉魚出ニ於丙穴一。〔注〕劉曰、丙、地名也。〔太平寰宇記〕大丙・小丙二山、峻崖南北相對、高百餘丈、北有レ穴、方圓二丈餘、有レ水潛流、土人傳爲ニ丙穴一、沮水經ニ穴門一而過、或謂ニ之大丙水一、每春三月上旬、有レ魚從レ穴出躍、相傳名爲ニ嘉魚一。❷四川省城口縣の南。〔方輿勝覽〕在ニ明通縣井峽中一、其穴凡十、中產ニ嘉魚一、春社之前、魚出レ穴、秋社歸。❸四川省廣元縣の北、漢水の南。❹四川省雅安縣の南。

【丙穴魚】9 ヘイケツギヨ　魚の名。嘉魚(**2**－**4176**‥52)の異名。〔本草、嘉魚〕釋名、鯠魚、拙魚、丙穴魚、時珍曰、丙穴之說不レ一、按、文選注云、丙穴在ニ漢中沔縣北一、有ニ二所一、常以ニ三八月一取レ之、丙、地名也、水經注云、丙水出ニ丙穴一、穴口向レ丙、故名、嘉魚、常以ニ三月一出レ穴、十月入レ穴、黃鶴云、蜀中丙穴甚多、不ニ獨漢中一也、嘉州雅州梁山大邑順政諸縣、皆有ニ丙穴一、嘉魚常以ニ春末一出游、冬月入レ穴。

【丙顯】10 ヘイケン　漢の人。丙吉の子。官は太僕。〔前漢書、七十四〕。

【丙午】11 ヘイゴ　❶干支の一つ。ひのえうま。〔春秋、桓、十七〕二月丙午、公會ニ邾儀父一、盟ニ于趡一。❷此の年を厄年として忌む迷信があつた。丙午丁未を見よ。

【丙午丁未】12 ヘイゴテイビ　ひのえうまの年と、ひのとひつじの年。昔は此の兩年は厄年として忌んだ。內亂がなければ、夷狄の外患があるといふ。〔容齋五筆、丙午丁未〕丙午・丁未之歲、中國遇レ此、輒有ニ變故一、非ニ禍生ニ於內一、則夷狄外侮。

【丙子】13 ヘイシ　❶干支の一つ。ひのえね。〔春秋、桓、十八〕夏四月、丙子、公薨ニ于齊一。❷ ping² tzŭ³　南と北。

【丙子學易編】14 ヘイシガクエキヘン　書名。一卷。宋、李心傳撰。〔四庫提要、經、易類〕。

【丙氏】15 ヘイシ　漢、魯の人。鐵冶を以て巨萬の富を積む。〔前漢書、九十一〕。

【丙舍】16 ヘイシヤ　❶後漢の宮中の第三等の舍。〔後漢書、淸河孝王慶傳〕遂出ニ貴人姊妹一、置ニ丙舍一。〔王先謙集解〕通鑑胡注、丙舍、宮中之室、以ニ甲乙丙丁一爲レ次也。〔千字文〕丙舍傍啓。❷柩舍。靈柩を暫く停め置く爲に墓地の南側に作つた建物。南側に位するから丙舍といふ。〔廼賢、秋夜懷ニ姪元童一詩〕墓田丙舍知何所。〔碑版廣例〕漢孔耽碑、案ニ其文一、蓋營ニ生壙一而作ニ丙舍一、異日將ニ以爲ニ祠堂一耳、後世生祠有レ記、丙舍有レ記、義始ニ乎是一。

【丙章】17 ヘイシヤウ　淸、戴有祺(**5**－**11685**‥150)の字。

【丙純】18 ヘイジユン　淸、呂光復(**2**－**3386**‥188)の字。

【丙通】19 ping³ t'ung¹　卜者の語。夏をいふ。

【丙丁】20 ヘイテイ　❶ひのえひのと。丙・丁は五行で火に當ることから、凡て火の義に用ひる。〔禮記、月令〕孟夏之月、其日丙丁。〔呂覽、孟夏〕孟夏之月、其日丙丁。〔注〕丙丁、火日也。〔本草、陽火陰火〕集解、時珍曰、人之陽火一、丙丁君火也、人之陰火二、命門相火也。❷代名詞として用ひる。丙某丁某の意。〔魏書、宋世景傳〕嘗有ニ一吏一休滿還レ郡、食ニ人雞豚一、又有ニ一幹一、受ニ人一帽一、又食ニ二鷄一、世景叱レ之曰、汝何敢食ニ甲乙雞豚一、取ニ丙丁之帽一。

【付ニ丙丁一】21 ヘイテイニフス　火中に投じて燒き棄てる。祕密の手紙の末尾に記して、燒棄を乞ふ意を示す語。〔王守仁、復ニ童克剛一書〕會ニ同志諸友一、共付ニ丙丁一、爲ニ克剛一焚ニ此魔障一。

【丙丁童子】22 ヘイテイドウジ ヒヤウチヤウドウジ 佛燈火を司る子供。〔碧巖錄、第七則評唱〕林云、丙丁童子來求レ火。

【丙丁虜亂】23 ヘイテイノリヨラン 清の太宗の崇德元年と二年、卽ち丙子・丁丑の二年に跨がつて起つた清朝と朝鮮との政治的抗爭事件。朝鮮では仁祖の十四・十五年に當る。之より先、清がまだ金と言つた頃に起つた丁卯の亂の結果、朝鮮は金と約して兄弟の國となつたが、仁祖の十年には更に之を改めて君臣の義とし、歲幣の增加を要求したので、朝鮮の排金熱は高まり、次いで十四年春、清使が朝鮮に赴くや、遂に排清の極に達し、仁祖は洪翼漢・弘文館・司諫院等の上書に促されて英馬二使を引見せず、防備を嚴にした。時に椵島に在つた明の都督沈世魁は之を利して清に當らんとして明の毅宗をして朝鮮を激勵せしめた。そこで清は太宗自ら十萬の兵を以て親征の軍を起し早くも京城に迫つたが、明は流賊の爲朝鮮を救ふ力なく、遂に崔鳴吉等の和平論が勝を制し、清軍と屢〻交涉が行はれた。そして翌十五年正月三十日、王は世子と共に出でて清の軍門に下り、朝鮮は清に君臣の禮を執り、明との交通を絕ち、清が明を伐つ時は之を援助し、歲幣額を增し、長子及び二子を質とする等の和約が結ばれ、漸く解決した。〔李朝仁祖實錄〕・〔明史朝鮮傳〕・〔東華錄〕。

【丙殿】24 ヘイデン 東宮の御殿をいふ。〔山堂肆考〕丙殿、太子宮也、又曰二青殿一。

【丙酮】25 ヘイドウ 藥品の名。無色の揮發性の芳香液で、無煙火藥製造用の溶劑、ワニスの溶劑、又醫藥などに用ひる。アセトン。

【丙部】26 ヘイブ 書籍の分類上の名。諸子類の書物。子書。唐代に始まる。四庫(**3**-**4682**・・267)を見よ。〔阮孝緒、七錄序〕因二荀勖舊簿四部之法一、而換二其乙丙之書一、沒二略衆篇之名一、總以二甲乙一爲レ次。〔唐書、藝文志一〕兩都各聚二書四部一、以二甲乙丙丁一爲レ次、列二經史子集四庫一。

【丙夜】27 ヘイヤ 一夜を甲・乙・丙・丁・戊の五刻に分けた、其の第三時。夜の十二時。子の刻。正子。三更。五夜(**1**-**257**・・1048)を見よ。〔南史、梁武帝紀下〕春正月辛卯、祀二南郊一、大赦、賜二孝悌力田爵一級一、先レ是、一日丙夜、南郊令解滌之等、到二郊所一履行一。〔唐書、循吏傳序〕丙夜、不レ安レ枕。

【丙之晨】28 ヘイノシン 丙(ひのえ)の日の夜明。〔左氏、僖、五〕童謠云、丙之晨、龍尾伏レ辰。

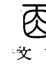
【引】36 シ 義未詳。〔字彙補〕引、音思。

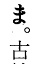
【亥】37 クツ クチ 〔集韻〕九勿切 物。
左のひぢが無い。又、短い。孑(**3**-**6932**)に同じ。〔廣韻〕亥、無二左臂一也。〔集韻〕孑、博雅、孑孑、短也、一曰、無二左臂一、或作レ亥。

【丑】38 チウ 丑(**1**-**23**)に同じ。〔中華大字典〕丑、別作レ丑、楊統碑、三月癸丑、丑卽丑。

五畫

【西】39 ㊀テン 〔集韻〕他點切 琰。 ㊁テン 〔集韻〕他念切 豔。 ㄊㄧㄢˋ tʻien4


小篆


古文

㊀㊁❶**舌の垂れるさま。**古は西(**1**-**56**)に作る。〔說文〕西、舌皃、从二谷省一象形、丙、古文西、讀若二三年導服之導一。〔段注〕士虞禮注曰、古文禫或爲レ導。❷**舌でなめる。**〔六書精蘊〕西、从三舌在二口外一、露二舌耑一舐レ物。❸**竹の皮。**〔說文〕丙、一曰、竹上皮、讀若レ沾。❹**光が無い。**〔集韻〕西、無レ光也。❺或は舚(**9**-**30333**)・舑(**9**-**30288**)・𦧇(**9**-**30299**)に作る。〔集韻〕西、亦作二舚・舑・𦧇一。

解字 會意。冂口(舌を吐くさまに象る)と人(谷の省形、谷は口內上部の曲處)とを合せて、舌を垂れるさまの義を表はす。古文も亦谷の省形に從ふ。〔說文、西、段注〕象形者、謂レ口、象レ吐レ舌也、从二谷省一者、謂レ人也、舌出二於谷外一、故內レ谷外レ舌。

【丞】40 ㊀ジョウ ショウ 〔集韻〕辰陵切 蒸。 ㄔㄥˊ chʻêng2 ㊁ショウ ジョウ 〔集韻〕常證切 徑。 ㊂ジョウ 〔集韻〕蒸之上聲 迥。

小篆

㊀❶**たすける。たすけ。**そへ役。もと丞(**4**-**7978**)に作る。〔說文〕丞、翊也、从レ廾从レ卩从レ山、山高奉承之義。〔正字通〕丞、說文作レ丞。〔廣韻〕丞、佐也。〔正韻〕丞、副貳也。〔列子、天瑞〕舜問二于丞一。〔釋文〕丞、謂二輔弼疑丞之官一。〔呂覽、介立〕爲二之丞輔一。〔注〕丞、佐也。❷**つぐ。**〔玉篇〕丞、繼也。❸**しづむ。**〔廣雅、釋詁一〕丞、沒也。❹**うける。**承(**5**-**11852**)に通ず。〔說文通訓定聲〕丞、叚借爲レ承。〔藝文類聚、四十五〕丞者、承也。〔大戴禮、保傅〕博聞強記、接給而善對者、謂二之丞一、丞者、承二天子之遺忘一者也。〔史記、張湯傳〕於レ是丞二上指一。❺**星の名。**〔宋史、天文志〕紫微垣東蕃八星、在二北斗北一、東蕃八星、第八星爲二少丞一、西蕃七星、第七星爲二上丞一。❻**門のしきみ。**〔廣雅、釋宮〕限、謂二之丞一。❼蒸(**9**-**31618**)に通ず。〔列子、天瑞〕舜問二于丞一。〔釋文〕丞、一本作レ蒸。㊁**縣名。**〔集韻〕丞、縣名、在二沂州一。㊂拯(**5**-**11879**)に通ず。〔集韻〕拯、古或作レ丞。邦古の官制。諸省の第三等の官。

名乘 スケ。

解字 會意。廾(兩手をそばだてる)と𠕒(高い山)とを合せて、高い處に在る物を手をそばだてて承け取る義を表はし、轉じて輔翼の義に用ひる。〔說文、𠕒、段注〕从レ卩从レ山四字、當レ作二𠕒二字一、山部曰、𠕒、高山之節、云云、山高謂レ𠕒也、凡高者在レ上、必竦レ手以承レ之。▽(甲骨文) 象形。縱穴に落ちた人を兩手で助け上げる形に象る。

【丞尉】1 ジョウイ 丞と尉。共に長官の副。〔新書、宗首〕彼自二丞尉一以上、徧置二其私人一如レ此。

【丞掾】2 ジョウエン 丞と掾。共に長官の屬僚。したやく。〔漢書、韓延壽傳〕丞掾數白、宜下循二行郡中一、覽二觀民俗一、考中長吏治迹上。

【丞監】3 ジョウカン 丞と監。戰國、秦の官名。〔商子、禁使〕今官恃二多官衆吏一、官立二丞監一、夫置レ丞立レ監者、且三以禁二人之爲レ利也。

【丞華】4 ジョウクワ 官名。漢、置く。太僕の下にあつて、馬を掌る官。〔漢書、百官公卿表上〕承華五監長丞。

【丞倅】5 chʻêng2 tsʻuei4 副官。次官。佐貳(**1**-**506**・・20)の別名。

【丞參】6 chʻêng2 tsʻan1 補助官。補佐官。

【丞史】7 ジョウシ 丞と史。共に長官の下役。〔史記、汲黯傳〕好二清靜一、擇二丞史一而任レ之。〔注〕集解曰、如淳曰、律、太守、都尉、諸侯內史、史各一人、卒史書佐、各十人、今總言二丞史一、或以爲下擇二郡丞及史一、使中任之上、鄭當時爲二大農一、推二官屬丞史一、亦是也。

【丞相】8 ジョウシャウ ショウジャウ 官名。秦、置く。丞は承、相は助の意で、君主を承け助ける義。執政の大臣。漢初、朝廷及び王國に相國を置いたが、後改めて、朝廷には丞相といひ、王國にはただ相といふ。後漢になつて、一旦廢し、獻帝の時復置く。南北朝には、相國丞相は禪讓の階となる。唐以後、また、丞相を廢す。元は中書省及び行中書省に左右の丞相を置く。明初の中書省も亦丞相を置いたが、後、之を廢した。宰相。〔史記、秦紀〕悼二年、初置二丞相一。〔漢書、百官公卿表〕相國・丞相、皆秦官、金印紫綬、掌下丞二天子一助中理萬機上。〔事物紀原、師保輔相部、丞相〕史記秦本紀、悼武王二年、初置二丞相一、蓋三代三公之任也、今侍中令僕射皆其職爾、故今亦以爲レ稱、

應劭曰、丞者、承也、相、助也、商鞅書定分篇云、秦孝公問二法令于鞅一、鞅有レ丞相置二一法官一之語、則丞相之置、已見二於孝公時一、非二悼武王始特置一之也、大抵秦所レ建官云。

【丞相掾】9ジョウショウエン 官名。丞相の屬官。〔漢書、嚴延年傳〕其父爲二丞相掾一。

【丞相史】10ジョウショウシ 丞相の屬官。〔史記、酷吏傳〕禹爲二丞相史一、府中皆稱二其廉平一。

【興二丞相歎一】11ジョウショウノタンヲオコス 秦の李斯が、鼠を見て歎じた故事。厠中の鼠は、不潔を食ひ、人や犬を恐れてゐるが、倉中の鼠は、積粟を食ひ、人や犬の憂もない。李斯は之を見て、人も居る所を擇ぶ可きだと悟つたといふ。〔史記、李斯傳〕李斯者、楚上蔡人也、年少時、爲二郡小吏一、見レ吏舍厠中鼠、食二不潔一、近二人犬一、數驚恐之上、斯入レ倉、觀レ倉中鼠、食二積粟一、居二大廡之下一、不レ見二人犬之憂一、於レ是李斯乃歎曰、人之賢不肖、譬如レ鼠矣、在レ所二自處一耳、乃從二荀卿一學二帝王之術一。〔蘇叔黨、鼠鬚筆詩〕太倉失二陳紅一、狡穴得二餘腐一、既興二丞相歎一、又發二廷尉怒一、磔レ肉餧二餓猫一、分レ髯雜二霜兎一、插二架刀樊健一、落レ紙龍蛇驚、物理未レ易レ詰、時來即レ所レ遇、穿レ墉何卑微、託レ此得二佳譽一。

【丞丞】12ジョウジョウ 進むさま。烝烝。蒸蒸。

【丞屬】13ジョウゾク 長官の下役。屬官。蒸屬。〔潘岳、西征賦〕丞屬號而守レ闕、人百レ身以納レ贖。

【丞輔】14ジョウホ 輔佐。〔呂覽、介立〕五蛇從レ之、爲二之丞輔一。

【丞簿】15ジョウボ したやく。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕前官廣文丞簿、附有二書札一。

【丞牧】16ジョウボク 清、劉鳳誥(2－2224··1322)の字。

【丞郎】17ジョウラウ 侍從の官。唐の左右丞・六曹侍郎をいふ。〔宋書、百官志上〕丞郎、月賜二赤管大筆一雙、隃麋墨一丸。〔老學庵筆記、八〕唐所謂丞郎、謂二左右丞・六曹侍郎一也、尚書雖レ序二左右丞上一、然亦通謂二之丞郎一、猶二今言一侍從官一也。

【丞烈】18ジョウレツ 唐王紹宗(7－20823··1799)の字。

【丟】41 チウ〔字彙〕丁羞切 尤 ㄉㄧㄡ tiu¹

❶なくする。〔字彙〕丟、一去不レ還也。❷なげうつ。〔新方言、釋言〕說文、投、擿也、度侯切、今爲二丁侯切一、俗書作レ丟。❸現㋑失ふ。なくす。㋺おとしもの。遺失物。

参考 ❶丟に作るは誤。❷の場合トウとも讀む。

【丟下】1 tiu¹ hsia⁴ なげおとす。

【丟開】2 tiu¹ k'ai¹ ❶やめる。手離す。❷投げ除ける。抛り投げて無くする。

【丟眼】3 tiu¹ yen³ 目くばせする。丟招。

【丟去】4 tiu¹ ch'ü⁴ なげ出す。捨てる。

【丟過】5 tiu¹ kuo⁴ 忘れてしまふ。〔紅樓夢、一回〕也就丟過、不レ在心上。

【丟差】6 tiu¹ ch'a¹ 事を誤る。失職する。

【丟醜】7 tiu¹ ch'ou² 醜態をさらす。面目を失ふ。ボロを出す。〔桃花扇、餘韻〕丟醜之極。

【丟失】8 tiu¹ shih¹ 失ふ。紛失する。遺失する。

【丟人】9 tiu¹ jen² 人の面目を傷ける。人の顔をつぶす。

【丟招】10 tiu¹ chao¹ 丟眼(3)に同じ。

【丟丟】11 ちうちう 紅いさま。〔丹鉛總錄〕古諺、早霞紅丟丟、晌午雨瀏瀏、晚霞紅丟丟、早晨大日頭。

【丟掉】12 tiu¹ tiao⁴ おとす。なくす。失ふ。

【丟入】13 tiu¹ ju⁴ つきいる。おしいる。

【丟包】14 tiu¹ pao¹ 包み物を故意に路上に落して置き、拾つた人を恐喝して金を取る詐術。

【丟了】15 tiu¹ la ❶失つた。無くなつてしまつた。❷幼兒が死んだ。

【丟臉】16 tiu¹ lien³ 面目を失ふ。顔を潰す。

【丟巧針】17 ちうシンタ 陰暦七月七日に、婦女が縫針を水に泛べ、其の影を見て裁縫の上達を乞ふこと。乞巧奠。〔帝京景物略〕七月七日之午、丟巧針、婦女曝二盎水日中一、頃之、水面生レ膜、繡針投之則浮、則看二水底針影一、有下成二雲物花頭鳥獸影一者上、有下成二鞋及剪刀水茄影一者上、謂二乞得レ巧。

【丟面子】18 tiu¹ mien⁴ tzŭ 面目玉をつぶす。

【兀】42 テン 天(8－5833)の古字。〔玉篇〕兀、古文天。

【丽】43 レイ 麗(12－47663)の古字。〔說文〕麗、丽、古文。

【系】44 フ 不(1－19)の古字。〔玉篇〕系、古文不。

【北】45 ㊀キウ ㊁ク ㊂ハ〔集韻〕祛尤切 尤 〔集韻〕補過切 箇

㊀❶をか。丘(1－33)の本字。〔正字通〕丘、本作レ北。❷むなし。〔新方言、釋言〕說文、北、空也。㊁大きな塚。〔集韻〕北、關東、謂二塚大一曰レ北。

【両】46 リヤウ 兩(1－1436)の俗字。〔中華大字典〕兩、俗兩字。

【此】47 シ〔海篇〕音資

定まる。〔海篇〕此、定也。

六畫

【卑】48 イウ 酉(11－39763)の古字。〔說文〕酉、卑、古文酉、从レ卑、卑爲二春門一、萬物已出、卑爲二秋門一、萬物已入、一閉レ門象也。

参考 卑(5－11708)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕卑、古卯字、闢レ戶爲レ卯。卑、古酉字、闔レ戶爲レ酉。

【兓】49 テン 天(8－5833)の古字。〔玉篇〕兓、古文天。

【冊】50 ケイ 義未詳。〔海篇〕冊、音形。

【両】51 リヤウ 兩(1－1436)の俗字。〔中華大字典〕兩、兩俗字。

【㒳】52 シヨ 所(5－11715)の俗字。〔廣韻〕㒳、俗所。

七畫

【並】53 ヘイ 竝(8－25752)に同じ。〔正字通〕竝、正韻作レ並。

【並】54 ヘイ 竝(8－25752)に同じ。〔集韻〕竝、隸作レ並。

【㚔】55 ヘイ 竝(8－25752)に同じ。〔正字通〕竝、又同レ㚔。

【囧】56 テン 丙(1－39)の古字。〔說文〕丙、囧、古文丙。

【秀】57 ヘイ 平(4－91675)の古字。〔玉篇〕秀、古文平。

【囧】58 キ 箕(8－26143)の籀文。〔字彙補〕囧、籀文箕字。

【丽】59 レイ 麗(12－47663)の古字。〔集韻〕麗、古作レ丽。

【冊】60 ネツ 我が古記錄に見える涅槃(6－17521··14)の略字。

八畫

【冞】61 ヤ 義未詳。〔海篇〕冞、音夜。

九畫

【㐀】62 キウ 丘(1－33)に同じ。〔字彙補〕㐀、同レ丘。

十畫

【㐁】63 トウ ヅ 〔集韻〕徒口切 有

小篆 ❶古の酒を入れる禮器。鋀(11－40742)に同じ。〔說文〕鋀、酒器也、云云、㐁、鋀或省レ金。❷斗(5－13489)に同じ。〔正字通〕㐁、石經毛詩、酌以二大㐁一、今作レ斗、義同。

十五畫

【㐂】64 コン 壼(3－5667)の俗字。〔正字通〕壼、俗壼字。

【㐃】65 ライ 畾(7－21924)に同じ。〔字彙補〕㐃、與レ畾同。

十九畫

【㐄】66 シヨ 義未詳。〔字彙補〕㐄、且去聲。

丨部

【丨】67 ㊀コン 〔集韻〕古本切 ㄍㄨㄣˇ kuen³ 阮
㊁シ 〔集韻〕息利切 寘
㊂ジヨ ニヨ 〔字彙〕忍與切 語

小篆 ㊀㊁㊂すすむ。しりぞく。下から上に引けば、すすむ意となり、上から下に引けば、しりぞく意となる。〔說文〕丨、下上通也、引而上行、讀若レ囟、引而下行、讀若レ退。〔集韻〕丨、上下通也。

解字 指事。下から上に一線を引いてすすむ義を示し、上から下に一線を引いてしりぞく義を示す。〔說文通訓定聲〕丨、上下通也、指事、引而上行、讀若レ囟、按、讀若レ進也、引而下行、讀若レ退。

一畫

【丩】68 ㊀キウ ク 〔集韻〕居尤切 尤
㊁ケウ ゲウ 〔集韻〕巨夭切 篠

小篆 ㊀㊁❶まつはる。まとふ。〔說文〕丩、相糾繚也、一曰、瓜瓠結丩起、象形。❷或は劉(4－10011)に作る。〔集韻〕丩、或作レ劉。❸注音符號の聲符の一。舌前音。先づ舌尖を上齒齦に接觸せしめ、氣息の洩出を阻止して勹を發音する狀態とし、次いで舌前部を硬口蓋に輕く接觸させて丅を發音する狀態とし、此の兩子音を同時に出す心持で發音すれば、此の音となる。チ。ch。此の符號を單獨で扱ふときには、韻符一を加へてチイ、chi と讀む。正形は丩。

解字 象形。瓜のつるが、物にはひまつはる形に象る。〔說文通訓定聲〕丩、相糾繚也、一曰、瓜瓠結丩起、象形、按、瓜瓠之縢、緣レ物糾縵、爲二本訓一、凡相糾繚、爲二轉注一。

參考 丩(1－227)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、丩、音鳩、延蔓也。丩、音許、動也。

二畫

【卜】69 ボク 卜(2－2774)の古字。卜部の卜(2－2775)を見よ。

【个】70 ㊀カ 〔集韻〕居賀切 ㄍㄜˋ kê⁴ 箇
㊁カン 〔集韻〕居案切 翰
唐コ

小篆 ㊀❶かずを數へるに用ひる字。㋑物を數へるに用ひる。一个は、ひとつ。箇(8－26116)・個(1－758)に同じ。〔集韻〕箇、或从レ个。〔六書故〕个、亦作レ箇。〔正字通〕个、別作レ個。〔儀禮、特牲饋食禮〕俎設二三个一。〔注〕个、猶レ枚也、今俗言二物數有二若干個一者、此讀然。〔禮、檀弓下〕國君七个。〔史記、貨殖傳〕竹竿萬个。㋺人を數へるに用ひる。一个は、ひとり。〔大學〕一个臣。〔左氏、昭、三〕齊公孫竈卒、晏子曰、又弱二一个一焉。❷ひさし。廂の部屋。〔正字通〕个、四面偏室。〔禮、月令〕孟春、天子居二青陽左个一。〔注〕青陽左个、大寢東堂北偏。㊁的の舌。射侯の舌。的の上下に著ける細長い布。幹(4－9183)に通ず。〔集韻〕个、射侯舌也。〔周禮、考工記、梓人〕上兩个、與二其身一三、下兩个、半レ之。〔注〕鄭司農云、兩个、謂下布可三以維二持侯一者上也、云云、玄謂、个、讀若二齊人搚幹之幹一、上个下个、皆謂レ舌也。〔孫詒讓正義〕後鄭意、此上下兩个夾レ身爲レ之、若二兩脅一然。

參考 个(1－347)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、个、歌去聲、枚也。个、古丁字。

【个山】[1] カザン 明、八大山人(2－1450‥351)の號。

【个臣】[2] カシン 清、吳嘉枚(2－3365‥466)の字。

【个亭和尙】[3] カテイヲシヤウ 清、陳梁(11－41698‥595)の自稱。

【丫】71 ア 〔集韻〕於加切 ㄧㄚ ya¹ 麻

❶ふたまた。木のまた。物のさきの分れて上に出たもの。〔集韻〕丫、物之岐頭者。〔同文備考〕丫、草木之枝、岐而上徹。〔字彙〕丫、木之岐頭。❷あげまき。つのがみ。みづら。總角。童子の結髮の形。丫丫(1)を見よ。❸現肉さし。❹注音符號の韻符の一。單母韻。舌後部を下降させ、口腔を開張し、脣を半圓形にして氣息を自由に外に洩らすと、此の音となる。ア。a。正形は丫。

【丫丫】[1] アア あげまきのさま。轉じて、あげまきに髮を結んだ幼女。少女。〔馬祖常、絕句〕江南女兒年十五、兩髻丫丫面粉光。

【丫環】[2] ya¹ huan² 小間使。丫頭(8)・丫鬟(3)に同じ。〔紅樓夢、一回〕丫環於是隱在門內看時、只見軍牢快手。

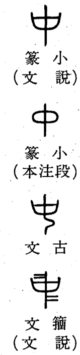
【丫鬟】[3] アクワン あげまきに結んだ髮。轉じて、婢、又は幼女の義。丫髻。丫頭。丫環。〔李商隱、柳枝詩序〕柳枝丫鬟畢粧。〔古今類書纂要〕丫鬟少女、

垂鬟小婢也。
【丫髻】4 アケイ あげまきに結んだ髮。丫鬟に同じ。〔老學庵筆記、五〕一丫髻童子、操ニ長柄一。〔歐陽脩、憎ニ蒼蠅一賦〕徒使ニ蒼頭丫髻、巨扇揮颺一。
【丫髻嶺】5 アケイレイ 山名。廣東省花縣の西南にある。兩峰が高く聳えて、丫髻の形に似てゐるので名づく。
【丫叉】6 アサ 二またになつて丫字形をなしてゐる所。又、其の形の器物。肉さし。又、うでぐみする。〔陸游、詩〕牧豎手ニ丫叉一。〔陸游、詩〕剝啄敲ニ村舍一、丫叉揖ニ主人一。
【丫枝】7 yaᶦ chihᶦ 樹のまた。丫狀をした木。
【丫頭】8 アトウ 腰元。小間使。又、女中。丫鬟。丫環。〔輟耕錄、丫頭〕吳中呼ニ女子之賤者一、爲ニ丫頭一。〔劉賓客、寄ニ贈小樊一詩〕花面丫頭十二三、春來綽約向レ人時。〔紅樓夢、一回〕這日甄家大丫頭、在門前買線。
【丫頭石】9 アトウセキ 碑の名。金陵の斷石岡の上に在つて、吳の大帝の字が彫つてある。〔梅堯臣、丫頭石詩〕丫頭石雖レ斷、文字未ニ全訛一。〔注〕此碑也、在ニ金陵斷石岡上一、有ニ吳大帝字一焉。
【丫頭坯兒】10 yaᶦ t'ou p'iᶦ êrh 若い女を罵つて呼ぶ語。お轉婆娘。
【丫童】11 アドウ こども。わらべ。少年。〔陸游、舍北行飯書ニ觸目一詩〕小婦破レ煙撐ニ去艇一、丫童橫レ笛喚ニ歸牛一。
【丫戾】12 アレイ 入りくんでゐる。〔酉陽雜俎續集、支動〕野牛高丈餘、其頭似レ鹿、其角丫戾。〔導引經〕又叉ニ手項上一、左右自丫戾不レ息、復三。
【丫八石】13 アハツセキ 山名。滿洲錦州省錦縣の北にある。山上に石柱が九つあり、遼の蕭太后の梳粧樓の故址と傳ふ。

三畫

【丯】72 クワ 丯(3-5692)の譌字。〔正字通〕丯、丯字之譌。

【中】73
㊀チュウ チュ 〔集韻〕陟隆切 ㄓㄨㄥ chung¹ 東
㊁チュウ チュ 〔集韻〕陟仲切 ㄓㄨㄥˋ chung⁴ 送


(小說篆文) (小段篆注本) 古文 (籀說文文)

㊀❶なか。うち。〔說文〕中、內也、从ニ口丨一、上下通也。〔易、坤〕黃裳元吉、文在レ中也。〔周禮、考工記、匠人〕國中九經九緯。〔注〕國中、城內也。〔儀禮、既夕禮記〕婦人則設ニ中帶一。〔注〕中帶、若ニ今之褌襂一。❷四方のまなか。〔書、召誥〕自服ニ于土中一。〔班固、東都賦〕宅レ中圖レ大。❸なかほど。物の中等。〔書、禹貢〕厥田惟中上。〔韓非子、難勢〕世之治者、不レ絕ニ於中一。❹なかごろ。時のなか程。〔易、繫辭下〕易之興也、其於ニ中古一乎。〔書、冏命〕中夜以興、思レ免ニ厥愆一。〔列子、力命〕得亦中、亡亦中。〔釋文〕中、半也。〔太玄經、周〕植ニ中樞一。〔注〕正午爲レ中。❺樞軸。地方に對して京師、外國に對して中國自身をいふの類。〔中庸〕是以聲名洋ニ溢乎中國一、施及ニ蠻貊一。〔孟子、離婁下〕得レ志行ニ乎中國一。❻こころ。精神。〔禮、文王世子〕禮樂交ニ錯於中一。〔注〕中、心中也。〔莊子、田子方〕爾、其中也殆矣。〔釋文〕中、精神也。〔史記、樂書〕四暢交ニ於中一。〔注〕正義曰、中、心也。❼からだ。躬(10-38038)に通ず。〔說文通訓定聲〕中、叚借爲レ躬。〔禮、檀弓下〕文子、其中退然、如レ不レ勝レ衣。〔注〕中、身也。❽はらわた。臟腑。〔素問、陰陽類論〕五中所レ主。〔注〕五中、謂ニ五藏一。❾かたよらぬ。過不及がない。又、其の德。中庸。堯舜以來、政治・倫理の根本思想。〔周禮、地官、大司徒〕以ニ五禮一防ニ民僞一、而敎ニ之中一。〔禮、儒行〕儒有ニ衣冠中一。〔注〕中、中閒、謂レ不ニ嚴厲一也。〔疏〕儒有ニ衣冠中一者、中閒言下儒者所レ服衣冠、在ニ尋常人之中閒一、不中嚴勵自異上也。〔左氏、成、十三〕民受ニ天地之中一、以生。〔論語、雍也〕中庸之爲レ德也。〔皇疏〕中、中和也。〔論語、堯曰〕允執ニ其中一。〔皇疏〕中、謂ニ中正之道一也。〔中庸〕中也者、天下之大本也。〔莊子、在宥〕中而不レ可レ不レ高者、德也。❿ただしい。なほい。〔周禮、秋官、司刺〕以レ刺宥ニ三法一、求ニ民情一、斷ニ民中一、施ニ上服下服之罪一。〔禮、玉藻〕頭頸必中。〔注〕頭容直。〔疏〕頭頸必中者、頭容直、不ニ低廻一也。〔淮南子、主術訓〕是以中立。〔注〕中、正。⓫二十四節の中氣。雨水・春分・穀雨・小滿・夏至・大暑・處暑・秋分・霜降・小雪・冬至・大寒をいふ。中氣。二十四氣(1-247・・474)を見よ。〔左氏、文、元〕擧ニ正於中一、歸ニ餘於終一。〔注〕擧ニ中氣一以正レ月。⓬ひとしくする。たひらか。〔一切經音義、二十五〕中、平也。〔周禮、考工記、弓人〕斲レ摯必中。〔注〕中、猶レ均也。⓭をさまる。〔禮、鄕飮酒義〕冬之爲レ言、中也、中者藏也。⓮滿ちる。充(1-1344)に通ず。〔說文通訓定聲〕中、叚借爲レ充。〔漢書、宣帝紀〕秩中二千石。〔注〕師古曰、中者、滿也。⓯成る。庸(4-9378)に通ず。〔說文通訓定聲〕中、叚借爲レ庸。〔禮、禮器〕因ニ名山一、升ニ中于天一。〔注〕中、猶レ成也、燔柴祭レ天、告以ニ諸侯之成功一也。⓰穿つ。〔周禮、考工記、桃氏〕中ニ其莖一。〔注〕中、謂レ穿レ之也。⓱婚姻などのなかだち。媒介。〔穀梁、桓、九〕爲ニ之中一者、歸レ之也。〔注〕關ニ與婚事一、曰レ中。⓲算を盛る器。〔周禮、春官、大史〕飾レ中。〔注〕中、所ニ以盛レ算也。〔禮、投壺〕司射奉レ中。〔疏〕中之形、刻レ木爲レ之、狀如ニ兕鹿一而伏、背上立ニ圜圈一、以盛レ算也。⓳簿書。案件。〔周禮、秋官、小司寇〕以ニ三刺一斷ニ庶民獄訟之中一。〔孫詒讓正義〕孔廣森云、國語、左執ニ鬼中一、韋昭曰、執、謂レ把ニ其錄籍一、然則獄訟之中、亦其錄籍、若ニ今秋審招冊一也。〔國語、楚語上〕左執ニ鬼中一。〔注〕執、謂レ把ニ其錄籍一。⓴戶役の年歲。北齊、男子十六以上、十七以下を中丁とす。後世、少しく異同あり。〔文獻通考、戶口、歷代戶口丁中賦役〕北齊武成清河三年、乃令ニ男子十八以上六十五以下一爲レ丁、十六以上十七以下爲ニ中丁一。㉑忠(4-10353)に通ず。〔說文通訓定聲〕中、叚借爲レ忠。〔周禮、春官、大司樂〕中者、祗庸孝友。〔注〕中、猶レ忠也。〔孝經、事君章〕中心藏レ之、何日忘レ之。〔釋文〕中、本亦作レ忠。㉒衷(10-34139)に通ず。〔正字通〕中、禮記、深衣、注、衣有レ表者、謂ニ之中衣一、與レ衷通。㉓仲(1-403)に通ず。〔說文通訓定聲〕中、叚借爲レ仲。〔左氏、文、六〕中行鍼虎。〔釋文〕中、本作レ仲。〔顏氏家訓、書證〕古以レ中爲レ仲。㉔古は𠁧(1-81)に作り、籀文は𠁩(1-83)に作る。〔集韻〕中、古作レ𠁧、籀作レ𠁩。㉕姓。〔姓纂〕呂氏春秋云、中尙、魏公子牟之後、魏得ニ中山一、以レ邑與レ之、子孫因以爲レ氏。〔通志、氏族略、平聲〕中氏、何承天纂要云、漢少府中京。㊁❶あたる。〔集韻〕中、當也。〔易、蹇〕往得レ中。〔釋

文〕中、適也。〔論語、先進〕億則屢中。〔集解〕何晏曰、雖レ不レ窮レ理而幸中、雖レ非二天命一而偶富。〔中庸〕從容中レ道。〔疏〕謂下不二勉勵一而自中中當於善上。〔史記、周紀〕百發百中。〔魏書、藝術傳〕靈所レ占屢中。❷あふ。一致する。〔左氏、定、元〕未二嘗不レ中二吾志一。〔管子、四時〕不レ中者死。〔注〕中、猶レ合也。❸毒や風にあたること。〔莊子、達生〕中レ身當レ心、則爲レ病。❹應ずる。〔禮、月令〕律中二太簇一。〔注〕中、猶レ應也。❺及第する。試驗に合格する。〔北齊書、方伎傳〕武成親試レ之、皆中。❻傷ふ。陷れる。罪する。中傷する。〔淮南子、原道訓〕好レ事者、未二嘗不レ中。〔注〕中、傷也。〔漢書、何武傳〕欲下以二吏事一中上商。〔注〕中、傷レ之也。❼あてる。撃つ。〔荀子、彊國〕敵中則奪。〔注〕中、擊也。❽へだてる。あひに挾む。〔儀禮、士虞禮〕期而大祥曰レ薦、此祥事、中レ月而禫。〔注〕中、猶レ間也。〔禮、學記〕中レ年考校。〔注〕中、猶レ間也。❾かなめ。大切なもの。〔周禮、天官、天府〕都鄙之治中、受而藏レ之。〔注〕治中、謂二治職簿書之要一也。❿得る。〔周禮、地官、師氏〕掌二國中失之事一。〔注〕故書、中爲レ得。〔釋文〕中、杜音得。〔戰國、齊策〕是秦之計中。〔注〕中、得也。

名乘　ナカ。ノリ。

解字　指事。口(かこひの義)と丨との合字。丨を以て、或は下から或は上から、かこひの內に入る意を示し、はいる・うちの義を表はす。一說に、口は四方の形で、丨を以て其の中央を貫通し、なかの義を示すといふ。又一說に、中はあたるの義で、㫃は射的の形、丨を以て矢がまとの中心を貫いた形を示すといふ。〔說文、中、段注〕按、中字會意之恉、必當レ从レ口、音圍、衞宏說、㫃字从二卜㫃一、則中之不レ从レ口明矣、俗皆从レ口、失レ之、云二下上通一者、謂三中直或引而上、或引而下、皆入二其內一也。〔說文通訓定聲〕中、駿按、白虎通五行、中、和也、古訓レ中爲レ和者、乃中字之轉注、其本訓、當レ爲二矢箸レ正也、从レ口固非、段訂从レ口亦未レ允、當レ从レ㫃、象二射侯形一、从レ丨通也、亦象二矢形一、橫穿爲レ毌、從通爲レ中。

【中阿】1 チユウア　❶岡の眞中。阿は岡の大きなもの。〔詩、小雅、菁菁者莪〕菁菁者莪、在二彼中阿一。〔傳〕中阿、阿中也。〔左思、蜀都賦〕藂蕪布二濩於中阿一。❷山名。雲南省順寧縣城の西南。

【中央】2 チユウアウ　❶まんなか。〔詩、秦風、蒹葭〕遡遊從レ之、宛在二水中央一。〔莊子、天下〕我知二天下之中央、燕之北、越之南、是也。〔荀子、大略〕欲レ近二四旁一、莫レ如二中央一。〔韓非子、初見秦〕趙氏中央之國也、雜民所レ居也。❷複姓。〔邵思姓解〕古帝號二中央氏一、後以爲レ姓。❸中央政府の所在地。❹中樞。樞要。首府。中央機關。中央部。

【中央體】3 チユウアウタイ　生物學用語。細胞活動の中心をなす小體。中心體。

【中央費】4 チユウアウヒ　地方團體の支出する地方費に對して國家の支出する經費を云ひ、國家が國民一般の利益に關し、且國家に依つてのみ充分に遂行せられ得る樣な政務に使用する經費を指す。國防・外交・司法等に關する諸經費が之である。

【中央粉】5 チユウアウフン　蒲の穗にある黃粉。蒲黃(**9**−**31611**‥31)の異名。〔淸異錄、藥、藥譜〕中央粉、蒲黃。

【中央行政】6 チユウアウギヤウセイ　全國一般に施行する行政。

【中央銀行】7 チユウアウギンカウ　諸銀行の中心となり、一國の金融を統轄する地位にある銀行。

【中央官廳】8 チユウアウクワンチヤウ　中央に所在する最高行政官廳。

【中央之弧】9 チユウアウノコ　男子が生れて、天地四方の魔を射る時、中央を射るのに用ひる桑の弧を云ふ。弧は木ゆみ。〔新書、胎教〕懸弧之禮義、東方之弧以レ梧、梧者、東方之草、春木也、其牲以レ雞、雞者、東方之牲也、南方之弧以レ柳、柳者、南方之草、夏木也、其牲以レ狗、狗者、南方之牲也、中央之弧以レ桑、桑者、中央之木也、其牲以レ牛、牛者、中央之牲也、西方之弧以レ棘、棘者、西方之草也、秋木也、其牲以レ羊、羊者、西方之牲也、北方之弧以レ棗、棗者、北方之草、冬木也、其牲以レ彘、彘者、北方之牲也。

【中央集權】10 チユウアウシフケン　國家の行政事務の大部分を、中央官廳の權限に集中すること。

【中央政府】11 チユウアウセイフ　其の管轄區域が全國一般に涉る官府。內閣諸官省の稱。中央官府。

【中央大學】12 チユウアウダイガク　南京に在る大學の名。民國十六年、東南大學・上海商科大學・江蘇法政大學等を合併して國立第四中山大學を設立し、次いで江蘇大學と改稱し、同十七年四月更に中央大學と改稱す。

【中央黨部】13 チユウアウタウブ　民國の國民黨の最高黨務機關。

【中央電臺】14 チユウアウデンダイ　中央廣播電臺の略稱。

【中央研究院】15 チユウアウケンキウヰン　民國の最高の學術研究機關。民國十七年成立し、科學研究及び其の指導獎勵などを行ふ。

【中央廣播電臺】16 チユウアウクワウハデンダイ　中央放送局。

【中央政治會議】17 チユウアウセイヂクワイギ　民國の國民黨の中央執行委員會に屬する一機關。建國の綱領・立法の原則・施政方針・軍事の大計等を議決し、政府を指導す。但し直接政務を處理せず。中央執行委員會政治會議の簡稱。

【中安】18 チユウアン　淸、王恕(**7**−**20823**‥599)の字。

【中菴】19 チユウアン　字號。❶元、劉敏中(**2**−**2224**‥1283)の號。❷明、饒安(**12**−**44400**‥1)の號。❸淸、萬正色(**9**−**31339**‥605)の號。❹淸、裴希度(**10**−**34362**‥111)の號。

【中菴集】20 チユウアンシフ　書名。二十卷。元、劉敏中撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【中衣】21 チユウイ　❶祭服・朝服等の下に着る服。中單。〔詩、唐風、揚之水〕素衣朱襮、〔傳〕襮、領也、諸侯繡黼、丹朱中衣。〔禮、深衣、疏〕深衣者、連二衣裳一而純レ之以レ采也、有レ表則謂二之中衣一。〔疏〕大夫以上、祭服之中衣用レ素。〔後漢書、輿服志上〕丹朱中衣。〔隋書、禮儀志六〕中衣、以レ絳緣二領袖一。❷なかぎ。したぎ。中帬。〔釋名、釋衣服〕中衣、言レ在二小衣之外、大衣之中一也。❸chung¹ i¹ ㋑禮服の下着。㋺支那服。

【中意】22 チユウイ　❶心にかなふ。氣に入る。自分の考に合ふ。〔漢書、江充傳〕奉レ法不レ阿、所レ言中レ意。〔注〕師古曰、中、當也。〔漢書、杜周傳〕奏事中レ意任用。❷心の中。〔韋應物、廣陵遇二孟九雲卿一詩〕新知雖レ滿レ堂、中意頗未レ宣。

【中醫】23 チユウイ　❶病んで醫藥を服しないこと。又、平凡な醫者。中等の醫者。〔漢書、藝文志〕有レ病不レ治、常得二中醫一。〔講疏〕錢大昭曰、今吳人猶云レ不レ服レ藥爲二中醫一。〔避暑錄話〕不レ服レ藥勝二中醫一、此語雖レ不レ可二通行一、然疾無二甚苦一、與下其爲二庸醫一妄投藥、反害上レ之、不レ得レ爲二無益一也。❷chung¹ i¹ 洋風醫に對して、漢方醫をいふ。中國人の醫者の意。

【中位】24 チユウヰ　まんなかの位置。〔呂太一、土賦〕惟土德之爲レ大、處二中位一而君臨。

【中位數】25 チユウヰスウ　統計學用語。或る數目を大小の順序に依つて排列するとき、其の中ほどに在る數をいふ。

【中尉】26 チユウヰ　官名。❶京師を警護する官。戰國の趙の烈侯が荀欣を中尉としたのに始まり、秦漢之に因る。漢の武帝の時、執金吾と改めた。漢の諸王國も亦中尉を置き、盜賊に備へた。元代、內史府に中尉を置いたのも、漢制に由つたのである。〔史記、張釋之傳〕中尉條侯周亞夫。〔漢書、百官公卿表〕中尉、秦官、掌レ徼二循京師一、武帝太初元年、更二名執金吾一。❷主爵中尉。秦代に置かれ、列侯を掌る。武帝の時、右扶風と改稱す。〔漢書、百官公卿表〕主爵中尉、秦官、掌二列侯一、景帝中六年、更二名都尉一、武帝太初元年、更二名右扶風一。❸御史中尉。後魏の時置き、百僚を監督した。御史中丞のこと。〔通志、職官略、御史臺〕梁及後魏・北齊、或謂二之南臺一、東魏時、高澄用二崔暹一爲二御史中尉一、宋游道爲二尚書左丞一、謂レ之曰、卿一人處二南臺一、一人處二北省一、當レ使二天下肅然一。❹護軍中尉。唐代に置き、神策軍を統領す。〔唐書、兵志〕竇文場爲二左神策軍護軍中尉一。❺軍人の階級の一。尉官の第二

位。中國でも同じ名稱を用ひる。

【中帷】27 天子の御座所のとばり。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕庭樹驚兮中帷響、金釭曖兮玉座寒。〔王勃、落花飛詩〕落花飛撩、亂入二中帷一。

【中違】28 交情が惡くなること。〔狂言、こんくわい〕ふつふつと中違ひでおじやる。

【中慰】29 慰表に用ひて弔慰の意を表はす短い語。慰表とは君上が憂へ事のあるとき、之を慰める上表をいふ。〔秉燭談〕誠懽誠忻頓首頓首、これを中賀と云ふ、賀表にこれを用ゆ、誠惶誠懼頓首頓首、これを中謝といふ、陳述の表にこれを用ゆ、云云、又按ずるに中慰といふことあり、これは慰表に用ゆ、上の凶事ある時に上る表を慰表と云ふ、慰は弔慰なり。

【中闈】30 宮中。闈門のなかの義。〔陸機、挽歌詩〕殯宮何嘈嘈、哀響沸二中闈一。

【中囿】31 ●御獵場。囿中。〔班固、東都賦〕遂集二乎中囿一、陳レ師案レ屯。〔注〕銑曰、中囿、苑中也。●天下を九州に分けた、其の中央の州。〔通鑑外紀〕中州則人皇居レ之、石鼓文所謂寓二逢中囿一也。

【中游】32 川の中流。

【中域】33 國の中央。中國(300)の●に同じ。〔皇甫謐、三都賦序〕寄二中域一。〔注〕翰曰、中域、謂二中國一也。

【中邑】34 縣名。漢の侯國。今の河北省滄縣の界。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、中邑。

【中九】35 ●官名。漢、置く。太子の官屬。後、宋齊の時、中舍人と改めたが、唐に至つて再び中允と稱し、詹事府に屬す。中盾。〔後漢書、班彪傳〕其非二朝日一、使二僕中允旦旦請問一而已。〔杜甫、奉二贈王中允維一詩〕中允聲名久、如今契闊深。〔通典、職官典、東宮官、太子庶子、中允〕後漢太子官屬有レ之、職在二中庶子下洗馬上一、漢制、太子五日一朝、其非二朝日一、卽使二僕及中允一朝、朝請二問起居一、其後無聞、宋齊有二中舍人一、是其職也、大唐貞觀初、改二太子中舍人一爲二中允一、置二二員一、其後、復置二中舍人一、龍朔二年、又改二中允一爲二左贊善大夫一、咸亨元年、復爲二中允一、而左贊善仍置レ焉、中允掌二侍從禮儀駁正啓奏幷監藥、及通判坊局事一、若庶子闕、則監二封題一、職擬二黃門侍郎一、永徽二年以二皇太子諱忠一、改爲二內允一、太子遜レ位、而官復レ舊。●心の誠實なること。〔宋書、符瑞志上〕體正而王、中允克明。

【中陰】36 ●相術家の語。流年運氣(6－174 31‥307)を見よ。●倒人の死後、四十九日の間の稱。中有(44)に同じ。〔大藏法數〕此色身死後、未レ托二生前一、名爲二中陰一。

【中飮】37 酒を飮んで中頃に至る意。半醉半醒の時をいふ。〔國語、晉語二〕使二優施飮一レ里克酒一、中飮、優施起舞。〔戰國、楚策〕張子中飮、再拜而請曰、非レ有二他人於此一也、願王召レ所二便習一而觴レ之。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一、徐幹詩〕中飮顧二昔心一、悵焉若レ有レ失。

【中隱】38 ●閑散な官に逃れ隱れること。〔白居易、中隱詩〕不レ如作二中隱一、隱在二留司官一。〔蘇軾、六月二十七日望湖樓醉書詩〕未レ成二小隱一聊中隱、可レ得二長閑勝一暫閑一。●元、信世昌(1－107‥262)の號。

【中隱堂】39 明、王紳(7－20823‥629)の室名。

【中院】40 中和院(165)に同じ。大內裏の御殿の一。正殿を神嘉殿といふ。大內裏(3－5 831‥1818)を見よ。〔和漢三才圖會、家宅類、殿〕神嘉殿、中院正殿名也、天子祭二社稷神一所。

【中院正廳】41 神嘉殿(8－24673‥45)の異稱。〔中右記〕大治二年十一月十七日、中院正廳爲二神殿一。

【中韻】42 中元音(249)に同じ。

【中宇】43 ●家の中。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕潛二周鼎於江淮兮、爨二土鬻於中宇一。〔注〕炊二土釜於堂宇之上一。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕揮レ汗辭二中宇一、登二城臨一清池一。〔注〕向曰、宇、屋也、言下出二中屋一登二城臨一池、以候中涼氣上也。●中國。中土。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕將下徙二縣中宇一、張中樂岱郊上。〔注〕濟曰、縣、都也、中宇、中國也。

【中有】44 倒人の死後、四十九日の間の稱。人が死んでから生れ代る迄の間。中陰。〔俱舍論、八〕於二死有後一、在二生有前一、卽彼中間有二自體起一、爲レ至二生處一故起二此身一、二趣中間、故名二中有一。

【中有之旅】45 ノチノタビ 倒冥途の旅。中有の身が、往生の緣を求めて迷ひ歩くのを、旅に喩へた語。〔往生十因〕形無二常住一、只有二守レ屍之鬼一、神無二常家一、獨趺二中有之旅一、悲哉冥冥獨逝。

【中英】46 ●複姓。〔廣韻〕中、虞有二五英之樂一、掌二中英一者、因以爲レ氏。〔元和姓纂〕少昊氏有二六英之樂一、掌二中英一者、以レ官爲レ氏。● chung¹ ying¹ 中國と英國。

【中郢】47 夏の季節の名。郢は盈の義。夏は陽氣が盈溢するからいふ。〔管子、幼官〕夏行二春政一、風、行二冬政一、落、重則雨レ雹、行二秋政一、水、十二小郢至、德、十二絕氣下、下二爵賞一、十二中郢、賜與、十二中絕、收聚、十二大暑至、盡レ善、十二中暑、十二小暑、終、三暑同レ事。〔纂詁〕郢、讀爲レ盈、夏陽氣盈溢、故以郢爲二節名一。

【中營】48 ●中央の陣營。〔漢書、周亞夫傳〕天子乃按レ轡徐行、至二中營一。●天子の營。〔揚雄、甘泉賦〕屯二萬騎於中營一兮。〔注〕濟曰、中營、天子營也。

【中衢】49 ●天子の軍隊の名。晉、置く。〔晉書、職官志〕案、文帝初置二中衢一、及二魏文帝受レ命、分爲二左右衢一。●縣名。清、置く。後魏の靈州の地。寧夏省寧夏縣の西南。〔清史稿、地理志〕甘肅、寧夏府、縣四、中衢。

【中天】50 ●中年で死ぬこと。〔維摩經〕命不二中天一。●非常な災難。大難。〔書夜用心記、四〕何事も時の中天といふ物なれば、堪忍いたされよ。

【中腰】51 腰を半ばかがめた姿勢。〔傾城島原蛙合戰、三〕中腰に成つて見物す。

【中耀】52 天王星。〔後漢書、襄楷傳〕小星震二動中耀一、中耀天王也。

【中暍】53 あつさあたり。中暑(469)の●に同じ。〔傷寒論、中暑有二三證一〕太陽中暍者、發レ熱惡寒、身重而疼痛。

【中葉】54 なかごろの世。葉は世の意。中世。〔詩、商頌、長發〕昔在中葉、有二震且業一。〔傳〕葉、世也、業、危也。〔班固、幽通賦〕氏二中葉之炳靈一。〔左思、蜀都賦〕當二中葉一而擅レ名。

【中衍】55 ●秦の祖先の一人。殷代の人。〔史記、秦紀〕大廉玄孫曰二孟戲中衍一、鳥身人言、帝太戊聞而下レ之使レ御、吉。●殷、紂王の兄。〔呂覽、當務〕紂之同母三人、其長曰二微子啓一、其次曰二中衍一、其次曰二受德一、受德乃紂也。

【中筵】56 宴席をいふ。〔潘岳、笙賦〕爾乃於中筵、攜二友生一。〔王勃、秋日餞別序〕響二詞辯促一中筵、但覺二清風滿一室。

【中鹽】57 商人が粟米又は銀を官に輸納した時、官から其の代償として之に鹽を給すること。宋の太宗の時に始まる。〔宋史、食貨志下五〕端拱二年、置二折中倉一、聽二商人輸一レ粟京師一、優二其直一、給二茶鹽于江淮一。〔清律、戶律、課程〕監臨勢要中鹽。〔輯注〕按、宋朝以用レ兵之饋餉、初令二商人輸一レ芻粟于塞下一、繼聽レ輸二粟京師一、皆優二其價一而給以レ鹽、謂二之折中一、故曰二中鹽一、商資二國用一、民食二官鹽一、兩利、明初、猶仍二其制一、至二弘治間一、始停二輸粟法一、而改令レ輸二銀于運司一、給以二引鹽一、其中鹽之名、至レ今因レ之。

【中園】58 園の中。園中。〔張華、太康六年三月三日後園會詩〕順レ時省レ物、言觀二中園一。〔謝朓、直二中書省一詩〕信美非二吾室一、中園思二偃仰一。〔劉長卿、奉レ和二杜相公新移二長興宅一呈中元相公上詩〕功高開二北第一、機靜灌二中園一。

【中惡】59 急病で死ぬこと。〔資治通鑑、魏紀〕〔邵陵厲公、嘉平四年〕伺二其昏睡一、縊殺之、託言二中惡一。〔注〕中惡、暴病而死也。

【中音】60 ●中和の音。〔國語、周語下〕道レ之以二中德一、詠レ之以二中音一。〔注〕中德、中庸之德舞也、中音、中和之音也。●高からず低からぬ音。●中庸の強さの音聲。●男聲の最高音。又、女子の低い聲。アルト。中音部。

【中音部記號】61 洋樂の音部記號の一。樂譜上に於て、其の記號のある位置が、ハ(c)の高さに當ることを示す。ハ字記號。アルト記號。

【中河】62 ●河の中程。河中(6－17245‥16 5)に同じ。〔詩、鄘風、柏舟〕汎彼柏舟、在二彼中河一。〔傳〕中河、河中。〔呂覽、必己〕中河孟賁、瞋

目而視㆓船人㆒、舟中之人、盡揚播入㆓於河㆒。㊁山名。貴州省鎭遠縣の東。〔讀史方輿紀要、貴州、鎭遠府、鎭遠縣〕中河山、府治東半里、志云、元置㆓鎭遠軍民總管府㆒、以授㆓田氏㆒、治㆓中河山上㆒、卽此。㊂川の名。江蘇省淮陰縣の西北。運河の下流をいふ。〔河防志〕淸康熙閒、總河靳輔、以㆓黃河風濤之險㆒、請自㆓駱馬湖㆒鑿㆑渠、歷㆓宿遷・桃源二縣㆒、至㆓淸河仲家莊出口㆒、名曰㆓中河㆒。

【中河失㆑舟一壺千金】63 チユウカバイツコ フネヲウシナヘセンキン　壺は瓠。壺(フク)は平生は貴重品ではないが、河中で難船した場合には、これによつて浮ぶことが出來るから、千金にも比すべき物となる。平常無用の物も、特殊の場合には非常に役立つ喩。〔鶡冠子、學問〕鶡冠子曰、不㆑提㆓生於弗㆑器、賤㆓生於無㆑所㆑用、中河失㆑船、一壺千金、貴賤無㆑常、時使㆓物然㆒、常知㆑善㆑善、昭繆不㆑易、一揆至㆑今、不㆑知㆑善㆑善。

【中夏】64 チユウカ　㊀中國人が自國を尊稱する語。中は中央、夏は大の意。〔班固、東都賦〕目㆓中夏㆒而布㆑德、瞰㆓四裔㆒而抗㆑稜。〔注〕向曰、中夏、中國。〔後漢書、馬融傳〕明德耀㆓乎中夏㆒、威靈暢㆓乎四荒㆒。㊁夏のなかば。〔史記、五帝紀〕日永星火、以正㆓中夏㆒。〔淮南子、說林訓〕中夏用㆑箑快㆑之、至㆑冬而不㆑知㆑去。〔吳志、賀邵傳〕中夏隕㆑霜。〔唐玄宗、端午詩〕端午臨㆓中夏㆒、時淸日復長。

【中夏俗語藪】65 チユウカゾクゴソウ　書名。五卷。岡崎元軏撰。中國の俗語をいろは別にし、更に能藝・氣形・支體等に分け、一字語から十數字句に及ぶ。

【中家】66 チユウカ　普通の家。中流の家。〔史記、平準書〕中家以上、大抵皆遇㆑告。〔漢書、食貨志下〕中家以上、大氏皆遇㆑告。〔後漢書、桓譚傳〕今富商大賈、多放㆓錢貨㆒、中家子弟、爲㆑之保役。〔注〕中家、猶㆓中等㆒也。

【中俄】67 チユウガ　中國と露西亞。〔謝彬、新疆遊記〕其辦法、由㆓中俄兩國邊吏㆒。

【中賀】68 チユウガ　賀表に用ひる誠懽誠忭頓首頓首の八字の略。文集などでは此の二字に略書する。中慰(29)を見よ。

【中海】69 チユウカイ　㊀池の名。北京、舊皇城內にある太液池の一部。南海・北海と共に三海ともいふ。三海(1－12‥149)の㊀を見よ。㊁陸地に圍まれた海。

【中乂】70 チユウガイ　土地の中央にゐて、治を四方に施すこと。〔書、召誥〕毖祀㆓于上下㆒、其自㆓時中㆒乂。〔傳〕爲㆑治、當㆘愼㆓祀于天地㆒、則其用㆓是土中㆒、大致㆖治。

【中害】71 チユウガイ　內部の疾患。〔史記、扁鵲傳〕暴㆓發於外㆒、則爲㆓中害㆒。

【中交】72 チユウカウ　㊀月の運行の道すぢ中、黃道內にあるものをいふ。〔五代史、司天考〕九道者、月軌也、其半在㆓黃道內㆒、半在㆓黃道外㆒、去㆓極遠㆒六度、出㆓黃道㆒、謂㆓之正交㆒、入㆓黃道㆒、謂㆓之中交㆒。㊁chung¹ chiao¹ 中國銀行と交通銀行。

【中交點】73 チユウカウテン　降交點(11－41620‥131)に同じ。

【中交票】74 chung¹ chiao¹ p'iao⁴ 中國銀行と交通銀行との兌換銀券。

【中江】75 チユウカウ　㊀かはの中央。中流。〔資治通鑑、漢記〕(獻帝、建安十三年)蓋以㆓十艦㆒最著㆑前、中江擧㆑帆、餘船以㆑次俱進。㊁川の名。㋑禹貢の中江。〔書、禹貢〕東爲㆓中江㆒、入㆓于海㆒。(甲)江の本流をいふ。〔初學記引鄭玄書注〕岷江居㆓其中㆒、則爲㆓中江㆒。(乙)江が潯陽で九派に分れてゐる處をいふ。〔說文繫傳〕江、至㆓潯陽㆒分爲㆓九道㆒、東會㆓于彭蠡澤㆒、經㆓蕪湖㆒爲㆓中江㆒。(丙)蕪湖水をいふ。又、永陽江ともいふ。〔漢書、地理志上〕丹陽郡蕪湖、中江出㆓西南㆒、東至㆓陽羨㆒入㆑海。〔禹貢錐指〕江水東北至㆓蕪湖㆒、分爲㆓永陽江㆒、由㆓吳松㆒入㆑海、蕪湖、吳縣、居㆓南北二江之中㆒、故謂㆓之中江㆒。〔淸一統志〕中江水、本自㆓蕪湖㆒東經㆓高淳・溧水㆒、至㆓宜興㆒入㆑海、自㆓五壩築㆒而其水乃不㆓復東㆒、宣歙諸水、皆由㆑此達㆑江。㋺源を四川省安縣に發し、涪江に入る。今、羅江水といふ。古の五城水。㋩四川省の境、湔雒諸水の下流。瀘縣に至つて江に入る。一名、牛鞞水。又、雁水。今の沱江をいふ。㋥古の㵒遷水。渠江の上流。源は四川省城口縣の西、白支山。㊂縣名。㋑宋、置く。漢の郪縣の地。中江に因つて名づける。今の四川省成都縣の東北。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州〕中江縣、漢郪縣地、云云、宋大中祥符五年、改曰㆓中江縣㆒。〔淸史稿、地理志〕四川、潼川府、縣八、中江。㋺北周、置く。故治は四川省內江縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕內江縣、漢資中縣地、云云、後周置㆓漢安戍㆒、尋改置㆓中江縣㆒。㊃淸、康偉然(4－9376‥158)の字。

【中江藤樹】76 ナカエトウジユ　近江の人。名は原。字は惟命。通稱は與右衞門。號は藤樹。又、頤軒・嘿軒ともいふ。王陽明の學を慕ひ、學德を以て人心を感孚せしめ、近江聖人の稱あり。慶安元年八月二十五日歿す、年五十一。正四位を贈らる。著に易卦圖・翁問答・孝經考・孝經講釋聞書・孝經啓蒙・附默孝弟論・鑑草・假名書き孝經・古本大學全解・古本大學旁訓・五性圖說・四書考・四書合一圖說・首經考・捷徑醫筌・神方奇術・大學解・大學考・大學啓蒙・大學朱子序圖說・大學序說・大學蒙注・中庸解・中庸續解・持敬圖說・知止歌小解・藤樹先生精言・橘明編・讀四書法・文集(文・詩・書・雜著)・文武問答嚴井任重抄錄・明德圖說・論語解・論語鄕黨翼傳・倭文集(倭歌・倭書)等がある。〔先哲叢談、正、二〕・〔藤樹先生傳〕・〔藤樹先生全集〕。

【中江岷山】77 ナカエビンザン　伊賀の人。名は一貫。字は平八。號は岷山。薙髮して快安といふ。享保十一年六月十日歿す、年七十二。伊藤仁齋を師とし、大阪に寓居して講說を業とす。古學を唱道して宋學を排し、絕えて詩を作らず。然則先生と稱せらる。著に疑叢辨・四書辨・理氣辨論がある。〔先哲叢談、正、四〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【中行】78 チユウカウ　㊀中正の道。中正の行。又、其の人。〔易、師〕象曰、長子帥㆑師、以㆓中行㆒也。〔論語、子路〕不㆘得㆓中行㆒而與㆖㆑之、必也狂狷乎。〔集解〕包咸曰、中行、行能得㆓其中㆒者。〔荀子、子道〕上順下篤、人之中行也。㊁軍制の名。三行(1－12‥171)の㊂を見よ。〔左氏、僖、二十八〕晉侯作㆓三行㆒、以禦㆑狄、荀林父將㆓中行㆒、屠擊將㆓右行㆒、先蔑將㆓左行㆒。〔注〕晉置㆓上中下三軍㆒、今復增㆓置三行㆒、以避㆓天子六軍之名㆒也、三行無㆑佐、疑大夫帥也。㊂中の列。三行(1－12‥171)の㊄を見よ。〔吳子、勵士〕武侯設㆓坐廟庭㆒、爲㆓三行㆒、饗㆓士大夫㆒、上功坐㆓前行㆒、餚席兼㆓重器上牢㆒、次功坐㆓中行㆒、餚席器差減、無㆑功坐㆓後行㆒、餚席無㆓重器㆒。㊃唐宋時代、六部省を三等に分け、兵・吏の二部及び左右司を前行とし、刑・戶の二部を中行とし、工・禮の二部を後行とす。〔唐會要、尙書省諸司上、尙書省分行次第〕故事、以㆓兵吏及左右司㆒爲㆓前行㆒、刑戶爲㆓中行㆒、工禮爲㆓後行㆒。㊄複姓。〔墨子、所染〕中行寅染㆓於籍秦・高彊㆒。〔戰國、趙策〕智伯帥㆓趙韓魏㆒而伐㆓范中行氏㆒滅㆑之。〔注〕范吉射、中行寅、亦皆晉卿也。〔通志、氏族略、以㆑官爲㆑氏〕中行氏、晉公族隰叔之後也、荀林父將㆓中行㆒、故曰㆓中行氏㆒、漢文時、有㆓宦者中行說㆒。㊅字號。㋑唐、竇常(8－25695‥33)の字。㋺宋、吳中(2－3365‥300)の字。㋩宋、朱服(6－14424‥523)の字。㋥宋、陳模(11－41698‥170)の字。㋭明、陳遇(11－41698‥554)の字。

【中行星】79 chung¹ hsing² hsing¹　小行星のこと。小行星(4－7473‥146)を見よ。

【中行桓子】80 チユウカウクワンシ　春秋晉、荀林父(9－30929‥64)をいふ。

【中行之士】81 チユウカウノシ　極端に走らず、中道を得た人。〔林鶴梁、烈士喜劍碑〕雖㆑非㆓中行之士㆒、其奇節、可㆑謂㆑不㆑恥㆓古之俠者㆒矣。

【中行評博】82 チユウカウヒヤウハク　官名。中書行人評事博士をいふ。淸初に置かる。〔六部成語、吏部、中行評博、注解〕中書行人評事博士、是也、行人之官、乾隆之時尙在、今無。

【中行穆子】83 チユウカウボクシ　春秋晉、荀吳(9－30929‥27)をいふ。

【中更】84 チユウカウ　㊀爵位の名。秦の創制で、第十三級に當る。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰㆓公士㆒、云云、十二左更、十三中更、十四右更。〔注〕師古曰、更、言㆘主㆓領更卒㆒、部㆗其役使㆖也。㊁中頃。更は頃の義。〔曹植、贈㆓白馬王彪㆒詩〕本圖相與偕、中更不㆓克俱㆒。〔注〕濟曰、本圖相與同往、而中閒不㆑能㆔俱遂㆓此志㆒。〔宋史、寧宗紀贊〕中更侂冑用㆑事、內蓄㆓羣姦㆒。

【中校】85 チユウカウ　官名。㊀秦漢、置く。宮室を治めることを掌る。將作大匠の屬官。唐も亦之を置き、將作監に屬して舟車兵仗などを掌る。〔漢書、百官公卿表〕將作少府、秦官、掌㆑治㆓宮室㆒、云

云、景帝中六年、更二名將作大匠一、屬官有二石庫・東園主章・左右前後中校七令丞一。〔通典、職官典、諸卿下、將作監〕中校署令。秦漢有、自後無、大唐置二令丞各一人一、掌二舟車雜兵仗廄牧一。●陸海軍將校の階級の一。中佐に當る。

【中耕】86 ㄓㄨㄥ ㄍㄥ 種子が芽を出した後に淺く耕すこと。中打ち。

【中康】87 ㄓㄨㄥ ㄎㄤ ●聖人に次ぐもの。亞聖。〔魏書、尉元傳〕師二上聖一、則難レ爲二其學一、傳二中康一、則易レ爲二其選一。●今の北平をいふ。中京。〔宣和遺事、前集〕金使期レ會二兵於中康一。

【中毫】88 ㄓㄨㄥ ㄏㄠˊ 二の緒。秤の中緒。〔宋史、律歷志一〕中毫至レ悁一錢析二成十分一、分二列十釐一。

【中核】89 ㄓㄨㄥ ㄏㄜˊ 物事の中心。核心。

【中擱】90 chung¹ kê 中途で止める。中止する。

【中岳】91 ㄓㄨㄥ ㄩㄝˋ 明、戚元佐(5－11594‥52)の號。

【中岳先生】92 ㄓㄨㄥ ㄩㄝˋ ㄒㄧㄢ ㄕㄥ 後魏、鄭道昭(11－39647‥501)の號。

【中學】93 ㄓㄨㄥ ㄒㄩㄝˊ ●中央にある學校をいふ。〔後漢書、祭祀志中、注〕魏文侯孝經傳曰、太學者、中學明堂之位也。●普通の學びかた。〔文子、道德〕上學以二神聽一、中學以二心聽一、下學以二耳聽一。●中學校の略稱。㊥ chung¹ hsüeh² 中國の學問。

【中嶽】94 ㄓㄨㄥ ㄩㄝˋ 山名。五嶽の一。●㋑嵩高を以て中嶽とする說。〔爾雅、釋山〕嵩高爲二中嶽一。〔史記、封禪書〕中嶽、嵩高也、五載一巡狩。〔漢書、郊祀志〕中嶽、嵩高也、五載一巡狩、〔注〕師古曰、此以上、皆舜典所レ載。〔郝懿行、爾雅義疏〕唐虞惟言二四岳一、周禮大宗伯及司樂、乃有二五嶽之名一、史記封禪書引二尙書一、於二北嶽恆山下一、有二中嶽嵩高也五字一、此自以レ意連言、非二經文有一缺脫一。㊁漢代、太室山を改めて嵩高とし、中嶽の名は漢に始まるとする說。〔夏炘、學禮管釋〕嵩高、禹貢名二外方一、左傳名二太室一、至レ漢、始有二嵩高之名一、〔漢書作レ崇、師古云、崇、古崇字、今嵩山、是崇峻嵩二字通也、史記封禪書、及二秦幷二天下一、自レ殽以東名山五、一曰二太室一、太室、嵩高也、太史公以二漢嵩高一釋二秦太室一、是秦名二太室一、不レ名二嵩高一矣、武帝紀、元封元年、至二於中嶽一、親登二嵩高一、以二山下戶三百一、爲二之奉邑一、名曰二嵩高一、郊祀志、元封元年、禮登二中嶽太室一、是漢改二太室一爲二嵩高一而中嶽之名、亦至レ漢始有。●唐・虞及び周、みな霍太山を以て中嶽としたといふ說。〔胡渭、禹貢錐指〕隋以二霍山一爲二冀州鎭一、歷代因レ之、號曰二中鎭一、卽古之中岳、周仍以二唐虞時太岳一爲二中岳一。●霍太山を唐・虞の中嶽、華山を西周の中嶽、嵩高を東周以後の中嶽とする說。〔邵晉涵、爾雅正義〕唐虞以二霍太山一爲レ岳、是爲二中岳一、名見二禹貢一、而不レ著二於帝典一者、霍太山在二冀州帝都之內一、非二巡狩所レ至、故略而不レ言、周營二成周一、華山在二王畿之內一、故爲二中嶽一、西方諸侯、必當レ有二朝覲之所一、故吳嶽爲二西嶽一、嵩高、在二虞夏時一、謂二之外方一、不二以爲一中嶽一、今名二嵩高一者、取二義於尹吉甫之詩一、其在二東遷以後一可レ知。●霍太山を唐・虞・夏の中嶽、吳山を西周の中嶽、嵩高を殷及び東周の中嶽とする說。〔金鶚、求古錄禮說〕中嶽之名、歷代隨二帝都一而移、堯都二平陽一、舜都二蒲阪一、禹都二晉陽一、皆在二冀州之域一、故並以二霍太山一爲二中嶽一、殷湯都二西亳一、在二豫州之域一、故以二嵩高一爲二中嶽一、周武王都二鎬一、在二雍州之域一、故吳山爲二中嶽一、爾雅九州與二禹貢職方一不レ同、說者皆以爲二殷制一、周東遷以後、復用二殷制一、秦漢因レ之、至レ今不レ易、爾雅釋山篇首所レ云、釋二周之五嶽一也、殷之五嶽、反載二於篇末一者、此五嶽雖二殷制一、而東周以後亦因レ之、故始二西周一而終二東周一也。

【中嶽眞人】95 ㄓㄨㄥ ㄩㄝˋ ㄓㄣ ㄖㄣˊ 晉、王元甫(7－20823‥1435)の自稱。

【中嶽道士】96 ㄓㄨㄥ ㄩㄝˋ ㄉㄠˋ ㄕˋ 唐、吳筠(2－3365‥13)の號。

【中額】97 ㄓㄨㄥ ㄜˊ 試驗合格者の人數。〔淸會典、禮部、貢擧〕其合式之人、移咨二禮部一、劄送順天府鄕試、俟二三場完畢一、將二實在人數一奏請欽定中額。

【中割】98 ㄓㄨㄥ ㄍㄜ 眞中から斷ちわる。〔傅玄、瓜賦〕披以二吳刀一、承以二朱盤一、中割而破、雖レ分若レ完。

【中甲】99 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄚˇ 科擧の試驗の第二級の及第者。〔金史、選擧志一〕正隆元年、格二上甲一者、初上簿軍判丞簿尉、中甲者、初中簿軍判丞簿尉、下甲者、初下簿軍判丞簿尉。

【中閤】100 ㄓㄨㄥ ㄏㄜˊ 宮中の小門。〔後漢書、呂布傳〕卓使二布守二中閤一。

【中陷】101 ㄓㄨㄥ ㄒㄧㄢˋ 罪にあておとしいれる。〔晉書、賈模傳〕或託レ疾以避レ之、至二於素有二嫌忿一、多レ所二中陷一、朝廷甚憚レ之。

【中寒】102 ㄓㄨㄥ ㄏㄢˊ ●寒中の季節。〔管子、幼官〕十二中寒收聚。●感冒にかかる。風邪にかかる。かぜをひく。〔本草、附子〕主治、治二三陰傷寒陰毒寒疝中寒中風一云云、久漏冷瘡。

【中間】103 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ●物と物とのあひだ。あはひ。はざま。〔禮、曲禮上〕離立者不レ出二中間一。〔戰國、韓策〕韓與レ衞、相去中間不レ遠。〔史記、甘茂傳〕韓之與レ衞相去、中間不二甚遠一。〔司空圖、下方詩〕二十年來往、中間京洛塵。●なかごろ。〔何晏、論語集解敍〕中間爲之訓解。〔杜甫、李潮八分小篆歌〕秦有二李斯・漢蔡邕一、中間作者寂不レ聞。〔錢謙益、香山寺詩〕雲從二石磴中間出一、月向二香臺下界一生。●ひきあはせ。媒。紹介。〔孔子家語、致思〕士不二中間一見、女嫁無レ媒、君子不二以交一、禮也。〔注〕中間、謂二紹介一也。㊥ ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ 武家の下僕。侍サムライと小者コモノとの中間の意。〔古今著聞集、十二〕御中間になされにけり。

【中間色】104 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄙㄜˋ 畫面の陽部と陰部とを連絡する爲に用ひる色。間色。

【中間階級】105 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄐㄧㄝ ㄐㄧˊ 中流階級。中產階級。

【中間商人】106 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄕㄤ ㄖㄣˊ 問屋・仲買商・卸商の樣に、生產者と小賣商、或は生產者と消費者との間に介在する、商品取次を業とするもの。

【中間宿主】107 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄒㄧㄡˋ ㄓㄨˇ 寄生蟲が中間に寄生する或る動物。

【中間訴訟】108 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄙㄨˋ ㄙㄨㄥˋ 法律用語。民事訴訟に於て、訴訟の進行中、本案の爭ひを判定する前提となるべきものの訴訟をいふ。

【中間代價】109 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄉㄞˋ ㄐㄧㄚˋ 賣手と買手との提供値段を、互に同程度まで歩み合せた價。なかね。

【中間方位】110 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄈㄤ ㄨㄟˋ 四方位東西南北の中間の方位をいふ。東と北との正中を東北、西と北との正中を西北、東と南との正中を東南、南と西との正中を南西といふ。

【中間判決】111 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢ ㄆㄢˋ ㄐㄩㄝˊ 法律用語。民事訴訟に於て、訴訟の進行中、本案の爭を判定する前提となるべき訴訟に就いて爲す判決。中間訴訟に對する判決。

【中漢】112 ㄓㄨㄥ ㄏㄢˋ 漢の中世。東漢を指していふ。〔後漢書、應劭傳〕又論二當時行事一、著二中漢輯序一。〔陶潛、命子詩、在二我中晉一、丁福保箋注〕何焯曰、漢季、稱二東漢一爲二中漢一。

【中翰】113 ㄓㄨㄥ ㄏㄢˋ 淸代、內閣の中書の稱。內翰(1－1418‥63)の●に同じ。

【中諫】114 ㄓㄨㄥ ㄐㄧㄢˋ 唐代、補闕(10－34320‥38)の異稱。〔容齋四筆、官稱別名〕補闕爲二中諫一。

【中巖】115 ㄓㄨㄥ ㄧㄢˊ ●いはのなか。いはのなかほど。〔謝朓、杜若賦〕嗟二中巖之纖草一、厠二金芝於芳叢一。〔王績、遊仙詩〕上月芝蘭徑、中巖紫翠房。〔夏竇、松詩〕孤猨叫落中巖月、野客吟殘半夜燈。●字號。㋑淸、宋振麟(3－7078‥327)の號。㊥淸、張錫爵(4－9812‥1265)の號。

【中巖道士】116 ㄓㄨㄥ ㄧㄢˊ ㄉㄠˋ ㄕˋ 唐、司馬承禎(2－3257‥338)の號。

【中氣】117 ㄓㄨㄥ ㄑㄧˋ ●月の初を節氣とし、月の中を中氣とす。〔二十四氣(1－247‥474)を見よ。〔左氏、僖、五、疏〕冬至者、十一月之中氣、中氣者、月半之氣也、月朔而已得二中氣一、是必前月閏、閏前之月、則中氣在レ晦、閏後之月、則中氣在レ朔。〔後漢書、律歷志、注〕閏月無二中氣一、而北斗邪指二兩辰之閒一、所二以異一於他月一也。〔月令章句〕至二其初一爲レ節、至二其中一爲二中氣一。●中和の氣。〔雲笈七籤〕氣淸成レ天、滓凝成レ地、中氣爲レ和、以成二於人一。〔皎然、答二鄭方回一詩、高秋日月淸、中氣天地正。●病の名。中症。中風(733)の●に同じ。〔證治準繩、卒中暴厥〕俗有二中風・中氣・中食・中寒・中暑・中濕・中惡之別一、但見二卒然仆倒、昏不レ知レ人、或痰涎壅塞、咽喉作レ聲、或口眼喎斜、手足癱瘓、或半身不レ遂、或六脈沉伏、或指下浮盛者、並可二用一薤油薑汁竹瀝一調二蘇合香丸一。規にあたる。ぶんまはしにあてはまる。轉じて、規則に適合する。規はぶんまはし。中矩(158)を見よ。〔禮、玉藻〕周還中レ規、折還中レ矩。〔莊子、達生〕進退中レ繩、左右旋

中ㇾ規。〔莊子、徐無鬼〕方者中ㇾ矩、圓者中ㇾ規。〔荀子、勸學〕木直中ㇾ繩、輮以爲ㇾ輪、其曲中ㇾ規。

【中馗】119 チュウキ ●菌の名。地蕈(3－4890‥258)の異名。〔爾雅、釋草〕中馗、菌。〔注〕地蕈也、似ㇾ蓋、今江東名爲二土菌一、亦曰二馗蔰一、可ㇾ啖ㇾ之。●四通八通の道の交錯したところ。中逵。〔鮑照、蕪城賦、崢嶸古馗、注〕善曰、韓詩曰、肅肅兔罝、施二于中馗一、辭君曰、中馗、馗中九交之道也。

【中期】120 チュウキ ●中ごろの時期。●戦國、秦の辯士。秦の昭王と争論す。中旗(125)に同じ。〔韓非子、難二〕左右對曰、甚然、中期推ㇾ琴而對曰、王之料二天下一過矣。

【中貴】121 チュウキ 中貴人に同じ。〔盧象、雜詩〕列ㇾ鼎會二中貴一鳴ㇾ珂朝二至尊一。〔張詠、謝二撫問一表〕信使繼回、中貴又至。

【中貴人】122 チュウキジン 内官中の寵愛ある者。後世は、專ら宦官に用ひる。〔史記、李將軍傳〕匈奴大入二上郡一、天子使下中貴人從ㇾ廣、勒二習兵一擊中匈奴上。〔注〕集解曰、內官之幸貴者、索隱曰、崔浩云、在ㇾ中而貴幸、非二德望一、故云二中貴一也。〔宋史、劉敞傳〕方議二定大樂一、使二中貴人參一其間一、敞諫曰、王事莫ㇾ重ㇾ於ㇾ樂、今儒學滿ㇾ朝、辨論有ㇾ餘、而使下若二趙談一者參上之、臣懼上爲二袁盎笑一也。

【中逵】123 チュウキ 四通八達の道の交錯したところ。中馗。〔詩、周南、兔罝〕肅肅兔罝、施二于中逵一。〔傳〕逵、九達之道。〔左思、吳都賦〕流汗霡霂、而中逵泥濘。

【中匱】124 チュウキ 途中で乏しくなること。〔潘岳、笙賦〕懰慄羅以奔邀、似ㇾ將ㇾ放而中匱。〔注〕銑曰、匱、盡也。

【中旗】125 チュウキ 中期(120)の●に同じ。〔史記、魏世家〕秦昭王謂二左右一曰、今以二無能之如耳・魏齊一而率二弱韓魏一以伐ㇾ秦、其無奈二寡人一何、亦明矣、左右皆曰、甚然、中旗馮ㇾ琴而對曰、王之料二天下一過矣。

【中畿】126 チュウキ 王城を圍む方千里の地。九畿の中央にあるからいふ。王畿(7－20823‥204)に同じ。〔晉書、左貴嬪傳〕曦晛沾濡、柔二潤中畿一。〔資治通鑑、晉紀〕哀帝、隆和元年、蕩二滌氛穢一、廓二清中畿一。〔注〕中畿、王畿也。周禮九畿、王畿方千里、其外、侯・甸・男・采・衞・蠻・夷・鎭・蕃、皆以二五百里一言ㇾ之、王畿在二九畿之中一、故此曰二中畿一。

【中冀】127 チュウキ 中國をいふ。中州(389)の●に同じ。〔逸周書、嘗麥解〕黃帝執二蚩尤一、殺二之於中冀一、名ㇾ之曰二絕轡之野一。〔庾信、哀江南賦〕埋二長狄於駒門一、斬二蚩尤於中冀一。

【中徽】128 チュウキ 清、劉餘祐(2－2224‥1342)の字。

【中虧】129 チュウキ 半途で缺ける。〔曹植、鸚鵡賦〕怨二身輕而施重一、恐二往惠之中虧一。

【中蹲】130 チュウソン 仲虺(1－403‥87)に同じ。殷の湯王の左相。〔荀子、堯問〕其在二中蹲之言一也。〔注〕中蹲、與二中虺一同、湯左相也。

【中饋】131 チュウキ 婦女子が家庭で料理炊事すること。又、その食物。轉じて、婦人又は妻をいふ。〔易、家人〕六二、无ㇾ攸ㇾ遂、在二中饋一、貞吉。〔疏〕婦人之道、巽順爲ㇾ常、无ㇾ所ㇾ必遂一其所ㇾ職、主在二於家中饋食供祭一而已。〔曹植、送二應氏一詩〕中饋豈獨薄、賓飮不ㇾ盡ㇾ觴。〔注〕向曰、中饋、食也。〔顏氏家訓、治家〕婦主二中饋一、唯事二酒食衣服之禮一耳。〔唐律、戶婚〕有妻更娶、疏議ㇾ依ㇾ禮、日見二於申一、月見二於庚一、象二夫婦之義一、一與之齊、中饋斯重、故有ㇾ妻而更娶者、合二徒一年一。〔劉子翬、宿二王勉仲家一酒行作ㇾ歌〕夫君不ㇾ有二中饋賢一、咄咄辨ㇾ此何神速。〔書言故事、夫婦類、中饋〕謂ㇾ妻、主二中饋一。

【中饋之職】132 チュウキノショク 食事其の他、すべて一家の生計を立てる上の妻としての仕事。〔近古史談、德篇下、節婦二〕兵七使二婢召一致妻一、命ㇾ之曰、自二汝之歸一ㇾ我、中饋之職、亦勞矣。

【中飢】133 チュウキ 餘り甚しくはない饑饉。〔漢書、食貨志上〕中飢、則發二中孰之所ㇾ斂。

【中儀】134 チュウギ 官名。●金、置く。内侍で正五品下の官。〔金史、百官志一〕內侍、正五品下、曰二中儀大夫一。●唐代、禮部郎中をいふ。〔鄭谷、寄二同年禮部趙郎中一詩〕仙步徐徐整二羽衣一、小儀澄澹轉二中儀一。

【中九】135 チュウキュウ 月の九日をいふ。下九(1－14‥78)を見よ。〔事物異名錄、歲時、月〕採蘭雜志、九爲二陽數一、古人以二二十九日一爲二上九一、初九日爲二中九一、十九日爲二下九一。

【中丘】136 チュウキュウ ●丘をいふ。〔卜伯、玉聲賦〕有二蓼蓼之綠齊一、方二滋繁于中丘一。〔葉向高、萬寶告成賦〕遵二原隰兮夷猶一、遡二帝澤兮中丘一。●地名。春秋、魯の邑。山東省臨沂縣の東北。諸葛城ともいふ。嘗て蜀の諸葛亮が居た所。〔左氏、隱、七〕夏、城二中丘一。〔注〕在二瑯邪臨沂縣東北一。〔高士奇、春秋地名考〕今沂州東北、有二中丘城一。●縣名。漢、置く。故城は、河北省內丘縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸順德府〕內丘縣、漢置二中丘縣一、屬二常山郡一。

【中鳩】137 チュウキュウ 草の名。ふき。菟奚(9－31189‥9)の異名。〔爾雅、釋草、中馗、郝懿行義疏〕中馗、釋文引二舍人一、本作二中鳩一云、菟奚名二顆東一、顆東名二中鳩一、是讀二中鳩一上屬、與二郭氏一異。

【中殿】138 チュウデン 宮中のうまや。〔穀梁、僖、二〕取二之中殿一而置二之外廐一也。〔史記、李斯傳〕中廐之寶馬。〔新序、善謀上〕我取二之中廐一置二之外廐一。〔資治通鑑、漢紀〕武帝、征和二年、發二中廐車一載二射士一。〔注〕師古曰、中廐、皇后車馬所二在也一、余謂、中廐者、天子之內廐也、秦二世時、公子高曰、中廐之寶馬、臣得ㇾ賜ㇾ之、非二專主一皇后車馬一也。

【中吉】139 ナカキリ 姓氏。〔姓林全書〕。

【中匡】140 チュウキョウ ●中等の政治。〔逸周書、大匡解〕中匡用ㇾ均、勞故禮ㇾ新。●管子の篇名。

【中鄉】141 チュウキョウ ●民の住んでゐる所。〔詩、小雅、采芑〕于二彼新田一、于二此中鄉一。〔傳〕鄉、所也。〔集傳〕中鄉、民居、其田尤治。●中陽邑をいふ。中陽(788)の●の㋑を見よ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕沈二跡中鄉一、飛二名帝錄一。〔注〕中鄉、卽中陽里也。●縣名。漢の侯國。山東省の境に當る。〔漢書、地理志上〕山陽郡、縣二十三、中鄉。〔自注〕侯國。

【中宮】142 チュウキュウ ●皇后の居る宮殿。又、皇后。漢代に始まる。〔周禮、天官、內宰〕內宰以二陰禮一教二六宮一、注〕六宮、謂二后也一、后象二王一、立二六宮一而居之、謂二之六宮一、若今稱二皇后一爲二中宮一矣。〔公羊、僖、二十、魯子曰、以有二西宮一、注〕西宮者、小寢內室、楚女所二居也一、云云、禮、夫人居二中宮一、少在ㇾ前、右媵居二西宮一、左媵居二東宮一、少在ㇾ後。〔漢書、哀帝紀〕食邑如二長信宮中宮一。〔注〕師古曰、中宮、皇后之宮。〔漢書、霍光傳〕有二椒房中宮之重一。●中央の位。五行の土をいふ。〔漢書、杜欽傳〕土者、中宮之部也。〔後漢書、蘇竟傳〕德在二中宮一、刑在二木、木勝二土一、刑制ㇾ德、今年兵事畢已、中國安寧之效也。〔參同契解〕黃者中宮之色、丹者中宮之寶。●星の名。北極星(2－2574‥136)をいふ。〔史記、天官書〕中宮天極星。●鎭の名。山東省歷城縣の南。一名、中公集。〔金史、地理志中〕歷城有二中宮一云。●宮にあたる。律呂の中の宮聲に合ふる。〔韓非子、外儲說右上〕疾呼ㇾ中宮、徐呼中ㇾ徵。●㋑皇后の別稱。〔榮華物語、布引瀧〕中宮こそは故院のきさきにもおはしまし。㋺皇后の御所の稱。〔續日本紀、十〕神龜四年十月、天皇御二中宮一、爲二皇子誕生一赦二天下一大辟罪以下一。㋩皇后・皇太后・太皇太后の總稱。〔令義解、職員令〕中宮、謂皇后宮、其太皇太后・皇太后、亦自中宮也。㋥皇后以外の妃。

【中宮職】143 チュウグウシキ 古の官署の名。中務省の屬官で、二宮の啓令を吐納し、年中の神事・雜務等を統べ掌る。大夫・亮・進・屬を置く。後世、皇后と中宮とが並び立つた際には、中宮の事務を掌つた。なかのみやのつかさ。〔職員令〕中宮職。〔續日本紀〕天平九年十二月丙寅、賜二中宮職官人六人位一、各有ㇾ差。

【中宮屬】144 チュウグウノサクワン 中宮職の屬官。唐名は、內侍主事。〔職原抄〕中宮職、屬、唐名、內侍主事。

【中宮亮】145 チュウグウノスケ 中宮職の屬官。唐名は、內常侍。〔職原抄〕中宮職、亮、唐名、內常侍。

【中宮權亮】146 チュウグウノゴンノスケ 中宮職の屬官。〔職原抄〕中宮職、權亮。

【中宮少進】147 チュウグウノショウジン 中宮職の屬官。唐名は、內給事。中宮大進を見よ。

【中宮大進】148 チュウグウノダイジョウ 中宮職の屬官。唐名は、內給事。〔職原抄〕中宮職、大進一人、唐名、內給事、少進、唐名同。

【中宮大夫】149 チュウグウノカミ 中宮職の長官。唐名は、長秋監。〔職原抄〕中宮職、大夫一人、唐名、長秋監。

【中宮權大夫】150 チュウグウノゴンノカミ 中宮職の次官。〔職

原抄ノ中宮職、權大夫一人。

【中据】151 シナガラミ 越前國の地名。

【中虛】152 キユウ 中が虛しい。又、其のところ。又、なか。〔荀子、天論〕心居ニ中虛一。〔鶡冠子、學問〕中虛外博、雖レ博必虛。〔宋書、樂志四〕中虛巾拂、四表靜レ塵。

【中胸】153 キヨウ 昆蟲類の胸部の一部で、前胸と後胸との間に當る。

【中曲】154 キヨク ❶中央部に於て曲ること。〔史記、滑稽傳、磬折、注〕正義曰、其形皆中曲、垂ニ兩頭一。❷歌曲のなかごろ。〔古詩十九首〕清商隨レ風發、中曲正徘徊。

【中極】155 キヨク ❶星の名。北極星(2－2574‥136)をいふ。〔張衡、週天大象賦〕垂ニ萬象乎列星一、仰ニ四覽乎中極一。〔雲笈七籤〕中極、一名爲ニ天中一、上極星也、是最居ニ天之中一、最高最尊、爲ニ衆星之主一也。❷淵の名。〔山海經、海內北經〕從極之淵、深二百仞、維冰夷恆都レ焉、一曰ニ中極之淵一。❸人體の經穴の名。臍下四寸に在るといふ。〔素問、氣府論、鳩尾下三寸胃脘五寸胃脘以下至ニ橫骨ニ六寸半一腹脈法也、注〕自ニ胃之下脘一至ニ橫骨毛際橫紋間ニ計六寸半一、有ニ下脘水分神闕陰交氣悔石門開元中極曲骨之穴一者、謂ニ六寸半之零一分一也、蓋以量ニ盡處一取レ穴、而上下穴間、有ニ一分之餘一也、此分ニ度腹穴一之法也。〔素問、骨空論、任脈者、起ニ於中極之下一。❹御殿の名。明の世宗、華蓋殿を改めて中極といふ。〔明世宗實錄〕四十一年九月、三殿成、改ニ奉天殿一爲ニ皇極一、華蓋殿爲ニ中極一、謹身殿爲ニ建極一。

【中玉】156 チユウギヨク 字號。❶宋、王珉(7－20823‥92)の字。❷清、李鼓(6－14459‥140)の字。

【中琴】157 キンヅウ 琴の一種。十絃あるもの。〔文獻通考、樂考、絲屬、中琴〕五絃之琴、小琴之制也、而倍レ之而爲ニ十絃一、中琴之制也。

【中矩】158 クヅウ 矩にあたる。さしがねにあてはまる。轉じて、規則にあてはまる。矩は、かね、さしがね。中規。〔禮、玉藻〕周還中レ規、折還中レ矩。〔莊子、徐無鬼〕方者中レ矩、圓者中レ規。

【中區】159 チユウク 中央。中國。〔後漢書、蔡邕傳〕納ニ元策於聖德一、宣ニ太平於中區一。〔陸機、文賦〕佇ニ中區一以玄覽。

【中虞】160 チユウグ 唐、鄭誠(11－39647‥56)の字。

【中空】161 チユウクウ ❶うつぼ。がらんどう。〔雲笈七籤〕自然從ニ其中一生、譬若ニ琴瑟鼓簫之屬一、以ニ其中空一、故出ニ聲音一。❷なかぞら。中天。

【中空莖】162 チユウクウケイ 空洞になつてゐる莖。

【中伙】163 chung huo 道中で食ふ晝食。

【中和】164 チユウワ ❶片よらないで正しい狀態。道德上にも、又音樂などにも用ひる。中庸。〔中庸〕喜怒哀樂之未レ發、謂ニ之中一、發而皆中レ節、謂ニ之和一。云云、致ニ中和一、天地位焉、萬物育焉。〔荀子、勸學〕樂之中和也。〔史記、樂書〕中和之紀。〔漢書、兒寬傳〕建ニ中和之極一。❷山名。雲南省馬龍縣の西南。〔雲南通志〕山自ニ宜良縣一蜿蜒起伏、至レ此結ニ左右環列各十二一、爲ニ兩峯一、有ニ旗鼓二十四峯之號一。❸唐の僖宗(李儇)の年號。(881－885) ❹宋、范鍾(9－30834‥61)の字。❺酸と鹽基との水溶液を適當の割合に混ぜるとき、雙方が共に特性を失つて中性物質となる現象。❻同量の正負兩電荷が、打消し合つて電氣的作用を失ふこと。

【中和院】165 チユウワクヰン 大內裏の御殿の一。中院內裏の西、眞言院の東。南は建禮門を隔てて八省院に對す。大內裏(3－5831‥1818)を見よ。〔大內裏圖考證、七〕中和院、諸書作ニ中院一、貞觀儀式、作ニ神今食院一、西宮記、作ニ齋院一。

【中和氣】166 チユウワノキ かたよらない正しい氣。〔白虎通、社稷〕稷、五穀之長、得ニ陰陽中和之氣一、而用尤多、故爲レ長也。〔唐書、許景先傳〕張說曰、許舍人之文、雖レ乏ニ峻峯激流一、然詞旨豐美、得ニ中和之氣一。

【中和節】167 チユウワセツ 陰曆二月一日の稱。此の日、群臣に酒饌を賜ふ。唐代、德宗以前には正月晦日に行はれた。〔舊唐書、德宗紀下〕正月乙卯詔、自レ今宜レ以ニ二月一日一爲ニ中和節一。〔唐書、李泌傳〕帝以ニ前世上巳九日一、皆大宴集、而寒食多與ニ上巳一同レ時、欲レ以ニ二月一名ニ節、自レ我爲レ古、若何而可、泌謂、廢ニ正月晦一、以ニ二月朔一爲ニ中和節一、帝悅、乃著レ令、與ニ上巳九日一、爲ニ三令節一。〔唐德宗、中和節日宴ニ百僚一賜詩〕肇ニ茲中和節一、式慶ニ天地春一。〔書言故事、二月類〕二月朔、爲ニ中和節一。

【中和場】168 チユウワジヤウ 地名。❶四川省華陽縣の南。❷四川省開縣の西北。❸四川省資陽縣の東北。

【中和殿】169 チユウワデン 北京の宮殿の名。舊紫禁城內、太和殿の後に在る。明の中極殿。〔清會典事例、工部、宮殿〕太和殿、殿基高二丈、云云、殿後東西兩廡、各三十間、正中南嚮者、爲ニ中和殿一、縱廣各三間、方檐滲金圓頂、金扉瑣窗、各二十四、南北陛、各三出、左右陛、各三成、東西出、其後爲ニ保和殿一。

【中和樂舞】170 チユウワノガクブ 唐の雅舞の名。德宗が中和節に因んで作つたもの。〔唐會要、諸樂〕先時、有ニ太常樂人劉玠一、流落至ニ潞州一、虞休因令レ造ニ此曲一、以進上。今中和樂起ニ於此一、十四年二月、上自制ニ中和舞一、是也。

【中和集說】171 チユウワシフセツ 書名。一卷。山崎闇齋撰。

【中和性鹽】172 チユウワセイエン 多鹽基酸の、酸として作用する水素を悉く金屬に置換へた鹽。中性鹽。正鹽。

【中和韶樂】173 チユウワガク 清代の大樂。順治元年に始まり、大朝會・大祭祀に用ひる。〔清會典、樂部、樂章〕中和韶樂。〔清會典、禮部、尊封〕皇帝御ニ太和殿一、中和韶樂作。

【中和性反應】174 チユウワセイハンオウ 酸性・アルカリ性の何れの反應をも呈しないこと。

【中科】175 チユウカ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十九〕。

【中華】176 チユウクワ ❶中國の自稱。中は四方の中央に居る義で、華は文化を有する義。古代中國の君主は、多く都を黃河の南北に建てた。後世、其の地を中華といひ、中原といひ、又、華夏といふ。卽ち、中華はもと黃河の流域を指したのであるが、後、疆域が廣くなり、各朝とも、其の所屬地を併せて中國・中華と稱するに至つた。今の中華民國は、蒙古・新疆・西藏等をも包含する。中原。華夏。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕使下游ニ步中華一、騁ニ其龍光一。〔魏書、禮志一〕下迄ニ魏晉一、趙秦二燕、雖ニ地據ニ中華一、德祚微淺。〔溫庭筠、送ニ渤海王子一詩〕盛勳歸ニ舊國一、佳句在ニ中華一。〔唐律、名例、疏議、釋文〕中華者、中國也、親被ニ王教一、自屬ニ中國一、衣冠威儀、習ニ俗孝悌一、居ニ身禮義一、故謂ニ之中華一。❷星の名。〔晉書、天文志上〕東蕃四星、第二星曰ニ次相一、其北中華東門也、西蕃四星、第二星曰ニ次將一、其北中華西門也。

【中華門】177 チユウクワモン 門の名。❶南朝時代の門。〔南齊書、劉悛傳〕初蒼梧廢、太祖集ニ議中華門一。〔梁簡文帝、守ニ東華門開一詩〕脂ニ車向ニ馳道一、總レ轡息ニ中華一。❷北京の故宮の正南の門。明の大明門、清の大清門である。民國になつて改稱す。

【中華民國】178 チユウクワミンコク 清の宣統帝が一九一二年に退位し、次いで袁世凱が第一期大總統となつてから稱せられるやうになつた國號。

【中華革命黨】179 チユウクワカクメイタウ 中國の政黨。中國同志會から發展したもので、民國六年、孫文を中心として創立さる。後、中國國民黨となる。

【中華古今注】180 チユウクワコキンチユウ 書名。三卷。五代唐、馬縞撰。晉の崔豹の古今注と同じく、古今の名物を考證す。凡て一百七十八條。〔四庫提要、史、雜家類〕。

【中華大字典】181 チユウクワダイジテン 書名。十二集。民國、歐陽溥存等編。康熙字典に本づいて其の誤を正す。康熙字典以後、最善の字書と稱せらる。收載の字、凡そ四萬八千餘。

【中華職業教育社】182 チユウクワショクゲフキヨウイクシヤ 民國六年五月、教育界・實業界の人々の共同によつて、職業教育を研究する爲に組織せられた會。

【中華人民共和國】183 チユウクワジンミンキヨウワコク 西曆一九四九年、毛澤東等によつて中國本土に建てられた新國家の名。首都を北平に置く。

【中酥】183 チユウソ 中和(164)の❶に同じ。〔漢書、敍傳上〕昧ニ中酥一爲ニ庶幾一兮、顏與ニ冉、又不レ得。

【中悔】184 チユウクワイ 途中で後悔する。〔世說新語、品藻〕有ニ人問ニ謝安石・王坦之優劣於桓公一。桓公停欲レ言、中悔曰、卿喜傳ニ人語一、不レ能ニ復語一。卿。〔唐書、楊行密傳〕漢宋中悔。

【中懷】185 チユウクワイ 心の中。心中。中襟。中情。〔蘇武、詩四首〕可ニ以喩ニ中懷一。〔陶潛、遊ニ斜川一詩〕念レ之動ニ中懷一。〔白居易、我身詩〕中懷頗沖融。

【中外】186 チユウグワイ ❶朝廷の內と外。〔管子、君臣下〕是以中外不レ通。〔史記、李斯傳〕中外若レ一。〔後

漢書、宦者傳序〕中外服從、上下屏レ氣。❶國内と外國。〔史記、文帝紀〕夫久結難連レ兵、中外之國、將二何以自寧一。〔舊唐書、德宗紀上〕建中元年上誕日、不レ納二中外之貢一。❷家庭の内と外。〔後漢書、曹世叔妻傳〕以增二父母之羞一、以益二中外之累一。〔顔氏家訓、風操〕中外憐レ之、莫レ不二悲歎一。❸表と裏。〔史記、論法解〕行見二中外一曰レ慤。〔注〕表裏。❹父の姉妹の子、及び母の兄弟姉妹の子をいふ。〔世説新語、言語〕張玄之顧敷、是顧和中外孫、皆少而聰惠。㊅chung¹ wai⁴ ㈠中央と地方。㊆中國と外國。

【中外兄弟】187 チュウグワイ 母方の從兄弟。〔世説新語、賞譽〕世胄亦被レ遇、堪、烈之子、阮千里姨兄弟、潘安仁中外。

【中外姊妹】188 チュウグワイ 母方の從姊妹。〔顔氏家訓、風操〕吾嘗問二周弘讓一曰、父母中外姊妹、何以稱レ之、周曰、亦呼爲二丈人一、自レ古未レ見二丈人之稱、施二於婦人一也。

【中外丈人】189 チュウグワイ いとこをちゝ。表伯叔。中表の丈人といふに同じ。〔顔氏家訓、風操〕中外丈人之婦、猥俗呼爲二丈母一。

【出二入中外一】190 官吏となつて、或は朝廷の中に入り、或は地方官として外に出る。中外は、朝廷の中と外。〔沈既濟、枕中記〕封二趙國公一二十餘年、出二入中外一。

【中荒】191 荒野の中。荒中(9－30953‥150)に同じ。〔張協、七命〕屯二羽隊于外林一、縱二輕翼于中荒一。

【中黄】192 ❶黄帝時代の人。中黄丈人。一に中皇に作る。〔後漢書、張衡傳、注〕尸子曰、中黄伯曰、我左執二太行之獶一、而右執二彫虎一、唯象之未レ試。❷國の名。勇力の人が多いといふ。〔張衡、西京賦〕中黄之士、育獲之疇。〔注〕翰曰、中黄、國名、其俗多二勇力一。❸漢の府庫の名。金銀貨幣を藏す。中黄藏府(196)を見よ。

【中黄宮】193 脾臟(9－29579‥13)の異名。〔事物異名錄、形貌、脾〕雲笈七籤、脾爲二中黄太素府一。

【中黄門】194 少府に屬する宦者。〔漢書、百官公卿表上〕諸僕射・署長・中黄門、皆屬レ焉。〔注〕師古曰、中黄門、奄人、居二禁中一、在二黄門之内一給事者也。〔資治通鑑、漢紀〕光武帝、建武四年、中黄門引入。〔注〕中黄門、宦者也、屬二少府一。

【中黄卵】195 動物の卵の一種。卵黄が甚だ多くて、卵子の中央の核を包み、其の外面を卵質が被つてゐるもの。

【中黄藏府】196 漢の府庫の名。宮中の幣帛・金銀等の諸貨物を掌る所。〔後漢書、桓帝紀〕建和元年、芝草生二中黄藏府一。〔注〕漢官儀曰、中黄藏府、掌二中幣帛金銀諸貨物一也。

【中黄節士】197 麻黄(12－47887‥25)の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕中黄節士、麻黄。

【中完】198 清、蔣鳴玉(9－31820‥219)の號。

【中官】199 官名。❶中央の官。五行の土に當る官。〔史記、五帝紀、官名皆以二雲命爲一雲師一、注〕應劭曰、冬官爲二黑雲一、中官爲二黄雲一。〔賈公彦、周禮正義序〕春官爲二木正一、夏官爲二火正一、秋官爲二金正一、冬官爲二水正一、中官爲二土正一、高辛氏因レ之。❷朝廷内の役人。〔後漢書、郎顗傳〕中官外司、各各考レ事、其所レ考者、或非二急務一。❸宮中に奉仕する宦官。〔後漢書、朱穆傳〕中官近習、竊持二國柄一、手握二王爵一、口含二天憲一。〔後漢書、宦者傳序〕於是中官始盛焉。❹京師に在る官。京官。〔宋史、禮志二〕中官外官眾星、總六百八十七位。❺唐以來、司天官の屬に中官正がある。〔唐書、百官志二〕春官・夏官・秋官・冬官・中官、正各一人、云云、掌下司二四時一、各司中其方之變異上。

【中官藪澤】200 福建省(8－24768‥30)の異名。〔同地方から多くの宦官を出したからいふ。藪澤は集まるところ。〕〔事物異名錄、郡邑上、福建〕玉泉子、諸道每歲送二閹人一、所謂私白者閩爲レ首焉、且多任用、故時以二閩爲一中官藪澤一。

【中浣】201 一箇月を三分した中の十日。中旬。中澣。三浣(1－12‥381)の❶を見よ。

【中院】202 胃の中部。上院(1－13‥217)を見よ。

【中澣】203 中浣(201)に同じ。〔丹鉛總錄〕俗以二上澣・中澣・下澣一爲二三澣一、蓋本二唐制十日一休沐一而今猶襲レ之也。

【中觀】204 佛二三觀の一。中諦の理を觀じて、無明の惑を去ること。

【中觀宗】205 佛大乘佛教の一學派。執着の心を排斥して、中道及び空を主張す。中宗。

【中觀論】206 佛佛書の名。四卷。龍樹菩薩撰、青目菩薩釋、後秦、鳩摩羅什譯。一名、中論。最も徹底した中道を主張す。十二門論・百論と合せて三論と稱し、大智度論を加へて四論といふ。

【中君】207 中等の君。〔荀子、非相〕然而中君羞二以爲一臣。〔漢書、張敞傳〕夫小國中君、猶有二奮不レ顧レ身之臣一、況於二明天子一乎。

【中冓】208 はだぎ。中衣。中裙。〔漢書、萬石君傳〕取二親中冓厠牏一、身自滌洒。〔注〕師古曰、中冓、若二今言一中衣一也。

【中裙】209 はだぎ。中牏。中冓。〔史記、萬石君傳〕建爲二郎中令一、每五日洗沐、歸謁レ親、入二子舍一、竊問二侍者一、取二親中裙廁牏一、身自浣滌。〔注〕索隱曰、中裙、近レ身衣也。

【中軍】210 ❶本陣。三軍中の中央の軍。大將軍の居る所。中權。中堅。〔詩、鄭風、清人〕左旋右抽、中軍作レ好。〔春秋、昭、五〕春王正月、舍二中軍一。〔左氏、桓、五〕王爲二中軍一、虢公林父、將二右軍一、周公黑肩、將二左軍一。〔管子、小匡〕三軍故有二中軍之鼓一、有二高子之鼓一、有二國子之鼓一。❷清代、總督巡撫などの下に在つて、軍務を統理する官。副將などをいふ。〔皇朝文獻通考、職官考、八旗駐防〕副將爲二提鎭一分二守險汛一者、曰二協標一參遊以下胥隸焉、爲二總督一職司二關防一、統二理軍務一者、曰二督標中軍一、爲二總河一督理河員一、並稽二核工汛一者、曰河標中軍一、爲二總漕一催二護漕船一督二率官弁一者、曰二漕標中軍一。

【中軍官】211 ❶清代、游擊(7－17792‥11)をいふ。〔皇朝文獻通考、職官考、八旗駐防〕游擊職守與二參將一同、充二各鎭中軍官一。❷清代、都司(11－39509‥67)をいふ。〔皇朝文獻通考、職官考、八旗駐防〕都司僉書職守與二參遊一同、充二副將中軍官一。㊅chung¹ chün¹ kuan¹ 司令部附きの武官・副官などに類したもの。

【中軍副將】212 清代、總督衙門の備員の一。督標(8－23457‥61)をいふ。〔清國行政法汎論、總督、備考〕備二員於總督衙門一者、大凡有レ六、一曰、中軍副將、云云、中軍副將卽督標、爲二總督部兵司令官一、統二督中軍營務處一。

【中下】213 中位の下。〔書、禹貢〕厥田惟中下。〔墨經、松〕曰二黄明松一、品惟中下。

【中下戶】214 大寶令の制に於て、資財の多少を標準として戶を九等に分け、其の第六等のものをいふ。〔賦役令〕凡一位以下及二百姓雜色人等一、皆取二戶粟一、以爲二義倉一、云云、中中戶八斗、中下戶六斗。

【中兄】215 ❶凡庸の兄。〔荀子、非相〕中兄羞二以爲一レ弟。❷二番目の兄。中の兄。〔鶡冠子、世賢〕煖曰、王獨不レ聞二魏文王之問一扁鵲一耶、曰、子昆弟三人、其孰最善爲レ醫、扁鵲曰、長兄最善、中兄次之、扁鵲最爲レ下。〔魏文帝、豔歌何嘗行〕長兄爲二一千石一、中兄被二貂裘一。

【中刑】216 中等の刑。〔周禮、地官、司市〕市刑、小刑憲罰、中刑徇罰、大刑扑罰。〔注〕徇、舉以示二其地之衆一也。〔國語、魯語上〕中刑用二刀鋸一、其次用二鑽笮一。

【中形】217 ❶大と小との中間の大きさ。❷染模樣の名。大形・小形に對して中位の形のもの。中型紙で染模樣を出す故に中形といふ。〔若風俗、八〕白き下著に、薄色の中形。

【中京】218 ❶南朝では洛陽をいふ。唐代も亦同じ。〔南齊書、明帝紀〕昔中京淪覆、鼎玉東遷。〔張說、安樂郡主花燭行〕五方觀者聚二中京一、四合塵烟漲二洛城一。❷唐の至德二年、京城を中京といふ。今、陝西省長安縣の治。〔唐書、肅宗紀〕以二蜀郡一爲二南京一、鳳翔郡爲二西京一、西京爲二中京一。❸唐の時、渤海の京顯德府をいふ。今の滿洲吉林省城の西南にあたる蘇密城。❹宋の顯德四年、遼は遼西を中京とし、大定府といつた。金は初め遼の舊に從つたが、後、北京と改めた。府治は、今の河北省平泉縣の東北。〔遼史、地理志三〕中京大定府、虞爲二營州一、夏爲二冀州一。❺金は宋の故の西京を中京とし、府を金昌といつた。府治は、今の河南省洛陽縣。〔金史、地理

志中）河南府、初置二德昌軍一、興定元年八月、升爲二中京一府曰二金昌一。㊅元代、耶律留哥は遼東に據り、咸平を都とし、之を中京といった。滿洲遼寧省開原縣に當る。（元史、耶律留哥傳）於レ是盡有二遼東州郡一、遂都二咸平一、號爲二中京一。㊆我が國の名古屋をいふ。「微書に輯本を收む。

【中契】219 ケイ 書名。孝經緯の一。今、佚す。古

【中計】220 チュウケイ ●極く普通の計略。中策。（史記、黥布傳）出二于中計一、勝敗之數、未レ可レ知也。（蜀志、龐統傳）其兵乃向二成都一、此中計也。●計に中る。人の計畫に陷る。計策にかかる。

【中徑】221 チュウケイ さしわたし。直徑。（元史、天文志一、簡儀）中徑六度、度約一寸。

【中啓】222 チュウケイ 扇の一種。おや骨の上端を外方に反らして作つたもの。（和漢三才圖會、服玩具、扇）一種有二中啓扇一、如二半開花樣一、僧及醫亦所レ用也、無位之輩、不レ用レ之。

【中卿】223 チュウケイ ●古代の官名。禮儀を掌る。（公羊、襄、十一、古者上卿下卿上士下士、注不レ推二其原一、乃益二司馬一作二中卿官一、踰二王制一、故譏レ之。（荀子、大略）中卿進曰、配レ天而有二下土一者、先レ事慮レ事。（注）中卿、若二宗伯一也。●官名。文官官秩（5—13450‥247）を見よ。㊁未、鄭域（11—39647‥10）の字。

【中詗】224 チュウケイ 中にゐて探偵すること。反間。（漢書、淮南王安傳）爲二中詗長安一。（注）孟康曰、西方人、以二反間一爲レ詗、師古曰、詗、有レ所二候伺一也。（列女傳、節義、京師節女傳）京師節女者、長安大昌里人之妻也、其夫有二讐人一、欲レ報二其夫一而無レ道、徑聞二其妻之仁孝有レ義、乃劫二其妻之父一、使下要二其女一爲中詥上。（梁端注）詥、乃詗之誤。

【中經】225 チュウケイ ●宮中に祕藏する經籍。（晉書、荀勗傳）得二汲郡冢中古文竹書一、詔二荀勗一撰二次之一、以爲二中經一、列在二祕書一。（隋書、經籍志一）魏祕書郎鄭默、始制二中經一、祕書監荀勗、又因二中經一、更著二新簿一、分爲二四部一、總二括羣書一。●卷數が中位にある經書。經書を官吏の登用試驗に課するのに、卷數の多少によつて大經・中經・小經に分けた。隋・唐及び我が國の大寶令では、詩經・周禮・儀禮を指し、宋では、書・易・公羊・穀梁・儀禮をいふ。（唐書、選擧志上）凡禮記・春秋左氏傳爲二大經一、詩・周禮・儀禮爲二中經一、易・尚書・春秋公羊傳・穀梁傳爲二小經一。（宋史、選擧志一）元祐四年、以二詩・禮記・周禮・左氏春秋一爲二大經一、書・易・公羊・穀梁・儀禮爲二中經一。（學令）毛詩・周禮・儀禮、各爲二中經一。●身中の經脈。（史記、扁鵲傳）動レ胃、纏二緣中經維絡一。

【中經簿】226 チュウケイボ 書名。魏、鄭默撰。後漢の董卓の亂後、文籍紊れて頗る散亡したが、魏は其の遺亡を采綴して之を祕中外の三閣に充積した。中經簿は此の三閣充積の書籍を整理した目錄。唐代、已に散佚す。（隋書、經籍志一）董卓之亂、獻帝西遷、國書縑帛、軍人皆取爲二帷囊一、所レ收而西、猶七十餘載、兩京大亂、掃レ地皆盡、魏氏代レ漢、采二綴遺亡一、藏在二祕書中外三閣一。（魏祕書郎鄭默、始制二中經一。）

【中經新簿】227 チュウケイシンボ 書名。十四卷。晉、荀勗撰。中經簿に本づいて作つたから、新簿といふ。典籍を甲乙丙丁の四部に分け、後の經史子集の分類の先驅を爲す。（六藝・小學を甲部に、古諸子家・近世子家・兵書・兵家・術數を乙部に、史記・舊事・皇覽簿・雜事を丙部に、詩賦・圖讚・汲冢書を丁部に入れてゐる。（隋書、經籍志一）魏祕書郎鄭默、始制二中經一、祕書監荀勗、又因二中經一、更著二新簿一、分爲二四部一、總二括羣書一。（甲部、紀二六藝及小學等書一、二曰乙部、有二古諸子家・近世子家・兵書・兵家・術數一、三曰丙部、有二史記・舊事・皇覽簿・雜事一、四曰丁部、有二詩賦・圖讚・汲冢書一、大凡四部、合二萬九千九百四十五卷、但錄二題及言一、盛以二縹囊一、書用二細素一、至二於作者之意一、無レ所二論辯一。）

【中閨】228 チュウケイ ●上が圓くて下が四角な、一軒立ちの家。（戰國、齊策）公孫戊趨而去、未レ出、至二中閨一。（鮑彪注）特立之戶、上圓下方。●ねやの中。閨中。（曹植、七啓）散レ樂變レ飾、微二步中閨一。（謝惠連、擣衣詩）夕陰結二空幕一、霄月皓二中閨一。

【中慶】229 チュウケイ 路名。元、置く。今、雲南省昆明縣治。（元史、百官志七）至元十一年、始置二行省治一中慶路一。

【中繼】230 チュウケイ なかつぎ。又、中繼放送の略。

【中繼器】231 チュウケイキ 遠距離の電信線で、途中で電力の減少するのを防ぐために、適當の位置に設ける電力補給裝置。電報重發器。

【中繼放送】232 チュウケイホウソウ ある放送局の放送を他の放送局が中繼ぎして放送すること。劇場・競技場等の實況についても行ふ。

【中鈇】233 チュウフ ●中程のかけること。（班固、東都賦）往者王莽作レ逆、漢祚中鈇。●中味のかけること。（鄭昭、蠹木賦）細觀二厥木一、外完中鈇。●事務繁簡の程度が中等な任地。（清國行政法汎論、地方官廳、地方缺種類）地方官中、道府以下、均因二土地狀況、事務繁簡一、官缺自有二差等一、曰二最要缺一、曰二要缺一、曰二中缺一、曰二簡缺一、是也。

【中闕】234 チュウケツ 中門。（史記、扁鵲傳）出見二扁鵲於中闕一、曰、竊聞二高義一之日久矣。

【中月】235 チュウゲツ ●中一月。ひとつきおき。隔月。一說に、其の月の中。（儀禮、士虞禮）期而大祥曰レ薦、此祥事、中月而禫。（鄭玄注）中、猶レ間。（王肅注）中月、月中也。（禮、閒傳）中月而禫、禫而飮二醴酒一。●月をいふ。（謝朓、奉レ和二隨王殿下詩一）雲陰滿二池樹一、中月懸二高城一。

【中見】236 chung¹ chien⁴ 證人。媒介人。

【中見人】237 chung¹ chien⁴ jên² 立會人。第三者の介在を必要とする際の立會人。

【中涓】238 チュウケン 禁中の掃除役で、天子の左右に親近する者。中謁者。中は禁中、涓は清潔。涓人。中涓。（墨子、號令）執盾・中涓、及婦人侍レ前者。（閒詁）史記高祖功臣侯表集解、引二漢儀注一云、天子有二中涓一、如二黃門一、皆中官者、國語吳語、涓人嚆、韋注云、涓人、今中涓也、史記楚世家、作二絹人一、韋昭云、今之中涓、是、史記萬石君傳正義、如淳云、中涓主レ通二書謁一、出レ入命也、漢書曹參傳顏注云、中涓、親近之臣、若二謁者舍人之類一、涓潔也、主二居中掃潔一也。（史記、曹相國世家）高祖爲二沛公一、而初起也、參以二中涓一從。（注）集解曰、漢書音義曰、中涓、如二中謁者一。（史記、石奮傳）以レ奮爲二中涓一、受二書謁一。（注）正義曰、顏師古云、中涓、官名、居二中而涓潔一也。（漢書、曹參傳）高祖爲二沛公一也、參以二中涓一從。（注）如淳曰、中涓、如二中謁者一也、師古曰、涓、契也、言、其在レ內、主二知絜清洒掃之事一、蓋親近左右也。

【中堅】239 チュウケン ●本陣。中軍（210）の●に同じ。（後漢書、光武紀）與二敢死者二千人一、從二城西水上一、衝二其中堅一。（注）凡軍事、中軍特最尊、居レ中以堅銳自輔、故曰二中堅一也。●將軍の名稱。（漢書、翟方義傳）王昌爲二中堅將軍一。（魏志、曹眞傳）曹眞拜二中堅將軍一。●中が固いこと。（劉禹錫、問大鈞賦）彼兼葭之蒼兮、霜霰苦而中堅。㊃卒伍の名。兵。（王粲、從軍詩）鞠躬中堅內。（注）良曰、中堅、卒伍之名。㊄團體中の主力。又、働き盛りの人。

【中堅層】240 ソウ 社會の中流に位する人々の階級。

【中絹】241 チュウケン 中涓（238）に同じ。（史記、楚世家）王行遇二其故絹人一。（注）韋昭曰、今之中涓也。

【中憲】242 チュウケン 唐代、中丞（474）の●の異稱。（容齋四筆、官稱別名）中丞爲二獨坐一、爲二中憲一。

【中憲大夫】243 チュウケンタイフ 金代の官名。吏部に屬す。（金史、百官志二）吏部正五品、上曰二中議大夫一、中曰二中憲大夫一、下曰二中順大夫一。

【中縣】244 チュウケン ●中に懸かる。（南齊書、樂志）辰瞻洽レ外、瀛瑞中縣。●縣名。越裳の東境の、烏蠻の居た沙麻部。元の時、歸服したので中州を置き、後、縣とした。（讀史方輿紀要、四川、行都指揮使司）廢中縣、司東四百里、元志、縣治在二往頭回甸越嶲之東境一也、所二居烏蠻、自別爲一沙麻部一、以二酋長所一立處一爲二中州一、至元十年、內附、仍爲二中州二十二年一、降爲二縣一、隸二建昌路一。

【中權】245 チュウケン ●中軍のこと。將軍の居る所で、權は謀を制する義、中權後勁を見よ。又、すべて重要中樞なところをいふ。（梁書、武帝紀上）宣讖中權、奉二衞輿輦一。（庾肩吾、書品論九）中權後殿、各盡二其美一。（梁肅、丞相鄴侯李泌文集序）握二中權之柄一、參二復夏之功一。（朱熹、詩）地兼二梁益一盛二中權一、自レ昔疇咨出二萬全一。●chung¹ ch'üan² 文章中、最も扼要のところをいふ。

【中權後勁】246 コウケイ 中軍には大將が居て謀をめぐらし、殿軍には精兵があつて強いこと。軍勢の整つて居る義。（左氏、宣、十二）前茅慮レ無、中權後勁。（注）中軍制レ謀、後以二精兵一

爲レ殿。

【中元】247 チュウゲン ❶陰暦七月十五日。盂蘭盆會。もと道家の語。琅琊代醉編、卷二に見ゆ。〔薛能、吳姬詩〕芙蓉殿上中元日、水拍二銀臺一弄二化生一。〔乾淳歳時記〕七月十五日、道家謂二之中元節一、各有二齋醮等會一、僧寺則以二此日一作二盂蘭盆齋一、而人家亦以二此日一祀レ先、例用二新米新醬冥衣時果綵段麪棊一、而茹レ素者幾十八九、屠門爲レ之罷レ市焉。❷術數家は、第二甲子をいふ。上元(1－13・・248)の❷・下元(1－14・・138)の❷を見よ。〔太乙人道命法、太乙眞訣祖數〕或起二於周敬王幾年一、或起二於隋開皇幾年一之類爲レ始、而積至二中元甲子一、共若干年、因積算二該若干萬日分一以爲二日計之祖數一、卽中元甲子之祖數也、次遞二加六十年之總日分一爲二下元一、爲二上元一、各祖數。❸古代醫學で心臟をいふ。〔雲笈七籤〕人有二三丹田一、上元・中元・下元是也、上元丹田腦也、亦名二泥丸一、中元丹田心也、亦名二絳宮一。❹後漢、光武帝(劉秀)の年號。建武中元(4－9574・・142)の別稱。(56－57)

【中元會】248 チュウゲンエ 盂蘭盆會をいふ。〔嚴維・鮑防、中元聯句〕共契中元會、初修內景篇。

【中元音】249 チュウゲンオン 舌の前と後との混合部分を使つて發する音。注音符號のㄜ。中韻。舌尖韻。

【中元日】250 チュウゲンジツ 陰暦七月十五日。中元節。〔兗州府志〕十四日採二麻穀一祀レ先獻レ神、中二門左右一、中元日祭レ墓。

【中元節】251 チュウゲンセツ 盂蘭盆。中元の❶に同じ。〔熙朝樂事〕七月十五日、俗傳爲二中元節一。

【中元克復】252 チュウゲンコクフク 唐の睿宗の時、譙王重福が僭用した年號(710)。一に中宗克復に作る。

【中言】253 ナカゴト 人の中間に立つて、雙方へ相手を惡くいふこと。なかぐち。中傷。〔萬葉集、四〕人の中言聞きこすなゆめ。

【中限】254 ナカギリ 市場用語。三箇月制の淸算取引に於て、翌月末に受渡しをする約定のもの。翌月限り。中物。中。中期。當限(7－21890・・52)・先限(1－1349・・57)の對。

【中原】255 チュウゲン ❶野はら。原野。原中。〔詩、小雅、小宛〕中原有レ菽、庶民采レ之。〔禮、禮運〕不レ使二諸者居一中原一。❷邊境及び蠻夷に對する語。今の河南省と山東省との西部、河北省・山西省の南部、陝西省の東部が古の所謂中原の地、卽ち周の王畿、及び漢族の諸侯の封地。〔左氏、僖、二十三〕若以二君之靈一、得レ反二晉國一、晉楚治レ兵、遇二於中原一、其辟レ君三舍。〔史記、平津侯主父偃傳〕身爲レ禽二於中原一者。〔諸葛亮、前出師表〕當下奬二帥三軍一、北定中中原上。〔南史、王弘傳論〕晉自二中原沸騰一、介二居江左一、以二一隅之地一、抗二衡上國一。〔宋史、李綱傳上〕然後中原可レ保、而東南可レ安。〔續通鑑綱目、十四〕岳飛事レ親孝、立レ志慷慨、以下復二中原一、滅中讎虜上爲レ念。❸中國・天下等の義。〔魏徵、述懷詩〕中原還逐レ鹿、投レ筆事二戎軒一。❹日本をいふ。〔會澤正志齋新論、國體上〕是以、知レ有二西戎一、而不レ知レ有二中原一。

【中原時】256 チュウゲンジ 中國の標準時の一。東經百二十度の子午線を基準とする。

【中原音韻】257 チュウゲンオンキン 書名。二卷。元、周德淸撰。北曲用韻の爲に作つたもの。當時通行の韻を主として十九部に分け、每部を平陰・平陽・上聲・去聲の四部とし、上去の仄字は皆平聲の下に附記し、入聲字は平上去の三聲の中に分屬されてゐる。一名、中州音韻。十九部の目は、○東鐘○江陽○支思○齊微○魚模○皆來○眞文○寒山○桓觀○先天○蕭豪○歌戈○家麻○車遮○庚靑○尤侯○侵尋○監咸○廉纖。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【中原之鹿】258 チュウゲンノシカ 帝位。天子の位。中原は天下、鹿は帝位に喩へる。〔晉書、石勒載記下〕若遇二光武一、當三竝二驅中原一、未レ知二鹿死二誰手一。〔魏徵、述懷詩〕中原還逐レ鹿、投レ筆事二戎軒一。

【中原得鹿】259 チュウゲンシカヲウ 天下を取ることをいふ。〔溫庭筠、過二五丈原一詩〕下國臥龍空寤主、中原逐レ鹿不レ由レ人。

【中源】260 チュウゲン 明、呂大川(2－3386・・232)の字。

【中鉉】261 チュウゲン 鼎の黃色の耳。三公の位をいふ。〔王儉、褚淵碑文〕大啓二南康一、爰登二中鉉一。〔注〕善曰、周易曰、鼎金鉉、鄭玄曰、金鉉、喩三明レ道能擧二君之官職一也、鄭玄尙書注曰、鼎、三公象也、良曰、中鉉、則司徒之位也。〔王融、三月三日曲水詩序〕元宰比二肩於尙父一、中鉉繼二踵乎周南一。〔注〕良曰、鉉、鼎耳也、以二黃金一爲レ之、黃色爲レ中、故言レ中、此三公位也。

【中嚴】262 チュウゲン 禁中警戒の備。〔唐書、肅宗紀〕立爲二皇太子一、有司行二冊禮一、其儀有二中嚴外辦一。〔王禹偁、南郊大禮詩〕綵城殘月帶二微霜一、版奏中嚴夜未レ央。〔元史、輿服志二、儀仗〕中嚴牌制如レ前、時牌制同二外備一而小。

【中戶】263 チュウコ 中流社會の人。〔宋史、高宗紀七〕二十一年三月丁亥、蠲二江浙荊湖等路、中戶以下積年逋負一。

【中戶人家】264 chung^{1} hu^{4} jên^{2} chia^{1} 中等の家庭。中流階級の人。

【中古】265 チュウコ ❶なかごろのむかし。なかむかし。殷周の際。周の文王の頃。〔易、繫辭下〕易之興也、其於二中古一乎。〔漢書、藝文志、世歷二三古一注〕孟康曰、易繫辭曰、易之興、其於二中古一乎、然則伏羲爲二上古一、文王爲二中古一、孔子爲二下古一。〔魏書、崔楷傳〕亦爲二中古井田之利一。❷歷史上、時代區分の一。上古・近古に對す。

【中古文】266 チュウコブン 漢代、朝廷の祕府に收藏せられてゐた所の、古文で書かれた書。中とは宮中の意。〔漢書、藝文志〕劉向以二中古文易經一、校二施孟梁丘經一。〔注〕師古曰、中者、天子之書也、言レ中、以レ別二於外一耳。

【中古米】267 チュウコマイ 市場用語。淸算取引に於ける中限の米のこと。當限の米を古々米、先限の米を新米といふのに對す。

【中五】268 チュウゴ 明、黃立極(12－47926・・1344)の字。

【中午】269 chung^{1} wu^{3} 正午。日が正しく午(正南)に達した時。停午。

【中吳】270 チュウゴ 潤州の異名。今の江蘇省鎭江縣。〔事物異名錄、郡邑上、江南〕山堂肆考、潤州爲二中吳一。

【中吳紀聞】271 チュウゴキブン 書名。六卷。宋、龔明之撰。吳中の嘉言・善行、及び風土・人文を記す。〔四庫提要、史、地理類〕。

【中圄】272 チュウゴ 中等の獄屋。〔尉繚子、將理〕中圄不レ下二百數一。

【中語】273 チュウゴ 宮中の言語。〔漢書、外戚、孝元馮昭儀傳〕太后還謂二左右一、此廼中語前世事。〔注〕師古曰、中語、謂二宮中之言語一也。

【中護】274 チュウゴ 唐代、庶子(4－9373・・36)の異稱。〔唐書、百官志四上〕龍朔二年、改二左庶子一爲二左中護一、右庶子爲二右中護一。〔事物異名錄、爵位、詹事〕山堂肆考、周禮諸子、掌二國子之倅一、諸子卽庶子也、唐龍朔中、改曰二中護一。

【中功】275 チュウコウ ❶二月・三月、及び八月・九月に爲す仕事。〔唐六典、工部尙書〕夏三月與二秋七月一爲二長功一、冬三月與二春正月一爲二短功一、春之二月三月、秋之八月九月、爲二中功一。❷功にあたる。立派な功をなしとげる。〔韓非子、難二〕二臣之智、言中レ事、發中レ功。

【中肯】276 chung^{4} k'ên^{3} ❶要害。要隘。❷肯綮に中る。圖星に當る。

【中肯之語】277 chung^{4} k'ên^{3} chih^{1} yü^{3} 肯綮に當つた語。圖星を指した言葉。

【中垢】278 チュウコウ くらく愚な行。〔詩、大雅、桑柔〕維彼不レ順、征以二中垢一。〔傳〕中垢、言二闇冥一也。

【中候】279 チュウコウ ❶官名。諸城門の屯衞を掌る。漢には式道中候、晉には陸軍中候がある。〔史記、張蒼傳〕蒼任レ人爲二中候一。〔注〕集解曰、瓚曰、中候、官名。❷書名。緯書。尙書緯(4－7493・・86)を見よ。〔後漢書、鄭玄傳〕凡玄所レ注、周易・尙書・毛詩・儀禮・禮記・論語・孝經・尙書大傳・中候・乾象曆。〔詩、國風、疏〕國風者、十五國之總稱、不レ冠二於周南之上一、而退在レ下者、按、鄭注二三禮・周易・中候・尙書一、皆大名在レ下。❸昔、軍隊の出發に先だち、道路の險易、山林川澤、水草の便宜等を視察させた斥候。〔別所長治記〕遠候・中候・陣中の候とて三段あり。

【中冓】280 チュウコウ 夫婦だけ居るねや。閨中。冓は材木を積み重ねたところ。中冓は堂の眞中に在り、人の見得ないところ。轉じて、閨中の隱祕。男女のむつ言。〔詩、鄘風、牆有茨〕中冓之言、不レ可レ道也。〔釋文〕本又作レ遘、云云、韓詩云、中冓中夜、謂二淫僻之言一也。〔補傳〕顏師古曰、冓、謂二舍之交一積材木一也、應劭曰、中冓在二堂之中一也、蓋閨內隱奧之處也。〔漢書、文三王傳〕聽二聞中冓之言一。

【中興】281 チュウコウ ❶一旦衰へた世が、再び盛に興る運に中ること。中はあたるの義。〔詩、大雅、烝民序〕任レ賢使レ能、周室中興焉。〔漢書、宣帝紀贊〕功光二祖宗一、業垂二後嗣一、可レ謂二中興一、侔二德殷宗周宣一矣。〔班固、東都賦〕遷レ都改レ邑、有二殷宗中興之則一焉。❷年號。(イ)南齊、和帝(蕭寶融)の時。(501－502) (ロ)北魏(元魏)、出帝(安定王)の時。(531－532) (ハ)西燕、慕容永の時。(386－394) (ニ)五代、南唐の元宗(李璟)の時。(958) (ホ)唐、德宗の際に於ける渤海の成王(大華嶼)の時。(786－794) (ヘ)唐末、昭宗の際に於ける南詔の孝哀帝(舜化眞)の時。(897－901) (ト)清、世祖の際に於ける蔣爾恂の僭號。(1647) ❸路名。元、置く。江陵・公安・石首・松滋・枝江・潛江・監利の七縣を領す。故治は、湖北省江陵縣。〔元史、地理志二〕中興路、唐荊州復爲二江陵府一、宋爲二荊南府一、元至元十三年、改二上路總管府一、設二錄事司一、天曆二年、以二文宗潛藩一、改爲二中興路一云云、縣七、江陵・公安・石首・松滋・枝江・潛江・監利。

【中興頌】282 チュウコウノショウ 後漢の東平王蒼が、光武の功德を頌した文。〔後漢書、東平王蒼傳〕因上二光武受レ命中興頌一、帝甚善レ之。

【中興亭】283 チュウコウテイ 南朝宋の孝武帝が卽位した堂の名。新亭(**5**－**13572**・・393)を見よ。〔南史、宋武帝紀〕改二新亭一爲二中興亭一。

【中興王】284 チュウコウワウ 清、朱一貴(**6**－**14424**・・662)をいふ。

【中興偉略】285 チュウコウヰリャク 書名。一卷。明、馮夢龍撰。中興實錄を見よ。

【中興之君】286 チュウコウノキミ 一度衰へた世を、再び盛にした君。〔漢書、外戚恩澤表序〕自レ古、受命及中興之君、必興レ滅繼レ絕。

【中興之業】287 チュウコウノゲフ 中興の事業。〔重野成齋、霞關臨幸記〕方今國家、內外乂安、中興之業、駸駸乎日進。

【中興實錄】288 チュウコウジツロク 書名。一卷。明、馮夢龍撰。明の崇禎帝が、逆賊李自成の爲に遂に自ら縊死したことから、韃賊が中華を亂るやうになつた由來を述べ、時世を慨嘆して記したもの。中興偉略の初稿と思はれる。

【中興小紀】289 チュウコウセウキ 書名。四十卷。宋、熊克撰。建炎丁未から紹興壬午に至るまでの、南宋中興の事蹟を記す。〔四庫提要、史、編年類〕。

【中興奏議】290 チュウコウノソウギ 中興時代の建白書。〔林鶴梁、膽本胡邦衡上二高宗一封事序〕中興奏議、此爲二第一一。

【中興煤鑛】291 チュウコウバイクヮウ 炭坑の名。山東省の嶧縣と滕縣との閒で、大部分は嶧縣に屬するから、一に嶧縣中興煤鑛といふ。淸の光緒六年、李鴻章が始めて嶧縣の棗莊に中興鑛局を設けて採掘し、後、外債を入れ、華德中興煤鑛公司を作る。埋藏量、數億噸に達し、質も亦優良。

【中興閒氣集】292 チュウコウカンキシフ 書名。二卷。唐、高仲武編。詩集。至德から大曆までの二十六人に就いて、一百四十首を載す。今は鄭當一人、詩八首を佚亡してゐる。〔四庫提要、集、總集類〕。

【中興兩朝聖政】293 チュウコウリャウテウセイセイ 書名。六十四卷。撰者未詳。興復一・任相二・君道三・治道四・皇親五・官職六・人才七・禮樂八・儒學九・民十・兵事十一・財用十二・技術道釋十三・邊事十四・災祥十五の門に分け、每門、子目あり、三百餘條を記す。〔四庫未收書目提要、二〕。

【中興以來絕妙詞選】294 チュウコウイライゼツメウシセン 書名。十卷。宋、黃昇編。〔四部叢刊、第二千九十五－二千九十七冊〕。

【中谷】295 チュウコク ❶谷の中。〔詩、周南、葛覃〕葛之覃兮、施二于中谷一。〔傳〕中谷、谷中也。〔謝朓、齊敬皇后策文〕光二華沼沚一、榮二曜中谷一。❷谷名。〔山海經、南山經〕其南有レ谷焉、曰二中谷一、條風自レ是出。

【中谷谷】296 ナカタニ 伊豫國の地名。

【中谷有蓷】297 チュウコクイウタイ 詩經、王風の篇名。凶年に當つて夫婦が相棄てることに借りて、周室の式微を歎じた詩。一說に、凶年に夫婦が相棄てた後、婦人が物を覽て興を起し、自ら其の悲歎の情を述べたものといふ。〔詩、王風、中谷有蓷、序〕中谷有蓷、閔レ周也、夫婦日以衰薄、凶年饑饉、室家相棄爾。〔集傳〕凶年饑饉、室家相棄、婦人覽レ物起レ興、而自述二其悲歎之詞一也。

【中刻】298 チュウコク 古、ひと時(二時間)を三分した中閒の部分の稱。上刻(**1**－**13**・・281)・下刻(**1**－**14**・・155)の對。

【中黑】299 ナカグロ 紋所の名。輪の中に、橫に一線を引いたもの。〔日本外史、德川氏正記、德川氏一〕初德川氏因二宗族一、以二中黑一爲レ號。

【中國】300 チュウゴク ❶なかつくに。國のまんなか。國の中央。都の地方。國中。〔詩、大雅、民勞〕惠二此中國一、以綏二四方一。〔傳〕中國、京師也。〔孟子、滕文公下〕當二堯之時一、水逆行、氾二濫於中國一。〔荀子、王制〕中國得而畜二使之一。❷中國の自稱。上古、國を黃河の流域に建てた時、自ら蠻(南)夷(東)戎(西)狄(北)の中央に位地するものと考へて中國と稱した。中華。中州。中邦。中壤。〔書、梓材〕皇天旣付二中國民一。〔大學〕不二與同一中國一。〔史記、武帝紀〕天下名山八、而三在二蠻夷一、五在二中國一。❸日本の稱。〔日本書紀、雄略紀〕七年八月、新羅不レ事二中國一。〔續日本紀、九〕養老六年、閏四月乙丑、聖王立レ制、亦務二實レ邊者一、蓋以安二中國一也。〔會澤正志齋新論、國體上〕佛法之入二中國一、朝議謂、國家有二祀典一、不レ宜レ拜二蕃神一。❹山陰・山陽二道の總稱。〔太平記、二十六、直冬西國下向〕備後の鞆に座し給ひて、中國の成敗を司るに。❺大寶令の制で、調庸物の上納について、京畿からの遠近により諸國を三つに分けた中の一。近國と遠國の中閒の國。〔賦役令〕凡調庸物、每レ年八月中旬起レ輸、近國十月三十日、中國十一月三十日、遠國十二月三十日以前、納訖。❻チュウコク 大寶の制に於て、諸國を四種の等級に別けた中の第三位の國。守・掾・目・史生の諸官を置き、後、守・介・掾・目を置く。〔職員令〕中國、守一人、掾一人、目一人、史生三人。〔職原抄〕中國、守、介、掾、目。

【中國掾】301 チュウゴクノジョウ 中國の屬官。中國の❻を見よ。〔職原抄〕中國、掾。

【中國介】302 チュウゴクノスケ 中國の屬官。中國の❻を見よ。〔職原抄〕中國、介。

【中國海】303 チュウゴクカイ 支那海をいふ。中國の東方一帶の海。太平洋に屬し、下の三部分に分ける。(イ)黃海。(ロ)中國と琉球との閒の海。東中國海。又、東海ともいふ。(ハ)中國と南洋群島との閒の海。南中國海、又、南海ともいふ。南海と東海とは、臺灣海峽を界とする。

【中國守】304 チュウゴクノカミ 中國の長官。中國の❻を見よ。〔職原抄〕中國、守。

【中國票】305 chung^1 kuo^2 p'iao^4 中國の國立銀行たる、中國銀行の紙幣をいふ。

【中國目】306 チュウゴクノサクワン 中國の屬官。中國の❻を見よ。〔職原抄〕中國、目。

【中國話】307 chung^1 kuo^2 hua^4 中國語。華語。

【中國銀行】308 チュウゴクギンカウ 中國の中央銀行。

【中國法系】309 チュウゴクハフケイ 中國の法律系統。世界五大法系の一。其の特色は、家族本位・義務本位・非宗敎的・平等主義・社會主義にある。堯舜時代に始めて五刑を定めたと傳へられるが、今に傳はる法典の最古のものは、戰國、魏の李悝の著した法經である。唐代に律令格式の四種を定めて前代の法制を集大成し、後世は多く唐の制度に因つてゐる。淸代になつて、大淸會典・大淸律令等を定め、唐以後最も整備したものと稱せられる。民國以來は、頗る歐洲の法制を採用した。なほ我が國及び安南なども、中國法制の影響を受けてゐる。

【中國共產黨】310 チュウゴクキョウサンタウ 中國の共產黨。西曆紀元千九百二十一年(民國十年)、陳獨秀・譚平山等によつて組織せられた。

【中國國民黨】311 チュウゴクコクミンタウ 孫文の組織した政黨。淸末、興中會を組織し、民國元年に之を國民黨とし、次いで中華革命黨と改め、民國十三年、中國國民黨とした。三民主義を宗旨とし、五權憲法の實施を目的とする。

【中國戲曲概論】312 チュウゴクギキョクガイロン 書名。一冊。民國、吳梅撰。

【中國小說史略】313 チュウゴクセウセツシリャク 書名。民國、魯迅撰。歷代小說の沿革を敍す。

【中國航空記念日】314 チュウゴクカウクウキネンビ 中國の航空記念日。九月二十日。楊梅仙が、民國十二年九月二十日、梅湖で殉難したのに因んだもの。

【中國哲學史大綱】315 チュウゴクテツガクシタイカウ 書名。上卷一冊。民國、胡適撰。古代中國哲學史の沿革を詳說したもの。

【中國歷史研究法】316 書名。民國、梁啓超撰。內容は、一、史之義及其範圍。二、過去之中國史學界。三、史之改造。四、說史料。五、史料之蒐集鑑別。六、史蹟之論次。

【中國通俗小說書目】317 書名。一册。民國、孫楷第編。宋元・明清講史、明清小說甲・乙の四部に分け、乙を更に煙粉・靈怪・說公案・風世に分け、別に、存疑目・叢書目・日譯・西譯・滿文小說の各項を附載し、時代は清に止め、各書の書名・卷數・存否・テキスト・撰者・序跋等を錄す。時に內容・所藏者・按語等をも加へてゐる。未見のものに就いても、著錄目錄の名、他書引用文等を記し、頗る精詳である。

【中骨】318 魚を三枚におろした時、其の中間の脊骨の部分をいふ。中落。

【中劫】319 大中小劫(3－5831‥1620)を見よ。

【中根】320 (圈)人の根機の中等なもの。上根と下根の中間に位するもの。〔魏書、釋老志〕中根人爲ニ中乘一、受ニ十二因緣一。

【中根東里】321 伊豆の人。名は若思。字は敬夫。號は東里。通稱は貞右衞門。初、澄圓と稱して禪僧だつたが、後還俗して講說を業とした。經學は徂徠の學を學び、更に程朱學を修めたが、後、陽明學に歸し、專ら其の說を唱へて子弟を導いた。明和二年歿す。年七十二。著に新瓦・學則・東里先生行狀・東里文集がある。〔先哲叢談、後、五〕・近代著述目錄後篇〕。

【中壺】322 宮中の女官の居る所。壺は房室內の通路。〔唐書、安定公主傳〕宰相建言、禮始ニ中壺一、行ニ天下一王化之美也。〔元史、伯顏忽都皇后傳〕屬選ニ賢於中壺一、躬受ニ命於慈闈一。

【中佐】323 ●中等の輔佐の臣。〔史記、秦始皇紀〕使ニ僅得ニ中佐一山東雖レ亂、秦之地、可ニ全而有一。●鎭の名。河北省安平縣の東北。●陸海軍人の階級。佐官の第二位。

【中差】324 ●昔、箙の中央に差した矢。〔參考保元物語、山田小三郎中爲朝矢一事〕中差し一つ賜はつて。●婦人の髻の眞中に挿す笄、又は簪の類をいふ。

【中坐】325 ●座中のこと。〔江淹、從ニ冠軍建平王一云云詩〕中坐瞰ニ蜿虹一。〔孟浩然、登ニ江中孤嶼一云云詩〕夕陽開ニ返照一、中坐興非レ一。●會席の途中。會の半ば。〔韓非子、外儲說右上〕中坐酒酣將出。〔後漢書、郭太傳〕於是大集ニ賓客三百餘人一、婦中坐攘レ袂、數ニ允隱匿穢惡十五事一、言畢、登レ車而去。●帝坐を犯すこと。〔史記、天官書〕中坐成レ形。〔注〕集解曰、晉灼曰、中坐、犯ニ帝坐一也。(中) chung¹ tso⁴ 中央の席。上座。

【中座】326 中途で其の場を退くこと。

【中才】327 普通の才。中等の才智。〔論衡、定賢〕中才而祭レ之。

【中材】328 普通の人材。なみなみの才。中才。〔史記、游俠傳序〕況以ニ中材一而涉ニ亂世之末流一乎。〔漢書、王嘉傳〕中材苟容、求レ全。

【中彩】329 chung⁴ ts'ai³ 富くじに當籤する。籤にあたる。懸賞にあたる。彩は富くじ。

【中祭】330 宗廟の祭。天地を祭る大祭、並に五祀を祭る小祭に對す。〔周禮、天官、酒正〕大祭三貳、中祭再貳、小祭壹貳。〔注〕大祭天地、中祭宗廟、小祭五祀。

【中菜】331 chung¹ ts'ai⁴ 中華料理。

【中歲】332 ●平作の年。又、平作。〔周禮、地官、均人〕中年、則公旬用ニ二日一焉。〔注〕人食ニ三鬴一爲ニ中歲一。〔史記、天官書〕風從ニ南方一來、大旱、西南、小旱、西方、有レ兵、西北、戎菽爲、小雨、趣レ兵、北方、爲ニ中歲一、東北、爲ニ上歲一。〔注〕集解曰、韋昭曰、歲、大穰。〔宋史、食貨志上四〕大約中歲畝一石。●中年の頃。〔何遜、贈ニ江長史別一詩〕中歲多ニ乖違一、由來難ニ具敍一。〔杜甫、壯遊詩〕歸帆拂ニ天姥一、中歲貢ニ舊鄉一。〔王維、終南別業詩〕中歲頗好レ道、晚家ニ南山陲一。

【中際】333 (圈)前・中・後の三際の一。現在世をいふ。過去世と來世との中間であるからいふ。〔頌疏、九〕一前際卽是過去、二後際卽是未來、三中際謂ニ現在世一。

【中濟】334 宋、范子奇(9－30834‥177)の字。

【中齋】335 ●書齋。へや。〔南史、孔休源傳〕常於ニ中齋一別施ニ一榻一。●字號。(イ)宋、鄧剡(11－39630‥16)の號。(ロ)宋、楊鎭(6－15112‥282)の號。(ハ)明、秦夔(8－24995‥38)の號。(ニ)清、溫汝能(7－17968‥273)の室名。(ホ)大鹽後素の號。大鹽中齋(3－5831‥151)を見よ。(ヘ)山本公簡の號。山本中齋(4－7869‥986)を見よ。

【中罪】336 (周禮、秋官、司圜)中罪、二年而舍。〔漢書、賈誼傳〕其有ニ中罪一者、聞レ命而自弛。

【中双】337 砂糖の名稱。新式粗糖工場の一番糖で、一般に原料糖といはれるもの。

【中倉】338 ●天子の倉庫。中は、宮中の意。〔晉書、呂光載記〕今中倉積粟、數百千萬、東人戰士、一當ニ百餘一。●舟の胴の間。〔遵生八牋〕輕舟下中倉四柱、結ニ頂幔一、以蓬篷一。

【中裝】339 中國の袋綴ぢの裝釘をいふ。

【中裝本】340 線裝本(8－27641‥29)を見よ。

【中操】341 普通の操守。〔司馬相如、長門賦〕貫歷ニ覽其中操一兮、意慷慨而自印。

【中藏】342 ●內臟。〔史記、倉公傳〕中藏無ニ邪氣及重病一。●宮中の內庫。〔後漢書、蓋勳傳〕多出ニ中藏財物一、以餌レ士。〔注〕中藏、內藏也。〔陳書、廢帝記〕令レ充ニ椒圖內府中藏軍備一。●中にをさめ隱す。〔宋史、呂誨傳〕外示ニ朴野一、中藏ニ巧詐一。(中)地名。西藏(10－34763‥261)を見よ。

【中藏經】343 書名。三卷。漢、華陀撰。〔四庫未收書目提要、四〕。

【中作】344 仕事の途中。〔史記、河渠書〕欲ニ以溉ニ田一、中作而覺。〔漢書、溝洫志、注〕師古曰、中作、謂ニ用レ功中道一、事未レ竟也。

【中策】345 中等のはかりごと。中計。〔漢書、匈奴傳〕周得ニ中策一、漢得ニ下策一、秦無レ策焉。〔李白、塞上曲〕大漢無ニ中策一、匈奴犯ニ渭橋一。

【中產】346 中人の資產。貧富の中間。〔王融、永明九年策秀才文〕中產闕ニ游歲之賢一。〔宋史、食貨志上三〕中產之家。

【中產階級】347 自己の勞働によつて獨立生活を營み、社會の中堅をなす階級。

【中散】348 ●あつまり散る。〔江淹、知己賦〕氣擬ニ北海一、情方中散。●魏、嵇康(4－8272‥3)の異名。嵇康は中散大夫を拜したからいふ。〔晉書、嵇康傳〕與ニ魏宗室一婚、拜ニ中散大夫一。〔陸厥、奉ニ答內兄希叔一詩〕平原十日飮、中散千里遊。〔江淹、恨賦〕中散下レ獄、神氣激揚。〔顏延之、五君詠、嵇中散詩〕中散不レ偶レ世。

【中散大夫】349 官名。●王莽、置き、歷代之に因る。唐宋には散官となり、元代、廢す。〔宋書、百官志上〕中散大夫、王莽所レ置、後漢因レ之、前漢大夫皆無レ員、掌ニ論議一。〔通典、職官典、文散官〕中散大夫、王莽所レ置、後漢因レ之、後置ニ三十人一、魏晉無レ員、云云、大唐又置レ之。●我が國の正五位上の唐名。〔職原抄〕正五位上、唐名、中散大夫。

【中餐】350 ひるめし。午餐。中飯(7/12)の●に同じ。〔王周、岳州衆湖阻レ風詩〕衆湖湖口繫ニ蘭船一、睡起中餐又卻眠。〔卿雲、秋日江居閒詠詩〕檢レ方醫ニ故疾一、挑レ齊備ニ中餐一。

【中贊】351 官名。中丞(4/74)の●に同じ。〔陳孚、安南卽事詩〕臺章中贊糾、邑賦大僚輸。〔注〕置ニ御史臺一、中贊卽中丞也、刑法酷甚。

【中山】352 ●中原の山。〔山海經、中山經〕。●山名。(イ)江蘇省溧水縣の南。製筆用の兎毛を產す。〔韓愈、毛穎傳〕毛穎者、中山人也。〔太平寰宇記〕又名ニ獨山一、不レ與ニ羣山一相連、前有ニ水源一、號爲ニ獨水一。(ロ)陝西省涇陽縣の北。卽ち仲山。仲山(1－403‥181)を見よ。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、涇陽縣〕中山、志云、在ニ縣西北七十里一、圖經、中山、北接ニ嵯峨一、西拒ニ冶谷一、南並ニ九嵕一、涇河自レ中而出、故名ニ中山一云云、俗譌爲ニ仲山一。(ハ)雲南省劍川縣の南。石寶山の南。〔劍川州志〕巖石壁立、鐫爲ニ梵像數百一、莊嚴經久不レ變、謂ニ之中山石佛一。●國の名。(イ)春秋の鮮虞國の地。戰國の時、中山國とす。趙の爲に滅ぼさる。今の河北省定縣の地。〔左氏、定、四〕水潦方降、疾瘧方起、中山不レ服、棄ニ盟取レ怨。〔注〕中山、鮮虞。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕定州、春秋時鮮虞國、戰國初、爲ニ中山國一、尋爲ニ魏所レ併、又屬ニ趙、魏文侯時、使ニ樂羊伐ニ中山一取レ之、既而中山復有ニ其地一、趙武靈王伐取レ之。(ロ)漢、置く。景帝の子の勝が中山王となり、盧奴を國治とした。今の河北省中部西寄りの地。●郡名。漢、置く。河北省定縣。〔讀史方輿紀要、直

隸、眞定府ノ定州、春秋時鮮虞國ニ云云、漢初、置ニ中山郡一、景帝改爲ニ中山國一。㊄地名。〔戒庵漫筆〕唐宣州自來多ニ名筆一。㊅琉球の別稱。元末、琉球は中山・山南・山北の三國に分れて中國に入貢したが、中山が最も強く、後來他の二國を併合してから、中山を琉球の別稱とす。〔續通典、邊防典、琉球〕至ニ元末一分爲ニ三一、曰ニ中山一、曰ニ山南一、曰ニ山北一、其王皆以ノ尚爲ニ姓一、而中山最強、明太祖洪武五年、命ニ行人楊載一詔ニ諭之一、中山王察度、遂遣ノ使入貢、賜賚有ノ加、許ス陪ニ臣子弟入ニ國學一肄ニ業一、於ノ是山南王承察度、山北王怕尼芝、亦相繼臣服、成祖永樂中、琉球中山・山南・山北三王屢入貢、子弟俱入ニ國學一肄ニ業一、其嗣王立、俱遣ノ使冊ニ封之一、十二年以後、山北王不ニ復遣一使、宣宗宣德四年後、山南王亦不ニ復至一云、爲ニ中山王所ヲ併、中山王屢世朝貢不レ絶。㊆縣名。廣東省治の南。漢の番禺縣の地。民國十四年、孫中山の發祥地であるから、改めて中山縣とした。㊇港の名。本名は唐家環。廣東省中山縣の東南。民國十九年、六十年を限つて自由港とし、中山港と改む。㊈字號。㋑明、方嵩(5－13620‥289)の字。㋺清、余正元(1－515‥100)の號。㋩民國、孫文(3－6987‥264)の號。

【中山經】353チュウザン　山海經の篇名。

【中山集】354チュウザン　書名。三十卷。外集、十卷。唐、劉禹錫撰。一名、劉賓客集。

【中山酒】355チュウザンノサケ　仙酒。中山に產し、一度飲めば千日間宿醉するといふ酒。〔博物志〕昔劉玄石、於ニ中山酒家一酤酒、酒家與ニ千日酒一、忘レ言ニ其節度一、歸至レ家當レ醉、而家人不レ知、以爲死也、權葬之、酒家計ニ千日滿一、乃憶、玄石前日酤レ酒、醉向レ醒耳、往視レ之、云、玄石之死二年、已葬、於是開レ棺、醉始醒、俗云、玄石飲酒、一醉千日、〔搜神記、三〕狄希、中山人也、能造ニ千日酒一、飲レ之千日醉。〔周興嗣、答ニ吳均一詩〕但酌ニ中山酒一、唯甘ニ江浦橘一。〔鮑溶、范眞傳侍御累有ノ寄因奉レ酬詩〕聞道中山酒、一杯千日醒。〔趙嘏、贈ニ曹處士幽居一詩〕中山暫醉一千日、南苑往來三百年。

【中山道】356ナカンダウ　德川時代に、京都と江戸とを結んだ主要街道の一。中仙道。〔芳野金陵、新建ニ新田公祠堂一記〕予嘗經ニ過中山道一、欲レ觀ニ其遺蹟一。

【中山父】357チュウザンホ　周、仲山甫(1－403‥479)の一名。

【中山服】358チュウザンフク　孫文が、少年團の服裝格式にならつて制定した服裝。詰襟で襟を折返し、左右の胸にポケツトを附す。

【中山狼】359チュウザンノオホカミ　㊀中山に居る狼。自分の命を救つて吳れた人を食べようとしたことから、恩知らずに喩へる。〔無名氏、中山狼傳〕趙簡子大獵ニ於中山一、得ニ狼將レ殺レ之、遇ニ東郭先生一救レ之而免、既狼又欲レ食ニ東郭先生一。㊁雜劇の名。明、康海作。盛明雜劇本の一。墨者東郭先生が中山の狼を救つたが、其の後、狼は飢ゑて墨者を食はうとする。此の時、東郭先生は、三老の意見に從つて遂に狼を刺し殺すといふ筋。共に四折。

【中山陵】360チュウザンリョウ　民國、孫文の陵墓。江蘇省南京市の東、紫金山麓に在る。

【中山哀王】361チュウザンアイワウ　漢、劉竟(2－2224‥176)の封諡號。

【中山孝王】362チュウザンカウワウ　漢、劉興(2－2224‥280)の封諡號。

【中山簡王】363チュウザンカンワウ　後漢、劉焉(2－2224‥60)の封諡號。

【中山詩話】364チュウザンシワ　書名。一卷。宋、劉攽撰。宋人で此の書を引く者は、多く劉貢父詩話と稱す。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【中山靖王】365チュウザンセイワウ　漢、劉勝(2－2224‥386)の封諡號。

【中山先生】366チュウザンセンセイ　尊稱。㊀宋、蘭敏修(9－32399‥15)の尊稱。㊁民國、孫文(3－6987‥26)の尊稱。

【中山大學】367チュウザンダイガク　廣東に在る大學。民國十三年、廣東高等師範・省立法科大學・省立農業專門の三校を合して廣東大學とし、十五年に、國立中山大學と改む。

【中山夫人】368チュウザンフジン　堯の妃。堯は始め唐の地に封ぜられた。唐は今の河北唐縣の東北。〔水經、瓠子河注〕陵東城西五十餘步、中山夫人祠、堯妃也。

【中山傳信錄】369チュウザンデンシンロク　書名。六卷。清、徐葆光撰。琉球の見聞錄。〔四庫提要、史、地理類存目〕。

【中山孺子妾歌】370チュウザンジュシノセフカ　樂府雜歌謠辭の名。中山孺子妾の絶世の美を詠じたもの。齊の陸厥・唐の李白、共に歌辭を作る。〔樂府詩集、雜歌謠辭、中山孺子妾歌〕漢書曰、詔賜ニ中山靖王子噲、及孺子妾冰、未央才人歌詩四篇、如淳曰、孺子幼少、稱ニ孺子妾一、宮人也、顏師古曰、孺子、王妾之有ニ品號一者、妾、王之衆妾也、冰、其名、才人、天子內官、按、此謂下以ニ歌詩一賜ニ中山王、及孺子妾、未央才人等上爾、累言レ之、故云レ及也、而陸厥作レ歌、乃謂ニ之中山孺子妾、失ニ之遠矣。〔陸厥、中山孺子妾歌〕未央才人、中山孺子、一笑傾レ城、一顧傾レ市、傾レ城不ニ自美一、傾レ市復爲レ容、願把ニ陵陽袖一、披ニ雲望ニ九重一。〔李白、中山孺子妾歌〕中山孺子妾、特以ニ色見一、珍雖レ不レ知ニ延年妹一、亦是當時絶世人、桃李出ニ深井一、花豔驚ニ上春一、一貴復一賤、關天豈由レ身、芙蓉老ニ秋霜一、團扇羞ニ網塵一、感姬髡翦入ニ春市一、萬古共悲辛。

【中士】371チュウシ　㊀士分の者を三等に分け、其の第二位に當るもの。〔禮、王制〕上士・中士・下士。〔孟子、萬章下〕中士一位・下士一位。㊁中等の人。〔老子、四十一〕上士聞レ道、勤而行レ之、中士聞レ道、若ニ存若一レ忘、下士聞レ道、大笑レ之。〔資治通鑑、後周紀一〕太祖、廣順三年)臣光曰、不正之女、中士羞ニ以爲一レ家。〔注〕中士、以ニ人品一言。㊂下士官で、軍曹に相當するもの。㊃團聲聞・緣覺をいふ。自利のみあつて、利他なきもの。菩薩は自利・利他を具へ、凡夫は二つとも具へぬ。〔瑜伽論〕有ニ自利一無ニ利他一、名ニ中士一。

【中子】372チュウシ　㊀第二番目の子。次子。〔史記、楚世家〕中子紅、爲ニ鄂王一。〔史記、伯夷傳一國人立ニ其中子一。〔漢書、蘇建傳一〕中子武、最知レ名。㊁ナカゴ物の中央部。中心。〔內匠寮式〕屛風一帖、云云、中子料、調布二尺五寸。㊂佛の異名。齊宮の忌詞。〔齊宮寮式〕凡忌詞、內七言、佛稱ニ中子一。

㋑瓜・瓢などの、種子を含んだ柔かい部分。㊁刀心。即ち刃の欄に入つた部分。

【中止】373チュウシ　事を中途で止めること。〔晉書、成恭杜皇后傳〕后少有ニ姿色一、然長猶無レ齒、有ニ來求レ婚者一、輒中止、及ニ帝納采之日一、夜齒盡生。〔鮑照、舞鶴賦〕將レ興中止、若ニ往而歸一。〔歐陽脩、吉州學記〕惟後之人、毋ニ廢ニ慢天子之詔一、而怠ニ以中止一。

【中止犯】374チュウシハン　刑法用語。實行に着手した後、自分の意思で結果の發生を中止した犯罪。

【中司】375チュウシ　官名。御史中丞(4－10157‥136)に同じ。〔皇甫冉、獨孤中丞筵陪餞ニ韋使君赴ニ昇州一詩〕中司龍節貴、上客虎符新。〔皇甫曾、送ニ湯中丞和ニ蕃詩〕繼好中司出、天心外國知。

【中旨】376チュウシ　㊀天子の御意。帝王の諭旨。〔顏延之、赭白馬賦序〕奉ニ述中旨一。〔朝野類要〕中旨、自ニ禁中一降曰ニ下御筆或直旨一、付ニ有司一施行。㊁旨にあたる。天子の御意にかなふこと。〔魏書、鄭道昭傳〕屢發ニ中旨一、敦營ニ學館一。〔舊唐書、裴垍傳〕小心敬愼、甚稱ニ中旨一。

【中沚】377チュウシ　水中にある小さい洲。〔詩、秦風、蒹葭〕遡游從レ之、宛在ニ水中沚一。〔詩、小雅、菁菁者莪〕菁菁者莪、在ニ彼中沚一。〔曹植、七啓〕觀ニ游女於水濱、燿ニ神景於中沚一。

【中使】378チュウシ　㊀內密の勅使。おもてむきでない天子の使者。〔宋書、袁粲傳〕敦逼備至、中使相望。〔南齊書、王敬則傳〕中使相望、軒冕成陰。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕勉膳禁レ哭、中使相望。〔注〕銑曰、天子私使、曰ニ中使一。㊁ツカヒ　中間に立つて雙方の意思を傳へる者。〔東鑑、四十八、牧野太郎兵衞尉爲ニ中使一。

【中姊】379チュウシ　第二番目の姉。次姉。〔後漢書、章德竇皇后紀〕亦以ニ建初二年一、與ニ中姊俱選、入ニ掖庭一爲ニ貴人一。

【中祀】380チュウシ　祭の名。㊀日月・先農・先蠶・前代帝王・關帝・文昌・太歲等の祀をいふ。大祀(3－5831‥954)を見よ。〔隋書、禮儀志一〕星辰・五祀・四望爲ニ中祀一。〔宋史、職官志三〕又有ニ大祀・中祀・小祀之別一。〔六部成語、禮部、中祀、注解〕在ニ大祀之次一者、皆曰ニ中祀一、如ニ社稷太歲等壇・孔子

關帝等廟一、是也。㊁新年祭・月次祭・神嘗祭・賀茂祭等の如く、三日閒潔齋して行ふ祭祀。〔神祇令〕凡一月齋爲二大祀一、三日齋爲二中祀一、一日齋爲二小祀一。

【中指】381 チュウシ なかゆび。たかたかゆび。〔晉書、淳于智傳〕鼠嚙二其左手中指一。〔南史、臧盾傳〕盾左手中指忽痛、不レ得レ寢。

【中紙】382 チュウシ 品質の中等な紙。〔東鑑、四十二〕建長四年四月一日、厚紙二百帖、中紙千帖。

【中試】383 チュウシ ㊀試驗に合格すること。及第する。〔漢書、刑法志〕魏氏武卒、中試則復二其戶一、利二其田宅一。〔資治通鑑、秦紀〕昭襄王、五十二年、日中而趨百里中レ試。〔注〕中レ試、言二程レ試而中レ度者一。㊁試驗を大・中・小の三等に分け、其の中に合格する資格。〔宋史、選擧志三〕其考察試格、悉分二上中下三等一、貢士則以二本州升貢一等第、太學內舍、則以二校定一等第、每二上舍試考已定一、知學及學官、以二中試之等一參二驗于藉一、通定二升絀高下一、兩上爲レ上、一上一中及兩中爲レ中、一上一下及一中下兩下爲レ下。

【中駟】384 チュウシ ㊀なみの馬。〔史記、孫子傳〕孫子曰、今以二君之下駟一、與二彼上駟一、取二君上駟一、與二彼中駟一、取二君中駟一、與二彼下駟一。㊁中位の品等。〔唐音癸籤〕秦時明月一絕、發端句雖レ奇、而後勁尙屬二中駟一、於レ鱗遽取二壓卷一、尙須二商榷一。

【中耳】385 チュウジ 耳の鼓膜の內側にある小室。鼓室。

〔中耳炎〕386 チュウジエン 中耳に熱を持つ病。

【中侍】387 チュウジ 宮中の官。〔宣和遺事、後集〕中侍立二堂上一宣レ赦。

【中時】388 チュウジ 晝時。日中。〔陳書、沈洙傳〕若其日有二長短一、分在二中時前後一。

【中州】389 チュウシウ ㊀中國の自稱。中冀。中國(300)の㊁に同じ。〔列子、湯問〕從二中州一以東、四十萬里。〔史記、司馬相如傳〕世有二大人一兮、在二于中州一。〔柳宗元、小石城山記〕又怪下其不レ爲二之於中州一、而列中是夷狄上。〔王維、奉レ和三聖製暮春送二朝集使歸レ郡應制詩〕宸章類二河漢一、垂象滿二中州一。㊁河南省をいふ。天下の中央に居る義。〔論衡、談天〕雒陽、九州之中也。〔桓溫、平洛表〕今中州既平、宜二時綏定一。〔故事成語考、地輿〕河南在二華夏之中一、曰二中州一。㊂州名。㋑前燕、置く。故治は河南省臨漳縣の西南。㋺北周、置く。河南省新安縣の治。㋩中縣(244)の㊁を見よ。㊃中央の地。〔釋日本紀、八〕天日隅宮、此今大倭國者、日本之中州也。㊄明、童冀(**8－25775**‥16)の字。

〔中州韻〕390 チュウシウキン 戲曲用語。河南地方の字音をいふ。

〔中州集〕391 チュウシウシフ 書名。十卷。金、元好問編。金一代の詩集。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔中州音韻〕392 チュウシウオンキン 書名。一卷。中原音韻(257)の別名。曲錄には、元、卓從之編といふ。

〔中州樂府〕393 チュウシウガフ 書名。一卷。金、元好問撰。金一代の樂府を載錄す。〔四庫提要、集、總集類〕。

〔中州人物考〕394 チュウシウジンブツカウ 書名。八卷。清、孫奇逢撰。明代の河南人物傳。全書を理學以下七科に分つ。〔四庫提要、史、傳記類〕。

〔中州名賢文集〕395 チュウシウメイケンブンシフ 書名。三十卷。明、劉昌編。河南の名賢傳。〔四庫提要、集、總集類〕。

【中洲】396 チュウシウ ㊀河の洲の中。洲中(**6－17413**‥12)に同じ。又、河海中の洲。〔楚辭、九歌、湘君〕君不レ行兮夷猶、蹇誰留二兮中洲一。〔注〕中洲、洲中也。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕搴二薜荔於山野一兮、采二撚支於中洲一。㊁洲の名。㋑山東省臨淸縣の西。汶水・衞水の會する處。元の時、中洲と名づけた。㋺福建省閩侯縣の南。閩江の中に在って、閩江を二つに分つ。㊂字號。㋑淸、陳子升(**11－41698**‥873)の號。㋺淸、郭振遐(**11－39474**‥337)の字。㋩野田好古の號。野田中洲(**11－40133**‥260)を見よ。㋥田邊匡敕の號。田邊樂齋(**7－21723**‥437)を見よ。㋭眞勢達富の號。眞勢中洲(**8－23235**‥356)を見よ。㋬三島毅の號。三島中洲(**1－12**‥1222)を見よ。㊃佛須彌山の四方に南瞻部等の四大洲があり、四大洲の各〻にある二つの中洲。〔俱舍論、十一〕謂四大洲側各有二二中洲一。

〔中洲草堂〕397 チュウシウサウダウ 清、陳子升(**11－41698**‥896)の室名。

【中秋】398 チュウシウ ㊀秋を三分したなかの秋。仲秋。〔周禮、夏官、大司馬〕中秋教二治兵一。〔史記、五帝紀〕正二中秋一。㊁秋のまんなか。陰曆八月十五日。民國では、太陽曆の秋分後の最初の滿月の日と定む。〔白居易、效二陶潛體一詩〕中秋三五夜、明月在二前軒一。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕尤與二中秋觀レ月爲レ宜。〔劉基、惜昔詩〕可レ憐今夜中秋月、獨照二寒蛩泣二細沙一。

【中秋節】399 チュウシウセツ 陰曆八月十五日の仲秋の節句。一に中秋期ともいひ、商工業者の取引決濟期節として、五月の端午節や年節と同樣に重んぜられる。各家庭では、月や兎などの繪畫を貼りつけ、月餠と呼ぶ餡入菓子を供へる。〔夢粱錄、中秋〕八月十五日、中秋節、此日三秋恰半、故謂二之中秋一、此夜、月色倍二明于常時一、又謂二之月夕一。〔剪燈餘話、芙蓉屛記〕將二月餘一、值二中秋節一。

【中秋礮】400 chung¹ ch'iu¹ p'ao⁴ 藁で作った砲の形をしたものを、石の上で打鳴らすこと。安徽地方の習俗。

【中秋玩月】401 チュウシウグワンゲツ 中秋の夜に、月見の雅會を催すこと。〔曲洧舊聞〕中秋翫レ月、不レ知レ起二何時一、考二古人賦詩一、則始二於杜子美一。

【中秋無月】402 チュウシウムゲツ 陰曆八月十五日の夜、曇つて月の見えないこと。〔司空圖、中秋詩〕此夜若無レ月、一年虛過レ秋。

【中秋不レ見レ月】403 チュウシウツキヲミズ 陰曆八月十五日の夜、月の見えないこと。〔羅隱、中秋不レ見レ月詩〕風簾淅淅漏燈痕、一半秋光此夕分。

【中秋夜不レ見レ月】404 チュウシウノヨツキヲミズ 中秋不レ見レ月に同じ。〔羅隱、中秋夜不レ見レ月詩〕隱雲薄暮上空虛、此夕淸光已破除。

【中犨】405 チュウシウ 邑の名。〔左氏、昭、十三〕王奪二鬬韋龜中犨一。〔注〕中犨、邑名。

【中式】406 チュウシキ ㊀科擧で、條例の格式に合せて及第者を採ること。又、それに合格すること。〔大政紀〕禮部會試、中式者少。〔王昶、王鳴盛傳〕乾隆十二年、鄉試以二五經一中式、會試不レ第、歸二蘇州一。〔淸國行政法汎論、文官、科目〕中式、我所謂合格也。㊁chung¹ shih⁴ 中國式。支那流。支那風。

【中式硃墨卷】407 チュウシキシユボククワン 科擧の試驗で、合格者が自ら書いた答案を墨卷といひ、謄錄官が硃筆で寫したものを硃卷といふ。〔六部成語、禮部、中式硃墨卷、注解〕墨卷、卽中式之本人手書者、硃卷、乃謄錄所二以硃筆謄出一者、中式後、應下取二二卷一核中對語句相符與上否、蓋防二偷換之弊一也。

【中室】408 チュウシツ 室の中。中霤(820)を見よ。〔公羊、哀、六、中霤、疏〕中霤、猶二中室一也。

【中漆】409 chung¹ ch'i¹ 七月中旬から九月の中旬迄に採取する漆液をいふ。

【中實】410 チュウジツ ㊀まこと。眞實。〔墨子、天志中〕中實、將下欲遵レ道利二民本一、察中仁義之本上。㊁宋、鄭鼎新(**11－39647**‥514)の字。

【中社】411 チュウシャ ㊀古の社格の一つ。大社(**3－5831**‥1024)・小社(**4－7473**‥595)の對。〔法曹至要抄、上、一毀二燒神社一事〕中社者、賀茂・住吉社之類也。㊁國幣中社(**3－4798**‥477)の略稱。

【中舍】412 チュウシャ 東宮附きの官。中舍人に同じ。〔宋志、選擧志〕大理寺丞轉二中舍一。〔宋史、魏羽傳〕琰爲二太子中舍一。〔容齋三筆、中舍〕官制未レ改之前、初升レ朝官、有二出身一人、爲二太子中允一、無二出身一人、爲二太子中舍一、皆今通直郞也、近時士大夫、或不レ能レ曉、乃稱二中書舍人一曰二中舍一、殊可レ笑云。

〔中舍人〕413 チュウシャジン 官名。晉、置く。東宮附きの官職。中庶子と共に文翰を掌る。元以後、置かず。太子中書舍人。〔通典、職官典、太子庶子〕中舍人、晉咸寧初置、中舍人四人、以二舍人才學之美者一爲レ之、與二中庶子一共掌二文翰一、在二中庶子下一、洗馬上一、凡奏事文書、皆綜二典之一、監和嘗レ藥、月檢二奏直臣名一、更直五日、典二文疏一如二中書郞一、宋亦四人、齊有二一人一、梁時、功高者一人、與二中庶子祭酒一、共掌二其坊之禁令一、陳因レ之、後魏・北齊並有レ之、隋曰二內舍人一、四員屬二門下坊一、煬帝減二二人一、大唐、中舍人二員、掌二侍從令書奏疏通判事一、擬二中書侍郞一、永徽三年、以二皇太子諱忠一、改爲二內舍人一、太子遜レ位而官復、舊或謂二之太子中書舍人一。〔事物紀原、持憲儲闈部、中舍人〕晉咸寧中、初置二太子中舍人官一、宋朝、神宗又置レ之、唐以來、有二太子中舍一、而無二中舍人一。〔稱謂錄、詹事府職官古稱、中舍人〕案、中舍人、乃宋齊

官名、唐改爲二中允一也。

【中射】414 チュウシャ 戰國時代に、諸侯の宮中の宿衛に任じた士。中射士。中謝(417)の❷に同じ。〔戰國、楚策〕有下獻二不死之藥於荊王一者上、謁者操以入、中射之士問曰、可レ食乎、曰、可、因奪而食之、王怒使三人殺二中射之士一、中射之士、使二人說レ王。〔韓非子、十過〕中射士諫曰、合二諸侯一不レ可レ無レ禮。

【中捨】415 チュウシャ 欲望を捨てて道に順ふこと。〔傳燈錄〕行レ道布レ德、無レ所二希望一、是謂二中捨一。

【中鉈】416 chung¹ tu'o² 手形の、金額を記入した所に押す印。

【中謝】417 チュウシャ ❶任官の命を受けた時、宮中に入つて御禮を言上すること。〔資治通鑑、唐紀〕(武宗、會昌四年)以二杜悰一同平章事兼二度支鹽鐵轉運使一、及二悰中謝一、上勞レ之。〔注〕既受レ命入謝、謂二之中謝一。〔遼史、禮志六〕宰相中謝儀。❷侍御の臣。中射(414)に同じ。〔史記、陳軫傳〕中謝對曰。〔注〕索隱曰、蓋謂二侍御之官一也。❸上表文の敬辭。誠惶誠懼頓首頓首の八字の略。宋の蘇軾の謝三量二移汝州一表に、臣軾誠惶誠懼頓首頓首伏念とあるところ、今の集には、臣軾中謝伏念とあり。中慰(29)を見よ。

【中邪】418 chung⁴ hsieh² 邪氣にとりつかれる。

【中尙】419 チュウシャウ 官署の名。宮中の營造事務を處理する所。中尙方。漢から隋に至るまでは、皆之に因る。唐代に方の字を省き、左尙・右尙と併せて三尙署とす。中署は、宮內の營造雜作を掌り、左署は、車輦繖扇膠漆畫鏤等を掌り、右署は、皮毛膠墨雜作席薦等の事を掌る。開元以後は、別に中尙使を置く。元には中尙監があつて雜造及び氈作を掌り、內務府の陳設帳房帟幕車輿羽衣の用を供す。尙方(**4－7493**・・130)を見よ。〔通典、職官典、小府監〕中尙署、周官爲二玉府一、秦置二尙方令一、漢因レ之、後漢掌二上手工作御刀劍玩好器物、及寶玉作器一、兩漢又有二考工令一、主レ作二兵器一、其職稍同、漢末、分二尙方一爲二中左右三尙方一、魏晉因レ之、自レ過レ江、唯置二一尙方一、哀帝以隸二丹陽尹一、宋武帝踐祚、以二相府作部配臺一、謂二之左尙方一、而本署謂二之右尙方一、並掌レ造二軍器一、又以二相府細併配臺一、卽二其名一置二令一人一、隸二門下一、孝武大明中、改曰二御府一、後廢帝初省二御府一、置二中書一、隸二右尙方一、則漢之考工令、如二宋之尙方令一、尙方令、如二宋中署一矣、齊置二左右尙方令各一人一、梁有二中左右尙方一、北齊亦有二三尙方一、隸二太府一、隋煬帝分隸二少府一、大唐省二方字一、有二中左右三尙署一、令丞各一人。〔唐書、百官志三〕中尙署令一人、從七品下、丞二人、從八品下、掌レ供二郊祀圭璧一。〔元史、百官志六〕中尙監、秩正三品、掌下領二資成庫氈作一、供中內府陳設帳房帟幕車輿雨衣之用上、資成庫、秩從五品、掌レ造二氈貨一、至元二十年置、隸二太府一、二十三年始歸二于監一。〔陸翽、鄴中記〕織二錦羅一、在二中尙坊三署一、皆數百人、有二班文錦一。

〖中尙監〗420 チュウシャウカン 官名。元、置く。各局の諸庫を宰領す。〔元史、百官志六〕利用監・中尙監・章佩監、秩皆正三品。

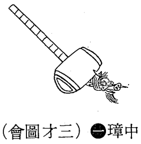
【中晌】421 chung¹ shang³ 吉林省の土地測量尺。一畝三百三十弓をいふ。

【中症】422 チュウシャウ 中風(733)の❶・中氣(117)の❸に「同じ。

【中傷】423 チュウシャウ 讒言して人の名譽をきずつけること。〔列子、天瑞〕亦不レ能レ有レ所二中傷一。〔漢書、尹翁歸傳〕屬縣長吏雖二中傷一、莫レ有二怨者一。〔後漢書、楊秉傳〕有下忤二逆於心一者上、必求レ事中傷。

【中殤】424 チュウシャウ わかじに。十二三歲から十四五歲位で死ぬこと。〔儀禮、喪服傳〕年十九至二十六一爲二長殤一、十五至二十二一爲二中殤一、十一至二八歲一爲二下殤一。〔禮、檀弓上〕以二夏后氏之堲周一、葬二中殤下殤一。

【中璋】425 チュウシャウ ❶長さ九寸の玉器。祭に酒を注ぐに用ひる。璋は、たまの義。〔周禮、考工記、玉人〕大璋中璋九寸、邊璋七寸、射四寸、厚寸。〔孫詒讓正義〕大璋中璋九寸、邊璋七寸者、記二璋瓚形制、及所レ用之事一、凡祭祀賓客之祼、后佐レ王亞祼、並用二璋瓚一。❷玉器。軍隊を起すときのしるしとして用ひる。〔周禮、考工記、玉人〕牙璋中璋七寸、射二寸、厚寸、以起二軍旅一、以治二兵守一。〔疏〕軍多用二牙璋一、軍少用二中璋一。



中璋❶（三才圖會）

中璋❷（三才圖會）

【中觴】426 チュウシャウ 酒宴のなかば。中酒。〔陶潛、遊二斜川一詩〕中觴縱二遙情一、忘二彼千載憂一。〔丁福保箋注〕陶注、中觴、酒半也。

【中上】427 チュウジャウ ❶中の上。〔書、禹貢〕厥賦中上。〔魏書、孝明帝紀〕熙平元年、初聽二秀才對策一、第居二中上已上一敍レ之。〔唐書、韓朝宗傳〕帝稱レ善、特賜二中上考一。〔墨經、松〕明不レ足而紫者、曰二紫松一、品惟中上。❷chung¹ shang⁴ ㋑中から上。中流以上。㋺正午。ひる。㋩ひるま。日中。

【中城】428 チュウジャウ ❶ほんまる。城の本丸。〔史記、大宛傳〕宛大恐、走入二中城一。〔漢書、李廣利傳〕終不レ得レ入二中城一、罷而引歸。❷邑名。春秋、魯の邑。或は、魯の內城で、邑名ではないといふ。〔春秋、成、九〕城二中城一。〔杜注〕魯邑也、在二東郡廩丘縣西南一。〔春秋地理考實〕魯之內城耳、以爲二邑名一、誤矣。❸ナカグスク 琉球の地名。

【中將】429 チュウジャウ ❶近衞府の武官。大將の次の位で左右二人あり。後には四人となる。〔和漢三才圖會、官位部、中將〕左近衞中將、右近衞中將、相二當從四位上一、帶二兵仗一、負レ箙持レ弓、親宿衞也、三位曰レ卿、四位曰二殿上人一。❷陸海軍人の階級。將官の第二位。

〖中將軍〗430 チュウシャウグン 上古の職名。中軍の大將。〔日本書紀、天智紀〕二年三月、遣下前將軍云云、中將軍巨勢神前臣譯語、三輪君根麻呂、後將軍阿倍引田臣比邏夫、大宅臣鎌柄、率二二萬七千人一、打中新羅上。

【中情】431 チュウジャウ 心の奧そこ。中心。衷情。衷心。心底。又、まごころ。中抱。〔墨子、非攻下〕中情將丁欲求丙興二天下之利一、除乙天下之害甲。〔楚辭、離騷〕荃不レ揆二余之中情一兮。〔集注〕中、一作レ忠。〔楚辭、離騷〕孰云レ察二余之中情一。〔史記、韓信傳〕若雖三長大好帶二刀劍一、中情怯耳。

〖抒二中情一〗432 チュウジャウヲノブ まごころを打ちあける。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕抒二中情一而屬レ詩。

【中壤】433 チュウジャウ 中國(300)の❷に同じ。〔晉書、裴嶷載記〕掃二平中壤一、奉二迎皇輿一。〔謝朓、和三伏武昌登二孫權故城一詩〕聖期缺二中壤一、霸功興二寓縣一。

【中弱】434 チュウジャク ❶中ごろの弱いこと。〔周禮、考工記、矢人〕中弱則紆、中強則揚。❷星の名。〔史記、天官書〕中弱、鷄鳴出。

【中手】435 チュウシュ ❶中等の御者。〔韓非子、難勢〕夫良馬固車、五十里而一置、使二中手御一レ之、追レ速致レ遠、可二以及一也、而千里可二日致一也、何必待二古之王良一乎。❷技藝の中等なもの。中くらゐの手なみ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕子獨不レ見二夫弈棋者一乎、中手相對、算レ成者勝。❸ナカテ 早稻の次に熟する稻。中手稻の略。中稻。早稻(**5－13742**・・112)・奧手(**3－5985**・・39)の對。

〖中手稻〗436 ナカテノイネ 早稻と奧手の中間に熟する稻。中手。〔曾丹集〕我が守るなかてのいねものぎは落ちて。

【中主】437 チュウシュ ❶世の常の君。〔呂覽、名類〕中主猶且爲レ之。〔韓非子、用人〕使下中主守二法術一、拙匠守中規矩尺寸上、則萬不レ失矣。❷中心。中に在つて主たるもの。〔道德指歸論〕冥冥混混、道爲二中主一。❸五代、南唐の李景(**6－14459**・・283)をいふ。

【中取】438 ナカトリ ❶中取案の略。〔倭名類聚抄、器皿部、木部、槃〕唐韻云、槃、音豫、今案、俗所謂中取、是也、舁レ食器也。〔東大寺正倉院文書〕中取二前。❷ナカドリ 中間に居て橫領すること。

〖中取案〗439 ナカトリノツクヱ 食器其の他の雜器を積む臺。中取。〔內膳司式〕中取案二十四脚。

【中酒】440 チュウシュ ❶酒宴の眞最中。中觴。〔史記、樊噲傳〕項羽既饗二軍士一、中酒、亞父謀欲レ殺二沛公一。〔左思、吳都賦〕鄱陽暴虐、中酒而作。〔注〕向曰、鄱陽郡人、性多躁急、酒半酣之時、好爲二暴惡之戲一。❷酒にあてられる。ふつかゑひ。〔杜牧、睦州詩〕殘春杜陵客、中酒落花前。〔李郞、落第詩〕氣味如二中酒一、情懷似二別人一。❸食事の後で酒を飲むこと。〔酒茶論〕飯後飲、謂二之中酒一。

【中壽】441 チュウジュ 八十歲。一說に、百歲。又、九十歲・七十歲・六十歲。人の一生の壽命を上・中・下の三段に分けていふ。〔左氏、僖、三十二〕爾何知、中壽、爾墓之木拱矣。〔疏〕上壽百二十、

中壽百、下壽八十。〔左氏、昭、三、三老、疏〕中壽九十以上。〔荀子、盜跖〕中壽八十。〔呂覽、安死〕中壽不レ過二六十一。〔淮南子、原道訓〕凡人中壽七十歲。〔故事成語考、老壽幼誕〕六十曰二中壽一。

【中孺】442 チュウジュ 明、莊起元(9－31035‥158)の字。

【中叔】443 チュウシュク ●複姓。〔萬姓統譜〕中叔姓、中叔園之後。●清、彭任(4－10003‥74)の字。

【中宿】444 チュウシュク ●ふたばんどまり。二泊。一說に、中間に一宿することで、二日一夜をいふ。〔左氏、僖、二十四〕命二女二宿一女中宿至。〔會箋〕中宿、間二一宿一也、卽二日一夜。〔資治通鑑、魏紀〕邵陵厲公、嘉平元年、今詣二許昌一不レ過二中宿一。〔注〕中宿、次宿也。●中途で宿ること。〔司馬相如、上林賦〕步櫩周流、長途中宿。〔注〕銑曰、謂二臺閣高遠一、中道而宿、方至二其上一也。〔何遜、七召〕步三休而未レ半、途中宿而方迷。●二十八宿を四方に分けると七宿づつとなり、七宿の中央に位するものを中宿といふ。〔宋書、律曆志下〕直以二月維二四仲一、則中宿常在二衡陽一。●縣名。漢置く。今の廣東省清遠縣の西北。〔漢書、地理志下〕南海郡、縣六、中宿。

【中宿衣】445 チュウシュクエ 〔佛〕安陀會、卽ち五條袈裟の異名。中著衣。內衣。〔名義集、七〕安陀會、或安怛羅婆沙、此云二中宿衣一、謂二近レ身住一也。

【中春】446 チュウシュン ●春を三分した中の月。二月をいふ。仲春。又、春の季節。〔周禮、夏官、大司馬〕中春教二振旅一。〔周禮、春官、籥章〕中春晝擊二土鼓一、龡二豳詩一以逆二暑一。〔注〕中、音仲。〔疏〕中春、二月也。〔史記、秦始皇紀〕時在二中春一、陽和方起。〔陸游、肩輿至石堰村一詩〕歸來徙二倚衡門一久、始覺中春已日長。●二日十五日。〔徐凝、二月望日詩〕長短一年相似夜、中秋未レ必勝二中春一。

【中雋】447 チュウシュン 投壺の禮で矢を壺に中てる技のすぐれてゐること。後、轉じて、考試に合格することをいふ。中俊。〔左氏、昭、十二〕晉侯以二齊侯、宴、中行穆子相、投壺一。晉侯先、穆子曰、有レ酒如レ淮、有レ肉如レ坻、寡君中レ此、爲二諸侯師一云云、伯瑕謂二穆子一曰、子失レ辭、吾固師二諸侯一矣、壺何爲焉、其以レ中儁也。〔注〕言二投壺中、不レ足レ爲二儁異一。

【中旬】448 チュウジュン 月の中頃。一月を三分して中の十日をいふ。中浣。中澣。〔管子、宙合〕月有二上下中旬一。〔魏書、禮志二〕來月中旬。〔張昱、柳花詞〕花飛不二復過一中旬一。

【中盾】449 チュウジュン 官名。漢、置く。太子の官。中允(35)の●に同じ。〔漢書、敍傳上〕數遣二中盾一、請二問近臣一。〔漢書、百官公卿表上〕詹事秦官、屬官有二太子率更・家令丞僕・中盾・衞率・廐廏・長丞一。〔歷代職官表、詹事府、漢〕兩漢有二太子中盾一、無二中允一、而應劭漢官儀、則又稱二太子中允一、據二漢書所レ載、哀帝爲二太子一、數遣二中盾一、請二問近臣一、顏師古注、盾、讀曰レ允、是中盾卽中允也。

【中書】450 チュウショ ●官名。宮廷の文書・詔勅を掌る。漢の武帝、中書謁者を置き、宦者に尚書の事を典らせ、又、中書令を設置し、禁中の書記を總掌させた。成帝の時、宦者を改めて士人を用ふ。魏の文帝になつて、中書監令を置いて機密を掌らせたが、晉代、監を廢して令を置き、中書・尚書・門下と俱に三省と稱した。唐初、三省の長は俱に宰相と爲つたが、中葉以後は他官の同中書門下平章事が獨り機務に預かり、中書令等は僅かに虛名を存した。宋も三省を置き、他官を以て中書令の職を行はせた。元には皇太子を以て中書令とし、明は中書省を廢して別に內閣中書・中書科中書を置く。清も亦之に倣ひ、宣統の時になつて廢した。陔餘叢考、卷二十六に見ゆ。中書令(457)の●を見よ。〔漢書、蕭望之傳〕初宣帝不二甚從一儒術一、任二用法律一、而中書宦官用レ事。〔事物紀原、三省綱轄部、中書令〕舜納言・周內史、皆中書之任也。漢武游二宴後庭一、始宦者典二事尚書一、謂二之中書謁者一、置レ令、不レ言謁者、省文也。〔羣書考索〕魏文帝時、置二中書監令一、並掌二機密一、自レ是中書多爲二樞機之任一、其後或置二丞相一、或相國、或司徒、而中書監令常掌二機密一、多爲二宰相之任一、於レ是權在二中書一。〔歷代職官表、內閣、謹案、中書之名、肇於漢、徐堅引二謝靈運晉志一稱、以總二掌禁中書記一、謂二之中書一者、是也、自二魏設一中書監令、後世遂與二尚書一門下一並稱一三省一、均爲二宰相之職一。●宋代の政事堂。樞密院と共に大政を掌る官衙。〔文獻通考、職官考、官制總序〕宋朝設レ官之制、云云、別置二中書於禁中一、是謂二政事堂一、與二樞密院一對掌大政一。●天子の所藏の書物。〔漢書、儒林傳〕以二中書一校レ之、非レ是。〔注〕師古曰、中書、天子所藏之書也。〔後漢書、盧植傳〕並在二東觀一校二中書一。

【中書格】451 チュウショカク 詔勅及び宮殿の扁額などを書く書體。〔五雜組、人部三〕今國家誥勅及宮殿扁額、皆用二筆法極端楷者一書レ之、謂二之中書格一、但取二其莊嚴典重一耳。

【中書監】452 チュウショカン 官名。●中書省の職員。中書令(457)の●を見よ。〔晉書、職官志〕中書監及令、云云、文帝黃初初、改爲二中書置監令一、監令蓋自レ此始也。●中務大輔(774)の唐名。〔職原抄〕中務省、大輔一人、唐名、中書大卿或中書監。

【中書君】453 チュウショクン 筆の異稱。毛穎(6－16772‥8)を見よ。〔韓愈、毛穎傳〕累拜二中書令一、與レ上益狎、上嘗呼爲二中書君一。〔故事成語考、器用〕管城子・中書君、悉爲二筆號一。

【中書省】454 チュウショショウ ●官署の名。中書の名は前漢に起つたが、中書省は魏晉より始まる。各朝皆沿革あり。隋は煬帝の大業十一年、內史省を改めて中書省と爲し、唐は武德三年、內書省を改めて中書省といひ、龍朔元年、改めて西臺といひ、光宅元年、改めて鳳閣といひ、後、中書省に復したが、開元元年、又改めて紫微省といつた。宋は略〻唐の制に因り、且尚書省・門下省と共に三省といふ。元には、中書省を以て尚書省の任を兼ねさせた。明は元の制に因つたばかりでなく、更に六部を統べさせたが、中書令は無かつた。後、六部の權限地位が重く高まるに及んで、中書省は他の二省と共に消滅に歸した。〔文獻通考、職官考、中書省〕中書之官、舊矣、謂二之中書省一、自二魏晉一始焉、梁陳時、凡國之政事、並由二中書省一、省有二中書舍人五人一、領二主書十人一、書吏二百人一、分レ掌二十一局事一、各當二尚書諸曹一、並爲二上司一、總二國內機要一、而尚書唯聽受而已。●中務省(770)の唐名。〔職原抄〕中務省、當二唐中書省一。

【中書堂】455 チュウショドウ 中書省の政治堂。〔杜甫、莫相疑行〕集賢學士如二堵牆一、觀レ我落レ筆中書堂。〔全唐詩話〕溫亦有レ言、云、中書堂內、坐二將軍譏一相國無學一也。

【中書郎】456 チュウショロウ 官名。中書侍郎に同じ。〔晉書、職官志〕魏黃初初、中書既置二監令一、又置二通事郎一、云云、及晉、改曰二中書侍郎一。〔晉書、裴楷傳〕轉二中書郎一、出二入宮省一。

【中書令】457 チュウショレイ 官名。●中書省の長官。漢には中書謁者令の官があつて、宦者を以て之に任じ、尚書奏事を掌らせたが、成帝の時、改めて中謁者令とし、始めて士人を用ひた。東漢には置かず。魏は祕書令を置いたが、後、中書令と改め、又中書監を置いて機密を掌らしめた。晉・南北朝は皆之に倣ひ、其の職は漸く重きを加へ、遂に宰相の職となつた。隋は監を廢し、令を改めて內史令とし、唐は又改めて右相とし、內史とし、更に紫微令としたが、後、また中書令に復した。宋は唐の制に因り、元は皇太子を以て之を兼ねさせたが、明に至つて廢せられた。〔通典、職官典、中書令〕舜攝レ位、命レ龍作二納言一、出二入帝命一、周官內史、掌二王之八柄一、爵祿・廢置・生殺・與奪、執二國法及國令之貳一、以考二政事一、蓋今中書之任、其所レ置中書之名、因二漢武帝遊二宴後庭一、始以二宦者一典レ事、尚書謂二之中書謁者一、置二令僕射一、元帝時、令弘恭・僕射石顯、乘レ勢用レ事、權傾二內外一、藩望之以爲、中書政本、宜下以二賢明之選一、更置中士人上、自二武帝一改用二宦者一、掌二出入奏事一、非二舊制一也、成帝建始四年、改二中書謁者令一曰二中謁者令一、更以二士人一爲レ之、皆屬二少府一、漢東京、省二中謁者令官一、魏武帝爲二魏王一、置二祕書令一、典二尚書奏事一、又其任也、文帝黃初初、改爲二中書令一、又置レ監、以二祕書左丞劉放一爲二中書監一、右丞孫資爲二中書令一、並掌二機密一、中書監始於此也。●中務卿(769)の唐名。〔職原抄〕中務省、卿一人、唐名、中書令。

【中書王】458 チュウショワウ 親王で中務省の長官たる人の稱。〔太平記、十四、箱根竹下合戰〕中書王の股肱の臣下。

【中書謁者】459 チュウショエツシャ 官名。中書令の●を見よ。

【中書檢正】460 チュウショケンセイ 宋代、內閣侍讀(1－1418‥51)をいふ。〔稱謂錄、內閣各官古稱、中書檢

正〕宋稱二內閣侍讀一爲二中書檢正一。

【中書侍郎】461 チユウショジラウ 官名。❶漢の武帝が中書を置いて尙書の職權を領せしめた時、令丞郎を設けたが、魏の黄初中には、通事郎を置き、後、改めて中書侍郎といふ。中書省の❶を見よ。〔事物紀原、三省綱轄部、中書侍郎〕漢武帝置二中書一領二尙書事一、有二令丞郎一、魏黄初初、置二通事郎一、後改曰二中書侍郎一、唐志曰、晉加二侍字一。❷中務少輔(773)の唐名。〔職原抄〕中務省、少輔一人、唐名、中書少卿、中書侍郎。

【中書舍人】462 チユウショシヤジン 官名。❶魏、置く。詔誥制勅を掌り、中書省に屬す。初、通事、通事舍人、又は舍人通事など呼ばれたが、後に中書舍人といふ。南朝になつて、權任共に極めて重く、唐代には、文士にとつて名譽ある地位とせられた。明代には、中書省を革めて別に中書科中書舍人を置き、專ら誥勅の繕寫を掌る。又、內閣中書舍人を置き、ただ中書といふ。清末、廢す。陔餘叢考、卷二十六に見ゆ。中書省の❶を見よ。〔通典、職官典、中書令〕中書舍人、魏置二中書通事舍人一、或曰二舍人通事一、各爲二一職一、晉江左乃合レ之、謂二之通事舍人一。〔事物紀原、三省綱轄部、中書舍人〕初學記曰、魏世中書、始置二通事一人一、明帝時、有二通事劉泰一、是也、高貴鄕公、改曰二通事都尉一、尋爲二通事侍郎一、晉初置二舍人通事各一人一、東晉各爲二一職一、梁始掌二詔誥一、其後除二通事一、直曰二中書舍人一、舍人本周官、掌二乎宮中之政一。❷中務丞(771)の唐名。〔職原抄〕中務省、大少丞、唐名、中書舍人。

【中書主事】463 チユウショシユジ 中務錄(772)の唐名。〔職原抄〕中務省、大少錄、唐名、中書主事。

【中書少卿】464 チユウショセウキヤウ 中務少輔(773)の唐名。〔職原抄〕中務省、少輔一人、唐名、中書少卿、中書侍郎。

【中書大卿】465 チユウショタイキヤウ 中務大輔(774)の唐名。〔職原抄〕中務省、大輔一人、唐名、中書大卿、或中書監。

【中書大王】466 チユウショダイワウ 中務卿具平親王をいふ。〔本朝文粹、八、紀齊名、仲秋陪二中書大王書閣一同賦二望レ月遠情多一應教〕屬二秋景之半闌一、會二于中書大王之書閣一矣。

【中書門下】467 チユウショモンカ 政治堂。唐に始まる。〔唐書、百官志一〕開元中、張說爲レ相、又改二政事堂一號二中書門下一、列二五房於後一、一曰吏房、二曰樞機房、三曰兵房、四曰戶房、五曰刑禮房、分レ曹以主二衆務一焉。〔資治通鑑、唐紀〕(玄宗、開元十一年)張說奏、改二政事堂一曰二中書門下一。〔注〕舊制、宰相常於二門下省一議レ事、謂二之政事堂一、永淳元年、中書令裴炎、以二中書一執二政事一、遂移二政事堂於中書省一、至レ是、說改二政事堂一爲二中書門下一、其政事印、改爲二中書門下之印一。

【中書通事舍人】468 チユウショツウジシヤジン 官名。魏、置き、宣奏を掌る。後、中書舍人に併せらる。中書舍人を見よ。

【中暑】469 チユウショ ❶季節の名。夏をいふ。〔管子、幼官〕十二中暑。❷あつさあたり。暑氣あたり。霍亂。中暍。〔傷寒論、中暑有二三證一〕太陽中レ熱者、暍是也。〔病名彙解、二〕中暑幷中熱。

【中署】470 チユウショ 宮中の役所。〔後漢書、呂強傳〕每二郡國貢獻一、先輸二中署一、名爲二導行費一。〔注〕中署、內署也。

【中序】471 チユウジヨ 雅樂曲の序の一種。拍のあるもの。〔淵鑑類函、樂部、拍板三〕中序方始、韻書、霓裳曲、散序六變、無レ拍、中序始有レ拍。

【中勝】472 チユウシヨウ 唐、薛用弱(9―32123・・253)の字。

【中證】473 chung¹ chêng⁴ ❶證據。證左となる物。❷證人。仲介者。世話人。

【中丞】474 チユウジヨウ ❶官名。漢代、宮中に在つて蘭臺の祕書を掌り、外は刺史を監督し、內は侍御史の職を領するもの。中憲。中贊。〔漢書、百官公卿表上〕御史大夫有二兩丞一、一曰二中丞一、在二殿中蘭臺一、掌二圖籍一、外督二部刺史一、內領二侍御史一、受二公卿奏事一。〔晉書、職官志〕至レ晉因二其制一、以二中丞一爲二臺主一。〔事物紀原、持憲儲闈部、中丞〕漢初、御史大夫有二兩丞一、一曰二御史丞一、一曰二中丞一、初學記曰、秦官、漢因レ之、謂二之中丞一、以下其別在二殿中一掌中蘭臺祕書一、外督二部刺史一、內領中侍御史上、故云、成哀間、更名二御史長史一、光武復曰二中丞一。❷明・清代には巡撫をいふ。〔劉紹攽、中丞公碩色蜀政記〕蜀爲二遠地一、政多因循、大中丞碩公、乾隆二年、自レ秦移撫。〔錢大昕、內閣侍讀嚴長明傳〕中丞沅巡二撫山西一、招至二官齋一、爲二文字交一。

【中乘】475 チユウジヨウ ❶道教に於ける中位の教。第二洞玄。〔雲笈七籤〕三洞合成二三十六部尊教一、第一洞眞、爲二上乘一、第二洞玄、爲二中乘一、第三洞神、爲二下乘一。❷佛緣覺乘の別名。三乘の中位に在るからいふ。三乘(1―12・・913)の❹を見よ。

【中繩】476 チユウジヨウ 墨繩にあたる。眞直なこと。〔荀子、勸學〕木直中レ繩、輮以爲レ輪、其曲中レ規。〔呂覽、離俗〕中レ繩愈窮愈榮。

【中昃】477 チユウショク 日中及び夕暮。日が南中し、更に午後にかたむくこと。〔書、無逸〕自レ朝至二于日中昃一。〔傳〕從レ朝至二日昳一。〔蔡傳〕自レ朝至二于日之中一、自レ中至二于日之昃一。〔曾國藩、克勤二小物一〕自レ朝至二日中昃一、不レ遑二暇食一。

【中食】478 チユウショク ❶食事の最中。〔國語、晉語九〕吾小人也貪、饋之始至、懼二其不レ足、故歎、中食而自咎也。❷食物にあたる。〔鍾會、生母張夫人傳〕夫人中レ食、覺而吐レ之。❸中等の食事。〔宋史、郭琮傳〕凡母之所レ欲、必親二奉之一、居常不レ過二中食一、絕二飮酒茹葷一者三十年、以祈二母壽一。❹チユウジキ 佛齋食(12―48565・・64)の異名。〔釋氏要覽〕僧祇律云、今言二中食一、以二天中日午時一得レ食、時當二日午一、故言二中食一。❺ひるめし。晝食。〔時慶卿記、慶長八年三月九日〕橋邊にて中食を用ふ。

【中心】479 チユウシン ❶心のうち。心中。中情(431)に同じ。〔易、泰〕象曰、不レ戒以孚、中心願也。〔詩、邶風、二子乘舟〕願言思レ子、中心養養。〔韓非子、解老〕仁者謂二其中心欣然愛レ人也。〔許棠、寄二陸睦州一詩〕東遊雖レ未レ遂、日日至二中心一。❷まんなか。中央。かなめ。〔劉禹錫、雙溪詩〕浮花擁二曲處一、遠影落二中心一。〔白居易、雲居寺孤桐詩〕四面無二附枝一、中心有二通理一。❸心。心臟。❹數學用語。有限直線の兩端もしくは圖形の終端より、或は圓周又は球面のすべての點より、等距離に在る點。❺ナカゴ 刀劍の名所。關マチより下、柄の中に入る所。こみ。莖。〔大內問答〕中心きりたる刀。

【中心角】480 チユウシンカク 圓の中心に角頂を有する角。卽ち二つの半徑が中心に於て張る角。

【中心洲】481 チユウシンシウ 島の名。一名、東沙洲。廣東省高要縣の東、零羊峽大江の中にあり。宋の包拯が硯を擲つた處。

【中心食】482 チユウシンショク 皆既食及び金環食の總稱。

【中心思想】483 チユウシンシサウ 思想體系中の最も重要な根本思想。

【中心是悼】484 チユウシンコレイタム 心中から深く悼む。〔詩、邶風、終風〕終風且暴、顧レ我則笑、謔浪笑敖、中心是悼。〔詩、檜風、羔裘〕羔裘如レ膏、日出有レ曜、豈不二爾思一、中心是悼。

【中心如レ噎】485 チユウシンムセブガゴトシ 心中に物思ひをして、むせぶやうに悲しむこと。〔詩、王風、黍離〕彼黍離離、彼稷之實、行邁靡靡、中心如レ噎。

【中心如レ醉】486 チユウシンヱフガゴトシ 心がゑひしれたやうに馬鹿になる。〔北史、王肅傳〕尋徵入レ朝、帝手詔曰、不レ見二君子一、中心如レ醉。

【中心必式】487 チユウシンカナラズツツシム 心中は必ず引きしめて、ほしいままにしない。式は、つつしむ意。〔管子、弟子職〕顏色整齊、中心必式。

【中心統合法】488 チユウシントウガフハフ 各教科教材の連絡統一を計る教育法。

【中心達二於面目一】489 チユウシンヨリメンモクニタツス 哀痛迫切の至情が心から發して、自然と面にあらはれること。〔孟子、滕文公上〕夫泚也、非二爲レ人泚一、中心達二於面目一。

【中心疑者其辭枝】490 チユウシンウタガフモノハソノジシナリ 心中に疑懼する時は、其の辭に矛盾があること。枝は、分れて專一でないこと。〔易、繫辭下〕將レ叛者其辭慙、中心疑者其辭枝。

【中臣】491 チユウシン ❶宮中の官。〔漢書、霍光傳〕令三故昭帝侍中中臣侍二守王一。〔後漢書、李固傳〕今可下爲設二常禁一、同中之中臣上。❷ナカトミ 天兒屋根命から出た部族の名。中臣壽詞を見よ。

【中臣壽詞】492 ナカトミノヨゴト 昔、踐祚の日に、神祇伯の中臣氏が奏聞して、大御代を壽ぎ奉つた詞。〔台記別記、康治大嘗會〕中臣壽詞、本末不レ傾、茂槍乃中執持弖奉仕留中臣。

【中身】493 チユウシン ❶五十歲頃。人壽を百年と見て、其の半頃。中年。〔書、無逸〕文王受レ命、惟中身。

〔傳〕文王九十七而終、中身卽位、時年四十七。〔鄭注〕中身、謂二中年一。〔王巾、頭陀寺碑文〕欲下捨二百齡於中身一、徇中肌膚於猛鷙上。㊀からだのなかほど。胴體。〔戰國、魏策〕擊二其中身一首尾俱救、今梁者天下之中身也。㊁からだにあたる。〔莊子、達生〕中レ身當レ心、則爲レ病。㊂大身と小身との間の身分。又、其の人。

【中宸】494 チュウシン なかぞら。中空。天地交會の處。轉じて、天子の宮殿。〔張衡、西京賦〕消二雰埃於中宸一、集二重陽之清澂一。〔注〕銑曰、中宸、天地交會之際。〔吳浩、石渠閣賦〕瞰二中宸於天表一、播二休烈一而垂レ後。〔萬佺、乾清宮賦〕垂二拱中宸一、恭默如レ淵。

【中晉】495 チュウシン 晉の中世。晉の東遷以後を指していふ。〔南齊書、巴陵王昭秀傳〕中晉南遷、事移威弛。〔陶潛、命レ子詩〕在二我中晉一、業融二長沙一。〔校箋〕陶注、何焯曰、漢季稱二東漢一曰二中漢一、此中晉所レ本。

【中針】496 チュウシン 天の運轉する軸。地理學者の語。〔紀大奎、地理末學〕。

【中人】497 チュウジン ㊀中ほどの人。㋑賢愚の中間にある人。なみの人。常人。〔論語、雍也〕中人以上、可二以語一レ上也。〔荀子、非相〕中人羞二以爲一レ友。〔漢書、古今人表序〕可二與爲一レ善、可二與爲一レ惡、是謂二中人一。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕及至二於勢窮一義有レ不レ得レ不レ死、雖二中人一可レ勉焉。㋺貧富の中間にある人。中流生活の人。中人十家之產を見よ。㋩強弱の中間にある人。一人前の力量の人。〔鼂錯、論貴粟一〕數石之重、中人弗レ勝。㊁宮中に奉仕する人。宦官。又、宮女。〔史記、李將軍傳〕敢有レ女、爲二太子中人一、愛幸。〔漢書、石顯傳〕元帝以下顯久典レ事、中人無二外黨一。精專可下信任上、遂委以レ政。〔劉孝威、獨不見樂府〕中人引レ臥內、副車遊二上林一。㊂權勢ある者。〔曹植、當牆欲高行〕龍欲レ升レ天須二浮雲一、人之仕進侍二中人一。〔晉書、李密傳〕官無二中人一、不レ如レ歸レ田。㊃なかうど。仲介者。〔訓蒙字會〕呼レ男曰二媒人一、女曰二媒婆一、總稱二中人一。㊄中國人をいふ。西洋人を西人(10－34763・3右)といふに對す。〔周禮政要、獄訟〕故中西獄訟、中人則疑二西律之輕一、西人又疑二中律之重一。㊅春秋の地名。河北省唐縣の西北。〔左氏、昭、十三〕晉荀吳、以二上軍一侵二鮮虞及中人一。〔史記、趙世家〕敬侯十一年、伐二中山一、戰二於中人一。〔張曜、中山記〕中山郡、初治二中人城一、城中有レ山、故曰二中山一。靖王受レ封、始移二治盧奴一。㊆人をそこなふ。〔楚辭、九辯〕懷增都分、薄寒之中レ人。〔注〕有レ似二迫寒之傷一レ人。㊇chung¹ jen² 紹介者。周旋人。

【中人產】498 チュウジンサン 中流人の財產。普通人一家の財產。中人十家之產を見よ。

【中人十家之產】499 チュウジンノサン 中等の生活をする十軒分の財產。多額の金をいふ。〔漢書、文帝紀〕〔孝文帝〕嘗欲レ作二露臺一、召二匠計一レ之、直百金、上曰、百金、中人十家之產也。

【中水】500 チュウスイ ㊀川の中程。〔國語、吳語〕右軍涉レ江鳴レ鼓、中水以須。㊁水面と平行する。水平。〔周禮、考工記、輿人〕衡者中レ水。〔疏〕作レ車之法、橫者中二於水一無二高下一也。㊂縣名。㋑漢置く。高祖が呂馬童を封じて中水侯國とした處。後、縣を置く。故城は、河北省獻縣の西北。兩河の間にあるから名づけた。〔史記、項羽紀〕封二呂馬童一爲二中水侯一。〔漢書、地理志上〕涿郡、縣二十九、中水。㋺南宋、置く。山東省の舊濟南府の境。

【中衰】501 チュウスイ 中頃衰へる。〔漢書、李尋傳〕尋見二漢家有二中衰陽會之象一。

【中數】502 チュウスウ ㊀中氣の數。月の初を節氣とし、月の中を中氣といふ。中氣(117)の㊁を見よ。〔周禮、春官、大史、正二歲年一以序レ事、注〕中數曰レ歲、朔數曰レ年、中朔大小不レ齊、正レ之以閏。〔疏〕云二中數曰一レ歲、朔數曰下年者、一年之內、有二二十四氣一、正月立春節、啓蟄中、二月雨水節、春分中、三月淸明節、穀雨中、四月立夏節、小滿中、五月芒種節、夏至中、六月小暑節、大暑中、七月立秋節、處暑中、八月白露節、秋分中、九月寒露節、霜降中、十月立冬節、小雪中、十一月大雪節、冬至中、十二月小寒節、大寒中、皆節氣在レ前、中氣在レ後、節氣一名朔氣、朔氣在レ晦、則後月閏、中氣在レ朔、則前月閏、節氣有下入二前月一法上。㊁眞中の數。五は一・三・五・七・九の奇數の中に當り、六は二・四・六・八・十の偶數の中に當る。〔漢書、律歷志上〕天之中數五、地之中數六、而二者爲レ合。

【中樞】503 チュウスウ ㊀中心となる最も肝要な所。主要部。樞は戶のくるるで、開閉を自由にする所。〔太玄經、周〕植二中樞一、周無レ隅。㊁回轉運行する天體の中心。〔黃庭內景經〕共入二太室璇璣門一。〔注〕璇璣、中樞名。〔盧照鄰、贈許左丞從駕萬年宮一詩〕中樞移二北斗一、左轄去二南臺一。㊂中央政府の稱。〔劉禹錫、和下令狐相公初歸二京國一賦上詩言レ懷詩〕凌雲羽翮掞天才、楊歷中樞與二外臺一。

【中樞院】504 チュウスウイン 朝鮮總督府に置かれた官署。日本の樞密院に當るもの。

【中樞神經】505 チュウスウシンケイ 神經系統に於て中央機關の作用をなす部分。腦、脊髓をいふ。

【中世】506 チュウセイ ㊀なかむかし。中古。中葉。〔書、無逸、昔在殷王中宗、傳〕殷家中世尊二其德一、故稱レ宗。〔商子、開塞〕中世上レ賢而說レ仁。〔後漢書、朱穆傳〕夫中世之所レ敦、已爲二上世之所一レ薄。㊁國史では、大化改新から鎌倉幕府の創立頃までの間。中古。〔日本外史、源氏前記、平氏〕及レ至二中世一、摹二倣唐制一、官分二文武一。㊂西洋史では、ゲルマン民族大移住の頃から、西曆一五一七年、ルーテルの宗教改革に至る迄。

【中世藝術】507 チュウセイゲイジュツ 歐洲の十二世紀から十五世紀までの藝術。當時、羅馬・ゴシックの二大建築樣式が發達した。

【中世哲學】508 チュウセイテツガク 歐洲の十二世紀から十五世紀までの哲學。教會の教理を學問體系として確立し完成することに努む。スコラ學、煩瑣哲學。

【中正】509 チュウセイ ㊀かたよらぬこと。正しい。公平。〔書、呂刑〕咸庶二中正一。〔荀子、勸學〕所以防二邪僻一而近二中正一也。㊁易では、六爻中の二と五とを中といひ、陽爻が陽位に居り、陰爻が陰位に居るのを正といふ。之に反して、六爻中の初三四上を不中といひ、陽爻が陰位に居り、陰爻が陽位に居るのを不正といふ。〔易、需䷄〕象曰、酒食貞吉、以二中正一也。〔疏〕釋二酒食貞吉之義一、言、九五居二中得一レ正。〔易、屯䷂、六二、本義〕六二、陰柔中正。〔易、屯䷂、六三、本義〕陰柔居二下、不中不正。

中	而	正
中而不正		六二及び九五
正而不中		九二及び六五
不正而不中		初九・九三・六四及び上六 初六・六三・九四及び上九

㊂官名。秦末の陳勝、楚王と爲つて中正の官を置く。魏では地方に此の官を置いて、人材登用の事を掌らしめた。歷代之に因る。隋になつて州都といひ、唐、廢す。〔史記、陳涉世家〕陳王以二朱房一爲二中正一。〔南史、梁敬帝紀〕詔二諸州一各置二中正一。〔文獻通考、職官考、總論州佐〕中正、陳勝爲二楚王一、以二朱房一爲二中正一、而不レ言二職事一、兩漢無レ聞、魏司空陳羣、以二天臺選用不レ盡二人才一、擇下州之才優有二昭鑒一者上、除爲二中正一、自拔二人才一、銓二定九品一、州郡皆置、吳有二大公平一、亦其任也、晉宣帝加二置大中正一、故有二大小中正一、其用二人甚重一。㊃相術家の語。流年運氣(6－17431・307)を見よ。㊄未、范寬(9－30834・27)の一名。

㊅民國、蔣介石(9－31820・127)の名。

【中正榜】510 チュウセイボウ 淸代の會試で、薦擧の封卷中から錄して若干人を取り、內閣中書と、國子監學正及び學錄とした之を中正榜といふ。〔淸會典、禮部、貢擧〕中正榜、乾隆二十六年議准、向例考試中書、閱字與二閱文一並重、惟本人書寫迹涉嫌疑、嗣後卽於會試薦卷中、挑取、以二四十名一爲レ額、再備取二十名一。〔稱謂錄、下第擧人、中正〕案、此係二挑取中書及學正學錄一、故謂二之中正榜一。〔孫希旦、禮記集解附錄、敬軒先生行狀〕乾隆壬午、擧二浙江鄉試一、丁丑會試、挑取中正榜一、中正榜者、會試榜出、主司撰二其當中而限一於額一者一別爲一榜一。

【中正無私】511 チュウセイムシ 至中至正の道を守つて、偏私する所のないこと。〔管子、五輔〕爲二人君一者、中正而無レ私、爲二人臣一者、忠信而不レ黨。

【中正無邪】512 チュウセイムジャ 至中至正で、よこしまでないこと。〔禮、樂記〕中正無レ邪、禮之質也。

【中西】513 チュウセイ 中國と西洋諸國。〔四庫提要、子、

天文算法類、中西經星同異考〕中西兩法、互相貫通之要領也。

【中西淡淵】514 ナカニシタンエン 二河の人。名は維寧。字は文邦。通稱は曾七郎。號は淡淵。中西氏はもと三州の秋元氏の庶族であるから、元淡淵ともいふ。名古屋藩老竹腰氏に從つて江戸に來り、三島町に叢桂社を築いて講說す。其の學は、漢宋に拘泥せず。寶曆二年七月十五日歿す。年四十四。著に淡淵文集・二家詩品校がある〔近代名家著述目錄〕・〔先哲叢談、後、五〕。

【中西經星同異考】515 ナカニシケイセイドウイカウ 書名。一卷。清、梅文鼎撰。星座に關する中國と西洋の說を比較したもの〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【中制】516 チユウセイ ㊀中士が佩用する兩刃の劍。周代の制度。〔周禮、考工記、桃氏〕桃氏爲レ劍、臘廣二寸有半寸、兩從半レ之、以二其臘廣一爲二之莖一、圍長倍レ之、云云、身長五二其莖長一、重九鋝、謂二之上制一、上士服レ之、身長四二其莖長一、重七鋝、謂二之中制一、中士服レ之。㊁中庸を得た制度。〔漢書、董仲舒傳〕孔子曰、奢則固、儉非二聖人之中制一也。〔唐書、儒學中、王元感傳〕先王立二其中制一、使二情文兩稱一之に屬す。

【中性】517 チユウセイ 中間の性質。㊀男女の兩性に屬するもの。㊁男女兩性のいづれにも屬せぬもの。文法上の語。㊂酸性・鹽基性のどちらにも屬せぬもの。

【中性音】518 チユウセイオン 子音と母音とを同時に發音して、其の境界の明らかでない音。聲化元音。

【中性岩】519 チユウセイガン 酸性と鹽基性との中間の成分を持つ岩石。

【中性色】520 チユウセイシキ 寒色と暖色との中間の色。紫と綠。寒色(3—7239‥216)を見よ。

【中性感覺】521 チユウセイカンカク 事物に對して快感も不快感もないこと。

【中性級數】522 チユウセイキフスウ 其の項の選び方により、種々の數を其の總和として得る樣な無限級數。不定級數。

【中性植物】523 チユウセイショクブツ 濕地と乾燥地との中間の土地、中等度の空氣濕度の土地に生育し、水分の要求が中位の植物。普通の植物は大部分

二十八宿を四方に分けると、方毎に七宿となる。其の各七宿の中央の宿を中星といふ。火は蒼龍の中星、虛は玄武の中星といふ類。〔書、堯典、日永星火、傳〕火、蒼龍之中星、擧レ中、則七星見可レ知、云云、中星者、二十八宿布在二四方一、隨レ天轉運、更互在二南方一、每月各有二中者一。

【中星譜】525 チユウセイフ 書名。一卷。清、胡亶撰。天文學の書。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【中聖】526 チユウセイ 酒にあたつて二日醉すること。中二聖人一の略。聖は清酒。濁酒を賢人に喩へるのに對する語。〔魏志、徐邈傳〕邈曰、中二聖人一、逵白レ之、太祖甚怒、度遼將軍鮮于輔進曰、平日醉客謂二酒清者一爲二聖人一、濁者爲二賢人一、邈性脩愼、偶醉言耳、云云、文帝幸二許昌一、問レ邈曰、頗復中二聖人一否。〔李德裕、流盃亭詩〕欲レ知二中聖處一、皓月臨二松蓋一。〔皮日休、早春以橘子寄二魯望一詩〕知君多病仍中聖、盡送二寒苞一向二枕邊一。〔書言故事、酒類〕中レ酒、曰レ中レ聖。

【中誠】527 チユウセイ まこと。忠誠(4—10353‥167)に同じ。〔張華、答二何劭一詩〕是用感二嘉貺一、寫レ心出二中誠一。〔王建、將レ歸二故山一留二別杜侍御一詩〕虎戟衞二重門一、何因達二中誠一。「‥1331」を見よ。

【中靜】528 チユウセイ 道家の修鍊法の一。大靜(3—5831)に同じ。

【中聲】529 チユウセイ ㊀中和の聲。〔左氏、昭、元〕遲速本末以相及、中聲以降。〔國語、周語下〕古之神瞽、考二中聲一而量レ之以制。〔注〕考、合也、謂レ合二中和之聲一。〔荀子、勸學〕詩者、中聲之所レ止也。㊁五音の一。函聲。〔夢溪筆談、樂律一〕注、宮生レ徵、徵生レ商、商生レ羽、羽生レ角、故商爲二中聲一。

【中筮】530 チユウゼイ 占筮(2—2780‥56)を見よ。

【中宵】531 チユウセウ 夜のなかば。中夜。夜半。〔晉書、祖逖傳〕中宵起坐。〔張九齡、和二許給事直夜簡一諸公一詩〕他日聞二更直一、中霄屬二所欽一。〔杜甫、吹笛詩〕胡騎中宵堪二北走一、武陵一曲想二南征一。〔項斯、宿二山寺一詩〕中宵能得二幾時睡一、又被二鐘聲催一著衣。

【中焦】532 チユウセウ 胃の眞中。三焦(1—12‥1026)を見よ。〔史記、扁鵲傳、三焦、注〕正義曰、中焦在二胃中脘一、不レ上不レ下也。

【中詔】533 チユウセウ 內々のみことのり。內敕。手詔。〔魏志、陳留王紀〕中詔所レ施、或存二好問一。〔宋書、禮志一〕重宣二中詔一、問二臣名族一。〔資治通鑑、宋紀〕〔文帝、元嘉二十一年〕先賜二中詔一、敕之曰。〔注〕詔自レ中出、不レ經二門下一者、謂二之中詔一、今之手詔、是也。

【中霄】534 チユウセウ 中天。中空。〔李從遠、奉和九月九日登二慈恩寺浮圖一應制詩〕中霄日天子、半座寶如來。〔劉得仁、夏日卽事詩〕中霄橫二北斗一、夏木隱二栖禽一。

【中夕】535 チユウセキ よなか。中夜。夜半。〔劉伶、北芒客舍詩〕長笛響二中夕一、閑レ此消二胸襟一。〔江淹、效二阮公一詩〕歲暮懷二感傷一、中夕弄二清琴一。〔宋史、馮京傳〕帝中夕呼二左右一、語曰、適夢二馮京入一レ朝、甚慰二人意一。〔陸游、歲首書レ事詩〕中夕祭餘分二髆骬一、黎明人起換二鍾旒一。

【中昔】536 ナカムカシ 上古と近古との間。中古。〔狂言記、吟詩〕大むかし・中むかし・當風と云うて、三段おじやるが。

【中寂】537 チユウセキ 喜怒哀樂の情が未だ起らないで、渾然として中の狀態にあること。〔傳習錄、答二陸原靜一書〕知無二不レ良、而中寂大公、未レ能レ全。

【中跡】538 ナカトコロ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【中折】539 チユウセツ ㊀中途で折れる。〔顏延之、赭白馬賦〕將超中折。〔魏書、高肇傳〕行至二函谷一、車軸中折。㊁アテリ 中程を折り返すこと。〔雅亮裝束抄、一〕其の縫ひ目を、長ざまになかをりにして。㊂アテレ 中折帽子。頂の中央を縱に折りくぼめてかぶる。鍔のある帽子。

【中說】540 チユウセツ 書名。十卷。舊本に、隋、王通撰と題す。文中子(5—13450‥684)を見よ。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【中說人】541 chung¹ shuo¹ jen² 仲介者。媒介人。

【中節】542 チユウセツ ㊀中正で節操のあること。〔易、蹇、六蹇、朋來、以二中節一也。〔疏〕得レ位居レ中、不レ易二其節一、故致二朋來一、故云二以中節一也。㊁中頃。中程。〔漢書、鼂錯傳〕至二其中節一、所レ侵者、富人吏家也、及二其末塗一、所レ侵者、宗室大臣也。㊂節にあたる。規律にかなふ。〔中庸〕喜怒哀樂、云云、發而皆中レ節、謂二之和一。㊐ chung¹ chieh² 恰當する。適中する。

【中絕】543 チユウゼツ 中途で斷絕する。中間をたち切る。中斷。〔書、高宗肜日〕民中絕命。〔戰國、趙策〕秦蠶二食韓氏之地一、中絕不レ令二相通一、故自以爲、坐受二上黨一也。〔漢書、韓安國傳〕衡行間中絕。〔淮南子、兵略訓〕故不レ得レ不二中絕一。

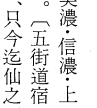
【中川】544 チユウセン ㊀中位の川。〔周禮、地官、川衡〕中川下士六人。㊁かはなか。川の中央。〔謝朓、臨二楚江一賦〕雲沉四岫、風蕩二中川一。

【中川淳菴】545 ナカガハジユンアン 名は煥。字は文卿。蘭學者。天明六年歿す。年四十八。〔先哲叢談、續、十〕。

【中仙】546 チユウセン 宋、王沂孫(7—20823‥1298)の號。

【中仙道】547 ナカセンダウ 京都から近江・美濃・信濃・上野を經て江戸に通ずる路。中山道。〔五街道宿御取扱筋祕書、五海道文字〕中山道、只今迄仙之字書候得共、向後山之字可レ書之。

【中泉】548 チユウセン 新の王莽の作つた錢名。〔金石索、金索、中泉〕莽始建レ國、更作二小錢一、徑六分、文曰、小泉、直一重一銖、次幺泉一十、次幼泉二十、次中泉三十、次壯泉四十、因二前大泉五十一爲二泉貨六品一。



【中淺】549 チユウセン 塚の中の道。〔史記、秦始皇紀〕已藏閉二中淺一。〔注〕正義曰、謂二冢中神道一。

【中線】550 チユウセン ㊀天體の赤道線。〔月離曆指〕黃道左右、廣十二度、名爲二黃道帶一、而太陽獨行二其最中一、故名二中線一也。㊁三角形の頂點と、其の對邊の中點とを連結する直線。

【中錢】551 チユウセン ㊀漢代の貨幣。〔漢書、食貨志下〕次八分五銖、曰二幼錢一、二十、次九分七銖、曰二中錢一三十。㊁ chung¹ ch'ien² 制錢千個のこと。

【中善】552 チユウゼン 明、張璞〔江夏の人〕(4—9812‥607)の字。

【中素】553 チユウソ 字號。㊀清、蕭詩(9—32012‥148)の字。㊁清、蕭晨(9—32012‥179)の號。

【中宗】554 チユウソウ ㊀中興の英主。〔革命勘文、高野天皇改二天平寶字九字一爲二天平神護元年一之例〕

遠履ニ太祖神武之遺蹤一、近襲ニ中宗天智之基業一。〔日本外史、源氏前記、平氏〕蓋神祖而後三十九世曰ニ天智一、是爲ニ中宗一。❷廟號。㋑商、大戊(3－5831・・2135)の廟號。㋺晉、元帝(1－1340・・450)の廟號。㋩後燕、慕容盛(4－11088・・65)の廟號。㊁唐、李顯(6－14459・・319)の廟號。㋭南漢、劉晟(2－2224・・423)の廟號。㋬朝鮮、李朝第十一代の王。字は樂天。諱は懌。諡は恭僖徽文昭武欽仁誠孝大王。成宗の第二子。母は貞顯王后尹氏。燕山君に次いで立ち、儒生趙光祖等を登用して前王の政を改革せんとしたが、舊守派の怨を買ひ、朝臣の間に紛爭が絶えず、屢〻獄訟が起きて政府當路者の變轉極りなく、爲に人民は朝令暮改に苦しんだ。在位三十九年。〔中宗實錄〕。㋣安南黎朝第十二代の王。名は暄。莊宗の長子。元和十六年、莊宗の後を繼いで立ち、年號を順平と改む。同三年、東京を攻めて莫福源を敗走させ、七年には清化を侵したが、何れも朝臣の阮氏や將軍鄭氏の掌る所で、王は名目に過ぎなかつた。同八年、二十二歲で崩じ、延陵に葬むる。〔欽定越史通鑑綱目、二十七・二十八〕。❸佛 チユウシユウ 中道の教を旨とする宗。中觀宗(205)の別稱。

〖中宗克復〗555 チユウソウコクフク 唐の睿宗の時、譙王重福が使つた僭年號で、中元克復の一稱。(710)

【中倧】556 チユウソウ 中村元恒の號。中村蕗原翁(566)を見よ。

【中叟】557 チユウソウ 宋、劉次莊(2－2224・・1016)の字。

【中東】558 ナカマルケ 越後國の地名。

【中則】559 チユウソク 地味の中等の田から出す賦稅。〔皇朝通典、食貨典、田賦〕田賦有レ二、曰、民田、曰、屯田、皆分ニ上中下三則一。

【中息】560 チユウソク ❶中途で止める。中絶。〔馬融、長笛賦〕蓋滯抗絶、中息更裝。〔宋高祖、與ニ臧燾一書〕戎車屢警、禮樂中息。❷中の息子。〔梁簡文帝、長安有狹斜行〕大息鶩ニ金勒一、中息綰ニ黃銀一。

【中村】561 チユウソン 字號。❶元、韓信同(12－43159・・321)の號。❷清、顧仲清(12－43689・・326)の號。

〖中村敬宇〗562 ナカムラケイウ 江戶の人。名は正直。號は敬宇。通稱は敬輔。幕府の儒官。維新後、大藏省飜譯局長・女子高等師範學校長・東京大學文學部敎授・東京學士會院會員。正四位勳三等。文學博士。明治二十四年歿す、年六十。著に、西國立志編・西洋品行論・自由之理・西洋節用論・西洋童子鑑・西稗雜纂・漢土訓語・共和政治・報償論・自叙千字文・敬宇文・敬宇演說集・敬宇先生集・愛敬餘唱・敬宇詩集・敬宇先生詩文偶抄・敬宇文集・天道溯源點などがある。〔石井研堂著、中村正直傳〕。

〖中村惕齋〗563 ナカムラテキサイ 京都の人。名は之欽。字は敬甫。號は惕齋。通稱は仲二郞・七左衞門。德島藩の藩儒。經學は程朱を奉じ、誠敬を本となした。其の學頗る博く、最も禮學に精し。元祿十五年歿す、年七十四。從四位を贈らる。著に醫方三器通制・韻學私言・易學啓蒙翼傳・講學筆記・孝經集解・孝經示蒙句解・學規假字直解・學制孝・家禮訓蒙疏・近思錄示蒙句解・近思錄鈔說・訓蒙圖彙・五緯行度圖譜・五經點・古今州郡圖六鋪・三器考略・三器通考・周易程傳鈔說・詩經示蒙句解・朱子爲學要言・四書點・四書示蒙句解・四書鈔說・愼終疏節・愼終通考・親尊服義・聖像章服考・西銘鈔說・性理字義鈔說・釋祭考・小學點・小學示蒙句解・全人草・增補訓蒙圖彙・追遠疏節・追遠通考・惕齋閑話・惕齋日鈔・惕齋筆錄・惕齋文集・天文考要・入學紀綱・白鹿洞學規講錄・筆記易學啓蒙・筆記敬齋箴・筆記周易本義・筆記詩經集傳・筆記四書集注・筆記春秋胡傳・筆記書經集傳・筆記西銘解・筆記大學或問・筆記太極圖說解・筆記通書解・筆記讀易要領・筆記禮記集說・筆記律呂新書・姫鏡・百官稱呼・辨釋氏說・辨釋論・本朝學制考・律尺考驗・律尺通考などがある。〔先哲叢談、正四〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後編〕。

〖中村蘭林〗564 ナカムラランリン 江戶の人。本姓は藤原。名は明遠。字は子晦。通稱は深藏。號は蘭林、又盈進齋。室鳩巢の說を奉ず。幕府の儒官。經學は程朱を主としたが、敢て墨守しなかつた。寶曆十一年九月三日、歿す、年六十五。著に、醫方綱紀・盈進齋筆錄・講習餘筆・學規口解・學山錄・學山後錄・嫁娶式・韓客筆語・閑窻雜錄・幹支考・寓意錄・寓意後錄・舊唐書纂・羣書總論・羣籍綜言、五倫・察病緒言・葬祭式・喪祭略・喪服私擬・衆說彙編・謝上蔡語錄附考・證治指南・諸子考證・宗廟考・大學衍義考證・大東世語評・通書解翼義・讀易要領・讀詩要領・南唐書略・白鹿洞講說・百官抄・辨詩傳肓盲・孟子考證・餘冬贅語・李退溪書牘纂・靈怪錄などがある。〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後編〕。

〖中村栗園〗565 ナカムラリツエン 豐前の人。名は和。字は子藏。通稱は和藏。號は栗園、又、半仙。水口藩の藩儒。廢藩後、大參事に任ぜらる。文章を善くす。明治十四年歿す、年七十六。從四位を贈らる。著に、孝經翼・日本智囊・痦民錄・栗園詩文集・栗園餘稿・栗園文鈔などがある。〔川田剛撰、栗園壽藏碑〕・〔國書解題〕。

〖中村蕗原翁〗566 ナカムラロゲンオウ 信濃の人。名は元恒。字は大明。通稱は中書。號は蕗原翁・中倧。高遠藩儒。嘉永四年歿す、年七十四。著に近儒學派考・經史雜考・周易衍注・尙書通解・毛詩通義・蕗原拾葉がある。〔近代著述目錄後編〕。

【中尊】567 チユウソン ❶酒を容れ貯へる中位の大きさの樽。〔爾雅、釋器〕卣、中尊也。〔注〕不レ大不レ小者。〔周禮、春官、鬯人、注〕卣、中尊。❷中等の酒。上尊(1－13・・512)の❷を見よ。〔漢書、平當傳、注〕如淳曰、稷米一斗得ニ酒一斗一、爲ニ中尊一。❸佛 チユウソン ㋑釋迦牟尼佛をいふ。〔天中記〕佛殿中、塑ニ三世佛像一、中尊釋迦。㋺阿彌陀如來の稱。左右には觀世音菩薩・勢至菩薩がある。

【中台】568 チユウダイ ❶三台の一。司徒の官をいふ。敎育を掌る。三台(1－12・・1205)の❷を見よ。〔周禮、春官、大宗伯、疏〕武陵太守星傳曰、三台、一名天柱、上台司命、爲ニ太尉一、中台司中、爲ニ司徒一、下台司祿、爲ニ司空一。〔後漢書、郞顗傳〕易傳曰、公能ニ其事一、序レ賢進レ士、後必有レ喜、反レ之則白虹貫レ日、以ニ甲乙一見者、則譴在ニ中台一、宜下黜ニ司徒一、以應中天意上。❷星の名。三台(1－12・・1205)の❷を見よ。〔晉書、天文志〕西近ニ文昌一二星曰ニ上台一、次二星曰ニ中台一。〔白居易、司徒令公分ニ守東洛一移ニ鎭北都一云云寄獻以抒ニ下情一詩〕天上中台正、人間一品高。❸佛 大日如來をさす。胎藏界曼荼羅の中央に位するからいふ。〔心經祕鍵聞書、二〕中台八葉、大日如來一身功德。

〖中台座〗569 チユウダイノザ 宰相の座位。首相の位。〔王維、太子太師徐公挽歌〕久踐ニ中台座一、終登ニ上將壇一。

【中隊】570 チユウタイ 軍隊編制の一單位。〔宋史、兵志九〕合ニ三小隊一爲ニ一中隊一、合ニ五中隊一爲ニ一大隊一。

【中諦】571 チユウタイ 佛 三諦の一。有にとらはれず無にもとらはれず、現實の中に眞の相があるといふ理。三諦(1－12・・1213)を見よ。

【中代】572 チユウダイ なかむかし。なかごろ。中世。〔晉書、會稽王道子傳〕不下以ニ私限一違中公制上、中代之變禮。〔南齊書、張融傳〕中代之文、道體闕變。

【中第】573 チユウダイ ❶試驗に及第すること。〔晉書、夏侯湛傳〕泰始中、擧ニ賢良對策一、中第拜ニ郞中一。〔白居易、喜ニ敏中及第一詩〕自知羣從爲ニ儒少一、豈料詞場中第頻。❷中等の成績で及第すること。〔北史、馬敬德傳〕欣然擧送至レ都、唯得ニ中第一。〔高允、承レ詔議レ興ニ學校一表〕先盡ニ高門一、次及ニ中第一。

【中臺】574 チユウダイ ❶周の役所の名。〔逸周書、王會解〕中臺之外、其左泰士、臺右彌士。❷尙書の官署。三臺(1－12・・1212)の❶を見よ。〔通典、職官典、尙書上、尙書省〕漢初、尙書雖レ有ニ曹名一、不ニ以爲レ號、靈帝以ニ侍中梁鵠一爲ニ選部尙書一、於レ是始見ニ曹名一、總謂ニ尙書臺一、亦謂ニ中臺一。〔唐書、百官志一、注〕龍朔二年、改ニ尙書省一曰ニ中臺一、光宅元年曰ニ文昌臺一、俄曰ニ文昌都省一、垂拱元年曰ニ都臺一、長安三年、復曰ニ中臺一。〔李商隱、爲ニ滎陽公一擧レ人自代狀〕從ニ外府一而允稱ニ賢佐一、立ニ中臺一而克號ニ淸郞一。❸地名。江西省大庾縣の城內にあり。宋の周敦頤が、軍司理となつて此處に居た。又、明の陳獻章が夜此の地に宿り、惱殺中臺此獨眼の句を殘したといふ。❹中尊を安置する臺。

〖中臺尊〗575 チユウダイソン 中尊(567)に同じ。

【中唐】576 チユウタウ ❶廟の門から廟に通る中庭の路。〔詩、陳風、防有鵲巢〕中唐有レ甓、卭有ニ旨鷊一。〔傳〕中、中庭也、唐、堂塗也。〔疏〕廟中路、謂ニ之唐一。〔班固、覽海賦〕蓂芝列ニ於階路一、涌醴漸ニ於中唐一。❷詩の風調から分けた唐代の一時期。代

宗の太曆年間から文宗の太和年間まで。唐は之を初唐・盛唐・中唐・晩唐に分ける。四唐(3－46 82‥555)を見よ。〔漁洋詩話〕。

【中稻】577 ナカ 早稻と晩稻との中間期に成熟する稻。〔和漢三才圖會、穀類、糯〕按、糯似レ粳而圓肥、色亦正白、有二早中晩一、以二中稻一爲レ佳。

【中堂】578 チュウダウ ㊀堂の南北の中間に當る處。〔儀禮、聘禮〕公側襲受レ玉於中堂與二東楹一之間。上〔注〕中堂、南北之中也。㊁中央の御殿。〔晉書、穆帝紀〕釋二奠於中堂一。〔謝瞻、九日從二宋公戲馬台集一送二孔令一詩〕四筵開二芳醴一、中堂起二絲桐一。〔杜甫、歎庭前甘菊花二詩〕籬邊野外多二衆芳一、采擷細瑣升二中堂一。㊂唐代、宰相が政事を行ふ處。轉じて宰相のこと。〔事物紀原、師保輔相部、中堂〕唐制、宰相常于二門下省一議事、謂二之政事堂一。永淳中、中書令裴炎、移在二中書省一。開元十一年、張說奏、改曰二中書門下一。宋朝行二官制一、除二其名一也。㊃本尊を安置する御堂。

【中道】579 チュウダウ ㊀過不及のない中庸の道。又、其の人。〔孟子、盡心下〕不レ得二中道一而與レ之、必也狂獧乎。〔注〕中道、中正之大道也。㊁至道に次ぐ道。中等の道。〔易、蠱〕得二中道一也。〔疏〕雖レ不レ能レ全レ正、猶不レ失レ在二中之道一、故云レ得二中道一也。㊂半途。中途。途中。〔莊子、人間世〕故未レ終二其天年一而中道夭。〔楚辭、離騷〕羌中道而改レ路。〔諸葛亮、出師表〕先帝創業未レ半、中道崩殂。㊃黄道。光道。〔漢書、天文志〕日有二中道一、月有二九行一、中道者、黄道、一曰二光道一。㊄みちの中央にあたる。〔禮、曲禮上〕爲二人子一者、行不レ中レ道、立不レ中レ門。㊅宋、錢卽(11－40563‥138)の字。㊆㒳現象の根源を有であるとか無であるとか、とらはれないこと。日常の經驗界は決して世界の眞の相ではないが、しかし現實を離れては吾人の生命も亦いかなる眞理もあり得ないのであるから、一應現實を否定した眼(心)を以て、再び現實に還つてこれを觀るとき、現實(諸法)は新しい意味を有つこととなり、其のまま絕對的眞理(實相)であるといふ道理。不二(1－19‥435)の㊄を見よ。〔中觀論、偈〕因緣所レ生法、我說卽是空、亦名爲二假名一、亦是中道義。

【中道觀】580 チュウダウクワン 㒳中道を信解して、之を體驗する爲の實踐修行することをいふ。〔天台四教義〕從レ此用二中道觀一、破二一分無明一、顯二一分三德一。

【中道而廢】581 チュウダウニテハイス 中途で身が斃れること。又、途中でやめる。〔禮、表記〕小雅曰、高山仰止、景行行止、子曰、詩之好仁如レ此、鄕レ道而行、中道而廢、忘二身之老一也、不レ知二年數之不レ足也一、俛焉日有二孳孳一、斃而后已。〔論語、雍也〕冉求曰、非不レ說二子之道一、力不レ足也、子曰、力不レ足者、中道而廢、今女畫。

【中澤】582 チュウタク ㊀澤の中。澤中。〔詩、小雅、鴻鴈〕鴻鴈于飛、集二于中澤一。㊁中位の大きさの澤地。〔周禮、地官、序官、澤虞〕中澤中藪、如二中川之衡一。〔注〕澤、水之所レ鍾也。

【中倪】583 チュウゲイ 體に適して輕いこと。中適輕脫。〔晏子、諫、下〕晏子進曰、聖人之服、中倪而不レ駾、可二以導一衆。

【中沓】584 セチカ 伊勢國の地名。

【中丹】585 チュウタン まごころ。赤心。丹心。〔本朝文粹、二、慶滋保胤、改元詔〕中丹之謝、欲レ奈何。〔東鑑、二〕治承四年七月五日、法華經之讀誦、終二一千部之功一、後宜レ顯二其中丹之由一。

【中單】586 チュウタン したぎ。中衣(21)に同じ。〔本草、汗衫〕釋名、中單、時珍曰、王叡炙轂子云、漢王與二項羽一戰、汗透二中單一、改名二汗衫一。〔隋書、禮儀志六〕祭服裏有二中衣一、卽今之中單也。〔蘇軾、四月十一日初食二荔支一詩〕海山仙人絳羅襦、紅紗中單白玉膚。〔談藪〕燕朝裒冕、有二白紗中單一、漢王與二項籍一戰、汗透二中單一、改名二汗衫一。

【中潭】587 チュウタン 城の名。河南省孟縣の西南。河陽三城の一。〔元和志〕東魏元象元年築、仍置二河陽關一。〔容齋續筆、古跡不レ可レ考〕河之中洽一洲島、名曰二中潭一、云云、嘉祐八年秋、大水馮襄子無二遺跡一、中潭自レ此遂廢。〔明一統志〕中潭城、今夾灘。〔孟縣志〕卽今黄河中郭家灘。〔琅琊代醉編、中潭〕河陽三城、其中城曰二中潭一、黄河兩派貫二三城之間一、秋水泛溢時、南北二城皆有二濡足之患一、惟中潭屹然如レ故、相傳、此潭隨二水高下一、若二所謂地肺浮玉者一、楞嚴經云、乾爲二州潭一、濕爲二亘海一、泊宅編。

【中男】588 チュウダン ㊀次子。次男。〔易、說卦上〕坎、再索而得レ男、故謂二之中男一。〔史記、呂不韋傳〕今子楚賢、而自知二中男也一、次不レ得レ爲レ適。㊁未成年の男。二十歲未滿の男子。〔魏書、孝文帝紀〕一夫制二田四十畝一、中男二十畝。〔舊唐書、食貨志上〕四歲爲レ小、十六爲レ中、二十一爲レ丁、六十爲レ老、云云、至二天寶三年一、以二十八爲二中男一、二十二爲レ丁。〔杜甫、新安吏詩〕府帖昨夜下、次選二中男一行、中男絕短小、何以守二王城一。㊂王朝時代に、十七歲より二十二歲までの男子をいふ。天平勝寶九年、十八歲以上二十歲迄と改めらる。〔續日本紀、二十〕天平寶字元年四月辛巳、自レ今已後、宜下以二十八爲二中男一、二十已上成中正丁上。

【中男作物】589 チュウダンサクモツ 王朝時代に、中男に賦課して其の鄕土の產物を貢進せしめた租稅の制度。〔主計寮式、上、東海道〕伊賀國、云云、中男作物、紅花七斤八兩。

【中彈】590 Chung⁴ tan⁴ 命中した彈丸。又、彈丸があたること。

【中壇】591 チュウダン ㊀中央の壇。〔漢書、郊祀志上〕帝臨二中壇一、四方承レ宇。〔後漢書、祭祀志〕位在中壇上、西面北上。㊁㒳五壇の中央の壇。不動明王の祈をする壇。

【中斷】592 チュウダン 中途で切れること。中絕。〔越絕書、越絕外傳記吳王古夢二中斷之一爲二兩頭一。〔論衡、正說〕三十八之數、則中斷。〔李白、望二天門山一詩〕天門中斷楚江開、碧水東流至レ北廻。

【中灘】593 chung¹ t'an¹ 海岸の中段の位置に在る鹽田。

【中地】594 チュウチ ㊀中等の地。〔周禮、地官、小司徒〕中地、家六人、可レ任也者、二家五人。〔管子、乘馬〕中地、方百里。㊁中央の地。〔魏書、崔浩傳〕太祖用二漠北醇樸之人一、南入二中地一、變レ風易レ俗、化洽二四海一。

【中池】595 チュウチ ㊀心の異名。〔事物異名錄、形貌部、心〕黄庭經、中池、按、中池謂レ心也。㊁池の中。池中。〔沈約、詠二芙蓉一詩〕中池所レ以綠、待レ我泛二紅光一。㊂膽をいふ。〔黄庭內景經〕中池內神服赤珠。〔注〕膽二中池一。

【中坻】596 チュウチ 水中の小さい洲。〔詩、秦風、蒹葭〕遡洄從レ之、宛在二水中坻一。〔傳〕坻、小渚也。〔楊宗瑞、辟雍賦〕翫二芹藻兮澄碧一、俯二菁莪兮中坻一。

【中知】597 チュウチ 普通の智能。又、其の人。中智(599)に同じ。〔穀梁、僖、二〕且夫玩好在二耳目之前一、而患在二一國之後一、此中知以上乃能慮レ之、臣料、虞君中知以下也。

【中値】598 ナカアタヒ 市場用語。中直。㊀取引員が、株式・商品等の現物を賣買する標準値段、賣値と買値とを平均した中間値段。㊁其の日に現はれた高値と安値とを大體平均した中間値段のこと。㊂寄付相場と大引相場との中間相場のこと。

【中智】599 チュウチ 普通の智能。又、其の人。中知。〔呂覽、無義〕中智之所レ不レ及也。〔後漢書、儒林傳論〕自二中智一以下、靡レ不レ審。

【中峙】600 チュウヂ 中ほどのそばだつこと。〔張衡、西京賦〕豫章珍館、揭焉中峙。牽牛立二其左一、織女處二其右一。

【中竺】601 チュウヂク 中印度。〔王逢、題二觀露軒一詩〕上人吾鄰人、趺坐中竺嶺。

【中軸】602 チュウヂク 中央に在る軸木。中心。〔徐禎卿、詩〕一朝雷雨濯二亨衢一、坐見諸公執二中軸一。

【中軸子】603 chung¹ chou² tzŭ 芝居の中幕。

【中軸胎座】604 チュウヂクタイザ 植物學用語。胚珠が子房の中軸に著生せるもの。百合など。

【中腸】605 チュウチャウ はらわた。又、心のうち。〔魏文帝、雜詩〕向レ風長歎息、斷絕我中腸。〔曹植、送二應氏一詩〕愛至望苦深、豈不レ愧二中腸一。〔阮籍、詠懷詩〕傾城迷二下蔡一、容好結二中腸一。

【中聽】606 チュウチャウ ㊀下情を正しく聞くこと。〔晏子、問、下〕節レ欲則民富、中聽則民安。㊁chung¹ t'ing¹ 聞くに値する。聞くだけの價がある。

【中着】607 ナカギ 表衣と襦袢との間に着る衣服。壽門松、上〕深い中著はうばたまの黒羽二重の蛇の目の紋。

【中中】608 チュウチュウノ ㊀中等品中の中位のもの。〔書、禹貢〕厥田惟中中。〔墨經、松〕礦而挺直者曰二籤松一品惟中中。㊁ナカナカ ㋑却つて。〔源氏物語、桐

壺〕なかなか危くおぼし憚りて。㋺相應に。隨分。よほど。〔狂言、蛭子大黑殿〕やあ、中中ようござる。㋩容易に。〔續古事談、二〕中中人に云ひあはする事なし。㊁勿論。〔謠曲、安宅〕中中の事、心得申して候ふ。

〖中中戶〗609 チュウチュウコ　令制に於て、資產の多少によつて戶を九等に分つた其の一。〔賦役令〕皆取二戶粟一以爲二義倉一、上上戶二石、云云、中中戶八斗。

【中廚】610 チュウチュウ　くりやの中。〔曹植、贈二丁翼一詩〕嘉賓塡二城闕一、豐膳出二中廚一。〔庾信、謝二趙王賚一レ雉啓〕仰二費中廚一、來供二下客一。

【中女】611 チュウヂョ　❶次女。仲女。〔易、說卦〕離、再索而得レ女、故謂二之中女一。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕文王之母、摯任氏中女也。❷中等の働のある女。〔管子、揆度〕上女衣レ五、中女衣レ四。

【中直】612 チュウチョク　❶正しいこと。中正。〔易、同人〕同人之先、以二中直一也。❷中がまつすぐなこと。〔史記、龜策傳〕竹外有二節理一、中直空虛。❸明、韓方(**12**－**43159**‥182)の字。

〖中直海〗613 ナカノミ　加賀國の地名。

〖中直根〗614 ナカヒタネ　羽後國の地名。

〖中直兵〗615 チュウチョクヘイ　親兵を率ゐる將官。〔資治通鑑、宋紀〕(明帝、泰豫元年)中直兵焦度趙智略憤怒。〔注〕中直兵、典二親兵一將官也、洪适曰、宋有二中直兵・外兵・騎兵・參軍一。

【中鎭】616 チュウチン　僧職。古、寺院の役僧の鎭の第二等のもの。〔類聚三代格、三〕大・中・少鎭、撿挍、目代等之類。

【中陣】617 チュウヂン　❶本陣。中央の軍。中軍(210)に同じ。〔宋史、馮拯傳〕刑州置レ都、都爲二中陣一。❷神社の內陣と外陣との間にある室。

【中通】618 チュウツウ　❶中に孔のあいてゐること。〔宋史、律歷志九〕外方內圓、中通二望孔一。❷宋、陳貫(**11**－**41698**‥188)の字。

〖中通外直〗619 チュウツウグワイチョク　中は孔があいてゐて、外は眞直で曲らないこと。蓮の葉莖の形容。君子の心が廣く、行が端正な喩。〔周敦頤、愛蓮說〕中通外直、不レ蔓不レ枝。

【中丁】620 チュウテイ　❶中旬のひのとの日。〔元史、祭祀志五〕宣聖廟、其樂用二登歌一、其日用二春秋二仲月上丁一、有レ故、改用二中丁一。〔江家次第、五、釋奠〕二月八日上丁日、若當二廢務一者、中丁行レ之。❷青年の者をいふ。中は十六歲。丁は十七歲、又は二十一歲。〔唐書、食貨志一〕十六爲レ中、二十一爲レ丁。〔白居易、東南行一百韻云云詩〕大道全生レ棘、中丁盡執レ殳。〔金史、食貨志一〕十六爲レ中、十七爲レ丁。❸ナカヨホロブ　越前國の地名。

〖中丁釋奠〗621 チュウテイノシャクテン　上旬の丁ヒノトに行ふべき釋典の禮を、支障のある場合、中旬の丁の日に延期して擧行する、其の儀式をいふ。〔延喜式、二十、大學寮式〕若上丁當二國忌及祈年祭日蝕等一、改用二中丁一。

【中弟】622 チュウテイ　最年長の弟。長弟。〔漢書、杜延年傳〕緩六弟、五人至二大官一、少弟熊、歷二五郡二千石三州牧刺史一、有二能名一、唯中弟欽、官不レ至、而最知レ名。〔吳志、孫權傳〕劉琬語レ人曰、吾觀二孫氏兄弟一、雖二各才秀明達一、然皆祿祚不レ終、惟中弟孝廉、形貌奇偉、骨體不レ恆、有二大貴之表一、年又最壽。

【中亭】623 チュウテイ　地名。〔晉書、惠帝紀〕孟觀伐レ氏、戰二於中亭一、大破レ之。〔潘岳、關中詩〕首陷二中亭一、揚レ聲萬計。〔注〕銑曰、中亭、地名。

〖中亭河〗624 チュウテイカ　川の名。京兆霸縣の南。一名、新挑河、又、栲栳圈河。

〖中亭川〗625 チュウテイセン　川の名。今の武水。又、武亭水。〔水經、渭水注〕南逕二美陽縣之中亭川一、注二雍水一、謂二之中亭水一。〔唐書、渾瑊傳〕賊韓旻拒二武功一、瑊率二吐蕃論莽羅兵一、破二之武亭川一。

【中剃】626 ナカゾリ　髮の中央をそること。〔好色一代女、一〕髮はなかぞりするものなり。

【中庭】627 チュウテイ　❶なかには。〔儀禮、大射儀〕奠二于中庭一。〔孟子、離婁下〕相二泣於中庭一。〔司馬相如、上林賦〕通川過二於中庭一。〔王建、十五夜望レ月詩〕中庭地白樹棲レ鴉、冷露無レ聲濕二桂花一、今夜月明人盡望、不レ知秋思在二誰家一。❷朝廷の庭。又、明堂の庭。〔尙書大傳、洪範五行傳〕於二中庭一祀二四方一。〔注〕中庭、明堂之庭也、或曰朝廷之庭也。

【中停】628 チュウテイ　❶中にとどまる。〔郭璞、南郊賦〕祝融穆以肅侍兮、陽侯澹以中停。❷相術家の語。腰のことをいふ。又、眉下より準頭に至る迄をいふ。三停(**1**－**12**‥1309)を見よ。〔照膽經、上、三停所主〕眉上至二髮際一爲二上停一、眉下至二準頭一爲二中停一、鼻下至二地閣一爲二下停一。

【中程】629 チュウテイ　のりに中アタる。法則を守る。〔商子、修權〕立レ法明レ分、中レ程者賞レ之、毀レ公者誅レ之。〔淮南子、主術訓〕法定之後、中レ程者賞、缺レ繩者誅。〔宋史、李若谷傳〕補二長社縣尉一、州葺二兵營一、課レ民輸レ木、校尉受レ之、而吏以レ不レ中レ程多退斥、若谷度レ材、別二其長短大小一爲レ程、置二庭中一、使二民自輸一。

【中錠】630 チュウテイ　清代、民間に通用した銀貨の名。衡錘形の銀塊で、十兩內外の重さのあるもの。〔皇朝文獻通考、錢幣考〕此今日以二重五十兩者一爲二元寶一、重十兩或五兩三兩者爲二中錠一、所二由始一也。

【中朝】631 チュウテウ　❶周の制に於て、治朝(**6**－**17256**‥149)をいふ。燕朝と外朝との間に在る。漢は、內朝を中朝といふ。三朝(**1**－**12**‥1314)の❸を見よ。〔三禮義宗〕天子諸侯、皆有二三朝一、一曰二外朝一、二曰二中朝一、三曰二內朝一、中朝之名、或內或外、人君旦夕視レ政、見二卿大夫一之朝也、所謂辨色而入者、在二此朝一也。〔通典、禮典、賓、天子朝位〕周制、天子有二四朝一、一曰、外朝、在二皐門內一、決レ罪聽レ訟之朝也、秋官朝士掌レ之、云云、二曰、中朝、在二路門外一、夏官司士正二其位一、云云、三曰、內朝、亦謂二路寢之朝一、云云、四曰、詢事之朝、在二雉門外一、小司寇掌二其政一。〔漢書、劉輔傳〕中朝左將軍辛慶忌。〔注〕孟康曰、中朝、內朝也、大司馬・左右前後將軍・侍中・常侍・散騎諸吏爲二中朝一、丞相以下至二六百石一爲二外朝一也。❷中國をいふ。中國の自稱。〔資治通鑑、後周紀〕(世宗、顯德六年)請下置二進奏院於京師一、直中隸中朝上。〔注〕中朝、謂二中國一。〔宋史、高麗傳〕以三其歲貢中朝一、不二敢發レ兵報一レ怨。❸日本をいふ。〔中朝事實、禮儀章〕其後中朝置二遣唐使一、通二信於外朝一。❹中央政府。〔晉書、裴嶷載記〕裴長史、名重二中朝一、而降屈在レ此。❺朝廷の內。〔唐書、李宗閔傳〕今中朝半爲二黨人一。❻中世の時代。我が國に於ては、奈良朝時代から王朝時代に至る間。〔南齊書、禮志上〕中朝以來、釋菜禮廢。〔日本外史、源氏前記、平氏〕中朝制レ兵、大略如レ此。❼テウニアタル　朝廷に臨む。〔史記、范睢傳〕今大王中レ朝而憂、臣敢請二其罪一。

〖中朝故事〗632 チュウテウコジ　書名。二卷。五代南唐、尉遲偓撰。唐の宣・懿・昭・哀の四朝の舊聞を記す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

〖中朝事實〗633 チュウテウジジツ　書名。二卷。山鹿素行撰。我が國肇國以來の事實を敍べ、皇道が萬邦に冠絕せる所以を說いたもの。

【中潮】634 ナカシホ　潮の滿干による名稱の一。大潮と小潮との中間の潮で、一箇月に二回ある。

【中調】635 チュウテウ　塡詞の字數が五十八字以內のものを小令とし、五十九字より九十字迄を中調とし、九十一字以上を長調といふ。小令(**4**－**7473**‥1292)を見よ。〔詞律〕。

【中條】636 チュウデウ　❶中の箇條。上條(**1**－**13**‥590)・下條(**1**－**14**‥424)に對す。〔禮、王制〕凡執レ技論レ力。〔疏〕中條、論二執技之人、并射御之外、祝史醫卜等一。❷山名。㋑河北省滄縣の北、衞河の濱。㋺雷首山(**12**－**42245**‥72)の別名。山西省永濟縣の東南。雷首より起つて大行に接す。西に華嶽、東に大行あり、其の中にあるので中條といふ。〔元和志〕雷首山、一名中條山。〔淸一統志〕中條雖三自有二其名一、要不レ外二乎禹貢之雷首一、或謂、雷首・首陽、皆中條之餘支、是又知二中條一而不レ知二雷首一、胡渭云、雷首之脈爲二中條一、東盡二於垣曲一、殆得レ之矣。

〖中條山脈〗637 チュウデウサンミャク　山脈の名。一名、伏牛山脈。河南・湖北・安徽三省の境界線をなす。古來、南北の戰爭には、此に倚つて險要とした。今は山を穿つて平漢鐵道が通つてゐる。

〖中條先生〗638 チュウデウセンセイ　明、陸寶(**11**－**41708**‥212)の號。

【中的】639 チュウテキ　矢が的に中る。轉じて、肯綮に中る。其の圖に當る。〔淮南子、泰族訓〕其所二以中一レ的剖レ微者、正心也。

【中適】640 チュウテキ　中庸を得て正しいこと。〔新書、容經〕言下秉二中適一而據中平宜上。〔何晏、景福殿賦〕

鈞調中適、可ニ以永ン年。

【中輟】641 チュウテツ　中途で止める。中止。〔任昉、王文憲集序〕憲章中輟。〔唐書、柳宗元傳〕嘗著ニ貞符一云々、會ニ貶逐一中輟。

【中天】642 チュウテン　❶天のまんなか。おほぞら。なかぞら。中空。〔列子、周穆王〕中天適止。〔杜甫、後出塞詩〕中天懸ニ明月一、令嚴夜寂寥。〔方干、題ニ龍泉寺絶頂一詩〕中天氣爽星河近、下界時豐雷雨匀。❷天運の盛な時に當る。〔後漢書、劉陶傳〕陛下年隆德茂、中天稱號、襲ニ常存之慶一、循ニ不易之制一。〔注〕中、謂ン當ニ天之中一也。❸神農の易。伏羲の易を先天と云ひ、黄帝の易を後天といふのに對す。〔問奇類林攷、干寶周禮太子掌ニ三易之灋一云、伏羲之易小成、爲ニ先天一神農之易中成、爲ニ中天一、黄帝之易大成、爲ニ後天一。〔路史〕伏羲氏之先天、神農易之爲ニ中天一、神農之中天、黄帝易之爲ニ後天一。❹中天竺の略稱。❺天文學上、星が子午線の眞上に來たときをいふ。

【中天臺】643 チュウテンダイ　臺の名。周の穆王の築いたもの。〔列子、周穆王〕周穆王築ニ臺一、號曰ニ中天之臺一、其高千仞。

【中天竺】644 チュウテンヂク　天竺を五分して、其の中央部をいふ。

【中天王】645 チュウテンワウ　中嶽神の封號。唐の玄宗に始まる。天齊王(3－5833‥914)を見よ。〔事物異名錄、坤輿、嶽〕山堂肆考、唐元宗、封ニ東嶽一爲ニ天齊王一、南嶽爲ニ司天王一、西嶽爲ニ金天王一、北嶽爲ニ安天王一、中嶽爲ニ中天王一。

【中天婺煥】646 チュウテンブクワン　婦人の年壽を賀する辭。婺は婺女で、既に嫁した女。又、星の名。煥は光明煥發の意。〔謝莊、宋孝武宣貴妃誄〕望ニ月方レ娥、瞻ニ星比レ婺。〔注〕善曰、漢書曰、北宮有ニ婺女一、星占曰、婺女爲ニ既嫁之女一也。〔故事成語考、老壽幼誕〕賀ニ女壽一曰ニ中天婺煥一。

【中典】647 チュウテン　輕くもなく重くもない中間の刑。一般に行はれる刑罰。〔周禮、秋官、大司寇〕刑ニ平國一用ニ中典一。〔注〕用ニ中典一者、常行之法。〔漢書、刑法志〕二曰、刑ニ平邦一、用ニ中典一。

【中點】648 チュウテン　❶まんなかの點。〔和漢三才圖會、天部、九曜〕天經或問云、羅計、卽白道之中點。❷數學用語。有限直線の中央をいふ。

【中田】649 チュウデン　❶田の中。田中(7－21723‥216)に同じ。〔詩、小雅、信南山〕中田有ン廬、疆場有ン瓜。〔箋〕中田、田中也。❷中等の田地。〔公羊、宣、十五、注〕上田一歲一墾、中田二歲一墾、下田三歲一墾。〔漢書、食貨志〕上田、夫百畝、中田、夫二百畝、下田、夫三百畝。❸心をいふ。〔金丹諸眞元奧〕心爲ニ中田一。

【中旬】650 チュウデン　❶畿内。〔王融、三月三日曲水詩序〕日夕ニ于中旬一。〔注〕翰曰、使ニ朝夕盈ニ于畿甸之中一也。〔宋書、樂志二〕方掃ニ神州一、經ニ略中旬一。❷縣名。民國、置く。唐の吐蕃鐵橋節度使、清の中旬廳の地。今、雲南省永寧縣の西。〔清史稿、地理志〕雲南、麗江府、廳二、中旬廳。

【中殿】651 チュウデン　❶中央の宮殿。〔宋書、樂志四〕左右宜ニ供養一、中殿宜ニ皇子一。❷清涼殿(7－17695‥822)の異名。〔和漢三才圖會、家宅類、宮〕清涼殿、卽中殿也。❸神社の拜殿と本殿との間にある室。

【中途】652 チュウト　❶路のなかば。中塗。途中。〔晉書、陸機傳論〕制曰、蘭植ニ中塗一、必無ニ經時之翠一、桂生ニ幽壑一、終保ニ彌年之丹一。〔李白、敍ニ舊贈ニ江陽宰陸調一詩〕中途不ン遇ン人、直到ニ爾門前一。〔宋史、李繼隆傳〕一日中途遇ン虎、射ニ殺之一。❷事のなかば。半途。中道。〔易、訟、疏〕中乃吉者、謂下此訟事、以ニ中途一而止乃得ン吉也。〔陳書、高祖武帝紀上〕經略中途、畢殲ニ羣醜一。〔趙嘏、華清宮和ニ杜舍人一詩〕外戚殊迫、中途事可ン量。

【中途半端】653 チュウトハンパ　物事がいい加減に行はれて、完成しないこと。又、十分効果のあがらぬこと。

【中都】654 チュウト　❶京師。〔宋書、索虜傳〕使ニ中都有ニ鳴鸞之警一、荒餘懷ニ來蘇之德一。❷地名。㋑春秋、晉の邑。漢、縣を置く。山西省平遙縣の西北。㋺春秋、魯の邑。故城は、山東省汶上縣の西。〔禮、檀弓上〕夫子制ニ於中都一。〔注〕中都、魯邑名也、孔子嘗爲ニ之宰一。〔史記、孔子世家〕定公以ニ孔子一爲ニ中都宰一。㋩今の北京をいふ。金、中都大興府といひ、元、亦始め中都といひ、後、大都と改めた。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府〕禹貢、冀州地、云云、金仍曰ニ燕京析津府一、廢ニ圭亮改曰ニ中都大興府一、蒙古初爲ニ燕京路一、至元初、建ニ中都一、九年、改爲ニ大都一、而大興府仍ン舊、二十一年、始改爲ニ大都路一。㋥翁郭察圖の地。元の時、中都とす。沙城の一稱で、土人は察罕巴爾哈孫城といふ。㋭安徽省鳳陽縣。明、中都とす。㋬山西省永濟縣。〔唐書、元載傳〕又與ニ王縉一請以ニ河中一爲ニ中都一。㋣元の建昌路。唐初、中都府を置く。㋠唐の時、南詔は羊苴咩城に都し、之を西京といひ、後、改めて中都とす。雲南省大理縣の治。〔讀史方輿紀要、雲南〕大理府、貞觀三年、改爲ニ匡州一、天寶以後、沒ニ於南詔一、南詔僞建ニ都邑於此一、亦謂ニ之西京一、後又改爲ニ中都一。❸縣名。㋑漢、置く。春秋、晉の中都の邑。戰國の時、趙に屬す。漢の文帝が代王であつた時、此に都した。故城は、山西省平遙縣の西北。〔左氏、昭、二〕齊陳無宇送ニ女一、云云、謂ニ無宇非ン卿、執ニ諸中都一。〔史記、秦紀〕惠文君後九年、伐ニ趙、取ニ中都一。㋺後魏、置く。もとの檉次縣。故城は、山西省榆次縣の東。㋩唐、置く。隋の平陸縣。山東省汶上縣の治。〔讀史方輿紀要〕山東、兗州府、東平州〕汶上縣、古厥國、春秋時、爲ニ魯中都邑一云云、隋復曰ニ平陸一、屬ニ兗州一、唐因ン之、天寶初、改爲ニ中都縣一。

【中都官】655 チュウトクワン　京師の各役所。〔史記、平準書〕漕ニ轉山東粟一、以給ニ中都官一。〔注〕索隱曰、中都、猶ニ都內一也。〔史記、酷吏傳〕以ニ佐史一補ニ中都官一。〔漢書、昭帝紀〕始元四年、詔曰、比歲不ン登、民匱ニ於食一、流庸未ン盡、諸給ニ中都官一者、且減ン之。〔注〕師古曰、中都官、京師諸官府。

【中都曹】656 チュウトサウ　官名。後漢、置く。盜賊を捕へることを主る。〔稱謂錄、兵部、中都曹〕卽鉢齋官職攷、東漢尚書五曹外增ニ設一官一、名ニ中都曹一、主ニ盜賊一、或云、督捕侍郎之職。

【中都官從事】657 チュウトクワンジュウ　官名。諸〻の官吏で法を犯す者を察し擧げることを主る。〔資治通鑑、漢紀〕〔靈帝、光和二年〕乃敕ニ中都官從事一曰、且先去ニ權貴大猾一、乃議ニ其餘一耳。〔注〕中都官從事、卽都官從事、主ニ察ニ擧百官犯ン法者一、中興以後、專令ニ掊ニ擊貴戚一。

【中渡】658 チュウト　❶地名。西康省康定縣の西。清末、河口縣を置く。民國、雅江縣と改む。雅龍江の東岸で、江の渡場である。❷縣名。民國、置く。廣西省桂林縣の西南。

【中塗】659 チュウト　路のなかば。中途(652)の❶に同じ。〔列子、力命〕中塗、遇ニ東郭先生一。〔左思、詠史詩〕出ニ門無ニ通路一、枳棘塞ニ中塗一。〔潘岳、西征賦〕振攬ニ轡于中塗一。

【中土】660 チュウド　❶中國。〔後漢書、西域傳論〕其國則殷ニ乎中土一。〔南史、范曄傳〕並被ン珍ニ於外國一、無ニ取於中土一。❷中原。〔漢書、毋將隆傳〕不ン宜ニ處ン位在ニ中土一。〔新語、懷慮〕魯莊公據ニ中土之地一。❸九州の一。冀州をいふ。漢以來は、河南をいふ。〔淮南子、墜形訓〕正中冀州曰ニ中土一、云云、中土多ニ聖人一。〔注〕冀、大也、四方之主、故曰ニ中土一也。

【中土師】661 チュウドシ　豐後國の地名。

【中弩】662 チュウド　御手元金。內弩。〔蘇舜欽、覽ニ含元殿基一云云詩〕橫賜傾ニ中弩一、窮奢役ニ九垓一。〔袁褧、遠游聯句〕馳ン峯出ニ天廚一、褒ン鼈錫ニ中弩一。

【中冬】663 チュウトウ　冬三箇月の中の月。仲冬(1－403：351)に同じ。〔漢書、元帝紀〕永光二年冬十一月、詔曰、迺者己丑、地動、中冬、雨水大霧。〔注〕師古曰、中、讀曰ン仲。

【中東】664 chung¹ tung¹　中國と日本。

【中東鐵路】665 チュウトウテツロ　滿洲の北滿鐵路をいふ。東支鐵道。東清鐵道。東省鐵路。

【中東門君】666 チュウトウモンクン　後漢、張湛(4－9812‥5390)をいふ。

【中等】667 チュウトウ　❶中の段。中央の階段。〔周禮、秋官、司儀〕公於ニ上等一、侯伯於ニ中等一、子男於ニ下等一。❷上等と下等との間。中程。中頃。〔宋史、食貨志二二〕別遣ン官經ニ畫市羅一、中等戶以下免ン之。❸階段を間にして隔たる。〔儀禮、鄉射禮〕上射先升三等、下射從ン之、中等。〔注〕中、猶ニ間也。

【中等教育】668 チュウトウケウイク　昔の中學校・女學校などの教育。國民教育を終えた者に施した普通教育。

【中等身材】669 chung¹ têng³ shên¹ ts'ai²　中背。

【中統】670 チュウトウ 元、世祖(忽必烈)の年號。(1260－1264)

【中統交鈔】671 チュウトウカウセウ 元の世祖の中統年間に發行した紙幣。十文から二貫文に至るまでの十等がある。均しく通用期間を定めず、京師及び各路に平準庫を置き、金銀を買入れて準備資金とし、鈔價の騰落に應じて收發を行はしめた。(元史、食貨志五、鈔法)惟我世祖皇帝建元之初、頒ニ行中統交鈔一、以レ錢爲レ文。

【中統銀貨】672 チュウトウギンクワ 元の世祖の中統年間に造られた貨幣の名。文綾で作り、五種の別がある。(元史、食貨志上一)又以ニ文綾一織爲ニ中統銀貨一、其等有レ五曰、一兩・二兩・三兩・五兩・十兩、每ニ一兩一同ニ白銀一兩一、而銀貨蓋未レ及ニ行云。

【中統寶鈔】673 チュウトウハウセウ 元の世祖の中統元年冬十月に頒行せられた貨幣。中統交鈔を見よ。(元史、世祖紀一)冬十月癸丑、初行ニ中統寶鈔一。

【中統元寶交鈔】674 チュウトウグヮンパウカウセウ 元の世祖の中統元年秋七月に鑄造された貨幣。中統交鈔を見よ。(元史、世祖紀一)中統元年秋七月、詔造ニ中統元寶交鈔一。

【中德】675 チュウトク ㊀中庸を得た德。〔書、酒誥〕作ニ稽中德一。〔國語、周語下〕道レ之以ニ中德一。〔注〕中德、中庸之德舞也。㊁中等の德。〔莊子、盜跖〕知維ニ天地一、能辯ニ諸物一、此中德也。㊂chung¹ ㊟2 中國と獨逸。

【中德協約】676 チュウトクケフヤク 民國十年に、中國と獨逸との間に結ばれた協約。

【中毒】677 チュウドク どくにあたる。毒物によつて身體に障害を起すこと。ものあたり。(吳志、賀邵傳)陛下猥發ニ雷霆一、謂ニ之輕慢一、飲ニ之醇酒一、中毒隕レ命。

【中頓】678 チュウトン 途中の止食處。城や糧食が有つて、止まり食することの出來る所。(資治通鑑、唐紀)(高祖、武德六年)良以ニ馬邑一爲ニ之中頓一故也。〔注〕中頓者、謂ニ中道有レ城有レ糧、可ニ以頓食一也、置レ食之所曰レ頓、唐人多言ニ置頓一。

【中腦】679 チュウナウ 腦の一部。前腦と後腦との中間に在つて、身體の緊張と眼の運動とを司る。

【中南】680 チュウナン ㊀山名。終南山をいふ。陝西省長安縣の南。終南山(8－27372‥82)を見よ。〔左氏、昭、四〕四嶽云云、中南、九州之險也。〔潘岳、關中記〕終南、一名中南、以下其山在ニ天之中一、居中都之南上也。㊁平賀晉民の號。平賀中南(4－9167‥756)を見よ。

【中南山人】681 チュウナンサンジン 明、黃魯曾(12－47926‥1351)の號。

【中南海公園】682 チュウナンハイコウエン 北京の公園の名。もと宮城內の、中海・南海の二つの池を圍む地域。

【中日】683 チュウニチ ㊀中國と日本。支那と日本。日支。日華。㊁(佩)春秋二期の彼岸七日間のなかの日。春分・秋分。(和漢三才圖會、時候類、彼岸)按、彼岸如ニ攩ニ時正一、則其中日當ニ春秋二中一可也、而春秋二中後三日爲ニ彼岸入一、始終七日、未レ知ニ其攩一。

【中日事變】684 チュウニチジヘン 日支事變をいふ。

【中日東三省條約】685 チュウニチトウサンセウヤク 日露戰爭の後、ロシヤが日本に讓渡した滿洲に於ける權利について、日清兩國間に締結せられた條約。中日滿洲善後協約ともいふ。

【中入】686 ナカイリ ㊀內部へ向け入れること。〔雅亮裝束抄、二〕見せ料に、わざときぬのうしろのすそを、なかいりに縫ふこともあり。㊁彼我對陣中、一部の兵を分けて敵の虛を衝くこと。㊂能樂に於て、前シテが、一曲の半で一旦樂屋又は造物の中へ入ること。又、其の時謠ふ地謠。㊃芝居・見物等の中途で暫く休むこと。(傾城酒呑童子、四)晴れの能、三番過ぎて中入りの。㊄中休み。(太祇全集)中入りに見舞ふ和尙や苷狩。㊅中に入れること。又、其のもの。(槍權三重帷子、上)中入れに念は入れたれど。㊆上等の綿。㊇中休み。

【中寧】687 チュウネイ 縣名。民國、置く。寧夏省中衛縣の南。

【中熱】688 チュウネツ ㊀暑氣あたり。中暑(469)の㊀に同じ。〔史記、倉公傳〕中熱不レ溲者、不レ可レ服ニ五石一。㊁しんねつ。體內の熱。〔郝經、野菊詩〕我欲ニ摘以レ杯飲一之灌中熱一。

【中熱外燥】689 チュウネツグワイサウ 內外ともに熱鬧躁騷を極めること。〔日本政記、崇德天皇論〕保延三年、賴襄曰、彼汨ニ沒於爭競之間一、中熱外燥、顚ニ倒是非一、是以其機露ニ於前一、而不レ能レ見。

【中年】690 チュウネン ㊀平年のこと。平作の年。中歲。〔周禮、地官、均人〕中年、則公旬用ニ二日一焉。〔注〕人食ニ三升一爲ニ中歲一。㊁一年を隔てる。一年おき。〔禮、學記〕比年入レ學、中年考校。〔注〕中、猶レ間也、鄉遂大夫、間歲則考ニ學者之德行道藝一。㊂四五十歲前後。なかほどのとし。〔列子、周穆王〕宋陽里華子、中年病レ忘。〔晉書、王羲之傳〕中年以來、傷ニ於哀樂一。〔王維、濟上四賢詠詩〕中年不レ得レ志。〔雲笈七籤〕修眞之品有レ三、上年中年下年、上年者二十三十也、中年者四十五十也、下年者六十七十也。㊃中世。〔晉書、后妃傳序〕爰自ニ夐古一、是謂ニ元妃一、降及ニ中年一、乃稱ニ王后一。㊄二月をいふ。中春といふに同じ。〔鄭谷、中年詩〕漢漢秦雲淡淡天、新年景象入ニ中年一。㊅年季奉公などに、壯年の頃から入つたこと。〔淀鯉出世瀧德、下〕中年四年、二百兩。

【中年期】691 チュウネンキ 四十歲前後。

【中農】692 チュウノウ 中位の農耕地を有ち、自分自身或は小數の雇傭勞働による自作農。中等の農民。〔管子、揆度〕上農挾レ五、中農挾レ四、下農挾レ三。〔漢書、貢禹傳〕中農食ニ七人一。

【中農地】693 チュウノウチ 中農の所有し耕作する土地。其の面積は、大農地と小農地との中間に位する程度の農地。

【中馬】694 チュウバ 中等の馬。〔史記、大宛傳〕漢軍取ニ其善馬數十匹、中馬以下牡牝三千餘匹一。

【中廢】695 チュウハイ 中止する。中途で止める。〔史記、董仲舒傳〕中廢爲ニ中大夫一。〔史記、酷吏、減宣傳〕中廢爲ニ右扶風一。〔宋書、樂志二〕先帝開ニ其舊有ニ技召之堅一、既中廢レ之。

【中買】696 チュウバイ 官民の中間に居り、官から買受けて民間に賣ること。〔明律、戶律、倉庫、鈔法〕若諸人將ニ寶鈔一、赴ニ倉場庫場一、折ニ納諸色課程一、中ニ買鹽貨一。

【中賣】697 チュウバイ 商人が官許を得て民間の所有物品を買收し、之を官に賣り納めること。〔明律、戶律、倉庫、鈔法〕其餘廢銅、並聽ニ赴レ官中賣一。

【中邦】698 チュウハウ 中國本土。中國(300)の㊀に同じ。〔書、禹貢〕成ニ賦中邦一。〔傳〕成ニ九州之賦一。〔蔡傳〕田賦則止於中國而已、故曰ニ成賦中邦一。〔唐書、陸贄傳〕盡示始撤ニ邊備一、以靖ニ中邦一。

【中抱】699 チュウハウ ㊀心の奧そこ。中情(431)に同じ。〔曹鄴、送ニ李殷一詩〕殷勤說ニ中抱一、壯志勿ニ自輕一。㊁中間斡旋者として、賄賂の如き意味をもつ非公式的中間所得。

【中飽】700 チュウハウ 奸吏が政府と人民との中間に在つて私腹を肥すこと。〔韓非子、外儲說右下〕薄疑謂ニ趙簡主一曰、君之國中飽、簡主欣然而喜曰、何如焉、對曰、府庫空ニ虛於上一、百姓貧ニ餓於下一、然而姦吏富矣。〔六部成語補遺、戶部、嚴杜ニ中飽一注解〕凡公款上不レ歸レ國、下不レ歸レ民、爲ニ中間經レ手之人侵吞者、謂ニ之中飽一。言猶ニ中間之人蝕レ之以自飽一也。〔清國行政法汎論、官吏權利、俸給、清國官吏腐敗〕其地方官也、督撫取ニ于司道一、司道取ニ于府州縣官一、府州縣官、則掊ニ克於人民一、以是人民之負擔愈重、其輸ニ納于官一、以供ニ地方及中央之公費一、僅不レ過ニ一分一、其餘則盡歸ニ官吏之手中一、以豐ニ其私囊一、名曰ニ中飽一。

【中卯】701 チュウバウ ㊀節氣の名。卯の位は東に在つて春に配する。〔管子、幼官〕十二始卯、合ニ男女一、十二中卯、十二下卯、三卯同レ事。㊁chung, mao。取引きの日から始めて、「近卯」の次に受け渡しせられる期限。

【中白】702 チュウハク 字號。㊀明、朱廷煥(6－14424‥928)の字。㊁清、莊棫(9－31035‥136)の字。

【中伯】703 チュウハク 字號。㊀明、鄭若庸(11－39647‥436)の字。㊁清、孫夢逵(3－6987‥540)の字。

【中罰】704 チュウバツ 中正を得た刑罰。〔書、立政〕茲式有レ愼、以列用ニ中罰一。〔蔡傳〕能以ニ輕重一條列、用ニ其中罰一、而無ニ過差之患一矣。

【中法】705 chung¹ fa⁴ 中國と佛蘭西。

【中法之戰】706 チュウハフノタタカヒ フランスが安南を占有したのが原因で起つた所の中國とフランスとの戰。光緒十一年に和約成る。

【中半】707 チュウハン なかば。半分。(宋書、禮志一)準ニ古計一、今猶未ニ中半一。(魏書、干烈傳)若隱レ心而言、樂遷之與戀舊、唯中半耳。

【中判】708 チュウハン 半分に割る。〔墨子、備穴〕大六圍、中二判之一。

〔中判事〕709 チュウハンジ ㊀刑部省の屬官。〔職原抄〕刑部省、中判事一人。㊁明治二年七月八日に置き、同八年五月四日に廢せられた判事の一。〔明治二年七月八日職員令〕中判事。

【中阪】710 チュウハン 坂の途中。〔宋玉、高唐賦〕中阪遙望。〔史記、封禪書〕始皇之上二泰山一、中阪遇二暴風雨一、休二於大樹下一。

【中煩】711 チュウハン 胸中の熱する病。〔資治通鑑、後唐紀〕明宗、長興元年、吾素病二中煩一、倦二於接對一。〔注〕中煩、謂二胸中煩熱一。

【中飯】712 チュウハン ㊀ひるめし。中餐。午餐。〔王維、休假還二舊業一便レ使詩〕中飯顧二王程一。〔權德輿、田家卽事詩〕山僧相訪期二中飯一、漁父同遊或夜歸。〔李頻、南遊過二湘漢一卽事寄二友人一詩〕向レ野聊中飯、乘レ涼探二暮程一。㊁食事の最中。〔魏志、王脩傳、注〕未三嘗不二長夜起坐、中飯釋レ餐。

【中旛】713 chung^1 fan^1 走會の人の持つ旗。走會(10−37034・・15)を見よ。

【中圮】714 チュウヒ 中途でやぶれる。〔張衡、東京賦〕宗緒中圮、巨猾閒レ舋、竊二弄神器一、歷レ載三六、偸二安天位一。〔晉書、趙王倫等傳論〕乾耀以レ之暫傾、皇綱於レ焉中圮。

【中否】715 チュウヒ あたるとあたらぬと。〔周禮、春官、占人〕計二其占之中否一。〔莊子、天地〕未レ知二中否一。

【中疲】716 チュウヒ 中途で疲れる。〔謝朓、辭二隨王子隆一牋〕駑蹇之乘、希二沃若一而中疲。

【中祕】717 チュウヒ ㊀宮中の奥深い處。〔常袞、晚秋集賢院卽事詩〕沈沈中祕書。㊁中書と祕書との兩署。〔魏書、禮志一〕宜下並集二中祕羣儒一、人人別議上。

〔中祕書〕718 チュウヒショ 宮中の藏書をいふ。〔漢書、成帝紀〕光祿大夫劉向校二中祕書一。〔注〕師古曰、言二中以別レ外。〔漢書、劉向傳〕詔レ向領二校中五經祕書一。

【中婢】719 チュウヒ 十一歲以上、二十歲以下の婢。〔唐書、百官志一〕中婢三當二一役一。

【中費】720 chung^1 fei^4 商取引用語。賣買の仲介者に與へる手數料。コンミツション。

【中尾】721 chung^1 wei^3 朝鮮人參の一種。

【中美】722 チュウビ ㊀內部の美しいこと。〔左氏、昭、十二〕中美能黃。㊁字號。㋑秦、東野質(6−14499・・691)の字。㋺明、向錦(2−3301・・12)の字。㋩明、吳實(2−3365・・209)の字。㋥明、王褒(7−20823・・885)の字。㋭清、郝林(11−39430・・32)の字。㊂chung^1 mei^3 中國と米國。支米。

【中微】723 チュウビ なかごろ衰へること。〔史記、楚世家〕其後中微、或在二中國一、或在二蠻夷一。〔後漢書、崔駰傳〕丁二漢氏之中微一。

【中品】724 チュウヒン ㊀中等の品格。又、其のもの。〔顏氏家訓、止足〕仕宦稱レ泰、不レ過三處在二中品一、前望二五十人一、後顧二五十人一、足下以免二恥辱一、無中傾危上也。〔雲笈七籤、左乙混洞東蒙錄〕次有二中品一、名二長生之錄一。〔黃庭堅、書二摹搨東坡書後一〕翰墨居レ世、不レ能レ入二中品一。㊁[佛]チュウボン 九品のうちの中位にある三品。〔略論〕無量壽觀經中一品、又分爲二上中下一。

【中貧】725 チュウヒン 途中で乏しくなる。〔左思、吳都賦〕谿壑爲レ之一罄、川瀆爲レ之中貧。

【中夫】726 チュウフ ㊀元、陰幼達(11−41691・・350)の字。㊁明、章廷瑗(8−25761・・222)の一名。

【中父】727 チュウフ ㊀平凡な父。〔荀子、非相〕中君羞二以爲レ臣、中父羞二以爲レ子。㊁チュウホ 明、呂時臣(2−3386・・84)の字。

【中孚】728 チュウフ ㊀易の六十四卦の一。兌下巽上。䷼。此の卦は、巽風兌澤の信があり、又、上下兩側の間に虛柔がはさまれてゐて、中實を得る象があるから名づけた。中孚の信を以てして正しければ、天に應ずべきを誨へた卦。〔易、中孚〕彖曰、中孚、柔在レ內而剛得レ中、說而巽孚、云云、象曰、澤上有レ風、中孚。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕雖レ抱二中孚爻一、猶勞二貝錦詩一。㊁字號。㋑元、金信(11−40152・・614)の字。㋺明、齊德成(12−48560・・316)の字。㋩明、陳遠(11−41698・・45)の字。㋥明、鄭世威(11−39647・・465)の字。㋭清、李顒(6−14459・・213)の字。㋬清、王宗誠(7−20823・・1846)の字。

【中府】729 チュウフ ㊀王の財物を入れる藏。內府。〔穀梁、僖、二〕我取二之中府一、而藏二之外府一。〔史記、田叔傳〕大懟、發二中府錢一、使二相償レ之。〔新序、善謀上〕是我取二之中府一、置二之外府一。㊁唐代、南詔で丁民を籍して兵とし、府を置いて之を領し、府に大中小の別を設けた、其の中の一つ。〔唐書、南詔傳〕中府主將曰二繕裔一。㊂胃をいふ。〔素問、離合眞邪論〕調二之中府一、以定二三部一。

【中婦】730 チュウフ ㊀女官の名稱。〔管子、戒〕中婦諸子、謂二宮人一、盍不二出從一乎。〔纂詁〕周禮有二諸子一、掌レ教二國子一、此官蓋掌レ教二宮女一、故名二中婦諸子一耳。㊁次男の婦をいふ。〔荀㬉、擬三相逢狹路閒一詩〕大婦織二紈綺一、中婦縫二羅衣一。〔梁武帝、長安有狹邪行〕大婦理二金翠一、中婦事二玉觴一、小婦獨閒暇、調レ笙遊二曲池一。

【中傳】731 チュウフ 宦官。中官。〔漢書、武帝紀〕濟川王明、坐レ殺二太傅中傳一、廢二遷防陵一。〔注〕中傳、宦者也。〔後漢書、東平王蒼傳〕詔告二中傳一、封上下蒼自二建武一以來章奏、及所レ作書記賦頌七言別字歌詩上、並集覽焉。

【中部】732 チュウブ ㊀眞中の部分。〔後漢書、鮮卑傳〕從二右北平一以西、至二上谷十餘邑一爲二中部一。㊁郡名。後魏、置く。今の陝西省中部縣。㊂を見よ。㊂縣名。東晉の時、姚秦、置く。陝西省鄜縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、鄜州〕中部縣、漢左馮翊翟道縣地、姚秦置二中部縣一、後魏置二中部郡於此一。〔清史稿、地理志〕陝西、鄜州直隸州、縣三、中部。

【中風】733 チュウフウ ㊀病の名。惡い風に中(アタ)つて發する病氣の義で、からだの一部、或は半身のしびれる病。ちゅうぶ。中氣。腦出血。卒中。〔康熙字典〕中、著二其中一曰レ中、莊子達生篇、中レ身當レ心、則爲レ病、猶二醫書中風中暑一、是也。〔漢書、敍傳上〕道病二中風一。㊁風に中る。〔素問、風論〕飮レ酒中レ風、則爲二漏風一。〔注〕熱鬱腠疎、中レ風汗出、多如二液漏一、故曰二漏風一。

【中瘋】734 chung^4 fêng^1 狂氣になる。

【中伏】735 チュウフク 夏至から四庚に至る閒の時節の名。眞夏・盛夏・炎夏の時。三伏(1−12・・1567)を見よ。〔皎然、奉レ和二陸使君長源水堂納涼一效二曹劉體一詩〕六月正中伏、水軒氣常淒。

【中復】736 チュウフク 明、陳遠(11−41698・・45)の字。

〔中復堂〕737 チュウフクダウ 清、姚瑩(3−6202・・5)の室名。

【中腹】738 チュウフク ㊀器物などの中胴の部分。〔晁補之、坐二進庵一賦〕塗墁晦レ外、中腹純白。㊁山のなかほど。やまふところ。山腹。

【中覆】739 チュウフク 內部から申し上げる。覆は、覆奏すること、申し上げること。〔正字通〕腰、官府吏文之申二請于上一者、曰レ申、曰レ腰。〔漢書、馮唐傳〕軍市之租、皆自用饗レ士、賞賜決二於外一、不二從レ中覆一也。〔注〕師古曰、覆、謂三覆二白之一也。

【中物】740 ナカモノ 商取引用語。定期取引に於ける翌月限りのこと。中限。

【中分】741 チュウブン 半分にわけること。〔莊子、德充符〕王駘兀者也、從レ之遊者、與二夫子一中二分魯一。〔史記、項羽紀〕中二分天下一。〔史記、匈奴傳〕驃騎將軍去病、中二分軍一。〔李白、登二金陵鳳皇臺一詩〕三山半落靑天外、一水中分白鷺洲。

【中文】742 チュウブン ㊀中文尙書の略。㊁chung^1 wen^2 中國の文字。中國の文章。

〔中文尙書〕743 チュウブンシャウショ 書名。今文尙書・古文尙書以外の尙書で、後漢の劉陶の校訂したもの。〔後漢書、劉陶傳〕陶明二尙書春秋一、爲二之訓詁一、推二三家尙書及古文一、是二正文字三百餘事一、名曰二中文尙書一。〔精註雅俗故事讀本下、文事〕尙書道二政事一、其文有二古今一、五十八篇、編爲二定數一、七百餘事、又號二中文一。

【中平】744 チュウヘイ ㊀平凡なこと。平平(4−9167・・600)に同じ。〔宋史、選擧志二〕文理中平、爲二第四一、文理疏淺、爲二第五一。㊁後漢、靈帝(劉宏)・少帝(劉辯)・獻帝(劉協)の年號。(184−189)

【中兵】745 チュウヘイ 官名。魏の五兵尙書の中の一。畿內の兵を掌る。晉には中兵を分けて左右とし、歷代之に因る。隋になつて廢せられたが、晉以後、公府節鎭の僚屬として、また中兵參軍を置いた。〔宋書、百官志上〕中兵・外兵・騎兵・典兵。〔通典、職官典、兵部尙書〕魏置二五兵尙書一、五兵謂二中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵一也、晉初無、太康中

乃有二五兵尙書一、而又分二中兵・外兵一、各爲二左右一、宋五兵尙書、唯領二中兵・外兵二曹一、餘則無矣。

【中幣】746 チュウヘイ 中等の貨幣。〔管子、國蓄〕以二珠玉一爲二上幣一、以二黃金一爲二中幣一、以二刀布一爲二下幣一。

【中表】747 チュウヘウ いとこ同志の互稱。父の姊妹の子を外兄弟といひ、母の兄弟姊妹の子を內兄弟といひ、合して中表といふ。〔後漢書、郭太傳〕明公將師、皆中表腹心。〔魏志、管寧傳〕年十六喪レ父、中表愍二其孤貧一。〔晉書、列女、王渾妻鍾氏傳〕禮儀法度、爲二中表所一レ則。

〔中表親〕748 チュウヘウノシン 從兄弟の間柄。從兄弟同志。〔晉書、山濤傳〕濤與二宣穆后一有二中表親一。

〔中表兄弟〕749 チュウヘウケイテイ いとこ。從兄弟。中表に同じ。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕穎中表兄弟、有下自二都下一回者上。

〔中表姐妹〕750 chung¹ piao² chieh³ mei⁴ 從姊妹イトコの間柄。

〔中表夫婦〕751 chung¹ piao³ fu¹ fu⁴ いとこ同志の夫婦。

【中篇】752 チュウヘン 書物の中間の一篇。上篇(**1**－**13**・・710)・下篇(**1**－**14**・・532)の對。〔書斷〕以二蒼頡一爲二上篇一、訓纂爲二中篇一、滂喜爲二下篇一、所謂三蒼也。

【中輪】753 チュウヘン 古の國の名。〔山海經、大荒北經〕西北海外、流沙之東、有レ國、曰二中輪一。

【中邊】754 チュウヘン ㊀中國と邊境。〔王維、六祖能禪師碑銘〕名是虛假、不レ生二族姓之家一、法無二中邊一、不レ居二華夏之地一。㊁佛 中道と有・空の二邊。〔中邊分別論、下〕復有三分二別中道及二邊一故、是中兩邊能現故、離二初後一此中兩處不レ著如理分別顯現故、故名二中邊分別論一。㊂程よい。中くらゐ。過不及のないこと。

【中變】755 チュウヘン ㊀中くらゐの變化。〔史記、天官書〕夫天運、云云、百年中變。㊁中途で變る。又、友誼が中途できれる。中途で絕交する。〔孟郊、求レ友詩〕求レ友若非レ良、非レ良中道變。

【中辨】756 チュウベン 太政官の判官の一。大辨の次に位する。左右の二あり。〔官位令〕左右中辨。

【中甫】757 チュウホ 字號。㊀宋、鄧光薦(**11**－**39630**・・133)の字。㊁明、于玉立(**1**－**252**・・108)の字。㊂明、華夏(**9**－**31214**・・38)の字。㊃明、喩時(**2**－**3979**・・9)の字。

【中保】758 チュウホ なかだち。橋わたし。とりもち。兩者の中間に立つて周旋する者。〔福惠全書、刑名部、問擬〕拘二中保一弔二驗身契一。

【中峯】759 チュウホウ ㊀中央の峯。〔庾信、陪三駕幸二終南山一詩〕黿橋浮二少海一、鵠蓋上二中峯一。〔王褒、雲居寺高頂詩〕中峯雲已合、絕頂日猶晴。〔李白、望二黃鶴樓一詩〕四面生二白雲一、中峯倚二紅日一。㊁字號。㋑元、明本(**5**－**13805**・・542)の號。㋺明、賴先(**10**－**36861**・・16)の號。㋩淸、朱嵩(**6**－**14424**・・408)の字。

【中逢】760 チュウホウ 草の名。ゆり。百合(**8**－**22679**・・44)の異名。〔本草、百合〕釋名、別錄曰、一名摩羅、一名重箱、一名中逢花。

【中鋒】761 チュウホウ 書家運筆の法。筆先が眞直に下されて、側に偏らないこと。〔夢溪筆談、書畫〕江南徐鉉善二小篆一、映レ日視レ之、畫之中心、有二一縷濃墨一、正當二其中一、至二于屈折處一亦當レ中、無レ有二偏側處一、乃筆鋒直下、不二倒側一、故鋒常在二畫中一、此用筆之法也。

【中縫】762 チュウホウ 紙のまんなかの合せ目。新聞紙などで俗に「のど」といふ部分。

【中牟】763 チュウボウ ㊀地名。春秋、晉の地。今、河南省湯陰縣。〔左氏、定、九〕齊侯伐二晉夷儀一、云云、晉車千乘在二中牟一。〔左氏、哀、五〕夏趙鞅伐レ衞、范氏之故也、遂圍二中牟一。〔論語、陽貨〕佛肸以二中牟一畔。〔史記、孔子世家〕趙簡子攻二范中行一、伐二中牟一、佛肸畔。㊁縣名。漢、置く。春秋、鄭の地。隋、內牟といひ、又、圃田と改め、唐の時になつて中牟に復す。河南省鄭縣の東。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕中牟縣、春秋鄭邑、漢置レ縣、屬二河南郡一、云云、隋初郡廢、改レ縣曰二內牟一、屬二鄭州一、開皇十六年、改曰二郟城一、大業初、又改爲二圃田縣一。〔淸史稿、地理志〕河南、開封府、縣十一、中牟。

【中本】764 チュウホン ㊀小菊紙に摺つて、其のままの大きさに仕立てた本。〔近世物之本江戶作者部類、一、洒落本幷中本作者部〕こは半紙半枚の小册と半紙本の間なるものなれば中本と云ふなりけり。㊁現實の社會を描寫した滑稽小說。其の大きさが半紙本と小本との中間だからいふ。㊀を見よ。㊂半紙判の本。

【中米】765 チュウマイ ㊀市場用語。各地の產米を上・中・下の三等級に分けた中の中等のもの。三等米のこと。上米(**1**－**13**・・723)・下米(**1**－**14**・・544)の對。㊁チュウベイ 中央亞米利加の略稱。

【中幕】766 ナカマク 狂言で、一番目と二番目との間。

【中民】767 チュウミン 中流の人。普通の人。〔莊子、外物〕中民之行、進焉耳。〔管子、君臣下〕有二中民之亂一。〔史記、文帝紀〕百金、中民十家之產。

【中務】768 ナカツカサ 京都市の地名。

〔中務卿〕769 ナカツカサノカミ 中務省の長官。なかつかさのかみ。唐名は、中書令。〔職原抄〕中務省、卿一人、唐名、中書令。

〔中務省〕770 ナカツカサシヤウ 古の八省の一。宮中の政務を統べ扱ふ所。天皇に侍從し、可否を獻替する職で、詔勅の施行、上表の奏進、國史の監修、宮人の考敍、及び諸國の戶籍・租調帳、僧尼の名籍等を掌る。卿以下、大輔・少輔・大丞・少丞・大錄・少錄・史生・侍從等の官を置き、中宮職及び大舍人・圖書・內藏・縫殿・陰陽・內匠の六寮を管理する。唐名は、中書省・鳳閣。〔職員令〕中務省、卿一人、掌下侍從獻替、贊二相禮儀一、審二署詔敕文案一、受レ事覆奏、宣旨・勞問、受二納上表一、監二修國史一、及女王、內外命婦、宮人等名帳、考調帳、僧尼名籍事上。〔職原抄〕中務省、當二唐中書省一、又號二鳳閣一。

〔中務丞〕771 ナカツカサノジョウ 中務省の屬官。大少あり。唐名は、中書舍人。〔職原抄〕中務省、大少丞、唐名、中書舍人。

〔中務錄〕772 ナカツカサノサクワン 中務省の屬官。大少あり。唐名は、中書主事。〔職原抄〕中務省、大少錄、唐名、中書主事。

〔中務少輔〕773 ナカツカサセウイフ 中務省の屬官。唐名は、中書少卿・中書侍郎。〔職原抄〕中務省、少輔一人、唐名、中書少卿・中書侍郎。

〔中務大輔〕774 ナカツカサタイフ 中務省の屬官。唐名は、中書大卿・中書監。〔職原抄〕中務省、大輔一人、唐名、中書大卿、或中書監。

【中明】775 チュウメイ 字號。㊀唐、蕭昕(**9**－**32012**・・80)の字。㊁明、徐世淳(**4**－**10110**・・514)の字。

【中冥】776 チュウメイ 夕暮をいふ。〔孔子家語、五儀解〕日出聽レ政、至二於中冥一。

【中鳴】777 チュウメイ 胡角で吹鳴する曲の名。〔晉書、樂志下〕鼓角橫吹曲、鼓、按二周禮一、𪔂鼓二軍事一、角、說者云、蚩尤氏帥二魑魅一、與二黃帝一戰二于涿鹿一、帝乃命始吹レ角、爲二龍鳴一以禦レ之、其後魏武、北征二烏丸一、越二沙漠一、而軍士思レ歸、于レ是減爲二中鳴一、而尤更悲矣。

【中矇】778 チュウモウ なかごろ暗くなる。〔曹植、王仲宣誄〕會遭二陽九一、炎光中矇。

【中門】779 チュウモン ㊀宮庭の中門。五門(**1**－**257**・・1047)を見よ。〔周禮、天官、閽人〕守二王宮之中門之禁一。〔注〕中門、於二外內一爲レ中、若二今宮闈門一。〔孫詒讓正義〕鄭意、中門卽雉門、在二外一門之內、內二門之外一、於二五門一爲二第三一也。〔左氏、昭、二十五〕執二諸季氏中門之外一。〔漢書、董賢傳〕賢至二中門一。㊁門の二闑の中間。門の中央。又、門の中央に當つて立つこと。闑(**11**－**41449**)の字解を見よ。〔說文通訓定聲〕闑、古者、門有二二闑一、二闑之中、曰二中門一、二闑之旁、皆曰レ棖、門闑豎レ木爲レ之、若二門限一。〔禮、曲禮上〕立不レ中レ門。〔注〕中門、謂二棖闑之中央一。㊂貴人の屋敷の、外門と寢殿との間に設けた門。〔貞丈雜記、十四、家屋〕。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕令三遠景・忠常伏二中門一。

〔中門切妻〕780 チュウモンノキリヅマ 中門の廊から寢殿に入る口。〔北山殿行幸記〕應永十五年三月八日、昇レ自二中門切妻一、著二御本座一。

【中也】781 チュウヤ 淸、汪淼(**6**－**17154**・・135)の字。

〔中也養二不中一才也養二不才一〕782 チュウヤフチュウヲヤシナヒ サイヤフサイヲヤシナフ 中和の德を具へたものは、中ならざるものを敎育して中和の德を養成させ、才能ある者は、不才の者を敎育して其の才を養成する。〔孟子、離婁下〕中也養二不中一、才也養二不才一、故人樂レ有二賢父兄一也。

【中夜】783 チュウヤ 夜半。中宵。〔書、冏命〕中夜以興、思レ免二厥愆一。〔列子、黃帝〕中夜禾生。〔傅玄、短歌行〕蟋蟀何感、中夜哀鳴。

〔中夜分〕784 チュウヤブン 佛 一夜を三つに分けた眞中

の時間。子丑の二刻で、今の午後十時から午前二時まで。〔無量壽經鈔注〕。

【中野】785 ナカヌ ❶野の中。のなか。〔易、繫辭下〕葬之中野、不レ封不レ樹。〔荀子、王制〕棲二遲薛越之中野一。〔管子、樞言〕善射者、死二于中野一。❷複姓。〔路史〕党項別部有二中野氏一。〔通志、氏族略、複姓〕中野氏、子姓、潛夫論、宋微子之後、楚文王御史中野彪。〔萬姓統譜〕中野、子姓、潛夫論、宋微子之後。

【中野撝謙】786 ナカノ キケン 長崎の人。名は繼善。字は完翁。號は撝軒。通稱は善助。關宿侯(牧野氏)に仕ふ。一時京都に移り、人を聚めて教授す。經學は程朱を宗とす。享保五年歿す。年五十四。〔先哲叢談、後、三〕。

【中墜】787 チユウ 野の中。中野(785)の❶に同じ。〔史記、呂后紀〕趙王餓、乃歌曰、云云、自決二中墜一兮、蒼天擧レ直。

【中陽】788 チユウヤウ ❶相術家の語。流年運氣(6－17431：307)を見よ。❷縣名。㋑漢、置く。戰國、趙の中陽邑。今、山西省孝義縣の西北。中鄉。〔史記、趙世家〕與二秦會一中陽一。〔注〕正義曰、括地志云、中陽故縣、在二汾州城縣南十里一。漢中陽縣也。㋺後魏、置き、今闕く。安徽省の境に當る。㋩民國、置く。北周の平夷縣。今、山西省離石縣の南。

【中陽老人】789 チユウヤウラウジン 元、王珪(7－20823：32)の號。

【中養】790 チユウヤウ 大菅圭の號。大菅中養(3－5831：2571)を見よ。

【中養父】791 ナカヤブ 大菅圭の號。大菅中養(3－5831：2571)を見よ。

【中藥】792 チユウヤク ❶中等の藥。〔嵇康、養生論〕中藥養レ性者。❷藥にあたる。藥の中毒。〔徐鉉、題二白鶴廟一詩〕嘗嗟多病嫌二中藥一、擬レ問二眞經一乞二小還一。❸草の名。みやまとべら。山豆根(4‥7869‥1179)の異名。〔本草、山豆根〕釋名、中藥。

【中譯】793 チユウヤク 西藏の唐古特官、書記官をいふ。〔清國行政法汎論、藩部、西藏〕唐古特官、中譯Chung yi 及卓尼爾 Chonir 大中譯二人、卓尼爾二人、小中譯三人、皆噶廈議事堂之辨事員、即書記官也。

【中油】794 チユウユ コールタールを百七十度乃至二百三十度に熱して溜出した油。

【中榆】795 チユウユ 冬の季節の名。〔管子、幼官〕十二中寒收聚、十二中榆大收。

【中勇】796 チユウユウ 中くらゐの勇氣。又、其の人。〔荀子、性惡〕有二上勇者一、有二中勇者一、有二下勇者一。

【中輿】797 チユウヨ 明、莊轍(9－31035：111)の字。

【中用】798 チユウヨウ ❶用にあたる。役に立つ。用ひ所がある。❷詩、小雅、白華、白華菅兮、箋)菅、柔忍、中レ用。❸判をまんなかに捺す。〔福惠全書、莅任部、文移諸式〕至二上下封口一俱當二中用一。❹chung1 yung4 ㋑役に立つ。㋺口錢。手數料。中俑。

【中俑】799 chung1 yung4 仲介人の口錢。手數料。中用の❸に同じ。

【中容】800 チユウヨウ 古の國の名。〔呂覽、本味〕中容之國、有二赤木玄木之葉一焉。〔山海經、大荒東經〕有二中容之國一、帝俊生二中容一、中容人食二獸木實一、使二四鳥豹虎熊羆一。

【中庸】801 チユウヨウ ❶中正の道。中は過不及のないこと。庸は易らないこと。〔禮、中庸〕仲尼曰、君子中庸、小人反二中庸一。〔注〕庸、常也、用レ中爲二常道一也。〔章句〕中者、不レ偏不レ倚、無二過不及一之名、庸、平常也。〔論語、雍也〕中庸之爲レ德也、其至矣乎、民鮮久矣。❷常人。凡人。凡庸。〔荀子、王制〕中庸民不レ待レ政而化。〔史記、禮書〕而況中庸以下乎。〔賈誼、過秦論〕材能不レ及二中庸一。❸禮記の篇名。中庸の道を述ぶ。〔禮、中庸、疏〕案、鄭目錄云、名曰二中庸一者、以二其記一中和之爲レ用也、庸、用也、孔子之孫、子思伋作之、以昭二明聖祖之德一、此於二別錄一屬二通論一。❹書名。次を見よ。

〔中庸〕四書の一。禮記の中から中庸篇を獨立させたもの。通説としては、孔子の孫の伋、字は子思の著だといふことは史記の孔子世家、漢書藝文志などにも出てゐるが、宋の歐陽脩・陳善、及び我が伊藤仁齋等は、子思の作でないことを主張した。此の書を禮記から獨立させたのは、六朝、宋の戴顒に始まる。戴顒は中庸傳二卷を撰したといはれるが、今は傳はらない。梁の武帝になつて、中庸講疏一卷、私記制旨・中庸義五卷を著はしたが、亦傳はらぬ。唐に至つて、李翺の復性書が出た。これは中庸の注疏といふべき者である。翺は又中庸説を撰した。宋代では、胡瑗・陳襄・余象・喬執中・司馬光・張方平・姚子張・范祖禹などが各〻講解又は論説を作り、特に范仲淹は之を張橫渠に授けた。程子に至り、大學・論語・孟子と共に子弟の教科書とし、更に朱子が章句を作つてから大いに世に行はれるやうになつた。朱子が中庸章句を作つたのは南宋の淳熙十六年であり、其は我が國の後鳥羽天皇の文治五年に當り、また博士清原賴業の歿年に當る。然るに賴業が早くも此の中庸を禮記中から表章したといふ説が、康富記や大日本史などに見えて居るので、賴業は程朱の中庸表章と無關係に卓見を立てたものであるといはれてゐるが、其の説は後世の附會らしい。中庸の章句に至つては、夫々の見解に從つて一定して居らず。禮記中の中庸は三十三節に分たれてゐるが、程子は妄當を缺くと爲し、改めて三十七節に分ち、朱子はまた三十三章とした。然しこれは古本とは同一でない。前漢書藝文志には中庸説二卷とあり、師古註には中庸一篇とある。宋の王柏は訂古中庸二卷を著して、朱子章句の二十一章以下は誠明書であると云つてゐる。此の外、宋の晁説之・黎立武、明の楊守陳・管志道・周從龍等、各〻意を以て之を分截した。中庸が前項の内容を説明して居るの外、道統の傳を失はんことを恐れて作られたものであることは朱子の序に見えてゐるが、朱子は別にまた中庸は老子に對するの書だとも云ひ、我が國の徂徠も是に贊成してゐる。異端を排して道統を傳へんとしたものであらう。四書(3－4682：429)を見よ。〔四庫提要、經、四書類〕。

〔參考書〕【中庸輯略】二卷 宋、朱熹編。〔四庫提要、經、四書類〕。【中庸或問】一卷 宋、朱熹撰。〔四庫提要、子、儒家類〕。【中庸衍義】十七卷 明、夏良勝撰。〔四庫提要、子、儒家類〕。【中庸集解】三卷 宋、石墩編。〔四庫提要、經、四書類〕。【中和集解】一卷 山崎闇齋撰。【中庸定本】一卷 伊藤仁齋撰。【中庸發揮】二卷 伊藤東涯撰。【中庸解】一卷 荻生徂徠撰。【中庸繹解】二卷 皆川淇園撰。【中庸原解】三卷 大田錦城撰。【中庸欄外書】三卷 佐藤一齋撰。

【中庸子】802 チユウヨウシ 字號。❶宋、陳充(11－4169：339)の號。❷宋、智圓(5－14010：12)の號。

【中庸先生】803 チユウヨウセンセイ 金、張特立(4－9812：1416)の賜號。

【中欲】804 チユウヨク 心中の欲。中扃外閉(901)を見よ。〔文子、上仁〕中欲不レ出、謂二之扃一。

【中老】805 チユウラウ ❶五六十歳の人。四十歳を初老といふのに對する。〔杼山集〕只應二中老身一。❷武家時代の重役の一。㋑鎌倉・室町時代には幕府及び關東管領の引付衆をいふ。〔蔭涼軒日錄、文正元年七月二十五日〕中老人衆依二其器用一歟之由申レ之。㋺豐臣時代に五大老と五奉行の間に位し、軍國の政務に參與したもの。〔豐臣秀吉譜、中〕以二生駒雅樂頭親正・中村式部少輔一氏・堀尾帶刀吉晴一爲二中老一。❸德川時代には諸侯の臣で家老に次ぐものの稱。❹武家の奥向の女役。老女に次ぐもの。

【中牢】806 チユウラウ 羊と豕とを備へた饗食。少牢の別稱。大牢(3－5831：2272)の對。〔漢書、兩龔傳〕不幸死者、賜二複衾一祠以二中牢一。〔注〕中牢、卽少牢、謂二羊豕一也。

【中郎】807 チユウラウ ❶官名。㋑秦、置き、漢亦之に因る。宿衞侍直を掌る。五官署・左署・右署の三署に分け、將を置いて宰領せしめ、之を中郎將といふ。〔史記、馮唐傳〕唐以二孝著一爲二中郎署長一。〔漢書、百官公卿表、郎掌レ守二門戶一出二充車騎一有二議郎・侍郎・郎中一、皆無レ員、多至二千人一。議郎・中郎、秩比二六百石一、中郎有二五官、左右三將一、秩皆比二千石一。〔文獻通考、職官考、三署郎官敍〕漢中郎將、分二掌三署郎一、有二議郎・中郎・侍郎・郎中凡四等一、皆秦官、無レ員、多至二千人一、皆掌二門戶一、出二充車騎一、故卿・校尉・牧守、待二價於此一、公車特徵、賢良方正・敦樸有道高節・公府掾曹試二博士一者、亦充二茲位一、其下第白衣試二博士一者、皆拜二郎中一、中郎有二五官左右三將一、郎中有二車戶騎三將一。㋺東晉・南北朝の諸公府及

び將軍は、皆從事中郞を置いて掾屬とした。隋以後、廢す。〔晉書、謝萬傳〕簡文帝作レ相、聞二其名一、召爲二撫軍從事中郞一。〔宋書、百官志上〕晉元帝爲二鎭東大將軍、及丞相一、置二從事中郞一、無二定員一。㊁明、袁宏道(10－34152・・181)の字。㊂中臣鎌足をいふ。中郞當用レ之宗社磐石安を見よ。

【中郞將】808 チユウラウシヤウ 官名。秦、置き、漢以來、之に因る。五官署・左署・右署の三署を宰領し、其の位は將軍に亞ぐ。後漢の末、東・南・西・北の四中郞將を增す。此の外、更に虎賁中郞將・使匈奴中郞將等の雜中郞將あり。元、廢す。〔史記、張釋之傳〕中郞將袁盎知二其賢一。〔後漢書、百官志二〕五官中郞將一人、比二千石。〔文獻通考、職官考、中郞將〕五官左右中郞將、皆秦官、漢因レ之、並領二三署郞一、從二後漢之制一、郡國擧二孝廉一以補レ之、三署郞年五十以上、屬二五官一、其次分屬二左右署一、左右郞將各領二左右署郞一。二署、皆有二中郞侍郞郞中三郞一、並屬二光祿勳一、魏無二三署郞一、猶置二左右中郞將一、晉武帝省二左右中郞將官一、宋孝武大明中、復置、云云、左右中郞將屬二西省一、梁代並分二司丹禁令一、中郞將四十四員、郞將六十四員、各附二諸軍諸衞篇一、唐亦置二諸衞中郞將一、永徽三年八月、避二太子名一、改二中郞將一爲二旅賁郞將一、又改爲二翊軍郞將一、尋復レ舊。

【中郞海牙】809 チユウラウカイガ 元、廉希賢(4－9436・・121)の一名。

【中郞當用レ之宗社磐石安】810 チユウラウカツテコレヲモチヒテソウシヤバンジヤクヤスシ 中臣鎌足が正氣を振つて蘇我入鹿を誅し、其の結果、國家は大磐石の如く安泰になつた。中郞は中臣鎌足を指す。郞は男子の美稱。宗社は國家をいふ。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕。

【中﨟】811 チユウラフ ㊀後宮などに仕へる侍臣以下の女で、上﨟に次ぐ人。〔禁祕抄、下〕中﨟、內侍外不レ著二織物類一也。㊁江戶幕府の大奧の女官。上﨟・年寄の下にあるもの。〔明良帶錄、世職〕大奧女儀の昇進、御中﨟頭、御中﨟無席。㊂明治二年に定めた宮中の女官。下﨟の上のもの。〔法令全書、明治二年十月十二日〕。

【中欒】812 チユウラン 鎭の名。河南省封丘縣の西南。黃河の北岸。明末、數度黃河の水を被り、村落は廢墟となつた。

【中里】813 チユウリ ㊀複姓。〔墨子、明鬼下〕有二所謂王里國・中里徼者一。㊁chung¹ li³ 支那里。約我が六丁弱。

【中理】814 チユウリ ㊀理に合ふ。道理にあたる。〔呂覽、懷寵〕士之議也、非二苟語一也、必中レ理、然後說。〔呂覽、不苟〕賢者之事也、雖レ貴不二苟爲一、雖レ聽不二自阿一、必中レ理 然後動。〔晉書、傅咸傳〕但當レ思二必應レ繩中レ理、威風日伸、何獨劉毅。㊁字號。㋑宋、楊文修(6－15112・・778)の字。㋺明、何爕(1－511・・132)の字。

【中流】815 チユウリウ ㊀河の中央。中游。〔史記、周紀〕武王渡レ河、中流白魚躍入二王舟中一、武王俯取以祭。〔張祜、題二潤州金山寺一詩〕樹影中流見。〔韋元旦、興慶池侍レ宴應制詩〕夾レ岸旌旗疏二輦道一、中流簫鼓振二樓船一。〔丁仙芝、渡二揚子江一詩〕桂楫中流望、空波兩岸明。㊁中庸を得たもの。又、中庸を得てあまねく常に行はれること。〔荀子、禮論〕文理情用、相二爲內外表裏一、並行而雜、是禮之中流也。〔注〕中流、言レ如二水之淸濁相混一也。〔集解〕中流猶二中道一。〔史記、禮書贊〕文貌情欲、相二爲內外表裏一、並行而雜、禮之中流也。〔注〕正義曰、言文飾情用、表裏外內、合二於儒墨一、是得二禮情之中一、而流行不レ息也。㊂中等の階級。㊃佛 チユウル 衆生の煩惱をいふ。〔維摩經、阿閦佛品〕不二此岸一、不二彼岸一、不二中流一。〔注〕肇生曰、此岸者、生死也、彼岸者、涅槃也、中流者、結使也。

【中流擊レ楫】816 チユウリウカイヲウツ 川の流の中央で楫をうつて拍子を取ること。〔晉書、祖逖傳〕帝乃以レ逖爲二奮威將軍豫州刺史一、渡レ江、中流擊レ楫而誓曰、祖逖不レ能レ淸二中原一而復濟者、有レ如二大江一。

【中流厎柱】817 チユウリウノシチユウ 困難に逢つても、節義を守つて屈せぬこと。厎は一に砥に作る。厎柱は、河南省河南府陝州の東、黃河の中にある小山で、其の形は柱に似、黃河中にあつて毫も搖動せぬから喩へたもの。〔書、禹貢〕厎柱析城。〔傳〕厎柱、山名、在二河水中一。〔丁鶴年、自詠詩〕長淮橫潰禍非レ輕、坐見中流砥柱傾。〔日知錄、藝文、朱子晚年定論〕困知之記、學蔀之編、固今日中流之砥柱矣。〔通俗編、地理、中流砥柱〕水經注、禹破レ山以通レ河、河水分流、包レ山而過、山見二水中一、若レ柱然、故曰二砥柱一也。

【中留】818 チユウリウ 縣名。漢、置く。今、廣西省武宣縣。〔漢書、地理志下〕鬱林郡、縣十二、中留。

【中廇】819 チユウリウ 中霤に同じ。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕刜二讒賊於中廇一兮。〔注〕中廇、室中央也、廇、一作レ霤。

【中霤】820 チユウリウ 古代の五祀の一。中霤は、室の中央のことで、穴居の時代には、上に窓をあけて明を採つたから、雨が降ると霤アマダレが其所から落ちたので、霤を室の義に用ひ、古代、卿大夫の家では、土神を此處に祀る。故に其の祀を中霤といふ。〔釋名、釋宮室〕中央曰二中霤一、古者寢穴、後室之霤、當二今之棟下一、直二室之中一、古者霤下之處也。〔禮、檀弓上〕掘二中霤一而浴。〔疏〕中霤、室中也。〔禮、月令〕其祀中霤。〔注〕中霤、猶二中室一也、土主二中央一而神在レ室。〔禮、郊特牲〕家主二中霤一而國主レ社。〔注〕中霤亦土神也。〔禮、祭法〕諸侯爲レ國立二五祀一、曰、司命、曰、中霤、曰、國門、曰、國行、曰、公厲、諸侯自爲立二五祀一。〔公羊、哀、六〕使下力士擧二巨囊一、而至中於中霤上。〔疏〕中央曰二中霤一、解云、按、月令、中央土、云二其祀中霤一、鄭注云、中霤、猶二中室一也、古者複穴、是以名レ室爲レ霤云、庾蔚云、複、地上累レ土、穴、則穿レ地也、複穴、皆開二其上一取レ明、故雨霤レ之、是以、因名二中室一爲二中霤一也、故此傳云二中霤一。〔獨斷〕季夏、土氣始盛、其祀二中霤一、霤神在レ室、祀二中霤一、設二主於牖下一。〔白虎通、五祀〕六月祭二中霤一、中霤者、象三土在二中央一也。

【中立】821 チユウリツ ㊀中正獨立の義。かたよらぬこと。中立不レ倚を見よ。㊁中間に立つて歸するところがない。〔韓非子、外儲說右下〕民中立而不レ知レ所レ由、此亦聖人之所二爲泣一也。㊂兩者の中間にあつて、何れへも加勢せぬ。局外中立。〔戰國、齊策〕楚將レ伐レ齊、魯親レ之、齊王患レ之、張丐曰、臣請、令二魯中立一。〔史記、田儋傳〕田橫亡走レ梁、歸二彭越一、彭越是時居二梁地一、中立、且爲レ漢、且爲レ楚。〔宋史、胡宏傳〕有乙依二隨兩端一、欲甲以二中立一自免上者。㊃天下の中に居ること。〔大戴禮、保傳〕成王中立而聽レ朝、則四聖維レ之。〔喩鍊、仙掌賦〕吾聞、太華中立、黃河西流。㊄獨立して、人に服しない。〔史記、大宛傳〕昆莫乃率二其眾一、遠徙中立、不三肯朝二會匈奴一。㊅字號。㋑唐、裴度(10－34362・・81)の字。㋺宋、曹靖(5－14297・・129)の字。㋩宋、徐經孫(4－10110・・398)の字。㋥宋、楊時(6－15112・・184)の字。㋭明、仇敬(1－355・・20)の字。㋬明、陶凱(11－41705・・30)の字。㋣明、湯三才(7－17874・・169)の字。㋠清、陳卓(11－41698・・453)の字。

【中立區】822 チユウリツク 中立地帶に同じ。

【中立國】823 チユウリツコク 條約に基づいて戰爭に關係せぬ國。局外中立國、又は永世中立國をいふ。

【中立級數】824 チユウリツキフスウ 不定級數(1－19・・777)に同じ。

【中立地帶】825 チユウリツチタイ 平時に於て、要塞の建造、又は兵の駐在を禁止せられた地帶。又、平時に於て、二國の兵力が對峙して衝突の起りさうな時、これを避ける爲に、相互に侵入しないことを約定した區域。又、戰時に於て、交戰國の軍隊の中間に指定して、相互に兵力を入れないことを協定した一定の地域。

【中立法規】826 チユウリツハフキ 法律用語。局外中立に關する國際法上の規定の汎稱。

【中立不レ倚】827 チユウリツシテカタヨラズ 中立して片寄らない。不偏不黨。〔中庸〕中立而不レ倚、強哉矯。〔疏〕中正獨立、而不二偏倚一。

【中率】828 チユウリツ 比例中項(6－16743・・189′)に同じ。

【中梁】829 チユウリヤウ ㊀中のはり。中の柱。〔元史、天文志〕中梁之上、有二戲珠龍一二、隨レ珠俛仰、又可レ察二準水之均調一。㊁複姓。〔通志、氏族略、複姓〕姓氏英賢傳、古隱者、中梁之後。

【中略】830 チユウリヤク ㊀中等の策略。〔三略、中略〕中略差二德行一、審二權變一。㊁兵學の書、三略の篇名。㊂中間の文句を略すること。

【中呂】831 チユウリヨ 音調の十二律の一。月に配當すれば四月となるので、轉じて、陰曆四月の異名に用ひる。仲呂(1－403・・453)を見よ。〔禮、月令〕孟夏之月、律中二中呂一。〔注〕孟夏氣至、則中呂之律應、中呂者、無射之所レ生、三分益レ一、律長、六寸萬九千六百八十三分寸之萬二千九百七

十四。

〖中呂宮〗832 チュウリョキュウ 唐代の雅樂に於ける、宮聲七調の一。〔唐書、禮樂志十二〕正宮・高宮・中呂宮・道調宮・南呂宮・仙呂宮・黃鍾宮爲二七宮一。〔樂府雜錄〕宮七調、第三運、中呂宮。〔宋史、律歷志四〕夾鐘之宮、爲二中呂宮一。〔燕樂考原〕七宮第三運、卽按、琵琶大弦之第三聲、云云、中呂宮卽琵琶之一字調、故殺聲用二一字一。

〖中呂調〗833 チュウリョテウ 唐代の雅樂に於ける、羽聲七調の一。〔唐書、禮樂志十二〕中呂調・正平調・高平調・仙呂調・黃鐘羽・般涉調・高般涉爲二七羽一。〔樂府雜錄〕羽七調、第一運、中呂調。〔宋史、律歷志四〕黃鐘羽、爲二中呂調一。〔碧雞漫志〕夾鐘羽、卽俗呼二中呂調一。〔燕樂考原〕七羽之第一運、卽琵琶四弦之第三聲、云云、南宋燕樂、七羽一均、亦用二黃鐘以下七律一、此調居二第三一、當二夾鐘之位一、故碧雞漫志、以二中呂調一爲二夾鐘羽一也。

【中陵】834 チュウリョウ ❶岡の中。陵中に同じ。陵は岡。〔詩、小雅、菁菁者莪〕菁菁者莪、在二彼中陵一。〔傳〕中陵、陵中也。〔管子、地員〕中陵十五施。❷縣名。山西省平魯縣の北。〔漢書、地理志下〕鴈門郡、縣十四、中陵。

〖中陵子〗835 チュウリョウシ 宋、王嗣宗(7－20823‥1598)の號。

【中林】836 チュウリン ❶林の中。林中(6－14551‥184)に同じ。〔詩、周南、兔罝〕肅肅兔罝、施二于中林一。〔傳〕中林、林中。〔左思、吳都賦〕經二扶桑之中林一。〔元好問、自二鄧州幕府一暫歸二秋林一詩〕升斗微官不レ療レ飢、中林春雨蕨芽肥。❷清、吳廷華(2－3365‥789)の字。

【中壘】837 チュウルイ ❶官名。中壘令・中壘丞・中壘尉など有り。㋑漢代の執金吾の屬官。〔漢書、百官公卿表上〕武帝太初元年、更二名執金吾一、屬官有二中壘・寺互・武庫・都船四令丞一。㋺校尉の一。北軍の壘門の中、及び西域のことを掌る。〔漢書、百官公卿表上〕都船・武庫有二三丞一・中壘兩尉一。〔漢書、劉向傳〕以レ向爲二中壘校尉一。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕劉向爲二中壘校尉一、支孫氏レ焉。

〖中壘校尉〗838 チュウルイカウヰ 漢、劉向(2－2224‥174)をいふ。

【中令】839 チュウレイ 官名。中書令(457)の略稱。〔續晉陽秋〕王獻之爲二中令一、獻之少而標邁、不レ尋常一、貫爲二一時風流之冠一、獻之卒、以二王珉一爲二中書令一、世謂二之大王令・小王令一也。

【中泠】840 チュウレイ 泉の名。江蘇省鎭江縣の西北。中泠泉(896)を見よ。〔中朝故事〕李德裕居二廟廊一日、有三親知奉二使於京口一、李曰、還日、金山下、揚子江中泠水、取二一壺一來。

【中禮】841 チュウレイ 中和の禮。〔周禮、春官、大宗伯〕以二天產一作二陰德一、以二中禮一防レ之。〔疏〕禮言レ中者、凡人奢則僭レ上、儉則逼レ下、禮所三以制レ中、使二不レ奢不一レ逼、故以レ禮爲レ中也。

【中髎】842 チュウレウ 經穴の名。第三薦骨假棘狀突起の直上、外方約七分、第三後薦骨孔部にある。

【中曆】843 chung¹ li⁴ 中國曆。以前は陰曆を用ひ、今は陽曆を用ふ。

【中路】844 チュウロ ❶途中。中道。半途。〔列子、湯問〕二人交射二中路一、矢鋒相觸。〔漢書、司馬相如傳下〕淸レ道而後行、中路而馳。〔阮籍、詠懷詩〕黃鵠遊二四海一、中路將二安歸一。〔張蠙、送三董卿赴二台州一詩〕家從二中路一挈、吏隔二數州一迎。〔方干、送三友及第歸二淛東一詩〕吳山中路斷、淛水半江分。❷chung¹ lu⁴ ㋑中等。㋺中央の軍隊。

【中盧】845 チュウロ 縣名。盧、一に廬に作る。漢、置く。古の淛戎の地。故城は、湖北省襄陽縣の西南。〔左氏、文、十四〕盧戢黎及二叔麋一誘レ之遂殺二鬭克及二公子燮一。〔注〕盧、今襄陽中盧縣。〔元和志〕中盧、秦時謂二之伊盧一、項羽亡將鍾離昧、家在二伊盧一、是也。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、南漳縣〕中盧城、春秋時盧戎國、又楚之盧邑也、左傳文十八年、楚伐レ庸、自レ盧以往、卽此、漢置二中盧縣一、屬二南郡一。

【中櫓】846 チュウロ 餘り大きくないやぐら。〔墨子、備穴〕爲二中櫓一。

【中露】847 チュウロ 露の中。露に濡れて難儀をする意。一說に、地名。〔詩、邶風、式微〕微二君之故一、胡爲二乎中露一。〔傳〕中露、衞邑也。〔集傳〕中露、露中也。

【中肋】848 チュウロク 葉の中央を縱に走る太い葉脈。

【中麓】849 チュウロク 明、李開先(章丘の人)(6－14459‥927)の號。

【中論】850 チュウロン 書名。❶二卷。後漢、徐幹撰。其の論ずるところは、義理を明かにし、本を經訓に原ね、之を聖賢の道に歸す。其の目は、治學・法象・修本・虛道・貴驗・貴言・藝紀・覈辨・智行・爵祿・考僞・譴交・歷數・論天壽・務本・審大臣・愼所從・亡國・賞罰・民數の二十篇。〔四庫提要、子、儒家類〕。❷佛龍樹作。青目釋。姚秦の鳩摩羅什譯。中道の要旨を述べた書。古來、三論の一として尊重せらる。中觀論(206)に同じ。

【中峠】851 ナカビヤウ 下總國の地名。

【惠レ中】852 ウチニケイアリ 賢明で氣が利くこと。〔韓愈、送二李愿歸二盤谷一序〕曲眉豐頰、淸聲而便體、秀レ外而惠レ中。

【協レ中】853 チュウニカナフ 中道に當る。公平に行はれる。〔書、大禹謨〕刑期二于無一レ刑、民協二于中一。〔精註雅俗故事讀本、下、訟獄〕皐陶以二明允一而協レ中。

【就レ中】854 ナカンヅク 多くの中で。中でも。〔白居易、琵琶行〕就レ中泣下誰最多、江州司馬靑衫濕。

【執レ中】855 チュウヲトル 中正の道を執り守る。天子たる者の執政の方針をいふ。〔書、大禹謨〕人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執二厥中一。〔論語、堯曰〕堯曰、咨、爾舜、天之曆數在二爾躬一、允執二其中一。〔集注〕中者、無二過不及一之名。

〖執レ中含レ和〗856 チュウヲトリワヲフクム 人の守るべき中和の達道を心にとりもつて、身に行ふ。〔淮南子、泰族訓〕聖人云云、執レ中含レ和、不レ下二廟堂一而衍二四海一。

【處レ中】857 チュウニヲル 正しい道に身を置くこと。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕君秉二國之均一、正レ色處レ中。〔注〕濟曰、處レ中、處二大中之道一也。

【得レ中】858 チュウヲウ ❶易の六爻の二と五とに當ること。〔易、同人〕柔得レ位得レ中、而應二乎乾一。❷宜しきを得てゐる。〔傅玄、筆賦〕豐約得レ中、不レ文不レ質。〔曹植、洛神賦〕穠纖得レ中、修短合レ度。

【中渭橋】859 チュウヰケウ 渭水にかけた三橋中の、中の橋。〔史記、張釋之傳〕上行出二中渭橋一。〔注〕索隱曰、案、今渭橋有二三所一、一所在二城西北咸陽路一、曰二西渭橋一、一所在二東北高陵道一、曰二東渭橋一、其中渭橋、在二古城之北一也。

【中印度】860 チュウインド 中天竺。中竺。〔大唐西域記、四、秣底補羅國〕世親曰、我衰耄矣、莫三能持レ論、欲下以二一言一頹中其異執上、引至二中印度一、對二諸髦彥一、察二乎眞僞一。

【中謁者】861 チュウエツシヤ 官名。宦官をいふ。內官。〔史記、灌嬰傳〕沛公立爲二漢王一、拜レ嬰爲二郎中一、從入二漢中一、十月拜爲二中謁者一。

【中距離】862 チュウキヨリ 軍事用語。步兵銃の射程一千米以內、野砲では三千米以內をいふ。

〖中距離競走〗863 チュウキヨリキヤウソウ 四百米・八百米・千五百米の各競走の總稱。

【中御門】864 ナカミカド 人皇第百十四代の帝諡。〔光榮公記〕元文二年四月二十四日、右府(一條兼香)云、御院號、每度攝家勘進也、云云、內內中御門院御治定也。

【中果皮】865 チュウクワヒ 果實の肉質の部分。

【中關白】866 ナカノクワンパク 藤原道隆をいふ。父兼家、弟道長が前後に關白であつたからいふ。

【中甄官】867 チュウケンクワン 官名。漢代に置く。塼石瓷瓦を營むことを掌る。〔海錄碎事、臣職、雜官〕漢有二前後中甄官一、掌レ營二塼石瓷瓦一。

【中後所】868 チュウゴシヨ 地名。滿洲熱河省綏中縣治。奉山鐵道の北に當る。濟爾哈朗と阿濟格とが明兵と戰つた所。

【中執法】869 チュウシツパフ 官名。御史中丞(4－10157‥136)の異稱。〔吳志、是儀傳〕拜二侍中中執法一、平二諸官事一、領二辭訟一如レ舊。〔稱謂錄、都御史古稱、中執法〕案、中執法始二於漢一、高帝時詔勅、賢良御史大夫下二相國一、相國下二諸侯王一、御史中執法下二郡守一、是也、晉灼注、所謂中執法、乃中丞也。

【中匠令】870 チュウシヤウレイ 內匠頭(1－1418‥262)の唐名。〔職原抄〕內匠寮、頭一人、唐名、少府監、或中匠令。

【中常侍】871 チュウジヤウジ 官名。禁中に出入して、常に帝の左右に侍する職。中常侍散騎。常侍(4－8955‥141)を見よ。〔通典、職官典、侍中〕散騎常侍、自レ秦置二散騎一、又置二中常侍散騎一並二乘輿一、後中常侍得レ入二禁中一、皆無レ員、漢因レ之、並加官、散騎有二常侍・侍郎一、與二侍中・黃門侍郎一、後漢

中、初省二散騎一、而中常侍、改用二宦者一、魏文帝黃初初、置二散騎一、合二於中常侍一、謂二之散騎常侍一、後用二士人一。

【中庶子】872 チユウショシ 官名。詹事府(10－35458‥16)、又は庶子(4－9373‥36)を見よ。〔戰國、韓策〕中庶子強、謂二太子一曰、不レ若下及二齊師未一レ入、急擊中公叔上。〔注〕庶子、本周官、秦置二中庶子一。〔史記、扁鵲傳〕問二中庶子喜レ方者一曰、太子何病。〔注〕正義曰、中庶子、古官號也。

【中色筆】873 chung^1 sê^4 pi^3 大文字を書くに用ひる筆の一種。

【中津神】874 ナカツカミ 八將神の一なる豹尾神の一名。中央に位することからいふ。豹の古稱。〔倭名類聚抄、毛群部、獸名〕豹、奈賀津加美、似レ虎而圓文者也。

【中神谷】875 ナカカベヤ 磐城國の地名。

【中新世】876 チユウシンセイ 地質時代の一。第三紀中の一時代。漸新世と鮮新世との間に插まるもの。此の時代に堆積した地層を、中新統といふ。

【中新統】877 チユウシントウ 中新世を見よ。

【中垂線】878 チユウスイセン 有限直線に垂直に交はり、且之を二等分する直線。垂直二等分線。

【中生界】879 チユウセイカイ 中生時代に屬する地層系統。平均三千米位の厚さの累層をなし、岩石は主として礫岩・砂岩・粘板岩・石灰岩等の水成岩質より成る。

【中生代】880 チユウセイダイ 地質時代の、古生代と新生代との中間の時代。三疊紀・ジユラ紀・白堊紀の三期に分つ。

【中設樂】881 ナカシダラ 三河國の地名。

【中選者】882 チユウセンシヤ 當選者。

【中前所】883 チユウゼンシヨ 地名。滿洲熱河省綏中縣の西南。今、奉山鐵道の通過地。

【中大人】884 チユウタイジン ❶宮婢の年をとつたもの。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕其耆宿者、皆稱二中大人一。❷chung^1 ta^4 jen^2 としより。

【中大通】885 チユウタイツウ 梁、武帝(蕭衍)の年號。(529－534)

【中大同】886 チユウタイドウ 梁、武帝(蕭衍)の年號。(546－547)

【中大夫】887 チユウタイフ 官名。❶大夫(3－5831‥1995)及び文官官秩(5－13450‥247)を見よ。〔韓非子、外儲說左上〕我將レ爲二中大夫一。〔韓非子、外儲說左下〕晉國之法、上大夫二輿二乘、中大夫二輿一乘、下大夫專乘。〔史記、張釋之傳〕文帝由レ是奇二釋之一、拜爲二中大夫一。〔事物紀原、勳階寄祿部、中大〕中大夫亦秦置、爲二光祿勳屬官一、前漢文紀、後元五年、有二中大夫令免一、漢書載、趙中大夫白公、引レ涇爲レ渠。❷從四位下の唐名。〔職原抄〕從四位下、唐名、中大夫。

【中太僕】888 チユウタイボク 官名。僕の長。皇太后の輿馬を掌る。〔漢書、百官公卿表〕中太僕、掌二皇太后輿馬一、不二常置一也。

【中納言】889 チユウナゴン ❶官名。持統天皇の朝に設く。簾中に侍して政務の機密を獻替するを掌る。文武天皇の時、廢す。〔續日本紀、二〕大寶元年三月甲午、是日罷二中納言官一。❷太政官の屬官。內宣奏下のことを掌る。なかのものまうすつかさ。唐名は納言。〔續日本紀、三〕慶雲二年四月丙寅、宜下廢二省二員一爲二定兩人一、更置二中納言三人一、以補中大納言不足上。〔太政官式〕凡庶務申二太政官一、若大臣不レ臣者、申二中納言以上一。〔職原抄〕中納言、唐名、納言。

【中內記】890 チユウナイキ 令制、中務省の被官。內記の一。大內記と同じく、詔勅宣命を作り、位記を書く職。〔職員令〕中務省、中內記、二人。

【中二階】891 チユウニカイ ❶普通の二階より低く平屋の床カより高く構へた二階。〔五人女、五〕左の方に中二階。❷女形に扮する役者をいふ。其の部屋が中二階に在つたから名づく。〔浮世床、二下〕中二階は大和屋に紀の國屋。

【中壩子】892 チユウハシ 地名。四川省城口縣の西。

【中芳養】893 ナカハヤ 紀伊國の地名。

【中布利】894 ナカフリ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【中律師】895 チユウリツシ 僧官。律師の一。大律師の次位。〔續日本紀、二十七〕天平神護二年七月乙丑、以二中律師圓興一爲二大僧都一。

【中冷泉】896 チユウレイセン 泉の名。江蘇省丹徒縣の西北、石山簰の東。又、中零・中檽・中灃・中濡とも書く。他に南冷・北冷があつて、昔、三灃と稱した。此の泉水は茶に宜しく、就中、中冷を稱して第一泉といふ。唐の李德裕が、人を遣はして中零の水を取らしめたのは、卽ちこれである。〔陸游、將レ至二京口一詩〕銅缾愁汲中濡水、不レ見茶山九十翁。

【中王村】897 チユウワウソン 村の名。河南省濟源縣の東南。もと鍾公村に作る。

【中亞細亞】898 チユウアジア 西比利亞の西南からカスピ海に連なる一大內陸地域をいふ。中央亞細亞。Central Asia

【中恪先生】899 チユウカクセンセイ 明、全良範(1－1424‥229)の尊稱。

【中議大夫】900 チユウギタイフ 金代の官名。吏部に屬す。中憲大夫(243)を見よ。

【中扃外閉】901 チユウケイグワイヘイ 心中の欲を外に出さず、外部の惡を心中に入れぬこと。かくすれば、萬事節度を得て成功するといふ。扃はとざすこと。〔文子、上仁〕中欲不レ出、謂二之扃一、外邪不レ入、謂二之閉一、中扃外閉、何事不レ節、外閉中扃、何事不レ成。

【中橋居士】902 チユウケウコジ 宋、吳敏(2－3365‥363)の號。

【中車府令】903 チユウシヤフレイ 秦の官名。乘輿路車を掌る。車府令。〔許愼、說文敍〕中車府令趙高、作二爰歷篇一。

【中順大夫】904 チユウジユンタイフ 金代の官名。吏部に屬す。中憲大夫(243)を見よ。

【中寢諸子】905 チユウシンシヨシ 婦官。〔管子、侈靡〕高子聞レ之、以告二中寢諸子一。〔纂詁〕中寢諸子、婦官也、戒篇作二中婦諸子一。

【中井柚園】906 ナカヰイウエン 大阪の人。履軒の第七子。名は環。字は君玉。號は柚園。通稱は菊次郎・雄右衞門。家學を受け、水哉館教授となる。天保五年に歿す。年四十。著に柚園數記・柚園先生首書古文眞寶前後集・雌伏見聞誌・紫蘭叢・柚園先生首書小學・小說類集・文馬篇がある。〔水哉館遺編目錄〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【中井乾齋】907 ナカヰケンサイ 三河の人。名は豐民。字は子來。號は乾齋。通稱は準之助・隆益。大田錦城に學び、吉田藩儒となる。著に韻府一隅・淵海撮要・孝經纂義・學流淵源・繫辭新論・乾齋詩草・乾齋文草・五經說叢・古今字例考・古今絕句所見集・同後集・古今文話・莊子集覽・左氏比玉・三史辨疑・三傳就正錄・三餘贅筆・三禮問答・周易象原・周易晰義・周易比例考補・詩集義・四書會要・春秋綜義・書畫摘要・書參義・孫子特解・大學正義・中庸本義・讀書大旨・南窓瑣言・日本史蒙求・文藻階梯・孟子精義・明善堂劄記・明善堂偶筆・老子詳解・論語辨義・和漢棘下合旨がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【中井甃庵】908 ナカヰシウアン 播磨龍野の人。名は誠之。字は叔貴。號は甃庵。通稱は四郞・忠藏。私諡は貽範先生。三宅石庵に學び程朱を宗とす。寶曆八年に歿す。年六十六。著に貽範先生遺集・五孝子傳・甃庵雜記・喪祭私說・不問語・春のことば・富貴村良農事狀・和文集がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【中井碩果】909 ナカヰセキクワ 大阪の人。竹山の第七子で仙坡の弟。名は曾縮。字は士反。號は碩果・石窩・抑樓。通稱は七郞。家學を受け、懷德堂教授となる。天保十一年に歿す。年七十。著に校定盤庚篇・左傳私說・箎集がある。〔大阪名家著述目錄〕。

【中井仙坡】910 ナカヰセンパ 大阪の人。竹山の第四子。名は曾弘。字は伯毅。號は仙坡・介庵・蕉園・南吳子。通稱は淵藏。家學を受けて懷德堂學主となる。最も詞賦文章に長じ、賴山陽に文妖と稱せらる。享和三年に歿す。年三十七。著に江戶行日記・炎窓代睡・甲越外史・杞憂漫言・壎集・四時雜詩・春秋傳考索・津問・仙坡遺稿・仙坡彫蟲(一名、一夜十賦)・天橋遊記・驑碧囊がある。〔大阪名家著述目錄〕。

【中井竹山】911 ナカヰチクザン 大阪の人。名は積善。字は子慶。通稱は善太。號は竹山・同關子・渫翁・雲翁。履軒の兄。經學は程朱を尊崇したが、別に一家言を建て、大阪懷德書院長となつて專ら子弟の教育に從事す。文化元年二月二日歿す。年七十五。著に遊芳山記・逸史・逸史問答・易說・易斷・大阪風俗志・革島物語・閑居餘筆・柬稽・希

簡錄・近思錄斷・建學私議・國字牘・災後蕘言・祭祀私議・喪祭私說集注・草茅危言・草茅對問・左傳比事蹄・子華子行狀・四書斷・詩斷・稱謂問目書・詩律兆(同餘考附錄共)・新題百首詩・西岡集・西上稿・淸平調・大學定本・唐鑑雕題・龍野稿婦記錄・中庸定本・竹山答猪飼氏書・國字牘附錄・竹山文集・淀陰志・奠陰集・奠陰自言・奠陰集・奠陰詩話・淀陰存稿・奠陰略稿・東征稿・非徵・本游錄志・武彙・文矱・蒙養編・萬葉假名淀陰志・民間さとし草・養子私議・芳原物語・續芳原物語・洛陽志等がある。〔近世叢語、續、三〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【中井董堂】912 ナカヰトウダウ 江戸の人。名は敬義。字は伯直。號は董堂・春星・小笠山樵・宜松老人。私諡は文載先生。山本北山に學び、詩・書に巧。文政四年に歿す。年六十四。著に小笠山房詩鈔・春星閑話がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【中井履軒】913 ナカヰリケン 大阪の人。名は積德。字は處叔。通稱は德二。號は履軒。諡は文淸先生。經學は折衷を主とし、大阪懷德堂書院に於て子弟の教育に從事す。文化十四年二月十五日歿す。年八十六。從四位を贈らる。著には足利史草本・可惜談・有間星・履軒先生雕題伊勢物語・越俎弄筆・諧韻瑚璉・考定伏生尙書・神樂催馬樂・我儕吾話・河圖累碁・履軒先生雕題漢書・簡諒篇・均田茅議・畫鱅・華胥國歌合・華胥國囈語・華胥國新曆・華胥國物がたり・經界圖・繼聲篇・後聖空議・履軒先生雕題後漢書・壺議・履軒先生雕題古今和歌集・履軒先生雕題國語・こころひと言・古今二徵・履軒先生雕題五代史・古都多飛・履軒先生雕題古文眞寶前後集・詁辨・再嫁茅議・履軒先生雕題莊子・左九羅帖・履軒先生雕題三國志・修辭通・秋露・しがらみの記・履軒先生雕題史記・附削柿・履軒先生雕題詩經名物辨解・七經雕題(學庸雕題・左氏雕題・詩雕題・幷附卷・周易雕題・幷附卷・尙書雕題・幷附言・孟子雕題・禮雕題・論語雕題)・七經雕題略(易雕題略・左氏雕題略・詩雕題略・尙書雕題略・中庸雕題略・孟子雕題略・禮雕題略・論語雕題略)・七經逢原(古詩古色・古詩得所編・古詩逢原・左傳逢原・周易逢原・尙書逢原・大學雜議・中庸逢原・孟子逢原・論語逢原)・攘斥茅議・常言・恤刑茅議・述龍篇・浚河茅議・深衣圖解・履軒先生雕題晉書・水哉館集・水哉子・穗篇・姓氏斷・履軒先生雕題世說新語補・井田圖考・制度通・履軒先生雕題小學・昔昔春秋・絕句逢原・先友小史・履軒先生雕題戰國策・屬辭連珠左傳年表合本・履軒先生雕題楚辭・刀甲辨・唐詩選國字解(五絕之部)・中庸天樂樓定本・治水闊論・履軒先生雕題茶經・枕上雜題・通語・朝野紀事・履軒先生雕題天經或問・典謨接・傳疑小史・傳習錄雕題略・東遊紀行・東西周辨・履軒先生雕題度量衡考・度量衡提要・履軒先生考定梅賾古文尙書・茅議雜篇・放言・百首贅贅・風懷百首・服忌圖・履軒先生傍注伏生尙書・弊帚季編・弊帚集刪、弊帚全集、弊帚續編・辨妄・寶曆測量圖・履軒先生雕題毛詩品物圖攷・昔の旅・破腹卷記・履軒先生雕題大和本草・夢路歌枕歌・履軒先生雕題老子・老婆心・洛汭奚囊・六書要語・六仙微放言・履軒越吟・履軒臥友・履軒外集(月可錄・年成錄)・履軒古韵・履軒古風・履軒襍說彙編・履軒數聞・履軒髦言・履軒弊帚・和文集・和漢年表(內外篇)等がある。〔近世叢語、續〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔水哉館遺編目錄〕・〔大阪名家著述目錄〕。

【中沼葵園】914 ナカヌマキヱン 隱岐の人。名は了三。字は之舜。號は葵園。梶井宮內漢學所講となり、後、昌平學校一等教授に任ぜらる。病を得て退いてからは、京都に帷を垂れて子弟を教授す。特旨敍正六位。明治二十九年歿す。年六十七。大正四年、正五位を贈らる。〔報効志士人名錄〕。

【中千世界】915 チユウセンセカイ 佛三千世界の中位の世界で、小千世界の千倍、大千世界の千分の一にあたる。〔智度論、七〕。

【中二千石】916 チユウニセンセキ 二千石に充つる義で、まる二千石の俸給を得る官をいふ。中は滿。漢の制度は、諸官の階級を石であらはした。〔史記、儒林傳〕乃擇㆓掌故㆒補㆓中二千石屬㆒。〔漢書、宣帝紀〕黃霸以㆓治行尤異㆒、秩中二千石。〔注〕師古曰、漢制、秩二千石者、一歲得㆓一千四百四十石㆒、實不㆑滿㆓二千石㆒也、其云㆓中二千石㆒者、一歲得㆓二千一百六十石㆒、擧㆓成數㆒言㆑之、故曰㆓中二千石㆒、中者、滿也。

【中壩土司】917 チユウハドシ 土司の名。青海の南境。西蕃四十族の中の上下隆壩二族。隆壩は今、中壩と稱す。上隆壩は卽ち今の中壩牧馬族、下隆壩は卽ち今の中壩得馬族。

【中岕和谷】918 ナカハグワダニ 美作國の地名。

【中岕和畝】919 ナカハグワウネ 美作國の地名。

【宅㆑中圖㆑大】920 チユウニヲリテダイヲハカル 土地の中央に居て、大きく構へること。〔張衡、東京賦〕彼偏據而規小、豈如㆓宅㆑中而圖㆑大。〔舊唐書、音樂志三〕至哉樞紐、宅㆑中圖㆑大。

【弸㆑中彪㆑外】921 ウチニミチテソトニアラハル 學德などが中に滿ちて外に見はれること。〔法言、君子〕君子言則成㆑文、動則成㆑德、何以也、曰、以㆓其弸㆑中而彪㆑外也。

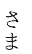
【中亞美利加】922 チユウアメリカ 北亞米利加大陸の一部で、南亞米利加に連結する地狹部をいふ。中央亞米利加。

【雖㆑不㆑中不㆑遠矣】923 アタラズトイヘドモトホカラズ 殆んどそれに近い。九分通りあたること。〔大學〕心誠求㆑之、雖㆑不㆑中不㆑遠矣。

【誠㆓於中㆒形㆓於外㆒】924 ウチニマコトアレバソトニアラハル 心の中に誠があれば、必ず外形にあらはれる。〔大學〕此謂㆘誠㆓於中㆒形㆗於外㆖故君子必愼㆓其獨㆒也。

【丮】74

ケキ キヤク 〔集韻〕訖逆切 陌。

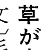

小篆

もつ。とる。人が手に物を持つさま。〔說文〕丮、持也、象㆘手有㆑所㆓丮據㆒也、讀若㆑戟。

解字 象形。手に物をにぎり持つ形に象る。其の外側はこぶしの形に象る。〔說文、丮、象㆓手有㆑所㆓丮據㆒也、段注〕外象㆓拳握形㆒。

【丯】75

カイ 〔集韻〕居拜切 卦。


小篆

草が生じて散亂するさま。〔說文〕丯、艸蔡也、象㆓艸生之散亂㆒也、讀若㆑介。

解字 象形。縱畫は道路に象り、橫の三畫は草が亂生して道をふさぐ形に象る。〔說文、丯、段注〕中直象㆑道、彡象㆑苐。

參考 丰(1―76)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、丰、音鋒、豐夆邦等從㆑此。丯、音害、耒耕害憲等字从㆑此。

【丰】76

一 ホウ フ 〔集韻〕敷容切 ㄈㄥ fēng 冬。

二 フウ ブ 〔集韻〕符風切 東。

慣 ボウ

小篆

一二 ❶**草の盛に茂るさま**。もと丯(4―7831)に作る。〔正字通〕丰、篆作㆑丯。〔說文〕丰、艸盛丰丰也、从㆑生上下達也。❷**みめよい**。おもぶくれ。妦(3―6108)に通ず。〔詩、鄭風、丰〕子之丰兮、俟㆓我乎巷㆒兮。〔傳〕丰、豐滿也。〔釋文〕丰、面貌豐滿也。〔詩、鄭風、丰序、丰刺㆑亂也、釋文〕丰、方言作㆑妦。❸**きざはし**。〔廣雅、釋宮〕丰、階也。❹或は莑(9―30722)に作る。〔集韻〕丰、或作㆓莑丰㆒。❺風(12―43756)に通ず。〔辭海〕丰、風神・風姿・風采等之風亦作㆑丰。❻詩經、鄭風の篇名。婚姻の亂れたことを刺つた詩。〔詩、鄭風、丰序〕丰、刺㆑亂也、昏姻之道缺、陽倡而陰不㆑和、男行而女不㆑隨。❼臺灣語「豐」の慣用字。

解字 指事。生の字の縱畫を延長して、上體の盛なものは根が必ず深く強い意を示す。〔說文、丰、从㆑生上下達也、段注〕上盛者、根必深。▽丯

（金文）象形。草木のよく茂つたさまに象る。

參考 丰(1—75)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕丰、音鋒、豐夆邦等從レ此。丰、音害、耒耕害憲等字从レ此。

【丰韻】1 ❶風采。〔長生殿、禊游〕身段村、喬丰韻、更堪レ憐芳草沾レ裙。❷fêng¹ yün⁴ 美しい音。美音。

【丰雅】2 fêng¹ ya³ 風采の風流な。立派な風采。

【丰儀】3 美しい容貌。風儀(12—43756‥104)を見よ。

【丰儀貴重】4 風采が立派で氣品があり、重みの具はつてゐること。〔鹽谷簣山、山鹿素行傳〕正雪丰儀貴重、頗有二威望一。

【丰采】5 美しいやうす。風采(12—43756‥203)を見よ。丰韻。丰貌。〔王嬙、上二漢元帝一書〕丰采應レ憐二於御輦一。〔國朝漢學師承記、朱筠〕天下士仰二慕丰采一、望二風景附一、有レ如レ此。

【丰姿】6 やうすがよい。又、其の風采。丰容。〔高啓、詩〕莫下把二丰姿一比中楊柳上。〔長生殿、定情〕德性温和、丰姿秀麗。

【丰秀】7 fêng¹ hsiu⁴ 風采の立派な。

【丰茸】8 多く盛なさま。〔司馬相如、長門賦〕羅二丰茸之游樹一兮。〔注〕善曰、丰茸、衆飾貌、良曰、丰茸、衆杜貌。〔何中、寄二題疏山寺禪房一詩〕丰茸沙草取二幽徑一。

【丰神】9 うつくしい容態。又、堂々たる風采。〔長生殿、禊游〕回レ瞬、絕代丰神。

【丰度】10 立派な態度。

【丰貌】11 fêng¹ mao⁴ 丰采(5)に同じ。風貌(12—43756‥418)を見よ。

【丰標】12 やうす。風采(12—43756‥203)に同じ。〔王由道、儒宗賦〕猗歟我公、玉雪丰標。〔長生殿、情悔〕猛想二起我舊丰標一。

【丰容】13 みめよいさま。美好なさま。丰姿。〔謝靈運、於二南山一往二北山一經二湖中一瞻眺詩〕解作竟何感、升長皆丰容。〔注〕善曰、丰容、悅茂貌。〔沈約、少年新婚爲レ之詠詩〕丰容好姿顏。

【丰丰然】14 容貌の豐滿なさま。〔詩、鄭風、丰、箋〕面貌丰丰然、豐滿善人也。

四畫

【丱】77

㊀クヮン 〔集韻〕古患切 諫 ㄍㄨㄢˋ kuan⁴

㊁クヮウ ワウ 〔集韻〕胡猛切 梗

㊀❶あげまき。つのがみ。總角。小兒の髮を束ねて兩の角としたさま。〔字彙〕丱、束レ髮如二兩角一貌。〔詩、齊風、甫田〕總角丱兮。❷いとけない。〔詩、齊風、甫田、總角丱兮、傳〕丱、幼穉也。㊁あらがね。礦(8—24564)の古字。〔集韻〕丱、金玉未レ成レ器也。〔周禮、地官、序官〕丱人。〔注〕丱之言、礦也。〔疏〕釋曰、經所レ云丱、是摠角之丱字。

參考 ❶字形はもと卝に作る、卵(2—2857)の古字。童子・礦の意は其の轉義。卝(2—2777)を見よ。❷字彙は卝と別字といふ。〔字彙、辨似、二字相似〕卝、古猛切、石中金未レ治者、與レ礦同。丱、音慣、束レ髮如二丫角一貌。

【丱角】1 つのがみ。あげまき。轉じて、幼童。〔水經、滱水注〕孌婉丱童、及弱年崽子。〔武紀昀等校〕案、近刻作二孌童丱角、弱年女子一、角字女字、皆後人所レ改。

【丱兮】2 城名。河北省鹽山縣の東北。秦の始皇帝が、徐福を遣はして童男童女千人を發し、海に入つて仙藥を求めさせた時、童男女を僑居せしめた城と傳ふ。一に南皮縣の千童城を丱兮城といふは誤。〔輿地志〕秦始皇遣二徐福一發二童男女千人一、至レ海求レ仙、因築二此城一、居二童男女一、號二丱兮城一、又名二千童城一。

【丱齒】3 幼年をいふ。あげまきをする年輩のもの。〔王勃、四分律宗記序〕筠抱顯二於髫齡一、蘭芬凝二於丱齒一。

【丱女】4 あげまきをした少女。丱角の童女。〔白居易、海漫漫〕不レ見二蓬萊一不二敢歸一、童男丱女舟中老。

【丱童】5 あげまきをしたわらべ。丱角の童子。〔歐陽脩、日本刀歌〕其先徐福詐二秦民一、採レ藥淹留丱童老。

【丫】78

㊀クヮイ ケ 〔集韻〕古買切 蟹

㊁クヮ ケ 〔集韻〕古瓦切 馬

㊂クヮイ ケ 〔集韻〕公懷切 佳

小篆

㊀㊁㊂羊の角。又、羊角の開いたさま。〔說文〕丫、羊角也、象形、讀若レ乖。〔段注〕玉篇曰、丫丫、兩角貌、廣韻曰、丫丫、羊角開貌。

解字 象形。羊の角の開いた形に象る。字解を見よ。

【丫丫】1 羊角の開いたさま。〔玉篇〕丫、丫丫、兩角貌。

【丫角】2 街巷の曲折したところ。町のまがりかど。〔新方言、釋言〕今人謂二街巷曲折之處一爲二丫角一、圭角・乖角亦一語也、俗書作二拐角一。

五畫

【丮】79

チユウ 中(1—73)の籒文。〔字彙補〕丮、籒文中字。

六畫

【串】80

㊀クヮン 〔集韻〕古患切 諫 ㄔㄨㄢˋ ch'uan⁴

㊁グヮン 〔集韻〕五患切 諫

㊂セン 〔正韻〕樞絹切 霰

㊀❶なれる。ならふ。慣(4—11111)に通ず。〔正字通〕串、與レ慣通。〔詩、大雅、皇矣〕串夷載レ路。〔傳〕串、習也。〔荀子、大略〕國法禁レ拾レ遺、惡下民之串中以二無分一得上也。〔注〕串、習也。❷親しみなれる。〔謝惠連、秋懷詩〕聊用布二親串一。〔注〕向曰、串、狎也、言、賦レ詩布二與親狎之人一也。❸摜(5—12591)に同じ。〔集韻〕摜、說文、習也、亦作レ串。㊁ならふ。或は傆(1—940)に作る。〔集韻〕串、爾雅、習也、或作レ傆。㊂❶つらぬく。連ねて貫く。穿つ。穿(8—25436)に通ず。〔正字通〕串、物相連貫也。〔正字通〕串、穿亦作レ串。〔陳樵、臨二花亭一詩〕歌珠一串鶯流出。❷てがた。劵(2—1966)に通ず。〔正字通〕串、與レ劵通、別作レ賗。〔文字指歸〕支二取貨物一之契曰レ賗、今官司倉庫收帖曰二串子一。❸現㋑ぜにさし。くしさす。錢緡。㋺詐欺する。不正の行爲で成功する。㋩結托する。㋥扮裝する。邦くし。肉などを貫いて火にあぶる器。丳字(1—82)の誤用。

參考 丳(1—82)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕串、音釧、貫也、穿也。丳、音產、炙レ肉器。

【串夷】1 常道に習ふ。夷は常。一說に、西戎の國名。〔詩、大雅、皇矣〕帝遷二明德一、串夷載レ路。〔傳〕串、習、夷、常。〔箋〕串夷、卽混夷、西戎國名也。

【串煙】2 ch'uan⁴ yen¹ 線のやうに起ち上る香の煙。〔長生殿、雨夢〕那堪是鳳幃空串煙銷。

【串演】3 ch'uan⁴ yen³ 素人芝居を打つ。

【串好】4 ch'uan⁴ hao³ 姦婬しをはつたこと。

【串客】5 ❶人形使ひ。〔溫州府志〕土俗尙二傀儡之戲一、名曰二串客一。❷狎客。幇閒の徒。〔桃花扇、拒媒〕那些串客表子。

【串狎】6 馴れ合ひになる。〔唐書、鄭覃傳〕覃淸正退約、與レ人未二嘗串狎一。

【串合】7 ch'uan⁴ hê² 共謀する。ぐるになる。

互に氣脈を通ずる。

【串戲】8 クワンギ ㊀歌舞のたはむれ。おどけ。にはか。〔茶香室叢鈔〕彭天錫串戲妙二天下一。〔桃花扇、選優〕就叫二串戲一哩。㊁俳優。〔通俗編、俳優、爨戲〕國朝院本用二五人一般演、謂二之五花爨弄一、今學二般演一者、流俗謂二之串戲一、當二是爨字一。

【串供】9 ch'uan4 kung1 罪人同志が相談の上、罪をのがれようとして口上書を揑造して申立てること。

【串貫】10 センクワン つらぬく。突き通す。貫通する。一貫する。始から終までぶつ通し。

【串換】11 ch'uan4 huan4 取引。

【串計】12 ch'uan4 chi4 共謀する。ぐるになる。

【串月】13 センゲツ 呉の上方山で見る八月十八日の月をいふ。〔聞見偶錄〕。

【串根】14 センコン 書類。かきつけ。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕弔三取流水日收串根與二折封庫簿一。

【串茶】15 クワンサ 唐人の好んだ茶。〔夢溪筆談、雜誌二〕唐人重二串茶粘黑者一、則已近二乎建餅一矣。

【串梭】16 ch'uan4 suo1 橋渡しする。手引きする。北支那の語。

【串殺】17 センサツ 串刺しにして殺すこと。〔日本外史、德川氏正記、德川氏一〕盡串二殺其質一。

【串子】18 センシ ㊀受領證。官廳の錢穀領收書。串は賗の省字。〔正字通〕串、穿絹切、音釧、別作レ賗。〔文字指歸〕支二取貨物一之契曰レ賗、今官司倉庫收帖曰二串子一、賗字之省也。㊁ch'uan4 tzŭ うでわ。〔紅樓夢、二十八回〕我瞧儞的紅麝串子。

【串刺】19 クシザシ ㊀物を串で刺貫くこと。〔萬句合、安永元年〕鳥目を串刺にする亂がしさ。㊁物を串に刺すやうに人などを刺し殺すこと。〔室町千疊敷、五〕芋刺・串刺・滅多突き。㊂梟首すること。獄門。〔倭訓栞、くしざし〕皇代紀に梟を讀めり、梟首を云ふなり。㊃天つ罪の一。串を田の中に多く刺して置いて、人の足を害はしめんとすること。一說に、他人の田を奪つて、自分の田札を立てること。〔祝詞式、大祓〕天津罪、云云、樋放・頻蒔・串刺。

【串柿】20 クシガキ 串に刺貫いて乾した柿の實。〔和漢三才圖會、山果類、柿〕串柿、貫二竹串一乾者也、或貫レ縄乾レ之、共下品也。

【串珠】21 ch'uan4 chu1 參考書。引證。

【串珠茶】22 クワンシユサ 木の名。さざんくわの一種。〔本草、山茶〕集解、時珍曰、格古論云、花有二數種一、云云、宮粉茶・串珠茶、皆粉紅色。

〖串珠花的〗23 ch'uan4 chu1 hua1 ta1 姙婦の腹を割き胎兒の目と腦と胎盤とを取出して、藥を造ることを業とする女。

【串數】24 クワンスウ 狎れてしばしばすること。〔無量壽經〕串數習得。

【串請】25 センセイ 官民請託し、氣脈を通じて不正を爲すこと。〔清律、戶律、田宅、欺二隱田糧一、注〕移レ坵換レ段四句是一事、亦串請移レ坵換レ段。

【串招】26 センセウ 總體の人のくちがき。〔福惠全書、刑名部、問擬〕凡串招須下照レ例定二一人一爲中招首上。

【串竊】27 ch'uan4 ch'ieh4 共謀して盜む。

【串錢】28 ch'uan4 ch'ien2 さしに通した錢。

【串疽】29 ch'uan4 chü1 腫物の名。又、老鼠鑽ともいふ。

【串辣】30 センソク 魚などを刺貫いて炙り燒くに用ひる串。やいぐし。〔倭名類聚抄、調度部、厨膳具、串辣〕唐韻云、串、初限反、與レ剗同、夜伊久之、辣、音東、串辣炙具也。

【串賊】31 クワンゾク 惡者。どろぼう。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕係二串賊唆扳一。

【串黨】32 クワンタウ ぐるになる。共謀する。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕有二巨棍勢豪、串黨竄入者一。

【串單】33 ch'uan4 tan1 租稅領收書。串票(44)に同じ。

【串中】34 センチユウ 書きつけのうち。〔福惠全書、錢穀部、比較〕將二三連串中查截一票一、付二排里一。

【串通】35 クワンツウ ㊀ぐるになる。結託する。內通する。なれあふ。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕到二地方一、串二通管家衙役一。㊁センツウ つらなる。とほる。

【串底】36 ch'uan4 ti3 地方官廳で使用する納稅「簿。

【串店】37 ch'uan4 tien4 宿屋に出入して物賣りをする。

【串同】38 クワンドウ ぐるになる。氣脈を通ずる。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕串同來役、立刻鎖馳。

【串童】39 クワンドウ ㊀歌舞する童子。〔珠璣藪〕少年子弟、習二歌唱一而漸至二于演戲一者、謂二之串童一。㊁ch'uan4 t'ung2 男色（カゲマ）。變童。

【串吞】40 ch'uan4 t'uen1 ぐるになつて、かたりをする。

【串炮】41 ch'uan4 p'ao2 爆竹。繋ぎ花火。

【串費】42 ch'uan4 fei4 稅金を取立てる時に附課する手數料。

【串眉】43 ch'uan4 mei2 眉をひそめる。

【串票】44 センペウ 官廳の發行する租稅領收證書。患紙。〔福惠全書、錢穀部、三連串票〕串票者、納レ糧花戶、執レ之以爲レ據者也、然花戶有レ執、而排里臨レ限、無レ憑二查截一、勢必問二之流水一、未レ免二號雜而難一レ稽、故截二串之一不レ可レ不二並設一也。〔六部成語、戶部、串票、注解〕民人交二納地丁錢糧一、官給之憑票也。

【串騙】45 ch'uan4 p'ien4 ぐるになつてかたりをする。共謀して詐欺する。

【串謀】46 ch'uan4 mou2 共謀する。

【串蟒】47 センマウ つらぬき縫ひつけたうはばみの模樣。〔福惠全書、教養部、敦節儉〕如二今之團鶴串蟒一、僭二踰王者之尊一。

【串秧兒】48 ch'uan4 yang1 êrh 混血兒。

【串海鼠】49 クシコ いりこを串に刺貫いたもの。〔運步色葉集〕串海鼠。

【串形花】50 ch'uan4 hsing2 hua1 串形狀をなして咲く花の植物。房狀花。

【串堂風】51 ch'uan4 t'ang2 fêng1 空氣の流通する洞穴。風穴。空氣拔きの穴。

【串場河】52 センヂヤウカ 川の名。㊀江蘇省の江北の東境。明の時に開鑿したもので、南、泰縣東境の運河を受け、北、阜寧縣に至つて射陽河に入る。東臺・興化・鹽城諸縣の鹽場を貫通するから此の名がある。鹽を運ぶ要津。㊁江蘇省南通縣の東北。呂四・餘東・餘中・餘西・金沙・西亭・石港の諸鹽場を串通する。宋の咸淳五年、李庭芝が兩淮制置使となつて、四十里の河を鑿つて運鹽河に通じたといふのは是である。

【串門子】53 ch'uan4 mên2 tzŭ ㊀懇意の人の家を順次に廻つて閑談する。㊁ふり賣りする。

【𠁥】81 チユウ 中(**1**—**73**)の古字。〔說文〕中、𠁥、古文中。

七畫

【丳】82 サン セン 〔集韻〕楚限切 濟

くし。さしぐし。肉をつらぬいて火にあぶる器。〔集韻〕丳、燔レ肉器。〔一切經音義、十二〕丳、謂二以レ籤貫レ肉炙レ之者一也。〔韓愈、贈二張籍一詩〕試將二詩義一授、如二以レ肉貫一レ丳。

參考 串(**1**—**80**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕串、音釧、貫也、穿也。丳、音產、炙レ肉器。

【丳辣】1 センソク やいぐし。串辣(**1**—**80**‥30)に同じ。

【𠁰】83 チユウ 中(**1**—**73**)の古字。〔玉篇〕𠁰、古文中。

【𣶒】84 エン 淵(**7**—**17692**)の古字。〔集韻〕淵、古作レ𣶒。

八畫

【㐻】85 キ ギ 〔字彙〕巨支切 支

ひとしくない。〔字彙〕㐻、參差也。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕㐻二拍了迎レ風戶半開一。

【笫】86 シユク 叔(**2**—**3154**)の古字。〔集韻〕叔、古作レ笫。

九畫

【丵】87 サク ザク 〔集韻〕仕角切 覺。
小篆 草のむらがり生じたさま。〔說文〕丵、叢生艸也、象二丵嶽相並出一也、讀若レ浞。
解字 象形。草がぞくぞくと並び生ずるさまに象る。字解を見よ。

【乖】88 クワイ 乖(1－149)の古字。〔字彙補〕乖、古文乖字。

【朿】89 シ 事(1－241)に同じ。〔字彙補〕朿、與レ事同。〔道藏、洞靈經〕人舍レ本而朿レ末。

十一畫

【𠁧】90 キ 龜(12－48847)の古字。〔說文〕龜、𠁧、古文龜。

丶部

【丶】91 チュ 〔集韻〕冢庾切 麌。
小篆 ㊀てん。句の切れ目に打つ點。或は黈(12－48081)に作る。〔說文〕丶、有レ所二絕止一、丶而識レ之也。〔集韻〕丶、或作レ黈。㊁ともしび。主(1－100)の古字。〔六書正譌〕丶、古文主字、鐙中火丶也、象形、借爲二主宰字一。㊂注(6－17316)の俗字。〔續字彙補〕丶、與レ注同、說文長箋、轉注作二轉丶一。邦しるしの一。ぽち。ちょぼ。
解字 指事。一點を打つて其の處をしるし示す。〔說文、丶、段注〕按、此於二六書一爲二指事一、凡物有二分別一、事有二可不一、意所二存主一、心識二其處一者、皆是、非四專謂二讀書止輒乙二其處一也。

一畫

【乀】92 同一文字疊用の記號。二の草體。〔宋元以來俗字譜〕疊字、嬌紅記作レ乀。

二畫

【丷】93 イ 〔字彙〕於宜切 支。
梵字の伊の字。∴梵語の五十字母の一。〔字彙〕丷、佛書伊字、如二艸書下字一。〔金剛頂經、釋字母品〕伊字門一切法根、不可得故。〔苑咸、酬二王維一詩〕三點成レ伊猶有レ想、丁觀知レ幻自忘レ筌。

【丸】94 クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒 ㄨㄢˊ wan2
小篆 ㊀まるい。もと丸(1－96)に作る。〔說文〕丸、圜也、傾側而轉者、从二反仄一。〔中華大字典〕丸、本作レ丸、丸乃俗字、承用已久、姑仍レ之。㊁まつたい。〔廣雅、釋詁四〕丸、完也。㊂もつぱら。嫥(3－6662)に通ず。〔說文通訓定聲〕丸、叚借爲レ嫥。〔太玄經、干〕丸鑽二于內一。〔注〕丸、猶レ專也。㊃たま。はじきだま。彈子。鐵砲だま。〔左氏、宣、二〕從二臺上一彈レ人、而觀二其避一レ丸也。〔漢書、尹賞傳〕相與探レ丸爲レ彈。〔張九齡、感遇詩〕矯矯珍木巓、得レ無二金丸懼一。㊄鈴。〔張衡、西京賦〕跳二丸劍之揮霍一。〔注〕銑曰、丸、鈴也。㊅玩具の一種。形がまるくてころばすもの。〔莊子、徐無鬼〕市南宜僚弄レ丸。〔漢書、蒯通傳〕如二阪上走一レ丸也。〔韓愈、送二高閑上人一序〕僚之於レ丸。㊆まろぶ。まろばす。〔淮南子、俶眞訓〕挻二挏萬物一、揣丸變化。㊇とる。〔馬融、長笛賦〕丸挻彫琢。〔注〕善曰、丸、取也。㊈鳥の卵。卵(2－2857)に通ず。〔正字通〕丸、凡者、鳥卵別名、象二其圓形一、讀若レ完、音異義通、改二魯管切一非。〔呂覽、本味〕流沙之西、丹山之南、有二鳳之丸一。〔注〕丸、古卵字。㊉えびら。〔後漢書、南匈奴傳〕弓鞬韣丸。〔注〕丸、卽箭箙也。(十一)餠の類。〔正字通〕凡屑二米麪一、摶如二彈丸一、烝焄噉レ之、曰二牢丸一。(十二)墨を數へるに用ひる語。轉じて墨の稱。烏丸。松丸。〔宋書、百官志〕月賜二赤管大筆一雙、隃麋墨一丸一。〔唐書、藝文志〕季給二上谷墨三百三十六丸一。(十三)藥を數へるに用ひる語。〔曹植、善哉行〕仙人王喬、奉二藥一丸一。(十四)桓(6－14774)に通ず。〔漢書、匈奴傳〕烏桓。〔魏志、烏丸傳〕太祖引二烏丸之衆一。(十五)姓。〔萬姓統譜〕丸、見二姓苑一、丸步漢人。邦まる。まろ。㋑城郭の內部。本丸・二の丸など。㋺錢の隱語。㋩接尾語。麻呂の訛。常陸丸・牛若丸など。㋥まろ。麿。㋭畿內地方でうなぎをいふ。㋬紋所の名。丸に鍵(マルニカギ)。丸に笠(マルニカサ)。丸に一つ杵(マルニヒトツギネ)。丸に十字(マルニジフノジ)。丸に根笹(マルニネザサ)など。
解字 指事。仄(厂ガと人との合字で、人が厓に在つて身體が傾きそばだつ意)の字を反對にして、圓くて傾き轉ずるものの意を示す。一說に、鳥の字の省形で、未だかへらぬ卵の形を示すといふ。〔說文、丸、段注〕圜則不レ能二平立一、故从二反仄一、以象レ之、仄而反復、是爲レ丸也。〔說文通訓定聲〕丸、按、此字不レ从二反仄一、从レ鳥而首翼未レ成乎卵也、指事。
參考 凡(2－1739)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕丸、音完、彈丸也、凡、音帆、大槩也。

【丸衣】1 wan2 i1 丸藥の上皮。
【丸腰】2 マルゴシ 刀を腰に帶びないこと。〔狂言記、磁石〕丸腰ぢや、何ぞ一腰貸してたもれ。
【丸屋】3 マロヤ 葦茅などで葺き作つた假家。〔枕草子、十一〕まろ屋、あづまや。
【丸絎】4 マルグケ ㊀丸くくけること。又、其のもの。㊁丸絎帶(丸くくけて中に綿を入れた帶)の略。
【丸髷】5 マルマゲ 髮の結び方の一。頂を楕圓形にして、稍〻扁い髷をつけたもので、嫁した婦人の結ふもの。〔歷世女裝考、四〕丸髷、云云 今世に行れるは、かたはづし、まるまげ、しまだの三樣なり。
【丸瓦】6 マルガハラ 半筒形の瓦。
【丸丸】7 グワングワン すなほ。まつすぐ。〔詩、商頌、殷武〕陟二彼景山一、松柏丸丸。〔傳〕丸丸、易直也。
【丸經】8 グワンケイ 書名。二卷。元、無名氏撰。戰國時代の遺技たる捶丸の事を記述したもの。〔丸經集敍〕捶丸、古戰國之遺策、抑亦衞生之微奧、而訓レ將練レ兵之一伎也、考二古今制作之詳一、述二籌算多少之計一、述爲二丸經二卷一。
【丸髻】9 グワンケイ 髮の結び方の一種。みづら。頭の兩邊に丸い珠樣の髮を結つたもの。〔世說新語補、企羨〕王曇首、年十四五便レ歌、諸妓向二謝公一稱歎、公甚欲レ聞レ之、而王名家年少、無レ由レ得レ聞、諸妓又向レ王說二謝公意一、謝後出二東府土山上一作レ伎、王時作二兩丸髻一、著二袴褶一。〔酉陽雜

俎、玉格〕玄宗幸レ蜀、夢思邈乞二武都雄黃一、乃命二中使一、齎二雄黃十斤一、送二於峨眉頂上一、中使上レ山、未レ半見二一人幅巾被レ褐、鬚鬢皓白、二童青衣丸髻、夾侍立二屛風側一。

【丸劍】10 グヮンケン 鈴とつるぎ。〔張衡、西京賦〕跳二丸劍之揮霍一。〔注〕銑曰、丸、鈴也。〔鮑照、舞鶴賦〕丸劍雙止。〔注〕良曰、丸、弄レ鈴者、劍、弄レ刀者。〔何承天、鼓吹鐃歌、遠期篇〕修標多二巧捷一、丸劍亦入レ神。

【丸劑】11 グヮンザイ 丸藥(35)の❶に同じ。〔墨經〕凡丸劑不レ可レ不レ熟。

【丸子】12 wan² tzŭ ❶㋑すべて圓い形のもの。肉團子。團子の類。㋺丸藥。❷コマル 金魚の一種。體が肥滿して、殆ど球狀のものをいふ。

〖丸子粽〗13 wan² tzŭ tsung⁴ ちまき。

【丸袖】14 マルソデ 袂の外側、下方の隅を丸みのある形に仕立てた袖。〔若風俗、三〕無紋の淺黃帷子の丸袖。

【丸燒】15 マルヤキ ❶切つたり割いたりせず、其のまま燒くこと。又、其のもの。〔新猿樂記〕所レ好何物、云云、鯉丸燒。❷マルヤケ そつくり全部燒失すること。全燒。

【丸雪】16 アラレ 霰の義訓。〔萬葉集、七〕丸雪降り遠江の余跡川楊。

【丸挻】17 グヮンセン 取つて擊つ。〔馬融、長笛賦〕丸挻彫琢、刻鏤鑽笮。〔注〕善曰、丸、取也、挻、擊也。

【丸繒】18 グヮンソウ 彈丸と射ぐるみ。〔新序、雜事二〕漁者曰、鴻鵠保二河海之中一、厭而欲レ移二徙之小澤一、則必有二丸繒之憂一、黿鼉保二深淵一、厭而出二之淺渚一、則必有二羅網釣射之憂一。

【丸太】19 マルタ 丸く長い材木。〔好色五人女、五〕丸太を二つ三つ四つならべて投げ渡し。

【丸打】20 マルウチ 紐などを丸く打つこと。又、其の紐。

【丸帶】21 マルオビ 婦人の帶の一。一枚の帶地を折返して、表裏を縫合せたもの。〔諸家奧女中袖鏡、御禁制品品〕丸帶は御側、御次以下禁ず。

【丸泥】22 グヮンデイ 土のかたまり。一塊の土。丸泥封二關谷一を見よ。〔張九齡、潼關詩〕不レ將千里隔、何用二一丸泥一。

〖丸泥封二關谷一〗23 グヮンデイクヮンコクヲフウズ 一つの土の塊で函谷關を封鎖する。小數の兵で要所を堅く守る喩。後漢の王元の故事。〔後漢書、隗囂傳〕元遂說レ囂曰、云云、今天水完富、士馬最強、北收二西河上郡一、東收二三輔之地一、按二秦舊迹一、表二裏河山一、元請、以二一丸泥一、爲二大王一東封二函谷關一、此萬世一時也。〔故事成語考、地輿〕英雄自恃、曰二丸泥亦可レ封二函關一。

【丸都】24 グヮント 地名。高句麗王の都。故城は滿洲安東省輯安縣の北。魏の毋丘儉の破二高句麗一勒レ功碑がある。〔唐書、地理志七下〕自二鴨綠江口一、舟行百餘里、乃小舫泝レ流、東北三十里、至二泊汋口一、得二渤海之境一、又泝レ流五百里、至二丸都縣城一、故高麗王都。

【丸呑】25 マルノミ ❶嚙まずに其のまま呑みこむこと。鵜呑み。❷全體を乘つ取り併呑すること。〔雙生隅田川、三〕吉田の家を丸呑みに仕度いとてさせうか。❸其の意義を理解せず、其のまま記憶すること。❹取引員が客の賣買註文を全部呑むこと。

【丸寐】26 マルネ 帶も解かず、衣服を着けたまま寐ること。假寢。〔今昔物語、二十五〕裝束も不レ解で、丸寢にて有りければ。

【丸釜】27 マルガマ 茶の湯釜の一種。其の形の丸いもの。〔和漢三才圖會、庖廚具、鑵子〕後利休教二洛冶工與次郎一、鑄二阿彌陀堂・尻張・丸釜・蒲團、云云、等數品一。

【丸符】28 wan² fu² 神符の一種。丸御符。まるめごふう。

【丸部】29 ワニベ 姓氏。〔難波江〕。

【丸木】30 マルキ 伐つたままの木。〔新撰六帖、二〕山里の谷の丸木の一つ橋。

〖丸木橋〗31 マルキバシ 丸太を渡して橋としたもの。〔源平盛衰記、三十八、小宰相局事〕細川谷の丸木橋、ふみ返しては、落る習ぞ。

〖丸木船〗32 マルキブネ うつろぶね。一樹幹を刳つて造つた船。〔閑窻瑣談、四〕神前にささげたる古代の丸木船二艘あり。

【丸墨】33 マルズミ 丸筒形に造つた墨。〔和漢三才圖會、藝財、墨〕太平墨、同丸墨、其丸墨可三以書二行李・莚之印文一。

【丸本】34 マルホン ❶全部揃つてゐる書籍。完本。❷首尾完結した淨瑠璃本。院本の俗稱。〔花曆八笑人、四、追加、上〕拔き本ではねえ、丸本だといふに。

【丸藥】35 グヮンヤク ❶まるめた藥。丸劑。丸子。〔史記、倉公傳〕卽令三更服二丸藥一。❷藥をまるめる。〔晉書、陳壽傳〕壽遭二父喪一、有レ疾、使二婢丸一レ藥。

【丸熊】36 グヮンユウ 熊の膽をまるめたもの。強壯・興奮劑。〔白孔六帖〕柳仲郢嗜レ學、母韓、丸二熊膽一以助二其勤一。

【丸蘭】37 グヮンラン 盛に茂るさま。〔太玄經、密〕陽氣親レ天、萬物丸蘭。〔司馬光注〕丸蘭、盛大貌。

【丸鞆】38 マルトモ 石帶の一種。圓形の玉石を以て飾りとしたもの。有文・無文の別があり、有文は公卿が節會・行幸に用ひ、無文は公卿の常用であつた。丸鞆帶。〔和漢三才圖會、衣服類、石帶〕丸鞆、有文・無文。

【丸行燈】39 マルアンドン まる形の行燈。〔物類稱呼、四〕江戶にていふ丸あんどんを、加賀にて、まはしあんどんと云。

【丸合羽】40 マルガツパ 雨衣の一種。初、西班牙人の外套の制を移したもの。坊主合羽・引廻し。

【丸起來】41 wan² ch'i³ lai 物をまるくする。物を丸める。

【丸糖衣】42 wan² t'ang² i¹ 丸藥の上皮のゼリー。

【丸頭巾】43 マルヅキン 焙烙の形の頭巾。焙烙頭巾。〔古絲屑〕うば玉の黑髮山が丸頭巾。

【丸花萁袍】44 wan² hua¹ ch'i⁴ p'ao² 模樣のある綿入れ衣裳。どてらの類。

【丸散膏丹】45 wan² san³ kao¹ tan¹ 藥の四大別。丸藥・散藥・膏藥・丹藥。

【和レ丸教レ子】46 グヮンヲワシテコニヲシフ 唐の柳仲郢の母が、丸藥を造つて彼の勉學を助け、大成せしめた故事。〔唐書、柳仲郢傳〕子仲郢、母韓、卽皋女也、善訓レ子、仲郢幼嗜レ學、嘗和二熊膽丸一、使二夜咀嚥一以助レ勤。〔故事成語考、祖孫父子〕和レ丸教レ子、仲郢母之賢。

【丸】95 クヮン 凡(1−96)の俗字。〔正字通〕丸、俗凡字。

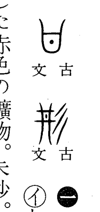
【凡】96 クヮン 丸(1−94)の本字。〔中華大字典〕丸、本作レ凡、丸乃俗字。

【々】97 同一文字疊用の記號。

【亡】98 注音符號の韻符の一。今、書寫に便にする爲、改めて亡に作る。亡(1−5)を見よ。

三畫

【丹】99 タン 〔集韻〕多寒切 ㄉㄢ 寒 tan¹



小篆　古文　古文

❶に。あか。㋑水銀と硫黃と化合した赤色の鑛物。朱砂。辰砂。赤硫化汞。硫化第二水銀。〔說文〕丹、巴越之赤石也、象二采丹井一、丶象二丹形一。〔書、禹貢〕礪砥砮丹。〔傳〕丹、朱類。㋺赤い色。うす赤い色。〔廣雅、釋器〕丹、赤也。〔儀禮、鄉射禮〕畫者丹質。〔注〕丹、淺二於赤一。〔詩、秦風、終南〕顏如二渥丹一。❷**赤く塗る**。〔揚雄、解嘲〕朱二丹其轂一。❸**まごころ**。〔正字通〕丹、赤心無レ僞、曰レ丹。〔謝朓、始出二尚書省一詩〕既秉二丹石心一、寧流二素絲涕一。❹**精煉した藥物**。仙家の所謂不老不死の藥。此より轉じて、仙人に關するものに多く丹字を用ふ。〔說文通訓定聲〕丹、後世言二藥石之精一亦曰レ丹。〔黃庭經〕九轉八瓊丹。〔晉書、葛洪傳〕以二其練丹祕術一、授二弟子一。❺古は冃(1−102)・彤(4−9973)・冋(2−1

530)に作る。〔集韻〕丹、古作㠯・彤。〔五音集韻〕同、古文丹。㊅デンマーク。丹墨(275)・丹麥(247)の略。㊆姓。〔萬姓統譜〕丹、堯子丹朱之後。㊇現紅色の名刺。

名乘　アキラ。ニ。

解字　指事。⺆と丶との合字。⺆は赤鑛を產する井の形に象り、丶を以て井底に在る赤鑛の意を示す。〔說文、丹、象㆓采丹井㆒、象㆓丹形㆒、段注〕

參考　月(6－14330)・月(9－29237)〔肉の變體〕・月(舟の變體)・月(2－1508)は別字。〔字彙、辨字、五字相似〕月、日月之月、內畫缺レ右。円、卽丹字、靑淸情靖靜等字从此。月、肉字傍、內畫連。月、舟字傍、勝朝前等字从此。冃、冒字傍、上从レ曰、二畫居レ中。

【丹鳥】1アン　赤い鳥。轉じて、太陽、卽ち日輪をいふ。〔本朝文粹、八、都良香、早春侍レ宴賦㆓陽春詞㆒應制〕於レ是景落㆓丹鳥㆒、燭燒㆓紅蠟㆒。

【丹堊】2アンアク　あかぬりの壁。丹雘。堊丹。〔蘇轍、杭州龍井院納齋記〕臺觀飛湧、丹堊炳煥。

【丹扆】3イン　㊀天子が諸侯に對する時、後に立てる赤色の屛風。扆(5－11742)の字解を見よ。〔梁元帝、上㆓忠臣傳㆒表〕春詩秋禮、早蒙㆓丹扆之訓㆒。㊁淸、陸鳳藻(11－41708‥423)の字。

【丹扆六箴】4ンイノロクシン　赤色の屛風に書いた六つの箴言。唐の敬宗の時、浙西觀察使の李德裕が上つたもの。宵衣・正服・罷獻・納誨・辨邪・防微の六箴。丹扆箴。〔舊唐書、敬宗紀〕李德裕獻㆓丹扆箴六首㆒、上深嘉之。〔唐書、李德裕傳〕時帝昏荒、數游幸、狎㆓比羣小㆒、聽㆓朝簡忽、德裕上㆓丹扆六箴㆒、表言、云云、其一曰宵衣、諷㆓視レ朝希晚也㆒、二曰正服、諷㆓服御非レ法也㆒、三曰罷獻、諷㆓斂㆒求怪珍㆒也、四曰納誨、諷㆓侮㆒棄忠言㆒也、五曰辨邪、諷㆓任㆒羣小㆒也、六曰防微、諷㆓僞游輕出㆒也、辭皆明直婉切。

【丹帷】5タン　赤いとばり。〔傳咸、贈㆓何劭王濟㆒詩〕攜㆓手升㆒玉階㆒、並レ坐侍㆓丹帷㆒。〔陶潛、詠㆓三良㆒詩〕出則陪㆓文輿㆒、入必侍㆓丹帷㆒。

【丹維】6タン　伏羲が下相柏皇に命じて作らせた琴の名。〔正字通〕琴、伏羲製礲貢レ梓、帝命㆓下相柏皇㆒爲レ琴、曰㆓丹維㆒。〔庶物異名疏〕伏羲命㆓下相柏皇㆒、斲レ梓爲㆓四琴㆒、曰㆓丹維・祖牀・委文・衡華㆒。

【丹鷁】7タンゲキ　赤い花。丹花。〔江淹、閨中草木頌、山桃〕丹鷁驚レ露、紫蕊繞レ風。

【丹羽】8イウ　明、侯進忠(1－634‥124)の字。

【丹羽】9ウン　赤色の羽。〔何遜、窮鳥賦〕豈能瑞㆓周德㆒、而丹羽、感㆓燕悲㆒而素暉。〔王融、從㆓武帝瑯琊城講㆒武詩〕白日映㆓丹羽㆒、頹霞文㆓翠旆㆒。

【丹烏】10ウ　赤いからす。赤烏。〔揚雄、劇秦美新〕若㆓夫白鳩丹烏、素魚斷蚰㆒、方斯蔑矣。〔元稹、七夕詩〕丹烏月中滅、莎雞牀下鳴。

【丹雲】11ウン　あかぐも。赤いくも。〔劉峻、辨命論〕荊昭德晉、丹雲不レ卷。〔宋史、樂志七〕丹雲之爵、金龍之杓。

【丹英】12エイ　赤い花。丹花。〔江淹、渡㆓西塞㆒望㆓江上諸山㆒詩〕霞光鑠㆓丹英㆒。〔益部方物志、錦帶花贊〕綠葉丹英、蔓衍紛垂。

【丹楹】13エイ　㊀赤ぬりの柱。丹柱。〔李紳、過㆓吳門㆒詩〕朱戶千家室、丹楹百處樓。〔許渾、和㆓崔大夫新廣北樓登眺㆒詩〕修梁暗換丹楹小。㊁柱をあかく塗る。贅澤なこと。魯の桓公廟の故事。〔春秋、莊、二十三〕丹㆓桓宮楹㆒。〔穀梁、莊、二十三〕丹楹、非レ禮也。〔漢書、貨殖傳序〕諸侯刻レ桷丹レ楹。〔杜預、春秋左氏傳序〕丹レ楹刻レ桷。

【丹榮】14エイ　紅い花。丹英。〔蔡邕、翠鳥〕庭陬有㆓若榴㆒、綠葉含㆓丹榮㆒。〔王粲、雜詩〕曲池揚㆓素波㆒、列樹敷㆓丹榮㆒。

【丹穎】15エイ　㊀あかい筆。彤管。〔福惠全書、稟啓附、候㆓潘守臺㆒〕外臺執㆓法匣㆒、中之丹穎流恩。㊁淸、葉佩蓀(9－31387‥249)の字。

【丹掖】16エキ　朱塗の宮門、又は宮殿。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕灑㆓零玉墀㆒、雨㆓泗丹掖㆒。〔注〕向曰、玉墀・丹掖、皆宮殿之閒也。〔王僧孺、爲㆓南平王㆒讓㆓儀同㆒表〕神夢㆓紫霄㆒、心飛㆓丹掖㆒。

【丹液】17タンエキ　不老不死の藥。長生の藥。〔神仙傳、葛玄〕從㆓左元放㆒受㆓九丹金液仙經㆒。〔楊炯、劉侍郎入㆓隆唐觀㆒詩〕方士燒㆓丹液㆒、眞人泛㆓玉杯㆒。

【丹葉】18タンエウ　もみぢば。紅葉した葉。〔江淹、水上神女賦〕或採㆓丹葉㆒、或拾㆓翠條㆒。〔李益、述レ懷寄㆓衡州令狐相公㆒詩〕白頭生㆓遠浪㆒、丹葉下㆓高楓㆒。

【丹淵】19エン　㊀川の名。丹水(167)の㊁をいふ。丹海。〔漢書、律歷志下〕讓㆓天下於虞、使㆑子朱處㆒於丹淵㆒爲㆓諸侯㆒。㊂月の出る所をいふ。〔蘇門歌〕日沒不周西、月出丹淵中。〔宋苗、題㆓多景樓㆒詩〕歸途知有レ伴、華月上㆓丹淵㆒。

【丹淵集】20エンシフ　書名。四十卷、拾遺二卷、年譜一卷、附錄二卷。宋、文同撰。此の集四十卷は、其の曾孫鰲が編集し、拾遺・年譜・附錄は曲沃の文誡之の編したもの。其の目は、第一卷、詞賦、第二卷、樂府雜詠、第三―十八卷、詩、第十九卷、畫厨雜詠、第二十卷、挽詩、第二十一卷、雜著、第二十二―二十四卷、記、第二十五―二十六卷、序、第二十七―二十八卷、表、第二十九―三十二卷、啓、第三十三卷、先狀、第三十四卷、奏狀、第三十五卷、文、第三十六―四十卷、墓誌。〔四庫提要、集、別集類〕。

【丹鉛】21タンエン　㊀丹砂と鉛粉。むかし文書を校訂するに用ひたもの。轉じて、校訂の意に用ひる。〔韓愈、秋懷詩〕丹鉛事㆓點勘㆒。〔秦觀、春日雜興詩〕丹鉛費㆓永晷㆒、麴蘗敺㆓深愁㆒。〔國朝漢學師承記、盧文弨〕始潛㆓心漢學㆒、精㆓於讎校㆒、歸田後二十餘年、勤事㆓丹鉛㆒、垂レ老不レ衰。㊁べにおしろい。〔剪燈餘話、江廡泥神記〕奴等蒲柳陋資、丹鉛翳質。

【丹鉛精舍】22タンエンセイシヤ　淸、勞權(2－2410‥43)の室名。

【丹鉛總錄】23タンエンソウロク　書名。二十七卷。明、楊愼撰。初、餘錄十七卷・續錄十二卷・閏錄九卷を撰したが、後、自ら刪つて摘錄十三卷と爲した。後、門人梁佐が、諸錄を合して二十六類と爲し、名づけて總錄といつた。二十六類の目は、天文・地理・時序・花木・鳥獸・宮室・冠服・珍寶・音律・物用・人事・人品・史籍・訂訛・字學・官爵・博物・禮樂・卦名・飮食・干支・數目・怪異・身體・詩話・璅語。〔四庫提要、子、雜家類〕

【丹艷】24エン　あかいつや。赤い光。〔孟郊、和㆓宣州錢判官使院廳前石楠樹㆒詩〕寒日吐㆓丹艷㆒、頹子流㆓細珠㆒。〔梅堯臣、和㆓十一月八日圃人獻㆓小桃花㆒詩〕丹艷已先灰管動、不レ由㆓人力與㆒栽培。

【丹轅】25エン　赤く塗つた車のながえ。〔雲笈七籤〕乘レ空控㆓丹轅紫軿㆒。

【丹繶】26オク　赤いくみ紐。〔任昉、王貴嬪哀策文〕青鉤丹繶、辰文素紗。

【丹下】27アカシタ　〔姓名錄抄〕。

【丹歌】28カン　鶴をいふ。〔事物異名錄、禽鳥部、鶴〕祕閣閒談、池州道士趙自然、常爲㆑詩曰、丹歌時引レ舞、或問、何爲㆓丹歌㆒、曰、鶴也。

【丹蝦】29カン　あかえび。紅蝦。〔洞冥記〕有㆓丹蝦㆒、長十丈、鬚長八尺、有㆓兩翅㆒、其鼻如レ鋸、載㆓紫桂之林㆒、以鬚纏レ身、急流以爲㆓栖息之處㆒、馬丹嘗折㆓蝦鬚㆒爲レ杖、後棄レ杖、而飛鬚化爲㆓丹㆒、亦在㆓海旁㆒。

【丹霞】30カ　㊀日が映つて赤くたなびく雲氣。〔魏文帝、芙蓉池作詩〕丹霞夾㆓明月㆒、華星出㆓雲間㆒。〔江淹、雜體、張黃門協苦雨詩〕丹霞蔽㆓陽景㆒、綠泉涌㆓陰渚㆒。㊁山名。江西省南城縣の西南、麻姑山の西。丹霞洞ともいふ。

【丹霞漿】31シンカ　仙人の飮物。〔洞冥記〕東方朔曰、兒過㆓虞淵瀕衣亮㆒暫息、都崇堂王公、飴レ之以㆓丹霞漿㆒、兒食之太飽。

【丹海】32カイ　丹淵(19)の㊀に同じ。〔拾遺記、虞舜〕有㆓鳥如レ雀、丹州而來、吐㆓五色之氣㆒云云、常遊㆓丹海之際㆒、時來㆓蒼梧之野㆒。〔梁陳、悼騷賦〕臨㆓岷川㆒以愴恨兮、指㆓丹海㆒以爲レ期。

【丹厓】33タンガイ　㊀丹水のきし。〔揚雄、甘泉賦〕北燿㆓幽都㆒、南煬㆓丹厓㆒。〔注〕善曰、服虔曰、丹水之厓也。㊁あかいがけ。丹崖。〔晉書、宋纖傳〕丹厓百丈、青壁高尋。

【丹崖】34ガイ　㊀赤色のがけ。赤崖。丹崖青壁を見よ。〔盧諶、贈㆓劉琨㆒詩〕仰熙㆓丹崖㆒、俯澡㆓綠水㆒。〔王勃、泥谿詩〕水煙籠㆓翠渚㆒、山照落㆓丹崖㆒。〔李白、送㆓溫處士歸㆓黃山白鵝峯舊居㆒詩〕丹崖夾㆓石柱㆒、菡萏金芙蓉。㊁山名。丹砂が出るから名づく。〔水經、丹水注〕丹水南有㆓丹崖山㆒、山悉赭壁。㊂字號。㋑明、唐肅(2－3709‥176)の號。㋺淸、傅山(1－939‥56)の號。㋩淸、黃廷桂(12－47926‥1259)の字。㋥淸、沈忠(6－17189

・・292)の號。㋭清、李鳳苞(**6**－**14459**・・1936)の字。㋬清、蔣薫(**9**－**31820**・・36)の號。

【丹崖翁】35 タンガイオウ 清、傅山(**1**－**939**・・56)の號。

【丹崖居士】36 タンガイコジ 明、唐肅(**2**－**3709**・・176)の號。

【丹崖青壁】37 タンガイセイヘキ 丹い色のがけと、青い色の石壁とが高く美しいやうに、人品のすぐれて高いこと。又、見難い人に遇ふことに用ひる。〔書言故事、謁見類〕晉宋纖有二遠操一、馬岌造焉、纖拒而不レ見、岌嘆曰、名可レ聞而身不レ可レ見、德可レ仰而形不レ可レ覩、知二先生人中之龍一也、銘二詩石壁一曰、丹崖百丈、青壁萬尋、奇木蓊鬱、蔚若二鄧林一、其人如レ玉、維國之琛、室邇人遠、實勞二我心一。

【丹江】38 タンカウ ㊀川の名。㋑源は貴州省丹江縣の東。苗嶺山脈の中から出て清水江に入る。㋺丹水をいふ。丹水(167)の㊀の㊁を見よ。㊁廳名。清、置く。今、貴州省丹江縣の地。〔清史稿、地理志〕貴州、都勻府、廳三、丹江廳。㊂縣名。民國、置く。貴州省八寨縣の東北。清の丹江廳の地。

【丹崿】39 タンガク 赤土色のきりぎし。赤崖。丹崖。〔王勃、聖泉宴詩序〕丹崿萬尋、碧潭千頃。

【丹壑】40 タンガク ㊀赤い色のたに。〔孫綽、太平山銘〕上干二翠霞一、下籠二丹壑一。〔鮑照、歲暮悲詩〕天寒多二顏苦一、妍容逐二丹壑一。〔李嶠、海詩〕習坎疏二丹壑一、朝宗合二紫微一。〔李白、贈二盧徵君鴻一詩〕雲臥留二丹壑一、天書降二紫泥一。㊁清、李孚青(**6**－**14459**・・1886)の字。

【丹甲】41 タンカフ ㊀赤色に塗つた鎧。〔國語、吳語〕左軍亦如レ之、皆赤常・赤旗・丹甲・朱羽之矰。㊁赤色の甲羅。〔河圖玉板〕靈龜負レ書、丹甲青文。

【丹干】42 タンカン 丹砂をいふ。丹研(44)に同じ。〔荀子、王制〕南海則有二云云曾青丹干一焉。〔注〕丹干、丹砂也。

【丹函】43 タンカン あかいはこ。〔晏殊、觀レ書表〕丹函翠蘊、綈帙縹囊。

【丹研】44 タンカン 丹砂をいふ。丹干(42)に同じ。〔荀子、正論〕加レ之以二丹研一。〔注〕丹研、丹砂也。

【丹巖】45 タンガン ㊀赤色のいはほ。〔許渾、郡齋夜坐詩〕樓侵二白浪一風來遠、城抱二丹巖一日到遲。〔王建、奉レ同二曾郎中題二石甕寺一詩〕寺門連レ內遶二丹巖一、下界雲開數過帆。㊁字號。㋑明、黃雲(**12**－**47926**・・39)の號。㋺清、李鳳苞(**6**－**14459**・・1936)の字。

【丹其】46 タンキ 明、周士樸(**2**－**3441**・・673)の字。

【丹姬】47 タンキ 楚の莊王の姬。莊王は、丹姬を得て三月も政事をとらなかつたが、保申の諫を容れて遂に之と絕ち、政事に勤めて盟主となつた。〔漢書、谷永傳〕昔舜飭二正二女一、以崇二至德一、楚莊忍二絕丹姬一、以成二伯功一。〔注〕應劭曰、楚莊王得二丹姬一、三月不レ聽レ朝、保申諫、忍絕不二復見一、乃勤二政事一、遂爲二盟主一也。

【丹祈】48 タンキ 眞心から願ふ。誠願。〔本朝文粹、四、菅原文時、爲二清愼公一辭レ職五度第二表〕伏願玄鑑曲光二丹祈一。〔源平盛衰記、二十九、三箇馬場願書〕若酬二丹祈一感應速通者。

【丹旂】49 タンキ 赤色を帶びた鈴のある旗。〔應瑒、馳射賦〕樹二應鞞於路左一、建二丹旂於表路一。

【丹氣】50 タンキ 赤い色の氣。〔左思、蜀都賦〕舒二丹氣一以爲レ霞。〔江淹、靈丘竹賦〕蒙二朱霞之丹氣一、曖二白日之素景一。

【丹葵】51 タンキ 清、喬世臣(**2**－**3990**・・79)の字。

【丹旗】52 タンキ あかはた。あかい旗。〔曹植、七啓〕獠徒雲布、武騎霧散、丹旗燿レ野、戈殳晧旰。

【丹綺】53 タンキ あかいあやぎぬ。〔何晏、景福殿賦〕紅葩鞙韘、丹綺離婁。〔王勃、秋夜長詞〕纖羅對二鳳皇一、丹綺雙鴛鴦。

【丹輝】54 タンキ 清、喬昱(**2**－**3990**・・2)の字。

【丹曦】55 タンギ 太陽。又、日の出又、入日の光。〔梁昭明太子、銅博山香爐賦〕匿二丹曦於西嶺一。〔史通、書志〕丹曦素魄之躔次、黃道紫宮之分野。

【丹丘】56 タンキウ ㊀仙人の住む所。晝夜、常に明るいといふ國。丹邱。〔楚辭、遠遊〕仍二羽人於丹丘一兮、留二不死之舊鄕一。〔注〕丹丘、晝夜常明也。〔繁欽、秋思賦〕雪朝隮二于西汜一兮、遂濆二薄于丹丘一。〔拾遺記、高辛〕有二丹丘之國一、獻二瑪瑙甕一、以盛二甘露一、帝德所レ洽、被二於殊方一、以露二充於厨一也、云云、有二丹丘千年一燒、黃河千年一清一、至聖之君以爲二大瑞一。〔謝靈運、入二華子崗一、是麻源第三谷詩〕丹丘徒空筌。㊁地名。㋑河北省曲陽縣の西北。〔史記、趙世家〕武靈王攻二中山一、合二軍曲陽一、攻二取丹丘華陽鴟之塞一。〔闞駰、十三州志〕上曲陽有二丹丘城一、或曰、丹丘、恆山別名也、城在二山上一、因名。㋺浙江省寧海縣の南九十里。獅山に近い。〔孫綽、天台山賦〕訪二羽人于丹丘一、尋二不死之福庭一。㊂字號。㋑宋、嚴羽(**2**－**4589**・・8)の字。㋺明、何白(**1**－**511**・・174)の號。㋩清、鄧大臨(**11**－**39630**・・177)の號。㋥芥川煥の號。芥川丹丘(**9**－**30715**・・18)を見よ。

【丹丘子】57 タンキウシ 仙人。隋の開皇末年の人。元丹丘。〔神告錄〕隋開皇末、有二老翁一、詣二神堯帝一曰、公負二至貴之相一、若應レ天受レ命、當二不レ勞而定一、但當レ在二丹丘子之後一、帝曰、丹丘爲レ誰、曰、與レ公近レ籍、隱二居鄠杜閒一、帝袖レ劍詣焉、將レ不レ利二於丹丘一、至則心駭神聳、伏二謁宇下一、先生笑而頷レ之、悵望而還。〔李白、西嶽雲臺歌送二丹丘子一詩〕雲臺閣道連二窈冥一、中有二不死丹丘生一。〔李白、元丹丘歌〕元丹丘愛二神僊一、朝飮二潁川之清流一。

【丹丘生】58 タンキウセイ ㊀丹丘子をいふ。〔李白、將進酒〕岑夫子丹丘生、進レ酒君莫レ停、與レ君歌二一曲一、請君爲レ我側レ耳聽。㊁元、柯九思(**6**－**14658**・・43)の號。

【丹丘體】59 タンキウタイ 明の寧王權が定めた樂府十五體の一。〔太和正音譜〕丹丘體、豪放不羈。

【丹丘詩話】60 タンキウシワ 書名。三卷。芥川丹丘撰。詩法譜・詩體品・詩評斷の三門に分ち、古今諸家の詩に關する說話を抄錄し、自家の論斷を加ふ。又、詩體品には唐人の同題の詩を並記して、其の句法・篇法に就いて批判を下す。

【丹丘仙茶】61 タンキウセンチヤノ 善い茶をいふ。〔謝宗、茶論〕此丹丘之仙茶、勝二烏程之御荈一。

【丹丘先生】62 タンキウセンセイ ㊀明、姚綬(**3**－**6202**・・66)の尊稱。㊁明、朱權(**6**－**14424**・・275)の號。

【丹邱】63 タンキウ 丹丘(56)の㊀に同じ。

【丹菊】64 タンギク 赤い花の菊。〔嵇含、菊銘〕煌煌丹菊、暮秋彌榮。

【丹橘】65 タンキツ 色のあかいたちばな。〔左思、吳都賦〕其果則丹橘餘甘荔枝之林。

【丹宮】66 タンキユウ 朱塗りの美しい宮殿。丹禁。〔顏延之、直二東宮一答二鄭尙書一詩〕皓月鑒二丹宮一。

【丹蕖】67 タンキヨ 靈草の名。神農の時、陸地に生じたといふ。〔拾遺記、炎帝神農〕陸地丹蕖、駢生如レ蓋、香露滴瀝、下流成レ池。

【丹魚】68 タンギヨ 赤色の魚。又、金魚。〔水經、丹水注〕丹水出二丹魚一、先二夏至一十日、夜伺レ之、魚浮二水側一、赤光上照如レ火、網而取レ之、割二其血一以塗レ足、可下以步二行水上一、長居中淵中上。〔抱朴子、金丹〕其中皆有二丹魚一、常先二夏至一十日、夜伺レ之、丹魚必浮二於水側一。〔左思、魏都賦〕晧獸爲レ之育レ藪、丹魚爲レ之生レ沼。

【丹蘌】69 タンギヨ 丹禁(71)に同じ。〔李乂、春日侍二宴芙蓉園一應制詩〕水殿臨二丹蘌一、山樓繞二翠微一。

【丹棘】70 タンキヨク 忘憂草。人の憂を忘れさせようとする時、贈るのに用ひる。〔古今注、問答釋義〕欲レ忘二人之憂一、則贈レ之以二丹棘一、丹棘、一名忘憂草、使三人忘二其憂一也、欲レ蠲二人之忿一、則贈二之青堂一、青堂、一名合懽、合懽則忘レ忿。〔范成大、行路難詩〕贈レ君以二丹棘忘憂之草一。

【丹禁】71 タンキン 朱塗りの美しい宮殿。御所。丹宮。丹蘌。〔隋書、百官志上〕武騎之職、皆以分二司丹禁一、侍二衛左右一。〔沈佺期、從二幸香山寺一應制詩〕南山奕奕通二丹禁一、北闕峩峩連二翠雲一。〔宋之問、秋蓮賦〕四繞兮丹禁、三匝兮承明。

【丹愚】72 タング 己が眞心の謙辭。〔晉書、庾羲傳〕敢緣二弘政一、獻二其丹愚一。

【丹果】73 タンクワ 赤い果實。柿をいふ。〔孔平仲、無核紅柿詩〕林中有二丹果一、壓レ枝一何稠。

【丹果脣】74 タンクワノクチビル [佛]丹果に似た脣。佛の相好の一。〔十訓抄、上〕青蓮の眸、丹果のくちびる。

【丹花】75 タンクワ ㊀赤い花。丹蘤。丹英。〔張華、雜詩〕白蘋開二素葉一、朱草茂二丹花一。〔梁簡文帝、遊二光宅寺一詩〕翠網隨二烟碧一、丹花共二日紅一。㊁美人の脣の形容。丹果を誤用したもの。丹果脣を見よ。〔太平記、二十一、鹽冶判官讒死事〕芙蓉の眸、丹花の脣。

【丹皇】76 タンクワウ 身體の中央の部分。〔參同契〕人身上一爲二天帝一、卽泥丸太一君、中一爲二丹皇一、卽絳宮天子、下一爲二元皇一、卽丹田元陽君。

【丹款】77 タンクワン まごころ。丹誠。丹懇。〔晉書、桓豁傳〕敢冒二成命一、歸二陳丹款一。〔傅咸、攝二司隸一上表〕披二露丹款一。〔庾亮、讓二中書令一表〕是以

悾悾、屢陳㆓丹款㆒。
【丹丸】78 tan^1 wan^2 丸藥。
【丹圭】79 タンケイ 古の富人の名。〔法言、學行〕或謂、子之治㆑產、不㆑如㆓丹圭之富㆒。
【丹扃】80 タンケイ 朱塗りの門。〔剪燈餘話、何思明遊酆都錄〕是故丹扃煌煌。
【丹桂】81 タンケイ ❶桂の一種。葉は柏に似、皮は赤色で、月中にあるといふ。かつらの木。〔左思、吳都賦〕洪桃屈盤、丹桂灌叢。〔南方草木狀〕葉如㆓柏葉㆒、皮赤者爲㆓丹桂㆒。❷花の赤い木犀。〔事文類聚〕馮道贈㆑詩曰、靈椿一枝長、丹桂五枝芳。❸人のすぐれた才に喩へる。
〖丹桂鈿合〗82 タンケイデンガフ 雜劇の名。明、葉憲祖作。盛明雜劇第二集の一。權次卿と徐氏の女丹桂との情事を演ず。
【丹畦】83 タンケイ 清、何桂珍(1－511・・247)の字。
【丹溪】84 タンケイ 元の醫家、朱震亨(6－14424・・868)の號。もと儒者。業を許謙の門に受け、醫は羅知悌に受く。醫家一派の祖で、格致餘論・局方發揮・金匱鉤元等の著書がある。〔戴良、丹溪翁傳〕丹溪翁者、婺之義烏人也、姓朱氏、諱震亨、字彥修、學者尊㆑之、曰㆓丹溪翁㆒。
〖丹溪生〗85 タンケイセイ 清、彭遵泗(4－10003・・164)の號。
〖丹溪先生〗86 タンケイセンセイ 元、朱震亨(6－14424・・868)の尊稱。
【丹經】87 タンケイ 仙人の書。〔江淹、從㆓冠軍建平王㆒登㆓廬山香爐峯㆒詩〕廣成愛㆓神鼎㆒、淮南好㆓丹經㆒。〔注〕善曰、神仙傳曰、淮南王劉安者、漢高皇之孫也、好㆓道術之士㆒、於㆑是八公乃往、遂授以㆓丹經㆒。〔隋書、經籍志三〕雜神仙丹經十卷・太極眞人九轉還丹經一卷・太山八景神丹經一卷。
【丹谿】88 タンケイ 仙人の居る谷。〔郭璞、遊仙詩〕雖㆑欲㆑騰㆓丹谿㆒、雲螭非㆓我駕㆒。
【丹嶠】89 タンケウ 高山の仙境。〔王勃、靈瑞寺浮圖碑〕揆㆓刹元嶺㆒、圖㆓基丹嶠㆒。
【丹徼】90 タンケウ 南方の邊疆。〔古今注、都邑〕丹徼、南方徼色赤、故稱㆓丹徼㆒、爲㆓南方之極㆒也。〔隋書、南蠻傳論〕地窮㆓丹徼㆒、景極㆓日南㆒。
【丹穴】91 タンケツ ❶丹砂の出る穴。〔史記、貨殖傳〕巴蜀寡婦淸、其先得㆓丹穴㆒、而擅㆓其利㆒。〔注〕丹者、砂也、穴者、山谷之穴出㆑丹也。〔呂覽、貴生〕逃㆓乎丹穴㆒、越國無㆑君。❷南方。日下に當る地。〔爾雅、釋地〕距㆓齊州㆒以南、戴㆑日爲㆓丹穴㆒、云云、丹穴之人智。〔淮南子、氾論訓〕丹穴大蒙。❸山名。〔山海經、南山經〕丹穴之山、其上多㆓金玉㆒、丹水出焉、而南流注㆓於渤海㆒。
【丹血】92 タンケツ あかい血。なま血。〔盧照鄰、詠史詩〕天子玉檻折、將軍丹血流。
【丹訣】93 タンケツ 道家で丹を燒く法。〔王維、送㆓張道士歸㆑山詩〕別㆑婦留㆓丹訣㆒、驅㆑雞入㆓白雲㆒。〔元稹、春月詩〕口中祕㆓丹訣㆒、肘後懸㆓靑囊㆒。
【丹闕】94 タンケツ 赤く塗つた王宮の門。〔李白、把㆑酒問㆑月詩〕皎如㆔飛鏡臨㆓丹闕㆒、綠煙滅盡淸輝發。〔衛次公、渭水貫都賦〕照㆓雙鳳之丹闕㆒、駕㆓長虹之飛梁㆒。
【丹慊】95 タンケン まごころ。丹心。〔任昉、爲㆓齊明皇帝㆒作㆑相讓㆓宣城郡公㆒第一表〕鉅平之懇誠必固、永昌之丹慊獲㆑申。〔白居易、社日謝㆑賜㆓酒餠㆒狀〕豈伸㆓丹慊㆒。
【丹瞼】96 タンケン うすあかいまぶた。〔徐夤、句踐進㆓西施㆒賦〕波淺㆓丹瞼㆒、鴉深㆓綠鬢㆒。〔劉言史、贈㆓成鍊師㆒詩〕丹瞼雲鬢日月長。
【丹巘】97 タンケン あかく見える山峯。禿山。〔沈約、鍾山詩應㆓西陽王教㆒詩〕鬱律構㆓丹巘㆒。〔梁簡文帝、棗下何纂纂〕結翠依㆓丹巘㆒。
【丹元】98 タンゲン 心神の名。〔事物異名錄、神鬼部、心神〕黃庭內經、心神丹元、字守靈。
〖丹元子〗99 タンゲンシ ❶隋の隱者。其の氏名は不明。著に步天歌七卷がある。〔通志、天文略〕❷唐、王希明(7－20823・・1282)の號。
【丹絃】100 タンゲン 朱絃の樂器。〔江淹、雜體、袁太尉淑從駕詩〕眇謠響㆓玉律㆒、邑頌被㆓丹絃㆒。
【丹午】101 タンゴ 清、顧公燮(12－43689・・267)の字。
【丹紅】102 タンコウ 赤いいろ。〔梁簡文帝、新成㆓安樂宮㆒樂府〕遙看雲霧中、刻桷映㆓丹紅㆒。
【丹虹】103 タンコウ 赤いにじ。〔李嶠、旌詩〕擁㆑麾分㆓彩雉㆒、持㆑節曳㆓丹虹㆒。〔元稹、會眞詩〕寶釵行㆓彩鳳㆒、羅帔掩㆓丹虹㆒。
【丹鴻】104 タンコウ 蟲の名。しらみ。蝨(10－33303)の異名。〔事物異名錄、昆蟲部上、蝨〕類書蝨、一名㆓丹鴻㆒。
【丹谷】105 タンコク ❶赤い谷。〔張協、七命〕登㆓翠阜㆒、臨㆓丹谷㆒。〔李白、西嶽雲臺歌〕翠崖丹谷高掌開。❷地名。山西省晉城縣の南東。〔水經、沁水注〕丹水又東南流注㆓于丹谷㆒。〔魏書、孝莊帝紀〕子恭仍鎭㆓太行・丹谷㆒、云云爾朱兆寇㆓丹谷㆒、云云、大都督源子恭奔退。
【丹國】106 tan^1 kuo^2 丁抹國。デンマーク。
【丹鵠】107 タンコク あかい鵠鳥。瑞鳥の一。〔瑞應圖〕王者知㆓音樂之節㆒、則丹鵠飛。
【丹悃】108 tan^1 k'un^3 赤誠。まごころ。誠心誠意。
【丹懇】109 タンコン まごころ。丹誠。丹心。赤心。〔唐則天樂章〕翹㆓丹懇㆒兮荷㆓休徵㆒。
【丹沙】110 タンサ あかいすな。丹砂(113)に同じ。〔管子、侈靡〕丹沙之穴不㆑塞、則商賈不㆑處。〔書、禹貢、礪砥砮丹、疏〕丹者、丹沙。
〖丹沙草〗111 タンササウ 草の名。はこねしだ。石長生(8－24024・・556)の異名。〔本草、石長生〕釋名、丹草、丹沙草。
〖丹沙化爲黃金〗112 タンサクワシテワウゴントナル 方術の士が丹沙を燒き、變化させて黃金とするのをいふ。〔史記、武帝紀〕少君言㆓於上㆒曰、祠㆑竈則致㆑物、致㆑物而丹沙可㆔化爲㆓黃金㆒、黃金成、以爲㆓飲食器㆒則益㆑壽、益㆑壽而海中蓬萊遷者可㆑見。〔史記、封禪書〕少君言㆑上曰、祠㆑竈則致㆑物、致㆑物而丹沙可㆔化爲㆓黃金㆒、黃金成、以爲㆓飲食器㆒、則益㆑壽、益㆑壽而海中蓬萊遷者、乃可㆑見。〔抱朴子、金丹〕凡草木燒㆑之卽燼、而丹砂燒㆑之成㆓水銀㆒、積變又還成㆓丹砂㆒、故能令㆓人長生㆒。
【丹砂】113 タンサ 水銀と硫黃との化合物。多く土狀をなし、濃紅色、又は赤褐色をなす。水銀を獲る原料に供し、又、精製して顏料・藥劑に供する。又仙藥の資。丹沙。硃砂。丹干。辰砂。丹粟。〔本草、丹砂〕釋名、時珍曰、丹乃石名、其字從㆓井中一點㆒、象㆘丹在㆓井中㆒之形㆖、義出㆓許愼說文㆒、後人以㆑丹爲㆓朱色之名㆒、故呼㆓朱砂㆒。〔漢書、貨殖傳〕筋角丹砂千斤。〔張說、同㆓玉眞公主㆒過㆓大哥山池㆒題㆑石詩〕綠竹初成㆑苑、丹砂欲㆑化㆑金。〔劉長卿、尋㆓洪尊師㆒不㆑遇詩〕山中不㆓相見㆒、何處化㆓丹砂㆒。〔韓愈、進學解〕玉札丹砂、赤箭靑芝。
〖丹砂丸〗114 タンサグワン 太陽の異名。〔白居易、遊㆓悟眞寺㆒詩〕西北日落時、夕暉紅團團、千里翠屛外、走下丹砂丸。
【丹彩】115 タンサイ あかく色どる。あかい色彩。丹采。〔何晏、景福殿賦〕皓皓旰旰、丹彩煌煌。〔鮑照、擬行路難〕外發㆓龍鱗之丹采㆒、內含㆓麝芬之紫烟㆒。
【丹鰓】116 タンサイ あかいえら。〔張協、七命〕赬尾丹鰓。〔高瑾、三月三日宴㆓王明府山亭㆒詩〕間關黃鳥、瀺灂丹鰓。
【丹劑】117 タンザイ 丹砂を煉つて作つた道家の藥。〔唐書、張昌宗傳〕昌宗主㆑煉㆓丹劑㆒。
【丹爪】118 タンサウ あかい色の爪。〔本草、鷗〕集解、時珍曰、鷗、云云、紅頰赤嘴丹爪、其性耿介。
【丹草】119 タンサウ 草の名。はこねしだ。石長生(8－24024・・556)の異名。〔本草、石長生〕釋名、丹草。
【丹竈】120 タンサウ 方術の士が靈藥を煉る竈。〔江淹、別賦〕守㆓丹竈㆒而不㆑顧、鍊㆓金鼎㆒而方堅。〔唐玄宗、過㆓老子廟㆒詩〕流沙丹竈沒、關路紫烟沉。〔西溪叢話〕松下有㆓廢丹竈㆒。
【丹冊】121 タンサク 論功定封に用ひた丹書のわりふ。轉じて、書籍をいふ。丹書(154)の❶を見よ。〔江淹、詣㆓建平王㆒上書〕俱啓㆓丹冊㆒、並圖㆓靑史㆒。〔注〕善曰、漢書曰、高祖論㆑功定㆑封、以㆓丹書之信㆒、重以㆓白馬之盟㆒、銑曰、冊、書也。
【丹參】122 タンサン 草の名。にこたぐさ。一年生の野草。高さ二尺ばかり。秋、淡紫色の小花を開く。〔本草、丹參〕釋名、赤參、山參、郗蟬草、木羊乳、逐馬、奔馬草、時珍曰、五參五色配㆓五臟㆒、故人參入㆑脾曰㆓黃參㆒、云云、丹參入㆑心曰㆓赤參㆒、集解、別錄曰、丹參生㆓桐柏川谷、及太山㆒、五月采㆑根暴乾。

丹參（三才圖會）

【丹山】123 タンザン ❶丹砂を產する山。赤い山。〔水經、丹水注〕丹水南有㆓丹崖山㆒、山悉赬壁、霞擧若㆓紅雲秀㆑天。〔宜都記〕尋西北陸行四十里、有㆓丹山㆒、山間時有㆓赤氣㆒、籠㆓蓋林嶺㆒、如㆓丹色㆒、因以名㆑山。❷山名。㋑丹穴の山をいふ。丹穴

(91)の㊂を見よ。〔阮籍、詠懷詩〕朝餐二琅玕實一、夕宿二丹山際一。〔張衡之、東飛伯勞歌〕青田白鶴丹山鳳。㊁山東省臨朐縣の東北。今の名は紀山。又、丸山。紀山(8－27234‥32)を見よ。〔讀史方輿紀要、山東、青州府、臨朐縣〕丹山、在二縣東北三十里一、一名丸山。㊂湖北省巴東縣の西。〔水經、江水注〕神孟涂所レ處、山海經曰、夏后啓之臣孟涂、是司二神于巴一、巴人訟二于孟涂之所一、其衣有レ血者、執レ之、是請レ生居二山上一、在二丹山西一、郭景純云、丹山在二丹陽一、屬レ巴、丹山西、卽巫山者也。㊃縣名。唐、置く。四川省資陽縣の東北。㊄清、盛楓(8－23005‥171)の號。〔號。〔丹山樵者〕124 タンザンセウジャ 明、崔植(4－8178‥105)の

【丹史】125 タンシ 清、王敬銘(7－20823‥1384)の字。

【丹芝】126 タンシ 靈草の名。赤芝。〔木草、芝〕赤芝、一名丹芝。

【丹思】127 タンシ 清、王敬銘(7－20823‥1384)の字。

【丹師】127 タンシ 繪師。畫家。〔源平盛衰記、二十八、源氏追討使事〕容顏美麗の氣色、云云、丹師が筆も及ばじ。

【丹脂】128 タンシ 赤いあぶら。べに。燕脂。〔拾遺記、吳〕諸嬖人欲レ要レ寵、皆以二丹脂一點レ頰、而後進幸、妖惑相動、遂成二淫俗一。

【丹紫】129 タンシ あかとむらさき。〔後漢書、輿服志下〕禁二丹紫紺一。〔北史、蘇威傳〕玉以二潔潤一丹紫、莫二能渝一其質。

【丹觜】131 タンシ あかいくちばし。丹嘴。〔禰衡、鸚鵡賦〕紺趾丹觜、〔令狐楚、爲二百官一賀二白鳥一表〕素彩皓潔、丹觜朱躍。

【丹州】132 タンシウ 州名。西魏、置く。故治は陝西省宜川縣の東北北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕宜川縣、古孟門河西之地、荷秦時爲二三堡鎭一、西魏至二義川縣一、又置二分州及義川郡一、尋改レ州爲二丹州一。

【丹室】133 タンシツ あかく塗つた居室。〔王勃、益州德陽縣善寂寺碑〕紫房丹室、猶レ居二燬室之間一、朱紱瑤筐、未レ出二塵籠之際一。

【丹漆】134 タンシツ 赤いうるし。あかうるし。又は、それで塗ること。〔禮、月令〕脂膠丹漆。〔左氏、宣、二〕縱其有レ皮、丹漆若何。〔後漢書、祭祀志上〕欲下以二丹漆一書上レ之。〔論衡、亂龍〕丹二漆其身一。〔魏志、衞覬傳〕飾二器物一、無二丹漆用一。〔孔子家語、好生〕丹漆不レ文、白玉不レ琱。〔張華、勵志詩〕如二彼梓材一、弗レ勤二丹漆一。

【丹質】135 タンシツ あかいいろの的(まと)の星。又、あかいしたぢ。〔儀禮、鄕射禮〕凡侯、天子熊侯、白質、諸侯麋侯、赤質、大夫布侯、畫以二虎豹一、士布侯、畫以二麋豕一、凡畫者丹質。

【丹實】136 タンジツ ㊀誠の心。〔南史、徐湛之傳〕懷懷丹實、具如二此啓一。㊁赤い實。〔埤雅、釋木、柚〕碧幹丹實、出二於江南一、〔吳筠、步虛詞〕絳樹結二丹實一、紫霞流二碧津一。

【丹汁】137 タンジフ 朱を磨つた汁。赤いしる。〔洞冥記〕有二朱露一、色如二丹汁一。

【丹赭】138 タンシャ あかつち。〔詩、邶風、簡兮〕赫如二渥赭一。〔疏〕其顏色赫然而赤、如二厚漬之丹赭一。

【丹裳】139 タンシャウ あかいもすそ。〔蔡邕、青衣賦〕綺袖丹裳、躡蹈絲屨。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕曜藻崇正、玄冕丹裳。〔雲笈七籤、虎錦丹裳〕

【丹墻】140 タンシャウ 朱ぬりのかき。丹垣。〔楊炯、孔子廟堂碑〕丹墻數仞、吐二納雲霞一。

【丹城】141 タンジャウ 縣名。㊀南齊、置く。廣東省舊廉州府の境に當る。㊁後魏、置く。故縣は安徽省宿縣の西南の丹城集。

【丹情】142 タンジャウ 赤心。まごころ。〔曹植、求レ通二親親一表〕臣丹情之至、願不レ離二於夢想一者也。

【丹瓤】143 タンジャウ 瓜の中にあるあかいわた。〔劉楨、瓜賦〕藍皮密理、素肌丹瓤。

【丹若】144 タンジャク 木の名。ざくろ。じやくろ。石榴(8－24024‥805)の異名。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕石榴、一名丹若。

【丹雀】145 タンジャク あかいすずめ。〔拾遺記、炎帝神農〕時有二丹雀一銜二九穗禾一、其墜二地者一、帝乃拾レ之、以植二於田一、食者老而不レ死。

【丹鵲】146 タンジャク 赤色のかささぎ。〔拾遺記、周〕二十四年、途脩國、獻二青鳳・丹鵲一、各一雌一雄。

【丹朱】147 タンシュ ㊀あかいろ。赤い色の繪具。〔禮、郊特牲〕繡黼丹朱中衣、大夫之僭禮也。〔後漢書、東夷傳〕丹朱玷レ身。㊁鑛石の名。丹砂(113)を見よ。〔博物志、物類〕燒二丹朱一、成二水銀一、則不レ類、物同レ類異レ用者。㊂堯の子。〔書、益稷〕丹朱傲、惟慢遊是好。〔傳〕丹朱、堯子。〔孟子、萬章上〕丹朱之不肖、舜之子亦不肖。〔國語、周語上〕實有二爽德一、協二于丹朱一。〔國語、楚語上〕堯有二丹朱一。〔注〕朱、堯子、封二於丹一。㊃齒の神。太平御覽、神鬼部、神上〕龍魚河圖曰、齒神、名丹朱。〔事物異名錄、神鬼部、牙齒神〕雲笈七籤、齒神名二丹朱一。

【丹朱嶺】148 タンシュレイ 山名。山西省高平縣の北。長子縣の界に接する。堯が丹朱を此處に封じたからいふ。〔高平縣志〕丹朱嶺、接二長子縣界一、以二堯封二長子丹朱一得レ名。

【丹硃】149 タンシュ 丹朱(147)の㊀に同じ。

【丹叔】150 タンシュク 清、張聯桂(4－9812‥1589)の字。

【丹菽】151 タンシュク 清、任宏嘉(1－416‥207)の字。

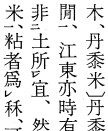
【丹秫】152 タンジュツ あかい粟(あわ)。〔周禮、考工記、鍾氏〕染羽以二朱湛丹秫一、三月而熾之。〔注〕丹秫、赤粟也。

【丹初】153 タンショ 清、闇敬銘(11－41379‥58)の字。

【丹書】154 タンショ ㊀丹で赤く書き、功臣に與へる手形。容易に消えない爲に丹を用ひる。丹書鐵契を見よ。〔漢書、高惠高后文功臣表〕申以二丹書之信一、重以二白馬之盟一。㊁赤雀が銜んだ書名。上古の道を書したといはれる書。琅琊代醉編、卷九に見ゆ。〔大戴禮、武王踐阼〕武王召二尙父一而問レ焉曰、黃帝顓頊之道存乎、尙父曰、在二丹書一。〔庾信、赤帝雲門舞〕赤雀丹書飛送迎。㊂罪を朱書すること。又、罪を定め記した書。〔左氏、襄、二十三〕初斐豹、隸也、著二於丹書一。〔注〕蓋犯レ罪沒爲二官奴一、以二丹書一其罪一也。〔陸機、謝二平原內史一表〕苟削二丹書一、得レ洗二平民一。〔注〕翰曰、丹書、定レ罪之書。㊃金石に勒する文字。

【丹書鐵契】155 タンショテッケイ 誓文のこと。鐵を以てわりふとし、之に消えないやうに朱を以て書したもの。功臣に賜はり、子孫永く罪を免ずる證とする。〔漢書、高帝紀下〕與二功臣一剖レ符作レ誓、丹書鐵契、金匱石室、藏二之宗廟一。〔資治通鑑、漢紀〕(高祖、十二年)與二功臣一剖レ符作レ誓、丹書鐵契。〔注〕丹書鐵契者、以レ鐵爲レ契、以二丹書一之。

【丹黍】156 タンショ あかきび。紅糧。丹黍米。〔本草、黍〕丹黍米、卽赤黍也、爾雅謂二之虋一、宗奭曰、丹黍皮赤、其米黃、惟可レ爲レ糜、不レ堪レ爲レ飯、黏者


丹黍米(會圖)

難レ解。

【丹黍米】157 タンショベイ 丹黍に同じ。〔三才圖會、草木、丹黍米〕丹黍米出二北開一、江東亦時有レ種、而非二土所一レ宜、然有二二種米一、粘者爲レ秫、可二以釀一酒一、不レ粘者爲レ黍、可レ食、味若二微溫一無レ毒、主二咳逆霍亂一、止二洩除一、熱止二煩渴一。

【丹色】158 タンショク あかい色。にいろ。

【丹燭】159 タンショク 燈火をいふ。〔傅玄、燭銘〕煌煌丹燭、焰焰飛光。

【丹心】160 タンシン まごころ。丹石心。あかき心。赤心。丹懸。丹衷。〔阮籍、詠懷詩〕丹心失二恩澤一、重德喪レ所レ宜。〔郭璞、遊仙詩〕悲來惻二丹心一。〔宋之問、早二發始興江口一至二虛氏村一作詩〕鬢髮俄成素、丹心已作レ灰。

【丹心照二萬古一】161 タンシンテラスバンコ 忠誠の心が萬古に亙つて明かである。〔楊繼盛、臨レ刑詩〕浩氣還二太虛一、丹心照二萬古一、生前未了事、留二與後人一補。

【留二取丹心一照二汗青一】162 タンシンヲテラスカンセイヲリウシュ 忠誠の心を盡くして、芳名を後世に殘すこと。〔文天祥、過二零丁洋一詩〕人生自レ古誰無レ死、留取丹心照二汗青一。

【丹忱】163 タンシン 赤誠。誠實の心。眞情。〔福惠全書、筮仕部、四六啓式〕法曜丹忱、長以仰酧二北闕一。

【丹宸】164 タンシン 清、王日杏(7－20823‥1621)の字。

【丹脣】165 タンシン ㊀赤く美しいくちびる。朱脣。〔曹植、洛神賦〕丹脣外朗。〔盧照鄰、和二王奭秋夜有レ所思詩〕丹脣開二玉齒一、妙響入二雲涯一。㊁少年をいふ。〔沈佺期、移二禁司刑一詩〕丹脣曾學レ史、白首不レ成レ儒。

【丹蔘】166 タンシン 人蔘の一種。〔王十朋、會稽風俗賦〕藥物之產、不レ知二其名一、白芷丹蔘、甘鞠黃精。

【丹水】167 タンスイ ㊀川の名。㋑山東省の境。二源あり、一は昌樂縣の南、方山から出で、東丹河といひ、一は臨朐縣の東北、丹山から出で、西丹水といふ。俱に東北に流れ、昌樂縣の西北を經て合流す。〔水經、巨洋水注〕丹水、有二二源一、各導二一山一、世謂二之東丹西丹水一也。㋺源は山西省高平縣の北に起り、莞谷水・源澤水・源源水・源漳水

等の名がある。俗名、丹河。〔山海經、北山經〕沁水、其東有レ林焉、名曰二丹林一、丹水出焉。㈧湖北省宜都縣の西南。東北に流れて清江に入る。〔水經、夷水注〕望州山、俗語訛、今名二武鍾山一、山根東有二湧泉成レ溪、卽丹水所レ發也。㈨俗稱は丹河。又、丹淵・丹江。源は陝西省商縣の西北、冢嶺山。堯が、丹水の浦に戰つて苗蠻を征服した所。又、舜が堯の子、丹朱を封じた所。〔水經、丹水注〕呂氏春秋曰、堯有二丹水之戰一、以服二南蠻一、卽此水也。㈩一名、丹陽川。源は陝西省洛川縣の東、界牌山。〔水經、河水注〕丹水西南出二丹陽一。㈠汴河の古稱。〔水經、獲水注〕丹水壅不レ流、蓋汳水之變名也。㈡縣名。秦、置く。河南省淅川縣の西。〔漢書、地理志上〕弘農郡、縣十一、丹水。

『丹水子』168 タンスイシ 名古屋玄醫の號。名古屋丹水(2—3297‥393)を見よ。

【丹寸】169 タンスン 赤誠。寸は心をいふ。心の大きさは一寸四方と考へられた。〔王僧孺、爲二南平王妃一拜レ改封レ表〕奉レ命震慙、有二灼丹寸一。

【丹井】170 タンセイ 朱砂の井。〔江淹、雜體、謝臨川靈運遊山詩〕乳竇旣滴瀝、丹井復寥泬。〔王勃、九成宮頌〕桃溪逸彥、塞二丹井一而歸レ風。

【丹生】171 ニフ 姓氏。〔和爾雅〕。

『丹生屋』172 ミヤノ 姓氏。〔姓林全書〕。

『丹生山』173 ニフノヤマ 大和國に在る山。

【丹青】174 タンセイ ㊀丹砂と青雘。赤と青の繪具の材料になる石。〔周禮、秋官、職金〕掌二凡金玉錫石丹青之戒令一。〔管子、小稱〕丹青在レ山、民知而取レ之。〔史記、李斯傳〕江南金錫不レ爲レ用、西蜀丹青不レ爲レ采。〔司馬相如、子虛賦〕其土則丹青赭堊、雌黃白坿。〔注〕丹、丹沙也、青、青雘也。㊁赤い色と青い色。丹碧。繪具。彩色。〔漢書、蘇武傳〕竹帛所レ載、丹青所レ畫。〔吳融、畫二山水一歌〕良工善得二丹青理一、輒向二茅茨畫二山水一。㊂繪畫。ゑ。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一詩〕丹青不レ知レ老將レ至、富貴於レ我如二浮雲一。㊃畫工を いふ。善二丹青一を見よ。〔故事成語考、技藝〕繪畫之士、曰二丹青一。㊄丹冊と青史。古は書策に竹簡を用ひたから青史といふ。歷史の書をいふ。丹冊(121)及び丹書(154)の㊀を見よ。〔文天祥、正氣歌〕時窮節乃見、一一垂二丹青一。㊅著明なことの喩。丹青之信を見よ。〔法言、君子〕聖人之言、炳如二丹青一。㊆竹の名。〔羣芳譜〕丹青竹、出二熊耳山一、葉黃碧丹相間。㊇樹の名。〔九域志〕其樹直上百尺、上結二叢條一、狀如二車蓋一、一丹一青、斑駁如二錦繡一、長安謂二之丹青樹一。

【丹青家】175 tan¹ ch'ing¹ chia¹ 畫家。繪を畫く人。

【丹青手】176 タンセイシュ 畫工。〔高蟾、金陵晚眺詩〕世間無二限丹青手一、一段傷心畫不レ成。〔稱謂錄、畫、丹青手〕蘇軾詩句、何年顧陸丹青手、畫作朱陳嫁娶圖。

【善二丹青一】177 タンセイヲヨクス 上手に繪を畫く。〔晉書、顧愷之傳〕尤善二丹青一、圖寫特妙。

【丹青過レ實】178 タンセイクワジツニアタル 繪の方が實際よりも美しいこと。〔客越志〕每疑二丹青過レ實、今觀二此景一、乃知二良工苦心一。

【丹青之信】179 タンセイノシン 丹・青は色彩が鮮明なことから、轉じて事の明著なることにいふ。〔漢書、王莽傳下〕明告以二生活丹青之信一。〔後漢書、公孫述傳、論曰〕以明二丹青之信一。〔資治通鑑、漢紀〕光武帝、建武三年〕臣願得レ奉二威命一、開以二丹青之信一。〔注〕楊子曰、聖人之言、炳若二丹青一。

『丹青之妙』180 タンセイノミヤウ 色彩の美しさ。ゑのぐの使ひ方のうまさ。

【丹精】181 タンセイ 心をこめて事をする。念を入れる。丹誠の㊁に同じ。〔源平盛衰記、二十七、源氏追討祈事〕並びに丹精を致す。

【丹誠】182 タンセイ ㊀まごころ。丹心。赤誠。〔魏志、陳思王植傳〕臣丹誠之至願、不レ離二於夢想一者也。〔任昉、百辟勸二進今上一牋〕朝命纏隆、冒奏丹誠。〔唐書、戴至德傳〕資二啓沃一、罄二丹誠一。〔白居易、天可度詩〕但見二丹誠赤如レ血。㊁心をこめて精を出す。丹精。丹念。

【丹椒】183 タンセウ あかい山椒。〔曹植、七啓〕紫蘭丹椒、施和必節。〔左思、蜀都賦〕或豐二綠黃一、或蕃二丹椒一。

【丹詔】184 タンセウ 天子の勅命をいふ。〔張蠙、贈二信安太守一詩〕昨日中官說二天意一、卽飛二丹詔一立二新碑一。〔韓翃、送二王光輔歸一青州一兼寄二諸侍郎一詩〕身著二紫衣一趨二闕下一、口銜二丹詔一出二關東一。

【丹霄】185 タンセウ 夕やけなどの紅いそら。又、そら。天。〔庾闡、遊仙詩〕神嶽竦二丹霄一、玉堂臨二雪嶺一。〔梁武帝、十喩、乾闥婆詩〕青城接二丹霄一、金樓帶二紫烟一。〔任昉、王文憲集序〕勛以二丹霄之價一、弘以二青冥之期一。

【丹石】186 タンセキ ㊀あかい石。瑞兆の一。〔漢書、翟方進傳〕太皇太后以二丹石之符一、廼紹二天明意一。〔漢書、王莽傳上〕出二丹石之符一。㊁瑪瑙をいふ。〔拾遺記、高辛〕丹丘之野多レ鬼、血化爲二丹石一、則瑪瑙也、不レ可二斫削彫琢一、乃可二鑄以爲一レ器也。〔事物異名錄、珍寶部、瑪瑙〕拾遺記、丹邱之野多レ鬼、血化爲二丹石一、則瑪瑙也。

【丹石心】187 タンセキシン まごころ。赤心。丹心(160)に同じ。〔謝朓、始出二尚書省一詩〕旣秉二丹石心一、寧流二素絲涕一。

【丹赤】188 タンセキ 眞心。〔陳書、侯安都傳〕欵二襟期於話言一、推二丹赤於造次一。

『丹赤漆黑』189 タンセキシツコク 赤土中にあるものは赤く、うるしの中にあるものは黑い。感化の恐るべき喩。〔孔子家語、六本〕丹之所レ藏者赤、漆之所レ藏者黑、是以君子必愼二其所一レ與處一者一焉。

【丹節】190 タンセツ 赤心をこめた操。〔王褒、太傅燕文公于謹墓碑銘〕丹節比二司隸之貴一、緹綺將二金吾之寵一。

【丹摺】191 ニスリ 赤土で摺つた衣。

【丹川】192 タンセン ㊀赤い川。〔顧況、歸二陽蕭寺一作詩〕苦哉千萬人、流血成二丹川一。㊁縣名。㋑漢の高都縣。隋、丹川と改む。縣の東に丹水があるので名づく。山西省晉城縣の東。〔讀史方輿紀要、山西、澤州〕高都城、戰國時魏地、秦莊王三年、蒙驁拔二魏高都一、漢置二高都縣一、屬二上黨郡一云云、隋開皇初、郡廢、十八年、改爲二丹川縣一、澤州治焉。㋺唐、置く。貴州省思縣の北。〔讀史方輿紀要、貴州、思州府、施溪長官司〕丹川廢縣、通志云、今司治、唐武德初、置二丹川縣一、屬二夷州一。

【丹泉】193 タンセン ㊀丹砂の泉。其の水を飮めば死なぬといふ。丹泉術を見よ。〔拾遺記、燕昭王〕昭王處以二單綃華幄一、飮以二瑶瑕之膏一、飴以二丹泉之粟一。㊁明、顧源(12—43689‥73)の號。

【丹泉術】194 タンセンジツ 仙泉の術。不老不死の藥を作る術。〔江淹、雜體、謝光祿郊遊詩〕始整二丹泉術一、終覩二紫芳心一。〔注〕向曰、丹泉、丹巒之泉、飮之不レ死。

【丹戩】195 タンセン 蟲の名。のみむし。〔本草、鼠婦〕附錄、丹戩、別錄有名未用曰、生二蜀郡一、狀如二鼠婦一、青股赤頭、七月七日采、一名飛龍。

【丹前】196 タンゼン ㊀丹前姿の略。㊁雪踏ゲッの鼻緒の一種。丹前姿した人の用ひたもの。〔色芝居草子〕つめ袖に後帶、もみの丹前をはきものにあてがひ。㊂どてらの異稱。〔守貞漫稿、十三、男服〕丹前、京阪の服名、どてら、江戸の服名也。㊃芝居で、役者が舞臺から花道を經て揚幕に入るときの一種の足の踏み方。六法。㊄芝居で、吉原通ひの丹前姿の出、また六法などに用ひる三味線入り合方アヒ。津島丹前・あばれ丹前等がある。〔佐渡島日記〕江戸にては丹前といひ、大阪にては出端といふ。

【丹前姿】197 タンゼンスガタ 德川時代、江戸に流行した遊冶郎、又は俠客の姿。〔右大將鎌倉實記〕土佐が繪筆の丹前姿。

【丹前節】198 タンゼンブシ 丹前姿の人の謠つた一種の節。〔東海道名所記〕此の頃のたんぜんぶしを、道中にも謠ひつれて。

【丹前帶】199 タンゼンオビ 丹前姿の人の用ひた帶。〔天和笑委集〕腰に餘れる丹前帶。

【丹素】200 タンソ ㊀白い上衣と赤い中衣。又、中衣をいふ。〔鮑照、擬古詩〕魯客事二楚王一、懷レ金襲二丹素一。〔注〕善曰、毛詩曰、素衣朱襮、毛長曰、丹二朱中衣一也、銑曰、丹素中衣。㊁丹筆で白絹に書く。又、その物。〔宋史、孟昶世家〕丹素備陳二於翰墨一。歡盟已保二於金蘭一。〔西湖志餘〕唐中和二年、賜二錢繆鐵券一、曰、志奬二王室一、績冠二侯藩一、著二於旂常一、流在二丹素一。

【丹甑】201 タンソウ 赤い敷がはら。豐年に出る瑞物。〔詩、周頌、載、疏〕地生醴泉・銀甕・丹甑。〔梁簡文帝、大法頌序〕桂薪不レ爨、而丹甑自熟。〔宋書、符瑞志下〕丹甑、五穀豐熟則出。

【丹粟】202 タンゾク 丹砂(113)に同じ。〔山海經、南山經〕柜山、英水出焉、其中多二白玉一、多二丹粟一。〔注〕

細丹砂如レ粟也。〔張衡、南都賦〕青䨼丹粟。

【丹村】203 タンソン 清、張作楠(4－9812・・1069)の字。

【丹蛇】204 タンダ あかいへび。〔晉書、天文志中〕凡戰氣如二丹蛇一、赤氣隨レ之。〔鮑照、代苦熱行〕丹蛇踰二百尺一、元蜂盈二十圍一。

【丹柰】205 タンダイ 林檎の一種。べにりんご。からなし。朱柰。〔本草、柰〕集解、時珍曰、赤者爲二丹柰一、亦曰二朱柰一。〔蒙求、下、王祥守柰〕有二丹柰結レ實。

【丹臺】206 タンダイ 仙人の居る所。〔列仙傳、二〕紫陽眞人周季道遇二羨門子一、乞二長生訣一。羨門子曰、名在二丹臺石室中一、何憂レ不レ仙。〔沈佺期、和二元舍人萬頃臨レ池翫レ月詩〕春風搖二碧樹一、秋露卷二丹臺一。〔白居易、夢仙詩〕苟無二金骨相一、不レ列二丹臺名一。

『丹臺外史』207 タンダイグワイシ 明、蔣景高(9－31820・・138)の號。

【丹澤】208 タンタク 西南方に在る、丹水に近い澤。〔淮南子、墬形訓〕西南方曰二渚資一、曰二丹澤一。〔注〕蓋近二丹水一、因二其名一、故曰二丹澤一也。

【丹達】209 タンタツ ㊀西藏の地名。㊁山名。西康省の碩督・嘉黎二縣の間。西藏へ入る第一の險阻で、西康省と西藏との界。

【丹丹】210 タンタン 西南夷の國の名。馬來半島西岸の海中にある。唐書は單單に作る。〔梁書、諸夷、海南諸國傳〕丹丹國、中大通二年、其王遣レ使奉レ表曰、伏承聖主、至德仁治、信二重三寶一、佛法興顯、衆僧殷集、法事日盛、威嚴整肅、朝二望國執一、慈二愍蒼生一、八方六合、莫レ不二歸服一。〔舊唐書、地理志四〕丹丹國、振州東南海中之一洲、舟行十日至。

【丹墀】211 タンチ ㊀丹漆で塗り込めた庭。天子の庭は殿階の下を赤く塗るからいふ。〔班婕妤、自悼賦〕俯視二兮丹墀一、思レ君兮履レ綦。〔張衡、西京賦〕青瑣丹墀。〔宋書、百官志上〕尚書郎奏二事明光殿一、殿以二胡粉一塗レ壁、畫二古賢烈士一、以二丹朱一色レ地、謂二之丹墀一。〔通典、職官典、尚書上、歷代郎官〕省中皆以二胡粉一塗レ壁、畫二古賢烈女一、以二丹朱一漆レ地、故謂二之丹墀一。〔書言故事、朝制類〕殿堦曰二丹墀一。㊁ヒタチ 姓氏。

【丹咮】212 tan¹ chou⁴ 赤い嘴クチバシ。

【丹竹】213 タンチク 赤色の竹。〔筍譜、二之出〕丹竹筍、出二道州瀧中峭壁之上一、竹每節可二一丈一、或八尺、莖不レ大、裊裊搖レ空、粉節上、似レ有二丹色一、心空肉薄、舟人多劈爲二百丈繂一。

【丹頂】214 タンチヤウ 頭の頂の赤い鶴。又は丹頂鶴の赤い頭の頂。〔朱慶餘、台州鄭員外郡齋雙鶴詩〕丹頂分明音響別、況聞來處隔二雲濤一。〔李咸用、獨鵠吟〕碧玉喙長丹頂圓、亭亭危立風松閒。〔白居易、劉蘇州以二華亭一鶴一遠寄以レ詩謝レ之詩〕素毛如二我鬢一、丹頂似二君心一。〔墨客揮犀〕鶴頂如レ丹、毛羽皆黑、日照レ之、金色燦然。

【丹中】215 タンチユウ 清、國梁(3－4798・・555)の字。

【丹柱】216 タンチユウ あかいはしら。丹楹。〔崔駰、七依〕丹柱雕楹、飛閣層樓。〔王延壽、魯靈光殿賦〕丹柱歙絶而電烻。〔楊濤、庭燎賦〕連二珠戶一而散彩、映二丹柱一而混色。

【丹衷】217 タンチユウ ㊀まごころ。丹心(160)に同じ。〔戴叔倫、曾遊詩〕絶粒感二楚囚一、丹衷猶照耀。㊁明、陳于王(吳縣の人)(11－41698・・663)の字。

【丹除】218 タンヂヨ 塗った階段。〔盧僎、奉下和李令扈二從溫泉宮一賜中遊驪山韋侍郎別業上詩〕締レ賞出二丹除一。

【丹荑】219 タンテイ 草の赤い芽。〔郭璞、遊仙詩〕臨レ源挹二清波一、陵レ岡掇二丹荑一。〔注〕凡草之初生、通名曰レ荑。

【丹梯】220 タンテイ ㊀赤い梯子。轉じて、仙境に入る道。〔謝朓、遊二敬亭山一詩〕要欲レ追二奇趣一、卽レ此凌二丹梯一。〔元稹、三歎詩〕願言成二羽翼一、奮レ翅凌二丹梯一。㊁赤く塗った階段。轉じて、朝廷をいふ。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩〕躧步陵二丹梯一、並坐侍二君子一。〔注〕銑曰、丹、赤、梯、階也、謂二階陛赤色一。

【丹第】221 タンテ ダンテ 伊太利の詩人。Dante Alighieri

【丹鼎】222 タンテイ 道家の藥を煉る器。〔盧照鄰、贈二李榮道士一詩〕圓洞開二丹鼎一、方壇聚二絳雲一。〔瑯嬛記〕龜千年者、能至二蓬萊山下一、覓下仙人洗二丹鼎一水上服レ之、輒生レ翅能飛、變化不レ測。

【丹鳥】223 タンテウ ㊀鳥の名。㋑鳳凰の一名。〔魏志、管輅傳、注〕文王受レ命、丹鳥銜レ書。㋺鷩雉。立秋に來り、立冬に去る。〔左氏、昭、十七〕丹鳥氏司レ閉者也。〔注〕丹鳥、鷩雉也、以二立秋一來、立冬去、入二大水一爲レ蜃。㊁ほたるの異名。〔大戴禮、夏小正〕丹鳥羞二白鳥一。〔注〕丹鳥者、螢也。〔古今注、魚蟲〕螢火、一名丹良、一名丹鳥。

『丹鳥氏』224 タンテウシ 古の官名。曆正の屬官。立秋・立冬を司る。〔左氏、昭、十七〕玄鳥氏司レ分者也、伯趙氏司レ至者也、青鳥氏司レ啓者也、丹鳥氏司レ閉者也。〔注〕上四鳥、皆曆正之屬官。〔會箋〕閉、陰氣閉レ物也、謂二立秋・立冬一。

【丹旐】225 タンテウ 葬式に用ひる旗。〔岑參、苗侍中挽歌〕丹旐飛二斜日一、淸笳怨二暮風一。〔韓愈、祭二鄭夫人一文〕水浮陸走、丹旐翩然。〔李商隱、故驛迎二弔故桂府常侍一有レ感詩〕二紀征レ南恩與レ舊、此時丹旐玉山西。

【丹篆】226 タンテン 道家の書。神仙の書。〔龍城錄〕退之常說、少時夢、人與二丹篆一卷一、令二強呑一レ之、傍一人撫レ掌而笑。〔李嶠、大周降禪碑〕乾冊丹篆、河圖紫文。〔杜牧、贈二朱道靈一詩〕劉根丹篆三千字、郭璞青囊兩卷書。

【丹田】227 タンデン 臍からわづかに下の處。下腹部。〔黃庭外景經〕丹田之中、精氣微、在二人身臍下三寸一。〔張說、送二劉道士一詩〕眞人紫絳氣、邀二我丹田宮一。〔元稹、贈二吳丹一詩〕密印視二丹田一、遊神夢二三島一。

『丹田霖雨』228 タンデンリンウ 草の名。巴戟天(4－8745・・27)の異名。〔淸異錄、藥、藥譜〕丹田霖雨、巴戟。

【丹徒】229 タント 縣名。漢、置く。春秋、吳の朱方邑。故城は今の江蘇省鎭江縣の東南。卽ち今の丹徒鎭。今、改めて鎭江縣とす。城西の雲臺山下に淸の咸豐八年通商港を開く。天津條約三港の一。舊時、商業盛であつたが、滬寧鐵路が通つて後、漸く衰へた。〔南徐州記〕秦時以三其地有二天子氣一、使下赭衣徒三千人、鑿二京峴南坑一、以敗中其勢上、故名爲二丹徒一。〔淸史稿、地理志〕江蘇、鎭江府、縣四、丹徒。

【丹塗】230 ニヌリ 丹、又は朱で塗ること。又、其の塗つたもの。さにぬり。〔古事記、中〕丹塗矢。〔山城風土記、賀茂社〕丹塗矢自二川上一流下、乃取挿二置床邊一、遂孕生二男子一。

【丹圖】231 タント 器物に刻畫圖象のあるものをいふ。丹書の類。〔周禮、秋官、司約〕凡大約劑書二於宗彝一、小約劑書二於丹圖一。〔注〕丹圖未レ聞、或有下彫器簠簋之屬、有二圖象一者上與、春秋傳曰、斐豹隸也、著二於丹書一、今俗語有二鐵券丹書一、豈此舊典之遺言。

【丹土】232 タンド につち。あかつち。〔後漢書、東夷、倭傳〕其山有二丹土一、氣溫腝、冬夏生二菜茹一。

【丹洞】233 タンドウ 丹穴の山。仙境をいふ。丹穴(91)の㊁を見よ。〔劉禹錫、麻姑山詩〕雲蓋青山龍臥處、日臨二丹洞一鶴歸時。〔趙居貞、雲門山投龍詩〕帟幕翠微亘、機茵丹洞闢。

【丹毒】234 タンドク 病の一。疵ぐちから丹毒菌が侵入して潮紅疼痛を起し、全身發熱するもの。〔東醫寶鑑〕丹毒如二塗丹之狀一、俗云二赤瘤一。

【丹腦】235 タンナウ あかいあたま。〔白居易、吳興靈鶴贊〕丹腦火綴、白翎雪開。

【丹念】236 タンネン 深く物事に注意すること。

【丹巴】237 タンパ 縣名。西康省康定縣の東北。もと、丹東・巴底・巴旺の三土司の地。民國、改めて縣を置く。

【丹波】238 タンパ ㊀國の名。㊁ハタニ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十八〕。

【丹葩】239 タンパ あかい花。〔左思、招隱詩〕白雲停二陰岡一、丹葩曜二陽林一。〔江淹、雜體、許徵君詢自敍詩〕丹葩曜二芳蕤一。

【丹壩】240 タンパ 土司の名。清、長官司を置く。一名、黨壩。四川省理番縣の西。〔淸史稿、地理志〕四川、理番直隸廳、土司四、丹壩長官司。

【丹方】241 タンパウ 道家の煉丹の術。〔沈約、華山館詩〕丹方緘二洞府一、河淸時一傳。〔司空圖、五十詩〕淸秩偶叨非レ養レ望、丹方頻試更堪レ疑。

【丹抱】242 タンパウ まごころ。赤心。〔宋書、范曄傳〕區區丹抱不レ負二夙心一。

【丹房】243 タンパウ ㊀神仙の居る所。〔曹唐、小遊仙詩〕丹房玉女心慵甚、貪二看投壺一不レ肯レ歸。〔十洲記〕崐崙山有二碧玉之堂、瓊華之室、紫翠丹房、錦雲燭日一。㊁道觀の別名。丹藥を煉る所をいふ。〔王勃、遊二廟山一賦〕見二丹房之晚晦一、如二紫洞之宵寒一。

【丹珀】244 タンパク 琥珀。色が赤いからいふ。丹魄。〔沈約、恩倖傳論〕素縑丹珀。〔注〕珀、善本作二魄

字一、善曰、丹珀、虎魄也、色赤、故曰レ丹。

【丹魄】245 タンパク ㊀まごころ。赤誠。〔江淹、爲レ蕭重讓二揚州一表〕素心丹魄、皦然靡レ疚矣。㊁琥珀をいふ。丹珀に同じ。

【丹薄】246 タンパク 血に染まつた林。〔張協、七命〕藪爲二毛林一、隰爲二丹薄一。〔注〕翰曰、藪澤之中、禽獸之毛爲レ林、原隰之木、塗二禽獸之血一爲レ薄、薄亦林也、丹、赤也。

【丹麥】247 デンマーク 歐羅巴の國の名。丹墨。丁抹國。Denmark

【丹礬】248 タンバン 硫酸銅。染色又は鍍金用に供する。膽礬の誤用。膽礬(9−29933・・40)を見よ。

【丹比】249 タチヒ ㊀河内國の古郡名。㊁姓氏。〔和爾雅〕。㊂ヒニ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【丹扉】250 タンピ 赤く塗つたとびら。〔曹植、五游詩〕閶闔啓二丹扉一、雙闕曜二朱光一。〔楊衡、遊二峽山寺一詩〕寶殿敞二丹扉一、靈幡垂二絳旒一。

【丹筆】251 タンピツ 罪人の刑を書く筆。〔北史、劉炫傳〕名不レ挂二於白簡一、事不レ染二於丹筆一。〔白孔六帖〕丹筆、正レ刑之筆。〔精註雅俗故事讀本、下、訟獄〕無レ煩二丹筆一。

【丹蹕】252 タンピツ 天子の車駕をいふ。〔事物異名錄、舟車、車〕山堂肆考、丹蹕、天子車駕也。

【丹扶】253 タンプ 清、孫光炅(3−6987・・375)の字。

【丹府】254 タンプ まごころ。〔陸機、辨亡論下〕接レ士盡二盛德之容一、親レ仁罄二丹府之愛一。〔注〕良曰、丹府、謂二赤心一也。〔蘇軾、正月十八日蔡州道上遇レ雪次二子由韻一詩〕不レ如閉レ目坐、丹府夜自暾。

【丹符】255 タンプ 天子の符節。轉じて、天子の位をいふ。〔本朝文粹、村上天皇減二服御常膳一竝恩赦詔〕居二黃屋一而不レ驕、役二丹符一而自約。

【丹楓】256 タンプウ 紅葉したかへで。紅楓。霜楓。〔杜甫、奉レ觀二嚴鄭公廳事岷山沲江畫圖一詩〕暗谷非レ關レ雨、丹楓不レ爲レ霜。〔李商隱、過二楚宮一詩〕巫峽迢迢舊楚宮、至レ今雲雨暗二丹楓一。

【丹黻】257 タンフツ 赤い膝かけ。〔范曄、樂游應レ詔詩〕探レ己謝二丹黻一、感レ事懷二長林一。〔裴子野、上レ朝值レ雪詩〕集霰渝二丹黻一、流雲飄二繡柱一。

【丹芬】258 タンプン 明、馮夢桂(12−44579・・286)の字。

【丹粉】259 タンプン ㊀赤い粉。〔李商隱、韓翃舍人卽事詩〕萱草含二丹粉一、荷花抱二綠房一。㊁赤い繪具。〔唐書、閻立本傳〕立本俯二伏池左一、研二吮丹粉一。〔宋史、職官志五〕丹粉所、掌下燒二變丹粉一、以供中繪飾上。

【丹棻】260 タンプン 明、馮夢桂(12−44579・・286)の字。

【丹憤】261 タンプン 誠心から發したいきどほり。〔袁高、詩〕茫茫滄海閒、丹憤何由伸。

【丹陛】262 タンペイ 赤く塗つたきざはし。天子の御所の稱。〔北史、樊子蓋傳〕大業三年入朝、加二右光祿大夫一、子蓋曰、願奉二丹陛一、煬帝曰、公侍レ朕、則一人而已。〔隋書、薛道衡傳〕趨二事紫宸一、驅二馳丹陛一。〔岑參、寄二左省杜拾遺一詩〕聯步趨二丹陛一、分曹限二紫微一。

【丹屛】263 タンペイ 朱塗りの衝立。有德の人の居る所。〔溫子昇、從二駕幸二金墉城一詩〕御溝屬二淸洛一、馳道通二丹屛一、湛淡水成レ文、參差樹交レ影。

〖丹屛墀〗264 タンペイチ 漢代、省閣下の大屛の異稱。〔海錄碎事、臣職、臺省〕漢官典儀曰、省閣下大屛、稱曰二丹屛墀一、尙書郞含二鷄舌香一、伏二其下一奏レ事。

【丹碧】265 タンペキ 赤と青。丹靑。〔陳泰、三月望二楚昭王廟一觀二樂舞一詩〕晶熒丹碧飛二甍閣一。

〖丹碧映射〗266 タンペキエイシャ あか色や青色が互に美しく映えあふこと。

【丹壁】267 タンペキ ㊀あか色のかべ。〔李白、秋日與二張少府一楚城韋公藏書高齋作詩〕彩雲思レ作レ賦、丹壁閒藏レ書。㊁あか色のがけ。丹崖。〔江淹、遊二黃蘗山一詩〕禽鳴丹壁上、猿嘯青崖閒。

【丹浦】268 タンポ 丹水のほとり。古、堯帝が苗蠻を征したところ。丹水(167)の㊀の㊁を見よ。〔沈約、應レ詔樂游苑餞二呂僧珍一詩〕丹浦非レ樂レ戰。〔南史、梁元帝紀〕指麾則丹浦不レ戰、顧眄則阪泉自蕩。

【丹母】269 タンボ 道家の語。㊀丹砂を造る時のもとになる陰陽母。〔參同契、注〕修丹之始、則以二天地根一爲二藥根一、以二陰陽母一爲二丹母一、如有乙不レ能下於二其閒一、生中天地陰陽上者、甲卽非二金液還丹之道一。㊁心。兩腎の閒にあるもの。〔通眞契玄篇〕心爲二朱陵宮一、號曰二丹母一、祖師所謂兩腎中閒一點明、逆爲二丹母順成人一、是也。

【丹奉】270 タンボウ 清、學誠(3−7033・・151)の字。

【丹鳳】271 タンボウ ㊀天子の詔。後趙の石虎が、五色の紙を以て詔書を作り、之を木鳳の口に含ませて頒行した故事。〔晉書、石季龍載記上〕觀上安二詔書五色紙一、在二木鳳之口一、鹿盧迴轉、狀若二飛翔一焉。〔梁簡文帝、漢高廟賽神詩〕白雲蒼梧去、丹鳳咸陽來。〔戴叔倫、贈二司空拾遺一詩〕望レ闕未レ承二丹鳳詔一、開レ門空對二楚人家一。㊁天子の宮殿。鳳闕。〔韋應物、酒肆行〕迴瞻二丹鳳闕一、直視二樂遊苑一。〔元稹、桐花詩〕丹鳳巢二阿閣一、文魚游二碧潯一。㊂鳥の名。鸞の一種。首と翼の赤いもの。〔禽經〕鸞、首翼赤曰二丹鳳一。

〖丹鳳門〗272 タンボウモン 皇居の門。〔韓愈、元和聖德詩〕帝車廻來、日正當レ午、幸二丹鳳門一、大赦二天下一。

【丹眸】273 タンボウ 色のあかいひとみ。〔李白、金鄉薛少府廳畫鶴讚〕紫頂烟艷、丹眸星皎。

【丹木】274 タンボク 木の名。〔山海經、西山經〕峚山、其上多二丹木一、員葉而赤莖、黃花而赤實、其味如レ飴、食レ之不レ饑、丹水出レ焉、是有二玉膏一、以灌二丹木一。〔陶潛、讀二山海經一詩〕丹木生二何許一、乃在二峚山陽一。

【丹墨】275 デンマーク 歐羅巴の國の名。丹麥。丁抹。〔淸史稿、邦交志〕丹墨卽嗹馬、在二歐羅巴洲西北一。

【丹冥】276 タンメイ 南方の遠いところ。朱冥。〔張協、七命〕丹冥投レ烽。〔注〕善曰、丹、南方朱冥也、銑曰、丹冥、南方遠處、謂レ蜀也。

【丹盟】277 タンメイ 清、桂超萬(6−14755・・146)の字。

【丹鳴】278 タンメイ 清、董聞京(9−31433・・263)の字。

【丹陽】279 タンヤウ ㊀地名。㋑今、河南省丹水の南。戰國の時、秦が大いに楚師を破つた所。㋺楚の熊繹が楚蠻に封ぜられて都した處。湖北省秭歸縣の東。〔史記、楚世家〕封二熊繹於楚蠻一、封以二子男之田一、姓芊氏、居二丹陽一。㋩楚の文王が丹陽城から遷つたところ。湖北省枝江縣。〔讀史方輿紀要、湖廣、荆州府、枝江縣〕丹陽城、在二縣西一、亦曰二丹陽聚一、楚自二秭歸之丹陽一、遷レ此、仍曰二丹陽一。㊁山名。㋑四川省彭水縣の南。〔太平寰宇記〕在二都濡縣南二十五里一、有二丹陽水一出焉。㋺陝西省宜川縣。〔水經、河水注〕丹水西南出二丹陽山一。㊂湖の名。江蘇省高淳縣の西。安徽省當塗縣の界。南湖といふ。〔郭璞、江賦〕其旁則有二云云朱滻丹漅一。〔注〕善曰、丹湖在二丹陽一、漅湖在二居巢一。〔唐書、食貨志三〕分二官吏一主二丹陽湖一、禁二引漑一、自レ是河漕不レ涸。〔故事成語考、地輿〕饒州之鄱陽、岳州之青草、潤州之丹陽、鄂州之洞庭、蘇州之太湖、此爲二天下之五湖一。㊃郡名。㋑漢、置く。安徽省宣城縣。〔漢書、地理志上〕丹陽郡、故鄣郡屬二江都一、武帝元封二年、更名二丹陽一屬二揚州一。㋺晉、置く。江蘇省江寧縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕建康城、在二府治南一、本秦秣陵縣地、云云、晉平レ吳復爲二秣陵一、太康三年、復分二秣陵之水北一、置二建業縣一、爲二丹陽郡治一。㋩後魏、置く。故治は河南省項城縣の東北。㋥隋、置く。江蘇省江寧縣治。㊄縣名。㋑秦、置く。秦の始皇が東巡して到つた處といふ。故城は安徽省當塗縣の東。小丹陽ともいふ。〔漢書、地理志上〕丹陽郡、縣十七、丹陽。〔九域志〕當塗縣有二丹陽鎭一、卽故縣也。㋺唐、置く。江蘇省丹徒縣の東南。戰國、楚の雲陽の邑。秦の曲阿。今、江蘇省鎭江縣の南に屬す。運河に濱し、滬寧鐵道が通る。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府〕丹陽縣、本楚之雲陽邑、云云、天寶初、改曰二丹陽縣一。〔淸史稿、地理志〕江蘇、鎭江府、縣四、丹陽。㋩唐初、置く。故治は貴州省思縣の東北。〔讀史方輿紀要、貴州、思州府、黃道溪長官司〕丹陽廢縣、通志、今司治、唐初置二丹陽縣一、屬二思州一。㊅城の名。㋑湖北省秭歸縣の東。楚の丹陽の一。楚王城と稱す。熊繹の封ぜられた所。西楚といふ。〔史記、楚世家〕(周成王時)封二熊繹於楚蠻一、封以二子男之田一、姓芊氏、居二丹陽一。〔水經、江水注〕丹陽城、據レ山跨レ阜、周八里、二百八十步、東北兩面、悉臨二絕澗一、西帶二亭下溪一、南枕二大江一、險峭壁立、信天固也、楚子熊繹始封、丹陽之新都也。㋺湖北省枝江縣の西。楚の丹陽の一。南楚というて、熊繹の封ぜられた所と別つ。〔後漢書、郡國志四〕南郡枝江有二丹陽聚一。㋩陝西省宜川縣の西。〔水經、河水注〕東北逕二治官東一、俗謂二之丹陽城一、城之左右、猶有二遺銅一。㊆鎭の名。㋑安徽省當塗縣の東。江蘇省江寧縣に接す。卽ち故の丹陽縣。㋺福建省連江縣の北。

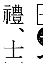
〖丹陽子〗280 タンヤウシ 宋、馬鈺(12−44572・・128)の號。

【丹陽詞】281 タンヤウシ　書名。一卷。宋、葛勝仲撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。
【丹陽集】282 タンヤウシフ　書名。二十四卷。宋、葛勝仲撰。〔四庫提要、集、別集類〕。
【丹陽公主】283 タンヤウコウシユ　唐、高祖の女。薛萬徹に嫁す。〔唐書、諸帝公主傳〕丹陽公主、下二嫁薛萬徹一。
【丹陽眞君】284 タンヤウシンクン　金の人。道家北宗七眞の一。姓は馬、名は鈺、金の貞元の進士。王嚞に道術を受け、丹陽抱一無爲普化眞君に封ぜらる。遇仙の正宗を開く。〔道譜源流圖〕。
【丹陽先生】285 タンヤウセンセイ　宋、蔡肇(**9**—**31818**··99)の號。
【丹陽道人】286 タンヤウダウジン　唐、馬湘(**12**—**44572**··283)の號。
【丹陽順化眞人】287 タンヤウジユンクワシンジン　宋、馬鈺(**12**—**44572**··128)の賜號。
【丹藥】288 タンヤク　不思議なききめのある藥。靈藥。仙藥。〔周禮、天官、瘍醫、疏〕今時合二和丹藥一者、皆用二黃瓦瓶一爲レ之。〔唐書、柳公綽傳〕有二道士一、獻二丹藥一。〔盧照鄰、羈二臥山中一詩〕紫書常日閱、丹藥幾年成。
【丹萸】289 タンユ　赤いかはじかみ。〔趙彥昭、奉二和九日幸臨渭亭登高一應制詩〕紫菊宣二新壽一、丹萸辟二舊邪一。〔趙彥伯、奉二和九日幸臨渭亭登高一應制得二花字一詩〕簪持二丹萸藥一、杯浮二紫菊花一。
【丹溜】290 タンリウ　不老不死の藥。仙藥。〔郭璞、遊仙詩〕陵陽挹二丹溜一、容成揮二玉杯一。
【丹良】291 タンリヤウ　螢の一名。丹鳥(223)の㊁を見よ。〔大戴禮、夏小正〕丹鳥羞二白鳥一、丹鳥者、謂二丹良一也、白鳥者、謂二蚊蚋一也、有レ翼者爲レ鳥。〔古今注、魚蟲〕螢火、一名丹良。
【丹侶】292 タンリヨ　道士。〔何景明、天壇沈道士觀中詩〕洞口逢二丹侶一、花間醉二碧簫一。
【丹棱】292' タンリヨウ　清、蔣彤(**9**—**31820**··86)の字。
【丹稜】293 タンリヨウ　縣名。隋、置く。漢の南安縣の地。故治は今の縣治の東。四川省雅安縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、眉州〕丹稜縣、漢南安縣地、云云、隋開皇中、改曰二丹稜縣一、屬二嘉州一。〔清史稿、地理志〕四川、眉州直隸州、縣三、丹稜。
【丹林】294 タンリン　㊀地名。〔山海經、北山經〕其東有レ林焉、名曰二丹林一、丹林之水出焉。㊁もみぢの林。あかい葉の林。〔江淹、外兵舅夜集詩〕丹林一葉舊、碧草從レ此空。〔韋應物、題二從姪成緒西林精舍書齋一詩〕採レ栗玄猿窟、擷レ芝丹林嶠。㊂明、趙原(**10**—**37171**··153)の號。
【丹輪】295 タンリン　月の異名。〔事物異名錄、乾象、月〕卓氏藻林、丹輪、月也、六朝詩、丹輪殊未レ圓。
【丹茘】296 タンレイ　木の名。茘枝(**9**—**30865**··9)の異名。〔本草、茘枝〕釋名、丹茘。〔戴叔倫、春日早朝詩〕丹茘來二金闕一、朱櫻貢二玉盤一。〔閩部疏〕泉州城大而土曠、余以二六月一行レ部、人家多以二原隰一爲二園林一、綠柚扶二搖於短垣之內一、丹茘點二綴於碧葉之上一。
【丹醴】297 タンレイ　仙人の醴酒。〔拾遺記、洞庭山〕又有二靈洞一、入レ中常如レ有レ燭二於前一、中有二異香芬馥一、泉石明朗、採二藥石一之人入レ中、云云、乃見二衆女霓裳一、冰顏艷質、與二世人一殊別、來邀二採藥之人一、飲以二瓊漿金液一、延入二璇室一、奏以二簫管絲桐一、餞令レ還レ家、贈二之丹醴之訣一。〔雲笈七籤、清虛眞人王君內傳〕靈肴千種、丹醴湛溢。
【丹礫】298 タンレキ　丹砂。〔郭璞、江賦〕其下則金礦丹礫、雲精爥銀。〔陸龜蒙、四明山詩〕雲南更有レ溪、丹礫盡無レ泥。
【丹列】299 タンレツ　唐、竇羣(**8**—**25695**··19)の字。
【丹露】300 タンロ　㊀赤いつゆ。〔晉中興書〕露之異者、有二朱露・丹露・青露・黃露一。㊁日の初めて出る時のつゆ。〔洞冥記〕勒畢國人、長三寸、有レ翼、善二言語戲笑一、飲二丹露一、丹露者、日初出有二露滴一如レ朱也。
【丹樓】301 タンロウ　赤く塗つたたかどの。〔王勃、臨高臺詩〕紫閣丹樓紛照耀、碧房錦殿相玲瓏。〔李邕、春賦〕丹樓纏二於御道一、畫閣聳二於朝霞一。
【丹鏤】302 タンロウ　赤く塗りちりばめること。〔吳志、賀齊傳〕丹鏤青蓋、絳襜干櫓。
【丹麓】303 タンロク　清、王晫(**7**—**20823**··760)の號。
【丹黃】304 タンワウ　㊀丹色と黃色。〔周髀算經〕青黑爲レ表、丹黃爲レ裏。〔朱熹、奉レ同二尤延之提擧廬山雜詠一、溫湯詩〕誰燃丹黃燄、爨二此玉池水一。㊁書冊に圈點を附けるに用ひるもの。〔國朝漢學師承記、程晉芳〕蓄書五萬卷、丹黃皆偏。㊂四川省產の黃色天然染料の名。
【丹雘】305 タンワク　朱色の鮮かな土。辰砂の類。〔書、梓材〕惟其塗二丹雘一。〔蔡傳〕雘、采色之名。〔山海經、北山經〕丹熏之山、其上多二樗柏一、其草多二韭薤一、多二丹雘一、熏水出焉。〔顏延之、赭白馬賦〕具服金組、兼二飾丹雘一。〔江淹、思北歸賦〕愧二金碧之琳琅一、慙二丹雘之照曜一。〔李白、題二嵩山逸人元丹丘山居一詩〕故人契二嵩潁一、高義炳二丹雘一。
【燒レ丹】306 タンヲヤク　不老不死の仙藥を燒いて作ること。〔徐陵、答二周處士一書〕煑レ石紛紜、終年不レ爛、燒レ丹辛苦、至レ老方成。〔故事成語考、釋道鬼神〕燒レ丹煉レ汞、道士學二神仙一。
【丹遊蒼】307 tan¹ yu² ts'ang¹　腫瘡の一種。はしりぐさ。
【丹噶爾】308 タンガル　廳名。清、置く。甘肅省に屬す。湟河の上流に在る。民國、改めて湟源縣とした。西方青海諸旗及び西藏拉薩に通ずる要路の衝に當り、商業が盛である。Tankar〔淸會典事例、吏部、官制、各省知府等官一〕鞏昌府洮州・西寧府貴德・循化・丹噶爾・涼州府莊浪・寧夏府寧靈、同知各一人。〔清史稿、地理志〕甘肅、西寧府、廳四、丹噶爾廳。
【丹魁堂】309 タンクワイダウ　清、季芝昌(**3**—**6965**··290)の室名。
【丹兒玉】310 タンコタマ　姓氏。〔姓名錄抄〕。
【丹穗鳥】311 ニホドリ　鳥の名。かいつぶりの異名。鳰鳥。〔萬葉集、十一〕思ふにし餘りにしかば丹穗鳥の、あ濡らしこしを人見けむかも。
【丹組纓】312 タンソエイ　冠に附いてゐる赤いひも。諸侯の用ひるもの。〔禮、玉藻〕玄冠丹組纓、諸侯之齊冠也、玄冠綦組纓、士之齊冠也。
【丹靈峙】313 タンレイヂ　衡山の神の名。〔太平御覽、神鬼部、神上〕龍魚河圖曰、東方太山君神、姓圓、名常龍、南方衡山君神、姓丹、名靈峙。
【丹績之袀】314 タンセキノジユン　刺繡を施した布で作つた冠のひも。〔呂覽、離俗〕白縞之冠、丹績之袀。
【丹台外史】315 タンダイグワイシ　明、蔣景高(**9**—**31820**··138)の號。
【丹囊稷奧】316 ダヌンチオ　伊太利の詩人にして小說家。Gabriele D'Annunzio
【丹容班蘭】317 タンヨンパンラン　一名、坦莊巳當。南洋郡島の Tanjong pandang の音譯。
【丹梁朱桷】318 タンリヤウシユカク　赤いうつばりと朱のたるき。〔左思、魏都賦〕丹梁虹申以並亘、朱桷森布而支離。
【丹陵若水】319 タンリヨウジヤクスイ　丹陵は堯の生れた所。若水は顓頊の生れた所。〔王融、三月三日曲水詩序〕芳林園者、福地奧區之湊、丹陵若水之舊。〔注〕濟曰、丹陵、地名、堯所レ生處也、若水、水名、帝顓頊所レ生處也。
【好レ丹非レ素】320 タンヲコノンデソヲヒトス　好きな所を取つて他を棄てる喩。〔江淹、雜體詩序〕莫レ不二論レ甘而忌一レ辛、好レ丹而非レ素。
【丹雞白犬壇】321 タンケイハクケンノダン　あかいにはとりと白い犬との血を歃つて盟ひ、交を結んだ壇。白犬丹雞(**8**—**22678**··363)を見よ。〔精註雅俗故事讀本、朋友賓主〕昔有二丹雞白犬之壇一。
【丹聶爾電池】322 ダニエルデンチ　英國の科學者ダニエルの工夫した電池。一次電池の一種。
【丹聶濕度計】323 ダニエルシツドケイ　英國の科學者ダニエルの發明した濕度計。
【丹之所レ藏者赤】324 タンノザウスルトコロノモノハアカシ　赤土の中のものは赤くなる。人は交はる友によつて、善ともなり惡ともなる喩。〔孔子家語、六本〕丹之所レ藏者赤、漆之所レ藏者黑、是以君子必愼下其所二與處一者上焉。
【丹可レ磨也而不レ可レ奪二其赤一】325 タンハミガクベシソノセキヲウバフベカラズ　丹は磨いて其の形を變ずることが出來るが、其の赤の質は奪ひ取ることが出來ぬ。本質は變へられぬ喩。〔呂覽、誠廉〕石可レ破也、而不レ可レ奪レ堅、丹可レ磨也、而不レ可レ奪レ赤。

四畫

【主】100

㊀シユ〔集韻〕腫庾切 麌 ㄓㄨˇ chu²·³
㊁シユ〔集韻〕朱戍切 遇
慣ス


小篆

㊀❶つかさ。をさ。支配者。〔儀禮、士冠禮〕有司如二主人服一。〔注〕有司、羣吏有レ事者、謂二主人之吏一。〔疏〕

主、亦爲レ長者也。〔晉書、祖逖傳〕使三逖等爲二之統主一。〔朱熹、中庸章句序〕使三道心常爲二一身之主一。❷きみ。君主。〔廣雅、釋詁一〕主、君也。〔禮、曲禮下〕凡執二主器一。〔注〕主、君也。〔史記、太史公自序〕主倡而臣和、主先而臣從。〔董仲舒、賢良策〕行高而恩厚、知明而意美、愛レ民而好レ士、可レ謂二誼主一矣。❸公卿大夫。〔周禮、天官、大宰〕六曰、主以レ利得レ民。〔注〕主、謂二公卿大夫一。〔左氏、襄、十九〕事レ吳敢不レ如レ事レ主。〔注〕大夫稱レ主。〔國語、晉語八〕再世以下主レ之。〔注〕大夫稱レ主。❹己の仕へる人。〔管子、形勢解〕主者、人之所二仰而生一也。〔漢書、蒯通傳〕狗各吠レ非二其主一。❺一家の長。父。〔詩、周頌、載芟〕侯主侯伯。〔傳〕主、家長。〔太玄經、[illegible]〕內有レ主也。〔注〕主、謂レ父也。❻ぬし。其の物の所有者。〔柳宗元、永州八記〕問二其主一、曰、唐氏之棄地。❼あるじ。客(3－7128)の對。〔禮、檀弓下〕賓爲レ賓焉、主爲レ主焉。〔左氏、僖、三十〕燭之武見二秦伯一曰、若舍レ鄭以爲二東道主一。〔禮、月令、注〕爲レ客不レ利、主人則可。〔疏〕起レ兵伐レ人者、謂二之客一、敵來禦捍者、謂二之主一。❽もと。事の依つて起る根本。かなめなところ。〔易、繫辭上〕樞機之發、榮辱之主也。〔禮、禮器〕必有レ主也。〔注〕主、謂二本與レ古也。〔疏〕故先王制レ禮、必有二反レ本脩レ古之法一也。❾天子の女。皇女。公主。〔獨斷、上〕帝之女曰二公主一。〔後漢書、宋弘傳〕弘被二引見一、帝令三主坐二屛風後一。❿大夫の妻。一說に婦人の尊稱。〔國語、晉語二〕謂二里克妻一曰、主孟啗レ我、我教二茲暇豫事一レ君。〔注〕大夫之妻稱レ主、從二夫稱一也。〔漢書、高帝紀下〕女子公主。〔注〕師古曰、主者、婦人之尊稱。⓫神靈のやどるもの。神主。木主。位牌。宔(3－7102)に通ず。〔說文通訓定聲〕主、叚借爲レ宔。〔周禮、地官、大司徒〕樹二之田主一。〔注〕田主、田神后土田正之所レ依也。〔周禮、春官、司巫〕則共二匰主及道布及蒩館一。〔注〕主、謂二木主一也。〔穀梁、文、二〕爲二僖公主一也。〔注〕主、蓋神之所二馮依一、其狀正方、穿二中央一達二四方一、天子長尺二寸、諸侯長一尺。〔史記、伯夷傳〕武王載二木主一、而東征。⓬鐙中の火。燭臺に火の燃えるさま。丶は燈心に點じた燈火、王は臺。或は炷(7－18965)に作る。〔說文〕主、鐙中火主也、王象形、从レ丶、丶亦聲。〔集韻〕主、或作レ炷。⓭もちまへ。性分。本性。〔呂覽、審分〕亦不レ傷二其耳目之主一。〔注〕主、猶レ性也。⓮つかさどる。すべる。〔集韻〕主、一曰、掌也。〔史記、天官書〕太白主二中國一。〔注〕正義曰、主、猶レ領也、入也。〔淮南子、天文訓〕太微者主二朱雀一。〔注〕主、猶レ典也。⓯まもる。守。〔廣雅、釋詁三〕主、守也。〔易、序卦〕主レ器者、莫レ若二長子一。⓰ただす。〔國語、周語下〕今細過其主。〔注〕主、正也。⓱たつとぶ。〔禮、祭統〕凡爲レ俎者、以レ骨爲レ主。〔國語、晉語五〕主レ言而無レ謀。〔韓愈、原道〕入者主レ之、出者奴レ之。⓲やどる。すわる。〔禮、曲禮上〕居不レ主レ奧。〔疏〕主、猶レ坐也。〔史記、孔子世家〕孔子遂至レ陳、主二於司城貞子家一。⓳おもに。主として。〔漢書、谷永傳〕主爲二趙李一報レ德復レ怨。⓴はかる。〔春秋元命包〕潢主二河渠一。〔注〕主、計度也。㉑したしむ。〔論語、學而〕主二忠信一。〔集解〕鄭玄曰、主、親也。㉒多くのもの。眾(8－23321)に通ず。〔說文通訓定聲〕主、叚借爲レ眾、主眾雙聲。〔大戴禮、衞將軍文子〕主人聞レ之。〔注〕家語云、眾人聞レ之。㉓恐れて發するこゑ。〔說文通訓定聲〕主、雙聲連語、漢書馮唐傳、唐曰、主臣、注、主臣、恐懼之言也。㉔姓。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕主氏、嬴姓、郇主父氏也、或單言二主氏一、姓纂云、今同州有二此姓一。㉕現天の神。

［二］そそぐ。注(6－17316)に同じ。〔集韻〕注、說文、灌也、一曰、屬屬也、或作レ主。〔詩、小雅、大田、雨二我公田一、箋〕今天主雨二于公田一。〔釋文〕主、一本作レ注。〔荀子、宥坐〕主レ量必平、似レ法。〔注〕主、讀爲レ注。

［邦］ぬし。㋑山・森・池などをつかさどる神靈。㋺おまへ。なんじ。きみ。㋩女が男を親しみ呼ぶ稱。

［解字］象形。王は足のあるともしびざらの形、丶は其の中に燃える火心(ともしび)の形に象る。且、丶は音を兼ねる。〔說文通訓定聲〕主、鐙中火主也、从レ王象形、从レ丶、丶亦聲、按、王象レ鐙、丶象二火炎上一、其形同レ丶、實非二丶字一。

【主媼】1 シュアウ 年とつた主婦。

【主衣】2 シュイ 官名。尚衣(4－7493‥3)に同じ。〔隋書、百官志中〕主衣局。〔注〕掌二御衣服玩弄事一。

【主衣庫】3 シュイコ 天子の服物を藏する所。〔南史、齊明帝紀〕永明中、輿輦舟乘、悉剔二取金銀一、還二主衣庫一、以二牙角一代レ之。〔南史、王敬則傳〕江左有二蔡邕焦尾琴一、在二主衣庫一。

【主意】4 シュイ ❶君上の御こころ。〔史記、汲黯傳〕專阿二主意一。〔東方朔、非有先生論〕進不レ能下稱二往古一以廣中主意上。〔魏志、田疇傳〕田君主意殷勤、曾不レ能レ顧乎。❷おもなる意味。主旨。❸考へ。意見。

【主意說】5 シュイセツ 意志を心意の根本的要素とする心理學說。

【主位】6 シュヰ ❶君の位。君の地位。〔管子、七臣七主〕故君法、則主位安。〔新書、服疑〕臣不レ踰レ級、則主位安。❷主人席。〔名畫記〕趙岐畫二季札・子產・晏嬰・叔向四人居二賓位一、自居二主位一。❸主語(76)に同じ。

【主威】7 シュヰ 君主としての威嚴。〔韓非子、愛臣〕主威之重、主勢之隆一也。

【主維】8 シュヰ 主張。〔琵琶記、四十二〕兒不孝、有二甚德一、蒙二岳父特主維一。

【主一】9 シュイツ ❶或事に專ら心を傾けること。專一。主一無適を見よ。❷字號。㋑明、吳志淳(2－3365‥615)の字。㋺清、黃百家(12－47926‥1300)の字。㋩清、孫子昶(3－6987‥409)の號。㋥清、馬經綸(12－44572‥754)の字。

【主一齋】10 シュイツサイ 清、李明性(6－14459‥1960)の室名。

【主一先生】11 シュイツセンセイ 宋、鍾震(11－40672‥70)の尊稱。

【主一無適】12 シュイツムテキ 程朱學派の術語。敬の字の義。一心で他念を雜へぬ。一を主として他に適かぬこと。〔論語、學而、道二千乘國一、集注〕敬者、主一無適之謂。〔二程全書〕程子曰、主一、之謂レ敬、無適、之謂レ一。

【主因】13 シュイン ❶主として從來のしきたりにより從ふこと。〔鬼谷子、符言〕有レ主レ因、人主不レ可レ不レ周。〔注〕主二於因一者、貴二於循レ理。❷主な理由。主たる原因。

【主員】14 シュヰン 書生の扶持とり。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕文武主員若干。

【主運】15 シュウン 方術の一。陰陽五行の循環によつて物事を處する術。〔漢書、郊祀志上〕騶衍以二陰陽主運一顯二於諸侯一。

【主要】16 シュエウ かなめ。かんじん。

【主演】17 シュエン 演劇用語。舞臺劇・映畫劇等で、主要な人物に扮裝して演技をなすこと。

【主翁】18 シュヲウ 家の主人たるおきな。主人翁(132)を見よ。

【主音】19 シュオン 音階の第一音。

【主恩】20 シュオン 君主のめぐみ。主人の恩。〔舊唐書、崔衍傳〕貞元中、天下好二進奉一、以結二主恩一。

【主家】21 シュカ ❶主人の家。主人。〔漢書、東方朔傳〕始偃與レ母以レ賣レ珠爲レ事、偃年十三、隨レ母出二入主家一、左右言二其姣好一、主召見曰、吾爲レ母養レ之。〔漢書、欒布傳〕布爲三人所二略賣一、爲レ奴二於燕一、爲二其主家一報レ仇。❷家の主人となる。家

事をつかさどる。〔史記、孟嘗君傳〕於レ是槩乃禮レ文、使二主レ家待一賓客一賓客日進、名聲聞二於諸侯一。㊁官人が天子を稱し、又は、妻妾が其の夫を稱する語。〔高啓、題二美人對レ鏡圖一詩〕自對猶憐況主家、春風一面斷腸花。㊂公主をいふ。〔稱謂錄、公主古稱、主家〕通鑑、宋太祖性節儉、皇女永寧公主、衣二貼繡鋪翠襦一入レ宮、帝曰、主家服レ此、宮闈必相效法成レ風。㊃ chu³ chia¹ お宅。おうち。他人の家を稱する語。

【主我】22 シュガ ㊀主觀的の我。㊁自己の利益を主として、他を思はぬかんがへ。

【主我心】23 シュガシン 我を主とする心。利己心。

【主我說】24 シュガセツ 自分自身の幸福快樂を增進するを以て道德的行爲とする學說。主我快樂說。

【主我快樂說】25 シュガクワイラクセツ 主我說に同じ。

【主考】26 シュカウ 鄉試の試驗官。明・淸の制。其の官に正と副とがあり、概ね翰詹科道及び閣部府寺の正途出身者が之に任ぜられた。試卷を襄閱するものを同考官といふ。〔明史、選擧志二〕主考、鄉會試俱二人。〔明會典、禮部〕萬曆十三年奏准、各省仍用二京官主考一。〔淸會典事例、禮部、貢擧〕若所レ取試卷中、有二經義可レ觀、而策論疵謬荒疏者一、朕惟於二主考官一是責。

【主稿】27 シュカウ 主となつて草案を作る人をいふ。〔六部成語、吏部、主稿、注解補遺〕乃奏レ事主撰二摺稿一者也、凡外省大員、如有二一事經二數官會衙議奏一者、占二摺尾必行四聲一明此摺由二何人主稿一、又六部司員中、經承撰二擬本部公文摺件一者、亦謂二之主稿一。

【主稿官】28 シュカウクワン 原案を作製する官。〔淸國行政法汎論、按察使、職權〕秋審之時、按察使必與二布政使一、共列二其席一、皇朝通考云、秋審爲二主稿官一者、卽是也。

【主講】29 chu³ chiang² 講師。教師。

【主角】30 chu³ chüeh² ㊀主役。角は役者。㊁主要人物。

【主客】31 シュカク ㊀官名。其の制、戰國に始まる。漢代、尙書に客曹があり、外國夷狄のことを掌る。後、改めて南主客・北主客の二曹とし、晉の時、又分つて左右南北の四主客とした。南朝には單に主客あり、唐・宋は之に因つて、主客郎中・員外郎を置き、禮部の屬司とし、諸藩の朝貢、接待給賜の事を掌らしめたが、淸末、廢した。〔史記、滑稽、淳于髡傳〕以レ髡爲二諸侯主客一。〔注〕正義曰、今之鴻臚卿也。〔通典、職官典、尙書下、禮部尙書〕主客郎中一人、漢成帝初置、尙書有二客曹一、主二外國夷狄一、後光武分改爲二南主客、北主客二曹一、至レ魏亦爲二南主客事一、晉氏分爲二左右南北四主客一、或單爲二客曹一、宋・齊・梁・陳、單有二主客一、後魏吏部管二南主客一、祠部管二左主客一、北齊改二左主客一爲二主爵南主客一、隋初爲二侍郎一、煬帝除二侍字一、尋又改爲二司籍郎一、武德初改爲二主客郎中一、龍朔二年、又改二主客一爲二司藩一、咸亨元年復レ舊、掌二二王後及諸藩朝聘一。〔稱謂錄、主客司〕皇朝通攷、主客淸吏司、凡貢必省二閣之一、然後登二內府一、若藩國嗣レ封、則遣二頒策於其國一。㊁主人と客。主賓。轉じて、重いものと輕いもの。〔唐書、食貨志〕至二德宗相楊炎一、遂作二兩稅法一、量レ出制レ入、戶無二主客一、以二居者爲レ簿、人無二丁中一、以二貧富一爲レ差。㊂文章法の一。又、主賓ともいふ。本題の主旨を論ずるのに、他の事物を以て客とし、之と對照して主事を一層明瞭にする法をいふ。㊃ chu³ k'o⁴ 花客。顧客。とくい。

【主客圖】32 シュカクヅ 唐、張爲作。唐代の詩人を主人と客とに分けて記した圖。詩人主客圖(10－35427・1117)を見よ。〔唐詩紀事、張爲〕張爲作二詩人主客圖序一曰、若二主人門下處二其客一者、以二法度一一則也、以二白居易一爲二廣大教化主一、上入室、楊乘、入室、張籍・羊士諤・元稹、升堂、盧仝・顧況・沈亞之、及門、費冠卿・皇甫松・殷堯藩・施肩吾・周元範・況元膺・徐凝・朱可名・陳摽・童翰卿。

【主客郎】33 シュカクラン 官名。唐の主客郎は、二王の後と諸蕃の朝聘の事とを掌る。主客の㊀を見よ。〔資治通鑑、唐紀〕(則天順聖皇后、長安元年)以二主客郎中郭元振一爲二涼州都督一。〔注〕唐主客郎、掌二二王後及諸蕃朝聘之事一、屬二禮部一。

【主客顚倒】34 シュカクテンタウ 主人と客との位地のかはること。轉じて、事物の大小・輕重・本末などを取り誤ること。

【主格】35 シュカク 文章中で、主語を示す格。

【主幹】36 シュカン ㊀主宰(88)に同じ。〔管子、形執解〕爲二一鄉主幹一者、鄉之人也。㊁とりしまり。もとじめ。主任。主監。

【主眼】37 シュガン 主要な箇處。めぼしい點。めぬき。眼目。肝要。主要。

【主紀】38 シュキ 主基(40)に同じ。

【主記】39 シュキ ㊀記錄を掌る。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君待レ客坐語、而屛風後常有二侍史一、主レ記、君所二與客語問一、親戚居處上。㊁官名。記錄を掌る役。〔李德裕、掌書記廳壁記〕以二右拾遺杜君一爲二主記一。〔歐陽脩、後漢朔方大守碑陰〕右漢朔方太守碑陰題名、有二主記掾楊綏一。

【主基】40 シュキ 大嘗會の時、供御の新穀を奉る爲に、豫め占ひ定めた國。其の第一を由基キ、第二を主基といふ。宇多天皇の御代から主基が丹波、由基が近江と定まる。次基。主紀。〔儀式二、踐祚大嘗祭儀〕令二卜二定悠紀主基國郡一。

【主器】41 シュキ 宗廟の烹飪の器を主る者。一家の長子が其の事に當ることから、轉じて、長子の稱。主鬯。〔易、序卦〕主二器者一、莫レ若二長子一。〔書言故事、子孫類〕長子曰二主器一。

【主義】42 シュギ ㊀君主の守るべき筋道。〔史記、太史公自序〕敢犯二顏色一、以達二主義一、不レ顧二其身一、爲二國家一樹二長畫一。㊁道義をもととすること。〔逸周書、謚法解〕主レ義行レ德曰レ元。㊂目的を達する目あて。意志の實行を遂げるたちば。

【主管】43 シュクワン 主としてつかさどり治めること。おもだつて支配すること。轉じて、ばんとうがしら。支配人。〔王禹偁、謫居感レ事詩〕縣花聊主管、寺棘且羈縻。〔注〕予九年授二大理評事一、知二蘇州長洲縣一。

【主觀】44 シュクワン 物ごとを知覺し、思考し、感動する所の主體。自己の心意中の一切。われ。客觀(8－7128・34)の對。

【主觀說】45 シュクワンセツ 主觀を根本原理として立てられた主張。

【主觀的】46 シュクワンテキ 自身の立場から物事を觀察した場合にいふ。

【主觀的價值】47 シュクワンテキカチ 個人の主觀によつて決定せられる對象の價値。

【主觀的消費】48 シュクワンテキセウヒ 生産の爲に行ふ消費に對し、生活の爲にする消費をいふ。

【主觀的形式說】49 シュクワンテキケイシキセツ 美學上の說。美の觀念は客觀及び其の調和的關係によつて起るが、美の快感は唯主觀によつてのみ感覺し得るとなす說。

【主君】50 シュクン ㊀きみ。君主。天子。〔禮、聘義〕主君弗二親饗食一也。〔史記、扁鵲傳〕今主君之病、與レ之同、不レ出二三日一必聞、聞必有レ言也。〔列女傳、辯通、趙佛肹母傳〕吁以二主君殺レ妾、爲有レ說也。㊁古、大夫の稱。〔左氏、昭、二十九〕齊侯使二高張來唁一レ公、稱二主君一。〔注〕比二公於大夫一。㊂他人の敬稱。〔史記、蘇秦傳〕今主君詔以二趙王之教一。〔注〕索隱曰、主君、指二蘇秦一也。

【主刑】51 シュケイ ㊀刑をつかさどる。〔漢書、天文志〕太白主レ兵、月主レ刑。〔後漢書、申屠剛傳〕王者承レ天順レ地、典レ爵主レ刑、不レ敢以二天官一私中其宗上、不レ敢以二天罰一輕中其親上。〔宋史、高防傳〕夢レ一吏以二白帖一裹印、自門入授レ防、防寤而思曰、白主レ刑、吾當レ爲二主刑官一乎。㊁主たる刑。從刑(4－10152・51)附加刑(11－41606・11)の對。

【主計】52 シュケイ ㊀漢代の官名。天下の財賦を司り、其の出入を計ることを職とする。もと計相といふ。〔史記、張蒼傳〕遷爲二計相一、一月、更以二列侯一爲二主計一。〔注〕索隱曰、謂改二計相之名一、更名中主計也。〔漢書、張蒼傳〕爲二主計一四歲。㊁軍隊經理部で會計を司る將校相當官の名稱。㊂ベヘ 加賀國の地名。㊃京都市內の地名。㊄カズヘ、越後國の地名。

【主計允】53 カズヘノジョウ 主計寮の屬官。大・少がある。唐名は度支部郎。〔職原抄〕主計寮、允、大少、唐名、度支部郎。

【主計局】54 シュケイキョク ㊀民國で、大總統政事堂に隸屬する一局司。財政の籌議・豫算の檢査・統計事項等のことを司る。㊁大藏省の一局。會計上の重要事項を取扱ふところ。

【主計官】55 シュケイクワン もとの宮內省の主計の官吏。

【主計處】56 シュケイショ 官署の名。民國、置く。全國の歲計・會計・統計等の事務を司る。

【主計助】57 カズヘノスケ　主計寮の屬官。唐名は金部員外郎。〔職原抄〕主計寮、助一人、唐名、金部員外郎。

【主計屬】58 カズヘノサクワン　主計寮の屬官。大・少がある。唐名は金部主事。〔職原抄〕主計寮、屬、大少、唐名、金部主事。

【主計頭】59 カズヘノカミ　主計寮の長官。唐名は金部郎中・度支郎中。〔職原抄〕主計寮、頭一人、唐名、金部郎中、又度支郎中。

【主計簿】60 シユケイボ　大藏省に備へ置き、歳入歳出の豫算額、及び其の出納を記入する帳簿。

【主計寮】61 カズヘレウ　古、官署の名。民部省に屬し、諸國の調・庸・貢獻等の數を計へて、國用を支辨することを掌る。唐名は金部・度支。〔職原抄〕主計寮、唐名、金部、又度支。

【主型】62 シユケイ　哲學用語。觀念を指していふ。原型。

【主敬】63 シユケイ　❶敬意を以てする。恭敬の意を主とする。宋儒、程伊川・朱子などの首唱した修養法。〔禮、少儀〕賓客主レ恭、祭祀主レ敬。〔孟子公孫丑下〕父子主レ恩、君臣主レ敬。〔二程遺書、十八〕涵養須レ用レ敬、云云、入レ道、莫レ如レ敬。〔近思錄、爲學〕君子主レ敬以直二其內一、守レ義以方二其外一。❷字號。㋑元、丁儼（1－2・・60）の字。㋺明、孫忠（3－6987・・219）の字。㋩明、陶安（11－41705・・2）の字。㊁清、錢陳羣（11－40563・・392）の字。

【主敬存誠】64 シユケイゾンセイ　敬を主として誠を存する。宋儒が身を律する本とした語。〔易、乾〕閑レ邪存二其誠一。〔禮、少儀〕賓客主レ恭、祭祀主レ敬。〔王鼎、朱子原訂近思錄序〕古之聖賢、戒愼恐懼、主敬存誠、默二祭乎天命民彝之本一。

【主教】65 シユケウ　ギリシヤカトリック教の教職の名。總主教の下、司祭の上に位し、教會の教務を總轄す。

【主券】66 シユケン　俗に墳塋の穴を主る者をいふ。券はわりふ、又、契約書。墓穴を掘るとき、紙錢を地中に埋めて土の神と約束を結ぶからいふ。〔札樸〕徐文長集中、有二太康瓦券一、其文言、大男楊紹、向二土公一買二地一區一、四至極遠、交錢極多、蓋紙錢也、乃知與レ神立レ券、其券卽瘞二地中一、故稱二主レ穴者一爲二主券一。

【主權】67 シユケン　❶人主の力。〔管子、七臣七主〕藏竭則主權衰。❷國家を統治する最高の權力で、全能不可侵のもの。卽ち國家を組織する權力の本體。統治權。

【主權國】68 シユケンコク　❶主權の完全な國。對內的にも對外的にも獨立主權を有する國。❷或事件に對して主權を有する國。

【主權者】69 シユケンジヤ　國家統治の主權を有するもの。

【主言】70 シユゲン　大戴禮の篇名。

【主戶】71 シユコ　土著の家、又は、たみ。客戶（3－7128・・42）の對。土戶（3－4867・・127）に同じ。〔宋史、地理志一、注〕天禧五年、主戶六百、三萬九千三百三十一、客戶不レ預焉。〔文獻通考、戶口考、歷代戶口丁中賦役〕主戶百八十餘萬、客戶百三十餘萬。

【主股】72 chu² ku³　株式、又は合資組織事業の發起人。大株主等をいふ。

【主故】73 シユコ　顧客。おとくい。主顧の音通。〔通俗編、貨財、主故〕日知錄、市井人謂二頻相交易者一、爲二主顧一、後漢書有二主故字一、顧、當二是故之譌一、按、元馬致遠青衫泪曲、有下云二舊主顧一者上、則其訛亦久矣。

【主庫】74 chu³ k'u⁴　倉庫を管理する職。

【主顧】75 シユコ　❶かへりみる。踟躕して態度を定めぬ。〔論衡、逢遇〕況節高志妙、不レ爲レ利動、性定質成、不レ爲二主顧一者乎。❷とくい。商店などの花客。花顧。主故（73）を見よ。〔元曲、王粲登樓〕酒店門前三尺布、人來人往圖二主顧一。

【主語】76 シユゴ　一句中の主格となる語。主位。主辭。一名、主詞。主語は名詞・代名詞、又は名詞と同等の資格效力ある成句的語詞に限られる。

【主公】77 シユコウ　きみ。家來、又は雇人が主人を呼ぶ尊稱。〔蜀志、法正傳〕將軍宜下啓二主公一、抑中其威福上。〔元曲、賺蒯通〕想鴻門會上主公有レ難。

【主后】78 シユコウ　きみ。主君。〔墨子、非攻上〕鬼神之喪二其主后一、亦不レ可二勝數一。

【主恆】79 シユコウ　清、錢界（11－40563・・26）の字。

【主國】80 シユコク　❶聘禮を受ける國を指していふ。〔周禮、秋官、司儀〕主國五積、三問、賓繼二主君一、皆如二主國之禮一。〔禮、聘義〕主國待レ客、出入三積。〔疏〕此謂二上公之臣一、故出入三積、若二侯伯以下之臣一、則不レ致レ積也、故司儀云、諸公之臣、相爲二國客一、則三積。❷帝王の女で、國に封ぜられた者の尊號。唐の睿宗の時から始まる。〔事物紀原、帝王后妃部、主國〕漢以來公主所レ封、皆爲レ邑、無二封レ國者一、唐書公主傳、亦自三高祖謂二同安公主一、而下亦無二其事一、雖下平陽昭公主有中起レ兵參二佐命一之功上、不レ過三死加二鼓吹一而已、至二睿宗女華婉一、以二劉后所レ生、始封二代國一爾、後遂爲二常制一云。❸chu³ kuo²　大公使が其の駐在する國を稱していふ。

【主根】81 シユコン　植物學用語。植物が種子から萌芽するとき、莖の下から初めて地中に下垂する根で、直出するもの。

【主婚】82 シユコン　結婚取りきめの主體者。一般に兩家の家長。〔宋書、禮志一〕咸寧二年、納二悼皇后一、時弘訓太后母二臨天下一、而無下命二戚屬之臣一、爲二武皇父兄主婚一之文上。〔唐律、戶婚〕諸嫁娶違レ律、祖父母父母主婚者、獨坐二主婚一。

【主婚人】83 chu³ huen¹ jen²　結婚・婚禮に關する一切の事を主管する人。媒妁人。

【主閫】84 シユコン　主婦。正妻。閫は婦人の居所をいふ。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕翌日玄初詰レ韶曰、君昨所レ薦、只主閫張氏、何又有二鄭氏等三人一焉。

【主佐】85 シユサ　主人と其の部下。〔文心雕龍、事類〕才爲二盟主一、學爲二輔佐一、主佐合レ德、文采必霸。

【主查】86 シユサ　或る事項を主となつて取調べる。又、其の人。

【主座】87 chu³ tsuo⁴　❶最高の位。❷大總統の位。副總統を副座といふに對す。

【主宰】88 シユサイ　事物をつかさどる者。制裁の力ある者。主幹。支配者。〔荀子、正名〕心也者道之工宰也。〔集解〕陳奐曰、工宰者工官也、官宰猶レ言二主宰一。〔馬祖常、還過二龍門一詩〕天帝有二神司主宰一。

【主祭】89 シユサイ　❶祭祀の時の主人役。〔易、震〕彖曰、出可下以守二宗廟社稷一、以爲中祭主上也。〔張籍、江陵孝女詩〕無レ家空托レ墓、主祭不レ從レ人。❷祭を主る。〔孟子、萬章上〕使二之主一レ祭、而百神享レ之、是天受レ之。

【主催】90 シユサイ　或る事を行ふに當り、主としてそれに當ること。主唱して斡旋すること。又、其の人。

【主曹】91 シユサウ　主事をいふ。〔稱謂錄、主事、主曹〕叩鉢齋集、主政亦稱二主曹一、又稱二星置一。

【主藏】92 シユザウ　❶倉庫を管理する。〔五代史、宦者、張承業傳〕承業主レ藏、錢不レ可レ得。❷chu³ ts'ang²　位牌の廚子ヅシ。

【主藏僧】93 chu³ ts'ang² sêng¹　寺院で藏經事務を管理する役僧。

【主藏奴】94 シユザウド　倉庫番。くらばん。〔宋史、荆罕儒傳〕罕儒立召二主藏奴一、令レ籍二藏中縑一、得二四千餘兩一、盡以與レ之。

【主爨】95 シユサン　大炊助の唐名。〔職原抄〕大炊寮助、「唐名、主爨。

【主子】96 シユシ　❶炊事を主る者。〔稱謂錄、廚、主子〕曹公兵法、謂二主炊者一爲二主子一、見二小知錄一。❷chu³ tzŭ　㋑天子。㋺主人。

【主司】97 シユシ　❶科擧の試驗官。主文。〔唐書、選擧志上〕諸生拜二主司一、答拜乃敍レ齒謝レ恩、遂升レ階。〔王君玉雜纂〕落第擧子罵二主司一。❷係りの役人。主任。〔唐律、擅興〕諸戎仗非二公文出給一、而輒出給者、主司徒二一年。

【主旨】98 シユシ　主意（4）の❷に同じ。

【主使】99 シユシ　❶指圖。命令。〔史記、韓世家〕是可三以爲二公之主使一乎。❷犯罪を教唆する者。犯罪の主謀者。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕將軍曰、否、是必有二主使者一、窮詰再四。❸自ら指圖して、他人に之を行はしめることをいふ。又、其の人。主謀。〔六部成語、刑部、主使、注解〕自出二主意一、令二他人行一レ之也。

【主師】100 シユシ　僧をいふ。〔稱謂錄、僧、主師〕五燈會元、僧問二延沼禪師一曰、如何是淸涼山中主師。

【主試】101 シユシ　試驗を管理する。主試官を見よ。

【主試官】102 シユシクワン　試驗官をいふ。〔稱謂錄、主考、主試官〕黃滔試院同二諸公一爲二主試官一詩、右轄升庸日、秋闈獻藝初。

【主事】103 シユジ　❶事をつかさどる。主となつて事に當る。〔孟子、萬章上〕使二之主一レ事、而百神享レ

之、是天受レ之、使二之主一レ事、而事治、百姓安レ之、是民受レ之也。〔史記、李斯傳〕今萬乘方爭時、游者主レ事。㊁官名。漢に始まる。後魏では尙書の諸司に主事を置き、隋では諸省に主事を置く。唐以後、之に因る。明・淸では六部に主事を置いて、員外郞の下に位せしめた。民國では各部の僉事の下に班し、長官の命を承け、總務廳及び各司の事務を助く。日知錄、卷二十四に見ゆ。〔漢書、張安世傳〕郞有三醉小二便殿上一、主事白レ行レ法。〔通典、職官典、歷代都事主事令史〕主事、二漢有レ之、後魏於二尙書諸司一置二主事令史一、隋於二諸省一又各置二主事令史員一、煬帝三年、並去二令史之名一、但曰二主事一、隨二曹閑劇一、而每二十令史一置二一主事一、不レ滿二十者亦一人、雜二用士人一、大唐並二用流外一。〔讀通典、職官典、歷代都事主事令史〕按、主事一官自二唐宋一以來、或爲二首領官一、或與二吏令史一同レ職、自二洪武時一改爲二司官一、乃與二郞官一並列。

【主兒】104 chu³ êrh ㊀主人。ぬし。㊁主意。意見。

【主辭】105 シュジ ㊀主語(76)に同じ。㊁論理學の命題をいふ。

【主讎】106 シュシウ 主なるあだ。〔漢書、息夫躬傳〕發二國姦一、誅二主讎一、取二封侯一之計也。

【主日】107 chu³ jih⁴ 安息日。日曜日。

【主實】108 シュジツ 淸、樊鎭(**6**―**15414**‥58)の字。

【主車】109 シュシャ 木主を載せた車。〔周禮、春官、小宗伯〕若大師則帥二有司一、而立二軍社一奉二主車一。〔疏〕云レ奉二主車一者、謂下遷二廟主一、亦載中於齊車上以行上也。

【主社】110 chu³ shê⁴ 或る團體、又は組合の頭。

【主者】111 シュシャ ㊀主として其の事に任ずる者。責任者。〔漢書、王陵傳〕問二右丞相勃一曰、天下一歲決獄幾何、勃謝レ不レ知、天下錢穀一歲出入幾何、勃又謝レ不レ知、汗出沾レ背、媿不レ能レ對、上亦問二左丞相平一、平曰、各有二主者一。㊁chu² chê³ 惡者の頭。おやぶん。

【主相】112 シュシャウ 宰相。首相。〔荀子、彊國〕夫主相者、勝レ人以レ執也。

【主唱】113 シュシャウ かしらだつて言ひ出す。發頭人となつて主張すること。

【主將】114 シュシャウ 總大將。〔三略、上〕主將之法、務攬二英雄之心一。〔吳志、張紘傳〕夫主將乃籌謨之所二自出一。〔李白、南奔書懷詩〕主將動讒疑、王師忽離叛。〔岑參、送二劉郞將レ歸二河東一詩〕謝君賢主將、豈忘二輪臺邊一。〔宋史、眞宗紀二〕臣以レ劍屬二主將一。

【主章】115 シュシャウ 法律の條文をつかさどる。〔後漢書、朱儁傳〕儁乃羸服閒行、輕齎二數百金一到二京師一、賂二主章吏一、遂得レ刊二定州一。

【主醬】116 シュシャウ 令制の官。宮內省、大膳職の職員。種々の醬豉、未醬などを造ることを掌る。〔職員令〕大膳職、主醬二人、掌レ造二雜醬豉未醬等一。

【主上】117 シュジャウ 天子。人君。〔韓非子、揚權〕主上用レ之、其國危亡。〔史記、吳王濞傳〕今主上雖レ急、固有レ死耳。〔漢書、吳王濞傳〕主上任二用邪臣一。〔新書、階級〕況乎貴大臣之近二乎主帝一乎。

【主爵】118 シュシャク 官名。㊀主爵中尉は秦の官で、列侯の封爵を掌る。漢は主爵都尉に改め、武帝の時、更に右扶風と改む。〔史記、衞將軍驃騎傳〕主爵趙食其爲二右將軍一。〔史記、平津侯傳〕嘗與二主爵都尉汲黯一請レ閒。〔漢書、百官公卿表〕主爵中尉、秦官、掌二列侯一、景帝中六年、更二名都尉一、武帝太初元年、更二名右扶風一、治二內史右地一。〔漢書、汲黯傳〕召爲二主爵都尉一。㊁北齊の官。晉の尙書に左右の主客曹があつたが、北齊は改めて主爵とし、郞中一人を置き、吏部に屬し、封爵の事をつかさどる。唐代、司封と改めた。〔通典、職官典、尙書下、吏部尙書〕晉尙書有二左右主客曹一、北齊河淸中、改爲二主爵一、置二郞中一人一、屬二吏部一、主二封爵之事一、隋初爲二主爵侍郞一、煬帝改爲二主爵郞一、武德初爲二主爵郞中一、龍朔二年、改爲二司封大夫一、咸亨元年復レ舊、光宅元年、改爲二司封郞中一、掌三封二爵皇之枝族、及諸親內外命婦告身、及道士女冠等一。

【主守】119 シュシュ ㊀文案を主る役人、及び倉庫・獄囚・雜物等を監守する官吏の總稱。〔唐律、名例、統攝案驗爲二監臨一、疏義〕主守、謂二行案典吏一、專主二掌其事一、及守二當倉庫・獄囚・雜物之類一。〔明律、捕亡〕主守不レ覺レ失レ囚。㊁つかさどり守る。〔柳宗元、寄二許京兆孟容一書〕主守者、固以恚怠。

【主從】120 シュジュウ 主人と從者。君臣。〔東鑑、二〕養和元年正月五日、主從八騎。

【主術】121 シュジュツ 君主としての術。〔史記、李斯傳〕獨操二主術一、以制二聽從之臣一、而修二其明法一。

【主術訓】122 シュジュツクン 淮南子の篇名。

【主書】123 シュショ 官名。晉、置き、中書に屬し、武官を用ひて文書を掌らしめた。宋は文官を用ひ、齊及び後魏は主書令史と稱し、陳・唐は單に主書と稱した。〔通典、職官典、宰相、中書令〕主書、晉中書有二主書之員一、本用二武官一、宋改用二文史一、齊於二中書一置二主書令史一、陳置二主書一、而去二令史之名一、後魏又爲二主書令史一、置二八人一、北齊置二主書十八人一、隋復加二令史一、大唐又除レ之。

【主食】124 シュショク 天子の食物を主る役。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、普通元年)使二主食中黃門胡定自列一。〔注〕主食、主二御食一者也。

【主囑】125 chu² chu³ 大事な用向。大切な用事。肝心ないひつけ。

【主心】126 シュシン 主君としての心。又、主君の心。〔史記、仲尼弟子傳〕是君上驕二主心一、下恣二羣臣一。

【主臣】127 シュシン 恐懼措く能はざること。恐惶。發語敬謝の辭で、主、上に在り、臣、下に在つて自然に敬恐する義。一說に、人主の意。臣下に主たるの義で、臣下が君を指していふ語。陔餘叢考、卷二十一に見ゆ。〔通雅、釋詁〕發語敬謝之辭、猶二主在レ上、臣在レ下、自然敬恐一也。〔史記、陳丞相世家〕平謝曰、主臣、陛下不レ知二其駑下一、使レ待二罪宰相一。〔注〕集解曰、張晏曰、若三今人謝曰二惶恐一也、馬融龍虎賦曰、勇怯見レ之、莫レ不二主臣一、孟康曰、主臣、主二羣臣一也、若三今言二人主一也。〔史記、馮唐傳〕主臣、陛下雖レ得二廉頗李牧一、弗レ能レ用也。〔漢書、王陵傳〕平謝曰、主臣。〔注〕文穎曰、惶恐之辭也、猶三今言二死罪一也、孟康曰、主臣、主二群臣一也、若三今言二人主一、晉灼曰、主、擊也、臣、服也、言二其擊服惶恐一之辭、師古曰、文・晉二說、是也。〔王先謙補注〕先謙曰、集解引二張晏一云、若三今人謝曰二惶恐一也、馬融龍虎賦、勇怯見レ之、莫レ不二主臣一、先謙案、据二馬賦一、則作二惶恐一解、漢時自有二確詁一、蓋對レ主稱レ臣、惶恐意自見、別無二義可一レ求。〔名義考〕古文臣作レ㔾、如二人伏一レ地也、說文、臣、擊也、事レ君也、象二屈服之形一、蓋人臣對レ君、不レ容下不二惶恐一、不中屈服上也、主臣、是一二於惶恐屈服一之意。

【主神】128 シュシン 神明に奉仕する人。かむづかさ。かんぬし。神官。〔職員令、太宰府〕主神一人、掌二諸祭祠事一。

【主進】129 シュシン 禮錢（祝賀の時などに贈る錢をいふ）を治め掌る。主吏(251)を見よ。〔史記、高祖紀〕蕭何爲二主吏一主レ進。〔注〕索隱曰、顏師古曰、進者、會禮之財。

【主親】130 シュシン 結婚の媒介人。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕二來做二主親一。

【主人】131 シュジン ㊀一家のあるじ。日知錄、卷五に見ゆ。〔易、明夷〕主人有レ言。㊁客を迎へる家の人。客人の對。〔儀禮、士相見禮〕主人請レ見、賓反見。㊂主要人物。中心人物。〔舊唐書、僕固懷恩傳〕功效最高、爲二先帝中興主人一。㊃君主。又、己が仕へる人。〔韓愈、祭二穆員外一文〕主人信レ讒。〔水滸傳、六十二回〕小人的主人盧員外。㊄妻が夫をいふ稱。

【主人翁】132 シュジンヲウ ㊀宿のあるじ。主人公。翁は尊稱。〔史記、范雎傳〕願爲レ君借二大車駟馬於主人翁一。〔漢書、東方朔傳〕願謁二主人翁一。㊁話の中心人物。

【主人公】133 シュジンコウ ㊀あるじ。主人。〔韓愈、詠二燈花一詩〕更煩將二喜事一、來報二主人公一。㊁小說・脚本・講談などで、事件の中心となつてゐる人物。

【主人貧亦歸】134 シュジンヒンナルモマタカヘル 主人が貧乏になつても其の家に歸ることで、舊主を忘れぬ喩。〔于濆、感レ事詩〕花開蝶滿レ枝、花謝蝶還稀、惟有二舊巢燕一、主人貧亦歸。〔書言故事、禽獸比喩類〕無二炎涼態一、曰二主人貧亦歸一。

【主人不二相識一偶坐爲二林泉一】135 シュジンアヒシラズタマタマザスルハリンセンノタメナリ 名園を極賞した語。晉の王子敬が其處の主人には面識がないに拘らず、出掛けて行つて、其の庭園を批評した故事に基づく。〔世說新語、簡傲〕王子敬自二會稽一經レ吳、聞三顧辟彊

有二名園一、先不レ識二主人一、徑往二其家一、値二顧方集一二賓友一、酣燕上、而王遊歷既畢、指二塵好惡一、傍若レ無レ人。〔賀知章、題二袁氏別業一詩〕主人不二相識一、偶坐爲二林泉一、莫二謾愁一沽レ酒、囊中自有レ錢。

【主水】136 モンド 主水司の略。

【主水佑】137 モンドノジョウ 主水司の屬官。唐名は上林丞。〔職原抄〕主水司、佑、唐名、上林丞。

【主水司】138 モンドリョウ ツカサノカミ 古、官署の名。宮内省に屬し、樽・水・饘粥及び氷室の事を掌る。唐名は上林署。膳部署。〔令義解職員令〕主水司、正一人、掌二樽・水・饘粥及氷室事一。〔職原抄〕主水司、唐名、上林署、或云二膳部署一。

【主水正】139 モンドノショウ カミ 主水司の長官。唐名は上林藏氷・白漿令。〔職原抄〕主水司、正一人、唐名、上林藏冰・白漿令。

【主水新田】140 モンデン 下總國の地名。

【主水令史】141 モンドノサウヲン 主水司の屬官。唐名は上林監事。〔職原抄〕主水司、令史、唐名、上林監事。

【主帥】142 シュスイ 主となつてひきゐる者。總大將。將軍。〔魏志、東夷、韓傳〕國邑雖レ有二主帥一、邑落雜居、不レ能二善相制御一。〔川田甕江、岩倉公所レ藏正宗鍛刀記〕我以二百口一保二主師身一。

【主政】143 シセイ ❶主君の政治。〔管子、禁藏〕主政可レ往二於民一。❷官名。主事(103)に同じ。〔稱謂錄、主事、主政〕案、漢時雖レ有二主事之職一、至レ唐始置二是官一、今謂二之主政一。〔六部成語、吏部、主政、注解、補遺〕六部之主事也。❸ chǔ chēng 新聞の主筆。事務を主管する人。

【主壻】144 シュセイ 天子の女の夫。駙馬。〔晉書、王濟傳〕帝益親二貴之一、仕進雖レ速、論者不レ以二主壻之故一、咸謂二其才能致一之。

【主勢】145 シュセイ 君主としての權勢。〔史記、李斯傳〕主勢降二乎上一。

【主誠】146 シュセイ 心を公平無私に保つこと。宋儒程明道などの首唱した修養法。〔二程全書、二〕學者須二先識一レ仁、云云、識二得此理一、以二誠敬一存レ之。〔二程全書、四十〕君子之學、莫レ若二廓然而大公、物來而順應一。

【主靜】147 シュセイ ❶妄想を去り、心を靜かにすること。宋儒周濂溪などの首唱した修養法。〔周敦頤、太極圖說〕聖人定レ之、以二中正仁義一而主レ靜、立二人極一焉。❷字號。㋑明、延定之(4－956 9··236)の字。㋺明、劉定之(2－2224··1211)の字。

【主靜先生】148 シュセイセンセイ 元、汪深(6－17154··77)の尊稱。

【主稅】149 チカラ ❶古、みつぎもの、又は田租・米倉などを掌つた官。主稅頭を見よ。❷京都市内の地名。❸尾張國の地名。

【主稅局】150 シュゼイキョク 國稅の賦課・徵收など、稅務の管理・監督、其の他租稅の事に關する一切を司る、大藏省の一局。

【主稅官】151 シュゼイクワン 租稅を司る官吏。

【主稅寮】152 チカラノツカサ 主稅寮の長官。〔職員令〕主稅寮、頭一人、掌二倉廩出納、諸國田租、舂米碾磑事一。

【主稅寮】153 チカラレウ 古の官署の名。民部省に屬し、諸國の田租、及び倉廩の出物等の事を掌る。ちからのつかさ。唐名は倉部・屯田。〔職原抄〕民部省、主稅寮、唐名、倉部、又云二屯田一。

【主稅新田】154 チカラシンデン 下總國の地名。

【主席】155 シュセキ ❶筵席を主宰するもの。又、其の席。〔史記、絳侯周勃世家、顧謂二尚席一取レ櫜、注〕集解曰、應劭曰、尚席、主レ席者。❷會議などの時、一切の進行の手續、及び秩序の維持をつかさどるもの。座長。議長。❸多人數で組織された團體の最高統率者。委員長。❹第一の席次。一番。

【主祏】156 シュセキ 廟主を納めておく石函。〔左氏、昭、十八〕使下祝史徙二主祏於周廟一、告中於先君上。〔注〕祏、廟主石函。〔疏〕每廟木主、皆以二石函一盛レ之。〔魏志、韓暨傳〕宗廟主祏。

【主妾】157 シュセフ 本妻と妾。〔韓非子、愛臣〕主妾無レ等、必危二嫡子一。〔注〕主、謂二室主一。

【主線】158 シュセン 圖畫で物體を描寫する基本線。

【主膳】159 シュゼン 天子の膳部を掌る官。又、其の事。〔唐書、車服志〕凡食局主膳、典膳局典食。

【主膳佑】160 シュゼンノジョウ 主膳監の屬官。〔職原抄〕主膳監、佑。

【主膳監】161 シュゼンゲン 古の官署の名。東宮の飮食・供膳の事を管し、進食の時、試嘗することを掌る。春宮坊の被官。正・佑・令史等の職員を置く。みこのみやのかしはでのつかさ。唐名は典膳局。〔東宮職員令〕主膳監、正一人、佑一人、令史一人、膳部六十人、使部六人、直丁一人、驅使丁二十人。〔職原抄〕主膳監、唐名、典膳局。

【主膳正】162 シュゼンノカミ 主膳監の長官。唐名は典膳郎。〔職原抄〕主膳監、正一人、唐名、典膳郎。

【主膳令史】163 シュゼンノサウヲン 主膳監の屬官。〔職原抄〕主膳監、令史。

【主奏】164 ソウ 官名。上奏のことを司る。〔金史、張通古傳〕侍中劉彥宗、與二通古一素善、知二其才一、召爲二樞密院主奏一。

【主僧】165 ソウ 住持。住職。〔山房隨筆〕靈隱寺主僧。〔金史、世宗紀〕〔六年〕五月戊申、幸二華嚴寺一、觀二故遼諸帝銅像一、詔二主僧一、謹視レ之。

【主體】166 シュタイ ❶帝王の體。玉體。君主。〔漢書、東方朔傳〕上以安二主體一、下以便二萬民一。❷㋑目的物となるもの。物の本體。㋺行爲の本となるもの。人は權利義務の主體といつた類。

【主第】167 シュダイ 公主の邸宅。又、かみやしき。甲第。〔南史、賀琛傳〕家產既豐、買二主第一。〔盧照鄰、長安古意〕玉輦縱橫過二主第一、金鞍絡繹向二侯家一。〔元稹、估客樂〕侯家與二主第一、點綴無レ不レ精。

【主題】168 シュダイ 主なる題目。主眼の題。

【主題歌】169 シュダイカ 小說・演劇・映畫などの主題を歌にしたもの。

【主道】170 シュダウ ❶君主としての道。〔荀子、正論〕主道利レ周。〔韓非子、愛臣〕是以姦臣蕃息、主道衰亡。〔呂覽、論人〕主道約。〔說苑、雜言〕一室之中、必有二主道一焉。❷韓非子の篇名。❸ chǔ tào とくい。花顧。

【主澤】171 シュタク 主君の恩澤。君恩。〔東方朔、非有先生論〕此二臣者、皆極レ慮盡レ忠、閔下主澤不二下流一而萬民騷動上。

【主治】172 シュチ ❶主となつて治療すること。又、主として治療すること。又、藥の主な效能。〔王世貞、本草綱目序〕次以二氣味一主治附方、著二其體用一也。❷治める。統轄する。

【主治醫】173 シュチノイ 主任となつて治療する醫者。

【主持】174 シュヂ 自分一己の力で維持すること。自己の意見を主張すること。とりはからふ。處置する。主宰する。總括する。〔福惠全書、刑名部、姦情〕稍涉二輕浮一、是主持風化者、適所二以敗一壞風化一也。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕一詞興、非二其主持一、不二敢告一。

【主軸】175 シュジク ❶レンズに於て、二つの球面の中心を連ねる直線。又、球面鏡に於て、鏡心と球面の中心とを連ねる直線。❷結晶學で二箇若しくは二箇以上の對稱面が會する線に一致する對稱軸。

【主長】176 シュチャウ かしら。目上。〔商子、更法〕錯レ法務明、主長、臣之行也。〔新序、善謀上〕務明二主長一、臣之行也。

【主鬯】177 シュチャウ 長子。長子は宗廟を祭るにや鬯を主ることからいふ。易の震卦の語。匕鬯。主器。〔易、震〕震驚二百里一、不レ喪二匕鬯一。〔注〕威震驚二乎百里一、則是可二以不レ喪二匕鬯一矣、匕、所二以載一鼎實一、鬯、香酒、奉二宗廟之盛也。〔疏〕震卦施二之於人一、又爲二長子一、長子則正二體於上一、將レ所レ傳レ重、出則撫レ軍、守則監レ國、威震驚二於百里一、可下以奉二承宗廟彝器粢盛一、守而不上失也。〔柳宗元、賀二踐祚一表〕陛下重レ離出レ曜、體二乾繼レ統、主鬯彰二孝恭之美一、撫レ軍著二神武之功一。〔宋史、張昭傳〕時皇子競尚二奢侈一、張昭疏諫曰、以二此而欲一レ託二以主鬯一、不二亦難一乎。

【主帳】178 シュチャウ 古の官名。❶國司の佐官。文案を勘へ、公文を讀むことを掌る。〔職員令〕大郡、主帳二人。❷軍團で文章の事を掌る者。〔職員令〕軍團、云云、主帳一人、校尉五人。

【主張】179 シュチャウ ❶自分の意見。持論。主維。〔韓愈、送窮文〕各有二主張一、私立二名字一。❷主宰する。〔莊子、天運〕天其運乎、地其處乎、日月其爭二於所一乎、孰主二張是一、孰綱二維是一。❸主として取りまもる。〔宋史、徐中行傳〕願安二時處一順、主二張世道一。

【主忠】180 シュチウ 明、蔣忠(9－31820··80)の字。

【主潮】181 シュテウ 時勢の成りゆき。主となる思潮。

【主調】182 シュテウ 清、陸在元(11－41708··324)の字。

【主典】183 シュテン ❶つかさ。かかり。〔隋書、刑法志〕

以爲二主典所一職。㊀官國幣社の神職の一。上職の指揮・監督によつて、祭儀及び庶務に從事する判任官待遇。〔官國幣社職制、第一條四號〕主典。㊁サクワン ①古の官制で第四等の官。官によつて字を異にし、神祇官では史、太政官では史・外記、省では錄、職・坊・寮では屬、司・署では令史、彈正臺では疏、近衞府では將曹、四衞府・檢非違使廳では志、齋院使・造寺使では主典、鎭守府では軍曹、太宰府では典、國では目、郡では主帳、家司では書吏とした。さうくわん。しゆてん。〔倭名類聚抄、五〕佐官、本朝職員令、二方品員等所レ載、神祇曰レ史、省曰レ錄、彈正曰レ疏、勘解由曰二主典一、職寮曰レ屬、司曰二令史一、近衞府曰二將曹一、兵衞・衞門四府曰レ志、太宰府曰レ典、鎭守府曰二軍曹一、國曰レ目、郡曰二主帳一、家曰二書吏一。㊁明治二年七月から八年十一月にわたつて置かれた官。官によつて字を異にし、神祇官・太政官では史、各省では錄、各省の寮・皇太宮職・皇后宮職・府・縣・藩では屬、各省の司では令史、彈正臺では疏、集議院・留守官・開拓使・按察使・宣教使では主典、提督府では典とした。

【主典代】184 シユテン ダイ 院の廳の屬官。出納を掌る。代とは、宮中の官に區別していふ。〔職原抄〕院廳、主典代。

【主田】185 シユデン 草の名。なつとうだい。甘遂（7－21643‥109）の異名。〔本草、甘遂〕釋名、主田。

【主殿】186 シユデン ㊀家中主要な殿舍の稱。室町以後、貴人の表座敷をいふ。正殿。〔鎌倉年中行事〕御主殿は南向、御座九間六間。〔家屋雜考、一〕。㊁トノモリ ①主殿寮の下司。㊁宮中の雜役を勤め、又、藏人の拜賀に賜はる湯漬の給仕を勤めた女官。〔枕草紙、十〕とのもりの女官御きよめ參りはてて、各おきさせ給へるに。

【主殿允】187 トノモノジヨウ 主殿寮の屬官。大・少がある。唐名は尚舍丞。〔職原抄〕主殿寮、允、大少、唐名、尚舍丞。

【主殿司】188 ツカサ 古、後宮の十二司の一。輿轜・膏沐・燈油・火燭・薪炭の事を掌る。殿司。〔職原抄〕主殿司。

【主殿首】189 シユデンノカミ 主殿署の長官。唐名は典設郎。〔職原抄〕主殿署、首一人、唐名、典設郎。

【主殿署】190 シユデンシヨサ 古の官署の名。東宮坊に屬し、湯沐・燈燭・洒掃・鋪設等の事を掌る。唐名は典設局。〔東宮職員令〕主殿署、首一人、令史一人、殿掃部二十人、使部六人、直丁一人、驅使丁十人。〔職原抄〕主殿署、唐名、典設局。

【主殿助】191 トノモノスケ 主殿寮の屬官。唐名は尚舍直長。〔職原抄〕主殿寮、助、唐名、尚舍直長。

【主殿屬】192 トノモノサクワン 主殿寮の屬官。大・少がある。唐名は尚舍令史。〔職原抄〕主殿寮、屬、大少、唐名、尚舍令史。

【主殿頭】193 トノモノカミ 主殿寮の長官。唐名は尚舍奉御・殿中監。〔職原抄〕主殿寮、頭一人、唐名、尚舍奉御・殿中監。

【主殿寮】194 トノモリノツカサ ㊀古の宮內省の被官の寮。供御の輿輦・蓋笠・湯沐、殿庭の洒掃・燈燭・松柴・炭燎等の事を掌る。唐名は尚舍局。〔職原抄〕主殿寮、唐名、尚舍局。㊁宮內省の一部局。宮殿の管守及び警察に關する事務を掌る。頭・主事・屬・仕人を置き、警察部には皇宮警視長・皇宮警視・皇宮警部を置く。〔宮內省官制、第四十三條〕。

【主殿新田】195 トノモシンデン 羽前國の地名。

【主土】196 シユド 諸侯が始めて封ぜられる時、天子から受ける土。社を立てて之を奉ず。〔史記、三王世家〕褚先生曰、諸侯王始封者、必受二土於天子之社一、歸立レ之以爲二國社一、以二歲時一祠レ之、云云、主土者、立二社而奉一レ之也。

【主動】197 シユドウ 主となつて事をなす。又、其の人。

【主動者】198 シユドウシヤ かしらだつて事を起す人。主謀者。張本人。發頭人。

【主動力】199 シユドウリヨク 物理學用語。甲物體が乙物體に加へる力。反動力の對。

【主德】200 シユトク 倫理學用語。諸德中の最も根本的な德。自餘の德は此の德に依存する。

【主德說】201 シユトクセツ 道德を以て至高無上とする倫理說。

【主櫝】202 chu³ tu⁴ 神位。位牌の類を藏する器。

【主腦】203 シユナウ おもだつて働く人。重要な人。

【主任】204 シユニン 主として事に任ずる者。かしらだつて仕事をする者。事務上の責めを負ふ人。

【主任教員】205 シユニンキヨウイン 一科目を擔任する教員の上に在つて、其の科目に關するすべての事を總括してゆく教員。

【主馬】206 シユメ 主馬寮にあつて、東宮の乘馬・鞍具の類を供進する事を掌る役。文武天皇大寶元年の創置。

【主馬佑】207 シユメノジヨウ 主馬署の屬官。〔職原抄〕主馬署、佑。

【主馬首】208 シユメノカミ 主馬署の長官。唐名は廐牧令。〔職原抄〕主馬署、首一人、唐名、廐牧令。

【主馬署】209 シユメノシヨ 古の官署の名。東宮坊に屬し、御馬のことを掌る。唐名は廐牧署。〔東宮職員令〕主馬署、首一人、令史二人、馬部十人、使部十人、直丁一人。〔職原抄〕主馬署、唐名、廐牧署。

【主馬頭】210 シユメノカミ 主馬寮の長官。

【主馬寮】211 シユメノリヨウ 天子の馬匹の事を掌る役所。御料馬を取扱ふ役所。

【主馬令史】212 シユメノサクワン 主馬署の屬官。〔職原抄〕主馬署、令史。

【主房】213 chu³ fang² 上房。正面の上等室。

【主法】214 シユハウ ㊀法を主る。主法之吏を見よ。㊁權利義務の關係を定めた法律。

【主法之吏】215 シユハウノリ 法をつかさどる役人。〔商子、定分〕置二主法之吏一、以爲二天下師一。

【主犯】216 シユハン 共犯の一。正犯（6－16255‥382）に同じ。犯罪を實行したもの。卽ち其の行爲が獨立して犯罪を構成すべきもの。

【主皮】217 シユヒ 矢でまとの皮を射貫くのを第一目標とすること。〔周禮、地官、鄕大夫〕三曰、主皮。〔注〕主皮謂二善射一云云、主皮者、張レ皮射レ之、無侯也。〔儀禮、鄕射禮〕禮射不レ主レ皮。〔注〕不レ主レ皮者、貴二其容禮一。〔論語、八佾〕射不レ主レ皮。〔集解〕馬融曰、射有二五善一焉、云云、三曰、主皮、能中レ質也。

【主筆】218 シユヒツ 新聞・雜誌などに、頭だつて筆を執る者。記者の首位に在る者。

【主賓】219 シユヒン ㊀あるじときやく。主客。〔劉訥、贈二胡履平一偕克有レ之興レ國詩〕主賓二美古稱レ難、笑語輕舟十八灘。㊁おもな客。正賓。

【主父】220 シユフ ㊀妾が夫を稱していふ語。〔戰國、燕策〕妾知二其爲一レ藥酒一也、進レ之則殺二主父一、言レ之則逐二主母一、乃陽僵棄レ酒。〔史記、蘇秦傳〕恐二其殺一レ主父一也。㊁戰國の時、趙の武靈王が國を其の子惠文王に讓つて後、自ら稱した號。〔史記、趙世家〕二十七年五月戊申、大朝二於東宮一、傳レ國。立二王子何一、以爲レ王、王廟見禮畢、出臨レ朝、大夫悉爲レ臣、肥義爲二相國一、并傅レ王、是爲二惠文王一、惠文王、惠右吳娃子也、武靈王、自號爲二主父一。㊂複姓。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕嬴姓、趙武靈王號二主父一、支孫因以爲レ氏。

【主父偃】221 シユフエン 漢代、齊國臨淄の人。初、縱橫の術を學び、晩に易・春秋・百家を學ぶ。元光年間、上書して郎中に拜せられ、一歲に四遷して中大夫となる。嘗て、丈夫生きて五鼎に食せざれば、死しては卽ち五鼎に烹られんのみと廣言した。後、事に坐して族誅せられた。著はす所、二十五篇があり、漢書藝文志に見えて居る。〔史記、一百十二〕・〔漢書、六十四〕。

【主婦】222 シユフ ㊀祭祀に主となる女。〔儀禮、士喪禮〕主婦東面、馮亦如レ此。〔禮、曾子問〕非二宗子一雖レ無二主婦一可也。㊁一家をつかさどる女。本妻。正室。主闈。

【主部】223 シユブ ㊀主になつて掌るもの。〔漢書、楊惲傳、或行錢得二善部一、注〕師古曰、郎官職、各有二主部一、故行錢財而擇二其善一以招レ權也。㊁おもな部分。主要部。㊂文法用語。主語と其の修飾語とから成る部分。

【主物】224 シユブツ おもな物件。附從して間接の用をなす物を從物といふに對する語。家屋を主物、建具を從物とする類。

【主文】225 シユブン ㊀試驗官。主司。〔嬾眞子、三〕天聖中、鄧州秋擧、舊例、主文到レ縣、鄕中長上、率二後進一見二主文一。〔稱謂錄、主考、主文〕王闢之澠水燕談錄、孫莘老爲二太平令一、有二呂同者一、學於孫、一夕夢試二南宮一、中二高選一、主文孫也。㊁chu³ wen² 判決文の第一段。判定の結果及び適用する所の法律を記すもの。㊂但書・附言等に對して、本文をいふ。

【主文譜諫】226 シユブンケツカン 詩經、國風の詩の特徵を

概括して言つた語。主文とは詩句に文ヤをもたせて樂律と調和させることに重きを置くこと。諷諫とは詩句に言外の意味を含ませて婉曲にいさめること。〔詩、大序〕主レ文而譎諫、言レ之者無レ罪、聞レ之者足二以戒一、故曰レ風。〔箋〕風化風刺、皆謂二譬喩不一レ斥言一也、主レ文、主下與二樂之宮商一相應上也、譎諫、詠歌依違、不二直諫一。

【主兵】227シュヘイ 兵をつかさどる。〔管子、地圖〕主レ兵必參具者也、主明、相知、將能、之謂二參具一。〔纂詁〕凡主二兵者一、必使二參者備具一也。〔李德裕、奏二晉州刺史李丕一狀〕李丕既不レ主レ兵、無二以自衞一。

【主柄】228シュヘイ おほもとの權力。〔宋史、常安民傳〕乞下收二主柄一、而抑中其權上。

【主幣】229 chǔ bì 本位貨幣。

【主辦】230シュベン とりしまり。指圖する人。〔史記、項羽紀〕每二吳中有一大繇役及喪一、項梁常爲二主辦一。

【主母】231シュボ ❶本妻。妾から本妻を呼ぶ稱。〔戰國、燕策〕妾知二其爲一藥酒一也、進レ之則殺二主父一、言レ之則逐二主母一、乃陽僵棄レ酒。〔史記、蘇秦傳〕妾欲レ言二酒之有一レ藥、則恐二其逐一主母一也。❷太后。〔韓非子、亡徵〕后妻淫亂、主母畜レ穢、外內混通、男女無レ別、是謂二兩主一。

【主簿】232シュボ 官名。各署にあつて文書帳簿を管理する官。掾史の領袖をいふ。❶公府の主簿。漢代には御史主簿がある。魏・晉以來無く、隋の大業三年、御史臺に主簿二人を置く。唐・宋は之に因り、元代に廢せられた。日知錄、卷二十四に見ゆ。〔通典、職官典、主簿、主簿、漢有二御史主簿一、魏晉以來無レ聞、隋大業二年、御史臺始置二主簿一人一。❷寺監の主簿。㋑大常寺の主簿。漢、置き、魏・晉は之に依る。梁、天監七年には十二卿に各〻主簿一人を置き、陳は之に依る。北齊は功曹五官主簿といひ、唐・宋にも亦主簿がある。遼は各卿寺に之を置き、元は經歷・都事を置いて主簿の職を掌らしめ、明は典簿、及び犧牲所の吏目を以て之に代へた。〔通典、職官典、大常卿〕主簿、漢有レ之、魏晉亦有焉、梁天監七年、十二卿各置二主簿一人一、陳因レ之、北齊有二功曹五官主簿一人一。㋺光錄寺の主簿。漢、置き、晉・宋・齊・梁・陳之に因り、北齊は功曹五官主簿といふ。隋・唐・宋は皆之を置き、元は主事、明は典簿を以て之に代へた。〔通典、職官典、光錄卿〕主簿、漢置、晉・宋・齊・梁・陳、並有レ之、北齊曰二功曹五官主簿一、隋二人。㋩衞尉寺の主簿。漢、置く。晉・齊・梁・陳・北齊・隋・唐・宋皆之を置く。〔通典、職官典、衞尉卿〕主簿一人、漢衞尉駕二四馬一、主簿前車以乘、晉有二衞尉主簿二人一、宋・齊・梁・陳因レ之、北齊・隋、亦有二二人一。㋥宗正寺の主簿。梁、置く。陳・北齊・隋・唐皆之を存し、宋の眞宗天禧の時、衞尉丞之を兼ね、金は知事檢法を置いて之に代へた。〔通典、職官典、宗正寺〕主簿、梁置、陳・北齊・隋皆有。㋭太僕寺の主簿。梁、置く。北齊・隋・唐・宋初は皆有つたが、哲宗の元祐二年に罷めた。元は主簿を置かず、經歷・知事・照磨・管勾、各一人を置き、明に至つて復主簿を置く。〔通典、職官典、太僕卿〕主簿、梁置二一人一、北齊亦一人、隋二人。㋬大理寺の主簿。晉・魏・宋・齊・梁・陳・唐及び宋初には皆有り、高宗の建炎三年に省き、後、また置く。金は知法・明法を置き、明は司務を置いて之に代へた。〔通典、職官典、大理卿〕主簿、自レ晉・魏・宋・齊・梁・陳、皆有。㋮鴻臚寺の主簿。明に至るまで各代何れも一人を置く。〔通典、職官典、鴻臚卿〕主簿、唐置二一人一、宋因レ之、明亦置二一人一。㋯司農寺の主簿、晉、置き、梁・陳・北齊・唐・宋皆之を存した。哲宗の元祐五年、檢法を兼ねた。明初又置き、後、罷めた。〔通典、職官典、司農卿〕主簿、晉大康中置、自後無レ聞、梁・陳又有、北齊亦然。㋰大府寺の主簿。梁、置き、陳、後魏・隋・唐・宋皆有る。元は經歷・知事・照磨を以て之に代へた。〔通典、職官典、太府卿〕主簿、亦周官太府下士之任、自後無レ聞、梁置二一人一、陳因レ之、後魏亦然、隋置二四人一。㋱將作監の主簿。隋・唐・宋・遼皆置く。〔通典、職官典、將作監〕主簿、晉置、自後與レ丞同、隋二人。㋲國守監の主簿。北齊、置き、隋・唐・宋・遼、皆有る。元は典簿を置き、明は典簿・典籍を置いて之に代へた。〔通典、職官典、國子監〕主簿、北齊置、隋一人。㋳軍器監の主簿。後周の武帝が始めて置き、唐・宋皆之を存した。金は直長、元は武備等に經歷・知事・照磨を置いて之に代へた。〔通典、職官典、軍器監〕後周武帝四年、初置二軍器監一、云云、丞、主簿各一人。㋴都水使者の主簿。晉、置き、梁・陳・唐・宋・遼皆有る。金は勾當官を置き、元は經歷・知事を置いて之に代へた。〔通典、職官典、都水使者〕主簿、晉水衡都尉有レ之、爲二左右前後中五水衡一令一悉皆有レ之、梁大舟卿亦有レ之、至レ隋又置。❸東宮官の主簿。㋑太子詹事の主簿。晉、置き、歷代皆之を置いたが、宋には無く、遼には詹事主簿があつた。元には元政院の照磨・管句を以て之に代へ、明には詹事府主簿廳主簿・南京詹事府主簿を以て之に代へた。〔通典、職官典、太子詹事〕主簿一人、晉始置、自後歷代皆有、大唐因レ之、掌二府事句一稽監印紙筆一。㋺太子家令の主簿。晉、置き、宋・齊之に因り、北齊・隋は主簿員といひ、唐代は之に因つた。遼も亦置き、元は典簿・照磨を以て之に代へた。〔通典、職官典、太子家令〕主簿、晉家令有二主簿一、宋齊因レ之、自後無、北齊家令有二主簿員一、隋亦然、大唐因レ之、掌二印幷及句擧一。㋩太子率更令の主簿。晉、置き、齊・北齊・隋・唐皆有り、遼も亦置く。〔通典、職官典、太子率更令〕主簿、晉置二一人一、宋無、齊有レ之、自後無レ聞、北齊・隋、又有レ之、大唐因レ之、掌二印及句擧一。㋥太子僕の主簿。晉・齊・北齊・隋・唐・遼皆有る。〔通典、職官典、太子僕〕主簿、晉置、宋無、齊有レ之、梁・陳・後魏無、北齊・隋皆有レ之。❹州郡の主簿。㋑州佐の主簿。漢、置き、隋に至るまで歷代皆之を存した。〔通典、職官典、總論州佐〕主簿一人、錄二門下衆事一、省署文書一、漢制也、歷代至レ隋皆有。㋺縣佐の主簿。漢、置き、唐・宋・遼・元・明、皆置く。〔通典、職官典、總論縣佐〕主簿、漢有レ之、晉亦有レ之、他史多闕、大唐赤縣置二二人一、他縣各一人、掌下付事句稽省置鈔目糾二正縣內非違一印、給二紙筆一上。❺雜主簿。宋、置く。諸城皆馬監、及び岳瀆神廟に置いて簿籍のことを掌らしめた。❻諸國の目の唐名。〔職原抄〕唐名、目、主簿。

【主簿蟲】233シュボチュウ 江南地方の語で、蠍をいふ。もと一主簿が竹筒に容れて持ち歩いたことから始まる。〔本草、蠍〕釋名、主簿蟲、時珍曰、按、唐史云、劍南本無レ蠍、有二主簿一將レ至、遂呼爲二主簿蟲一。〔酉陽雜俎、廣動植、蟲篇〕江南舊無レ蠍、開元初、常有二一主簿一、以二竹筒一盛過レ江、至レ今、江南往往而有、俗呼爲二主簿蟲一。

【主峯】234シュホウ 連山中のおもだつたみね。山の正峰。〔郭熙、詩泰山特多好主峯。

【主謀】235シュボウ 頭となつて事を企てる。〔六部成語、刑部〕主謀。

【主謀者】236シュボウシャ 主となつて謀をめぐらす者。張本人。

【主僕】237シュボク 主人と下僕。〔清會典事例、刑部、名例律〕楊際春陳祥生主僕二人、均被二車夫吳洛全等謀害一。

【主務】238シュム 管掌に專屬する事務。又、事務をつかさどること。

【主務官】239シュムクワン 專屬事務の主任官。

【主務省】240シュムショウ 行政事務を主宰する官廳。教育の事は文部省を主務省とする類。主務官廳。

【主務官廳】241シュムクワンチョウ 主務省に同じ。

【主務大臣】242シュムダイジン 主務省の大臣。

【主名】243シュメイ ❶吉凶の會合の際に、母又は婦の名を主として、名分を正して交際すること。〔禮、大傳〕異姓主レ名、治二際會一。〔注〕異姓、謂二來嫁者一也、主二於母與一レ婦之名一耳。〔疏〕異姓、謂二他姓之女、來爲二己姓之妻一、繫二夫之親一、主爲二母婦之名一、夫若爲二父行一、則主二母名一、夫若子行、則主二婦名一。❷主謀者の姓名。〔後漢書、郎顗傳〕恭陵火災、主名未レ立。〔注〕立、猶レ定也、時考二問延火者、姓名未レ定也。〔唐書、韓思彥傳〕有レ賊殺レ人、主名不レ知。〔福惠全書、刑名部、逃人、拿獲〕拷二供旗色主名、並所二逃月日一。❸主人の名。〔史記、倉公傳〕主名爲レ誰。〔後漢書、周紆傳〕下レ車、先問二大姓主名一。❹主として稱すべき名。〔淮南子、說山訓〕未レ得二主名一也。

【主命】244シュメイ ❶廟主の命。〔孔叢子、問軍禮〕無レ遷二廟主一、則以二幣帛皮圭一、告二于祖禰一、謂二之主命一。❷主人の命令。

【主明】245シュメイ 君主の聰明なこと。〔管子、地圖〕主兵必參具者也、主明、相知、將能、之謂二參具一。

【主盟】246シュメイ 盟會をつかさどる。又、その人。盟

主。〔左氏、襄、九〕知武子謂ニ獻子一曰、我實不德、而要レ人以盟、豈禮也哉、非レ禮何以主レ盟、姑盟而退。

【主役】247 シユヤク ❶或る事件で、主要な役割をする人物。主人役。❷演劇用語。主演をする役。たてやく。

【主藥】248 シユヤク 處方箋中の主要な藥物。通常、處方箋の冒頭に記入せられる。

【主譽】249 シユヨ 主人の名譽。〔東方朔、非有先生論〕今先生進無ニ以輔レ治、退不レ揚ニ主譽一。

【主用】250 シユヨウ ❶主人の用むき。〔史記、張儀傳〕人臣各爲ニ其主用一。❷軍の費用をつかさどる。〔孫子、始計〕法者、曲制、官道、主用也。〔集注〕主用者、主ニ軍費用一也。

【主吏】251 シユリ 漢代、功曹の官。〔史記、高祖紀〕沛中豪桀吏、聞ニ令有ニ重客一、皆往賀、蕭何爲ニ主吏一主レ進。〔注〕集解曰、孟康曰、主吏、功曹也。

【主流】252 シユリウ おもながれ。主要なながれ。

【主量】253 シユリヤウ 水が坑に注ぐこと。主は注、量は坑坎。〔荀子、宥坐〕主レ量必平似レ法。〔注〕主、讀爲レ注、量、謂ニ坑受レ水之處一也。

【主領】254 シユリヤウ 頭だつて事を宰領する。又、かしらだつ人。頭目。首領。〔漢書、禮樂志〕主ニ領諸樂人一。〔白居易、和下錢華州題ニ少華清光一絕句上詩〕高情雅韻三峯守、主ニ領清光一管ニ白雲一。

【主力】255 シユリヨク おもなちから。轉じて、本陣・中堅等の義。

【主力艦】256 シユリヨクカン 海上武力の骨幹を成す軍艦。戰艦。

【主廩】257 シユリン 元代、倉監督をいふ。〔稱謂錄、倉場、主廩〕元稱ニ倉監督一曰ニ主廩一。

【主令】258 シユレイ ❶主となつて物事を取りはからふもの。〔春秋、桓、八、祭公來遂逆ニ王后于紀一疏〕天子嫁ニ女於諸侯一、使下諸侯爲ニ主令一、與ニ夫家一爲上レ禮。❷chǔ³ lìng⁴ 主人の命令。吩咐（イヒツケ）。主命。

【主鈴】259 シユレイ 中務省の屬官。少納言の下知を受け、鈴印・傳符、飛驛の函鈴等を出納することを掌る。大・少がある。すずのつかさ。唐名は符寶郎。〔職員令〕中務省、大主鈴二人、掌三出ニ納鈴印・傳符・飛驛函鈴一、少主鈴二人、掌同ニ大主鈴一。〔職原抄〕中務省、主鈴、大少、唐名、符寶郎。

【主禮】260 シユレイ 古、內禮司の下に屬し、非違を分察することを掌つた役人。〔令義解、一、職員〕內禮司、云云、主禮六人、掌三分ニ察非違一。

【主油司】261 アブラノツカサ 昔、國々から調進する油を掌つた宮內官。

【主嫁者】262 シユカシヤ 婚姻契約を協定する責任者で、出嫁を主るもの。卽ち女家の尊長者をいふ。〔唐律、戶婚〕諸居ニ父母喪一、與下應ニ嫁娶一人上主レ嫁者、杖一百。

【主菓餠】263 シユクワヘイ 宮內省大膳職の職名。菓餠のことを掌る職。〔日本後紀、八〕延曆十八年二月、主菓餠從七位下宍人朝臣宮人。

【主會者】264 シユクワイシヤ 會を主る者。司會者。〔公羊、昭、十二〕其會、則主會者爲レ之也。

【主齋僧】265 シユサイソウ 佛おとぎ坊主。〔釋氏要覽〕令下主齋僧剪ニ紙幡子一首、隨レ紙化上レ之。

【主參加】266 シユサンカ 法律上、第三者が繫屬中の訴訟の目的の全部又は一部を自己の爲に請求する爲、其の訴訟の原告及び被告雙方を共同被告として訴を提起することをいふ。

【主產地】267 シユサンチ 主として產する土地。

【主產物】268 シユサンブツ ❶主として製造せられる物品。特に產出せられる物。副產物に對する語。❷其の土地で出來る重要物產。名物。

【主死日】269 chǔ² ssǔ³ jìh⁴ 受苦日。

【主情說】270 シユジヤウセツ 情的作用を心意の根本的要素とする學說。

【主針儒】271 シユシンジユ 鍼博士（**11**··40667··64）の唐名。〔職原抄〕典藥寮、針博士、唐名、主針儒。

【主成分】272 シユセイブン 或る物質中に含まれる成分の中の主要なもの。

【主戰論】273 シユセンロン 戰爭遂行を主張する議論。非戰論の對。

【主知說】274 シユチセツ 我々の精神作用のうち、知的作用を心意の根本的要素とする學說。

【主美說】275 シユビセツ 美的生活を至高無上とする學說。

【主風神】276 シユフウシン 扇（**5**－**11743**）の異名。〔淸異錄、器具、主風神〕予游ニ少室經壇院一、大暑疲薾、其徒以レ扇進、題曰ニ主風神一、亦可レ愛者。

【主麻兒】277 chǔ³ ma² êrh 回敎徒が神を禮拜する日。卽ち金曜日。

【主鷹司】278 シユヨウシ 古、兵部省に屬し、鷹犬を調習することを掌つた役所。〔令義解、一、職員〕主鷹司、正一人、掌下調ニ習鷹犬一事上、令史一人、使部六人、直丁一人。

【主理論】279 シユリロン 唯理論（**2**－**3761**··32）を見よ。

【主獵局】280 シユレフキヨク もと宮內省の一局。狩獵に關する事務を司る。

【主憂臣勞】281 シユウレフレバシンラウス 主人に憂患があれば、臣は其の爲に心力を勞する。主辱臣死（286）を見よ。〔史記、越世家〕臣聞、主憂臣勞、主辱臣死、昔者君王辱ニ於會稽一、所ニ以不レ死、爲ニ此事一也。

【主擊骨兒】282 chǔ³ ch'ing² ku³ êrh 賴るべき人。

【主債務人】283 シユサイムニン 債務を負ふ本人。保證人に對していふ。

【主三和音】284 シユサンワオン 音階の一度上・五度上・四度上、卽ち主和音・屬和音・下屬和音の三つの和音をいふ。

【主情主義】285 シユジヤウシユギ 我々の精神作用のうち、情的作用を心意の根本的要素とする主張。

【主辱臣死】286 シユハヅカシメラルレバシンシス 主君が辱しめられると、臣は死を賭して其れに報いる。主憂臣勞（281）を見よ。〔國語、越語下〕范蠡對曰、臣聞レ之、爲ニ人臣一者、君憂臣勞、君辱臣死。〔史記、韓長孺傳〕安國入、見レ王而泣曰、主辱臣死、大王無ニ良臣一、故事紛紛至レ此。〔越絕書、越絕外傳計倪〕王曰、夫主憂臣辱、主辱臣死、何大夫易レ見而難レ使也。〔列女傳、節義、蓋將妻傳〕其妻曰、吾聞レ之、主憂臣辱、主辱臣死、今君死而子不レ死、可レ謂レ義乎。

【主聖臣直】287 シユセイナラバシンチヨクナリ 主君が聖明ならば、臣下も正しい。上の行ふところには、下之に倣ふ喩。主聖臣良を見よ。〔漢書、薛廣德傳〕先敺光祿大夫張猛進曰、臣聞、主聖臣直、乘レ船危、就レ橋安、聖主不レ乘レ危、御史大夫言可レ聽。

【主聖臣良】288 シユセイナラバシンリヤウナリ 主君は聖明であり、臣下は忠良である。主聖臣直に同じ。〔白居易、敢諫鼓賦〕聲聞ニ于外一、以彰ニ我主聖臣良一、道在ニ其中一、以表ニ我上忠下敬一。

【主少國疑】289 シユワカクシテクニウタガフ 人主が幼少で、國民が國家の安固を疑ふ。〔資治通鑑、後梁紀、太祖開平二年、注〕地親而屬尊者、居ニ主少國疑之時一、可レ不レ戒哉。

【主石道人】290 シユセキダウジン 明、王佑（**7**－**20823**··24）の號。

【主智主義】291 シユチシユギ 主知主義。❶西曆紀元千九百十年以後に起つた、英國文學上の一運動。創作に於て情緖を排斥し、飽くまで理智で進まうとする主義。❷主知說に同じく、認識論に於て認識を理性から導かうとする立場をとるもの。

【爲レ主制レ客】292 シユトナリテカクヲセイス 主人の立場に立ち、相手を客分として制御する。主動者となつて、相手を制御する。〔吳志、朱桓傳〕以レ逸待レ勞、爲レ主制レ客。

【震レ主之威】293 シユヲフルハスノヰ 主君をも恐れさせる威力。〔史記、淮陰侯傳〕夫勢在ニ人臣之位一、而有ニ震レ主之威一、名高ニ天下一、竊爲ニ足下一危レ之。〔漢書、霍光傳〕威震レ主者不レ畜、霍氏之禍、萌ニ於驂乘一。〔晉書、傅咸傳〕楊駿有ニ震レ主之威一。

【背レ主投レ營】294 シユニソムキテエイニトウズ 奴僕が、主人を棄てて、自分勝手に軍營に身を投ずること。〔六部成語、刑部、背レ主投レ營、注解〕奴僕背ニ棄主人一、而私投ニ軍營一也。

【主過ニ一言一而國殘名辱】295 シユイチゲンヲアヤマテバクニソコナハレナハヅカシメラル 主君が一言過つと、其の爲に國はそこなはれ、名は辱しめられる樣な結果になる。〔呂覽、愼小〕將失ニ一令一、而軍破身死、主過ニ一言一、而國殘名辱、爲ニ後世笑一。

【丼】101

㊀セイ シヤウ 〔集韻〕子郢切 梗

㊁タン トン 〔集韻〕都感切 ㄉㄢˇ tan³ 感

㊀**ゐ**。**ゐど**。井（**1**－**258**）の本字。〔正字通〕丼、同レ井。㊁❶**物を井中に投ずるおと**。〔集韻〕丼、投ニ物井中一聲。❷**姓**。〔萬姓統

譜〕井、見二直音一。㊁**どんぶり**。㋑小形の鉢。㊁腹掛の前嚢。㋩紙入のおほひ。

【井鉢】1(ドンブリ バチ) やや深い陶製の鉢。井。〔萬寶全書、八、高麗燒物之類〕金海、云云、どんぶり鉢、内に金の字有り。

【井飯】2(ドンブリ メシ) 井に盛つた飯。

【曰】102

タン 丹(1－99)の古字。〔說文〕丹、曰、古文丹。

参考 曰(2－3229)・甘(7－21644)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕曰、古口字。甘、古甘字。

【弁】103

シ・ユウ 終(8－27372)の古字。〔字彙補〕弁、古文終字。

【丽】104

レイ 麗(12－47663)の古字。〔說文〕麗、丽、古文。

【膕】105

クヮン 〔廣韻〕呼官切 寒。

膕兜は四凶の名。膕(5－14386)に同じ。〔廣韻〕膕、膕兜四凶名、古文尚書、作レ膕。

丿部

【丿】106

ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹蔑切 屑。

エウ 〔集韻〕於兆切 篠

エイ 〔廣韻〕餘制切 霽

小篆 文

㊀㊀●**右から左へまがる**。〔說文〕丿、又戻也、象二ナ引之形一。〔段注〕又ナ、各本作二右左一、今正、云云、右戻者、自レ右而曲二於左一也、故其字、象下自二左方一引上之。●**首を擧げて體を伸べる**。〔說文、丿、繫傳〕其爲レ文、擧レ首而申レ體也。㊁**いたる**。地に至る。〔廣韻〕丿、至也。

解字 指事。右から左に曲げ引いた形を寫して、左にそれまがる意を示す。

参考 俗に千(2－2697)の字に用ひる。

【丿乀】1(ヘツ フツ) 舟などのゆれ動くさま。〔翠雨軒詩話〕紀藩松平元資所レ著童課百絶、有二坤位風來櫓聲近、漁舟丿乀卸レ之歸之句一。

【乀】107

㊀フツ フチ 〔集韻〕分勿切 物。

㊁レツ レチ 〔集韻〕力結切 屑。

小篆

㊀㊀●**左から右へまがる**。〔說文〕乀、ナ戻也、从二反丿一、讀與レ弗同。〔段注〕自レ左而曲二於右一、故其字、象下自二右方一引上之。

解字 指事。丿の反對の形を寫して、右にそれまがる意を示す。字解を見よ。

参考 乛(1－109)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕乀、音弗、左戻也。乛、音移、流也。

【厂】108

エイ 〔集韻〕以制切 霽

小篆

●**ひく。あきらか**。〔說文〕厂、拙也、明也、象二拙引之形一。●**からだのさま**。〔廣韻〕厂、身皃也。

解字 指事。横に引いた形を寫して、横ざまに引く意を示す。〔說文、厂、段注〕拙者、捈也、捈者、臥引也、臥引者横引之。

参考 厂(2－2890)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕厂、音曳、拙也、明也。厂、同レ岸。

【乙】109

イ 〔集韻〕余支切 支

小篆

●**ながれる**。〔說文〕乙、流也、從レ反レ丿、讀若レ移。㊁注音符號の韻符の一。複韻母。舌の中央の稍〻前の方を半折してせを發音する情態とし、直ちに舌を上升して一を發音する情態として、此の兩音の混合して成る音。エイ。ei。正形は乛。

解字 指事。厂の反對の形を寫して、引かれ流れる意を示す。字解を見よ。

参考 乀(1－107)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕乙、音弗、左戻也。乛、音移、流也。

【乛】110

キフ 及(2－3118)の古字。〔說文〕及、乛、古文及、秦刻石文作レ乛。

〔集韻〕及、秦刻石文作レ乛。

一畫

【乂】111

㊀ガイ 〔集韻〕魚刈切 隊

一ㇾ

㊁ガイ 〔集韻〕牛蓋切 泰

篆 小篆(聲定訓通)

篆 小篆(段本注)

㊀㊁●**草を刈る**。〔說文〕乂、芟レ草也、从二丿乀一相交一。●**をさめる。をさまる**。辟(10－38648)に通ず。〔說文通訓定聲〕乂、段借爲レ辟。〔爾雅、釋詁〕乂、治也。〔書、堯典〕有レ能俾レ乂。〔書、大禹謨〕政乃乂。〔大戴禮、曾子立事〕戰戰惟恐、不レ能レ乂。〔注〕乂、治也。〔國語、楚語上〕自謂未レ乂。〔北史、齊文宣帝紀〕朝野安乂。●**養ふ**。〔書、益稷〕萬邦作レ乂。〔鄭注〕乂、養也。●**賢才の稱**。傑(1－955)に通ず。〔說文通訓定聲〕乂、段借爲レ傑。〔廣韻〕乂、才也。〔書、皋陶謨〕俊乂在レ官。〔釋文〕馬云、千人爲レ俊、百人曰レ乂。●**ものさびしい**。〔陸雲、南征賦〕山澤含レ哀、天地肅乂。●**艾**(9－30648)に通ず。〔禮、表記、民有レ所レ懲、注、懲猶二創乂一釋文〕乂、本又作レ艾。●**或は刈**(2－1859)に作る。〔集韻〕乂、或从レ刀。㊁**こらし戒しめる**。忿(4－10303)・艾(9－30648)に通ず。〔說文通訓定聲〕乂、段借爲レ忿。〔集韻〕乂、創乂、懲也、或作レ忿、通作レ艾。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕懲二艾霍氏欲レ害二皇太子一。〔注〕師古曰、艾、讀曰レ乂、乂、創也。〔楚辭、劉向、九歎、遠遊〕屢懲乂而不レ改。

解字 會意。段玉裁はノと乀とを合せて左右に草をかり去る意を表はすといふ。一說に、草を刈る鎌の象形といふ。〔說文、乂、芟レ艸也、从二丿乀一相交、段注、謂二左右去レ之、會意也。〔繫傳〕象二刈艸之刀形一。〕

【乂安】1(ガイアン) ●安らかに治まる。〔史記、平津侯主父偃傳〕海内乂安、府庫充實。〔風俗通、皇霸、

六國〕四海乂安。〔陸倕、石闕銘〕區宇乂安、方面靜息。〔注〕良曰、乂、理也。〔隋書、高祖文帝紀下〕今四海乂安、五戎勿レ用。〔本朝文粋、菅原道真、爲二昭宣公一辭二攝政一第二表〕天下有二乂安之治一、愚臣免二虚受之罪一。㊀府名。明、置く。宣徳以後、安南に入る。安南東京の南。今、義安に作り、濆越鐵路に沿ふ。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南〕又安府、在二交州府南八百里一、永樂二年置。

【乂敬】2 ガイ ケイ 唐、鄭肅(11－39647・169)の字。

【乂口】3 ㄨㄞˋ ㄎㄡˇ 布の嚢。

【乂清】4 ガイ セイ をさまつてきよい。〔鍾會、檄レ蜀文〕今邊境乂清、方内無事。〔注〕良曰、乂、安。

【乂粟】5 ㄨㄞˋ ㄙㄨˋ 玉蜀黍。浙江省の方言。

【乂寧】6 ガイ ネイ をさまつてやすらか。安寧。〔後漢書、楊賜傳〕五登二衰職一、弭レ難乂寧。〔元史、刑法志一〕百年之間、天下乂寧。

【𠂇】112

サ〔集韻〕子我切 哿

小篆

㊀ひだり。左の手。左(4－8720)の本字。〔說文〕𠂇、左手也、象形。〔段注〕鉉本作二𠂇手也一。〔集韻〕𠂇、或从レ工。〔正字通〕𠂇、古左字。㊁姓。〔集韻〕𠂇、亦姓。

解字 象形。左手の形に象る。

【乃】113

ダイ〔集韻〕曩亥切 賄
ナイ ㄋㄞˇ nai³
アイ〔正韻〕依亥切 賄

小篆
古文
籀文

㊀㊀すなはち。もと乃(1－228)に作る。〔六書正譌〕乃、隷作レ乃。〔說文〕乃、曳レ詞之難也、象二气之出難一也。㋑上を承けて下を起す辭。そこで。かくて。〔郭璞、爾雅序〕若乃可二以博物不レ惑、多識二於鳥獸草木之名一者。〔疏〕云二若乃一者、因レ上起レ下語。〔經傳釋詞、六〕乃、猶レ於レ是也。〔書、堯典〕乃命二羲和一。㋺語勢を緩くする辭。しかるのち。〔經傳釋詞、六〕乃、猶二然後一也。〔書、禹貢〕作十有三載、乃同。〔周禮、秋官、小司寇〕乃致レ事。〔注〕乃、緩辭。㋩語勢を急にする辭。〔經傳釋詞、八〕乃、急詞也、大戴記夏小正篇、乃瓜、傳曰、乃者、急レ瓜之辭也。〔穀梁、定、十五〕乃、急辭也。㋥物を列擧する辭。〔書、大禹謨〕乃聖乃神。〔孟子、梁惠王下〕乃積乃倉。㋭上下の同一を表はす辭。〔經傳釋詞、六〕乃、猶レ則也。〔易、繫辭上〕見乃謂二之象一、形乃謂二之器一。㋬意味を強める辭。それ。これ。〔經傳釋詞、六〕乃、猶レ其也、猶レ是也。〔書、多士〕爾乃尚有二爾土一、爾乃尚寧二幹止一。〔史記、聶政傳〕嗟乎、政乃市井之人。㋣語を轉ずる辭。さて。さる程に。〔經傳釋詞、六〕乃、轉語詞也。〔書、康誥〕有二厥罪小一、乃不レ可レ殺。㋠おもおもしくする辭。〔說文〕乃、曳レ詞之難也、象二气之出難一也。〔書、洪範〕王乃言曰、嗚呼、箕子。〔蔡傳〕乃言者、難辭、重二其問一也。㋡しかるに。怪しむ辭。〔書、盤庚中〕汝不レ憂二朕心之攸レ困、乃咸大不レ宣二乃心一、欽念以レ忱、動二予一人一。㋢而(9－28871)に同じ。〔經傳釋詞、六〕乃、猶レ而也。〔儀禮、燕禮〕大夫不レ拜乃飲。〔注〕乃、猶レ而也。〔公羊、宣、八〕而者何、難也、乃者何、難也、曷爲或言レ而、或言レ乃、乃難二乎而一也。㋤もし。〔經傳釋詞、六〕乃、猶レ若也、書盤庚曰、女萬民乃不二生生一、言汝萬民若不二生生一也、洛誥曰、女乃惟不レ釐、言汝若是不レ勉也、孟子公孫丑篇曰、乃所レ願、則學二孔子一也、云云、乃字、並與レ若同レ義。㋣はじめて。わづかに。〔經傳釋詞、六〕乃、猶二方也、裁也一、莊十年穀梁傳曰、乃深二其怨於齊一、謂二方深一其怨於齊一也、大戴記保傅篇曰、太子乃生、賈子乃作レ初、呂氏春秋義賞篇曰、天下勝者衆矣、而霸者乃五、高注、乃、猶レ裁也、義並同。㋒肯定の意を表はす語。〔史記、高祖紀〕呂公女、乃呂后也。㋐かへつて。〔詩、鄭風、山有扶蘇〕不レ見二子都一、乃見二狂且一。〔箋〕人之好二美色一、不二往親二子都一、乃反親二狂醜之人一。㊁さきには。〔漢書、曹參傳〕乃者、我使レ諫レ君也。〔注〕師古曰、乃者、猶レ言二曩者一。㊂あのやうな。かれの如き。かくの如き。〔莊子、大宗師〕孟孫氏特覺、人哭亦哭、是自其所二以乃一。〔集解〕乃、猶レ言レ如レ此。㊃なんぢ。汝。〔廣雅、釋言〕乃、汝也。〔書、大禹謨〕惟乃之休。〔注〕乃、猶レ汝也。㊄發聲の語。夫が妻の葬日を卜する時の祝辭に、夫の尊嚴を示す辭。〔經傳釋詞、六〕乃、發聲也。〔禮、雜記下〕祝稱下二葬虞一子孫曰レ哀、夫曰レ乃。〔疏〕夫曰レ乃者、若夫者、我使レ諫レ君也。〔注〕師古曰、乃者、猶レ言二曩者一。㊂あのやうな。かれの如き。かくの如き。〔莊子、大宗師〕孟孫氏特覺、人哭亦哭、是自其所二以乃一。〔集解〕乃、猶レ言レ如レ此。㊃なんぢ。汝。〔廣雅、釋言〕乃、汝也。〔書、大禹謨〕惟乃之休。〔注〕乃、猶レ汝也。㊄發聲の語。夫が妻の葬日を卜する時の祝辭に、夫の尊嚴を示す辭。〔經傳釋詞、六〕乃、發聲也。〔禮、雜記下〕祝稱下二葬虞一子孫曰レ哀、夫曰レ乃。〔疏〕夫曰レ乃者、若夫卜二葬其妻一、則祝辭云、乃某卜二葬某妻某氏一、乃者、言之助也、妻卑、故假二助句一、以明二夫之尊一也。㊅行く。〔廣雅、釋詁一〕乃、往也。㊆むしろ。寧(3－7296)に通ず。〔經傳釋詞、六〕乃、寧也、寧・乃、一聲之轉、故乃訓爲レ寧。㊇廼(4－9576)に通ず。〔爾雅、釋詁〕廼、乃也。〔詩、大雅、緜〕廼慰廼止、廼左廼右。〔箋〕乃安二穩其居一、乃左右而處レ之。㊈籀文は孕(1－235)に作る。〔說文〕乃、孕、籀文乃。㊉古は鼻(4－9712)・圓(4－9796)・嗇(2－2805)に作る。〔說文長箋〕鼻、古文乃。〔集韻〕乃、古作二圓嗇一。㊋姓。乃燕(一)を見よ。㊌欸乃は、船に棹さして相應ずる聲。又、舟うたの聲。〔柳宗元、漁翁詩〕煙銷日出不レ見レ人、欸乃一聲山水綠。〔全唐詩、注〕音靄。〔元結、湖南欸乃曲序〕欸乃五首、舟子唱レ之。囲の。廼と同じく「の」の音に假り用ひる。

解字 象形。屈曲の形を以て氣息の出でなやむ意を示し、以て言ひなやんで轉ずる詞「すなはち」の義を表はす。古文は更に屈曲を增し、籀文は三つ重ねて其の意を表はす。〔說文、乃、曳レ詞之難也象二气之出難一也、段注〕曳、有二嬌拂之意一、曳二其言一而轉レ之、若而・若乃、皆是也、乃則其曳之難者也、云云、气出不レ能二直遂一、象形。▽ㄋ(甲骨文) 象形。出來たばかりの屈曲した胎兒の形に象る。

【乃燕】ナイ エン 元の人。木華黎の曾孫。父の爵を兄の忽林池に讓り、魯郡公に追封せられた。〔元史、一百十九〕。

【乃翁】2 ダイ オウ ㊀父が子に對する自稱。乃父(22)に同じ。汝の翁の義。乃公。〔陸游、貧甚戲作詩〕羅レ米歸遲午未レ炊、家人竊笑乃翁飢。〔楊秀、詩〕大兒怒叫小兒啼、乃翁對レ竹方哦レ詩。㊁人の父の稱。〔明史、文徵明傳〕子不レ知二乃翁與二我【乃岳】3 nai³ yüeh⁴ しうと。妻の父。〔友、邪。

【乃顔】4 ナイ ヤン 元の太祖成吉思汗の末弟の帖木哥斡赤斤五世の孫。初、祖父の斡赤斤は東部蒙古、卽ち興安嶺の東に封ぜられたが、次第に遼東方面に勢力を扶植して、其の領土は、忽必烈の建設した元朝に對して陰然たる敵國を形成するに至つてゐた。時に乃顔は、內心忽必烈を喜ばず、窩闊台汗の海都が誘ふに及び、遂に叛意を固め、四萬の軍を以て兵を擧げたが、海都が牽制せられて來援出來なかつたため、遂に世祖忽必烈の爲に敗れ、捕へられて處刑された。〔新元史、一百五〕。

【乃貢】5 ナイ グ 年貢(4－9168・64)に同じ。〔朝野羣載、五十一〕寬平二年九月十五日、太政官府、若寄二事後人一專闕二乃貢一者、加二其科責一、一如二前符一者。〔東鑑、二十二〕建保二年六月十三日、關東諸領乃貢事、自二來秋一可レ被レ免二三分一。

【乃後】6 ナイ ゴ 汝の子孫。轉じて、子孫。〔書、蔡

仲之命〕克勤無ㇾ怠、以垂ニ憲乃後一。

【乃公】7ダイコウ おれ。我が輩。❶君主が臣下に對して、驕つていふ自稱。汝の君といふ義。〔史記、留侯世家〕漢王輟ㇾ食吐ㇾ哺、罵曰、豎儒幾敗ニ而公事一。〔注〕索隱曰、而公、高祖自謂也。漢書、作ニ乃公一。〔漢書、高帝紀〕漢王輟ㇾ飯吐ㇾ哺曰、豎儒幾敗ニ乃公事一。〔注〕師古曰、乃、汝也。公、漢王自謂也。❷父が子に對する自稱。迺公。〔漢書、陳萬年傳〕萬年大怒、欲ㇾ杖ㇾ之、曰、乃公教ニ戒汝一、汝反睡不ㇾ聽ニ吾言一、何也。

【乃今】8ダイコン いま。このごろ。乃は助字。〔莊子、逍遙遊〕而後乃今培ㇾ風。

【乃至】9ナイシ 何々から何々に至るまでの義。中間省略の辭。其れとも又。〔戰國、趙策〕天下之卿相人臣、乃至布衣之士、莫ㇾ不ニ高ニ賢大王之行義一。〔般若心經〕無ニ無明一、亦無ニ無明盡一、乃至無ニ老死一、亦無ニ老死盡一。

【乃是】10 nai³ shih⁴ すなはち云云である。

【乃時】11ナイジ 先に。さきごろ。〔類書纂要〕乃時、向時也。

【乃者】12ナイシャ ❶さきに。曩に。前日。〔漢書、曹參傳〕乃者、我使ㇾ諫ㇾ君也。〔注〕師古曰、乃者、猶ㇾ言ニ曩者一。❷ちかごろ。近時。〔漢紀、哀帝紀上〕乃者河南潁川郡水汎處、浸ニ殺人民一。

【乃若】13スナハチモシ 然る時に。若し。〔讀書作文譜、文中用字法〕一曰、轉語辭、乃若、前已說明、將ㇾ發ニ後意一則用ㇾ之。

〔乃若是〕14 nai³ juo⁴ shih⁴ 乃若に同じ。

【乃心】15ダイシン なんぢの心。〔書、盤庚上〕汝猷黜ニ乃心一。〔傳〕謀退ニ汝違ㇾ上之心一。〔蔡傳〕汝猷黜ニ乃心一者、謀去ニ汝之私心一也。

〔乃心王室〕16ダイシンワウシツ 汝の心、王室に在りの意。國家に忠義なことをいふ。〔書、康王之誥〕雖ニ爾身在ㇾ外、乃心罔ㇾ不ㇾ在ニ王室一。

【乃誠】17ダイセイ まごころ。まこと。〔南齊書、河南傳〕又卿乃誠遙著、保ニ寧遐壃一。〔清殿本考證〕乃誠、南監本作ニ款誠一、按、乃誠、六朝人多用ㇾ之、晉書劉琨傳、卽有下懷ニ其乃誠一之語上。

【乃昔】18ダイセキ 其のむかし。〔阮籍、爲ニ鄭沖一勸ニ晉王一牋〕聖上覽ニ乃昔以來禮典舊章一。

【乃祖】19ダイソ なんぢの祖。乃父(22)を見よ。〔書、盤庚上〕古我先王、曁乃祖乃父、胥及逸勤、予敢動ニ用非罰一。

【乃尊】20 nai³ tsuen¹ 御尊父樣。おやごさま。

【乃東】21ダイトウ 草の名。うりき。夏枯草(3―5720・・309)の異名。〔本草、夏枯草〕釋名、乃東。

【乃父】22ダイフ 父が子に對する自稱。なんぢの父の義。〔書、盤庚中〕古我先后、既勞ニ乃祖乃父一。〔書、君牙〕惟乃祖乃父、世篤ニ忠貞一、服ニ勞王家一。〔漢書、高五王傳〕笑曰、顧乃父知ㇾ田耳。

【乃米】23ナウマイ 玄米。〔東鑑、七〕乃米四十餘石。

【乃蠻】24ナイマン 部落の名。外蒙古西部の地を據有してゐたが、太陽汗に至つて、元の太祖に滅された。〔元史、太祖紀〕汪罕出走、路逢ニ乃蠻部將一、遂爲ニ其所ㇾ殺。

【乃樂】25ラナ 地名。奈良(3―5893・・9)に同じ。〔日本書紀、武烈紀〕戮ニ鮪臣於乃樂山一。

【乃往】26ナイワウ 佛むかし。いにしへ。〔無量壽經、上〕乃往過去、久遠無量、不可思議、無央數劫。

【乃何以】27スナハチナニヲモツテ それなのにどうして。怪しんで問難する辭。〔讀書作文譜、文中用字法〕一曰、轉語辭、乃何以、怪而問難之辭。

【乃吾盧】28ダイゴロ 淸、顧埜(12―43689・・79)の室名。

【乃而浦】29ダイジホ 港の名。朝鮮李朝時代、日鮮貿易の互市港として開放せられた三浦の一。倭寇が猖獗を極めた頃、半島の政治家は此の私貿易を禁止して、貿易の統制を行はうとし、邦人居留地として、今の慶尚南道釜山府の草梁に草梁古館を設け、李朝の初期には鹽浦・釜山浦と共に今の慶尚南道熊川郡薺浦里に乃而浦の邦人居住地を開いたので、半島に於ける日本人町は益〻繁榮したが、文祿・慶長の役に依つて廢止せられた。〔李朝實錄〕・〔東國輿地勝覽、二十二〕・〔善鄰國寶記〕。

【乃爾乎】30スナハチシカルカ すなはちこのやうであるか。〔讀書作文譜、文中用字法〕又一類、乃爾乎、爾、猶ㇾ言ニ這樣一也、乃爾乎、亦有ㇾ指而問之意。

【乃蠻台】31ナイマンタイ 元の人。木華黎の五世の孫。謚は忠穆。射を善くした。官は遼陽行省左丞相。〔元史、一百三十九〕。

【乃沙不耳】32ニシヤプール 波斯のフラーサン州の西部にある大都市。昔、サーサーン朝のシヤプール一世の時新設せられ、次いで同二世の時、其の名に因んでニシヤプールと呼んだ。イスラム征服後、オマイヤ、アツバス兩朝の下で鑄貨都市として、更に十世紀頃には隊商路の要衝として榮えたが、成吉思汗の末子拖雷に依り焚掠破壞せられた。しかし、後には稍〻復舊したものの如くである。Nishapur の音譯。

【乃武乃文】33スナハチブスナハチブン 天子の德を譽めたたへる語。天地を經緯するを文といひ、禍亂を戡定するを武といふ。允文允武。〔書、大禹謨〕益曰、都、帝德廣運、乃聖乃神、乃武乃文。〔傳〕文、經ニ天地一、武、定ニ禍亂一。

【𠄎】114 ㊀ケツ ケチ 〔字彙補〕居謁切 月。 ㊁テン

㊀動くさま。丩(1―227)の譌字。〔字彙補〕𠄎、屮丩、動貌。〔康熙字典〕𠄎、案、音義與ニ集韻丩字一同、當ニ卽丩字之譌一。㊁殄(6―16413)の古字。〔說文〕殄、𠄎、古文殄如ㇾ此。

【ㄨ】115 ゴ

❶五(1―257)の古字。〔說文〕五、ㄨ、古文五如ㇾ此。❷注音符號の韻符の一。單母韻。舌後部を上升して軟口蓋に接近させ、口を閉ぢ、脣を收縮させて圓形にし、舌體の筋肉を稍〻緊縮して、恰かもウとオとの中間位に發音する。u。正形はㄨ。

【〆】116 字國

❶しめ。卜の字の崩れたもので、居をトひ、之を占める意を假り用ひたもの。㋑合せたしめ高。合計。しめ。㋺半紙の一〆は十束、卽ち百帖。㋩手紙などを封じた上に記す字。❷して。爲の字の省畫草書。

【乀】117 字國

也(1―171)の草體。假名がきに用ひる。

二畫

【久】118 キウ ク 〔集韻〕己有切 有。 ㄐㄧㄡˇ chiu³

久 小篆

❶ひさしい。長い間。〔班固、答賓戲〕時暗而久章者。〔注〕善曰、久、舊也。〔素問、天元紀大論〕久而不ㇾ絕。〔注〕久、遠也。❷變らない。常がある。〔易、恆〕恆久而不ㇾ已也。〔中庸〕不ㇾ息則久。〔章句〕久、常ニ於中一也。❸久しく待つ。〔左氏、昭、二十四〕寡君以ㇾ爲ニ盟主一之故、是以久ㇾ子。❹おくれる。おそい。〔史記、天官書〕久而至。〔注〕索隱曰、久、謂ニ行遲一也。❺ひさしくする。永くする。止まる。〔孟子、公孫丑上〕可ニ以久一則久。〔注〕久、留也。〔呂覽、誣徒〕維賢者、猶不ㇾ能ㇾ久。〔注〕久、長也。❻人を後からささへる。〔說文〕久、從ㇾ後灸ㇾ之也、象ニ人兩脛後有ㇾ距也、周禮曰、久ニ諸牆一、以觀ニ其橈一。〔段注〕歫、各本作ㇾ距、今正、歫、止也、距、雞距也。❼ふさぐ。おほふ。灸(7―18872)に通ず。〔說文通訓定聲〕久、叚借爲ㇾ灸。〔儀禮、士喪禮〕冪用ニ疏布一久ㇾ之。〔注〕久、讀爲ㇾ灸、謂ニ以ㇾ蓋塞ニ鬲口一也。〔疏〕鄭、久讀爲ㇾ灸、灸、塞義、謂下直用ニ麤布一、蓋ニ鬲口一爲上ㇾ塞也。❽姓。〔萬姓統譜〕久、見ニ姓苑一。

名乘 ヒサ。ヒサシ。ク。

解字 指事。ク(人の篆形)と乀との合字。乀は人を後から引きとどめる意を示し、以てまつ、とどまるの義を表はす。一說に、久は後から灸をすゑる意で、クは人の兩の脛に象り、乀は灸

點を示すといふ。〔説文通訓定聲〕久、從後灸之、象二人兩脛後有レ距也、按、从レ人、象二後有一迫而止之者一、指事。

【久愛】1キウアイ 久しく愛する。又、其のもの。〔梅堯臣、元日詩〕過目難二已忘一、寧捨二心久愛一。

【久安】2キウアン ❶ひさしくやすらか。〔漢書、賈誼傳〕建二久安之勢一、成二長治之業一。〔晉書、劉頌傳〕建二久安於萬載一、垂二長世於無窮一。❷第七十六代近衛天皇の年號。(1145－1151) 「名。

【久安室】3キウアンシツ 清、劉墉(2－2224‥633)の室名。

【久庵】4キウアン 明、黃綰(12－47926‥976)の號。

【久已】5キイ 久しく既に。久しい以前。〔張耒、寓陳雜詩〕我生本蓬華、久已傲二饑寒一。

【久矣】6ヒサシ 久しい。矣は助字。〔左氏、昭、二十六〕禮之可二以爲一レ國也久矣。〔史記、齊世家〕吾太公望レ子久矣、故號レ之曰二太公望一。

【久矣哉】7ヒサシイカナ 事の久しきに亙るを嘆ずる詞。〔論語、子罕〕久矣哉、由之行レ詐也。

【久違】8キウヰ 久しく會はない。長らく御無沙汰する。〔劉長卿、送二皇甫曾赴一上都一詩〕東遊久與二故人一違。

【久違二顏範一】9ヒサシクガンパン 久しく拜眉を得ない。絶えて御無音に打ち過ぎる。〔故事成語考、身體、寂、契闊、曰〕久違二顏範一。

【久游】10キウイウ 長い間逗留する。又、其のこと。〔史記、秦始皇紀〕不レ可二與久游一。〔李白、秋浦歌〕欲レ去不レ得、去、薄遊成二久游一。

【久佚】11キウイツ 久しくたのしむ。久逸に同じ。〔揚雄、上書諫レ勿レ許二單于一朝一〕不二壹勞一者不二久佚一、不二暫廢一者不二永寧一。

【久逸】12キウイツ 久しくたのしむ。久佚。〔後漢書、竇憲傳〕茲所謂一勞而久逸、暫費而永寧者也。〔呂溫、代二李侍郎一論二兵表一〕期二於久逸一、無レ憚二一勞一。

【久泛】13キウイン ひさしく遊ぶ。久しく留まる。淫は遊、又は度の過ぎること。〔楚辭、招魂〕歸來歸來、不レ可二以久淫一也。〔注〕淫、遊也。

【久陰】14キウイン 久しく曇る。〔漢書、五行志下之上〕天久陰而不レ雨。〔杜甫、雨詩〕久陰蛟蟠出、寇盜復幾許。

【久湮】15キウイン 永くうづもれる。〔福惠全書、澄任部、覽志書〕爲二歲月之久湮一。

【久窖】16キウカウ 三年酒。古く貯へた酒。

【久隱】17キウイン 久しくかくれる。〔史記、荊軻傳〕久隱二畏約一、無レ窮時一。〔劉得仁、病中晨起卽事寄二場中往還一詩〕豈能爲二久隱一、更欲レ泥二浮名一。

【久雨】18キウウ ながあめ。〔詩、小雅、漸漸之石、有レ豕白蹢烝涉レ波矣、傳〕將二久雨一則豕進渡二波水一。〔杜甫、晴詩〕久雨巫山暗、新晴錦繡文。

【久雨望レ庚晴】19キウウモウテカウセイ ながあめも庚の日にあへば晴れる。〔通俗編、天文、久雨望レ庚晴〕婁元禮田家五行雜占、久晴逢二戊雨一、久雨望レ庚晴、元李孝光詩、梅月逢二庚江雨歇一、用レ此。

【久慍】20キウウン 長い間、心中に怒を含んで居ること。〔稽康、答レ難二養生論一文〕久慍閑居、謂二之無歡一。

【久要】21キウエウ ふるい約束。年來のちかひ。舊約。要は要約の意。〔論語、憲問〕子曰、久要不レ忘二平生之言一、亦可二以爲一成人一矣。〔集解〕孔曰、久要、舊約也。〔曹植、箜篌引〕久要不レ可レ忘。〔蜀志、許靖傳〕久要不レ忘。〔資治通鑑、晉紀〕〔元帝、太興二年〕君不レ忘二久要一。〔注〕久要、舊約也。〔書言故事、交情類〕舊約、曰二久要一。

【久役】22キウエキ 久しく軍に從ふこと。〔詩、邶風、雄雉、序〕雄雉、刺二衛宣公一也、淫亂不レ恤二國事一、軍旅數起、大夫久役、男女怨曠、國人患レ之、而作二是詩一。

【久役之士】23キウエキノシ 久しく外征に從つてゐる兵士。〔後漢書、杜詩傳〕重復厚賞、加二於久役之士一。

【久延】24キウエン 長命する。〔嵇康、答レ難二養生論一文〕赤斧以二練丹一、頼髮、湯子以二木精一、久延。

【久淹】25キウエン 久しく一所にとどまる。淹は淹留。久留。久滯。〔孟浩然、口號贈二王九一詩〕日暮田家遠、山中勿二久淹一。

【久怨】26キウエン ❶古いうらみ。舊怨。〔孔子家語、顏回〕不レ忘二久德一、不レ思二久怨一、仁矣夫。❷久しく怨む。〔韓非子、用人〕厚二誅薄罪一、久怨二細過一。

【久遠】27キウエン 永くひさしい。永久。〔孟子、萬章上〕舜禹益、相去久遠。〔管子、形勢解〕久遠而利愈多。〔史記、商君傳〕吾說レ君、以二帝王之道一、比二三代一、而君曰二久遠一。

【久遠劫】28グヲンゴフ 〔佛〕久しい以前。〔法華經、方便品〕從二久遠劫一來、讃二示涅槃法一。

【久汙】29キウヲ 久しく其の地位をけがす。無爲にして長年勤務すること。〔司馬光、表〕曾靡二論思之効一、久汙二侍從之班一。

【久下】30クケ ❶武藏國の地名。❷ク姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【久假】31キウカ 長い間かりてゐる。〔孟子、盡心上〕久假而不レ歸、惡知二其非一レ有也。〔宣和遺事、後集〕勸以二久假一、乞正二典刑一。

【久我】32クガ ❶山城國の地名。❷イ姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【久交】33キウカウ 久しくまじはる。

【久香】34キウカウ 清、朱蘭(6－14424‥592)の字。

【久旱】35キウカン 久しくひでりする。ながひでり。久旱逢二甘雨一を見よ。

【久旱逢二甘雨一】36キウカンカウカンウアア 長く續いたひでりに、好い雨に逢ふこと。人世の喜ばしい事の一つ。〔容齋四筆、得意失意詩〕久旱逢二甘雨一、他鄉見二故知一、洞房華燭夜、金榜掛レ名時。

【久旱必雨久病必死】37 chiu³ han⁴ pi⁴ yü³ chiu³ ping⁴ pi⁴ ssü³ ひでりが續けば必ず雨が降り、久しく病めば必ず死ぬ。

【久嬉】38キ 永くたのしむ。〔蘇軾、黃泥坂詞〕歸來歸來兮、黃泥不レ可二以久嬉一。

【久羈】39キ ひさしくとどめる。〔福惠全書、刑名部、反叛、籍沒家産〕行二保釋一、毋レ得二久羈一。

【久久】40キウキウ ひさしいあひだ。長い年月。〔史記、貨殖傳〕是以廉吏久久更富、廉賈歸レ富。〔道德指歸論〕漸滴之流、久久而成二江海一。

【久久里】41クク 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【久仰】42キウギヤウ 久しく仰ぐ。初對面の挨拶の辭。〔開元天寶遺事、下、郡神迎路〕久仰二使君令名一。〔桃花扇、題畫〕原來是藍田老、一向久仰。

【久仰山斗】43 chiu³ yang³ shan¹ tou³ 久しく泰山北斗の如く貴名を仰ぐ意で、かねて御高名をお慕ひ申してゐました。

【久客】44キウカク ❶長逗留の人。〔易林〕久客無狀、思レ歸二故鄉一。〔陸游、宴二西樓一詩〕萬里因循成二久客一。❷蠟梅をいふ。〔三柳軒雜識〕姚氏殘語、以二蠟梅一爲二寒客一、今改爲二久客一。

【久許】45キウキヨ しばらく。ひさしくして。〔十洲記〕內外牛馬豕犬之屬、皆絕レ絆離レ繫、驚駭放蕩、久許乃定。

【久虛】46キウキヨ 久しくむなしい。〔劉琨、勸進表〕尊位不レ可二久虛一、萬機不レ可二久曠一、虛レ之一日、則尊位以殆、曠レ之浹辰、則萬機以亂。

【久欽】47キウキン 久しく敬ひ慕ふ。〔韓愈、韶州留別張使君一詩〕久欽江總文才妙、自歎虞翻骨相屯。

【久屈】48キウクツ ひさしくかがまる。長く不遇に居ること。〔吳志、周瑜傳〕有二關羽、張飛一、熊虎之將、必非二久屈爲一人用一者一上。〔蘇軾、稼說送二張琥一〕信二於久屈之中一、而用二於至足之後一。

【久會】49 chiu³ hui⁴ 久しい馴染。久々の面會。

【久懷】50キウクワイ ❶久しい間の思ひ。又、長い間、心にいだいてゐること。〔魏文帝、寡婦詩〕愁何可二勝久懷一。〔王令、赴二亳州教官一次韻和二中書錢舍人及亳守晁美叔見一贈詩〕久懷薄技待二後乘一、宣管盈囊紙來歙。❷久しく思慕する。

【久懷レ慕レ蘭】51ヒサシクワイボレラン 漢の司馬相如が趙の藺相如を思慕して自ら相如と名を改めた如く、思慕することの切なのをいふ。〔史記、司馬相如傳〕相如既學、慕二藺相如之爲一レ人、更二名相如一。〔故事成語考、人事〕想望殷曰久懷慕藺。

【久曠】52キウクワウ 久しく打捨てて行はぬ。曠日彌久。〔漢書、禮樂志〕久曠二大儀一、未レ有二立禮樂一。〔後漢書、光武紀上〕帝王不レ可二以久曠一、天命不レ可二以讓一拒。〔劉琨、勸進表〕尊位不レ可二久虛一、萬機不レ可二久曠一。〔注〕濟曰、曠、空。

【久濶】53キウクワツ ひさしく逢はぬ。ひさしぶり。〔蜀志、許靖傳、注〕久闊情愫、非二夫筆墨所一レ能寫陳一。〔晉書、樂廣傳〕嘗有二親客一、久闊不レ復來。

【久計】54キウケイ 久遠の計。〔剪燈餘話、秋夕訪二琵琶亭一記〕今夕當二歸一舍中一、謀爲二久計一。

【久敬】55キウケイ 交はることが久しくて、益〻其の人を敬ふこと。〔論語、公冶長〕子曰、晏平仲、善與レ人交、久而敬レ之。〔集注、程子曰、人交久、則敬衰、久而能敬、所二以爲一レ善。〔任昉、答二劉孝綽一詩〕久敬類二誠言一、吹噓似二嘲謔一。

【久稽】56 ❶久しく考へる。〔文子、上義〕士爲ニ僞辨一、久稽而不レ決、無レ益ニ於治一。❷ながくとどまる。久滯。〔福惠全書、蒞任部、待ニ游客一〕在レ彼無ニ久稽之怨一。❸久しく違ふ。

【久繫】57 永く獄屋などにつながれる。〔漢書、夏侯勝傳〕勝霸既久繫、霸欲ニ從レ勝受ニ經、勝辭以ニ罪死一、霸曰、朝聞レ道、夕死可矣。

【久血】58 以前に戰死した人の血。〔淮南子、氾論訓〕久血爲レ燐。〔注〕許愼云、謂ニ兵死之血爲一鬼火一。

【久結】59 久しく結ぶ。〔成公綏、嘯賦〕舒ニ蓄思之徘愼一、奮ニ久結之纏縣一。

【久欠】60 ❶長い間、缺けて居ること。〔蘇軾、羨ニ陂魚一詩〕自從西征一復何有、欲レ致ニ南烹一嗟ニ久欠一。❷久しく支拂はぬ。

【久固】61 久しく堅固なこと。〔國語、周語下〕穌平則久、久固則純、純明則終、終復則樂、所ニ以成レ政也。

【久故】62 ふるなじみ。久しい知り合ひ。舊故。〔韓愈、上ニ考功崔虞部一書〕無ニ師友之交一、無ニ久故之事一。

【久袴】63 古い袴。〔南史、卞彬傳〕若ニ吾之輩一者、無ニ湯沐之慮一、絕ニ相弔之憂一、晏聚ニ乎久袴爛布之裘一。

【久賈】64 古いあきなひ。〔史記、貨殖傳〕貧人學レ事ニ富家一、相矜以ニ久賈一。

【久錮】65 久しく閉ぢ込めること。〔宋史、蔡幼學傳〕正學久錮、士專ニ于聲律度數一。

【久後】66 今より後。行く末。將來。

【久拘】67 永い間とらへて置く。〔逸周書、史記解〕昔者質沙三卿、朝而無レ禮、君怒而久拘レ之、譁而弗レ加。

【久候】68 chiu³ hou⁴ 長らく待つ。

【久困】69 久しくくるしむ。〔漢書、賈捐之傳〕民衆久困、連年流離。〔侯圭、割ニ鴻溝一賦〕潛ニ豹略一而久困、割ニ鴻溝一而兩存。

【久坐】70 長居する。〔戰國、魏策〕犀首期ニ齊王至之日一、先以ニ五十乘一至レ衞、聞ニ齊行人一以ニ百金一、以請ニ先見ニ齊王一、乃得レ見、因久坐、安從容談。〔杜甫、鄰城西原送ニ李判官兄武判官弟赴ニ成都府一詩〕憑レ高送ニ所親一、久坐惜ニ芳辰一。

【久坐地厚】71 chiu³ tso⁴ ti⁴ hou⁴ 長く坐れば、其の地は固くなる。奉公人などが永く辛抱すれば、其の地位が自ら安固となること。

【久喪】72 長い喪。〔墨子、非儒下〕久喪僞哀、以謾レ親。

【久藏】73 ❶久しくかくれる。〔北史、權景宣傳〕景宣以久藏非レ計。〔杜甫、蕃劍詩〕虎氣必騰上、龍身寧久藏。❷ひさしく貯藏する。〔蘇軾、稼說送ニ張琥一〕故富人之稼常美、少レ秕而多レ實、久藏而不レ腐。

【久策】74 久遠の策略。〔後漢書、耿弇傳贊〕國圖ニ久策一、分ニ此凶狄一。

【久察】75 久しく觀察する。〔曾鞏、送ニ江任一序〕不レ待ニ旁諮久察一、而與奪損益之機、已斷ニ於胸中一矣。

【久山】76 鎭の名。山東省霑化縣の東北。無棣縣の界に接す。〔山東通志〕世傳、秦始皇築レ此、以鎭ニ海口一、其陰有ニ久山鎭一、明、淸皆置ニ巡司於此一、因ニ沿レ海墜一地日拓一、有ニ分ニ設久山縣一之議一。

【久之】77 ❶しばらく。しばらくする。之は助字。〔蘇舜欽、依レ韻和ニ伯鎭中秋見レ月九日遇レ雨之作一詩〕久之罷勉強爲レ答、嫌レ春愛ニ秋眞可レ咍。❷いつまでも見る。長生・不老の意。〔老子、五十九〕長生久視之道。〔呂覽、重己〕莫レ不レ欲ニ長生久視一。〔潘岳、西征賦〕孰長生而久視。❸長くつづけて見る。じつと見つめる。〔蘇軾、黃州快哉亭記〕變化倏忽、動レ心駭レ目、不レ可ニ久視一。❹唐、則天武后の年號。(700)

【久次】79 ❶ゐすわり。長い間、同じ官にとどまつて昇進せぬこと。次は止の意。〔漢書、孔光傳〕以ニ久次一、補ニ諸侯太傅一。〔後漢書、黃琬傳〕以ニ高功久次才德尤異者一、爲ニ茂才四行一。❷古い順序。〔史記、董仲舒傳〕弟子傳以ニ久次一相ニ受業一、或莫レ見ニ其面一。

【久侍】80 久しく君側にはべること。〔魏書、楊津傳〕文明太后臨レ朝、津曾久ニ侍左右一。

【久茲】81 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【久疾】82 ながわづらひ。又、長くわづらふ。久病。〔後漢書、馬皇后紀〕后嘗久疾、大夫人令レ簟レ之。〔唐書、德宗昭德皇后王氏傳〕貞元三年、妃久疾、帝念レ之、遂立爲ニ皇后一。

【久習】83 久しくならふ。〔後漢書、黃香傳〕帝亦惜ニ香幹用久習ニ舊事一、復留爲ニ尚書令一。

【久章】84 久しくあきらか。いつまでも光明を失はぬ。〔班固、答賓戲〕時暗而久章者、君子之眞也。

【久彰】85 久しくあらはれる。〔呂覽、義賞〕久彰而愈長。

【久釀】86 久しくかもす。古酒をいふ。〔周禮、天官、酒正、二曰昔酒、疏〕二曰昔酒者、久釀乃熟、故以ニ昔酒一爲レ名。

【久壽】87 ❶長壽。又、長生する。久生。〔嵇康、與ニ山巨源一絕レ交書〕令ニ人久壽一意甚信レ之。〔抱朴子、釋滯〕其事在ニ於少レ思寡レ欲、其業在ニ於全レ身久壽一。❷第七十六代近衞天皇の年號。(1154－1156)

【久宿】88 久しくやどること。長逗留。〔易林〕安牀厚褥、不レ得ニ久宿一。

【久且】89 複姓。〔唐書、西域上、黨項傳〕鄯州刺史久且洛生、引ニ輕騎一破レ之。

【久職】90 久しく一定の職に在ること。〔李衞公問對、上〕言ニ將臣權任無一レ久職一也。

【久世】91 ながいきする。〔拾遺記、周〕欲レ求ニ長生久世一、不レ可レ得也。

【久生】92 ながいき。久壽。長壽。〔列子、楊朱〕戚戚然、以至ニ久生一。〔法言、學行〕人羨ニ久生一。〔陶潛、九日閒居詩〕世短意常多、斯人樂ニ久生一。

【久生屋】93 紀伊國の地名。

【久積】94 ❶久しく積む。〔陳章、腐草爲レ螢賦〕彼若レ昧而未レ彰、此如レ茨而久積。❷姓氏。〔姓名錄抄〕。

【久息】95 久しくやすむ。〔新書、勸學〕百舍重繭、而不ニ敢久息一。

【久待】96 久しく待つ。〔岑參、送ニ張直公歸ニ南鄭一拜省上詩〕北堂應ニ久待、鄉夢促ニ征期一。〔杜甫、寄ニ邛州崔錄事一詩〕久待無ニ消息一、終朝有ニ底忙一。

【久滯】97 久しくとどこほる。久しくとどまる。久淹。〔詩、小雅、甫田、我取ニ其陳一食ニ我農人一、疏〕紓出ニ官粟之蓄積一久滯者一。

【久代】98 姓氏。〔日用重寶記〕。

【久禱】99 久しくいのる。〔管子、禁藏〕擧ニ春祭一、塞ニ久禱一、以魚爲レ牲、以ニ蘖爲レ酒、相召。

【久知】100 久しい間の知り合ひ。舊知。〔張耒、赴ニ亳州教官一次韻和ニ中書錢舍人及亭守晁美叔見ニ贈詩一〕久知疎慵難ニ應接一、勉強一官親ニ訟牒一。

【久持】101 久しくたもつ。〔陸機、豪士賦序〕知ニ盡不レ可レ益、盈難ニ久持一。

【久竹】102 年を經た竹。〔莊子、至樂〕羊奚比ニ乎不箩一、久竹生ニ青寧一。〔釋文〕司馬云、羊奚、草名、根似ニ蕪菁一、與ニ久竹一比合而爲レ物、皆生ニ於非類一也、青寧、司馬云、蟲名。〔列子、天瑞〕久竹生ニ青寧一。〔張湛注〕因ニ於林藪一而生。

【久長】103 久しくながい。長久。久遠。〔戰國、趙策〕必勿レ使レ反、豈非下計ニ久長一、爲ニ子孫相繼爲ニ王也哉。〔史記、三皇紀〕蓋聖人德澤廣大、故其祚胤繁昌久長云。〔吳質、答ニ魏太子一牋〕臣獨何德、以堪ニ久長一。

【久長之策】104 永遠の策略。長久の策。〔漢書、元帝紀〕是以東垂被ニ虛耗之害一、關中有ニ無聊之民一、非ニ久長之策一也。

【久長之圖】105 永遠のはかりごと。〔孔叢子、答問〕且又欲レ規ニ久長之圖一。

【久駐】106 久しくとどまる。〔淮南子、道應訓〕吾與ニ汗漫一期ニ于九垓之外一、吾不レ可ニ以久駐一。〔曹昭、東征賦〕悵容與而久駐兮。

【久住】107 久しくすむ。永く止まる。永住。〔蜀志、諸葛亮傳〕分ニ兵屯田一、爲ニ久住之基一。〔戎昱、移ニ家別ニ湖上亭一詩〕黃鸝久住渾相識。

【久儲】108 久しい間のたくはへ。〔魏書、崔楷傳〕水種ニ秔稻一、陸蓺ニ桑麻一、必使下室有ニ久儲一、門豐ニ餘積上。

【久直】109 久しく宮中に侍り仕へること。〔南史、傅亮傳〕義熙中、直ニ西省一、宋武帝以ニ久直之勤勞一、欲ニ以爲ニ東陽郡一。

【久氏】110 百濟の人。神功皇后攝政四十七年、

百濟王の命を受け、彌州流・莫古と共に我が國に朝貢せんとしたが、海路險なる爲、志を達せずして歸國す。後漸く來朝して大いに皇太子譽田別尊に歡待せられた。其の來朝の途次、百濟の貢物が新羅の調使に取換へられたので、朝廷は荒田別等を遣はして久氏と共に新羅を討つて之を破り、久氏の功を賞して多沙城を賜つた。後再び來朝す。〔日本書紀、神功紀〕。

【久替】111 キウテイ 久しく棄てて置く。〔蜀志、先主劉備傳〕天命不レ可二以不一レ答、祖業不レ可二以久替一。

【久傳】112 キウデン 久しく傳はる。〔劉禹錫、送二陸侍御歸二淮南使府一詩〕江左重二詩篇一、陸生名久傳。〔蘇轍、詩論〕夫六經之道、惟其近二於人情一、是以久傳而不レ廢。

【久等】113 chiu² têng³ 暫らく待つ。

【久德】114 キウトク ❶むかしの恩惠。舊恩。〔孔子家語、顏回〕不レ忘二久德一、不レ思二久怨一、仁矣夫。❷宋、曹中（5－14297・・146）の字。

【久念】115 キウネン 昔の思ひ。長く思ふ。〔謝靈運、登二臨海嶠一云云可下見二羊何一共和上之詩〕戚戚新別心、悽悽久念攢。〔杜甫、得二舍弟消息一詩〕直爲二心厄苦一、久念二與存亡一。

【久廢】116 キウハイ ながく止める。〔蘇軾、捕レ蝗至二浮雲嶺一山行疲苦有レ懷二子由弟一詩〕久廢二山行一疲二犖确一、尚能二村醉一舞二淋浪一。

【久芳】117 クバク ❶安藝國の地名。❷姓氏。

【久病】118 キウビヤウ ながわづらひ。久疾。〔周禮、考工記、弓人、疢疾險中、注〕牛有二久病一、則角裏傷。〔莊子、盜跖〕久病長阨。〔新書、春秋〕久病心腹之積皆愈。

〔久病成醫〕119 chiu³ ping⁴ ch'êng² i¹ 長く病氣で居ると、藥の性質や醫學の道理を熟知するのをいふ。

【久夫】120 キウフ 明、宋詡（3－7078・・62）の字。

【久福】121 キウフク ひさしいさいはひ。〔韓非子、安危〕故小逆在レ心、而久福在レ國。

【久墳】122 キウフン ふるい塚。〔管子、四時〕開二久墳一、發二故屋一。

【久聞】123 キウブン 久しい間、聞いてゐる。〔韓維、同二曼叔一遊二高陽山一詩〕久聞高陽勝、近在二汝州側一。

【久別】124 キウベツ 久しく別れる。久しいわかれ。〔孔子家語、儒行解〕久別、則聞二流言一不レ信。〔劉得仁、寄二雍陶先輩一詩〕久別青雲士、幽人分固然。

【久也】125 キウヤ 淸、汪遠孫（6－17154・・173）の字。

【久暘】126 キウヤウ ひでりつづき。〔論衡、明雩〕以二久雨一爲レ湛、久暘爲レ旱。

【久約】127 キウヤク 久しく困窮する。〔國語、晉語四〕離違而得レ所、久約而無レ釁。

【久郎】128 クラキ 姓氏。〔姓林全書〕。

【久勞】129 キウラウ ひさしい間、骨を折る。〔詩、豳風、東山、我徂二東山一、箋〕我往之二東山一、既久勞矣。〔史記、魯世家〕其在二高宗一、久勞二于外一。

【久利】130 キウリ 長い間の利益。〔左氏、襄、二十六、非二國家之利一也若何從レ之、注〕非三能爲レ國計二慮久利一、不レ可レ從也。

【久里】131 サカ 姓氏。〔姓林全書〕。

【久離】132 キウリ 江戸時代、百姓・町人が、父兄など長上の者から縁を切られること。ゆく末かけて別れる。永久に逢はぬ。舊離。勘當。義絕。〔御觸書集覽〕勘當・久離・帳外の儀は、一體輕からざる儀にて。

【久留】133 キウリウ 長逗留する。久淹。〔李陵、與二蘇武一詩〕行人難二久留一、各言二長相思一。〔蜀志、關羽傳〕無二久留之意一。〔杜甫、返照詩〕不レ可二久留一豺虎亂、南方實有二未レ招魂一。

【久例】134 キウレイ ふるいしきたり。年來のならはし。舊例。

【久齡】135 キウレイ ながいき。長壽。〔梁簡文帝、大法頌序〕斯蓋止愛二久齡一、事在レ諸已、篤而爲レ論、彌有レ未レ弘。

【久地樂】136 クチラク 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【久百百】137 クモモ 土佐國の地名。

【久米部】138 クメベ 上古、武士の一族の名。其の長官を久米直といひ、天津久米命の子孫。來目部。

【久米舞】139 クメマヒ 古、大嘗會の時行つた舞樂の名。琴取二人・舞者八人、刀を執つて蜘蛛を斬る狀をするもの。〔北山抄、五、大嘗會〕伴・佐伯兩氏、入レ自二儀鸞門一、著二中庭床子一、奏二久米舞一。

【久麻伎】140 クマキ 耽羅國、卽ち今の濟州島の王子。天智天皇の八年來貢し、朝廷は之に五穀の種を賜ふ。天武天皇二年、再び都羅宇麻等と共に來貢し、爵位を賜はり、同四年にも來朝した。〔日本書紀、天智紀〕。

【久憂不レ死】141 キウイウシテシセズ 久しくうれへても死なない。〔莊子、至樂〕壽者惛惛、久憂不レ死。

【久爾辛王】142 クジシンワウ 百濟、第十八代の王。腆支王の長子。母は八須夫人。時に百濟は全く我が朝廷の勢力下にあつた。在位八年で薨じた。〔三國史記、二十五〕・〔日本書紀、應神紀〕。

【久磁電機】143 キウジデンキ 永久磁鐵を用ひて磁場を作つた發電機。

【久賭必偷】144 chiu² tu³ pi⁴ t'ou¹ 永く賭博する者は、いつか失敗して必ず盜賊となる。

【久戀懷慕】145 キウレンクワイボ 久しく思慕する。

【可レ久可レ大】146 ヒサシクスベクダイニスベシ 長くつづき、又、大きくも出來る。〔易、繫辭上〕有レ親則可レ久、有レ功則可レ大、可レ久則賢人之德、可レ大則賢人之業。〔注〕有二易簡之德一、則能成二可レ久可レ大之功一。

【久賭無勝家】147 chiu² tu³ wu² shêng⁴ chia¹ 永く賭博すれば必ず敗ける。

【久不レ屈二茲膝一】148 ヒサシクコノヒザヲクツセズ 唐の田承嗣が、久しく人に屈しなかつた膝を、郭子儀の遣はした使者には屈したといふ故事。〔唐書、郭子儀傳〕子儀嘗遣レ使至レ魏、承嗣西望、拜指二其膝一、謂二使者一曰、茲膝不レ屈二於人一久矣、今爲レ公拜。〔故事成語考、身體〕久不レ屈二茲膝一、郭子儀尊居二宰相一。

【乆】119 キウ 久（1－118）の譌字。〔正字通〕乆、久字之譌。

【乇】120 タク チヤク 〔集韻〕陟格切 陌。

小篆

❶草の葉。一說に、草の華のさま。〔說文〕乇、艸葉也、𠂹采、上毌レ一、下有レ根、象形字。〔段注〕當レ作二艸華貌一。❷託（10－35243）に通ず。〔六書正譌〕乇、借爲二寄乇・委乇字一、隷別作二侘・託一、通。

解字 象形。一は地に象り、其の下に曲出するのは根、上に出でて下曲するのは葉の垂れ下るさまに象る。〔說文、乇、段注〕在二一之下一者、根也、一者、地也、云云、謂下雖二中从一レ一、而於二六書一爲中象形字上也。

【么】121 エウ 幺（4－9189）の俗字。〔韻會〕么、俗幺字。

参考 俗に麼（12－47893）・畝（7－21815）などの字に用ひる。

【乊】122 バン 萬（9－31339）に同じ。〔字彙補〕乊、內典萬字。

【凢】123 ハン 凡（2－1739）の俗字。〔正字通〕凡、俗作レ凢、非。

【义】124 ギ 義（9－28504）の俗字。〔辭海〕义、義俗字。

三畫

【之】125 シ 〔集韻〕眞而切 ㄓ chih¹ 支。

小篆

❶これ。是（5－13859）に通ず。〔說文通訓定聲〕之、叚借爲レ是、之・是雙聲。㋑直接に其の物事を指す辭。〔詩、魏風、伐檀〕寘二之河之側一兮。〔論語、公冶長〕老者安レ之、朋友信レ之、少者懷レ之。〔孟子、告子下〕則六師移レ之。〔注〕以二六師一移レ之、就レ之也。㋺強勢法の客詞の下に用ひる。〔論語、爲政〕父母唯其疾之憂。㋩語勢を強める助辭。〔詩、小雅、正

月〕亦孔之昭。㊁この。その。〔書、堯典序〕虞舜側微、堯聞二之聰明一。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸。〔集傳〕之子、是子也。〔詩、小雅、蓼莪〕欲レ報二之德一。〔箋〕之、猶レ是也。〔呂覽、音初〕之子是必大吉。〔注〕之、其也。㊂の。語の間に入れて係屬を示す辭。〔爾雅、釋詁〕之、言閒也。㋑主格を表はす辭。〔書、盤庚上〕邦之臧、惟汝衆。㋺所有格を表はす辭。〔詩、周南、關雎〕在二河之洲一。〔禮、檀弓上〕南宮縚之妻姑之喪。〔疏〕之、語辭也。㋩句調を緩くするに用ひる辭。〔詩、小雅、蓼莪〕不レ如二死之久一矣。〔論語、鄉黨〕狐貉之厚以居。㊃往く。適く。〔詩、召南、何彼襛矣〕王姬之レ車。〔箋〕之、往也。〔禮、檀弓上〕之死而致レ死レ之。〔注〕之、往也。〔列子、湯問〕臣恐二彼國之不レ可二升之一也。〔釋文〕之、適也。㊄至る。〔詩、鄘風、柏舟〕之死矢靡レ他。〔箋〕之、至也。㊅變はる。〔孫奕、示兒編〕之字、訓レ變。㊆出る。もと出(4－7829)に作る。〔集韻〕出、隸作レ之。〔說文〕出、出也、象二艸過レ中、枝莖漸益大、有レ所レ之也、一者、地也。㊇にて。おいて。〔大學〕之二其所一レ親愛一而辟焉。〔章句〕之、猶レ於也。㊈もし。〔書、金縢〕爾之許我、我其以二璧與一レ珪、歸俟二爾命一。〔經傳釋詞、九〕言、爾若許レ我也。㊉のこす。〔法言、五百〕或問、孔子知二其道之不一レ用也、則載而惡乎之、曰、之二後世君子一。〔注〕乃載以遺二後世一。㊊と。與。〔經傳釋詞、九〕之、猶レ與也。〔書、立政〕其勿レ誤二于庶獄一、惟有司之二牧夫一。㊋用ひる。〔戰國、齊策〕之二其所一レ短。〔注〕之、猶用也。㊌助辭。兮(2－1455)に同じ。〔經傳釋詞、九〕之、猶レ兮也。〔左氏、昭、二十五〕鸜之鵒之、公出辱レ之。㊍諸(10－35743)に通ず。〔說文通訓定聲〕之、叚借爲レ諸、之、諸、雙聲。〔詩、魏風、伐檀〕寘二之河之側一兮。〔漢書、地理志下〕寘二諸河之側一兮。㊎姓名の間に用ひる字。子(3－6930)に通ず。〔論語、雍也〕孟之反。〔莊子、大宗師〕孟子反。〔左氏、僖、二十四〕介之推。〔呂覽、介立〕介子推。㊏姓。〔通志、氏族略、代北四字姓〕之氏、見二姓苑一。〔奇姓通〕之馬、于漢人。

名乘　コレ。ユキ。ツナ。ヨリ。ノブ。クニ。ヒデ。

解字　指事。一とΨとの合字。一は地に象り、Ψは地上に芽を出した草が成長して、枝莖が益〻大きくなる義を表はす。▽𠂤(甲骨文)指事。止と一とを合はせ、ある地點(一)から足(止)をふみ出す意を示す。

【之江】1シカウ　浙江の別稱。其の形が之の字に似てゐるからいふ。

【之孝】2シカウ　元、李希閔(6－14459‥985)の字。

【之昂】3シカウ　金、劉昂(2－2224‥98)の字。

【之綱】4シカウ　明、薛綱(9－32123‥20)の字。

【之翰】5シカン　字號。●宋、辛仲甫(10－38630‥14)の字。㊁宋、孫甫(3－6987‥270)の字。㊂金、王維翰(7－20823‥1129)の字。

【之儀】6ギ　唐、袁郊(10－34152‥22)の字。

【之近】7キン　元、兪遠(1－1437‥10)の字。

【之覲】8キン　明、魏資敬(12－45872‥218)の字。

【之卦】9クワ　易の變卦の稱。之はゆくと訓じ、老陰變じて少陽となり、老陽變じて少陰となつて赴いた卦をいふ。例へば、地天泰䷊の第二爻が老陽、第四・第五爻が老陰とすれば、之卦は澤火革䷰となる類。三爻以上が變ずる場合にいふのを例とする。〔國朝漢學師承記、錢大昕〕論二虞氏之卦之說一曰、之卦、卽變卦也、虞仲翔說レ易、專取二旁通與一レ之卦一旁通者、乾與レ坤、坎與レ離、艮與レ兌、震與レ巽、交相變也、之卦、則以二兩爻一交易、而得二一卦一。

【之琯】10クワン　明、吳琯(2－3365‥133)の字。

【之乾】11ケン　唐、袁郊(10－34152‥22)の字。

【之才】12サイ　字號。●宋、崔嶧(4－8178‥13)の字。㊁宋、曹良史(5－14297‥325)の字。㊂宋、盛均(8－23005‥44)の字。

【之子】13コノ　●この子。是子。〔詩、衞風、有狐〕之子無レ裳。〔箋〕之子、是子也。〔詩、小雅、采綠〕之子于狩。〔詩、小雅、白華〕之子無レ良。㊁chi1 tzu3　新婦、又は許婚。

【之子于歸】14コノコユキテトツク　嫁入りすることをいふ。女は夫の家を家とするから、嫁を歸といふ。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸、宜二其室家一。〔公羊、隱、二〕婦人謂レ嫁曰レ歸。

【之字】15シ　●之の字。〔事文類聚〕蘭亭、凡二十八行、三百二十四字、字有二重者一、皆構二別體一、就中之字最多、乃有二二十許箇一、變轉悉レ異、遂無二同者一。㊁之の字形に屈曲してゐる坂路。之字路。〔劉昭禹、送二人游九疑一句〕漆燈尋二黑洞一之字上危峯。

【之字路】16ロ　之の字形に屈曲してゐる坂路。〔方干、題二應天寺上方一兼呈二謙上人一詩〕師在二西巖最高處一、路尋二之字一見二禪關一。

【之而】17ジ　鐘磬の架を作つて、其の上に龍蛇を彫刻し、其の目・爪・鱗・甲等の張起したものをいふ。之の字は上出に象り、而の字は下垂に象つたもの。一說に、而は頰の毛、之は與といふ。〔周禮、考工記、梓人〕深二其爪一、出二其目一、作二其鱗之而一。〔注〕之而、頰須也。〔孫詒讓正義〕戴震云、頰側上出者曰レ之、下垂者曰レ而、須髮屬也、王弘之云、說文、頰、禿也、禿爲二無髮一、則不レ可レ以レ作矣、鄭說非也、案、而、頰毛也、之、猶レ與也、作二其鱗之而一、謂レ起二其鱗與一レ頰毛一也。

【之壽】18ジュ　宋、呂椿(2－3386‥127)の字。

【之純】19ジュン　字號。●宋、周美(2－3441‥432)の字。●金、李純甫(6－14459‥1458)の字。

【之初】20ショ　明、岳元聲(4－8001‥64)の字。

【之所】21コレガトコロ　適當な處置。とりはからひ。〔左氏、隱、元〕不レ如二早爲一之所一。

【之人】22ジン　この人。〔稱謂錄、泛稱、之人〕詩、日月乃如二之人兮一、注、之人、是人也。

【之推】23スイ　唐、竇璡(8－25695‥38)の字。

【之選】24セン　唐、杜鴻漸(6－14477‥317)の字。

【之大】25ダイ　明、黎近(12－47994‥12)の字。

【之道】26ダウ　字號。●宋、晁詠之(5－13889‥12)の字。㊁宋、應繇(4－11330‥6)の字。㊂宋、劉輝(2－2224‥154)の字。

【之達】27タツ　金、沈璋(6－17189‥193)の字。

【之治】28チ　明、周治(2－3441‥366)の字。

【之楨】29テイ　明、王國(7－20823‥405)の字。

【之哲】30テツ　明、甄惠(7－21557‥7)の字。「名。

【之傳】31デン　宋、范良遂(9－30834‥276)の初

【之美】32ビ　字號。●元、張懋(4－9812‥677)の字。●金、楊雲翼(6－15112‥430)の字。

【之罘】33シブフ　山名。又、芝罘に作る。山東省福山縣の東北。俗に之罘島と稱するが、實は半島である。清、咸豐八年、英支天津條約によつて通商港となる。〔史記、秦始皇紀〕(二十八年)登二之罘一、立石、云云、(二十九年)登二之罘一、刻石、云云、(三十七年)至二之罘一、見二巨魚一、射殺一魚。〔漢書、武帝紀〕太始二年、行二幸東海一、登二之罘一。

【之璧】34ヘキ　明、趙珣(10－37171‥218)の初名。

【之冕】35ベン　明、黎公弁(12－47994‥99)の字。

【之無】36ム　僅かの文字。唐の白居易が生れて七箇月で、之・無の二字を覺えて誤らなかつた故事。〔唐書、白居易傳〕其始生七月、能展レ書、姆指二之・無兩字一、雖試百數、不レ差、九歲暗二識聲律一、其篤二於才章一、蓋天稟然。

【識之無字】37シルノムジ　兒がはじめて字を知ることをいふ。之無を見よ。〔書言故事、幼敏類〕兒識レ字、曰二已識之無字一矣。

【不レ識之無】38シラズノムジ　文字を識ることの少い者を譏つていふ。之無を見よ。

【之萊】39ライ　明、遲大成(11－39113‥48)の號。

【之林】40リン　南齊、王廣之(7－20823‥1354)の字。

【之往】41ワウ　ゆく。〔後漢書、羊續傳〕其所二之往一。

【有レ之】42コレアリ　前を承けて、其の物事のあるのにいふ。又、之の字は助辭。〔孟子、梁惠王下〕齊宣王問曰、文王之囿、方七十里、有レ諸、孟子對曰、於傳有レ之。

【加レ之】43 コレニクハフ ㊀人に事をしかける。あなどりを加へる。〔蘇軾、留侯論〕無レ故加レ之、而不レ怒。㊁シカノミナラズ そればかりでなく。〔名義抄〕加之 シカノミナラズ。

【器レ之】44 コレヲキトス ㊀相手の才能によつて其の人を使ふこと。求レ備(萬能ならんことを要求する)の反對。〔論語、子路〕君子云云、及ニ其使一レ人也、器レ之、小人云云、及ニ其使一レ人也、求レ備焉。〔集注〕器レ之、謂下隨ニ其材器一而使上レ之也。㊁有用の人として之を重んずること。〔資治通鑑、漢紀〕獻帝、建安十二年、徐庶見ニ備於新野一、備器レ之。〔注〕物之有レ用者、謂ニ之器一、器レ之者、器ニ重之一也、重ニ其才之足ニ以用一レ世也。

【久レ之】45 ヒサシクス コレヲヒサシクス 時の久しくたつのにいふ。〔史記、刺客、荊軻傳〕久レ之荊軻曰、此國之大事也、臣駑下、恐レ不レ足ニ任使一。

【頃レ之】46 シバラクス コレヲシバラクス 時が暫く立つ。しばらくして。〔史記、伍子胥傳〕頃レ之無忌又日夜言ニ太子短於王一。

【數レ之】47 コレヲセム 其の罪をかぞへ立てて責め咎める。〔史記、張耳陳餘傳〕張耳乃引ニ陳餘一之ニ桑下一、而數レ之曰、始吾與レ公言如何。

【藐レ之】48 コレヲカロンズ 相手を輕視して畏れない。藐は小、又、輕の意。〔孟子、盡心下〕說ニ大人一則藐レ之、勿レ視ニ其巍巍然一。〔集注〕藐、音眇、輕レ之。

【無レ之】49 ナシ コレナシ 前を承けて、其の物事のないのにいふ。〔左氏、隱、三〕王曰、無レ之。

【爲ニ之辭一】50 コレガジヲツクル 其の口實を造る。〔論語、季氏〕君子疾ニ夫舍レ曰レ欲レ之、而必爲ニ之辭一。〔孟子、公孫丑下〕今之君子豈徒順レ之、又從爲ニ之辭一。

【漸ニ之滫一】51 コレヲシウニヒタス 之を小便にひたす。〔荀子、勸學〕其漸ニ之滫一、君子不レ近。

【之溪老生】52 シケイラウセイ 淸、先著(**1**―**1349**・・165)の號。

【之乎者也】53 シコシヤヤ ㊀助語をいふ。四字すべて助字。〔湘山野錄〕太祖幸ニ朱雀門一、獨趙普從レ幸、上指ニ門額一問曰、須ニ著之字一何用、普曰、語助、太祖大笑曰、之乎者也、助ニ得甚事一。〔通俗編、語辭、之乎者也〕玉泉子李絳姪據以ニ門廕一宰ニ澠池一、嘗判決祇承レ人云、如レ此癡頑豈合ニ喫打一、或語ニ其誤一、李曰、公何不レ會、豈是助語、共ニ之乎者也一何別哉。㊁chih¹ hu¹ chê² yeh³ 文語交りに生意氣な言葉を話す。學者振る。

【之乎者也矣焉哉】54 シコシヤヤイエンサイ 七字すべて助字。〔燕子箋、偕征〕只是這之乎者也矣焉哉、字字不レ通ニ一竅一。〔通俗編、語辭、之乎者也〕留青日札、載ニ時諺一云、之乎者也矣焉哉、用得レ成レ章好秀才。

【爲レ之奈何】55 コレヲナスコトイカン 何としよう。どうしたらよからう。〔史記、孔子世家〕使レ得ニ罪於魯君一、爲レ之奈何。

【運ニ之掌上一】56 コレヲシヤウジヤウニメグラス 事の爲し易い喩。〔孟子、公孫丑上〕以ニ不レ忍レ人之心一、行ニ不レ忍レ人之政一、治ニ天下一、可レ運ニ之掌上一。

【炎レ之如レ日】57 コレヲテラスコトヒノゴトシ 照り輝く日の樣に、人君の恩德の厚いことをいふ。〔班固、答賓戲〕其君ニ天下一也、炎レ之如レ日、威レ之如レ神。

【行レ之以レ禮】58 コレヲオコナフニレイヲモツテス 禮に則つて行ふ。〔禮、文王世子〕行レ之以レ禮。〔左氏、昭、六〕行レ之以レ禮、守レ之以レ信。

【函レ之如レ海】59 コレヲイルルコトウミノゴトシ 海の如くに、包含するところが極めて大きい喩。〔班固、答賓戲〕炎レ之如レ日、威レ之如レ神、函レ之如レ海、養レ之如レ春。〔注〕良曰、如ニ海納ニ入百川一。

【求レ之有レ道】60 コレヲモトムルニミチアリ 凡て事物を求めるには、然るべき方法がある。〔論語、里仁〕子曰、富與レ貴、是人之所レ欲也、不レ以ニ其道一、得レ之不レ處也、貧與レ賤、是人之所レ惡也、不レ以ニ其道一、得レ之不レ去也。〔孟子、盡心上〕求レ之有レ道、得レ之有レ命、是求無レ益ニ於得一也、求在レ外者也。

【求レ之不レ得】61 コレヲモトムレドモエズ 願つても叶はない。〔詩、周南、關雎〕求レ之不レ得、寤寐思服。

【仰レ之彌高】62 コレヲアフゲバイヨイヨタカシ 仰ぎ見れば見るほど高い。孔子の德の高大無邊なのを贊した語。〔論語、子罕〕顏淵喟然歎曰、仰レ之彌高、鑽レ之彌堅。

【載ニ之空言一】63 コレヲクウゲンニノス 文章に書きしるす。〔史記、太史公自序〕子曰、我欲レ載ニ之空言一。〔注〕索隱曰、案、孔子之言、見ニ春秋緯一。

【鑽レ之彌堅】64 コレヲキレバイヨイヨカタシ 非常に堅いこと。堅い上に堅くて、幾度錐できり穿つても、孔をあけにくいこと。仰レ之彌高(62)を見よ。

【視レ之不レ見】65 コレヲミレドモミエズ 目を以て視ようとしても、見ることが出來ない。道の微妙な喩。〔老子、十四〕視レ之不レ見、名曰レ夷、聽レ之不レ聞、名曰レ希。〔莊子、知北遊〕孰ニ視其狀貌一、窅然空然、終日視レ之而不レ見。

【收ニ之桑楡一】66 コレヲサウユニヲサム 朝に失つて暮に取り戻す。前日に失敗した事を後日に回復する喩。桑楡は日暮の意。〔後漢書、馮異傳〕失ニ之東隅一、收ニ之桑楡一。〔注〕桑楡、謂レ晚也。〔書言故事、讚嘆類〕成ニ於晚景一、曰レ收ニ之桑楡一。

【就レ之如レ日】67 コレニツクコトヒノゴトシ 人君の德の親しむべきことをいふ。日向葵が太陽に向ふ如く、人民が、君主の德に依り就くのをいふ。〔史記、五帝紀〕就レ之如レ日、望レ之如レ雲。

【失ニ之交臂一】68 コレヲカウヒニウシナフ 臂を執へて逃すまいとしても、停めておくことは出來ない。造化の變化は留めようとして留めることの出來ないことをいふ。今、轉じて、絶好の機會を失することをいふ。〔莊子、田子方〕吾終身與レ汝交ニ一臂一而失レ之。〔注〕夫變化不レ可ニ執而留一也、故雖ニ執レ臂相守一、而不レ能レ令レ停。

【失ニ之東隅一】69 コレヲトウグウニウシナフ 朝に失敗をする義。東隅は朝をいふ。收ニ之桑楡一(66)を見よ。

【舍レ之則藏】70 コレヲオケバスナハチカクル 人君が捨てて用ひぬ時は、民間に隱れてひとり其の道を行ふこと。用レ之則行(79)を見よ。

【推レ之不レ去】71 コレヲオセドモサラズ 晉の吳郡の太守鄧攸の前任者なる謝令が貪欲であつたので、人民が之を逐はうとしたが、遂に去らなかつた故事。挽レ之不レ留(77)を見よ。〔故事成語考、文臣〕嫌ニ謝令之貪一、推レ之不レ去。

【招レ之不レ來】72 コレヲマネクモキタラズ 呼べども來らず。人物が高尚で抗直なことにいふ。〔史記、汲黯傳〕(汲黯)招レ之不レ來、麾レ之不レ去。

【束ニ之高閣一】73 コレヲカウカクニツカヌ 高い棚の上に上げ置いて用ひぬ義。人物を打捨てて用ひぬこと。又、書物などを只積み重ねて讀みもせぬこと。〔晉書、庾翼傳〕京兆杜乂・陳郡殷浩、並才名冠レ世、而翼弗ニ之重一也毎語レ人曰、此輩宜レ束ニ之高閣一。〔韓愈、寄ニ盧仝一詩〕春秋三傳束ニ高閣一、獨抱ニ遺經一究ニ終始一。

【損レ之又損】74 コレヲソンシテマタソンス いやが上にも減損する。〔老子、四十八〕爲レ道日損、損レ之又損、以至ニ於無一レ爲。〔莊子、知北遊〕故曰、爲レ道者日損、損レ之又損レ之、以至ニ於無一レ爲。〔張衡、東京賦〕損レ之又損、然尚過ニ於周堂一。〔晉書、宣帝紀〕帝勳德日盛、而謙恭愈甚、恆戒ニ子弟一曰、盛滿者、道家之所レ忌、四時猶有ニ推移一、吾何德以堪レ之、損レ之又損、庶可ニ以免一乎。

【持レ之有レ故】75 コレヲヂスル コアリ 己の說を固持する爲、古人にも此の說ありと主張すること。例を古人に求めて固く說を持すること。〔荀子、非十二子〕縱ニ情性一、安ニ恣睢一、禽獸行、不レ足ニ以合レ文通一レ治、然而其持レ之有レ故、其言レ之成レ理、足ニ以欺ニ惑愚衆一、是它囂魏牟也。〔注〕妄稱ニ古之人亦有ニ如レ此者一、故曰、持レ之有レ故、又其言論、能成ニ文理一、故曰、言レ之成レ理、足ニ以欺ニ惑愚人衆人一矣。

【播ニ之聲詩一】76 コレヲセイシニハス 其の功德を詩に作り音樂に合せて歌ふ。播は布。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕播ニ之聲詩一、以耀ニ後世一。

【挽レ之不レ留】77 コレヲヒクトモトドマラズ 晉の吳郡の大守鄧攸が轉任する時、其の仁政に感じた人民が之を引き止めようと計つたが、如何ともし難かつた。〔晉書、鄧攸傳〕攸在レ郡、刑政清明、百姓歡悅、爲ニ中興良守一、後稱レ疾去レ職、郡常有ニ送迎錢數百萬一、攸去レ郡、不レ受ニ一錢一、百姓數千人、留ニ牽攸船一、不レ得レ進、攸乃小停、夜中發去、吳人歌レ之曰、紞如打ニ五鼓一、鷄鳴天欲レ曙、鄧侯挽不レ留、謝令推不レ去、百姓詣レ臺、乞ニ留一歲一、不レ聽、拜ニ侍中一。〔故事成語考、文臣〕民愛ニ鄧侯之政一、挽レ之不レ留。

【無ニ如レ之何一】78 コレヲイカントモスルナシ 如何ともすることが出來ぬ。どうにもならぬ。〔論語、衞靈公〕子曰、不レ曰ニ如レ之何、如レ之何一者、吾末ニ如レ之何一也已矣。〔大學〕小人使レ爲ニ國家一、菑害並至、雖レ有ニ善者一、亦無ニ如レ之何一矣。

【用レ之則行】79 コレヲモチフレバスナハチオコナフ 世に用ひられれば、役人となつて己の道を行ふこと。〔論語、述而〕用レ之則行、舍レ之則藏。

【容レ之如レ地】80 コレヲイルルコトチノゴトシ 地が萬物を包容する如く、受け入れることの大きい喩。〔左氏、襄、十四〕蓋レ之如レ天、容レ之如レ地。

【鼓レ之以二道德一】81 コレヲコスルニダウトクヲモツテス 道德を以て責めること。〔魏志、袁渙傳〕鼓レ之以二道德一、征レ之以二仁義一。

【稱レ之不レ容レ口】82 コレヲシヨウシテクチニイレズ 皆がほめて誰も反對しない。〔漢書、爰盎傳〕刺者至二關中一、問レ盎、稱レ之皆不レ容レ口。〔注〕師古曰、稱二美其德一、口不レ能レ容也。

【陷二之死地一而後生】83 コレヲシチニオトシイレテシカルノチニイク 投二之亡地一然後存に同じ。〔史記、淮陰侯傳〕信曰、兵法不レ曰、陷二之死地一而後生、置二之亡地一而後存。

【投二之亡地一然後存】84 コレヲバウチニトウジシカルノチニソンス 一旦死地に陷つて後、活路を得ること。捨身になつて後、活路が開ける。〔孫子、九地〕投二之亡地一然後存、陷二之死地一然後生。

【鳴レ之不レ能レ通二其意一】85 コレニナケドモソノイヲツウズルアタハズ 意中を訴へても、其の情の通ぜぬこと。〔韓愈、雜說〕食レ之不レ能レ盡二其材一、鳴レ之不レ能レ通二其意一。

【約レ之則無レ出二乎身一】86 コレヲヤクスレバスナハチミヨリイヅルナシ 之を要約すると、己の一身から外に出ることがない。萬事は身を修めることが根本であるとの意。〔呂覽、執一〕故曰、以レ身爲レ家、以レ家爲レ國、以レ國爲二天下一、此四者、異レ位同レ本、故聖人之事、廣レ之則極二宇宙一、窮二日月一、約レ之則無レ出二乎身一者也。

【叩レ之以二小者一則小鳴】87 コレヲタタクニセウヲモツテスレバスナハチセウメイス 小さく叩けば小さく鳴り、大きく叩けば大きく鳴る。轉じて、人の蘊蓄の計り知れぬことに用ひる。〔禮、學記〕叩レ之以二小者一則小鳴、叩レ之以二大者一則大鳴。

【叩レ之以二大者一則大鳴】88 コレヲタタクニダイヲモツテスレバスナハチタイメイス 叩レ之以二小者一則小鳴を見よ。

【告レ之以レ危而觀二其節一】89 コレニツグルニキヲモツテシテソノセツヲミル 身命が危いことを告げて、其の人のみさををみる。生死の問題に當つて始めて人の節操がわかる。〔莊子、列禦寇〕告レ之以レ危、而觀二其節一。

【沙レ之汰レ之瓦石在レ後】90 コレヲサシコレヲタシテグワセキシリヘニアリ 淘汰せられて、惡いものが後に殘る。〔晉書、孫綽傳〕綽性通率、好二譏調一、嘗與二習鑿齒一共行、綽在レ前、顧謂二鑿齒一曰、沙レ之汰レ之、瓦石在レ後、鑿齒曰、簸レ之颺レ之、糠粃在レ前。

【思レ之思レ之鬼神通レ之】91 コレヲオモヒコレヲオモヘバキシンコレニツウズ 日夜思索して怠らなければ、一旦豁然として悟る所があるのをいふ。〔管子、心術下〕思レ之思レ之不レ得、鬼神敎レ之。〔管子、內業〕思レ之思レ之、又重思レ之、思レ之而不レ通、鬼神將レ通レ之。

【失二之毫釐一差以二千里一】92 コレヲガウリニシツスレバタガフニセンリヲモツテス 始めの小差誤が、遂には大謬を來すこと。毫釐之失差以二千里一(6-16831‥36)を見よ。〔列女傳、貞順、召南申女傳〕失二之毫釐一、差二之千里一。〔晉書、虞預傳〕毫釐之失、差以二千里一。

【將二欲奪一レ之必固與レ之】93 コレヲウバハントシヤウヨクセバカナラズシバラクコレヲアタヘヨ 奪ひ取らうと思ふなら、先づ與へよといふ喩。〔老子、三十六〕將二欲歙一レ之、必固張レ之、將二欲弱一レ之、必固強レ之、將二欲廢一レ之、必固興レ之、將二欲奪一レ之、必固與レ之、是謂二微明一。

【醉レ之以レ酒而觀二其則一】94 コレヲヨハスニサケヲモツテシテソノソクヲミル 酒で醉はせて、其の心の樣子をみる。則は心の法則。〔莊子、列禦寇〕告レ之以レ危、而觀二其節一、醉レ之以レ酒、而觀二其則一。

【欲レ加二之罪一不レ患レ無レ辭】95 コレニツミヲクハヘントホツスレバジナキヲウレヘズ 罪を加へようと思へば口實はいくらもある。〔通俗編、言笑、欲レ加二之罪一不レ患レ無レ辭〕左傳、僖十年、里克曰、欲レ加二之罪一、其無レ辭乎、注云、言不レ患レ無レ辭。

【失二之數一而求二之信一則疑】96 コレヲスウニシツシテコレヲシンニモトムレバウタガフ 自ら自分の術數を恃まないで、他人の言葉に賴つて事をしようとすると、なかなか決心がつかない。〔韓非子、難三〕夫不レ能二自待一、而問二其奈何一也、其不レ侵也幸矣、申子曰、失二之數一而求二之信一、則疑矣。〔翼毳〕不レ能三自恃二吾術數一、而以二人言一爲レ信、則意疑矣、疑、不レ決之謂也。或曰、疑、癡字誤、非。

【舒レ之彌二四海一卷レ之不レ盈レ懷】97 コレヲノブレバシカイニワタリコレヲマケバフトコロニミタズ 廣げれば天地間にも盈ち、縮めれば懷にも這入る。神變不測、常則では律し得ないこと。〔三略、上略〕聖人存レ之、以應二事機一、舒レ之彌二四海一、卷レ之不レ盈レ懷。〔朱熹、中庸章句〕放レ之則彌二六合一、卷レ之則退二藏於密一。

【用レ之則爲レ虎不レ用則爲レ鼠】98 コレヲモチフレバスナハチトラトナリモチヒザレバスナハチネズミトナル 重く用ひれば虎の威勢を示し、用ひなければ、鼠のやうに隱れるをいふ。〔東方朔、答二客難一〕尊レ之則爲レ將、卑レ之則爲レ虜、抗レ之則在二青雲之上一、抑レ之則在二深淵之下一、用レ之則爲レ虎、不レ用則爲レ鼠。

【丒】126 音義未詳 〔字彙補〕丒、唐武宗製、音義闕。

【乏】127 ハフ 乏(1-133)の本字。〔正字通〕說文、反レ正爲レ乏。

【乃】128 ジユ 乳(1-190)の古字。〔通俗編、雜字〕乃、直語類錄、鐘鼎文有二乃字一、謂レ乳也、俗呼レ乳爲レ奶、實當レ爲レ乃。

【匁】129 字國 **もんめ**。文目の義。錢の古體ともいひ、又、文の字の草書と片假名の「メ」との合字ともいふ。❶重さ一貫の千分の一。❷小判一兩の六十分の一。

四畫

【乍】130 小篆

㊀サ 〔集韻〕助駕切 禡
㊁ジヤ ㄓㄚˋ cha⁴
㊂サク 〔集韻〕卽各切 藥

㊀❶**たちまち**。にはかに。しばらく。はじめて。〔廣雅、釋言〕乍、暫也。〔增韻〕乍、暫也、初也、忽也、猝也、甫然也。〔孟子、公孫丑上〕今人乍見二孺子將レ入二於井一。〔注〕乍、暫也。〔史記、日者傳〕先王之道、乍存乍亡。❷**逃げる人を呼びとめることば**。もと亾(1-363)に作る。〔正字通〕乍、本作レ亾。〔說文〕亾、止レ亡詞也、从二亡一、一、有レ所レ礙也。〔段注〕各本作二止也一曰亡也六字一、今正、乍、無二亡義一云云、亾者、有レ人逃亡、而一止レ之、其言曰レ乍、蓋咄咄逼レ人之語也、亡與レ止レ亡者、皆必在二倉猝一、故引伸爲二倉猝之稱一。❸**姓**。〔萬姓統譜〕乍、見二姓苑一。❹現初めて出す。㊁**おこる**。作(1-518)に同じ。〔集韻〕作、說文、起也、亦省。邦**ながら**。ぐるみ。つつ。ではあるが。

名乘 ハヤ。

解字 指事。亾と一(亾げるのを礙げる意を示す)とを合せて、亾げるのを止める詞の義を表はす。〔說文通訓定聲〕乍、按、止レ亾詞也、从レ亾、一以礙レ之、指事。▽(甲骨文) 象形。匕(刃物)でレ形にさつと切る形に象る。

【乍丫】1 サア 地名。西康省の邊境の地。民國、察雅縣を置く。

【乍雨】2 サウ たちまちあめ降る。〔歐陽脩、長短句、浣溪沙〕乍雨乍晴花自落、閒愁閒悶晝偏長。

【乍可】3 サカ 寧ろ云云するとも。〔高適、封丘縣詩〕乍可狂二歌草澤中一、寧堪レ作二吏風塵下一。

【乍寒】4 サカン 急な寒さ。〔王世貞、西宮怨詩〕點點蓮花漏未レ央、乍寒如レ水浸二羅裳一。

【乍寒乍熱】5 タチマチサムクタチマチアツシ ❶寒くなるかと思へば忽ち熱くなる。俄かに熱が出たり寒けがしたりする。瘧の樣な病にいふ。又、物事に熱し易くさめ易いのにいふ。〔醫學入門、感異氣〕瘴瘧、山溪蒸毒、令二人迷困發狂或啞、乍寒乍熱、乍有乍無一者。❷氣候不順。

【乍會】6 cha⁴ huei⁴ 初めて會ふ。初對面。

【乍卷】7 サクワン 忽ちをさまる。〔上宮遜、松柏有レ心賦〕林烟乍卷、秋雨時霽。

【乍見】8 cha⁴ chien⁴ ❶初めて會ふ。乍會。❷

思ひがけなく不意にあふ。

【乍設】9 サセツ たちまち設ける。〔王融、三月三日曲水詩序〕離房乍設、層樓閒起。

【乍然】10 cha⁴ jan² 突然。にはかに。

【乍浦】11 ホサ 城の名。浙江省平湖縣の東南。海鹽縣の境に接す。南宋以來、海軍をおいたが、鴉片戰爭の際英軍に陷れられて、海軍は滅んだ。此の城は通商最も早く、百年前には商業が盛であつたが、上海が通商港となつてから、日に衰へた。

【乍往】12 ワウサ たちまち往く。〔張衡、西京賦〕將二乍往一而未ㇾ半、怵悼慄而聳兢。

【乍往乍來】13 タチマチユキタチマチキタル 變化の急なこと。〔醫學入門、往來寒熱〕寒熱相等、乍往乍來、而閒作也。

【乍乍的】14 cha⁴ cha⁴ tê 突然。

【乍猛子】15 cha⁴ mêng³ tzŭ 突然。にはかに。不意に。急に。だしぬけに。

【乍存乍亡】16 タチマチソンシタチマチウシナフ あるかと思へば忽ちなくなる。〔史記、日者傳〕先王之道、乍存乍亡、公責二卜者言必信一、不二亦惑一乎。

【乍村老屋】17 サソンラウヲク 清、改琦(**5－13114**‥20)の「室名。

【乎】131 コ ゴ 〔集韻〕洪孤切 ㄏㄨ hu¹ 虞 小篆

一**勢を強める助辭**。もと兮(**1－137**)に作る。〔正字通〕乎、篆作ㇾ兮。〔說文〕兮、語之餘也、从ㇾ兮、象二聲上越揚之形一也。〔經傳釋詞、四〕乎、狀二事之詞一也。〔論語、八佾〕郁郁乎、文哉。〔論語、雍也〕於ㇾ從ㇾ政乎何有。二**か。や**。(イ)疑問の辭。〔易、繫辭上〕其不ㇾ可ㇾ見乎。〔疏〕疑而問ㇾ之、故稱ㇾ乎也。〔論語、八佾〕禮後乎。(ロ)詠歎の辭。かな。〔論語、雍也〕中庸之爲ㇾ德也、其至矣乎。(ハ)反語の辭。〔論語、學而〕有ㇾ朋自二遠方一來、不二亦樂一乎。〔史記、伯夷傳〕以ㇾ臣弑ㇾ君、可ㇾ謂ㇾ仁乎。(ニ)呼びかけに用ひる辭。〔論語、里仁〕參乎、吾道、一以貫ㇾ之。三于(**1－252**)・於(**5－13628**)に通ず。〔說文通訓定聲〕乎、叚借爲ㇾ于。(イ)に。おいて。〔論語、先進〕浴二乎沂一、風二乎舞雩一。〔孟子、盡心下〕同二乎流俗一、合二乎汙世一。〔呂覽、貴信〕又況乎二人事一。〔注〕乎、於也。(ロ)より。〔孟子、萬章上〕孝子之至、莫ㇾ大二乎尊ㇾ親。(ハ)を。〔論語、爲政〕攻二乎異端一、斯害也已。〔柳宗元、送二薛存義一序〕傭二乎吏一。四**あ。ああ**。歎息の辭。於戲。於虖。於呼。嗚噓。呼(**2－3471**)に同じ。〔詩、大雅、抑〕於乎小子、未ㇾ知二臧否一。〔釋文〕於、音烏、乎、音呼。五古は虖(**9－32698**)に作る。〔集韻〕乎、古作ㇾ虖。

解字 指事。ノ(こゑの上り揚る意を示す)と兮とを合せて、聲を長く引いて意を盡くす詞の義を表はす。字解を見よ。▽ ꜟ(甲骨文) 象形。よびこ板の形に象る。

【乎哉】1 コサイ 一かな。感嘆をあらはす助辭。〔論語、憲問〕子貢方ㇾ人、子曰、賜也賢乎哉夫、我則不ㇾ暇。二か。疑問をあらはす助辭。〔孟子、梁惠王上〕曰、若二寡人一者、可二以保ㇾ民乎哉。三や。反語の助辭。〔論語、述而〕子曰、仁遠乎哉、我欲ㇾ仁、斯仁至矣。〔論語、子罕〕君子多乎哉、不ㇾ多也。〔東方朔、非有先生論〕先生曰、於戲、可乎哉、可乎哉、談何容易。

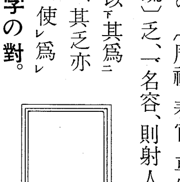
【乎而】2 コジ 一助語。〔詩、齊風、著〕俟二我於著一乎而、充耳以ㇾ素乎而。二親しい閒の稱呼。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕勸酬兼二爾汝一、講論雜二乎而一。

【乎古止點】3 ヲコトテン 昔時、漢文の訓讀のため、其の字の八方に點をつけて、てにをはの符號としたもの。

【朩】132 シ 本(**2－2708**)の俗字。〔正字通〕朩、俗本字。

【乏】133 ハフ ボフ 〔集韻〕扶法切 ㄈㄚˊ fa² 洽 慣バフ 小篆

一**とぼしい**。とぼしくする。〔集韻〕乏、一曰、匱也。〔禮、月令〕(季春)命二有司一、振二乏絕一。〔疏〕暫無曰ㇾ乏。〔孟子、告子下〕空二乏其身一。二**官職の空位**。〔左氏、成、二〕(韓厥曰)敢告、不敏攝ㇾ官承ㇾ乏。〔注〕言ㇾ欲下以二已不敏一、攝中承空乏上。三**すてる**。廢す。〔戰國、燕策〕不三敢以ㇾ乏二國事一。〔莊子、天地〕無ㇾ乏二吾事一。〔釋文〕乏、廢也。四**つかれる**。衰へる。〔五代史、周德威傳〕因二其勞乏一而乘ㇾ之、可二以勝一也。五**革で作つた矢ふせぎ**。衝立に似たもの。〔周禮、春官、車僕〕大射、共二三乏一。〔疏〕乏、一名容、則射人云二三獲三容一、是也、以下其爲二革車一用ㇾ皮、其乏亦用中皮、故因使ㇾ爲ㇾ之。六**正の字の對**。正は常、常に反するはとぼしい義。もと𤴓(**6－16257**)に作る。〔玉篇〕𤴓、今作ㇾ乏。〔說文〕𤴓、春秋傳曰、反ㇾ正爲ㇾ乏。〔左氏、宣、十五〕文反ㇾ正爲ㇾ乏。七古は𠂪(**1－1423**)に作る。〔字彙補〕𠂪、古文乏字。八現人を賤しめていふ語。



(圖器禮) 五乏

解字 指事。正の反對の形で、とぼしい義。正道に反するのは匱乏を招く道であるからいふ。一說に、正はまとの意で、之を反對にして、射に告獲者(監的手)が矢を避ける具、やふせぎの義を示すといふ。〔說文通訓定聲〕乏、春秋傳曰、反ㇾ正爲ㇾ乏、按、容也、从二反正一、指事、受ㇾ矢者爲ㇾ正、避ㇾ矢者爲ㇾ乏。

【乏匱】1 バフキ とぼしい。〔國語、周語下〕無二饑寒乏匱之患一。〔漢書、董仲舒傳〕常恐二乏匱者一。〔論衡、薄葬〕穀物乏匱。

【乏興】2 バフキョウ 官の徵發を怠り缺くこと。〔急就篇、四〕乏興猥逮詗讂求。〔注〕律有二乏興之法一、謂下官有ㇾ所二興發一、而輒稽留闕中乏其事上也。〔漢書、景武昭宣元成功臣表〕成安侯韓延年、坐下爲二太常一、行二大行令事一、留二外國書一一月乏興上、入ㇾ穀贖完、爲二城旦一。

【乏灰】3 fa² huei¹ 阿片の吸ひ殼。

【乏竭】4 バフケツ とぼしくつきる。乏盡。〔潘岳、馬汧督誄〕樵蘇乏竭、芻蕘罄絕。

【乏月】5 バフゲツ 四月の異名。此の月は食物が缺乏するからいふ。〔四時纂要〕四月、曰二乏月一、冬穀既盡、夏麥未ㇾ登、宜下賑二乏絕一、救中飢窮上。

【乏倦】6 fa² chüan⁴ くたびれる。〔紅樓夢、四十一回〕且說、賈母因覺身上乏倦。

【乏困】7 バフコン 一なくてこまる。さしつかへる。〔左氏、僖、三十〕行李之往來、共二其乏困一、君亦無ㇾ所ㇾ害。〔呂覽、原亂〕振二廢滯一、匡二乏困一。二fa² k'uen⁴ 疲れる。

【乏資】8 バフシ 資本が乏しい。〔漢書、燕王劉澤傳〕高后時、齊人田生、游乏ㇾ資、以ㇾ畫奸ㇾ澤。

【乏人】9 バフジン 一人にとぼしい。〔漢書、爰盎傳〕今漢雖ㇾ乏ㇾ人、陛下獨奈何與二刀鋸之餘一共載。二fa² jen² 無能の人閒。低能な人。

【乏盡】10 バフジン つきる。乏竭。〔劉琨、扶風歌〕資糧既乏盡、薇蕨安可ㇾ食。

【乏少】11 バフセウ とぼしくて少い。十分でない。些少。〔北史、隋煬帝紀〕若有二糧食乏少一、皆賑二給之一。〔歐陽脩、尹源字子漸序〕豈有四遺忽乏少之可三以進二於言一耶。

【乏絕】12 バフゼツ 不足して盡きる。〔禮、月令〕賜二貧窮一、振二乏絕一。〔疏〕暫無曰ㇾ乏、不ㇾ續曰ㇾ絕。〔管子、五輔〕賑二罷露一、資二乏絕一。〔墨子、非攻下〕布粟乏絕、則委ㇾ之。

【乏絕之供】13 バフゼツノソナヘ 缺乏の時の供給。〔蘇軾、諫ㇾ買二浙燈一狀〕留貯以待二乏絕一。

【乏餧】14 バフダイ とぼしくして飢ゑる。〔漢書、魏相傳〕爲二民貧窮一、發二倉廩一、振二乏餧一。

【乏道】15 バフダウ 佛沙門をいふ。道に乏しいものの

義で、自己を謙遜していふ。〔三德指歸、一〕沙門、此云二勤息一、謂勤二行衆善一、止二息諸惡一故也、又翻二乏道一如二下經說一、此出家之通號也。

【乏地】16 fa² ti⁴ 瘦せた土地。貧弱な地方。

【乏頓】17 バフトン 疲れ倒れる。乏はつかれる。〔唐書、朱滔傳〕滔急召レ寔、至二貝州一、步馬乏頓、明日輒約レ戰。

【乏煤】18 fa² mei² 乏しくなつた石炭。火勢の弱弱しいさま。

【乏保】19 fa² pao³ 持ち難い。危い。

【乏阨】20 バフヤク まづしくて難儀する。貧困。〔後漢書、質帝紀〕方レ春戒レ節、賑二濟乏阨一。

【乏糧】21 バフリヤウ 糧食に乏しいこと。〔漢書、周亞夫傳〕吳楚兵乏レ糧、饑數欲レ退、數挑レ戰、終不レ出。〔高士傳〕陳仲子、歲饑乏レ糧三日、乃匍匐而食二井上李實之蟲者一。

【乏劣】22 バフレツ とぼしくおとる。才能の優れぬこと。〔王羲之、問慰諸帖上〕吾至乏劣、爲二爾日日一。

【乏話】23 fa² hua⁴ 話に迫力がない。弱音ヨワネ。

【承レ乏】24 トボシキヲウク 官に就くことを謙遜していふ。暫く自分が其の空位を補充する義。〔左氏、成、二〕韓厥曰、敢告二不敏一攝レ官承レ乏。〔注〕攝二承空乏一。

【乏孩子】25 fa² hai² tzŭ 愚鈍な子供。やくざな子供。

【乏角兒】26 fa² chüeh² êrh 下手な俳優。馬の脚。

【乏軍興】27 バフグンコウ 罪名。重罪人を赦して邊地を戍らせる時に、命に逆らつて到らないものがあれば、之を乏軍興といつて、其の罪を論じた。〔後漢書、章帝紀〕詔二天下繫囚一、減二死一等一、勿レ笞、詣レ邊戍、有二不レ到者一、以二乏軍興一論。

【乏字紙】28 fa² tzŭ⁴ chih³ 役に立たぬ反古紙。

【乏乏的】29 fa² fa² tê 少い。乏しい。弱々しい。

【乏費用】30 fa² fei⁴ yung⁴ 費用の少い。經費の缺乏した。

【乏則取二之於人一】31 トボシケレバコレヲヒトニトル 乏しければ、人から取り入れる。〔魏志、袁渙傳〕皆散盡レ之、家無レ所レ儲、終不レ問二產業一、乏則取二之於人一、不レ爲二皦察之行一、然時人服二其清一。

【夭】134 シ 矢(8－23929)の古字。〔集韻〕矢、古作レ夭。

【𠂹】135 テイ 弟(4－9737)の古字。〔集韻〕弟、古作レ𠂹。

【乎】136 キン 義未詳。〔海篇〕音今。

【兮】137 コ 乎(1－131)の本字。〔正字通〕乎、篆作レ兮。

五畫

【㐆】138 ハイ ハ 〔集韻〕普卦切 卦

小篆

わかれ。水の支流。派(6－17428)の本字。〔說文〕㐆、水之衺流別也、从二反永一、讀若二稗縣一。〔正字通〕㐆、派本字。

解字 指事。永(本流のながい義)を反對にして、本流から分れ流れる支流の義を表はす。〔說文通訓定聲〕㐆、水之衺流別也、从二反永一、指事。▽⺀(甲骨文) 象形。斜に支流が分れ出る形に象る。

【乑】139 ㊀ギン ゴン ㊁ハン ㊂シユウ 〔集韻〕魚音切 侵

小篆

㊀ならび立つ。多い。又、あつまり立つ。㐺(1－437)に同じ。〔正字通〕乑、㐺字重文。〔說文〕㐺、衆立也、从二三人一、讀若二欽・崟一。㊁よぢる。攀(5－12926)の古字。〔漢書、揚雄傳上〕纍旣乑二夫傳說一兮。〔注〕師古曰、乑、古攀字。㊂眾(8－23321)に同じ。〔正字通〕乑、㐺、隸作レ眾。

解字 會意。人の字を三個合せて、人が多くあつまる義を表はす。〔說文、㐺、段注〕會意、國語曰、人三爲レ衆。

【㐆】140 ㊀イ エ 〔集韻〕於希切 微 ㊁イン オン 〔集韻〕倚謹切 吻

小篆

㊀❶かへる。〔說文〕㐆、歸也、从二反身一。〔繫傳〕古人所謂反レ身脩レ道、故曰レ歸也。❷よる。依(1－607)に同じ。〔六書正譌〕㐆、別作レ依。㊁❶身を轉ずる。〔六書故〕㐆、轉レ身也、詩、召南、殷其靁、言二雷聲轉展㐆レ地也。❷隱(11－41891)に通ず。〔正字通〕㐆、本隱也、加レ殳轉二平聲一、爲二殷勤・殷色・殷國・殷姓一。❸かへる。〔集韻〕㐆、歸也。

解字 指事。身の字を反對にしてかへる義を表はす。字解を見よ。

【㐆齋】1 インサイ 清、張穆(平定の人)(4－9812‥680)の號。

【㐆齋居士】2 インサイコジ 清、張穆(平定の人)(4－9812‥680)の號。

【自】141 タイ ツイ 〔集韻〕都回切 灰

小篆

小山。堆(3－5211)の本字。〔說文〕自、小𠂤也、象形。〔正字通〕自、堆本字。

解字 象形。小さいをかの形に象る。𠂤より小さい故に、𠂤の三層なるに對し、其の形を二層にする。〔說文、自、段注〕象レ小二於𠂤一、故𠂤三成、自二成。

【㐃】142 ソウ ズ 〔五音集韻〕藏宗切 冬

したがふ。〔五音集韻〕㐃、從也。

【𠨦】143 シン 義未詳。〔海篇〕𠨦、音愼。

【丟】144 チウ 丟(1－41)の俗字。〔正字通〕丟、俗作レ丟。

【乒】145 ヘイ 〔中華大字典〕娉平聲 ㄆㄧㄥ p'ing¹

現 乒乓は、遊戲のピンポンの音譯。卓球。〔中華大字典〕乒、乒乓、聲也。〔中華大字典〕乒、乒乓。玩具。英名、Ping Pong。

【乓】146 ハウ 〔中華大字典〕音霶 ㄆㄤ p'ang¹

現 乒(145)を見よ。

六畫

【乖】147 クワイ 乖(1－149)の俗字。〔正字通〕乖、俗乖字。

【乕】148 コ 虎(9－32675)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕虎、金瓶梅、作レ乕。

七畫

【乖】149 クワイ ケ 〔集韻〕公懷切 佳 ㄍㄨㄞ kuai¹

小篆

❶そむく。もとる。さからふ。䒤(9－30854)に同じ。〔說文〕䒤、戾也、从二𠦍丷一。〔集韻〕䒤、或作レ乖。〔廣雅、釋詁二〕乖、偝也。〔易、序卦〕家道窮必乖。〔左氏、昭、三十〕楚執政衆而乖。〔新書、道

術〕剛柔得レ適、謂二之和一、反レ和爲レ乖。〔白孔六帖〕情非二哀矜一、理乖二明哲一。㊁たがふ。ことなる。〔廣雅、釋詁四〕乖、差也。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕吾獨乖剌而無レ當兮。〔注〕乖、差也。㊂はなれる。〔廣雅、釋詁二〕乖、離也。〔漢書、敘傳〕官失學微、六家分乖。㊃よこしま。〔廣雅、釋詁二〕乖、邪也。㊄利巧な。慧敏な。又、わるがしこい。〔通俗編、性情、乖〕今正謂二小兒黠猾一曰レ乖。㊅古は乖(1－88)に作る。〔字彙補〕乖、古文乖字。

解字　會意。丫（羊の角が左右にそむき分れる意）と丬（分れる意）とを合せて、そむきもとる義を表はす。〔說文、丫部、段注〕八部曰、丬、分也、丬、隸作レ北、乖从レ丫从レ北、皆取二分背之意一。

【乖異】1 kuai¹ i⁴ そむきたがふ。乖違。〔史記、封禪書〕各乖異、難二施用一。〔史記、朝鮮傳〕今兩將圍レ城、又乖異。〔漢書、郊祀志〕各乖異、難二施用一。〔趙岐、孟子題辭解〕其說又多乖異不レ同。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕先儒所レ執、各有二乖異一。

【乖違】2 kuai¹ wei² 乖異に同じ。〔論衡、順鼓〕乖二違禮意一。〔魏志、三少帝、陳留王紀、國內乖違。

【乖越】3 kuai¹ yüe⁴ 度をこえてそむきたがふ。〔桓溫、檄レ胡文〕六合殊レ風、九鼎乖越。〔北史、齊陳臺卿傳〕對往往乖越。〔資治通鑑、梁紀〕〔武帝、普通元年〕人資乖越。〔注〕人非二其才一爲レ乖、資非二其次一爲レ越。

【乖崖】4 kuai¹ yai² ㊀衆人にそむき際だつこと。〔宋史、張詠傳〕詠剛方自任、爲二治尚一嚴猛、自號二乖崖一、以爲、乖則違レ衆、崖不レ利レ物。〔蘇軾、送二路都曹一詩〕恨無二乖崖老一、一洗芥蔕胸一。〔注〕范蜀公東齋記、張詠自二蜀代一去、留二卷實封文字一、與二僧正希白一、且云、十年後開、後十年、公薨二於陳一、訃至、僧發二開所レ留文字一、乃公畫像、自贊曰、乖則違レ衆、崖不レ利レ物、乖崖之名、聊以自表。德。㊁宋、張詠(4－9812··49)の號。

【乖崖集】5 kuai¹ yai² 書名。十二卷、附錄一卷。宋、張詠撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【乖戾】6 kuai¹ li⁴ 道にたがひさしさはる。〔晉書、王接傳〕任城何休、訓釋甚詳、而黜二周王一魯、大體乖戾。

【乖巧】7 kuai¹ ch'iao³ 巧な。惡る賢い。狡獪な。〔和漢三才圖會、原禽類、山雞〕凡山雞、性乖巧而難レ捕。

【乖角】8 kuai¹ ch'üeh² ㊀人に無理難題を言ひかけるもの。乖はそむく、角はあらそふ意。〔朱彧可談〕都下市井、謂二不レ循二理者一、爲二乖角一。㊁そむきはなれる。喰ひ違ふ。〔獨孤及、夏中訥二于逖畢耀一問レ病見レ贈詩、行藏兩乖角、蹭蹬風波中。㊂悧巧な子供。〔堅瓠集〕俗美二聰慧小兒一曰二乖角一。

【乖隔】9 kuai¹ ch'üeh² そむきへだたる。〔後漢書、董祀妻傳〕存亡永乖隔、不レ忍二與レ之辭一。

【乖覺】10 kuai¹ chüeh² ㊀さとくて材能のある人。〔水東日記〕世稱二警悟有二局幹一人一曰二乖覺一。㊁kuai¹ chüeh² おとなびた。ませた。〔紅樓夢、一回〕乖覺可喜。

【乖閒】11 kuai¹ hsien² 意見が合はぬ。〔李朝威、柳毅傳〕幸君子不レ爲二此乖閒一可也。

【乖詭】12 kuai¹ kuei³ いつはり。〔蔡邕、釋誨〕變詐乖詭、以合二時宜一。

【乖疑】13 kuai¹ i² さからひうたがふ。〔後漢書、王允傳〕允矯レ性屈レ意、每相承附、卓亦推レ心、不レ生二乖疑一。

【乖譎】14 kuai¹ chüeh² わるふざけ。〔史記、管蔡世家、注〕索隱述贊曰、穆侯虜レ齊、蕩レ舟乖譎。

【乖遇】15 kuai¹ yü⁴ 不幸な境遇。逆境。〔顏延之、庭誥〕至二於丁年一乖遇、中身迁合者、豈可レ易二地哉一。是以君子道命愈難、識道愈堅。

【乖乖】16 kuai¹ kuai¹ ㊀子供に對して接吻する。㊁悧巧な。才氣のある。㊂小兒を戲れ呼ぶときの稱呼。

【乖乖的】17 kuai¹ kuai¹ te ㊀甚だ靜かに。おとなしく。㊁文句を云はないで。㊂故意に。㊃狡猾に。

【乖乖騙乖乖】18 kuai¹ kuai¹ p'ien⁴ kuai¹ kuai¹ 雙方とも明かに承知しながら話さない。互にだまし合ふ。

【乖滑】19 kuai¹ hua² 狡獪な。ずるい。

【乖闊】20 kuai¹ k'uo⁴ そむき遠ざかる。〔王安石、夜夢二劉姓一。〔讀史方輿紀要、貴州、貴州宣慰使司〕乖西蠻夷長官司、府東北百五十里、云云、明朝洪武五年、土酋楊文眞歸附、改置二今司一、授レ之、又以二土人劉海一爲レ副。

【乖析】38 kuai¹ hsi¹ もとつてまとまらぬ。〔漢書、藝文志〕是以五經乖析、儒學寖衰。

【乖絕】39 kuai¹ chüeh² 仲たがひして交らない。〔魏志、陳思王植傳〕近王婚媾不レ通、兄弟乖絕、吉凶之問塞、慶弔之禮廢。

【乖外】40 kuai¹ hsien⁴ たがふ。ちがふ。理にそむきもとる。差誤。〔潘岳、西征賦〕人度量之乖外、何相越之遼迴。〔注〕善曰、乖外、不レ齊也。〔顏氏家訓、勉學〕多或乖外。

【乖致】41 kuai¹ chih⁴ 反對となる。一致しない。〔宋書、顧覬之傳〕夫生之資氣、清濁異レ源、命之稟數、盈虛乖致、是以心貌詭貿、性運舛殊。

【乖張】42 kuai¹ chang¹ ㊀くひちがふ。互に相反する。背戾。〔梁武帝、孝思賦〕何在レ我而不レ爾、與二二氣一而乖張。〔司馬貞、補史記序〕其中遠近乖張、詞義踳駮、或篇章倒錯、或贊論蠡疏。〔韓愈、符讀二書城南一詩〕二十漸乖張、清溝映二汙渠一。㊁ひねくれてゐる。〔紅樓夢、三回〕行爲偏僻、性乖張。

【乖背】43 kuai¹ pei⁴ もとりそむく。背馳する。〔謝靈運、辨宗論〕然則二聖建言、何乖背之甚哉。〔舊唐書、蕭瑀傳〕使レ與二前敕一不二相乖背一。〔曾鞏、秋懷詩〕片心皎皎事乖背、衆醉冥冥勢凌突。

【乖悖】44 kuai¹ pei⁴ そむきもとる。乖戾。〔荀子、法行〕身不二善而怨一人不二亦反一乎、注〕反、謂二乖悖一。

【乖方】45 kuai¹ fang¹ 道に背く。方は道。〔晉書、八王傳序〕付托失レ所、受二任乖一レ方。〔陸倕、新刻漏銘〕擊刀舛次、叢木乖レ方。

【乖法】46 kuai¹ fa³ 法にそむく。〔淨住子、滌除二業門一〕動止乖レ法、非二禮而觀。

【乖畔】47 kuai¹ p'an⁴ そむく。君國にはむかふ。謀叛。〔漢書、谷永傳〕堯遭二洪水之災一、天下分絕爲二十二州一、制二遠之道微、而無二乖畔之難一者、德厚恩深、無二怨於下一也。〔後漢書、東夷傳序〕雖二時有一乖畔一、而使驛不レ絕。

【乖繆】49 kuai¹ miu⁴ そむきたがふ。くひちがふ。繆は違ふの意。〔漢書、韋玄成傳〕乖二繆本義一。〔晉書、

殷仲堪傳〕經理乖繆、號令不レ一。

【乖分】50 クワイブン そむきわかれる。〔陶潛、與二殷晉安一別詩〕語默自殊レ勢、亦知レ當二乖分一。

【乖僻】51 Kuai¹ p'i⁴ ねぢけもとる。僻は邪惡。〔紅樓夢、二回〕彼殘忍乖僻之邪氣、不能蕩溢於光天化日之中。

【乖別】52 クワイベツ そむきわかれる。〔周禮、春官、保章氏〕乖別之妖祥。〔曹植、朔風詩〕昔我同袍、今永乖別。〔魏書、馮誕傳〕性趣乖別。〔唐書、韓愈傳〕帝曰、愈言二我奉レ佛太過一、猶可レ容、云云、言何乖別邪。

【乖便】53 kuai¹ pien⁴ 利口。

【乖剌】54 クワイラツ そむきもとる。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕吾獨乖剌而無レ當兮、心悼怵而耄思。〔漢書、劉向傳〕膠戾乖剌。〔漢書、杜欽傳〕無二乖剌之心一。

【乖亂】55 クワイラン そむきみだれる。〔左氏、昭、二十三〕諸侯乖亂、楚必大奔。〔管子、形埶解〕天下乖亂、而民不レ親也。〔史記、秦紀〕君臣乖亂。

【乖濫】56 クワイラン そむきみだれる。〔後漢書、杜喬傳〕其爲二乖濫一、胡可二勝言一。

【乖離】57 クワイリ そむきはなれる。乖貳。〔韓詩外傳、二〕上下乖離。〔荀子、天論〕父子相疑、上下乖離。〔漢書、劉向傳〕乖離不レ和。〔孫楚、征西官屬送二於陟陽侯一作詩〕乖離即二長衢一。

【乖龍】58 クワイリヨウ 人の身中、又は古木・楹柱などに住む怪物の名。〔韓愈、答三道士寄二樹雞一詩〕煩レ君自入二華陽洞一、直割二乖龍左耳一來。〔茅亭客話〕世傳、乖龍者、苦二於行雨一、而多方竄匿、藏二人身中一、或在二古木楹柱之內、及樓閣鴟甍中一、爲二雷神捕レ之。

【乖戾】59 クワイレイ そむきもとる。たがふ。乖悖。〔史記、天官書〕不レ齊爲二乖戾一。〔易林〕口不レ從レ心、欲レ東反西、與レ意乖戾、動擧失レ便。

【乖歪】60 kuai¹ wai¹ そむきゆがむ。

【乖橫】61 kuai¹ hêng⁴ わがままをいふ。

【乖彎】62 kuai¹ wan¹ ねぢれて弓形になる。

【乖兒子】63 kuai¹ êrh² tzŭ 可愛い子供。

【乖心肝】64 kuai¹ hsin¹ kan¹ 可愛い子供。心から可愛い者。

【乖性兒】65 kuai¹ hsing⁴ êrh ねぢけてなまめくさま。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕紅娘看時、有些箇乖性兒。

【乖小子】66 kuai¹ hsiao³ tzŭ わるがしこい子供。

【乖小使】67 kuai¹ hsiao³ shih 美男子。〔還魂記、詰病〕我眼裏不逢乖小使。

【乖寶貝兒】68 kuai¹ pao³ pei⁴ êrh 利口な子供。可愛いたからものの意。

【出レ乖弄レ醜】69 クワイヲイダシシウヲロウス 自己の短所缺點を人に知られること。〔通俗編、出レ乖弄レ醜〕見二喬孟符金錢記、關漢卿金線地二曲一。

【乗】150 サウ 棗(6－14937)の古字。〔字彙補〕乗、古文棗字。

八畫

【㚔】152 カウ 幸(4－9176)の古字。〔玉篇〕㚔、古文幸。

【乗】153 シヨウ 乘(1－154)の俗字。〔正字通〕乘、俗作レ乗。

九畫

【乘】154

小篆 古文

㊀シヨウ ジヨウ 〔集韻〕神陵切 ㄔㄥˊ 蒸 ch'êng²

㊁シヨウ ジヨウ 〔集韻〕石證切 ㄕㄥˋ 徑 shêng⁴

㊀❶のる。のせる。舟・車などにのる。馬などにまたがる。〔廣韻〕乘、駕也、登也。〔易、乾〕時乘二六龍一以御レ天。〔禮、月令〕天子始乘レ舟。〔左氏、桓、十八〕使二公子彭生乘レ公。〔注〕上レ車曰レ乘。〔列子、黃帝〕風乘レ我耶、我乘レ風耶。❷のぼる。〔釋名、釋姿容〕乘、陞也、登亦如レ之也。〔詩、豳風、七月〕亟其乘レ屋。〔傳〕乘、升也。〔列子、黃帝〕俱乘二高臺一。〔釋文〕乘、登也。〔楚辭、九章、涉江〕乘二鄂渚一而反顧兮。〔注〕乘、登也。❸つけこむ。よる。つけいる。〔孟子、公孫丑上〕雖レ有二智慧一、不レ如レ乘レ勢。〔淮南子、氾論訓〕強弱相乘。〔注〕乘、加也。〔漢書、陳湯傳〕吏士喜、大呼乘レ之。〔注〕乘、逐也。〔班固、典引〕乘二其命一、賜二彤弧黃鉞之威一。〔注〕乘、因也。❹しのぐ。勝つ。もと椉(6－15016)に作る。〔正字通〕乘、說文作レ椉。〔說文〕椉、覆也、从二入桀一。桀、黠也、軍法入レ桀曰レ椉。〔小爾雅、廣言〕乘、淩也。〔書、西伯戡黎序〕周人乘レ黎。〔傳〕乘、勝也。〔國語、周語中〕乘レ人不義。〔注〕乘、陵也。❺をさめる。〔詩、豳風、七月〕亟其乘レ屋。〔箋〕乘、治也。❻用ひる。〔漢書、司馬相如傳〕乘二絳幡之素蜺一兮。〔注〕乘、用也。❼はかる。〔周禮、天官、宰夫〕乘二其財用之出入一。〔注〕乘、猶レ計也。〔周禮、夏官、槀人〕乘二其事一。〔注〕乘、計也。❽かける。かけざん。かけあはせる。〔算經、用字例義〕乘、法之多位也。❾古は兖(1－314)に作る。〔說文〕椉、兖、古文椉从レ几。❿或は兖(1－318)に作る。〔集韻〕乘、或作レ兖。⓫姓。〔世本〕乘睢、古賢人、此乘姓之始。〔山海經、海內經〕咸鳥生二乘釐一、乘釐生二後照一。㊁❶かず二つの稱。一對。そろひ。雙。〔廣雅、釋詁四〕乘、二也。〔儀禮、聘禮記〕宰夫始歸二乘禽一。〔注〕乘、謂二乘行之禽一也、謂二鴈鶩之屬、其歸レ之、以レ雙爲レ數。❷同じ物四つ一そろひの稱。〔方言、六〕四雁曰レ乘。〔儀禮、聘禮〕乘皮設。〔注〕物四曰レ乘。〔禮、少儀〕乘壺酒。〔注〕乘壺、四壺也。〔孟子、離婁下〕發二乘矢一而後反。〔注〕乘、四也。❸一車四馬の稱。車をかぞへるに用ひる語。〔詩、小雅、六月〕元戎十乘、以先啓レ行。〔左氏、隱、元〕具二卒乘一。〔注〕車曰レ乘。❹兵車と兵數とをかぞへる語。兵車一乘には士三人、卒七十二人、輜重二十五人。〔穀梁、文、十四〕長轂五百乘。〔注〕長轂、兵車、四馬曰レ乘、一乘、甲士三人、步卒七十二人、五百乘、合二三萬七千五百人一。〔孫子、作戰〕孫子曰、凡用レ兵之法、馳車千駟、革車千乘。〔集注〕杜牧曰、輕車乃戰車也、古者車戰、革車・輜車・重車也、載二器械財貨衣裝一也、司馬法曰、一車、甲士三人、步卒七十二人、炊家子十人、固二守衣裝一五人、廐養五人、樵汲五人、輕車七十五人、重車二十五人、故二乘、兼二一百人一爲二一隊一。❺土地の廣さの名。〔禮、郊特牲〕唯社丘乘共二粢盛一。〔注〕四丘六十四井曰レ甸、或謂二之乘一、乘者、以下於二車賦一出中長轂一乘上。〔公羊、昭、元〕千乘之國。〔注〕十井爲二一乘一。❻記錄。歷史。ことがらを書きのせたもの。晉の春秋の名。〔正字通〕乘、晉史曰レ乘、毛氏曰、乘者、載也、取レ載レ事爲レ名。〔孟子、離婁下〕晉之乘。〔注〕乘者、興二於田賦乘馬之事一、因以爲レ名。〔音義〕晉名二春秋一爲レ乘者、取二其善惡無レ不レ載。❼佛衆生を涅槃の彼岸に到らしめる方便。車乘が物を載せ運ぶのに喩へていふ。すくひ。濟度。又、禪家の階級の稱。〔景德傳燈錄、十三、終南山圭峯宗密禪師〕悟二我空偏眞之理一而修者、是小

乘禪、悟二我法二空所レ顯眞理一而修者、是大乘禪。邦**のる**。だまされる。

名乘 ノリ。アキ。シゲ。

解字 會意。入と桀の合字。桀黠なものを磔柱にのせて、はりつけに處する義。入はのせおほふ意。〔說文、桀、段注〕加二其上一曰レ桀、入乘レ車、是其一耑也、入者、覆之意也。▽（金文） 會意。大と舛と木との合字。人が兩の手足を開き（大）、足首をそむけて（舛）、木に乘る、はりつけの意を表はす。

【乘闇】1 ジョウアン 夜闇に乘ずる。〔日本政記、崇德天皇〕長承元年三月、謀三乘レ闇刺二殺之一。

【乘韋】2 ジョウヰ 四枚のなめしがは。多くの贈物をする前の僅かな贈物。〔左氏、僖、三十三〕鄭商人弦高、將レ市二於周一、遇レ之、以二乘韋一先二牛十二一犒レ師。〔注〕乘、四韋也。

【乘維】3 ジョウヰ 東維に乘ること。殷の傳說が星になつた故事。東維とは箕星と斗星との間で天漢の東をいふ。〔莊子、大宗師〕傳說得レ之、以相二武丁一、奄二有天下一、乘二東維一、騎二箕尾一、而比二於列星一。

【乘茵】4 ジョウイン 車に乘る。茵は車中の敷きもの。轉じて、車をいふ。〔班固、西都賦〕乘レ茵步レ輦、惟所二息宴一。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、茵、蓐也。

【乘雲】5 ジョウウン 雲に乘る。轉じて、高位にのぼること。〔莊子、天地〕千歲厭レ世、去而上僊、乘二彼白雲一、至二於帝鄉一。〔王融、永明九年策二秀才一文〕是以崆峒有二順風之請一、華封致二乘雲之拜一。

【乘屋】6 ジョウヲク 屋根に登つて之を治める。屋根を葺く。〔詩、豳風、七月〕亟其乘レ屋。〔集傳〕亟升二其屋一而治レ之。

【乘雅】7 ジョウガ 古の駕を作つた人。〔呂覽、勿躬〕乘雅作レ駕、寒哀作レ御。

【乘戒】8 ジョウカイ 佛乘とは實相を開悟する智慧、戒とは身口の惡を淨除する制法。大乘の菩薩は乘に急、戒に緩、小乘の比丘は戒に急、乘に緩である。〔涅槃經、六〕於レ乘緩者、乃名爲レ緩、於レ戒緩者、不二名爲レ緩。

【乘尻】9 ノリジリ ㊀競馬の乘手。〔名目抄〕乘尻。㊁乘馬に巧な人。のりて。〔源平盛衰記、四十二、屋島合戰事〕主も究竟の乘尻也、馬も實にすくやか也。

【乘航】10 ジョウカウ 船に乘る。乘船。〔法言、寡見〕乘レ國者、其如レ乘レ航乎、航安則人斯安矣。

【乘號】11 ジョウガウ 掛け算の符號。×形、又・形。

【乘角】12 ch'êng² chiao³ 無法者。わるもの。

【乘鶴】13 ジョウカク 鶴にのつて昇天する。浮世を去つて仙人となること。〔拾遺記、崑崙山〕四面有レ風、羣仙常駕レ龍乘レ鶴、遊二戲其間一。

【乘合】14 ノリアヒ あひのり。同じ舟又は車などに、他の人々と一緒に乘る。〔東海道名所記〕乘合ひは一人は四錢。

【乘閒】15 ジョウカン すきにつけこむ。〔漢書、趙充國傳〕內不レ損二威武之重一、外不レ令三虜得二乘閒之埶一、九也。〔魏志、陳留王傳〕乘レ閒作レ禍。〔蘇頲、睿宗受禪制〕階レ禍稔レ惡、伺レ隙乘レ閒。

【乘艦】16 ジョウカン 軍艦に乘る。

【乘雁】17 ジョウガン 四羽の雁。〔揚雄、解嘲〕乘雁集、不レ爲レ之多一。〔注〕善曰、四雁曰レ乘。

【乘氣】18 ノリキ 興味に誘はれ、調子がつくこと。氣のはずむこと。氣乘り。乘地（ママ）に同じ。

【乘機】19 ジョウキ よい機會につけこむ。〔南史、宋高祖紀〕乘レ機奮發、義不レ圖レ全。〔周宗廟歌〕風雲猶聽レ命、龍躍遂乘レ機。〔韓愈、與二鄂州柳中丞一書〕乘レ機逐レ利、四出侵暴。

【乘丘】20 ジョウキウ ㊀丘の名。馬車の形に似た丘。〔爾雅、釋丘〕如レ乘者乘丘。〔釋名、釋丘〕如レ乘曰二乘丘一、四馬曰レ乘、一基在レ後似レ車、四列在レ前、似下駕二馬車一之形上也。㊁地名。春秋の魯の地。漢、縣を置く。山東省滋陽縣の西北。〔春秋、莊、十〕公敗二宋師于乘丘一。〔戰國、魏策〕張儀謂二魏王一曰、齊遂伐レ趙、取二乘丘一。㊂縣名。㋑漢、置く。侯國。山東省滋陽縣の西北。〔漢書、地理志上〕泰山郡、縣二十四、乘丘。㋺隋、置く。山東省鉅野縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東省、兗州府、濟寧州、鉅野縣〕乘丘城、在二縣東南五十里一、隋所レ置レ縣也。㊃複姓。〔括地志〕乘丘、在二瑕丘縣西北一、居レ之者以爲レ氏、望出二平陽一。

【乘客】21 ジョウキャク ジョウカク 汽車、又は船などの乘物に乘る人。

【乘居】22 ジョウキョ 二人並んでゐる。〔列女傳、仁知、魏曲沃負傳〕未三嘗見二乘居而匹處一也。〔張華、鷦鷯賦〕乘居匹遊、翩翩然有二以自得一。

【乘虛】23 ジョウキョ すきにつけこむ。〔魏志、袁紹傳〕將軍簡二其精銳一、分爲二奇兵一、乘レ虛迭出、以擾二河南一、不レ及二二年一、可二坐克一也。

【乘遽】24 ジョウキョ 宿つぎの早馬に乘る。遽は驛車の意。〔左氏、昭、二〕鄭公孫黑將レ作レ亂、子產在レ鄙、懼レ弗レ及、乘レ遽而至。〔注〕遽、傳驛也。

【乘凶】25 ジョウキョウ 父母が死んだ時、喪に服さないで妻を娶ること。凶時につけこむ意。〔識小錄〕人父母纔死、不レ成レ服而反娶、謂二之乘凶一、此事遍二天下一、不二獨吳中一。

【乘興】26 ジョウキョウ 興味に乘ずる。〔晉書、王徽之傳〕嘗居二山陰一、夜雪初霽、月色淸朗、四望皓然、獨酌レ酒、詠二左思招隱詩一、忽憶二戴逵一、逵時在レ剡、便乘二小舟一詣レ之、經レ宿方至、造レ門不レ前而反、人問二其故一、曰、徽之本乘レ興而來、興盡而反、何必見二安道一耶。〔書言故事、送行類〕有レ所レ往云レ乘レ興。

【乘禽】27 ジョウキン むらがりすむ鳥。雉や雁の類。一說に、二匹一對の鳥。〔周禮、秋官、掌客〕乘禽日九十雙。〔注〕乘禽、乘行羣處之禽、謂二雉雁之屬一、於レ禮以レ雙爲レ數。

【乘釁】28 ジョウキン すきまにつけこむ。〔後漢書、鄧禹傳〕光武籌、赤眉必破二長安一、欲三乘レ釁幷二關中一。

【乘駒】29 ジョウク 四匹の駒。駒は六尺以下の馬。〔詩、陳風、株林〕乘二我乘駒一、朝二食于株一。〔傳〕大夫乘レ駒。〔箋〕馬六尺以下曰レ駒。

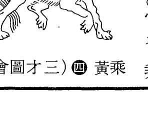
【乘驅】30 ジョウク 馬車に乘る。〔左氏、昭、二十〕乘驅自二閱門一入。

【乘具】31 ジョウグ 馬に乘る道具。〔北史、魏孝文帝紀〕太僕乘具、內庫弓矢。〔舊唐書、職官志三〕尚乘局云云、司庫、掌二鞍轡乘具一。

【乘空】32 ジョウクウ ㊀空をかける。〔列子、黃帝〕乘レ空如レ履レ實。㊁ch'êng² k'ung¹ 隙に乘ずる。虛につけこむ。

【乘掛】33 ノリカケ 荷を負つた馬の上に乘ること。〔好色五人女、二〕通し駕籠か乘掛けで參らずに、物好なるぬけ參りして。

【乘黃】34 ジョウクヮウ ㊀四匹の黃色い馬。〔詩、秦風、渭陽〕何以贈レ之、路車乘黃。〔傳〕乘黃、四馬皆黃也。〔詩、鄭風、大叔于田〕叔于田、乘二乘黃一。〔列女傳、賢明、秦穆公姬傳〕路車乘黃。㊁神馬をいふ。〔管子、小匡〕地出二乘黃一。〔注〕乘黃、神馬之名。〔墨子、非攻下〕地出二乘黃一。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一引〕將軍得レ名三十載、人閒又見眞乘黃。㊂晉の官名。乘輿を掌る。〔廣韻〕黃、亦官名、有二乘黃令一、晉官、主二乘輿金根車一也。㊃獸名。狐に似て背に角があり、之に乘れば二千歲の壽を得るといふ。〔山海經、海外西經〕白民之國、有二乘黃一、其狀如レ狐、其背上有レ角、乘レ之、壽二千歲。〔三才圖會、鳥獸四、乘黃〕乘黃、西海外白民國、有二乘黃馬一、白身被髮、狀如レ狐、其背上有レ角、乘レ之、壽二千歲。



乘黃 ㊃（三才圖會）

【乘黃朱】35 ジョウクヮウシュ 四頭の黃毛朱鬣の馬。〔書、康王之誥〕皆布二乘黃朱一。〔傳〕諸侯皆陳二四黃馬朱鬣一、以爲二庭實一。

【乘廣】36 ジョウクヮウ 軍車。兵車。廣は橫陳の車。〔左氏、宣、十二〕楚子爲二乘廣三十乘一、分爲二左右一。〔疏〕襄十一年、鄭人賂二晉侯一、以二廣車・軘車淳十五乘一、甲兵備、甲兵從レ之、是兵車明矣、鄭玄云、廣車、橫陳之車。〔李衞公問對、上〕楚子乘廣二十乘。

【乘計】37 ジョウケイ 勘定。かぞへること。〔周光鎬、黃河賦〕巧歷不レ能二以乘計一、司虞不レ能二以目書一。

【乘橋】38 ジョウケウ 橋に乘る。橋は山行に用ひる車。〔吳志、薛綜傳〕遵二乘橋之安一、遠二履冰之險一。

【乘蹻】39 ジョウケウ 道家の飛行の術。〔抱朴子、雜應〕若能乘蹻者、可三以周二流天下一、不レ拘二山河一、凡乘蹻道有二三法一、一曰龍蹻、二曰虎蹻、三曰鹿盧蹻。

【乘隙】40 ジョウゲキ すきにつけこむ。〔李德林、從レ駕還レ京詩〕玄覽時乘レ隙。

【乘軒】41 ジョウケン 大夫の車に乘ること。又、大夫となること。軒は大夫の車。〔左氏、閔、二〕衞懿公好レ鶴、鶴有二乘レ軒者一。〔左氏、僖、二十八〕數レ之、以下其不レ用二僖負羈一、而乘レ軒者三百人上也。〔注〕軒、大夫車也。〔列子、黃帝〕縞衣乘レ軒。〔史記、管蔡世家〕乃乘レ軒者三百人。〔說苑、善說〕有二乘レ軒之賞一。〔鮑照、舞鶴賦〕入二衞國一而乘レ軒。

【乘堅】42 ジョウケン　固くしつらへた車、又は鍛へのよい鞍などに乘ること。〔漢書、食貨志上〕乘レ堅策レ肥、履レ絲曳レ縞。

【乘權】43 ジョウケン　❶權勢につけこむ。權勢に乘ずる。〔漢書、劉向傳〕夫乘レ權藉レ勢之人、子弟鱗二集於朝一。❷古代の人名。〔列子、力命〕多偶・自專・乘權・隻立四人、相與游二於世一。

【乘弘】44 ジョウコウ　漢、河南の人。易を京房に受け、博士となる。〔前漢書、八十八〕。

【乘國】45 ジョウコク　國を治める。〔法言、寡見〕乘レ國者、其如二乘航一乎。

【乘槎】46 ジョウサ　いかだにのる。航海する。〔博物志、雜說下〕舊說云、天河與レ海通、云云、多齎レ糧乘レ槎而去、十餘日中、猶レ觀二星月日辰一、自後茫茫忽忽、亦不レ覺二晝夜一。〔北史、韋夐傳〕乘レ槎下二釣磯一。

【乘坐】47 ジョウザ　乘る。坐乘。

【乘策】48 ジョウサク　馬にのり、むち打つて走らせる。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕欲二乘策兮縱邁一、疾二吾俗兮作レ讒。

【乘氏】49 ジョウシ　縣名。❶漢、置く。故城は今の山東省曹縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府、曹州、曹縣〕乘氏城、縣東北五十里、春秋時乘邱地、云云、漢置二乘氏縣一、屬二濟陰郡一、云云、後魏仍屬二濟陰郡一。❷後魏、移し置く。今の山東省菏澤縣治。❶を見よ。

【乘矢】50 ジョウシ　四本ひとそろひの矢。〔儀禮、鄉射禮〕挾二乘矢一、升レ自二西階一。〔孟子、離婁下〕抽レ矢叩レ輪去二其金一、發二乘矢一而後反。〔集注〕乘矢、四矢也。〔漢書、郊祀志上〕路弓乘矢。

【乘志】51 ジョウシ　歷史をいふ。史乘。〔宋書、徐廣傳〕左史述レ言、右官書レ事、乘志顯二于晉鄭一、陽秋著二乎魯史一。

【乘時】52 ジョウジ　清、沈祚昌(**6**－**17189**・・583)の字。

【乘舟】53 ジョウシュウ　❶舟にのる。乘船。〔詩、邶風、二子乘舟〕二子乘レ舟。❷乘用の舟。〔左氏、昭、十七〕獲二其乘舟餘皇一。〔注〕餘皇、舟名。

【乘日】54 ジョウジツ　一日中。朝から晩まで。日を車に喩へて、之に乘るといふ。〔莊子、徐無鬼〕教レ予曰、若乘二日之車一、而遊二於襄城之野一。〔注〕乘二日之車一、出作入息也。〔釋文〕司馬云、以レ日爲レ車也。〔王僧達、答二顏延年一詩〕歡二此乘日暇一、忽忘二逝景侵一。

【乘日養】55 ジョウジツヨウ　一日中、遊びまはる樂しみ。養は保養。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩、王粲〕既作二長夜飲一、豈顧二乘日養一。〔注〕銑曰、顧、惟、養、樂也、言、常爲二長夜之宴一、豈惟二乘レ日而樂一。

【乘車】56 ジョウシャ　❶車に乘る。〔世說新語、文學〕未下嘗夢丙乘レ車入二鼠穴一、擣レ韲噉乙鐵杵甲、皆無レ想無レ因故也。❷乘用の車。〔禮、曲禮上〕乘二君之乘車一、不二敢曠レ左。〔左氏、莊、十二〕南宮萬奔レ陳、以二乘車一輦二其母一、一日而至。〔戰國、西周策〕周君留レ之十四日、載以二乘車駟馬一而遣レ之。〔史記、衞康叔世家〕召護駕二乘車一。

【乘車之會】57 ジョウシャノクワイ　武力を用ひない會合。兵車之會(**2**－**1462**・・97)の對。〔公羊、僖、二十二〕約以二乘車之會一。〔國語、齊語〕乘車之會三。〔史記、封禪書〕乘車之會六。

【乘車戴笠】58 ジョウシャタイリフ　越の風俗で、初めて人と交際する時に祈る言葉。貧富貴賤によつてお互に交はりを變へない意。君が高位になつて車に乘り、僕が貧賤で笠を戴く樣な時でも、君は車から下りて御辭儀をしてくれ、反對の場合には僕もさうするとの意。〔風土記〕越俗性率朴、初與レ人交有レ禮、封二土壇一、祭以二犬雞一、祝曰、君乘レ車、我戴レ笠、他日相逢下レ車揖、君擔レ簦、我跨レ馬、他日相逢爲レ君下。

【乘城】59 ジョウジヤウ　城にのぼる。〔列子、說符〕丁壯者、皆乘レ城而戰。〔漢書、高帝紀上〕堅守乘レ城。〔淮南子、人閒訓〕得レ無レ乘レ城。

【乘手】60 ノリテ　乘る人。又、乘ることの上手な人。〔海人藻芥〕能き乘手の乘れば能くなる也。〔丹波與作、中〕今日の乘手は氏神やくそくの馬次ぎ迄。

【乘從】61 ジョウジュウ　乘つて從ふ。〔論衡、佚文〕子雲乘「從。

【乘且】62 ジョウショ　駿馬の名。一に乘旦(76)に作る。〔新書、匈奴〕駕二四馬一、載二綠蓋一、從二數騎一、御二驂乘且一。

【乘勝】63 ジョウショウ　勝つた勢に乘ずる。〔史記、高祖紀〕當二是時一、秦兵彊、常乘レ勝逐レ北。〔後漢書、公孫述傳〕囂不下及二此時一、推レ危乘レ勝、以爭中天命上、而退欲レ爲二西伯之事一。〔晉書、羊祜傳〕乘レ勝席卷、徑至二成都一。

【乘乘】64 ジョウジョウ　動くやうで而も動かぬさま。一に魁、又は儽々に作る。〔老子、二十〕乘乘兮若レ無レ所レ歸。〔覈詁〕河上注曰、我乘乘如二窮鄙無レ所レ歸、臧疏、作二魁無レ所レ歸。

【乘數】65 ジョウスウ　數學用語。乘ずる數。掛ける數。被乘數の對。

【乘正】66 ジョウセイ　正道による。〔梁元帝、薦二鮑幾一表〕陛下則レ天緯レ地、乘レ正馭レ才。

【乘勢】67 ジョウセイ　勢につけこむ。〔孟子、公孫丑上〕雖レ有二智慧一、不レ如レ乘レ勢。〔韓非子、八說〕以二智士之計一、處二乘勢之資一。

【乘軺】68 ジョウセウ　軺に乘つて使をするをいふ。軺は使者の乘る車。〔南史、陳伯之傳〕佩レ紫懷レ黃、讚二帷幄之謀一、乘レ軺建レ節、奉二疆場之任一。

【乘石】69 ジョウセキ　車に乘る時の踏み石。〔詩、小雅、白華〕有二扁斯石一、〔傳〕扁扁、乘石貌。〔周禮、夏官、隸僕〕王行洗二乘石一。〔淮南子、齊俗訓〕履二乘石一、攝二天子之位一。

【乘積】70 ジョウセキ　數學用語。或る數と他の或る數とをかけあはせて得た數。單に積ともいふ。〔算經、用字例義〕積、乘成之數也。

【乘船】71 ジョウセン　船に乘る。乘舟。乘航。〔魏志、東夷傳〕國人嘗乘レ船捕レ魚。

【乘羨】72 ジョウセン　餘裕に乘ずる。羨はあまる。〔鹽鐵論、力耕〕追レ利乘レ羨之所レ致也。

【乘邅】73 ジョウセン　物の音響などが連なりあふさま。〔馬融、長笛賦〕按挐捘臧、遞相乘邅。〔注〕向曰、謂二聲相擊連會合貌一。

【乘打】74 ノリウチ　乘物に乘つたままで過行くこと。下乘の禮をせず、憚らずに通り過ぎること。〔海人藻芥、中〕法親王門跡前、不レ可二乘打一也。

【乘替】75 ノリカヘ　一つの馬・車・舟などから、同種類の他のもの、或は異種類のものに乘り替へること。又、其の爲に用意せられた乘物。乘換へ。〔今昔物語、二十五〕乘替の馬などに乘て行緩で有ければ。

【乘旦】76 ジョウタン　良馬の名。一に乘且に作る。〔王襃、聖主得二賢臣一頌〕及レ至下駕二齧膝一、驂中乘旦上、王良執レ靶、韓哀附レ輿。〔注〕善曰、張晏曰、齧膝・乘旦、皆良馬名也。〔漢書、王襃傳、王先謙補注〕王念孫曰、乘旦當レ爲二乘且一、字之誤也、且與レ駔同。

【乘地】77 ノリチ　乘氣(18)に同じ。〔伊賀越增補合羽之龍〕川さんが乘り地で、其の事をたのむから。

【乘治】78 ジョウヂ　馬を調練すること。調馬。〔周禮、夏官、巫馬〕掌下養二疾馬一而乘中治之上。

【乘瀦】79 アマヌマ　武藏國北足立郡天沼(村)の用字。

【乘除】80 ジョウヂョ　❶數學用語。かけざんとわりざん。又、計算。〔吳志、趙達傳〕此術微妙、頭乘尾除、一算之法、父子不二相語一。〔宋書、律曆志下〕測候不レ精、遂乃乘除翻謬。〔珠璣藪〕乘除、乘、起、除、下。❷榮えたり、衰へたり。〔韓愈、三星行〕名聲相乘除、得失少レ有レ餘。〔長生殿、疑讖〕想古來多少乘除、顯二得個勳名一垂二宇宙一。❸手加減する。〔酉陽雜俎、語資〕若念二貧道四句一乘二除語一、則人人爲二國手一。

【乘泥】81 ジョウデイ　古、車に取附けて泥よけの用に供したもの。車の土拂ひ。〔倭名類聚抄、舟車部、車具、乘泥〕楊氏漢語抄云、乘泥、車乃豆知波良非。〔箋注〕按、晉書輿服志、有二小使車屏泥一、後世所レ謂下廉蓋此、後漢書劉玄傳、乘二鮮車一大馬赤屏泥、注、赤屏泥、乘泥。

【乘潮】82 ジョウテウ　潮の干滿、又は潮流の工合に乘ずる。潮を利用する。〔李頻、送二侯郎中任二新安一詩〕江界乘レ潮入、山川值レ勝遊。〔陸游、秋日雜詠詩〕白蟹鱟魚初上レ市、輕舟無數去乘レ潮。〔元史、張弘範傳〕次二崖山一、宋軍千餘艘碇二海中一、建二樓櫓其上一、先麾二北面一軍一、乘レ潮而戰、不レ克。

【乘躡】83 ジョウデフ　後から追ひかける。〔陸機、君子行〕休咎相乘躡、翻覆若二波瀾一。〔注〕善曰、杜預左氏傳注曰、乘、登也、廣雅曰、躡、履也。

【乘田】84 ジョウデン　春秋時代、魯國で家畜を飼養することを掌つた官の名。〔孟子、萬章下〕孔子嘗爲二乘田一矣。〔集注〕乘田、主二苑囿芻牧一之吏也。

【乘傳】85 ジョウデン　驛馬に乘ること。又、その馬。〔史記、平準書〕使下孔僅東郭咸陽乘レ傳、擧二行天下鹽鐵一、作中官符上。〔漢書、高帝紀下〕乘レ傳詣二雒陽一。

〔注〕如淳曰、律、四馬高足爲二置傳一、四馬中足爲二馳傳一、四馬下足爲二乘傳一、二馬爲二軺傳一、急者乘二一乘傳一。

【乘電】86 ジョウデン　いなづまに乘つて走る。行くことの疾い喩。〔謝朓、和二宋記室省中一詩〕懷レ歸欲レ乘レ電、瞻レ言思解レ翼。

【乘杜】87 ジョウト　一に相杜に作る。古、車に四馬を駕する法を考へ出した人。〔荀子、解蔽〕奚仲作レ車、乘杜作二乘馬一。〔注〕世本云、相土作二乘馬一、杜與レ土同、以其作二乘馬之法一、故謂二之乘杜一。〔王先謙集解〕王念孫曰、古無下謂二相土一爲中乘杜一者上、乘杜、蓋桑杜之誤、相・桑古同聲、故借レ桑爲レ相、隸書、桑或作レ桒、乘或作レ乘、二形相似、又因下文乘馬二而誤爲レ乘耳。

【乘馬】88 ジョウバ　㊀馬に乘る。〔易、屯〕屯如邅如、乘レ馬班如。〔易、繫辭下〕服レ牛乘レ馬。㊁のるための馬。乘牡。乘匹。〔國語、楚語上〕納二其乘馬一。〔管子、臣乘馬〕請二問乘馬一。㊂四頭の馬。一乘の車には四頭の馬がつくからいふ。〔詩、小雅、鴛鴦〕乘馬在レ廄、摧レ之秣レ之。〔詩、陳風、株林〕駕二我乘馬一、說二于株野一。〔禮、檀弓上〕冉子攝二束帛乘馬一而將レ之。㊃複姓。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕漢書溝洫志、有二諫議大夫乘馬延年一、又張掖有二乘馬敦一。㊄ chéng mǎ

【乘馬數】89 ジョウバスウ　管子の篇名。〔車と馬。

【乘馬之法】90 ジョウバノホウ　古代の軍賦の制で、一甸から戎馬四頭、兵車一乘、其の他を出す賦法。〔漢書、刑法志〕甸、六十四井也、有二戎馬四匹一、兵車一乘、牛十二頭、甲士三人、卒七十二人、干戈備具一、是謂二乘馬之法一。

【乘方】91 ジョウホウ　數學用語。乘冪（105）に同じ。

【乘鴈】92 ジョウガン　四匹の黒白雜毛の馬。〔詩、鄭風、大叔于田〕叔于田、乘二乘鴈一。〔傳〕驪白雜毛曰レ鴈。

【乘白】93 ジョウハク　古、軍賦の制で、一甸から兵車一乘と軍卒を出す賦法。乘は長轂一乘を出すべき廣さの地。白は甸徒。一說に、白は百の誤で、卒百人といふ。〔荀子、王制〕司馬知二師旅甲兵乘白之數一。〔注〕四丘爲レ甸、亦謂二之乘一、以二其治一レ田、則謂二之甸一、出二長轂一乘一、則謂二之乘一、白謂二甸徒一、猶二今之白丁一也、或曰、白當レ爲レ百、百人也。

【乘筏】94 ジョウバツ　いかだにのること。〔宋史、岳飛傳〕宕軍乘レ筏、張二牛革一以蔽二矢石一。

【乘法】95 ジョウホウ　數學用語。掛算ザンの〔算法統宗、算義總一因乘論〕異乘同除者、謂二先應下用二除法一而後用中乘法上者一、其除法多有二畸零一不盡之數一、則何由而用二乘法一乎。

【乘法表】96 ジョウホウヒョウ　數學用語。一から九迄の或る二數を互にかけ合せた積を記した表。九九表。九九歌（1－167‥105）を見よ。

【乘皮】97 ジョウヒ　四枚一そろひの皮。〔儀禮、聘禮〕乘皮設。〔注〕物四曰レ乘、皮、麋鹿皮也。

【乘肥】98 ジョウヒ　肥えた馬にのる。〔論語、雍也〕赤之適レ齊也、乘二肥馬一、衣二輕裘一。〔新論、通塞〕乘レ肥衣レ輕、怡然自得。

【乘匹】99 ジョウヒツ　乘馬（88）の㊁に同じ。〔史記、趙世家〕造父取二驥之乘匹一、與二桃林・盜驪・驊騮・騄耳一、獻二繆王一。

【乘桴】100 ジョウフ　いかだに乘る。桴は竹木を編んで舟に代用するもの。〔論語、公冶長〕乘レ桴浮二於海一。〔淮南子、說山訓〕方レ車而踰レ越、乘レ桴而入胡、欲レ無レ窮、不レ可レ得也。〔戰國策、王烈傳〕遂避二時難一、乘レ桴越レ海、羇二旅遼東一三十餘年一。〔蘇軾、六月二十日夜渡レ海詩〕空餘魯叟乘レ桴意。

【乘風】101 ジョウフウ　㊀風にのる。風を利用する。〔列子、黃帝〕進二己之道一、乘レ風而歸。〔韓翃、送二齊山人歸二長白山一詩〕舊事仙人白兔公、掉レ頭歸去又乘レ風。㊁海鳥の名。爰居。〔急就篇、二〕乘風縣鐘華洞樂。〔注〕乘風、一名二爰居一、一名二雜縣一。蓋海鳥也、言下爲二乘風之狀一作二簨虡一以懸上鐘。㊂鐘を懸ける横木。〔潘岳、西征賦〕乘風廢而弗レ縣。〔注〕濟曰、乘風、縣鐘格、皆毀也。

【乘風破浪】102 ジョウフウハロウ　長風に乘じ、萬里の波濤を蹴つて、遠くに行く。遠大の志あること。〔宋書、宗慤傳〕宗慤、字元幹、南陽人也、叔父炳、高尚不レ仕、慤年少時、炳問二其志一、慤曰、願乘二長風一、破二萬里浪一。

【乘服】103 ジョウフク　乘ることや着ること。〔禮、玉藻〕君未レ有レ命、弗レ敢卽乘服一也。

【乘物】104 ノリモノ　馬・牛・車・輿など、總べて人の乘つて行くものの總稱。又、特に駕籠をいふ。〔和漢三才圖會、車駕類、乘物〕駕、車乘也、云云、蓋乘物之通稱也。

【乘冪】105 ジョウベキ　數學用語。等しい數又は文字の若干箇の相乘積を一元の數又は文字の乘冪といふ。乘方。

【乘使】106 ジョウシ　便宜に從ふ。〔賈誼、過秦論上〕因レ利乘レ便、宰二割天下一、分二裂河山一。

【乘牡】107 ジョウボ　乘用の牡馬。〔詩、魯頌、有駜〕有レ駜有レ駜、駜彼乘牡。

【乘門】108 モンジョウ　僧をいふ。〔書言故事、釋教類〕僧曰二乘門一。

【乘輿】109 ジョウヨ　天子の車馬。轉じて、行幸中の天子を申上げる。乘輦。〔孟子、梁惠王下〕今乘輿已駕矣。〔集注〕乘輿、君車也。〔史記、梁孝王世家〕乘輿駟馬。〔新書、等齊〕天子車曰二乘輿一。〔後漢書、安帝紀〕厩馬非二乘輿一。〔蔡邕、獨斷〕天子至尊、不二敢渫瀆言之一、託二之於乘輿一、乘、猶レ載也、輿、猶レ車也、天子以二天下一爲レ家、不下以二京師宮室一爲中常處上、則當レ乘二車輿一、以行中天下上、故羣臣託二乘輿一、以言レ之、或謂二之車駕一。〔班固、東都賦〕乘輿乃出。〔書言故事、朝制類〕御駕曰二乘輿一。

【乘輿車】110 ジョウヨシャ　天子のお乘りになる車。〔史記、呂后紀〕滕公迺召二乘輿車一。

【乘輿車駕】111 ジョウヨシャガ　天子のお乘りになる車。轉じて、天子の稱。〔明律、名例〕凡稱二乘輿車駕及御一者、太皇太后・皇太后・皇后並同。

【乘輿播越】112 ジョウヨハエツ　天子が遠國に御でましになること。天子が都を落ちのび給ふこと。〔資治通鑑、漢紀〕獻帝〔建安二十四年〕、遂使二乘輿播越一、宗廟丘墟、王室蕩覆、烝民塗炭。

【乘輿板蕩】113 ジョウヨハンタウ　乘輿播越に同じ。板・蕩は共に詩經の篇名。亂世の詩である。〔日本政記、後醍醐天皇論〕建武二年、致二乘輿再板蕩一、天下鼎沸。

【乘輿服御】114 ジョウヨフクギョ　天子の御くるまと天子の身に御使用なさるもの。〔六部成語、禮部、乘輿服御、注解〕乘輿者、天子所レ乘之鑾輅也、天子至尊、不二敢媟黷言一之、故借稱二乘輿一、猶二凡人尊二稱閣下一也、服御者、天子所二服用一之物也。

【指斥乘輿】115 シセキジョウヨ　天子の事を言議すること。〔唐律、職制〕指二斥乘輿一、情理切害者斬、非二切害一者徒二年。〔疏議〕謂二言二議乘輿一。

【乘輦】116 ジョウレン　乘輿（109）に同じ。〔史記、封禪書〕乘輦斥二車馬一。

【乘弋】117 ジョウヨク　仙人の名。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕使二素女兮鼓レ簧、乘弋雙兮謳謠。〔注〕乘弋、仙人也、和二素女一而歌也。　見よ。

【乘涼】118 ジョウリョウ　納涼する。涼む。乘涼枕榻（119）を

【乘涼枕榻】119 ジョウリョウチントウ　すずみ臺。〔紅樓夢、三十一回〕只見院中早把二乘涼的枕榻一設下。

【乘凌】120 ジョウリョウ　のり越える。〔宋玉、風賦〕乘二凌高城一、入二于深宮一。

【乘龍】121 ジョウリョウ　㊀龍に乘る。昇天するにいふ。〔晏子、不合經術者〕昔者秦穆公、乘二龍而理一天下一。㊁四匹の龍。〔左氏、昭、二十九〕及二有夏孔甲一、擾二于有帝一、帝賜二之乘龍一、河漢各一、各有二雌雄一。〔會箋〕四頭爲レ乘。㊂龍翼馬身の獸。〔司馬相如、封禪文〕招二翠黃乘龍於沼一。〔注〕善曰、漢書音義曰、翠黃、乘黃也、龍翼馬身、黃帝乘レ之而仙。㊃龍の樣な善い壻を得ること。東漢の桓焉の女が、黃憲・李膺といふ二人の善い壻を迎へた故事。〔楚國先賢傳〕黃憲・李膺、俱娶二太尉桓焉女一、時謂二桓叔元兩女俱乘レ龍、言レ得二壻如レ龍也一。〔書言故事、翁婿類〕女壻貴盛曰二乘龍一。㊄元、胡天游（9－29400‥574）の名。

【乘輪】122 ch'éng² luen² 汽船に乘る。

【乘輦】123 ジョウレン　車に乘ること。乘車。又、乘物。〔左氏、成、十七〕與二婦人一蒙衣乘レ輦、而入二于閎一。〔後漢書、梁冀傳〕冀・壽共乘レ輦、車張二羽蓋一、飾以二金銀一、游二觀第內一。〔岑參、秋夜宿二仙遊寺南涼堂一云云詩〕寄レ報乘輦客、簪裾爾何容。

【乘路】124 ジョウロ　㊀車に乘る。路は車。〔南史、梁武帝紀〕宜御二輦不一レ復乘レ路。〔舊唐書、輿服志〕高宗不レ喜乘レ路、每有二大禮一、則御レ輦以往來。㊁周の天子の輅。〔禮、明堂位〕乘路、周路也。

【乘輅】125 ジョウロ　乘路に同じ。〔王褒、四子講德論〕乘レ輅而歌、倚レ幟而聽レ之。〔注〕善曰、輅、車也、白虎通曰、名車爲レ輅者何、言所以步二人於路一也。

【乘魚橋】126 ジョウギョキョウ　橋の名。丁法海が鯉魚に乘

つた所。〔吳地記〕乘魚橋、在ニ交讓瀆一、郡人丁法海與ニ琴高一友善、忽見ニ一大鯉魚一、長可ニ丈餘一、一角兩足雙翼、舞ニ於高田一、法海試上ニ魚背一、靜然不レ動、良久遂下、請ニ高登ニ魚背一、乃擧レ翼飛騰、沖レ天而去、明高啓有ニ乘魚橋詩一。

【乘壺酒】127 ジョウコシュ　四壺の酒。〔禮、少儀〕其以ニ乘壺酒・束脩一犬一賜レ人。

【乘枕風】128 chʻêng² chen³ fêng¹　病名。頭の吹出物。髮瘡カミクサ。

【乘暮氣】129 chʻêng² mu⁴ chʻi⁴　對手の氣おくれしたのにつけこむ。

【乘務員】130 ジョウムキン　汽車・電車等に乘込んで、其の業務に從事する現業員。

【乑】155 スイ ズイ　〔集韻〕是爲切 支

小篆 ●一**たれる**。草木の華葉の垂れること。〔說文〕乑、艸木華葉乑、象形。〔段注〕引伸爲ニ凡下乑之偁一、今字坙行而乑廢矣。●二古は𥝩(4－9761)に作る。〔說文〕乑、𥝩、古文。●三垂(3－5012)の古字。〔玉篇〕乑、今作レ垂。

解字　象形。草木の華葉の垂れ下つた形に象る。

【𣅀】156 シ　思(4－10462)の古字。〔集韻〕思、古作レ𣅀。

【𡘋】157 カウ　幸(4－9176)の本字。〔中華大字典〕𡘋、幸本字。

十畫

【𠦪】158 シュ　手(5－11768)の古字。〔集韻〕手、古作レ𠦪。

參考　𠦪(2－2760)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕𠦪、古手字。𠦪、乖本字。

十一畫

【眉】159 ビ　義未詳。〔海篇〕音眉。

【𠩺】160 ユ　愈(4－10904)に同じ。〔字彙補〕𠩺、同レ愈。

乙部

【乙】161 イツ オチ 慣オツ　〔集韻〕億姞切 質 i³

小篆 ●一**きのと**。十干の第二位。方位では東方に配し、五行では木に當る。春の初に草木が陰氣に沮まれて屈曲してゐるさまに象る。〔說文〕乙、象ニ春艸木冤曲而出、侌氣尚彊、其出乙乙一也、與レ丨同意、乙承レ甲、象ニ人頸一。〔爾雅、釋天〕太歲在レ乙曰ニ旃蒙一、月在レ乙曰レ橘。〔呂覽、孟春〕其日甲乙。〔注〕乙、木日也。〔淮南子、天文訓、注〕甲・乙、皆木也。●二**第二**。甲の次。〔史記、殷紀〕河亶甲崩、子帝祖乙立。〔文選、一、賦甲、注〕善曰、賦甲者、舊題ニ甲乙一、所ニ以紀ニ卷先後一。●三**かがまる**。まがる。屈曲。〔京房易傳〕乙、屈也。〔白虎通、五行〕乙者、物蓄屈有レ節欲レ出。●四**きしる**。〔釋名、釋天〕乙、軋也、自抽軋而出也。〔廣雅、釋言〕乙、軋也。〔漢書、律歷志〕奮ニ軋於乙一。●五**なにがし**。某。假りに名の代りとして用ひる字。〔史記、萬石君傳〕奮長子建、次子甲、次子乙。●六**書を讀んで、其の讀みどまりの所につけるしるし**。〔字彙〕乙、東方朔傳、止輒乙ニ其處一、謂下讀有レ所ニ絶止一、黠而記ニ之曰レ乙、如ニ士人讀レ書、以レ朱志ニ其止處一也。〔史記、東方朔傳〕讀レ之止、輒乙ニ其處一。●七**文章に脫字のある時、其の傍につけるしるし**。〔字彙〕乙、文字有ニ遺落一、勾ニ其旁一、而添レ之、亦曰レ乙。●八**魚の腸**。**一說に、魚の腮の骨**。〔爾雅、釋魚〕魚腸、謂ニ之乙一、其腸似ニ篆書乙字一。〔禮、內則〕魚去レ乙。〔注〕乙、魚體中、害レ人者名也、今東海鰫魚有レ骨、名レ乙、在ニ目旁一、狀如ニ篆乙一、食レ之鯁レ人、不レ可レ出。●九**虎の兩脇の胸の皮下に在る三寸許りの骨**。〔茅亭客話〕虎有レ威、如ニ乙字一、長三寸許、在ニ脅兩旁皮下一、取得佩レ之、臨レ官而能威レ衆、無レ官佩レ之、無ニ憎疾者一。●十**ひとつ**。一(1－1)に通ず。〔續字彙補〕乙、泰一天一、丹元子作ニ太乙天乙一。●十一**つばめ**。乚(1－162)に通ず。〔字彙〕乙、燕乙之乙、甲乙之乙、字異音同、故甲乙之乙、亦與ニ甲乙字一同レ音、故甲乙之乙、而燕乙字、亦云ニ燕鳥一。〔張融、答ニ周顒一書〕道佛兩殊、非レ梟則乙。●十二**姓**。〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕乙氏、子姓、商湯字天乙、支孫因以ニ王父字一爲レ氏、前燕有ニ護軍乙逸一、今襄陽有ニ乙氏一、又燕有ニ鴻臚乙歸一、揚武將軍乙愛一、皆北狄種類、又河南官氏志、乙弗氏、改爲ニ乙氏一。●十三**おつね**う。漢字の部首の名。邦**おつ**。●一低い調子。●二氣の利くこと。通ツウな人。●三トキノ　越後國の地名。

名乘　クニ。タカ。

解字　象形。春の初、草木が芽を出す時に、陰氣が尚強く、芽を出しかねて曲り生える形に象る。〔說文通訓定聲〕乙、艸木冤曲而出也、象形、與レ丨同意。

【乙乙】1 イツイツ　●一思ひの湧き出でないさま。苦しみ思ふにいふ。乙はかがまる。軋軋。〔陸機、文賦〕思乙乙其若レ抽。〔注〕善曰、乙乙、難レ出之貌、說文曰、陰氣尚強、其出乙乙然。●二ひとつびとつ。一一。〔王羲之、十七帖〕不ニ復乙乙一。

【乙瑛】2 イツエイ　漢の人。字は仲卿。魯の相。元嘉の時、孔子廟に百石卒史を置くことを請ふ。孔廟置守廟百石卒史碑に其の事を詳記す。〔闕里誌〕。

【乙瑗】3 イツエン　後魏の人。瓌の曾孫。乾歸の孫。字は雅珍。官は西兗州刺史。天平の初、兵を擧げ、樊子鵠に應じて敗死す。〔魏書、四十四〕。

【乙亥】4 イツガイ　北宋の初、江南(南唐の改稱)の後主(李煜、一に李從嘉)の年號。(975)

【乙亥正】5 オツガセ　因幡國の地名。

【乙干】6 イツカン　複姓。〔元和姓纂〕後魏獻文帝弟、姓乙干氏、居ニ武川一。〔通志、氏族略、代北複姓〕乙干氏、代人、隨レ魏南徙。

【乙酐】7 イツカン　醋酸を脫水して得られる無色で刺戟臭のある液體。水と作用すれば醋酸を生ずる。主として、醫藥・香料・染料等の製造の際、醋酸化劑として用ひる。無水醋酸。

【乙姫】8 オトヒメ　海中に居るといふ龍宮の女神。

【乙基】9 イツキ　エチルアルコールと硫酸とを混合して得る無色流動性の芳香揮發性液。工業上セルロイドの溶劑とし、又、痲醉劑・興奮劑として內用する。エチルエーテル。

【乙烯】10 イツキ　木材及び石炭を乾溜する際に生じ、又アルコールに濃硫酸を加へて熱するとき生ずる無色の氣體。又、鹽素と化合し、二鹽化エチレンなる油狀の液體を生ずるを以て、生油氣

の名がある。エテン。エチレン。

【乙橘】11 イツキツ　一年十二月の中、月が十干の第二位の乙に在る月をいふ。〔爾雅、釋天〕月在レ甲曰レ畢、在レ乙曰レ橘。

【乙禽】12 イツキン　つばめ。乙鳥。〔戴表元、四明山中逢レ晴詩〕茅簷西日乙禽來。

【乙科】13 イツクワ オツクワ　試驗の成績の第二等級。又、試驗の科目の名。後世は俗に擧人をいふ。〔漢書、儒林傳〕甲科四十人爲二郎中一、乙科二十人爲二太子舍人一、丙科四十人補二文學掌故一云。〔唐書、韓休傳〕與二校書郎趙冬羲一並中二乙科一。〔文獻通考、選擧考、擧士〕秀才之科久廢、而明經雖レ有二甲乙丙丁四科一、進士則甲乙二科、自二武德一以來、明經唯有二丁第一、進士唯有二乙科一而已。

【乙瓌】14 イツクワイ　後魏、代の人。謚は恭。性、猛勇。官は西道都將。〔魏書、四十四〕・〔北史、二十五〕。

【乙烷】15 イツクワン　粗製石油中に存し、沃化メチルに亞鉛を加へて熱して得る無色無臭の氣體。點火すれば微弱光輝を放つて燃え、熱すれば分解してエチレン及び水素を發生する。エタン。

【乙訓】16 オトクニ　❶山城國の地名。❷姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【乙炔】17 イツケツ　炭化カルシウムに水を滴下して製する、不快な臭氣を有する無色の氣體。點火すれば煤煙の多い焰をあげて燃え、空氣との適量混合物は容易に爆發する。完全燃燒させれば強い光を放つ故に、光源として用ひられ、又アルコールの原料とする。アセチレン。

【乙骨】18 オツコツ　姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

〖乙骨耐軒〗19 オツコツタイケン　江戶の人。名は完。字は栗甫。通稱は彥四郞。號は耐軒・碧僊・乙事山人。昌平黌に學び、幕府の儒官となる。元來は幕臣鳥羽某の子であつたが、乙骨氏をついだ。著に耐軒詩文遺稿・讀瀛奎律髓刊誤條記・杜律解がある。

【乙酸】20 イツサン　醋酸(**11**—**39911**··7)に同じ。

〖乙酸乙酯〗21 イツサンイツシ　藥品の名。無色芳香性の液體。興奮劑・鎭痙劑・有機合成試藥、ラックの溶媒などに用ひる。醋酸エチル。醋酸エーテル。醋酸乙脂。

【乙士】22 イツシ　軍伍の名。〔宋書、蒯恩傳〕高祖征二孫恩一、縣差爲二征民一、充二乙士一。

【乙子】23 オトネ　❶正月下旬の子の日。〔宇津保物語、藏開下〕大將殿には廿七日出できたるおとねになん。❷オトゴ　末の子。〔落窪物語、一〕おと、おとごにてかなしうし給へば。

【乙之】24 イツシ　清、孔廣翼(**3**—**6933**··281)の字。

【乙矢】25 オトヤ　射藝の語。一手の的矢を射るに、初めに射る矢を甲矢といひ、後の矢を乙矢といふ。〔山槐記〕始矢註レ端、乙矢註レ奥。〔嚴島合戰日記〕神藤十郎持レ弓番二甲箭一、右手拳二乙矢一居二右膝一、右方微許倚レ前。

【乙事】26 イツジ　あることがら。甲に對して、第二の事件。〔禮、曲禮上、疏〕長者正論二甲事一、未レ及二乙事一、少者不レ得下輒以二乙事一雜二甲事一、暫然雜中錯師長之說上。

〖乙事山人〗27 イツジサンジン　乙骨完の號。乙骨耐軒(19)を見よ。

【乙室】28 イツシツ　遼代の蕃族の名。〔遼史、營衞志下〕乙室部、其先曰二撒里一、本阻午可汗之世、與二其兄益古一分レ營而領レ之、曰二乙室部一。

【乙種】29 オツシユ　物の第二流にあたる種類の名。甲種の次位。又、第二の種類。

【乙醇】30 イツジユン　有機化合物の一種。無色揮發性の芳香液體で、飮料の外、溶劑・醫藥・香料製造・燃料等に用ひる。酒精。エチルアルコール。

【乙辛】31 イツシン　❶金、完顏秉德(**3**—**7079**··131)の名。❷遼、蕭胡覩(**9**—**32012**··349)の字。

〖乙辛隱〗32 イツシンイン　字號。❶遼、蕭阿魯帶(**9**—**32012**··537)の字。❷遼、蕭陶蘇斡(**9**—**32012**··547)の字。❸遼、耶律斡特剌(**9**—**29008**··158)の字。❹遼、耶律鐸魯斡(**9**—**29008**··162)の字。❺遼、耶律學古(**9**—**29008**··53)の字。❻遼、耶律室魯(**9**—**29008**··84)の字。

【乙醛】33 イツセツ　刺戟臭ある無色の可燃性液體。酸化して醋酸となり、還元してエチルアルコールとなる。アセトアルデハイド。エタナール。アルデヒド。

【乙旃】34 イツセン　複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕乙旃氏、後魏官氏志、獻帝命二叔父之裔一爲二乙旃氏一、是爲二十姓一、見二長孫氏譜一、孝文改爲二叔孫氏一。

【乙帳】35 イツチヤウ　第二のとばり。甲・乙は順序を以て名づけたもの。〔漢書、西域傳贊〕立二神明通天之臺一、興二造甲乙之帳一。〔漢武故事〕雜二錯天下珍寶一爲二甲帳一、其次爲二乙帳一、甲以居レ神、乙以自居。

【乙女】36 オトメ　❶少女。❷末の女。❸黃道十二星座の一。晚春の宵に南中する。主星スピカ(Spica)のほか肉眼に映ずる星約一八〇。微小な星雲の夥しく見える星座で、現在秋分點は此の星座にある。Virgo　❹肥後國の地名。

【乙第】37 イツテイ イツダイ　❶しもやしき。別邸。〔晉書、楊軻傳〕命二舍之于永昌乙第一。❷乙科(13)に同じ。〔唐書、選擧志上〕策通二四帖一、過二四以上一爲二乙第一。

【乙鳥】38 イツテウ　鳥の名。つばめ。燕(**7**—**19429**)の異名。燕はもと乙字。字の形と音とが共に乙に似てゐるから通用す。乙禽。〔本草、燕〕釋名、乙鳥、玄鳥、時珍曰、燕字、篆文象形、乙者其鳴自呼也。

【乙迭】39 テイツ　金、耨盌溫敦謙(**9**—**28961**··12)の本名。

【乙榜】40 イツバウ　擧人の稱。進士を甲榜(**7**—**21725**··106)といふの對。乙科(13)を見よ。〔殷堯藩、下第東歸詩〕辛勤幾逐英雄後、乙榜猶然姓氏虛。

【乙醚】41 イツビ　特異の香氣を有する無色の液體。揮發し易く、燃え易い。有機化合物の溶劑として、又、局部痲醉劑・寒冷劑などに用ひる。エチルエーテル。エーテル。以脫。

【乙部】42 オツブ　四部書の第二。典籍を甲・乙・丙・丁の四部に分けたのは、晉の荀勖の中經新簿に始まる。中經新簿の乙部に屬したものは、古諸子家・近世子家・兵書・兵家・術數であつたが、唐六典などでは、專ら史書のみとなつた。四庫(**3**—**4682**··267)を見よ。〔阮孝緒、七錄序〕因二荀勖舊簿四部之法一、而換二其乙丙之書一、沒二略衆篇之名一、總以二甲乙一爲レ次。〔隋書、經籍志序〕祕書監荀勖、又因二中經一、更著二新簿一、分爲二四部一、總二括羣書一、云云、二曰乙部、有二古諸子家・近世子家・兵書・兵家・術數一。〔唐六典、祕書省、祕書郎〕乙部爲レ史、其類一十有三、一曰正史、二曰古史、三曰雜史、四曰霸史、五曰起居注、六曰舊事、七曰職官、八曰儀注、九曰刑法、十曰雜傳、十一曰地理、十二曰譜系、十三曰略錄。

【乙弗】43 イツフツ　❶夷狄の部屬の名。〔晉書、禿髮傉檀載記〕傉檀議欲三西征二乙弗一。❷複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕乙弗氏、前燕有二高麗王乙弗利一、後魏書云、代人世統二部落一、太武時、乙弗疋知、隨レ魏南遷、遂爲二河南人一、孝文改爲二乙氏一、又有二乙弗根一、周有二乙弗鳳一。

〖乙弗后〗44 イツフツコウ　西魏、文帝の皇后。乙弗氏は吐谷渾の渠帥で、青海に居た。大統元年に皇后となる。帝が蠕蠕を懷柔せんとして、其主阿那瓌の女悼后を娶るに至り、蠕蠕の壓迫を蒙ること甚しく、大統六年、遂に自盡す。年三十一。〔北史、十三〕。

〖乙弗朗〗45 イツフツラウ　後魏の人。字は通照。官は岐州刺史。封は長安縣公。〔北史、四十九〕。

〖乙弗弘禮〗46 イツフツコウレイ　唐、高唐の人。人相を觀ることに巧で、隋の煬帝の終りを全うしないことを相したといふ。〔舊唐書、一百九十一〕。

【乙名】47 オトナ　一族の長。酋長。

【乙面】48 ヲトメ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【乙夜】49 イツヤ オツヤ　午後十時。五夜の一。漢以來甲(今の午後八時)、乙(十時)、丙(十二時)、丁(午前二時)、戊(四時)を以て夜を紀し、之を五夜といふ。〔漢舊儀〕晝漏盡、夜漏起、省中黃門持二五夜一、五夜者、甲夜・乙夜・丙夜・丁夜・戊夜。〔漢舊儀〕、凡中官漏夜盡、鼓鳴則起、鐘鳴則息二衞士一、甲乙徼相傳、甲夜畢、傳二乙夜一、相傳盡二五更一。〔李百藥、贊道賦〕盡二爲善於乙夜一、惜二勤勞於寸陰一。

〖乙夜覽〗50 イツヤノラン オツヤノラン　天子の御書見。天子は夜の十時頃政を終へて、就寢の前、御書見せられるからいふ。乙覽。〔杜陽雜編〕唐文皇帝、每レ視レ朝後、卽閱二羣書一、嘗曰、若不二甲夜視一レ事、乙夜觀レ書、何以爲二人君一邪。

〖乙夜之勤〗51 イツヤノキン オツヤノキン　天子が讀書に御精勵のこと。〔段文昌、淮西碑〕遵二大禹櫛風之志一、有二光武乙夜之勤一。

【乙陽】52 イツヤウ　戰國、鄭君乙(**11**—**39647**··351)の一名。

【乙覽】53 イツラン オツラン 乙夜覽(50)の略。〔蔡襄、江景倫試監簿制〕緝㆓綴遺文㆒薦㆓於乙覽㆒。

【乙力】54 イツリキ 複姓。〔魏書、勿吉國傳〕幷㆑力取㆓高句麗㆒、遣㆓乙力支㆒奉㆓使大國㆒、請㆓其可否㆒。〔太平寰宇記〕勿吉國、有㆓乙力氏㆒。

【乙乾歸】55 イツケンキ 後魏の人。瓌の子。謚は康。官は秦州刺史。〔魏書、四十四〕。

【乙巳難】56 イツシノナン 朝鮮、李朝の明宗の卽位の年、卽ち乙巳に、尹元衡一派が反對派を殺害した事件。由來、朝鮮には朋黨の爭ひが絕えず、中宗の末年から尹任と尹元衡とは、夫々、大尹・小尹と呼ばれる黨派を翕合して爭ひ、中宗が崩じて仁宗が立つと、先づ大尹が勢力を占めた。仁宗は八箇月で薨じ、明宗の卽位するや、小尹は時至れりとして、尹任に異志があると誣言したので、大尹の一派は多く死を賜うた。之を乙巳の難、また乙巳の士禍といふ。之に乘じて小尹は猶も殺戮を逞うした。〔燃黎室記述、十〕。

【乙失鉢】57 イツシツハツ 隋・唐の頃アルタイ山の西南麓に據つた薛延陀の酋長。薛延陀は鐵勒の一主腦部をなしてゐたが、隋の大業の初年に、鐵勒の諸部が西突厥の壓迫を受け、鐵勒が之に叛して自立した時、乙失鉢も自ら也咥小可汗と號してアルタイ方面の諸部落を統べ、天山方面の契芯と共に大いに勢をあげたが、其の後、西突厥に射匱可汗が出て、鐵勒諸部は再び其の下に復した。〔舊唐書、一百九十九下〕・〔唐書、二百十七下〕。

【乙速弧】58 イツソクコ 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕乙速弧氏、代人、隨㆑魏南遷。

【乙速弧佛保】59 イツソクコフツパウ 後魏の人。北秀容胡の酋長。西魏の大統の初、梁の將、蘭欽に敗れて自刎す。〔北史、八十五〕。

【乙豆智】60 イツトウチ 高句麗の大臣。高句麗第三代の王大武神王の十年に、王は彼を左輔とし、軍國の事を委ねた。時に漢の遼東太守が來り侵したが、乙豆智は守戰の策を獻じ、能く城を守り、以て之を遠ざけた。〔三國史記、四〕。

【乙那婁】61 イツナル 複姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕乙那婁氏、改爲㆓婁氏㆒。

【乙邦才】63 イツハウサイ 明、青州の人。崇禎年間に史可法の副將となる。後、城破れて自刎す。〔明史、二百七十二〕。

【乙剌補】64 イツラホ 金、耨盌溫敦思忠(**9**－**28961・・14**)の本名。

【乙醯苯胺】65 イツケイホンアツ 藥品の名。無色透明の葉狀又は菱板狀結晶。味は稍〻苛烈。解熱・鎭靜・鎭痛藥、及びレウマチス藥として用ひる。アセトアニリド。アンチフエブリン。醋酸苯胺。安替非布林。

【乙支文德】66 イツシブントク 高句麗の大臣。一に尉支文德に作る。隋の煬帝が遼東の役を起した時、能く之を拒いで自ら保ち、隋軍を滅した。〔三國史記、二十・四十四〕・〔東國通鑑〕。

【乙離骨嶺】67 オツリコツレイ 山名。金の太祖阿骨打の叔父なる穆宗盈歌の時、女眞の南境となつた山。其の位置に就いては、今の咸關嶺といひ、吉州平野南境の摩天嶺山脈といひ、咸鏡北道鏡城附近とし、未だ定說を見ない。〔金史、高麗傳〕率㆓乙離骨嶺東諸部㆒皆內附。

【乙醯水楊酸】68 イツケイスイヤウサン 白色結晶性の粉末、或は鱗片狀の結晶。解熱劑として用ひるアスピリン。アセチルサリチルサン。

【乙息記可汗】69 イツソクキカカン 突厥帝國第二代の王。名は科羅。伊利可汗の子。柔然を征し、鄧叔子を破り、突厥東方發展の基礎を固めた。隋書には逸可汗に作り、伊利可汗の弟と傳へてゐる。〔周書、五十〕。

【乙屈失乙毗可汗】70 イツクツシツイツピカカン 唐の太宗の時の西突厥の可汗。父の咥利失可汗の後を承けて卽位したが、翌年卒した。〔舊唐書、一百九十四下〕・〔唐書、二百十五下〕。

【乙畢鉢羅肆葉護可汗】71 イツピツハツラシエフゴカカン 唐の太宗の時に於ける西突厥の可汗。肆葉護可汗(**9**－**29226・・74**)を見よ。

【乙】162

㊀イツ オチ 〔玉篇〕於秩切 質
㊁アツ エチ 〔集韻〕乙黠切 黠

小篆 ㊀㊁❶**つばめ**。燕。〔說文〕乙、燕燕、乙鳥也、齊魯謂㆓之乙㆒、取㆓其鳴自呼㆒、象形也。❷乙(**1**－**161**)に通ず。〔字彙〕乙、說文燕乙之乙、甲乙之乙、字異音異、隸文既通作㆑乙、而燕乙字亦與㆓甲乙字㆒同音、故甲乙之乙、亦云㆓燕鳥㆒。❸或は鳦(**12**－**46635**)に作る。〔說文〕乙、鳦、乙或从㆑鳥。

解字 象形。つばめが翅を開き、首をすくめて飛ぶのを橫から見た形に象る。〔說文、乙、段注〕乙、篆像㆓其飛之形㆒云云、乙象㆓翅開首乙㆒、橫看㆑之乃得。

【乚】163

イン オン 〔集韻〕倚謹切 吻

小篆 **かくれる**。**かくす**。隱(**11**－**41891**)の古字。〔說文〕乚、匿也、象㆓迟曲隱蔽形㆒、讀若㆑隱。〔玉篇〕乚、今作㆑隱。

解字 指事。鉤曲の形を以て、逃亡者が隱蔽物によつて逃げかくれる義を示す。〔說文、乚、段注〕象㆓逃亡者自藏之狀㆒也。

【ㄣ】164

イン ❶乚の篆形。乚(**1**－**163**)を見よ。❷注音符號の韻符の一。附聲韻母。單韻母ㄜを發音すると同時に、舌前部を上升せしめて、ㄋの子音で收聲すれば、此の音となる。エヌ。ēn。正形はㄣ。

【ㄥ】165

コウ ❶厷(**2**－**3062**)の古文。〔集韻〕厷、古作㆑ㄥ。❷注音符號の韻符の一。附聲韻母。單韻母ㄜを發音すると同時に、舌後部を上升せしめ、軟口蓋を下垂せしめて、舌後帶鼻音兀の子音を以て收聲すれば、此の音となる。オン。ēng。正形は∠。

一畫

【乜】166

バ メ 〔集韻〕母野切 ㄇㄧㄝˉ mieh¹ ㄋㄧㄝˋ nieh⁴ 馬

❶**やぶにらみ**。斜視。〔字彙〕乜、眼乜斜也。❷**みこ**。巫。〔遼史、西夏傳〕西夏語、以㆑巫爲㆓厮乜㆒。❸**姓**。〔萬姓統譜〕乜、蕃姓、今秦隴有㆓此姓㆒、望出㆓晉昌越郡㆒。

【乜斜】1 バジャ やぶにらみ。斜視。〔儂雅〕眼小一縫、俗呼㆓乜斜㆒、中原雅音、作㆓乜斜㆒。〔通俗編、狀貌、乜斜〕關漢卿望江亭曲、有㆓醉眼乜斜句㆒。

【乜斜着眼】2 mieh¹ hsieh chê yen³ やぶにらみ。流し目で見る。

【乜克里】3 メクリ 天山東北端の山地に居た部族の名。金・元には稍〻其の名が現はれ、元では一時海都の手中にあり、明代には甘肅方面に居た。〔契丹國志〕。

【九】167

㊀キウ ク 〔集韻〕己有切 ㄐㄧㄡˇ chiu³ 有
㊁キウ グ 〔集韻〕居尤切 尤

小篆 ㊀❶**ここのつ**。ここのたび。〔書、益稷〕簫韶九成。〔史記、騶衍傳〕中國之外、如㆓赤縣神州㆒者九。❷**數のきはまり**。數の終。數の多いこと。〔廣雅、釋詁四〕九、究也。〔公羊、莊、十九〕諸侯壹聘九女。〔注〕九者、極陽數也。〔公羊、僖、九〕葵丘之會、桓公震而矜㆑之、叛者九國。〔列子、天瑞〕一變而爲㆑七、七變而爲㆑九、九變者究也。〔素問、三部九候論〕天地之至數、始㆓於一㆒、終㆓於九㆒焉。〔漢書、司馬遷傳〕腸一日而九回。❸**周易の陽數**。卽ち陽爻を

表はす名。陽爻を何故に九とするかに就いては二說がある。一は、老陰・老陽の數は夫夫六と九であり、老陰・老陽は變化するものであり、易は變化の理を以て卜を爲すから、老陰・老陽の數を以て陰爻・陽爻を表はすといひ、他の一は、乾の體には三劃あり、坤の體には六劃あり、而して乾は坤を兼ねるから、九であるといふ。〔說文〕九、陽之變也、象二其屈曲究盡之形一。〔易、乾〕文言曰、乾元用レ九、天下治也。〔注〕九、陽也。〔管子、五行〕天道以レ九制。〔注〕九、老陽之數。㊃**南方**。〔素問、五常政大論〕眚二于九一。〔注〕九、南方也。㊄**老いた**。久(**1**－**118**)に通ず。〔莊子、至樂〕黃軦生二乎九猷一。〔釋文〕李云、九、宜レ爲レ久、久、老也、猷、蟲名也。〔列子、天瑞〕食醯黃軦、生二乎九猷一。㊅**姓**。〔路史〕神農師九靈、爲二九姓之始一。〔路史〕紂三公九侯、卽鬼侯、爲二紂所一レ殺。[三]㊀**國の名**。〔史記、殷紀〕以二西伯昌・九侯・鄂侯一爲二三公一。〔注〕集解曰、九侯、一作二鬼侯一。㊁**あつまる**。勼(**2**－**2498**)に同じ。又、通じて鳩(**12**－**46648**)に作る。〔集韻〕勼、說文、聚也、或作レ九、通作レ鳩。〔字彙〕九、與レ鳩同、聚也。〔莊子、天下〕禹親自操二槖耜一、而九二雜天下之川一。〔釋文〕九、本亦作レ鳩、聚也。㊂**あはせる**。糾(**8**－**27227**)に通ず。〔字彙〕九、與レ糾同、督也。〔論語、憲問〕九二合諸侯一。〔集注〕九、春秋傳作レ糾。 [邦]**ここのつ**。十二時。

[解字] 指事。屈曲の形を寫して、極數、卽ちここのつの義を示す。易では陽の數とする。一說には、气の字の變化したもので、陽氣の屈曲究盡する形に象るといふ。〔說文通訓定聲〕九、陽之變也、象二其屈曲究盡之形一、按、究盡者、聲訓之法、屈曲有レ形、究盡豈有レ形乎、古人造レ字以紀レ數、起二于一一極二于九一、皆指事也、二三四爲二積畫一、餘皆變二化其體一、無二形可一レ象、亦無二意可一レ會、於二六書一則指事云爾、九者數之究也、易文言傳、乾元用レ九、乃見二天則一。

[參考] 字畫の變更を恐れて玖に作り、商業上、文に作る。〔六書故〕一、今惟財用出內之簿書、用二壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌一、以防二姦易一。

【九阿】1 キウア 洛陽の西にある九つの坂のある道。〔張衡、東京賦〕西阻二九阿一、東門二于旋一。〔注〕善曰、穆天子西升二九阿一、銑曰、洛陽西十里、九坂之道、謂二之九阿一。

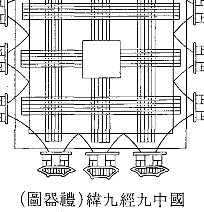
【九奧】2 キウアウ 九州の內。九隩。〔陸雲、晉故散騎常侍陸府君誄〕天降二純嘏一、誕育二俊人一、才雄二九奧一、德鍾二三懿一。

【九隩】3 キウアウ・キウイク 九州の內。全國。天下中。隩は居る可き地をいふ。〔國語、周語下〕宅居二九隩一、合通二四海一。〔張衡、東京賦〕掩二觀九隩一。〔注〕綜曰、隩、烏到切、九隩、謂二九州之內一也。

【九夷】4 キウイ ㊀多くの夷狄。〔書、旅獒〕遂通二道于九夷八蠻一。〔傳〕九・八、言レ非レ一。㊁九種の東夷。卽ち、玄菟・樂浪・高麗・滿飾・鳧更・索家・東屠・倭人・天鄙。一說に、畎夷・于夷・方夷・黃夷・白夷・赤夷・玄夷・風夷・陽夷ともいふ。九貉。〔爾雅、釋地、九夷、疏〕夷有二九種一、一玄菟、二樂浪、三高麗、四滿飾、五鳧更、六索家、七東屠、八倭人、九天鄙。〔禮、明堂位〕九夷之國。〔論語、子罕〕子欲レ居二九夷一、或曰、陋、如レ之何。〔集解〕馬融曰、九夷、東方之夷、有二九種一也。〔後漢書、東夷傳序〕夷有二九種一、曰、畎夷・于夷・方夷・黃夷・白夷・赤夷・玄夷・風夷・陽夷、故孔子欲レ居二九夷一也。〔通典、邊防典、東夷、序略〕東夷有二九種一、曰、畎夷・于夷・方夷・黃夷・白夷・赤夷・玄夷・風夷・陽夷。

【九圍】5 キウヰ ㊀九州(301)の㊀に同じ。〔詩、商頌、長發〕帝命式二于九圍一。〔疏〕謂二九州一爲二九圍一者、蓋以下九二分天下一、各爲二九處一、若二規圍一然上。〔禮、孔子閒居〕帝命式二于九圍一。㊁九抱へ。〔漢書、溝洫志〕以二竹落長四丈大九圍一、盛以二小石一、兩船夾載而下レ之。㊂深い圍み。重圍。〔梁元帝、祀二伍相廟一詩〕楚關開二六塞一、吳兵入二九圍一。

【九緯】6 キウヰ 東西に通じた九つの大道。 九軌(87)及び九經(204)の㊁を見よ。九陌。〔周禮、考工記、匠人〕國中九經九緯、經涂九軌。〔梁元帝、玄覽賦〕兼二三河及三輔一、總二九緯乎九經一。〔禮器圖、國中九經九緯〕匠人營レ國方九里、旁三門、國中九經九緯、經塗九軌、左レ祖右レ社、面レ朝後レ市、賈釋注云、營、謂二丈尺其大小一、天子十二門通二十二子一、謂下以二甲乙丙丁等十日一爲レ母、子丑寅卯等十二辰爲上レ子、國中、王城內、經緯之塗、皆容二九軌一、軌、轍廣也、乘車六尺六寸、傍加二七寸一、凡八尺、九軌七十二尺、則此加二十二步一矣、王城面有二三門一、門有二三塗一、男子由レ右、女子由レ左、車從二中央一、南北之道爲レ經、東西之道爲レ緯、王宮當二中經一。



國中九經九緯(禮器圖)

【九有】7 キウイウ ㊀九州(301)の㊀に同じ。其の地を撫有する義。〔書、咸有一德〕九有以亡。〔蔡傳〕九有、九州也。〔詩、商頌、玄鳥〕奄二有九有一。〔傳〕九有、九州也。〔荀子、解蔽〕所下以代二夏王一而受中九有上也。㊁九地(445)の㊄に同じ。

【九有情居】8 クウジヤウゴ [佛]有情卽ち人閒や動物の好んで住居するところの九つの場所。一に欲界の人界と六天、二に初禪天、三に二禪天、四に三禪天、五に四禪天中の無想天、六に空無邊處、七に識無邊處、八に無所有處、九に非想非非想處。〔倶舍論、八〕諸有情類、唯於二此九一欣樂住故、立二有情居一。

【九囿】9 キウイウ 九州(301)の㊀に同じ。〔說文、囿、段注〕凡分二別區域一曰レ囿、常道將引二洛書一曰、人皇始出、分二理九州一爲二九囿一、九囿卽毛詩之九有、韓詩之九域也。〔通鑑外紀〕人皇氏、依二山川土地之勢一、財度爲二九州一、謂二之九囿一。

【九幽】10 キウイウ 九泉(416)及び九地(445)の㊄に同じ。〔謝莊、宋明堂歌、迎神歌〕皇德遠、大孝昌、貫二九幽一、洞二三光一。〔蘇軾、韓太祝送レ遊二太山一詩〕恨君不レ上二東峯頂一、夜看三金輪出二九幽一。

【九幽十八獄】11 chiu^3 yu^1 shih^2 pa^1 yü^4 九泉地下の十八層の地獄。

【九斿】12 キウイウ 九旒の垂れのある旌旗。大火星に象つて作り、天子に用ひた。又、上公にも用ひた。九游の㊁に同じ。〔周禮、秋官、大行人〕上公之禮、執桓圭九寸、繅藉九寸、冕服九章、建常九斿、樊纓九就、貳車九乘、介九人。〔注〕斿、其屬幓垂者也。〔周禮、考工記、輈人〕龍旂九斿、以象二大火一也、鳥旟七斿、以象二鶉火一也、熊旗六斿、以象レ伐也、龜蛇四斿、以象二營室一也。〔荀子、禮論〕龍旗九斿。〔淮南子、氾論訓〕乘二大路一、建二九斿一。〔張衡、東京賦〕雲罕九斿。

【九游】13 キウイウ ㊀星の名。〔史記、天官書〕其西有二句曲九星三處羅一、一曰天旗、二曰天苑、三曰九游。〔注〕正義曰、九游、九星、在二玉井西南一。〔晉書、天文志上〕玉井四星、云云、西南九星曰二九游一、天子之旗也。㊁九斿に同じ。〔管子、小匡〕龍旗九游。〔宋書、禮志五〕前驅有二九游雲罕皮軒一。

【九猷】14 キウイウ 老いた猷蟲。猷は蟲の名。九は老。〔莊子、至樂〕黃軦生二乎九猷一。〔釋文〕李云、九、宜レ爲レ久、久、老也、猷、蟲名也。〔列子、天瑞〕食醯黃軦、生二乎九猷一、九猷生二乎瞀芮一。

【九域】15 キウヰキ 九州(301)の㊀に同じ。〔漢書、律歷志〕共工氏伯二九域一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕綏二爰九域一。〔注〕善曰、韓詩曰、奄二有九域一、薛君曰、九域、九州也。〔晉書、樂志〕匡レ時拯レ俗、休功蓋レ世、宇宙既康、九域有レ截。〔吳志、華覈傳〕以二九域一爲レ宅。〔玉海、地理、地理書、熙寧九域志〕熙寧八年七月十一日辛丑、詔二三館祕閣一、刪二定九域圖一。

【九域志】16 キウヰキシ 書名。十卷。宋、王存撰。宋の元豐の時の一統志。元豐九域志。〔四庫提要、史、地理類〕。

【九一】17 キウイツ ㊀九分の一。〔左氏、隱、元〕先王之制、大都不レ過二參レ國之一一、中五之一、小九之一。㊁九分の一の稅率。周代の井田の制に於ける稅率。井田(**1**－**258**··**105**)を見よ。〔孟子、梁惠王下〕昔者文王之治レ岐也、耕者九一。㊂字號。㋑

明、徐汧(4−10110・・116)の字。回明、張國維(4−9812・・1053)の字。

【九一四】18 キウイチシ 藥の名。六零六(2−1453・・652)を見よ。

【九一八】19 キウイチハチ 九月十八日。民國二十年の滿洲事變をいふ。

【九逸】20 キウイツ 漢の文帝の九匹の良馬をいふ。卽ち浮雲・赤電・絕羣・逸驃・紫鷰騮・綠螭驄・龍子・麟駒・絕塵。九龍。〔西京雜記、二〕文帝自レ代還、有二良馬九匹一、皆天下之駿馬也、一名二浮雲一、一名二赤電一、一名二絕羣一、一名二逸驃一、一名二紫鷰騮一、一名二綠螭驄一、一名二龍子一、一名二麟駒一、一名二絕塵一、號爲二九逸一。〔陳東、廏馬賦序〕夫八駿著二驊騮之稱一、九逸標二絕塵之號一。

【九因】21 キウイン 九つの原因。一に、神饗けざるあり、二に、德守る所あり、三に、才官せざるあり、四に、事均しからざるあり、五に、兩必ず爭ふあり、六に、富別あり、七に、貪匱あり、八に、好遂あり、九に、敵勝るあり。〔逸周書、大開武解〕九因、一、神有レ不レ饗、二、德有レ所レ守、三、才有レ不レ官、四、事有レ不レ均、五、兩有二必爭一、六、富有レ別、七、貪有レ匱、八、好有レ遂、九、敵有レ勝。

【九陰】22 キウイン 陰氣の盛な處。〔葛玄、道德經序〕禍滅二九陰一、福生二十方一。〔柳宗元、天對〕爰北二其首一、九陰極冥。〔湛若水、交南賦〕燭二九陰於赤水一兮、覿二馮夷之幽宮一。

【九殞】23 キウヰン 九度すてる。固く斷ること。〔梁元帝、謝二敕賜レ第啓一〕再思二庸陋一、九殞非レ答。

【九烏】24 キウウ 九つの太陽。古、日中に烏が居ると言はれたからいふ。堯の時、十の太陽が同時に出て草木が枯れたので、羿が其の九つを射たといふ。〔周緘、羿射二九日一賦〕伊祁氏之有二天下一也、十日並出、或明或晦、不三唯差二乎歷象一、抑亦紊二乎覆載一、云云、羿操レ弓而進、挾レ矢而前、曰、云云、張二六鈞之在レ手、期二九烏之應レ弦。

【九雲】25 キウウン 道家の語。九いろの雲。神仙の住居を作るといふ。〔雲笈七籤〕太霞中有二彭彭之室一、結二白氣一以造構、合二九雲一以立レ宇。

【九雲誥】26 キウウンノカウ 天のお告げ。九雲を見よ。〔雲仙雜記〕杜子美見二鵝冠童子一告白、汝本文星典吏、天使三汝下謫、爲二唐世文章海一、九雲誥已降、可下於二豆壠下一取上。

【九雲鑼】27 キウウンラ 樂器の名。雲鑼(12−42235・・625)及び雲璈(12−42235・・74)を見よ。

【九醞】28 キウウン 酒をよくかもすこと。又、よくかもした酒。最醇の酒。九醞酒。〔張衡、南都賦〕酒則九醞甘醴、十旬兼淸。〔注〕良曰、九醞・十旬、皆酒名。〔書言故事、酒類〕美酒九醞。

【九醞酒】29 キウウンシュ 最醇の酒。〔魏武帝、奏二上九醞酒法一奏〕臣縣故令南陽郭芝、有二九醞春酒法一。

【九英】30 キウエイ ㊀北斗九星をいふ。九星(387)の㊁を見よ。〔阮籍、淸思賦〕襲二九英之曜精一兮、佩二瑤光一以發レ微。㊁蠟梅の別稱。九英梅を見よ。〔羣芳譜〕蠟梅名二磬口梅一、次曰二荷花一、又次曰二九英一。㊂蕪菜の一種。たうな。蕪菜。〔本草、蕪菁〕釋名、藏器曰、蕪菁、南北之通稱也、塞北河西種者、名二九英蔓菁一、亦曰二九英菘一、根葉長大而味不レ美、人以爲二軍糧一。

【九英菘】31 キウエイシユウ たうな。蕪菁。九英の㊂を見よ。〔羣芳譜、蔓菁〕蔓菁、一名蕪菁、一名葑、一名須、一名蕵蕪、一名蕘、一名芥、一名九英菘、一名諸葛菜、根長而白、形如二胡蘿蔔一、霜後特輭美。

【九英梅】32 キウエイバイ 南京梅。英は瓣。〔常朝錄〕元稹爲二翰林承旨一、朝退、行至二廊下一時、初日映二九英梅一、隙光射レ稹、有レ氣勃勃、百僚望レ之曰、豈腸胃文章、映レ日可レ見乎。

【九英蔓菁】33 キウエイマンセイ 蕪菜の一種。たうな。九英の㊂を見よ。

【九影】34 キウエイ 九つの影の神。卽ち右皇・魍魎・洩節樞・尺鳧・索關・魄奴・竈囧・亥靈胎。終りの一は不明。〔酉陽雜俎、廣知〕道士郭采眞言、人影數至レ九、云云、九影各有レ名、影神一名二右皇一、二名二魍魎一、三名二洩節樞一、四名二尺鳧一、五名二索關一、六名二魄奴一、七名二竈囧一、舊抄二九影名一在二廡面紙中一、向下兩字、魚食不レ記、八名二亥靈胎一、九魚全食不レ辨。

【九嬰】35 キウエイ 水や火のもののけ。人の害を爲す。〔淮南子、本經訓〕殺二九嬰於凶水之上一。〔注〕九嬰、水火之怪、爲二人害一。〔溫子昇、寒陵山寺碑〕九嬰暴起、十日並出。

【九曜】36 キウエウ ㊀九つの星。日曜星・月曜星・火曜星・水曜星・木曜星・金曜星・土曜星・計都星・羅睺星。九星。〔韓偓、夢中詩〕九曜再新環二北極一、萬方依レ舊祝二南山一。〔五代史、司天考〕言三曆有二九曜一、以爲二注レ曆之常式一。〔大日經〕執有二九種一、卽是日月水火木金土七曜、及與二羅睺・計都一、合爲二九執一、羅睺、是交會蝕神、計都、正翻爲レ旗、旗星謂二慧星一、除二此二執一之外、其餘七曜相次直レ日、其性類亦有二善惡一。㊁山名。㋑浙江省杭縣の南、屛山の西。回廣東省中山縣の東南の海中に在る。㊂クエウ 紋所の名。中央に大きい星を置き、周圍に八箇の小星を附す。

【九曜齋】37 キウエウサイ 淸、惠棟(4−10822・・105)の號。

【九曜生】38 キウエウセイ 日の異名。〔事物異名錄、乾象、日〕雲笈七籤、九天眞人、呼レ日爲二濯耀羅一、三天眞人、呼爲二圓光蔚一、太素天中、呼爲二眇景皇一、上淸眞人呼爲二九曜生一、泰淸天中仙人、呼爲二太明一、太極天中、呼爲二圓明一、玉賢天中、呼爲二微元一、東華眞人、呼爲二紫曜明一、亦名二圓珠一、亦謂二始暉一。

【九曜石】39 キウエウセキ 石の名。廣東省廣州特別市九曜坊にある。〔南海古蹟記〕九曜石、在二西城內一、城有レ湖、水凝レ綠、列二石嵌奇突兀者九一。〔廣東新語〕九曜石在二藥洲旁一、南漢主劉龑、使二罪人移一自二太湖靈壁一、浮レ海而至者、石凡九、高八九尺、或丈餘。

【九埏】40 キウエン 地のはて。九垠。〔王勃、南郊頌〕風行電擧、未二寸景一、而浹二九埏一。〔宗楚客、喜レ雪詩〕飄飄瑞雪下二山川一、散漫輕飛集二九埏一。

【九淵】41 キウエン ㊀深い淵。九重のふち。〔史記、賈誼傳〕襲二九淵之神龍一兮。〔注〕索隱曰、莊子曰、千金之珠、必在二九重之淵而驪龍頷下一、故云二九淵之神龍一也。〔顏延之、贈二王太常一詩〕聆レ龍瞟二九淵一。〔曹植、七啓〕援二九淵之靈龜一。㊁九つのふち。形狀に因つて名づけたもの。卽ち鯢旋之潘・止水之潘・流水之潘・濫水之潘・沃水之潘・沈水之潘・雍水之潘・汧水之潘・肥水之潘。〔列子、黃帝〕鯢旋之潘爲レ淵、水止之潘爲レ淵、流水之潘爲レ淵、濫水之潘爲レ淵、沃水之潘爲レ淵、沈水之潘爲レ淵、雍水之潘爲レ淵、汧水之潘爲レ淵、肥水之潘爲レ淵、是爲二九淵一焉。〔莊子、應帝王〕鯢桓之審爲レ淵、止水之審爲レ淵、流水之審爲レ淵、淵有二九名一。〔釋文〕審、崔本作レ潘。㊂少皡の樂名。〔周禮、春官、大司樂、以二樂舞一敎二國子一、疏〕少昊之樂曰二九淵一。〔元結、補樂歌、九淵〕九淵、少昊氏之樂歌也、其義蓋稱二少昊之德、淵然深遠一。

【九煙】42 キウエン 淸、黃周星(12−47926・・1126)の字。

【九筵】43 キウエン 八十一尺の長さ。一筵は九尺。周の制で明堂の東西の長さは九筵あつた。〔周禮、考工記、匠人〕周人明堂、度二九尺之筵一、東西九筵、南北七筵。〔張衡、西京賦〕狹二百堵之側陋一、增二九筵之迫脅一。〔范仲淹、明堂賦〕七筵兮南北之廣、九筵兮西東之長。

【九畹】44 キウエン 畹は、十二畝、又は三十畝。戰國時代の楚の屈原の故事から、蘭を種ゑる故實に用ひる。〔楚辭、離騷〕余既滋二蘭之九畹一兮、又樹二蕙之百晦一。〔集注〕畹、十二畝、或曰、三十畝也。〔江總、永陽王齋後亭山銘〕開二榮九畹一、結二秀三珠一。〔楊炯、幽蘭賦〕丰茸十步、綿連九畹。〔韓愈、合江亭詩〕樹レ蘭盈二九畹一、栽レ竹逾二萬个一。

【九畹菜】45 キウエンサイ 草の名。さじおもだか。澤瀉(7−18383・・31)の異名。〔淸異錄、藥、藥譜〕九畹菜、澤瀉。

【九河】46 キウカ 禹の時の黃河の九つの支流。九澮。徒駭・太史・馬頰・覆鬴・胡蘇・簡・絜・鉤盤・鬲津。其の存亡に就いては、說が一定せぬ。琅琊代醉編、卷三に見ゆ。〔爾雅、釋水、九河〕徒駭・太史・馬頰・覆鬴・胡蘇・簡・絜・鉤盤・鬲津。〔書、禹貢〕九河既道。〔荀子、成相〕北決二九河一。〔沈約、應レ詔樂游苑餞二呂僧珍一詩〕揚二旆九河陰一。㊀已に海に沈んでゐるといふ說。〔漢書、溝洫志〕王橫言、往者天嘗連雨、東北風、海水溢、西南出、浸二數百里一、九河之地、已爲二海所一レ漸矣。〔書、禹貢、蔡傳〕程氏以爲、九河之地已淪二於海一、引二碣石一爲二九河之證一、以謂、今滄州之地、北與二平州一接レ境、相去五百餘里、禹之九河、當レ在二其地一、後爲二海水一淪沒、故其迹不レ存、方下九河未レ沒二於海一之時上、從二今海岸東北一更五百里平地、河播爲レ九、在二此五百里中一、又上文言レ夾二右碣石一、則九

河入レ海之處、有二碣石一、在二其西北岸一、云云、今兗冀之地、既無二此石一、而平州正南、有レ山而名二碣石一者、尙在二海中一、去レ岸五百餘里、卓立可レ見、則是古河、自三今以爲二海處一、向レ北斜行、始分爲レ九、則其河道已淪入二於海一、明矣。〔金履祥、書禹貢、注〕河自二大伾一北流、過二大陸一以北、方播爲レ九、據二王横所一レ言、大風海溢、卽今小海、碣石、古河入レ海之處、今在二海中五百餘里一、則九河之地、淪爲二小海一久矣。㊁已に塞がつてゐるといふ說。〔書、禹貢、九河既道、今古文注疏〕鄭康成曰、九河之名、徒駭・太史・馬頰・覆釜・胡蘇・簡・潔・鉤盤・鬲津、周時、齊桓公塞レ之、同爲レ一、今河閒弓高以東、至二平原鬲津一、往往有二其遺處一焉。〔漢書、溝洫志〕許商以爲、古說、九河之名、有二徒駭・胡蘇・鬲津一、今見在二成平・東光・鬲界中一、自レ鬲以北至二徒駭一閒、相去二百餘里、今河雖二數移徙一、不レ離二此域一。〔書、禹貢、疏〕九河所レ在、徒駭最北、鬲津最南、蓋徒駭是河之本道、東出分爲二八枝一也、許商上言二三河一、下言二三縣一、則徒駭在二成平一、胡蘇在二東光一、鬲津在二鬲縣一、餘不二復知一也、爾雅九河之次、從レ北而南、既知二三河之處一、則其餘六者、太史・馬頰・覆釜、在二東光之北一、成平之南一、簡・潔・鉤盤、在二東光之南一、鬲縣之北一也、其河塡塞、時有二故道一。〔夏允彝、禹貢合注〕九河在二今滄瀛・景德之閒一、或者求二於此一而不レ得、則以爲三淪入二於海一、又或以爲下齊桓塡二閼八流一、以自廣、止存中徒駭上、不レ知下河昔北流、故分爲二九河一、自二周定王五年河道既改一、則九河漸湮上、豈得二經流既息而枝流仍在一乎、縱非二海水淪沒一、其故迹豈可二得而復求一乎。㊂其の地が現存するといふ說。〔書、禹貢、蔡傳〕按、徒駭河、地志云、滹沱河、寰宇記云、在二滄州清池南一、許商云、在二平城一、馬頰河、元和志云、在二德州安德平原南東一、寰宇記云、在二棣州滴河北一、輿地記云、卽篤馬河也、覆鬴河、通典云、在二德州安德一、胡蘇河、寰宇記云、在二滄之饒安・無棣・臨津三縣一、許商云、在二東光一、簡・潔河、輿地記云、在二臨津一、鉤盤河、寰宇記云、在二樂陵東南一、從二德州平昌一來、輿地記云、在二樂陵一、鬲津河、寰宇記云、在二樂陵東一、西北流入二饒安一、許商云、在二鬲縣一、輿地記云、在二無棣一、太史河、不レ知レ所レ在。〔尙書後案、禹貢〕九河、唐以下諸家、紛紛訪求、各自立レ說、如レ謂下鉤盤在二景城郡界一、馬頰・覆釜在中平原郡界上者、杜佑通典也、謂下河北道德州安德縣、馬頰河在二縣南五十里一、平昌縣、馬頰河在二縣南十里一、棣州陽信縣、鉤盤河經中縣北四十里上者、李吉甫元和志也、謂三簡河在二貝州歷亭縣界一者、張守節史記正義也、謂下河北道冀州蓨縣、馬頰河經二邑界一、德州安德縣、馬頰河在二縣南五十里一、云云、棣州滴河縣、馬頰河在二縣北二十里一、云云、滄州樂陵縣、馬頰河在二縣東六十里一、鉤盤河在中縣東南五十里上者、樂史太平寰宇記也。〔尙書地理今釋、夏書、禹貢、川〕九河、直隸河閒府滄州之西、交河縣之東北六十里、有二徒駭河一、漢書地理志所謂滹沱河、民或曰二徒駭河一、是也、山東濟南府平原縣北有二篤馬河一、云云、相傳卽馬頰河也、濟南府德州有二覆釜河一、云云、河閒府東光縣東南、有二胡蘇河一、云云、河閒府南皮縣城外有二簡河・絜河一、濟南府樂陵縣東南有二鉤盤河一、德州西南有二鬲津河一、云云、其太史河據二齊乘一、在二清滄二州之閒一、明一統志亦云、在二南皮縣北一、今其地雖レ無二顯跡一、然以二孔疏一參レ之、明一統志亦非レ無レ據、蓋九河故道、自二春秋時一已湮廢遷徙、漢唐以來、諸儒訪二求古跡一、就レ所レ見之斷港絕潢、指爲二某河某河一、似二乎是非不一レ可レ知、然河自二大陸一以北、順レ勢下趨、禹時九河、自當レ在二德州以上、河閒數百里之地一。

【九河盈溢非二一凷所一レ防】47 キウカノエイイツハイツクワイノフセグトコロニアラズ 九河の水の溢れは、一つの土塊では防ぎきれぬ。〔蔡邕、釋誨〕九河盈溢、非二一凷所一レ防、帶甲百萬、非二一勇所一レ伉。

【九夏】48 キウカ ㊀夏九十日閒の稱。夏一ぱい。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、林鍾六月〕三伏漸終、九夏將レ謝。〔劉兼、中夏晝臥詩〕寂寂無聊九夏中、傍簷倚レ壁待二淸風一。㊁周代に於ける朝廷の九種の大きな音樂。夏は大の義。王夏（天子が出入の時に奏する）・肆夏（尸が出入の時）・昭夏（牲が出入の時）・納夏（賓客が至る時）・章夏（臣が功ある時）・齊夏（夫人の祭事ある時）・族夏（族人の侍する時）・祴夏（客が醉つて出る時）・驁夏（公の出入の時）。〔周禮、春官、鐘師〕凡樂事、以二鐘鼓一奏二九夏一、王夏・肆夏・昭夏・納夏・章夏・齊夏・族夏・祴夏・驁夏。〔注〕夏、大也、樂之大歌有レ九、云云、王出入奏二王夏一、尸出入奏二肆夏一、牲出入奏二昭夏一、四方賓來奏二納夏一、臣有レ功奏二章夏一、夫人祭奏二齊夏一、族人侍奏二族夏一、客醉而出奏二祴夏一、公出入奏二驁夏一、肆夏詩也。

【九家】49 キウカ 戰國時代の九つの學派。九流(630)の㊁に同じ。〔漢書、敍傳下〕九流以別、注〕應劭曰、儒・道・陰陽・法・名・墨・從横・雜・農、凡九家。

【九家集注杜詩】50 キウカシフチユウトシ 書名。三十六卷。唐、杜甫撰。宋、郭知達集注。九家とは王洙・宋祁・王安石・黃庭堅・薛夢符・杜田・鮑彪・師尹・趙彥材をいふ。〔四庫提要、集、別集類〕。

【九歌】51 キウカ ㊀禹の九功の歌。九功(236)の㊀を見よ。〔書、大禹謨〕勸レ之以二九歌一。〔左氏、文、七〕九功之德、皆可レ歌也、謂二之九歌一、六府三事、謂二之九功一。㊁楚辭の篇名。楚、屈原作。東皇太一・雲中君・湘君・湘夫人・大司命・少司命・東君・河伯・山鬼・國殤・禮魂の十一篇。十一篇あるのに九歌といふことに就いて王逸は、九は陽數の極で、道の綱紀であるから、九の字を用ひたといひ、文選には國殤・禮魂の二篇を除き、顧成大・蔣驥等は湘君と湘夫人、大司命と少司命とを各一篇と見做して一篇としてゐる。又、林雲銘は山鬼・國殤・禮魂を合して一篇としてゐる。〔王逸、楚辭九歌章句〕九歌者、屈原之所レ作也、云云、屈原放逐、竄二伏其域一、懷レ憂苦レ毒、愁思怫鬱、出見二俗人祭祀之禮、歌舞之樂一、其詞鄙陋、因爲作二九歌之曲一。

【九歌草堂】52 キウカサウダウ 清、屈大均(4―7669・・15)の室名。

【奏二九歌一而舞レ韶兮】53 キウカヲソウシテセウヲマフ 楚辭離騷の一句。九歌は九德の歌で、禹の樂。韶は舜の樂。〔楚辭、離騷〕奏二九歌一而舞レ韶兮。〔注〕九歌、九德之歌、禹樂也、韶、九韶、舜樂也。

【九霞】54 キウカ ㊀美しい霞。道家の語。九光霞(1―85)に同じ。㊁淸、蔡方炳(9―31818・・229)の字。

【九霞觴】55 キウカシヤウ 曲の名。宋、太宗作。〔宋史、音樂志十七〕有二九霞觴雙調一。

【九霞山人】56 キウカサンジン 明、顧起綸(12―43689・・23)の號。

【九戒】57 キウカイ 九つのいましめ。一に內に柔成あり、二に示に危傾あり、三に旅に罷賓あり、四に亂に立信あり、五に敎に康經を用ふるあり、六に合に毀成を詳かにす、七に邑、維人に守らしむ、八に飢に兆積あり、九に勞に無期を休む。〔逸周書、文政解〕九戒、一、內有二柔成一、二、示有二危傾一、三、旅有二罷賓一、四、亂有二立信一、五、敎用二康經一、六、合詳二毀成一、七、邑守二維人一、八、飢有二兆積一、九、勞休二無期一。

【九界】58 クカイ 佛十界から佛界を除いた餘の九つの世界。佛界は悟りの世界、九界は迷の世界で、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人閒・天上・聲聞・緣覺・菩薩の世界。〔法華玄義、二上〕己身他身、微妙寂絕、皆非レ權非レ實、而能應二於九界之權、一界之實一。

【九垓】59 キウガイ ㊀天のはて。地のはて。九陔。九垠。垓は陔、又は閡に作り、はての義。〔漢書、司馬相如傳下〕上暢二九垓一、下泝二八埏一。〔論衡、道虛〕吾與二汗漫一期二於九垓之上一。㊁九州。〔柳宗元、招二海賈一文〕猖狂震虩翻二九垓一。

【九垓之外】60 キウガイノソト 天のはて。地のはて。〔淮南子、道應訓〕吾與二汗漫一期二于九垓之外一。

【九垓八埏】61 キウガイハチエン 天のはて、地のはて。天地のきはみ。埏は地際。〔史記、司馬相如傳〕上暢二九垓一、下泝二八埏一。

【九陔】62 キウガイ 九垓(59)の㊀に同じ。又、九閡に作る。〔漢書、禮樂志、九閡、注〕如淳曰、閡、亦陔也。

【九晐】63 キウガイ 九州の地のはて。九州の全土。九垓。〔國語、楚語下〕天子之田九晐。〔國語、鄭語〕王者居二九晐之田一、收二經入一、以食二兆民一。〔注〕九晐、九州之極數也。

【九街】64 キウガイ 多方面に通ずる町通り。〔薛能、送二浙東王大夫一詩〕九街鳴二玉勒一、一宅照二紅旌一。

【九閡】65 キウガイ 天のはて。天外。九垓(59)の㊀に同じ。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕專レ精厲レ意逝二九閡一。〔注〕如淳曰、閡、重也、謂二九天之上一也。

【九江】66 キウカウ ㊀川の名。(甲)禹貢の九江。種々の說がある。〔書、禹貢〕九江孔殷。㋑大江が潯陽に

至り、分れて九となる説。書經の孔傳に始まり、應劭・郭璞の諸家、之を承く。〔書、禹貢、傳〕江、於二此州界一分爲二九道一。〔漢書、地理志、注〕應劭曰、江、自二潯陽一分爲レ九。〔郭璞、江賦〕流九派乎潯陽一。㊁九江は潯陽にあり、各〻の源は別だが、東して大江に合するといふ説。漢の鄭玄に始まるが、九江の名は詳かでない。〔漢書、地理志上〕潯陽、禹貢九江在レ南、皆東合爲二大江一。〔書、禹貢、疏〕鄭云、九江、從二山谿一所レ出、地理志、九江在二今廬江潯陽縣南一皆東合爲二大江一、如二鄭此意一、九江各有二別源一、非二大江一也。㊂唐の陸德明は、經典釋文に、潯陽地記と緣江圖とを引證して、實際の地を當てゐるが、今、考證することは出來ない。蓋し、鄂・贛二省の間で江に入る九水を、九江としたのであらう。〔潯陽地記〕烏白江、二蚌江、三烏江、四嘉靡江、五畎江、六源江、七廩江、八提江、九箇江。〔張須元、緣江圖〕二三里江、二五洲江、三嘉靡江、四烏土江、五白蚌江、六白烏江、七箇江、八沙提江、九廩江、始二於鄂陵一終二於江口一、會二於桑落洲一。㊃九つの川が彭蠡澤に注いで、大江に入つてゐるから、九江といふといふ説。〔晉太康地記〕九江、劉歆以爲二湖漢九水入一彭蠡澤一也。㊄洞庭とする説。山海經に基づき、宋の胡旦に始まる。〔山海經、中山經〕又東南一百二十里曰二洞庭之山一、其上多二黃金一、其下多二銀鐵一、其木多二柤梨・橘・櫾一、其草多二荽・蘼蕪・芍藥・芎藭一、帝之二女居レ之、是常遊二于江淵一、澧・沅之風交二瀟・湘之淵一、是在二九江之間一。〔朱熹、九江彭蠡辨〕唯國初胡旦、近世晁説之、皆以二洞庭一爲二九江一。〔書、禹貢、蔡傳〕九江、今之洞庭也。㋑洞庭に入る諸河を九江とする説。宋の曾彦和は胡旦の説を承けて此の説を爲す。又、元の金履祥に異説がある。〔朱子文集、曾彦和言、九江即是洞庭、引二漢志沅水・漸水・元水一、小學紺珠作レ潕、一作無、蓋無訛爲レ元、又轉作レ沅也〕。底水(小學紺珠作レ辰)。敍水。酉水。澧水(一作レ醴)。湘水。資水。皆合二洞庭一、東入二於江一、故洞庭亦可レ名二九江一。〔金履祥、書經注〕古者澧先入レ江、澧當二九江數外一、今考二朱子文集及漢史及江陵新志一、更定二九江一、曰、瀟江・湘江・蒸江・資江・沅江・漸江・序江・辰江・酉江。㋺南方の九水を總べていふ。禹貢の九江ではない。〔太平寰宇記〕浙江・揚子江・楚江・湘江・荊江・漢江・南江・吳江・松江、爲二九江一。㊆郡名。㋐秦、置く。今の安徽省壽縣。〔讀史方輿紀要、州域形勢、秦〕九江、今江南鳳陽淮安州廬州安慶等府及滁・和二州、江西境內州郡、皆是。㊇後漢、置く。故城は今の安徽省定遠縣の西北。㋑隋代に尋陽郡を改めて九江郡とした。今の江西省九江縣治。〔讀史方輿紀要、江西〕九江府、禹貢、荊・陽二州之境、云云、晉爲二廬江・武昌・豫章三郡地一、永興初、置二尋陽郡一、宋以後因レ之、隋平レ陳、廢レ郡、仍置二江州一、大業初、改二江州一爲二九江郡一。㋒府名。明、置く。清は之に因り、江西省に屬し、德化・德安・瑞昌・湖口、彭澤の五縣を管轄す。〔清史稿、地理志〕江西、九江府、領二縣五一、德化・德安・瑞昌・湖口・彭澤。㊐縣名。民國、置く。漢の柴桑・尋陽二縣の地。英支天津條約で開放して商埠とす。長江三港の一。湖北省の夏口、福建省の閩侯と共に、中國三大茶京の一。江西省・安徽省南部の茶は皆此に集まる。南昌との間に南潯鐵路(九南鐵路レ之)を通ず。江西省 湖口縣の西。㊑唐、葉一源(9－31387‥158)の字。

【九江墟】67 キュウカウキョ 鎭の名。廣東省南海縣の西南、西江の左岸。一名、九江卿。又、九江鎭。清の朱次琦が此處に隱居し、九江先生と稱せられた。

【九江關】68 キュウカウクワン 清代の二十二稅關の一。江海關(6－17140‥44)を見よ。「器。

【九江瓷】69 chiu³ chiang¹ tz'ŭ² 九江燒の陶

【九江西部】70 キュウカウセイブ 唐・宋の洪州の異名。故治は今の江西省南昌縣。〔海錄碎事、地部上、地〕九江西部、爲二一都會一、謂二洪州一、出二文粹一。

【九江先生】71 キュウカウセンセイ 清、朱次琦(6－14424‥82)の尊稱。

【九行】72 キュウカウ ❶九つの善いおこなひ。仁・行・讓・信・固・治・義・意・勇。一説に、孝・慈・文・信・言・忠・恭・勇・義といふ。〔逸周書、文政解〕九行、一仁、二行、三讓、四信、五固、六治、七義、八意、九勇。〔拾遺記〕使二九行之士一以統二萬國一、九行者、孝・慈・文・信・言・忠・恭・勇・義。❷月の運行する九つの道。即ち、黑道二、赤道二、白道二、青道二、及び黃道。〔漢書、天文志〕日有二中道一、月有二九行一、中道者黃道、一曰光道一、云云、月有二九行一者、黑道二、出二黃道北一、赤道二、出二黃道南一、白道二、出二黃道西一、青道二、出二黃道東一。❸九州の道。九域の道里。全國の道。〔穆天子傳、五〕帝收二九行一。〔注〕行、道也。言收二羅九域之道里一也。❹九めぐり。〔史記、叔孫通傳〕觴九行、謁者言レ罷レ酒。〔宋史、禮志十六〕大宴于廣德殿一酒九行而罷。

【九坑】73 キュウカウ 九州の山の脊。坑は山の脊。〔楚辭、九歌、大司命〕吾與レ君兮齊速、導レ帝之二兮九坑一。〔注〕導二迎天帝一、出二入九州之山一。〔補注〕坑、音岡、山脊也。

【九皋】74 キュウカウ ❶水澤の奥深い處。深遠な所の喩。〔詩、小雅、鶴鳴〕鶴鳴二于九皋一、聲聞二于野一。〔箋〕皋、澤中水溢出所レ爲レ坎、自レ外數至二九、喩二深遠一也。〔鹽鐵論、西域〕茫茫乎、若レ行二九皋一。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕鶴鳴二九皋一、猶載二厥聲一。❷李號。㋑明、妙聲(3－6090‥137)の字。㋺清、楊大鶴(6－15112‥666)の字。㋩深田正益の號。深田九皋(7－17687‥281)を見よ。

【九皋鶴】75 ノウカウツル 九皋鳴鶴(79)を見よ。

【九皋禽】76 キュウカウキン 鶴をいふ。詩經の鶴鳴二于九皋一の句に本づく。九皋の❶を見よ。〔李遠、失レ鶴詩〕秋風吹卻九皋禽、一片閑雲萬里心。

【九皋介鳥】77 キュウカウカイチウ 鳥の名。つる。鶴(12－47 185)の異名。九皋禽を見よ。〔張衡、思玄賦〕遇二九皋之介鳥一。〔注〕濟曰、介、大也、大鳥謂レ鶴也。

【九皋處士】78 キュウカウショジ 鳥の名。つる。鶴(12－47 185)の異名。九皋禽を見よ。〔清異錄、獸〕武宗爲二潁王一時、邸園畜二禽獸之可レ人者一、以備二十玩一、繪二十玩圖一于レ今傳播、九皋處士、鶴。

【九皋鳴鶴】79 キュウカウノメイカク 澤中で鳴いて居る鶴。身を隱してゐても名の著れることの喩。又、畫題の一。九皋禽を見よ。

【九傲】80 キュウガウ 九つのおごり。又九旒(634)に同じ。〔說苑、反質〕殷・周受レ之、作二爲大器一、而建二九傲一、食器彫琢、觴勺刻鏤、四壁四帷、茵席彫文、此彌侈矣。〔纂註〕韓非子、傲作レ旒。

【九岳】81 キュウガク 明、張萱(4－9812‥276)の號。

【九合】82 キュウガフ あつめあはせる。九は、一に糾に作る。一説に、九を數として九度の會合とする。九會。〔左氏、襄、十一〕八年之中、九合諸侯。〔會箋〕說者謂、九合諸侯、謂、五年會レ戚、又會二城棣一、救陳、七年會レ鄢、八年會二邢丘一、九年盟二于戲一、十年會レ柤、又伐レ鄭、戍二虎牢一、十一年同二盟亳城北一、又會二蕭魚一、不レ知九合但大概言二其多一。〔論語、憲問〕桓公九合諸侯、不レ以二兵車一、管仲之力也。〔疏〕言二九合一者、史記云、兵車之會三、乘車之會六、穀梁傳云、衣裳之會十有一、范寧注云、十三年會二北杏一、十四年會レ鄄、十五年又會レ鄄、十六年會レ幽、二十七年又會レ幽、僖元年會レ檉、二年會レ貫、三年會二陽穀一、五年會二首止一、七年會二寧母一、九年會二葵丘一、凡十一會、不レ取二北杏及陽穀一爲レ九也。〔集注〕九、春秋傳作レ糾。〔荀子、王霸〕九合諸侯。〔管子、小匡〕九合諸侯、一匡天下一。

【九合香】83 chiu³ hê² hsiang¹ 香の一種。

【九坎】84 キュウカン 星の名。〔晉書、天文志上〕九坎九星、在二牽牛南一。

【九圻】85 キュウキ ❶中央・東・東北・北・西北・西・西南・南・東南のはて。〔張嘉貞、奉レ和早登二太行一山中言二志應制詩一〕九圻行如レ砥、萬谷輸如レ川。❷黃石磯をいふ。〔水經、江水注〕卽黃石磯也、云云、黃公九磯、所謂九圻者也。

【九紀】86 キ 九つの大綱。辰・宿・日・月・春・夏・秋・冬・歲。〔國語、鄭語〕建二九紀一、以立二純德一。〔逸周書、小開武解〕九紀、一、辰以紀レ日、二、宿以紀レ月、三、日以紀レ德、四、月以紀レ刑、五、春以紀レ生、六、夏以紀レ長、七、秋以紀レ殺、八、冬以紀レ藏、九、歲以紀レ終。

【九軌】87 キキ 九つの車轍を並べた幅をいふ。九緯(6)を見よ。〔周禮、考工記、匠人〕國中九經九緯、經涂九軌。〔注〕國中、城內也、經緯謂レ涂也、經緯之涂、皆容レ方二九軌一、軌、謂二轍廣一、乘車六尺六寸、旁加七寸、凡八尺、是謂二轍廣一、九軌積七十二尺、則此涂十一步也、旁加七寸者、輻內二寸半、輻廣三寸半、綆三分寸之二、金轄之間三分

寸之一。(張衡、東京賦)經途九軌、城隅九雉。

【九軌之道】88 キュウキノ 九輌の車が竝んで行ける程の大道。(蘇軾、贈二眼醫王生彥若一詩)如レ行二九軌道一、並驅無二擊轂一。(蘇軾、擬二進士廷試策一)道二陛下解一轡秣レ馬、以須二東方之明一而行二九軌之道一、甚未レ晩也。

【九旂】89 キュウ 旗の名。(梁元帝、將レ歸二建鄴一先遣レ軍東下詔)六軍遄征、九旂揚レ旆。

【九氣】90 キュウキ ❶氣の變化によって生ずる九種の狀態の名の總稱。怒氣・喜氣・悲氣・恐氣・寒氣・炅氣・驚氣・勞氣・思氣。(素問、擧痛論)怒則氣上、喜則氣緩、悲則氣下、寒則氣收、炅則氣泄、驚則氣亂、勞則氣耗、思則氣結、九氣不レ同、何病之生。❷萬物の根本となる九つの氣。(雲笈七籤)三氣爲二天地之尊一、九氣爲二萬物之根一。❸輝きのある氣。道家の語。(諸眞玄奧)明出二扶桑一、九氣澄輝。

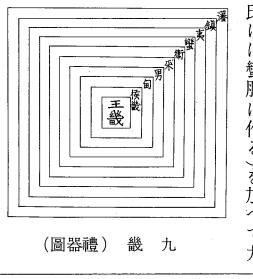
【九起】91 キュウ 九度おこる。(漢書、賈誼傳)其後十年之間、反者九起。

【九逵】92 キュウキ ❶都市の四方に通ずる街路。九衢。(三輔黃圖、一、都城十二門)長安城、面三門、四面十二門、皆通二達九逵一、以相經緯。(何遜、擬二輕薄一篇)長安九逵上、青槐蔭二道植一。(吳均、古意詩)九逵塵霧塞。❷字號。(明、吳子騏(2－336 5‥598)の字。

【九旗】93 キュウキ 古、尊卑貴賤の表識とした九種のはた。卽ち、日月を描いた常(王の建てるもの)、交龍を描いた旂(諸侯)、通帛を描いた旜(孤卿)、雜帛を描いた物(大夫・士)、熊虎を描いた旗(師・都)、鳥隼を描いた旗(州里)、龜蛇を描いた旐(縣鄙)、全羽を描いた旞(道車)、析羽を描いた旌(遊車)。(周禮、春官、司常)掌二九旗之物名一、各有レ屬、以待二國事一、日月爲レ常、交龍爲レ旂、通帛爲レ旜、雜帛爲レ物、熊虎爲レ旗、鳥隼爲レ旗、龜蛇爲レ旐、全羽爲レ旞、析羽爲レ旌。(潘岳、藉田賦)五輅鳴レ鑾、九旗揚レ旆。

【九魁】94 キュウ 北斗九星をいふ。一說に、魁は魁の誤であるといふ。九星(387)の❶を見よ。(楚辭、劉向、九歎、遠逝)訊二九魁與二六神一。(注)九魁、謂二北斗九星一也。(養新錄)說文無二魁字一、當レ爲二魁字之譌一、北斗九星、魁居二其首一、故有二九魁之稱一。

【九畿】95 キュウキ 周代に畿内を千里四方とし、其の外を各五百里毎に一畿として數へた區劃。卽ち王畿・侯畿・甸畿・男畿・采畿・衞畿・夷服・鎭服・蕃服(藩服)。一說に王畿を除き、要畿(周禮、夏官の職方氏には蠻服に作る)を加へて九とする。九服(576)の❶を見よ。(詩、齊譜)周公致二太平一、敷二定九畿一、復二夏禹之舊制一。(周禮、地官、小司徒、正二其畿疆之封一(注)畿、九畿。(疏)除二王畿一以外、仍有二九畿一、謂、侯・甸・男・采・衞・要、以二內六服一爲二中國一、其外更言二夷・鎭・蕃二服一爲二夷狄一、王畿四面、皆有二九畿一、相去各五百里、故云畿謂二九畿一。(周禮、夏官、大司馬)大司馬以二九畿籍一、施二邦國之政職一、方千里曰二王畿一、其外方五百里曰二侯畿一、又其外方五百里曰二甸畿一、又其外方五百里曰二男畿一、又其外方五百里曰二采畿一、又其外方五百里曰二衞畿一、又其外方五百里曰二蠻服一、又其外方五百里曰二夷服一、又其外方五百里曰二鎭服一。(注)畿、猶レ限也、自二王城一以外五千里爲レ界、有二分限一者九。



九畿(圖器)

【九器】96 キュウ 九つの器物。(管子、兵法)論二七數一、守二八應一、審二九器一、章二十號一。

【九歸】97 キュウキ 珠算に於て、法の數が九以下の時の除法。割算九九。(算法統宗、九歸歌)(一歸)一歸不レ須レ歸、其法故不レ法、(二歸)二添作五・逢二進一十・逢四進二十・逢六進三十・逢八進四十、(三歸)三二三十一・三二六十二・逢三進一十・逢六進二十・逢九進三十、(四歸)四二二十二・四二添作五・四三七十二・逢四進一十・逢八進二十、(五歸)五一倍作二・五二倍作四・五三倍作六・五四倍作八・逢五進一十、(六歸)六一加下四・六二三十二・六三添作五・六四六十四・六五八十二・逢六進一十、(七歸)七一下加三・七二下加六・七三四十二・七四五十五・七五七十一・七六八十四・逢七進一十、(八歸)八一下加二・八二下加四・八三下加六・八四添作五・八五六十二・八六七十四・八七八十六・逢八進一十、(九歸)九歸隨身下・逢九進一十、右法與二九合數一相混、但記二句法一、惟辨二多數在レ先、少數在レ次、卽九歸之句、如二八六七十四是歸、六八四十八是因一之類、已上句法、併後各樣歌訣、皆學者所レ當二就記一。

【九歸道人】98 キュウキダウジン 明、張澹然(4－9812‥134 4)の號。

【九疑】99 キュウ ❶山名。古の蒼梧の野に在り、今の湖南省寧遠縣の南に在る。朱明・石城・石樓・娥皇・舜源・女英・蕭韶・桂林・梓林の九峯があり、皆、形が同じく、見る者が迷ひ疑ふから九疑といふ。舜の廟がある。九疑。蒼梧山。(楚辭、離騷)九疑繽其並迎。(史記、五帝紀)舜葬二於江南九疑一。(漢書、武帝紀)望二祀虞舜于九疑一。(注)師古曰、九疑山、半在二蒼梧一、半在二零陵一、其山九峯、形勢相似、故曰二九疑山一。(淮南子、原道訓)九疑之南。(水經、湘水注)九疑山、羅巖九擧、各導二一溪一、岫壑負レ峴、異嶺同レ勢、遊者疑焉、故曰二九疑山一。(晉書拾唾、地理廣輪)九疑峯、朱明・石城・石樓・娥皇・舜源・女英・蕭韶・桂林・梓林。❷明、李日華(6－14459‥1371)の號。

【九疑山人】100 キュウギサンジン 河原澤の號。河原橘枝堂(6－17245‥77)を見よ。

【九疑仙人】101 キュウギセンニン 木の名。綠萼梅(8－27541‥252)の異名。(事物異名錄、花卉、梅、梅譜、綠萼梅、比二之九疑仙人一。

【九儀】102 キュウギ ❶貴賤の位を正す九つの儀式。九禮。壹命は職を受ける、再命は服を受ける、三命は位を受ける、四命は器を受ける、五命は則を賜はる、六命は官を賜はる、七命は國を賜はる、八命は牧となる、九命は伯となる。(周禮、春官、大宗伯)以二九儀之命一正二邦國之位一、壹命受レ職、再命受レ服、三命受レ位、四命受レ器、五命賜レ則、六命賜レ官、七命賜レ國、八命作レ牧、九命作レ伯。❷朝聘の禮儀。公・侯・伯・子・男、及び孤・卿・大夫・士の九者によって、其の節を異にする。(周禮、秋官、司儀)掌二九儀之賓客賓相之禮一、以詔二儀容辭令揖讓之節一。(周禮、秋官、大行人)以二九儀一辨二諸侯之命一、等二諸臣之爵一。(注)九儀、謂命者五、公・侯・伯・子・男也、爵者四、孤・卿・大夫・士也。❸清、陳韶(青浦の人)(11－41 698‥399)の字。❹古來、印度に行はれた、敬意を表する儀式。九等に分れる。(西域記)致敬之式、其儀九等、一、發二言慰問一、二俯首示レ敬、三、擧手高揖、四、合掌平拱、五、屈レ膝、六、長跪、七、手膝據レ地、八、五輪俱屈、九、五體投レ地。

【九疑】103 キュウ 山名。❶九疑(99)の❶に同じ。(謝靈運、初發二石首城一詩)越二海陵一三山一、游二湘歷一九疑一。(元結、九疑圖記)九疑山、方二千餘里、四州各近二一隅一、世稱、九峯相似、望而疑レ之、謂二之九疑一。❷江蘇省銅山縣の北。一名、九里山。(讀史方輿紀要、江南、徐州)九疑山、州北五里、其山自レ東而西、綿亙五里、俗謂二之九里山一。

【九九】104 キュウキュウ ❶算法。九九合數を見よ。(韓詩外傳、三)齊桓公云云、設二庭燎一、士不レ至、東野有下以二九九一見者上、曰、九九薄能耳、而君猶禮レ之、況賢於九九乎。(注)若今九章法。(管子、輕重戊)慮戲作二造六峚一、以迎二陰陽一、作二九九之數一、以合二天道一、而天下化レ之。(漢書、梅福傳)齊桓之時、有下以二九九一見者上。❷冬至の次の日から八十一日目。又、其の期間。(荊楚歲時記)俗用二冬至次日數一、及二九九八十一日一、多作二九九一、詞又云、九盡寒盡、伏盡熱盡。❸九の自乘數、八十一をいふ。(太玄經、玄首總序、一)陳二其九九一、以爲二數生一。(北史、牛弘傳)明堂議曰、通天屋高八十一尺、黃鐘九九之實也。❹九月九日の重陽の節をいふ。重九。(唐詩紀事、中宗)願陪二九九辰一、長奉二千千曆一。❺陽九の厄をいふ。陽九之厄(11－41725‥50)を見よ。(漢書、揚雄傳下)九天運、與レ天終始。

【九九歌】105 キュウクカ 算法の九九の學習に便するために作られた歌訣。一一如一に始まり九九八十一に終る。九九合數(112)・乘法表(1－154‥98)を見よ。

【九九盆】106 chiu² chiu³ hê² 進物盆。

【九九訣】107 chiu² chiu³ chüeh² 算術乘法九九。

【九九辰】108 キウキウシン 長日月をいふ。〔全唐詩話〕願陪二中宗幸二臨渭亭一登レ高、薛稷得二曆字一云、願陪二九九辰一長奉二千千曆一。

【九九釘】109 chiu² chiu³ ting¹ 天子の門。

【九九年】110 ククノトシ 八十一歳をいふ。〔袁桷、孟習卿都事ニ母八十一云云詩〕鶴髮初開九九年、東西雙鳳集二庭前一。

【九九表】111 ククヘウ 乘法表(1－154‥96)に同じ。

【九九合數】112 ククガフスウ 算法の一。九九數表。掛算九九。〔算法統宗、九九合數〕一一如一、一二如二・二二如四、一三如三・二三如六・三三如九、一四如四・二四如八・三四一十二・四四一十六、一五如五・二五得一十・三五一十五・四五得二十・五五二十五、一六如六・二六一十二・三六一十八・四六二十四・五六得三十・六六三十六、一七如七・二七一十四・三七二十一・四七二十八・五七三十五・六七四十二・七七四十九、一八如八・二八一十六・三八二十四・四八三十二・五八得四十・六八四十八・七八五十六・八八六十四、一九如九・二九一十八・三九二十七・四九三十六・五九四十五・六九五十四・七九六十三・八九七十二・九九八十一。

【九九歸一】113 chiu² chiu³ kuei¹ i¹ 最後に。終局に。結局。どのつまり。

【九九山人】114 ククサンジン 藤澤恆の號。藤澤南岳(9－32340‥71)を見よ。

【九九之術】115 キウキウノジユツ 算法。九九の㊀を見よ。〔說苑、尊賢〕東野鄙人、有下以二九九之術一見者上。

【九九餑餑】116 chiu² chiu³ po¹ po 吉慶事などの進物に贈る饅頭。九九の數を用ひる。

【九九高松江】117 chiu² chiu³ kao¹ sung¹ chiang¹ 銀一兩中に九錢九分の銀と一分の銅とを含んだ銀子。松江銀子(6－14516‥49)に同じ。

【九九消寒圖】118 キウキウセウカンヅ 冬至から春になるまでの八十一日間の氣象を表にして其の年の豐凶を見る圖。一例を言へば、冬至に瓣八十一を有する素梅一枝を畫いて壁に掛け、翌日から一日毎に一瓣を色彩で塗り、塗り終はる日を寒明けの日とする。故に九九消寒圖といふ。〔帝京景物略、春場、十〕日冬至、畫二素梅一枝一、爲二瓣八十有一一、日染二一瓣一、瓣盡而九九出、則春深矣、曰二九九消寒圖一。〔清稗類鈔、時令類〕宣宗御製詞、有下亭前垂柳珍重待二春風一句上、句九字、字各九畫、其後雙二鈎之一、裝潢成レ幅、曰二九九消寒圖一、題二管城春色四字於其端一、南書房翰林日以二陰晴風雪一注レ之、自二冬至一始、日塡二一畫一、凡八十一日而畢レ事。

【九九八十一】119 ククハチジフイチ 算法。〔算法統宗、九九八十一〕(一)一上一・二上二・三上三・四上四・五上五・六上六・七上七・八上八・九上九、(二遍)一上一・二上二・三下五除二・四下五除一・五起五成一十・六上一起・五成一十・七上二起・五成一十、(三遍)一上一・二下五除三・三上三・四起六成一十・五上五・六上六・七退三成一十・八退二成一十・九退一成一十、(四遍)一上一・二上二・三起七成一十・四下五除一・五起五成一十・六退四成一十・七退三成一十・八上三起五成一十・九退一成一十、(五遍)一下五除四・二起八成一十・三下五除二・四起六成一十・五上五・六上一起五成一十・七上七・八退二成一十・九退一成一十、(六遍)一上一・二上二・三起七成一十・四下五除一・五起五成一十・六上六・七退三成一十・八退二成一十・九上四起五成一十、(七遍)一上一・二下五除三・三上三・四退六成一十・五上五・六退四成一十・七上二起五成一十・八退二成一十・九退一成一十、(八遍)一上一・二上二・三下五除二・四下五除一・五起五成一十・六上一起五成一十・七退三成一十・八退二成一十・九退一成一十、(九遍)一上一・二上二・三上三・四上四・五上五・六上六・七上七・八上八・九退一成一十。

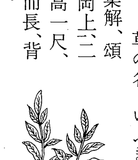
【九丘】120 キウキウ 古の書名。九州、卽ち中國全土の事を記した書籍。丘は聚の意。或は書經の九共の異名といふ。他に諸說がある。三墳五典八索九丘(1－12‥1586)を見よ。〔釋名、釋典藝〕九丘、丘、區也、區二別九州之土氣一、教化所レ宜レ施者也。〔左氏、昭、十二〕是能讀二三墳五典八索九丘一。〔孔安國、尚書序〕九州之志、謂二之九丘一、丘、聚也、言二九州所レ有、土地所レ生、風氣所レ宜、皆聚二此書一也。〔小學紺珠、藝文類、九丘〕劉原父云、卽九共九編、古文丘與レ共相近、故誤爲レ共。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕九州之志、謂二之九丘一、丘、聚也、言二九州所レ有、土地所レ生、風氣所レ宜者、皆聚二此書一也。〔故事成語考、文事〕八索九丘、是八澤九丘之誌。

【九臼】120′ キウキウ 草の名。ききう。鬼臼(12－45758‥24)の異名。〔本草、鬼臼〕釋名、九臼、天臼。〔通志、昆蟲草木略〕鬼臼曰二雀犀一、曰二馬目毒公一、曰二九臼一。

【九邱】121 キウキウ 九丘(120)に同じ。〔蘇軾、李氏山房藏書記〕楚獨有二左史倚相一、能讀二三墳五典八索九邱一。

【九牛】122 キウギウ 九頭の牛。多數の喩。〔管子、制分〕屠牛坦朝解二九牛一。〔王諲、柱礎賦〕五丁力殫、九牛流レ汗。

【九牛草】123 キウギウサウ 草の名。いぶきよもぎ。〔本草、九牛草〕集解、頌曰、生二筠州山岡上一、二月生レ苗、獨莖高一尺、葉似二艾葉一、圓而長、背有二白毛一、面青。



九牛草
(古今圖書集成)

【九牛毛】124 キウギウマウ 多くの牛の中の一本の毛。九牛一毛に同じ。〔段成式、題二僧壁一詩〕到レ此既知閑最樂、俗心何啻九牛毛。

【曳二九牛一】125 キウギウヲヒク 大力の形容。九頭の牛の尾を執つて後へ曳く。〔列子、仲尼〕周宣王曰、吾之力者、能裂二犀兕之革一、曳二九牛之尾一。

【九牛一毛】126 キウギウノイチマウ 多數の中の一小部分。物の數にも當らぬ意。九牛毛。〔司馬遷、報二任少卿一書〕假令僕伏レ法受レ誅、若二九牛亡二一毛一。〔杜牧、送二韋楚老拾遺歸朝一詩〕獨鶴初沖二大虛一日、九牛新落二一毛一時。〔楊載、書懷寄二杜原父一詩〕舊書益遺忘、九牛存二一毛一。

【九牛二虎的勁】127 chiu³ niu² êrh⁴ hu³ tê chin⁴ 非常に強大な力。

【九宮】128 キウキユウ ㊀九つの宮。㋑曆中の九宮。太一・攝提・軒轅・招搖・天符・青龍・咸池・太陰・天一。琅琊代醉編、卷一に見ゆ。〔後漢書、張衡傳〕重レ之以二卜筮一、雜レ之以二九宮一。〔注〕易乾鑿度曰、太一取二其數一以行二九宮一、鄭玄注云、太一者、北辰神名也、下行二八卦之宮一、每レ四乃還二於中央一、中央者北神之所レ居、故謂二之九宮一。〔王先謙集解〕北神、當レ作二北辰一。〔北史、王早傳〕王早、渤海南皮人也、明二陰陽九宮及兵法一。〔唐會要、九宮壇〕伏惟、九宮所レ稱之神、卽太一・攝提・軒轅・招搖・天符・青龍・咸池・太陰・天一者也、謹案二黃帝九宮經及蕭嵩五行大義一、一宮、其神太一、其星天蓬、其卦坎、其行水、其方白、二宮、其神攝提、其星天芮、其卦坤、其行土、其方黑、三宮、其神軒轅、其星天衝、其卦震、其行木、其方碧、四宮、其神招搖、其星天輔、其卦巽、其行木、其方綠、五宮、其神天符、其星天禽、其卦離、其行土、其方黃、六宮、其神青龍、其星天心、其卦乾、其行金、其方白、七宮、其神咸池、其星天柱、其卦兌、其行金、其方赤、八宮、其神太陰、其星天任、其卦艮、其行土、其方白、九宮、其神天一、其星天英、其卦離、其行火、其方紫。㋺曲中の九宮。北曲、卽ち元曲の宮調は合計十二調あるが、實際雜劇に用ひられるのは、套數の關係上、黃鐘宮・仙呂宮・正宮・中呂宮・南呂宮の五宮と雙調・大石調・越調・商調の四調とであるからいふ。宮調(3－7156‥191)を見よ。〔弇州山人稿〕元何朗云、北人之曲、以二九宮一統レ之、九宮之外、別有二道宮・高平・般涉三調一、南人之歌、亦有二南九宮一、然南歌或多與二絲竹一不レ協、豈所謂土氣偏詖、鍾律不レ得二調平一者耶。㋩明堂の九宮。〔隋書、宇文愷傳〕愷博考二羣籍一、奏二明堂議一、表曰、臣聞、在レ天成レ象、房心爲二布政之宮一、在レ地成レ形、丙午居二正陽之位一、觀レ雲告レ月、順二生殺之序一、五室九宮、統二人神之際一。㊁陰陽家の語。九星(387)の㊅に同じ。㊂唐の高宗の作つた舞曲の名。上元舞(1－13‥251)を見よ。㊃山名。湖北省通山縣の南、江西省武寧縣の界に在る。其の名の由來に就いては、晉安王兄弟九人が避難して、九宮を造つたからとも、高峯が九層あるからともいふ。宋の張道清が欽天瑞慶宮を山上に建てた。清の順治の初、流賊李自成が殺された地。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州、

通山縣）九宮山、縣東南八十里、廣八十里、高四十里、相傳、普安王兄弟九人、避ニ難於此一、造ニ九宮一而名、一云、山自レ下而上、高峯九層、故名、云云、宋張道清住レ此、建ニ欽天瑞慶宮於上一。

【九宮格】129 キウキウカク ㊀書の學習に用ひる方形の線を畫いた紙。碑帖を臨摹する時に用ひる。一格中が分れて九格となり、形が明堂の九宮に似てゐる。其の法は唐人に始まり、其の後、變遷があつた。〔翰林要訣、第九方法〕九宮、八面點畫拱ニ中心一。㊁chiu² kung¹ ko² 麻雀に於て、一定の坐席をいふ。

【九宮貴神】130 キウキウキシン 九宮の神をいふ。九宮の㊀の㋑を見よ。〔唐會要、九宮壇〕東置ニ九宮貴神壇一。〔資治通鑑、唐紀〕肅宗、乾元二年、上祀ニ九宮貴神一。〔注〕李心傳曰、九宮貴神者、太一・攝提・權主・招搖・天符・青龍・咸池・太陰・天一、宋白曰、九宮貴神、其說本ニ之黃帝九宮經、蕭吉五行大義。

【九宮七色】131 キウキウシチショク 曆學上の名稱。九宮に七色を配當したもの。六と一と八とは白、二は黑、三は碧、四は綠、五は黃、七は赤、九は紫。〔丹鉛總錄〕九宮七色之說、出ニ于乾鑿度一、其色、六・一・八爲レ白、二黑、三碧、四綠、五黃、七赤、九紫、大統歷中、每月列ニ于下方一、謂ニ之飛九宮一。

【九宮眞人】132 キウキウシンジン 道家の語、心臟を絳宮眞人、腎臟を丹元宮眞人、肝臟を蘭臺宮眞人、肺臟を尚書宮眞人、脾臟を黃庭宮眞人、膽を天靈宮眞人、小腸を玄靈宮眞人、大腸を未盡宮眞人、膀胱を玉房宮眞人といひ、合せて九宮眞人といふ。〔金丹大要、精氣神說〕身中九宮眞人、心爲ニ絳宮眞人一、腎爲ニ丹元宮眞人一、肝爲ニ蘭臺宮眞人一、肺爲ニ尚書宮眞人一、脾爲ニ黃庭宮眞人一、膽爲ニ天靈宮眞人一、小腸爲ニ玄靈宮眞人一、大腸爲ニ未盡宮眞人一、膀胱爲ニ玉房宮眞人一。

【九宮一算之術】133 キウキウイツサンノジュツ 三國、吳の趙達の傳へた推算の術。能く未來のことや隱微のことを推知し得るといふ。〔吳志、趙達傳〕脫レ身渡レ江、治ニ九宮一算之術一。

【九宮大成南北詞宮譜】134 キウキウタイセイナンボクシキウフ 書名。八十一卷。清、周祥鈺等奉敕撰。詞曲の樂譜を記したもの。

【九擧】135 キウキョ ㊀牲體を九たびあげて食する禮。〔周禮、秋官、大行人〕饗禮九獻、食禮九擧。㊁九度、推擧せられる。〔蔡邕、彭城姜伯淮碑〕十辟ニ公府一、九擧ニ賢良方正一、公車特徵、莫ニ之肯就一。

【九御】136 キウギョ 天子に奉侍する婦官。九嬪（568）を見よ。〔周禮、天官、內宰〕以ニ婦職之灋一教ニ九御一。〔注〕九御、女御也、九九而御ニ於王一、因以號焉。〔國語、周語中〕內宮不レ過ニ九御一。〔注〕九御、九嬪也。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕日入監ニ九御一。〔後漢書、文苑上、崔琦傳〕九御差池。

【九共】137 キウキウ 逸書の篇名。舜が四方の諸侯を理め、各〻其の官を設け、其の方に居らせ、姓族を別ち、其の類を分つて相從はしめて作る。〔逸書、九共序〕帝釐ニ下土一、方設居レ方、別レ生分レ類、作ニ汨作・九共九篇・槀飫一。〔注〕鄭康成曰、汨作・九共、已逸。

【九曲】138 キウキョク ㊀九まがり。屈曲の多いこと。又、黃河の九まがりした處。又、福建省の武彝山は、山形が九曲してゐるので、勝景と稱せられている。宋の朱熹に九曲詩がある。〔晉書、劉元海載記〕元海餞彌ニ於九曲之濱一。〔李祁、黃河賦〕折ニ九曲之迂迴一、瀉ニ千里於一快一。㊁唐の軍鎭の名。九曲軍を見よ。㊂山名。㋑四川省昭化縣の西。㋺廣西省ニ江縣の北。〔讀史方輿紀要、江西、柳州府、懷遠縣〕九曲山、在ニ縣西北一、高萬仞、怪石巉巖、中流一泓、碧練千尺。㋩河南省汜水縣の西北。大伾山の別名。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、鄭州、汜水縣〕九曲山、縣西二里、其山自レ下而上、有ニ乾溝一相間、㋥山の名。㋑河南省信陽縣の南。水經注の九渡水をいふ。〔水經、淮水注〕九渡之水出ニ雞翅山一、㋺江蘇省丹陽縣城の北。西は運河に接し、東北は大江に達す。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹陽縣〕九曲河、在ニ縣北一、南接ニ漕渠一、北達ニ大江一、委蛇七十餘里、亦謂ニ之新河一。㋭池の名。㋑江蘇省江寧縣の東北。〔建康志〕在ニ臺城東宮城內一、梁昭明太子所レ鑿。㋬安徽省宣城縣の北。唐の裴休が宣城縣知であつた時、蓮を植ゑて遊觀の所とした。㋣城の名。河南省宣陽縣の西。〔水經、洛水注〕洛水東逕ニ九曲南一、其地十里有ニ坂九曲一、穆天子傳所謂天子西征、升ニ于九阿一、此是也。㋠亭の名。湖北省鄂城縣の西の九曲嶺に在る。孫吳の遺跡。宋の蘇軾が重ねて建てて記を作つた。後、興廢があつたが、清の順治年間に重ねて建てた。〔蘇軾、遊ニ武昌寒溪西山寺一詩〕西上ニ九曲亭一、衆山皆培塿。

【九曲軍】139 キウキョクグン 唐の軍鎭の名。漢の大・小榆谷、今の青海省巳燕縣に在つた。〔唐書、吐蕃傳上〕請ニ河西九曲爲ニ公主湯沐一、矩表與ニ其地一、九曲者、水甘草良、宜ニ畜牧一、近與レ唐接、自レ是廣益張レ雄、易ニ入寇一。

【九曲珠】140 キウキョクシュ 絲を通す珠の中の穴が、曲りくねつて居る珠。〔祖庭事苑〕世傳、孔子厄ニ於陳一、遇ニ穿ニ九曲珠一、桑間女子、授レ之以レ訣、孔子遂曉、乃以ニ絲繫レ蟻、引レ之以レ蜜而穿レ之。〔琅琊代醉編、九曲珠〕小說云、孔子得ニ九曲珠一、欲レ穿不レ得、遇ニ二女一、教以ニ塗ニ脂於線一、使ニ蟻通一焉、此與ニ列子兩兒辯レ日事一相似、言ニ聖人亦有レ所不レ知也、珠孔本人所レ鑽、世豈有ニ九曲珠一乎、東坡祥符九曲觀燈詩、金鼎轉レ丹光吐レ夜、寶珠穿レ蟻鬧ニ連宵一、陳簡齋瀑布泉詩、九孔穿針可レ得、過ニ氷蠶映一日吐ニ寒波一、皆用ニ此事一。

【九曲螺】141 キウキョクラ 螺を以て作つた一種の杯。〔清異錄、器具、九曲盃〕以ニ螺爲レ杯、亦無ニ甚奇一、惟藪穴極彎曲、則可ニ以藏酒一、有ニ一螺能貯ニ三盞許一者、號ニ九曲螺杯一。

【九曲山房】142 キウキョクサンバウ 清、宗聖垣（8－7106‥30）の號。

【九曲老樵】143 キウキョクラウセウ 宋、陸游（11－41708‥7）の號。

【九棘】144 キウキョク ㊀外朝をいふ。棘を九本植ゑて朝臣の列位としたから名づけた。〔周禮、秋官、朝士〕掌ニ建ニ邦外朝之灋一、左九棘、孤・卿・大夫位焉、羣士在ニ其後一、右九棘、公・侯・伯・子・男位焉、羣吏在ニ其後一。〔禮、王制〕史以ニ獄成一告ニ于正一、正聽レ之、正以ニ獄成一告ニ于大司寇一、大司寇聽ニ之棘木之下一。㊁九卿。九棘ニ槐を見よ。〔魏志、管寧傳〕棨戟駕下、荷ニ棟梁之任一、垂沒之命、獲ニ九棘之位一。

【九棘三槐】145 キウキョクサンクワイ 九卿三公の位。古、外朝に三本の槐を植ゑて、三公がそこに位し、其の左右に各〻九本の棘を植ゑて、右側に孤・卿・大夫、左側に公・侯・伯・子・男が位したことからいふ。三槐九棘（1－12‥357）を見よ。琅琊代醉編、卷二十五に見ゆ。〔後漢書、寇榮傳〕使ニ三槐九棘、平ニ臣之罪一。〔琵琶記、蔡公逼レ試〕便教ニ我做ニ到九棘三槐一。

【九斤】146 キウキン ㊀斤量の稱。一斤の九倍。〔宋史、五行志四〕出ニ生金一、重九斤八兩。㊁キン 鷄の一變種。

【九菌】147 キウキン 南方の蠻族の名。〔逸周書、王會解〕正南、甌鄧、桂國・損子・產里・百濮・九菌。

【九禁】148 キウキン ㊀九法の禁令。九法（537）の㊀を見よ。〔周禮、秋官、掌交〕九禁之難。〔注〕九禁、九法之禁。㊁天子の御所。禁中。〔宋史、日本國傳〕金闕曉後、望ニ堯雲於九禁之中一。

【九垓】149 キウガイ 天地のはて。九垓（59）の㊀に同じ。〔正字通〕爾雅、九天之際曰ニ九垓一。〔漢書、揚雄傳上〕漂ニ龍淵一而還ニ九垓一兮、窺ニ地底一而上同。〔唐書、柳宗元傳〕跨ニ九垓一以爲レ爐。

【九區】150 キウク ㊀九州。全國。天下。〔呂安、與ニ嵇茂齊書〕平ニ滌九區一、恢ニ維宇宙一。〔陸機、皇太子宴ニ玄圃宣猷堂一有ニ令賦詩一〕九區克咸、讌歌以詠。〔注〕良曰、言、九州能和、讌歌以詠ニ我主之德一。〔南齊書、明帝紀〕經ニ緯九區一、學斅爲レ大。㊁西方の澤の名。〔淮南子、墜形訓〕西方曰ニ九區一、曰ニ泉澤一。㊂太玄經でいふ九つの位。易の六虛にあたる。〔太玄經、攡〕回ニ行九區一。〔注〕九區、猶ニ易六虛一也。

【九衢】151 キウク ㊀九達（92）の㊀に同じ。都の中に九衢があるから、又、都の義となる。〔楚辭、天問〕靡萍九衢、臬華安居。〔梁元帝、謝ニ東宮賚ニ花鍛一啓〕臣亂ニ九衢一、花含ニ四照一。〔宋之問、長安路詩〕樓閣九衢春、車馬千里旦。㊁九つに岐れ出る。又、枝の澤山出る草の名。〔王市、頭陀寺碑文〕九衢之草千計。〔注〕良曰、九衢草、其枝交錯、相重九出也。

【九愚山房】152 キウグサンバウ 清、朱奇穎（6－14424‥704）の字。

【九愚】153 キウグ 明、何東序（1－511‥350）

の室名。

【九隅】 154 キウグウ 九州をいふ。〔逸周書、嘗麥解〕蚩尤爭ニ于涿鹿之河一、九隅無レ遺。〔楚辭、王褒、九懷、匡機〕彌ニ覽兮九隅一。〔注〕歷ニ觀九州一求ニ英俊一也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕八維九隅。

【九花】 155 キウクワ ㊀菊花をいふ。〔燕京歲時記、九花山子〕九花者、菊花也、每レ屆ニ重陽一、富貴之家、以ニ九花數百盆一、架ニ庋廣廈中一、前軒後輊、望レ之若レ山、曰ニ九花山子一、四面堆積者、曰ニ九花塔一。㊁九華(159)の㊀に同じ。

【九花虯】 156 キウクワキウ 唐の太宗が郭子儀に賜はつた馬の名。身に九花の文があるから名づけた。〔杜陽雜編〕代宗命ニ御馬九花虯一、并ニ紫玉鞭轡一、以賜ニ郭子儀一云云、頭頸鬃鬣、眞虯龍也、每ニ一嘶一、則羣馬聳レ耳、以ニ身被ニ九花文一、故號爲ニ九花虯一。〔名馬記〕唐書、太宗以ニ郭子儀收復偃師功一、賜ニ九花虯馬一。

【九花兒】 157 chiu³ hua¹ êrh 菊。菊の花。

【九花樹】 158 キウクワジユ 木の名。應春花ともいふ。〔陸機要覽〕九花樹生ニ南岳一、雖レ經ニ雪凝寒一、花必開便落、時人謂ニ之應春花一。

【九華】 159 キウクワ ㊀宮室・器物等の美しい飾。九華帳を見よ。〔王金珠、子夜變歌〕七綵紫金柱、九華白玉梁。㊁山名。㋑安徽省青陽縣の西南。明の王陽明が致良知の理を悟得した地。〔太平寰宇記〕舊名、九子山、唐李白以ニ九峯如ニ蓮花削成一、改爲ニ九華山一、今山中有ニ李白書堂基址一存焉。〔青陽縣志〕山在ニ縣西南四十里一、峯之得レ名者四十有八、巖十四、洞五、嶺十一、泉十七、源二、其餘臺石池澗溪潭之屬、以ニ奇勝一名者不レ一。㋺福建省莆田縣の北。一名、陳巖・陳仙山。〔讀史方輿紀要、福建、興化府、莆田縣〕九華山、府北十里、由ニ縣之西南諸山一而來、至ニ延壽溪一、九峯攢簇如ニ蓮花一、故名、亦名ニ陳巖一、以下昔有ニ陳姓者一隱上ニ此一也、亦曰ニ陳仙山一。㊂宮殿の名。河南省臨漳縣の西、もとの鄴城の東北隅。後趙の石虎の建てたもの。〔沈約、登レ臺望ニ秋月一詩〕照耀三爵臺、徘徊九華殿。〔明一統志〕九華宮在ニ彰德府、臨彰縣西、銅雀臺東北一、後趙石虎建レ宮、以ニ三三一爲レ位、謂ニ之九華一。㊃字號。㋑宋、員興宗(**2**−3633··43)の號。㋺明、黎民安(**12**−47994··123)の號。㋩角田簡の號。角田九華(**10**−35003··77)を見よ。

【九華菊】 160 キウクワキク 菊の一種。晉の陶潛が愛玩したといふ。〔羣芳譜〕九華菊、此品乃淵明所レ賞、其態異レ常、爲ニ白色之冠一、昔淵明常言、秋菊盈レ園、其詩集中、僅有ニ九華之一名一。

【九華集】 161 キウクワシフ 書名。二十五卷、附錄一卷。宋、員興宗撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【九華扇】 162 キウクワセン 扇子の名。〔曹植、九華扇賦序〕昔吾先君常侍、得ニ幸漢桓帝一、賜ニ方扇一、不レ方不レ圓、其中結成レ文、名曰ニ九華一。

【九華丹】 163 キウクワタン 藥の名。小白山中の仙人趙廣信の作つた丹砂。〔海錄碎事、百工、藥餌〕小白山中仙人趙廣信、多來ニ都下一、市ニ丹砂一、作ニ九華丹一。

【九華帳】 164 キウクワチヤウ 美しいとばりの名。〔白居易、長恨歌〕聞道漢家天子使、九華帳裏夢魂驚。〔白居易、李夫人詩〕九華帳中夜悄悄。

【九華燈】 165 キウクワトウ 陰暦元旦の夕に用ひる飾り燈籠。〔杜甫、寄ニ劉峽州伯華使君一詩〕雕章五色筆、紫殿九華燈。〔注〕洙曰、西京雜記、元日然ニ九華燈於南山上一、照ニ見百里一。

【九華門】 166 キウクワモン 門の名。安徽省貴池縣城に在る。〔李商隱、公子詩〕外戚封侯自有レ恩、平明通レ籍九華門。

【九華樓】 167 キウクワロウ 門樓の名。㊀安徽省貴池縣城の九華門の上に在る。〔海錄碎事、地、樓臺〕九華樓、池州城東門樓也。㊁安徽省青陽縣の東南二支里の地に在る。唐の杜牧に九華樓寄ニ張祜一の詩がある。

【九華山人】 168 キウクワサンジン 字號。㊀唐、杜荀鶴(**6**−14477··339)の號。㊁宋、陳巖(**11**−41698··112)の號。㊂明、楊道亨(**6**−15112··678)の號。

【九華詩集】 169 キウクワシシフ 書名。一卷。宋、陳巖撰。陳巖が鄉里の青陽縣に隱居して後、九華山の名勝を遍遊して作つた詩を集めたもの。もと圖があつたが、今佚す。其の詩は蕭灑で風格が高い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【九華眞妃】 170 キウクワシンピ 仙女の名。〔唐書、藝文志三〕九華眞妃內記一卷。〔眞靈位業圖〕女眞位第七、紫清上宮九華眞妃。

【九華先生】 171 キウクワセンセイ 南唐、宋齊丘(**3**−7078··341)の賜號。

【九華族家】 172 キウクワゾクケ 清華、卽ち久我・三條(轉法輪)・西園寺・德大寺・花山院・大炊御門・今出川(菊亭)・廣幡・醍醐の九華族。〔和漢三才圖會、人倫、清華〕九家、俗曰ニ華族一、轉法輪三條・西園寺・德大寺・華山院・大炊御門・久我・今出川(一名菊亭)廣幡・醍醐。

【九華半臂】 173 キウクワハンピ 南朝宋、闞文衍(**11**−41470··256)の號。

【九華澄心老人】 174 キウクワチヨウシンラウジン 元、李鵬飛(**6**−14459··1937)の號。

【九過】 175 キウクワ 九つの過失。〔逸周書、文政解〕九過、一、視ニ民傲一、二、聽ニ民暴一、三、遠レ愼而近レ頦、四、法令口亂、五、仁善是誅、六、不レ察而好レ殺、七、不レ念口而害行、八、不レ思ニ前後一、九、偸ニ其身一不レ路而助ニ無漁一。

【九寡】 176 キウクワ 九人の子をもつ寡母。九子母(276)を見よ。〔枚乘、七發〕孤子之鉤、以爲レ隱、九寡之珥、以爲レ約。〔注〕善曰、列女傳曰、魯之母師、九子之寡母也。〔楊萬里、和ニ文明主簿叔見レ寄之韻一詩〕古聲彈ニ九寡一、妙學足ニ三多一。

【九回】 177 キウクワイ ㊀幾度かまはりくねること。九廻。〔楊巨源、同ニ薛侍御一登ニ黎陽縣樓一眺ニ黃河一詩〕九回紆ニ白浪一、一半在ニ青天一。㊁九度。

【九回香】 178 キウクワイカウ 香料の名。〔海錄碎事、飲食、香〕趙飛燕妹婕妤、名合德、每レ沐以ニ九回香一膏レ髮、其薄眉號ニ遠山黛一、施ニ小朱一號ニ慵來粧一。

【九回腸】 179 キウクワイチヤウ ㊀甚だ憂悶して、腸が幾度も廻轉する。憂悶の甚しいことの形容。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕腸一日而九回。〔白居易、酬ニ鄭侍御多雨春空過詩一三十韻詩〕闇遮千里目、悶結九回腸。〔唐彥謙、離鸞詩〕下疾不レ成雙點淚、斷多難レ到九回腸。〔歐陽脩、黃溪夜泊詩〕楚人自古登臨恨、暫到愁腸已九回。㊁川や阪などの屈曲の多い形容。〔樂府詩集、隴頭流水歌〕西上隴阪、羊腸九回。㊂歌曲の名。〔蘇軾、題ニ織錦圖上回文一詩〕紅手素絲千字錦、故人新曲九回腸。

【九廻】 180 キウクワイ ㊀九回(177)に同じ。㊁山名。山東省益縣の西。昔の爲山。北陽水の出る處。〔漢書、地理志上〕齊郡、廣、爲山、濁水所レ出。〔齊乘〕九廻山、俗名ニ九扈山一、卽古爲山也。

【九會】 181 キウクワイ 九合(82)に同じ。〔楚辭、天問〕齊桓九會、卒然身殺。〔注〕言下齊桓公任ニ管仲一、九ニ合諸侯一、一中匡天下上。

【九澮】 182 キウクワイ 九河(46)に同じ。〔墨子、兼愛中〕防ニ孟諸之澤一、灑爲ニ九澮一。〔閒詁〕畢云、此巜字之假音、案、九巜卽九河也。

【九懷】 183 キウクワイ 楚辭の篇名。漢、王褒作。匡機(主機)・通路・危俊(苞俊)・昭世・尊嘉・蓄英・思忠(申忠・由忠・遊思)・陶壅(陶雝)・株昭(株明・株招・珠昭・林招)の九篇に分る。〔楚辭、王褒、九懷、章句〕九懷者、諫議大夫王褒之所レ作也、懷者、思也、言下屈原雖レ見ニ放逐一、猶思ニ念其君一、憂ニ國傾危一、而不上レ能レ忘也、褒讀ニ屈原之文一、嘉ニ其溫雅藻采敷衍一、執ニ握金玉一、委ニ之汙瀆一、遭ニ世溷濁一、莫ニ之能識一、追而愍レ之、故作ニ九懷一、以裨ニ其詞一、史官錄第、遂列ニ于篇一。〔文心雕龍、辯騷〕自ニ九懷一以下、遽躡ニ其跡一、而屈・宋逸步、莫ニ之能追一。

【九光】 184 キウクワウ 道家の語。美しい輝き。〔尙書緯考靈曜〕日有ニ九光一、光照ニ四極一。〔十洲記〕崑崙山有ニ瓊華之室、紫翠丹房、錦雲燭日、朱霞九光一、西王母之所レ治也。〔庾信、燈賦〕乍九光而連彩。

【九光霞】 185 キウクワウノカスミ 道家の語。美しく輝いてゐる霞。〔海錄碎事、道釋、道士〕萬里洞中朝ニ玉帝一、九光霞外宿ニ天壇一。

【九光燈】 186 キウクワウトウ 九采の光のある燈。漢の武帝の時、七月七日に此の燈を點じた。〔漢武帝內傳〕到ニ七月七日一、然ニ九光之燈一。

【九皇】 187 キウクワウ ㊀上古の九人の德ある人皇。〔史記、封禪書〕高レ世比ニ德於九皇一。〔注〕集解曰、張晏曰、三皇之前有ニ人皇九首一、韋昭云、上古人皇者九人也。〔宋史、趙普傳〕遠繼ニ九皇一、俯觀ニ五帝一。㊁五帝以前の九代の皇帝で、周代については、神農、及びその前八代の諸皇とされる。〔春秋繁露、三代改制質文〕周人之王、尙ニ推神農一爲ニ九皇一云云、故聖王、生則稱ニ天子一、崩遷則存爲ニ三王一、絀滅則爲ニ五帝一、下至ニ附庸一、絀爲ニ九皇一。㊂道家の神の名。〔張籍、求仙行〕九皇眞人

終不レ下、空向二離宮一祠二太乙一。〔雲笈七籤、黃庭內景經、上有章、注〕太上元一、九皇吐レ精、三五七變。

【九閎】188 キウクワウ 九天の門。〔漢書、揚雄傳下〕獨不レ見二夫翠虯絳螭之將レ登二虖天一、必聳二身於蒼梧之淵一、不下階二浮雲一翼中疾風上、虛擧而上升、則不レ能下撠二膠葛一騰中九閎上。〔注〕師古曰、九閎、九天之門。

【九官】189 キウクワン ㊀古、國政を執つた九つの官。九工(235)を見よ。司空(總理)・后稷(農政)・司徒(教育)・士(訴獄)・共工(百工)・虞(山林沼澤)・秩宗(祭祀)・典樂(音樂舞踏)・納言(上言下達、下言上達)。〔書、舜典、汝二十有二人、蔡傳〕二十二人、四岳・九官・十二牧也。〔漢書、劉向傳〕舜命二九官一。〔南齊書、樂志〕六典聯レ事、九官列レ序。〔溫子昇、舜廟碑〕九官歲事、百揆時敍。〔小學紺珠、名臣類上、九官〕九官、伯禹宅二百揆一、棄后稷、契作二司徒一、皐陶作レ士、垂共工、益作二朕虞一、伯夷作二秩宗一、夔典樂、龍納言。㊁鳥の名。九官鳥を見よ。

〖九官鳥〗190 キウクワンテウ 鳥の名。鸜鵒のやうによく人の言語をまねする。秦吉了(**8**—**24995**··207)を見よ。〔和漢三才圖會、林禽類、秦吉了〕按、了哥來二於中華一、長崎土人稱二之九官一、又稱二佐留加一。

【九患】191 キウクワン 九つのうれへ。九つの好ましからぬもの。㊀禮法の七つの堪へられぬものと二つのよくないもの。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕人倫有レ禮、朝廷有レ法、自惟、至レ熟有二必不レ堪者七、甚不レ可者二一、臥喜二晚起一、而當關呼レ之不レ置、一不堪也、抱レ琴行吟、弋二釣草野一、而吏卒守レ之、不レ得二妄動一、二不堪也、危坐一時、痺不レ得レ搖、性復多レ蝨、把搔無レ已、而當下裹以二章服一、揖中拜上官上、三不堪也、素不レ便レ書、不レ喜レ作レ書、而人間多事、堆レ案盈レ机、不二相酬答一、則犯レ教傷レ義、欲二自勉強一、則不レ能レ久、四不堪也、不レ喜二弔レ喪、而人道以レ此爲レ重、已爲レ未レ見二恕者一所レ怨至レ欲レ見二中傷者一、雖二瞿然自責一、然性不レ可化、欲二降レ心順レ俗、則詭故不レ情、亦終不レ能レ獲二無レ咎無レ譽、如レ此、五不堪也、不レ喜二俗人一、而當二與レ之共レ事、或賓客盈レ坐、鳴聲聒レ耳、囂塵臭處、千變百伎、在二人目前一、六不堪也、心不レ耐レ煩、而官事鞅掌、機務纏二其心一、世故繁二其慮一、七不堪也、又每非二湯武一而薄二周孔一、在二人間一不レ止二此事一、會顯レ世、教所レ不レ容、此甚不可一也、剛腸疾レ惡、輕肆直言、遇レ事便發、此甚不可二也、以二促中小心之性一、統二此九患一。〔注〕九患、謂二上七不堪二不可一。㊁道を學ぶものの九患。卽ち、志はあるが時間がない、時間はあるが友が無い、友はあるが志がない、志はあるが其の師に遇はない、師はゐるがそれを覺らない、覺るけれども勤めない、勤めるけれども道を守らない、或は志が堅固でない、堅固であるけれども長く持續することが出來ない。〔眞誥〕學レ道者有二九患一、有レ志無レ時、有レ時無レ友、有レ友無レ志、有レ志不レ遇二其師一、遇レ師不レ覺、覺レ師不レ勤、勤不レ守レ道、或志不レ固、固不レ能レ久、人之九患也。

【九關】192 キウクワン 天帝の居る所。九門。九閽。〔楚辭、招魂〕虎豹九關、啄二害下人一些。〔注〕言下天門有二九重一、使中神虎豹執二其關閉一、主啄二齧天下欲レ上之人一而殺上レ之。

〖九關臺邊門〗193 キウクワンダイヘンモン 地名。滿洲熱河省義縣の西北。

【九軍】194 キウグン 天子の六軍と諸侯の三軍。大軍。〔莊子、德充符〕勇士一人、雄入二於九軍一。〔莊子翼〕九軍、崔李云、天子六軍、諸侯三軍、通爲二九軍一也。〔管子、問〕普而德營、九軍之親。〔淮南子、人間訓〕寡人起二九軍一。

【九刑】195 キウケイ ㊀周の九つの刑法。墨刑・劓刑・剕刑・宮刑・大辟(死刑)・流刑・贖刑(科料)・鞭刑・扑刑。〔漢書、刑法志〕周有二亂政一而作二九刑一。〔注〕韋昭曰、謂二正刑五及流・贖・鞭・扑一也。〔小學紺珠、治道類、九刑〕正刑五、流宥・鞭・扑・贖。㊁周の刑書の名。〔左氏、昭、六〕周有二亂政一而作二九刑一。〔注〕周之衰亦爲二刑書一、謂二之九刑一。

【九形】196 キウケイ 草の名。あまな。金燈(**11**—**40152**··896)の異名。〔酉陽雜俎、廣動植、草篇〕金燈、一曰二九形一、花葉不二相見一、俗惡二人家種一レ之、一名二無義草一。

【九莖】197 キウケイ 九つのくき。〔史記、武帝紀〕甘泉防生二芝九莖一。〔漢書、宣帝紀〕金芝九莖、產二于函德殿銅池中一。

【九卿】198 キウケイ ㊀九人の大臣。時代によつて名稱が異なる。九司。九品。九賓。

周	秦	漢	北齊	明	清
少師・少傅・少保・冢宰・司徒・司空・司馬・司寇・宗伯	奉常・郎中令・衞尉・太僕・廷尉・典客・宗正・治粟內史・少府	太常・光祿勳・衞尉・太僕・廷尉・大鴻臚・宗正・大司農・少府	太常・光祿勳・衞尉・太僕・大理・大鴻臚・宗正・大司農・大府	吏部尙書・戶部尙書・禮部尙書・兵部尙書・刑部尙書・工部尙書・都察院都御史・通政司使・大理寺卿	太子太師・太子太傅・太子太保・六部尙書(以上大九卿)・太常寺卿・太僕寺卿・大理寺卿・鴻臚寺卿・光祿寺卿・通政使・國子監祭酒・翰林院掌院學士・都察左都御史(以上小九卿)

〔禮、王制〕天子、三公・九卿・二十七大夫・八十一元士。〔史記、張釋之傳〕三公・九卿、盡會立。〔事物紀原、九寺卿少部、九卿〕禮記曰、夏后氏百官、始置二九卿一、漢九卿、俱不下以レ卿名上レ官、梁武天監七年、始加二卿字一。㊁星の名。〔觀象玩占〕九卿三星在二太微宮中、三公之北一、九卿朝會之內座也。

〖九卿首〗199 キウケイノシユ 九卿の首位。太常をいふ。〔海錄碎事、臣職、九卿〕漢官解詁曰、太常、事重職尊、故在二九卿之首一。

【九惠】200 キウケイ 九つのめぐみ。卽ち、老人を老として勞る、幼者をいつくしむ、みなし兒をあはれむ、病人に養生させる、獨りものに娶らせる、疾を問ふ、窮を通ずる、貧困な者に施し賑はす、後嗣の絕えた家に後を立てる。〔管子、入國〕入レ國四旬、五行二九惠之教一、一曰老レ老、二曰慈レ幼、三曰恤レ孤、四曰養レ疾、五曰合レ獨、六曰問レ疾、七曰通レ窮、八曰振レ困、九曰接レ絕。

【九溪】201 キウケイ ㊀九つの洲渚のある池。〔張協、七命〕范公之鱗、出レ自二九溪一。〔注〕濟曰、謂下池中爲二洲渚一、數有上レ九也、溪、池也。㊁河の名。㋑浙江省杭縣の煙霞嶺の西南。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、錢塘縣〕九溪、在二赤山煙霞嶺西南一、其北爲二風篁嶺一、衆山之泉、環二流于此一、自二徐村一入二于江一、稍西爲二十八澗一、路通二六和塔一。㋺今の淒水。湖南省慈利縣の西北。㊂字號。㋑元、牟楷(**7**—**19928**··3)の號。㋺淸、王文淸(**7**—**20823**··2075)の號。

〖九溪衞〗202 キウケイエイ とりでの名。明、置く。湖南省慈利縣の西北なる九溪河の東北岸の九溪營に在つた。〔讀史方輿紀要、湖廣、岳州府〕九溪衞、本宋之索口寨、後廢爲レ市、有二九溪一會流、故名。

〖九溪十八磵老婦〗203 キウケイジフハチカンラウフ 淸、焦學漪(**7**—**19119**··126)の號。

【九經】204 キウケイ ㊀天下を治める九つの大道。卽ち、一、身を修める。二、賢を尊ぶ。三、親を親しむ。四、大臣を敬ふ。五、羣臣を體する。六、庶民を子とする。七、百工を來らす。八、遠人を柔らげる。九、諸侯を懷ける。〔中庸〕凡爲二天下國家一有二九經一、曰、修レ身也、尊レ賢也、親レ親也、敬二大臣一也、體二羣臣一也、子二庶民一也、來二百工一也、柔二遠人一也、懷二諸侯一也。㊁周代の國都の中に設けた九つの縱の大道。〔周禮、考工記、匠人〕國中九經・九緯、經涂九軌。九經九緯及び九緯(6)を見よ。九陌。㊂九つの經書。數へ方には數種ある。十三經(**2**—**2695**··146)を見よ。㋑易・書・詩・禮・樂・春秋・論語・孝經・小學。〔漢書藝文志六藝九種・谷那律九經庫〕。㋺易・書・詩・三禮・左傳・孝經・論語。〔陸德明、經典釋文〕。㋩易・書・詩・三禮・三傳。〔徐堅、初學記・顧炎武、日知錄〕。㋥易・書・詩・三禮・春秋・論語・孟子。〔魏了翁、九經要義・郝敬、九經解・徐世沐、九經惜陰錄〕。㋭易・書・詩・三禮・公羊・穀梁・論語。〔惠棟、九經古義〕。㋬書・三禮・春秋左傳・公羊・穀梁・孝經・爾雅。〔姜兆錫、九經補注〕。㋣四書・五經。〔周應賓、九經考異〕。㋠易・詩・書・春秋左傳・禮記・周禮・孝經・論語・孟子。〔宋刻巾箱本九經〕。㋷易・書・詩・左傳・大學・論語・孝經・中庸・孟子。〔大田錦城、九經談〕。

谷那律〔九經庫〕	易・書・詩・禮・樂・春秋・論語・孝經・小學
陸德明〔經典釋文〕	易・書・詩・三禮・春秋左傳・孝經・論語
徐堅〔初學記〕	易・書・詩・三禮・春秋左傳・公羊傳・穀梁傳
魏了翁〔九經要義〕	儀禮・周禮・禮記・周易・書・詩・春秋・論語・孟子
姜兆錫〔九經補注〕	爾雅・春秋左傳・孝經・禮記・書・儀禮・公羊・穀梁・周禮
惠棟〔九經古義〕	易・詩・書・三禮・公羊・穀梁・論語
徐世沐〔九經惜陰錄〕	易・書・詩・周禮・儀禮・禮記・春秋・論語・孟子
宋刻巾箱本九經	易・書・詩・春秋左傳・禮記・周禮・孝經・論語・孟子
大田錦城〔九經談〕	孝經・大學・中庸・論語・孟子・書・詩・左傳・易

『參考書』【九經字樣】一卷唐、唐元度撰。石經の字體を覈定したもの。〔四庫提要、經、小學類〕。【九經疑難】四卷宋、張文伯撰。千頃堂書目並びに經義考は十卷に作る。〔四庫未收書目提要、二〕。【九經補韻】一卷宋、楊伯嵒撰、清、秦釋考證。〔四庫提要、經、小學類〕。【九經三傳沿革例】一卷宋、岳軻撰。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【九經考異】十二卷明、周應賓撰。〔四庫提要、經、五經總義類存目〕。【九經逸語】一卷明、周應賓撰。〔四庫提要、經、五經總義類存目〕。【九部經解】百六十五卷明、郝敬撰。〔明史、藝文志〕。【九經補注】八十二卷清、姜兆錫撰。【九經古義】十六卷清、惠棟撰。古義とは、漢儒專門の訓詁の學の意。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【九經惜陰錄】百二十三卷清、徐世沐撰。【九經誤字】一卷清、顧炎武撰。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【九經說】十七卷清、姚鼐撰。〔清史稿、藝文志〕。【九經辨字瀆蒙】十二卷清、沈炳震撰。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【九經談】十卷大田錦城撰。

【九經解】205 キウケイカイ 書名。通志堂經解(11－3889・・183)の別名。

【九經庫】206 キウケイコ ❶九經に精通してゐる意。庫とは、蘊蓄の深いこと。唐の谷那律の別名。〔舊唐書、谷那律傳〕魏州昌樂人、貞觀中、累補二國子博士一、黃門侍郎褚遂良嘗稱爲二九經庫一。❷書名。唐、谷那律撰。

【九經九緯】207 キウケイキウヰ 周代に國都の中に設けた九つの道。經は南北の道、緯は東西の道をいふ。九緯(6)を見よ。〔周禮、考工記、匠人〕匠人營レ國方九里、旁三門、國中九經・九緯、經涂九軌。〔疏〕南北之道爲レ經、東西之道爲レ緯。

【九竅】208 キウケウ 身體にある九つの穴。目(二)・耳(二)・鼻(二)・口(一)、以上を陽竅とし、下部の二つの排泄口を陰竅とする。〔周禮、天官、疾醫〕兩レ之以二九竅之變一、參レ之以二九藏之動一。〔注〕陽竅七、陰竅二。〔疏〕七者在レ頭露見、故爲レ陽、二者在レ下不レ見、故爲レ陰。〔孫詒讓正義〕素問陰陽應象大論云、清陽出二上竅一、濁陰出二下竅一、王注云、上竅、耳目鼻口、下竅、謂二前陰後陰一云云、呂飛鵬云、耳目鼻竅各二、口竅一、陰竅二、是爲二九竅一。〔莊子、齊物論〕百骸九竅六藏賅而存焉。〔呂覽、情欲〕九竅寥寥。〔管子、心術上〕九竅之有レ職、官之分也。〔史記、扁鵲倉公傳、注〕正義曰、五藏不レ和、則九竅不レ通。〔淮南子、精神訓〕五臟・九竅。〔太玄經、玄數〕九竅、一六爲レ前爲レ耳、二七爲レ目、三八爲レ鼻、四九爲レ口、五五爲レ後。

【九穴】209 キウケツ 泊の名。山東省高密縣の西北。〔明一統志〕九穴泊、在二萊州府高密縣西北一、泊有二九溝一、故名。

【九月】210 キウゲツ クグワツ ❶一年の第九の月。ながつき。〔詩、豳風、七月〕七月流火、九月授衣。〔傳〕九月霜始降、婦功成。〔鮑照、古辭〕九月寒陰合、悲風斷二君腸一。〔王勃、滕王閣序〕時惟九月、序屬二三秋一。〔沈佺期、古意呈二補闕喬知之一詩〕九月寒砧催二木葉一、十年征戍憶二遼陽一。〔元稹、酬二樂天一詩〕三冬有レ電連二春雨一、九月無レ霜盡火雲。❷九箇月。〔禮、三年問〕由二九月一以下、何也、曰、焉使レ弗レ及也。

【九月九】211 キウゲツキウ 重陽の節をいふ。九月九日を見よ。〔燕京歲時記、九月九〕京師謂二重陽一爲二九月九一、每レ屆二九月九日一、則都人士提レ壺攜レ榼、出レ郭登レ高。

【九月九日】212 キウゲツキウジツ 菊の節句。卽ち重陽の節。此の日、茱萸を持つて高い所に登れば、災禍を免れるといふ。〔續齊諧記〕汝南桓景、隨二費長房一遊學累レ年、長房謂レ之曰、汝家當レ有二災厄一、急宜レ去、令下家人各作二絳囊一、盛二茱萸一以繫レ臂、登二高山一、飲中菊酒上、此禍可レ消、景如レ言、擧レ家登レ高、夕還、見二雞犬牛羊一時暴死一、長房聞レ之曰、代レ之矣。〔王勃、蜀中九日詩〕九月九日望鄉臺、他席他鄉送レ客杯、人情已厭二南中苦一、鴻雁那從二北地一來。〔王維、九月九日懷二山中兄弟一詩〕獨在二異鄉一爲二異客一、每レ逢二佳節一倍思レ親、遙知兄弟登レ高處、遍插二茱萸一少二一人一。

【九月十三夜】213 クグワツジフサンヤ 陰曆九月十三日の夜。この夜、月を賞し、枝豆を食ふを例とし、豆名月といふ。後の月見。〔和漢三才圖會、時候類、九月十三夜〕按、俗八月十五夜煮レ芋食、稱二芋名月一、今夜煮二莢豆一食、稱二豆名月一、鳥羽天皇保安二年、關白忠通公、九月十三夜有二翫レ月詩一、今宵翫レ月始二于此一矣。

【九乾】214 キウケン ❶九天。天。乾は天。〔後漢書、崔駰傳〕俯鈎二深於重淵一、仰探二遠於九乾一。〔注〕九乾、謂二天有二九重一也。❷宮殿のこと。〔摯虞、思游賦〕會二司儀於有始一兮、延二嘉賓於九乾一。

【九賢】215 キウケン 九人の賢人。❶禹・棄・契・皋陶・垂・益・伯夷・夔・龍の九人をいふ。九官(189)の❶を見よ。〔新序、雜事二〕昔者唐虞、崇二擧九賢一。❷九賢祠を見よ。

【九賢祠】216 キウケンシ 九人の賢人を祀つた祠。❶河南省嵩縣にあり、宋の周敦頤・程顥・程頤・邵雍・張載・司馬光・呂祖謙・朱子・元許衡を祀る。〔明一統志〕九賢祠、在二河南府嵩縣治北一、九賢、宋周敦頤・程顥・程頤・邵雍・張載・司馬光・呂祖謙・朱子・元許衡。❷江西省吉安府學の明倫堂にあり、宋の歐陽脩・楊邦乂・胡銓・楊萬里・周必大・胡夢昱・歐陽珣・歐陽守道・文天祥を祀る。〔明一統志〕九賢祠、在二吉安府學明倫堂一、祀二宋歐陽脩・楊邦乂・胡銓・楊萬里・周必大・胡夢昱・歐陽珣・歐陽守道・文天祥一。

【九縣】217 キウケン ❶九つの縣。〔左氏、昭、五〕因二其十家九縣一。❷九州(301)の❶に同じ。〔後漢書、光武紀贊〕九縣飇迴。〔注〕九縣、九州也。

【九獻】218 キウケン 古の饗禮。主客が九たび酒を獻酬すること。〔周禮、秋官、大行人〕饗禮九獻。〔注〕九獻者、主酌獻レ賓、賓酢二主人一、主人酬レ賓、酬後更八獻、是爲二九獻一。〔左氏、僖、二十二〕楚子入饗二于鄭一、九獻、庭實旅百、加二籩豆六品一。

【九玄】219 キウケン ❶九天(472)の❶に同じ。〔舊唐書、音樂志三〕九玄著レ象、七曜甄レ明。❷道教の神の名。〔陶弘景、水仙賦〕迎二九玄於金闕一、謁二三素於玉淸一。

【九言】220 キウケン ❶九つのいましめの言葉。卽ち、亂を始める勿れ、富を怙む勿れ、寵を恃む勿れ、同に違ふ勿れ、禮に敖る勿れ、能に驕る勿れ、怒りを重ねる勿れ、非德を謀る勿れ、非義を犯す勿れ。〔左氏、定、四〕鄭子大叔未レ至卒、晉趙簡子爲レ之臨、甚哀曰、黃父之會、夫子語二我九言一、曰、無レ始レ亂、無レ怙レ富、無レ恃レ寵、無レ違レ同、無レ敖レ禮、無レ驕レ能、無レ復レ怒、無レ謀二非德一、無レ犯二非義一。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕九言自堪二尊勵一。❷ゴンク 漢詩の一體。一句が九字から成るもの。九言詩を見よ。〔梁昭明太子、文選序〕少則三字、多則九言。〔注〕向曰、文始、三字起二夏侯湛一、九言出二高貴鄉公一。

【九言詩】221 クゴンノシ 詩の一體。魏の高貴鄉公に始まる。然し其の作品は已に亡びて傳はらない。明の盧贊元は九言の梅花詩を作り、楊愼も亦九言の梅花詩を作つた。〔琅琊代醉編、九言〕摯虞以二洞酌篇一爲二九言一、顏延之則謂二詩體本無二九言者一、摯虞之論、未レ可レ爲レ據、懷德堂詩話、又謂二九言起二於高貴鄉公一、鮑明遠・沈休文、亦有レ之、唐則李白蜀道難、上有二六龍廻レ日之高標一、下有二衝波逆折之廻湍一、杜集中、烱如三一段淸冰出二萬壑一、置在二迎風露寒之玉壺一、是也、楊升菴又引二杜工部、男兒生不レ成レ名死已老一、爲二九言之始一、顧寧人則引四凜乎若三朽索之馭二六馬一、爲二九言之始一、然非二通首皆九言一也、其通體爲二九言一者、珊瑚網載二元時天目山僧明本有二梅花詩一云、昨夜

東風吹折二中林梢一、渡口小艇滾入二沙灘塢一、野樹古梅獨臥寒屋角、疎影橫斜暗上書窓敲、半枯半活幾箇撮二蓓蕾一、欲開未レ開數點含二香苞一、縱使二畫工善畫一也縮レ手、我愛二清香一故把二新詩一嘲、此則通首皆九言也。〔陔餘叢考、九言〕至二升菴一亦有二梅花詩一云、元冬小春十月微陽回、綠萼梅蕊早傍二南枝一開、折贈未レ寄陸凱隴頭去、相思忽到盧仝窓下來、歌殘水調沈珠明月浦、舞破山香碎玉凌風臺、錯認高樓二弄叫雲笛一、無レ奈二十四番花信催一、此則又創爲二九言律一矣。

【九京】222（キウケイ）よみぢ。墓家。京は原に通ず。九原の❶を見よ。〔禮、檀弓下〕是全要領、以從二先大夫於九京一。〔注〕晉卿大夫之墓地在二九京一、京蓋字之誤、當レ爲レ原。〔書言故事、墳墓類〕稱二祖宗墓地一曰二九京一。

【九原】223（キウゲン）❶戰國時代の晉の卿大夫の墓地の名。轉じて、墓場、又はよみぢの意。九京を見よ。九泉。黃泉。冥土。琅琊代醉編、卷三十一に見ゆ。❷の㊁を見よ。〔史記、蘇秦傳〕西有二雲中九原一。〔新序、雜事四〕晉平公過二九原一而歎。〔沈約、冬節後至二丞相第一詣二世子一車中作詩〕誰當二九原上一。〔注〕善曰、禮記、趙文子曰、以從二先大夫於九原一、鄭玄曰、晉卿大夫之墓地在二九原一。❷九州の地。〔國語、周語下〕汨二越九原一。❸山名。㋑山西省忻縣の西一名、九龍岡。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、忻州〕九原山、在二州城西一、漢末以レ此名レ縣、今州城跨二岡上一、三面俱臨二平疇一、亦曰二九龍岡一。㋺山西省新絳縣の北、汾城縣の界にある九つの土阜。❶の地にあたる。〔太平寰宇記〕九原、一名二九京一、晉大夫趙盾葬所。㋩郡名。秦置く。漢には五原といふ。蒙古の烏喇特・茂明安二旗の地。故城は、烏喇特旗の東南の境、今の綏遠省五原縣。〔史記、秦世家〕武靈王攘レ地、西至二雲中五原一。〔漢書、匈奴傳上〕將二萬五千騎一出二九原一二千餘里。〔水經、河水注〕九原郡治此、漢武帝元朔二年、更名五原一也、云云、其城南面二長河一、北背二連山一。㋥縣名。㋑漢、置く。五原郡治。今の綏遠省五原縣。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、九原。㋺後漢末に置く。今の山西省忻縣治。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、忻州〕秀容廢縣、今州治、漢陽曲縣地、後漢末、置二九原縣一。㋩隋、置く。故治は綏遠省鄂爾多斯右翼後旗の西に在つた。

【九原可レ作】224（キウゲンベンオコスベシ）一度死んだ人を再生させること。〔禮、檀弓下〕趙文子與二叔嚮一觀二乎九原一、文子曰、死者如可レ作也、吾誰與歸。〔蘇軾、故李誠之待制六丈挽詞〕九原不レ可レ作、千古有二餘悲一。

【九戶】225（キウコ）❶明堂、又は路寢の、九つの戶。〔張衡、西京賦〕大廈毗陰、九戶開闢。〔注〕善曰、大戴禮曰、明堂者、古有レ之、凡九室、鄭玄禮記注曰、天子路寢制如二明堂一、然則九室、室有二一戶一也。❷九つの家。九軒。〔方回、湧金門城望詩〕一錢物變千錢直、十戶民驚九戶貧。❸道家の語。天帝の館をいふ。〔雲笈七籤〕金房在二明霞之上一、九戶在二瓊闕之內一。㋑クノ姓氏。

【九虎】226（キウコ）❶九匹の虎。〔庾信、哀江南賦〕箭不レ麗二於六龔一、雷無レ驚二於九虎一。〔元好問、岐陽詩〕眈眈九虎護二秦關一。❷新の王莽の將軍九人の稱。〔漢書、王莽傳下〕莽拜二將軍九人一、皆以レ虎爲レ號、號曰二九虎一。

【九虎日】227（クコニチ）陰陽家が秋季に忌む日。秋三月の中の庚子・辛亥の日。九は金で秋に當り、虎は西方白虎に當る。〔曆林問答集、下〕秋庚子・辛亥爲二九虎日一云云、秋金王、庚辛金也、子亥如レ前、故庚子・辛亥、秋九虎日也、九、金數也、虎、西方白虎之故也、云云、皆凶也、百事莫レ用レ之。

【九扈】228（キウコ）❶少昊の時の農桑に關する九つの官名。春扈・夏扈・秋扈・冬扈・棘扈・行扈・宵扈・桑扈・老扈。九雇。九農正。〔左氏、昭十七〕九扈爲二九農正一。扈、民無二淫者也。〔注〕扈有二九種一也、春扈鴝鵒・夏扈竊玄・秋扈竊藍・冬扈竊黃・棘扈竊丹・行扈嗜嗜・宵扈嘖嘖・桑扈竊脂・老扈鶻鶻、以二九扈一爲二農之號一、各隨二其宜一、以教二民事一、扈、止也、止レ民使不二淫放一。〔張衡、東京賦〕嘉二田畯之匪懈一、勤二致賚于九扈一。〔王粲、耕弄田賦〕千牛之列有レ序、九扈之官咸秩。❷鳥名。〔柳宗元、春懷二故園一詩〕九扈鳴已晚、楚鄉農事春。

【九雇】229（キウコ）九扈に同じ。〔說文〕雇、九雇、農桑候鳥、扈レ民不レ婬者也。〔段注〕九扈爲二九農正一、扈レ民無レ淫者也、皆以二同音一訓詁。

【九五】230（キウゴ）❶易卦の、下から五つ目の陽爻の稱。〔易、乾〕九五、飛龍在レ天、利レ見二大人一。❷天子の位。易の九五は君位の象である。〔易、繫辭上、崇高莫レ乾 上九 九五 九四 九三 九二 初九 位陰 位陽 位陰 位陽 位陰 位陽 大乎富貴一、疏〕王者居二九五富貴之位一。〔周易折中、乾〕鄭氏康成曰、五於二三才一爲二天道一、云云、胡氏炳文曰、九五以二天德一居二天位一。〔明宣宗、喜二雪歌一〕嗟予菲德臨二九五一、燮理功能寄二丞輔一。

【九五折】231（chiu³ wu³ ché²）九半掛け。五歩引き。九五扣。

【九五扣算】232（chiu³ wu³ k'ou⁴ suan⁴）五分引き。

【九五之日】233（キウゴノヒ）九五の位に卽く日。天子になつた日をいふ。〔北史、龐晃傳〕帝甚歡、與晃同飯、晃因曰、公相貌非常、名在二圖錄一、九五之日、幸願不レ忘。

【九五之尊】234（キウゴノソン）天子の位。九五の❷を見よ。〔易、履、剛中正履二帝位一而不レ疚、疏〕以レ剛處レ中、得二其正位一、居二九五之尊一、履二帝位一也。〔謝觀、上陽宮望幸賦〕寧勞二百二之勢一、足レ居二九五之尊一。

【九工】235（キウコウ）九官（189）の❶に同じ。〔任昉、爲二蕭揚州一作薦レ士表〕五聲倦レ響、九工是詢。〔注〕善曰、應劭、尚書、禹作二司空一、弃作二后稷一、契作二司徒一、咎繇作レ士、垂作二共工一、益作レ虞、伯夷作二秩宗一、夔作二典樂一、龍作二納言一、凡九官。

【九功】236（キウコウ）❶九つのはたらき。六府（水・火・金・木・土・穀）・三事（正德・利用・厚生）をいふ。〔書、大禹謨〕禹曰、於帝念哉、德惟善レ政、政在レ養レ民、水火金木土穀、惟修、正二德利用厚一レ生、惟和、九功惟敍、九敍惟歌、戒之用レ休、董之用レ威、勸之以二九歌一、俾レ勿レ壞。〔左氏、文、七〕六府・三事、謂二之九功一。❷九職をいふ。九職（363）の❷を見よ。〔周禮、天官、大府〕掌二九貢・九賦・九功之貳一、以受二其貨賄之入一。〔注〕九功、謂二九職一也。❸九つの爲す可からざること。卽ち、一に窳巧、二に淫巧、三に危を好むこと、四に利に任ずること、五に神巫、六に哀を盡すこと、七に荒樂、八に制の無いこと、九に謀に任ずること。〔逸周書、成開解〕九功、一、窳巧在レ笥、二、淫巧破レ制、三、好危破レ事、四、任レ利敗レ功、五、神巫動レ衆、六、盡レ哀民匱、七、荒樂無レ別、八、無制破レ教、九、任レ謀生レ詐。

【九功舞】237（キウノマヒ）唐の貞觀の時の舞の名。三大舞の一。慶善樂を改めたもの。〔唐書、禮樂志十一〕唐之自製樂凡三、一曰七德舞、二曰九功舞、云云、九功舞者、本名二功成慶善樂一、太宗生二於慶善宮一、貞觀六年、幸之、宴二從臣一、賞賜閭里、賦レ詩、呂才被二之管弦一、名曰二功成慶善樂一。

【九扣】238（chiu³ k'ou⁴）九掛け。一割引き。

【九侯】239（キウコウ）❶殷代の諸侯の名。紂に醢にせられた。一に鬼侯に作る。〔史記、殷記〕以二西伯昌一、九侯・鄂侯爲二三公一、九侯有二好女一、入二之紂一、九侯女不レ意レ淫、紂怒殺レ之、而醢二九侯一。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作二鬼侯一、鄴縣有二九侯城一。❷九服の諸侯。九服(578)の❶を見よ。〔楚辭、招魂〕九侯淑女。〔補注〕九侯、謂二九服之諸侯一也。

【九貢】240（キウコウ）九つの貢。祀貢・嬪貢・器貢・幣貢・材貢・貨貢・服貢・斿貢・物貢。〔周禮、天官、大宰〕以二九貢一致二邦國之用一、一曰祀貢、二曰嬪貢、三曰器貢、四曰幣貢、五曰材貢、六曰貨貢、七曰服貢、八曰斿貢、九曰物貢。〔崔寔、尚方令箴〕九貢是中、百珍是聚。

【九鴻】241（キウコウ）九方(518)の❶に同じ。〔鶡冠子、泰錄〕天有二九鴻一、地有二九州一。〔注〕拾遺記曰、望三壺如二聚米一、視二八鴻若二縈帶一、說者以爲、八鴻八方之名、鴻大也、然則九鴻蓋九方歟。

【九谷】242（キウコク）清、方殿元(5－13620‥597)の號。

【九谷燒】243（クタニヤキ）加賀國に產する陶器の名。〔加賀陶磁考草〕九谷燒。

【九國】244（キウコク）❶戰國の九箇國。齊・楚・燕・趙・韓・魏・宋・衞・中山。〔賈誼、過秦論〕九國之師、遁逃而不レ敢進。〔張協、七命〕可レ以從二服九國一、橫制二戎狄一。〔注〕翰曰、九國、謂二齊・楚・燕・趙・韓・魏・宋・衞・中山一也。❷九國志を見よ。❸我が國の九州をいふ。九州には國が九つあるか

ら、九國とも九州ともいふ。州も國の意。〔賴山陽、下㆓筑後河㆒過㆓菊池正觀公戰處㆒感而有㆑作詩〕四世全節誰儔侶、九國逡巡西征府。

【九國志】245 書名。十二卷。宋、路振撰。九國とは、僞吳・南唐・吳越・前後蜀・南北漢・閩・楚をいふ。〔四庫未收書目提要、二〕。

【九國公約】246 九箇國條約。西曆一九二二年六月、ワシントン會議の時、日・英・米・華・佛・伊・蘭・伯・葡の九國が、民國の主權領土を確保し、民國における各國の機會均等を議し、山東問題を議定した。

【九穀】247 九種の穀物。❶黍・稷・秫・稻・麻・大小豆・大小麥。〔周禮、天官、太宰〕以㆓九職㆒任㆓萬民㆒、一曰、三農生㆓九穀㆒。〔注〕鄭司農云、九穀、黍・稷・秫・稻・麻・大小豆・大小麥。〔束皙、補亡詩〕靡㆓田不㆑播、九穀斯豐。〔注〕善曰、周禮曰、三農生㆓九穀㆒、稷・黍・秫・稻・麻・大小豆・大小麥。❷黍・稷・麻・麥・稻・粱・苽・大小豆。〔炙轂子〕。❸黍・稷・稻・粱・三豆・二麥。〔古今注、草木〕。

【九穀考】248 書名。四卷。清、程瑤田撰。粱・黍・稷・稻・麥・大小豆・麻・苽の九種の穀類の實況、並びに古今の沿革を記したもの。〔皇清經解、一百四十五冊〕。

【九閽】249 天のこと。九關(192)に同じ。天門は九重あるからいふ。〔李商隱、哭㆓劉蕡㆒詩〕上帝深宮閉㆓九閽㆒、巫咸不㆔下問㆓銜冤㆒。〔趙東曦、涉江賦〕辭㆓掖垣㆒而長征兮、戀㆓九閽㆒其咫尺。

【九些】250 楚辭の招魂篇をいふ。其の句末に多く些の字を助字に用ひたからいふ。又、楚辭の篇名に九を用ひるものが多く、招魂は九辯の後にあるから九といふ。〔李思衍、詩〕無㆓入可㆑語㆓宣和事㆒、九些㆔陳醋酹㆓一觴㆒。

【九佐】251 堯の九官。九官(189)の❿及び九職(363)の❶を見よ。〔戰國、齊策〕堯有㆓九佐㆒、舜有㆓七友㆒。〔注〕九佐、九官也。

【九沙】252 清、萬經(**9**―**31339**‥105)の字。

【九座】253 山名。福建省仙游縣の西北。昔の仙游山。〔元和志〕仙游山、在㆓縣西三十里㆒、縣因以名。〔福建通志〕九座山、重巒疊嶂、中巍然高峙者凡九峯、上有㆓九座院㆒。

【九釆】254 ❶九州の長官。其の州の美物を采って天子に貢するからいふ。〔禮、明堂位〕九釆之國、應門之外、北面東上。〔注〕九釆、九州之牧、典㆓貢職㆒者也。❷九つの色。〔劉楨、瓜賦〕揚暉發藻、九釆雜糅。❸ chiu² tsʻai³ 搊蒱の賽。

【九殺】255 多くの儉約。〔淮南子、說山訓〕上有㆓三衰㆒、下有㆓九殺㆒。〔注〕衰・殺皆喩㆑踰。〔集解〕羣書治要引注、踰作㆑儉。

【九祭】256 九つの祭。命祭・衍祭・炮祭・周祭・振祭・擩祭・絕祭・繚祭・共祭。〔周禮、春官、大祝〕辨㆓九祭㆒、一曰命祭、二曰衍祭、三曰炮祭、四曰周祭、五曰振祭、六曰擩祭、七曰絕祭、八曰繚祭、九曰共祭。

【九塞】257 險阻な九つの地。大汾・冥阨・荊阮・方城・殽・井陘・令疵・句注・居庸。城塞に似てゐるからいふ。淮南子は大汾を太汾、冥阨を澠阨、殽を殽阪に作る。〔呂覽、有始〕山有㆓九塞㆒、云云、何謂㆓九塞㆒、大汾・冥阨・荊阮・方城・殽・井陘・疵處・句注・居庸。〔淮南子、墬形訓〕何謂㆓九塞㆒、曰、太汾・澠阨・荊阮・方城・殽阪・井陘・令疵・句注・居庸。

【九草】258 鹿が食ふといふ九種の草。牡蒿や葛など。〔本草、牡蒿〕集解、時珍曰、鹿食㆓九草㆒、此其一也。〔本草、葛〕釋名、時珍曰、鹿食㆓九草㆒、此其一種。

【九想】259 佛 人の屍相に於ける九種の觀想。九相。脹想(屍の膨脹すること)・青瘀想(屍の色の變ずること)・壞想(屍の破壞すること)・血塗想(血肉地に塗ること)・膿爛想(膿爛腐敗すること)・噉想(屍を鳥獸に噉はれること)・散想(屍が分裂破散すること)・骨想(白骨の散亂すること)・燒想(白骨が燒かれて灰土になること)。〔智度論、二十一〕九想、脹想・壞想・血塗想・膿爛想・青瘀想・噉想・散想・骨想・燒想。

【九藏】260 ❶九つの臟腑。五臟(心・肝・脾・肺・腎)に胃・膀胱・大小腸を加へた名稱。〔周禮、天官、疾醫〕參㆑之以㆓九藏之動㆒。〔注〕正藏五、又有㆓胃・膀胱・大腸・小腸㆒。❷身體の大切な九つの部。頭角・耳目・口齒・胸中の四形藏と、肝・心・脾・肺・腎の五神藏とをいふ。〔素問、六節藏象論〕形藏四、神藏五、合爲㆓九藏㆒。〔注〕形藏四者、一頭角、二耳目、三口齒、四胸中也、形分爲㆑藏、故以名焉、神藏五者、一肝、二心、三脾、四肺、五腎也、神藏㆓於內㆒、故以名焉、所謂神藏者、肝藏㆑魂、心藏㆑神、脾藏㆑意、肺藏㆑魄、腎藏㆑志也。〔皮日休、新竹詩〕一玩九藏冷、再聞百骸醒。

【九齚】261 九度かむ。九たびかじる。〔易林〕獐鹿雉兔、羣㆓聚東囿㆒、盧黃白脊、俱往追逐、九齚十得、君子有㆑喜。

【九雜】262 集めまぜる。〔莊子、天下〕九㆓雜天下之川㆒。

【九三】263 ❶易卦の、下から數へて三つ目の陽爻の稱。九五(230)の圖を見よ。〔易、乾〕九三、君子終日乾乾、夕惕若、厲无㆑咎。❷道家の語。九と三。〔金丹元奥集成〕九三二八、算來只在㆓姹女金翁㆒、七六十三、窮得無㆑過㆓黃婆丁老㆒。

【九三郎】264 道家の語。金液還丹の精。〔金丹大要〕夫金液還丹之精、姓金、喚㆓九三郎㆒、諱元晶、號曰㆓金華商夫君㆒、居㆓玉池之西㆒、出入跨㆑虎。

【九參】265 一月に九回朝參すること。九參官を見よ。〔李庾、西都賦〕佩㆑印分㆑魚、九參六佐。

【九參官】266 唐代の三品以上の武官の稱。三日に一度朝參したからいふ。〔唐書、百官志三〕武官三品以上、三日一朝、號㆓九參官㆒。

【九山】267 ❶九つの山。㋑會稽・衡山・華山・沂山・岱山・嶽山・醫無閭・霍山・恆山。〔周禮、夏官、職方氏〕揚州、其山鎭曰㆓會稽㆒、云云、荊州、其山鎭曰㆓衡山㆒、云云、豫州、其山鎭曰㆓華山㆒、云云、青州其山鎭曰㆓沂山㆒、云云、兗州、其山鎭曰㆓岱山㆒、云云、雍州、其山鎭曰㆓嶽山㆒、云云、幽州、其山鎭曰㆓醫無閭㆒、云云、冀州、其山鎭曰㆓霍山㆒、云云、幷州、其山鎭曰㆓恆山㆒。㋺汧・壺口・砥柱・太行・西傾・熊耳・嶓冢・內方・岐。〔史記、夏紀〕道㆓九山㆒。〔注〕索隱曰、汧・壺口・砥柱・太行・西傾・熊耳・嶓冢・內方・岐、是九山也。㋩會稽・泰山・王屋・首山・太華・岐山・太行・羊腸・孟門。〔呂覽、有始〕土有㆓九山㆒、云云、何謂㆓九山㆒、會稽・太山・王屋・首山・太華・岐山・太行・羊腸・孟門。〔淮南子、墬形訓〕何謂㆓九山㆒、會稽・泰山・王屋・首山・太華・岐山・太行・羊腸・孟門。❷多くの山。〔張耒、暑雨賦〕提㆓九山於空虛㆒、忽並擊而俱裂、壅㆓百川於河漢㆒、廼防潰而一決。❸九州の名山。〔書、禹貢〕九山刊旅。〔傳〕九州名山、已槎㆑木通㆑道、而旅祭矣。〔史記、五帝紀〕唯禹之功爲㆑大、披㆓九山㆒、通㆓九澤㆒、決㆓九河㆒、定㆓九州㆒、各以㆓其職㆒來貢、不㆑失㆓厥宜㆒、方五千里、至㆓于荒服㆒。❹九疑山。〔楚辭、九歌、湘夫人〕九嶷繽兮並迎、靈之來兮如㆑雲。〔注〕言、舜使㆔九嶷之山神、繽然來迎㆓二女㆒則百神侍送、衆多如㆑雲也。〔陳羽、湘妃怨〕九山沈㆓白日㆒、二女泣㆓滄洲㆒。❺字號。㋑清、梁上國(**6**―**14825**‥270)の字。㋺宋、呂重庚(**2**―**3386**‥241)の號。㋩明、張焜芳(**4**―**9812**‥1062)の字。㊁松村良猷の號。松村九山(**6**―**14516**‥375)を見よ。

【九山人】268 明、袁凱(**10**―**34152**‥15)の號。

【九山八海】269 佛 一小世界の山海の總稱。中央に須彌山があり、其の周圍に八大山があり、山と山との間に一つづつの海がある。〔俱舍論、十一〕於㆓金輪上㆒有㆓九大山㆒、云云、山間有㆓八海㆒。

【九子】270 ❶九人の子。〔楚辭、天問〕女岐無㆓合夫㆒、焉取㆓九子㆒。〔注〕女岐、神女、無㆑夫而生㆓九子㆒也。〔江淹、遂古篇〕女岐九子爲㆓氏先㆒兮。❷尾宿にある九つの星。〔史記、天官書〕氐爲㆓天根㆒、主㆑疫、尾爲㆓九子㆒、曰㆓君臣㆒。〔開元占經、六十、東方七宿占篇〕尾、天子之九子也。❸山名。安徽省青陽縣の南。〔海錄碎事、地、總載山〕青陽縣南有㆓九子山㆒、上有㆓九峯㆒、如㆓蓮花㆒。❹井目。聖目。㋑碁盤の目の上に記した九つの黑點。㋺圍碁に於て、盤面の九點に一つづつ石をおくこと。

【九子丸】271 仙藥の名。〔神仙傳〕王公於㆓劉京處㆒得㆓九子丸㆒、時已七十、服㆑之、御㆓八十妾㆒、生㆓二十兒㆒、騎㆑馬獵行、日三百里、飮㆓酒一斛㆒不㆑醉、得㆓壽三百歲㆒。

【九子粽】272 端午の節に作るちまきの名。〔晉無名氏、古折楊柳五月歌〕折㆓楊柳㆒作得九子粽。〔唐玄宗、端午三殿宴㆓羣臣㆒探得㆓神字㆒詩〕四時花競㆑巧、九子粽爭㆑新。〔文昌雜錄〕唐

時、五日有二百索粽一、又有二九子粽一。

【九子池】273 キウジ 鳳凰池（12－46671‥221）をいふ。鳳凰が九羽の雛に此の池の水を飲ませたことからいふ。〔韻府引海錄碎事〕晉穆帝升平四年、鳳凰將二九子一見二於鄱郷之豐城一、故亦稱二鳳凰池一曰二九子池一。〔明一統志〕九子池、在二南昌府豐城縣東南苦竹村一、鳳凰將二九雛一飲二於此一、故名。

【九子萍】274 キウヘイ うきくさの一種。〔月令通考〕萍浮二於水一、一夕生二九子一、故名二九子萍一。〔袁宏道、詩〕百子池頭九子萍。

【九子蒲】275 ホ 結婚の申込みの時に用ひる蒲。〔西陽雜俎、禮異〕婚禮納綵、有二合歡嘉木・阿膠・九子蒲一。

【九子母】276 ボ ❶神の名。佛經にある鬼子母（12－45758‥76）に同じ。一度に九子を産む。僧は之を祀つて訶利帝母と稱す。琅琊代醉編、卷三十一に見ゆ。〔漢書、成帝紀〕孝成皇帝、元帝太子也、母曰二王皇后一、元帝在二太子宮一、生二甲觀畫堂一。〔注〕應劭曰、畫堂、畫二九子母一。〔荊楚歲時記〕四月八日、長沙寺閣下、有二九子母神一、是日、市肆之人無レ子者、供二養薄餅一以乞レ子、往往有レ驗。❷魯の母師をいふ。九寡（176）を見よ。〔列女傳、母儀、魯母師傳〕母師者、魯九子之寡母也、云云、頌曰、九子之母、誠知二禮經一。

【九子墨】277 ボク 古代、結婚の祝のとき用ひた墨。〔北堂書鈔、一百四〕鄭氏婚禮曰、九子之墨、藏二於松煙一、本姓長生、子孫無レ邊。

【九子鈴】278 レイ 鈴の一種。〔南史、齊東昏侯紀〕莊嚴寺有二玉九子鈴一、以施二潘妃殿飾一。〔李商隱、齊宮詞〕梁臺歌管三更罷、猶自風搖九子鈴。

【九子母夫】279 ボフ 宋の錢穆父の綽名。風姿美しく、且九人の子があつたから名づく。〔老學庵筆記、十〕錢穆父風姿甚美、有二九子一、都下九子母祠、作二一巾紗美丈夫一、坐二于西偏一、俗以爲二九子母之夫一、故都下謂二穆父一爲二九子母夫一。東坡贈レ詩云、九子羨二君門戶壯一、蓋戲レ之也。

【九子魔母】280 マボ 嫉妬心の強い妻を、九子母に比して言つた語。九子母を見よ。〔本事詩〕御史大夫裴談、崇二奉釋氏一、妻悍妬、談畏レ之如二嚴父一、嘗謂レ妻、有レ可レ畏者二、少妙之時、視レ之如二生菩薩一、及二兒女滿レ前、視レ之如二九子魔母一、至二五十六十一、薄施二妝粉一、或青或黑、視レ之如二鳩盤荼一。

【九司】281 キウシ 九卿。〔何晏、景福殿賦〕三事九司、宏儒碩生。〔謝超宗、齊太廟永至樂歌〕九司聯レ事、八方承レ宇。

【九四】282 キウシ ❶易卦の、下から數へて四つ目の陽爻の稱。九五（230）の圖を見よ。〔易、乾〕九四曰、或躍在レ淵。❷元、長士誠の小字。

【九市】283 キウシ 九つの市。長安の九市は、其の六つは道西にあり、三つは道東にあつた。〔漢書、東方朔傳〕殷作二九市之宮一而諸侯畔。〔注〕紂於二宮中一設二九市一。〔班固、西都賦〕九市開レ場、貨別隊分。〔注〕善曰、漢宮闕疏曰、長安立二九市一、其六市在二道西一、三市在二道東一。〔張載、濛汜池賦〕左面二九市一、右帶二閶風一。

【九死】284 キウ 九たび死ぬ。死ぬことを強く表現した語。或は九死一生無しの意だともいふ。〔楚辭、離騷〕雖二九死一其猶未レ悔。〔後漢書、馮衍傳下〕雖二九死一而不レ眠兮。

【九死一生】285 キウシイッシヤウ 死ぬべき場合九分に、生くべき場合は一分。十中の九分まで助かる見込みのないこと。〔楊說弓張月、後、二十一回〕九死の中に一生を得るなり。

【九志】286 シ 書名。蒲生君平の著、神祇志・山陵志・族姓志・職官志・服章志・禮儀志・民志・刑志・兵志を云ふ。今、其の多くは傳らぬ。

【九枝】287 シ 燈の名。一つ幹に九つの枝があつて、燭を插すもの。九枝燈。〔沈約、傷二美人一賦〕陳二九枝之華燭一。〔王筠、詠二燈檠一詩〕百華曜二九枝一、鳴鶴映二冰池一。

【九枝花】288 キウシクワ 花の九枝あるもの。〔徐凝、長洲覽古詩〕美人曾插二九枝花一。〔費昶、華觀省中夜聞二城外擣衣詩一、鬢插二九枝花一。

【九枝燈】289 キウシトウ ❶九枝に同じ。〔溫庭筠、晚坐寄二友人一詩〕九枝燈在二瑣窗一空。〔和漢朗詠集、餞別、菅原庶幾、餞別詩〕九枝燈盡唯期レ曉、一葉舟飛不レ待レ秋。❷フコンツェダ 古、乞巧奠にともした九本の燭臺。〔江家次第、八、乞巧奠〕立二黑漆燈臺九本一於件机四方四角中央一、加二打敷一、謂二之九枝燈一。

【九芝】290 キウシ 靈草の名。九本の莖のある芝。〔盧思道、後園宴詩〕秋夕風動二三株樹一、春朝露濕二九芝田一。〔劉潛、謝二鵝鴨一啓〕出二九芝之池一、去二千金之沼一。〔王勃、採蓮賦〕宜下其色震二百草一、香奪中九芝上。〔上官儀、勸二封禪一表〕雙觡呈レ班、馴二擾於君囿一、九芝獻レ彩、燭耀於帝池一。

【九芝仙館】291 キウシセンクワン 清、朱振采（6－14424‥864）の室名。

【九思】292 シ ❶君子の思ふ九つの事柄。明・聰・温・恭・忠・敬・問・難・義。〔論語、季氏〕孔子曰、君子有二九思一、視思レ明、聽思レ聰、色思レ温、貌思レ恭、言思レ忠、事思レ敬、疑思レ問、忿思レ難、見レ得思レ義。〔魏志、王昶傳〕其進退念レ合レ宜、其行事加二九思一。〔宋史、王忠民傳〕時劉豫僭立、忠民作二九思圖及定亂四策一、達二之金主一。❷楚辭の篇名。後漢、王逸作。逢尤、見尤、怨上・疾世（疾俗）、憫上・閔上、遭厄・悼亂（隱思・散亂）、傷時・哀歲、守志の九篇に分る。〔楚辭、王逸、九思、章句〕九思者、王逸之所レ作也、云云、逸與二屈原一同レ土共レ國、悼傷之情、與レ凡有レ異、竊慕二向褒之風一、作二頌一篇、號曰二九思一、以裨二其辭一。❸明、關思（11－41470‥79）の一名。❹清、朱承錫（6－14424‥861）の字。

【九思主人】293 シユジン 清、永瑢（6－17088‥243）の號。

【九師】294 キウシ 漢の淮南王安の聘した九人の易道に明かな人をいふ。〔漢書、藝文志、淮南道訓二篇、注〕淮南王安、聘二明レ易者九人、號二九師說一。〔任昉、答二陸倕感二知己一賦、探二三詩於河間一、訪二九師於淮曲一。〔文中子、天地〕九師興而易道微、三傳作而春秋散。

【九紫】295 シ 陰陽家の語。九星の一。景門。火星。本位は南、卽ち離。九星（387）の六を見よ。〔協紀辨方書、義例六、三元九星〕景門爲二九紫一。云云、七赤・八白・九紫、云云、九紫居レ離。

【九絲】296 シ ❶九本の絲。九弦の琴をいふ。〔謝惠連、琴贊〕體兼二九絲一、聲備二五音一。❷山名。四川省興文縣の西南。〔明史、劉顯傳〕其酋阿大・阿二・方三等、據二九絲山一、剽二遠近一、其山修廣、而四隅峭仄。

【九二】297 キウジ 易卦の、下から數へて二つ目の陽爻。九五（230）の圖を見よ。〔易、乾〕九二、見龍在レ田、利レ見二大人一。〔疏〕陽處二二位一、故曰二九二一。

【九二開人】298 キウジカンジン 明、范守己（9－30834‥19）の號。

【九字】299 ジ 護身の祕語。臨兵鬪者皆陣列前行の九字。もと陰陽家で用ひた語。後、兵家及び修驗者に用ひられ、神祕の威力を有すといふ。〔抱朴子、登涉〕又曰、入甲宜レ知二六甲祕祝一、祝曰、臨兵鬪者皆陳列前行、凡九字常當二密祝一之、無レ所二不レ避、要道不レ煩、此之謂也。

【九寺】300 ジ 九卿の詰める役所。寺は官署の意。唐代の制度では、太常寺（禮義を掌る）・宗正寺（宗室を掌る）・光祿寺（膳羞を掌る）・衛尉寺（軍衞器仗を掌る）・太僕寺（輦輅廐牧を掌る）・大理寺（鞫獄定刑を掌る）・鴻臚寺（賓客を掌る）・司農寺（倉場園苑を掌る）・太府寺（庫藏出納を掌る）をいふ。九卿（198）の❶を見よ。〔晉書、荀勗傳〕九寺レ幷於尚書一、蘭臺宜レ省付二三府一。〔晉唐書、職官志一〕太常・光祿・衞尉・宗正・太僕・大理・鴻臚・司農・太府、爲二九寺一。〔羣書拾唾〕唐九寺、太常寺・宗正寺・光祿寺・衞尉寺・太僕寺・大理寺・鴻臚寺・司農寺・太府寺。〔事物紀原、會府臺司部、九寺〕漢以來、九卿所レ治之府、謂二之九寺一。後魏始有二三府・九寺之稱一、然通二其名一、不レ連二官號一、其以官名寺、自二北齊一始也。

【九州】301 シウ 九つの州。又、九つの國。❶中國の古代に、全土を分けて九つの州としたもの。日知錄、卷二十一に見ゆ。〔爾雅、釋地〕兩河間曰二冀州一、河南曰二豫州一、河西曰二雝州一、漢南曰二荊州一、江南曰二揚州一、濟・河間曰二兗州一、濟東曰二徐州一、燕曰二幽州一、齊曰二營州一。九州。〔疏〕禹別二九州一、有二青・徐・梁・無二幽・幷・營一是夏制也、周禮、周公所作、有二青・幷・幽・無二徐・梁・營一是周制也、此有二幽・徐・營一而無二青・梁・幷一、疑是殷制也。〔書、禹貢〕九州攸同。〔周禮、夏官、職方氏〕東南曰二揚州一、正南曰二荊州一、河南曰二豫州一、正東曰二青州一、河東曰二兗州一、正西曰二雍州一、東北曰二幽州一、河

内曰冀州、正北曰幷州。(禮、王制)凡九州、千七百七十三國、天子之元士、諸侯之附庸不レ與。(呂覽、有始)天有二九野一、地有二九州一、土有二九山一、山有二九塞一。(春秋保乾圖)天皇地皇人皇、九人兄弟、分爲二九州一、長二天下一。(周公職錄)黃帝割レ地布二九州一。(帝王世紀)冀・兗・青・徐・揚・荆・豫・梁・雍、九州、顓帝所レ建。

唐堯(紀世王帝)	冀(都帝)	兗(河濟)	青(岱海)	徐(岱海及淮)	揚(淮海)	荆(陽衡及荆)	豫(河荆)	梁(華陽墨水)
夏(貢禹・書)	同	堯	に	唐				
殷(地釋・雅爾)	冀(閒河兩)	兗(河濟)	…	徐(東濟)	揚(南江)	荆(南漢)	豫(南河)	…
周(夏・禮周氏方職官)	冀(內河)	兗(東河)	青(東正)	…	揚(南東)	荆(南正)	豫(南河)	…
現代	河北省、山西省、河南省黃河以北、滿洲遼寧省遼河以西。	山東省舊東昌府・兗州・濟南・青州西北境、河北省舊大名府・正定・河間東南境。	山東省舊膠東道・濟南道東境、滿洲遼寧省遼河以東。	江蘇省舊徐州府・邳縣、山東省舊兗州府、安徽省宿縣・泗縣。	江蘇省、安徽省、江西省、浙江省、福建省。	湖南省、湖北省、四川省舊遵義・重慶二府、貴州省思南・銅仁・思州・石阡等府、廣西省、廣東省連縣。	河南省。	陝西省舊漢中道、四川省。

【參考】九州の異稱は甚だ多い。今茲に其の名稱と書名とを掲げる。九域(晉書、孫惠傳)・九壤(宋書、樂志)・九垓(史記、司馬相如傳)・九關(漢書、禮樂志)・九紘(齊書、豫章王嶷傳)・九紐(張融、海賦)・九埏(漢書、揚雄傳)・九野(後漢書、馮衍傳)・九同(周禮、地官、大司徒)・九逜(王勃、俾彼我系詩)・九宇(晉書、呂光紀贊)・九圍(詩、商頌、長發)・九服(周禮、夏官、職方氏)・九區(齊書、高帝紀)・九土(國語、魯語上)・九隅(魏書、律歷志)・九畿(詩、齊譜)・九國(禮、文王世子)・九邑(那居實、南征賦)・九方(雲笈七籤)。

(一)中國の外に、別に八つを加へたもの。(史記、騶衍傳)以、儒者所謂中國者、於二天下一乃八十一分、居二其一分一耳、中國名二赤縣神州一、赤縣神州內、自有二九州一、禹之序二九州一、是也、不レ得レ爲二州數一、中國外、如二赤縣神州一者九、乃所謂二九州一也。(二)農土・沃土・滔土・弁土・中土・肥土・成土・隰土・申土。卽ち、神州・次州・戎州・弇州・冀州・台州・沛州・薄州・陽州。(淮南子、墜形訓)何謂二九州一、東南神州曰二農土一、正南次州曰二沃土一、西南戎州曰二滔土一、正西弇州曰二弁土一、正中冀州曰二中土一、西北台州曰二肥土一、正北濟州曰二成土一、東北薄州曰二隰土一、正東陽州曰二申土一。(四)西海道九箇國の稱。筑前・筑後・豐前・豐後・肥前・肥後・日向・大隅・薩摩。(文獻通考、四裔考、倭)西海道有二筑前・筑後・豐前・豐後(肥前)・肥後・日向・大隅・薩摩、凡九州一、共統二九十三郡一。(續文獻通考、四裔考、日本)平氏仍據二筑前等九州一與二原各分一其地一。

雍(黑西河)			
じ			
雝(西河)	幽(燕)	營(齊)	…
雍(西正)	幽(北東)	…	幷(北正)

陝西省、甘肅省、青海額濟納之地。

【九州長】302(キウシウノチヤウ) 九州の長官。(禮、曲禮下)九州之長、入二天子之國一曰レ牧。(高士傳)許由、堯召爲二九州長一、不レ欲レ聞レ之、洗二耳於潁水濱一。

【九州同】303(キウシウノオナジ) 天下が統一せられること。九州は中國全土。(陸游、示レ兒詩)死去元知萬事空、但悲不レ見二九州同一。

【九州伯】304(キウシウノハク) 九伯(530)に同じ。(晉書、桓玄傳)父爲二九州伯一、兒爲二五湖長一。

【九州之志】305(キウシウノシ) 中國全土の記錄。(孔安國、尚書序)九州之志、謂二之九丘一、丘、聚也、言二九州所レ有、土地所レ生、風氣所レ宜、皆聚二此書一也。

【九州之土】306(キウシウノド) 九州に同じ。(淮南子、說林訓)欲レ觀二九州之土一。

【九州四海】307(キウシウシカイ) 中國、及び其の周邊の地。全世界。(盧照鄰、登封大酺歌)九州四海常無レ事、萬歲千秋樂未レ央。

【九州殊口】308(キウシウシユコウ) 星の名。(晉書、天文志上)天節下九星曰二九州殊口一、曉二方俗之官、通二重譯一者也。

【九州之美味】309(キウシウノビミ) 中國全土に於て最もうまい食物。(禮、禮器)三牲魚腊、四海九州之美味也。

【九秋】310(キウシウ) 秋九十日間をいふ。秋一ぱい。(晉書、張協傳)晞二三春之溢露一、懋二九秋之鳴鼓一。(陸機、日出東南隅行)丹脣含二九秋一。(梁元帝纂要)秋曰二三秋一、亦曰二九秋一。

【九秋幹】311(キウシウカン) 松柏の類。(謝靈運、登二石門最高頂一詩)心契二九秋幹一、目翫二三春蔕一。(注)銑曰、九秋幹、松之類。

【九愁】312(キウシウ) (一)深く痛む意。又、愁の多いこと。(梁簡文帝、喜二疾瘳一詩)逍遙臨二四注一、兼持散二九愁一。(袁朗、秋夜獨坐詩)新愁百慮淨、獨夜九愁深。(二)魏、曹植の作つた賦の名。漢魏六朝百三名家集に見ゆ。

【九醜】313(キウシウ) 九つのみにくいこと。卽ち、勇に於ける忘、意に於ける變、治に於ける亂、固に於ける轉、信に於ける釁、讓に於ける殘、行に於ける頑、仁に於ける亹。(一つを缺く)(逸周書、文政解)九醜、思レ勇醜レ忘、思レ意醜レ變、思レ治醜レ亂、思レ固醜レ轉、思レ信醜レ釁、思レ讓醜レ殘、思レ行醜レ頑、思レ仁醜レ亹。

【九式】314(キウシキ) 祭祀・賓客・葬荒・羞服・工事・幣帛・芻秣・匪頒・好用の九種の禮を行ふ費用の節度。(周禮、天官、大宰)以二九式一均二節財用一。一曰、祭祀之式、二曰、賓客之式、三曰、喪荒之式、四曰、羞服之式、五曰、工事之式、六曰、幣帛之式、七曰、芻秣之式、八曰、匪頒之式、九曰、好用之式。(注)式、謂二用材之節度一。

【九識】315(クシキ) 㒵九つの識。識とは、對象を識別する心のはたらきをいふ。(一)眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識・末那識・阿賴耶識・菴摩羅識。(二)眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識・阿陀那識・阿梨耶識・阿摩羅識。(圓測解深密經疏)眞諦三藏、依二決定藏論一、立二九識義一。言二九識一者、眼等六識、第七、阿陀那識、第八、阿梨耶識、第九、阿摩羅識。(三)阿賴耶識中の九つの種別。身識・塵識・用識・世識・器識・數識・四種言說識・自他異識・善惡生死識。(顯識論)顯識有二九種一、一、身識、二、塵識、三、用識、四、世識、五、器識、六、數識、七、四種言說識、八、自他異識、九、善惡生死識。

【九室】316(キウシツ) (一)門外の正朝の左右に造られた部屋で、諸官職を奉ずる者が事を治めるところ。又、門內にあつて、九嬪が九御に教へるところ。(周禮、考工記、匠人)內有二九室一、九嬪居レ之、外有二九室一、九卿朝焉。(注)九室、如二今朝堂諸曹治レ事處一、九嬪、掌二婦學之法一、以教二九御一。(疏)釋曰、內外、據二路寢之表裏一言レ之、則九卿之九室、在二門外正朝之左右一爲レ之、云云、九嬪已下分居レ之、若然不レ得二復分一居二九室一矣、此九嬪之九室、與二九卿九室一相對而言レ之、云云、九嬪九室、亦是治レ事之處、云云、九室是教二九御一之所也。(二)明、陳輔堯(11－41698‥1248)の字。

【九日】317(キウジツ) (一)九つの太陽。羿の傳說。九日は下枝にかかつて居り、一日は上枝にかかつて居るといふ。(太平御覽、天部、日上)山海經曰、大荒之中、湯谷上有二扶木一、十日所レ浴、此浴水中有二大木一、九日居二上枝一。(曹植、愁霖賦)攀二扶桑一而

仰觀兮、假二九日於天皇一。〔杜甫、觀二公孫大娘弟子舞一劍器一行〕燿如下羿射二九日一落上。㊁陰曆九月九日の稱。重陽。〔宋書、陶潛傳〕嘗九月九日無レ酒。〔李白、九日龍山飲詩〕九日龍山飲、黃花笑二逐臣一。〔王勃、蜀中九日詩〕九月九日望二鄉臺一、他席他鄉送二客杯一。㊂九日の閒。〔周禮、秋官、大司寇〕其次九日、坐二九月役一。〔左氏、哀、元〕夫屯晝夜九日、如二子西之素一。㊃山名。福建省南安縣に在り、南は晉江縣に連亙してゐる。〔海錄碎事、地、總載山〕九日山、在二泉州南安縣一、南連二晉江縣一。㊄清、許旭(10－35298：50)の字。

【九日臺】318 キウジツ ダイ 江蘇省南京市の孫陵崗にある臺の名。南齊の武帝が九月九日に羣臣と宴したところ。〔南齊書、武帝紀〕九日、出二商飈館一、登レ高宴二羣臣一、辛卯、車駕幸二商船館一、館上所レ立、在二孫陵崗一、世呼爲二九日臺一者也。〔明一統志〕九日臺、在二江寧府北十五里一、世呼爲二松陵岡一、齊武帝九月九日、宴二羣臣於此一。

【九日三官】319 キウジツ サンクワン 木の名。かはじかみ。吳茱萸(2－3365：649)の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕九日三官、吳茱萸。

【九日登高】320 キウジツ トウカウ 陰曆九月九日に茱萸ᵍを携へて山に登り、菊酒を飲み一年の災厄を拂ふ故事。〔續齊諧記〕汝南桓景、隨二費長房一、遊學累年、長房謂レ之曰、九月九日、汝家當レ有二災厄一、急宜レ去、令下家人各作二絳囊一、盛二茱萸一、以繫レ臂、登レ高飲二菊酒一、此禍可レ消。〔王維、九月九日憶二山東兄弟一詩〕獨在二異鄉一爲二異客一、每レ逢二佳節一倍思レ親、遙知兄弟登二高處一、遍插二茱萸一少二一人一。

【九十】321 キウジフ ㊀九十歳をいふ。〔禮、曲禮上〕八十・九十曰レ耄。〔周縣、往レ京寄二同志一詩〕試問九十翁、吾今尚如レ此。㊁物事を鄭重にすること。九にし十にする意。〔詩、豳風、東山〕親結二其縭一、九十其儀一。〔傳〕九十其儀、言レ多レ儀也。〔箋〕女嫁、父母既戒レ之、庶母又申レ之、九十其儀、喩二丁寧之多一。㊂清、滿洲鑲黃旗人。姓は張佳氏。乾隆年間、金川を征し、嘉慶年間、教匪を西安に討ち、皆功あり。官は廣西提督。〔國朝耆獻類徵、三百七〕・〔國史列傳、三十三〕。

【九十九】322 キウジフ モ 上野國の地名。

【九十其犉】323 キウジフ ソレイユン 牧畜の功成つて、牛の衆多なさまを形容した語。犉は黑い脣の黃牛。それが九十頭も居るから、其の他の牛の多いことは推して知ることが出來る。〔詩、小雅、無羊〕誰謂爾無レ牛、九十其犉。〔傳〕黃牛黑脣曰レ犉。〔集傳〕牛之犉者九十、非レ犉者尚多矣。

【九十九洲】324 キウジフ クシウ 洲の名。今の湖北省江陵縣の西南に在り、枝江・松滋二縣の界に分屬す。〔南史、梁元帝紀〕江陵先有二九十九洲一、桓玄之爲二荊州刺史一、鑿破二一洲一、以應二百數一、隨而崩散、太清末、枝江楊之閣浦、復生二一洲一、明年而帝卽位、承聖末、其洲與二大岸一相通、惟九十九云。

【九十九的】325 chiu³ shih chiu³ tê 惡質の錢。一百の標準點以下であることをいふ。

【九十九浦】326 キウジフ ウラ 紀伊國の海濱の總稱。

【九十九隴】327 キウジフ クワウ 丘の名。貴州省鎭寧縣の北に在り、九十九の丘がある。〔貴州通志〕周圍百餘里、兩水界二其左右一、外開二重關七八所一、內藏二九十九隴一、大小不レ等、彎環如レ帶、分二門別レ戶、道通二一線一、中平衍可レ耕、四面奇峯插レ漢、最高者曰二高峯山一、俗傳二羅鬼弄一兵於此一。

【九十春光】328 キウジフ シュンクワウ 春二箇月九十日閒のどかな日光。〔陳陶、春歸去詩〕九十春光在二何處一、古人今人留不レ住。〔吳錫麟、送春詩〕落花飛絮滿二烟波一、九十春光去似レ梭。

【九十八使】329 キウジフ ハチシ 傴九十八の煩惱。使は煩惱の意。〔俱舍論〕。

【九十六外道】330 キウジフロク ゲダウ 傴古代印度に於て、佛教を除く九十六派の哲學・宗教をいふ。〔增一阿含經、二十〕我能盡知二九十六種外道所趣向一者、如來之法所二趣向一者、不レ能二分別一。〔薩婆多論〕六師者、一師十五種教、以授二弟子一、弟子受行、各成二異見一、如レ是一師出二十五種異見一、師別有レ法、與二弟子一不レ同、師與二弟子一通爲二十六種一、如レ是六師有二九十六種一。

【九章】331 キウシヤウ ㊀天子の服の九つの模樣。龍・山・華蟲・火・宗彝・藻・粉米・黼・黻、冕服(2－1545：13)及び十二章(2－2695：376)を見よ。〔周禮、春官、司服、注〕古、天子冕服十二章、云云、至レ周而以二日月星辰一、畫二於旌旗一、所謂二辰旂旗昭二其明一也、而冕服九章、登二龍於山一、登二火於宗彝一、尊二其神明一也、九章、初一曰龍、次二曰山、次三曰華蟲、次四曰火、次五曰宗彝、皆畫以爲レ繢、次六曰藻、次七曰粉米、次八曰黼、次九曰黻、皆希以爲レ繡、則衮之衣五章、裳四章、凡九也。㊁九つの旗じるし。日章・月章・龍章・虎章・烏章・蛇章・鵲章・狼章・韓章。〔管子、兵法〕九章、一曰、擧二日章一則晝行、二曰、擧二月章一則夜行、三曰、擧二龍章一則行レ水、四曰、擧二虎章一則行レ林、五曰、擧二烏章一則行レ陂、六曰、擧二蛇章一則行レ澤、七曰、擧二鵲章一則行レ陸、八曰、擧二狼章一則行レ山、九曰、擧二韓章一則載レ食而駕。㊂算法の名。九章算術の㊀を見よ。㊃洪範の九疇。九疇(447)の㊀を見よ。〔漢書、律歷志上〕箕子言、大法九章。〔注〕師古曰、大法九章、卽洪範九疇也。㊄楚辭の篇名。戰國楚、屈原作。惜誦(惜論)・涉江・哀郢・抽思・懷沙・思美人・惜往日・橘頌・悲回風の九篇に分る。〔楚辭、九章、章句〕九章者、屈原之所レ作也、屈原放二於江南之野一、思二君念一國、憂心罔レ極、故復作二九章一。㊅漢初に蕭何が作つた刑法典の稱。九章律を見よ。〔晉書、刑法志〕就二漢九章一、增二十一篇一。㊆明、金俊明(11－40152：1298)の號。

【九章律】332 キウシヤウリツ 漢初、高祖が三章の法を定めたが、後、蕭何が時宜に適するものを取つて九章を作つた。それは、戰國魏の李悝の法經六法、卽ち盜法・賊法・囚法・捕法・雜法・具法に、戶律・興律・廐律の三篇を加へたものである。〔漢書、刑法志〕漢興、高祖初入レ關、約二法三章一、曰、殺レ人者死、傷二人及盜、抵レ罪、蠲二削煩苛一、兆民大說、其後、四夷未レ附、兵革未レ息、三章之法、不レ足二以禦一姦、於レ是、相國蕭何、攈二摭秦法一、取下其宜上於時一者、作二律九章一。

【九章算術】333 キウシヤウサンジユツ ㊀黃帝が隸首に命じて作らせたと傳ふる〔周公の作ともいふ〕最古の算法。卽ち、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・贏不足・方程・句股をいふ。九數(374)の㊀を見よ。〔詩、魏風、伐檀、胡取二禾三百億一兮、疏〕故今九章算術、皆以二萬萬一爲レ億。〔周禮、地官、保氏、疏〕云二九數一者、方田以下、皆依二九章算術一而言。〔義疏〕案、九章算術、一曰方田、以御二田疇界域一、二曰粟米、以御二貿劑變易一、三曰差分、以御二貴賤廉稅一、四曰少廣、以御二積冪方員一、五曰商功、以御二功程積實一、六曰均輸、以御二遠近勞費一、七曰方程、以御二錯糅正負一、八曰贏不足、以馭二隱雜互見一、九曰句股、以御二高深廣遠一。〔後漢書、馬嚴傳〕博觀二羣籍一、善二九章算術一。〔注〕劉徽九章算術曰、方田第一、粟米第二、差分第三、少廣第四、商功第五、均輸第六、盈不足第七、方程第八、句股第九。〔事物紀原、正朔曆數部、九章〕後漢鄭康傳注曰、九章算術、周公作也、一方田、二粟米、三差分、四少廣、五均輸、六方程、七傍要、八盈不足、九鉤股、卽周禮九數、是也。㊁書名。九卷。撰者未詳。最古の算經。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【九章冕冠】334 キウシヤウベンクワン 皇太子が正式の時に召される禮冠。〔西宮記、臨時四、冠〕太子著二九章冕冠一。

【九章錄要】335 キウシヤウロクエウ 書名。十二卷。清、屠文漪撰。算法の書。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【九城】336 キウジヤウ ㊀九つの城。〔史記、秦始皇紀〕攻二鄴取一九城一。㊁chiu³ ch'êng² 北京城のこと。

【九壤】337 キウジヤウ 中國全土。九州(301)の㊀に同じ。〔束晳、補亡詩〕恢恢大圓、茫茫九壤。〔鮑照、河清頌序、三靈佇睠、九壤注〕心。

【九主】338 キウシユ 九人の主君。法君・專君・授君・勞君・等君・寄君・破君・國君・三歲社君。又、三皇五帝及び夏の禹王をいひ、又、九皇をいふ。〔史記、殷紀〕言二素王及九主之事一。〔注〕集解曰、劉向別錄曰、九主者、有二法君・專君・授君・勞君・等君・寄君・破君・國君・三歲社君一。凡九品、圖二畫其形一、索隱曰、九主者、三皇五帝以及二夏禹一也、或曰、九主、謂二九皇一也。

【九守】339 キウシユ ㊀九つの守るべきことがら。卽ち、一、仁に於ける均、二、智に於ける等、三、固に於ける興、四、信に於ける假、五、城溝に於ける立、六、廉に於ける名、七、戒に於ける信、八、競に於ける備、九、國に於ける謀。〔逸周書、文政解〕九守、一、仁守以レ均、二、智守以レ等、三、固守以レ興、四、信守維假、五、城溝守立、六、廉守以レ名、七、戒守以レ信、八、競守以レ備、九、國守

以レ謀。㊀管子の篇名。

【九首】340 キウ シュ 九つのくび。〔山海經、海外北經〕共工之臣、曰二相柳氏一、九首以食二于九山一。〔左思、吳都賦〕雖レ有二雄虺之九首一、將レ抗二足而跳レ之。〔柳宗元、招二海賈一文〕天吳九首兮、更笑迭怒。

【九衆】341 ク シュ 〔佛〕比丘・比丘尼・學法尼・沙彌・沙彌尼・出家・出家尼・優婆塞・優婆夷をいふ。〔十誦律、五十五〕。

【九種】342 キウ シュ ㊀九つの種類。九種鹽を見よ。㊁九つの種族。〔後漢書、西羌傳〕忍生二九子一、爲二九種一、舞生二十七子一、爲二十七種一。㊂易・書・詩・春秋・禮・樂・論語・孝經・爾雅をいふ。〔漢書、藝文志〕序二六藝一爲二九種一。〔歐陽脩、藝文志論〕史官列二其名氏一篇第一以爲二六藝九種一也略。

【九種鹽】343 キウ シュ エン 九種類の鹽。白鹽・食鹽・黑鹽・胡鹽・戎鹽・赤鹽・駮鹽・臭鹽・馬齒鹽。〔魏書、李孝伯傳〕世祖又遣レ賜二義恭駿等、氈各一領、鹽各九種一、幷胡豉一、孝伯曰、有二後詔一、凡此諸鹽各有レ所レ宜、白鹽・食鹽、主二上食一、黑鹽治二腹脹氣滿一、末之二鉄、以レ酒而服、胡鹽治二目痛一、戎鹽治二諸瘡一、赤鹽・駮鹽・臭鹽・馬齒鹽四種、並非二食鹽一。

【九種曲】344 キウ シュ キヨク 曲集の名。清、蔣士銓撰。一に藏園九種・清容外集といふ。一片石・第二碑（一名、後一片石）・冬青樹・四弦秋・香祖樓・空谷香・桂林霜・雪中人・臨川夢の九種がある。

【九種食】345 キウ シュ ジキ 〔佛〕九種の食。段食（分分段段に噛み碎いて食ふもの）・觸食（六識が可愛の境に觸對して喜樂を生じ、以て身心を長養するもの）・思食（意識が好事を思つて樂を生じ、諸根を資益するもの）・識食（地獄の衆生及び無色界の有情など、識を以て命根を資持するもの）・禪悅食（修行の人が禪定の樂を得て能く諸根を養ふもの）・法喜食（修法の人が法を聞いて歡喜を生じ、慧命を資け身心を養ふもの）・願食（修行の人が誓願を發して身を持し、萬行を修するもの）・念食（修行の人が常に出世の善根を念じて忘れず、以て慧命を資益するもの）・解脫食（修行の人が涅槃の樂を得て身心を長養するもの）。

【九種竹】346 キウ シュ チク 竹の一種。成都に産す。〔海錄碎事、草木、竹〕成都出二十色牋一、九種竹一。

【九種大禪】347 クシュ ダイゼン 〔佛〕九種の大禪。自性禪・一切禪・難禪・一切門禪・善人禪・一切行禪・除惱禪・此世他世樂禪・清淨淨禪。禪は色界に屬する心地の定法。此の九種は、一切の功德を攝し、最も深廣であるから大禪といふ。出世間上禪。〔地持經〕。

【九銖】348 キウ シュ 新の王莽の鑄た錢。〔漢書、食貨志下〕更作二金銀龜貝錢布之品一、一寸九銖、曰二壯錢四十一。

【九戎】349 キウ ジュウ 九つのえびす。又、大司馬の九伐をいふ。皆、用兵威武の事であるからいふ。〔周禮、秋官、掌交〕九戎之威。〔注〕九戎、九伐之戎。〔孫詒讓正義〕說文戈部云、戎、兵也。大司馬九伐、皆用兵威武之事、故謂二之九戎之威一。〔揚雄、反離騷〕鑿二九戎一而索レ賴。

【九熟】350 キウ ジュク 一年間に九度みのる。〔海錄碎事、農田、禾稻〕抱朴子曰、南海有二九熟之稻一。

【九熟草】351 キウ ジュク サウ 草の名。〔本草、九熟草〕別錄曰、一名鳥粟、一名雀粟、生二人家庭中一、葉如レ棗、一歲九熟、七月采。

【九春】352 キウ シュン 春九十日。又、三年をいふ。〔春秋元命苞〕陽氣數成二於三一一故時別二三月一爲二陽數極一於九一、故二月一時九十日。〔曹植、雜詩〕妾身守二空閨一、良人行從レ軍、自期二年歸一、今已歷二九春一。〔注〕善曰、一歲二春一、故以二三年一爲二九春一、言二已過一期也。纂要曰、九十日、故九春。〔阮籍、詠懷詩〕悅懌若二九春一、謦折似二秋霜一。

【九旬】353 キウ シュン 九十日。長い時日をいふ。〔楚辭、王逸、九思、怨上集慕兮九旬、退顧兮彷徨。〕

【九暑】354 キウ ショ 夏九十日の暑。卽ち、陰曆四・五・六の三箇月の間。〔管子、四時〕南方曰二日、其時曰一夏、其氣曰一陽一、云云、謹修二神祀一、量二功賞一賢、以動二陽氣一、九暑乃至、時雨乃降、五穀百果乃登、此謂二日德一。〔注〕九暑、謂二九夏之暑一也。

【九署】355 キウ ショ 太府卿に屬する兩京・諸市・平準・左右藏・常平等の九つの役所。〔通典、職官典、諸卿中、太府卿〕卿一人、少卿二人、領二兩京・諸市・平準・左右藏・常平等九署一、署各有二令丞一。

【九如】356 キウ ジョ ㊀祝頌の詞。詩經の天保の詩に九箇の如の字があるからいふ。天保（3‥5833‥1268）を見よ。〔詩、小雅、天保〕天保二定爾一、以莫レ不レ興、如二山如一レ阜、如二岡如一レ陵、如二川之方至一、以莫レ不レ增、云云、如二月之恆一、如二日之升一、如二南山之壽一、不レ騫不レ崩、如二松柏之茂一、無レ不二爾或承一。㊁清、滿保（7‥18099‥198）の字。

【九序】357 キウ ジョ 九敍に同じ。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕九序未レ歌。

【九敍】358 キウ ジョ ㊀九功が順序よく治まること。九功（236）の㊀を見よ。九序。〔書、大禹謨〕九敍惟歌。〔蔡傳〕敍者、言二九者各順一其理一、而不二汨陳以亂一其常一也。〔周必大、謝レ賜二曆日一表〕九敍惟歌、使二咸知一於帝力。㊁字號。㋑清、袁懋功（10‥34152‥249）の字。㋺清、宮爾勸（8‥7156‥255）の字。

【九陛】359 キウ ヘイ 清、何友晏（1‥511‥216）の字。

【九鐘】360 キウ ショウ 九つの鐘。〔山海經、中山經〕豐山有二九鐘一焉、是知レ霜鳴。〔注〕霜降則鐘鳴、故言レ之也。〔郭璞、山海經圖、九鐘贊〕九鐘將レ鳴、凌霜乃落。〔王褒、九日從駕詩〕律改二秋節一、氣應二九鐘一霜。

【九色】361 キウ ショク 九種の色。青・赤・黃・白・黑・綠・紫・紅・紺。又、多くの色。〔黃庭內景經〕九色錦衣綠華裙。〔魏略〕大秦國山、出二九色次玉石一、一曰青、二曰赤、三曰黃、四曰白、五曰黑、六曰綠、七曰紫、八曰紅、九曰紺、今伊吾山中有二九色石一、卽其類。〔虞集、記二夢中一詩〕出二海雲霞九色芒一、金容滉漾水中央。

【九色鹿經】362 クシキ ロクキヤウ 〔佛〕經名。吳の支謙の譯。世尊が、往昔、九色の鹿王となつて忍辱を行つたことを說く。

【九職】363 キウ ショク ㊀堯の時の九つの官職。司徒・司馬・司空・田疇・樂正・工師・秋宗・大理・獄禽。〔說苑、君道〕堯知二九職之事一、使二九子者各受一其事一。〔小學紺珠、名臣類上、九職〕舜爲二司徒一、契爲二司馬一、禹爲二司空一、后稷爲二田疇一、夔爲二樂正一、倕爲二工師一、伯夷爲二秋宗一、皐陶爲二大理一、益掌二獄禽一。㊁周代の九種の職業。三農・園圃・虞衡・藪牧・百工・商賈・嬪婦・臣妾・閒民。〔周禮、天官、大宰〕以二九職一任二萬民一、一曰三農、生二九穀一、二曰園圃、毓二草木一、三曰虞衡、作二山澤之材一、四曰藪牧、養二蕃鳥獸一、五曰百工、飭二化八材一、六曰商賈、阜二通貨賄一、七曰嬪婦、化二治絲枲一、八曰臣妾、聚二斂疏材一、九曰閒民、無二常職一、轉移執レ事。〔疏〕此九者、皆是民之職業。㊂キウ ショク 古、三宮職・中宮職・春宮職・左右兩京職・大膳職・修理職の總稱。

【九臣】364 キウ シン 九人の家來。九官（186）の㊀及び九職の㊀を見よ。〔史記、封禪書〕四海九臣。〔說苑、權謀〕堯之九臣、誠而能興二於朝一。

【九宸】365 キウ シン 帝王の宮闕。〔海錄碎事、地、宮殿〕一夜催二仙仗一、悲聲到二九宸一。王禹玉英宗挽詞。

【九眞】366 キウ シン ㊀山名。湖北省漢陽縣の西南。九つの峯に九人の仙女がみたといふ。唐代には改めて仙潛山といふ。〔輿地紀勝〕縣有二五藏山一、唐改名二仙潛山一、俗呼爲二九眞山一、相傳有二九仙女一、煉二丹於此一。㊁郡名。㋑漢、置く。今の安南の河內以南、順化以北の地。〔漢書、地理志下〕九眞郡。〔後漢書、南蠻傳〕任延守二九眞一。㋺隋、置く。今の安南の境。〔讀史方輿紀要、廣西、附考、安南、清化府、九眞郡城、隋平レ陳、廢、郡仍曰二愛州一、大業初、又改レ州曰二九眞郡一。

【九眞藤】367 キウ シン トウ 草の名。つるくだみ。何首烏（1‥511‥296）の異名。〔本草、何首烏〕釋名、九眞藤、時珍曰、斗門方云、取二根若レ獲二九數一者、服之乃仙、故名二九眞藤一。

【九親】368 キウ シン 高祖から玄孫に至る間の九つの親をいふ。高祖父母・曾祖父母・祖父母・父母・己・子・孫・曾孫・玄孫。〔禮、喪服小記、親レ親、以二三爲レ五、以五爲レ九。〔注〕己上親レ父、下親レ子、三也、以父親レ祖、以子親レ孫、五也、以祖親二高祖一、以孫親二玄孫一、九也。〔宋書、孝武帝紀〕大明二年春正月丙辰、復二郡縣田秩、幷九親祿俸一。

【九人】369 キウ ジン ㊀人の數九。〔論語、泰伯〕有二婦人一焉、九人而已。㊁九等の人をいふ。下人・平人・進人・下祿・中祿・上祿・失志・疾瘝・極。〔太玄經、玄數〕九人、一爲二下人一、二爲二平人一、三爲二進人一、四爲二下祿一、五爲二中祿一、六爲二上祿一、七爲二失志一、八爲二疾瘝一、九爲二極一。

【九仞】370 キウ ジン 九ひろ。仞は八尺。九仞功虧二一簣一を見よ。九軔。〔五經通義〕其高九仞、上平

無レ屋、高九仞者、極陽之數。〔武元衡、甫搆二西亭一偶題詩〕百城煩二鞅掌一、九仞喜二嶇嶔一。

【九仞功虧二一簣一】371キウジンコウヲイツキニカク　いま一いきのところで失敗すること。一失によつて大事を敗ること。簣は土を運ぶ籠。〔書、旅獒〕不レ矜二細行一、終累二大德一。爲レ山九仞、功虧二一簣一。〔論語、子罕〕子曰、譬如レ爲レ山、未レ成一簣一、止吾止也。〔白居易、箴言〕尚念二山九仞虧一于一簣一。

【九軔】372キウジン　九ひろ。九仞(370)に同じ。〔孟子、盡心上〕掘レ井九軔而不レ及レ泉、猶爲レ棄レ井也。〔集注〕軔音刃、與レ仞同、八尺爲レ仞。

【九推】373キウスイ　九度耕す。〔禮、月令〕天子二推、三公五推、卿諸侯九推。〔資治通鑑、唐紀〕玄宗、開元二十三年、上耕二籍田一、九推乃止。〔注〕杜佑曰、是年親耕、有司進二儀注一、天子三推、公卿九推、庶人終レ畝。

【九數】374キウスウ　❶數學上の九種の算法。方田（田地の面積測定）・粟米（米錢、交易賣買算）・衰分（差分、貴賤混合法）・少廣（平方・立方）・商功（工力工程の算）・均輸（舟車人馬の運賃算）・盈朒（エイクツ）（贏不足、按分比例）・方程（方程式）・句股（旁要、三角術）。九章算術(333)を見よ。〔周禮、地官、保氏〕乃教二六藝一、六曰、九數。〔注〕九數、方田・粟米・差分・少廣・商功・均輸・方程・贏不足・旁要、今有二重差・夕桀・句股一也。❷五行について、金の成數をいふ。〔管子、幼官〕君服二白色一、味二辛味一、聽二商聲一、治二濕氣一、用二九數一。〔注〕九亦金之成數。

【九數通考】375キウスウツウカウ　書名。十五卷。清、屈曾發撰。算學の書。原名、數學精詳。清史稿、藝文志に著錄せられてゐる。

【九井】376キウセイ　❶九つの井戸。〔伏滔、北征記〕丹陽山有二九井一、大司馬桓溫所レ鑿也、今五井已竭、四井通二大江一。❷山名。安徽省當塗縣の南。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕。〔明一統志〕九井山、在二太平府城南十里一、山有二九井一、世傳、晉桓溫所レ鑿、元和志、殷仲文、九月九日、嘗從レ溫登二九井一賦レ詩。

【九世】377キウセイ　九つの世代。九代。〔左氏、襄、二十五〕九世之卿族、一擧而滅レ之、可レ哀也哉。〔史記、殷紀〕弟子或爭相代立、比二九世亂一。〔後漢書、光武紀上〕高祖九世之孫也。

【九世之讎】378キウセイノアダ　九代以前の讐。齊の襄公が紀を滅して、九世の讎を復した故事。〔公羊、莊四〕紀侯大去レ國、云云、齊滅レ之、曷爲不レ言二齊滅一之、爲二襄公一諱也、云云、九世猶可二以復一レ讐乎、雖二百世一可也。〔漢書、匈奴傳上〕乃下レ詔曰、高帝遺二朕平城之憂一、高后時、單于書絕悖逆、昔齊襄公復二九世之讎一、春秋大レ之。

【九世同居】379キウセイドウキョ　唐の張公藝の九世の親族が同居した故事。〔唐書、孝友傳序〕張公藝九世同居、北齊東安王永樂・隋大使梁子恭、躬慰撫、表二其門一。

【九世同爨】380キウセイドウサン　九代に亙る親屬が同じ釜の飯を食つて生活する。親子兄弟親類の睦じいこと。〔宋史、鄭綺傳〕鄭綺、婺州浦江人、善讀レ書、通二春秋穀梁學一、以二肅睦一治レ家、九世不レ異レ爨。

【九成】381キウセイ　❶音樂の九曲の終ること。一曲の終るのを一成といふ。九奏〔書、益稷〕簫韶九成、鳳凰來儀。〔疏〕鄭云、成、猶レ終也、每レ曲一終、必變更奏。〔蔡傳〕九成者、樂之九成也、功以レ九敍、故樂以レ九成、猶二周禮所謂九變一也。〔列子、黃帝〕簫韶九成。〔淮南子、齊俗訓〕其樂、夏籥九成。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕六莖九成之曲。❷九層(424)に同じ。〔馬融、長笛賦〕託二九成之孤岑一兮。〔宋文帝、登二景陽樓一詩〕崇堂臨二萬雉一、層樓跨二九成一。❸宮殿の名。今の陝西省麟遊縣の西に在つた。隋の文帝の仁壽宮を、唐の太宗が修復して改名したもの。〔唐書、太宗紀〕貞觀六年三月戊辰、如二九成宮一。〔元和志〕九成宮、在二陝西省麟遊縣西一里一、卽隋仁壽宮、每歲避暑、春往冬還。〔麟遊縣志〕宮遺址無考、惟九成・萬年兩古碑存。〔顧炎武、金石文字記〕唐九成宮醴泉銘、魏徵撰、歐陽詢書。〔精註雅俗故事讀本、下、宮室〕唐太宗修二九成宮一以避レ暑。❹九層の臺の名。〔呂覽、音初〕有娀氏有二二佚女一、爲二之九成之臺一、飲食必以レ鼓。〔注〕成、猶レ重。〔謝朓、觀二朝雨一詩〕旣灑二百常觀一、復集二九成臺一。❺字號。㋑元、郊韶(11－39476‥4)の字。㋺元、達識帖睦邇(11－39011‥161)の字。㋩明、陶宗儀(11－41705‥210)の字。㋥明、王韶(泰和の人)(7－20823‥675)の字。㋭chiù ch'éng。九分通り。九割。

【九制】382キウセイ　老陽を以て天道を制すること。九は老陽の數。〔管子、五行〕一者本也、二者器也、三者充也、治者四也、教者五也、守者六也、立者七也、前者八也、終者九也、十者然後具二五官於六府一也、五聲於二六律一也、六月日至、是故人有二六多一六多所レ以街二天地一也、天道以レ九制、地理以レ八制、人道以二六制一、以レ天爲レ父、以レ地爲レ母、以開二乎萬物一、以總二一統一、通二乎九制一、六府三充一、而爲二明天子一。〔注〕九、老陽之數、以二老陽一制レ天、所以君二長之一也。

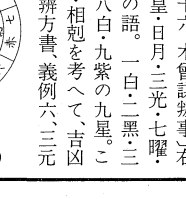
【九姓】383キウセイ　地名。❶㋑元、置く。九姓長官司を見よ。㋺貴州に在る。今の蜀山縣。❷唐代に於ける回紇の九つの姓。藥羅葛・胡咄葛・崛羅勿・貊歌息訖・阿勿嘀・葛薩・斛嗢素・藥勿葛・奚耶勿。〔唐書、回鶻傳上〕。❸唐代、中央亞細亞に昭武九姓があり、其の先は祁連山昭武城に居り、後、中央亞細亞に徙つて九國(康・安・曹・石・米・何・史・火尋・戊地)となつた。今のアム河北方の地。〔唐書、西域下、康傳〕康者、一曰二薩末鞬一、亦曰二颯秣建一、云云、始居二祁連北昭武城一、爲二突厥所一破、稍南依二葱嶺一、卽有二其地一、枝庶分レ王、曰安、曰曹、曰石、曰米、曰何、曰火尋、曰戊地、曰史、世謂二九姓一、皆氏二昭武一。

【九姓漁戶】384キウセイギョコ　元末の浙江省の騷亂に際し、漁人陳友諒が、自ら漢朝の後裔と稱して、揚子江南の數都を併合し、太義帝と號したが、明の太祖に征服せられ、其の子孫は再び漁民と爲つた。九姓とは、陳友諒の遺族で、陳・錢・林・李・袁・孫・葉・許・何の諸姓をいふ。九姓漁船。〔清會典、戶部、戶口〕至二廣東之蜑戶、浙江之九姓漁戶一、及各省凡有二似レ此者一、悉令二該地方官照レ此辨理一。

【九姓漁船】385キウセイギョセン　九姓漁戶に同じ。〔清稗類鈔、種族類〕九姓漁船、惟浙東有レ之、人有レ謂爲二陳友諒部曲之子孫一者上、凡九姓、不レ與二齊民一結婚上、以漁爲レ業、蓋友諒敗二於鄱陽一、其部曲九姓、悉遠竄、至二嚴州之建德一、而拏レ舟往二來於杭州・嚴州・金華・衢州一也。

【九姓長官司】386キウセイチヤウクワンシ　土司の名。今の四川省古宋縣。元初、夷民の羅氏など九人を立てて土官とし、九姓といふ。明には九姓長官司と改め、清には古宋縣と改めた。〔明史、地理志四〕永寧云云、有二九姓長官司一。

【九星】387キウセイ　❶四方及び五星をいふ。〔逸周書、小開武解〕三極、一維天九星、二維地九州、三維人四方。〔注〕九星、四方及五星也。❷星・辰・日・月・四時・歲をいふ。〔任昉、宣德皇后令〕不レ改二參辰一、而九星仰止。〔注〕善曰、周書、王曰、余不レ知二九星之光一、周公旦曰、九星、星・辰・日・月・四時・歲、是謂二九星一。九星光。❸北斗をいふ。九魁。〔楚辭、九辯、章句〕天有二九星一、以正二機衡一、地有二九州一、以成二萬邦一、人有二九竅一、以通二精明一。〔雲笈七籤〕天有二九星一、兩星隱、故稱二九天一。❹遁甲式法で用ひる九つの星。天蓬・天內・天衝・天輔・天心・天禽・天任・天柱・天英をいふ。〔素問、天元紀大論〕九星懸朗、七曜周旋。〔注〕九星、上古之時也、上古質人淳、歸レ眞反レ朴、九星懸朗、五運齊宣、中古道德稍衰、標星藏レ曜、故計星之見者七焉、九星謂二天蓬・天內・天衝・天輔・天禽・天心・天任・天柱・天英一、此蓋從レ標而爲レ始、遁甲式法、今猶用焉。❺貪狼・巨門・祿存・文曲・廉貞・武曲・破軍・左輔・右弼をいふ。術數家は之を五行方位に配し、人の生年に充てて吉凶を判ずる。〔源平盛衰記、六十六、木曾謀叛事〕右上奉レ始二梵天帝釋・四大天皇一、日月・三光・七曜・九星・二十八宿。❻陰陽家の語。一白・二黑・三碧・四綠・五黃・六白・七赤・八白・九紫の九星。これで方位・配偶などの相生・相剋を考へて、吉凶を判斷する。九宮。〔協紀辨方書、義例、六、三元九星〕黃帝遁甲經曰、三元者、起二於九宮一也、以二休門一爲二一白一、死門爲二二黑一、傷門爲二三碧一、杜門爲二四綠一、中宮爲二五黃一、開門爲二六白一、驚門爲二七赤一、生門



爲二八白一、景門爲二九紫一、通書云、九宮者、神龜負二文於背一、禹因以陳二九疇一、卽洛書載レ九履レ一、左三右七、二四爲レ肩、六八爲レ足、五數居レ中、縱橫斜皆成二十五一者、是也、河圖則天一・地二、天三・地四、天五・地六、天七・地八、天九・地十、而先儒有二除レ十用レ九之說一、所謂河圖・洛書、相爲二經緯一、八卦・九章、相爲二表裏一者也、東漢張衡、變二九章一爲二九宮一、從二一白・二黑・三碧・四綠・五黃・六白・七赤・八白・九紫一、分二三元六甲一、以數作レ方、而一白居レ坎、二黑居二坤、三碧居レ震、四綠居レ巽、五黃居レ中、六白居レ乾、七赤居レ兌、八白居レ艮、九紫居レ離、是爲二九宮一、靜則隨レ方而定、動則依レ數而行。

【九星家】388（キウセイカ）七曜(38)の❶に同じ。

九星術に達した人。又、其れを業とする人。

【九星術】389（キウセイジユツ）九星によつて人の運命を判斷する術。

【九星椿】390（キウセイサウ）技擊家が身をかはすことを練習するために立てる九本の杙。八卦九宮を按じて杙を立て、其の間を通つて練習する。

【九星洋】391（キウセイヤウ）廣東省香山縣の東南の海の名。一名、九洲洋。又、七里洋に作る。（讀史方輿紀要、廣東、廣州府香山縣、井澳、零丁洋）九星洋、在二縣西南一、宋建炎二年、元將劉深襲二井澳一、帝至二謝女峽一、復入レ海至二九星洋一、欲レ往二占城一、不レ果、一統志、海中有二九曜山一、羅列如二九星一、洋因以名。

【九逝】392（キウセイ）幾度か思ひの馳せること。逝は行。（楚辭、九章、抽思）惟郢路之遼遠兮、魂一夕而九逝。（顏延之、夏夜呈二從兄散騎車長沙一詩）九逝非二空思一。（沈約、昭君辭）於レ玆懷九逝、自レ此斂二雙蛾一。

【九勢】393（キウセイ）書法の九つの筆勢。落筆・轉筆・藏鋒・藏頭・護尾・疾勢・掠筆・澀聲・橫鱗。後漢の蔡邕の創めた法。（書苑菁華、蔡邕九勢）夫書肇二於自然一、自然既立、陰陽生焉、陰陽既生、形勢出矣、藏頭護尾、力在二字中一、下筆用レ力、肌膚之麗、故曰、勢來不レ可レ止、勢去不レ可レ遏、惟筆輒則奇怪生焉、凡落筆結レ字、上皆覆レ下、下以承レ上、使二其形勢遞相映帶一、無レ使二勢背一、轉筆宜二左右回顧一無レ使二節目孤露一、藏鋒點畫、出入之迹、欲レ左先右至、回左亦爾、藏頭員筆、屬レ紙令レ筆心常在二點畫中一行、護尾畫點、勢盡レ力收レ之、疾勢出二於啄磔之中一、又在二豎筆牒趯之內一、掠筆在二於趯鋒峻趯一用レ之、澀勢在二於緊駛戰行之法一、橫鱗豎勒之規、此名二九勢一、得レ之雖レ無二師授一、亦能妙二合古人一、須二翰墨功多一、卽造二妙境一耳。

【九聖】394（キウセイ）九人の聖人。伏犧・神皇・黃帝・堯・舜・禹・文王・周公・孔子をいふ。（孔穎達、周易正義序）業紹二九聖一、時歷二三古一。（無名氏、禹拜二昌言一賦）我皇紹二九聖之雄圖一、擧二百王之令典一。

【九聲】395（キウセイ）宮・商・角・徵・羽の五聲に、宮清・商清・角清・徵清の四高聲を合せたもの。四清(3－4632‥463)を見よ。

【九稅】396（キウゼイ）九職から取り立てる稅。九職(363)の❶を見よ。（周禮、秋官、掌交）九稅之利。（注）九稅、所レ稅二民九職一也。

【九筮】397（キウゼイ）九つの筮法。筮更・筮咸・筮式・筮目・筮易・筮比・筮祠・筮參・筮環。九簭。（周禮、春官、筮人）掌三易一、以辨二九簭之名一、一曰巫更、二曰巫咸、三曰巫式、四曰巫目、五曰巫易、六曰巫比、七曰巫祠、八曰巫參、九曰巫環、以辨二吉凶一。（注）此九巫、讀皆當レ爲レ筮、字之誤也。

【九箾】398（キウセウ）九笙に同じ。

【九招】399（キウセウ）❶逸詩の篇名。（墨子、三辯）又脩二九招一。（呂覽、古樂）修二九招・六列・六英一。（古詩紀）古逸詩名、劉勰云、帝嚳之世、咸墨爲レ頌、以歌二九招一。❷舜の樂の名。簫韶は九曲で終るからいふ。九韶に同じ。（史記、五帝紀）禹乃興二九招之樂一。（注）索隱曰、卽舜樂簫韶九成、故曰二九招一。

【九韶】400（キウセウ）❶舜の樂の名。簫韶は九曲で終るから名づける。九招の❶に同じ。（列子、周穆王）奏二承雲・六瑩・九韶・晨露、以樂レ之。（淮南子、氾論訓）舜、九韶。（注）舜樂。（說苑、脩文）禹乃興二九韶之樂一。❷字號。㋑明、張美和(4－9812‥1463)の名。㋺清、唐紹成(2－3709‥467)の字。

【九霄】401（キウセウ）❶天の九つの分野。神霄・青霄・碧霄・丹霄・景霄・玉霄・琅霄・紫霄・太霄。又、天の極高の處。又、九天(472)に同じ。（孫綽、至人高士傳贊、原憲）志逸二九霄一、身安二陋術一。（沈約、遊二沈道士館一詩）託二慕九霄中一。（杜甫、春宿二左省一詩）星臨二萬戶一動、月傍二九霄一多。（晁書拾唾、老氏玄談）九霄、神霄・青霄・碧霄・丹霄・景霄・玉霄・琅霄・紫霄・太霄。❷明、黃翊(12－47926‥889)の字。

【九霄雲】402（キウセウノクモ）高い天の雲。遙か天の彼方。（李翺、贈二毛仙翁一詩）從レ此便教二塵骨貴一、九霄雲路願二追攀一。（李中、遊二北山洞神宮一詩）松檜穆棲二島鶴一、樓臺閑鎖九霄雲。

【九韶】403（キウセウ）九韶(400)の❶に同じ。（周禮、春官、大司樂）九韶之舞。（注）九聲、讀當レ爲二大韶一、字之誤也。（莊子、至樂）奏二九聲一以爲レ樂。（釋文）聲、一作レ韶、舜樂名。

【九石】404（キウセキ）❶九つの石。（白居易、開二龍門八節石灘一詩）鐵鑿金鎚殷若レ雷、八灘九石劒稜摧。❷（シヤク）下野國の地名。

【九錫】405（キウセキ）動功あるものに特に賜はる九種の品物。車馬・衣服・樂器・禮緯含文嘉は樂則に作る）・朱戶・納陛・虎賁・鉄鉞・弓矢・秬鬯。（公羊、莊、元）王使二榮叔來錫二桓公命一。（注）禮有二九錫一、一曰車馬、二曰衣服、三曰樂則、四曰朱戶、五曰納陛、六曰虎賁、七曰弓矢、八曰鉄鉞、九曰秬鬯、皆所レ以勸レ善扶二不能一。（漢書、武帝紀）元朔元年、有司奏、古者諸侯貢士、一適謂二之好德一、再適謂二之賢賢一、三適謂二之有功一、乃加二九錫一。（注）應劭曰、九錫、一曰車馬、二曰衣服、三曰樂器、四曰朱戶、五曰納陛、六曰虎賁百人、七曰鉄鉞、八曰弓矢、九曰秬鬯。（白虎通、攷黜）禮記九錫一（潘勖、冊二魏公九錫一文）今又加二君九錫一。

【九錫文】406（キウセキブン）文體の名。詔令の一種。貴戚權臣の大功偉勳ある者を頌揚し、やがて帝位を禪らうとする準備を爲すもので、もと王莽・曹操の徒が非望を企圖する心から出たものであるが、爾後殆ど例となり、宋・齊・梁・陳等の革命の際には必ずこれを發布した。文選三十五卷に潘勖の冊二魏公九錫一文がある。

【九折】407（キウセツ）❶あちこちに曲りくねる。紆餘曲折。又、曲りの多い坂みち。つづらをり。羊腸。（應瑒、別詩）浩浩長河水、九折東北流。（沈約、從軍行）雪縈二九折嶮一、風卷二萬里波一。（魏徵、述懷詩）既傷二千里目一、還驚二九折魂一。（李白、蜀道難）青泥何盤盤、百步九折縈巖巒。（陸游、世事詩）山林已結二世願一、朝市誰非二九折途一。❷坂の名。四川省榮經縣の西、邛崍山に在り、巖阻が迴曲九折してゐるのでいふ。（漢書、王尊傳）先レ是琅邪王陽爲二益州刺史一、行二部至二邛崍九折坂一、嘆曰、奉二先人遺體一、奈何數乘二此險一、後以レ病去、及二尊爲一刺史一、至二其坂一、問二吏曰一、此非二王陽所レ畏道一耶、吏對曰、是、尊叱二其馭一曰、驅レ之、王陽爲二孝子一、王尊爲二忠臣一。（華陽國志）邛來山、本名二邛筰山一、故邛・筰人界也、巖阻迴曲、九折乃至。（左思、蜀都賦）馳二九折之坂一。（樓鑰、趙資政園梅篆詩）九折坂中經二蜀險一、八盤嶺上趁二朝忙一。❸一割引き。（ツヅラリ）加賀國の地名。❹（ツヅラヤマ）大和國若草山の別稱。

【九折臂】409（クヂビヒヂ）經驗を積む。醫は九度人の臂を折つて始めて良醫となる。（楚辭、九章、惜誦）九折臂而成レ醫兮、吾至二今而知一其信然一。

【九節】410（キウセツ）❶竹の九つの節。（黃庭堅、虎胎冠銘）深衣幅巾九節竹、尚與二斯文一嘯二空谷一。（陸游、醉題詩）九節筇邊秋萬里、長明燈下雨三更。❷射禮に於て、長杠に設けた九重の析羽。（周禮、夏官、射人）九節五正。（注）九節、析羽九重設二於長杠一也。❸射禮で奏する歌の九樂節。（周禮、夏官、射人）九節五正。（疏）云下九節析羽九重設二於長杠一也者、若是析羽九重設二於長杠一、卽是獲旌、當レ與二三獲三容一相依、何得レ輒在二騶虞之下一、既在二騶虞詩下一、明是歌之樂節。（庾信、三月三日華林園馬射賦）騶虞九節、貍首七章。❹九つの節のある仙草。漢の武帝が獲たといふ。（神仙傳）漢武帝登二嵩山一、云云、夜忽有二仙人一曰、吾九疑之神也、聞二中岳石上菖蒲一寸九節、可レ以服之長生、故來採耳。（庾信、周儀同云云墓誌銘）昔西河女子値二九節之菖蒲一、東海婦人得二三山之芝草一。（劉禹錫、白侍郎大尹云云詩）浦根抽二九節一、蓮蕚捧二重臺一。（李賀、帝子歌）九節菖蒲石上死、湘神彈レ琴迎二帝子一。（蘇軾、常州太平寺法華院詩）六花簷葡林開佛、九節菖蒲石上仙。

【九節杖】411（キウセツジヤウ）九つの節ある杖。仙人が持つ

てゐるといふ。〔神仙傳〕王遙遇レ雨、使下弟子以二九節杖一擔レ篋不中沾濕上。〔杜甫、望嶽詩〕安得二仙人九節杖一、拄到二玉女洗頭盆一。

【九節貍】412 キウセツノリ 貍の一種。文に九節があるから名づける。〔本草、貍〕集解、時珍曰、似二虎貍一而尾有二黑白錢文相間者一、爲二九節貍一。〔蟲薈〕貍之別種、毛黑白相間、眼金色、尾甚長、文有二九節一、能捕レ鼠、皮可レ爲レ裘、毛可レ製レ筆。

【九川】413 キウセン 禹の治めた九つの大河。卽ち、弱・黑・河・瀁・江・沇・淮・渭・洛。〔書、禹貢〕九川滌レ源。〔史記、夏紀〕道二九川一。〔注〕索隱曰、弱・黑・河・瀁・江・沇・淮・渭・洛、爲二九川一。

【九仙】414 キウセン ㊀九種の仙人。卽ち、上仙・高仙・大仙・元仙・天仙・眞仙・神仙・靈仙・至仙。又、九人の仙人。〔范雲、答二句曲陶先生一詩〕金壇謁二九仙一。〔沈約、早發二定山一詩〕徘徊望二九仙一。〔李嶠、煙詩〕迴浮二雙闕路一、遙拂二九仙衣一。〔雲笈七籤〕太淸境有二九仙一、第一、上仙、二、高仙、三、大仙、四、元仙、五、天仙、六、眞仙、七、神仙、八、靈仙、九、至仙。㊁山名。㋑山東省諸城縣の西南。〔蘇軾、登二常山絕頂廣麗亭一詩〕南望二九仙山一、北望二空飛埃一。㋺福建省閩侯縣の城內の東南隅。〔太平寰宇記〕越王九日宴二於此一、亦名二九日山一。〔福州府志〕舊名二于山一、後改二今名一。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、閩縣〕九仙山、在二府城內東南隅一、今名二於山一。㋩福建省將樂縣の東。〔讀史方輿紀要、福建、延平府、將樂縣〕九仙山、縣東二十餘里、崇岡疊嶂、如二龍翔鳳翥一、又如二獅伏牛鬬一、爲二一邑最高處一。㊁福建省尤溪縣の南。一名、蓬萊山。〔閩書〕峯巒秀拔、人跡罕到。

【九仙子】415 キウセンシ 蔓草の名。咽喉の病に效がある。〔本草、九仙子〕釋名、仙女嬌、集解、時珍曰、九仙子出二均州太和山一。

【九泉】416 キウセン ㊀冢墓。墓地。九原（223）の㊀に同じ。〔北史、魏長賢傳〕願得下鋤二彼草茅一、逐二玆鳥雀一、去二一惡一樹二一善一、不レ違二先旨一以沒中九泉上。〔阮瑀、七哀詩〕冥冥九泉室、漫漫長夜臺。〔庾信、傷心賦〕已觸二目於萬恨一、更傷二心於九泉一。㊁大地の下。地の底。〔晉書、皇甫謐傳〕龍潛二九泉一、硜然執高。〔木華、海賦〕吹二烱九泉一。〔注〕善曰、地有二九重一、故曰二九泉一。〔沈佺期、答二甯處州書一詩〕九泉開二白日一、六翮起二青雲一。

【九遷】417 キウセン 九たび官職が進む。又、官職の進み方の早いこと。一日九遷（1-1··904）を見よ。〔易林〕安止宜レ官、一日九遷。〔韓愈、上二張僕射一書〕雖三日受二千金之賜一、一歲九二遷其官一。

【九素】418 キウソ 九つの元氣。〔雲笈七籤〕太初天中、有二華景之宮一、宮有二自然九素之氣一、氣煙飄生、雕雲九色。

【九宗】419 キウソウ ㊀一姓で九族となつてゐるもの。〔左氏、隱、六〕翼九宗五正。〔注〕九宗、一姓爲二九族一也。㊁佛 クシユウ 八宗の外に禪宗、又は淨土宗を加へたもの。〔八宗綱要〕日本所レ傳、自レ昔已來、共許所レ翫、唯此八宗、然八宗外、禪宗及淨土教、盛而弘通。

【九奏】420 キウソウ 音樂を九たび奏すること。又、音樂の九曲の終ること。九成（381）の㊀に同じ。〔書、益稷、簫韶九成、傳〕備二樂九奏一而致二鳳皇一。〔史記、扁鵲傳〕與二百神一遊二於鈞天一、廣樂九奏萬舞。〔張衡、思玄賦〕聆二廣樂之九奏一兮、展洩洩以肜肜。〔初學記、樂部上、雅樂〕凡樂作謂二之奏一、九奏乃終、謂二之九成一、樂終謂二之闋一。

【九嵕】421 キウソウ 山名。九峯が聳え立つから名づける。㊀陝西省醴泉縣の東北。〔班固、西都賦〕冠以二九嵕一。〔張衡、西京賦〕九嵕甘泉、涸陰冱寒。〔太平寰宇記〕山高六百五十丈、周圍十五里、此山、東連二仲山一、西當二涇水出處一、故謂二之谷口一。㊁湖北省孝感縣の東北。一名、九宗山。〔輿地紀勝〕九嵕山、一名二九宗山一、環阜卅嶂、林麓深杳、不レ減二長安之九嵕一。

【九僧】422 キウソウ クソウ ㊀詩に巧な九人の僧。九僧詩を見よ。㊁佛大法會の時、重な役を勤める九人の僧。卽ち、一導師・二呪願師・三唄師・四散花師・五梵音師・六錫杖師・七引頭・八堂達・九衲衆をいふ。

【九僧詩】423 キウソウシ 詩に名高い九人の僧侶の詩集。九僧とは、淮南の惠崇、劍南の希晝、金華の保暹、南越の文兆、天台の行肇、汝州の簡長、青城の維鳳、江東の宇昭、峨眉の懷古をいふ。〔六一詩話〕國朝浮屠、以レ詩名二於世一者九人、故時有レ集號二九僧詩一、今不二復傳一矣。

【九層】424 キウソウ 九階も重なる。幾層もかさなる。高いたかどの。九成。〔陸機、別賦〕登二九層一而修觀、超二臨遠一以相思。〔北史、西域、女國傳〕王居二九層之樓一、侍女數百人。〔楊方、雜詩〕俯涉淥水澗、仰過九層山。〔梁簡文帝、咏烟詩〕映レ光飛二百仞一、從レ風散二九層一。〔戴叔倫、酬二贈張衆甫一詩〕迢遙千里道、依倚九層臺。

【九層之臺起二於累土一】425 キウソウノダイモルイドヨリオコル 事は小より發して終に大に至るといふ喩。九層の高殿も、其の始は僅かの土を積み上げて作ることから始まる。〔老子、六十四〕九層之臺、起二於累土一、千里之行、始二於足下一。

【九藪】426 キウソウ 九州の藪澤。九澤（441）に同じ。周禮・說文・呂覽・淮南子に出づ。

周禮、夏官、職方氏	說文	呂覽、有始	淮南子、墬形訓
具區（揚州）	具區（揚州）	具區（吳）	具區（越）
雲瞢（荊州）	雲夢（荊州）	雲夢（楚）	雲夢（楚）
圃田（豫州）	甫田（豫州）	圃田（梁）	圃田（鄭）
望諸（青州）	孟諸（青州）	孟諸（宋）	孟諸（宋）
大野（兗州）	大野（兗州）	海隅（齊）	海隅（齊）
弦蒲（雍州）	弦圃（雝州）	大陸（晉）	大陸（晉）
貕養（幽州）	奚養（幽州）	鉅鹿（趙）	鉅鹿（趙）
楊紆（冀州）	楊紆（冀州）	陽華（秦）	陽紆（秦）
昭養祁（幷州）	昭餘祁（幷州）	大昭（燕）	昭余（燕）

【九則】427 キウソク ㊀九功の法則。九功（236）の㊀を見よ。〔國語、周語下〕五曰、夷則、所下以詠二歌九則一、平レ民無上レ貳也。〔注〕則、法也、言三萬物既成、可二法則一也。〔逸周書、大匡解〕順二九則一。㊁九等。九つの等級。〔漢書、敍傳下〕坤作二墬勢一、高下九則。〔注〕劉德曰、九州土田、上中下九等也。

【九族】428 キウゾク 九つの親族。日知錄、卷二に見ゆ。〔書、堯典〕克明二俊德一、以親二九族一。〔書、仲虺之誥〕九族乃離。〔左氏、桓、六〕親二九族一以致二其禋祀一。㊀同姓直系のものだけで、異姓を含まずとするもの。高祖・曾祖・祖父・父・己・子・孫・曾孫・玄孫。古文家の說である。九屬。〔書、堯典、傳〕能明二俊德之士一、任二用之一、以睦二高祖玄孫之親一。〔詩、王風、葛藟序、箋〕九族者、據レ己上至二高祖一、下及二玄孫一之親。〔禮、喪服小記〕親レ親、以レ三爲レ五、以レ五爲レ九、上殺、下殺、旁殺、而親畢矣。〔注〕已上親レ父、下親レ子、三也、以レ父親レ祖、以レ子親レ孫、五也、以レ祖親二高祖一、以レ孫親二玄孫一、九也。〔故事成語考、祖孫父子〕何謂二九族一、高・曾・祖・考・己身・子・孫・曾・玄。㊁異姓を含むとするもの。卽ち、父族四、母族三、妻族二。今文家の說である。㋑今文家の說の一。父族四（五服の同族、姑の子、姊妹の子、己の同族）、母族三（母の父族、母の母族、母の姊妹の族）、妻族二（妻の父族、妻の母族）。〔詩、王風、葛藟、疏〕異義、九族、今戴禮・尙書歐陽說云、九族乃異姓有二親屬一者、父族四、五屬之內爲二一族一、父女昆弟適レ人者、與二其子一爲二一族一、己女昆弟適レ人者、與二其子一爲二一族一、己之子適レ人者、與二其子一爲二一族一、母族三、母之父姓爲二一族一、母之母姓爲二一族一、母女昆弟適レ人者、爲二一族一、妻族二、妻之父姓爲二一族一、妻之母姓爲二一族一。㋺今文家の說の二。父族四（姑の子・姊妹の子・女子の子・己の同族）、母族三（外祖父・外祖母・從母の子）、妻族二（妻の父・妻の母）。〔白虎通、宗族〕尙書曰、以親二九族一、族所二以九一何、九之爲レ言、究也、親疏恩愛究竟也、謂二父族四、母族三、妻族二一、父族四者、謂二父之姓一族一也、父女昆弟適レ人有レ子、爲二二族一也、身女昆弟適レ人有レ子、爲二三族一也、身女子適レ人有レ子、爲二四族一也、母族三者、母之父母、一族也、母之昆弟、二族也、母昆弟子、三族也、母昆弟者、男女皆在二外親一、故合言レ之、妻族二者、

妻之父爲二一族一妻之母爲二二族一妻之親略、故父母各一族。(六今文家の説の三。外祖父・外祖母・從母子・妻父・妻母・姑之子・姊妹之子・女子之子・己之同族。ほぼ㊂の㋑に同じ。〔左氏、桓六、九族、杜注〕九族、謂二外祖父・外祖母・從母子、及妻父・妻母・姑之子・姊妹之子・女子之子、幷己之同族一皆外親有レ服、而異レ族者也。

【夷二九族一】429 キヤウヅク 古の刑罰の一。高祖から玄孫迄の親族を皆連坐させて誅滅すること。叛逆等の大罪に之を行ふ。〔隋書、刑法志〕及二楊玄感反一帝誅二之一罪及二九族一。

【九族之親疎】430 キウゾクノシンソ 九族の中の親しいものと疎いもの。〔列子、楊朱〕室內之有亡、九族之親疎。

【九屬】431 キウゾク 九族(428)の㊀に同じ。〔太玄經、玄數〕九屬、一爲二元孫一二爲二曾孫一三爲二仍孫一四爲レ子、五爲レ身、六爲レ父、七爲二祖父一八爲二曾祖父一九爲二高祖父一。

【九邨】432 キウソン 阪田丈の號。阪田警軒(11－41562：16)を見よ。

【九帶】433 クタイ 圃九つの禪理。即ち、一に佛正法眼藏帶、二に佛法藏帶、三に理貫帶、四に事貫帶、五に理事從橫帶、六に屈曲垂帶、七に妙叶兼帶、八に金針雙銷帶、九に平懷常實帶。〔禪宗、浮山遠錄〕公編二禪家一爲二九帶集一。一、佛正法眼藏帶、二、佛法藏帶、三、理貫帶、四、事貫帶、五、理事從橫帶、六、屈曲垂帶、七、妙叶兼帶、八、金針雙銷帶、九、平懷常實帶。山谷贈二隱清禪師一詩云、參得浮山九帶禪。

【九體】434 キウタイ 身體の九つの部分。㊀肩・臂・膞・肫・胳・正脊・橫脊・長脅・短脅。〔儀禮、特牲饋食禮〕戶俎、右肩・臂・膞・肫・胳・正脊二脊・橫脊・長脅二脅・短脅。〔注〕戶俎、神俎也、士之正祭九體、貶二於大夫一、有二併骨一、二亦得二十一之名一、合二少牢之體數一。㊁手足・臂脛・股肱・腰・腹・肩・喉咄・面・頰。〔太玄經、玄數〕九體、一爲二手足一二爲レ臂脛一三爲二股肱一四爲レ要、五爲レ腹、六爲レ肩、七爲二喉咄一八爲レ面、九爲レ頰。

【九大】435 キウダイ 風・雲・雷・海・火・日・地・天・空をいふ。〔玄眞子、鸞鸞〕造化之初、九大相競、風之飄飄然曰、云云、雲之氣騰然曰、云云、雷之聲塡然曰、云云、海之濤奔然曰、云云、火之煙烈然曰、云云、日之耀照然曰、云云、地之震殷然曰、云云、天之鳴弦然曰、云云、空之寥豁然曰、云云。

【九大行星】436 キウダイカウセイ 太陽系中の九つの大きな遊星。即ち、水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星。

【九代】437 キウダイ ㊀九世(377)に同じ。㊁馬の名。〔山海經、海外西經〕大樂之野、夏后啓于レ此儛二九代一。〔注〕九代、馬名、儛、謂二盤作之令儛一也。〔薛曜、舞馬篇〕昔聞九代有二餘名一、今日百獸先來舞。

【九臺】438 キウダイ 山名。雲南省楚雄縣の西南。上に九つの臺があるから名づける。〔楚雄府志〕上有二九臺一、曰二大本・廣珠・甘露・聚仙・太中・振衣・寫經・滿月・湧蓮一、又有二三十峯一、參差聳峙、爲二一郡之勝一。

【九道】439 キウダウ ㊀九つの道。九つの流れ。〔江總、濟二黃河一詩〕兩源分際遠、九道派流長。〔李白、廬山謠〕黃雲萬里動二風色一、白波九道流二雪山一。〔元稹、相憶淚詩〕西江流水到二江州一、聞道分成二九道一流。㊁月の運行する九つの道。九行(72)の㊁を見よ。〔論衡、說日〕日月有二九道一。〔漢書、天文志〕日有二中道一、月有二九行一、中道者黃道、一曰二光道一、云云、月有二九行一者、黑道一、出二黃道北一、赤道二、出二黃道東一、立春・春分、東從二青道一立秋・秋分、西從二白道一、立冬・冬至、北從二黑道一、立夏・夏至、南從二赤道一、然用レ之一決二房中道一。〔王先謙補注〕日道獨黃、月行二青・朱・白・黑道一、各兼二黃道一而言、故又謂二之九道一也。〔成公綏、天地賦〕望舒驅二節于九道一、羲和正二轡于中黃一。㊂學問の九つの種類。即ち、道德・陰陽・法令・天官・神徵・伎藝・人情・械器・處兵。〔鶡冠子、學問〕龐子問二鶡冠子一曰、聖人學問レ師也、亦有二終始一乎、鶡冠子曰、始二於初問一、終二於九道一、一曰道德、二曰陰陽、三曰法令、四曰天官、五曰神徵、六曰伎藝、七曰人情、八曰械器、九曰處兵。㊃九州の道路。全國の道路。〔左氏、襄四〕於二虞人之箴一曰、芒芒禹迹、畫爲二九州一、經啓二九道一、民有二寢廟一、獸有二茂草一。〔疏〕言二禹開二通九州之道一也。〔史記、河渠書〕隨レ山浚レ川、任二土作レ貢、通二九道一、陂二九澤一、度二九山一。〔注〕正義曰、顏師古云、通二九州之道一。〔說苑、脩文〕禹陂二九澤一、通二九道一。

【九道梁水】440 キウダウリヤウスイ 河の名。湖北省房縣の西南。二源があつて、西源は縣の西南の烏雲頂から出で、東源は縣の西南の天池埡から出る。

【九澤】441 キウタク 九つのさは。九藪(426)を見よ。〔書、禹貢〕九澤既陂。〔傳〕九州之澤、已陂障、無二決溢一矣。〔駢雅、釋地〕九澤、具區・雲夢・圃田・望諸・大野・弦蒲・孟養・楊紆・昭余祁也。

【九達】442 キウタツ ㊀九方に通ずる大路。即ち、一達(道路)・二達(岐旁)・三達(劇旁)・四達(衢)・五達(康)・六達(莊)・七達(劇騶)・八達(崇期)・九達(逵)の總稱。〔爾雅、釋宮〕一達謂二之道路一、二達謂二之岐旁一、三達謂二之劇旁一、四達謂二之衢一、五達謂二之康一、六達謂二之莊一、七達謂二之劇騶一、八達謂二之崇期一、九達謂二之逵一。〔成公綏、柳賦〕啓二橫門于大路一、臨二九達之通衢一。㊁明、師逵(4－8916：33)の字。

【九丹】443 キウタン 九天から受ける人の陰陽の精。〔晉書、葛洪傳論〕紬二奇册府一、總二百代之遺編一、紀二化仙都一、窮二九丹之祕術一。〔梁昭明太子、謝二敕參解講一啓〕服二九丹之華一、則仙徒可レ役。〔雲笈七籤〕人稟二九天之氣一、降二陰陽之精一、名曰二九丹一、合成二人身一。

【九歎】444 キウタン ㊀九度、歎息する。幾度か歎息する。〔文則〕古人之言、非レ得二訓切一、殆不レ可レ讀、如レ登二崎險一、一步九歎。㊁楚辭の篇名。漢、劉向作。屈原を追念して作つたもの。逢紛・離世(靈懷)・怨思(怨世)・遠逝(遠遊)・惜賢・憂苦・愍命・閔命・愍念・思古・遠遊(遠逝)の九篇に分かれてゐる。〔楚辭、劉向、九歎、章句〕九歎者、護左都水使者光祿大夫劉向之所作也、云云、追念屈原忠信之節、故作二九歎一。歎者、傷也、息也。

【九地】445 キウチ ㊀兵法上、戰の利・不利に依つて區別した九種類の土地。即ち、散地(士卒の離散し易い地)・輕地(敵に踏み込んで、未だ深くない地)・爭地(敵味方が共に取らうとして爭ふ地)・交地(敵味方が共に交通する地)・衢地(諸國の往來の通路となる地)・重地(輕地の反對)・圮地(險阻の地)・圍地(行きどまりで袋のやうな地)・死地(進退の困難な必死の地)。(孫子、九地)孫子曰、用レ兵之法、有二散地一、有二輕地一、有二爭地一、有二交地一、有二衢地一、有二重地一、有二圮地一、有二圍地一、有二死地一。㊁九種の土地。沙泥・澤地・沚崖・下田・中田・上田・下山・中山・上山。〔太玄經、玄數〕九地、一爲二沙泥一、二爲二澤地一、三爲二沚崖一、四爲二下田一、五爲二中田一、六爲二上田一、七爲二下山一、八爲二中山一、九爲二上山一。㊂敵に發見せられ難い奥深い地。極めて低いところ。九天(472)の對。〔孫子、軍形〕善守者、藏二於九地之下一、善攻者、動二於九天之上一。〔注〕梅堯臣曰、九地、言二深不レ可レ知、九天、言二高不レ可レ測。〔後漢書、皇甫嵩傳〕陷二於九地之下一。〔庾信、周大將軍琅琊莊公司馬裔墓誌銘〕藏二兵九地一、置二劍千家一。〔李衞公問對、中〕或潛二九地一、或動二九天一。㊃孫子の篇名。圃圀三界を九つに分けた稱。欲界が一地で、色界・無色界が各四地に分かれ、合せて九となる。九有ぅ。〔三藏法數、二十五〕。

【九池】446 キウチ 清、范咸(9－30834：19)の號。

【九疇】447 キウチウ ㊀天下を治める九種の大法。商の箕子が武王の問に答へたものといふ。五行(水・火・木・金・土)・五事(貌・言・視・聽・思)、八政(食・貨・祀・司空・司徒・司寇・賓・師)、五紀(歲・月・日・星辰・曆數)、皇極、三德(正直・剛克・柔克)、稽疑、庶徵、五福(壽・富・康寧・德・考終命)及び六極(凶短折・疾・憂・貧・惡・弱)をいふ。九章。九法。〔書、洪範〕天乃錫二禹洪範九疇一、彝倫攸敘。初一日、五行、次二日、敬用二五事一、次三曰、農用二八政一、次四曰、協用二五紀一、次五曰、建用二皇極一、次六曰、乂用二三德一、次七曰、明用二稽疑一、次八曰、念用二庶徵一、次九曰、嚮用二五福一、威用二六極一。〔疏〕疇、是輩類之名、言下其每事自相二爲類一者有レ九、九者各有二一章一、故漢書謂レ之爲二九章一。㊁字號。㋑明、顧錫疇(12－43669：305)の字。㋺明、井田(1－258：105)の字。

【九秩】448 キウチツ 九命の下に位する九階級の官爵。〔北史、周太祖紀〕廢帝二年正月、始作二九命之典一、以敍二內外官爵一、以第一品爲二九命一、第九品爲二一命一、改二流外品一爲二九秩一、亦以レ九爲レ上。

【九頂】449 山名。九峯あるから名づける。❶四川省茂縣の東南、岷山の南の支脈。四時雪を頂くので雪山とも云ふ。❷四川省樂山縣の東。一名、凌雪山。〔方輿勝覽〕有二九峯一、曰二集鳳・棲鸞・靈寶・就日・丹霞・祝融・擁翠・望雲・兌說一、下有二凌雲寺一、唐開元中、僧海通鑿レ山爲二彌勒大像一、建二七層閣一以覆レ之。

【九娘】450 ❶九人の娘。〔西湖遊覽志〕是夜、人家貼下清明嫁二九娘一、去不レ還レ鄉之句於楹壁間上、謂如レ此則夏月無二青蟲撲一レ燈之擾一。❷崑曲に現はれてゐる九娘。卽ち、一捧雪の雪娘、翡翠園の翠娘、琵琶記の紅娘、牡丹亭の杜麗娘、白兎記の李三娘、風雲會の京娘、白蛇傳の白娘娘、荊釵記の張姑娘をいふ。

【九娘娘】451 chiu³ niang² niang 東嶽廟内に祀る神。引蒙・班疹・乳母・子孫・天仙・眼光・催生・培姑・送生の九神をいふ。

【九女】452 諸侯が御する九人の女。〔後漢書、譙玄傳〕均二九女之施一。〔魏志、后妃傳序〕天子十二女、諸侯九女。

【九女春】453 鹿のふくろづの。鹿茸(12—47586‥75)の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕九女春、鹿茸。

【九重】454 ❶宮中。王城の門は九重あるのでいふ。ここの〈。〔楚辭、九辯〕豈不二鬱陶而思一レ君兮、君之門以二九重一。〔劉長卿、新安奉レ送二穆諭德歸朝一詩〕九重宣室召、萬里建溪行。〔錢起、和二李員外扈一レ駕幸二溫泉宮一詩〕未央月曉度二疎鐘一、鳳輦時巡出二九重一。〔盧綸、長安疾二後首一秋夜卽事詩〕九重深鎖禁城秋、月過二南宮一漸映レ樓。〔今狐楚、宮中樂〕九重青瑣闥、百尺碧雲樓。〔黃滔、喜二侯舍人蜀中新命一詩〕五色綵毫裁二鳳詔一、九重天子齡二龍顏一。❷天子をいふ。〔稱謂錄、天子古稱、九重〕楊愼古雋、九陽數之極、故天子稱二九重一。❸天。〔楚辭、天問〕圜則九重、孰營二度之一。〔淮南子、天文訓〕天有二九重一。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕九重開靈之旂。〔注〕師古曰、天有二九重一、言二皆開一レ門、而來降二厥福一。❹唐代に南詔が吐蕃に備へて作つた九つの城。今の雲南省大理縣の附近に在る。〔大理府志〕俗曰二南詔城一、皆南詔備二吐蕃一所レ設、一在二河尾里一、一在二關邑里一、一在二太和村一、一在二北國一、一在二蟠溪里一、一在二塔橋一、一在二摩用一、合二羊苴咩城與一レ史城一爲レ九。

【九重座】455 兜の八幡座をいふ。

【九重人】456 殿上人。大宮人。〔夫木和歌抄、六〕ここのへびとに折させてしがな。

【九重天】457 九重の❶及び九天(472)の❷を見よ。〔韓愈、左遷至二藍關一示二姪孫湘一詩〕一封朝奏九重天、夕貶二潮州一路八千。

【九重之淵】458 深い淵。九淵。〔莊子、列禦寇〕必在二九重之淵而驪龍頷下一。

【九重仙史】459 田能村孝憲の號。田能村竹田(7—21723‥444)を見よ。

【九徵】460 ❶人君が臣下の賢愚判定の標準とする九つのしるし。卽ち、一に自分の身から遠ざかつてゐる官職に任じて忠か否かを觀る、二に身の近くに使つて敬を觀る、三に煩しく使つて能否を觀る、四に卒然と問うて知の程度を觀る、五に急に期限を約束して信か否かを觀る、六に財を委ねて仁か否かを觀る、七に危を告げて節操を觀る、八に醉はしめて威儀法則を守るか否かを觀る、九に衆人と雜處せしめて色を觀る。〔莊子、列禦寇〕君子遠使レ之而觀二其忠一、近使レ之而觀二其敬一、煩使レ之而觀二其能一、卒然問焉而觀二其知一、急與レ之期而觀二其信一、委レ之以財而觀二其仁一、告レ之以危而觀二其節一、醉レ之以酒而觀二其則一、雜レ之以處而觀二其色一、九徵至、不肖人得矣。❷九度、召す。〔王績、贈二李徵君大壽一詩〕九徵書未レ已、十辟譽彌彰。

【九徵齋】461 明、鄭若庸(11—39647‥436)の號。

【九通】462 ❶九つのことに通ずる。〔黃滔、送二人明經及第東歸一詩〕十問九通離二義牀一、今時登第信非常。❷歷代の制度を記した九種の書籍の總稱。其の目は、三通、卽ち唐の杜佑の通典(11—38892‥339)・宋の鄭樵の通志(11—38892—181)・宋の馬端臨の文獻通考(5—13450‥313)、及び清の乾隆勅撰の六通、卽ち皇朝文獻通考(8—22701‥183)・皇朝通典(8—22701‥175)・續通典(8—28037‥92)・續文獻通考(8—28037‥93)・續通志(8—28037‥92)・續文獻通考(8—28037‥115)をいふ。近時、清朝續文獻通考を加へて、十通とする。夫々の條を見よ。〔席裕福、九通敍〕余之疑二九通一也、假二文瀾閣乾隆舊鈔本・錢塘丁氏元明本・吳程氏舊藏精抄本一、以校二訂浙刻一、而幷二其同異一、正二其譌闕及棋一、而成二校勘記一。

【九痛】463 醫學用語。蟲心痛・痓心痛・風心痛・悸心痛・食心痛・飮心痛・寒心痛・熱心痛・去來心痛をいふ。〔嚴用和、濟生方、心痛〕夫心痛之病、醫經所レ載、凡有二九種一、一曰蟲心痛、二曰痓心痛、三曰風心痛、四曰悸心痛、五曰食心痛、六曰飮心痛、七曰寒心痛、八曰熱心痛、九曰去來心痛、其名雖レ不レ同、而其所レ致皆因二外感一。〔醫門法律、比類金匱胸腹寒痛十七則〕金匱九痛丸、夫仲景於二胸痺證後一附二九痛丸一、治二九種心痛一。

【九氏】464 えびすの名。氏(6—17027)を見よ。〔後漢書、西南夷、冉駹夷傳〕其山有二六夷・七羌・九氏一、各有二部落一。

【九鼎】465 ❶禹の時、九州の金を貢せしめて鑄た鼎で、夏・殷以來傳はつた天子の寶。九つの鼎だとも云ひ、又、一つの鼎だとも云ふ。琅琊代醉編、卷二十三卷に見ゆ。〔書、召誥、序、欲レ宅二洛邑一、注〕武王克レ商、遷二九鼎於洛邑一。〔疏〕九牧貢レ金爲レ鼎、故稱二九鼎一。其實一鼎。〔左氏、桓二〕遷二九鼎于雒邑一。〔戰國、東周策〕昔周之伐殷、得二九鼎一、凡一鼎而九萬人輓レ之、九九八十一萬人。〔戰國、秦策上〕周自知不レ救、九鼎寶器必出、據二九鼎一按二圖籍一、挾二天子一以令二天下一、莫二敢不一レ聽、此王業也。〔史記、封禪書〕禹收二九牧之金一、鑄二九鼎一。〔注言、寡見〕周寶九鼎。❷宋の徽宗の鑄た九つの鼎。〔宋史、徽宗紀一〕崇寧三年春正月甲辰、鑄二九鼎一。

【九鼎魚】466 仙藥の名。〔西陽雜俎、玉格〕仙藥有二龍胎醴・九鼎魚一。

【九鼎大呂】567 九鼎と大呂。大呂は大呂の調に協へる周廟の大鐘。重い地位・名望等の喩。〔史記、平原君傳〕(平原君曰)毛先生一至レ楚、使二趙重一於九鼎・大呂一。

【九鼎不レ足レ爲レ重】468 九鼎のやうな大切な器も、之(或る物事)に比較すれば重要であるとするに足りない。特に大切な物事の喩。〔聞見後錄〕昔之所二以議一レ進二退天下士大夫一者、今又重レ之以二權位一、故其二言之出、則九鼎不レ足レ爲レ重。

【九條】469 ❶九つの箇條。〔唐書、則天后皇武傳〕神宮頒二九條一、以訓二百官一。❷九幅の布帛で製した袈裟。〔古今著聞集、二〕慈覺大師の九條の袈裟を著して。❸姓氏。〔和漢三才圖會、人倫、攝家〕九條殿、同忠通公九男兼實(號二法性寺殿一、又名二月輪殿一)爲レ祖。

【九條錫杖】470 佩書名。作者不明。九節から成る。其の文を讀むとき、曲を附け、一條の終り每に、錫杖を振る。

【九哲】471 孔子の門人十哲の中、顏淵を除いた他の九人、卽ち、閔子騫・冉伯牛・仲弓・宰我・子貢・冉有・季路・子游・子夏をいふ。〔江家次第、五、釋奠〕釋奠、云云、仁壽三年八月台記、先聖先師・九哲像、巨勢金岡所レ寫也。

【九天】472 ❶天を方角に依つて九つに區分していふ。九野。〔楚辭、離騷〕指二九天一以爲二正兮一。〔注〕九天、謂二中央・八方一也。㋑鈞天・蒼天・變天・玄天・幽天・昊天・朱天・炎天・陽天。〔淮南子、天文訓〕何謂二九野一、中央曰二鈞天一、云云、東方曰二蒼天一、云云、東北曰二變天一、云云、北方曰二玄天一、云云、西北方曰二幽天一、云云、西方曰二昊天一、云云、西南方曰二朱天一、云云、南方曰二炎天一、云云、東南方曰二陽天一。㋺中天、羨天、從天、更天、辟天、廓天、減天、沈天、成天。〔太玄經、玄數〕九天、一爲二中天一、二爲二羨天一、三爲二從天一、四爲二更天一、五爲二辟天一、六爲二廓天一、七爲二減天一、八爲二沈天一、九爲二成天一。㋩昊天・陽天・赤天・朱天・成天・幽天・元天・變天・鈞天。〔廣雅、釋天〕東方昊天、東南陽天、南方赤天、西南朱天、西方成天、西北幽天、北方元

天、東北變天、中央鈞天。㊀天の最も高いところ。おほぞら。九霄。九重天。〈史記、司馬相如傳〉拾二九天一而永逝。〈曹植、遊仙詩〉翻二翔九天上一、騁轡遠行遊。〈杜淹、寄二贈齊公一詩〉去去逾二千里一、悠悠隔二九天一。㊁宮中。ここのへ。雲の上。〈王維、和下賈舍人早朝二大明宮一之作上詩〉九天閶闔開二宮殿一。〈王建、宮詞〉日高殿裏有二香煙一、萬歲聲長動二九天一。㊂佛㊀地を中心として廻轉する九つの星。月天・水星天・金星天・日輪天・火星天・木星天・土星天・恆星天・宗動天。

【九天臺】473キウテンダイ　臺の名。初、神明臺といひ、漢の武帝の造營に係かる。九室あつて、常に九天道士百人を置く。〈海錄碎事、道釋、仙〉漢宮閣疏云、神明臺、武帝造、有二九室一、今謂二之九天臺一、常置二九天道士百人一。

【九天巫】474キウテンフ　九天をまつるみこ。〈史記、封禪書〉九天巫祠二九天一。〈注〉索隱曰、孝武本紀云、立二九天廟於甘泉一、三輔故事云、胡巫事二九天於神明臺一。

【九天玄女】475キウテンゲンヂョ　玄女の別稱。玄女(7‥20 814‥255)を見よ。〈羅隱、后土廟詩〉九天玄女猶無レ聖、后土夫人豈有レ靈。

【九天直下】476キウテンチョクカ　天上から地に向つて一直線に落ち下る。〈李白、望二廬山瀑布一詩〉飛流直下三千尺、疑是銀河落二九天一。

【動二於九天一藏二於九地一】477キウヂニカクル　善く攻める者は九天の上に動き、善く守る者は九地の下にかくれる。九天の㊀及び九地(445)の㊁を見よ。〈孫子、軍形〉善守者、藏二於九地之下一、善攻者、動二於九天之上一。

【九典】478キウテン　九つの典則。一に道をつつしんで之を明かにする、二に賢を稱して之を賞する、三に典師は之に教へる、四に因成は之を勞はる、五に位長は之に遵ふ、六に郡長は之を老とする、七に群醜は之を移す、八に什長は之を行ふ、九に戒卒は之を將ゐる。〈逸周書、文政解〉九典、一祗レ道以明レ之、二、稱レ賢以賞レ之、三、典師以教レ之、四、因戚以勞レ之、五、位長以遵レ之、六、羣長以老レ之、七、羣醜以移レ之、八、什長以行レ之、九、戒卒以將レ之。

【九壩】479キウハ　九州。壩は廛(4－9483)に同じ。〈韓愈、鄆州谿堂詩序〉帝廣二九壩一、有レ葉有レ年。

【九轉】480キウテン　道家で、長生不死の丹藥を九度煉るにいふ。〈洞冥記〉春碎以和二九轉之丹一。〈江淹、清思詩〉須下待二九轉成一、終會中長沙市上。

【九轉丹】481キウテンタン　仙藥。九回煉つた丹藥。九還丹。〈抱朴子、金丹〉九轉之丹、服レ之三日得レ仙。〈眞誥〉仙道有二九轉神丹一、服レ之化爲二白鶴一。〈通俗編、釋道、九轉丹成〉茅君內傳、九轉還丹、合二九十晝夜一而成、黃滔詩、三徵不レ起時賢議、九轉丹成道者言。

【九轉金丹】482キウテンキンタン　九轉丹に同じ。

【九渡】483キウト　㊀山名。湖南省慈利縣の西南。㊁を見よ。㊁川の名。九渡山の麓にある。〈水經、澧水注〉九水、南出二九渡山一、山下有レ溪、亦以二九渡一爲レ名。

【九途】484キウト　九つの車を並べ得る程の大道。〈鮑照、代結客少年場行〉九途平若レ水、雙闕以二雲浮一。

【九土】485キウド　㊀九州。〈國語、魯語上〉共工氏之伯二九有一也、其子曰二后土一、能平二九土一。〈列子、湯問〉九土所レ資。〈宋玉、登徒子好色賦〉周二覽九土一。〈後漢書、祭祀志下〉能平二九土一。㊁九つの地勢。山林・藪澤・京陵・淳鹵・彊潦・偃豬・原防・隰皐・衍沃。〈左氏、襄、二十五〉爲掩書二土田一、度二山林一、鳩二藪澤一、辨二京陵一、表二淳鹵一、數二疆潦一、規二偃豬一、町二原防一、牧二隰皐一、井二衍沃一、量レ入修レ賦。〈注〉量二九土之所レ入、而治二理其賦稅一。㊂九つの地質。騂剛・赤緹・墳壤・渴澤・鹹潟・勃壤・埴壚・彊檗・輕輿。〈周禮、地官、草人〉凡糞種、騂剛用レ牛、赤緹用レ羊、墳壤用レ麋、渴澤用レ鹿、鹹潟用レ麂、勃壤用レ狐、埴壚用レ豕、彊檗用レ黃、輕輿用レ犬。

【九冬】486キウトウ　冬の九十日。〈劉峻、答二劉之遴借一類苑一書〉九冬有レ隙、三餘暇時。〈纂要〉冬曰二九冬一。〈張正見、詠雪應二衡陽王教一詩〉九冬飄遠雪、六出表二豐年一。〈棲蟾、除夜詩〉九冬三十夜。

【九投】487キウトウ　九度、醸した酒。九酘。〈朱翼中、酒經〉古語有レ之、空桑穢飯、醞以二稷麥一、以成二醇醪一、酒之始也、烏梅女醞、甜瓮九投、澄清百品、酒之終也。

【九酘】488キウトウ　九投に同じ。〈梅堯臣、依二韻四和二正仲一詩〉四和還如二九酘醅一。

【九等】489キウトウ　九つの階級。人に就いては、上上・上中・上下・中上・中中・中下・下上・下中・下下の九等に分け、上上を聖人、上中を仁人、上下を智、下下を愚人といふ。〈周禮、地官、大司徒〉辨二五物九等一。〈漢書、古今人表〉因レ茲以列二九等之序一。〈小學紺珠、人倫類、九等〉九等、上上聖人、上中仁人、上下智人、中上・中中・中下・下上・下中・下下愚人。

【九等爵】490キウトウシャク　九等の爵。㊀隋代の爵。國王・郡王・國公・郡公・縣公・縣侯・縣伯・縣子・縣男。〈羣書拾唾〉隋爵九等、國王・郡王・郡公・縣公・縣侯・縣伯・縣子・縣男。㊁唐代の爵。王・郡王・國公・開國郡公・開國縣公・開國縣侯・開國縣伯・開國縣子・開國縣男。〈羣書拾唾〉唐爵九等、王・郡王・國公・開國郡公・開國縣公・開國縣侯・開國縣伯・開國縣子・開國縣男。

【九等賦】491キウトウフ　禹貢の田賦の九種。土地の肥瘠や土地と人民との關聯等によつて、上上・上中・上下・中上・中中・中下・下上・下中・下下の九等に分ける。〈書、禹貢〉厥田惟中中。〈蔡傳〉又按、九州九等之賦、皆每州歲入總數、以二九州多寡一相較而爲二九等一。

【九頭】492キウトウ　㊀九つの頭。〈易林〉八口九頭、長舌破レ家。〈郭璞、江賦〉龍鯉一角、奇鶴九頭。㊁上古の人皇氏の九人の兄弟。開闢から魯の哀公に至るまでを十紀に分け、其の第一をいふ。十紀(2－2695‥50)を見よ。〈廣雅、釋天〉天地辟設、人皇以來、分爲二十紀一、曰、九頭・五龍・攝提・合雒・連通・序命・循蜚・因提・禪通・疏訾。〈史記、三皇紀〉人皇九頭乘二雲車一、駕二六羽一、出二谷口一、兄弟九人、分長二九州一、各立二城邑一、凡一百五十世。〈王延壽、魯靈光殿賦〉五龍比翼、人皇九頭。㊂妖鳥の名。九頭鳥の㊀を見よ。

【九頭鳥】493キウトウテウ　㊀不祥な鳥の名。九首あるといふ。鵂鶹。蒼鵂。〈太平廣記引嶺表錄異〉鵂鶹乃鬼車之屬、或云、九首、曾爲二大嚙一其一、常滴レ血、血滴之家、則有二凶咎一。〈梅堯臣、淮陰詩〉山夔一足走、妖鳥九頭鳴。㊁聰明な人。又、狡猾な人に喩へる。〈張君房、脞說〉時人語曰、天上有二九頭鳥一、人間有二三耳秀才一。

【九頭獅子草】494キウトウシヽサウ　草の名。㊀すべりひゆ。馬齒莧(12－44572‥253)の異名。〈本草、馬齒莧〉釋名、九頭獅子草、時珍曰、其葉比並如二馬齒一、而性滑利似レ莧、故名、俗呼二大葉者一爲二純耳草一、小葉者爲二鼠齒莧一、又名二九頭獅子草一、其性耐久難レ燥、故有二長命之稱一。㊁はぐろさう。めごしつ。きつねのまご科に屬す。〈植物名實圖考〉。

【九德】495キウトク　㊀人の必ず行ふべき九種の德。㋑皐陶の九德。寬而栗・柔而立・愿而恭・亂而敬・擾而毅・直而溫・簡而廉・剛而塞・彊而義。〈書、皐陶謨〉皐陶曰、都、亦行有二九德一、亦言二其人有レ德、乃言曰、載采采、禹曰、何、皐陶曰、寬而栗、柔而立、愿而恭、亂而敬、擾而毅、直而溫、簡而廉、剛而塞、彊而義。㋺九功(水・火・金・木・土・穀・正德・利用・厚生)の德。九功(236)の㊀を見よ。〈書、大禹謨〉禹曰、於、帝念哉、德惟善レ政、政在二養レ民、水・火・金・木・土・穀惟修、正德利用厚レ生惟和、九功惟敍、九敍惟歌、戒之用休、董レ之用レ威、勸レ之以二九歌一、俾レ勿レ壞、帝曰、兪、地平天成、六府三事允治、萬世永賴、時乃功。〈國語、周語下〉故名レ之曰二黃鐘一、所二以宣一養六氣一、九德也。㋩度・莫・明・類・長・君・順・比・文の九つの德。〈左氏、昭、二十八〉心能制レ義曰レ度、德正應和曰レ莫、照二臨四方一曰レ明、勤施無二私曰一類、教誨不レ倦曰レ長、賞慶刑威曰レ君、慈和徧服曰レ順、擇二善而從一之曰レ比、經二緯天地一曰レ文、九德不レ愆、作レ事無レ悔、故襲二天祿一。子孫賴レ之、主之擧也、近二文德一矣、所及其遠哉。㋥孝子。悌悌・慈惠・忠恕・中正・恭遜・寬弘・溫直・兼武の九つの德。〈逸周書、寶典解〉九德、一、孝子畏哉、乃不レ亂レ謀、二、悌悌乃知レ序、序乃倫、倫不レ騰レ上、上乃不レ崩、三、慈惠茲知二長幼一、知二長幼一樂二養老一、四、忠恕是謂二四儀一、風言大極、意定不レ移、五、中正是謂二權斷一、補レ損知レ選、六、恭遜是謂二容德一、以レ法從レ權、安レ上無レ愚、七、寬弘是謂二寬宇一、淮レ德以義、樂獲二純嘏一、八、溫直是謂二明德一、喜怒不レ郤、主人乃服、九、兼武是謂二明刑一、惠而能忍、尊二天大經一、九

德廣備、次世有レ聲。㊀忠・信・敬・剛・柔・和・固・貞・順の九つ。〔逸周書、常訓解〕八政不レ逆、九德純恪、九德、忠・信・敬・剛・柔・和・固・貞・順。㊁忠、慈、祿、賞、民の利、商工が資を受ける、民の死をつつしむ、農を奪はぬ、民の則を是とするの九つ。〔逸周書、文政解〕尊二九德一云云、九德、一忠、二慈、三祿、四賞、五民之利、六商工受レ資、七祇二民之死一、八無二奪レ農、九是二民之則一。㊂郡名。三國吳、置く。今の安南の北境に當る。〔水經、葉榆河注〕東南逕二九德郡一。〔宋書、州郡志四〕九德太守、故屬二九眞一、吳分立。

【九德之歌】496 ノウトク 九功(水・火・金・木・土・穀・正德・利用・厚生)の德の歌。九功(236)の㊀の㋑・九德の㊀の㊁を見よ。〔周禮、春官、大司樂〕九德之歌、九聲之舞。〔注〕鄭司農曰、九德之歌、春秋傳所レ謂水・火・金・木・土・穀、謂二之六府一、正德・利用・厚生、謂二之三事一、六府・三事、謂二之九功一、九功之德、皆可レ歌也、謂二之九歌一也、〔左氏、文、七〕夏書曰、戒レ之用レ休、董レ之用レ威、勸レ之以二九歌一、勿レ使レ壞、九功之德、皆可レ歌也、謂二之九歌一、六府・三事、謂二之九功一、水・火・金・木・土・穀、謂二之六府一、正德・利用・厚生、謂二之三事一、義而行レ之、謂二之德禮一。

【九慝】497 トク 九つのかくれた惡事。卽ち、不類、不服、不則、務に於ける不功、外に內通のあること、幼にして國を觀ないこと、闇に徑を通じないこと、家に刑を開かないこと、大禁を路徑に令しないこと。〔逸周書、文政解〕王禁二九慝一云云、九慝、一、不類、二、不服、三、不則、四、務有二不功一、五、外有二內通一、六、幼不レ觀レ國、七、闇不レ通レ徑、八、家不レ開レ刑、九、大禁不レ令二路徑一。

【九頓】498 トン 九度、頓首する。九頓首を見よ。〔周靈震、農謠〕鉏耰漫勞憤方稚、十步九頓空傍徨。

【九頓首】499 トンシュ 幾度か頓首すること。楚の申包胥の故事。〔左氏、定、四〕初伍員與二申包胥一友、其亡也、謂二申包胥一曰、我必復二楚國一、申包胥曰、勉之、子能復レ之、我必能興レ之、及二昭王在一レ隨、申包胥如レ秦乞レ師曰、吳爲二封豕長蛇一、以荐二食上國一、虐始二於楚一、寡君失レ守二社稷一、越二在草莽一、使二下臣告一レ急曰、夷德無レ厭、若鄰二於君一、疆埸之患也、逮二吳之未一レ定、君其取分焉、若楚之遂亡、君之土也、若以二君靈一撫レ之、世以事レ君、秦伯使レ辭焉曰、寡人聞レ命矣、子姑就レ館、將二圖而告一、對曰、寡君越二在草莽一、未レ獲二所伏、下臣何敢卽レ安、立依二於庭牆一而哭、日夜不レ絕レ聲、勺飮不レ入、口七日、秦哀公爲レ之賦二無衣一、九頓首而坐、秦師乃出。

【九頓首三拜】500 サンパイ 九度頭を地につけ、三度拜禮すること。〔日知錄、雜事、九頓首三拜〕九頓首出二春秋傳一、然申包胥元是二頓首、未レ嘗九一也、杜注、無衣三章、章三頓首、每頓首必三、此亡國之餘情至迫切、而變二其平日之禮一者也、七日夜哭二於鄰國之庭一、古人有二此禮一乎、七日哭也、九頓首也、皆亡國之禮也、不レ可二通用一也、韓之戰、秦獲二晉侯一、晉大夫三拜稽首、古但有二再拜稽首一、無二三拜一也、申包胥之九頓首、晉大夫之三拜也、楚語、湫擧遇二蔡聲子一、降二三拜納一其乘馬、亦亡人之禮也、周書宣帝紀詔、諸應二拜者一、皆以二三拜一成レ禮、後代變而彌增、則有二四拜一、不レ知二天元自擬一上帝、凡冕服之類十二者、皆增爲二十四一、而笞二棰人一、亦以二百二十一爲レ度、名曰二天杖一、然未レ有二四拜一。

【九入】501 クニュウ 倆人の身體に九つの穴があり、內から流漏すれば九漏、外から通入すれば九入といふ。又、九瘡・九孔・九流ともいふ。九漏(676)の㊀を見よ。

【九乳】502 キュウニュウ 鐘をいふ。鐘には乳首に似た九つのぼつがあるからいふ。九乳之響を見よ。

【九乳之響】503 キュウニュウノヒビキ 鐘の音をいふ。〔初學記、樂、鐘〕九乳、〔注〕樂叶圖徵曰、君子鑠レ金爲レ鐘、四時九乳、是以撞レ鐘以知レ君、鐘調則君道得。宋均注曰、九乳、法二九州一也。〔本朝文粹、四、大江朝綱、爲二貞信公一辭二太政大臣第三表一〕霜不レ扣レ鐘、靑腰猶催二九乳之響一。

【九年】504 キュウネン 一年の九倍。又、九年目。〔書、武成〕惟九年、大統未レ集。〔禮、學記〕九年知二類通達一、強立而不レ反、謂二之大成一。

【九年母】505 クネンボ 木の名。芸香科に屬する喬木。葉は密柑に似、夏香氣ある白花を開く。實は柚に似、香氣と甘味を有する。乳柑。香橙。〔和漢三才圖會、山果類、乳柑〕按、乳柑、俗云、九年母也。

【九年之水】506 キュウネンノミズ 九年間、續いた洪水。堯の時の洪水。〔書、堯典〕帝曰、湯湯洪水、云云、有レ能俾レ乂、僉曰、於鯀哉、云云、帝曰、往、欽哉、九載、績用弗レ成。〔詩、唐譜〕昔堯之末、洪水九年、下民其咨、萬國不レ粒。〔漢書、食貨志上〕堯・禹有二九年之水一、湯有二七年之旱一、而國亡二捐瘠一者、以二畜積多而備先具一也。〔故事成語考、地輿〕堯有二九年之水患一。

【九年之蓄】507 キュウネンノ 九年間、食べ得るだけの食糧。九年之儲。〔禮、王制〕國無二九年之蓄一曰二不足一、無二六年之蓄一曰レ急、無二三年之蓄一曰二國非一レ其國也、三年耕、必有二一年之食一、九年耕、必有二三年之食一。

【九年之儲】508 キュウネンノ 九年之蓄に同じ。〔淮南子、主術訓〕十八年而有二六年之積一、二十七年而有二九年之儲一。

【九年面壁】509 クネンメンペキ 梁の達摩大師が、九年間壁に面して坐禪した故事。〔釋法顯神僧傳〕天竺菩提達摩、梁武帝普通元年、泛二海至一レ金陵一、與二帝語一、師知レ機、不レ契遂去レ梁、折蘆渡レ江、潛回二洛陽一、止二嵩山少林寺一、終日面レ壁而坐九年、形入二石中一、拭レ之益顯、人謂、其精貫二金石一也。

【九年而大妙】510 キュウネンニシテタイミョウ 九年たつて大悟する。〔莊子、寓言〕一年而野、二年而從、三年而通、四年而物、五年而來、六年而鬼入、七年而天成、八年而不レ知レ死不レ知レ生、九年而大妙。

【九能】511 キュウノウ ㊀九つの才能。卽ち、邦を建てるには命龜を能くし、田には施命を能くし、器を作るには銘を能くし、使には造命を能くし、高きに升つては賦を能くし、師旅には誓を能くし、山川には說を能くし、喪紀には誄を能くし、祭祀には語を能くする、此の九つをいふ。〔詩、鄘風、定之方中、卜云其吉、終然允臧、傳〕建レ邦能二命龜一、田能二施命一、作レ器能レ銘、使能二造命一、升高能レ賦、師旅能レ誓、山川能レ說、喪紀能レ誄、祭祀能レ語、君子能二此九一者、可レ謂二有二德音一、可二以爲一大夫一。㊁清、嚴元照(12－4589・280)の字。

【九農】512 キュウノウ 少皞金天氏時代の各部の農業。九扈(228)の㊀を見よ。〔左氏、昭、十七〕秋、郯子來朝、云云、郯子曰、云云、九扈爲二九農正一。〔注〕扈有二九種一也、春扈鴉鶻、夏扈竊玄、秋扈竊藍、冬扈竊黃、棘扈竊丹、行扈嘖嘖、宵扈嘖嘖、桑扈竊脂、老扈鸜鵒、以二九扈一爲二九農之號一、各隨二其宜一、以教二民事一。

【九農正】513 ノウセイ 少皞金天氏の官名。九扈(228)の㊀に同じ。〔左氏、昭、十七〕九扈爲二九農正一。〔注〕以二九扈一爲二九農之號一、各隨二其宜一以教二民事一。

【九派】514 キュウハ 九つの分流。又、九つに分ち流す。〔說苑、君道〕鑿レ江、以通二於九派一、灑二五湖一。〔郭璞、江賦〕源二三分於崌崍一、流九二派乎潯陽一。〔謝靈運、入二彭蠡湖口一作詩〕九派理空存。

【九葩】515 キュウハ 九つの花。〔張衡、西京賦〕驪二駕四鹿一、芝蓋九葩。〔注〕濟曰、葩、花也。

【九葩之蓋】516 キュウハノ 澤山の花で飾つたおほひ。〔獨孤及、賀二芝草一表〕曄曄九葩之蓋、煌煌三秀之質。

【九拜】517 キュウハイ ㊀九度おじぎをする。幾度もおじぎする。〔王孝友、豐水賦〕狥二一節一而尸祝、壯二九拜一而極言。㊁禮拜の九つの形式。稽首・頓首・空首・振動・吉拜・凶拜・奇拜・褒拜・肅拜。拜は古文では擗に作る。〔周禮、春官、大祝〕辨二九擗一、一曰稽首、二曰頓首、三曰空首、四曰振動、五曰吉擗、六曰凶擗、七曰奇擗、八曰褒擗、九曰肅擗。〔注〕稽首拜、頭至レ地也、頓首拜、頭叩レ地也、空首拜、頭至レ手、所謂拜手也、吉拜、拜而后稽顙、謂二齊衰不レ杖以下者一、言レ吉者、此殷之凶拜、周以下其拜與二頓首一相近、故謂二之吉拜一云、凶拜、稽顙而后拜、謂二三年服者一、杜子春云、振、讀爲二振鐸之振一、動、讀爲二哀慟之慟一、奇、讀爲二奇偶之奇一、謂二先屈一膝、今雅拜是也、或云、奇、讀曰倚、倚拜、謂持レ節持レ戟拜、身倚レ之以拜、鄭大夫云、動、讀爲レ董、書亦或爲レ董、振董、以二兩手一相擊也、奇拜、謂二一拜一也、褒、讀爲レ報、報拜、再拜、是也、鄭司農云、褒拜、今時持節拜、是也、肅拜、但俯下レ手、今時揖、是也。㊂書簡の末尾に附ける語。

【九方】518 キュウホウ ㊀九つの方角。轉じて、四海・天下・

九州をいふ。〔梁簡文帝、七勵〕情苞二六合一、德貫二九方一。㊁複姓。〔通志、氏族略、以レ亭爲レ氏〕九方氏、列子、秦穆公時、九方皐、一名歅、善相レ馬。㊂相馬肇の號。讃岐の儒者。岸和田藩儒。字は元基、號は九方。

【九方堙】519 キウハウイン 九方皐に同じ。〔淮南子、道應訓〕臣有下所二共儋レ纆采レ薪者、九方堙上、此其於レ馬、非二臣之下一也。

【九方歅】520 キウハウイン 人名。九方皐に同じ。〔莊子、徐無鬼、釋文〕九方歅、淮南子作二九方皐一。

【九方皐】521 キウハウカウ 春秋、秦の人。善く馬を相した。九方歅。九方堙。〔列子、說符〕秦穆公謂二伯樂一曰、子之年長矣、子姓有レ可レ使レ求レ馬乎、伯樂對曰、良馬可下以二形容筋骨一相上也、天下之馬者、若レ滅若レ歿、若レ亡若レ失、臣之子、皆下才也、有二九方皐一、此其於レ馬、非二臣之下一也、穆公見レ之、使二行求一レ馬、三月而反、報曰、已得レ之矣、在二沙邱一、穆公曰、何馬、對曰、牝而黃、使二人往取一レ之、牡而驪、穆公不レ說、召二伯樂一謂レ之曰、敗矣、子之所レ使レ求レ馬者、色物牝牡、尚弗レ能レ知、又何馬之能知也、伯樂喟然大息曰、若二皐之所一レ觀天機也、得二其精一而忘二其麤一、在二其內一而忘二其外一、云云、馬至、果天下之馬也。

【九苞】522 キウハウ 鳳凰の九種の羽の色。〔論語摘衰聖〕鳳有二九苞一。〔李嶠、鳳詩〕九苞應二靈瑞一、五色成二文章一。〔宋史、樂志十三〕九苞薦レ瑞、戴レ德膺レ仁。〔王禹偁、醴泉無原賦〕厥味孔甘、可レ飲二九苞之鳳一。

【九苞禽】523 キウハウキン 鳥の名。ほうわう。鳳(**12―46657**)の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鳳凰〕歐陽脩詩、何必九苞禽、始能瑞二堯庭一、按、九苞禽、謂レ鳳也。

【九苞奴】524 キウハウド 鳥の名。きじ。雉(**11―41987**)の異名。〔清異錄、禽、九苞奴〕動植廣疏云、雉、一名二九苞奴一、謂二其有レ文無レ德、眞鳳凰之奴隸一。

【九寶】525 キウハウ 天子の九つの寶。㊀周の九鼎。九鼎(465)を見よ。〔魏文帝、鑄二五熟釜一成與二鍾繇一書〕昔者黃帝三鼎、周之九寶、咸一體。㊁宋の九寶。鎭國・受命・定命、及び六璽をいふ。〔宋史、輿服志六〕政和七年、從二于闐一得二大玉一、踰二二尺一、色如二截昉一、徽宗又制二一寶一、赤螭鈕、文曰、範二圍天地一、幽二贊神明一、保二合大和一、萬壽無レ疆、篆以二魚蟲一、制作之工、幾二乎秦璽一、其寶九寸、檢亦如レ之、號曰二定命寶一、合二前八寶一爲レ九、詔以二九寶一爲レ稱、以二定命寶一爲レ首。〔小學紺珠、制度、九寶、宋〕鎭國・受命・定命、并二六璽一爲二九寶一。

【九芒】526 キウバウ 九つの光。〔史記、天官書〕塡星、其色黃、九芒。〔王顏、京兆府獻二三足白烏一賦〕足應二乾之三數一、目耀二日之九芒一。

【九房】527 キウバウ ㊀天子の娶った九女の居る室。〔後漢書、劉瑜傳〕古者天子一娶九女、娣姪有レ序、河圖授レ嗣、正在二九房一。㊁九つの室。〔張衡、東京賦〕複廟重屋、八達九房。

【九白】529 キウハク 清の太宗の崇德三年に外蒙古の車臣・土謝圖・札薩克圖の三汗から貢獻した八匹の白馬と一匹の白駱駝。爾後、毎歲之を貢するを常とした。〔皇朝文獻通考、輿地考、喀爾喀〕中曰二土謝圖汗一、東曰二車臣汗一、西曰二札薩克圖汗一、云云、崇德三年、三汗並遣レ使入朝、定三各貢二白馬八・白駝一一、謂二之九白之貢一、歲以爲レ常。

【九伯】530 キウハク 九州の伯。又、五侯と合せて、天下の諸侯の意。〔左氏、僖、四〕五侯・九伯、汝實征レ之、以夾二輔周室一。〔注〕五等諸侯、九州之伯。〔會箋〕五、謂レ爵、九、謂レ州、非二立言之體一、云云、蓋統二言天下諸侯之國一也、古人制數之法、一爲二始數一、五爲二中數一、九爲二終數一、以二至少者一擧、則曰レ一、以二至多者一擧、則曰レ九、以二其中一擧、則曰レ五。〔後漢書、謝夷吾傳〕實爲二九伯之冠一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕五侯・九伯、實得レ征レ之。

【九陌】531 キウハク ㊀九本の大道。都城の大道。九條あるからいふ。九緯。九經。〔三輔黃圖、一、漢長安故城〕漢舊儀曰、長安城中、經・緯各長三十二里十八步、地九百七十三頃、八街・九陌・三宮・九府・三廟・十二門・九市・十六橋。〔駱賓王、帝京篇〕三條九陌麗二城隈一、萬戶千門平旦開。〔楊巨源、奉レ寄二通州元九侍御一詩〕九陌華軒爭二道路一、一枝寒玉任二煙霜一。〔張蠙、送三董卿赴二台州一詩〕九陌除書出、尋レ僧問二海城一。㊁田間の大道。〔蘇軾、次三韻蔣穎叔錢穆父從二賀景靈宮一詩〕雨收九陌豐登後、日麗三元下降辰。

【九陌錢】532 キウハクセン 九十を以て百として通用する錢貨。〔梁書、武帝紀下〕中大同元年秋七月丙寅、詔曰、朝四而暮三、衆狙皆喜、名實未レ虧、而喜怒爲レ用、頃聞、外間多用二九陌錢一、陌減則物貴、陌足則物賤、非三物有二貴賤一、是心有二顚倒一、至二於遠方一、日更滋甚、豈直國有二異政一、乃至三家有二殊俗一、徒亂二王制一、無レ益二民財一、自レ今可三通用二足陌錢一、令書行後百日爲レ期、若猶有レ犯、男子謫運、女子質作並同。

【九貉】533 キウバク 北方または東方の九種のえびす。九貊。九夷。〔周禮、夏官、職方氏〕四夷・八蠻・七閩・九貉・五戎・六狄之人民。〔注〕鄭司農云、東方曰レ夷、南方曰レ蠻、西方曰レ戎、北方曰二貉狄一、玄謂、閩蠻之別也、國語曰、閩芈蠻矣、四・八・七・九・五・六、周所レ服國數也。〔疏〕以二九貉一當二東夷之處一、云云、九貉卽九夷、在二東方一。〔大戴禮、用兵、六蠻四夷、注〕周禮職方氏四夷・八蠻・七閩・九貉、云云、此周所レ伏四海、其種落之數也。

【九八】534 chiu³ pa¹ 百分中の九十八。純銀分の割合をいふ語。

【九八錢】535 chiu³ pa¹ ch'ien² ㊀小銅錢九十八個を一百文、九百八十個を一吊文と計算することをいふ。㊁北京で制錢（中國の貨幣の一、銅錢及び黃銅錢）四十九個を一吊文と計算することをいふ。

【九伐】536 キウバツ 罪惡を懲しめる九種の討伐。一、弱をしのぎ寡を犯す者は之を眚す。二、賢を賊し民を害する者は之を伐つ。三、內を暴し外を陵ぐ者は之を壇す。四、野荒れ民散ずる者は之を削る。五、固をたのんで服しない者は之を侵す。六、其の親を賊殺する者は之を正す。七、其の君を放弑する者は之を殘す。八、令を犯し政を陵ぐ者は之を杜ぐ。九、外內亂れ、鳥獸の行ある者は之を滅ぼす。〔周禮、夏官、大司馬〕以二九伐之灋一正二邦國一、馮レ弱犯レ寡則眚レ之、賊レ賢害レ民則伐レ之、暴レ內陵レ外則壇レ之、野荒民散則削レ之、負レ固不レ服則侵レ之、賊二殺其親一則正レ之、放二弑其君一則殘レ之、犯レ令陵レ政則杜レ之、外內亂鳥獸行則滅レ之。〔大戴禮、朝事〕明二九伐之法一、以震二威之一。〔李衞公問對、上〕其實用二九伐之法一。

【九法】537 キウハフ 九つの法則。九灋。㊀洪範の九疇。九疇(447)の㊀を見よ。〔韓愈、與二孟尚書一書〕聖賢之道不レ明、則三綱淪、而九法斁。〔注〕書洪範曰、天乃錫二禹洪範九疇一、彝倫攸レ敍、初一曰、五行、次二曰、敬用二五事一、次三曰、農用二八政一、次四曰、協用二五紀一、次五曰、建用二皇極一、次六曰、乂用二三德一、次七曰、明用二稽疑一、次八曰、念用二庶徵一、次九曰、嚮用二五福一、威用二六極一。㊁周の大司馬の掌る九つの法則。一、畿を制し國境に封土を設けて界を明かにする。二、儀を設け位を辨ずる。三、賢を進め功を興す。四、牧を建て監を立てる。五、軍を制し禁を治め正す。六、貢を施し職を分ける。七、鄕民を簡稽する。八、守を均しくし則を平にする。九、小に親しみ大に事ふ。〔周禮、夏官、大司馬〕大司馬之職、掌下建二邦國之九灋一、以佐レ王平中邦國上、制レ畿封レ國、以正二邦國一、設レ儀辨レ位、以等二邦國一、進レ賢興レ功、以作二邦國一、建レ牧立レ監、以維二邦國一、制レ軍詰レ禁、以糾二邦國一、施レ貢分レ職、以任二邦國一、簡二稽鄕民一、以用二邦國一、均レ守平レ則、以安二邦國一、比レ小事レ大、以和二邦國一。㊂佛 ホフ 障害をなす九つのもの。一、已に我を惱害する。二、現に我を惱害する。三、嘗て我を惱害する。四、過去に於て我が善友を憎む。五、現在我が善友を憎む。六、未來に於て我が善友を憎む。七、過去に於て我が怨家を愛する。八、現在我が怨家を愛する。九、未來に於て我が怨家を愛する。〔守護國界主陀羅尼經〕有二九法一、能爲二障礙一、云何謂レ九、謂、已惱二害我一、現惱二害我一、嘗惱二害我一、過去憎二我善友一、現在憎二我善友一、未來憎二我善友一、過去愛二我怨家一、現在愛二我怨家一、未來愛二我怨家一、於二此九種憶念對境一、增二不善心一、名爲二障礙一。

【九飯】538 キウハン ㊀九の口、食べること。〔儀禮、有司徹、尸又三飯、疏〕士禮九飯。㊁三十日間に九度食事をとる意。貧しい喩。三旬九遇レ食(**1―12**・・898)を見よ。〔陶潛、有レ會而作詩〕惄如亞二九飯一、當レ暑厭二寒衣一。〔校箋〕說苑立說篇、子思居レ衞、縕袍無レ衣、三旬而九食、陶注、言、常飢、亦三旬九飯之亞也。

【九盤】539 キウバン ㊀九枚の皿。九釘盤(710)を見よ。㊁路などの曲りくねるさま。〔沈約、白馬篇〕赤

坂途三折、龍堆路九盤。〔白敏中、賀ニ收ニ復秦原諸州一詩〕河水九盤收ニ數曲一、天山千里鎖ニ諸關一。

㊀山名。㋑四川省南川縣の東。〔明一統志〕九盤山、在ニ台州府城東南七十五里一、以ニ其路紫廻九轉一故名、絶頂可レ眺ニ大海一。㋺四川省萬源縣の東。もと山腹から銀を産したといふ。

【九比】540 ヒウ　周代に賦稅を出す者の總數。又、一井田を耕す九夫をいふ。〔周禮、地官、小司徒〕稽ニ國中及四郊都鄙之夫家九比之數一。〔注〕鄭司農云、九比、謂ニ九夫爲ニ井、玄謂、九比者、冢宰職出ニ九賦一者之人數也。

【九妃】541 ヒウ　九人の妃。〔管子、小匡〕九妃六嬪。

【九飛】542 ヒウ　高く飛び上がること。〔庾信、謹贈ニ司寇淮南公一詩〕絳驥還千里、垂鵬更九飛。

【九扉】543 キウ ヒ　九天の門扉。天門。〔劉基、雪鶴篇〕祝融上訴開ニ九扉一、帝命養ニ之青瑣闥一。

【九尾】544 キウ　❶九またある尾。老狐が有するといふ。〔竹書紀年、上〕帝杼八年、征ニ于東海一、及ニ三壽一得ニ二狐九尾一。〔山海經、大荒東經〕青丘之國、有レ狐、九尾。〔逸周書、王會解〕青丘狐九尾。〔吳越春秋、越王無余外傳〕有ニ白狐九尾造一於禹一。禹曰、白者吾之服也、其九尾者、王之證也、塗山之歌曰、綏綏白狐、九尾痭痭。〔宋書、符瑞志上〕有ニ白狐九尾之瑞一。❷ツツラ　大和國の地名。

【九尾龜】545 キウビ カメ　尾が九またに分れた龜。神物とせられてゐる。〔陸粲、庚巳編〕海寧王某父子、遇ニ漁父持ニ巨龜一、買歸將レ羹レ之、有ニ商人某一見レ之、告ニ其邸翁一、欲レ以ニ錢贖一焉、商曰、此九尾龜神物也、皆往駿レ之、商踏ニ龜背一、其足兩旁、露ニ出小尾各四一、便持レ錢乞レ王、王不レ肯、遂亨作レ羹、父子共啖、是夕、大水自ニ海中一來、平地三尺、迨ニ水退一、翁往視ニ王某一、但見ニ衣衾在牀一、父子皆不レ知ニ去向一、人咸云、爲ニ水府一攝去殺卻也。

❶狐尾九（成集書圖今古）

【九尾狐】546 キウビ ノ　❶九尾ある老狐。九尾の❶を見よ。〔郭璞、山海經圖讚、海外北經圖讚、九尾狐〕青丘奇獸、九尾之狐。〔王褒、四子講德論〕昔文王應ニ九尾狐一、而東夷歸レ周。〔注〕善曰、春秋元命苞曰、天命ニ文王一、以ニ九尾狐一。❷姐己が化して九尾の狐になつたといふ。〔千字文、周發殷湯、李羅注〕姐己爲ニ九尾狐一。❸宋、眞宗の時の陳彭年をいふ。其の性質が奸諂であつた爲、かく呼ばれた。轉じて、奸佞な人の喩。〔續資治通鑑綱目〕宋眞宗以ニ陳彭年一參知政事、彭年敏給強記、尤好ニ刑名之學一、性奸諂、時號ニ九尾狐一。〔故事成語考、鳥獸〕九尾狐、譏ニ陳彭年素性諂而又奸一。❹金毛九尾の妖狐の精。中國に於て姐妃となり、後、天竺の耶竭國で華陽夫人と化現し、周の時再び中國に入つて褒姒となつて現はれ、後代、我が國に來り、玉藻前となつて鳥羽天皇を惱まし奉り、安倍泰親に見現はされて、下野國那須野原に討たれ、其の靈が化して殺生石となつたといふ。

【九尾羊】547 キウビ ヤウ　獸の名。阿丹國に居る羚羊。かもしかの一種。〔事物異名錄、獸畜、羊〕星槎勝覽、阿丹國羚羊、自ニ胸中一至レ尾、垂ニ九塊一、名ニ九尾羊一。

【九尾之禽】548 キウビ キン　九尾狐の❶に同じ。〔張協、七命〕苑戲ニ九尾之禽一、囿棲ニ三足之烏一。〔注〕向曰、九尾禽、狐也。

【九微】549 ビ　❶奥深いところ。道家の語。〔黃庭內景經〕三關之中、精氣深、九微之內、幽見レ陰。〔雲笈七籤〕變ニ化九微一、保ニ命天靈一。❷燈名。〔梁元帝、詠ニ池中燭影一詩〕映レ水疑ニ三燭一、飜池類ニ九微一。〔范靜妻沈氏、詠ニ燈詩一〕開花散ニ四照一、含光出ニ九微一。〔王維、洛陽女兒行〕春窗曙滅九微火、九微片片飛ニ花璞一。

【九百】550 キウヒヤク　❶愚な人。又、話の細かくくどい人。〔可談〕俗以ニ神氣不レ足、名曰ニ九百一。〔愛日齋叢抄〕陳無己云、世人以レ癡爲ニ九百一、謂ニ其精神不レ足也一。〔通俗編、數目、九百〕按、今猶以ニ較論細瑣人一爲ニ九百一。❷複姓。〔通志、氏族略、複姓〕九百氏、姓苑云、代縣有ニ九百里一、爲ニ小吏一。

【九品】551 キウ ヒン　❶九卿。〔國語、周語中〕外官不レ過ニ九品一。〔注〕九品、九卿。❷官吏の九等の階級。第一品から第九品に至る。魏の世に始まる。〔通典、職官典、秩品〕魏官置ニ九品一、第一品、黃鉞大將軍・三公・諸國王、公・侯・伯・子・男爵、大丞相、第二品、諸四征・四鎭・車騎・驃騎將軍、諸大將軍、第三品、侍中・散騎常侍云云、第四品、城門校尉・武衞云云、第五品、給事中・給事黃門侍郎云云、第六品、尚書左右丞・尚書郎中云云、第七品、期門郎・諸國公謁者云云、第八品、尚書・中書祕書・著作、及主書・主圖・主譜史云云、第九品、蘭臺殿中蘭臺謁者及都水使者書令史。〔沈約、恩倖傳論〕權立ニ九品一。〔小學紺珠、職官類、九品〕漢自ニ中二千石一至ニ百石一、凡十六等、後漢十三等、魏更置ニ九品一、梁定ニ九品一更置ニ十八班一、增置爲ニ十品一、凡二十四品、後魏置ニ九品一、品各置レ從、凡十八品、自ニ四品一以下、每品分爲ニ上下階一、凡三十階。❸神仙の九品。〔南齊書、顧歡傳〕神仙是大化之總稱、非ニ窮妙之至名一、至名無名、其有ニ名者一二十七品、仙變成レ眞、眞變成レ神、或謂ニ之聖一、各有ニ九品一、品極則入ニ空寂一、無爲無名、若ニ服ニ食茹芝一、延ニ壽萬億一、壽盡則死、藥極則枯、此修考之士、非ニ神仙之流一也。〔神仙傳〕仙方有ニ九品一、其七名ニ九轉霜雪之丹一。〔墉城集仙錄〕世之昇天之仙、凡有ニ九品一、第一上仙、第二次仙、第三號ニ太上眞人一、第四號飛天眞人一、第五號ニ靈仙一、第六號ニ眞人一、第七號靈人一、第八號飛仙一、第九號ニ仙人一、凡此品次、不レ可ニ差越一。❹王の九つの等級。〔南越志〕威寧縣有ニ穿州一、其上多レ珠、有ニ九品一、大五分以上至ニ一寸八九分一爲ニ大品一、有ニ光彩一、一邊小平似ニ覆釜一者名ニ璀珠一、璀珠之次爲ニ走珠一、走珠之次爲ニ滑珠一、滑珠之次爲ニ磔砢珠一、磔砢珠之次爲ニ官雨珠一、官雨珠之次爲ニ稅珠一、稅珠之次爲ニ惹符珠一。❺回教の信徒の九階級。至聖・大聖・欽聖・聖人・大賢・知者〔通識〕・廉士・善人・庸常〔信士〕。〔天方典禮釋要解〕。❻山名。四川省巴山縣の東。頂上は千人餘を容れる。鄉人の避難所。❼佛ブツ　佛の位に至る九等の階級。上上・上中・上下・中上・中中・中下・下上・下中・下下。〔曇鸞、略論〕無量壽經中、唯有ニ三輩上中下、無量壽觀經中、一品分爲ニ上中下一、三三而九、合爲ニ九品一。

【九品佛】552 クボン ブツ　㊀九品の階級の佛。九品の❼を見よ。

【九品惑】553 クボン ワク　㊀貪・瞋・慢・無明の四種の修惑を上中下の九品に分類したもの。九品煩惱。（大藏法數、五十）。

【九品覺王】554 クボン カクワウ　㊀阿彌陀佛をいふ。九品淨土の教主。

【九品行業】555 クボン ゴフ ギヤウゴフ　㊀彌陀の淨土へ往生する爲の九種の修行。〔源平盛衰記、十七、祇王祇女事〕九品の行業不退也。

【九品淨刹】556 クボン ジヤウ セツ　㊀九品淨土に同じ。淨刹は淨土の意。〔太平記、十八、一宮御息所事〕速かに九品の淨刹に到れと祈らせ給ふ。

【九品淨土】557 クボン ジヤウド　㊀彌陀の淨土に往生するに、其の行業の優劣に依つて九等の階級を立てる。上品上生・上品中生・上品下生・中品上生・中品中生・中品下生・下品上生・下品中生・下品下生。〔源平盛衰記、十、賴豪祈ニ出皇子一事〕只爲レ遁ニ三界濁穢苦域所在一、欲レ生ニ九品淨土常樂之安養一也。

【九品頂戴】558 キウホンチヤウタイ　清代、九品の官吏が帽子の上に着ける銀の頂子をいふ。一品は紅寶石、中飾は東珠。二品は鏤花珊瑚、中飾は小紅寶石。三品は藍寶石、中飾は二品に同じ。四品は青金石、中飾は小藍寶石。五品は水晶、中飾は四品に同じ。六品は硨磲、中飾は五品に同じ。七品は素金頂、中飾は水晶。八品は鏤金頂。九品は鏤銀頂。頂子（12—43335：14）を見よ。〔清會典、禮部、冠服〕品官一品至ニ八品一、均鏤ニ金爲ニ頂一、一品上用ニ紅寶石一、中飾ニ東珠一、二品用ニ鏤花珊瑚一、中飾ニ小紅寶石一、三品用ニ藍寶石一、中飾如ニ二品一、四品用ニ青金石一、中飾ニ小藍寶石一、五品用ニ水晶一、中飾如ニ四品一、六品用ニ硨磲一、中飾如ニ五品一、七品用ニ素金頂一、中飾ニ水晶一、八品用ニ鏤金頂一、九品用ニ鏤銀頂一。

【九品中正】559 キウホンチウセイ　魏の文帝が九品官人の法を立て、州郡に皆中正を置いて、人物を區別し、九等を以て其の高下の次第を分つた。九品官人之法及び九品の❷を見よ。

【九品念佛】560 クボンネンブツ　㊀念佛の調子を換へて、九通りに唱へること。〔徒然草〕九品の念佛を申しけるに。

【九品蓮臺】561 クボン レンダイ　㊀九種の蓮華の臺座。行業の優劣によつて、淨土の往生に九等の等級を

分け、其れに應じて坐する所の蓮の臺座を異にする。九蓮。〔榮華物語、玉臺〕九品蓮臺の有樣なり。

【九品往生】562 クホンジャウ　佛行業の差別に由って、彌陀の淨土に九品の往生を得る。生れかはる。〔平家物語、三、少將都還事〕九品往生疑ひなし。

【九品往生經】563 クホンワウジャウキャウ　佛經名。一卷。唐、不空譯。九品往生阿彌陀三摩地集陀羅尼經の略。又、九品往生阿彌陀經と略稱する。九品往生の差別を說き、且、陀羅尼を敎ふ。〔大藏經、餘峽、三〕

【九品官人之法】564 キウヒンクワンジン　曹魏の人材登用法。上中下の三等を各上中下に三分して九品とし、州郡に中正を置き、州郡の人才を選拔鑑識せしめ、其の品に應じて官を授けた。九品の❷を見よ。〔魏志、陳羣傳〕文帝卽レ位、徙爲二尙書一制二九品官人之法一、羣所レ建也。

【九品蓮臺主者】565 キウホンレンダイ　清、陳洪綬（11－41698：862）の號。

【九賓】566 キウヒン　天子の九種の賓客。❶公・侯・伯・子・男・孤・卿・大夫・士。一說に、九人の擯であるといふ。擯とは、主を助けて客に接する役。〔漢書、叔孫通傳〕大行設二九賓臚句傳一。〔注〕韋昭曰、大行、掌二賓客之禮一、今之鴻臚也、九賓、則周禮九儀也、謂二公・侯・伯・子・男・孤・卿・大夫・士一也。〔補注〕劉攽曰、賓、謂二傳擯之擯一、九擯者、九人掌二臚句傳一也。❷九卿。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕六官視レ命、九賓相レ儀。〔注〕銑曰、九賓、謂二九卿一也。❸王・侯・公・卿二千石・六百石・郎・吏・匈奴侍子をいふ。〔後漢書、禮儀志上〕大鴻臚設二九賓隨立寢殿前一。〔注〕薛綜曰、九賓、謂下王・侯・公・卿二千石・六百石・下及二郎・吏・匈奴侍子一凡九等上。

【九賓禮】567 キウヒンレイ　九賓を遇する禮。九賓の❶を見よ。〔史記、藺相如傳〕設二九賓禮於廷一。〔注〕集解曰、韋昭曰、九賓、則周禮九儀、索隱曰、周禮大行人、別二九賓一、謂二九服之賓客一也。〔獨孤綬、藺相如全璧賦〕九賓之禮徒設、閒道之使已行。

【九嬪】568 キウヒン　周代に於て天子に奉侍する婦官。周禮の天官の屬。〔周禮、天官、九嬪〕九嬪、掌二婦學之灋一。〔禮、昏義〕天子后立二六宮、三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻、以聽二天下之內治一、以明二章婦順一。〔呂覽、仲春〕后妃率二九嬪一御。

【九旻】569 キウビン　❶秋天。〔歲華紀麗〕重陽佳辰、九旻暮月。〔傅亮、九月九日登二凌轡館一賦〕歲九旻之歲月、肅二晨駕一而北逝。❷高い空。九重の天。〔文心雕龍、封禪〕贊曰、樹二石九旻一、泥二金八幽一。

【九愍】570 キウビン　文章の名。晉、陸雲作。屈原を思慕して作る。〔陸雲、九愍〕昔屈原放逐、而離騷之辭興、自レ今及レ古、文雅之士、莫レ不下以二其情一而玩二其辭一而表二意焉一、遂則二作者之末一、而述二九愍一。

【九夫】571 キウフ　九百畝をいふ。夫は、一夫の耕すべき百畝の地。〔周禮、地官、小司徒〕九夫爲レ井、四井爲レ邑。

【九扶】572 キウフ　指三十六本ならべた程の廣さ。扶は、四指の廣さ。〔禮、投壺〕庭中九扶。〔注〕鋪二四指一曰レ扶。

【九府】573 キウフ　❶周代の財幣を掌る九つの官。卽ち、太府・玉府・內府・外府・泉府・天府・職內・職金・職幣。九府圜法を見よ。〔史記、貨殖傳〕其後齊中衰、管子修レ之、設二輕重九府一。〔注〕正義曰、管子云、輕重謂レ錢也。❷九州の寶藏。立派な物を產する土地を寶藏に喩へて言つた語。卽ち、醫無閭は珣玕琪、會稽は竹箭、梁山は犀象、華山は金石、霍山は多珠玉、崑崙虛は璆琳琅玕、幽都は筋角、斥山は文皮、岱嶽は五穀魚鹽を產する。〔爾雅、釋地〕東方之美者、有二醫無閭之珣玕琪一焉、東南之美者、有二會稽之竹箭一焉、南方之美者、有二梁山之犀象一焉、西南之美者、有二華山之金石一焉、西方之美者、有二霍山之多珠玉一焉、西北之美者、有二崑崙虛之璆琳琅玕一焉、北方之美者、有二幽都之筋角一焉、東北之美者、有二斥山之文皮一焉、中有二岱岳一、與二其五穀魚鹽一生焉、九府。〔郝懿行義疏〕府者、釋文云、猶二庫藏一也。❸齊の九つの役所。卽ち、太常・光祿勳・衞尉・廷尉・大司農・少府・將作大匠・太僕・大鴻臚。〔資治通鑑、齊紀、明帝、建武三年、於レ是、郡縣及六署・九府、常行二職事一、莫レ不二啓聞取一決詔敕一。〔注〕九府、太常・光祿勳・衞尉・廷尉・大司農・少府・將作大匠・太僕・大鴻臚九卿府也。❹管子の作つた書名。今、佚す。〔史記、管晏傳贊〕余讀二管氏牧民・山高・乘馬・輕重・九府、詳哉其言レ之也。〔注〕集解曰、劉向別錄曰、九府書、民間無レ有。

【九府圜法】574 キウフヱンパフ　周の太公望の設けた制。九府は財幣を掌る官。圜法は圓滑に貨幣を運用する法。九府の❶を見よ。〔漢書、食貨志下〕太公爲レ周立二九府圜法一。〔注〕師古曰、周官、太府・玉府・內府・外府・泉府・天府・職內・職金・職幣、謂二之九府一、皆掌二財幣之官也、圜、謂二均而通一也。〔大學衍義補、制二國用一、銅楮之幣〕太公立二九府圜法一、黃金方寸而重二一斤一、錢圜函方、輕重以銖、布帛廣二尺二寸一爲レ幅、長四丈爲レ疋、故貨寶二於金一、利二於刀一、流二於泉一、布二於布一、東二於帛一。

【九賦】575 キウフ　周代の稅制。邦中の賦・四郊の賦・邦甸の賦・家削の賦・邦縣の賦・邦都の賦・關市の賦・山澤の賦、幣餘の賦の九つをいふ。賦は斂の意。〔周禮、天官、大宰〕以二九賦一斂二財賄一。〔注〕鄭司農曰、邦中之賦、二曰、四郊之賦、三曰、邦甸之賦、四曰、家削之賦、五曰、邦縣之賦、六曰、邦都之賦、七曰、關市之賦、八曰、山澤之賦、九曰、幣餘之賦。

【九服】576 キウフク　❶九畿（96）に同じ。服は屬從の義。古代、王畿の外を五服としたが、周公に至つて九服、卽ち、侯服・甸服・男服・采服・衞服・蠻服・夷服・鎭服・藩服とした。五服（1－257：977）を見よ。〔周禮、夏官、職方氏〕辨二九服之邦國一、方千里曰二王畿一、其外方五百里曰二侯服一、又其外方五百里曰二甸服一、又其外方五百里曰二男服一、又其外方五百里曰二采服一、又其外方五百里曰二衞服一、又其外方五百里曰二蠻服一、又其外方五百里曰二夷服一、又其外方五百里曰二鎭服一、又其外方五百里曰二藩服一。〔吳志、陸抗傳〕今敵跨制二九服一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕九服徘徊。❷王の九種の吉服。卽ち、大裘冕・衮冕・鷩冕・毳冕・希冕・玄冕・韋弁服・皮弁服・冠弁服。〔小學紺珠、制度類、九服〕冕服六、弁服三。〔羣書拾唾〕大裘冕・衮冕・鷩冕・毳冕・希冕・玄冕・韋弁服・皮弁服・冠弁服。

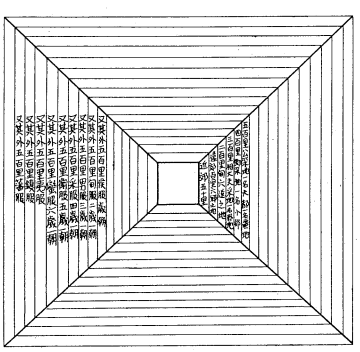
【九復】577 キウフク　幾度も繰りかへす。〔左思、魏都賦〕雖二選言以簡レ章、徒九復而遺レ旨。

【九沸】578 キウフツ　幾度か煮ること。〔呂覽、本味〕凡味之本、水最爲レ始、五味・三材、九沸九變火之爲レ紀、時疾時徐。〔張協、七命〕味重二九沸一、和兼二勻藥一。

【九文】579 キウブンモン　天子の禮服の衣裳に着ける九種の模樣。卽ち、山・龍・華蟲・藻・火・粉米・黼・黻。十二章（2－2695：376）を見よ。〔左氏、昭、二十五〕爲二九文・六采・五章一。〔注〕謂二山・龍・華・蟲・藻・火・粉米・黼・黻一也。

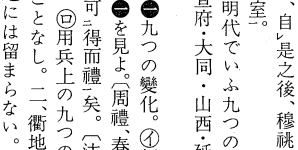
【九弊】580 キウヘイ　九つのわるいこと。九つの惡德。上の者の惡德六つ、人に勝ちたがること、自分の過ちを聞くことを恥ぢること、口達者なこと、聰明をてらふこと、特に威嚴を作ること、強愎を恣にすること。下の者の惡德三つ、へつらふこと、望みが多いこと、おそれること。〔唐書、陸贄傳〕贄上言、所謂九弊者、上有レ六、下有レ三、好勝レ人、恥レ聞レ過、騁二辨給一、銜二聰明一、厲二威嚴一、恣二強愎一、上之弊也、諂諛・顧望・畏懦、下之弊也。

【九廟】581 キウベウ　九つの廟。祖宗の廟。周の九廟は太祖・文世室・武世室・二昭・三穆の九廟。王莽の九廟は黃帝太初祖廟・虞帝始祖昭廟・陳胡王統祖穆廟・齊敬王世祖昭廟・濟北愍王王祖穆廟・濟南伯王尊禰昭廟・元城孺王尊禰穆廟・陽平頃王戚禰昭廟・新都顯王戚禰穆廟。〔漢書、王莽傳下〕九廟、一曰二黃帝太初祖廟一、二曰二虞帝始祖昭



九服❶（三禮圖）

廟、二曰陳胡王統祖穆廟、四曰齊敬王世祖昭廟、五曰濟北愍王王祖穆廟、六曰濟南伯王尊禰昭廟、七曰元城孺王尊禰穆廟、八曰陽平頃王戚禰昭廟、九曰新都顯王戚禰穆廟。(韓愈、禘祫議)創立九廟。(張說、唐享太廟樂章、光大舞)肇禋九廟、四海來尊。(三才圖會、宮室、周九廟圖)此周九廟以文武親屬宗祧、而有功德當宗不可祧、故別立世室、而皆百世不遷、與太祖同世室者、不毀之名也、自是之後、穆祧者藏文世室、昭祧者藏武世室。



九廟(三才圖會)

【九邊】582 ㄐㄧㄡˇ 明代でいふ九つの邊境の地。卽ち、遼東・薊州・宣府・大同・山西・延綏・寧夏・固原・甘肅。

【九變】583 ㄐㄧㄡˇ ㊀九つの變化。㋑樂の九つの變化。九成(381)の㊀を見よ。(周禮、春官、大司樂)若樂九變、則人鬼可ニ得而禮一矣。(注)變猶レ更也、樂成則更奏也。㋺用兵上の九つの變化。一、圮地には舍することなし。二、衢地には交りを合はす。三、絶地には留まらない。四、圍地には謀る。五、死地には戰ふ。六、塗には由らない所がある。七、軍には擊たない所がある。八、城には攻めない所がある。九、地には爭はない所がある。(孫子、九變)圮地無レ舍、衢地合レ交、絶地無レ留、圍地則謀、死地則戰、塗有レ所レ不レ由、軍有レ所レ不レ擊、城有レ所レ不レ攻、地有レ所レ不レ爭、故將通ニ於九變之地利一者、知ニ用兵矣。㋩大道の九つの變化。卽ち天・道德・仁義・分守・形名・因任・原省是非・賞罰の九つを明かにすることで、天を明かにすることが出來れば、他の八つは次々と明かにし得るといふ。(莊子、天道)古之明ニ大道一者、先明レ天、而道德次レ之、道德已明、而仁義次レ之、仁義已明、而分守次レ之、分守已明、而形名次レ之、形名已明、而因任次レ之、因任已明、而原省次レ之、原省已明、而是非次レ之、是非已明、而賞罰次レ之、賞罰已明、而愚知處レ宜、貴賤履レ位、仁賢不肖襲レ情、必分ニ其能一、必由ニ其名一、以レ此事レ上、以レ此畜レ下、以レ此治レ物、以レ此修レ身、知謀不レ用、必歸ニ其天一、此之謂ニ太平一、治之至也、故書曰、有レ形有レ名、形名者、古人有レ之、而非ニ所レ以先一也、古之語ニ大道一者、五變而形名可レ擧、九變而賞罰可レ言也。㋥利害を計算して死守して戰ふ所の九つの場合。父母の墳墓の地、州縣鄉黨と宗族との地、上の教訓・習俗・慈愛が民に厚い地、山林谷澤の利ある地、地形が險阻で守り易く攻め難い地、罰嚴にして畏るべき地、賞が明かで勸めるに足る地、敵人に深怨のある地、上に厚功のある地。(管子、九變)凡民之所ニ以守戰一至レ死而不レ德ニ其上一者、有レ數以至焉、曰、大者、親戚墳墓之所レ在也、田宅富厚足レ居也、不レ然、則上之教訓習俗慈愛之於レ民也厚、無ニ所レ往而得レ之、不レ然、則山林澤谷之利、足レ生也、不レ然、則地形險阻、易レ守而難レ攻也、不レ然、則罰嚴而可レ畏也、不レ然、則賞明而足レ勸也、不レ然、則有ニ深怨於敵人一也、不レ然、則有ニ厚ニ功於上一也、此民之所ニ以守戰至レ死而不レ德ニ其上一者也。(纂註)九變、衡謂、九者皆計ニ算利害厚薄一以決ニ其心一。㋭人君の變法をいふ。九は君の位。(漢書、武帝紀)詩云、九變復貫、知言之選。(注)應劭曰、逸詩也、陽數九、人君當レ陽、言ニ變レ政復レ禮、合ニ於先王舊貫一、知言之選、選、善也。㋬書物の篇名。㋑管子の篇名。㋺孫子の篇名。

【九變爲一】584 クヘンジテイチナル 物の變化が窮つて復其の始に反ること。一は形變の始、九は其の極。(列子、天瑞)一變而爲七、七變而爲九、九變者究也、乃復變而爲一、一者形變之始也。(注)既涉ニ於有形之域一、理數相推、自レ一之レ九、九數既終、乃復反而爲一、反而爲レ一、歸ニ於形變之始一、此蓋明ニ變化往復無ニ窮極一。

【九辯】585 キュウベン ㊀禹の樂。(楚辭、離騷、啓九辯與ニ九歌一兮、夏康娛以自縱。(注)九辯、九歌、禹樂也。㊁楚辭の篇名。楚、宋玉作。(楚辭、九辯、章句)九辯者、楚大夫宋玉之所レ作也、辯者、變也、謂ニ陳ニ道德一以變說ニ君也、九者、陽之數、道之綱紀也、故天有ニ九星一、以正ニ機衡一、地有ニ九州一、以成ニ萬邦一、人有ニ九竅一、以通ニ精明一、屈原懷ニ忠貞之性一、而被ニ讒邪一、傷ニ君闇蔽一、國將ニ危亡一、乃援ニ天地之數一、列ニ人形之要一、而作ニ九歌・九章之頌一、以諷ニ諫懷王一、明ニ己所レ言、與ニ天地一合レ度、可ニ履而行一也、宋玉者、屈原弟子也、閔ニ惜其師忠而放逐一、故作ニ九辯一、以述ニ其志一、至ニ於漢興、劉向・王褒之徒、咸悲ニ其文一、依而作レ詞、故號爲ニ楚詞一、亦承ニ其九一、以立ニ義焉一。

【九峯】586 キュウホウ ㊀九つの峯。(漢書、武帝紀)望ニ祀虞舜于九疑一、(注)文穎曰、九疑山、半在ニ蒼梧一、半在ニ零陵一、師古曰、其山九峯、形勢相似、故曰ニ九疑山一。(劉鑠、過ニ歷山湛長史草堂一詩)九峰相接連、五渚逆縈浸。㊁山名。㋑福建省閩侯縣の北。長箕嶺(長岐嶺、桃枝嶺ともいふ)がある。㋺福建省建陽縣の西北。宋の蔡沈の讀書の地。(宋史、蔡沈傳)以ニ聖賢一爲ニ師、隱ニ居九峯一。㋩浙江省湯溪縣の南。唐の徐安貞の讀書の巖がある。又、昔、龍丘長や仙人鄧去奢の住んだ地であるといふ。㋥九隴山をいふ。九隴(677)の㊀を見よ。㊂字號。㋑宋、蘇元老(9－32427‥233)の號。㋺明、徐霖(4－10110‥313)の號。㋩明‥陳疑(11－41698‥145)の字。㋥清、耆齡(9－28849‥46)の號。㋭清、嚴果(2－4589‥62)の號。㋬清、羅國俊(9－28397‥337)の號。

【九峯遺黎】587 キュウホウイレイ 明、何琪(1－511‥35)の號。

【九峯山人】588 キュウホウサンジン 清、周金然(2－3441‥61 3)の號。

【九峯先生】589 キュウホウセンセイ 尊稱。㊀宋、區仕衡(2－2691‥65)の尊稱。㊁宋、蔡沈(9－31818‥94)の尊稱。

【九晦】590 キュウカイ 九畝をいふ。(漢書、五行志下之上)皆殺レ之、身橫ニ九晦一。(注)師古曰、晦、古畝字也。

【九鳳】591 キュウホウ 神の名。(山海經、大荒北經)大荒之中有レ山、名曰ニ北極天樞一、有レ神、九首人面鳥身、名曰ニ九鳳一。

【九牧】592 キュウボク ㊀九州の長官。牧は牧養の義。(書、周官)各率ニ其屬一、以倡ニ九牧一。(周禮、秋官、掌交)九牧之維。(史記、周紀)武王徵ニ九牧之君一、登ニ豳之阜一、以望ニ商邑一。㊁九州。(羅隱、錢塘府亭詩)九牧土田周制在、兩藩茅社漢儀同。(陸游、送ニ黃文叔守ニ福州一詩)議論前修似、聲名九牧傳。

【九牧之金】593 キュウボクノキン 夏の時代に、九州の長官の奉つた金。これを收めて九鼎をつくり、九州に象つた。金は、漢代以前には銅のことをいふ。(左氏、宣、三)夏之方有レ德也、遠方圖ニ物貢一金、九牧鑄ニ鼎象一物。(注)使ニ九州之牧貢一金。(十八史略、五帝、夏后氏)收ニ九牧之金一。

【九本】594 キュウホン 九つの大本。(管子、幼官)一擧而上下得レ終、再擧而民無レ從、三擧而地辟散成、四擧而農佚粟十、五擧而務輕金九、六擧而絜知ニ事變一、七擧而外內爲レ用、八擧而勝行威立、九擧而帝事成形、九本搏大、人主之守也。

【九萬】595 キュウマン ㊀一萬の九倍。又、九萬里の略。九萬里を見よ。(陶潛、聯句詩)雖レ欲レ騰ニ九萬一、扶搖竟何力。(唐玄宗、巡省塗上黨舊宮賦)三千初擊レ浪、九萬欲レ搏レ空。(杜甫、遣懷詩)邑中九萬家、高棟照ニ通衢一。(徐夤、靈口道中詩)高風九萬程途近、與報滄洲欲化鯤。㊁字號。㋑宋、高翥(12－45313‥469)の字。㋺元、王鵬(7－20823‥978)の字。㋩明、鄭一鵬(11－39647‥298)の字。㋥明、王一鵬(7－20823‥1160)の字。

【九萬里】596 キュウマンリ 極めて遠いことをいふ。(莊子、逍遙遊)搏ニ扶搖一而上者九萬里。(楊載、雪軒詩)上下九萬里、洗淨無ニ纖埃一。

【九民】597 キュウミン 數多の階級。又は諸種の業務にある民。(源平盛衰記、十一、清盛入洛)九民・百黎、山野に迷ひぬべし。

【九命】598 キュウメイ 天子が諸侯に賜ふ九等の命。壹命職を受け、再命服を受け、三命位を受け、四命器を受け、五命則を賜ひ、六命官を賜ひ、七命國を賜ひ、八命牧となり、九命伯となる。(周禮、春官、大宗伯)以ニ九儀之命一正ニ邦國之位一、壹命受レ職、再命受レ服、三命受レ位、四命受レ器、五命賜レ則、六命賜官、七命賜國、八命作レ牧、九命作レ伯。(周禮、春官、典命)上公九命爲レ伯、其國家、宮室車旗、衣服禮儀、皆以ニ九爲レ節一。(禮、王制)若有レ加則賜也、不レ過ニ九命一。

【九命奇冤】599 キュウメイキエン 小說の名。清、吳沃堯撰。

廣東の大命案のことを記す。

【九門】600 キウモン ㊀天子の九つの門。九關。㋑古代には、路・應・雉・庫・皐・城・近郊・遠郊・關の九門をいふ。〔禮、月令〕毋レ出二九門一。〔注〕天子九門者、路門也、應門也、雉門也、庫門也、皐門也、城門也、近郊門也、遠郊門也、關門也。〔淮南子、時則訓〕令レ國儺二九門一。㋺清代には、都城にある正陽・崇文・宣武・安定・德勝・東直・西直・朝陽・阜成の九門をいふ。〔舊京遺事〕京師大城一重、周四十九里、九門城、周正如レ印、南正陽・崇文・宣武・東朝陽・東直・西阜成・西直・北德勝・安定。㊁縣名。漢、置く。戰國、趙の邑。故城は、今の河北省藁城縣の西北。〔史記、趙世家〕王出二九門一爲二野臺一、以望二齊・中山之境一。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、藁城縣〕九門城、戰國時趙邑、史記、趙武靈王十七年、王出二九門一爲二野臺一云云、漢置二九門縣一、屬二常山郡一。

〔九門口〕601 キウモンコウ 地名。河北省臨楡縣の東北。〔臨楡縣志〕大青河水、自二關外一入、其水分二九道一而下、今名二九門口一。

〔九門提督〕602 キウモンテイトク 清の步軍統領の、京城の九門を守るものをいふ。〔清會典、護軍衞〕提督九門步軍巡捕五營統領、一人、左翼總兵、一人、右翼總兵、一人、掌二九門之管鑰一。

【九野】603 キウヤ ㊀九州の野。九州の土地。〔後漢書、馮衍傳〕疆二理九野一。〔注〕九野、謂二九州之野一。〔何晏、景福殿賦〕遙目二九野一。㊁天。又、天の九つの分野。卽ち、鈞天(中央)・蒼天(東方)・變天(東北)・玄天(北方)・幽天(西北)・顥天(西方)・朱天(西南)・炎天(南方)・陽天(東南)。〔列子、湯問〕八紘九野之水。〔注〕九野、天之八方・中央也。〔呂覽、有始〕天有二九野一、地有二九州一、云云、何謂二九野一、中央曰二鈞天一、其星角・亢・氐、東方曰二蒼天一、其星房・心・尾、東北曰二變天一、其星箕・斗・牽牛、北方曰二玄天一、其星婺女・虛危・營室、西北曰二幽天一、其星東壁・奎・婁、西方曰二顥天一、其星胃・昴・畢、西南曰二朱天一、其星觜・巂參・東井、南方曰二炎天一、其星輿・鬼・柳七星、東南曰二陽天一、其星張・翼・軫。〔淮南子、天文訓〕天有二九野一、九千九百九十九隅、去レ地五億萬里。〔注〕九野、九天之野也、一野、千一百一十一隅也。㊂天下をいふ。九野淸泰を見よ。

〔九野淸泰〕604 キウヤセイタイ 天下のよく治まつて靜かなことをいふ。〔海錄碎事、帝王、治平〕九野淸泰、八方・中央也、孫子荊書。

【九陽】605 キウヤウ ㊀日の出る處。〔楚辭、遠遊〕夕晞二余身兮九陽一。〔楚辭、王逸、九思、遭厄〕踵二九陽一兮戲蕩。〔注〕九陽、日出處也。〔嵇康、琴賦〕夕納二景于虞淵一兮、旦晞二幹於九陽一。㊁日をいふ。〔後漢書、仲長統傳〕沆瀣當レ餐、九陽代レ燭。〔注〕九陽、謂レ日也。㊂山名。〔呂覽、求人〕禹南至二九陽之山一。

【九約】606 キウヤク 九つのまがり。約は屈の義。〔楚辭、招魂〕土伯九約、其角觺觺些。〔注〕約、屈也。

【九譯】607 キウヤク ㊀九度の通譯。九譯を重ねるとは、極めて遠い所の意。〔史記、大宛傳〕重二九譯一、致二殊俗一。〔漢書、賈捐之傳〕越裳氏重二九譯一而獻。〔注〕晉約曰、遠國使來、因二九譯一、言語乃通也。〔張衡、東京賦〕重舌之人九譯。㊁官名。典屬國の屬官。〔漢書、昭帝紀、以レ武爲二典屬國一、注〕師古曰、典屬國、掌二歸義蠻夷一、屬官有二九譯令一。

【九籥】608 キウヤク 九つの籥。籥は書を藏する管。〔鮑照、升天行〕從レ師入二遠岳一、結レ友事二仙靈一、五圖發二金記一、九籥隱二丹經一。〔注〕善曰、鄭玄易緯注曰、齊魯之閒、名二門戶及藏レ器之管一曰レ籥、以三藏レ經、而丹有二九轉一、故曰二九籥一也。

【九喩】609 キウユ 佛 一つの法を九つの喩で說いたもの。一譬如萎變蓮・二譬如巖樹蜜・三譬如彼粳糧・四譬如金石不淨・五譬如貧人家・六譬如菴羅果・七譬如持金像・八譬如貧女人・九譬如大冶鑄。〔方等如來藏經〕佛爲二金剛藏菩薩一說二一法九喩一、具二有十文一、一譬如萎變蓮・二譬如巖樹蜜・三譬如彼粳糧・四譬如金石不淨・五譬如貧人家・六譬如菴羅果・七譬如持金像・八譬如貧女人・九譬如大冶鑄。

【九容】610 キウヨウ 身體の九つの部分の容姿。足の容は重く、手の容は恭しく、目の容は端しく、口の容は止み、聲の容は靜かに、頭の容は直く、氣の容は肅み、立つ容は德に、色の容は莊にする。〔禮、玉藻〕君子之容舒遲、見二所レ尊者一齊遬、足容重、手容恭、目容端、口容止、聲容靜、頭容直、氣容肅、立容德、色容莊、坐如レ尸、燕居告溫溫。〔小學紺珠、性理類、九容〕九容、足容重、手容恭、目容端、口容止、聲容靜、頭容直、氣容肅、立容德、色容莊。

【九罭】611 キウヨク ㊀小魚を捕へる網。或は、九囊の網。〔爾雅、釋器〕緵罟謂二之九罭一、九罭、魚罔也。〔注〕今之百囊罟。〔疏〕孫炎曰、九罭、謂三魚之所レ入有二九囊一也。〔詩、豳風、九罭〕九罭之魚。〔傳〕九罭、緵罟、小魚之網也。〔張衡、西京賦〕搜二川瀆一、布二九罭一。㊁詩經、豳風の篇名。周公を美めて作る。〔詩、豳風、九罭、序〕九罭、美二周公一也、周大夫刺二朝廷之不一レ知也。

【九羅】612 キウラ 鳥の名。鬼車(**12**—**45758**・・83)の異名。〔事物異名錄、禽鳥下、鬼車〕厭勝書、鬼車一名二九羅一、其掌レ之曰二天血使者一。

【九來】613 キウライ 清、葉奕苞(**9**—**31387**・・163)の字。

【九老】614 キウラウ ㊀高年で仕へぬ九人。九老會・九老圖を見よ。〔陸游、庚申元日口號詩〕洛中九老非二吾侶一、且作二山陰十老人一。〔夢溪筆談、人事一〕唐白樂天居レ洛、與二高年者八人一遊、謂二之九老一。㊁堂の名。河南省洛陽縣の舊東都の履道坊に在る。唐の白居易の故宅。當時の老人九人を集めて尙齒會を作つたので名づけた。九老會の㊀を見よ。〔明一統志〕九老堂、在二河南府洛陽縣、舊東都履道坊一、唐白居易宅、居易有二九老詩一。

〔九老會〕615 キウラウクワイ ㊀唐の白樂天が八人の老年の友人と會をしたこと。九老圖を見よ。〔齊東野語〕耆英會二唐香山一、九老集二於洛陽一、樂天序レ之、所謂七人五百八十四者、是也、又續會者二人、李元爽・僧如滿。㊁宋の李昉が、至道元年に九老會を開き、白氏の遺響を繼いだ。之を至道九老會といふ。〔容齋四筆、至道九老〕李文正公昉、罷レ相後、只居二京師一、以二司空一致仕、至道元年年七十一矣、思二白樂天洛中九老之會一、適交游中有二此數一、曰、太子中允張好問年八十五、太常少卿李運年八十、故相吏部尚書宋琪、盧州節度副使武允成、皆七十九、吳僧贊寧年七十八、郢州刺史魏丕年七十六、左諫議大夫楊徽之年七十五、水部郎中朱昂與レ昉、皆七十一、欲下繼二其事一爲中宴集上、會蜀寇起而罷。

〔九老京〕616 キウラウケイ 山名。〔雲笈七籤〕九老京者、山名也、在二榑桑之際一。

〔九老圖〕617 キウラウヅ 唐の白居易の九老會を畫いた圖。九老とは、胡杲・吉旼・鄭據・劉眞・盧眞・張渾・狄兼謨・盧貞・白居易の九人。〔唐書、白居易傳〕嘗與二胡杲・吉旼・鄭據・劉眞・盧眞・張渾・狄兼謨・盧貞一燕集、皆高年不レ仕者、人慕レ之、繪爲二九老圖一。〔白居易、九老圖詩序〕會昌五年三月、胡・吉・劉・鄭・盧・張等六賢、於二東都敝居履道坊一、合二尙齒之會一、其年夏、又有二二老一、年貌絕倫、同歸二故鄉一、亦來二斯會一、續命書二姓氏年齒一、寫二其形貌一、附二於圖右一、與二前七老一、題爲二九老圖一、仍以二一絕一贈レ之。

〔九老大慶〕618 キウラウタイケイ 戲曲の篇名。清、乾隆中、張照等奉敕作。內廷樂部の演習に備へたもの。此の曲は、神仙が福を賜ひ、白叟が太平を鼓腹する等の事を譜し、萬壽の前後に之を演じた。

【九牢】619 キウラウ 九つの牢。一牢は、牛・羊・豕の三牲を備へた御馳走。〔周禮、秋官、大行人〕桓圭九寸、繅藉九寸、冕服九章、建常九斿、樊纓九就、貳車九乘、介九人、禮九牢。〔國語、周語上〕饋二九牢一、設二庭燎一。

【九瀧】620 キウラウ 灘の名。九龍灘ともいひ、福建省清流縣の東南に在る。

【九洛】621 キウラク 洛書の九疇。九疇(447)の㊀を見よ。〔莊子、天運〕天有二六極五常一、帝王順レ之則治、逆レ之則凶、九洛之事、治成德備。〔疏〕九洛之事、卽禹所レ受之九疇也。

【九蘭】622 キウラン 清、劉香(**2**—**2224**・・100)の字。

【九里】623 キウリ 山名。㊀山東省歷城縣の東北。漢の韓信が齊を歷下で敗り、軍を此處に駐めたと傳へる。㊁江蘇省銅山縣の北。漢・楚の古戰場と傳へる。〔魏書、地形志中〕彭城有二九里山一。〔太平寰宇記〕其山有レ穴、通二瑯琊・王屋一、俗呼二黃池穴一、亦名二九疑山一。

〔九里香〕624 キウリカウ 木の名。木犀(**6**—**14415**・・266)の異名。〔范成大、次二韻馬少伊木犀一詩〕纖纖綠裏排二金粟一、何處能容二九里香一。

〔九里關〕625 キウリクワン 關の名。河南省羅山縣の西南。

西は信陽縣の界に連なり、南は湖北省應山縣の界に接し、黃峴關ともいふ。義陽三關の一。〔輿地紀勝〕黃峴關、今名㆓九里關㆒、盤㆓據山險㆒、最扼要、義陽三關之一也、明置㆓巡司於此㆒。

〖九里松〗626 キウリショウ ㊀松樹の名。浙江省杭縣の西湖に在る。一名、九里雲松。〔賈島、送㆔僧歸㆓天台㆒詩〕石磵雙流水、山門九里松。〔西湖志〕唐刺史袁仁敬、植㆓松於行春橋㆒、西達㆓靈竺㆒、陰如㆓靄雲㆒、故名。㊁牌名。松の名に由來する。〔揮麈後錄〕宋高宗謂㆓吳說㆒曰、卿書㆓九里松牌㆒甚佳、朕自書易㆑之、終不㆑逮㆑卿。

〖九里香園〗627 キウリカウヱン 鹽谷世弘の號。鹽谷宕陰(**12**－**47579**・・208)を見よ。

〖九里香草〗628 キウリカウサウ 草の名。肚癰を治す。〔本草、九里香草〕時珍曰、傳滋醫學集成、治㆓肚癰㆒、搗碎浸㆑酒服。

【九鯉】629 キウリ 湖の名。福建省仙游縣の北。〔興化府志〕漢元狩閒、何氏兄弟、九煉㆓丹於此㆒、煉成、各乘㆓一鯉㆒仙去、因名、上有㆓九仙宮㆒、其中一水、沿㆓石澗㆒、由㆓宮之左㆒、而下匯㆓於湖㆒。

【九流】630 キウリウ ㊀九つの流れ。〔孟浩然、自㆓潯陽㆒泛㆑舟經㆓明海㆒詩〕大江分㆓九流㆒、淼淼成㆓水鄉㆒。㊁九種の學派。漢書藝文志に據れば、儒家者流(五十三家)・道家者流(三十七家)・陰陽家者流(二十一家)・法家者流(十二家)・名家者流(十家)・墨家者流(六家)・縱橫家者流(十二家)・雜家者流(二十家)・農家者流(九家)をいふ。〔漢書、藝文志〕儒家者流・道家者流・陰陽家者流・法家者流・名家者流・墨家者流・縱橫家者流・雜家者流・農家者流・小說家者流、諸子十家、其可㆑觀者九家而已。〔漢書、敍傳〕劉向司㆑籍、九流以別。〔注〕儒・道・陰陽・法・名・墨・縱橫・雜・農、凡九家。〔南史、袁粲傳〕九流百氏之言、雕龍談天之藝。〔北史、周武帝紀〕三墨八儒、朱紫交競、九流七畧、異說相騰。〔梁昭明太子、與㆓晉安王㆒令〕文該㆓四始㆒、學遍㆓九流㆒。㊂新論の篇名。

〖九流三教〗631 キウリウサンケウ 種々の異なつた學問や職業を總括していふ。轉じて、何でも知つてゐることの喩。九流の㊁及び三教(**1**－**12**・・419)を見よ。〔張果星宗、玉衡經〕尙㆓清高㆒好㆑道、主㆓九流三教㆒。

〖九流人物〗632 キウリウジンブツ ノ 社會上の各種の人物。〔薛逢、送㆓西川杜司空赴㆑鎭詩〕莫㆑遣㆔洪鑪曠㆓眞宰㆒、九流人物待㆓陶甄㆒。

〖九流賓客〗633 キウリウヒンカク ノ 色々の客。〔梁書、蕭子顯傳〕子顯、性凝簡、頗負㆓其才氣㆒、及㆓掌選㆒、見㆓九流賓客㆒、不㆓與交言㆒、但擧㆑扇一撝而已。

【九旒】634 キウリウ ㊀九つの旗あし。〔禮、樂記〕龍旂九旒。〔史記、司馬相如傳、注〕索隱曰、張揖云、前有㆓九旒・雲罕之車㆒云云、案、中朝鹵簿圖云、雲罕駕㆑駟、不㆔兼言㆓九旒㆒、罕車與㆓九旒車㆒別也。㊁冠の九つの垂れふさ。〔曹植、七啓〕九旒之冕、散㆑燿垂㆑文。〔注〕善曰、應劭漢官儀曰、冕、公侯九旒者也、濟曰、周禮、上公之冕九旒。

〖九旒冕〗635 キウリウベン 九旒を垂れた冠。九旒の㊁を見よ。〔宋史、輿服志四〕九旒冕、親王中書門下、奉祀則服㆑之。

【九兩】636 キウリヤウ 民を治める九種の人々。卽ち、牧・長・師・儒・宗・主・吏・友・藪。〔周禮、天官、大宰〕以㆓九兩㆒繫㆓邦國之民㆒、一曰牧、以㆑地得㆑民、二曰長、以㆑貴得㆑民、三曰師、以㆑賢得㆑民、四曰儒、以㆑道得㆑民、五曰宗、以㆑族得㆑民、六曰主、以㆑利得㆑民、七曰吏、以㆑治得㆑民、八曰友、以㆑任得㆑民、九曰藪、以㆑富得㆑民。〔注〕兩、猶㆑耦也、所㆔以協㆓耦萬民㆒。

【九隆】637 キウリユウ 山名。雲南省保山縣の西。もと九隆氏の居つた處。九龍山。牢山。又、太保山ともいふ。〔後漢書、西南夷傳〕哀牢夷者、其先有㆓婦人㆒、名㆓沙壹㆒、居㆓于牢山㆒、嘗捕㆓魚水中㆒、觸㆓沈木㆒若㆑有㆑感、因懷妊、十月產㆓子男十人㆒、後沈木化爲㆑龍、出㆓水上㆒、沙壹忽聞㆔龍語曰㆓若爲㆑我生㆑子、今悉何在㆒、九子見㆑龍驚走、獨小子不㆑能㆑去、背㆑龍而坐、龍因舐㆑之、其母鳥語、謂㆑背爲㆑九、謂㆑坐爲㆑隆、因名㆑子曰㆓九隆㆒、云云、後牢山下有㆓一夫一婦㆒、後生㆓十女子㆒、九隆兄弟、皆娶以爲㆑妻、後漸相滋長。

【九陵】638 キウリヨウ 九つの大きな岡。〔易、震〕躋㆓于九陵㆒、勿㆑逐七日得。

【九龍】639 キウリヨウ ㊀九匹の龍。古人は多く此の形を象つて飾とした。龍生㆓九子㆒(**12**－**48818**・・355)を見よ。〔庾信、燈賦〕九龍將㆑瞑、三爵行棲。〔劉禹錫、九華山歌〕疑是九龍天矯欲㆑攀㆑天、忽逢㆓霹靂一聲㆒化爲㆑石。〔酒賢、送㆔道士張宗嶽還㆓龍虎山㆒詩〕花織錦茵雙鳳翥、雲浮㆓玉座㆒九龍翔。〔謝廷讃、黃山賦〕九龍並飛而蜿蜒。㊁北齊の王氏の九人の秀でた子供。〔北齊書、王昕傳〕王昕母、淸河崔氏、學識有㆓風訓㆒、生㆓九子㆒、並風流蘊藉、世號㆓王氏九龍㆒。㊂漢の文帝の九匹の良馬をいふ。九逸(20)を見よ。㊃宮殿の名。九龍殿を見よ。㊄山名。㋑九連山の一名。九連(666)を見よ。㋺江西省安福縣の西北。〔張程、武功山志〕自㆓武功絕頂㆒行十五里、爲㆓九龍山㆒、萬峯環繞、林木蓊鬱。㋩江西省萬載縣の西。㋥貴州省江口縣の北、印江縣の東南梵淨山をいふ。〔九龍山志〕羣山聳拔、分爲㆓九支㆒、中湧㆓一峯㆒、周圍僅數丈、突兀陡絕、其高千仞。㋭熱河省豐寧縣。㊅河の名。㋑福建省。一名、龍溪。二源あり、北を九鵬溪といひ、寧洋縣の西北、梨子嶺から出る。西を雁石溪といひ、龍巖縣の九曲嶺から出る。〔明一統志〕九龍江、在㆓漳州府城東北㆒、又名㆓北溪㆒、源出㆓汀州及延平沙縣界㆒。㋺雲南省思茅縣の南。㊆池の名。㋑湖南省溆浦縣。㋺雲南省昆明縣の城內。今は其の周圍に野菜畑が多いので、菜海子ともいふ。稻田・蓮池がある。㊇泉の名。㋑河南省閿鄉縣の南。㋺陝西省大荔縣の東南に在つたが、今は塞がる。〔太平寰宇記〕有㆓九穴㆒同一注、因名㆓九龍㆒、今謂㆓之鵝鴨池㆒。㊈潭の名。河南省東封縣の太室山に在る。古名は龍淵水。山巓の諸水の集まる所。㊉瀨の名。九龍灘。福建省淸流縣の東南。全閩第一の灘。明の成化の時、石を去つて勢をゆるめた。明の隆武の后曾氏が淸兵に執はれて入水した所。⑪瀧の名。安徽省歙縣の黃山の東北部。九つの瀧があり、各數丈ある。⑫地名。又、半島の名。廣東省寶安縣の東南。一名、大鵬山。香港と對峙してゐる。廣九鐵道の起點。⑬縣名。民國、置く。もと碩般多部落の地。今、西康省に屬し、康定縣の南。

〖九龍窠〗640 キウリヨウクワ 谷の名。福建省崇安縣の武夷山天心嶺の西、蓑衣嶺の下。茶の栽培地。

〖九龍冠〗641 キウリヨウクワン 元代の婦人の禮冠の名。〔元史、禮樂志五、樂隊〕次婦女一人、冠㆓九龍冠㆒、服㆓繡紅袍㆒。

〖九龍關〗642 キウリヨウクワン 淸代の二十二稅關の一。江海關(**6**－**17140**・・44)を見よ。

〖九龍轎〗643 chi³ lung² chiao⁴ 登山、又は坂路を行くに用ひる轎子。

〖九龍草〗644 キウリヨウサウ 草の名。〔本草、九龍草〕時珍曰、生㆓平澤中㆒、生㆓紅子㆒、狀如㆓楊梅㆒、其苗解㆓諸毒㆒、治㆓喉痛㆒。

〖九龍車〗645 キウリヨウシヤ 車の名。〔宋史、仁宗紀三〕慶曆五年、契丹遣㆑使、來獻㆓九龍車㆒。〔金史、輿服志上〕增㆓製九龍車一㆒、高二丈、廣一丈一尺、長二丈六尺。

〖九龍帶〗646 chiu³ lung² tai⁴ 彈藥帶。

〖九龍蟲〗647 chiu³ lung² ch'ung² 蟲の名。洋蟲(**6**－**17363**・・98)の別名。

〖九龍殿〗648 キウリヨウデン 宮殿の名。〔魏志、明帝紀〕青龍三年、秋七月、洛陽崇華殿災、云云、命㆓有司㆒復㆓崇華㆒、改㆓名九龍殿㆒。〔宗懍、麟趾殿詠㆓親井㆒詩〕銅新九龍殿、石勝凌雲臺。

〖九龍山人〗649 キウリヨウサンジン 明、王紱(**7**－**20823**・・938)の號。

〖九龍山樵〗650 キウリヨウサンセウ 明、朱邦(**6**－**14424**・・495)の號。

【九輪】651 クリン 〔佛〕塔上の中央の柱に九重の金輪を連ね、恰も錢を貫いたやうな形に作つたものをいふ。下の花形の臺を請花(ウケハナ)、最上の寶珠を水煙といふ。

〖九輪草〗652 クリンサウ 草の名。さくらさう科の多年生の草。全株無毛。葉は倒卵狀または箆形で、根から生える。五月頃花莖を抽き、紫色、稀には淡紅色或は白色の、櫻草に似た形の花を數段輪生する。〔和漢三才圖會、濕草類、山蒿苣〕俗云㆓九輪草㆒、三四月抽㆑葶開㆓小花㆒、似㆓櫻草花㆒而略大、生㆓於莖圍㆒、八椏各一樣、如㆓車輪㆒、至㆑梢如㆑此、七層或九層、宛然似㆓浮屠九輪㆒、故名、有㆓紅・白・紫三種㆒、結子茶褐色。

【九臨】653 キウリン 淸、張拱乾(**4**－**9812**・・929)の字。

【九黎】654 キウレイ 少昊の時の諸侯。後の三苗氏。種族が繁多なので九黎、或は三苗といふ。〔國語、

楚語下〕少皞之衰一也、九黎亂レ德、民神雜糅、不レ可二方物一。〔注〕九黎、黎氏九人也。〔史記、歷書〕少皞之衰也、九黎亂レ德、民神雜擾、不レ可二放物一、禍菑鴈至、莫レ盡二其氣一、顓頊受レ之、乃命二南正重一、司レ天以屬二神一、命二火正黎一、司レ地以屬レ民、使下復二舊常一、無中相侵瀆上、其後三苗服二九黎之德一。〔庾信、三月三日華林園馬射賦序〕平二九黎之亂一、定二三危之罪一。〔唐書、魏徵傳〕九黎害レ德、顓頊征レ之。

【九嶺】655 キュウレイ　九つの大きな嶺。大庾・桂陽・騎田・九眞・都龐・臨賀・萌渚・始安・越城をいふ。〔南康記〕大庾・桂陽・騎田・九眞・都龐・臨賀・萌渚・始安・越城、爲二九嶺一。

【九禮】656 キュウレイ　❶九儀の禮。九儀(102)の❶を見よ。〔周禮、秋官、掌交〕九稅之利、九禮之親。〔注〕九禮、九儀之禮。❷九種の禮。冠・婚・朝・聘・喪・祭・賓主・鄉飲酒・軍旅をいふ。〔大戴禮、本命〕冠・婚・朝・聘・喪・祭・賓主・鄉飲酒・軍旅、此之謂二九禮一也。

【九齡】657 キュウレイ　❶九歲をいふ。ここのつ。〔法言、問神〕育而不レ苗者、吾家之童烏乎、九齡而與レ我玄文。〔陶潛、責子詩〕通子垂二九齡一、但覓二梨與レ栗。❷九十年をいふ。〔禮、文王世子〕文王謂二武王一曰、女何夢矣、武王對曰、夢帝與二我九齡一、文王曰、女以爲何也、武王曰、西方有二九國一焉、君王其終撫諸、文王曰、非也、古者謂二年齡一齒亦齡也、我百、爾九十、吾與二爾二焉、文王九十七乃終、武王九十三而終。❸字號。㋑宋、錢昭度(11－40563・367)の字。㋺元、紇石烈延年(8－27246・15)の字。㋩元、鐵木兒塔識(11－40945・433)の字。

【九靈】658 キュウレイ　❶道家の館の名。〔阮籍、大人先生傳〕辟二九靈一而求索、曾何足二以自隆一。〔雲笈七籤〕崑崙山有二九靈之館一、又有二金丹流雲之宮一、上接二璇璣之輪一、下在二太空之中一、乃王母之所治也。❷山名。江蘇省丹陽縣の東北。(明一統志)九靈山、在二鎭江府丹陽縣東北四十里一、九峯相連、下有二仁靜觀一、唐時、魏法師嘗居レ此。

【九靈簫】659 キュウレイ　仙人の吹く簫。〔眞誥〕小方諸仙人、多吹二九靈簫一、聞二四十里一、簫有二三十孔一、竹長二三尺一、九簫同唱、百獸抃舞、鳳凰數十來和二簫聲一。

【九靈山人】660 キュウレイサンジン　元、戴良(8－11685・143)の號。

【九靈山長】661 キュウレイサンチャウ　明、徐獻忠(4－10110・407)の號。

【九靈太妙】662 キュウレイタイベウ ノ　多くの神仙中の甚だ勝れた神仙。〔集仙傳〕西王母者、九靈太妙、龜山金母也。

【九靈山房集】663 キュウレイサンバウシフ　書名。三十卷。補編二卷、遺稿四卷。元、戴良撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【九列】664 キュウレツ　九卿の位。〔漢書、韋玄成傳〕明明天子、俊德烈烈、不レ遂二我遺一、恤二我九列一。〔吳志、步騭傳〕後徙二九列一。〔元稹、行裴武制〕農天下之本也、故國有二九列一、而司農氏居二其一焉。

【九裂】665 キュウレツ　九つに裂けること。又、九つに裂かれること。八つざきにせられること。〔後漢書、楊倫傳〕刎頸不レ易、九裂不レ恨。

【九連】666 キュウレン　山名。廣東省和平縣の北。九縣を環通してゐるから名づける。又、九龍山ともいふ。明代に渠賊陳閩中・巢五虎等の據つた地。〔讀史方輿紀要、廣東、惠州府、和平縣〕九連山、縣北百里、峯巒高峻、林木茂密、東連二龍川・河源一、南連二博羅・增城・龍門・從化一、西連二乳源・翁源一、北連二贛州龍南一、凡九縣界、因謂二之九連山一。

【九連棋】667 chiu³ lien² ch'i²　五目ならべの類。

【九連環】668 キュウレンクワン　九つの環が連なつた玩具。智慧の輪。〔丹鉛總錄〕九連環之制、玉人之功者爲レ之、兩環互相貫爲一、得二其關捩一解レ之爲レ一、又合而爲一、今有二此器一、謂二之九連環一、以二銅或鐵爲レ之、以代二玉、闈婦・孩童、以爲一玩具一。

【九連絲】669 キュウレンシ　堆朱の一。色は赤く、金絲の少し手あさくて重さの少ないもの。〔萬寶全書〕。

【九連城】670 キュウレンジャウ　地名。滿洲遼寧省安東縣の東北、鴨綠江の濱。金の幹魯が九城を築いて高麗と對した所。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、三萬衞〕九連城、在二衞東北九十里郭木川東岸一、城連屬有レ九、因名。

【九蓮】671 クレン　㊀彌陀の淨土をいふ。九品蓮臺(5・61)に同じ。〔釋門正統、八〕修二三福業一、想二像九蓮一。

【九蓮燈】672 キュウレン　❶蓮花燈の、九盞相連なつて串を成すものをいふ。〔朱佐朝、九蓮燈傳奇〕。❷戲曲の名。清、朱佐朝作。富奴が蓮花山の道德眞君の處へ行き、九蓮燈を借りて主人を救つたことを演ずる。

【九路】673 キュウロ　九つの路。〔新書、脩政語上〕鑿二江而導二之九路一。

【九弄】674 キュウロウ　❶音韻學用語。弄とは音韻の扱ひ方で、九弄とは、反切二字の音を縱橫に推し廣めて二十二字音を成し、反音・双聲・正韻・傍韻・綺錯・羅文・疊韻・傍紐・正紐の九種の方法を用ひて此等を展轉反切し、以て一字の反切を定めるものである。唐代音韻家の齊しく學習した一法で、之を圖示したものには、沙門神珙作と稱せられる四聲五音九弄反紐圖がある。今、玉篇の卷首に收載されてゐる。❷九つの音曲。弄は曲。〔唐書、神樂志十二〕琴工猶傳二楚漢舊聲及淸調一、蔡邕五弄・楚調四弄、謂二之九弄一。〔琴曲祕錄〕通爲二九大弄一。

【九弄十紐圖】675 キュウロウジフチウヅ　音韻圖の名。慈覺大師が唐から將來したものと傳へらる。この圖は左の三十二字をあげ、每字に九弄を圖す。

張長悵着　良兩亮略
珍侈鎭窒　隣嶙恪栗
遭展驟哲　連輦輾列
知徵智陟　離邏詈力

〔韻鏡開奩、六〕。

【九漏】676 キュウロウ　❶孔の九つある笛。〔楊維楨、丙人吹簫詞〕美人何處竊二九漏一。〔張憲、鐵笛道人遺二簫築詩〕不レ似酒邊呼二李衮一、靜攜二九漏一月中吹。❷㊀刻漏。兩眼・兩耳・兩鼻、及び口・大小便處の九穴から、常に身內の不淨を漏泄すること。〔行事鈔、中之二〕九瘡・九孔・九入・九漏・九流。

【九隴】677 キュウロウ　山名。❶四川省廣元縣の西、天台山の北。一名、九峯山。山上に漢王墓がある。漢の高祖駐兵の地と傳へる。❷四川省彭縣の西。伏隴・豆隴・秋隴・龍奔隴・走馬隴・駱駝隴・千秋隴・較車隴・橫擔隴。〔方輿勝覽〕古彭州之西山、一伏隴、二豆隴、三秋隴、四龍奔隴、五走馬隴、六駱駝隴、七千秋隴、八較車隴、九橫擔隴、故有二九隴之名一。

【九六】678 キュウロク　九と六。周易に於て、陽爻を九と呼び、陰爻を六と呼ぶ。陽と陰。轉じて、陰陽判合萬物生生の道。九の字解㊀の❶及び六(12－1453)の字解を見よ。〔易、乾、初九爻辭疏〕七爲二少陽一、八爲二少陰一、質而不レ變、爲二爻之本體一、九爲二老陽一、六爲二老陰一、文而從レ變、故爲二爻之別名一。〔孔穎達、周易正義序、第八論二誰加二經字一〕六十四卦、轉成二三百八十四爻一、運機布度、其氣轉易、故稱レ經也、但緯文鄙僞不レ可二全信一、其八卦方位之所、六爻上下之次、七八九六之數、內外承乘之象、入レ經別釋、此未二具論一也。〔漢書、律歷志〕九六陰陽、夫婦子母之道也。

【九六錢】679 chiu³ liu⁴ ch'ien²　小銅錢九十六個を一百文、九百六十個を一吊文と數へることをいふ。

【九和】680 キュウワ　❶秋のこと。九は金の成數、金は秋の氣。〔管子、幼官〕九和時節。〔注〕金成二數九一、金氣和、君則順二時節一而布レ政。❷明、顧鼎臣(12－43689・333)の字。

【九橫】681 クワウ　㊀九種の橫死。❶不應飯而飯・不量食・不習食・不出食・不熟・不持戒・近惡知識・入里不時・可避不避。〔九橫經〕。❷得病無醫・王法誅戮・非人奪精氣・火焚・水溺・惡獸啖・墮崖・毒藥咀咀・饑渴所困。〔大灌頂神呪經〕使下是比丘、出二現於世一、救二度危厄苦患衆生一、不レ爲二九橫之所一得。

【九橫經】682 キウワウキャウ　㊀書名。後漢、安世高譯。隋の衆經目錄に見える。

【九握劍】683 ノッソウケン　上代の劍の名。長さが手で九つかみ程ある劍。〔日本書紀、神代紀上、一書〕躬帶二十握劍・九握劍・八握劍一。

【九友齋】684 キウイウサイ　明、王世貞(7－20823・1763)の號。

【九音鑼】685 chiu³ yin¹ luo²　樂器の名。鉦を九個並べて框に掛け、小槌で敲くもの。

【九開解】686 キウカイ　逸周書の篇名。

【九蓋草】687 草の名。くかいさう。ごまのはぐさ科の多年生の草。高さ二尺餘。葉は短柄を具へ、二葉から六葉づつ輪生し、之が九段ほど重なる。故に九蓋草といふ。夏日、莖上に紫碧色の筒狀脣形花を總狀に綴る。九階草。威靈仙。〔和漢三才圖會、蔓草類、威靈仙〕按、俗云二九蓋草一、按、六七葉對生、頗如二車輪一、最長者九段許、故名二九蓋草一。

【九交道】688 九方に通ずる道。〔王粲、從軍詩〕館宅充二鄘里一、士女滿二莊馗一。〔注〕善曰、薛君曰、馗、九交之道也。

【九香蟲】689 蟲の名。〔本草、九香蟲〕集解、時珍曰、九香蟲、産二于貴州永寧衛赤水河中一、大如二小指頭一、狀如二水黽一。

【九去法】690 算法の名。九減法(695)を見よ。

【九句因】691 九句因が宗同品及び宗異品に關係の有無を以て、其の正否を判定するに、九種の別のあることをいふ。一に同品有異品非有、二に同品有異品非有、三に同品非有異品有非有、四に同品非有異品有非有、五に同品非有異品非有、六に同品非有異品有非有、七に同品有非有異品有、八に同品有非有異品非有、九に同品有非有異品有非有。〔因明入正理論疏、上〕。

【九環帶】692 隋・唐時代に侯王貴官の服した帶。唐には天子に用ひた。〔隋書、禮儀志〕侯王貴官、多服二九環帶一、惟天子帶加二十三環一、以爲二差異一。〔中華古今注〕唐革二隋政一、天子用二九環帶一、百官士庶皆同。

【九還丹】693 貴重な九種の丹藥。丹華・神符・神丹・還丹・餌丹・煉丹・柔丹・伏丹・寒丹。九轉丹(682)に同じ。〔隱丹經〕九還丹合二九轉一。〔抱朴子、金丹〕第一之丹名二丹華一、第二之丹名二神符一、第三之丹名二神丹一、第四之丹名二還丹一、第五之丹名二餌丹一、第六之丹名二煉丹一、第七之丹名二柔丹一、第八之丹名二伏丹一、第九之丹名二寒丹一。〔茅君內傳〕九轉還丹、九十晝夜而成。

【九絃琴】694 琴の名。宋の太宗の至道元年に作つたもの。〔宋史、樂志 二〕太宗嘗謂、舜作二五絃之琴一、以歌二南風一、後王因レ之、復加二文武二絃一、至道元年、乃增作二九絃琴一。五絃阮一。

【九減法】695 數學用語。九を以て或數を除し、其の餘數を求める時の簡便法。例へば、二百三十五を割つて其の餘數を求める時は、2+3+5−9=1で一を得る。去九法。九去法。

【九姑卜】696 九姑玄女課(753)を見よ。吳楚地方の一つの卜法。

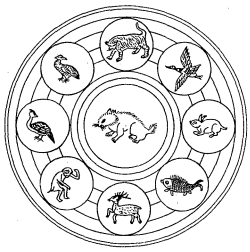
【九孔針】697 針の名。月夜に針の穴に絲を通して巧を爭ふ遊戲。〔開元天寶遺事、乞巧樓〕妃嬪各執二九孔針五色線一、向レ月穿レ之、透者爲二得レ巧之候一。

【九孔螺】698 貝の名。あはび、石決明(8−24024・925)の異名。〔本草、石決明〕釋名、九孔螺、殼名二千里光一。〔明一統志〕惠州府、土產二九孔螺一。

【九齋日】699 佛九種の齋日。毎月の八日・十四日・十五日・二十三日・二十九日・三十日の六齋日と、正月・五月・九月の全月とをいふ。この日には正午過ぎには食はず身心を清淨に保つ。〔三藏法數、三十五〕。

【九齒階】700 九級の階段をいふ。〔張衡、西京賦、右平左城、注〕綜曰、天子殿高九尺、階九齒、各爲二九級一。

【九射格】701 古の遊戲の具。侯に九種の動物を畫いて之を射るもの。〔歐陽脩、九射格〕九射之格、其物九爲二一大侯一而寓以二八侯一、態當中、虎居レ上、鹿居レ下、雕・雉・猿居レ右、雁・兔・魚居レ左。



九射格(古今圖書集成)

【九上下】702 山名。湖北省思施縣に在る。極めて險阻で、九度上下するからいふ。〔海錄碎事、地、總載山〕九上下山、在二施州一、坡險重疊、凡九上下、乃過。

【九進法】703 數學用語。或位の九倍を次の位の一として累進する記數法。

【九雛釵】704 花簪の一種。〔飛燕外傳〕后亦泣持二昭儀一、手抽二紫玉九雛釵一、爲二昭儀簪髻一。

【九政解】705 逸周書の篇名。

【九千歲】706 人に媚びへつらつて唱へる語。明の魏忠賢に對して當時の人々が唱へた故事。天子に萬歲と呼ぶからいふ。〔明史、魏忠賢傳〕所レ過士大夫、遮レ道拜伏、至レ呼二九千歲一、忠賢顧盼、未二嘗及一也。

【九蝸罩】707 清の康熙年代に作つた四角形の陶器の名。

【九張機】708 詞牌の名。〔樂府雅詞〕。

【九鎚牛】709 chiu³ ch'ui² pan⁴ 「三岔口」劇の「暗中摸索」の幕に用ひる囃。

【九釘盤】710 天子の御馳走を盛る九つの盤。釘は一に飣に作る。〔玉泉子〕唐御廚進饌、用二盤裝累一、名二九釘盤一。〔食珍錄〕煬帝御廚用二九飣牙盤食一。

【九疊篆】711 印章の篆文の筆畫を幾たびも屈曲重疊せしめたもの。〔甘暘印章集說〕國朝官印文、用二九疊一而朱、以二曲屈平滿一爲レ主、不レ類二秦漢制一品級之大小、以二分寸一別レ之。

【九疊屏】712 廬山の名勝の名。屏風を幾つも重ねた樣な景色であるからいふ。九疊雲屏。〔李白、廬山謠〕廬山秀出南斗傍、屏風九疊雲錦張。〔廬山後錄〕五老第二峯、卽獅子峯、與二九疊屏一相連、山無二草木一、曉日照レ之、殆如二赤城一。

【九毒日】713 佛色戒を犯せば災があるといふ五月中の九日。五・六・七・十五・十六・十七・二十五・二十六・二十七日。〔養生保命錄〕五月初五・初六・初七・十五・十六・十七・二十五・二十六・二十七九日、爲二九毒日一、犯二色戒一者天亡。

【九辈子】714 chiu³ pei⁴ tzu³ 九族の意。高祖・曾祖・祖父・父母・自己・子・孫・曾孫・玄孫の事。九族(428)の㊀を見よ。

【九美圖】715 明の唐寅が宸濠のために畫いた九人の美人の圖。

【九部樂】716 九部の舞樂、卽ち、清商伎・西涼伎・天竺伎・高麗伎・胡旋舞・龜茲伎・安國伎・疏勒伎・康國伎をいふ。〔唐書、禮樂志十一〕高祖卽レ位、仍二隋制一、設二九部樂一。燕一樂伎、樂工・舞人、無二變者一。云云、隋樂、每レ奏二九部樂一、終上輒奏二文康樂一。

【九部經】717 佛十二部經中の九部。大乘では、十二部から因緣・譬喩・論議の三部を去つたもの。小乘では、方廣・授記、無問自說の三部を去つたもの。〔大乘義章、一〕小乘九者、十二部中、除二去授記・無問自說、及以方廣一云云、大乘九者、十二部中、除二去因緣・譬喩・論議一。

【九蓬頭】718 明、吳琯(2−3365‥133)をいふ。「室名。

【九豐堂】719 清、錢載(11−40563‥99)の「日東魚譜」。

【九万疋】720 魚の名。鱘。〔日東魚譜〕。

【九味齋】721 佛法會・宿忌等の供物で、九種の美味を盛るもの。一に鳩美菜・供備菜といふ。

【九明珠】722 玄女が黃帝に授けたといふ珠の名。〔黃帝內傳〕玄女授二帝五龍之印、九明之珠一。

【九迷詩】723 馮垂が史鳳の客となり、迷香洞に遊んで、照春屏に題した詩。〔常新錄〕史鳳、宣城妓也、待レ客以二差等一、甚異者、有二迷香洞一。馮垂客二於鳳一、囊二錢三十萬一、得レ至二迷香洞一、題二九迷詩於照春屏一而歸。

【九面芋】724 やつがしら芋の一種。〔廣志〕九面芋、大而不レ美。

【九卵累】725 卵を幾箇も重ねたやうな危さ。〔郝經、贈二伴使一詩〕一若二泰山安一、一若二九卵累一。

【九類生】726 佛生類の生れる九種の姿。一に卵生、二に胎生、三に濕生、四に化生(以上の四生は三界に共通)、五に有色(色界)、六に無色(無色界)、七に有想(無色界中の無想天を除く他の諸天)、八に無想(無色界中の無想天)、九に非有想非無想(非想非非想處)。〔金剛經〕所レ有一切衆生之類、若卵生・若胎生・若濕生・若化生、若有色・若無色・若有想・若無想・若非有想若非無想、我皆令下入二無餘涅槃一而滅中度之上。

【九列君】727 柳の神をいふ。〔三峯集〕李固行二古柳下一、聞レ有二彈指聲一、曰、吾柳神九烈君也、用二柳汁一染二子衣一矣、科第無レ疑、未レ久及第。

【九肋君】728 キウロククン　動物の名。すつぽん。鼈（12−48305）の異名。〔水族加恩簿、鼈名甲拆翁〕令ニ甲拆翁、挾ニ彈於中一、巧也、負ニ擔於外一、禮也、介胄自防不レ問ニ寒暑一、智也、歩武濡緩不レ踰ニ規繩一、仁也、故前以ニ擐甲尙書一、榮ニ其跡一、顯ニ其能一、宜レ授ニ金丸丞相九肋君一。

【九耕三食】729 キウカウサンショク　九年間耕せば三年分の食を蓄へることが出來る。〔禮、王制〕三年耕、必有ニ一年之食一、九年耕、必有ニ三年之食一。

【九鶴山房】730 キウカクサンバウ　明、丁元吉（1−2‥249）の室名。

【九杞山人】731 キウキサンジン　明、許相卿（10−35298‥310）の號。

【九朽一罷】732 キウキウイツピ　畫家が人物を畫く法。先づ土筆で其の輪郭を畫き、幾度か修正した後、淡墨で描きあげる法。朽は改めること。罷は事を畢はること。〔丹鉛總錄〕畫家於ニ人物一、必九朽一罷。〔畫繼〕畫家於ニ人物一、必九朽一罷、謂、先以ニ土筆一、撲取ニ形似一、數次修改、故曰ニ九朽一、繼以ニ淡墨一一描而成、故曰ニ一罷一、罷者畢レ事也。

【九公山人】733 キウコウサンジン　明、郝錦（11−39430‥9）の號。

【九攻九卻】734 キウコウキウキヤク　九たび攻め、九たび卻く。〔淮南子、脩務訓〕於レ是、公輸般設ニ攻レ宋之械一、墨子設ニ守レ宋之備一、九攻而墨子九卻レ之、弗レ能レ入。

【九鎖山人】735 キウササンジン　宋、鄧牧（11−39630‥104）の號。

【九載相逢】736 キウサイアヒアフ　九年目に出逢ふ。載は歲。〔杜甫、別ニ唐十五誡一因寄ニ禮部侍郎賈一詩〕九載一相逢、百年能幾何。

【九載不レ績】737 キウサイセキアラズ　九年間かかつても成績があがらず、效果がなかつた。載は歲。〔書、堯典〕九載績用弗レ成。〔疏〕夏曰レ歲、商曰レ祀、周曰レ年、唐虞曰レ載。〔十八史略、五帝、帝堯陶唐氏〕使ニ鯀治一レ之、九載不レ績。

【九上九下】738 キウジヤウキウカ　九たび車に上り下りする。〔國語、晉語九〕衞莊公爲レ右、曰、吾九上九下、擊レ人盡殪、今日之事、莫ニ我加一也。

【九儒十丐】739 キウジユジフカイ　宋・元時代に、儒者を賤しめた語。人間を分類して其の第九等を儒とし、十等を乞丐とすること。陔餘叢考、卷四十二に見ゆ。〔鄭所南集〕元制、一官、二吏、三僧、四道、五醫、六工、七獵、八民、九儒、十丐。〔謝枋得、送ニ方伯載一序〕今世俗人、有ニ十等一、一官、二吏、先レ之者貴レ之也、七匠、八娼、九儒、十丐、後レ之者賤レ之也。

【九舜十堯】740 キウシユンジフゲウ　權柄を執る者が衆く、且、上位に居るものが桀紂のやうな者であれば、九人十人の堯舜が出た所で之をどうすることも出來ず、亂世となる。〔海錄碎事、帝王、政出多〕九舜十堯、桓範要論、執レ權者衆、雖ニ九舜一猶亂、韓子云、桀紂生而在ニ上位一、雖ニ十堯舜一、不レ能レ化レ之。

【九水漁人】741 キウスイギヨジン　曾谷之唯の號。曾谷學川（5−14299‥250）を見よ。

【九旋之淵】742 キウセンノフチ　至つて深い淵。轉じて、人に見えない深い所。九淵（41）の㊁を見よ。〔淮南子、兵略訓〕建ニ心乎窈冥之野一、藏ニ志乎九旋之淵一、雖レ有ニ明目一、孰能窺ニ其情一。

【九戰九勝】743 キウセンキウシヨウ　九たび戰つて九たび勝つ。〔呂覽、首時〕九戰九勝、追レ北千里。

【九戰九捷】744 キウセンキウセフ　九戰九勝に同じ。〔宋史、楊政傳〕建炎間、從ニ吳玠一擊ニ金人一、九戰九捷。

【九叜山人】745 キウソウサンジン　明、顧聞（12−43689‥177）の號。

【九疊雲屛】746 キウデフウンペイ　九疊屛（712）を見よ。

【九墩子灘】747 キウトンシダン　灘の名。四川省巫山縣の西、瞿唐峽の內。

【九南鐵路】748 キウナンテツロ　江西省の九江から南昌に至る鐵道。南潯鐵路。

【九梅居士】749 キウバイコジ　清、孫延（3−6987‥19）の號。

【九匏道人】750 キウハウダウジン　清、黃中理（12−47926‥1246）の號。

【九柏山房】751 キウハクサンバウ　室名。㊀明、呂愷（2−3386‥89）の室名。㊁清、楊倫（6−15112‥390）の室名。

【九琴十硯齋】752 キウキンジツケンサイ　清、蒲華（9−31611‥30）の室名。

【九姑玄女課】753 キウコゲンヂヨクワ　草の莖で吉凶を占ふ法。おみくじ類。吳楚地方の風習。〔輟耕錄、九姑玄女課〕吳楚之地、村巫野叟及婦人女子輩、多能ニ十九姑課一、其法、折ニ草九莖一、屈レ之爲ニ十八一、握作ニ一束一、祝而呵レ之、兩兩相結、止ニ留兩端一、已而抖開、以占ニ休咎一、若續成ニ一條一者、名曰ニ黃龍儻仙一、又穿ニ一圈一者、名曰ニ仙人上馬一、圈不レ穿者、名曰ニ蟢窠落地一、皆吉兆也、或紛錯無レ緖、不レ可ニ分理一、則凶矣、又一法、曰ニ九天玄女課一、其法、折ニ草一把一、不レ計ニ莖數多寡一、苟用ニ算籌一、亦可ニ兩手隨レ意分一レ之、左手在レ上竪放、右手在レ下橫放、以ニ三除一之不レ及者爲レ卦、一竪一橫曰ニ大陽一、二竪一橫曰ニ靈通一、二竪二橫曰ニ老君一、二竪三橫曰ニ大吳一、三竪一橫曰ニ洪石一、三竪三橫曰ニ祥雲一、皆吉兆也、一竪二橫曰ニ大陰一、一竪三橫曰ニ懸崖一、三竪二橫曰ニ陰中一、皆凶兆也、愚意、俗謂ニ九姑一、豈卽九天玄女歟、離騷經云、索ニ瓊茅一以筳篿兮、命ニ靈氛一爲レ余卜、注曰、瓊茅、靈草也、筳、小破竹也、楚人名ニ結レ草折レ竹以卜一曰レ篿、據レ此則亦有レ所レ本矣。

【九朝紀事本末】754 キウテウキジホンマツ　書名。三百三十三卷。紀事本末體の歷史書九種をいふ。
一、資治通鑑紀事本末、四十二卷、宋、袁樞編。
二、宋史紀事本末、二十六卷、明、陳邦瞻編。
三、遼史紀事本末、四十卷、清、李萍編。
四、金史紀事本末、五十二卷、清、李萍編。
五、西夏紀事本末、三十二卷、清、張鑑編。
六、元史紀事本末、四卷、明、陳邦瞻編。
七、明史紀事本末、八十卷、清、谷應泰編。
八、三藩紀事本末、四卷、清、楊陸榮編。
九、左傳紀事本末、五十三卷、清、高士奇編。
右の內の一・二・六・七・九を五朝紀事本末といひ、五朝に五・八を加へたものを七朝紀事本末といふ。

【九朝編年備要】755 キウテウヘンネンビエウ　書名。十三卷。宋の陳均撰。資治通鑑綱目の例を用ひ、北宋九朝の事迹を記す。〔四庫提要、史、編年類〕。

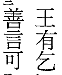
【九名九姓長官司】756 キウメイキウセイチヤウクワンシ　土司の名。明、置く。境內に九姓の苗族がゐるので名づけた。今の貴州省獨山縣地方。〔讀史方輿紀要、貴州、都均府〕獨山州、古蠻夷地、元置ニ獨山州軍民長官司一、洪武十二年、改爲ニ九名九姓獨山州長官司一、境內有ニ九名九姓苗一。

【乚】168 キウ　丩（1−68）の俗字。〔正字通〕乚、俗丩字。

【乙乙】169 クワイ　會（5−14306）の古字。〔字彙補〕乙乙、古文會字。

二畫

【乞】170 ㊀キツ コチ 〔集韻〕欺訖切 ㄑㄧˇ chʻi³ 物。㊁キ ケ 〔集韻〕丘旣切 未。慣コツ


小篆

㊀㊀こふ。求める。〔禮、內則〕三王有乞レ言。〔注〕有、讀爲レ又、又從レ之求ニ善言可一レ施行一也。〔春秋、僖、二十六〕公子遂、如レ楚乞レ師。〔注〕乞、不レ保レ得之辭。〔史記、王翦傳〕將軍之乞貸、亦已甚矣。〔後漢書、李通傳〕以レ病上書乞レ身。㊁こひ。もとめ。ねがひ。〔後漢書、鄧禹傳〕昧死陳レ乞。〔吳志、孫登傳〕深自陳レ乞。㊂物こひする。物もらひする。〔一切經音義、二〕乞、謂ニ行匃一也。〔史記、豫讓傳〕行乞ニ於市一、其妻不レ識也。㊃气（6−17043）に同じ。〔集韻〕气、或省。㊄姓。〔萬姓統譜〕乞力、徐氏邊將。㊁㊀あたへる。〔集韻〕乞、與也。〔左氏、昭、十六〕毋ニ或匄奪一、〔疏〕乞之與レ乞、一字也、取則入聲、與則去聲也。〔漢書、朱買臣傳〕上計吏卒更乞ニ匄之一。〔晉書、謝安傳〕謂ニ甥羊曇一曰、以レ墅

乞汝。㊀气（6－17043）に同じ。〔通志、六書略〕气、氣也、因レ聲借、爲二與レ人之乞一、音氣。〔集韻〕乞、或通作レ气。

解字　象形。气と同字。气は雲氣のたちのぼるさま。三たびくりかへして多くたつ意とする。省略して乞に作り、こひ求める意に借り用ひる。〔說文〕气、雲气也、象形。〔段注〕借爲二气一、假於人一之气一、又省作レ乞。

【乞媪】1 ch'i² ao³　こじきばば。乞丐婆。

【乞袁】2 ㄑㄧˇ ㄩㄢˊ　複姓。高車部十二姓の一。〔魏書、高車傳〕十一曰、乞袁氏。

【乞恩】3 ㄑㄧˇ ㄣ　めぐみを乞ふ。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕越王曰、孤不レ能下承二前君之制一、修レ德自守上、亡レ衆棲二于會稽之山一、請レ命乞レ恩。

【乞假】4 ㄑㄧˇ ㄐㄧㄚˋ　㊀いとまを請ふ。休假を願ひ出る。假は、暇の古字。〔顏氏家訓、文章、杜篤乞假無レ厭。（盧綸、臥病寓二居龍興觀一詩）乞假依二山宅一、蹉跎屬二歲周一。㊁物を借りること。〔禮、內則〕不レ通二乞假一。〔禮、少儀〕事レ君者、量而后入、不二入而后量一、凡乞二假於人一、爲レ人從レ事者亦然。

【乞丐】5 ㄑㄧˇ ㄍㄞˋ　㊀ものもらひ。乞人。〔東京夢華錄〕至二於乞丐一、亦有二規格一。〔無量壽經、下〕乞丐孤獨。㊁求め乞ふ。〔顏氏家訓、勉學〕就二姊夫劉綏一、乞二丐客刺書翰一。

【乞丐之徒】6 ㄑㄧˇ ㄍㄞˋ ㄓ ㄊㄨˊ　ものもらひのともがら。轉じて、榮寵を乞ひ求める小人達。〔晉書、賈充傳論〕逮二乎貽厥一、乃乞丐之徒。

【乞丐身皇帝口】7 ch'i³ kai⁴ shen¹ huang² ti⁴ k'ou³　乞食の身體、皇帝の口。乞食の姿をして居ても、談論する所は天下國家を離れない意。

【乞匄】8 ㄑㄧˇ ㄍㄞˋ　㊀乞丐に同じ。〔漢書、西域傳上〕乞匄無二所得一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕父嵩乞匄攜養、因贓假レ位。〔注〕濟曰、操父嵩、本夏侯氏之子、騰無レ子、乞養之、匄、乞也。㊁㊀與へる。〔漢書、朱買臣傳〕買臣隨二上計吏一爲レ卒、將二重車一至二長安一、詣闕上書、書久不レ報、待二詔公車一、糧用乏、上計吏卒、更乞二匄之一。〔注〕師古曰、乞音氣、匄音工大反。

【乞骸】9 ㄑㄧˇ ㄏㄞˊ　仕官中に辭職を乞ふこと。自分の骸骨を貰ひ受けて鄉土に歸葬する意。乞二骸骨一（12－45164‥5）に同じ。〔漢書、趙充國傳〕趙充國乞二骸骨一、賜二安車駟馬、黃金六十金、罷就レ第。〔漢書、疏廣傳〕上疏乞二骸骨一、上以二其年篤老一、皆許レ之。

【乞巧】10 ㄑㄧˇ ㄑㄧㄠˇ　七夕祭に、牽牛・織女の二星を祭り、女兒が五色の絲を捧げて手藝の上達を禱ること。〔荊楚歲時記〕七月七日、是夕人家婦女結二綵縷一穿二七孔鍼一、或以二金銀鍮石一爲レ鍼、陳二瓜果於庭中一以乞レ巧。〔帝京景物略〕七月七日之午丟巧針、婦女曝二盎水日中一、頃之、水面生レ膜、繡針投之則浮、則看二水底針影一、有下成二陰物一・花頭・鳥獸影一者上、有下成二鞋及剪刀一・水茄影一者上、謂二乞得一レ巧。〔故事成語考、歲時〕七夕、牛女渡レ河、家家穿二乞巧之針一。〔陔餘叢考、乞巧〕乞巧不二獨七夕一也、續博物志、山東風俗、正月取二五姓女一、年十餘歲、共臥二一榻一、覆レ之以レ衾、以箕扇レ之、卜以二乞巧一、下黃私記、八九月中、月輪外輕雲、時有二五色一、下黃人値レ此、呼二女子一、持二針線一、小兒持二紙筆一、向レ月拜レ之、謂二之乞巧一、是正月及八九月、皆乞レ巧矣。

【乞巧奠】11 ㄑㄧˇ ㄑㄧㄠˇ ㄉㄧㄢˋ　陰曆七月七日の夕、牽牛・織女の二星を祭り、裁縫の上達を禱る儀。ほしまつり。我が國では、天平勝寶七年に始めて清涼殿の庭で行はれた。きかうでんともいふ。〔名目抄〕乞巧奠。〔和漢三才圖會、時候類、七夕〕七月七日、祭二河鼓・織女二星一、謂二之乞巧奠一、公事根源云、孝謙天皇天平勝寶七年、乞巧奠始。

【乞巧棚】12 ㄑㄧˇ ㄑㄧㄠˇ ㄆㄥˊ　七夕を祭るたな。〔東京歲時記〕七夕家家錦綵、結爲二乞巧棚一。

【乞巧樓】13 ㄑㄧˇ ㄑㄧㄠˇ ㄌㄡˊ　七夕に庭に立てる綵飾を施したやぐら。唐代の風習。〔東京夢華錄〕唐時、京師七夕、貴家多結二綵樓于庭一、謂二之乞巧樓一。

【乞降】14 ㄑㄧˇ ㄒㄧㄤˊ　降服を願ひ出る。〔後漢書、光武紀上〕建武二年、赤眉望見震怖、遣レ使乞レ降。〔蘇軾、昆陽賦、方〕其乞レ降而未レ獲、固已變レ色而驚悔。

【乞寒】15 ㄑㄧˇ ㄏㄢˊ　唐の睿宗の行つた遊戲。十一月の寒中に水をかけ合ふ遊び。〔唐書、西域下、康傳〕十一月鼓二舞乞寒一、以レ水交潑爲レ樂。

【乞寒潑胡】16 ㄑㄧˇ ㄏㄢˊ ㄆㄛ ㄏㄨˊ　遊戲の名。潑寒胡戲（7－18225‥40）を見よ。

【乞求】17 ㄑㄧˇ ㄑㄧㄡˊ　かういふ風になりたいと願ふ意。〔輟耕錄、乞求〕世之曰二乞求一、蓋謂二正欲若レ是也、然唐時已有二此言一、王建宮詞、只恐他時身到レ此、乞求自在得二還家一、又花蕊夫人宮詞、種得海柑纔結レ子、乞求自過與二君王一。

【乞鞫】18 ㄑㄧˇ ㄐㄩˊ　裁判の覆審鞫訊を求めること。乞鞫。〔周禮、秋官、朝士、注〕若下今時徙論決、滿二三月一、不レ得二乞鞫一。〔南史、蔡廓傳〕令二家人與囚相見一、無二乞鞫之訴一、便足二以明伏罪一。

【乞乞】19 ㄑㄧˇ ㄑㄧˇ　複姓。〔唐書、北狄、渤海傳〕乞四比羽爲二許國公一、乞乞仲象爲二震國公一。

【乞銀】20 ㄑㄧˇ ㄧㄣˊ　㊀馬。西蕃の語。〔文同、驄馬詩〕鬣擁如レ雲、西人號二乞銀一。㊁地名。陝西省米脂縣の西北。乞閻。〔周書、武帝紀上〕保定三年春正月、於二乞銀城一置二銀州一。

【乞閻】21 ㄑㄧˇ ㄧㄢˊ　地名。乞銀の㊀に同じ。〔蘇軾、元豐四年云云各飲二巨觥一詩〕聞說官軍取二乞閻一。

【乞火】22 ㄑㄧˇ ㄏㄨㄛˇ　火を乞ふ。人の爲に奔走して意外の成功あるにいふ。里婦が夜肉を盜んだと疑はれて姑から離緣せられようとしたとき、里母が此の話を聞いて、實は昨夜犬が肉を爭うてゐた、多分其の肉だらう、樣子を見る爲に火を借りたいと其の姑に賴んだ爲、姑の疑が霽れて、里婦の罪が許された故事。〔漢書、劉通傳〕通曰、臣之里婦、與二里之諸母一相善也、里婦夜亡レ肉、姑以爲レ盜、怒而逐レ之、婦晨去、過二所レ善諸母一、語以事而謝レ之、里母曰、女安行、我今令而家追レ女矣、卽束レ縞請二火於亡レ肉家一。曰、昨暮夜、犬得レ肉、爭鬬相殺、請レ火治レ之、亡レ肉家、遽追呼二其婦一、故里母非二談說之士一也、束レ縞乞レ火、非二還婦之道一也、然物有二相感一、事有二適可一。〔國朝漢學師承記、汪中〕里煩二言於乞火一、家搆二衅於蒸梨一、蹀二躞東西一、終成二溝水一。

【乞活】23 ㄑㄧˇ ㄏㄨㄛˊ　㊀食糧を求めて他鄉に移住した者をいふ。又、流浪して糧を追ふ人々。〔晉書、東海王越傳〕東嬴公騰鎭レ鄴、攜二并州將田甄等部衆萬餘人一至レ鄴、遣二就レ穀冀州一。號爲二乞活一。〔資治通鑑、晉紀〕恭帝元熙元年、有二司馬文榮者一、帥二乞活千餘戶一、屯二金墉城南一。〔注〕惠帝時、并州饑荒、其吏民隨二東燕王騰一東下、號曰二乞活一。是後、流徙逐レ糧者、亦曰二乞活一。㊁城の名。河北省河間縣の北。〔晉書、東海王越傳〕東嬴公騰鎭レ鄴、攜二并州將田甄等部衆萬餘人一至レ鄴、遣二就二穀冀州一。號爲二乞活一。

【乞活臺】24 ㄑㄧˇ ㄏㄨㄛˊ ㄊㄞˊ　臺の名。河南省開封縣の東南。一名、吹臺。又、上に禹の廟があるので、俗に禹王臺と呼ぶ。〔水經、渠水注〕梁王增築以爲二吹臺一、城隍夷滅、略存二故跡一、今層臺孤立、于二牧澤之右一矣、其臺方百許步、卽阮嗣宗詠懷詩所謂、駕言發二魏都一、南向望二吹臺一、簫管有二遺音一、梁王安在哉、晉世喪亂、乞活憑居、創二墮故基一、遂成二層一、上基猶方四五十步、高一丈餘、世謂二之乞活臺一、又謂二之繁臺一。

【乞言】25 ㄑㄧˇ ㄧㄢˊ　老人に善言の教を乞ふこと。〔禮、內則〕凡養老、五帝憲二三王有レ乞言一。〔注〕有、讀爲レ又、又從レ之求二善言一可二施行一也。〔禮、文王世子〕凡祭、與二養老一。乞言・合語之禮、皆小樂正詔二之於東序一。〔注〕養老・乞言、養二老人之賢者一、因從レ之善言可レ行者一也。〔周書、于謹傳〕詔曰、謹執二德純固一、爲二國元老一、饋以二乞言一、朝野所レ屬レ可レ爲二三老一。

【乞克】26 ch'i³ k'o⁴　小切手。

【乞懇】27 ch'i³ k'en³　懇請する。

【乞相】28 ㄑㄧˇ ㄒㄧㄤˋ　ものもらひの人相。貧相。〔撫言〕薛逢厄二於宦途一、常策二羸馬一、赴レ朝、值二新進士綴行而出一、斥令二迴避一、逢遣二一介一曰、報道莫二乞相一、阿婆三五少年時、也曾東塗西抹來。

【乞藏】29 ㄑㄧˇ ㄗㄤˋ　複姓。吐蕃・青海の酋長の氏。〔唐書、韋皐傳〕皐遣二精卒二千一、與二蠻共破一吐番於臺登一、殺二青海大酋乞藏遮遮一。

【乞士】30 ㄑㄧˇ ㄕˋ　㒵僧の別稱。梵語の比丘の義。上は諸佛に法を乞うて色身を資益し、下は施主に食を乞うて色身を資益す。〔智度論、三〕比丘名二乞士一、清淨活命、故名爲二乞士一。〔稱謂錄、僧、乞士〕佛經、僧曰二乞士一。

【乞子】31 ch'i³ tzŭ³　ものもらひ。乞丐。

【乞四】32 ㄑㄧˇ ㄙˋ　複姓。靺鞨の酋長の氏。〔唐書、北狄、渤海傳〕靺鞨酋乞四比羽。

【乞四比羽】33 ㄑㄧˇ ㄙˋ ㄅㄧˇ ㄩˇ　靺鞨の酋長の名。唐の武后

の萬歲通天年閒に、營州附近の契丹人が兵を擧げ、趙翽を殺して唐に叛いた時、營州にゐた高句麗人大祚榮は、靺鞨の酋長乞四比羽と共に遼東に逃れた。武后は之を鎭壓する暇が無いため、比羽を許國公に封じたが、彼がこの命を奉じなかつたため、唐は李楷固・索仇等をして之を討たせた。乞四比羽は戰死したが、大祚榮は逃れて東牟山に築城して震國王と稱した。〔舊唐書、一百九十九下〕・〔唐書、二百十九〕。

【乞師】34 キッシ　援兵を乞ふこと。〔左氏、隱、四〕諸侯復伐レ鄭、宋公使、來乞レ師、公辭レ之。

【乞兒】35 キツジ　乞丐(5)に同じ。〔後漢書、向栩傳〕或悉要二諸乞兒一倶歸止宿。〔開元天寶遺事、向火乞兒〕張九齡見下朝文武僚屬、趍二附楊國忠一爭求中富貴上、惟九齡未三嘗及二レ門、楊甚啣レ之、九齡常與二識者一議曰、今時之朝彥、皆是向レ火乞兒、一旦火盡灰冷、暖氣何在、當三凍レ屍裂二レ體、棄二骨於溝壑中一、禍不レ遠矣。

〔乞兒吉思〕36 チールギス　㊀湖の名。一名、奇爾吉滋淖爾。外蒙古の科布多城の東北。札盆河水の溜つたもの。㊁キルギス　亞細亞內部に住む部族の名。トルコ・タタール系。唐代には黠戛斯、或は紇扢斯と書き、元代には乞兒吉思・乞力吉思と書かれた。

〔乞兒馬醫〕37 キツジバイ　乞食と馬醫者。極めて卑しい人。〔列子、黃帝〕自レ此之後、范氏門徒、路遇二乞兒・馬醫一、弗二敢辱一也。

〔乞兒般二漆碗一〕38 キツジシツワンヲハンス　乞食がうるし塗りのわんを持ちあるく。身分不相應なものを持つてゐることの喩。般は搬の本字。〔通俗編、器用、乞兒般二漆碗一〕墨莊漫錄、晏叔原聚レ書甚多、每レ有二遷徙一、其妻厭レ之、謂二叔原有レ類三乞兒搬二漆碗一、叔原因賦二搬漆碗詩一。

【乞食】39 コツジキ キツショク　㊀食を乞ひ求める。〔左氏、僖、二十三〕乞二食于野人一。〔史記、晉世家〕重耳過二五鹿一、飢而從二野人一乞レ食、野人盛二土器中一進レ之。〔史記、伍子胥傳〕胥未レ至レ吳而疾、止二中道一乞レ食。〔癸辛雜識〕唐裴休、晚年披二毳衲一、於二歌姬院一、持レ鉢乞レ食。㊁乞丐(5)に同じ。〔稱謂錄、乞、乞食〕案、乞丐、閩省呼レ之爲二乞食一。〔佛〕㊂コツジキ　十二頭陀行の一。比丘自身の色身を資ける爲に食を人に乞ふことで、之を淸淨の生活法といふ。〔大乘義章、十五〕專行二乞食一、所レ爲有レ二、一者爲レ自、省レ事修レ道、二者爲レ他、福二利世人一。〔十二頭陀經〕食有二三種一、一、受請食、二、衆僧食、三、常乞食。〔法集經〕行二乞食一者、破二一切憍慢一。㊃コジキ　ものもらひ。

【乞食人】40 キツショクジン　こじき。乞丐(5)に同じ。

【乞食袋】41 コツジキブクロ　㊀僧侶が乞食した食物其の他をいれる袋。〔文德實錄、十〕天安二年八月、帝聞二光定在レ山資用絕乏一、別賜二乞食袋一、濟二山中之急一。㊁コジキブクロ　乞食が樣々のものをいれて携へる袋。〔耳底記、上〕學問することは、乞食袋のやうにするがよし。

【乞食調】42 コツジキテウ　雅樂の調子の一。大食調の枝調子で、平調の音を主音とする呂調音階。一名、器食調。秦王破陣樂・還城樂・放鷹樂・蘇芳菲等の曲は此の調に屬する。〔陳氏樂書〕商調、胡名、大乞食調、又名二越調一、又名二雙調一、婆羅門曰二帝釋聲一也。

【乞食飯牛】43 キツショクハンギウ　春秋時代の百里奚と甯戚とが貧賤から起つて成功した故事。百里奚は秦の繆公に仕へんとして行く途中、人に乞食して飢を凌いだが、遂に繆公に用ひられて國政を執るに至り、甯戚はもと貧賤で、牛車を挽き、車下で牛に食を與へ乍ら高歌してゐたが、齊の桓公が聞いて之を異とし、遂に國事を委ねるに至つた。〔漢書、鄒陽傳〕百里奚乞二食於道路一、繆公委レ之以レ政、甯戚飯二牛車下一、桓公任レ之以レ國、此二人者、豈素宦二於朝一、借二譽於左右一、然後二主用レ之哉、感二於心一、合二於行一、堅如二膠桼一、昆弟不レ能レ離、豈惑二於衆口一哉。

【乞悉】44 キツシツ　複姓。〔唐書、吐蕃傳下〕乞悉蓖。

【乞者】45 キツシヤ　乞食(39)の㊁に同じ。〔淮南子、說山訓〕猶下倮走而追二狂人一、盜レ財而予中乞者上。

【乞借】46 キツシヤ　求めかりること。乞貸。〔曹唐、病馬詩〕乞借新城利鉸刀。〔陸游、花時徧遊二諸家園一詩〕綠章夜奏通明殿、乞二借春陰一護二海棠一。

【乞身】47 キツシン　辭職を願ふ。乞骸(9)を見よ。〔後漢書、李通傳〕以レ病上書乞レ身。

【乞人】48 キツジン　ものもらひ。乞食(39)の㊁に同じ。〔孟子、告子上〕蹴爾而與レ之、乞人不レ屑也。〔戰國、秦策〕百里奚、虞之乞人、傳賣以二五羊之皮一、穆公相レ之、而朝二西戎一。〔戰國、趙策〕豫讓又漆レ爲レ厲、滅レ鬚去レ眉、自刑以變二其容一、爲二乞人一而往乞。〔呂覽、精通〕聞三乞人歌二於門下一而悲レ之。

【乞請】49 キツセイ　こひこふ。〔管子、乘馬數〕猛毅之人淫暴、貧病之民乞請。〔纂詁〕貧病者流爲二乞丐一。

【乞袋】50 ch'i³ tai⁴　乞食袋。

【乞台】51 チイダイ　元の人。察台氏。至元年閒に欽察衞百戶となる。叛王失烈吉及び乃顏を伐つて功を立てた。〔元史、一百三十五〕。

【乞女】52 ch'i² nü³　女のものもらひ。乞丐女。

【乞奴】53 キツド　金、宋珪(**3－7078**··69)の本名。

【乞頭】54 キツトウ　賭博のてら錢。賭場で勝者から十分の一の割前をとること。又、其の係りの者。〔東坡雜記〕都下有二道人一、賣二諸禁方一、緘二題其一一曰、賭錢不レ輸方、少年博者、以二千金一得レ之、歸發視二其方一、曰、但止二乞頭一。〔國史補〕什一而取、謂二之乞頭一。

【乞特】55 キツトク　複姓。慕容氏の別部。〔後燕錄〕。

【乞貣】56 キツトク　物を人に求めて借りる。貣は貸。乞貸。乞借。〔漢書、韓王信傳〕旦暮乞二貣蠻夷一。〔注〕貣、音吐得反。

【乞貸】57 キツトク　求め借りる。乞貣に同じ。貸の音は、トク。乞借。〔史記、孔子世家〕游說乞貸、不レ可二以爲レ國。

【乞飯】58 キツパン　めしを乞ふこと。〔論衡、紀妖〕晉公子重耳失レ國、乏レ食二于道一、從二耕者一乞レ飯。

【乞婦】59 キツプ　をんなこじき。丐婦。

【乞伏】60 キツプク　㊀複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕乞伏氏、乞伏國仁、本鮮卑乞伏部酋帥也、晉孝武時、僭號二西秦王一、大單于弟乾歸生二熾磐一、熾磐生二慕末四王一、四十七年、赫連勃勃滅レ之、見二載記一、宋端拱登科、有二乞伏矩一。㊁ ch'i³ fu²　懇願する。切に乞ふ。

〔乞伏慧〕61 キツプクケイ　隋の人。もと馬邑鮮卑の人。字は令和。官は荊州總管。隋の煬帝が西巡した時、御道不整、獻食疎薄の罪に坐して除名せられた。〔隋書、五十五〕・〔北史、七十三〕。

〔乞伏保〕62 キツプクハウ　後魏の人。もと高車部の出身。性、至孝。無善の鎭將となる。〔魏書、八十六〕・〔北史、八十四〕。

〔乞伏乾歸〕63 キツプクケンキ　十六國、西秦の高祖。國仁の弟。諡は武元王。國仁に嗣いで立ち、氐王楊定を破り、隴西・巴西の地を得、苑川に都し、後、秦王と稱した。在位二十四年。年號は大初・更始。兄の子公府のために弒せられた。〔晉書、一百二十五〕。

〔乞伏國仁〕64 キツプクコクジン　十六國、西秦の烈祖。諡は宣烈王。もと隴西の鮮卑の酋長であつたが、前秦の時、南單于となり、晉の太元中、苻堅が敗死した時、國を西秦と號した。年號は建義。自ら大都督大將軍大單于といふ。〔晉書、一百二十五〕・〔魏書、九十九〕。

〔乞伏司繁〕65 キツプクシハン　十六國、西秦の人。苻堅の命を受けて勇士川に鎭撫となり、のち使持節都督討西胡諸軍事に拜せられた。〔晉書、一百二十五〕。

〔乞伏熾磐〕66 キツプクシバン　十六國、西秦の太祖。乾歸の長子。諡は文昭王。權略あり、晉の義熙年閒に傉檀を攻めて之を合倂した。在位十六年。年號は永康・建弘。〔晉書、一百二十五〕・〔魏書、九十九〕。

〔乞伏暮末〕67 キツプクボマツ　十六國、西秦の人。熾磐の第二子。字は安石。夏主赫連定に攻められ、上邽に送られて殺され、同時に西秦は亡んだ。在位四年。年號は永弘。〔晉書、一百二十五〕・〔魏書、九十九〕。

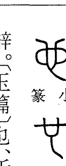
【乞佛】68 キツブツ　複姓。〔魏書、高宗紀〕太安二年二月、丁零數千家、亡二匿井陘山一、聚爲二寇盜一、詔二幷州刺史乞佛成龍一、討二平之一。

【乞米】69 キツベイ　㊀米を乞ふ。〔南史、宗元饒傳〕合州刺史陳裦、贓汙狼藉、云云、令下人於二六郡一乞上米、百姓甚苦レ之、元饒劾奏免レ之。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕至レ令二鄰僧乞一レ米送、僕忝二縣尹一能不レ恥。㊁唐の顏眞卿の法帖の名。乞米帖の略。〔蘇軾、次二韻米黻二王書跋尾一詩〕忍レ飢看レ書淚如レ洗、至レ今魯公餘二乞米一。

【乞米帖】70 キツベイデフ 唐の顏眞卿の法帖の名。〔顏眞卿、乞米帖〕拙二于生事一、擧レ家食レ粥、而已數月、今又罄矣。〔米芾、書史〕唐太師顏眞卿、不審・乞米二帖。
【乞覓】71 キツベキ 物を強請する。〔蘇軾、論二積欠一狀〕縱使三盡依二十科一、吏卒乞覓、必不レ肯二分科少取一。
【乞命】72 キツメイ いのちをこふ。〔北史、高允傳〕允曰、殿下以二臣侍講日久一、哀レ臣乞レ命耳。〔洛陽伽藍記〕劉胡殺レ猪、豬忽唱乞レ命、聲及二四鄰一。
【乞盟】73 キツメイ ❶敵に和を求めること。〔公羊、僖、八〕鄭伯乞レ盟、乞レ盟者何、處二其所一而請レ與也。❷盟のとき神に告げること。〔左氏、僖、二十八〕昭乞二盟于爾大神一、以誘二天衷一。
【乞免】74 キツメン 免官を願ふ。〔宋史、選擧志二〕開寶九年、濮州以二孝悌一薦レ名者三百七十八人、帝駭二其多一、召對二講武殿一云云、帝紿曰、是宜レ隸二兵籍一、皆號呼乞レ免、乃悉罷去。
【乞與】75 キヨ あたへる。〔李白、少年行〕好鞍好馬乞二與人一、十千五千旋沽レ酒。
【乞糧】76 キツリヤウ 食糧を乞ふこと。〔左氏、哀、十三〕吳申叔儀、乞二糧于公孫有山氏一。
【乞力】77 キツリヨク 複姓。吐蕃の酋長の氏。〔唐書、郭知運傳〕吐蕃將坌達延・乞力徐、寇二渭源一、盜二牧馬一。
〔乞力馬札羅〕78 キリマヌジヤロ 山名。アフリカ東部タンガニイカに在る。Kilima Nujaro の音譯。
【乞鄰】79 キツリン 隣人に乞ふ。〔論語、公冶長〕子曰、孰謂二微生高直一、或乞レ醯焉、乞二諸其鄰一而與レ之。
【乞靈】80 キツレイ 他人の御蔭をかりて己の益を求める。〔左氏、哀、二十四〕寡君欲レ徼二福于周公一、願乞二靈于臧氏一。〔注〕以二臧氏世勝一レ齊、故欲レ乞二其威靈一。〔文心雕龍、辯騷〕不下復乞二靈於長卿一、假中龍於子淵上矣。〔李覯、謁二夫子廟一文〕孰敢舍レ道而來學、黷レ敬而乞レ靈者乎。
【乞連】81 キツレン 複姓。〔西秦錄〕。
【乞憐】82 キツレン 他人の憐みを乞ふ。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕若二俛レ首帖レ耳搖レ尾而乞レ憐者、非二我之志一也。
【乞爲レ奴】83 コヒテドトナル 自ら乞うて奴隸となる。〔陔餘叢考、乞爲レ奴〕哀王孫篇、但道困苦乞爲レ奴、論者謂、極二言流離之苦一、不レ知二亦有レ所レ本、南史、齊建安王子眞、明帝遣下裴叔業就二典籤柯令孫一殺上レ之、子眞走入二床下一、令孫手牽出レ之、叩頭乞レ爲レ奴。
【乞見知】84 ch'i³ chien⁴ chih¹ 返事を下さい。御知らせを乞ふ。書翰文用語。
【乞索兒】85 キツサクジ 乞食。〔海錄碎事、人事部時號雜名門〕乞索兒鄭隱。
【乞如願】86 キツジョグワン 願ひ事のある時に用ひるまじなひの名。元旦に棉で作つた人形を細繩にかけて糞の中に入れるのをいふ。如願は、もと婢の名。〔雲仙雜記〕有二商人一、見二清湖君一、君問レ所レ須、商曰、但乞二如願一、君許レ之、得二一婢一、如願其名也、有レ求、悉能致レ之、後因二元旦一、如願晚起、商人撻レ之、走入二糞壤中一不レ見、今人元旦、以二細繩一懸二棉人一、投二糞掃中一、云二乞如願一。
【乞萬眞】87 キツバンシン 北魏で通事人をいふ。〔稱謂錄、通事、乞萬眞〕南齊書、北魏稱二文書吏一爲二比德眞一、稱二擔衣人一爲二樸大眞一、稱二通事人一爲二乞萬眞一。
【乞養子】88 ch'i² yang³ tzŭ 養子を求めること。
【乞利咥】89 キツリテツ 複姓。天竺の王の姓。〔唐書、西域上、天竺傳〕中天竺王、姓乞利咥氏、亦曰二刹利一。
【乞列迷】90 キツレツメイ 明代の女眞の一部。黑龍口右岸の地。明の成祖の時、奴兒干都司を置き、乞列迷酋を授けて職とせしめた。一に吉里迷・乞列賓・吉列迷に作る。〔開元新志〕。
【乞台薩理】91 チイタイサリ 元の人。阿魯渾薩理の父。諡は通敏。佛氏の學に通じ、業成り、師之に名づけて萬全といふ。至元中、入りて釋教都總統となる。後、官は資德大夫統制使。封は趙國公。
【乞里麻魚】92 キツリマギヨ 魚の名。しび。鮪魚(**12－46126‥1**)の異名。〔本草、鱘魚〕釋名、時珍曰、飮膳正要云、今遼人名二乞里麻魚一。

【也】171

㊀エヤ 〔集韻〕以者切 馬 一せ yeh³
㊁エヤ 〔中華大字典〕羊謝切 禡
㊂イ 〔集韻〕演爾切 紙


小篆 古文

㊀❶**なり**。句の終りにあつて、決定を表はす辭。〔玉篇〕也、所二以窮一レ上成レ文也。〔禮、樂記〕貫革之射息也。〔論語、先進〕未レ入二於室一也。〔漢書、哀帝紀〕非二赦令一也。〔注〕師古曰、也、語終辭也。〔顏氏家訓、書證〕也、是語已、及助レ句之辭。❷**や**。**なる**。句中にあつて語勢を強める助辭。〔經傳釋詞、四〕也、有下在二句中一助レ語者上。〔論語、學而〕孝弟也者、爲レ仁之本與。〔論語、子路〕必也狂狷乎。❸**や**。**下を起す辭**。〔經傳釋詞、四〕也、有下起二下文一者上。〔論語、學而〕夫子至二於是邦一也、必聞二其政一。❹**や**。**呼びかけて指定する辭**。〔經傳釋詞、四〕也、猶レ者也、詩權輿曰、今也每レ食無レ餘、禮記檀弓曰、古也墓而不レ墳。〔論語、先進〕回也、其庶乎。❺**や**。**か**。**疑問の辭**。邪(**11－39319**)・歟(**6－16226**)・乎(**1－131**)に同じ。〔經傳釋詞、四〕也、猶二邪也、歟也、乎也一、易、同人象傳曰、出レ門同人、又誰咎也。〔論語、爲政〕子張問、十世可レ知也。〔孟子、梁惠王上〕寡人之民不レ加レ多、何也。〔漢書、賈誼傳〕身死二人手一、爲二天下笑一、何也。❻**や**。**か**。**反語の辭**。邪(**11－39319**)・歟(**6－16226**)・乎(**1－131**)に同じ。〔禮、曲禮上〕奈何去二社稷一也。〔論語、顏淵〕君子何患三乎無二兄弟一也。❼**かな**。**や**。**感歎の意を表はす辭**。〔左氏、成、二〕惜也、不レ如三多與二之邑一。〔史記、春申君傳〕何智之明也。❽**耳**ミノ**の意に用ひる**。〔經傳釋詞、四〕也、猶レ耳也、論語先進篇曰、由也升レ堂矣、未レ入二於室一也、馬融注曰、升二我堂一矣、未レ入二於室一耳。❾**兮の意に用ひる**。〔經傳釋詞、四〕也、猶レ兮也、詩日月曰、乃如レ之人兮、蝃蝀曰、乃如レ之人也、也、文義同。❿**焉の意に用ひる**。〔經傳釋詞、四〕也、猶レ焉也、論語里仁篇曰、見レ賢思レ齊焉、見二不賢一而內自省也、也亦焉也、互文耳。⓫**矣の意に用ひる**。〔經傳釋詞、四〕也、猶レ矣也、論語先進篇曰、從二我於陳蔡一者、皆不レ及レ門也、也字與レ矣同義。⓬**女の陰部**。〔說文〕也、女侌也、从レ乀、象形、乀亦聲。⓭**盥器**。匜(**2－2598**)の古字。〔六書正譌〕也、古匜字、借爲二助辭一、助辭之用既多、故正義爲レ所レ奪、又加レ匚爲レ匜、以別レ之、實一字也。⓮他(**1－370**)に通ず。〔史記、韓非子傳〕彼顯有二所レ出事一、迺自以爲二也故一。〔韓非子、說難〕彼顯有二所レ出事一、而乃以成二他故一。⓯古はせ(**1－179**)に作る。〔說文〕也、せ、秦刻石也字。⓰**姓**。〔奇姓通〕也伯、先懷寧人、洪武初、歲貢任二訓導一。㊁**また**。亦よりは意味が輕い。發語の辭。詩や俗語に用ひる。〔岑參、送二李明府一詩〕嚴灘一點舟中月、萬里烟波也夢レ君。〔岑參、赴二北庭一度レ隴思レ家詩〕西向二輪臺一萬里餘、也知鄕信日應レ疏。㊂**これ**。池(**11－38728**)に同じ。〔字彙〕也、與レ池同。〔集韻〕也、詞也、斯也。

名乘 ナリ。マタ

解字 象形。女の陰部にかたどる。乀(流れる意)に從ひ、音も亦乀に從ふ。一說に、它の字(它)からきたとも、匜の字(水器)と同字であるともいふ。〔說文〕也、女陰也、从レ乀、象形、乀亦聲。〔段注〕从レ乀者流也。〔說文通訓定聲〕也、此字當二卽匜字一、後人加レ匚耳、說文、匜、似二羹魁一、柄中有レ道、則也正本字、象形。

【也矣】1 イヤ 斷定を表はす助辭。〔王守仁、積山書院尊經閣記〕其亦庶五乎知四所三以爲二尊經一也矣。〔讀書作文譜、文中用字法〕也矣、順勢緊煞之辭也。

【也有】2 ㄧㄡˇ　またあり。云云もある。〔詩法詳論、語解、也有〕也有二春愁鶴髮翁一。

【也可】3 ㄎㄜˇ　第一の義。也客。也克。伊克。〔十駕齋養新錄〕凡官名二也可一者、第一之稱、此志有二也可法辭一、職官志有二也可札魯忽赤一、皆取二第一義一。

【也可札魯忽赤】4 ㄧㄎㄚˇㄌㄨˇㄏㄨˋㄔˋ　元代の官名。札魯忽赤は、裁判官・斷事官等と譯せられるが、其の長官を也可札魯忽赤といひ、諸王が之に任ぜられた。譯して大斷事官といふ。也可を見よ。

【也呵】5 yeh³ o¹　かな。感歎の辭。〔西廂記、張君瑞鬧道場雜劇、楔子〕好生傷寒人也呵。

【也好】6 yeh² hao³　云云してもよい。云云も亦よい。

【也客】7 ㄧㄎㄜˋ　也可(3)に同じ。〔華夷譯語〕。

【也客忽哩勒塔】8 ㄧㄎㄜㄏㄨˋㄌㄧˇㄌㄜˋㄊㄚˇ　元代、重要事件を協議した聚會の稱。也客は蒙古語で、大の意。忽哩勒塔は、クリルタイの音譯。クリルタイは聚會の意で、國内の重要事件たる可汗の選擧、外征、法令の頒布等を協議した。〔元朝祕史〕。

【也許】9 yeh² hsü³　云云かも知れぬ。倒詞。

【也窟】10 ㄧㄎㄨˋ　元の憲宗の時の武臣。高麗の高宗の三十九年に、憲宗の命によつて朝鮮に入寇した。〔新元史、二百四十九〕、〔高麗史、二十二、二十三、二十四〕。

【也乎】11 ㄧㄏㄨ　強めの語助詞。〔左氏、襄、十九〕欒懷子曰、其爲二未卒一事於齊一故也乎。〔讀書作文譜、文中用字法〕也乎、順勢虛落之辭。

【也乎哉】12 ㄧㄏㄨㄗㄞ　語助の詞。❶ㄧㄚˇ 反語を表はすに用ひる。〔左氏、襄、二十五〕晏子立二於崔氏之門外一、其人曰、死乎、曰、獨吾君也乎哉、吾死也、曰、行乎、曰、吾罪也乎哉、吾亡也。〔國語、晉語六〕文子曰、我王者也乎哉。❷ㄏㄨㄛˋ 詠歎の語助詞。〔讀書作文譜、文中用字法〕也歟哉、三字連用、極二咏嘆搖曳之一辭。也乎哉、義同。

【也古】13 ㄍㄨˇ　元の太祖成吉思汗の弟なる朮赤哈薩兒の子。兄弟が十四人あつたといはれるが、也古・脫古・也生哥の三人だけが現れ、其の中、也古が父の後を襲ぎ、其の死後、其の子の阿兒哈孫を經て、先の三人の內の也生哥が位を嗣いだ。〔新元史、一百五〕。

【也克】14 ㄧㄎㄜˋ　也可(3)に同じ。

【也哉】15 ㄧㄗㄞ　語助の詞。❶ㄏㄨㄚˋ 強い斷定の語助詞。又、咏歎の辭。也與。〔蘇軾、論二范增一文〕嗚呼、增亦人傑也哉。〔曾鞏、寄二歐陽舍人一書〕況其子孫也哉、況鞏也哉。〔讀書作文譜、文中用字法〕也哉、搖曳咏嘆之辭、其音甚長。❷ㄧㄠˇ 反語を表はすに用ひる。〔論語、陽貨〕吾豈匏瓜也哉、焉能繫而不レ食。〔孟子、告子上〕是豈人之情也哉。

【也是】16 yeh² shih⁴　云云も亦。やはり。

【也是園】17 ㄧㄕˋㄩㄢˊ　園の名。上海市の滬南區に在る。本名は渡鶴樓。一名、南園。明の禮部郎中喬煒が建てたが、後、李心怡の別莊となり、也是園と改め、清の乾隆年間に、又、改めて滿珠宮とした。其の木石は蒼古を以て知られてゐる。〔也是翁〕18 ㄧㄕˋㄨㄥ　清、錢曾(11－40563··137)の號。

【也是園書目】19 ㄧㄕˋㄩㄢˊㄕㄨ　書名。十卷。清、錢曾編。〔玉簡齋叢書、第二集、第十・十一冊〕。

【也就】20 yeh³ chiu⁴　そこで。だから。まあ。云云も。なかなか。ただ。云云に過ぎぬ。もう。すぐ。〔紅樓夢、一回〕也就丟過不在心上。

【也就是】21 yeh³ chiu⁴ shih⁴　ほんの。わづかに。ただ。云云のみ。云云も卽ち。

【也者】22 ㄧㄓㄜˇ　といふものは。なるものは。〔論語、學而〕孝弟也者、其爲レ仁之本與。〔讀書作文譜、文中用字法〕也者、二字連用、必有二後句接應而解一釋之一、如二中也者、和也者、孝弟也者一、是也。

【也先】23 ㄧㄒㄧㄢ　明代、瓦剌の丞相脫懽の子。太師淮王といふ。明の英宗の正統中、大擧して入寇し、英宗が親征して土木に至つた時、大いに明師を敗り、英宗を虜にした。景泰中、英宗を還し、其の主脫脫不花可汗を殺し、自立して可汗となつた。後、酒食に荒み、阿剌知院に殺された。〔明史、三百二十八〕。

【也先均】24 ㄧㄒㄧㄢㄐㄩㄣ　元の人。也先忽都を見よ。

【也先忽都】25 ㄧㄒㄧㄢㄏㄨˋㄉㄨ　元の人。太平の子。名は均。字は公秉。官は翰林侍讀學士。撒思監が再び宰相となり、大獄を構成した時、杖罪を受けて死す。詩集がある。〔元史、二百一〕。

【也先不花】26 ㄧㄒㄧㄢㄅㄨˋㄏㄨㄚ　❶元の人。蒙古の怯烈氏。阿里不哥の長子。謚は文貞。裕宗の時、燕王に封ぜられ、世祖の時、上柱國榮祿大夫・雲南諸路行中書省平章政事となる。判蠻を討ち平げて邊境を平靜ならしめ、後には黃河の治水工事にも與かり、大德九年に湖廣行省左丞相となる。至大二年卒す。〔元史、一百三十四〕、〔新元史、一百三十三〕。❷察合台汗國の第十四代の王。都哇汗の第二子。再三東方の元の疆域を侵したが、將軍トカジ・チヤングル等のために擊破せられた。また南方伊兒汗國にも入つたが、元が東境を襲つた爲、伊兒汗國のコラサン地方も抛棄した。❸東察合台汗歹思の子。西曆一四二八年、歹思の歿後、其の領土が二分してから、其の東部モグリスタンの人民に推戴せられて其の地を領した。東方の明には屢〻使を遣して和平を保つたが、北方の瓦剌の爲、常に壓迫を受けてゐた。〔明史、三百三十二〕。

【也速】27 ㄧㄙㄨˋ　元の人。蒙古族。戰功を以て中書右丞相となり、明の兵が山東を取るや、部將哈剌章等と共に之を莫州に禦いで敗れた。〔元史、一百四十二〕、〔新元史、二百十五〕。

【也速該】28 ㄧㄙㄨˋㄍㄞ　元の烈祖。成吉斯汗の父の本名。謚は神元帝。塔塔兒部人に毒殺せらる。〔元史、一〕。

【也速解兒】29 ㄧㄙㄨˋㄐㄧㄝˇㄦˊ　元の康里の人。百丈山鸛子灘を攻めて功があり、爲に江南が平定した。懷遠大將軍となり、江淮の戰艦數百艘を領し、日本に東征して敗れた。〔元史、一百三十三〕。

【也速答兒】30 ㄧㄙㄨˋㄉㄚˊㄦˊ　元の人。智勇があり、嘗て咎萬壽の兵を破る。武宗の時、行中書省平章政事となり、のち左丞相を加へらる。〔元史、一百二十九〕、〔新元史、一百六十九〕。

【也速迭兒】31 ㄧㄙㄨˋㄉㄧㄝˊㄦˊ　元の世祖の弟の阿里不哥の遠孫といふ。明の洪武年間、北元には脫古思帖木兒が年號を天元と稱して、衰微せる元朝を守らうとしてゐたが、遂に捕魚兒海に於て明軍の爲に破られ、其の本據和林に歸らうとした。此の時、也速迭兒は斡亦喇惕の衆と合して土剌河畔に之を弑殺した。其の後の消息は明瞭を缺くが、東西蒙古は一應統一したものと思はれる。〔新元史、一百六十〕。

【也速蒙哥】32 ㄧㄙㄨˋㄇㄥˊㄍㄜ　察合台の第三子。察合台の死後、嫡孫哈剌旭烈が位を嗣いだが、定宗貴由が立つに及んで、哈剌旭烈を廢し、也速蒙哥をして代らしめた。此の時、宰相コージヤ・バハウツジンが居て內治の功をあげた。のち憲宗によつて位を廢せられ、哈剌旭烈の皇后オルガナに依り死刑に處せられた。〔新元史、一百七〕。

【也倒】33 yeh³ tao³　なほ。まだ。やはり。なにも。

【也知】34 ㄧㄓ　知ること。也は發語。〔岑參、赴二北庭一度二隴思一家詩〕西向二輪臺一萬里餘、也知鄉信日應レ疎。

【也癡】35 ㄧㄔ　清、溫一貞(7－17968··253)の號。

【也得】36 ㄧㄉㄜˊ　それもまたよい。〔通俗編、語辭、也得〕唐國史補、陸贄公爲二刺史一、有二家僮一、遇二參軍一不レ下レ馬、參軍鞭二之一曰、卑吏犯レ公、請去、贄公從容謂曰、奴見二官人一不レ下レ馬、打也得、不レ打也得、官人打了、去也得、不レ去也得。

【也波】37 yeh³ po¹　詞曲に用ひる一種の助字。聲を長く引き響かせるもの。

【也罷】38 ㄧㄅㄚˋ　まあそれはそれまでとして。かうでもしよう。〔燕子箋、開試〕也罷、到二坐這邊席號一。

【也夫】39 ㄧㄈㄨ　詠歎の辭。〔左氏、僖、二十四〕子臧之服、不レ稱也夫。〔讀書作文譜、文中用字法〕也夫、順落而帶二咏嘆一之辭。

【也門】40 ㄧㄇㄣˊ　地名。アラビヤ西南部の紅海沿岸地方。今、王國となる。Yemen の音譯。

【也耶】41 ㄧㄧㄝˊ　詠歎の語助。〔韓愈、祭二十二郎一文〕汝其知也耶、其不レ知也耶。〔讀書作文譜、文中用字法〕也耶、音長而音婉、文之拖遢處用レ之、情之淒感處、亦用レ之。

【也與】42 ㄧㄩˇ　也哉(15)の❶に同じ。〔論語、衞靈公〕無爲而治者、其舜也與。

【也與哉】43 ㄧㄩˇㄗㄞ　也乎哉(12)に同じ。❶反語を表はす。〔禮、檀弓下〕曾子曰、我弔也與哉。❷詠歎を表はす。

【也歟哉】44 ㄧㄩˊㄗㄞ　也與哉に同じ。

【也生哥】45 ㄧㄕㄥㄍㄜ　也古の兄弟。也古(13)を見よ。

【也迷里】46 ㄧㄇㄧˊㄌㄧˇ　元の寧闐台汗國の首都。今の新疆省西北隅の額敏、又は其の附近と推定せられ

てゐる。嘗て海都も此處に住んだ。附近には額枚爾河が流れてゐる。

【也列哥】47 ヤレツカ 高麗末の武官金義の本名。胡人。恭愍王の末年、密直副使に拜せられ、同知司事に陞る。〔高麗史、一百三十一〕

【也魯齋】48 ヤロサイ 林恕の號。林鵞峯(6－14551・・277)を見よ。

【也罕的斤】49 イエカンテキン 元の人。匣剌魯人。千戶となり、至元中、宋兵が成都に入つた時、兵四百を率ゐて拒ぎ戰ふこと四日、遂に之を擊退し、更に之を追擊して眉州に大破す。後、四川行省樞密副史となる。〔元史、一百三十三〕

【也居山房】50 ヤキヨサンバウ 清、魏承柷(12－45872・・232)の室名。

【也末可知】51 yeh³ wei⁴ k'ê³ chih¹ 云云かもわからない。云云も知り得ない。

【也蒲甘卜】52 イエプカンボ 元の人。唐兀氏。衆を率ゐて太祖に歸し、蒙古軍に屬し、木華黎に從つて出征した。〔元史、一百二十三〕

【也里可溫】53 イエリコーエン 元代の天主教徒の稱。元代には、東西の交通が頻繁となり、爲に各海港及び大都、或は和林に宣教師並に信者が相當あつて、教會は十字寺と稱せられた。憲宗の時には回教・佛教と對等の對遇を受け、軍役及び徭役から除かれ、租稅を免ぜられた。世祖の時、崇福司を置いて、也里可溫關係の事務を扱はせた。〔元史、世祖紀二〕中統三年、括木速蠻・畏吾兒・也里可溫・答失蠻等戶丁爲ㇾ兵。〔經世大典、馬政篇〕江淮省言、江南和尙、也里可溫先生、出皆乘ㇾ轎。

【也兒的石河】54 イルチシュガハ 西比利亞西部を北流する大河額爾齊斯河の別名。額兒的失・葉兒的石・也里的失等とも書く。〔元史、太祖紀〕

【也孫鐵木耳】55 イエスンテムール 元の泰定帝。廟號は泰定。顯宗甘麻剌の長子。初、位を嗣いで晉王となり、北邊を鎭撫した。鐵失等が英宗を弑した時、遂に龍居河に迎立せられ、尋いで鐵失等を誅し、圖帖睦爾を瓊州に召す。位に在つては唯成法を守り、世に治平と稱す。在位五年にして崩ず。年三十六。年號は泰定・致和。〔元史、二十九・三十〕。

【也咥小可汗】56 ヤテツセウカカン 隋・唐の頃、アルタイ山の西南麓に據つた薛延陀の酋長乙失鉢が、自ら稱した王號。〔隋書、八十四〕・〔舊唐書、一百九十九下〕。

三畫

【乜】172 ヤ ㊀也(1－171)に同じ。〔正字通〕也、小篆作ㇾ乜、別作ㇾ乜。㊁注音符號の韻符の一。單韻母。舌の前部を半升させ、口を半開にし、脣を平かにして、氣息を自由に外洩させると此の音になる。エ。e。

【𠃝】173 シウ 州(4－8678)の古字。〔集韻〕州、古作ㇾ𠃝。

【𠃟】174 キウ ク 〔篇海〕居幽切 尤 目のめぐること。〔篇海〕𠃟、目繚也。

【乢】175 ガイ 蓋(9－31652)に同じ。〔海篇〕乢、同ㇾ蓋。

【乣】176 キウ 乣軍は、遼・金時代の宮殿を守る軍隊の名稱。〔字彙補〕金有₂乣軍₁、疑卽糺字。〔金史、兵志〕東北路部族乣軍、曰₂迭剌部₁、曰₂唐古部₁。

四畫

【乇乚】177 イ 〔集韻〕余支切 支 ㄧ í² 種族の名。廣東地方に住む猺族の屬。〔集韻〕乇乚、猗也、單于名。〔類篇〕乇乚、粵中猺種。

五畫

【乥】178 レイ 禮(8－24844)の古字。〔集韻〕禮、古作ㇾ乥。

【乤】179 ヤ 也(1－171)の古字。〔說文〕也、秦刻石也字。〔類篇〕乤、古文也字。〔亢倉子、兵道〕人之悅乤。

【乧】180 マン 〔俗〕萬字、卍の意に用ひる。〔字彙補〕乧、萬字、如來胷有₂吉祥文₁、卽此。

【乨】181 シ 始(3－6166)の古字。〔集韻〕始、古作ㇾ乨。

【乩】182 ケイ 〔集韻〕堅奚切 齊 ㄐㄧ chi¹ ㊀うらなふ。盆の上に盛つた砂に錐で字を書いて吉凶禍福を占ふこと。卟(2－2779)に同じ。〔集韻〕卟、說文、卜以問ㇾ疑也、云云、或作ㇾ乩。㊁かんがへる。稽(8－25218)・卟(2－2779)に同じ。〔集韻〕卟、一曰、考也、或作ㇾ乩、通作ㇾ稽。〔楊備、古書釋文〕稽、古作ㇾ乩。

【乩仙】1 chi¹ hsien¹ 乩の宣託をする神樣。

【乩壇】2 chi¹ t'an² 神おろしするに用ひる器を具へる壇。

【乩筆】3 ケイヒツ 卜に用ひる錐。又、其の錐で書いた文字。〔山西通志〕太原府純陽宮、在₂貢院東天衢街₁、明萬曆年建、凡起造規畫、皆仙乩布置、內八卦樓・降筆樓・亭洞幽雅、俱非₂人思意所₁ㇾ及、卽對額皆乩筆所ㇾ題、碑記乃李太白乩筆也。

【巟】183 クヮウ 荒(9－30953)の古字。〔字彙補〕巟、古文荒字。

【乬】184 キヨ 擧(5－12863)の古字。〔字彙補〕乬、古文擧字。

【乪】185 ダウ ナウ 〔中華大字典〕奴當切 陽 くま。ながれの曲折したところ。〔中華大字典〕乪、粵俗稱₂水之曲折₁爲ㇾ乪、見₂觚賸₁。

【飞】186 ヒ 飛(12－44000)の略字。

六畫

【乱】187 ラン 亂(1－214)の俗字。〔正字通〕乱、俗亂字。

【乲】188 ケツ ゲチ 〔集韻〕奚結切 屑 乲毒は、國の名。〔集韻〕乲毒、國名、身毒也。

七畫

【乴】189 キヨ 義未詳。〔海篇〕乴、音虛。

【乳】190 ジュ ニュ 〔集韻〕蘂主切 麌 ㄖㄨ ju³ 慣ニュウ 小篆 ㊀ちち。ちぶさ。〔白虎通、聖人〕文王四乳、是謂₂至仁₁。〔唐書、韓思彥傳〕兄弟共ㇾ乳而生。㊁ちちしる。ちしる。〔增韻〕乳、湩也。〔魏書、王琚傳〕常

飲二牛乳一、色如二處子一。㊂ちちを飲ます。〔左氏、宣、四〕虎乳レ之、邳子田、見レ之懼而歸。㊃育てやしなふ。いつくしむ。〔一切經音義、二〕乳、字也。〔字彙〕乳、育也。〔後漢書、李固傳〕豈無二阿乳之恩一。〔許愼、說文解字敍〕孳乳而浸多。㊄子を生むこと。又、鳥が卵を生むこと。〔說文〕乳、人及鳥生レ子曰レ乳、獸曰レ產、从二孚乙一、乙者乙鳥、明堂月令、乙鳥至之日、祠二于高禖一曰請レ子、故乳从レ乙、請レ子必以二乙至之日一者、乙春分來、秋分去、開生之候鳥、帝少昊司レ分之官也。〔廣雅、釋詁一〕乳、生也。〔呂覽、季冬紀〕雞乳。〔注〕乳、卵也。〔史記、扁鵲傳〕懷レ子不レ乳。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕其十一月乳。〔注〕師古曰、乳、產也。㊅胎生することをいふ。〔曹昭、東征賦、諒不二登レ巢而琢レ蠡兮、注〕善曰、尸子曰、卵生曰レ琢、胎生曰レ乳。㊆器具などにつく乳房形のもの。〔周禮、考工記、鳧氏、鐘帶謂二之篆一篆閒謂二之枚一、注〕鄭司農云、枚、鐘乳也。〔溪蠻叢笑〕麻陽有二銅鼓一、江水中掘得、如二大鐘一、長第三十六乳、重百餘觔。㊇洞穴中の鑛物の液。〔中華大字典〕乳、洞穴鑛物之液、滴下凝成二種種形狀一者、曰二石鍾乳一。㊈やはらか。又、やはらぐ。〔廣韻〕乳、柔也。㊉藥物をすりくだくこと。乳鉢(86)を見よ。

解字 會意。孚と乙との合字。孚は、爪と子の合字、鳥が爪(あし)で子を孚化すること。乙は玄鳥。玄鳥の來る日に高禖に祈つて子を授かるの意。

【乳媼】1 ニュウアウ うば。めのと。乳母。乳嫗。〔唐書、元德秀傳〕兄子、襁褓喪レ親、無三資得二乳媼一、德秀自乳レ之。〔宋史、吳元扆傳〕有二乳媼一。

【乳醫】2 ニュウイ 產婆をいふ。又、產科醫の一名。〔漢書、霍光傳〕私使下乳醫淳于衍、行二毒藥一殺中許后上。〔注〕乳醫、視二產乳之疾一者。〔稱謂錄、三姑六婆、乳醫〕癸辛雜識、全霖卿之妻史氏誕レ子、先出二雙足一、乳醫推上レ之、案、曰二推上一之、其亦穩婆一流可レ知。

【乳育】3 ニュウイク そだてる。やしなふ。〔和漢三才圖會、林禽類、島鵯〕近年來二於異國一、養二于樊中一、能乳育、其卵孚初七日、人取二小蜘蛛一爲レ餌。

【乳嫗】4 ニュウウ うば。乳媼(1)に同じ。〔古今詩話〕頭童齒豁、敢辭二乳嫗之譏一。

【乳妖】5 ニュウエウ 茶の名人。茶の泡を乳花といふのに因る。乳花(26)を見よ。〔淸異錄、茗荈、乳妖〕吳僧文了、善レ烹レ茶、游二荊南一、高保勉白二于季興一、延置二紫雲庵一、日試二其藝一、保勉父子、呼爲二湯神一、奏授二華定水大師上人一、目曰二乳妖一。

【乳液】6 ニュウエキ 植物體の乳管及び乳器中に含有する白色の液。

【乳炎】7 ju³ yen² 乳の病氣。

【乳燕】8 ニュウエン ㊀燕の雛。㊁子持ちの燕。〔鮑照、詠二採桑一詩〕乳燕逐二草蟲一、巢蜂拾二花萼一。〔白居易、秦吉了詩〕鳶捎二乳燕一一窠覆。

【乳燕飛】9 ニュウエンヒ 詞調の名。舊名は賀新郞。宋の蘇軾の此の調の詞の中に、乳燕飛二華屋一の句があつたので、以後、乳燕飛と改稱した。

【乳燕雙雙】10 ニュウエンサウサウ 雌雄のむつまじいこと。〔桃花扇、訪翠〕誰家乳燕雙雙。

【乳下】11 ニュウカ 乳の下。〔史記、倉公傳〕結二絕乳下陽明一。〔梅堯臣、七月十六日赴二庾直一有レ懷詩〕獨念家中婦、乳下兩小兒。

【乳蛾】12 ニュウガ 病名。扁桃腺炎。單乳蛾と雙乳蛾とがある。喉蛾。〔危亦林得效方、乳蛾〕單蛾風者、其形圓如二小筋頭一大、生二於咽喉關上一、或左或右一、關下難レ治、雙蛾風者、有二兩枚一、在二喉關兩邊一、亦圓如二小筋頭一大、關下難レ治。

【乳香】13 ニュウカウ 木の名。㊀香木の名。かんらん科に屬す。樹脂は香料とし、又藥用に供す。〔本草、薰陸香乳香〕集解、時珍曰、乳香、今人多以二楓香一雜レ之、惟燒レ之可レ辨、南番諸國皆有、宋史言、乳香有二一十三等一、按二葉廷珪香譜一云、乳香、一名薰陸香、出二大食國南一、其樹類レ松、以レ斧斫レ樹、脂溢二於外一、結而成レ香、聚而成レ塊、上品爲二揀香一、圓大如二乳頭一透明、俗呼二滴乳一、又曰二明乳一。㊁うるし科の常綠樹。葉は羽狀複葉。莖中から採る脂は假漆として用ひる。

【乳膠】14 ニュウカウ 膠質の物質の溶液。

【乳糕】15 ju³ kao¹ 氷砂糖。

【乳柑】16 ニュウカン 果實の名。蜜柑の一種。溫州蜜柑。〔本草、柑〕集解、頌曰、乳柑、出二西戎一者佳。〔太眞外傳〕開元末、江陵進二乳柑橘一。〔廣羣芳譜〕乳柑、皮可レ入レ藥、出二溫州一、味似二乳酪一、故名。〔三才圖會、草木十、乳柑子〕生二嶺南及江南一、其樹若二橘樹一、其形似レ橘而圓大、皮色、生青熟黃、俗呼二金柑一、其小而長者類レ妳、俗呼二牛妳柑一、乳柑、味甘、大寒主利二腸胃中熱毒一、止二暴渴一、利二小便一、又有二沙柑・靑柑・山柑一、體性類二山柑一、皮療二咽喉痛一、又一種杓橘、狀如二小瓜一、皮如レ橙、肉其厚切如二蘿蔔一、雖二味短一而香氣大勝、柑橘之類、性溫宜レ人、閩廣・江西、皆有レ之、謂二之香櫞子一。

乳柑(三才圖會)

【乳巖】17 ニュウガン 乳癌。乳の腫物。〔瘡瘍全書、乳病證治〕乳巖、乃陰極陽衰、血無レ陽、安能散、致三血滲二於心經一、卽生二此疾一、若未レ破可レ療、已破卽難レ治、捻レ之、內如二山巖一、故名レ之。〔醫按、癰巖治法〕若一有レ此、宜三戒二七情一、遠二厚味一、解二鬱結一、更以下養二血氣一之藥上治レ之、庶レ可レ保レ全、否則不レ治、亦有二二三載或五六載、方潰陷下者一、皆曰二乳巖一、蓋其形巖凸、似二巖穴一也。

【乳氣】18 ニュウキ ㊀子供氣。幼な氣。稚氣。孩氣。〔白居易、阿崔詩〕乳氣初離レ殼、啼聲漸變レ雛。㊁乳汁のやうなもの。〔范成大、白雲泉詩〕玉醴甘渾乳氣浮。

【乳牛】19 ニュウギウ 牛乳をしぼり取るために飼ふ牛。〔法苑珠林〕乳牛及犢牛。

【乳牛院】20 ニュウギウヰン 古、典藥寮に屬して、牛乳の事を掌つた役所。〔拾芥抄、中末〕。

【乳魚】21 ニュウギョ 小ざかな。〔梅堯臣、詩〕乳魚可二以饌一、菖蒲可二以菹一。

【乳金】22 ju³ chin¹ 液狀の金。金を溶かした液。塗物に用ひる。

【乳狗】23 ニュウク 子持ちの狗。乳犬。〔荀子、榮辱〕乳狗不レ遠レ遊。〔淮南子、說林訓〕乳狗之噬レ虎也。

【乳狗搏レ人】24 ニュウクヒトヲウツ かよわいものが子の愛の爲に強くなること。乳狗嚙レ虎。乳狗を見よ。〔列女傳、節義、魏節乳母傳〕乳狗搏レ人。〔資治通鑑、周紀〕(威烈王、二十三年)譬如二乳狗搏一レ人、人得而制レ之。〔注〕乳、育也、乳狗、育レ子之狗也。

【乳駒】25 ニュウク 乳放れしない仔馬。〔唐書、百官志三〕乳駒・乳犢、十給二一丁一。

【乳花】26 ニュウクワ 茶の泡。〔茶寮記〕雲腳漸垂、乳花浮レ面。〔事物異名錄、飮食部、茶〕茶經謂二之雲腳・乳花一。

【乳光】27 ニュウクワウ 鑛物の內部から發する乳白色又は眞珠色の反射光線。蛋白石などに見られる。

【乳形】28 チチガタ 婦人の乳首のやうな形。〔太神宮式〕四角立二乳形一、著二五色組一、長一丈。

【乳源】29 ニュウゲン 縣名。宋、置く。今の廣東省乳源縣。〔淸史稿、地理志〕廣東、韶州府、縣六、乳源。

【乳戶】30 ニュウコ 中古、典藥院に附屬して、乳牛の飼養、及び牛乳の搾取等に從事した部民。

【乳虎】31 ニュウコ 子持ちの虎。恐しいものの形容。〔莊子、盜跖〕盜跖大怒、兩展二其足一、案レ劍瞋レ目、聲如二乳虎一。〔淮南子、說林訓〕若下躡二薄氷一、蛟在中其下上、若三入レ林而遇二乳虎一。〔漢書、義縱傳〕寧見二乳虎一、無レ直二寧成之怒一。〔注〕師古曰、猛獸產乳、養二護其子一、則搏噬過レ常、故以喩也。

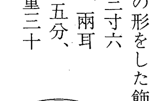
【乳草】32 チチグサ 草の名。けしあざみの異名。

【乳酸】33 ニュウサン 澱粉・砂糖などから醱酵して生ずる一種の酸。

【乳山】34 ニュウザン ㊀山名。㋑山東省海陽縣の東北の港口、乳山河の海に入る所。㋺湖北省黃安縣の西。仙居崖があり、抱朴子が仙丹を煉つた處と傳へる。㊁河の名。山東省海陽縣の東北。上流を玉林河といひ、源は牟平縣の南分水嶺から出る。㊂寨の名。山東省海陽縣の東北に在る。〔宋史、地理志一〕牟平緊有二乳山閻家口二寨一。

【乳子】35 ニュウシ 乳のみ子。〔論衡、四諱〕諱二婦人

乳子一、以爲二不吉一。
【乳脂】36 ニュウシ 牛酪。バター。
〔乳脂酸〕37 ニュウシサン 酪酸(11—39847‥1)に同じ。
【乳視】38 ニュウシ 養ひ育てる。〔福惠全書、庶政部、育二養嬰兒一〕官爲倩二貧婦一、就レ局乳視。
【乳齒】39 ニュウシ ちのみば。拔けかはらない以前の齒。暫齒。〔齊民要術、養牛馬驢騾〕相馬法、一歲、上下生二乳齒一各二。
【乳兒】40 ニュウジ ちのみご。みどりご。赤子。嬰兒。〔千金方、初生出腹論〕凡乳兒不レ欲二太飽一。〔首楞嚴經〕如下失二乳兒一忽遇中慈母上。
【乳牸】41 ニュウジ 子もちの牝牛。〔宣和畫譜〕乳牸放牧。
【乳臭】42 ニュウシウ ちちくさい。年少で經驗に乏しく、無知なものを嘲つていふ。〔漢書、高祖紀上〕漢王以二韓信一爲二左丞相一、與二曹參・灌嬰一倶擊レ魏、食其還、漢王問、魏大將誰也、對曰、柏直、王曰、是口尚乳臭、不レ能レ當二韓信一。〔注〕師古曰、乳臭、言二其幼少一。〔故事成語考、身體〕口尚乳臭、謂二世人年少無一レ知。
〔乳臭兒〕43 ニュウシウジ 乳臭い子供。乳臭を見よ。〔白居易、悲哉行〕沉沉朱門宅、中有二乳臭兒一、狀貌如二婦人一、光明膏粱肌。
【乳疾】44 ニュウシツ 乳の病。〔醫學入門、總論〕治二婦人乳疾一。
【乳汁】45 ニュウジフ ちちしる。〔南史、朱修之傳〕忽一旦乳汁驚出、母號慟、告二家人一曰、我年老、非三復有二乳汁一、時今如レ此、兒必沒矣。
〔乳汁導管〕46 ニュウジフダウクワン 植物の導管の一。乳汁狀の液の充ちてゐる導管。菊科の植物などにある。乳管。
【乳者】47 ニュウシャ うば。乳人。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕回三顧乳者抱レ汝而立二於旁一、因指而歎。
【乳牀】48 ニュウシャウ 石筍(8—24024‥412)の異名。〔本草、殷孼〕附方、石牀、一名乳牀、一名逆石、一名石筍、生二鍾乳洞中一、采無レ時、鍾乳水滴下、凝積生如二筍狀一、久漸與二上乳一相接爲レ柱也。
【乳漿】49 ニュウシャウ 乳汁中に含む成分。蛋白質と脂肪分とを除いたもの。
【乳雀】50 ニュウジャク ㊀子もちの雀。〔韓愈、食二曲河驛一詩〕羣鳥巢二庭樹一、乳雀飛二簷楹一。㊁子雀。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕公嘗見二屋上乳雀一、命二近臣一往捕レ之。
【乳鵲】51 ニュウジャク 雛を養ふかささぎ。〔庾信、小園賦〕藏狸竝レ窟、乳鵲重レ巢。
【乳首】52 ニュウシュ 乳房のかしら。ちくび。乳頭。
【乳酒】53 ニュウシュ 牛乳から製した酒。白酒。練り酒。〔杜甫、謝三嚴中丞送二青城山道士乳酒一瓶一詩〕山瓶乳酒下二青雲一、氣味濃香幸見レ分。
【乳樹】54 ニュウジュ 樹の名。桑科の常綠樹。高さ四五丈。葉は廣披針形。果實の內に乳狀の液を含有し、食用に供せられる。南米の原產。牛樹。
【乳粥】55 ニュウシュク 牛乳を煮て固めたもの。乳酪。〔楊允孚、灤京雜詠詩〕夜宿二氈房一月滿レ衣、晨餐二乳粥一椀生レ肥。
【乳熟】56 ニュウジュク 十分に熟さぬこと。青熟。
【乳腫】57 ニュウショウ 乳房の腫れる病。〔產寶〕婦人乳腫、馬尿塗レ之、立愈。
【乳人】58 ニュウジン うば。めのと。乳母。〔宋書、劉懷肅傳〕無レ由レ得二乳人一。〔南齊書、宣孝陳皇后傳〕太祖年二歲、乳人乏レ乳、后夢下人以二兩甌麻粥一與上レ之、覺而乳大出。
【乳水】59 ニュウスイ 鍾乳洞から流れる水。〔梅堯臣、希深惠レ書言下與二師魯等一遊上嵩因誦而韻レ之詩〕仙屋何廣袤、乳水出二其間一。
【乳雛】60 ニュウスウ 鳥が子を育てること。〔白居易、晚鶯詩〕百鳥乳雛畢、秋鶯獨蹉跎。
【乳齊】61 ニュウセイ 蟲の名。きりうじ。蠐螬(10—33732‥1)の異名。〔本草、蠐螬〕釋名、乳齊、集解、時珍曰、其狀如レ蠶而大、身短節促、足長有レ毛、生二樹根及糞土中一者、外黃內黑、生二舊茅屋上一者、外白內黯、皆濕熱之氣、熏蒸而化。
【乳石】62 ニュウセキ 鍾乳石(11—40672‥95)の一名。〔本草、石鍾乳〕集解、思邈曰、乳石必須二土地淸白、光潤羅紋、鳥翮蟬翼一。
【乳雪】63 ニュウセツ 清、毛升芳(6—16772‥291)の號。
【乳泉】64 ニュウセン 鍾乳洞の上から滴る水。〔拾遺錄〕南劍州天階山乳泉、服レ之登二山嶺一如レ飛。
【乳腺】65 ニュウセン 乳房の乳汁を分泌する腺。
〔乳腺炎〕66 ニュウセンエン 病名。乳腺の炎症性疾患。乳房が腫れて赤くなり、疼痛がある。
【乳姐】67 ニュウソ うば。乳母(97)に同じ。〔海錄碎事、人事、乳母〕屬二之乳姐一、傳以二潼姆一。
【乳糖】68 ニュウタウ ㊀乳で製した食物。〔西湖志餘〕淳熙三年、明堂大禮、奏二請齊宿北內一、送二天花摩姑・蜜煎山藥・棗兒乳糖等物一。㊁乳汁の主成分をなすもの。牛乳から蛋白質・脂肪を去つた殘液を蒸發して得る無色の結晶又は粉末。
【乳餳】69 ニュウタウ 乳を入れた水あめ。〔資暇錄〕余弱冠前、步二月洛之綏福里一、方見二夜作一、問レ之云二乳餳一、時新開二市肆一、不二三數月一、滿二洛陽一矣。
【乳團】70 ニュウダン 乳で煉り固めた一種の食品。〔本草、乳腐〕集解、又造二乳團一法、用二酪五升一、煎滾入二冷漿水半升一、必自成レ塊、未レ成、更入二漿一盞一、至レ成、以レ帛包搦、如二乳餅樣一收レ之。
【乳蟲】71 ニュウチュウ 蟲の名。にしやどつち。にしどつち。蠁蟲。乳田(75)を見よ。〔本草、乳蟲〕釋名、土蛹、集解、時珍曰、按、白獺髓云、廣中韶陽屬邑鄉中有二乳田一、其法掘レ地成レ窖、以二粳米粉一鋪二入窖中一、蓋レ之以レ草、壅レ之以レ糞、候二雨過氣蒸一、則發開、而米粉皆化成レ蛹、如二蠐螬狀一、取レ蛹作レ汁和二粳粉一蒸成レ乳、食味甚甘美也。
【乳娣】72 ニュウテイ まだ乳ばなれせぬ幼い妹。〔沈亞之、乞巧文〕短蒲狹涘兮曲溜溢、鴳鶼鵷雛兮引二乳娣一戲。
【乳彘】73 ニュウテイ 子豚。又、子持ちの牝豚。乳彘不レ觸レ虎を見よ。
〔乳彘不レ觸レ虎〕73′ ニュウテイトラニフレズ 子豚は親を思ふから、虎に觸れるやうな危險を犯さない。一本には不の字が無い。その場合には乳狗搏レ人(24)と同義。〔荀子、榮辱〕乳彘不レ觸レ虎、乳狗不二遠遊一、不レ忘二其親一也。
【乳鼎】74 ニュウテイ 乳の形をした飾のある鼎。〔西淸續鑑、周乳鼎〕高三寸六分、深二寸七分、兩耳在レ旁、口徑六寸五分、腹圍二尺五分、重三十二兩。


周乳鼎(西淸續鑑)

【乳田】75 ニュウデン 米粉で乳狀のものを作る處。土地に穴を掘つて米粉を入れておき、そこに生ずる乳蟲の蛹をしぼつて汁を取り、それに米粉を加へ、蒸して乳とする。乳蟲(71)を見よ。
【乳湩】76 ニュウトウ ちち。〔列子、力命〕胎氣不レ足、乳湩有レ餘、病非二一朝一夕之故一、其所二由來一漸矣。
【乳頭】77 ニュウトウ ちくび。ちぶさのあたま。又、ちくびの形をした小突起。〔瘡瘍全書、乳病證治〕乳頭屬二厥陰經一。
【乳竇】78 ニュウトウ 鍾乳洞の穴。〔江淹、雜體、謝臨川遊山詩〕乳竇既滴瀝、丹井復寥泬。〔注〕向曰、乳、鍾乳也、竇、穴也。
【乳洞】79 ニュウドウ ㊀鍾乳洞。〔陸游、詩〕山深乳洞藥爐冷。㊁洞の名。浙江省淳安縣に在る。〔嚴州府志〕乳洞、在二縣南八十里一、洞門廣三丈許、中有二異石一、如二橋梁・仙掌・龍鳥・僧佛之狀一、又有二石龜一、在二懸崖中一、上有レ泉滴瀝、歲旱、緣レ梯取レ水、禱レ之則雨。
【乳犢】80 ニュウトク 乳を飲む小牛。〔唐書、百官志三〕乳駒・乳犢、十給二一丁一。〔遼史、方技、耶律乙不哥傳〕一人負二乳犢一、引二牸牛一而過。
【乳難】81 ニュウナン 乳汁が十分に出ないこと。
【乳馬】82 ニュウバ ㊀馬を生む。〔參同契〕燕雀不レ生レ鳳、狐兔不レ乳レ馬。㊁乳をとる馬。又、官名。乳馬を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕武帝太初元年、更名二家馬一爲二挏馬一。〔注〕應劭曰、主二乳馬一、取二其汁一挏二治之一、味酢可レ飲、因以名レ官也。
【乳抱】83 ニュウハウ 乳を含ませだく。そだてる。〔陸龜蒙、南溪漁父詩〕譬如二拳雞鶩一、豈不レ容二乳抱一。〔蘇軾、過二雲龍山人張天驥一詩〕雞狗相乳抱。
【乳房】84 ニュウバウ ちぶさ。〔瘡瘍全書、乳病證治〕乳房屬二陽明經一。
〔乳房火山〕85 チチブサクワザン 乳房の形をした側火山。
【乳鉢】86 ニュウバチ やげんの一種。くすりを煉り、或は粉にするに用ひる鉢。〔通俗編、器用、乳鉢〕宣和書譜、有下虞世南行書借二乳鉢一帖上。
【乳婢】87 ニュウヒ 乳母。〔晉書、石勒載記下〕黎陽人陳武妻、一產二三男一女一、勒以爲二二儀諧暢和氣所一レ致、賜二其乳婢一口、穀一百石、雜綵四十匹一。〔稱謂錄、乳母、乳婢〕乳母、亦稱二乳婢一也。
【乳糜】88 ニュウビ ㊀乳で造つた粥。〔水經、河水注〕長者女、以二金鉢一盛二乳糜一上レ佛。〔白居易、晚

起詩〕調レ酥煮二乳糜一。〔大日經疏、七〕西方粥有二多種一、云云、然最以二乳糜一爲レ上。㊁食物が胃の内で白色乳狀液に化したもの。乳糜液。

【乳糜胃】89 ニユウビヰ 昆蟲の消化器の一部。食物が消化せられて乳糜狀になるところ。嗉嚢を吸收胃、砂嚢を咀嚼胃といふのに對する。

【乳糜液】90 ニユウビエキ 食物が胃の中で消化せられて出來た白色乳狀の榮養液。

【乳糜管】91 ニユウビクワン 乳糜を吸收する管。腸の内面の絨毛の中及び其の周圍に分布する淋巴管。

【乳婦】92 ニユウフ 臨產の婦人。又、乳呑み子をもつ婦人。〔後漢書、侯霸傳〕戒二乳婦一、勿レ得レ擧レ子。〔抱朴子、遐覽〕其乳婦難艱絕レ氣者持レ之、兒卽生矣。

【乳腐】93 ニユウフ ㊀乳が腐り固まつた物。又、凡庸頑固な者の喩。〔唐書、穆質傳〕兄弟皆和粹、世以二珍味一目レ之、贊少俗、然有レ格、爲レ酪、質美而多レ文、爲レ酥、員爲二醍醐一、賞爲二乳腐一云。〔唐國史補〕穆氏兄弟四人、贊・質・員・賞、時人謂、贊俗而有レ格爲レ酪、質美而多レ文爲レ酥、員爲二醍醐一、言二粹而少一レ用、賞爲二乳腐一、言二最凡固一也。㊁牛酪の類。乳を煮沸して醋を加へ、豆腐を造るやうにして次第に固めて製す。牛乳製を最良とする。乳餠。〔本草、乳腐〕釋名、乳餠、集解、時珍曰、諸乳皆可レ造、今惟以二牛乳者一爲レ勝、爾曜仙神隱書云、造二乳餠一法、以二牛乳一斗一、絹濾、入レ釜煎、五沸、水解レ之、用レ醋點入、如二豆腐法一、漸漸結成、漉出、以レ帛裹レ之、用レ石壓成、入レ鹽、甕底收レ之。

【乳粉】94 ニユウフン 乳汁を乾して作つた粉。

【乳餠】95 ニユウヘイ 乳腐(93)の㊁に同じ。

【乳哺】96 ニユウホ 小兒に乳をふくませて養ふ。〔唐書、劉蕡傳〕宜レ令下慈仁者視二育之一、如二保傅一焉、如二乳哺一焉、如中師之教導上焉。〔圖書編、氣血總論〕待二於乳哺一。

【乳母】97 ニユウボ うば。めのと。乳媼。乳嫗。嬭母。乳者。乳姐。乳婢。日知錄、卷十四に見ゆ。〔荀子、禮論〕乳母飮二食之一者也。〔史記、滑稽傳〕東武侯母、常養レ帝、帝壯時、號レ之曰二大乳母一。〔史記、張蒼傳〕蒼之免レ相後、老口中無レ齒、食レ乳、女子爲二乳母一、妻妾以レ百數、嘗孕者不二復幸一、蒼年百有餘歲而卒。

【乳母子】98 メノトゴ めのとの子。乳兄弟(110)を見よ。〔宇津保物語、樓上、下〕おほん乳主、めのと子六人、同じ程にて。

【乳母鳥】99 ニユウボテウ 鳥の名。うぶめ。姑獲鳥(3−6174··71)の異名。〔本草、姑獲鳥〕釋名、乳母鳥、時珍曰、昔人言、此鳥產婦所レ化、陰慝爲レ妖、故有二諸名一。

【乳棒】100 ニユウボウ 乳鉢に附屬する棒。煉藥又は散藥を擂るに用ひる。

【乳木】101 ニユウボク [佛]ちぎ。護摩に用ひる薪木。乳汁のある木を用ひるから乳木といふ。〔大日經疏、八〕護摩薪、當レ用二乳木一、謂二桑穀之類一、或用二牛膝莖一。

【乳名】102 ニユウメイ 幼名。小字。奶名。〔剪燈新話、金鳳釵記〕生言二其父姓名爵里及己乳名一。

【乳養】103 ニユウヤウ 育て養ふ。〔後漢書、李固傳〕若有二皇子一、母自乳養、無下委二保妾醫巫一、以致中飛燕之禍上。

【乳藥】104 ニユウヤク 白い色の藥。又、毒藥。乳藥求レ死「を見よ。

【乳藥求レ死】105 ニユウヤクモテシヲモトム 毒藥を飮んで死を求める。〔後漢書、王允傳〕允厲レ聲曰、吾爲二人臣一、獲二罪於君一、當下伏二大辟一以謝中天下上、豈有二乳藥求一レ死乎、投レ杯而起、出就二檻車一。

【乳癰】106 ニユウヨウ ちちの出來もの。乳腺炎の一名。孔房炎。〔釋名、釋疾病〕乳癰曰レ妬、妬、褚也、氣積レ褚不レ通、至二腫潰一也。

【乳酪】107 ニユウラク 牛や羊の乳で製造した食品。バター。〔晉書、天錫傳〕乳酪養レ性、人無二妬心一。〔北史、崔浩傳〕乳酪將レ出。〔摭言〕韋澳・孫宏、同在二翰林一、懿宗賜二銀餠餡一、食レ之甚美、皆乳酪膏腴所レ製。

【乳梨】108 ニユウリ 梨の一種。〔本草、梨〕集解、頌曰、醫方相承用二乳梨・鵝梨一、乳梨出二宣城一、皮厚而肉實、其味極長、鵝梨、河之南北州郡皆有レ之、皮薄而漿多、味差短、其香則過レ之。

【乳癌】109 ニユウガン 乳房に生ずる惡性の腫物。

【乳兄弟】110 チキヤウダイ 同じ乳母に育てられた小兒同士。阿嬭兒。〔丹波與作、上〕姬君樣と私とは乳兄弟の事なれば。

【乳熱症】111 ニユウネツシヤウ 乳房に熱の起る病氣。

【乳白色】112 ニユウハクシヨク 乳の色のやうに不透明な白「色。

【乳保年】113 ニユウホノトシ 幼少な時。〔舊唐書、郭承嘏傳〕承嘏生而秀異、乳保之年、卽好二筆硯一。

【乳間股腳】114 ニユウカンコキヤク 安全な場所。蝨に取つては獸の乳間や股脚は安全地帶である。〔莊子、徐無鬼〕奎蹄曲隈、乳間股腳、自以爲二安室利處一。

【乴】191 セツ ゼチ 〔集韻〕似絕切 [屑] ひねる。捘(5−12365)に同じ。〔集韻〕捘、拈也、或作レ乴。

【乵】192 エン 〔字彙補〕以冉切 [琰] すすむ。〔字彙補〕乵、進也。

【乨】193 シ 始(3−6166)の古字。〔玉篇〕乨、今作レ始。

八畫

【乹】194 ケン 乾(1−204)の俗字。〔集韻〕乾、俗作レ乹。〔正字通〕乹、俗乾字。

【执】195 キウ グ 〔集韻〕渠尤切 [尤] ㊀ただしい。男女の道の正しいこと。〔太玄經、內〕初一、謹二於嬰执一、初貞、後寧。〔注〕女爲二之嬰一、云云、执、正也、謹二其嬰正一、男女道正、故貞、夫婦別、室家安、故後寧也。㊁あだ。又、たぐひ。仇(1−355)に同じ。〔集韻〕仇、說文、讎也、一曰、仇匹也、或作レ执。

【乪】196 セツ 截(5−11639)に同じ。〔字彙補〕乪、與レ截同。〔漢度尙碑〕乪二彼海外一。

【〓】197 キ 逌(12−44492)の古字。〔玉篇〕〓、古文逌。

【〓】198 ラン 亂(1−214)に同じ。〔篇海類編〕〓、同レ亂。

【〓】199 クワウ 義未詳。〔字彙補〕〓、音皇。

【〓】200 [字國] でんき。電氣の二字を合せた俗字。

九畫

【〓】201 キウ 義未詳。〔字彙補〕〓、音臼。

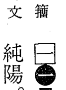
【〓】202 ダ 義未詳。〔字彙補〕〓、徒多切、出二釋典呪語一。

【〓】203 イ 〓(1−216)の譌字。〔康熙字典〕〓、按、卽〓字之譌。

十畫

【乾】204 ㈠ケン ゲン 〔集韻〕渠焉切 ㄑㄧㄢˊ ch'ien² [先] ㈡カン 〔集韻〕居寒切 ㄍㄢ kan¹ [寒]

小篆


籀文

㈠㊀易の八卦の一。☰。純陽。上にあつて、強い、治める、始める等の象。〔易、乾〕彖曰、大哉乾元、萬物資始、乃統レ天、雲行雨施、

品物流レ形、大明ニ終始一、六位時成、時乘ニ六龍一以御レ天、乾道變化、各正ニ性命一。**二易の六十四卦の一。** 剛健不息の象。☰☰乾下乾上。〔易、乾〕乾、元亨利貞。**三そら。天。**〔易、雜卦〕乾、天也。〔太玄經、玄文〕乘ニ乾之剛一。**四陽。男。**〔易、繫辭上〕乾道成レ男。〔易、繫辭下〕子曰、乾・坤、其易之門邪、乾、陽物也、坤、陰物也。**五天子。君。**〔廣雅、釋詁一〕乾、君也。〔易、說卦〕乾以君レ之。**六父。夫。**〔易、說卦〕乾、天也、故稱ニ乎父一。**七北西。いぬゐ。**〔易、說卦〕乾、西北之卦也。**八つよい。**〔釋名、釋天〕乾、健也、健行不レ息也。〔易、繫辭下〕乾、天下之至健也。〔易、說卦〕乾、健也。〔易、雜卦〕乾、剛。**九のぼり出る。**〔說文〕乾、上出也、从レ乙、乙、物之達也、倝聲。**十物のさま。** 乾乾(58)を見よ。**十一**籀文は乹(1－217)・乹(1－222)に作る。〔集韻〕乾、籀作ニ乹乹一。**十二**或は隉(11－41745)に作り、俗に乹(1－194)に作る。〔集韻〕乾、或作レ隉、俗作レ乹。**十三姓。**〔尚友錄〕乾、見ニ姓苑一、唐乾思彥、性倜儻、褚遂亮贈以レ詩。〔二〕**一かわく。かわかす。かれる。**〔集韻〕乾、燥也。〔詩、王風、中谷有蓷〕暵其乾矣。〔戰國、齊策〕韓梁之目、未ニ嘗乾一。〔呂覽、愛類〕乾ニ東土一。〔注〕乾、燥也。〔呂覽、禁塞〕單脣乾肺。〔注〕乾、晞。〔晉書、范汪傳〕冬月、沔漢乾涸。**二ひもの。** 乾肉(214)を見よ。**三とぼしい。生氣が絕える。つきる。**〔方言、十〕乾都、老也。〔左氏、僖、十五〕外彊中乾。〔華功武、義兵行〕供ニ給軍需一民力乾。**四表面だけ。名義だけのこと。**〔史記、酷吏、張湯傳〕始爲ニ小吏一乾沒。〔注〕正義曰、陽浮慕爲レ乾。〔北史、尉景傳〕何須ニ乾啼濕笑一。**五利益を吸ひ取ること。**〔史記、酷吏、張湯傳〕始爲ニ小吏一乾沒。〔注〕集解曰、如淳曰、得レ利爲レ乾、失レ利爲レ沒。**六故なくして然ること。**〔韓愈、感春詩〕乾愁漫解坐自累、與レ衆異レ趣誰相親。**七通じて干(4－9165)に作る。**〔集韻〕乾、通作レ干。**八或は漧(7－18161)に作る。**〔集韻〕乾、或作レ漧。**九河の名。**〔山海經、北山經〕敎水出レ焉、是水、冬乾而夏流、實惟乾河。〔注〕今、聞喜縣東北有ニ乾河口一。

解字 形聲會意。乙と倝との合字。乙は物が上出して達すること。物の中では氣が最も善く上達し、天は氣の累積して成るものである故、天を乾とする。倝は聲。又、倝は日の始めて光を出すさま。故にこの字は形聲にして會意をかぬ。〔說文、乾、段注〕倝者、日始出レ光倝倝也、然則形聲中有ニ會意一焉。〔說文通訓定聲〕乾、上出也、从レ乙、物之達也、倝聲、籀文又从レ田、與ニ倝从レ〇〇同、按、達ニ于上一者、謂ニ之乾一、凡上達者、莫レ若レ氣、天爲ニ積氣一、故乾爲レ天、易說卦傳、乾、天地。▽（金文）象形。高く上出する長い旗棹に象る。

【乾安】1 ケンアン 一鎭の名。滿洲遼寧省洮南縣の西北。交流河の北岸。洮南縣の管轄に屬す。二縣名。もと長嶺・農安兩縣の地。今、滿洲吉林省に屬す。

【乾位】2 ケンヰ 乾の方位。西北。いぬゐ。〔漢書、禮樂志〕祠ニ太一於甘泉一、就ニ乾位一也。

【乾痿】3 ケンヰ かれしなびる。〔婦人良方、月經不通〕腎水絕、則木氣不レ榮、而四肢乾痿。

【乾維】4 ケンヰ 天を維持する大づな。天の成りたつ大もと。〔李義府、在ニ嶲州一遙敍ニ封禪一詩〕飛聲總ニ地絡一、載化撫ニ乾維一。

【乾祐】5 ケンイウ 一年號。イ五代、後漢の高祖及び隱帝(劉承祐)の時。(948－950) ロ五代、北漢の劉旻の時。(951－956) ハ宋代、西夏の仁宗(李仁孝)の時。(1171・一說、1168・又一說、1169－1194) 二川の名。陝西省孝義縣の西北の大谷嶺から出る。一名、大峪河。東南流して鎭安縣の北、乾祐の故城を經て、洵陽縣に至つて洵河に注ぐ。

【乾祐元寶】6 ケンイウゲンパウ 貨幣の名。宋代、西夏の仁宗の乾祐年間に鑄造せられたもの。〔方若、言錢別錄〕。

【乾咽】7 kan¹ yen⁴ から唾を飲む。物を見て食ひたく思ふこと。

【乾宇】8 ケンウ 大ぞら。天。〔顏延之、宋南郊饗神歌〕乾宇晏、地區謐。

【乾慧】9 カンヱ 佛有漏の智慧。常識の範圍に止まり、眞理に達せざる智慧。法性の理水もよく潤し得ないから乾といふ。〔楞嚴經〕執心虛明、純是智慧、慧性明圓、瑩ニ十方界一、名ニ乾慧地一。〔傳燈錄〕洞山良价禪師曰、末法時代、人多乾慧、若要ニ辨ニ驗眞僞一、有ニ三種滲漏一。〔大乘義章〕雖レ有ニ智慧一、未レ得ニ定水一、故云ニ乾慧一、又此事觀、未レ得ニ理水一、亦名ニ乾慧一。

【乾曜】10 ケンエウ 太陽をいふ。〔元史、順帝皇后欽察氏傳〕月之道循レ右行、明同ニ貞於乾曜一。

【乾嗌】11 カンエキ のどを乾かすこと。苦心するさま。〔呂覽、介立〕焦脣乾嗌、日夜思レ之。〔越絕書、越絕內傳陳成恆〕焦脣乾嗌、苦レ心勞レ力。

【乾噦】12 カンヱツ からゑづき。吐く物もなくて吐氣を催すこと。乾嘔(16)に同じ。

【乾葉】13 カンエフ 枯れて乾いた葉。〔裴說、寄ニ貫休一詩〕凍犬眠ニ乾葉一、飢禽啄ニ病梨一。

【乾圓】14 ケンヱン 天のまるいこと。〔易、說卦〕乾爲レ天爲レ圓。〔阮籍、通易論〕乾圓坤方、女柔男剛。

【乾圓潔淨】15 ケンエンケツジヤウ よい米。租稅の時に用ひる語。又、事物の純粹無垢な喩。〔通俗編、草木、乾圓潔淨〕元典章、人戶赴レ倉納ニ糧米一、須下一色無ニ糠粃一、乾圓潔淨、好米新穀上、按、今凡事物之無ニ夾雜一者、悉借言レ之。

【乾嘔】16 カンオウ 吐く物もなくて吐氣を催すこと。からゑづき。乾噦(12)に同じ。〔法苑珠林〕推レ胷乾嘔。

【乾音】17 ケンオン 樂器の名。柷敔(6－14667・・2)の異名。〔白虎通、禮樂〕鐘、兌音也、柷敔、乾音也。

【乾河】18 カンカ 河の名。山西省翼城縣の南。〔史記、白起傳〕起涉レ河取ニ韓安邑以東一、到ニ乾河一。〔水經、澮水注〕西出ニ紫谷一、與ニ乾河一合。

【乾嘉】19 ケンカ 乾隆・嘉慶(清の年號)の略。〔經學歷史、經學復盛時代〕其成レ書、在ニ乾嘉之閒一、故後出者未レ著ニ於錄一。

【乾嘉詩體】20 ケンカノシタイ 清の乾隆・嘉慶の閒の詩體。王士禛の神韻說が既に衰へ、沈德潛は格調說を唱へ、袁枚は性靈說を主張した。又、蔣士銓・趙翼等があり、袁枚と共に乾隆三大家と稱せられる。

【乾咳】21 kan¹ k'ê² からぜき。

【乾行】22 ケンカウ 清、余正健(1－515・・99)の字。

【乾亨】23 ケンカウ 年號。一五代、南漢の高祖劉龑の時。(917－925) 二遼(契丹)の景宗(耶律賢)の時。(979－982)。

【乾亨重寶】24 ケンカウチヨウハウ 五代、南漢の乾亨年間に鑄造せられた貨幣の名。〔董逌、錢譜〕僭僞錢、乾亨重寶、僞漢劉儼所レ鑄。

【乾亨通寶】25 ケンカウツウハウ 遼の景宗の乾亨年間に鑄造せられた貨幣の名。〔遼史、食貨志下〕景宗以下舊錢不レ足ニ於用一、始鑄ニ乾亨新錢一、錢用流布。〔董逌、錢譜〕北地錢、乾亨通寶、宋太平興國七年、耶律隆序鑄。

【乾耗】26 カンカウ かわきへる。疲弊する。〔宋史、胡銓傳〕李沆謂ニ王旦一曰、我死公必爲レ相、切勿ニ與レ虜講一レ和、旦殊不ニ以爲一レ然、既而遂和、海內乾耗。

【乾皐】27 カンカウ 鳥の名。あうむ。鸚䳇(12－47489・・15)の異名。〔埤雅〕乾皐斷レ食則坐歌。〔本草、鸚䳇〕釋名、乾皐、時珍曰、熊太古云、大者爲ニ鸚䳇一、小者爲ニ鸚哥一、則䳇義又取ニ乎此一、師曠謂ニ之乾皐一、李昉呼爲ニ隴客一、梵書謂ニ之臊陀一。

【乾睾】28 カンカウ 鳥の名。ははつてう。鸜鵒(12－47502・・1)の異名。〔事物異名錄、禽鳥上、鸜鵒〕交廣志、乾睾、一名鸜鵒、俗名ニ八哥一。

【乾綱】29 ケンカウ 一天の綱紀。〔晉書、華譚傳〕聖人之臨ニ天下一也、祖ニ乾綱一以流レ化、順ニ谷風一以興レ仁。二君主の大權。〔范甯、春秋穀梁傳序〕昔周道衰陵、乾綱絕レ紐。三ch'ien² kang¹ 妻に對して夫をいふ。

【乾衡】30 ケンカウ 天を測る器。〔宋書、樂志〕撫ニ乾衡一、鎭ニ地機一、厲ニ虎旅一、騁ニ熊羆一。

【乾餻】31 kan¹ kao¹ 干菓子の一種。
【乾剛】32 ケンガウ 剛健。又、剛健な德。〔歐陽脩、謝二單恩轉一戶部侍郎一表〕奮二發乾剛一、嗣二承天統一。
【乾壕】33 ケンガウ 鎭の名。河南省陝縣の東、もと閿鄉の關東鎭と共に靈寶に屬す。〔金史、地理志中〕陝州靈寶、鎭二乾壕・關東一。
【乾暵】34 カンカン 干からびる。〔鄭俠、謝二太守答詩一〕詩ノ陰陽爲レ之疹、涇潦仍乾暵。
【乾顏】35 kan¹ yen² 素知らぬ顏。空とぼけて知らぬ顏をする。
【乾季】36 カンキ 數箇月間に亙る、雨の降らない季節。
【乾基】37 ケンキ 帝業の基。〔慕容德、上二慕容暐一疏〕闡二崇乾基一、纂二成先志一。
【乾歸】38 ケンキ 草の名。當歸(7—21890・25)の異名。〔本草、當歸〕釋名、乾歸。
【乾儀】39 ケンギ 上天ののり。轉じて、天子ののり。〔舊唐書、音樂志三〕乾儀混、成二沖邃一。〔王起、練レ石補レ天賦〕定二彼乾儀一。
【乾九】40 ケンキウ 清、蔣元龍(9—31820・147)の字。
【乾吉】41 ケンキツ ❶鳥の名。其の子を食ふといふ。〔列女傳、仁智、晉羊叔姬傳〕南方有レ鳥、名曰二乾吉一、食二其子一、不レ擇レ肉、子常不レ逶。❷明、梁夢龍(6—14825・330)の字。
【乾薑】42 カンキヤウ 干したしやうが。藥用にする。〔本草、乾薑〕釋名、白薑、集解、時珍曰、乾薑、以二母薑一造レ之。〔隋書、食貨志〕高祖時、有司嘗進二乾薑一、以二布袋一貯レ之。〔南史、孔琇之傳〕琇之爲二臨海太守一、在レ任清約、罷郡、還獻二乾薑二千斤一。
【乾宮】43 キンキウ 天をいふ。易者の用語。〔天步眞言、論二天氣日月五星之能一〕太陰・火星・會沖、方二熱宮・乾宮一、有二大熱紅雲一。
【乾魚】44 カンギョ 乾した魚。ひもの。〔本草、鮑魚〕釋名、鰲魚、蕭折魚、乾魚。〔史記、孝武紀〕武夷君、用二乾魚一。
【乾化】45 カンクワ 五代、梁の太祖(朱全忠)・末帝(朱友貞)及び同時代の十國の一、閩の太祖(王審知)の年號。(911—915)
【乾卦】46 カンクワ 八卦の一。字解㊀❶❹を見よ。〔易、乾、疏〕正義曰、乾者、此卦之名。〔易、說卦〕離爲レ火、云云、其於レ人也、爲二大腹一、爲二乾卦一。
〔疏〕爲二乾卦一取二其日所レ炬也。
【乾果】47 カンクワ ❶植物學用語。果皮が乾燥した果實。稻・樫など。❷ほした果物。乾柿など。
【乾貨】48 kan¹ huo⁴ 乾燥した品。乾いた品。
【乾灰】49 kan¹ hui¹ 石灰。
【乾館】50 kan¹ kuan³ 俸給を貰ふだけで、職務に服しないもの。
【乾啓】51 ケンケイ 上天のをしへ。天啓。〔晉書、慕容垂載記〕堅之敗二于淮南一也、垂軍獨全、堅以二千餘騎一奔レ垂、垂世子寶、言二于垂一曰、今天厭二亂德一、凶衆土崩、可レ謂二乾啓一、神機授二之于我一、千載一時、今其會也。
【乾景】52 ケンケイ 君主。乾は君、景は光。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕乾景外臨、陰儀內飭。〔注〕善曰、周易曰、乾爲レ君爲レ父、濟曰、乾景、謂二高宗一也。
【乾經】53 ケンケイ 後魏、李系(6—14459・276)の字。
【乾谿】54 ケンケイ ❶地名。安徽省亳縣の東南。〔左氏、昭、六〕師二豫章一而次二于乾谿一。〔注〕乾谿、在二譙國城父縣南、楚東境一。❷臺の名。河南省商水縣の西北。章華臺ともいふ。楚の襄王が建てたと傳へられる。一說に、靈王が築いたともいふ。〔漢書、谷永傳〕役百二乾谿一、費疑二驪山一。〔注〕師古曰、言下勞役之功、百二倍於楚靈王一、費財之廣、比中於秦始皇上。〔新語、懷慮〕楚靈王居二千里之地一、享二百邑之國一。云云、作二乾谿之臺一、立二百仞之高一。輿地紀勝〕楚靈王築二章華臺於華容城一、及二襄王爲二將白起所レ迫、北保二於陳一、更築二此臺一。
【乾結】55 kan¹ chieh² 祕結する。便祕。
【乾竭】56 カンケツ かわき盡きる。〔左氏、僖、十五、外彊中乾、注〕外雖レ有二彊形一、而內實乾竭。
【乾鰅】57 kan¹ kuei⁴ 乾魚の一種。からぎけ。
【乾乾】58 ケンケン 進んで止まぬ貌。努力して怠らぬ貌。孜孜。汲汲。〔易、乾〕九三、君子終日乾乾、夕惕若、厲無レ咎。〔呂覽、士容〕乾乾乎、取舍不レ悅。〔太玄經、彊〕陽氣統レ剛乾乾、萬物莫レ不二彊梁一。〔後漢書、左雄傳〕陛下乾乾勞思、以レ濟二民爲レ務。
【乾乾齋】59 ケンケンサイ 明、楊守阯(6—15112・605)の號。
【乾乾居士】60 ケンケン 元、陸仁(11—41708・158)の號。
【乾縣】61 ケンケン 縣名。❶民國、置く。秦代の好時縣。陝西省長安縣の西北。❷民國、置く。後、乾城縣と改む。もと清の乾州直隸廳の地。
【乾繭】62 カンケン 繭を乾燥すること。又、乾燥された繭。
【乾元】63 ケンゲン ❶天の道。天德のはじめのもの。乾は天、元は大。〔易、乾〕彖曰、大哉乾元、萬物資始。〔本義〕大哉、歎辭、元、大也、始也、乾元、天德之大始、故萬物之生、皆資レ之以爲二始也。❷年號。㋑唐の肅宗(李亨)の時。(758—760)㊁第九十四代後二條天皇の代。(1302—1303)
【乾元錢】64 ケンゲンセン 乾元大寶錢の略。
【乾元重寶】65 ケンゲンチヨウハウ 唐の肅宗の乾元年間に鑄造せられた貨幣の名。〔唐會要、泉貨〕乾元元年七月、戶部侍郎第五琦、以二國用未レ足、幣重貨輕一、乃先鑄二乾元重寶錢一、以レ一當十。
【乾元序制記】66 ケンゲンジヨセイキ 書名。易緯の一。宋の陳振孫の直齋書錄解題に始めて收錄す。後人の僞作。
【乾元大寶錢】67 ケンゲンタイハウセン 第六十二代村上天皇の天德二年三月から應和三年七月までに鑄造した銅錢。面に乾元大寶の字を刻す。〔日本紀略、後四〕天德二年三月廿五日、改二錢貨文延喜通寶一爲二乾元大寶一。
【乾枯】68 カンコ かわく。ひからびる。
【乾涸】69 カンコ かれる。水が竭きる。〔晉書、范汪傳〕玄冬之月、洄漢乾涸、皆當二魚貫而行一。〔賈島、逃書賦〕雖二則筋骨乾涸一、終是精神嶮峭。〔白居易、放魚詩〕脫レ泉雖二已久一、得レ水尙可レ蘇、放二之小池中一、且用救二乾涸一。
【乾顧】70 コン 天のめぐみ。天眷。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕高皇赫矣、仰膺二乾顧一。〔注〕翰曰、膺、當、乾、天也。
【乾護】71 ケンゴ 後魏、柳揆(6—14662・28)の字。
【乾工】72 kan¹ kung¹ 賃銀を取らずに仕事をすること。無賃仕事。
【乾侯】73 カンコウ 地名。春秋、晉の邑。今、河北省成安縣の東南。〔左氏、昭、二十五〕公在二乾侯一。〔左氏、昭、二十八〕公如レ晉、次二于乾侯一。〔注〕在二魏郡斥丘縣、晉境內邑一。
【乾喉】74 カンコウ のどをかわかす。苦勞すること。〔韓詩外傳、二〕迫然禍至、乃始愁憂、乾喉焦レ脣、仰レ天而嘆、庶幾乎望二其安一也、不二亦晚一乎。
【乾溝】75 カンコウ 鎭の名。❶河北省臨檎縣の北。❷甘肅省會寧縣の北。
【乾溝子】76 ケンコウ 地名。❶滿洲遼寧省臨江縣治。鴨綠江に臨む。❷滿洲熱河省承德縣。
【乾興】77 カンコウ 年號。❶宋の眞宗(趙恆)の時。(1022)❷宋代、南詔の敬明帝(段素廉)の時。(大凡、1009—1018)
【乾餱】78 カンコウ 粗末な食物。餱は、かれいひ。〔詩、小雅、伐木〕民之失レ德、乾餱以愆。〔集傳〕乾餱、食之薄者也。
【乾谷】79 コク 谷水を干しかわかす。〔淮南子、說山訓〕上求レ魚、臣乾谷。
【乾鵠】80 コク 鳥の名。かささぎ。鵲。乾鵲。〔淮南子、氾論訓〕乾鵲知レ來、而不レ知往。〔注〕乾鵲、鵲也、人將レ有二來事憂喜之徵一則鳴、此知レ來也、乾、讀如二乾燥之乾一、鵲、讀如二告退之告一。
【乾坤】81 コン ❶易の二つの卦の名。八卦(2—1450・112)を見よ。〔易、繫辭上〕天尊地卑、乾坤定矣。❷天と地。〔易、說卦〕乾爲レ天、坤爲レ地。〔班固、東都賦〕俯仰乎乾坤。〔韓愈、喜二雪云一詩〕浩蕩乾坤合。❸陰と陽。〔易、繫辭下〕乾坤其易之門邪、乾、陽物也、坤、陰物也。❹日と月。〔杜甫、登二岳陽樓一詩〕吳楚東南坼、乾坤日夜浮。〔唐詩選箋注〕水經注曰、湖中廣圓五百餘里、日月若二出二沒于其中一、言二天地共盡于望中一、故曰二乾坤浮一。❺男と女。〔易、繫辭上〕乾道爲レ男、坤道爲レ女。❻いぬゐ(西北)と、ひつじさる(西南)。〔易、說卦〕乾、西北之卦也。〔易乾鑿度〕故坤位在二西南一。
【乾坤嘯】82 ケンコンセウ 戲曲の名。清、朱佐朝作。文彥博、包拯が烏廷慶の冤獄を勘問することを主題としてゐる。
【乾坤一擲】83 ケンコンイツテキ 天下を賭け、運にまかせて事をやる。乘るか反るか、思ひ切つて事をやる。天地賭二一擲一(8—5833・1079)に同じ。一擲賭二

乾坤二(1－1‥1650)を見よ。

【乾坤咸恆】84 ケンコンカンコウ 乾坤は周易の上經の始、咸恆は下經の始。夫婦が人倫の原であることをいふ。☰乾、☷坤、☳咸、☴恆。(易、咸、疏)六十四卦、舊分二上下一、乾坤象二天地一、咸恆明二夫婦一。乾坤乃造化之本、夫婦實人倫之原。(後漢書、荀爽傳)夫婦人倫之始、王化之端、故文王作レ易、上經首二乾坤一、下經首二咸恆一、孔子曰、天尊地卑、乾坤定矣。(注)易乾坤至レ離爲二上經一、咸恆至二未濟一爲二下經一。

【乾坤鑿度】85 ケンコンサクド 緯書の名。上下二篇。易緯八種の一。(四庫提要、經、易類附錄)。

【乾坤之德】86 ケンコンノトク 聖人の德。聖人の德は天地の德に合するからいふ。(後漢書、和熹鄧皇后紀)伏惟、皇太后膺二大聖之姿體一、乾坤之德一。

【乾坤之靈】87 ケンコンノレイ 天地の靈。(魏志、劉廙傳)遭二乾坤之靈一、值二時來之運一。

【乾坤清氣】88 ケンコンノセイキ 天地に滿ちて居る清い氣。(貫休、古意詩)乾坤有二清氣一、散入二詩人脾一。

【乾坤體義】89 ケンコンタイギ 書名。二卷。明、利瑪竇著。上卷に天象を記し、下卷に算術を述ぶ。西洋の曆算の法が中國に入つたのは、此の書から始まるといふ。(四庫提要、子、天文算法類)。

【乾坤洞然】90 ケンコンドウゼン 天地がうち開けて何等の障礙もないこと。(仁王經)劫燒終訖、乾坤洞然。

【函二蓋乾坤一】91 カンガイケンコン 天地をいれおほふ。轉じて、密に藏してうかがひ得ぬこと。(石林詩話)其二爲二函蓋乾坤一句。上

【整二頓乾坤一】92 セイトンケンコン 亂を定めて天下の秩序を正す。(杜甫、洗兵馬行)三二豪俊爲レ時出、整二頓乾坤一濟レ時了、東走無二復憶一鱸魚一、南飛各有二安巢鳥一。

【乾坤正氣集】93 ケンコンセイキシフ 書名。五百七十四卷。清、姚瑩編、顧沅補。秦漢から明末までの忠臣義士一百一家の文を集めたもの。

【乾坤清氣集】94 ケンコンセイキシフ 書名。十四卷。明、偶桓撰。僧貫休の「乾坤有二清氣一」の詩句から名づけた。金・宋の末から明初までの名詩を輯錄す。(四庫提要、集、總集類)。

【貯二乾坤於一壺一】95 チョケンコンヲイッコ 昔、壺公が天地を僅か一壺の中に貯へてゐた故事。(神仙傳、壺公)常懸二一空壺於屋上一、日入之後、公跳入二壺中一、人莫二能見一、唯長房樓上見レ之、知二非常人一也。長房日日自掃二公座前地一、及供二饌物一、公受而不レ辭、如レ此積久、長房尤不レ懈、亦不二敢有一所求一、公知二長房篤一レ信、謂レ房曰、至二暮無一レ人時一更來、長房如二其言一、卽往、公語レ房曰、見レ我跳二入壺中一時、卽便可レ效、我跳、自當レ得レ入、長房依レ言、果不レ覺二已入一、入後不二復是一唯見二仙宮世界、樓觀重門閣道宮、左右侍者數十人一、公語レ房曰、我仙人也。(故事成語考、釋道鬼神)貯二乾坤于一壺一、道法何其玄。

【乾沙】96 ケンサ 明、駱從宇(12－44734‥25)の號。

【乾災】97 ケンサイ 天變地異。自然の災害。天災(3－5833‥586)に同じ。(後漢書、爰延傳)積善日照、佞惡消殄、則乾災可レ除。

【乾荣】98 カンエイ 蔬菜を乾燥したもの。乾物類。(齊民要術、蔓菁)擬作二乾菜及釀菹一者、割訖、則尋手擇治而辮レ之、勿レ待レ萎。

【乾齋】99 ケンサイ 字號。❶清、陳元龍(11－41698‥836)の號。❷清、李修易(6－14459‥1366)の字。

❸中井豐民の號。中井乾齋(1－73‥907)を見よ。

【乾草】100 カンサウ ほしくさ。かれくさ。

【乾爽】101 カンサウ かわく。さつぱりする。

【乾棗】102 カンサウ 干したなつめ。(本草、棗)大棗、釋名、乾棗、瑞曰、此卽曬乾大棗也、味最良美、故宜レ入レ藥。(世說新語、紕漏)見二漆箱盛一乾棗一。

【乾燥】103 カンサウ ❶かわく。はしやぐ。(玉篇)燥、先道切、乾燥也。(易、革、疏)火本乾燥、澤本潤濕。(漢書、溝洫志)春夏乾燥、少水時也。(論衡、商蟲)秋冬之氣、寒而乾燥、蟲未二曾生一。❷面白味のないこと。無味乾燥(7－19113‥803)に同じ。

【乾燥器】104 カンサウキ 濕つたものを乾燥させる器。

【乾燥果】105 カンサウクワ 皮の乾燥して居る果物類。

【乾燥管】106 カンサウクワン 乾燥器の一種、主として濕氣ある氣體類を乾燥するに用ひる。

【乾燥劑】107 カンサウザイ 物を乾燥させるに用ひる藥劑。水氣を吸收し易い藥。濃硫酸・生石灰の類。

【乾燥室】108 カンサウシツ 物を乾燥させるために特に裝置した室。

【乾燥地】109 カンサウチ よく乾燥した土地。濕地(7－18483‥39)の對。

【乾燥無味】110 カンサウムミ 何の面白味もないこと。詩文などの文句が、修飾を缺き、又は意味の含蓄に乏しいのにいふ。無味乾燥。

【乾造】111 ケンザウ 星命家の語。男の命をいふ。乾は易で男に配す。星命家は、人命は改造し得ると考へるから、命を造といふ。結婚の時にとり交す所の、男の八字帖に記す文字。乾道成レ男(183)を見よ。

【乾二】112 カンサン 清、周克開(2－3441‥664)の字。

【乾山】113 ケンザン ❶乾山燒の略。❷横田維孝の號。

横田乾山(6－15594‥311)を見よ。

【乾山燒】114 ケンザンヤキ 樂燒に似た陶器。元祿年間に、京都の尾形光琳の弟乾山が、其の住處嵯峨鳴瀧村の土で燒き始めた。(本朝世事談綺)乾山燒、尾形深省、嵯峨鳴瀧邊の土を以て燒きはじむ。

【乾之】115 ケンシ 後魏、侯剛(1－633‥15)の字。

【乾屎】116 カンシ ひぐそ。乾屎橛を見よ。

【乾屎橛】117 カンシケツ 乾いた糞を拭ふ箆。屎橛は、印度で糞を拭ふに用ひる木竹の小片。最も穢いものの喩。(五燈會元)僧問二雲門一、如何是佛、雲門云、乾屎橛。(無門關、第二十一、雲門屎橛)雲門因僧問、如何是佛、門云、乾屎橛、無門曰、雲門可レ謂、家貧難レ辦二素食一、事忙不レ及二草書一、動便將二屎橛一來。

【乾柹】118 カンシ ほしがき。柹を乾して水分を蒸發させたもの。(本草、柹)白柹、柹霜修治、時珍曰、白柹卽乾柿生レ霜者、其法用二大柹一去二皮捻扁一、日曬夜露、至レ乾內二瓮中一、待レ生二白霜一乃取出、主治、補二虛勞不足一。

【乾肫】119 カンシン 乾肉に骨のあるもの。乾鹹。(易、噬嗑)噬二乾肺一、得二金矢一、利二艱貞一、吉。(疏)乾肺、是臠肉之乾者。

【乾兒】120 カンジ 養子。こぶん。てした。(留青日札)乾兒二門生一、布二滿天下一。

【乾時】121 カンジ 地名。春秋、齊の地。今の山東省博興縣の南。(春秋、莊、九)八月庚申、及二齊師一戰二于乾時一。(注)乾時、齊地、時水在二樂安界一。

【乾州】122 ケンシウ 州名。❶唐、置く。今の陝西省乾縣。(讀史方輿紀要、陝西、西安府)乾州、秦內史地、云云、唐初屬二雍州一、天寶初、屬二京兆郡一、乾符初、增二置乾州一。❷唐、置く。故治は四川省茂縣の西。❸遼、置く。故治は滿洲遼寧省北鎭縣の西南。❹清、置く。今の陝西省乾縣。唐の乾州の地。❺を見よ。(清史稿、地理志)陝西、乾州直隸州、領縣二、武功・永壽。❻廳の名。今の湖南省乾城縣の地。(清史稿、地理志)湖南、乾州直隸廳。(注)嘉慶元年、升二直隸廳一、轄二苗寨一百一十有五。

【乾脩】123 kan¹ hsiu¹ 役所に顏を出さないで貰ふ月給。乾薪。

【乾愁】124 カンシウ 何とはなしに起るうれへ。(韓愈、感春詩)乾愁漫解坐自累、與レ衆異レ趣誰相親。

【乾式】125 カンシキ 天ののり。(宋書、禮志二)上稽二乾式一、照二臨黔首一。

【乾漆】126 カンシツ 漆の一種。(本草、漆)集解、別錄曰、乾漆、生二漢中山谷一、夏至後、采乾之。

【乾燥】127 カンソウ かわくことしめること。

【乾濕器】128 カンシツキ 空氣の濕度を測定する機械の名。乾濕球濕度計を見よ。

【乾濕計】129 カンシツケイ 乾濕器に同じ。

【乾濕球濕度計】130 カンシツキウシツドケイ 空氣の濕度を計る裝置。二個の同形の寒暖計から成り、其の一方の寒暖計の球を布で包み、布端を水に入れ、布が常に濕ふやうにしたもの。水分の蒸發で熱を奪ふため、一方の寒暖計は常に他方より低溫を示すから、兩方の溫度の差を見て空氣の濕度を知る。乾濕泡濕度計。乾濕計。

【乾濕泡濕度計】131 カンシツパウシツドケイ 乾濕球濕度計に同じ。

【乾翔】133 ケンシャウ 清、陳慶鏞(11－41698‥797)の字。

【乾象】134 ケンシャウ 天。天象。天候。(後漢書、郭太傳)夜觀二乾象一、晝察二人事一。(劉琨、答二盧諶一詩)乾象棟傾、坤儀舟覆。

【乾鯊】135 kan¹ hsiang³ 干物。干魚。

【乾醬】136 kan¹ chiang⁴ 味噌の一種。煉瓦のやうに乾し固めたもの。

【乾城】137 ケンジャウ 縣名。民國、置く。湖南省鳳凰縣

の北。漢代の五溪蠻の地。

【乾情】138 ケンジヤウ うはべだけの人情。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕心知レ不ニ是匪人一、反作ニ乾情一、聽ニ尋親友一、立討ニ饒約一、保領放還。

【乾淨】139 ケンジヤウ 清潔な。綺麗なこと。清潔。〔宋史、汪立信傳〕咸淳十年、大元兵大擧伐レ宋、以ニ立信一爲ニ端明殿學士・沿江制置使・江淮招討使一、與ニ似道一遇、似道問ニ立信何向一、曰、今江南無ニ一寸乾淨地一、某去尋ニ一片趙家地上一死、第要ニ死得分明一爾。

【乾鵲】140 カンジヤク 鳥の名。かささぎ。乾鵲。〔本草、鵲〕釋名、飛駁鳥、喜鵲、乾鵲。〔論衡、龍虛〕狌狌知レ往、乾鵲知レ來。〔事物異名錄、禽鳥部〕格物總論、鵲聲吉多而凶少、故俗呼ニ喜鵲一、古所謂乾鵲、一名鳷鵲。

〖乾鵲噪而行人至〗141 カンジヤクサワギテカウジンイタル かささぎが噪ぎ鳴くのは、遠くへ行つてゐた者の歸つて來る前兆であるとする俗說。〔西京雜記、三〕陸賈曰、乾鵲噪而行人至、蜘蛛集而百事喜、故乾鵲噪則餧レ之、蜘蛛集則放レ之。

【乾粥】142 カンジユク かわいたかゆ。陰暦三月三日に、火を禁じて冷食すること。寒食のこと。〔鄴中記〕幷州之俗、以ニ冬至後百五日一、爲ニ介子推一、斷レ火冷食、三日作ニ乾粥一、中國以爲ニ寒食一。

【乾熟】143 カンジユク 乾と熟。乾燥して瘠せた地と、濕潤で肥えた地。〔庭訓往來、三月〕隨ニ畑・山畠之乾熟一、可レ謂ニ桑代・加地子一。

【乾初】144 ケンシヨ 淸、陳確(**11**－**41698**··97)の字。

【乾所】145 ケンシヨ 字號。㊀明、馮學易(**12**－**44579**··188)の號。㊁明、劉鱗長(**2**－**2224**··1359)の號。

【乾蒸】146 カラムシ 降雨が無くて、烈しく照りつけること。

【乾食】147 カンシヨク 糒ホシイヒ。糗。乾糧(264)に同じ。携帶口糧にする。〔王褒、聖主得ニ賢臣一頌〕羹レ藜唅レ糗者、注〕善曰、服虔曰、糗、乾食也。

〖乾食物〗148 カンシヨクブツ 乾物。

【乾心】149 ケンシン ㊀天子の御心。〔顏延之、赭白馬賦〕乾心降而微怡、都人仰而明悅。〔注〕翰曰、乾、天也、言ニ天子微悅、都人羣聚而歡一也。㊁ch'ien¹ hsin¹ 心配がない。

【乾薪】150 kan¹ hsin¹ 實務を勤めないで貰ふ俸給。乾脩。

【乾遂】151 ケンスイ 明、李文利(**6**－**14459**··1923)の字。

【乾樞】152 ケンスウ 天の中軸。〔宋書、樂志二〕地紐謐、乾樞回。〔劉周翰、五鳳樓賦〕結ニ坤之絡一振ニ乾之樞一。

【乾正】153 ケンセイ 五代、十國の一なる吳の睿帝(楊溥)の年號。乾貞の一稱。(927－928)

【乾性】154 カンセイ ㊀かわく性質。かわく性質の。濕性の對。㊁滲出液のない。又、浮腫のない。濕性・滲出性の對。

〖乾性油〗155 カンセイユ 空氣中に曝して置くと、酸素を吸收して化合し硬化する性質を有する油類。桐油・亞麻仁油など。乾油。

〖乾性腳氣〗156 カンセイカツケ 浮腫を發しない脚氣。初期脚氣。萎縮性脚氣。

【乾精】157 ケンセイ 天の精粹の氣。〔魏志、明帝紀、注〕乾精承レ祚、坤靈吐レ曜。〔宋史、樂志七〕日月星辰、皆乾之精。

【乾齊】158 カンセイ 縣名。漢、置く。今の甘肅省玉門縣の北。〔漢書、地理志下〕酒泉郡、縣九、乾齊。〔讀史方輿紀要、陝西、肅州衞〕乾齊城、在ニ衞西北一、乾讀干、漢縣、屬ニ酒泉郡一、有ニ西部障一、西部都尉治、後漢因レ之、晉改屬ニ敦煌郡一、後廢。

【乾脆】159 カンゼイ ㊀敏捷。〔兒女英雄傳、十九回〕仗ニ個乾脆一。㊁kan¹ ts'uei⁴ きつぱりと。てきぱきと。

【乾笑】160 カンセウ つくり笑。表面だけの笑。強ひて笑ふ。又、冷笑する。〔宋書、范曄傳〕曄妻罵レ曄曰、君不レ爲ニ百歲阿家一、不レ感ニ天子恩遇一、身死固不レ足レ塞レ罪、奈何枉ニ殺子孫一、曄乾笑云、罪至而已。〔能改齋漫錄〕世言ニ笑之不レ情者一爲ニ乾笑一、按、宋范曄謀レ逆、就ニ刑於市一、妻來別罵レ曄曰、身固不レ足レ塞レ罪、奈何枉ニ殺子孫一、曄乾笑而已。

【乾腊】161 ケンセキ うめ。梅(**6**－**14830**)の異名。〔事物異名錄、果蓏、梅〕山海經、雲山之上、其實乾腊、注、腊乾、梅也。

【乾錫】162 ケンセキ 唐、崔嘏(**4**－**8178**··22)の字。

【乾折】163 kan¹ chê² 金錢の贈物。禮物或は日用品を現金にかへる。乾禮(273)に同じ。

【乾舌】164 カンゼツ 舌を乾かす。苦勞するさま。〔孔子家語、屈節解〕句踐頓首曰、孤嘗不レ料レ力、而興ニ吳難一、受ニ困會稽一、痛ニ於骨髓一、日夜焦レ唇乾レ舌、徒欲下與ニ吳王一接レ踵而死上、孤之願也。

【乾淺】165 カンセン 水が少くて淺いところ。〔韓詩外傳、十〕魚鼈厭ニ深淵一、而就ニ乾淺一、故得ニ於釣網一。

【乾癬】166 カンセン たむし。皮膚病の一種。〔證治準繩、總論〕一曰ニ乾癬一、搔則出ニ白屑一、索然彫枯。

【乾鼠】167 カンソ ねずみの干物。〔後漢書、應劭傳〕昔、鄭人以ニ乾鼠一爲レ璞。

【乾叟】168 ケンソウ 宋、黃復(**12**－**47926**··811)の字。

【乾嗽】169 カンソウ からぜき。痰が出ずに、音だけする咳。乾欬嗽(281)を見よ。〔景岳全書、論證〕或內搖ニ其精一、或外勞ニ其形一、勞傷既甚、精血必虧、故邪不レ能レ散、而痰不レ能レ出、此卽勞損乾嗽之類也。

【乾則】170 ケンソク 天の法則。〔班固、典引〕上稽ニ乾則一、降承ニ龍翼一。〔注〕善曰、翼、法也、言下陶唐、上能考ニ天之則一、下能承中龍之法上也。

【乾側】171 イヌキノガハ 越前國の地名。

【乾爹】172 kan¹ tieh¹ 名義上の父。養父。繼父。

【乾陀】173 ケンダ 佛乾陀羅の略。乾陀羅の㊀を見よ。

〖乾陀鳥〗174 ch'ien² t'uo² niao³ 雀の一種。木の葉雀。

〖乾陀羅〗175 ケンダラ 佛梵語 Gandhāra の音譯。㊀古代の北部印度の國名。古代ギリシヤとの文化交流地。ガンターラ。〔洛陽伽藍記、五〕惠生從ニ于闐一至ニ乾陀一。〔宋史、天竺國傳〕施護者、烏塡曩國人、其國屬ニ北印度一、西行至ニ乾陀羅國一。㊁香樹の名。其の煮汁は布帛を茶褐色に染める故、僧衣を染めるに用ひる。〔本草、乾陀木皮〕珣曰、按、西域記云、生ニ西國一、彼人用レ染ニ僧褐一、故名ニ乾陀一、褐色也。〔寶樓閣經、中〕以ニ乾陀羅香一、和ニ白芥子油一。㊂山名。〔四阿含暮抄〕犍陀羅、此云ニ持天地山一。㊃黃色。〔翻譯名義集、三〕乾陀羅、或劫賓那、此云ニ黃色一。

【乾苔】176 カンタイ 海藻の名。あをのり。青苔。乾し苔。あをさ科に屬す。〔本草、乾苔〕集解、藏器曰、乾苔、海族之流也。

【乾泰】177 ケンタイ 明、尹應元(**4**－**7631**··96)の字。

【乾葡】178 カンタウ 干葡萄ホシブダウ。乾葡萄(311)を見よ。

【乾餹】179 ケンタウ 堅いあめ。〔詩、周頌、有瞽、簫管備擧、箋〕如ニ今賣レ餳者所レ吹也、釋文〕餳、又、音唐、方言云、張皇也、卽乾餹也。

【乾道】180 ケンダウ ㊀天の道。易の至健の德。轉じて、男性たる道。〔易、乾〕乾道變化、各正ニ性命一。㊁年號。㋑宋、孝宗(趙眘)の時。(1165－1173)㋺宋代、西夏の惠宗(李秉常)の時。(1069－1070)

〖乾道稿〗181 ケンダウカウ 書名。一卷。宋、趙蕃撰。外に淳熙稿二十卷、章泉稿五卷がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖乾道元寶〗182 ケンダウゲンパウ 宋の孝宗の乾道年間に鑄造せられた貨幣の名。〔董逌、錢譜〕宋朝錢、乾道元寶・淳熙元寶・紹熙元寶、孝宗年號。

〖乾道成レ男〗183 ケンダウハダンヲナス 乾は天で、陽である。故に男をなすといふ。〔易、繫辭上〕乾道成レ男、坤道成レ女。〔故事成語考、女子〕男子稟ニ乾之剛一。

〖乾道臨安志〗184 ケンダウリンアンシ 書名。三卷。四卷以下は佚す。宋、周淙撰。臨安に關する地理の書。〔四庫提要、史、地理類〕。

【乾宅】185 ch'ien² chai² 結婚の時、男の家をいふ。

【乾澤】186 カンタク 水のかわいた澤。〔呂覽、名類〕乾澤涸漁、則龜龍不レ往。

【乾端】187 ケンタン 天のはて。極端。〔韓愈、南海神廟碑〕乾端坤倪、軒豁呈露。

【乾斷】188 ケンダン 君主が自ら政事を裁決すること。〔國朝先正事略、施襄壯公事略〕守則永固ニ邊隅一、伏乞ニ乾斷一。

【乾灘】189 ケンダン 鎭の名。湖北省天門縣の東南。〔九域志〕竟陵縣有ニ乾灘鎭一、亦作ニ乾鎭驛一。

【乾池】190 カンチ 池をかわかす。たやしつくす意を表はす。〔張衡、西京賦〕摎蓼浶浪、乾レ池滌レ藪。〔注〕銑曰、乾レ池滌レ藪、言レ盡也。

【乾竹】191 カンチク かれた竹。枯竹。〔金光明經〕以ニ乾竹一刺レ頭。

【乾竺】192 ケンヂク 印度の古稱。天竺(**3**－**5833**··1111)に同じ。〔宋元、贈ニ竺鍊師一詩〕姓疑乾竺古先生。〔傳燈錄〕東堂不レ折レ桂、南華不レ學レ仙、却來乾竺寺、披レ衣效ニ坐禪一、禪若效坐得、非レ想亦何偏。

〖乾竺特〗193 カンチクトク 印度のカシミルの北方に在

る酋長國。坎巨提。喀楚特。棍雜。

【乾軸】194 天の軸。天象が運行するのは、恰も車に軸があつて廻るのと同じやうであると考へられるからいふ。轉じて、天をいふ。〔袁宏、三國名臣序贊〕赫赫二雄、竝廻二乾軸一。

【乾娘】195 kan^1 niang^2 ❶名義だけの母。養母。義母。❷妓樓の鴇母。やりてばば。

【乾通】196 北宋の徽宗の時、遼の天祚帝(耶律延禧)の年號なる乾統の一稱。(1101－1110)

【乾定】197 ❶南宋の時、夏の獻宗(李德旺)の年號。(1223－1225) ❷北周、宇文康(**3－7067**··41)の字。

【乾貞】198 年號。❶五代、吳の睿帝(楊溥)の時。(927－928) ❷宋代、自杞國稱す。(1176)

【乾啼】199 そらなき。表面だけ悲しみを裝つて泣くこと。〔北史、尉景傳〕尉景有二果下馬一、文襄求レ之、景不レ與、云云、神武對二景及常山君一責二文襄一而杖レ之、常山君泣救レ之、景曰、小兒慣去放使レ作二心腹一、何須二乾啼溼哭不レ聽レ打耶。

【乾鳥】200 鳥肉の干物。〔宇津保物語、藤原君〕雲雀のほし鳥。

【乾點】201 乾菓子。〔朝市叢載〕北平所レ產乾點、每件花樣不レ同、共有二八種一。

【乾田】202 排水が良好で、灌漑を止めると田面がよく乾燥し、裏作に麥などを作り得る田。

【乾電】203 kan^1 tien^4 乾電池。

〔乾電池〕204 電池に用ひる液體を脫脂綿の如き物に吸收させて取扱ひを便利にした電池。二酸化マンガン乾電池・空氣乾電池など。

【乾土】205 kan^1 t'u^3 乾いた土地。水分の少い土地。

【乾都】206 瘦せしなびた老人。〔方言、十〕悈鰓・乾都・耇革、老也、皆南楚江湘之閒代語也。〔注〕皆老者皮色枯瘁之形也。

【乾圖】207 天の圖。天象をいふ。〔舊唐書、禮儀志二〕仰則二乾圖一。

【乾豆】208 祭祀のとき、豆器に盛る乾肉。乾は乾肉、豆は祭器の名。〔禮、王制〕天子諸侯、無レ事則歲三田、一爲二乾豆一、二爲二賓客一、三爲レ充二君之庖一。〔注〕乾豆、謂二腊レ之以爲二祭祀豆實一也。〔揚雄、長楊賦〕內レ之則不三以爲二乾豆之事一。

【乾棟】209 天子の宮殿のむなぎ。〔晉書、元帝紀論〕回二首朝陽一、仰二希乾棟一。〔許敬宗、賀二杭州等龍見幷慶雲朱草一表〕伏惟、皇帝陛下、化隆二乾棟一、施厚二大鑪一。

【乾統】210 ❶天子の血統。〔謝莊、宋明帝卽位赦詔〕猥以二寡薄一、屬二承乾統一。〔姚登孫、賀二元旦一表〕道符二乾統一、躬啓二皇圖一。❷年號。㋑遼、天祚帝(耶律延禧)の時。(1101－1110) ㋺明の神宗の代、越の莫敬恭の時。(1593－1616)

〔乾統元寶〕211 遼の天祥帝の乾統年間に鑄造せられた貨幣の名。〔遼史、食貨志下〕天祚之世、更鑄二乾統・天慶二等新錢一、而上下困窮、府庫無二餘積一。

【乾德】212 ❶天子の德。〔吳志、薛瑩傳〕乾德博好、文雅是貴。❷進んで息まぬ德。〔易林〕扶陽之政、以保二乾德一。❸年號。㋑唐の高祖の時、輔公祏の僭年號。天明の一稱。(623－624) ㋺五代、蜀の順正公王衍の時。(919－924) ㋩宋の太祖(趙匡胤)の時。(963－968) ❹縣名。民國、置く。新疆省吐魯番縣の西。

〔乾德通寶〕213 五代、蜀の乾德年中に鑄造せられた貨幣の名。〔董逌、錢譜〕僭僞錢、乾德通寶、前僞蜀王衍鑄。

【乾肉】214 ほした肉。ほし肉。乾脯。〔儀禮、士冠禮〕有二乾肉折俎一、嚌レ之。〔禮、曲禮上〕乾肉不二齒決一。〔漢書、東方朔傳〕乾肉爲レ脯。

【乾寧】215 唐の昭宗(李傑)の年號。(894－898)

〔乾寧軍〕216 軍の名。唐、置く。年號から名づけた。故城は今の河北省青縣治。〔資治通鑑、唐紀、(昭宗、光化三年)、注〕乾寧軍、在二滄州西一百里一、蓋乾寧閒、始置二此軍一也。

【乾熱】217 kan^1 jê^4 ❶旱魃。旱天續き。❷乾いて暑い。

【乾杯】218 乾盃。❶杯の酒を飲み乾す。〔新儀式、四〕欲レ獻二御酒一之時、親王進跪唱平、卽乾杯、御揖訖稱。❷宴會などで、酒杯を擧げて相手方の健康を祝ふこと。

【乾肺】219 のどを乾かす。のどが乾くこと。苦勞するさま。〔呂覽、順民〕焦レ脣乾レ肺。〔呂覽、禁塞〕單レ脣乾レ肺。〔注〕乾、晞也。

【乾梅】220 梅干し。〔周禮、天官、籩人、乾䕩、注〕乾䕩、乾梅也。

【乾伯】221 北周、宣帝(**3－7132**··164)の字。

【乾暴】222 さらしかわかす。〔論衡、商蟲〕烈日乾暴、投二於燥器一、則蟲不レ生、如不二乾暴一、閘二喋之一、蟲生如二霞烟一。

【乾法】223 吹管を以て物質を熱し、其の反應によつて分析の目的を達する方法。溶解して分析する手續を用ひないから乾法といふ。吹管分析法。

【乾板】224 寫眞の種板。

【乾飯】225 ほしいひ。ほしためし。乾糒。〔墨子、備城門〕爲二卒乾飯一。〔後漢書、羊陟傳〕常食二乾飯一、茹レ菜。

【乾糒】226 ほしいひ。乾飯。〔後漢書、百官志三〕導官令一人、六百石、本注曰、主下舂二御米一、及作二乾糒一、導擇上也。

【乾筆】227 kan^1 pi^3 常に穗先を乾燥させ、使用する時だけ墨水を含ませる筆。水筆(**6－17083**··732)の對。純毛だけで製す。

【乾符】228 ❶天子のしるし。天符。帝王の符瑞。〔班固、東都賦〕於レ是、聖皇乃握二乾符一、闡二坤珍一。〔注〕濟曰、乾符、赤伏符也。〔後漢書、班固傳、注〕乾符・坤珍、謂二天地符瑞一也。❷年號。㋑唐の僖宗の時。(874－879) ㋺北宋の徽宗の時、越(安南)の仁宗(李乾德)の年號。龍符の一稱。(1101－1109) ㋩北宋の仁宗の代、大瞿越(安南)の太宗(李佛馬、一に李德政)の年號。乾符有道の略稱。(1039－1042) ❸縣名。唐、置く。今の河北省滄縣の東北。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府、滄州〕乾符城、州東北八十里、本浮陽縣地、隋開皇十六年、置二魯城縣一、云云、貞觀初、縣屬二滄州一、乾符中、生二野稻一二千餘頃一、燕・魏飢民、就食レ之、因更曰二乾符一、以二年號一爲レ名。

〔乾符有道〕229 北宋の仁宗の時、大瞿越(安南)の太宗(李佛馬、一に李德政)の年號。又、略して乾符ともいふ。(1039－1042)

〔乾符元寶〕230 北宋の時、安南の仁宗の乾符年間に鑄造せられた貨幣の名。〔李佐賢、古錢匯〕。

【乾麩】231 ふすま。麥粉を採つたあとのかす。〔福惠全書、郵政部、喂養〕初夏、拌以二乾麩一。

【乾風】232 西北から吹く風。あなし。〔和漢三才圖會、天象類、風〕乾風・厲風・折風・不周風、按、乾風曰二穴師一。

【乾覆】233 ❶天が萬特をおほひ育てること。又、天をいふ。〔梁簡文帝、南郊頌序〕等二乾覆之燾養一、合二坤載之靈長一。❷天、又、父のたとえ。〔慕容暐、答二慕容恪・慕容評一〕朕以二不天一、早傾二乾覆一。

【乾福】234 北周、宇文貴(**3－7067**··44)の字。

【乾物】235 ❶動植物を乾した食料。ひもの。〔儀禮、鄉射禮、薦レ脯用レ籩、注〕脯用レ籩、籩宜二乾物一也。❷物をかわかす。〔書、洪範、八庶徵、傳〕雨以潤レ物、暘以乾レ物。

【乾粉】236 kan^1 fen^3 豆素麵。

【乾文】237 ❶天のあや。天文。天象。〔蜀志、郤正傳〕俯憲二坤典一、仰式二乾文一、播二皇澤一以熙レ世。〔元史、禮樂志三〕乾文宏朗。❷清、都四德(**11－39509**··221)の字。

〔乾文車〕238 天の紋樣を畫いた車。〔漢書、王莽傳中〕乘二乾文車一、駕二坤六馬一。〔注〕鄭氏曰、畫二天文象於車一也。

【乾瓢】239 干瓢。〔和漢三才圖會、蓏菜類、壺盧〕乾瓢、土用中取レ之、橫切片、去二皮及瓤一、用二白肉一薄剝、連二二丈一、如二紙紉一、掛レ架晒乾、如レ逢レ雨、變レ色不レ佳。

【乾癟】240 枯れ瘦せる。骨と皮になる。ひからびる。〔七修類稿〕張士信在二姑蘇一、專用二黃敬夫・蔡彥夫・葉得新三人一、民閒作二十七字詩一曰、丞相做二事業一、專用二黃蔡葉一、一夜西風起、乾癟。〔堅瓠集〕張士誠時、十七字謠云、丞相作二事業一、專用二黃菜葉一、一夜西風來、乾癟、明大事記所レ載、菜作レ蔡、乾癟作二乾別一、乾癟是吳語、至レ今尚然、乾別卽乾癟之轉耳。

【乾片】241 kan^1 p'ien^4 寫眞の乾板。種板。

【乾晡】242 ch'ien^2 pu^1 男のこと。廈門地方の方言。

【乾脯】243 ほした肉。乾肉(214)に同じ。〔詩、

大雅、鳧鷖、爾殽伊脯、疏〕事二尊者一、不三敢以二褻美之味一、直以二所レ泲之酒及乾脯一而已。〔漢書、東方朔傳〕生肉爲レ膾、乾肉爲レ脯。

【乾母】244 kan¹ mu³ 母分。養母。

【乾媽】245 kan¹ ma¹ 繼母。母分。名義だけの母。

【乾封】246 カンポウ ❶封を乾かす。封は天を祭るために土を盛つて作つた壇。〔史記、封禪書〕夏旱、公孫卿曰、黃帝時、封則天旱乾レ封、三年、上乃下レ詔曰、天旱、意乾レ封乎。〔注〕正義曰、蘇林云、天旱、欲レ使二封土乾燥一也。❷祭に尸を立てないこと。〔史記、封禪書、注〕正義曰、鄭氏云、但祭不レ立レ尸曰二乾封一。❸ケンポウ 唐の高宗（李治）の年號。（666－668）❹縣名。㋑唐、置く。漢の博縣。今の山東省泰安縣の東南。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、泰安州〕奉符廢縣、春秋時、齊之博邑也、云云、漢置二博縣一、屬二泰山郡一、云云、唐初置二東泰州一、尋還屬二兗州一、乾封初、改爲二乾封縣一。㋺唐、置く。故治は今の陝西省長安縣の南。

【乾封泉寶】247 ケンポウセンパウ 唐の高宗の乾封年間に鑄造せられた貨幣の名。〔唐會要、泉貨〕乾封元年五月二十三日、盜轉鑄多、遂改二鑄新文一、曰二乾封泉寶錢一、徑寸、重二銖六分。

【乾沒】248 カンボツ ❶僥倖にして利益を獲ること。一說に、一六勝負をすることで、利を得るを乾といひ、失ふを沒といふ。日知錄、卷三十二に見ゆ。〔史記、酷吏、張湯傳〕（湯）始爲二小吏一乾沒。〔注〕集解曰、徐廣曰、隨レ勢沈浮也、駰案、服虔曰、射二成敗一也、如淳曰、得レ利爲レ乾、失レ利爲レ沒、正義曰、此二說非也、按、乾沒謂下無二潤及レ之而取中他人上也、又云、陽浮慕爲レ乾、心內不レ合爲レ沒也。〔魏志、傳嘏傳〕豈敢傾レ根竭レ本、寄二命洪流一、以徼二乾沒一乎。〔抱朴子、安貧〕忘二髮膚之明戒一、尋二乾沒於難レ冀。〔通俗編、貨財、乾沒〕按、諸所レ云、大抵皆徼幸取レ利之義、而世俗又以レ掩二人財物一爲二乾沒一、其言則自レ唐以後始。❷他人の依託物を橫取すること。橫領すること。〔五代史、李崧傳〕李嶼僕葛延遇、爲レ嶼商賈、多乾二沒其貲一、嶼笞二責之一。〔宋史、河渠志三〕每レ興二一役一、乾沒無レ數。〔揮麈後錄〕某家有二逢辰錄一、爲二錢仲昭一、假去乾沒。

【乾命】249 ケンメイ 天命（3－5833・・1398）に同じ。〔晉書、慕容儁載記〕恭承二乾命一、有二何不可一。

【乾明】250 ケンメイ 北齊の廢帝（高殷）の年號。（560）

【乾麵】251 カンメン 饂飩粉。〔沈遼、贈二別子瞻一詩〕罷亞若可レ博二乾麵一、以無レ易レ有二遙相望一。

【乾爺】252 kan¹ yeh² 繼父。父分。名義上の父。

【乾陽】253 ケンヤウ 北周、宇文賢（3－7067・・50）の字。

【乾瘍】254 kan¹ yang² 腫物の一種。ぜにがさ。

【乾邕】255 ケンヨウ 字號。❶北齊、高乾（12－45313・・283）の字。❷後魏、王崇（7－20823・・650）の字。

【乾浴】256 カンヨク 夜寢る前に兩手で身體をこする一種の養生法。水氣を用ひぬ湯あみの義。〔雲笈七籤〕夜臥時、常以二兩手一、揩二摩身體一、名曰二乾浴一。〔蘇軾、次二韻子由浴罷一詩〕霧散名二乾浴一。

【乾羅】257 ケンラ 隋、爾朱敞（7－19750・・40）の字。

【乾癩】258 kan¹ lai⁴ 疥癬。ひぜん。

【乾橑】259 カンラウ うめぼし。乾した梅。乾梅。〔周禮、天官、籩人〕饋食之籩、其實、棗・桌・桃・乾橑・榛實。〔注〕乾橑、乾梅也。

【乾酪】260 カンラク 牛乳を精製して凝固させた食品。チーズ。〔正字通〕酪、乾酪、法、以レ酪就レ日曝使レ結、掠二去浮皮一、再曝至二皮盡一、卻入レ釜、炒少時、器盛再曝、作レ塊收用。〔唐書、地理志六〕茂州通化郡下、貢二云云乾酪一。

【乾酪素】261 カンラクソ 蛋白質の一種。白色又は帶黃色で、粒狀又は粉狀の物質。牛乳から採取する。食用・製革用・製紙用・接合劑・水ペンキ等に用ひる。カゼイン。

【乾溜】262 カンリウ 固體を密閉した器中で強熱し、生成物の蒸氣を冷却凝縮させて回收する操作。

【乾量】263 カンリヤウ 英米の度量衡で、固體の容量を計る單位。液量（7－17586・・17）の對。同じ一ガロンでも、液量と少し異なる。

【乾糧】264 カンリヤウ ほしいひの類。又、飲料に對してすべての食物をいふ。〔論衡、藝增〕周殷士卒皆賷二盛糧一、或作二乾糧一。

【乾隆】265 ケンリユウ 清の高宗純皇帝（弘曆）の年號。（1736－1795）

【乾隆窯】266 ケンリユウエウ 清の乾隆の時、唐英の作つた陶器。一名、唐窯。

【乾隆帝】267 ケンリユウテイ 清、高宗（7－17695・・856）をいふ。

【乾隆綴】268 ch'ien² lung² chuei⁴ 書籍の普通な綴ぢ方をいふ。

【乾隆通寶】269 ケンリユウツウハウ 清の乾隆二十四年に、高宗が回部を平定し、葉爾羌ヤルカンドに局を設けて鑄た錢。回疆に行はれる。是より先、葉爾羌・喀什噶爾・和闐地方には、普爾錢が行はれてゐた。この普爾錢を新しく鑄直して、表面に漢字で乾隆通寶の四字を鑄たのである。〔淸國行政法、內務行政、法定錢幣、錢式〕普爾錢、回部之葉爾羌・喀什噶爾・和闐城、舊有二錢文一、市易通用、名曰二普爾一、以二紅銅一爲レ質、制小而厚、外有二輪廓一、中無二方孔一、乾隆二十四年、以二西域蕩平一、回部悉定、開二錢局於葉爾羌城一、改二鑄普爾一、仍用二紅銅一、形如二內地制錢一、文爲二乾隆通寶一、用二漢字一、錢冪左用二滿文一、右用二回文一。

【乾隆三大家】270 ケンリユウノサンダイカ 清の乾隆年間の大詩人なる蔣士銓（藏園）・趙翼（甌北）・袁枚（隨園）の三人をいふ。〔國朝先正事略、文苑、趙甌北先生事略〕其詩與二袁簡齋・蔣心餘一齊レ名。

【乾陵】271 ケンリヨウ 陵の名。❶唐の高宗の陵。陝西省乾縣の西北の梁山。〔唐書、武氏紀〕光宅元年八月庚寅、葬二天皇大帝於乾陵一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕乾陵、在二京兆府奉天縣界一。〔乾州志〕乾陵、在二梁山一、乾陵署、在二乾陵下二里許一、遺址尚存、土人謂二之看墳司一。〔長安志〕乾陵、周八十里、有二于闐國所レ進無字碑一。❷遼の景宗の陵。滿洲遼寧省北鎭縣の醫巫閭山。〔遼史、聖宗紀一〕統和元年二月甲午、葬二景宗皇帝於乾陵一。〔盛京通志〕乾陵、在二醫巫閭山一、按二明一統志一、上有二凝神殿一、今廢。

【乾龍】272 ケンリヨウ 洞の名。四川省巫溪縣の西。上下兩洞があつて、上洞は廣く、下洞は狹く長い。淸の嘉慶の初、教匪の亂に、鄕人が此處に避難した。

【乾禮】273 kan¹ li³ 金錢の贈物。乾折。

【乾靈】274 ケンレイ ❶天の神。又、陽の精氣。〔曹植、漢二祖優劣論〕世祖體二乾靈之休德一、稟二貞和之純精一。❷あまつかみ。天神。〔日本書紀、神武紀〕上則答二乾靈授レ國之德一、下則弘二皇孫養レ正之心一。

【乾裂】275 kan¹ lieh⁴ 乾いてさける。ひからびて破れ裂ける。

【乾和】276 ケンワ ❶水を加へない酒。乾酢酒（290）を見よ。❷五代、南漢の中宗（劉晟）の年號。（943－958）

【乾鰯】277 ホシカ 鰯の脂を絞つた滓を日に乾したもの。肥料にする。〔和漢三才圖會、農具類、糞〕如二田圃一則乾鰯・油糟・米糠・馬屎、皆良。

【乾阿嬭】278 カンアダイ 乳を飲ませずに、ただ小兒を抱き育てる乳母。嬭は一に妳に作る。だきうば。保姆。乾嬭婆。〔北齊書、穆提婆傳〕穆提婆母陸令萱、嘗配入二掖庭一、後主襁褓之中、令二其鞠養一、謂二之乾阿妳一。〔通俗編、婦女、乾阿嬭〕按、保姆不二乳哺一者、今猶襲二此稱一、史記注云、但祭不レ立レ尸曰二乾封一、乾、有二權假之義一。

【乾鹽皮】279 カンエンピ なまの獸皮に鹽を施して乾したもの。遠地に送るに適す。

【乾荷葉】280 カンカエフ 詞牌の名。〔古今詞話〕楊愼曰、元太保劉秉忠、有二乾荷葉曲一、以詠二本意一。

【乾欬嗽】281 カンガイソウ からぜき。乾嗽（169）を見よ。〔醫貫、欬嗽論治〕有二一等乾欬嗽者一、丹溪云、乾欬嗽、極難レ治。

【乾江市】282 ケンカウシ 地名。廣東省合浦縣の東南。乾體港・乾體營ともいふ。海防の重要地。

【乾腳氣】283 カンカツケ 脚氣病の一種。脚氣の初期にあらはれ、足部の筋脈が跪縮し、浮腫を伴はないもの。

【乾菓子】284 ヒグワシ 乾製の菓子。生菓子の對。干菓子。〔和漢三才圖會、造釀類、環餠〕本朝人、多不レ嗜二油煎一、故以二沙糖汁一溲レ麪、而作二花實之形一、熬レ之以代二果子一、因名二乾菓子一。

【乾霍亂】285 カンクワクラン 病の名。霍亂の一種。吐瀉を催しながら吐瀉し得ないもの。〔六書總論〕如二揮霍撩亂、而不レ得二吐瀉一、此名二乾霍亂一。

【乾雞筋】286 カンケイキン 草の名。いかりさう。淫羊藿（7－17678・・153）の異名。〔本草、淫羊藿〕釋名、乾雞筋、時珍曰、雞筋、黃連祖、皆因二其根形一也。

【乾血癆】287 カンケツラウ 病の名。過勞のために血液が枯涸して、身體が疲れ瘦せる病。又、婦人病の一種。月經不順のために起る。癆は一に勞に作

る。勞瘵。

【乾柴火】288 カンサイクワ 乾いた柴。情慾に喩へる。熱火を移し易いからいふ。〔還魂記、道覡〕將俺卽世裏做㆓老婆㆒的乾柴火執熱願涼。

【乾相思】289 カンサウシ 片おもひ。〔西廂記、張君瑞害㆓相思㆒雜劇〕似㆓這般㆒乾相思。

【乾酢酒】290 カンサクシュ 水を混ぜぬ醇酒。乾和。〔酒譜〕張籍詩云、釀酒愛㆓乾和㆒、卽今之不㆑入㆑水酒也、幷・汾閒、以爲㆓貴品㆒、名曰㆓乾酢酒㆒。

【乾鑿度】291 ケンサクド 易緯の一。周易(**2**－**3441**・・29)の參考中の周易乾鑿度を見よ。

【乾產着】292 kan^1 ch'an^3 chê ただ。單に。

【乾字金】293 ケンジキン 寶永七年四月から鑄造し、享保四年十二月に通用を停止した所の、乾の字の極印のある金貨。寶永小判金。乾字小判金。

【乾上田】294 ホシアゲダ 水を涸らして乾かした田。

【乾樹鷄】295 キクラゲ 菌の名。木耳。腐つた木などに生ずる。〔名物六帖〕。

【乾淳體】296 ケンジュンタイ 宋の乾道・淳熙の閒に、蘇軾の文を宗として盛に行はれた文體。朱熹・陳亮・呂祖謙・周必大・樓鑰・葉適・洪邁兄弟などが其の主な作家である。

【乾姐兒】297 kan^1 chieh^3 êrh 義姉妹。

【乾政官】298 ケンセイクワン 淳仁天皇の御世、太政官の改稱。〔國史略、淳仁天皇〕改㆓易官制㆒、太政官爲㆓乾政官㆒。

【乾清宮】299 ケンセイキュウ 宮殿の名。北京の紫禁城の乾清門の內に在つて、清の世祖の御書になる「正大光明」の額がある。〔清會典、工部、宮殿〕乾清門內左右陛、北出者二、中路甬道相屬、正中南嚮者、爲㆓乾清宮㆒、宮廣九楹、深五楹、中閒設㆓寶座㆒、左右列㆓圖史・璣衡・彝器㆒、殿前列㆓銅龜鶴各二㆒、日圭嘉量各一、寶鼎四㆒、左右丹陛南出者二㆒、東西出者各一、東西丹陛之下、有㆓文石臺二㆒、上安㆓設社稷江山金殿㆒。

【乾清門】300 ケンセイモン 乾清宮前にある門。乾清宮を見よ。〔清會典、工部、宮殿〕保和殿後、正中南嚮者、爲㆓乾清門㆒、廣宇五楹、中門三陛三出、各九級、周以㆓石闌㆒、門前列㆓金獅二㆒。

【乾清門侍衞】301 ケンセイモンジエイ 乾清門伺候の侍衞。〔清會典、侍衞處、儀制〕侍衞入朝、均挂㆓數珠㆒、除㆓御前侍衞・乾清門上駟院侍衞、及各執事侍衞㆒外、咸佩㆑刀。

【乾船渠】302 カンセンキョ カンドック 船渠の一。陸地を開鑿して凹くし、自在に水を滿たし又は涸らすやうにしたもの。浮船渠(**6**－**17487**・・175)の對。

【乾打碑】303 kan^1 ta^3 pei^1 石摺に用ひる墨。松烟に蠟を和して製する。

【乾嬭婆】304 カンダイバ 乳を飮ませずに、ただ小兒を抱いて育てる乳母。だきうば。乾阿嬭。嬭婆(**3**－**6824**・・13)を見よ。〔陔餘叢考、嬭婆〕俗稱㆓乳母㆒曰㆓阿嬭㆒、亦曰㆓嬭婆㆒、其不㆓乳哺㆒而但保抱者、曰㆓乾嬭婆㆒。

【乾闥婆】305 ケンダツバ 佛 梵語 Gandharva の音譯。❶香神などと譯す。樂神の名。酒肉を食はず、香を食とする。緊那羅と共に帝釋に奉侍して伎樂を奏する。犍達縛。〔玄應音義〕乾闥婆、舊名也、今正言㆓犍達縛㆒、此云㆓齅香㆒、亦云㆓樂神㆒、舊云㆓香神㆒。〔注維摩經、一〕什曰、乾闥婆、天樂神也、處㆓地十寶山中㆒、天欲㆑作㆑樂時、此神、體上有㆑相出、然後上㆑天也。❷西域地方で俳優をいふ。尋香(**4**－**7447**・・6)に同じ。❸蜃氣樓をいふ。乾闥婆城を見よ。

【乾闥婆城】306 ケンダツバジャウ 佛 梵語 Gandharvanagara の音意譯。蜃氣樓のこと。龍神が空中に城郭を示現するものであるとか、海中で蜃(ハマグリ)が氣を吐いて現出させるものであるなどと傳へいふ。實際に無いものに執はれる心に喩へる。尋香城。海市。空中樓閣。乾城。〔智度論、六〕可㆓眼見㆒、無㆑有㆑實、名㆓乾闥婆城㆒。〔宗鏡〕但可㆓眼見㆒而無㆑有㆑實、是乾闥婆城。

【乾茶錢】307 カンチャセン 娼樓などで費す錢のこと。一種の素見代。〔古杭夢遊錄〕娼家聊設㆓桌凳㆒以㆑茶爲㆑由、後生輩甘㆓于戲錢㆒、謂㆓之乾茶錢㆒。

【乾着急】308 kan^1 chao^2 chi^2 無暗矢鱈に氣を揉んであせる。ただ氣ばかりあせる。

【乾渡錢】309 カントセン 水のなくなつた河を渡る者から取る一種の通行稅。〔宋史、李東之傳〕爲㆓館閣校勘宣化軍使㆒、境上有㆓廢河故道㆒、官收㆓行者稅㆒、謂㆓之乾渡錢㆒、奏除㆑之。

【乾巴死】310 kan^1 pa^1 ssŭ^3 干上つて死ぬ。乾干になる。

【乾葡萄】311 カンブダウ ほしぶだう。乾萄。〔齊民要術、種葡萄〕作㆓乾葡萄㆒法、極熟者一一零壓摘取、刀子切㆓去蔕㆒、勿㆑令㆓汁出㆒、蜜兩分、和㆓內葡萄中㆒、煑四五、沸漉出、陰乾便成矣、非㆓直滋味倍勝㆒、又得㆓夏暑不㆓敗壞㆒也。

【乾蜂兒】312 kan^1 fêng êrh 馬がはねる。

【乾膜質】313 カンマクシツ 薄くて乾いた膜質。

【乾餘骨】314 カンヨコツ 鳥の名。〔莊子、至樂〕鴝掇、千日爲㆑鳥、其名爲㆓乾餘骨㆒、乾餘骨之沫爲㆓斯彌㆒、斯彌爲㆓食醯㆒。〔列子、天瑞〕鴝掇、千日化而爲㆑鳥、其名曰㆓乾餘骨㆒、乾餘骨之沫爲㆓斯彌㆒。

【乾巴巴的】315 kan^1 pa^1 pa^1 tê ごく乾いた。乾きつた。からからと乾燥した。

【乾擺茨裂】316 kan^1 pai^3 tz'ŭ^2 lieh^4 脂氣が無くて荒れる。からからになる。

【旋㆑乾轉㆑坤】317 ケンヲメグラシコンヲテンズ 天地を廻轉する。局面を轉廻する。國家の大勢を一新する。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕陛下卽位以來、躬聽斷、旋㆑乾轉㆑坤、天戈所㆑麾、莫㆑不㆓寧順㆒。

【乾淳三先生】318 ケンジュンノサンセンセイ 宋の朱熹(字は元晦)・張栻(字は敬夫)・呂祖謙(字は伯恭)の三人をいふ。共に乾淳年閒に活動した人。

【乾星照㆓濕土㆒】319 カンセイシツドヲテラス 乾いた星が濕つてゐる土を照らす。次の時代には反對なものの現れることの喩。〔西溪叢語〕諺云、乾星照㆓濕土㆒、來日依㆓舊雨㆒。

【燒㆓乾柴㆒吃㆓白米㆒】320 カンサイヲタキハクマイヲキッス 乾いた柴を燒き白米の飯を食ふ。陰曆八月二十四日の稻生日をいふ。蘇州地方の諺。

【乾以君㆑之坤以藏㆑之】321 ケンハモッテコレニキミタリコンハモッテコレヲザウス 天は萬物に君臨し、地は萬物を收藏する。〔易、說卦〕乾以君㆑之、坤以藏㆑之。

【乿】205 チ ヂ 〔集韻〕澄之切 支

❶**をさめる**。通じて治(**6**－**17256**)に作る。〔集韻〕乿、理也、通作㆑治。〔字彙〕乿、與㆑治同、理也。❷或は⿱乿月(**9**－**29879**)・⿱乿土(**2**－**2983**)に作る。〔集韻〕乿、或作㆓⿱乿月・⿱乿土㆒。

【⿺乚思】206 シ 思(**4**－**10462**)の古字。〔集韻〕思、古作㆑⿺乚思。

【⿰翁乚】207 アウ 〔集韻〕鄔項切 講 ⿰忄翁(**4**－**11041**)に同じ。〔集韻〕⿰忄翁、或从㆑乙。

【⿰忄⿺乚耎】208 ジュ 懦(**4**－**11390**)に同じ。〔康熙字典〕⿰忄⿺乚耎、集韻、同㆑懦。

【⿺乚网】209 キ 龜(**12**－**48847**)の古字。〔玉篇〕⿺乚网、古文龜。

【亀】210 キ 龜(**12**－**48847**)の俗字。〔正字通〕龜、俗作㆑亀、非。

十一畫

【⿺乚⿱虍真】211 タン・キウ 義未詳。〔字彙補〕⿺乚⿱虍真、都寒切、音丹、太上作、見㆓亳州老君碑㆒、又其鳩切、音求、義同。

【⿰馬乚】212 シャ 義未詳。〔字彙補〕⿰馬乚、牀斜切、見㆓續高僧傳㆒。

【乾】213 ケン 乾(**1**－**204**)の俗字。

十二畫

【亂】214 ラン 〔集韻〕盧玩切 翰 ㄌㄢˋ lan^4 ㄌㄨㄢˋ luan^4 唐ロン

亂 小篆 古文

❶みだれる。みだす。〔段注本說文〕亂、不㆑治也、从㆓乙𤔔㆒、乙、治㆑之也。〔集韻〕亂、紊也。〔書、周官〕制㆓治於未㆑亂。〔史記、孔子世家〕誅㆓魯大夫亂㆑政者少正卯㆒。❷入りまじる。ごたつく。混雜する。〔釋名、釋言語〕亂、渾也。〔荀子、解蔽〕學㆓亂術㆒。〔注〕亂、雜也。❸迷ふ。惑ふ。惱む。思ひ煩ふ。〔呂覽、論人〕此不肖主之所㆓以亂㆒也。〔注〕亂、惑。〔鮑照、採㆑菱歌〕春思亂如㆑麻。❹をさめる。〔說文繫傳〕亂、治也、从㆑𤔔从㆑乙、乙治㆑之也。〔爾雅、釋詁〕亂、治也。〔玉篇〕亂、理也。〔書、皐陶謨〕亂而敬。〔傳〕有㆓治而能敬謹㆒。〔書、盤庚下〕亂㆓越我家㆒。〔左氏、襄、二十八〕武王有㆓亂臣十人㆒。〔注〕亂、治也。〔論語、泰伯〕武王曰、予有㆓亂臣十人㆒。〔集解〕馬融曰、亂、理也。❺わたる。河の流れを橫ぎる。〔爾雅、釋水〕正絕㆑流曰㆑亂。〔書、禹貢〕亂㆓于河㆒。〔詩、大雅、公劉〕涉㆑渭爲㆑亂。〔傳〕正絕㆑流曰㆑亂。❻不作法。〔論語、鄉黨〕唯酒無㆑量、不㆑及㆑亂。❼反逆。不軌。無道。〔左氏、文、七〕兵作㆓於內㆒爲㆑亂。〔左氏、定、四〕無㆑始㆑亂。〔大學〕一國作㆑亂。〔大戴禮、子張問入官〕爭之至、又反㆓於亂㆒。〔管子、君臣下〕四正不㆑正、五官不㆑官曰㆑亂、云云、臣當㆑罪而不㆑誅曰㆑亂、云云、爲㆓人君㆒者、倍㆑道弃㆑法、而好㆑行㆑私、謂㆓之亂㆒。〔說苑、臣術〕逆㆑命病㆑君、謂㆓之亂㆒。❽淫行。淫行をする。〔詩、鄭風、東門之墠序〕東門之墠、刺㆑亂也。〔禮、檀弓上〕夫婦方亂。❾みだれた。みだらな。〔荀子、正論〕起㆓於亂今㆒也。㋑無道の。道理に悖つた。〔荀子、君道〕有㆓亂君㆒、無㆓亂國㆒。〔公孫龍子、白馬〕此天下之悖言亂辭也。㋺不公平な。〔左氏、昭、六〕亂獄滋豐。㋩秩序のない。〔史記、主父偃傳〕亂衆之民。㋥無茶な。〔淮南子、說山訓〕亂謗乃愈起。㋭みだらな。〔大戴禮、本命〕亂家子不㆑取。〔注〕亂、淫亂也。❿むやみに。やたらに。無茶苦茶に。〔書、無逸〕亂㆓罰無罪㆒。〔後漢書、光武紀〕積弩亂發、矢下如㆑雨。⓫音樂のをはりの意。〔論語、泰伯〕關雎之亂。〔集注〕亂、樂之卒章也。⓬楚辭體の終りに大意を總括した章。〔楚辭、離騷〕亂曰、已矣哉、國無㆑人兮。〔注〕亂、理也、所㆘以發㆓理詞指㆒、總㆗撮其要㆖也。〔補注〕凡作㆓篇章㆒既成、撮㆓其大要㆒、以爲㆓亂辭㆒也。〔漢書、外戚、李夫人傳、亂曰、注〕師古曰、亂、理也、總㆓理賦中之意㆒。⓭古は〓(7−19720)・〓(2−2771)・〓(2−3225)に作る。〔集韻〕亂、古作㆓〓・〓・〓㆒。⓮或は𤔔(7−19687)に作る。〔玉篇〕亂、或作㆑𤔔。邦みだれ。❶歌謠の件はぬ能樂の舞の一種。❷芝居の、太鼓入りの囃し。❸こじき。ものもらひ。

解字 指事。乙と𤔔との合字。乙は、屈するものを達せしめて治める意。𤔔は、𠬪(手と手を合せて物を與へるかたち)と、冂(分れ爭ふ意)と、幺(幼子)との合字で、幼子の相みだれてゐるのを合せて治める意。敽に通じて、みだれる義となる。〔說文、亂、段注〕乙以治㆑之、謂㆓詘者達㆑之也。〔說文通訓定聲〕亂、治也、从㆑𤔔从㆑乙、乙治㆑之也、指事、廣雅、釋詁二、亂、理也、據㆓許說㆒解、則𤔔・亂同字、敽訓㆑煩、則爲㆓紊義㆒。

【亂鴉】1 ランア あちこちに亂れ飛ぶ烏。〔李商隱、自㆓桂林㆒奉㆑使江陵途中感懷寄㆓獻尙書㆒詩〕亂鴉銜㆓曬網㆒、寒女簇㆓遙砧㆒。

【亂鶯】2 ランアウ あちらこちらに鳴く鶯。〔白居易、和㆘新樓北園偶集從㆓孫公度云云范處士㆒小飲鄭侍御判官周・劉二從事皆先歸㆖詩〕芳草供㆓枕藉㆒、亂鶯助㆓諠譁㆒。〔陳克、詩〕亂鶯殘夢起多時。

【亂惡】3 ランアク みだれて惡い。みだりがはしく惡い。濫惡。〔太平記、二十三、土岐賴遠參㆓合御幸㆒致㆓狼藉㆒〕亂惡の習俗にて。

【亂葦】4 ランヰ 亂れ茂つてゐるあし。〔張羽、曉遇㆓淮陰㆒詩〕行人欲㆑斷寒煙外、野燒時明亂葦閒。

【亂遊】5 ランイウ みだれ遊ぶ。無禮講で遊び興ずること。〔禁祕抄、上〕亂遊之時。

【亂雲】6 ランウン ❶みだれ動く雲。〔杜甫、對㆑雪詩〕亂雲低㆓薄暮㆒、急雪舞㆓回風㆒。❷氣象學用語。十種雲級の一。暗黑色で厚密、定形がなく、緣邊は破亂してゐる雲。雨雪の降る時に現はれる。雨雲。

【亂搖】7 ランエウ 亂れうごく。〔張詠、郊居寄㆓朝中知己㆒詩〕汀葦亂搖寒夜雨、沙鷗閑弄夕陽天。

【亂葉】8 ランエフ 亂れ落ちる木の葉。〔李洞、鄠郊山舍詩〕圭峯秋後夜、亂葉落㆓寒墟㆒。

【亂煙】9 ランエン みだれる煙。〔田能村竹田、題㆓畫山水㆒詩〕終日無㆓人相往還㆒、亂煙滿㆑地掩㆓柴關㆒。

【亂河】10 ランカ 河を橫ぎり渡ること。〔書、禹貢〕西傾因㆑桓、是來浮㆓于潛㆒、逾㆓于沔㆒、入㆓于渭㆒、亂㆓于河㆒。〔傳〕正絕㆑流曰㆑亂。

【亂家】11 ランカ 家道の治まらぬ家。破倫の家。〔孔子家語、本命解〕孔子遂言曰、女有㆓五不取㆒、逆家子者、亂家子者、世有㆓刑人㆒子者、有㆓惡疾㆒子者、喪㆓父長㆒子者。〔注〕謂㆓其亂㆑倫。

【亂階】12 ランカイ ❶騷亂の端緒。〔詩、小雅、巧言〕無㆑拳無㆑勇、職爲㆓亂階㆒。〔箋〕言㆓亂由㆑之來㆒也。〔漢書、朱博傳〕本造㆓計謀㆒、職爲㆓亂階㆒。❷位階の順序によらず、越えて進め敍する。越階。〔本朝文粹、六〕今年之春敍位、亂階不次之賞不㆑見。

【亂行】13 ランカウ ランギヤウ ❶みだらな行爲。亂暴なふるまひ。〔晏子、諫、上〕內無㆓亂行㆒。❷陣列を亂す。〔左氏、襄、三〕晉侯之弟揚干亂㆓行於曲梁㆒。

【亂杭】14 ラングヒ 昔の戰爭に於ける障碍物の一。不ぞろひに打つたくひ。亂杙。〔平家物語、九、宇治川先陣事〕亂杭打つて大綱張り。

【亂杭齒】15 ラングヒバ 亂杭のやうに不ぞろひの齒。齒なみのわるい齒。〔浮世床、初中〕齒は亂杭齒。

【亂敲】16 ランカウ 無茶苦茶にたたく。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕第門閉矣、衆亂㆓敲之㆒。

【亂攪】17 ランカウ みだれさわぐ。〔皎然、張伯英草書歌〕更覩鄧林花落朝、狂風亂攪何飄飄。

【亂樂】18 ランガク 音樂を亂す。〔漢書、哀帝紀〕六月、詔曰、鄭聲淫而亂㆑樂、聖王所㆑放、其罷㆓樂府㆒。

【亂紀】19 ランキ みだれた紀律。又、紀律を亂す。〔漢書、天文志〕是爲㆓亂紀㆒。〔孔子家語、禮運〕是謂㆓天子壞㆑法亂㆑紀。〔陸機、浮雲賦〕朱絲亂㆑紀、羅袿失㆑領。

【亂氣】20 ランキ 氣を亂す。又、亂れた氣。亂心。〔左氏、僖、十五〕亂氣狡憤、陰血周作、張脈僨興、外彊中乾。〔逸周書、官人解〕志色亂氣。

【亂虐】21 ランギヤク みだししへたげる。〔易林〕明德訖終、亂虐滋起。

【亂逆】22 ランギヤク 謀叛。逆亂。〔漢書、昭帝紀贊〕孝昭幼年卽㆑位、亦有㆓燕葢上官、逆亂之謀㆒。

【亂蛩】23 ランキヨウ 鳴き亂れるこほろぎ。〔范成大、新館詩〕荒烟暗㆓白道㆒、行行亂蛩響。

【亂曲】24 ランキヨク ❶調子の亂れた歌曲。〔張正見、賦得佳期竟不㆑歸詩〕衒啼拂㆑鏡不㆑成㆑粧、促柱繁絃還亂曲。❷獨吟などに充てる短い文句だけの一種の謠曲。蘭曲。

【亂區】25 ランク 動亂のある地區。

【亂花】26 ランクワ 咲き亂れて居る花。〔秦韜玉、貴公子行〕亂花織㆑錦柳撚㆑線、粧點池臺畫屛田。

【亂魁】27 ランクワイ 賊のかしら。亂首。

【亂憒】28 ランクワイ みだれる。心がみだれる。〔易林〕委以㆓鼎俎㆒、方始亂憒。

【亂潰】29 ランクワイ 亂れくづれる。〔易林〕鷁飛中退、擧事不㆑進、宋人亂潰。

【亂恍】30 luan⁴ huang³ 心が亂れてうつとりすること。〔紅樓夢、三十回〕也乜斜著眼亂恍。

【亂患】31 ランクワン 紛亂のわざはひ。〔論衡、非韓〕以㆓舊禮㆒爲㆑無㆑補而去㆑之、必有㆓亂患㆒。

【亂君】32 ランクン 無道の君。暴君。〔戰國、齊策〕王斗對曰、王聞㆑之過、斗生㆓於亂世㆒事㆓亂君㆒焉敢直言正諫。〔荀子、脩身〕事㆓亂君㆒而通、不㆑如㆘事㆓窮君㆒而順㆖焉。

【亂軍】33 ラングン ❶軍隊を亂すこと。〔孫子、謀攻〕是謂㆓亂軍引㆑勝。❷いり亂れてたたかふ。

【亂羣】34 ラングン 亂れて居る群。又、群を亂すこと。

〔蜀志、廖立傳〕羊之亂羣、猶能爲レ害。

【亂叫】35 luan⁴ chiao⁴ やたらに叫ぶこと。〔紅樓夢、七回〕亂嚷亂叫。

【亂劇】36 ルワン キョク 甚しい亂。〔論衡、語增〕失レ軍亡レ衆、幾死二再、然後得二天下一、用二兵苦一誅二亂劇一。

【亂擊】37 ルワン ゲキ 滅多うちに擊つ。〔津國女夫池、一〕兄弟天下を爭ひ、亂擊となるべし。

【亂橛】38 luan⁴ chüeh² 亂杙。

【亂孽】39 ルワン ゲツ 殘逆無道なこと。〔列女傳、孽嬖、夏桀末喜傳〕末喜者、夏桀之妃也、美二于色一、薄二于德一、亂孽無道。

【亂業】40 ルワン ゲフ 亂れた業。〔新書、數寧〕臣竊曰、是以操二亂業一、握二危勢一、若二今之賢一也。

【亂原】41 ルワン ゲン 亂れる原因。亂根。亂本。〔漢書、武五子傳贊〕銷二惡運一、遏二亂原一。

【亂源】42 ルワン ゲン 亂れのもと。亂原に同じ。〔三略、上略〕同位相訕、是謂二亂源一。

【亂故】43 ルワン コ 亂の理由。〔國語、晉語四〕會二秦伯于王城一、告二之亂故一。

【亂基】44 ルワン キ 兒童の遊戲の名。碁子を指につけて取り、多く得た方を勝ちとする。〔拾遺和歌集、雜秋〕らんごとらせ給ひけるに。

【亂鴻】45 ルワン コウ 雁行の亂れてゐること。みだれ飛ぶ雁。〔賴山陽、八幡公詩〕白旗不レ動兵營靜、立二馬邊城一看二亂鴻一。

【亂國】46 ルワン コク 亂れて居る國。又、國を亂す。〔周禮、秋官、大司寇〕刑二亂國一、用二重典一。〔注〕亂國、簒弒叛逆之國。〔莊子、人間世〕亂國就レ之。〔荀子、君道〕有二亂君一、無二亂國一、有二治人一、無二治法一。〔後漢書、馮衍傳〕激二亂國之末流一。

【亂獄】47 ルワン ゴク 不公平な裁判。〔周禮、秋官、訝士〕四方有二亂獄一、則往而成レ之。〔注〕亂獄、謂下若二君臣宣淫、上下相虐一者上也。〔左氏、昭、六〕亂獄滋豐、賄賂並行。

【亂令】48 ルワン レイ 秩序の混亂して居る現在。治古に對していふ。〔荀子、正論〕家刑殆非レ生二於治古一、竝起二於亂今一也。〔注〕今之亂世、妄爲二此語一。

【亂昏】49 ルワン コン 亂れくらむ。〔列女傳、孽嬖、晉獻驪姬傳〕身又伏レ辜、五世亂昏。

【亂根】50 ルワン コン 亂の起きる根源。亂原（十二）に同じ。

（三略、上略）臣蔽不レ言、是謂二亂根一。

【亂耍】51 luan⁴ shua³ あばれて遊ぶ。わるふざけする。ふざけ散らす。やたらにさわぐ。

【亂座】52 ルワン ザ 席順を亂してすわる。

【亂災】53 ルワン サイ 紛亂のわざはひ。〔左氏、昭、二十六〕諸侯不レ圖、而受二其亂災一。

【亂抓】54 ルワン サウ むやみに掻きまはすこと。〔桃花扇、拜壇〕窩裏財、奴亂抓。

【亂草】55 ルワン サウ 亂れ生えた草。〔杜甫、薄暮詩〕寒花隱二亂草一、宿鳥擇二深枝一。〔國朝漢學師承記、朱筠〕亂草不レ除、雜花滿レ徑。

【亂想】56 ルワン サウ あれこれと思ひ惑ふ。又、心のまどひ。〔梁武帝、答二釋明徹一敕〕善思二至理一、勿レ起二亂想一。

【亂噪】57 ランサウキ らんちきさわぎ。亂騷。〔春花五大力〕毎日毎日、夫婦喧嘩、亂さわぎ。

【亂雜】58 ルワンザツ 亂れまじる。又、とりみだしてあること。〔梁簡文帝、眼明囊賦〕明金亂雜、細寶交陳。

【亂插】59 ルワンサフ やたらにさしこむ。無雜作にさす。〔杜甫、蘇端薛復筵簡二薛華一醉歌〕亂插繁花一向レ晴昊一。〔朱熹、次二張彥輔賞梅韻一詩〕興來亂插飛蓬首、擬下向二君家一醉中君酒上。〔陸游、看梅絕句〕老子舞時不レ須レ拍、梅花亂插烏巾香。

【亂霰】60 ルワンサン みだれ降る霰。〔張雨、雪作詩〕雪作衆禽驚、窓幽亂霰鳴。

【亂山】61 ルワンザン 不揃ひに峙え立つ山々。〔儲嗣宗、小樓詩〕松杉風外亂山青、曲几焚レ香對二石屏一。〔姚揆、村行詩〕亂山啼二蜀魄一、孤櫂宿二巴陵一。〔李涉、再宿二武關一詩〕遠別二秦城一萬里遊、亂山高下出二商州一。〔戴叔倫、汝南別二董枚書一詩〕對レ酒惜二餘景一、間レ程愁二亂山一。

【亂竄】62 luan⁴ ts'uan⁴ ばらばらに逃げ隱れる。

【亂子】63 ❶父を父とも思はない子。父の命に從はぬ子。〔說苑、正諫〕悖父亂子。❷ luan⁴ tzu³ 騷動。ごたごた。

【亂絲】64 ルワンシ 亂れた絲。〔管子、樞言〕紛紛乎若二亂絲一。〔論衡、案書〕解二決亂絲一。

【亂絲頭】65 luan⁴ ssu¹ t'ou ❶くづいと。屑絲。❷愚物・鈍物の異名。

【亂視】66 ルワン 角膜の各方面に於て、屈折律に強弱の差が生じ、網膜に正しい像を結ばなくなつたこと。又其の眼。❷luan⁴ shih⁴ きよろきよろ眼であちこちと見廻はすこと。

【亂詞】67 ルワンシ 雅樂十操の一。亂聲（109）の❶に同じ。〔十操記〕亂聲者、雖レ似二連詞一、是別、非二連詞一。非二曳累一也、是亂詞云。

【亂嗣】68 ルワンシ 世繼を亂す。嫡庶長幼の序をみだして繼嗣をきめること。〔左氏、昭、二十六〕王有二適嗣一、不レ可レ亂也、敗レ親速レ讎、亂レ嗣不祥、我受二其名一。

【亂次】69 ルワンジ 順序を亂す。だらしないこと。〔左氏、桓、十三〕亂レ次以濟二其水一。

【亂事】70 ルワンジ 亂暴な事。又、事をみだす。〔墨子、號令〕其以二火爲一レ亂事者、如レ法。

【亂兒】71 luan⁴ erh 不幸。難儀。

【亂辭】72 ルワンジ ❶歌の終りに於て、一篇の大旨をまとめていふ辭。字解の㊦を見よ。〔國語、魯語下、其輯之亂曰、注〕凡作二篇章一、義既成、撮二其大要一、以爲二亂辭一。❷道理のない言葉。〔公孫龍子、白馬〕此天下之悖言亂辭也。

【亂愁】73 ルワンシウ 心がみだれ物思ひにふけること。〔韓琦、柳絮詩〕亂愁縈困滿二春暉一。

【亂蹴】74 ランシュク やたらに蹴る。〔廼賢、詩〕流鶯亂蹴殘紅榴、亂燕穿レ簾散絮飛。

【亂沙】75 ルワンシャ 錢を鑄るに、模型から出して之を沙土の中に傾入し、凝結させて錢形とすること。〔六部成語、戶部、亂沙、注解〕出レ模傾二入沙土中一以凝レ之、曰二亂沙一。

【亂射】76 ルワン むやみに射ること。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕攢踏衝擊、因亂二射之一。

【亂寫】77 ルワンシャ 無茶苦茶に書く。

【亂相】78 ルワンシャウ 道にはずれたやり方をする宰相。〔莊子、山木〕今處二昏上亂相之間一而欲レ無レ憊、奚可レ得邪。

【亂將】79 ルワンシャウ 道に外れたやり方をする大將。〔三略、上略〕亂將不レ可レ使保二軍一。

【亂象】80 ルワンシャウ 亂れたさま。又、正道を亂す。〔棗據、雜詩〕吳寇未二殄滅一、亂象侵二邊疆一。〔注〕向曰、象、道也、言下亂二我家國正道一、勞中吾軍旅上。

【亂箱】81 ルワンシャウ 衣服などを疊んで入れる箱。蓋のない淺いはこ。亂筥。〔和漢三才圖會、家飾具、巾箱〕按、巾箱者、無二蓋匣一也、或云、梳レ髮盛二其亂髮一、故曰二亂箱一。

【亂嚷】82 ルワンジャウ やたらにさけぶ。むやみにわめく。〔紅樓夢、七回〕亂嚷亂叫。

【亂弱】83 ルワンジャク 亂れて弱る。〔韓非子、有度〕不レ務二所レ以治一也、其國亂弱矣。〔韓非子、飾邪〕亂弱者亡。

【亂主】84 ルワンシュ 道にはづれた行をする君主。〔王延壽、魯靈光殿賦〕下及二三后淫妃亂主、忠臣孝子、烈士貞女、賢愚成敗、靡レ不二載敍一。〔注〕良曰、亂主則二后也。

【亂首】85 ルワンシュ ❶亂の張本人。〔漢書、刑法志〕政衰聽怠、則廷平將二招レ權而爲一レ亂首一矣。❷髮の亂れた頭。〔晏子、諫、下〕被髮亂首。〔應璩、與二崔元一書〕豈有下亂首抗巾以入二都城一、衣不レ在レ體而以適中人乎。

【亂酒】86 ルワンシュ ❶むやみに酒を飲む。〔醒睡笑、五〕飲酒爲レ醉、唯亂酒。❷宴會に於て、入り亂れて酒を飲むこと。〔武雜記〕亂酒に成り候うてすあう引きの事。

【亂衆】87 ルワンシュウ 秩序のない多くのもの。〔史記、主父偃傳〕天下豪傑幷兼之家、亂衆之民、皆可レ徙二茂陵一。

【亂術】88 ルワンジュツ 雜多な道。雜多な學問。雜多な方法。一說に、亂は治、天下を治める術をいふ。〔荀子、解蔽〕學下亂術足二以爲一レ先王一者也。〔注〕亂、雜也。〔王先謙集解〕郝懿行曰、亂者、治也。

【亂書】89 ルワンシュ 亂筆（177）に同じ。

【亂序】90 ルワンジョ ❶雅樂曲の序の一。蘭陵王・還城樂には亂序が一帖あり、安摩には亂序が二帖ある。〔十操記〕安摩亂序者、連詞也。❷能樂用語。囃子の一種。

【亂從】91 ルワンジュウ 亂れた跡。從は蹤の意。〔漢書、鼂錯傳〕高皇帝、親除二大害一、去二亂從一。

【亂鐘】92 ルワンショウ やたらに撞く鐘の音。〔馬戴、客行詩〕亂鐘嘶馬急、殘日半帆紅。

【亂繩】93 ルワンジョウ 亂れてゐる繩。又、其のやうに亂れてゐる世の中に喩へる。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕渤海亂繩、方レ斯易レ理。〔注〕善曰、臣聞、治二亂民一、猶レ治レ繩。

【亂色】94 ランショク みだらな女色。〔說苑、脩文〕姦聲亂色、不レ習二於聽一、淫樂慝禮、不レ接二心術一。

【亂心】95 シン 亂れた心。狂つた心。亂氣。〔左氏、昭二二〕爾有二亂心一無レ厭。

【亂臣】96 シン ❶國家をよく治める臣。亂は治の意。〔書、泰誓〕予有二亂臣十人一、同レ心同レ德。〔傳〕我治理之臣雖レ少、而心德同。〔蔡傳〕治レ亂曰レ亂。〔左氏、昭二二十四〕余有二亂臣十人一。〔論語、泰伯〕武王曰、予有二亂臣十人一。❷國をみだす惡い臣。〔管子、君臣下〕君爲二倒君一、臣爲二亂臣一。

【亂臣賊子】97 ランシンゾクシ 君を弑する臣、父を害する子。亂臣の❷を見よ。〔孟子、滕文公下〕孔子成二春秋一、而亂臣賊子懼。〔韓愈、伯夷頌〕微二二子一、亂臣賊子、接二跡於後世一矣。〔文天祥、過二平原一作〕亂臣賊子歸何處、茫茫煙草中原土。

【亂眞】98 シン 僞物と眞物。又、僞物を以て眞物を亂し、兩者を別ち難くすること。〔宋史、米芾傳〕芾畫二山水人物一、自名二一家一、尤工二臨移一、至二亂眞一不レ可レ辨。〔黃庭堅、謝二惠茶一詩〕于公歲取二壑源一足、勿レ遣二沙溪來一亂レ眞。

【亂神】99 シン ❶理に當らぬことと鬼神のこと。非理と鬼神とは、共に聖人の常に語らぬところ。〔論語、述而〕子不レ語二怪力亂神一。〔集注〕怪異・勇力・悖亂之事、非二理之正一、固聖人所レ不レ語。鬼神、造化之迹、雖レ非レ不レ正、然非二窮理之至一、有レ未レ易レ明者、故亦不二輕以語一レ人也。❷心を亂す。〔荀子、解蔽〕醉者越二百步之溝一、以爲二顚步之淪一也、俯而出二城門一、以爲二小之閨一也、酒亂二其神一也。

【亂人】100 ジン ❶亂をなす人。國を亂す人。反逆者。〔莊子、盜跖〕湯放二其主一、武王殺レ紂、自レ是之後、以レ強凌レ弱、以レ衆暴レ寡、湯武以來、皆亂人之徒也。❷心の亂れてゐる人。心の狂つた人。狂人。〔禮、聘義〕用二之於爭鬪一則謂二之亂人一。〔疏〕云二用二之於爭鬪一者、謂二私爭忿鬪一。〔國語、周語下〕無レ過二亂人之門一。〔注〕亂人、狂悖怨亂之人也。〔莊子、則陽〕善言レ伐レ齊者、亂人也、善言レ勿レ伐者、亦亂人也。❸づうづうしい人。欲ばりな人。〔韓非子、揚權〕欲レ爲二其地一、必適二其賜一、不レ適二其賜一、亂人求レ益。

【亂吹】101 スイ 妄りに樂器を吹き鳴らす意。轉じて、才能があるやうに裝ふこと。又、みだりなこと、亂暴なことにいふ。濫吹。〔韓非子、內儲說上〕齊宣王使二人吹レ竽、必三百人、南郭處士、請爲二王吹一竽、宣王說之、廩食以二數百人一、宣王死、湣王立、好二一一聽一之、處士逃、一曰、韓昭侯曰、吹レ竽者衆、吾無三以知二其善者一、田嚴對曰、一一而聽之。〔海人藻芥、下〕如レ此事、當世以外亂吹也。

【亂醉】102 スイ だらしなくなるまで酒に醉ふ。

【亂世】103 セイ 亂れた世。〔戰國、齊策〕斗生二於亂世一、事二亂君一、焉敢直言正諫。〔諸葛亮、前出師表〕苟全二性命於亂世一、不レ求二聞達於諸侯一。

【亂世之音】104 ランセイノオン 亂れた世の音樂。〔詩、大序〕亂世之音、怨以怒、其政乖。〔禮、樂記〕鄭衛之音、亂世之音也、比二於慢一矣、桑間濮上之音、亡國之音也、其政散、其民流、誣レ上行レ私、而不レ可レ止也。

【亂世之英雄】105 ランセイノエイユウ 騷亂の世に於ける英雄。〔後漢書、許劭傳〕曹操微時、常卑レ辭厚レ禮、求レ爲二己目一、劭鄙二其人一、曰、君清平之姦賊、亂世之英雄、操大悅而去。

【亂正】106 セイ 治め正すこと。亂は治の意。〔書、微子〕殷其弗二或亂一正四方一。〔傳〕言二殷其不一レ有下治二正四方一之事上將レ必亡。

【亂阱】107 セイ 無法に坑阱を作つて人を拘禁すること。〔漢書、谷永傳〕以二掖庭獄一、大爲二亂阱一。〔注〕穿レ地爲二坑阱一、以拘二繫人一也、亂者、言二其非一レ正而又多一。

【亂政】108 セイ ❶政を治める。〔書、盤庚中〕茲予有二亂レ政同レ位、具二乃貝玉一。〔傳〕亂、治也、此我有二治政之臣一。❷政をみだす。〔史記、孔子世家〕誅二魯大夫亂政者少正卯一。❸道にはづれた政事。亂國の政事。〔左氏、隱、五〕不レ軌不レ物、謂二之亂政一。〔韓非子、難二〕法敗而政亂、以二亂政一治二敗民一未レ見二其可一也。

【亂聲】109 セイ ❶亂れた聲。又、聲を亂す。〔姚倫、感秋詩〕亂聲千葉下、寒影一巢孤。❷ランジョウ ①行幸の時、著御を報ずる爲に奏する音樂。又、さきばらひの聲。警蹕の聲。㊐競馬・相撲・打毬等の時に、勝負を告げる鐘と太鼓との聲。〔文德實錄、十、天安二年七月庚辰、左右相撲司、率二樂人一於二新成殿前一、盛奏二亂聲一、卽使二左右相撲一。

【亂撞】127 ドウ むやみに突きあたる。〔長生殿、禊游〕纔見二一人騎レ馬亂撞過來一。

【亂黨】128 トウ 政府に抗し治安を亂す黨派。〔日本政記、後白河天皇〕保元元年、榜二亂黨姓名朝堂一、各署二流貶處所一。

【亂道】129 ❶邪說を以て道理を亂る。〔漢書、張禹傳〕新學小生、亂二道悞人一、宜レ無二信用一。❷詩文の無雜なこと。出まかせをいふ。自作の謙稱。〔歐陽脩、與二梅聖俞一簡〕亂道一兩首、在二謝丈處一、可二略與臧否之一。〔歐陽脩、答二連職方一簡〕亂道思穎詩一卷、粗以見レ志、閑中可レ資二一噱一。〔通俗編、言笑、亂道〕按、今人自謙レ所レ作輒曰二亂道一、宋人已言レ之。

【亂鬧】130 luan⁴ nao⁴ 無暗にあばれる。むちやくちやにあばれる。うるさく騷ぐ。

【亂蹋】131 タン やたらにふみつけること。〔韓翃、羽林騎詩〕紅蹄亂蹋春城雪、花頷驕嘶上苑風。

【亂端】132 タン 騷亂の端緒。〔日本政記、後土御門天皇、延德二年論〕賴襄曰、又以二其私一託二外臣之有力者一、欲レ以濟レ之、以レ此啓二亂端一、兵禍驟起。

【亂彈】133 ダン 音曲の一。秦腔・弋陽腔など。崑曲の幽雅なのに對し、喧雜な皮簧をいふ。〔揚州畫舫錄〕兩淮鹽務、例蓄二花雅兩部一、以備二大戲一、雅部卽崑山腔、花部爲二京腔一秦腔・弋陽腔・梆子腔・羅羅腔・二簧調、統謂二之亂彈一。

【亂治】134 チ 治平と擾亂。治亂。〔鬼谷子、決〕正二亂治一決二成敗一。〔注〕治亂以レ之正、成敗以レ之決。

【亂峙】135 チ あちらこちらに亂れそばだつ。〔近古史談、豐篇、豐公天〕危礁亂峙、水路險恠。

【亂抽】136 チュウ 手あたり次第に書物などを抜き取る。〔韓愈、張中丞傳後序〕亂抽他帙以試、無レ不二盡然一。

【亂帙】137 チツ 書帙を亂す。〔高啓、曉睡詩〕一任牀風亂二書帙一。

【亂梯】138 テイ 亂の基。亂への段階。〔國語、越語下〕無下曠二其衆一以爲中亂梯上。〔注〕梯、階也。

【亂啼】139 テイ みだれなく。鳴聲の多いこと。〔柳宗元、柳州二月榕葉落盡偶題詩〕山城過雨百花

盡、榕葉滿レ庭鶯亂啼。

【亂踶】140 ランテイ めちやめちやに。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕左右亂踶。

【亂兆】141 ランテウ 騷亂の前兆。亂れるきざし。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕或援二文治故事一、以爲二亂兆一也。

【亂朝】142 ランテウ 亂れた朝廷。〔孔子家語、子路初見〕仕二於亂朝一、以二區區之一身一、欲レ正二一國之婬昏一。

【亂調】143 ランテウ 亂れた調子。亂調子を見よ。

【亂調子】144 ランテウシ 秩序のない調子。〔國姓爺合戰、九仙山〕太鼓を打つて亂調子。

【亂溺】145 ランデキ 亂れおぼれる。〔論衡、答佞〕心情貪欲、志慮亂溺也。

【亂點】146 ランテン あちらこちらに散在する。〔韓翃、送二客知二鄂州一詩〕江口千家帶二楚雲一、江花亂點雪紛紛。〔白居易、南湖早春詩〕亂二點碎紅一山杏發、平二鋪新綠一水蘋生。

【亂點鴛鴦】147 ランテンエンアウ 兩夫婦を互に易へ配すること。鴛鴦は夫婦にたとへる。舊劇の花田錯を亂點鴛鴦譜ともいふ。

【亂徒】148 ラント 騷亂をなす徒輩。

【亂塗】149 luan⁴ t'u² 落書する。

【亂抖】150 ラントウ はねまはる。〔桃花扇、拜壇〕阮驚起亂抖介。

【亂頭】151 ラントウ 頭髮をみだして、梳らぬこと。〔晉書、陶侃傳〕君子當下正二其衣冠一、攝中其威儀上、何有二亂頭養望自詣二宏達一耶。

【亂頭粗服】152 ラントウソフク 髮をみだし、粗服をまとふこと。身體・衣服などにかまはぬこと。〔世說新語、容止〕裴令公有二儁容儀一、脫二冠冕一、麤服亂頭皆好、時人以爲二玉人一。〔王彥泓、詩〕亂頭粗服總傾城。

【亂藤】153 ラントウ みだれ茂つた藤。〔白居易、香山居詩〕亂藤遮二石壁一、絕澗護二雲林一。

【亂鬭】154 ラントウ 亂れたたかふ。亂戰。〔漢書、王莽傳下〕諸長吏牧守、皆自亂鬭、中レ兵而死。

【亂讀】155 ランドク むやみによむ。濫讀。

【亂遁】156 ラントン みだれ逃げる。〔後漢書、蓋延傳〕永軍亂遁、沒溺死者大半。

【亂入】157 ランニフ 亂れ入る。〔魏志、田豫傳〕今還作レ賊、乃知二卿亂入一耳。

【亂認】158 luan⁴ jen⁴ 取違へる。

【亂農】159 ランノウ 農業を亂す。〔商子、墾令〕亂農農民、無レ所二於食一。

【亂悖】160 ランパイ みだれもとる。道理にそむく。〔史記、酷吏傳〕亂悖有レ罪、免歸。

【亂敗】161 ランパイ 亂しやぶる。亂れ敗れる。〔書、微子〕用亂二敗厥德于下一。〔管子、宙合〕流則亂敗。〔史記、酷吏傳〕定襄吏民亂敗。

【亂媒】162 ランバイ 亂の原因となるもの。〔新書、權重〕亂媒日長、孰視而不レ定。

【亂邦】163 ランパウ 亂れたくに。亂國。〔論語、泰伯〕危邦不レ入、亂邦不レ居。〔三略、下略〕雖レ貧、不レ食二亂邦之粟一。

【亂跑】164 ランパウ むやみに走る。〔紅樓夢、二回〕省二得亂跑一。

【亂磞】165 luan⁴ p'êng⁴ むやみに歩きまはる。磞は磅、はびこる意。〔紅樓夢、二十六回〕他一個人亂磞、可是不好呢。

【亂亡】166 ランバウ ❶亂れ亡びる。〔管子、明法〕必有二亂亡之禍一。〔韓非子、外儲說右下〕法不レ立、亂亡之道也。〔漢書、劉向傳〕孽嬖亂亡。❷みだしほろぼす。〔歐陽脩、朋黨論〕能禁二絕善人爲一レ朋、莫レ如二漢獻帝一、能誅二戮清流之朋一、莫レ如二唐昭宗之世一、然皆亂二亡其國一。

【亂妄】167 ランバウ 道理にはづれてゐること。でたらめ。〔荀子、脩身〕猶二以レ盲辨レ色、以レ聾辨レ聲也、舍二亂妄一無レ爲也。

【亂忙】168 luan⁴ mang² あわてさわぐ。

【亂暴】169 ランバウ 理非をわきまへぬふるまひ。又、あばれまはること。

【亂謗】170 ランバウ むやみにそしる。又、無茶な誹り。〔淮南子、說山訓〕滅レ非者戶告レ之、曰二我實不二與レ我諛一、亂謗乃愈起。

【亂發】171 ランパツ ❶鐵砲・弓矢などをむやみに發射すること。又、手形などをむやみに發行すること。〔後漢書、光武紀上〕積弩亂發、矢下如レ雨。❷むやみに同じことを言ひ出し、また行に表すこと。又、洒落などをむやみに言ふこと。

【亂髮】172 ランパツ 亂れ髮。蓬髮。髮を振り亂す。〔本草、亂髮〕附方、鼻血眩冒、欲レ死者亂髮燒研水服。〔後漢書、班昭傳〕入則亂レ髮壞レ形。〔曹植、七啓〕收二亂髮一兮拂二蘭澤一。〔杜甫、乾元中寓二居同谷縣一作詩〕有レ客有レ客字子美、白頭亂髮垂過レ耳。

【亂罰】173 ランバツ やたらに罪する。中らぬ罰を科する。濫罰。〔書、無逸〕亂二罰無罪一、殺二無辜一。

【亂法】174 ランパフ ❶亂暴な法律。亂れた法律。〔荀子、王霸〕無二國而不レ有二亂法一。〔漢書、鼂錯傳〕乘二其亂法一、以成二其威一。❷法律を亂す。〔史記、平準書〕不軌之臣、不レ可二以爲レ化而亂レ法。

【亂班】175 ランパン 席順をみだす。〔唐書、唐臨傳〕臨進曰、王亂レ班、道宗曰、與二大夫一語何至レ爾、臨曰、大夫亦亂レ班、挺失レ色、衆皆悚伏。

【亂飛】176 ランピ みだれ飛ぶ。〔岑參、山房春事詩〕梁園日暮亂飛鴉、極目蕭條三兩家。

【亂筆】177 ランピツ みだれがき。順序もなくだらしなく書きつけること。

【亂夫】178 ランプ 亂暴な男。〔晏子、諫、上〕聽二亂夫之言一也。

【亂舞】179 ランブ ❶入り亂れてまふ。又、無茶苦茶に舞ふこと。〔梁簡文帝、箏賦〕鴛鴦七十二、亂舞未レ成レ行。❷㋑鎌倉時代以後、淵醉（五節などの酒宴）の後に、殿上人が今樣歌をうたつて舞つた仕舞。〔公事根源、下〕三獻はてて亂舞あり。㋺能の舞のあひまに舞ふ舞。らつぷ。〔陰德太平記、四十七、輝元・隆景・元長開陣〕亂舞可二相催一。

【亂風】180 ランプウ 惡い風習。惡風。〔書、伊訓〕敢有下侮二聖言一、逆二忠直一、遠二耆德一、比中頑童上、時謂二亂風一。〔傳〕是謂二荒亂之風俗一。

【亂服】181 ランプク 服裝を亂す。又、亂れた服裝。〔漢書、五行志中之上〕烏集醉二鮑吏民之家一、亂レ服共坐、溷肴亡レ別。

【亂憤】182 ランプン 心がみだれいきどほること。とりのぼせること。〔易林〕方始亂憤。

【亂兵】183 ランペイ ❶賊兵。亂暴な兵。〔後漢書、何皇后紀〕舞陽君亦爲二亂兵所一レ殺。❷兵亂。反亂。〔國語、晉語八〕平公云云、謂二陽畢一曰、自二穆侯一以至二於今一、亂兵不レ輟。

【亂弊】184 ランペイ 國が亂れて民が疲弊する。〔魏志、劉廙傳、注〕亂弊之後、百姓凋盡。

【亂峯】185 ランポウ 入り亂れて峙つ峰。高低の一樣でない多くの峰。亂山。〔鄭巢、泊二靈溪館一詩〕孤吟疎雨絕、荒館亂峯前。〔眞山民、曉行二山間一詩〕亂峯相出沒、初日乍陰晴。

【亂謀】186 ランボウ 謀叛の企て。〔逸周書、大戒解〕設二九備一、乃無二亂謀一。〔新書、審微〕其除二亂謀一也遠。

【亂本】187 ランポン 亂の原因。亂原。〔左氏、閔、二〕內寵並レ后、外寵二レ政、嬖子配レ嫡、大都耦レ國、亂之本也。〔國語、晉語一〕亂本生矣。

【亂麻】188 ランマ 入りまじり亂れてゐる麻。入りまじり亂れて多いことの形容。亂れた世に喩へる。〔史記、天官書〕秦遂以レ兵滅二六王一、幷二中國一、外攘二四夷一、死人如二亂麻一。〔漢書、武五子傳贊〕內平二六國一、外攘二四夷一、死人如二亂麻一。〔元稹、感二石榴一詩〕初到標二珍木一、多來比二亂麻一。〔王禹偁、畬田詞〕莫レ言火種無二多利一、林樹明年似二亂麻一。

【亂漫】189 ランマン 草などの亂れ生えたさま。〔古樂府、前溪歌〕開穿亂漫下、但聞林鳥啼。

【亂脈】190 ランミヤク 亂れてすぢみちが立たぬこと。亂雜。不整頓。

【亂民】191 ランミン ❶民を治める。亂は治。〔書、說命中〕不二惟逸豫一、惟以亂レ民。〔蔡傳〕治レ亂曰レ亂。〔國語、周語下〕天所レ崇之子孫、或在二畎畝一、由レ欲レ亂レ民也。❷安寧秩序を亂す人。〔周禮、地官、大司徒〕八曰、亂民之刑。

【亂命】192 ランメイ 死に臨んで精神の昏亂した時に言ひ遺した命令。病にかからない常の時の命令を治命（**6**－**17256**‥185）といふの對。〔左氏、宣、十五〕初魏武子有二嬖妾一、無レ子、武子疾、命レ顆曰、必嫁レ是、疾病則曰、必以爲レ殉、及レ卒、顆嫁レ之、曰、疾病則亂、吾從二其治一也、及二輔氏之役一、顆見二老人結レ草以亢二杜回一、杜回躓而顚、故獲レ之、夜夢レ之、曰、余而所レ嫁婦人父也、爾用二先人之治命一、余是以報。

【亂目】193 ランモク 目を迷はす。〔莊子、天地〕失レ性有五、一曰、五色亂レ目、使二目不一レ明。〔易林〕玩好亂レ目、巧聲迷レ耳。〔吳均、贈二周典嗣一詩〕意欲レ褰二衣裳一、陰雲亂二人目一。〔梅堯臣、淮雨詩〕跳點起漚魚亂レ目。

【亂門】194 ランモン 亂れて居る家。〔左氏、昭、二十二〕

唯亂門之無レ過。
【亂紋】195 ランモン いろいろの模樣。〔太平記、二十七、田樂〕銀の亂紋打つたる下濃の袴。
【亂餘】196 ランヨ 戰亂の後。亂後。〔高啓、逢二吳秀才一復送レ歸二江上一詩〕江上停レ舟問二客蹤一、亂前相別亂餘逢。
【亂杙】197 ラングヒ 列を正さずに打ち込んだくひ。川・濠の底などに打ち、繩を張つて敵を防ぐ。亂杭。
【亂杙齒】198 ラングヒバ 齒並の亂れてゐる齒。
【亂吏】199 ランリ 亂暴な役人。正道を踏まぬ役人。〔漢書、尹翁歸傳〕爲二姦猾亂吏治一、郡中苦レ之。
【亂理】200 ランリ 亂れた筋道。又、道理を亂す。〔荀子、性惡〕合二於犯分亂理一、而歸二於暴一。
【亂離】201 ランリ ❶禍亂の憂。離は憂の意。〔詩、小雅、四月〕亂離瘼矣、爰其適歸。〔集傳〕離、憂。〔潘岳、關中詩〕亂離斯瘼、日月其稔。〔方孝孺、絕命詞〕天降二亂離一兮、孰知二其由一。❷世の騷亂に遭つて離れ別れる。〔後漢書、董祀妻傳〕感二傷亂離一、追二懷悲憤一。〔王粲、贈二蔡子篤一詩〕悠悠世路、亂離多阻。〔注〕向曰、時亂、人苦二別離相阻隔一也。
【亂流】202 ランリウ ❶水が不規則に流れる。〔鮑照、日落望レ江詩〕亂流灇二大壑一、長霧匝二高林一。❷川を橫ぎり渡る。絕流。〔爾雅、釋水〕正絕レ流曰レ亂。〔白孔六帖〕呼レ風亂レ流而渡。❸みだれてほしいままなこと。〔楚辭、離騷〕固亂流其鮮レ終兮。
【亂立】203 ランリツ みだれ立つ。秩序なく立てる。〔賴山陽、阿嵎嶺詩〕危礁亂立大濤間、決眥西南不レ見レ山。
【亂略】204 ランリヤク 亂暴な施政。〔書、武成〕予小子、既獲二仁人一、敢祗承二上帝一、以遏二亂略一。
【亂龍】205 ランリヨウ 論衡の篇名。
【亂倫】206 ランリン ❶人倫にはづれた行。男女の關係にいふ。〔世說新語、方正〕王丞相、初在二江左一、欲三結二援吳人一、請二婚陸大尉一、對曰、培塿無二松柏一、薰蕕不レ同レ器、玩雖二不才一、義不レ爲二亂倫之始一。❷道をみだす。〔論語、微子〕欲レ絜二其身一、而亂二大倫一。〔荀子、解蔽〕衆異不レ得二相蔽一、以亂二其倫一也。〔注〕倫、理。
【亂惑】207 ランワク 亂れまどふ。亂れ惑はせる。〔戰國、秦策〕文士並飭、諸侯亂惑。〔後漢書、光武帝紀上〕竊二尊號一、亂二惑天下一。
【喜レ亂】208 ランヲヨロコブ 世の中の亂れることをよろこぶ。亂に乘じて欲望を成さうと願ふこと。〔國語、晉語二〕喜レ亂必怠レ德。
【作レ亂】209 ランヲナス 亂を起す。〔史記、管蔡世家〕挾二武庚一以作レ亂。
【取レ亂】210 ランヲトル 亂國は之を攻め取る。亂者取レ之(222)を見よ。〔書、仲虺之誥〕佑レ賢輔レ德、顯レ忠遂レ良、兼レ弱攻レ昧、取レ亂侮レ亡、推レ亡固レ存、邦乃其昌。〔蔡傳〕諸侯之弱者兼レ之、昧者攻レ之、亂者取レ之、亡者傷レ之。
【翦レ亂】211 ランヲカル 亂を伐つ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕附二會平勃一、夷レ凶翦レ亂。〔注〕良曰、翦、伐也。
【亂高下】212 ランカウゲ 物價が急にあがりさがりすること。暴騰に次ぐに暴落を以てする類。
【亂之定】213 ランヲコレテイトス 亂れて居るにかかはらず、平定して居るとして安心すること。〔呂覽、謹聽〕冥之昭、亂之定、毀之成、危之寧。〔注〕以レ冥爲レ明、以レ亂爲レ定、以レ毀爲レ成、以レ危爲レ寧也。
【亂而敬】214 ランニシテケイ 治才があつて、しかも畏敬の念のあること。〔書、皐陶謨〕皐陶曰、寬而栗、柔而立、愿而恭、亂而敬、擾而毅、直而溫、簡而廉、剛而塞、彊而義。〔蔡傳〕亂、治也、亂而敬者、有二治才一而敬畏也。
【亂痴氣】215 ランチキ やきもちさわぎ。色情に對する嫉妬。又、入りみだれるさま。いさかひ。
【亂反射】216 ランハンシヤ 光が表面の粗な物體に當り、種々な方向に反射すること。漫射。
【亂拍子】217 ランビヤウシ 猿樂・能舞などでする拍子の一。〔十訓抄、上〕亂拍子の次第をとる。
【亂極思レ治】218 ランキハマレバチヲオモフ 爭亂が其の極に達すれば、太平の世を思ひ慕ふ。〔裘璉、曹論〕或曰、亂極思レ治、匪風・下泉、所三以居二變之終一也。
【亂極則平】219 ランキハマレバタヒラカナリ 亂が極まると、其の後は必ず平かに治まる。〔魏志、邢顒傳〕曹公法令嚴、民厭レ亂矣、亂極則平。
【亂葬崗子】220 luan⁴ tsang⁴ kang¹ tzŭ 官設の貧民共同墓地。
【亂七八遭】221 luan⁴ ch'i¹ pa¹ tsao¹ 無茶苦茶な。亂雜な。
【亂者取レ之】222 ランシヤハコレヲトル 亂れた國をば攻めとる。〔左氏、襄、十四〕仲虺有レ言、曰、亡者侮レ之、亂者取レ之、推レ亡固レ存、國之道也。
【亂楮不レ別】223 ランチヨワカタズ 古、宋の巧工が象牙で楮の葉を作つたところ、之を實物の楮葉の中にかきまぜると區分がつかない程であつた故事。〔韓非子、喩老〕宋人有下爲二其君一以レ象爲二楮葉一者上、三年而成、豐殺莖柯、毫芒繁澤、亂二之楮葉之中一、而不レ可レ別也。
【亂董董地】224 ラントウトウチ 秩序なく亂れてゐる。不整理。〔通俗編、狀貌、亂董董〕朱子語錄、易上經說得齊整、下經便亂董董地。
【亂亂烘烘】225 luan⁴ luan⁴ hung¹ hung¹ ごたごたする。
【以レ亂易レ整】226 ランヲモツテセイニカフ 和平を破つて亂世にする。〔左氏、僖、三十〕因二人之力一而敝レ之、不仁、失二其所一レ與、不知、以レ亂易レ整、不武。〔注〕秦・晉和整、而還相攻、更爲レ亂也。
【乘レ亂不祥】227 ランニジヨウズルハフシヤウ 敵國の亂に乘じて攻めるのは、よくないことである。〔左氏、昭、二十七〕使レ退二其師一曰、乘レ亂不祥、吳乘二我喪一、我乘二其亂一、不二亦可一乎。
【撥レ亂反レ正】228 ランヲヲサメセイニカヘス 亂を平げ除いて、治平にかへす。撥亂反正(**5**－**12727**··80)を見よ。
【治レ亂之藥石】229 ランヲヲサムルノヤクセキ 世の亂れを治める藥と石針。刑罰をいふ。〔後漢書、崔寔傳〕蓋爲レ國之法、有レ似レ理レ身、平則致レ養、疾則攻焉、夫刑罰者、治レ亂之藥石也、德教者、興レ平之粱肉也、以二德教一除レ殘、是以二粱肉一理レ疾也、以二刑罰一理レ平、是以二藥石一供養也。
【亂則愚者之多幸】230 ランハスナハチグシヤノタカウナリ 亂世には愚者も尙ほ用ひられることをいふ。〔呂覽、遇合〕亂則愚者之多幸也、幸則必不レ勝二其任一矣、任久不レ勝、則幸反爲レ禍、其幸大者、其禍亦大。

【亃】215
リン 〔集韻〕里忍切 軫

❶**うれへる**。〔集韻〕亃、憂也。❷**㲃に似た獸の名**。〔五音集韻〕亃、獸名、似レ㲃、身黃尾白。

【亄】216
㊀イ 〔集韻〕乙冀切 寘
㊁イツ オチ 〔集韻〕億姞切 質

㊀❶**むさぼる**。亄嗇(1)を見よ。〔集韻〕亄、方言、貪也、荊湘人、貪而不レ施曰レ亄。❷**さも似たり**。亄費(2)を見よ。㊁**むさぼる**。〔集韻〕亄、博雅、貪也。
【亄嗇】1 イショク 吝みむさぼつて施さぬこと。〔方言、十〕亄嗇、貪也、荊汝江湘之郊、凡貪而不レ施、謂二之亄一、或謂二之嗇一。
【亄費】2 イヒ さも似たり。一說に、錦の、あやあるさまといふ。〔左思、吳都賦〕簡二其華質一、則亄費錦繢。〔注〕善曰、亄費、錦文貌、濟曰、亄費、猶二依稀一也。

【乹】217
ケン

乾(**1**－**204**)の籀文。〔字彙補〕乹、籀文乾字。

十三畫

【⿰業乚】218
ゲフ ゴフ 〔集韻〕逆怯切 葉

ひく。〔集韻〕⿰業乚、引也。

【⿰予各】219
ラク

酪(**11**－**39847**)に同じ。〔集韻〕酪、或从レ乳。

【⿰粦⿱乙乙】220
リン

鄰(**11**－**39656**)に同じ。〔五音集韻〕⿰粦⿱乙乙、與レ鄰同。

十六畫

【⿰予垂】221
トウ

湩(**7**－**17864**)に同じ。〔康熙字典〕⿰予垂、同レ湩。

十八畫

【亁】222 ケン 乾(1—204)の籀文。〔集韻〕乾、籀作レ亁。

十九畫

【亁】223 ケン 乾(1—204)の籀文。〔正字通〕乾、集韻、籀文作レ亁。

參考 字形は亁(222)に作るのが正しい。

亅部

【亅】224 ケツ グヮチ 〔集韻〕其月切 ㄐㄩㄝˋ chüeh⁴ 月。

小篆 かぎ。下端を上へ逆に曲げた鉤の形。〔說文〕亅、鉤逆者、謂二之亅一、象形、讀若レ橜。〔段注〕鉤者、曲金也。

解字 象形。下端を上へ曲げた鉤の形。鉤は曲がった金具。字解を見よ。

【レ】225 ケツ クヮチ 〔集韻〕居月切 月。

小篆 かぎのしるし。〔說文〕レ、鉤識也、从二反亅一、讀若レ窶。〔段注〕鉤識者、用レ鉤表二識其處一也。

解字 指事。鉤形を用ひて其の處を表識すること。字解を見よ。

一畫

【了】226 レウ 〔集韻〕朗鳥切 ㄌㄧㄠˇ liao³ 篠 ㄌㄜ lê ㄌㄚ la

小篆 ㊀さとる。理解する。會得する。憭(4—11258)に通ず。〔說文通訓定聲〕了、叚借爲レ憭。〔郭璞、爾雅序〕其所レ易レ了、闕而不レ論。〔釋文〕了、照察也。〔南史、蔡撙傳〕卿殊不レ了レ事。㊁さかしい。さとい。敏慧。〔廣韻〕了、慧也、曉解也。〔後漢書、孔融傳〕坐中以告レ煒、煒曰、夫人小而聰了、大未二必奇一。〔宋書、戴法興傳〕彭城王覔二一了了令史一、得二法興一、使レ爲レ之。㊂あきらか。明。〔隋書、經籍志〕惟周易紀年、最爲二分了一。㊃をはる。定める。きめる。〔廣雅、釋詁四〕了、訖也。〔集韻〕了、決也。〔杜甫、望嶽詩〕岱宗夫如何、齊魯青未レ了。㊄つひに。〔唐書、姚南仲傳〕了復何益。㊅くむ。もつれる。〔說文〕了、尥也、从二子無一レ臂、象形。〔段注〕尥、行脛相交也。㊆こころよい。〔方言、二〕逞・苦・了、快也、云云、秦曰レ了。㊇文尾に添へて決定・過去・完了の意をあらはす。〔朱子語類〕古人都自二少小一、涵養好了。〔傳習錄、上〕只見二那好色一時、已自好了。㊈つる。かける。了佻(41)を見よ。㊉現直接動詞に附けられた場合は助動詞で、時相を表はし、文尾に附けられた場合は終止助詞で、請求・禁止・判斷・指定などの意を表はす。他に完了の意を表はす動詞的用法もある。

名乘 ノリ。

解字 象形。足のもつれくねつて伸びない形に象るといふ。一說に、指事。子の臂のない形から、手のひきつる意、足のもつれる意を示すといふ。假借して、憭とし、明らか、さとるの意となる。〔說文、了、尥也、从二子無一レ臂、象形、段注〕尥、行脛相交也、牛行、腳相交爲レ尥、凡物二股或一股、結糾紾縛不二直伸一者、曰レ了。〔說文通訓定聲〕了、手之攣曰レ了、脛之縶曰レ尥、从二子無一レ臂、指事、叚借爲レ憭。

【了菴】1 レウアン 清、裘煥(10—34312‥8)の號。

【了葊】2 レウアン 清、王岱(湘潭の人)(7—20823‥736)の號。

【了意】3 レウイ 意味をさとる。〔蔡襄、鄭武仲墓誌〕善二章奏書牘一、諸公或請レ之、皆了二其意一、而文彩蔚然。

【了因】4 レウイン 佛因明(印度論理學)に於て、自己の主張を相手が理解する緣となる知識。生因(7—21670‥10)卽ち自己の主張を相手に理解させる知識の對。〔因明大疏、上〕因有二二種一、一生二了、如二種生一レ芽、能起レ用故、名爲二生因一、如二燈照一レ物、能顯レ果故、名爲二了因一。〔梁元帝、與二劉智藏一書〕服二膺常住一、諷二味了因一。

【了因佛性】5 レウインブツシヤウ 佛三因佛性の一。正性を了達する覺知。〔金光明玄義〕了因佛性者、覺智非常非無常、智與レ理想應、如三人能知二金藏一。

【了飲】6 レウイン 挽歌し哭泣し乍ら飲む。〔畫墁錄〕蘇舜欽・石延年輩、有レ名二了飲鶴飲等一、了飲者、飲次挽歌哭泣而飲。

【了翁】7 レウヲウ 字號。㊀宋、何時(1—511‥89)の字。㊁宋、陳瓘(11—41698‥194)の號。

【了翁易說】8 レウヲウエキセツ 書名。一卷。宋、陳瓘撰。主として邵雍と劉噐の說に本づいて作る。〔四庫提要、經、易類〕

【了加】9 レウカ 高麗國の語。子をいふ。丫加の誤寫。〔稱謂錄、方言稱レ子、了加〕花箋錄、高麗國方言、父呼二其子一曰二了加一、孫曰二了寸・了姐一。

【了哥】10 レウカ 鳥の名。九官鳥。秦吉了の俗稱。〔本草、鸜鵒〕附錄、秦吉了、時珍曰、卽了哥也、唐書作二結遼鳥一、番音也、出二嶺南容管廉邕諸州峒中一、大如二鸜鵒一、紺黑色、夾レ腦有二黃肉冠一、如二人耳一、丹咮黃距、人舌人目、目下連レ頸有二深黃文一、頂尾有二分縫一、能效二人言一、音頗雄重、用二熟雞子一和レ飯飼レ之、亦有二白色者一。

【了解】11 レウカイ はつきりとわかる。判然と會得する。氷解。氷釋。〔容齋續筆、資治通鑑〕經文至簡、不レ過二一二十字一、一覽可二以了解一。

【了義】12 レウギ ㊀佛明かに說かれた究竟の實義。大乘をさす。不了義(1—19‥1078)の對。〔涅槃經〕聲聞乘名二不了義一、無上大乘乃名二了義一。〔圓覺經略疏、上、二〕了義者、決擇究竟顯了之說、非二覆相密意含隱之譚一。〔白員易、蘇州重玄寺法華院石壁經碑文〕以二了義一度二無邊一、以二圓敎一垂二無窮一。㊁清の高僧。號は松光・常清。詩・畫に巧で、兼ねて琴・棋を善くした。著に妙香軒詩鈔がある。〔清畫家詩史、壬、下〕

【了義經】13 レウギキヤウ 佛了義(大乘の教)を說示した經典。〔圓覺經略疏、上、二〕了義經、謂二大乘教一。〔大集經、二十九〕了義經者、生死涅槃一相無二。

【了卻】14 レウキヤク 爲し遂げる。爲し終る。〔陸游、秋雨北榭作詩〕了二卻文書一早尋レ睡。〔李漁、題二王安節畫一詩〕道人日課無二餘事一、了二卻彈琴一便讀レ書。

【了局】15 liao³ chü² 結末。結末がつく。

【了慧】16 レウケイ あきらかでさとい。〔二十八治記〕性甚了慧。

【了結】17 liao³ chieh² ㊀結了する。始末をつける。〔紅樓夢、四回〕卻怎麼了結此案。㊁相場用語。賣買契約物品の受渡し以前に、反對賣買の契約をなし相殺すること。

【了見】18 レウケン 料簡。了簡。㊀かんがへ。思案。所存。㊁ゆるすこと。

【了簡】19 レウケン 料簡。了見。分別。思案。㊀はかりえらぶ。㊁考へはかる。〔太平記、七、千劍破城軍〕了簡しける智慮の程こそ淺からね。㊂堪へ忍ぶ。勘辨すること。〔武家義理物語、五〕了簡して云云。

【了元】20 レウゲン 宋の高僧。浮梁の人。號は佛印。金山寺に住む。蘇軾の親友。〔新續高僧傳、二十五〕

【了悟】21 レウゴ 佛あきらかにさとる。了解。〔傳法正宗定祖圖〕偈曰、泡幻同無レ礙、如何不二了悟一、達法在二其中一、非レ今亦非レ古。

【了語】22 レウゴ 深意を悟らせる問答の語。〔晉書、顧愷之傳〕桓玄時與二愷之一同在二殷仲堪坐一、共作二了語一、愷之先曰、火燒二平原一無二遺燎一、玄曰、白布纏レ根樹二旒旐一、仲堪曰、投二魚深泉一放二飛鳥一。

【了債】23 レウサイ かけを拂ふ。かりを濟ます。〔馬臻、述懷詩〕買詩了債人多笑。

【了齋】24 レウサイ 宋、鍾宏(**11−40672**‥29)の號。

『了齋先生』25 レウサイセンセイ 宋、陳瓘(**11−41698**‥194)の尊稱。

【了察】26 レウサツ おしはかる。思ひやる。

【了事】27 レウジ ㊀事の理を明かにさとり知る。〔晉書、傅咸傳〕官事未レ易レ了也、了レ事正作レ癡、復爲レ快耳。〔南史、蔡樽傳〕卿殊不レ了レ事。〔甘澤謠〕陶峴富有二田業一、擇二家人不レ欺而了レ事者一、悉付レ之。㊁liao³ shih⁴ 事を濟ます。始末をつける。

『了事掌櫃的』28 liao³ shih⁴ chang³ kuei⁴ tê 他人の資本による商店の支配人。

【了性】29 レウシヤウ 元の高僧。號は大林。諡は弘教。太后が五臺山に普寧寺を建造して其處に居らせた。〔大明高僧傳、二〕。

【了手】30 liao² shou³ 終はる。止める。

【了承】31 レウシヨウ のみこむ。承知する。了知。

【了寸】32 レウスン 高麗國の語。孫をいふ。丫寸の誤寫。〔稱謂錄、方言稱レ子、了加〕花箋錄、高麗國方言、父呼二其子一曰二了加一、孫曰二了寸・了姐一。

【了宣】33 レウセン 宋の高僧。四明の人。三觀十乘の旨を精究し、法華懺法を修すること二十七年に及んだ。〔新續高僧傳、三〕。

【了然】34 レウゼン ㊀あきらかなさま。瞭然。了了。〔王貞白、雲居長老詩〕了然方寸內、應三祇見二南能一。〔白居易、睡起晏坐詩〕了然此時心、無三物可二譬喩一。〔資治通鑑、魏紀〕明帝、青龍元年、若實了然、無レ所二憑賴一。〔注〕了然、猶レ言二曉然一也。㊁ネンレウ 宋の高僧。號は志涌。台州の白蓮寺に住持す。〔新續高僧傳、三〕・〔大明高僧傳、一〕。

【了當】35 レウタウ 完了する。すつかり終る。〔黃庭堅、與二黨伯舟一書〕餘尚有二三十冊一、若臘中趁得了當、亦一佳事耳。

【了斷】36 liao³ tuan⁴ 結末。きり。

【了知】37 レウチ さとり知る。知了。承知。了承。〔朱熹、廓然亭詩〕了知廓然處、初不二從レ外得一。〔陸游、梅花詩〕了知一氣環無レ盡。

『了知主義』38 レウチシユギ 隔地者間に於ける意志表示の效力發生時期を定める主義の一。相手方が之を了知したときに效力を生ずるとするもの。

【了賬】39 liao³ chang⁴ 事が結末を告げる。債務完了。又、人が一生を終る。死去する。

【了乚】40 テウレウ 了鳥(42)の㊀に同じ。乚の字は書きにくいので、鳥又は佻の字を用ひる。

【了佻】41 テウレウ 物を懸けるさま。了鳥の㊀に同じ。〔方言、七、注〕了佻、縣レ物貌。

【了鳥】42 テウレウ ㊀衣服をだらしなく懸けるさま。物の垂れ下がるさま。又、男子の陰部。了乚。了蔦。〔通雅〕魏明帝、使三公卿負レ土築二凌雲臺一、公卿頫二頷其面一、了二蔦其衣一、本作二了鳥一、升菴謂、其義鄙褻、男子之私也、智孜二方言一、佻抗、縣也、曰、了佻、懸レ物、丁小反、胡身之注レ鑑曰、船長曰二舼䑳一、衣長曰二袨衬一、謂二其形窵篠一也、其爲二私稱一、或非二古語一。〔通俗編、身體、了鳥〕按、鳥之本字爲レ乚、從二倒了一也、廣韻、都了切、懸也、世以二其不レ適二於楷體一、故率借二用鳥字一、水經洧水注、有レ水懸二注澗下一、俗人覩三其挂二於塢側一、遂目レ之爲二零鳥水一、其所レ言似レ涉二鄙褻一。㊁門戶の閒につけて釦鎖に備へるもの。屈戌。鎖鑰。〔通俗編、居處、了鳥〕李商隱詩、鎖レ門金了鳥、展レ幃玉鴉叉、按、此了鳥、卽屈戌、懸二著門戶閒一、以備二釦鎖一、俗人謂二之搭鏊一。

【了蔦】43 テウレウ 了鳥の㊀に同じ。

【了得】44 レウトク ㊀さとる。腑に落ちる。會得。〔朱子全書、論語〕自家徒能臨二大節一而不レ可レ奪、卻不レ能三了二得他事一。〔李易安、詞〕梧桐更兼二細雨一、到二黃昏一點點滴滴、這次第怎一個愁字了得。㊁liao³ tê ㋑わざがすぐれてゐる。〔水滸傳、三十三回〕花知寨十分英勇了得。㋺それでよい。〔老殘遊記、五回〕你這東西謠言惑衆、還了得嗎。

【了畢】45 レウヒツ をへる。をはる。〔指月錄〕維那且喜二大事了畢一、師再拜而出。

【了凡】46 レウボン 明、袁黃(**10−34152**‥44)の字。

【了戾】47 レウレイ 物がくねつて伸びないさま。〔說文、了、段注〕凡物二股或一股、結糾紾縛不レ直伸一者、曰二了戾一。〔酉陽雜俎續集、支動〕野牛、高丈餘、其頭似レ鹿、其角了戾、長一丈、白毛、尾似レ鹿、出二西域一。〔導引經〕叉二手項上一、左右自了戾。

【了了】48 レウレウ ㊀賢いさま。〔宋書、戴法興傳〕彭城王義康、於二尙書中一、覓二了了令史一、得二法興等五人一。㊁あきらかなさま。判然。瞭然。了然。〔世說新語、賞譽上〕阿戎了了、解二人意一。㊂畢意。ついに。〔五燈會元〕了了無レ可レ得。㊃liao³ la すんだ。終つた。

【了子彌】49 レウシビ 朝鮮の語。父の兄の妻をいひ、又、母の兄弟の妻、及び母の姉妹をいふ。丫子彌の誤寫。〔稱謂錄、方言稱二父之兄妻一、了子彌〕雞林類事、方言、伯叔母皆曰二了子彌一、姨妗亦曰二了子彌一。

【了道人】50 レウダウジン 清、屠兆鵬(**4−7761**‥93)の號。

【了不得】51 liao³ pu⁴ tê² ㊀非常に。甚だ。㊁堪らない。やり切れない。㊂驚嘆の語。これはたまらぬ。㊃素晴らしい。素敵な。

【了鹿山樵】52 レウロクサンセウ 清、程泰京(**8−25081**‥251)の號。

【丩】227 ケツ ケチ 〔集韻〕居謁切 月

乢丩は動くさま。〔集韻〕丩、乢丩、動皃、从二レ亅相向一。

參考 丩(**1−68**)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、丩、音鳩、延蔓也。丩、音許、動貌。

【ㄋ】228 ダイ

㊀乃(**1−113**)の古字。〔玉篇〕ㄋ、古文乃。㊁注音符號の聲符の一。舌尖帶鼻音。舌端を上齒齦に接觸させると同時に、軟口蓋を下垂させ、口腔の通路を阻閉し、氣息を鼻腔から外に洩れさせると、此の音になる。ノ。n。此の符號を單獨に讀むときは韻符ㄜを加へ、ノオ nê と讀む。正形はㄋ。

【乚】229 テウ 〔集韻〕丁了切 篠

㊀**かける**。或は𠃊に作る。〔集韻〕乚、懸也、方言、趙魏之閒曰レ乚、或从レ幺。㊁**男子の陰部**。〔六書畧〕乚、男子陰。

二畫

【乢】230 ケツ クヮチ 〔集韻〕居月切 月

乢丩は動くさま。〔集韻〕乢、乢丩、動皃、从二レ亅乙一。

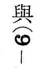
三畫

【予】231

[一]ヨ 〔集韻〕演女切 yü³ 語

[二]ヨ 〔集韻〕羊諸切 yü² 魚

[三]チョ ヂョ 〔集韻〕丈呂切 語


小篆

[一]㊀**たまふ**。**あたへる**。通じて與(**9−30212**)に作る。〔爾雅、釋詁〕予、賜也。〔方言、十三〕抒、予也。〔注〕予、猶レ與。〔正字通〕予、賜也、云云、通作レ與。〔詩、小雅、采菽〕君子來朝、何錫二予之一。㊁**おしあたへる**。**手わたしする**。〔說文〕予、推予也、象二相予之形一。㊂**ゆるす**。〔禮、檀弓上〕伋則安能、〔注〕自予レ不レ能レ及。〔釋文〕予、許也。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕春秋予レ之。〔注〕師古曰、予、謂三許二予之一也。㊃**ともに**。**ともにする**。與(**9−30212**)に通ず。〔說文通訓定聲〕予、叚借爲レ與。〔荀子、大略〕有レ所二共予一也。㊄**音樂の名**。後漢の明帝の時の樂。〔後漢書、曹褒傳〕尙書璇璣鈐曰、有レ帝漢出德洽、作レ樂名レ予。[二]**われ**。余(**1−**

515)に通ず。〔説文通訓定聲〕予、叚借爲ㇾ余。〔爾雅、釋詁〕予、我也。〔詩、衞風、河廣〕跂予望ㇾ之。〔箋〕予、我也。〔禮、曲禮下〕予一人。〔注〕予・余、古今字。〔禮、祭義〕今予忘㆓孝之道㆒。〔論語、述而〕天生㆓徳於予㆒、桓魋其如ㇾ予何。〔史記、仲尼弟子傳〕宰予、字子我。㊂**夏の帝の名**。〔史記、夏紀〕帝少康崩、子帝予立。〔注〕索隱曰、予、音佇。

解字 象形。手を以て物を推しあたへるかたちに象る。〔説文、予、段注〕象㆓以ㇾ手推ㇾ物付㆒ㇾ之。▽(甲骨文)象形。機織の横絲を通す杼の形に象る。

参考 俗に豫(**10－36425**)の略字として用ひる。

【予勾】1 ヨコウ 天子が上奏文に對して批准を賜ふこと。勾は爪痕。批准したものには、其の印として爪痕をつける。〔清會典、内閣〕朝審秋審之勾決者、得ㇾ旨則予ㇾ勾。〔注〕皇帝閲㆓漢字冊㆒、酌定降ㇾ旨、大學士一人、遵ㇾ旨勾㆓漢字本㆒、勾訖、奉ㇾ本以出、照㆓漢字本㆒、勾㆓清字本㆒、繕籤進呈。〔嘉慶會典、四十一〕進㆓黄冊於上㆒、及ㇾ期予ㇾ勾。

【予告】2 ヨコク ㊀漢代、吏二千石の有功第一の者に賜はる休暇。和帝に至つて廢止した。〔漢書、高帝紀、注〕孟康曰、漢律、二千石有㆓予告㆒、有㆓賜告㆒、予告者、在ㇾ官有㆓功最㆒、法所ㇾ當ㇾ得也。〔漢書、馮野王傳〕夫三最予告、令也。〔注〕師古曰、在ㇾ官連有㆓三最㆒、則得㆓予告㆒也。〔漢雋、一、注〕漢律、吏二千石有㆓予告㆒、有㆓賜告㆒、予告者、在ㇾ官有㆓功最㆒、法所ㇾ當ㇾ得也、賜告者、病滿㆓三月㆒當ㇾ免、天子優㆓賜其告㆒、使ㇾ得㆘帶㆓印綬㆒將㆓官屬㆒歸ㇾ家治㆖ㇾ病、至㆓成帝時㆒、郡國二千石、賜告不ㇾ得ㇾ歸ㇾ家、至㆓和帝時㆒、予・賜皆絶、師古曰、告者、請謁之言、謂ㇾ請ㇾ休耳、或謂㆓之謝㆒、謝亦告也。〔避暑錄話〕賜告・予告、孟康解㆓漢書㆒、以爲㆓休暇之名㆒、非也、告者、以ㇾ暇告㆓於上㆒、從ㇾ之而或賜或予、故因謂㆓之告㆒、左氏言、韓獻子告ㇾ老、顔師古以爲㆓請謁之言㆒、是也。㊁清代、官吏が年老いて骸骨を乞うた時、又は父母の喪、其の他の事由ある時、休暇を與へること。〔清會典、吏部〕凡官年老告ㇾ休者、則令㆓致仕㆒、大臣予告者、或加銜、或食俸、皆出㆓特恩㆒、示㆓優異㆒焉。

【予之】3 ショ 金、宋可(**3－7078**‥21)の字。

【予諡】4 ショ 諡をあたへる。清朝では、諡を與へられるのは、普通の場合一品以上の人に限る。〔清通禮〕一品以上、奉ㇾ旨予ㇾ諡者、内閣擬ㇾ諡以聞、翰林院撰㆓碑文㆒、二品以下、不ㇾ奉㆓特旨㆒、不ㇾ請ㇾ諡。

【予藉】5 ヨシャ 清、巴慰祖(**4－8745**‥109)の號。

【予成】6 ヨセイ 南朝宋の時の、柔然の可汗。吐賀眞の子。和平五年、父の後を繼いで立ち、受羅部眞可汗と號し、年號を永康と定む。また北拔等を遣はして朝貢させた。〔魏書、一百三〕・〔北史、九十八〕。

【予道】7 ヨダウ 縣名。漢、置く。今の甘肅省舊蘭州府境に當る。〔漢書、地理志、下〕隴西郡、縣十一、予道。

【予奪】8 ヨダツ 與へることと取り上げること。轉じて、賞罰の意。〔周禮、天官、大宰〕以㆓八柄㆒詔ㇾ王、云云、三曰予、以馭㆓其幸㆒、云云、六曰奪、以馭㆓其貧㆒。〔管子、七法〕予奪也、險易也。

【予寧】9 ヨネイ ㊀休暇を賜つて、父母の喪に居ること。漢代、官吏又は博士弟子の父母が死んだ時、天子は之に休暇を賜ひ、家に歸り喪に居らせた。寧とは家に處つて喪に服すること。〔漢書、哀帝紀〕博士弟子、父母死、予ㇾ寧三年。〔注〕師古曰、寧、謂㆔處ㇾ家持㆓喪服㆒。〔山堂肆考〕父母亡、予ㇾ寧三年、謂㆓處ㇾ家持ㇾ喪三年㆒也。〔得樹樓雜鈔〕漢書哀帝紀、初卽ㇾ位詔中、有㆓博士弟子、父母死、予ㇾ寧三年㆒、予寧、卽世俗丁憂・丁艱之義、後世罕有㆓用者㆒。㊁明、樹國楨(**6－15496**‥147)の字。

【予寧堂】10 ヨネイダウ 清、陳奕禧(**11－41698**‥674)の室名。

【予未】11 ヨビ 清、孫勷(**3－6987**‥150)の字。

【起ㇾ予】12 ヨヲオコス ワレヲオコス 自分の氣づかなかつたことを悟らせる。〔論語、八佾〕子曰、起ㇾ予者、商也、始可㆓與言㆒ㇾ詩已矣。〔集注〕起猶ㇾ發也、起ㇾ予、言㆔能起㆓發我之志意㆒。〔李良、薦㆓蒙求㆒表〕老成亦頗覽ㇾ起ㇾ予。〔黄庭堅、贈ㇾ弟詩〕船窓臥讀書萬卷、還有㆓新詩㆒來起ㇾ予。

【予一人】13 ヨイチニン ワレイチニン 天子の自稱。朕も一箇の人で餘人と異ならぬとの謙辭。〔書、湯誥〕嗟、爾萬方有衆、明聽㆓予一人誥㆒。〔傳〕天子自稱曰㆓予一人㆒。〔禮、曲禮下〕君㆓天下㆒曰㆓天子㆒、朝㆓諸侯㆒分ㇾ職、授ㇾ政任ㇾ功、曰㆓予一人㆒。〔禮、玉藻〕凡自稱、天子曰㆓予一人㆒。〔疏〕言㆘我於㆓天下之内㆒、但祇是一人而已㆖、自謙退、言㆘與㆓餘人㆒無㆖ㇾ異。

【予小子】14 ヨセウシ ワレセウシ ㊀天子が喪に居る間に用ひる自稱。〔禮、曲禮下〕天子未ㇾ除ㇾ喪、曰㆓予小子㆒。㊁天子の自稱。又、天子以外にも用ひる。〔書、泰誓上〕肆予小子發、以㆓爾友邦冢君㆒、觀㆓政于商㆒。〔書、金縢〕予小子、新命㆓于三王㆒。〔尙書今古文注疏〕予小子、周公自稱。〔書、洛誥〕予小子其退、卽㆓辟于周㆒。〔詩、周頌、閔予小子、序〕閔予小子、嗣王朝㆓於廟㆒也。〔箋〕嗣王者、謂㆓成王㆒也。〔詩、周頌、閔予小子〕維予小子、夙夜敬止。

【予負軒】15 ヨフケン 明、金瑤(**11－40152**‥40)の室名。

【予違汝弼】16 ヨタガハバナンヂタスケヨ 自分が若し道に戻る所があるならば、汝は其の失を正し助けよ。〔書、益稷〕予違汝弼、汝無㆔面從退有㆓後言㆒。〔蔡傳〕違、戾也、言㆘我有㆔違㆓戾於道㆒、爾當㆔弼㆓正其失㆒、爾無㆔面諛以爲ㇾ是、而背毀以爲㆒ㇾ非。

【予取予求】17 ワレヨリトリ ワレヨリモトム 他人が自分から取り、自分から求める。他人が自分に對してただ意の欲する所のままに振舞ふ意。〔左氏、僖、七〕惟我知ㇾ女、女專ㇾ利而不ㇾ厭、予取予求、不㆓女疵瑕㆒也。

【予豈好ㇾ辯哉】18 ワレアニベンヲコノマンヤ 自分は徒らに辯舌を弄することを好む者ではない。〔孟子、滕文公下〕孟子曰、豈好ㇾ辯哉、予不ㇾ得ㇾ已也。

【𠂹】232 スイ 垂(**3－5012**)の古字。〔康熙字典〕𠂹、説文、古文垂字。

【𠄏】233 シウ 州(**4－8678**)の古字。〔康熙字典〕州、古文𠄏。〔靈洞經〕才行化㆓於一𠄏㆒、委㆓之𠄏㆒。

【𠄔】234 ゲン 幻(**4－9190**)の本字。〔正字通〕幻、説文作ㇾ𠄔。

五畫

【𠄎】235 ダイ 乃(**1－113**)の籀文。〔説文〕𠄎、籀文乃。

【争】236 サウ 爭(**7－19663**)の譌字。〔中華大字典〕争、爭譌字。

六畫

【⿰令亅】237 レイ リヤウ 〔篇海類編〕離呈切 庚 つく。〔字類〕⿰令亅、撞⿰令亅也。

【⿵冂予】238 シウ 周(**2－3441**)の古字。〔字彙補〕⿵冂予、古文周字。

【⿱丙予】239 テイ 丣(**4－9171**)に同じ。〔字彙補〕⿱丙予、同ㇾ丣。

七畫

【⿰子予】240 シヨ ジヨ 〔字彙〕象呂切 語 ㊀堪⿰子予は猾山に産する魚。俗に孖(**3－6956**)に作る。〔正字通〕⿰子予、雪遇切、音序、山海經、猾山無㆓草木㆒、其下多ㇾ水、其中多㆓堪⿰子予㆒、見則天下有㆓水災㆒、俗譌作ㇾ孖。〔山海經、東山經〕猾山、其上無㆓草木㆒、其下多ㇾ水、其中多㆓堪⿰子予之魚㆒、有ㇾ獸焉、其狀如㆓夸父㆒而彘毛、其音如ㇾ呼、見則天下大水。〔畢沅校本〕沅曰、⿰子予字、从ㇾ子从ㇾ予、見㆓玉篇㆒、俗本作㆓予字㆒、非、又玉篇有㆓紓字㆒、云ㇾ同ㇾ鱮、疑、⿰子予、卽鱮異文。㊁**魚の子**。〔集

韻〕矛、一曰、魚子。

【事】 241　㊀シ〔集韻〕仕吏切 寘　㊁ジ 尸丶 shih⁴　㊂シ〔集韻〕側吏切 寘　慣ズ

小篆　古文

㊀❶**こと。ことがら。事物。**〔書、大禹謨〕三事、正德・利用・厚生。〔禮、樂記〕事蚤濟也。〔大學〕物有ニ本末一、事有ニ終始一。〔論語、學而〕敏ニ於事一而愼ニ於言一。〔論語、八佾〕入ニ太廟一、毎レ事問。❷**ことゝする。**専念する。〔論語、顏淵〕回雖ニ不敏一、請事ニ斯語一矣。❸**しごと。つとめ。職場。**〔說文〕事、職也、从レ史、之省聲。〔爾雅、釋詁〕事、勤也。〔禮、曲禮上〕大夫七十而致レ事。〔論語、顏淵〕先レ事後レ得。〔論語、子路〕執レ事敬。❹**まつりごと。政治。**〔左氏、昭、九〕禮以行レ事。〔論語、學而〕道ニ千乘之國一、敬レ事而信。〔集解〕爲レ國者、擧レ事必敬愼、與レ民必誠信也。❺**まつり。祭祀。**祀(8−24633)に通ず。〔說文通訓定聲〕事、叚借爲レ祀。〔周禮、天官、宮正〕邦之事蹕。〔注〕事、祭事也。〔禮、禮器〕作ニ大事一、必順ニ天時一。❻**できごと。**轉じて、事變。戎事。〔周禮、地官、小司徒〕凡國之大事致レ民。〔注〕大事、謂ニ戎事一。〔儀禮、聘禮〕久無レ事則聘焉。〔禮、王制〕天子無レ事與ニ諸侯一相見、曰レ朝。〔注〕事、謂ニ征伐一。〔史記、刺客傳〕秦有ニ荆軻之事一。❼**たてる。さしはさむ。**傳(1−802)・剚(2−2041)に通ず。〔廣韻〕事、立也。〔釋名、釋言語〕事、傳也、傳、立也。〔正字通〕事、與レ剚通。〔禮、郊特牲〕信事レ人也。〔注〕事、猶レ立也。〔禮、仲尼燕居〕雖レ在ニ畎畝之中一、事レ之聖人已。〔注〕事レ之、謂ニ立ニ置於位一也。〔漢書、蒯通傳〕慈父孝子、不レ能事ニ刃於公之腹一者、畏ニ秦法一也。〔注〕東方人以レ物臿ニ地中一爲レ事。❽**つかへる。**〔增韻〕事、奉也。㋑君につかへる。〔大學〕孝者、所ニ以事レ君也。〔論語、八佾〕事レ君盡レ禮、人以爲レ諂也。〔孟子、公孫丑上〕伯夷非ニ其君一不レ事。㋺親につかへる。〔中庸〕所レ求ニ乎子一以事レ父、未レ能也。〔論語、學而〕事ニ父母一能竭ニ其力一。〔孟子、梁惠王上〕仰足ニ以事ニ其父母一。㋩天神・鬼神などにつかへる。〔論語、先進〕未レ能事レ人、焉能事レ鬼。〔孟子、盡心上〕存ニ其心一、養ニ其性一、所ニ以事レ天也。㋥目上の人につかへる。又、強者につかへる。〔大學〕所レ惡ニ於下一、毋ニ以事レ上。〔論語、子罕〕出則事ニ公卿一、入則事ニ父兄一。〔孟子、梁惠王下〕滕小國也、閒ニ於齊楚一、事レ齊乎、事レ楚乎。❾**いとなむ。をさめる。**〔增韻〕事、營也、治也。〔戰國、秦策〕詳事ニ下吏一。〔注〕事、治也。〔呂覽、尊師〕事ニ五穀一。〔史記、曹相國世家〕卿大夫以下吏、及賓客、見ニ參不レ事レ事。〔淮南子、俶眞訓〕事ニ其神一者、神去レ之。❿**もちひる。**〔增韻〕事、采也。〔史記、淮陰侯傳〕無レ所レ事レ信。〔張衡、東京賦〕事無レ事。⓫**使ふ。**〔廣韻〕事、使也。〔荀子、正名〕非レ事而自然、謂ニ之性一。〔注〕事、任使也。〔史記、傅靳蒯成傳〕坐下事ニ國人一過上レ律。〔注〕索隱曰、案、劉氏云、事、使役也、謂ニ使レ人違レ律多數一也。⓬古は叓(2−3146)・叓(2−3180)に作る。〔玉篇〕叓、古文事。〔集韻〕事、古作レ叓。⓭**姓。**〔萬姓統譜〕事、見ニ姓苑一。㊂**さす。たてる。**菑(9−31166)・傳(1−802)に同じ。〔集韻〕菑、植ニ物地中一、謂ニ之菑一、或作ニ傳・事一。

【事意】 1 ジイ　事の內容。〔漢書、賈山傳〕其言多激切、善指ニ事意一。

【事懿】 2 ジイ　諸事の醇美なこと。〔日本政記、後龜山天皇論〕弘和九年、賴襄曰、尊ニ後龜山一爲ニ太上天皇一、事懿禮善。

【事爲】 3 ジヰ　爲す事。事業。〔韓愈、送ニ浮屠文暢師一序〕彼見ニ吾君臣父子之懿、文物事爲之盛一、其心有レ慕焉。〔方孝孺、戇窩記〕君居ニ其名一、師ニ其道一、言論事爲、必有下卓乎越ニ於世一者上。

【事由】 4 ジイウ　わけがら。由來。事の理由。事の原由。〔方干、感レ時詩〕破ニ除生死一須レ齊レ物、誰向ニ穹蒼一問ニ事由一。

【事淫】 5 ジイン　何の役にもたたぬ事をする。害になる事をする。秦の商鞅が、辯論・學問・技藝・商賣などをするのを言った語。〔商子、農戰〕其境內之民、皆化好レ辯、樂レ學、事ニ商賈一、爲ニ技藝一、避ニ農戰一、云云、農者寡而游食者衆、故國貧危、云云、是以、明君脩レ政作レ壹、去ニ無用一、止ニ浮學一、事淫之民、壹ニ之農一、然後國家可レ富、而民力可レ摶也。

【事要】 6 ジエウ　權柄。〔韓非子、孤憤〕當塗之人擅ニ事要一、則外內爲ニ之用一矣。

【事行】 7 ジカウ　しごと。事業(30)に同じ。〔禮、樂記〕律ニ小大之稱一、比ニ終始之序一、以象ニ事行一。〔韓詩外傳、二〕上之人所レ遇、色爲レ先、聲音次レ之、事行爲レ後。

【事效】 8 ジカウ　事のしるし。徵驗。又、效果。〔漢書、嚴助傳〕事效見レ前、故使ニ臣助來諭ニ王意一。

【事項】 9 ジカウ　ことがら。事の箇條。項は款項の義。

【事幹】 10 ジカン　事をなすに足る才能。一說に、仕事の基といふ。〔易、乾〕貞者、事之幹也。〔疏〕言丁天能以ニ中正之氣一、成ニ就萬物一、使丙物皆得乙幹濟甲、云云、貞爲ニ事幹一、於レ時配レ冬。

【事感】 11 ジカン　酉陽雜俎の篇名。

【事期】 12 ジキ　事を行ふ時期。〔左氏、襄、二十二〕朝以聽ニ事期一、不レ朝之閒、無ニ歲不レ聘、無ニ役不レ從。〔注〕先ニ澶淵二一月、往レ朝以聽ニ會期一也。

【事機】 13 ジキ　❶ことのはずみ。事の機會。〔吳子、論將〕凡兵有ニ四機一、一曰氣機、二曰地機、三曰事機、四曰力機。〔魏志、賈逵傳贊〕精ニ達事機一。〔晉書、溫嶠傳〕各率レ所レ統、無レ後ニ事機一。❷仕事の機密。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕凡官府之一動一靜、稍有下涉ニ彼事機一、干ニ其黨羽一者上、無レ不ニ星馳潛報一。

【事宜】 14 ジギ　❶ことのよろしきに適ふこと。程よいこと。〔漢書、兒寬傳〕祗戒ニ精專一、以接ニ神明一、總ニ百官之職一、各稱ニ事宜一、而爲ニ之節文一。〔後漢書、黃香傳〕皆得ニ事宜一。〔白居易、與ニ王承宗一詔〕其不レ失ニ事宜一。❷事柄。事項。事情。問題。〔福惠全書、蒞任部、發ニ各告示一〕一切因革事宜、貴レ定ニ之于始一。〔福惠全書、筮仕部、諭單式〕各房經管事宜、務逐レ項開造。

【事宜次第】 15 ジギシダイ　都合次第。

【事畜】 16 ジキク　父母につかへ、妻子を養ふ。仰事俯畜。〔孟子、梁惠王上〕必使丁仰足ニ以事ニ父母一、俯足丙以畜乙妻子甲。

【事況】 17 ジキヤウ　やうす。事の狀態。事情。〔白居易、與ニ微之一書〕其餘事況、條寫如レ後。

【事局】 18 ジキヨク　ことがらの成りゆき。

【事極】 19 ジキヨク　事の窮極の理。〔韓非子、解老〕唯夫能令ニ人不レ見ニ其事極一、不レ見ニ事極一者、爲下保ニ其身一、有中其國上。

【事化】 20 ジクワ　治め化すること。治化。〔呂覽、本味〕非レ賢、其孰知ニ乎事化一。

【事火】 21 ジクワ　❶火を拜して神となす一種の宗教。古、波斯では之を拜火教といひ、印度では事火外道といつた。中國の六朝時代にも此の派があつた。〔雜寶藏經〕梵志事レ火、使ニ火不レ絕。❷佛可燃性そのもの（性火）に對して、現に燃えてゐる火をいふ。〔因明大疏、中〕火有ニ二種一、一者性火、如ニ草木中極微火大一、二者事火、炎熱騰焰、煙照飛烟。

【事會】 22 ジクワイ　物事の集まること。又、事宜を得ること。〔白虎通、禮樂〕夫禮者、陰陽之際也、百事之會也。〔唐書、馬周傳〕動中ニ事會一、裁處周密。

【事外】 23 ジグワイ　❶俗界の外。〔晉書、樂廣傳〕廣與ニ王衍一、俱宅ニ心事外一。〔陶潛、始作ニ鎭軍參軍一

經二曲阿一作詩〕弱齡寄二事外一、委レ懷在二琴書一。㊁shih⁴ wai⁴ ㋑局外。㋺事柄に關係しない。

【事外人】24 ジグワイジン ㊀王侯にも仕へず、其の行爲を高尚にする人。易の蠱の上九に當る人。〔易、蠱〕上九、不レ事二王侯一、高二尚其事一。〔集說〕君子出處、在二事之中一、盡レ力以幹焉、而不レ爲レ汙、在二事之外一、潔レ身以退焉、而不レ爲レ僻。㊁shih⁴ wai⁴ jen² 局外者。

【事官】25 ジクワン 周禮の冬官の別稱。百工のこと〔諸種の技藝・技術〕を掌る官。〔周禮、考工記、總目、國有二六職一、百工與居レ一焉、注〕百工、司空事官之屬、於二天地四時之職一、亦處二其一一也。

【事君】26 ジクン ㊀君につかへる。〔禮、禮運〕養レ君以自安也、事レ君以自顯也。〔論衡、荅佞〕明二事レ君之操一。㊁中說の篇名。

【事計】27 ジケイ 事の計畧。〔新書、匈奴〕陛下肯聽二其事計一。

【事經】28 ジケイ 事物の正しいすぢみち。〔韓非子、解老〕邪心勝、則事經絕、事經絕、則禍難生。

【事隙】29 ジゲキ 公事のひま。仕事の餘暇。〔資治通鑑、陳紀〕文帝、天嘉元年、晞乃以二事隙一、密問二彥深一。〔注〕事隙、公事之隙、少暇之時也。

【事業】30 ジゲフ しごと。事功。事爲。〔易、坤〕文言曰、發二於事業一。〔疏〕所レ營謂二之事一、事成謂二之業一。〔易、繫辭上〕擧而措二之天下之民一、謂二之事業一。〔莊子、駢拇〕事業不レ同。〔史記、匈奴傳〕興二事業一不レ成。

【事業家】31 ジゲフカ 事業を經營する人。

【事業資金】32 ジゲフシキン 事業會社が事業を起した場合に其の經營に要する資金。

【事業年度】33 ジゲフネンド 事業の上から特に定めた一年のくぎり。又、其の一年間。

【事件】34 ジケン ㊀ことがら。事の次第。一事を一件といふ。〔淸會典、刑部、凡審案必定二其期限一、注〕盜劫及情重命案、欽部事件、並搶奪掘墳一切雜案、倶定限二四月一。㊁鳥獸類の臟腑をいふ。〔夢粱錄、葷素從食店〕諸色點心事件附。〔夢粱錄、分茶酒店〕糟鵞事件。㊂出來事。意外の變。珍事。事故。

【事見】35 コトミ 物見。遊山。〔榮華物語、月宴〕さるべき折節のをかしき事見には。

【事權】36 ジケン ㊀事の勢。〔淮南子、兵略訓〕受レ刃者少、傷レ敵者衆、此謂二事權一。〔說苑、談叢〕逐レ魚者濡、逐レ獸者趨、非レ樂レ之也、事之權也。㊁事に伴ふ權利。又、職權。政事の權。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕彼欲レ專二事權一。

【事驗】37 ジケン ことのしるし。〔史記、淮南王安傳〕事驗明白、甚大逆無道。

【事狐】38 コジ 狐につかへる。狐の神樣を祭る。〔朝野僉載〕唐初已來、百姓多事二狐神一、房中祭祀以乞レ恩、當時有レ諺、曰、無二狐魅一不レ成レ村。

【事故】39 コジ ㊀こと。わけ。仔細。ことがら。事件。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩序〕少無二宦情一、有二箕潁之心一、事故仕レ世、多二素辭一。㊁出來ごと。さはり。故障。珍事。〔周禮、秋官、小行人〕治二其事故及其萬民之利害一、爲二一書一。〔韓愈、上二張僕射一書〕非レ有二疾病事故一、輒不レ許レ出。

【事後】40 ゴジ 事柄を實行したのち。事前(79)の對。事後受財を見よ。〔日本政記、順德天皇〕承久元年、賴襄曰、皆於二事後一、飾二言於衆一。

【事後受財】41 ジゴジユザイ 官吏が、人民から依賴を受けた事件が首尾良く落著した後に、其の謝禮として財を受けること。〔明律、刑律、受贓〕凡有レ事、先不レ許、事過之後而受レ財、事若枉斷者、准二枉法一論、事不二枉斷一者、准二不枉法一論。

【事後承諾】42 ジゴシヨウダク ㊀國家の行爲として發した命令又は處分について、事後に於て議會の承諾を求めること。㊁其の人の承諾を受けずに決定し、後に其の承諾を得ること。

【事語】43 ゴジ ㊀戰國策の別名。〔劉向、上二戰國策一序〕本號或曰二國策一、或曰二國事一、或曰二短長一、或曰二事語一、或曰二長書一、或曰二脩書一。㊁管子の篇名。

【事功】44 ジコウ ことの出來上がり。てがら。事に勞して成したてがら。又、事がら。仕事。〔周禮、夏官、司勳〕事功曰レ勞。〔注〕以レ勞定レ國、若レ禹。〔孟子、滕文公下、疏〕所レ作未レ成、則謂二之事一、事之成、則謂二之功一。〔新語、輔政〕逃二其事功一。〔王巾、頭陀寺碑文〕民勞二事功一、既鏤二文於鐘鼎一。〔注〕向曰、事功謂レ成也。

【事恆】45 ジコウ 淸、曾國葆(**5**―**14299**··191)の字。

【事際】46 ジサイ 事變のをり。〔晉書、楊佺期傳〕因二事際一以逞二其志一。

【事相】47 ジサウ 事のありさま。

【事使】48 ジジ 使ふ。〔管子、版法解〕燭二臨萬族一、而事二使之一。

【事始】49 ジシ ㊀書名。一卷。撰者未詳。事物の始を推原し、經史を雜引す。〔四庫提要、子、雜家類〕。㊁コトハジメ ㋑仕事に著手すること。〔太平記、六、赤坂合戰〕合戰の事始めなれば。〔東鑑、九〕文治五年六月六日、云云、今日擇二吉曜一有二事始一。㋺㋐御事始オコトハジメともいふ。昔十二月八日に煤拂ひなどして正月の準備をすること。二月八日に年神の棚を撤するのを御事納めといふのに對す。江戶時代の民俗。〔俳諧歲時記〕武江の俗、二月八日を事納めとし、十二月八日を事はじめといひて竹竿の先に目笊を附けて家々の軒に出す。㋑昔、東國で二月八日に農事を始めることをいひ、十二月八日に農事を終る御事納めに對す。後には、農事に限らず、一般の行事となつた。〔用捨箱〕誰袖の海、吉原の事をいふ條に、二月八日事初、師走八日事納めといふ。此日、吉原にかぎらず、棹のさきへ篩イガキつけて出す。京の卯月八日の如し。

【事指】50 ジシ 事のむね。〔漢書、張敞傳〕況乎千里之外、因二書文一諭二事指一哉。

【事事】51 ジジ ㊀ことごとに。事每に。各事。〔書、說命中〕惟事事乃有レ備、有レ備無レ患。〔傳〕事事、非二一事一。〔後漢書、東海恭王彊傳〕特受二二國宮室禮樂一、事事殊異、巍巍無レ量。〔盧江、少吏詩〕著レ我繡裌裙、事事四五通。㊁コトヲコトトス 事を一所懸命にする。事とするとは、仕事として精出すこと、又、營治し處理すること。〔史記、曹相國世家〕卿大夫已下、吏及賓客、見二參不一レ事レ事、來者皆欲レ有レ言。〔晉書、劉惔傳〕無二事レ事之心一。

【不レ事レ事】52 コトヲコトトセズ 事を一所懸命にやらない。事を打ちやりにする。〔韓非子、內儲說上〕周主亡二玉簪一、令二吏求一レ之、三日不レ能レ得也、周主令二人求一、而得二之家人之屋間一、周主曰、吾知二吏之不一レ事レ事也。〔注〕不レ事二事於臣之事一也。

【事事物物】53 ジジブツブツ 何ごとも何ものも。何も彼も。萬事萬端。〔傳習錄、中〕愛問、知レ止而後有レ定、朱子以爲、事事物物、皆有二定理一、似下與二先生之說一相戾上、於二事事物物上一求二至善一、卻是義外也。

【事事無レ成】54 ジジナルコトナシ 何事も成功することがない。一つも成し遂げられない。〔白居易、醉吟詩〕事事無レ成身老也、醉鄕不レ去欲二何歸一。

【事質】55 ジシツ 事の本質。本體。〔雲笈七籤〕唯善是與、此神氣事質、合レ吾一體、謂二之大順一。

【事實】56 ジジツ 本當の事。事の眞相。〔韓非子、存韓〕聽二姦人之浮說一、不レ權二事實一故。〔史記、莊周傳〕畏累虛・亢桑子之屬、皆空語、無二事實一。

【事實類苑】57 ジジツルイエン 書名。六十三卷。宋、江少虞撰。類書で、北宋一代の遺文・逸事は略〻此の書に具はる。其の目は、祖宗聖訓・君臣知遇、名臣事蹟・德量知識・顧問奏對・忠言讜論・典禮音律・官政治績・衣冠盛事・官職儀制・詞翰書籍、典故沿革・詩賦歌詠・文章四六・曠達隱逸・仙釋僧道・休祥夢兆・占相醫藥・書畫技藝・忠孝節義、將帥才略・知人薦擧・廣智博識・風俗雜誌・談諧戲謔・神異幽怪・詐妄謬誤・安邊禦寇の二十八門。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【事象】58 ジシヤウ 事のありさま。事柄。

【事障】59 ジシヤウ さはりごと。故障。〔國史略、花山天皇〕如許、恐有二事障一。

【事狀】60 ジジヤウ ことの有りさま。〔隋書、柳彧傳〕辨二詰事狀一。〔令義解、戶令、注〕擧二送其身一、非下唯申二奏事狀一而已上。

【事情】61 ジジヤウ ㊀ことの有りさま。ことのおもむき。〔韓非子、存韓〕臣恐、陛下淫二非之辯一而聽二其盜心一、因不三詳二察事情一。〔史記、老莊申韓傳贊〕切二事情一、明二是非一。〔史記、孟軻傳〕見以爲三迂遠而闊二於事情一。㊁shih⁴ ch'ing 用事。仕事。

【事主】62 ジシユ ㊀主人につかへる。〔國語、晉語八〕事レ主以レ勤。㊁强竊盜の難に逢つた被害者。事主處を見よ。㊂文法上、述語の事實上の主體となるものをいふ。

【事主處】63 ジシユシヨ 强竊盜に逢つた被害者の住む處をいふ。〔明律、名例、犯罪自首〕若强竊盜詐

欺取二人財物一、而於二事主處一首服。

【事守】64 ジシュ 仕事。業務。職守。〔禮、禮運〕杞之郊也禹也、宋之郊也、契也、是天子之事守也。

【事酒】65 ジシュ 何か事のある場合に飲む酒。三酒の一。其の酒は、冬醸して春出來る。〔周禮、天官、酒正〕辨二三酒之物一、一曰事酒、二曰昔酒、三曰清酒。〔注〕鄭司農云、事酒、有事而飲也、昔酒、無事而飲也、清酒、祭祀之酒、玄謂、事酒、酌二有事者一之酒、其酒、則今之醳酒也。〔疏〕云二其酒則今之醳酒一者、事酒、冬醸春成、以二漢之醳酒一況レ之。

【事序】66 ジジョ 事の順序。〔左氏、昭、七〕事序不レ類。〔左氏、昭、十一〕必聞二于表著之位一、所レ以昭二事序一也。

【事蹤】67 ジショウ ことがらのあと。〔陸機、謝二平原內史一表〕事蹤筆跡、皆可二推校一。

【事冗】68 shih⁴ jung³ 事務が多い。仕事が忙しい。

【事職】69 ジショク 周禮天官小宰の職務の一官。富國養民の仕事。〔周禮、天官、小宰〕六曰、事職、以富二邦國一、以養二萬民一、以生二萬物一。

【事親】70 ジシン 親につかへる。〔孟子、離婁上〕事孰爲レ大、事レ親爲レ大。〔孝經、喪親章〕孝子之事レ親終矣。〔莊子、漁父〕事レ親、以レ適爲レ主。〔孔子家語、大婚解〕仁人之事レ親也、如レ事レ天。

【事人】71 ジジン 人につかへる。〔禮、郊特牲〕告之以二直信一、信事レ人也。〔白虎通、嫁娶〕婦人所レ以有レ師何、學二事レ人之道一也。

【事遂】72 トゲ 仕事が完成する。〔老子、十七〕功成事遂。

【事制】73 ジセイ 事の制度。事柄の處置の仕方。〔新書、親疏危亂〕陛下有レ所レ不レ爲矣、臣將不二敢不一畢陳二事制一。

【事勢】74 ジセイ ㊀政治等に於ける勢力。〔韓非子、亡徵〕大臣兩重、父兄衆強、內黨外援、以爭二事勢一者、可レ亡也。㊁事のいきほひ。事のなりゆき。〔史記、平準書〕事勢之流、相激使レ然。〔漢書、劉向傳〕事勢不二兩大一、王氏與二劉氏一、亦且不二並立一。〔吳志、孫皓傳、陳二事勢利害一、以申二諭皓一。

【事迹】75 ジセキ ことのあとかた。事跡・事蹟に同じ。〔史記、秦始皇紀〕本二原事迹一、追二首高明一。〔歐陽脩、春秋論下〕止之事迹、不レ可二得而知一也。

【事跡】76 ジセキ ことのあとかた。ことがらの終始の徑路。事迹。事蹟。〔李衞公問對、下〕兵有レ分有レ聚、各貴レ適レ宜、前代事跡、孰爲二善レ此者一。

【事蹟】77 ジセキ 事跡に同じ。〔曾國藩、先正事略序〕借二名人之碑傳一、存二名人之事蹟一。〔六部成語、吏部〕事蹟、注解〕所二做過一之事。「前。

【事先】78 shih⁴ hsien¹ あらかじめ。前以て。事前に。

【事前】79 ジゼン 事を實行せぬ以前。あらかじめ。前以て。

【事祖】80 ソ 祖先に事へること。〔弘道館記述義〕上二歷代天皇一、尊レ之奉レ之、而敬二天事レ祖之義一兼存焉。

【事態】81 ジタイ 事のありさま。事情。

【事態緊迫】82 キンパク 事柄がさしせまつて急な狀態にあること。

【事體】83 ジタイ ㊀事の大體。事の體統。〔後漢書、胡廣傳〕練二達事體一、明二解朝章一。〔白居易、請レ罷レ兵第三狀〕臣伏以、行營近日事體、陛下一一具知。〔通俗編、行事、事體〕按、謂二事之體統一、猶レ云二禮體一也、今直言作二事體一、非。㊁事柄。事件。

【事大】84 ジダイ 大きなものにつかへる。〔孟子、梁惠王下〕惟智者爲二能以レ小事レ大。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕蓋聞、見レ機而作、周易所レ貴、小不レ事レ大、春秋所レ誅。〔朝鮮王、咨二清禮部一文〕謹事大之禮。

【事大黨】85 ジダイトウ 強力な勢力に從ふことを主義とする黨派。

【事大主義】86 ジダイシュギ 定見がなく、勢力の強大なものに從ふ主義。

【事端】87 ジタン 事の始。爭ひのもと。騷動のたね。〔史記、周紀〕以匿二事端一。

【事長】88 ジチョウ ㊀長者に事へる。〔左氏、文、六〕置レ善則固、事レ長則順、立レ愛則孝、結レ舊則安。㊁shih⁴ chang³ 支配人。世話人。

【事天】89 ジテン 天につかへる。〔老子、五十九〕治レ人事レ天、莫レ若レ嗇。〔孔子家語、大婚解〕仁人之事レ親也、如レ事レ天、事レ天、如レ事レ親。

【事典】90 ジテン ㊀國を富ませ、百官を任じ、以て萬民を安んずる事務を規定した法典。〔周禮、天官、大宰〕六曰、事典、以富二邦國一、以任二百官一、以生二萬民一。㊁諸〻の制度。事の法則。規則。〔左氏、文、六〕宣子、於レ是乎、始爲二國政一、制二事典一、正二法罪一。〔注〕典、常也。〔會箋〕典、法也、言レ定二凡百制度一也。

【事途】91 ト 事のすぢみち。〔顏氏家訓、省事〕事途廻冗、羈懼倦尤。

【事納】92 ㊀物事の終。㊁古、東國で、十二月八日に、其の年の農事を終へることをいふ。〔用捨箱〕師走八日、事納めといふ。

【事任】93 ジニン 事の主となること。責任ある位置に立つこと。〔莊子、應帝王〕一無レ爲二名尸一、無レ爲二謀府一、無レ爲二事任一、無レ爲二知主一。〔注〕付レ物使二各自任一。

【事白】94 ジハク 事實が明白になることをいふ。〔漢書、田叔傳〕趙王敖事白得出。

【事物】95 ブツ ものごと。〔管子、白心〕口爲レ聲也、耳爲レ聽也、目有レ視也、手有レ指也、足有レ履也、事物有レ所レ比也。

【事物考】96 ジブツコウ 書名。八卷。明、傅巖撰。事物紀原に本づいて、稍〻附益す。〔四庫提要、子、類書類存目〕。

【事物紀原】97 ジブツキゲン 書名。十卷。宋、高丞撰。類書。事物の原始由來を說く。其の目は、天地生植部・正朔曆數部・帝王后妃部・嬪御命婦部・朝廷注措部・治理政體部・利源調度部・公式姓諱部・禮祭郊祀部・崇奉褒冊部・樂舞聲歌部・輿駕羽衛部・旗旒采章部・冠冕首飾部・衣裘帶服部・學校貢擧部・經籍藝文部・官爵封建部・勳階寄祿部・師保輔相部・法從清望部・三省網轄部・持憲儲闈部・九寺卿少部・祕殿掌貳部・五監總率部・環衛中貴部・橫行武列部・東西使班部・節鉞師漕部・撫字長民部・京邑館閣部・會府臺司部・庫務職局部・州郡方域部・眞壇淨社部・靈宇廟貌部・道釋科教部・伎術醫卜部・舟車帷幄部・什物器用部・歲時風俗部・宮室居處部・城市藩衛部・農業陶漁部・酒醴飲食部・吉凶典制部・博奕嬉戲部・戎容兵械部・戰陣攻守部・軍伍名額部・律令刑罰部・布帛雜事部・草木花菓部・蟲魚禽獸部の五十五部。〔四庫提要、子、類書類〕。

【事物管轄】98 ジブツカンカツ 訴訟物の性質又は價額によつて裁判所の管轄權を決定すること。

【事聞】99 ブンス 其の事が官府に知れる。〔賴山陽、高山彦九郎傳〕事聞、官欲レ旌レ之。

【事平】100 コトタイラク 事件が平靜に歸すること。〔日本政記、朱雀天皇〕天慶三年、聞二事平一、乃還。朝議欲レ與二褒格一。

【事柄】101 ジガラ ㊀物事の核心。又、事の起るもと。〔宋史、范師道傳〕欲下取二京畿財賦一贍レ之、因以收中事柄上、師道力奏非レ便、遂復二舊制一。㊁ことがら。

【事變】102 ジヘン ㊀變つた出來事。なみなみならぬ出來事。變亂。騷動。暴動。〔管子、幼官〕六擧而絜二知事變一。〔鬼谷子、揣篇〕可二以生一事變一、生レ事者、幾之勢也。㊁世事の變化。〔詩、關雎、序〕達二於事變一、而懷二其舊俗一者也。〔疏〕作詩者、皆曉二達於世事之變易一、而私懷二舊時之風俗一。㊂警察力によつて鎭壓することの出來ない程度に達した騷亂。㊃相手國に宣戰を布告することなくして武力を行使してゐる狀態。

【事變多故】103 ジヘンタコ なみなみならぬ事件が多い。故は事故。〔史記、平準書贊〕書道二唐虞之際一、詩述二殷周之世一、安寧則長二庠序一、先レ本紹レ末、以二禮義一防二于利一、事變多故、而亦反レ是、是以、物盛則衰、時極而轉。

【事變物化】104 ブッカ 事物の變化すること。〔揚雄、甘泉賦〕事變物化、目駭耳回。

【事父】105 フ ㊀父につかへる。〔中庸〕所レ求二乎子一、以事レ父、未レ能也。㊁複姓。〔路史〕微子後、有二事父氏一。

【事本】106 ホン 事の生ずる本。〔資治通鑑、漢紀〕桓帝、延熹二年、見二兄歸一、具知二事本一。〔注〕事本、謂二事之所一由生一也。

【事務】107 ムジ 取りあつかふ仕事。つとめ。〔管子、正世〕料二事務一、察二民俗一。〔蜀志、董和傳〕從事務、推二誠心一。〔應瑒、與二滿炳一書〕適有二事務一、須二自經營一。

【事務員】108 ジムイン 官公署・會社等に於て庶務・會計、其の他の雜務に從事する人。

【事務官】109 ジムクン ❶行政學上、政府の決定した法令に從つて行政事務を執行する官吏。政務官(5－13135‥106)の對。❷行政官府の中で、特に立案の準備的作業や庶務・統計等の事務的方面を取扱ふ者。

【事務所】110 ジムショ 事務を取りあつかふ所。

【事務規程】111 ジムキテイ 事務取扱ひの手續を規定した規則。

【事務管理】112 ジムカンリ 義務なくして他人の爲に其の事務を管理すること。例へば、失踪者の遺留財産を無關係の者が保護するやうな場合。〔民法、第六百九十七條〕。

【事務章程】113 ジムシャウテイ 官廳の事務取扱ひの手續を定めた規則。

【事明】114 メイ 事の明かなこと。〔後漢書、蘇竟傳〕玄包幽室、文隱事明。

【事養】115 ヤウ つかへ養ふ。〔史記、魯仲連傳〕生則不レ得二事養一。

【事用】116 ヨウ ことの用。〔新書、六術〕先王以爲二天下事用一也。

【事理】117 ジリ 事のわけ。物事の道理。〔韓非子、解老〕行端直、則思慮熟、思慮熟、則得二事理一。〔漢書、司馬遷傳贊〕有二良史之材一、服二其善序二事理一。〔論衡、宣漢〕核二事理之情一、定二說者之實一也。

【事理無礙】118 ジリムゲ 佛因緣によつて生ずる現象法(事)と、不生不滅の眞如(理)とは、一應は區別せられるべきであるが、其の本質に於ては異なつたものではないこと。卽ち、事を離れて別の處に理が存するのではなく、從つて理其のまゝが卽ち事であること。〔五教止觀〕夫事理圓融一際者、復有二二門一、一者心眞如門、二者心生滅門、心眞如門者是理、心生滅門者是事、卽謂二空有二見、自在圓融、隱顯不レ同、竟無二障礙一。

【事律】119 ジリツ ❶刑律典に於て、人事に關する法律の篇名。漢の蕭何は、秦の六律篇に、廐律・興律・戶律の三篇を加へて九章律とした。爾後、其の三篇を總稱して事律といふ。九章律(1－167：338)を見よ。〔晉書、刑法志〕是時、用二秦漢舊律一、其文起レ自二魏文侯師李悝一、悝撰二次諸國法一、著二法經一、以爲、王者之政、莫レ急二於盜賊一、故其律始二於盜賊一、盜賊須二劾捕一、故著二網捕二篇一、其輕狡越レ城、博戲借假不レ廉、淫侈踰レ制、以爲二雜律一篇一、又以二其律一、具二其加減一、是故、所レ著六篇而已、然皆罪名之制也、商君受レ之、以相二秦一、漢承二秦制一、蕭何定レ律、除二參夷連坐之罪一、增二部主見知之條一、益二事律一、興二廐戶二篇一、合爲二九篇一。❷リツヲヌ 規律を執り守る。〔管子、君臣上〕吏嚴夫盡有二誉レ程事レ律。

【事略】120 ジリャク 事績の概略。事件の大略。〔曾國藩、先正事略序〕節二錄名臣一、爲二先正事略一。

【事力】121 ジリョク ❶事に趨いて力を用ひる人。僮僕の類。〔通雅、稱謂〕事力、猶二快手一也。〔宋書、蕭惠開傳〕有二舫十餘一、事力二三百人一。〔洛陽伽藍記、二〕邢子才、遷二國子祭酒一、以二母老一辭レ詔、以二光祿大夫一、歸二養私庭一、所レ生之處、給二事力五人一。❷古、太宰帥及び國司に對して、其の職分田耕作の必要上、朝廷から貸與した耕民。〔令義解、軍防〕凡太宰及國司、並給二事力一。

【事倫】122 ジリン 事の道理。〔法言、問神〕況於二事倫一乎。〔增註〕宋咸曰、倫、理也。

【事類】123 ジルイ 似かよつた。〔風俗通、正失〕推二事類一、以不レ及二太宗之世一、不レ可レ以爲二升平一。〔越絕書、越絕篇敘外傳記〕因二事類一、以曉二後世一。〔談苑〕白居易、作二六帖一、命二諸生一採二集其事類一。

【事類賦】124 ジルイフ 書名。三十卷。宋、吳淑撰。自注を施す。凡そ一百篇。皆故實を隱括し、一題を以て一賦を作る。頗る簡要で、類書中の善本である。〔四庫提要、子、類書類〕。

【事例】125 ジレイ ことのためし。先例。實例。〔南史、褚彥回傳〕建元元年、進二位司徒一、侍中中書監如故、改封二南康郡公一、彥回讓二司徒一、乃與二僕射王儉書一、欲依二蔡漢事例一。

【事禮】126 ジレイ 細かな禮式。時代によつて變化する具體的な禮。經禮(原理的な不變の禮)に對していふ。曲禮(5－14280‥275)の❶に同じ。〔儀禮、士冠禮、疏〕儀禮亦名二曲禮一、故禮器云、經禮三百、曲禮三千、鄭注云、曲猶レ事也、事禮謂二今禮一也、其中、事儀二千、言レ儀者、見二行事有一レ威儀一、言レ曲者、見二行事有一レ屈曲一、故有二二名一也。

【事論】127 ジロン 佛佛と衆生との差別的方面を論ずること。理論(7－21014‥136)の對。〔法華玄義、六上〕理論則同二如是一、故不レ異、事論則有二機應一、是故不一。

【事惑】128 ジワク 佛二惑の一。二惑(1－247‥1168)を見よ。

【坐レ事】129 ザジ 事件の卷きぞへをくふ。連坐。〔先哲叢談、物徂徠〕父方菴、延寶中、坐レ事竄二上總一、重野成齋、佐久間象山碑〕尋遷二長沼城一、坐レ事國除。

【葬レ事】130 ソウジ 葬式を濟ませる。葬事(10－34556‥32)を見よ。

【致レ事】131 チジ 官を罷める。致仕(9－30149‥53)に同じ。〔禮、內則〕七十致レ事。〔注〕致二其事於君一而告レ老。

【用レ事】132 モチフ 權力を握つて自由にふるまふ。政權を握る。〔戰國、趙策〕趙太后、新用レ事。〔史記、燕召公世家〕或曰、禹薦レ益、已而以二啓人一爲レ吏、及レ老、而以二啓人一爲不レ足レ任二乎天下一、傳之於レ益、已而啓與二交黨一攻レ益奪レ之、天下謂、禹名傳二天下於益一、已而實令二啓自取一レ之、今王言レ屬二國於子之一而吏無二非二太子人一者、是名屬二子之一、而實太子用レ事也。

【臨レ事】133 ノゾム 事件に出逢ふ。〔論語、述而〕必也臨レ事而懼、好レ謀而成者也。〔史記、魏世家〕文侯曰、先生臨レ事勿レ讓。〔漢書、嵩不疑傳贊〕學以從レ政、臨レ事不レ惑、遂立二名迹一、終始可レ述。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕臨レ事制レ變、因而能通、智者之慮也。

【臨レ事屢斷】134 シバシバヂンズ 事件に出遇つて、能く決斷する。〔禮、樂記〕明二乎商之音一者、臨レ事而屢斷、明二乎齊之音一者、見レ利而讓、臨レ事而屢斷、勇也、見レ利而讓、義也。

【聯レ事】135 ツラヌ 同僚として、互に助け合つて事務を共にする。聯は連。聯事(9－29153‥32)を見よ。

【事有レ君】136 キミアリ 自分のやる事には準據がある。〔老子、七十〕吾言甚易レ知、甚易レ行、天下莫二能知一、莫二能行一、言有レ宗、事有レ君、夫唯無レ知、是以不二我知一也、知レ我者希、則我貴矣、是以、聖人被レ褐懷レ玉。

【事有レ序】137 コトアリ する事に秩序がある。〔左氏、襄、三十一〕若天所レ啓、其在二今嗣君一乎、甚德而度、德不レ失レ民、度不レ失レ事、民親而事有レ序、其天所レ啓也。

【事三堂】138 ジサンダウ 清、許伯政(10－35298‥379)の室名。

【事之賊】139 ソクノ 事をなすに害となるもの。〔史記、田敬仲完世家〕田子行曰、需、事之賊也。

【事之變】140 ヘンノ 事の變化。〔莊子、德充府〕毀譽・飢渴・寒暑、是事之變、命之行也。

【事思レ敬】141 コトヲオモフニハケイヲオモフ 事を爲すには、心を專一にして敬ひ愼しみ、過失のないやうにと希ふ。〔論語、季氏〕言思レ忠、事思レ敬。

【事隨レ心】142 コトココロニシタガフ 事は心の欲する所に隨つて行はれる。〔呂覽、觀表〕事隨レ心、心隨レ欲。

【事不レ諧】143 コトカナハズ 事が成就しない。〔後漢書、宋弘傳〕帝顧謂レ主曰、事不レ諧矣。〔英雄記〕京師稱二袁文開、諺曰、事不レ諧、詣二文開一。

【不レ濟レ事】144 ナサズ 事を成就することが出來ない。役に立たない。〔北齊書、高昂傳〕高祖曰、高都督、純將二漢兒一、恐不レ濟レ事。

【不レ了レ事】145 サトラズ 事理を明かに悟らない。〔南史、蔡撙傳〕武帝曰、卿殊不レ了レ事、撙正レ色俯レ身、拾レ牒起、曰、云云、臣撙少而仕宦、未三嘗有二不レ了レ事之目一。

【無二遂事一】146 トゲナシ 臣下たる者は君命を待たずに獨斷專行すべきでない。〔公羊、僖、二十〕大夫無二遂事一。〔漢書、馮奉世傳〕春秋之義、亡二遂事一、漢家之法、此其言レ遂何、有レ矯レ制。

【事以密成】147 コトモツテナルニミツヲモツテス 凡そ事業は、愼密にすれば、よく成就する。〔韓非子、說難〕夫事以密成、語以泄敗。

【事急計生】148 キフナレバケイシヤウズ 事がさしせまると、よい計略が出て來る。〔五代史、梁家人、博王友文傳〕左右勸二友珪一曰、事急計生、何不二早自爲一圖。

【事上磨鍊】149 ジジヤウマレン 實際の事に當つて精神の修養を行ひ、意思の鍛鍊を試みること。周子が主靜を說いて以來、宋儒が多く靜坐を事とするに對し、王陽明は、須らく實際の事物に當つて精神を鍊磨すべきことを說いた。〔傳習錄、下〕

人須下在二事上一磨錬做中功夫上。
【事孰爲レ大】150 ツカフルコトイヅレカダイナリトナス　人に仕へるといふことの中で、何が一番大切であるか。〔孟子、離婁上〕事孰爲レ大、事レ親爲レ大。
【事倍功半】151 コトバイニシテコウナカバナリ　多大の努力を拂つても僅かの效果しかない。〔吳澄、詩〕續二綆鉤一其深、事倍功未レ半。
【事半功倍】152 コトナカバニシテコウバイス　僅かの努力で多大の效果を擧げる。〔孟子、公孫丑上〕事半二古之人一、功必倍レ之。
【事不レ厭レ省】153 コトハイトハズセイ　事は、いくら省略せられても差支へない。事は、少なければ、治まり易いからいふ。〔淮南子、泰族訓〕功不レ厭レ約、事不レ厭レ省。
【事不レ師レ古】154 コトイニシヘヲシトセズ　事をする時に、古人の教訓を師としない。〔書、說命下〕事不レ師レ古、以克永レ世、匪二說攸レ聞。〔傳〕事不レ法二古訓一而以能長レ世、非二說所レ聞。
【事文類聚】155 ジブンルイジユウ　書名。前集六十卷・後集五十卷・續集二十八卷・別集三十二卷、外に新集三十六卷・外集十五卷・遺集十五卷。宋、祝穆撰。新集・外集は元、富大用撰。遺集は元、祝淵撰。全篇を多數の門目に分ち、古今の事實と詩文を類によつて聚めたもの。其の目は、前集十三部、天道・天時・地理・帝系・人道・仕進・仙佛・民業・技藝・樂生・嬰疾・神鬼・喪事。後集十四部、人倫・娼妓・奴僕・肖貌・穀菜・材木・竹筍・菓實・花卉・鱗蟲・介蟲・毛鱗・羽蟲・蟲豸。續集十三部、居處・香茶・燕飲・食物・燈火・朝服・冠履・衣衾・樂器・歌舞・璽印・珍寶・器用。別集九部、儒學・文章・書法・文房・禮樂・性行・仕進・官政・人事。新集十五部、三師・三公・省官・中書省・尙書省・省屬・六曹・樞密院・御史臺・諸院・國史院・諸寺・諸監・殿司・諸庫局。外集九部、東宮官・陸親府・王府官・節使・統軍司・都司使・諸提擧・路官・縣官。遺集十九部、三師・樞密院・省官・諸院・東宮官・國史院・六曹・寺監・省屬・封爵・王府・節使・殿司・統軍司・府司・監司・諸提擧・路官・宮觀。〔四庫提要、子、類書類〕。
【事無二常師一】156 コトジヤウシナシ　事には一定不變の標準となるべきものがない。〔鬼谷子、忤合〕世無二常貴一、事無二常師一。
【事無二二成一】157 コトニニセイナシ　二事の兩方ともが成就する、といふことは出來ない。少くとも一方は失敗する。〔左氏、成、八〕禮無二加貨一、事無二二成一。〔注〕公私不二兩成一。
【事與レ願違】158 コトネガヒトタガフ　することと爲すことが、希望と喰ひ違ふ。願望が叶はない。〔仁王經、四、無常偈〕生老病死、事與レ願違、欲レ深二禍重一、瘡疣無レ外。
【事與レ心違】159 コトココロトタガフ　物事が思ふ通りにならない。〔歐陽脩、紀德陳情上レ致二政太傅杜相公一詩〕貌先レ年老因レ憂レ國、事與レ心違始乞レ身。
【事豫則立】160 コトアラカジメスレバスナハチタツ　凡そ何事によらず、豫め準備をすれば、能く成就する。〔中庸〕凡事豫則立、不レ豫則廢。
【因レ事制レ宜】161 コトニヨリテヨロシキヲセイス　事に應じて適當の方法を施す。臨機の處置を爲す。〔漢書、韋玄成傳〕明王之御レ世也、遭レ時爲レ法、因レ事制レ宜。
【應レ事無レ方】162 コトニオウジテハウナシ　よく物事に應じて變化し、一定の法に拘らない。〔列子、說符〕投レ隙抵レ時、應レ事無レ方。
【強レ事飾レ辭】163 コトヲシヒジヲカザル　無理に體裁をととのへる。〔顏氏家訓、勉學〕道聽塗說、強レ事飾レ辭。
【作レ事不レ時】164 コトヲオコスニトキナラズ　仕事をするのに、其の時を得ない。〔左氏、昭、八〕抑臣又聞レ之、曰、作レ事不レ時、怨讟動二于民一、則有二非レ言之物一而言。
【指レ事類レ情】165 コトヲサシジヤウヲルイス　趣を同じくする事を引いて來て敷衍推論する。〔史記、莊子傳〕善屬レ書離レ辭、指レ事類レ情、用剽二剝儒墨一。
【詢レ事考レ言】166 コトヲハカリゲンヲカンガフ　其の事を如何にすべきかに就いて相談し、相手の言の妥當であるか否かを考へる。〔書、舜典〕詢レ事考レ言、乃言底レ可レ績三載。〔集傳〕堯言、詢二舜所レ行之事一、而考二其言一、則見二汝之言一、致レ可レ有レ功、於レ今三年矣。
【先レ事慮レ事】167 コトニサキダチテコトヲオモンパカル　事の生じない前に、其の事の是非成敗などを考へる。〔荀子、大略〕先レ事慮レ事、謂二之接一、接則事優成、先レ患慮レ患、謂二之豫一、豫則禍不レ生。
【息レ事寧レ人】168 コトヲヤメヒトヲヤスンズ　仕事をやめて、民と共に休息する。〔後漢書、章帝紀〕冀以息レ事寧レ人、敬奉二天氣一。
【經レ事長二一智一】169 コトヲヘテイツチヲチヤウズ　一つの事を經驗すると、一つの智惠を長ずる。〔通俗編、行事、經レ事長二一智一〕雞肋編、載二陳無己詩一。
【不レ經レ事少年】170 コトヲヘザルセウネン　世の經驗を積まない年少者。青二才。〔晉書、桓沖傳〕雖レ遣二諸不レ經レ事少年一、衆又寡弱、天下事可レ知。
【事無レ不レ可二對レ人言一】171 コトヒトニタイシテイフベカラザルナシ　自分のした事の中で、他人に對して言ふことの出來ないやうな事は決してない。〔通俗編、言笑、事無レ不レ可二對レ人言一〕宋史司馬光傳、平生所レ爲、未下嘗有中不レ可二對レ人言一者上。
【事已如レ此無レ可二奈何一】172 コトスデニカクノゴトシイカントモスベキナシ　事がもう此のやうになつたからには、どうにもならない。〔漢書、王莽傳上〕是月、前煇光謝囂奏、武功長孟通、浚レ井得二白石一、云云、文曰、告二安漢公一爲二皇帝一、符命之起、自レ此始矣、莽使三群公以白二太后一、太后曰、此誣二罔天下一、不レ可二施行一、太保舜謂二太后一、事已如レ此、無レ可二奈何一。
【事有二必至一理有二固然一】173 コトカナラズイタルアリリモトヨリシカルアリ　事は必ず行く所まで行くべきものであり、道理は一定して變らぬものである。〔戰國、齊策〕譚拾子曰、事有二必至一理有二固然一、君知レ之乎。
【事之難易不レ在二小大一】174 コトノナンイハセウダイニアラズ　事をし遂げるについての難易は、其のことの小大にはよらない。〔呂覽、首時〕事之難易、不レ在二小大一、務在レ知レ時。

【事】242　サウ　爭(**7－19663**)の古字。〔玉篇〕事、古文爭。

參考　事(**1－241**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕事、音示、事物。事、古爭字。

八畫

【宋】243　チユウ　中(**1－73**)に同じ。〔字彙補〕與レ中同、出二漢戚伯著碑一。

十畫

【豸】244　テイ チヤウ　〔五音集韻〕他丁切　青
はかる。〔五音集韻〕豸、平議也。

十一畫

【豫】245　ヨ　豫(**10－36425**)の古字。〔類篇〕豫、古文豫字。

十五畫

【豫】246　ヨ　豫(**10－36425**)に同じ。〔字彙補〕豫、與レ豫同。

二部

【二】247　ジ ニ　〔集韻〕而至切　寘　儿 èrh4
二 小篆　弍 古文
❶**ふたつ**。〔易、繫辭上〕分而爲レ二、以象レ兩。〔荀子、議兵〕權出二於一一者強、權出二於二一者弱。〔南齊書、禮志上〕撰二立贊冠・醮酒二辭一。❷**ふたたび**。**ふたたびする**。〔宋史、吳

璘傳〕一敗而二勝也。㊂**ふたつにする。別にする。**〔孟子、滕文公上〕天之生レ物也、使ニ之一レ本、而夷子二レ本故也。〔後漢書、韓康傳〕不レ二レ價。㊃**二倍。倍。**〔孟子、萬章下〕卿祿二ニ大夫一。〔集注〕二、卽倍也。㊄**ふたごころ。**〔左氏、僖、十五〕有レ死無レ二。〔庾信、移ニ齊河陽執事一文〕君一臣二、上穆下乖。㊅**疑ふ。**〔呂覽、應言〕令レ二ニ輕レ臣也。〔注〕二、疑也、臣見レ疑、則不レ重也。㊆**つぎ。次のもの。第二番目。**〔書、洪範〕二曰、敬用ニ五事一。㊇**ならぶ。たぐひ。**〔史記、韓信傳〕功無レ二ニ於天下一。〔漢書、嚴助傳〕爲ニ天下少レ雙、海內寡レ二。㊈**地の數。**〔說文〕二、地之數也、从ニ耦一一。〔易、繫辭上〕天一地二。㊉**陰陽の數。**〔說苑、辨物〕夫占變之道、二而已矣、二者、陰陽之數也。⑪**乾と坤。**〔易、繫辭下〕因レ二以濟ニ民行一。〔虞注〕二、謂ニ乾與レ坤也。⑫**異端。他の說。**〔荀子、儒效〕幷レ一而不レ二。〔注〕二、謂ニ異端一也。⑬**陰爻。**〔後漢書、楊震傳、易曰、無レ由レ遂、注〕鄭玄注曰、二、爲ニ陰爻一。⑭貳(**10－36703**)に通ず。〔禮、坊記〕唯卜之日、稱ニ二君一。〔疏〕二、當レ爲レ貳、謂ニ副貳一也。⑮古は弍(**4－9661**)に作る。〔說文〕弍、古文二。邦**三絃の中の絲。**二の絲。

名乘　ツギ。ツグ。

解字　會意。上の一は天、下の一は地の意。一を二つ並べた形に從ふ。古文は弋に從ひ、弍に作る。地の數。〔說文〕二、地之數也、从ニ耦一一。〔段注〕易曰、天一地二、惟初大始道立ニ於一一、有レ一而後有レ二、元气初分、輕淸昜爲レ天、重濁侌爲レ地、云云、耦一者、兩ニ其一一也。▽ニ(甲骨文)指事。ふたつの意を示す。

參考　㊀文書・簿書などには、姦を避け誤りを虞れて、貳と書き、商業上には‖を用ひる。〔六書故〕二、今惟財用出內之簿書、用ニ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌一、以防ニ姦易一。㊁上の古字の二(**1－248**)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕二、二二。二、古上字。

【二栖】1 アニ　草木の枝などの二つのまた。〔本草、淫羊藿〕集解、時珍曰、高一二尺、一莖二栖、一栖三葉、葉長二三寸、如ニ杏葉及豆藿一。

【二案】2 アニアン　官府の二つの文書。〔元史、禮樂志二〕禮部官押進、奏ニ表章禮物二案一、至ニ橫階下一、宣ニ禮物一、舍人進讀ニ禮物目一。

【二伊】3 イニ　伊勢・伊賀の二國。〔齋藤拙堂、陪ニ游笠置山一記〕今我公撫ニ二伊一而有レ之。

【二扆】4 イニ　二つの扆。扆はついたてで、絳(赤い絹)を質とし、斧の形を縫ひとりにしたもの。〔北史、周宣帝紀〕大象二年春正月乙巳、造ニ二扆一、畫ニ日月象一、以置ニ左右一。

【二意】5 イニ　ふたごころ。貳心。〔書、盤庚下〕永肩ニ一心一、〔疏〕用レ此布ニ示於民一、必以ニ德義一、長任ニ一心一、以事レ君、不レ得レ懷ニ二意一、以ニ遷都既定一、故殷勤以戒レ之。〔詩、衞風、氓〕士貳ニ其行一、〔箋〕我心於レ女、故無ニ差貳一、而復關之行有ニ二意一。〔後漢書、董卓傳〕稟ニ贍百官一、終無ニ二意一。

【二位】6 ヰニ　㊀第二番目の位。〔左氏、襄、十四〕欒鍼曰、此役也、報ニ欒之敗一也、役又無レ功、晉之恥也、吾有ニ二位於戎路一、敢不レ恥乎。〔會箋〕戎右位次ニ御者一、故曰レ有ニ二位一。㊁二つの位。二秩。〔宋書、禮志四〕社實一神、而相ニ襲二位一、衆議不レ同、何必改作。㊂二人。〔唐書、侯知道程俱羅傳〕壽州安豐李興、亦有ニ至行一、柳宗元爲作ニ孝門銘一曰、肇有ニ二位一、孝道爰興、克修ニ厥猷一、載籍是登。㊃位階。正・從二位の稱。

【二尉】7 ヰニ　二人の尉。尉は官名。〔史記、白起傳〕趙軍築ニ壘壁一而守レ之、秦又攻ニ其壘一、取ニ二尉一、敗ニ其陣一、奪ニ西壘壁一。

【二爲】8 ヰニ　淸、危龍光(**2－2849**・・169)の字。

【二闈】9 ヰニ　二つの宮門。〔沈約、酬ニ孔通直逿懷ニ蓬居一詩〕兩宮集ニ鸞步一、二闈引ニ通籍一。

【二壝】10 ヰニ　土で築いた二つの埒。二つの土埒。〔元史、祭祀志一〕外設ニ二壝一、內壝去レ壇二十五步、外壝去ニ內壝一五十四步。

【二友】11 イニイウ　二人の友。宋の蘇東坡が、晉の陶淵明と唐の柳宗元との詩文集を指して云つた語。〔小學紺珠、藝文類、二友〕陶淵明・柳子厚二集、東坡謂ニ之南遷二友一。

【二友齋】12 ニイウサイ　淸、徐葆光(**4－10110**・・603)の號。

【二卣】13 イニイウ　ふた樽。卣は酒を盛る禮器。〔書、洛誥〕予以ニ秬鬯二卣一。〔傳〕以ニ黑黍酒二器一、明絜致レ敬、告ニ文武一以ニ美享一。〔釋文〕卣、中樽也。〔漢書、王莽傳上〕甲冑一具、秬鬯二卣。

【二酉】14 イニイウ　㊀大酉・小酉の二山を言ふ。湖南省阮陵縣の西北に在る。この二山の洞穴に古書千卷を藏したといふ故事から、藏書の多い意味に轉用す。二酉を以て書名に冠したものに、明の胡應麟の二酉綴遺、王世懋の二酉委譚、淸の張澍の二酉堂叢書があり、我が國では、一色時棟の二酉洞等がある。〔郡國志〕大酉山、在ニ辰漢山下一、有レ洞、名ニ大酉洞一、云云、小酉山、在ニ辰州府一、又名ニ烏速山一、在ニ西溪口一、山下有ニ石穴一、中有ニ書千卷一、舊云、秦人避レ地、隱ニ學於此一、云云、自ニ西溪北口一十餘里、與ニ大酉山一相連、故曰ニ二酉一。㊁字號。㋑明、張爾葆(**4－9812**・・1151)の號。㋺淸、姜紹書(**3－6205**・・105)の字。

【二酉園】15 ニイウエン　明、陳文燭(**11－41698**・・1234)の室名。

【二酉堂】16 ニイウダウ　淸、張澍(**4－9812**・・388)の室名。

【二酉洞】17 ニイウドウ　書名。唐本類書目錄(**2－3709**・・326)を見よ。

【二酉山房】18 ニイウサンバウ　明、胡應麟(**9－29400**・・410)の室名。

【二酉堂叢書】19 ニイウダウソウショ　書名。凡そ三十七種、既刻二十五種。淸、張澍編。二酉堂は其の書齋の名。其の目は、司馬法・子夏易傳・世本・三輔決錄(漢、趙岐)・司農卿集(漢、皇甫規)・太常卿集(漢、張奐)・太尉集(漢、段熲)・諸葛丞相集(蜀、諸葛亮)・周生烈子(魏、周生烈)・漢皇德傳(漢、侯瑾)・風俗通姓氏編・決疑要注(晉、摯虞)・辛氏三秦記・三輔舊事・三輔故事・十三州志(梁、劉昞)・敦煌實錄(梁、劉昞)・涼州記(晉、段龜龍)・涼州異物志・西河舊事・西河記(梁、喩歸)・沙州記(段國)・陰氏詩集(梁、陰鏗)・李氏詩集(唐、李益)。

【二遊】20 イニイウ　二度のあそび。又、二つのあそび。〔梁武帝、紫蘭始萌詩〕二遊何足レ懷、一顧非ニ傾城一。〔皮日休、二遊詩序〕林泉隱レ事、恣用ニ研詠一、大凡遊ニ于二君宅一、無ニ浹旬之閒一、因作レ詩以留贈、名レ之曰ニ二遊一。

【二憂】21 イニイウ　二つのうれへ。〔左氏、昭、十三〕南蒯子仲之憂、其庸可レ弃乎、若奉ニ晉之衆一、用ニ諸侯之師一、因ニ邾・莒・杞・鄫之怒一、以討ニ魯罪一、閒ニ其二憂一、何求而弗レ克。〔注〕因ニ南蒯子仲二憂一、爲ニ閒隙一。

【二牖】22 イニイウ　二つのまど。〔白居易、新構ニ亭臺一示ニ諸弟姪一詩〕東西疏ニ二牖一、南北開ニ兩扉一。

【二佾】23 イニイツ　八人づつ二列から成る舞樂。八佾(**2－1450**・・8)を見よ。〔後漢書、禮儀志〕公卿官長、以レ次行ニ雩禮一求レ雨、立ニ土人舞童二佾一、七日一變、如ニ故事一。

【二溢】24 イニイツ　ふたすくひ。溢は片手に盛つた量。〔南史、梁武帝紀下〕每レ哭、輒歐レ血數升、服內、日惟食ニ麥二溢一。

【二邑】25 イニイフ　二つの邑。〔詩、邶風、式微序〕黎侯寓ニ于衞一、〔箋〕黎侯爲ニ狄人所レ逐、棄ニ其國一而寄ニ于衞一、衞處レ之以ニ二邑一、因安レ之、可ニ以歸一而不レ歸、故其臣勸レ之。〔杜預、春秋左氏傳序〕璧假ニ許田一、〔疏〕隱桓之世、周德既衰、魯不レ朝レ周、王不ニ巡守一、二邑皆無レ所レ用。

【二因】26 イニイン　佛㊀生因と了因。生因とは、心のはたらきが一切の法を生ずること。了因とは、智慧を以て眞理を照了すること。〔涅槃經、二十八〕因有ニ二種一、一者生因、二者了因、能生レ法者、是名ニ生因一、燈能了レ物、故名ニ了因一、云云、如ニ穀子等一、是名ニ生因一、地・水・糞等、是名ニ了因一。〔因明大疏、上〕因有ニ二種一、一生、二了、如ニ種生レ芽能起用一、故名爲ニ生因一、云云、如ニ燈照レ物能顯レ果、故名爲ニ了因一。㊁能生因と方便因。能生因とは、一切の現象の最も根源たる心の活動性。方便因とは、其の活動性をして實際にはたらかせる種々の力。前者は種・苗に、後者は日光・水に喩へられる。〔宗鏡錄、七十二〕此一切因、二因所レ攝、一能生因、二方便因、當レ知、此中牽ニ引種

子㆒生㆓起種子㆒、名㆓能生因㆒、所㆑餘諸因名㆓方便因㆒、當㆑知、此中若㆓能生因㆒、是名㆓因緣㆒、若㆓方便因㆒、是增上緣、若等無閒緣及所緣緣。㊂正因と緣因。正因とは、衆生の本來具へてゐる理が正しく成佛の因となるもの。緣因とは、一切の功德善根が、正因の性を開發するもの。〔涅槃經、二十八〕因有㆓二種㆒、一者正因、二者緣因、正因者、如㆓乳生㆑酪、緣因者、如㆓醪煖等㆒。

【二陰】27 ニイン 二つの陰爻。又、陰氣。〔易、大有〕彖曰、大有、柔得㆓尊位㆒、大中而上下應㆑之、曰㆓大有㆒。〔注〕處㆑尊以㆑柔、居㆑中以㆑大、體无㆓二陰㆒、以分㆓其應㆒、上下應㆑之、靡㆑所㆑不㆑納、大有之義也。〔史記、倉公傳〕診法曰、二陰應㆑外、一陽接㆑內者、不㆑可㆑以㆓剛藥㆒。〔漢書、翼奉傳〕陰賊必待㆓貪狼㆒而後用、二陰並行、是以、王者忌㆓子卯㆒也。

【二靷】28 ニイン 二つのむながい。二つのひき綱。〔詩、秦風、小戎〕陰靷鋈續、傳、靷所㆓以引㆒也、疏〕驂馬頸不㆑當㆑衡、別爲㆓二靷㆒以引㆑車、故云㆔所㆓以引㆒也。

【二隱】29 ニイン ㊀二人の隱者。南齊の臧榮緖と關康之とをいふ。〔南史、臧榮緖傳〕初榮緖、與㆓關康之㆒俱隱、在㆓京口㆒、時號爲㆓二隱㆒。〔小學紺珠、名臣類下、二隱〕臧榮緖・關康之。㊁二つがかくれてゐる。〔雲笈七籤、總說星〕北斗九星、七見二隱、其第八第九、是帝皇太尊精神也。

【二員】30 ニヰン 二人。〔宋史、職官志一〕提擧修敕令、舊制二員、宣和中、增至㆓七員㆒、靖康初、減爲㆓三員㆒、刪定官無㆓常員㆒。

【二院】31 ニヰン 國會の上院と下院。兩院。

〔二院制〕32 ニヰンセイ 議會が上下兩院から組織せられてゐる制度。

【二韻】33 ニヰン 二つの韻。〔宋史、加蘭棲眞傳〕眞宗作㆓二韻詩㆒、賜㆓之號宗元大師㆒。

【二烏】34 ニウ 二つの太陽。二日。〔楊維楨、鴻門會詩〕照天萬古無㆓二烏㆒、殘星破月開㆓天餘㆒。

【二雩】35 ニウ 二つの雨ごひまつり。〔春秋、昭、二十五、秋七月上辛大雩季辛又雩、疏〕不㆑書㆓其日之辰㆒、空㆓言辛㆒者、本見㆓旱甚㆒、欲㆑知㆓二雩相去遠近㆒耳、無㆑取㆓于辰㆒、故空㆓書辛㆒也。

【二嫗】36 ニウ 二人のばば。〔舊唐書、高宗廢后王氏傳〕帝曰、朕卽有㆓處置㆒、武后知㆑之、令㆔人杖㆓庶人及蕭氏各一百㆒、截㆓去其手足㆒、投㆓酒甕中㆒曰、令㆓此二嫗骨醉㆒、數日而死。

【二雲】37 ニウン 清、邵晉涵(**11**－**39343**‥118)の字。

〔二雲山人〕38 ニウンサンジン 清、周其永(**2**－**3441**‥58 6)の號。

【二運】39 ニウン 二度、運輸する。〔宋史、食貨志上三〕淮南以㆓五運㆒、兩浙及江東二千里以㆓四運㆒、江東二千里外及江西三運、湖南北二運、各欠不㆑及㆓五輦㆒、依㆑格推賞。

【二嬴】40 ニエイ 嬴姓の二國。秦と趙。〔左思、魏都賦〕億若㆘大帝之所㆓興作㆒、二嬴之所㆗曾聆㆖。〔注〕善曰、秦・趙同姓、故曰㆓二嬴㆒。

【二營】41 ニエイ 二つのとりで。〔後漢書、張奐傳〕拜㆑奐爲㆓護匈奴中郎將㆒、以㆓九卿秩㆒、督㆓幽幷涼三州、及度遼・烏桓二營㆒、兼察㆓刺史二千石能否㆒、賞賜甚厚。

【二衞】42 ニエイ 天子を守る二つの官。晉は左右の二衞を置き、元は前後の二衞を置く。〔晉書、職官志〕始置㆓二衞㆒、有㆓前驅養由之弩㆒、及㆑設㆓三部㆒、有㆓熊渠佽飛之衆㆒。〔小學紺珠、制度類、二衞〕左衞、熊渠虎賁、右衞、佽飛虎賁。〔元史、百官志二〕前後二衞、掌㆓宿衞扈從㆒、兼營㆓屯田㆒、國有㆓大事㆒、則調㆓度之㆒。

【二幼】43 ニエウ 二人の幼い者。〔關尹子、七釜〕二幼相好、及㆓其壯㆒也、相遇則不㆓相識㆒。

【二姚】44 ニエウ 姚姓の二人。㊀有虞氏の姉妹をいふ。〔左氏、哀、元〕昔有過澆殺㆓斟灌㆒、以伐㆓斟鄩㆒、滅㆓夏后相㆒、后緡方娠、逃㆓出自㆑竇、歸㆓于有仍㆒、生㆓少康㆒焉、爲㆓仍牧正㆒、惎㆑澆能戒㆑之、澆使㆓椒求㆑之、逃㆓奔有虞㆒、爲㆓之庖正㆒、以除㆓其害㆒、虞思於㆑是、妻㆑之以㆓二姚㆒。〔注〕思、有虞君也、虞思自以㆓二女㆒妻㆓少康㆒、姚、虞姓也。〔楚辭、離騷〕及㆓少康之未㆑家兮、留㆓有虞之二姚㆒。㊁宋の姚兕・姚麟兄弟。〔宋史、姚兕傳〕弟麟亦有㆓威名㆒、關中號㆓二姚㆒。

【二要】45 ニエウ 二つの重要な物事。二つの大切な所。〔管子、兵法〕行㆓二要㆒。〔晉書、苻丕載記〕若度㆓此二要㆒、雖㆓子房之策㆒、難㆑爲㆑計矣。〔詩苑類格〕釋皎然曰、詩有㆓二要㆒、要㆔力全而不㆓苦澀㆒、氣足而不㆓怒張㆒。

【二曜】46 ニエウ 日と月。曜は燿に同じ。〔王融、上㆓北伐圖㆒疏〕偶化㆓兩儀㆒、均明㆓二曜㆒。

【二役】47 ニエキ ㊀二つのえだち。二つの徭役。〔宋史、食貨志上五〕如㆓稅錢一貫㆒、爲㆓第一等㆒、合㆓於本等中㆒、差㆓一役㆒者、倂差㆓二役㆒、又倍卽差㆓三役㆒、雖㆓稅錢更多㆒、不㆑過㆓三役㆒、並聽㆑雇㆑人。㊁二度のいくさ。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕宇治・一谷二役所㆑騎也。

【二葉】48 ニエフ ㊀二枚の葉。㊁二代。兩葉。〔北史、顏之儀傳〕枚乘二葉、俱得㆑游㆑梁、應貞兩世、並稱㆓文學㆒。〔任華、明堂賦〕千靈累㆑聖、二葉重㆑光。㊂フタバ ㋑草木が生じた時に最初に出る若葉。〔宇津保物語、吹上、上〕昨日まで二葉の松と聞こえしを。㋺香の名。伽羅に屬し、香味は苦甘である。

〔二葉葵〕49 フタバアフヒ ㊀かも葵の一名。㊁紋所の名。葉柄のある葵を二枚取合せた紋。

【二淵】50 ニエン 汧水・洛水の併稱。二水は、秦代、小山川として祠られたものの一。〔史記、封禪書〕汧・洛二淵、鳴澤・蒲山・嶽嵣山之屬、爲㆓小山川㆒。〔注〕正義曰、地理志云、二川源在㆓慶州華池縣西子午嶺東㆒、二川合、因名也。

【二堰】51 ニエン 二つのゐぜき。〔元史、河渠志三〕臺之東南、爲㆓侍郞・楊柳二堰㆒。

【二筵】52 ニエン 一丈八尺をいふ。筵は九尺。〔周禮、考工記、匠人〕周人明堂、度㆓九尺之筵㆒、東西九筵、南北七筵、堂崇一筵、五室、凡室二筵。

【二鷰】53 ニエン 二羽のつばめ。鷰は燕。〔梁簡文帝、七勵〕二鷰綴㆑翼、八鶴增㆑悲。

【二怨】54 ニエン 二つのうらみ。怨を懷く二人。〔唐書、李德裕傳〕大和三年、召拜㆓兵部侍郞㆒、裴度薦㆔材堪㆓宰相㆒、而李宗閔、以㆓中人助㆒先秉㆑政、且得㆑君出㆓德裕㆒、爲㆓鄭滑節度使㆒、引㆓僧孺㆒協㆑力罷㆓度政事㆒、二怨相濟、凡德裕所㆑善、悉逐㆑之。

【二袁】55 ニエン 後漢の袁紹と袁術とをいふ。〔陳琳、檄㆓吳將校部曲㆒文〕其閒豪桀縱橫、熊據虎跱、彊如㆓二袁㆒、勇如㆓呂布㆒。〔注〕善曰、二袁、袁紹・袁術也。

【二媛】56 ニエン 二人のひめ。〔顏延之、爲㆓織女㆒贈㆓牽牛㆒詩〕慙㆑無㆓二媛靈㆒、託㆑身侍㆓天闕㆒。

【二園】57 ニエン 二つのみささぎ。園は園陵。〔水經、渭水注〕南史王孫及王夫人卜以爲、悼園益園、民千六百家、立㆓奉明縣㆒以奉㆓二園㆒、園在㆓東都門㆒。

【二遠】58 ニエン 二人の遠く離れた者。〔劉滄、留㆓別復本修古二上人㆒詩〕二遠相知是昔年、此身長寄禮香煙。

【二應】59 ニオウ 魏の應瑒・應璩の兄弟をいふ。共に文才があつた。〔陳書、陸瑜傳〕轉㆓東宮學士㆒、兄琰、時爲㆓管記㆒、並以㆓才學㆒娛㆓侍左右㆒、時人比㆓之二應㆒。

【二憶】60 ニオク 二人のおもひ。〔楞嚴經〕二人相憶、二憶念深、如㆑是乃至、從㆑生至㆑生、同㆓于形影㆒、不㆓相乖異㆒。

【二音】61 ニオン 二つの音。〔詩、小雅、小明、日月方除、釋文〕除、直慮反、如㆑字、若依㆓爾雅㆒、則宜㆓餘・舒二音㆒。

【二恩】62 ニオン ㊀兩親の恩。〔榮華物語、疑〕礙㆓二恩父母之廟壇㆒。㊁親と師との恩。

【二何】63 ニカ 晉の何充と何準。共に佛教を信崇した。〔晉書、何充傳〕郗愔及弟曇、奉㆓天師道㆒、而充與㆓弟準㆒、崇㆓信釋氏㆒、謝萬譏㆑之云、二郗諂㆓於道㆒、二何佞㆓於佛㆒。〔小學紺珠、氏族類、二何〕何充、弟準。

【二架】64 ニカ 二つの架。架は、桁と桁との閒をいふ。〔唐書、盧杞傳〕於㆑是閒架除陌之暴縱矣、其法、屋二架爲㆓閒差㆒、稅之上者二千、中千、下五百、吏執㆑籌入㆓第室㆒計㆑之、隱不㆔盡率㆓二架㆒抵㆑罪、告者以㆓錢五萬㆒畀㆑之。

【二柯】65 ニカ 長さ六尺の稱。一柯は長さ三尺。〔周禮、考工記、車人〕車人爲㆑車、柯長三尺、云云、柏車二柯。〔注〕鄭司農云、柯長三尺、謂㆓斧柯㆒、因以爲㆑度。〔疏〕凡造作皆用㆑斧、因以量㆑物、故先論㆓斧柄長短及刃之大小㆒也。

【二哥】66 èrh^4 kê^1 次男をいふ。〔紅樓夢、二十二回〕大哥有角只八箇、二哥有角只兩根。

【二家】67 ニカ ㊀二軒の家。二戶。〔左氏、昭、十二〕叔仲子、欲㆑構㆓二家㆒。㊁孝經の注を書いた孔安國と鄭氏とを指す。〔小學紺珠、藝文類、孝經二

家〕孔安國・鄭氏、或云二鄭玄一、隋志、梁代二家並立二國學一。

【二家花】68 ニカクワ　雌雄異株（11－41998··21）を見よ。

【二家宮詞】69 ニカキユウシ　書名。二卷。明、毛晉編。宋の徽宗・寧宗・楊皇后の宮詞を收む。〔四庫提要、集、總集類〕。

【二家詩選】70 ニカシセン　書名。二卷。淸、王士禎編。明の徐禎卿・高叔嗣二家の詩を選集す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【二家詩品】71 ニカシヒン　書名。二卷。唐の司空圖の二十四詩品、及び淸の袁枚の詩品を合收す。

【二厦】72 カニ　二つのひさし。厦は、張り出した家、ひさし。〔宋史、禮志二十六〕廟三間二厦、神門屋二所、及齋院・神廚・靈星門。

【二歌】73 カニ　二つの歌。又、二たび歌ふ。〔杜甫、乾元中寓二居同谷縣一作詩〕嗚呼二歌兮歌始放、閭里爲レ我色惆悵。

【二價】74 カニ　かけね。貳價。〔後漢書、宋登傳〕市無二二價一、道不レ拾レ遺。〔論衡、是應〕買レ物安肯不レ求レ賤、賣レ貨安肯不レ求レ貴、有下求二貴賤一之心上、必有二二價之語一。〔南齊書、崔慰祖傳〕慰祖賣二宅四十五萬一、買者云、寧有レ減、不レ答、曰、誠慙二韓伯林一、何容二二價一。〔陳書、周迪傳〕擁二遏二價一、害及二四民一。〔劉删、采レ藥游二名山一詩〕定知無二二價一、非三復在二長安一。〔高適、贈レ別二褚山人一詩〕洛陽無二二價一、猶是慕二風聲一。

【二河】75 ガニ　佛衆生の貪愛を喩へた水の河と、瞋憎を喩へた火の河。二河白道を見よ。

【二河白道】76 ニガビヤクダウ　佛二河とは、水・火の二つの河で、衆生の貪愛を水の河に喩へ、瞋憎を火の河に喩へたもので、衆生が違順の二境に起す煩惱を指す。白道とは、衆生が貪愛瞋憎の煩惱中に生ずる淸淨願往生心をいふ。白は淸淨、道は善心の意。この二河白道の比喩は、唐の善道が觀經疏、散善義の中に設けたもので、善道が自己の信仰を告白し、凡夫往生の信心を守護し、凡夫不得生の妨難を防いだもの。〔觀經散善義〕譬如三有レ人欲二向レ西行一、百千里、忽然中路見レ有二二河一、一是火河、在レ南、一是水河、在レ北、二河各闊百步、各深無レ底、南北無レ邊、正水火中間、有二一白道一、可二闊四五寸許一、此道從二東岸一至二西岸一。

【二娥】77 ガニ　㊀後漢の安帝の母の小娥と、其の姊の大娥とをいふ。〔後漢書、淸河孝王慶傳〕帝所レ生母左姬、字小娥、小娥姊、字大娥、犍爲人也、初伯父聖、坐二妖言一伏レ誅、家屬沒レ官、二娥數歲入二掖庭一、及レ長並有二才色一。㊁二人の美人。〔王十朋、會稽風俗賦〕懿矣三女、賢哉二娥。

【二雅】78 ガニ　㊀詩經の大雅と小雅。〔詩、小大雅譜〕文王受レ命、武王遂定二天下一、盛德之隆、大雅之初、起レ自二文王一、至二於文王有聲一、據二隆盛一而推二原天命一、上述二祖考之美一、小雅、自二鹿鳴一至二于魚麗一、先二其文一、所二以治レ內、後二其武一、所二以治レ外、此二雅逆順之次。〔漢書、敍傳上〕蓋惴惴之臨レ深兮、乃二雅之所レ祇。〔趙岐、孟子題辭〕有二風人之託レ物、二雅之正言一、可レ謂二直而不レ倨、曲而不レ屈、命世亞聖之大才一者也。㊁淸、金學詩（11－40152··1214）の號。

【二鵝】79 ガニ　二羽の鵝鳥。〔晉書、懷帝紀〕洛陽步廣里、地陷、有二二鵝出一、色蒼者沖レ天、白者不レ能レ飛。

【二海】80 カニ　二つの海。〔郭璞、山海經圖、鰩魚贊〕經二營二海一、矯二翼閒霄一。

【二械】81 カニ　二つのかせ。械は、人の支肢に加へて自由を束縛する具で、多く罪人に加へる。〔梁書、吉翂傳〕翂撾二登聞鼓一、乞レ代二父命一、獄掾依レ法備、加二桎梏一、蔡法度矜レ之、命脫二其二械一、更令レ著二一小者一。

【二階】82 カニ　重屋の、下から二番目の層。樓。重屋。たかどの。

【二解】83 カニ　㊀二つの解釋。〔左氏、隱、元、百雉、注、其大都不レ過二百雉一、疏〕今杜無二二解一。㊁晉の解系と解結とをいふ。〔晉書、孫旂傳〕旂絜靜、少自修立、察二孝廉一、累二遷黃門侍郎一、出爲二荊州刺史一、名位與二二解一相亞。

【二解脫】84 ニゲダツ　佛㊀有爲解脫（意識的な修行の圓滿して安樂を得た境地）と無爲解脫（何等のはたらきを加へずとも既に心身が安樂を得た境地）。〔俱舍論、二十五〕解脫體有レ二、謂二有爲・無爲一、有爲解脫、謂二無學勝解一、無爲解脫、謂二一切惑滅一。㊁性解脫と得解脫。性解脫とは、衆生の本性が淸淨で、煩惱のけがれの相のないこと。得解脫とは、惑障を斷ち盡して解脫自在を得ること。〔寶性論、四〕一者自性淸淨、二者離垢淸淨、自性淸淨者、謂二性解脫一、無レ所二捨離一、云云、離垢淸淨者、謂二得解脫一、又彼解脫不レ離二一切法一。㊂慧解脫と俱解脫。慧解脫とは、智慧が一切の煩惱障を離れても、未だ滅盡定を得ないもの。俱解脫とは、智慧と禪定との障害を解脫して、滅盡定を得たもの。〔俱舍論、二十五〕諸阿羅漢得二滅定一者、名二俱解脫一、由二慧定力一解二脫煩惱一、解二脫障一故、所レ餘未レ得二滅盡定一者、名二慧解脫一、但由二慧力一於二煩惱障一得二解脫一故。㊃時解脫と不時解脫。時解脫とは、鈍根の阿羅漢が時を待つて入定し、煩惱の繫縛を脫し得たもの。不時解脫とは、利根の阿羅漢は不動心を得てゐるから、時を擇ばないで入定し、煩惱の繫縛を脫したもの。〔俱舍論、二十五〕說名爲二時解脫一者、以三要レ待レ時及二解脫一故、云云、說名爲二不時解脫一、以三不レ待レ時及二解脫一故。㊄心解脫と慧解脫。心解脫とは、心が貪愛等の繫縛を離れたもの。慧解脫とは、慧が無明を離れたもの。〔大乘義章、十八〕斷三除四住世諦一心淨、名二心解脫一、於二世諦中一一切德脫、用レ心爲レ體、故偏說下心斷二絕無明一眞諦慧明上、名二慧解脫一。

【二垓】85 ガイ　二つ重ねた壇。〔唐書、蕭德言傳〕李淳風曰、昊天上帝、位二於壇北一、辰斗列レ第、二垓與二緯書一駮異。

【二害】86 ガイ　二つの害。〔宋史、馮拯傳〕皆曰、宜二棄勿レ修、帝遣二洪湛一馳レ驛往視、還上二七利二害一、卒修二完之一。

【二蓋】87 ガイ　唐の蓋文達と蓋文懿。共に儒學を以て當時に名を得た。〔唐書、蓋文達傳〕宗人文懿、亦以二儒學一稱、當時號二二蓋一。

【二爻】88 カウ　易の第二番目の爻。又、二つの爻。〔易、乾、德博而化、疏〕德博而化者、言三德能廣博、而變二化於世俗一、初爻則全隱遯避レ世、二爻則漸見二德行一、以化二於俗一也。

【二江】89 カウ　二つの河。〔漢書、溝洫志〕避二沫水之害一、穿二二江成都中一。〔郭璞、江賦〕注二五湖一以漫漭、灌二二江一而澥沛。〔駱賓王、疇昔篇〕寒光千里暮、露氣二江秋。

【二行】90 ニカウ ニギヤウ　㊀五行の中の二つ。行は天地萬物の成立する元氣。〔易、文言、疏〕乾鑿度云、水土二行、兼二信與レ知也。㊁二つのならび。ふたならび。〔素問、水熱穴論〕伏菟上各二行、行五者、此腎之街也。㊂佛ギヤウ ㋑二つの修行。自利行と化他行。㋺煩惱・所知の二障のはたらくこと。〔大方廣寶篋經〕世尊我等不レ爲二知苦一、何以故離二於二行一、名爲二解脫一。〔華嚴經、十二〕妙悟皆滿、二行永絕。

【二孝】91 カウ　二人の孝行な人。㊀南朝宋の潘綜と齊の吳逵との二人。〔小學紺珠、名臣類下、二孝〕宋、潘綜・吳逵。㊁唐の侯知道・程俱羅の二人。〔唐書、孝友、侯知道程俱羅傳〕李華作二二孝贊一表二其行一曰、至哉侯氏、創巨病殷、手足胼胝、以成二高墳一。〔小學紺珠、名臣類下、二孝〕唐、侯知道・程俱羅。

【二孝莊】92 ニカウサウ　地名。二人の孝行者、漢の蔡順と董永とが居た所。今の河南省汝南縣の西。〔明一統志〕二孝莊、在二汝寧府汝陽縣西一、漢孝子蔡順・董永所レ居。

【二更】93 カウ　午後十時。二鼓。午後八時を初更、十二時を三更、午前二時を四更、四時を五更といふ。〔王維、秋夜獨坐詩〕獨坐悲二雙鬢一、空堂欲二二更一。〔宋史、律歷志二〕求二五更中星一、置レ昏中星爲二初更一、中星以二每更度分一加レ之得二二更一。

【二巷】94 カウ　二つのちまた。〔後山詩話〕柳三變遊二東都南北二巷一、作二新樂府一。

【二郊】95 カウ　郊の祭をする二つの場處。南郊と北郊。〔宋書、禮志一〕漢初、甘泉河東、禋埋易レ位、終亦徙二長安南北一、光武紹レ祚、定二二郊洛陽南北一、晉氏過レ江、悉在レ北。〔南齊書、禮志上〕中朝省二二丘一、以幷二二郊一。

【二校】96 カウ　㊀二人の校尉。〔漢書、趙充國傳〕詔二中郎將卯一、將二胡越佽飛・射士步兵二校一、益二將軍兵一。㊁二つの學校。

【二殽】97 カウ　山名。殽山をいふ。殽に二つの丘陵があるからいふ。二陵（1123）を見よ。〔左氏、僖、三十二〕晉人禦レ師、必於レ殽、殽有二二陵一

焉。〔班固、西都賦〕左據二函谷一、二殽之阻一。〔注〕良曰、函谷、谷名、其谷似レ函、故曰二函谷一、二崤、兩山名、在二秦東一、故曰レ左。〔沈約、應レ詔樂游苑餞二呂僧珍一詩〕推二轂一殽道一。

【二號】98ガウ ❶二つの年號。〔五代史、唐明宗紀、注〕實同光四年而書二天成元年一者、大赦改元文見レ下、云云、各從二其所レ稱、既曰二改元一、不レ嫌二二號一也。❷第二番目のもの。

【二號票據】99ニガウヘウキョ 銀行が爲替手形を送るとき、中途で遺失するのを防ぐために、二紙又は三紙を一組とし、之を別に送り、一號票據・二號票據などと稱す。通常、一號を正券とし、二號二號を副券とする。

【二豪】100ニガウ 二人のすぐれたもの。〔劉伶、酒德頌〕二豪侍レ側、焉如二蜾蠃之與二螟蛉一。〔注〕善曰、二豪、公子處士也。

【二濠】101ニガウ 二つのほり。〔宋史、李道傳傳〕出知二眞州一城圮弗レ治、道傳甃レ之、築二南石堤一、以護二並江居民一、益深二二濠一。

【二螯】102ニガウ 蟹の二つのはさみ。〔急就篇、二、鯉鮒蟹鱓鮎鮑鰕、注〕蟹、八足二螯、旁行。〔鄭明選、蟹賦〕粤惟旁蟹、厥形瓌詭、二螯如レ傲、八足如レ跪。

【二角】103ニカク 二つのつの。〔元史、輿服志二〕辟邪旗、赤質赤火焔腳、繪二獸形一、似レ鹿、長尾二角一。

【二客】104ニカク 二人の客。〔史記、田儋傳〕高帝曰、嗟乎有レ以也夫、爲レ之流涕、而拜二其二客一、爲二都尉一、以二王者禮一、葬二田橫一、既葬、二客穿二其冢旁孔一、皆自剄、下從レ之。〔晉書、陶侃傳〕以二母憂一去レ職、嘗有二二客一、來弔、不レ哭而退。〔蘇軾、後赤壁賦〕是歲十月之望、步自二雪堂一、將レ歸二于臨皐一、二客從レ予、過二黃泥之坂一。

【二閣】105ニカク 二つのたかどの。〔李洞、雪詩〕凍抱分泉澀、光凝二閣癡一。

【二穀】106ニカク 二對の玉。穀は玉の一對の稱。〔左氏、襄、十八〕晉侯伐レ齊、將レ濟レ河、獻子以二朱絲一繫二玉二穀一而禱。〔注〕雙玉曰レ穀。

【二翮】107ニカク 二つのはね。翮は羽のくき。〔嘉話錄〕八分書、起二於漢時王次仲一、次仲有二道術一、詔徵聘、於二車中一化爲二大鳥一飛去、遺二二翮於山谷間一、今有二大翮山・小翮山一。

【二覺】108ニカク 佛❶本覺（衆生が本來具へてゐる如來と等しい清淨な智）と始覺（迷におほはれてゐる本覺が其の本性に還つた智）。〔大乘起信論〕法界一相、卽是如來平等法身、依二此法身一、說名二本覺一、何以故、本覺義者、對二始覺義一說、以二始覺者卽同二本覺一。❷自覺と覺他。〔善見論、四〕佛者名二自覺一、亦能覺レ他、是名爲レ佛。〔性靈集、八〕二覺寂照、沒馱之號也。

【二鶴】109ニカク 二羽の鶴。〔瑯嬛記〕吳時有二二鶴一、在二其地一舞、已而飛、集二金昌門外青楓橋東一、化爲二鳳凰一、飛入二雲際一。

【二鶴亭】110ニカクテイ 清、田同之（7－21723‥406）の室名。

【二樂】111ガク ❶二つの音樂。縵樂と燕樂。〔小學紺珠、制度類、二樂〕縵樂・燕樂。❷ラク 二番目のたのしみ。三樂の一。〔孟子、盡心上〕仰不レ愧二於天一、俯不レ怍二於人一、二樂也。❸二つのたのしみ。❹ガク 二つの願ひ望むもの。

【二學】112ガク ❶二つの學校。二黌。〔南齊書、禮志上〕請付二尚書及二學一詳議。〔李諧、述身賦〕帶二二學之高宇一、遠二三市之狹邪一。❷二つの學問。〔唐書、儒學傳序〕生能通二一經一者、得レ署レ吏、廣二學舍一千二百區一、三學益二生員一、并置二書算二學一、皆有二博士一。

【二嶽】113ガク ❶二つの山。〔左氏、昭、四、四嶽三塗、疏二三文一不レ同者、此二嶽、皆一山而二名也。❷二つの山神。〔金史、章宗紀四〕泰和四年二月丁酉、以二山東河北旱、詔祈二雨東北二嶽一。

【二榼】114カフ 二つの酒だる。二尊。〔晉書、元帝紀〕爲二二榼一、共一口、以貯レ酒焉。

【二閣】115カク 二つの役所。〔事文類聚〕龍溪除甘暉、制二宸闈二閣一、處二天下戶班之後一、而掌二賓贊之職一者、其選尤高。

【二合】116ガフ ❶年官を二つ合せる義。年給に、二分の目ヲブンの一人、一分の史生ジシャウの一人の代りに、この二人の給分を合せたのに相當する三分の據ショウの一人、又は一分の史生二人を合せて二分の目を任ずること。後世は專ら據を任ずる事の名となる。〔江家次第抄〕合目一人・史生一人二爲二一合一。❷押字の一種。名乘の二字を一つに合せて作つた文字。❸官名を書いて其の下に二合と書くのは、判をするぞとの意。二合判。

【二合半】117ニガフハン ❶二合五勺。酒・飯などの少量。小なから。〔心中宵庚申、上〕二合半の盛り切り御臺。❷三尺四面の稱。一步の四分の一。❸割り當てに餘つた田。

【二合判】118ハンガフ 二合の❸に同じ。

【二合精代】119セイガフダイ 一石の米を舂いて八斗となることで、さういふ米は粗惡なものである。一說に、一石の米に二合を加へて舂賃とすることともいふ。〔北山抄、三、定二受領功過一事〕不レ勘二發前任雜怠一、放還之吏、又可レ爲二過一、但相代塡補者、非二殊過一耳、糙代度レ米者、充二二合精代一。〔江家次第抄、四、正月〕今案、二合精代、有二二義一、謂二麁惡之米斛舂成二八斗一、是也、二謂下一石舂代加二二合一爲二舂賃一之意上也。

【二竿】120ニカン 二本の竹ざを。〔宋史、輿服志二〕龍肩輿、一名樓檐子、一名龍檐子、昇以二二竿一、故名二檐子一。南渡後所レ製也。

【二間】121ニカン ❶二つの間。間は梁と梁との間。間架（11－41248‥23）の❶を見よ。〔宋史、禮志十〕自二西祖レ東、並爲二一列一、惟於二每室之後一、量二展一間一、遇二三年祫享一、則以二帷幄一幕レ之、通爲二一室一、盡出二諸廟主、及祧廟主一、並爲二一列一、合二食其上一。〔宋史、輿服志六〕兩朶殿各二間、東西廊各二十間、南廊九間、其中爲二殿門一、三間六架、脩三丈、廣四丈六尺。❷マヽ 一間（六尺）の二倍。❸マヽ 二つの部屋。❹マヽ 第二番目の部屋。

【二軹】122カン 木の二本のみき。〔元史、五行志二〕一本五軹、高尺有二寸一、一本二軹、高五寸有半、軹皆兩岐、二本相依附扶レ踈、瑰奇如二珊瑚枝一。

【二漢】123カン 前漢と後漢。兩漢。〔宋書、禮志二〕二漢郊禋之制具存、魏所二損益一可レ知也。〔白居易、黑龍飮二渭水一賦〕表二三秦之嘉瑞一、呈二二漢之禎祥一。

【二監】124カン 二人の宦官。〔桃花扇、設朝〕奄二冕二監一引上。

【二澗】125カン 二つの谷川。〔詩、大雅、公劉〕夾二其皇澗一、遡二其過澗一。〔集傳〕皇過、二澗名。〔水經、河水注〕水、廣二十許步一、南流歷二鼓鐘川一、分爲二二澗一。

【二憾】126カン うらみを有する二人のもの。〔左氏、宣、十二〕卻獻子曰、二憾往矣、弗レ備必敗。

【二簡】127カン 二つの手紙。〔宋史、喩樗傳〕樗善二鑒識一、建炎初、謂、今歲進士、張九成當第一、凌景夏次レ之、會風折二大槐一、樗以作二二簡一遺レ之、後果然。

【二岸】128ガン 二つの水岸。〔宋書、五行志二〕元徽三年二月戊辰、京邑大火、燒二二岸數千家一。〔南齊書、武帝紀〕水雨頻降、潮流荐滿、二岸居民、多レ所二淹漬一。

【二忌】129キ 戰國時代の鄒忌と田忌との二人。〔戰國、齊策〕謂二楚王一曰、鄒忌所二以不一レ善レ楚者、恐下田忌之以二楚權一復中于齊上也、王不レ如下封二田忌于江南一、以示中田忌之不上レ返レ齊也、鄒忌以レ齊厚事レ楚、田忌亡人也、而得レ封、必德レ王、若復二于齊一、必以レ齊事レ楚、此用二二忌一之道也、楚果封二之于江南一。

【二奇】130キ 二つのめづらしい器物。〔貴耳錄〕曲江有二二奇一、張相國以二鐵鑄一、六祖禪師以二銅鑄一、俗語云、鐵胎相公、銅身六祖。

【二季】131キ ❶二つの季節。春と秋。又、夏と冬。〔唐書、王彥威傳〕奏二二季俸一。❷二代。夏・殷をいふ。〔晉書、秦秀傳〕周公弔二二季之陵遲一、哀大教之不レ行。❸益と暮。〔禁秘御抄、上〕神事次第、二季ノ月次神今食。

【二季鳥】132ドキ 雁の異稱。〔藻鑒草、十〕いづ方を故鄉とてはに二季鳥の。

【二紀】133キ ❶日と月。〔後漢書、張衡傳〕察二紀五緯之綢繆一通皇。〔注〕二紀、日月也。❷二十四年をいふ。一紀は十二年。〔任昉、爲二范始興作求レ立二太宰碑一表〕策名委レ質、忽焉二紀一。〔注〕翰曰、得二委レ質事二太宰一、已經二二十四年一。

【二軌】134キ 二つの車。〔王延壽、魯靈光殿賦〕高門擬二于閶闔一、方二軌而竝入。

【二氣】135キ 陰と陽。二氣感應を見よ。〔淮南子、說山訓〕天二氣一則成レ虹。〔周敦頤、太極圖說〕二氣交感、化二生萬物一。〔小學紺珠、律歷類、二氣〕

陰・陽、易、自レ復至レ乾、爲二六陽卦一、自レ垢至レ坤、爲二六陰卦一。〔精註雅俗故事讀本、上、天文〕天也者、分二二氣一而行二四時一。

【二氣感應】136 ニキカンオウ 陰陽の二つの氣が互に相感應し合ふこと。〔易、咸〕柔上而剛下、二氣感應以相與。

【二記】137 キニ 二つの記錄。〔全唐詩話〕二記所レ不二具到一、則別錄レ之。

【二起】138 êrh⁴ ch'i³ 二回。二度。ふたたび。

【二朞】139 キニ 滿二二箇年間。〔唐書、張巡傳〕賊將李懷忠、過二城下一、巡問、君事レ胡幾何、曰、二朞。

【二貴】140 キニ 大臣の權勢が君と比肩するをいふ。一說に、夫婦共に權力を持するをいふ。〔韓非子、揚權〕一家二貴、事乃無レ功、夫妻持レ政、子無二適從一。〔注〕二貴、謂二大臣耦レ君、原舊注、二貴爭出レ命、服役者不レ知二誰從一、故事無レ功也。

【二畿】141 キニ 二つの畿。畿は、帝都を中心として五百里四方以內の地の稱。〔詩、王城譜、疏〕西都先王所レ居、東都貢賦所レ均、不レ可三並爲二二畿一、故通數レ之、共爲二千里一。

【二輝】142 キニ 二つのかがやくもの。日と月。二曜。〔謝脁、酬レ德賦〕周二輝而分崩、擠二九鼎於重壑一。

【二器】143 キニ 二つのうつは。又、其の中に入つてゐるもの。〔詩、大雅、泂酌、泂酌二彼行潦一、疏〕潦水泥濁、置二之大器一以澄レ之、挹二小器一而用レ之、所三以轉二經二器一也。〔晉書、鄧攸傳〕舉二灼然二器一、爲二吳王文學一、歷二太子洗馬一。〔南史、張暢傳〕孝武遣三人送二酒二器、甘蔗百挺一。

【二嬀】144 キニ 嬀姓の二女。堯の娘で舜の妻となつた娥皇・女英の二人をいふ。〔晉書、康獻褚皇后傳〕司徒蔡謨等上奏曰、伏惟、陛下德侔二二嬀一、淑美二關睢一、臨レ朝攝レ政、以寧二天下一。

【二諱】145 キニ 二人の諱。春秋の晉の范獻子が、魯に使して、獻公と武公との諱を口にして恥をかいた故事。〔國語、晉語九〕范獻子聘二於魯一、問二具山・敖山一、魯人以二其鄕一對、獻子曰、不レ爲二具・敖一乎、對曰、先君獻武之諱也、獻子歸、偏戒二其所レ知曰、人不レ可二以不一レ學、吾適レ魯而名二其二諱一、爲レ笑焉、唯不レ學也。〔注〕言二學則必知レ諱不レ見レ笑也、禮入レ境而問レ禁、入レ門而問レ諱。

【二璣】146 キニ 明、余應桂(**1**－**515**‥70)の字。

【二簋】147 キニ 二つの簋。簋は神を祭る時に、黍・稷などを盛る器。二簋可二用享一を見よ。

〔二簋可二用享一〕148 ニキモッテキヤウスベシ 誠敬の心があれば、二つの簋に盛つた程の粗薄な物でも、神に進め供へるに十分であることをいふ。〔易、損〕損、有レ孚元吉、无レ咎、可レ貞、利レ有レ攸レ往、曷之用、二簋可二用享一。〔注〕二簋、質薄之器也、行レ損以レ信、雖二二簋一而可二用享一。

【二騎】149 キニ 二匹の騎馬。又、馬に乘つた二人の人。〔唐書、車服志〕五品以二二騎一。〔元史、太祖紀〕僞爲二牧馬一者、詣二押剌伊一而路逢二父子二騎先後行、臂レ鷹而獵一。

【二驥】150 キニ 二匹の良馬。轉じて、才能のすぐれた二人の人。南齊の劉繪と王詡とをいふ。〔南齊書、劉繪傳〕閣下自有二二驥一。〔小學紺珠、名臣類下、二驥〕劉繪・王詡。

【二妓】151 ギニ 二人のあそびめ。〔白居易、醉後題二李馬二妓一詩〕行搖二雲髻花鈿節一、應レ似二霓裳趁二管絃一。

【二僞】152 ギニ 二つの僭僞の國。秦と楚。〔晉書、習鑿齒傳〕漢高稟二命於懷王一、劉氏乘二斃於亡一、秦超二二僞一以遠嗣、不レ論レ近而計レ功、考二五德於帝典一、不レ疑二道於力政一。

【二疑】153 ギニ 二つのうたがひ。〔雲笈七籤〕學道至近、只爲二學者浮心一、未レ定二居二疑之端一。

〔二疑子〕154 êrh⁴ i² tzu ふたなり。一人で男女兩性を具へたもの。

【二儀】155 ギニ ㊀天と地。又、陰と陽。兩儀。〔晉書、成公綏傳〕何陰陽之難レ測、偉二二儀之參闔一。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕肇自二初創一、二儀絪縕。〔注〕善曰、周易曰、易有二太極一、是生二兩儀一、王肅曰、兩儀、天地也。〔張協、七命〕功與二造化一爭レ流、德與二二儀一比レ大。〔注〕良曰、二儀、天地。㊁唐の高宗の作つた舞。上元舞(**1**－**13**‥251)を見よ。

〔二儀刀〕156 ニギタウ 刀の名。〔淸異錄、器具、二儀刀〕上饒葛溪、鐵精而工細、余中表以二剪刀二柄一遺レ贈、遇レ物如レ風、一上有二鑿字一、曰二二儀刀一。

〔二儀之中和〕157 ニギノチユウワ 陰陽の中和。〔魏志、王烈傳〕應二二儀之中和一、總二九德之純懿一。

【二魏】158 ギニ 北齊の魏收と魏季景とをいふ。〔北齊書、魏收傳〕收從叔季景、有二才學一、歷レ官著レ名、並在二收前一、然收常所二欺忽一、季景、收初赴レ幷、頓丘李庶者、故大司農諧之子也、以二華辯一見レ稱、曾謂レ收曰、霸朝便有二二魏一。〔北史、魏季景傳〕少孤、淸苦自立、博學有二文才一、弱冠有レ名二京師一、時邢子明稱レ有二才學一、始與二子才一相侔、季景與レ收相亞、洛中號二兩邢二魏一。

【二蟻】159 ギニ 二匹のあり。〔酉陽雜俎續集、支諾皐下〕樓中有二二蟻一、一紫色、長寸餘、足作二金色一、一有レ羽、細腰稍小、白翅、翅有二經脈一、疑是雌者。

【二議】160 ギニ 二つの評定。〔南史、張暢傳〕二議未レ決、更集二羣僚一議レ之。

【二巍】161 ギニ 淸、于宗堯(**1**－**252**‥128)の字。

【二九】162 ニキウ ニク 十八をいふ。〔太玄經、玄圖〕玄有二六九之數一、策用二三六一、儀用二二九一、玄其十有八用乎。〔張衡、東京賦〕玄謀說而陰行、合二二九一而成レ譎。〔注〕綜曰、謂三王莽之志、陰行十八年而成二變計一也。〔沈約、內典序〕巨相四八、照二曜于大千一、尊法二九、包二籠乎無外一。〔隋書、宇文愷傳〕一時之王室有二二戶一、二九十八戶、法二土王十八日一、內堂正壇、高三尺、土堦三等。

〔二九寶〕163 êrh⁴ chiu² pao³ 紋銀に比して五十兩につき二兩九錢の打歩を付する銀塊をいふ。

【二丘】164 キウニ 二つのをか。〔南齊書、禮志上〕謹尋二禮傳、二文各有二其義一、盧王兩說、有レ若レ合レ符、中朝省二二丘一、以弁二二郊一、卽今之郊禮、義在レ報レ天、事兼レ祈レ穀、既不レ全二以祈一レ農、何必俟二夫啓蟄一。〔北史、周閔帝紀〕予本自二神農一、其於二二丘一、宜レ作二厥主一。〔蘇軾、次三韻王忠玉游二虎丘一詩〕當年大白此相浮、老守娛レ賓得二二丘一。

【二求】165 キウニ 二つの要求。〔法苑珠林〕或七難由レ之獲レ銷、或二求因レ之果レ遂。

【二咎】166 キウニ 二つのとが。〔逸周書、文酌解〕民生而有レ欲有レ惡、有レ樂有レ哀、有レ德有レ則、則有二九聚一、德有二五寶一、哀有二四忍一、樂有二三豐一、惡有二二咎一、欲有二一極一。

【二虯】167 キウニ 二匹のみづち。〔陸深、後灩澦賦〕挾二六龍與二二虯一兮、劈二雷斧之神銛一。

【二韭】168 キウニ 二つのにら。〔謝靈運、山居賦〕遠東則天台桐柏、方石太平、二韭四明、五奧三菁、表二神異於緯牒一、驗二感應於慶靈一、淩二石橋之莓苔一、越二楢谿之紆縈一。

【二球】169 キウニ 二つの玉。〔詩、商頌、長發〕受二小球大球一、爲二下國綴旒一。〔傳〕球、玉。〔小學紺珠、制度類、二球〕小球・大球。

【二舅】170 キウニ 二人のをぢ。〔晉書、習鑿齒傳〕鑿齒與二其二舅羅崇・羅友一、俱爲二從事一。

〔二舅奶奶〕171 êrh⁴ chiu⁴ nai³ nai 妻の弟の嫁。

【二廐】172 キウニ 二つのうまや。〔唐書、兵志〕天子之御、左右六閑、一飛黃、二吉良、三龍媒、四騊駼、五駃騠、六天苑、總爲二十二閑一、爲二二廐一、一曰祥麟、二曰鳳苑、以繫二飼之一。

【二牛】173 ギウニ 二匹の牛。〔書、召誥〕越三日丁巳、用二牲于郊一、牛二。〔傳〕於二乙卯三日一、用レ牲告下立二郊位一於天上、以二后稷一配、故二牛。〔宋書、禮志二〕大明五年九月甲子、有司奏、南郊祭用二三牛一、廟四時、祠六室、用二二牛一。

【二級】174 キフニ 爵位の下から第二番目。〔漢書、惠帝紀〕賜二民爵一級一、中郎郎中、滿二六歲一爵三級、四歲二級、外郎滿二六歲一二級。〔漢書、百官公卿表〕爵一級曰二公士一、二上造。〔注〕師古曰、造、成也、言レ有レ成二命於上一也。〔宋書、武帝紀下〕改二晉元熙二年一、爲二永初元年一、賜二民爵二級一、鰥寡孤獨、不レ能二自存一者、人穀五斛、逋レ租宿債、勿二復收一。

【二杏】175 キヤウニ 二つのあんず。〔范梈、二杏詩〕晚遇二此二杏一、突兀超二塵沙一。

【二竟】178 キヤウニ 二つのさかひ。〔左氏、襄、八〕子駟曰、犧牲玉帛、待二于二竟一、以待二彊者一、而庇レ民焉。〔注〕二竟、晉楚界上。

【二鄕】179 キヤウニ 二つのさと。鄕は周代の制に於ける行政區劃の稱。一萬二千五百戶ある地。〔周禮、地官、序官、鄕老〕二鄕則公一人。〔周禮、地官、鄕大夫、注〕鄭司農云、萬二千五百家爲レ鄕。

【二弓】180 キユウニ 二つの弓。〔詩、秦風、小戎〕交二韔二弓一。〔傳〕交韔、交二二弓于韔中一也。

【二宮】181 キユウニ ㊀皇族の御二方。特に天子と太

子、又は東宮と中宮との稱。〔顔氏家訓、風操〕朝ニ見二宮一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕二宮軫慟、遐邇同レ哀。❷④伊勢の内宮と外宮。㊁一の宮に次ぐ宮。〔東鑑、四〕元暦二年四月二十日、二宮八幡宮。

〔二宮尊徳〕182 名は金次郎。德行家、經濟家。相模國足柄郡栢山の人。天保年間、報德社（今日の信用組合の一種）を作る。安政三年歿す。年七十。

【二拒】183 軍の左右ふたつの方陣。拒は方陣。〔左氏、桓、五〕鄭子元、請レ爲二左拒一以當二蔡人・衞人一、爲二右拒一、以當二陳人一曰、云云、曼伯爲二右拒一、祭仲足爲二左拒一云云、戰于繻葛一、命二二拒一曰、旛動而鼓。〔注〕拒、方陣。

【二炬】184 二つのかがり火。〔宋史、潘美傳〕遂分遣二丁夫數千人一、人持二一炬一、間道造二其柵一、及レ夜、萬炬俱發、會二天大風一、火勢甚熾。

【二許】185 晉の許映と許穆。共に道家の奥義に通じた人。〔雲笈七籤〕茅山眞人、姓楊、名羲、晉咸和五年、生二於句容一、幼而通レ靈、與二二許一、早結二神明之交一。〔注〕二許、映與レ穆。〔陶弘景、許長史舊館壇碑〕昔在二西漢一、二茅來賓、爰暨二東晉一、二許懷レ眞。

【二渠】186 二つのみぞ。〔史記、武帝紀〕使二二卿將卒塞二決河一、河徙二二渠一、復二禹之故跡一焉。〔漢書、溝洫志〕禹以爲、河所二從來一者、高水湍悍、難レ以二行平地一、數爲レ敗、乃釃二二渠一、以引二其河一。〔注〕孟康曰、二渠、其一出二貝丘西南一、南折者也、其一則漯川也。〔呂牧、涇渭揚二清濁一詩〕二渠通作レ潤、萬戸映皆清。

【二虚】187 銀と錢とをいふ。米と絹とを二實といふに對す。實價がなくて其の代用をするから、虚といふ。〔元史、趙孟頫傳〕古者、以レ米・絹民生所レ須、謂二之二實一、銀・錢、與二二物一相權、謂二之二虚一。

【二距】188 二つのけづめ。〔宋史、五行志一下〕太平興國三年、靈州獻二官馬一、駒足有二二距一。

【二擧】189 二つの試驗。〔元史、選擧志一〕鄉試・會試、若有下懷レ挾及令二人代作一者上、漢人・南人、有下居二父母喪一服レ應二擧者一上、並殿二二擧一。

【二御】190 二人の侍御。〔左氏、昭、九〕二御失レ官、而君弗レ命、臣之罪也。〔注〕工與二嬖叔一、侍二御君一者、失レ官不二聰明一。

【二魚】191 二匹の魚。〔宋書、五行志四〕魏齊王嘉平四年五月、有二二魚一集二于武庫屋上一。

【二凶】192 心の平正を失ふ二つの惡原因。喜と怒。〔管子、內業〕節二其五欲一、去二其二凶一。〔纂詁〕五欲、五官之欲也、二凶、謂二喜怒一。

【二胸】193 胸部の二つある人。斯ういふ子が生まれるのは、民が其の主を謀る凶兆であるといふ。〔南齊書、五行志〕京房易傳曰、生レ子二胸以上、民謀二其主一。

【二龔】194 前漢の龔勝と龔舍。兩龔。〔羣書拾唾、古今人品〕二龔、楚人、皆治二清節一、漢哀帝時、時人謂二之楚兩龔一。

【二曲】195 地名。陝西省盩厔縣をいふ。山の曲と水の曲とあるからいふ。〔蘇軾、王寅二月有レ詔云云作詩五百言一以記下凡所二經歷一者上寄二子由一詩〕二曲林泉勝、三川氣象侔。

【二曲集】196 書名。二十六卷。清、李顒撰。清史稿の藝文志に著錄せられてゐる。

【二曲先生】197 清、李顒（6－14459‥213）の尊稱。

「9‥213」の號。

【二曲土室病夫】198 清、李顒（6－1445

【二局】199 二つの役所。〔北史、盧同傳〕愚謂、罪雖二恩免一、猶須二刊定一、請遣二一都令史與二令僕・省事各一人一、總二集吏部・中兵二局勳簿一、對句奏案。〔元史、世祖紀二〕立二御衣・尚食二局一。

【二極】200 ❶南極と北極。兩極。〔書、洪範、日月之行、疏〕南北二極、中等之處、謂二之赤道一。❷二つの至極の道。忠と孝。又、君と親。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕公二極レ致、愛敬同レ歸。〔注〕向曰、二極、謂二君親一也。㊂二つの極致。相異なる極致。〔顔延之、庭誥〕若夫玄神之經、窮明之說、義兼二三端一、至無二二極一。

【二巾】201 二枚のきれ。〔禮、玉藻〕浴用二二巾一、上絺下綌。〔注〕刷二去垢一也。

【二斤】202 一斤の二倍。三十二兩。〔漢書、景帝紀〕受下其故官屬所二將監治一送中財物上、奪レ爵爲二士伍一免レ之、無レ爵罰金二斤、令二沒入一レ受。〔晉書、石勒載記上〕襄國大飢、穀二升直二銀二斤一、肉一斤直二銀一兩一。

【二金】203 二つの金性。庚と申。〔唐書、韋見素傳〕丙火爲二金子一、申亦金也、二金本同末異、還以相尅。〔宋史、律歷志三〕太祖禪レ周之歲、歲在二庚申一、夫庚者金也、申亦金位、納音是木、蓋周氏稱レ木、爲二二金所一レ勝之象也。

〔二金蘭堂〕204 清、趙之謙（10－37171‥609）の室名。

【二琴】205 二つの琴。〔國史補〕張相弘靖少時、夜會二名客一、觀二鄭有調二琴一、至レ切各置二一榻一、動レ宮則宮應、動二商則商應一、稍不レ切乃不レ應。

【二鈞】206 一鈞の二倍。一鈞は目方二十斤。〔漢書、律歷志上〕其圜象レ規、其重二鈞一。

【二句】207 二つの句。句は詩文の一くぎり。〔易、乾、雲行雨施品物流レ形、疏〕此二句釋二亨之德一也。〔詩、周南、關雎、關雎五章章四句、疏〕偏檢二諸本一、皆云、洞約三章、章五句、則以爲二二句一也。

【二苦】208 二つの苦しみ。〔梁武帝、游二鍾山大愛敬寺一詩〕二苦常追隨、三毒自燒然。〔事文類聚、廣人歌曰、邵父陳母、除二我二苦一。

【二屨】209 二足のくつ。〔禮、曲禮上〕戶外有二二屨一、言聞則入、言不レ聞則不レ入。〔疏〕謂下室有二兩人一、故戶外有二二屨一、此謂二兩人體敵、故二屨在外。

【二軀】210 二つのからだ。佛像等を數へる時は二箇に同じ。〔南齊書、扶南國傳〕幷獻二金鏤龍王坐像一軀、白檀像一軀、牙搭二軀一。

【二愚】211 明、萬國欽（9－31339‥579）の字。

【二空】212 佛❶人空（我空・生空）と法空。人空とは、個人を成立させてゐる實體がないといふこと。法空とは、諸法の空無なる眞理。❷但空と不但空。但空とは、ただ空を見て不空を見ないこと。不但空とは、ただ空を見るのみならず、又、空をも否定してそこに實際を見ること。〔止觀、三〕大論云、空有二二種一、一但空、二不但空。❸如實空と如實不空。如實空とは、眞如は言語では說明できないもので、あらゆるはからひの心・概念を否定したところに自ら顯はれるといふ意。不實不空とは、如實空に於て眞如はかへつて積極的に清淨な世界が顯はれるといふ意。〔起信論〕眞如者、依二信說一分別、有二二種義一、云何爲レ二、一者如實空、以二能究竟顯一レ實故、二者如實不空、以下有二自體一、具中足無漏性功德上故。

【二宮】212 ❶中宮と東宮とをいふ。〔三代實錄、貞觀十七年正月二日〕每年正月二日、親王公卿及次侍從以上、奉レ參二二宮一賜レ宴、例也。❷內宮と外宮とをいふ。

【二偶】213 二といふ偶數、卽ち、二。〔宋史、蔡元定傳〕數始二於一一奇、象成二於二偶一。

【二隅】214 二つのすみ。〔唐書、南蠻下、驃傳〕二隅有二金鉦一、中植二金鐸一、貝二、鈴鈸二、大鼓十二、二分左右。

【二耦】215 ならんだ二人。〔後漢書、明帝紀、初行二大射禮一、注〕大射之禮、士以二二耦一射二豻侯一。〔王禹偁、射宮選士賦〕九賓旣序、二耦爲レ屬。

【二屈】216 春秋、晉の邑。今の山西省吉縣。〔左氏、莊、二十八〕蒲與二二屈一、君之疆也。

【二窟】217 二つのいはや。〔戰國、齊策〕馮煖曰、狡兎有二三窟一、今得レ免二其死一耳、今有二一窟一、未レ得二高枕而臥一也、請爲レ君復鑿二二窟一。

【二火】218 二つの火氣。醫ト家の語。〔素問、逆調論〕一水不レ能レ勝二二火一。〔素問、六微旨大論〕岐伯曰、君位臣則順、臣位君則逆、逆則其病近、其害速、順則其病遠、其害微、所謂二火也。〔唐書、城陽公主傳〕帝使下卜レ之、繇曰、二火皆食、始同レ榮、末同レ戚、請畫昏則吉。

【二卦】219 二つの卦。〔易、履、象曰上天下澤履、疏〕此象之所レ言、取二上下二卦、卑承レ尊之義一、故云、上天下澤、履。〔詩、召南、殷其雷、殷其雷、疏〕雷出レ地奮、豫卦象辭也、震驚百里、震卦象辭也、此二卦、皆有二雷事一、義相接。〔左氏、昭、七〕二卦皆云、子其建レ之、康叔命レ之、二卦告レ之、筮襲二於夢一、武王所レ用也、弗レ從何爲。

【二果】220 佛❶小乘四果の第二果。梵名斯陀含。❷習氣果と報果。習氣果とは、宿世に於て善惡を修習した餘習により、今生に於て善惡の果を感ずること。報果とは、宿世の善惡の因によつて、今世に苦樂の果を招くことをいふ。〔阿

毘曇論、一」。

【二花】221 クヮ 二つの花。〔宋書、符瑞志下〕元嘉二十年五月、廬陵郡池芙蓉二花一蕚。

【二花臉】222 erh⁴ hua¹ lien³ 中國芝居の淨（惡形）の一種。賊將惡漢など惡役（ヤク）敵役（ヤク）に扮するもの。臉譜（9－29954‥20）を見よ。

【二花面】223 erh⁴ hua¹ mien⁴ 二花臉に同じ。

【二科】224 クヮ ❶二つのとが。二つの罪咎。〔漢書、王莽傳下〕惟貧困飢寒、犯レ法爲レ非、大者羣盜、小者偸穴、不レ過二二科一。❷二つの科目。

【二華】225 クヮ ❶太華山・少華山。〔張衡、西京賦〕綴以二二華一、巨靈贔屭、高掌遠蹠、以流二河曲一。〔注、善曰、山海經曰、太華之西、少華之山。〕李長民、廣汗賦〕二華對峙、八川交注。❷春秋の宋の華元と華喜。〔左氏、成、十五〕二華、戴族也。〔注〕華元・華喜。〔小學紺珠、氏族類、宋二華〕華元・華喜。❸明、唐紹堯（2－3709‥466）の字。

【二過】226 クヮ 二度の過失。又、過失を再びする。過失を繰返す。〔白孔六帖〕先迷後得、臨レ事雖レ不二三思一、苟有二必知一陳首一、明無二二過一。

【二寡】227 クヮ 二人のやもめ。〔易林〕反鼻岐頭、二寡獨居。

【二會】228 クヮイ ❶二度の會合。〔詩、齊風、南山序、淫二於其妹一疏〕按レ經、莊七年春、夫人姜氏、會二齊侯于防一、冬、夫人姜氏、會二齊侯于穀一、亦是淫事、此不レ言者、略二舉其先一之會一、以包二其後二會一。❷エ 佩圓宗寺の法華會と法勝寺の大乘會。〔壒嚢抄、十〕二會とは何ぞ、圓宗寺法華會、法勝寺大乘會也。

【二懷】229 クヮイ 明、范立朝（9－30834‥275）の字。

【二皇】230 クヮウ 太古の帝王なる伏犧氏と神農氏。〔淮南子、原道訓〕泰古二皇、得二道之柄一、立二于中央一。〔注〕二皇、伏犧・神農也。〔曹植、淮漢行〕二皇稱二至化一。〔小學紺珠、歷代類、二皇〕伏羲・神農。

【二皇甫集】231 シンクヮウホ 書名。七卷。明、劉潤之編。唐の皇甫曾と皇甫冉との詩集。〔四庫提要、集、總集類〕。

【二黃】232 クヮウ 中國の舊劇の名。京調。京戲。亂彈。二黃調を見よ。

【二黃調】233 チヤクワウ 清代の戲劇の一種。湖北省の黃岡・黃陂の二縣に發生し、湖南・廣西・廣東・安徽に傳はり、湖廣調ともいはれる。用ひる樂器に就いて二說があり、一は、本來は胡琴を用ひたが、北京に傳はつてから笛を用ひるやうになつたといひ、一は、之に反して、本來は笛を用ひ、北京で胡琴に改めたといふ。乾隆中、安徽の高朗亭といふ者が北京に入り、二黃調に京秦兩腔を合して三慶部と名づけ、爾來此の調が漸く盛となり、咸豐・同治頃に至つて徽班は其の勢が頗る盛で、西皮調を併合して自家の特技を建設するに至り、之を皮黃調といふ。

【二廣】234 クヮウ 楚の軍隊の名で、左右の二軍をいふ。廣は、兵車の名。〔左氏、宣、十二〕其君之戎、分爲二二廣一、廣有二一卒一、卒偏之兩、右廣初駕、數及二日中一、左則受レ之、以至二于昏一。〔會箋〕廣、兵車名、以二其親兵一、分二左右二部一、故名二二廣一。〔李衞公問對、上〕春秋楚子二廣之法。

【二纊】235 クヮウ 二つの綿いれ。纊は、綿を縫ひ込んだ衣服。〔宋史、輿服志三〕天子之服有二衮冕一、廣一尺二寸、長二尺四寸、前後十二旒、二纊並貫二眞珠一。

【二黌】236 クヮウ 二つの學校。二學。〔水經、巨馬水注〕有二二源一、俱發二涞山一、東逕二廣昌縣故城南一、又北逕二小黌東一、又東逕二大黌南一、蓋霍原隱居教授處也、徐廣云、原隱居二廣陽山一、教二授數千人一、爲二王浚所一レ害、雖二千古世懸一、猶表二二黌之稱一。〔北史、邢邵傳〕奏曰、二黌兩學、盛自二虞殷一、所レ以宗二配上帝一、以著二莫レ大之一。

【二畫】237 クヮク ❶二つの畫。畫は易の卦爻をあらはす橫線。〔易、乾、元亨利貞、疏〕二畫之體、雖レ象二陰陽之氣一、未レ成二萬物之象一、未レ得レ成レ卦、必三畫以象二三才一、寫二天地雷風水火山澤之象一、乃謂二之卦一也。❷グヮ 二つの繪。〔宣和畫譜〕一日、子儀具二列二畫于壁一、竣二其女一。

【二官】238 クヮン 二つの官。❶南正と火正。〔小學紺珠、名臣類上、二官〕南正重司レ天、火正黎司レ地。❷大寶令では、神祇官と太政官とをいふ。

【二貫】239 クヮン 一貫の二倍。一貫は錢千錢。〔宋史、食貨志上三〕乾道四年、糴二本給會子及錢銀石錢二貫五百文一。〔元史、食貨志三、歲賜〕世祖平二江南一時、又各益以二民戶一、科差未レ定、每戶折二支中統鈔五錢一、至二成宗一、復加至二二貫一。

【二寶】240 クヮン 明、徐汝正（4－10110‥496）の號。

【二錢】241 クヮン 十二兩をいふ。錢は周代の貨幣の目方で、一錢は六兩。〔小爾雅、廣衡〕二十四銖曰レ兩、兩有半曰レ捷、倍レ捷曰レ舉、倍レ舉曰レ鏘、鏘謂二之錢一、二錢四兩謂二之斤一。

【二館】242 クヮン 二つのやかた。弘文館と崇文館とをいふ。館は學校・官舍等の建物。〔唐書、褚無量傳〕詔二祕書省一司經局・昭文・崇文二館一、更相檢讐、采二天下遺書一、以益二闕文一、不二數年一四庫完治一。〔小學紺珠、職官類、二館〕弘文館・崇文館。

【二觀】243 クヮン 二人の觀音。〔瑯嬛記〕兩大士俱現レ形、摩二童頂一、曰、汝勉終二此志一、吾默祐レ汝、倏不レ見、因名二其所一レ居室一、曰二觀齋一、文思大進。

【二丸】244 マル 本丸のそとまはりの城郭。外城。羅城。〔奥羽永慶軍記、十五、門澤落城幷常盤合戰事〕二の丸ばかりやうやう抱へたり。

【二願】245 グヮン 二つの願。又、二番目の願。〔白居易、贈二夢得一詩〕願世清平、二願身強健、三願臨二老頭一、數與レ君相見。

【二君】246 クン 二人の君。〔禮、坊記〕卜之日、稱二二君一。〔左氏、隱、元〕段不レ弟、故不レ言レ弟、如二二君一、故曰レ克。〔史記、田單傳〕忠臣不レ事二君一。

【二君子】247 クンシ 二人の君子。三國の吳の張昭と周瑜。〔陸機、辯亡論上〕彼二君子一、皆弘敏而多奇、雅達而聰哲。〔注〕向曰、彼二君子一、謂二張昭・周瑜一也。〔小學紺珠、名臣類下、二君子〕張昭・周瑜。

【二訓】248 クン 二つの訓釋。〔詩、小雅、巷伯、寺人孟子作二爲此詩一箋、作起也孟子起而爲二此詩一疏〕定本箋有二作、起也、作、爲也一二訓自與レ經相乖、非也。

【二葷】249 erh⁴ hun¹ 羊豚などの料理をいふ。少牢（4－7475‥291）に同じ。

【二葷鋪】250 erh⁴ hun¹ pu⁴ 下等の飯屋。

【二勳】251 クン 二人の功臣。〔左氏、襄、二十三〕苟守二先祀一、無レ廢二二勳一。〔注〕二勳、文仲・宣叔。

【二纊】252 クン 二つの淡あか色の布帛。〔禮、雜記上〕魯人之贈也、三玄二纊、廣尺、長終幅。

【二軍】253 グン 中諸侯の有する兵數。一軍の兵數は一萬二千五百人。大諸侯は三軍、小諸侯は一軍。〔左氏、閔、元〕晉侯作二二軍一、公將二上軍一、太子申生將二下軍一。

【二郡】254 グン 二つの郡。〔史記、楚世家〕還射二圉之東一、解二魏左肘一、而外擊二定陶一、則魏之東外弃、而大宋・方與二郡者擧矣。〔漢書、趙充國傳〕今恐二二郡兵少一、不レ足レ以守。〔元稹、酬二樂天一詩〕經過二郡一逢二賢牧一、聚二集諸郎一宴二老身一。

【二形】255 ケイ ❶二つのかたち。〔鮑照、井字謎詩〕二形一體、四支八頭、四八二八、飛泉仰流。❷ギヤウ 一箇の體で男女兩性を兼ねてゐることをいふ。ふたなり。半陰陽。病名彙解、一仁。

【二形花】256 クヮケイ 植物學用語。同一植物の花の中に、花柱の長さ及び雄蘂の著生する狀態に、二種の形態のあるものをいふ。

【二京】257 ニケウ 二つの都。漢の東京（洛陽）と西京（長安）。〔後漢書、張衡傳〕衡乃擬二班固兩都一作二二京賦一、因以諷諫、精思傳會、十年乃成。〔晉書、左思傳〕班固兩都、理勝二其辭一、張衡二京、文過二其意一。

【二京賦】258 ノニケウフ 賦の名。後漢、張衡作。二京を見よ。

【二桂】259 ケイ 二本の桂。轉じて、二人の秀でた人。〔孫鎭、許氏雙桂堂詩〕許家二桂聯翩秀、孫氏三枝次第春。

【二莖】260 ケイ 二つのくき。〔元史、世祖紀十一〕庚申濟寧路、進二芝二莖一。

【二頃】261 ケイ 二百畝の田。中家の產をいふ。頃は百畝。〔周禮、夏官、大司馬、上地食者參之二、注〕食者參之二、假令一家有二三頃、歲種二二頃、休二其一頃一。〔史記、蘇秦傳〕使レ我有二雒陽負郭田二頃一、吾豈能佩二六國相印一乎。〔漢書、武帝紀〕賜徙二茂陵一者、戶錢二十萬、田二頃。〔晉書、五行志中〕武帝太康七年十月、河陰有二赤雪二頃一。

【二頃田】262 ケイデン 二頃を見よ。

【二卿】263 ケイ ❶二人の大臣。〔禮、王制〕次國三卿、二卿命二於天子一、一卿命二於其君一。下大夫五人、上士二十七人、小國二卿、皆命二於其君一。下大夫五人、上士二十七人。❷イ 宋の劇可久と張仁

琢。〔小學紺珠、名臣類下、二卿〕劇可久・張仁琢、國史贊、劉張二卿、用レ法持レ平。㋺後漢の馬嚴威卿と馬敦孺卿。〔小學紺珠、氏族類、二卿〕馬嚴威卿・馬敦孺卿、號二矩下二卿一。

【二惠】264 ニケイ　戰國時代の齊の子雅と子尾。皆、惠公の孫。〔左氏、昭、三〕二惠競レ爽猶可。〔注〕子雅・子尾、皆齊惠公之孫也。〔小學紺珠、氏族類、齊二惠〕公孫竈子雅・公孫蠆子尾、皆惠公之孫。

【二惠競レ爽】265 ニケイサウヲキソフ　兄弟が揃つて立派なこと。〔書言故事、兄弟類〕言二兄弟齊レ芳、曰二二惠競レ爽。

【二景】266 ニケイ　㊀二つの光。日と月。二輝。〔雲笈七籤〕日居レ左、月居レ右、令下二景與二目瞳一氣合通上也。〔雲林、右英夫人詩〕不レ覺春已來、豈知二二景流一。㊁エイ　二つの影。〔夢溪筆談、象數一〕凡立冬晷景、與二立春之景一相若者也、今二景短長不レ同、則知二天正之氣偏一也。

【二焭】267 ニケイ　二つの骰子サイコロ。〔顏氏家訓、雜藝〕古爲二大博一則六箸、小博則二焭、今無二曉者一、比世所レ行一焭十二棊、數術淺短、不レ足レ可レ翫。

【二溪】268 ニケイ　二つのたに。〔方干、送二婺州許録事一詩〕八詠遺風資二逸興一、二溪寒色助二清威一。〔兪允文、玉屛山居賦〕面二文嶺之峍屼一兮、帶二二溪之淪坳一。

【二經】269 ニケイ　㊀二つの經書。十三經(**2**－**2695**··146)を見よ。㋑孝經と春秋。〔禮、中庸、仲尼祖二述堯舜一憲二章文武一上律二天時一下襲二水土一、注〕此以二春秋之義一、說二孔子之德一、孔子曰、吾志在二春秋一、行在二孝經一、二經固足二以明レ之。〔孝經緯鉤命訣〕孔子曰、吾志在二春秋一、行在二孝經一、欲レ觀下我褒二貶諸侯一之志上、在二春秋一、崇二人倫一之行、在二孝經一。〔何休、公羊傳序、此二學者聖人之極致、疏〕二學者、春秋・孝經也、極者、盡也、致之言、至也、言、聖人作二此二經一之時、盡二己至誠一而作レ之、故曰二聖人之極致一也。〔小學紺珠、藝文類、二經〕春秋・孝經。㋺書經と春秋。〔漢書、王莽傳上〕尙書康誥、王若曰、孟侯朕其弟小子封、此周公居レ攝稱レ王之文也、春秋、隱公不レ言二卽位一、攝也、此二經、周公孔子所レ定、蓋爲二後法一。㊁易の上經と下經。〔孔穎達、周易正義序〕案、前漢孟喜易本云、分二上下二經一、是孟喜之前、已題二經字其篇一。

【二頸】270 ニケイ　二つのくび。〔詩、秦風、小戎、陰靷鋈續、疏〕服虔云、軥、車軛也、兩軛叉二馬頸一者、是一衡之下、唯有二服馬二頸一也。

【二繫】271 ニケイ　易の繫辭傳の上下をいふ。〔陳書、周弘正傳〕弘正啓二梁武帝周易疑義五十條一、又請レ釋二乾坤二繫一。〔南史、顧歡傳、注〕王弼易二繫、學者傳レ之。

【二教】272 ニケウ　二つの教へ。老子の教と佛教とをいふ。〔南齊書、顧歡傳〕老釋二教、交行二八表一。〔李洞、贈二三惠大師一詩〕楓猿嶠角別多時、二教兼修內學レ師。〔李涉、酬二舉生許遇山居一詩〕不レ似三本宗疎二二教一、許過二雲壑一訪二潛夫一。〔剪燈餘話、何思明遊酆都錄〕二教之大、鬼神之著。

【二喬】273 ニケウ　三國時代の喬氏の二人の美女、大喬・小喬をいふ。周瑜が孫策に從つて晥城を攻め、喬公の兩女を得、策は自ら大喬を納れ、瑜は小喬を納れた。喬は、一に橋に作る。二橋。〔杜牧、赤壁詩〕折戟沈レ沙鐵未レ銷、自將二磨洗一認二前朝一、東風不下與二周郞一便上、銅雀春深鎖二二喬一。

【二橋】274 ニケウ　㊀二つのはし。〔唐書、曹王皐傳〕規二江南廢洲一爲二廬舍一、構二二橋一跨レ江、而流人自占者二千餘家。〔儲光羲、安宜園林獻二高使君一詩〕十里次二舟楫一、二橋交二往來一。〔元史、河渠志三〕又東爲二離堆一、又東過二凌虛・步雲二橋一、又東至二三石洞一、釃爲二二渠一。㊁二喬に同じ。〔吳志、周瑜傳〕時得二橋公兩女一、皆國色也、策自納二大橋一、瑜納二小橋一。

【二竅】275 ニケウ　二つのあな。二穴。〔黃庭外景經〕出入二竅合二黃庭一、呼吸虛無見二吾形一。〔宋史、石普傳〕穿二二竅一容二筆墨一、上施二紙札一、每レ臨レ陣則分持、或傳レ令則書二其言一、繫二軍令之頸一、至レ彼爲二合契一。〔元史、天文志〕銅條兩端、各屈二其首一、爲二二竅一以對。

【二屐】276 ニゲキ　一足の下駄。〔李白、送二韓準裴政孔巢父還レ山詩〕斧冰漱二寒泉一、三子同二二屐一。

【二穴】277 ニケツ　㊀二つのあな。二孔。二竅。〔後漢書、南蠻傳〕其山有二赤黑二穴一、巴氏之子、生二於赤穴一、四姓之子、皆生二黑穴一。㊁灸の二つのすゑどころ。二つの穴脈。〔素問、氣穴論〕大椎上兩傍各一、凡二穴、目瞳子浮白二穴、兩髀厭分中二穴、犢鼻二穴、耳中多所レ聞二穴、眉本二穴、完骨二穴。

【二結】278 ニケツ　二つのくくりめ。又、二番目のくくりめ。〔雲笈七籤〕胞上部有二四結一、一結在二泥丸中一、二結在二口中一、三結在二頰中一、四結有二目中一。

【二月】279 ニグワツ ニゲツ　一年の第二の月。きさらぎ。〔書、舜典〕歲二月、東巡守、至二于岱宗一。〔詩、小雅、小明〕二月初吉、載離二寒暑一。

【二月花】280 ニゲツノハナ　春の花。二月は太陽曆の二月。〔李嶠、風詩〕解落三秋葉、能開二月花。〔杜牧、山行詩〕停レ車坐愛楓林晚、霜葉紅二於二月花一。

【二月革命】281 ニグワツカクメイ　㊀西曆一八四八年二月にフランスに起つた革命。㊁西曆一九一七年三月(ロシヤ曆の二月)にロシヤに起つた革命。三月革命。

【二月江南花滿レ枝】282 ニゲツカウナンハナエダニミツ　揚子江の南の地方(江南)の春景色を述べた句。〔孟雲卿、寒食日詩〕二月江南花滿レ枝、他鄕寒食遠堪レ悲、貧居往往無二煙火一、不三獨明朝爲二子推一。

【二月打雷穀堆堆】283 èrh^4 yüeh^4 ta^3 lei^2 ku^3 tuei^1 tuei^1　二月の雷鳴は豐作の兆といふ意。湖北地方の農家の俚諺。

【二月賣二新絲一五月糶二新穀一】284 ニゲツシンシヲウリゴゲツシンコクヲウル　農家の貧苦の狀を述べた語で、甚しく貧窮な爲に、期に先だつて賣買を計る意。二月は蠶桑の時で、未だ絲は出來ないにも拘らず、新絲を賣ることをはかり、五月は耕耘の時で、未だ穀物は實らないにも拘らず、新穀を賣る契約をする。〔聶夷中、傷二田家一詩〕父耕二原上田一、子斸二山下荒一、六月禾未レ秀、官家已修レ倉、二月賣二新絲一、五月糶二新穀一、醫二得眼前瘡一、剜二卻心頭肉一、我願下君王心、化作二光明燭一、不レ照二綺羅筵一、偏照中逃亡屋上。〔故事成語考、貧富〕二月賣二新絲一、五月糶二新穀一、眞是剜レ肉醫レ瘡。

【二協】285 ニケフ　梁の顏協と顧協とをいふ。〔南史、顏協傳〕湘東王出鎭二荊州一、以爲二記室一、時吳郡顧協、亦在二蕃邸一、與レ協同名、才學相亞、府中稱爲二二協一。〔小學紺珠、名臣類下、二協〕顏協・顧協。

【二脇】286 ニケフ　二つのわきばら。〔無量印法門經〕其王、忽然左右二脇生二二蓮華一、殊妙可レ愛。

【二篋】287 ニケフ　二つの箱。〔呂覽、樂成〕將軍還走、北面再拜曰、中山之擧、非二臣之力一、君之功也、當二此時一也、論士殆レ之、日、幾矣、中山之不レ取也、奚宜二二篋一哉、一寸而亡矣。

【二業】288 ニゲフ　㊀二つの業務。〔後漢書、劉般傳〕下レ令、禁二民二業一。〔注〕謂二農者不レ得二商賈一也。〔北史、盧景裕傳〕避二地大寧山一、不レ營二世事一、居無二二業一、唯在二注解一。㊁ゴフ　佛　㋑引業と滿業。六道に總・別の二報があり、彼此ともに人身となり、共同の果報を受けるのが總報であり、人によつて壽夭貧富を異にするのが別報である。總報を引發する業を引業といひ、別報を成滿する業を滿業といふ。〔倶舍論、十七〕。㋺定業と不定業。定業とは、苦樂の二報を受けるに定まつたもの。不定業とは、果報を受けるに定まつてゐないもの。〔伽論、九〕。㋩黑業と白業。黑業とは、穢惡不淨の苦果を感ずべきもの。白業とは、淨明清白の樂果を感ずべきもの。〔智度論、九十四〕。㋥共業と不共業。共業(**2**－**1458**··46)・不共業(**1**－**19**··221)を見よ。

【二見】289 ニケン　㊀二度見る。〔姚鵠、書レ情獻二知己一詩〕一爲二棲寓客一、二見二北歸鴻一。㊁佛　有と無とにとらはれる二つのあやまつた見方。〔七卷楞伽、四〕云何而說レ墮二二見一耶、云云、分二別不生・不滅一、何以故、不レ起二有・無分別相一故。

【二軒】290 ニケン　二つののき。二つの家。二戶。〔楊巨源、送二殷員外使二北蕃一詩〕二軒將二雨露一、萬里入二煙沙一。

【二硯】291 ニケン　二つの硯。〔劉克莊、獲レ硯詩〕二硯溫如二玉琢成一、信知天地有二精英一。

【二甄】292 ニケン　左右の兩軍をいふ。甄は軍陣の兩翼。〔宋書、禮志一〕至二宣武場一止、大司馬屯二北旌門一、二甄帥屯二左右旌門一。

【二劍】293 ニケン　二つの劍。〔唐書、裴度傳〕度入レ朝會レ帝、以二二劍一付二監軍梁守謙一、使レ悉誅二賊將一。

【二賢】294 ニケン　二人の賢者。〔庾信、奉レ和二趙王隱士一詩〕洛陽徵二五隱一、東都別二二賢一。〔陳書、袁憲傳〕弘正謂曰、二賢雖レ窮二奧賾一、得レ無レ憚二此後生一耶。〔唐書、郞餘令傳〕元軌每曰、郞家二賢皆

入レ府、不レ意培塿而松柏爲レ林也。

【二練】295ニレン 二つのかとりぎぬ。〔宋史、宗室四、不忌傳〕堅守勿レ動、密檄二諸蕃部一、生二獲吐蕃一人一、賞二十練一、殺二一人一二練。

【二險】296ニケン 二つの險阻な所。〔水經、江水注〕江水東逕二樊石灘一、又逕二大附灘一、頻歷二二險一也。

【二元】297ニゲン ❶二番目の年號。〔史記、武帝紀〕有司言、元宜下以二天瑞一命上、不レ宜下以二一二數上、一元曰二建元一、二元、以二長星一曰二元光一、三元、以二郊得一レ角獸一曰二元狩一云。❷二つの曆日。曆の基準となる二つの日。〔晉書、杜預傳〕預以二時曆差舛一、不レ應二暑度一、奏二上二元乾度曆一、行二於世一。〔魏書、律歷志〕洪所二造曆一、爲二甲午・甲戌二元一、又除二豫州司馬一、靈扶亦除二蒲陰令一、洪至二豫州一、續造二甲子・己亥二元一、唯龍祥在レ京、獨修二前事一。

【二元教】298ニゲンキョウ 二箇の對立的觀念が、信仰や教義に現はれてゐる宗教、特に相對立する二つの神格の崇拜を中心とする宗教。ゾロアスター教など。

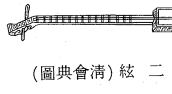
【二元論】299ニゲンロン 宇宙の現象は二つの本體に歸すといふ論。又、二箇の別異の原理を以て對象を考察する考へ方。

【二元方程式】300ニゲンホウテイシキ 數學用語。二箇の未知數を含む方程式。

【二言】301ニゴン ❶ふたことば。二字。〔宋書、樂志〕荀勗曰、魏氏哥詩、或二言、或三言、或四言、或五言、與二古詩一不レ類。❷いつはり。〔唐書、衞大經傳〕卓然高行、口無二二言一。

【二言詩】302ニゴンシ 二言を以て一句を形成してゐる詩。文心雕龍によれば、二言の祖を黃帝時代の彈歌に歸してゐる。又、清の沈德潛の說詩晬語には、詩經小雅の祈父篇にある祈父や周頌の維清篇にある肇禋の句等を二言詩の例として引いてゐる。〔陔餘叢考、二言詩〕祈父・肇禋、劉勰亦引爲二二字詩一、然尙非二兩字卽成一レ韻、老子法本章、琭琭如レ玉、落落如レ石、立戒章、知レ足不レ辱、知レ止不レ殆、史記田家之祝詞曰、甌窶滿レ篝、汙邪滿レ車、及吳越春秋黃竹之歌曰、斷竹續竹、飛土逐肉、則竟以二兩字一相叶矣、輟耕錄載二虞伯生咏二蜀漢事一曰、鸞輿二三顧茅廬一、漢祚難レ扶、日暮二桑榆一、深渡二南瀘一、長驅二西蜀一、力拒二東吳一、美乎周瑜妙術、悲夫關羽云殂、天數盈虛、造物乘除、問レ汝何如、早賦歸歟、此又通首皆兩字一韻、更前人所レ未レ有也、中州韻、入聲似二平聲一、故蜀術等字、皆與二魚虞一相叶、古來通首二言詩、惟此一首。

【二絃】303ニゲン 二つの絃のある樂器の名。清代に蕃部の合奏に用ひた。



二絃（清會典圖）

〔清會典圖、樂器圖、二絃〕二絃、斷樟爲レ質、槽面以レ桐、長方、底有レ孔、通長三尺五分五釐八毫。

【二絃琴】304ニゲンキン 絃の二條ある琴。〔宋史、樂志十七〕宋始製二二絃之琴一、以象二天地一、謂二之兩儀琴一。

【二源】305ニゲン 二つの水源。〔潘尼、苦雨賦〕懼二二源之幷合一、畏二黔首之爲一魚。〔王應麟、詩地理攷〕漢水二源、一源出二秦州天水縣一、謂二之西漢一、水至二恭州巴中縣一入レ江、一源出二大安軍三泉縣一、謂二之東漢一、水至二漢陽軍一入レ江。

【二戶】306ニコ ❶二軒の家。二家。〔唐書、食貨志二〕以二二戶一養二一兵一。❷ニフ 陸奥の地名。

【二姑】307ニコ 二人の女。〔趙元、田閒秋日詩〕不レ似二姑忙更殺一、晩春堆髻脫二釵荊一。

【二孤】308ニコ ❶二人の孤卿。孤は、三公の次の官。〔左氏、宣、十六、注、大傅孤卿、疏〕周禮、典命云、公之孤四命、鄭衆云、九命、上公置二孤卿一人一、春秋時、晉爲二霸主一、侯亦置二孤卿一、文六年、有二大傅陽子一、太師賈佗一、則晉嘗置二二孤一。❷二人の喪主。〔禮、曾子問〕曾子問曰、喪有二二孤一、廟有二二主一、禮歟。

【二狐】309ニコ 二匹のきつね。〔詩、齊風、南山、雄狐綏綏、疏〕綏綏、是匹行之貌、今言二雄狐相隨綏綏然一、明是二雄狐相匹一、故云二雄狐綏綏然一、是二狐俱雄一、無レ有二別異一、失二陰陽之匹一。

【二股】310ニコ ❶川の名。黃河の故道。河北省大明縣から山東省聊城縣・陵縣等を經て海に入る。〔宋史、河渠志、一〕河流派二別于魏之第六埽一、曰二二股河一、其廣二百尺、自二二股河一、行一百三十里、至二魏恩德博之境一、曰二界首河一。〔宋史、英宗紀〕治平元年五月己亥、濬二二股河一。❷ニフタマタ ㋐本が二つで末が二つに分れたもの。㋑二股膏藥に同じ。

【二股膏藥】311ニフタマタコウヤク 彼につき此につくことの形容。形勢を觀望して都合のよい方につくことの喩。日和見主義。

【二股小舟】312ニフタマタコブネ ❶二股の材で作つた小舟。❷二つ並べたやうに作つた小舟。

【二虎】313ニコ 二匹の虎。〔後漢書、童恢傳〕嘗爲二虎所一レ害、乃設二檻捕一レ之、生二獲二虎一。〔宋史、李繼宣傳〕裁十七歲、嘗命往二陝州一捕二虎殺一レ二十餘一、生致二虎一豹一以獻。

【二胡】314ニコ 樂器の名。胡弓の類。

【二庫】315ニコ 二つのくら。〔南史、王儉傳〕有二東西二庫一、此籍既並精詳、實可二寶惜一。〔元史、世祖紀十三〕增二置異珍・御帶二庫一、秩從五品、並設二提點使副各一員一。

【二壺】316ニコ 二つのつぼ。〔國語、越語上〕生丈夫二壺酒一、犬。〔王肇、甲申雜記〕仁宗朝、及二前宰臣一、歲賜二茶一斤・酒二壺一、後以爲レ例。

【二湖】317ニコ 二つのみづうみ。〔呂溫、岳陽懷古詩〕二湖豁南浸、九派駛東流。〔孔武仲、湖山亭詩〕天外微茫二湖合、波心縹緲一峯青。〔明一統志〕烏撒軍民府形勝、山崖險阨、襟帶二湖一。

【二鼓】318ニコ ❶午後十時。二更(98)に同じ。〔宋書、禮志〕校獵曰、平旦正直、侍中嚴、上水一刻、奏二槌一鼓一、爲二一嚴一、上水二刻、奏二槌二鼓一、爲二再嚴一、上水三刻、奏二槌三鼓一、爲二三嚴一。〔福惠全書、刑名部、問擬〕時將二二鼓一矣。❷ニノツヅミ 古、雅樂に用ひた鼓。〔教訓抄、九〕二鼓、或抄云、細長鼓。

【二五】319ニゴ ❶陰陽と五行。〔周敦頤、太極圖說〕五行、一陰陽也、陰陽、二太極也、太極、本無極也、五行之生也、各一其性、無極之眞、二五之精、妙合而凝。❷數字の二と五。又、二と五との積、卽ち十。〔算法統宗、九九合數〕二五得二一十一。

【二五耦】320ニゴグウ 晉の獻公の嬖人なる外嬖梁五と東關嬖五とは、其の名が共に五であるから之を二五と言ひ、二人相並んで人を退けることが、耦で草を耦除するに似て居るから二五耦といふ。〔左氏、莊、二十八〕驪姬嬖、欲レ立二其子一、賂二外嬖梁五與二東關嬖五一、使レ言二於公一曰、云云。晉侯說レ之。夏、使下太子居二曲沃一、重耳居二蒲城一、夷吾居上屈、羣公子皆鄙、唯二姬之子在レ絳、二五卒與二驪姬一譖二羣公子一而立レ奚齊、晉人謂二之二五耦一。

【二五附加稅】321ニゴフカゼイ 輸入品に課する二分五厘の海關附加稅。

【二伍】322ニゴ 二つの伍。卽ち、十人をいふ。〔周禮、天官、宮正、會二其什伍一而教二之道藝一、注〕五人爲レ伍、二伍爲レ什。〔漢書、平帝紀、什器、注〕師古曰、軍法、五人爲レ伍、二伍爲レ什。

【二娛】323ニゴ 清、尤維熊(4‥7543‥45)の號。

【二口】324ニコウ ❶二つの口。轉じて、二人。二口糧を見よ。〔漢書、武帝紀、復二算一、注〕張晏曰、二等、復二一口之算一也。❷二つの、口といふ字。〔宋書、符瑞志上〕孔子河雒議曰、二口建レ戈不レ能レ方、兩金相刻發二神鋒一、空穴無二主奇入一中、女子獨立又爲レ雙、二口建レ戈、劉字也。❸二つの出入の口。〔水經、江水注〕又東得二淸揚一、土塢二口一。❹二つ。口は穴などを數へる語。〔水經、汶水注〕泉上數丈、有二石穴二口一、容レ人。❺二ふり。口は、品かずの意で、刀劍等を數へる單位。〔雲笈七籤〕大通初、獻二刀二口一、名二喜勝一、二名二成勝一。

【二口蟲】325ニコウチュウ 蠕形動物、扁蟲類の一群。前端に口吸盤、腹面に腹吸盤があるのを、口と誤つて此の名を生じた。人畜に寄生して大害をなす。肝蛭・肝臟ヂストマ・肺臟ヂストマ等。

【二口糧】326ニコウリョウ 二人扶持。〔唐書、陸贄傳〕一歲給二二口糧一、賜二種子一、勸之播蒔一。

【二公】327ニコウ ❶二人のきみ。二人の諸侯。❷周公と召公。〔詩、大序、故繫二之召公一、疏〕此實文王之詩、而繫二之二公一者、因二二公爲二王行レ化、是故繫二之二公一。❸召公と太公。〔書、金縢〕周公乃告二二公一曰、我之弗レ辟、我無二以告一我先王一。〔小學紺珠、名臣類上、二公〕召公・太公。❹召公と畢公。〔書、顧命、召公畢公、注〕二公爲二二伯一。〔小學紺珠、名臣類上、二公〕召公・畢公。❺齊の桓公と晉の文公。〔左氏、昭、四〕夫亡王二公之事、皆所レ以示二諸侯一禮也。〔注〕二公、齊桓・晉文也。〔論語、憲問、晉文公譎而不レ正齊桓公正而不レ譎、集注〕二公皆諸侯盟主、攘二夷狄一、以尊二周室一者也。〔小學紺珠、歷代類、二公〕齊桓有二召陵之師一、晉文有二踐土之盟一。

【二公子】328ニコウシ 二人の公子。❶春秋、晉の重

耳と夷吾。〔小學紺珠、氏族類、晉二公子〕重耳・夷吾。㊀春秋、衛の左公子と右公子。〔左氏、桓、十六〕二公子、故怨二惠公一。㊁二人の令息。

【二孔】329 ニコウ 二つのあな。二穴。轉じて、二つの門。二途。〔管子、國蓄〕利出二於一孔一者、其國無レ敵、出二二孔一者、其兵不レ詘、出二三孔一者、不レ可二以擧一レ兵、出二四孔一者、其國必亡。〔纂詁〕孔、穴也、猶レ言レ門、出二於一孔一、專出二於君一也、二孔、君與レ相也、三孔・四孔、則分二出於臣民一也。〔雲笈七籤〕上智者、心有二七孔一、中智五孔、下智三孔、明達者、心有二二孔一、尋常有二一孔一、愚痴無レ孔也。

【二功】330 ニコウ 二つの功。大功と小功。功は、喪服の名。功(2－2295)の字解を見よ。〔宋書、禮志二〕吉凶異レ容、情禮相稱、皇后一月之限、雖レ過二二功之服一、已釋二哀喪一。

【二后】331 ニコウ ㊀二人の君。周の文王・武王を指す。〔詩、周頌、昊天有成命〕昊天有二成命一二后受レ之。〔傳〕二后、文・武也。〔小學紺珠、歷代類、二后〕文王・武王。㊁二人の皇后。

【二紅】332 ニコウ うすい赤色。淡紅色。二紅飯を見よ。

【二紅飯】333 ニコウハン 大麥と小紅豆とを雜へた飯。赤飯。〔蘇軾、記二先夫人一紅飯語一〕課二奴婢一舂二大麥一以爲レ飯、有二西北村落氣味一、復令下雜二小紅豆一作上レ飯、尤有レ味、老妻大笑曰、新樣二紅飯一也。〔類說〕東坡在二齊安一作二麥飯一雜二小紅豆一、王夫人笑曰、此新樣二紅飯一。

【二候】334 ニコウ 二度うかがひ探る。〔素問、三部九候論〕候後則病、二候後則病甚、三候後則病危。

【二寇】335 ニコウ 二つのあだ。〔詩、小雅、采薇序、箋〕禦二西戎及北狄之難一、疏〕南仲一行、幷平二二寇一。〔劉琨、與二段匹磾一盟文〕自二今日既盟之後一、皆盡レ忠竭レ節、以剪二夷二寇一。

【二猴】336 ニコウ 二匹の猿。〔淨印法門經〕我寧捨レ身與二汝食一、汝今遠放二此二猴一、我願視レ護二諸菩提一、智者應レ無二虛妄語一。

【二鴻】337 ニコウ ㊀二羽の大鳥。〔管子、霸形〕桓公在レ位、管仲・隰朋見、立有レ間、有二二鴻一飛而過レ之。㊁後魏の李志(字は鴻道)と崔鴻とをいふ。〔北史、李彪傳〕子志、字鴻道、博學有二才幹一、年十餘、便能屬レ文、彪奇レ之、謂二崔鴻一曰、子宜下與二鴻道一爲上レ友、鴻於洛陽、遂與交款往來。〔小學紺珠、名臣類下、二鴻〕崔鴻・李志、字鴻道。

【二谷】338 ニコウ ㊀二つの谷。〔唐書、田令孜傳〕賊在二長安一、知慤以二清濁一分二谷之人一、倚レ山爲レ屯、不レ屈レ賊。㊁清、秦漢(8－24995‥29)の號。

【二刻】339 ニコク 今の約一時間に當る。刻は水時計の矢の目盛。〔詩、齊風、東方未明、狂夫瞿瞿、疏〕日見之前、日入之後、距二昏明一各有二二刻半一、減二晝五刻一以裨レ夜、故於二曆法一皆多校二五刻一也。〔宋書、禮志二〕凡遣二大使一、拜二皇公及冠二皇太子一、及拜二蕃王帝一、皆臨レ軒、其儀太樂、令二宿設金石四廂之樂於殿前一、漏上二刻、侍中侍臣、冗從僕射中謁者、節騎郎虎賁旄頭、遮二列五牛旗一皆入。

【二國】340 ニコク 二つの國。二邦。〔書、召誥〕今王嗣二受厥命一、我亦惟茲二國命一、嗣若功。〔詩、大雅、皇矣〕維此二國、其政不レ獲。〔論語、微子、微子去レ之、箕子爲レ之奴、集解〕馬曰、微・箕二國名。

【二國士】341 ニコクシ 二人の國士。春秋、晉の里克と荀息とをいふ。〔國語、晉語二〕夫二國士之所レ圖、無レ不レ遂也。〔注〕二國士、里克・荀息也。〔小學紺珠、名臣類上、二國士〕里克・荀息。

【二黑】342 ニコク ㊀二つの黑色。〔楞嚴經〕佛告二阿難一、諸盲無レ眼、唯觀二黑暗一、與二有レ眼人一、處二于暗室一、二黑有レ別、爲無レ有レ別、如レ是世尊、此暗中人、與二彼羣盲一、二黑較量、曾無レ有レ異。㊁ジンイン 陰陽家の語。九星の一。死門。土星。本位は西南、卽ち坤。九星(1－167‥387)を見よ。〔協紀辨方書、義例六、三元九星〕死門爲二二黑一、云云、一白二黑三碧、云云、二黑居レ坤。

【二穀】343 ニコク 二種類の穀物。大侵(8－5832‥1200)を見よ。〔韓詩外傳、八〕二穀不レ升、謂二之飢。

【二觳】344 ニコク 二斛をいふ。觳は斛。〔周禮、考工記、陶人〕庾實二觳一厚半寸、脣寸。〔注〕鄭司農云、觳、讀爲レ斛、觳、受二三斗一。〔漢書、蒯通傳、儋石、注〕應劭曰、齊人名二小甕一爲レ儋、受二二斛一。

【二骨】345 ニコツ ㊀二つのほね。〔儀禮、少牢饋食禮〕正脊一、脡脊一、橫脊一、短脅一、正脅一、代脅一、皆二骨以並。〔宋史、禮志一〕前脊謂二之正脊一、次直謂二之脡脊一、關二于脡脊一、謂二之橫脊一、皆一骨、脇骨最後二一爲二短脇一、旁中二一爲二正脇一、最前二一爲二代脇一。㊁蒙古の二つの族姓。白骨と黑骨。白骨は身分が尊く、黑骨は身分が卑い。〔西齋偶言、蒙古族姓〕蒙古最重二族姓一、分爲二種骨一、曰白、曰黑、白尊而黑卑、白主而黑奴。

【二鵠】346 ニコク 二羽のくま鷹。〔雲仙雜記〕嘉陵江上、見二二鵠擲レ卵、相上下以接レ之、蓋習二其飛一也、其胎教之意乎。

【二劫】347 ニコウ 二つの劫。劫は、一世の稱。又、極めて永い時間。〔雲笈七籤〕經二二劫一、天地又壞、無二復光明一。

【二昆】348 ニコン 二人の兄。〔左氏、成、五〕樂曰、我在、故欒氏不レ作、我亡、吾二昆其憂哉。〔陸雲、答二兄平原一詩〕雲和所レ產、爰育二二昆一。

【二根】349 ニコン 佛二つの根。根は、生れつきの根性、又は作用を生ずる力。㊀意根(意識を生ずるもの)と身根(身識を生ずるもの)。〔法苑珠林〕若在レ胎時、卽得二二根一、意根・身根也。㊁利根と鈍根。利根とは、佛道を修する根性の銳利なもの。鈍根とは、其の鈍弱なもの。〔無量壽經〕其鈍根者、成二就二忍一、其利根者、得二不可計無生法忍一。㊂正根(勝義根)と扶根(扶塵根)。扶根は、眼・耳・鼻・舌・身の五根の外形に現はれてゐるもの、卽ち吾人の肉體。正根は、扶根をよりどころとし、認識のはたらきをするもの、卽ち神經。㊃男根(男子の身中の色欲を起す處)と女根(女子の身中の色欲を起す處)。〔楞嚴經〕口中好言下眼耳鼻舌、皆爲二淨土一、男女二根、卽是菩提涅槃眞處上、彼無知者、信二此穢言一。

【二髡】350 ニコン 二人の薙髮した人。武田信玄と上杉謙信。兩人共に入道してゐた。〔近古史談、豐篇、太閤雜事〕天德寺盛稱二武田・上杉勇武無レ比、公笑曰、使二二髡在レ乎、一人提二長刀一導レ前。

【二差】351 èrʰ chāi 二つの職務。兼務。

【二才】352 ニサイ 二人の才子。〔南史、江淹傳〕彼之二才、猶或如レ是、況在二下官一焉。

【二妻】353 ニサイ 二人の妻。〔左氏、哀、十一〕衞大叔疾、出奔レ宋、初疾娶二于宋子朝一、其娣嬖、子朝出、孔文子使レ疾出二其妻一而妻レ之、疾使二侍人誘一其初妻之娣、寘レ于犂一而爲レ之一宮一、如二一妻一。

【二采】354 ニサイ 二つの色どり。二綵。〔周禮、春官、典瑞〕子執二穀璧一、男執二蒲璧一、繅皆二采再就。〔注〕二采、朱・綠也。〔禮、雜記上〕率帶、諸侯大夫皆五采、士二采。〔後漢書、輿服志下〕公侯・將軍、紫綬二采。

【二宰】355 ニサイ 二人の役人。〔後漢書、朱穆傳〕鄙二宰之失一度、美二韓稜之抗一正。

【二祭】356 ニサイ 二つの祭。又、二度祭る。〔宋書、禮志二〕鄭氏說、圜丘、祀二昊天上帝一、以二帝嚳一配、所謂禘也、祈穀、祀二五精之帝一、以二后稷一配、所謂郊也、二祭異レ時、其神不レ同。

【二歲】356 ニサイ 生後二年たつた年齡。轉じて、若くて未熟な人を輕んじていふ語。青二歲。

【二寒】357 ニサイ 二つのとりで。〔曾鞏、祕書少監陳公碑銘〕公至、諸蠻畏悅、皆還就二溪洞一、而歸二故所レ掠地與レ人、公因築二武陵・澧州二寒一、以備レ蠻。

【二綵】358 ニサイ 二つの色どり。二采。〔後漢書、安帝紀〕元初五年、詔曰、朝廷躬自菲薄、去二絕奢飾一、食不レ兼レ味、衣無二二綵一。

【二財】359 ニザイ 同じものが二つあること。重複。

【二罪】360 ニザイ 二つの罪。〔左氏、襄、二十六〕臣不佞、不レ能下負二羈紲一以從二君扞中牧圉上、臣之罪一也、有二出者一、有二居者一、臣不レ能二貳一通二外內之言一、以事レ君、臣之罪二也、有二二罪一、敢忘二其死一、乃行從二近關一出、公使レ止レ之。〔唐書、班宏傳〕敢掠二美一以邀二二罪一乎。

【二壯】361 ニソウ 二人の若者。〔關尹子、七釜〕二壯相好、及二其老一也、相遇則不二相識一。

【二爭】362 ニソウ 二つのあらそひ。又、二番目の爭ひ。〔詩、鄭風、出其東門序〕公子五爭兵革不レ息、疏〕桓十一年左傳云、祭仲爲レ公娶二鄧曼一生二昭公一、云云、是一爭也、十五年傳曰、祭仲專、鄭伯患レ之、使二其壻雍糾殺一レ之、云云、是二爭也。

【二草】363 ニソウ 二つの草。〔詩、王風、大車、毳衣如菼、疏〕釋草云、薍蘆菼藍、孫炎、郭璞、皆以二蘆藍一爲二一草一。

【二曹】364 ニソウ ㊀二人の屬官。〔墨子、號令〕爲二二曹一夾二門坐一、舖食更無レ空。㊁二つの群。〔千金

月令)臘日以後、叟嫗各隨二其儕一爲レ藏、嘔分爲二二曹一、以較二勝負一。

【二莊】365 サウ 晉の向秀と郭象とが注した莊子の二種の注釋本。〔晉書、郭象傳〕先レ是、注二莊子一者數十家、莫三能究二其旨統一、向秀於二舊注外一而爲二解義一、妙演奇致、大暢二玄風一、惟秋水至樂二篇未レ竟、而秀卒、秀子幼、其義零落、然頗有二別本遷流一、象爲レ人行薄、以二秀義不一レ傳二於世一、遂竊以爲二己注一、乃自注二秋水至樂二篇一、又易二馬蹄一篇一、其餘衆篇、或點二定文句一而已、其後秀義別本出、故今有二向郭二莊一、其義一也。

【二創】366 サウ ❶二つの傷。〔元史、石抹按只傳〕按只身被二二創一、戰愈力。❷二つの缺點。〔何休、公羊傳序〕恨先師觀聽不レ決、多隨二二創一。

【二嫂】367 サウ 二人の兄よめ。娥皇・女英をいふ。〔孟子、萬章上〕二嫂使レ治二朕棲一。〔注〕二嫂、娥皇・女英。

【二想】368 サウ 二つのおもひ。二つの考へ。〔何遜、入二西塞一示二南府同僚一詩〕望鄕雖二一路一、懷レ歸成二二想一。

【二雙】369 サウ ふたそろひ。二對。〔戰國、齊策〕敝邑有二寶璧二雙、文馬二駟一、請致二之先生一。〔漢書、南粤傳〕生翠四十雙、孔雀二雙。

【二藏】370 ザウ ❶二つの臟腑。〔素問、大奇論〕二藏同病者、可レ治。〔注〕心火、肝木、木火相生、故可レ治レ之。❷佛小乘と大乘。〔大乘義章、一〕若隨レ人別、亦分爲レ二、謂二聲聞藏、及菩薩藏一。〔三論玄義〕應レ立二大小二教一、不レ應レ制二於五時一、云云、以二經論一驗レ之、唯有二二藏一、無二五時一矣。

【二冊】371 サク ❶二つのはかりごと。二策。冊は策に通ず。〔漢書、趙充國傳〕耿中丞請レ糴二百萬斛一、迺得二四十萬斛一耳、義渠再使、且費二其半一、失二此二冊一、羌人故敢爲レ逆。❷二つの文。〔梁宣帝、愍レ時賦〕謝二兩章之雄勇一、恧二二冊之英華一。

【二柵】372 サク 二つの柵。柵は簡單なとりで。〔陳書、高祖武帝紀上〕立二二柵一、以拒二官軍一。

【二策】373 サク 二つの計略。二冊。〔宋史、田況傳〕上二攻守二策一、朝廷將レ用二攻策一。

【二牐】374 サフ 二つのゐせき。〔宋史、河渠志七〕眞州二牐、亦復損漏、令下有司葺二理上下二牐一以防中走泄上。

【二三】375 サン ❶二三にする。いろいろに變へる。一貫しない。〔書、咸有一德〕德二二三一、動罔レ不レ凶。〔傳〕二三、言レ不レ一。〔詩、衞風、氓〕士也罔レ極、二二三其德一。〔詩、小雅、白華〕之子無レ良、二二三其德一。〔箋〕變二移其心志一。〔左氏、成、八〕罔レ極二二三其德一、七年之中、一與一奪、二三孰甚レ焉。❷二三人。〔韓愈、游二青龍寺一詩〕二三道士席二其閒一。❸二と三との積、卽ち六。〔算法統宗、九九合數〕二三如レ六。❹二つ三つ。僅かばかり。❺サニツ むつむさし。六六指。

【二三子】376 シサン ❶二三人の者。數輩。〔左氏、僖、二十四〕主二晉祀一者、非レ君而誰、天實置レ之、而二三子以爲二己力一、不二亦誣一乎。❷門人などの數人に呼びかけていふ語。汝ら。ものども。汝曹。〔論語、述而〕二三子、以レ我爲レ隱乎、吾無レ隱乎爾。〔疏〕二三子、謂二諸弟子一也。〔論語、陽貨〕子曰、二三子、偃之言、是也、前言戲レ之耳。❸人君が諸大夫に呼びかけていふ語。〔左氏、僖、十五〕秦獲二晉侯一以歸、晉大夫反首拔舍從レ之、秦伯使レ辭焉、曰、二三子、何其慼也。〔國語、晉語五〕皆告二諸大夫一曰、二三子、可二以賀一レ我矣。

【二山】377 サン ❶二つの山。〔詩、唐譜、其封域在二禹貢冀州太行恆山之西一、疏〕晉之東境、迫二此二山一、故云二之西一。〔左氏、桓、六〕晉以二僖侯一廢二司徒一、宋以二武公一廢二司空一、先君獻・武廢二二山一、是以、大物不レ可二以命一。〔注〕二山、具・敖也、魯獻公名具、武公名敖、更以二其鄕一名レ山。❷字號。㋑清、何忠相(**1**−**511**・・337)の號。㋺清、陳觀酉(**11**−**41698**・・774)の號。

【二山義長】378 フタヤマヨシナガ 石見の人。字は伯養。號は時習堂。通稱は彌三郞。寶永六己丑年歿す。年八十七。〔先哲叢談、正、三〕。

【二山老人】379 ニサンラウジン 清、陳汝登(**11**−**41698**・・1009)の號。

【二筭】380 サン 二本の數とり。〔儀禮、鄕射禮〕二筭爲レ純。

【二蠶】381 サン ❶二匹のかひこ。〔齊民要術、種桑柘、註〕或二蠶三蠶共爲二一繭一。❷なつこ。夏蠶。春蠶を頭蠶といふ。〔魏書、高祖紀上〕承明元年八月甲申、以二長安二蠶多死一、丐二民歲賦之半一。

【二爨】382 サン 二種のかしぎ。肉を煮ることと米を炊ぐこと。〔詩、小雅、楚茨、傳、爨、饔爨廩爨也、疏〕以三祭祀之禮、饔爨以レ亨レ肉、廩爨以炊レ米、此言二臣各有一レ司、故兼二二爨一也。

【二士】383 シ 二人の士。士は、さむらひ・官吏・學德ある者等。又、一般男子の尊稱。〔後漢書、馮衍傳下〕皐陶釣二於雷澤一兮、賴二虞舜一而後親、無二二士之遭遇一兮、抱二忠貞一而莫レ達。〔陳書、孔奐傳〕帝手敕報二僧辯一曰、孔沈二士、今且レ借レ公。

【二子】384 ジ ❶二人の子供。〔漢書、敍傳下〕淮南僭狂二子受レ殃。❷二人。子は男子の美稱。㋑北宮黝と孟施舍。〔小學紺珠、名臣類下、二子〕北宮黝・孟施舍、孟子曰、二子之勇。㋺戰國、魏の成と翟璜。〔史記、魏世家〕今所レ置非レ成則璜、二子何如。〔注〕集解曰、徐廣曰、文侯弟、名成。〔小學紺珠、名臣類下、二子〕魏成・翟璜。㋩前漢の司馬相如と枚皐。〔小學紺珠、名臣類下、二子〕司馬相如・枚皐、梁張率奏レ賦、武帝曰、相如工而不レ敏、枚皐速而不レ工、卿可レ謂レ兼二二子於金馬一矣。㊁唐の李栖筠と李鄘。〔小學紺珠、名臣類下、二子〕李栖筠・李鄘、唐書贊、二子其剛者歟。❸㋑コフタ 絲を二筋より合はせたもの。㋺ゴフタ 同時に生れた二人の子。

【二子孝養】385 ニシカウヤウ 後漢の毛義と薛包とが孝養を盡したこと。〔小學紺珠、名臣類下、二子孝養〕毛義・薛包、後漢二子、能以レ孝養。

【二子山人】386 ニシサンジン 三浦晉の號。三浦梅園(**1**−**12**・・1981)を見よ。

【二子乘舟】387 ニシジヨウシウ ❶二人の子供が舟に乘る。❷を見よ。〔詩、邶風、二子乘舟〕二子乘レ舟、汎汎其景。❷詩經、邶風の篇名。衞の宣公の二子伋・壽を思慕して作つた詩。〔詩、邶風、二子乘舟序〕二子乘舟、思二伋・壽一也、衞宣公之二子、爭相爲死、國人傷而思レ之、作二是詩一也。

【二尸】388 シ 二つのかたしろ。〔北史、牛弘傳〕今依二鄭注一、每二室及堂一、止有二一丈八尺一、四壁之外、四尺有餘、若以二宗廟一論レ之、祫享之日、周人旅酬六尸、幷二后稷一爲レ七、先公昭穆二尸、先王昭穆二尸、合十一尸、三十六主、及三君北面行二事於二丈之堂一、愚不レ及レ此。

【二止】289 シ 清、陳靚(**11**−**41698**・・250)の字。

【二氏】390 シ ❶二つのうぢ。〔左氏、昭、二十九〕古者畜レ龍、故國有二豢龍氏一、有二御龍氏一、獻子曰、是二氏者、吾亦聞レ之、而不レ知二其故一、是何謂也。〔南齊書、崔祖思傳〕張・于二氏、絜二譽文宣之世一、陳・郭兩族、流二稱武明之朝一。❷老子と釋迦。〔小學紺珠、藝文類、二氏〕老・釋。〔國朝漢學師承記、序〕兩漢經學、所三以當二尊行一者、爲下其去二聖賢一最近、而二氏之說、尙未上レ起也。

【二司】391 シ 二つの官職。又、二人の役人。〔漢書、敍傳下〕困二於二司一。〔注〕師古曰、此敍言二匡衡失レ德、故引以爲レ辭耳、二司者、司隸校尉王尊、劾二奏衡一、追二奏石顯一、著三先帝任二用傾覆之臣一、司隸校尉王俊、劾二奏衡專レ地盜レ土也。〔後漢書、袁紹傳〕太尉楊彪、歷二典二司一、元綱極レ位。〔注〕彪代二董卓一爲二司空一、又代二黃琬一爲二司徒一。

【二史】392 シ 二人の史官。❶左史と右史。左史は言を記し、右史は事を書す。〔後漢書、荀悅傳〕朝有二二史一、左史記レ言、右史書レ事。〔申鑒、時事〕朝有二二史一、左史記レ言、右史記レ動、動爲二春秋一、言爲二尙書一。❷太史と國史。太史は歲年を正して事を敍し、國史は事を日に繫けて記し、日月時を年に繫ける。〔遼史、曆象志下〕古者太史掌下正二歲年一敍上レ事、國史以レ事繫レ日、以二日月時一繫レ年。時月不レ正、則敍事不レ一、故二史合爲二一官一。

【二矢】393 シ ❶二本の矢。〔逸周書、文酌解〕一弓二矢。❷ニノヤ 二度目に射る矢。〔保元物語、白河殿夜討事〕二の矢を番はん所を射落とさんず。

【二至】394 シ ❶夏至と冬至。〔左氏、昭、二十一〕二至・二分、日有レ食レ之、不レ爲レ災。〔注〕二至、冬至・夏至、二分、春分・秋分。❷清、劉凝(**2**−**2224**・・182)の字。

【二至花】395 クワシ 花の名。夏至に開いて冬至まで咲き續けるからいふ。又、葉が柳に似、花が魚に似た形をしてゐるから、俗に柳穿魚といふ。〔上海縣續志〕二至花、葩甚細而色微紺、葉細似レ柳、而花似レ魚、俗呼二柳穿魚一、自二夏至一開、至二冬至一。

【二至圈】396 ケンシ 夏至點と冬至點とを通過し、黃

道と赤道とに垂直な大圓。二至經線。

【二至線】397 ニシセン 夏至線と冬至線。

【二至點】398 ニシテン 夏至點と冬至點。

【二志】399 シニ ふたごころ。二心。〔詩、邶、北門、天實爲之、箋〕詩人事君無二志。〔後漢書、臧洪傳〕必無二志。〔五代史、雜四十四、呂琦傳〕是時、晉高祖鎭河東、有二志。

【二使】400 シニ 二人の使。〔後漢書、李郃傳〕郃因仰觀問曰、二君發京師時、寧知朝廷遣二使邪、二人默然、驚相視曰、不聞也、問、何以知之、郃指星示云、有二使星向益州分野、故知之耳。

【二刺】401 シニ 二度刺す。〔素問、刺瘧論〕一刺則衰、二刺則知、三刺則已。

【二始】402 シニ 三國、魏の阮咸が始平郡の太守となり、南朝宋の顏延之が始安郡の太守となつた故、二人を指していふ。〔南史、顏延之傳〕累遷始安太守、謝晦謂延之曰、昔荀勗忌阮咸、斥爲始平郡、今卿又爲始安、可謂二始。〔小學紺珠、名臣類下、二始〕阮咸始平、顏延之始安。

【二祀】403 シニ 二つの祀。門と行との祀。適士は二祀を立てる。〔禮、祭法〕適士立二祀、曰門曰行。

【二思】404 シニ 清、楊述曾（6－15112‥613）の字。

【二思堂】405 ニシダウ 室名。㊀清、許邦光（10－35298‥374）の室名。㊁清、梁章鉅（6－14825‥269）の室名。

【二思堂叢書】406 ニシダウソウショ 叢書の名。十二冊。清、梁章鉅編。其の目は、第一―六冊、退菴自訂一卷、退菴隨筆二十二卷。第七・八冊、南省公餘錄八卷。第九冊、古格言十二卷。第十冊、閩川閨秀詩話四卷。第十一・十二冊、農候雜占四卷。

【二指】407 シニ ㊀二番目のゆび。食指。〔儀禮、鄉射禮〕凡挾矢於二指之閒橫之。〔注〕二指、謂左右手之第二指、此以食指・將指挾之。〔疏〕第二指爲食指。㊁二本のゆび。〔唐書、萬敬儒傳〕三世同居、喪親廬墓、刺血寫浮屠書、斷手二指、輒復生、州改所居曰成孝鄉・廣孝聚、大中時、表其家。

【二師】408 シニ ㊀二人の師。父師と少師とをいふ。師は官名。〔書、微子、父師少師、注〕告二師而去紂。㊁左師と右師。左右翼にある軍隊。〔左氏、襄、九〕二師令四鄉正敬享、祝宗用馬於四墉、祀盤庚於西門之外。〔注〕二師、左右師也。〔小學紺珠、職官類、二師〕宋右師・左師。

【二翅】409 シニ 二つのはね。〔曹植、鷂雀賦〕雀得鷂言、意甚不移、目如擘椒、跳蕭二翅。

【二匙】410 シニ 二つのさじ。〔王彧、頌禪詩〕一榻省緣資困歇、二匙隨分了饑餐。

【二笥】411 シニ 二つのはこ。〔史記、趙世家〕帝甚喜、賜我二笥、皆有副。

【二耜】412 シニ 二つのすき。〔周禮、考工記、匠人〕爲溝洫、耜廣五寸、二耜爲耦、一耦之伐、廣尺深尺、謂之甽。〔漢書、食貨志上〕后稷始甽田、以二耜爲耦、廣尺深尺曰甽。

【二絲】413 シニ 二つの絲。又、黑白二種類の絲。白髮まじりの頭髮をいふ。〔楊志堅、送妻詩〕平生志業在琴詩、頭上如今有二絲。

【二視】414 シニ 二つのものを見る。〔春秋繁露、天道無二〕目不能二視、耳不能二聽、一手不能二事。

【二肆】415 シニ ふたならび。二列。〔左氏、襄、十一〕凡兵車百乘、歌鐘二肆、及其鎛磬女樂二八。〔注〕肆、列也、縣鐘十六爲一肆、二肆三十二枚。〔疏〕鐘磬皆編縣之、在簨簴而各有行列也。〔蔣至、洞庭張樂賦〕舞妙有爲八佾、懸至和爲二肆。

【二詩】416 シニ 二つの詩。〔左氏、襄、二十六〕國景子相齊侯賦蓼蕭、子展相鄭伯賦緇衣。〔注〕蓼蕭・緇衣二詩、所趣各不同。

【二駟】417 シニ 馬八頭をいふ。〔戰國、齊策〕遣太傅齎黃金千斤、文車二駟、服劍一、封書謝孟嘗君。〔漢書、景帝紀〕賜諸侯王列侯馬二駟。〔注〕八匹也。

【二齒】418 シニ 二つの齒。〔唐書、則天武皇后傳〕太后雖春秋高、善自塗澤、雖左右不悟其衰、俄而二齒生、下詔改元爲長壽。

【二謚】419 シニ 二つのおくり名。〔唐書、裴子餘傳〕卒謚曰孝、時程行諶謚貞、中書令張說歎曰、二謚可無媿矣。

【二字】420 ジニ ㊀二つの文字。二言。〔詩、毛詩國風、釋文〕或云、小毛公加毛詩二字。〔杜預、春秋左氏傳序、疏〕年有四時、不可偏擧四字、以爲書號、故交錯互擧、取春秋二字、以爲所記之名也。㊁實名。名のり。多く二字から成るからいふ。人に名簿を獻る時にいふ語。〔古事談、一〕書二字獻之、退出了、其後無殊入來事。

【二字缺】421 ニジケツ 清代、地方官職の一。土地の情況によつて任地を衝繁疲難の四種に分けた。其の二つの情況を具有する地の官をいふ。一字缺（1－1‥801）を見よ。〔清國行政法汎論、地方官廳、地方缺種類〕世俗分缺之種類、爲四字缺・三字缺・二字缺・一字缺・無字缺。

【二次】422 ジニ 第二回。第二番目。二度目。

【二次革命】423 ニジカクメイ 民國二年に國民黨が袁世凱を討つた戰。但し、袁世凱に機先を制せられて失敗した。

【二次函數】424 ニジカンスウ 數學用語。最高乘冪が二なる函數。

【二次曲線】425 ニジキョクセン 數學用語。XYの二次方程式の軌跡。圓錐曲線。

【二次方程式】426 ニジハウテイシキ 數學用語。未知數の最高冪指數が二なる方程式。

【二事】427 ジニ 二つの事。〔周禮、天官、內宰〕使各有屬、以作二事。〔左氏、襄、十〕女成二事、而後告余。

【二兒】428 ジニ 二人の子供。〔晉書、羊祜傳〕人有略吳二兒爲俘者、祜遣送還其家、後、吳將夏詳・邵顗等來降、二兒之父、亦率其屬與俱。〔宋書、陶潛傳〕使一門生二兒轝籃輿。〔世說新語、夙惠〕二兒共敍客主之言、都無遺失。

【二時】429 ジニ 二つの時。㊀二つの季節。二季。〔詩、小雅、四月序、四月大夫刺幽王也、疏〕詩人以夏四月行役、至六月暑往、未得反、已闕二時之祭、後當復闕二時也。〔公羊、桓、四、夏天王使宰渠伯糾來聘、注〕下去二時者、桓公無王而行、天子不能誅、反下聘之、故爲貶、見其罪、明不宜。㊁二つの時間。例へば、朝と晩とをいふ。〔陳書、徐孝克傳〕每日二時講、旦講佛經、晚講禮傳、道俗受業者數百人。

【二辭】430 ジニ 二つの文辭。〔南齊書、禮志上〕僕射王奐等十四人議、並同幷撰、立贊冠・醮二辭。

【二州】431 シウニ 二つの州。又、二國。二邦。〔詩、周南召南譜、疏〕江漢之域、卽梁・荊二州、故尚書注云、南兼梁・荊。〔漢書、成帝紀〕河決東郡、流漂二州。

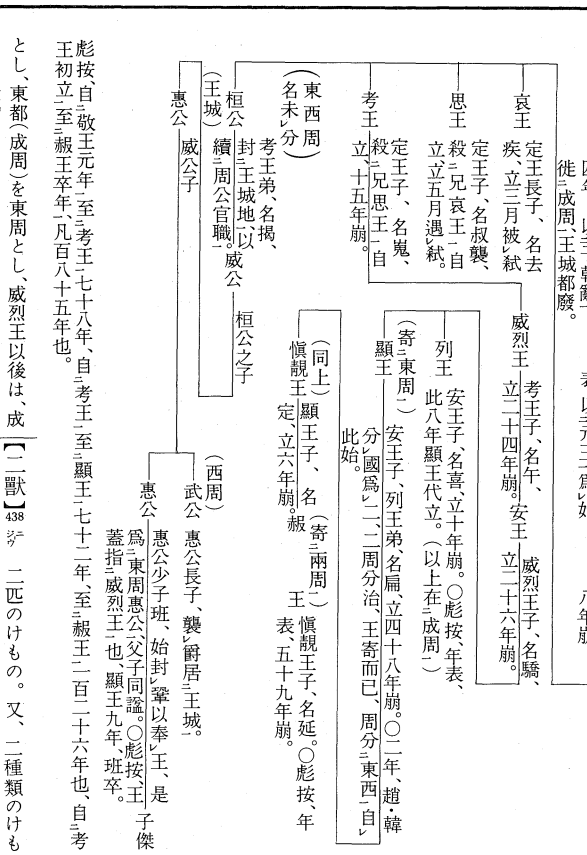
【二收】432 シウニ 二度の收穫。〔唐書、南詔傳上〕人歲輸米二斗、一藝者給田、二收乃稅。

【二舟】433 シウニ 二つの舟。〔元史、河渠志三〕大橛上、每組或硾二舟或三舟、使不得下。

【二周】434 シウニ ㊀宗周と成周。宗周は、武王が都した鎬京を指し、天下の宗とする所なので宗周といひ、是を西都といふ。成周は、東都の總名で、河南に王城があり、洛陽は其の下都であり、周道が此に成つたので成周といふ。東西周（6－14499‥302）を見よ。〔詩、王風、黍離、會箋〕始武王作邑于鎬京、謂之宗周、是爲西都、成王欲宅洛邑、使召公先相宅、既成、謂之王城、是爲東都、今河南、是也、召公既相宅、周公往營成周、今洛陽、是也、成王居洛陽、遷殷頑民于成周、復還歸處西都、至於十一世、幽王嬖褒姒、生伯服、廢申后、太子宜咎奔申、申侯與犬戎攻宗周、弒幽王于戲、晉文侯・鄭武公、迎宜咎于申而立之、是爲平王、徙居東都王城、呂氏曰、成周乃東都總名、河南、成周之王城也、雒陽、成周之下都也、云云、以其爲天下所宗、謂之宗周、以周道成於此、謂之成周。㊁西周と東周。平王の東遷以後は、豐鎬（宗周）を西周

東西周地圖（歷代輿地圖）

東西周世系（岡井彪、讀戰國策）



彪按、自敬王元年至考王七十八年、自考王至顯王七十二年、至赧王二百二十六年也、自考王初立至赧王卒年、凡百八十五年也。

とし、東都（成周）を東周とし、威烈王以後は、成周の王城であつた河南を西周とし、成周の下都であつた洛陽を東周とした。東西周（6－14499：302）を見よ。〔詩、王風、黍離、會箋〕平王東遷之後、所謂西周者、豐鎬也、東周者、東都也、威烈王之後、所謂西周者、河南也、東周者、雒陽也。❸二週年。二箇年。〔潘岳、爲賈謐作贈陸機〕詩〕自我離羣、二周于今。〔注〕銑曰、謐與機別、經二年也。

【二洲】435ジシウ 尾藤孝肇の號。尾藤二洲（4－7650：73）を見よ。

【二秋】436ジシウ 二度の秋。又、二箇年。〔陸機、答賈長淵〕詩〕游跨三春、情固二秋。〕

【二差】437ジシア 二つの御馳走。二つのさかな。〔小學紺珠、器用類、二差〕房中之羞、庶羞。

【二獸】438ジシウ 二匹のけもの。又、二種類のけもの。〔杜預、春秋左氏傳序〕麟鳳五靈王者之嘉瑞也、疏〕濁擧麟・鳳而云五靈、知二獸以外、爲二龜・龍・白虎者、以二鳥獸一而爲瑞、不レ出二五者一、經傳識緯、莫不二盡然一。〔宋史、樂志十三〕帝圖二會昌一、二獸效祥、雙角共觝、示レ武不レ傷。

【二七】439ジシチ ❶數の十四をいふ。〔周禮、考工記、匠人〕夏后氏世室、堂修二七、廣四修一。〔注〕夏度以レ步、令二堂修十四步一。〔宋書、禮志二〕漢書、八月、祓二于霸上一、劉魯都賦、素秋二七、天漢指隅、人胥祓除、國子水嬉。又是用二七月十四日一也。〔北史、張普惠傳〕伏見、明教立二射會之限一、將レ以二七令辰一、集二城中文武一肄二武藝一于北園一、行二揖讓於中否一、時非二大閱之秋一、景涉二妨農之節一。❷十四歲。〔陳後主、東飛伯勞歌〕年時二七猶未レ笄、轉顧流盼鬢髮低。

【二七日】440フタナヌカ 人の死後十四日目をいふ。

【二七寶】441 erh⁴ ch'i¹ pao³ 上海通用の天寶銀。重量が漕平の五十兩前後のものをいふ。

【二七天癸至】442ニシチテンキイタル 女子は十四歲になると經水が通ずる。天癸（3－5833：363）を見よ。〔素問、上古天眞論〕二七而天癸至、任脈通、太衝脈盛、月事以レ時下、故有レ子。〔注〕天癸、天乙所レ生之癸水也、衝・任二脈、並起二於少腹之內胞中一、循二腹上一行、爲二經血之海一、女子主レ育二胞胎一、月有二盈虧一、故女子亦一月而經水應時下洩、虧卽復生、故於二初生之時一男女搆レ精、當レ爲レ有レ子、虛則易レ受故也。

【二失】443ニシツ 二つ失ふ。又、二つの失敗。〔宋史、富弼傳〕弼上言、是一擧而二失也。

【二室】444ニシツ ❶二つの室。ふたへや。❷嵩山の太室・少室の二石室。〔王維、戲贈二張五弟諲一詩〕閉レ門二室下、隱居十年餘。〔李白、贈二嵩山焦鍊師一詩〕二室凌二青天一、三花含二紫烟一。〔王尚網、風穴賦〕倚二嵩陽之二室一兮、瞻二鶴路於隆中一。

【二疾】445ニシツ 二つのやまひ。二つの苦しみ。〔宋史、劉平傳〕萬一元昊、潛結二契丹一、互爲二掎角一、則我一身二疾、不レ可二並治一、必輕者爲レ先、重者爲レ後、如何減二兵以應一河北。

【二日】446ニジツ ❶二つの太陽。二烏。〔禮、曾子問〕孔子曰、天無二二日一、土無二二王一。〔孟子、萬章上〕孔子曰、天無二二日一、民無二二王一。❷ふつか。月の第二の日。〔北史、魏收傳〕正月一日爲レ雞、二日爲レ狗。

【二日醉】447フツカヨヒ 酒の醉が翌日まで醒めないこと。宿醒。宿醉。〔あづまの道の記〕あしけれど飲みてなほさん二日醉。

【二實】448ニジツ ❶形狀は同じでも、處る場所を異にしてゐるもの。例へば、各〻一處に居る二匹の馬の如きをいふ。一實の對。〔荀子、正名〕物有二同レ狀而異レ所者一、有二異レ狀而同レ所者一、可レ別也、狀同而爲二異レ所者一、雖レ可レ合、謂二之二實一。❷米と絹とをいふ。銀と錢とを二虛といふのに對す。米と絹とは、其れ自身が實價を有するからいふ。〔元史、趙孟頫傳〕古者、以二米・絹民生所レ須、謂二之二實一、銀・錢與二二物一相權、謂二之二虛一。

【二襲】449ニシフ 衣服ふたかさね。〔史記、趙世家〕官牛畜爲レ師、荀欣爲二中尉一、徐越爲二內史一、賜レ相國衣二襲一。

【二十】450ニジフ ❶十の二倍。〔孟子、告子下〕吾欲二十而取一、何如。❷二十歲。はたち。〔周禮、地官、媒氏〕女二十而嫁。〔禮、曲禮上〕二十曰レ弱、冠。〔顏之推、古意詩〕十五好二詩書一、二十彈レ冠仕。

【二十官】451ニジフクワン 古の二十人の官員。大撓・黔如・容成・義和・尚儀・后益・胡曹・夷羿・祝融・儀狄・高元・虞姁・伯益・赤冀・乘雅・寒哀・王冰・史皇・巫彭・巫咸の二十人をいひ、一人が各〻一事を爲す。〔呂覽、勿躬〕大撓作二甲子一、黔如作二虜首一、容成作レ曆、羲和作二占日一、尚儀作二占月一、后益作二占歲一、胡曹作レ衣、夷羿作レ弓、祝融作レ市、儀狄作レ酒、高元作レ室、虞姁作レ舟、伯益作レ井、赤冀作レ臼、乘雅作レ駕、寒哀作レ御、王冰作二服牛一、史皇作レ圖、巫彭作レ醫、巫咸作レ筮、此二十官者、聖人之所二以治一天下一也、聖王不レ能二二十官之事一、然而使二二十官盡一其巧一、畢一其能一、聖王在レ上故也。

【二十三】452ニジフサン 後唐の潞王の幼時の名。正月二十三日に生れたからいふ。〔通俗編、數目、二十三〕言鯖、後唐潞王、以二正月二十三日一生、小字二十三、人臣奏對、但云二兩旬三日一、數物則云二二十二更過二十四一、不レ敢斥レ尊也、今滿洲有レ名二五十八・六十二・八十四一者上、不レ知二潞王已先レ之矣。

【二十子】453ニジフシ 叢書の名。三十册。明の吳勉學の校刊。其の內容は、老子・關尹子・文子・莊子・列子・管子・晏子春秋・荀子・韓非子・商子・孫子・吳子・鬼谷子・黃石公素書・司馬子・譚子化書・呂氏春秋・淮南子・揚子法言・文中子中說。

【二十寮】454ニジフレウ 昔、八省中に附屬した二十の役所。大舍人・圖書・內藏・縫殿・內匠・大學・雅樂・玄蕃・諸陵・主計・主稅・木工・左馬・右馬・兵庫・陰陽・主殿・大炊・掃部・齋宮。

【二十一鄉】455ニジフイツキヤウ 齊の管仲の別けた土地

區分。二千戸を一鄉とす。〔國語、齊語〕管子於レ是制レ國、以爲二二十一鄉一、工商之鄉六、士鄉十五。

【二十一經】456 ニジフイツケイ 易・書・詩・周禮・儀禮・禮記・春秋左傳・公羊傳・穀梁傳・論語・孝經・爾雅・孟子・國語・大戴禮・史記・漢書・資治通鑑・說文解字・九章算術・周髀算經をいふ。〔劉恭冕、廣經室記〕段玉裁謂、宜レ以二國語・大戴禮・史記・漢書・資治通鑑・說文解字・九章算術・周髀算經一爲中二十一經上。

【二十一史】457 ニジフイチシ 史記・前漢書・後漢書・三國志・晉書・宋書・南齊書・梁書・陳書・魏書・北齊書・周書・隋書・南史・北史・唐書・五代史・宋史・遼史・金史・元史。二十四史(478)を見よ。〔日知錄、監本二十一史〕宋時止有二十七史一、今則幷二宋・遼・金・元四史一爲二二十一史一。

【參考書】【二十一史彈】一卷清、徐沆撰。【二十一史四譜】五十四卷清、沈炳震撰。【二十一史彈詞輯注】十卷清、孫德威撰。

【二十一服】458 ニジフイツブク 唐代、群臣の用ひた二十一種類の冠と服。〔羣書拾唾、器服音樂〕二十一服、唐制、羣臣之服、二十有一、衮冕・鷩冕・毳冕・絺冕・玄冕・平冕・爵弁・武弁・弁服・進賢冠・遠遊冠・法冠・高山冠・委貌・郃非冠・平巾幘・黑介幘・介幘・貝服・平巾綠幘・從省服。

【二十家子】459 カシンツ 地名。●滿洲吉林省伊通縣の西北。●綏遠省和林格爾縣の治。蒙古語では二十を和林、房室を格爾といふ。

【二十幾兒】460 èrh⁴ shih² chi³ èrh 月の下旬。

【二十九篇】461 キウペン 伏生が壁中から得た尚書の篇數。今の今文尚書。尚書(4—7493‥85)を見よ。〔史記、儒林傳〕秦時焚レ書、伏生壁二藏之一、其後、兵大起流亡、漢定、伏生求二其書一、亡二數十篇一、獨得二二十九篇一。

【二十五有】462 ニジフゴウ 佛衆生の流轉する三界を二十五種に分けた、其の總稱。欲界の十四有と色界の七有と無色界の四有との併稱。〔涅槃經、十四〕菩薩摩訶薩住二無畏地一、得二二十五三昧一、壞二二十五有一。

【二十五絃】463 ニジフゴゲン 二十五筋の絲を張つた琴。〔淮南子、泰族訓〕琴不レ鳴、而二十五絃、各以二其聲一應。〔漢書、郊祀志〕泰帝使二素女鼓一二五十絃一、悲、帝禁、不レ止、故破二其瑟一、爲二二十五絃一。〔錢起、歸雁詩〕瀟湘何事等閒回、水碧沙明兩岸苔、二十五絃彈二夜月一、不レ勝二清怨一、卻飛來。

【二十五史】464 ニジフゴシ 二十四史に新元史を加へたもの。二十四史(478)を見よ。〔開明書店刊、二十五史〕。

【二十五諦】465 ニジフゴタイ 佛印度の數論派 サーンキヤ の哲學に於て、宇宙萬有の展開する順序を説明する根本原理。神我(精神的本體)と自性(物質的本體)との作用によつて、順次に自性・大・我慢・五唯(色・聲・香・味・觸)・五大(空・風・火・水・地)・五知根(眼・耳・鼻・舌・身)・五作業根(口・手・足・小遺處・大遺處)・心平等根・我知者を生ず。〔唯識述記、一末〕廣爲二二十五諦一者、一自性、二大、三我慢、四五唯、五五大、六五知根、七五作業根、八心平等根、九我知者。

二十五絃(義精呂律) 琴

【二十五部】466 ニジフゴブ 佛密教で金剛界の五智を五部とし、又其の各〻が五智を具するから二十五部といふ。〔祕藏記〕建二立二十五部一如何、五部卽五智、一智所レ具二五智一、所レ以成二二十五部一、如是展轉有二無量部一。

【二十五里】467 ニジフゴリ 上總國の地名。〔安齋叢書〕。

【二十左右】468 サイウ 二十歲前後。はたちばかり。〔日本外史、源氏正記、源氏〕其年齒二十左右、面目俊邁。

【二十三史】469 ニジフサンシ 汲古閣原本の十七史に、舊五代史・新五代史・東都事略・契丹國志・大金國志・橫雲山人明史稿の六史を加へて、席氏の補刊したもの。〔叢書書目彙編〕。

【二十三夜】470 ニジフサンヤ 陰曆十月二十三日の夜。此の夜、月の出るのを待つて供物をする。〔今宮の心中、中〕二十三夜の代待や。

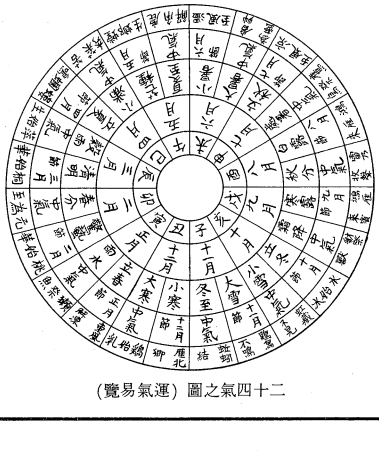
【二十四友】471 ニジフシイウ 晉の劉琨の兄弟及び石崇・歐陽建等、賈謐に師事した二十四人の交友。卽ち、郭彰・石崇・陸機・陸雲・和郁・潘岳・崔基・歐陽建・繆徵・杜斌・摯虞・諸葛詮・王粹・杜育・鄒捷・左思・劉瓌・周恢・牽秀・陳眕・許猛・劉訥・劉輿・劉琨。〔晉書、劉琨傳〕祕書監賈謐、參二管朝政一、石崇・歐陽建・陸機・陸雲之徒、並以二文才一降節事レ謐、琨兄弟亦在二其間一、號曰二二十四友一。

【二十四考】472 ニジフシカウ 唐の郭子儀が甚だ久しく中書令になつてゐて、士を試驗することが二十四回に及んだことをいふ。考は考試。〔唐書、郭子儀傳〕校二中書令一考二二十有四一。〔全唐詩話〕李義山謂二溫庭筠一曰、近得二一聯句一云、遠比趙公二三十六年宰輔、未レ得二偶句一、溫曰、何不レ云下近同二郭令一二十四考中書上。

【二十四孝】473 ニジフシカウ ●古今の孝子二十四人。其の人と排列の順序については異同がある。①元の郭居敬の說。虞舜・漢文帝・曾參・閔損・仲由・董永・剡子・江革・陸績・唐夫人・吳猛・王祥・郭巨・楊香・朱壽昌・庾黔婁・老萊子・蔡順・黃香・姜詩・王褒・丁蘭・孟宗・黃庭堅。〔郭居敬、二十四孝〕。〔明、范泓編、典籍便覽、二〕。㊁一說に、大舜・董永・丁蘭・閔損・剡子・孟宗・朱壽昌・田眞・郭巨・老萊・吳猛・曾參・漢文帝・王褒・楊香・庾黔婁・張孝・黃香・黃山谷・陸績・唐夫人・王祥・姜詩・蔡順。〔淸家祕本、二十四孝詩註〕、二十四章孝行錄抄〕。㊂又、一說に、虞舜・老萊子・郭巨・董永・閔損・曾參・孟宗・劉殷・王祥・姜詩・蔡順・陸績・王武子・曹娥・丁蘭・劉明達・元覺・田眞・魯姑・趙孝宗・鮑山・韓伯瑜・琰子・楊香。〔狩谷棭齋藏、孝行錄古抄本、二十四孝〕。●書名。元、郭居敬撰。古今の孝子二十四人の事を記す。●の①を見よ。

【二十四氣】474 ニジフシキ 一年の氣候をいふ。十五日を一氣とし、一月を二氣とし、一年を二十四氣とする。漢代の制定に係る。今傳はるものは漢の劉歆の改めたものであるといふ。二十四節。二十四時。

	陰曆	陽曆
立春	正月節	二月四日、五日
雨水	正月中	二月十九日、二十日



二十四氣運圖之氣(覽易氣運)

春		夏		秋		冬	
驚蟄	二月節	立夏	四月節	立秋	七月節	立冬	十月節
春分	二月中	小滿	四月中	處暑	七月中	小雪	十月中
淸明	三月節	芒種	五月節	白露	八月節	大雪	十一月節
穀雨	三月中	夏至	五月中	秋分	八月中	冬至	十一月中
		小暑	六月節	寒露	九月節	小寒	十二月節
		大暑	六月中	霜降	九月中	大寒	十二月中
	三月五日、六日		五月六日、七日		八月八日、九日		一月六日、七日
	三月二十一日、二十二日		五月二十一日、二十二日		八月二十三日、二十四日		一月二十日、二十一日
	四月五日、六日		六月六日、七日		九月八日、九日		二月四日、五日
	四月二十日、二十一日		六月二十一日、二十二日		九月二十三日、二十四日		二月十九日、二十日

〔禮、月令、疏〕(漢時)驚蟄爲二正月中氣一、雨水爲二二月節一、前漢之末、劉歆作二三統麻一、改二驚蟄一爲二二月節一、雨水爲二正月中一、三統麻、三月節穀雨、淸明中、按、通卦驗及今麻、以二淸明一爲二三月節一、穀雨爲二三月中一、餘皆與二三律曆志一並同。〔玉海、律

歴、時令）方氏曰、積二六候一而成レ月、故一歳則有二七十二候一、三候爲二一氣一、積二六氣一而成レ時、故一歳則有二二十四氣一。（陔餘叢考、二十四節氣名）二十四節氣名、其全見二於淮南子天文篇一、及漢書歴志（三代以上、堯典但有二二分二至一、其餘多不二經見一、惟汲冢周書時訓解、始有二二十四節名一、其序云、周公辨二二十四氣之應一、以順二天時一、作二時訓解一、則其名蓋定二於周公一。

『二十四橋』475 江蘇省江都縣の西門外に在る名勝。二十四の橋には存廢があつて、其の詳細は明かでない。一説に、一つの橋の名といふ。（天祿識餘、二十四橋）説楛、揚州在二唐時一最爲二富盛一、舊城南北十五里一百一十步、東西七里三十步、有二二十四橋一、最西濁河、茶園橋、次東大明橋、入二西水門一有二九曲橋一、次東正當二卽衙一、南門有二下馬橋一、又東作二功橋一、橋東河轉向レ南、有二洗馬橋一、次南橋、又南河師橋・周家橋・小市橋・廣濟橋・新橋・開明橋・顧家橋・通泗橋・太平橋・利國橋、南水門有二萬歳橋・青園橋一、自二驛橋一北、河流東出有二參佐橋一、次東水門東出有二山光橋一、又自二衙門下馬橋一、直南有二北三橋・中三橋・南三橋一、號二九橋一、不レ通レ船、不レ在二二十四橋之數一。（揚州府志）二十四橋在二舊城內一、隋置、并以二城門坊市一爲レ名、後韓令坤築二州城一、二分二布阡陌一、別立二橋梁一、遂令二二十四橋存廢莫レ考、訪二古者悵焉一、杜牧之寄二韓判官一詩、青山隱隱水迢迢、秋盡江南草木凋、二十四橋明月夜、玉人何處教レ吹レ簫。（揚州畫舫錄）二十四橋、一名二紅藥橋一、卽吳家磚橋、古有二二十四美人一吹レ簫於此一、故名。

『二十四戟』476 二十四の戟。廟社宮殿の門に儀仗として立てるもの。（小學紺珠、制度類、二十四戟）凡戟、廟社宮殿之門二十有四、東宮之門十八、一品之門十六、二品及京兆・河南・太原尹、大都督・大都護之門十四、三品及上中都督・上都護・上州之門十二、下都督・都護・中州・下州之門各十一、宋崇寧中、文宣王廟立二戟二十四一。

『二十四賢』477 三國、魏の時の二十四人の賢者。杜喬・張奐・向詡・陳蕃・施延・李膺・朱寓・杜密・韓融・荀爽・房植・姜肱・陳球・王暢・申屠蟠・張儉・鄭玄・冉璆・李固・郭泰・朱穆・魏朗・徐穉・皇甫規。（聖賢羣輔錄、二十四賢）大尉河南杜喬字叔榮、大常燉煌張奐字然明、侍中河內向詡字甫興、太傅汝南陳蕃字仲擧、太尉沛國施延字君子、少府潁川李膺字元禮、司隷沛國朱寓字季陵、太僕潁川杜密字周甫、大鴻臚潁川韓融字元長、司空潁川荀爽字慈明、司空清河房植字伯武、聘士彭城姜肱字伯淮、太尉下邳陳球字伯眞、司空山陽王暢字叔茂、徵士陳留申屠蟠字子龍、衞尉山陽張儉字元節、大司農北海鄭玄字康成、徵士樂安冉璆字孟玉、太尉漢中李固字子堅、有道太原郭泰字林宗、益州刺史南陽朱穆字公叔、尚書會稽魏朗字少英、聘士豫章徐穉字孺子、度遼將軍安定皇甫規字威明、右魏文帝初爲二丞相一、魏王所二旌表一二十四賢、後明帝乃述二撰其狀一、見二文帝令及甄表狀一。

『二十四史』478 清の乾隆年間に選定した歴代の正史二十四。

	書名	卷數	撰者名
一	史記	一三〇	漢、司馬遷
二	漢書	一二〇	後漢、班固
三	後漢書	一二〇	南朝宋、范曄
四	三國志	六五	晉、陳壽
五	晉書	一三〇	唐、房玄齡
六	宋書	一〇〇	梁、沈約
七	南齊書	五九	梁、蕭子顯
八	梁書	五六	唐、姚思廉
九	陳書	三六	唐、姚思廉
一〇	後魏書	一一四	北齊、魏收
一一	北齊書	五〇	唐、李百藥
一二	周書	五〇	唐、令狐德棻
一三	隋書	八五	唐、魏徵
一四	南史	八〇	唐、李延壽
一五	北史	一〇〇	唐、李延壽
一六	舊唐書	二〇〇	五代晉、劉昫
一七	新唐書	二二五	宋、歐陽脩
一八	舊五代史	一五二	宋、薛居正
一九	新五代史	七五	宋、歐陽脩
二〇	宋史	四九六	元、托克托
二一	遼史	一一六	元、托克托
二二	金史	一三五	元、托克托
二三	元史	二一〇	明、宋濂
二四	明史	三三六	清、張廷玉

右の內、舊唐書・舊五代史及び宋史以下を省いたものを「十七史」、十七史に宋史を加へたものを「十八史」といふ。又、右の內、舊唐書・舊五代史・明史を省いたものを「二十一史」、二十一史に明史を加へたものを「二十二史」といひ、二十四史に、柯劭忞の撰した新元史を加へて「二十五史」といふ。二十一史・二十二史を見よ。（四庫提要、史部、正史類）正史之名、見二於隋志一、至レ宋而定、著二十七、明刊監版、合二宋遼金元四史一、爲二二十有一一、皇上欽定明史、又詔增二舊唐書一、爲二二十有三一、近蒐二羅四庫薛居正舊五代史一、得二裒集成編一、欽奉二睿裁一、與二歐陽脩書一竝列、共爲二二十有四一。（魯仕驥、史姓韻編序）蕭山汪君龍莊、合二二十四史記載之人一、標レ姓彙錄、依レ韻分レ編、著二史姓韻編一書。

『二十四時』479 ㊀一晝夜をいふ。一日を十二時に分ち、一時を初・正の二小時に分つ。（十駕齋養新錄）㊁二十四氣に同じ。

『二十四節』480 二十四氣に同じ。

『二十四蹄』481 六頭の馬。（列子、湯問）二十四蹄、所レ投無レ差。

『二十四人』482 二十四人の功臣。唐の太宗の凌煙閣に畫かれたものは下の如し。大中の初に、之が續圖を作つて、三十七人を畫く。（小學紺珠、名臣類下）勳臣二十四人、太宗詔圖二形凌煙閣一、長孫無忌（趙公）・河間孝王恭・杜如晦（萊公）・魏徵（鄭公）・房玄齡（梁公）・尉遲敬德（鄂公）・李靖（衞公）・蕭瑀（宋公）・段志玄（褒公）・劉弘基（夔公）・屈突通（蔣公）・殷開山（鄖公）・許紹（譙公、兩京記、柴紹）・長孫順德（邳公）・張亮（鄖公）・侯君集（陳公）・張公謹（鄖公）・程知節（盧公）・虞世南（永興公）・劉政會（渝公）・唐儉（莒公）・李勣（英公）・高士廉（申公）・秦叔寶（胡公）。

『二十四品』483 牡丹花のすぐれたもの二十四種。（歐陽脩、花品錄）牡丹二十四品、姚黃（千葉黃花、出二姚家一）・魏花（千葉肉紅花、出二魏丞相家一）・牛家黃（亦千葉、比二姚黃一差小）・左花（一葉紫花、葉密而齊、一名平頭紫）・粧紅（亦曰二青出紅一、單葉深紅花）・細葉壽安・粗葉壽安（千葉肉紅、花出二壽安縣錦屏山中一、細葉者佳）・潛溪緋（千葉緋花、出二潛溪寺一）・獻來紅（大多レ葉、淺紅花）・葉底紫（千葉紫花）・鶴翎紅（多レ葉、花其末白、而本肉紅如二鶴翎一）・添色紅（多レ葉、紅花）・朱砂紅（多レ葉、紅花）・延州紅（千葉、紅花）・多葉紫（不レ知レ所レ出）・倒暈檀心（多レ葉、紅花）・九蕊眞珠（千葉、紅花）・蓮花萼（多レ葉、紅花青蕤三臺）・一百五（多レ葉、紫花、常至二寒食前後一開、開最先）・丹州紅（千葉、紅花）・一撮紅（多レ葉、淺紅花）・鹿胎花（多レ葉、紫花有二白點一）・甘草黃（單葉、色如二甘草一）・玉版白（單葉白花、葉細長如二拍版一）。

『二十而笄』484 女子が二十歳になると笄を加へて成人の禮を行ふこと。（禮、雜記下）女雖レ未二許嫁一、年二十而笄。

『二十七種』485 貧しくて食事の粗末なことをいふ。齊の庾杲之が貧しくて三種の韭菜しかとらなかつたのを、或る人が戲れ評した語。三韭は三九と音が通じ、三九は二十七となるからいふ。（南齊書、庾杲之傳）清貧自業、食唯有二韭菹・薤韭・生韮・雜菜一、或戲レ之曰、誰謂二庾郎貧一、食鮭嘗有二二十七種一、言二三九也一。

『二十二賢』486 二十二人の賢者。唐の貞觀二十一年に孔子の廟に配享せられたものは下の如し。左丘明・卜子夏・穀梁赤・伏勝・高堂生・戴聖・毛萇・孔安國・劉向・鄭衆・賈逵・杜子春・馬融・盧植・鄭玄・服虔・何休・王肅・王弼・杜預・范甯。（小學紺珠、聖賢類、二十二賢）。

『二十二子』487 書名。㊀清の光緒年間に浙江書局で彙刻した叢書。荀子・老子・莊子・淮南子・列子・尸子・商君書・墨子・韓非子・孔子家語・晏子春秋・呂氏春秋・孫子・管子・文子纘義・山海經・竹書紀年・春秋繁露・賈誼新書・揚子法言・文中子・黃帝內經の二十二種の書を輯めてゐる。㊁清の王讓堂の彙刻した叢書。二十二子全書（5288）を見よ。

『二十二史』488 二十四史（478）を見よ。

《參考書》【二十二史考異】一百卷 清、錢大昕撰。【二十二史劄記】三十六卷 清、趙翼撰。

【二十二社】489 ニジフニシャ 古、京都の守護神として祭られた二十二座の神社。伊勢・石清水・加茂・松尾・平野・稻荷・春日・大原野・大神・石上・大倭・廣瀨・龍田・住吉・日吉・梅宮・吉田・廣田・祇園・北野・丹生川上・貴船。

【二十二省】490 ニジフニセウ 二十八省(495)を見よ。

【二十二人】491 ニジフニニン 虞舜の二十二人の名臣をいふ。數說ある。一禹・垂・益・伯夷・夔・龍の六人、及び四岳・十二牧をいふ。(書、舜典)帝曰、咨、汝二十有一人。(傳)禹・垂・益・伯夷・夔・龍六人、新命有レ職、四岳、十有二牧、凡二十二人、特敕命レ之。二上記の六人及び、殳斯・伯與・朱虎・熊羆の四人と十二牧とをいふ。(書、舜典、疏)鄭以爲、二十二人、數二殳斯・伯與・朱虎・熊羆一、不レ數二四岳一、彼四人者、直被二讓而已一、不レ言レ居レ官、何故敕使レ敬レ之也、岳牧俱是帝所二咨詢一、何以敕レ牧不レ敕レ岳也、必非二經旨一、故孔說不レ然。三二十二人は三十二人の誤りで、禹・稷・契・皐陶・垂・益・伯夷・夔・龍・殳・斯(殳・斯を二人とする)・伯與・朱・虎・熊・羆(朱・虎・熊・羆を四人とする)の十六人及び四岳・十二牧をいふ。(經義述聞、尚書、上、咨女二十有二人)引之謹案、馬不レ數二稷・契・皐陶一、豈有二稷・契・皐陶一、不レ在二亮工之列一者乎、鄭不レ數二四岳一、豈有二敕レ牧而遺レ岳者一乎、今案、二十有二人、上二字、當レ作レ三、傳寫者脫二去一畫一、三十二人者、四岳爲二四人一、十二牧爲二十二人一、禹・稷・契・皐陶・垂・益・伯夷・夔・龍爲二九人一、殳・斯・伯與、爲二三人一、朱・虎・熊・羆爲二四人一、則三十二人也。

【二十日草】492 ハツカグサ 木の名。ぼたん。牡丹(7—19933‥16)の異名。(白居易、牡丹芳)花開花落二十日、一城之人皆若レ狂。

【二十日鼠】493 ハツカネズミ 家鼠の一種。體が小さく、毛は灰黑色、頭が尖り、耳が長く、尾も長く、主として人家に住み、普通の家鼠の生後二十日位の時の大きさなので、此の名を得たといふ。

【二十八舍】494 ニジフハッシャ 二十八宿に同じ。(史記、律書)七正二十八舍。(晉書札記)顧眞子云、二十八宿、謂レ之二十八舍一、又謂二之二十八次一、次也、舍也、皆有二止宿之意一、今乃音繡、非也。

【二十八省】495 ニジフハッセウ 舊中國行政區劃の總稱。明代には北直隸・南直隸・山東・山西・河南・浙江・湖廣・江西・陝西・四川・福建・廣東・廣西・貴州・雲南の十五省を置く。清初には之に因り、北直隸を直隸に、南直隸を江南に改めた。康熙の時、陝西を陝西・甘肅に、湖廣を湖南・湖北に、江南を江蘇・安徽に分ち、合計十八省とし、後、奉天・吉林・黑龍江・新疆の四省を增して二十二省とした。民國になつて、直隸を河北に、奉天を遼寧に改め、又、熱河・察哈爾・綏遠・西康・寧夏・青海の六省を增して合計二十八省とした。

【二十八將】496 ニジフハッシャウ 二十八人の武將。一後漢の明帝の時に、光武帝の功臣で雲臺に畫かれた人々。之を雲臺二十八將といふ。(後漢書、朱景王杜馬劉傅堅馬傳論)永平中、顯宗追二感前世功臣一、乃圖二畫二十八將於南宮雲臺一、其外又有二王常・李通・竇融・卓茂、合三十二人一、故依二其本第一、係二之篇末一、以志二功臣之次一云爾、太傅高密侯鄧禹・中山太守全椒侯馬成・大司馬廣平侯吳漢・河南尹阜成侯王梁・左將軍膠東侯賈復・琅邪太守祝阿侯陳俊・建威大將軍好時侯耿弇・驃騎大將軍參蘧侯杜茂・執金吾雍奴侯寇恂・積弩將軍昆陽侯傅俊・征南大將軍舞陽侯岑彭・左曹合肥侯堅鐔・征西大將軍陽夏侯馮異・上谷太守淮陵侯王霸・建義大將軍鬲侯朱祐・信都太守阿陵侯任光・征虜將軍潁陽侯祭遵・豫章太守中水侯李忠・驃騎大將軍樊陽侯景丹・右將軍槐里侯萬脩・虎牙大將軍安平侯蓋延・太常靈壽侯邳彤・衞尉安成侯銚期・驍騎將軍昌成侯劉植・東郡太守東光侯耿純・橫野大將軍山桑侯王常・城門校尉朗陵侯臧宮・大司空固始侯李通・捕虜將軍揚虛侯馬武・大司空安豐侯竇融・驃騎將軍愼侯劉隆・太傅宣德侯卓茂。(羣書拾唾)雲臺二十八將、漢明帝圖二此二十八人於南宮雲臺一、鄧禹(高密侯)・馬成(全椒侯)・吳漢(廣平侯)・王梁(阜成侯)・賈復(膠東侯)・陳俊(祝阿侯)・耿弇(好時侯)・杜茂(參蘧侯)・寇恂(雍奴侯)・傅俊・昆陽侯)・岑彭(舞陽侯)・堅鐔(合肥侯)・馮異(陽夏侯)・王霸(淮陵侯)・朱祐(鬲侯)・任光(阿陵侯)・祭遵(潁陽侯)・李忠(中水侯)・景丹(櫟陽侯)・萬脩(槐里侯)・蓋延(安平侯)・邳彤(靈壽侯)・銚期(安成侯)・劉植(昌成侯)・耿純(東光侯)・臧宮(朗陵侯)・馬武(揚虛侯)・劉隆(愼侯)・後又益以二王常(山桑侯)・李通(固始侯)・竇融(安豐侯)・卓茂(宣德侯)一、共二十二人。二德川家康の功臣で日光廟に合祀せられた人々。松平康忠・酒井忠次・井伊直政・榊原康政・大須賀康高・大久保忠教・伊奈忠俊・內藤家長・伊奈忠政・大久保忠世・內藤信成・酒井正親・大久保忠佐・米津淨忠・平岩親吉・奧平信昌・本多忠勝・鳥居元忠・菅沼定盈・渡邊守綱・岡部長成・高木性順・蜂屋貞次・服部正綱・安藤直次・本多康高・松平伊忠・水野勝成。

【二十八宿】497 ニジフハッシュク 天の周圍に列する二十八座の星。角・亢・氐・房・心・尾・箕・室・壁・斗・牛・女・虛・危・奎・婁・胃・昴・畢・觜・參・井・鬼・柳・星・張・翼・軫。星・宿、其の他に配すると左表のやうに爲る。二十八星。

星宿	角	亢	氐	房	心	尾	箕	斗	牛	女	虛	危	室	壁	奎	婁	胃	昴	畢	觜	參	井	鬼	柳	星	張	翼	軫
獸	木蛟	金龍	土貉	日狐	月兎	火虎	水豹	木獬	金羊	土蝠	日鼠	月燕	火猪	水貐	木狼	金狗	土雉	日鷄	月烏	火猴	水猿	木猩	金羊	土獐	日馬	月鹿	火蛇	水蚓
州	兗			豫		幽		揚			青		幷				冀			益			雍					
分野	鄭			宋		燕		越		吳	齊		衞				趙			魏			秦		三河		荊	楚
方	東										北						西								南			
神	蒼龍										玄武						白虎						朱雀(朱鳥)					
度	七十五度										九十八度四分度之一						八十度						一百一十二度					

【呂覽、圜道】月躔二二十八宿一。(淮南子、天文訓)星分度、角十二、亢九、氐十五、房五、心五、尾十八、箕十一四分一、斗二十六、牽牛八、須女十二、虛十、危十七、營室十六、東壁九、奎十六、婁十二、胃十四、昴十一、畢十六、觜嶲二、參九、東井二十四、輿鬼四、柳一、五星、七星、張、翼各十八、軫十七、凡二十八宿也。(說苑、正諫)天有二二十八宿一。(陔餘叢考、二十八宿)二十八宿字、今人皆讀作レ秀、然禮記曰、宿離不レ忒、以レ初爲レ常、說苑辨物篇、天之五星、運二氣於五行一、所謂宿者、日月五星之所レ宿也、則宿字、仍當讀二本音一爲レ正、說文宿字、本只入二聲音一、白香山贈二溪翁一詩云、辭翁向二朝市一、問我何官祿、虛言笑二殺翁一、郎官應二列宿一、是唐人猶讀二入聲一也、讀眞子錄亦云、二十八宿、亦謂二之二十八舍一、又謂二之二十八次一、舍也、次也、皆有二止宿之義一、今乃音繡、此何理也、然庾信哀江南賦、飛二狄泉之蒼鳥一、起二橫江之困獸一、地則石鼓鳴レ山、天則金精動レ宿、是六朝時已讀作二去聲一。

【二十八星】498 ニジフハッセイ 二十八宿に同じ。(周禮、秋官、碁族氏)二十有八星之號。

【二十八祖】499 ニジフソ 佛禪宗で立ててゐる二十八人の祖師。摩訶迦葉・阿難尊者・商那和修・優婆毬多・提多迦・彌遮迦・婆須蜜・佛陀難提・伏馱蜜多・脇尊者・富那耶舍・馬鳴大士・迦比摩羅・龍

樹大士・迦那提婆・羅睺羅多・僧伽難提・伽耶舎多・鳩摩羅多・闍夜多・婆修盤多・摩拏羅・鶴勒那・師子尊者・婆舎斯多・不如蜜多・般若多羅・菩提達摩。〔傳法正宗記、二〕。

【二十八調】500 ニジフハチテウ 唐代、教坊で用ひた俗樂の調は、五聲の內の徵聲を失つて、合計四聲二十八調ある。卽ち、正宮・高宮・中呂宮・道調宮・南呂宮・仙呂宮・黃鐘宮の七宮と、越調・大食調・高大食調・雙調・小食調・歇指調・林鐘商の七商と、大食角・高大食角・雙角・小食角・歇指角・林鐘角・越角の七角と、中呂調・正平調・高平調・仙呂調・黃鐘羽・般涉調・高般涉の七羽とをいふ。〔唐書・禮樂志十二〕凡所謂俗樂者、二十有八調、正宮・高宮・中呂宮・道調宮・南呂宮・仙呂宮・黃鐘宮爲二七宮一、越調・大食調・高大食調・雙調・小食調・歇指調・林鐘商爲二七商一、大食角・高大食角・雙角・小食角・歇指角・林鐘角・越角爲二七角一、中呂調・正平調・高平調・仙呂調・黃鐘羽・般涉調・高般涉爲二七羽一、有レ與二律呂一同名而聲不レ近雅者上、其宮調乃應二夾鍾之律一、燕設用レ之。〔宋史、樂志十七〕燕樂以二夾鍾一收二四聲一、曰宮、曰羽、曰聞、聞爲角、其正角聲・變聲・徵聲皆不レ收、宮聲七調、皆生二於黃鐘一、商聲七調、皆生二於太簇一、羽聲七調、皆生二於南呂一、角聲七調、皆生二於應鐘一、此其四聲二十八調之略也。

【二十里堡】501 ニジフリホフ 塞の名。一河北省河間縣の北。二山東省東平縣の西北。三山東省掖縣の北。四二十里鋪の一を見よ。

【二十里鋪】502 ニジフリホフ 地名。一山東省濰縣の東南。膠濟鐵道が通じてゐる。二十里堡。二河南省滎陽縣の東。隴秦海鐵道が其の北を通つてゐる。三河南省中牟縣の東北。隴秦豫海鐵道が其の南を通つてゐる。四安徽省六安縣の北。

【二十六史】503 ニジフロクシ 二十四史に新元史及び清史列傳を加へていふ。二十四史を見よ。

【二十六本】504 トトロキ 羽後國の地名。

【二十六夜】505 ニジフヤ 陰曆一月及び七月の、二十六日の夜の稱。月の出る時、三尊の彌陀の像が見えるといふ。二十六夜待ともいふ。〔御所櫻堀川夜討、三〕二十六夜の月待の夜。

【二十一代集】506 ニジフイチダイシフ 我が國の勅撰歌集二十一部の總稱。古今和歌集・後撰和歌集・拾遺和歌集(以上三代集)、後拾遺和歌集・金葉和歌集・詞花和歌集・千載和歌集・新古今和歌集(以上八代集)、新敕撰和歌集・續後撰和歌集・續古今和歌集・續拾遺和歌集・新後撰和歌集・玉葉和歌集・續千載和歌集・續後拾遺和歌集・風雅和歌集・新千載和歌集・新拾遺和歌集・新後拾遺和歌集・新續古今和歌集(以上十三代集)。

【二十家子書】507 ニジフカシシヨ 叢書の名。明、謝其盛編。其の內容は、老子・關尹子・亢倉子・文子・尹文子・子華子・鬻子・公孫龍子・鬼谷子・列子・莊子・荀子・揚子法言・文中子・抱朴子・劉子・黃石公素書・玄眞子・天隱子・無能子。

【二十五菩薩】508 ニジフゴボサツ 〔彌二十五人の大菩薩。〔十往生經〕若有二衆生一、念二阿彌陀佛一、願二往生一者、彼極樂世界阿彌陀佛、卽遣二觀世音菩薩・大勢至菩薩・藥王菩薩・藥上菩薩・普賢菩薩・法自在菩薩・師子吼菩薩・陀羅尼菩薩・虛空藏菩薩・佛藏菩薩・德藏菩薩・金藏菩薩・金剛藏菩薩・山海慧菩薩・光明王菩薩・華嚴王菩薩・衆寶王菩薩・月光王菩薩・日照王菩薩・三昧王菩薩・定自在王菩薩・大自在王菩薩・白象王菩薩・大威德王菩薩・無邊身菩薩、是二十五菩薩、擁二護行者一。

【二十三絃瑟】509 ニジフサンゲンノシツ 二十三筋の絲を張つた瑟。〔呂覽、古樂〕瞽叟乃拌二五絃之瑟一、作以爲二十五絃之瑟一、命レ之曰二大章一、以祭二上帝一、舜立、仰延乃拌二瞽叟之所レ爲瑟一、益二之八絃一、以爲二二十三絃之瑟一。

【二十四詩品】510 ニジフシヒン 唐の司空圖の撰定した詩の二十四の品格。雄渾・沖淡・纖穠・沈著・高古・典雅・洗練・勁健・綺麗・自然・含蓄・豪放・精神・縝密・疎野・清奇・委曲・實境・悲慨・形容・超詣・飄逸・曠達・流動をいふ。〔四庫提要、集、詩文評類、詩品〕是書亦深解二詩理一、凡分二二十四品一、曰雄渾、曰沖淡、曰纖穠、曰沈著、曰高古、曰典雅、曰洗練、曰勁健、曰綺麗、曰自然、曰含蓄、曰豪放、曰精神、曰縝密、曰疎野、曰清奇、曰委曲、曰實境、曰悲慨、曰形容、曰超詣、曰飄逸、曰曠達、曰流動。

【二十四風堂】511 ニジフシフウダウ 清、王曇(7—20823‥86)の室名。

【二十四福堂】512 ニジフシフクダウ 清、王曇(7—20823‥86)の室名。

【二十而後嫁】513 ニジフニシテカス 女子が二十歳になつて始めて結婚すること。周代の婚姻制度。〔周禮、地官、媒氏〕女二十而嫁。〔孔叢子、嘉言〕子張曰、女子必漸乎二十而後嫁、何也、孔子曰、十五許嫁、而後從レ夫、是陽動而陰應、男唱而女隨之義也。

【二十而取レ一】514 ニジフニシテイチヲトル 二十分の一の租稅を取ること。〔孟子、告子下〕白圭曰、吾欲二二十而取レ一、何如。〔集注〕欲下更二稅法一、二十分而取二其一分一。

【二十七松堂】515 ニジフチセウダウ 清、廖燕(4—9464‥3)の室名。

【二十七世婦】516 ニジフシチセイフ 後宮の世婦二十七人。世婦(1—31‥319)を見よ。〔禮、昏義〕古者、天子后立二六宮・三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻一、以聽二天下之內治一。

【二十七大夫】517 ニジフシチタイフ 二十七人の大夫。〔淮南子、泰族訓〕一縣之高、以爲二二十七大夫一。

【二十八硯齋】518 ニジフハチケンサイ 清、祁奐(8—24634‥7)の室名。

【二十八字詩】519 ニジフハチジ 七言絕句(1—6‥135)をいふ。藤井竹外に二十八字詩集といふ書がある。

【二十八部衆】520 ニジフハチブシユウ 彌一孔雀王の二十八部仙衆。〔千手千眼大悲心陀羅尼經〕我遣二金色孔雀王二十八部大仙衆一、常當二擁二護受持者一。二毘沙門など四天王の二十八部神衆。〔最勝王經、五〕我等四王、與二二十八部藥叉大將一、並與二無量百千藥叉一、以二淨天眼一過二於世人一、觀二察擁二護此贍部洲一。

【二十老二明經一】521 ニジフノイケイニメウ 二十年間を進士の試驗に費して、及第出來ずに老い朽ちる。〔書言故事、不捷類〕進士科始二於隋一、盛二於唐一、其推重、謂二之白衣卿相一、又曰二一品白衫一、其不レ利者、謂下之二十年老二明經一、五十少中進士上。

【二十一家易注】522 ニジフイツカエキチウ 書名。清、孫升輯。

子夏・孟喜・京房・馬融・荀爽・鄭玄・劉表・宋衷・陸績・董遇・虞翻・王肅・姚信・王廙・張璠・向秀・干寶・蜀才・翟元・九家・劉巘の易注を叢輯してゐる。

【二十一回猛士】523 ニジフイツクワイマウシ 吉田矩方の號。二十一回とは、吉を分解すれば十一口、田を分解すれば十口、併せて二十一回となるからいふ。吉田松陰(2—3289‥229)を見よ。

【二十一史約編】524 ニジフイツシヤクヘン 書名。十卷。清、鄭元慶撰。此の書は、前に序・例言・後記・後跋・卷首があり、全部を金・石・絲・竹・匏・土・革・木の八部に分つ。其の目は、(卷首)上考略・歷代圖歌・陶唐以來歷數・道統系・象緯圖・輿地圖・歷朝方域・禮樂・律呂經籍・食貨・官制・兵刑・釋老、(金部)前編、(石部)史記・漢書・後漢書、(絲部)三國志・晉書・魏書・北史、(竹部)南史・宋書・齊書・梁書・陳書・北齊書・周書・隋書、(匏部)唐書、(土部)五代史・遼史・宋史上、(革部)宋史下・金史・元史、(木部)後編。此の書は、清史稿藝文志に著錄せられてゐる。

【二十四硯山房】525 ニジフシケンサンバウ 清、袁沛(10—3415‥125)の室名。

【二十四時之變】526 ニジフシジノヘン 二十四氣の變化。二十四氣を見よ。〔淮南子、天文訓〕十五日爲二一節一、以生二二十四時之變一。

【二十七松堂集】527 ニジフチセウダウシフ 書名。十六卷。清、廖燕撰。

【二十二子全書】528 ニジフニシゼンシヨ 叢書の名。清、王纘堂編。其の目は、古三墳(晉、阮咸注)・鬻子(周、鬻熊)・子華子上下卷(晉程本)・尹文子(周、尹文子)・愼子(周、愼到)・公孫龍子(周、公孫龍)・於陵子(齊、陳仲子)・鄧析子(周、鄧析)・素書(漢、黃石公)・忠經(漢、馬融・鄭玄注)・女孝經(唐、鄭氏)・素履子上下卷(唐、張弧)・兩同書(唐、羅隱)・唐門子(唐、皮日休)・農說(明、馬一龍)・佛說四十二章經(摩騰、竺法蘭)・青鳥先生葬經(金、兀欽仄注)・葬經內編(晉、郭璞)・元眞子外篇(唐、張志和)・天隱子(唐、無名氏)・無能子三卷(唐、無名氏)・胎息經(明、王文祿注)。〔叢書擧要、子部一〕。

【二十二史攷異】529 ニジフニシカウイ 書名。百卷。清、錢大昕撰。三史拾遺五卷・諸史拾遺五卷・通鑑辨正二卷を附す。明代の二十一史に續漢書を加へた二十二種の史書について、他の諸記錄を參照比較して校訂したもの。清史稿藝文志に著錄せられてゐる。

【二十二史劄記】530 ニジフニシサツキ 書名。三十六卷。清、趙翼撰。中國正史の全般に亙り、編述の次第、體裁書法、記事の出入正誤、政事の得失等を論評す。清史稿藝文志に著錄せられてゐる。

【二十六花品盧】531 ニジフロククワヒンロ 清、瞿應紹（8－23 747‥31）の室名。

【二十四番花信風】532 ニジフヨバンクワシンフウ 春風による開花の二十四の順序。小寒から穀雨までに二十四候がある。一候卽ち五日毎に新たな春風が吹くので、之に應ずる花も各〻異なる。小寒の一候梅花・二候山茶・三候水仙、大寒の一候瑞香・二候蘭花・三候山礬、立春の一候迎春・二候櫻桃・三候望春、雨水の一候菜花・二候杏花・三候李花、驚蟄の一候桃花・二候棣棠・三候薔薇、春分の一候海棠・二候梨花・三候木蘭、清明の一候桐花・二候麥花・三候柳花、穀雨の一候牡丹・二候酴醾・三候楝花。二十四氣を見よ。（蠡海集、十二月天氣運、於子、地氣臨於丑、陰呂而應於下、古人以爲候氣之端、是以有二十四番花信風之語。（焦氏筆乘）小寒、一候梅花・二候山茶・三候水仙、大寒、一候瑞香・二候蘭花・三候山礬、立春、一候迎春・二候櫻桃・三候望春、雨水、一候菜花・二候杏花・三候李花、驚蟄、一候桃花・二候棣棠・三候薔薇、春分、一候海棠・二候梨花・三候木蘭、清明、一候桐花・二候麥花・三候柳花、穀雨、一候牡丹・二候酴醾・三候楝花、花竟則立夏矣。（歲時記）江南自二初春一至二初夏一五日一番風候、謂二之花信風一、梅花風最先、楝花風最後、凡二十四番、以爲二寒絕一。

【二十八宿羅二心胸一】533 ニジフハツシユクラシンキヨウ 天の文章が胸中に輝いてゐること。（李賀、高軒過詩）如虹東京才子文章公、二十八宿羅二心胸一、九精照耀貫二當中一、殿前作賦聲摩空。

【二十四史通俗演義】534 ニジフシシツウゾクエンギ 書名。清、呂撫撰。清代の歷史小說。

【二車】535 ジシヤ そへぐるま。副車。貳車（10－367 03‥16）を見よ。

【二姐】536 erh⁴ chieh³ 二番目の姉。

【二者】537 ジシヤ 二つのもの。二人。兩者。（孟子、告子上）二者不レ可レ得兼、舍二生而取一レ義者也。（范仲淹、岳陽樓記）嗟夫、予嘗求二古仁人之心一、或異二二者之爲一何哉。

【二寫】538 erh⁴ hsieh³ 通關業（荷主に代つて稅關に關する手續を取扱ふ店）の副支配人。

【二謝】539 ジシヤ ❶晉の謝安と謝萬。（世說、賢媛）王右軍都夫人、謂二二弟司空中郎一曰、王家見二二謝一傾レ筐倒レ庋、見二汝輩來一平平爾、汝可レ無レ煩二復往一。（注）二謝、安・萬。（小學紺珠、氏族類）二謝二謝安・謝萬。❷南朝宋の謝靈運と謝惠連。又、謝靈運と齊の謝朓。❸宋の謝逸と謝薖。（江西通志）。

【二匠】540 ジシヤウ 二人の師匠。（支遁、詠懷詩）俯欣二質文尉一、仰悲二匠徂一。（雲笈七籤）本文止是二匠授一南眞一時口訣。

【二相】541 ジシヤウ 二人の大臣。❶周公と召公。（詩、小大雅譜、疏）厲王出奔二於彘一、周・召二相行レ政、號曰二共和一。（史記、周紀）召公・周公二相行レ政、號曰二共和一。❷伊尹と仲虺。（晉書、職官志）成湯居レ亳、初置二一相一、以二伊尹・仲虺一爲レ之。（小學紺珠、名臣類上、湯二相）伊尹・仲虺。❸唐の李德裕と宋の趙鼎。（明一統志）二相祠在二潮州府城北一、唐相李德裕・宋相趙鼎、俱謫二於此一、後人慕二其德望一、因立レ祠。❹宋の文彥博と富弼。（小學紺珠、名臣類下、二相）文彥博・富弼。

【二省】542 ジシヤウ 二つのやくしよ。（南齊書、明帝紀）東西二省、猶沾二微俸一、辭二事私庭一、榮祿兼謝。（北史、崔贍傳）贍患レ氣、兼性遲重、雖レ居二二省一、竟不レ堪二敷奏一。

【二將】543 ジシヤウ 二人の大將。（唐書、阿史那社尒傳）帝聞曰、二將優劣、不二復問一矣。（唐書、孟方立傳）方立戰二琉璃陂一、大敗、禽二其二將一。❶梁の韋叡と曹景宗とをいふ。（小學紺珠、名臣類下、二將）韋叡・曹景宗。❷宋の狄靑と种世衡とをいふ。（小學紺珠、名臣類下、二將）狄靑・种世衡。

【二祥】544 ジシヤウ 喪服中の小祥（一年忌）・大祥（三年忌）をいふ。祥は祭の名。（宋書、禮志二）四時既已變、人情亦已衰、故有二二祥之殺一。

【二廂】545 ジシヤウ 二つの渡殿。堂の東西にある渡殿。（宋書、樂志二）食擧歌十章、注）黃鍾・太蔟、二廂更作。

【二象】546 ジシヤウ 二つのすがた。乾と坤とをいふ。（易、乾、文言、故曰二乾元亨利貞一、疏）陰陽合會、二象相成、皆能有レ德、非二獨乾之一卦一、是以、諸卦之中、亦有二四德一。（晉書、王坦之傳）夫乾道確然、示二人易一矣、坤道隤然、示二人簡一矣、二象顯於萬物一、兩德彰二於羣生一。

【二漳】547 ジシヤウ 二つの漳河。（駱賓王、送二宋五之問一得二涼字一詩）願言遊二泗水一、支離去二二漳一。（柳貫、過閘行）二漳合下如二奔矢一、絕出爲レ河容匯水。

【二障】548 ジシヤウ 㮇障害となる二つのもの。❶理障と事障。理障は、眞理に對する無智で、正見の障りとなるもの。事障は、とらはれの心を生じて悟の障りとなる情。（圓覺經）云何二障、一者理障、碍二正知見一、二者事障、相二續生死一。❷煩惱障と所知障。煩惱障とは、涅槃の障りとなる情の惑。所知障とは、妙智の障りとなる知の惑。（唯識論、一）由二我・法執一二障具生、云云、由レ斷二續レ生煩惱障一、故證二眞解脫一、由レ斷二礙解所知障一、故得二大菩提一。（唯識論、九）煩惱障者、云云、百二十八根本煩惱及彼等流諸隨煩惱、此皆擾二惱有情身心一、能障二涅槃一、名二煩惱障一、所知障者、云云、見レ疑・無明・愛・恚・慢等、覆二所知境無顚倒性一、能障二菩提一、名二所知障一。❸煩惱障と解脫障（禪定・正智の障りとなるもの）。（俱舍論、二十五）唯依二慧離一レ煩惱障一者、立二慧解脫一、依二兼得一レ定、離二解脫障一者、立二俱解脫一。

【二上】549 ジシヤウ ❶二つの尊いもの。又、二人の天子。（詩、召南、何彼襛矣序、何彼襛矣、美二王姬一也、雖二則王姬亦下二嫁於諸侯一、車服不レ繫二其夫一、下二王后一一等、疏）天子尊無二二上一、故其女可レ下二王后一一等上。（禮、坊記）天無二二日一、土無二二王一、家無二二上一、尊無二二上一、示二民有二君臣之別一也。（宋史、陳暘傳）大簇・大呂・夾鐘、或可分也、而黃鍾不レ可レ分、豈古人所謂尊無二二上一之旨哉。❷ジシヤ 大和國の地名。

【二城】550 ジシヤウ 二つの城。（詩、鄭譜、定二平王於東都王城・疏）但二城不二甚相遠一、故於二鄭言一祝融之墟一。（史記、秦紀）拔二趙二城一。

【二情】551 ジシヤウ ふた心。二心。（宋書、蕭惠開傳）欲レ使二人靡二二情一。（唐書、魏徵傳）誠信立、則下無二二情一、德禮形、則遠者來格。

【二勺】552 ジシヤク 二つのひしやく。（儀禮、少牢饋食禮）司宮取二二勺于篚一洗レ之、兼執以升、乃啓二尊之蓋冪一、奠於楹上、加二二勺于一尊一、覆レ之南柄。

【二酌】553 ジシヤク 二たび酒をくむ。（元好問、此日不レ足レ惜詩）一酌舌本彊、二酌燥レ吻濡。

【二爵】554 ジシヤク 二つのさかづき。又、二杯の酒。（詩、周南、卷耳、我姑酌二彼兕觥一、疏）特牲、二爵・二觚・四觶・一角・一散、不レ言二觥之所一レ用、是正禮無レ觥、不レ在二五爵之例一。（禮、玉藻）君子之飲酒也、受二一爵一而色酒如也、二爵而言言斯、禮已三爵而油油、以退。

【二雀】555 ジシヤク 二羽の雀。（易林）大頭明目、再受二喜福一、二雀飛來、與レ祿相觸。

【二鵲】556 ジシヤク 二羽のかささぎ。（酉陽雜俎、廣動植、羽篇）崔圓相公妻、在二家時一、與二姊妹一見下二鵲搆一レ巢、共銜二木一安中巢中上、俗言、見二鵲上レ梁必貴。

【二手】557 ジシユ ❶二つの手。（儀禮、大射儀）獲者、左執レ爵、右祭二薦俎一、二手祭レ酒。❷相異なつた手。（圖繪寶鑑）倪瓚、字元鎭、號二雲林一、畫二林木平遠竹石一、殊無二市朝塵埃氣一、晚年率略酬應、似レ出二二手一。

【二主】558 ジシユ 二人の主人。（禮、坊記）天無二二日一、民無二二王一、家無二二主一、尊無二二上一、示二民有二君臣之別一也。

【二守】559 ジシユ ❶國を守る二人の重臣。春秋、齊の高傒と國歸父とをいふ。（左氏、僖十二）王以上卿之禮饗二管仲一、管仲辭曰、臣賤有司也、有二天子之二守國高在一、若節二春秋一來承二王命一、何以禮焉。（注）國子・高子、天子所二命爲一齊守臣一、皆上卿也。❷二人の太守。（後漢書、任延傳）建武

初、遣レ使貢獻、封二鹽水侯一、嶺南華風、始二於二守一焉。〔明一統志〕二守祠、在二衡州府石鼓山一、宋知州劉清之、建以祀二晉劉翼・宋王應之一。

【二守齋】560 清、李宗潮(6−14459・・1629)の號。

【二首】561 二つの頭。二首六身を見よ。

【二首六身】562 二つの首と六つの身。亥の字をいふ。亥の古字は、上が二畫、下が六畫だからいふ。一說に、亥は古銅器に𠀁に作る。𠀁は號馬の式で𠀁に當り、二萬六千六百有六旬をあらはすといふ。號馬(9−32726・・67)を見よ。〔左氏、襄、三十〕史趙曰、亥有二二首六身一、下二如レ身、是其日數也、士文伯曰、然則二萬六千六百有六旬也。〔注〕亥字、二畫在レ上、併二三六一爲レ身、如二算之六一。〔疏〕二畫爲レ首、六畫爲二身下一。〔會箋〕亥、篆作レ𠀁、段玉裁云、今篆法、亥身祇有二五畫一、蓋周時有二六畫一、與二今篆一不レ同、段說非也、蓋一直一曲、卽可レ爲二一畫一、亥身左邊乚、與二右邊兩人旁一、皆各二畫、故孔云、六畫爲レ身、李斯所レ書碑亥字、旁人皆作二丅字形一、然則、二畫竪則算家之二萬、⊥曲次レ之、則似二算家之六千一、丅象二算家之六百一、又丅則算家之隔位六矣、宋元人算草、六七八九、或爲二丅𝍦𝍧𝍨一、或爲二⊥⊥⊥亖一、蓋權二輿自レ古、射禮釋獲、橫縮相變、卽其遺象、篆文𠀁、其乚與レ丅相似、亻與レ丅相似、是有二三六形一、若以二首橫畫一、下レ之爲二竪畫一、如レ身、置二身左旁一、與レ身並、則其形爲レ𠀁、正如二布算橫列四位一、起二二萬一、次六千、次六百、次六十也。

【二株】563 ふたかぶ。二つのかぶ。〔宋書、符瑞志下〕孝武帝孝建二年六月癸巳、嘉禾二株、生二江夏王義恭東田一。〔南齊書、祥瑞志〕永明三年正月、安城縣楡樹、二株連理。

【二株園】564 清、徐柯(4−10110・・30)の室名。

【二株畫法】565 二株の樹木を畫く法。〔芥子園畫傳〕二株畫法有レ二、一大加レ小、是爲二負老一、一小加レ大、是爲二攜幼一、老樹須二婆娑多情一、幼樹須二窈窕有一レ致、如二人之聚立、互相顧盼一。

【二珠】566 二つのたま。〔元史、世祖紀十〕以二楊兀魯帶一、爲二征骨嵬招討使一、佩二二珠虎符一。

【二種】567 ふたいろ。二つの種類。二類。〔詩、召南、采蘋、于以采レ藻、疏〕陸璣云、藻、水草也、有二二種一。〔周禮、夏官、校人〕天子十有二閑、馬六種、邦國六閑、馬四種、家四閑、馬二種。〔李綱、幽蘭賦〕蘭有二二種一、華以レ春者似二蕙華一、以レ秋者似レ菊。

【二種證】568 佛 ❶小乘を修する者が阿羅漢果を修するのに、次第證(次第斷)と超越證(超越斷)との二種がある。次第證とは、初果から次第に修惑を斷じ、次第を追つて第四果なる阿羅漢を證すること。超越證とは、利根の聲聞が一時に多くの惑ひを斷じて、一果乃至三果を超越して阿羅漢果を證すること。❷事證(戒學を修すること)と理證(定・慧の二學を修すること)。〔南山戒本疏〕

【二種電】569 èrh⁴ chung³ tien⁴ 陰電氣と陽電氣。

【二銖】570 一銖の二倍。又、其の錢の名。一銖は、一兩の二十四分の一。

二銖(洪遵泉志)

〔宋書、前廢帝紀〕永光元年二月庚寅、鑄二二銖錢一。〔魏書、高道穆傳〕今錢、徒有二五銖之文一、而無二二銖之實一。〔南史、宋明帝紀〕泰始元年、罷二二銖錢一。

【二戍】571 邊境守備の二つの兵舍。〔元史、世祖紀五〕壬午、賞二東川統軍合剌所レ部有レ功者一、合刺請下於二渠江之北雲門山、及嘉陵西岸虎頭山一、立中二戍上、以二其圖一來上、仍乞レ益二兵二萬一、詔給二京兆新簽軍五千一益レ之。

【二豎】572 病魔。又、疾病。春秋、晉の景公の夢に、疾病が二豎子と爲つて肓膏の間に隱れたといふ故事。〔左氏、成、十〕晉侯疾病、求二醫於秦一、秦伯使二醫緩爲一レ之、未レ至、公夢、疾爲二二豎子一、曰、彼良醫也、懼傷レ我、焉逃レ之、其一曰、居二肓之上、膏之下一、若レ我何、醫至、曰、疾不レ可レ爲也、在二肓之上、膏之下一、攻レ之不可、達レ之不レ及、藥不レ至焉、不レ可レ爲也、公曰、良醫也、厚爲二之禮一而歸レ之。

【二儒】573 二人の儒者。孟子と荀子。〔韓愈、進學解〕昔者孟軻好レ辯、孔道以明、轍環二天下一、卒老二于行一、荀卿守レ正、大論是弘、逃二讒于楚一、廢二死蘭陵一、是二儒者、吐レ辭爲レ經、擧レ足爲レ法、絕レ類離レ倫、優入二聖域一、其遇二於世一何如也。〔小學紺珠、聖賢類、二儒〕孟子軻・荀卿況。

【二樹】574 ❶二本の木。二木。〔詩、小雅、湛露、其桐其椅、疏〕二樹當二秋成之時一、其子實離離然垂而蕃多也。〔南齊書、祥瑞志〕建元元年九月、甘露降二淮南郡桃・石榴二樹一。❷清、童鈺(8−25775・・23)の號。

【二樹山人】575 清、童鈺(8−25775・・23)の號。

【二衆】576 佛 在家の佛教信者の中、男子を優婆塞 Upāsaka 女子を優婆夷 Upāsika といひ、之を二衆といふ。〔琅琊代醉編、二衆〕優婆塞・優婆夷、此在家二衆。

【二叔】577 周公旦の兄弟なる管叔と蔡叔とをいふ。一說に、夏・殷の末の衰へた世。〔詩、小雅、常棣序〕常棣、燕二兄弟一也、閔二管蔡之失一レ道、故作二常棣一焉。〔箋〕周公弔三二叔之不レ咸、而使二兄弟之恩疏一。〔左氏、僖、二十四〕昔周公弔二二叔之不一レ咸、故封二建親戚一、以蕃二屛周一。〔注〕周公傷下夏殷之叔世疏二其親戚一、以至中滅亡上。〔疏〕伯・仲・叔・季、長幼之次也、故通謂二國衰一爲二叔世一。〔會箋〕鄭衆・賈逵、皆以二二叔一爲二管・蔡一。

【二術】578 二つの方法。〔宋書、律曆志下〕按二五紀一、論下黃帝曆有二四法一、顓頊・夏・周、並有中二術上、詭異紛然、則孰識二其正一、此古曆可レ疑之據一也。

【二俊】579 二人のすぐれた人。❶晉の陸機・陸雲の兄弟。〔晉書、陸機傳〕太康末、與二弟雲一俱入レ洛、造二太常張華一、華素重二其名一、如二舊相識一、曰、伐レ吳之役、利レ獲二二俊一。❷宋の王曾と劉筠。〔小學紺珠、名臣類下、二俊〕王文正曾・劉子儀筠、陳恕領二春宮一、以二文正一爲二擧首一、歲中拔二子儀于常選一云、吾得二二俊一名世才也。

【二駿】580 二匹の駿馬。〔杜陽雜編〕一日、草木方春、上欲レ幸二諸苑一、內廐控レ馬、侍者進二瑞鞭一、上指二二駿一語二近臣一曰、昔朕西幸、有二二駿一、謂二之二絕一、今獲二此鞭一、可レ謂二三絕一。

【二旬】581 二十日間をいふ。〔周禮、秋官、朝士〕凡士之治、有二期日一、國中一旬、郊二旬、野三旬、都三月、邦國朞、期內之治レ聽、期外不レ聽。〔魏明帝、苦寒行〕征行彌二二旬一、屯二吹龍陂城一。〔南齊書、海陵王紀〕正廚諸役、舊出二州郡一、徵二吏民一以應二其數一、公獲二二旬一、私累二數朔一。〔孔稚珪、旦發二青林一詩〕二旬倏已滿、三千眇未レ央。

【二荀】582 晉の荀邃と荀閭。〔晉書、荀邃荀閭傳〕明帝嘗從容問二王廙一曰、二荀兄弟孰賢、廙答以二閭才明過一レ邃。〔小學紺珠、氏族類、二荀〕荀邃道玄・閭道明。

【二順】583 道理にかなつた二つのこと。〔左氏、哀、六〕昭王攻二大冥一、卒二于城父一、子閭退曰、君王舍二其子一而讓二羣臣一、敢忘レ君乎、從二君之命一、順也、立二君之子一、亦順也、二順不レ可レ失也。

【二所】584 二つの場所。〔水經、滱水注〕夾レ碑竝有二層臺二所一、卽御射處也。〔北史、周武帝紀〕京師宮殿、已從二撤毀一、并鄴二所、華侈過レ度。

【二所宗廟】585 伊勢大神宮と石清水八幡宮。〔神皇正統記、應神天皇〕天照大神の宮にならび、二所の宗廟とて八幡をあふぎ申さるること。

【二書】586 二つの書籍。二本。〔禮、禮運、吾以レ是觀レ之、注〕觀二于二書之意一。〔南史、何敬容傳〕簡文頻于二玄圃一、自講二老・莊二書一。

【二庶】587 妾腹の二人の子。〔晉書、溫羨傳〕里克之殺二二庶一、陳乞之立二陽生一。

【二處】588 二つの個處。ふたところ。〔詩、邶風、谷風、采レ葑采レ菲、疏〕某氏注、爾雅、二處列二此詩一、卽菲也、芴也、蒠菜也、土瓜也、宿菜也、五者一物也。〔公羊、隱、元、王者無レ外、疏〕襄公三十年五月甲午、宋災、伯姬卒、天王殺二其弟年一、王子瑕奔レ晉、昭二十六年冬十月、天王入二于成周一、尹氏・召伯・毛伯、以二王子朝一奔レ楚、以レ此言レ之、則似三月爲二上事一、其二處出奔、仍不レ蒙レ月。

【二黍】589 一黍の二倍。一黍は、黍一粒の重さで、極少の重さ。百黍を一銖とする。〔宋史、律曆志二〕稱合二黍數一、則一錢半者、計二三百六十黍之重一、列爲二五分一、則每分計二二十四黍一、又每分析爲二一十釐一、則每釐計二二黍十分黍之四一。

【二如】590 字號。❶明、胥自修(9−29406・・55)の字。❷清、童鈺(8−25775・・23)の字。❸清、王壽康(7−20823・・1652)の號。

【二如亭】591 明、王象晉(7−20823・・1639)の室名。

【二徐】592 ニジョ ㊀南唐の徐鉉と徐鍇。〔南唐書、徐鍇傳〕後主立、遷二屯田郎中・知制誥・集賢殿學士一、改レ官、召拜二右內史舍人一、賜二金紫一、宿二直光政殿一、兼二兵吏部選事一、與二兄鉉一俱在二近侍一、號二二徐一。㊁宋の徐中行と徐庭筠。〔明一統志〕二徐墓、在二台州府臨海縣東南六十里一、葬二宋徐中行及其子庭筠一。㊂明の徐明善と其の弟なる秋谷。〔尙友錄、徐明善〕與二弟秋谷一時稱二二徐一、俱以二理學一名。

【二升】593 ニショウ ふたます。一升の二倍。〔詩、周南、卷耳、我姑酌二彼兕觥一疏〕韓詩說、二升曰レ觚、觚、寡也、飮當二寡少一。〔南齊書、天文志下〕永明元年六月己酉、有二流星一、如二二升椀一。〔白居易、招二東鄰一詩〕小榼二升酒、新簟六尺床。

【二松】594 ニショウ 二つの松。二本松。〔秦觀、寄二老菴一賦〕營二于佛祠之旁、二松之下一、誅二薙草茅一、平二夷土塗一、規以爲レ庵、曰二寄老一焉。

【二松居士】595 ニショウコジ 清、王文誥(**7**－20823‥2069)の號。

【對二樹二松一】596 ニショウヲタイジュス 二株の松を幷べ植ゑる。二株の松の下で勉強した唐の韓愈の故事。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕庭有二老槐四行一、南牆鉅竹千梃、儼立若二相持一、水㶁㶁、循レ除鳴、斯立痛掃漑、對二樹二松一、日哦二其閒一、有二問者一、輒對曰、余方有二公事一、子姑去。

【二勝】597 ニショウ ㊀二度、勝つ。〔宋史、吳璘傳〕高宗曰、此孫臏三駟之法、一敗而二勝也。㊁景色の勝れた二つの所。〔王禕、觀二三峽橋一記〕蘇長公云、廬山奇勝處、不レ可二勝紀一、獨漱玉亭・三峽橋爲二二勝一。㊂清、詮修(**10**－35435‥8)の字。

【二稱】598 ニショウ ㊀二つのはかり。〔宋史、律歷志一〕因二度尺一而求レ釐、自二積黍一而取レ絫、以二釐絫一造二一錢半及一兩等一、二稱各懸二三毫一、以レ星準レ之。㊁三十斤をいふ。〔同文算指〕十五斤爲レ稱、二稱爲レ鈞、四鈞爲レ石。

【二誦】599 ニショウ 二たび誦する。〔雲笈七籤〕上上禪善無量壽天生神章、一唱動二九元一、二誦天地通、混合自相和、九遍成二人功一。

【二鍾】600 ニショウ 二つのかね。鍾は、鐘に通じ、つりがね。〔唐書、南蠻下、驃傳〕王宮設二金銀二鍾一、寇至、焚レ香擊レ之、以占二吉凶一。

【二蹤】601 ニショウ 二つの足あと。〔楚辭、王逸、九思、怨上〕擬二斯兮二蹤一、未レ知二兮所一レ投。

【二丞】602 ニジョウ 二人の輔佐官。㊀御史大夫に對する御史丞と御史中丞。〔晉書、職官志〕秦時、御史大夫有二二丞一、其一、御史丞、其一、爲二中丞一。㊁尙書の左丞と右丞。〔宋書、百官志上〕漢制、丞郎見二尙書一、呼曰二明侍郞一、見二二丞一、呼曰二左君・右君一。〔小學紺珠、職官類、二丞〕尙書左丞・右丞。

【二乘】603 ニジョウ ㊀二つの車。〔列子、周穆王〕馳驅千里、至二于巨蒐氏之國一、巨蒐氏、乃獻二白鵠之血一、以飮レ王、具二牛馬之湩一、以洗二王之足一、及二二乘之人一、已飮而行、遂宿二于崑崙之阿・赤水之陽一。㊁數學用語。相等しい二つの數を掛け合せること。又、其の結果得た數。自乘。㊂[佛]㋑聲聞乘と緣覺乘（又、獨覺乘ともいふ）。〔止觀、三〕大經云、二乘之人、但見二於空一、不レ見二不空一。㋺大乘と小乘。〔止觀、三〕小者小乘也、智慧力弱、云云、大者大乘也、智慧深利。

【二乘根】604 ニジョウコン 數學用語。或數を自乘した積に對して、其の或數をいふ。平方根。自乘根。

【二乘冪】605 ニジョウベキ 數學用語。相等しい二つの數を掛け合はせた積を、其の數の二乘冪といふ。自乘冪。

【二乘根性】606 ニジョウコンジャウ [佛]二乘（聲聞乘と緣覺乘）は、自利の心を主とし、利他の考へをおこさないことから、自分の事だけを心にかけて、他人の上を思ひやることのない心をいふ。〔西谷名目〕聲聞・緣覺、云二二乘一也、此二乘、偏思二自身出離生死事一、無レ化二他思一也、然今世閒人、思二我事一、不レ思二他人事一、言二二乘根性一。

【二色】607 ニショク ㊀二つの色。髮の黑白二色。ふたいろ。〔吳志、孫權傳〕自レ少至レ長、髮有二二色一。㊁二心。〔後漢書、鄧禹傳論〕榮悴交而下無二二色一、進退用而上無二猜情一。㊂一夫一妻の制を守らずに、妾などを置くこと。〔李漁、奈何天傳奇〕誰知命運偏高、頂了尙義君不二色的原配。㊃襲の色。表は薄色、裏は黃色。

【二蜀】608 ニショク 古の蜀の地。今の四川省をいふ。〔廣川題跋〕成都蘭亭、子由得二於中山舊石一、故今所レ摹、獨傳二二蜀一、中州人或未レ知也。〔項斯、聞レ蟬詩〕一櫂三湘浪、單車二蜀塵。

【二蝕】609 ニショク 二つの蝕。卽ち、日食・月食。〔南齊書、天文志上〕向論、二蝕之體、周衡不レ同、經與二不經一、自由二星遲疾一、難レ蝕引レ經、恐未レ得也。〔唐書、曆志三下〕若因二開元二蝕曲變交限一、而從レ之則差者益多。

【二職】610 ニショク 二つの官職。〔詩、小雅、大東、舟人之子熊羆是裘、疏〕秋官冥氏、掌下設二弧張一爲二阱獲一以攻中猛獸上、穴氏掌レ攻二蟄獸一、注云、蟄獸、熊羆之屬、冬藏者也、而熊羆卽亦猛獸、故知レ在二此二職一也。〔舊唐書、職官志一〕職事者、諸統二領曹事一、上下相攝、以持二庶績一、近代以來、又分爲二文武二職一、分レ曹置レ員、各理レ所レ掌。

【二心】611 ニシン ㊀ふたごころ。二意。二志。二端。二圖。〔左氏、莊、十四〕納レ我而無二二心一者、吾皆許レ之。〔莊子、田子方〕諸侯無二二心一也。〔韓非子、有度〕賢者之爲二人臣一、北面委レ質、無レ有二二心一。〔史記、豫讓傳〕既已委レ質、臣二事人一而求レ殺レ之、是懷二二心一以事二其君一也。㊁[佛]㋑眞心（眞如を知る淨心）と妄心（眞心が惑におほはれてゐる心）。〔楞嚴經〕生死相續、皆由下不レ知二常住眞心性淨明體一、用中諸妄想上。㋺定心（禪定の心）と散心（散亂の心）。〔觀經疏、玄義分〕定卽息レ慮以凝レ心、散卽廢レ惡以修レ善。

【不二二心一】612 ニシンナラズ 心を二つにしない。二心を懷かない。忠實である。〔書、康王之誥〕用昭二明于天下一、則亦有下熊羆之士、不二二心一之臣上。

【二心私學】613 ニシンシガク 上に對して二心を懷き、法令に從はないで私善を爲すことをいふ。〔韓非子、詭使〕法令所二以爲一レ治也、而不レ從二法令一爲二私善一者、世謂二之忠一、云云、凡亂レ上反レ世者、常士有二二心私學一者也、故本言曰、所二以治一者法也、所二以亂一者私也、法立、則莫レ得レ爲レ私矣。

【二心兩意】614 ニシンリャウイ 異なつた考。別々の意志。〔論衡、調時〕夫天地之神、用レ心等也、人民無狀、加レ罪行レ罰、非レ有二二心兩意、前後相反一也。

【二臣】615 ニシン ㊀二人の臣。〔左氏、僖、二十八〕子西・孫伯曰、得臣將レ死、二臣止レ之曰、君其將二以爲一レ戮、及二連穀一而死。〔論語、季氏〕冉有曰、夫子欲レ之、吾二臣者不レ欲也。㊁春秋時代の魯の仲孫蔑と季孫行父とをいふ。〔小學紺珠、名臣類、魯二臣〕仲孫蔑・季孫行父。

【二岑】616 ニシン 字號。㊀明、茅國縉(**9**－30836‥109)の號。㊁清、馬嗣煜(**12**－44572‥802)の號。

【二身】617 ニシン ㊀二つのからだ。〔宋書、五行志四〕晉孝武帝太元十年四月、京都有レ豕、一頭二身八足。〔北史、周武帝紀〕保定三年十二月、有レ犬、生レ子、腰以後分爲二二身一。㊁[佛]㋑佛の二身。(甲)生身と化身。王宮に生れて修行成道した人閒釋尊を生身とし、悟つて得た神通力を以て鬼畜等に變化する身を化身といふ。(乙)生身と法身。小乘では、佛陀となつた人閒釋尊を生身とし、其の教法の功德を法身とする。〔增一阿含、四十四〕我釋迦文佛、壽命極長、所二以然一者、肉身雖レ取二滅度一、法身存在。〔婆沙論、三十〕如來法身雖レ無二衰退一、而生身力必有二退滅一。大乘では、理智冥合の眞身を法身とし、教化すべき衆生の身に隨つて現はれる佛身を生身とする。〔佛地論、七〕或處說二佛有二二種身一、一者生身、二者法身。〔智度論、九〕佛有二二種身一、一者法性身、二者父母生身。(丙)眞身（法身に同じ）と應身（生身に同じ）。(丁)常身（法身に同じ）と無常身（生身に同じ）。㋺衆生の二身。分段身と變易身。分段身は、各人が別々のはたらきによつて別々の果報を受ける身、卽ち日常の吾人の身體をいふ。分段は壽命の長短。變易身は、煩惱を滅した人が未だ眞實の智を得ず、爲に念々刻々其の智を得るために心をはたらかせる身。變易は、心の刻々に變化する意。〔探玄記、六〕三乘中菩薩、必是分段身、地上方有二變易身一。

【二信】618 ニシン ㊀二つのまこと。〔左氏、宣、十五〕義無二二信一、信無二二命一。〔注〕欲レ爲レ義者、不レ行二兩信一。㊁二つの通信。又、第二回目の通信。

【二津】619 ニシン 二つのわたし場。〔唐書、杜牧傳〕黎陽、距二白馬津三十里一、新鄉、距二平津一一百五十里、陴壘相望、朝駕暮戰、是二津、虜能潰レ一、則馳入二成皐一、不二數日閒一、故魏於二河南一亦最重。

【二晉】620 ニシン 西晉と東晉。兩晉。〔江淹、爲二蕭太尉一上二便宜一表〕蓋源起二西秦一、波被二東漢一、一魏

不レ變二晉未一革、所二從來一者遠也。

【二眞】621 ニシン 二人の眞人。眞人とは、道教の奥義を究めた人をいふ。〔薛瑩、訪二武陵道者一不レ遇詩〕二眞無二間處一、虛度二武陵溪一。

【二神】622 ニシン 二柱の神。陰・陽の二神。〔淮南子、精神訓〕鴻濛鴻洞、莫レ知二其門一。有二二神一混生、經レ天營レ地。

【二針】623 ニシン 二葉の松葉をいふ。〔本草、松〕集解、時珍曰、松樹磏砢、修聳多レ節、其皮粗厚、有二鱗形一、其葉後凋、云云、秋老則子長鱗裂、然葉有二二針・三針・五針之別一。

【二親】624 ニシン ふたおや。兩親。〔韓詩外傳、一〕二親之壽、忽如レ過レ隙。〔孔子家語、致思〕昔者、由也、事二親一之時、常食二藜藿之實一。〔北史、后妃下、隋文獻皇后獨孤氏傳〕早失二二親一。〔無量壽經〕不レ孝二二親一、輕二謗師長一。

【二仁】625 ニジン ❶二人の仁者。〔易林〕二仁翼レ政、國無二災殃一。❷後漢の荀彧と荀攸とをいふ。〔小學紺珠、氏族類、荀氏二仁一〕荀彧、荀攸。

【二仞】626 ニジン ふたひろ。〔周禮、考工記、匠人〕方百里爲レ同、同間、廣二尋、深二仞一、謂二之澮一。

【二忯】627 ニジン 二つの忯。忯は棺桶と棺蓋とを接合するもの。〔禮、喪服大記〕大夫蓋、用レ漆、二忯二束、士蓋、不レ用レ漆、二忯二束者、亦漆二忯合縫處一也、大夫・士、橫忯有レ二、每忯有レ束、故云二二忯一束一也。

【二尋】628 ニジン ふたひろ。〔周禮、考工記、匠人〕方百里爲レ同、同間、廣二尋、深二仞一、謂二之澮一。

【二稔】629 ニジン 二年。〔王禹偁、三黜賦〕歷二二稔一而生還、幸擧レ族而無レ苦。

【二水】630 ニスイ ❶二つの河。二川。〔詩、衞風、淇奧、瞻二彼淇奧一、疏陸璣云、淇・奧二水名、以二毛云一隩限レ爲レ誤、此非也。〔左氏、桓、八、楚子伐レ隨、軍二於漢淮之間一、疏〕漢・淮二水名、漢淮之間、漢北淮南。〔水經、河水注〕河水又東、分爲二二水一。〔庾信、聘齊秋晚館中飲酒詩〕漳流鳴二二水一、日色下二三臺一。❷字號。㋑明、宋臣（3－7078‥139）の號。㋺明、張瑞圖（4－9812‥1231）の號。

【二水貨】631 èrt shuǐ huò 二等品。水は、貨物の品質を表はす語。

【二水樓】632 ニスイロウ 清、李茹旻（6－14459‥14489）の室名。「室名。

【二水山房】633 ニスイサンバウ 清、倪模（1－792‥80）の室名。

【二水中分白鷺洲】634 ニスイチウブンハクロシウ 秦水と淮水の二川が白鷺洲によつて二分されたやうな形で流れてゐる。金陵（南京）西南の江中の景を詠じた句。一本、「二水」を「一水」に作る。〔李白、登二金陵鳳凰臺一詩〕三山半落青天外、二水中分白鷺洲。

【二垂】635 ニスイ 二方の邊境。〔後漢書、杜詩傳〕匈奴未レ譬二聖德一、威二侮二垂一。〔注〕二垂、謂二西與レ北也。

【二帥】636 ニスイ 二人の軍のかしら。〔左氏、桓、六〕鄭太子忽、帥レ師救レ齊、六月、大敗二戎師一、獲二其二帥大良少良一、甲首三百、以獻二于齊一。

【二推】637 ニスイ 宋代、推直官に屬した二人の推官。刑獄の事を司る。〔宋史、職官志四〕宋初置二推直官二人一、專二治獄事一、凡推直有レ四、曰臺一推、曰臺二推、曰殿一推、曰殿二推一。

【二穗】638 ニスイ 二つの穗。〔元史、世祖紀四〕東平府進二瑞麥一、莖二穗三穗・五穗者一、各一本。

【二數】639 ニスウ 二つのかず。〔同文算指〕奇零約法、若奇零有二二項一、辨二其孰多孰寡一、以二子母一數、互參二母數一、相同則但據二子數一。「樞、對二兩極一。

【二樞】640 ニスウ 二つの樞軸。〔宋史、律曆志九〕作二二雛】641 ニスウ 二羽のひなどり。二人の幼少な者。〔杜甫、徐卿二子歌〕丈夫生兒、有二如レ此二雛者一、名位豈肯卑微休。〔杜荀鶴、顧雲侍御出二二子一請詩〕二雛毛骨秀仍奇、小小能吟二大詩一。

【二寸】642 ニスン 一寸の二倍。〔周禮、地官、載師、凡宅不レ毛者有二里布一、注〕里布者、布參印書、廣二寸、長二尺、以爲レ幣貿レ易物一。〔白居易、惜二落花一詩〕枝上三分落、園中二寸深。

【二施】643 ニセ 佛 ❶財施と法施。三施の中から無畏施を除いた稱。〔解深密經、四〕各有二三種施、三種者、一者法施、二者財施、三者無畏施。❷食施と法施。〔進學經〕有二二施一云云、食施安レ身、法施遷レ神、二事雖レ快、法施爲レ最。〔江總、至德二年十一月十二日升二德施山一齋二宿一決二定罪福一懺悔詩〕四知無二矯志一、二施啓二幽心一。

【二世】644 ニセイ ❶二代。二代目。又、秦の二世皇帝をいふ。〔史記、秦紀〕子胡亥立、是爲二二世皇帝一。〔宋書、禮志三〕大業之隆、重光四葉、不羈之覆、二世而平。❷佛 現在の世と未來の世。

【二世契】645 ニセイチギリ 夫婦の契。佛家が法便の爲、「子は一世、夫婦は二世、主從は三世、他人は五世」或は「夫婦は二世、師は三世、親子は一世」とて、親しみの薄い者を重い緣に言つたのに本づく語。〔源平盛衰記、二十六、忠盛婦人事〕誠に二世の契りにや。

【二正】646 ニセイ 二つの正月。〔詩、豳風、七月、一之日觱發、二之日栗烈、傳、一之日周正月也、二之日殷正月也、箋〕此二正之月、人之貴者無レ衣、賤者無レ褐、將二何以終一レ歲乎。

【二生】647 ニセイ 二つの生きもの。羔と雁。天子に奉獻するに、卿は羔を、大夫は雁を用ひる。〔書、舜典〕三帛・二生・一死贄。〔傳〕二生、卿執レ羔、大夫執レ雁。

【二生經】648 ニセイキヤウ 佛 楞伽經の異名。〔冷齋夜話〕張文定、慶曆中、爲二滁州一遊二琅琊山藏院一、僧仰久レ之、呼二左右一、取二梯升一レ梁、得二經函一發レ之、得二楞伽經一、餘半卷未レ寫、忽悟、前身蓋知レ藏僧也、寫二楞伽經一未レ畢而化、因續書二殘軸一、筆蹟宛然如レ昔、因號二二生經一。

【二生】649 ニセイ 二は陰と陽。三は和氣、即ち、天・地・人。一說に、三は陰陽の交る力だといふ。〔老子、四十二〕道生レ一、一生レ二、二生三、三生二萬物一。〔河上公注〕一生二陰與レ陽也、陰陽生、和氣濁、三氣分爲二天地人一也。

【二成】650 èrt chéng 十分の二。二割。

【二姓】652 ニセイ ❶夫の家と妻の家との姓。二姓之好を見よ。❷兩王朝の君。事二姓一の❷を見よ。❸二人の夫をいふ。事二姓一の❸を見よ。

【事二姓】653 ニセイニ ❶或る君に臣として事へた身が、節を變じて他の君に事へることをいふ。〔後漢書、蔡邕傳〕昔曾子不レ受二季孫之賜一、況可レ事二姓一哉。❷二人の夫につかへる。〔陳樵、節婦賦〕予敢辱二先人之教一兮、以二一身而事二二姓一。

【二姓之好】654 ニセイノ 夫の家と妻の家とのよしみ。〔禮、昏義〕昏禮者、將下合二二姓之好一、上以事二宗廟一、而下以繼上後世上也、故君子重レ之。

【二征】655 ニセイ 二回の征伐。〔晉書、陶侃傳〕近者、王如亂レ北、杜弢跨レ南、二征奔走、一州星馳、其餘縣郡、所在土崩。

【二政】656 ニセイ 君主以外の者に政治の權力のあること。〔左氏、閔、二〕內寵並レ后、外寵二政一。

【二星】657 ニセイ ❶二つの星。〔詩、召南、小星、維參與レ昴、釋文〕參、一名伐、昴、一名留、二星皆西方宿也。〔周禮、春官、天府、注〕祿之言、穀也、年穀登、乃後制二祿一、祭二此二星一者、以二孟冬一既祭レ之、而上二民穀之數於天府一。〔孔德紹、送二蔡君知入レ蜀詩〕靈關九折險、蜀道二星遙一。❷明、張翼（餘杭の人）（4－9812‥711）の字。

【二星屋形】657 ニセイヤカタ 七夕祭の時、牽牛星・織女星に花や供物を供へるために設ける棚。唐代に行はれた風習が日本化したもの。〔年浪草、秋〕二星屋形、唐天寶宮中、七夕以二錦綵一結成二樓殿一、高百丈、可レ容二數十人一、陳二花果酒炙一、設二坐具一以祀二牛女二星一。

【二牲】658 ニセイ 二匹のいけにへ。〔書、洛誥、王賓殺禋咸格、疏〕精レ意以享、謂二之禋一、既殺二二牲一、精誠其意、以享二文武一。〔禮、內則〕適子・庶子、祇事二宗子一、宗婦云云、若富、則具二二牲一、獻二其賢者一、宗子・夫婦皆齊而宗敬焉、終レ事而後、敢私祭。

【二清】659 ニセイ 越州の二人の名僧、即ち、清江と清晝とをいふ。〔因話錄、越州有二名僧二人一、一曰二清江一、二曰二清晝一、故號二二清一。

【二甥】660 ニセイ 二人のをひ。又、二人のむこ。甥は、姉妹の子、又、女の夫。〔左氏、桓、九〕楚使下鬪廉帥二師及巴師一圍上鄧、鄧養甥聃甥、帥二師救一レ鄧。〔注〕二甥、皆鄧大夫。〔陶潛、長史孟府君傳〕溫游龍山、參二佐畢集一、四弟二甥咸在レ坐。

【二睛】661 ニセイ 二つのひとみ。〔瑯嬛記〕猫忽見レ夢焉、曰、我已活矣、不レ信者、可二掘觀一レ之、及レ掘、猫身已化、惟得二二睛一、堅滑如レ珠。

【二聖】662 ニセイ 二人の聖人。❶周の文王・武王。〔漢書、韋玄成傳〕成二成二聖之業一、制二禮作一レ樂。❷周公・孔子。〔沈約、均聖論〕周孔二聖、宗

條稍廣。㊁唐の高宗と其の皇后。〔唐書、則天皇后武氏紀〕上元元年、高宗號二天皇一、皇后亦號二天后一、天下之人、謂二之二聖一。

【二聖環】663 ニセイクワン　環の名。宋の徽宗・欽宗の二帝が、金の爲に執へられて北に去つたので、其の還幸の祈願の爲に楊存中の作つたもの。〔貴耳集〕紹興初、楊存中在二建康一、諸軍之旗中、有二雙勝交環一、謂二之二聖環一、取二兩宮北還之意一、因レ得二美玉一、琢成二帽環一、進二高廟一、偶有二一伶在レ旁、高宗指レ環示レ之、此楊太尉進來、名二二聖環一、伶人奏云、可レ惜二聖環一、且放在二腦後一。

【二聖一賢】664 ニセイイツケン　二人の聖人と一人の賢人。二聖は大禹・孔子、一賢は墨子。〔韓愈、爭臣論〕禹過二家門一不レ入、孔席不レ暇レ暖、而墨突不レ得レ黔、彼二聖一賢者、豈不レ知二自安佚之爲一レ樂哉、誠畏二天命一而悲二人窮一也。〔小學紺珠、聖賢類、二聖二賢禹・孔・墨。

【二精】665 ニセイ　㊀玉と帛。〔國語、楚語下〕先王之祀也、以二一統一精一。〔注〕二精、玉帛也。㊁陰陽の精。二五(319)を見よ。

【二齊】666 ニセイ　㊀二つの齊の國。〔戰國、燕策〕蘇代遺二燕昭王書一曰、云云、北夷方七百里、加レ以魯衛、此所謂強萬乘之國也、而齊并レ之、是益二一齊一也。㊁南齊と北齊。〔北史、于宣敏傳〕三蜀・二齊、古稱二天險一、分二王戚屬一、今正其時。㊂清、胡亦堂(9－29400‥405)の字。

【二聲】667 ニセイ　㊀文字の二つの音。二音。〔詩、小雅、常棣、鄂不二韡韡一、箋、古聲不拘同、釋文〕不拘不二音如レ字、又芳浮反、二聲相近也。㊁二つの音曲。〔宋書、戴顒傳〕太祖以二其好レ音、長給二正聲伎一部、顒合二何嘗・白鵠二聲一、以爲二一調一、號爲二清曠一。㊂二つの音。〔南齊書、五行志〕(永明十年十二月)丙申、夜聞二西北上雷一、頻續二二聲一。㊃現代中國音で下平聲の稱。

【二聲鳥】668 ニセイテウ　鳩の異稱。〔吳竹集〕。

【二稅】669 ニゼイ　二つの租稅。〔宋史、高宗紀七〕紹興十九年五月壬午朔、汀漳泉三州民田、被二賊踐一、蠲二其二稅一。

【二滋】670 ニジ　二つのみぎは。〔水經、淸水注〕淸水左右、舊有二二滋一、所謂南滋北滋者、水側之濱聚、在二淸陽之東北一。

【二少】671 ニセウ　二人の若者。〔南史、謝覽傳〕帝賜レ詩云、雙文既後進二少實名家一、豈伊爾棟隆、信乃俱國華。

【二樵】672 ニセウ　字號。㊀淸、黎簡(12－47994‥6)の號。㊁淸、王漁(7－20823‥244)の字。

【二蕭】673 ニセウ　六朝の齊と梁。共に蕭姓であるからいふ。〔孔穎達、毛詩正義序〕晉宋二蕭之世、其道大行。

【二尺】674 ニシヤク　一尺の二倍。〔詩、齊風、猗嗟、終日射レ侯不レ出二正兮一、傳〕二尺曰レ正。〔周禮、考工記、輪人〕部廣六寸、部長二尺一。〔史記、景帝紀〕衡山雨雹、大者五寸、深者一尺。

【二石】675 ニセキ　㊀二つの石。〔水經、瀦水注〕水出二馬耳山一、山高百丈、上有二二石一。㊁ニコク　一石の二倍。一石は一斗の十倍。〔史記、袁盎傳〕及二袁盎使レ吳見レ守、從史適爲二守レ盎校尉司馬一、乃悉以二其裝齎一置二二石醇醪一。〔南史、任昉傳〕嘗欲レ營二佛齋一、調二楓香二石一。

【二石居士】676 ニセキコジ　淸、周寶傑(2－3441‥819)の號。

【二迹】677 ニセキ　先人と其の善行を同じくすること。〔後漢書、傳毅傳〕於赫我祖、顯二于殷國一、二迹阿衡、克光二其則一。〔注〕高宗命二傅說一曰、爾尙明保、罔レ俾二阿衡專一美有商一、故曰二二迹一也。

【二隻】678 ニセキ　二つ。二羽。〔輟耕錄、降眞香〕移二檄南岳魏夫人一、請借二仙鶴一、或二隻、或四隻、青鸞道衞、翔鷲澄空、昭二揚道妙一。

【二責】679 ニセキ　二つの責任。〔淮南子、兵略訓〕主之所レ求二于民一者一、求二民爲一レ之勞一也、欲二民爲一レ之死一也、民之所レ望二于主一者三、飢者能食レ之、勞者能息レ之、有レ功者能德レ之、民以償二其二責一、而上失二其三望一、國雖レ大、人雖レ衆、兵猶且弱也。

【二契】680 ニセツ　司徒と戶部尙書との職をいふ。契は古代に司徒となつた人。〔唐書、杜佑傳〕契作二司徒一、今司徒・戶部尙書、則二契也。

【二浙】681 ニセツ　浙江省を東西に分けた浙東と浙西との併稱。〔韓元吉、廣信府修城記〕地控二閩越一、引二浙、隱然爲二要衝之會一。〔埤雅〕今江湘二水左右、舊有二二滋一、所謂南滋北滋者、水側之濱

【二節】682 ニセツ　㊀二つのくぎり。〔詩、小雅、伐木、以速二諸父一、疏〕分二五等一爲二二節一、皆以二公侯一爲二上等一、伯子男爲二下等一。㊁竹のふたふし。〔史記、趙世家〕與二原過竹二節莫一レ通、曰、爲レ我以レ是遺二趙毋卹一、原過既至、以告二襄子一。㊂二つのきまり。〔王禹偁、射宮選レ士賦〕非レ取二其十發而九中一、在レ合二于一節一而五正一。㊃市場用語。後場なり前場なりの第二回目の立會ひ。

【二舌】683 ニゼツ　二枚舌。食言。〔兩舌(1－1436‥25二)を見よ。〔淶水家儀〕凡女僕、兩面二舌一、虛飾迭讒者、逐レ之。

【二絕】684 ニゼツ　㊀二つのすぐれたもの。㋑陳の顧野王の畫いた古賢の圖と、北周の王褒のそれに書いた贊とをいふ。〔南史、顧野王傳〕宣城王爲二揚州刺史一、野王及琅邪王褒、並爲二賓客一、王於二東府一起レ齋、令二野王畫二古賢一、命二王褒一書レ贊、時人稱爲二二絕一。〔小學紺珠、名臣類下、二絕〕顧野王畫二古賢一、王褒書レ贊。㋺梁の伏曼容と南朝宋の袁粲。〔小學紺珠、名臣類下、二絕〕伏曼容・袁粲、宋一臺二絕一。㋩北齊の宋世軌と蘇珍之。〔小學紺珠、名臣類、二絕〕宋世軌廷尉少卿、蘇珍之大理正、北齊、時以爲二寺中二絕一。㊁二つの絕句。〔蘇軾、和二流杯石上草書小詩一詩〕醉裏自書醒自笑、如今二絕更逢レ君。

【二妾】685 ニセフ　二人のめかけ。又、二人の下女。〔詩、唐風、綢繆、見二此粲者一、傳〕三女爲レ粲、大夫、一妻二妾一。〔禮、內則〕子有二二妾一、父母愛二一人一焉、子愛二一人一焉。

【二千】686 ニセン　千を二倍した數。〔左氏、哀、七〕魯擊柝聞二于邾一、吳二千里、不二三月一不レ至、何及二於我一。〔史記、文帝紀〕朱虛侯劉章・襄平侯通・東牟侯劉興居各二千戶、金千斤。〔杜甫、古柏行〕霜皮溜雨四十圍、黛色參レ天二千尺。

【二千石】687 ニセンセキ　漢代の九卿郎將から郡守尉に至るまでの人々。此の人々は皆秩二千石を受ける。但し三等に分れてゐる。中二千石(中は滿の義、月に百八十斛を領す)・眞二千石(月に百五十斛を領す)・二千石(月に百二十斛を領す)。一說に、中二千石(月に百八十斛を領す)・二千石(月に百二十斛を領す)・比二千石(月に百二十斛を領す)ともいふ。因つて後世は地方長官卽ち知府等を二千石といふ。良二千石(9－3059 7‥265)を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕自二司隸一至二虎賁校尉一、秩皆二千石。〔漢書、百官公卿表上〕奉車都尉掌レ御二乘輿車一、駙馬都尉掌二駙馬一、皆秩比二千石一。〔漢書、循吏傳序〕庶民所レ以安二其田里一、而亡二歎息愁恨之心一者、政平訟理也、與レ我共レ此者、其唯良二千石乎一。〔注〕謂二郡守・諸侯相一。〔杜甫、寄二裴施州一詩〕堯有二四岳一明二至理一、漢二千石眞分レ憂。〔通典、職官典、祿秩〕漢制、祿秩自二中二千石一至二百石一、各有二等差一、宣帝又益二天下吏百石以下俸十五一、至二成帝陽朔二年一、除二八百石五百石秩一、綏和二年一、又益二吏三百石以下俸一。凡吏比二千石以上一、年老致レ仕者、三分故祿一、以二一與レ之終二其身一。中二千石(月俸百八十斛)・二千石(百二十斛)・比二千石(百斛)・千石・六百石・四百石・比四百石・三百石・比三百石・二百石・比二百石・百石、自二四百石一至二二百石一、爲二長吏一。百石以下有レ斗、食二佐吏之秩一、是爲二小吏一。〔文獻通考、職官考、官品〕漢官秩差次、中二千石、月百八十斛、王莽改レ卿、二千石、月百二十斛、亦曰二眞二千石一、王莽改爲二上大夫一、比二二千石、月百斛、王莽改爲二中大夫一。〔書言故事、郡守類〕太守祿秩二千石。

【二千里外故人心】688 ニセンリノグワイコジンノココロ　月に對して遠方に居る友を偲ぶ心。〔白居易、八月十五日夜禁中獨直對二月憶一元九一詩〕銀臺金闕夕沈沈、獨宿相思在二翰林一。三五夜中新月色、二千里外故人心。諸宮東面烟波冷、浴殿西頭鐘漏深、猶恐淸光不二同見一、江陵卑濕足二秋陰一。

【二川】689 ニセン　㊀二つの川。二水。〔國語、周語下〕今吾執政無レ乃實有二所避一、而滑二夫二川之神一、使レ至二於爭一明以妨二王宮一、王而飾レ之、無二乃不可一乎。〔余闕、秋興亭詩〕涉二江登二危榭一、引望二二川流一。

【二仙】690 ニセン　㊀淸、沈容(6－17189‥381)の字。二人の仙人。〔水經、溱水注〕古老言、昔二仙、分而憩レ之、自二爾年豐、彌二歷一紀一。〔宋史、石延年傳〕王氏酒樓、有二二仙一來飲。

【二泉】691 ニセン　㊀二つのいづみ。〔方回、秋晩雜書

詩〕上饒有二二泉一、皆淡骨獨淸。㊁淸、王澍（7－20823・・554）の號。

【二泉寓客】692 ニセングウカク　淸、王澍（7－20823・・554）の號。

【二泉先生】693 ニセンセンセイ　明、邵寶（11－39343・・58）の尊稱。「號。

【二泉女史】694 ニセンヂヨシ　淸、唐素（2－3709・・226）の號。

【二扇】695 ニセン　㊀二つの扇。〔女紅餘志〕東陽嘗贈二所レ歡二扇一、一曰二銀花一、一曰二寄情一。㊁二冊。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕庫書置二簿二扇一、照二櫃吏日報一、登二塡某日某櫃一、云云、連前共收二銀若干一。

【二陝】696 ニセン　陝東と陝西。〔孫逖、和二左司張員外一詩〕二陝聽二風謠一、三秦望二形勝一。〔徐夤、西華詩〕疊嶂出レ關分二二陝一、殘岡過レ水作二中條一。

【二箭】697 ニセン　㊀二本の矢。〔魏書、爾朱兆傳〕善二騎射一、榮會レ送二臺使一、見二二鹿一、乃命レ兆、前止授二二箭一曰、可下取二此鹿一供中今食上也。㊁二本の矢竹。〔謝靈運、山居賦〕其竹則二箭殊レ葉、四苦齊レ味。〔自注〕二箭、一者苦箭、大葉、一者笄箭、細葉。

【二線】698 ニセン　二つの絲すぢ。〔元史、天文志一〕太史郭守敬謂、昔人以レ管窺レ天、宿度餘分、約爲二大半一、少未レ得二其的一、乃用二二線一、推二測於餘分一、纖微皆有レ可レ考。

【二選】699 ニセン　二つの選擧。又、再び選ぶ。〔宋史、職官志三〕尙書掌二文武二選之法一、而奉二行其制命一。〔宋史、選擧志四〕防禦團練、判官二選。

【二錢】700 ニセン　二つのぜに。〔行營雜錄〕近世錢文、皆著二年號一、惟此二錢不レ然者、以下年號有二寶字一、文不上レ可レ重也。

【二瞻】701 ニセン　淸、査士標（6－14643・・95）の字。

【二善】702 ニゼン　二つの善事。〔唐書、百官志一〕一最四善爲二上上一、一最三善爲二上中一、一最二善爲二上下一、無レ最而有二二善一爲二中上一、無レ最而有二一善一爲二中中一。〔唐書、李邕傳〕夫知レ賢而擧レ仁也、任二人之惠一義也、獲二二善一以死、臣又何求。

【二膳】703 ニゼン　二つの膳。膳は、料理した食物。〔避暑錄話〕范堯夫、每レ仕二京師一、早晩二膳、往往過レ儉、有二不レ飽者一。

【二俎】704 ニソ　二つの俎。俎は、祭享の器で、大牲を載せて薦めるもの。〔儀禮、公食大夫禮〕上大夫、八豆八簋、六鉶九俎、魚腊皆二俎。

【二祖】705 ニソ　㊀漢の高祖と世祖とをいふ。〔後漢書、章帝紀〕告二祠二祖・四宗一。〔注〕二祖、謂二高祖・世祖一、四宗、謂下文帝爲二太宗一、武帝爲二世宗一、宣帝爲二中宗一、明帝爲中顯宗上。㊁晉の太祖と世祖とをいふ。〔陸機、答二賈長淵一詩〕惟公太宰、光翼二二祖一。〔注〕善曰、臧榮緒晉書曰、晉太祖爲二大將軍一、以二賈充一爲二司馬右長史一、及二世祖受レ禪、轉二太宰一。㊂佛第二番目の祖。禪家では、初祖達摩の次の祖、卽ち、慧可禪師といふ。〔正宗記〕二祖慧可大師、武牢姬氏子、幼出家、後見二達摩於少室山一、繼二闡玄風一。

【二疏】706 ニソ　漢の疏廣と疏受とをいふ。宣帝の時の人。疏受は廣の兄の子。足るを知つて致仕し、人の稱讚を得た人。二疏散金を見よ。〔張協、詠史詩〕藹藹東都門、羣公祖二二疏一。〔小學紺珠、名臣類下、二疏〕太子太傅疏廣・太子少傅疏受。

【二疏散金】707 ニソサンキン　蒙求の標題。漢の疏廣と疏受とが、致仕する時、天子及び太子から賜はつた金を、鄕黨宗族に與へた故事。〔漢書、疏廣傳〕廣徙爲二太傅一、廣兄子受、云云、爲二少傅一、云云、父子竝爲二師傅一、朝廷以爲レ榮、在レ位五歲、皇太子年十二、通二論語・孝經一、廣謂レ受曰、吾聞、知レ足不レ辱、知レ止不レ殆、功遂身退、天之道也、云云、上疏乞二骸骨一、上以二其年篤老一、皆許レ之、加二賜黃金二十斤一、皇太子贈以二五十斤一、公卿大夫・故人・邑子、設二祖道一、供二張東都門外一、云云、廣旣歸二鄕里一、日令三家共レ具設二酒食一、請二族人・故舊・賓客一、與相娛樂、數問二其家一、金餘尙有二幾所一、趣賣以共レ具、居歲餘、廣子孫竊謂下其昆弟・老人、廣所二愛信一者上曰、子孫幾下及二君時一、頗立中產業基阯上、今日飮食費且レ盡、宜下從二丈人所一、勸說レ君買中田宅上、老人卽以二閒暇時一、爲レ廣言二此計一、廣曰、吾豈老誖不レ念二子孫一哉、顧自有二舊田廬一、令三子孫勤二力其中一、足下以共二衣食一、與二凡人一齊上、今復增二益之一、以爲二贏餘一、但敎二子孫怠墮一耳、賢而多レ財、則損二其志一、愚而多レ財、則益二其過一、且夫富者、衆之怨也、吾旣亡三以敎二化子孫一、不レ欲下益二其過一而生上レ怨、又此金者、聖主所三以惠二養老臣一也、故樂下與二鄕黨・宗族一共饗二其賜一、以盡中吾餘日上、不二亦可一乎、於レ是、族人說服。

【二楚】708 ニソ　春秋時代の楚國の地。二つに分れてゐたからいふ。〔隋書、南蠻傳論〕自下秦幷二二楚一、漢平中百越上、地窮二丹徼一、景極二日南一、水陸可レ居、咸爲二郡縣一。

【二鼠】709 ニソ　佛白・黑の二鼠を以て、晝と夜、又は日と月とに喩へる。〔賓頭盧突羅闍爲優陀延王說法經〕白・黑鼠者、喩二晝夜一。〔梁昭明太子、講席將レ訖賦二三十韻詩一依レ次用詩〕暫捨二六龍駕一、微祛二二鼠甏一。

【二鼠嚙藤】710 ニソトウヲカム　佛五欲に執著して生死を出離し得ない譬。二鼠は日と月、藤は生命を指す。〔翻譯名義集、五〕緣レ藤（命根）入レ井（無常）、有二黑・白二鼠一（日・月）、嚙レ藤將レ斷。

【二蘇】711 ニソ　㊀後漢の平陵の蘇章と蘇不韋。〔後漢書、郭伋等傳贊〕二蘇勁烈、羊賈廉能。〔小學紺珠、氏族類、二蘇〕蘇章・蘇不韋。㊁北周の蘇亮と其の從弟の蘇綽。〔小學紺珠、氏族類、二蘇〕蘇亮・蘇綽。〔陔餘叢考、兩二蘇〕按二魏書一、蘇亮與二蘇綽一齊レ名、人稱二二蘇一、則又在二坡・潁之前一矣。㊂宋の蘇軾と弟の蘇轍とをいひ、父の洵を加へて三蘇と稱す。〔宋史、常安民傳〕董敦逸、再爲二御史一、欲レ劾二蘇軾兄弟一、安民謂、二蘇負二天下文章一。〔小學紺珠、氏族類、二蘇〕蘇軾・蘇轍。

【二宋】712 ニソウ　㊀宋の宋庠（初名は郊）と其の弟の宋祁。〔宋史、宋祁傳〕祁、字子京、與二兄庠一同時擧二進士一、禮部奏、祁第一、庠第三、章獻太后不レ欲三以レ弟先二兄、乃擢二庠第一一、寘二祁第十一、人呼曰二二宋一、以二大小一別レ之。㊁宋の宋雄と宋琪。〔宋史、宋雄傳〕宋雄者、幽州人、初與レ琪齊レ名、燕薊閒、謂二之二宋一。㊂元の宋本と宋褧。〔元史、宋本傳〕弟褧、云云、其文學、與レ本齊レ名、人稱レ之曰二二宋一。㊃明の宋克と宋廣。〔明史、宋克傳〕以レ善レ書名二天下一、時有二宋廣一、字昌裔、亦善二草書一、稱二二宋一。㊄北宋と南宋とをいふ。

【二宗】713 ニソウ　㊀二人の先祖。又は宗廟に祭られる二つの宗。例へば周室の文世室・武世室の如きもの。〔宋書、禮志〕殷世有二二祖・二宗一、若拘二七室一、則當レ祭レ禰而已。〔張九齡、故滎陽君蘇氏挽歌詞〕二宗榮盛日、千古別離時。㊁二つの流派。儒教と道教。〔江淹、爲レ蕭重讓二揚州一表〕儒・道二宗、名・墨兩教。

【二叟】714 ニソウ　二人のおきな。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕迴尋畫龍堂、二叟鬢髮班。〔李德裕、憶二村中老人春酒一詩〕二叟茅茨下、淸晨飮二濁醪一。〔張九成、午窗坐睡詩〕欲下呼二李太白一、醉眠成中二叟上。

【二僧】715 ニソウ　二人の僧。〔李幼卿、遊二爛柯山一詩〕石室過二雲外一、二僧儼二禪寂一。

【二束】716 ニソク　棺桶の二つのたばね紐。〔禮、喪服大記〕大夫蓋、用レ漆、二衽二束、士蓋、不レ用レ漆、二衽二束也。〔疏〕大夫蓋、用レ漆、二衽二束者、亦漆二衽合縫處一也、大夫・士、橫衽有レ二、每レ衽有レ束、故云二二衽二束一也。

【二足】717 ニソク　二つの足。二本足。〔爾雅、釋鳥〕二足而羽、謂二之禽一、四足而毛、謂二之獸一。

【二足尊】718 ニソクソン　佛佛をいふ。二脚の生類中の最も尊い者の義。一說に、二足は福・智に喩へ、福・智を圓滿にする義といふ。兩足尊。〔法華經、授記品〕供二養最上二足尊一。

【二足無毛】719 ニソクムマウ　二本足で毛がない者。卽ち、人をいふ。〔荀子、非相〕人之所二以爲レ人者、非三特以二二足無レ毛也、以二其有レ辨也、今夫猩猩形笑、亦二足而毛也、然而君子啜二其羹一、食二其胾一、故人之所二以爲レ人者、非三特以二其二足而無レ毛也。

【二則】720 êrh^{4} tsê^{2}　二つには。それに又。

【二則庫緞】721 êrh^{4} tsê^{2} k'u^{4} tuan^{4}　絹織物の一種。長さ五尺、幅一尺四寸の繻子。

【二則線緞】722 êrh^{4} tsê^{2} hsien^{4} tuan^{4}　絹織物の一種。長さ二丈、幅二尺の繻子。

【二則全緞】723 êrh^{4} tsê^{2} ch'üan^{2} tuan^{4}　絹織物の一種。長さ四丈四尺、幅五尺四寸の繻子。

【二息】724 ニソク　二人のむすこ。〔唐書、源乾曜傳〕請出二二息一補レ外、以自レ近始、由レ是、公卿子弟、皆出補レ外。

【二族】725 ニゾク　二つのやから。二つの氏。〔晉書、裴綽傳〕裴・王二族、盛二於魏・晉之世一。〔宋史、兵志五、鄜延路、注〕靑澗城二族、兵四千五百十、馬七百三十四。

【二卒】726 ニソツ　二人の兵卒。二兵。〔五代史、萇從

簡傳〕許州富人有二玉帶一、從簡欲レ之而不レ可レ得、遣二一卒一、夜入二其家一、殺而取レ之。

【二村】727 ニソン 二つの村。二邑。〔水經、江水注〕江水又東逕二石龍一而至二于博・陽二村之閒一、有二磐石一。

【二孫】728 ニソン 二人の孫。〔宋史、高宗紀七〕紹興二十年十二月甲子、檜始朝、命二肩輿一入二宮門一、二孫扶掖、升レ殿不レ拜。

【二尊】729 ニソン ❶二つの尊い者。父と母。〔禮、喪服四制〕資二於事レ父以事レ母、而愛同、故天無二二日一、土無二二王一、國無二二君一、家無二二尊一、以レ一治レ之也。❷二つの酒だる。尊は樽。二榼。〔儀禮、少牢饋食禮〕司宮取二二勺于篚一洗レ之、兼執以升、乃啓二二尊之蓋冪一、奠二於棜上一、加二二勺于二尊一、覆レ之南レ柄。❸佛 釋迦と彌陀。〔觀經散善義〕仰蒙二釋迦發遣指二向西方一、又籍二彌陀悲心招喚一、今信二順二尊之意一。❹伊奘諾尊と伊奘冉尊。

〔二尊人〕730 êrh⁴ tsuen¹ jen² 御兩親。父上と母上の御兩人。

【二朵】731 ニダ 二枝。〔徐夤、銀結條冠子詩〕瑞蓮開二二朵一、瓊縷織二千條一。

【二蛇】732 ニダ 二匹のへび。〔郭璞、山海經圖讚、鳴蛇化蛇讚〕鳴・化二蛇、同レ類異レ狀。

【二駝】733 ニダ 二匹の駱駝。〔金史、強伸傳〕得二二駝及所レ乘馬、皆殺レ之以犒レ軍。

【二帶】734 ニタイ ❶二つの帶。〔宋史、寇準傳〕太宗嘗得二通天犀一、命レ工爲二二帶一、一以賜レ準。❷大帶と革帶。〔小學紺珠、制度類、二帶〕大帶・革帶。

【二敦】735 ニタイ 二つの敦。敦は黍・稷を盛る器。〔儀禮、士虞禮〕饌二黍・稷二敦於階閒一、西上。

【二隊】736 ニタイ 二つの部隊。〔左氏、文、十六〕楚子乘レ馹、會二師于臨品一、分爲二二隊一、子越自二石溪一、子貝自レ仞、以伐レ庸。〔注〕隊、部也、兩道攻レ之。〔宋史、兵志九〕其法、五伍爲レ隊、五隊爲レ陣、陣横列二騎兵二隊一、亦五伍列レ之。

【二諦】737 ニタイ 佛 世閒の道理と出世閒の道理。俗諦と眞諦。〔釋氏要覽〕佛所レ說法、皆歸二二諦一。〔智度論、三十八〕佛法中有二二諦一、一者、世諦、二者、第一義諦。

【二戴】738 ニタイ 禮を傳へた漢の戴德・戴聖の二人をいふ。戴德(5－11685・・110)・戴聖(5－11685・・96)を見よ。〔孔穎達、禮記正義序〕去レ聖逾遠、異端漸扇、故大小二戴、共レ氏而分レ門、王・鄭兩家、同レ經而異レ注。〔故事成語考、文事〕二戴曾刪二禮記一、故曰二戴禮一。

【二體】739 ニタイ ❶二つの體裁。〔江淹、雜體詩序〕夫楚謠漢風、既非二一骨一、魏製晉造、固亦二體。❷歷史の二つの體。卽ち、編年體（左傳の如き體裁）と紀傳體（史記の如き體裁）。〔史通、二體〕史記者、紀以包二擧大端一、傳以委二曲細事一、表以序二其年爵一、志以總二括遺漏一、逮二於天文・地理・國典・朝章一、顯隱必該、洪纖靡レ失、此其所二以爲一レ長也、若乃同爲二一事一、分在二數篇一、斷續相離、前後屢出、於二高紀一則云、語在二項傳一、於二項傳一則云、事具二高紀一、又編二次同類一、不レ求二年月一、後生而擢居二首秩一、先輩而抑歸二末章一、遂使下漢之賈誼將二楚屈原一同列、魯之曹沫與二燕荊軻一並上レ編、此其所三以爲二短也、考レ茲、勝負互有二得失一、而晉世干寶著レ書、乃盛譽二丘明一、深抑二子長一、其義云、能以二三十卷之約一、括二囊二百四十年之事一、靡レ有遺也、尋二其此說一、可レ謂二勁挺之詞一乎、按、春秋時事、入二於左氏所レ書者、蓋三分得二其一一耳、丘明自知二其略一也、故爲二國語一以廣レ之、然國語之外、尙多二亡逸一、安得レ言三其括二囊靡二遺者一哉。〔小學紺珠、藝文類、史二體〕編年、始二左氏一、紀傳、始二司馬遷一。❸文・武の舞をいふ。一說に、陰・陽の聲をいふ。〔左氏、昭、二十〕一氣二體。〔注〕舞者、有二文・武一。〔會箋〕竟山樂錄云、二體者、聲有二陰陽一也、舊曰二文武二舞一、非也。

【二內】740 ニダイ 二つの部屋。〔漢書、鼂錯傳〕先爲築二室家一、有二一堂二內、門戶之閉一、置二器物一焉。〔注〕張晏曰、二內、二房也。

【二代】741 ニダイ 二つの時代。二世。〔論語、八佾〕子曰、周監二於二代一、郁郁乎文哉、吾從レ周。

【二台】742 ニダイ 二人の宰相。〔宋書、謝晦傳〕梟二四凶於廟庭一、懸二三監於絳闕一、申二二台之匪辜一、明二兩蕃之無罪一、上謝二祖宗一、下告二百姓一。

【二柰】743 ニダイ 二種のからなし。〔潘岳、閑居賦〕三桃表二櫻胡之別一、二柰曜二丹白之色一。〔注〕善曰、廣志曰、張掖有二白柰一、酒泉有二赤柰一。

【二臺】744 ニダイ ❶二つのうてな。〔水經、淇水注〕魏氏土地記曰、章武縣東一百里、有二武帝臺一、南北有二二臺一、相去六十里、基高六十丈。〔晉書、祖逖傳〕馮鐵據二二臺一、逖鎭二雍丘一、數遣二軍要一、截二石勒一。❷二つのやくしよ。〔陶潛、命子詩〕直二方二臺一、惠二和千里一。〔箋注〕漢官儀云、御史臺、內掌二蘭臺祕書一、外督二諸州刺史一、故以二蘭臺一爲二內臺一、刺史爲二外臺一。〔宋書、百官志上〕二臺奏劾、則符二光祿一加二禁止一、解二禁止一亦如レ之、禁止身不レ得レ入二殿省一、光祿主二殿門一故也。〔劉懷一、贈三右臺監察鄧茂遷二左臺殿中一詩〕入レ仕光二三命一、遷レ榮歷二二臺一。

【二桃】745 ニタウ ❶二つの桃。〔劉孝威、謝レ賚二林禽一書〕勇聞二齊國一、止錫二二桃一。〔謝廷讚、黃山賦〕二桃則毛自異レ色、五竹則桂筍獨斑。❷桃の木で作った殳の名。桃殳(6－14757・・114)を見よ。〔韓詩外傳、十〕丈夫曰、是名二二桃一、桃之爲レ言、亡也、夫日日愼レ桃、何患之有。

〔二桃殺二三子一〕746 ニタウサンシヲコロス 奇計を以て人を殺すこと。齊の晏子が公孫接・田開疆・古冶子の三勇士に二桃を贈り、相爭はしめて盡くこれを死なせた故事。子は、一に士に作る。〔晏子、諫、下〕公孫接・田開疆・古冶子、事二景公一、以二勇力一搏レ虎聞、晏子過而趨、三子者不レ起、云云、因請レ公、使三人少餽二之二桃一曰、三子何不三計レ功而食レ桃、公孫接曰、接一搏レ猏、而再搏二乳虎一、若二接之功一、可二以食レ桃、而無一レ與レ人同一矣、援レ桃而起、田開疆曰、吾伏レ兵而卻二三軍一者再、若二開疆之功一、亦可三以食レ桃、而無二與レ人同一矣、援レ桃而起、古冶子曰、吾嘗從レ君濟二於河一、黿御二左驂一、以入二砥柱之流一、少不レ能レ游、潛行逆レ流百步、順レ流九里、得レ黿而殺レ之、若二治之功一、亦可二以食レ桃、而無一レ與レ人同一矣、二子何不レ反レ桃、公孫接・田開疆、皆反二其桃一、挈レ領而死、古冶子曰、二子死レ之、治獨生レ之不仁、恥レ人以レ言而夸二其聲一、不義、恨二乎所レ行不レ死無レ勇、亦反二其桃一、挈レ領而死。〔諸葛亮、梁甫吟〕一朝被二讒言一、二桃殺二三士一。〔故事成語考、花木〕齊景公以二二桃一殺二三士一。

【二陶】747 ニタウ 淸、丁廷枚(1－2・・289)の字。

【二盜】748 ニタウ 二人の盜賊。〔唐書、鄧處訥傳〕當二是時一、撫州刺史鍾傳據二洪州一、議者欲二二盜相噬一。

【二黨】749 ニタウ 二組のともがら。二つのくみ。二組の朋黨。〔宋史、王覿傳〕呂陶辨二其不レ然、遂起二洛・蜀二黨之說一。

〔二黨制〕750 ニタウセイ 一國に二つの大政黨があつて、交替に政權を掌握する制度をいふ。

【二堂】751 ニダウ 大堂の後にある建物で、長官の執務するところ。〔福惠全書、涖任部、出堂規〕各房齊二集二堂一。

【二道】752 ニダウ ❶二つの道。〔宋書、天文志序〕黃・赤二道、相與交錯、其閒相去二十四度、以二兩儀一推レ之、二道俱三百六十五度有奇、是以、知三天體圓如二彈丸一。〔北史、魏大武帝紀〕選二六州兵勇猛者一、使三永昌王仁・高涼王那、分領爲二二道一、南略二淮・泗以北一、徙二靑・徐之人一、以實二河北一。❷二つの方法。〔禮、檀弓上〕臣聞レ之、哭有二二道一、有二愛而哭レ之、有二畏而哭レ之。

〔二道河〕753 ニダウカ 地名。❶滿洲遼寧省蓋平縣の西南。❷滿洲遼寧省西安縣の北。❸滿洲吉林省延吉縣の北。❹滿洲吉林省樺甸縣の東北。❺滿洲吉林省暉春縣の東南。❻滿洲吉林省寗安縣の東南。❼滿洲吉林省五常縣の東北。❽綏遠省興和縣治。

〔二道江〕754 ニダウカウ ❶川の名。滿洲吉林省樺甸縣。源は遼寧省安圖縣の長白山。❷地名。滿洲遼寧省濛江縣城の地方名。

〔二道溝〕755 ニダウコウ 地名。❶滿洲遼寧省鳳城縣の西北にあり、安潘鐵道が通つてゐる。❷滿洲遼寧省海城縣。❸滿洲遼寧省臨江縣の東。❹滿洲遼寧省遼陽縣。❺滿洲遼寧省通化縣の東。❻滿洲吉林省長春縣の北、頭道溝の西北。北滿鐵道の南部の終點。❼滿洲吉林省和龍縣の西。❽滿洲吉林省延吉縣の西。

〔二道邊〕756 ニダウヘン 地名。今の陰山一帶の地。頭道邊と三道邊との閒に介在してゐる。秦の長城の遺址、時に古城が錯列してゐる。

〔二道儀門〕757 êrh⁴ tao⁴ i² men² 役所の中門。

【二宅】758 ニタク 二つの家。〔杜甫、晦日尋二崔戢李封一詩〕晚定崔李交、會心眞罕レ儔、每レ過得レ酒傾、二宅可二淹留一。

【二澤】759 ニタク 二つのさは。澤は、濕地。〔詩、曹

譜、其封域在二雷夏菏澤之野一、疏）按二地理志一、雷夏澤在二濟陰成陽縣西北一、菏澤在二濟陰定陶縣東一、二澤同屬二濟陰一、濟陰曹都所レ在、是曹之封域在二二澤一。〔丘堂、雲夢賦〕緊二東南之奥區一、維二雲夢之二澤一。

【二諾】760 ニダク　承諾を二つにする。不確な請けあひ。〔魏徵、述懷詩〕季布無二二諾一、侯嬴重二一言一。〔李白、尋陽送二弟昌峒鄱陽司馬一作〕一觀無二二諾一、朝歡更勝レ昨。

【二答】761 ニタフ　二つの答。〔詩、小雅、斯干、西二南其戶一、疏〕以二此二答一言レ之。

【二旦】762 èrh⁴ tan⁴　旦と老旦。旦は、婦人に扮する俳優。老旦は、老婦人に扮する俳優。〔還魂記、勸農〕二旦背插花飲酒介。

【二端】763 ニタン　❶ふたごころ。兩端。〔戰國、東周策〕西周之欲レ入レ寶、持二二端一。❷氣と魄とをいふ。〔禮、祭義〕二端既立、報以二二禮一。〔注〕二端既立、謂二氣也、魄也。〔孔子家語、哀公問政〕教以二二端一。〔注〕二端、謂二氣與一レ魄也。❸春秋繁露の篇名。

【二壇】764 ニダン　二つの祭壇。〔宋史、禮志三〕建隆以來、迭奉二四祖一、崇配二二壇一。

【二地】765 ニチ　二つの土地。〔詩、邶風、泉水、出宿二于泲一、傳、泲地名、疏〕下傳或兼云二干・言所レ適國郊一者、一郊不レ得二二地一、宿・餞不レ得レ同レ處、言衍字耳。〔左氏、僖、二十三、帥レ師伐レ陳、注〕今譙郡・城父縣二地、皆陳邑。〔元史、河源附錄〕地名二闊即及闊提一二地相屬。

【二池】766 ニチ　❶二つのいけ。〔楊侃、皇畿賦〕八澤九溝、二池三固。❷二つの池。池は、竹を編んで籠を作り、青布をもつて覆つたもので、喪の時用ひる。大夫は二池。池(**6**－**17141**)の字解を見よ。〔禮、喪服大記〕大夫、畫帷、二池。

【二治】767 ニチ　二つの地方長官の駐在地。〔水經、江水注〕庾仲雍江水記云、谷里袁口江津、南入二歴樊山一、上下三百里、通二新興・馬頭二治一。

【二知】768 ニチ　清、鄒一桂(**11**－**39562**・・69)の號。

【二知軒】769 ニチケン　清、方濬頤(**5**－**13620**・・548)の室名。

【二致】770 ニチ　二つの旨趣。〔宋史、周堯卿傳〕至二三傳之異同一、均有レ所レ不レ取、曰、聖人之意、豈二致邪。

【二郗】771 ニチ　晉の郗愔と其の弟の郗曇とをいふ。〔晉書、何充傳〕郗愔及弟曇、奉二天師道一、而充與二弟準一、崇二信釋氏一、謝萬譏レ之云、二郗諂二於道一、二何佞二於佛一。

【二智】772 ニチ　二つのちゑ。〔梁簡文帝、大法頌序〕二諦現二空有之津一、二智包二權實之底一。

【二穉】773 ニチ　後漢の周澤(字は穉都)と孫堪(字は子穉)とをいふ。共に字に穉の字が附いたからいふ。〔後漢書、儒林下、周澤傳〕周澤、字穉都、北海安丘人也、云云、堪、字子穉、河南緱氏人也、云云、堪行類二於澤一、故京師號曰二二穉一。〔小學紺珠、名臣類下、二穉〕周澤字穉都、孫堪字子穉。

【二癡】774 ニチ　清、王玖(**7**－**20823**・・222)の號。

【二持】775 ニヂ　佛戒の二方面。即ち、止持と作持とをいふ。止は、制止の意で、身・口・意を制止して惡行をさせないことをいひ、止に依つて戒體を保持するを止持といふ。作は、造作の意で、身・口・意を策勵して善業を造作させることをいひ、作に依つて戒體を保持するを作持といふ。〔行事鈔、持犯方規篇〕。

【二肘】776 ニチウ　二つのひぢ。〔新論、命相〕禹耳三漏、湯臂二肘。

【二鈕】777 ニチウ　二つのつまみ。鈕は、とつて。手でつまみ持つやうに器具に附けたもの。〔宋史、輿服志六〕太宗以二玉寶二鈕一、賜二太祖之子德芳一。

【二秩】778 ニチツ　二つの位。二位。二階級。〔宋史、理宗紀一〕寶慶二年二月辛卯、監察御史梁成大言、眞德秀有二大惡五一、僅褫レ職罷レ祠、罰輕、詔削二二秩一。

【二腸】779 ニチヤウ　二人のはらわた。〔施肩吾、古別離詩〕老母別二愛子一、少妻送二征郞一、血流既四面、乃一斷二二腸一。

【二聽】780 ニチヤウ　同時に二つのものをきく。〔春秋繁露、天道無二〕目不レ能二二視一、耳不レ能二二聽一、一手不レ能二二事一。

【二適】781 ニチヤク　二人の正妻。二嫡。〔春秋、隱、五、考二仲子之宮一、杜注、諸侯無二二嫡一、疏〕禮、諸侯不二再娶一、於レ法無二二適一。〔唐書、韋公肅傳〕古諸侯一娶九女、故廟無二二嫡一、自レ秦以來、有二再娶一、前娶・後繼、皆嫡也、兩祔無レ嫌。

【二仲】782 ニチユウ　漢の隱士、羊仲と求仲とをいふ。〔南史、陶潛傳〕鄰靡二二仲一、室無二萊婦一。〔三輔決錄〕蔣詡、字元卿、舍中三徑、惟羊仲・求仲從レ之遊、二仲、皆剉廉逃名之士。〔小學紺珠、名臣類下、二仲〕求仲・羊仲。

【二忠】783 ニチユウ　二人の忠義な人。〔文天祥、敬和二道山堂慶瞻御書韻一詩〕著庭更有二邦人筆一、稽首承レ休學二二忠一。

【二注】784 ニチユウ　二つの注解。〔詩、周南、葛覃、言告二師氏一、疏〕皆昏義文也、彼注云、婦德貞順、婦言辭令、婦容婉娩、婦功絲枲、天官九嬪職注亦然、二注皆以二婉娩一爲二婦容一。

【二柱】785 ニチユウ　二本の柱。柱は、一般に、物を支へるものをいふ。〔宋史、輿服志一〕鳳輦赤質、頂輪下有二二柱一、緋羅輪衣、絡帶門簾、皆繡二雲鳳一。

【二蟲】786 ニチユウ　二種のむし、又は鳥獸。〔莊子、逍遙遊〕之二蟲又何知。〔郭璞、山海經圖讚、鳥鼠同穴山〕鵌・鼵二蟲、殊レ類同レ歸。〔白居易、禽蟲詩〕須レ知年老憂レ家者、恐是二蟲虛二苦辛一。〔蘇軾、二蟲詩〕二蟲愚知俱莫レ測、江邊一笑無二人識一。

【二重】787 ニヂユウ　❶重賞と重刑。〔吳子、治兵〕起對曰、先明二四輕・二重・一信一、云云、進有二重賞一、退有二重刑一。❷佛淨土宗の五重相傳の一。授手印相傳。❸㋑ふたへ。ふたかさね。〔古今著聞集、十一〕召しよせて御覽ずるに、實に二重なりけり。㋺昔、年始・元服・婚禮又は犬追物などの時、菓子を臺に盛り神に供へたもの。㋩演劇に於ける大道具の一。二重舞臺のこと。㋥音樂上で、聲明・平曲等に於て、聲音の音域を上・中・下三段に分け、其の中央をいふ。平曲では、其の音域を主とした特有の旋律的特性をもいふ。

【二重橋】788 ニヂユウバシ　宮城の正門に架けられた橋。上の舊書院門の橋と、下の舊西丸大手門の橋が二重に拜せられるから名づく。一說に、古い橋梁の上に更に新しい橋を重ねたからいふといふ。

【二重奏】789 ニヂユウソウ　一組の相異なる二樂曲を同時に演奏すること。

【二重國籍】790 ニヂユウコクセキ　一人が同時に二國の國籍を有すること。

【二重人格】791 ニヂユウジンカク　一個人が全く異なつた二つの人格を、互に獨立して保有して居ること。兩人格は、交互に活動するが、互に聯絡はない。

【二重生活】792 ニヂユウセイクワツ　❶一人が異なつた二樣の生活をすること。❷邦人が、昔からの日本風と、歐米風との、二樣の生活をすること。

【二重抵當】793 ニヂユウテイタウ　已に抵當としたものを、更に抵當とすること。

【二女】794 ニヂヨ　❶二人のむすめ。〔書、堯典〕釐二降二女于嬀汭一、嬪二于虞一。〔疏〕二女、長曰二娥皇一、次曰二女英一。❷ニジヂヨ　第二番目のむすめ。次女。

【二冢】795 ニチヨウ　二つのつか。冢は、墓の高大なもの。〔唐書、劉昌傳〕德宗下レ詔、哀痛出二衣數百一、稱レ官爲レ賽、具レ斂以二棺櫬一、分二建二冢一、大將曰二旌義冢一、士曰二懷忠冢一。

【二徵】796 ニチヨウ　漢の嚴尤と廉丹とをいふ。匈奴征伐の時に、皆、徵といふ姓を賜はつたからいふ。〔漢書、王莽傳下〕欲下遣二尤與二廉丹一擊中匈奴上、皆賜二姓徵氏一、號二二徵將軍一。

【二直】797 ニチヨク　二つの正直。〔宋書、索虜傳〕彼伺二我軍一、仍相掩襲、俘二我甲士一、翦二我邊民一、良彼有二兩曲一、我有二二直一也。

【二敕】798 ニチヨク　二つのみことのり。〔南齊書、王僧虔傳〕去冬・今春、頻荷二二敕一。〔唐書、薛存誠傳〕二敕皆執不レ下、憲宗悅、遣レ使勞レ之。

【二陳】799 ニチン　宋の陳師錫と陳瓘とをいふ。〔宋史、陳師錫傳〕卒年六十九、師錫始與二陳瓘一同論二京卞一、時號二二陳一。

【二鎭】800 ニチン　二つの鎭。鎭は一地方の重要な場所。〔宋書、文帝紀〕徐・豫土、多二稻田一、而民間專務二陸作一、可・符二二鎭一、履二行舊陂一、相率修立、並課二墾闢一、使レ及二來年一。

【二陣】801 ニヂン　陣だての名。先陣の次にあるもの。第二陣。

【二通】802 ニツウ　❶文書二つ。通は、文書を數へる語。〔宋史、選擧志三〕元豐七年、止レ試二孫吳書一、大義一場、第一等取二四通一、次二等三通、三等二通、爲二中格一。❷二度、鼓を鳴らす。〔眞山民、三山旅夜詩〕鄰館笛三弄、譙樓鼓二通。

【二丁】803 ニテイ　二人の壯丁。〔宋史、兵志四〕咸平三

年詔、河北家、二丁三丁籍レ一、四丁五丁籍二、六丁七丁籍レ三、八丁以上籍レ四、爲二強人一。(宋史、王安石傳)保甲之法、籍二鄉村之民一二丁取レ一、十家爲レ保。

【二弟】804 二人の弟。(南史、胡藩傳)卿此姪、當下以二義烈一成中名、州府辟不レ就、須二一弟冠婚畢一、乃參二郗恢征虜軍事一。(北史、隋蔡景王整傳)帝曰、我有二同生一弟一、並倚二婦家勢一、常憎二疾我一、我向レ之笑。

【二邸】805 二つのやしき。(駱賓王、上二齊州張司馬一啓)翼化二邸一、挹二敬祖之清廉一、光贊二外臺一、陳二君臣之亮直一。

【二亭】806 ❶二つのあづまや。(費宏、賜二同遊二西苑一賦序)傳二命令霖導臣等一、至二清馥殿一遊、因得二緬二觀翠芬一、錦芬二亭一、及花卉松竹一。❷清、朱筠(6-14424・39)の字。

【二帝】807 二人の帝王。❶唐堯と虞舜。(書、大禹謨、疏)禹承二堯・舜二帝一、故云二敬承一堯舜一。(小學紺珠、歷代類、二帝)堯・舜。❷黃帝と炎帝。(小學紺珠、歷代類、二帝)黃帝・炎帝。

【二帝三王】808 二帝は、唐堯・虞舜、三王は、夏の禹王、殷の湯王、周の文王・武王。(春秋說題辭)尚書者、二帝之迹、三王之義。(揚雄、羽獵賦)孝成帝、時羽獵、雄從、以爲昔在二帝三王、宮館臺榭、沼池苑囿、林麓藪澤、財足下以奉二郊廟一、御二賓客一、充中庖廚上而已。(注)善曰、應劭曰、堯・舜・夏・殷・周也。(韓愈、送二浮屠文暢師一序)如二吾徒一者、宜三告レ之以二帝三王之道一。

【二庭】809 ❶東漢の時、匈奴の南單于と北單于とが建てた二つの朝廷をいふ。庭は廷に同じ。(後漢書、南匈奴傳論)於レ是匈奴分破、始有二南北二庭一焉。❷唐代に、西突厥の沙鉢羅可汗と吐陸とが建てた二つの朝廷。即ち、南單于と北單于。(丹鉛總錄)二庭者、沙鉢羅可汗建二庭於睢合水一、謂二之南庭一、吐陸建二牙於鏃曷山一、謂二之北庭一、二庭以二伊列水一爲レ界、所謂南單于・北單于也、唐詩有二二庭歸望斷、萬里客心愁之句一。

【二停】810 書法に於て、一字の體を兩部分に分けること。(書法三昧)布置、如二中字一、孤單、則居レ中、龍字相並、則分二左右一爲二二停一、衡字、則分レ縱爲二三停一、雲字則分二上下一爲二二停一。

【二程】811 宋の程顥(明道)程頤(伊川)の二兄弟。二程子。(宋史、張載傳)載坐二虎皮一講レ易、次日語レ人曰、比見二二程一、深明二易道一、吾所レ弗レ及、汝輩可レ師レ之、撤レ坐輟レ講。

【二程子】812 二程に同じ。

【二程遺書】813 書名。二十五卷。附錄一卷。宋、程顥・程頤講。宋、朱熹編次。(四庫提要、子、儒家類)。

【二程外書】814 書名。十二卷。宋、朱熹編。遺書を內篇といふに對して外書と名づく。朱光庭・陳淵・李參・馮忠恕・羅從彥・王蘋・時紫芝等の七家の錄したものを取り、又、胡安國游酢の家本及び建陽の大全集印本二家、又、傳聞雜記・王氏麈史より孔文仲の疏に至るまで、凡そ百五十二條を均しく採錄してゐる。(四庫提要、子、儒家類)。

【二程語錄】815 書名。十八卷。清、張伯行撰。二程遺書及び外書を刪定し、合して遺書十五卷・外書二卷・附錄一卷と爲したもの。(四庫提要、子、儒家類存目)。

【二程粹言】816 書名。二卷。宋、楊時編。二程子の精粹で要を得た說を採つて編次す。其の目は、論道・論學・論書・論政・論事・天地・聖賢・君臣・心性・人物。(四庫提要、子、儒家類)。

【二程節錄】817 書名。四卷。文集鈔一卷。附錄一卷。明、高攀龍編。二程語錄の精粹を取つたもの。(四庫提要、子、儒家類存目)。

【二程全書】818 書名。六十八卷。宋の程顥・程頤の遺著。明の徐必達の合刻。第一—二十八卷二程遺書、第二十九卷附錄、第三十—三十九卷二程外書、第四十・四十一卷二程粹言、第四十二—四十五卷易傳(闕)、第四十六—五十三卷經說、第五十四—五十八卷明道文集、第五十九—六十六卷伊川文集、第六十七卷遺文、第六十八卷續附錄。

【二程文集】819 書名。十三卷。宋、胡安國編。二程子兄弟の合集。(四庫提要、集、總集類)。

【二程子抄釋】820 書名。十卷。明、呂柟撰。(四庫提要、子、儒家類)。

【二鼎】821 二つのかなへ。(儀禮、少牢饋食禮)三鼎在二羊鑊之西一、二鼎在二豕鑊之西一。

【二鄭】822 唐の鄭從讜と鄭畋との二人。(唐書、鄭從讜傳)初盜流二中原一、沙陀彊悍、而卒收二其用一者、蓋從讜爲二太原重一也、時鄭畋以二宰相一鎭二鳳翔一、移レ檄討レ賊、兩人以二忠義一相提衡、賊猶憚レ之、號二二鄭一云。(小學紺珠、氏族類、二鄭)

【二錠】823 二つの錠。錠は通貨の銀片。(元史、世祖紀十二)乙未、賞二征東功一、從二皇孫一將吏、陞二散官一階一、軍士鈔二人二錠一。

【二祧】824 二つの祧。祧は祖先を合祀する廟。二祧は昭穆廟の外に在り、周代では文世室・武世室を二祧と言つたこともある。(禮、祭法)遠廟爲レ祧、有二二祧一、享嘗乃止。

【二鳥】825 二羽の鳥。(詩、小雅、白華、有レ鶖在レ梁有レ鶴在レ林、疏)此擧二二鳥一、明喩二二人易一レ稱。(江淹、翡翠賦)彼二鳥之奇麗。

【二鳥賦】826 文章の名。唐、韓愈作。白鳥と白鸛鴿とが只羽毛が異なるだけで天子の採擢を蒙つたのに反して、己は善を累ねても時に遭はぬことを悼んで賦したもの。韓昌黎先生集、卷一に見ゆ。

【二朝】827 ❶ふたあさ。二度の朝。(易林)坎中蝦蟆、乍盈乍虛、三夕二朝、形消無レ餘。❷兩朝(1-1436・309)に同じ。

【二超】828 晉の郗超と南齊の檀超との二人。(南史、檀超傳)超嗜レ酒、好二談詠一、自比二晉郗超一、超言、高平有二二超一、又謂二人曰、猶覺二我爲一レ優也。(小學紺珠、名臣類下、二超)郗超・檀超。

【二趙】829 十六國の前趙と後趙とをいふ。(北史、文苑傳序)若乃魯徵・杜廣・徐光・尹弼之儔、知二名於二趙一、宋該・封奕・朱彤・梁讜之屬、見レ重於燕秦一。

【二調】830 音樂の二つの調子。(北史、牛弘傳)周官奏二黃鍾一、用二黃鍾一爲レ調、歌二大呂一者、用二大呂一爲レ調、奏者謂二堂下四縣一、歌者謂二堂上一、所レ歌但以二一祭之間一、皆用二二調一、是知二據レ宮稱レ調、其義一也。

【二鵬】831 二羽のおほわし。(北史、長孫晟傳)嘗有二二鵬一、飛而爭レ肉。(唐書、高駢傳)事二朱叔明一爲二司馬一、有二二鵬並飛一、駢曰、我且レ貴、當レ中レ之、一發貫二二鵬一焉、衆大驚、號二落鵬侍御一。

【二條】832 ❶ふたすぢ。(梁元帝、臨秋賦)遵二二條之廣路一、背二九仞之高城一。(盧照鄰、宴二梓州南亭一詩)二條開二勝迹一、大隱叶二沖規一。❷第七十八代の帝諡。(皇年代略記)永萬元年七月廿八日、崩二於二條皇居一、號二二條院一。

【二哲】833 二人のすぐれた賢人。(郭璞、山海經圖讚、崦山)殷有二三仁一、漢稱二二哲一。(應場、懽驩賦)哀二哲之殊世兮、時不レ遘二乎良造一。

【二徹】834 二つのわだち。二轍。(周禮、考工記、匠人)應門二徹參个。(注)二徹之內八尺。(孫詒讓正義)徹、卽軌也、軌、廣八尺、故二徹之閒八尺。

【二天】835 恩人をいふ語。人は常に天恩を蒙つてゐるが、天の外に更に一天ある義。(後漢書、蘇章傳)章、字孺文、順帝時、遷二冀州刺史一、故人爲二清河太守一、章行レ部、案二其姦臧一、乃請二太守一、爲設二酒肴一、陳二平生之好一、甚歡、太守喜曰、人皆有二一天一、我獨有二二天一、章曰、今夕、蘇孺文與二故人一飲者、私恩也、明日、冀州刺史案レ事者、公法也、遂擧二正其罪一。(書言故事、天文類)謝恩、云二仰賴二二天之庇一。

【二典】836 尚書の堯典・舜典。(孔安國、尚書序)少昊顓頊高辛唐虞之書、謂二之五典一。(疏)案、今堯典・舜典、是二帝二典。(宋史、太祖紀三)晩好二讀書一、嘗讀二二典一、歎曰、堯・舜之罪、四凶二止從二投竄一、何近代法網之密乎。(陸游、雜感詩)士生誦二二典一、悅若生二唐虞一。

【二典三謨】837 尚書の堯典・舜典の二典と大禹謨・皐陶謨・益稷の三謨。(明史、宋濂傳)尚書二典三謨、帝王大經大法畢具。

【二展】838 同時に二つの場所で物を見ること。(謝朓、齊敬皇后哀策文序)身隔二兩赴一時無二二展一。(注)善曰、鄭玄曰、展、省視也、良曰、展、視省也、言一身不レ得下於二兩處一赴上喪、一時不レ獲下於二一所一省視上。

【二篆】839 大篆と小篆。(晉書、衞恆傳)秦時、

李斯號爲二篆、諸山及銅人銘、皆斯書也。〔杜甫、李潮八分小篆歌〕陳倉石鼓又已訛、大小二篆生二八分一。

【二點】840 テン 水時計の音、二つ。〔楊萬里、病中夜坐詩〕玉漏聽來更二點、燭花剪了暈重開。

【二點鐘】841 テンショウ 艦船で行ふ時鐘の打ち方。午前午後の一時・五時・九時、十九時に鳴らしたもの。

【二顚】842 テン 水落恭倩の號。水落雲濤(6－1708 3‥860)を見よ。

【二田】843 デン ㊀二つの田地。〔春秋、桓、元、鄭伯以レ璧假二許田一、杜注〕公以二竇立一而修二好於鄭一、鄭因而迎レ之成二禮于垂一、終易二二田一、然後結レ盟。㊁二つの田。一田は五制。其の制は未詳。〔管子、乘馬〕二田爲二一夫一。㊂字號。㋑清、計光炘(10－35220‥95)の號。㋺清、浦起龍(6－17475‥4)の字。

【二田制】844 セイデン 歐洲中古時代の農業制度の一。地力を休養する爲に、耕地を分けて二段となし、每段、隔年に耕種する制度。

【二傳】845 デン 春秋の二つの解釋書。㊀公羊傳と穀梁傳。〔杜預、春秋左氏傳序〕專修二丘明之傳一以釋レ經、經之條貫、必出二於傳一、傳之義例、總歸二諸凡一、推二變例一以正二褒貶一、簡二傳而去一異端一、蓋丘明之志也。㊁左氏傳と國語。左氏傳を春秋內傳といひ、國語を春秋外傳といふ。〔談藪〕孫應敎曰、左氏內外二傳、世未レ有二不レ稱レ美者一、豈非レ以羽二翼聖經一耶。

【二斗】846 ト 一斗の二倍。〔史記、留侯世家〕漢王賜二良金百溢、珠二斗、良具以獻二項伯一。〔漢書、淮南厲王長傳〕食レ長給二肉日五斤、酒二斗一。〔李涉、看射柳枝詩〕玉弭朱弦敕賜弓、新加二二斗一得二秋風一。

【二斗田】847 トデン 每年一畝から二斗の租を出す田。上田。〔六部成語、戶部、二斗田、注解〕每年一畝交二租二斗一之田也、乃上田也。

【二杜】848 ト 二人の杜姓の者。㊀二國、魏の杜恕と杜畿との父子。〔明一統志〕二杜墓、在二河南府宜陽縣後一、葬二魏尙書左僕射杜畿、幽州刺史杜恕一二墓相並。㊁宋の杜純と杜紘との兄弟。〔小學紺珠、氏族類、二杜〕杜純・杜紘。

【二兎】849 ト 二匹のうさぎ。〔舊唐書、代宗紀〕大曆七年十月、上畋二于苑中一、矢一發、貫二二兎一。〔逐二二兎一者不レ獲二一兎一〕850 ニトヲオフモノハイットヲフモエズ 二匹の兎を追つて捕へようとすれば、其の一匹をも捕へることが出來ない。同時に二つの事に志すと、其の何れをも成しとげられない喩。

【二渡】851 ト 二つのわたし場。〔水經、漸江水注〕東南二渡通二臨海一。

【二渡關】852 トカン 關の名。福建省浦城縣の西北。閩に入る間道。其の地は山が峻しく、溪流が回繞して、東西の二つの橋を以て渡るから此の名を得た。

【二都】853 ト ㊀二つのみやこ。〔晉書、張協傳〕價兼二三都一、聲貴二二都一。㊁周の鎬京と洛邑。〔詩、王城譜、疏〕車攻序云、復會二諸侯於東都一、謂二王城也、周以二鎬京一爲二西都一、故謂二王城一爲二東都一。王城卽洛邑、漢書地理志云、初洛邑與二宗周一通二封畿一、東西長、南北短、短長相覆千里、韋昭云、通下在二封之地一者上千里也、臣瓚按、西周方八百里、八八六十四、爲二方百里一者六十四、東周方六百里、六六三十六、爲二方百里一者三十六、二都方百里者百、方千里也。

【二塗】854 ト 二つの途。〔宋書、恩倖傳論〕晚代分爲二二塗一。〔唐書、李德裕傳〕惟邪正二塗。

【二圖】855 ト ふたごころ。二心(611)の㊀に同じ。〔左氏、襄、七〕君若不レ來、羣臣不レ忍二社稷宗廟一、懼有二二圖一、陳侯逃歸。

【二土】856 ド ㊀二つの土地。〔雲笈七籤〕淨穢二土、咸備二天一。㊁圭の字の隱語。〔誠齋雜記〕殷祕書願夜夢、牛皮上有二二土一、又有二赤玉在其上一、其子年十六、解曰、牛皮、革也、二土、是圭字、是鮭字也、赤、朱色、朱、是珠字也、大人當レ得二珠履一乎、果然。

【二豆】857 トウ 二つのたかつき。豆は、木製の禮式用の食器。〔唐書、曹王皐傳〕所レ容二豆、少則水弱、多則彊、中則水器力均。〔宋史、禮志十一〕二豆三牲之祭。

【二等】858 トウ ㊀二つのしな。官等などの二つの等級。〔詩、周南、關雎、琴瑟友レ之、疏〕以二樂有二二等一、相分以著レ義、琴瑟、樂之細者、先言レ之見二其和親一、鐘鼓、樂之大者、故卒章言レ之、顯二其德盛一。〔周禮、秋官、大行人〕凡諸侯之卿、其禮各下二其君二等一。〔周禮、秋官、司儀〕凡四方之賓客、禮儀辭命、飧牢賜獻、以二二等一、從二其爵一而上下之一。〔左氏、僖、四〕凡諸侯薨二于朝一會加二一等一、死二王事一加二二等一、子是有二以レ哀斂一。〔史記、漢興以來諸侯年表〕漢興序二二等一。〔注〕集解曰、韋昭曰、漢封二功臣一、大者王、小者侯也。㊁第二番目。

【二等國】859 トウコク 國際上、勢力位置が一等國に次ぐ國。

【二等親】860 シントウ 親族を親疎によつて分けた中の第二等に當る親族。大寶令では、祖父・祖母・嫡母・繼母・伯父・叔父・姑・兄・弟・姊・妹・夫の父・夫の母・妻・妾・甥・姪・孫。現行法では、祖父母・兄弟姊妹・孫。親等(10－34918‥196)を見よ。〔和漢三才圖會、親屬、五等親屬〕二等親、祖父・祖母・嫡母・繼母・伯父・叔父・姑・兄・弟・姊・妹・夫父・夫母・妻・妾・甥・孫・子婦。

【二等分線】861 セントウブンセン 數學用語。一つの角を全く相等しい隣角に分ける直線を、其の角の二等分線といふ。〔二邊が相等しい梯形をいふ。

【二等邊梯形】862 ヘイケイ 數學用語。平行せざる相等しい三角形。

【二等邊三角形】863 サンカクケイ 數學用語。二邊の相等しい三角形。

【二燈】864 トウ 二つの燈火。〔佛說施燈功德經〕況我滅後、於二佛塔寺一、若自作、若敎二他作一、或然二一燈二燈乃至多燈一。

【二頭】865 トウ 牛馬等の二匹をいふ。〔宋書、禮志一〕郊之日、未明八刻、太祝令進レ饌、郎施レ饌、牲用二繭栗二頭一、羣神用二牛一頭一。〔南齊書、禮志上〕鮮槁各二頭、槁微斷二首尾一、示レ存二古義一。〔元史、世祖紀十一〕戶給二牛二頭一、種二石一。

【二頭股筋】866 コトウコキン 生理學用語。大腿筋の一。長短二頭を有し、長頭は坐骨結節の後面に、短頭は大腿の中部に起り、合して腓骨の頭で停止する。下腿を屈して外旋する作用をする。

【二洞】867 ドウ ㊀二つのほら穴。〔李渤、南溪詩序〕巖下有レ灣、壤沮洳、因導爲二新泉一、有二二洞九室一。㊁道家の第二の敎。玄をいふ。〔雲笈七籤〕三洞合成二三十六部尊敎一、第一洞、眞、爲二上乘一、第二洞、玄、爲二中乘一、第三洞、神、爲二下乘一。

【二童】868 ドウ 二人の子供。〔曹植、飛龍篇〕晨遊二太山一、雲霧窈窕、忽逢二二童一、顏色鮮好。〔水經、淸水注〕關水又西南逕二雉縣故城南一、昔秦文公之世、有二伯陽者一、逢二二童一、曰レ曾曰レ彼、二童二雉也、得レ雌者霸、雄者王、二童翻飛、化爲二雙雉一、光武獲二雉於此山一、以爲二中興之祥一、故置レ縣以名焉。〔世說新語、賞譽〕客問二鍾曰一、向二二童何如、鍾曰、裴楷淸通、王戎簡要。

【二德】869 トク 二つの德。〔易、文言、君子行二此四德一者、疏〕有二二德一者、大有・蠱・漸・大畜・升・困・中孚、凡七卦、此二德、或在二事上一言レ之、或在二事後一言レ之、由二後有レ事、乃致二此二德一故也。〔左氏、哀、七〕民保二于城一、城保二于德一、失二二德一者危、將二焉保一。〔注〕二德、信與レ仁也。

【二瀆】870 トク 二つのみぞ。〔水經、淇水注〕淇水又南逕二東海厚丘縣一、王莽更レ之曰二祝其亭一也、分爲二二瀆一、二瀆西南出、今無レ水、世謂二之枯淇一、一瀆南逕二建陵縣故城東一。

【二牘】871 トク 二つの文書。〔瑯嬛記、黃華雙手能寫二二牘一、或楷或草、揮毫不レ輟、各自有レ意。

【二犢】872 トク 二匹の子牛。〔宋史、五行志五〕開寶二年、九隴縣民王達牛、生二二犢一。

【二讀】873 ドク 第二讀會(8－25943‥94)に同じ。

【二屯】874 トン 二つのあざ。屯は字ヴァ。〔唐書、楊行密傳〕又幷二盱眙・曲溪二屯一、籍二其土一、爲二黃頭軍一。〔元史、世祖紀十五〕己酉、徐邳屯田、及靈壁・濉寧二屯、雨レ雹如二雞卵一、害レ麥。

【二囊】875 ナウ 二つのふくろ。〔左氏、桓、二〕鞶厲游纓、注、鞶紳帶也、疏〕若以二繁爲小囊一、則裘是何器、若裘亦是囊、則不レ應レ帶二二囊一矣、以レ此知、鞶卽是紳帶、爲レ得二其實一。〔兪德鄰、荼茗賦〕金帶紫苔、置二藏於三品一、鞠苗蘆菔、瓊報以二二囊一。

【二男】876 ナンニ ㊀二人のむすこ。〔周禮、夏官、職方氏〕正東曰二靑州一、其民二男二女一。〔庾信、傷心賦序〕二男一女、並得二勝衣一、金陵喪亂、相繼亡沒。㊁第二番目のむすこ。次男(6－15992‥115)に同じ。

【二南】877 ナン ㊀詩經、國風の召南と周南。琅琊

代醉編、卷九に見ゆ。〔詩、大序〕關雎・麟趾之化、王者之風、故繫二之周公一、南言二化自レ北而南一也、鵲巢・騶虞之德、諸侯之風也、先王之所二以敎一、故繫二之召公一、周南・召南、正レ始之道、王化之基。〔集傳〕周國、本在二禹貢雍州境內岐山之陽一、至二孫文王昌一、辟レ國寖廣、徙二都于豐一、而分二岐周故地一、爲二周公旦・召公奭之采邑一、且使三周公爲二政於國中一、而召公宣三布於諸侯一、於レ是、德化大成二於內一、而南方諸侯之國、江沱汝漢之閒、莫レ不三從化一、云云、制二作禮樂一、其得二之國中一者、雜以二南國之詩一、謂二之周南一、言下自二天子之國一、而被中於諸侯上、不中但國中而已上也、其得二之南國一者、則直謂二之召南一、言丁自二方伯之國一、被二於南方一、而不丙敢以繫乙于天子甲也。〔詩、周南召南譜、疏〕二南、文王之詩、而分繫二二公一。〔晉書、樂志上〕周始二二南一、風兼二六代一。〔小學紺珠、地理類、二南〕周南・召南。㊁字號。㋑明、游於詩（**7**－**17792**・・335）の字。㋺清、吳紹詩（**2**－**3365**・・713）の字。

【二難】878 ニナン　㊀二つの得難いもの。賢主と嘉賓とをいふ。〔王勃、滕王閣序〕四美具、二難幷。〔注〕賢主・嘉賓。㊁甲乙の優劣をつけ難い二者。兄たり難く弟たり難いもの。轉じて、賢い兄弟をいふ。〔世說新語、德行〕陳元方子長文、有二英才一、與二季方子孝先一、各論二其父功德一、爭レ之不レ能レ決、咨二於太丘一、太丘曰、元方難レ爲レ兄、季方難レ爲レ弟。〔包何、和二苗員外一詩〕君家有二二難一。㊂二つの成し難い事。〔左氏、襄、十〕衆怒難レ犯、專レ欲難レ成、合二二難一以安レ國、危之道也。〔魏志、管輅傳、注〕晏謝レ之曰、知レ幾其神乎、古人以爲レ難、交疏而吐二其誠一、今人以爲レ難、今君一面而盡二二難之道一、可レ謂二明德惟馨一。㊃二つの難儀。〔孔叢子、論勢〕獨勁不レ能レ支二二難一。

【二人】879 ニニン　㊀兩人。ふたり。二員。〔書、君奭〕予惟曰、襄我二人、汝有レ合哉、言曰、在二時二人一、天休滋至、惟時二人弗レ戡。〔戰國、中山策〕吾以二一杯羊羹一亡レ國、以二一壺飡一得二士二人一。㊁父母をいふ。〔詩、小雅、小宛〕明發不レ寐、有レ懷二二人一。〔集傳〕二人、父母也。㊂ニノヒト　攝政・關白に次ぐ人。〔江談抄、一〕一人有レ障不參之時、二人必被二參詣一。

【二人稱】880 ニニンショウ　文法學用語。說話者が對話者を指していふ人代名詞の人稱。汝の類。第二人稱。

【二人靜】881 フタリシヅカ　草の名。ちやらん科の多年生草本。上部の節に葉を對生し、通常二箇の花序を穗狀に綴る。〔和漢三才圖會、濕草類、二人靜〕俗稱、謠歌云、靜女之幽靈爲二二人一同遊舞、此花二朶相双艷美以名レ之、按、二人靜、高尺許、葉似二櫻桃葉一而厚、三月、葉閒開二白花一、形如二蓼穗一而二小朶成レ杈。

【二人同レ心其利斷レ金】882 ニニンココロヲオナジクスレバソノリキンヲタツ　二人が心を同じくして交はれば、何事も爲し得る喩。利は銳利の意。〔易、繫辭上〕二人同レ心、其利斷レ金、同心之言、其臭如レ蘭。

【二任】883 ニニン　二つの任務。〔漢書、王吉傳〕諸侯骨肉、莫レ親二大王一、大王於レ屬則子也、於レ位則臣也、一身而二任之責加レ焉。〔韓愈、圬者王承福傳〕一身而二任焉、雖二聖者一不レ可レ能也。

【二年】884 ネニン　㊀ふたとせ。二年閒。〔書、金縢〕周公居レ東、二年則罪人斯得。〔史記、五帝紀〕一年而所レ居成レ聚、二年成レ邑。㊁第二年。〔春秋、隱、二〕二年春、公會二戎于潛一。〔詩、鄘風、定之方中序、箋〕春秋閔公二年冬、狄人入レ衞。

【二年生根】885 ニネンセイコン　植物學用語。二年生植物の根。二年根。

【二年生植物】886 ニネンセイショクブツ　植物學用語。前年に發芽して次第に生長し、翌年に開花枯死する植物。大根など。二年生草本。二年植物。

【二念】887 ネニン　二つの考。〔郤掃編〕近者二念俱忘。

【二能】888 ノニウ　佛煩惱障と智障とのこと。〔法集經〕善男子無明有レ種、四種因二何物一二能、一者煩惱障、二者是智障、何者是四因、所謂貪欲界因・貪色界因・貪無色界因・貪無有因。

【二派】889 ハニ　二つのえだ川。轉じて、宗敎や技術等の二つの流派。〔宋史、河渠志二〕張澤濼分爲二二派一、一合二南清河一入二于淮一、一合二北清河一入二于海一。〔元史、河渠志一〕自二奉聖州界一流入二宛平縣境一、至二都城一四十里、東麻谷分爲二二派一。

【二霸】890 ハニ　二人の霸者。齊の桓公と晉の文公。二伯。〔論語、憲問、晉文公譎而不レ正齊桓公正而不レ譎、疏〕此章、論二二霸之事一也。〔漢書、刑法志〕齊桓旣歿、晉文接レ之、總二帥諸侯一、迭爲二盟主一、二伯之後、寖以陵夷。〔晉書、左貴嬪傳〕惟衞惟樊、二霸是輔。

【二馬】891 バニ　二頭の馬。〔杜甫、韋諷錄事宅觀二曹將軍畫馬圖一引〕今之新圖有二二馬一、復令二識者久歎嗟一。

【二盃】892 ハニイ　二つのさかづき。さかづきに二つ。〔孟郊、弔二盧殷一詩〕醉啜二二盃釀一、名郁一縣香。

【二旆】893 ハニイ　二つの大旗。〔左氏、僖、二十八〕楚右師潰、狐毛設二二旆一而退レ之。〔注〕旆、大旗也、又建二二旆一而退、使レ若二大將少卻一。

【二廢】894 ハニイ　詩法の二つの廢義。卽ち、巧を廢し、詞を廢すること。〔詩式〕雖レ欲レ廢レ巧尚レ直、而思致不レ得レ寘、雖レ欲レ廢レ詞尚レ意、而典麗不レ得レ遺。

【二輩】895 ハニイ　二人。又、二つの組。〔北史、崔逞傳〕聞二逞被一レ殺、分爲二二輩一、一奔二長安一、一奔二廣固一、帝聞深悔。〔唐書、韓全誨張彥忠傳〕內養二八輩一、候二廷中一授レ命、每二二輩一以二衞士十人一取二一首一、俄而全誨・彥弘・易簡・敬容皆死。

【二枚】896 ニバイ ニマイ　二個。二面。枚は个。〔漢書、食貨志〕大貝四寸八分以上、二枚爲二一朋一。〔南齊書、五行志〕（永明四年）十二月辛酉夜、東南有二野火精二枚一。

【二枚肩】897 ニマイガタ　二人で駕籠を舁ぐこと。〔松の葉、三〕二枚肩にもえ乘らいで。

【二枚舌】898 ニマイジタ　虛言を吐くこと。矛盾したことをいふこと。兩舌。

【二枚目】899 ニマイメ　㊀歌舞伎用語。役割番附などで、座頭の次の地位を占める俳優をいふ。多くは濡事師・色男に扮する。㊁隱語。好男子をいふ。

【二枚鑑札】900 ニマイカンサツ　廓の語。一人で藝妓と娼妓とを兼ねた女。〔鴨東新語〕使三藝妓兼二營娼妓之業一、曲中稱曰二二枚鑑札一。

【二梅】901 バニイ　二本の梅の木。〔陸龜蒙、和三襲美夏景無レ事因懷二章來二上人一詩〕簷外靑陽有二二梅一、折來堪下凍醪杯。

【二方】902 ハニウ　二つの方向。二つの方面。二方の土地。〔詩、小雅、采薇、玁狁之故、疏〕玁狁・昆夷、二方大敵。〔史記、西南夷傳贊〕剽二分二方一、卒爲二七郡一。〔注〕索隱曰、言下西夷後被二揃割一、遂剽二居西南二方一、各屬中郡縣上。〔漢書、司馬相如傳下〕二方之君、鱗集仰流。〔注〕師古曰、二方、謂二西夷及南夷一也。

【二方荒神】903 ニハウクワウジン　一匹の馬に二人一緒に「乘ることをいふ。二寶荒神。

【二邦】904 ハニウ　二つの國。二國。二州。〔劉孝綽、答二湘東王一書〕李固之薦二二邦一、徐珍之奏二七邑一、威懷之道、兼而有レ之。〔王粲、贈二文叔良一詩〕二邦若否、職汝之由。

【二梆】905 ハニウ　にばん拍子木。〔福惠全書、涖任部、出堂規〕外傳二二梆一、各房齊二集二堂一。

【二鮑】906 ハニウ　㊀後漢の鮑永と鮑恢。〔後漢書、鮑永傳〕徵爲二司隸校尉一、朝廷肅然、迺辟二扶風鮑恢一、爲二都官從事一、恢亦抗直、帝常曰、貴戚且宜三斂レ手以避二二鮑一、其見レ憚如レ此。㊁清、高層雲（**12**－**45313**・・1259）の字。

【二鮑糾慝】907 ニハウキウトク　蒙求の標題。後漢の鮑永と鮑恢とが、俱に抗直にして、貴戚の惡事をも遠慮無しに糾彈した故事。二鮑の㊀を見よ。

【二寶】908 ハニウ　二つの寶。㊀南朝宋の謝靈運の詩と書とをいふ。〔小學紺珠、名臣類下、二寶〕謝靈運詩・書、宋文帝稱爲二二寶一。㊁宋の胡仲と汪藻とをいふ。〔小學紺珠、名臣類、二寶〕胡仲・汪藻、有二聲太學一、學中爲二之語一曰、江左二寶。

【二亡】909 バニウ　滅亡の第二の原因。〔漢書、鮑宣傳〕凡民有二七亡一、陰陽不レ和、水旱爲レ災、一亡也、縣官重責、更賦二稅租一、二亡也。

【二坊】910 バニウ　二つのへや。東宮の門下坊と典書坊とをいふ。〔小學紺珠、職官類、二坊〕東宮、門下坊曰二左春坊一、典書坊曰二右春坊一。

【二房】911 èrh^{4} fang^{2}　側室。そばめ。〔紅樓夢、二回〕要那姣杏作二二房一。

【二榜】912 バニウ　二つのたて札。榜は、官吏登用試驗の及第者の姓名を掲示する表札。〔元史、選擧志一〕中書省以下中二選擧一人上、分爲二二榜一、揭二於省門之左右一。

【二白】913 ハニク　明、曹振（**5**－**14297**・・121）の號。

【二伯】914 ハニク　㊀東西の兩伯。周公と召公とをいふ。〔禮、王制〕八伯各以二其屬一、屬二於天子之老

二人、分二天下一、以爲二左右一曰二二伯一。〔書、盤庚、疏〕正義曰、邦伯、邦國之伯、諸侯師長、故爲二東西二伯及九州之牧一也。〔詩、周南召南譜、疏〕武王伐レ紂、乃封二太公一爲二齊侯一、令二周召爲二二伯一。〔公羊、隱、五〕天子三公者何、天子之相也、天子之相、則何以三、自レ陝而東者、周公主レ之、自レ陝而西者、召公主レ之、一相處二乎內一。〔孔叢子、居衞〕古之帝王、中二分天下一使二公治一レ之、謂二之二伯一。〔小學紺珠、名臣類上、二伯〕東伯周公、西伯召公。㊁二人の覇者。伯は覇に同じ。齊の桓公と晉の文公とをいふ。二覇。〔穀梁、隱、八〕詰誓不レ及二五帝一、盟詛不レ及二三王一、交質子不レ及二二伯一。〔注〕二伯、謂二齊桓・晉文一。〔漢書、刑法志〕二伯之後、寖以陵夷。〔注〕師古曰、二伯、齊桓公・晉文公也、伯、讀曰レ霸。

【二柏】915 ハク 二本のこのてがしはの木。〔唐書、桑道茂傳〕道茂居有二柏一甚茂。〔雲笈七籤、陽平治、在二蜀郡彭州九隴縣一、去二成都一百八十里一、治道東有二龍門一、拒二守神水一、二柏生二其上一。

【二亳】916 ニハク 南亳と北亳。二亳（1－12：1432）を見よ。〔水經、陰溝水注〕今梁國、自有二二亳一、南亳在二穀熟一、北亳在レ蒙、非二偃師一也。

【二麥】917 バク 大麥と小麥。〔宋書、孝武帝紀〕今二麥未レ晩、甘澤頻降。〔宋史、河渠志二〕二麥將レ熟、而寓二食於四方一者未レ還。〔范成大、夏日田園雜興詩二〕二麥俱秋斗百錢、田家喚作小豐年。

【二瀑】918 バク 二つのたき。〔佐藤一齋、日光山行記〕棧北有二二瀑一、各出二巖頂一、斜相對。

【二八】919 ハチ ㊀古の舞樂の二列。一列は八人。ふた組。〔左氏、襄、十一〕鄭人賂二晉侯一、云云、歌鐘二肆、及二其鎛磬一、女樂二八一。〔注〕十六人。〔史記、秦紀〕以二女樂二八一遺二戎王一。㊁十六。〔左思、吳都賦、通門二八、水道陸衝。〕㊂十六歲。④主に男子にいふ。男子の思春期。〔素問、上古天眞論〕二八、腎氣盛、天癸至、精氣溢寫、陰陽和、故能有レ子。㊄女子の妙齡。〔梁簡文帝、咏舞詩〕可レ憐初二八、逐レ節似二飛鴻一。〔陸瑜、艷歌行〕二八秦樓婦、三十侍二中郎一。〔白居易、秦中吟、議婚詩〕見レ人不レ斂レ手、嬌癡二八初。㊅十六日をいふ。〔鮑照、翫二月城西門廨中一詩〕三五二八時、千里與レ君同。〔注〕善曰、二八、十六日也。㊆十六人の良臣。八元八愷（2－1450：168）をいふ。〔後漢書、張衡傳〕幸二二八之遲レ虞兮、喜二傳說之生レ殷一。〔注〕二八、八元・八愷也。〔袁宏、三國名臣序贊〕二八升、而唐朝盛。〔注〕銑曰、舜舉二八元・八愷一、用二於堯時一也。㊇井をいふ。二八二八の略。二八二八は五八で、五八は四十。井の字は、分けると十が四つとなるからいふ。〔聞見後錄〕錢昭度有二食レ梨詩一云、西南片月充レ腸冷、二八飛泉繞レ齒寒、樂府解題井謎云、二八二八、飛泉仰流、蓋二八二八爲二五八、五八、四十也、四十爲二井字一。㊈儷觀經で說く所の十六種の極樂國を觀ずる法。〔迦才淨土論〕二八弘規、盛二乎西土一。

【二八之臣】920 シハチノ 八愷・八元のやうな忠良の臣をいふ。二八の㊆を見よ。〔張衡、思玄賦〕幸二二八之遲レ虞兮、嘉二傅說之生レ殷一。〔注〕向曰、二八、八元・八愷也。〔本朝文粹、二、菅原文時、答二同公辭一關白一表レ勅〕斯乃朕二二八之臣一也。

【二撥】921 ハツ ふたたびはらひ開く。〔馬融、長笛賦〕聖駕躬耕二藉田一、賦〕二撥而青陽動、三推而黃茂生。

【二末】922 バツ 二つの末のもの。佛教と道教とを卑しめていふ。〔南史、顧歡傳〕周顒難レ之曰、驅二馳佛道一、無レ免二二末一、未レ知二高鑒一、緣レ何識レ本。

【二拔】923 バツ 北魏の拓拔氏と賀拔氏とをいふ。兩拔。〔北齊書、神武紀上〕初孝明之時、洛下以二兩拔相擊一、謠言曰、銅拔打二鐵拔一、元家世將レ末、好レ事者、以二二拔一謂二拓拔賀拔一、言下俱將二衰敗一之兆上。

【二法】924 ハフ 二つののり。二つの定め。二つの方法。〔唐書、百官志〕以二二法一平レ物、一曰二度量一、二曰二權衡一。〔小學紺珠、律歷類、二法〕度量・權衡。

【二凡】925 ニボン 二つの凡例。〔杜預、春秋左氏傳序、發レ凡以言レ例、疏〕公行告レ廟、侯伯分レ災、二凡之末、皆云二禮也一、豈是丘明自制二禮乎一。

【二板】926 ニハン 二つの板。又、牆の高さ二丈。板は牆を築くもので、高さ一丈をいふ。一說に、八尺ともいふ。〔唐書、韓游環傳〕游環遣二兵築一豐義、纔二板而潰、寧卒數百大掠、游環不レ能レ禁。

【二叛】927 ニハン 二人の謀叛者。〔宋書、武帝紀中一〕二叛奔逆、荊雍來蘇。

【二范】928 ハン 晉の范宣と范甯とをいふ。〔晉書、范宣傳〕宣雖二閒居屢空一、常以二誦讀一爲レ業、謙國戴逵等皆開二風宗仰一云云、太元中、順陽范甯爲二豫章太守一、甯亦儒博通綜、在レ郡立二鄉校一、教授恒數百人、江州人士、並好二經學一、化二范之風一也。〔小學紺珠、氏族類、二范〕范宣・范甯。

【二班】929 ハン 後漢の班彪と其の子班固。〔後漢書、班彪班固傳贊〕二班懷レ文、裁成二帝墳一、比二良遷董一、兼二麗卿雲一。〔文心雕龍、才略〕二班兩劉、奕葉繼采、舊說、以爲固文優二彪、欵學精一向。〔小學紺珠、氏族類、二班〕班彪字叔皮、子固字孟堅。

【二藩】930 ハン 二つの藩。藩は、王室の固めとなる諸侯、轉じて、諸侯の國をいふ。〔隋書、房恭懿傳〕詔曰、德州司馬房恭懿、出宰二百里一、毗二贊二藩一、善政能官、標二映倫伍一。

【二番】931 バン ㊀二つのものが相互に代つて其の事に當ること。〔晉書、禮志下〕泰始中、有司奏、諸侯之國、其王公以下入朝者、四方各爲二一番一、三歲而周、周則更始。㊁第二番目。

【二番草】932 ニバンソウ 二番目の稻田の草取り。三番草（1－12：1505）を見よ。

【二番鳥】933 ニバンドリ 夜明を告げる第一番目の雞から稍〻後れて午前二時頃鳴く雞。〔和漢三才圖會、原禽類、雞〕能鳴告二時、而丑時始鳴者、稱二一番鳥一、寅時鳴者、稱二二番鳥一、入賞レ之。

【二蠻】934 バン 二つの蠻族。〔元史、地理志四〕懿宗時、蒙詔立レ城、曰二建昌府一、以二烏白二蠻實一レ之。

【二匕】935 ヒ 二つのさじ。挑匕と疏匕。〔小學紺珠、器用類、二匕〕挑匕・疏匕。

【二妃】936 erh4 pi2 雙方。兩方。

【二妃】937 ニヒ 二人のきさき。虞舜の二妃、娥皇と女英とをいふ。〔張衡、思玄賦〕哀二二妃之未レ從兮一。〔曹植、洛神賦〕從二南湘之二妃一、攜二漢濱之游女一。〔注〕銑曰、南湘二妃、湘水神也、謂二舜妻娥皇・女英一。〔阮籍、詠懷詩〕二妃遊二江濱一、逍遙順二風翔一。〔晉書、后妃傳贊〕二妃光二舜、三母翼レ周。〔小學紺珠、氏族類、虞二妃〕娥皇・女英。

【二披】938 ヒ 二本の柩なは。〔禮、喪服大記〕士戴、前纁後緇、二披用レ纁、〔疏〕二披用レ纁者、據二一邊前後、各一披、故云二二披用一レ纁、若通二兩旁一、則亦四披也。

【二飛】939 ヒ 山名。福建省仙遊縣の北。〔明一統志〕二飛山、在二興化府仙遊縣北五里一。

【二婢】940 ヒ 二人の下女、又は侍女。〔世說新語、言語〕桓征西治二江陵城一、甚麗、會二賓僚一、出二江津一、望レ之云、若能目二此城一者有レ賞、顧長康、時爲二客在一坐、目曰、遙望二層城一、丹樓如レ霞、桓卽賞以二二婢一。〔北史、獨孤永業傳〕性鯁直、不レ交權勢、斛律光求二二婢一、弗得、毀二於朝廷一。〔白居易、一年三月五日云贈二妻弘農郡君一詩〕二婢扶二鹽櫛一、雙童昇二簟麻一。

【二碑】941 ヒ ㊀墓穴の側に立てて、棺を降す綱をかける二本の石。〔禮、喪服大記〕二綌二碑一。〔疏〕二綌二碑者、碑各一孔、樹二於壙之前後一、綌各穿二之也一。㊁二つのいしぶみ。二碑紀功を見よ。

【二碑紀功】942 ニヒキコウ 晉の杜預が自分の功績の湮滅を恐れて二碑を作り、硯山（湖北省襄陽縣の南）の上と、萬山（縣の西北）の下とに置いた故事。〔晉書、杜預傳〕預好レ爲二後世名一、常言、高岸爲レ谷、深谷爲レ陵、刻レ石爲二二碑一、紀二其勳績一、一沈二萬山之下一、一立二峴山之上一、曰、焉知二此後不一レ爲二陵谷一乎。

【二鄙】943 ヒ 二つの鄙。鄙には次の二義がある。④周代の行政上の一區劃で、五百家ある地の稱。〔周禮、地官、遂人、千夫有レ澮、注〕千夫、二鄙之田。㊇公卿大夫の采邑。又、王の子弟の食邑の、畿內に在るもの。〔宋史、樂志十五〕祥符盛際、二鄙正休、兵瑞應レ滿二寰瀛一、東封西祀鳴二鸞輅一、從來見二升平一。

【二臂】944 ヒ 二つのひぢ。〔史記、楚世家〕魏斷二臂顚レ越矣。〔宋史、五行志一下〕淳熙十年、番陽南鄉婦產レ子、肘各有二二臂一、及長、臚則六臂並連。

【二轡】945 ヒ 二本のたづな。〔詩、秦風、小戎、六轡在レ手、疏〕每レ馬有二二轡一、四馬當二八轡一矣。

【二尾】946 ビ ㊀二つの尻尾。〔宋書、五行志五〕咸和七年、九德民袁榮家、牛產レ犢、兩頭八足二尾共身。㊁二匹。尾は、魚を數へる語。

【二美】947 ビ 二つの美しく善いもの。〔杜甫、送

韋評事充二同谷郡防禦判官一詩〕令姪才俊茂、二美又何求。〔范仲淹、禮義爲レ器賦〕合二二美一以同歸、皆能致レ用、列二五常一而共久、何患二易盈一。〔歐陽脩、酬二孫延仲龍圖一詩〕已將二二美一交相勝、仍枉二新篇一麗二彩霞一。

【二鼻】948 ニビ 二つのはな。〔南齊書、五行志〕京房易傳曰、生レ子二胸以上、民謀二其主一、云云、二鼻以上、國主久病、三足三臂已上、天下有レ兵。

【二匹】949 ニヒツ ニヒキ ❶牛馬等の二頭をいふ。二疋。〔左氏、昭、六〕見二子產一、以二馬四匹一、見二子太叔一、以二馬二匹一。❷布帛二ひき。二むら。〔史記、武帝紀〕賜二民百戶牛一、酒十石、加二年八十・孤寡布帛二匹一。〔漢書、文帝紀〕其遣二謁者一、勞二賜三老・孝者帛人五匹一、悌者力田二匹一。

【二筆】950 ヒツ ❶二本の筆。〔白孔六帖〕唐末帝時、宰相馬裔孫、初爲二河中從事一、夢神見レ召、待以二殊禮一、手授二筆一、一大一小、及レ爲二翰林學士一、以爲下契二鴻筆之兆上、泊レ入二中書一、上二政事堂一、吏奉二二筆一、大小如レ所レ夢。❷續筆。續稿。

【二病】951 ニビヤウ ❶二つの病氣。〔詩、邶風、新臺、燕婉之求蘧篨不レ鮮、疏〕時宣公爲二此二者一、故惡而比レ之、非二宣公實有二二病一。❷二つの惡事。二つの缺點。二つの惡い習俗。〔黃山谷、題二李伯時畫一天女一文〕有所欲、則富者取レ之、有レ所畏、則貴者奪レ之、清老離二此二病一、則長有レ之。

【二百】952 ヒヤク 百が二つ。百を二倍した數。〔書、禹貢〕二百里納レ銍。〔詩、衞風、河廣、曾不レ容レ刀、疏〕劉熙釋名云、二百斛以上曰レ艇、三百斛曰レ刀。〔周禮、夏官、職方氏〕方二百里、則二十五子。〔左氏、隱、元〕命二子封一、帥二車二百乘一、以伐レ京。

【二百五】953 èr⁴ pai³ wu³ ❶間抜けた奴。痴人。愚者。魯鈍。❷素人。半可通。❸二百五十。

【二百十日】954 ニヒヤクトヲカ 立春の日から二百十日目の日。陽曆の九月一日頃に當る。其の後の十日目を、二百二十日といふ。暴風雨の多い季節で、農家の厄日。〔假名暦註解〕二百十日、立春より二百十日目なり。

【二百六韻】955 ニヒヤクロクヰン 隋の陸法言の分類による韻の數。平聲五十七韻・上聲五十五韻・去聲六十韻・入聲三十四韻。音韻(12－43265・5)を見よ。〔四庫提要、經、小學類、廣韻〕其書、二百六韻、仍二陸氏之舊所一レ收、凡二萬六千一百九十四字。

【二百二十日】956 ニヒヤクハツカ 立春から二百二十日目の日。二百十日につぐ厄日として、農家や漁夫が恐れる。

【二百年來無二此詩一】957 ニヒヤクネンライこのシナシ 詩の妙を賞する語。〔南齊書、謝朓傳〕朓善二草隸一、長二五言詩一、沈約常云、二百年來無二此詩一也。

【二品】958 ニヒン ❶官位の第二位。〔晉書、李重傳〕應レ爲二二品一。〔白居易、從二同州刺史一改授二太子少傅分司一詩〕月俸百千官二品一、朝廷雇レ我作二閑人一。❷ホン 親王の位の第二位。

【二濱】959 ニヒン 清、姜希轍(3－6205・80)の字。

【二夫】960 フ 二人のをつと。兩夫。〔左氏、莊、十四〕吾二婦人而事二夫一。〔史記、田單傳〕王蠋曰、忠臣不レ事二君一、貞女不レ更二二夫一、云云、與二其生而無レ義、固不レ如レ烹。

【二布】961 フタノ 女の下帶。ゆもじ。湯具。多く布二幅で作るからいふ。二幅。

【二府】962 フ ❶漢代に丞相と御史との稱。〔漢書、楚元王交傳〕今二府奏。〔注〕如淳曰、二府、丞相・御史也。❷宋代に、中書省と樞密院との稱。文書は中書で掌り、武事は樞密で掌る。〔宋史、孝宗紀〕帝始諭二二府一以二旬日內一當二內禪一。〔歐陽脩、辭二樞密副使一表〕禮遇均隆、號稱二於二府一。❸明・清時代、同知をいふ。位は知府に亞ぎ、職務は知府に同じ。〔儒林外史、二十五回〕我在二安東一做了兩年、又到二四川一做了一任知州一轉了個二府一、今年才陞到二這裏一。

【二怖】963 フ 二つのおそれ。二つの危險。〔蘇軾、贈二鄭清叟秀才一詩〕胡爲犯二二怖一、博二此一笑喜一。

【二俘】964 フ 二人のとりこ。〔左氏、哀、十七〕石領與二左史一、有二二俘之賤一、而無二其令德一也。

【二婦】965 フ 二人の婦人。〔北史、彭城太妃尒朱氏傳〕神武喜曰、我此二婦、並堪二擊賊一。

【二符】966 フ 二つのわりふ。〔元史、世祖紀八〕四川宣慰使、也罕的斤、請レ賜二海青符一、命以二二符一給レ之。

【二傅】967 フ ❶太子の太傅と少傅。〔南齊書、王儉傳〕舊太子敬二二傅一同、至レ是朝議、接二少傅一以二賓友之禮一。〔小學紺珠、職官類、二傅〕太子太傅・少傅。〔稱謂錄、太子師傅保總稱、二傅〕王海、漢魏故事、太子於二二傅一、執二弟子禮一、文帝爲二太子一、涼茂爲二太傅一、何夔爲二少傅一、謂レ之二傅一。❷衞率令と典兵。〔晉書、李憙傳〕唯置二衞率令・典兵二傅一、幷攝二衆事一。❸南齊の傅琰父子をいふ。〔小學紺珠、氏族類、二傅〕傅琰父子、山陰令。

【二賦】968 フ 二つの詩賦。〔魏志、劉劭傳〕嘗作二趙都賦一、明帝美レ之、詔劭作二許都洛都賦一、時外興軍旅、內營二宮室一、劭作二二賦一、皆諷諫焉。〔晉書、褚陶傳〕年十三作二鷗鳥水碓二賦一、見者奇レ之。

【二鬴】969 フ 一石二斗八升。一月の食米。鬴は、六斗四升。〔周禮、地官、廩人〕食者、人四鬴、上也、人三鬴、中也、人二鬴、下也。〔注〕此皆謂二一月食米一也、六斗四升曰レ鬴。

【二武】970 フ 前漢の武帝と後漢の光武帝。〔晉書、苻堅載記上〕堅謂二博士王寔一曰、朕一月三臨二太學一、黜二陟幽明一、躬親獎勵、罔二敢勤違一、庶二幾周孔微言一、不二由朕而墜一、漢之二武、其可レ追乎。

【二部】971 フ ❶二冊、又は二組。部は書物を數へる稱呼。〔日本後紀、十三〕受戒之後、皆令二先必讀誦二部戒本一。❷第二の部類。❸ベ 姓氏。〔字林拾葉〕。

【二部教授】972 ニブノケウジュ 一人の教員が一時に二學級を擔當する制度。又、學校の授業を午前と午後とに分けて教授すること。又、兩部の生徒を全日在校させ、交互に教授することもある。

【二舞】973 マヒ ❶秦靡の舞の次に舞ふ滑稽な舞樂の名。〔教訓抄、二〕二の舞、云云、是地祇土神入二醉狂一舞乙姿也。〔徒然草、四十二〕目・眉・額なども腫れまどひて、うちおほひければ、物も見えず、二の舞の面のやうに見えけるが。❷他人の失敗や惡い振舞と同じやうなことをすること。〔狹衣物語、二下〕隱養の中納言の二の舞にやならんとむづかしければ。

【二風】975 フウ ❶二つの風。〔詩、小雅、谷風、習習谷風維風及頹、疏〕頹者、風從レ上而下之名、廻風從レ上而下、力薄不レ能二更升一、谷風與相遇、二風幷力、乃相扶而上、以喩二朋友二人同レ心、乃相率而成一也。❷詩經の周南と召南。〔詩、周南召南譜、疏〕二風大意、皆自レ近及レ遠。

【二服】976 フク 祭服と弔服。〔周禮、地官、鄉師〕正歲、稽二其鄉器一、比二其吉凶二服一。〔注〕吉服者、祭服也、凶服者、弔服也。

【二副】977 フク ❶一そろへ。副は、玉飾などを數へる語。〔宋史、禮志十八〕眞珠琥珀瑤珞、眞珠翠毛玉釵朶、各二副。❷高級船員の一。大副の次に位するもの。

【二幅】978 フク ❶布ふたきれ。〔宋史、高麗傳〕鞍幞各二幅、細馬二疋。❷フタハバ 布の二幅。

【二綍】979 フツ 大夫の葬儀に用ひる二本の柩をなは。〔禮、喪服大記〕大夫葬用レ輴、二綍、二碑。〔注〕在レ棺曰レ綍、行レ道曰レ引。

【二佛】980 フツ 儷二人の佛。〔淨印法門經〕此海意菩薩、能以二十方諸佛世尊所レ說之法一、皆悉受持而無二障礙一、非下于二佛二佛所レ說之法上、無二中障礙一。

【二物】981 フツ 二つの物。ふたしな。〔詩、陳風、澤陂、彼澤之陂有二蒲與荷一、箋〕正以二陂中二物一興者、喩二淫風由一同姓一生上。〔疏〕二物共在二一陂一、猶二男女同在二一姓一。〔禮、學記〕夏楚二物、收二其威一也。〔左氏、昭、二十五〕爲二夫婦外內一、以經二物一。〔注〕夫治レ外、婦治レ內、各治二其物一。

【二物齋】982 サイフツ 清、謝金鑾(10－35827・262)の號。

【二分】983 フン ❶春分と秋分。〔左氏、昭、二十一〕二至二分。〔注〕二分、春分・秋分。〔左思、魏都賦〕闡二鈎繩之筌緒一、承二二分之正要一。❷ふたつに分ける。〔郭璞、江賦〕源二二分于嵋峽一、流二九派乎潯陽一。〔蘇軾、與二歐育等六人一飮酒詩〕忽驚春色二分空、且看樽前半丈紅。❸フン 二割。〔蘇軾、擬二進士對御試策一道一〕青苗有二二分之息一。〔元史、成宗紀〕江南佃戶私租太重、以二十分一爲レ率、減二二分一、永爲二定例一。❹百分の二。

【二分圈】984 ケンン 二分點を通過して赤道に垂直な大圓。二分經線。

【二分點】985 テンン 春分點と秋分點。

【二分法】986 ハフン 分類法の一。一群の事物に就いて、或る屬性を有するものと有しないものとに分け、次に二分した各〻に對して更に同樣の

方法を行ひ、逐次之を繰返して行く法。

【二分明月】987 ニブンメイゲツ　揚州の繁華をいふ。天下の明月を二分して、其の二は揚州にあるとの意。〔徐凝、憶ニ揚州一詩〕天下三分明月夜、二分無レ賴是揚州。

【二分明月社】988 ニブンメイゲツシャ　結社の名。詩人の儀埧・徐晃玖等が社を揚州に結んでゐたからいふ。二分明月を見よ。〔揚州畫舫錄〕古渡禪林在ニ湖中長嶼上一、詩人儀埧與ニ徐晃玖・陳仲公一結ニ社於此一、謂ニ之二分明月社一。

【二份】989 èrfèn　二組。二部。

【二文】990 ニブン　㊀二つの文章。〔詩、周南、關雎、琴瑟友レ之、疏〕二文不レ同者、因ニ事異一而變ニ其文一。㊁春秋、晉の文侯仇と文公重耳とをいふ。〔左氏、昭、三十二〕伯父若肆ニ大惠一、復ニ二文之業一、弛ニ周室之憂一、徵ニ文武之福一、以固ニ盟主一、宣ニ昭令名一、則余一人有ニ大願一矣。〔注〕二文、謂ニ文侯仇・文公重耳一。〔小學紺珠、歷代類、二文〕晉文侯仇・文公重耳。

【二文六公】991 ニブンロクコウ　文公と諡せられた二人。卽ち、唐の韓愈と李翺とをいふ。〔小學紺珠、名臣類、二文公、韓愈・李翺〕。

【二文字】992 モジ　㊀平假名の「こ」の字をいふ。〔徒然草、六十二〕二つ文字牛の角文字すぐな文字。㊁モジク　韮をいふ。昔の女房詞。〔大上臈御名之事〕一、にら、ふたもじ。

【二丙】993 ニヘイ　大丙山と小丙山。此處に穴があり、嘉魚を出すといふ。丙穴(1－35：8)を見よ。〔益部方物略記〕二丙之穴、厥產ニ嘉魚一、鯉質鱒鱗、爲レ味珍腴。

【二兵】994 ニヘイ　二人の兵士。二卒。〔宋史、食貨志上一〕每ニ井賦一ニ兵一馬一、率爲ニ兵六千八百人一、馬三千四百匹一。

【二柄】995 ニヘイ　㊀㋑二つの權柄。刑と德。賞と罰との二つの權力。〔韓非子、二柄〕明ニ主之所一レ導制ニ其臣一者、二柄而已矣、二柄者、刑・德也。〔新論、兵術〕練ニ人謀一者、抱ニ五德之美一、握ニ二柄之要一、五德者、智・信・仁・勇・嚴也、二柄者、賞・罰也。㊁㋺文と武との二つの權力。〔小學紺珠、治道類、二柄レ文・武。㊂韓非子の篇名。

【二屏】996 ニヘイ　二つの屏風。〔白居易、素屏謠〕吾於ニ香爐峯下一置ニ草堂一、二屏倚在ニ東西牆一。

【二敝】997 ニヘイ　二つの疲れ衰へた國。周と秦とをいふ。〔漢書、五行志上〕繼ニ二敝之後一、承ニ其下流一。

【二餅】998 ニヘイ　二つのかめ。〔寒山詩〕一餅鑄レ金成、一餅涎ニ泥出一、二瓶任ニ君看一、那箇餅牢實。

【二弊】999 ニヘイ　第二の弊害。又、二つの弊害。〔宋史、張亢傳〕兵無ニ節制一一弊、無ニ奇正一二弊、無ニ應援一三弊。

【二嬖】1000 ニヘイ　㊀一人の身で二人の君の寵愛を得てゐる者。〔左氏、文、六〕辰嬴賤、班在ニ九人一、其子何震之有、且爲ニ二嬖一淫也。㊁二人の嬖人。

【二米】1001 ニベイ　二つの穀粒。〔詩、大雅、生民、維秬維秠、傳〕秬、黑黍也、秠、一稃二米也。〔宋書、符瑞志下〕秬鬯ニ禹之禾一、一稃二米一、王者宗廟修、則出。〔張眞祥、嘉禾合穎賦〕稃已聞ニ于二米一、莖乃殊ニ于九穗一。

【二瓢】1002 ニヒョウ　清、談炎衡(10－35633：82)の號。

【二秒】1003 ニビョウ　一秒の二倍。秒は時間又は角度の單位で、一分の六十分の一。〔宋史、律歷史三〕熒惑、總一百五十六萬一百五十二秒三。

【二苗】1004 ニビョウ　二つの苗。〔宋書、符瑞志下〕嘉禾五穀之長、王者德盛、則二苗共秀。

【二廟】1005 ニビョウ　二つの廟。周の廟制では、士は考廟と王考廟との二廟を立てる。五廟(1－257：99ン)を見よ。〔禮、祭法〕適士、二廟一壇、曰ニ考廟一、曰ニ王考廟一。

【二辟】1006 ニヘキ　二つのつみ。二罪。〔虞世南、賦ニ得愼罰詩一〕五疵過亦察、二辟理彌精。

【二壁】1007 ニヘキ　二つのかべ。〔圖繪寶鑑、宣德止號ニ清谷一、嘗畫ニ廬山尋眞觀二壁一、朱文公題ニ其上一。〕

【二璧】1008 ニヘキ　清、吳紹宗(2－3365：715)の字。

【二別】1009 ニベツ　大別山と小別山とをいふ。〔書、禹貢、內方至ニ于大別一、疏〕杜預解ニ春秋一云、大別闕、不レ知ニ何處一、或曰、大別在ニ安豐縣西南一、左傳云、吳旣與ニ楚夾一レ漢、然後楚乃濟ニ漢而陳一、自ニ小別一至ニ于大別一、然則二別近ニ漢之名一、無レ緣レ得レ在ニ安豐縣一、如ニ預所一レ言、雖レ不レ知ニ其處一、要與ニ內方一相接、漢水所レ經、必在ニ荊州界一也。〔左氏、定、四、乃濟ニ漢而陳一、自ニ小別一至ニ于大別一、注〕禹貢、漢水至ニ大別一、南入レ江、然則此二別、在ニ江夏界一。〔謝朓、和ニ王著作八公山一詩〕二別阻ニ漢坻一、雙崤望ニ河澳一。

【二返】1010 ニヘン　道家の煉丹法の一。〔大洞練眞寶經〕將ニ丹砂一修煉、伏レ火鼓成ニ白銀一、名レ之爲ニ一返一也、將ニ白銀一化ニ出砂令一、伏レ火鼓レ之、乃成ニ黃銀一、名レ之爲ニ二返一也。

【二篇】1011 ニヘン　二つの篇章。篇は、詩文の部わけ。〔易、繫辭上〕二篇之策、萬有一千五百二十、當ニ萬物之數一。〔詩、周南召南譜、疏〕召南上二篇、言ニ夫人・羔羊・摽有梅・江有汜、騶虞四篇、言ニ文王一。

【二邊】1012 ニヘン　㊀二つの國ざかひ。〔宋史、仁宗紀四〕慶曆七年五月辛丑詔、西北二邊有ニ大事一、二府與ニ兩制以上一、雜ニ議之一。㊁二つのはて。〔梁武帝、遊ニ鐘山大愛敬寺一詩〕一道長ニ死生一、有無離ニ二邊一。㊂㋑有邊と無邊。邊は邊際。世間一切の事物は、衆緣の和合に因つて生じ、自性のあるものではないが、無とも言へない。之を有邊と名づく。世間一切の事物は、旣に自性が無いとすれば、一切法は皆空で、有とはいへない。之を無邊と名づく。〔中論、四〕。㋺斷見・常見の二邊見。斷見とは、人の心身は斷滅して續生するものでないとの一邊を固執する妄見。常見とは、人の心身は過去・現在・未來に亙つて常住で間斷のないものとの一邊を固執する妄見。㊃二つの邊。三角形の二邊など。

【二變】1013 ニヘン　㊀一度かはる。又、易の筮法十八變の一。占筮(2－2780：56)を見よ。〔易經本義、筮儀〕復回營如ニ第一變之儀一、而置ニ其挂又之策于格上第二小刻一、是爲ニ二變一。㊁音樂用語。變宮と變徵。七聲(1－6：312)を見よ。〔宋史、樂志十七〕其二變之聲、惟用ニ古清商一。〔事物紀原、樂舞聲歌部、二變〕通典曰、商已前、但有ニ五音宮商角徵羽一、自ニ周加ニ文武二聲一、謂ニ之二變一。

【二邊】1014 ニヘン　二つのたかつき。〔元史、祭祀志四〕實ニ七祀之祭器一、每位左二邊、栗在レ前、鹿脯次レ之、右二豆、菁菹在レ前、鹿臡次レ之。

【二便】1015 ニベン　㊀大便と小便。兩便。㊁ビン　二度目のたより。又、二回の通信。㊂每日の郵便の第二回目の配達。

【二瓣】1016 ニベン　二つの花瓣。〔本草、忍冬〕集解、時珍曰、三四月、開花長寸許、一蕊兩花、二瓣、一大一小、如ニ半邊狀一。

【二父】1017 ニフ　㊀嫁の父と壻の父。〔詩、小雅、我行其野、昏姻之故言就ニ爾居一、箋〕婦之父、壻之父、相ニ謂昏姻一、我乃以ニ此二父之命一、故我就ニ女居一、豈其無ニ禮來乎一。㊁父と叔父。〔唐書、韓弘傳〕二父居ニ重鎭一、我以ニ孺子一、又當ニ執金吾職一乎。

【二步】1018 ホ　ふたあし。〔宋史、禮志十八〕執レ事者、奉レ冠以進、掌レ冠者、進ニ前一步一受レ之、進ニ公主席前一、北向立。

【二保】1019 ホ　二つの保。保は、五家を以て一つの組合としたもの。〔宋史、薛季宣傳〕縣多ニ盜、季宣患レ之、會有ニ伍民之令一、乃行ニ保伍法一、五家爲レ保、二保爲レ甲、六甲爲レ隊。

【二畝】1020 ホ　畝の二倍。畝は、田地の面積の單位。古は六尺四方を步とし、百步を畝とする。秦以後、二百四十步を畝とする。〔陸龜蒙、寄ニ懷南陽潤卿一詩〕誰憐故國無ニ生計一、唯種ニ南塘二畝芹一。〔倪瓚、題レ畫贈ニ岳道士一詩〕旣滋數畝菊、復種二畝芹一。

【二堡】1021 ホ　二つのとりで。〔宋史、司馬光傳〕光建ニ築二堡一、以制ニ夏人一。

【二蒲】1022 ホ　明、程學博(8－25081：169)の號。

【二輔】1023 ホ　二つの京畿に近い所。左馮翊・右扶風をいふ。三輔(1－12：1617)を見よ。〔漢書、趙廣漢傳〕廣漢奏請、令ニ長安游徼獄吏秩百石一、其後百石吏皆差自重、不ニ敢枉レ法妄繫ニ留人一、京兆政淸、吏民稱之不レ容口、長老傳以爲、自ニ漢興一以來、治ニ京兆一者莫ニ能及一、左馮翊・右扶風、皆治ニ長安中一、犯レ法者從迹、喜過ニ京兆界一、廣漢歎曰、亂ニ吾治一者、常二輔也。

【二母】1024 ボ　㊀二人の母。〔易林〕盜竊滅レ身、二母不レ親、王后無レ黨、毀ニ其寶靈一。〔後漢書、姜詩妻傳〕每旦輒出ニ雙鯉魚一、常以供ニ二母之饍一。㊁漢の陳嬰の母と王陵の母。〔小學紺珠、氏族類、二母〕陳嬰母・王陵母。

【二母彘】1025 ボテイ　二頭の牝彘。彘は、ゐのこ、豚。〔孟子、盡心上〕五母雞、二母彘、無レ失ニ其時一、老者足ニ以無一レ失ニ肉矣。

【二媽】1026 ボニ 第二の妻。〔長生殿、驛備〕末、起來點名、副淨點介、周二媽、淨應。

【二朋】1027 ホウニ ふた組の仲間。〔唐書、西域、寧遠傳〕毎二元日一、王及首領、判二二朋一、朋出二一人一、被レ甲鬬、衆以二瓦石一相レ之、有二死者一止、以トニ歲善惡一。〔蒲紹簡、登瀛洲賦〕少二雲臺之十將一、多二元愷之二朋一。

【二封】1028 ホウニ ❶二つの封域。〔詩、王城譜、疏〕韋昭云、通下在二二封一之地上、共千里也、臣瓚按、西周方八百里、八八六十四、爲二方百里一者、六十四、東周方六百里、六六三十六、爲二方百里一者、三十六、二都方百里者百、方千里也。❷二つの封書。〔漢書、魏相傳〕故事、諸上書者、皆爲二二封一、署二其一一曰レ副、領二尚書一者、先發二副封一、所レ言不レ善、屛居不レ奏。

【二峯】1029 ホウニ ❶二つのみね。二嶺。〔李白、廬山謠〕金闕前開二二峯長一、銀河倒挂二三石梁一。〔薛季宣、雨後憶二龍翔寺一詩〕二峯高峙夾二禪扃一、長落潮音逐二磬聲一。❷清、邵錫榮(**11**－**39343**‥115)の號。

【二烽】1030 ホウニ 二つののろし。〔南史、竟陵王誕傳〕若尅二外城一、擧二一烽一、尅二內城一、擧二二烽一、禽レ誕、擧二三烽一。

【二鳳】1031 ホウニ 二人の秀でた人。晉の杜毗と弟の秀とをいふ。〔西州後賢志〕杜軫二子、長子毗、字長基、少子秀、字彥穎、珪璋琬琰、世號二二鳳一。

【二矛】1032 ボウニ 二つの矛。酋矛と夷矛。〔詩、鄭風、淸人〕二矛重英、河上乎翺翔。〔箋〕二矛、酋矛・夷矛也、各有二畫飾一。〔劉義恭、白馬賦〕旋二四介一以作レ好、耀二二矛之重英一。

【二賵】1033 ボウニ 喪を助ける二つの贈物。輿馬の類。〔春秋、隱、元、天王使三宰咺來歸二惠公・仲子之賵一、疏〕惠公・仲子、不レ言レ及者、是幷致二二賵一。

【二木】1034 ボクニ 二つの木。二樹。〔詩、召南、何彼襛矣、華如二桃李一、疏〕以三王姬顏色、如二齊侯之子顏色一、故擧二二木一也。〔南齊書、祥瑞志〕永明二年七月、新治縣槐栗二木合生、異レ根連レ理、去レ地數尺、中央小開、上復爲レ一。〔喩鳧、廣德官舍二松詩〕楊公休二簿領一、二木日堅牢。

【二木居士】1035 ニボクコジ 清、周京(**2**－**3441**‥138)の號。

【二牧】1036 ボクニ 二つの牧。多濕の地に於ける九夫の耕地。其の價値は普通の耕地の一井に當る。〔周禮、地官、小司徒、乃經二土地一而井二牧其田野一、注〕玄謂、濕皐之地、九夫爲レ牧、二牧而當二一井一、今造二都鄙一、授二民田一、有二不易一、有二一易一、有二再易一、通率二二而當レ一、是之謂二井牧一。〔疏〕云三二牧、當二上地一井一、授二民田一之時、上地不易、家百畝、中地一易、家二二百畝一、下地再易、家三三百畝一、通率三二家受二六夫之地一、一家受二二夫一、與二牧地一同、故云三井二牧其田野一。

【二本】1037 ホンニ ❶草木など二本。本は、長い物を數へる語。〔元史、世祖紀四〕癸酉、益都府濟州、進二芝二本一。❷二つの根本。又、根本を二つにする。〔孟子、滕文公上〕天之生レ物也、使二之一レ本、而夷子二レ本故也。❸二つの書籍。二書。〔雲笈七籤〕小有經下記所レ載十一卷、推部本經分別儀式合一十四卷、今孟先生所レ錄者、是山中所レ傳、猶十一卷、此二本、並行二於世一。

【二毛】1038 マウニ ❶白髮まじりの老人。中老の人をいふ。二毛は、白い毛と黑い毛。斑白。〔禮、檀弓下〕大宰嚭曰、古之侵伐者、不レ斬レ祀、不レ殺レ厲、不レ獲二二毛一。〔注〕二毛、鬢髮斑白者。〔左氏、僖、二十二〕君子不レ重レ傷、不レ禽二二毛一。〔注〕二毛、頭白有二二色一者也。〔韓非子、外儲說左上〕寡人聞、君子曰、不レ重レ傷、不レ擒二二毛一、不レ推二人於險一、不レ迫二人於阨一、不レ鼓レ不レ成レ列。〔蘇軾、八月七日初入レ贛過二惶恐灘一詩〕七千里外二毛人、十八灘頭一葉身。〔書言故事、耆老類〕頭白有二二色一、曰二二毛一。❷一年間に、同一の田畠で作物を二度作ること。ふたけ作。二毛作。

【二毛作】1039 ニマウサク 同じ田畑で、一年に作物を二度作ること。麥を刈つたあとへ稻を植付ける類。ふたけ作。

【二毛子】1040 ニマウシ ❶二歲の羊。黑龍江省の土語。一歲の羊を庫爾布子といふ。〔黑龍江外紀〕。❷ èrh⁴ mao² tzŭ 耶蘇教徒を罵る語。

【二萬】1041 マンニ 萬を二倍した數。〔史記、秦紀〕(厲共公)十六年、以二兵二萬一伐二大茘一、取二其王城一。〔漢書、趙充國傳〕中豪十五萬、下豪二萬。〔後漢書、明帝紀〕是歲、發二遣邊人一、在二內部一者、賜二裝錢人二萬一。

【二萬里】1042 ニマノサト 備中國の地名。

【二味】1043 ミニ 二通りの味を備へた贅澤な食事。〔左氏、哀、元〕子西曰、昔闔廬、食不レ二レ味、居不レ重レ席。〔北史、魏太武帝紀〕不レ好二珍麗一、食不レ二レ味。

【二脈】1044 ミャクニ 二つの脈。〔宋史、龐安時傳〕察レ脈之要、莫レ急二于人迎寸口一、是二脈、陰陽相應、如二兩引繩一、陰陽均、則繩之大小等。〔金丹元學正宗〕人身有二任督二脈一。

【二名】1045 メイニ 二字の名。琅琊代醉編、卷六、陔餘叢考、卷三十一に見ゆ。二名不二偏諱一を見よ。又、二つの名。〔公羊、定、六〕譏二二名一、二名非レ禮也。〔漢書、匈奴傳下〕莽奏、令二中國不一レ得レ有二二名一。〔白虎通、姓名〕春秋譏二二名一何、所二以譏一者、乃謂二其無レ常者一也、若下乍爲二名祿甫一、元言中武庚上。

【二名法】1046 ニメイハフ 生物の學名の記し方の一。屬名と種名とを併記し、屬名を先にする。ラテン語又はラテン化せられた語を用ひる。二名式。二命名法。複命式。

【二名不偏諱】1047 ニメイハヘンキセズ 二字名の避諱には、二字ともに諱むといふことはない。一方を諱めば、他方は諱まない。偏諱は、一に偏諱に作る。偏ならば、あまねくは諱まずと讀み、偏ならば、一つ一つは諱まぬ意で、結局同義となる。日知錄、卷二十三に見ゆ。〔禮、曲禮上〕禮不レ諱二嫌名一、二名不二偏諱一。〔注〕爲二其難一レ辟也、嫌名、謂二音聲相近一、若二禹與一レ雨、丘與レ區也、偏、謂二二名不二一一諱一也、孔子之母、名徵在、言レ在、不レ言レ徵、言レ徵、不レ言レ在。〔六經正誤、四、禮記〕二名不二偏諱一、偏作レ偏、誤、云云、不二於レ彼於一レ此、一一皆諱レ之、所謂不二偏諱一也。

【二命】1048 メイニ ❶二つの命令。主君の命令と、それ以外の他の命令。〔左氏、宣、十五〕義無二二信一、信無二二命一。〔注〕欲レ行レ信者、不レ受二二命一。❷他の命令。或る人の命令以外の命令。〔左氏、襄、二十五〕陪臣干掫有二淫者一、不レ知二二命一。〔注〕受二崔子命一討レ之、不レ知二他命一。

【二明】1049 メイニ 日と月とをいふ。二曜。〔雲笈七籤〕服二日月一法、兩鼻孔下、左有レ日、右有レ月、日中有二黃精赤氣一、月中有二赤精黃氣一、精者、二明之質、色氣者、日月煙也。

【二溟】1050 メイニ 南海と北海。〔袁宏、三國名臣序贊〕洪飈扇レ海、二溟揚レ波。〔注〕銑曰、二溟、謂二南溟・北溟一、皆海也。

【二盟】1051 メイニ ❶二つの盟。❷いつはりの盟。或る國と盟を結び、又、他の國と內密に盟を結ぶこと。〔左氏、僖、二十六〕齊師侵二我西鄙一、討二是二盟一也。

【二銘】1052 メイニ ❶東銘と西銘との二文。宋、張橫渠撰。〔小學紺珠、藝文類、二銘〕西銘訂頑、東銘砭愚。❷清、翁心存(**9**－**28635**‥80)の字。

【二銘草堂】1053 ニメイサウダウ 清、張德容(**4**－**9812**‥142)の室名。

【二妙】1054 メウニ 二人の優れた人。❶晉の衞瓘と索靖。〔晉書、衞瓘傳〕(瓘爲二尙書令一)與二尙書郞索靖一、俱善二草書一、時人號爲二一臺二妙一。❷唐の韋維と宋之問。〔唐書、韋維傳〕遷二戶部郞中一、善二裁剖一、時員外宋之問善レ詩、故時稱二戶部二妙一。❸宋の艾淑と陳所翁。〔圖繪寶鑑〕艾淑善レ畫レ竹、與二陳所翁一同舍畫レ龍、俱得レ名、時稱二二妙一。❹金の段克己と段成己。二妙集を見よ。

【二妙集】1055 ニメウシフ 書名。二卷。金の段克己・段成己兄弟の詩集。趙秉文が此の二人を目して二妙といつた。〔四庫提要、集、總集類〕。

【二面】1056 メンニ ❶二枚(896)に同じ。面は、平な物を數へる語。〔北史、祖珽傳〕性不羈放縱、曾至二膠州刺史司馬世雲家一飮レ酒、遂藏二銅疊二面一。❷二方面。〔宋史、趙普傳〕普曰、太原當二西北二面一、太原既下、則我獨當レ之。❸兩側。❹戲劇俳優の副の淨。淨は、有德の人に扮する役者。又、二花面ともいふ。〔揚州畫舫錄〕馬務功爲二白面一、兼工二副淨一、白面之難、聲音氣局、必極二其勝一、沈雄之氣、寓二於嘻笑怒罵一者、均於二粉光中一透出、二面之難、氣局亞二於大面一、溫暾近二於小面一、忠義處如二正生一、卑小處如二副末一、至二乎其極一、又服二婦人之衣一、作二花面丫頭一、與二女腳色一爭レ勝、務功能合二大面二面一爲二一氣一、此所二以白面擅一レ場也。

㊄ フタオモテ 越前國の地名。

【二面角】1057 ニメンカク 數學用語。二平面が相交はつて爲す角。

〔二面說〕1058 ニメンセツ 一體兩面論(1－1・・1425)に同じ。

【二蒙】1059 ニモウ 小蒙城と大蒙城。〔水經、汳水注〕汳水又東逕二蒙縣故城北一、俗謂二之小蒙城一也、云云、又東逕二大蒙城北一、自レ古不レ聞レ有二二蒙一、疑卽蒙亳也。

【二目】1060 ニモク 二つの目。〔詩、魯頌、駉、有レ驔有レ魚、傳〕豪骭曰レ驔、二目白曰レ魚。〔釋文〕毛云、一目白曰レ魚、爾雅云、一目白瞯、二目白魚。〔盧仝、月蝕詩〕黃帝有二二目一、帝舜重瞳明。

【二門】1061 ニモン ㊀二つの入口。又、ふたいろ。〔南齊書、袁彖等傳論〕刑開二二門一、法有二兩路一。〔聶夷中、過二比干墓一詩〕乾綱既一斷、賢愚無二二門一。㊁ êrh⁴ men² 大門を入つて第二の門。

【二問】1062 ニモン 二つの問ひ。〔杜預、春秋左氏傳序、然則春秋何始二於魯隱公一、疏〕不レ言二或問一、而直言レ曰者、以レ答二前未一レ了、須三更起二此問一、若言レ問者、猶是前人且既解レ絕レ筆、卽因二問初起一、以レ此不二復言一レ或、欲レ示二二問共是一人一故也。

【二夜】1063 ヤニ 第二日目の夜。〔佛說阿闍世王經〕文殊師利、於二二夜一說二菩薩藏、諸法莫一レ不レ從レ是。

〔二夜草〕1064 フタヨグサ 草の名。すみれ。菫(9－3120)の異稱。〔莫傳抄〕二夜草にも花の咲きつつ。

【二野】1065 ヤニ 二つの分野。野は、星宿を土地に割りあてた稱呼。〔水經、桓水注〕雍・戎二野之閒、人有レ事二於京師一者、當下由二此州一而來上。

【二爺】1066 êrh⁴ yeh² ㊀婚禮などの手傳ひ人足。㊁次男。㊂ êrh⁴ yeh 下男をいふ。上海地方の方言。

【二羊】1067 ヤウニ 二匹のひつじ。〔史記、秦始皇紀〕更名レ臘曰二嘉平一、賜二黔首里六石米二羊一。

【二陽】1068 ヤウニ ㊀第二の陽。又、二つの陽。陰曆の十二月、陰氣が地上に盛な時、地下に生ずる。〔易、臨、至二于八月一有レ凶消不レ久也、疏〕復卦、一陽始復、剛性尙微、云云、此卦二陽浸長、陽浸壯大。〔禮、月令、季秋行二夏令一、疏〕以二十一月一一陽生、十二月二陽生、陽在レ內、伏二於地下一、四陰在二地上一、故云二極陰爲一レ外也。㊁二つの陽性のもの。〔漢書、翼奉傳〕喜行寬大、巳酉主レ之、二陽並行、是以、王者吉二午酉一也。㊂大腸と胃。〔素問、陰陽別論〕曰、二陽之病、發二心脾一、有レ不レ得二隱曲一、女子不レ月。〔注〕二陽、謂二陽明大腸及胃之脈一也。

【二楊】1069 ヤウニ 二人の楊姓の人。㊀漢の楊宗と楊暢。〔明一統志〕二楊墓在二嘉定州夾江縣東二十五里一、墓前各有二一石一、其一隸書、漢故益州太守楊府君、諱宗、字德中、墓道十六字、其一隸書、漢故中宮令楊府君、諱暢、字仲普、墓道十五字。㊁晉の武元楊皇后と武悼楊皇后。〔晉書、后妃傳贊〕二楊繼レ寵、福極災生。

【二厄】1070 ヤクニ 第二の災厄。又、二つの災厄。〔北史、牛弘傳〕詔二劉向父子一、讐二校篇籍一、漢之典文、於レ斯爲レ盛、及二王莽之末一、並從二焚燼一、此則書之二厄也。

【二龠】1071 ヤクニ 龠の二倍。一兩。龠は容量の單位、一合の十分の一。〔宋史、律歷志一、注〕一龠容二千二百黍一、爲二十二銖一、則以二二千四百黍一、定爲二一兩之則一、兩者以二二龠一爲レ兩。

【二榆】1072 ユニ 地名。大榆谷・小榆谷をいふ。甘肅省貴德縣。〔後漢書、西羌、濵良傳〕臣愚以爲、宜下及二此時一、建復二西海郡縣一、規固二二榆一、廣設二屯田一、隔二塞羌胡交關之路一、遏中絕狂狡窺欲之源上。

【二雄】1073 ユウニ ㊀二人の勢ひ盛な者。兩雄。〔晉書、姚襄載記〕襄曰、二雄不二倶立一、冀天不レ棄レ德、以濟二黎元一、吾計決矣。㊁二匹のをす。〔詩、齊風、南山、雄狐綏綏、疏〕雄、當レ配レ雌、理亦當レ然也、今二雄無下別二陰陽一之匹上、以喩二夫當レ配レ妻。〔易林〕一雌二雄、子不レ得レ公、亂二我族類一、使二吾心憒一。

【二豫】1074 ヨニ 君と民との儲蓄。豫とは、貨財を蓄へて不時の用意に備へること。〔管子、山權數〕善爲二天下一者、操二於二豫之外一、桓公曰、何謂二二豫之外一、管子對曰、萬乘之國、不レ可三以無二萬金之蓄飾一、千乘之國、不レ可三以無二千金之蓄飾一。〔纂詁〕豫、逆備也、云云、二豫、君豫・民豫也。

【二譽】1075 ヨニ 二つのほむべきこと。〔淮南子、說山訓〕上言若レ絲、下言若レ綸、上有二一善一、下有二二譽一、上有二三衰一、下有二九殺一。

【二用】1076 ヨウニ 二通りのはたらき。〔言志錄〕口之職、兼二二用一。

【二鷹】1077 ヨウニ 二羽の鷹。〔杜甫、王兵馬使二角鷹一詩〕二鷹猛腦條徐墜、目如二怒胡一視二天地一。

【二翼】1078 ヨクニ 左翼と右翼との部隊。兩翼。〔南史、宋武帝紀〕大軍分二車四千兩一爲二二翼一。

【二螺】1079 ラニ 二つのにし。〔陸雲、與二兄平原一書〕一日三上レ臺曹公藏二石墨數十萬片一、云、燒レ此消、復可レ用、然烟中人不レ知、兄頗見レ之不、今送二二螺一。

【二來】1080 êrh⁴ lai² 二つには。第二には。

〔二來來〕1081 êrh⁴ lai² lai² ㊀再婚の女。㊁二流どころの。

【二老】1082 ラウニ ㊀二人の聖賢。二人の長老。㋑伯夷と太公望。〔孟子、離婁上〕孟子曰、伯夷辟レ紂、居二北海之濱一、聞二文王作興一、曰、盍レ歸乎來、吾聞、西伯善養レ老者、太公辟レ紂、居二東海之濱一、聞二文王作興一、曰、盍レ歸乎來、吾聞、西伯善養レ老者、二老者天下之大老也、而歸レ之、是天下之父歸レ之也。〔揚雄、解嘲〕三仁去而殷墟、二老歸而周熾。〔小學紺珠、聖賢類、二老〕伯夷・太公。㋺老子と老萊子。〔孫綽、遊二天台山一賦〕追二羲農之絕軌一、躡二二老之玄蹤一。〔注〕善曰、二老、老子・老萊子也。〔小學紺珠、聖賢類、二老〕老子・老萊子。㋩伯夷と叔齊。〔郭璞、登二百尺樓一賦〕揖二首陽之二老一、招二鬼谷之隱士一。〔陳子昂、梓州射洪縣武東山故居士陳君碑〕兩龔不レ免二於蘭焚一、二老不レ免二於薇歎一。㊁父母をいふ。〔庾信、王祥扣冰魚躍讚〕二老同鱔、雙魚共浮。㊂峯の名。福建省長汀縣の東。〔明一統志〕二老峯、在二汀州府城東五里一、雙石峭立、如二人形一、因名。

〔二老閣〕1083 ニラウカク 淸、鄭性(11－39647・・187)の室名。

〔二老爺〕1084 êrh⁴ lao³ yeh 主人の弟に對して用ひる敬稱。

〔二老堂詩話〕1085 ニラウダウシワ 書名。一卷。宋、周必大撰。二老堂は、其の居の名。記す所は、考證に關するものが多い。〔四庫提要、集、詩文評類〕

【二郞】1086 ラウジ ㊀兄弟の第二番目の人。次郞。〔白居易、聞二龜兒詠レ詩詩〕憐渠已解レ詠二詩章一、搖レ膝支レ頤學二二郞一。㊁神の名。二郞神の㊀の略。〔紅樓夢、四十四回〕湊成二郞遊二五岳一。㊂ラウニ ㋑晉の杜軫と李驤。共に尙書郞となつたからいふ。〔晉書、杜軫傳〕軫、成都人、累二遷尙書郞一、云云、時涪人李驤、亦爲二尙書郞一、與レ軫齊レ名、每レ有二論議一、朝廷莫二能踰一レ之、號三蜀有二二郞一。〔小學紺珠、名臣類下、二郞〕杜軫・李驤。㋺唐の郞餘令と、其の兄郞蔚之。〔唐書、郞餘令傳〕餘令、字楚之、與二兄蔚之一倶有レ名、云云、楚之爲二尙書民曹郞一、蔚之位二左丞一、煬帝語稱二二郞一。

〔二郞關〕1087 ジラウクワン 關の名。㊀四川省宜賓縣の東南。昔、獠蠻を防いだ所。㊁四川省巴縣の西北。明末、永寧の土司奢氏が叛いて、其の將の樊龍が重慶に據つた時、明兵が此の關を奪つて、遂に重慶を復した。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、巴縣〕佛圖關、其西南、又有二二郞關一、皆府之要津也。㊂四川省廣元縣の南。古、趙二郞昱といふ者が、兵を此處に屯したので名を得た。

〔二郞叉〕1088 êrh⁴ lang² ch'a¹ 演劇用の冠物の一種。金銀色、後部は三日月形をなす。

〔二郞神〕1089 ジラウシン ㊀神の名。李冰の第二子を祀る。蜀の灌口にある。宋の徽宗は道敎を奉じ、之を崇拜した。一說に、隋の趙昱を祀るともいふ。〔朱子語類、三、鬼神〕蜀中灌口二郞廟、當初、是李冰因下開二離堆一有中功立上レ廟、今來、現二許多靈怪一、乃是他第二兒子出來、初閒、封爲レ王、後來、徽宗好レ道、謂、他是甚麼眞君、云云、夜夢神語云、云云、今、須三復封爲レ王、云云、魏公遂乞復二其封一。〔常熟縣志〕隋趙昱、棄レ官去、不レ知レ所レ終、會嘉州水漲、蜀人見下昱霧中乘二白馬一、越レ流而過上、因立二廟灌江一、呼曰二灌口二郞神一、宋開禧中、石矻磓寇二和州一、又顯レ靈、助二守將一破レ敵、詔封レ王。㊁詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では商調正曲に入り、北曲では商角隻曲に入る。〔詞譜〕唐敎坊曲名、樂章集注二商調一、徐伸詞名二轉調二郞神一、吳文英詞名二十二郞一、又此調有二兩體一、前段起句三字者、名二二郞神一、前段起句四字者、名二轉調二郞神一。

〔二郞河市〕1090 ニラウカシ 地名。安徽省宿縣の西北、二郞河の岸にある。淸の咸豐八年の冬、鮑超が

粤軍を破つた所。〔安徽通志〕二郎河、上接二三溪一、下接二清灣一、爲二郵傳要路一、毎レ遇二水漲急流一、深不レ可レ涉。

【二勞】1091 二つの勞役。〔唐太宗、臨二層臺一賦〕有二土木之二勞一、非二干戈之兩役一。

【二臈】1092 èrh⁴ la⁴ 產後の二七夜。二臘に同じ。

【二臘】1093 人の生後十四日目。臘は七日。〔夢粱錄、育子〕足月既坐レ蓐分娩、云云、七日、名二一臘一、十四日、謂二之二臘一、二十一日、名曰二三臘一。

【二卵】1094 二つの卵。〔宋書、五行志五〕元徽中、暨陽縣女人、于二黃山穴中一得二二卵一、如二斗大一、剖視有二人形一。

〔以二二卵一棄二干城之將一〕1095 小罪の爲に大功を忘れること。衞の苟變が、嘗て役人の時、一人あて二個づつの鷄卵を取り立てて食べた爲に、將軍としての地位を逐はれたことを誹つた故事。〔孔叢子、居衞〕子思居レ衞、言二苟變於衞君一曰、其材可レ將二五百乘一、云云、衞君曰、吾知二其材可一レ將、然變也嘗爲レ吏、賦二於民一而食二人二雞子一、以レ故弗レ用也、子思曰、夫聖人之官レ人、猶二大匠之用一レ木也、取二其所一レ長、棄二其所一レ短、云云、以二二卵一棄二干城之將一、此不レ可レ使レ聞二於鄰國一者也。〔故事成語考、武職〕求レ士、莫レ求レ全、毋下以二二卵一棄中干城之將上。

【二藍】1096 èrh⁴ lan² 色彩の名。鐵むらさき。

【二鸞】1097 二つの鸞。鸞は、天子の車の鑣につけた鈴。〔左氏、桓、二、錫鸞和鈴、疏〕詩辭毎言二八鸞一、當レ謂二馬有二二鸞一、鸞若在レ衡、衡惟兩馬、安得レ置二八鸞一乎、以レ此知二鸞必在一レ鑣。

【二利】1098 佛自利と利他。〔瑜伽論〕有二二利一、名二上士一。

【二李】1099 二人の李姓の者。〔蘇軾、次二韻詔倅李通直一詩〕會見四山朝二鶴駕一、更看二二李跨一レ鯨魚一。❶後漢の李固と李膺。〔小學紺珠、名臣類下、二李〕李固・李膺。❷唐の李遜と李建。〔小學紺珠、氏族類、二李〕李遜・李建。❸宋の李柬之と李受。〔小學紺珠、氏族類、二李〕李柬之・李受。

【二里】1100 一里の二倍。〔呂覽、博志〕矢之速也、而不レ過二二里一止也。

【二理】1101 二つの道理。〔公羊、桓、二、器何以從レ名地何以從二主人一、注、据錯、疏〕二理相違、故謂二之錯一。〔南齊書、柳世隆傳〕至性純深、哀過二乎禮一、事二陛下一、在レ危盡レ忠、喪レ親居レ憂、杖而後起、立二人之本一、二理同レ極、加レ榮增レ寵、足二以厲レ俗敦一レ風。

【二釐】1102 一釐の二倍。釐は一分の十分の一。〔宋史、律歷志一〕二銖四絫爲レ錢、二絫四黍爲レ分、一絫二黍重五釐、六黍重二釐五毫、三黍重一釐二毫五絲、則黍絫之數成矣。

【二離】1103 日と月。易の離の卦は火であり、明である。故に日月にあてる。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩〕雙鸞游二蘭渚一、二離揚二清暉一。〔注〕善曰、二離、日月也。〔王融、永明樂〕二離金玉相、三袞蘭蕙芳。

【二柳】1104 隋の柳機と柳昂。〔隋書、柳機傳〕初機在レ周、與二族人文城公昂一、俱歷二顯要一、及レ此、機昂並爲二外職一、楊素時爲二納言一、方用レ事、素戲レ機曰、二柳俱摧、孤楊獨聳。〔小學紺珠、氏族類、二柳〕柳機・昂。

【二流】1105 ❶二つの水のながれ。〔水經、江水注〕從二縣西布僕一來、分爲二二流一。〔宋史、河渠志一〕借使三分爲二二流一。❷第二流のもの。

【二旒】1106 かんむりの二つの垂れ。〔宋史、輿服志四〕鷩冕八旒、毳冕六旒、絺希冕四旒、玄冕三旒、玄冕二旒。

【二劉】1107 ❶漢の劉向・劉歆父子。〔蘇軾、次二韻、錢穆父一詩〕一言置レ我二劉閒。〔自注〕穆父嘗草二某答詔一、以二歆向一見レ喩。❷隋の劉焯と劉炫。〔北史、劉焯傳〕少與二河閒劉炫一、結レ盟爲レ友、劉炫聰明博學、名亞二於焯一、故時人稱二二劉一焉。❸宋の劉敞と劉攽。三劉(**1**—**12**··1748)の❶を見よ。❹明の劉銑と劉㮚。〔明史、劉珝傳〕子銑、字汝中、云云、與二長洲劉㮚一、竝淹二貫故實一、時稱二二劉一。❺清の劉寶楠と劉文淇。〔清史稿、儒林、劉寶楠傳〕寶楠請二業於台拱一、以二學行一聞二鄉里一、爲二諸生一時、與二儀徵劉文淇一齊レ名、人稱二揚州二劉一。

【二陸】1108 ❶晉の陸機・陸雲兄弟。〔晉書、陸機傳〕機、字士衡、吳郡人、吳滅、與二弟雲一俱入レ洛、張華素重二其名一、曰、伐レ吳之役、利レ獲二二俊一、雲、字士龍、少與二兄機一齊レ名、號曰二二陸一。〔晉書、陸雲傳〕雲、字士龍、六歲能屬レ文、性清正、有二才理一、少與二兄機一齊レ名、雖二文章不一レ及レ機、而持論過レ之、號曰二二陸一。〔小學紺珠、氏族類、二陸〕陸機士衡・雲士龍。❷陳の陸瑜と陸琰。〔小學紺珠、氏族類、二陸〕陳陸瑜・琰、並以二文學一侍二東宮一、時人以二二陸一比二二應一。❸後魏の陸暐・陸恭之兄弟。〔北史、陸凱傳〕長子暐、字道暉、與二弟恭之一、並有二時譽一、云云、又嘗兄弟共候二黃門郎孫惠蔚一、謂二諸賓一曰、不レ意二二陸復在一レ坐隅一。〔小學紺珠、氏族類、二陸〕後魏陸暐・弟恭之。❹宋の陸九齡・陸九淵兄弟。〔宋史、陸九齡傳〕與二弟九淵一、相爲二師友一、和而不レ同、學者號二二陸一。❺清の陸世儀と陸隴其。

〔二陸三張〕1109 晉の陸機・陸雲兄弟と、張載・張協・張亢兄弟。三張二陸兩潘一左(**1**—**12**··1279)を見よ。〔晉書、張亢傳〕亢、字季陽、才藻不レ逮二二昆一、亦有二屬綴一、又解二音樂伎術一、時人謂二載協亢陸機雲一、曰二二陸三張一。

【二立】1110 德と功とを立てる。〔左氏、襄、二十四〕大上有レ立レ德、其次有レ立レ功、其次有レ立レ言。〔後漢書、張衡傳〕僕進不レ能レ參二名于二立一、退又不レ能レ羣二彼數子一。〔注〕二立、謂二太上立レ德、其次立一レ功也。

【二律】1111 ❶二つの律。律は音樂の調子。〔律學新說〕黃鍾生二林鍾一、此二律相協、林鍾生二太簇一、此二律相協、太簇生二南呂一、此二律相協、南呂生二姑洗一、此二律相協、姑洗生二應鍾一、此二律相協、應鍾生二蕤賓一、此二律相協、蕤賓生二大呂一、此二律相協、大呂生二夷則一、此二律相協、夷則生二夾鍾一、此二相相協、夾鍾生二無射一、此二律相協、無射生二仲呂一、此二律相協、仲呂生二黃鍾一、此二律相協。❷二つの原理、又は法則。

〔二律背反〕1112 論理學用語。二個の原理が對立して、論理上矛盾のあること。

【二栗】1113 二つの栗の實。又、二本の栗の木。〔宋史、易延慶傳〕母平生嗜レ栗、延慶樹二二栗樹墓側一。〔五色線〕一人曰、與レ栗吃、俄取二二栗一與レ之。

【二率】1114 二つの割合。〔舊唐書、曆志三〕以二夏至差一減二春分差一、以二春分差一減二冬至差一、各爲レ率、幷二二率一半レ之、六而一爲二夏率一、二率相減、六而一爲二總差一。

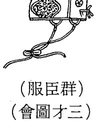
【二良】1115 ❶唐の陸長源・鄭通誠をいふ。良は、賢者・君子、又は善人の意。〔小學紺珠、名臣類下、二良〕陸長源・鄭通誠。❷書院の名。漢の文翁・朱邑を祀る。安徽省懷寧縣にある。〔明一統志〕二良書院、在二安慶府治東一、祀二漢文翁・朱邑一。❸二人の良將。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕我寧與レ彼死、使三公喪二二良一。

〔二良史〕1116 二人の優れた歷史家。史記を書いた司馬遷と、漢書を書いた班固とをいふ。〔小學紺珠、名臣類下、二良史〕司馬遷文、直而事覈、班固文、贍而事詳。

【二兩】1117 ❶一兩の二倍。一兩は二十四銖。〔南齊書、徐孝嗣傳〕孝嗣登レ殿不レ著レ韎、爲二治書御史蔡准所一レ奏、罰金二兩。❷布帛四反の稱。二匹。〔左氏、昭、二十六〕齊侯將レ納レ公、命無レ受二魯貨一、申豐從二女賈一、以二幣錦二兩一、縛レ一如レ瑱、而適二齊師一。〔注〕二丈爲二一端一、二端爲二一兩一、所謂匹也、二兩、二匹。

〔二兩平〕1118 èrh⁴ liang³ p'ing² 市場の取引に慣用せられる秤。

【二梁】1119 ❶群臣が着ける冠の名。〔三才圖會、衣服、羣臣冠服〕二梁冠、衣裳中單、蔽膝大帶同上、革帶用二銀鉤䚢一、其錦綬、用二綠黃赤三色絲一織成、練二鵲花樣青絲一、網二小綬二銀環二一。


(群臣服)
(三才圖會)

❷漢の梁孝王武と梁懷王揖とをいふ。〔漢書、敍傳下〕孝文三王、代孝二梁。〔注〕師古曰、代孝王參、及梁孝王武、梁懷王揖。

【二領】1120 衣服ふたそろひ。〔魏武帝、與二太尉楊彪一書〕今贈二足下錦裘二領八銀、角桃枝一枚一。

【二旅】1121 軍兵千人をいふ。旅は五百人の稱。〔宋書、自序傳〕賊養レ銳待レ期、而吾衆不レ盈二二旅一。

【二慮】1122 二つのおもんぱかり。二つの心配。又、第二の慮。〔公羊、隱、元、凡隱之立、爲レ桓立也、疏〕己若辭レ立、則未レ知二桓之將一レ得レ立以否、是其一慮也、假令使二桓得一レ立、又恐二諸大夫不一レ

能レ相二幼君一、是其二慮一也。

【二陵】1123 ニリョウ 二つの陵。殽山の二陵は、夏后皐の墓のある南陵と文王が風雨を避けた北陵とをいふ。殽山は、今の河南洛寧縣の北。〔左氏、僖、三十二〕殽有二二陵一焉、其南陵、夏后皐之墓也、其北陵、文王之所レ避二風雨一也。

【二龍】1124 ニリョウ 二匹の龍。二人の英才に喩へる。❶後漢の許虔（字は子政）・許劭（字は子將）兄弟。〔後漢書、許劭傳〕兄虔亦知レ名、汝南人稱、平輿淵有二二龍一焉。〔世說新語、賞譽〕謝子微見二許子將兄弟一曰、平輿之淵、有二二龍一焉。❷三國、吳の劉岱（字は公山）と劉繇（字は正禮）。〔吳志、劉繇傳〕平原陶丘洪薦レ繇、欲レ令レ擧二茂才一、刺史曰、前年擧二公山一、奈何復擧二正禮一乎、洪曰、若明使君用二公山於前一、擢二正禮於後一、所謂御二二龍於長塗一、騁二騏驥於千里一、不二亦可一乎。❸梁の謝覽・謝擧兄弟。〔南史、謝擧傳〕幼好レ學、與二(兄)覽一齊レ名、云云、江淹一見、並相欽挹曰、所謂馭二二龍於長塗一者也。❹唐の烏承玼と烏承恩。〔唐書、烏承玼傳〕承玼、字德潤、張掖人、開元中、與二族兄承恩一、皆爲二平盧先鋒一、沈勇而決、號二轅門二龍一。❺宋の呂公著（字は晦叔）と司馬光（字は君實）。〔小學紺珠、名臣類下、二龍〕呂晦叔・司馬君實。

【二龍爭レ珠】1125 ニリョウタマヲアラソフ 二つの龍が珠を奮ひ爭ふ。〔五燈會元〕僧問二趙州一、二龍爭レ珠、誰是得者、師曰、老僧祇管看。

【二龍繞レ室】1126 ニリョウシツヲメグル 孔子が生れた夜、二匹の龍が其の室をめぐる瑞祥のあつた故事。〔拾遺記、周靈王〕周靈王立二十一年、孔子生二於魯襄公之世一、夜有二二蒼龍一、自レ天而下來附二徵在之房一、因夢而生二夫子一、云云、故二龍繞レ室、五星降レ庭、徵在賢明、知レ爲二神異一。〔精註雅俗故事讀本、老壽幼誕〕二龍繞レ室、五老降レ庭、篤生二仲尼一之瑞。

【二綠】1127 êrh^4 lü^4 顏料の名。綠青の稍〻薄い色。

【二林】1128 ニリン 寺の名。〔白居易、春憶二二林寺舊遊一、因寄二郎滿晦三上人一詩〕。〔鄭谷、題二興善寺一詩〕寺在二帝城陰一、清虛勝二二林一。〔左偃、寄二鑒上人一詩〕長記二林同宿夜、竹齋聽レ雨共忘レ眠。

【二林居】1129 ニリンキョ 淸、彭紹升（**4**－10003・179）の室名。

【二林居集】1130 ニリンキョシフ 書名。二十四卷。淸、彭紹升撰。

【二輪】1131 ニリン ❶佛㋑定と慧。この二つが悟に向ふ二大條件であるから車の兩輪に譬へる。〔止觀、五〕馳二二輪一而致レ遠。㋺食輪（齋食を行ふこと）と法輪（說法を行ふこと）。佛會に缺くべからざる二大儀式であるから、矢張り車の兩輪に喩へる。〔元亨釋書、會儀志〕是曰二二輪一、必於レ會焉、二者相轉屬、所謂食輪・法輪也。❷花二つ。

【二鄰】1132 ニリン 二つの隣。隣は、周代の行政區劃の稱、五家をいふ。〔周禮、地官、遂人〕五家爲レ鄰、五鄰爲レ里、云云、十夫有レ溝。〔注〕十夫、二鄰之田。

【二麟】1133 ニリン 二匹の麟。麟は仁獸の名。〔北史、王劭傳〕其大玉、有二日月星辰、八卦五岳、及二麟雙鳳、青龍朱雀、騶虞玄武一、各當二其方位一。

【二壘】1134 ニルイ 二つのとりで。〔晉書、孫綽傳〕上疏曰、臣之愚計、以爲、且可丙更遣下一將有二威名資實一者上、先鎭二洛陽一、於二陵所一築二二壘一、以奉乙衞山陵甲。〔唐書、李自良傳〕請築二二壘一、搤二歸路一、堅レ壁勿レ出、求レ戰不レ許。

【二類】1135 ニルイ 二つのたぐひ。二種。〔元稹、大觜烏詩〕陽烏有二二類一、觜白者名レ慈、求レ食哺二慈母一、因以レ此名レ之。

【二類相召】1136 ニルイアヒマネク 二種類のものが互にまねきあふ。召は招に通ず。〔莊子、山木〕噫物固相累、二類相召也。

【二苓】1137 ニレイ 二つの苓。苓は、一種の藥草。〔王績、採レ藥詩〕龜蛇採二二苓一、赤白尋二雙木一。

【二犁】1138 ニレイ 二つのからすき。〔管子、乘馬〕距二國門一以外、窮二四竟之內一、丈夫二犁、童五尺一犁、以爲二三日之功一。

【二鈴】1139 ニレイ 二つのすず。〔宋史、輿服志二〕八鸞在レ衡、二鈴在レ軾。

【二嶺】1140 ニレイ 二つのみね。二峯。〔晉書、呂纂載記〕陛下龍飛、彊宇未レ闢、崎嶇二嶺之內、綱維未レ振二於九州一。

【二禮】1141 ニレイ ❶周禮と儀禮。〔禮記注疏、卷一、禮記、釋文〕此記二二禮之遺闕一、故名二禮記一。〔宋史、選擧志二〕紹聖四年、詔二禮部一凡試優、取二二禮兩經一、許レ占二全額之半一、而以二其半一及二他經一。〔事物紀原、經籍藝文部、二禮〕通典曰、周公攝レ政、六年致二太平一、述二文武之德一、制二周官及儀禮一、孔子時、已不レ能レ具、秦平二天下一、收二儀禮一歸二之咸陽一、故得レ不レ亡也。❷二つの禮。朝事（腥を薦めると黍稷を薦めること）。〔孔子家語、哀公問政〕報以二二禮一。〔注〕二禮、謂レ薦二黍稷一也。

【二麗】1142 ニレイ 二つのうるはしくあざやかなもの。〔王逢、葛稚川移レ居圖爲二友生朱仲矩一題詩〕雲霞輪レ漿石供レ髓、二麗精華晨夜委。

【二靈】1143 ニレイ 二つの靈。〔劉憲、奉三和七夕宴二兩儀殿一應制詩〕秋吹過二雙闕一、星仙動二二靈一。

【二料】1144 ニレウ 二つの手當。〔唐書、段秀實傳〕按二格令一、官使二一料一、取二其一一、非二公會一、不二擧レ樂飮酒一、室無二妓媵一、無二贏財一。

【二鬲】1145 ニレキ 二つの鬲。鬲（**12**－**45672**）の字解を見よ。士喪禮のとき、士は重に二鬲を用ひる。重とは、死者の靈を憑らしめる爲の物で、木で作り、庭に立てる。それに懸ける鬲の數は、身分によつて異なる。〔儀禮、士喪禮〕夏祝鬻二餘飯一、用二二鬲于西牆下一。

【二曆】1146 ニレキ 二つのこよみ。〔宋書、律曆志下〕春秋書、食有二日朔一者、凡二十六、其所レ據曆、非レ周則魯、以二周曆一考レ之、檢二其朔日一、失二二十五一、魯曆校レ之、又失二十三一、二曆並乖、則必有二一僞一、此可レ疑之據五也。

【二列】1147 ニレツ 二つの列。ふたならび。〔宋書、樂志一〕八音克諧、然後成レ樂、故必以二八八一爲レ列、自二天子一至レ士、降殺以レ兩、兩者減二其二列一爾。〔元史、祭祀志二〕北懸之內、歌工四列、內二列、在二通街之東一、二列於二通街之西一、每列八人、共三十二人、東西相向坐、以レ北爲レ上。

【二連】1148 ニレン 二つのつながり。又、二つながり。〔常建、客有二自レ燕而歸一哀二其老一而贈レ之詩〕贏馬朝自レ燕、一身爲二二連一。

【二蓮】1149 ニレン 二つの蓮花。〔宋書、符瑞志下〕文帝元嘉七年七月乙酉、建康領檐湖、二蓮一蔕。

【二路】1150 ニロ 天子が乘用する二種の車。大路と戎路。路は車。二輅。〔左氏、昭、十五〕唐叔受レ之、以處二參虛一、匡二有戎狄一、其後襄之二路、鏚鉞秬鬯、彤弓虎賁、文公受レ之、以有二南陽之田一、撫二征東夏一、非レ分而何。〔注〕周襄王所レ賜二晉文公一大路戎路。〔小學紺珠、器用類、二路〕大路・戎路。

【二輅】1151 ニロ 大輅と戎輅。二路に同じ。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕錫以二二輅虎賁鈇鉞秬鬯弓矢一。

【二漏】1152 ニロウ 二つの水時計。〔南史、沈洙傳〕愚意、願去二夜測之昧一、從二晝漏之明一、斟二酌今古之間一、參二會二漏之義一、捨二秋冬之少刻一、從二夏日之長晷一。

【二樓】1153 ニロウ 二つのたかどの。〔小學紺珠、制度類、二樓〕花萼相輝、勤レ政務レ本。

【二壠】1154 ニロウ 二つの塚。二つの岡。〔宋史、五行志二下〕隔二二壠一、合穗有二十三本或二十一本合爲レ一。

【二籠】1155 フタゴモリ 一つの繭に二匹の蛹がこもつたもの。〔後撰和歌集、戀四〕ひき繭のかくふた籠りせまほしみ。

【二六】1156 ニロク 十二をいふ。〔曹植、驅車篇〕周二流二六候一、閒置二十二亭一。〔高道素、上元賦〕迎二珠履之三千一、列二金釵之二六一。

【二六對】1157 ニロクツイ 七言近體詩の第二字と第六字との平仄が一致すること。二四不同（1201）に對す。作詩法（**1**－**518**・**79**）を見よ。

七絕平起受レ仄者

◐	○	◑	●	●	○	○
◑	●	◐	○	◑	●	○
◑	●	◐	○	○	●	●
◐	○	◑	●	●	○	○

此不レ用レ韻起、亦是一法。

同 仄起受レ平者

◑	●	◐	○	◑	●	○
◐	○	◐	●	●	○	○
◐	○	◑	●	○	○	●
◑	●	◐	○	◑	●	○

平對レ仄、仄對レ平、切要二分明一。

〔詩法詳論、絕句平仄〕一三五不レ論、詩句中、第一字、第三字、第五字、或當レ用レ平而用レ仄、亦可、或當レ用レ仄而用レ平、亦可、不二必拘定一、二四六分明、詩句中、第二字、第六字、當レ用レ平者、一定用レ平、當レ用レ仄者、一定用レ仄、不レ可二移易一、如二五言律一、止論二第二字第四字一。

【二六時中】1158 ニロクジチユウ 一晝夜。いつでも。不斷。古昔は、晝を六時、夜を六時に分けた。

【二鹿】1159 ニロク　二匹の鹿。〔梁簡文帝、司徒始興忠武王誄〕三鱣素服、二鹿隨レ輪。

【二錄】1160 ニロク　二人の錄事。〔宋書、百官志上〕成帝初、王鳳錄ニ尙書事一、漢東京、每ニ帝卽レ位、輒置ニ太傅一錄ニ尙書事一、薨輒省、晉康帝世、何充讓レ錄表曰、咸康中、分ニ置三錄一、王導錄ニ其一一、荀崧・陸曄、各錄ニ六條事一、然則似レ有ニ二十四條一、若止有ニ十二條一、則荀陸各錄ニ六條一、導又何所レ司乎、若導總レ錄、荀陸分掌、則不レ得四復云三導錄ニ其一一也、其後、每置ニ二錄一、輒云、各掌ニ六條事一、又是止有ニ十二條一也。

【二論】1161 ニロン　二つの議論。〔晉書、王導傳〕賊平ニ宗廟宮室一、並爲ニ灰燼一、溫嶠議レ遷ニ都豫章一、三吳之豪、請レ都ニ會稽一、二論紛紜、未レ有レ所レ適。

【二王】1162 ニワウ　❶二人の天子。二君。〔禮、曾子問〕天無ニ二日一、土無ニ二王一。〔左氏、僖、二十五〕曰、王章也、未レ有ニ代德一、而有ニ二王一、亦叔父之所レ惡也。❷周以前の二代の王。周代に於ては夏・殷の子孫たる杞と宋との君を諸侯とはせず二王として禮遇した。後、廣く當代前の二代の君をいふ。唐代では、後周と隋とをいふ。二王後及び存ニ二王之後一を見よ。〔詩、周頌、振鷺序〕振鷺、二王之後、來助レ祭也。〔箋〕二王、夏殷也、其後、杞也、宋也。❸二人の王姓の人。㋑晉の王戎と王衍。共に淸談を好む。〔晉書、羊祜傳〕從甥王衍、嘗詣レ祜陳レ事、辭甚俊辯、祜不レ然レ之、衍拂レ衣而起、祜顧謂ニ賓客一曰、王夷甫方以ニ盛名一處ニ大位一、然敗レ俗傷レ化、必此人也、步闡之役、祜以ニ軍法一將レ斬ニ王戎一、故戎衍並憾レ之、每ニ言論一多毀レ祜、時人爲ニ之語一曰、二王當レ國、羊公無レ德。〔小學紺珠、氏族類、二王〕王戎・衍。㋺晉の能書家、王羲之(大王)と、其の第七子王獻之(小王)。〔顏氏家訓、雜藝〕梁氏祕閣散逸以來、吾見ニ二王眞草一多矣。〔張懷瓘、書議〕逸少秉ニ眞行之要一、子敬執ニ行草之權一、父之靈和、子之神俊、皆古今之獨絕也、世人雖レ不レ能ニ甄別一、但聞ニ二王一、莫レ不ニ心醉一。〔小學紺珠、氏族類、二王〕王羲之逸少、子獻之子敬。㋩南齊の王延之と王僧虔。〔南齊書、王延之傳〕宋德旣衰、太祖輔レ政、朝野之情、人懷ニ彼此一、延之與ニ尙書令王僧虔一、中立無レ所ニ去就一、時人爲ニ之語一曰、二王持レ平、不レ送不レ迎、太祖以レ此善レ之。㊁梁の王銓と弟の錫。〔小學紺珠、氏族類、二王〕王銓・弟錫、梁時人謂ニ銓錫一、可レ謂ニ玉昆金友一。❹佛㋑佛法守護の神として寺門の左右に立てる金剛夜叉の稱。本名を密迹金剛といひ、法意王子の化身。俗に左を密迹(ミッシャク)金剛、右を那羅延(ナラエン)金剛といふ。仁王。〔金光明文句記、六〕世傳ニ樓至化身一、非也、乃法意王子耳、云云、據レ經、唯一人、今狀ニ於伽藍之門一爲ニ二像一者、夫應レ變無レ方、多亦無レ咎。㋺密教の愛染明王と不動明王。

【二王後】1163 ニワウノノチ　二王の❷に本づく。〔樂府詩集、新樂府辭、二王後〕禮記郊特牲曰、禮ニ二王之後一、尊レ賢不レ過ニ二代一、杜佑曰、不レ臣ニ二王後一者、尊也、先生通ニ三正之義一、故書有ニ虞賓在一レ位、詩云、有レ客有レ客、亦白其馬、明ニ天下非ニ一家所レ有、敬讓之至、故封ニ建之一、使レ得レ服ニ其正朔一、用ニ其禮樂一、以事ニ先祀一、故孔子云、夏禮吾能言レ之、杞不レ足レ徵也、殷禮吾能言レ之、宋不レ足レ徵也、隋封ニ後周靖帝一、爲ニ介國公一、唐封ニ隋帝一、爲ニ酅國公一、以爲ニ二王後一。〔白居易、二王後詩〕二王後彼何人、介公酅公爲ニ國賓一、周武隋文之子孫、古人有レ言、天下者非ニ是一人之天下一、周亡天下傳ニ于隋一、隋人失レ之唐得レ之、唐興十葉歲二百、介公酅公世爲レ客、明堂大廟朝享時、引居ニ賓位一備ニ威儀一、備ニ威儀一助ニ郊祭一、高祖太宗之遺制、不ニ獨興ニ滅國一、不ニ獨繼ニ絕世一、欲レ令ニ嗣位守文君、亡國子孫取爲レ戒。

【二王帖】1164 ニワウデフ　晉の王羲之・王獻之父子の行書草書を集めた法帖。〔翰林要訣〕二王帖、搜ニ拾二王行草書一、小帖略備、但本非ニ能書人模勒一、故博而不レ精。

【二王門】1165 ニワウモン　二王の像を安置する寺の門。仁王門。〔好色一代男、五〕二王門を出る時、四十二三と見えし女房、地なしのむかし著物に金入の帶して。

【二王立】1166 ニワウダチ　寺の門に立つ二王の像のやうに、勢ひこんで立つこと。仁王立ち。〔太平記、八、四月三日合戰事〕廣言吐いて、二王立ちにぞ立ちたりける。

【存ニ二王之後一】1167 ニワウノノチヲソンス　王者が新王朝を建設すれば、前二代の王の子孫を百里の大國に封じて王者の禮遇をなし、其の正朔服色を行ふことを許す。周に於ては、夏・殷の子孫を杞と宋に封じた。二王後を見よ。春秋繁露、三代改制質文篇に詳しく見ゆ。〔公羊、隱、三、注〕二月三月皆有レ王者、二月殷之正月也、三月夏之正月也、王者存ニ二王之後一、使下統ニ其正朔一、服ニ其服色一、行中其禮樂上、所下以尊ニ先聖一、通中三統上、師法之義、恭讓之禮、於レ是可ニ得而觀一レ之。〔白虎通、三正〕王者所ニ以存ニ二王之後一何也、所下以尊ニ先王一、通中天下之三統上也、明ニ天下非ニ一家之有一、謹敬謙讓之至也、故封ニ之百里一、使レ得下服ニ其正色一、行ニ其禮樂一、永事中先祖上。

【二惑】1168 ニワク　佛二つのまどひ。〔梁簡文帝、如夢詩〕潛令ニ六識擾一、安能二惑除。❶見惑と思惑。見惑とは、邪に推度して起す迷情。見は、推度の義。思惑とは、凡夫が事物に對して心に起す惑。一に修惑ともいふ。❷理惑と事惑。藏通二教では、見惑を理惑とし、思惑を事惑とする。別圓二教では、根本無明を理惑とし(中道の理を覆ふ惑)、塵沙(化導を障げ俗諦の法を覆ふ惑)及び見思(空寂を障げ眞諦の法を覆ふ惑)を事惑とする。法相家は、煩惱障を理惑とし、所知障を事惑とす。

【二娃子】1169 êrh⁴ wa² tzŭ　子供。

【二項式】1170 ニカウシキ　數學用語。ただ二つの項から成る數學式。a＋b の類。

【二哈喇】1171 êrh⁴ k'a¹ la¹　西藏の北部に產する毛織物の一種。薄毛で、長さ八丈、幅二尺八寸のもの。

【二希堂】1172 ニキダウ　淸、蔡世遠(**9－31818**・・200)の室名。

【二希堂文集】1173 ニキダウブンシフ　書名。十二卷。淸、蔡世遠撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【二禬子】1174 ニクワイシ　淮南の地の邪教。〔稱謂錄、邪教、二禬子〕陸游條對狀、妖幻邪人、平時誑ニ惑良民一、結連素定、待レ時而發、此色人處處皆有、淮南謂ニ之二禬子一。

【二鰓類】1175 ニサイルイ　動物分類上の一部門。軟體動物門、頭足綱中の一亞綱又は一目とせられる動物群。外套腔內に一對の鰓が有り、足は八乃至十本で吸盤を有し、腸の附近に墨汁囊がある。章魚・烏賊など。

【二之日】1176 ニノヒ　二月之日といふ義。周の二月、卽ち夏の十二月、殷の正月をいふ。一說に、十餘の二の月、卽ち夏の十二月のことだともいふ。一之日(**1－1**・・747)を見よ。〔詩、豳風、七月〕一之日觱發、二之日栗烈。〔傳〕二之日、殷正月也。

【二朱金】1177 ニシュキン　昔の金貨。金一兩の八分の一。

【二須堂】1178 ニシュダウ　淸、丁詠淇(**1－2**・・222)の室名。

【二進法】1179 ニシンハフ　數學用語。數を表はすのに、2に達する每に位を進める法をいふ。二進記法。

【二折屛】1180 êrh⁴ chê² p'ing²　二枚折りの屛風。

【二尖瓣】1181 ニセンベン　生理學用語。心臟の房と室との間にある左靜脈口を閉ざす瓣をいふ。僧帽瓣。

【二層樓】1182 ニソウロウ　二階屋。

【二刀流】1183 ニタウリウ　劍道の一流派。大小の二刀を同時に兩手で使ふ流儀。寛永年中、宮本武藏が創めたもの。

【二套車】1184 êrh⁴ t'ao⁴ ch'ê¹　二頭立ての馬車。

【二塘墟】1185 ニタウキョ　地名。❶廣西省平樂縣の東、沙江の西岸。淸の咸豐八年秋、蔣益澧が粵軍を此の地で破つた。❷廣西省武宣縣の西北。

【二竹齋】1186 ニチクサイ　淸、張井(**4－9812**・・456)の號。

【二中歷】1187 ニチユウレキ　書名。十三卷。撰者未詳。我が國傳存の書。二中歷といふ名は、儀中歷と掌中歷との二種を合せたことに依る。神代・人代・佛聖・大佛・乾象・坤儀・官職・醫方・經史・藝能等の八十二目に分つ。一種の常識辭典。

【二疊紀】1188 ニデフキ　地質學上の時代區分の一。古生代の最後の時代。北方アンガラ大陸と南方ゴンドワナ大陸との間にテチス海が完成し、動物では兩棲類が全盛となり、爬蟲類も出現し、植物では羊齒植物が衰へて、松柏科・蘇鐵科のものが盛大となつた。

【二疊系】1189 ニデフケイ　地質學用語。二疊紀に屬する地質系統。陸相は、礫岩・砂岩・頁岩・粘土から成り、石炭層をも含み、海相は、主に石灰岩から成る。

【二度咲】1190 ニドザキ　花などの返り咲き。

【二波軒】1191 ニハケン　清、王嘉福(**7－20823**··1239)の室名。

【二杯酢】1192 ニハイズ　鹽又は醬油を酢に交ぜたもの。食物調理に用ひる。

【二薇亭】1193 ニビテイ　宋、徐璣(**4－10110**··74)の室名。

【二薇亭詩】1194 ニビテイシ　書名。一卷。宋、徐璣撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【二孟旬】1195 ニマウジユン ノ　古代禁中公事の中の孟夏旬(四月朔)と孟冬旬(十月朔)。夏の初には、臣下に御酒を賜ひ、又扇を賜ふ。冬には氷魚を賜ふ。〔江家次第、六〕幼主時二孟旬。〔九條年中行事、四月〕二孟旬儀。

【二介居士】1196 ニカイコジ　清、何琪(**1－511**··35)の別號。

【二項定理】1197 ニカウテイリ　數學用語。二項式のn乘の展開式を求める定理。

【二棄草堂】1198 ニキサウダウ　清、葉燮(**9－31387**··94)の室名。

【二休居士】1199 ニキウコジ　明、蕭纘(**9－32012**··141)の號。

【二載千秋】1200 ニサイセンシウ　二年も逢はぬと、千年も別れてゐるやうな思ひがする。三載千秋。〔本朝文粹、九、大江以言、暮春於二文章院一餞二諸故人一赴レ任同賦二別路花飛白一〕一日千秋之死望、二載千秋之歎音。

【二四不同】1201 ニシフドウ　七言詩の第二字と第四字との平仄が必ず相異なるべきこと。二四不同二六對・作詩法(**1－518**··79)を見よ。

【二四不同二六對】1202 ニシフドウニロクツイ　七言近體詩の平仄配列の規則。一句中の第二字と第四字とは必ず平仄を異にし、第二字と第六字とは必ず平仄を同じくすべきことをいふ。二六對(1157)を見よ。

【二昭二穆】1203 ニセウニボク　諸侯の廟。昭穆(**5－13855**··165)を見よ。〔禮、王制〕諸侯五廟、二昭二穆、與二太祖之廟一而五。〔漢書、韋玄成傳〕諸侯二昭二穆、與二太祖廟一而五。

【二碳化鈣】1204 ニタンクワカイ　酸化カルシウムと炭素との混合物を電弧爐で強熱した結果出來る硬い結晶性固體。純粹のものは白色であるが、普通は灰黑色を呈し、水に逢へばアセチレンを生ずる。アセチレン瓦斯製造用、又は熔接用とする。カルシウムカーバイト。碳化鈣。

【二二忽忽】1205 èrh⁴ èrh⁴ hu¹ hu¹　曖昧な。惑ふ。

【二眉道人】1206 ニビダウジン　清、朱方旦(**6－14424**··960)の號。

【二氧化氫】1207 ニヤウクワケイ　過氧化氫(**11－39002**··320)に同じ。

【二氧化矽】1208 ニヤウクワセキ　珪酸を脱水して得る白色無晶形の粉末。石英の成分をなし、硝子製造などに用ひる。無水珪酸。珪土。二酸化珪素。矽酐。

【二氧化碳】1209 ニヤウクワタン　無色の氣體。炭酸ガス。有機物の燃燒によつて生じ、工業上にては、石灰を燒いて製す。ラムネ等の清涼飲料に用ひる。二酸化炭素。無水炭素。

【二氧化錳】1210 ニヤウクワマウ　マンガンの酸化物。黑色無定形の粉末で、酸化劑・醫藥などに用ひる。二酸化マンガン。

【二氧化硫】1211 ニヤウクワリウ　硫黃が燃燒した時に出來る無色刺戟臭のある氣體。水に溶けて亞硫酸を作る。還元劑・漂白劑・冷藏庫の冷却などに用ひる。亞硫酸ガス。二酸化硫黃。無水亞硫酸。亞硫酐。

【二硫化碳】1212 ニリウクワタン　無色透明の可燃性液體。有毒。局部痲痺劑・護謨の溶媒・合成原料などに用ひる。二硫化炭素。

【二硫化鐵】1213 ニリウクワテツ　鐵化合物の一。硬い黃色の結晶をなし、天然には、黃鐵鑛として產す。硫酸製造の重要原料。

【二氯化鈷】1214 ニリヨククワコ　鹽化コバルトをいふ。紅色の結晶で、加熱すれば青色粉末となる。

【二氯化汞】1215 ニリヨククワコウ　藥品の名。白色結晶性の粉末。猛毒があり、消毒藥に用ひる。昇汞。猛汞。鹽化第二水銀。

【二氯化鐵】1216 ニリヨククワテツ　鹽素瓦斯で鐵を熱すると出來る化合物。鹽化第二鐵。氯化亞鐵。

【破レ二作レ三】1217 ニヲヤブリテサントナス　二を割り分けて三となす。〔通俗編、數目、破レ二作レ三〕五燈會元、死心悟新偈云、有レ時破レ二作レ三、有レ時合レ三歸レ一。

【二縮原磷酸】1218 ニシユクゲンリンサン　偏磷酸(**1－848**··204)に同じ。

【二不能二短】1219 ニフノウニタン　名人にも得手でない所があること。宋の蘇洵に於ける詩、歐陽脩に於ける賦、曾鞏に於ける韻語、黃庭堅に於ける散語をいふ。〔後山叢書〕蘇明允不レ能レ詩、歐陽永叔不レ能レ賦、曾子固短二韻語一、黃魯直短二散語一。

【二沒食子酸】1220 ニボツシヨクシサン　鞣酸(**12－42909**··1)に同じ。

【二餘堂叢書】1221 ニヨダウソウシヨ　叢書の名。清、師範編。其の目は、四六緣起一卷(孫梅)、魏伯子雜說一卷(魏際瑞)、魏叔子外篇一卷(魏禧)、徵波樹遺書一卷(孔繼涵)、習園藏稿一卷(余慶春)、鄂亭詩話一卷(磊砢山房本)、切時政要一卷(韓學渾)、蜀游記一卷(沈)、楚詞達一卷(魯華)、滇海虞衡志十三卷(檀萃)、課餘隨錄三卷(師範)。〔叢書擧要、近代十〕。

【二硫化二砷】1222 ニリウクワニシン　砒素の硫化物。褐赤色の粉末。天然には、雞冠石として產す。顏料・煙火などに用ひる。雌黃。二硫化砒素。

【二氯化碳醯】1223 ニリヨククワタンケイ　無色の氣體。軍事上、毒瓦斯として用ひられる。フオスゲン。

【二氯化乙硫醚】1224 ニリヨククワイツリウビ　芥子臭のある無色の液體。猛毒性を有し、糜爛性毒瓦斯として用ひられる。ヂクロルーエチルーサルフアイド。イペリツト。

【二】248 シヤウ　上(**1－13**)の古文。〔正字通〕二、古文上。

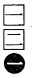
参考　二(**1－247**)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字似二二、一二一。二、古上字。

【二】249 カ　下(**1－14**)の古文。〔正字通〕二、古文下。

【二】250 同じ文字を重ねる記號。〔容齋隨筆、元二之災〕古書、字當二再讀一者、卽二于上字之下一、爲二小二字一、此字、當二兩度言一レ之、云云、今岐州石鼓銘、凡重言者、皆爲二二字一、明驗也。〔通俗編、識餘、二〕古鍾鼎文、子二孫二等字、皆不二複書一、周宣石鼓文、君子員獵員獵員遊、雖二四字相間一、猶作二員二獵二一、漢石經、改レ篆爲二八分一、如二易之乾二、書之安二一、亦如レ之、後漢書鄧隲傳、時遭二元二之災一、章懷注、元二卽元元也、蓋古人楷書、又有二然者一、二翁雜說、複語書二二字一、重二二文一也、升庵外集、二乃古文上字、言二字同二于上一、省二複書一也、按、二說未レ定二孰是一、今人或書レ二、或書レヒ、各于二舊說一有レ合。〔陔餘叢考、重字二點〕凡重レ字、下者可レ作二二畫一、始二於石鼓文重字一、皆二畫也、後人襲レ之、因作二二點一。

一畫

【亍】251


小篆

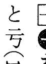
㊀ チヨク トク　〔集韻〕丑玉切　ㄔㄨˋ ch'u⁴　沃

㊁ チユ　〔集韻〕株遇切　遇

㊀㊁ ❶**止まる**。**たたずむ**。〔說文〕亍、步止也、从二反彳一、讀若レ畜。〔左思、魏都賦〕澤馬亍レ皐。❷**少しくあゆむ**。〔字彙〕亍、小步也。❸**右足のあゆみ**。〔正字通〕亍、左步爲レ彳、右步爲レ亍、合レ之、則爲二行字一。〔顏延之、赭白馬賦〕纖驪接レ趾、秀騏齊レ亍。❹**姓**。〔姓氏尋源〕彳亍、義通二於躑躅一、或爲二行氏所一レ改。

解字　指事。彳の反對の字形。彳は股・脛・足の三つを指し、ぶらぶら歩くの意。故に亍は、ぶらぶら歩いて戻りとどまること。〔說文通訓定聲〕亍、步止也、从二反彳一、指事、躑躅、卽彳亍也。

【于】252


小篆

㊀ ウ　〔集韻〕雲俱切　ㄩˊ yü²　虞

㊁ キヨ コ　〔正韻〕休居切　魚

㊂ ク　〔詩、集傳〕音吁

㊀ ❶**ああ**。**ここに**。發語の辭。もと亐(**1－253**)に作る。〔說文〕亐、於也、象二气之舒亐一、从レ丂从レ一、一者其气

平也。〔段注〕於者、古文烏也。〔爾雅、釋詁〕于、曰也。〔正字通〕于、語助、詩召南、于以采ㇾ蘩、朱傳、于、於也、周易・毛詩、於、皆作ㇾ于。〔詩、陳風、東門之枌〕穀旦于差。〔注〕于、曰也。❷に。句中の助辭。於(5―1328)・乎(1―131)に通ず。〔詩、召南、采蘩〕于沼于沚。〔傳〕于、於也。〔儀禮、既夕禮記〕東ニ首于北墉下一。〔注〕今文、于爲ㇾ於。〔論語、爲政〕吾十有五而志ニ于學一。❸おいて。おいてする。〔詩、周頌、我將〕畏ニ天之威一、于ㇾ時保ㇾ之。〔大學〕惟命不ㇾ于ㇾ常。❹より。④から。依據するところを示す辭。〔書、大禹謨〕祇承ニ于帝一。㊐比較を示す辭。〔孟子、滕文公下〕脅ㇾ肩諂笑、病ニ于夏畦一。❺客語の前に置く辭。〔書、盤庚下〕歷告ニ爾百姓于朕志一。〔書、泰誓中〕我武惟揚、侵ニ于之疆一。❻か。かな。疑問感嘆を表はす辭。乎(1―131)に通ず。〔說文通訓定聲〕于、假借爲ㇾ乎。〔論語、爲政〕孝于惟孝。〔釋文〕孝于、一本作ニ孝乎一。〔呂覽、審應〕然則先生聖于。〔注〕于、乎也。❼ゆく。〔詩、周南、桃夭〕之子于歸。〔傳〕于、往也。〔詩、小雅、雨無正〕維曰于仕。〔傳〕于、往也。❽おほきい。訏(10―35233)に通ず。〔說文通訓定聲〕于、假借爲ㇾ訏。〔方言、一〕于、大也。〔禮、檀弓下〕諸侯之來辱ニ敝邑一者、易則易、于則于。〔疏〕于、謂ニ廣大一。❾なす。する。〔儀禮、士冠禮〕宜ㇾ之于ㇾ假。〔注〕于、猶ㇾ爲也。〔司馬相如、長門賦序〕因于ㇾ解ニ悲愁一之辭。❿ため。〔經傳釋詞、一〕于、猶ㇾ爲也、孟子萬章篇曰、惟茲臣庶、女其于ㇾ予治、于、爲也。⓫ごとし。〔經傳釋詞、一〕介于ㇾ石、卽介如ㇾ石也。〔易、繫辭下〕易曰、介于ㇾ石、不ㇾ終ㇾ日、貞吉。⓬これ。是。〔經傳釋詞、一〕于、猶ㇾ是也。〔詩、小雅、出車〕玁狁于夷。⓭と。および。連及の辭。〔經傳釋詞、一〕于、猶ニ越也一、與也、連及之詞、夏小正傳曰、越、于也、廣雅曰、越、與也、云云、康誥曰、告ニ女德之說于ニ罰之行一、言告ニ汝德之說與ニ罰之道一也。⓮たすける。〔經傳釋詞、一〕于、爲也、爲、助也。〔孟子、萬章上〕女其于ㇾ予治。⓯鐘の口の兩角の間。〔周禮、考工記、鳧氏〕銑間、謂ニ之于一。〔注〕于、鐘脣之上衺也。⓰まげる。迂(11―38722)に通ず。〔禮、文王世子〕況于ニ其身一、以善ニ其君一乎。〔注〕于、讀爲ㇾ迂。⓱とる。求める。捕(5―12157)に通ず。〔爾雅、釋言〕于、求也。〔說文通訓定聲〕于、假借爲ㇾ捕、孟子、殺ニ越人一于ㇾ貨、詩七月、晝爾于ㇾ茅。⓲語調を調へる助辭。于越(8)の一を見よ。⓳吳(2―3365)に通ず。于越(8)の二を見よ。⓴姓。〔廣韻〕于、周武王子邘叔子孫、以ㇾ國爲ㇾ氏、其後去ㇾ邑、單爲ㇾ于。〔通志、氏族略、以ㇾ國爲ㇾ氏〕于氏卽邘氏、周武王之子邘叔所ㇾ封之國、京相璠云、野王縣西北三十里、有ニ故邘城及邘臺一、野王隋改曰ニ河內一、今懷州治、子孫以ㇾ國爲ㇾ氏、其後去ㇾ邑、但爲ニ于氏一、亦有ニ不ㇾ去ㇾ邑者一、後魏官氏志、有ニ萬紐于氏一、改爲ニ于氏一、始自ニ東海一隨ニ拓拔魏一徙ㇾ代、改爲ニ萬紐于氏一、後魏孝文時、復爲ニ于氏一、又淳于氏、唐元和初、避ニ憲宗嫌名一、改爲ニ于氏一。

二三 ああ。嘆辭。吁(2―3275)に通ず。〔詩、周南、麟之趾〕于嗟麟兮。〔集傳〕于、音吁。

名乘 ユキ。

解字 指事。丂と一の合字。丂は、气が舒び出ようとして礙げられるさま。一は气の平なさま。烏(ああ)と歎息する口氣。〔說文通訓定聲〕于、非ㇾ有ニ大功德一者ニ不ㇾ授、遼國尊官、猶ニ南面之有ニ三公一。

參考 于(4―9165)は別字。〔象る。

【于夷】1イウ 漢代、東夷九種の中の一種。〔後漢書、東夷傳序〕夷有ニ九種一、曰、畎夷・于夷・方夷・黃夷・白夷・赤夷・玄夷・風夷・陽夷。

【于渭】2キウ 明、曹璜(5―14297‥62)の字。

【于一】3イツ 字號。一清、黎定國(12―47994‥118)の字。二清、王猷定(7―20823‥1152)の字。

【于于】4ウウ 一知る所の無いさま。又、うたたねのさま。一說に、自得のさま。〔莊子、應帝王〕泰氏其臥徐徐、其覺于于。〔釋文〕司馬云、于于、無ㇾ所ㇾ知貌、簡文云、徐徐于于、寐之狀也。〔疏〕于于、自得之貌。二多難のさま。〔太玄經、飾〕上九、白舌于于、屈ニ于根一、君子否ㇾ信。〔注〕于于、多難之貌也。三行くさま。〔韓愈、上ニ宰相一書〕于于焉而來矣。

【于永】5ウエイ 漢の人。于定國の子。官は御史大夫。館陶公主に尚す。〔前漢書、七十一〕。

【于役】6ウエキ 君命を奉じて他國に使すること。役に往く。〔詩、王風、君子于役〕君子于ㇾ役、不ㇾ知ニ其期一、曷其至哉。〔箋〕曷、何也、君子于ニ往行役一、我不ㇾ知ニ其反期一。〔謝朓、和ニ伏武昌登ニ孫權故城一詩〕于役儻有ㇾ期、鄂渚同ニ游衍一。

【于易】7エキ 明、曾梧(5―14299‥54)の字。

【于越】8エツ 一越の國。于は發聲の爲の辭。於越。〔荀子、勸學〕于越夷貉之子、生而同ㇾ聲、長而異ㇾ俗、教使ニ之然一也。〔注〕于越、猶ㇾ言ニ於越一、呂氏春秋、荊有ニ次非一、得ニ寶劍於于越一。〔漢書、貨殖傳序〕辟猶下戎翟之與ニ于越一不中相ニ入矣一。〔注〕孟康曰、于越、南方越名也、師古曰、于、發語聲也、戎蠻之語則然、于越猶ニ句吳一耳。二吳と越。〔淮南子、原道訓〕于越生ニ葛絺一。〔注〕于、吳也。〔說文通訓定聲〕于、假借爲ㇾ吳。三干越(4―9165‥5)を見よ。四官名。もと契丹の最も尊い職。遼の太祖が于越の職から帝となり、後、大于越府の職を立てた。大于越には職掌無く、百官の上に位し、大功德のある者に授けられた。〔遼史、百官志一〕大于越府、無ニ職掌一、班ニ百僚之上一、非下有ニ大功德一者ニ不ㇾ授、遼國尊官、猶ニ南面之有ニ三公一。

〔于越亭〕9ウエツ 亭の名。江西省餘干縣の東南。唐初、縣令張彥俊の建てたもの。劉長卿・施肩吾の詩がある。〔讀史方輿紀要、江西、饒州府、餘干縣〕于越亭、在ニ縣東南三十步一、羊角山、前屹然孤峙、唐初、令張彥俊建。

【于嘔】10オウ 吐氣を催すさま。〔王羲之、問慰諸帖下〕胃中淡悶、于嘔轉劇。

【于河】11カ 川の名。東西の二つがある。東于河は、一名、小于河といひ、山東省濰縣の西南から出る。西于河は、一名、大于河といひ、山東省昌樂縣の東南から出て濰縣に至り、東于河を合せて白狼河に注ぐ。

【于玠】12カイ 元、萊陽の人。字は君玉。官は萊州長史。子の貴きにより、朝列大夫・河南郡伯を贈らる。〔萊陽縣志〕。

【于顗】13ガイ 隋の人。于寔の子。字は元武。官は澤州刺史。燕國公に封ぜらる。〔隋書、六十〕。

【于岡】14カウ 清、趙起(10―37171‥87)の字。

【于敖】15ガウ 唐の人。休烈の孫。字は蹈中。進士。官は戶部侍郎・宣歙觀察使。世〻文學を以て事へた家柄の人。〔舊唐書、一百四十九〕・〔唐書、一百四〕。

【于岳】16ガク 清、阮爾詢(11―41569‥61)の字。

【于漢】17カン 明、鄭鵬(11―39647‥258)の字。

【于簡】18カン 後魏、代の人。字は什門。馮跋に使して拘留せられること二十四年。太武帝が詔を下して之を褒美し、漢の蘇武に比した。官は治書侍御史。〔魏書、八十七〕。

【于逵】19キ 清、賀壽慈(10―36725‥135)の初名。

【于頎】20キ 唐、河南の人。字は休明。官は工部尚書。〔舊唐書、一百四十六〕・〔唐書、一百四十九〕。

【于歸】21ユキユキトツグ 女子が嫁にゆくこと。于は、ユク、又はココニと訓む。歸はとつぐ。〔詩、周南、桃夭〕桃之夭夭、灼灼其華、之子于歸、宜ニ其室家一。〔傳〕于、往也。〔集傳〕婦人謂ニ嫁曰一歸。〔書、言故事、女子類〕婦人嫁、于歸。

【于義】22 隋の人。于謹の子。字は慈恭。諡は剛。官は潼州總督。〔隋書、三十九〕。

【于九】23 清、江恂(6－17140‥215)の字。

【于吉】24 三國、吳の瑯琊の人。東方に寓居して吳會に往來し、精舍を立て燒香して道書を讀み、符水を作つて病を治したといふ。孫策が之を以て妖妄とし、殺して首を市に晒した。〔後漢書、六十下〕・〔三國志、一、注〕。

【于向】25 唐、臨桂の人。字は仁忠。咸通中、高駢に從つて安南を討ち、功を建てた。官は本州團練使。黃巢の亂に死す。〔廣西通志〕。

【于鄕】26 漢の侯國。江蘇省の境。〔漢書、地理志上〕東海郡、縣三十八、于鄕。

【于宮】27 清、郭元釪(11－39474‥286)の字。の字。

【于鉉】28 清の人。敏中の孫。字は素田。號は小孟。書畫及び詩に巧。

【于欽】29 元、益都の人。字は思容。官は兵部侍郎。著に齊乘がある。〔尙友錄、二〕。

【于禁】30 三國、魏の鉅平の人。字は文則。諡は厲。武帝に用ひられて戰功が多い。官は左將軍。益壽亭侯に封ぜらる。〔三國志、十七〕。

【于謹】31 北周、洛陽の人。字は思敬。小名は亘彌。諡は文。宇文泰に論策を奉つて認められた。官は太傅。燕國公に封ぜらる。〔周書、十五〕。

【于喁】32 前後兩人のかけ聲。〔莊子、齊物論〕前者唱レ于、而隨者唱レ喁。

【于喁之聲】33 前後相應ずるかけごゑ。〔芳野金陵、新建ニ新田公祠堂一記〕于喁之聲、斧斤之風。

【于光】34 明、都昌の人。武將。官は鷹揚衞指揮使。〔明史、一百三十三〕。

【于皇】35 清、杜濬(6－14477‥149)の字。

【于寬】36 明、陝西咸寧の人。字は克弘。成化の擧人。官は鞏縣の知事。〔尙友錄、三〕。

【于覲】37 明、莊朝賓(9－31035‥183)の字。

【于勁】38 後魏の人。字は鍾葵。諡は恭莊。其の女は、宣武帝の皇后。官は定州刺史。太原郡公に封ぜらる。〔魏書、八十三〕。

【于景】39 後魏の人。于忠の弟。字は百年。官は武衞將軍。〔魏書、三十一〕。

【于喬】40 明、謝遷(10－35827‥153)の字。

【于縣】41 縣名。漢、置く。江蘇省の境。〔漢書、地理志下〕泗水國、縣三、于。

【于謙】42 明、錢塘の人。字は廷益。號は莊椿居士。諡は肅愍。後に忠肅と改む。永樂の進士。也先の入寇を斥けて戰功を立て、少保を加へられ軍務を總督す。著に于忠肅集がある。〔明史、一百七十〕・〔萬斯同明史、二百十四〕・〔明史稿、一百五十三〕・〔國朝獻徵錄、三十八〕・〔明名臣言行錄、二十三〕。

【于源】43 清、秀水の人。字は辛伯。號は只自怡齋。貢生。書室を題紅閣・一粟廬といふ。著に鐙窗瑣語・一粟廬詩稿がある。

【于湖】44 縣名。晉、置く。安徽省當塗縣の南。

【于湖詞】45 書名。三卷。宋、張孝祥撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【于湖集】46 書名。四十卷。宋、張孝祥撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【于湖居士】47 宋、張孝祥(4－9812‥872)の號。

【于公】48 漢、東海の郯の人。于定國の父。官は郡の決曹。裁判の公平を以て聞ゆ。〔前漢書、七十一〕。

【于公高門】49 蒙求の標題。漢の于公が、獄訟を公平に裁き、其の餘德に依つて、自分の子孫に家を興す者のあるを豫期し、駟車高蓋を入れる用意に門を高くした故事。于門。〔漢書、于定國傳〕于定國、字曼倩、東海郯人也、其父于公、爲ニ縣獄吏郡決曹一決レ獄平、羅ニ文法一者、于公所レ決皆不レ恨、郡中爲レ之立ニ生祠一、號曰ニ于公祠一云云、始其閭門壞、父老方共治レ之、于公謂曰、少高ニ大門閭一、令レ容ニ駟馬高蓋車一、我治レ獄多ニ陰德一、未ニ嘗有ニ所レ冤、子孫必有ニ興者一、至ニ定國一爲ニ丞相一、永爲ニ御史大夫一、封レ侯、傳レ世云。

【于嗟】50 ㊀歎息・歎美して發する聲。ああ。〔詩、周南、麟之趾〕于嗟麟兮。〔傳〕于嗟、歎辭。㊁聲を立ててなげくこと。

【于嗟乎】51 歎息・歎美して發する聲。ああ。〔詩、召南、騶虞〕彼茁者葭、壹發五豝、于嗟乎騶虞。〔箋〕于嗟者、美レ之也。

【于材】52 明、湖南寧遠の人。字は國用。成化の進士。官は翰林檢討より編修に陞る。〔本朝分省人物攷、八十三〕・〔永州府志〕。

【于巢】53 清、姚孔鋆(3－6202‥158)の號。

【于止】54 明、程至善(8－25081‥214)の字。

【于思】55 鬚の多いさま。一說に、白頭のさまといふ。〔左氏、宣、二〕宋城、華元爲レ植巡レ功、城者謳曰、睅其目、皤其腹、棄レ甲而復、于思于思、棄レ甲復來。〔注〕于思、多鬚之貌。〔釋文〕于思、如レ字、又西才反、多鬚貌、賈逵云、白頭貌。〔疏〕正義曰、賈逵以爲ニ白頭貌一、成十五年、華元爲ニ右師一距レ北、三十二年、計未レ得ニ頭白一、故杜以爲ニ多鬚貌一、亦是以レ意言レ之耳。

【于耜】56 ㊀春になつて、始めて農具の手入をすること。又、野に出て農具を修めること。耜は、もと農具の名。于は、ココニと讀む。一說に、往く意。〔詩、豳風、七月〕三之日于耜、四之日擧レ趾。〔傳〕于耜、始脩ニ耒耜一也。〔集傳〕于耜、言ニ往修ニ田器一也。㊁清、尹耜(4－7631‥37)の字。

【于壓】57 隋の人。于仲文の從弟。字は伯符。諡は靜。初、周に仕へ、後、隋に歸す。官は洛・熊・汴・邵四州の刺史。〔隋書、六十〕。

【于遮】58 歌曲の名。于は一に干に作る。〔史記、司馬相如傳〕巴兪宋蔡、淮南于遮。〔注〕集解曰、漢書音義曰、于遮、歌曲名。

【于叔】60 清、黃度(12－47926‥622)の字。

【于順】61 明、江以達(6－17140‥453)の字。

【于準】62 清、山西永寧の人。于成龍の孫。字は萊公。官は貴州巡撫・江蘇巡撫。著に正修錄・齊治錄がある。〔清史稿、二百八十三〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十八〕。

【于諸】63 置くこと。齊の方言。〔公羊、哀、六〕陳乞使ニ人迎ニ陽生一于ニ諸其家一。〔注〕于諸、寘也、齊人語也。

【于恕】64 宋の人。字は忠甫。張九成の甥。九成に師事し、九成の答問の語を編纂して、橫浦心傳錄を作る。〔宋元學案、四十〕・〔四庫提要、一百二十四〕。

【于寔】65 北周の人。字は賓實。于謹の子。諡は安。屢〻軍功を立つ。官は大左輔。燕國公に封ぜらる。〔周書、十五〕。

【于邵】66 唐、萬年の人。字は相門。天寶の進士。官は諫議大夫。〔舊唐書、一百三十七〕・〔唐書、二百三〕。

【于石】67 元、蘭溪の人。萬姓統譜に丘石となつてゐるのは誤。字は介翁。號は紫巖・兩谿。著に紫巖集がある。〔浙江通志〕。

【于先】68 晉、盧循(8－23050‥96)の字。

【于宣】69 字號。㊀明、黃鑑(12－47926‥295)の字。㊁明、傅汝爲(1－939‥176)の字。

【于潛】70 明、鄞陵の人。字は彥昭。官は應天府尹。〔國朝列卿記、一百四十一〕・〔蘭臺法鑒錄、一〕・〔河南通志〕。

【于叟】71 漢の于定國の父、于公をいふ。于公高門(49)を見よ。〔劉峻、辨命論〕于叟種レ德。〔注〕翰曰、于叟、于公也。

【于琮】72 唐の人。于敖の子。字は禮用。進士。廣德公主を室とした。官は尙書左僕射。〔舊唐書、一百四十九〕・〔唐書、一百四〕。

【于肅】73 宋、肅光の人。字は彭年。博學にして能文。好んで兵事をいふ。慶曆中、元昊が邊に寇し、北人がこれに乘じ、兵を聚めて關南の地を求めた時、丞相呂夷簡に召されて計を問はれた。〔肅光縣志〕。

【于忠】74 後魏の人。于烈の子。字は思賢、又、千年。諡は敬武。孝文帝から名を登と賜はり、宣武帝から改めて忠と賜はる。宣武帝の後、明帝を迎へ立てて朝政を執り、其の權勢は一時に重かつた。官は尙書右僕射。〔魏書、三十一〕。

【于定】75 明、姚岳祥(3－6202‥136)の字。

【于庭】76 字號。㊀清、宋翔鳳(3－7078‥305)の字。㊁清、戴永植(5－11685‥152)の字。諡は厲。

【于頔】77 唐、河南の人。字は允元。諡は厲。官は司空。封は燕國公。擅に兵を動かし、權勢を弄した。〔舊唐書、一百五十六〕・〔唐書、一百七十二〕。

【于闐】78 ㊀漢の西域の國名。蔥嶺の北。今の新疆省和闐城。于寘。瞿薩旦那。渙那。屈

丹。〔漢書、西域傳上〕于闐在二南山下一。❶縣名。清、置く。漢の扞彌國。今、新疆省疏勒縣の東。土名、克里雅。克勒底亞。〔清史稿、地理志〕新疆、和闐直隸州、領二縣一、于闐。❷川の名。新疆省の境。今、和闐河といふ。東源は玉隴哈什河、西源は哈剌什河。和闐縣の北で合流して、搭里木河に注ぐ。

【于闐採花】79 ウテンツイクワ 西域の樂曲の一。唐の李白、及び無名氏の作になる歌辭がある。〔樂錄〕于闐採花者、蕃胡四曲之一、李白有二于闐採花詩一。〔無名氏、于闐採花〕山川雖レ異レ所、草木尚同レ春、亦如二湊洧地一、自有二採花人一。〔李白、于闐採花〕于闐採花人、自言花相似、明妃一朝西入レ胡、胡中美。

【于田】80 デン 字號。❶明、李化龍(6－14459‥1040)の字。❷明、李裘(6－14459‥349)の字。

【于度】81 ドウ 字號。❶清、張果中(4－9812‥941)の字。❷清、鄒忠倚(11－39562‥107)の字。

【于德】82 トク 字號。❶明、曹懷(5－14297‥60)の字。❷明、鄧澄(11－39630‥82)の字。

【于寶】83 ハウ ❶干寶の誤。干寶(4－9165‥82)を見よ。❷清、陳箴(11－41698‥380)の字。

【于博】84 ハク 明、石州の人。孝子。〔明史、二百九十七〕。

【于磐】85 バン 字號。❶清、陳漸(11－41698‥423)の號。❷清、傅以漸(1－939‥137)の字。

【于蕃】86 バン 清、彭崧毓(4－10003‥173)の字。

【于飛】87 ヒ 夫婦の和合する喩。鳳凰が雌雄仲よく飛んだといふ詩に本づく。于は助辭。〔詩、大雅、卷阿〕鳳凰于飛、翽翽其羽、亦集爰止。〔左氏、莊、二十二〕初、懿氏卜レ妻二敬仲一、其妻占レ之曰、吉、是謂二鳳皇于飛、和鳴鏘鏘一、有嬀之後、將レ育二于姜一。〔注〕雄曰レ鳳、雌曰レ皇、雄雌俱飛、相和而鳴鏘鏘然也、猶二敬仲夫妻相隨適齊有一レ聲譽一也。

【于冕】88 ベン 明の人。謙の子。字は景瞻。號は南湖歸叟。孝子。其の父謙が讒言によつて罪せられたのを訟へて冤を雪ぐ。官は應天府尹。〔明史、一百七十〕。

【于慎】89 ボウ 明、萊陽の人。字は文勉。天順の進士。官は河南右參議、後、左參政に遷つたが、耿介で時に忤らひ、廣西參議に左遷せられた。〔萊陽縣志〕。

【于門】90 モン 于公高門(49)を見よ。〔書言故事、第宅類〕敍賀稱レ人、于門稱レ慶。

【于埜】91 ヤ 字號。于野に同じ。

【于野】92 ヤ 字號。字埜。❶明、章曠(8－25761‥56)の字。❷明、鄭大同(11－39647‥494)の號。❸清、繆泳(8－27855‥5)の字。

【于陽】93 ヤウ 清、王初桐(7－20823‥1683)の字。

【于翼】94 ヨク 北周の人。于謹の子。字は文若。謚は穆。官は幽州の總管。突厥が其の威武を畏れて塞邊を犯さなかつた。〔周書、二十〕。

【于立】95 リフ 元、南康の人。字は彦成。號は虛白子・匡廬外史・會稽外史。著に會稽外史集がある。〔列朝詩集小傳、甲、前〕。

【于琳】96 リン 清、平湖の人。字は貞瑕。著に周易義參がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【于鱗】97 リン 明、李攀龍(6－14459‥1872)の字。

【于烈】98 レツ 後魏の人。洛拔の子。官は領軍將軍。宣武帝卽位の後、機務に參預す。鉅鹿郡公に封ぜらる。〔魏書、三十一〕。

【于已尼】99 ヰ ヂ 川の名。古くは北海といつたもの。今の黑龍江上流の額爾古納河。〔北史、烏洛侯國傳〕烏洛侯國)又西北二十日行、有二于已尼大水一、所謂北海也。

【于蔦于】100 ケウ 樂曲の名。唐、元德秀作。〔唐書、元德秀傳〕德秀惟遺二樂工數十人一、聯レ袂歌二于蔦于一。于蔦于者、德秀所レ爲歌也、帝聞異レ之、歎曰、賢人之言哉。

【于右任】101 イウジン 民國、陝西省三原縣の人。字は伯循。夙に孫文の革命運動に加はり、諸新聞を主宰して革命思想を鼓吹した。革命成功後、諸種の要職に歷任し、遂に監察院長となる。國民黨の元老。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【于蔭霖】102 インリン 清、伯都訥の人。字は次棠。咸豐の進士。官は山西知府。後、湖北巡撫。〔清史稿、四百五十四〕・〔碑傳集補、十五〕。

【于奕正】103 エキセイ 明、宛平の人。字は司直。崇禎の諸生。著に帝系景物略・天下金石志がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十六〕・〔明詩紀事、二十五〕。

【于延水】104 エン 川の名。一名、修水。源は綏遠省興和縣の東北。東南流して東洋河となる。〔水經、灤水注〕于延水口水、出二塞外柔玄鎭西、長川城南小山一、東南流經二且如縣故城一、卽修水也。

【于學忠】105 ガクチウ 民國、山東省蓬萊縣の人。字は孝侯。通州隨營學校卒業。初、熱河都統姜桂題の下級官から身を起し、吳佩孚・張宗昌の許を轉々し、後、張學良の信任を受けて河北省政府委員兼主席に就任し、甘肅省政府主席に轉じた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【于季友】106 キイウ 唐の人。官は明州刺史。仲夏堰を築いて灌漑の便を計つた。〔舊唐書、一百五十六〕・〔唐書、一百七十二〕。

【于休烈】107 キウレツ 唐の人。于志寧の曾孫。謚は元。開元の進士。文章に長じ、國史を修め、史籍の蒐集に力めた。官は工部尚書。東海郡公に封ぜらる。〔唐書、一百四〕。

【于玉立】108 ギヨクリツ 明、金壇の人。字は中甫。萬曆の進士。官は郎中。東林黨と聲氣を通じた。〔明史、二百二十六〕・〔明史稿、二百十九〕。

【于公異】109 コウイ 唐、蘇州の人。進士。陵贄と仲が合はぬ爲に退官した。〔舊唐書、一百三十七〕・〔唐書、二百三〕。

【于孔兼】110 コウケン 明、金壇の人。字は元時。萬曆の進士。官は禮部儀制郎中。直諫して帝の恨を受け、左遷された。〔明史、二百二十一〕・〔萬斯同明史、三百二十八〕・〔明史稿、二百十六〕・〔明名臣言行錄、七十六〕。

【于山堂】111 ザンダウ 明、陳子文(11－41698‥899)の室名。

【于子仁】112 シジン 明、武岡の人。字は伯安。洪武の進士。官は昌樂縣の知事。〔明史、二百八十一〕。

【于仕廉】113 シレン 明の人。孔兼の再從弟。字は元貞。萬曆の進士。官は登萊副使。著に職掌錄がある。〔明史、二百三十一〕・〔明史稿、三百二十六〕。

【于志寧】114 シネイ 唐の人。宣道の子。字は仲謐。謚は定。官は太子太師。封は燕國公。國史を監修し、又格式律令・五經義疏の撰に預かり、修禮修史の功によつて屢〻賞賜を受けた。〔舊唐書、七十八〕・〔唐書、一百四〕。

【于芷山】115 シヤウ 滿洲遼寧省臺安縣の人。字は瀾波。警察官出身。多年張作霖に隨從し、累進して侍從武官長となる。張の死後も隱然たる勢力を有し、東北鎭守使として奉天東邊道二十餘縣の總司令であつた。滿洲事變後、新國家の成立に盡力し、軍政部大臣・治安部大臣に至る。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【于時躍】116 ジヤク 清、奉天廣寧の人。正白旗漢軍に屬す。官は廣西巡撫・右都御史。〔清史稿、二百十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十一〕。

【于斯堂】117 ガンダウ 清、查爲仁(6－14643‥81)の室名。

【于嗣登】118 シトウ 清、安州の人。字は岱仙。順治の進士。官は刑部侍郎。裁判が公平であつたので、時人は今の世の于公であると稱した。〔國朝耆獻類徵、四十五〕。

【于什門】119 ジフモン 後魏、代の人。名は簡。什門は其の字。太宗の時、馮跋の許に使して和龍に至るや、外舍に停つて入らず、人をして、大魏皇帝詔あり、須く馮主出でて受くべし、然る後敢へて入らんと言はせた。其の拘禁せられるや、衣服が破れ、蟣虱がたかつたので、馮跋が之に着替を遣つたが受けず、爲に和龍の人は皆歎じた。二十四年を歷て、跋の弟の文通が魏に臣事した時、始めて什門を送り歸した。世祖は之を治書侍御史に拜し、昔の蘇武も何を以て之に加へんと賞した。〔魏書、八十七〕。

【于若瀛】120 ジヤクエイ 明、神宗の時の人。字は子步濟、又、元網。山東濟寧縣に生る。萬曆十一年の進士。戶部主事に除せられ、右僉都御史・陝西巡撫となり、卒後、右副都御史を贈らる。書を善くし、著に弗告堂集がある。〔靜志居詩話、十六〕・〔明詩綜、五十四〕。

【于守禮】121 シユレイ 明、萊陽の人。字は仲儀。官は陝西按察僉事。〔尚友錄、三〕。

【于愼行】122 シンカウ 明、東阿の人。字は可遠、一の字は無垢。謚は文定。隆慶の進士。典制に精

通し、諸の大禮を裁定した。官は太子少保。書室を穀城山館といふ。著に穀城山館詩文集がある。〔明史、二百十七〕・〔萬斯同明史、三百十〕・〔明史稿、二百〕・〔國朝獻徵錄、十七〕・〔明名臣言行錄、七十二〕。

【于愼思】123 ウシンシ　明の人。于愼行の弟。字は無妄。號は航隱。著に龐眉生集がある。〔明詩紀事、六十四、庚〕。

【于成龍】124 ウセイリヨウ　㊀清、山西永寧の人。字は北溪。諡は清端。鄕勇を率ゐて土賊を平定し、用兵神の如く、志行清廉、當時清官第一と稱せらる。官は兩江總管。〔清史稿、二百八十三〕・〔清史列傳、八〕・〔碑傳集、六十五〕・〔國朝先正事略、七〕。㊁清、漢軍鑲紅旗人。字は振甲。諡は襄勤。官は河道總督。〔清史稿、二百八十五〕・〔清史列傳、八〕・〔碑傳集、七十五〕。

【于宣道】125 ウセンダウ　隋の人。義の子。字は元明。初、周に仕へた。官は車騎將軍。〔隋書、三十九〕。

【于宣敏】126 ウセンビン　隋の人。于義の子。字は仲達。官は奉車都尉。命を奉じて巴蜀を撫慰した。〔隋書、三十九〕。

【于宗瑛】127 ウソウエイ　清、漢軍鑲紅旗人。于成龍の孫。字は英玉。號は紫亭。乾隆の進士。官は江南道監察御史。書室を來鶴堂といふ。著に來鶴堂集がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十七〕・〔清畫家詩史、丁上〕。

【于宗堯】128 ウソウゲウ　清、盛京廣寧の人。字は二巍。康熙の初、常熟知縣となる。善政を施し、在官中に死去した時には、人民は號泣して之を悼み、虞山の南麓に葬つて、其の墓道に萬民留葬と題した。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十〕。

【于大節】129 ウタイセツ　明、任丘の人。字は守正。天順の進士。官は御史。後、山東按察使。〔明史、二百三十五〕・〔蘭臺法鑒錄、十二〕・〔本朝分省人物攷、六〕。

【于大本】130 ウダイホン　元、密州の人。字は德中。武將。官は信州總督。〔元史、一百九十五〕。

【于仲文】131 ウチユウブン　隋の人。覬の弟。字は次武。武將。屢〻戰功を立て、官は左翊衛大將軍。著に漢書刊繁略覽がある。〔隋書、六十〕。

【于沖漢】132 ウチユウカン　滿洲遼寧省遼陽の人。字は雲章。嘗て東京外國語學校支那語講師として來朝し、日露戰爭には、我が軍の爲、特別任務に服した。其の後、張作霖の後援で累進し、國務院參議となる。又、諸會社の頭取として實業界に重きをなし、滿洲國建設に活躍して、同國成立後、監察院長に任ぜられた。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【于氐根】133 ウテイコン　黃巾の賊の後に續いて起つた賊の中、髭の多い者の稱。〔後漢書、朱儁傳〕黃巾賊後、復有㆓黑山・黃龍・白波・左校之徒㆒、起㆓山谷閒㆒、不㆑可㆓勝數㆒、其大聲者、稱㆓雷公㆒、騎㆓白馬㆒者、爲㆓張白騎㆒、輕便者、言㆓飛燕㆒、多㆑髭者、號㆓于氐根㆒、大眼者、爲㆓大目㆒、如㆑此稱號、各有㆑所㆑因。

【于定國】134 ウテイコク　漢、郯の人。于公の子。字は曼倩。諡は安侯。司法官となつて公平。張釋之と並び稱せらる。官は丞相。西平侯に封ぜらる。〔前漢書、七十一〕。

【于天麒】135 ウテンキ　清、金壇の人。字は千英。號は石齋。著に石齋集がある。

【于天寶】136 ウテンパウ　南朝宋の人。其の先祖は胡人。官は右軍將軍。封は鄠縣子。齊王に反覆した爲に死を賜はつた。〔宋書、九十四〕。

【于頭子】137 yü² t'ou² tzŭ　咒符者。まじなひして錢を得る者。

【于德辰】138 ウトクシン　後周、元城の人。字は進明。官は工部尙書。〔舊五代史、一百三十一〕。

【于敏中】139 ウビンチユウ　清、金壇の人。字は叔子、又の字は重棠。號は耐圃。諡は文襄。乾隆の進士。官は文華殿大學士・文淵閣領閣事。著に臨清紀略がある。〔清史稿、三百二十五〕・〔國朝耆獻類徵、二十七〕。

【于羅國】140 ウラコク　漢代の西域の國名。〔後漢書、西域、安息國傳〕從㆓斯賓㆒南行、度㆑河又西南、至㆓于羅國㆒。

【于洛拔】141 ウラクバツ　後魏の人。栗磾の子。隴西王景文を討ち平げて功があり、後、官は尙書令に至る。〔魏書、三十一〕。

【于栗磾】142 ウリツテイ　後魏、代の人。武將。好んで黑矟を持つたので、黑矟將軍と稱せらる。官は外都大官。〔魏書、三十一〕。

【于婁谷】143 ウルコク　西域の地名。〔漢書、西域下、貪訾離國傳〕烏王治㆓于婁谷㆒。

【于諧里河】144 ウカイリカ　海拉爾河をいふ。〔遼史、太宗紀下〕詔以㆓于諧里河臚朐河之近地㆒、給㆓賜南院歐董突呂乙斯勃、北院溫納何剌三石烈人㆒、爲㆓農田㆒。

【于忠肅集】145 ウチユウシユクシフ　書名。十三卷。明、于謙撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【于老角干】146 ウラウカクカン　朝鮮の新羅十六代訖解王の父。〔三國史記、二〕。

【于斯岐阿利叱智干岐】147 ウシキアリシチカンキ　朝鮮の任那の王子。一に都怒我阿羅斯等ともいふ。崇神天皇の御代、越國笥飯浦(コシノケヒノウラ)卽ち敦賀に來り日本に聖皇ありと聞きて歸化すと申述べた。時に垂仁天皇が立ち給ひ、三年にして歸國した。其の時帝は、汝道に迷はざれば先皇に仕ふるを得しものをと仰せられ、御閒城天皇卽ち崇仁天皇の御名を取つて彼の國を彌麻那國と謂はしめ、赤織絹を賜うて歸らしめられた。〔日本書紀、五・六〕。

【亏】253　ウ　于(1-252)の本字。〔正字通〕亏、于本字。

二畫

【云】254　ウン　〔集韻〕王分切　ㄩㄣˊ yün²　文

古文

㊀**いふ**。曰(**5**-**14278**)に通ず。〔說文通訓定聲〕云、叚借爲㆑曰、亦發聲之詞、又助語之詞。㋑自らいふ。〔正字通〕云、與㆑曰音別、義同、凡經史、曰、通作㆑云。〔書、微子〕我舊云刻㆑子。〔釋文〕云、馬云、言也。㋺他人の言葉を引用していふ。〔大學〕詩云、於戲、前王不㆑忘。〔論語、子罕〕牢曰、子云、吾不㆑試、故藝。㋩といふ。重ねていふ意。〔禮、樂記〕一動一靜者、天地之閒也、故聖人曰、禮樂云。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕捨㆓其名㆒、自謂㆓橐駝㆒云。㊁**これ**。**ここに**。㋑發語の辭。〔經傳釋詞、三〕云、猶㆑是也。〔詩、鄘風、桑中〕云誰之思、美孟姜矣。㋺句中の助辭。〔書、秦誓〕若㆑弗㆓云來㆒。〔詩、小雅、正月〕伊誰云憎。㊂**もし**。或は。〔詩、大雅、抑〕莫㆓予云覯㆒。〔列子、力命〕云至㆓于大病㆒、則寡人惡乎屬㆑國而可。〔經傳釋詞、三〕言、如至㆓於大病㆒也。㊃**めぐる**。ゆきかふ。かへる。囩(**3**-**4709**)に通ず。〔說文通訓定聲〕云、叚借爲㆑囩。〔詩、小雅、正月〕昏姻孔云。〔傳〕云、旋也。〔左氏、襄、二十九〕晉不㆑鄰矣、其誰云㆑之。〔注〕云、猶㆑旋也。〔管子、戒〕天不㆑動、四時云下、而萬物化。〔注〕云、運動貌。㊄**親しむ**。〔詩、小雅、正月〕昏姻孔云。〔箋〕云、猶㆑友也、言㆓相親友㆒也。㊅**遠い**。〔廣雅、釋詁一〕云、遠也。〔爾雅、釋親〕仍孫之子爲㆓云孫㆒。㊆**有る**。〔廣雅、釋詁一〕云、有也。〔經傳釋詞、三〕文二年公羊傳曰、大旱之日、短而云㆑災、故以㆑災書、是云爲㆑有也。㊇**爲す**。〔詞詮〕云、爲也。〔漢書、嚴安傳〕臣聞、鄒衍曰、政教文質者、所㆓以云㆑救也。㊈**句末の辭**。然(**7**-**19149**)に同じ。〔經傳釋詞、三〕云、猶㆑然也。〔史記、周紀〕其色赤、其聲魄云。〔史記、封禪書〕其聲殷云。〔注〕云、足句之辭。㊉**物のさま**。云云(2)を見よ。⑪**くも**。雲(**12**-**42235**)の古字。〔說文〕雲、山川气也、云、古文、省㆑雨。⑫員(**2**-**3633**)に通ず。〔集韻〕云、通作㆑員。

〔詩、小雅、正月、釋文〕云、本又作ㇾ員。〔詩、鄭風、出其東門〕聊樂ㇾ我員。〔集傳〕員、與ㇾ云同、語辭也。〔疏〕云・員、古今辭也。⑬芸(9－30741)に通ず。〔抱朴子、逸民〕萬物芸芸。〔抱朴子、論仙〕萬物云云。⑭姓。〔通志、氏族略、同名異實〕云氏有ㇾ二、邧國之後、去ㇾ邑爲ㇾ云、又後魏牒云氏、改爲ㇾ云。〔尚友錄〕云、本姓雲、改爲ㇾ云、又牒云氏改爲ㇾ云、又縉雲氏之後。

名乘 ヲキ。コレ。ヒト。トモ。

解字 象形。雲の古文。雲の廻轉する形に象る。段玉裁の説によれば、二は上の字で、雲が下より天に上る意を示すといふ。假りて曰の意に用ひる。〔說文〕云、古文、省ㇾ雨。〔段注〕古文、上無ㇾ雨、非ㇾ省也、二蓋上字、象二自ㇾ下回轉而上一也、云云、古多段ㇾ云爲ㇾ曰。

參考 厶(2－3058)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕厶、音突、不ㇾ順也、育疏等字从ㇾ此。云、云爲。

【云爲】1 ウンヰ ㊀言ふことと爲すこと。言動。〔易、繫辭下〕是故變化云爲、吉事有ㇾ祥、象ㇾ事知ㇾ器、占ㇾ事知ㇾ來。〔疏〕或口之所ㇾ云、或身之所ㇾ爲也。〔漢書、王莽傳中〕帝王相改、各有二云爲一、或昭二其事一、或大二其本一。〔朱熹、中庸章句序〕動靜云爲、自無二過不及之差一矣。〔朱熹、白鹿洞書院掲示〕夫思慮云爲之際、其所二以戒謹而恐懼一者、必有下嚴二於彼一者上矣。㊁世態人情。世間のふりあひ。人の世の有樣。〔班固、東都賦〕烏覩二大漢之云爲一乎。

【云云】2 ウンウン ウンヌン ㊀しかじか。〔漢書、汲黯傳〕上曰、吾欲二云云一。〔注〕師古曰、云云、猶ㇾ言二如ㇾ此也、史略二其辭一耳。㊁多言するさま。〔漢書、金安上傳〕教當二云云一。〔注〕師古曰、云云者、多言也。〔韓愈、醉贈二張祕書一詩〕諧笑方云云。㊂雲が盛に興つて運り行くさま。〔釋名、釋天〕雲、猶二云云一、衆盛意也。〔呂覽、圜道〕雲氣西行、云云然。〔注〕云、遊也。㊃物の多く盛なさま。芸(9－30741)に通ず。〔老子、十六〕夫物芸芸、各復二歸其根一。〔莊子、在宥〕萬物云云、各復二其根一。〔疏〕云云、衆多也。〔抱朴子、論仙〕萬物云云、何所ㇾ不ㇾ有。㊄山名。山東省泰安縣の東南、蒙陰縣の界に接す。泰山の支阜。〔史記、封禪書〕封二泰山一、禪二云云一。〔注〕集解曰、李奇曰、云云山、在二梁父東一。〔漢書、郊祀志上〕昔無懷氏封二太山一、禪二云云一。

【云何】3 イカン いかに。如何。〔詩、小雅、隰桑〕云何不ㇾ樂。〔史記、司馬穰苴傳〕問二軍正一曰、馳二三軍一法何、今使者馳、云何。〔魏略〕卿前欲三生二繫我頸一、今反爲二我所ㇾ係、云何。

【云畡】4 ウンガイ 清、何曰愈(1－511‥224)の字。

【云乎】5 ウンコ 上文の結びに用ひる語。〔公羊、莊、二十四〕然則曷用二棗栗一云乎。

【云爾】6 ウンジ シカイフ 上の文を收める辭。「しかいふ」と讀む。〔論語、述而〕不ㇾ知二老之將ㇾ至云爾。〔孟子、離婁下〕曰、薄乎云爾、惡得ㇾ無ㇾ罪。〔孟子、滕文公下〕不ㇾ行二王政一云爾。

【云敞】7 ウンシヤウ 漢、平陵の人。字は幼孺。官は中郎諫大夫。〔前漢書、六十七〕。

【云孫】8 ウンソン 己から八代の後の孫。雲孫。云は、雲の古字で、遠い意。〔爾雅、釋親〕仍孫之子、爲二雲孫一。〔郝懿行義疏〕雲孫者、釋名云、言三去ㇾ己遠、如二浮雲一也。

【云亭】9 ウンテイ 云云・亭亭の二つの山をいふ。〔史記、封禪書〕昔無懷氏、封二泰山一、禪二云云一、黃帝封二泰山一、禪二亭亭一。

【云亭山人】10 ウンテイサンジン 清、孔尚任(3－6933‥319)の號。

【云美】11 ウンビ 清、顧苓(12－43689‥205)の字。

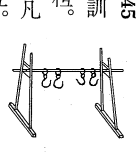
【云陽】12 ウンヤウ 縣名。漢の育陽縣。晉の時、諱みて云陽といふ。河南省南陽縣の東。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、南陽縣〕育陽城、漢育陽縣、屬二南陽郡一、育亦作ㇾ淯、云云、東晉嘗置二淯陽郡一、旋復ㇾ舊、孝武改曰二云陽縣一。

【云謂字】13 ウンヰジ 動詞をいふ。動詞(2－2390‥44)を見よ。

【云都赤】14 ウントセキ 明代の宮中宿衞の官で、四怯薛中の一。侍御の極めて親近なもの。〔輟耕錄、云都赤〕國朝有二四怯薛太官一、云云、中有二云都赤一、乃侍御之至親近者。

【互】255 コ ゴ 〔集韻〕胡故切 遇 ㄏㄨˋ hu⁴ 小篆 互

㊀たがふ。〔正字通〕互、差也。㊁たがひにする。かはるがはる。〔字彙〕互、交互。〔書、堯典、日中星鳥以殷二仲春一、疏〕秋冬相與互。〔周禮、天官、司會〕司會以參互、考二日成一。〔周禮、秋官、修閭氏〕邦有ㇾ故、則令下守二其閭一互上。〔疏〕則命各守二其閭一也。㊂たがひに。かたみに。おのおの。〔何晏、論語集解序〕互有二得失一。〔范仲淹、岳陽樓記〕漁歌互答。㊃つい。對。〔周禮、天官、鼈人、互物、釋文〕干寶云、互、對也。㊄入りまじる。入りみだれる。かかりあふ。牙(7－19909)に通ず。〔漢書、劉向傳〕宗族磐互。〔注〕互、字或作ㇾ牙、謂下若二犬牙相交入一之意上也。〔雲笈七籤〕經文紛互、是非相亂。㊅肉を懸ける架。枑(6－14540)に通ず。〔說文通訓定聲〕互、段借爲ㇾ枑。〔周禮、地官、牛人〕凡祭祀、供二其牛牲之互一。〔注〕互、若二今屠家縣肉格一。〔張衡、西京賦〕置ㇾ互擺ㇾ牲。〔注〕互、所二以挂ㇾ肉。㊆らち。埒。木を組み合せて人馬の通行を阻むもの。〔周禮、秋官、修閭氏〕掌ㇾ比二國中宿互欜者一。〔疏〕互、謂二行馬一、所三以爲二遮障一。㊇甲殼の屬の稱。龜鼈・辰蚌の類。罟(9－28225)に通ず。〔說文通訓定聲〕互、段借爲ㇾ罟。〔周禮、天官、鼈人〕掌ㇾ取二互物一。〔注〕互物、謂下有二甲𤕤胡一龜鼈之屬上。㊈なはまき。笠(8－25867)に同じ。〔說文〕笠、可三以收二繩一也、从ㇾ竹、象形、中象二人手所二推握一也、互、笠或省。


(圖器禮) ㊅ 互

【互有】1 ゴイウ 同一物件を二人で所有する。

【互有權】2 ゴイウケン 同一物件を二人で所有する權利をいふ。

【互誘】3 hu⁴ yu⁴ 男女があひびきする。

【互易】4 ゴエキ 相互交易。交換。

【互交】5 ゴカウ たがひにまじはる。〔皮日休、桃花賦〕半葺旖旎、互交遞倚。

【互角】6 ゴカク ㊀數學用語。錯角。㊁物が優劣なしに並立すること。まけず劣らず。五分五分。伯仲。牛角(7－19922‥23)を見よ。〔平家物語、二、座主流事〕佛法王法互角也。

【互跪】7 ゴキ 佛 左右の膝を交互に地に著けてひざまづくこと。佛法では、右膝を地に著けるのが通例であるが、長時間に亙る時は、兩膝を交互に地に著けて疲勞を防ぐ。〔歸敬儀〕言二互跪一者、左右兩膝、交互跪ㇾ地、此謂下有ㇾ所二啓情悔過授受一之儀上也、佛法順ㇾ右。

【互鄉】8 ゴキヤウ 邑名。今の江蘇省沛縣。一説に、河南省項城縣。其の他、異說が多い。昔、風氣の惡かつた所。〔論語、述而〕互鄉難二與言一。〔集解〕鄭玄曰、互鄉、鄉名也。〔劉子翬、諭俗詩〕吾聞互鄉童、翺二翔聖賢囿一。〔故事成語考、地輿〕淳俗曰二仁里一、惡俗曰二互鄉一。〔王瀣、四書地理考〕古今疆界不ㇾ同、以爲ㇾ在二沛縣滕縣嶧縣一者、實一地也。

【互卦】9 ゴクワ ㊀易の互體。上下二卦のうち、二爻から四爻まで、また三爻から五爻までで出來る卦。例へば艮下坤上の謙䷎に於て二爻から四爻までを取つて坎☵の卦を得、三爻から五爻までを取つて震☳の卦を得るが如きをいふ。〔三易備遺、周易互卦〕易有二聖人之道四一焉、尚二其辭一、尚二其變一、尚二其象一、尚二其占一也、連山歸藏易亡已久、後世不ㇾ得ㇾ見二其辭一、周易之辭、具在二方冊一、不ㇾ於ㇾ辭焉、求ㇾ之、曷足三以明二理象數一哉、互體者、易之變也、象也、占ㇾ之、必有ㇾ辭也、周易卦辭爻辭彖象之辭、指二互體一而爲ㇾ辭者、是或不ㇾ一、如三小畜卦辭、自二我西郊一、指二互兌一也、如二屯爻辭、女子貞不ㇾ字、十年乃字一、指二互坤一也、如二大

過豕辭、剛過而中、指二互乾一也、如二困象辭、君子以致レ命遂レ志、指二互巽一也、左氏傳、晉侯將納レ王、筮レ之、遇二大有之睽一、曰吉、遇二公用享二于天子一之卦一也、天爲レ澤、以當レ日、天子降レ心以逆レ公、不二亦可一乎、蓋大有互兌也、懿氏生二敬仲一、周史有レ以二周易一見二陳侯一者、使レ筮レ之、遇二觀之否一、曰、是謂二觀二國之光一、利用賓二于王一、坤土也、巽風也、乾天也、風爲レ天、於二土上一山也、有山之材一而照レ之以二天光一、於是乎居二土上一、蓋觀互坤艮也、春秋用二互體一爲レ占、尚矣、則夫舍二互體一而言レ易者、非二善言一レ易者一也。●宋以來は、雜卦をいふ。〔周易折中〕雜卦卽互卦也、互卦之法、或上去二一畫一而下生二一畫一、或下去二一畫一而上生二一畫一、則其體遂變。

【互結】15 ゴケツ 二人或は二家以上のものがたがひに證明し合ふこと。〔清會典事例、吏部、處分例〕京官印結之外、再取二同鄉同考監生五人連名互結一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕戶頭五人、共具二連名互結一。〔清國行政法汎論、文官、吏部銓選〕凡欲レ應レ選者、先赴二吏部一、提下出己爲二候選一者之證明書上而爲二證明之人一、則必要爲二同候選者一、此候選者、互相二爲證明一也、故謂二之互結一。

【互相】16 ゴサウ 相たがひに。相互。

【互相保結】17 hu⁴ hsiang¹ pao³ chieh² たがひに連署した保證書を差出すこと。

【互草】18 ゴサウ 毒草の名。こくさぎ。常山(4－895 5：118)の異名。〔本草、常山〕釋名、互草。

【互市】19 ゴシ ●兩國がたがひに賣買交易すること。〔後漢書、烏桓傳〕賞二賜質子、歲時互市焉。●

【互訂】10 ゴテイ 二つの文字が、相互に其の說明になること。爾雅釋宮に、宮謂二之室一、室謂二之宮一とある類。

【互惠】11 ゴケイ たがひに特別の便益・恩典を享けること。

【互惠關稅】12 ゴケイクワンゼイ 二國が互惠主義に依つて、相手國の貨物に課する低率の關稅。

【互惠主義】13 ゴケイシュギ 便益・恩惠等を、相互に均等に受けようとする主義。

【互惠條約】14 ゴケイデウヤク 國と國とが相互に有利な讓合ひをする事を約束した通商條約。

【互結】15 ゴケツ 二人或は二家以上のものがたがひに證明し合ふこと。〔清會典事例、吏部、處分例〕京官印結之外、再取二同鄉同考監生五人連名互結一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕戶頭五人、共具二連名互結一。〔清國行政法汎論、文官、吏部銓選〕凡欲レ應レ選者、先赴二吏部一、提下出己爲二候選一者之證明書上而爲二證明之人一、則必要爲二同候選者一、此候選者、互相二爲證明一也、故謂二之互結一。

【互相】16 ゴサウ 相たがひに。相互。

【互相保結】17 hu⁴ hsiang¹ pao³ chieh² たがひに連署した保證書を差出すこと。

【互草】18 ゴサウ 毒草の名。こくさぎ。常山(4－895 5：118)の異名。〔本草、常山〕釋名、互草。

【互市】19 ゴシ ●兩國がたがひに賣買交易すること。〔後漢書、烏桓傳〕賞二賜質子、歲時互市焉。●

【互訂】10 ゴテイ 二つの文字が、相互に其の說明になること。爾雅釋宮に、宮謂二之室一、室謂二之宮一とある類。

【互惠】11 ゴケイ たがひに特別の便益・恩典を享けること。

【互惠關稅】12 ゴケイクワンゼイ 二國が互惠主義に依つて、相手國の貨物に課する低率の關稅。

【互惠主義】13 ゴケイシュギ 便益・恩惠等を、相互に均等に受けようとする主義。

【互惠條約】14 ゴケイデウヤク 國と國とが相互に有利な讓合ひをする事を約束した通商條約。

【互訓】10 ゴクン 二つの文字が、相互に其の說明になること。爾雅釋宮に、宮謂二之室一、室謂二之宮一とある類。

【互惠】11 ゴケイ たがひに特別の便益・恩典を享けること。

【互惠關稅】12 ゴケイクワンゼイ 二國が互惠主義に依つて、相手國の貨物に課する低率の關稅。

【互惠主義】13 ゴケイシュギ 便益・恩惠等を、相互に均等に受けようとする主義。

【互惠條約】14 ゴケイデウヤク 國と國とが相互に有利な讓合ひをする事を約束した通商條約。

【互結】15 ゴケツ 二人或は二家以上のものがたがひに證明し合ふこと。〔清會典事例、吏部、處分例〕京官印結之外、再取二同鄉同考監生五人連名互結一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕戶頭五人、共具二連名互結一。〔清國行政法汎論、文官、吏部銓選〕凡欲レ應レ選者、先赴二吏部一、提下出己爲二候選一者之證明書上而爲二證明之人一、則必要爲二同候選者一、此候選者、互相二爲證明一也、故謂二之互結一。

【互相】16 ゴサウ 相たがひに。相互。

【互相保結】17 hu⁴ hsiang¹ pao³ chieh² たがひに連署した保證書を差出すこと。

【互草】18 ゴサウ 毒草の名。こくさぎ。常山(4－895 5：118)の異名。〔本草、常山〕釋名、互草。

【互市】19 ゴシ ●兩國がたがひに賣買交易すること。〔後漢書、烏桓傳〕賞二賜質子、歲時互市焉。●

【互訂】10 ゴテイ 二つの文字が、相互に其の說明になること。爾雅釋宮に、宮謂二之室一、室謂二之宮一とある類。

【互惠】11 ゴケイ たがひに特別の便益・恩典を享けること。

【互惠關稅】12 ゴケイクワンゼイ 二國が互惠主義に依つて、相手國の貨物に課する低率の關稅。

【互惠主義】13 ゴケイシュギ 便益・恩惠等を、相互に均等に受けようとする主義。

【互惠條約】14 ゴケイデウヤク 國と國とが相互に有利な讓合ひをする事を約束した通商條約。

【互結】15 ゴケツ 二人或は二家以上のものがたがひに證明し合ふこと。〔清會典事例、吏部、處分例〕京官印結之外、再取二同鄉同考監生五人連名互結一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕戶頭五人、共具二連名互結一。〔清國行政法汎論、文官、吏部銓選〕凡欲レ應レ選者、先赴二吏部一、提下出己爲二候選一者之證明書上而爲二證明之人一、則必要爲二同候選者一、此候選者、互相二爲證明一也、故謂二之互結一。

【互相】16 ゴサウ 相たがひに。相互。

【互相保結】17 hu⁴ hsiang¹ pao³ chieh² たがひに連署した保證書を差出すこと。

【互草】18 ゴサウ 毒草の名。こくさぎ。常山(4－895 5：118)の異名。〔本草、常山〕釋名、互草。

【互市】19 ゴシ ●兩國がたがひに賣買交易すること。〔後漢書、烏桓傳〕賞二賜質子、歲時互市焉。●

【互選】30 ゴセン たがひに投票して選擧し合ふ。

【互瞻】31 ゴセン たがひにみる。〔晉書、虞預傳〕邪黨互瞻、異同蜂至。

【互送】32 ゴソウ たがひにおくりあふ。〔宋史、職官志五〕有二翻異者、互送。

【互體】33 ゴタイ ●互卦(6)の●に同じ。〔易旋璣、惡人共がたがひに結托すること。〔晉書、惠帝紀〕勢位之家、以レ貴陵レ物、忠賢路絕、讒邪得レ志、更相薦擧、天下謂二之互市一。

【互市監】20 ゴシカン 官名。唐、置く。外國との通商を掌る。〔唐書、百官志三〕互市監、每レ監、監一人、掌二蕃國交易之事一。

【互市場】21 ゴシジヤウ 交易・貿易を許された場所。互市をなす場所。貿易場。

【互市牙郎】22 ゴシガラウ 互市の仲立ちを掌るものをいふ。互郎(89)を見よ。〔資治通鑑、唐紀〕〔玄宗、開元二十四年〕及レ長相親愛、皆爲二互市牙郎一。〔注〕牙郎、駔儈也、南北物價、定二於其口一、而後相與貿易。

【互商】23 hu⁴ shang¹ 一緒に相談する。會商。

【互讓】24 ゴジヤウ おたがひにゆづりあふ。

【互從】25 ゴジユウ 說文で、甲字が乙字に從ひ、乙字が又甲字に從ふ場合をいふ。係と采との如し。〔說文釋例、互從〕說文有下此字從二彼字一、而彼字又從二此字一者上、乃讀者不レ知二古音一、而任意改レ之也、爪部、孚之古文采、說曰、古文孚、從レ禾、禾古文係、人部係下云、從二采省一、采古文孚、采下云、古文係、係下云、古文係、不レ省、是采係二字、互相從也。

【互助】26 ゴジヨ ●互に助けあふ。相互扶助の略。●縣名。民國、置く。青海省大通縣の東南。

【互證】27 ゴショウ たがひに證明すること。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕酌二古通一レ今、旁推互證、不レ爲二空談一。

【互人】28 ゴジン 人面魚身のもの。〔山海經、大荒西經〕有二互人之國一。〔注〕炎帝之孫、名曰二靈恝一、靈恝生二互人一、是能上下於天一。

【互折】29 ゴセツ くねくねと曲折してゐる。交互曲折。〔宋玉、高唐賦〕道互折而曾累。〔史記、司馬相如傳〕互折窈窕、以右轉兮。

【互選】30 ゴセン たがひに投票して選擧し合ふ。

【互瞻】31 ゴセン たがひにみる。〔晉書、虞預傳〕邪黨互瞻、異同蜂至。

【互送】32 ゴソウ たがひにおくりあふ。〔宋史、職官志五〕有二翻異者、互送。

【互體】33 ゴタイ ●互卦(6)の●に同じ。〔易旋璣、存互體〕凡互體之坎、擧在二離之上一也、火在二水上一、謂二之未濟一、乃不二特一離在レ上而已一、凡互體之離、擧在二坎之上一也、卦每如レ此、然則互體之說、雖レ不可レ泥、亦不レ可レ廢矣。〔日知錄、經義、互體〕凡卦爻二至四、二至五、兩體交互、各成二一卦一、先儒謂二之互體一、其說已見二於左氏莊公二十二年、陳侯筮、遇二觀之否一、曰、風爲レ天、於二土上一山也、注、自二二至四一、有二艮象一、艮爲レ山、是也、然夫子未二嘗及一レ之、後人以二雜レ物撰一レ德之語一當レ之、非也、其所二論二與四、三與五、同功而異レ位、特就二兩爻一相較言一レ之、初何嘗有二互體之說一、晉書荀顗、嘗難二鍾會易無二互體一、見レ稱二於世一、其文不レ傳、新安王炎晦叔、嘗問二張南軒一曰、伊川令二學者先看一王輔嗣、胡翼之、王介甫三家易一、何也、南軒曰、三家不レ論二互體一、故爾、朱子本義、不レ取二互體之說一、惟大壯六五云、卦體似レ兌、有二羊象一焉、不レ言二互而言一レ似、似者、合二兩爻一爲二一爻一、則似レ之也、然此又擬二先儒所一レ未有、不レ如レ言二互體一矣、大壯自二三至五成レ兌、兌爲レ羊、故爻辭並言レ羊。〔經考、互體〕朱子曰、以二三四一爲二一卦一、又以二三四五一爲二一卦一、爻辭取レ象、或以二上下正體之卦一、或以二中間二互體之卦一、春秋左傳所二載占筮一、間取二互體一、漢魏以來、諸儒說レ象、每取二互體一、蓋易中取レ象之一端、不可レ廢也、王應麟曰、京氏謂、二至四爲二互體一、三至五爲二約象一、儀禮疏云、二至四、三至五、兩體交互、各成二一卦一、先儒謂二之互體一。●詩の一體。二つの句で、一方に述べることが他方にも通じ、相補つて一つの意を表はすもの。互文と略ゝ同一の工夫から出來たもの。互文(86)を見よ。〔鶴林玉露、詩互體〕杜甫詩云、風含二翠篠一娟娟淨、雨裛二紅蕖一冉冉香、上句風中有レ雨、下句雨中有レ風、謂二之互體一。

【互物】35 ゴブツ ●甲殼のある龜鼈や蚌蛤の類。〔周禮、天官、鼈人〕掌取二互物一、以レ時籍二魚鼈龜蜃、凡狸物一。〔注〕互物、謂下有二甲蔣胡一龜鼈之屬上。〔周禮、地官、掌蜃〕掌レ斂二互物蜃物一。〔注〕互物、蚌蛤之屬。●互に組合つて、始めて用をなすもの。

【互文】36 ゴブン 二つの文、又は二つの句に於て、一方に說くことと他方に說くこととが、互に相通じ、相補つて意を完くする書き方。例へば、中庸の「吾說二夏禮一、杞不レ足レ徵也、吾學二殷禮一、有二宋存一焉、」の文に就いて云へば、徵するに足らず、存するあり、の二句は、實は互に上下雙方に繫つてゐるのであるが、文を省く爲に、各ゝ一方丈に用ひて、其の意を他にも通ぜしめたのである。〔禮、中庸〕子曰、吾說二夏禮一、杞不レ足レ徵也、吾學二殷禮一、有二宋存一焉。〔疏〕論語云宋不レ足レ徵也、此云、杞不レ足レ徵、卽宋亦不レ足レ徵、此云、有二宋存一焉、則杞亦存焉、互文見レ義。

【互保】37 ゴホ 互に保證する。保甲の法では、概ね五家、或は十家をして互に保證させた。〔清會典事例、吏部、處分例〕先令二取一具親友互保一。

【互用】38 ゴヨウ お互に他のもののはたらきをもなすこと。〔楞嚴經、十〕見聞、通隣、互用清淨。

【互郎】39 ゴラウ 交易の仲介人。仲買人。すあひ。互市牙郎(88)を見よ。〔稱謂錄、牙人、互郎〕陶宗儀輟耕錄、今人謂二駔儈者一爲二牙郎一、本謂二之互郎一、謂レ主二互市事一也、唐人書、互作レ牙、似二牙字一、因訛爲レ牙耳、說鈴天祿識餘、溫公詩話、牙郎當レ作二互郎一。

【互理】40 ゴリ 數學用語。比例の內項又は外項の二數を互に置き換へても、比例式の成り立つことをいふ。

【互感應】41 ゴカンオウ 物理學用語。二つの電路を接近させて置き、一方に電流を通ずるとき、他方の電路にも電流を生ずる現象をいふ。

【互教法】42 ゴケウホフ 導生制(4－7465‥46)に同じ。

【互補色】43 ゴホシヨク 物理學用語。二つの色光を適當に混合して白色となるとき、此の兩色を互補色といふ。

【互位定理】44 hu⁴ wei⁴ ting⁴ li³ 更迭の理。

【互餽合同】45 hu⁴ k'uei⁴ ho² t'ung² 相互に供給し合ふといふ契約。互餽は相互供給、合同は契約の意。

【互不侵犯條約】46 ゴフシンパンデウヤク 二國又は數國が、互に相手國の主權を尊重して、相犯さないことを約束する條約。不可侵條約。不侵略條約。

【亓】256 キ ❶其(2−1472)の古字。〔集韻〕其古作レ亓。❷姓。〔通志、氏族略、平聲〕亓氏、古其字、音其、唐有二亓志一。

參考 大の古字の亣(1−289)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕亓、古其字。亣、同レ大。

【亓才】1 キサイ 明、萊蕪の人。字は茂育。家居し、孝養して終る。〔萊蕪縣志〕。

【亓之偉】2 キシヰ 明の人。才の子。字は坦之。號は超凡。天啓の進士。官は河間知府。李自成の亂に屈せずして害せらる。〔勝朝殉節諸臣錄、八〕。

【五】257 ゴ 〔集韻〕阮古切 ㄨˇ wu3 麌

小篆 𠄡 古文 乂

❶いつつ。十の半數。陽數。中數。〔增韻〕五、中數也。〔易、繫辭上〕天數五、地數五。〔書、武成〕列爵惟五。〔詩、齊風、南山〕葛屨五兩。〔穀梁、僖、十六〕隕二石于宋一五。〔注〕五、陽數也。〔中庸〕天下之達道五。❷いつたび。五度。〔說苑、指武〕五敗レ荆入。❸いつつにする。〔詩、鄘風、干旄〕良馬五レ之。❹五倍。〔算法統宗、九九合數〕二五如レ五、二五一十。❺易の陽爻で天の位・帝位などに擬す。〔易、賁、天文也、虞注〕五、天位。〔易、泰、六五、九家注〕五、帝位。〔後漢書、楊震傳、易曰、無レ由レ遂、注〕五、陽爻也。❻五行。もと天地間で陰陽交互のさまを象つた字。卽ち水・火・木・金・土が相尅し、或は相生して、陰陽が交互する。篆文は𠄡(1−260)に作る。〔正字通〕五、古文乂、小篆加二二畫一作レ𠄡。〔說文〕𠄡、五行也、從レ二、侌昜在二天地閒一交午也。❼樂譜の記號。太呂・太簇・夾鐘清の音を表はす。〔宋史、樂志〕太呂・太簇・夾鐘清、各用二五字一。❽星の名。噣をいふ。〔詩、召南、小星〕三五在レ東。〔傳〕五、噣。❾午(2−2703)に通ず。〔說文通訓定聲〕五、叚借爲レ午。〔周禮、秋官、壺涿氏、五貫、注〕五貫、當レ爲二午貫一。〔左氏、成、十七〕晉夷羊五。〔國語、晉語六〕夷羊午。❿伍(1−435)に通ず。〔正字通〕五、伍與レ五、音同義別、官府文書、五作レ伍。⓫古は乂(1−115)に作る。〔說文〕乂、古文五如レ此。⓬姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕五氏、本伍氏、避レ仇改爲レ五。

邦 いつつ。辰の刻(今の午前八時)。戌の刻(今の午後八時)。

名乘 ユキ。

解字 指事。二と×との合字。二は天地をさし、×は陰陽の天地間に交ること。水・火・木・金・土の五行が相尅・相生し、陰陽の交互することから五の字となる。〔說文、五、段注〕古之聖人知レ有二水火木金土五者一、而後造二此字一也。

參考 金錢、又は戸籍などで、字畫の變更を恐れる時には伍を代用し、商業上の數字として〥を用ひる。〔六書故〕一、今惟財用出內之簿書、用二壹貳參肆伍陸桼捌玖拾阡陌一、以防二姦易一。

【五惡】1 ゴアク 五つの惡。❶小國が大國に適く時の五惡。其の罪戾を說く、其の足らざるを請ふ、其の政事を行ふ、其の職貢を共し、其の時命に從ふ。〔左氏、襄、二十八〕小適レ大、有二五惡一、說二其罪戾一、請二其不一レ足、行二其政事一、共二其職貢一、從二其時命一。❷陰險、邪僻、僞辯、怪異の事をよく記憶する、外面を飾る、この五つをいふ。〔荀子、宥坐〕孔子曰、居、吾語二汝其故一、人有二惡者五一、而盜竊不レ與焉、一曰、心達而險、二曰、行辟而堅、三曰、言僞而辯、四曰、記醜而博、五曰、順レ非而澤、此五者、有二一於人一、則不レ得レ免二於君子之誅一。〔注〕心達而險、謂下心通二達於事一而凶險上也、辟讀曰レ僻、醜謂二怪異之事一、澤有二潤澤一也。❸身體の健康に害惡ある五つのもの。卽ち熱・寒・風・濕・燥。〔素問、宣明五氣論〕五藏所レ惡、心惡レ熱、肺惡レ寒、肝惡レ風、脾惡レ濕、腎惡レ燥、是謂二五惡一。❹佛 五戒を破る惡行。卽ち殺生・偸盜・邪淫・妄語・飮酒。〔無量壽經、下〕處二於五惡五痛五燒之中一。

【五惡趣】2 ゴアクシュ 佛 天・人・地獄・畜生・餓鬼の五道。五趣(572)に同じ。〔無量壽經、下〕必得三超絕去往二生安養國一、橫截二五惡趣一。

【五案】3 ゴアン 宋代、三司のうち、戸部使の分掌した五つの政案。戸稅案・上供案・修造案・麴案・衣糧案。〔宋史、職官志二〕戸部分二掌五案一、一曰戸稅案、二曰上供案、三曰修造案、四曰麴案、五曰衣糧案。

【五衣】4 イツツギヌ ❶十二單ジフニヒトヘのこと。五枚重ねたやうに仕立てる。古の婦人の服。〔裝束集成、十二、女官〕女房裝束著用次第、文容云、五衣。❷衣服の五品。卽ち表衣ウハギ・下襲シタガサネ・半臂ハンピ・單ヒトヘ・引倍木ヒキヘギ。

【五噫】5 ゴイ 五噫之歌を見よ。〔李白、經二亂離一後云云詩〕兒戲不レ足レ道、五噫出二西京一。〔白居易、二年三月五日云云贈二妻弘農郡君一詩〕徒誇五噫作。〔陸游、秋思詩〕且擬梁鴻賦二五噫一。

【五噫亭】6 ゴイテイ 明、許令瑜(10−35298・・398)の室名。

【五噫之歌】7 ゴイノウタ 五つの噫の字を用ひて無限の悲痛を詠じた歌。後漢、梁鴻作。〔後漢書、逸民、梁鴻傳〕過二京師一、作二五噫之歌一曰、陟二彼北芒一兮噫、顧二覽帝京一兮噫、宮室崔嵬兮噫、人之劬勞兮噫、遼遼未レ央兮噫。

【五位】8 ゴヰ ❶五つの方角。東・南・中央・西・北。〔淮南子、時則訓〕五位、東方之極、云云、南方之極、云云、中央之極、云云、西方之極、云云、北方之極、云云。❷五方の神。蒼帝(東)・赤帝(南)・黃帝(中央)・白帝(西)・黑帝(北)。〔漢書、揚雄傳上〕靈祇既鄕、五位時敍。〔注〕服虔曰、五位、五方之神。〔班固、東都賦〕明堂詩、上帝宴饗、五位時序。〔注〕善曰、漢書曰、天神之貴者太一、其佐曰二五帝一、河圖曰、蒼帝神名二靈威仰一、赤帝神名二赤熛怒一、黃帝神名二含樞紐一、白帝神名二白招拒一、黑帝神名二汁光紀一、揚雄河東賦曰、靈祇既饗、五位時序、濟曰、上帝天神、云云、五位、五方神也。❸水・火・木・金・土。五行(78)の❶に同じ。〔漢書、五行志上〕天以レ一生レ水、地以レ二生レ火、天以レ三生レ木、地以レ四生レ金、天以レ五生レ土、五位皆以レ五合、而陰陽易レ位。〔雲笈七籤〕陸先生解二三才一、謂二之三元一、三元既立、五行咸具、以二五行一爲二五位一、三五和合、謂二之八會一、爲二衆書之文一。❹易の第五爻のくらゐ。〔易、乾、文言、上不レ在レ天、下不レ在レ田、疏〕上不レ在レ天、謂レ非二五位一、下不レ在レ田、謂レ非二二位一也。❺易に於て天の數五、地の數五をいふ。〔易、繫辭上〕天數五、地數五、五位相得、而各有レ合。〔注〕天地之數各五、五數相配、以合二成金木水火土一。❻地味によつて上・中・下の三等に區別せられた上土の一つの名。上土は、五粟・五沃・五位・五蘟・五壤・五浮の六種に分つ。〔管子、地員〕沃土之次曰二五位一、五位之物、五色雜英、各有二異章一、五位之狀、不レ塥不レ灰、青怷以落及。❼數の萬の位。萬は、下から一十百千萬と數へて、第五番目にあるからいふ。〔同文算指〕三位而成レ百、五位而成レ萬、九位而成レ億。❽歲・日・月・星・辰。〔國語、周語下〕王欲下合二是五位三所一而用上レ之。〔注〕五位、歲日月星辰也。〔小學紺珠、天道類、五位〕歲・月・日・星・辰。❾第五の位階。袍の色は淺緋。❿佛 ㋑諸法の五位。萬有事理を大別して色・心・心所・心不相應・無爲の五法とす。〔俱舍論、四所說〕。㋺修道の五位。資糧・加行・通達・修習・究意の五種を以て佛道修業の位階とす。〔唯識論、九〕。

【五位餠】9 ゴヰヘイ 銀、又は銅で作つた、酒を容れるかめ。〔清異錄、器具、五位餠〕五位餠、自二同光一至二開運一盛行、以二銀銅一爲レ之、高二三尺、圍八九寸、上下直如二筒樣一、安二嵌蓋一、其口有二微窪處一、可二以傾レ酒、春日郊行、家家用レ之。

【五位鷺】10 ゴヰサギ 鳥の名。鸛鷺目さぎ科に屬す。嘴は強大で、尾は短く、後頭に數本の長くて白い飾羽がある。昔、近衞天皇が神泉苑で御宴を催された時、これに五位を授けられたのでこの名がある。〔和漢三才圖會、水禽類、鵁鶄〕和名伊微、今云二五位鷺一、按、鵁鶄相傳、近衞帝飮二宴于神泉苑一、有レ鷺、令二人捕一レ之、其鷺將レ去、叱曰、宣旨也、於レ是鷺伏而不レ動、捕レ之以獻レ之、叡感、

封レ鷺賜二爵五品一、而令レ放レ之、故名二五位鷺一。

【五位藏人】11 ゴヰノクラウド 藏人所の屬官。藏人で五位のもの。五位の殿上人中より名家譜第の者を選任する。唐名は仙郎・夕拜郎。〔職事補任、宇多〕五位藏人、仁和四年十一月二十七日、始置二五位藏人二人一、止二六位二人一。〔職原抄〕藏人所、五位藏人三人、唐名仙郎、或夕拜郎。

【五威】12 ゴヰ 皇天上帝の威命を承ける事。漢の王莽の時、五威將帥を置く。〔漢書、王莽傳上〕使節之旄幡、皆純黃、其署曰二新使五威節一、以レ承二皇天上帝威命一也。〔揚雄、劇秦美新〕存二乎五威將帥一。

【五威之吏】13 ゴヰノリ 漢の王莽の時に置いた五威の役人。五威を見よ。〔漢書、諸侯王表序〕詐謀既成、遂據二南面之尊一、分二遣五威之吏一、馳二傳天下一、班二行符命一。

【五畏】14 ゴヰ 佛菩薩になるのに邪魔になる五つのおそれ。一、不活畏(生活難をおそれる)。二、惡名畏(名譽を傷けることをおそれる)。三、死畏(死をおそれる)。四、惡道畏(惡道に墮ちることをおそれる)。五、大衆威德畏(多人數の前をおそれる)。五怖畏。五怖(965)を見よ。〔南海寄歸傳、二〕捨二五畏之危道一、遵二八生之平衡一。

【五緯】15 ゴヰ 金・木・水・火・土の五星。二十八宿は左に轉じて經となり、五星は右に旋つて緯となる。〔書、堯典、曆二象日月星辰一、疏〕鄭玄云、星謂二五緯一、辰謂二日月所レ會十二次一者、以二星辰一爲二二者一、五緯與二二十八宿一、倶是天星。〔後漢書、律曆志下〕日月五緯、各有二終原一、而七元生焉。〔張衡、西京賦〕五緯相汁、以旅二於東井一。〔注〕綜曰、五緯、五星也。〔駱賓王、帝京篇〕五緯連レ影集二星躔一、八水分レ流橫二地軸一。

【五友】16 ゴイウ ㊀五つの友。㋑植物の五友。蘭・菊・蓮・梅・竹。〔薛瑄、友竹軒記〕又取二草木之香潔秀異可レ愛者一、以寓二其好一、若二騷客之蘭、陶潛之菊、周子之蓮、林逋之梅一、雖二所レ取不一レ同、而各爲レ所レ適之志則一也、況竹之爲レ物、直而不レ曲、勁而不レ凋、而又鏘二鳴風雨一、聲聞二於遠一、有レ似二乎直諒多聞之德一、以レ之爲レ友、則耳目所レ接、心志所レ適、爲レ益其可二一二數一耶。㋺風流の五友。道友(明月・清風)・義友(古典・今文)・自來友(孤雲・野鶴)・娛樂友(怪石・流水)・相保友(山果・橡栗)をいふ。宋の游炳の故事。〔明一統志〕五友亭、在二順慶府南光縣一、南宋游炳題云、明月清風爲二道友一、古典今文爲二義友一、孤雲野鶴爲二自來友一、怪石流水爲二娛樂友一、山果橡栗爲二相保友一、此五友者、無二須臾不一レ在二此間一也。㊁亭の名。四川省南充縣の南、清居山に在る。㊀の㋺に本づく。

【五酉】17 ゴイウ 五行の妖怪。酉は老の意、物が老いると神がついて妖怪を爲すからいふ。〔搜神記、十九〕孔子曰、夫六畜之物、及龜蛇魚鱉草木之屬、久者神皆憑依、能爲二妖怪一、故謂二之五酉一、五酉者、五行之方、皆有二其物一、酉者、老也、物老則爲レ怪。

【五斿】18 ゴイウ 五つの斿レタのある旗。〔後漢書、輿服志上〕卿、朱兩幡・五斿・降龍。

【五游】19 ゴイウ 清、丘岳(1—33・・16)の號。

【五猶】20 ゴイウ 地味によつて、上・中・下の三等に區別せられた下土の一。猶とは、やせ土の意。下土は、五猶・五弘・五殖・五轂・五鳧・五桀の六種に分つ。〔管子、地員〕下土曰二五猶一、五猶之狀如レ糞。〔纂詁〕猶、猶豫不レ決之意、土瘠氣薄、物不二速長一、故名二五猶一。

【五緎】21 ゴイク 皮衣の五箇處の縫目。〔詩、召南、羔羊〕羔羊之革、素絲五緎。〔傳〕緎、縫也。〔集傳〕緎、裘之縫界也。

【五邑】22 ゴイフ 五つのむら。〔左氏、哀、二十七〕設二乘車兩馬一、繫二五邑一焉。〔孔平仲、送二朱君一既二德安宰罷レ任還一詩〕尋陽五邑誰善政、歷陵令尹朱爲レ姓。

【五音】23 ゴイン ゴオン ㊀音樂の五つのねいろ。宮(土)・商(金)・角(木)・徵(火)・羽(水)。五聲(709)に同じ。〔爾雅、釋樂〕宮謂二之重一、商謂二之敏一、角謂二之經一、徵謂二之迭一、羽謂二之柳一。〔注〕皆五音之別名。〔郝懿行義疏〕唐徐景安樂書、引二劉歆一云、宮者、中也、君也、爲二四音之綱一、其聲重厚、如二君之德一而爲レ重、商者、章也、臣也、其聲敏疾、如二臣之節一而爲レ敏、角者、觸也、民也、其聲圓長經二貫清濁一、如二民之象一而爲レ經、徵者、祉也、事也、其聲抑揚遞續、其音如二事之緖一而爲レ迭、羽者、宇也、物也、其聲低平掩映、自レ高而下、五音備成、如二物之聚一而爲レ柳。〔孟子、離婁上〕不レ以二六律一、不レ能レ正二五音一。〔集注〕五音、宮・商・角・徵・羽也。〔老子、十二〕五音令二人耳聾一。〔管子、宙合〕左操二五音一。〔淮南子、氾論訓〕以二五音一聽レ治。〔史記、太倉公傳論〕耳和則聞二五音一矣。㊁音韻學では、脣・齒・牙・舌・喉の五聲類をいふ。㊂六韜、龍韜の篇名。㊃五十音の、每行の五つの音。

【五音法】24 ゴインハフ 切韻の法で、脣・齒・牙・舌・喉の五音を以て、宮・商・角・徵・羽に分配すること。玉篇の廣韻指南に見ゆ。〔夢溪筆談、藝文二〕今切韻之法、先類二其字一、各歸二其母一、脣音舌音各八、牙音喉音各四、齒音十、半齒半舌音二一、凡三十六、分爲二五音一、天下之聲、總二于是一矣。

【五音集韻】25 ゴインシフヰン 書名。十五卷。金、韓道昭撰。三十六字母を以て平上去入の四等に分つ。大抵、廣韻を以て藍本とし、增入の字は集韻を以て藍本として居る。〔四庫提要、經、小學類〕。

【五音連彈】26 ゴインレンダン 中國の北方で演ずる音樂の名。五人が各〻樂器を持ち、人每に二種にわたつて互に相聯絡して奏する。〔朝市叢載〕五音齊奏帶二笙簧一、大鼓書詞最擅レ場、野調因レ何偏入レ妙、連彈絕技異二尋常一。

【五陰】27 ゴイン ㊀五種の陰。〔易卦變圖〕凡五陰五陽之卦。㊁佛ゴオン 五蘊(42)の㊁を見よ。〔中論疏、七〕有二斯五陰一。〔庾肩吾、八關齋二云云詩〕五陰誠爲レ假、六趣寧有レ截。

【五陰魔】28 ゴオンマ 佛四魔の一。四魔(3—4682・・727)を見よ。

【五飲】29 ゴイン 五種の飲物。上水・漿・酒・醴・酏。〔禮、玉藻〕五飲、上水・漿・酒・醴・酏。

【五隱】30 ゴイン 管子に見える上土の一。五位(8)の㊅を見よ。〔管子、地員〕位土之次曰二五隱一、五隱之狀、黑土黑菭、青怵以肥、芬然若レ灰。

【五院】31 ゴヰン ㊀唐以後の官制で、監察・殿中・侍御史・中丞・大夫をいふ。〔唐書、劉鬪傳〕帝御二興安樓一受レ俘、詔詰二反狀一、鬪曰、臣不二敢反一、五院子弟、爲レ惡不レ能レ制。〔尙書故實〕臺儀自二大夫一以下至二監察一、通謂二之五院一。〔宋史、選擧志五〕中書制敕、及二五院員闕多一、卽遣レ官、特試二書劄一、驗二視材質一。〔南部新書〕自二唐初一來、歷二五院一惟二一人、李商隱・張延賞。〔注〕五院、謂二監察・殿中・侍御史・中丞・大夫一也。〔金史、蕭王家奴傳〕從二梁王宗弼一征伐、爲二萬戶一、還爲二五院部節度使一。㊁民國では行政・立法・司法・監察・考試の五院を置く。五院制度を見よ。

【五院關】32 ゴヰンクワン 關の名。後漢の代郡、今の山西省陽高縣に在つた。〔後漢書、烏桓傳〕建武二十一年、遣二伏波將軍馬援一、將二三千騎一出二五院關一、掩二擊之一。〔注〕關在二代郡一。

【五院制度】33 ゴヰンセイド 孫文の五權憲法に準據して組織した國民政府の組織。五院は行政院・立法院・司法院・監察院・考試院から成り、其の上に國民政府主席がある。行政院は內政・外交・農礦・財政・交通・工商・軍政・鐵道・衞生・教育の十部から成り、立法院は法律案・豫算案・宣戰案等を決議し、司法院は一切の法律事務を執行し、考試院は國家試驗を掌り、監察院は官吏の彈劾と會計檢査とを行ふ。

【五雲】34 ゴウン ㊀青・白・赤・黑・黃の五種のくも。其の變化を見て吉凶を占ふ。〔周禮、春官、保章氏〕以二五雲之物一、辨下吉凶・水旱降二豐荒一之祲象上。〔注〕物、色也、視二日旁雲氣之色一、云云、鄭司農云、以二二至二分一觀二雲色一、青爲レ蟲、白爲レ喪、赤爲二兵荒一、黑爲レ水、黃爲レ豐。〔關尹子、二柱〕五雲之變、可三以卜二當年之豐歉一、八風之朝、可三以卜二當時之吉凶一。〔新論、兵術〕明二天時一者、察二七緯之情一、洞二五行之趣一、聽二八風之動一、鑒二五雲之候一。㊁五色のくも。一つの雲で五色を備へたもの。仙女の遊ぶ處。〔雲笈七籤〕元洲有二絕空之宮一、在二五雲之中一、玉靈仙母・金華仙女、常所レ遊也。㊂五ひらの雲。五朶の雲。五雲體を見よ。㊃山名。浙江省杭縣の西南。〔明一統志〕五雲山在二杭州府城西南二十五里一、上有二眞際院一、院有レ井、大旱不レ竭。㊄峯の名。江蘇省江寧縣。〔明一統志〕五雲峯在二江寧府小茅峯之側一、昔茅君、以二三月十八日一、駕二五色雲八景輿一、佇二於此山一、逾レ時西去、故名。㊅溪の名。浙江省義烏縣の西北。〔明一統志〕五雲溪在二金華府義烏縣西北

二十五里、源出二五雲山一、入二大溪一。㊐瀧の名。廣東省南雄縣城の西。〔明一統志〕五雲瀧在二南雄府城西四十里一、羣峯險峻、泉水潺湲、飛流曲折、高下成レ潭、深不レ可レ測。㊑樓の名。滿洲遼寧省開原縣、もとの三萬衞城内。金の皇統の初、建つ。〔明一統志〕五雲樓在二遼東都司三萬衞城内一、金皇統初建。㊒閣の名。宋代に建つ。江西省萬安縣城の西。〔明一統志〕五雲閣在二吉安府萬安縣治西一、瞰二贛江一、宋建、西有二芙蓉峯一、因名。

十字號。㋑明、韓應龍(12－43159‥253)の字。㋺清、金禮嬴(11－40152‥1413)の號。

【五雲車】35ゴウンシャ 五色の雲氣を畫いた車。仙人の乘る車。〔庾信、道士步虛詞〕東明二九芝蓋一、北燭二五雲車一。〔劉長卿、聞レ奉二迎皇太后一使中沈判官至上詩〕長樂宮人掃二落花一、君王正候二五雲車一。〔李白、陌上贈二美人一詩〕垂レ鞭直拂五雲車。

【五雲體】36ゴウンタイ 唐の韋陟の書體をいふ。其の署名の陟の字が、五朶の雲のやうに立派に出來てゐるからいふ。〔唐書、韋陟傳〕常以五采牋爲二書記一、使二侍妾主一之、裁答受レ意而已、皆有二楷法一、陟惟署レ名、自謂、所レ書陟字、若二五朶雲一、時人慕レ之、號二郇公五雲體一。

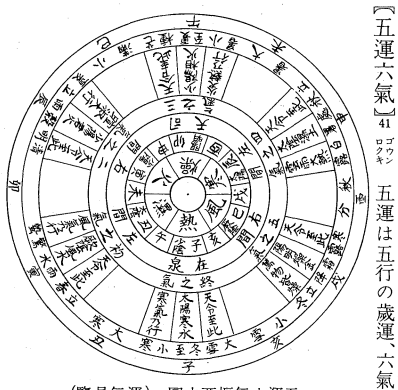
【五雲溪人】37ゴウンケイジン 唐、范攄(9－30834‥96)の號。

【五雲之衢】38ゴウンノチマタ 仙人の居る所。仙界。轉じて、君王の宮闕をいふ。〔白居易、長恨歌〕樓閣玲瓏五雲起、其中綽約多二仙子一。〔本朝文粹、五大江朝綱爲二清公一辭二右大臣一第二表一、藤原朝臣季方降レ自二五雲之衢一、不レ照二再露之瞻一。

【五雲先生】39センウンセン 清、余世本(1－515‥98)の尊稱。

【五運】40ゴウン ㊀五行の運行。帝王は五運によつて其の位を得るといふ。其の運行順には、相勝(土・木・金・火・水)と相生(木・火・土・金・水)との別がある。秦の始皇は騶衍の說を採り、相勝說を奉じて、周は火德、秦は水德としたが、漢人の多くは相生說を奉じ、周は木德、漢は火德だとし、其の中間に水德の秦のあるのは正統ではない、閏位であるとした。〔史記、三皇紀〕不レ承二五運一。〔事物紀原、正朔曆數部、五運〕通曆曰、太昊木德王、始有二甲曆五運一、項峻始學篇曰、天地立有二天皇一、以二木德一王、則五運之起、自二天皇氏一始也、然天地開闢之初、溟涬鴻濛、萬物未レ立、五運相乘、宜未レ詳也、當レ自二太昊一爲レ始是云云。〔馮鑑續事始〕引二徐秀帝王年代圖一云、伏犧爲二百王首一、故易曰、帝出二乎震一、卽帝王五運、震爲レ木、起レ自二太昊一也、炎轂子曰、五運有二二說一、鄒衍以二相勝一、劉向以二相生一、自二伏犧一至二顓頊一、以二木火土金水一相承、漢魏以還、共遵二劉說一、孟詵錦帶前書亦曰、伏犧始以二木德一出二乎震一、故曰二太皞一。〔小學紺珠、律歷類、五運〕太昊(木)・炎帝(火)・黃帝(土)・少昊(金)・顓頊(水)・帝嚳(木)・唐(火)・虞(土)・夏(金)・商(水)・周(木)(二統曆以二相生一爲レ義、郊祀志、夏木、殷金、周火、秦水、秦以二周爲一レ火、用レ水勝レ之、(漢歷志、頗推二五勝一、注、五行相勝、鄒衍以二相勝一爲レ義、張蒼則以二漢水一勝二周火一、賈誼・公孫臣則以二漢土一勝二秦水一、漢土德、色尙レ黃、光武始正二火德一、色尙レ赤、行始二於祖一、行終二於臘一、水(子祖辰臘)・火(午祖戌臘)・木(卯祖丑臘)・金(酉祖丑臘)・土(戌祖辰臘)、又云、魏・土・晉(金)・宋(水)・齊(木)・梁(火)・陳(土)・後魏(水、繼二西晉一)・後周(木)・隋(火)・唐(土)・後唐(土)・晉(金)・漢(水)・周(木)・宋(火)・㊁五行の氣が流轉して歲を主ること。〔素問、天元紀大論〕五運相襲而皆治レ之、終期之日、周而復始。

【五運六氣】41ゴウンロクキ 五運は五行の歲運、六氣は



五運六氣樞要之圖 (運氣易覽)

陰・陽・風・雨・晦・明をいふ。陰陽術數の說。五運の㊀及び六氣(2－1453‥104)を見よ。〔子華子、北宮意向〕金木水火土、五精之總也、寒熱風燥濕、五氣之聚也。〔小學紺珠、律歷類、五運六氣〕少陰君火、太陰濕土、少陽相火、陽明燥金、太陽寒水、厥陰風木。

【五蘊】42ゴウン ㊀香の名。〔飛燕外傳〕后浴二五蘊七香湯一。踞二通香沈水坐一、燎二降神百蘊香一。㊁佛蘊ァまつて人の身を成す五つの要素。五陰(27)の㊀に同じ。色(肉體)・受(苦樂を感ずること)・想(三世の諸法を憶想すること)・行(一切のはたらきが一刻として止ることなく絶えず移り變つてゐること)・識(事物を識別すること)。五衆。〔心經〕觀自在菩薩、行二深般若波羅蜜多一、時照見五蘊皆空、度二一切苦厄一。〔注〕五蘊者、就二衆生所レ執根身器界質礙形量之物一、名爲レ色、以現二前領納違順二境一、能生二苦樂一者一、名レ受、以緣二慮過現未三世一者一、名レ想、念念遷流、新新不レ住者、名レ行、明了分別者、名レ識、五者皆能蓋二覆眞性一、封二蔀妙明一、故總謂二之蘊一、亦名二五陰一、亦名二五衆一。〔金丹諸眞元奧、始乎歷二五蘊之山一、泛二六慾之海一、離二無明之鄉一、出二貪嗔之域一。〔王維、六祖能禪師碑銘〕五蘊本空、六塵非有。〔摹書拾唾〕五蘊、色蘊・受蘊・想蘊・行蘊・識蘊。

【五英】43ゴエイ 帝嚳の作つた樂の名。六英。五瀆。〔漢書、禮樂志〕昔黃帝作二咸池一、顓頊作二六莖一、帝嚳作二五英一。〔白虎通、禮樂〕帝嚳曰二五英一者、言下能調二和五聲一、以養二萬物一、調中其英華上也。〔沈約、修二定樂書一疏〕五英懷慙、六莖興愧。

【五營】44ゴエイ ㊀官名。長水・步兵・射聲・屯騎・越騎の五校尉をいふ。〔後漢書、順帝紀〕調二五營弩師一、郡擧二五人一、令下教二習戰射一。〔注〕五營、五校也、謂二長水・步兵・射聲・胡騎・車騎等五校尉一也、劉攽曰、百官志、有二屯騎・越騎一、當レ改レ胡作レ屯、車作レ越。〔後漢書、禮儀志中、注〕東京賦注曰、衞士千人、在二端門外一、五營千騎、在二衞士外一、爲二三部一、更送至二雒水一、凡三輩逐レ鬼投二雒水中一、仍上二天池一、絕二其橋梁一、使レ不レ得二度還一。〔隋書、虞世基傳〕選二羽林於六郡一、詔二蹶張於五營一。㊁諸の軍營。〔梁簡文帝、南郊頌序〕石鎧犀衣之士、連二七萃一而雲屯、珠旗白羽之兵、亙二五營一而星列。〔庾豫、奉二和聖製送二張說巡レ邊詩一〕五營將レ月合、八陣與レ雲連。〔韓翃、梁城贈二二同幕一詩〕五營河畔列二旌旗一、吹角鳴笳日暮時。〔戴叔倫、奉レ酬下盧端公飮後贈二諸公一見レ示之作上詩〕佐幕臨レ戎旌旆閒、五營無レ事萬家閑。〔韓愈、送二李尙書赴二襄陽一詩〕五營兵轉肅、千里地還方。㊂天子の鹵簿。〔顏延之、赭白馬賦、勒〕五營使レ按レ部、聲二八鸞一以節レ步。〔注〕向曰、五營、天子鹵簿也。

【五翳】45ゴエイ 佩日月の光を障害する煙・雲・塵・霧、及び阿修羅の手の五つをいふ。〔摩訶止觀、五〕重沓五翳、埃二靄曜靈一。

【五衞】46ゴエイ ㊀合戰に於て士氣を振ひおこす五つのまもり。仁を明かにして恕を懷ふ、智を明かにして謀を輔く、武を明かにして勇をとる、材を明かにして士をとる、藝を明かにして官をとる。〔逸周書、大武解〕武有二六制一、政・攻・侵・伐・搏・戰一、云云、戰有二六厲一、五衞一云云、五衞一、明レ仁懷レ恕、二、明レ智輔レ謀、三、明レ武攝レ勇、四、明レ材攝レ士、五、明レ藝攝レ官。㊁元時代の軍官の名。左翊・蒙古・侍衞・親軍・都指揮使司。〔元史、百官志二〕左翊・蒙古・侍衞・親軍・都指揮使司、秩正三品、至元十八年、以二蒙古侍衞總管府一、依二五衞之例一、爲二指揮使司一、設官十二員、奧魯官二員、大德七年、奏改爲二左翊・蒙古・侍衞一、親軍・都指揮使司一。〔陳旅、京華卽事詩〕五衞旌旗秋旬裏、千官劍珮曉雲端。

【五曜】47ゴヨウ 五つの星。〔史岑、出師頌〕五曜霄映。〔注〕濟曰、五曜、五星也。

【五易】48ゴエキ ㊀易經の易の五義。變易・交易・反易・對易・移易の五つ。〔毛奇齡、仲氏易〕仲氏者、予仲兄與三、其言レ易有二五易一、世第知二兩易一而不レ知二三易一、故但可レ言レ易、而不レ可レ以言二周易一、夫所謂兩易者、何也、一曰變易、謂下陽變レ陰陰變レ陽也、一曰交易、謂下陰交二乎陽一、陽交中乎陰上也、此兩易者、前儒能言レ之、然此祇伏羲氏之易也、是何也、則以レ畫二卦用一レ變易一、重レ卦用中交易上也、畫二卦重一レ卦、伏羲之事也、若二夫三易一、則一曰反易、謂下相二其順逆一、審二其向背一、而反見上之、一曰對易、謂下比二其陰陽一、絜二其剛柔一、而對

觀も之、一曰移易、謂ㇾ審ニ其分聚一計ニ其往來一而推移而上ㇾ下之。㊂水の形・色・響・態・味の五つの變化。〔子華子、大道〕是故方圓曲折、湛ニ於所ㇾ遇而形易矣、青黃赤白、湛ニ於所ㇾ受而色易矣、砰訇淙射、湛ニ於所ㇾ閡而響易矣、洄洑激溶、湛ニ於其所ニ以容一而態易矣、酸淡芳奧、湛ニ於所ニ以染一而味易矣、凡此五易者、非ニ水性一也、而水之所ニ以爲ㇾ性者則然矣、是故古之君子愼ニ其所ニ以湛ㇾ之。㊃文字の體の五つの變遷。古文・大篆・小篆・隸書・草書。〔韋續書法〕字有ニ五易一、蒼頡變ニ古文一、史籀製ニ大篆一、李斯製ニ小篆一、程邈隸書、漢代作ㇾ草。

【五液】49ゴエキ 五臟から出る五つの液汁。汗・涙・涕・涎・唾。〔素問、宣明五氣論〕五藏化液、心爲ㇾ汗、肺爲ㇾ涕、肝爲ㇾ涙、脾爲ㇾ涎、腎爲ㇾ唾、是謂ニ五液一。〔雲笈七籤〕精華盈滿、五液塡溢。

【五噎】50ゴエツ 五種類の噎の病。噎は食物が咽喉につかへてむせぶ病。〔儒門事親、斥十膈五噎浪分支派疏〕正理論曰、格則吐逆、故膈亦當ㇾ爲ㇾ格、後世強分爲ニ五噎一、謂ニ氣憂食思勞一也。

【五葉】51ゴヨウ ㊀いつは。五つの葉。〔宋史、五行志〕建炎二年九月癸卯、權知密州杜彥獻ニ芝草一、五葉如ニ人指掌一、色赤而澤。〔本草、芍藥〕集解、頌曰、春生ニ紅芽一作ㇾ叢、莖上三枝五葉、似ニ牡丹一而狹長。㊁人參をいふ。〔本草、人參〕集解、頌曰、初生小者、三四寸許、一椏五葉、四五年後、生ニ兩椏五葉一、云云、十年後生ニ三椏一、年深者生ニ四椏一、各五葉。〔段成式、寄ニ周繇求ニ人參一詩〕九莖仙草眞難ㇾ得、五葉靈根許惠無。〔陸龜蒙、奉和襲美謝ニ友人惠ニ人參一詩〕五葉初成假樹陰、紫團峯外卽雞林。㊂五葉草をいふ。貧乏葛。〔爾雅、畝九葉、注〕今江東有ㇾ草、五葉共叢ニ生一莖一、俗因名爲ニ五葉一。㊃五つの花瓣。〔寶倫集〕一花開ニ五葉一、結果自然成。〔賴眞子〕白樂天詩、桃花面上紅、謂ニ五骰酒取一、桃花五葉也。㊄五つの世代。五代。五世。〔梁肅、逃初賦〕播ニ五葉一而逮ㇾ予、垂ニ愼身之芳烈一。㊅五葉松の略。

【五葉松】52ゴヨウマツ 木の名。松科の喬木。葉は針狀で五出し、三稜あつてやや彎曲する。毬果は卵狀圓柱形で、長さ約一寸五六分。五葉の松。〔和漢三才圖會、五葉松〕按、其樹皮細密、葉亦細小輒刺淡色、其材濃膩作ㇾ板、工匠代ㇾ檜、下野日光飮食机、是也。

【五葉苺】53ゴヨウイチゴ 草の名。びんぱふかづら。やぶがらし。烏蘞苺(7−18998‥475)の異名。〔本草、烏蘞苺〕集解、五葉苺、集解、弘景曰、五葉苺生ニ籬援間一

【五衍】54ゴエン 僊人・天・聲聞・辟支佛(緣覺)・菩薩のこと。五乘。〔王巾、頭陀寺碑文〕憑ニ五衍之軌一。〔注〕善曰、五衍・五乘、天竺言ㇾ衍、此言ㇾ乘、五乘、一人、二天、三聲聞、四辟支佛、五菩薩。

【五堰】55ゴエン ゐぜきの名。江蘇省高椿縣の東、廣通鎭の中江の下流。唐の景福元年、楊行密の將、臺蒙が作つた銀林・水分・苦李・何家・余家の五つの堰。宋の元祐中、進士單諤は書を著し、臺蒙の五堰を修築すべきことを論じた。〔唐書、楊行密傳〕孫儒圍ニ行密宣州一、凡五月不ㇾ解、臺蒙作ニ魯陽五堰一。〔輿地紀勝、續志云、蘇常承ニ中江下流一、常病ニ漂沒一、故築ニ銀林五堰一、以望ㇾ之、自是中江不ニ復東一、舊以ニ石窒一五堰路一、又液ㇾ鐵以錮ㇾ金、故曰ニ銀淋一、今訛爲ㇾ林。〔建康志〕銀林堰在ニ溧水縣東南百里一、長十二里、自ニ銀林一稍東曰ニ水分堰一、又東曰ニ苦李堰一、曰ニ何家堰一、曰ニ余家堰一、所謂魯陽五堰也。

【五加】56ゴカ ㊀灌木の一種。うこぎ。うこぎ科に屬す。葉は食用とし、根の皮は五加皮と稱して藥用に供し、又、酒に浸して五加皮酒を造る。五茄。五花。〔本草、五加〕集解、別錄曰、五加皮、五葉者良、生ニ漢中及冤句一、五月七月采ㇾ莖、十月采ㇾ根、陰乾。弘景曰、近道處處有ㇾ之、東間彌多、四葉者亦好。〔錦里新聞〕今以ニ古米或黍七分、高粱三分一、以ニ五加尖一釀ㇾ之、亦作ㇾ茄。㊁地名。一名、五加渠。綏遠省に在る。黃河の故道。狼山の南から、烏達兩旗の界に跨がる。

五加 ㊀ (三才圖會)

【五加科】57ゴカカ 植物分類上の一部門。種子植物門、被子植物亞門、雙子葉植物綱、古生花被植物亞綱、繖形花目中の一科。喬木・灌木・草本、又は蔓性。葉は概ね互生。花は兩性で五數性、稀に三乃至多數性。蕚は往々不顯著で、稀に單出するものもあるが、多くは小頭狀・繖形狀・穗狀に集まり、總狀又は圓錐狀に集合する。

【五加皮】58ゴカヒ 五加の根の皮。又、五加皮酒の略。五加の㊀を見よ。

【五加皮酒】59ゴカヒシュ 五加の根の皮を浸して作つた酒。五加の㊀を見よ。

【五佳】60ゴカ 木の名。うこぎ。五加の音通。〔本草、五加〕釋名、五佳、五花、時珍曰、楊愼丹鉛錄、作ニ五佳一、云、一枝五葉者佳故也。

【五河】61ゴカ ㊀紫・碧・絳・青・黃の五色の河。〔漢書、司馬相如傳下〕徧覽ニ八紘一而觀ニ四海一兮、揭ニ度九江一、越ニ五河一。〔注〕服虔曰、河有ニ九、今越ニ其五一也、晉灼曰、五河、五湖、取ニ河之聲一、合ニ其音一耳、師古曰、服晉說ニ五河一、皆非也、五河、五色之河也、仙經說ニ有ニ紫碧絳青黃之河一、非ㇾ謂ニ九河之內一、亦非ニ五湖一也。〔晉書、陸機傳〕葛洪著ㇾ書稱ニ機文、猶ニ元圃之積玉一、無ㇾ非ニ夜光一焉、五河之吐流、泉源如ㇾ焉。〔庾闡、遊仙詩〕崑崙涌ニ五河一、八流縈ニ地軸一。〔小學紺珠、地理類、五河〕紫・碧・絳・青・黃。㊁河の名。淮・濰・淦・沱・潼の五つの河が合流するから名づける。〔宋史、理宋紀三〕淳祐五年秋七月丁巳、呂文德言、與ニ大元兵一戰ニ五河隘口一、又戰ニ於濠州一、大元兵還。〔宋史、度宗紀〕咸淳七年六月己未、兩淮五河、築城具完、賜ニ名安淮軍一。〔元史、太宗紀〕壬寅年秋七月、張柔自ニ五河口一渡ニ淮、攻ニ宋揚滁和等州一。㊂縣名。宋、置く。安徽省泗縣の南。淮・濰・淦・沱・潼の五河が此處に合流するから名づける。〔元史、太宗紀〕五河縣在ニ鳳陽府東北一百十里一。〔清史稿、地理志〕安徽、泗州直隸州、縣三、五河。

【五河地方】62ゴカチホウ 印度のインダス河流域のパンジャーブ(Panjāb)地方をいふ。パンジャーブは五河の意で、印度河の五支流を指す。印度アリアン人の文化の最も早く開けた地方で、前五世紀には波斯アケメニツド王朝の隸下に屬し、次いで亞歷山大王の侵入を受け、更に安息・塞・貴霜・白匈奴等が此の地に活躍した。更に蒙古軍・帖木兒・莫臥兒帝國等の領有を經て英領に歸す。

【五茄】63ゴカ 木の名。五加(56)の㊀に同じ。〔齊民要術、五檟果蓏菜茹非ニ中國物產一者、地榆〕神仙服食經云、地榆、一名玉札、云云、其實黑如豉、北方呼ㇾ豉爲ㇾ札、當ニ言ニ玉豉一、與ニ五茄一羨服之、可ニ神仙一。

【五家】64ゴカ ㊀五つの家。〔左氏、定、九〕秋、齊侯伐ニ晉夷儀一、敝無存之父、云云、先登、求ニ自ㇾ門出一、死ニ於霤下一、云云、齊侯謂ニ夷儀人一曰、得ニ敝無存一者、以ニ五家一免、乃得ニ其尸一。㊁周の制度で、組合の最小單位。之を比といひ、五比を閭といった。〔周禮、地官、大司徒〕令ニ五家爲ㇾ比、使ニ之相保一、五比爲ㇾ閭、使ニ之相受一、四閭爲ㇾ族、使ニ之相葬一、五族爲ㇾ黨、使ニ之相救一、五黨爲ㇾ州、使ニ之相賙一、五州爲ㇾ鄉、使ニ之相賓一。㊂齊の管仲の制で、組合の最小單位。之を軌といつて長を置き、十軌を里とした。〔國語、齊語〕五家爲ㇾ軌、軌爲ニ之長一。〔管子、小匡〕制ニ五家一、以爲ㇾ軌、軌有ㇾ長、十軌爲ㇾ里、里有ㇾ司、四里爲ㇾ連、連有ㇾ長、十連爲ㇾ鄉、鄉有ニ良人一、五鄉一帥。〔戰國、齊策〕蘇秦說ニ齊宣王一曰、齊地方二千里、帶甲數十萬、齊軍之良、五家之兵、疾如ニ雖矢一。〔注〕五家之兵、管子之制也、管子曰、制ニ五家一爲ㇾ軌、軌有ㇾ長。〔史記、齊太公世家〕桓公旣得ニ管仲與ニ鮑叔・隰朋・高傒一、修ニ齊國政一、連ニ五家之兵一。㊃歲・日・月・星辰・曆數を掌る五つの家。又、黃帝・顓頊・夏・殷・周の曆。或は黃帝・高陽・高辛・唐堯・虞舜の曆をいふ。〔史記、天官書〕太史公曰、自ニ初生民一以來、世主曷嘗不ㇾ曆ニ日月星辰一、及至ニ五家一、云云、紹而明ニ之一。〔注〕索隱曰、案、謂ㇾ五紀、歲・月・日・星辰・曆數、各有ニ一家一、顓學ㇾ中習之一、故曰ニ五家一也。正義曰、五家、黃帝・高陽・高辛・唐虞・堯舜也。〔史記、太史公自序〕五家之文怫異、維太初之元論。〔注〕正義曰、五家、謂ニ黃帝・顓頊・夏・殷・周之曆一。㊄春秋を傳へた左氏・公羊氏・穀梁氏・鄒氏・夾氏をいふ。〔何休、公羊傳序、

傳二春秋一者非レ一、疏〕舊云、傳二春秋一者非レ一者、謂本出二孔子一、而傳二五家一、故曰レ非レ一。㊃春秋穀梁傳の五家。尹更始・劉向・周慶・丁姓・王彥。〔後漢書、賈逵傳〕雖レ爲二古學一、兼通二五家穀梁之說一。〔注〕五家、謂二尹更始・劉向・周慶・丁姓・王彥等一、皆爲二穀梁一。㊄周・齊・梁・陳・隋の五代をいふ。〔唐書、令狐德棻傳〕議者以、魏有二魏收・魏澹二家一、爲二已詳一、惟五家之史當レ立、德棻更與二祕書郞岑文本・殿中侍御史崔仁師一、次二周史一、中書舍人李百藥次二齊史一、著作郞姚思廉次二梁陳二史一、祕書監魏徵次二隋史一、左僕射房玄齡摠二監修撰之原一、自二德棻一發レ之。〔小學紺珠、藝文類、五家史〕周・齊・梁・陳・隋。㊅五行家（80）をいふ。〔史記、太史公自序〕五家之文怫異。〔注〕索隱曰、案、言二金木水火土五家之文、各相悖異不レ同也。〔後漢書、桓郁傳〕帝自制二五家要說章句一、令二郁校二定於宣明殿一。〔注〕華嶠書曰、帝自制二五行章句一、此言二五家一、卽謂二五行之家一也。㊆滿洲の地名。㋑吉林省懷德縣の東南。㋺吉林省雙城縣の北。北滿鐵道の支線が通る。㋩熱河省建平縣。㋥熱河省平泉縣。㋭熱河省朝陽縣の西北。附近に金山が在る。㊇冢の名。〔水經、河水注〕城東有レ山、世謂二之五家冢一。㊈[佛]㋑眞宗の五寺。東本願寺・西本願寺・佛光寺・錦織寺・專修寺。㋺五家七宗を見よ。

【五家七宗】65 [佛]五家と七宗の併稱で、支那南宗禪の各派の總稱。五家とは臨濟宗・潙仰宗（以上南嶽下）・曹洞宗・雲門宗・法眼宗（以上青原下）。七宗とは五家に臨濟宗の分派たる楊岐派・黃龍派の二つを加へたもの。〔佛果圜悟眞覺禪師心要、上〕世間隨レ流將レ錯就レ錯、滿地流行、分二五家七宗一、遞立二門戶一提唱。

【五稼】66 ㊀五種の穀物。〔左氏、僖、三、不レ曰レ旱不レ爲レ災也、注〕周六月、夏四月、於三播二種五稼一無レ損也。〔宋書、禮志一〕四時和二五稼一、成二麟皇翔集一。㊁五穀を作ること。〔李子卿、駕幸二九成宮一賦〕訪二百年之疾苦一、知二五稼之艱難一。

【五霞】67 五種のかすみ。朝霞・明暮霞・神落霞・靈飛霞・降火霞。道家の語。〔金丹諸眞元奧〕彩霞精分レ五、名二朝霞・明暮霞・神落霞・靈飛霞・降火霞一。〔雲笈七籤〕太空之上、有二自然五霞一。

【五雅】68 小學に關する五種の書。爾雅（7－19750・・8）・小爾雅（4－7473・・1406）一卷（漢、孔鮒撰）・逸雅（11－38951・・15）八卷（釋名の別名、後漢、劉熙撰）・廣雅（4－9493・・48）十卷（又、博雅といふ、魏、張揖撰）・埤雅（3－5167・・5）二十卷（宋、陸佃撰）をいふ。明の郞奎金に至つて五雅といふ。各條を見よ。又、明の畢效欽が輯した五雅は、小爾雅を爾雅翼と代へてゐる。

【五介】69 五人の介者。介（1－359）の字解を見よ。〔禮、聘義〕聘禮、上公七介、侯伯五介、子男三介、所三以明二貴賤一也。

【五戒】70 ㊀五つの戒を以て犯罪を未然に避けしめる法。誓・誥・禁・糾・憲。〔周禮、秋官、士師〕以二五戒一先二後刑罰一、毋レ使三罪麗二于民一、一曰誓、用二之于軍旅一、二曰誥、用二之于會同一、三曰禁、用二諸田役一、四曰糾、用二諸國中一、五曰憲、用二諸都鄙一。㊁道家の五戒。其の目は佛敎の五戒に同じ。㊂を見よ。㊂[佛]五箇の戒。不殺生・不偸盜・不邪淫・不妄語・不飮酒。〔晉書、會稽王道子傳〕佛者淸遠玄虛之神、以二五戒一爲レ敎、絕レ酒不レ淫。〔魏書、釋老志〕又有二五戒一、去二殺・盜・婬・妄言・飮酒一、大意與二仁・義・禮・智・信一同、名爲レ異耳。〔書言故事、釋敎類〕行者稱二五戒一、凡出家、師已許レ之、乃爲レ受二五戒一、謂二之一不殺生・二不偸盜・三不邪淫・四不妄語・五不飮酒一。

【五戒和尙】71 行者をいふ。〔琵琶記、寺中遺レ像〕末扮二五戒和尙一上。

【五海】72 人體中の五つの部分。腦は髓海、衝は血海、命門は精海、膻中（心囊）は氣海、胃は水穀の海。舊時醫家の說。四海（3－4682・・84）を見よ。〔靈樞經、五癃津液別篇〕水穀皆入二於口一、其味有レ五、各注二其海一、津液各走二其道一。

【五開】73 衞の名。今の貴州省黎平縣。〔讀史方輿紀要、貴州〕五開衞、在二府治北一、洪武十八年建、隷二湖廣都司一。

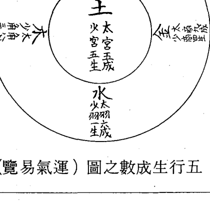
【五害】74 五つの害。水・旱・風霧雹霜・厲・蟲。〔管子、度地〕桓公曰、願聞二五害之說一、管仲對曰、水一害也、旱一害也、風霧雹霜一害也、厲一害也、蟲一害也、此謂二五害一、五害之屬、水最爲レ大、五害已除、人乃可レ治。

【五街】75 縣名。漢、置く。甘肅省の境。〔漢書、地理志下〕北地郡、縣十九、五街。

【五蓋】76 ㊀[佛]善心を蔽ふ五つのもの。卽ち、貪欲・瞋恚・睡眠・掉悔（一に調戲に作る）・疑法（一に疑悔に作る）。〔守護國界主陀羅尼經〕斷二除五蓋一爲二瓔珞一、勤二脩六念一取二莊嚴一。〔孫綽、遊二天台山一賦〕蕩二遺塵于旋流一、發二五蓋之遊蒙一。〔注〕善曰、五蓋、貪欲・瞋恚・睡眠・調戲・疑悔。〔梁簡文帝、六根懺文〕六塵四倒自レ此而生、五蓋十纏因レ斯而致。〔通齋詩話〕釋家要レ去二五蓋一、謂二貪蓋・恚蓋・惛沈睡眠蓋・惡蓋・疑蓋一、見二華嚴音義序一。㊁山名。湖南省郴縣の東南。五つの峯が蓋の如く見える故、名づく。〔湘中記〕上有二五峯一、望レ之如レ蓋、鄉人每歲、以レ雪占レ年、諺云、五蓋雪普、米賤如レ土、雪若不レ均、米貴如レ銀。

【五交】77 ㊀五つの惡い交際。勢交・賄交・談交・窮交・量交。〔劉峻、廣絕交論〕因二此五交一、是生二三釁一。〔小學紺珠、儆戒類、五交〕勢・賄・談・窮・量。㊁宋の兵制に於ける鎭名。〔宋史、兵志五〕五交鎭、十族、強人一千一百七、壯馬七十三、爲二四十九隊一。

【五行】78 ㊀萬物を生ずる五元素。水・火・木・金・土。五行始生・五行相生・五行相剋・五官（249）の各條を見よ。五位。五部。五度。〔書、甘誓〕有扈氏威二侮五行一、怠二棄三正一。〔疏〕正義曰、五行、水・火・金・木・土也。〔書、洪範〕初一曰二五行一、云云、一五行、一曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土。〔禮、禮運〕人者、鬼神之會、五行之秀氣也。〔左氏、昭、二十五〕生二其六氣一、用二其五行一。〔逸周書、小開武解〕五行、一黑位水、二赤位火、三蒼位木、四白位金、五黃位土。〔史記、律書〕天所三以通二五行八正之氣一。〔淮南子、墬形訓〕五行相治、所三以成二器用一。〔事物紀原、天地生植部、五行〕史記曆書曰、黃帝建二立五行一、起二五部一、應劭曰、金木水火土也、孟康謂、天有二四時一、分爲二五行一。㊁五つの行ひ。㋑鄉飮酒の禮として行はれるもの。貴賤を明かにし、隆殺を辨じ、和樂して流れず、長に弟にして遺す無く、安燕にして亂れず。〔禮、鄉飮酒義〕貴賤明、隆殺辨、和樂而不レ流、弟長而無レ遺、安燕而不レ亂、此五行者、可二以正レ身安レ國矣。〔小學紺珠、人倫類、五行〕貴賤明、隆殺辨、和樂而不レ流、弟長而無レ遺、安燕而不レ亂。㋺將として身に修むべきもの。柔にして卷くべからず、剛にして折るべからず、仁にして犯すべからず、信にして欺くべからず、勇にして淩ぐべからず。〔淮南子、兵略訓〕將者必有二三隧・四義・五行・十守一、云云、所謂五行者、柔而不レ可レ卷也、剛而不レ可レ折也、仁而不レ可レ犯也、信而不レ可レ欺也、勇而不レ可レ淩也。㊂仁・義・禮・智・信の五常。又、一說に、王道の轉誤といふ。〔荀子、非十二子〕案二往舊一造レ說、謂二之五行一。〔注〕五行、五常、仁義禮智信、是也。〔桃源藏、荀子遺秉〕仁義禮智信、蓋漢儒始言レ之、子思・孟子未二嘗言一也、一說以爲二陰陽五行一、亦不レ當、子思・孟子、未三嘗言二水火木金土一也、蓋王道之轉誤、王五相近、行當レ作レ衜、衜、古文道字。㊃いつくだり。〔後漢書、應奉傳〕讀書五行並下。〔北齊書、裴諏之傳〕常從二容景一借レ書百卷、十許日便返、景疑二其不レ能レ讀、每レ卷策問、應答無レ遺、景歎曰、應奉五行俱下、禰衡一覽便記、今復見二之於裴生一矣。〔宋史、楊繪傳〕少而奇警、讀書五行俱下。㊄山名。太行山をいふ。〔淮南子、氾論訓〕武王克レ殷、欲レ築二宮於五行之山一。〔注〕今太行山也。㊅唐の高宗の作つた舞の名。上元舞（1－13・・251）を見よ。㊆[佛]㋑布施・持戒・忍辱・精進・止觀の五つの修行。〔起信論〕修行有二五門一、能成二此信一、云何爲レ五、一者施門、二者戒門、三者忍門、四者進門、五者止觀門。㋺聖・梵・天・嬰兒・病の五つの修行。聖行は菩薩が戒・定・慧の三業を修めること。梵行は淸淨の行。天行は菩薩が天然の理によつて妙行を成すこと。嬰兒行は菩薩が慈悲心を以て人天小乘の小善の行を示現すること。嬰兒を人天小乘に喩へる。病行



五行生成數之圖（運氣易覽）

は菩薩が大慈悲心を以て衆生に和同し、煩惱・病苦を共にすること。〔涅槃經、十一〕。

『五行易』[79]ゴギヤウエキ　漢の焦贛・京房等の案出した易斷の名。各卦に五行・六親等を配當して說を立てたもの。

『五行家』[80]ゴギヤウカ　五行の說を以て宇宙の現象、人事等を說く學派。五家。〔史記、日者傳〕孝武帝時、聚二會占家一問レ之、某日可レ取レ婦乎、五行家曰、可、堪輿家曰、不可、建除家曰、不吉、叢辰家曰、大凶、歷家曰、小凶、天人家曰、小吉、太一家曰、大吉、辨訟不レ決、以レ狀聞、制曰、避二諸死忌一、以二五行一爲レ主、人取二於五行一者也。〔後漢書、桓郁傳〕帝自制二五家要說章句一、令二郁校一定宣明殿。〔注〕華嶠書曰、帝自制二五行章句一、此言二五家一、卽謂二五行之家一也。

『五行草』[81]ゴギヤウサウ　草の名。すべりひゆ。馬齒莧(12－44572・253)の異名。〔本草、馬齒莧〕釋名、五行草、頌曰、馬齒莧、一名五行草、以二其葉青、梗赤、花黃、根白、子黑一也。

『五行志』[82]ゴギヤウシ　史書の志類の一。漢書に始まり、後漢書・晉書・宋書・南齊書・隋書・舊唐書・新唐書・舊五代史・宋史・金史・元史・明史等に皆有る。〔漢書、敍傳下〕河圖命庖、洛書賜レ禹、八卦成レ列、九疇逌叙、三代寔寶、光二演文武一春秋之占、咎徵是擧、告レ往知レ來、王事之表、述二五行志第七一。

『五行說』[83]ゴギヤウセツ　戰國時代の騶衍の唱へた學說。五行の德を以て帝王の朝代に配當し、五德終始の說を立てた。漢代に至つて陰陽五行說が行はれた。五行には生成・相生・相勝(剋)の三通りの順序がある。生成とは水・火・木・金・土で、最も玄微なものから、漸次に顯著なものに進む順序である。五行始生を見よ。相生とは木・火・土・金・水で、木は火を生じ、火は土を生ずといふ見方である。五行相生を見よ。相勝とは木・土・水・火・金で、火は金に勝ち、水は火に勝つといふ見方である。五行相剋を見よ。五行を帝王に配當するに二法があり、一は五行相生の順序に由るもので、伏犧氏(木)・神農氏(火)・軒轅氏(土)・金天氏(金)・高陽氏(木)・堯(火)・舜(土)・禹(金)・商(水)・周(木)・漢(火)とし、一は五行相勝(剋)の順序に由るもので、周の火德に對して秦は水德を取り、漢は土德を取るべしとした。京房に至つて之を易に當てはめ、六十四卦の下に寒・溫・風・雨及び五行を配當して、人間一切の災變をトせんとした。

五行	五星	五時	五方	五色	五聲	五常	五數	五味	五情	五臟
木	木星	春	東	青	角	仁	八	酸	喜	肝
火	火星	夏	南	赤	徵	禮	七	苦	樂	心
土	土星	土用	中央	黃	宮	信	五	甘	欲	脾
金	金星	秋	西	白	商	義	九	辛	怒	肺
水	水星	冬	北	黑	羽	智	六	鹹	哀	腎
				帝黑	帝赤	帝黃	帝白	帝青	帝喜	帝怒

『五行陣』[84]ゴギヤウヂン　五つの陣法。方・圓・曲・折・銳。〔李衞公問對、中〕太宗曰、五行陣如何、靖曰、本因二五方色一立レ此名、方・圓・曲・直・銳、實因二地形一使然、凡軍不レ習二此五者一、安可二以臨一レ敵乎、兵、詭道也、故強名二五行一焉。

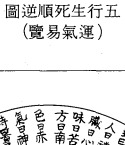
『五行傳』[85]ゴギヤウデン　書名。尚書緯の一。其の書は已に佚す。古微書に輯本がある。尚書五行傳。

『五行舞』[86]ゴギヤウブ　秦漢時代の雅舞。始皇の二十六年に、周の大武の舞を改稱したもの。〔史記、文帝紀〕高廟酎、奏二武德・文始・五行之舞一、〔孝惠廟酎、奏二文始・五行之舞一。〔注〕索隱、應劭曰、禮樂志云云、五行舞、本周武舞。〔漢書、禮樂志〕高廟奏二武德・文始・五行之舞一云云、五行舞者、本周舞也、秦始皇二十六年、更レ名曰二五行一也。〔後漢書、明帝紀〕永平三年、蒸二祭光武廟一、初奏二文始・五行・武德之舞一。〔注〕五行者、其舞人冠冕衣服、法二五行色一。〔後漢書、禮儀志〕太常樂、奏二食擧・文始・五行之舞一。

『五行相剋』[87]ゴギヤウサウコク　相剋の序による五行。水・火・金・木・土。水は火に剋ち、火は金に剋ち、金は木に剋ち、木は土に剋ち、土は水に剋つ。五勝。五行說・五運(40)の❶を見よ。〔左氏、昭、三十一〕庚午之日、日始有レ謫、火勝レ金。〔左氏、哀、九〕水勝レ火、伐レ羌則可。〔參同契、注〕五行剋、更爲二父母一。〔呂覽、應同〕黃帝曰、土氣勝、云云、禹曰、木氣勝、云云、代レ火者、必將レ水。〔春秋繁露、五行相勝〕木者司農也、云云、故曰二金勝一レ木、火者司馬也、云云、故曰二水勝一レ火、土者君之官也、云云、故曰二木勝一レ土、金者司徒也、云云、故曰二火勝一レ金、水者司寇也、云云、故曰二土勝一レ水。〔白虎通、五行〕天地之性、衆勝寡、故水勝レ火也、精勝レ堅、故火勝レ金、剛勝レ柔、故金勝レ木、專勝レ散、故木勝レ土、實勝レ虛、故土勝レ水也。

五行相生逆順死生圖(覽易氣運)

『五行相生』[88]ゴギヤウサウセイ　相生の序による五行。木・火・土・金・水。木は火を生じ、火は土を生じ、土は金を生じ、金は水を生じ、水は木を生ず。五行說・五運(40)の❶を見よ〔春秋繁露、五行之義〕天有二五行一、一曰木、二曰火、三曰土、四曰金、五曰水、木、五行之始也、水、五行之終也、土、五行之中也、此其天次之序也、木生レ火、火生レ土、土生レ金、金生レ水、水生レ木、此其父子也。



五行相生逆順死生圖(覽易氣運)

『五行之山』[89]ノギヤウヤマ　太行山をいふ。〔淮南子、氾論訓〕武王剋レ殷、欲レ築二宮於五行之山一。〔注〕今太行山也。

『五行始生』[90]ゴギヤウシセイ　始生の序による五行。水・火・木・金・土。五運(40)を見よ。〔書、洪範〕五行、一曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土。〔傳〕皆其生數。〔疏〕天一生レ水、地二生レ火、天三生レ木、地四生レ金、天五生レ土、此其生數也。〔關氏易傳〕五行、水生二乎一、成二乎六一、火生二乎二、成二乎七一、木生二乎三、成二乎八一、金生二乎四一、成二乎九一、土生二乎五一、成二乎十一。〔易學啓蒙〕天一生レ水、地六成レ之、地二生レ火、天七成レ之、天三生レ木、地八成レ之、地四生レ金、天九成レ之、天五生レ土、地十成レ之。

『五行生尅』[91]ゴギヤウセイコク　五行に相互間の關係に於ける二つの立場。五行相尅・五行相生を見よ。

『五行大義』[92]ゴギヤウタイギ　書名。五卷。隋、蕭吉撰。〔四庫未收書目提要、二〕。

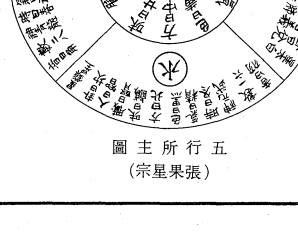
『五行大布』[93]ゴギヤウタイフ　錢の名。北周の武帝の建德三年に鑄造す。〔周書、武帝紀上〕建德三年六月壬子、更鑄二五行大布錢一、以レ一當レ十、與二布泉錢一並行。

『五行八作』[94]wu³ hang² pa¹ tsuo¹　商工業の種類。種々な營業を總稱する語。行は銀行・棉行・漁行などの行で、商店・商館の意。作は木作の作で、工場・製造所の意を表はす。

『五行用事』[95]ゴギヤウヨウジ　術數家は、五行を四時に配し、春には寅と卯とを木旺とし、夏には巳と午とを火旺とし、秋には申と酉とを金旺とし、冬には亥と子とを水旺とし、別に土旺七十二日を定めて、夫々の事をする。〔協紀辨方書、本原一、五行二減二十二日一以與二本令一、除二十八日一爲二土王用事一、則各七十二日也。

『五行毋常勝』[96]ゴギヤウシヤウショウナシ　五行の各々は一方に勝てば一方に敗けることをいふ。火は金に勝つも水には敗けるといふやうな類。〔墨子、經、下〕五行毋二常勝一、說在レ宜。

『五孝』[97]ゴカウ　身分の區別によつた五つの孝道。天子・諸侯・卿大夫・士・庶人の孝。孝經では、此の五種を分けて各々天子章・諸侯章等とする。〔唐玄宗、孝經序〕雖二五孝之用則別一、而百行之源不レ殊。〔疏〕五孝者、天子・諸侯・卿大夫・士・庶人五等所レ行之孝也、言二此五孝之用一、雖二尊卑不一レ同、而孝爲二百行之源一、則其致一レ也。〔唐書、禮樂志九〕皇帝親二養三老五更於大學一、皇帝卽レ坐、三



五行主所圖(宗星果張)

老乃論二五孝六順、典訓大綱一。

【五更】98 ゴカウ ❶一夜の五區分。甲夜（初更、今の午後八時）・乙夜（二更、午後十時）・丙夜（三更、午前零時）・丁夜（四更、午前二時）・戊夜（五更、午前四時）。更とは、一更毎に夜番の者が更代する義。又、更は歷・經ともいふ。五夜。〔漢官舊儀〕夜漏起、中黃門持二五夜一、甲夜畢傳二乙夜一、乙夜畢傳二丙夜一、丙夜畢傳二丁夜一、丁夜畢傳二戊夜一、戊夜畢、是爲二五更一。〔顏氏家訓、書證〕或問、一夜何故五更、更何所レ訓、答曰、魏漢以來謂、爲二甲夜・乙夜・丙夜・丁夜・戊夜一、又云、鼓、一鼓・二鼓・三鼓・四鼓・五鼓、亦云、一更・二更・三更・四更・五更、皆以レ五爲レ節、西都賦亦云、衞以二嚴更之署一、所二以爾一者、假令正月建寅、斗柄夕則指レ寅、曉則指レ午矣、自レ寅至レ午、凡歷二五辰一、冬夏之月、雖二復長短參差一、然辰間遼闊、盈不レ至レ六、縮不レ至レ四、進退常在二五者之間一、更、歷也、經也、故曰二五更一爾。❷午前四時。戊夜。〔伏知道、從軍五更轉〕五更催二送籌一、曉色映二山頭一。〔陸游、大雪歌〕五更未レ醒已上レ馬、衝レ雪卻作南山遊。❸長老の稱。五星が天下を照明する義に取つて名づける。三老（**1**－**12**··1728）を見よ。〔禮、文王世子〕遂設二三老・五更・羣老之席位一焉。〔注〕三老・五更、各一人也、皆年老更レ事致仕者也、名以二三五一者、取下象二三辰五星、天所二因以照一明天下一者上。〔禮、樂記〕食二三老・五更於大學一。〔史記、樂書〕食二三老・五更於大學一。〔漢書、禮樂志〕養二三老・五更於辟廱一。〔後漢書、明帝紀〕尊二事三老一、兄二事五更一。

【五更曲】99 ゴカウキヨク 從軍の樂曲の名。五更轉を見よ。〔野客叢書〕陳伏知道、從軍五更轉有レ曰、一更刁斗鳴、校尉逴二連城一、遙知射鵰騎、懸憚將軍名、似二此五轉一、今教坊以二五更一演爲二五曲一、爲二街市唱一、乃知レ有レ自。

【五更天】100 ゴカウテン 午前四時。五更の❶を見よ。〔元好問、楡杜硤口村早發詩〕瘦馬長途懶レ着レ鞭、客懷牢落五更天、幾時不レ屬鷄聲管、睡徹二東窓一日影偏。

【五更轉】101 ゴカウテン 樂府相和歌辭清調曲の名。陳、伏知道作。其の曲は古くから傳はる。一更二更と次を以て遞轉するから名づける。〔樂府詩集、相和歌辭、平調曲、從軍五更轉〕樂苑曰、五更轉商調曲、按、伏知道已有二從軍辭一、則五更轉、蓋陳已前曲也。〔伏知道、從軍五更轉〕一更刁斗鳴、校尉逴二連城一、遙聞射鵰騎、懸憚將軍名、二更愁未レ央、高城寒夜長、試將レ弓學レ月、聊持レ劍比レ霜、三更夜警新、橫吹獨吟レ春、彊聽梅花落、誤憶柳園人、四更星漢低、落月與レ雲齊、依稀北風裏、胡笳雜二馬嘶一、五更催二送籌一、曉色映二山頭一、城烏初起レ堞、更人悄下レ樓。

【五更頭】102 wu³ ching¹ t'ou² 明け七つ。今の午前四時頃をいふ。

【五更三點】103 ゴカウサンテン 五更の第三點の意で、今の午前五時十分頃をいふ。三點とは、一更（二時間）を五點に分けた、其の第三點をいふ。〔王建、宮詞〕五更三點索二金車一、盡放二宮人一出看レ花。〔水滸傳、楔子〕五更三點、天子駕二坐紫宸殿一、受二百官朝賀一。

【五更侵早起更有二夜行人一】104 ゴカウシンサウニオクレバサラニヤカウノヒトアリ 午前四時頃に起きて、早起したつもりでゐると、さらに夜通し歩いてゐる人もある。〔通俗編、時序、五更侵早起更有二夜行人一〕傳燈錄、丹霞來二古寺一經宿、明旦粥熟、行者盛二一鉢一與レ師、又盛二一碗一自喫、殊不レ顧二丹霞一、丹霞卽自盛、行者曰、五更侵早起、更有二夜行人一。

【五郊】105 ゴカウ ❶東郊・南郊・中郊・西郊・北郊。〔小學紺珠、制度類、五郊〕宋氏含文嘉注云、周禮王畿內千里、二十分、其一爲二近郊一、近郊五十里、倍レ之爲二遠郊一、漢不レ設二王畿一、以二其方數一爲二郊處一、東郊八里、南郊七里、西郊九里、北郊六里、中郊在二西南未地五里一。❷五郊に於て五行の神祇を祭ること。卽ち立春の日に青帝勾芒を東郊に祭り、立夏の日に赤帝祝融を南郊に祭り、立秋前十八日に黃帝后土を中郊に祭り、立秋の日に白帝蓐收を西郊に祭り、立冬の日に黑帝玄冥を北郊に祭ることをいふ。後漢の明帝の永平二年に始まるといふ。〔後漢書、明帝紀〕永平二年、云云、是歲始迎二氣於五郊一。〔注〕續漢書曰、迎二氣五郊之兆一、四方之兆、各依二其位一、中央之兆在レ未、壇皆二尺、立春之日、迎二春於東郊一、祭二青帝勾芒一、車服皆青、歌二青陽一、八佾舞二雲翹之舞一、立夏之日、迎二夏於南郊一、祭二赤帝祝融一、車服皆赤、歌二朱明一、八佾舞二雲翹之舞一、先二立秋一十八日、迎二黃靈於中兆一、祭二黃帝后土一、車服皆黃、歌二朱明一、八佾舞二雲翹育命之舞一、立秋之日、迎二秋於西郊一、祭二白帝蓐收一、車服皆白、歌二白藏一、八佾舞二育命之舞一、立冬之日、迎二冬於北郊一、祭二黑帝玄冥一、車服皆黑、歌二玄冥一、八佾舞二育命之舞一。〔後漢書、禮儀志上〕明堂五郊宗廟太社稷六宗夕牲、皆以二晝漏十四刻一初納。〔後漢書、董鈞傳〕永平初、爲二博士一時、草二創五郊祭祀一。

【五香】106 ゴカウ ❶香木の名。青木香。一株五根、莖五枝、一枝五葉、葉間五節であるから名づける。〔本草、木香〕釋名、蜜香、青木香・五木香・南木香、時珍曰、三洞珠囊云、五香者、卽青木香也、一株五根、一莖五枝、一枝五葉、葉間五節、故名二五香一、燒レ之、能上二徹九天一也。〔北史、眞臘國傳〕其王三日一聽レ朝、坐二五香七寶牀一、上施二寶帳一、以二文木一爲レ竿、象牙金鈿爲レ壁、狀如二小屋一。〔北史、赤土國傳〕主榻後作二一木龕一、以二金銀五香木一雜鈿レ之。〔三洞珠囊〕五香者、卽青木香也、一株五根、一莖五枝、一枝五葉、葉間五節、故名二五香一。❷香料を入れた五種の飮物。五香飮。〔大業雜記〕籌禪師作二五香飮一、第一沉香飮、次檀香飮、次澤蘭香飮、次甘松香飮、皆有二別法一、以レ香爲レ主。❸佛陰曆四月八日の灌佛會に佛に浴させる水の名。〔歲華紀麗〕四月八日、八字之佛、爰來二五香之水一乃浴。

【五香腸兒】107 wu³ hsiang¹ ch'ang² êrh 豚の腸づめ。俗に香腸といふ。

【五香冬菜】108 wu³ hsiang¹ tung¹ ts'ai⁴ 食物の名。冬菜を鹽辛く汁にした綠色のもの。

【五香豆腐乾兒】109 wu³ hsiang¹ tou⁴ fu³ kan¹ êrh 豆腐料理の一種。豆腐に種々な材料を混じて乾かしたもの。

【五港】110 ゴカウ 我が國最初の五つの開港場。橫濱・神戶・長崎・新潟・函館の五港。

【五項】111 ゴカウ 貢擧生の五つの種類。恩貢・拔貢・歲貢・副貢・優貢。〔淸會典、禮部〕貢擧、將二恩・拔・副・歲・優貢生五項一、墨卷尾後、印二一正字一、以爲二標識一。

【五角】112 ゴカク ❶五本のつの。〔春秋演孔圖〕生二五角之禽一。❷二十八宿中の角宿に遇ふ五の日。凶日とする。五角六張を見よ。

【五角羊】113 ゴカクヤウ 五本の角ある羊。〔後漢書、西南夷、冉駹夷傳〕有二五角羊・麝香・輕毛・毼雞・牲牲一。

【五角六張】114 ゴカクロクチヤウ 五日に二十八宿中の角宿に遇ひ、六日に張宿に遇ふこと。此の兩日に事を爲せば、多く成らぬといふ。凶日。五角の❷を見よ。〔嬾眞子、一〕世言二五角六張一、此古語也、云云、五角六張、謂下五日遇二角宿一、六日遇中張宿上、此兩日作レ事、多不レ成。

【五客】115 ゴカク 宋の李昉が五客堂の壁に畫いた五種の鳥。閑客（鷳）・南客（孔雀）・隴客（鸚鵡）・仙客（鶴）・雪客（鷺）。其の堂は湖北省鐘祥縣の西北に在る。〔羣書拾唾〕李昉作二五客堂一、畫二五禽於壁閒一、白鷳閑客、孔雀南客、鸚鵡隴客、鶴仙客、白鷺雪客。〔明一統志〕五客堂、在二白雪樓後一、宋李昉守レ郡時、畫二五禽於壁一、鶴曰二仙客一、孔雀曰二南客一、鸚鵡曰二西客一、鷺鷥曰二雪客一、白鷳曰二閑客一。

【五客圖】116 ゴカクヅ 五客を見よ。〔楊文公談苑〕李昉蓄二五禽一、白鷳曰二閑客一、鷺曰二雪客一、鶴曰二仙客一、孔雀曰二南客一、鸚鵡曰二西客一、爲二五客圖一自爲二詩五章一。

【五墕】117 ゴカク 地味によつて上・中・下の三等に區別された中土の一。中土は、五恋・五纑・五壏・五剽・五沙・五墕の六種に分つ。〔管子、地員〕沙土之次曰二五墕一、五墕之狀、累然如二僕累一、不レ忍二水旱一、其種大樛杞細樛杞、黑莖黑秀。〔注〕僕、附也、言二其地附著而重累一也。

【五膈】118 ゴカク 五つの膈病。憂膈・恚膈・氣膈・熱膈・寒膈。舊醫家の說。〔嚴用和濟生方、噎膈〕五膈者、憂・恚・寒・熱・氣也。

【五覺】119 ゴカク 佛五つのさとり。❶衆生覺・聲聞覺・二乘覺・菩薩覺・佛覺。〔百丈語錄〕有二衆生覺・聲聞覺・二乘覺・菩薩覺・佛覺一、是謂二五覺一。❷本覺・始覺・相似覺・隨分覺・究竟覺。本覺とは本有常住の覺體。始覺とは修行の功によつて本覺の體の顯れること。相似覺とは菩薩が

十信の位に於て類似の始覺を得ること。隨分覺とは菩薩が十住十行十回向の位に於て各〻部分的に眞正の始覺を得ること。究竟覺とは妙覺の位に於て究竟至極の始覺を得、遂に本覺と一致すること。〔起信論〕法界一相、卽是如來平等法身、依二此法身一說、名二本覺一云云、依二本覺一故而有二不覺一、依二不覺一說レ有二始覺一、云云、以レ捨二麤分別執著相一故名二相似覺一、云云、以レ離二分別麤念相一故、名二隨分覺一云云、以三遠二離微細念一故、得レ見二心性一、心卽常住名二究竟覺一。

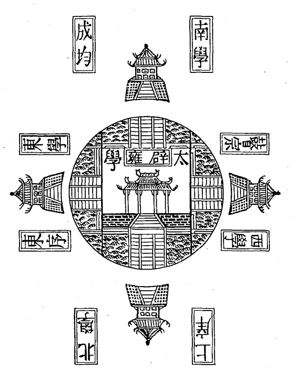
【五岳】120 ゴガク 五嶽(126)に同じ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕塵飛二五岳一。〔韓愈、送二廖道士一序〕五岳於二中州一衡山最遠。

【五岳遊人】121 ゴガクイウジン 清、羅存理(9−28397・・380)の號。

【五岳丈人】122 ゴガクヂヤウジン 山名。青城(12−42564・・295)の別名。〔太平寰宇記〕青城山、王匱經曰、黃帝封爲二五岳丈人一、一名二赤城一、又名二天谷一。

【五樂】123 ゴガク ㊀五種の音樂。㋑琴瑟・笙竽・鼓・鐘・磬。〔漢書、郊祀志〕修二五禮五樂一。〔注〕師古曰、五樂、謂二春則琴瑟、夏則笙竽、季夏則鼓、秋則鐘、冬則磬一也。〔小學紺珠、藝文類、五樂〕琴瑟・笙竽・鼓・鐘・磬。㋺鼓・鐘・鐸・磬・鞀。〔鬻子、上禹政〕禹之治二天下一也、以二五聲一聽、門懸二鐘・鼓・鐸・磬一而置レ鞀、以得二四海之士一。〔小學紺珠、藝術類、五樂〕五樂、鼓・鐘・鐸・磬・鞀。㊁佛 ゴラク ㋑菩薩の五つのたのしみ。出家樂・遠離樂・寂靜樂・菩提樂・涅槃樂の五つをいふ。〔華嚴大疏鈔、十三〕。㋺五欲の快樂。〔羣疑論探要記、七〕五情快樂、名爲二五樂一、謂、凡愚人貪二染五境一、深生二樂著一。〔持人菩薩所問經〕斷二諸所レ樂、捨二諸有爲一、一切染汙、愛欲縛結、心無レ所レ著、不レ慕二五樂一。

【五學】124 ゴガク ㊀三代の時の、帝王の學ぶ五つの學校。卽ち、東學(東序)・西學(瞽宗)・南學(成均)・北學(上庠)・太學(辟雍)をいふ。〔大戴禮、保傅〕學禮曰、帝入二東學一、上レ親而貴レ仁、則親疏有レ序、始恩相及矣、帝入二南學一、上レ齒而貴レ信、則長幼有レ差、始民不レ誣矣、帝入二西學一、上レ賢而貴レ德、則聖智在レ位、而功不レ匱矣、帝入二北學一、上レ貴而尊レ爵、則貴賤有レ等、而始下不レ踰矣、帝入二太學一、承レ師問レ道、退習而端二於太傅一。〔漢書、賈誼傳〕學禮曰、帝入二東學一、上レ親而貴レ仁、則親疏有レ序、而恩相及矣、帝入二南學一、上レ齒而貴レ信、則長幼有レ差、而民不レ誣矣、帝入二西學一、上レ賢而貴レ德、則聖智在レ位、而功不レ遺矣、帝入二北學一、上レ貴而尊レ爵、則貴賤有レ等、而下不レ踰矣、帝入二太學一、承レ師問レ道、退習而考二於太傅一、太傅罰二其不レ則、而匡二其不一レ及、則德智長而治道得矣、此五學者、既成二於上一、則百姓黎民、化二輯於下一矣。〔陳經邦、聖駕臨レ雍賦〕采二五學之文一、崇二三老之齒一。〔三才圖會、宮室、天子五學圖〕陸氏佃云、禮記、天子設二四學一、蓋天子立二四學一、幷二中學一而五、於二一處一並建、周人則辟雍居レ中、其南爲二成均一、其北爲二上庠一、其東爲二東序一、其西爲二瞽宗一。㊁五經(273)と同じ。〔漢書、藝文志〕至二於五學一、世有二變改一。



天子五學圖 (三才圖會)

【五學院】125 ゴガクヰン 我が國平安朝時代の五つの學院。勸學院・學館院・淳和院・獎學院・弘文院。

【五嶽】126 ゴガク 中國に於て、國の鎭めとして尊んだ五つの名山。天子が之を祭り、又、此處に巡行した。五岳。五鎭。左表を見よ。

爾雅、釋山	一	華(河南)	嶽(河西)	岱(河東)	恆(河北)	衡(江南)
	二	東嶽(泰山)	西嶽(華山)	南嶽(霍山)	北嶽(恆山)	中嶽(嵩高)
邵晉涵、爾雅正義	唐虞	霍	泰	衡	華	恆
	周	華	嶽	泰	恆	嵩高
	漢初	泰	衡	華	恆	嵩高
	漢武帝	泰	華	霍	恆	嵩高
金鶚、求古錄禮說	唐虞夏	岱	衡	華	恆	霍大
	殷	岱	衡	華	恆	嵩高
	周	岱	衡	華	恆	吳嶽
	東遷以後殷に同じ					

〔周禮、春官、大宗伯〕五祀・五嶽。〔禮、王制〕天子祭二天下名山大川一、五嶽視二三公一、四瀆視二諸侯一。〔史記、武帝紀〕五嶽皆在二天子之郡一。〔漢書、郊祀志上〕五嶽四瀆。〔書言故事、地理類、五嶽〕東嶽泰山、西嶽華山、南嶽衡山、北嶽恆山、中嶽嵩山。

【五嶽遊人】127 ゴガクイウジン 字號。㊀清、鄭性(11−39647・・187)の號。㊁清、羅存理(9−28397・・380)の號。

【五嶽外史】128 ゴガクグワイシ 清、馬咸(12−44572・・84)の號。

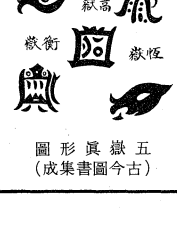
【五嶽外臣】129 ゴガクグワイシン 清、邵潛(11−39343・・43)の號。

【五嶽山人】130 ゴガクサンジン 字號。㊀明、黃省曾(12−47926・・1186)の號。㊁明、陳文燭(11−41698・・1234)の號。

【五嶽散人】131 ゴガクサンジン 清、張誠(4−9812・・149)の號。

【五嶽詩人】132 ゴガクシジン 清、桑調元(6−14772・・16)の號。

【五嶽眞形圖】133 ゴガクシンギヤウヅ 道教の御符。三天太上大道君の撰と傳へられる。泰山を東嶽、衡山を南嶽、嵩山を中嶽、華山を西嶽、恆山を北嶽に當てて之に神格を與へ、夫々人の生死を司るものとする。卽ち、東嶽の符を持つ人は長壽を保ち、南嶽の符を持てば他人から傷害を加へられず、又、火災を免れ、中嶽の符を持てば身力を勞せずして巨萬の財貨を致すことが出來、西嶽の符を持てば兵刃の害を受けず、北嶽の符を持てば水難を免れて福祿を致すことを得、又、道士が五嶽眞形圖を持てば山林川澤の諸靈が來迎するといふ。黃帝が涿鹿の野の戰で蚩尤に勝つたのは、此の符を所持してゐたからであり、漢の武帝は西王母から之を授かり、魯女生は嵩高山で三天太上の侍官から之を授かつて、延命したといふ。五圖。〔洞冥記〕李充自言、三百歲荷二草畚一負二五岳眞圖一、亦號二負圖先生一。〔後漢書、方術下、華陀傳、魯女生、注〕漢武內傳曰、魯女生、長樂人、云云、采二藥嵩高山一、見二一女人一、曰、我三天太上侍官也、以二五岳眞形一與レ之。〔漢武帝內傳〕帝又見下王母巾笈中、有二一卷書一、盛以二紫錦之囊一、出以示曰、此五嶽眞形圖也。



五嶽眞形圖 (古今圖書集成)

【五甲】134 ゴカフ ㊀五領のよろひ。〔左氏、昭、二十七〕令尹好二甲兵一、子出レ之、吾擇レ焉、取二五甲五兵一、曰、寘二諸門一、令尹至必觀レ之、而從以酬レ之。〔唐書、薛仁貴傳〕帝曰、古善射有下穿二七札一者上、卿試以二五甲一射焉、仁貴一發洞貫、帝大驚、更取二堅甲一賜レ之。〔徐晉卿、春秋經傳類對賦〕蔡昭侯兩佩兩裘、已爲二怨府一、郤二子惡五兵五甲一、更作二禍胎一。㊁進士の試驗に及第した者を、成績によつて第一甲から第五甲の五つの組に分けたもの。〔宋史、選擧志〕乾道二年御試、始推二登極恩一、第一甲、賜二進士及第幷文林郎一、第二甲、賜二進士及第幷從事郎一、第三甲・第四甲、進士出身、第五甲、同進士出身。〔事物紀原、學校貢擧部、五甲〕宋朝會要曰、淳化三年三月四日、帝御二崇政殿一試二進士一、詔糊レ名考校、定二其優劣一、爲二五等一、第一至二第二等一賜二及第一、第三・第四賜二出身一、第五賜二同出身一、五等之分、自レ此爲レ始也。天聖五年始曰レ甲。

【五合】135 ゴガフ 五行が相合ふこと。其の合ひ方に依つて、嫁娶・營居・謁會・鑄陶・遠行などの事を定める。〔墨子、經說下〕五合木生レ火。〔月令廣義〕五合日、甲寅乙卯、日月合、宜二造作嫁娶一、丙寅丁卯、陰陽合、宜レ營レ居、戊寅己卯、人民合、宜二婚娶謁會一、庚寅辛卯、金石合、宜二鑿琢鑄陶一、壬寅癸卯、江河合、宜二遠行捕獵一。

【五合六聚】136 ゴガフロクシユウ 度々合ひあつまること。〔史記、春申君傳〕天下五合六聚、而不二敢救一、王之威亦單矣。

【五甘】137 ゴカン 五種の甘い味。〔雲笈七籤〕五彩加レ形、不三以曜二其目一、五甘入レ口、不三以爽二甘味一。

【五姦】138 ゴカン 五つの惡事。又、それをなす者。〔韓非子、說疑〕人臣有二五姦一、而主不レ知也、爲二人臣一者、有下侈二用財貨賂一、以取レ譽者上、有下務二慶賞賜予一、以移レ衆者上、有下務二朋黨一、徇レ智尊レ士、以擅レ逞者上、有下務解二免赦罪獄一、以事レ威者上、有下務奉二下直曲一、怪言偉服瑰稱、以眩二民耳目一者上、此五者、明君之所レ疑也。

【五寒】139 ゴカン 國に取つて寒心すべき五つのこと。政治が的を外れる、女がはげしい、謀が泄れる、卿士を敬せずして國敗れる、內を治める事の出來ぬのに外を務める。〔說苑、敬愼〕單快曰、國有二五寒一、而冰凍不レ與焉、一曰、政外、二曰、女厲、三曰、謀泄、四曰、不レ敬二卿士一而國家敗、五曰、不レ能レ治レ內而務レ外。

【五閒】140 ゴカン ㊀閒者を用ひる五つの法。鄕閒・內閒・反閒・死閒・生閒。〔孫子、用閒〕用レ閒有レ五、有二鄕閒一、有二內閒一、有二反閒一、有二死閒一、有二生閒一、五閒俱起、莫レ知二其道一、是謂二神紀一、人君之寶也、鄕閒者、因二其鄕人一而用レ之、內閒者、因二其官人一而用レ之、反閒者、因二其敵閒一而用レ之、死閒者、爲レ誑二事於外一、令三吾閒知レ之、而傳二於敵閒一也、生閒者、反報也。〔後漢書、高彪傳〕人有二計策一、六奇五閒。㊁いつま。閒は、柱と柱との閒。轉じて、一室を一閒といふ。〔宋書、五行志二〕既立二宅宇一、而所レ起五閒六架、一時躍出墮レ地。〔宋史、輿服志〕垂拱・崇政二殿、雖レ曰二大殿一、其修廣僅如二大郡設廳一、淳熙再修、止循二其舊一、每レ殿爲レ屋、五閒十二架、修六丈廣八丈四尺、殿南簷屋三閒、修一丈五尺、廣亦如レ之。〔宋史、交阯傳〕至二長州一、漸近二本國一、自レ是宵征抵二海岸一、至二交州一僅十五里、有二茅亭五閒一、題曰二茅徑驛一、至レ城一百里。〔續聞見近錄〕文潞公守レ蜀、一日宴飲、夜深雪作、諸卒輒毀二馬屋五閒一爲レ薪、指使入白、潞公曰、更毀二五閒一與二之酒一、竟不レ輟。㊂ゴケン 一閒(六尺)の五倍。

【五閒色】141 ゴカンジキ 佛綠・緋・紅・紫・磂黃の五つの閒色。〔行事鈔資持記、下一之二〕靑・黃・赤・白・黑、五方正色也、緋・紅・紫・綠・磂黃、五方閒色也。

【五感】142 ゴカン 五官で感ずる視・聽・嗅・味・觸の五つの感覺。

【五諫】143 ゴカン 五種のいさめかた。㊀正諫(正面から正直に諫める)・降諫(一旦君の意に從ひ、徐徐に利用して諫める)・忠諫(まごころを以て諫める)・戇諫(愚直を以て諫める)・諷諫(閒接に言を柔かくして諫める)。〔說苑、正諫〕諫有レ五、一曰正諫、二曰降諫、三曰忠諫、四曰戇諫、五曰諷諫、孔子曰、吾其從二諷諫一矣乎。㊁譎諫(直言せず巧言で諫める)・戇諫(愚直を以て諫める)・降諫(一旦君の意に從ひ、徐々に利用して諫める)・直諫(正面から正直に諫める)・諷諫(閒接に言を柔かくして諫める)。〔孔子家語、辨政〕孔子曰、忠臣之諫レ君、有二五義一焉、一曰譎諫、二曰戇諫、三曰降諫、四曰直諫、五曰諷諫、惟度レ主而行レ之、吾從二其諷諫一乎。㊂諷諫(患禍の萌すを知つて諷告する)・順諫(遜順な言を以て、君の心に逆はぬやうに諫める)・闚諫(君の顏色を視て諫める)。指諫(其の事を明指して諫める)・陷諫(生を忘れて諫める)。〔白虎通、諫諍〕人懷二五常一、故知二諫有レ五、謂二諷諫・順諫・闚諫・指諫・陷諫一、諷諫者智也、患禍之萠、深睹二其事未レ彰而諷告、此知性也、順諫者仁也、出レ辭遜順、不レ逆二君心一、仁之性也、闚諫者禮也、視二君顏色一、不レ悅且却、悅則復前、以レ禮進退、此禮之性也、指諫者信也、指者質也、質二相其事一也、此信之性也、陷諫者義也、惻隱發二於中一、直二言國之害一、勵レ志忘レ生、爲レ君不レ避レ喪レ身、義之性也、孔子曰、諫有レ五、吾從二諷之諫一。〔後漢書、李雲傳論〕禮有二五諫一、諷爲レ上。〔注〕五諫、謂二諷諫・順諫・闚諫・指諫・陷諫一也。

【五壏】144 ゴカン 地味によつて上・中・下の三等に區別された中土の一。五塥(117)を見よ。〔管子、地員〕壚土之次曰二五壏一、五壏之狀、芬焉若レ糠以肥。

【五鑑】145 ゴカン ㊀五種の心。鑑は心。吉凶に蔽はれる心、男女關係に蔽はれる心、憂幽に蔽はれる心、逐放に蔽はれる心、盟詛に蔽はれる心。〔關尹子、五鑑〕五鑑、關尹子曰、心蔽二吉凶一者、靈鬼攝レ之、心蔽二男女一者、淫鬼攝レ之、心蔽二憂幽一者、沈鬼攝レ之、心蔽二逐放一者、狂鬼攝レ之、心蔽二盟詛一者、奇鬼攝レ之。㊁關尹子の篇名。

【五眼】146 ゴガン ㊀泉の名。甘肅省臨洮縣皋蘭山の下。〔明一統志〕五眼泉在二臨洮府皋蘭山下一、相傳、漢霍去病、擊二匈奴一至レ此、以レ鞭卓レ地而泉出。㊁佛ゴゲン 五種の眼力。肉眼・天眼・法眼・慧眼・佛眼。〔無量壽經〕修二心佛法一、肉眼、淸徹靡レ不二分了一、天眼、通二達無量無限一、法眼、觀察究二諸道一、慧眼、見レ眞能度二彼岸一、佛眼、具二足覺三了法性一。〔大樹緊那羅王所問經、偈〕五眼淸淨無レ結垢、善能降二伏諸怨敵一。〔王僧孺、禮佛唱導發願文〕五眼六通、得意自在。

【五眼鞋】147 wu^2 yen^3 hsieh^2 編み上げの靴。穴が五つあるからいふ。

【五几】148 キゴ 五種の几。玉几・彫几・彤几・漆几・素几。〔周禮、春官、司几筵〕掌二五几・五席之名物一、辨二其用與二其位一。〔注〕五几、左右玉、彫・彤・漆・素。

【五危】149 キゴ 用兵上、將たるものの五つの危險。必死なれば殺され、必生なれば虜にせられ、忿速なれば侮られ、廉潔なれば辱しめられ、民を愛すれば煩はされる。〔孫子、九變〕將有二五危一、必死可レ殺也、必生可レ虜也、忿速可レ侮也、廉潔可レ辱也、愛レ民可レ煩也、凡此五者、將之過也、用兵之災也。

【五季】150 キゴ 五代。梁・唐・晉・漢・周。季は世の末。〔宋史、地理志一〕唐室既衰、五季迭興、五十餘年、更二易八姓一、寓縣分裂、莫二之能一一。

【五季之酷】151 ゴキノコク 五代の烈しい慘禍。五季を見よ。〔李格非、書二洛陽名園記後一文〕及二其亂離一、繼以二五季之酷一。

【五紀】152 キゴ ㊀歲時を正す五つのもの。卽ち、歲・月・日・星・曆數。〔書、洪範〕次四曰、協用二五紀一、五紀、一曰歲、二曰月、三曰日、四曰星辰、五曰曆數。〔傳〕和二天時一、使レ得レ正、用二五紀一。〔莊子、盜跖〕五紀六位、將何以爲レ別乎。〔周必大、謝レ賜二曆日一表〕大法協二於五紀一。〔小學紺珠、天道類、五紀〕歲・日・月・星辰・曆數。㊁六十年をいふ。一紀は十二年。〔南齊書、高帝紀論〕宋氏正レ位八君、卜レ年五紀。〔蘇軾、蘇州閭丘江君二家雨中飲レ酒詩〕五紀歸來鬢未レ霜、十眉環列坐生レ光。

【五紀曆】153 ゴキレキ 唐の代宗の寶應元年に出來た曆。我が國では文德天皇の天安元年から暫くの閒行はれた。〔唐書、曆志五〕寶應元年六月望戊夜、月蝕二三之一、官曆加レ時、在二日出後一、有レ交不レ署レ蝕、代宗以三至德曆不二與レ天合一、詔二司天臺官屬郭獻之等一、復用二麟德元紀一、更立二歲差一、增二損遲疾交會及五星差數一、以寫二大衍舊術一、上元七曜、起二赤道虛四度一、帝爲製レ序、題曰二五紀曆一。

【五紀論】154 ゴキロン 書名。漢、劉向著。〔漢書、律曆志上〕劉向總二六曆一、列二是非一、作二五紀論一。

【五氣】155 キゴ ㊀五臟から出る五種の氣。心氣・肝氣・脾氣・肺氣・腎氣。〔周禮、天官、疾醫〕以二五氣・五聲・五色一、眡二其死生一。〔注〕五氣、五臟所レ出之氣也。〔小學紺珠、人事類、五氣〕肺氣熱、心氣次レ之、肝氣涼、脾氣溫、腎氣寒。㊁天地の五種の氣。㋑五行の氣。〔史記、五帝紀〕軒轅乃修レ德振レ兵治二五氣一。〔注〕集解曰、王肅曰、五行之氣。〔周敦頤、太極圖說〕陽變陰合、而生二水火木金土一、五氣順布、四時行焉。〔小學紺珠、律歷類、五氣〕火・水・木・金・土。㋺寒・暑・燥・濕・風。〔素問、陰陽應象大論〕天有二四時五行一、以生長收藏、以生二寒・暑・燥・濕・風一、人有二五藏一、化二五氣一、以生二喜・怒・悲・憂・恐一。㋩溫・涼・寒・燥・濕。〔小學紺珠、律歷類、五氣〕溫・涼・寒・燥・濕。㊂五種の感情。喜・怒・欲・懼・憂。〔逸周書、官人解〕民有二五氣一、喜・怒・欲・懼・憂。

【五起】156 キゴ ㊀內から發して漸次外に及び、近い所から發して遠くに及ぶ、五つの順序。〔禮、孔子閒居〕君子之服レ之也、猶有二五起一焉、子夏曰、何如、孔子曰、無聲之樂、氣志不レ違、無體之禮、威儀遲遲、無服之喪、內恕孔悲、無聲之樂、氣志既得、無體之禮、威儀翼翼、無服之喪、施及二四國一、無聲之樂、氣志既從、無體之禮、上下和同、無服之喪、以畜二萬邦一、無聲之樂、日聞二四方一、無體之禮、日就月將、無服之喪、純德孔明、無聲之樂、氣志既起、無體之禮、施及二四海一、無服之喪、施二于孫子一。〔孫希旦集解〕起、猶レ發也、言、君子行二此三無一、由レ內以發二於外一、由レ近以及二於遠一、其次

第有レ五也。㊂五たび起つ。〔漢書、賈誼傳〕豫讓事二中行之君一、智伯伐而滅レ之、移事二智伯一、及三趙滅二智伯一、豫讓釁レ面吞レ炭、必レ報二襄子一、五起而不レ中。

【五鬼】157 キゴ ㊀五種の窮鬼。智窮・學窮・文窮・命窮・交窮。〔韓愈、送窮文〕凡所三以使二吾面目可レ憎、語言無レ味者、皆子之志也、其名曰二智窮一、矯矯亢亢、惡レ圓喜レ方、羞レ爲二姦欺一、不レ忍二害傷一、其次名曰二學窮一、傲二數與レ名、摘二抉杳微一、高挹二羣言一、執二神之機一、又其次曰二文窮一、不レ專二一能一、怪怪奇奇、不レ可二時施一、秖以自嬉、又其次曰二命窮一、影與レ形殊、面醜心妍、利レ居二衆後一、責レ在二人先一、又其次曰二交窮一、磨肌戛骨、吐二出心肝一、企レ足以待、寘二我讎冤一、凡此五鬼、爲二吾五患一。㊁五人の姦臣。㋑南唐の馮延己・魏岑・馮延魯・陳覺・査文徽。〔五代史、南唐李景世家〕李景以二馮延己・常夢錫一爲二翰林學士一、馮延魯爲二中書舍人一、陳覺爲二樞密使一、魏岑・査文徽爲二副使一、夢錫直二宣政殿一、專掌二密命一、而延己等皆以二邪佞一用レ事、吳人謂二之五鬼一。〔九國志〕南唐李璟卽レ位、馮延己結二魏岑一、侵二損時政一、與二其弟延魯及陳覺・査文徽等一、更相推唱、時人謂二之五鬼一。㋺宋の王欽若・丁謂・林特・陳彭年・劉承珪。〔宋史、王欽若傳〕仁宗嘗謂二輔臣一曰、欽若久在二政府一、觀二其所レ爲、眞姦邪也、王曾對曰、欽若與二丁謂・林特・陳彭年・劉承珪一、時謂二之五鬼一、姦邪險僞、誠如二聖諭一。㊂叢辰の名。鬼宿の第五星に象つて名づける。子の年に辰にあり、十二辰を逆行する。〔協紀辨方書、義例一、五鬼〕曆例曰、子年在レ辰、逆二行十二辰一、曹震圭曰、辰與レ子水之精、丑與レ卯木之精、未與レ酉金之精、午與レ戌火之精、寅申巳亥土之精、謂レ王、能生二育萬物一、四孟爲二五行長生之辰一也、故子年在レ辰、逆行自然相合也。

㊂ 五鬼
(協紀辨方書)

【五鬼絕命】158 wu² kuei³ chüeh² ming⁴ 結婚せんとする時の占卦で、最も凶惡な占の名。五匹の鬼が運命を絕ち切る意。

【五鬼鬧宅】159 wu² kuei³ nao⁴ chai² 一家内に凶事の絕えぬこと。家にけちのつくこと。

【五鬼鬧判】160 ゴキダウハン 崑劇の題名。大勢の鬼が判官をからかふことをいふ。上に在るものが群小に弄ばれて失敗する喩。〔梨園佳話〕何桂山本崑曲能手、其鍾馗嫁妹・五鬼鬧判等戲、爲二都人所一レ嗜、其扮二火判一、口中時時吐レ燄、旋吐旋歌、兩用備二於一官一、而五鬼環弄、場式極多、或連繞如二環之無一レ端、或分集如二鴉之隨一レ鳳、目動則此跌、指出則彼翻、雖二極忙迫一、而好整以レ暇。

【五鬼分屍】161 wu² kuei³ fen¹ shih¹ 惡辣極まる人。又、其の行爲。

【五鬼般運法】162 ゴキハンウンハフ 術士が狐鬼を使つて得難いものを持つて來させる法。〔閱微草堂筆記〕爾之般運五鬼法也、爾之辟兵鐵布衫也、爾之飛躍鹿盧蹻也、名曰二道流一、皆妖人耳。

【五期】163 キゴ 五年。〔晉書、夏侯湛傳〕鳳棲五期、龍蟠六年。

【五貴】164 キゴ 隋の蘇威・宇文述・裴矩・裴蘊・虞世基の併稱。〔隋書、蘇威傳〕復爲二納言一、與二左翊衞大將軍宇文述・黃門侍郎裴矩・御史大夫裴蘊・內史侍郎虞世基一、參二掌朝政一、時人稱爲二五貴一。

【五旗】165 キゴ ㊀天子の車駕に建てる五色の旗。〔漢書、揚雄傳上〕鳴二洪鐘一、建二五旗一。〔注〕師古曰、漢舊儀云、皇帝車駕、建二五旗一、蓋謂二五色之旗一也。〔晉書、輿服志〕天子親戎、五旗舒レ旆、所謂武車綏旌者也。㊁五方に建てる五つのはた。旗(東)・典(西)・獵(南)・旂(北)・常(中央)。〔小學紺珠、制度類、五旗〕東曰レ旗、西曰レ典、南曰レ獵、北曰レ旂、中央曰レ常。

【五棊】166 キゴ 目・耳・口・鼻・心の五つが極める情欲。棊は極。〔荀子、王霸〕夫人之情、目欲レ棊レ色、耳欲レ棊レ聲、口欲レ棊レ味、鼻欲レ棊レ臭、心欲レ棊レ佚、此五棊者、人情之所二必不一レ免也。〔注〕棊、極也。〔小學紺珠、人事類、五棊〕目欲レ棊レ色、耳欲レ棊レ聲、口欲レ棊レ味、鼻欲レ棊レ臭、心欲レ棊レ佚。

【五畿】167 キゴ 畿內の五つの國。我が國の山城・大和・河內・和泉・攝津の五國を總稱していふ。五畿七道を見よ。

【五畿七道】168 ゴキシチダウ 我が國の、畿內五箇國と東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海の七道。〔宋史、日本國傳〕五畿七道三島。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕五畿七道四海之外、苟有レ目者、無レ不二覩而識一レ之。

【五麾】169 キゴ 五方の色に象つた五つの旗。卽ち青旗(東)・赤旗(南)・黃旗(中央)・白旗(西)・黑旗(北)。〔穀梁、莊、二十五〕天子救レ日置二五麾一、陳二五兵五鼓一。〔注〕麾、旌幡也。〔疏〕五麾者、麾信云、各以二方色之旌一置二之五處一也。

【五器】170 キゴ 諸侯が天子に見える時に執る五玉。一說に、五禮の器ともいふ。〔書、舜典〕修二五禮、五玉・三帛・二生・一死贄、如二五器一、卒乃復。〔傳〕器、謂二圭璧一、如二五器一、禮終則還レ之、三帛生死則否。〔蔡傳〕五器、卽五禮之器也。〔史記、五帝紀〕爲レ摯、如二五器一、卒乃復。〔注〕集解曰、馬融曰、五器、上二五玉一、五玉禮終則還レ之、三帛已下不レ還也。

【五器所】171 ソゴキ 尾張國の地名。〔日用重寶記、「二」〕。

【五徽】172 キゴ 清、陶之典(**11－41705**・・193)の字。

【五技】173 ギゴ むささびの五つのわざ。能く飛ぶも屋に上れない、能く游ぐも谷を渡れない、能く攀ぢ上るも木の頂にのぼれない、能く走るも人に先んずることが出來ない、能く穴するも身を覆ふことが出來ない。又、種々のわざ。五技鼠を見よ。〔詩、魏風、碩鼠、疏〕許愼云、碩鼠五技、能飛不レ能レ上レ屋、能游不レ能レ渡レ谷、能緣不レ能レ窮レ木、能走不レ能レ先レ人、能穴不レ能レ覆レ身、此謂二之五技一。〔荀子、勸學〕螣蛇無レ足而飛、梧鼠五技而窮。

【五技鼠】174 ソギゴ 獸の名。をかつぎ。むささび。鼫鼠。五技を見よ。〔說文〕鼫、五技鼠也、能飛不レ能レ過レ屋、能緣不レ能レ窮レ木、能游不レ能レ渡レ谷、能穴不レ能レ掩レ身、能走不レ能レ先レ人、此之謂二五技一。〔詩、魏風、碩鼠、疏〕釋獸、于二鼠屬一有二鼫鼠一、孫炎曰、五技鼠。

【五義】175 ギゴ 五つの道。㊀父義・母慈・兄友・弟恭・子孝。〔國語、周語中〕五義紀レ宜。〔注〕五義、謂二父義・母慈・兄友・弟恭・子孝一也。㊁諫の五義。五諫(143)を見よ。㋑譎諫・戇諫・降諫・直諫・諷諫。〔小學紺珠、性理類、諫五義〕。㋺諷諫・順諫・闚諫・指諫・諂諫。〔小學紺珠、性理類、諫五義〕。

【五儀】176 ギゴ ㊀公・侯・伯・子・男の五等爵の儀容。〔周禮、春官、典命〕掌二諸侯之五儀一。〔注〕五儀、公・侯・伯・子・男之儀。㊁五等の人品。㋑庸人・士・君子・賢人・大聖。〔荀子、哀公〕人有二五儀一、有二庸人一、有レ士、有二君子一、有二賢人一、有二大聖一。〔孔子家語、五儀解〕孔子曰、人有二五儀一、有二庸人一、有二士人一、有二君子一、有二賢人一、有二聖人一。〔小學紺珠、人倫類、五儀〕庸人・士人・君子・賢人・聖人。㋺秀士・選士・俊士・造士・進士。〔禮、王制〕命レ鄕論二秀士一、升二之司徒一、曰二選士一、司徒論二選士之秀者一而升二之學一、曰二俊士一、升二於司徒一者不レ征二於鄕一、升二於學一者不レ征二於司徒一、曰二造士一云云、大樂正論二造士之秀者一、以告二于王一而升二諸司馬一、曰二進士一。〔小學紺珠、人倫類、五儀〕秀士・選士・俊士・造士・進士。

【五儀解】177 カイゴギ 孔子家語の篇名。

【五畜】178 ゴキク 五種の家畜。〔漢書、地理志下〕民有二五畜一。㊀牛・羊・豕・雞・犬。〔素問、藏氣法時論〕五畜爲レ益。〔注〕謂二牛・羊・豕・犬・鷄一也。㊁馬・牛・羊・猪・狗。〔雲笈七籤〕五畜肉者、馬・牛・羊・猪・狗也。

【五鳩】179 キウゴ ㊀少昊の時の官名。祝鳩・鴡鳩・鳲鳩・爽鳩・鶻鳩。〔左氏、昭、十七〕祝鳩氏司徒也、鴡鳩氏司馬也、鳲鳩氏司空也、爽鳩氏司寇也、鶻鳩氏司事也、五鳩鳩レ民者也。㊁複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕五鳩氏、少昊氏官名、因氏焉、趙有二將軍五鳩盧一。〔姓源〕少昊氏、以二五鳩一爲二鳩民之官一、其後以レ官爲レ氏。

【五牛】180 ギウゴ 五頭の牛。〔沈炯、爲二王僧辯等一勸二進梁元帝一第三表〕解二五牛于冀州一、秣二六馬于譙郡一。〔許敬宗、奉三和宴二中山一應制詩〕養レ賢停二八駿一、觀レ風駐二五牛一。

【五牛旗】181 キゴギウ 晉代、車に五牛を設け、夫々に建てた青・赤・黃・白・黑の旗をいふ。古の五時の副車。〔晉書、輿服志〕五牛旗、平レ吳後所レ造、以二五牛一建レ旗、車設二五牛一、青赤在レ左、黃在レ中、白黑在レ右。〔隋書、禮儀志五〕五牛旗、左青赤、右白黑、黃居二其中一、蓋古之五時副車也、云云、晉過レ江、不二恆有一レ事、則權以二馬車一代レ之、

建二旗其上一、後且以二五色木牛象車一、豎二旗於牛背一、使二人輿一レ之。

【五京】182 ゴキャウ 五つの京師。五つの都。㊀遼の五京。上京(臨潢府を皇都とす)・東京(遼陽府)・中京(大定府)・燕京(折津府)・西京(大同府)をいふ。〔遼史、地理志一〕太宗以二皇都一爲二上京一、升二幽州一爲二南京一、改二南京一爲二東京一、聖宗城二中京一、興宗升二雲州一爲二西京一、於レ是五京備焉、上京道、上京、臨潢府、云云、東京道、東京、遼陽府、云云、中京道、中京、大定府、云云、南京道、南京、折津府、云云、西京道、西京、大同府。㊁金の五京。上京(會寧府)・北京(臨潢府)・南京(遼陽府)・中京(大定府)・西京(大同府)をいふ。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、金〕史略、金人以二會寧府一爲二中京一、臨潢府爲二北京一、遼陽府爲二南京一、大定府爲二中京一、大同府爲二西京一、是爲二五京一。㊂唐時の渤海の五京。上京(龍泉府)・東京(龍原府)・西京(鴨綠府)・中京(顯德府)・南京(南海府)。〔金史、世紀〕李勣破二高麗粟末靺鞨一保二東牟山一、後爲二渤海一、稱レ王傳二十餘世一、有二文字禮樂官府制度一、有二五京十五府六十二州一。〔文獻通考、四裔考、渤海〕地有二五京十五府六十二州一、以二肅愼故地一爲二上京一、曰二龍泉府一、領二龍湖渤三州一、其南爲二中京一、曰二顯德府一、領二盧顯鐵湯榮興六州一、濊貊故地爲二東京一、曰二龍原府一、亦曰二柵城府一、領二慶鹽穆賀四州一、沃沮故地爲二南京一、曰二南海府一、領二沃晴椒三州一、高麗故地爲二西京一、曰二鴨淥府一、領二神柏豐正四州一。〔酒賢、宮詞〕一春多病慵二梳洗一、怕レ説鸞輿幸二五京一。

【五鄕】183 ゴキャウ 五つの鄕。齊の管仲の定めた制。十連を鄕といひ、一鄕は二千家から成り、五鄕に一帥を置いて之を統べる。五家(64)の㊀の㋺を見よ。〔國語、齊語〕管子於レ是制レ國、以爲二二十一鄕一、工商之鄕六、士農之鄕十五、公帥二五鄕一焉、國子帥二五鄕一焉、高子帥二五鄕一焉。〔管子、小匡〕桓公曰、善、於レ是乎、管子乃制二五家一以爲レ軌、云云、故二百人爲レ卒、連長率レ之、十連爲レ鄕、故二千人爲レ旅、鄕良人率レ之、五鄕一帥、故萬人一軍、五鄕之帥率レ之。

【五境】184 ゴキャウ 佛眼・耳・鼻・舌・身の五識のはたらきが對象とする五つのもの。卽ち、色・聲・香・味・觸。五根(377)の㊁の㋺を見よ。

【五虐】185 ゴギャク 五虐刑を見よ。

【五虐刑】186 ゴギャクケイ 苗族の始祖である蚩尤の作つた五等の酷刑。劓(鼻を斬る刑)・刵(耳を斬る刑)・宮(陰部を取り去る刑)・黥(面に入れ墨する刑)・殺戮(慘殺の刑)。〔書、呂刑〕苗民弗レ用レ靈、制以レ刑、惟作二五虐之刑一曰レ法、殺二戮無辜一、爰始淫爲二劓刵椓黥一。〔傳〕爲下截二人耳鼻一、椓レ陰、黥上レ面、以加二無辜一、故曰二五虐一。〔唐律、名例、杖刑、釋文〕蚩尤、古之諸侯也、然其性酷毒、故作二五虐之刑一。

【五逆】187 ゴギャク ㊀君・父・母・祖父・祖母を弑すること。又、其の人。〔易林〕雷霆所二擊誅一者、五逆磨滅無レ迹。〔雲笈七籤〕凡人求レ道、勿レ犯二五逆六不祥一。㊁佛無間地獄に落ちるべき五つの大惡行。五無間業。父を殺す、母を殺す、阿羅漢を殺す、和合僧を離間する(衆僧の和合して佛道を修めるを妨害する)、佛の身を傷つけて血を出す。〔觀無量壽經〕五逆十惡、具二諸不善一。〔俱舍論、十七〕言二無間業一者、謂二五無間業一、其五者何、一者害レ母、二者害レ父、三者害二阿羅漢一、四者破二和合僧一、五者惡心出二佛身血一。

【五虛】188 ゴキョ ㊀病の五つの狀態。脈が細い、皮膚が冷える、元氣がない、もどしたり下痢したりする、飮食物が通らない。虛とは元氣の足りない意。〔素問、玉機眞藏論〕脈細、皮寒、氣少、泄二利前後一、飮食不レ入、此爲二五虛一。〔注〕虛、謂二眞氣不一レ足也。㊁居宅に於ける五つのわるいこと。家が大きくて人が少い、門が大きくて家が小さい、墻院が完全でない、井竈が虛しくない、宅地が多く庭が廣くて家屋が小さい。〔宅經〕宅有二五虛一、令二人貧耗一、五實令二人富貴一、宅大人少一虛、宅門大內小二虛、墻院不レ完三虛、井竈不レ處四虛、宅地多屋少庭院廣五虛、宅少人多一實、宅大門小二實、墻院完全三實、宅小六畜多四實、宅水溝東南流五實。

【五御】189 ゴギョ 五馭に同じ。〔周禮、地官、保氏、五馭、釋文〕馭、音御。〔駢雅、釋器〕五御、一鳴和鸞、二逐水曲、三過君表、四舞交衢、五逐禽左。

【五馭】190 ゴギョ 馬を使ふ五つの法。鳴和鸞・逐水曲・過君表・舞交衢・逐禽左。〔周禮、地官、保氏〕四曰、五馭。〔注〕五馭、鳴和鸞・逐水曲・過君表・舞交衢・逐禽左。〔疏〕云レ鳴二和鸞一者、和在レ式、鸞在レ衡、案韓詩云、升レ車則馬動、馬動則鸞鳴、鸞鳴則和應、先鄭依レ此而言、云レ逐二水曲一者、無二正文一、先鄭以レ意而言、謂下御レ車隨二逐水勢之屈曲一、而不上レ墜レ水也、云レ過二君表一者、謂レ若下毛詩傳云中褐纏旃以爲レ門、裘纏質以爲レ染、閒容握驅而入、擊則不上レ得レ入、君表則褐纏旃是也、云云、云レ舞二交衢一者、衢、道也、謂下御レ車在二交道一、車旋應中於舞節上、云レ逐二禽左一者、謂下御二驅逆之車一、逆驅二禽獸一、使中左當二人君一以射上レ之也。〔郭璞、爾雅圖讚、釋畜、馬〕十閑六種、各有二名類一、三才五馭、駑駿異レ轡。〔張說、唐元城府左果毅贈郎將葛公碑〕五馭善二於東野一、六射勁二於西霜一。

【五供】191 ゴキョウ 後漢の時、南郊の禮が畢つてから、北郊・明堂・高廟・世祖廟に祭物を供へて祭ることをいふ。〔後漢書、禮儀志上〕正月上丁、祠二南郊一、禮畢、次二北郊・明堂・高廟・世祖廟一、謂二之五供一。〔獨斷〕五月上丁、祠二南郊一、禮畢、次二北郊・明堂・高廟・世祖廟一、謂二之五供一。

【五供養】192 ゴクヤウ 佛五種の供養物。塗香・華鬘・燒香・飮食・燈明。〔遵生八牋〕成窰上品、無レ過二五彩葡萄甓一、口匾肚肥一、杯式較二宣杯一妙甚、次若二草蟲可口子母勸杯、人物蓮子酒盞、五供養淺盞、草蟲小琖一。

【五供托兒】193 wu^2 kung^4 t'uo^1 êrh 祭具を容れる盆の如きもの。

【五曲】194 ゴキョク ㊀琴の遊春・淥水・坐愁・秋思・幽居の五つの曲。〔嵇康、琴賦〕下逮二謠俗蔡氏五曲一。〔琴書〕蔡邕雅好レ琴、熹平初、入二青溪一、訪二鬼谷先生所レ居山一、有二五曲一、一曲製二一弄一、東曲作二遊春一、南曲作二淥水一、中曲作二幽居一、北曲作二坐愁一、西曲作二秋思一、三年曲成、出示二馬融一、甚異レ之。〔小學紺珠、藝文類、五曲〕遊春・淥水・坐愁・秋思・幽居。㊁五まがり。〔梁簡文帝、七勵〕經二九嶠之敻阻一、歷二五曲之巑危一。㊂琵琶の流泉・啄木・揚眞操・上玄・石象の五つの曲。

【五極】195 ゴキョク ㊀五つの至德。仁・義・禮・智・信。〔書、呂刑〕哲人惟刑、無疆之辭、屬二于五極一咸中一。〔傳〕以其折レ獄屬二五常之中正一、皆中有レ善。㊁五種の刑。五刑(263)に同じ。〔書、呂刑、蔡傳〕五極、五刑也。

【五玉】196 ゴギョク ㊀公・侯・伯・子・男の五等諸侯が天子に見える時に執る五つの玉瑞。五瑞(676)に同じ。〔書、舜典〕五玉・三帛・二生・一死贄。〔傳〕五等諸侯執二其玉一。〔南齊書、樂志〕五玉既獻、三帛是薦、爾公爾侯、鳴二玉華殿一。㊁五色の玉。〔王融、淨行頌〕五玉已潤、談而信、八桂雖レ芳、風乃掃。㋑蒼玉・赤玉・黃玉・白玉・玄玉。〔禮、月令〕衣二青衣一、服二蒼玉一、云云、衣二朱衣一、服二赤玉一、云云、衣二黃衣一、服二黃玉一、云云、衣二白衣一、服二白玉一、云云、衣二黑衣一、服二玄玉一。〔小學紺珠、制度類、五玉〕春服二蒼玉一、夏服二赤玉一、季夏服二黃玉一、秋服二白玉一、冬服二玄玉一。㋺弘璧・琬琰・大玉・夷玉・天球。〔書、顧命〕越玉五重、陳レ寶、赤刀・大訓・弘璧・琬琰、在二西序一、大玉・夷玉・天球・河圖、在二東序一。〔小學紺珠、制度類、五玉〕弘璧・琬琰・大玉・夷玉・天球。

【五均】197 ゴキン ㊀五聲の調律器。均とは五聲の音律を調へる意。〔張衡、思玄賦〕考二治亂於律均一兮、注〕善曰、樂汁圖徵曰、聖人往承二天助一、以立二五均一、均者、亦律調五聲之均也。㊁市場に於て物價の公平を保持させる方法。五均官を見よ。〔逸周書、大聚解〕市有二五均一、早暮如レ一、送レ行逆レ來、振レ乏救レ窮。

【五均官】198 ゴキンクワン 漢の王莽の設けた官名。市場に置いて物價の公平を保持することを掌らしめたもの。五均の㊁を見よ。〔漢書、食貨志下〕莽乃下レ詔曰、夫周禮有二賖貸一、樂語有二五均一、傳記各有レ斡焉、今開二賖貸一、張二五均一、設二諸斡一者、所下以齊二衆庶一、抑中幷兼上也、遂於二長安及五都一、立二五均官一。〔注〕鄧展曰、樂語・樂元語、河閒獻王所レ傳、道二五均事一、臣瓚曰、其文云、天子取二諸侯之士一、以立二五均一、則市無二二賈一、四民常均、強者不レ得レ困レ弱、富者不レ得レ要レ貧、則公家有レ餘、恩及二小民一矣。〔大學衍義補、制二國用一、市糴之令〕樂語、河閒獻王所レ傳、道二五均事一、言下天子取二諸侯之書一以立二五均一、則市無二二價一、四民常

均上此王莽五均之說、所ニ自出一也、莽借ニ古人良法一以罔ニ市利一、無ニ足ㇾ道者一、姑錄ㇾ之以示ニ世戒一。

【五金】199 ゴキン ❶金・銀・銅・鐵・錫の五種のかね。一說に、錫を鉛に代へる。〔參同契分章、注〕陰陽之始元、含ニ黃芽一、五金之主、北方河車、故鉛外內黑、懷ニ金華一。〔吳越春秋、闔閭內傳〕越王元常使ニ歐治子造ニ劍五枚一、云云、一名湛盧、五金之英、太陽之精、寄ㇾ氣託ㇾ靈、出ㇾ之有ㇾ神、服ㇾ之有ㇾ威、可ニ以折ㇾ衝拒ㇾ敵。〔漢書、食貨志上、注〕金謂ニ五色之金一也、黃者曰ㇾ金、白者曰ㇾ銀、赤者曰ㇾ銅、青者曰ㇾ鉛、黑者曰ㇾ鐵。〔元學正宗〕抱ニ天一之質一、而爲ニ五金之首一者、黑鉛也。〔崔伯易、感山賦〕貴賤有ㇾ差、六器五輅之資、民得而無ㇾ所ㇾ用、興造不妄、五金六材之屬、民用而無ㇾ所ㇾ傷。❷錢の名。文に五金とある。〔泉志〕五金錢、徐氏曰、文曰ニ五金一。

【五金奎】200 wu³ chin¹ k'uei² 拳鬬の句（五の數を稱す）。又、其の掛け聲。五經魁と音が通ずる。

【五金礦產】201 wu³ chin¹ k'uang⁴ ch'an³ 各種の鑛產物の總稱。

【五禁】202 ゴキン 五つの禁止すべき事、又は誡令。❶㋑周官士師の五禁。宮禁（王宮の禁令）・官禁（官廳の禁令）・國禁（城中の禁令）・野禁（郊野の禁令）・軍禁（軍旅の禁令）。〔周禮、秋官、士師〕士師之職、掌ニ國之五禁之灋一、以左ニ右刑罰一、一曰宮禁、二曰官禁、三曰國禁、四曰野禁、五曰軍禁、皆以ニ木鐸一徇ニ之于朝一、書而縣ニ于門閭一。〔疏〕凡設ニ五刑一者、刑期ニ于無ㇾ刑、於ニ刑外一豫設ㇾ禁、禁ㇾ民使ニ不ㇾ犯ニ於刑一、是左右助ニ刑罰一、無ㇾ使ニ罪麗ニ于民一也。〔後漢書、應奉傳〕母后之重、興廢所ㇾ因、宜下思ニ關雎之所ㇾ求、遠中五禁之所上ㇾ忌。㋺齊の桓公の五禁。一、不孝は誅し、世子を易へてはならぬ、妾を以て妻としてはならぬ。二、賢を尊び才を養ひ、有德を彰す。三、老を敬ひ幼を慈み、賓旅を忘れてはならぬ。四、士は官を世襲してはならぬ、官事は兼ねてはならぬ、士を取れば必ず其の人を得よ、勝手に大夫を殺してはならぬ。五、堤防を曲げて作つてはならぬ、糴を遏めてはならぬ、封じて告げないことがあつてはならぬ。〔孟子、告子下〕五霸、桓公爲ㇾ盛、葵丘之會、諸侯束ㇾ牲、載ㇾ書而不ㇾ歃ㇾ血、初命曰、誅ニ不孝一、無ㇾ易ニ樹子一、無ニ以ㇾ妾爲ㇾ妻、再命曰、尊ㇾ賢育ㇾ才、以彰ニ有德一、三命曰、敬ㇾ老慈ㇾ幼、無ㇾ忘ニ賓旅一、四命曰、士無ㇾ世官、官事無ㇾ攝、取ㇾ士必得、無ニ專殺ニ大夫一、五命曰、無ㇾ曲ㇾ防、無ㇾ遏ㇾ糴、無ニ有ㇾ封而不ㇾ告、曰、凡我同盟之人、既盟之後、言歸ニ于好一、今之諸侯、皆犯ニ此五禁一。❷治病上、多食を禁止する五つの味。辛・鹹・苦・甘・酸。〔素問、宣明五氣論〕五味所ㇾ禁、辛走ㇾ氣、氣病無ニ多食ㇾ辛、鹹走ㇾ血、血病無ニ多食ㇾ鹹、苦走ㇾ骨、骨病無ニ多食ㇾ苦、甘走ㇾ肉、肉病無ニ多食ㇾ甘、酸走ㇾ筋、筋病無ニ多食ㇾ酸、是謂ニ五禁一。❸佛 不殺生・不偸盜・不邪淫・不妄語・不飮酒の五戒。〔南海寄歸傳、一〕若泛爲ニ俗侶一、但略言ニ其五禁一、局ニ提法衆一、遂廣彰ニ於七篇一。

【五禽】203 ゴキン ❶五種のとり。鶴・孔雀・鸚鵡・白鷴・鷺鷥。〔郭若虛、圖畫見聞誌〕李文正、嘗於ニ私第之後園一、育ニ五禽一、皆以ニ客名一命、寫爲ㇾ圖、鶴曰ニ仙客一、孔雀曰ニ南客一、鸚鵡曰ニ隴客一、白鷴曰ニ閑客一、鷺鷥曰ニ雪客一。❷一種の養生法。五禽戲を見よ。

【五禽戲】204 ゴキンギ 虎・鹿・熊・猨・鳥の五種の禽獸の眞似をして、血液の循環をよくする養生法。〔後漢書、方術下、華佗傳〕古之仙者、爲ニ導引之事一、熊經鴟顧、引ニ挽腰體一、動ニ諸關節一、以求ㇾ難老、吾有ニ一術一、名ニ五禽之戲一、一曰虎、二曰鹿、三曰熊、四曰猨、五曰鳥、亦以除ㇾ疾、兼利ニ蹏足一、以當ニ導引一。〔柳宗元、過ニ盧少尹郊居一詩〕閒道偏爲ニ五禽戲一、出ㇾ門鷗鳥更相親。〔陸龜蒙、烏龍養和詩〕所ニ以親ニ逋客一、兼能助ニ五禽一。〔陸游、春晚詩〕啄呑自笑如ニ孤鶴一、導引何妨ㇾ效ニ五禽一。

【五禽言】205 ゴキンゲン 宋の蘇軾が五つの鳥の鳴き聲に因つて作つた文章の名。五つの鳥の鳴き聲は、一、蘄州鬼、二、脫却布袴、三、麥飯熟卽快活、四、蠶絲一百箔、五、姑惡。〔蘇軾、五禽言序〕梅聖兪作ニ四禽言一、余謫ニ黃州一、寓ニ居定慧院一、云云、春夏之交、鳥鳴百族、土人多以ニ其聲之似者一名ㇾ之、遂用ニ聖兪體一作ニ五禽言一。

【五苦】206 クゴ ❶五つの苦味ニガミ。〔漢書、藝文志〕辨ニ五苦・六辛一、致ニ水火之齊一、以通ㇾ閉解ㇾ結、反ニ之於平一。〔葛長庚、紫元賦〕浥ニ紫陽之甘露一兮、灑ニ五苦之夜魂一。❷佛 五つのくるしみ。㋑一、生老病苦、二、愛別離苦、三、怨憎會苦、四、求不得苦、五、五陰盛苦。〔折玄記、三藏法數、二十四〕。㋺生苦・老苦・病苦・死苦・犯罪枷鎖苦。〔五苦章句章、三藏法數、二十二〕。㋩地獄等の五道の苦。〔觀經妙宗鈔、一〕。㋥人間界の八苦の中、生苦・老苦・病苦・死苦・愛別離苦の稱。〔觀無量壽經〕濁惡不善、五苦所ㇾ迫。㋭天道・人道・餓鬼道・畜生道・地獄道の五道の苦。〔觀經妙宗鈔、一〕五苦者、此方五道、俱不ㇾ免ㇾ苦、天道縱樂、還墮ニ惡趣一故。

【五衢】207 クゴ ❶五方に通ずる大路。〔管子、重令〕示ニ民邪途五衢一。〔管子、輕重丁〕五衢之民、皆多衣ㇾ帛完ㇾ屨。〔權德輿、放歌行〕雙闕煙雲遙靄靄、五衢車馬亂紛紛。〔崔峒、送ニ張芬東歸一詩〕喧喧五衢上、鞍馬自驅馳。❷枝が五出して入り雜つてゐること。〔山海經、中山經〕少室之山、其上有ㇾ木焉、其名曰ニ帝休一、葉狀如ㇾ楊、其枝五衢、黃華黑實、服者不ㇾ怒。〔注〕言ニ樹枝交錯相重五出、有ㇾ象ニ衢路一也。〔梁簡文帝、湘宮寺碑〕四照吐ㇾ芬、五衢異ㇾ色。

【五偶】208 ゴグウ 五對の農夫をいふ。〔說苑、敬愼〕三偶則式、五偶則下。

【五果】209 ゴクワ 五種のくだもの。〔魏志、鄭渾傳〕轉爲ニ山陽魏郡太守一、郡下百姓、苦ㇾ乏ニ材木一、乃課ニ民樹ㇾ楡爲ㇾ籬、並益樹ニ五果一、楡皆成ㇾ藩、五果豐實。❶桃・李・杏・栗・棗。〔素問、藏氣法時論〕五穀爲ㇾ養、五果爲ㇾ助。〔注〕桃・李・杏・栗・棗也。〔小學紺珠、動植類、五果〕桃・李・杏・栗・棗。❷性狀から區別した五種の果物。核果（棗の類）・膚果（梨の類）・殼果（椰子の類）・檜果（松子の類）・角果（大小豆の類）。〔蜀都雜鈔〕梵文敍ㇾ果有ㇾ五、棗杏等、謂ニ之核果一、梨柰等、謂ニ之膚果一、椰子・胡桃等、謂ニ之殼果一、松子・柏仁等、謂ニ之檜果一、大小豆等、謂ニ之角果一、核、殼易ㇾ解也、膚、皮膚可ㇾ啖也、角、華言亦稱ニ豆角一、惟檜頗奧、案ニ字書一、麤糠皮、謂ニ之檜一。

【五花】210 ゴクワ ❶五花樹の花。〔宋書、禮志五〕平乘舫、皆平ニ兩頭一作ニ露平形一、不ㇾ得ニ擬ニ像龍舟一、悉不ㇾ得ニ朱油帳鞲一、不ㇾ得ㇾ作ニ五花及豎筍形一。〔王勃、七夕賦〕羅帳五花懸、珉砌百枝然。〔崔日用、奉ニ和聖製龍池篇一詩〕岸上菲茸五花樹、波中的皪千金珠。〔楊維楨、驚枕詞〕五花寶簟芙蓉屛、銅盤雪粉香淺淸。〔戴表元、招ニ子昂一飮歌〕至ㇾ今俊筆五花紋、最惜靑眸十步下。❷五花馬・五花驄を見よ。〔剪燈餘話〕歸時自控ニ五花虬一。❸木の名。五加(56)の❶に同じ。〔本草、五加〕釋名、五佳、五花。❹軍陣の名。五行陣(84)に同じ。五花八門を見よ。〔張憲、題ニ黑神廟一詩〕五花營千里馬。❺城の名。河北省臨榆縣の西南。〔明一統志〕五花城、在ニ永平府山海衞治西南一、其城連ニ環五座一、故名、相傳、唐太宗征ニ遼東一時所ㇾ築。❻峯の名。〔明一統志〕五花峯、在ニ饒州府浮梁縣東八十里一、有ニ五峯一、亦名ニ蓮花峯一。❼洲の名。廣西省邕寧縣の東。〔明一統志〕五花洲、在ニ南寧府城東一、宋有ニ聶安撫者一、築ニ亭於上扁一、曰ニ南洲壯觀一、又有ニ繁陰亭・梅亭・愛蓮亭・熙春堂一。❽泉の名。山西省永和縣城內。〔明一統志〕五花泉、在ニ平陽府永和縣城內一。❾樓の名。雲南省大理縣城內。〔明一統志〕在ニ大理府治一、西唐大中十年、南詔券豐祐所ㇾ建、以會ニ西南夷十六國一。❿山名。五華(219)の❶の㋑を見よ。

【五花館】211 ゴクワクワン 荊南（湖北省江陵縣）城內に在つた旅館の名。〔南部新書〕荊南城中、舊有ニ五花館一、待ㇾ客之上地也、故蔣玄上ニ成汭一詩云、不ニ是主人憐ニ姓字一、五花賓館敢從容。

【五花驄】212 ゴクワソウ 五花馬に同じ。驄は青白雜毛の馬、葦毛の馬。〔錢起、賦ニ得叢蘭曙後色一送ニ梁侍御入ㇾ京詩〕遙知大苑內、應ㇾ待ニ五花驄一。〔薛逢、俠少年詩〕綠眼胡鷹踏ニ錦驄一、五花驄馬白貂裘。〔故事成語考、文臣〕太守之馬五花驄。

【五花馬】213 ゴクワバ 青と白との斑紋のある馬。五花驄を併せ看よ。一說に、五花は馬の鬣の飾り方の一種、或は五箇所を辮むといひ、或は鬣を五花の形に剪るといふ。〔李白、將進酒〕五花馬、千金裘。〔注〕士贇曰、五花馬、言ニ其毛色一也。〔李白、相逢行〕朝騎ニ五花馬一、謁ㇾ帝出ニ銀臺一。〔杜甫、高都護驄馬行〕五花散作雲滿身、萬里方看汗流ㇾ血。〔無名氏、白雲歌〕五花馬踏ニ白雲衢一、七香車碾ニ瑤墀月一。〔楊升菴文集、八十一〕唐詩、朝騎ニ五

花馬、又、五花馬千金裘、杜詩、蕭蕭千里馬、箇箇五花文、隋丹元子步天歌、五箇花紋、以二馬鬣一剪、爲二五花或三花一、皆象二天文一也。

【五花爨弄】214 ゴクワサンロウ　演劇の名。五花は五人組。爨弄は爨國人の芝居の義。（輟耕錄、院本名目）國朝院本雜劇、始釐而二之、院本則五人、一曰二副淨一、古謂二之參軍一、二曰二副末一、古謂二之蒼鶻一、鶻能擊二禽鳥一、末可二打二副淨一、故云、一曰二引戲一、二曰二末泥一、二曰二孤裝一、又謂二之五花爨弄一、或曰、宋徽宗見二爨國人來朝、衣裝縩履巾裹、傅二粉墨一、擧動如レ此、使二優人效レ之、以爲レ戲。

【五花八門】215 ゴクワハチモン　❶俗に變幻極まりない者をいふ。五花は五行陣。八門は八門陣。五花の㊀及び八門（2－1450‥518）を見よ。（虞初新志）孫嘉淦南遊記、伏龍以西、羣峯亂峙、四布羅列、如二平沙萬幕、八門五花一。❶wu³ hua¹ pa¹ men²　種々様々。

【五花判事】216 ゴクワハンジ　唐代、中書省で軍國政事があつた時、中書舍人が、各〻見る所を執つて其の名を雜書するをいふ。（蘇軾、謝二中書舍人一表）雖二四戶擅レ權、非二當時之公議一、而五花判事、亦前代之美談。（職林）唐故事、中書有二軍國王事一、則中書舍人、各執レ所レ見、雜書其名一、謂二之五花判事一。稱謂錄、內閣各官古稱、五花判事、曾鞏劉子、故事、中書舍人分二押尚書六曹一、天下衆務、無レ不二關決一、其各執レ所レ見、謂二之五花判事一。

【五花六直】217 wu³ hua¹ liu⁴ chih² 十六むさし。

【五花腸子六花心】218 wu³ hua¹ ch'ang² tzü liu⁴ hua¹ hsin¹ 心情の様々なことをいふ。

【五華】219 ゴクワ　❶山名。㋑湖北省天門縣の東。一名、五花山。（唐書、地理志四）竟陵有二五花山一。（讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、沔陽州、景陵縣）五華山、縣東七十里、山嶺連屬、北接二鍾祥縣界一。㋺廣東省五華縣の北。山下に漢の長樂臺の遺址がある。㋩雲南省昆明縣城内。清の康熙の時、山上に拜雲亭を建つ。（讀史方輿紀要、雲南、雲南府、昆明縣）五華山、在二城内一、上有二五華寺一、俯二見昆明池一。❷縣名。民國、置く。廣東省興寧縣の西南。

【五華山人】220 ゴクワサンジン　井部鳴の號。井部香山（1－258‥153）を見よ。

【五過】221 ゴクワ　❶周代に、五刑として取調べて疑はしいときは五過と稱して罰しなかつたこと。過はあやまち。（書、呂刑）兩造具備、師聽二五辭一、五辭簡孚、正于五刑一、五刑不レ簡、正于五罰一、五罰不レ服、正于五過一。（蔡傳）過、誤也、疑二於罰一、則質于過而宥二免之一也。❷五つのあやまち。（論衡、感類）以二湯遭一レ旱、自責以二五過一也。（小學紺珠、儆戒類、五過）交非二其人一、遊戲怠惰、動作無レ儀、臨レ事不レ恪、用度不レ節。❸五たび通過する。（黃庭內景經、含二漱金醴一吞二玉英一、注）金醴、玉英、口中之津液、滿二口中一、咽レ之、遣レ入二元女口一、五過、畢叩レ齒三通、咽二液九遍一也。

【五過之疵】222 ゴクワノシ　五過の❶の適用が公平を失ふこと。官・反・內・貨・來をいふ。官とは、官威を弄して罪の輕重を爲すこと。反とは、恩讐の私情を以て罪の輕重を爲すこと。內とは、內謁、貨とは、財貨に因つて請願すること。來とは、法官の私邸等に哀願來請すること。（書、呂刑）五過之疵、惟官、惟反、惟內、惟貨、惟來、其罪惟均。（傳）五過之所レ病、或嘗同二官位一、或詐反二囚辭一、或內親用レ事、或行二貨枉一レ法、或舊相往來。

【五回】223 ゴクワイ　❶山名。河北省易縣の西。五廻山。（宋史、張繼能傳）領二驍捷卒三千一屯二五回嶺一。❷縣名。唐、置く。河北省易縣の西。（唐書、地理志三）易州、上谷郡、縣六、五回。

【五會】224 ゴクワイ　❶病根のひそむ五つの所。百會・胸會・聽會・氣會・膽會。（史記、扁鵲傳）厲鍼砥石、以取二外三陽五會一。（注）正義曰、素問云、手足各有二三陰三陽一、云云、五會、謂二百會・胸會・聽會・氣會・膽會一也。❷五枚板で作つた大きな舟の名。（太平御覽、舟部、舟下）周處風土記曰、小曰レ舟、大曰レ船、溫麻五會者、永寧縣出二豫林一、合二五板一以爲二大船一、因以二五會一爲レ名也。❸五度、會合する。（左氏、襄、八）五會之信、今將背レ之。（注）謂下二年會二雞澤一、五年會レ戚、又會二城棣一、七年會レ鄢、八年會二邢丘一上。❹エイツ　尾張國の地名。

【五會念佛】225 ゴエネンブツ　㒵唐の法照法師が無量壽經上の「清風時發、出二五音聲一、微妙宮商、自然相和」に本づいて創めた念佛修行の一儀式。卽ち、念佛の調音を平聲緩急、平上聲緩急、非緩非急念、漸急念、四字轉急念の五種に分け、緩急次第して念佛を唱へることをいふ。（五會法事讚）問曰、五會念佛、出二在何文一、答曰、大無量壽經云、云云、清風時發、出二五會音聲一、微妙宮商、自然相和、皆悉念二佛念一レ法念レ僧、其聞レ音者、得二深法忍一、住二不退轉一、至二成佛道一。

【五魁】226 ゴクワイ　明代、鄉試に於ける五經の魁首。魁は首席。（西樵野紀）召二五經魁士一、親試二禁中一。

【五光】227 ゴクワ　五色の光彩。（說苑、辨物）夫鳳、延レ頸奮レ翼、五光備擧。（宋書、孝武紀）朕聿二承五光一、奄二一天下一、思下盡二寶戒之規一、以塞中謀危之路上。

【五光十色】228 ゴクワンジッショク　景色の複雜して居る喩。（江淹、麗色賦）五光徘徊、十色陸離。

【五黃】229 ゴクワウ　❶美しい玉。五瑞。（王逸、荔枝賦）潤侔二和璧一、奇踰二五黃一。（梁簡文帝、六根懺文）既貪二五黃六禽之旨一、又甘二九鼎八珍之味一。❷山名。廣東省合浦縣の西北。（明一統志）相傳、昔有二樵者一迷レ路、遇二五人一、黃冠朱顏、指示得レ歸、因名、上有二異果一、食者挾レ之、卽迷不レ返、俗呼二五皇嶺一。❸ゴワウ　陰陽家の語。九星の一。中宮。土星。本位は中央。九星（1－167‥887）を見よ。（協紀辨方書、義例六、三元九星）中宮爲二五黃一、云云、四綠五黃六白、云云、五黃居レ中。

【五漢】230 ゴカン　星の名。（史記、天官書）西宮咸池、曰二天五漢一。

【五月】231 ゴグヴツ　❶一年十二箇月の中、第五番目に當る月をいふ。さつき。（詩、豳風、七月）五月斯螽動レ股。（史記、孟嘗君傳）文以二五月五日一生。❷ゴグヴツ　いつつき。五箇月。（孟子、滕文公上）五月居レ廬、未レ有二命戒一。（莊子、天運）舜之治二天下一云云、孕婦十月生レ子、子生五月而能言。

【五月闇】232 サツキヤミ　五月雨の降り續く頃の夜の暗さ。

【五月雨】233 サミダレ　陰暦五月に降る雨。（續博物志、一）俗以二五月雨一爲二分龍雨一、一曰二隔轍雨一。

【五月菊】234 ガグヴツ　夏菊。（劉蒙菊譜、白花、五月菊）五月菊、花心極大。

【五月子】235 ゴグヴツシ　陰暦五月に生まれた子。俗に父母の爲に善くないといふ。（史記、孟嘗君傳）五月子者、長與二戶齊一、將不レ利二其父母一。

【五月晴】236 サツキバレ　さみだれの晴間。

【五月桃】237 ガグヴツタウ　夏桃。桃の一種。（直省志書、臨晉縣）桃早者、有二五月桃一、遲者、有二十月桃一。

【五月女】238 サツキメ　姓氏。（日用重寶記）。

【五月蠅】239 サバヘ　陰暦五月頃、群り騷ぐ蠅。うるさい喩。（日本書紀、神代紀下）五月蠅、此云二左魔陪一。

【五月雨山】240 サツキタレ　越後國北蒲原郡笹岡村にある五頭山の古稱であらうといふが、詳かでない。又、佐渡國加茂郡に在る羽黑山の別稱。

【五月下レ霜】241 ゴグヴツシモフクアス　暑中に霜が降ること。冤獄の兆であるといふ。（太平御覽、天部、霜）淮南子曰、鄒衍事二燕惠王一、盡レ忠、左右譖二之王一、王繫二之獄一、仰レ天哭、夏五月、天爲レ之下レ霜。（論衡、感虛）鄒衍無レ罪見レ拘二於燕一、當二夏五月一、仰レ天而歎、天爲隕レ霜。（李白、古風詩）燕臣昔慟哭、五月飛二秋霜一。（淵鑑類函、冤獄二）五月降レ霜。（注）鄒衍被レ囚、仰而歎、五月降レ霜。

【五月節句】242 ゴグヴツノセツク　五月五日の節句。端午の節句。男子の節句。

【五月人形】243 ゴグヴツニンギヤウ　我が國で、男子の祝として、五月の節句に飾る武者人形。

【五月被レ裘】244 ゴグヴツキル　五月になつても毛の皮衣を着て居る。清廉にして貪らない喩。（高士傳）被裘公者、吳人也、延陵季子出游、見二道中有二遺金一、顧二被裘公一曰、取二彼金一、公投鎌瞋レ目、拂レ手而言曰、何子處之高、而視二人之卑一、五月被レ裘而負レ薪、豈取二金者哉一。

【如二五月蠅一】245 サツバヘ　枕詞。さわぐ・わく・あらぶるかみ等にかけて用ひる。なすは、如くの意。（日本書紀、神代紀下）書者如二五月蠅一而沸騰之。

【五月而能言】246 ゴグヴツニシテヨクイフ　人間は生れて五箇月目に物をいふ。（莊子、天運）子生五月而能言。

【五月重五日】247 ゴグヴツヂウゴニチ　五月五日のこと。五月の五と五日の五を重ねるからいふ。（遼史、禮

志六、嘉儀下〕五月重五日、以二五綵絲一爲レ索纏レ臂、謂二之合歡結一。

〔五月糶二新穀一〕248 ゴグヮツシンコクヲウル　五月は耕耘の月で、未だ穀物は實らぬのに、秋にとれる新穀を先に賣ってしまふ。貧窮の甚しい喩。二月賣二新絲一(**1－247**・・284)を見よ。〔故事成語考、貧富〕五月糶二新穀一、眞是剜レ肉醫レ瘡。

【五官】249 ゴクヮン　㊀五行の官。木正(句芒)・火正(祝融)・金正(蓐收)・水正(玄冥)・土正(后土)。〔禮、學記〕學無レ當二於五官一、五官弗レ得不レ治。〔疏〕五官、金木火水土之官也。〔左氏、昭、二十九〕〔蔡墨曰〕故有二五行之官一、是謂二五官一、云云、木正曰二句芒一、火正曰二祝融一、金正曰二蓐收一、水正曰二玄冥一、土正曰二后土一。〔國語、楚語下〕觀射父對曰、云云、於レ是乎、有二天地神民類物之官一、謂二之五官一。㊁五種の官。次表を見よ。

時代	官名					出典
伏羲氏	青龍(春官)	赤龍(夏官)	白龍(秋官)	黑龍(冬官)	黃龍(中官)	漢書、百官公卿表、應劭注
神農氏	大火(春官)	鶉火(夏官)	西火(秋官)	北火(冬官)	中火(中官)	同右
黃帝	青雲(春官)	縉雲(夏官)	白雲(秋官)	黑雲(冬官)	黃雲(中官)	同右
少昊	鳳鳥(歷正)	玄鳥(司分)	伯趙(司至)	青鳥(司開)	丹鳥(司閉)	同右
顓頊	木正(春官)	火正(夏官)	金正(秋官)	水正(冬官)	土正(中官)	左氏、昭、十七、服虔注、及同右
殷	司徒	司馬	司空	司士	司寇	禮記、曲禮下、及注
周	司徒(地官)	宗伯(春官)	司馬(夏官)	司寇(秋官)	司空(冬官)	周禮、春官、小宗伯、注

㊂漢の官名。宿衞などを掌る。〔漢書、百官公卿表上〕中郎有二五官左右三將一。㊃漢の女官の名。〔漢書、外戚傳序〕五官視二三百石一。〔注〕師古曰、五官所レ掌、亦象二外之五官一也。㊄唐代、曆を司る官。挈壺正・靈臺郎・保章正・司歷・司辰。〔唐書、百官志二〕武后長安二年、置二挈壺正一、乾元元年、與二靈臺郎・保章正・司歷・司辰一、皆加二五官之名一。㊅百官をいふ。〔急就篇、四〕諸物盡訖五官出。〔注〕言下已說二諸物一、次至中五官上也、古言二五官一者、總二擧衆職一、以配二五行一、無レ所レ不レ苞、事起二五鳩五雉一、若三今言二百官一也。㊆五つの官能。㋑耳・目・鼻・口・形。〔荀子、天論〕耳・目・鼻・口、形能各有レ接、而不二相能一也、夫是之謂二天官一、心居二中虛一以治二五官一、夫是之謂二天君一。〔注〕心居二於中空虛之地一、以制二治耳目鼻口形之五官一、是天使レ爲二形體之君一也。〔小學紺珠、人事類、五官〕耳・目・鼻・口・形。〔故事成語考、身體〕五官有二貴賤之別一。㋺兩手・口・耳・目。〔隋書、儒林、劉炫傳〕炫眸子精明、視レ日不レ眩、強記默識、莫二與爲レ儔、左畫レ方、右畫レ圓、口誦、目數、耳聽、五事同擧、無レ有二遺失一。㋩耳・目・鼻・口・心。〔荀子、正名〕五官簿レ之而不レ知。〔注〕五官、耳・目・鼻・口・心也。㋥五官器をいふ。視覺器・聽覺器・嗅覺器・味覺器・觸覺器。佛家では五根といふ。五根(377)の㊀の㋺を見よ。

【五官器】250 ゴクヮンキ　生理學用語。末梢神經の末端器官。各自個有の刺戟に反應す。五官の㊆の㋥を見よ。

【五官挪位】251 wu^3 $kuan^1$ nuo^2 wei^4　身體の調和がよくないことをいふ。

【五官百骸】252 wu^3 $kuan^1$ po^2 hai^2　人體の總稱。人身全部の機關。

【五管】253 ゴクヮン　㊀五藏の腧穴。脊に在る。腧穴は灸點の要處。〔莊子、人閒世〕會撮指レ天、五管在レ上。〔注〕五管、五臟腧也。〔莊子、大宗師〕曲僂發レ背、上有二五管一。㊁唐代、廣・桂・容・邕・安南の節度使を嶺南五管といふ。地は今の兩廣・安南。〔舊唐書、地理志四〕永徽後、以二廣・桂・容・邕・安南一、皆隸二廣府都督統攝一、謂二之五府節度使一、名二嶺南五管一。〔韓愈、劉生詩〕五管歷徧無二賢侯一。〔元史、地理志五〕唐以二廣州一爲二嶺南五府節度五管經略使治所一、又改二南海郡一、宋升爲二帥府一、元至元十三年內府。

【五關】254 ゴクヮン　耳・目・舌・鼻・身をいふ。〔新論、防慾〕將レ收二情欲一、先斂二五關一、五關者、情慾之路、嗜好之府也、目愛二綵色一、命曰二伐性之斤一、耳樂二淫聲一、命曰二攻心之鼓一、口貪二滋味一、命曰二腐腸之藥一、鼻悅二芳香一、命曰二燻喉之煙一、身安二轝駟一、命曰二召蹷之機一。

【五觀】255 ゴクヮン　人名。夏后啓の子。或は、武觀に作る。觀國に封ぜられた。或は、啓の五人の子ともいふ。〔國語、楚語上〕堯有二丹朱一、舜有二商均一、啓有二五觀一。〔注〕五觀、啓子、大康昆弟也。〔竹書紀年、上〕帝啓十一年、放二王季子武觀于西河一、十五年、武觀以二西河一叛、彭伯壽帥レ師、征二西河一、武觀來歸。〔注〕武觀、五觀也。〔漢書、古今人表〕太康、啓子、昆弟五人、號二五觀一。〔潛夫論、五德志〕世號二夏后一、傳二嗣子啓一、啓子太康・仲康更立、兄弟五人、皆有二昏德一、不レ堪二帝事一、降須二洛汭一、是謂二五觀一。

【五葷】256 ゴクン　㊀蘭の一種。一に馬大同ともいふ。〔蘭譜〕馬大同、色碧而綠、亦名二五葷一。㊁五種の臭菜。㋑佛家では、大蒜(オホニンニク)・小蒜(ニンニク)・興渠(コウクヮ)・慈葱(ハトモジ)・茖葱(オホニラ)。〔爾雅翼〕西方以二大蒜・小蒜・興渠・慈葱・茖葱一爲二五葷一。㋺道家では、韮(ニラ)・蒜(ニンニク)・芸薹(タウナ)・胡荽(コスイ)・薤(オホニラ)。〔爾雅翼〕道家以二韮・蒜・芸薹・胡荽・薤一爲二五葷一。㋩鍊形家では、小蒜(ニンニク)・大蒜(オホニンニク)・韭(ニラ)・芸薹(タウナ)・胡荽(コスイ)。〔本草、蒜〕釋名、時珍曰、五葷卽五辛、鍊形家以二小蒜・大蒜・韭・芸薹・胡荽一爲二五葷一。

〔五葷三厭〕257 ゴクンサンエン　佛家では五葷を食ふことを忌み、道家では三厭を食ふことを忌む。三厭は、雁・狗・烏魚。〔通俗編、飲食、五葷三厭〕湧幢小品、俗有二五葷三厭之說一、厭字義殊不レ解、後讀二孫眞人歌一、謂、天厭レ雁、地厭レ狗、水厭二烏魚一、雁有二夫婦之倫一、狗有二扈主之誼一、烏魚有二忠敬之心一、故不レ忍レ食。

【五薫】258 ゴクン　韮・薤・葱・蒜・薑。五辛(657)の㊀に同じ。〔風土記〕月正元日、五薫煉レ形。〔注〕五辛、所三以發二五藏之氣一。

【五軍】259 ゴグン　㊀五つの軍隊。春秋の時、晉は五軍、卽ち三行(上・中・下の三軍)と新しく作った上・下の二軍を以て狄を禦いだ。〔左氏、僖、三十一〕秋、晉蒐二于清原一、作二五軍一以禦レ狄、趙衰爲レ卿。〔注〕二十八年、晉作二三行一、今罷レ之、更爲二上下新軍一。〔會箋〕晉語曰、以二趙衰故一、蒐二于清原一、作二五軍一、使三趙衰將二新上軍一、箕鄭佐レ之、胥嬰將二下軍一、先都佐レ之。〔國語、晉語四〕蒐二于清原一、作二五軍一。〔注〕晉本有二上軍一、有二中軍一、有二下軍一、今有二五軍一、新上下也。㊁明の五軍。左軍・右軍・中軍・前軍・後軍。五軍都督府を見よ。〔明史、兵志一〕京城內外置二大小二場一、分二教四十八衞卒一、已又分二前後中左右五軍都督府一。

【五軍營】260 ゴグンエイ　明の三大營の一。京師の守備を掌る。〔明史、兵志一〕京軍三大營、一曰五軍、一曰三千、一曰神機、其制皆備二於永樂時一。

【五軍府】261 wu^3 $chün^1$ fu^3　演劇に於て刀で斬り合を演ずる役者をいふ。

【五軍都督府】262 ゴグントトクフ　官署の名。明の太祖、置く。五軍とは左軍・右軍・中軍・前軍・後軍をいふ。京師から郡縣に至るあらゆる衞所は、外を都司に統べ、內を五府に統べる。〔明史、兵志二〕五軍都督府所屬衞所、左軍都督府在レ京、在外浙江都司・遼東都司・山東都司、右軍都督府在レ京、在外雲南都司・貴州都司・四川都司・陝西都司・廣西都司、中軍都督府在レ京、在外直隸・中都留守司・河南都司、前軍都督府在レ京、在外直隸・湖廣都司・福建都司・福建行都司・江西都司・廣東都司、後軍都督府在レ京、在外北平都司・北平

行都司・山西都司・山西行都司・北平三護衛・山西三護衛。

【五刑】263 ゴケイ 五種の刑法。五辟。〔禮、王制〕凡制二五刑一、必卽二天論一。〔孝經、五刑章〕五刑之屬三千。〔孝經援神契〕聖人則二五行一、以制二五刑一。〔墨子、尚同上〕古者聖王爲二五刑一。〔司馬法、仁本〕其次賢王、制二禮樂法度一、乃作二五刑一。❶虞舜時代の五刑。墨・劓・剕・宮・大辟。〔書、舜典〕五刑有レ服。〔傳〕五刑、墨・劓・剕・宮・大辟。〔書、大禹謨〕汝作レ士、明二于五刑一、以弼二五教一。〔書、皋陶謨〕天討二有罪一、五刑五用哉。❷周代の五刑。㋑墨・劓・剕・宮・大辟。〔書、呂刑〕墨罰之屬千、劓罰之屬千、剕罰之屬五百、宮罰之屬三百、大辟之罰、其屬二百、五刑之屬三千。〔小學紺珠、治道類、五刑〕墨・劓・剕・宮・大辟。〔故事成語考、訟獄〕古之五刑、墨・劓・剕・宮・大辟。㋺墨・劓・宮・刖・殺。〔周禮、秋官、司刑〕掌二五刑之灋一、以麗二萬民之罪一、墨罪五百、劓罪五百、宮罪五百、刖罪五百、殺罪五百。〔小學紺珠、治道類、五刑〕墨・劓・宮・刖・殺。㋩野刑・軍刑・鄕刑・官刑・國刑。〔周禮、秋官、大司寇〕以二五刑一糾二萬民一、一曰野刑、上レ功糾レ力、二曰軍刑、上レ命糾レ守、三曰鄕刑、上レ德糾レ孝、四曰官刑、上レ能糾レ職、五曰國刑、上レ愿糾レ暴。〔小學紺珠、治道類、五刑〕野・軍・鄕・官・國。㋥甲兵・斧鉞・刀鋸・鑽笮・鞭朴の五種を用ひて處罰する五つの刑。〔國語、魯語上〕臧文仲言二於僖公一曰、夫衞君殆無レ罪矣、刑五而已、無レ有レ隱者、隱乃諱也、大刑用二甲兵一、其次用二斧鉞一、中刑用二刀鋸一、其次用二鑽笮一、薄刑用二鞭扑一以威レ民也、故大者陳二之原野一、小者致二之市朝一、五刑三次、是無レ隱也。〔小學紺珠、治道類、五刑〕甲兵・斧鉞・刀鋸・鑽笮・鞭朴。❸秦の五刑。黥、劓、左右趾を斬る、梟首、骨肉を葅にする。漢も之を行ふ。〔漢書、刑法志〕當二三族一者、皆先黥劓、斬二左右止一、笞二殺之一、梟二其首一、葅二其骨肉於市一、其誹謗詈詛者、又先斷レ舌、故謂二之具二五刑一。〔羣書拾唾〕秦五刑、黥、劓、斬二左右趾一、梟レ首、葅二其骨一。❹後周の五刑。杖・鞭・徒・流・死。〔小學紺珠、治道類、五刑〕杖・鞭・徒・流・死、後周大律。❺隋以後の五刑。死・流・徒・杖・笞。〔隋書、刑法志〕其刑名有レ五、一曰死刑二、有レ絞有レ斬、二曰流刑三、有二一千里・千五百里・二千里一、三曰徒刑五、有二一年・一年半・二年・二年半・三年一、四曰杖刑五、自二五十一至二於百一、五曰笞刑五、自レ十至二于五十一。〔事物紀原、律令刑罰部、五刑〕唐刑法志曰、隋已前、死罪有レ五、徒流之刑、鞭笞兼用、數皆踰レ百、隋始定レ之、爲二笞刑五一、自レ十至二五十一、杖刑五、自二六十一至レ百、徒刑五、自二一年一至二三年一、流刑五、自二千里一至二三千里一、死刑二、絞與レ斬並用、爲二五刑一、皆今世循用者、蓋自レ隋始也、三代以二劓・刖・剕・宮・大辟一爲二五刑一。〔大學衍義補、愼二列憲一、定二律令之制一〕笞・杖・徒・流・死、此後世之五刑也、始二於隋一而用二於唐一、至二於今日一、萬世之下、不レ可レ易也。❻民國刑法では、死刑・無期徒刑・有期徒刑・拘役・罰金の五項を定む。

【五刑解】264 ゴケイカイ 孔子家語の篇名。

【五刑有レ服】265 ゴケイフクアリ 五刑に服すること。服罪に就いて二說がある。〔書、舜典〕五刑有レ服。❶犯罪人が五刑適用の判決に服罪して肉刑を受けること。〔書、舜典、傳〕五刑、墨・劓・剕・宮・大辟、服、從也、云云、行レ刑、當レ就二三處一、大罪於二原野一、大夫於レ朝、士於レ市。❷五刑の犯罪者が肉刑を受けずに、服飾を變化して、其の刑罰に代へること。象刑。〔張萱、疑耀〕但白虎通又云、五帝畫レ象者、其服象二五刑一也、犯レ墨者、幪レ巾、犯レ劓者、赭二其衣一、犯レ臏者、以二其墨一幪二其臏處一而畫レ之、犯レ宮者、履レ扉、犯二大辟一者、布衣無レ領、又按二愼子一云、以二畫跪一當レ墨、草纓當レ劓、履扉當レ刖、艾韠當レ宮、是以尙書曰、五刑有レ服、故凡斬二人體一鑒二其衍形一曰レ刑、畫二衣冠一異二章服一曰レ戮。

【五刑訓義】266 ゴケイクンギ 笞・杖・徒・流・死の五刑の字義を解明したもの。〔元典章、三十九〕笞、笞義曰、笞者、擊也、又訓爲レ耻、言、人有二小愆一、法須二懲戒一、微加二捶撻一以耻レ之、二杖、杖者、持也、而可二以擊レ人也、國語云、薄刑用二鞭扑一、書云、鞭作二官刑一、犯二今之杖刑一也、六十、七十、（三十七下）、八十、九十、（四十七下）、一百、（五十七下）、三徒、徒者、奴也、蓋奴辱レ之、周禮云、其奴男子、入二於罪隸一、又任レ之以レ事、寘以二圜土一、而收二教之一、令三一年至二五年一、並徒刑也、一年、一年半、（六十七下）、二年、二年半、（七十七下）、三年、（八十七下）、五年、（一百七下）、四流、流義曰、書云、流宥二五刑一、謂下不レ忍二刑殺一、宥中於遠上也、二千里、（比徒四年）、二千五百里、（比徒四年半）、三千里、（比徒五年）、五死、死義曰、絞斬之坐、刑之極也、春秋元命包云、黃帝斬二蚩尤一、猶レ於二涿鹿之野一、故云、斬自二軒轅一、絞興二周代一、卽大辟之刑也、絞斬二罪、皆至レ死。（本刑の下に記せる括弧内の文字は、小罪及び徒刑に加へる減杖例である）。

【五刑之灋二千五百】267 ゴケイノハフニセンゴヒャク 五刑を適用する種類をいふ。墨罪五百、劓罪五百、宮罪五百、刖罪五百、殺罪五百、總計二千五百。〔周禮、秋官、司刑〕掌二五刑之灋一、以麗二萬民之罪一、墨罪五百、劓罪五百、宮罪五百、刖罪五百、殺罪五百、若二司寇斷レ獄弊レ訟、則以二五刑之灋一、詔二刑罰一、而以辨二罪之輕重一。

【五刑之屬三千罪莫レ大二於不孝一】268 ゴケイノゾクサンゼンツミフカウヨリダイナルハナシ 五刑を適用する犯罪の種類は三千の多きを數へるが、其の中、罪惡の最大なものは不孝の罪である。〔孝經、五刑章〕五刑之屬三千、而罪莫レ大二於不孝一、要レ君者無レ上、非二聖人一者無レ法、非レ孝者無レ親、此大亂之道也。

【五計】269 ゴケイ 人生の五つの計。生計・身計・家計・老計・死計。〔羣書拾唾、人倫禮用〕朱新仲云、人生有二五計一、語レ人以二身計・家計一則喜、以二老計一則不レ答、以二死計一則大笑、曰、子之計拙矣、生計・身計・家計・老計・死計。

【五桂】270 ゴケイ 五人の進士登第者をいふ。又、五龍といふ。❶宋の竇禹鈞の五子、儀・儼・侃・偁・僖。五龍(1096)の❷の㋣を見よ。〔曹之謙、趙吉甫種德園詩〕從レ今不レ羨燕山竇、五桂聯芳老一椿。〔故事成語考、花木〕竇鈞（竇禹鈞）五子齊榮、人稱二五桂一。〔注〕燕山五子倶登第、馮道贈レ詩云、燕山竇十郞、敎レ子以二義方一、靈椿一枝老、丹桂五枝芳。❷宋の范致君・致明・致虛・致祥・致厚。〔小學紺珠、氏族類、五桂〕范致君・致明・致虛・致祥・致厚、相繼登第、有二五桂堂一。❸宋の李裳・李襲、及び裳の子公京、襲の子公奭・公奕。〔明一統志〕五桂樓、在二夔州府學前一、宋大觀中、郡人李裳及襲、裳之子公京、襲之子公奭・公奕、父子叔姪五人、相繼登レ科、因名、范仲黼爲レ記。❹宋の大足縣の五人。〔明一統志〕五桂樓、在二重慶府大足縣治西一、宋乾道閒、邑中五人同奏レ名、太守曹岍、建レ樓以旌レ之。

【五莖】271 ゴケイ ❶顓頊の樂歌。〔周禮、春官、大司樂、疏〕樂緯云、顓頊之樂曰二五莖一、帝嚳之樂曰二六英一、注云、能爲二五行之道一、立二根莖一。〔新論、辨樂〕五帝殊レ時、不三相二沿樂一、三王異レ世、不三相二襲禮一、各像二勳德一、應二時之變一、故黃帝樂曰二雲門一、顓頊曰二五莖一、帝嚳曰二六英一、堯曰二咸池一、舜曰二簫韶一、禹曰二大夏一、湯曰二大護一、武曰二大武一、此八代之樂所二以異レ名也。〔左思、魏都賦〕延二廣樂一、奏二九成一、冠二韶夏一、冒二六英五莖一。〔注〕善曰、樂動聲儀曰、帝嚳樂曰二六英一、帝顓頊曰二五莖一、舜曰二大韶一、禹曰二大夏一。〔元結、補樂歌、五莖序〕五莖、顓頊氏之樂歌也、其義蓋稱三顓頊得二五德之根莖一。❷養生の上の本になる五つのもの。〔雲笈七籤、恬淡無欲養二華莖一、注〕閑居靜處、深固二靈珠一、素捐二世俗一、推レ剛就レ深、含二養五莖一、色加二桃華一。❸五本の毛髮。〔王建、鑷白詩〕如今不レ用レ偷二年少一、拔卻三莖又五莖。

【五溪】272 ゴケイ ❶地名。湖南省常德縣の西。雄溪・樠溪・西溪・無溪・辰溪があるから名づける。東漢の馬援が五溪蠻を征したのは卽ち此の地。〔水經、沅水注〕武陵有二五溪一、謂二雄溪・樠溪・無溪・西溪・辰溪一、云云、悉是蠻左所レ居。〔後漢書、馬援傳〕武威將軍劉尙、擊二武陵五溪蠻夷一、深入軍沒、援因復請レ行、遂將二十二郡募士及弛刑四萬餘人一、征二五溪一。〔小學紺珠、地理類、五溪〕雄・樠・酉・潕・辰。❷河の名。安徽省青陽縣の西。龍溪・漂溪・雙溪・觀溪・瀾溪の五つの源があつて、皆九華山から出て六泉口に會し、五溪山下を繞り、西流して貴池縣の界に入り、江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、青陽縣〕五溪水、縣西二十里、五溪者、龍溪・漂溪・雙溪・觀溪・瀾溪也、倶出二九華山一、合流而北環二遶于五溪山下一、入二貴池縣境一、匯爲二大通河一、入レ江。❸山名。㋑安徽省

青陽縣の西、九華山と對峙す。〔讀史方輿紀要、江南、池州府、青陽縣〕五溪山、縣西三十里、衆流環繞、與㆓九華㆒對峙。㊁安徽省石棣縣の西南。㊇湖南省益陽縣の西北。一名、軍山。後漢の馬援、吳の潘棣が五溪蠻を討ち屯した所。〔讀史方輿紀要、湖廣、長沙府、益陽縣〕五溪山、縣西北五十八里、一名軍山、吳潘濬討㆓五溪蠻㆒、嘗營㆓于此㆒。㊃宮田華龍の號。宮田五溪(**3**－**7156**‥266)を見よ。

【五經】273 ゴケイ ゴキヤウ ㊀五種の經書。五典。六經の中、樂が亡びたから、殘りの易・書・詩・禮・春秋をいふといふのが、漢代の通說であつたが、其れ以外のものを指すこともある。十三經(**2**－**2695**‥146)を見よ。〔史記、樂書〕通㆓一經㆒之士、不㆑能㆔獨知㆓其辭㆒、皆集㆓會五經家㆒、相與共講㆓習讀㆑之。〔漢書、武帝紀〕建元五年春、置㆓五經博士㆒。〔漢書、宣帝紀〕詔㆓諸儒㆒講㆓五經同異㆒。〔孔安國、尚書序、疏〕五經六籍、皆是筆書。〔法言、吾子〕捨㆓五經㆒而濟㆓乎道㆒者、末矣。㋑易・書・詩・禮・春秋。〔白虎通、五經〕五經何謂、謂㆓易・尚書・詩・禮・春秋㆒。〔小學紺珠、藝文類、五經〕易・書・禮・詩・春秋。㋺易・書・詩・禮・樂。〔白虎通、五經〕經所㆓以有㆒㆑五何、經、常也、有㆓五常之道㆒、故曰㆓五經㆒、樂仁、書義、禮禮、易智、詩信也。㋩詩・書・禮・樂・春秋。〔漢書、藝文志〕六藝之文、樂以和㆑神、仁之表也、詩以正㆑言、義之用也、禮以明㆑體、明者著見、故無㆑訓也、書以廣㆑聽、知之術也、春秋以斷㆑事、信之符也、五者蓋五常之道、相須而備、而易爲㆓之原㆒。〔小學紺珠、藝文類、五經〕詩・書・禮・樂・春秋。㋥書・詩・禮・易・春秋(公羊)。〔小學紺珠、藝文類、五經〕書・詩・禮・易・春秋公羊、漢建元五年、立㆓五經博士㆒。㋭易・書・詩・左氏春秋・禮記。〔小學紺珠、藝文類、五經〕周易・尚書・毛詩・左氏春秋・禮記、唐五經博士。㋬三禮・三傳・詩・書・易。五經庫を見よ。

〘參考書〙【五經通義】一卷漢、劉向撰。【駁五經異義補遺】二卷後漢、鄭玄撰。【五經雜議】漢、戴聖撰。石渠禮論(**8**－**24024**‥157)に同じ。【五經正義】二百二十三卷唐、孔穎達等奉敕撰。唐の太宗の時、孔穎達に命じ、顏師古・司馬才章・王恭・王琰等と共に撰せしめたもの。周易正義は、上下經は王弼注、繫辭以下は韓康伯注、孔穎達・馬嘉運等疏。尚書正義は、孔安國傳、孔穎達・王德韶等疏。毛詩正義は、毛傳・鄭箋、孔穎達・王德韶等疏。禮記正義は、鄭玄注、孔穎達・李奢等疏。春秋正義は、杜預注、孔穎達・谷那律等疏。【五經文字】三卷唐、張參撰。〔四庫提要、經、小學類〕。【五經說】七卷元、熊朋來撰。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【五經大全】百十七卷明、胡廣等奉敕撰。易は天臺・鄱陽の二董氏(董楷・董眞卿)、雙湖・雲峯の二胡氏(胡一桂・胡炳文)の書を采り、書は陳櫟の書說纂疏を采り、詩は全く劉瑾の詩傳通釋を襲ひ、春秋は汪克寬の春秋胡傳纂疏を采り、禮記は、陳氏集說の外に唯吳徵の纂言、外二三の說を增すのみ。【五經蠡測】六卷明、蔣悌生撰。禮記を缺く。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【五經稽義】五卷明、朱陸楔撰。〔四庫提要、經、五經總義類〕。【五經異文】十一卷明、陳士元撰。【五經繹】十五卷明、鄧元錫撰。【五經讀】五卷明、陳際泰撰。【五經翼】二十卷清、孫承澤撰。【五經辨譌】五卷清、呂治平撰。【五經異義疏證】三卷清、陳壽祺撰。【五經揭要】二十五卷清、周蕙田撰。【五經類編】二十八卷清、周世樟撰。此の書は俗本で、誤謬が少くない。【五經析疑】一卷清、邯鄲綽撰。【朱子五經語類】八十卷清、程川撰。㊁五種の醫書。素問・靈樞・難經・金匱要略・甲乙經。㊂五種の禮。吉・凶・軍・賓・嘉。五禮。〔禮、祭統〕禮有㆓五經㆒、莫㆑重㆓於祭㆒。〔注〕謂㆓吉禮・凶禮・賓禮・軍禮・嘉禮㆒也。㊃五つの常の道。〔管子、五輔〕五經既布、然後逐㆓姦民㆒。㊄酒、五餅をいふ。〔侯鯖錄〕陶人爲㆑器有㆓酒經㆒、晉安人凡饋㆓人酒㆒、書云㆓酒一經或二經㆒、至㆓五經㆒、他境人有㆑游㆓於是邦㆒、不㆑達㆓其義㆒、聞㆓五經至㆒、束帶迎㆓於門㆒、乃知㆔是酒五餅爲㆓五經㆒。㊅五臟の經脈。〔素問、經脈別論〕五經竝行。㊆白虎通の篇名。

【五經家】274 ゴケイカ ゴキヤウカ 易・詩・書・禮・春秋の五經の今文經を治める學者。〔後漢書、賈逵傳〕五經家皆無㆘以證㆓圖讖㆒、明㆔劉氏爲㆓堯後㆒者㆖、而左氏獨有㆓明文㆒。

【五經魁】275 wu^3 $ching^1$ $k'uei^2$ 拳鬪で用ひる語。五金奎(200)に同じ。

【五經庫】276 ゴケイコ 隋の房暉遠の綽名。五經に精通して居たからいふ。五經笥。〔隋書、房暉遠傳〕暉遠幼有㆓志行㆒、治㆓三禮・春秋三傳・詩・書・周易㆒、兼善㆓圖緯㆒、周武帝平㆑齊、搜㆓訪儒俊㆒、暉遠首應㆓辟命㆒、授㆓小學下士㆒、牛弘每稱爲㆓五經庫㆒。

【五經師】277 ゴキヤウノシ 五經を教へる師。〔後漢書、明帝紀〕開㆓立學校㆒、置㆓五經師㆒。〔注〕袁宏漢紀曰、永平中、崇㆓尙儒學㆒、自㆓皇太子諸王侯㆒及㆓功臣子弟㆒、莫㆑不㆑受㆑經、又爲㆓外戚樊氏・郭氏・馬氏諸子弟㆒立㆑學、號㆓四姓少侯㆒、置㆓五經師㆒、酺以㆓明經㆒充㆑焉。

【五經笥】278 ゴケイシ 五經に精通するものをいふ。笥は、はこ。五經庫。㊀後漢の邊韶の綽名。〔後漢書、文苑、邊韶傳〕邊韶、字孝先、陳留浚儀人也、韶以㆓文學㆒知㆑名、教㆓授數百人㆒、韶口辯、曾晝日假臥、弟子私謿㆑之曰、邊孝先、腹便便、懶㆓讀書㆒但欲㆑眠、韶潛聞㆑之、應㆑時對曰、邊爲㆑姓、孝爲㆑字、腹便便、五經笥、但欲㆑眠、思㆓經事㆒、寐與㆓周公㆒通㆑夢、靜與㆓孔子㆒同㆑意、師而可㆑謿、出㆓何典記㆒、謿者大慙。㊁梁の任昉(字は彥昇)の綽名。〔唐書、李守素傳〕昔任彥昇通㆑經、時稱㆓五經笥㆒。〔隋唐嘉話〕虞祕書世南曰、昔任彥昇、善談㆓經籍㆒、時稱㆓五經笥㆒。

【拜㆓五經㆒】279 ゴキヤウヲハイス 五經を尊敬すること。南齊の臧榮緒の故事。〔南史、臧榮緒傳〕臧榮緒、惇愛㆓五經㆒、謂㆑人曰、昔呂尙奉㆓丹書㆒、武王致㆑齊降㆑位、李釋教誡、並有㆓禮敬之儀㆒、因甄㆓明至道㆒、乃著㆓拜五經序論㆒、常以㆓宣尼庚子日生㆒、其日陳㆓五經㆒拜㆑之、自號㆓披褐先生㆒。〔羣書札記〕黃省曾亦以㆓五經㆒奉㆓高架上㆒、朔望拜㆑之、有㆘拜㆓五經㆒文㆖、見㆓陳眉公太平清話㆒。

【五經解元】280 ゴキヤウカイゲン 科擧の試驗に五經倶に首席で及第したもの。〔稱謂錄、解元、五經解元〕履園叢話、康熙乙酉科、長洲蔣學海、以㆓五經㆒中式、是科進呈題名錄、蔣列㆓於解元之前㆒、稱㆓五經解元㆒、前㆑此無㆑有也。

【五經鼓吹】281 ゴキヤウノコスイ 五經の旨を明かにした文章。〔晉書、孫綽傳〕絕重㆓張衡左思之賦㆒、每云、三都二京、五經之鼓吹也。

【五經刻石】282 ゴキヤウコクセキ 五經を石にきざむこと。又、石に刻んだ五經。石經(**8**－**24024**‥236)を見よ。〔後漢書、靈帝紀〕熹平四年春三月、詔㆓諸儒㆒正㆓五經文字㆒、刻㆑石、立㆓于太學門外㆒。

【五經掃㆑地】283 ゴキヤウチヲハラフ 五經が亡びてなくなる。聖人の教が亡びることを歎息する詞。〔唐書、祝欽明傳〕帝與㆓羣臣㆒宴、欽明自言、能㆓八風舞㆒、帝許㆑之、欽明體肥醜、據㆑地搖㆑頭睆㆑目、帝大笑、盧藏用歎曰、是擧㆓五經㆒掃㆑地矣。〔故事成語考、人事〕五經掃㆑地、祝欽明自褻㆓斯文㆒。

【五經算術】284 ゴキヤウサンジユツ 書名。二卷。北周、甄鸞撰。唐、李淳風注。古算術書の一。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【五經稱㆑人】285 ゴキヤウヒトヲシヨウス 五經に精通した學者に、五經の二字を附けて呼ぶこと。許愼を五經無雙許叔重と呼び、井丹を五經紛綸井大春と呼ぶ類をいふ。五經無雙・五經紛綸・五經無對の類。〔後漢書、許愼傳〕字叔重、汝南召陵人也、性淳篤、少博㆓學經籍㆒、馬融常推㆓敬之㆒、時人爲㆑之語曰、五經無雙、許叔重。〔後漢書、井丹傳〕字大春、扶風郿人也、少受㆓業太學㆒、通㆓五經㆒、善㆓談論㆒、故京師爲㆑之語曰、五經紛綸、井大春。〔後漢書、魯丕傳〕丕字叔陵、云云、就學者常百餘人、關東號㆑之曰㆓五經復興魯叔陵㆒。〔北史、陸卬傳〕五經無㆑對、有㆓陸乂㆒。

【五經先生】286 ゴキヤウセンセイ 明、張傑(**4**－**9812**‥264)の尊稱。

【五經大夫】287 ゴキヤウタイフ 五經を掌る官。〔後漢書、祭遵傳〕又建爲㆓孔子㆒立㆑後、奏置㆓五經大夫㆒、雖㆑在㆓軍旅㆒、不㆑忘㆓俎豆㆒。〔魏志、張郃傳〕昔祭遵爲㆑將、奏置㆓五經大夫㆒。

【五經博士】288 ゴキヤウハカセ 漢の武帝の時、五經博士を學官に立てた。易は楊何、書は歐陽、詩は韓嬰、禮は后蒼、春秋は公羊、皆今文經。これより先、文帝の時、既に一經博士が置かれた。一經博士とは、專ら一經を以て學官に立てることで、初は詩だけであつたが、後、書・春秋の博士も起り、文帝から景帝の時にあつては、詩・書・春秋の三經の博士が學官に立つた。五經博士

は國に疑はしい事の有る時には詔を受けて之に對へ、又、各〻弟子員を具へて各科を開き、弟子員には官祿を與へて大いに之を勸めしめた。漢以後、歷代、博士が五經を分掌したが、梁の天監四年には改めて五經博士一人を置く。北魏も之に因り、唐は周易・尚書・毛詩・左氏春秋・禮記を以て五經とし、五經博士各〻二人が其の學を以て國士に教へた。明には亦國子監博士廳に五經博士五人が有り、又、世襲五經博士があつて、孔氏・顏氏以下、先聖先賢の後裔を以て之に任じた。〔漢書、武帝紀〕〔建元〕五年春、置二五經博士一。〔冊府元龜〕漢興、武帝初置二五經博士一、掌レ教二弟子一、國有二疑事一、掌レ承二問對一。本四百石、升比六百石、初文帝欲レ廣二遊學之路一、論語・孝經・孟子・爾雅、皆置二博士一、至レ是遂罷二傳記博士一。〔困學紀聞、經說〕後漢翟酺曰、文帝始置二一經博士一、考二之漢史一、文帝時、申公・韓嬰、皆以レ詩爲二博士一、五經列二于學官一者、唯詩而已、景帝以二轅固一爲二博士一、而餘經未レ立、武帝建元五年春、初置二五經博士一、書唯有二歐陽一、禮后、易楊、春秋公羊而已、立二五經一而獨擧二其四一、蓋詩已立二於文帝時一、今併詩爲レ五也。〔吳志、三嗣主、孫休傳〕詔曰、云云、其案レ古、置二學官一、立二五經博士一、核取二應選一、加二其寵祿一。〔冊府元龜〕梁國子祭酒一人、班第十三、比二列曹尚書一、又置二國子博士二人一、爲二九班一、助教十人、班第二、又置二太學博士八人一、班第三、又置二五經博士各一人一。〔資治通鑑、梁紀〕〔武帝、天監四年〕春正月、詔曰、置二五經博士一、廣二開館宇一、招二內後進一、於レ是以二賀瑒及平原明山賓・吳興沈峻・建平嚴植之一、補二博士一、各主二一館一、館有二數百生一、給二其饌稟一、其射策通明者、卽除爲レ吏。〔魏書、儒林傳序〕太祖初定二中原一、立二太學一、置二五經博士一、生員千有餘人。〔唐書、百官志〕五經博士各二人、掌下以二其經之學一教中國子・周易・尚書・毛詩・左氏春秋・禮記爲二五經一、論語・孝經・爾雅・孟子、不レ立二學官一、附二中經一而已。〔明史、職官志二〕國子監、云云、博士廳五經博士五人。

【五經文字】289 ゴキヤウ　モンジ　書名。三卷。唐、張參撰。三千二百三十五字を偏旁に依つて百六十部に分類す。〔四庫提要、經、小學類〕。

【五經歲徧齋】290 ゴキヤウ　サイヘンサイ　清、翟云升（9－28727：56）の室名。

【五經文字箋正】291 ゴキヤウモンジ　センセイ　書名。三冊。岡井愼吾撰。唐の張參の五經文字に注釋を加へて校刊したもの。

【五教】292 ゴケウ　㊀五倫の教。人倫關係の五つの大きな教。書經舜典の語に本づくのであるが、其の內容は、左傳では父の義、母の慈、兄の友、弟の恭、子の孝としてをり、孟子では父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信としてゐる。五倫（1099）を見よ。〔書、舜典〕汝作二司徒一、敬敷二五教一、在レ寬。〔左氏、桓、六〕脩二其五教一。〔左氏、文、十八〕舜臣レ堯、云云、擧二八元一、使レ布二五教于四方一、父義、母慈、兄友、弟恭、子孝。〔孟子、滕文公上〕使二契爲一司徒一、教以二人倫一、父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信。〔國語、鄭語〕能和二合五教一、以保二于百姓一者也。〔管子、兵法〕五教不レ亂。〔史記、五帝紀〕擧二八元一、使レ布二五教于四方一。〔朱熹、白鹿洞書院揭示〕父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信、右五教之目。㊁君子が人を教へる五種の方法。時雨が物を化育せしめるやうにする方法、德性に應じて成就せしめるもの、材能の長所によつて達成せしめる方法、問に答へて疑惑を解く方法、間接に君子の感化を受けて自分を善くし、治める方法。〔孟子、盡心上〕孟子曰、君子之所二以教一者五、有レ如二時雨化一レ之者一有レ成德者一、有二達レ財者一、有二答レ問者一、有二私淑艾者一。此五者、君子之所二以教一也。〔小學紺珠、性理類、君子五教〕有レ如二時雨化一レ之者一有レ成德者一、有二達レ財者一、有二答レ問者一、有二私淑艾者一。㊂兵卒を訓練する五種の方法。形色の旗を以て目に教ふ、號令の數を以て耳に教ふ、進退の度を以て足に教ふ、長短の利を以て身に教ふ、賞罰の誠を以て心に教ふ。〔羣書拾唾、文武制度〕兵五教、形色之旗、以教二其目一、號令之數、以教二其耳一、進退之度、以教二其足一、長短之利、以教二其身一、賞罰之誠、以教二其心一。㊃唐代、司徒の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二它名一標二牓官稱一、云云、司徒爲二五教一。㊄佛華嚴宗の教判。二種ある。㋑小乘教・大乘始教・終教・頓教・圓教をいふ。〔五教章冠注、上一〕聖教萬差、要唯有レ五、一小乘教、二大乘始教、三終教、四頓教、五圓教。㋺人天教・小乘教・大乘法相教・大乘破相教・一乘顯性教。〔華嚴原人論〕。

【五教章】293 ゴケウ　シヤウ　佛書名。三卷。唐、法藏著。五教の教義を說く。又、華嚴一乘教義分齊章・華嚴一乘教分記・華嚴五教章ともいふ。

【五嶠】294 ゴケウ　南越の境界にある五つの高くけはしい山。〔張九齡、荔枝賦〕山五嶠兮白雲、江千里兮清楓。

【五橋】295 ゴケウ　清、王蔭昌（7－20823：1171）の號。

【五曉】296 wu³ hsiao³　寅の刻。午前四時。

【五劇】297 ゴゲキ　五達の道をいふ。〔盧照鄰、長安古意〕南陌北堂連二北里一、五劇三條控二三市一。〔唐詩選箋注〕此謂二五劇一、卽五達也。

【五桀】298 ゴケツ　地味によつて、上・中・下の三等に區別された下土の一つをいふ。桀は磔、植物の生じない惡土の意。五猶（20）を見よ。〔管子、地員〕凫土之次、曰二五桀一、五桀之狀、甚鹹以苦、其物爲レ下。〔纂詁〕桀、磔也、是土最劣、不レ能二蓄殖穀物一、故取以名焉。

【五結】299 ゴケツ　佛貪結・恚結・慢結・嫉結・慳結。結とは、衆生を繫縛して三界に流轉させる煩惱をいふ。煩惱（7－19229：84）に同じ。〔阿毘達磨論集、四〕。

【五劍】300 ゴケン　越王が歐冶子に作らせた五種の劍。純鈞（純鉤）・湛盧・豪曹（勝邪・盤郢）・魚腸・巨闕。〔吳越春秋、闔閭內傳〕越王元常使レ歐冶子造二劍五枚一、以示二薛燭一。〔越絕書、越絕外傳記寶劍〕一曰湛盧、二曰純鈞、三曰勝邪、四曰魚腸、五曰巨闕。〔小學紺珠、器用類、五劍〕純鈞・湛盧・豪曹（或曰盤郢）・魚腸・巨闕。

【五賢】301 ゴケン　㊀五人の賢人。㋑春秋、晉の狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子。〔劉琨、重贈二盧諶一詩〕重耳任二五賢一。〔注〕善曰、從者、狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子。㋺晉の陶潛（淵明）、劉宋の劉涣（凝之）・李常（公擇）・劉恕（道原）・陳瓘（瑩中）。〔小學紺珠、名臣類下、五賢〕陶潛淵明・劉涣凝之・李常公擇・劉恕道原・陳瓘瑩中、朱文公守二南康一祠二五賢一。㋩孟軻・荀卿・揚雄・王通・韓愈。五賢祠を見よ。㋥宋の王十朋（龜齡）・馮方（圓仲）・胡憲（原仲）・查籥（元章）・李浩（德遠）。〔宋史、胡憲傳〕方レ憲之以二館職一召レ也、適秦檜諱言レ之、後憲與二王十朋・馮方・查籥・李浩一、相繼論レ事、太學生爲二五賢詩一以歌レ之。〔小學紺珠、名臣類、五賢〕王十朋龜齡・馮方圓仲・胡憲原仲・查籥元章・李浩德遠。㊁人に勝れてゐる五つのもの。美鬚長大・射御足力・伎藝畢給・巧文辯惠・彊毅果敢。春秋時代の晉の知宣子の子、瑤（知伯）の故事。〔國語、晉語九〕知宣子將二以瑤爲一レ後、云云、瑤之賢於人者五、其不レ逮者一、美鬚長大則賢、射御足力則賢、伎藝畢給則賢、巧文辯惠則賢、彊毅果敢則賢、如レ是而甚不仁、以二其五賢一陵二人一、而以二不仁一行レ之、其誰能待レ之。

【五賢祠】302 ゴケンシ　五人の賢人を祀る祠。孟軻・荀卿・揚雄・王通・韓愈の五人を孔子に配する。〔小學紺珠、聖賢類、五賢〕孟軻・荀卿・揚雄・王通・韓愈、孔道輔繪二五賢於兗州夫子廟一。

【五獻】303 ゴケン　神に物を五回供へること。又、其の五回目の供物。〔禮、禮器〕一獻質、三獻文、五獻察、七獻神。〔注〕察、明也、謂レ祭二四望山川一也。〔疏、五獻察者、謂レ祭二四望山川一、其神旣尊、神靈明察上。〔左氏、昭、元〕及レ享、具二五獻之籩豆一於其幕下一。

【五權】304 ゴケン　㊀五つのはかるべきこと。㋑將たるもののはかるべき五事。將帥の權を貪つて之を失ふを憂へてはならぬ、勝つことを急いで敗れることを忘れてはならぬ、內を威して外を輕んじてはならぬ、其の利を見て其の害を顧みないことがあつてはならぬ、凡そ事を慮るにはよく熟慮し、財を用ひるには惜んではならぬ。〔荀子、議兵〕無レ欲レ將而惡レ廢、無二急勝而忘一レ敗、無二威內而輕一レ外、無二見レ利而不レ顧其害一、凡慮レ事欲レ熟、而用レ財欲レ泰、是之謂二五權一。㋺爲政者のはかるべき五事。民をはかつて地を授け、事の繁簡に應じて官の增減をはかり、都鄙の遠近多寡をはかつて城市を建て、常德をは

かつて刑を行ひ、爵を考へて祿を與へる。〔逸周書、五權解〕五權、一曰地、地以權レ民、二曰物、物以權レ官、三曰鄙、鄙以權レ庶、四曰刑、刑以權レ常、五曰食、食以權レ爵。㊁鉄・兩・斤・鈞・石をいふ。〔漢書、律歷志〕五權之制、以レ義立レ之、以レ物鈞レ之。（注）鉄・兩・斤・鈞・石、爲二五權一。㊂國民政府の五權。行政權・立法權・司法權・攷試權・監督權。

〔五權解〕305 ガイケン　逸周書の篇名。

〔五權憲法〕306 ゲンパフ　五權を中心として行ふ憲法。孫文の主唱した政府組織の原理。五權の㊂及び五院制度(33)を見よ。

【五言】307 ゴゲン　㊀五德（仁・義・禮・智・信）の言。〔書、益稷〕予欲下聞二六律五聲八音一、在二治忽一、以出二納五言一汝聽。〔傳〕若樂音合レ度、則言必得レ理、以二此樂言一出二納仁・義・禮・智・信五德之言一、乃君之發言、合二被五德一、施二之於人一、可レ以成二其教化一是出二五言一也。㊁五言の詩。五絶・五律・五古をいふ。五言詩を見よ。陔餘叢考、卷二十三に見ゆ。〔摯虞、文章流別論〕古之詩有二三言・四言・五言・六言・七言・九言一。〔江淹、雜體詩序〕五言之興、諒非二夐古一。〔白居易、與二元九一書〕國風變爲二騷辭一、五言始二於蘇李一。

【五言古】308 ゴゲンコ　五言古詩の略。〔西園詩塵、律難〕四言古、難二于五言古一、五言古、難二于七言古一。

【五言詩】309 ゴゲンシ　五言を一句とした詩の總稱。五言詩は七言詩と共に漢代に起つた新體の詩で、上二字下三字を正式とする。其の淵源は遠く詩經・楚辭其の他の歌謠中の五言句に求めることが出來るが、劃然として五言詩の體を成すに至つたのは前漢の時代である。其の權輿と認められるものは、古詩十九首と蘇武・李陵贈答の詩である。十九首の中には枚乘の作があり、枚乘は蘇武・李陵より先輩であるから、五言は枚乘に始まるといふ說もある。要するに、五言詩は漢の武帝の世に創まつたもので、漢魏六朝を通じての詩の正體となつた。〔文心雕龍、明詩〕若二夫四言正體、雅潤爲レ本、五言流調、清麗居レ宗、華實異レ用、唯才所レ安。〔鍾嶸、詩品序〕五言居二文辭之要一、是衆作之有二滋味一者也。〔韓愈、薦士詩〕五言出二漢時一、蘇李首更號。〔詩藪、內篇、古體中、五言〕折二繁簡之衷一、居二文質之要一、蓋莫レ尙二於五言一。〔陔餘叢考、五言〕漢初郊廟樂歌、但有二三言・四言及長短句一、無二所謂五言者一、文心雕龍曰、漢成帝品二錄三百餘篇一、不レ見二有二五言一、蓋在二西漢時一、五言猶是歌體、故甄錄未レ及也。五言斷以二古詩十九首及蘇李贈答一爲レ始、十九首或稱二枚乘所レ作、其孤竹一篇、則傳毅所レ作。蓋漢武好二尙文詞一、故當時才士、各爭二新奇一。創爲二此體一、實亦天地自然有二此一種一、至レ時而開、不レ能レ祕也。劉勰又曰、召南行露、已肇二半章一、孺子滄浪、亦有二全曲五言一、久矣、又曰、四字密而不レ促、六字格而非レ緩、或變レ之以二三五一、蓋應二機之權衡也一、鍾嶸又以二夏歌鬱乎余心一爲二五言濫觴一、按、三百篇中、五言單句、固指不レ勝レ屈、若下小雅以介二我稷黍一、以穀二我士女一、彼有二不レ穫穉一、此有二不レ斂穡一、乃求二千斯倉一、乃求二萬斯箱一等句上、已皆連二用五言一、特未二製爲一全篇一耳、漢初諸人、本レ此以爲二全篇一、遂成二五言體一、至下如二或燕燕居息一、或盡瘁事レ國數句一、連中用或字上、又爲二昌黎南山詩所一本。

【五言律】310 ゴゲンリツ　五言八句の律詩。五言律詩・律詩(4－10097‥32)を見よ。

【五言金城】311 ゴゲンキンジヤウ　五言詩の達人。南唐の劉洞の故事。金城は、常人の企て及ぶべからざる喩。五言長城。〔南唐書、儒者傳〕劉洞詩長二于五言一、自號二五言金城一。

【五言古詩】312 ゴゲンコシ　五言句から成る古詩。略して五古ともいふ。五言古。〔詩體明辯、五言古詩〕按、宋嚴羽云、風雅頌既亡、一變而爲二離騷一、再變而爲二西漢五言一、三變而爲二歌行雜體一、四變而爲二沈宋律詩一、然論者謂、五言之原、生二於南風一、衍二於五子之歌一、逮レ漢、蘇李始以成篇嗣レ是、汪二洋於漢魏一、汙二漫於宋晉一、至二陳隋一而古調絕矣、唐初承二前代之弊一、幸有二陳子昂一起而振レ之、遏二頽靡之微波一、決二開元之正派一、於レ時、李杜王孟之徒、相繼有レ作、元和以下、遺響復息。

【五言絕句】313 ゴゲンゼックク　近體詩の一。五言四句から成る詩。略して五絕ともいふ。漢魏の小樂府から變化したもの。五言絕句の平仄式は次の如し。○は平、●は仄、◑は平仄孰れにても可。

正格（仄起式）

起	◑	●	○	○	●
承	◑	○	◑	●	○
轉	◑	○	○	●	●
結	◑	●	●	○	○
					韻

偏格（平起式）

起	◑	○	○	●	●
承	◑	◑	●	○	○
轉	◑	●	○	○	●
結	◑	○	○	●	○
					韻

常格の平仄に從はない變調の詩を拗體といふ。作詩法(1－518‥79)・絕句(8－27407‥56)・拗體(5－11962‥16)を見よ。〔文章辨體、辨詩〕楊伯謙曰、五言絕句盛二唐初一、變二六朝子夜體一。

【五言長城】314 ゴゲンチヤウジヤウ　五言詩の達人。五言金城に同じ。〔唐書、隱逸、秦系傳〕系與二劉長卿一善、以レ詩相贈答、權德輿曰、長卿自以爲二五言長城一、系用二偏師一攻レ之、雖レ老益壯。

【五言排律】315 ゴゲンハイリツ　五言の句から成る排律。略して五排ともいふ。排律(5－12256‥145)を見よ。〔文章辨體、辨詩〕楊伯謙曰、五言排律雖レ多、然往往不レ純、至二中唐一始盛。

【五言律詩】316 ゴゲンリツシ　詩體の一。唐初、沈佺期・宋之問等の創めた一體で、聲律上一定の法則がある。五言律詩の平仄式は次の如し。○は平、●は仄、◑は平仄孰れにても可。

正格（仄起式）

起	◑	●	○	○	●		
聯	◑	○	◑	●	○		韻
頷	◑	○	○	●	●		
聯	◑	●	●	○	○		韻
頸	◑	●	○	○	●		
聯	◑	○	◑	●	○		韻
尾	◑	○	○	●	●		
聯	◑	●	●	○	○		韻

偏格（平起式）

起	◑	○	○	●	●		
聯	◑	●	◑	○	○		韻
頷	◑	●	○	○	●		
聯	◑	○	◑	●	○		韻
頸	◑	○	○	●	●		
聯	◑	●	●	○	○		韻
尾	○	○	●	●	●		
聯	◑	○	◑	●	○		韻

律詩(4－10097‥32)を見よ。略して五律。〔滄浪詩話、詩法〕律詩難二於古詩一、七言律詩難二於五言律詩一。

【五言三句格】317 ゴゲンサンクカク　詩體の一。一句五言で、三句から成つてゐるもの。

【五弦】318 ゴゲン　絲の五筋ある樂器。弦は又絃に作る。五絃。〔樂苑〕五弦未レ詳二所レ起、形如二琵琶一、五弦四隔、孤柱一、谷散聲五、隔聲二十、柱聲一、總二十六聲一、隨二調應一レ律。〔嵇康、贈二秀才入軍詩〕手揮二五弦一。〔唐書、禮樂志十一〕五弦如二琵琶一而小、北國所レ出、舊以二木撥一彈、樂工裴神符初以手彈。

【五弦琴】319 キンゲン　五絃の琴。昔、舜の彈じたもの。五絃琴。〔禮、樂記〕舜作二五弦之琴一、以歌二南風一。〔疏〕謂下無二文武一二弦一、惟宮商等五弦上也。〔韓詩外傳、四〕舜彈二五弦之琴一、以歌二南風一、而天下治。〔史記、樂書〕昔者舜作二五絃之琴一。〔孔子家語、辯樂解〕昔者舜彈二五絃之琴一。

【五弦瑟】320 ゴゲンノシツ　絲の五筋かかつた瑟。五絃瑟。〔呂覽、古樂〕昔古朱襄氏之治二天下一也、多レ風而陽氣蓄積、萬物散解、果實不レ成、故士達作二爲五絃瑟一、以承二陰氣一、以定二羣生一。

【五原】321 ゴゲン　㊀原道。原性。原人。原鬼。原毀の原と名づける五つの文章をいふ。唐、韓愈作。〔文體明辯、原〕按、字書云、原者本也、謂二推二論其本原一也、自二唐韓愈作二五原一、而後人因レ之、雖レ非二古體一、然其溯二原於本始一、致二用於當今一、則誠有二不可少者一、至二其曲折抑揚一、亦與二論說一相二爲表裏一、無二甚異一也、其題或曰二原某一、或曰二某原一、亦無二他義一。㊁地名。五つの原があるから名づける。㋑陝西省の境。畢原。白鹿原。少陵原。高陽原。細柳原。〔長安志〕長安萬年二縣之外、有二畢原。白鹿原。少陵原。高陽原。細柳原一、謂二之五原一。㋺甘肅省鹽池縣の境内。龍游原。乞地千原。青嶺原。可嵐貞原。橫槽原。〔元和志〕故五原郡、以二其地有二五原一所二故名一、五原、謂二龍游原。乞地千原。青嶺原。可嵐貞原。橫槽原一。㊂塞の名。漢の五原郡の榆柳塞をいふ。綏遠省五原縣の地。〔漢書、匈奴傳下〕呼韓邪單于、款二五原塞一。㊃郡名。漢、置く。綏遠省五原縣。〔漢書、地理志下〕五原郡、秦九原郡、武帝元朔二年更名。〔元和志〕故五原郡、以二其地有二五原一故名、五原、謂二龍游原。乞地千原。青嶺原。可嵐貞原。橫槽原一。㊄縣名。㋑漢、置く。五原郡に屬す。故城は綏遠省五原縣の東。烏喇特旗の東で、茂明安旗の界に近い。〔漢書、地理志下〕五原郡、縣十六、五原。〔水經、河水注〕漢武帝元朔二年、更二名五原一也、云云、西北接二對一城、蓋五原縣之故城也。㋺後魏、置く。故治は寧夏省鹽池縣の北。〔讀史方輿紀要、

陝西、寧夏後衞）五原廢縣。今綏遠省臨河縣の北。

【五紘】322 ゲン 五弦（318）に同じ。「詩。五言古。

【五古】323 コゴ 五言古詩（312）の略。一句五字の古

【五虎】324 コゴ ㊀五匹の虎。〔梁童謠〕寧逢二五虎入レ市、不レ欲二見臨賀二天子一。〔金史、始祖子勛傳〕三日之間、親射二五虎一、獲レ之。㊁山名。陝西省府谷縣（明代、延安府に屬す）の東。〔明一統志〕五虎山、在二延安府谷縣治東一、上有二五峯一、勢若二伏虎一。㊂島の名。福建省閩侯縣の東海中。〔讀史方輿紀要、福建、福州府、閩縣〕五虎山、府東百里、大海中有二五虎門一、與二江口一相接、明初、湯和由二海道一取二福州一處也。㊃潭の名。湖南省靖縣（明代の靖州）の佛子嶺の下。〔明一統志〕五虎潭、在二靖州佛子嶺下一、潭傍有二石相對如レ虎、故名。㊄澗の名。黃河の渡場。山西省垣曲縣の西南。明の嘉靖の時、千總を置いて鑛徒を防いだ所。五福ともいふ。

【五虎棍】325 wu² hu³ kuen⁴ 祭禮の時などに演ずる藝當の名。一人は趙匡胤に扮し、一人は鄭思に扮し、五六人の伴を連れ、手に棍棒を持ち、各種の樂器を奏して藝を演ずる。

【五虎山人】326 ゴコサンジン 清、林昌彝（6－14551・35）の號。

【五虎將軍】327 ゴコショウグン 蜀の劉備の部下の五名將。關羽・張飛・趙雲・馬超・黃忠。五虎大將。〔蜀志、關羽・張飛・馬超・黃忠・趙雲傳評〕評曰、關羽・張飛、皆稱二萬人之敵一、爲二世虎臣一、羽報二效曹公一、飛義二釋嚴顏一、並有二國士之風一、然羽剛而自矜、飛暴而無レ恩、以レ短取レ敗、理數之常也、馬超阻レ戎負レ勇、以覆二其族一、惜哉、能因レ窮致レ泰、不二猶愈一乎、黃忠・趙雲、彊摯壯猛、並作二爪牙一、其灌勝之徒歟。

【五虎大將】328 wu² hu³ ta⁴ chiang⁴ 五虎將軍に同じ。

【五胡】329 ゴコ 漢・晉時代に北方から移住した五種の夷。匈奴・羯・鮮卑・氐・羌。（巴蠻を加へて六夷ともいふ）。〔晉書、元帝紀論〕晉氏不レ虞、自レ中流一外、五胡扛鼎、七廟隳レ尊。〔小學紺珠、地理類、五胡〕劉淵匈奴・石勒羯・慕容皝鮮卑・符洪氐・姚萇羌。

【五胡十六國】330 ゴコジュウロクコク 西晉の末に起つた一時代。宋の元嘉十六年まで百二十年。其の主權者の種族は五、國は十六なのでいふ。五胡を見よ。十六國は、二趙（前・後）・二秦（前・後）・四燕（前・後・南・北）・五涼（前・後・南・北・西）及び成漢と夏。其の興亡順序は左の如くである。

國名	始祖	種族	所據地	滅其國者	興亡（西紀）
前趙	劉淵	匈奴	平陽	後趙	二〇四－二二九
成漢	李雄	氐	成都	東晉	二〇四－二四七
後趙	石勒	羯	臨漳	前燕	二一九－二五一
前燕	慕容儁	鮮卑	鄴都	前秦	二四九－二七〇
前涼	張茂	漢人	姑臧	前秦	二一四－三七六
前秦	苻健	氐	長安	西秦	二五一－三九四
後燕	慕容垂	鮮卑	中山	北燕	二八四－四〇九
後秦	姚萇	羌	長安	東晉	二八四－四一七
西秦	乞伏國仁	鮮卑	金城	夏	二八五－四三一
後涼	呂光	氐	姑臧	後秦	二八六－四〇三
南涼	禿髮烏孤	鮮卑	樂都	西秦	二九七－四一四
北涼	沮渠蒙遜	匈奴	張掖	北魏	四〇一－四三九
南燕	慕容德	鮮卑	廣固	東晉	四〇〇－四一〇
西涼	李暠	漢人	酒泉	北涼	四〇〇－四二一
夏	赫連勃勃	匈奴	統萬	北魏	四〇七－四三一
北燕	馮跋	漢人	昌黎	北魏	四〇九－四三六

【五庫】331 コ 五つの庫。㊀車庫・兵庫・祭器庫・樂庫・宴器庫。〔禮、月令〕審二五庫之量一。〔注〕五庫、藏二此諸物之舍也。〔淮南子、時則訓〕命二五庫一、令二百工一。〔月令章句、五庫〕五庫者、一曰車庫、二曰兵庫、三曰祭器庫、四曰樂庫、五曰宴器庫。〔小學紺珠、制度類、五庫〕車・兵・祭器・樂・宴器。㊁宋代、軍器の五庫。衣庫・甲庫・槍庫・弩庫・箭庫。〔小學紺珠、制度類、五庫〕衣・甲・槍・弩・箭、宋軍器五庫。

【五羖】332 ゴ 五匹の牡羊。轉じて、春秋時代の秦の百里奚をいふ。五羖大夫を見よ。〔揚雄、解嘲〕五羖入而秦喜、樂毅出而燕懼。〔晉書、段灼傳〕自二穆公一至二於始皇一、皆能留レ心待レ賢、遠求二異士一、招二由余於西戎一、迎二五羖於宛市一。

【五羖大夫】333 ダイフ 春秋時代の秦の百里奚をいふ。秦の穆公が五羖の羊皮を以て、楚から百里奚を贖ひ之に國政を授けた故事。五羖羊皮を見よ。〔戰國、秦策〕五羖大夫之相レ秦也、勞不二坐乘一、暑不レ張レ蓋。〔史記、商君傳〕孰與五羖大夫賢。〔說苑、尊賢〕親擧二五羖大夫於係縲之中一。

【五羖羊皮】334 ノゴヒツヒ 五枚の牡羊の皮。五羖大夫を見よ。〔史記、秦紀〕繆公聞二百里傒賢一、欲レ重贖レ之、恐二楚人不レ與、乃使二人謂一晉曰、吾媵臣百里傒在焉、請以二五羖羊皮一贖レ之、楚人遂許與レ之、云云、繆公大說、授二之國政一、號曰二五羖大夫一。

【五湖】335 コ ㊀湖の名。㋑古代の五つの湖。其の說は極めて多い。之を表示すれば次の如くである。

太湖說

〔周禮、夏官、職方氏〕東南曰二揚州一、云云、其浸五湖。〔注〕五湖、在二吳南一。〔疏〕五湖在二吳南一者、吳南、郡名、南江在二吳南一、震澤在レ西、通而言レ之、亦得二震澤在一吳南一、具區、卽震澤、一也。	湓湖・洮湖・射湖・貴湖・太湖
〔國語、越語下、韋昭注〕五湖、今太湖也。	
〔水經、沔水注〕又云、范蠡滅レ吳、返至二五湖一而辭レ越、斯乃太湖之兼攝通稱也、虞翻曰、是湖有二五道一、故曰二五湖一。	
〔說文通釋〕太湖、一名具區、其派有レ五、故曰二五湖一。	
〔文選、郭璞、江賦、李善注引張勃吳錄〕五湖者、太湖之別名、以二其周行五百里一、以二五湖一爲レ名。	
〔後漢書、馮衍傳〕沈二孫武於五湖一兮。〔注〕虞翻曰、太湖有二五湖一故謂レ之五湖。滆湖・洮湖・射湖・貴湖及太湖爲二五湖一並太湖之小支、俱連二太湖一故太湖兼二得五湖之名一、在二今湖州東一也。	胥湖・蠡湖・洮湖・滆湖・太湖
〔吳越春秋、夫差內傳〕入二五湖之中一。〔注〕五湖、韋昭曰、胥湖一蠡湖・洮湖・滆湖・就二太湖一而五。	附湖

近五湖

長蕩湖・太湖・射貴湖・上湖・滆湖	〔水經、沔水注〕南江東注二於具區一、謂二之五湖口一。五湖、謂二長蕩湖・太湖・射貴湖・上湖・滆湖一也。
菱湖・游湖・莫湖・貢湖・胥湖	〔史記、夏紀、震澤致定、正義〕五湖者、菱湖・游湖・莫湖・貢湖・皆太湖東岸五灣、爲二五湖一、蓋古時應レ別、今並相連。
貢湖・游湖・胥湖・梅梁湖・金鼎湖	〔吳越春秋、夫差內傳、五湖、注〕五湖、一說、貢湖・游湖・胥湖・梅梁湖・金鼎湖。〔名勝志〕五湖、貢湖・游湖・胥湖・梅梁湖・金鼎湖也。
莫湖・游湖・胥湖・貢湖・太湖	〔寰宇記〕五湖、太湖中有二莫湖・游湖・胥湖・貢湖一、是謂二五湖一。

太湖附近以外の五湖

〔郭璞、江賦〕具區・洮滆・彭蠡・青草・洞庭。	
〔小學紺珠、地理類、五湖〕湖州太湖・楚州射陽・岳州青草・潤州丹陽・洪州宮亭。	
〔地理通釋、十道山川考〕五湖、彭蠡・洞庭・巢湖・太湖・鑑湖。	
〔新義錄〕五宗世家解二五湖一、謂二具區・洮・滆・彭蠡・青草一、差爲レ近レ之、又有下謂二洞庭・震澤・青草・雲夢・巴邱一者上。	
〔書言故事、地理類〕五湖、鄱陽・青草・洞庭・丹陽・太湖。	
〔韓非子、初見秦〕秦與二荊人一戰、大破レ荊、襲二郢、取二洞庭五湖江南一。	
〔禹貢錐指〕此洞庭自爲二五湖一、與二揚之五湖一無レ涉。	
〔巴陵舊志〕洞庭湖、一名二五湖一。	

㊁河南省洛陽縣に在る。隋の煬帝鑿つ。毎湖方十支里、東を翠光、南を迎陽、西を金光、北を潔水、中を廣明といふ。湖中、土石を積んで山を爲す。（洛陽縣志）五湖、煬帝又鑿二五湖一、毎湖方十里、東曰二翠光一、南曰二迎陽一、西曰二金光一、北曰二潔水一、中曰二廣明一、湖中積二土石一爲レ山、構二亭殿一。㋺明一統志の五湖。寧國縣の北。源は千秋嶺に出て、寧國縣溪に入り宣城に至つて江に注入する。〔明一統志〕五湖、在二寧國府寧國縣北四里一、源出二千秋嶺一、北流入二寧國縣溪一、至二宣城一入レ江。㋩滿洲吉林省肇州縣の西南。周回二支里。

❶明、陸師道（11‥41708‥341）の號。

【五湖遊】336 イゴウ 戲曲の名。明、汪道昆作。越の范蠡が功成つて身退き、五湖に泛遊することを演ずる。〔盛明雜劇、第一集〕。

【五湖長】337 ゴコウチョウ ❶五湖（太湖）地方の長官。晉の桓玄。桓玄が長官になつた義興郡の治は、太湖の西岸、今の江蘇省宜興縣の近くに在つた。〔晉書、桓玄傳〕桓玄（桓溫庶子）云云、嘗登ㇾ高望ニ震澤一歎曰、父爲ニ九州伯一兒爲ニ五湖長一、棄ㇾ官歸ㇾ國。❷字號。

【五湖之霸】338 ゴコノハ 明、朱華園（6－14424‥719）の號。㊀明、王世貞（7－20823‥1763）の號。五湖の地方に於ける霸者。〔新論、禍福〕越棲ニ會稽一、以爲ㇾ禍也、而有ニ五湖之霸一。

【五湖四海】339 wu³ hu² ssü⁴ hai³ 中國全土。

【五湖田舍】340 ゴコデンシャ 明、陳道復（11－41698‥118）の號。

【五湖漫士】341 ゴコマンシ 明、張本（4－9812‥682）の號。

【五綈】342 ゴテイ 五着の袴。人の富裕なのに喩へる。綈は袴に通ず。〔後漢書、廉范傳〕廉范字叔度、云云、建初中、遷ニ蜀郡太守一、其俗尚ニ文辯一、好相ニ持短長一云云、成都民物豐盛、邑宇逼側、舊制、禁ニ民夜作一、以防ニ火災一、而更相隱蔽、燒者日屬、范迺毀ニ削先令一、但嚴使ㇾ儲ㇾ水而已、百姓爲ㇾ便、乃歌ㇾ之曰、廉叔度、來何暮、不ㇾ禁ㇾ火、民安作、平生無ㇾ襦、今五綈。〔白居易、寄ニ獻北郡留守裴令公一詩〕路喧歌ニ五袴一、軍醉感ニ單醪一。〔故事成語考、文臣〕廉范守ニ蜀郡一、民歌ニ五綈一。

【五鈷】343 ココ 佩眞言宗の佛具。兩端に五つの鉾形のある金剛杵。鉾形の一つのを獨鈷、三つのを三鈷といふ。もと印度の護身用武器、煩惱を破る意で佛具となる。五股、五古、五胡、五股杵。五股金剛杵。〔五重結護〕五鈷杵、顯ニ五智一也。〔谷響集、二〕本作ニ股、股者枝義、云云、作ㇾ鈷者、與ㇾ胡音同、蓋以ニ金剛杵一、故從ㇾ金作ㇾ鈷、只取ニ音同一耳。

【五鼓】344 ココ ❶古、日食の時に打つた五種の鼓。五行に象つたもの。青鼓・赤鼓・白鼓・黑鼓・黃鼓。〔穀梁、莊、二十五〕天子救ㇾ日置ニ五鼔一、陳ニ五兵五鼓一。〔疏〕五鼓者、麋信・徐邈並云、東方青鼓、南方赤鼓、西方白鼓、北方黑鼓、中央黃鼓。❷軍師を戒める五度の鼓。一鼓は兵を整ふ、二鼓は陣を習ふ、三鼓は食に趨る、四鼓は辨を嚴にす、五鼓は行に就く。〔羣書拾唾〕一鼓整ㇾ兵、二鼓習ㇾ陣、三鼓趨ㇾ食、四鼓嚴ㇾ辨、五鼓就ㇾ行。❸五更（午前四時）に打つ鼓。〔晉書、鄧攸傳〕鄧攸去ニ郡一、不ㇾ受ニ一錢一云云、吳人歌之曰、統如ㇾ打ニ五鼓一、雞鳴天欲ㇾ曙、云云、鄧侯挽不ㇾ留、謝令推不ㇾ去。

【五五】345 ゴゴ 三年の喪。二年の喪は二十五箇月で終り、五五の乘數に當るからいふ。但し三國、魏の王肅の說では三年の喪は二十五箇月だが、後漢の鄭玄の說では二十七箇月とする。三年喪（1－12‥1412）を見よ。〔禮、三年問〕三年之喪、二十五月而畢。〔堂邑令費鳳碑〕罪五五綾杖其未ㇾ除。〔巴郡太守樊敏碑〕遭ニ離母憂一、五五斷仁。

【五五節】346 ゴゴセツ 五月五日。民國十年五月五日に孫文が非常大總統に就任し、國民政府が成立した記念日。

【五五泉】347 ゴゴセン 古錢の名。〔陶齋藏石記〕僧璨皖公山塔記、甎頂刻ニ五五泉式一、有ニ大隋開皇紀年一、知ㇾ此泉於ニ開皇時一行用也。

【五五地】348 ゴゴチ 地名。雲南省の西南、緬甸と接するところ。

【五伍】349 ゴゴ 五つの伍。二十五人。五伍を兩といふ。伍は五人で、軍隊の單位。〔周禮、地官、旅師、以ニ地之孅惡之等一注〕五口以下、授以ニ下地一、與ニ舊民一、同。〔穀梁、宣、十五、古者什一、注〕一夫一婦、佃ㇾ田百畝、以共ニ五口父母妻子一也。〔漢書、食貨志上〕士工商、家受ニ田、五口乃當ニ農夫一人一。

【五五地】348 ゴゴチ 地名。雲南省の西南、緬甸と接するところ。

【五伍】349 ゴゴ 五つの伍。二十五人。五伍を兩といふ。伍は五人で、軍隊の單位。〔周禮、地官、旅師、以ニ地之孅惡之等一注〕五口以下、授以ニ下地一、與ニ舊民一、同。〔穀梁、宣、十五、古者什一、注〕一夫一婦、佃ㇾ田百畝、以共ニ五口父母妻子一也。〔漢書、食貨志上〕士工商、家受ニ田、五口乃當ニ農夫一人一。

【五口】350 ゴコウ ❶五人をいふ。〔周禮、地官、旅師、以ニ地之孅惡之等一注〕五口以下、授以ニ下地一、與ニ舊民一、同。〔穀梁、宣、十五、古者什一、注〕一夫一婦、佃ㇾ田百畝、以共ニ五口父母妻子一也。〔漢書、食貨志上〕士工商、家受ニ田、五口乃當ニ農夫一人一。❷上海・廣州・福州・廈門・寧波の五港。口は港。

【五口通商】351 ゴコウツウショウ 上海・廣州・福州・廈門・寧波の五港が、清の道光二十二年、鴉片戰爭の結果、南京條約に由つて開港せられたこと。

【五公】352 ゴコウ ❶五人の公。㋑後漢の張湯・蕭望之・馮奉世・史丹・張安世。又、田蚡・張安世・朱博・平晏・韋賢。〔班固、西都賦〕冠蓋如ㇾ雲、七相五公。〔注〕向曰、七相、謂ニ車千秋・黃霸・王商・王嘉・韋賢・平當・魏相一、五公、張湯・蕭望之・馮相五奉世・史丹・張安世。〔後漢書、班固傳、七相五公、注〕五公、謂ニ田蚡爲ニ大尉一、長陵人、張安世爲ニ大司馬一、朱博爲ニ司空一、並杜陵人、平晏爲ニ司徒一、韋賢爲ニ大司馬一、並平陵人也。㋺後漢の袁氏四代の五公、袁安・袁敞・袁湯・袁逢・袁隗。〔聖賢羣輔錄、四世五公〕袁安字邵公（以ニ太僕一爲ニ司空一、遷ニ司徒一）・安子敞字叔平（以ニ光祿勳一爲ニ司空一）・敞子湯字仲河（以ニ太僕一爲ニ司空一、遷ニ司徒一）・湯子逢字周陽（以ニ屯騎校尉一爲ニ司空一）・逢弟隗字次陽（以ニ太常一爲ニ司空太尉一）、右袁氏四世五公、見ニ續漢書。㋩晉の何勗牟平公・路秀小黃公・衞毅陰平公・劉眞安卿公・韓泰封丘公をいふ。〔晉書、齊王冏傳〕以ニ車騎將軍何勗一領ニ中領軍一、封ニ葛旗一爲ニ牟平公一、路秀小黃公・衞毅陰平公・劉眞安卿公・韓泰封丘公、號曰ニ五公一。❷晉の王導・謝安・溫嶠・陶侃・謝玄。〔小學紺珠、名臣類下、五公〕始興（王導）・廬陵（謝安）・始安（溫嶠）・長沙（陶侃）・康樂（謝玄）。❸山名。㋑福建省惠安縣の東北。梁の寶公等五人が此處に隱れたから名づけたといふ。〔明一統志〕五公山、在ニ泉州府惠安縣東北一、相傳、梁寶公等五人、隱ニ於此一、故名。㋺浙江省瑞安縣の西。梁の高僧誌公等五人が此處に居たといふ。〔明一統志〕五公山、在ニ溫州府瑞安縣西三十里一、世傳、梁時高僧誌公等五人、居ニ此一。

【五公五民】353 ゴコウゴミン 田畑の全收穫の五分を官に納め、殘餘の五分を農民の所得とすること。〔地方凡例錄、三〕檢見の法に五公五民と云ふ事は、其の年の出來米を公儀地頭へ半分、百姓作德半分取をいふ。

【五公山人】354 ゴコウサンジン 清、王餘佑（7－20823‥2152）の號。

【五功】355 ゴコウ 回教徒の五つの修行。念眞・禮眞・齋戒・捐課・朝覲天闕。〔天方典禮釋要解〕五功者、念眞（時念ニ眞宰一）・禮眞（日禮ニ五時一）・齋戒（歲齋ニ一月一）・捐課（歲捐ニ課財一）・朝覲天闕（終身必朝ニ天方一次）也。

【五弘】356 ゴコウ 地味によつて、上・中・下の三等に區別された下土の一。弘は粗土の意。〔管子、地員〕猶土之次曰ニ五弘一、五弘之狀如ニ鼠肝一、其種青粱、黑莖黑秀、蓄殖果木、不ㇾ如ニ三土一、以ニ十分之五一。〔纂詁〕弘猶ㇾ粗也。

【五狗】357 ゴコウ 唐の武三思の腹心の五人の惡者。周利貞・冉祖雍・宋之孫・李悛・姚紹之。〔唐書、武三思傳〕爲ニ冉祖雍・宋之孫・李悛所ㇾ白、皆坐死一、云云、姚紹之等五人、號ニ三思五狗一。

【五侯】358 ゴコウ ❶五等（公・侯・伯・子・男）の諸侯。〔書、康誥、王若曰孟侯、傳、孟、長也、五侯之長謂ニ方伯一（疏）五侯之長、五等諸侯之長也。〔逸周書、程典解〕明ニ其五侯一、習ニ其武誡一。❷前漢の成帝の時の王氏の五侯。平阿侯・成都侯・紅陽侯・曲陽侯・高平侯。〔漢書、元后傳〕上悉封ニ舅譚一爲ニ平阿侯一、商成都侯・立紅陽侯・根曲陽侯・逢時高平侯、五人同日封、故世謂ニ之五侯一。〔羣書拾唾〕王氏五侯、王譚（平阿侯）・王商（成都侯）・王立（紅陽侯）・王根（曲陽侯）・王逢時（高平侯）。❸後漢の桓帝の時の五侯。新豐侯・武原侯・上蔡侯・東武陽侯・汝陽侯。〔後漢書、宦者、單超傳〕於ㇾ是詔收ニ冀及宗親黨與一悉誅之、悟衡遷ニ中常侍一、封ニ超新豐侯一、二萬戶、璜武原侯、瑗東武陽侯、各萬五千戶、賜ニ錢各千五百萬一、悟上蔡侯、衡汝陽侯、各萬二千戶、賜ニ錢各二千百萬一、五人同日封、故世謂ニ之五侯一。〔羣書拾唾〕東漢五侯、單超（新豐侯）・徐璜（武原侯）・左悟（上蔡侯）・具瑗（東武陽侯）・唐衡（汝陽侯）。❹後漢の梁氏の五侯。梁冀の子胤及び叔父讓・淑・忠・戟。〔後漢書、陳蕃傳〕前梁氏五侯、毒徧ニ海內一。〔注〕五侯、謂ニ胤・讓・淑・忠・戟五人一。❺王興の五子。後漢の光武帝が、位に卽くや、五侯となる。北平侯・安熹侯・蒲陰侯・新市侯・爲唐侯。〔水經、易水注〕五公卽王興之五子也、光武卽ニ帝位一、封爲ニ五侯一、元才北平侯・益才安熹侯・顯才蒲陰侯・仲才新市侯・秀才爲唐侯、所謂中山五王也。❻戰國時代に存した、墨家の一人。〔莊子、天下〕相里勤之弟子五侯之徒、南方之墨者。

【五侯鯖】359 ゴコウセイ 非常の珍味。鯖は、魚と肉とを

まぜて煮たもの。婁護といふ人が、五侯から賜はつた種々の肉を雜へ烹た御馳走。略して侯鯖ともいふ。五侯とは、漢の成帝の母舅の王譚・王根・王立・王商・王逢時の五人で、同日に諸侯となつたもの。五侯の㊀を見よ。〔西京雜記、二〕五侯不レ相能一、賓客不レ得二來往一、婁護豐辯傳二食五侯間一各得二其懽心一、競致二奇膳一、護乃合以爲レ鯖、世稱二五侯鯖一以爲二奇味一焉。

【五侯九伯】360 ゴコウキュウハク　五等の諸侯、九州の伯。又、天下の諸侯といふ意。五は數の中、九は數の極だから、凡ての數を表はし、侯は公侯の侯、伯は伯子男の伯で、五等の諸侯凡てを代表す。〔左氏、僖、四〕五侯九伯、女實征レ之。〔注〕五等諸侯、九州之伯。〔會箋〕五、謂レ爵、九、謂レ州、非二立言之體一云云、蓋統二言天下諸侯之國一也、古人制數之法、一爲二始數一、五爲二中數一、九爲二終數一云云、故以二至少者一擧、則曰レ一、以二至多者一擧、則曰レ九、以二其中一擧、則曰レ五。

【五侯同封】361 ゴコウドウホウ　漢の成帝が、母舅の王鳳を大司馬と爲し、王譚・王商・王立・王根・王逢時を同日に侯に封じたこと。五侯の㊀を見よ。〔錦字箋、一〕。

【五貢】362 ゴコウ　五種の貢擧生。五項(111)を見よ。

【五溝】363 ゴコウ　五つのみぞ。遂・溝・洫・澮・川。〔周禮、地官、遂人〕凡治レ野、夫間有レ遂、遂上有レ徑、十夫有レ溝、溝上有レ畛、百夫有レ洫、洫上有レ涂、千夫有レ澮、澮上有レ道、萬夫有レ川、川上有レ路。〔周禮、夏官、司險〕掌二九州之圖一云云、設二國之五溝五涂一。〔注〕五溝、遂・溝・洫・澮・川也。

【五哭】364 ゴコク　五度哭する。〔禮、喪服小記〕三日而五哭二祖一。

【五國】365 ゴコク　㊀五つの國。五箇國。古は、五國を屬といひ、長が之を治めた。〔禮、王制〕五國以爲レ屬、屬有レ長、十國以爲レ連、連有レ帥。㊁燕・趙・楚・魏・秦。〔荀子、王制〕閔王毀二於五國一、桓公却二於魯莊一、無二他故一焉、非二其道一而慮レ之以レ王也。〔注〕史記、齊閔王四十年、樂毅以二燕・趙・楚・魏・秦一破レ齊。㊂齊・韓・魏・趙・宋。〔史記、秦紀〕齊・韓・魏・趙・宋・中山五國、共攻レ秦、至二鹽氏一而還。〔注〕正義曰、蓋中山、此時屬レ趙、故云二五國一也。㊃膠西・膠東・淄川・濟南・趙。〔晉同、六代論〕吳楚唱レ謀、五國從レ風、兆發二高祖一、孱成二文景一。〔注〕善曰、及二吳先起一兵、膠西・膠東・淄川・濟南・楚・趙亦皆反。

【五國城】366 ゴコクジョウ　城の名。遼の五國部節度使の駐した地。宋の徽宗が崩じた處。之から東に五國あつて、遼の聖宗の時に內附す。其の位置に就いては五說がある。㊀伯都訥城。今の滿洲吉林省扶餘縣。〔嘯亭雜錄〕。㊁滿洲吉林省同江縣の北、松花・黑龍の二江が合流する處。〔扈從東巡日錄〕。㊂朝鮮人は、雲頭山城を五國城とする。朝鮮咸鏡道の會寧の西、今の滿洲吉林省延吉縣の地で、城外に皇帝陵があり、宋の徽宗を葬つた處と傳へる。㊃寧古塔の近邊。今の滿洲吉林省寧安縣附近の地。〔清一統志〕・〔柳邊紀略〕。㊄三姓の地方とする。今の滿洲吉林省依蘭縣の治。〔盛京通志〕・〔聖武記〕・〔滿洲源流考〕・〔寧古塔紀略〕。

【五國故事】367 ゴコクコジ　書名。二卷。撰者未詳。五代の吳の楊氏、南唐の李氏・蜀の王氏、孟氏、南漢の劉氏、閩の王氏の事を記す。〔四庫提要、史、載記類〕。

【五穀】368 ゴコク　五種類の穀物。五稼。〔漢書、食貨志〕田中不レ得レ有レ樹、恐レ妨二五穀一。㊀麻・黍・稷・麥・豆。〔周禮、天官、疾醫〕以二五味・五穀・五藥一養二其病一。〔注〕五穀、麻・黍・稷・麥・豆也。㊁黍・稷・麻・麥・菽。〔大戴禮、曾子天圓〕成二五穀之名一。〔注〕五穀、黍・稷・麻・麥・菽也。㊂稻・稷・麥・豆・麻。〔楚辭、大招〕五穀六仞、設二菰粱一只。〔集注〕五穀、稻・稷・麥・豆・麻也。㊃黍・稷・菽・麥・稻。〔周禮、夏官、職方氏〕其穀宜二五種一。〔注〕五種、黍・稷・菽・麥・稻。〔孟子、滕文公上〕后稷教二民稼穡一、樹二藝五穀一。〔注〕五穀、爲二稻・黍・稷・麥・菽一也。㊄粳米・小豆・麥・大豆・黃黍。〔素問、藏氣法時論〕五穀爲レ養。〔注〕謂二粳米・小豆・麥・大豆・黃黍一也。㊅稻穀・大麥・小麥・菉豆・白芥子。〔成就妙法蓮華經王瑜伽觀智儀軌〕。㊆大麥・小麥・稻穀・小豆・胡麻。〔建立曼荼羅護摩儀軌〕。

【五穀精】369 ゴコクセイ　雪をいふ。〔氾勝之書〕取二雪汁一、漬二原蠶矢一五六日、和レ穀種一之、能禦二旱、故謂レ雪爲二五穀精一。便所の蛆蟲。〔事物異名錄、昆蟲部、五穀蟲〕本草、五穀蟲、卽糞蛆也。

【五穀不升】371 ミコクフズ　五穀ともに實らぬ。凶作。大侵(3－5831‥1200)を見よ。〔穀梁、襄、二十四〕五穀不レ升、爲二大饑一、一穀不レ升、謂二之嗛一、二穀不レ升、謂二之饑一、三穀不レ升、謂二之饉一、四穀不レ升、謂二之康一、五穀不レ升、謂二之大侵一。〔韓詩外傳、八〕一穀不レ升、謂二之饑一、二穀不レ升、謂二之饉一、三穀不レ升、謂二之饉一、四穀不レ升、謂二之荒一、五穀不升、謂二之大侵一。

【五穀不分】372 ゴコクワカズ　怠つて五穀を分植しない。一說、五穀の區別を辨別し得ないこと。〔論語、微子〕四體不レ勤、五穀不レ分。〔集解〕包咸曰、丈人云、不二勤二勞四體一、不レ分二殖五穀一。〔集注〕五穀不レ分、猶レ言二不レ辨二菽麥一爾。

【五穀豐登】373 ゴコクホウトウ　五穀が豐かにみのる。〔六韜、龍韜、立將〕戰勝二於外一、功立二于內一、吏遷士賞、百姓懽悅、將無二咎殃一、是故風雨時節、五穀豐熟、社稷安寧。〔趙偕、題二引子龍詩一〕四時膏澤及、時降、大有二五穀年豐登一。

【五穀】374 ゴコク　地味によつて上・中・下の三等に區別された下土の一。五猶(20)を見よ。〔管子、地員〕五殖之次曰二五穀之狀一、婁婁然不レ忍二水旱一。

【五岐】375 ゴツ　山名。四川省峨眉縣の西南。山が五重になつてゐるからいふ。〔左思、蜀都賦〕躡二五岐之蹇涯一。〔注〕劉曰、五岐、山名也、一山有二五重一、在二越巂一、當レ犍爲南安縣之南一也、揚雄蜀都賦曰、五岐參差。

【五恨】376 ゴコン　五つの恨。すぐれたものにも猶缺點のあるの喩。鱠魚が骨多いこと、金橘が酸味多いこと、蓴菜が冷質なこと、海棠が香のないこと、曾子固が詩に巧でないこと。宋の彭淵材は之を五つの恨とした。〔冷齋夜話〕彭淵材五恨、一恨、鱠魚多レ骨、二恨、金橘太酸、三恨、蓴菜性冷、四恨、海棠無レ香、五恨、曾子固不レ能レ詩。

【五根】377 ゴコン　㊀いつかぶ。〔許有壬、代書寄二可行弟一詩〕文竹移栽只五根、來時無數長二兒孫一。㊁㊀信・精進(勤)・念・定・慧の五法。此の五法は能く他の一切の善法を生む根本となる。〔大藏法數〕根卽能生之義、謂、此五根、能生二一切善法一。信根、謂レ信二於正道一也、二精進根、謂レ修二正法一無間無雜一也、三念根、謂下於二正法一記憶不上忘也、四定根、謂二攝心不レ散也、五慧根、謂下於二諸法一觀照明了上也。〔梁元帝、與二蕭諮議等一書〕五根之信、以レ信爲レ首、六度之檀、以レ檀爲レ上。㊁眼・耳・鼻・舌・身。根は器官の意。〔俱舍論、一〕五根者、眼・耳・鼻・舌・身根。

【五佐】378 ゴサ　㊀天の德をたすける五つの星。水・火・金・木・塡星。〔史記、天官書〕水・火・金・木・塡星、此五星者、天之五佐。〔注〕正義曰、言二水・火・金・木・土五星一、佐二天行德一也。㊁五人の輔佐の臣。㋑周公旦・召公奭・太公望・畢公高・蘇公忿生。〔呂覽、分職〕武王之佐五人。〔注〕五人者、周公旦・召公奭・太公望・畢公高・蘇公忿生也。〔小學紺珠、名臣類上、五佐〕周公・召公・太公・畢公高・蘇公忿生。㋺太公・周公・召公・畢公・毛公。〔淮南子、道應訓〕武王之佐五人。〔注〕謂二周公・召公・太公・畢公・毛公一也。〔小學紺珠、名臣類上、五佐〕太公・周公・召公・畢公・毛公。

【五沙】379 ゴサ　地味によつて上・中・下の三等に區別された中土の一。五壚(117)を見よ。〔管子、地員〕剽土之次曰二五沙一、五沙之狀粟焉、如二屑塵一、其種大莫細莫。

【五梭】380 ゴサ　果實の名。羊桃。〔桂海虞衡志、果志〕五梭子、形甚詭異、瓣五出、如二田家碌碡狀一、味酸、久嚼微甘、閩中謂二之羊桃一。

【五才】381 ゴサイ　金・木・水・火・土。五材(407)の㊀に同じ。〔後漢書、馬融傳〕五才之用、無二或可レ廢。〔郭璞、江賦〕吝五才之竝用、寔水德之靈長。〔注〕善曰、左氏傳、宋子罕曰、天生二五材一、人並用レ之、廢一不可、杜預曰、金・木・水・火・土也。

【五災】382 ゴサイ　周の武王が殷の紂王を征した時、兵家の忌む凶日に出發し、東に向つて太歲を迎へ、氾水に至つて汎濫し、懷に至つて道が壞れ、共頭に至つて山が崩壞したといふ五つの災難。〔荀子、儒效〕武王之誅レ紂也、行之日以二兵忌一、東面而迎二太歲一、至レ氾而汎、至レ懷而壞、至二共頭一而山隧、霍叔懼曰、出三日而五災至、無乃不可一

乎、周公曰、云云、夫又惡有ニ不可一焉。

【五采】383 ゴサイ 青・黃・赤・白・黑の五色。〔書、益稷〕以ニ五采一彰ニ施于五色一作レ服。〔蔡傳〕采者、青・黃・赤・白・黑也、色者、言レ施ニ之於繒帛一也、繪ニ於衣一、繡ニ於裳一、皆雜ニ施五采一、以爲ニ五色一也。〔周禮、春官、典瑞〕五采五就。〔荀子、正論〕衣被則服ニ五采一。〔呂覽、孝行〕樹ニ五色一、施ニ五采一。〔史記、項羽紀〕吾令ニ人望ニ其氣一、皆爲ニ龍虎一、成ニ五采一、此天子之氣也。

【五采玉】384 ゴサイノタマ 五采を施した玉。〔周禮、夏官、弁師〕五采玉十有二玉。

【五采繅】385 ゴサイサウ 五采の絲を以て作つた冠のひも。〔周禮、夏官、弁師〕五采繅十有二就。〔注〕繅、雜文之名也、合ニ五采絲一爲ニ之繩一、垂ニ延之前後一、各十二、所謂邃延也。

【五采樹】386 ゴサイジユ 辰州嵩溪にあつたといふ丹青樹。〔述異記〕辰州嵩溪、有ニ丹青樹一、枝葉直上籠レ雲、下無ニ枝條一、上有ニ五色葉一、圓如ニ華蓋一、故號ニ丹青樹一、俗謂ニ之五采樹一、今在ニ辰陽縣一。

【五采玉璂】387 ゴサイギヨクキ 五采の玉を飾とすること。〔周禮、夏官、弁師〕王之皮弁、會ニ五采玉璂一。

【五彩】388 ゴサイ 五色。五采(383)に同じ。〔雲笈七籤〕五彩如レ形、不ニ以曜ニ其目一。

【五彩翬】389 ゴサイノキ 五色のきじ。翬は雉の屬。〔爾雅、釋鳥〕伊洛而南、素質五彩、皆備成レ章曰レ翬。〔注〕翬亦雉屬。〔鄭餘慶、左僕射賈耽神道碑〕連ニ墮冥冥之羽一、雙ニ貫五采之翬一。

【五采印色】390 wu² ts'ai³ yin⁴ sê⁴ ㊀色刷りの印刷。㊁各色の印肉。

【五彩花紅】391 wu² ts'ai³ hua¹ hung² 五色の飾物。色物の模樣。

【五彩電燈】392 wu² ts'ai³ tien⁴ têng¹ イルミネーション。裝飾に用ひた美しい電燈。

【五祭】393 ゴサイ 周の五つの大祭。禘・祫・祖・宗・報。〔袁准、正論〕周之大祭有レ五、禘・祫・祖・宗・報、此禮之大者。

【五細】394 ゴサイ 五つの惡いこと。賤が貴を妨げ、少が長を陵ぎ、遠が親を隔て、新が舊を隔て、小が大に加へるをいふ。〔左氏、昭、十一〕五細不レ在レ庭。〔疏〕五細、賤妨レ貴、少陵レ長、遠閒レ親、新閒レ舊、小加レ大也。〔陳造、次ニ韻章宰一詩〕一饑纔自救、五細未レ宜レ中。

【五菜】395 ゴサイ 五種の野菜。葵・藿・薤・葱・韭。〔素問、藏氣法時論〕五菜爲レ充。〔注〕謂ニ葵・藿・薤・葱・韭一也。〔小學紺珠、動植類、五菜〕葵・藿・薤・葱・韭。

【五歲】396 ゴサイ ㊀五年。いつとせ。〔易、繫辭上〕五歲再閏、故再扐而後掛。〔史記、五帝紀〕五歲一巡狩。㊁年齡の五つ。〔崔顥、邯鄲宮人怨〕母兄憐愛無ニ儔侶一、五歲名爲ニ阿嬌女一。〔杜甫、徐卿二子歌〕小兒五歲氣食レ牛、滿堂賓客皆回レ頭。

【五歲而朝】397 ゴサイニシテテウス 昔、諸侯が五年每に一度朝貢したこと。〔左氏、昭、三〕令ニ諸侯三歲而聘、五歲而朝一。

【五載】398 ゴサイ 五年のこと。載は年に同じ。〔書、舜典〕五載一巡守。〔沈佺期、答ニ魑魅一代書寄ニ家人一詩〕三春給事省、五載尚書郞。

【五寨】399 ゴサイ 縣名。淸、置く。今の山西省寧武縣の西南。〔淸史稿、地理志〕山西、甯武府、縣四、五寨。

【五綵】400 ゴサイ 五色の帛。又、五彩に通ず。五色。〔晏子、諫、下〕一衣而五綵具焉。〔論衡、量知〕加ニ五綵之巧一。

【五綵虹】401 ゴサイコウ 五色のにじ。〔李白、焦山望ニ松寥山一詩〕安得ニ五綵虹一、駕レ天作ニ長橋一。

【五綵囊】402 ゴサイノフクロ 五采を施したふくろ。〔後漢書、祭遵傳〕以ニ五綵囊一裹レ石。

【五際】403 ゴサイ 漢儒が詩經の詩を五つに區分し、五倫に配し、又は十二支中の卯・酉・午・戌・亥に配した名。〔漢書、翼奉傳〕詩有ニ五際一。〔注〕應劭曰、君臣父子兄弟夫婦朋友也、孟康曰、詩內傳曰、五際、卯・酉・午・戌・亥也、陰陽終始際會之歲、於レ此、則有ニ變改之政一也。〔鄭玄、六藝論〕詩含ニ五際六情一、大明在レ亥、爲ニ革命一、一際也、亥又爲ニ天門出入候聽一、二際也、天保在レ卯、爲ニ陰陽交際一、三際也、釆芑在レ午、爲ニ陽謝陰興一、四際也、祈父在レ酉、爲ニ陰盛陽微一、五際也。〔詩緯汎歷樞〕卯酉之際爲ニ革政一、午亥之際爲ニ革命一、卯、天保也、酉、祈父也、午、釆芑也、亥、大明也、然則亥爲ニ革命一、一際也、亥又爲ニ天門出入候聽一、二際也、卯爲ニ陰陽交際一、三際也、午爲ニ陽謝陰興一、四際也、酉爲ニ陰盛陽微一、五際也。

【五際六情】404 ゴサイロクジヤウ 詩の五際と六情。五際を見よ。六情は喜・怒・哀・樂・好・惡をいふ。〔詩、大序、是謂ニ四始一、疏〕春秋緯演孔圖云、詩含ニ五際六情一者、鄭以、汎歷樞云、午亥之際爲ニ革命一、卯酉之際爲ニ改正一、辰在ニ天門一、出入候聽、卯、天保也、酉、祈父也、午、釆芑也、亥、大明也、然則亥爲ニ革命一、一際也、亥又爲ニ天門一、出入候聽、二際也、卯爲ニ陰陽交際一、三際也、午爲ニ陽謝陰興一、四際也、酉爲ニ陰盛陽微一、五際也、其六情者、則春秋云、喜・怒・哀・樂・好・惡、是也。

【五縗】405 ゴサイ 三年・期年・九月・五月・三月の五種の喪服。〔淮南子、齊俗訓〕夫儒墨不レ原ニ人情之終始一、而務以行ニ相反之制一、五縗之服、悲哀抱ニ於情一、葬薶稱ニ於養一。〔注〕五縗、謂ニ三年・朞年・九月・五月・三月服一也。

【五簺】406 ゴサイ 五采あつて一邊を刻しない玉をいふ。〔博經〕瓊有ニ五采一、刻爲ニ一畫一者謂ニ之簺一、二畫者謂ニ之白一、三畫者謂ニ之黑一、一邊不レ刻者、謂ニ之五簺一。

【五材】407 ゴザイ ㊀金・木・水・火・土、或は金・木・皮・玉・土をいふ。五才。〔周禮、考工記、總目〕或審ニ曲面埶一、以飭ニ五材一、以辨ニ民器一。〔注〕春秋傳曰、天生ニ五材一、民竝用レ之、謂ニ金・木・水・火・土一也、云云、玄謂、此五材、金・木・皮・玉・土。〔左氏、襄、二十七〕天生ニ五材一、民竝用レ之。〔注〕金・木・水・火・土也。㊁勇・智・仁・信・忠。〔六韜、龍韜、論將〕將有ニ五材十過一、所謂五材者、勇智仁信忠也。

【五罪】408 ゴザイ 五つの罪。㊀五刑(263)に同じ。〔孔子家語、五刑解〕大罪有レ五、而殺レ人爲レ下。〔王筠、和ニ皇太子懺悔一詩〕翹心蕩ニ十惡一、邀誠銷ニ五罪一。㊁春秋時代、狄の犯した五罪。祀らず、酒を嗜む、仲章を棄て黎氏の地を奪ふ、我が伯姬を虐ぐ、其の君の目を傷く。〔左氏、宣、十五〕狄有ニ五罪一、不レ祀一也、耆レ酒二也、棄ニ仲章一而奪ニ黎氏地一三也、虐ニ我伯姬一四也、傷ニ其君目一五也。

【五倉】409 ゴサウ 五臟をいふ。倉・藏・臟は音通。〔漢書、郊祀志下〕化色五倉之術者、皆姦人惑レ衆、挾ニ左道一、懷ニ詐僞一、以欺ニ罔世主一。〔注〕李奇曰、思、身中有ニ五色一、腹中有ニ五倉神一、五色存則不レ死、五倉存則不レ飢。

【五嶆】410 ゴサウ 地名。雲南省瀘西縣の南。

【五藏】411 ゴザウ ㊀胸腹中にある五つの臟腑。肝臟・心臟・脾臟・肺臟・腎臟。藏は倉に同じ。五倉。五臟。〔太平御覽、人事部、形體〕韓詩外傳曰、何謂ニ五藏一、情藏ニ於腎一、神藏ニ於心一、魂藏ニ於肝一、魄藏ニ於肺一、志藏ニ於脾一。〔莊子、駢拇〕駢ニ枝於五藏之情一。〔管子、水地〕五藏已具、而後生レ肉。〔史記、扁鵲傳〕盡見ニ五藏癥結一。〔淮南子、精神訓〕五藏九竅。〔小學紺珠、人事類、五藏〕心通レ舌、肝通レ目、肺通レ鼻、腎通レ耳、脾通レ口。㊁佛五種の經典。藏は包含・蘊積の義。經典は衆多の文義を包含するからいふ。㋑素呾纜藏・毘奈耶藏・阿毘達磨藏・雜集藏・禁咒藏。〔西域記、九〕。㋺契經藏・毘尼藏・阿毘曇藏・雜藏・菩薩藏。〔分別功德論、一〕。㋩小乘法藏部の五藏。經藏・律藏・論藏・明咒藏・菩薩藏。〔宗輪論述記〕。㊁密教の五藏。素呾纜・毘奈耶・阿毘達磨・般若波羅蜜多・陀羅尼門。〔六波羅蜜經〕。

【五藏神】412 ゴザウシン 心の神(丹元)・肺の神(皓華)・肝の神(龍煙)・腎の神(玄冥)・脾の神(常在)。五臟神。〔白居易、感レ事詩〕睡適ニ三尸性一、慵安ニ五藏神一。〔雲笈七籤、三洞經教部、黃庭遁甲緣身經〕外有ニ四支九竅一、內有ニ五藏六府一、各有ニ神主一。〔雲笈七籤、上淸黃庭內景經、心神章〕心神丹元字守靈、肺神皓華字虛成、肝神龍煙字含明、翳鬱導煙主ニ濁淸一、腎神玄冥字育嬰、脾神常在字魂停、膽神龍曜字威明、六腑五藏神體精。

【五藏刀斧】413 ゴザウタウフ 果物の名。なし。梨(**6—14873**)の異名。梨と離とは音通、五藏を刀斧で切り離す意。〔山堂肆考〕南唐李建勳、連食ニ數梨一、賓僚有レ曰、梨號ニ五藏刀斧一、不レ可ニ多食一、一村叟笑レ之曰、離爲ニ五臟刀斧一、語出ニ鶡冠子一、乃別離之離耳。

【五藏六府】414 ゴザウロツプ 心・肺・脾・肝・腎の五藏と、大腸・小腸・胃・膽・膀胱・三焦の六府。轉じて、胸腹內の諸器官。臟腑。はらわた。府は腑にも作る。五臟を見よ。〔呂覽、達鬱〕凡人、三百六十

節・九竅・五藏・六府。〔搜神記、下〕天竺人佛圖澄、腹旁有二一孔一、云云、至二流水側一、從二孔中一、引二出五臟六腑一洗レ之、訖還二內腹中一。

【五臟】415ゴザウ 脾・肺・肝・腎・心。五藏(411)の❶に同じ。五倉。五中。〔書、盤庚下、今予其敷二心腹腎腸一、疏〕以レ心爲二五臟之主一、腹爲二六腑之揔一、腸在二腹內一、腎在二心下一、擧二腎腸一以配二腹心一。

【五臟神】416ゴザウシン 五藏神(412)に同じ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕和二他那五臟神一、願レ隨二鞭鐙一。

【五柞】417ゴサク 五本の柞。柞ハハは、常綠の喬木で、枝葉にとげがある。又、漢の宮觀の名。五柞宮を見よ。〔張衡、西京賦〕掩二長楊一而聯二五柞一。〔注〕綜曰、五柞亦館名云、有二五株柞樹一。

【五柞宮】418ゴサクキュウ 漢の宮殿の名。陝西省盩厔縣の東南。〔漢書、武帝紀〕後元二年、行二幸盩厔五柞宮一。〔三輔黃圖、三、甘泉宮〕五柞宮、漢之離宮也、宮中有二五柞樹一、因以爲レ名、五柞皆連抱、上枝覆蔭、數畝。〔西京雜記、三〕五柞宮有二五柞樹一、皆連三抱、上枝蔭二覆數十畝一。

【五朔】419ゴサク 五箇月の意。朔日を五たび重ねるからいふ。〔南齊書、王僧虔傳〕經二涉五朔一、踰二歷四晦一。

【五鑿】420ゴサク 耳・目・口・鼻・心の五つの穴。〔荀子、哀公〕所謂庸人者、口不レ能レ道二善言一、云云、勤行不レ知レ所レ務、止交不レ知レ所レ定、日選二擇於物一、不レ知レ所レ貴、從レ物如レ流、不レ知レ所レ歸、五鑿爲レ正、心從而壞、如レ此則可レ謂二庸人一矣。〔注〕鑿、竅也、五鑿、謂二耳・目・鼻・口及心之竅一也。〔孔子家語、五儀解〕五鑿爲レ正。

【五殺】421ゴサツ ❶五虐(185)に同じ。五殺之刑を見よ。❷ゴサイ 五行相勝のこと。五行相剋(87)を見よ。〔淮南子、兵略訓〕持二五殺一以應、故能全二其勝一。

【五殺之刑】422ゴサツノケイ 古、有苗氏の造つた嚴刑。五虐刑をいふ。〔墨子、尙同中〕唯作二五殺之刑一、曰レ法。〔閒詁〕僞孔傳云、惟爲二五虐之刑一、自謂得レ法、畢云、孔書、殺作レ虐、孫星衍云、虐・殺、義相同。

【五三】423ゴサン ❶五帝三王をいふ。〔史記、司馬相如傳〕五三六經、載籍之傳。〔注〕索隱曰、胡廣云、五、五帝也、三、三王也。〔漢書、揚雄傳上〕五三孰知二其是非一。〔注〕師古曰、五帝三王、誰是誰非。〔後漢書、律曆志〕是以、五三迄二于來一。❷五星三辰。〔申鑒、俗嫌〕五三之位、周應也、龍虎之會、晉祥也。〔注〕五三、五星三辰。❸十五をいふ。五と三とを掛け合せた數。〔北史、裴植傳〕必東帶伏レ門、經二五三日一、乃引二見之一。〔北史、虞慶則傳〕但取二五三疋一。

【五三竹】424ゴサンチク 竹の一種。佛面竹ともいふ。根に近づくに從つて、節が短く、或は三五相連なるからいふ。

【五三桐】425ゴサンノキリ 紋所の名。桐の花片を五つと三つと取り合はせて描いたもの。

【五三事件】426ゴサンジケン 昭和三年五月三日の濟南事變。北伐軍と、其の北上に對する居留民保護の爲に出兵してゐた我が軍との衝突事件。

【五三六經】427ゴサンリクケイ 三皇五帝の書と六經。三皇五帝の書は書經の典據と傳へる。〔司馬相如、封禪文〕五三六經、載籍之傳。〔注〕善曰、漢書音義曰、五、五帝也、三、三王也、良曰、五帝三皇之道、六經典籍之所二傳述一、美惡亦可レ見也。

【五山】428ゴザン ❶五つの山。㋑海中の五つの仙山。岱輿・員嶠・方壺・瀛州・蓬萊。〔列子、湯問〕渤海之東、有二大壑一焉、實惟無レ底之谷、其中有二五山一焉、一曰岱輿、二曰員嶠、三曰方壺、四曰瀛州、五曰蓬萊。㋺中國にある五つの仙山。華山・首山・太室・泰山・東萊。〔史記、武帝紀〕中國華山・首山・太室・泰山・東萊、此五山、黃帝之所二常遊與レ神會一。㋩五嶽をいふ。五嶽(126)の❶を見よ。〔詩、大雅、崧高、疏〕釋山發首云、河南華、河西岳、河東岱、河北恒、江南衡、陳二此五山之名一、不三復更言二餘山一、雖レ不レ謂二此五山一爲中五岳上、明有二爲レ岳之理一。〔後漢書、馮衍傳下〕經二營五山一。〔注〕五山卽五嶽也。㋥ゴセン 佛印度に在る山の名。鞞婆羅跋恕(Vai-bhāravana)・薩多般那求呵(Saptaparṇaguhā)・因陀羅勢求呵(Indra-śailaguhā)・薩簸恕魂直迦鉢婆羅(Sarpiśkuṇdika pāvara)・耆闍崛(Gṛdhrakūṭa)。〔智度論、三〕鞞婆羅跋恕・薩多般那求呵・因陀羅勢求呵・薩簸恕魂直迦鉢婆羅・耆闍崛、五山中有二五精舍一。❷佛五つの寺。㋑中國の五寺。徑山寺・育王寺・天龍寺・靈隱寺・淨慈寺。〔拾遺和漢名數、下五〕震旦五山、徑山寺・育王寺・天龍寺・靈隱寺・淨慈寺。㋺天竺の五寺。祇園精舍・竹林精舍・大林精舍・誓多林精舍・那蘭陀寺。〔拾遺和漢名數、下五〕天竺五山、祇園精舍・竹林精舍・大林精舍・誓多林精舍・那蘭陀寺。㋩我が國の五寺。㊙京都の五山。天龍寺・相國寺・建仁寺・東福寺・萬壽寺。〔和漢三才圖會、日本山城〕五山佛閣、天龍・相國・建仁・東福・萬壽之五箇寺。㊚鎌倉の五山。建長寺・圓覺寺・壽福寺・淨智寺・淨妙寺。〔和漢三才圖會、日本相模〕鎌倉五山、巨福山建長寺・瑞鹿山圓覺寺・龜谷山壽福寺・金峯山淨智寺・稻荷山淨妙寺。❸字號。㋑清、劉儀(**2**-**2224**‥164)の號。㋺菊池桐孫の號。菊池五山(**9**-**31153**‥94)を見よ。

【五山版】429ゴザンバン 我が國の古版本の一つ。鎌倉時代から室町時代末に、京都・鎌倉の五山と其の系統を引いた禪寺で出版した書籍をいふ。

【五山酒人】430ゴザンシュジン 清、孫枝蔚(**3**-**6987**‥416)の號。

【五山文學】431ゴザンブンガク 鎌倉時代末期から室町時代末期に亙り、禪林に行はれた文學。鎌倉五山に始まり京都五山の名僧・碩學によつて成つたから此の名がある。其の著名なる者には、虎關師錬・中巖圓月・夢窗疎石・雪村友梅・絕海中津・義堂周信等があり、其の著述としては、日記・語錄・漢詩文がある。上村觀光編、五山文學全集(四冊)には、其の詩文を收錄してゐる。

【五山堂詩話】432ゴザンダウシワ 書名。十卷。補遺五卷。菊池五山撰。隨園詩話の體に倣つたもので、當時の詩を多く集錄し、詩學に對する意見はあまり述べてゐない。〔日本詩話叢書、九〕。

【五算】433ゴサン 罰金六百錢をいふ。漢代に、人頭稅を算賦といひ、年十五から六十五に至るまで、每人百二十錢を出させたのを一算といふ。五算、卽ち六百錢を出させるのは罰の意味である。〔漢書、惠帝紀〕女子年十五以上至二三十一、不レ嫁五算。〔大學衍義補、固二邦本一蕃二民之生一、注〕漢律、人出二一算一、令三人出二五算一、罪レ之也。

【五殘】434ゴザン 星の名。〔史記、天官書〕五殘星、出二正東方之野一、其星狀類二辰星一。〔注〕索隱曰、孟康云、星表有二青氣一如レ暈有レ毛、塡星之精也、正義曰、五殘、一名五鋒、云云、則見二五穀毀敗之徵一、大臣誅亡之象一。

【五士】435ゴシ ❶民間の俊才を選拔して學校に入れ、修業の後に官吏とする士。秀士・選士・俊士・造士・進士をいふ。〔詩、小雅、菁菁者莪序、箋〕樂レ育レ材者、歌下樂人君教二學國人秀士・選士・俊士・造士・進士一、養レ之以レ漸、至中於官上レ之。〔禮、王制〕命二鄉論二秀士一、升二之司徒一、曰二選士一、司徒論二選士之秀者一、而升二之學一、曰二俊士一、升二於司徒一者、不レ征二於鄉一、升二於學一者、不レ征二於司徒一、曰二造士一、云云、大樂正論二造士之秀者一、以告二于王一、而升二諸司馬一、曰二進士一、司馬辨レ論官レ材、論二進士之賢者一、以告二于王一、而定二其論一、論定、然後官レ之、任レ官、然後爵レ之、位定、然後祿レ之。❷晉の文公の五士。狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子。〔左氏、僖、二十三〕晉公子重耳之及二於難一也、云云、遂奔レ狄、從者狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子。〔小學紺珠、名臣類上、晉五士〕狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子。

【五子】436ゴシ ❶五人の子供。〔韓非子、五蠹〕今人有二五子一、不レ爲レ多、子又有二五子一。❷夏の太康の弟五人。五子之歌を見よ。〔楚辭、離騷〕五子用失二乎家衖一。〔韓愈、送二孟東野一序〕夏之時、五子以二其歌一鳴。❸老子・莊子・荀子・揚子・文中子をいふ。〔叢書擧要、子部一〕纂圖互注五子、宋龔士卨編、老子道德經二卷、南華眞經十卷、荀子二十卷、揚子法言十卷、文中子中說十卷。❹秦の穆公の臣五人。由余・百里奚・蹇叔・丕豹・公孫支。〔史記、李斯傳〕昔繆公求レ士、西取二由余於戎一、東得二百里奚於宛一、迎二蹇叔於宋一、求二丕豹公孫支於晉一、此五子者、不レ產二於秦一、而繆公用レ之、幷レ國二十一、遂霸二西戎一。〔小學紺珠、名臣類、秦五子〕由余・百里奚・蹇叔・丕豹・公孫支。❺齊の桓公の臣五人。㋑管仲・甯戚・隰朋・賓胥無・鮑叔牙。〔國語、齊語〕唯能用二管夷吾・甯戚・隰朋・賓胥無・鮑叔牙之屬一、而伯功立。〔注〕五子、皆齊

卿大夫也。〔小學紺珠、名臣類、齊五子〕管夷吾・甯戚・隰朋・賓胥無・鮑叔牙。㊁甯戚・隰朋・東郭牙・弦寧・王子成甫。〔小學紺珠、名臣類、齊五子〕甯戚・隰朋・東郭牙・弦寧・王子成甫。㊅宋の道學者五人。周敦頤・程顥・程頤・張載・朱熹。〔何淩漢、宋元學案敍〕余生於賓溪之鄉、幼稟二庭訓一、讀二宋五子書一。㊆六十年間に有る五つの子年。干支の一周六十年間には甲は六つあるが、子は五つしかない。〔漢書、律歷志上〕日有二六甲一、辰有二五子一。〔注〕孟康曰、六甲之中、惟甲寅無レ子、故有二五子一。㊇樹の名。實に五核があるからいふ。〔齊民要術、五菓果蓏菜茹非二中國物產一者、五子〕裴淵廣州記曰、五子樹、實如レ梨、裏有二五核一、因名二五子一、治二霍亂金瘡一。〔明一統志〕潮州府土產二五子樹一。

【五子之歌】437 ゴシカ 書經、夏書の篇名。夏の太康の弟五人が兄の反らぬのを怨んで作つたもの。東晉の僞古文。〔書、五子之歌、序〕太康失レ邦、昆弟五人、須二于洛汭一、作二五子之歌一。

【五氏】438 ゴシ ㊀雨・暘・燠・風・寒。氏は是と古音通じ、さいはひの意。〔後漢書、李雲傳〕臣聞、皇后天下母、德配二坤靈一、得二其人一、則五氏來備、不レ得二其人一、則地動搖レ宮。〔注〕史記曰、庶徵、曰雨、曰暘、曰燠、曰風、曰寒、五者來備、各以二其序一、庶草繁廡、是與レ氏古字通耳。〔王先謙集解〕周壽昌曰、今書作二五者來備一、王伯厚引二史記一、作二五是來備一云云、氏是古通段字。㊁地名。寒氏ともいふ。春秋、晉の乍氏の私邑。今の河北省鄚縣の西。〔春秋、定、九〕齊侯・衞侯次二于五氏一。〔左氏、定、十〕衞侯伐二鄙鄙乍一于寒氏一。〔注〕寒氏、卽五氏也。

【五史】439 シ 五種の史官をいふ。大史・小史・內史・外史・御史。〔隋書、經籍志一〕下逮二殷周一、史官尤備。紀二言書一事、靡レ有二闕遺一、則周禮所レ稱、太史掌二建一邦之六典一、八法八則、以詔二王治一、小史掌二邦國之志一、定二世繫一、辨二昭穆一、內史掌二王之八柄一、策命而貳レ之、外史掌二王之外令一、及四方之志一、三皇五帝之書一、御史掌二邦國都鄙萬民之治令一、以贊二冢宰一、此則天子之史、凡有二五焉一。〔小學紺珠、職官類、五史〕大史・小史・內史・外史・御史。

【五示】440 シ 國君が民に指示する五つのもの。明位・明惠・明主・安宅・利用。〔逸周書、成開解〕五示、一、明位示レ士、二、明惠示レ衆、三、明主示レ寧、四、安宅示レ孥、五、利用示レ產。

【五至】441 シ ㊀志・詩・禮・樂・哀の五つの至極。〔禮記、孔子閒居〕子夏曰、民之父母、旣得而聞レ之矣、敢問、何謂二五至一、孔子曰、志之所レ至、詩亦至焉、詩之所レ至、禮亦至焉、禮之所レ至、樂亦至焉、樂之所レ至、哀亦至焉、哀樂相生、是故正明レ目而視レ之、不レ可二得而見一也、傾レ耳而聽レ之、不レ可二得而聞一也、志氣塞二乎天地一、此之謂二五至一。〔疏〕正義曰、云云、孔子爲說二五至之理一、志之所至、詩亦至焉者、志謂二君之恩意之至一、所レ至謂二恩意至一極於民一、詩者歌詠歡樂也、君之恩意旣至二於民一、故詩之歡樂亦至二極於民一。㊁五度至る。〔晉書、宣帝紀〕三日之間、詔書五至。㊂人をはかり選ぶ五つの標準。伯己・什己・若己・厥役・徒隸。〔鶡冠子、博選〕權レ人有二五至一、一曰伯レ己、二曰什レ己、三曰若レ己、四曰厥役、五曰徒隸、云云、博選者、以二五至一爲レ本者也、故北面而事レ之、則伯レ己者至、先趨而後息、先問而後默、則什レ己者至、人趨己趨、則若レ己者至、憑レ凡據レ杖、指麾而使、則厥役者至、樂嗟苦咄、則徒隸之人至矣。〔小學紺珠、人事類、五至〕伯己・什己・若己・厥役・徒隸。㊃五度脈をうつ。〔癸辛雜識〕

【五志】442 シ ㊀志すべき五つの大切なこと。道義に達す、法式を明かにす、古今に通ず、功勳を著す、賢能を表はす。〔後漢書、荀淑傳〕夫立レ典、有二五志一焉、一曰達二道義一、二曰章二法式一、三曰通二古今一、四曰著二功勳一、五曰表二賢能一。㊁詩教に於ける五つの心。美・勉・傷・惡・誡。〔文中子、事君〕薛收問二續詩一、子曰、有二四名一焉、有二五志一焉、何謂二四名一、一曰化、天子所レ以風二天下一也、二曰政、蕃臣所レ以移二其俗一也、三曰頌、以二成功一告二於神明一也、四曰歎、以陳二誨一、立二誡于家一也、凡此四者、或美焉、或勉焉、或傷焉、或惡焉、或誡焉、是謂二五志一。

【五始】443 シ 春秋公羊家の說で、元年・春・王・正月・公卽位の五事をいふ。元は氣の始、春は四時の始、王は受命の始、正月は政教の始、公卽位は一國の始。〔左氏、隱、元、元年春王正月、疏〕說二公羊一者云、氣之始、春者、四時之始、王者、受命之始、正月者、政教之始、公卽レ位者、一國之始。春秋緯稱、黃帝受レ圖有二五始一、謂二此五事一也。〔公羊、隱、元、題疏〕文謚例云、此春秋五始・三科、云云、案、文謚例下文云、五始者、元年・春・王・正月・公卽位、是也。〔公羊、隱、元、注〕政莫レ大二於正一始、故春秋以二元之氣一、正二天之端一、以二天之端一、正二王之政一、以二王之政一、正二諸侯之卽位一、以二諸侯之卽位一、正二竟內之治一、諸侯不レ上奉二王之政一、則不レ得二卽位一、故先言二正月一、而後言二卽位一、政不レ由二王出一、則不レ得レ爲レ政、故先言レ王、而後言二正月一也、王者不レ承二天以制一號令一、則無レ法、故先言レ春、而後言レ王、天不レ深正一其元一、則不レ能レ成二其化一、故先言レ元、而後言レ春、五者同日並見、相須成レ體、乃天人之大本、萬物之所レ繫、不レ可レ不レ察也。〔小學紺珠、藝文類、五始〕元者、氣之始、春者、四時之始、王者、受命之始、正月者、政教之始、公卽レ位者、一國之始。

【五祀】444 シ 五種のまつり。地祇の五祀は周禮大宗伯と禮記曲禮と禮記祭法とで說を異にしてゐる。曲禮では天子・諸侯通じて五祀ありとし、祭法では天子は七祀、諸侯は五祀としてゐる。白虎通、事物紀原の五祀は何れも曲禮のものと同一種のものであらう。㊀句芒・蓐收・玄冥・祝融・后土。〔周禮、春官、大宗伯〕以二血祭一祀二社稷一、五祀・五嶽。〔左氏、昭、二十九〕小皞氏有二四叔一、云云、使二重爲一句芒一、該爲一蓐收一、脩及熙爲二玄冥一、世不レ失レ職、遂濟二窮桑一、此其二祀也、顓頊氏有レ子、曰レ犂、爲二祝融一、共工氏有レ子、曰二句龍一、爲二后土一、此其二祀也。〔小學紺珠、制度類、五祀〕句芒・蓐收・玄冥・祝融・后土。㊁門・行・戶・竈・中霤。〔禮、曲禮下〕天子祭二五祀一。〔注〕五祀、戶・竈・中霤、門・行也。㊂司命・中霤・門・行。屬。〔禮、祭法〕諸侯爲レ國、立二五祀一、曰司命、曰中霤、曰國門、曰國行、曰公厲。㊃門・戶・井・竈・中霤。〔白虎通、五祀〕五祀者、何謂也、謂二門・戶・井・竈・中霤一也。㊄戶・井・竈・中霤・行。〔事物紀原、禮祭郊祀部、五祀〕世本曰、商湯作二五祀一、戶・井・竈・中霤・行、至レ周而七、曰、門・行・厲・戶・竈・司命・中霤也。㊅禘・郊・宗・祖・報。〔國語、魯語上〕凡禘・郊・宗・祖・報、此五者、國之典祀也。

【五芝】445 シ ㊀紫・黃・赤・白・黑、又は青・黃・赤・白・黑の五色の靈草、又は藥草。〔本草、芝〕集解、時珍曰、神農經云、山川雲雨、四時五行、陰陽晝夜之精、以生二五色神芝一、爲二聖王休祥一。〔孫綽、遊二天台山一賦〕五芝含レ秀而晨敷。〔注〕善曰、神農本草經曰、赤芝一名丹芝、黃芝一名金芝、白芝一名玉芝、黑芝一名玄芝、紫芝一名木芝、銑曰、以二天之端一、正二王之政一、以二王之政一、正二諸侯之卽位一、以二諸侯之卽位一、正二竟內之治一、諸侯不レ上奉二王之政一、則不レ得二卽位一、故先言二正月一、而後言二卽位一、莫レ大二於正一始、故春秋以二元之氣一、正二天之端一、以二天之端一、正二王之政一、以二王之政一、正二諸侯之卽位一、以二諸侯之卽位一、正二竟內之治一、諸侯不レ上奉二王之政一、則不レ得二卽位一、故先言二正月一、而後言二卽位一、政不レ由二王出一、則不レ得レ爲レ政、故先言レ王、而後言二正月一也、王者不レ承二天以制一號令一、則無レ法、故先言レ春、而後言レ王、天不レ深正一其元一、則不レ能レ成二其化一、故先言レ元、而後言レ春、五者同日並見、相須成レ體、乃天人之大本、萬物之所レ繫、不レ可レ不レ察也。〔小學紺珠、藝文類、五始〕元者、氣之始、春者、四時之始、王者、受命之始、正月者、政教之始、公卽レ位者、一國之始。

【五祀】444 シ 五種のまつり。地祇の五祀は周禮大宗伯と禮記曲禮と禮記祭法とで說を異にしてゐる。曲禮では天子・諸侯通じて五祀ありとし、祭法では天子は七祀、諸侯は五祀としてゐる。白虎通、事物紀原の五祀は何れも曲禮のものと同一種のものであらう。㊀句芒・蓐收・玄冥・祝融・后土。〔周禮、春官、大宗伯〕以二血祭一祀二社稷一、五祀・五嶽。〔左氏、昭、二十九〕小皞氏有二四叔一、云云、使二重爲一句芒一、該爲一蓐收一、脩及熙爲二玄冥一、世不レ失レ職、遂濟二窮桑一、此其二祀也、顓頊氏有レ子、曰レ犂、爲二祝融一、共工氏有レ子、曰二句龍一、爲二后土一、此其二祀也。〔小學紺珠、制度類、五祀〕句芒・蓐收・玄冥・祝融・后土。㊁門・行・戶・竈・中霤。〔禮、曲禮下〕天子祭二五祀一。〔注〕五祀、戶・竈・中霤、門・行也。㊂司命・中霤・門・行。屬。〔禮、祭法〕諸侯爲レ國、立二五祀一、曰司命、曰中霤、曰國門、曰國行、曰公厲。㊃門・戶・井・竈・中霤。〔白虎通、五祀〕五祀者、何謂也、謂二門・戶・井・竈・中霤一也。㊄戶・井・竈・中霤・行。〔事物紀原、禮祭郊祀部、五祀〕世本曰、商湯作二五祀一、戶・井・竈・中霤・行、至レ周而七、曰、門・行・厲・戶・竈・司命・中霤也。㊅禘・郊・宗・祖・報。〔國語、魯語上〕凡禘・郊・宗・祖・報、此五者、國之典祀也。

【五芝】445 シ ㊀紫・黃・赤・白・黑の五色の靈草、又は藥草。〔本草、芝〕集解、時珍曰、神農經云、山川雲雨、四時五行、陰陽晝夜之精、以生二五色神芝一、爲二聖王休祥一。〔孫綽、遊二天台山一賦〕五芝含レ秀而晨敷。〔注〕善曰、神農本草經曰、赤芝一名丹芝、黃芝一名金芝、白芝一名玉芝、黑芝一名玄芝、紫芝一名木芝、銑曰、芝草藥也、五者、青・黃・赤・白・黑。㊁五種の靈草。龍仙・參成・燕胎・夜光洞鼻・料玉。〔西陽雜俎、玉格〕句曲山五芝求レ之者、投二金環一雙於石間一、勿二顧念一、必得矣、第一芝名二龍仙一、食レ之爲二太極仙一、第二芝名二參成一、食レ之爲二太極大夫一、第三芝名二燕胎一、食レ之爲二正一郎中一、第四芝名二夜光洞鼻一、食レ之爲二太清左御史一、第五芝名二料玉一、食レ之爲二三官眞御史一。

【五指】446 シ ㊀手の五本のゆび。拇指・食指・中指（將指）・無名指・小指。〔左氏、宣、四、子公之食指動〕疏、然則手之五指之名、曰、巨指・食指・將指・無名指・小指也。〔素問、厥論〕寒厥之爲レ寒也、必從二五指一而上二於膝一者、何也。〔小學紺珠、人事類、五指〕巨指・食指・將指・無名指・小指。㊁山名。㋑山西省遼縣の東、河北省沙河縣の界に接す。〔太平寰宇記〕轅陽東北有二五指山一、巖石孤聳、上有二一手一足之迹一、其大如レ箕、指數俱全。㋺浙江省諸暨縣の西南。㋩廣東省定安縣の西南。舊名を黎母山、又、黎山といふ、火山の遺跡、五峯矗立して指に似る。又、陵水縣の西にその支脈小五指山がある。〔桂海虞衡志〕山極高、常在二雲霧中一、黎人自辨二識之一、山水分二流四郡一、熟黎所居、已阻且深、生黎之巢、外人不二復有一蹟、黎母之巔、雖二生黎一亦不レ能至。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府、定安縣〕五指山、縣南西百里、山有二五峯一、極高大、屹立如二人指一、據二瓊崖儋萬之間一、爲二四州之望一、一名黎母山。㊂廣東省從化縣の東北。五峯相連なつて指に似る。㊃廣東省河源縣の東。層巒疊嶂、數十里に亙り、五指が最も雄俊である。山半に澄心湖がある。

㋑廣西省昭平縣の東南。衆山の中、五峯が特立する。㋺滿洲熱河省承德縣の東南。土地の人は鷄冠山といふ。山に古靈峯禪寺の碑石があり、元の至元二十四年、僧居實の撰。五指山大輪禪師碑と稱す。

【五師】447ゴシ ㊀一軍、卽ち一萬二千五百人。軍隊の單位。一軍は五師、師は五旅、旅は五卒、卒は四兩、兩は五伍、伍は五人。〔周禮、地官、小司徒〕五人爲レ伍、五伍爲レ兩、四兩爲レ卒、五卒爲レ旅、五旅爲レ師、五師爲レ軍、以起二軍旅一。㊁〔佛〕㋑五種の法師。經師・律師・論師・法師・禪師。〔毘奈耶雜事、十二〕經師・律師・論師・法師・禪師、不レ以二同類一令レ聚二一處一。㊂付法の五師。㊀異世の五師。迦葉(Kāśyapa)・阿難(Ānanda)・末田地(Madhyantika)・舍那婆斯(Śānavāsa)・優婆掘多(Upagupta)。〔三論玄義〕薩婆多部傳有二異世五師一、有二同世五師一、異世五師者、一迦葉、二阿難、三末田地、四舍那婆斯、五優婆掘多、此五人持二佛法藏一、各得二二十餘年一、更相付屬名二異世一也。㋺同世の五師。曇無德(Dharmagupta)・彌沙塞(Mahīsāsaka)・迦葉維(Kāśyapīya)・犢子部(Vātsiputrīya)。〔三論玄義〕同世五師者、於二優婆掘多世一、卽分成二五部一、時並起、名二同世五師一、二曇無德、二摩訶僧祇、三彌沙塞、四迦葉維、五犢子部。

【五牸】448ゴシ 牛馬の牝、五匹。牛馬の牡一匹に牝五匹を養へば蕃息する。〔孔叢子、陳士義〕猗頓魯之窮士也、耕則常飢、桑則常寒、聞二陶朱公富一、往而問レ術焉、朱公告レ之曰、子欲二速富一、當レ畜二五牸一、於是乃適二西河一、大畜二牛羊一、猗氏之南、十年之間、其滋息不レ可レ計、貲擬二王公一、馳二名天下一、以レ興二富於猗氏一、故曰二猗頓一。

【五濁】449ゴシ 〔佛〕五濁(801)の㊀に同じ。〔行事鈔資持記、上、十三〕五濁、沮史反、濁也。

【五字】450ゴシ 五つの文字。〔詩、關雎、關雎五章章四句、疏〕五字者、誰謂雀無レ角、何以穿二我屋一之類也。〔史記、武帝紀〕以二正月一爲二歲首一、而色上レ黃、官名更二印章一以二五字一。〔秦州記〕河峽崖傍有二二窟一、藏二古書五字一。

【五字田家】451ゴジデンカ 宋、顧逢(12－43689‥183)の室名。

【五寺】452ゴジ 清代の大理寺(3－5831‥2295)・太常寺(3－5834‥263)・太僕寺(3－5834‥472)・光祿寺(1－1350‥288)・鴻臚寺(12－46874‥1821)の五官廳の俗稱。各條を見よ。〔清會典、大理寺、大理寺、卿、滿洲一人、漢一人、少卿、滿洲一人、漢一人。〔清會典、太常寺〕太常寺、兼管事務大臣、滿洲一人、漢一人。〔清會典、太僕寺〕太僕寺、卿、滿洲一人、漢一人。〔清會典、光祿寺〕光祿寺、管理事務大臣、滿洲一人、漢一人。〔清會典、鴻臚寺〕鴻臚寺、兼管事務大臣、一人、卿、滿洲一人、漢一人、少卿、滿洲一人、漢一人。

【五事】453ゴジ 五つの大切な事柄。㊀貌・言・視・聽・思。〔書、洪範〕次二曰、敬用二五事一、云云、二、五事、一曰貌、二曰言、三曰視、四曰聽、五曰思。〔漢書、谷永傳〕竊聞、明王卽レ位、正二五事一、建二大中一、以承二天心一。〔注〕師古曰、五事、貌・言・視・聽・思也。㊁咨・諏・謀・度・詢。〔詩、小雅、皇皇者華〕周爰咨諏、云云、周爰咨謀、云云、周爰咨度、云云、周爰咨詢。〔疏〕知二五者、咨也、諏也、謀也、度也、詢也一者、以下左傳穆叔、先解二此五事一、乃曰二臣獲五善一、故知二此爲一五者一也。〔左氏、襄、四〕穆叔曰、皇皇者華、君教二使臣一、曰、必諮二於周一、臣聞之、訪二問於善一爲レ諮、諮二親爲一レ詢、諮レ禮爲レ度、諮二事爲一レ諏、諮レ難爲レ謀、臣獲二五善一、敢不二重拜一。㊂夫婦を經し、孝敬を成し、人倫を厚くし、敎化を美にし、風俗を移すこと。〔詩、大序〕先王以レ是、經二夫婦一、成二孝敬一、厚二人倫一、美二敎化一、移二風俗一。〔疏〕言、先王用二詩之道一、爲二此五事一也。㊃王者の五事。身治まり正しく、閨門治まり、左右正しく、功賞實を得、德厚く吏善良なこと。〔漢書、谷永傳〕數上疏言、云云、起居有レ常、循レ禮而動、躬親二政事一、云云、未レ有二身治正而臣下邪者一也、夫妻之際、王事綱紀安危之機、聖王所レ致レ愼也、云云、未レ有二閨門治而天下亂者一也、治レ遠レ近始、習レ善在二左右一、云云、未レ有二左右正而百官枉者一也、治二天下一者、尊レ賢考レ功則治、簡レ賢違レ功則亂、云云、未レ有レ功賞得二於前一、衆賢布二於官一、而不レ治也、堯遭二洪水之災一、天下分絕、爲二十二州一、制レ遠之道微、而無二乖畔之難一者、德厚恩深、無レ怨二於下一也、云云、未レ有二德厚史良而民畔者一也、云云、此五者、王事之綱紀、南面之急務。㊄孝・友・讀書・謹行・勤儉。〔小學紺珠、徽戒類、五事〕孝・友・讀書・謹行・勤儉、勉齋黃先生幹家訓。㊅禮法を謹み、忠厚を存し、正直を親しみ、學問を勤め、家業を守ること。〔小學紺珠、徽戒類、五事〕謹二禮法一、存二忠厚一、親二正直一、勤二學問一、守二家業一、橫浦張先生九成戒子。㊆兵法の五事。道・天・地・將・法。〔孫子、始計〕故經レ之以二五事一、云云、一曰道、二曰天、三曰地、四曰將、五曰法。㊇富國の五事。山澤に火災がなくて草木が繁茂する、溝瀆は溢れず陂障の水は隄を決潰せず、桑麻は野に生長し五穀は其の地に適す、六畜は家に育し瓜瓠菓菜百果は備具する、工事は刻鏤の裝飾を用ひず女事は美麗にしない。〔管子、立政、富國有二五事一、五事、五經也、云云、君之所レ務者五、一曰、山澤不レ救二於火一、草木不レ得レ成、國之貧也、二曰、溝瀆不レ遂二於隘一、鄣水不レ安二其藏一、國之貧也、三曰、桑麻不レ殖二於野一、五穀不レ宜二其地一、國之貧也、四曰、六畜不レ育二於家一、瓜瓠菓菜百果不レ備具一、國之貧也、五曰、工事競二於刻鏤一、女事繁二於文章一、國之貧也、故曰、山澤救二於火一、草木殖成、國之富也、溝瀆遂二於隘一、障水安二其藏一、國之富也、六畜育二於家一、瓜瓠菓菜百果備具、國之富也、工事無二刻鏤一、女事無二文章一、國之富也。

【五事七政】454ゴジシチセイ 王者の善政をいふ。五事は王者の爲政上の五つの要件で、修身の要であり、七政は國家の政治の意で、日月と五星との總稱。五事の㊀を見よ。〔書、洪範〕五事、一曰貌、二曰言、三曰視、四曰聽、五曰思。貌曰レ恭、言曰レ從、視曰レ明、聽曰レ聰、思曰レ睿。〔書、舜典〕在二璿璣玉衡一、以齊二七政一。〔關八州繫馬、一〕一條院いまだ七歲の幼主として、五事七政を秋津洲に施し給ふぞ有難き。

【五時】455ゴジ 五つの時。㊀立春・立夏・大暑・立秋・立冬。〔左氏、襄、九、火正之官、疏〕五行之官、有二木正・火正・金正・水正・土正一、五行之官、每歲五時祀レ之、謂二之五祀一。〔宋書、禮志、二〕太史每歲上二某年歷一、先二立春・立夏・大暑・立秋・立冬一、常讀二五時令一。〔隋書、禮儀志、一〕五時迎レ氣、皆是祭二五行之人、帝大皞之屬一。〔小學紺珠、律歷類、五時〕立春・立夏・大暑・立秋・立冬。㊁道に達する迄の心の五つの段階。五時七候(405)を見よ。

【五時衣】456ゴジ 時期による五種の衣。春は青、夏は朱、季夏は黃、秋は白、冬は黑。〔後漢書、輿服志下〕服衣深衣制有レ袍、隨二五時色一。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕命留二五時衣各一襲一。

【五時雞】457ゴジケイ 一更から五更までの時を告げる鷄。一名、伺夜鷄。〔五色線〕影娥池北、有二鳴琴之苑一、有二伺夜鷄一、隨レ鼓節一而鳴、從レ夜至レ曉、一更爲二一聲一、五更爲二五聲一、故曰二五時鷄一。

【五時教】458ゴジキョウ 〔佛〕㊀天台宗の敎。華嚴時・鹿苑時・方等時・般若時・法華涅槃時。〔傳燈錄〕釋迦如來說法四十九年、凡爲二五時一、一、最初成道、於二三七日一、說二華嚴經一、譬二日出先照一高山一、第一時、二、於二鹿苑十二年中一、說二四阿含小乘經一、譬二日照一幽谷一、第二時、三、於二諸處八年中一、說二諸大乘經一、譬二食時一、第三時、四、於二舍衞國諸處二十二年中一、說二諸部般若一、譬二禺中一、第四時、五、於二耆闍崛穴山、并娑羅樹間八年中一、說二法華涅槃經一、譬二日輪當午一、第五時。㊁涅槃宗五時の敎。一は三乘別敎、卽ち阿含經等で四諦・六度を說く。二は三乘通敎、卽ち專ら般若經を說いて三乘を化するもの。三は抑揚敎、卽ち維摩思益の諸經を說いて菩薩を讚揚し聲聞を挫折するもの。四は同歸敎、卽ち法華經を說いて彼の三乘を一極に歸せしめるもの。五は常住敎、卽ち涅槃經を說いて佛果の常住を明かにするもので、有相・無相・抑揚・會二歸一・圓常と名づける。〔三論玄義〕昔涅槃初度二江左一、宋道場等沙門慧觀、仍製二經序一、略判二佛敎一、凡有二二科一、一者頓敎、卽華嚴之流、但爲二菩薩一、具足顯二理一、二者始從二鹿苑一、終竟二鵠林一、自レ淺至レ深、謂二之漸敎一、於二漸敎內一、開爲二五時一。㊂晉の劉虬が立てた五時敎。晉の武都山の隱士劉虬は、頓漸二敎を分

ち、華嚴經を頓教とし、餘を漸教とし、漸教の中に五時を立てた。唐土判教の嚆矢である。一は提謂經により五戒十善の人天教を開く。二は成道後十二年の中に、阿含經により三乘差別の教門を開く。三は佛成道後二十年中に、般若經維摩經等により三乘同觀の空理を說く。四は佛成道四十年の後八年の中に於て、法華經により一乘を辨明する。五は佛滅度に臨んで一日一夜の中に涅槃經を說いて悉有佛性佛性常住の理を明かにする、之が最後究竟の說である。〔大乘義章、一〕。

【五時車】459 シャ 時期によつて天子が用ひる青・赤・黃・白・黑の五種の車。俗に五帝車といふ。〔魏志、武帝紀〕設二五時副車一。〔晉書、輿服志〕有二青立車・青安車・赤立車・赤安車・黃立車・黃安車・白立車・白安車・黑立車・黑安車一、合十乘、名爲二五時車一、俗謂二之五帝車一。

【五時圖】460 ゾ 五時の花の圖。北朝の婦人が、五月に天子に進めたもの。〔西陽雜俎、禮異〕北朝婦人、常以二冬至日一進二履靴及韈一、正月進二箕帚長生花一、立春進二春書一、以二青繒一爲レ幟、刻二龍像一御レ之、或爲二蝦蟇一、五月進二五時圖一、五時花施二帳之上一、是日、又進二長命縷宛轉繩一、皆結爲二人像一帶レ之、夏至日、進二扇及粉脂囊一、皆有レ辭。

【五時七候】461 ゴジシチコウ 道家で五時と七候とをいふ。五時は道に達する迄の心の五つの段階。一、動多く靜少し。二、動靜相半す。三、靜多く動少し。四、無事なれば靜、事觸れれば動。五、心、道と合し、觸れて動かず。雲笈七籤によれば、第一時は、動多く靜少く、常人の心。第二時は、靜少く動多く、道に進む始とす。第三時は、動靜相半し、心漸く調熟す。第四時は、靜多く動少く、專ら一境に心を注ぎ、失ふことあるも遽に得。第五時は、心純靜に向ひ、事に觸れて動かず。七候は神氣を練る七段階。第一候は得道。宿疾並び銷し、六情沈寂す。第二候は色童顏に返り、形悅び心安く、通靈徹視。第三候は僊人。延年千載、飛行自在。第四候は眞人。身氣を練成し、存亡自在。第五候は神人。氣を練り、神と爲り、變通自在。第六候は至人。神を練り色を合し、神既に通靈、色形定まらず。第七候は究竟。物外に高超し、迥かに常倫を出で、萬行休停す。〔玉澗雜書〕得道者、心有二五時一、一動多靜少、二動靜相半、三靜多動少、四無事則靜、事觸還動、五心與レ道合、觸而不レ動、謂二之五時一。〔雲笈七籤、雜修攝、太清存神鍊氣五時七候訣〕五時、第一時、心動多靜少、思緣二萬境一、取捨無レ常、念慮度量、猶如二野馬一、常人心也。第二時、心靜少動多、攝動入レ心、而心散逸難レ可二制伏一、攝之勤策、進二道之始一。第三時、心動靜相半、心靜似レ攝、未レ能二常靜一、靜散相半、用心勤策、漸見二調熟一。第四時、心靜多動少、攝レ心漸熟、動卽攝レ之、專注二一境一、失而遽得、第五時、心一向二純靜一、有レ事觸、亦不レ動、由レ攝二心熟一、堅固進定矣、從レ此已後、處レ顯而入二七候一、任レ運自得、非レ關二作矣一。七候第一候宿疾並銷、身輕心暢、停レ心在レ內、神靜氣安、四大適然、六情沈寂、心安二玄竟一、抱二一守一中、喜悅日新、名爲二得道一。第二候、超二過常限一、色返二童顏一、形悅心安、通靈徹視、移二居別郡一、揀二地而安一、鄰里之人、勿レ令二舊識一。第三候、延年千載、名曰二僊人一、遊二諸名山一、飛行自在、青童侍衞、玉女歌揚、騰二躡烟霞一、綵雲捧レ足。第四候、鍊二身成レ氣、氣遶身光、名曰二眞人一、存亡自在、光明自照、晝夜常明、遊二諸洞宮一、諸仙侍立。第五候、鍊レ氣爲レ神、名曰二神人一、變通自在、作用無レ窮、力動二乾坤一、移二山竭レ海。第六候、鍊レ神合レ色、名曰二至人一、神既通靈、色形不レ定、對レ機施レ化、應レ物現レ形。第七候、高超二物外一、迥出二常倫一、大道玉皇共居、靈境賢聖集會、弘演二至眞一、造化通靈、物無レ不レ達、修行至レ此、方到二道源一、萬行休停、名曰二究竟一。

【五時說法】462 ゴジセッポウ 佛五時教（458）の❶を見よ。

【五時】463 ゴジ 五つのまつりのには。畦時（7—2184 2‥5）。密時（3—7205‥79）。上時（1—13‥361）下時（1—14‥223）。北時（2—2574‥342）。各條を見よ。〔史記、孝武紀〕上初至レ雍、郊二見五時一。〔史記、封禪書〕秦文公、云云、夢二黃蛇自二天下一屬レ地、其口止二於鄜衍一、云云、作二鄜時一、用二三牲一、郊二祭白帝一焉、云云、秦宣公作二密時於渭南一、祭二青帝一、云云、秦靈公作二吳陽上時一、祭二黃帝一、作二下時一、祭二炎帝一、云云、獻公、云云、作二畦時櫟陽一、祀二白帝一、云云、及レ至二秦始皇幷一レ天下一、云云、諸祠唯雍四時、上帝爲レ尊、漢高祖立二黑帝祠一、命曰二北時一、云云、文帝始郊、見雍五時祠。〔漢書、郊祀志上〕郊二見五時一。〔漢書、地理志上〕雍有二五時一。〔王先謙補注〕渭水注、雍有二五時一、以二上祠一祀二五帝一、封禪書索隱云、密時並二上時一、時畦時一爲二四、並高祖尊二黑帝一爲レ五、案、密時在二渭南一、畦時在二櫟陽一、蓋始皇後、並祀二於此一、五帝之祀酒備、小司馬說、是也、或疑、密時畦時、不レ當レ在レ雍、非二是、後漢書馮衍傳注、引二史記一云、秦幷二天下一、祠二雍四時一、漢加二黑帝一、謂二之五時一、其明證矣。

【五時原】464 ゲン 地名。陝西省鳳翔縣の南。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、鳳翔縣〕五時原、括地志、在二雍縣南一、云云、一云、五時原、在二吳山之陽一、又志云、縣南二十里一、有二西時一。

【五時廟】465 ビョウ 五つのまつりのには廟。〔漢書、翟方進傳〕昭二郊宗之禮一、定二五時廟祧一。

【五餌】466 ジ 五種の餌。五餌三表を見よ。〔李納、授二陳君從一郟州節度使一制〕窮二黃石之三編一、笑二長沙之五餌一。

【五餌三表】467 サンペウ 漢の賈誼の考へた單于懷柔手段。五餌は人を誘ふ五種のもので、一は盛服車乘、二は盛食珍味、三は音樂婦人、四は高堂邃宇・倉庫奴婦、五は來降者に對しては天子親ら之と相娛しみ、之を接待する。三表は人を信頼させる三つのしるしで、一、人の狀及び技を愛する、二、信實にして操を守る、三、實ある者を愛好し、已に諾すれば期すべし。〔漢書、賈誼傳贊〕及欲下試二屬國一、施二五餌三表一、以繫中單于上。〔注〕師古曰、賈誼書謂、愛二人之狀、好二人之技一、仁道也、信爲二大操一、常義也、愛二好有實一、已諾可レ期、卽十死一生、彼將二必至一、此三表也、賜二之盛服車乘一、以壞二其目一、賜二之盛食珍味一、以壞二其口一、賜二之音樂婦人一、以壞二其耳一、賜二之高堂邃宇府庫奴婢一、以壞二其腹一、於二來降者一、上以召幸レ之、相娛樂親酌、而手食レ之、以壞二其心一、此五餌也。

【五辭】468 ジ ❶五刑（683）の何れかにはいる訴訟の申したて。〔書、呂刑〕兩造具備、師聽二五辭一。〔傳〕兩、謂二囚證一、造、至也、兩至具備、則衆獄官、共聽レ其入二五刑一之辭上。〔疏〕乃與二獄官一、共聽下其入二五刑一之辭上、其五刑之辭、簡核信實、有レ罪則正二之於五刑一、五辭、麗二於五刑一之辭也。❷五度、辭退する。〔左氏、哀、六〕五辭而後許。〔釋文〕說文云、辭、不レ受也。

【五州】469 シウ ❶九州の中の五つの州。〔顏延之、車駕幸二京口一、三月三日侍二遊曲阿後湖一、作詩〕望レ幸傾二五州一。〔注〕善曰、尚書有二十二州一、宋得二其七一、故謂二北境一、云云五州、濟曰、九州之地、宋得二其五州之人一。❷山名。江蘇省丹徒縣の西。〔鎭江府志〕相傳、登二山絕頂一、望二見五州一、故名、梁武帝幸レ此、輦道尚存。

【五洲】470 シウ ❶洲の名。湖北省蘄水縣の西。蘭溪の西、大江の中に在る。一名、伍洲。伍員が吳に適く時、此處を通り過ぎたので名づけたと傳へる。南宋の元嘉の末、武陵王駿が、西の楊蠻を討つた時、此處に軍した。〔水經、江水注〕南對二五洲一也。江中有二五洲一相接、故以二五洲一爲レ名。❷五大洲。〔周禮政要、保商〕西商挾二其財力之富、雄一視五洲一。

【五臭】471 シウ ❶五つの臭。㈠薰・香・腥・焦・朽。〔禮、月令、其味酸其臭羶、疏〕凡草木所レ生、其氣羶也、夏其味苦、其臭焦者、尚書孔傳云、火之氣味、火燒二物焦一、云云、其味甘、其臭香、云云、味甘則氣香、秋其味辛、其臭腥者、云云、金臭之氣則腥、云云、其臭朽者、云云、水受二惡穢一、故有二臭腐之氣一。〔隋書、經籍志三〕五行者、五常之形氣也、云云、在レ鼻爲二五臭一。〔小學紺珠、律歷類、五臭〕羶・焦・香・腥・朽。㈡羶・薰・香・鰋・腐。〔莊子、天地〕五臭薰レ鼻。〔疏〕五臭、謂二羶薰香鰋腐一。❷五つの臭氣ある草木。卽ち、薜荔・白芷・蘼蕪・椒・連。〔管子、地員〕五臭生レ之、薜荔・白芷・蘼蕪・椒・連。

【五就】472 シウ 天子の執る瑞玉を包む韋の上に、黑・黃・朱・白・蒼の五采で畫き成すこと。〔周禮、春官、典瑞〕王晉二大圭一、執鎭圭一、繅藉五采五就、以朝レ日。〔注〕用レ韋衣而畫レ之、就、成也、云云、五就、五市也、一市爲二一就一。〔疏〕用レ韋衣レ之、乃於二韋上一畫レ之、一采爲二一市一、五采則五市、一市爲二一就一、就、成也。〔孫詒讓正義〕左傳桓二年

孔疏云、五采謂二玄・黄・朱・白・蒼一。〔元史、禮樂志五〕執レ旌二人、平冕前後、各九旒、五就、靑生色鸞袍・黄綾帶・黄絹袴・白絹韈・赤革履。

【五識】473 ゴシキ ㊀五つの意識。〔關尹子、五鑑〕無二一心一、五識竝馳、心不レ可レ一。㊁佛眼・耳・鼻・舌・身の五識。順次に色・聲・香・味・觸の五境を經驗する。

【五疾】474 ゴシツ ㊀五つのやまひ。瘖・聾・跛躄・斷者・侏儒をいふ。〔荀子、王制〕五疾、上收而養レ之、材而事レ之。〔注〕五疾、瘖・聾・跛躄・斷者・侏儒、各當二其材一使レ之。㊁五つの弊害。禮教立たずして防犯成らず、死刑制に過ぐ、生刑犯し易し、民窮して濫る、豪傑が私姦を擅にして惡事を隱蔽する。〔漢書、刑法志〕凡此五疾、獄刑所二以尤多一者也。〔評林〕許應元曰、五疾者、謂、禮教不レ立、隄防淩遲、一也、死刑過レ制、二也、生刑易レ犯、三也、民窮斯濫、四也、豪傑擅二私姦一、有レ所レ隱、五也。

【五日】475 ゴジツ ㊀月の第五の日。いつか。〔書、召誥〕越五日申寅位成。〔傳〕於二戊申一三日庚戌、云云、於二庚戌一五日、所レ治之位皆成。㊁日數、五つ。五日間。〔詩、小雅、采綠〕五日爲レ期、六日不レ詹。〔傳〕婦人五日一御。〔禮、檀弓上〕五日彈レ琴而不レ成レ聲、十日而成二笙歌一。㊂五の日。五月の日をいふ。一之日（1－1・・747）を見よ。〔詩、小雅、采綠、五日爲レ期六日不レ詹、箋〕五日六日者、五月之日、六月之日也。㊃五月五日。端午の節句をいふ。〔權德輿、端午日禮部宿齋詩〕良辰當二五日一、偕老祝二千年一。㊄ゴノヒ 月の五日・十五日・二十五日をいふ。

【五日週】476 ゴジツシウ 五日に一回の休日を置く制度。

【五日節】477 イツカノセチ 五月五日に武德殿で行はれた節會。〔續日本紀、十七〕天平十九年五月庚辰、五日之節、用二菖蒲一爲レ縵。

【五日一石】478 ゴジツイツセキ 五日かかつて一つの石を畫くことで、名工の苦心してゆるがせにしないことをいふ。〔杜甫、戲題二王宰畫山水圖一詩〕十日畫二一水一、五日畫二一石一。

【五日京兆】479 ゴジツケイテウ 僅かに五日間の京兆尹といふことで、官職に在ることの短い喩。〔漢書、張敞傳〕敞使二賊捕掾絮舜、有レ所二案驗一、舜以二敞劾奏當レ免、不レ肯二爲レ敞竟レ事、私歸二其家一、人或レ諫レ舜、舜曰、吾爲二是公一盡レ力多矣、今五日京兆耳、安能復案レ事。〔書言故事、古今喩類〕譏二去レ任者一五日京兆。

【五日洗沐】480 ゴジツセンモク 五日毎に天子から暇を賜はること。其の休日に洗沐する。〔史記、鄭當時傳〕孝景時爲二太子舍人一、每二五日洗沐一、常置二驛馬長安諸郊一、存二諸故人一、請二謝賓客一、夜以繼レ日、至二其明旦一、常恐レ不レ徧。

【五日過二居庸一】481 ゴジツキヨヨウヲスグ 五日目に居庸關を過ぎる。人の塞外に行くことを詠じた句。〔元好問、送二李參軍北上一詩〕五日過二居庸一、十日渡二桑乾一、受降城北幾千里、出レ塞入レ塞沙漫漫。

【五日一候三候一氣】482 ゴジツイツコウサンコウイツキ 五日を一候とし、三候を一氣とする。故に一年、二十四氣。〔玉海、律歷、時令〕五日爲レ候、三候爲レ氣。

【五日一風十日一雨】483 ゴジツイツプウジフジツイチウ 五日目毎に一度風が吹き、十日目毎に一度雨がふること。氣候が順調で世の中が泰平なことにいふ。〔論衡、是應〕風不レ鳴レ條、雨不レ破レ塊、五日一風、十日一雨。〔舊唐書、禮儀志二〕太平之時、五日一風、一年有二七十二風一。

【五習】484 ゴシフ 軍人の養ふべき五つの習慣。目習・耳習・心習・手習・足習。〔諸葛亮、敎令篇〕目習〔目見二旌旗之號一、則知二指揮之變一、識二縱發之意一〕、耳習〔耳聞二金鼓之聲一、則知二動靜之宜一、合二行止之節一〕、心習〔心會二敎令之事一、則知二刑罰之嚴一、趍二功賞之利一〕、手習〔手習二五兵之器一、則知二長短之用一、精二戰鬪之機一〕、足習〔足習二赴引之利一、則知二坐作之節一、熟二進退之路一〕。

【五葴】485 ゴシフ 草の名。つるつば。赤地利（10－36993・・263）の異名。〔本草、赤地利〕釋名、五葴、集解、恭曰、所在山谷有レ之、蔓生、葉似二蘿藦一、根皮赤黑。

【五十】486 ゴジフ ㊀數。いそ。十の五倍。五の十倍。〔易、繫辭上〕大衍之數五十、其用四十有九。㊁五十歲。いそぢ。〔禮、曲禮上〕五十曰レ艾、服二官政一。〔禮、王制〕五十養二于鄕一、六十養二於國一。〔論語、爲政〕五十而知二天命一、六十而耳順。㊂五十里の略。〔荀子、大略〕吉行五十、犇喪百里。㊃ソイ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【五十河】487 イカガ ㊀丹波の地名。㊁イカハ 姓氏。〔姓林全書〕。

【五十君】488 イキミ イシミ ㊀姓氏。〔姓林全書〕。㊁イキミ 姓氏。〔下學集〕。

【五十原】489 イカハラ 越後國の地名。

【五十公】490 イキミ 姓氏。〔姓林全書〕。

【五十谷】491 イサダニ ㊀若狹國の地名。㊁イカタニ 越中國の地名。

【五十山】492 ヨスヤマ 姓氏。〔和爾雅〕・〔姓林全書〕。

【五十子】493 イカゴ ㊀遠江國の地名。〔松屋筆記〕。㊁姓氏。〔和爾雅〕。㊂イカンコ 姓名。〔姓林全書〕。

【五十洲】494 イギス 能登國の地名。

【五十集】495 イサバ ㊀すなどりをする場所。漁場。㊁魚市場。㊂乾魚などを賣る店。五十集屋イサバヤは、其の店をも商人をも意味する。㊃隱話。竊盜犯。

【五十雀】496 ゴジフカラ 鳥の名。燕雀目、ごじふから科。四十雀程の大きさで、尾が短い。一說、四十雀の老いたものをいふ。〔和漢三才圖會、林禽類、四十雀〕其老者、換レ毛色稍異、形亦大、俗呼曰二五十雀一、雌者腹雲紋幽微。

【五十棲】497 イホスミ ㊀姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。㊁イラズミ 姓氏。〔和爾雅〕。

【五十川】498 イカカハ イラカハ ㊀羽前國の地名。㊁イサカハ イススカハ 姓氏。〔姓林全書〕。

【五十島】499 イカシマ 越後國の地名。

【五十澤】500 イサザハ 岩代國の地名。

【五十土】501 イカツチ ㊀下總國の地名。㊁イガツチ 羽後國「の地名。

【五十波】502 イカハ 播磨國の地名。

【五十幡】503 イカハタ 姓氏。〔姓林全書〕。

【五十部】504 ヨカベ 下野國の地名。

【五十邊】505 イカラベ ㊀岩代國の地名。㊁越中國の「地名。

【五十猛】506 イソタケ 石見國の地名。

【五十嵐】507 イガラシ ㊀伊豫國の地名。㊁姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【五十里】508 ゴジフリ ㊀廣さ方五十里。五十里平方の廣さ。小國の土地。〔禮、王制〕凡四海之內九州、州方千里、州建二百里之國三十、七十里之國六十、五十里之國百二十、凡二百一十國一、云云、天子之縣內、方百里之國九、七十里之國二十有一、五十里之國六十有三、凡九十三國。〔孟子、滕文公上〕今滕絕レ長補レ短、將二五十里一也。㊁長さ五十里。〔周禮、地官、遺人〕凡國野之道、十里有レ廬、廬有二飮食一、三十里有レ宿、宿有二路室一、路室有レ委、五十里有レ市、市有二候館一、候館有レ積。〔梁簡文帝、行二幸甘泉宮一詩〕吉行五十里、隨處宿二離宮一。㊂イカリ 佐渡國の地名。㊃イリ ㋑下野國の地名。㋺能登國の地名。㋩越中國の地名。㋥佐渡國の地名。

【五十畑】509 イカハタ 下野國の地名。

【五十衣レ帛】510 ゴジフハクヲキル 五十歲の者はきぬの着物を衣ることが出來る。王道が行はれて民の衣食足り、凍餒の患がなくなること。〔孟子、梁惠王上〕五畝之宅、樹レ之以レ桑、五十者可二以衣一レ帛矣。〔集注〕五十始衰、非レ帛不レ煖。〔孟子、盡心上〕五十非レ帛不レ煖、七十非レ肉不レ飽。

【五十學レ易】511 ゴジフエキヲマナブ 孔子が五十までに易を學びたいと言つた故事。或は易は亦の字の誤ともいふ。〔論語、述而〕子曰、加二我數年一、五十以學レ易、可三以無二大過一矣。〔劉寶楠正義〕釋文云、學レ易如レ字、魯讀レ易爲レ亦、今從レ古、此出二鄭注一、惠氏棟九經古義、外黃令高彪碑、恬虛守レ約、五十以斅、此從二魯論一、亦字連レ下讀也。〔陸龜家、酬二皮襲美一詩〕首贊五十易、又、刪二三百詩。

【五十戶良】512 サトヲサ イヘヲサ 里長。〔萬葉集、五〕しもと取る五十戶良がこゑはねやどまで來立ち呼「ばひぬ。

【五十公野】513 イジミノ 越後國の地名。

【五十三驛】514 ゴジフサンエキ ㊀五十三の宿驛。〔黃庭堅、竹枝詞〕鬼門關外莫レ言レ遠、五十三驛是皇州。㊁昔、江戶の日本橋から京都三條大橋に至るまでの驛。五十三次。翠雨軒詩話に見ゆ。卽ち品川（東京）・川崎・神奈川・程ケ谷・戶塚・藤澤・平塚・大磯・小田原・箱根（以上神奈川縣）・三島・沼津・原・吉原・蒲原・由井・興津・江尻・府中・丸子・岡部・藤枝・島田・金谷・日阪・掛川・袋井・見付・濱松・舞阪・新井・白須賀（以上靜岡縣）・二川・吉田・御油・赤阪・藤川・岡崎・池鯉鮒・鳴海・宮（以上愛知縣）・桑名・四日市・石藥師・庄野・龜

山・關・阪下（以上三重縣）・土山・水口・石部・草津・大津（以上滋賀縣）。

【五十三參】515（ゴジフサン）　倆多くの修業を積んだこと。善財童子が偏く五十三善知識に參して始めて善果を得たといふ故事。最初に文殊に參し、最後に普賢に參したが其の間、菩薩・佛母・比丘・比丘尼・優婆塞・天神・地神・主夜神・主者・城主・長者・居士・童子・天女・童女・外道・婆羅門等に就いて一々參問した。〔華嚴經、入法界品〕。

【五十三次】516（ゴジフサン）　五十三驛に同じ。

【五十三步】517（ゴジフサンポ）　地名。四川省峩眉縣峩眉山純陽殿の左。山勢峻峭にして、通行する所が相逼つて輿馬が通れない。明初、蜀の獻王が、馬を降りて行くこと五十三步、因つて名を得た。

【五十子平】518（イサブタヒラ）　越後國の地名。

【五十而士】519（ゴジフシテ）　匹夫は年五十にして始めて士の身分となる。〔荀子、大略〕古者匹夫五十而士。〔集解〕兪樾曰、荀子不ㇾ直曰ニ古者五十而士一、必加ニ匹夫一字一、明與ニ下文天子諸侯子一相對、知ㇾ十九而冠、爲ニ天子諸侯子之制一、則知ニ五十而士、爲ニ匹夫之制一、不ㇾ必疑ㇾ其與ニ禮經一不ㇾ合矣。

【五十而慕】520（ゴジフシテ）　大孝をいふ。舜が五十歲になつても父母を慕つた故事。〔孟子、萬章上〕五十而慕者、予於ニ大舜一見ニ之矣。

【五十二峒】521（ゴジフニドウ）　地名。廣西省宜北縣の治。さきに匪賊の洞窟であつたが、清の光緒三十一年に亂が平ぎ、安化廳を置く。民國の時、改めて宜北縣とし、縣治を置く。五十二峒の名は今、不明。

【五十八篇】522（ゴジフハッペン）　尚書の篇數五十八をいふ。〔孔安國、古文尚書序〕書序ㇾ序ニ以爲作一者之意ニ、昭然義見、宜ニ相附近一、故引ㇾ之、各冠ニ其篇首一、定ニ五十八篇一、既畢、會ニ國有ニ巫蠱事一、經籍道息、用不ニ復以聞一、傳ニ之子孫一、以貽ニ後代一。〔精註雅俗故事讀本、下、文事〕尚書道ニ政事一、其文有ニ古今一、五十八篇爲ニ定數一。

【五十不ㇾ聞】523（ゴジフシフブン）　凡人をいふ。五十歲になつても名聲が聞えない。〔論語、子罕〕四十五十而無ニ聞焉一、斯亦不ㇾ足ニ畏也一已矣。〔胡天游、述志賦〕霜毛颯以垂ㇾ領兮、懼ニ五十而無ㇾ聞。

【五十里驛】524（イサリエキ）　下野國の地名。

【五十鈴宮】525（イスズノミヤ）　伊勢大神宮の別稱。

【五十鈴川】526（イスズガハ）　御裳濯川（ミモスソガハ）をいふ。

【五十爲ニ大夫一】527（ゴジフヰニタイフトナル）　士は五十歲にして大夫となり、官政に服する。五十服ニ官政一を見よ。〔禮、內則〕五十命爲ニ大夫一、服ニ官政一。

【五十五春風】528（ゴジフゴシュンプウ）　五十五年間の春毎に吹く風。五十五年の意。〔嚴垣月洲、芳野山圖詩〕南朝五十五春風。

【五十而後爵】529（ゴジフニシテシャクヲス）　五十歲になつて大夫となり、官爵をうけること。〔禮、內則〕二十而冠、始學ㇾ禮、三十有ㇾ室、始理ニ男事一、四十始仕、五十命爲ニ大夫一、服ニ官政一。〔蘇軾、稼說送ニ張琥一〕三十而後仕、五十而後爵。

【五十服ニ官政一】530（ゴジフニカンセイニフクス）　士は五十歲にして、始めて官政を取り行ふ。〔禮、曲禮上〕五十曰ㇾ艾、服ニ官政一。

【五十步百步】531（ゴジッポヒャクポ）　少しの相違はあるけれども大體同一なこと。大同小異。以ニ五十步一笑ニ百步一を見よ。

【五十六種書】532（ゴジフロクシュショ）　文字の書體五十六。唐、韋續は下の五十六とす。龍書・八穗書・篆書・雲書・鸞風書・科斗書・仙人形書・龜書・鐘鼎書・倒薤書・虎書・鳥書・魚書・塡書・大篆書・複篆・殳書・小篆・仙人篆・麒麟書・轉宿篆・蟲書・傳信鳥迹書・細篆書・小篆書・刻符書・古隸書・徒隸書・署書・槧書・氣候時書・芝英書・靈芝書・金錯書・尚方大篆・鶴頭書・偃波書・蚊腳書・垂露篆・懸針篆・章草書・飛白書・一筆書・八分書・蛇書・行書・散隸書・龍爪書・槧及行隸・八體書・草書・虎爪書・鬼書・外國書・天竺書・花書。〔書苑菁華〕。

【五十而知ニ天命一】533（ゴジフジテテンメイヲシル）　孔子が五十歲に至つて、天が自己に與へた使命を知つたことをいふ。〔論語、爲政〕四十而不ㇾ惑、五十而知ニ天命一。

【以ニ五十步一笑ニ百步一】534（イゴジッポヲモッテヒャクポヲワラフ）　戰爭の時、五十步逃げた者が百步逃げた者を臆病者として笑ふこと。自己と大差ないのに、人の言動を笑ふ喩。〔孟子、梁惠王上〕王好ㇾ戰、請以ㇾ戰喩、壇然鼓之、兵刃既接、棄ㇾ甲曳ㇾ兵而走、或百步而後止、或五十步而後止、以ニ五十步一笑ニ百步一、則如何、曰不可、直不ニ百步一耳、是亦走也。

【五十而知ニ四十九年非一】535（ゴジフジテシジフクネンノヒヲシル）　五十歲の今年に至つて、初めて前年までの非を悟ること。〔論語、憲問、蘧伯玉使ニ人於孔子一、集注〕按、莊周稱ニ伯玉行年五十而知ニ四十九年之非一。〔莊子、寓言〕莊子謂ニ惠子一曰、孔子行年六十、而六十化、始時所ㇾ是、卒而非ㇾ之、未ㇾ知ニ今之所謂是之非ニ五十九非一也。〔淮南子、原道訓〕蘧伯玉年五十、而有ニ四十九年非一。

【五車】536（ゴシャ）　一玉幹・金幹・象幹・革路・木路。五幹（1118）の一に同じ。〔南齊書、禮志上〕五車玉幹爲ㇾ上、金幹次ㇾ之。二五種の兵車。戎路・廣車・闕車・苹車・輕車。〔周禮、春官、車僕〕掌ニ戎路之萃一、廣車之萃、闕車之萃、苹車之萃、輕車之萃。〔注〕此五者皆兵車、所謂五戎也。〔賈至、燕歌行〕五車精卒三十萬、百戰百勝擒ニ單于一。三星の名。天庫・獄・天倉・司空・卿星。〔史記、天官書〕軫南衆星曰ニ天庫一、樓庫有ニ五車一。〔注〕正義曰、天庫一星、主ニ太白一、秦也、在ニ五車中一。〔晉書、天文志上〕五車、五星、三柱九星在ニ畢北一、五車者、五帝車舍也、五帝坐也、主ニ天子五兵一、一曰、主ニ五穀豐耗一、西北大星曰ニ天庫一、主ニ太白一、主ニ秦、次東北星曰ニ獄一、主ニ辰星一、主ニ燕趙一、次東星曰ニ天倉一、主ニ歲星一、主ニ魯衞一、次東南星曰ニ司空一、主ニ塡星一、主ニ楚一、次西南星曰ニ卿星一、主ニ癸惑一、主ニ魏一、五星有ㇾ變、皆以ニ其所ニ主占一之。四五つの車。又、五臺の車に積む程の多くの書籍。惠施の故事。〔莊子、天下〕惠施多方、其書五車。〔庾肩吾、和ニ劉明府觀ニ湘東王書一詩〕五車方累ニ篋一。〔鮑照、擬古詩〕

【五車拉】537（ゴシャラフ）　五車を用ひてもひき上げられない程大きい石。〔後漢書、祭祀志上、注〕入ニ其幕府一觀ニ治石一、石一枚、狀博平、圓九尺、此壇上石也、其一石、武帝時石也、時用ニ五車一、不ㇾ能ㇾ上也、因置ニ山下一爲ㇾ屋、號ニ五車石一。

【五車韻瑞】538（ゴシャインスイ）　書名。百六十卷。明、凌稚隆編。體例は陰時夫の韻府羣玉に本づく。羣玉は子類と集類との語を多く集め、經史の二部を略してあるので、其の遺漏を補ひ、經・史・子・集・賦の五部に分つて、每部二字、三字、四字の熟字を列し、一々其の出典を明かにした。佩文韻府は此の書を基礎としたものである。〔四庫提要、子、類書類〕。

【五車之書】539（ゴシャノショ）　五臺の車に積む程の多くの書物。惠施の故事。五車の四を見よ。〔王維、戲贈ニ張五弟諲一詩〕張弟五車書、讀書仍隱居。〔孟浩然、送ニ告八從ニ軍詩一〕男兒一片氣、何必五車書。〔杜甫、題ニ柏學士茅屋一詩〕富貴必從ニ勤苦一得、男兒須ㇾ讀ニ五車書一。

【五舍】540（ゴシャ）　むかし宮城內に在つて、女御・更衣の居住した五つの家。昭陽舍（梨壺）・淑景舍（梅壺）・襲芳舍・雷鳴壺（カンナリツボ）。〔和漢三才圖會、家宅類、舍〕照陽舍、在ニ溫明殿北一、淑景舍在ニ照陽舍北一、飛香舍在ニ弘徽殿北一、凝華舍在ニ飛香舍北一、襲芳舍在ニ凝華舍北一、蓋此禁中之五舍也。

【五射】541（ゴシャ）　弓を射る五種の法。白矢・參連・剡注・襄尺・井儀。〔周禮、地官、保氏〕養ニ國子一以ㇾ道、乃教ニ之六藝一、云云、三曰、五射。〔注〕鄭司農云、五射、白矢・參連・剡注・襄尺・井儀也。〔疏〕先鄭云、五射白矢已下、無ニ正文一、或先鄭別有ㇾ所ㇾ見、或以ㇾ義而言ㇾ之、云ニ白矢者、矢在ニ侯而貫ㇾ侯過、見ニ其鏃白一、云ニ參連者、前放ニ一矢一、後三矢連續而去也、云ニ剡注者、謂ニ羽頭高、鏃低而去、剡剡然一、云ニ襄尺者、臣與ニ君射一、不ニ與君並立一、襄ニ君一尺而退一、云ニ井儀者、四矢貫ニ侯、如ニ井之容儀一也。

【五相】542（ゴシャウ）　一五人の宰相。唐の裴垍・王涯・杜元穎・崔羣・李絳をいふ。〔白居易、李留守相公見ㇾ過話及ニ翰林舊事一詩〕同時六學士、五相一漁翁。〔小學紺珠、名臣類下、五相〕裴垍・王涯・杜元穎・崔羣・李絳。二復姓。伍員の子孫の姓。伍相。〔元和姓纂〕吳相五員子孫、吳人號ニ之五相之後一、一作ニ伍相氏一。

【五省】543（ゴシャウ）　五つの官署。一南朝の五省。尚書省・中書省・門下省・祕書省・集賢省。〔羣書拾唾〕南朝五省、尚書省・中書省・門下省・祕書省・集賢省。二隋の五省。內侍省（一說に殿內省）・尚

書省・門下省・內史省・祕書省。〔臺書拾唾〕隋五省、內侍省・尚書省・門下省・內史省・祕書省。〔小學紺珠、職官類、五省〕隋、尚書・門下・內史・祕書・殿內。

【五將】544(ゴショウ) ㊀五人の大將。〔李陵、答二蘇武一書〕五將失レ道、陵獨遇レ戰。㊁漢の王鳳・王音・王商・王根・王莽。〔漢書、五行志〕其後寖盛、五將世レ權、遂以亡レ道。〔法〕鳳・音・商・根・莽也。㊂漢の田廣明・趙充國・田順・范明友・韓增。〔漢書、西域傳下〕宣帝卽位、遣二五將一、將二兵擊一匈奴一。〔注〕田廣明・趙充國・田順・范明友・韓增也。㊃星の名。天目星・文昌星等をいふ。〔後漢書、高彪傳〕天有二五將三門一、地有二九變丘陵山川一。〔注〕太一式、凡擧レ事、皆欲下發二三門一順中五將上發二三門一者、開門・休門・生門、五將者、天目・文昌等。㊄山名。陝西省岐山縣の東北、麟游縣の界に接す。晉の太元十年、苻堅が此の山に奔つて、姚萇の將、吳忠に執へられた。〔晉書、孝武帝紀〕苻堅留二太子宏一、守二長安一、奔二于五將山一。

【五章】545(ゴショウ) ㊀天子・諸侯・卿・大夫・士の五等の衣服の模樣。〔書、皐陶謨〕五服五章哉。〔傳〕五服、天子・諸侯・卿・大夫・士之服也、尊卑彩章各異、所二以命一有德一。〔疏〕益稷云、以二五采一彰二施於五色一、作レ服、汝明、是天子・諸侯・卿・大夫・士之服也、其尊卑采章各異、於二彼傳一具レ之、天命二有德一、使二之居一位、命有二貴賤之倫一、位有二上下之異一、不レ得レ不レ立レ名以二此等之象物一、以彰レ之、先王制二爲五服一、所二以表一貴賤一也、服有二等差一、所二以別一尊卑一也。〔李白、古風詩〕鳳飛九千仞、五章備二綵珍一。〔余闕、送二康上人往二三城一詩〕芳郊列二華屋一、文繡被二五章一。㊁文(青と赤)・章(赤と白)・黼(白と黑)・黻(黑と青)・繡(五色備はる)をいふ。〔左氏、昭、二十五〕爲二九文六采五章一、以奉二五色一。〔注〕青與レ赤謂二之文一、赤與レ白謂二之章一、白與レ黑謂二之黼一、黑與レ青謂二之黻一、五色備謂二之繡一、集二此五章一、以奉二成五色之用一。㊂歌章の名。〔史記、樂書〕作二五章一、以刺レ時。〔注〕索隱曰、家語所レ云、孔子嗤二季桓子一、作レ歌引レ詩曰、彼婦人之謁、可二以死敗一、優哉游哉、聊以卒レ歲、此是五章之刺也。㊃人君が天下を威服する十二教の第七。行列を明かにして、終始亂れさせないことをいふ。〔尉繚子、兵教下〕臣聞、人君有二必勝之道一、云云、則威加二天下一、有二十二焉一、云云、七曰、五章、謂下彰二明行列一、始卒不レ亂也。

【五障】546(ゴショウ) 〔佛〕㊀女人の有する五種の障礙。梵天・帝釋・魔王・轉輪聖王・佛身。五礙。〔法華經、提婆品〕又女人身、猶有二五障一、一者不レ得レ作二梵天王一、二者帝釋、三者魔王、四者轉輪聖王、五者佛身。㊁修道上の五つのさはり。煩惱障・業障・生障・法障・所知障。〔大日經疏、一〕是中障有レ五、一煩惱障、謂、根本煩惱、云云、二業障、謂、過去及現在世造二諸重罪一、云云、三生障、謂、是人若得二勝上無難處一、必當レ悟レ道、然乘二前業一、更受二無暇身一、卽以レ障二報生一、不レ入二佛法一、四法障、謂、此人已得二無障生處一、又有二悟道機一、先世曾以レ有二障法等緣一、故不レ遇二善友一、不レ得二聽一聞正法一、五所知障、謂、此人乃至遇二善知識一、得レ聞二正法一、然有二種種因緣一、兩不二和合一、妨修二般若波羅蜜一。

【五城】547(ゴジョウ) ㊀五つの城。〔戰國、趙策〕秦倦而歸、兵必罷、我以二五城一收二天下一、以攻二罷秦一。㊁神仙の居所。五城十二樓を見よ。㊂地名。安徽省休寧縣の西南界。〔太平寰宇記〕五城水旁有二五城村一、古之大鎭、有二五城斜隅相對一。〔休寧縣志〕元置二五城務一、明初廢。㊃郡名。㋑後魏、置く。又、伍城・仵城に作る。故城は山西省吉縣の北。㋺の㋺を見よ。㋩後魏、置く。今の山西省臨汾縣の地。㋥後魏、置く。今の河南省汲縣の治。㊄縣名。㋑三國蜀、置く。故城は四川省中江縣の東。㋺後魏、置く。隋に伍城、唐に仵城といふ。故城は山西省吉縣の北。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、吉州〕仵城廢縣、州北六十里、本北屈縣地、後魏置二五城縣一、兼置二五城郡一治焉、魏收志、五城縣、初曰二京軍一、太和二十一年、改二名五城一、隋初郡廢改レ縣曰二伍城一、屬二汾州一、唐武德二年、改二置仵城縣一、屬二昌州一。㊅清代に、北京城內を中城・東城・西城・南城・北城の五部に分つた名。〔清會典、都察院〕五城、中城巡城御史、一云云、東城巡城御史、一云云、南城巡城御史、一云云、西城巡城御史、一云云、北城巡城御史、一云云、掌下分二轄京師五城一、十坊之境一、而平二其獄訟一、詰二其姦慝一、弭中其盜竊上、月吉、各率二其卿約一、而宣二條教一、掌二凡振恤之政令一、凡五城街道溝渠柵坊房舍、則會二街道廳一、以稽察。㊆字號。㋑明、董傑(9－31433・60)の號。㋺志村賓因の號。志村五城(4－10331・134)を見よ。

【五城十坊】548(ゴジョウジュウボウ) 清代に、北京城內五城の區分を更に十の坊に區分していふ。五城は五城の㊅に同じ。十坊は中西坊・中東坊・朝陽坊・崇南坊・東南坊・正東坊・關外坊・宣南坊・靈中坊・日南坊。〔清會典、都察院〕掌下分二轄京師五城十坊之境一。〔注〕中城二坊、副指揮分管曰二中西坊一、吏目分管曰二中東坊一、東城二坊、副指揮分管曰二朝陽坊一、吏目分管曰二崇南坊一、南城二坊、副指揮分管曰二東南坊一、吏目分管曰二正東坊一、西城二坊、副指揮分管曰二關外坊一、吏目分管曰二宣南坊一、北城二坊、副指揮分管曰二靈中坊一、吏目分管曰二日南坊一。

【五城十二樓】549(ゴジョウジュウニロウ) 仙人の居所。崑崙山にあるといふ。〔抱朴子、祛惑〕見二崑崙山上一、有二五城十二樓一。〔史記、封禪書〕爲二五城十二樓一、以候二神人於執期一。〔注〕集解曰、應劭曰、崑崙縣圃五城十二樓、僊人之所二常居一也。〔李白、經二亂離一後天恩流二夜郎一憶二舊遊一書二憶贈一江夏韋太守良宰一詩〕天上白玉京、十二樓五城、仙人撫二我頂一、結髮受二長生一。

【五常】550(ゴジョウ) ㊀人の常に行ふべき五種の正しい行。五典(872)の㊀に同じ。五倫。㋑父は義・母は慈・兄は友・弟は恭・子は孝。〔書、泰誓下〕狎二侮五常一。〔疏〕五常、父義・母慈・兄友・弟恭・子孝。〔書、舜典、愼徽二五典一、傳〕五典、五常之教、父義・母慈・兄友・弟恭・子孝。㋺仁・義・禮・智・信。五行。〔漢書、董仲舒傳〕仁・誼・禮・智・信、五常之道、王者所レ當二修飭一也。〔白虎通、情性〕五常者何、謂二仁・義・禮・智・信一也。〔小學紺珠、性理類、五常〕仁・義・禮・智・信。㊁五行(78)の㊀に同じ。〔禮、樂記〕合二生氣之和一、道二五常之行一。〔注〕五常、五行也。〔疏〕合二生氣之和一、道二達人情一、以二五常之行一、謂レ依二金・木・火・水・土之性一也。㊂五人のすぐれた兄弟。蜀の馬良(字は季常)の兄弟五人は、皆才名があり、字に皆常の字を用ひたから、馬氏五常と稱せられた。〔蜀志、馬良傳〕馬良字季常、襄陽宜城人也、兄弟五人、並有二才名一、鄕里爲二之諺一曰、馬氏五常、白眉最良、良眉中有二白毛一、故以稱レ之。㊃府名。清、置く。滿洲吉林省榆樹縣の東。〔清史稿、地理志〕吉林、五常府。㊄縣名。遼の阿延女眞部の地。今の滿洲吉林省哈爾濱の南方。㊅〔佛〕五戒をいふ。不殺生・不偸盜・不邪淫・不飮酒・不妄語。〔天台仁王經疏、上〕不殺生、仁也、不偸盜、智也、不邪淫、義也、不飮酒、信也、不妄語、禮也。

【五常樂】551(ゴジョウガク) 雅樂の一種。後生樂ともいふ。宮・商・角・徵・羽の五音に仁・義・禮・智・信の五常を配して、唐の太宗が作つた樂といふ。〔吾妻鏡、三〕元曆元年四月二十日、和二橫笛一、先吹二五常樂一。〔古今著聞集、四〕急律、伊勢海、萬歲樂・五常樂、急。

【五常之道】552(ゴジョウノミチ) 仁・義・禮・智・信の五常の道。五常の㊀を見よ。〔漢書、藝文志〕六藝之文、樂以和レ神、仁之表也、詩以正レ言、義之用也、禮以明レ體、明者著見、故無二訓也一、書以廣レ聽、知之術也、春秋以斷レ事、信之符也、五者、蓋五常之道、相須而備、而易爲二之原一。

【五常之德】553(ゴジョウノトク) 仁・義・禮・智・信の德。〔宋書、謝靈運傳論〕民稟二天地之靈一、含二五常之德一。

【五情】554(ゴジョウ) ㊀五つの情。〔李白、古風詩〕仰望不レ可レ及、蒼然五情熱。㋑耳・目・鼻・口・肌の情。〔列子、黃帝〕養二正命一、娛二耳目一、供二鼻口一、焦二然肌色一、奸黠、昏然五情爽惑。㋺喜・怒・哀・樂・怨。〔曹植、上二責躬應レ詔詩一表〕五情愧赧。〔注〕良曰、五情、喜・怒・哀・樂・怨也。〔陶潛、影答レ形詩〕身滅名亦盡、念レ之五情熱。㊁左傳が春秋の義理を明かにする爲に發する五つの義例。五體(761)の㊁を見よ。㊂〔佛〕眼・耳・鼻・舌・身の五根の欲情をいふ。〔智度論、十七〕入道慚愧人、持レ鉢福二衆生一、云何縱二塵欲一、沈二沒於五情一。

【五淨】555 ゴジャウ 佛㊀色界第四禪の五淨居天をいふ。〔安樂集、上〕寄二華五淨一、風日不レ萎。〔江總、鐘銘〕長如二五淨一、永證二三空一。〔江總、遊二攝山棲霞寺一詩〕五淨自レ此涉、六塵庶無レ擾。㊁黃牛の尿・糞・乳・酪・酥。〔蘇悉地經儀軌、下〕牛五淨者、謂二黃牛尿及糞未レ墮レ地者・乳・酪・酥一。

【五淨食】556 ゴジャウジキ 佛五種の淸淨な食物。五種淨食(565)を見よ。

【五淨肉】557 ゴジャウニク 佛佛が比丘に食はせた五つのきよい肉。佛の神力が化生して成つたもので、生き物を殺して得た肉ではない。〔楞嚴經〕我令三比丘食二五淨肉一、此肉皆我神力化生、本無二命根一。

【五淨居天】558 ゴジャウゴテン 佛無煩天（一切煩雜のない處）・無熱天（一切熱惱のない處）・善現天（能く勝能の現はれる處）・善見天（善く勝法を見る處）・色究竟天（色天での最勝の處）。〔倶舍頌疏世品、一〕此五名二淨居天一、唯聖人居、無二異生雜一、故名二淨居一。

【五壤】559 ゴジャウ 地味によつて、上・中・下の三等に區別された上土の一。五位（8）の㊅を見よ。〔管子、地員〕蘟土之次曰二五壤一、五壤之狀、芬然若レ澤、若二屯土一。

【五讓】560 ゴジャウ 五たび讓ること。〔史記、楚世家〕昭王病甚、乃召二諸公子大夫一曰、孤不佞、再辱二楚國之師一、今乃得下以二天壽一終上、孤之幸也、讓二其弟公子申一爲レ王、不レ可、又讓二次弟公子結一、亦不レ可、乃又讓二次弟公子閭一、五讓、乃後許爲レ王。〔任昉、爲二蕭揚州一薦レ士表〕五讓高レ世。〔注〕善曰、漢書、爰盎謂二文帝一曰、陛下至二代邸一、西向讓二天子一者三、南向讓者再、夫許由一讓、而陛下五以二天下一讓、過二許由一者四矣。

【五爵】561 ゴシャク 五等の爵位。公・侯・伯・子・男。〔書、武成〕列爵惟五。〔傳〕爵五等、公・侯・伯・子・男。〔禮、王制〕王者之制二祿爵一、公・侯・伯・子・男、凡五等。〔史記、三王世家〕周爵五等、春秋三等。〔揚雄、劇秦美新〕若復二五爵一。

【五主】562 ゴシュ 脈の主の心臟・皮の主の肺臟・筋の主の肝臟・肉の主の脾臟・骨の主の腎臟の五をいふ。〔素問、宣明五氣篇〕心主レ脈、肺主レ皮、肝主レ筋、脾主レ肉、腎主レ骨、是謂二五主一。

【五種】563 ゴシュ ㊀五つの種類。〔周禮、春官、占人、凡卜簭、疏〕兆象也者、謂二金木水火土、五種之兆一。〔宋史、職官志三〕凡文武官、綾紙五種、分二十二等一。㊁五種類の穀物。五穀(368)を見よ。〔周禮、夏官、職方氏〕河南曰二豫州一云云、其穀宜二五種一。〔注〕五種、黍・稷・菽・麥・稻。〔周禮、夏官、職方氏〕正北曰二幷州一云云、其穀宜二五種一。〔注〕五種、黍・稷・菽・麥・麻。〔禮、月令〕令二告レ民出二五種一。〔疏〕大寒已過、暖氣方來、故令三此典農之官出二五種之物一以擬レ種レ之。〔荀子、儒效〕視二墝肥一、序二五種一。〔山海經、中山經〕糈用二五種之糈一。〔史記、五帝紀〕治二五氣一、藝二五種一。〔漢書、食貨志上〕種レ穀必雜二五種一、以備二災害一。〔注〕師古曰、五種、謂二黍・稷・麻・麥・豆一也。〔淮南子、時則訓〕令三民出二五種一。㊂人類の五種の膚色。黃・白・紅・黑・椶。

【五種競技】564 ゴシュキャウギ 混成競技の一。走幅跳・槍投・二百米競走・圓盤投・千五百米競走の五種目を一日間に競技する。

【五種淨食】565 ゴシュジャウジキ 佛比丘の食に適する五種の淸淨なもの。一、火淨（物を燒き、又煮て食ふ）・二、刀淨（刀で果物の皮核を去つて食ふ）・三、爪淨（爪で果物の皮殼を去つて食ふ）・四、蔫乾淨（果物を乾かして食ふ）・五、鳥啄淨（鳥の啄み殘したものをとつて食ふ）。五淨食。〔毘奈耶雜事、三十六〕一火淨、二刀淨、三瘡淨、四鳥啄破淨、五不中種淨。

【五種不退】566 ゴシュフタイ 佛淨土に生れれば、何時までも變らぬ五つの樂があること。大悲攝持不退・佛光照觸不退・常聞法音不退・善友同居不退・壽命無量不退の稱。〔淨土十疑論〕大悲攝持不退、佛光照觸不退、常聞法音不退、善友同居不退、壽命無量不退。

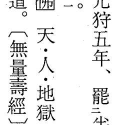
【五種不男】567 ゴシュフナン 佛完全に男の働きをせぬ五種の人。半擇迦とも、黃門ともいふ。新舊兩解がある。舊譯家の解は一、生不男（生來男根の發達しないもの）・二、犍不男（刀で男根を去つたもの）・三、妬不男（他人の淫事を見て淫心を起すもの）・四、變不男（根よく變現し、男に遇へば女根起り、女に遇へば男根起るもの）・五、半不男（半月男根の用をなし、半月なさざるもの）。新譯家の解に二あり。其の一は無根を扇搋とし、有根にして不具なるを半擇迦とし、更に扇搋を本性・損壞の二に分ち、半擇迦を嫉妬・半月・灌灑（澡浴などの時に男勢の起るをいふ）の三に分ち、合せて五種とす。其の二は生便半擇迦（生れながらにして便ち根なきもの）・嫉妬半擇迦・半月半擇迦・灌灑半擇迦・除去半擇迦の五種とす。〔法華玄贊、九〕五種不男者、謂二生便・除去・嫉妬・半月・灌灑一。〔四分律、三十五〕。

【五種不女】568 ゴシュフニョ 佛螺・筋・鼓・角・脈の五種。完全に女性の働を成さざるもの。五種不男の對。五不女。〔大藏法數、三十二〕。

【五銖】569 ゴシュ 五銖錢の略。〔後漢書、公孫述傳〕童謠言曰、黃牛白腹、五銖當レ復。〔南史、顏竣傳〕元嘉中、鑄二四銖錢一、輪郭形制、與二五銖一同。〔宋史、律歷志四〕孝武之世、始行二五銖一。

【五銖衣】570 ゴシュイ 仙人の衣。〔博異志〕貞觀中、岑文本于二山頂一避レ暑、有レ叩レ門云、上淸童子、岑問曰、衣服皆輕細、何土所レ出、答云、此上淸五銖服、又問曰、比聞、六銖者天人衣、何五銖之異、答云、尤細者五銖也、出レ門忽不レ見、惟見二古錢一枚一。

【五銖錢】571 ゴシュセン 漢の武帝の鑄造した重さ五銖の銅錢。其の後、王莽の時一時廢止されたが、後漢に復活し、三國以後唐まで斷續した。故に武帝以後唐までを一に五銖錢時代ともいふ。即ち武帝・宣帝・公孫述・靈帝の各五銖、蜀漢の直百五銖、晉の小五銖、宋の文帝の兩當五銖、梁の武帝・敬帝の五銖、後魏の孝文帝の大和五銖、北齊の文宣帝の常平五銖、隋の文帝の五銖等がこれである。唐の高祖の時廢して、開通元寶錢を鑄た。日知錄、卷十一に見ゆ。〔史記、平準書〕乃更請二諸郡國一、鑄二五銖錢一。〔漢書、武帝紀〕元狩五年、罷二半兩錢一、行二五銖錢一。



東漢五銖錢（金石索）

【五趣】572 ゴシュ 佛天・人・地獄・畜生・餓鬼の五道。〔無量壽經〕開二示五趣一、度二未度者一。

【五衆】573 ゴシュウ ㊀司徒・司馬・司空・司士・司寇の五官に屬する群吏。衆は群臣。〔禮、曲禮下〕典二司五衆一。〔注〕衆、謂二羣臣一也。〔疏〕天尊、故沒二其數一、地卑、故明二言其五一也、司徒一、司馬二、司空三、司士四、司寇五、云云、言、用二此上五官一、使三各守二其所一、掌上之羣衆一也。〔梁武帝、十喩、夢詩〕甘寢隨二四坐一、蓋睡依二五衆一。㊁佛ゴシュ ㋑五蘊(42)の㊁の舊譯。〔法華經、譬喩品〕分別說二諸法生滅之五衆一。㋺出家の五衆、比丘・比丘尼・學法女・沙彌・沙彌尼。〔三藏法數、二十二〕。

【五衆魔】574 ゴシュマ 佛四魔の一。五蘊の和合によつて成る肉體。肉體は心の平和を擾すから魔といふ。五蘊魔。〔智度論、五〕。

【五戎】575 ゴジュウ ㊀五種の武器。弓矢・殳・矛・戈・戟。五兵。〔禮、月令〕教二於田獵一、以習二五戎一。〔注〕五戎、謂二五兵一、弓矢・殳・矛・戈・戟也。㊁五種の兵車。戎路・廣車・闕車・苹車・輕車。〔周禮、春官、車僕〕掌二戎路之萃・廣車之萃・闕車之萃・苹車之萃・輕車之萃一。〔小學紺珠、制度類、五戎〕戎路・廣車・闕車・苹車・輕車。㊂戎を招く五つの道。〔逸周書、柔武解〕維周禁二五戎一、五戎不レ禁、厥民乃淫、一曰、王觀幸レ時、政匱不レ疑、二曰、獄讐刑蔽、姦吏濟レ貸、三曰、聲樂□□飾女滅レ德、四曰、維勢是輔、維禱是怙、五曰、盤游安居、枝葉維落、五者不レ距、自生二戎旅一。〔集訓校釋〕五戎、五者致レ戎之道。㊃五種のえびす。五狄。〔周禮、夏官、職方氏〕辨二四夷・八蠻・七閩・九貉・五戎・六狄之人民一。〔注〕鄭司農云、西方曰レ戎、玄謂、周之所レ服國數也。〔王融、三月三日曲水詩序〕四方無レ拂、五戎不レ距。〔注〕濟曰、四方之戎有二五種一。

【五叔】576 ゴシュク 周公の五人の兄弟。管叔・蔡叔・成叔・霍叔・毛叔。或は管叔・蔡叔・成叔・曹叔・霍叔。〔左氏、定、四〕武王之母弟八人、周公爲二大宰一、康叔爲二司寇一、聃季爲二司空一、五叔無レ官。〔注〕五叔、管叔鮮・蔡叔度・成叔武・霍叔處・毛叔聃也。〔史記、管蔡世家〕於レ是周公言二於成王一、復封二胡於蔡一、以奉二蔡叔之祀一、是爲二蔡仲一、餘五叔皆就レ國、無下爲二天子吏一者上。〔注〕索隱曰、五叔、管叔・蔡叔・成叔・曹叔・霍叔。

【五宿】577 ゴシュク ㊀五つの星座。〔白居易、泛二太湖一書レ事寄二微之一詩〕報レ君一事君應レ羨、五宿澄波

皓月中。㊁五晚とまる。〔雲笈七籤〕行二上清之道一、出則五宿、侍衞給二玉童玉女各一千五百人一。

【五熟】578 ゴジュク ㊀鹹・苦・酸・辛・甘。五味（1033）に同じ。〔孔叢子、陳士義〕衣服之物、則有二珠玉五采一、飲食之物、則有二酒醪五熟一。〔宋書、百官志上〕尙書郎入直、大官供二食物一、湯官供二餠餌及五熟果實之屬一。㊁橋の名。江蘇省武進縣の東、邦溝の北派に架す。〔明一統志〕五熟橋、在二常州府武進縣東一、跨二邦溝北派一、晉永和中建。

【五熟釜】579 ゴジュクフ 魏の文帝の鑄た釜。神仙鑪の如きもの。釜の內部を分けて、同時に五種のものを煮ることが出來る。〔魏志、鍾繇傳〕文帝在二東宮一、賜二繇五熟釜一、爲二之銘一。〔注〕魏略曰、繇爲二相國一、範以二五熟釜鼎一、因二太子一鑄レ之、釜成、太子與二繇書一曰、昔有二黃三鼎一、周之九寶一、咸以二一體一使レ調二一味一、豈若二斯釜五味時芳一。

【五出】580 ゴシュツ 花瓣が五枚あること。〔宋書、符瑞志〕草木花多五出、花雪獨六出。〔歲華紀麗〕柳三眠而盤レ地、花五出以照レ人。〔注〕韓詩外傳云、草木之花、五出也。〔楊炯、梅花落詩〕窗外一株梅、寒花五出開。

【五旬】581 ゴジュン 佛 五神通をいふ。旬は神通。五通（843）の㊁を見よ。〔玄應音義、三〕五旬、或言二般遮旬一、卽五神通也。

【五盾】582 ゴジュン 五種のたて。〔周禮、夏官、司兵〕掌二五兵五盾一。〔注〕五盾、干櫓之屬、其名未二盡聞一也。〔元史、輿服志二〕前井宿旗左、參宿旗右、各五盾從。

【五處】583 ゴショ 五箇處。又、各處。〔白居易、自二河南經レ亂關內阻レ飢兄弟離散各在二一處一因望レ月有レ感聊書二所懷一詩〕共看二明月一應レ垂レ淚、一夜鄕心五處同。

【五升】584 ゴショウ 一升の五倍。いつます。〔詩、周南、卷耳、我姑酌二彼兕觥一、疏〕韓詩說、五升曰レ散、散、訕也。〔周禮、春官、典瑞、祼圭有レ瓚、注〕漢禮、瓚槃大五升、口徑八寸、下有レ槃、口徑一尺。〔左氏、昭、三、豆區釜鍾、注〕五升爲レ豆、五豆爲レ區、五區爲レ釜。

【五升瓶】585 ゴショウヘイ 五升入りの瓶。五升びん。〔辛氏三秦記〕漢武帝園、一名樊川、一名御宿、有二大梨一、如二五升瓶一。

【五升之飯】586 ゴショウノハン 一日の食糧。〔莊子、天下〕請欲下固置二五升之飯一足上矣。〔疏〕置二五升之飯一、爲二一日之食一。

【五松】587 ゴショウ ㊀五本の松。五本松。〔宋史、五行志三〕雍熙四年十二月、甘露降二興化軍羅漢峯前五松一。㊁秦の始皇帝が泰山に登り、封じて五大夫とした五本の松。五大夫（772）の㊂を見よ。又、驛名。〔泰山記〕秦始皇上二泰山一、風雨暴至、休二於樹下一、因封二其樹一、應劭曰、得二五松一、封爲二五大夫一。〔李商隱、五松驛詩〕獨下二長亭一念二過秦一、五松不レ見見二輿薪一。〔元好問、送二仲梁出レ山詩〕五松平頭白日靜、千山萬山如二亂雲一。㊂山名。安徽省銅陵縣の南。今、銅陵を五松といふ。〔李白、與二南陵常贊府一遊二五松山一詩〕我來五松下、置酒窮二躋攀一。〔輿地紀勝〕山在二銅官西南一、有レ松一本五支、黛色參レ天。㊃亭の名。河南省林縣治の西南。〔明一統志〕五松亭、在二彰德府林縣治西南一、五松並生、挺然可レ愛、元縣丞李弼建。㊄橋の名。〔太平寰宇記〕潯陽縣落星山澗、有二五松橋一、昔惠遠法師、與二殷仲堪一席レ澗、談二易於此一、而樹下泉湧、號二聰明泉一。

【五松園】588 ゴショウエン 淸、孫星衍（3―6987‥459）の室名。

【五勝】589 ゴショウ ㊀五行の相勝をいふ。水が火に勝ち、火が金に勝ち、金が木に勝ち、木が土に勝ち、土が水に勝つをいふ。五行相剋（87）に同じ。〔史記、歷書〕亦頗推二五勝一、而自以爲レ獲二水德之瑞一。〔漢書、律歷志上〕頗推二五勝一。〔注〕孟康曰、五行相勝、秦以レ周爲レ火、用レ水勝レ之。〔吳越春秋、句踐歸國外傳〕大夫句如曰、天有二四時一、人有二五勝一。〔注〕五德、迭相勝也。㊁五度戰に勝つこと。〔吳子、圖國〕天下戰國、五勝者禍、四勝者弊、三勝者霸、二勝者王、一勝者帝、是以數勝得二天下一者稀、以亡者衆。㊂人に勝つ五つの條件。近愛信を以て疏遠と爭ふ、習故を以て新旅と爭ふ、貴重を以て輕賤と爭ふ、一國を以て一口と爭ふ。〔韓非子、孤憤〕夫以二疏遠一與二近愛信一爭、其數不レ勝也、以二新旅一與二習故一爭、其數不レ勝也、以レ反二主意一與二同好一爭、其數不レ勝也、以二輕賤一與二貴重一爭、其數不レ勝也、以二一口一與二一國一爭、其數不レ勝也、云云、當塗之人、乘二五勝之資一、而旦暮獨說二於前一。

【五鐘】590 ゴショウ 五種のかね。一に五鍾に作る。青鐘・赤鐘・黃鐘・景鐘・黑鐘の稱。〔管子、五行〕以二其緩急一作二五聲一、以政二五鐘一。〔注〕青鐘・赤鐘・黃鐘・景鐘・黑鐘。〔漢書、揚雄傳上、鳴二洪鍾一、注〕師古曰、尙書大傳云、天子左右五鍾、天子將レ出、則撞二黃鍾之鍾一、右五鍾皆應、入則撞二蕤賓之鍾一、左五鍾皆應。

【五乘】591 ゴジョウ ㊀王の五種の喪車。木車（漆せぬもの、始めて喪に遭つた時乘る）・素車（白土を以て堊し、卒哭して之に乘る）・藻車（蒼土を以て堊し、既に練して之に乘る）・駹車（邊側に漆を塗る、大祥して之に乘る）・漆車（黑漆の車、既に禫して之に乘る）。〔周禮、春官、巾車〕王之喪車五乘、木車、蒲蔽、犬䙪、尾櫜、疏飾、小服皆疏、素車、棼蔽、犬䙪、素飾、小服皆素、藻車、藻蔽、鹿淺䙪、革飾、駹車、萑蔽、然䙪、髤飾、漆車、藩蔽、豻䙪、雀飾。〔注〕木車不レ漆者、云云、素車、以二白土一堊レ車也、云云、藻車、以二蒼土一堊レ車、云云、駹車、邊側有二漆飾一也、云云、漆車、黑車也。㊁五臺の馬車。〔左氏、昭、元〕五乘爲二三伍一。〔史記、魯周公世家〕請下以二五乘一亡上。㊂佛 人乘・天乘・聲聞乘・緣覺乘・菩薩乘。五衍。〔行事鈔資持記上、一之一〕五乘者、人・天・聲聞・辟支、及佛、能乘レ人也。

【五茸】592 ゴジョウ 城の名。江蘇省松江縣の西。吳王の獵場。〔陸龜蒙、和二吳中書事一詩〕五茸春草雉媒嬌。〔注〕五茸者、吳王獵所、茸各有レ名。〔方輿勝覽〕陸遜子孫游二獵於此一、又名二陸機茸一。

【五色】593 ゴシヨク ゴシキ ㊀五種の色。いついろ。五采。㋑青・黃・赤・白・黑の五種の正しい色。〔書、禹貢〕徐州、厥貢惟土、五色。〔注〕王者封二五色土一爲レ社、建二諸侯一、各割二其方色土一與レ之、使レ立レ社。〔疏〕韓詩外傳云、天子社廣五丈、東方青、南方赤、西方白、北方黑、上冒以二黃土一。〔周禮、天官、疾醫〕五氣・五聲・五色。〔禮、禮運〕五色・六章・十二衣。〔疏〕五色、謂二青・赤・黃・白・黑一、據二五方一也。〔左氏、桓、二〕五色比象、昭二其物一也。〔注〕車服器械之有二五色一、皆以比二象天地四方一、以示二器物不一レ虛設一。〔疏〕正義曰、考工記云、畫繪之事、雜二五色一、東青、南赤、西白、北黑、天玄、地黃、是比二象天地四方一也、比象有レ六、而言レ五者、玄在二赤黑之閒一、非二別色一也。〔老子、十二〕五色令二人目盲一。〔荀子、勸學〕目好二之五色一。㋺綠・碧・紅・紫・騂。〔小學紺珠、律歷類、五色〕。㋩紺・紅・縹・紫・流黃。〔小學紺珠、律歷類、五色〕。㊁金屬の五色。黃金・白銀・赤銅・青鉛・黑鐵。〔小學紺珠、律歷類、五色〕黃曰レ金、白曰レ銀、赤曰レ銅、青曰レ鉛、黑曰レ鐵。

【五色飲】594 ゴシヨクイン 五色にかたどつた飲料。青飲・赤飲・白飲・玄飲・黃飲。〔大業雜記〕先有二籌禪師一、仁壽閒、常在二內供養一、造二五色飲一、以二扶芳葉一爲二青飲一、拔楔根爲二酪赤飲一、漿爲二白飲一、烏梅漿爲二玄飲一、江桂爲二黃飲一。

【五色羽】595 ゴシヨクウ 五色の羽。〔蘇軾、次二韻正輔同游二白水山一詩〕仙山一見二五色羽一、雪樹兩摘二南枝花一。〔蘇軾、五色雀詩〕粲粲五色羽。

【五色雲】596 ゴシヨクウン 五色の雲。祥瑞と爲す。〔陳書、徐陵傳〕五色雲化而爲レ鳳。〔唐書、鄭仁表傳〕嘗以二門閥文章一自高曰、天瑞有二五色雲一、人瑞有二鄭仁表一。〔宋史、韓琦傳〕弱冠擧二進士一、名在二第二一、方唱レ名、太史奏曰、下二五色雲一。

【五色葉】597 ゴシヨクノハ 五色の葉。〔述異記〕辰州嵩溪有二丹青樹一、上有二五色葉一。

【五色霞】598 ゴシヨクノカスミ 五色のかすみ。〔薩都剌、遊二梅仙山一和二唐人韻一詩〕夜臥二千峯月一、朝餐二五色霞一。

【五色蛾】599 ゴシヨクノガ 五色の蛾。五色香草（633）を見よ。

【五色毫】600 ゴシヨクガウ 五色の毛の筆。〔方干、再題二路支使南亭一詩〕睡時分得江淹夢、五色毫端弄二逸才一。

【五色氣】601 ゴシヨクノキ 五色の雲氣。〔吳志、孫堅傳、注〕甄官井上、旦有二五色氣一。〔晉書、武帝紀〕太康元年春正月己丑朔、五色氣冠レ日。〔宋史、神宗紀一〕吐二五色氣一成レ雲。

【五色旗】602 ゴシヨクキ ㊀五色の旗。〔兵略紀聞〕都督石邦憲討二湖廣漵浦縣猺賊一、令レ製二五色旗一。

❷滿洲國の國旗。紅・黄・藍・白・黑の五色に分ち、五族平等の義を寓した。又、民國の舊國旗。

【五色龜】603 ゴシヨクキ 五色のかめ。〔酉陽雜俎、諾皐記下〕史論作二將軍一時、忽覺二妻所レ居房中有一レ光、異レ之、因與レ妻遍索二房中一、且無レ所レ見、一日妻早粧開レ奩、奩中忽有二五色龜一、大如レ錢、吐二五色氣一、彌二滿一室一、後常養レ之。

【五色魚】604 ゴシヨクギヨ 五色のうを。〔李白、秋浦寄レ內詩〕有レ客自二梁苑一、手攜二五色魚一。

【五色巾】605 ゴシヨクキン 五色のぬの。〔明一統志〕西洋古里國土、產二五色巾一。

【五色瓜】606 ゴシヨクノウリ 種々の美しい瓜。〔王縉、送二孫秀才一詩〕玉枕雙紋簟、金盤五色瓜。〔孟浩然、南山下與二老圃期一種レ瓜詩〕不レ種千株橘、惟資五色瓜。

【五色花】607 ゴシヨクノハナ 五色のはな。〔章碣、寄二友人一詩〕登樓夜坐三層月、接果春看五色花。

【五色鱠】608 ゴシキナマス 大根・人參などを取りまぜて色美しく拵へたなます。〔風呂記〕鱸の五色なますとは、榎の木の葉をかい敷にして可レ認。

【五色光】609 ゴシヨクノヒカリ ゴシキノヒカリ 五色のひかり。〔守護國界主陀羅尼經〕卽從二頂上一放二五色光一、亦以二無數百千億光一而爲二眷屬一。〔觀佛三昧海經〕爾時世尊、云云、法有二五色光一、時五色光化二五百光一。

【五色紙】610 ゴシヨクシ 黄・赤・白・黑・青の五色の色紙。〔鄴中記〕石虎詔書以二五色紙一、著二鳳雛口中一。

【五色絲】611 ゴシヨクノイト 五色の絲。〔神仙傳〕園客養レ蠶成二五色、獨繭繅レ之、經レ月不レ絕。〔徐凝、貝嶠先生詩〕逢レ人借問陶唐主、欲レ進冰蠶五色絲。

【五色雀】612 ゴシヨクノスズメ 五色の雀。〔番遇雜篇〕五色雀、一名音聲鳥、每二樂作一、有三聲如二鼓者・塤者・笛者・版者一、滿山嘈囋、久而自罷。

【五色綬】613 ゴシヨクノジユ 印などの五色のひも。〔韋渠牟、步虛詞〕何妨五色綬、次第給二仙官一。

【五色水】614 ゴシヨクノミヅ 五色のみづ。〔齊已、祈二眞壇一詩〕崑崙縱廣一萬二千里、中有二五色雲霞五色水一。〔宋无、海上自二之罘一至二成山一覽二秦皇漢武遺蹟一詩〕雲霞五色水、丹碧萬重屛。

【五色詔】615 ゴシヨクノセウ 五色の紙に書いたみことのり。唐の元和以後、吐蕃などに下す詔に用ひた。〔王維、和下賈舍人早朝二大明宮一之作上詩〕朝罷須レ裁二五色詔一、珮聲歸向鳳池頭。〔竇常、賀二太保岐公承レ恩致レ政詩〕五色詔中宣二九德一、百寮班外置二三師一。〔翰林志、白麻官告〕元和八年八月壬寅、吏部定二官告紙軸之色物一、云云、吐蕃及贊普書別錄、用二黄花五色綾紙一。

【五色石】616 ゴシヨクセキ ❶五色の石。五石。〔史記、三皇紀〕女媧乃鍊二五色石一以補レ天、斷二鼇足一以立二四極一。〔盧仝、與二馬異一結レ交詩〕女媧本是伏羲婦、恐二天怒一擣二練五色石一。❷美しい石。〔吳錄〕端溪有二端山一、山有二五色石一、石上多二香水一。

【五色泉】617 ゴシヨクセン 泉の名。❶河南省濟源縣に在る。〔明一統志〕五色泉、在二懷慶府濟源縣北、唐溫造別墅橋東、竇家莊之南一、泉下有二五色沙石一。❷江蘇省松江縣。葛元が此處に丹を煉り、丹が出來上つて水中に投じたので、今に至るまで五色の泉が湧くといふ。〔明一統志〕五色泉、在二松戶府城內西南一、相傳、葛元煉二丹於此一、丹成投二水中一、至レ今常湧泉成二五色一、郡人見者、必擢二高第一。

【五色牋】618 ゴシヨクセン 書翰用紙。五色の花文がある。〔楊炯、和二鄭校讐一詩〕遊霧千金子、飛雲五色牋。

【五色線】619 ゴシヨクセン ❶五色の絲。文章の喩。〔杜牧、郡齋獨酌詩〕平生五色線、願補二舜衣裳一。〔書言故事、文章類〕譬二喩文章一、似二五色線一。❷宋代の類書。撰者未詳。〔津逮祕書〕・〔續百川學海〕。❸佛婆羅門の臂にかけるもの。〔毘奈耶雜事、一〕六衆乞食、見下諸婆羅門以二妙香華一莊二嚴形體一、將二五色線一繫中之於臂上。

【五色蛇】620 ゴシヨクノヘビ 五色の蛇。〔水經、漾水注〕左右山溪、多二五色蛇一。〔南齊書、紀僧眞傳〕開レ冢得二五色兩頭蛇一。

【五色桃】621 ゴシヨクノモモ 美しい桃。〔殷堯藩、帝京詩〕迎春別賜瑤池宴、捧進金盤五色桃。〔虞集、王母圖詩〕茂陵多欲非二仙器一、枉賜金盤五色桃。

【五色絛】622 ゴシヨクノタウ 五色のくみいと。〔揭章斯、畫レ鷹詩〕文梁五色絛、秋高意氣豪。

【五色鳥】623 ゴシヨクノトリ 五色の鳥。晉の羅含は夢で此の鳥を呑んで、後、文章に巧になつたといふ。〔漢書、宣帝紀〕元康三年夏六月、詔曰、今春五色鳥以レ萬數、飛二過屬縣一、翺翔而舞、欲レ集未レ下、其令二三輔毋レ得下以二春夏一擿レ巢探レ卵、彈中射飛鳥上、具爲レ令。〔白孔六帖〕羅含夢呑二五色鳥一、自後、頓有二文章一。

【五色幡】624 ゴシヨクハン 五色のはた。〔王建、宮詞〕未明開著九重關、金畫黃龍五色幡。

【五色筆】625 ゴシヨクヒツ 五彩を施した美しい筆。文才ある者の喩。梁の江淹、宋の范質の故事。〔南史、江淹傳〕淹嘗宿二於冶亭一、夢二一丈夫自稱二郭璞一、謂レ淹曰、吾有レ筆、在二卿處一多年、可二以見一レ還、淹乃探二懷中一、得二五色筆一一、以授レ之、爾後爲レ詩、絕無二美句一、時人謂二之才盡一。〔杜甫、寄二劉峽州伯華使君一詩〕彫章五色筆、紫殿九華燈。〔宋史、范質傳〕質生之夕、母夢三神人授以二五色筆一、九歲能屬レ文。

【五色符】626 ゴシキフ 草の名。赤白青黑黃の五色あり、五臟の邪氣を拂ふといふ。〔本草、五色符〕別錄曰、味苦微溫、主二欬逆五臟邪氣一、調レ中益レ氣、明レ目殺レ蟲、青符・白符・赤符・黑符・黃符、各隨レ色、補二其臟一、白符、一名女木、生二巴山谷一。

【五色棒】627 ゴシヨクボウ 五種の色をつけた棒。〔魏志、武帝紀、注〕太祖初入二尉廨一、繕二治四門一、造二五色棒一、縣二門左右一各十餘枚、有二犯レ禁者一、不レ避二豪彊一、皆棒殺レ之。〔李商隱、有レ感詩〕蒼黃五色棒、掩遏一陽生。

【五色揚】628 ゴシキアゲ 種々な野菜の揚げもの。

【五色麟】629 ゴシヨクノリン 五色の麒麟。〔貫休、古意〕紫皇殿前五色麟、忽然掣斷黃金鎖。

【五色露】630 ゴシヨクロ 五色の露。唐の賈餗の作に五色露賦がある。〔洞冥記、二〕帝曰、何謂二吉雲一、朔曰、其國俗以二雲氣一占二吉凶一、若樂事、則滿室雲起、五色照レ人、著二於草樹一、皆成二五色露珠一、甚甘、帝曰、吉雲露可レ得乎、朔方東走、至レ夕而返、得二玄露青露一、盛二青琉璃一、各受二五合一、跪以獻レ帝。

【五色鸚鵡】631 ゴシヨクノアウム 美しい鸚鵡。〔酉陽雜俎、廣動植、羽篇〕玄宗時、有二五色鸚鵡一、能言。〔元史、世祖紀十三〕丹頂鶴、五色鸚鵡。

【五色香煙】632 ゴシヨクノカウエン 香の五色のけむり。〔皮日休、江南道中懷二茅山廣文南陽博士一詩〕五色香煙惹內文、石飴初熟酒初醺。

【五色香草】633 ゴシヨクノカウサウ 五色のにほひぐさ。〔太平廣記〕有レ園、客植二五色香草一、有二五色蛾一、止二其傍一、收二畜之一、至二蠶時一、有レ女夜半至、自稱二客妻一、道二蠶之狀一、與レ客俱養レ蠶、得二一百二十頭一、繭皆如レ甕。

【五色香幢】634 ゴシヨクノカウダウ 五色のかぐはしい旗。〔盧綸、送二靜居法師一詩〕五色香幢重復重、寶輿升レ座發二神鐘一。

【五色香茆】635 ゴシヨクノカウバウ 五色のにほひあさざ。〔貫休、寄二鄭道士一詩〕舊山大有二閑田地一、五色香茆有レ子無。

【五色宮袍】636 ゴシヨクノキユウハウ 宮中で着る五色の上ぎぬ。〔殷堯藩、登二鳳凰臺一詩〕鳳凰臺上望二長安一、五色宮袍照レ水寒。

【五色玉帶】637 ゴシヨクノギヨクタイ 五色の玉で飾つたおび。〔酉陽雜俎、諾皐記上〕天寶初、安思順進二五色玉帶一、又於二左藏庫中一、得二五色玉杯一。

【五色玉杯】638 ゴシヨクノギヨクハイ 五色のたまのさかづき。五色玉帶を見よ。

【五色霜林】639 ゴシヨクノサウリン 紅葉したうつくしいはやし。〔錢惟善、南江夕照詩〕千重雲岫連二平遠一、五色霜林映二渺茫一。

【五色師子】640 ゴシヨクノシシ 五色の獅子。〔南史、王敬則傳〕年長、而兩腋下生レ乳、各長數寸、夢騎二五色師子一。

【五色沙石】641 ゴシヨクノシヤセキ 五色の砂石。五色泉(618)の❶を見よ。

【五色珠簾】642 ゴシヨクノシユレン 五色のたまのすだれ。〔宋拾遺錄〕戴明寶、歷朝寵倖、家累二千金一、大兒嬌淫、爲二五色珠簾一、明寶不レ能レ禁。

【五色成文】643 ゴシヨクブンヲナス 五色のあやで模樣を作り出すこと。〔禮、樂記〕五色成レ文而不レ亂。〔楊炯、盂蘭盆賦〕五色成レ文若二榮光一。

【五色石脂】644 ゴシキセキシ 石の一種。石脂(**8－24024**··359)を見よ。

【五色泥香】645 ゴシヨクノデイカウ 香ある五色のどろ。〔李中、燕詩〕豪家五色泥香、銜得營レ巢太忙。

【五色文魚】646 ゴシキブンギヨ 金魚をいふ。〔養魚經〕五

色文魚、其色相本異、而金魚特總名也。

【五色無ㇾ主】647 ゴシヨクシユナシ　恐懼して顏色が定まらぬこと。〔淮南子、精神訓〕禹南省ㇾ方、濟二于江一、黃龍負ㇾ舟、舟中之人、五色無ㇾ主、禹乃熙笑而稱曰、我受二命於天一、竭ㇾ力而勞二萬民一、生寄也、死歸也、何足二以滑一ㇾ和、視二龍猶二蝘蜓一、顏色不ㇾ變。

【五色亂ㇾ目】648 ゴシヨクメヲミダル　色彩に眩惑されて、却つて正しい色覺を失ふこと。五色令二人目盲一。〔莊子、天地〕五色亂ㇾ目、使二目不一ㇾ明。〔淮南子、精神訓〕五色亂ㇾ目、使二目不一ㇾ明。

【五色林檎】649 ゴシヨクノリンゴ　五色のりんご。〔洽聞記〕永徽中、魏郡人王方言、以ㇾ果獻二刺史紀王愼王一、貢二於高宗一、以爲二朱柰一、又名二五色林檎一、或謂二之聯珠果一、上重賜二王方言文林郞一、亦號二此果一爲二文林果一、俗云二蘋婆果一。

【五色玉香囊】650 ゴシヨクギヨクカウナウ　五色の玉で飾つたにほひぶくろ。〔杜陽雜組〕自ㇾ漢至ㇾ唐、公主下降、乘二七寶步輦一、四面綴二五色玉香囊一、囊中貯二辟邪瑞麟香一、皆異國所ㇾ獻也。

【五色令二人目盲一】651 ゴシヨクヒトノメヲシテマウセシム　五色亂ㇾ目に同じ。〔老子、十二〕五色令二人目盲一、五音令二人耳聾一。

【五色爲ㇾ慶三色成ㇾ矞】652 ゴシヨクケイヲナシサンシヨクイツヲナス　太平の世には、雲が五色や三色になり、めでたい瑞兆を示すこと。矞は瑞雲。〔西京雜記、五〕太平之世、云云、雲則五色而爲ㇾ慶、三色而成ㇾ矞。

【五殖】653 ゴシヨク　五種の、黃色で細密な土質。〔管子、地員〕弘土之次、曰二五殖一、五殖之狀、甚澤以疏、離坼以臞脪。

【五申】654 ゴシン　丁寧に五度も重ねのべる。三令五申(1－12‥1782)を見よ。〔史記、孫子傳〕約束既布、乃設二鈇鉞一、卽三二令五二申之一、於ㇾ是鼓二之右一、婦人大笑、孫子曰、約束不ㇾ明、申令不ㇾ熟、將之罪也、復三二令五申而鼓二之左一。〔張衡、東京賦〕三令五申、示ㇾ戮斬ㇾ牲。〔注〕善曰、尹文子曰、將ㇾ戰、有司讀二誥誓一、三二令五三申之一、既畢。

【五臣】655 ゴシン　五人のけらい。❶舜の五臣。禹・稷・契・皐陶・伯益。〔論語、泰伯〕舜有二臣五人一、而天下治。〔集解〕孔曰、禹・稷・契・皐陶・伯益。〔小學紺珠、名臣類上、五臣〕禹・稷・契・皐陶・伯益。❷周の文王の五臣。虢叔・閎夭・散宜生・泰顚・南宮括。〔書、君奭〕惟文王、尚克修二和我有夏一、亦惟有二若虢叔一、有二若閎夭一、有二若散宜生一、有二若泰顚一、有二若南宮括一。〔傳〕散・泰・南宮、皆氏、宜生・顚・括、皆名、凡五臣、佐二文王一爲二胥附奔走、先後禦侮之任一。〔小學紺珠、名臣類上、五臣〕虢叔・閎夭・泰顚・散宜生・南宮适。❸晉の文公の五臣。狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子。又、趙衰・先軫・魏武子・賈佗・狐偃。〔袁宏、三國名臣序贊〕五臣顯而重耳霸。〔注〕善曰、五臣、狐偃・趙衰・顚頡・魏武子・司空季子、良曰、五臣、謂二趙衰・先軫・魏武子・賈佗・狐偃一也。❹楚の威王の五臣。令尹子文・葉公子高・莫敖大心・棼冒勃蘇・蒙穀。〔戰國、楚策〕威王問二於莫敖子華一曰、云云、莫敖子華對曰、云云、以憂二社稷一者、令尹子文是也、云云、以憂二社稷一者、葉公子高是也、云云、以憂二社稷一者、莫敖大心是也、云云、以憂二社稷一者、棼冒勃蘇是也、云云、以憂二社稷一者、蒙穀是也、云云、若君王誠好ㇾ賢、此五臣者、皆可二得而致一ㇾ之。〔小學紺珠、名臣類、楚五臣〕令尹子文・葉公子高・莫敖大心・棼冒勃蘇・蒙穀。❺南朝宋の文帝の五臣。謝弘微・王華・王曇首・殷景仁・劉湛。〔南史、謝弘微傳〕文帝卽位、爲二黃門侍郞一、與二王華・王曇首・殷景仁・劉湛等一、號曰二五臣一。❻文選に注をした唐の五臣。呂向・呂延濟・劉良・張銑・李周翰。〔唐書、呂向傳〕嘗以下李善釋二文選一爲中繁釀上、與二呂延濟・劉良・張銑・李周翰等一、更爲二詁解一、時號二五臣注一。

【五臣注文選】656 ゴシンチユウモンゼン　書名。五臣の❻及び文選(5－13450‥618)を見よ。

【五辛】657 ゴシン　五つの辛味のある蔬菜。❶韮(ニラ)・薤(ラツキヨウ)・葱(ネギ)・蒜(ニンニク)・薑(ハジカミ)。五薰。〔薛能、除夜作詩〕茜旆猶二雙節一、雕盤又五辛。〔和漢三才圖會、葷草類、五葷〕俗云二五辛一、練形家、小蒜・大蒜・韭・芸薹・胡荽、道家、韭・薤・蒜・芸薹・胡荽、佛家、大蒜・小蒜・興渠・慈葱・茖葱。❷佛㋑大蒜(オホニンニク)・茖葱(オホニラ)・慈葱(ヒトモジ)・蘭葱(ニンニク)・興渠(コウクン)。〔梵網經、下〕若佛子不ㇾ得ㇾ食二五辛一、大蒜・茖葱・慈葱・蘭葱・興渠、是五種、一切食中不ㇾ得ㇾ食、若故食、犯二輕垢罪一。㋺蒜(ニンニク)・慈葱(ヒトモジ)・興渠(コウク)・韮(ニラ)・薤(オホニラ)。〔天台戒疏、下〕舊云、五辛、謂二蒜・慈葱・興渠・韮・薤一。

【五辛菜】658 ゴシンサイ　五種の辛味のある蔬菜。元旦に食す。〔本草、五辛菜〕集解、時珍曰、五辛菜、乃元旦立春、以二葱・蒜・韭・蓼蒿・芥辛嫩之菜一、雜和食ㇾ之、取二迎ㇾ新之義一、謂二之五辛盤一、杜甫詩所謂、春日春盤細二生菜一、是矣。

【五辛盤】659 ゴシンバン　五種の辛物を盤に盛つたもの。元旦に之を食へば、五臟の氣を通じ、健康を保つといふ。蓬萊。五辛菜を見よ。〔風土記〕元旦造二五辛盤一、五薰鍊ㇾ形。〔注〕五辛、所三以發二五藏之氣一、莊子所謂、春月飮ㇾ酒茹ㇾ蔥、以通二五藏一也。

【五辰】660 ゴシン　春夏秋冬の四時と土用。〔書、皐陶謨〕百工惟時、撫二于五辰一。〔江聲注〕辰、亦時也、播二五行于四時一、故謂二四時一爲二五辰一。〔梁元帝、請三於ㇾ州置二學校一表〕撫二五辰一而建二五長一、播二九德一而導二九州一。

【五津】661 ゴシン　四川省岷江中に在る五つの渡し場。白華津・萬里津・江首津・涉頭津・江南津。〔華陽國志〕大江自二湔堰下一至二犍爲一、有二五津一、始曰二白華津一、二曰二萬里津一、三曰二江首津一、四曰二涉頭津一、五曰二江南津一。〔梁元帝、荊州長沙寺阿育王像碑〕卻望二五津一、距二青蓮之洞一、傍臨二三天一、帶二明月之流一。

【五神】662 ゴシン　❶五柱の神。㋑太一の相たる五帝。〔漢書、禮樂志〕五神相二包四鄰一。〔注〕如淳曰、五帝爲二太一相一也。㋺五帝の佐たる五神。句芒・祝融・后土・蓐收・玄冥をいふ。名は禮記月令に見ゆ。〔南齊書、禮志上〕月令云、乃命二百縣一雩祀、百辟卿士、則大雩所ㇾ祭、唯應ㇾ祭二五精之帝一、而已、句芒等五神、既是五帝之佐、依二鄭元說一、宜三配二食于庭一也。㋩木・火・土・金・水の五行。又は五行の神。〔淮南子、要略〕天文者、云云、順二時運之應一、法二五神之常一。〔求古錄禮說、五帝五祀考〕五帝五祀、云云、五行氣行二於天一、質具二於地一、故在ㇾ天有二五帝一、在ㇾ地亦有二五神一。❷漢の郊祀歌の名。首章の句を取つて名づける。〔漢書、禮樂志〕五神十六、五神相二包四鄰一、土地廣揚二浮雲一、扢二嘉壇一椒蘭芳、璧玉精垂二華光一、益二億年一美二始興一、交二於神一若ㇾ有ㇾ承、廣宣延咸畢ㇾ觴、靈輿位偃蹇驤、卉汨臚析奚遺、淫二涤澤一洼然歸。

【五針】663 ゴシン　五葉の松。〔本草、松〕集解、時珍曰、其皮粗厚有二鱗形一、其葉後凋、云云、有二二針・三針・五針之別一。

【五診】664 ゴシン　五臟の脈を診察すること。〔史記、倉公傳〕敎以二五診一歲餘。

【五箴】665 ゴシン　五つのいましめ。游・言・行・好惡・知名の五。〔韓愈、五箴序〕作二五箴一、以訟二其惡一云。〔小學紺珠、儆戒類、五箴〕游・言・行・好惡・知名。

【五刃】666 ゴジン　五種の兵器。刀・劍・矛・戟・矢。〔國語、齊語〕定二三革一、隱二五刃一。〔注〕五刃、刀・劍・矛・戟・矢也。〔淮南子、氾論訓〕矯ㇾ箭爲ㇾ矢、鑄ㇾ金而爲ㇾ刃。〔注〕刃、五刃也、刀・劍・矛・戟・矢也。〔李商隱、賀ㇾ赦表〕萬蟄蘇而六出盡開、五刃藏而九土咸鬬。

【五任】667 ゴジン　木工・金工・皮工・染色工・埴工の五工の仕事をいふ。〔資治通鑑、梁紀〕武帝、大同十一年、徙二居作者一具二五任一。〔注〕任、謂二其人巧力所一ㇾ任也、五任、謂、任二攻木一者、則役二之攻木一、任二攻金一者、則役二之攻金一、任二攻皮一者、則役二之攻皮一、任二設色一者、則役二之設色一、任二搏埴一者、則役二之搏埴一。

【五稔】668 ゴジン　五年(906)の❷に同じ。穀物の熟することを稔といふ。〔左氏、僖、二〕必易ㇾ晉而不ㇾ撫二其民一矣、不ㇾ可二以五稔一。〔左氏、襄、二十七〕所謂不ㇾ及二五稔一者、夫子之謂矣。

【五盡】669 ゴジン　信(或は言)・名・親・財・功の五つが盡き果てなくなること。此の五者がなくなると、國を亡ぼすに至るといふ。〔呂覽、先識〕所ㇾ學有二五盡一、何謂二五盡一、曰、莫二之必一、則信盡矣、莫二之譽一、則名盡矣、莫二之愛一、則親盡矣、行者無ㇾ糧、居者無ㇾ食、則材盡矣、不ㇾ能ㇾ用ㇾ人、又不ㇾ能二自用一、則功盡矣、國有二此五者一、無ㇾ幸必亡。〔說苑、權謀〕所ㇾ學者、國有二五盡一、故莫二之必忠一、則言盡矣、莫二之必譽一、則名盡矣、莫二之必愛一、則親盡矣、行者無ㇾ糧、居者無ㇾ食、則財盡矣、不ㇾ能ㇾ用ㇾ人、又不ㇾ能二自用一、則功盡矣、國有二此五者一、毋ㇾ幸必亡。

【五水】670ゴイ 五つの河。巴水・希水（浠水）・赤亭水・西歸水・蘄水。五水蠻を見よ。

【五水蠻】671ゴスイバン 五水のほとりに居る蠻夷。（水經、蘄水注）水首受二希水枝津一、西南流歷二蘄山一、出二蠻中一、故以二此蠻一爲二五水蠻一、五水、謂二巴水・希水・赤亭水・西歸水一、蘄水其一焉。

【五衰】672ゴスイ 佛 天人の死ぬ時、現はれるといふ五つの死相。衣裳が垢染みる、頭上の花が萎える、身體がくさくなる、腋下に汗が出る、本座を樂しまぬの五つ。五衰相。（涅槃經、十九）釋提桓因、命將欲レ終、有二五相一現、一者、衣裳垢膩、二者、頭上花萎、三者、身體臭穢、四者、腋下汗出、五者、不レ樂二本座一。

【五衰相】673ゴスイソウ 五衰に同じ。

【五遂】674ゴイ ❶亂を治める五つの打開策。（逸周書、武穆解）德有二七倫一、亂有二五遂一、齊有二五備一、云云、五遂、一道二其通一、一決二其雍一、二、絕レ口無レ赦不レ疑、三、挫レ銳無レ赦不レ危、四、閑レ兵無レ用不レ害、五、復二尊離一羣不レ敵。（集訓校釋）遂、通。❷居處の莊嚴、君に仕へて忠、官に涖んで敬、朋友に對して信、戰陣に臨んで勇の五箇條をいふ。（小學紺珠、人倫類、五遂）居處莊、事レ君忠、涖レ官敬、朋友信、戰陳勇。

【五辭】675ゴスイ 色欲・聲欲・香欲・味欲・觸欲の五つに醉ふこと。（本朝文粹、八、源順、沙門敬公集序）除二卻五醉一、降二伏四魔一。

【五瑞】676ゴイ ❶天子が諸侯に頒つ瑞玉。公には桓圭、侯には信圭、伯には躬圭、子には穀璧、男には蒲璧。公・侯・伯・子・男の五等の諸侯は天子に見えるとき、之を天子に奉じ、還るとき又、之を天子から返附される。物を以ていへば玉といひ、寶を以ていへば瑞といひ、形を以ていへば器といひ、名は夫々異なるが、其の實は同一。（書、舜典）輯二五瑞一、既レ月、乃日觀二四岳羣牧一、班二瑞于羣后一。（傳）舜斂二公侯伯子男之瑞圭璧一、盡以正月中、乃日日見二四岳及九州牧監一、還二五瑞於諸侯一、與レ之正レ始。（周禮、秋官、大行人）上公之禮、執二桓圭一、九寸、云云、諸侯之禮、執二信圭一、七寸、云云、諸伯執二躬圭一、云云、諸子執二穀璧一、五寸、云云、諸男執二蒲璧一。（史記、五帝紀）揖二五瑞一、擇二吉日月一、見二四嶽諸牧一。（小學紺珠、制度類、五瑞）公執二桓圭一、侯執二信圭一、伯執二躬圭一、子執二穀璧一、男執二蒲璧一。❷符信とする五種の玉。珪（信寶として用ひる）・璧（聘問に用ひる）・琮（土功を起すに用ひる）・璜（徵召に用ひる）・璋（兵を發するに用ひる）。（白虎通、文質）何謂二五瑞一、謂二珪・璧・琮・璜・璋一、云云、五玉者、各何施、蓋以爲二璜以徵召一、璧以聘問一、璋以發レ兵、珪以信質一、琮以起二土功之事一也。

【五數】677ゴスウ ❶四千五百畝をいふ。一數は九夫、一夫は百畝。（左氏、襄、二十五、數疆潦、賈注）疆潦之地、九夫爲レ數、五數而當二一井一。❷五行陰陽變化の數。（管子、幼官）治二和氣一、用二五數一。（漢書、律歷志上）歷二十二辰一之數、十有七萬七千一百四十七兩、五數備矣。（注）五行陰陽變化之數。（宋史、孫守榮傳）生七歲病レ瞽、遇二異人一、教以二風角鳥占之術一、其法以二音律一推二五數一、播二五行一、測二度萬物始終盛衰之理一。❸河圖の第五の數。君の象。（齊東野語）卽河圖數之中、言二五數一耳、五爲二君象一、故民庶不レ可レ用。❹數の五位。一・十・百・千・萬。（小學紺珠、律歷類、五數）。

【五世】678セイ ❶五代。父子相繼ぐことを一世といふ。（禮、大傳）有二五世則遷之宗一。（論語、季氏）自二大夫出一、五世希レ不レ失矣。（集解）孔曰、季文子初得レ政、至二桓子一五世、爲二家臣陽貨所一レ囚。（論語、季氏）孔子曰、祿之去二公室一五世矣。（集解）鄭玄曰、言レ此之時、魯定之初、魯自レ東門襄仲殺二文公之子赤一而立二宣公一、於レ是政在二大夫一、爵祿不レ從レ君出、至二定公一、爲二五世一矣。❷唐・虞・夏・殷・周をいふ。五代。（小學紺珠、歷代類、五世）。

【五世界】679セカイ 五つの世界。五大洲。世界をいふ。（重野安繹、贈正四位佐久間象山先生碑）先生自贊語云、余年二十以後、則知二匹夫有レ繫乎一國一、三十以後、則知二有レ繫乎天下一、四十以後、則知レ有レ繫乎五世界一。

【五世王】680ゴセイワウ 天子から五代にあたる孫、卽ち皇玄孫にあたる御子。古昔、五世王は、王名は用ひられても皇族ではなかつた。（續日本紀、三）慶雲三年二月、准レ令、五世之王、雖レ有二王名一、不レ在二皇親之限一、今五世之王、雖レ有二王名一、已絕二皇親之籍一、遂入二諸臣之例一、顧念親王之思一、不レ勝二絕籍之痛一、自レ今以後、五世之王、在二皇親之限一、其承レ嫡者、相承爲レ王、自餘如レ令。

【五世其昌】681ゴセイソレサカンナリ 新婚を祝する辭。子孫の繁昌することをいふ。敬仲卽ち陳の公子完が五世の後に榮えるであらうと豫言した故事。（左氏、莊、二十二）初懿氏卜レ妻二敬仲一、其妻占レ之曰、吉、是謂二鳳凰于飛、和鳴鏘鏘一云云、五世其昌、並二于正卿一。

【五世而斬】682ゴセイニシテキル 君子の德澤も五世も經れば絕える。斬は截。（孟子、離婁下）君子之澤、五世而斬、小人之澤、五世而斬。

【五世親盡】683ゴセイニシテシンヅク 五世で骨肉の關係がなくなる。四世高祖の上、四世玄孫の下は、宗親の範圍に入らず、九族の外に置かる。（孔子家語、本姓解）五世親盡、別爲二公族一。

【五世同レ居】684ゴセイキヨヲドウス 五代の間の家族が一緒に睦まじく暮すこと。（唐書、杜暹傳）自二于高祖一至レ暹、五世同レ居、暹尤恭謹事二繼母一。

【五世同レ財】685ゴセイザイヲドウス 五代の間の家族が、財産を分けず仲よく暮すこと。（宋書、許昭先傳）元嘉初、西陽董陽、五世同レ財、爲二鄉邑所一レ美。

【五世同レ堂】686ゴセイドウダウス 祖父母・父母・己・子・孫の五代が同時に存在すること。瑞祥をいふ。五代同レ堂。（皇朝通典、禮典、嘉、優老）乾隆五年、命婦索綽羅氏、年一百二歲、其子孫五世同レ堂、壽萬節、扶掖入レ朝、照レ例旌表、加二恩賞賜一、並御製詩章賜レ之。

【五正】687セイ ❶五官の長。正は長官の意。㋑五行の官。木正・火正・金正・水正・土正。（左氏、隱、昭、二十九）木正曰二句芒一、火正曰二祝融一、金正曰二蓐收一、水正曰二玄冥一、土正曰二后土一。（注）正、官長也。㋺諸侯の五官の長。（國語、齊語）立二五正一、各使レ聽二屬焉一。（管子、禁藏）發二五正一、赦二薄罪一。（注）正、謂二五官正一也。❷射儀に用ひる的の一種。中央は朱で、次第に白・蒼・黃・玄の順に描く。（周禮、夏官、射人）九節五正。（注）正之言、正也、射者內志正、則能中焉、畫二五正之侯一、中朱、次白、次蒼、次黃、玄居レ外。

【五正食】688ゴシヤウジキ 佛飯・麥豆飯・麨・肉・餅をいふ。（寄歸傳、一）半者蒲膳尼（Pañca-bhojanīya）應二譯爲一五噉食一、舊云二五正一、淮二義翻也一、一飯、二麥豆飯、三麨、四肉、五餅。

【五成】689ゴイ ❶舞が五度終ること。舞の一度終るを成といふ。（禮、樂記）五成而分、周公左、召公右。（疏）五成而分、周公左、召公右者、從二第二位一至二第三位一、分爲二左右一、象二周公居レ左、召公居レ右也。（孫希旦集解）成者、舞之一終也。❷五の數が相配合して成るをいふ。（左氏、昭、九）夏四月、陳災、鄭裨竈曰、五年、陳將二復封一、封五十二年而遂亡、子產問二其故一、對曰、陳水屬也、火水妃也、而楚所レ相也、今火出而火陳、遂楚而建二陳也一、妃以五成、故曰二五年一。（注）五行各相妃合、得レ五而成、故五歲而陳復封。（風俗通、皇霸、五霸）道以二三興一、德以五成。❸五度、成る。（邢邵、文宣帝哀策文）風后之陳、師尙之兵、三奇六合、七變五成。㋑wu³ ch'êng² 五割。

【五成學捐】690wu³ ch'êng² hsüeh² chüan¹ 湖北省で教育財源として、地租附加稅に五割を附帶徵集した稅。

【五姓】691ゴセイ ❶五つの姓族。㋑齊楚の五姓、昭・屈・景・懷・田。（漢書、高帝紀上）徙二齊楚大族、昭氏・屈氏・景氏・懷氏・田氏五姓關中一。（小學紺珠、氏族類、齊楚五姓）昭氏・屈氏・景氏・懷氏・田氏。㋺姚・嬀・陳・田・王。（漢書、王莽傳中）姚・嬀・陳・田・王氏、凡五姓者、皆黃虞苗裔、予之同族也。㋩蠻の五姓、巴・樊・暉・相・鄭。（後漢書、南蠻傳）巴郡南郡蠻、本有二五姓一、巴氏・樊氏・暉氏・相氏・鄭氏、皆出二於武落鍾離山一。㋥南都の五姓、杜・趙・王・蔡・張。（小學紺珠、氏族類、南都五姓）杜正獻、趙康靖・王文忠・蔡敏肅・張文定。㋭五行五音にかなふ姓。（唐書、呂才傳）近世乃有二五姓一、謂、宮也、商也、角也、徵也、羽也、以二天下萬物一、悉配二屬之一、以處二吉凶一、然言皆不レ類。（金史、海陵紀）天德三年四月丙午、詔遷二都燕京一、辛酉、有司圖上二燕城宮室制度一、營二建陰陽五姓所一レ宜。❷牛・羊・豕・犬・雞。五牲（70a）の❶に同じ。（韓非子、內儲說下）季曰、吾見レ鬼乎、云云、取二

五姓之矢一浴レ之。〔集解〕盧文弨云、姓、一作レ牲、五牲、牛・羊・豕・犬・雞也。㊂五代、又は五朝。梁・唐・晉・漢・周。〔唐書、黃巢等傳贊〕天將レ去レ唐、諸盜並出、歷二五姓一、兵未二嘗少解一、至レ宋、然後天下復安。〔宋史、儀衞志二〕國朝承二五姓荒殘之弊一、事從二簡略一、每二鳴鑾游豫一、盡去二戈戟旌旗之制一、儀衞寡薄、頗同二藩鎭一。㊃湖の名。山西省永濟縣の東南にある。臨晉・虞卿二縣界に分屬する。古の張陽池の東西二陂。〔永濟縣志〕亦名二五姓灘一、灘旁有二五姓村一、因名。㊄ゴシヤウ 佛法相宗で一切衆生の機類を五種に分つて成佛・不成佛を定めること。聲聞定姓・緣覺定姓(この二定姓は小乘の悟を得るもの)・菩薩定姓(大乘の悟を得るもの)・不定姓(小乘・大乘何れを得るか定つてゐないもの)・無姓(成佛の性質のないもの)。又五性、五種性、五種乘性ともいふ。〔楞伽經、二〕我說二五種乘性證法一、何等爲レ五、一聲聞乘性證法、二辟支佛乘證法、三如來乘性證法、四不定乘性證法、五無性證法。

【五姓田】692 ゴゼタ 姓氏。

【五姓蕃】693 ゴセイバン 宋初以來の五姓の蠻族。龍蕃・方蕃・張蕃・石蕃・羅蕃。〔宋史、黔涪施高徼外諸蠻傳〕宋初以來、有二龍蕃・方蕃・張蕃・石蕃・羅蕃者一、號二五姓蕃一、皆常奉二職貢一、受二爵命一。

【五姓脩宅】694 ゴセイシウタク 選擇家の說で、五姓の音を五行に配し、家宅修築の時日の吉凶を判斷すること。五姓の㊀の㋭を見よ。〔論衡、詰術〕五姓之宅、門有レ宜レ嚮、嚮得二其宜一、富貴吉昌。〔宅經〕易訣云、陰得レ陽、如二暑得一レ涼、五姓咸和、百事俱昌。

【五姓證事】695 ゴセイシヨウジ 書名。二十卷。南朝宋、何承天撰。宋史、藝文志に著錄せらる。

【五性】696 ゴセイ ㊀人の五つの性情。喜・怒・欲・懼・憂。〔大戴禮、文王官人〕民有二五性一、喜・怒・欲・懼・憂也。〔小學紺珠、人事類、五性〕喜・怒・欲・懼・憂。㊁人として惡むべき五つの性。暴・淫・奢・酷・賊。〔漢武帝內傳〕上元夫人謂レ帝曰、捨二爾五性一、反二諸柔善一。〔注〕謂二暴・淫・奢・酷・賊一也。㊂五臟の性質。肝の性は靜、心の性は躁、脾の性は力、肺の性は堅、腎の性は智。〔漢書、翼奉傳〕詩之爲レ學、性情而已、五性不二相害一、六情更興廢。〔注〕晉灼曰、翼氏五性、肝性靜、靜行レ仁、甲己主レ之、心性躁、躁行レ禮、丙辛主レ之、脾性力、力行レ信、戊癸主レ之、肺性堅、堅行レ義、乙庚主レ之、腎性智、智行レ敬、丁壬主レ之。〔小學紺珠、人事類、五性〕肝・心・脾・肺・腎。㊃仁・義・禮・智・信をいふ。〔白虎通、情性〕五性者何、謂二仁・義・禮・智・信一也。

【五性通】697 ゴセイツウズ 人の五つの性情が適度に行はれること。〔劉晝、文〕口納二滋味一、而百節肥焉、心受二典誥一、而五性通焉。

【五政】698 ゴセイ 五つのまつりごと。㊀管子の五政。㋑春の五政。一、幼孤を論じ、有罪をゆるす。二、爵列を賦し、祿位を授ける。三、溝瀆を修め、亡人を復す。四、險阻を正し、封疆を修め、阡陌を正す。五、麑夭を殺さず、草花を取らぬ。〔管子、四時〕是故春三月、以二甲乙之日一發二五政一、一政曰、論二幼孤一、舍二有罪一、二政曰、賦二爵列一、授二祿位一、三政曰、凍解、修二溝瀆一、復二亡人一、四政曰、端二險阻一、修二封疆一、正二千伯一、五政曰、無レ殺二麑夭一、毋レ蹇レ華絕レ芋、五政苟時、春雨乃來。㋺夏の五政。一、功勞有る者を擧げる。二、久墳故屋等を開いて假貸する。三、扇笠を禁じ、田廬を修めさせる。四、民に惠施する者を賞す。五、禽獸を罝にかけ飛鳥を殺すことを禁ずる。〔管子、四時〕是故夏三月、以二丙丁之日一發二五政一、一政曰、求下有二功發勞力一者上而擧レ之、二政曰、開二久墳一、發二故屋一、辟二故窌一、以假貸、三政曰、令禁レ扇去レ笠、毋二扱免一、除二急漏田廬一、四政曰、求下有二德賜布三施於民一者上而賞レ之、五政曰、令禁二罝設禽獸一、毋レ殺二飛鳥一、五政苟時、夏雨乃至也。㋩秋の五政。一、博塞(ばくち)を禁じ、爭鬪を禦ぐ。二、五兵の鞘を拔いて刃を見せぬ。三、衆農を戒め、收穫を促す。四、缺坼を修補する。五、牆門を修理する。〔管子、四時〕是故秋三月、以二庚辛之日一發二五政一、一政曰、禁二博塞一、圉二小辯一、鬭譯レ跽、二政曰、毋レ見二五兵之刃一、三政曰、愼二旅農一、趣二聚收一、四政曰、補レ缺塞レ坼、五政曰、修二牆垣一、周二門閭一、五政苟時、五穀皆入。㋥冬の五政。一、孤獨を論じて長老を恤む。二、神祀を修めて爵祿を賦す。三、山川の藏を開かぬ。四、姦遁を捕へ、盜賊を逮捕したものを賞す。五、遷徙を禁じ、流民を止める。〔管子、四時〕是故冬三月、以二壬癸之日一發二五政一、一政曰、論二孤獨一、恤二長老一、二政曰、善順レ陰、修二神祀一、賦二爵祿一、授二備位一、三政曰、效二會計一、毋レ發二山川之藏一、四政曰、捕二姦遁一、得二盜賊一者有レ賞、五政曰、禁二遷徙一、止二流民一、圉二分異一、五政苟時、冬事不レ過。㊁春政・初夏政・季夏政・秋政・冬政。〔孝經緯鉤命決〕春政不レ失、五穀蘖、初夏政不レ失、甘雨時、季夏政不レ失、地無レ苗、秋政不レ失、人民昌、冬政不レ失、少二疾喪一、五政不レ失、百穀稚熟、日月光明。㊂後漢の荀悅の五政。農桑を興す、好惡を審かにする、文敎を宣べる、武備を立てる、賞罰を明かにする。〔後漢書、荀悅傳〕古之聖王、其於二仁義一也、申重而已、致レ政之術、先屛二四患一、乃崇二五政一、云云、興二農桑一、以養二其性一、審二好惡一、以正二其俗一、宣二文敎一、以章二其化一、立二武備一、以秉二其威一、明二賞罰一、以統二其法一、是謂二五政一。㊃天子・公・卿・大夫・士の政。〔大戴禮、盛德〕均二五政一、齊二五法一。〔注〕五政、謂二天子・公・卿・大夫・士一。〔小學紺珠、人倫類、五政〕天子・公・卿・大夫・士。㊄五常を以て行ふ政事。〔法言、問道〕五政之所レ加、七賦之所レ養。〔注〕五政、五常之政也。

【五星】699 ゴセイ ㊀五行の星。又、五緯といふ。木星(歲星・攝提・重華・經星・紀星)・火星(熒惑・赤星・執法・罰星)・土星(鎭星・地侯)・金星(太白・殷星・太正・熒星・明星)・水星(辰星・能星・鉤星・司農)。〔左氏、襄、二十八〕歲在二星紀一、〔疏〕歲、歲星也、五星者、五行之精也、曆書稱、木精曰二歲星一、火精曰二熒惑一、土精曰二鎭星一、金精曰二太白一、水精曰二辰星一、此五者、皆右二行於天一、二十八宿、則著レ天不レ動、故謂二二十八宿一爲レ經、五星爲レ緯。〔史記、天官書〕天有二五星一、地有二五行一、又云、五星同色、天下偃レ兵、百姓寧昌。〔淮南子、天文訓〕何謂二五星一、東方木也、南方火也、中央土也、西方金也、北方水也。〔漢書、五行志〕五星贏縮。〔說苑、辨物〕所謂五星者、一曰歲星、二曰熒惑、三曰鎭星、四曰太白、五曰辰星。〔羣芳譜〕五星、五行之星也、木星曰二歲星一、曰二攝提一、曰二重華一、曰二經星一、曰二紀星一、秉二東方木德之精一、司レ春、主二角・亢・氐・房・心・尾・箕七星一、火星曰二熒惑一、曰二赤星一、曰二執法一、曰二罰星一、秉二南方火德之精一、司レ夏、主二井・鬼・柳・星・張・翼・軫七星一、土星曰二鎭星一、曰二地侯一、秉二中央土德之精一、寄二旺四季一、主二東井一、金星曰二太白一、曰二殷星一、曰二太正一、曰二熒星一、曰二明星一、秉二西方金德之精一、司レ秋、主二奎・婁・胃・昴・畢・觜・參七星一、水星曰二辰星一、曰二能星一、曰二鉤星一、曰二司農一、秉二北方水德之精一、司レ冬、主二斗・牛・女・虛・危・室・壁七星一。㊁星命家の一。子平と並稱せらる。〔已瘧編〕江湖閒談二星命一者、有二子平一、有二五星一。

【五星聚】700 ゴセイアツマル 金・木・水・火・土の五星が一時に同一の方向に見えること。古人は日月合璧と五星聚とを曆元とし、之を七曜齊元といひ、祥端とする。一說に、兵象ともいふ。五星連珠(702)を見よ。〔宋書、天文志三〕五星聚者、有レ三、周漢以王、齊以霸、周將レ伐レ殷、五星聚レ房、齊桓將レ霸、五星聚レ箕、漢高入レ秦、五星聚二東井一、卒無二更紀之事一、是則五星聚、有二不レ易行者一矣。〔宋史、太祖紀〕乾德五年夏、五星聚レ奎。〔宋史、竇儀傳〕丁卯歲、五星聚レ奎、自レ此天下太平。〔古今黈〕五星聚、非二吉祥一、乃兵象、爲二秦亡之應一。

【五星不レ悖】701 ゴセイモトラズ 五星が順序に從つて居ること。物事の順調に行く兆。〔孔叢子、論書〕陰陽淸和、五星不レ悖。

【五星連珠】702 ゴセイレンジュ 五星が珠を連ねた樣に列ぶこと。五星聚に同じ。例へば、五星が一宮に居つて、水星は申に、金星は酉に、火星は戌に、木星は亥に、土星が子丑の宿にある如きをいふ。〔竹書紀年、上〕帝堯陶唐氏七十年、日月如レ合璧一、五星如二連珠一。〔漢書、律歷志上〕日月如レ合璧、五星如二連珠一。〔注〕七曜皆會二聚斗牽牛分度一。〔隋煬帝、步虛詞〕冠法二二儀立一、珮帶五星連。〔洪邁、謝二曆日一表〕五星連珠、莫レ測二聖功之輔相一。

【五星聚二東井一】703 ゴセイトウセイニアツマル 五行の星が東井の宿へ集まる。秦の亡びるのを豫言した故事。〔史記、張耳陳餘傳〕甘公曰、漢王之入レ關、五星聚二東井一、東井者、秦分也、先至必霸。〔漢書、

高帝紀上〕元年冬十月、五星聚二于東井一。

【五牲】704ゴセイ 五つのいけにへ。〔大戴禮、曾子天圓〕序二五牲之先後貴賤一。㊀麋・鹿・麏・狼・兔。〔左氏、昭、二十五〕五牲三犧。〔注〕麋・鹿・麏・狼・兔也。〔班固、東都賦〕薦二三犧一、效二五牲一。〔注〕善曰、杜預曰、五牲、麋・鹿・麏・狼・兔。㊁牛・羊・豕・犬・雞。〔左氏、昭、十一〕五牲不三相二爲用一。〔注〕五牲、牛・羊・豕・犬・鷄。㊂麏・鹿・熊・狼・野豕。〔左氏、昭、二十五、五牲、疏〕服虔云、五牲、麏・鹿・熊・狼・野豕。〔小學紺珠、動植類、五牲〕麏・鹿・熊・狼・野豕。

【五勢】705ゴセイ 書道の五種の筆勢。鉤裹・鉤努・衮筆・儓筆・奮筆。〔張懷瓘、玉堂禁經〕大凡筆法點畫八體、備二於永字一、八法之外、更相二五勢一、以備二制度一。門一曰、鉤裹勢、須二員而激鋒一、罔閔二字用之、刀二曰、鉤努勢、須二圓角而趯一、均勻旬勿字用レ之、ヽ三曰、衮筆勢、須二按レ鋒上下衂一レ之、今令字下點用レ之、丨四曰、儓筆勢、緊二策之一、鍾法上字用レ之、一五曰、奮筆勢、須三險二策之一、草書一二三字用レ之。

【五聖】706ゴセイ ㊀古代の五人の聖人。㋑堯・舜・禹・湯・周文王。〔小學紺珠、歷代類、五聖〕。㋺包犧・神農・黃帝・堯・舜。〔易、繫辭下〕包犧氏之王二天下一也、云云、包犧氏沒、神農氏作、云云、神農氏沒、黃帝・堯・舜氏作、云云。㋩神農・堯・舜・禹・湯。〔淮南子、脩務訓〕若二夫神農・堯・舜・禹・湯一、可レ謂二聖人一乎、有レ論者必不レ能レ廢、以二五聖一觀レ之、則莫レ得二無爲一明矣。㊁邪神の名。五通神をいふ。五通(843)の㊀を見よ。〔夷堅志〕錢塘門外、有二五聖行祠一。㊂黃帝の臣。七輔の中の一人。〔繹史、太古、黃帝紀〕論語摘輔象、黃帝七輔、云云、五聖受二道級一。〔小學紺珠、名臣類上、七輔〕風后・天老・五聖・知命・窺紀・地典・力墨。

【五精】707ゴセイ 五行の精。〔禮、月令、大雩レ帝用二盛樂一、注〕雩レ帝、謂下爲二壇南郊之旁一、雩二五精之帝一、配以中先帝上也。〔易林〕仁德不レ暴、五精就レ舍。〔孔穎達、尙書正義序〕五精未レ聚。〔夏侯嘉正、洞庭賦〕中含二五精一、五精之用。

【五齊】708ゴセイ 酒の五つの種類。齊は濃淡の度。泛齊・醴齊・盎齊・緹齊・沈齊。〔周禮、天官、酒正〕辨二五齊之名一、一曰、泛齊、二曰、醴齊、三曰、盎齊、四曰、緹齊、五曰、沈齊。〔注〕自レ醴以上、尤濁縮酌者、盎以下差清、杜子春讀レ齊皆爲レ粢、云云、玄謂、齊者、每レ有二祭祀一、以二度量一節作レ之。

【五聲】709ゴセイ ㊀宮・商・角・徵・羽の五つの聲。音を淸濁高下に依つて分類したもの。五色に配すれば宮は黃、商は白、角は青、徵は赤、羽は黑。五行に配すれば宮は土、商は金、角は木、徵は火、羽は水。五音(23)の㊀に同じ。〔書、舜典、聲依レ永律和レ聲、疏〕文レ之以二五聲宮・商・角・徵・羽一、言、五聲之淸濁、有二五品一、分レ之爲二五聲一也。〔書、益稷〕六律五聲八音。〔周禮、春官、大師〕皆文レ之以二五聲宮・商・角・徵・羽一。〔禮、禮運〕五聲六律十二管。〔左氏、僖、二十四〕耳不レ聽二五聲之和一爲レ聾。〔左氏、昭、元〕徵爲二五聲一。〔注〕白聲商、青聲角、黑聲羽、赤聲徵、黃聲宮。〔左氏、昭、二十五〕章爲二五聲一。〔疏〕聲之淸濁、差爲二五等一、聖人因二其有レ五、分二配五行一、其本末、由二五行一而來也、但既配二五行一、卽以二五者一爲二五行之聲一、土爲レ宮、金爲レ商、木爲レ角、火爲レ徵、水爲レ羽。〔荀子、勸學〕耳好二之五聲一。㊁辭・色・氣・耳・目の五つにあらはれる心のすがた。此の五聲によつて民の獄訟を裁斷する。卽ち、心の正しくない者は、其の言葉が亂れて煩はしく、顏色は赧らみ、氣息は喘ぎ、人の話を聽いても惑ひ、眸子はくらい。〔周禮 秋官、小司寇〕以二五聲一聽二獄訟一、求二民情一、一曰辭聽、二曰色聽、三曰氣聽、四曰耳聽、五曰目聽。〔注〕觀二其出言一、不レ直則煩、觀二其顏色一、不レ直則赧然、觀二其氣息一、不レ直則喘、觀二其聽聆一、不レ直則惑、觀二其眸子視一、不レ直則眊然。㊂陰平・陽平・上・去・入の五聲。

【五筮】710ゴゼイ 易の五義。卽ち、變易・交易・反易・對易・移易をいふ。〔史記、龜策傳〕靈龜卜祝曰、假二之靈龜一、五筮五靈。

【五擾】711ゴゼウ 馬・牛・羊・犬・豕。擾は馴れさせる義。〔周禮、夏官、職方氏〕其畜宜二五擾一。〔注〕五擾、馬・牛・羊・犬・豕。

【五尺】712ゴセキ・ゴシャク ㊀一尺の五倍。いつさか。〔禮、禮器〕大夫五尺、士三尺。㊁幼小の童をいふ。一尺は今の八寸とも、二歲半ともいふ。五尺は身長四尺位の兒童、又は十二歲から十四歲迄の兒童をいふ。五尺之童を見よ。㊂ゴシャク 五尺の高さの屛風。〔榮花物語、御裳着〕御屛風などの骨云云、五尺には本文を書かせ給へり。

【五尺之孤】713ゴセキノコ 幼少な孤主。五尺之童を見よ。

【五尺之鬚】714ゴセキノゼン 長い鬚をいふ。〔晉書、劉曜載記〕鬚髯不レ過二百餘根一、而皆長五尺。

【五尺之童】715ゴセキノドウ 小兒をいふ。周代の制、一尺は長さ八寸、五尺は卽ち今の四尺位の身長の者といひ、或は一尺は二歲半、五尺、卽ち十二歲から十四歲の童兒ともいふ。〔孟子、滕文公上〕雖レ使二五尺之童適一レ市、莫二之或欺一。〔集注〕五尺之童、言二幼小無知一也。〔董仲舒、粵有二三仁一對〕是以仲尼之門、五尺之童、羞レ稱二五伯一。〔揚雄、解嘲〕五尺童子、羞レ比三晏嬰與二夷吾一。〔琅琊代醉編、尺〕仲尼之門、五尺童子、羞レ稱二五霸一、古以二二歲半一爲二一尺一、言二五尺一、是十二歲以上、十五歲、則稱二六尺一、若二晏嬰一、身不レ滿二三尺一、是以律起レ尺矣、周尺准二今八寸一、二尺四五寸、豈成二形體一、當三是極二言其短一耳、曹交九尺四寸以長、今七尺五寸餘。

【五尺豎子】716ゴセキノジュシ 幼少の子供。五尺之童を見よ。〔呂覽、重己〕使三五尺豎子引二其棬一。

【五尺道人】717ゴセキダウジン 淸、鄭珍(**11－39647**・・223)の號。

【五石】718ゴセキ ㊀五つの石。㋑天變の起る時に降るといふ。〔公羊、僖、十六〕十有六年春王正月戊申朔、隕二石于宋一五、是月、六鷁退飛、過二宋都一。〔漢書、劉向傳〕五石隕墜、六鷁退飛。〔新語、明誡〕五石之所レ隕。㋺道士の長生藥に鍊るもの。丹砂・雄黃・白礬石・曾青・磁石。〔史記、倉公傳〕中レ熱不レ溲者、不レ可レ服二五石一。〔抱朴子、金丹〕五石者、丹砂・雄黃・白礬石・曾青・慈石也。〔郭璞、遊仙詩〕王孫列二八珍一、安期鍊二五石一。〔隋書、梁彥光傳〕醫云、餌二五石一可レ愈。㋩女媧氏が鍊つて天を補つたもの。五色石(616)の㊀を見よ。〔南史、梁元帝紀〕補二穹儀一以二五石一、萬物再生。〔陸龜蒙、雜諷詩〕女媧鍊二五石一、天缺猶可レ補。㊁ゴコク 五石の容積。一石は十斗。〔莊子、逍遙遊〕惠子謂二莊子一曰、魏王貽二我大瓠之種一、我樹レ之成、而實五石、以盛二水漿一。〔南史、任昉傳〕有二絹七匹米五石一。〔蘇軾、次二韻王鞏一詩〕歸來千首詩、傾瀉五石尊。

【五石瓠】719ゴコクノコ 五石を容れ得る大きなひさご。〔莊子、逍遙遊〕今子有二五石之瓠一、何不レ慮下以爲二大樽一、而浮中乎江湖上、而憂二其瓠落無一レ所レ容、則夫子猶有二蓬之心一也夫。

【五石銅】720ゴセキドウ 五色の藥石及び銅。漢の王莽が、敵を厭勝する爲に用ひる威斗の製作資料に當てたもの。〔漢書、王莽傳下〕莽親之二南郊一、鑄二作威斗一、威斗者、以二五石銅一爲レ之、若二北斗一、長二尺五寸、欲三以厭二勝衆兵一。〔注〕李奇曰、以二五色藥石及銅一爲レ之。

【五席】721ゴセキ 五種類のしきもの。莞席・繅席・次席・蒲席・熊席をいふ。〔周禮、春官、司几筵〕掌二五几五席之名物一、辨三其用與二其位一。〔注〕五席、莞・繅・次・蒲・熊。

【五節】722ゴセツ ㊀樂曲の五つのふし。〔周禮、夏官、射人〕樂以二采蘋五節一二正。〔注〕五節者、奏樂以爲レ謝、節二之差一。〔左氏、昭、元〕先王之樂、所三以節二百事一也、故有二五節一。㊁氣候の五つの區切。〔左氏、昭、元〕天有二六氣一、云云、六氣曰二陰・陽・風・雨・晦・明一也、分爲二四時一、序爲二五節一。〔注〕六氣之化、分而序レ之、則成二四時一、得二五行之節一。㊂㋑ゴセチ 大嘗會、又は新嘗會に行はれる女樂の稱。舞姬五人が、天女に扮し、五度、袖を飜して舞ふ。聖武天皇の時、皇太子(孝謙天皇)が親ら五節を舞はれたのを此の舞の始とする。〔續日本紀、十五〕天平十五年五月癸卯、皇太子親儛二五節一。㋺ゴセツ 五節句の略。〔雪女五枚羽子板、上〕年頭、五節の御目見え。

【五節會】723ゴセチヱ 古、宮中で行はれた元旦・白馬(アヲウマ)(正月七日)・踏歌(タフカ)(正月十五・六日)・端午(五月五日)・豐明(トヨノアカリ)(新嘗會の翌日)の五つの節會。

【五節句】724ゴセック 陰曆で一年中にある五つのいはひ日。人日(正月七日)・上巳(三月三日)・端午(五月五日)・七夕(七月七日)・重陽(九月九日)。節供。〔和漢名數、節序〕和俗、五節供、人日正月七日、上巳三月三日、端午五月五日、星夕

（七夕）七月七日、重陽九月九日、五節供。

【五節定】725 ゴセチサダメ 五節の舞姫を獻ずる人々を定められること。〔西宮記、十〕五節定、被レ定下獻二五節舞姫一人人上事。

【五節舞】726 ゴセチノマヒ 五節の㊂の㋑に同じ。〔和漢三才圖會、樂器類、琴〕公事根源云、天武天皇、御二吉野宮一彈レ琴、自二前峯一天女降、以二羽衣袖一、五飜而歌也、而后於二內裡一行レ之、謂二之五節舞一。

【五絕】727 ゴゼツ ㊀詩の一種。五言絕句(313)の略。〔陔餘叢考、絕句〕揚伯謙云、五言絕句、唐初變二六朝子夜體一也、云云、音節和諧、已若レ此、豈非二五七絕之濫觴一乎。㊁五首の絕句。〔北史、崔儦傳〕臨レ刑、賦二詩五絕一、與二諸弟一訣別。㊂人に超絕する五つのこと。㋑南朝宋の文帝の稱した五つのすぐれたもの。杜道の鞠彈棊・范悅の詩・褚欣遠の模書・褚胤の圍棊・徐道度の療疾。〔南史、徐文伯傳〕宋文帝云、天下有二五絕一、而皆出二錢塘一、謂二杜道鞠彈棊・范悅詩・褚欣遠模書・褚胤圍棊・徐道度療疾一。㋺唐の虞世南の五絕。德行・忠直・博學・文詞・書簡。〔唐書、虞世南傳〕帝稱二其五絕一、一曰、德行、二曰、忠直、三曰、博學、四曰、文詞、五曰、書簡。㋩唐の祕書省內の落星石、賀知章の草書、薛稷の畫いた鶴、郞餘令の畫いた鳳、韓公武が鶴の一眼に彈をあてたこと。〔唐詩紀事、郞餘令〕餘令善レ畫、唐祕書省內落星石、薛稷畫鶴、賀知章草書、餘令鳳、相傳爲二四絕一、元和中、韓公武爲二校書郞一、挾レ彈中二鶴一眼一、乃謂二之五絕一。

【五千】728 ゴセン 千の五倍。〔書、益稷〕弼二成五服一、至二于五千一。

【五千言】729 ゴセンゲン 老子の道德經は全文で五千餘字あるのを、其の大數を擧げていふ。五千文。〔史記、老子傳〕老子迺著二書上下篇一、言二道德之意一、五千餘言而去。〔白居易、養拙詩〕逍遙無レ所レ爲、時窺五千言。

【五千文】730 ゴセンブン 五千言に同じ。〔白居易、讀二老子一詩〕若道二老君是知者一、緣レ何自著二五千文一。

【五千卷室】731 ゴセングワンシツ 清、曹言純(**5**－**14297**・・224)の室名。

【五千上慢】732 ゴセンジヤウマンノ 佛慢心する五千人。上慢は增上慢(**3**－**5454**・・135)に同じで、自ら增上の法を得たと思つて人に高ぶること。〔法華經、方便品〕爾時世尊告二舍利佛一、汝已慇懃三請、豈得レ不レ說、汝今諦聽、善思二念之一、吾當二爲レ汝分二別解說一、說二此語一時、會中有二比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷五千人等一、卽從レ座起、禮レ佛而退、所以者何、此輩罪根深重、及增上慢、未レ得謂レ得、未レ證謂レ證、有二如レ是失一、是以不レ住、世尊默然、而不二制止一。

【五泉】733 ゴセン ㊀山名。甘肅省皐蘭縣の南の皐蘭山をいふ。山に五つの泉がある。其の主寺を崇慶古刹といふ。㊁縣名。隋、置く。甘肅省皐蘭縣。〔舊唐書、地理志三〕五泉、漢金城縣、屬二金城郡一、隋置二五泉縣一。㊂明、韓邦靖(**12**－**43159**・・372)の號。

【五善】734 ゴゼン ㊀五つの善いこと。㋑善道を問ひ、親戚の義を問ひ、禮儀を問ひ、政事を問ひ、患難を問ふ。咨・詢・度・諏・謀。〔左氏、襄、四〕臣聞レ之、訪二問於善一爲レ諮、諮レ親爲レ詢、諮レ禮爲レ度、諮レ事爲レ諏、諮レ難爲レ謀、臣獲二五善一、敢不二重拜一。〔注〕五善、謂二諮・詢・度・諏・謀一。〔小學紺珠、治道類、五善〕訪二問於善一爲レ咨、咨レ親爲レ詢、咨レ禮爲レ度、咨レ事爲レ諏、咨レ難爲レ謀。㋺唐の虞世南の五善。博聞・德行・書翰・詞藻・忠直。〔語林品藻〕太宗稱二虞監一、博聞・德行・書翰・詞藻・忠直、一人而兼二是五善一。㊁射弓の五善。和志・和容・主皮・和頌・興儛。〔論語、八佾〕子曰、射不二主皮一。〔集解〕馬融曰、射有二五善一焉、一曰、和志、體和也、二曰、和容、有二容儀一、三曰、主皮、能中レ質也、四曰、和頌、合二雅頌一也、五曰、興武、與レ舞同也。㊂軍國の五善道。善く敵の形勢を知る、善く進退の道を知る、善く國の虛實を知る、善く天時人時を知る、善く山川の險阻を知る。〔騈字類編引、新書〕五善者、所謂善知二敵之形勢一、善知二進退之道一、善知二國之虛實一、善知二天時人事一、善知二山川險阻一。㊃佛五戒。〔無量壽經、下〕令下持二五善一獲中福德度世長壽泥洹之道上。

【五善五惡】735 ゴゼンゴアク 佛不殺生・不偸盜・不邪淫・不妄語・不飮酒の五戒を持するのを五善といひ、之を破るを五惡といふ。〔無量壽經、下〕教二化羣生一、令レ捨二五惡一、令レ去二五痛一、令レ離二五燒一、降二化其意一、令下持二五善一、獲中福德度世長壽泥洹之道上。

【五禪】736 ゴゼン 佛禪の五種。外道禪・凡夫禪・小乘禪・大乘禪・最上乘禪。〔傳燈錄〕禪有二深淺階級一、欣レ上厭レ下而修者、是外道禪、正信二因果一、以二欣厭一而修者、是凡夫禪、悟二我法二空所レ顯眞理一而修者、是小乘禪、悟二我空偏眞之理一而修者、是大乘禪、若頓下悟自心本來清淨、元無二煩惱一、無漏智性、本自具足、此心卽佛上、依レ此而修者、是最上乘禪。

【五俎】737 ゴソ 五つの俎截。豕・魚・腊・羊肉・羊腸胃。〔禮、玉藻〕又朝服以食二特牲三俎一祭レ肺、云云、五俎四簋。〔注〕三俎、豕・魚・腊。〔孫希旦集解〕五俎、謂、羊也、豕也、魚也、腊也、膚也。

【五祖】738 ゴソ 佛㊀禪宗東土の五代目の祖師、弘忍禪師。〔正宗紀〕五祖弘忍大師、黃梅人、先爲二破頭山栽松行者一、老化復生、遇二四祖一得度。㊁淨土門では、曇鸞・道綽・善導・法照・少康の五人をいふ。㊂宋の蘄州五祖山の法演禪師をいふ。〔續傳燈錄、二十〕。

【五宋】739 ゴソウ 唐の宋庭芬の五人の女。若莘・若昭・若倫・若憲・若荀。皆文藻あり。〔舊唐書、女學士尙宮宋氏傳〕女學士尙宮宋氏者、名若昭、貝州清陽人、父庭芬、世爲二儒學一、至二庭芬一有二詞藻一、生二五女一、皆聰惠、云云、年未レ及レ笄、皆能屬レ文、長曰二若莘一、次曰二若昭・若倫・若憲・若荀一。

【五宗】740 ゴソウ ㊀上の五宗は高祖・曾祖・祖・父・己。下の五宗は己・子・孫・曾孫・玄孫。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕所レ愛光二五宗一、所レ惡滅二三族一。〔注〕濟曰、五宗、謂下上至二高祖一、下至中玄孫上也。㊁五人の異母から生れたもの。母を同じくするものを一宗といふ。史記に五宗世家がある。〔史記、五宗世家〕孝景皇帝子、凡十三人爲レ王、而母五人、同レ母者爲二宗親一。〔史記、太史公自序〕五宗既王、親屬協和。㊂大宗一、小宗四、併せて五宗。〔小學紺珠、人倫類、五宗〕大宗一、小宗四。

【五層】741 ゴソウ 五階。層は重屋。〔北史、魏太武紀〕毀二鄴城五層佛圖一、于二泥像中一得二玉璽二一。

【五總】742 ゴソウ 縫目の五つの飾。總は菊とぢの如きもの。〔詩、召南、羔羊〕羔羊之縫、素絲五總。〔陸龜蒙、素絲詩〕園客麗二獨繭一、詩人吟二五總一。

【五總龜】743 ゴソウキ 五人の博識の人。唐の顏元孫・韋述・賀知章・陸象先・殷踐猷の五人。龜は長壽で、凡てを知るものに喩へる。〔唐書、殷踐猷傳〕博學尤通二氏族・曆數・醫方一、與二賀知章・陸象先・韋述一最善、知章嘗號爲二五總龜一、謂二龜千年五聚、問無レ不レ知也。〔顏眞卿、殷踐猷墓碑〕顏元孫・韋述・賀知章・陸象先與二踐猷一凡五人相聚、故曰二五總龜一。

【五總志】744 ゴソウシ 書名。一卷。宋、吳坰撰。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【五豵】745 ゴソウ 五匹の豵。豵は一歲の豚。〔詩、召南、騶虞〕彼茁者蓬、壹發五豵。〔傳〕一歲曰レ豵。

【五則】746 ゴソク ㊀標準となる五種のもの。規(ブンマハシ)・矩(サシガネ)・權(ハカリノオモリ)・衡(ハカリザヲ)・繩(スミナハ)。〔漢書、律歷志上〕權與レ物鈞、而生レ衡、衡運生レ規、規圜生レ矩、矩方生レ繩、繩直生レ準、準正則平レ衡而鈞レ權矣、是爲二五則一。〔小學紺珠、律歷類、五則〕權・衡・矩・規・繩。㊁王者の鑒むべき五つののり。天に象る、地に儀る、民を和す、時に順ふ、神に共す。〔國語、周語下〕上不レ象レ天、而下不レ儀レ地、中不レ龢レ民、而方不レ順レ時、不レ共二神祇一、而蔑二棄五則一。〔注〕則、法也、謂二象レ天、儀レ地、和レ民、順レ時、共レ神也。〔小學紺珠、治道類、五則〕象レ天、儀レ地、和レ民、順レ時、共レ神。

【五俗】747 ゴゾク 詩を作る上の五つの俗習。俗體・俗意・俗句・俗字・俗韻。〔滄浪詩話〕詩要レ去二五俗一、俗體・俗意・俗句・俗字・俗韻。

【五族】748 ゴゾク ㊀五つの氏族。〔左氏、襄、十〕初子駟爲二田洫一、司氏・堵氏・侯氏・子師氏、皆喪二田焉一、故五族、聚二羣不逞之人一、因二公子之徒一、以作レ亂。㊁五つの親族 〔漢書、王溫舒傳〕古有二三族一、而王溫舒罪、至二同レ時而五族一乎。〔注〕溫舒與レ弟同三族、而兩妻家各一、故爲レ五也。〔王禹偁、一品孫鄭昱詩〕五族不レ力レ穡、終歲飽且溫。㊂五百家の稱。古、戶口の制、五家を隣、五隣を里、四里を族、五族を黨といふ。〔周禮、地官、大司徒〕令二五家爲レ比、使二之相保一、五比爲レ閭、使二之相受一、四閭爲レ族、使二之相葬一、五族爲レ黨、使二之相

救二五黨爲レ州、使二之相賙一、五州爲レ鄉、使二之相賓一。〔注〕族、百家、黨、五百家。〔漢書、食貨志〕五家爲レ鄰、五鄰爲レ里、四里爲レ族、五族爲レ黨。❹高句麗の五つの部族。削奴・絕奴・順奴・灌奴・桂婁。〔後漢書、東夷傳、高句麗〕凡有二五族一、有二削奴部・絕奴部・順奴部・灌奴部・桂婁部一。❺宮妃の五族。婕妤・容華・充華・承徽・列榮をいふ。〔南史、后妃傳序〕明帝泰始二年、婕妤・容華・充華・承徽・列榮、凡五職、亞二九嬪一。❻五つの民族。(イ)漢族・滿洲族・蒙古族・回族・西藏族をいふ。(ロ)滿洲國で滿・漢・蒙・日・鮮の五民族をいつた。

【五族共和】749 ゴゾクキョウワ 漢・滿・蒙・回・藏の五民族が共和する。清末の辛亥革命當時、清朝打倒の標語として伍廷芳等が唱へ始め、中國が中華民國として漢・滿・蒙・回・藏の五族を合せた共和國となるに及んで、益〻この語が用ひられるに至つた。

【五粟】750 ゴゾク 最良の土質をいふ。〔管子、地員〕羣土之長、是唯五粟、五粟之物、或赤或青或白或黑或黃、五粟五章、五粟之狀、淖而不レ肕、剛而不レ觳、不レ濘二車輪一、不レ汙二手足一。

【五屬】751 ゴゾク ❶五服の同族。卽ち斬衰・齊衰・大功・小功・緦麻の親に當るものをいふ。五服(977)の❶を見よ。〔漢書、韋玄成傳〕人親二五屬一。〔注〕師古曰、五屬、謂二同族之五服、斬衰・齊衰・大功・小功・緦麻一也。〔後漢書、靈帝紀〕錮及二五屬一。〔白虎通、嫁娶〕使レ教二宗室五屬之女一。〔小學紺珠、人倫類、五屬〕斬衰・齊衰・大功・小功・緦麻。❷管仲の定めた制度で、四萬五千家をいふ。五家を軌、六軌を邑、十邑を率、十率を鄉、三鄉を屬といひ、五屬に一大夫を置く。〔管子、小匡〕制二五家一爲レ軌、軌有レ長、六軌爲レ邑、邑有レ司、十邑爲レ率、率有レ長、十率爲レ鄉、鄉有二良人一、三鄉爲レ屬、屬有レ帥、五屬一大夫、武政聽レ屬。❸よろひの札を五枚綴り合せること。〔周禮、考工記、函人〕函人爲レ甲、犀甲七屬、兕甲六屬、合甲五屬。〔注〕屬、讀如二灌注之注一、謂二上旅下旅札續之數一也、革堅者札長。〔疏〕云三屬讀如二灌注之注一者、義取二注著之意一也、云二上旅下旅札續之數也一者、謂三上旅之中、及下旅之中、皆有二札續一、一葉爲二一札一、上旅之中、續札七節六節五節、下旅之中、亦有二此節一、故云二札續之數也一、云二堅者札長一者、則五屬者、以二其堅壽年多一、卽下經三百年者也。❹宋代の祕書省の五つの屬官。著作郎・著作佐郎・祕書郎・校書郎・正字。〔宋史、職官志〕祕書省、云云、其屬有レ五、著作郎一人、著作佐郎二人、掌三修二纂日歷一、祕書郎二人、掌三集賢院・史館・昭文館・祕閣圖籍一、以二甲乙丙丁一爲レ部、各分二其類一、校書郎四人、正字二人、掌下校二讎典籍一、判中正訛謬上、各以二其職一、隷二於長貳一。

【五屬大夫】752 ゴゾクタイフ 五屬に置く大夫。五屬の❷を見よ。〔國語、齊語〕正月之朝、五屬大夫復レ事。〔管子、小匡〕五屬大夫、復二事於公一。

【五卒】753 ゴソツ 人卒五百人。周の制度で、五人を伍、五伍を兩、四兩を卒、五卒を旅、五旅を師、五師を軍といふ。〔周禮、地官、小司徒〕乃會二萬民之卒伍一而用レ之、五人爲レ伍、五伍爲レ兩、四兩爲レ卒、五卒爲レ旅、五旅爲レ師、五師爲レ軍。

【五損】754 ゴソン 健康を損ずる五つのこと。肺を損ずれば皮が槁れ毛が落ち、心を損ずれば血脈が虛少し、脾を損ずれば肌肉が消脫し、肝を損ずれば筋が緩んで收まらず、腎を損ずれば骨が痿して起たぬ。〔扁鵲難經、虛損〕損脈之爲レ病奈何、然、一損、損二於皮毛一、皮聚而毛落、二損、損二於血脈一、血脈虛少、不レ能レ榮二於五臟六腑一、三損、損二於肌肉一、肌肉消瘦、飮食不レ能レ爲二肌膚一、四損、損二於筋一、筋緩不レ能二自收持一、五損、損二於骨一、骨痿不レ能レ起二於牀一、反レ此者、至二於收一病也、從レ上下者、骨痿不レ能レ起二於牀一者死、從レ下上者、皮聚而毛落者死。〔景岳全書、論難經損證〕故一損、損二於腎一、則病爲二泉源乾涸一、二損、損二於肝一、則病爲二血動筋枯一、三損、損二於脾一、則病爲二痰涎壅盛一、四損、損二於心一、則病爲二神魂失レ守、五損損二於肺一、則病爲二喘急短氣一。

【五朶】755 ゴダ ❶五つの花びら。又、其の形をなすもの。〔成廷珪、宿二崇明寺海雲樓一詩〕他時夜月來相覓、笑指狼峯五朶青。❷山名。河南省鎭平縣の西北。本名は岐棘山。訛して騎立山といふ。金の天興元年、思烈が制を承けて黃摑三合五朶山一帶の行元帥府事を授けられた。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鎭平縣〕騎立山、縣西北五十里、云云、亦曰二五朶山一。

【五朶雲】756 ゴダウン 五朶の形をした雲。唐の韋陟が己の書風を稱した語。〔唐書、韋陟傳〕陟常以二五采牋一爲二書記一、使二侍妾主一レ之、其裁答受レ意而已、皆有二楷法一、陟惟署レ名、自謂、所レ書陟字、若二五朶雲一、時人慕レ之、號二郇公五雲體一。

【五紽】757 ゴダ 縫目の五つの飾。菊とぢの如きもの。〔詩、召南、羔羊〕羔羊之皮、素絲五紽。〔傳〕紽、數也、古者素絲以英レ裘。〔集傳〕紽、未レ詳、蓋以レ絲飾レ裘之名。

【五蛇】758 ゴダ 五匹のへび。春秋、晉の文公に從つて天下を周流した狐偃・趙衰・魏武子・司空季子及び介子推の五人をいふ。〔史記、晉世家〕龍欲レ上レ天、五蛇爲レ輔。〔注〕索隱曰、龍喩二重耳一、五蛇、卽五臣、狐偃・趙衰・魏武子・司空季子及子推也、舊云、五臣有二先軫・顚頡一、今恐二一人非二其數一。

【五泰】759 ゴタイ 五帝(848)の❶をいふ。〔荀子、賦〕請占二之五泰一。〔注〕五泰、五帝也。

【五帶】760 ゴタイ 地文學用語。熱帶・南溫帶・北溫帶・南寒帶・北寒帶の倂稱。

【五體】761 ゴタイ ❶五種の體裁。五種のかたち。〔漢書、律歷志上〕元始有レ象一也、春秋二也、三統三也、四時四也、合而爲レ十、成二五體一。❷杜預の說く春秋經の五體。微にして顯、志して晦、婉にして章を成す、盡くして汙ならず、惡を懲して善を勸む。五情。〔杜預、春秋左氏傳序〕故發レ傳之體有レ三、而爲レ例之情有レ五、一曰、微而顯、文見二於此一、而起レ義在レ彼、稱レ族尊二君命一、舍レ族尊二夫人一、梁亡、城二緣陵一之類、是也、二曰、志而晦、約レ言示レ制、推以知レ例、參會不レ地、與謀曰レ及之類、是也、三曰、婉而成レ章、曲從二義訓一、以示二大順一、諸所二諱辟一、璧假二許田一之類、是也、四曰、盡而不レ汙、直書二其事一、具レ文見レ意、丹レ楹刻レ桷、天王求レ車、齊侯獻レ捷之類、是也、五曰、懲レ惡而勸レ善、求レ名而亡、欲レ蓋而章、書二齊豹盜一、三叛人名之類、是也、推二此五體一、以尋二經傳一、觸レ類而長レ之。〔疏〕傳體有レ三、卽上文發凡正例、新意變例、歸趣非例、是也、爲レ例之情有レ五、則下文五曰、是也、書レ經有二此五情一、緣レ經以求レ義爲レ例、言、傳爲レ經發レ例、其體有二此五事一。❸五つの書體。(イ)篆・八分・眞・行・草。〔小學紺珠、藝文類、五體千文〕篆・八分・眞・行・草。〔任玠、玉海序〕范度五體書云、五體、曰篆、曰八分、曰眞、曰行、曰草、其體雖レ五、其流惟三。(ロ)古文・大篆・小篆・八分・隷書・草書。五變(999)の❷の(イ)を見よ。(ハ)小篆・八分・隷書・行書・草書。五變(999)の❷の(ロ)を見よ。(ニ)古文・大篆・小篆・八分・隷書。〔唐六典、祕書省〕唐校書郎正字、掌下讎二校典籍一、刊中正文字上、其體有レ五、一曰古文、廢而不レ用、二曰大篆、惟石經載レ之、三曰小篆、印璽旛碣所レ用、四曰八分、石經碑碣所レ用、五曰隷書、典籍表奏公私文疏所レ用。(ホ)眞・行・草・隷・篆。〔翰墨志〕宋高宗云、士人作レ字、有下眞行草隷篆五體上、往往篆隷各成二一家一、眞行草自成二一家一者上。❹佛身體の五つの部分。卽ち筋・脈・肉・骨・毛皮、或は右膝・左膝・右手・左手・頭首の倂稱。轉じて、全身・總身の義。〔長阿含經〕二肘二膝頭項、謂二之五輪一、輪、圓轉之義也、亦云二五體一矣。〔資持記、下、三之二〕四支及首、名爲二五體一。

【五體投地】762 ゴタイトウチ 佛五體を地に投ずる敬禮。跪拜する。最上の禮。〔行事鈔、下之三〕地持當二五輪至一レ地作レ禮、阿含云、二肘二膝頂名レ輪也、亦云二五體投地一、先正立已、合掌、右手褰レ衣、屈二二膝一已、次屈二兩手一、以レ手承レ足、然後頂禮、起二頂頭一、次肘、次膝、以爲二次第一。〔法苑珠林〕五體投地、禮二於聖王一。〔通俗編、釋道、五體投地〕翻譯名義、雙膝雙肘及頂至レ地、名二五體投地一。

【五大】763 ゴダイ ❶五つの尊貴な身分。大子・母弟・貴寵公子・公孫・累世の正卿。〔左氏、昭、十一〕五大不レ在レ邊、五細不レ在レ庭。〔疏〕賈逵云、五大、謂二大子・母弟・貴寵公子・公孫・累世正卿一也。❷五種の大きな仕事。知・武・工・商・農。〔逸周書、文酌解〕五大、一、大知、率レ謀、二、大武、劍レ勇、三、大工、賦レ事、四、大商、行レ賄、五、大農、假レ貸。〔集訓校釋〕劍、斂也、斂二小勇一以養二大勇一也。❸佛宇宙を構成してゐる五つの要素、地・水・火・風・空。〔唯識述記、一末〕五大者、謂二地・水・火・風・空一。

〔五大院〕764 ゴダイン 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

〔五大行〕765 wu³ ta⁴ hang² 人間生活に必要と考へられる糧食・布(衣)・煙草・茶・酒の五種の商業の總稱。行は銀行などの行に同じ。

〔五大觀〕766 ゴダイカン 㮈地水火風空の五大を觀ずること。卽ち自己の五大を觀じて宇宙若くは法身の五大と融合させ、遂に自己と宇宙・法身と一如の境地に到達すること。五輪觀。〔守護國經、二〕想二其身一、成二迦樓羅一、作二五大觀一、一者觀レ地作二白色觀一、二者觀レ水作二綠色觀一、三者觀レ火作二黃赤色觀一、四者、觀レ風作二黑色觀一、五者、觀レ空作二青色觀一。

〔五大洲〕767 ゴダイシウ 五大陸。五洲。五世界。亞細亞・亞弗利加・歐羅巴・亞米利加・濠斯太剌利亞。〔明史、意大里亞傳〕意大里亞、居二大西洋中一、自レ古不レ通二中國一、萬曆時、其國人利瑪竇至二京師一、爲二萬國全圖一、言、天下有二五大洲一、第一曰二亞細亞洲一、中凡百餘國、而中國居二其一第一曰二歐羅巴洲一、中凡七十餘國、而意大里亞居二其一一、第三曰二利未亞洲一、亦百餘國、第四曰二亞墨利加洲一、地更大、以境土相連二、分爲二南北二洲一、最後得二墨瓦臘泥加洲一、爲第五一而域中大地盡矣、其說荒渺莫レ考、然其國人充二斥中土一、則其地固有レ之、不レ可レ誣也。

〔五大仙〕768 wu³ ta⁴ hsien¹ 狐・柳・黃・白・灰の五仙をいふ。狐仙は狐、柳仙は蛇、黃仙は黃鼠狼イタチ、白仙は刺蝟、灰仙は鼠。

〔五大戰〕769 ゴダイセン 春秋時代の五つの大きな戰。一、城濮の戰。魯、僖公二十八年、晉、楚を破る。二、殽の戰。魯、僖公三十三年、晉、秦を破る。三、邲の戰。魯、宣公十二年、楚、晉を破る。四、鞌の戰。魯、成公二年、晉、齊を破る。五、鄢の戰。魯、成公十六年、晉、楚を破る。右の五つに更に韓の戰(魯、僖公十五年、秦、晉を破る)を加へて六大戰ともいふ。六大戰(2－1453‥420)を見よ。〔春秋、僖、二十八〕夏四月己巳、晉侯・齊師・宋師・秦師、及二楚人一戰二于城濮一、楚師敗績。〔春秋、僖、三十三〕夏四月辛巳、晉人及二姜戎一敗二秦師于殽一。〔春秋、宣、十二〕夏六月乙卯、晉荀林父帥レ師、及二楚子一戰二于邲一、晉師敗績。〔春秋、成、二〕六月癸酉、季孫行父・臧孫許・叔孫僑如・公孫嬰齊帥レ師、會二晉郤克・衞孫良夫・曹公子首一、及二齊侯一戰二于鞌一、齊師敗績。〔春秋、成、十六〕六月丙寅朔、日有レ食レ之、晉侯使二欒黶來乞一レ師、甲午晦、晉侯及二楚子一、鄭伯一、戰二于鄢陵一、楚子鄭師敗績。

〔五大尊〕770 ゴダイソン 㮈不動・降三世・軍荼利・大威德・金剛夜叉の五大明王。〔二中歷、三〕五大尊、不動・降三世・軍荼利・大威德・金剛夜叉。

〔五大堂〕771 ゴダイダウ 㮈五大尊を安置する堂。〔扶桑略記、二十八〕治安二年七月十四日、五大堂、同以造立。

〔五大夫〕772 ゴダイフ ㊀五人の大夫。㋑越王句踐の五人の大夫。舌庸・苦成・大夫種・范蠡・皐如。〔國語、吳語〕越王句踐、乃召二五大夫一。〔注〕五大夫、舌庸・苦成・大夫種・范蠡・皐如之屬。〔小學紺珠、名臣類、越五大夫〕舌庸・苦成・大夫種・范蠡・皐如。㋺戰國、魏の五人の大夫。吳起・西門豹・北門可・樂羊・李克。〔說苑、臣術〕翟黃對曰、昔者西河無レ守、臣進二吳起一、而西河之外寧、鄴無レ令、臣進二西門豹一、而魏無二齊憂一、魏欲レ攻二中山一、臣進二樂羊一、而中山拔、魏無レ使レ治之臣、臣進二李克一、而魏國大治、是以進二五大夫者一、爵祿倍、以レ故至二於此一。〔小學紺珠、名臣類、五大夫〕吳起・西門豹・北門可・樂羊・李克。㊁秦の爵名。下から第九位。〔史記、秦紀〕武王二年、初置二丞相一。〔注〕集解曰、漢書曰、其爵名、九、五大夫。〔漢書、百官公卿表上〕爵一級曰二公士一、云云、九、五大夫。㊂松の異名。秦の始皇帝が泰山を封じての歸り途に、雨宿りした松を封じて五大夫とした故事。五松(588)の㊀を見よ。〔史記、秦始皇紀〕始皇東行二郡縣一、乃遂上二泰山一、立石封祠祀一、下、風雨暴至、休二於樹下一、因封二其樹一、爲二五大夫一。〔藝文類聚、木部〕應劭漢官儀曰、秦始皇、上封二泰山一、逢二疾風暴雨一、賴得二松樹一、因復二其下一、封爲二五大夫一。

〔五大洋〕773 ゴダイヤウ 五つの大洋。太平洋・大西洋・印度洋・南氷洋・北氷洋。

〔五大老〕774 ゴタイラウ 豐臣秀吉の設定した五人の大老職。德川家康・前田利家・浮田秀家・上杉景勝・毛利輝元。〔日本外史、足利氏後記、上杉氏〕以二景勝與二德川・前田・毛利・浮田氏一、竝稱二五大老一、與爲二盟約一。

〔五大力〕775 ゴダイリキ 內海を航行する荷船。傳馬よりは稍〻大きなもの。

〔五大夫城〕776 ゴダイフジヤウ 地名。河北省易縣の境に當る。一名、五公城。〔水經、易水注〕易水出二西山寬中谷一、東逕二五大夫城南一、昔北平侯王譚、不レ從二王莽之政一、子興生二五子一、並避二時亂一、隱二居此山一、故其舊居、世以爲二五大夫城一。

〔五大民族〕777 ゴダイミンゾク ㊀漢・滿・蒙・回・藏の五民族。五族。〔袁世凱、大總統誓詞〕祈二達二國家於安全彊固之域一、俾中五大民族同臻二樂利一。㊁五大洲に住んでゐる人種。

〔五大力菩薩〕778 ゴダイリキボサツ 㮈金剛吼・龍王吼・無畏十力吼・雷電吼・無量力吼。國王が三寶を信ずれば、佛は五大力菩薩を遣はして其の國を護らせる。〔舊譯仁王經、受持品〕我使二五大力菩薩護二其國一、一、金剛吼菩薩、二、龍王吼菩薩、三、無畏十力吼菩薩、四、雷電吼菩薩、五、無量力吼菩薩。

〔五大土木事業〕779 wu³ ta⁴ t'u³ mu⁴ shih⁴ yeh⁴ 大運河、萬里の長城、杭州海塘、四川省灌縣の灌漑法、四川省自流井の鹽井。

〔五代〕780 ゴダイ ㊀五つの時代。㋑唐・虞・夏・殷・周。五世。〔禮、祭法〕此五代之所レ不レ變也。〔集說〕五代、唐虞三代也。〔孔穎達、尙書正義序〕上斷二唐虞一、下終二秦魯一、時經二五代一、書摠二百篇一。〔小學紺珠、歷代類、五代、唐・虞・夏・殷・周〕㋺黃帝・唐・虞・夏・殷。〔禮、祭法〕大凡生於天地之間者、皆曰レ命、其萬物死、皆曰レ折、人死曰レ鬼、此五代之所レ不レ變也。〔注〕五代、謂二黃帝・堯・舜・禹・湯一、周之禮樂所レ存法也。〔小學紺珠、歷代類、五代〕黃帝・堯・舜・禹・湯。㋩唐末に起つた五つの國。梁・唐・晉・漢・周。五姓。〔宋史、太祖紀三〕謂二宰相一曰、五代諸侯跋扈、有二枉レ法殺二人者一。〔小學紺珠、歷代類、五代〕梁・唐・晉・漢・周。

〔五代史〕781 ゴダイシ 書名。㊀百五十卷。宋、薛居正等奉勅撰。歐陽脩私撰の新五代史に對して之を舊五代史といふ。舊五代史(9－30249‥37)を見よ。〔四庫提要、史、正史類〕。㊁七十五卷。宋、歐陽脩私撰。新五代史(5－13572‥635)を見よ。〔四庫提要、史、正史類〕。

〔參考書〕【補五代史藝文志】一卷。清、顧櫰三撰。〔鶴齋叢書、第二集〕。〔金陵叢書〕。

〔五代書〕782 ゴダイシ 宋、歐陽脩撰の新五代史をいふ。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕予於二五代書一、竊有二善レ善惡レ惡之志一。

〔五代會要〕783 ゴダイクワイエウ 書名。三十卷。宋、王溥撰。凡て二百八十有二目。體裁は大體唐會要と同じく、帝號を首とし、皇后諸王之に次ぎ、更に法度典章を類別する。〔四庫提要、史、政書類〕。

〔五代史補〕784 ゴダイシホ 書名。五卷。宋、陶岳撰。〔四庫提要、史、雜史類〕。

〔五代詩話〕785 ゴダイシワ 書名。十卷。清、鄭方坤撰。王士禎の五代詩話の未成稿を得て完成したもの。士禎の原本六百四十二條の中、二百十六條を刪り、七百八十九條を增補す。凡て國主宗室、中朝、唐、前南蜀後蜀、吳越南唐、閩、楚荊南、宮闈仙鬼緇流、羽士鬼怪、雜綴に分れる。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

〔五代十國〕786 ゴダイジフコク 唐から宋までの間に、中原の地に據つた五代の五國と、別に一地方に國を建てた前蜀・後蜀・吳・楚・閩・吳越・南漢・北漢・荊南・南唐の十國とをいふ。

〔五代同堂〕787 ゴダイドウタウオナジクス 五代に亘る一族のものが同居すること。五世同堂(686)に同じ。〔皇朝通典、禮典、嘉、優老〕乾隆五十年諭、朕仰承二天眷一、上二年喜、得二五世元孫一、嘉慶駢臻、恩賜宜渥、因令二各省督撫一、查明所屬紳士庶民一、有下身及二五代一同上堂者加二恩賞一。

〔五代史闕文〕788 ゴダイシケツブン 書名。一卷。宋、王禹偁撰。〔四庫提要、史、雜史類〕。

〔五代史平話〕789 ゴダイシヘイワ 宋代小說の名。凡て二本から成る。說五代史の話本で、中國の開闢から說き起して、唐末五代の興亡を說いたもの。

〔五代漢隱帝陵〕790 ゴダイカンインテイノリヤウ 嶺陵(8－25267‥30)見よ。

〔五代漢高祖陵〕791 ゴダイカンカウソノリヤウ 睿陵(8－23536‥53)の㊀を見よ。

〔五代史記纂語〕792 ゴダイシキサンゴ　書名。三卷。宋、吳縝撰。〔四庫提要、史、正史類〕。

〔五代晉高祖陵〕793 ゴダイシンカウソノリヨウ　顯陵（12－4372 6‥151）の㊀を見よ。

〔五代名畫補遺〕794 ゴダイメイグワホヰ　書名。一卷。宋、劉道醇撰。錄する所凡て二十四人。〔四庫提要、子、藝術類〕。

〔五代梁少帝陵〕795 ゴダイリヤウセウテイノリヨウ　河南省洛陽縣東南の伊闕に在る。〔河南通志〕少帝陵、在二河南府城東南伊闕一。

〔五代梁太祖陵〕796 ゴダイリヤウタイソノリヨウ　宣陵（3－7132‥246）の㊁を見よ。

【五臺】797 ゴダイ　㊀山名。山西省五臺縣の東北にあり、繁峙縣の西北に當る。淸涼山（華嚴經疏）・紫府山（道經）ともいふ。五峯が聳立して雲表に出で、山頂は平で樹木はない。東西南北の四臺は皆中臺から脈を發し、北臺は最高で一萬三百餘尺、大刹は皆中臺の下に在る。僧侶は靑衣僧（尋常の僧）と黃衣僧（喇嘛僧）とあり、各〻著名な大寺十數を有つてゐる。喇嘛僧中の札薩克は菩薩頂の眞容院に居つて職位が頗る尊い。〔張商英、五臺山詩〕五頂嵯峨接二太虛一、就中偏稱道人居。〔李師聖、遊二五臺一感二神燈示現一詩〕梵書五頂淸涼府、冬冰夏雪無二炎暑一。〔讀史方輿紀要、山西、名山〕五臺山、在二太原府代州五臺縣東北百四十里一云云、名山志、五臺山、五峯聳立、高出二雲表一、山頂無二林木一、有レ如二壘土之臺一、故曰二五臺一。㊁縣名。隋、置く。漢の慮虒縣に當る。山西省定襄縣の東北。五臺山に因つて名づけられた。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、代州〕五臺縣、漢慮虒縣、屬二太原郡一云云、隋大業初、改曰二五臺一、因レ山以名也。〔清史稿、地理志〕山西、代州直隸州、縣三、五臺。㊂字號。㋑明、陸光祖（11－41708‥301）の號。㋺明、林文卿（6－14551‥421）の號。

(古今圖書集成)　五　臺　山

【五道】798 ゴダウ　㊀五つの道路。〔南史、呂僧珍傳〕建武二年、魏軍南攻、五道並進。〔王昌齡、塞上曲〕五道分レ兵去、孤軍百戰場。㊁體・目・耳・口・志の五つを養ふ方法。〔呂覽、孝行〕養有二五道一、脩二宮室一、安二牀第一、節二飮食一、養レ體之道也、樹二五色一、施二五采一、列二文章一、養レ目之道也、正二六律一、龢二五聲一、雜二八音一、養レ耳之道也、熟二五穀一、烹二六畜一、龢二煎調一、養レ口之道也、龢二顏色一、說二言語一、敬二進退一、養レ志之道也、此五者、代進而厚用レ之、可レ謂二善養一矣。㊂道家で天・人・禽獸・餓鬼・地獄をいふ。〔雲笈七籤〕。㊃遼は國内を五道に分けて、上京道・東京道・中京道・南京道・西京道とした。五京。〔遼志、地理志一〕太宗以二皇都一爲二上京一、升二幽州一爲二南京一、改二南京一爲二東京一、聖宗城二中京一、興宗升二雲州一爲二西京一、於レ是、五京備焉。㊄佛天・人・地獄・畜生・餓鬼。五趣。〔菩薩處胎經〕五道神識、盡能得レ知二彼善惡趣一。

〔五道廟〕799 ゴダウベウ　北京前門外に在る廟。〔北京指南、名勝、廟宇、五道廟〕在二虎坊橋東一、迤北廟旁、有二玉皇殿一、据二明兵部尙書王象碑一記稱、斯地爲二正陽宣武二門龍脈交通之地一、因括二其意一、名二其碑一曰二交龍碑一。

〔五道將軍〕800 ゴダウシヤウグン　盜神の名。盜にも聖・勇・義・智・仁の五つの道德があることからいふ。莊子、胠篋篇に本づく。〔三國典略〕崔季舒未レ遇レ害、其妻晝魘、云見二人長一丈一、徧體黑毛、欲二來逼一レ己、巫曰、此是五道將軍、入レ宅者不祥。〔留靑日札〕今謂二五道將軍一、盜神也、余意、出二于莊子胠篋篇一、妄意二室中之藏一、聖也、入先、勇也、出後、義也、知二可否一、智也、分均、仁也、是五者、豈所謂五道耶。

【五濁】801 ゴダク　㊀此の世の五つのけがれ。〔漢武帝內傳〕五濁之人、耽レ酒榮レ利、嗜レ味淫レ色、固其常也。㊁佛ゴヂヨク　此の世に起る五つのけがれ。劫濁（時のけがれ）・煩惱濁（貪欲・嗔恚・愚癡の三毒を起す）・衆生濁（惡人のけがれ）・見濁（種種の惡見を起す）・命濁（人の壽命が漸次に縮まる）。五濁惡世を見よ。五滓。〔謝靈運、廬山慧遠法師誄〕令聲續振、五濁暫隆。〔琅琊代醉編、五濁〕五濁、劫濁・見濁・煩惱濁・衆生濁・命濁、彌陀經。

〔五濁塵〕802 ゴヂヨクヂン　佛五濁のある世の中。〔楞嚴經〕譬如下淸水投二之沙土一、土失留レ礙、水亡二淸潔一、汩然渾濁上、由二此五濁一、理水亡レ淸。

〔五濁惡世〕803 ゴヂヨクアクセ　佛五濁のある惡い世。末世の意。五濁の㊁を見よ。〔法華經、方便品〕諸佛出二於五濁惡世一、所謂劫濁・煩惱濁・衆生濁・見濁・命濁。

【五達】804 ゴタツ　五方に通ずる道。五つ辻。〔爾雅、釋宮〕五達、謂二之康一、六達、謂二之莊一。〔權德輿、廣陵詩〕八方稱二輻湊一、五達如二砥平一。

〔五達道〕805 ゴタツダウ　天下古今の共に由る所の五つの道。卽ち君臣・父子・夫婦・昆弟・朋友の道。〔中庸〕天下之達道五、云云、曰、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也、五者天下之達道也。〔章句〕達道者、天下古今所二共由一之路。〔小學紺珠、人倫類、五達道〕君臣・父子・夫婦・昆弟・朋友。

【五旦】806 ゴタン　㊀五聲の均を調へること。旦は均。五均（197）の㊀を見よ。〔通典、樂典、歷代製造〕調又有二五旦之名一、旦作二七調一、以二華言一譯レ之、旦者、則謂二之均一也、其聲亦應二黃鍾・太簇・林鍾・南呂・姑洗一。㊁あかつき。五曉。〔黃庭堅、再和レ寄二子瞻聞レ得湖州一詩〕相思欲二面論一、坐起雞五旦。㊂wu³ tan⁴ 崑劇中に出る俳優の種類。

【五疸】807 ゴタン　黃疸・穀疸・酒疸・黃胖疸（黃汗）・女勞疸の五種の疸病。〔千金方、論證〕疸有二五種一、有二黃疸・黃疸・穀疸・酒疸・女勞疸一。

【五淡】808 ゴタン　佛淡味をいふ。七種の味の第五。〔阿含經〕一切味不レ過二八種一、一苦・二澀・三辛・四鹹・五淡・六甜・七不了味。

【五短】809 ゴタン　五つの短所。五長（823）の㊂を見よ。

【五潭】810 ゴタン　元、錢選（11－40563‥135）の號。

【五男】811 ゴダン　㊀五人の男子。〔漢書、陸賈傳〕賈有二五男一、迺出二所レ使越橐中裝一、賣二千金一、分二其子一。〔北史、隋宗室諸王、蔡景王整傳〕有二五男一、止教レ讀二論語孝經一而已。〔陶潛、責レ子詩〕雖レ有二五男兒一、總不レ好二紙筆一。㊁ゴナン　五番目の男の子。

【五男二女】812 ゴダンニヂヨ　五人の男の子と二人の女の子をもつことは、吉祥なりと傳へらる。〔詩、召南、何彼襛矣序、疏〕皇甫謐云、武王五男二女。〔通俗編、祝誦、五男二女〕泉志、福慶錢文、曰二伍男貳女、參公玖卿一、東京夢華錄、凡孕婦八月、母家以レ盆盛二粟稈一、上插二花朶及通草一、帖羅二五男二女花樣一送レ之、夢粱錄、催妝用二五男二女花扇一。

【五地】813 ゴチ　五種類の土地。山林・川澤・丘陵・墳衍・原隰。五土（874）を見よ。〔周禮、地官、大司徒〕大司徒以二土會之法一、辨二五地之所レ生、一曰山林、二曰川澤、三曰丘陵、四曰墳衍、五曰原隰。〔注〕會、計也、以レ土計二貢稅之法一、因別二此五者一也。〔小學紺珠、地理類、五地〕山林・川澤・丘陵・墳衍・原隰。

【五知】814 チゴ　五つの知るべきこと。㊀宋の任布の作つた五知堂の故事。知恩・知道・知命・知足・知幸。〔宋史、任布傳〕布歸二洛中一、作二五知堂一、謂二知恩・知道・知命・知足・知幸一也。㊁宋の李繹の五知先生の故事。知時・知難・知命・知退・知足。〔宋史、李繹傳〕自以二久宦在一レ外、意不二自得一、作二五知先生傳一、謂二知時・知難・知命・知退・知足一也。〔研北雜誌〕李繹、若拙子、嘗作二五知

先生傳、謂二知時・知難・知命・知退・知足一也。

【五知堂】815ゴチダウ　宋、任布（1－416‥170）の室名。

五知の❶を見よ。

【五知先生】816ゴチセンセイ　宋、李繹（6－14459‥71）の號。五知の❶を見よ。

【五致】817チ　❶天下の禮を治める五つの方法。始に反ることを致す、鬼神を致す、物用を致す、義を致す、讓を致すの五つ。〔禮、祭義〕天下之禮、致レ反レ始也、致二鬼神一也、致二物用一也、致レ義也、致レ讓也、致レ反レ始、以厚二其本一也、致二鬼神一、以尊レ上也、致二物用一、以立二民紀一也、致レ義、則上下不二悖逆一矣、致レ讓、以去レ爭也、合二此五者一、以治二天下之禮一也、雖有二奇邪而不レ治者一、則微矣。〔小學紺珠、人倫類、五致〕致レ反レ始・致二鬼神一・致レ義・致レ讓。❶孝子が親に仕へるについて盡くすべき五つのこと。居には敬、養には樂、病には憂、喪には哀、祭には嚴の五者を盡くすをいふ。〔孝經、紀孝行章〕子曰、孝子之事レ親也、居則致二其敬一、養則致二其樂一、病則致二其憂一、喪則致二其哀一、祭則致二其嚴一。五者備矣、然後能事レ親。〔疏〕正義曰、致、猶レ盡也。〔小學紺珠、人倫類、五致〕君則致二其敬一、養則致二其樂一、病則致二其憂一、喪則致二其哀一、祭則致二其嚴一。

【五恥】818チ　五つの恥づべきこと。❶位に居つてそれに相應する言のないこと、其の言あつて其の行のないこと、既に之を得て又之を失ふこと、地餘りあつて民の足らぬこと、部下の衆寡均しくして他人の功の己に倍すること。〔禮、雜記下〕君子有二五恥一、居二其位一無二其言一、君子恥レ之、有二其言一無二其行一、君子恥レ之、既得レ之而又失レ之、君子恥レ之、地有レ餘而民不レ足、君子恥レ之、衆寡均而倍焉、君子恥レ之。❷禮の終らないこと、心中の誠が外貌に及ばぬこと、華侈で實のないこと、己の力を度らずして施すこと、施して其の施を成しとげ得ぬこと。〔國語、晉語四〕請使二衰從一、乃使二子餘從一、秦伯饗二公子一、如レ饗二國君一之禮上子餘相如賓、卒事、秦伯謂二其大夫一曰、爲レ禮而不レ終恥也、中不レ勝レ貌恥也、華而不レ實恥也、不レ度而施恥也、施而不レ濟恥也、恥門不レ閉、不レ可二以封一。〔注〕五恥之門、不二閉塞一者、不レ可二以封一國爲二諸侯一也。

【五智】819チ　㊀大日如來の具へてゐる五つのちゑ。法界體性智・大圓鏡智・平等性智・妙觀察智・成所作智。〔瑜祇經〕金剛界遍照如來、以二五智所一成四種法身一於二本有金剛界一、云云、光明心殿中一。

【五雉】820チ　❶少昊の時の官名。五工の長。〔左氏、昭、十七〕五雉爲二五工正一、利二器用一、正二度量一、夷二民者也。〔注〕五雉、雉有二五種一、西方曰二鷷雉一、東方曰二鸐雉一、南方曰二翟雉一、北方曰二鵹雉一、伊洛而南曰二翬雉一。❷高さ五丈をいふ。雉（11－419 87）の字解を見よ。〔周禮、考工記、匠人〕王宮門阿之制五雉、宮隅之制七雉、城隅之制九雉。〔注〕雉、長二三丈一、高一丈。〔疏〕五雉、謂二高五丈一。

【五痔】821ヂ　五つの痔疾の病名。牡痔・牝痔・脈痔・腸痔・血痔。〔千金方、五痔論〕夫五痔者、一曰牡痔、二曰牝痔、三曰脈痔、四曰腸痔、五曰血痔。

【五緐】822グヮン　豫め五年間を占ふこと。緐は占ふ意。〔班固、典引〕悉經二五緐之碩慮一矣。〔注〕蔡邕曰、緐、占也、王者巡狩、預下二五年一、歲習二其祥一、習則行、不則修レ德、而改レト、言天下已擧二五卜之占一而習レ吉也。〔謝莊、舞馬賦應レ詔〕感二五緐之程符一、鑒二羣后之荐典一。

【五長】823チャウ　❶五國の諸侯が、賢者一人を立てて方伯としたものをいふ。一說に、方毎に各〻五人を建てて之が長としたものをいふ。〔書、益稷〕外薄二四海一、咸建二五長一。〔傳〕諸侯五國、立二賢者一人一、爲二方伯一、謂二之五長一、以相統治、以弊二帝室一。〔蔡傳〕九州之外、迫二於四海一、每二方各建一五人一、以爲二之長一、而統二率之一也。❷伍長をいふ。伍長（1－435‥26）を見よ。〔漢書、韓延壽傳〕置二正五長一、相率以二孝弟一、不レ得レ舍二姦人一。〔注〕師古曰、正、若二今之鄉正里正一也、五長、同伍之中、置二一人一爲レ長也。❸五つの長所。〔唐書、王維傳〕弟縉爲二蜀州刺史一未レ還、維自表レ己有二五短一、縉五長上。

【五聽】824ゴチャウ　訟を聽く五つの法。辭聽・色聽・氣聽・耳聽・目聽。五聲（709）の❶に同じ。〔周禮、秋官、小司寇〕以二五聲一聽二獄訟一、求二民情一、一曰辭聽、二曰色聽、三曰氣聽、四曰耳聽、五曰目聽。〔荀子、成相〕五聽脩領。〔注〕五聽、折レ獄之五聽也。〔漢書、刑法志〕五聽、一曰辭聽、二曰色聽、三曰氣聽、四曰耳聽、五曰目聽。〔注〕師古曰、觀二其出レ言、不レ直則煩、觀二其顏色一、不レ直則變、觀二其氣息一、不レ直則喘、觀二其聽聆一、不レ直則惑、觀二其瞻視一、不レ直則亂。〔小學紺珠、治道類、五聽〕辭・色・氣・耳・目。

【五丈】825ヂャウ　一丈の五倍。〔周禮、考工記、匠人、注〕其城隅制、高七丈、宮隅門阿五丈。〔史記、李斯傳〕是故城高五丈、而樓季不二輕犯一也。

【五丈河】826カヂャウ　河の名。一名、廣濟河。河南省開封縣の北を流れる。〔宋史、河渠志四〕先レ是、五丈河泥淤、不レ利二行舟一。〔九域志〕五丈河、即禹貢之菏澤、從二都北一歷二陳留及鄆一、其廣五丈、舊名二五丈河一、開寶六年、詔改二名廣濟河一。

【五丈旗】827キヂャウ　五丈の長さのある旗。〔史記、秦始皇紀〕下可二以建一五丈旗一。

【五丈原】828ゲンヂャウ　地名。陝西省鳳翔縣。鄜縣の西南で蜀の諸葛武侯が本陣を設けた所。〔蜀志、諸葛亮傳〕建興十二年春、亮悉二大衆一、由二斜谷一出、以二流馬一運、據二武功五丈原一。〔水經、沔水注〕諸葛亮死二于五丈原一。

【五丈湖】829コヂャウ　湖の名。湖北省鄂城縣の南。一名、洋漫湖、又、羊欄湖、舊名は南湖、東は東湖と連なり、北流して大江に出る處に五丈閘がある。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、武昌縣〕南湖、縣東八里、一名、五丈湖、北流通レ江、夏則溢、冬則涸、云云、今名、羊欄湖。

【五中】830チウ　五臟。〔素問、陰陽類論〕黄帝燕坐、而問二雷公一曰、陰陽之類、經脈之道、五中所レ主、何藏最貴。〔注〕五中、謂二五藏一。

【五中陰】831ヂウイン　㊀人が死んでから未だ未來に生れぬ間。卽ち往・生・善・惡の五つのものの定まらぬ間。中陰（1－73‥36）を見よ。

【五蟲】832チウ　五種類の動物。羽蟲・毛蟲・甲蟲・鱗蟲・裸蟲。〔孔子家語、執轡〕故曰、羽蟲三百有六十、而鳳爲二之長一、毛蟲三百有六十、而麟爲二之長一、甲蟲三百有六十、而龜爲二之長一、鱗蟲三百有六十、而龍爲二之長一、裸蟲三百有六十、而人爲二之長一、此乾坤之美也。

【五恣】833ゴシ　管子に見える中位の土地。濕潤で密な地。〔管子、地員〕中土曰二五恣一、五恣之狀、廣焉如レ堰、潤濕以處。〔纂詁〕恣、密也。

【五女】834ゴヂョ　❶五人のむすめ。〔漢書、刑法志〕淳于公、無二男有一五女一、當二行會一逮、罵二其女一曰、生レ子不レ生レ男、緩急非レ有レ益也。〔後漢書、戴良傳〕初良五女並賢、每有二求婚一輒便許レ嫁。〔王建、宋氏五女詩〕五女誓終レ養、貞孝內自持。❷山名。山東省蒙陰縣の西南にある。一名、西五女山。東五女山は縣の東北にある。〔水經、泗水注〕桑泉水、北出二五女山一、東南流、巨圍水注レ之。❸激湍の名。〔水經、沔水注〕沔水北岸數里、有二大石激一、名曰二五女激一、或言、女父爲二人所一レ害、居二固城一、五女思レ復二父怨一、故立レ激以攻レ城。❹第五番目のむすめ。

【五女墓】835ゴヂョボ　墓の名。❶山東省聊城縣の西にある。宋の廷芬の五人の女を同穴に葬る。〔明一統志〕五女墓、在二東昌府聊城縣治西一、相傳、郡人無レ子、唯女五人、誓不レ適レ人、孝二養父母一、後卒同レ穴而葬。❷河北省大名縣。漢の淳于意の五人の女がその父を葬つた處。〔明一統志〕五女墓、在二大名府開州臨河廢縣西三十里一、漢太倉令淳于意、無レ子、有二五女一、意卒、五女葬二之于此墓一、高五丈。

【五女之門】836ゴヂョノモン　五人の女子のある門戶。盜不レ過二五女之門一（8－23006‥87）を見よ。

【五徵】837チテウ　書經、洪範の休徵、五つ。卽ち雨・暘・燠・寒・風。徵とは驗しるし。〔書、洪範〕五徵時序、百姓蕃考。

【五陳】838チン　五つの陣。❶兩・伍・專・參・偏。〔左氏、昭、元〕爲二五陳一、以相離、兩於レ前、伍於レ後、專爲二右角一、參爲二左角一、偏爲二前拒一。〔宋史、兵志九〕天地五行之數、不レ過レ五、五陳之變、出二於自然一。〔注〕五陳者、卽兩・伍・專・參・偏、是也。❷牝・方・圓・牡・伏。〔小學紺珠、制度類、五陳〕。❸方・圓・曲・直・銳。〔小學紺珠、制度類、五陳〕。

【五鎭】839チン　五方の鎭。鎭は鎭めとなる大山。❶五嶽（126）の❶に同じ。〔周禮、春官、大司樂、

四鎭五嶽、注〕岱在二兗州一、衡在二荊州一、華在二豫州一、嶽在二雍州一、恆在二幷州一。〔疏〕以下職方九州、州各有二鎭山一、皆曰二其大者一、以爲二州之鎭一、故云二山之重大者一也、但五州五鎭、得入二嶽名一、餘四州不レ得二嶽名一者、仍依レ舊爲二鎭號一、故四鎭也。〔崔融、上二尊號一表〕視二土公於五鎭一。㊀五嶽の外の五鎭。周禮、大司樂の四鎭に吳山を加へたもの。卽ち東鎭(沂山)・西鎭(吳山)・中鎭(霍山)・南鎭(會稽山)・北鎭(醫無閭山)。隋の開皇十四年、五鎭の神祠を立つ。〔隋書、禮儀志〕〔二〕開皇十四年閏十月詔、東鎭沂山、南鎭會稽山、北鎭醫無閭山、冀州鎭霍山、並就レ山立レ祠、東海於二會稽縣界一南海於二南海鎭南一、並近レ海立レ祠、及四瀆吳山、並取二側近巫一人一主二知灑掃一。

【五塵】840(ゴヂン) 㑹心の障礙となる五つのけがれ。五欲の對象たる色・聲・香・味・觸。塵は汚の意。〔大藏法數〕塵卽垢染之義、謂二此五塵一能染二汗眞性一故也。

【五塵境】841(ゴヂンキャウ) 㑹色・聲・香・味・觸の五つのけがれた欲の世界。〔大藏法數〕從二十歲後一、貪欲轉盛、於二五塵境一四方馳求、是名爲レ取。

【五塵六欲】842(ゴヂンロクヨク) 㑹人心の欲。六欲は、色欲・形欲・威儀姿態欲・言語音聲欲・細滑欲・人相欲。五塵を見よ。〔止觀、四上〕五塵六欲、不レ暇二貪染一。

【五通】843(ゴツウ) ㊀淫邪の神の名。又、五聖・五顯靈公・五郎神ともいふ。明代、吳の地方で多く之を奉じた。能く婦女を魅惑すると傳ふ。清初、蘇州城西の楞伽山のものが最も著名である。康熙二十四年、湯斌が江蘇の巡撫となり、其の像を取つて太湖に投じた。〔留青日札〕五聖、卽五通神也、或謂、明太祖定二天下一、封二功臣一夢陣亡兵卒千萬請レ恤、太祖許、以二五人一爲レ伍、處處血食、命二江南一家立二尺五小廟一、俗稱二五聖堂一。〔蘇州府志〕五通廟、在二吳縣西南十五里一。〔陔餘叢考、五聖祠〕然王樵謂レ起二于明祖一、則未レ必然。按、夷堅志、林劉擧將レ赴レ解、禱二于錢塘門外九里西五聖行祀一云云、則五聖之祠、宋已有レ之、七修類稿又謂、五通神、卽五聖也。〔通俗編、神鬼、五通神〕龍城錄、柳州舊有レ鬼、名二五通一、余始到、不二之信一、一日偶發レ篋易レ衣、盡爲二灰燼一、乃爲レ文醮二訴于帝一、帝懇二我心一、遂爾龍城絕二妖邪之怪一云云、按、今委巷荒墟、多建二矮屋一、繪二版作一五神像一、祀レ之、謂二之五聖一、留青日札云、卽五通神也。㊁㑹五神通。㋑天眼通・天耳通・他心通・宿命通・如意通。天眼通とは色界の四大で造れる清淨の眼根を得て、色界及び欲界の六道中の諸物を一つとして照さざることなきもの。天耳通とは色界の四大で造れる清淨の耳根にて、能く一切の聲を聞くことを得るもの。他心通とは能く一切他人の心を知ることを得るもの。宿命通とは能く自心の宿世の事を知ることを得るもの。如意通とは飛行自在で、能く奇變を行ひ得るもの。一名、神境通・神足通。〔智度論〕㋺道通・神通・依通・報通・妖通。道通とは中道の理を證して、無心に物に應じ、執滯することのないもの。神通とは心を靜かにして物を照し、自身及び他人の宿命を明知するもの。依通とは術法に依つて通靈を得るもの。報通とは諸天の變化及び靈鬼を先知するもの。妖通とは狐狸や木石の精が人身に附いて靈慧ならしめるもの。

【五通仙】844(ゴツウセン) 㑹五神通を得た仙人の稱。卽ち外道のうちで有漏の禪定を修し、五神通までを得たもの。〔維摩經、不思議品〕我現離二婬欲一、爲二五通仙人一。

【五通嶺】845(ゴツウレイ) 地名。福建省同安縣の東南にある。宋の文天祥が幼主を輔け元兵を避けて此處を通つたと傳ふ。路旁に天祥が龍門の二字を書いた二巨石がある。〔讀史方輿紀要、福建、泉州府、同安縣〕五通嶺、縣東七十里、志云、宋幼主避二蒙古兵一至レ泉、云云、又至二莊坡尾一、是爲二五通嶺一、路旁二巨石夾峙、高四五丈、文信國題曰二龍門一。

【五痛】846(ゴツウ) 㑹殺・盜・婬・妄・酒の五つの惡行によつて受ける苦果。〔無量壽經、下〕處二於五惡・五痛・五燒之中一、爲二最劇苦一。

【五丁】847(ゴテイ) ㊀蜀王の五人の力士。〔揚雄、蜀王本紀〕天爲二蜀王一生二五丁力士一、能徙二蜀山一、秦王知二蜀王好一レ色、乃獻二美女五千人一于蜀王一、王遣二五丁一迎レ女、見二一大蛇入二山穴中一、五丁共引レ蛇、山乃崩、壓二五丁一、化爲レ石。〔水經、沔水注〕秦惠王欲レ伐レ蜀、而不レ知レ道、作二五石牛一、以金置二尾下一、言二能屎一金、蜀王負レ力、令二五丁引一レ之成レ道、秦使二張儀司馬錯一、尋レ路滅レ蜀、因曰二石牛道厥一、蓋因二而廣之矣一。〔華陽國志、蜀志〕蜀有二五丁力士一、能移レ山擧二萬鈞一。〔胡曾、金牛驛詩〕五丁不レ鑿二金牛路一、秦惠何由得レ併レ呑。㊁山名。陝西省寧羌縣の北にある。㊀を見よ。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、寧羌州〕五丁山、州北三十里、其峽曰二五丁峽一、亦曰二金牛峽一、相傳、卽秦作二五石牛一給レ蜀、蜀令二開道引一レ之處。

【五帝】848(ゴテイ) ㊀五人の人帝、又は天帝。人帝說は王肅等、天帝說は鄭玄等が其の代表者である。外に五行の神とする金鶚等の說などもある。㋑中國上代の五人の聖帝。五泰。〔周禮、地官、大司徒〕祀二五帝一、奉二牛牲一、羞二其肆一。㊁少昊金天氏(金德王)・顓頊高陽氏(水德王)・帝嚳高辛氏(木德王)・唐堯(火德王)・虞舜(土德王)。〔孔安國、尚書序〕・〔帝王世紀〕。㋺黃帝軒轅・顓頊高陽・帝嚳高辛・唐堯・虞舜。〔大戴禮、五帝德〕・〔世本〕・〔史記、五帝紀〕・〔孔子家語、五帝德〕。㋩大皞(配レ木)・炎帝(配レ火)・黃帝(配レ土)・少皞(配レ金)・顓頊(配レ水)。〔禮、月令〕・〔孔子家語、五帝〕。㋥包犧・神農・黃帝・堯・舜。〔皇王大紀〕。㋭太昊・炎帝・少昊・顓頊・黃帝。〔漢書、魏相傳〕。㋬五人の天帝をいふ。東方蒼帝、神名靈威仰、精爲二青龍一)・南方赤帝(神名赤熛怒、精爲二朱雀一)・中央黃帝(神名含樞紐、精爲二麒麟一)・西方白帝(神名白招拒、精爲二白虎一)・北方黑帝(神名叶光紀、精爲二玄武一)。〔周禮、天官、大宰、疏〕・〔河圖〕。㋣五行の神とする說。〔金鶚求古錄禮說〕五行氣行二於天一、質具二於地一、故在レ天有二五帝一、在レ地有二五神一。㊁孔子家語の篇名。

【五帝座】849(ゴテイザ) 太微垣中の星座。獅子座のβ星附近の五星。〔史記、天官書〕衡太微三光之廷。云云、其內五星、五帝坐。〔注〕正義曰、黃帝坐一星、在二太微宮中一、含樞紐之神、四星夾二黃帝坐一、蒼帝、東方靈威仰之神、赤帝、南方赤熛怒之神、白帝、西方白昭矩之神、黑帝、北方叶光紀之神、五帝並設、神靈集謀者也。

【五帝壇】850(ゴテイダン) 五帝を祭る壇。〔史記、封禪書〕遂因二其直一、北立二五帝壇一。

【五帝德】851(ゴテイトク) 篇名。㊀大戴禮の篇名。㊁孔子家語の篇名。

【五帝廟】852(ゴテイノビヤウ) 五帝を祀る廟。〔史記、封禪書〕五帝廟、南臨レ渭。

【五帝異制】853(ゴテイヰセイ) 五帝は其の時代によつて各〻制度を異にする。〔史記、三王世家〕昔五帝異レ制、周爵五等、春秋二等。

【五帝可レ六】854(ゴテイトスベシ) 古の五帝に陛下を加へて六帝とすべしとて、天子の德を稱へた語。魏の高堂隆の故事。〔魏志、高堂隆傳〕二王可レ四、五帝可レ六、豈惟殷宗轉レ禍爲レ福而已哉。

【五帝之書】855(ゴテイノショ) 五帝、小昊・顓頊・帝嚳・帝堯・帝舜の治績を述べた書物。〔周禮、春官、外史〕掌二三皇五帝之書一。

【五帝車舍】856(ゴテイノシヤシヤ) 五帝の車庫。〔史記、天官書〕五潢、五帝車舍。

【五帝三王樂】857(ゴテイサンワウノガク) 五帝及び三代の王者の音樂。咸池(黃帝)・九淵(少昊)・六莖(顓頊)・五英(帝嚳)・大章(堯)・大招(舜)・大夏(禹)・大濩(湯)・大武(武王)・勺(周公)。〔太平御覽、樂、歷代樂〕樂緯曰、黃帝之樂曰二咸池一、顓頊曰二六莖一、帝嚳曰二五英一、堯曰二大章一、舜曰二簫韶一、禹曰二大夏一、殷曰二大濩一、周曰レ勺、又曰二大武一。〔小學紺珠、制度類、五帝三王樂〕黃帝咸池・少昊九淵・顓頊六莖・帝嚳五英・堯大章・舜招・禹夏・湯濩・武王武・周公勺。

【五挺】858(ゴテイ) 五つの脡。挺は脡で臘(ロウ)、細長く伸びたほじし。〔儀禮、鄕飮酒禮〕薦二脯五挺一、橫二祭于其上一、出二自二左房一。〔注〕挺、猶レ臘也。

【五鼎】859(ゴテイ) 五種の肉味を盛つた五つの鼎。大夫の祭禮に神に供へるもの。轉じて、富貴の食事。〔孟子、梁惠王下〕或告二寡人一曰、孟子之後喪、踰二前喪一云云、曰何哉、君所謂踰者、前以レ士、後以二大夫一、前以二三鼎一、而後以二五鼎一與。〔注〕士祭二三鼎一、大夫祭五鼎故也。㊁羊・豕・膚・魚・腊。〔儀禮、少牢饋食禮〕雍人陳レ鼎五、二鼎在二羊鑊之西一、二鼎在二豕鑊之西一。〔注〕魚腊從レ羊、

膚從レ豕、統ニ於牲一。〔小學紺珠、器用類、五鼎〕羊・豕・膚・魚・臘。㊁牛・羊・豕・魚・麋。〔漢書、主父偃傳、五鼎食、注〕張晏曰、五鼎食、牛・羊・豕・魚・麋也。〔小學紺珠、器用類、五鼎〕牛・羊・豕・魚・麋。㊂羊・豕・腸胃・魚・臘。〔儀禮、聘禮、衆介皆少牢、注〕亦飪在レ西、鼎五、羊・豕・腸胃・魚・臘。〔小學紺珠、器用類、五鼎〕羊・豕・腸胃・魚・臘。

【五鼎食】860 ゴテイニクラフ 榮進して大夫となること。大夫の祭には五鼎の肉を供する。〔晉書、束皙傳〕夕宿ニ七娥之房一、朝享ニ五鼎之食一。

【五鼎烹】861 ゴテイニニラル 罪あつて鼎鑊で烹られること。不ニ五鼎食一死卽五鼎烹耳。〔陸游、當レ食歎詩〕貪夫五鼎烹、志士首陽餓。

【不ニ五鼎食一死卽五鼎烹耳】862 ゴテイニクラハズンバシシテスナハチゴテイニニラレンノミ 榮達して顯勢を極めることが出來ないなら、いつそ我儘して罪に死なう。漢の主父偃の故事。五鼎食を見よ。〔史記、主父偃傳〕且丈夫生不ニ五鼎食一、死卽五鼎烹耳。〔漢書、主父偃傳〕丈夫生不ニ五鼎食一、死則五鼎烹耳。

【五蹏】863 ゴテイ 五つのひづめ。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕霝電尞獲ニ白麟一、爰五止顯ニ黃德一。〔注〕師古曰、時白麟足有ニ五蹏一。

【五朝】864 ゴテウ ㊀五代の帝王。〔白居易、喜レ入ニ新年一自詠詩〕白鬚如レ雪五朝臣、又値新正第七旬。㊁五つの王朝。

【五朝紀事本末】865 ゴテウキジホンマツ 書名。九朝紀事本末(1―167‥754)を見よ。

【五朝詩別裁集】866 ゴテウシベツサイシフ 書名。八十卷。淸、沈德潛撰。唐(二十卷)・宋(八卷)・元(八卷、及び補遺)・明(十二卷)・淸(三十二卷)の五朝の詩を集む。別裁とは、區別して裁つ意。唐、杜少陵の詩の句、別ニ裁僞體一親ニ風雅一にとる。淸史稿、藝文志に著錄せらる。

【五調】867 ゴテウ ㊀五つの調子。平・淸・瑟・楚・側。〔小學紺珠、律歷類、五調〕平・淸・瑟・楚・側、宋書五調。㊁五つの音樂の調子。〔樂制篇〕本邦樂制、唯有ニ五調一、一曰越調、二曰平調、三曰雙調、四曰黃鐘、五曰盤涉調。㊂wu^3 $tiao^4$ 身體の頑健なのをいふ。

【五狄】868 ゴテキ 北狄の五種類。月支・穢貊・匈奴・單于・白屋の五つをいふ。五戎。〔爾雅、釋地、八狄、疏〕狄者、云云、其類有レ五、李巡云、一曰月支、二曰穢貊、三曰匈奴、四曰單于、五曰白屋。案、李巡所レ注爾雅本、謂ニ之四海一、下更有ニ三句一云、八蠻在ニ南方一、六戎在ニ西方一、五狄在ニ北方一、故得ニ此解一、孫炎郭氏諸本、皆無ニ此三句一。〔禮、明堂位〕六戎之國、西門之外、東面南上、五狄之國、北門之外、南面東上。〔疏〕其夷狄之名、此云ニ九夷・八蠻・六戎・五狄一、按、職方云、四夷・八蠻・七閩・九貉・五戎・六狄、云云、戎狄之數、或六或五、兩文異、爾雅雖レ有ニ與同一、皆數爾、無ニ別國之名一、不ニ甚明一、故不レ定也。〔白虎通、禮樂〕北方爲ニ五狄一。〔小學紺珠、地理類、五狄〕月支・穢貊・匈奴・單于・白屋。

【五的】869 ゴテキ 五つのまと。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕發ニ彼五的一、有レ酒斯飫。〔注〕善曰、毛詩曰、發ニ彼有的一、以祈ニ爾爵一、毛萇曰、的、射質也。

【五天】870 ゴテン 天竺。五天竺を見よ。〔王維、六祖能禪師碑銘〕譚笑語言、曾無ニ戲論一、故能五天重跡、百越稽首。〔李洞、送ニ三藏歸ニ西天國一詩〕五天到日應ニ頭白一、月落長安半夜鐘。

【五天竺】871 ゴテンヂク 古代印度を東・西・南・北・中の五つに區劃した稱。〔白居易、胡・吉等六賢云云詩〕除卻三山五天竺、人閒此會且應レ無。〔大唐西域記、二〕五印度之境、周九萬餘里、三垂大海、北背ニ雪山一、北廣南狹、形如ニ半月一。

【五典】872 ゴテン ㊀人のふみ行ふべき五つの道。五常。五倫。書經、舜典に愼徽ニ五典一、五典克從とあり、舜典の此の五つの人の道を解するに、二說が對立してゐる。一は左傳の「父の義、母の慈、兄の友、弟の恭、子の孝」とするものであり、二は孟子の「父子親有り、君臣義有り、夫婦別有り、長幼序有り、朋友信有り」とするものである。左傳說に贊するものには、書孔傳・司馬遷・應劭・鄭玄・孔穎達等があり、孟子說に贊するものには、淮南子・劉向・朱子・蔡沉・王陽明等があるが、君臣とか父子とかいふ相對的の人倫を合して其の閒の德を制定することは、思想的に見てやや後代のものであらうと考へられるし、左傳に引いてゐる康誥などには父不レ慈、子不レ祗、兄不レ友、弟不レ共、不ニ相及一也(僖公、三十三年)とも出てゐるから、舜典の解釋としては矢張り左傳說が古に近いものであらう。㋑左傳の說は、父義、母慈、兄友、弟恭、子孝とする。〔左氏、文、十八〕季文子使ニ太史克對一曰、云云、舜臣レ堯、云云、擧ニ八元一、使レ布ニ五教于四方一、父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、內平外成。〔毛奇齡、四書賸言補〕卽五帝紀ニ述五教一、亦無ニ異詞一、因レ之、孔安國註ニ虞書愼徽五典一曰、五典者、五常之教、父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、五者是也、至ニ五品不遜一、正義曰、五品、卽父母兄弟子五者、敬敷ニ五教一、正義謂、五教、卽教ニ之義慈友恭孝五者一。㋺孟子の說は、父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信とする。〔孟子、滕文公上〕人之有レ道也、飽食煖衣、逸居而無レ教、則近ニ於禽獸一、聖人有レ憂レ之、使ニ契爲ニ司徒一、教以ニ人倫一、父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信。〔焦循正義〕易家人彖傳云、父父、子子、兄兄、弟弟、夫夫、婦婦、而家道正、論語顏淵篇、孔子對ニ齊景公一曰、君君、臣臣、父父、子子、云、序卦傳云、有ニ夫婦一、而後有ニ父子一、有ニ父子一、而後有ニ君臣一、兌象傳、言ニ朋友講習一、則君臣夫婦朋友、與ニ父子兄弟一五者、自不レ可レ缺レ一、故趙氏合ニ易論語一而言、父父子子君君臣臣夫夫婦婦兄兄弟弟、又益以ニ朋友貴レ信也、是爲ニ契之所レ教、則五教之中、不レ得下偏ニ指父子兄弟一而缺中君臣夫婦朋友上矣。㊁古書の名。少昊・顓頊・高辛・唐・虞の書をいふ。〔左氏、昭、十二〕是能讀ニ三墳・五典・八索・九邱一。〔注〕皆古書名。〔孔安國、尙書序〕少昊・顓頊・高辛・唐・虞之書、謂ニ之五典一。〔小學紺珠、藝文類、五典〕少昊・顓頊・高辛・唐・虞之書。〔故事成語考、文事〕三墳五典、乃三皇五帝之書。㊂詩・書・易・禮・春秋。五經。〔後漢書、朱浮傳〕五典紀ニ國家之政一。〔注〕禮記曰、溫柔敦厚、詩教也、疏通知遠、書教也、潔靜精微、易教也、恭儉莊敬、禮教也、屬辭比事、春秋教也。

【五傳】873 ゴデン 春秋の五家の傳。左氏・公羊氏・穀梁氏・鄒氏・夾氏。〔漢書、藝文志〕春秋分爲レ五。〔注〕韋昭曰、謂ニ左氏・公羊氏・穀梁氏・鄒氏・夾氏一也。〔唐玄宗、孝經註序〕魯史春秋學開ニ五傳一。〔小學紺珠、藝文類、五傳〕左氏・公羊・穀梁、幷ニ鄒氏・夾氏一、爲ニ五傳一。

【五土】874 ゴド 土地の五つの種類。山林・川澤・丘陵・墳衍(岡地と平地)・原隰ゲンシフ(高原と卑濕の地)。五地(813)を見よ。〔周禮、地官、大司徒〕辨ニ其山林・川澤・丘陵・墳衍・原隰之名物一。〔說苑、辨物〕五土之宜。〔後漢書、明帝紀〕今五土之宜、反ニ其正色一。〔注〕周禮曰、山林・川澤・丘陵・墳衍・原隰、謂ニ之五土一也。〔後漢書、馮衍傳〕分ニ五土之刑德一。〔孔子家語、相魯〕乃別ニ五土之性一。

【五斗】875 ゴト 枡目の名。一斗の五倍。〔漢書、文帝紀〕肉二十斤、酒五斗。

【五斗米】876 ゴトベイ 縣令の俸給。五斗祿。薄祿の義。不下爲ニ五斗米一折上レ腰(882)を見よ。

【五斗祿】877 ゴトロク 五斗米に同じ。〔孟浩然、京還贈ニ張維一詩〕欲レ徇ニ五斗祿一、其如ニ七不堪一。

【五斗解レ酲】878 ゴトテイヲトク 宿醉の心地を五斗の酒で除き去ることをいふ。〔世說新語、任誕〕劉伶病レ酒、渴甚、從レ婦求レ酒、云云、曰、天生ニ劉伶一、以レ酒爲レ名、一飲一斛、五斗解レ酲、便引レ酒進レ肉、隗然已醉矣。〔故事成語考、飲食〕五斗解レ酲、劉伶獨溺ニ于酒一。

【五斗先生】879 ゴトセンセイ 唐、王績の號。酒を縱にし、一飲に五斗、自ら五斗先生傳を著したからいふ。〔文中子、事君〕無功作ニ五斗先生傳一、子曰、汝妄ニ天下一乎、縱レ心敗レ矩、吾不レ與也。〔注〕王績、字無功、子之弟也、不レ遇レ時、則縱レ酒、一飲五斗、自作ニ五斗先生傳一、以見レ志。〔唐書、王績傳〕績飲至ニ五斗一不レ亂、人有ニ以レ酒邀者一、無ニ貴賤一輒往、著ニ五斗先生傳一。

【五斗米師】880 ゴトベイシ 五斗米道を行ふ人。後漢の張角をいふ。五斗米道を見よ。〔後漢書、劉焉傳、注〕典略曰、初喜平中、妖賊大起ニ漢中一、有ニ張脩一、爲ニ太平道一、張角爲ニ五斗米道一、云云、使ニ病者家出ニ米五斗一、以爲レ常、故號ニ五斗米師一也。

【五斗米道】881 ゴトベイダウ 後漢の張陵の立てた道教。陵に從つて道を受ける者は、五斗米を出したからいふ。また其の徒黨を米賊といふ。彼の死後、子の衡及び孫の魯に至る三世、此の術を修め、陵を天師といひ、衡を嗣師、魯を孫師といつ

た所から、この教を天師道ともいふ。〔後漢書、劉焉傳〕張魯定二漢中一、魯字公旗、初祖父陵、順帝時、客二於蜀一、學二道鶴鳴山中一、造二作符書一、以惑二百姓一、受二其道一者、輒出二米五斗一、故謂二之米賊一、陵傳二子衡一、衡傳二於魯一、魯遂自號二師君一。〔水經、沔水注〕水北發二武都氏中一、南逕二張魯城東一、魯沛國張陵孫、陵學二道於蜀鶴鳴山一、傳二業衡一、衡傳二於魯一、魯至行二寬惠一、百姓親附、供道之費、米限二五斗一、故世號二五斗米道一云云、瀘水又南逕二張魯治東一、水西山上、有二張天師堂一、於レ今民事レ之。〔避暑錄話、四〕漢末、五斗米道、出二于張陵一、今世所謂張天師者也、凡受レ道者、出二五斗米一、故云二五斗米道一、亦謂二之米賊一。

【不下爲二五斗米一折上腰】882 ゴトベイノタメニコシヲヲラズ 薄祿を得るために、汲々として上司に敬禮を盡すことを潔しとしない。晉、陶潛の故事。〔晉書、隱逸、陶潛傳〕郡遣二督郵一至レ縣、吏白、應三束帶見レ之、潛歎曰、吾不レ能下爲二五斗米一折上腰、拳拳事二鄕里小人一邪。〔宋書、陶潛傳〕我不レ能下爲二五斗米一折レ腰、向中鄕里小人上、卽日解二印綬一去レ職。

【五徒】883 トゴ 徒刑の五等。徒刑は一年から三年に至る。〔唐律、名例〕徒刑五、一年、贖銅二十斤、一年半、贖銅三十斤、二年、贖銅四十斤、二年半、贖銅五十斤、三年、贖銅六十斤。〔疏議〕徒者、奴也、蓋奴二辱之一云云、蓋始二於周一。〔通典、刑典、刑制〕後周武帝保定三年、司憲大夫拓拔迪、奏二新律一、謂二之大律一云云、其制レ罪、三曰、徒刑五。

【五都】884 トゴ ❶五つの都。〔戰國、秦策〕張儀說二秦王一曰、秦與二荆人一戰、大破レ荆襲レ郢、取二洞庭五都江南一、荆王亡奔走、東伏二於陳一。〔史記、燕召公世家〕王因令下章子將二五都之兵一、以因二北地之衆一、以伐上燕。〔宋玉、登徒子好色賦〕少曾遠遊、周二覽九土一、足歷二五都一。❷漢の五都。洛陽・邯鄲・臨淄・宛・成都。五都市を見よ。〔小學紺珠、地理類、五都〕。❸漢魏の五都。長安・譙・許昌・鄴・洛陽。〔小學紺珠、地理類、五都〕。❹唐の五都。京兆・河南・鳳翔・江陵・太原。〔地理通釋〕寶應元年、詔曰、五都之號、其來自久、宜下以二京兆一爲二上都一、河南爲二東都一、鳳翔爲二西都一、江陵爲二南都一、太原爲中北都上。〔小學紺珠、地理類、五都〕上都京兆・東都河南・西都鳳翔・南都江陵・北都太原。

【五都市】885 トシゴ 五都の市場。漢の王莽が其の市長を五均官と改名した。五都の❷を見よ。〔漢書、食貨志下〕遂於二長安及五都一、立二五均官一、更二名長安東西市令、及洛陽・邯鄲・臨淄・宛・成都市長一、皆爲二五均一。

【五圖】886 トゴ 仙書の名。五嶽眞形圖をいふ。〔鮑照、升天行〕五圖發二金記一、九籥隱二丹經一。〔注〕善曰、抱朴子曰、余聞二鄭君言一、道書之重、莫レ尙二於三皇文五岳眞形圖一也。

【五蠹】887 トゴ ❶國家を侵害する五つのもの。蠹は蟲の名。一、學者は辯說を飾つて人主の心を貳にする。二、古を言ふ者は私を成して社稷の利を顧みぬ。三、劍を帶びる者は其の名を顯はすことに汲々として五官の禁を犯す。四、近御者は重人の謁を用ひ汗馬の勞を退ける。五、商工の民は農夫の利をむさぼる。〔韓非子、五蠹〕是故亂國之俗、其學者、則稱二先王之道一、以藉二仁義一、盛二容服一而飾二辯說一、以疑二當世之法一、而貳二人主之心一、其言レ古者、爲二設詐稱一、借二於外力一、以成二其私一、而遺二社稷之利一、其帶レ劍者、聚二徒屬一、立二節操一以顯二其名一、而犯二五官之禁一、其近御者、積二於私門一、盡二貨賂一、而用二重人之謁一、退二汗馬之勞一、其商工之民、修二治苦窳之器一、聚二沸靡之財一、蓄積待レ時、而侔二農夫之利一、此五者、邦之蠹也、人主不レ除二此五蠹之民一、不レ養二耿介之士一、則海內雖レ有二破亡之國、削滅之朝一、亦勿レ怪矣。〔白居易、尉用二官布一判〕才靡レ效二于一身一、害已深二于五蠹一。❷韓非子の篇名。

【五弩】888 ドゴ 山名。膠山の異名。山東省諸城縣の東南にある。〔水經、濰水注〕齊記曰、膠水出二五弩山一、蓋膠山之殊名也。〔太平寰宇記〕膠山、一名二五弩山一、膠水所レ出。

【五度】889 ドゴ ❶五行（78）の❶に同じ。〔淮南子、兵略訓〕詘伸不レ獲二五度一。〔注〕五度、五行也。❷角度の五度。〔禮、月令、季秋之月、疏〕正義曰、三統曆、九月節、日在二氏五度一、昏虛二度中、去レ日九十七度、旦張初度中、九月中、日在二房五度一、昏危三度中、去レ日九十三度、旦張十八度中。❸尺度の五度。分・寸・尺・丈・引。〔漢書、律歷志〕度者、分・寸・尺・丈・引也、所三以度二長短一也、云云、一黍之廣、度レ之九十分、黃鐘之長、一爲二一分一、十分爲レ寸、十寸爲レ尺、十尺爲レ丈、十丈爲レ引、而五度審矣。〔小學紺珠、律歷類、五度〕分・寸・尺・丈・引。❹五たび。〔白居易、醉中詩〕一生躭レ酒客、五度棄レ官人。〔李頻、春日旅舍云云詩〕如何一別故園後、五度花開五處看。

【五等】890 トウゴ 五つの等級。❶爵の五階級。公・侯・伯・子・男。孟子は天子・公・侯・伯・子男とす。〔周禮、春官、典命〕掌二諸侯之五儀、諸臣之五等之命一。〔禮、王制〕王者之制二祿爵一、公・侯・伯・子・男、凡五等、云云、公・侯田方百里、伯七十里、子・男五十里。〔孟子、萬章下〕北宮錡問曰、周室班二爵祿一也、如レ之何、孟子曰、云云、天子一位、公一位、侯一位、伯一位、子男同一位、凡五等也、君一位、卿一位、大夫一位、上士一位、中士一位、下士一位、凡六等、天子之制、地方千里、公侯皆方百里、伯七十里、子男五十里、凡四等。〔疏〕孟子所レ言周制、王制所レ言、夏商之制也。❷賞酬の五等。〔宋史、選擧志六〕元豐元年詔、因二勞效一得二酬賞一、皆分二五等一、有司受二其等一、而差二進之一。❸婦の五等。后・夫人・孺人・婦人・妻。〔禮、曲禮下〕天子之妃曰レ后、諸侯曰二夫人一、大夫曰二孺人一、士曰二婦人一、庶人曰レ妻。❹死の五等。崩・薨・卒・不祿・死。〔禮、曲禮下〕天子死曰レ崩、諸侯曰レ薨、大夫曰レ卒、士曰二不祿一、庶人曰レ死。❺省郎の五等。前郎中・中郎中・後郎中・行郎中・員外郎。〔小學紺珠、職官類、省郎五等〕前・中・後・行郎中・員外。❻道士の五等。天眞道士・神仙道士・山居道士・出家道士・在家道士。〔羣書拾唾、老子玄談〕五等道士、天眞道士・神仙道士・山居道士・出家道士・在家道士。

【五等親】891 シントウゴ 五等の親屬。親屬を親疎によつて五等級に區分したもの。一等親は、父・母・養父母・子・養子。二等親は、祖父・祖母・嫡母・繼母・伯父・姑・兄・弟・姊・妹・夫の父・夫の母・妻・妾・甥・姪・孫。三等親は、曾祖父・曾祖母・伯婦・叔婦・夫の甥・從父兄弟姊妹・夫の祖父・夫の祖母・夫の伯叔姑・繼父・甥の妻。四等親は、高祖父母・高祖母・從祖父姑（祖父の兄弟）・從祖伯叔父姑（祖父の兄弟の子）・夫の兄弟姊妹・兄弟の妻妾・再從兄弟姊妹・外祖父・外祖母・舅（母の兄弟）・姨（母の姊妹）・兄弟姊妹の孫・從父兄弟の子・外甥・外姪・曾孫・孫妻。五等親は、妻妾の父母・姑子（父の姊妹の子）・舅姨の子（母の兄弟姊妹の子）・玄孫（曾孫の子）・外孫・婿（女の夫）をいふ。〔令義解、儀制令〕。

【五竇】892 トウゴ 五人の竇姓の士人。❶唐の竇常・竇牟・竇羣・竇庠・竇鞏。〔小學紺珠、氏族類、五竇〕。❷五代の竇禹鈞の五子、儀・儼・侃・偁・僖。〔小學紺珠、氏族類、五竇〕五代、竇禹鈞五子、儀・儼・侃・偁・僖。

【五同】893 ドウゴ 酒爵の名。同は酒爵。五は第五番目に用ひる義ならんといふ。〔金石索〕周五同、同、口徑建初尺一尺九寸八分、高四寸、深三寸六分、柱高二寸八分、足高七寸、通高一尺三寸六分、柱及耳足皆作二夔首飾一、腹中作二夔龍蟠曲之狀一、底有二篆文二字一、陽識曰二五同一、字大三寸。

五同（金石索）

【五德】894 トクゴ ❶人の五つの德。㋑聰明睿智（生知之資）・寬裕溫柔（仁）・發強剛毅（義）・齊莊中正（禮）・文理密察（智）。〔中庸〕唯天下至聖、爲下能聰明睿知、足二以有一レ臨也、寬裕溫柔、足二以有一レ容也、發強剛毅、足二以有一レ執也、齊莊中正、足二以有一レ敬也、文理密察、足中以有上レ別也。〔章句〕言、五者之德、充二積於中一、而以レ時發二見於外一也。〔小學紺珠、性理類、五德〕聰明睿知、生知之資、寬裕溫柔、仁、發強剛毅、義、齊莊中正、禮、文理密察、知。㋺溫・良・恭・儉・讓。〔論語、學而〕子貢曰、夫子、溫・良・恭・儉・讓以得レ之。〔集解〕鄭玄曰、言、夫子行二此五德一而得レ之、與二人求一レ之異。❷天地の五つの德。潤・暵・生・成・動をいふ。〔小學紺珠、律歷類、五德〕潤・暵・生・成・動。❸木・土・火・金・水の五德。〔史記、秦始皇紀〕始皇推二終始五德之傳一。〔注〕索隱曰、傳、次也、謂二五行之德始終相次一也。〔史記、孟荀傳〕五德轉移。

〔資治通鑑、魏紀〕(文帝、黃初二年)臣光曰、學者始推二五德生勝一、以レ秦爲二閏位一。❹將軍の五德。智・信・仁・勇・嚴。〔孫子、始計〕將者、智・信・仁・勇・嚴也。❺東・西・南・北・中の五色の穀物。〔漢書、郊祀志下〕耕二耘五德一、朝種暮穫。〔注〕晉灼曰、五德、東方甲、南方丙、西方庚、北方壬、中央戊、種二五色禾於此地一而耕耘也。❻雞の五德。文・武・勇・仁・信。〔韓詩外傳、二〕田饒謂二哀公一曰、云云、君獨不レ見二夫雞一乎、首戴レ冠者、文也、足搏レ距者、武也、敵在レ前敢鬭者、勇也、得レ食相告、仁也、守レ夜不レ失レ時、信也、雞有二此五德一。〔五色線〕田曉言、雞有二五德一、文・武・勇・仁・信是也。〔書言故事、禽獸比喩類〕謂レ雞曰二五德一。❼玉の五德。仁・知・義・禮・信。〔詩、秦風、小戎〕言念二君子一、溫其如レ玉。〔箋〕玉有二五德一。〔疏〕聘義云、君子比二德於玉一焉、溫潤而澤、仁也、縝密以栗、知也、廉而不レ劌、義也、垂レ之如レ墜、禮也、孚尹旁達、信也。❽蟬の五德。文・清・廉・儉・信。〔陸雲、寒蟬賦序〕頭上有レ緌、則其文也、含レ氣飮レ露、則其淸也、黍稷不レ食、則其廉也、處不二巢居一、則其儉也、應レ候守レ節、則其信也。❾芝草の名。〔抱朴子、仙藥〕五德芝、狀似二樓殿一、莖方、其葉五色各具而不レ雜、上如二偃蓋一。❿潛夫論の篇名。⓫[佛]佛教の五德。㋑自恣五德。一、不愛、二、不恚、三、不怖、四、不痴、五、自恣と不自恣を知る。〔行事鈔、上、四〕不二愛恚怖痴一、知二自恣不自恣一、此名二自恣五德一。㋺擧罪の五德。一、時を知る、二、眞實、三、利益、四、柔軟、五、慈心。〔行事鈔、上、四〕差下知レ時不レ以二非時一、知レ實不レ以二虛妄一、利益不レ以二損減一、柔輭不レ以二塵獷一、心不上レ以二瞋恚一、此謂二擧罪五德一。㋩人の病を看護するに必要な五德。一、病人の食べてよいものと食べてならぬものとを知る、二、病人の大小便や唾吐をいやがらない、三、慈悲心があつて自分の衣食の爲にせず、四、能く湯藥等を經理する、五、能く病人の爲に法を說く。〔四分律、四十一〕。㊁戒師の五德。一、持戒、二、十臘、三、律藏を解す、四、禪思に通ずる、五、慧藏窮玄。〔天台戒疏、上〕。⓬爐・火鉢の中に据ゑて、鐵瓶・釜などをかける三脚、或は四脚の鐵輪。

〔懷子集、五〕灰の底とらん五德の我が心。

【五德之數】895 ゴトクノスウ 五行の數をいふ。〔史記、秦始皇紀〕剛毅戾深、事皆決二於法一、刻削毋二仁恩和義一、然後合二五德之數一。〔注〕索隱曰、水主レ陰、陰刑殺、故急法刻削、以合二五德之數一。

【五德之帝】896 ゴトクノテイ 太微宮中の五帝座の星。五帝(848)を見よ。〔左氏、桓、五、凡祀啓蟄而郊、疏〕月令、四時迎二氣於四郊一、所レ祭者、祭二五德之帝一、太微宮中五帝坐星也。

【五德之美】897 ゴトクノビ 智・信・仁・勇・嚴の五德の美。〔新論、兵術〕練二人謀一者、抱二五德之美一、握二二柄之要一、五德者、知・信・仁・勇・嚴也、二柄者、賞・罰也、智以能謀、信以約束、仁以愛レ人、勇以陵レ敵、嚴以鎭レ衆、賞以勸レ功、罰以懲レ過。

【五德終始】898 ゴトクシュウシ 戰國時代、齊の騶衍が唱へた說。其の說に依れば、王朝は必ず其の有する所の五行の德によつて興廢、又は更迭し、其の更迭には一定の順序あり、王朝勃興すれば其の德に應じて祥瑞が現はれるといふ。其の五德轉移の順序は秦を水德と定め、然る後、五行相勝の順序によつて其れ以前の四朝を黃帝(土德)夏(木德)殷(金德)周(火德)と程よく配列した。秦を水德と定めたのは、水は五行相勝の最後のもの、從つて王朝は秦にとどまるとして、秦に眞の皇帝、永久の王朝といふ超越的絕對的の地位を與へたものである。五行說(83)を見よ。

【五毒】899 ゴドク ❶五つの毒のある藥。〔周禮、天官、瘍醫〕凡療レ瘍、以二五毒一攻レ之。〔注〕五毒、五藥之有レ毒者。〔後漢書、隗囂傳〕灌以二醇醯一、裂以二五毒一。❷慘酷な五つの刑具。桁楊・荷校・桎梏・鋃鐺・拷掠。一說に、四肢及び身體が笞杖の苦痛を受けることともいひ、又、鞭・箠・灼・徽・纏ともいふ。〔初學記〕桁楊・荷校・桎梏・鋃鐺・拷掠。〔後漢書、陳禪傳〕笞掠無レ算、五毒畢加。〔王先謙集解〕通鑑胡注、五毒、四肢及身備受二楚毒一也、或云、鞭・箠及灼及徽・纏爲二五毒一。❸五味(1033)の❶をいふ。〔陰符經〕積レ火焚二五毒一。〔注〕五毒、卽五味。❹蝎子・蜈蚣・蛇虺・蜂・蜮。今、俗に蛇・蝦蟇・蜈蚣・蝎・虎をいふ。〔呂種玉、言鯖〕古者靑齊風俗、於二穀雨日一、畫二五毒符一、圖二蝎子・蜈蚣・蛇虺・蜂・蜮之狀一、各畫二一針刺一、宣二布家戶一貼レ之、以禳二蟲毒一。

【五毒草】900 ゴドクソウ 草の名。つるつば。赤地利(10−36993··263)の異名。〔本草、赤地利〕釋名、五毒草、集解、時珍曰、五毒草、卽赤地利、今併爲レ一。

【五毒餑餑】901 wu³ tu² po¹ po 端午に用ひる菓子の名。毒除け饅頭。

【五遁】902 ゴトン ❶五つの放逸。五つのふしだら。擾亂が之に由つて生ずるといふ。五は五行、遁は逸。〔淮南子、本經訓〕天愛二其精一、地愛二其平一、人愛二其情一、天之精、日・月・星辰・雷電・風雨也、地之平、水・火・金・木・土也、人之情、思・慮・聰・明・喜・怒也、故閉二四關一、止二五遁一、則與レ道淪、是故神明藏二於無形一、精神反二於至眞一、則目明而不二以視一、云云、凡亂之所二由生一者、皆在二流遁一、流遁之所レ生者五、大構駕興二宮室一、延樓棧道、雞棲井幹、欂林欂櫨、以相支持、木巧之飾、盤紆刻儼、嬴鏤雕琢、詭文回波、淌游瀷淢、菱杼紾抱、芒繁亂澤、巧僞紛挐、以相摧錯、此遁二於木一也、鑿二汙池之深一、肆二畛崖之遠一、來二谿谷之流一、飾二曲岸之際一、積二牒旋石一、以純二修碕一、抑レ減怒レ瀨、以揚二激波一、曲拂邅廻、以像二湡浯一、益樹二蓮菱一、以食二鼈魚一、鴻鵠鶤鶵、稻粱饒餘、龍舟鷁首、浮吹以娛、此遁二於水一也、云云、此遁二於土一也、云云、此遁二於金一也、云云、此遁二於火一也、此五者、一足二以亡二天下一矣。〔注〕流、放也、遁、逸也。❷仙人の五遁の法。道家の語。物に借り形を遁れて變化し去ることで、金遁・木遁・水遁・火遁・土遁の五つをいふ。〔五雜組、人部二〕漢時、解奴辜張貂、皆能隱淪、出入不レ由二門戶一、此後世遁形之祖也、介象・左慈・于吉・孟欽・羅公遠・張果之流、乃晉書女巫・章丹・陳琳等術皆本レ此、謂爲二神仙一、其實非也、其法有レ五、曰、金遁、曰、木遁、曰、水遁、曰、火遁、曰、土遁、見二其物一、則可レ隱、惟土遁最捷、蓋無二處無一レ土也、須下煉二遁神一四十九日上、於二空山無人之中一、獨坐結念、更有二符咒一、役二使百神一、若一念妄起、便須二重煉一、卽如二紅線聶隱孃一、精精空空之流、皆此等輩耳、國初有二冷謙一、字啓敬、導レ人入二太倉庫一盜レ錢、事發被レ逮、求レ飮、卽跳入二瓶中一、撲破、片片皆應、而竟不レ知二所在一、此水遁者也、正德初、有下老翁脫二太監於流賊一者上、又鍾二髽髻一、握二土一塊一、遂不レ見、土遁者也。

【五內】903 ゴナイ 五藏。又、心の內をいふ。〔蜀志、楊儀傳〕歎咤之聲、發二於五內一。〔石崇、王明君辭〕哀鬱傷二五內一、泣淚霑二珠纓一。〔應瑒、別詩〕臨レ河累太息、五內懷二傷憂一。

【五難】904 ゴナン ❶それに乘じて攻め取るに都合よい敵國の五つの難事。寵有りて人なく、人有りて主なく、主有りて謀なく、謀有りて民なく、民有りて德のない五つ。〔左氏、昭、十三〕取レ國有二五難一、有レ寵而無レ人、一也、有レ人而無レ主、二也、有レ主而無レ謀、三也、有レ謀而無レ民、四也、有レ民而無レ德、五也。❷養生の五つの難事。名利滅せず、喜怒除かれず、聲色去らず、滋味絕たず、精神消散す。又、喜怒・聲色・滋味・神浮・消散。〔江淹、雜體、許徵君自序詩〕五難既灑落、超迹絕二塵網一。〔注〕善曰、向秀難二嵇康養生論一曰、養生有二五難一、名利不レ滅、此一難、喜怒不レ除、此二難、聲色不レ去、此三難、滋味不レ絕、此四難、神慮消散、此五難、濟曰、養生有二五難一、一曰、喜怒、二曰、聲色、三曰、滋味、四曰、神浮、五曰、消散。

【五忍】905 ゴニン [佛]仁王經の所說で、伏忍・信忍・順忍・無生忍・寂滅忍の五つをいふ。〔舊譯仁王經、教化品〕佛言、大王、五忍是菩薩法、伏忍上中下、信忍上中下、順忍上中下、無生忍上中下、寂滅忍上下、名爲二諸佛菩薩一、修二般若波羅密一。

【五年】906 ゴネン ❶第五年。五稔。〔春秋、隱、五〕五年、春、公矢二魚于棠一。❷いつとせ。五箇年。〔禮、曲禮上〕五年以長、則肩二隨之一。〔禮、王制〕三年一大聘、五年一朝。〔漢書、公孫弘傳〕朞年而變、三年而化、五年而定。

【五派】907 ゴハ ❶或る家の五分派。〔嬾眞子〕杜氏凡五房、一京兆、二杜陵、三襄陽、四洹水、五濮陽、而杜甫一派、不レ在二五派之中一、豈仕宦不レ達乎、何家譜見レ遺也。〔耶律楚材、和二摶霄韻一代二水陸疏文一云云詩〕五派分流道愈深、塵中誰識二本來心一。❷[佛]五つの流派。㋑禪宗の五派。臨濟・雲門・曹洞・潙仰・黃蘗。㋺眞宗の五派。本願寺派・大谷派・佛光寺派・高田派・木邊派。

【五袒】908アヅツ 古の貴婦人の裝束。五枚重ねて袒を着ること。〔雅亮裝束抄、一〕うへざうしは、五つ袒に打衣・單・張袴、ひすまし、三つ袒に打衣、單も袴を著るなり。

【五犯】909ハン 五匹の犯。犯は牝豚。〔詩、召南、騶虞〕彼茁者葭、壹發五犯。〔傳〕豕牝曰レ犯。〔張說、奉レ和二聖製義成校獵喜レ雪應制詩一〕五犯逼二一發一百中皆先レ命。

【五霸】910ゴハ 五人の霸者。霸は旗がしらの意。五伯。❶上代の五霸。昆吾・大彭・豕韋・齊桓・晉文。〔白虎通、號〕五霸者、何謂也、昆吾氏・大彭氏・豕韋氏・齊桓公・晉文公也。❷春秋の世の五霸。〔賈誼、過秦論〕五霸既沒。㋑齊桓・晉文・楚莊・吳闔閭・越句踐。〔荀子、王霸〕義立而王、信立而霸、故齊桓二晉文・楚莊・吳闔閭・越句踐一、是所謂信立而霸也。㋺齊桓・晉文・秦穆・楚莊・吳闔閭。〔白虎通、號〕或曰、五霸、謂二齊桓公・晉文公・秦穆公・楚莊王・吳王闔閭一也、霸者、伯也、行二方伯之職一、會二諸侯一、朝二天子一。㋩齊桓・晉文・秦穆・宋襄・楚莊。〔孟子、告子下、五霸者二三王之罪人也、注〕五霸者、大國秉二直道一、以率二諸侯一、齊桓・晉文・秦穆・宋襄・楚莊是也。〔白虎通、號〕或曰、五霸、謂二齊桓公・晉文公・秦穆公・宋襄公・楚莊公一也。〔風俗通、五霸〕春秋說二齊桓・晉文・秦穆・宋襄・楚莊一、是五霸也。㋥齊桓・宋襄・晉文・秦穆・吳夫差。〔漢書、諸侯王表序〕衰則五伯扶二其弱一。〔注〕師古曰、伯讀曰レ霸、此五霸、謂二齊桓・宋襄・晉文・秦穆・吳夫差一也。〔小學紺珠、歷代類、五霸〕齊桓・宋襄・晉文・秦穆・吳夫差。

【五馬】911バ ❶五頭の馬。太守の異稱。もと太守の車には駟の外に一馬を駙したからいふ。〔古樂府、日出東南隅行〕使君從レ南來、五馬立踟躕。〔清夜錄〕漢制、卿駟馬右騑、故有二五馬一、東方朔傳、太守駟馬駕レ車、一馬行春、衞宏輿服志、諸侯駟馬、駙以二一馬一、南史、柳元策、兄弟亦五人、並爲二太守一、時人語曰、柳氏門庭、五馬遙迴、謝靈運爲二永嘉太守一、以二五馬一自隨、立二五馬亭一。〔玉匣記〕世謂二太守一爲二五馬一、八罕レ知二其故事一、或言、詩云、子孑干旗、在二浚之都一、素絲組レ之、良馬五レ之、鄭注謂、周禮州長建レ旗、漢太守比二州長一、法御二五馬一、故云、後見二龍幾先朝奉一云、古乘二駟馬一、秦至二漢時一、太守出、則增二一馬一、事見二漢官儀一也。〔陶安、大成殿賦〕駕二五馬之翩翩一兮、載二雲旌一而容與。〔潘子眞詩話〕太守駟馬而已、其有二加秩一、中二石乃右驂、故以二五馬一爲二太守美稱一。〔遯齋閒覽〕漢時、朝臣出使爲二太守一、增二一馬一、故曰二五馬一。〔書言故事、郡守類、常稱二太守一曰二五馬一。〔演繁露〕太守五馬、莫レ知二的據一、古樂府、五馬立躊躇、其來已久、或言、詩有二良馬五レ之、侯國事也、然非二定制一、鄭玄注二詩曰、周禮州長建レ旗、漢太守比二州長一、法御二五馬一、以二州長一比二方漢州一、大小相絕遠矣、周之州乃反統二隸於縣一、比二漢太守一、品秩殊不レ侔、不レ足レ爲レ據、然鄭後漢人、則太守用二五馬一、後漢已然矣、至下唐白樂天和二深春二十詩一上曰、五匹鳴珂馬、雙輪畫軾車、至二其自一杭分司有レ詩、曰、錢唐五馬留二三匹一、還擬騎來攬二擾春一、老杜亦有二詩曰、使君五馬一馬驄、則是眞有二五馬一矣。❷馬氏の五常をいふ。五常(550)の㊁を見よ。〔庾信、五張寺碑〕平輿雖レ盛、豈可二獨擅一二龍一、扶風最良、不レ得二專稱一五馬一。〔注〕謂二馬氏五常一也。❸北齊の柳元策の兄弟五人が皆太守となり、馬に乘つて出入したのを時人が褒めて言つた語。〔北齊書、柳元策傳〕兄弟五人、同爲二太守一、各乘二一馬一出入、時人榮レ之、爲二之語一曰、柳氏門庭、五馬遙迴。❹山名。㋑河北省贊皇縣の東。山に五馬石があるから名づく。南宋の初、徽宗の子、信王榛が兵を聚めた所。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州、贊皇縣〕五馬山、縣東十里、上有二五石馬一、因名、云云、宋建炎初、和州防禦使馬擴、奔二五馬山一、聚レ兵、得二徽宗子信王榛一、以總二制諸砦一、兩河忠義、聞風響應。㋺河南省內黃縣の西。〔宋史、李全傳上〕彭義斌與二大元兵一、戰二於內黃之五馬山一。㋩四川省蓬安縣の北。五峯が高く聳えて、奔馬の勢があるからいふ。❺南朝宋の謝靈運の立てた亭名。❶を見よ。

【五馬路】912ウー マー ルー 上海租界の著名な繁華の町、廣東路の別稱。

【五馬渡レ江】913ゴバトカウ 晉の元帝が西陽王等と共に五人で江を渡つて後、帝位に卽いた故事。〔晉書、元帝紀〕童謠云、五馬浮渡レ江、一馬化爲レ龍、云云、是歲王室淪覆、帝與二西陽・汝南・南頓・彭城一五王獲レ濟、而帝竟登二大位一焉。

【五拜】914ハイ 五たび拜する。最も丁寧な拜禮。〔陔餘叢考、再拜二拜四拜五拜一〕唐李陪刊誤、謂郊天祭地、止於再拜、是唐時郊廟尙祇再拜、前明會典、巨見レ君、行二五拜禮一、百官見二親王一、東宮、行二四拜禮一、子於二父母一、亦四拜禮、蓋儀文度數、久則習以爲常、成二上下通行之具一、故必須レ加レ隆以示二差別一、亦風會之不レ得レ不然者也。

【五排】915ハイ 五言排律(315)の略。〔陔餘叢考、五七律排〕薛道衡昔昔鹽、垂柳覆二金提一、蘼蕪葉復齊、云云、此又五排濫觴也。

【五方】916ゴハウ ❶東西南北の四方と中央。〔爾雅、釋地〕東方有二比目魚一焉、云云、南方有二比翼鳥一焉、云云、西方有二比肩獸一焉、云云、北方有二比肩民一焉、云云、中有二枳首蛇一焉、此四方中國之異氣也、五方。〔小學紺珠、地理類、五方〕四方・中國。❷中國と、四方の夷・蠻・戎・狄の四つの夷狄とをいふ。五方之民を見よ。〔小學紺珠、地理類、五方〕中國・夷・蠻・戎・狄。

【五方草】917ゴハウソウ 草の名。すべりひゆ。馬齒莧(12－44572‥255)の異名。〔本草、馬齒莧、釋名、五行草、五方草、時珍曰、又名二五方草一、亦五行之義。

【五方色】918ゴハウノ 五方の色。正色は青(東方)・赤(南方)・黃(中央)・白(西方)・黑(北方)。間色は綠・紅・碧・紫・騮黃。〔論語、陽貨、惡二紫之奪レ朱也、集解〕孔安國曰、朱正色、紫間色之好者、疏〕云二朱正色一、紫間色一者、皇氏云、謂二青・赤・黃・白・黑五方正色一、不正、謂二五方間色一、綠・紅・碧・紫・騮黃色、是也。〔李衞公問對、中〕本因二五方色一立二此名一。

【五方元音】919ゴハウゲンイン 書名。二卷。清、樊騰鳳撰。韻書。堯允恭の增補の韻目・字母・韻釋・韻略に分ける。韻目は凡て十二韻、天・人・龍・羊・牛・爰・虎・駝・蛇・馬・豺・地とし、字母は凡て二十字、梆・匏・木・風・斗・土・鳥・雷・竹・蟲・石・日・鼉・鶴・系・雲・金・橋・火・蛙とし、韻釋は五音の大要を摘んで、反切要法・取字法を概說し、韻略は各韻と字母とを對照して居る。〔四庫提要、經、小學類〕。

【五方雜處】920ゴハウザツショ 四方八方から集まつて來た各種の人々が雜居すること。〔六部成語、工部、五方雜處之地、注解〕各處民人聚居之區也。

【五方之民】921ゴハウノ 中國及び四夷の民。中國・夷・蠻・戎・狄。〔禮、三制〕中國戎夷、五方之民、皆有レ性也、不レ可二推移一、東方曰レ夷、被二髮文身一、有レ不レ火食者矣、南方曰レ蠻、雕二題交趾一、有レ不レ火食者矣、西方曰レ戎、被二髮衣皮一、有レ不レ粒食者矣、北方曰レ狄、衣二羽毛一穴居、有レ不レ粒食者矣、中國夷・蠻・戎・狄、皆有二安居一、云云、五方之民、言語不レ通、嗜欲不レ同、達二其志一、通二其欲一、東方曰レ寄、南方曰レ象、西方曰二狄鞮一、北方曰譯。〔大戴禮、千乘〕東辟之民曰レ夷、云云、南辟之民曰レ蠻、西辟之民曰レ戎、北辟之民曰レ狄、及中國之民、曰二五方之民一。

【五方書計】922ゴハウノショケイ 五方の名及び書藝。一說に五方の異書。〔漢書、食貨志上〕八歲入二小學一、學二六甲五方書計之事一。〔注〕蘇林曰、五方之異書、如二今祕書學一外國書一也、臣瓚曰、辨二五方之名及書藝一也、師古曰、瓚說是也。

【五方獅子舞】923ゴハウシヽブ 唐の舞樂。立部伎に屬す。天竺から輸入せられた獅子舞で、獅子を象つた胴中に二人が入り、別に拂子を持つて之に戲れる者があり、多人數で太平樂を歌ひながら之に合せて舞ふ。〔通典、樂典、坐立部伎一〕太平樂、亦謂二之五方師子舞一、獅子擊獸、出二於西南夷天竺師子等國一、綴二毛爲レ衣、象二其俛仰馴狎之容一、二人持二繩拂一、爲二習弄之狀一、五師子、各依二其方色一、百四十人、歌二太平樂一、舞抃以從レ之、服飾皆作二崑崙象一。

【五邦】924ゴバウ 五つのみやこ。亳・囂・相・耿・亳。又、商丘・亳・囂・相・耿。〔書、盤庚上〕于レ今五邦。〔傳〕湯遷レ亳、仲丁遷レ囂、河亶甲居レ相、祖乙居レ耿、我往居レ亳、凡五徙二國都一。〔疏〕正義曰、孔以二盤庚意在レ必遷一、故通二數我往居レ亳、爲二五邦一、鄭注皆云、湯自二商徙一レ亳、數二商・亳・囂・相・耿一爲レ五、計二湯既遷レ亳、始建二王業一、此言二先王遷レ都、不レ得下遠數二居レ亳之前上、充二此數一也。

【五寶】925 ゴハウ ㊀五つのたから。〔逸周書、文酌解〕德有二五寶一。〔李白、送下于十八應二四子擧一落第還中嵩山上詩〕道可二東賣一レ之、五寶溢二山河一。㊁山名。浙江省建德縣にある。〔明一統志〕五寶山、在二嚴州府城西八十里一、其山有レ五、曰金、曰銀、曰銅、曰緑、曰鐵、皆以二色相似一故名。

【五坊】926 ゴバウ 唐代、宣徽院に屬する五つのつかさ。雕坊・鷂坊・鶻坊・鷹坊・狗坊。〔唐書、文宗紀〕帝卽位、縱二五坊鷹犬一。〔唐書、百官志二〕閑廐使、押二五坊一、以供二時狩一、一曰雕坊、二曰鶻坊、三曰鷂坊、四曰鷹坊、五曰狗坊。〔資治通鑑、唐紀〕順宗、永貞元年、如二宮市五坊小兒之類一。〔注〕五坊、一曰鵰坊、二曰鶻坊、三曰鷂坊、四曰鷹坊、五曰狗坊、五坊屬二宣徽院一。

【五房】927 ゴバウ 唐の中書省の吏・樞機・兵・戶・刑禮の五房。〔唐書、百官志一〕改二政事堂一、號二中書門下一、列二五房於其後一、一曰吏房、二曰樞機房、三曰兵房、四曰戶房、五曰刑禮房。〔小學紺珠、職官類、五房〕吏・樞機・兵・戶・刑禮。

【五⿰山尨】928 ゴバウ 山名。蜀に在る。〔廣韻〕⿰山尨、五⿰山尨、山名、在レ蜀。

【五白】929 ゴハク 局戲の骰子。〔楚辭、招魂〕成レ梟而牟、呼二五白一些。〔注〕五白者、簙齒也。〔杜甫、今夕行〕憑陵大叫呼二五白一。〔書言故事、博弈類〕五骰曰二五白一。

【五伯】930 ゴハク ㊀後漢の鄧彪（字は智伯）と、宗武伯・陳綏伯・翟敬伯・張弟伯とをいふ。〔後漢書、鄧彪傳〕鄧彪字智伯南陽新野人、注〕東觀記曰、彪與二同郡宗武伯・翟敬伯・陳綏伯・張弟伯一、同二志好一、齊レ名、南陽號曰二五伯一。㊁ハゴ 五人の霸者。伯は霸。日知錄、卷四に見ゆ。五霸（910）を見よ。〔左氏、成、二〕（齊國佐曰）五伯之霸也、勤而撫レ之、以役二王命一。〔注〕夏伯昆吾・商伯大彭・豕韋・周伯齊桓・晉文。〔莊子、大宗師〕上及二有虞一、下及二五伯一。〔呂覽、諭大〕五伯欲レ繼二三王一、而不レ成。㊂岡の名。河北省東明縣の東南。春秋時代に齊・晉二國が會盟した處と傳ふ。又、霸王岡ともいふ。項羽が邯鄲を救ふ時、此の岡上に駐まつたと傳ふ。〔讀史方輿紀要、直隷、大名府、開州、東明縣〕五霸岡、縣東南五十里、志云、春秋時、齊晉會盟處也、亦曰二霸王岡一、相傳、項羽救二邯鄲一時、會駐二此岡一。

【五泊】931 ゴハク 僧、行基の開いた五つのとまり。檉生泊・韓泊・魚住泊・大輪田泊・河尻泊。

【五罰】932 ゴバツ 五刑の輕い者、又は罪の疑はしい者に罰金を科すること。〔書、呂刑〕五辭簡孚、正二于五刑一、五刑不レ簡、正二于五罰一。〔傳〕不レ簡核一、謂レ不レ應二五刑一、當下正二五罰一、出レ金贖上レ罪。〔蔡傳〕不レ簡者、辭與レ刑參差不レ應、刑之疑者也、罰、贖也、疑二於刑一、則質二于罰一也。〔史記、周紀〕五刑不レ簡、正二於五罰一。

【五法】933 ゴハフ ㊀五つの法則。㋑備數・和聲・審度・嘉量・權衡。〔小學紺珠、律歷類、五法〕。㋺仁・義・禮・智・信。〔大戴禮、盛德〕均二五政一、齊二五法一。〔注〕五法、謂二仁・義・禮・智・信一。〔孔子家語、執轡〕六官、均二五教一、齊二五法一。〔注〕仁・義・禮・智・信之法也。〔小學紺珠、治道類、五法〕仁・義・禮・智・信之法。㊁五刑をいふ。〔周禮、秋官、大司寇〕以二五刑一糾二萬民一。〔注〕刑、亦法也。〔疏〕此五法者、或一刑之中而含レ五。

【五飯】934 ゴハン 五度の飯。〔列女傳、母儀、鄒孟軻母傳〕精二五飯一、冪二酒漿一。

【五匕】935 ヒゴ 藥をはかる器。さじ。〔名醫別錄〕五匕者、卽今五銖錢邊五字者、抄レ之不レ落爲レ度。

【五悲】936 ヒゴ 唐の盧照鄰の作つた文章の名。才難・窮通・昔遊・今日・人生の五者を悲しんで作つたもの。〔唐書、盧照鄰傳〕照鄰自以、當二高宗時尚一レ吏、己獨儒、武后尚レ法、己獨黃老、后封二嵩山一、屢聘二賢士一、己已廢、著二五悲文一、以自明。

【五美】937 ビゴ ㊀五つの美しい德。㋑罪戾を宥す、過失を赦す、災患を救ふ、德刑を賞す、及ばざるを教ふ。〔左氏、襄、二十八〕大適レ小、有二五美一、宥二其罪戾一、赦二其過失一、救二其菑患一、賞二其德刑一、教二其不一レ及。㋺惠んで費さず、勞して怨みず、欲して貪らず、泰にして驕らず、威あつて猛からず。〔論語、堯曰〕子張問二於孔子一曰、何如斯可二以從一レ政矣、子曰、尊二五美一、屛二四惡一、斯可二以從一レ政矣、子張曰、何謂二五美一、子曰、君子惠而不レ費、勞而不レ怨、欲而不レ貪、泰而不レ驕、威而不レ猛、子張曰、何謂二惠而不一レ費、子曰、因二民之所一レ利而利レ之、斯不二亦惠而不一レ費乎、擇レ可レ勞而勞レ之、又誰怨、欲レ仁而得レ仁、又焉貪、君子無二衆寡一、無二小大一、無二敢慢一、斯不二亦泰而不一レ驕乎、君子正二其衣冠一、尊二其瞻視一、儼然、人望而畏レ之、斯不二亦威而不一レ猛乎。㊁新書の篇名。

【五筆】938 ゴヒツ ㊀兩手・兩足及び口に各〻一筆を執つて一時に文字を書くこと。古、弘法大師が行つたといふ。〔和漢三才圖會、日本紀伊、高野山金剛峯寺〕大師、在唐中、宮中壁閒、有二王羲之墨跡一、而稍泯滅、乃詔二空海一、請レ補レ之、插二筆於口及四支一、一時下二壁面一、字成、毫無レ所レ失、號賜二五筆和尙一。㊁第五の續稿。容齋五筆の類。

【五百】939 ゴヒャク ㊀百の五倍。いほ。〔書、禹貢〕五百里甸服。㊁漢代の官で、輿の前導をなす者。もと伍伯に作る。〔後漢書、曹節傳〕越騎營五百、妻有二美色一。〔注〕韋昭辨釋名曰、五百、字本爲レ伍、伍、當也、伯、道也、使下之導引當二道陌中一以驅除上也、案、今俗呼二行杖人一爲二五百一也。〔王先謙集解〕錢大昕曰、輿服志、謂二之伍伯一。〔後漢書、禰衡傳〕衡言不二遜順一、云云（黃）祖大怒、令二五百將出一。〔宋書、禮志五〕車前五百者、卿行旅、從二五百人一爲二一旅一、漢氏一統、故去二其人一、留二其名一也。㊂武官の名。〔稱謂錄、兵、五百〕表異錄、當百、軍吏名也、五百、武校名也。㊃揚子法言の篇名。㊄灘の名。㋑浙江省金華縣の西。〔明一統志〕五百灘、在二金華府城西五里一、灘之最大者、俗傳、舟行挽繂五百人、方可レ渡。㋺福建省長汀縣。〔明一統志〕五百灘、在二汀州府一、自レ汀抵レ潮、其灘險有二五百一。㊅湖の名。浙江省龍游縣の北。〔明一統志〕五百湖、在二衢州府龍游縣北三十里一、俗傳、昔有二五百人於此一、竭レ水取レ魚、得二異魚及銅缶一、既而水暴長、五百人皆沒、因名、凡溉レ田五百餘頃。

【五百戒】940 ゴヒャクカイ 佛比丘尼の具ふべき戒法。實は三百四十八戒であるが其の大數をいふ。〔比丘尼鈔、中上〕世人妄傳二五百戒一者、非也、亦有二經律一、尼戒五百、此但有二總數一、而無二實名一也。

【五百弓】941 ゴヒャクキュウ 弓は長さの單位。一弓は射侯の距離の場合には六尺。土地の長さをはかる時には、五尺又は八尺をいふ。〔鹽谷宕陰、觀二千早城址一記〕頂方不レ滿二五百弓一。

【五百藏】942 イホロイ ㊀土佐國の地名。㊁姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【五百枝】943 イホエ ㊀多くの枝。㊁イホエダ 姓氏。

【五百春】944 ゴヒャクシュン 五百年を一春と數へることで、壽命の長久を數へる語。〔莊子、逍遙遊〕楚之南有二冥靈者一、以二五百歲一爲レ春、五百歲爲レ秋、上古有二大椿者一、以二八千歲一爲レ春、八千歲爲レ秋。

【五百井】945 イサヰ 姓氏。〔和爾雅〕。

【五百住】946 ユスミ イホスミ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【五百木】947 イホキ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十六〕。

【五百野】948 イホノ 伊勢國の地名。

【五百瀨】949 イモセ 大和國の地名。

【五百籠】950 イホロイ イホロビ 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【五百鳩山】951 イホツリヤマ 壹岐國の山。

【五百戶堡】952 ゴヒャクコホ 堡テトリの名。甘肅省寧夏縣中衞城の南。〔明一統志〕五百戶堡、在二寧夏中衞城南三十里一。

【五百大願】953 ゴヒャクダイグワン 佛釋迦如來が、往昔、寶海梵志であつた時、寶藏佛の所で五百の誓願を起されたことをいふ。〔悲華經、七〕爾時寶海梵志、在二寶藏佛所諸天大衆人非人前一、尋得レ成二就大悲之心廣大無量一、作二五百誓願一已。

【五百木井】954 イホキヰ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【五百木部】955 イホキベ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【五百羅漢】956 ゴヒャクラカン 佛釋迦の死後、其の遺經を結集するために來會した諸弟子。五百阿羅漢。其の名前は、大藏經中の五百尊羅漢名號一卷に載錄す。〔法苑珠林〕過去九十一劫、有二一婆羅門一、好レ學廣博、常敎二五百豪族童子一、今五百羅漢是。〔法苑珠林〕爾時賈客五百衆者、則五百羅漢是。

【五百世怨家】957 ゴヒャクセヲンケ 佛人を殺した者は五百世の長い間、己も亦殺される事をいふ。〔經律異相、四十六〕出鈔毘曇婆娑經云、嘗聞下有二一女人一、爲中餓鬼所上レ持、卽以二咒術一而問レ鬼言、何以惱二他女人一、鬼答言、此女人是我怨家、五百世中常殺レ我、我亦五百世中斷二其命一、若彼能捨二舊怨心一、我亦捨。

【五百四峯草堂】958 ゴヒャクシホウサウダウ 清、黎簡（12－479）

94‥6)の室名。

【五百歳而聖人出】959 セイヒヤクサイイニシテ　五百年毎に此の世に聖人が出るをいふ。〔孟子、盡心下〕孟子曰、由レ堯舜一至レ於湯一五百有餘歳、若禹・皐陶一則見而知レ之、若レ湯一則聞而知レ之、由レ湯至レ於文王一五百有餘歳、若伊尹・萊朱一則見而知レ之、若レ文王一則聞而知レ之、由レ文王一至レ於孔子一五百有餘歳、若太公望・散宜生一則見而知レ之、若レ孔子一則聞而知レ之。〔集注〕趙氏曰、五百歳而聖人出、天道之常。〔史記、太史公自序〕自レ周公卒一五百歳而有レ孔子一、孔子卒後一、至レ於今一五百歳。〔法言、五百〕或問、五百歳而聖人出。〔顔氏家訓、慕賢〕五百年一賢、猶レ比膊一也。〔唐書、員半千傳〕義方常曰、五百歳、一賢者生。

【五百年前共一家】960 ゴヒヤクネンゼンキョウカ　昔に遡れば皆一家である。〔通俗編、交際、五百年前共一家〕見二元曲選張國彬合汗衫、鄭廷玉忍字記兩劇一。

【五百家播芳大全文粋】961 ゴヒヤクカハウタイセンブンスイ　書名。一百十巻。宋、魏齊賢・葉棻編。宋代の文章五百二十家を載録す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【五品】962 ゴヒホン　❶父子・君臣・夫婦・長幼・朋友の品類。又、父・母・兄・弟・子をいふ。五常(550)及び五典(872)の❶を見よ。〔書、舜典〕百姓不レ親、五品不レ遜。〔傳〕五品、謂二五常一。〔蔡傳〕五品、父子・君臣・夫婦・長幼・朋友、五者之名位等級也。〔史記、五帝紀〕百姓不レ親、五品不レ馴。〔注〕集解曰、鄭玄曰、五品、父・母・兄・弟・子也、王肅曰、五品、五常也。〔史記、殷紀〕五品不レ訓。〔漢書、王莽傳中〕五品乃訓。〔說苑、貴德〕五品不レ遜。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕丙和二五品一。〔小學紺珠、人倫類、五品〕父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信、父・母・兄・弟・子。❷功の五等。勳・勞・功・伐・閱。〔史記、高祖功臣侯年表〕太史公曰、古者人臣功有二五品一、以レ德立二宗廟一、社稷一曰レ勳、以レ言曰レ勞、用レ力曰レ功、明二其等一曰レ伐、積レ日曰レ閱。❸魏以後の勳位の第五級。〔通典、職官典、秩品、魏官置二九品一、第五品、給事中、給事黃門侍郎。〔南齊書、海陵王紀〕詔曰、新安國五品以上、悉與滿敍、自レ此以下、皆聽二解遣一。〔隋唐嘉話〕朝儀魚袋之飾、唯金銀二等、至二武后一、乃改二五品一以レ銅、中宗反レ正從レ舊。〔隋唐嘉話〕祕書少監崔行、功未レ得二五品一前、忽有二鸜鵒一銜二一物一入二其堂一、置二案上一而去、乃魚袋、怏怏數日、而加二大夫一。〔建康實錄〕貞觀二十年七月宴、五品以上、於二飛霜殿一絲竹遞奏、羣臣上レ壽、賜二綾錦一。❹貝貨の五等級。大貝・壯貝・幺貝・小貝、及び小貝以下の一寸二分に盈たないもの。〔漢書、食貨志下〕大貝四寸八分以上二枚、爲二一朋一、直二百一十六、壯貝三寸六分以上二枚、爲二一朋一、直五十、幺貝二寸四分以上二枚、爲二一朋一、直三十、小貝寸二分以上二枚、爲二一朋一、直十、不レ盈二寸二分一、漏レ度不レ得レ爲レ朋、率レ枚直錢三、是爲二貝貨五品一。❺州の五等。〔小學紺珠、地理類、諸州五品〕上品二十州、次品十州、次品八州、次品二十三州、下品二十一州。

【五品取引所】963 wu² p'in³ ch'ü³ yin² suo³　大豆・豆粕・豆油・高粱・錢鈔の金票を取引する所。大連の官營取引所に對する俗稱。

【五府】964 ゴフ　❶五つのくら。〔列子、周穆王〕五府爲レ虛、而臺始成。❷漢代の五府。太傅・太尉・司徒・司空・大將軍。〔資治通鑑、漢紀〕安帝、永初二年、五府調二省中都官吏京師作者一。〔注〕賢曰、五府、謂二太傅・太尉・司徒・司空・大將軍一也。〔小學紺珠、職官類、五府〕太傅・太尉・司徒・司空・大將軍。❸明堂をいふ。中に文祖・神斗・顯紀・玄矩・靈府の五室があるからいふ。〔北史、牛弘傳〕明堂者、所レ以通二神靈一感二天地一、出二教化一、崇中有德上、黃帝曰二合宮一、堯曰二五府一、舜曰二總章一、布レ政興レ教、由來尚矣、云云、今檢二明堂一、必須二五室一者何、尚書帝命驗曰、帝者承レ天、立二五府一、赤曰二文祖一、黃曰二神斗一、白曰二顯紀一、黑曰二玄矩一、蒼曰二靈府一、鄭玄注曰、五府、與二周明堂一同矣。

【五怖】965 フブ　㊀入道して菩薩になるため邪魔になる五つのおそれ。不活畏・惡名畏・死畏・趣畏・怯畏。又は、不活怖・惡名怖・大衆威德怖・死怖・墮惡道怖。〔江總、攝山棲霞寺碑〕三清遺法、未レ明二五怖之災一。〔庾信、五張寺碑〕汲引四流、周二圓五怖一。〔佛地論〕五怖畏者、一不活畏、二惡名畏、三死畏、四趣畏、五怯畏。〔四十二章經注〕五種怖畏、所謂不活怖・惡名怖・大衆威德怖・死怖・墮惡道怖也。

【五浮】966 フブ　良い土質の名。〔管子、地員〕壤土之次曰二五浮一、五浮之狀、捍然如レ米、以二葆澤一不レ離不レ垼。

【五婦】967 フブ　❶五人の婦人。❷を見よ。❷山名。四川省梓潼縣の北にある。〔漢書、地理志上〕廣漢郡梓潼、五婦山、馳水所レ出。〔華陽國志〕秦惠王許二嫁五女於蜀一、蜀遣二五丁一迎レ之、還到二梓潼一、見二一大蛇入二穴中一、一人攬二其尾一、掣レ之不レ禁、五人相助、大呼拽レ蛇、山崩、壓二死五人及秦五女一、而山分爲二五嶺一、蜀王因命曰二五婦嶺一、或名二五丁塚一。

【五鬼】968 フキ　下等の土質の名。〔管子、地員〕穀土之次曰二五鬼一、五鬼之狀、堅而不レ骼。

【五部】969 フブ　❶五つの部。〔公羊、桓、元、諸侯皆有二朝宿之邑一、注〕王者亦貴下得二天下之歡心一、以事中其先王上、因助レ祭以述二其職一、故分二四方諸侯一爲二五部一、部有二四輩一、輩主二一時一。〔後漢書、西羌傳〕陽嘉元年、以二湟中地廣一、更增二置屯田五部一、并爲二十部一。〔魏志、公孫淵傳、注〕淵乃俛仰歎息、云云、七營虎士、五部蠻夷、各懷二素飽一、不レ謀同心、奮レ臂大呼、排二門遁出一。❷金・木・水・火・土の五行をいふ。〔史記、歷書〕定二清濁一、起二五部一。〔注〕集解曰、應劭曰、五部、金・木・水・火・土也。❸高麗の五部。内部・北部・東部・南部・西部。〔後漢書、東夷傳、高句驪云云〕凡有二五族一、注〕案、今高驪五部、一曰、内部、一名黃部、卽桂婁部也、二曰、北部、一名後部、卽絕奴部也、三曰、東部、一名左部、卽順奴部也、四曰、南部、一名前部、卽灌奴部也、五曰、西部、一名右部、卽消奴部也。❹儒學。道學・文學・史學・陰陽學。〔南史、宋明帝紀〕泰始六年九月戊寅、立二總明觀一、徵二學士一、以充レ之、置二東觀祭酒訪擧各一人一、擧二士二十人一、分爲二儒・道・文・史・陰陽五部學一、言二陰陽一者、遂無二其人一。❺鼓吹曲の五部。鼓吹部・羽葆部・鐃吹部・大横吹部・小横吹部。〔唐書、儀衞志下〕凡鼓吹五部、一、鼓吹、二、羽葆、三、鐃吹、四、大横吹、五、小横吹、總七十五曲、鼓吹部、擧鼓十曲、大鼓十五曲、小鼓九曲、長鳴一曲、中鳴一曲、羽葆部十八曲、鐃吹部七曲、大横吹部二十四曲、小横吹部、曲名失レ傳。❻漢の督郵は東・西・南・北・中の五部に分かれる。督郵(8－23457‥1)を見よ。

【五部律】970 リツブ　佛佛滅後百年、優婆毱多の弟子が五人あつて、律藏に五部の派別を生じたもの。曇無德部・薩婆多部・彌沙塞部・迦葉遺部・婆麤富羅部。〔大集經、二十〕。

【五部經書】971 ゴブノケイショ　五經をいふ。五經(273)の❶を見よ。〔聞見錄、賈黃中、年七歳、以二童子一擧、及第、李文公昉贈二之詩一曰、七歳神童古所レ難、賈家門戸有二衣冠一、十人科第排二頭上一、五部經書誦二舌端一。〕

【五部上祖神】972 ゴブジヤウソジン　諸神中の傑れたものとして天孫に供奉した五部の祖先神。〔日本書紀、神代紀下〕以二中臣上祖天兒屋命一、忌部上祖太玉命、猿女上祖天鈿女命、鏡作上祖石凝姥命、玉作上祖玉屋命、凡五部神、使二配侍一焉。〔神道名目類聚鈔、四、神祇部〕。

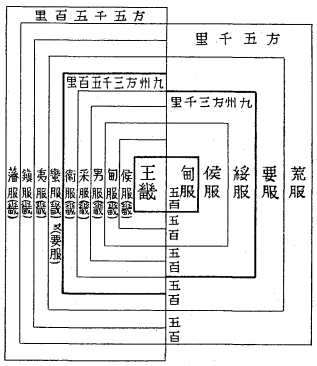
【五部大乘經】973 ゴブダイジヨウキヤウ　㊀書名。大乘佛教の五種の佛典。大方廣佛華嚴經・方等大集經・大品般若經・法華經・涅槃經。〔法華玄義〕。

【五部坊里軍】974 リクブバウ　朝鮮の高麗の兵制。高麗末期に倭寇に備へるため、王城の民丁を募集して編成せられたもの。

【五風】975 ゴフウ　❶五色の風。一説に、宮・商・角・徵・羽の風。〔枚乘、七發〕衆芳芬鬱、亂二於五風一。〔注〕善曰、大庭氏之王有二天下一、五風異レ色也、翰曰、五風、宮・商・角・徵・羽之風也。❷五日に一たび風が吹くこと。五風十雨を見よ。〔范純仁、喜雪賦〕賴二睿明之在上兮一、常十雨而五風。

【五風十雨】976 ゴフウジフウ　氣候の順調なること。五日に一たび風吹き、十日に一たび雨ふること。豐年の兆。五日一風十日一雨(488)を見よ。〔論衡、是應〕風不レ鳴條、雨不レ破塊、五日一風、十日一雨。〔和凝、宮詞〕五風十雨餘糧在、金殿惟聞奏二舜弦一。〔王炎、豐年謠〕五風十雨天時好、又見西郊稻秫肥。〔書言故事、天文類〕太平氣象、則五風十雨。

【五服】977 フク　❶古代、王畿の外圍の五つの地域。九服(1－167‥576)を見よ。㋑上古の五服。甸服・



五服九服對照圖

侯服・綏服・要服・荒服。〔書、益稷〕惟荒度二土功一、弼成五服、至二于五千一、州十有二師、外薄二四海一、咸建二五長一、各迪レ有レ功。〔傳〕五服、侯・甸・綏・要・荒服也、服五百里、四方相距、爲二方五千里一。〔小學紺珠、地理類、五服〕甸・侯・綏・要・荒。㊁周の五服。侯・甸・男・采・衞。六服(2—1453・526)を見よ。〔書、康誥〕周公初基、作二新大邑于東國洛一、四方民大和會、侯・甸・男邦・采・衞、百工播二民和一、見二士于周一。〔傳〕此五服諸侯、服五百里、侯服、去二王城一千里、甸服、千五百里、云云、衞服、二千里。〔小學紺珠、地理類、五服〕侯・甸・男・采・衞。❶五等の喪の服。斬衰(三年)・齊衰(一年)・大功(九月)・小功(五月)・緦麻(三月)。〔禮、學記〕師無レ當二於五服一。〔疏〕五服、斬衰也、齊衰也、大功也、小功也、緦麻也。〔晉書、拾唾、五服〕斬衰・齊衰・大功・小功・緦麻、服制令云、父斬衰三年、母齊衰三年、祖父母・伯叔父母・姑兄弟、齊衰周年、同堂兄弟、大功九月、再從伯叔父母・姑兄姊、小功五月、三從伯叔父母姑兄姊、緦麻三月、此謂二五服一。❷五等の服裝。〔書、益稷〕予欲レ觀二古人之象一、日月星辰、山龍華蟲、作レ會、宗彝、藻火粉米、黼黻絺繡、以二五采一彰施二于五色一、作レ服。〔書、皋陶謨〕天命有レ德、五服五章哉。〔傳〕五服、天子・諸侯・卿・大夫・士之服也、尊卑采章各異、所二以命一有德一。㊁王・公・卿・大夫・士の服裝。〔周禮、春官、小宗伯〕辨二吉凶之五服、車旗宮室之禁一。〔注〕五服、王及公・卿・大夫・士之服。

❹五刑の罪を犯したものが各〻其の罰に服すること。五刑有レ服(265)を見よ。〔書、舜典〕五刑有レ服、五服三就。〔史記、五帝紀〕五服三就。

【五服已盡】978 ゴフクヰジン 喪の五服の關係が、既に絶えたこと。卽ち有服親が無服親となること。〔明律、刑律、鬬毆、同姓親屬相毆〕凡同姓親屬相毆、雖二五服已盡一而尊卑名分猶存者、尊長減二凡鬬一等、卑幼加二一等一、至レ死者、並以二凡人一論。

【五服一朝】979 ゴフクイツテウ 王畿外に居る五服の諸侯が、各〻六年毎に一たび來朝すること。〔書、周官〕六年五服一朝。〔傳〕五服、侯・甸・男・采・衞、六年一朝二會京師一。

【五服三就】980 ゴフクサンシウ 五刑の罪に當るものを、三處で處刑すること。三就には二說ある。一說は、大罪は原野で行ひ、大夫は朝で行ひ、士は市で行ふと解し、他の一說は大辟は市街で行ひ、宮刑は蠶室で行ひ、他の刑は各〻隱處で行ふと解す。〔書、舜典〕汝爲レ士、五刑有レ服、五服三就。〔傳〕行刑、當就二三處一、大罪於二原野一、大夫於レ朝、士於レ市。〔蔡傳〕三就、孔氏以爲、大罪於二原野一、大夫於レ朝、士於レ市、不レ知二何據一、竊恐惟、大辟棄二之於市一、宮辟則下蠶室一、餘刑亦就二屏處一、蓋非二死刑一、不レ欲レ使二風中一其瘡一、誤而至レ死、聖人之仁也。

【五服圖解】981 ゴフクヅカイ 書名。一卷。元、龔端禮撰。〔四庫未收書目提要、四〕。

【五福】982 ゴフク ❶五つの幸福。長壽、富裕、無病息災、道德を樂しむ、天命を全くすることの五つ。〔書、洪範〕五福、一曰、壽、二曰、富、三曰、康寧、四曰、攸好德、五曰、考二終命一。〔後漢書、章帝紀〕膺二五福之慶一。〔晉書、阮种傳〕彝倫攸レ序、五福來備。〔白居易、策林十七、興二五福一銷二六極一〕五福之祥、何從而作。〔通俗編、祝誦、五福〕桓譚新論云、五福、壽・富・貴・康寧・子孫衆多、與レ書不レ同者一。❷縣名。民國、置く。雲南省に屬す。

【五福餅】983 ゴフクヘイ 餅の名。五種の餡を用ひて作つたもの。〔清異錄、饌羞、五福餅〕湯悅逢二士人于驛舍一、士人揖食、其中一物是爐餅、各五事、細味レ之、餡料一不レ可レ曉、以問、士人笑曰、此五福餅也。

【五佛】984 ゴブツ ㊀金剛界の五智所成の五如來。中央毘盧遮那佛(大日如來)・東方阿閦佛・南方寶生佛・西方阿彌陀佛・北方不空成就佛。五智如來。五智五佛。〔菩提心論〕東方阿閦佛、因レ成二大圓鏡智一、亦名二金剛智一也、南方寶生佛、由レ成二平等性智一、亦名二灌頂智一也、西方阿彌陀佛、由レ成二妙觀察智一、亦名二蓮華智一、亦名二轉法輪智一也、北方不空成就佛、由レ成二所作智一、亦名二親曆智一也、中方毘盧遮那佛、由レ成二法界智一。

【五佛性】985 ゴブツシヤウ ㊀五種の佛性。卽ち正因佛性・了因佛性・緣因佛性・果性佛性・果果佛性の稱。〔法華文句、十〕佛性有レ五、正因佛性、通二本當一、緣・了佛性、種子本有、非レ適レ今也、果性・果果性、定當レ得レ之。

【五物】986 ゴブツ 五つの物。❶治國に就いての五物。㋑周代の稅制に於て、五地九等の地から生ずる五種の產物。〔周禮、地官、大司徒〕以二土均之法一、辨二五物九等一。〔注〕五物、五地之物也。〔疏〕釋曰、以二土均之法一、辨二五物一者、卽上山林川澤之等、是也、云二九等一者、據二五地之內一、分爲二九等之地一、辟剛赤緹之屬、其種所レ宜不レ同也。㋺周代、天子が諸侯の事故を治める五つの事。喪家に賻して不足を補ふ、凶年の時は財を以て之を賙委する、兵寇の爲に病者を養ふに乏しければ隣國をして財貨を出し合つて與へしめる、福事あれば慶賀する、不幸があれば哀弔する。〔周禮、秋官、小行人〕若國札喪、則令二賻補之一、若國凶荒、則令二賙二委之一、若國師役、則令二檜・禬之一、若國有二福事一、則令二慶二賀之一、若國有二祇栽一、則令二哀二弔之一。凡此五物者、治二其事故一。❷射術に就いての五物。和・容・主皮・和容・興舞。〔周禮、地官、鄉大夫〕以二鄉射之禮一、五物詢二衆庶一、一曰和、二曰容、三曰主皮、四曰和容、五曰興舞。❸衣服の材料に就いての五物。絲・麻・葛・褐・木綿。〔大學衍義補、制二國用一、貢賦之常〕自二古中國一、所二以爲一衣者、絲・麻・葛・褐四者而已、漢唐之世、遠夷雖レ以二木綿一入レ貢、中國未レ有二其種一、宋元之間、始傳二其種一、入二中國一、至二我國朝一、其種乃徧布二于天下一。㊃官に就いての五物。天官・地官・神官・民官・類物官。〔國語、楚語下〕五物之官、陪屬萬爲二萬官一。〔注〕五物、謂二天・地・神・民・類物之官一也。❹貨幣に就いての五物。金・銀・龜・貝・布。〔漢書、食貨志下〕莽卽レ眞以爲、書劉字有二金刀一、廼罷二錯刀・契刀及五銖錢一、而更作二金銀龜貝錢布之品一、名曰二寶貨一、小錢徑六分、重一銖、文曰二小錢直一一、次七分、三銖、曰二幺錢一十一、次八分五銖、曰二幼錢二十一、次九分七銖、曰二中錢三十一、次一寸九銖、曰二壯錢四十一、因二前大錢五十一、是爲二錢貨六品一、直各如二其文一、黃金重一斤、直錢萬、朱提銀重八兩、爲二一流一、直一千五百八十、它銀一流、直千、是爲二銀貨二品一、元龜距冉、長尺二寸、直二千一百六十、爲二大貝十朋一、公龜九寸、直五百、爲二壯貝十朋一、侯龜七寸以上、直三百、爲二幺貝十朋一、子龜五寸以上、直百、爲二小貝十朋一、是爲二龜寶四品一、大貝四寸八分以上二枚、爲二一朋一、直二百一十六、壯貝三寸六分以上二枚、爲二一朋一、直五十、幺貝二寸四分以上二枚、爲二一朋一、直二十、小貝寸二分以上二枚、爲二一朋一、直十、不レ盈二寸二分一、漏レ度不レ得レ爲レ朋、率枚直錢三、是爲二貝貨五品一、大布・次布・弟布・壯布・中布・差布・厚布・幼布・幺布・小布、小布長寸五分、重十五銖、文曰二小布一百、自二小布一以上、各相長一分、相重一銖、文各爲二其布名一、直各加二一百一、上至二大布一、長二寸四分、重一兩、而直千錢矣、是爲二布貨十品一、凡寶貨五物六名二十八品。

【五分】987 ゴブン ❶五つに分ける。〔周禮、考工記、盧人〕凡爲レ戈、五二分其長一、以二其一一爲レ之柲一。〔禮、喪服小記〕絰殺、五分而去レ一、杖如レ絰。〔漢書、敍傳下、帝庸二親親一、厥國五分。〔注〕師古曰、用二親親之道一、故分レ梁爲二五國一、立二孝王男五人一爲レ王。❷五分五分の略。雙方に優劣がないこと。❸一寸の半分。

【五分像】988 wu³ fen¹ hsiang⁴ 半面像。半身像。

【五分錢】989 ゴブセン 漢代、高后の時行はれた錢の名。形が楡莢に似てゐるから莢錢ともいふ。〔漢書、高后紀、行二五分錢一。〔注〕應劭曰、所謂莢錢者。〔資治通鑑、漢紀〕高皇后、六年、行二五公錢一。

【五分五分】990 ゴブゴブ 半々の義。相匹敵すること。〔浮世風呂、二上〕どつちも五分五分のこじつけだね。

『五分作法』991（ゴブンサホフ）　㊀因明の論式をいふ。因明は今の論理學が三段論法を用ひるのと異なり、宗・因・喩・合・結の五段論法を用ひる故、五分作法といふ。宗とは其の論を立てる趣意を明示するもの、因とは其の立論の根據理由を示すもの、喩とは他の事例を引いて立論を助けるもの、合とは其の宗と喩との合一を證するもの、結とは斯くて得た結論をいふ。五支作法。

『五分法身』992（ゴブンホッシン）　㊀五種の功德法を以て佛身を成就するから五分法身といふ。一に戒、如來の身口意の三業が一切の過非を離れるのを戒法身といふ。二に定、如來の眞心寂靜にして一切の妄念を離れるのを定法身といふ。三に慧、如來の眞智圓明にして法性を觀達するのを慧法身といふ。四に解說、如來の心身が一切の繫縛を解脫するのを解脫法身といふ。五に解脫知見、己が實に解脫せしを知るのを解脫知見法身といふ。〔行宗記、一上〕五分法身者、戒定慧從レ因受レ名、解脫・解脫知見從レ果受レ號。

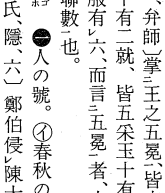
【五兵】993（ゴヘイ）　㊀五種の兵器。兵は武器。五戎。㋑弓矢・殳・矛・戈・戟。〔周禮、夏官、司右〕凡國之勇力之士、能用二五兵一者屬焉、掌二其政令一。〔注〕司馬法曰、弓矢圍レ殳矛守、戈戟助、凡五兵、長以衝レ短、短以救レ長。㋺戈・殳・戟・酋矛・夷矛。〔周禮、夏官、司兵〕掌二五兵五盾、各辨二其物與一其等、以待二軍事一。〔注〕鄭司農云、五兵者、戈・殳・戟・酋矛・夷矛。㋩戈・殳・戟・酋矛・弓矢。〔周禮、夏官、司兵〕軍事、建二車之五兵、會同亦如レ之、〔注〕車之五兵、鄭司農所レ云者是也、步卒之五兵、則無二夷矛一、而有二弓矢一。㋥矛・戟・鉞・楯・弓矢。〔穀梁、莊、二十五天子救レ日、置二五麾一、陳二五兵五鼓一。〔注〕五兵、矛・戟・鉞・楯・弓矢。㋭刀・劍・矛・戟・矢。〔淮南子、時則訓〕乃教二於田獵一、以習二五戎一。〔注〕戎、兵也、刀・劍・矛・戟・矢、故曰二五戎一也。㋬矛・戟・弓・劍・戈。〔漢書、吾丘壽王傳〕臣聞、古者作二五兵一、非二以相害一、以禁二暴討レ邪也、安居則以制二猛獸一而備二非常一、有レ事則以設二守衛一而施二行陣一。〔注〕師古曰、五兵、謂二矛・戟・弓・劍・戈一。㊁五種の軍。㋑義レ暴を救ひ亂を禁ずる）・強（衆を恃んで以て伐つ）・剛（怒に因つて師を興す）・暴（禮を棄てて利を貪る）・逆（國亂れ民疲弊せるのに事を擧げて衆を動かす）。〔吳子、圖國〕救レ暴禁レ亂曰レ義、恃レ衆以伐曰レ強、因レ怒興レ師曰レ剛、棄レ禮貪レ利曰レ暴、國亂人疲、擧レ事動レ衆曰レ逆。㋺義（亂を救ひて暴を誅する）・應（已むを得ずして起る）・忿（小故を爭つて怒る）・貪（人の土地や貨寶を欲求する）・驕（國家の強大を誇つて威を敵に示す）。〔漢書、魏相傳〕魏相上書諫曰、臣聞之、救レ亂誅レ暴、謂二之義兵一、不レ得レ已而起者、謂二之應兵一、爭レ恨小故一、不レ忍二憤怒一者、謂二之忿兵一、利二人土地貨寶一者、謂二之貪兵一、恃二國家之大一、矜二民人之衆一、欲レ見二威於敵一者、謂二之驕兵一、此五者、非二但人事一、乃天道也。〔小學紺珠、治道類、五兵〕義兵・應兵・忿兵・貪兵・驕兵。㊂五つの兵部。五兵尚書を見よ。〔小學紺珠、制度類、五兵〕中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵、魏五兵尚書。

【五兵佩】994（ゴヘイハイ）　婦人の飾。〔晉書、五行志上〕惠帝元康中、婦人之飾、有二五兵佩一、又以二金銀琦瑁之屬一、爲二斧鉞戈戟一、以當レ笄。

『五兵尚書』995（ゴヘイシャウショ）　魏代の官名。中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵の五つの兵部を領す。〔資治通鑑、晉紀〕〔成帝、咸康八年〕右僕射張離、領二五兵尚書一。〔注〕曹魏置二五兵尚書一、沈約志、五兵尚書、領二中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵一、故謂二之五兵一。〔稱謂錄、兵部、五兵尚書〕章俊卿山堂考索、魏始置二五兵尚書一、謂二中兵・外兵・騎兵・別兵・都兵一也。

【五剽】996（ゴヒョウ）　中等の土質の土地。〔管子、地員〕鹽土之次曰二五剽一、五剽之狀、華然如レ芬以脈。〔纂詁〕剽、輕也。

【五廟】997（ゴビョウ）　㊀諸侯のみたまや。二昭・二穆と太祖の廟。〔禮、王制〕諸侯五廟、二昭、二穆、與二大祖之廟一而五。〔公羊、莊、三〕請二後五廟一、以存二姑姊妹一。〔孔子家語、廟制解〕諸侯立二五廟一。㊁天子も四親廟と太祖廟との五なりとの說。七廟（1－6‥433）を見よ。〔禮、喪服小記〕王者立二四廟一。〔注〕高祖以下與二始祖一而五。



諸侯五廟略圖（四書引蒙解）

【五辟】998（ゴヘキ）　㊀五刑（663）に同じ。〔漢書、霍光傳〕五辟之屬、莫レ大二不孝一。〔注〕師古曰、五辟、卽五刑也。〔宋書、孝武帝紀〕詔曰、夫五辟三刺、自レ古所レ難、巧法深文、在レ季彌甚、故沿情察訟、魯師致レ捷、市獄勿レ擾、漢史飛レ聲。〔南史、袁昂傳〕嚴二五辟一于明君之朝、峻二三章一于聖主之日。㊁五たび招き召す。〔唐書、甄濟傳、居二青巖山一十餘年、遠近伏二其仁一、環レ山不二敢畋漁一、採訪使苗晉卿表レ之、諸府五辟、詔十至、堅臥不レ起。〔李頎、送二劉四赴一夏縣一詩〕明年九府議レ功時、五辟三徵當レ在レ茲。㊂五代の君をいふ。漢の宣帝・元帝・成帝・哀帝・平帝。〔班固、幽通賦〕巽羽化二于宣宮一兮、彌二五辟一而成レ災。〔注〕善曰、應劭曰、宣帝時、未央宮路幹中、雌雞化爲レ雄、元后時、始爲二太子妃一、至二平帝一、歷二五葉一而莽奪レ位也、五辟、謂二王后・元帝也、成帝也、哀帝也、平帝也、辟、君也、故云二彌一五辟一而成レ災也。

【五變】999（ゴヘン）　㊀五回、變化する。〔宋玉、高唐賦〕清濁相和、五變四會。〔注〕善曰、聲濁五變、五音皆變也。〔漢書、五行志下之下〕觀二日之五變一、足二以監矣一。㊁書體の五變。㋑古文・大篆・小篆・隸書・草書。〔隋書、經籍志、一〕自二蒼頡一、訖二于漢初一、書經五變、一曰古文、卽蒼頡所レ作、二曰大篆、周宣王時史籀所レ作、三曰小篆、秦時李斯所レ作、四曰隸書、程邈所レ作、五曰草書、漢初作。㋺小篆・八分・隸書・行書・草書。〔法書苑〕自二小篆變一而八分生、八分破而隸書出、隸書悖而行書作、隸書狂而草書聖。

【五冕】1000（ゴベン）　天子が祭祀に冠る五種の冠。〔周禮、夏官、弁師〕掌二王之五冕一、皆玄冕、朱裏延紐、五采繅十有二就、皆五采玉十有二、玉笄朱紘。〔注〕冕服有二六、而言二五冕一者、大裘之冕、蓋無レ旒、不二聯數一也。

【五父】1001（ゴホ）　㊀人の號。㋑春秋の時、陳の桓公の弟。〔左氏、隱、六〕鄭伯侵二陳大獲一、往歲鄭伯請二成於陳一、陳侯不レ許、五父諫曰、親仁善レ鄰、國之寶也、君其許レ鄭。〔左氏、隱、七〕陳五父、如レ鄭涖レ盟、壬申、及二鄭伯一盟、歃如レ忘、洩伯曰、五父、必不レ免、不レ賴二盟矣一。〔左氏、桓、五〕於レ是陳亂、文公子佗、殺二太子免一而代レ之。〔注〕佗、桓公弟五父也。〔左氏、莊、二十二〕陳厲公蔡出也、故蔡人殺二五父一而立レ之。㋺唐の李揆が李輔國を呼んだ稱。〔唐書、李輔國傳〕李揆當レ國、以二子姓一事レ之、號二五父一。㊁㋑親父・養父・繼父・義父・師父。〔居家必用〕親父、謂下生二我身一之父上也、養父、謂下繼二立我一之父上、遺抱者同、繼父、謂二父亡母再醮者一、義父、謂下受二恩寵一、結上拜之類上、師父、謂二受レ業之師一也。

【五父衢】1002（ゴホク）　地名。山東省曲阜縣の東南。陔餘叢考、卷三に見ゆ。〔禮、檀弓上〕孔子少孤、不レ知二其墓一、殯二於五父之衢一。〔注〕五父、衢名、蓋鄹曼父之鄰。〔左氏、襄、十一〕季武子將下作二三軍一、詛二諸五父之衢上。〔注〕五父衢、道名也、在二魯縣東南一。〔史記、孔子世家〕乃殯二五父之衢一。〔孔叢子、記問〕棄二之五父一。〔明一統志〕五父衢、在二兗州府曲府縣西南一。

【五步】1003（ゴホ）　いつあし。又、五步の距離にもいふ。〔禮、曲禮上〕執二策分一轡驅レ之、五步而立。〔杜牧、阿房宮賦〕五步一樓、十步一閣。〔白居易、山雉詩〕五步一啄草、十步一飲水。

『五步詩』1004（ゴホノシ）　唐の史寺が開元中、上書して自ら詩を能くすといひ、三國魏の曹植は七步で詩を成したが、臣は五步の內にして明詔を塞ぐべしといつたので、玄宗が除夕の詩を以て試みたところが、口に應じて賦して、今歲今宵盡、明年明日催、寒隨二一夜一去、春逐二五更一來、氣色空中改、容顏暗裏回、風光人不レ覺、已著二後園梅一。

【五步蛇】1005（wǔ pù shé）　蝮蛇の一種。又、百步蛇・白花蛇ともいふ。頭部は黑褐色、背は灰白色で三角形の黑紋あり。牙に劇毒あり、これ

に食はれると五歩の内、或は百歩の内に死ぬといふ。揚子江沿岸、南支地方に産す。

【五步之內】1006 ゴホノウチ 極めて近い距離。〔史記、藺相如傳〕相如前進レ缻、因跪請二秦王一、秦王不レ肯レ擊レ缻、相如曰、五歩之内、相如請、得下以二頸血一濺中大王上矣。

【五步成レ詩】1007 ゴホニシテナス 作詩の早いこと。五歩詩を見よ。〔唐詩金粉、敏悟〕史青上書、自薦二能詩一云、子建七歩、臣五歩之内、可レ塞二明詔一、明皇試以除夕、上元・竹火籠等詩一、應レ口而出、上稱賞、授以レ官。

【五保】1008 ゴホ 王朝時代、令制によつて定められた組合制度。五戸が組合つて相檢察すること。〔戸令〕凡戸、皆五家相保、一人爲レ長、以相檢察。

【五畝】1009 ゴホ 一畝の五倍。〔白居易、池上篇〕十畝之宅、五畝之園、有二水一池一有二竹千竿一。

【五畝之宅】1010 ゴホノタク 井田の法で、一夫の有する宅地。田廬と邑居との宅地で、私田百畝以外に受けるもの。朱子の説に據れば、二畝半は田に、二畝半は邑に在りといふ。陔餘叢考、卷四に見ゆ。〔孟子、梁惠王上〕五畝之宅、樹レ之以レ桑、五十者可二以衣一レ帛矣、雞豚狗彘之畜、無レ失二其時一、七十者可二以食一レ肉矣。〔集注〕五畝之宅、一夫所レ受、二畝半在レ田、二畝半在レ邑。〔孟子、盡心上〕五畝之宅、樹二牆下一以レ桑、匹婦蠶レ之、則老者足二以衣一レ帛矣、五母雞、二母彘、無レ失二其時一、老者足二以無一レ失レ肉矣。

【五輔】1011 ゴホ 管子の篇名。

【五戊】1012 ゴボ 立春・立秋後の第五の戊ノヒの日。此の日春秋社を行ふ。〔後天萬年曆〕立春・立秋後五戊、爲二春秋社一。〔郭鈺、社日詩〕甲子頻書入二短篇一、細推五戊卜二春田一。

【五剖】1013 ゴホウ 五つにさける。四分五裂(3－4682：708)を見よ。〔揚雄、解嘲〕四分五剖、並爲二戰國一。〔注〕銑曰、剖、判也。

【五峯】1014 ゴホウ ❶山名。㋑江西省宜豐縣の西北。歸雲・積翠・羅漢・月桂・拂巖の五つの峯がある。山上の五峯寺は劉宋の武帝が建てた淨覺寺である。㋺四川省瀘縣の北。五峯が並峙してゐる。〔蜀道驛程記〕昔爲二商船輻輳之所一。㋩山東省長清縣の東南。❷縣名。民國、改め置く。湖北省荊南道。元以前は蠻地であつた。❸字號。㋑元、李孝光(6－14459：943)の號。㋺明、文伯仁(5－13450：1031)の號。㋩清、王翰(7－2082 3：172)の號。㋥坂口恭の號。坂口五峯(3－49 10：8)を見よ。㋭wǔ fēng' 五本の指をいふ。

【五峯集】1015 ゴホウシフ 書名。❶五卷。宋、胡宏撰。其の子大時の編。經說多し。其の目は、詩一卷・書一卷・雜文一卷・皇王大紀論一卷・易外傳・論語指南・釋疑孟一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。❷六卷。元、李孝光撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【五峯狂客】1016 ゴホウキヤウカク 元、李孝光(6－14459：943)の號。

【五峯居士】1017 ゴホウコジ 宋、翁挺(9－28635：51)の號。

【五峯山人】1018 ゴホウサンジン 明、文伯仁(5－13450：1031)の號。

【五峯先生】1019 ゴホウセンセイ 宋、胡宏(9－29400：98)の尊稱。

「號。

【五峯道人】1020 ゴホウダウジン 清、傅山(1－939：56)の

【五鳳】1021 ゴホウ ❶鳳凰の五度至るをいふ。〔班固、兩都賦序〕神雀五鳳、甘露黃龍之瑞、以爲二年紀一。〔注〕善曰、漢書宣帝紀、神雀元年、云云、又曰、五鳳元年、應劭曰、先者鳳皇五至、因以改レ元。❷五種の鳳凰。赤は鳳、黃は鵷雛、青は鸞、紫は鸞鶱、白は鵠。〔李頎、王母歌〕紅霞白日儼不レ動、七龍五鳳紛相迎。〔宋史、禮志十六〕凡大宴、有司預於二殿庭一設二山樓一、排レ場爲二羣仙隊仗一、六番進二貢九龍五鳳之狀一。〔小學紺珠、動植類、五鳳〕赤者鳳・黃者鵷雛・青者鸞・紫者鸞鶱・白者鵠。❸宋の五人の名臣。宋白・賈黃中・李至・呂蒙正・蘇易簡。〔談苑〕宋太宗朝、宋白・賈黃中・李至・呂蒙正・蘇易簡、五人同時拜二翰林學士承旨一、扈蒙贈レ詩云、五鳳齊飛入二翰林一。❹年號。㋑漢、孝宣帝(劉詢)の時。(B.C.57－B.C.54) ㋺三國吳、廢帝(孫亮)の時。(254－256) ㋩隋末、竇建德の僭年號。(618－621)

【五鳳草】1022 ゴホウサウ 草の名。とうだいぐさ。澤漆(7－18383：29)の異名。〔本草、澤漆〕釋名、漆莖、猫兒眼睛草、綠葉綠花草、五鳳草。

【五鳳樓】1023 ゴホウロウ 樓の名。❶梁の太祖が洛陽に建てたもの。〔五代史、羅紹威傳〕太祖將レ都二洛陽一、紹威取二魏良材一、爲二五鳳樓一。〔名義考〕梁太祖建二五鳳樓一、周翰所謂去レ地百丈、在二天半空一、五鳳翹翼者也。❷安徽省合肥縣にあり、唐の張崇が建てた。〔明一統志〕五鳳樓、在二廬州府城上一、唐天祐中、張崇築レ城創レ樓、鳳集二其上一、因以紀レ瑞。

【造二五鳳樓一手】1024 ゾオホウロウノシユ 文章を作るに巧妙な喩。五鳳樓の大建築を大文章に比べていふ。〔談苑〕梁韓洎・韓浦、能爲二古文一、洎常輕レ浦曰、吾兄爲レ文、如二繩樞草舍一、聊蔽二風雨一而已、予之文、是造二五鳳樓一手、浦聞、因レ人寄二蜀牋一、題レ詩曰、十樣蠻箋出二益州一、新來寄自二浣溪頭一、老兄得レ此全無レ用、助レ爾添脩五鳳樓。〔書言故事、文章類〕推下工二於文一者上、有下造二五鳳樓一手上。

【五卜】1025 ゴボク 龜卜に表はれる五つの形。雨・霽・蒙・驛・剋。〔書、洪範〕乃命二卜筮一曰雨、曰霽、曰蒙、曰驛、曰克、曰貞、曰悔、凡七、卜五、占用二二。〔荀子、王制〕鑽レ龜陳レ卦、主二攘擇五卜一、知二其吉凶一、妖祥一。〔注〕五卜、洪範所謂、曰雨、曰霽、曰蒙、曰驛、曰克、言二兆之形一也。〔小學紺珠、律歷類、五卜〕雨・霽・蒙・驛・克。

【五木】1026 ゴボク ❶槐・柳・桃・桑・構の五種の木。一說に、梅・桃・柳・桑・杉とも、また桑・槐・楮・榆・柳とも、更に桑・槐・桐・樗・朴ともいふ。〔孔子家語、刑政〕五木不レ中伐、不レ粥二於市一。❷五種の火を取る木。〔尸子、君治〕燧人、上觀二星辰一、下察二五木一、以爲レ火。〔北史、王劭傳〕今溫酒及炙レ肉、用二石炭・木炭火・竹火・草火・麻荄火一、氣味各不レ同、以此推レ之、新火舊火、理應レ有レ異、伏願、遠遵二先聖一、於二五時一取二五木一、以變レ火。❸古、博奕に用ひた骰子のやうなもの。一見凡そ五箇、故に名づく。〔樗蒲經〕古惟劉木爲レ子、一具凡五子、故名二五木一。〔李白、贈別從甥高五〕詩〕五木思二一擲一、如二繩繫窮猱一。〔演繁露〕五木之形、兩頭尖銳、故可二轉躍一、中間平廣、故可レ鏤レ采、凡一子悉爲二兩面一、一面塗レ黑畫犢、一面塗レ白畫雉、投レ子者、五皆現レ黑、名曰レ盧、爲二最高之采一、四黑一白、名曰レ雉、降レ盧一等、自レ此而降、白黑相尋、或名爲二梟一、或名爲レ犢、後世骰子之製、卽祖二襲五木一、五木止有二兩面一、骰子則有二六面一、蓋裁二去五木兩頭尖銳一、而變レ長爲レ方也。❹山名。湖南省長沙の西。一名、累石山。〔水經、湘水注〕累石山、亦謂二之五木山一、山方尖、如二五木狀一。

【五木香】1027 ゴボクカウ 芳草の名。もくかう。木香(6－14415：52)の異名。〔本草、木香、釋名、蜜香、青木香、五木香、南木香、頌曰、修養書云、正月一日、取二五木一、煮レ湯以浴、令二人至レ老鬚黑一、徐鍇注云、道家謂二青木香一、亦云二五木一。

【五木湯】1028 ゴボクタウ 桑・槐・桃・穀・柳の五木を煮沸した湯藥。脚氣に效があるといふ。〔倭名類聚抄、藥名類、湯藥〕五木湯、煮二槐・柳・桃・桑・穀五木一、治二腳氣一。〔和漢三才圖會、喬木類、扶桑〕五木湯、桑・槐・桃・楮・柳、是也。

【五染】1029 ゴゼン 車の轅の五箇所の飾。染は車の轅に卷き束ねた飾で、轅の折れることを防ぐもの。〔詩、秦風、小戎〕小戎俴收、五二染梁軸一。〔傳〕五、五束也。染、歷錄也。

【五本】1030 ゴホン 人の世に處し身を持するについての五つの根本。❶柔仁・誠信・毋驕・恭敬・寬靜。〔說苑、敬愼〕凡可二其身一、必愼二五本一。一曰、柔以仁、二曰、誠以信、三曰、富而貴、毋二敢以驕一人、四曰、恭以敬、五曰、寬以靜。〔小學紺珠、性理類、五本〕柔以仁、誠以信、富貴無二敢以驕一人、恭以敬、寬以靜。❷信・德・孝・悌・讓。〔小學紺珠、性理類、五本〕

【五魔】1031 ゴマ 〔佩五種の惡魔。天魔・罪魔・行魔・惱魔・死魔。〔罵意經〕五魔、天魔・罪魔・死魔・行魔・惱魔也。

【五末】1032 ゴマツ 五つの末節。德の末(三軍、五兵の運)・教の末(賞罰利害、五刑の辟)・治の末(禮法度數、刑名比詳)・樂の末(鐘鼓の音、羽旄の容)・哀の末(哭泣衰絰・降殺の服)。〔莊子、天道〕三軍五兵之運、德之末也、賞罰利害、五刑之辟、教之末也、禮法度數、刑名比詳、治之末也、鐘鼓之音、羽旄之容、樂之末也、哭泣衰絰、隆殺之服、哀之末也、此五末者、須二精神之運一、心術之動一、然後從レ之者也。

【五味】1033 ゴミ ㊀五種の味。鹹・苦・酸・辛・甘。五熟。五毒。〔周禮、天官、疾醫〕以ニ五味・五穀・五藥一養ニ其病一。〔注〕五味、醯・酒・飴蜜・薑・鹽之屬。〔禮、禮運〕五味六和、十二食、還相爲ㇾ質也。〔注〕五味、酸・苦・辛・鹹・甘也。〔左氏、僖、三十〕有ニ備物之饗一、以象ニ其德一、薦ニ五味一、羞ニ嘉穀一、鹽虎形、以獻ニ其功一。〔荀子、勸學〕口好ニ之五味一。〔墨子、七患〕五穀盡收、則五味盡御ニ於主一。〔說苑、雜言〕負ニ鼎俎一、調ニ五味一。〔小學紺珠、律歷類、五味〕鹹・苦・酸・辛・甘。㊁サネカヅラ 五味子に同じ。〔和訓類林〕。

【五味架】1034 wu^3 wei^4 chia^4 食用の藥味入。

【五味子】1035 ゴミシ 常綠蔓生の木の名。さねかづら。〔本草、五味子〕集解、時珍曰、五味、今有ニ南北之分一、南產者色紅、北產者色黑。〔三才圖會、草木、五味子〕五味子、生ニ齊山山谷及代郡一、河東陝西州郡尤多、而杭越閒亦有、春初生ㇾ苗、引ニ赤蔓於高木一、其長六七尺、葉尖圓似ニ杏葉一、三四月、開ニ黃白花一、類ニ小蓮花一、七月成ㇾ實、如ニ豌豆許大一、生青、熟紅紫。

五味子（三才圖會）

【五味濁ㇾ口】1036 ゴミクチヲニゴラス 五味が味覺をにぶらせる。五味の㊀を見よ。〔莊子、天地〕四曰、五味濁ㇾ口、使ニ口厲爽一。

【五味令ニ人口爽一】1037 ゴミヒトノクチヲシテタガハシム 五味濁ㇾ口に同じ。〔老子、十二〕五味令ニ人口爽一。

【五民】1038 ゴミン ㊀士・農・工・商・賈。一說に、五方の民。〔史記、貨殖傳〕臨菑亦海岱之閒一都會也、其俗寬緩闊達而足ㇾ智、好ニ議論一云云、其中具ニ五民一。〔注〕集解曰、服虔曰、士・農・商・工・賈也、如淳曰、游子樂ニ其俗一、不ニ復歸一、故有ニ五方之民一。〔漢書、地理志下〕臨菑、海岱之閒、一都會也、其中具ニ五民一云。〔注〕服虔曰、士・農・商・工・賈也。〔宋書、符瑞志下〕四海旣穆、五民樂ㇾ業。㊁士・農・工・商賈・兵。〔宋史、王禹偁傳〕古者惟有ニ四民一、兵不ㇾ在ニ其數一、蓋古者井田之法、農卽兵也、自ㇾ秦以來、戰士不ㇾ服ニ農業一、是四民之外、又生ニ一民一、故農益困、然執ニ干戈一、衞ニ社稷一、理不ㇾ可ㇾ去、漢明之後、佛法流ニ入中國一、度ㇾ人修ㇾ寺、歷代增加、不ㇾ蠶而衣、不ㇾ耕而食、是五民之外、又益ㇾ一而爲ㇾ六矣。㊂褊急の民・狠剛の民・怠惰の民・費資の民・巧諛惡心の民。〔商子、墾令〕重刑而連ニ其罪一、則褊急之民不ㇾ鬬、狠剛之民不ㇾ訟、怠惰之民不ㇾ游、費資之民不ㇾ作、巧諛惡心之民無ㇾ變也、五民者、不ㇾ生ニ於境內一、則草必墾矣。

【五務】1039 ゴム 五つの義務。君は臣を擇んで官に任じ、大夫は官屬に命じて事を治めしめ、官長は事に任じて職を守り、士は身を修めて才能を磨き、庶人は耕農樹藝する。〔管子、五輔〕任ㇾ力有ニ五務一、五務者何、曰、君擇ㇾ臣而任ㇾ官、大夫任ㇾ官辨ㇾ事、官長任ㇾ事守ㇾ職、士修ㇾ身功ㇾ材、庶人耕農樹藝。

【五名】1040 ゴメイ ㊀五つの名〔詩、王風、兔爰、雉離ニ于罦一、疏〕一物五名、方言異也。㊁明堂の五名。〔北史、牛弘傳〕蔡邕具爲ニ章句一、又論ㇾ之曰、明堂所ニ以宗祀一、其祖以配ニ上帝一也、夏后氏曰ニ代室一、殷人曰ニ重屋一、周人曰ニ明堂一、東曰ニ青陽一、南曰ニ明堂一、西曰ニ總章一、北曰ニ玄堂一、內曰ニ太室一、聖人南面而聽、嚮ㇾ明而治、人君之位、莫ㇾ不ㇾ正焉、故雖ㇾ有ニ五名一、而主以ニ明堂一也。㊂名を附ける五つの事柄。〔左氏、桓、六〕名有ㇾ五、有ㇾ信、有ㇾ義、有ㇾ象、有ㇾ假、有ㇾ類。〔小學紺珠、氏族類、五名〕有ㇾ信、有ㇾ義、有ㇾ象、有ㇾ假、有ㇾ類。㊃山名。湖北省黃安縣の東南。群山が重なり合つて窩をなすので、俗名を天窩といふ。林泉木石ありて幽勝である。窩內は嚴冬も寒からず、盛夏も暑くはない。明の時、知府の周思九が改めて五雲山といふ。

【五命】1041 ゴメイ ㊀五たび爵命を受ける。一命（1－1・・2180）を見よ。〔周禮、春官、大宗伯〕五命賜ㇾ則。〔注〕王之下大夫四命、出封加ニ一等一、五命、賜ㇾ之以ニ方百里二百里之地一者、方三百里以上、爲ニ成國一。〔禮、王制〕小國之君、不ㇾ過ニ五命一。㊁五行の順序に從つて命を受ける。五德終始（89・・8）を見よ。〔漢書、王莽傳中〕協ニ成五命一、申以ニ福應一。〔注〕五命、謂ニ五行之次相承、以受ㇾ命也。

【五明】1042 ゴメイ ㊀梁の宮殿の名。〔南史、梁武帝紀〕太清元年三月庚子、幸ニ同泰寺一、設ニ無遮大會一、上釋ニ御服一、服ニ法衣一、行ニ清淨大捨一、名曰ニ羯磨一、以ニ五明殿一爲ㇾ房。㊁舜の作つた扇の名。五明扇。〔古今注、輿服〕五明扇、舜所ㇾ作也、旣受ニ堯禪一、廣開ニ視聽一、求ニ賢人一以自輔、故作ニ五明扇一也、秦漢公卿士大夫、皆得ㇾ用ㇾ之、魏晉非ニ乘輿一、不ㇾ得ㇾ用。〔陸機、羽扇賦〕安衆方而氣散、五明圓而風煩。〔盧思道、美女篇〕時搖ニ五明扇一、聊駐ニ七香車一。㊂清、丘岳（1－33・・16）の號。㊃佛 ゴミヤウ 古代印度の五つの學科目。聲明（文法・文學）、工巧明（技術・天文學）、醫方明（醫學）、因明（論理學）、內明（哲學・教義學）の稱。〔大唐西域記、二〕七歲之後、漸授ニ五明大論一、一曰、聲明、釋詁訓字、詮目疏別、二曰、工巧明、伎術機關、陰陽曆數、三曰、醫方明、禁呪閑ㇾ邪、藥石針艾、四曰、因明、考ニ定正邪一、研ニ覈眞僞一、五曰、內明、究ニ暢五乘因果妙理一、其婆羅門學ニ四吠陀論一。〔菩薩地持經、三〕明處者有ニ五種一、一者、內明處、二者、因明處、三者、聲明處、四者、醫方明處、五者、工業明處、此五種明處、菩薩悉求。

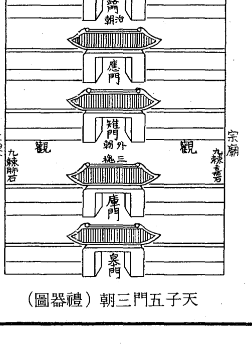
【五明學】1043 ゴミヤウガク 佛 五明の㊃に同じ。

【五明裝】1044 ゴメイサウ 箱につけた美しい飾。〔宋史、輿服志六〕皇太子冊用ㇾ珉、盛以ニ黝漆匣一、錦拓裏、以ニ金塗銀葉段一、五明裝、隱ニ起百花鳳一。〔宋史、輿服志六〕皇太子寶斗、黝漆盝、三重、並錦拓裏、外以ニ金塗一銀、百花鳳葉子、五明裝。

【五明扇】1045 ゴメイセン 五明の㊁に同じ。

【五明囊】1046 ゴメイナウ 草露を入れるふくろ。八月一日に此の囊にとつた露で眼を洗ふと、眼が明かになるといふ。〔述征記〕八月一日、作ニ五明囊一、盛取ニ百草頭露一洗ㇾ眼、令ニ眼明一也。

【五門】1047 ゴモン 天子の五門。路門・應門・雉門・庫門・皋門。三朝（1－12・・1314）を見よ。雉門は一に觀とも、闕とも曰ふ。他の門は單闕無觀であるのに對し、此の門だけは雙闕雙觀であるといふ說が多い。それによれば雉門だけは左の圖と異なるものとなる。〔周禮、天官、閽人、掌ㇾ守ニ王宮之中門之禁一、注〕鄭司農云、王有ニ五門一、外曰ニ皋門一、二曰ニ雉門一、三曰ニ庫門一、四曰ニ應門一、五曰ニ路門一、路門、一曰ニ畢門一、玄謂、雉門、三門也。〔禮、曲禮上〕凡與ㇾ客入者、每ㇾ門讓ニ於客一。〔疏〕每ㇾ門者、天子五門、諸侯三門、大夫二門。〔禮、明堂位、雉門天子應門、注〕天子五門、皋・庫・雉・應・路。〔王建、宮詞〕閑著五門遙北望、柘黃新帕御牀高。〔小學紺珠、制度類、五門〕皋・雉・庫・應・路。



天子五門三朝（禮器圖）

【五夜】1048 ゴヤ ㊀一夜を五つに分けた稱。甲夜（今の午後八時）・乙夜（十時）・丙夜（十二時）・丁夜（午前二時）・戊夜（四時）をいふ。又、五更ともいふ。〔漢官舊儀〕五夜者、甲夜・乙夜・丙夜・丁夜・戊夜、衞士甲乙相傳、盡ニ五更一。〔小學紺珠、律歷類、五夜〕甲夜・乙夜・丙夜・丁夜・戊夜。〔書言故事、歲月〕素記所謂、甲夜・乙夜・丙夜・丁夜・戊夜、謂ニ之五鼓一、亦謂ニ之五更一。㊁寅の刻。今の午前四時頃。〔沈佺期、和ニ中書侍郞楊再思春夜宿直一詩〕千廬宵駕合、五夜曉鐘稀。〔張少博、雪夜觀ニ象闕待漏一詩〕九門傳ニ曉漏一、五夜候ニ晨扃一。〔李頎、寄ニ司勳盧員外一詩〕歸鴻欲ㇾ度千門雪、侍女新添五夜香。〔杜甫、奉ㇾ和ニ賈至舍人早朝ニ大明宮一詩〕五夜漏聲催ニ曉箭一、九重春色醉ニ仙桃一。

【五夜元宵】1049 ゴヤゲンセウ 元宵の行事をする五夜。元宵とは、上元に同じく正月十五日をいふ。もとは元宵三夜といひ、正月十四日・十五日・十六日をいつたが、宋代になつて、十七日・十八日を加へて五夜元宵といふ。此の夜に燈燭を放つ。〔宣和遺事、前集下〕前代慶ニ賞元宵一、只是三夜、蓋自ニ唐玄宗開元年閒一、謂ニ天官好ㇾ樂、地官好ㇾ人、水官好ㇾ燈、上元時分、乃三官下降之日、故從ニ十四一至ニ十六夜一、放ニ三夜元宵燈燭一、至ニ宋朝開寶兩閒一、有ニ兩浙錢王一、獻ニ了兩夜浙燈一、展ニ了十七八兩夜一、謂ニ之五夜元宵一。

【五羊】1050ゴヤウ ㊀五匹のひつじ。〔孟子、萬章上〕或曰、百里奚自鬻ニ於秦養ニ牲者ニ五羊之皮ヲ、食ニ牛以要ニ秦穆公ニ、信乎。〔莊子、庚桑楚〕是故湯以ニ胞人ニ籠ニ伊尹ヲ、秦穆公以ニ五羊之皮ニ籠ニ百里奚ヲ。〔易林〕㊁殺五羊、相隨並行。㊂城の名。廣東省城をいふ。昔、高固が楚の相であつた時、五羊が穀を銜んで禁庭に集まつたといふ。羊城、又、穗垣ともいふ。〔廣州記〕戰國時、高固爲ニ楚相ニ、五羊銜ニ穀穗ヲ於楚庭ニ、故廣州廳事、梁上畫ニ五羊像ヲ、又作ニ五穀囊ニ。〔明一統志〕寰宇記云、五羊城、在ニ廣州府南海縣ニ、初有ニ五仙人ニ騎ニ五色羊ニ、執ニ六穗秬ニ而至、今呼ニ五羊ニ。

【五養】1051ゴヤウ 父母を養ふ五つのみち。卽ち體を養ひ、目を養ひ、耳を養ひ、口を養ひ、志を養ふの五つの道をいふ。〔呂覽、孝行覽〕養有ニ五道ニ、修ニ宮室ヲ、安ニ牀第ヲ、節ニ飮食ヲ、養ニ體之道也、樹ニ五色ヲ、施ニ五采ヲ、列ニ文章ヲ、養ニ目之道也、正ニ六律ヲ、龢ニ五聲ヲ、雜ニ八音ヲ、養ニ耳之道也、熟ニ五穀ヲ、烹ニ六畜ヲ、龢ニ煎調ヲ、養ニ口之道也、龢ニ顏色ヲ、說ニ言語ヲ、敬ニ進退ヲ、養ニ志之道也、此五者、代進而厚用ニ之ヲ、可ニ謂ニ善養ヲ矣。〔小學紺珠、人倫類、五養〕養體・養目・養耳・養口・養志。

【五厄】1052ゴヤク ㊀五つの災厄。㊁孔子が六經を刪述して以後、後周に至るまでの經籍の五度の災難。秦始皇の焚書、王莽の焚燼、獻帝の壞棄、劉石の失墜、周の兵の焚書。〔隋書、牛弘傳〕開皇初、弘以ニ典籍遺逸ニ、上表請ニ開ニ獻書之路ヲ一、云云、始皇下ニ焚書之令ヲ一、行ニ偶語之刑ニ一、云云、此則書之二厄也、云云、及ニ王莽之末ニ、長安兵起、宮室圖書、並從焚燼、此則書之二厄也、云云、及ニ孝獻移ニ都、吏民擾亂、圖書縑帛、皆取爲ニ帷囊ニ一、云云、此則書之三厄也、魏文代ニ漢、更集ニ經典ヲ、皆藏在ニ秘書內外三閣ニ一、云云、屬ニ劉石憑陵ニ、京華覆滅、朝章國典、從而失墜、此則書之四厄也、云云、劉裕平ニ姚、收ニ其圖籍ヲ、五經子史、纔四千卷ニ、云云、及ニ周師入ニ郢（蕭）繹悉焚ニ之於外城ヲ、所ニ收十纔二三ニ、此則書之五厄也。〔齊東野語、隋牛弘靖ニ請開ニ獻書ヲ、極ニ論廢興ヲ、述ニ五厄之說ヲ一、則書之厄也久矣。

【五戾】1052ゴヤク 五厄に同じ。〔大學衍義補、備ニ規制ニ圖籍之儲ヲ一〕牛弘上表、請ニ開ニ獻書之路ヲ一、謂、經籍自ニ周衰ニ孔子刪述ニ之後ヲ、凡有ニ五戾ニ一。

【五藥】1053ゴヤク 五種の藥材。草・木・蟲・石・穀。〔周禮、天官、疾醫〕以ニ五味・五穀・五藥ニ一、養ニ其病ヲ一。〔注〕五藥、草・木・蟲・石・穀也。

【五唯】1054ゴユイ 㑹印度哲學中、數論學派の說く二十五諦中の第四位。我慢から生ずるもので、聲・觸・色・味・香の五つの經驗的存在。唯は、必ずこれより五大・十一根を生ずることを表はした語。五唯量。〔唯識述記、一末〕五唯者、謂ニ聲・觸・色・味・香ニ一、云云、量者定義、唯定用ニ此成ニ大根等ニ一。

【五壅】1055ゴヨウ 姦臣が人主の明を蔽ひて惡事を爲す五種の場合。一、人主の耳目をふさいで下情に通ぜざらしめること。二、財利の權を自由にすること。三、君の名を借りて、擅に命令を出すこと。四、正義の名を借りて美名を賣り私利を計ること。五、自分の黨派の人を要位に立てること。〔韓非子、主道〕是故人主有ニ五壅ニ、臣閉ニ其主ヲ一、曰ニ壅、臣制ニ財利ヲ一、曰ニ壅、臣擅行ニ令曰ヲ一壅、臣得ニ行ニ義ヲ一曰ニ壅、臣得ニ樹ニ人曰ヲ一壅。

【五沃】1056ゴヨク 良い土質の土地。〔管子、地員〕粟土之次曰ニ五沃ニ一、五沃之物、或赤或青或黃或白或黑、五沃五物、各有ニ異則ニ一、五沃之狀、剽悪蒙土、蟲易ニ金處ニ一、悪剽不ニ白ヲ一、下乃以澤。

【五欲】1057ゴヨク ㊀耳・目・鼻・口の欲と、心の愛憎の欲。〔管子、內業〕節ニ其五欲ヲ一、去ニ其二凶ヲ一、不レ喜不レ怒、平正擅ニ胸ヲ一。〔雲笈七籤〕五欲者、謂、耳欲、聲便迷塞不ニ能止ヲ一、目欲、色便淫亂發狂、鼻欲、香便散ニ其精神ヲ一、口欲、味便受ニ罪入ニ網羅ヲ一、心欲、愛憎便偏邪、失ニ正平ヲ一、凡此五欲、爲ニ惑亂覆蓋ヲ一。㊁㑹㋑色欲・聲欲・香欲・味欲・觸欲。五塵。〔止觀、四〕五塵非ニ欲ヲ一、而其中有レ味、能生ニ行人貪欲之心ヲ一、故言ニ五欲ヲ一。〔智度論、十七〕哀哉衆生、常爲ニ五欲所ニ惱ヲ一、而求ニ之不ヲ一已、此五欲者、得レ之轉劇、如ニ火炙レ疥、五欲無ニ益ヲ一、如ニ狗齩レ炬、五欲增レ爭、如ニ烏競レ肉、五欲燒レ人、如ニ逆風執レ炬ヲ一、五欲害レ人、如ニ踐ニ惡蛇ヲ一、五欲無レ實、如ニ夢所レ得ヲ一。五欲不レ久、如ニ假借須臾ヲ一、世人愚惑、貪ニ著五欲ヲ一、至レ死不レ捨、爲レ之後世受ニ無量苦ヲ一。㊂財欲・色欲・飮食欲・名欲・睡眠欲。〔華嚴大疏鈔、二十七〕㋑〔三藏法數、二十四〕。

【五雷】1058ライ 道家呪法の名。五雷法を見よ。〔五雷法〕1059ライホフ 道家呪法の一。掌心雷（5〜12 248・65）に同じ。〔宋史、林靈素傳〕惟稍識ニ五雷法ヲ一、召ニ呼風霆ヲ一、開禱レ雨、有ニ小驗ヲ一而已。〔無爲州志〕吳崇信字忠、嘗遊ニ長沙ヲ一、得ニ傳ニ毛眞人五雷法ヲ一、能驅ニ役鬼神ヲ一、祈禱甚驗、遠近多異之。

【五老】1060ラウ ㊀五星の精。〔竹書紀年、上〕堯率レ舜升ニ首山ヲ一、遵ニ河渚ヲ一、有ニ五老ヲ一游焉、蓋五星之精也。〔拾遺記、周靈王〕孔子生ニ於魯襄公之世ヲ一、云云、有ニ五老ヲ一、列ニ于徵在之庭ヲ一、則五星之精也。〔任昉、宣德皇后敦勸ニ梁王ニ令ヲ一〕五老游ニ河ヲ一。㊁宋の五人の老人。㋑西京の五老。文潞公・范景仁・張仲巽・史中輝・劉伯壽。〔小學紺珠、名臣類下、西京五老〕。㋺南都の五老。杜祁公・王渙・畢世長・朱貫・馮平。五老會を見よ。〔小學紺珠、名臣類下、南都五老〕。㊂山名。㋑山西省虞鄉縣の西南。山海經の蔥聾山をいふ。唐の侯道華が升仙した所。〔元和志〕堯升ニ首山ヲ一、觀ニ河渚ヲ一、有ニ五老人ヲ一、飛爲ニ流星ヲ一、上入レ昴、因號ニ其山ヲ一爲ニ五老ヲ一。㋺貴州省鎭遠縣の南。五峯が偃僂して連なる。㋩江西省星子縣の北。廬山の盡きる處。山石骨峙、突兀として天を凌ぎ、五老人が肩を駢べて立つさまをなす。〔李白、登ニ廬山五老峯ヲ一詩〕廬山東南五老峯、青天削出金芙蓉。

【五老會】1061ラウクワイ 五人の老人の會合。宋の杜衍が王渙・畢世長・朱貫・馮平と會合した故事。〔澠水燕談錄〕慶曆末、杜祁公、告ニ老退ヲ一南京ニ與ニ太子賓客致仕王渙・光祿卿致仕畢世長・兵部郎中分司朱貫・尚書郎致仕馮平ヲ一、爲ニ五老會ヲ一、吟酣相勸、士大夫高ニ之ヲ一、五人年皆八十餘、康寧爽健。〔聞見錄〕至和中、杜祁公衍八十七、王禮侍渙九十七、畢農卿世長九十四、兵部朱貫八十八、始平馮公八十七、優ニ游鄉梓ヲ一、爲ニ睢陽五老會ヲ一、賦レ詩酬倡、錢明逸序レ之。〔齊東野語〕耆英會、至和五老、杜衍・王渙・畢世長・朱貫・馮平。

【五老圖】1062ラウヅ 宋の太子少師杜衍が睢陽に居た時、唐の白居易の香山九老の故事を用ひて五老堂を作り、詩を賦して酬唱したのを、時人が繪像に描いたもの。五老會を見よ。〔明一統志〕五老堂、在ニ歸德府城內ヲ一、宋太子少師杜衍、居ニ睢陽ニ一時、用ニ唐白樂天香山九老故事ヲ一、作ニ五老堂ヲ一、賦レ詩酬唱、時人形ニ于繪像ヲ一。

【五老榜】1063バウ 唐の杜德・詳・放・榜・劉松等五人が俱に年七十餘で科擧に登第した事をいふ。〔摭言〕杜德・詳・放・榜・劉松等五人、年俱七十餘、時謂ニ五老榜ヲ一。

【五老峰】1064ホウ 五老の㊂の㋑を見よ。

【五牢】1065ラウ 牛羊豕各五頭を供へること。〔周禮、天官、小宰〕以ニ牢禮之濃ヲ一。〔注〕三牲牛羊豕具爲ニ一牢ヲ一。〔疏〕有ニ五牢ヲ一。

【五牢具】1066ゴラウグ 五牢のそなへ。〔史記、封禪書〕祠以ニ五牢具ヲ一。

【五勞】1067ラウ ㊀人體を勞する五つのもの。久視・久臥・久坐・久立・久行。〔素問、宣明五氣論〕五勞所ニ傷ヲ一、久視傷レ血、久臥傷レ氣、久坐傷レ肉、久立傷レ骨、久行傷レ筋、是謂ニ五勞所ニ傷ヲ一。〔徐凝、長慶春詩〕身上五勞仍病酒、天桃窗下背レ華眠。㊁心・肝・脾・肺・腎の五臟の勞。〔金匱、藏府經絡先後病脈證篇〕五勞、七傷、六極。

【五臘】1068ラフ 五つの臘日。道書にいふ。正月一日を天臘、五月五日を地臘、七月七日を道德臘、十月十二日を民歲臘、十二月八日を王侯臘と爲す。〔雲笈七籤〕正月一日、名ニ天臘ヲ一、五月五日、名ニ地臘ヲ一、七月七日、名ニ道德臘ヲ一、十月十二日、名ニ民歲臘ヲ一、十二月節日、名ニ王侯臘ヲ一。

【五吏】1069リ 五人の役人。〔左氏、襄、二十五〕六正五吏ニ三十帥。〔注〕五吏、文職也、三十帥、武職也、皆軍卿之屬官也。〔管子、輕重甲〕堯之五吏五官、無ニ所食ヲ一。

【五利】1070リ ㊀五つの利益。〔左氏、襄、四〕和レ戎有ニ五利ヲ一焉、戎狄荐居、貴ニ貨易ヲ一、土可ニ寘焉、一也、邊鄙不レ聳、民狎ニ其野ヲ一、穡人成ニ功、二也、戎狄事レ晉、四鄰振動、諸侯威懷、三也、以ニ德綏レ戎、師徒不レ勤、甲兵不レ頓、四也、鑒ニ于后羿ヲ一、而用ニ德度ヲ一、遠至邇安、五也、君其圖レ之。〔宋史、葉清臣傳〕數ニ上書論ニ天下事ヲ一、陳ニ九議十要五利ヲ一、皆當世可レ行者。㊁漢の將軍の名號。〔史記、武帝紀〕乃拜ニ大爲ニ五利將軍ヲ一。〔班固、西都賦〕聘ニ文

成之不誕ニ馳ニ五利之所ヲ刑。〔注〕善曰、樂成侯登、上書言ニ欒大ニ天子見大悅曰、臣之師、有ニ不死之藥可レ得、仙人可レ致、乃拜ニ大爲ニ五利將軍ニ。

【五里】1071リ ❶一里の五倍。❷關の名。陝西省華陰縣の華山に在る。一名、第一關。❸複姓。〔後漢書、南蠻傳〕五里精夫。

【五里合】1072アイリ 羽後國の地名。

【五里墩】1073wu² li³ tuen¹ 大道五里毎に設ける里程塚。

【五里坡】1074ゴリハ 地名。陝西省鳳翔縣の西。宋の建炎三年、張嚴が、金將婁室が坡下に設けた伏兵に遭つて敗死した所。〔宋史、高宗紀二〕隴右都護張嚴、及ニ金人一戰ニ於五里坡一、敗績死レ之。

【五里牌】1075ゴリハイ 鎭の名。❶湖南省臨湘縣の東南。粵漢鐵道が通ずる。❷湖南省郴縣の北。❸湖南省零陵縣の南、瀟水の南岸。

【五里鋪】1076ゴリホ 地名。❶河北省井陘縣の東。正太鐵道が通ずる。❷山西省晉城縣。❸湖北省荊門縣の南。

【五里霧】1077ゴリム 人を迷はしめるもの。後漢の張楷が道術によつて五里に渉る霧を起した故事。〔後漢書、張楷傳〕張楷字公超、性好ニ道術一、能作ニ五里霧一、時關西人裴優、亦能作ニ三里霧一。〔李商隱、鏡檻詩〕五里無ニ因霧一三秋只見レ河。

【五里霧中】1078ゴリムチウ 方向を失ふこと。五里霧を見よ。

【五柳】1079ゴリウ 五本のやなぎ。いつもとやなぎ。〔朱慶餘、歸ニ故園一詩〕桑柘駢闌數畝間、門前五柳正堪レ攀。

【五柳居】1080ゴリウキョ 明代、南京の柵口に在つた茶舍の名。舍の側に五本の柳があつたからいふ。〔吳應箕、南都紀聞〕金陵柵口有ニ五柳居一、柳在ニ水中一、罩ニ籠軒楹一、垂條可レ愛、萬曆戊午年、一僧賃ニ開茶舍一、惠泉松茗、宜レ壺ニ錫瓶一、時以爲極ニ湯社之盛一、然飲此者、日不レ能ニ數客一、要皆勝士也、南中茶舍始レ此。

【五柳堂】1081ゴリウダウ 宋、胡稷言(9—29400‥511)の室名。

【五柳先生】1082ゴリウセンセイ 晉の陶潛(11—41705‥11)をいふ。潛、字は淵明、門に五柳を植ゑて、自ら五柳先生といふ。〔晉書、隱逸、陶潛傳〕陶潛、字元亮、少懷ニ高尚一、嘗著ニ五柳先生傳一、以自況。〔陶潛、五柳先生傳〕先生不レ知ニ何許人一也、亦不レ詳ニ其姓字一、宅邊有ニ五柳樹一、因以爲ニ號焉一、閑靖少ニ言、不レ慕ニ榮利一、好ニ讀書一、不レ求ニ甚解一、每レ有ニ會意一、便欣然忘レ食、性嗜レ酒、家貧不レ能ニ常得一、親舊知ニ其如レ此、或置レ酒而招レ之、造飮輒盡、期在ニ必醉一、既醉而退、曾不レ吝ニ情去留一、環堵蕭然、不レ蔽ニ風日一、短褐穿結、簞瓢屢空、晏如也、常著ニ文章一自娛、頗示ニ己志一、忘ニ懷得失一、以ニ以此自終一、贊曰、黔婁有レ言、不ニ戚ニ戚於貧賤一、不ニ汲ニ汲於富貴一、極ニ其言一、茲若人之儔乎、酬觴賦レ詩、以樂ニ其志一、無懷氏之民歟、葛天氏之民歟。〔雍陶、和ニ孫明府懷ニ舊山一詩〕五柳先生本在レ山、偶然爲レ客落ニ人間一、秋來見ニ月多一歸思一、自起開レ籠放ニ白鷳一。〔精註雅俗故事讀本、下、花木〕種ニ五柳一、以自況。

【五柳長鬚】1083wu² liu³ ch'ang² hsü¹ 鼻下・兩頰・頷の五箇所に長く垂れた鬚をいふ。又、五柳鬚・五柳長髯ともいふ。五綹髯鬚。

【五流】1084ゴリウ ❶五刑にあたるものを宥して流すこと。〔書、舜典〕五刑有レ服、五服三就、五流有レ宅。〔傳〕謂下不ニ忍ニ加レ刑、則流ニ放之一若ニ四凶一者上。〔蔡傳〕五流、五等象刑之當レ有者也。❷ルゴ 加役流・反逆緣坐流・子孫過失流・不孝流・會赦猶流。〔拾芥抄、下〕。

【五力】1085ゴリキ 倆❶人の五種の力。三十七道品の一。信力(一念萬年)・念力(全清絶照)・精進力(塵劫無怠)・定力(須彌高固)・慧力(推レ邪顯正)。〔羣書拾唾〕信力念力・精進力・定力・慧力。❷定力・通力・借識力・大願力・法威德力。〔宗鏡錄、四十八〕有ニ五力一、唯識不レ判、一、定力、二、通力、三、借識力、四、大願力、五、法威德力。

【五律】1086ゴリツ 五言律詩(316)の略。〔陔餘叢考、五七律排ノ沈約八詠詩云、登ニ臺望一秋月、會ニ圃臨ニ春風一、秋至憫ニ衰草一、寒來悲ニ落桐一、夕行聞ニ野鶴一、晨征聽ニ曉鴻一、解レ珮去ニ朝市一、被レ褐守ニ山東一、已全是五律、惟七八兩句失レ粘耳。

【五兩】1087ゴリャウ ❶五對をいふ。一對を兩といふ。〔詩、齊風、南山〕葛屨五兩、冠綏雙止。〔集傳〕兩、二屨也、綏、冠上飾也、屨必兩、綏必雙、物各有レ耦、不レ可レ亂也。〔周禮、地官、媒氏〕凡嫁ニ子娶レ妻、入レ幣、純帛無ニ過ニ五兩一。〔注〕五兩、十端也、必言ニ兩者、欲レ得ニ其配合之名一。〔禮、雜記下〕納幣一束、束五兩、兩五尋。〔注〕納幣、謂ニ婚禮納徵一也、十箇爲レ束、貴ニ成數一、兩兩者合ニ其卷一、是謂ニ五兩一、八尺曰レ尋、五兩五尋、則每卷二丈也、合レ之則四十尺。〔韓詩外傳、一〕抽ニ絺綌五兩一。❷船の檣尾に繫いで風の方向を見るもの。雞羽を以て作る。楚の方言。〔王篇〕候風、五兩也。〔郭璞、江賦〕穎ニ雰霓於清旭一、覘ニ五兩之動靜一。〔注〕善曰、兵書曰、凡候ニ風法一、以ニ雞羽重八兩一、建ニ五丈旗一、取レ羽繫ニ其顚一、立ニ軍營中一、許愼淮南子注曰、穎、候風也、楚人謂ニ之五兩一也。〔庾信、和ニ江中賈客一詩〕五兩開ニ船頭一、長橋發ニ新浦一。〔顧況、五兩歌〕竿頭五兩風裊裊、水上雲帆逐ニ飛鳥一。〔韓翃、送ニ壽州陳錄事一詩〕五兩楚雲暮、千家淮水秋。

【五梁】1088ゴリャウ ❶冠の五本の横脊をいふ。又、五梁のある冠。〔晉書、輿服志〕人主元服、始加ニ緇布一、則冠ニ五梁進賢一。〔唐書、車服志〕緇布冠者、始冠之服也、天子五梁、三品以上三梁、五品以上二梁、九品以上一梁。〔宋史、輿服志四〕一品二品、冠ニ五梁一、中書門下、加ニ籠巾貂蟬一。〔三才圖會、衣服、羣臣冠服〕三品五梁冠、衣裳、中單・蔽膝大帶・綬履同上、革帶用ニ金鉤朶一、其錦綬用ニ綠・黃・赤・紫四色一、織ニ成雲鶴花樣一、青絲網一、小綬二、金環二。❷三國、蜀の南安の人。字は德山。官は諫議大夫・五官中郎將となる。儒學と節操を以て名あり。〔三國志、四十二〕。

五梁冠(會圖)

【五梁禾】1089クワリャウ 五色の穀物。〔漢書、郊祀志下〕種ニ五梁禾於殿中一、各順レ色置ニ其方面一、先鬻ニ鶴髓一、毒冒・犀・玉・二十餘物一、漬レ種、計ニ粟斛一、成ニ一金一言、此黃帝穀僊之術也。〔注〕師古曰、五色禾也、谷永所謂、耕ニ耘五德一也。

【五梁溝】1090ゴリャウコウ 川の名。河南省西華縣から流れ淮寧縣の西南に至つて谷水に注ぐ。洧水の支流。〔水經、洧水注〕洧水、南逕ニ長平縣故城西一、王莽之長正也、洧水、又南分爲ニ二水一、枝分東出、謂ニ之五梁溝一。

【五涼】1091リャウ ❶晉時代の十六國中の前涼・後涼・南涼・西涼・北涼。〔晉書、目錄〕右晉十二世、十五帝、一百五十六年、中朝四帝、都ニ洛陽一、五十四年、江左十一帝、都ニ建康一、一百二年、有ニ五涼・四燕・二秦・二趙・夏・蜀十六國一、附ニ其書一、起ニ乙酉一盡ニ庚申一。❷唐代、甘肅の地をいふ。〔張九齡、益州長史叔置酒宴別序〕前拜ニ小司馬一、兼擁ニ旌於五涼一、再命ニ左常侍一、仍總ニ戎於二蜀一。〔岑參、題ニ金城臨河驛樓一詩〕古戍依ニ重險一、高樓見ニ五涼一。

【五量】1092ゴリャウ ❶五種のます。龠・合・升・斗・斛。〔漢書、律歷志上〕十龠爲ニ合一、十合爲ニ升一、十升爲ニ斗一、十斗爲ニ斛一、而五量嘉矣。〔小學紺珠、律歷類、五量〕龠・合・升・斗・斛。❷五種の計量器。權衡・升斛・尺丈・里步・十百。〔管子、水地〕準也者、五量之宗也。〔纂詁〕五量者、度量衡準繩也。〔孔子家語、五帝德〕治ニ五氣一設ニ五量一。〔注〕五量、權衡・升斛・尺丈・里步・十百。〔小學紺珠、律歷類、五量〕權衡・升斛・尺丈・里步・十百。

【五旅】1093ゴリョ 二千五百人の軍勢。一旅は五百人。〔周禮、地官、小司徒〕五人爲ニ伍一、五伍爲ニ兩一、四兩爲ニ卒一、五卒爲ニ旅一、五旅爲ニ師一、五師爲ニ軍一。〔新書、容經〕手撫ニ式一、視ニ五旅一。

【五慮】1094ゴリョ 耳・目・鼻・口・心の感覺。〔管子、水地〕九竅五慮出焉。〔注〕五慮、謂ニ耳・目・鼻・口・心一也。

【五陵】1095リョウ ❶漢の高帝以下五帝の陵墓。長陵(高帝)・安陵(惠帝)・陽陵(景帝)・茂陵(武帝)・平陵(昭帝)。皆長安に在る。〔漢書、原涉傳〕郡國諸豪及長安五陵、諸爲ニ氣節一者、皆歸ニ慕之一。〔注〕師古曰、五陵、謂ニ長陵・安陵・陽陵・茂陵・平陵一也、班固西都賦曰、南望ニ杜霸一、北眺ニ五陵一、是知霸陵・杜陵、非ニ此五陵之數一也、而說者以爲、高祖以下至ニ茂陵一、爲ニ五陵一、失ニ其本意一。〔班固、西都賦〕南望ニ杜霸一、北眺ニ五陵一。〔注〕良曰、宣帝杜陵、文帝霸陵在レ南、高惠景武昭帝、此五陵皆在レ北。❷五陵附近の地をいふ。豪遊の人が多い。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕乃有ニ六郡良家、五陵豪選一。〔李頎、送ニ康洽入レ京進ニ樂

府ニ歌）柳色偏濃九華殿、鶯聲醉殺五陵兒。〔李白、少年行〕五陵年少金市東、銀鞍白馬度春風。〔白居易、琵琶行〕五陵年少爭纏頭、一曲紅綃不レ知レ數。㊂明、陳熙（11－41698‥126）の號。

【五龍】1096ゴリュウ ㊀五匹の龍。〔儲光羲、猛虎詞〕百獸爲ニ我膳一、五龍爲ニ我賓一。〔曹唐、小遊仙詩〕因駕ニ五龍一看ニ較藝一、白鸞功用不レ如レ妻。㊁五人の俊才をいふ。五桂。㋑後漢の公沙穆の五子。紹・孚・恪・逵・樊。〔聖賢羣輔錄〕公沙紹字子起、紹弟孚字允慈、孚弟恪字允讓、恪弟逵字義則、逵弟樊字義起、右北海公沙穆之五子、並有ニ令名一、京師號曰ニ公沙五龍一、天下無雙、穆亦名士也、見ニ魏明帝甄表狀及後漢書一。㋺濟北の五龍。氾瞻・戴祈・徐晏・夏隱・劉彬。〔聖賢羣輔錄〕膠東令盧氾昭字興先、樂城令剛戴祈字子陵、潁陰令剛徐晏字孟平、涇令盧夏隱字叔世、州別駕蛇丘劉彬字文曜、右濟北五龍、少並有ニ異才一、皆稱ニ神童一、當ニ桓靈之世一、時人號爲ニ五龍一、見ニ濟北英賢傳一。㋩燉煌の五龍。索靖・范鹿・張彪・索紹・索永。〔晉書、索靖傳〕靖少有ニ逸羣之量一、與ニ鄉人范鹿・張彪・索紹・索永一、俱詣ニ太學一、馳ニ名海內一、號稱ニ敦煌五龍一。㋥前涼の辛攀の兄弟五人。〔小學紺珠、氏族類、五龍〕涼辛攀・兄鑒・曠・弟寶・迅。㋭齊の張氏の五龍。〔南齊書、張岱傳〕岱少與ニ兄太子中舍人寅一、新安太守鏡・征北將軍永・弟廣州刺史辨一、俱知レ名、謂ニ之張氏五龍一。㋬漢、周燕の五子。〔汝南先賢傳〕周燕五子、子輿・子羽・子仲・子明・子良、亦號ニ五龍一。㋣宋、竇氏の五龍。〔宋史、竇儀傳〕竇儀、學問優博、風度峻整、弟儼・侃・僖・禧、皆相繼登レ科、當時號爲ニ竇氏五龍一。㋠古代、五龍氏があつて、兄弟並に龍に乘つて上下したといふ。皇伯・皇仲・皇叔・皇季・皇少の五人をいふ。〔春秋命厤序〕皇伯・皇仲・皇叔・皇季・皇少、五姓同レ期、俱駕ニ龍一、號曰ニ五龍一。〔史記、三皇紀〕自ニ人皇一已後、有ニ五龍氏一。〔注〕按、五龍氏、兄弟五人、並乘ニ龍上一、故曰ニ五龍氏一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕五龍比翼、人皇九頭。〔小學紺珠、歷代類、五龍〕皇伯・皇仲・皇叔・皇季・皇少。㊃五行の龍。又、五行の神。宮龍・角龍・徵龍・商龍・羽龍。〔鬼谷子、本經陰符〕盛ニ神法一ニ五龍一。〔遁甲開山圖〕五龍、受ニ羲皇後一ニ君也、兄弟四人、皆人面龍身、長曰ニ角龍一、木仙也、次曰ニ徵龍一、火仙也、次曰ニ商龍一、金仙也、次曰ニ羽龍一、水仙也、父曰ニ宮龍一、土仙也、父與ニ諸子一同得レ仙、治在ニ五方一、今五行之神也。㊄川の名。㋑上源は陶漳河、源は山東省棲霞縣。五龍山を經て、南、海に入る。㋺源は山東省諸城縣。北流して高密縣の西を經て膠萊河に注ぐ。㋩山名。㋑山東省萊陽縣の南。〔太平寰宇記〕有ニ水道五一、於ニ山下一合流入ニ海一、〔讀史方輿紀要、山東、登州府、萊陽縣〕五龍山、縣南二十里、山下有ニ五水一、相合流百里而入ニ海一、因名。㋺山西省長治縣の東南。〔太平寰宇記〕本名ニ上黨山一、西燕慕容永時、有ニ五龍一、見ニ山上一、因名。㋩浙江省嵊縣の西北。㋥湖北省陽新縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、武昌府、興國州〕五龍山、州西北八十里、盤紆高聳、狀如ニ五龍一。㋭陝西省府谷縣の東。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、葭州、府谷縣〕五龍山、在ニ縣城東一、有ニ五峯突起一、如ニ伏虎一然、一名、五虎山。㋬福建省建陽縣の西。中に小山があり、五龍が珠を捧ずる形をなす。

【五龍犍】1097ウウルゲンジ 中央亞細亞、花剌子模の都邑。玉龍傑赤（7－20821‥870）を見よ。

【五龍車】1098ゴリュウシャ 天子の車をいふ。又、輟耕錄の篇名。〔輟耕錄、五龍車〕葉公李、云云、一日議ニ事大廷一、乃不レ在レ列、問ニ其故一、則病レ足、遂以ニ所レ御五龍車一召レ之、至、命レ坐而諮決焉。

【五倫】1099ゴリン 人の常によるべき五つの道。父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信。五倫の語は明の沈易の五倫詩、及び、宣宗の御製五倫書を以て其の初見とする。其の他、明人には其の用例がある。通ニ論五倫一、凡九章（小學句讀、明倫第二）。其の後清朝人には此の語を用ひたものが多い。「小學纂註、右通論」通ニ論五倫一也。「小學、立教第一」五品、五倫也。「四書、賸言補」當時五倫、只父・母・兄・弟・子五者。「焦循、孟子正義、滕文公上」漢唐儒者、不下以ニ五達道一爲中五倫上。我が國では五倫の語は、普通に用ひられ、之を書名としたものも多い。熊澤蕃山の五倫書、室鳩巢の五倫名義、小山玄壽の五倫辯解、源勤の五倫談、曾我景章の五倫名義辨證等が是である。而して五倫の語はもとは孟子の教以ニ人倫一の語に本づいて五倫と言つたのであらう。五常（550）・五典（872）の㊀に同じ。五教（392）を見よ。〔孟子、滕文公上〕使ニ契爲ニ司徒一、教以ニ人倫一、父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信。〔莊子、盜跖〕子張曰、子不レ爲レ行、即將ニ疏戚無レ倫、貴賤無レ義、長幼無レ序一、五紀六位、將ニ何以爲レ別乎。〔釋文〕今案、五紀、即五倫也、六位、即六紀也、云云、不レ曰ニ五倫一、而曰ニ五紀一、不レ曰ニ六紀一、而曰ニ六位一、古人之語異耳。〔程允升、幼學須知便讀故事〕何謂ニ五倫一、君臣・父子・兄弟・夫婦・朋友。〔故事成語考、祖孫父子〕何謂ニ五倫一、君臣・父子・兄弟・夫婦・朋友。

【五倫詩】1100ゴリンシ 書名。五卷。明、沈易編。童蒙に五倫の道を教へる爲に作つたもので、其の詩は淺近通俗の作が多い。もと內集五卷、外集七卷有つたが、外集は早く佚した。〔四庫提要、集、總集類存目一〕。

【五倫書】1101ゴリンショ 書名。六十二卷。明、宣宗御撰。卷一は五倫總論、卷二―卷二十三は君道に關するもの、卷二十四―卷五十三は臣道に關するもの、卷五十四―卷五十五は父道に關するもの、卷五十六―卷五十八は子道に關するもの、卷五十九は夫婦の道、卷六十は兄弟の道、卷六十一・二は朋友の道に關するものを載す。全篇、嘉言と善行とに分ち記す。此の書は英宗の正統十二年に上梓、天下に頒布した。

【五倫十起】1102ゴリンジッキ 蒙求の標題。後漢の第五倫は、淸廉公平で有名であつたが、或人に公の如きも私心ありやと問はれ、兄の子の病氣には、一夜に十たび起きて見に行つても、歸れば安眠出來たが、我が子の病氣には、一度も見に行かなくても眠られない、これ私心ある證據であるといつた故事。〔後漢書、第五倫傳〕或問ニ倫曰、公有レ私乎、對曰、昔人有ニ與ニ吾千里馬一者一、吾雖レ不レ受、每ニ公有レ所ニ選擧一、心不レ能レ忘、而亦終不レ用也、吾兄子常病、一夜十往、退而安寢、吾子有レ疾、雖レ不レ省視一、而竟夕不レ眠、若レ是者、豈可レ謂ニ無レ私乎。

【五倫全備】1103ゴリンゼンビ 戲曲の名。明、丘濬作。伍典禮の繼室范氏が先妻の子倫全、己の子倫備及び同僚の遺兒克和の三子を育てて私なく、三子も長じて母に孝を盡くし、娶る所の婦は皆貞婦であつたことを演ず。〔傳奇彙考、二〕。

【五淋】1104ゴリン 尿に關する五つの病名。氣淋・勞淋・血淋・膏淋・石淋。〔證治要訣、淋〕五淋者、血・石・氣・膏・勞也。

【五輪】1105ゴリン ㊀五つの車輪。〔宋史、輿服志一〕皮軒車、漢前驅車也、赤質曲壁、上有レ柱、貫ニ五輪一、相重畫ニ虎文一、駕ニ四馬一。㊁㊇㋑佛に對する敬禮の仕方。左右の膝、左右の手及び頂を地に著けること。〔慧琳音義〕五輪者、謂ニ左膝・右膝・左手膝・右手膝・頭頂一、是爲ニ五輪一、五處皆須レ至レ地、虔誠作レ禮、常以ニ此五處一至レ地、禮ニ敬三寶一、當來成佛之時、五處皆有ニ千輻輪相顯現一也。㋺地・水・火・風・空。〔大日經疏、十四〕一切世界、皆是五輪之所ニ依持一、世界成時、先從ニ空中一而起ニ風、風上起レ火、火上起レ水、水上起レ地、卽是曼荼羅安立次第。㊂オリンピック大會の徽號。

【五輪觀】1106ゴリンカン ㊇地・水・火・風・空を五輪といひ、其の形は方・圓・三角・半月・團形、其の色は黃・白・赤・黑・青。各〻圓滿に衆德を具する故に輪といふ。自身の腰下臍輪・心上・額・頂上の五所に五輪を觀ずることを五輪觀といひ、五輪は五智であるから、この觀が成就すれば自身卽ち五智如來となるといふ。五大觀。〔大日經疏、十四〕凡阿闍梨、欲ニ建ニ立大悲胎藏一、建中立弟子上時、當ニ先住ニ於瑜伽一、而觀ニ自身一、從ニ臍已下一、當レ作ニ金剛輪一、其色黃而堅、從ニ臍以上至レ心、當レ作ニ水輪一、其色白、次從ニ心以上至レ咽、當レ作ニ火輪一、其色赤、次從ニ咽以上至レ頂、當レ作ニ風輪一、其色黑、復次地輪正方、水輪圓、火輪三角、風輪半月形、是上虛空作ニ一點一、具ニ種種色一、在ニ頂十字縫上一置也、是此輪形、正與ニ身分一相稱也、此五位者、卽是前所說五字、方中置ニ阿字一、圓中置ニ嚩字一、三角中置ニ囉字一、半月中置ニ唅字一、點中置ニ欠字一。

【五輪塔】1107ゴリンノトウ ㊇五輪塔婆の略。最頂を如意珠形とし、次を半月、次を三角、次を圓、次を

方とした五級の塔。五輪觀を見よ。

【五輪大會】1108 ゴリンタイクヴイ オリンピック競技大會をいふ。此の大會旗が夫々世界五大洲を象徴した五つの輪を組合せた圖案から成立つて居るからいふ。

五輪成身會三圖（和漢會圖）

【五例】1109 ゴレイ 春秋左氏傳の書法の五箇條の義例。五情(554)の㊀に同じ。〔小學紺珠、藝文類、五例〕一曰、微而顯、二曰、志而晦、三曰、婉而成レ章、四曰、盡而不レ汙、五曰、懲惡而勸レ善。

【五嶺】1110 ゴレイ ㊀山名。嶺、一に領に作る。㊁交阯合浦の界。大庾・始安・臨賀・桂陽・揭陽の五。〔漢書、陳餘傳〕南有二五領之戍一。〔注〕服虔曰、山嶺有レ五、因以爲レ名、交阯合浦界有二此領一、師古曰、服說非也、領者、西自二衡山之南一、東窮二於海一、一山之限耳、而別標レ名、則有レ五焉、斐氏廣州記云、大庾・始安・臨賀・桂陽・揭陽、是爲二五嶺一、鄧德明南康記曰、大庾領一也、桂陽騎田領二也、九眞都龐領三也、臨賀萌渚領四也、始安越城領五也、斐說是也。〔小學紺珠、地理類、五嶺〕大庾・始安・臨賀・桂陽・揭陽。㊁江西省大庾縣の南の大庾嶺、湖南省郴縣の南の騎田嶺、湖南省藍山縣の南の都龐嶺、湖南省江華縣の西南の萌渚嶺、廣西省興安縣の北の越城嶺をいふ。〔南康記〕大庾嶺、一也、桂陽騎田嶺、二也、九眞都龐嶺、三也、臨賀萌渚嶺、四也、始安越城嶺、五也。〔小學紺珠、地理類、五嶺〕大庾、桂陽騎田・九眞都龐・臨賀萌渚・始安越城。㊂嶺に入る五つの路。福建から廣東の循梅に入るもの、江西の南安から南雄に入るもの、湖南の郴から連に入るもの、道州から廣西の賀縣に入るもの、全州から靜江に入るもの。〔讀史方輿紀要、廣東〕北據二五嶺一云云、五嶺之說、舊以爲レ指二山名一考レ之、入レ嶺塗五耳、非二必山一也、自二福建一入二廣東之循梅一一也、自二江西之南安一入二南雄一二也、自二湖廣之郴一入レ連二也、自二道州一入二廣西賀縣一四也、自レ全入二靜江一五也。㊂關の名。㋑安徽省祁門縣の南。〔讀史方輿紀要、江南、祁州府、祁門縣〕五嶺關、在二縣南百里一、聞見錄、自二浮梁一入二祁門一界、有二五嶺關一。㋺浙江省考豐縣の西北。

【五嶺山人】1111 ゴレイサンジン 明、秦四麟(8－24995・0226)の號。

【五隸】1112 ゴレイ 罪隸及び蠻・閩・夷・貉の四翟の隸。何れも同禮秋官司隸の屬官。〔周禮、秋官、司隸〕掌二五隸之灋一。〔注〕五隸、謂二罪隸四翟之隸一也。

【五禮】1113 ゴレイ ㊀吉(祭祀)・凶(喪葬)・賓(賓客)・軍(軍旅)・嘉(冠婚)の五つの禮。〔書、舜典〕修二五禮一。〔傳〕修二吉・凶・賓・軍・嘉之禮一也。〔周禮、春官、大宗伯〕以二吉禮一祀二邦國之鬼神示一云云、以二凶禮一哀二邦國之憂一云云、以二賓禮一親二邦國一云云、以二軍禮一同二邦國一云云、以二嘉禮一親二萬民一。〔周禮、地官、保氏〕教二之六藝一、一曰、五禮、二曰、六樂、三曰、五射、四曰、五馭、五曰、六書、六曰、九數。〔注〕五禮、吉・凶・賓・軍・嘉也。〔史記、五帝紀〕同二律度量衡一、修二五禮一。〔注〕集解曰、馬融曰、吉・凶・賓・軍・嘉也。〔小學紺珠、藝文類、五禮〕。㊁公・侯・伯・子・男の五等諸侯の禮。〔書、舜典〕修二五禮一。〔鄭注〕五禮、公・侯・伯・子・男、朝聘之禮矣。〔書、皋陶謨〕天秩有レ禮、自二我五禮一有レ庸哉。〔傳〕天次二敘有レ禮、當レ用二我公・侯・伯・子・男五等之禮一以接レ之使レ有レ常。㊂天子・諸侯・卿大夫・士・庶人の禮。〔書、皋陶謨〕天秩有レ禮、自二我五禮一有レ庸哉。〔鄭注〕五禮、天子也、諸侯也、卿大夫也、士也、庶民也。

【五禮通考】1114 ゴレイツウカウ 書名。二百六十二卷。清、秦蕙田撰。全書を七十五類に分ち、旁ら禮律算法地理に渉る。〔四庫提要、經部、禮類〕。

【五靈】1115 ゴレイ 五種の靈蟲。麒麟・鳳凰・龜・龍・白虎。〔杜預、春秋左氏傳序〕麟鳳五靈、王者之嘉瑞也。〔疏〕麟・鳳與二龜・龍・白虎一五者、神靈之鳥獸、王者之嘉瑞也、云云、獨擧二麟・鳳一而云二五靈一、知二獸以外、爲二龜・龍・白虎一。〔何承天、白鳩頌〕五靈會レ性。

【五靈脂】1116 ゴレイシ 藥の名。寒號蟲の糞。豆粒大の大きさで、色は黑い。〔本草、寒號蟲〕集解、志曰、五靈脂、出二北地一、寒號蟲糞也。

【五路】1117 ゴロ ㊀天子の五種の車。玉路・金路・象路・革路・木路。五車。五輅。〔周禮、春官、巾車〕王之五路、一曰玉路、錫・樊纓十有再就、建二大常一、十有二旂一、以祀、金路、鉤、樊纓九就、建二大旂一、以賓、同姓以封、象路、朱、樊纓七就、建二大赤一、以朝、異姓以封、革路、龍勒、條纓五就、建二大白一、以即レ戎、以封二四衞一、木路、前樊、鵠纓、建二大麾一、以田、以封二蕃國一。〔六史、禮志一九〕元正冬至大朝、會二五路一、先陳二於庭一。㊁王后の五つの車。重翟・厭翟・安車・翟車・輦車。〔周禮、春官、巾車〕王后之五路、重翟、錫面朱總、厭翟、勒面繢總、安車、彫面鷖總、皆有二容蓋一、翟車、貝面組總有レ握、輦車、組輓有二翠羽蓋一。

【五路財神】1117 wu³ lu⁴ ts'ai² shen² 趙玄壇・招財・招寶・利市・納珍の五福神。

【五輅】1118 ゴロ 五種のくるま。㊀五路(1117)の㊀に同じ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕五輅遷レ迹。〔資治通鑑、齊紀〕武帝、永明九年丙辰、魏初造二五輅一。〔注〕五輅、玉・金・象・革・木也。〔三才圖會、器用、五輅〕玉輅青質、玉飾二諸末一、金輅赤質、金飾二諸末一、象輅黃質、象飾二諸末一、革輅白質、鞔レ以レ革、木輅黑質、漆二之無一飾、周官典輅、掌二王之五路一、路與レ輅同、大賓客則出レ路、然則國有二大朝會一、而陳二車輅一者、自レ周而已然矣。㊁玄輅・夏篆・夏縵・墨車・輓車。〔資治通鑑、陳紀〕(宣帝、太建十二年)又以二五輅一載二婦人一、自帥二左右一步從。〔注〕按、古制有二五輅一、後周之制、皇帝之輅、十有二等、皇后之車、十有二等、亦曰レ輅、下至二三妃一三公・三公夫人之輅、皆九、至二士媛婦・中大夫孺人一其輅五。云云、五輅、謂二玄輅・夏篆・夏縵・墨車・輓車一也。

【五纑】1119 ゴロ 中等の土質の土地。〔管子、地員〕恣土之次、曰二五纑一、五纑之狀、彊力剛堅。〔纂詁〕纑、讀爲レ壚、疏也。

【五弄】1120 ゴロウ 五つの琴曲。遊春・淥水・幽居・坐愁・秋思。後漢の蔡邕の作。〔琴書〕蔡邕性沉厚、雅好二琴道一、嘉平初、入二青溪一、訪二鬼谷先生一、所レ居山有二五曲一、一曲製二一弄一、三年曲成、卽遊春・淥水・幽居・坐愁・秋思也。〔唐書、禮樂志十二〕周隋管絃雜曲數百、皆西涼樂也、鼓舞曲、皆龜茲樂也、惟琴工猶傳二楚漢舊聲及清調一蔡邕五弄、楚調四弄、謂二之九弄一。

【五六】1121 ゴロク ㊀五と六。〔書、康誥〕要囚、服念五六日、至二于旬時一、丕蔽二要囚一。〔論語、先進〕冠者五六人、童子六七人。〔白居易、西原晚望詩〕新屋五六間、古槐八九樹。㊁三十をいふ。〔金丹參同契、注〕日合二五行精一、月受二六律紀一、五六三十度、度意復更始。㊂數の多いこと。〔國語、楚語下〕今壹二五六一而必欲レ用レ之。〔國語略說〕五六、謂レ多也。

【五鹿】1122 ゴロク ㊀地名。二つある。一は河北省大名縣(元城)の東。沙鹿をいふ。一は濮陽縣(開州)の南。〔左氏、僖、二十三〕晉公子重耳之及二於難一也、云云、過レ衞、出二於五鹿一、乞レ食於野人一。〔注〕五鹿、衞地也、今衞縣西北、有二地名五鹿一、陽平元城縣東、亦有二五鹿一也。〔彙纂〕屬二元城一者、卽沙鹿城、屬二開州一者、此衞地五鹿是也。㊁複姓。〔萬姓統譜〕五鹿姬姓、風俗通、衞邑也、晉公子重耳、封二舅犯於五鹿一、支孫氏焉、代郡成陽縣、有二五鹿氏一。

【五鹿嶽嶽】1123 ゴロクガクガク 蒙求の標題。漢の五鹿充宗は、梁丘易をよくし、元帝に重用せられた。元帝が梁丘易と他の易との異同優劣を考覈しようとした時、皆充宗の貴顯巧辯を憚り、出る者がなかつたが、ただ朱雲だけが之を論難して其の說を屈服させたので、諸儒は之を評して、五鹿嶽嶽朱雲折其角一といつた故事。嶽嶽は長い角のさま。〔漢書、朱雲傳〕是時、少府五鹿充宗貴幸、爲二梁丘易一、自二宣帝時一、善二梁丘氏說一、元帝好レ之、欲レ考二其異同一、令下充宗與二諸易家一論上、充宗乘二貴辯口一、諸儒莫レ能與抗一、皆稱レ疾不二敢會一、有二薦二雲者一、召入、攝齎登レ堂、抗レ首而請、音動二左右一、既論難、連挂二五鹿君一、故諸儒爲二之語一曰、五鹿嶽嶽、朱雲折二其角一。

【五鹿充宗】1124 ゴロクジュウソウ 漢の人。梁丘易を善くし、元帝の時、諸儒と易を講論した。石顯が權を得るに及び充宗は之と黨したが、顯の罷免せられるに及んで、充宗も左遷せられた。五鹿嶽嶽を見よ。〔前漢書、八十八〕。

【五和】1125 ゴワ ㊀土用をいふ。五行中で土が旺盛の時。〔管子、幼官〕五和時節。〔纂詁〕五、土數、五

和時節、謂ニ土旺之時一。㊁五つのやはらぎ。一、風雨寒暑時を得て災荒がない。二、人心歸向して上下內外團結する。三、互に聘問して其の誼を通ずる。四、災厄を補つて其の憂を共にする。五、遠居の者を疏略にしない。〔逸周書、大武解〕政有ニ四戚・五和一、云云、五和、一、有レ天無レ惡、二、有レ人無レ郤、三、同好相固、四、同惡相助、五、遠宅不レ薄。

【五王】1126ゴワウ ㊀五人の王。五國の王。〔後漢書、井丹傳〕建武末、沛王轉等五王、居ニ北宮一、皆好ニ賓客一。〔周書、宣帝紀〕大象二年五月丁未、追ニ趙陳越代滕一五王入朝。〔沈炯、爲ニ王僧辯一勸ニ進梁元帝一表〕軒轅得レ姓、存者二人、高祖五王、代實居レ長。〔徐夤、華清宮詩〕五王更入朝、七貴迭封レ侯。㊁堯・舜・禹・湯・文王を云ふ。〔小學紺珠、歷代類、五王〕堯取レ人以レ狀、舜取レ人以レ色、禹取レ人以レ言、湯取レ人以レ聲、文王取レ人以レ度。㊂唐の桓彥範・敬暉・崔玄暐・張柬之・袁恕己の五人。〔小學紺珠、名臣類下、五王〕。㊃中山の五王。元才・益才・顯才・仲才・季才。〔小學紺珠、氏族類、中山五王〕。㊄孔子廟の崇聖祠に祀られた肇聖王木金父・裕聖王祈父・詒聖王防叔・昌聖王伯夏・啓聖王叔梁紇をいふ。〔清會典事例、禮部、中祀、崇聖祠〕崇聖祠殿內、肇聖王木金父位ニ正中一、裕聖王祈父位在レ左、詒聖王防叔位在レ右、昌聖王伯夏位次レ左、啓聖王叔梁紇位次レ右、皆南嚮。㊅復姓。〔英賢傳〕東萊有ニ五王氏一。㊆元、陳友仁(11－41698‥648)の號。

【五王宅】1127ゴワウタク 唐、睿宗の五子の宅。〔唐書、讓皇帝傳〕初、帝五子、列ニ第東都積善坊一、號ニ五王子宅一、及レ賜ニ第上都隆慶坊一、亦號ニ五王宅一。

【五阿哥】1128ゴアカ 清朝の王族、恭親王奕訢を俗に五阿哥と呼ぶ。

【五一節】1129wu³ i¹ chieh² 勞働記念日。メーデー。May dayをいふ。中國では民國十一年以來之を行事とした。

【五印度】1130ゴインド 印度を東・西・南・北・中の五大部に分けた稱。〔大唐西域記、二〕五印度之境、周九萬餘里。

【五羽石】1131ゴウセキ 石の名。身を輕くし年を延すといふ。〔本草、五羽石〕別錄曰、主ニ輕レ身長レ年、一名金黃、生ニ海水中蓬萊山中一、黃如レ金。

【五瘟使】1132ゴヲンシ 病氣を散布して人を害する神。〔西廂記、張君瑞害ニ相思一雜劇〕我是箇散ニ相思一五瘟使。

【五個調】1133ゴカテウ 琴の五通りのしらべ。搖手・片垂・水宇瓶・蒼海波・雁鳴。〔源氏物語、若菜下〕きんはごかの調べ。

【五榎山】1134ヤマノ 攝津國東成郡木野村の古地名。〔拾玉藻〕。

【五詰解】1135ゴカイ 書名。四卷。宋、楊簡撰。大誥・康誥・召誥・洛誥・康王之誥の五つを解す。〔四庫提要、經、書類〕。

【五澗水】1136ゴカン 川の名。甘肅省武威縣の東。〔水經、斤江水注〕清澗水、俗謂レ之爲ニ五澗水一也、水出ニ姑臧城東一、而西北流注ニ馬城河一。

【五基法】1137ゴキハフ 數學用語。加・減・乘・除・開方の五種の運算法をいふ。

【五俱倫】1138ゴリン 佛が成道して最初に濟度した五人の比丘をいふ。俱倫は拘隣(Koudañña)に作る。最初に度せられた比丘の名で、五人の比丘を代表せしむ。俱倫等の五比丘の意。〔應法記〕鹿園在ニ波羅奈國一、佛始成道、於レ中度ニ五俱倫一、開化之初。

【五願齋】1139ゴグワンサイ 清、吳光(武進の人)(2－3365‥123)の號。

【五君詠】1140ゴクンエイ 宋の顏延之が、稽康・劉伶・阮籍・向秀・阮咸を夫々に歌つた詩。文選に載す。〔宋書、顏延之傳〕出爲ニ永嘉太守一、延之甚怨憤、乃作ニ五君詠一、以逃レ竹林七賢、山濤王戎、以ニ貴顯一被レ黜。

【五件兒】1141wu³ chien⁴ erh 禮服を着用する時に帶びる五種の裝飾品。荷包・扇套・眼鏡套・搭褳・表套。

【五硯齋】1142ゴゲンサイ 清、沈赤然(6－17189‥576)の號。

【五硯樓】1143ゴゲンロウ 清、袁廷檮(10－34152‥235)の室名。

【五工正】1144ゴコウセイ 少昊の時の官名。五工の長官。〔左氏、昭、十七〕五雉爲ニ五工正一。

【五釵松】1145ゴサイショウ 松樹の一種。ごえふまつ。

【五爪龍】1146ゴサウリウ 草の名。びんぼうかづら。烏蘞苺(7－18998‥475)の俗稱。〔本草、烏蘞苺〕釋名、時珍曰、五葉如ニ白斂一、故曰ニ烏斂一、俗名ニ五爪龍一、江東呼ニ蘞尾一、亦曰ニ虎蔓一、曰ニ龍口蔓一、並取ニ蔓形一、赤潑與ニ赤葛及拔一音相近。

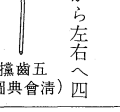
【五雜組】1147ゴザッソ ㊀書名。十六卷。明、謝肇淛撰。雜考の書である。五とは天・地・人・物・事の五類をいひ、雜とは物を雜へ德を選び、是と非とを辨ずるをいひ、組とは、爾雅に組は組に似たり、東海に產す、織る者之に效ひて五采を間次すといふによる。凡て天・地部、各二卷、人・物・事部、各四卷。明史、藝文志に著錄せらる。組は、一に組に作るが、組が正しい。㊁古樂府の名。首句を以て篇名とす。後人其の體に倣ひ、詩體の一種を爲す。〔文體明辯、雜體詩〕十五曰、五雜組體、古辭曰、五雜組岡頭草、往復還車馬道、不レ獲ニ已人將一レ老、是也。

【五盞盤】1148ゴサンバン 粗食をいふ。五つのさかづきと皿の意。〔南齋書、崔祖思傳〕宋武、節儉過ニ人、云云、五盞盤桃花米飯。

【五醆盤】1149ゴサンバン 食物を儉約すること。醆は盞。五盞盤に同じ。

【五絲緞】1150wu³ ssu¹ tuan⁴ 繻珍。

【五齒攙】1151ゴシサン 武器の名。矛の頭から左右へ四つの刃の岐れ出たもの。〔清會典圖、武備、五齒攙制如ニ馬叉一、旁多ニ兩刃一。〕


五齒攙(清會典圖)

【五齒把】1152wu³ ch'ih³ pa⁴ 熊手。

【五七日】1153ゴシチニチ 人の死後三十五日目をいふ。〔榮華物語、玉飾〕はかなく五七日にもならせ給ひぬれば。

【五猖會】1154wu³ ch'ang¹ hui⁴ 安徽省の風俗で、陰曆八月十四日、五色の紙で飾り立て、鷄血酒を供へ爆竹を放つて祝ふ一種の祭事。〔名。〕

【五鵲臺】1155ゴジャクダイ 明、盧宁忠(8－23050‥278)の室名。

【五鬚松】1156ゴシュショウ 木の名。ひめこまつ。まるみのごえふ。松科に屬す。

【五諸侯】1157ゴショコウ ㊀五人の諸侯。〔史記、高祖紀〕漢王以レ故得下劫ニ五諸侯兵一、遂入中彭城上。㊁星の名。二つある。一は太微垣の內に在り、一は東井の北に在る。〔史記、天官書〕太微三光之廷、云云、門內六星諸侯。〔注〕正義曰、內五諸侯五星、列在ニ帝庭一。晉書、天文志上〕五諸侯五星、在ニ東井北一、主ニ刺擧一、戒ニ不虞一。〔資治通鑑、漢紀〕〔獻帝、建安十七年〕十二月、有レ星孛ニ於五諸侯一。〔注〕晉天文志曰、五諸侯五星、在ニ東井北一、又太微南蕃、左執法、東北二星、曰ニ謁者一、謁者東北二星、曰ニ三公一、三公北三星、曰ニ九卿一、九卿西五星、曰ニ內五諸侯一、內ニ侍天子一、不レ之ニ國也。

【五進法】1158ゴシンハフ 或る位の數の五倍を其の上の位の一とする記數法。

【五親等】1159ゴシントウ 五等親(891)を見よ。

【五西月】1160ゴイセツゲ 紀伊國の地名。

【五攝家】1161ゴセッケ 攝政職になることを得た五つの家柄。近衞・九條・二條・一條・鷹司。〔和漢三才圖會、人倫、攝家〕近衞・九條・二條・一條・鷹司、謂ニ之五攝家一、云云、攝ニ天下政一之家系也。

【五仙觀】1162ゴセンクワン 觀の名。廣東省城に在る。〔張勵、五仙觀記〕南海郡城、以ニ五羊一得レ名、初時郡民見レ有ニ五仙人一、皆手指ニ穀穗一、一莖六出、乘ニ五羊一而至、羊各異レ色、如ニ五方一、仙遺ニ穗而去、羊留化爲レ石、廣人因即ニ其地一爲レ祠。

【五尖松】1163wu³ chien¹ sung¹ 五葉の松。

【五線譜】1164フセフ 西洋樂譜の一。五條の平行線を以て音の位置を示すもの。

【五單于】1165ゴゼンウ 漢代、五人の單于。屠耆單于・呼韓邪單于・呼揭單于・車犂單于・烏籍單于。單于(2－3993‥18)を見よ。〔漢書、匈奴傳下〕屠耆單于使ニ烏籍都尉備一ニ呼韓邪單于一、云云、於レ是呼揭王恐、遂畔去、自立爲ニ呼揭單于一、右奧鞬王聞レ之、卽自立爲ニ車犂單于一、烏籍都尉亦自立爲ニ烏籍單于一、凡五單于。

【五足牛】1166ゴソクギュウ 五本足の牛。〔漢書、五行志下之上〕有レ獻ニ五足牛一者。

【五足齋】1167ゴソクサイ 宇津木謙の號。宇津木昆臺。(8－7067‥105)を見よ。

【五當溝】1168ゴタウコウ 地名。布當圖。綏遠省薩拉齊縣の西北。一名、烏達谷。石炭を產す。〔蒙古遊

牧記）高拉特東南百二十里、有二五達河一、源出二布當圖山一。

【五住地】1169（ゴヂュウヂ）㊀五種の根本煩惱。根本煩惱が能く枝葉の煩惱を生ずることから住地と名づける。見一處住地（身見等の三界の見惑）、欲愛住地（見と無明とを除いた欲界の煩惱）、色愛住地（見と無明とを除いた色界の煩惱）、有愛住地（見と無明とを除いた無色界の煩惱）、無明住地（三界一切の無明）。五住地惑。

【五重塔】1170（ゴヂュウノタフ）五層から成つてゐる佛塔。地・水・火・風・空の五大に象つて屋根を五重に積重ねる。五層塔。

【五烏花】1171（ゴチョウクワ）草の名。いろはぐさ。紫參（8－2737‥203）の異名。（本草、紫參ノ釋名、牡蒙、童腸、馬行、衆戎、五烏花。（錢起、紫參歌序）紫參、幽芳也、五葩連萼、狀飛禽羽舉、俗名二之五烏花一、起故山道人蘭若、尤豐二此藥一。

【五豆粥】1172（ゴトウシュク）十二月五日に稻・黍・果・豆を煮て作る粥。（山西志書、澤州）十二月初五日、稻・黍・果・豆、和煮爲レ粥、曰二五豆粥一。

【五燈錄】1173（ゴトウロク）㊀書名。吳僧道原の景德傳燈錄、竝に之に續いて出來た天聖廣燈錄・建中靖國續燈錄・聯燈錄・嘉泰普燈錄の五つを合せていふ。宋の僧普濟の五燈會元は此の書を抄錄したものである。（禪宗正脈、序）此吳僧道原傳燈錄之所レ有レ作、後二斯輩一者、曰二廣燈・續燈・聯燈・普燈一、雖二各詳略不一同、亦無レ非レ所二以明一レ此大事一也、宋時有二僧普濟者一、患二五燈之浩瀚一、作二五燈會元一。

【五人組】1174（ゴニングミ）王朝時代の五保の制に胚胎した共濟的組合で、德川時代に完成した。卽ち人家五戶づつを一組合とし、組頭が居て、相互檢察・共同擔保・互助共濟を行つた。（武家嚴制錄、三十一）寬永十四年十月、鄕中御條目、從レ此以前、被二仰出一候五人組、彌入念可二相改一之事。

【五人墓】1175（ゴニンボ）墓の名。江蘇省吳縣の虎岳塘にある。明の崇禎の初、天啓中の義民、顏佩韋・馬杰・楊念如・沈揚・周文元の五人を此處に合葬したので此の名がある。（蘇州府志）五人之墓、在二虎岳塘一、五人者、顏佩韋・楊念如・馬杰・沈揚・周文元也、天啓閒、逆閹魏忠賢、矯レ旨逮二周順昌一、五人公憤倡レ衆、擊二緹騎一、至レ死、因被レ戮、士民哀之、殮葬白堤之東一、吳默題曰二五人之墓一、楊廷樞表爲二義風千古一。

【五坡嶺】1176（ゴハレイ）山名。廣東省海豐縣の北、山上に方飯亭がある。（宋史、文天祥傳）天祥方飯二五坡嶺一、張弘範兵突至、衆不レ及レ戰、皆頓首伏二其葬一。

【五倍子】1177（ゴバイシ）鹽膚木（ウルシ）の異名。又、蟲の名。昆蟲有吻類の一種。七八月頃ふしのきの葉に寄生して蟲癭を作る。これから單仁を製する。ごばいしむし。（本草、五倍子）釋名、文蛤、百蟲倉、法釀過名二百藥煎一、（太平廣記、五倍子）峽山至レ蜀、有二蟆子一、色黑、亦能咬レ人、毒亦不レ甚、視二其生處一、卽麩鹽樹葉背上、春閒生レ之、葉卷成レ窠、大如二桃李一、名爲二五倍子一、治二一切瘡毒一、收者曬而殺レ之、卽不二化去一、不レ然者、必竅レ穴而出、飛爲二蠛子一矣。

【五不韙】1178（ゴフキ）人として注意して避けなければならない五つの事柄。德を度らず、力を量らず、親に親しまず、辭を事實に徵せず、有罪を察せずの五つ。（左氏、隱、十一）不レ度レ德、不レ量レ力、不レ親レ親、不レ徵レ辭、不レ察二有罪一、犯二五不韙一、而以伐レ人、其喪レ師也、不二亦宜一乎。

【五不翁】1179（ゴフオウ）清、姚元之（3－6202‥157）の號。

【五不孝】1180（ゴフカウ）五種の不孝の行。㊀一、四肢を動かすことを惰り、父母の養を顧みない。二、博奕して飮酒を好み、父母の養を顧みない。三、貨財を好み、妻子の愛に溺れ、父母の養を顧みない。四、耳目の欲を縱にして父母の名を辱かしめる。五、勇を好んで人と爭ひ、父母を危くする。（孟子、離婁下）世俗所謂不孝者五、惰二其四支一、不レ顧二父母之養一、一不孝也、博奕好二飮酒一、不レ顧二父母之養一、二不孝也、好二貨財一、私二妻子一、不レ顧二父母之養一、三不孝也、好二勇鬬很一、以危二父母一、五不孝也。㊁一、家居の態度が莊重でない。二、君に事へて不忠。三、官に臨んで不敬。四、朋友に對して不信。五、戰陣に臨んで勇氣がない。（禮、祭義）曾子曰、身也者、父母之遺體也、行二父母之遺體一、敢不レ敬乎、居處不レ莊、非レ孝也、事レ君不レ忠、非レ孝也、涖レ官不レ敬、非レ孝也、朋友不レ信、非レ孝也、戰陳無レ勇、非レ孝也。

【五不諱】1181（ゴフキ）避諱の制度に於て、五つの諱まなくともよい場合、卽ち嫌名を諱まず、二名は偏諱せず、詩書には諱まず、文を作る時には諱まず、廟中には諱まぬこと。（禮、曲禮上）卒哭乃諱、禮、不レ諱二嫌名一、二名不二偏諱一、二云、詩書不レ諱、臨レ文不レ諱、廟中不レ諱。

【五不祥】1182（ゴフシャウ）身・家・國・俗・天下の五者のためによくないこと。（孔子家語、正論解）不祥有レ五、云云、夫損レ人自益、身之不祥、棄レ老而取レ幼、家之不祥、釋レ賢而任二不肖一、國之不祥、老者不レ教、幼者不レ學、俗之不祥、聖人伏匿、愚者擅權、天下不祥。

【五不取】1183（ゴフシュ）妻を娶つてはならぬ五箇條。逆臣の家の子女は娶らず、淫亂の家の子女は娶らず、世々刑人ある家の子女は娶らず、世々惡疾ある家の子女は娶らず、母なき家の長女は娶らず。取は娶。（大戴禮、本命）女有二五不取一、逆家子不レ取、亂家子不レ取、世有二刑人一不レ取、世有二惡疾一不レ取、喪レ婦長子不レ取。（孔子家語、本命解）女有二五不取一、逆家子者、亂家子者、世有二刑人一子者、有二惡疾一子者、喪二父長子者一。

【五不娶】1184（ゴフシュ）五不取に同じ。

【五不男】1185（ゴフナン）五種不男（567）に同じ。（和漢三才圖會、人倫之用、五不男）天・犍・漏・怯・變、是也、天者、陽痿不用、犍者、割二去勢一、乃閹人也、漏者、精寒不固、常自遺洩也、怯者、擧而不レ強、或見レ敵不レ興也、變者、體兼二男女一、郎半月也。

【五不女】1186（ゴフヂョ）生殖器の不完全な五種類の女。五種不女（568）に同じ。（和漢三才圖會、人倫之用、五不女）螺・蚊・鼓・角・脈、是也、螺者、牝竅內旋、有二物如レ螺也一、紋者、竅小郎實女、一名石女、鼓者、無レ竅如レ鼓、角者、有二物如レ角、脈者、一生經水不レ調及崩帶之類、是也。

【五夫市】1187（ゴフシ）地名。浙江省上虞縣の北、牟山湖の西濱にある。瀉杭甬鐵道が通ずる。此の地の焦氏の五子が、皆大夫となつたので名を得たと傳ふ。又、秦が松を封じて五大夫とした地であるともいふ。

【五奉行】1188（ゴブギャウ）豐臣秀吉の設けた五人の奉行職。五人で法令・土木・訟獄・財政等を分掌し、大中老と政事を議する役。五大老の次。石田三成・增田長盛・長束正家・淺野長政・前田玄以。（卜齋記、下）淺野彈正・增田右衞門尉・右田治部少輔・德善院・長束大藏大輔五人の奉行。

【五福窪】1189（ゴフクボ）地名。湖北省大冶縣に在る。鐵の產地。

【五別府】1190（ゴベフ）薩摩國の地名。

【五母雞】1191（ゴボケイ）五羽の牝雞。母は牝。（孟子、盡心上）五母雞、二母彘、無レ失二其時一、老者足二以無レ失レ肉矣。

【五母麻】1192（ゴボマ）草の名。下痢に効あり。（本草、五母麻）別錄曰、味苦有レ毒、主二痿痺不便下痢一、一名鹿麻、一名鼈澤麻、一名天麻、一名苦草、生二田野一、五月采。

【五無齋】1193（ゴムサイ）元、唐朝（2－3709‥277）の號。

【五墓日】1194（ゴボニチ）陰陽家の語。家作だけに吉で、其の他の萬事に凶なりとする日。（長曆便覽）五墓日は五行の墓なり、凡そ墳墓は人の死體を埋むの所なるが故に生氣なきを以て、此の日は百事を用ふべからず。

【五目飯】1195（ゴモクメシ）㊀野菜などいろいろまぜた飯。まぜごはん。㊁やきめし。炒飯。

【五郎野】1196（ゴラノ）伊豫國の地名。

【五離日】1197（ゴリニチ）申酉の日。陰陽家は、此の日に婚禮・旅行を忌む。（東鑑、四十二）建長四年四月四日、自二戊辰一忌二遠行一、五離日也、就中被レ用二兵杖一、可レ有レ憚。

【五粒松】1198（ゴリフマツ）五葉の松。五鬣松。（本草、海松子）集解、炳曰、五粒松、一叢五葉如レ釵、道家服食絕粒、子如二巴豆一、新羅往往進レ之、頌曰、五粒字、當作二五鬣一、音傳訛也、五鬣爲二一叢一、或有二兩鬣七鬣者一、松歲久則實繁、中原雖レ有小、而不レ及二塞上者佳好一也。（五代史、鄭遨傳）華山有二五粒松一、脂淪入レ地千年、化爲レ藥、能去二尸一、因徙二居華陰一、欲レ求レ之。

【五粒松子】1199（ゴリフマツノミ）五葉の松の實。（倭名類聚抄、果蓏部、果蓏類、五粒松子）楊子漢語抄云、五粒松子、五粒、五葉也、松子、末都乃美。

【五稜子】1200ゴリョウシ 果物の名。羊桃。五斂子(1204)を見よ。〔桂海虞衡志、志果〕五稜子、形甚詭異、瓣五出、如二田家碌碡狀一、味酸、久嚼微甘、閩中謂二之羊桃一。

【五壘城】1201ゴルイジョウ 城の名。河北省滄縣の南。漢代、河間獻王の子雍が景成侯に封ぜられ、別邑を此の地に營み、其の五子を城中に分居せしめ、五子各〻一壘を築いたので此の名が生じたといふ。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府、滄州、定縣城〕五壘城、志云、在二清池舊縣西南一里一、漢宣帝封二河間獻王子雍一爲二景成侯一、侯營二別邑於此一、使下五子分二居城中一、各築二一壘一、因名。

【五類聲】1202ゴルイセイ 〔佩〕悉曇の子音三十三字の中、牙聲(k·kh·g·gh·ṅ)·齒聲(c·ch·j·jh·n)·舌聲(ṭ·ṭh·ḍ·ḍh·ṇ)·喉聲(t·th·d·dh·n)·脣聲(p·ph·b·bh·m)の稱。〔大疏、七〕於二迦 k 遮 c 吒 ṭ 多 t 波 p 五類聲中一、復各有二五字一、其一至二第四一、四字皆慧門、第五字是證門、梵書以二此五字一、皆同二圓點一。

【五鬣松】1203ゴリョウショウ 五葉の松。五粒松(1198)を見よ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕私第大堂前、有二五鬣松一。〔癸辛雜識〕季賀有二五粒小松歌一云云、粒者、鬣也。〔喬宇、華山西峯賦、餐二五鬣之長松一兮、摘二蓮花之十丈一。

【五斂子】1204ゴレンシ 福建廣東地方に産する木の名。實は圓く、拳程の大きさで、色は青黄。上に五稜があり、蜜漬として味が佳い。一名、陽桃。二廉子一。〔本草、五斂子、釋名、五稜子、集解、時珍曰、五斂子、出二嶺南及閩中一、閩人呼爲二陽桃一、其大如レ拳、其色青黄潤綠、形甚詭異、狀如二田家碌碡一、上有二五稜一、如二刻起作一劍脊形一、皮肉脆軟、其味初酸、久甘、其核如レ棗、五月熟、一樹可レ得二數石一、十月再熟、以レ蜜漬レ之、甘酢而美、俗亦曬乾、以充二果食一、又有二二廉子一、蓋亦此類也、陳祈暢異物志云、二廉出二熙安諸郡一、南人呼爲レ廉、雖名二二廉一、或有二五六稜者一、食レ之多レ汁、味甘且酸、尤宜二與二衆果一參食一。〔南方草木狀〕五斂子、大如二木瓜一、黄色、皮肉詭軟、味極酸、上有二五稜一、如二刻出一南人呼レ稜爲レ斂、故以爲レ蜜漬レ之、甘酢而美、出二南海一。

【五一居士】1205ゴイチコジ 並河永の號。並河誠所(8—25752‥69)を見よ。

【五塢草堂】1206ゴヲサウダウ 明、盧襄(8—23050‥89)の室名。

【五塢山人】1207ゴヲサンジン 明、盧襄(8—23050‥89)の「號。

【五耕五耨】1208ゴカウゴドウ よく耕耘すること。五度たがやし、五度くさぎる。〔呂覽、任地〕上田棄レ畝、下田棄レ甽、五耕五耨。

【五炁朝元】1209ゴキテウゲン 道家修鍊の方法。眼を以て視ずして魂を肝に在らしめ、耳を以て聞かずして精を腎に在らしめ、舌を以て聲せずして神を心に在らしめ、鼻を以て臭がずして魄を肺に在らしめ、四肢を動かさずして意を脾に在らしめること。

【五宜居士】1210ゴギコジ 明、高明(12—45313‥868)の自號。才なし宜しく去るべし、病あり宜しく去るべし、親老い兄弟なし宜しく去るべし、盜を治むるを以て宜しく再起すべし、賊平ぐ宜しく去るべしとてかくいふ。〔明外史、高明傳〕明拜二南京右僉都御史一、以二親老一乞二終養一歸、十四年、上杭盜發、時明親沒、免レ喪久矣、詔起レ明、巡二撫福建一、督二兵往討一、前後擒獲、四百有奇、明清介絕レ俗、不レ樂二仕進一、常言、孔幾二宜去一、司空圖三宜休、吾無二才一宜去、有レ病二宜去一、親老無二兄弟一二宜去、以レ治レ盜宜二再起一、賊平宜二再去一、因自號二五宜居士一。

【五九居士】1211ゴキウコジ 宋、陸九敍(11—41708‥28ウ)の尊稱。

【五休居士】1212ゴキウコジ 宋、龔明之(12—48837‥96)の號。

【五級浮圖】1213 wu³ chi² fu² t'u² 五重塔。

【五顯靈君】1214ゴケンレイクン 神の名。〔通俗編、神鬼、五顯靈君〕水經洛水注、嵩嶽有二九山廟一、廟有レ碑云、九顯靈君者、太華之元子、按、今云二五顯一、疑屬二九顯傳訛一。

【五曹算經】1215ゴサウサンケイ 書名。五卷。撰者未詳。北周、甄鸞注。古算法の書。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【五支作法】1216ゴシサクホフ 〔佩〕因明で立宗·辨因·引喩·同類·異類の五つの命題を以て論式を構成すること。五分作法(991)に同じ。〔瑜伽論、十五〕能成立法、有二八種一者、一立宗、二辨因、三引喩、四同類、五異類、六現量、七比量、八正教。

【五四運動】1217ゴシウンドウ 民國八年五月四日、北京の各大學學生が起した運動で、民國では此の日を舊思想が衰へて新文化運動が發展して行つた始であるとする。五四新文化運動。

【五笥仙館】1218ゴシセンカン 清、秦恩復(8—24995‥194)の室名。

【五視居士】1219ゴシコジ 清、李嘗之(6—14459‥139ウ)の號。

【五七言格】1220ゴシチゴンカク 詩格の一。五言二句と七言二句とから成るもの。

【五叉地獄】1221ゴシャヂゴク 〔佩〕五頭の鐵叉で罪人を分碎する地獄をいふ。〔慧琳音義、五十三〕經言二五叉一者、地獄名也、以二此鐵叉一分二碎罪人身形一、名爲二五叉地獄一。

【五盛陰苦】1222ゴジャウオンク 〔佩〕人の身は色·受·想·行·識の五陰より成り、五陰の勢用が盛なので盛陰といふ。五盛陰苦とは心身の總苦をいふ。一說に、盛は衆苦を盛貯する義といふ。五陰盛苦。〔中論、疏〕有二斯五陰一、衆苦熾盛、名二五陰盛苦一、又此五陰、盛二貯衆苦一、名二五盛陰苦一。

【五雀六燕】1223ゴジャクロクエン 輕重の相ひとしいこと。五羽の雀と六羽の燕と輕重略〻同じといふ義。〔九章算術〕今有二五雀六燕一、集稱之衡、雀俱重、燕俱輕、一雀一燕、交而處、衡適平、并二雀燕一重一斤、問、雀燕一枚、各重幾何。

【五須彌山】1224ゴシュミセン 〔佩〕五つの須彌山。〔觀無量壽經〕眉間白毫、右旋宛轉、如二五須彌山一。

【五所八幡】1225ゴジョハチマン 五箇所の八幡宮。卽ち筑前の大分宮·肥前の千栗宮·肥後の藤崎宮·薩摩の新田宮·大隅の正八幡宮。

【五心六意】1226ゴシンロクイ 心が定まらないこと。〔易林、睽之隨〕五心六意、岐道多怪。

【五井持軒】1227ゴセイヂケン 大阪の人。蘭洲の父。名は守任。字は加助。號は持軒。郡山藩儒。經學は程朱を主としたが、必ずしも墨守せず。博學を以て聞え、兼ねて又、國學に通じ、和歌を善くす。享保六年歿す、年八十一。從五位を贈らる。著に校注日本紀·神道遺書·和語集解がある。〔先哲叢談、正、四〕·〔大阪名家著述目錄〕。

【五井蘭洲】1228ゴセイランシウ 大阪の人。持軒の子。名は純禎、一に順禎に作る。字は子祥、一に小祥に作る。號は蘭洲、又冽菴·梅塢。通稱は藤九郎。懷德堂助講·津藩侯儒·懷德堂教授。經學は程朱を主としたが、必ずしも固執せず。博學洽聞、又國學に通ず。寶歷十二年歿す、年六十六。正五位を贈らる。著に考槃堂漫錄·鷄肋篇·源語詁·源語提要·古今通·瑣語·左傳蓍疑附事態·刪正日本書紀·爾雅翼·質疑篇·承聖篇·新題百首·勢語通·讀史訪議·駁春臺四十六士論·非伊篇·非費篇·非物篇·文章廻瀾·兵論·萬葉集詁·喩叢·蘭洲遺稿·蘭洲茗話·洌庵日纂がある。〔先哲叢談、正、四〕·〔近世叢語、正、一〕·〔近代名家著述目錄〕·〔諸藩藏版書目筆記〕·〔大阪名家著述目錄〕。

【五清先生】1229ゴセイセンセイ 明、劉瑞(2—2224‥412)の「號。

【五川居士】1230ゴセンコジ 明、楊儀(6—15112‥82)の號。

【五存七缺】1231ゴソンシチケツ 〔佩〕淨土門正依の經である無量壽經に十二種の譯がある中、五本のみ現存し、他の七種は缺亡してゐることをいふ。五存とは無量淸淨平等覺經二卷(後漢、支婁迦讖譯)·阿彌陀經二卷(吳、支謙譯)·無量壽經二卷(曹魏、康僧鎧譯)·大寶積經無量壽如來會二卷(唐、菩提流志譯)·大乘無量壽莊嚴經三卷(宋、法賢譯)をいひ、七缺とは無量壽經二卷(後漢、安世高譯)·無量淸淨平等覺經二卷(曹魏、白延譯)·無量壽經二卷(西晉、竺法護譯)·無量壽至眞等正覺經一卷(東晉、竺法力譯)·新無量壽經二卷(劉宋、佛陀跋陀羅譯)·新無量壽經二卷(劉宋、寶雲譯)·新無量壽經二卷(劉宋、曇摩密多譯)をいふ。

【五唐王家】1232ゴタウワウカ 隋の王龍の財は、王侯に擬し、五子各〻一院を立てたのでかくいはれる。〔實賓錄〕五唐王家、隋王龍之財帛、埒二於王侯一、五子各立二一院一、邑里號爲二五唐王家一。

【五宅三居】1233ゴタクサンキョ 堯舜時代、流罪には五等の別が有つたが、之を配居させるのには、三居の別によつたのをいふ。卽ち大罪は四裔に置き、

次は九州の外に置き、次は千里の外に置く。〔書、舜典〕汝作レ士、五刑有レ服、五服三就、五流有レ宅、五宅三居。〔蔡傳〕五宅三居者、流雖レ有レ五、而宅レ之但爲二三等之居一、云云、孔氏以爲、大罪居二於四裔一、次則九州之外、次則千里之外。

【五停四念】1234 ゴヂヤウシネン 佛五停心觀と四念處(4-4682‥867)とのこと。〔法華玄義、三〕五停四念者、有レ定、故言レ停、有レ慧、故言レ觀、觀能䌊レ邪、定能制レ亂。

【五停心觀】1235 ゴヂヤウシンクワン 佛五種の觀法を修して五心過を停止すること。一、不淨觀。貪欲を停止す。二、慈悲觀。瞋恚を停止す。三、因緣觀。愚痴を停止す。四、界分別觀。我見を停止す。五、數息觀。散亂心を停止す。一說に、界分別觀を省いて觀佛觀(佛の相好を觀じて一切煩惱を治める法)を加ふ。〔大乘義章、十二〕一不淨觀、二慈悲觀、三因緣觀、四界分別觀、五安那般那觀、云云、亦曰二停心一。

【五厘學捐】1236 wu³ li² hsüeh² chüan¹ 田賦附加稅の五分を徵收する教育附加稅の一種。

【五燈會元】1237 ゴトウヱゲン 書名。二十卷。宋、釋普濟撰。宋刊本は慧門撰に作る。五燈錄(1173)を見よ。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【五人囃子】1238 ゴニンバヤシ ㊀琴・笛・三味線・太鼓・鼓で行ふ合奏。㊁其の形に作った雛人形。

【五無間業】1239 ゴムゲンゴフ 佛五逆(187)の㊁に同じ。無間業は無間地獄に墮ちる大罪業の義。〔俱舍論、十七〕言二無間業一者、謂二五無間業、其五者何、一者、害レ母、二者、害レ父、三者、害二阿羅漢一、四者、破二和合僧一、五者、惡心出二佛身血一。

【五釐行息】1240 wu³ li² hang² hsi² 預金に對して五分の利息を付けること。五分利。

【五綹鬍鬚】1241 wu² liu³ hu² hsü¹ 鼻下・兩頰・頷の髭を總稱する語。又、五柳長鬚ともいふ。

【五栗先生】1242 ゴリツセンセイ 清、陳文學(11-41698‥1230)の號。

【五氯化磷】1243 ゴリヨククワリン 黃白色結晶狀の固體。有機化學で鹽素置換・水酸基の檢定などに用ひる。五鹽化燐

【五林居士】1244 ゴリンコジ 宋、龔明之(12-48837‥96)の號。

【五類雜種】1245 ゴルイザツシユ 多くの種類。〔淮南子、墬形訓〕五類雜種、興二乎外一。

【牽レ五掛レ四】1246 ゴヲヒキシヲカク それからそれへとかかはる。〔紅樓夢、一回〕於レ是接レ二連レ三、牽レ五掛レ四、將二一條街一、燒如二火燄山一一般。

【五股分賠法】1247 ゴコブンバイハフ 清代、河防工事に監督宜しきを得ないで、保證期限內に破損した時には、關係官吏に之を賠修せしめる。五股分賠法は其の一で、五股を各官に配賦して分擔せしめること。例へば、道員は分賠一股、知府・參遊は共に二股、廳營州縣官は共に半股、文武汎員は共に半股とする類。〔淸會典事例、工部、河工、考成保固〕二十八年議准、江南省河工分賠銀兩成例、酌二改五股分賠一、內道員、分二賠一股一、知府・參遊、共賠二二股一、廳營州縣、共賠二半股一、文武汎員、共賠二半股一。

【五段教授法】1248 ゴダンケウジユハフ 五つの段階によって教授を行ふ法。チルレルは分析・綜合・聯合・系統・方法に分ち、ラインは豫備・提示・聯合・統合・應用の五段とする。

【五平五仄體】1249 ゴヒヤウゴソクタイ 詩體の一。五言詩で前の一句五字が悉く平字で、次の五字が悉く仄字であるものをいふ。

【五硫化二銻】1250 ゴリウクワニテイ 藥品の名。赤褐色の粉末。祛痰劑に用ひる。五硫化アンチモン。金硫黃。

【五箇條御誓文】1251 ゴカデウノゴセイモン 明治元年三月十四日、明治天皇が紫宸殿で神々に誓はせられた新政の大方針五箇條。〔五箇條御誓文〕一、廣ク會議ヲ興シ、萬機公論ニ決スヘシ。一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ。一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ、人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス。一、舊來ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基クヘシ。一、智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起スヘシ。我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ、朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ、天地神明ニ誓ヒ、大ニ斯國是ヲ定メ、萬民保全ノ道ヲ立ントス、衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ。

【五四革命運動】1252 ゴシカクメイウンドウ 五四運動の一翼として唱道せられた文學革命運動。民國六年一月に胡適が文學改良芻議を發表し、次で陳獨秀が文學革命論を著し、錢玄同・劉半儂・周作人・魯迅・郁達夫・郭沫若等が之を繼承した。其の言ふ所は舊文學を破壞して通俗的・寫實的な國民文學を提唱し白話文を鼓吹するにあった。

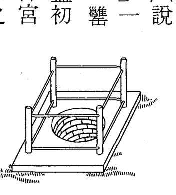
【五萬四千之土壤】1253 ゴマンシセンノドジヤウ 東西南北、併せて五萬四千里の土地。〔河圖地象〕地黃東西二萬八千、南北二萬六千。〔本朝文粹、八、都在中、八月十五日夜於二文章院一對レ月同賦二淸光千里同一〕五萬四千之土壤、自化二冰壺之心一。

【五寸之鍵制二開闔一】1254 ゴスンノカギカイカフヲセイス 形の小さい鍵で、大きな門戶を開閉する。微小の者も要路に立てば、其の勢力の廣く及ぶ喩。〔淮南子、主術訓〕十圍之木、持二千鈞之屋一、五寸之鍵、制二開闔一。

【井】258

井 小篆 セイ シヤウ 〔集韻〕子郢切 ㄐㄧㄥˇ 梗 ching³

㊀ゐ。ゐど。地に穴を掘って水を出す所。丼(1-101)に同じ。〔正字通〕井、同レ丼。〔說文〕丼、八家爲二一井一、象二構韓形一、丶、罋象也、古者、伯益初作レ井。〔釋名、釋宮室〕井、淸也、泉之淸潔者也。〔易、井、釋文〕井、淸絜爲レ義。〔易、井〕改レ邑、不レ改レ井。〔疏〕古者穿レ地取レ水、以レ瓶引汲、謂二之爲一レ井。〔論語、雍也〕仁者雖レ告レ之曰二井有一レ仁焉、其從レ之乎。〔孟子、公孫丑上〕孺子將レ入二於井一。〔孟子、盡心上〕掘レ井九仞、而不レ及レ泉。〔白虎通、五祀〕井者、水之主藏在二地中一。㊁地に掘って物を取る穴。〔嵩高山記〕少室山有二雲母井一、出二雲母一。㊂ゐげた。ゐげた形。てんじやう。〔張衡、西京賦〕倒二茅於藻井一。〔注〕綜曰、藻井、當二棟中一、交レ木方爲レ之、如二井幹一也。〔左思、魏都賦〕綺列井疏。㊃一里四方の田地。卽ち九百畝。〔釋名、釋州國〕周制、九夫爲レ井、其制似二井字一。〔孟子、梁惠王下〕耕者九一、集注〕九一者、井田之制也、方一里爲二一井一、其田九百畝、中畫二井字一、界爲二九區一、一區之中、爲二田百畝一、中百畝爲二公田一、外八百畝爲二私田一、八家各受二私田百畝一、而同養二公田一、是九分而稅二其一一也。〔孟子、滕文公上〕方里而井、井九百畝。㊄むら。人の聚り住む所。〔一切經音義、五〕因レ井爲レ市、故言二井市一。〔史記、刺客、聶政傳〕政乃市井之人。〔注〕正義曰、古者、相聚汲レ水、有レ物便賣、因成レ市、故云二市井一。〔宋書、何承天傳〕焚二爇閭井一。㊅星の名。ちちり。水と法とを司る。二十八宿の一。井宿(66)を見よ。〔史記、天官書〕東井、爲二水事一。〔後漢書、郎顗傳〕建二井旟一。〔注〕井、南方火宿也。〔洪範五行傳、棄二法律一、注〕東井、主二法令一也。㊆しづか。〔廣雅、釋言〕井、靜也。㊇ふかい。〔廣雅、釋詁三〕井、深也。㊈易、六十四卦の一。堅固で恆ある象。䷯巽下坎上。〔易、井〕无レ喪无レ得。〔注〕德有レ常也。㊉おきて。法。〔廣雅、釋詁一〕井、法也。〔易、井、釋文〕井、法也。〔初學記、七〕風俗通曰、井、法也、節也、言、法制居レ人、令レ節二其飮食一、無上窮竭上也。〔一切經音義、二十〕易記曰、井、爲二刑法一也。⑪室內の水はけば。井匽(10)を見よ。



水井(農政全書)

九夫爲井

夫	夫	夫
夫	畮	夫
夫	夫	夫

井牧(禮器圖)

⑬姓。〔姓源〕井、炎帝姜姓之後。〔通志、氏族略、去聲〕井氏、穆天子傳云、周有二大夫井利一。〔尚友錄〕井、扶風徵音虞大夫井伯姜子牙之後、以レ字爲レ姓、又望出二南陽一。

解字 象形。ゐどの形に象る。井はゐげた。篆文にある、は鈞瓶。

【井蛙】1 セイア 井の中の蛙。見聞のせまい者の喩。世間知らず。井鼃。井底蛙。〔後漢書、馬援傳〕公孫子陽井底蛙耳。〔陸倕、未レ至二潯陽郡一教〕公孫陛戟、既似二井蛙一、延壽執レ戈、實同二兒戲一。

【井蛙見】2 セイアノケン 見聞の狹い者の意見。

【井蛙不レ可三以語二於海一】3 セイアハウミヲカタルベカラズ 井中の蛙には、海の話をしても判らない。見聞の狹い人には大道を語つても判らぬ喩。〔莊子、秋水〕井蛙不レ可三以語二於海一者、拘二於虛一也、夏蟲不レ可三以語二於冰一者、篤二於時一也、曲士不レ可三以語二於道一者、束二於教一也。

【井鼃】4 セイア 井の中の蛙。井蛙(1)に同じ。〔荀子、正論〕語曰、淺不レ足二與測一レ深、愚不レ足二與謀一レ知、坎井之鼃、不レ可三與語二東海之樂一。

【井澳】5 セイアウ 港の名。又、仙女澳といふ。廣東省中山縣の南岸、橫琴山の下にある。〔宋史、瀛國公紀〕十二月丙子、昰至二井澳一、颶風、壞レ舟幾溺死。

【井維】6 セイヰ 星宿の名。井宿をいふ。〔顏延之、蜀葵贊〕井維降レ精、嵋絡升レ靈。

【井邑】7 セイイフ 周代の制度で、九家の分ち耕す土地、卽ち方一里を井とし、四井を邑とする。〔周禮、地官、小司徒〕乃經二土地一、而井二牧其田野一、九夫爲レ井、四井爲レ邑。〔魏書、于忠傳〕妄開二井邑一。〔陸雲、答二張士然一詩〕井邑自相循。

【井堙】8 セイイン 井戶がふさがる。〔左氏、襄、二十五〕當二陳隧一者、井堙木刊。〔注〕堙、塞也。

【井飮】9 セイイン 井戶水を飮む。〔莊子、列禦寇〕夫人以レ已爲レ有三以異二於人一、以賤二其親一、齊人之井飮者相捽也。〔唐書、曹王皐傳〕墟聚凡數十、不二井飮一。〔柳宗元、井銘〕以二罌瓶一負二江水一、莫二克井飮一。

【井匽】10 セイエン 井と匽。井は雨水の集まる處、匽は溜り水を受けて流す處をいふ。〔周禮、天官、宮人〕爲二其井匽一、除二其不蠲一、去二其惡臭一。〔注〕井、漏井、所三以受二水潦一云云、鄭司農云、匽、路厠也、玄謂、匽、豬、謂下霤下之池、受二畜水一而流レ之者上。〔宋史、謝絳傳〕官寺井匽皆滿。〔得樹樓雜抄〕周禮宮人、爲二其井匽一、除二其不蠲一、去二其惡臭一、注云、井、漏井、所三以受二水潦一、匽、謂二匽豬一、霤下之池、受二畜水一而流レ之者、井匽二者、皆所下以除二不潔一、去中穢惡之物上、如二今陽溝一是也。

【井堰】11 セイゼキ せき。田に注ぐ用水のせき。〔拾遺和歌集、雜下〕井堰の水ももればなりけり。

【井鹽】12 セイエン ゐどの水を汲み取つて製成したしほ。〔史記、貨殖傳、倚頓用二盬鹽一起、注〕正義曰、鹽州有二烏池一、猶出二三色鹽一、有二井鹽・畦鹽・花鹽一、其池中鑿レ井、深一二尺、去レ泥卽到レ鹽、掘取若至二一丈一、則著二平石一無レ鹽矣、其色或白或靑黑、名曰二井鹽一。〔宋史、劉昌祚傳〕諸酋曰、聞二漢家欲レ取二吾井鹽一。〔元史、世祖紀四〕申嚴二川東井鹽之禁一。

【井桓】13 ching³ yüan² 井桁。ゐげた。

【井眢】14 セイエン かれゐど。井戶が枯れて水の無いこと。〔皮日休、上眞觀詩〕罅處似二天裂一、朽中如二井眢一。

【井屋】15 セイヲク 人家をいふ。〔杜甫、奉レ送二王信州崟北歸一詩〕井屋有二煙起一、瘡痍無二血流一。〔韋應物、園林晏起詩〕田家已耕作、井屋起二晨煙一。

【井磑】16 セイガイ 井戶と石臼。井臼(28)を見よ。〔剪燈餘話、至正妓人行幷敍〕親操二井磑一應二門戶一。

【井桁】17 セイカウ ゐげた。木を井字の形に組み上げて、井戶のふちとしたもの。井幹。井欄。井牀。〔高啓、雨中曉臥詩〕井桁烏鳴破二曙煙一、輕寒薄被落花天。

【井崗】18 セイカウ 山名。江西省の西境に在り、長さ約百餘里。大小上中下の五井に分る。

【井綆】19 セイカウ つるべなは。ゐどのつるべの繩。汲綆。〔吳儆、江叔耕見レ訪詩〕劉子抱二遺經一、深井汲二修綆一。

【井壑】20 セイガク 水の湧出する谷。〔孟浩然、尋二白鶴巖張子容隱居一詩〕階庭空二水石一、井壑罷二樵漁一。

【井坎】21 セイカン 水の湧出する穴。〔王令、聞二太學議一詩〕鯆鰕陷二井坎一、莫下與二江海一爭上。

【井幹】22 セイカン ❶ゐげた。井戶の上に設けた欄干。井桁。井欄。〔莊子、秋水〕吾跳二梁乎井幹之上一。〔釋文〕司馬云、井欄也。❷井桁のやうに組上げた樓。〔淮南子、本經訓〕大構駕興二宮室一、延樓棧道、雞棲・井幹・標株・欂櫨、以相支持。〔注〕雞棲井幹、複屋棼井也。〔鮑照、蕪城賦〕板築雉堞之殷、井幹烽櫓之勤。〔注〕善曰、井幹、樓也。

【井幹樓】23 セイカンロウ 漢の武帝の作つた、井桁のやうに組上げた樓。〔史記、武帝紀〕乃立二神明臺・井幹樓一、度五十餘丈。〔漢書、郊祀志下〕立二神明臺・井幹樓一、高五十丈。〔注〕師古曰、積レ木而高爲レ樓、若二井幹之形一也、井幹者、井上木欄也、其形或四角或八角。

【井檻】24 セイカン ゐげた。〔李賀、惱レ公詩〕井檻淋二淸漆一、門鋪綴二白銅一。

【井氣】25 セイキ 井戶から立上る氣。〔張喬、贈二和上人一詩〕井氣春來歇、庭枝雪後低。〔梅堯臣、親郊前三日大慶殿雪中詩〕鑪煙靜二齋幄一、井氣凍二宮缾一。〔謝翶、海亭夜坐詩〕坐レ涼依二井氣一。

【井輝】26 セイキ 淸、胡志仁(**9−29400**・・482)の字。

【井儀】27 セイギ 五射の一。四本の矢が井の形に侯に的中するのをいふ。〔周禮、地官、保氏、五射、注〕鄭司農云、五射、白矢・參連・剡注・襄尺・井儀也。〔疏〕四矢貫レ侯、如二井之容儀一也。

【井臼】28 セイキウ ゐどとうす。操二井臼一・任二井臼一は、水を汲んだり、米を磨いだりして家政を治めること。〔列女傳、賢明、周南之妻傳〕家貧親老、不レ擇レ官而仕、親操二井臼一。〔後漢書、馮衍傳下〕爲レ妻悍忌不レ得レ畜二媵妾一、兒女常自操二井臼一。〔顏延之、陶徵士誄序〕居無二僕妾一、井臼弗レ任。

【井疆】29 セイキヤウ 村里のこと。井里疆界の意。〔書、畢命〕弗レ率二訓典一、殊二厥井疆一。〔蔡傳〕殊二異其井里疆界一。〔儲光羲、晚次二東亭一詩〕道喪苦二兵賦一、時來開二井疆一。

【井渠】30 セイキヨ 水を貯へる爲に地中に溝を穿ち川などを引いたもの。〔史記、河渠書〕(武帝初)發二卒萬餘人一穿レ渠、自レ徵引二洛水一至二商顏山下一、岸善崩、乃鑿レ井、深者四十餘丈、往往爲レ井、井上相通行レ水、水積以絕二商顏一、東至二山嶺一十餘里閒、井渠之生、自レ此始。〔菽園雜記〕陝西城中、舊無二水道一、井亦不レ多、居民日汲二水西門外一、參政余公子俊、知二西安府一時、以爲、關中險要之地、使二城閉數日一、民何以生、始鑿二渠城中一、引二灞滻水一、自レ東入西出、環二甃其下一、以通レ水、其上仍爲二平地一、迤邐作レ井、曰、使三民得二就以汲一。

【井魚】31 セイギヨ ❶井戶の中にゐる魚。井底蛙と同じく見聞の狹い喩。世間知らず。〔淮南子、原道訓〕井魚不レ可二以語一レ大、拘二於隘一也。❷魚の名。〔酉陽雜俎、廣動植、鱗介篇〕唐段成式云、井魚腦有レ穴、每レ翕レ水、輒於二腦穴一蹙出如二飛泉一。

【井華】32 セイクワ 朝最初に汲んだ井戶水。此の水を用ひれば顏色を良くするといふ。〔本草、流水、井泉水〕集解、頴曰、井水新汲、療レ病利レ人、平旦第一汲、爲二井華水一、其功極廣。〔宋書、劉亮傳〕取二井華水一服、至二食鼓後一、心動如レ刺二中閒一。〔李頎、題二盧道士房一詩〕惟見兩童子、林前汲二井華一。〔白居易、題二李山人一詩〕每日將レ何療二飢渴一、井華雲粉一刀圭。〔蘇軾、花落復次韻詩〕松明照レ坐愁不レ睡、井華入レ腹淸而暾。

【井椁】33 セイクワク ゐげた形に組んだ棺槨。〔儀禮、士喪禮〕既井椁、主人西面拜レ工。〔注〕匠人爲レ椁、刊二治其材一、以レ井構二於殯門外一也。〔胡培翬正義〕褚氏寅亮云、井構者、以二椁材一兩縱兩橫、閒疊而層二纍之一、如二井字一然。

【井徑】34 セイケイ 村里に通ずる道をいふ。徑は道。〔鮑照、蕪城賦〕邊風急兮城上寒、井徑滅兮丘隴殘。〔注〕善曰、周禮曰、九夫爲レ井、又曰、夫閒有レ遂、遂上有レ徑。〔杜甫、重題詩〕江雨銘旌濕、湖風井徑秋。

【井陘】35 セイケイ ❶山名。河北省井陘縣の東北、獲鹿縣と界を接す。〔漢書、地理志上〕常山郡、井陘。〔注〕應劭曰、井陘山在レ南。〔元和志〕陘山、在二井陘縣東南八十里一、四面高、中央下如レ井、故曰二井陘一。❷關の名。河北省井陘縣の東北、井陘山の上にある。呂氏春秋の九塞の一、卽ち井陘口。又、土門關・井陘關ともいふ。秦漢以來、軍事上の重要地。〔呂覽、有始〕何謂二九塞一、大汾・冥阸・荊阮・方城・殽・井陘・疵處・句注・居庸。〔史記、秦始皇紀〕王翦將二上地一、下二井陘一。〔讀

史方輿紀要、直隸、重險〕井陘關、在二眞定府獲鹿縣西十里、山西平定州東九十里一、呂氏春秋、天下九塞、井陘其一、亦曰二土門關一、地記、太行八陘、其第五陘、曰二土門關一、今山勢自二西南一而東北、層巒疊嶺、參差環列、方數百里、至二井陘縣東北五十里一曰二陘山一、其山四面高平、中下如レ井、故曰二井陘一、燕趙之閒、亦謂二山脊一爲レ陘也、徐廣曰、陘山絕之名。㊂縣名。漢、置く。河北省獲鹿縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕井陘縣、漢縣、屬二常山郡一、後漢及晉因レ之。〔清史稿、地理志〕直隸、正定府、縣十三、井陘。

〔井陘口〕36 セイケイコウ 井陘の㊁に同じ。〔史記、淮陰侯傳〕未レ至二井陘口一三十里。

【井研】37 セイケン 縣名。隋、置く。四川省樂山縣の東北。〔舊唐書、地理志四〕井研、漢武陽縣地、隋改爲二井研一。〔清史稿、地理志〕四川、資州直隸州、縣四、井研。

〔井研齋〕38 セイケンサイ 清、方薰（**5**—**13620**・・132）の號。

【井戸】39 セイコ ㊀市中の家。井は古の市を爲す所。〔宋史、食貨志下五〕井戸既爲二商人所一レ要。㊁ドヰ ゐど。〔新撰六帖、六〕露結ぶ田中の井戸のなぎの葉に光さしそふ夕づく日かな。

【井梧】40 セイゴ 井戸の側に在るあをぎり。〔宋之問、秋蓮賦〕宮槐疎兮井梧變、搖二寒波一兮風颯然。〔白居易、早秋獨夜詩〕井梧涼葉動、鄰杵秋聲發。〔李咸用、秋日寄二同志一詩〕花疎籬菊色、葉減井梧陰。

【井口】41 セイコウ 井戸の口。ゐづつ。〔易、井〕汔至亦未レ繘レ井。〔疏〕雖三汲レ水以至二井上一、然綆出、猶未レ離二井口一、而鉤二羸其瓶一而覆レ之也。〔賈島、原上秋居詩〕鳥從二井口一出、人自二岳陽一過。〔宋史、楊佐傳〕底用二柏木一爲レ幹上出二井口一。

〔井口草〕42 セイコウサウ 草の名。ゐのもとぐさ。とりのあし。いはがね。主として井戸の附近に生ずる草。井口邊草に同じ。

〔井口邊草〕43 セイコウヘンサウ 草の名。ゐのもとさう。とりのあし。けいそくさう。うらぼし科に屬す。羊齒類植物の一種。〔本草、井口邊草〕拾遺、思邈曰、五月五日、取二井中倒生草一。

【井公】44 セイコウ 古の隱士。〔穆天子傳、五〕與二井公一博、三日而決。〔注〕疑井公、賢人而隱者。

【井谷】45 セイコク ㊀井戸の底。井谷射レ鮒を見よ。〔傳亮、喜レ雨賦〕涸二源泉於井谷一、委二嘉穎於中田一。〔魏書、安定王燮傳〕井谷穢雜、升降劬勞。㊁關の名。山西省襄垣縣の北。〔元和志〕在二縣東南四十里天井谷内一、深邃似レ井、因以爲レ名、魏武置レ關、北周廢、按、魏書地形志、上黨郡有二天井關一、疑卽此。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府襄垣縣〕五嶃關、又井谷關、在二縣東南四十里一、寰宇記、其地有二天井谷一、深邃如レ井、中有レ關。

〔井谷射レ鮒〕46 セイコクセキフ（タニノゴトクフニソソグ） 井戸の水は、汲みあげて用ひなければ、僅かに鮒に注ぐに足るだけで、役に立たない。人を養ひ物を濟ふことの出來ない喩。〔易、井〕井谷射レ鮒、甕敝漏。〔程傳〕失二井之道一、乃井而如レ谷也、井上出、則養レ人而濟レ物、今乃下就二汙泥一、注二於鮒一而已、射、注也、如三谷之下流注二於鮒一也。〔左思、吳都賦〕無レ異レ射二鮒於井谷一。

【井痕】47 セイコン 井戸のあと。〔張喬、書二梅福殿壁一詩〕井痕平二野水一、壇級上二春蕪一。

【井竈】48 セイサウ 井戸とかまど。薪水の備へ。〔穀梁、宣、十五〕古者、公田爲レ居、井竈葱韭盡取焉。〔史記、司馬穰苴傳〕士卒次舍、井竈飯食、問レ疾醫藥、身自拊二循之一。〔急就篇〕門戸井竈廡囷京。〔注〕井、所二以汲一也、竈、所二以炊一也。

【井塹】49 セイザン 井戸やあな。〔雲仙雜記〕貨或藏二之井塹一、謂二之寶井一。

【井市】50 セイシ まち。ちまた。井肆。市井（**4**—**8775**・・88）に同じ。〔李紳、入二揚州郭一詩〕堤繞二門津一喧二井市一、路交二村陌一混二樵漁一。

【井厠】51 セイシ 井戸と便所。〔荊楚歲時記〕正月末日、夜蘆苣火、照二井厠中一、則百鬼走。

【井肆】52 セイシ まち。井市。〔唐書、朱朴傳〕廣明巨盜、陷二覆宮殿・局署・帑藏・里閈・井肆一。

【井字】53 セイジ 井の文字、及び井の字形のものをいふ。〔周禮、地官、小司徒、井二牧其田野一、注〕其制似二井之字一、因取名焉。〔閻苑、述賢亭賦〕按、井字九宮之法、本二河圖八卦之詳一。〔楊萬里、暮行二田閒一詩〕新秧亂插成二井字一、卻道山農不レ解レ書。

【井收】54 セイシウ 井戸水をくみ出すこと。井戸の功が成るをいふ。〔易、井〕上九、井收、勿レ幕、有レ孚、元吉。〔注〕處二井上極一、水已出レ井、井功大成、在二此爻一矣、故曰二井收一也。

【井甃】55 セイシウ ㊀新に石をたたみ上げて、井戸を修復すること。〔易、井〕六四、井甃无レ咎。〔疏〕案、子夏傳曰、甃、亦治也、以レ塼壘レ井、脩二井之壞一、謂二之爲一レ甃。㊁井戸側の石だたみ。〔沈約、郊居賦〕決二渟洿之汀濙一、塞二井甃之淪坳一。

【井匠】56 ching^{3} chiang^{4} 井戸掘り職人。

【井牀】57 セイシヤウ ゐげた。井幹。〔古樂府、淮南王篇〕後園鑿レ井銀作レ牀、金瓶素綆汲二寒漿一。〔唐彥謙、紅葉詩〕薜荔垂二書幌一、梧桐墜二井牀一。

【井上】58 セイジヤウ ㊀井戸の上。井戸のほとり。〔易、井〕上九、象曰、元吉在レ上、大成也。〔疏〕上六、所三以能獲二元吉一者、只爲レ居二井之上一、井功大成者也。〔禮、曲禮上、奉レ席如二橋衡一注〕橋、井上槔槹、衡上低昂。〔孟子、滕文公下〕井上有レ李、螬食レ實者過レ半矣。〔江總、南越木槿賦〕井上桃蟲難レ可レ雜、庭中桂蠹豈見レ憐。〔韓愈、順宗實錄二〕或有下至乙有二張二羅網於門一、不レ許二人出入一者上、或有下張二井上一者上、使レ不レ得レ汲レ水。㊁ヰノウヘ 姓氏。

〔井上金峨〕59 ヰノウヘキンガ 江戸の人。名は立元。字は純卿。號は金峨、又、考槃翁・柳塘閑人。通稱は文平。常陸國笠閒藩儒。後、塾を江戸駒籠に開いて教授す。經義は一家の言を主とせず、訓詁は漢唐の注疏を取捨し、義理は宋明の諸家を折衷す。又、文章をよくす。天明四年歿す、年五十三。著に易學辨疑・孝經集說・考槃堂漫錄・考槃堂遺稿・考槃堂雜記・霞城講議・騎學正宗・匡正錄・金峨文集・經義折衷・經義緒言・經濟十論・三禮斷生・左氏傳箋說・周易彙考・尙書疑孔編・師辨・情冤記・焦餘稿・大學古義・答問錄・中庸古義・天學正宗・東奧遊記・讀學則・病閒長語・病閒漫錄・辨徵錄・比詩選說・論語集說がある。〔先哲叢談、正、八〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕。

〔井上梧陰〕60 ヰノウヘゴイン 名は毅。號は梧陰。幼名は多久馬。開成學舍長・司法省法制局長官・樞密顧問官・文部大臣に歷任す。正三位勳一等。子爵。經學は初め程朱學を奉じたが、後、折衷學に歸す。又文章を能くし、書に巧であつた。明治二十八年歿す、年五十二。著に梧陰存稿・奢是吾敵論がある。

〔井上四明〕61 ヰノウヘシメイ 蘭臺の養嗣子。名は潛。字は仲龍。號は四明、又佩弦園。岡山藩儒。最も文章をよくす。文政二年歿す、年九十七。著に易解・孝經衍義・孝經鈔說・牛渚唱和集・經義輯說・經濟十三論・四明山人小稿・大東區域志・大東食貨志補・佩弦園文集・稗田野史・北陲紀聞・論語三家考・論語鈔說がある。〔先哲叢談、正、八〕・〔近代著述目錄後篇〕。

〔井上老人〕62 セイジヤウラウジン 清、黃晉良（**12**—**47926**・・1172）の號。

〔井上蘭臺〕63 ヰノウヘランダイ 江戸の人。名は通熙。字は叔。小字は嘉膳。號は蘭臺。岡山藩儒。專ら折衷學を唱ふ。寶曆十一年歿す、年五十七。著に左傳異名考・三韓世表・山陽行錄・山陽槎錄・周易古注・詩經古注・七才子詩集解・馴象俗談・新語重訂・臣術訓・大東食貨志・圖南稿・圖南詩文集・北越行錄がある。〔先哲叢談、正、八〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕・〔國書解題〕。

【井樹】64 セイジユ 井戸と樹蔭。飲食休息する所。〔周禮、秋官、野廬氏〕比二國郊及野之道路、宿息井樹一。〔注〕井共二飲食一、樹爲二藩蔽一。〔獨孤及、撫州南城縣客館新亭記〕無二脩除之備一、無二井樹之設一。〔李融、廬樹判〕官立二井樹一、旅有二施舍一。

【井叔】65 セイシユク 清、葉封（**9**—**31387**・・130）の字。

【井宿】66 セイシユク 星宿の名。二十八宿中の南方朱雀のちちり星。觜宿の東北に當り、今の雙子座の東方部。〔丹元子、步天歌〕井、八星橫列河中淨、

井　宿　（新法暦書）

一星名レ鉞井邊安、兩河各三南北正、天罇三星井上頭、罇上横列五諸侯、侯上北河西積水、欲レ覓二積薪一東畔レ是、鉞下四星名二水府一、水位東邊四星序、四瀆横列南河裏、南河下頭是軍市、軍市團圓十三星、中有二一箇野鶏精一、孫子丈人市下列、各立二兩星一從レ東說、闕丘兩箇南河東、丘下一狼光二蒙茸一、左邊九箇彎二弧弓一、一矢擬レ射頑狼胷、有二箇老人南極中一、春秋出入壽無レ窮。〔元史、天文志一〕(至元)十一年二月甲寅、太陰犯二井宿一。

【井繩】67 セイジョウ 釣瓶繩。〔曹松、山中言レ事詩〕雲濕煎茶火、冰封汲井繩。

【井植】68 セイショク 井戸側。井幹。〔淮南子、覽冥訓〕夫井植生レ梓、而不レ容レ甕、溝植生レ條、而不レ容レ舟。〔注〕植、謂レ材也、椽二材於溝邊一、因生爲二條木一也。

【井心】69 セイシン 明、淩駉(**2**−**1669**・・40)の字。

【井深】70 セイシン 井の深いこと。井の深さ。〔宋書、索虜傳〕虜作二地道一偸二城內井一、井深四十丈、山勢峻峭、不レ可レ得レ防。〔戴叔倫、相思曲〕井深轆轤嗟二綆短一、衣帶相思日應レ緩。

【井水】71 セイスイ 井戸水。〔漢書、五行志中之上〕元帝時、童謠曰、井水溢、滅二竈煙一、灌二玉堂一、流二金門一。

【井遂】72 セイスイ 土地の區劃をいふ。井は井田(105)の❶を見よ。遂は郊外の土地。〔宋書、後廢帝紀〕井遂有レ辨、閭伍無レ雜。〔宋史、陶弼傳〕井遂蕩然、人不レ樂二其生一。

【井井】73 セイセイ ❶さかひ目の正しいさま。事を爲すに法度あるさま。井然。〔正字通〕井、經畫端整貌。〔荀子、儒效〕井井兮、其有レ理也。〔注〕井井、良易之貌。❷潔く靜かなさま。〔易、井〕往來井井。〔注〕不二渝變一也。〔疏〕此明二性常井井絜靜之貌一也、往者來者、皆使二潔靜一、不下以二人有一往來一改中其洗濯之性上、故曰二往來井井一也。❸竹添光鴻の號。竹添井井(**8**−**25841**・・467)を見よ。

【井井堂】74 セイセイドウ 人見傳の號。人見懋齋(**1**−**34** 4・・121)を見よ。

【井星】75 セイセイ 星の名。井宿。ちちり星。〔晉書、天文志上〕王者用レ法平、則井星明而端列。

【井砌】76 ching³ ch'i⁴ 井戸の石垣をいふ。

【井穽】77 セイセイ 井戸とおとし穴。〔韓詩外傳、五〕兩瞽相扶、不レ傷二牆木一、不レ陷二井穽一、則其幸也。

【井稅】78 セイゼイ 井戸に課する稅。〔魏書、李安世傳〕井稅之興、其來日久。〔王維、贈二劉藍田一詩〕歲晏輸二井稅一、山村人夜歸。〔高適、苦雨寄二房四昆季一詩〕曾是力二井稅一、曷爲レ無二斗儲一。

【井沼】79 セイショウ 井戸と沼澤。〔晁補之、北渚亭賦〕防爲二井沼一、壅爲二確磑一。

【井石】80 セイセキ ❶井桁の石。〔靈一、贈二別皇甫曾一詩〕紫苔封二井石一、綠竹掩二柴關一。❷ドフリ 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。❸ドンブリ 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【井渫】81 セイセツ 清潔な喩。井渫不レ食を見よ。〔晉書、戴若思傳〕砥節立行、有二井渫之潔一。〔宋書、臨川王道規傳〕業均二井渫一、志固二冰霜一。

【井渫不レ食】82 セイクラハレキヨケレドモ 清い井の水が汲み用ひられぬこと。才能あつて世に用ひられぬ喩。〔易、井〕九三、井渫不レ食、爲二我心惻一、可二用汲一、王明、竝受二其福一。〔注〕渫、不レ停レ汙之謂也、處二下卦之上一、復得二其位一、而應二於上一、得二井之義一也、當二井之義一、而不レ見レ食、脩レ己全潔、而不レ見レ用、故爲二我心惻一也、爲、猶レ使也、不二下注一而應レ上、故可二用汲一也。〔疏〕井渫而不レ見レ食、猶二人脩レ己全潔、而不一レ見レ用。

【井泉】83 セイセン ゐど。井の水。ゐどみづ。井泉水。〔禮、月令〕仲冬之月、天子命二有司一、祈二祀四海・大川・名源・淵澤・井泉一。〔庾肩吾、詠二花雪一詩〕飛花灑二庭樹一、凝瑛結二井泉一。

【井泉水】84 セイセンスイ ゐど水。〔本草、流水、井泉水〕集解、頴曰、井水新汲、療レ病利レ人、平旦第一汲、爲二井華水一、其功極廣、又與二諸水一不レ同、凡井水有下遠從二地脈一來者上爲レ上。

【井泉石】85 セイセンセキ 石の一種。牡丹石。〔本草、井泉石〕釋名、時珍曰、性寒如二井泉一、故名。

【井然】86 セイゼン 整然。井井(73)の❶に同じ。

【井代】87 デキ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【井臺】88 セイダイ 井戸側。井筒。〔賈島、寄二李輈侍郎一詩〕井臺憐二操築一、漳岸想二丕疏一。

【井桃】89 セイトウ 井戸の側にある桃。〔孟郊、古意詩〕井桃始開レ花、一見悲萬重。

【井丹】90 セイタン ❶後漢、郿の人。字は大春。業を太學に受け、五經に精通す。京師の語に五經紛綸井大春とあり。〔後漢書、一百十三〕。❷明、林大春(**6**−**14551**・・384)の字。

【井灘】91 ching³ t'an¹ 鹽田の一種。井戸から汲上げるもの。海に遠い製鹽地に設けらる。

【井地】92 セイチ 井田(105)の❶に同じ。〔孟子、滕文公上〕經界不レ正、井地不レ鈞。〔集注〕井地、卽井田也。〔尉繚子、原官〕均二井地一。〔陸游、歲暮感懷以二餘年量無レ幾休日愴已迫一爲レ韻詩〕井地以養レ民、整整若二碁畫一。

【井中】93 セイチュウ 井戸の中。ゐのなか。〔漢書、惠帝紀〕有二兩龍一見二蘭陵人家井中一。〔後漢書、五行志三〕北海、東萊、瑯琊井中、冰厚尺餘。〔魏志、管輅傳〕排二著井中一、嘖嘖有レ聲。〔蘇軾、老翁井詩〕井中老翁誤二年華一、白沙翠石翁之家。

【井中苔】94 セイチュウノタイ 廢井の中に生ずる苔。〔本草、井中苔〕集解、弘景曰、廢井中、多生二苔萍一、及磚土間、多生二䕸草菜藍一、既解レ毒、在二井中一者尤佳、非二別一物一也。

【井中求レ火】95 セイチュウニヒヲモトム 井戸の中で火を求める。愚で事理に明かでない喩。〔戰國、韓策〕今將レ攻二其心一乎、宜レ使レ如レ呉、攻二其形一乎、宜レ使レ如レ越、夫攻レ形不レ如レ越、攻レ心不レ如レ呉、而君臣上下、少長貴賤、畢呼二霸王一、臣竊以爲、猶四之二井中一而謂曰三我將二爲レ爾求一レ火也。

【井中視レ星】96 セイチュウニホシヲミル 井の中から天上の星を視れば、僅かに兩三星が見えるだけである。私心に蔽はれて見解の狹いことに喩へる。坐レ井觀レ天。〔尸子、廣澤〕自二井中一視レ星、所レ視不レ過二數星一、自二丘上一以視、則見二其始多出一、云云、私心、井中也、公心、丘上也。

【井通】97 セイツウ 井と通。古の土地區劃の單位。方一里を井といひ、井十を通といふ。〔周禮、地官、小司徒、以任二地事一而令二貢賦一、注〕司馬法曰、六尺爲レ步、步百爲レ畮、畮百爲レ夫、夫三爲レ屋、屋三爲レ井、井十爲レ通。

【井底】98 セイテイ 井戸の底。〔易、井、初六、井泥不レ食、注〕最在二井底一、上又无レ應。〔白居易、井底引二銀瓶一詩〕井底引二銀瓶一、銀瓶欲レ上絲繩絕。〔王建、寄レ遠曲〕千回相見不二分明一、井底看レ星夢中語。

【井底蛙】99 セイテイノア 世間知らず。見聞の小さなものの喩。井蛙(1)を見よ。〔後漢書、馬援傳〕因辭歸、謂レ囂曰、子陽井底蛙耳、而妄自尊大。〔注〕言、述志識褊狹、如二坎井之蛙一。〔故事成語考、鳥獸〕其見甚小、譬如二井底蛙一。

【井底塘】100 セイテイタウ 地名。雲南省永善縣の西北。大江の東岸。一名、井底壩。

【井底泥】101 セイテイノデイ 井戸の底の泥。〔本草、井底泥〕主治、塗二湯火瘡一、療二妊娠熱病一。

【井底眠】102 セイテイニネムル 唐の賀知章の醉態を詠じた語。〔杜甫、飲中八仙歌〕知章騎レ馬似レ乘レ船、眼花落レ井水底眠。

【井亭】103 セイテイ 井戸を覆ふ家。〔避暑錄話〕忿折二其井亭一、共燒以禦レ寒。

【井泥】104 セイデイ 井戸水の汚れていること。又、古く汚れた井戸。ふるゐど。〔易、井〕初六、井泥不レ食、舊井无レ禽。〔注〕最在二井底一、上又无レ應、沈滯滓穢、故曰、井泥不レ食也、井泥而不レ可レ食、則是久井不レ見二渫治一者也。〔晉書、郭璞傳〕上有二勒銘一、應下在二人家井泥中一得上レ之。

【井田】105 セイデン ❶田地の制。田地を井の字形に區劃して、八家に各〻其の一區を與へて耕させ、中央の一區を公田とし、八家共に之を耕して其の收入を貢せしめた。殷の時は一家の所有地は七十畝、周の時は百畝。字解の❹を見よ。井地。〔穀梁、宣、十五〕古者、三百步爲レ里、名曰二井田一、井田者九百畝、公田居レ一。〔孟子、梁惠王下〕耕者九一。〔集注〕九一者、井田之制也、方一里爲二一井一、其田九百畝、中畫二井字一、界爲二九區一、一區之中、爲二田百畝一、中百畝爲二公田一、外八百畝爲二私田一、八家各受二私田百畝一、而同養二公田一、是九分而稅二其一一也。〔孟子、滕文公上〕方里而井、井九百畝、其中爲二公田一、八家皆私二百畝一、同養二公田一。〔後漢書、仲長統傳〕井田之變、豪人貨殖、館舍布二於州郡一、田畝連二於方國一。〔事物紀原、利源調度部、井田〕通典曰、黃帝始經レ土設レ井、以塞二諍端一、立レ步制レ畝、以防二不足一、使二八家爲一レ井、井開四道、此井田之原也、其法肇二於黃帝一、成二於大禹一、備二於周一、壞二於秦一也。❷明、邢臺の

人。字は九疇。官は大理評事。〔尙友錄、十六〕。

【井田改屯地】106 セイデンカイトンチ 清の制度で、八旗救濟の目的を以て設けたもの。雍正二年創設す。其の方法は先づ新城・固安の二縣に在つた內務府と戶部との所屬の土地二千餘畝を井田とし、旗人中、產業財產を有せぬ滿洲八旗五十戶、蒙古十戶、漢軍四十戶、合計百戶を選派して地畝と住家とを與へ、其の私田を各〻百畝とし、八家を以て自作せしめ、公田百畝を共同耕作せしめた。然るに此の制度は、八旗が懶惰で耕作に力めないため、公田共同耕作の實が擧らなかつたので、乾隆元年、遂に廢して普通の屯田に改めた。〔清會典事例、八旗都統、田宅、井田改屯地〕雍正二年覆准、內務府餘地、共一千六百餘頃、扺欠錢糧人等所レ交地、共二千六百餘頃、以二二百餘頃一作二爲井田一、將下無二產業一之滿洲蒙古漢軍上、共選二一百戶一、前往耕種、每戶授二田百畝一、凡八百畝爲二私田一、百畝爲二公田一、共レ力同養二公田一、委二戶部司官勘丈一、設二立邨莊一、蓋土房四百閒、給二予種地人口糧耕牛籽種農具一、以便二耕種一、並於二八旗廢官內一、揀二選二人一、前往管理。

【井桶】107 ching² t'ung³ 釣瓶。

【井筒】108 ヰヅツ 圓い井戶側。〔和漢三才圖繪、水類、幹〕俗云二井筒一、又云二井桁一、按、幹、其圓者、俗曰二井筒一、方者曰二井桁一。

【井頭】109 セイトウ 井戶をいふ。〔李商隱、富平少侯詩〕不レ收二金彈一拋二林外一、卻惜銀牀在二井頭一。

【井頭墟】110 セイトウキヨ 地名。湖南省東安縣の東北。清の咸豐五年秋、王珍・江忠淑の軍が、東安城を退いて此處に屯す。

【井桐】111 セイドウ 井戶の側に在る桐の木。〔庾肩吾、九日侍レ宴詩〕玉醴吹二巖菊一、銀牀落二井桐一。〔元稹、會眞詩〕龍吹過二庭竹一、鸞歌拂二井桐一。〔羅隱、聽レ琴詩〕寒雨蕭蕭落二井桐一、夜深何處怨二啼烏一。

【井瀆】112 セイトク 井戶とみぞ。〔晉書、五行志中〕十二月又旱、井瀆多竭。

【井南】113 セイナン 井戶の南。〔陶弘景、許長史舊館壇碑〕宅南一井、卽長史所レ穿、井南大塘、乃郭朝遺製。〔賈島、寄二魏小府一詩〕音信如二相惠一、移二居古井南一。

【井農】114 セイノウ 清、胡節(**9—29400**・・218)の號。

【井傍】115 セイバウ 井戶のかたはら。ゐどばた。〔魏志、管寧傳、注〕多買レ器、分置二井傍一、汲以待レ之。〔馮著、燕銜レ泥詩〕井傍瀉レ水泥自足、銜レ泥上レ屋隨二爾汲一。

【井伯】116 セイハク 春秋秦、百里奚(**8—22679**・・591)の字。

【井陌】117 セイハク まち。街路。〔南齊書、徐孝嗣傳〕井陌壃里、長轂盛二於周朝一。〔李紳、登二禹廟一迴二降雪一詩〕裂レ繒分二井陌一、連レ壁混二樓臺一。

【井眉】118 セイビ 井戶際の地をいふ。井湄に同じ。〔漢書、陳遵傳〕子猶レ甁矣、觀二甁之居一、居二井之眉一、處レ高臨レ深。〔注〕眉、井邊地、若二人目上之有一レ眉。〔晁補之、同二魯直一和二普安院壁上蘇公詩一詩〕散篆縈二簾額一、留雲暗二井眉一。

【井湄】119 セイビ 井戶際の地。井眉に同じ。〔揚雄、酒賦〕子猶レ缾矣、觀二缾之居一、居二井之湄一、處レ高臨レ深。〔李俊民、醉レ黎賦〕井湄之缾、不二以レ近レ危而不一レ居。

【井賦】120 セイフ 一井から出すみつぎ。井は周代の土地區劃の名。字解の㊃を見よ。〔周禮、地官、小司徒〕乃經二土地一、而井二牧其田野一、九夫爲井、云云、以任二地事一、而令二其貢賦一。〔梁簡文帝、爲二子大心一讓二當陽侯一表〕夙開二井賦一。

【井鮒】121 セイフ 井戶の中の鮒は泉に返ることを望むから、故居を慕ふことに喩へる。〔白居易、孟夏思二渭村舊居一詩〕井鮒思レ返レ泉、籠鶯悔レ出レ谷。

【井坪】122 セイヘイ 城の名。山西省平魯縣の南。明の成化二十二年に築く。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、朔州〕井坪守禦千戶所、州西北百餘里、云云、成化二十二年築、隆慶六年增修、周四里有奇。

【井甓】123 ching⁴ p'i⁴ 井戶の積み疊んだ煉瓦。

【井邊】124 セイヘン ゐのべ。井戶の附近。〔沈亞之、春詞〕黃鶯啼時春日高、紅芳發盡井邊桃。〔羅隱、杜陵秋思詩〕巖畔早涼生二紫桂一、井邊疎影落二高梧一。〔黃庭堅、演雅詩〕井邊蠹レ李螬苦肥。

【井圃】125 セイホ その。はたけ。井は區劃の意。〔孟郊、立德新居詩〕陽崖洩二春意一、井圃留二冬蕪一。

【井畝】126 セイホ 周の太公望の軍制。井畝からは戎車三百輛・虎賁三千人を出す。〔李衞公問對、上〕周之始興、則太公實繕二其法一、始於二岐都一、以建二井畝一、戎車三百輛、虎賁三千人、以立二軍制一。

【井牧】127 セイボク 周代の土地區劃。二牧は一井に當る。〔周禮、地官、小司徒〕乃經二土地一、而井二牧其田野一。〔注〕井牧者、春秋傳所謂、井二衍沃一、牧二隰皐一者也、玄謂、隰皐之地、九夫爲レ牧、二牧而當二一井一、今造二都鄙一、授二民田一、有二不易一、有二一易一、有二再易一、通率二而當レ一、是之謂二井牧一。〔左氏、襄、二十五〕牧二隰皐一、井二衍沃一。

【井味】128 セイミ 井戶の水の味をいふ。〔耿湋、過二王山人舊居一詩〕汲少井味變、開稀戶樞澁。〔方干、贈二瑪瑙山禪者一詩〕井味兼二松粉一、雲根着二淨甁一。〔鄭巢、題二崔中丞北齋一詩〕寒湖添二井味一、遠漏帶二松聲一。

【井脈】129 セイミャク 地下水の脈をいふ。〔方干、書二吳道隱林亭一詩〕橘枝亞レ路黃苞重、井脈牽レ湖碧甃深。〔宋史、鄭文寶傳〕城中舊乏二井脈一。

【井面】130 セイメン ㊀井戶の表面。〔大業雜記〕殿庭左右、各有二大井一、井面闊二十尺。〔梅堯臣、道次二靈井一詩〕井面水不レ動、傍分二龍鱗一激。〔蘇軾、老翁井詩〕公來無レ蹤去無レ跡、井面團團水生レ花。〔陸游、四月三日同二子坦・子聿一遊二湖中諸山一詩〕須臾日穿レ林、井面光烔烔。㊁姓氏。

【井目】131 セイモク 碁盤の目の上に打つた九つの點。又、技倆劣等の者が敵手に先だつて豫め九つの點に一石づつ配置すること。制目。聖目ヒジリメ。

【井養】132 セイヤウ 井水の窮まる所なく人を養ふやうに、盡きない德をいふ。〔易、井〕井養而不レ窮也。〔疏〕歎下美井德、愈汲愈生、給二養於人一、無上レ有二窮已一也。〔梁元帝、答二劉縚一求レ述二制旨義一書〕汲而無レ竭、復乖二井養一。

【井旟】133 セイヨ 井星の圖を畫いた旗。〔後漢書、郎顗傳〕宜下遣二太尉一、服二干戚一、建中井旟上。〔注〕井、南方火宿也、畫二井星之文於旟一而建レ之也。

【井浪】134 セイラウ 井戶水の浪立つこと。〔周賀、春日重到二王依村居一詩〕夜蟲鳴二井浪一、春鳥宿二庭柯一。

【井絡】135 セイラク 星の名。〔左思、蜀都賦〕岷山之精、上爲二井絡一。〔河圖括地象〕岷山之地、上爲二井絡一。

【井闌】136 セイラン ㊀ゐげた。闌は欄に同じ。井欄。井桁。井幹。〔南史、齊高帝諸子下、江夏王鋒傳〕倚二井欄一爲レ書、書滿則洗レ之。㊁ゐげたのやうに組上げた樓で、城を攻めるに用ひる道具。〔魏志、明帝紀、注〕乃更爲二井闌百尺一、以射二城中一。

【井欄】137 セイラン ゐげた。井桁。井闌。井幹。〔李嘉祐、仲夏江陰官舍寄二裴明府一詩〕苔色侵二衣桁一、潮痕上二井欄一。〔白居易、渭村退居詩〕井欄排二菡萏一、簷瓦鬪二鴛鴦一。

【井里】138 セイリ むらざと。邑里。井閭。〔魏志、文帝紀、注〕龍淵・太阿、出二昆吾之金一、和氏之璧、由二井里之田一、礱レ之以二砥礪一、錯レ之以二他山一、故能致二連城之價一、爲二命世之寶一。

【井柳】139 セイリウ 星の名。井宿と柳宿。〔蔡邕、靑衣賦〕南瞻二井柳一、仰察二斗機一。

【井閭】140 セイリヨ むらざと。邑里。井は井田(105)の㊀を見よ。閭は二十五家をいふ。〔唐書、杜牧傳〕井閭阡陌、倉廩財賦、果自治平。〔宋史、薛向傳〕四出伐レ木、無レ問二井閭丘隴一、民不二敢訴一。

【井廩】141 セイリン 井戶と米倉。〔史記、游俠傳序〕昔者、虞舜窘二於井廩一。

【井鹿】142 紀伊國の地名。

【井硎嶺】143 セイケイレイ 山名。浙江省建德縣の東南。浦江縣の界に接す。一名、井坑嶺。〔讀史方輿紀要、浙江、嚴州府、建德縣〕井硎嶺、在二府東南五十里一、路通二浦江一、明初、李文忠克二嚴州一、進レ兵下二浦江一、蓋取二道于此一。

【井太室】144 セイタイシツ 澁井太室(**7—18312**・・5)を見よ。

【井通熙】145 セイツウキ 井上通熙をいふ。井上蘭臺(6—3)を見よ。

【井店集】146 セイテンシフ 砦の名。河北省濮陽縣の西北。河南省內黃縣の界に接す。燕・魯・豫の三地方の通衢。一名、井寨保。

【井福堂】147 セイフクダウ 清、汪學金(**6—17154**・・190)の室名。

【井彊六斤】148 セイキヤウロクキン 複姓。〔萬姓統譜〕井彊六斤、代人。

【井觀瑣言】149 セイクワンサゲン 書名。三卷。明、鄭瑗撰。故實を考證し、古今を品隲し、篤論が多い。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【井春五經】150 セイシュンゴケイ 蒙求の標題。後漢の井丹

（字は大春）が少くして既に大學に學び、徧く五經全體に通じてゐた故事。〔後漢書、逸民、井丹傳〕井丹、字大春、扶風郿人也、少受二業太學一、通二五經一、善二談論一、故京師爲二之語一曰、五經紛綸井大春。

【井西道人】151 セイセイダウジン　元、黃公望（12―47926・・1089）の號。「號。

【井東居士】152 セイトウコジ　清、戴熙（5―11685・・29）の號。

【井部香山】153 ヰベカウザン　越後の人。名は鳴。字は子鶴。通稱は萬三郎。號は香山・荃齋・五華山人。葛西因是に學び、江戶の築地輕子橋畔に塾を開く。最も詩文に長ず。嘉永六年に沒す。年六十一。著に香山遺稿・詩文集がある。〔北越詩話〕。

【井部健齋】154 ヰベケンサイ　越後の人。本姓は田中氏。香山の嗣となる。名は見。字は子龍。通稱は潛藏。號は健齋。程朱の學を奉じ、詩文に長ず。高田藩に仕ふ。明治二十五年歿。年六十八。著に健齋文集・左氏傳解・孟子釋がある。〔北越詩話〕。

【坐レ井觀レ天】155 セイニザシテテンヲミル　井の中から天を仰ぐ。よのし髓から天井覗く。見る所の小さな喩。井中視レ星（96）に同じ。〔韓愈、原道〕老子之小二仁義一、非二毀之一也、其見者小也、坐レ井而觀レ天、曰二天小一者、非二天小一也、彼以二煦煦一爲レ仁、孑孑爲レ義、其小レ之也亦宜。〔故事成語考、人事〕管中窺レ豹、所レ見不レ多、坐レ井觀レ天、知識不レ廣。

【從レ井救レ人】156 セイニシタガッテヒトヲスクフ　井中に入つて人を救ふ。人を救はうとして却つて己の命をも失ひ、何等益の無い喩。〔論語、雍也〕仁者雖三告レ之曰二井有一レ仁焉、其從レ之也。〔集注〕劉聘君曰、有仁之仁、當レ作レ人、今從レ之、從、謂下隨二之於井一而救上レ之也、云云、仁者雖下切二於救一レ人、而不上レ私二其身一、然不レ應レ如二此之愚一也。

【杼レ井易レ水】157 セイヲクミテミヅヲカフ　井戶水をくみかへる。井戶がへをする。〔管子、禁藏〕鑽レ燧易レ火、杼レ井易レ水。

【入レ井望レ天】158 セイニイリテテンヲノゾム　坐レ井觀レ天（155）に同じ。〔新論、通塞〕入レ井望レ天、不レ過二圓蓋一。

【避レ井落レ坑】159 セイヲサケテカウニオツ　一患去つて又一患生ずる喩。避レ坑落レ井。〔易林、觀之レ益〕避レ井入レ坑、憂患日生。

【落レ井下レ石】160 セイニオツレバイシヲクダス　井に落ちた人に上から石を投げ下す。人を苦しめ拔く。〔書言故事、朋友類、落レ井下レ石〕韓文公撰二柳子厚墓誌一、一旦臨二小利害一、僅如二毫髮比一、反看若レ不二相識一、落二陷穽一、不二一引レ手救一、反擠レ之、而又下レ石焉者、皆是也。

【井冽寒泉食】161 セイレツカンセンクラハル　井戶水が清く冷たければ用ひられる。高潔有能の人にして始めて登用せられる喩。〔易、井〕九五、井冽寒泉食。〔疏〕體剛直、則不レ食二汙穢一、必須二井絜而寒泉一、然後乃食、以言下剛正之主、不レ納二非賢一、必須二行絜才高一、而後乃用上。

【塞レ井以爲レ臼】162 セイヲフサイデモツテウストナス　井をふさいで臼とする。大切なものを壞る喩。〔淮南子、說林訓〕解レ門以爲レ薪、塞レ井以爲レ臼、人之從レ事、或二時相似一。

【三】259 シ　四（3―4682）の籀文。〔說文〕四、三、籀文四。〔集韻〕四、籀作レ三。

【㐅】260 ゴ　五（1―257）の古字。〔玉篇〕㐅、古文五。

三畫

【㞢】261 サイ　歲（6―16326）の古字。〔字彙補〕㞢、古文歲字。

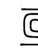
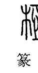
四畫

【亘】262

一セン　〔集韻〕荀緣切　ㄒㄩㄢ　先　hsüan¹

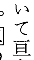
二クヮン グヮン　〔六書精蘊〕胡官切　寒

三コウ　〔集韻〕居鄧切　ㄍㄥ　徑　kêng⁴　ㄍㄣ　ken⁴

 小篆  小篆 古文

一二 ❶めぐる。求めめぐる。亘（1―263）に同じ。〔說文〕亘、求回也、从レ二从レ回、回、古文回、象二亘回之形一、上下所レ求レ物也。❷のべる。宣（3―7132）に通ず。〔六書正譌〕亘、揚布也。〔正字通〕亘、與レ宣音義同。❸桓（6―14774）に通ず。宋の高宗の紹興中、欽宗の諱を避け、桓を亘とした。〔說文、亘、段注〕按、古音讀如レ桓。三 ❶わたる。〔張衡、西京賦〕亘二雄虹之長梁一。〔注〕綜曰、亘、徑度也。❷つらなる。〔唐書、貴妃楊氏傳〕第舍聯亘。❸通ずる。〔廣韻〕亘、通也。❹あまねし。〔廣韻〕亘、徧也。❺をはる。きはまる。きはめる。〔廣韻〕亘、竟也。〔後漢書、竇憲傳〕敻其邈兮、亘二地界一。〔注〕亘、竟也。❻ひろがり。〔增韻〕亘、延袤也。〔李薦、王開府園記〕延亘十餘里。❼緪（8―27416）に通ず。〔張衡、西都賦〕北彌二明光一、而亘二長樂一。〔注〕善曰、亘、與レ緪古字通。❽恒（4―10527）に通ず。〔詩、大雅、生民〕恒二之秬秠一。〔釋文〕恒、本又作レ亘。❾亙（1―264）に同じ。〔顏氏家訓、書證〕彌亘字、從二二間舟一、詩云、亘二之秬秠一、是也、今之隸書、轉レ舟爲レ日。❿㮓（6―15114）の古字。〔說文〕㮓、亙、古文㮓。⓫姓。〔萬姓統譜〕亘寬、漢祖時、爲二盧江郡丞一。

名乘　ノブ。ワタリ（姓）。

解字　會意。二と回との合字。二は上下を示し、回は回轉する義を表はす。求めるものが上に在れば回轉して上り、下に在れば回轉して下つて、之を求める義を示す。亙に通用するときは古文亙に作り、二は兩岸を示し、⺼は舟の象形。舟で兩岸の閒を往來してわたる意を示す。一說に、二と月との合字で、月が一方から一方へ渡る意といふ。〔說文通訓定聲〕亙、竟也、云云、按、从レ二从レ舟、二者、上下厓岸也、會意兼二指事一、顏氏家訓書證、彌亙字、从二二間舟一、今隸書轉レ舟爲レ日。▽  （甲骨文）象形。旋回するさまに象り、めぐる意を表はす。

參考　一二の本形は亘、省いて亘とする。〔字彙〕亘、从レ二从レ回、今省作レ日。三の場合、本形は舟（亙）・亙の二說あり。舟が渡る、月が渡るの意。今皆、亘に作る。〔正字通〕亙、从レ月从レ二。〔康熙字典〕亙、从レ二从レ舟。

【亘古】1 コウコ　永遠。永久。〔鮑照、河淸頌〕亘レ古通レ今、明鮮晦多。

【亘青】2 コウセイ　淸、孫綠（3―6987・・300）の字。

【亘帶】3 コウタイ　わたりめぐる。〔孫綽、望レ海賦〕彌二綸八荒一、亘二帶九地一。

【亘理】4 ワタリ　❶磐城國の地名。〔和名抄〕。❷姓氏。〔日用重寶記〕。

【亘】263 セン　亘（1―262）の一二の本字。〔康熙字典〕亘、說文亘本字。

【亙】264 コウ　亘（1―262）の三の本字。〔康熙字典〕亙、今譌从レ日作レ亘。

【亙】265 コウ　亙（1―264）に同じ。〔康熙字典〕亙、正字通或从レ月。〔康熙字典〕亙、按、說文木部、㮓、竟也、古文作レ亙、从レ二从レ舟、二部、恆、常也、从レ心从三舟在二二之閒一、獨恆字古文作レ死、注三从レ月詩小雅如二月之恆一、據レ此則去聲亙、从レ舟、竟レ岸本義也、平聲恆、从レ心亙聲、訓レ常本義也、云云、讀二去聲一者、亙字、加レ心轉二平聲一者、恆字、形變音變、義因レ之而變、不二相蒙一也、謂、恆从レ舟、亦从レ月、兩存備レ考、可也。

【亝】266 ジュン　純（8―27277）の古字。〔集韻〕純、古作レ亝。

五畫

【况】267 キャウ

況(6−17264)の譌字。〔説文、況、段注〕古矧兄比兄、皆用二兄字一、後乃用二況字一、後又改作レ況、作レ况。

参考 况・況・况の三字については、異字なりとする説と、同字なりとする説との二説がある。

㋑異字なりとする説。〔佩觿集〕况・況・况、上、發語之端、中、寒冰也、下、形況、今多通用。〔康熙字典、辨似、三字相似〕况、發語之辭、从レ二。況、寒水也、又譬擬。況、亦寒水从レ冫、今多混用レ此。

㋺同字とする説。〔説文、況、段注〕古、矧兄比兄、皆用二兄字一、後乃用二況字一、後又改作レ況、作レ况。

【些】268

㊀シャ 〔集韻〕思嗟切 ㄒㄧㄝ hsieh¹ 麻

㊁サ 〔集韻〕桑何切 歌

㊂サ 〔集韻〕四箇切 箇

㊃セイ サイ 〔集韻〕息計切 霽

㊄サ 慣

小篆

㊀いささか。すこし。わづか。物を限つていふ語。〔廣韻〕些、少也。〔辛棄疾、最高樓詞〕著二一箇缺些兒底月一。㊁葬を送る挽歌の聲。〔集韻〕些、送レ葬挽歌聲。㊂㊃❶語勢を強める助辭。〔説文新附〕些、語辭也、見二楚辭一、从レ此从レ二、其義未レ詳。〔楚辭、宋玉、招魂〕何爲乎四方些。❷なんぞ。この。これ。〔集韻〕些、何也、此也。❸或は呰(2−3452)に作る。〔集韻〕些、語辭也、見二楚辭一、或从レ口。

【些菴】1 サアン 明、郭都賢(11−39474・390)の號。

【些許】2 hsieh¹ hsü³ 少しばかり。一寸した。

【些言】3 hsieh¹ yen² 些細な言葉。

【些個】4 hsieh¹ kê⁴ これだけ。いくらか。

【些些】5 ササ すくないさま。些少。〔舊唐書、楊嗣復傳〕近日事亦漸好、未レ免二些些不公一、亦無二甚處一。〔白居易、微之就拜二尚書一因書二賀意一兼詠二離懷一詩〕些些談笑與レ誰同。

【些細】6 ササイ わづか。少し許り。瑣細(7−21147‥10)に同じ。

【些尐】7 ササン 清、杜芥(6−14477‥33)の號。

【些子】8 シサ いささか。すこし。わづか。些兒。〔羅虬、比紅兒詩〕應レ有二紅兒些子貌一、卻言皇后長二深宮一。

【些子景】9 サシケイ 小さい景色。盆景。〔劉鑾五石瓠〕今人以二盆盎間樹石一爲レ玩、長者屈而短レ之、大者削而約レ之、或膚寸而結二果實一、或咫尺而蓄二蟲魚一、概稱二盆景一、元人謂二之些子景一。

【些子兒】10 サシジ すこしばかり。子・兒の二字は共に助字。〔後山詩話〕太祖幸二後池一、對二新月一、召二盧多遜一賦レ詩、請レ韻、曰、些子兒、詩云、太液地邊看レ月時、好風吹動萬年枝、誰家玉匣新開レ鏡、露二出清光一些子兒。

【些事】11 サジ 少しのことがら。細事。瑣事。

【些兒】12 サジ すこしばかり。些子(8)に同じ。〔辛棄疾、最高樓詞〕著二一箇缺些兒底月一。

【些須】13 サス 少しばかり。〔桃花扇、卻奩〕些須東西、何足レ挂レ念。〔福惠全書、庶政部、申二飭舖遞一〕所レ望者、些須之工食、以資二衣飯一。

【些少】14 サセウ すこし。すこしばかり。些些。

【些微】15 サビ すこし。僅か。すこしのもの。〔五雜組、事部一〕寧竭二貨財一以媚二權貴一、不レ肯下捨二些微一以濟中貧乏上。

【些末】16 サマツ 少し。わづか。

【些話】17 hsieh¹ hua⁴ 少しばかりの話。〔水滸傳、八十一回〕酒席之間、用二些話一來。

【些日子】18 hsieh¹ jih⁴ tzŭ¹ 幾日も。

【些來小去】19 hsieh¹ lai² hsiao³ ch'ü⁴ 僅か。少しばかり。

【死】269 コウ

恆(4−10528)の古字。〔説文〕恆、死、古文恆、从レ月。

【亘】270 セン

亘(1−262)の㊀の譌字。〔康熙字典〕亘、按、卽亘字之譌。〔篇海類編〕亘、思緣切、求亘也。

【亘】271 セン

亘(1−262)の㊀に同じ。〔正字通〕亘、六書本義从レ回从レ二。

【亜】272 ア

亞(1−274)の俗字。〔中華大字典〕亜、亞俗字。

六畫

【亝】273 セイ

齊(12−48560)の古字。又、俗に齋の字に假り用ひる。〔玉篇〕亝、古文齊字。

【亞】274

㊀ア 〔集韻〕衣駕切 ㄧㄚ ya³·⁴ 禡

㊁ア 〔集韻〕於加切 麻

㊂アク 〔正韻〕烏落切 藥

㊃アフ

小篆

㊀❶つぐ。次位。〔説文〕亞、賈侍中説、以爲二次第一也。〔段注〕別一義、易上數言、天下至嘖而不レ可レ惡也、荀爽惡作レ亞、云、次也。〔爾雅、釋言〕亞、次也。〔書、牧誓〕亞旅。〔傳〕亞、次也。〔儀禮、公食大夫禮〕腊腸胃亞レ之。〔注〕亞、次也。〔左氏、襄、十九〕亞二宋子一。〔注〕亞、次也。〔蜀志、諸葛亮傳論〕管蕭之亞匹也。〔北夢瑣言〕此子可レ亞二其父一。❷すくない。おとる。〔增韻〕亞、少也。❸みにくい。惡(4−10824)に通ず。〔説文〕亞、醜也、象二人局背之形一。〔説文通訓定聲〕亞、今作レ惡。❹つぐ。〔廣韻〕亞、就也。❺あひむこ。婭(3−6441)に通ず。姊婿と、妹婿とが、互に相呼ぶ稱。兩壻。〔爾雅、釋親〕兩壻相謂爲レ亞。〔釋名、釋親屬〕兩壻相謂曰レ亞、言二一人取レ姊、一人取レ妹、相亞次一也。〔詩、小雅、節南山〕瑣瑣姻亞。〔傳〕兩壻相謂曰レ亞。〔集傳〕姻婭之小人。❻いね。稻。稏(8−25094)に通ず。〔韻會〕亞、通レ稏、罷亞、稻名。❼亞字形の紋樣のある廟器。〔紹興古器評〕凡器之有レ亞者、皆爲二廟器一、蓋亞形所三以象二廟器一耳。❽姓。〔路史〕亞、周公族。❾亞細亞洲の略。㊁❶また。歧。俗にㄚ(1−71)・椏(6−15025)に作る。〔六書本義〕物之歧者、曰レ亞。〔正字通〕亞、趙古則曰、物之歧者曰レ亞、俗作二ㄚ・椏一。❷どもる聲。〔集韻〕亞、伊優亞者、辭未レ定、東方朔說。〔漢書、東方朔傳〕伊優亞者、辭未レ定也。㊂❶ぬり飾る。堊(3−5215)に通ず。〔六書正譌〕亞、通レ堊、塗牆之飾也。❷惡(4−10824)に通ず。〔史記、盧綰傳〕亞谷。〔漢書、盧綰傳〕惡谷。〔語林〕宋人有レ獲二玉印一、文曰、周惡夫印、劉原父曰、漢條侯有二周亞夫印一、惡、古通レ亞。❸滹(7−18092)に通ず。〔六書正譌〕亞、秦詛楚文石刻、大吕二亞駝一代二滹沱一、則因レ聲借用明矣。㊃おす。壓(3−5557)に通ず。〔郝敬、讀書通〕壓、通作レ亞。〔杜甫、上巳宴集詩〕花蕊亞レ枝紅。〔杜甫、入宅詩〕花亞欲レ已移レ竹。

解字 象形。人の背のみにくく曲つた形に象る。假借して敍となし、次ぐ意とする。〔説文通訓定聲〕亞、假借爲レ敍。▽ （金文）象形。古代の墓室を上から見た形に象る。

【亞鉛】1 エアン トタン。金屬の一種。銅に和して

二部〔五——六畫〕况些死亘亘亜亝亞

眞鍮を作り、鐵板に鍍して諸器具を造る。鉼。〔和漢三才圖會、金類、亞鉛〕止多牟、按、此未レ知二何物一、其類レ鉛、故稱二亞鉛一。

【亞鉛華】2 アエンクワ 亞鉛鑛と木炭とを空氣中に熱して製する白色の粉末。

【亞鉛版】3 アエンバン 亞鉛を用ひて作つた印刷版。

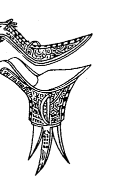
【亞海】4 アカイ 金國で奴をいふ語。〔稱謂錄、僕、亞海〕松漠紀聞、金國、奴曰二亞海一。

【亞海軫】5 アカイシン 金國で婢をいふ語。〔稱謂錄、婢、亞海軫〕松漠紀聞、金國、婢曰二亞海軫一。

【亞亨】6 アーヘン ドイツ西部の都市。Aachen

【亞膠】7 アカウ 透明無色の精良な膠質。單純蛋白質の一。食用・製絲・染色工業・醫料などに用途が多い。ゼラチン。

【亞角】8 アカク 亞の字の模様のある酒杯。〔西清古鑑、周亞角〕右通レ蓋高七寸三分、深二寸四分、口縱二寸五分、横五寸八分、重三十二兩、三足有レ流、有レ鋬。


周亞角
(西清古鑑)

【亞嶽】9 アガク 唐の崔子玉の廟をいふ。尊いことが嶽神に亞ぐ意からいふ。〔元好問、崔府君廟記〕唐崔子玉府君祠、所在有レ之、或謂二之亞嶽一、或謂二之顯應王一、皆莫レ知三其所二從來一。

【亞圉】10 アギョ 周の祖先。公劉の玄孫の孫、高圉の子。〔左氏、昭、七〕余敢忘二高圉・亞圉一。〔注〕二圉、周之先祖也。〔會箋〕高圉、是公劉玄孫之孫、高圉生二亞圉一、是太王亶父之祖也。

【亞愚】11 アグ 宋、少嵩(**4**－**7475**・・165)の字。

〔亞愚江浙紀行詩〕12 アグカウセツキカウシ 書名。七卷。宋、釋紹嵩撰。凡て五言律三卷・七言律一卷・七言絶三卷。〔南宋羣賢小集、二十三册〕。

【亞槐】13 アクワイ 大納言の異名。亞相(30)の❷に同じ。三公に次ぐ官の義。三槐九棘(**1**－**12**・・357)を見よ。〔故實拾要、十二〕大納言、唐名、亞相・亞槐。

【亞卿】14 アケイ ❶九卿に次ぐ官名。亞は次ぐ意。〔左氏、文、六〕仕二諸秦一、爲二亞卿一焉。〔注〕亞、次也、言二其賢故位尊一也。〔史記、樂毅傳〕樂毅辭讓、遂委レ質爲レ臣、燕昭王以爲二亞卿一。❷侍郎をいふ。〔稱謂錄、侍郎古稱、亞卿〕案、尚書曰レ卿、侍郎亞レ之、亦稱二貳卿一、亦稱二亞卿一。

【亞賢】15 アケン 後蜀、王處回(**7**－**20823**・・1685)の字。

【亞獻】16 アケン 祭祀、又は賓客のあるとき、初獻に繼いで爵を獻ずること。〔儀禮、特牲饋食禮〕主婦洗二爵于房一、酌亞二獻尸一。〔後漢書、百官志 二〕太尉公一人、凡郊祀之事、掌二亞獻一。

【亞元】17 アゲン 南唐、喬匡舜(**2**－**3990**・・69)の字。

【亞姑】18 アコ 寶石の名。〔輟耕錄、回回石頭〕紅亞姑・青亞姑・黃亞姑・白亞姑。

【亞胡】19 アコ 癩の病院で、其の患者を取締る者。〔吳震方、嶺南雜記〕潮州大痲瘋極多、官爲立二痲瘋院一、在二鳳凰山上一、聚二痲瘋者其中一、給以二口糧一、有二痲瘋頭一治レ之、其名亞胡、人家有二吉凶之事一、瘋人相率登レ門、索レ錢索レ食、少則詈罵、如先賂二亞胡一、求二片紙一黏レ門、瘋人卽不二敢肆一。

〔亞胡斯〕20 オールフース デンマークの海港。穀物の集散地。Aarhus の音譯。

【亞谷】21 アコク 城の名。河北省雄縣の東。〔城冢記〕漢景帝時、匈奴王盧它之降、封爲二亞谷侯一。

【亞歲】22 アサイ 冬至をいふ。歲朝に亞ぐ義。魏晉に始まる。亞歲朝。〔曹植、冬至獻二襪頌一表〕四方交泰、萬物昭蘇、亞歲迎レ祥、履長納レ慶。〔西湖遊覽志〕冬至謂二之亞歲一、官府民間、各相慶賀、一如二元日之儀一、吳中最盛、故有二肥冬瘦年之說一。

〔亞歲朝〕23 アサイテウ 冬至をいふ。歲朝に亞いで萬國の朝賀を受けるからいふ。亞歲に同じ。〔山堂肆考〕冬至日、君受二萬國朝賀一、其儀亞二於歲朝一、故以二冬至日一爲二亞歲一。

【亞賽】24 ya^3 sai^4 類似した。似寄つた。如同。「亞如。

【亞三】25 アサン ❶明代に佛郎機から來た人。火を使つたといふ。武宗の侍者となる。〔明史、外國六、佛郎機傳〕武宗南巡、其使レ火者亞三、因二江彬一、侍二帝左右一、云云、武宗崩、亞三下レ吏、自言、本華人、爲二番人所一レ使。❷ya^3 san^1 西洋人に傭はれる僕役。

【亞子】26 アシ ❶次男。次子。〔類書纂要〕次息・季子・亞子、竝次子之稱。❷後唐、莊宗(**9**－**31035**・・97)の小名。父に亞ぐべしとの意。〔五代史、伶官傳〕莊宗既好二俳優一、云云、其小字亞子、當時人或謂二之亞次一、又別爲二優名一以自目、曰二李天下一。〔北夢瑣言〕唐昭宗曰、此子可レ亞二其父一、時人號曰二亞子一。

【亞之】27 アシ 字號。❶宋、陳亞(**11**－**41698**・・1)の字。❷宋、陳洎(**11**－**41698**・・116)の字。❸宋、趙鄰幾(**10**－**37171**・・933)の字。

【亞師】28 アシ 少師をいふ。〔稱謂錄、師傅保、亞師〕遼除楊皙制云、俾レ涉二亞師之列一、謂二少師一也。

【亞洲】29 アシウ 亞細亞洲の略。

【亞相】30 アシヤウ ❶御史大夫の稱。宰相に次ぐ義。漢に始まる。〔宋書、張邵傳〕王謐爲二揚州一、召レ邵爲二主簿一、劉毅爲二亞相一。〔杜甫、哭二韋大夫之晉一詩〕漢道中興盛、韋經亞相傳。〔白居易、李昌元可レ兼二御史大夫一制〕亞相之秩、威重寵崇。〔容齋四筆、官稱別名〕御史大夫、爲二亞相一。❷大納言の異稱。亞槐。〔職原抄〕大納言、上古少師・少傅・少保、是云二三孤一、是三公之貳也、故云二亞相一。

【亞將】31 アシヤウ ❶次將。〔漢書、陳平傳〕平爲二亞將一、屬二韓王一。❷我が國で近衞中・少將の唐名。

【亞章】32 アシヤウ 清、陸黻恩(**11**－**41708**・・418)の字。

【亞述】33 アシユル チグリス河右岸の廢址。Ashur

【亞森】34 エッセン ドイツ西北部の都市。Essen

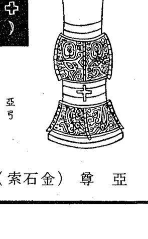
【亞壻】35 アセイ 妻の姊妹の夫。婭壻(**3**－**6441**・・2)に同じ。〔詩、小雅、節南山〕瑣瑣姻亞。〔傳〕兩壻相謂曰レ亞。

【亞聖】36 アセイ ❶聖人に次ぐ義。㋑顏淵をいふ。〔朱熹、孟子集註序說〕程子曰、顏子去二聖人一只毫髮閒、孟子大賢、亞聖之次也。㋺孟子をいふ。〔趙岐、孟子題辭〕可レ謂二直而不一レ倨、曲而不一レ屈、命世亞聖之大才一者也。〔續通典、禮典、孔子祠〕文宗至順元年七月、加二封孔子父叔梁紇一爲二啓聖王一、加二封顏子復聖公、曾子宗聖公、子思述聖公、孟子亞聖公一。❷後漢の張昶をいふ。兄の芝(字は伯英)と共に書に巧であつたからいふ。〔書斷〕張昶、伯英季弟、爲二黃門侍郎一、尤善二章草一、家風不レ墜、奕葉清華、書類二伯英一、時人謂二之亞聖一。❸後漢の張機をいふ。醫術に長じて居たからいふ。〔襄陽府志〕。

【亞齊】37 アチー スマトラ島北部の地名。一名、アンチ。阿琴。亞珍。Atjeh

【亞奭】38 アセキ 宋、古成之(**2**－**3233**・・554)の字。

【亞尊】39 アソン 樽の名。銘に亞の字形がある所から名づける。〔金石索、亞尊〕右高一尺二寸、深七寸四分、徑六寸四分、腹圍九寸二分、重六十五兩、按、周禮司尊彝、掌二六尊一、而壺尊爲レ壺、山尊爲レ罍、是形製迥不レ一矣、茲器狀如レ觚、博古圖所レ載、多二類レ此者一、銘作二亞形一、又爲レ弓、古者、躲必有レ飮、而亞則有二廟室之義一、意、此爲二躲宮飮器一歟。



亞尊 (金石索)

【亞駝】40 アダ ❶神の名。一に惡池に作る。〔汝帖、秦詛レ楚文〕秦嗣王敢用二吉玉宣璧一、使下其祝宗邵鼛、布中愆於丕顯大神亞駝上、以底中楚王熊相之多罪者上。〔西溪叢語〕亞駝之石、在二洛陽劉忱家一、其言述下秦穆公與二楚成王一交好、遂及二熊相一背二十八世詛盟一之罪上。❷水の名。惡池(**4**－**10824**・・143)に同じ。

【亞台】41 アダイ 唐代、御史大夫の別稱。〔容齋四筆、官稱別名〕御史大夫爲二亞台一。

【亞當】42 アダム ヘブライ古傳に於ける最初の人名。其の妻エヴアの勸めにより神から禁ぜられてゐた果實を食ひ、エデンの樂園を追はれた。Adam

〔亞當峯〕43 アダムズホウ セーロン島の山。頂上にある人の足跡形の窪みは佛陀の足跡とせられて、全島人の崇拜を集めてゐる。Adam's Peek

〔亞當教派〕44 アダムケウハ 第二世紀頃北アフリカに起つた宗派。婚姻もせず、衣服も纏はないで、アダムとエヴアとの生活に歸ることを主張す。

〔亞炭〕45 アタン 褐炭中、炭化度底く明かに木理を存するものをいふ。燃料及び細工物に用ひる。

【亞斗】46 アト 清、沈璇(**6**－**17189**・・264)の字。

【亞東】47 アトウ ❶關の名。西藏、札什倫布の南。春丕峽の南方の門戶。光緒十九年の藏印續約により、英國に商埠地として開放せらる。❷ya^3 $tung^1$ 亞細亞洲。

【亞登】48アデン　アラビヤ南部、紅海入口近くの港市。自然の要塞をなし、歐亞航路上の重要地。Aden の音譯。

【亞牌】49 ya^{3} p'ai^{2}　古、禮服の徽の刺繡。亞は其の形が亞字に似てゐるから名づける。

【亞伯】50アバク　清、金應麟（11－40152‥1204）の字。

【亞伯丁】51アバディン　スコツトランド低地帶の北海に面する港市。Aberdeen の音譯。

【亞伯拉罕】52アブラハム　イスラエルの大族長。カルデヤのウルに生る。信仰の父として民族の尊崇をうけ、一七五歲で歿した。Abraham

【亞飯】53アハン　❶二度目の飯の際に樂を奏し飯を侑める官。三飯・四飯もこに準ずる。〔論語、微子〕亞飯干適レ楚、三飯繚適レ蔡、四飯缺適レ秦。〔集解〕孔安國曰、亞、次也、次飯、樂師也。〔增補四書人物聚考、七〕白虎通云、王平二居中央一制二御四方一、旦食、少陽之始也、晝食、太陽之始也、暮食、太陰之始也、論語曰、亞飯干適レ楚、三飯繚適レ蔡、四飯缺適レ秦、諸侯三飯、卿大夫再飯、尊卑之差也、周禮春官大司樂、王大食三侑、皆令奏二鐘鼓一。❷複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕周末賢人亞飯干之後。

【亞匹】54アヒツ　似たともがら。たぐひ。匹は類。〔蜀志、諸葛亮傳〕亮之器、能政理、抑亦管蕭之亞匹也。

【亞父】55アフ　❶父につぐ意。楚の項羽が范增を尊んでいふ。〔史記、項羽紀〕亞父南嚮坐、亞父者、范增也。〔注〕集解曰、如淳曰、亞、次也、尊二敬之一次二於父一、猶二管仲爲一仲父一。〔漢書、陳平傳〕使歸具以報二項王一、果大疑二亞父一。〔故事成語考、叔侄〕曰二諸父一、曰二亞父一、皆伯叔之輩。❷宋、黃庶（12－47926‥488）の字。

【亞傅】56アフ　小傅。太傅、卽ち天子の補佐役に亞ぐ義。〔楊萬里、賀二張魏公除一宣撫一啓〕召二升亞傅一、命二撫征師一。〔稱謂錄、師傅保、亞傅〕遼除二余深一制云、越陞二亞傅之班一、皆謂二少傅一也。

【亞保】57アホ　少保をいふ。〔稱謂錄、師傅保、亞保〕李梅亭啓云、惟時亞保之休、蓋古司空之選、謂二少保一也。

【亞母】58アボ　育ての母。母につぐ意。〔近古史談、德篇下、女子復讎〕兒不二夢知一レ之、而成立至レ此、亞母鞠育之恩、不レ知何以報レ之。

【亞媽】59アボ　清朝の道光末年に起つた太平天國の亂徒が作つた隱語の一。傳教者をいふ。

【亞麻】60アマ　草の名。ぬのごま。實から亞麻仁油を製する。〔本草、亞麻〕釋名、鴉麻、壁虱胡麻。

【亞眠】61アミアン　フランス北部のソンム州の首府。學術・文藝・工業の中心地。Amiens

【亞流】62アリウ　似たりよつたりの同類。同じながれをくむ人。流亞（6－17431‥1）に同じ。

【亞旅】63アリョ　上大夫の別稱。一說に諸大夫をいふ。〔書、牧誓〕嗟我友邦冢君、御事司徒・司馬・司空・亞旅・師氏。〔傳〕亞、次、旅、衆也、衆大夫、其位次レ卿、師氏、大夫官、以兵守二門者一。〔左氏、文、十五〕請承二命於亞旅一。〔注〕亞旅、上大夫也。〔會箋〕亞旅、言二諸大夫一也。

【亞哥郎】64アグラム　舊ユーゴースラヴィヤ北部の中心都市。穀物・葡萄酒・織物等の貿易が盛である。Agram の音譯。

【亞格伯】65アバクル　ムガール帝國第三代の王。印度の中部以北大半を統一し、世に賢主と稱された。Akbar の音譯。

【亞格拉】66アグラ　印度中部の都市。ムガール帝國の古都。王塚其の他の名建築物がある。Agra

【亞寒帶】67アカン　寒帶と温帶との中間の地帶。

【亞灌木】68アカンボク　灌木と草本との中間に屬する植物。芙蓉の類。

【亞喬木】69アケウボク　喬木と灌木との中間の植物。きぬやなぎの類。

【亞克興】70アクアチ　ギリシヤのアカルナニヤの岬。紀元前三一年、オクタヴイヤヌスが此の岬の前面の海上でアントニウス・クレオパトラの聯合軍を破つた。Actium の音譯。

【亞細亞】71アジア　五大洲の一。東半球の東北部を占め、面積約二八〇〇〇〇方里、世界全陸地の約三分の一に當り、五大洲中で最大の大陸。日本・中國・亞細亞露西亞・亞細亞土耳其・亞剌比亞・イラン・アフガニスタン・ベルヂスタン・印度・泰・佛領印度支那・馬來地方・馬來群島等がこれに屬する。〔坤輿圖說、亞細亞州〕亞細亞、天下一大州、人類肇生、聖賢首出。〔新法曆書、五、測食〕先沒二於亞細亞之東一、後沒二於歐羅巴之西一也。

【亞細亞主義】72アジヤギ　❶彫飾誇張を主とする古の小アジヤの演說學派の主義。❷アジヤにはアジヤ獨特の文化があり、物心一如を其の特色とする。この文化を維持し發展せしめることにより、行詰まつた世界文化を正しく導かうとする文化上の主義主張。❸アジヤは地理的にも文化的にも經濟的にも政治的にも運命共同體であるとの見地から、アジヤ民族の眞の平和と福祉と發展とを實現し、アジヤ人のアジヤを建設しようとする主義。

【亞字謎】73アジノメ　亞の字の謎。口をつければ啞となり、心をつければ惡となる。腹の中には何もなく、外面には角が多い。〔青箱雜記〕陳亞自爲二亞字謎一曰、若教レ有レ口便啞、且要レ無二心爲一レ惡、中間全沒二肚腸一、外面強生二稜角一。

【亞字紋】74アジモン　古禮器の亞字の紋形。〔紹興古器評〕凡器之有レ亞者、皆爲二廟器一。

【亞松森】75アスンシオン　南米パラグアイの首府。Asuncion の音譯。

【亞砷酸】76アジンサン　藥品の名。亞砒酸。醫藥用・工業用に用ひる。

【亞砷酸銅】77アジンサンドウ　亞砒酸の銅鹽。青色を呈してゐる。亞砒酸銅。

【亞西爾】78アシル　アラビヤ半島の西南部。西は紅海にそひ、東はアビラヤ沙漠に接する。Asir

【亞硝酸】79アショウサン　無機酸の一種。亞硝酸ソーダ水溶液に酸を加へるか、又は二酸化窒素に冷水を溶解させるとき生ずる不安定なもの。

【亞硝酸鉀】80アショウサンカリ　藥品の名。黃色の無水結晶。色素及び化學工業上に用ひられる。亞硝酸加里。

【亞硝酸鈉】81アショウサンナフ　藥品の名。稍黃色又は白色の結晶。染料及び有機化合物の合成、化學分析に用ひられる。亞硝酸曹達。

【亞陀斯】82アトス　ギリシヤの東北、サロニカ南東の地名。中世に於けるギリシヤ神學の一大中心地。Athos の音譯。

【亞大夫】83タイフ　大夫につぐ役。〔左氏、昭、七〕朔於二敝邑一、亞大夫也。

【亞達那】84アナタ　Adana の音譯。❶小アジヤの一州。棉・穀物を產す。❷同地方の首都。

【亞土壤】85ジドヤウ　土壤と岩石の中間のもの。

【亞熱帶】86ネツタイ　熱帶と温帶の中間の地。

【亞方彝】87アホウイ　亞の字の模樣ある方形の彝器。〔西清古鑑、周亞方彝〕右通蓋高六寸八分、深三寸二分、口縱三寸三分、橫四寸二分、底縱橫如レ之、重六十七兩。

周（西）亞方彝（鑑）

【亞比亞】88アビア　大洋洲サモア諸島の主島ウポルの首邑。Apia の音譯。

【亞卑拉】89アベラ　現今のアルピール。チグリス河上流の村落。アレクサンダー大王がペルシヤ軍を破つた處。Arbela の音譯。

【亞芙蓉】90アフヨウ　草の名。けし。罌粟（9－28185‥2）の異名。又其の液。阿芙蓉。〔重修本草綱目啓蒙、十七〕亞芙蓉。

【亞鳳巢】91アホウソウ　清、朱不戴（6－14424‥969）の室名。

【亞瑪港】92アマカウ　廣東省に在る地名。今の澳門。

【亞剌羅】93アラット　山名。小亞細亞の西岸にある。太古、ノアが洪水を避けたところ。〔成島柳北、發二橫濱一舟中詩〕亞剌羅山何處邊、風濤淼漫碧涵レ天。

【亞硫酸】94アリウサン　無水亞硫酸を水に溶かすとき水と化合して生ずる酸。

【亞硫酸鈉】95アリウサンナフ　無色一斜晶系稜柱狀の結晶。亞硫酸ソーダ。亞硫酸ナトリウム。

【亞磷酸】96アリンサン　無色の結晶。無水亞燐酸を水に作用させた時生ずる。亞燐酸。

【亞加狄亞】97アカヂヤ　ギリシヤ、ペロポネスス中部の地名。境內山多く、牧畜に適する。此の地の民が平和に業を樂しむところから、後世文藝上、平和の田園や仙鄉をいふのに此の名を用ひる。Arcadia の音譯。

【亞肩疊背】98 ya³ chien¹ tieh² pei⁴ おしあひへしあひ。肩摩轂擊して混雜する形容。
【亞爾加里】99 アルカリ 苛性ソーダ・苛性カリ・炭酸ソーダ・アンモニア等、水に溶けてアルカリ性反應を呈する無機鹽類。アラビヤ語で灰の義。
【亞爾比派】100 アルビハ アルビ教派。第十世紀の始、フランスのアルビ市に起る。峻嚴な道德律を守つてローマ教會に反對したため、同教會から兵力を以て撲滅せられた。
【亞爾美達】101 アルメイダ ポルトガル東部、イスパニヤ國境の要塞都市。Almeida の音譯。
【亞諸爾特】102 アーノルド 英國の詩人、批評家。Matthew Arnold
【亞他加馬】103 アタカマ 南米智利國の北部。砂礦地で硝石・金・銀・銅等を產する。Atacama
【亞特拉斯】104 アトラス Atlas ❶ギリシヤ神話中の巨人。天を肩にささへてゐるといふ。❷往時、西洋の地圖にこの像を描いたから、アトラスの名は地圖を意味することとなつた。❸プレアデス星團東緣の星。
〔亞特拉斯山脈〕105 アトラスサンミャク アフリカ北部の大山脈。Atlas Mountains
【亞馬孫河】106 アマゾンガ 南米ブラジルの大河。アンデス山脈に發し、東流して大西洋に注ぐ。Amazon
【亞美尼亞】107 アルメニヤ コーカシヤ南方の國名。首府はエリヴアン。Armenia の音譯。
【亞米利加】108 アメリカ ❶大陸の名。五大洲の一。西半球の大陸で、西は太平洋に面し、東は大西洋に面する。南北アメリカに分れる。西曆紀元一四九二年、コロンブスの發見に係る。亞墨利加。❷アメリカ合衆國。共和國で、もと英國植民地。一七七六年七月四日獨立した。
【亞墨利加】109 アメリカ 大陸の名。亞米利加の❶に同じ。〔坤輿圖說、亞墨利加州〕亞墨利加、第四大州總名也、地分ニ南北一、中有ニ一峽一相連、南曰ニ南亞墨利加一、北曰ニ北亞墨利加一。
【亞剌比亞】110 アラビア 亞細亞洲の西南隅に在る國。亞喇北亞とも書く。〔坤輿圖說、亞喇北亞國〕百兒西亞西北諸國、皆爲ニ度兒格所一レ併、內有ニ國亞喇北亞一、土產ニ金銀一、多ニ寶石一。
【亞歷山大】111 アレキサンダー 古代マケドニアの王。アレキサンダー大王。Alexander the Great
〔亞歷山大里亞〕112 アレクサンドリヤ エジプトの海港。Alexandria の音譯。
〔亞歷山大里亞學派〕113 アレクサンドリヤガクハ 第一世紀の頃エジプトのアレクサンドリヤに起つた學派。東西思想の融合に努めた。
【亞露條約】114 アロデウヤク 西曆一八七八年、ロシア・アフガニスタン二國間にカブールに於て締結せられた對英攻守同盟。英國は之を怒り、第二回アフガン戰爭を起した。
【亞酸化窒素】115 アサンクワチツソ 微香甘味ある無色の氣體。之を吸へば笑を發するので笑氣ともいふ。一氧化二氮。
【亞爾美里亞】116 アルメリヤ Almeria の音譯。❶イスパニヤ東南部の地名。❷同地方の首都。
【亞贈以之中】117 アソウイシチユウ 福州地方で用ひる火災よけの呪文。轉じて、文句の不明なことに用ひ、又、評語などに用ひる。〔閩雜記〕福州人家、皆以ニ貢紙一書下姓宋名無忌、火光速入レ地、家有ニ壬癸神一、日供ニ萬斛水一、亞贈以之中上、蓋以厭ニ火災一也、按、亞贈以之中五字費レ解、今福州人、見ニ文字不通者一、輒舉レ此相譃、或施ニ諸評語中一。
【亞速爾群島】118 アゾレスグンタウ 大西洋中ポルトガル領の一群島。Azores
【亞拿薩哥拉】119 アナクサゴラス 古代希臘の自然哲學者。Anaxagoras の音譯。
【亞諾芝曼德】120 アナクシマンドロス 古代希臘の哲學者。Anaximander の音譯。
【亞得里亞海】121 アドリヤカイ イタリヤ半島とアルバニヤの間の入海。Adriatic Sea
【亞富汗斯坦】122 アフガニスタン 中央亞細亞の國の名。北は露領トルキスタン、西はイラン、東は印度の西北邊界、南はベルチスタン國に境し、面積二十四萬五千方哩。國內には東北から西方にヒンズークシ山脈が走り、印度との國境にはスリマン山脈あり、中央山地からカブル河が東流してインダス河に注ぐ。アフガン人以外にも多數の種族が割據し、統一國家となつたのは十八世紀以後である。古來、東は印度、西はペルシヤ、北は中央亞細亞への交通交叉點として、文化の交流に重要な役割をなした。Afghanistanの音譯。
【亞弗利加洲】123 アフリカシウ 大陸の名。アフリカ洲。〔中井櫻洲、西紅海舟中詩〕煙鎖亞羅比亞海、雲迷亞弗利加洲。
【亞羅比亞海】124 アラビアカイ アラビヤ半島と印度半島との間にある海洋の名。〔中井櫻洲、西紅海舟中詩〕煙鎖亞羅比亞海、雲迷亞弗利加洲。
【亞理斯多德】125 アリストートル 古代希臘の大哲學者。アリストテレス。Aristotle の音譯。
【亞烈苦奈兒】126 アレツクナール 明の永樂帝の時、鄭和の第二回遠征によつて捕へられた錫蘭王をいふ。Alagakkonāra
【亞爾薩斯洛林】127 アルサスロレーン アルサスとロレーン。ライン河左岸の二州の名。Alsace-Lorraine
【亞的斯亞比巴】128 アヂスアベバ エチオピアの首都。Addis Abeba の音譯。
【亞得里雅那堡】129 アドリアノプル トルコの一州。又、其の首邑。亞得里亞堡。Adrianople の音譯。

【㕝】275 バ マ 〔篇海類編〕莫可切 哿
語助。〔篇海類編〕㕝、語助也。

【亙】276 コウ 亙(1−264)に同じ。〔康熙字典〕亙、从レ二从レ舟。

【亝】277 セイ 亝(1−273)の篆字。〔正字通〕亝、篆作レ亝。

【枣】278 サウ 棗(6−14937)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕棗、目連記作レ枣。

七畫

【亟】279 ㊀キョク コク 〔集韻〕訖力切 職 ㄐㄧˊ chi² ㊁キ 〔集韻〕去吏切 寘

小篆 ㊀❶すみやか。はやい。あわただしい。〔說文〕亟、敏疾也、从ニ人・口・又・二一、二、天地也。〔爾雅、釋詁〕亟、疾也。〔爾雅、釋詁〕亟、速也。〔詩、大雅、靈臺〕經始勿レ亟。〔詩、邶風、北風〕既亟只且。〔傳〕亟、急也。〔左氏、襄、二十四〕公孫之亟也。〔注〕亟、急也。❷つつしむ。慬(4−10854)に通ず。〔廣雅、釋詁一〕亟、敬也。〔疏證〕亟者、說文、敬、肅也、從ニ攴苟一、苟、自急敕也、玉篇、苟、亦作レ亟、說文、慬、敬重貌、苟・亟・慬、並同義。❸いつくしむ。暱(5−14132)に通ず。〔說文通訓定聲〕亟、叚借爲レ暱。〔方言、一〕亟、憐憮俺愛也、東齊海岱之間曰レ亟、自レ關而西、秦晉之閒、凡相敬愛、謂ニ之亟一。❹うける。〔列子、仲尼〕先亟ニ犇佚一。〔釋文〕亟、受也。❺棘(6−14938)に通ず。〔詩、大雅、文王有聲〕匪レ亟ニ其欲一。〔釋文〕亟、本作レ棘。❻革(12−42710)に通ず。〔韻學集成〕亟、亦作レ革。〔禮、檀弓上、夫子之病革矣、釋文〕革、紀力反、徐、又音極、急也。㊁しばしば。屢〻。〔書、微子〕亟行ニ暴虐一。〔釋文〕亟、數也。〔禮、少儀〕亟見曰ニ朝夕一。〔注〕亟、數也。〔孟子、萬章下〕亟問、亟餽ニ鼎肉一。〔孟子、離婁下〕仲尼亟稱レ水。

名乘 トシ。カズ。

解字 會意指事。人・口・又・二の合字。又は手、二は天地を示す。人が天地の間に在つて手と口とを働かせて敏速に事を成す意を表はす。〔說文、亟、段注〕徐鍇曰、乘ニ天之時一、因ニ地之利一、口謀レ之、手執レ之、時不レ可レ失、疾也。〔說文通訓定聲〕亟、敏疾也、从レ人、从レ口、从レ又、會意、从レ二、二、天地也、指事、人生ニ天地閒一、手口並作、敏疾成レ事也。

【亟肄】1 イキ しばしば骨を折らせて疲れさせる。

〔左氏、昭、三十〕亟肆以罷レ之、多方以誤レ之。

【亟游】2 イウ しばしば遊ぶ。〔柳宗元、鈷鉧潭記〕其上有二居者一、以予之亟游一也。

【亟應】3 chi² ying¹ 速かにまさに云云すべし。

【亟行】4 キヨク 疾く行く。〔詩、小雅、何人斯〕爾之亟行、遑脂二爾車一。〔箋〕亟、疾。

【亟見】5 ケン しばしば見る。〔禮、少儀〕罕見曰二聞名一、亟見曰二朝夕一、瞥曰二聞名一。

【亟齋】6 キヨク 清、張弼(4－9812‥466)の號。

【亟疾】7 キヨクシツ すみやか。性急。火急。〔史記、張釋之傳〕吏爭以二亟疾苛察一相高。

【亟心】8 シキヨク いそぐ心。〔易、說卦〕坎爲レ水、云云、其於レ馬也、爲二美脊一、爲二亟心一。〔疏〕爲二亟心一、急也、取二其中堅內動一也。

【亟絕】9 セツ しばしばたえる。永續きしない。〔賈誼、上疏陳二政事一〕泰世之所二以亟絕一者、其

【亟速】10 キヨクソク 急速。早速。 ㊀轍迹可レ見也。

【亟治】11 キヨクジ 邑の名。一に函冶に作る。〔國語、晉語九〕范中行有二亟治之難一〔注〕亟治、范皐夷之邑也、皐夷無レ寵二於范吉射一而欲レ爲二亂於范氏一。

【亟拜】12 キハイ たびたび拜すること。〔許穆、子思子〕使二己僕僕爾亟拜一也。

【亟墨】13 キヨクボク 古代西域の國の名。今の新疆省拜城縣。〔唐書、西域上、跋祿迦傳〕自二龜茲一贏六百里、踰二小沙磧一、有二跋祿迦一、小國也、一曰二亟墨一、卽漢姑墨國、橫六百里縱三百里、風俗文字與二龜茲一同。

【亟務】14 キヨクム 急にすべき務。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕天子之亟務也。〔注〕五臣作レ急。

【亟用】15 キヨウ しばしば用ひる。〔史記、天官書〕三光之占、亟用。

【亟令】16 スミヤカニレイセム 早速命令する。

【囚】 280

ラウ 老(9－28842)の古字。〔玉篇〕函、古文老。

【臣】 281

イ 〔玉篇〕弋之切 支

陽氣。〔玉篇〕臣、陽氣也。

八畫

【囧】 282

セイ 聖(9－29074)の古字。〔字彙補〕囧、古文、聖字。〔漢桂陽太守周府君碑〕謚賢后兮、發二囧奭一

【肖】 283

セイ 叁(1－273)の本字。〔正字通〕叁、說文本作レ肖。

九畫

【亟】 284

キヨク 亟(1－279)に同じ。〔石鼓文〕吳人戀亟。〔通志、文字略〕亟、卽亟字。

十二畫

【龕】 285

ケン 義未詳。〔康熙字典〕龕、玉篇、音龕、義無レ考。

亠部

【亠】 286

トウ ツ 〔字彙〕徒鉤切 尤 ㄊㄡˊ

㊀義不明。人の首の義か。〔字彙〕亠、義闕。 ㊁けいさん。けいさんかむり。なべぶた。文字の冠。邦古記錄に於て、音の字の略字。

一畫

【亡】 287

小篆

曰 バウ マウ 〔集韻〕武方切 陽 ㄨㄤˊ

曰 ブ ム 〔集韻〕微夫切 虞 ㄨ wu²

㊀ほろびる。滅ぼす。又、滅亡。有レ一二于此一、未レ或レ不レ亡。〔中庸〕國家將レ亡、必有二妖孽一。〔孟子、梁惠王下〕樂レ酒無レ厭、謂二之亡一。〔莊子、田子方〕楚王與二凡君一坐、少焉、楚左右曰、凡亡者二、凡君曰、凡之亡也、不レ足二以喪一吾好一。〔荀子、王霸〕天下去レ之、之謂レ亡。〔戰國、趙策〕脣亡則齒寒。〔淮南子、說林訓〕驪戎以二美女一亡二晉國一。〔注〕亡、猶レ亂也。 ㊁死ぬ。〔周禮、春官、大宗伯〕以二喪禮一哀二死亡一。〔中庸〕事レ亡如レ事レ存、孝之至也。〔公羊、桓、十五〕祭仲亡矣。〔注〕亡、死亡也。 ㊂にげる。逃れる。〔說文〕亾、逃也、从二入一。〔廣雅、釋詁三〕亡、避也。〔大學〕舅犯曰、亡人無二以爲一レ寶。〔國語、晉語四〕請由レ此亡。〔注〕亡、奔也。〔漢書、韓信傳〕蕭何聞二信亡一、自追レ之。 ㊃ない。無い。居ない。無(7－19113)に通ず。〔說文通訓定聲〕亡、段借爲レ無。〔詩、唐風、葛生〕予美亡レ此。〔箋〕亡、無也。〔儀禮、士喪禮〕亡則以レ緇、長半幅。〔注〕亡、無也。〔論語、陽貨〕孔子時二其亡一。 ㊄無くする。失ふ。〔詩、秦風、車鄰〕逝者其亡。〔傳〕亡、喪也。〔禮、祭法〕亡二其地一則不レ祭。〔釋文〕亡、無也。〔穀梁、定、八〕非二其所一以與レ人而與レ人、謂二之亡一。〔注〕亡、失也。 ㊅なみする。輕蔑する。〔史記、范雎傳〕亡二其言一、臣者賤而不レ可レ用乎。〔注〕索隱曰、亡、猶二輕蔑一也。 ㊆わすれる。忘(4－10333)に通ず。〔說文通訓定聲〕亡、段借爲レ忘。〔詩、邶風、綠衣〕心之憂矣、曷維其亡。〔箋〕亡之言、忘也。〔列子、仲尼〕知而亡レ情。〔釋文〕亡、本作レ忘。 ㊇やむ。をはる。〔新方言、釋言〕詩邶風、曷維其亡、亡亦已也、福州、謂二作事了一爲二作亡一。 ㊈或は亾(1－1417)に作る。〔集韻〕亡、或作レ亾。 ㊉ない。有(5－14332)の對。無(7－19113)に同じ。〔集韻〕無、說文、亡也、或作レ亡。〔論語、述而〕亡而爲レ有。〔集注〕亡、讀爲レ無。 ㊋まづしい。〔詩、邶風、谷風〕何有何亡、黽勉求レ之。〔傳〕亡、貧也。

解字 會意。亠と入との合字。亠は、隱の古字。罪人などが曲行してかくれるかたち。亠と入と合し、人が曲行して隱蔽された處に逃れ入る意となる。轉じて、失ふ、死ぬとなり、假借して、忘・無とする。〔說文、亡、段注〕會意。謂レ入二於迟曲隱蔽之處一也。▽𠂢(甲骨文)象形。曲げた人の死體に物を添へたさまに象る。

【亡謂】1 ㄨㄟˋ いはれがない。意味がない。無謂。〔漢書、高帝紀〕久立二吏前一、曾不レ爲レ決、甚亡レ謂也。〔注〕師古曰、亡謂者、失二於事宜一、不レ可二以訓一也。

【亡友】2 バウ なき友。死んだ友。〔李嶠、答二李清河一書〕亡友崔生、才高位下。〔國朝漢學師承記、賈田祖〕亡友汪明經中、誌二其墓一稱二田祖一。「軼」

【亡軼】3 バウ うせ散ること。〔東觀餘論〕亦復亡

【亡逸】4 バウ ㊀にげうせる。 ㊁ちりうせる。散逸。亡佚。〔北史、儒林傳序〕考二正亡逸一、研二覈異同一、積滯羣疑、渙然冰釋。 ㊂ム 書經の篇名。無逸(7－19113‥50)を見よ。〔漢書、梅福傳〕留二意亡逸之戒一。〔注〕師古曰、周書篇名也。

【亡射】5 ムエキ 無射(7－19113‥65)に同じ。

【亡益】6 ムエキ 益がない。無益。〔漢書、楊王孫傳〕厚葬、誠亡二益於死者一。

【亡何】7 カム 無何(7－19113‥86)に同じ。 ㊀いくばくもなし。暫時。少時。〔漢書、翟方進傳〕居亡レ何。〔注〕師古曰、無何、猶レ言二無幾一、謂二少

時ニ也。㊀他ニ何事も無いことをいふ。〔漢書、爰盎傳〕絲能日飲、亡ㇾ何。〔注〕師古曰、無何、言ニ更無ニ餘事一也。

【亡家】8 ㊀家をうしなふ。〔左氏、襄、二十九〕司徒侈、皆亡ㇾ家之主也。㊁ほろびた家。〔管子、山至數〕殘國亡家、藏ニ於篋一

【亡骸】9 なきがら。死骸。

【亡犴】10 牢屋破り。犴は獄。〔淮南子、說林訓〕道德可ㇾ常、權不ㇾ可ㇾ常、故通關不ㇾ可ㇾ復、亡犴不ㇾ可ㇾ再。〔注〕獄嘗以ニ權變一出ニ關塞一、野犴亡逃、不ㇾ可ㇾ復由ニ其入一、故曰、權不ㇾ可ㇾ常也。

【亡機】11 いつはり企らんだ心がないこと。機は機心。〔王巾、頭陀寺碑文〕導ニ亡機之權一、而功濟ニ塵劫一。〔注〕善曰、機、謂ニ機心一也、權、方便也、夫以ニ機心導一物、物斯以ニ機心一應レ之、物有ニ機心一、則結累斯起、故誘以ニ無機之智一、何止功濟ニ塵劫一乎。

【亡虧】12 にげかへる。おちのがれる。〔史記、燕召公世家〕太子丹質ニ於秦一、亡ニ歸燕一。〔史記、荊軻傳〕丹怨而亡ニ歸之一。

【亡窮】13 きはまることがない。無窮。〔漢書、董仲舒傳〕傳ニ之亡窮一、而施ニ之罔極一。

【亡去】14 にげ去る。〔史記、鄭世家〕元亦亡去。〔漢書、吳王濞傳〕壯士千人、夜亡去。

【亡羹】15 ほろびるきざし。〔左氏、襄、二十四〕且夫既登而求ニ降階一者、知人也、不ㇾ在ニ程鄭一、其有ニ亡羹一乎。

【亡耦】16 相手を失ふ。相手と離れ離れになる。亡偶。〔王褒、洞簫賦〕悼悝瀾漫、亡耦失ㇾ疇。〔注〕五臣作ニ偶一。

【亡君】17 ㊀國をほろぼす君。亡國の主。〔管子、七法〕亡君則不然。㊁死んだ君。先君。〔太平記、二、助光事〕偏へに亡君の後生菩提をぞ弔ひ奉りける。

【亡軍】18 逃亡する軍隊。〔尉繚子、兵令下〕今以ㇾ法止ニ逃歸一、禁ニ亡軍一、是兵之一勝也。

【亡兄】19 死んだ兄。〔晉書、周嵩傳〕嵩曰、亡兄天下人、爲ニ天下人一所ニ殺、復何所ニ弔。

【亡形】20 無形。形がない。〔漢書、楊王孫傳〕冥冥亡ㇾ形亡ㇾ聲。〔漢書、辛慶傳〕折ㇾ衝厭ㇾ難、勝ニ於亡形一。

かけて無くなる。亡闕。〔後漢書、荀爽傳〕它所ニ論敍一、題爲ニ新書一、凡百篇、今多ㇾ所ニ亡缺一。〔牛弘、樂定奏〕秦焚ニ經典一、樂書亡缺。

【亡闕】22 缺けて無くなる。亡逸。亡缺。〔舊唐書、經籍志序〕于ㇾ時秘書省經書、實多ㇾ所ニ亡闕一。

【亡月】23 wang2 yue4 死者の祥月。人が死んだ其の月。

【亡戶】24 逃亡した者。〔晉書、毛璩傳〕地名ニ青浦一、四面湖澤、皆是孤葑、逃亡所ㇾ聚、云云、時大旱、璩因放ニ火孤葑一、盡然、亡戶窘迫、悉出。

【亡故】25 ㊀亡びた理由。〔呂覽、愼大〕問ニ殷之亡故一。㊁死ぬ。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕宋丞亦聞ニ賈尹到ニ任時、其姊氏亡故一。〔福惠全書、編審部、立局親審〕係ニ何年逃去、何年亡故一。

【亡國】26 ㊀國をほろぼす。〔禮、檀弓下〕亡ㇾ國恆於ㇾ斯。〔莊子、徐無鬼〕亡ニ國戮一民。㊁ほろびた國。〔左氏、昭、十一〕不ㇾ能ㇾ恤ニ亡國一。〔公羊、哀、四〕蒲社者何、亡國之社也。〔荀子、王制〕亡國富ニ筐篋一。〔韓非子、初見秦〕收ニ亡國一、聚ニ散民一。〔杜牧、泊ニ秦淮一詩〕商女不ㇾ知ニ亡國恨一、隔ニ江猶唱後庭花。㊂中論の篇名。

【亡國之音】27 滅びた國の音樂。亡國之聲。〔禮、樂記〕亡國之音、哀以思、云云、桑間濮上之音、亡國之音也、其政散、其民流、誣ニ上行ニ私一、而不ㇾ可ㇾ止也。〔詩、大序〕亡國之音、哀以思、其民困。〔呂覽、貴直〕亡國之音、不ㇾ得ニ至ニ於廟一。

【亡國之器】28 國を亡ぼす原因となるやうな贅澤なうつは。〔呂覽、貴直〕亡國之器、陳ニ於廷一、所ニ以爲ニ戒一。〔張協、七命〕服ニ腐腸之藥一、御ニ亡國之器一。〔注〕翰曰、亡國之器、謂ニ象箸玉杯一、紂用而亡也。

【亡國之語】29 國を亡ぼす樣な言語。〔魏志、蔣濟傳〕卿所ニ聞見一、天下風教何如、濟對曰、未ㇾ有ニ他善一、但見ニ亡國之語一耳。

【亡國之事】30 國を亡ぼす樣な事柄。〔莊子、至樂〕予有ニ亡國之事一、斧鉞之誅、而爲ニ此乎。

【亡國之社】31 亡びた國の社廟。社は土地の神。〔穀梁、哀、四〕亡國之社、以爲ニ廟屏一戒一也。〔呂覽、貴直〕亡國之社、不ㇾ得ㇾ見ニ於天一。

【亡國之主】32 國をほろぼす君主。亡君。〔呂覽、謹聽〕亡國之主、反ㇾ此、乃自賢而少ㇾ人。

【亡國之臣】33 ㊀國を亡ぼす臣。〔史記、蘇秦傳〕亡國之臣、必貪ニ於財一。㊁ほろびた國の臣。〔說苑、談叢〕亡國之臣、不ㇾ可ㇾ言ニ智。

【亡國之聲】34 淫靡な音樂。亡國之音を見よ。〔韓非子、十過〕衞靈公將ㇾ之ㇾ晉、至ニ濮水之上一、閒ㇾ鼓ニ新聲一者ㇾ云云、〔師涓〕因靜坐、撫ニ琴而寫ニ之一、云云、遂去之ㇾ晉、晉平公觴ニ之於施夷之臺一、酒酣靈公起、公曰、有ニ新聲一、云云、乃召ニ師涓一、令ㇾ坐ニ師曠之旁一、援ㇾ琴撫ㇾ之。未ㇾ終、師曠撫止ㇾ之曰、此亡國之聲也、不ㇾ可ㇾ遂也。〔史記、樂書〕援ㇾ琴鼓ㇾ之、未ㇾ終、師曠撫而止ㇾ之曰、此亡國之聲也。

【亡國之道】35 國をほろぼすやり方。〔孔叢子、對魏〕國內之民將ㇾ叛、四方之士不ㇾ至、此乃亡國之道。

【亡國之餘】36 滅亡した國の後裔。〔左氏、僖、二十二〕寡人雖ニ亡國之餘一、不ㇾ敢不ㇾ成列。

【亡國大夫】37 君の國を亡ぼすやうな家老。〔禮、射義〕賁軍之將、亡國之大夫、與下爲ニ人後一者上、不ㇾ入。〔疏〕亡國之大夫者、謂ニ亡ニ君之國一、言ニ不忠且無智一也。

【亡國富庫】38 ほろびるやうな國の元首は民を富ませず、徒らに己の國庫を充實する。〔淮南子、人閒訓〕西門豹曰、臣聞、王主富ㇾ民、霸主富ニ武、亡國富一庫。

【與ニ亡國一同事者不ㇾ可ㇾ存】39 亡國と同じやうなやり方をする者は亡びる。〔韓非子、孤憤〕與ニ死人一同病者、不ㇾ可ㇾ生也、與ニ亡國一同事者、不ㇾ可ㇾ存也。

【亡國之大夫不ㇾ可ㇾ以圖ニ存一】40 君の國を滅亡させた家老は、國家の存續を圖る資格がない。〔史記、淮陰侯傳〕敗軍之將、不ㇾ可ㇾ以言ㇾ勇、亡國之大夫、不ㇾ可ㇾ以圖ニ存一。〔漢書、韓信傳〕亡國之大夫、不ㇾ可ㇾ以圖ニ存一。

【亡魂】41 ㊀死んだ人のたましひ。なきたま。亡靈。〔後漢書、段熲傳〕以慰ニ忠將之亡魂一。〔東觀漢紀〕太后詔云、此以慰ニ和光馬賢等亡魂一也。〔潘岳、寡婦賦〕亡魂逝而永遠兮。㊁精神を失ふ。〔南史、韋叡傳〕楊大眼將ニ萬餘騎一、來戰、矢貫ニ大眼右臂一、亡魂而走。

【亡妻】42 死んだ妻。なき妻。亡室。〔蘇軾、亡妻王氏墓志銘〕治平二年、五月丁亥、趙郡蘇軾之妻王氏、卒ニ於京師一。

【亡罪】43 罪がない。又、罪のない人。無罪。〔漢書、景帝紀〕不ㇾ誅ニ亡罪一、不ㇾ私ニ其利一也。〔漢書、彭越傳〕越爲ニ呂后一涕泣、自言ニ亡罪一。

【亡散】44 にげちる。〔史記、李將軍傳〕餘亡散得ㇾ歸ニ漢者四百餘人一。〔盧思道、後周興亡論〕收ニ合亡散一、退守ニ有餘一。

【亡竄】45 にげかくれる。竄は匿の意。逃竄。〔冊府元龜〕皇興五年二月、詔曰、天安以來、征戍之人、亡竄非一。「亡矢遺鏃之費。」

【亡矢】46 矢を失ふ。〔史記、秦始皇紀〕秦無ニ亡矢遺鏃之費一。

【亡姊】47 死んだ姊。〔通俗編、稱謂、亡姊〕晉書、王裒言、亡姑亡姊、伉儷二宮、周益公集、有ニ亡姊尙氏夫人墓志一。

【亡兒】48 死んだ子供。〔晉書、羊祜傳〕祜五歲時、令ニ乳母取ニ所ㇾ弄金環一、乳母曰、汝無ニ此物一、祜卽詣ニ鄰人李氏東垣桑樹中一、探得ㇾ之、主人驚曰、此吾亡兒所ㇾ失物也。

【亡識】49 何も解らない。無知。無識。〔漢書、鼂錯傳〕愚臣亡識、唯陛下財察。

【亡失】50 うしなふ。〔墨子、非命上〕遂以亡ニ失國家一、傾ニ覆社稷一。〔史記、項羽紀〕所ニ亡失一、以ニ十萬一數。

【亡失罪】51 路上の遺失物を得て、五日內に官司に送らないこと等によつて成立する罪。〔政事要略、七十〕雜律云、得ニ闌遺物一、滿ニ五日一不ㇾ送ニ官者一、各以ニ亡失罪一論。

【亡室】52 死んだ妻。亡妻(ぼう)に同じ。〔羅洪先、奠ニ亡室曾孺人一文〕

【亡日】53 なくなつた日。死んだ日。〔南史、孝義、韓懷明傳〕答曰、是外祖亡日。

【亡實】54 實のないこと。無實。〔漢書、高帝紀下〕虛言亡實之名、非ニ所ㇾ取也。

【亡者】55 ㊀亡びるもの。〔左氏、襄、十四〕亡者侮ㇾ之、亂者取ㇾ之。㊁死亡したもの。死者。

〔風俗通、十反〕亡者有レ靈、實寵二賴之一。〔晉書、馮跋載記〕皆無レ益二亡者一、有二損於生一。❷死んだ者の魂魄が、成佛しないで冥途に迷つてゐるもの。〔榮華物語、楚王夢〕亡者の御爲、菩提の便りともならめ。

【亡將】56 ボウショウ 國を逃亡した將軍。〔史記、孟嘗君傳〕秦亡將呂禮、相レ齊。〔漢書、陳平傳〕船人見二其美丈夫獨行一、疑二其亡將要下當レ有二寶器金玉一、目レ之欲レ殺レ平。

【亡狀】57 ボウジョウ 禮を缺くさま。無狀。無禮。〔漢書、項籍傳〕異時諸侯吏卒、徭役比戍過二秦中一、秦中遇レ之、多亡狀。〔漢書、朱雲傳〕言二雲暴虐亡狀一。

【亡主】58 ボウシュ 國を亡ぼす君主。〔管子、樞言〕亡主積二于婦女珠玉一。

【亡酒】59 ボウシュ 飲酒の場をはづす。酒席から密かに逃げ去る。〔漢書、高五王傳〕〔朱虛侯〕章、嘗入侍二燕飲一、高后令二章爲一酒吏一、章自請曰、臣將種也、請以二軍法一行レ酒、云云、諸呂有二一人一、醉亡酒、章追拔レ劍斬レ之、太后左右大驚、業已許二其軍法一、亡二以罪一也。〔風俗通、怪神〕太后默然頃レ之、諸呂有二亡酒者一。

【亡叔】60 ボウシュク 父の亡弟。死んだをぢ。〔稱謂錄、父之亡弟、亡叔〕家訓風操篇、世父叔父、則稱二從兄弟門中一、若與二君言一、猶レ云二亡伯亡叔一也。

【亡術】61 ボウジュツ 智術がない。無術。〔漢書、霍光傳贊〕光不學亡術、闇二於大理一、陰二妻邪謀一。

【亡如】62 ボウジョ ふさはしく扱はぬこと。〔漢書、霍光傳〕百官以下、但事二馮子都、王子方等一、視二丞相一亡如也。〔注〕師古曰、亡如、猶レ言レ無レ所二象似一也。

【亡心】63 ボウシン 亡靈。妄念。

【亡臣】64 ボウシン 國を出奔した家來。亡命の臣。〔禮、檀弓下〕君惠二弔亡臣重耳一。〔戰國、齊策〕莒中及齊亡臣相聚、求二閔王子一、欲レ立レ之。

【亡身】65 ボウシン 身をほろぼす。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕進免二襲勝亡身之禍一、退無二辭方詭對之譏一。

【亡神】66 ボウシン 生れつきの眞精神を失ふ。〔莊子、則陽〕遁二其天一、離二其性一、滅二其情一、亡二其神一、以レ衆爲。

【亡秦】67 ボウシン ❶亡びた秦朝。〔史記、項羽紀〕此亡秦之續耳。❷秦を亡ぼす。〔史記、項羽紀〕此亦天亡レ秦之時也。〔胡曾、鴻門詩、項籍鷹揚六合二晨、鴻門開レ宴賀二亡秦一、樽前若取二謀臣計一、豈作二陰陵失路人一。

【亡新】68 ボウシン 亡びた王莽の新國。又、王莽をいふ。〔許愼、說文解字敍〕及二亡新居一攝、使二大司空甄豐等一、校二文書之部一。

【亡親】69 ボウシン ❶親を失ふ。〔史記、晉世家〕小人懼二失レ君亡レ親。❷なくなつた親。〔後漢書、鄭玄傳〕亡親墳壟未レ成。

【亡人】70 ボウジン ❶亡命の人。他國へ逃げて行つた人。〔左氏、僖、九〕臣聞、亡人無レ黨、有レ黨必有レ讎。〔大學〕亡人無二以爲一レ寶、仁親以爲レ寶。〔章句〕亡人、文公時爲二公子一、出亡在レ外也。〔戰國、齊策〕田忌亡人也、而得レ封、必德レ王。〔史記、吳王濞傳〕誘二天下亡人一、謀作レ亂。❷迷へる人。〔莊子、庚桑楚〕汝亡人哉。

【亡政】71 ボウセイ 政の道を失ふ。失政。〔淮南子、兵略訓〕爲二亡政一者、雖レ大必亡。

【亡齊】72 ボウセイ 亡びた齊國。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕庶二武羅於翳涅之墟一、想二王蠋於亡齊之境一。

【亡聲】73 ボウセイ 聲がない。無聲。〔漢書、楊王孫傳〕歸者得レ至、化者得レ變、是物各反二其眞一也、反レ眞冥冥、亡レ形亡レ聲、廼合二道情一。

【亡節】74 ボウセツ 度を失ふ。〔漢書、五行志下之下〕元年九月、日食、酒亡レ節之所レ致也。

【亡絕】75 ボウゼツ ほろびたえる。〔戰國、秦策〕主雖二困辱一、悉二忠而不レ解、主雖二亡絕一、盡二能而不レ離。

【亡祖】76 ボウソ 死んだ祖父。亡父(93)を見よ。〔稱謂錄、亡祖〕藝林類聚引、王爽曰、亡祖長史、與二簡文皇帝一、爲二布衣交一。

【亡走】77 ボウソウ にげはしる。〔韓非子、初見秦〕荊王君臣亡走、東服二於陳一。〔史記、燕召公世家〕已而亡走レ燕。

【亡卒】78 ボウソツ 逃亡した兵卒。〔史記、吳王濞傳〕乃使二人收二聚亡卒一。

【亡逃】79 ボウトウ にげる。のがれる。逃亡。〔漢書、刑法志〕令下罪人各以二輕重一不二亡逃一有レ年而免上。

【亡道】80 ボウドウ 道理にはづれた行。無道(7－19113：‥501)に同じ。〔漢書、五行志上〕季氏亡道久矣。

【亡地】81 ボウチ ほろぶべき場所、又は場合。〔孫子、九地〕投二之亡地一。〔史記、淮陰侯傳〕置二之亡地一而後存。

【亡徵】82 ボウチョウ ❶ほろびるきざし。〔韓非子、亡徵〕亡徵者、非レ曰二必亡一、言二其可レ亡也一。〔漢書、五行志中之下〕茲謂二亡徵一。❷韓非子の篇名。

【亡弟】83 ボウテイ 死んだ弟。なき弟。〔柳宗元、祭二弟宗直一文〕以二清酌之奠一、祭二于亡弟十郎之靈一。

【亡匿】84 ボウトク にげかくれる。〔史記、留侯世家〕良乃更二名姓一、亡二匿下邳一。〔漢書、武帝紀〕何但亡二匿幕北寒苦之地一爲。

【亡德】85 ボウトク 德を失ふ。失德。又、德が無いこと。〔漢書、五行志上〕微賤亡德之人、不レ可二以奉一宗廟一。

【亡伯】86 ボウハク 父の亡兄をいふ。死んだをぢ。〔稱謂錄、父之亡兄、亡伯〕舊唐書、崔植陳情表、亡伯祐甫、是臣承レ後。

【亡八】87 ボウハチ 馬鹿もの。わるもの。中國現代音では wang² pa¹ と讀む。忘八(4－10333：‥61)を見よ。

【亡八官】88 ボウハチカン たいこもち。幇間。〔名山藏〕王曰、寡人所レ狎亡八官也。

【亡法】89 ボウホウ 道にはづれたこと。無法。〔漢書、五行志中之下〕與二兵妄誅一、茲謂二亡法一。

【亡叛】90 ボウハン にげそむく。〔後漢書、隗囂傳〕陛下寬仁、諸侯雖レ有二亡叛一、而後歸、輒復二位號一、不レ誅也。〔魏志、牽招傳〕邊民流二散山澤一、又亡叛在二鮮卑中一。

【亡妃】91 ボウヒ なくなられた皇妃。〔國史略、花山天皇〕帝覽悽然、追慕二亡妃一不レ已。

【亡夫】92 ボウフ 死んだ夫。なきつま。

【亡父】93 ボウフ 死んだ父。なき父。〔後漢書、劉根傳〕亡父祖近親。〔南史、王僧達傳〕嘗答二詔旨一、亡父亡祖、司徒司空、其自負若レ此。

【亡敝】94 ボウヘイ ほろびやぶれる。〔後漢書、靈帝紀論〕故知二亡敝者同一レ其致一矣。

【亡逋】95 ボウホ ほろびうせる。〔陳師道、石無咎畫苑詩〕補二完破碎一收二亡逋一。

【亡沒】96 ボウボツ ほろびる。〔蜀志、楊儀傳〕丞相亡沒之際。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕亡沒身自衰。

【亡命】97 ボウメイ ❶國外に逃げうせる。命は名で、名籍を脫すること。逐電。〔急就篇、二十九〕縛束脫漏、亡命流。〔注〕命者、名也、亡二其名籍一而流逐也。〔史記、張耳傳〕張耳嘗亡命、游二外黃一。〔注〕索隱曰、晉灼曰、命者、名也、謂二脫二名籍一而逃上崔浩曰、亡、無也、命、名也、逃匿、則削二除名籍一、故以レ逃爲二亡命一。〔漢書、朱雲傳〕數犯レ法亡命。〔後漢書、王常傳、注〕命者、名也、言、背二其名籍一、而逃亡也。❷國外に逃げうせた者。亡人。亡命者。〔揚雄、解嘲〕范雎、魏之亡命也。〔魏志、程昱傳〕收二山澤亡命一、得二精兵數千人一。❸wang² ming⁴ 命知らず。

【亡命客】98 ボウメイカク 亡命者に同じ。

【亡命者】99 ボウメイシャ 自分の國から逃れ出た人。おちうど。亡命客。〔史記、吳王濞傳〕招二致天下亡命者一、益鑄レ錢。〔漢書、貢禹傳〕亡命者衆。〔後漢書、侯霸傳〕亡命者多爲二寇盜一。

【亡命之士】100 ボウメイシシ 自分の國から逃れ出た人。浪人。〔青山拙齋、明徵錄〕方今發二天下亡命之士一、可レ得二數十萬一。

【亡命生活】101 ボウメイセイカツ 革命、其の他の事情から故國に留まれなくなつて、他國に逃亡して居る生活。

【亡滅】102 ボウメツ ほろびる。滅亡。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕是自速二亡滅一也。

【亡羊】103 ボウヨウ 羊を失ふこと。藏は讀書の爲に羊を失つた故事。事業は別でも、同じ失敗をする喩。〔莊子、駢拇〕臧與レ穀、二人相與牧レ羊、而俱亡二其羊一、問レ臧奚事、則挾二策讀一レ書、問レ穀奚事、則博塞以遊、二人者、事業不レ同、其於二亡レ羊一均也。

【亡羊子】104 ボウヨウシ 股野景質の號。股野達軒(9－29284：‥52)を見よ。

【亡羊之歎】105 ボウヨウのタン にげた羊を追ふのに、えだ道が多くて、終に見失つたことの歎き。方法に迷ひ思案にくれること。學問の道が多岐で一つも得ることの出來ない歎き。〔列子、說符〕楊子之鄰人亡レ羊、既率二其黨一、又請二楊子之豎一追之、楊子曰、嘻、亡二一羊一、何追者之衆、鄰人曰、

多二岐路一、既反、問獲レ羊乎、曰、亡レ之矣、曰、奚亡レ之、曰、岐路之中、又有レ岐焉、吾不レ知レ所レ之、所三以反一也、云云、大道以二多岐一亡レ羊、學者以二多方一喪レ生。

【亡羊補牢】106 羊がにげた後で、其の檻のやぶれを補ふ。過つて後に改める喩。〔戰國、楚策〕臣聞、鄙語曰、見レ兔而顧レ犬、未レ爲レ晩也、亡レ羊而補レ牢、未レ爲レ遲也。〔注〕牢、閑養之圈也、以喩下王懲而毖二後患一、猶未上レ爲レ遲。

【亡用】107 役にたたない。無用(**7**―**19113**‥840)に同じ。〔漢書、楊王孫傳〕不レ加二功於亡用一、不レ損二財於亡謂一。

【亡賴】108 やくざもの。たのみにならぬ。無賴(**7**―**19113**‥866)に同じ。〔漢書、高帝紀下〕始大人常以二臣亡賴一、不レ能レ治二產業一。〔注〕應劭曰、賴者、恃也、晉灼曰、許愼云、賴、利也、無三利入二於家一也、或曰、江淮之閒、謂二小兒多詐狡獪一爲二亡賴一、師古曰、晉說是也。

【亡利】109 利を失ふ。〔鬼谷子、捭闔〕言レ死二憂患・貧賤・苦辱・棄損・亡利・失意・有害・刑戮・誅罰一、爲レ陰曰レ終。

【亡虜】110 逃げまはつてゐる虜。捕虜の逃亡した者。捕虜を賤しんでいふ。〔漢書、田儋傳〕今漢王爲二天子一、而橫迺爲二亡虜一。〔魏志、武帝紀〕袁尙亡虜耳。〔采薪者歌〕酉侯起二亡虜一、威武赫二荒夷一。

【亡慮】111 大凡。概算。無慮。〔漢書、趙充國傳〕將軍武賢、將二兵六千一、敦煌太守快、將二二千一、長水校尉富昌・酒泉侯奉世、將二婼月氏兵四千一、亡慮萬二千人。〔注〕師古曰、亡慮、大計也。

【亡隷】112 逃げかくれた罪人。〔星野豐城、國史纂要〕逋徒・亡隷。

【亡靈】113 死んだ人のたましひ。亡魂。なきたま。〔後漢書、鄧隲傳〕寵樹二遺孤一、奉二承血祀一、以謝二亡靈一。〔張悛、爲二吳令謝詢一求下爲二諸孫一置中守冢人上表〕裁加二表異一、以寵二亡靈一。

【亡聊】114 心に憂へるところがあつて樂しまぬさま。又、つれづれ。徒然。無聊。聊は樂。〔漢書、元帝紀〕窮困亡聊、犯レ法抵レ罪。〔漢書、賈誼傳〕一二指搖、身慮亡聊。

【亡王】115 國を亡ぼした君主。亡主。〔後漢書、陸康傳〕自蹈二亡王之法一哉。

【矙レ亡】116 人の不在を狙ふ。〔孟子、滕文公下〕陽貨矙二孔子之亡一也、而饋二孔子蒸豚一、孔子亦矙二其亡一也、而往拜レ之。

【亡之道】117 滅亡するしかた。〔左氏、襄、十九〕小國幸二於大國一、而昭レ所レ獲焉、以怒レ之、亡之道也。

【亡是公】118 假設の人。この公なしの義。司馬相如の子虛賦に、烏有先生と亡是公との問答がある。〔司馬相如、子虛賦〕亡是公存焉。〔漢書、司馬相如傳上〕亡是公者、亡二是人一也。

【亡大夫】119 亡命した大夫。〔史記、田單傳〕齊亡大夫聞レ之曰、王蠋布衣也、義不三北二面於燕一、況在レ位食レ祿者乎。

【亡年友】120 才能德行を主として交り、年の長幼を問はぬこと。主として年長者からいふ語。亡年交。〔後漢書、禰衡傳〕融亦深愛二其才一、衡始弱冠、而融年四十、遂與爲二交友一。〔和漢三才圖會、人倫之用、朋友〕後漢禰衡、有二逸才一、少與二孔融一交、時衡未レ滿二二十一、而融已五十、爲二忘年友一。

【亡年交】121 才能德行を主として交り、年の長幼を問はぬこと。主として長者から幼者に對していふ。亡年友。〔南史、何遜傳〕范雲見二其對策一、大相稱賞、因結二亡年交一。

【亡子招票】122 wan² tzŭ³ chao¹ p'iao⁴ 迷子の「貼札」。

【亡無レ日矣】123 日ならずして亡びる。まもなく亡びる。〔左氏、昭、五〕君若驩焉好二逆使臣一、滋二弊邑休怠一、而忘二其死一、亡無レ日矣。〔會箋〕不レ日而亡也。

【推レ亡固レ存】124 亡びる運命にあるものは推し斃し、存續し得るものを堅固に守る。〔左氏、襄、三十〕亂者取レ之、亡者侮レ之、推レ亡固レ存、國之利也。〔漢書、宣帝紀贊〕遭二値匈奴乖亂一、推レ亡固レ存。

【存レ亡繼レ絕】125 滅びる運命にあるものを存續させ、絕えた後を興す。〔穀梁、僖、十七〕桓公嘗有二存レ亡繼レ絕之功一。〔呂覽、審應〕此所謂存レ亡繼レ絕之義。

【存レ亡定レ危】126 滅びる運命にある者を存續させ、危い者を安らかにする。〔漢書、高帝紀下〕諸侯上疏曰、大王定二關中一、存レ亡定レ危、救レ敗繼レ絕、以安二萬民一、功盛德厚。

二畫

【亢】288

㊀カウ 〔集韻〕居郞切 陽 ㄍㄤ kang¹
㊁カウ 〔集韻〕口浪切 漾 ㄎㄤˋ k'ang⁴
㊂カウ キヤウ 〔集韻〕居行切 庚

小篆 小篆(聲定訓通)

㊀❶**くび**。或は頏(**12**―**43371**)に作る。〔說文〕亢、人頸也、从二大省一、象二頸脈形一。頏、亢或从レ頁。〔漢書、陳餘傳〕乃仰絕レ亢而死。〔注〕師古曰、亢者、總謂レ頸耳。❷**のんど**。**のど**。或は吭(**2**―**3353**)・肮(**9**―**29306**)に作る。〔爾雅、釋鳥〕亢、鳥嚨。〔注〕亢卽咽。〔說文通訓定聲〕亢、字亦作レ肮、作レ吭。〔一切經音義、二十〕亢、咽也。〔正字通〕吭、亦單作レ亢。〔史記、婁敬傳〕搤二其亢一。〔後漢書、隗囂傳〕士至三投死絕レ亢而不レ悔者矣。〔注〕亢、喉嚨也。❸**頸動脈**。〔漢書、陳餘傳、仰絕レ亢而死、注〕蘇林曰、亢、頸大脈也、俗所謂胡脈也。❹**あと**。迒(**11**―**38755**)に通ず。〔說文通訓定聲〕亢、叚借爲レ迒。〔廣雅、釋詁三〕亢、迹也。〔釋名、釋道〕鹿兔之道、曰レ亢。㊁❶**あみ星**。二十八宿の一。亢宿(17)を見よ。〔爾雅、釋天〕壽星、角亢也。〔史記、天官書〕亢、爲二疏廟一。〔春秋元命包〕亢四星、爲二廟庭聽レ政之所一、其占明大、則輔臣忠、天下寧。❷**むね**。**棟**。〔逸周書、作雒解〕重亢。〔注〕重亢、累棟也。〔北史、宇文忻傳〕咸有二四阿重亢重廊一。❸**ひでり**。〔後漢書、楊震傳〕亢旱之災。〔庾信、和二李司錄喜雨一詩〕純陽實久亢、雲漢乃昭回。❹**高い**。〔廣雅、釋詁四〕亢、高也。〔莊子、人閒世〕與二豚之亢鼻者一。〔釋文〕亢、司馬云、高也。❺**あがる**。**あげる**。〔孝經、喪親章、爲二之棺槨衣衾一以擧レ之、注〕亢レ尸而起也。〔釋文〕亢、擧也。❻**高ぶる**。**自負する**。〔唐書、崔信明傳〕信明蹇亢、以二門望一自負。❼**仰ぐ**。〔莊子、人閒世、亢鼻、釋文〕亢、崔云、仰也。❽**極める**。**極まる**。〔廣雅、釋詁一〕亢、極也。〔易、乾〕亢龍有レ悔。〔注〕窮レ高曰レ亢。〔左氏、宣、三〕可二以亢レ寵。〔注〕亢、極也。〔太玄經、玄瑩〕其禍亢。〔注〕亢、極也。❾**すぎる**。〔易、乾、亢龍、干注〕亢、過也。〔素問、六微旨大論〕亢、則害。〔注〕亢、過極也。❿**あたる**。**たぐふ**。伉(**1**―**431**)に通ず。〔說文通訓定聲〕亢、叚借爲レ伉。〔廣雅、釋詁三〕亢、當也。〔左氏、僖、二十八〕以亢二其讎一。〔注〕亢、猶レ當也。〔漢書、陳勝項籍傳贊〕適戍之衆、不レ亢二於九國之師一。〔注〕亢、當也。〔揚雄、趙充國贊〕料レ敵制レ勝、威謀靡レ亢。⓫**防ぐ**。**遮る**。抗(**5**―**11889**)に通ず。〔說文通訓定聲〕亢、叚借爲レ抗。〔廣雅、釋詁二〕亢、遮也。〔左氏、宣、十三〕亢二大國之討一。〔注〕亢、禦也。〔漢書、陳勝傳贊〕不レ亢二于九國之師一。〔注〕亢、讀與レ抗同。⓬**おほふ**。〔左氏、昭、元〕吉不レ能レ亢レ身、焉能亢レ宗。〔注〕亢、蔽也。⓭**強い**。犺(**7**―**20261**)に通ず。〔說文通訓定聲〕亢、叚借爲レ犺。〔廣雅、釋詁四〕亢、強也。

㊃飛び下りる。〔易、小過〕已亢也。〔虞注〕亢飛下稱レ亢。㊄姓。〔通志、氏族略、去聲〕亢氏、出二姓苑一、唐登科有二亢潮一、京兆人。〔姓氏尋源〕亢、當レ爲二伉姓所一レ改、或以レ地爲レ氏。㊂㊀あと。〔集韻〕亢、跡也。㊁庚（**4－9278**）に通ず。〔莊子、庚桑楚、有二庚桑楚者一、注〕庚桑、太史公作二亢桑一、一作二亢倉一。

名乘 タカ。アツ

解字 象形。⺆（頸動脈）の上に大（上體、頭）をかさねる。頸の意。又頁（首）に從つて頏とする。轉じて、高し、擧ぐ、當るとなり、假借して、迒、抗とす。〔說文、亢、段注〕亢之引申、爲二高也擧也當也一。

【亢鳥】1 カウウ 亢然と高く飛ぶ鳥。〔史記、司馬相如傳〕亢鳥騰而一止。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、亢然高飛、如二鳥之騰一也。

【亢衡】2 カウカウ 衡突する。抗衡。〔漢書、五行志中之上〕號爲二小國一、介二夏陽之阸一、怙二虞國之助一、亢二衡於晉一。〔魏志、衞臻傳〕權恃二長江一、未二敢亢衡一。

【亢傲】3 カウガウ あがりおごる。たかぶる。〔王維、偶然作詩〕亢傲迷二東西一、蓑笠不レ能レ守。

【亢扞】4 カウカン あたりふせぐ。對抗する。〔漢書、翟方進傳〕莫三能亢二扞國難一。

【亢旱】5 カウカン きびしいひでり。亢陽。大旱。〔後漢書、楊賜傳〕夫女謁行、則讒夫昌、讒夫昌、則苞苴通、故殷湯以レ之自戒、終濟二亢旱之災一。

【亢顏】6 カウガン 亢然として屈せぬかほつき。傍若無人の狀。抗顏（**5－11889**・・9）に同じ。

【亢強】7 カウキヤウ 強いこと。〔管子、輕重戊〕諸侯亢強、聘享不レ上。

【亢悔】8 カウクワイ 高い位地にのぼりつめたくい。亢龍有レ悔（33）を見よ。〔申鑒、俗嫌〕陽極則亢、陰極則凝、亢則有レ悔、凝則有レ凶。

【亢見】9 カウケン 高くあらはれること。〔史記、律書〕南至二於亢一、亢者、言二萬物亢見一也。

【亢倉】10 カウサウ 周、庚桑楚（**4－9278**・・11）の一名。

〘亢倉子〙11 カウサウシ ㊀老子の弟子。莊子には、庚桑子に作る。〔列子、仲尼〕老聃之弟子、有二亢倉子者一、得二聃之道一。㊁書名。一卷。もと庚桑楚の撰となつてゐるが、唐の王士元の僞作。唐の玄宗は之を尊んで洞靈眞經といふ。其の目は、全道・用道・政道・君道・臣道・賢道・訓道・農道・兵道。〔四庫提要、子、道家類〕。

〘參考書〙【亢倉子注】九卷 時代未詳。何粲撰。〔四庫提要、子、道家類〕。【亢倉子】一卷 明、楊愼評注。

【亢桑】12 カウサウ 周、庚桑楚（**4－9278**・・11）の一名。

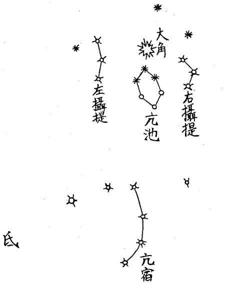
【亢爽】13 カウサウ たかくさつぱりしてゐるさま。〔福惠全書、教養部、學規〕凡州邑、擇二閒曠亢爽之地一、損レ貲建二講院一區一、規制大小量レ力爲レ度。

【亢燥】14 カウサウ 土地が高くて乾いてゐるさま。高燥。〔舒頔、詩〕衣冠濟楚信二行惇一、築レ室亢燥依二山根一。

【亢讎】15 カウシウ 敵に當る。〔左氏、僖、二十八〕背レ惠食レ言、以亢二其讎一。

【亢叔】16 カウシユク 宋、徐應龍（**4－10110**・・348）の字。

【亢宿】17 カウシユク 星の名。あみ星。亢星。二十八宿の一。乙女座に在り。字解㊂の㊀を見よ。〔丹元子、歩天歌〕亢、四星恰似二彎弓一狀、大角一星直向上、折威七子亢下横、大角左右攝提星、三三相連鼎足形、折威下星頓頏星、兩箇斜安二黃色精一、頏下二星號二陽門一、色若二頓頏一直下存。〔宋史、天文志三〕亢宿四星。



亢宿（新法曆書）

【亢身】18 カウシン 身をおほひ守る。〔左氏、昭、元〕吉不レ能レ亢レ身、焉能亢レ宗。〔注〕亢、蔽也。

【亢進】19 カウシン 劇しくなる。たかまりすすむ。

【亢星】20 カウセイ 二十八宿の一。東方の宿。あみ星。亢宿。〔星經〕亢四星、名二天府一、一名二天庭一。

【亢宗】21 カウソウ ㊀宗族をおほひまもること。亢身（18）を見よ。㊁字號。㋑三國呉、孫皓（**3－6987**・・37）の字。㋺唐、陽城（**11－41725**・・132）の字。

【亢答】22 カウタフ 應對する。〔周禮、天官、膳夫、王燕飮酒則爲二獻主一、疏〕飮酒之禮、使二大夫爲レ賓、遣二宰夫爲二主人一、獻酢相亢答。〔晉書、劉惔傳〕惔、字眞長、云云、及レ至便與抗答。

【亢池】23 カウチ 星の名。亢宿の北にあり、送迎の事を主る。亢宿（17）を見よ。〔宋史、天文志三〕亢池六星、在二亢宿北一。〔甘氏星經〕亢池星名、在二亢北一、主レ度二送迎之事一。

【亢直】24 カウチヨク 高ぶつて人に屈せぬこと。驁亢。抗直。〔魏志、杜恕傳〕其論議亢直、皆此類也。

【亢眉】25 カウビ 眉をあげる。意氣の盛なさまをいふ。〔法言、重黎〕越興亢レ眉、終無レ撓レ辭、可レ謂レ伎矣。

【亢鼻】26 カウビ 高くそりかへつてゐる鼻。〔莊子、人閒世〕豚之亢鼻者。〔釋文〕亢、高也、仰也。

【亢父】27 カウフ 縣名。秦、置く。戰國、齊の邑。故城は、山東省濟寧縣の南。〔戰國、齊策〕蘇秦曰、今秦攻レ齊、則不レ然、倍二韓魏之地一、過二衞陽晉之道一、徑二亢父之險一、車不レ得レ方レ軌、馬不レ得レ並レ行。〔漢書、地理志下〕東平國、縣七、亢父。

【亢奮】28 カウフン 激する。氣が立つ。興奮。

【亢木】29 カウボク 木の名。其の實を食へば蠱がわかぬといふ。〔山海經、中山經〕浮戲之山、有レ木焉、葉狀如レ樗、而赤實、名曰二亢木一、食レ之不レ蠱。

【亢滿】30 カウマン 地位の高いこと。〔後漢書、梁商傳論〕梁商稱爲二賢輔一、豈以下其地居二亢滿一、而能以二愿謹一自終者上乎。

【亢陽】31 カウヤウ ㊀ひでり。亢旱。驕陽。〔論衡、順鼓〕水則爲二亢陽之操一。㊁高い建物をいふ。〔左思、魏都賦〕亢陽臺二於陰基一、擬二華山之削成一。〔注〕銑曰、亢陽、屋也、謂、在二於臺上一、故曰二亢陽一。㊂陽で高い位にあるもの。〔易、乾、上九亢龍有レ悔、疏〕上九、亢陽之至、大而極盛。

【亢龍】32 カウリヨウ 高く昇りつめた龍。琅琊代醉編、卷十一に見ゆ。亢龍有レ悔を見よ。〔漢書、王莽傳贊〕亢龍絕氣、非命之運。

〘亢龍有レ悔〙33 カウリヨウクイアリ 極めて尊貴の位地に在る者は、戒めなければ敗れる悔ありといふ喩。易の上九を亢龍に喩へていふ。亢悔。〔易、乾〕上九曰、亢龍有レ悔、何謂也。〔疏〕上九、亢陽之至、大而極盛、故曰二亢龍一、此自然之象、以二人事一言レ之、似下聖人有二龍德一、上居二天位一、久而亢極、物極、則反有レ悔也。

【亢禮】34 カウレイ 對等の人としての禮を行ふこと。抗禮。〔禮、燕義〕莫二敢與レ君亢禮一。〔史記、齊悼惠王世家〕亢禮如二臣家人一。〔宋史、富弼傳〕雖二微官及布衣謁見一、皆與レ之亢禮。

【絕レ亢】35 カウヲタツ のどぶえを絕つて死ぬこと。亢はのど。〔漢書、陳餘傳〕乃仰絕レ亢而死。〔注〕蘇林曰、亢、頸頭大脈也、俗所謂胡脈也。

【搤レ亢】36 カウヲヤクス のどをしめる。急所をおさへる。〔漢書、婁敬傳〕夫與レ人鬭、不下搤二其亢一、拊中其背上、未レ能二全勝一也。

【亢樹滋】37 カウジユジ 清、吳縣の人。字は鐵卿。書室を隨安廬・市隱書屋といふ。著に市隱書屋文集がある。

【亢愓子】38 カウテキシ 明、陳中州（**11－41698**・・1133）の號。

【亣】289

タイ 大（**3－5831**）の籀文。〔說文〕亣、籀文大、改二古文一。〔段注〕謂二古文作レ大、籀文乃改作レ亣也。

參考 亓（**1－256**）は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、亓、古其字。亣、同レ大。

三畫

【亥】290

ケツ 義未詳。〔字彙補〕亥、古折切、音結。

四畫

【交】291

カウ ケウ 〔集韻〕居肴切 ㄐㄧㄠ 肴。chiao¹

小篆

㊀**まじはる。まじはり。**㋑まじへる。くひあふ。〔說文〕交、交レ

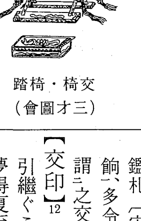
脛也、从レ大、象二交形一。〔史記、樂書〕四暢二交於中一。〔注〕正義曰、交、互也。㋺合ふ。調和する。〔廣雅、釋詁一〕交、合也。〔易、泰〕上下交、而其志同也。〔楚辭、九章、思美人〕備以爲二交佩一。〔注〕交、合也。〔法言、吾子〕或問レ交二五聲十二律一也。〔注〕交、猶レ和也。㋩人とつきあふ。好を通ずる。友となる。つきあひ。〔易、繫辭下〕上交不レ諂、下交不レ瀆。〔周禮、秋官、司儀〕凡諸侯之交。〔禮、郊特牲〕爲二人臣一者、無二外交一、不二敢貳レ君也。〔論語、學而〕與二朋友一交、而不レ信乎。〔後漢書、宋弘傳〕臣聞、貧賤之交、不レ可レ忘。㋥入りみだれる。まじる。〔孟子、梁惠王上〕兵刃既交。〔漢書、劉向傳〕章交二公車一。㋭つるむ。媾合する。〔禮、月令〕虎始交。〔注〕交、猶レ合也。❷取りかはす。更へる。行きかふ。迒(11－38820)に通ず。〔說文通訓定聲〕交、叚借爲レ迒。〔小爾雅、廣詁〕交、易也、更也。〔詩、小雅、楚茨〕獻酬交錯。〔傳〕東西爲レ交。〔周禮、秋官、大行人〕交二諸侯之福一。〔注〕交、或往或來者也。〔禮、坊記〕禮、非レ祭、男女不レ交レ爵。❸こもごも。かはるがはる。ともに。〔小爾雅、廣言〕交、俱也。〔廣韻〕交、共也。〔正字通〕交、互也。〔書、禹貢〕庶土交正。〔傳〕交、俱也。〔孟子、梁惠王上〕上下交征レ利、而國危矣。〔注〕交、俱也。〔國語、越語下〕君臣上下、交得二其志一。〔注〕交、俱也。〔莊子、庚桑楚〕相與交食二乎地一。〔注〕交、共也。❹くみ。黨與。友。〔顏延之、陽給事誄〕周衞是交。〔注〕善曰、交、黨與也。❺はさむ。〔國語、晉語二〕齊楚又交二輔之一。〔注〕交、夾也。❻止まる。〔廣雅、釋詁四〕交、定也。〔淮南子、說林訓〕交畫不レ暢。〔注〕交、止也。❼會合する時、又は場所。〔詩、小雅、十月之交〕十月之交、朔日辛卯。〔左氏、僖、五〕其九月十月之交乎。〔注〕交、晦朔交會也。❽えり。衣領。〔方言、四〕衿、謂二之交一。❾短いたるき。つぎたるき。〔爾雅、釋宮〕桷、直而遂、謂二之閱一、直不レ受レ檐、謂二之交一。❿くらべる。或は校(6－14713)に作る。〔說文通訓定聲〕交、交爲二本字一、校爲二借字一。〔小爾雅、廣言〕交、校報也。⓫鵁(12－46888)に通ず。〔爾雅、釋鳥、鵁鶄、釋文〕鵁、本作レ交。⓬みづち。蛟(10－33009)に通ず。〔史記、高祖紀〕則見二蛟龍於上一。〔漢書、高帝紀〕則見二交龍於上一。⓭小さいさま。交交(34)を見よ。⓮わるがしこい。狡(7－20365)に通ず。交譎(50)を見よ。⓯しむ。せしむ。〔辭海〕交、與レ教同。〔羅隱、銅雀臺詩〕祇合二當年伴レ君死一、免レ交三憔悴望二西陵一。⓰州名。南越の地。〔書、堯典〕申命二羲叔一宅二南交一。⓱姓。〔萬姓統譜〕交、見二姓苑一。

名乘 カタ。

解字 象形。大に从ふ。大は人。人が其の脛を交叉するかたち。まじへるの意。假借して迒とし、校とす。〔說文、交、段注〕引二申之一、爲二凡交之稱一、故爻下曰、交也、烄下曰、交レ木然也、㷉下曰、交二灼木一也、楢下曰、木參交、以レ枝炊籅者也、衿下曰、交衽也、凡兩者相合曰レ交、皆此義之引申叚借耳。

【交惡】1 コモゴモニクム 互に惡みあふ。〔左氏、隱、三〕周鄭交惡。〔注〕兩相疾惡也。

【交倚】2 カウイ 坐具。倚子。校椅。交椅。交牀。〔因話錄〕交倚、謂二之繩牀一、乃北國所レ製、歐公不レ御レ之。


踏椅・椅交
(會圖オ三)

【交椅】3 chiao¹ i³ 交倚に同じ。〔水滸傳、五回〕讓第一把交椅、敎小弟坐了。

【交友】4 カウイウ 友に交はる。友として交る。又、ともだち。〔禮、儒行〕同而進、不レ同而退、其交レ友、有二如レ此者一。〔史記、淮陰侯傳〕夫以二交友一言レ之。〔後漢書、仲長統傳〕游二學靑徐幷冀之閒一、與交友者、多異レ之。〔魏志、臧洪傳〕虧二交友之道一。〔說苑、敬愼〕人臣剛、則交友絕。

【交友之禮】5 カウイウノレイ 友に交はる禮儀。〔魏志、陳羣傳〕文帝在二東宮一、深敬器焉、待以二交友之禮一、常歎曰、自二吾有レ回、門人日以親。

【交友不レ信則離散鬱怨】6 カウイウシンナラザレバリサンウツエンス 友に交はるに信義をつくさなければ、互にはなれて怨み合ふことになる。〔呂覽、貴信〕交友不レ信、則離散鬱怨、不レ能二相親一。

【交郵】7 chiao¹ yu² 郵便に託す。付郵。

【交游】8 カウイウ 交遊に同じ。〔戰國、齊策〕燕王必喜、士民見レ公、如レ見二父母一、交游攘レ臂、而議二於世一、功業可レ明矣。〔列子、楊朱〕屛二親昵一、絕二交游一。〔荀子、君道〕其交游也、緣レ義而有レ類。〔管子、權修〕觀二其交游一、則其賢不肖可レ察也。

【交遊】9 カウイウ ❶ともだち。交際する者。交友。〔禮、曲禮上〕交遊稱二其信一也。〔莊子、山木〕辭二其交遊一、去二其弟子一、逃二於大澤一。〔史記、滑稽傳〕朋友交遊、久不二相見一、卒然相覩、歡然道レ故。❷まじはりあそぶ。交際する。又、其の事。交際。〔唐書、楊憑傳〕憑重二交遊一、尚二氣節然諾一。

【交遊之讎不レ同レ國】10 カウイウノアダクニヲオナジクセズ 朋友のあだとは、國を同じくして住まない。〔禮、曲禮上〕父之讎、弗二與共戴レ天、兄弟之讎、不レ反レ兵、交遊之讎、不レ同レ國。

【交引】11 カウイン 宋代、軍の糧食を徵發するに使つた證券。又、茶商に交付して、出境交易を許した鑑札。〔宋史、食貨志下五〕雍熙後、用レ兵切二於餽餉一、多令三商人入二芻糧塞下一、云云、授以二要劵一、謂二之交引一、至二京師一、給以二緡錢一。

【交印】12 カウイン 印をとりかはして、後任者に事務を引繼ぐこと。官印を後任者に渡す。〔白居易、和下夢得夏至憶二蘇州一呈中盧賓客上詩〕交レ印君相次、褰レ帷我在レ前。〔通俗編、政治、交代〕白氏長慶集、和二劉夢得一詩、交レ印君相次、褰レ帷我在レ前。

【交陰】13 カウイン 木の枝が互にかげを交へること。〔雍裕之、四氣詩〕春禽猶競囀、夏木忽交レ陰。〔王安石、次二韻春日卽事一詩〕丹白自分齊破レ蕾、靑黃相向欲レ交レ陰。

【交運】14 chiao¹ yün⁴ よいめぐりあはせ。〔長生殿、看襪〕也算是老身交運了。

【交映】15 カウエイ 交〻相映ずること。〔左思、蜀都賦〕金鋪交映、玉題相暉。

【交易】16 カウエキ ❶品物と品物とを取り換へること。又、買賣。取引。互市。貿易。〔易、繫辭下〕日中爲レ市、致二天下之民一、聚二天下之貨一、交易而退。〔孟子、滕文公上〕何爲紛紛然、與二百工一交易。〔史記、越世家〕交二易有無一之路通。❷往來。〔公羊、宣、十二〕莊王曰、君之不レ令レ臣、交易爲レ言。〔注〕交易、猶二往來一也。〔後漢書、朱浮傳〕二千石長史、多不レ勝レ任、時有二纖微之過一者、必見二斥罷一、交易紛擾、百姓不レ寧。

【交易所】17 カウエキショ 取引所。

【交易丞】18 カウエキジョウ 交易を掌る役人。〔漢書、食貨志下〕皆置二交易丞五人・錢府丞一人一。

【交易稅】19 カウエキゼイ 取引所に於ける有價證券・物品などの賣買に對して課する稅。

【交易所稅】20 カウエキショゼイ 交易所の營業收益に課する稅。

【交易條款】21 chiao¹ i⁴ t'iao² k'uan³ 商業「上の取引條件。

【交葉】22 カウエフ 入り亂れてゐる葉。〔張蠙、和三友人許裳題二宣平里古藤一詩〕迸根通レ井潤、交葉覆レ庭穠。

【交援】23 カウエン 交を結んで互にたすけ救ふ。〔韓非子、亡徵〕簡二法禁一而務二謀慮一、荒二封內一而恃二交援一者、可レ亡也。〔魏志、杜恕傳〕及レ在レ朝、不レ結二交援一、專心向レ公。

【交下】24 カウカ こもごもくだる。〔南史、任昉傳〕昉父遙、齊中散大夫、遙兄遐、云云、以レ罪將レ徙二荒裔一、遙懷レ名請訴、言涙交下、齊武帝聞而哀レ之、竟得レ免。〔獨異志〕晉武帝哭二羊祜一、冬月涕泗交下、凝レ鬚爲レ冰。

【交加】25 カウカ ❶入りまじる。〔宋玉、高唐賦〕交

加累積、重疊增益。〔梁簡文帝、阻歸賦〕何愁緒之交加。〔白居易、渭邨退居寄禮部崔侍郎翰林錢舍人詩一百韻〕憤懣胸須豁、交加臂莫攘。〔歐陽脩、豐樂亭春遊詩〕綠樹交加山鳥啼、晴風蕩漾落花飛。㊁相與にゆききする。〔後漢書、孫程傳〕既無知人之明、又未嘗交加士類。

【交河】26 カウカ ㊀川の名。馬邑川水。又、灰河ともいふ。㊁城の名。漢の車師前王國の治。故城は今の新疆省吐魯番縣治の西。〔漢書、西域傳下〕車師前國王、治交河城。〔范雲、傚古詩〕霧失交河城。㊂縣名。金、置く。河北省南皮縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、河間府〕交河縣、漢中水縣地、云云、金初爲石家圈、大定七年、置交河縣、屬獻州。〔清史稿、地理類〕直隸、河間府、縣十、交河。

【交柯】27 カウカ 互に交はつてゐる枝。又、枝を交へる。〔李白、上留田行〕交柯之木本同形、東枝顦顇西枝榮。〔蘇轍、陪毛君夜遊北園詩〕落蘂飄香翠袖中、交柯接葉燈光裏。

【交價】28 chiao^{1} chia^{4} 代價を拂ふ。

【交界】29 カウカイ ㊀さかひをまじへる。兩地の相連接する處。境目。又、疆域。畛域。㊁交子流通の期限。宋の眞宗の時、張詠は蜀の長官となり、交子の發行を官營とし、其の流通期限を三年と定め、之を過ぎれば兌換要求の權利を認めなかつた。交子(128)を見よ。〔宋史、食貨志下三〕會子交子之法、蓋有取於唐之飛錢、眞宗時、張詠鎭蜀、患蜀人鐵錢重、不便貿易、設質劑之法、一交一緡、以三年爲一界而換之。

【交喙】30 カウカイ 鳥の名。いすか。雀科に屬す。上下の嘴が喰ひ違つてゐる。〔武江產物志、山鳥類〕交喙。

【交階】31 カウカイ 階段のところで物の受渡しをすること。祭の時、堂で尸に物を供へるのに、一人が供物を捧げて階段の上にくると、堂上の一人がこれを受取つて尸の前に供へる。〔禮、禮器〕他日祭、子路與、室事交乎戶、堂事交乎階、質明而始行事、晏朝而退、孔子聞之曰、誰謂由也而不知禮乎。〔注〕堂事、儐尸。

【交解】32 カウカイ 送る。〔清國行政法汎論、內務府、職權〕又設銀庫・皮庫・磁庫・緞庫・衣庫・茶庫等、收藏府屬諸司交解之物。

【交蓋】33 カウガイ 車蓋を交へる。相往來すること。傾蓋。〔漢書、鄒陽傳、傾蓋如故、注〕文穎曰、傾蓋、猶交蓋駐車也。〔黃庭堅、次韻裴仲謀同年詩〕交蓋春風汝水邊、客牀相對臥僧氈。

【交交】34 カウカウ 小さいさま。一說に、鳥が飛んで往き交ふさま。〔詩、秦風、黃鳥〕交交黃鳥、止于棘。〔傳〕交交、小貌。〔詩、小雅、桑扈〕交交桑扈、有鶯其羽。〔箋〕交交、猶佼佼、飛往來貌。

【交好】35 カウカウ 仲の良い交際。交誼。又、よしみを通ずる。交際する。〔周禮、秋官、掌交〕掌邦國之通事、而結其交好。〔魏志、陳思王植傳、注〕典略、楊修總知外內、事皆稱意、自魏太子已下、並爭與交好。〔韓愈、順宗實錄一〕初執誼爲翰林學士、知叔文幸於東宮、傾心附之、叔文亦欲自廣朋黨、密與交好。

【交更】36 カウカウ かはりあふこと。

【交角】37 カウカク 數學用語。二直線又は二曲線が交はつて成す角。

【交格】38 カウカク 王命に從はないで互に戰ふ。うち合ふ。〔公羊、莊、三十一、其威我奈何、注〕古者、方伯征伐不道、諸侯交格而戰者、誅絕其國。〔疏〕格、猶距也、謂與交戰而距王、今人謂不順之處爲格化之類。

【交割】39 カウカツ ㊀引渡す。新舊兩官が事務の授受を爲すこと。我は之を與へ、彼は之を受けて、雙方が關係を絕つ意。〔明律、吏律、職制、官員赴任過退〕代官已到、舊官各照已定限期、交割戶口錢糧刑名等項。〔明律、戶律〕交割違者、杖一百。㊁chiao^{1} ko^{1} 商業用語。銀と品物と交換すること。

〔交割日〕40 chiao^{1} kê^{1} jih^{4} 商業用語。定期取引の引渡期日前一日。

〔交割貨款〕41 chiao^{1} ko^{1} huo^{4} k'uan^{3} 商取引用語。品物受渡しの際に勘定して受渡する金額。

【交洽】42 カウカフ うちとけて交はること。交驩。〔韓愈、順宗實錄一〕上之爲太子、於父子閒慈孝、交洽無嫌。

【交合】43 カウガフ ㊀よしみを合はす。〔杜甫、奉贈鮮于京兆詩〕交合丹青地、恩傾雨露辰。〔史記、甘茂傳〕秦韓之交、可合也。㊁男女・雌雄がまじはること。交媾。交接。〔禮、月令〕虎始交。〔注〕交、猶合也。

【交竿】44 カウカン 竹竿を交へる。又、交はつてゐる竹竿。〔楚辭、招魂〕衽若交竿。〔注〕竿、竹竿也、云云、言、舞者迴旋、衣衽掉搖回轉相鉤、狀若交竹竿。

【交感】45 カウカン 兩々相まじはつて、互に感じ合ふこと。〔周敦頤、太極圖說〕二氣交感、化生萬物。

〔交感神經〕46 カウカンシンケイ 高等動物の胸腔・腹腔等の諸內臟、及び血管に分布する一種獨立の神經系。不隨意運動及び腺の分泌を掌る。

【交誼】47 カウギ 交際のよしみ。友達のよしみ。交情。友誼。〔樓鑰、送劉德修少卿詩〕臨別提斯語、少盡交朋誼。

【交議】48 カウギ 互に論議し相談すること。〔鹽鐵論、未通〕文學曰、君無賑於民、民無利于上、上下交議、而頌聲作。

【交舊】49 カウキウ 古いまじはり。舊好。〔白居易、祭李司徒文〕綿以歲時、積成交舊。

【交譎】50 カウキツ わるがしこいこと。交は狡に通ず。〔荀子、大略〕奉妒昧者、謂之交譎。〔集解〕兪樾曰、交、讀爲狡、云云、交狡古通用、狡與譎同義。

【交給】51 カウキフ 渡す。交與。〔清國行政法汎論、官吏權利、給假〕交給咨文、赴部補用。

【交腳】52 カウキャク 足を組合はせる。兩足を交叉する。〔魏略〕丁謐爲人沈毅、頗有才略、太和中、常住鄴、借人空屋、居其中、而諸王亦欲借之、不知謐已得、直開門入、謐望見王、交腳臥而不起、而呼其奴客曰、此何等人、促呵使去、王怒其無禮、還具上言、明帝收謐繫鄴獄。

【交窮】53 カウキユウ 貧乏神の一。〔四時寶鑑〕韓愈作送窮文、窮鬼名之有五、曰、智窮・學窮・文窮・命窮・交窮。

【交擧】54 カウキヨ こもごも杯を擧げる。〔晏子、諫、上〕公入不起、交擧則先飮。

【交拱】55 カウキヨウ 兩手で抱へる。又、兩手で抱へる程の大きさ。〔淮南子、繆稱訓〕口慧之人、無必信、交拱之木、無把之枝。

【交巹】56 chiao^{1} chin^{3} 合巹する。結婚すること。

【交欣】57 カウキン 喜びあふ。交〻喜ぶ。〔王褒、聖主得賢臣頌〕上下俱欲、懽然交欣。

【交禁】58 chiao^{1} chin^{4} 監獄に送る。

【交銀】59 chiao^{1} yin^{2} 金を渡す。

〔交銀信〕60 chiao^{1} yin^{2} hsin^{4} 爲替通知狀。

【交衢】61 カウク 四つまたの道。四つつじ。〔孔子家語、入官〕六馬之乖離、必於四達之交衢、萬民之叛道、必於君上之失政。〔駱賓王、帝京篇〕複道斜通鳷鵲觀、交衢直指鳳凰臺。

【交貨】62 chiao^{1} huo^{4} 商品を引渡す。

【交過】63 カウクワ 交叉してゐること。〔謝靈運、撰征賦〕城坡陂陁兮淮驚波、平原遠兮路交過。

【交回】64 chiao^{1} huei^{2} ㊀返還する。返す。戾す。㊁取り戾す。取り返す。

【交會】65 カウクワイ ㊀まじはりあふ。出合ふ。出合ふ所。〔鬼谷子、本經陰符〕待人意慮之交會。〔蔡邕、漢律賦〕瞰洞庭之交會。〔後漢書、孔融傳〕破浮華交會之徒。㊁交子と會子。宋代の紙幣。交子(128)・會子(**5**−**14306**··93)の各條を見よ。〔草木子〕宋之交會。

【交滙】66 カウクワイ 交はりめぐる。まじりめぐる。〔張相文、塞北紀行〕實爲數水交滙處。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕水從外入、交滙其中。

【交畫】67 カウクワク 相交はつて畫かれてゐる線。又、まじはり入りくむこと。〔淮南子、說林訓〕交畫不暢、連環不解。

【交換】68 カウクワン 物と物とを取りかへる。

〔交換尻〕69 カウクワンジリ 手形交換所で、手形と現金とを引換へた後の殘高。

〔交換局〕70 カウクワンキヨク 電話・爲替等を交換する所。

〔交換手〕71 カウクワンシユ 電話交換手の略。

〔交換價値〕72 カウクワンカチ 或る財貨が、他の財貨との交換對象として有する價値。

〔交換契約〕73 カウクワンケイヤク 金錢所有權以外の財產權の移轉を目的とする契約。

【交款】74 カウクワン ㊀互によろこび樂しむ。〔晉書、姚襄載記〕一面交款、便若平生。㊁chiao^{1} k'uan^{3} 代金を支拂ふこと。

【交還】75 chiao¹ huan² かへす。返却する。還附する。

【交關】76 カウクワン ❶往來する。交通する。〔後漢書、西羌傳〕武帝云云、隔ニ絶羌胡一、使ニ南北不レ得ニ交關一。〔魏志、司馬芝傳〕以ニ不軌一誅ニ交關者一。❷男女が相交はること。〔唐律、名例、疏議〕答曰、知ニ是贓婢、本來不レ合ニ交關一、違レ法故買、意在ニ姦僞一。❸意志を通ずること。關說(11－41470・・116)を見よ。〔通雅、事制〕關策猶ニ關說一也、或曰ニ交關一。❹chiao¹ kuan¹ ㋑取引する。㋺吳の地方語で、極めて多いことにいふ。

【交關強牽】77 カウクワンキヤウケン 役人と人民とが交涉して、債務者の財產を強制的に引き取ること。〔唐律、雜律、疏義〕若監臨官共ニ所部一交關強牽、過ニ本契一者、計ニ過剩之物一、準下於所部強市、有ニ剩利一之法上。

【交歡】78 カウクワン よろこびを交はす。又、打ちとけて交はる。交懽。交驩。〔說苑、善說〕猶得ニ交歡盡レ意焉。〔後漢書、彭寵傳〕握手交歡。〔孔子家語、好生〕君子之狎、足ニ以交歡一。

【交驩】79 カウクワン 交歡に同じ。〔史記、陸賈傳〕君何不下交ニ驩大尉一深相結上。

【交軍】80 カウグン 兩軍が戰ふこと。交戰。〔孫子、行軍〕絶ニ斥澤一、惟亟去無レ留、若交ニ軍於斥澤之中一、必依ニ水草一、而背ニ衆樹一。

【交計】81 カウケイ お互に計り合ふ。どちらも計算づくでつきあふこと。〔韓非子、飾邪〕君臣異レ心、君以レ計畜レ臣、臣以レ計事レ君、君臣之交計也。

【交契】82 カウケイ まじはり。よしみ。〔孟郊、贈ニ韓郎中愈一詩〕何以定ニ交契一、贈レ君高山石。

【交儆】83 カウケイ つつしんで交はる。〔墨子、親士〕分議者延延、而交儆者詻詻焉。

【交慶】84 カウケイ 交際上の慶福。一說に、交際の基礎。忠信をいふ。〔管子、戒〕孝悌者、仁之祖也、忠信者、交之慶也。

【交頸】85 カウケイ 頸を交へる。轉じて、夫婦の仲のよい喩。〔莊子、馬蹄〕喜則交レ頸相靡。〔後漢書、張衡傳〕天地烟熅、百草含レ蘤、鳴鶴交レ頸、鴡鳩相和。〔魏明帝、猛虎行〕上有ニ雙棲鳥一、交レ頸鳴相和。

【交戟】86 カウゲキ 守衞がほこを十文字にまじへること。又、其の者。守衞。番兵。〔史記、項羽紀〕噲卽帶レ劍擁レ盾入ニ軍門一、交戟之衞士、欲ニ止不レ內、樊噲側ニ其盾一、以撞ニ衞士一仆レ地。〔漢書、劉向傳〕今佞邪與ニ賢臣一竝ニ交戟之內一。

【交擊】87 カウゲキ 入り亂れうちあふ。〔劉筠、大酺賦〕虵矛交擊、猿騎分驅。

【交纈】88 カウケチ 上古の染法の一。後世の板締の類。奈良時代に盛に行はれ、女子の裳・唐衣等に使用せられた。纈纈。夾纈。

【交結】89 カウケツ ❶まじはる。交際してよしみを結ぶ。〔漢書、雋不疑傳〕齊孝王孫劉澤、交ニ結郡國豪傑一謀反。〔後漢書、北海靖王興傳〕性謙恭好レ士、千里交結。〔吳志、孫權傳〕布衣韋帶、相與交結。〔晉書、會稽王道子傳〕交結朋援、多樹ニ親黨一。〔駱賓王、帝京篇〕趙李經過密、蕭朱交結親。❷連なりむすぶ。〔何晏、景福殿賦〕櫼櫨各落以相承、欒栱夭蟜而交結。

【交卷】90 chiao¹ chüan⁴ 受驗者が答案を差出すこと。

【交賢】91 カウケン 賢者に交はる。〔孔子家語、困誓〕君子入則篤レ行、出則交レ賢。

【交獻】92 カウケン 杯を交へる。獻酬。交觴。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕與ニ皇帝一交獻。〔孔子家語、問禮〕君與ニ夫人一交獻。

【交玄】93 カウゲン 唐、柳珪(6－14662・・83)の字。

【交股】94 カウコ ❶兩脚が相交はること。交股民を見よ。❷chiao¹ ku³ 委員會に付すること。

【交股民】95 カウコノタミ 兩脚が相交はつてゐる民。〔淮南子、墬形訓〕交股民・不死民。〔注〕交股民、腳相交切。

【交互】96 カウゴ たがひに。かはるがはる。互ひ違ひになる。〔京房易傳〕陰陽交互、陽爲レ陰、陰爲レ陽、陰陽二氣、盪而爲レ象。〔後漢書、左雄傳〕自レ是選代交互、令長月易。〔沈約、宿ニ東園一詩〕野徑既盤紆、荒阡亦交互。

【交互計算】97 カウゴケイサン 商法上、商人間、又は商人と非商人との間に平常取引をなす場合、一定期間內の取引から生ずる債權債務の總額に付き相殺を爲し、其の殘額の支拂を爲すことをいふ。

【交互作用】98 カウゴサヨウ 二つ以上の事物が、相互に作用し又は影響し合ふこと。

【交午】99 カウゴ ❶たてよこに入りまじる。縱橫に交錯する。〔穀梁、昭、十九、羈貫成童、注〕羈貫、謂下交ニ午剪髮一以爲上レ飾。〔段成式、戲ニ高侍御一詩〕遮郤紅腮交午痕。❷物の標識として建てる木。〔古今注、問答釋義〕程雅問曰、堯設ニ誹謗之木一、何也、答曰、今之華表木也、以ニ橫木一交ニ柱頭一、狀若レ花也、形似ニ桔槔一、大路交衢、悉施焉、或謂ニ之表木一云云、今西京謂ニ之交午木一。

【交護】100 カウゴ こもごも護る。互に護り防ぐ。〔葛立方、正旦詞〕歌管雕堂宴喜レ任、重簾不レ掩交ニ護春寒一。

【交口】101 カウカウ ❶かはるがはるいふ。又、口をそろへて言ふ。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕諸公要人、爭欲レ令レ出ニ我門下一、交レ口薦ニ譽之一。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕各道錢公等、復交レ口稱レ鴻。❷鎭の名。㋑山西省沁縣の北、小漳河の上流。㋺陝西省臨潼縣の東北。❸chiao¹ k'ou³ 口論する。

【交工】102 chiao¹ kung¹ 工事を引渡す。

【交媾】103 カウコウ 陰陽が相まじはること。交合。交接。交構。〔參同契、三相類下〕觀ニ夫雌雄交媾之時一、剛柔相結而不レ可レ解、得ニ其節築一、非下有ニ工巧一以制中御之上、男生而伏、女偃ニ其軀一、稟ニ乎胞胎一、受ニ氣元初一、非ニ徒生時著而見レ之、及ニ其死一也、亦復效レ之、此非ニ父母教令ニ其然一、本在ニ交媾、定置ニ始先一。〔李白、草創大還贈ニ柳官迪一詩〕造化合ニ元符一、交媾騰ニ精魄一。

【交搆】104 カウコウ 互にひきあふ。〔後漢書、順帝紀〕姦臣交搆、遂令ニ陛下龍ニ潛蕃國一。〔後漢書、何進傳〕交搆已成、形勢已露。

【交鉤】105 カウコウ 互にいりまじる。交錯する。〔歐陽脩、送ニ黎生下第還レ蜀詩〕遂令ニ學者迷、異說相交鉤一。

【交構】106 カウコウ ❶陰陽が相まじはる。交媾(103)に同じ。〔後漢書、周擧傳〕二儀交構、乃生ニ萬物一。❷結合する。〔吳志、賀齊傳〕因レ事交構、遂致ニ疑隙一。〔晉書、宣帝紀〕諸將言、達與ニ二賊一交構、宜ニ觀望而後動一。〔抱朴子、崇敎〕交構之變、千端萬緒。

【交骨】107 chiao¹ ku³ 婦人の恥骨。

【交婚】108 カウコン 互に婚姻をとりかはす。陔餘叢考、卷三十一に見ゆ。〔北史、魏昭成帝紀〕慕容晃遣レ使、來聘求ニ交婚一、帝許レ之、以ニ烈帝女一妻レ焉。

【交叉】109 カウサ 十文字にまじはる。ぶつちがひになること。〔隋書、禮儀志七〕其車軨解合交叉。

【交叉點】110 カウサテン まじはりあつた所。

【交查】111 chiao¹ ch'a² 派遣して調査する。

【交鎖】112 カウサ ❶まじはりつらなる。〔杜牧、戰論〕夫河北者、俗儉風渾、淫巧不レ生、高山大河、盤互交鎖。❷chiao¹ su³ 錠を下す。錠をかける。

【交際】113 カウサイ ❶まじはる。又、まじはり。際は接の意。交待。交接。〔孟子、萬章下〕萬章曰、敢問、交際何心也、孟子曰、恭也。〔集注〕際、接也、交際、謂下人以ニ禮儀幣帛一相交接上也。❷潛夫論の篇名。

【交際費】114 カウサイヒ ❶一般に交際に要する費用。❷職務上、特種の官吏に給する交際の費用。

【交齊】115 chiao¹ ch'i² 完納する。交淸。

【交鎩】116 カウサイ ほこを交へる。〔張衡、東京賦〕郎將司レ階、虎戟交レ鎩。〔注〕綜曰、交レ鎩、謂ニ交加而設ニ兵器一也。

【交爭】117 カウサウ 入りまじり爭ふ。こもごも諫め爭ふ。〔呂覽、貴當〕主有レ失、皆交爭証諫。〔史記、老莊申韓傳〕深計而不レ疑、交爭而不レ罪。〔張衡、東京賦〕喜懼交爭。

【交喪】118 カウサウ お互に相手を失ふ。お互に離ればなれになる。〔王巾、頭陀寺碑文〕開ニ八正之門一、大庇ニ交喪一。〔注〕善曰、莊子曰、世喪レ道矣、道喪レ世矣、世與レ道、交相喪也。

【交窗】119 カウサウ 壁を穿ち木を組合はせて作つた窓。〔說文〕牖、穿レ壁以レ木、爲ニ交窗一也。〔段注〕交窗者、以レ木橫直爲レ之、卽今之窗也。〔盧照鄰、長安古意詩〕複道交窗作ニ合歡一、雙闕連甍垂ニ鳳翼一。

【交艘】120 カウサウ ゆきかふ船。〔張融、海賦〕浮艫雜軸、遊舶交艘。

【交作】121 カウサク こもごもおこる。いりまじる。〔于邵、送ニ李員外入朝一序〕廣庭張樂、妙音交作。〔李

觀、鈞天樂賦〕大音嘈兮交作、上帝儼以延望。

【交厝】122 カウサク 入り亂れる。交錯（124）に同じ。〔風俗通、山澤〕傳曰、水草交厝、名レ之爲レ澤。

【交酢】123 カウサク 酒盃を互に取りかはす。〔國語、周語下〕蕤賓、所下以安二靖神人一、獻酬交酢上也。

【交錯】124 カウサク 入り亂れる。交厝。交鉤。〔詩、小雅、楚茨〕獻酬交錯、禮儀卒度。〔傳〕東西爲レ交、邪行爲レ錯。〔儀禮、特牲饋食禮〕衆賓及衆兄弟交錯。〔禮、文王世子〕禮樂交二錯於中一。〔史記扁鵲傳〕交錯而不レ得レ泄。

【交雜】125 chiao¹ tsa² 入りまじる。錯雜する。入り組む。

【交參】126 カウサン いりまじる。〔郭璞、山海經圖、帝女桑贊〕厥圍五丈、枝相交參。

【交產】127 chiao¹ ch'an³ 財産を授受すること。

【交子】128 カウシ ❶突き合はせるものの意で、突き合せて間違ひのないことを確かめる證據書類。❷❶から轉じて、宋代の紙幣の名。四川地方には五代頃から鐵錢が行はれたが、其の重いのを不便とし、商人は櫃坊に錢を寄託し、其の預り證を錢手形として取引を行つた。眞宋の時、成都の富商十六戶が改めて政府の認可を得て交子戶（交子發行者、交子鋪ともいふ）に特定せられた。仁宗の時、十六交子戶の交子發行を停止し、成都に益州交子務を設け、政府が交子發行に任じた。此れが中國に於ける紙幣の始めで、南宋には會子と稱する紙幣が行はれた。交界(29)を見よ。〔宋史、薛田傳〕民間以二鐵錢重一、私爲レ券、以便二交易一、謂二之交子一。〔文獻通考、錢幣考、歷代錢幣之制〕宋寧宗嘉定六年二月、詔置二行在交子務一、臣僚言、朝廷措二置見錢關子一、有司浸失二本意一、改爲二交子一、官無二本錢一民何以信、極二論其不可一、於レ是罷二交子務一。〔二老堂雜志〕近歲用二會子一、乃四千、交子法、特官卷耳、不レ知何人目爲二楮幣一、遂入二殿試御題一。

〖交子務〗129 カウシム 交子の發行、及び取扱ひを爲す官署。交子を見よ。

【交市】130 カウシ 互に市場を開くこと。互市。〔後漢書、西域傳〕與二安息天竺一交二市於海中一。〔魏志、倉慈傳〕欲二從レ郡還一者、官爲二平取一、輒以二府見物一、與共交市、使三吏民護二送道路一。〔資治通鑑、隋紀〕（煬帝、大業三年）西域諸胡、多至二張掖一交市。〔注〕交市、爲二互市一也。

【交阯】131 カウシ カウチ 南方にある國の名。交趾の❶に同じ。〔墨子、節用中〕南撫二交阯一。〔漢書、武帝紀〕合浦交阯。〔後漢書、南蠻傳〕其俗、男女同レ川而浴、故曰二交阯一。

【交趾】132 カウシ カウチ ❶地名。帝堯の時、五嶺以南の地を指して言ひ、漢代、交趾郡を置いて、始めて專ら今の安南北部の地を指す。其の地の人は、趾が相まじはるといふ。交阯に同じ。〔禮、王制〕南方曰レ蠻、雕題交趾。〔注〕交趾、足相鄕。❷郡名。漢、置く。故治は、今の安南東京州。〔漢書、地理志下〕交趾郡、屬二交州一。〔讀史方輿紀要、廣西、外國附考、交州府〕交趾城、在二府西一、劉昫曰、漢交趾郡、治二羸𨻻一、卽此、羸、孟康、音蓮、𨻻音受、土簍也、後漢仍爲二羸𨻻縣一、屬二交趾郡一、晉宋因レ之、隋改置二交州一、唐武德四年、仍置二交州於此一、又析置二慈廉・烏延・武立三縣一、以二慈廉水一爲レ名、置二慈州一、六年、改爲二南慈州一、貞觀初、州廢、三縣仍省入二交趾一、二年、移二縣治於漢之故交趾城一、仍爲二交州治一、寶曆元年、徙二州治於宋平縣一屬焉、顏師古曰、羸𨻻、亦讀曰二累縷一、杜佑曰、交趾之名、以二南方夷人、其足大趾開廣、並レ足而立、其趾則交一故名。❸交趾國から舶來した陶器。交趾燒の略。

【交嘴】133 カウシ ❶小鳥の名。北京で子供の愛玩用として流行するもの。〔燕京歲時記、交嘴〕交嘴者、長四五寸、嘴左右交、以別二雌雄一、有二紅黃二色一、馴而擾者、能開レ鎖啣レ旗。❷chiao¹ tsuei³ 爭論する。

【交耳】134 カウジ 耳に口を附けて語る。〔論衡、解除〕胡越之人、耳口相類、心意相似、對レ口交レ耳而談、尙不二相解一。

【交時】135 カウジ 草の名。いはひば。卷柏(2−2860・・65)の異名。〔本草、卷柏〕釋名、交時。

【交州】136 カウシウ 州名。❶漢、置く。廣西省蒼梧縣。〔讀史方輿紀要、廣西〕梧州府、禹貢、荊州徼外地、周爲二百粤地一、秦屬二桂林郡一、漢初屬二南越一、元鼎六年、置二蒼梧郡一、元封五年、兼置二交州一。❷三國蜀、置く。故治は、雲南省曲靖縣の西。❸十六國、成漢、置く。故治は、貴州省普安縣の西。

【交收】137 カウシウ うけとる。又、うけとり。交付(285)の對。〔福惠全書、蒞任部、淸査之法〕不レ得三草率交收、自貽二賠累一。

【交秋】138 chiao¹ ch'iu¹ 秋になる。秋に入る。

【交修】139 カウシウ 淸、康國器(4−9376・・180)の字。

【交酬】140 カウシウ 互に禮物をやりとりすること。又、そのもの。贈答。〔國語、周語中〕交酬好貨皆厚。〔注〕交酬、相酬之幣也。

【交識】141 カウシキ つきあふ。まじはる。〔宋史、蕭振傳〕端人正士、多レ所二交識一。

【交失】142 カウシツ こもごも失ふ。〔任昉、爲二范尙書一讓二吏部封侯一第一表〕求二之公私一、授受交失。

【交執】143 chiao¹ chih² 交付(285)に同じ。

【交集】144 カウシフ まじはり集まること。〔後漢書、趙壹傳〕飛丸激矢、交二集于我一。〔潘岳、藉田賦〕長幼雜遝以交集。

【交卸】145 chiao¹ hsieh⁴ 事務を引渡す。

【交牀】146 カウシヤウ しやうぎ。交椅。〔演繁露〕今之交牀、制本自レ虜來、始名二胡牀一、桓伊下レ馬據二胡牀一取レ笛三弄、是也、隋以二讖有一レ胡、改名二交牀一。

【交觴】147 カウシヤウ ❶さかづきを取りかはす。交爵。交獻。〔曹植、樂府〕交レ觴接レ桮、以致二殷勤一。〔傅玄、董逃行、歷九秋篇〕交レ觴接レ卮結レ裳、慷慨歡笑萬方。❷川の名。〔山海經、中山經〕交觴之水、出二于其陽一、而南流注二于洛一。

【交上】148 chiao¹ shang 引渡す。交付する。

【交狀】149 chiao¹ chuang⁴ 官文書で、官の判決を經たもの。

【交城】150 カウジヤウ 縣名。隋、置く。今の山西省太原縣の西南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕交城縣、漢晉陽縣之西境、北齊置二牧官於此一、隋開皇十六年、置二交城縣一、屬二幷州一、以三縣界有二古交城一而名。〔淸史稿、地理志〕山西、太原府、縣十、交城。

【交情】151 カウジヤウ ❶交際のよしみ。交際の情愛。交誼。友情。〔史記、汲鄭傳贊〕一死一生、乃知二交情一、一貧一富、乃知二交態一。〔說苑、談叢〕一死一生、乃知二交情一。〔高適、送下柴司戶充二劉卿判官一之中嶺外上詩〕別恨隨二流水一、交情脫二寶刀一。〔駱賓王、帝京篇〕黃金銷鑠素絲變、一貴一賤交情見。❷chiao¹ ch'ing 事情。わけ。

【交讓】152 カウジヤウ ❶たがひに讓りあふ。〔書、堯典、疏〕上下交讓、務在レ服レ人。〔晏子、雜、上〕交讓爭處二其卑一。❷樹木の名。兩樹が對になつて生じ、一方の樹が枯れると一方の樹を生ずる。交讓木。〔左思、蜀都賦〕交讓所レ植、蹲鴟所レ伏。〔注〕劉曰、交讓、木名也、兩樹對生、一樹枯、則一樹生、如レ是歲更終、不二俱生俱枯一也。〔太平御覽、木部〕尋陽記曰、黃金山有二楠樹一、一年東邊榮西邊枯、後年西邊榮東邊枯、年年如レ此、張華云二交讓樹一者、此是也。❸淸、魏允枏(12−45872・・156)の字。

〖交讓冠〗153 カウジヤウクワン 後漢の公孫述が馬援に贈つた冠。〔後漢書、馬援傳〕公孫述爲レ援制二都布單衣・交讓冠一。

〖交讓瀆〗154 カウジヤウトク 池の名。江蘇省吳縣の城內にあつた。〔續圖經〕昔陸慧曉與二張融一並レ宅、其間有レ池、池上楊柳一株、何點歎曰、此池便是醴泉、此木便是交讓、舊傳有二交讓瀆一、蓋因二陸張一得レ名也。

〖交讓木〗155 カウジヤウボク ❶珍木の名。交讓の❷を見よ。〔述異記〕黃金山有二楠樹一、一年東邊榮西邊枯、後年西邊榮東邊枯、張華云、交讓樹也。❷常綠喬木の名。ゆづりは。葉の表は綠で背は白く、新葉が出ると、舊葉が落ち、相讓る如くであるから此の名がある。靑榕。

【交酌】156 chiao¹ chuo² 酒を酌み交す。獻酬する。

【交爵】157 カウシヤク さかづきをやりとりする。交觴。〔禮、坊記〕禮、非レ祭、男女不レ交レ爵。

【交手】158 カウシユ ❶手をこまぬくこと。敬意を表示する禮。拱手。〔漢書、齊懷王閎傳〕諸侯交手、事レ之八年。〔注〕師古曰、交手、謂二拱手一也。〔班固、竇車騎北征頌〕名王交手、稽顙請レ服。❷手をとりあふ。〔楚辭、九歌、河伯〕子交手兮東行。〔注〕交手者、古人將レ別、則相執レ手、以見下不レ忍二相遠一之意上。〔南史、李安人傳〕安人少時貧、有二一人一、從レ門過、相レ之曰、君後當下大富貴、與二天子一交レ手共戲上。❸爭ふ。技をきそふことをいふ。〔北

史、齊宗室、諸王下、武成諸子、琅邪王儼傳〕小兒輦弄レ兵、與交手卽亂。㊃chiao¹ shou³ ㋑渡す。貿易する。㋺足場。

【交輸】159 衣の裾を割いて燕尾のやうにし、兩旁に垂れたもの。〔漢書、江充傳〕曲裾後垂交輸。〔注〕如淳曰、交輸、割二正幅一、使三一頭狹若二燕尾一、垂二之兩旁一。

【交授】160 ㊀うけわたしすること。〔東軒筆錄〕交二授書簡一。㊁かうたい。更代。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕須下照二額設一交授上。

【交春】161 chiao¹ ch'uen¹ 春になる。春に入る。

【交詢】162 信實を以て交はる。詢は信の意。

【交如】163 相交はる。如は語助の詞。〔易、大有〕六五、厥孚交如、威如、吉。〔疏〕交、謂二交接一也、如、語辭也。

【交訟】164 chiao¹ sung⁴ 訴訟する。

【交鐘】165 chiao¹ chung¹ 時計が時を打つ。

【交植】166 入りまじり立つ。雜然と生えてゐること。〔曹植、七啓〕麗草交植、殊品詭類。〔注〕良曰、麗草、芳草也、植、種。

【交織】167 二種以上の異なつた原料で織ること。又其の織物。

【交屬】168 まじはりつづく。〔班固、西都賦〕陂池交屬。

【交信】169 chiao¹ hsin⁴ 書簡を賴み渡す。

【交唇】170 chiao¹ ch'uen² 接吻。キツス。

【交神】171 神と交はる。神と通ずる。〔漢書、郊祀志下〕文王以レ之交二神於祀一、子孫千億。〔漢書、韋玄成傳〕淸廟之詩、言三交レ神之禮、無レ不二淸靜一。

【交親】172 まじはりしたしむ。よしみを結ぶ。〔荀子、不苟〕交親而不レ比。〔陳子昂、送二東萊王學士一詩〕懷二君萬里別一、持贈結二交親一。

【交刃】173 刃を交へる。白兵戰をいふ。〔管子、參患〕今交レ刃接レ兵、而後利レ之。〔晉書、何曾傳〕設二介副一、臨レ敵交レ刃。

【交衽】174 衣のおくみが交はり合はさることをいふ。〔徐灝、說文注箋〕衣前衽內外相交、故謂二之交衽一。

【交訊】175 音信をかはす。〔翰苑新書〕交レ訊雖レ厪、望レ塵猶阻。

【交綏】176 兩軍が皆退くこと。軍を退けるを綏といふ。〔左氏、文、十二〕秦以レ勝歸、我何以報、乃皆出戰、交綏。〔注〕司馬法曰、逐レ奔不レ遠、從レ綏不レ及、逐レ奔不レ遠、則難レ誘、從レ綏不レ及、則難レ陷、然則古名二退軍一爲レ綏、秦晉志未レ能二堅戰一、短兵未レ致レ爭而兩退、故曰二交綏一。〔李衞公問對、下〕交綏而退。

【交淸】177 chiao¹ ch'ing¹ 淸算する。全部支拂ふ。交足。

【交精】178 鳥の名。ごゐさぎ。文選上林賦に鵁鶄に作る。〔漢書、司馬相如傳上〕交精旋目、煩鶩庸渠。〔注〕郭璞曰、交精似レ鳧而腳高、有二毛冠一、辟二火災一、旋目未レ聞也、師古曰、今荆郢閒、有二水鳥一、大二於鷺一而短尾、其色紅白深目、目旁毛、皆長而旋、此其旋目乎。

【交噬】179 かみあふ。〔蘇氏易傳〕九四居二二陰之閒一、六五居二二陽之閒一、皆處二爭地一、而致二交噬一者也。

【交鈔】180 金元時代の紙幣。〔正字通〕鈔、楮貨名、云云、諸路置二交鈔庫官一。〔文獻通考、錢幣考、歷代錢幣之制〕范成大攬轡錄載、虜本無レ錢、惟煬王亮嘗一鑄二正隆錢一、絕不レ多、餘悉用二中國舊錢一、又不レ欲レ留二錢於河南一、效二中國楮幣一、於二汴京一置レ局造二官會一、謂二之交鈔一。〔大學衍義補、制二國用一、銅楮之幣、下〕金循二宋四川交子法一置二交鈔一、自二一貫一至二十貫一五等、謂二之大鈔一、自二一百一至二七百一五等、謂二之小鈔一、云云、元交鈔之制、銀五十兩、易二鈔千兩一、是銀一兩、直二鈔二十兩一也、中統元寶鈔、兩貫同二白銀一兩一、其所レ直銀、亦與二交鈔一同焉。

【交照】181 朋友の互に肝膽相照して交はること。〔後漢書、朱穆傳論〕情爲レ恩死、命緣レ義輕、皆以二利害一移レ心、懷レ德成レ節、非二夫交照之本一、未レ可レ語二失得之原一也。

【交綃】182 綃の一種。鮫綃（12－46127・・15）に同じ。〔宣和遺事、前集下〕取二過那交綃直繫一來。

【交積】183 まじはりつむ。〔謝惠連、雪賦〕踐二雪霜之交積一、憐二枝葉之相違一。

【交切】184 chiao¹ ch'ien⁴ 事務引繼ぎを終へること。

【交接】185 ㊀まじはる。まじはり。交際。交遊。〔禮、樂記〕射鄕食饗、所三以正二交接一也。〔穀梁、隱、二〕爲三其來交二接於我一、故君子進レ之也。〔管子、國蓄〕交二接於君上一也。〔墨子、尙賢中〕外有三以爲二皮幣一、與二四鄰諸侯一交接。〔漢書、藝文志〕古者、諸侯卿大夫、交二接鄰國一、以二微言一相感。〔後漢書、張衡傳〕不レ好三交二接俗人一。〔南史、蔡凝傳〕常端二坐西齋一、自レ非二素貴名流一、罕レ所二交接一。㊁男女のまじはり。交合する。〔山海經、大荒東經〕有二司幽之國一、思士不レ妻、思女不レ夫、精氣潛感、不レ假二交接一而生レ子。〔宋玉、神女賦〕精交接以來往兮、心凱康以樂歡。〔史記、司馬相如傳〕以二琴心一挑レ之、注〕索隱曰、其詩曰、有二一豔女一在二此堂一、室邇人遐毒二我腸一、何由交接爲二鴛鴦一。〔漢書、高五王傳〕或白晝使二贏伏犬馬交接一。〔淮南子、覽冥訓〕交接成レ和、而萬物生焉。〔曹植、洛神賦〕動二朱脣一以徐言、陳二交接之大綱一。〔注〕良曰、神動レ脣、陳二交會之意一。㊂交戰する。〔淮南子、兵略訓〕是故兵未二交接一而敵人恐懼。〔後漢書、袁紹傳〕交レ鋒接レ刃。

【交媟】186 狎れあなどること。〔晉書、袁喬傳〕至二于皇子近屬一、咸有二揖讓之禮一、而況策二名人臣一而交二媟人父一。

【交節】187 chiao¹ chieh² 季節が代る。

【交絕】188 交際が絕える。絕交。〔戰國、西周策〕左成謂二司馬翦一曰、周君不レ聽、是公之智困、而交絕二於周一也。

〔交絕不レ出二惡聲一〕189 君子は絕交した後も、其の人の惡口を言はぬ。〔史記、樂毅傳〕古之君子、交絕不レ出二惡聲一、忠臣去レ國、不レ絜二其名一。〔顏氏家訓、文章〕君子之交、絕無二惡聲一。

【交涉】190 ㊀かかりあい。關係。又、かかりあひをつける。〔范成大、病中聞二西園新花已茂一詩〕春雖三與レ病無二交涉一、雨莫三將レ花便破除一。㊁かけあひ。折衝。談判。

〔交涉員〕191 外交部から派遣せられて地方に駐在し、地方的外交事務を扱ふ官吏。

〔交涉署〕192 交涉員の駐在する役所。重要地にあつて、特に重大でない外交事務を取扱ふ所。

【交睫】193 まつ毛を合せる。睡る。寐る。睫は、まつげ。〔史記、袁盎傳〕盎曰、陛下居レ代時、太后嘗病三年、陛下不レ交レ睫、不レ解レ衣。

【交淺】194 交際の淺いこと。交淺言深を見よ。

〔交淺言深〕195 交際の日は淺いのに、親しい口をきく。〔戰國、趙策〕客有下見二人於服子一者上、服子罪レ之曰、交淺而言深、是亂也、客曰、不レ然、交淺而言深、是忠也、昔者、堯見二舜於草茅之中一、桑陰移、而受二天下傳一、使二交淺者不一レ可二以深談一、則天下不レ傳也。〔後漢書、崔駰傳〕交淺而言深者、愚也。

【交煽】196 ㊀こもごもあふりたてる。〔唐書、王茂元傳〕家積レ財、交二煽權貴一、鄭注用レ事、遷二涇原節度使一。㊁こもごも盛である。共に盛である。〔唐書、崔日用傳〕諸武若二三思・延秀及楚客等一、權寵交煽、日用多レ所二結納一、驟拜二兵部侍郎一。

【交線】197 平面と平面、平面と曲面、曲面と曲面とがまじはつて生ずる線。

【交戰】198 戰をまじへる。互に戰ふ。交軍。交兵。〔魏志、武帝紀〕交戰大破レ之。〔潘岳、射雉賦〕出不二交戰一。

〔交戰國〕199 戰爭中の國。敵對行動をなしつつある國。

〔交戰團體〕200 國家でなくて、國際法上交戰國と同樣の權利義務を認められた交戰主體の稱。

〔交戰法規〕201 戰爭のとき、交戰國閒で守るべき規則。

【交錢】202 錢を用ひて行ふ筮法。單拆重交（**2**－3993・・336）を見よ。

【交然】203 入りまじつてゐるさま。〔鹽谷簣山、山鹿素行傳〕如下孫子執二桴鼓一指二揮三軍一、千兵萬馬、交然躍出上。

【交禪】204 こもごも帝位を禪り嗣ぐこと。〔皇甫謐、三都賦序〕魏氏以二交禪一比二唐虞一。

【交租】205 chiao¹ tsu¹ 家賃又は小作料の支拂。

【交疏】206 まじはり通ずる。疏は通の意。〔古詩十九首〕交疏結二綺窻一、阿閣三重階。

【交訴】207 互に訴へる。兩方から訴へ出る。

〔五代史、梁臣、朱珍傳〕交訴二太祖前、太祖兩惜二其材一、爲二和解之一。

【交足】208 chiao¹ tsu² すつかり拂ひ渡す。交清(177)に同じ。

【交捽】209 ソウ 相對する。はりあふ。對抗する。捽は敵對の意。〔國語、晉語一〕戎夏交捽。〔注〕捽、交對也。

【交打】210 ダウ こもごも打つ。あひうちする。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕彼此交打、原無二打死之心一。

【交兌】211 ダウ 拂ひ渡す。うけわたしをする。〔福惠全書、錢穀部、解給〕銀有不二照數交兌一。

【交妥】212 chiao¹ tu³ 滯りなく交付し了はる。萬事都合よく交代する。

【交拏】213 ダウ つかみあふ。〔朱熹、致レ仕謝表〕當二彼忠佞交拏之際一、既皆判別而不レ疑。

【交唾】214 タウ かはるがはる唾をはきかける。〔唐書、高駢傳〕百姓交唾、拔二須髮一無レ遺。

【交代】215 タイ ❶いりかはる。交替する。〔爾雅、釋山、疏〕泰山之尊、一日二岱宗一、岱、始也、萬物之始、陰陽交代。❷官吏の任期が滿ち、舊官が新官と入り代ること。〔漢書、蓋寬饒傳〕及二歲盡交代一、自請願復留。〔後漢書、班超傳〕任尚爲二都護一、與レ超交代。〔六部成語、吏部、交代、注解〕前任官、將二一切未レ完事件、並倉庫錢粮、一交二付新任官一。❷chiao¹ tai⁴ ㋑始末する。㋺渡す。㋩話す。

【交代冊】216 サツ 前任官と後任官とが交替する時、前年來の租稅雜稅の收支計算を明かにする帳簿。〔福惠全書、蒞任部、清查之法〕故欲レ查二交代冊一、先查二全書一、會計而後、通縣之錢糧款項可レ攷。

【交代本位制】217 ホンイセイ 二種の本位貨幣を有し、時に應じて交代に之を用ひる制度。

【交待】218 タイ 交はり接する。交際。〔蜀志、楊戲傳〕交待無レ禮、並致二姦慝一。

【交泰】219 タイ ❶二者がこもごも通ずる。泰は、物が大いに通ずる際をいふ。〔易、泰〕天地交泰。〔注〕泰者、物大通之時也。〔陸雲、大將軍宴會被レ命作詩〕天地交泰。❷五代、南唐の元宗〔李璟〕の年號。(958)

【交泰珠】220 シュ 寶玉の名。〔戒菴漫筆〕廣東布政司庫內有二一珠一、徑二寸許一、半白半黑、名二交泰珠一、成化中、鎭守太監、進入二大內一。

【交泰殿】221 デン 宮殿の名。北京舊紫禁城內、乾淸宮の後、坤寧宮の前に在る。二宮の間に在るので交泰殿といふ。〔淸會典事例、工部、宮殿〕乾淸宮後、爲二交泰殿一。

【交退】222 タイ こもごも退く。〔郝經、雞冠詩〕再礪復自止、交退誰與救。

【交替】223 タイ 互に入りかはる。代り合ふ。更代。交代。〔續日本紀、二十一〕頃年國司交替、皆以二四年一爲レ限。〔憲教類典、武家諸法度〕寬永十二年六月二十一日、大名小名在二江戶一、交替所二相定一也。

【交替帳】224 チヤウ 古、官吏が交替する際に、前任者が事務引繼ぎの爲に記した帳簿。〔明法肝要抄〕爰前交替帳所レ注堂塔房舍佛像經論資財寶物、無二有二色一。

【交替去來】225 キヨライ いりかはり立ちかはりする。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕濤波浪一以出、交替去來、不レ暇二應接一。

【交替神教】226 シンケウ 崇拜の對象としての主要神が時と所に從つて變轉する宗教をいふ。印度の吠陀(Veda)宗の類。

【交態】227 タイ 交際のしぶり。〔史記、汲鄭傳贊〕一貧一富、乃知二交態一。〔說苑、談叢〕一貧一富、乃知二交態一。〔高適、邯鄲少年行〕君不レ見今人交態薄、黃金用盡還疎索。

【交刀】228 タウ 鋏。〔東宮舊事〕太子納レ妃、有二龍頭金縷交刀四一。〔溫庭筠、舞衣曲〕金梭淅瀝透レ空薄、剪落交刀吹二斷雲一。

【交襠】229 タウ あてみのこと。交當。〔水滸傳、四回〕智深趕二下亭子一來、雙手拿二住匾擔一、只一腳交襠踢著、那漢子雙手掩著。

【交黨】230 タウ 徒黨。又、交はりくみする。〔史記、燕世家〕啓與二交黨一攻二益奪レ之。〔後漢書、王暢傳〕無二所二交黨一。〔論衡、非韓〕交黨疏絕、恥辱至レ身。

【交道】231 ダウ ❶交際の道。〔陸機、贈二馮文羆遷二斥丘令一詩〕交道實難。❷十字路。〔資治通鑑、晉紀〕〔穆帝、永和四年〕火滅取レ灰、分二置諸門交道中一。〔注〕交道、午道也、一縱一橫爲二午道一。❸chiao¹ tao ㋑取引する。㋺相手になる。㋩折り合ふ。❹トヂノ 男女交合の道。〔日本書紀、神代紀上〕二神見而學レ之、卽得二交道一。

【交託】232 chiao¹ tuo¹ 預ける。委託する。

【交譮】233 タク こもごも責める。〔詩、北風、北門〕室人交徧譮レ我。〔傳〕譮、責也。

【交搭】234 タフ 南畫で、組みあはせをいふ。〔芥子園畫傳〕不レ重二四株一、竟作二五株一者、五株既熟、則千株萬株、可二以類推一。交搭巧妙、在二此轉關一。

【交單】235 タン 受取證・送狀など。單は、かきつけ。〔明律、戶律〕控二換交單籍冊一、申報瞞レ官者、竝計レ贓、以二監守自盜一論。

【交單交價法】236 chiao¹ tan¹ chia⁴ fa³ 商取引用語。賣主が貨物引換證と保險書とを買主に交付すると同時に、買主から直ちに其の物品代金を支拂ふをいふ。

【交談】237 chiao¹ t'an² 談話する。

【交地】238 チ 九地の一。敵も味方も往來し得る土地。〔孫子、九地〕我可二以往一、彼可二以來一者、爲二交地一。

【交馳】239 チ こもごもはせる。〔吳質、答二魏太子一牋〕軍書輻至、羽檄交馳。

【交質】240 チ ❶兩國が互に人質を取りかはす。〔左氏、隱、三〕周鄭交質、王子狐爲二質於鄭一、鄭公子忽爲レ質於周。〔會箋〕質、物相質當也。❷こもごも質入れをする。〔任昉、奏二彈劉整一文〕何其不レ能折二契鍾庾一而襜帷交質。〔注〕翰曰、言、嫂雖レ負二鍾庾之多一、亦宜二折券不レ論、而整爲二六斗米一、而取二嫂車帷一爲レ質、言二整之罪深一。

【交疇】241 チウ 互にむくいる。疇は酬の意。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕乘二桴滄流一、交二疇貨賄一。〔注〕五臣本作レ酬。

【交逐】242 チク 互に追ひかける。〔盧照鄰、五悲雜詩〕變化與二屈伸一、交逐、窮達與二存亡一、竝驅。

【交暢】243 チヤウ こもごものびる。〔蜀志、後主劉禪傳〕上下交暢、然後萬物協和。

【交韔】244 チヤウ 弓袋の中に弓を交へ置くこと。韔は弓袋。〔詩、秦風、小戎〕虎韔鏤膺、交二韔二弓一。〔傳〕交、韔、交二弓於韔中一也。

【交仗】245 chiao¹ chang⁴ 戰を交へる。仗は兵器。交兵。

【交通】246 ツウ ❶行きかよふ。行き渡る。〔禮、樂記〕若レ此、則周道四達、禮樂交通。❷相關係する。互に作用する。〔荀子、田子方〕至陰肅肅、至陽赫赫、肅肅出二乎天一、赫赫發二乎地一、兩者交通成和、而物生焉。❸往來する。交際する。〔管子、八觀〕外內交通、則男女無レ別。〔史記、灌夫傳〕諸所二交通一、無レ非二豪傑大猾一。〔韓愈、調二張籍一詩〕精誠忽交通。〔蘇軾、乞二責降韓縝一第七狀〕交二通左右一、以結二主知一。❹交はり通ずる。四方に通ずる。〔陶潛、桃花源記〕阡陌交通、雞犬相聞。

【交通時】247 ジ 交通機關で用ひられる時間。午前午後の區別をつけない。

【交通稅】248 ゼイ ❶財貨の價値移轉に對して課する稅。❷運輸通行等の行爲に對して課する稅。

【交通線】249 センセン 道路・鐵道・航路・通信・電話等の線をいふ。

【交通部】250 ブ 民國の中央官廳。鐵路・郵政・電政・航政を管理す。

【交通兵】251 ヘイ 交通事務に從ふ兵士。鐵道隊・通信隊・自動車隊等をいふ。

【交通票】252 chiao¹ t'ung¹ p'iao⁴ 交通部所管の國立銀行たる交通銀行の紙幣。

【交通網】253 モウ 四通八達の交通路。

【交通機關】254 キクワン 道路・橋梁・船舶・航空機・鐵道・電信・電話・郵便など、人・物・思想に關して、場所的又は人的移動の爲の設備をいふ。

【交通銀行】255 ギンカウ 清の光緒三十三年、郵傳部の設立にかかる特殊銀行。民國後、國庫の紙幣發行を代理し、國家銀行の一となる。

【交通出入】256 シュツニフ 外省の官吏が京師の大臣と書信を往來し、私事を囑託するをいふ。〔六部成語、吏部、交通出入、注解〕外省官員、與二京城大臣一交好、書信往來、囑二託情面一、謂二之交通情面一。

【交通大學】257 ダイガク 民國の國立大學。上海に

あり、一部は唐山・北京にある。

【交締】258 まじはり結ぶ。いりまじる。〔蘇軾、和ニ陶勧ニ農詩ノ〕獣蹤交締、鳥喙諧穆。

【交點】259 彼と此と相交はる點。交叉點。

『交點月』260 月が白道（月の天球上に於ける見かけ上の徑路）と黄道（太陽の天球上に於ける見かけ上の徑路）との交點を通過してから再び同じ交點を通過する迄の時間、約二十七日五時五分三十五秒八一。

【交纏】261 chiao¹ ch'an² 複雑する。混雑する。

【交賭】262 互に物を賭ける。賭事をしあふ。〔南史、蕭惠明傳〕齊高帝使ニ思莊與レ王抗交賭一。

【交頭】263 かしらを交へる。〔韓愈、叉魚招ニ張功曹ノ詩〕交頭疑ニ湊餌一、駢首類ニ同條一。

『交頭接耳』264 chiao¹ t'ou² chieh¹ êrh³ 耳元に口を寄せて、ひそひそと私語する。耳語する。〔水滸傳、十回〕他那三四個交頭接耳說話、正不聽得說甚麼。

【交藤】265 交りあつてゐる藤。〔謝朓、遊ニ敬亭山一詩〕交藤荒且蔓、樛枝聳復低。

【交關】266 まじはりたたかふ。〔左氏、昭、十六〕若屬有ニ讒人交ニ關其間一。〔魏志、郭嘉傳〕交ニ關其間一、還相離也。

【交納】267 chiao¹ na⁴ ㊀上納する。渡す。㊁拂ふ。拂込む。

【交入】268 chiao¹ ju⁴ 拂ひ込む。

【交年】269 陰暦十二月二十四日。小年夜（4－7473‥1013）。小節夜（4－7473‥794）を見よ。〔橘西雜記〕小年夜始ニ於宋時禁中一、大中祥符初、以ニ是日一爲ニ降聖節一、至ニ乾淳時一、爲ニ小節夜一、民間謂ニ之交年一、明沿ニ其俗一。

【交派】270 chiao¹ p'ai⁴ 命令により派遣せられる。布令を出す

【交佩】271 まじへおびる。〔楚辭、九章、思美人〕解ニ羣薄與ニ雜菜一兮、備以爲ニ交佩一。〔注〕交、合也、言ニ修飾彌盛一也。

【交拜】272 ㊀こもごも拜す。〔後漢書、馬援傳〕交拜禮畢。㊁婚禮の時、新郎が新婦を伴つて舅姑を拜し、室に入つて天地を拜し、終つて夫婦交ゝ相拜するをいふ。拜堂（5－11969‥96）に同じ。〔通禮〕壻親迎歸、引レ婦升ニ西階一入レ室、交拜訖、行ニ合巹宴一。

『交拜禮』273 たがひに拜し合ふ禮。〔福惠全書、蒞任部、到衙門、堂前行ニ交拜禮一。

【交配】274 動植物に人工的の受精を行ふこと。

【交縛】275 しばる。〔後漢書、廉范傳〕令下軍士各交ニ縛兩炬一、二頭熱レ火、營中星列。

【交盤】276 ㊀官吏が交代する時、庫中に在る金錢粮食其の他の物件を檢査して引繼ぎをすること。〔福惠全書、莅任部、親ニ查閱一〕至ニ于庫銀倉穀一、尤屬ニ交盤重務一。〔六部成語、吏部、交盤、注解〕交代之時、將ニ庫中存項一、盤運杼兌無レ差、新任乃接受。㊁chiao¹ p'an² 引渡す。引繼ぐ。交代する。店を讓る。「帳。

『交盤冊』277 chiao¹ p'an² ts'e⁴ 受取帳。受渡

【交番】278 ㊀かはるがはる番をする。代り合つて番をする。〔宣和遺事、前集下〕便上弄交番厮替、告ニ官裏一。㊁巡査の派出所。

『交番仗』279 かはるがはる立つ護衛の兵士。〔唐書、儀衛志上〕宣政左右門仗、內仗、皆分ニ三番一而立、號曰ニ交番仗一。

【交臂】280 臂をまじへること。㊀憤るときの樣子。〔呂覽、順民〕孤與ニ吳王一、接レ頸交レ臂而僨。㊁手を拱いて謹むさま。拱手。〔戰國、韓策〕今大王、西面交レ臂、而臣ニ事秦一。〔史記、田敬仲完世家〕交レ臂而事ニ齊楚一。〔越絕書、越絕內傳陳成恆〕整ニ襟交レ臂。㊂人の相逢ふ喩。〔莊子、田子方〕吾終身與レ女、交ニ一臂一而失レ之。〔注〕夫變化不レ可ニ執而留一也、故雖ニ執レ臂相守一、而不レ能ニ令停一。㊃うしろ手に縛られる。交臂歷指を見よ。

『交臂歷指』281 身體の自由が利かぬさま。〔莊子、天地〕則是罪人交臂歷指、而虎豹在ニ於囊檻一也、亦可ニ以爲ニ得矣一。〔釋文〕司馬云、交臂、反縛、歷指、猶ニ歷樓貌一。

【交轡】282 たづなを交へる。〔儀禮、既夕禮記〕北面交ニ轡、圍人夾牽レ之。

【交尾】283 つるむ。牝牡相まじはる。又、單に尾ともいふ。〔傳〕交接曰ニ尾一。

【交眉】284 人相の上で、みづちのやうな形をした眉。交は蛟に通ず。〔述異記〕蛟眉連生、連生則交矣、相書所謂交眉、則蛟屋之眉、是也。

【交付】285 わたす。授ける。交附。交執。交收（137）の對。〔文獻通考、田賦考、歷代田賦之制〕如五周年後歸ニ業者一、莊田除ニ本戶墳塋一外、不レ在ニ交付一。〔桂苑叢談〕交ニ付下次金樣一。

【交孚】286 互に誠のあること。志を同じくして疑はないこと。〔易、睽〕睽孤、遇ニ元夫一交孚、厲无レ咎。〔注〕同志相得、而无ニ疑焉一、故曰ニ交孚一也。

【交附】287 交付（285）に同じ。

【交部】288 chiao¹ pu⁴ ㊀主權者から、ある事件を中央各省に交付して議せしめること。㊁交通部の略稱。

【交紛】289 入り亂れる。交亂。交瞀。〔張衡、西京賦〕上攡華以交紛。〔注〕良曰、攡華交紛、言ニ文綵交錯一也。

【交分】290 交際の本分。まじはり。〔白居易、與ニ微之一書〕終論ニ平生交分一。

【交兵】291 兵をまじへる。戰をする。交戰。〔管子、大匡〕今而帶レ劍、是交レ兵。〔吳子、勵士〕交レ兵接レ刃。〔漢書、陳餘傳〕如此、野無レ交レ兵、誅ニ暴秦一。

【交幷】292 まじる。一緒になる。〔梁簡文帝、答ニ新渝侯和ニ詩書一〕手持ニ口誦一、喜荷交幷也。〔蘇軾、謝ニ賜ニ對衣金帶馬一表一〕拜恩俯僕、流汗交幷。

【交付】293 chiao¹ p'ien⁴ 交付する文書。

【交甫】294 周の人。鄭交甫（11－39647‥317）をいふ。〔神仙傳〕江妃二女、遊ニ於江濱一、逢ニ鄭交甫一、交甫不レ知ニ何人一也、目而挑レ之、女遂解レ佩與レ之、交甫行數步、空懷無レ佩、女亦不レ見。〔曹植、洛神賦〕感ニ交甫之棄言一兮、悵猶豫而狐疑。

『交甫解佩』295 蒙求の標題。周の鄭交甫といふ者が二人の美女に逢ひ、其の佩玉をもらひ受けて懷中に入れ、數十步行く中に佩玉はいつしかなくなり、後を振りむけば二女もかき消す如く見えなくなつた。この二女は、堯の女、舜の妃である娥皇・女英の化身であつたといふ故事。交甫を見よ。

【交朋】296 ともだち。朋友。友人。〔白居易、祭ニ微之一文〕四海之內、誰無ニ交朋一。〔歐陽脩、伏日贈ニ徐無二生一詩〕清泉白石對ニ斟酌一、巖花野鳥爲ニ交朋一。

【交鋒】297 ほこをまじへる。たたかふ。〔後漢書、袁紹傳〕臣卽星駕席卷、與レ瓚交レ鋒、假レ天之威、每レ戰輒克。〔陸機、辨亡論上〕戰無ニ交鋒之虜一。

【交貿】298 品物と品物とを取り換へる。交易（16）に同じ。〔左思、吳都賦〕交貿相競。〔梁簡文帝、移市教〕日中總會、交貿遷移。

【交贊】299 入りみだれる。交紛。〔南齊書、良政傳贊〕枉直交贊。

【交名】300 ㊀上進書などに數多の人の名を記した書付。連名。〔內裏式、上〕大臣進ニ宣命文及見參侍從交名一。㊁字アザをいふ。〔倭訓栞、前編二、あざな〕字をよめり、交名の義なり、人に交るより呼べる名なればなり。

【交盟】301 ちかひをむすぶ。〔徐陵、冊ニ陳公九錫一文〕屈レ禮交レ盟、人祇感咽。

【交門】302 漢、武帝の建てた宮殿。〔漢書、武帝紀〕祠ニ神人于交門宮一、若有ニ鄉坐拜者一、作ニ交門之歌一。〔注〕晉灼曰、琅邪縣有ニ交門宮一、武帝所ニ造。

【交野】303 ㊀河內國の舊郡名。〔倭名類聚抄〕。㊁姓氏。〔新撰姓氏錄考證、二十〕。

【交與】304 ㊀こもごもくみする。〔易、艮、上下敵應、疏〕皆峙敵不ニ相交與一。㊁渡す。交附。交給（51）に同じ。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕上手存ニ庫、交ニ與下手一者也。

【交羅】305 こもごも陳列する。〔柳宗元、乞巧文〕賓餌馨香蔬果交羅。

【交絡】306 まじはりまつはる。〔後漢書、禮儀志下〕上周交ニ絡前後雲氣畫帷裳一。

【交亂】307 まじはり亂れる。交紛。〔韓詩外傳、四〕交亂樸鄙、則是十子之罪也。

【交利】308 ㊀互に利し合ふ。〔禮、檀弓下〕文子其中退然、如レ不レ勝レ衣、其言吶吶然、如レ不レ出ニ諸其口一、所レ擧ニ于晉國一、管庫之士、七十有餘家、生不ニ交利一、死不レ屬ニ其子一焉。〔漢書、貨

殖傳序〕相與通レ功易レ事、交利而俱贍。〔白居易、動靜交相養賦〕養レ之、則兩全而交利、不レ養レ之、則兩傷而交病。〔墨子、兼愛中〕況乎兼相愛、交相利、則與レ此異。㊁chiao^{1} li^{4} 利子を支拂ふ。

【交梨】309 カウリ 仙人の食物。仙藥の名。交梨火棗を見よ。〔秦觀、和三程給事贈二虞道判一詩〕火棗交梨近可レ飡、不レ須地肺及二天壇一。

〔交梨火棗〕310 カウリクワサウ 交梨と火棗。ともに神仙の食ふ果物。仙藥。〔眞誥〕玉醴金漿、交梨火棗、此則飛騰之藥、不レ比二金丹一。〔陳基、茘漿詩〕一杯入レ口壽千歲、安用三火棗幷二交梨一。〔故事成語考、釋道鬼神〕交梨火棗、盡是仙丹。

【交流】311 カウリウ ㊀交はり流れる。〔曹昭、東征賦〕望二河洛之交流一兮。〔方孝孺、絕命詞〕忠臣發レ憤兮、血淚交流、以レ此殉レ君兮、抑又何求。㊁時間の經過に伴ひ、規則正しく週期的に方向・強度を變ずる電流。㊂彼と此との入れ替へ。

〔交流發電機〕312 カウリウハツデンキ 交流電氣を發生する發電機。直流發電機(**8—23136**・・268)を見よ。

【交領】313 カウリヤウ ㊀衣服のえり。えもん。〔爾雅、釋器、衣皆謂二之襟一疏〕襟、謂二交領一也。〔晉書、五行志上〕元康末、婦人出二兩襠一、加二乎交領之上一、此內出レ外也。㊁うけをさめる。うけとる。〔杜苑叢談〕交領已分明。

【交糧】314 カウリヤウ 年貢を渡す。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕百姓上レ倉交レ糧。

【交龍】315 カウリヨウ ㊀二龍の交る形を畫いたもの。〔周禮、春官、司常〕交龍爲レ旂。㊁みづち。蛟龍。〔漢書、高帝紀上〕父太公往視、則見二交龍於上一。

〔交龍錦〕316 カウリヨウキン 蛟龍の模樣のある錦。〔魏志、倭人傳〕詔書、報二倭女王一曰、云云、今以二絳地交龍錦五匹一、云云、答三汝所二獻貢一。

【交輪】317 カウリン 車の輪。車輪。〔鄭遵、詩〕春晚駕二香車一、交輪礙二狹斜一。

【交縷】318 カウル 入りまじりもつれて、ほどけない絲。〔徐陵、詠二織婦一詩〕振レ躡開二交縷一、停レ梭續二斷絲一。〔虞世南、中婦織二流黃一詩〕綜新交縷澁、經脆斷絲多。

【交黎】319 カウレイ 縣名。漢、置く。滿洲熱河省淩源縣。〔漢書、地理志下〕遼西郡、縣十四、交黎。

【交禮】320 カウレイ 交際の禮儀。又、禮を交はす。〔左氏、昭、二十三〕守二其交禮一。〔注〕交接之禮也。〔白虎通、嫁娶〕先封レ之、明レ不下與二聖人一交上禮也。

【交靈】321 カウレイ ㊀二つの靈氣が合致すること。又、其のもの。〔魏文帝、感物賦〕伊陽春之散節、悟二乾坤之交靈一。㊁魂と魂とが交はる。心情を取り換はすこと。〔蔡邕、檢逸賦〕晝騁レ情以舒レ愛、夜抵レ夢以交レ靈。

【交連】322 カウレン まじり連なる。〔吳志、周泰傳、注〕權把二其臂一、因流涕交連。〔公乘億、奬公塔碑銘〕幡花艷開、螺唄交連。

【交蘆】323 カウロ 佛 交叉して立てた三幹の蘆。互に因果となる喩。〔楞嚴經、五〕由レ塵發レ根、因レ根有レ相、相見無性、同二於交蘆一。

【交露】324 カウロ 珠を交錯して造つたとばりで、其の形が露の垂れたやうになつたもの。〔無量壽經〕以二眞珠明月摩尼衆寶一、以爲二交露一、覆二蓋其上一。〔望西樓鈔、五〕交露者、幔也、字林云、幔幕絃絃、似二垂露一。

【交臚】325 カウロ 鳥の名。ごゐさぎ。鵁鶄(**12—46888**・・2)の異名。〔本草、鵁鶄〕釋名、交臚、時珍曰、說文謂二之交臚一、臚亦目瞳子也。

【交和】326 カウワ ㊀兩者互に和し合ふこと。〔易林〕交和結レ好、昭君是福。〔張衡、東京賦〕於レ是陰陽交和、庶物時育。〔晉書、羊祜傳〕孫皓聞二境交和、以詰抗、祜曰、一邑一鄕、不レ可三以無二信義一、況大國乎、臣不レ如レ此、正是彰二其德一、于レ祜無レ傷也。㊁兩軍が相對峙すること。和は軍門をいふ。〔戰國、齊策〕與レ秦交和而舍、使者數相往來。〔孫子、軍爭〕交和而舍。〔注〕軍門爲二和門一、兩軍相對曰二交和一。

【交往】327 カウワウ ㊀交際する。ゆききする。〔尉繚子、分塞令〕無レ通二其交往一。㊁chiao^{1} wang^{3} 取引する。

【交橫】328 カウワウ 淚などが盛んに流れることにいふ。〔潘岳、寡婦賦〕氣憤薄而乘レ胷兮、涕交橫而流レ枕。

〔交橫綢繆〕329 カウワウチウビウ 縱橫にもつれ合ふ。〔蘇洵、仲兄字文甫說〕泊二乎順流一、至二乎滄海之濱一、滂薄洶涌、號怒相軋、交橫綢繆。

【息レ交】330 ヲマジハリヤム 交際を絕つ。世と交らぬ。〔陶潛、歸去來辭〕歸去來兮、請息レ交以絕レ游。

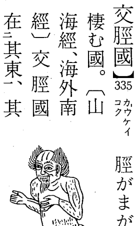
【內レ交】331 ヲマジハリイル 交際を求める。〔孟子、公孫丑上〕非三所二以內二交於孺子之父母一也。

【賣レ交】332 ヲマジハリウル 友人を欺く。賣は欺く意。〔史記、樊酈滕灌傳〕天下稱二酈況賣レ交也。

【交虯盦】333 カウキウアン 周代の鼎のふた。外に二匹の虯を著けてゐるからいふ。〔博古圖、盦、周交虯盦〕周交虯盦、純緣、外著以二交虯一、兩耳作二連環一、所三以便二於提攜一、以レ圈爲レ足、器中純素、略無二文彩一。

【交響樂】334 カウキヤウガク 多種多樣の樂器を使つて合奏する音樂。管絃樂の一。シンフォニー。symphony

【交脛國】335 カウケイコク 脛がまがつて相交はつた人の棲む國。〔山海經、海外南經〕交脛國在二其東一、其爲レ人交脛。〔注〕言二腳脛曲戾相交一。〔三才圖會、人物、十四〕交脛國、國人腳脛曲戾而相交。



交脛國（三才圖會）

【交月雨】336 カウゲツウ 月ごしの雨。

【交山堂】337 カウザンダウ 清、朱衍(**6—14424**・・54)の室名。

【交心酒】338 chiao^{1} hsin^{1} chiu^{3} 夫婦の杯。交盃盞(342)を見よ。〔桃花扇、訪翠〕你們一對兒、吃個交心酒何如。

【交翠軒】339 カウスイケン ㊀清、沈濤(**6—17189**・・277)の室名。㊁松浦默の號。松浦交翠(**6—14516**・・386)を見よ。

【交綫戲】340 chiao^{1} hsien^{4} hsi^{4} 小兒の遊戲の一種。あやとり遊びの類。

【交杯酒】341 カウハイシユ 婚禮の日、夫婦が炕上で杯を取り交はす禮。二個の杯を紅い絲でつなぎ、夫婦が各〻其の一つを持ち、同時に酒を飲み、終つて互に杯を交換して、三回これをくりかへす。〔東京夢華錄〕凡娶二媳婦一、撤レ帳後、用二兩盞一、以レ綵結連レ之、互飮二一盞一、謂二之交杯酒一、飮訖、擲二盞幷花冠子於床下一、盞一仰一合、俗云二大吉一。

【交盃盞】342 chiao^{1} pei^{1} chan^{3} 三三九度の盃。交心酒。交杯酒を見よ。〔紅樓夢、二十回〕交盃盞還沒吃。

【交買賣】343 chiao^{1} mai^{3} mai^{4} 取引をする。交易する。

【交不レ著】344 マジハリチヤクセズ 交際が親密でない。仲がしつくりと行かない。〔通俗編、交際、交不レ著〕劉貢父詩話、蘇子美魁偉、與レ宋中道竝立、宋穎利而么麽、下二睨之一笑曰、交不レ著、蓋京師市井語也。

【交民巷】345 カウミンカウ 北京內城の東南隅にある外國公館街の一區劃をいふ。〔北京指南、行政、外國使署〕美國使署、東交民巷。

【交淡如レ水】346 マジハリアハキコトミヅノゴトシ 君子の交際のさつぱりしてゐることをいふ。〔禮、表記〕君子之接如レ水、小人之接如レ醴、君子淡以成、小人甘以壞。〔注〕水相得合而已、酒醴相得則敗、淡無二酸酢一少レ味也、接或爲レ交。〔莊子、山木〕君子之交、淡若レ水、小人之交、甘若レ醴、君子淡以親、小人甘以絕。

【交綴蒙絡】347 カウテツモウラク ぐるぐるとからみついて茂つてゐること。〔金昌協、自二正陽一歷二圓通洞一還二表訓一記〕交綴蒙絡、披拂下垂。

【交白卷子】348 カウハクケンシ 受驗者が答案用紙を白紙のままで出すこと。〔六部成語、禮部、曳白、注解〕不レ能レ做レ之、亦不レ成二一字一、只以二白紙卷子一呈交、謂二之曳白一、俗名二交白卷子一。

【借レ交報レ仇】349 カウニカシテキウヲハウズ 他人の爲に代つて仇を報ずること。荆軻・聶政の類。借レ客報レ仇(**3—7128**・・187)に同じ。〔史記、游俠、郭解傳〕少時陰賊、慨不レ快レ意、身所レ殺甚衆、以レ軀借レ交報レ仇、藏レ命作レ姦、剽攻不レ休。〔史記、貨殖傳〕閭巷少年、任俠幷兼、借レ交報レ仇、不レ避二法禁一、走二死地一如レ騖者、其實皆爲二財用一耳。

【析レ交離レ親謂二之賊一】350 マジハリヲサキシンヲハナレシムルコレヲゾクトイフ 人の交を裂き破り、親しいもの同士を離れさせるのを賊といふ。〔莊子、漁父〕好言二人之惡一、謂二之讒一、析レ交離レ親、謂二之賊一。

【亥】292

㊀カイ 〔集韻〕下改切 〔賄〕

㊁ガイ ㄏㄞˋ hai^{4}

㊂カイ 〔辭海〕基埃切 〔灰〕

〓 小篆 〓 古文 〓 古文 [一]❶ゐ。十二支の第十二位。〔說文通訓定聲〕亥、以紀レ旬、爲二十二枝之末一。㋑ゐの年。〔爾雅、釋天〕太歳在レ亥、曰二大淵獻一。㋺ゐの月。十月。〔漢書、律歷志上〕位二於亥一在二十月一。〔孔穎達、周易正義序〕建亥之月、純陰用レ事。〔庾信、哀江南賦序〕戊辰之年、建亥之月。㋩ゐの日。〔書、多方〕惟五月丁亥、王來レ自レ奄。〔儀禮、少牢饋食禮〕丁亥用薦。〔唐書、禮樂志〕吉亥、祀二先農一。㋥ゐの時。今の午後九時頃。〔隋書、天文志〕冬至、日出辰正、日入申正、晝四十刻、夜六十刻、子丑亥各二刻。㋭五行では、水に配當する。〔左氏、昭、三十〕亥、水也。〔論衡、物勢〕亥、水也。㋬方角では、西北と北との閒。〔淮南子、天文訓〕立冬加二十五日一、指レ亥則小雪。〔隋書、禮儀志二〕隋制、於二國城西北十里亥地一、爲二司中・司命・司祿三壇一。㋣獸類では、ゐのこ。〔論衡、物勢〕亥、其禽豕也。❷かねる。かたい。とざす。〔釋名、釋天〕亥、核也、收二藏百物一、核二取其好惡眞僞一也、亦言二物成皆堅核一也。〔史記、律書〕亥者、該也、言下陽氣藏二於下一、故該上也。〔漢書、律歷志〕該閡二於亥一。〔淮南子、天文訓〕亥者、閡也。❸陰氣極まつて陽氣のきざすこと。根ざす。きざす。〔說文〕亥、荄也、十月、微昜起、接二盛侌一、从レ二、二、古文上字也、一人男、一人女也、从レ乚、象二褢子咳咳之形一也、春秋傳曰、亥有二二首六身一。〔段注〕荄者、根也、陽氣根二於下一也、十月、於レ卦爲レ坤、微陽從二地中一起、接二盛陰一、卽壬下所レ云、陰極陽生也。〔廣雅、釋言〕亥、荄也。❹古は帀（4－8779）・豕（10－36334）に作る。〔說文〕亥、帀、古文亥、亥爲レ豕、與レ豕同、亥而生レ子、復從レ一起。〔集韻〕亥、古作レ豕。❺姓。〔魏書、官氏志〕後魏俟亥氏、後改爲二亥氏一。[二]市の名。亥市（4）を見よ。

[解字] 象形。豕と同字。亠は亥の省體で、豕の頭部の形を表はし、儿は其の體と四足とに象る。假借して十二支の第十二位とする。說文では、二と二人と乚とを合はせた會意字とする。二は古文の上字で、陰氣が上に在る意を表はす。二人は、男一人、女一人。乚は子を懷く形で、男女陰陽が相交はつて子を生ずる義から、陽氣が下に起きる象とする。亥は十月にあたり、盛陰上に在り微陽下に起る象であるから、二と二人と乚とを以て其の義を表はす。〔說文通訓定聲〕亥、按、古文當レ作レ〓、卽豕之古文、〓字加レ尾、亥豕一字、古作レ〓、作レ〓、作レ〓、篆作レ〓、作レ〓、皆从二古文一小變耳、二者亠省、下象二身與二四足一。

【亥月】1 ガイゲツ 陰曆十月の異名。字解の❶の㋺を見よ。〔庾信、哀江南賦序〕粵以二戊辰之年、建亥之月一。〔孔穎達、周易正義序〕建亥之月、純陰用レ事。

【亥算】2 ガイサン 亥の字を借りて數を著すもの。二首六身（1－247・・562）を見よ。〔左氏、襄、三十〕亥有二二首六身一、下二如レ身、是其日數也。

【亥子】3 ヰノコ 陰曆十月の節日の稱。十月は、北斗の斗柄が亥に向ふから亥月といひ、此の月の初の亥の日の亥の刻に亥子餠を食へば、萬病を除くといふ。又、此の日に炬燵開きをする習俗がある。〔看聞日記〕應永二十四年十月五日、今夜亥子也。

【亥市】4 ガイシ 亥の日に市を立てること。一說に、亥は痎で、痎瘧の病が時を經て起るやうに、日子を隔てて市を爲すからともいふ。〔通雅〕靑箱雜記、蜀有二亥市一、亥音皆、言レ如二痎瘧閒レ日一發一也、諱レ痎、故云二亥市一。〔洪氏隆興職方乘〕嶺南村落有レ市、謂二之虛一、以下其不二常會一、多中虛日上也、西蜀曰レ痎、言レ如二痎疾閒而復作一、江南惡二以レ疾稱一、因止曰レ亥。〔徐筠水志〕荊吳俗、以二寅申巳亥日一、集二於市一、故名。

【亥豕】5 ガイシ ❶文字のうつしあやまり。己亥の二字を三豕と誤つた故事。〔呂覽、察傳〕子夏之レ晉過レ衞、有下讀二史記一者上曰、晉師三豕涉レ河、子夏曰、非也、是己亥也、夫己與レ三相近、豕與レ亥相似、至二於晉一而問レ之、則曰、晉師己亥涉レ河也。〔孔子家語、七十二弟子解〕卜商嘗返レ衞、見下讀二史志一者上云、晉師伐レ秦、三豕渡レ河、子夏曰、非也、己亥耳、讀二史志一曰、問二諸晉史一、果曰、己亥。〔白孔六帖〕以レ己爲レ三、以レ亥爲レ豕。❷十二支のゐと家畜のゐとをいふ。〔蔡邕、月令問答〕凡十二辰之禽、五時所レ食者、必家人所レ畜、丑牛・未羊・戌犬・酉雞・亥豕而已、其餘龍虎以下、非レ食也。

〔亥豕之譌〕6 ガイシノクワ 亥豕の❶を見よ。

【亥唐】7 ガイタウ 春秋、晉の賢人。隱居して仕へず、晉の平公と交はる。〔孟子、萬章下〕晉平公之於二亥唐一也、入云則入、坐云則坐、食云則食。〔高士傳〕晉平公時、朝多二賢臣一、唐獨不レ官、隱二於窮巷一、平公聞二其賢一、致レ禮與相見。

【亥步】8 ガイホ 禹の臣、豎亥の健脚をいふ。〔淮南子、墬形訓〕使二豎亥步一、自二北極一至二于南極一、二億三萬三千五百里七十五步。〔江總、辭二行李一賦〕輶軒巡履、聲芳二亥步一。

【亥既珠】9 ガイキシュ 珠玉の名。〔瑯嬛記〕河伯宴二伯禹於河上一、獻二亥既之珠一、亥既珠者、夜中宴樂、懸二於殿中一、光徹如二白日一、客甫持レ觴、而珠中衆音互作、宴罷、音亦已。

【亥靈胎】10 ガイレイタイ 人の影に宿る第八番目の神をいふ。九影の一。〔酉陽雜俎、廣知〕道士郭采眞言、人影數至レ九、成式常試レ之、至二六七一而已、外亂莫二能辨一、郭言、漸益レ炬則可レ別、又說、九影各有レ名、影神一名二右皇一、二名二魍魎一、三名二洩節樞一、四名二尺鳧一、五名二索關一、六名二魄奴一、七名二竈凶一、舊抄、九影名在二廡面紙中一、向下兩字魚食、八名二亥靈胎一、九魚全食不レ辨。

【亥有二二首一】11 ガイニシユアリ 亥の字をいふ。二首六身（1－247・・562）を見よ。〔後漢書、謝該傳〕黃能入レ寢、亥有二二首一。

【亦】293 〓 小篆 エキ ヤク 〔集韻〕夷益切 [陌]。

❶また。助辭。〔字彙〕亦、按、此字古原用爲二掖字一、象二兩掖之形一、後有二掖腋字一、不二復用二亦字一、遂借二亦字一爲二亦又字一。㋑もまた。上を承けて他に及ぶ語。〔正字通〕亦、又也、又、旁及之辭。〔公羊、昭、十七〕北辰亦爲二大辰一。〔注〕亦者、兩相須之意。〔書、康誥〕怨不レ在レ大、亦不レ在レ小。〔論語、爲政〕是亦爲レ政也。〔論語、公冶長〕左丘明恥レ之、丘亦恥レ之。〔孟子、梁惠王上〕王亦曰二仁義一而已矣。〔孟子、公孫丑上〕聖人之於レ民、亦類也。㋺倂せ說く語。〔詩、大雅、烝民〕柔亦不レ茹、剛亦不レ吐。㋩又（2－3115）に同じ。〔正字通〕亦、又也。〔論語、學而〕學而時習レ之、不二亦說一乎。〔皇疏〕亦、猶レ重也。〔左氏、僖、二十四〕盍二亦求一レ之。〔國語、吳語〕王其盍二亦鑑二於人一。㋥ただ。〔辭海〕亦、特也、但也。〔戰國、齊策〕王亦不レ好レ士耳、何患レ無レ士。㋭無意味の助語。〔經傳釋詞、一〕亦、有下不レ承二上文一、而但爲二語助一者上、若二易井彖辭曰、亦未レ繘レ井。❷すべて。〔正字通〕亦、總也。〔書、皐陶謨〕亦行有二九德一。〔蔡傳〕亦、總也。❸をさめる。〔廣雅、釋詁三〕亦、治也。❹おほいに。奕（3－5922）に通ず。〔說文通訓定聲〕亦、叚借爲レ奕。〔詩、周頌、豐年〕亦有二高廩一。〔箋〕亦、大也。〔詩、周頌、噫嘻〕亦服二爾耕一。〔箋〕亦、大也。❺たやすい。易（5－13814）に通ず。〔說文通訓定聲〕亦、叚借爲レ易。〔列子、黃帝〕二者亦レ知。〔注〕亦、當レ作レ易。〔素問、氣厥論〕謂二之食亦一。〔注〕亦、易也。❻わきのした。腋

(9－29615)・掖(5－12262)に通ず。もと夾(3－5842)に作る。〔正字通〕亦、本作ㇾ夾。〔說文〕夾、人之臂亦也、从ㇾ大、象二兩亦之形一。❼古は亣(1－294)に作る。〔字彙補〕亣、古文亦字。❽射(4－7434)に通ず。〔漢書、古今人表〕曹嚴公亦姑。〔注〕師古曰、卽射姑也。❾帟(4－8873)に通ず。〔說文通訓定聲〕亦、字亦作ㇾ帟。❿姓。〔萬姓統譜〕亦、見二姓苑一亦尙節、開禧進士。

解字 指事。大と八の合字。大は人、八は臂と身體との間をさす。故にわきのこと。今、別に腋に作る。臂と身と重ねることから重累の意となり、語助の詞としてまたの義に用ひる。假借して、大也、甚也、易也とする。〔說文、亦、段注〕徐鉉等曰、亦、今別作ㇾ腋、按、廣韻、肘腋作二此字一、俗用ㇾ亦爲二語詞一、乃別造ㇾ此、云云、人臂兩垂、臂與ㇾ身之閒、則謂二之臂亦一、臂與ㇾ身有二重疊之意一、故引申爲二重累之詞一。

【亦菴】1 エキアン 字號。❶宋、張鎡(4－9812・・361)の號。❷清、向文煥(2－3301・・118)の字。

【亦已】2 エキイ 明、本以(6－14421・・4)の號。

【亦越】3 エキエツ 上を承けて下を起す辭。〔書、立政〕亦越成湯、陟丕釐二上帝之耿命一。〔蔡傳〕亦越者、繼ㇾ前之辭也。

【亦園】4 エキエン 清、周於禮(2－3441・・552)の號。

【亦各】5 マタオノオノ それぞれ。いろいろ。〔詩、鄘風、載馳〕女子善懷、亦各有ㇾ行。〔疏〕亦各、不ㇾ一之辭。〔論語、先進〕亦各言二其志一也。

【亦韓】6 エキカン 字號。❶清、惲彥琦(4－10857・・10)の字。❷清、陳祖范(11－41698・・1079)の字。

【亦顏】7 エキガン 宋、陸祜(11－41708・・6)の字。

【亦軒】9 エキケン 字號。❶清、朱倫瀚(6－14424・・1027)の字。❷清、錢東垣(11－40563・・403)の號。

【亦佐】10 エキサ 縣名。元、置く。唐の盤州の地。故城は雲南省羅平縣。〔讀史方輿紀要、雲南、曲靖軍民府〕亦佐縣、本漢牂牁郡之宛溫縣地、云云、元至元閒、幷入二羅雄州一、尋復置二今縣一。

【亦才】11 エキサイ 清、徐鼒(4－10110・・138)の號。

【亦山】12 エキザン 清、李巒(6－14459・・787)の字。

〖亦山草堂〗13 エキザンサウダウ 清、陳維嵋(11－41698・・642)の室名。

【亦資】14 エキシ 明、王肇坤(7－20823・・1969)の字。

【亦純】15 エキジュン 清、朱樟(6－14424・・365)の字。

【亦世】16 エキセイ 累世に同じ。〔武榮碑〕亦世載ㇾ德。

【亦陶】17 エキタウ 字號。❶清、金侃(11－40152・・170)の字。❷清、宋鎔(3－7078・・205)の字。

【亦亭】18 エキテイ 清、鄭世元(11－39647・・466)の字。

【亦農】19 エキノウ 民國、殷汝耕(6－16627・・167)の字。

【亦房】20 エキバウ 明、王臿(7－20823・・1061)の字。

【亦白】21 エキハク 清、李曰滌(6－14459・・886)の字。

【亦凡】22 エキハン 清、李人鳳(6－14459・・1527)の字。

【亦范】23 エキハン 清、鄔希文(11－39570・・7)の字。

【亦廬】24 エキロ 清、湯斯祚(7－17874・・174)の號。

【亦爲堂】25 エキヰダウ 明、史孟麟(2－3249・・274)の室名。

【亦可居】26 エキカキョ 清、毛祥麟(6－16772・・286)の室名。

【亦佳室】27 エキカシツ 清、蘇廷玉(9－32427・・271)の室名。

【亦玉堂】28 エキギョクダウ 明、沈鯉(6－17189・・390)の室名。

〖亦玉堂稿〗29 エキギョクダウカウ 書名。十卷。明、沈鯉撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【亦在園】30 エキザイエン 清、賀行素(10－36725・・124)の室名。

【亦適齋】31 エキテキサイ 清、駱騰鳳(12－44734・・30)の號。

【亦都護】32 イディクート ウイグル族君長の稱號。拔悉密が此の稱號を用ひたのを初として、高昌を中心とするウイグル族の王も之を稱した。〔元史、巴而朮阿而忒的斤傳〕巴而朮阿而忒的斤亦都護、亦都護者、高昌國主號也。

【亦納思】33 エキナフシ 元の太祖の時の欽察部の酋。太祖が篾里乞部を征伐した時、其の酋の脫脫は亦納思の許に逃れたので太祖は屢〻之を求めたが應じなかつた爲に、遂に哲別・速不台の二將が欽察部に侵入し、亦納思等は潰滅した。〔新元史、一百五十七〕。

【亦不剌】34 ライブ 明代、蒙古の部酋。正德四年、西海に入り、阿木多地方を治む。河套の吉囊に破らる。〔明史、三百二十六〕。

【亦不喇】35 ライブ 山名。甘肅省鎭番縣の東北。蒙古の阿拉善旗と界を接す。

【亦樂堂】36 エキラクダウ 清、陶自悅(11－41705・・194)の室名。

【亦剌河】37 イリガハ 新疆省の伊犁河。元代には亦剌河といふ。

【亦有秋齋】38 エキイウシウサイ 清、鈕福疇(11－40228・・18)の號。

【亦有生齋】39 エキイウセイサイ 清、趙懷玉(10－37171・・477)の號。

【亦囂囂齋】40 エキガウガウサイ 清、雷學淇(12－42245・・176)の號。

【亦黑迷失】41 イヘイミシ 元、畏吾兒の人。至元中、入つて宿衞となり、海外の八羅孛・僧迦剌・馬八兒等の國に使す。仁宗、其の功を嘉し、吳國公に封ず。官は平章政事。〔元史、一百三十二〕・〔新元史、一百八十二〕。

【亦思馬因】42 イスマイル 元の世祖の時、西域から大砲の製法を傳へた人。波斯人といはれる。至元八年、世祖は伊兒汗阿八哈に砲匠を求めたので、伊兒汗は亦思馬因と阿老瓦丁との二人を遣はした。よつて亦思馬因は大都で礮を製造し、次いで襄陽の攻擊に參加し、礮を用ひて守將呂文煥を降し、功によつて礮手總管となる。〔元史、二百三〕・〔新元史、一百五十二〕。

【亦集乃海】43 エチナイカイ 寧夏省の西北部にある鹹湖、居延海。元代には亦集乃海といふ。

【亦集乃路】44 イチナイロ 路名。元、置く。今の額濟納。もと土爾扈特部の游牧の地。漢の居延の故城がある。今の寧夏省居延縣の境。〔讀史方輿紀要、陝西、甘州後衞、居延城〕至元二十三年、立二亦集乃路總管府一、東北有二大澤一、西北俱接二沙磧一、明初、馮勝拔二肅州一、進至二掃林山一、取二亦集乃路一是也。

【亦必道人】45 エキヒツダウジン 明、鄔正畿(11－39614・・5)の號。

【亦步亦趨】46 エキホエキスウ 人が步めば自分も步み、人がはしれば自分も趨る。弟子が師の爲す所を學ぶこと。〔莊子、田子方〕顏淵問二於仲尼一曰、夫子步亦步、夫子趨亦趨、夫子奔逸絕ㇾ塵、而回瞠二若乎後一矣。

【亦剌八里】47 イリバリク 元代、西北の地名。新疆省伊犁河の邊。亦剌は伊犁、八里は回紇語で城の意。耶律楚材の西游錄には、亦列八里とある。

【亦力撒合】48 イリサホ 元の人。察罕の從孫。至元中、召されて速古兒赤となり、親幸せらる。至正中、御史大夫となり、治績あり。後、官は四川行省左丞。〔元史、一百二十〕。

【亦憐眞班】49 イリエンチョンパン 元の人。謚は忠獻。官は江西行省左丞相。〔元史、一百四十五〕。

【不二亦樂一乎】50 マタタノシカラズヤ なんと樂しいではないか。〔論語、學而〕有ㇾ朋、自二遠方一來、不二亦樂一乎。〔集注〕說在ㇾ心、樂主二發散在ㇾ外。

【不二亦惑一乎】51 マタマドハズヤ なんと迷つたことではないか、おろかなことである。〔呂覽、察今〕楚人有二涉ㇾ江者一、其劍自二舟中一墜二於水一、遽契二其舟一曰、是吾劍之所二從墜一、舟止、從二其所ㇾ契者一入ㇾ水求ㇾ之、舟已行矣、而劍不ㇾ行、求ㇾ劍如ㇾ此、不二亦惑一乎。

【亣】294

エキ 亦(1－293)の古字。〔字彙補〕亣、古文亦字。

五畫

【亨】295

㊀ カウ キヤウ 〔集韻〕虛庚切 ㄏㄥ hêng1・2 庚

㊁ キヤウ カウ 〔正字通〕許兩切 ㄒㄧㄤ hsiang3 養

㊂ ハウ ヒヤウ 〔集韻〕披庚切 ㄆㄥ p'êng1 庚

㊀❶とほる。故障なく行はれる。〔易、乾〕元亨。〔子夏傳〕亨、通也。〔易、豐〕豐亨。〔疏〕无ㇾ所二擁礙一、謂二之亨一。❷めでたい

あつまり。嘉會。〔集韻〕亨、嘉之會也。〔易、乾、文言〕亨者、嘉之會也。㊁まつり。まつる。〔左氏、昭、四〕以亨二神人一。〔太玄經、周〕上亨二於天一。㊃あまる。腹ふくれる。脝。〔劉師服・侯喜・軒轅彌明、石鼎聯句〕龍頭縮菌蠢、豕腹漲彭亨。㊄或は享(1－298)に作り、古は亯(1－305)・𦎫(1－313)に作る。〔集韻〕亨、或作レ享、古作二亯𦎫一。［二］すすめる。たてまつる。享(1－298)に同じ。〔正字通〕亨、古享字。〔易、大有〕公用亨二于天子一。〔釋文〕衆家並香兩反、京云、獻也、干云、亨宴也、姚云、享祀也。［三］にる。烹(7－19049)に同じ。〔集韻〕烹、煑也、或作レ亨。〔易、鼎〕亨、飪也。〔釋文〕亨、煑也。〔儀禮、特牲饋食禮〕亨二于門外東方一。〔注〕亨、煑也。〔周禮、天官、內饔〕割亨煎和之事。〔注〕亨、煑也。

名乘 ミチ。ユキ。アキラ。ナガ。トホル。

參考 亨・享・烹、もと同字。亯を本字とする。〔說文、亯、段注〕其形、薦レ神作レ亨、亦作レ享、飪レ物作レ亨、亦作レ烹、易之元亨、則皆作レ亨、皆今字也。〔正字通〕亨、古惟亨字兼二三義一、後加二一畫一、作二享獻之享一、加二四點一作二烹飪之烹一、今通用。

【亨運】1 カウウン 順調な運命。心の儘になるよい運勢。〔謝莊、爲二朝士一與二袁顗一書〕身奉二惟新命一、承二亨運一、綏レ帶談笑、擊二壤聖世一。

【亨遠】2 カウエン 元、周霆震(2－3441‥792)の字。

【亨嘉】3 カウカ 好時機に遭遇すること。〔易、乾〕亨者、嘉之會也。〔疏〕嘉、美也、言下天能通二暢萬物一、使中物嘉美之會聚上也。〔歐陽脩、謝二參知政事一表〕早遘二亨嘉之會一、驟蒙二獎拔之私一。

【亨醢】4 ハウカイ 死刑に逢ふこと。亨は煮る。醢は肉びしほにする。〔漢書、江充傳〕後雖二亨醢一、計猶不レ悔。

【亨九】5 カウキウ 清、洪承疇(6－17402‥250)の字。

【亨魚】6 ハウギヨ 魚を煮る。烹魚。〔詩、檜風、匪風〕誰能亨レ魚、漑二之釜鬵一。

【亨衢】7 カウク ㊀交通の大道。〔易、大畜〕何天之衢、亨。㊁運命の開けること。〔薛廷珪、授二鄭谷右拾遺一制〕二稚馳聲、甲科得レ雋、亦承二遺構一、自致二亨衢一。

【亨晦】8 カウクワイ 明、吳昇(2－3365‥237)の字。

【亨爨】9 ハウサン 煮炊きする。炊事。烹爨。〔儀禮、士虞禮〕側二亨于廟門外之右一、東面。〔注〕側亨、亨二一胖一也、亨二于爨一用レ鑊、不レ于二門東一、未レ可レ以レ吉也。

【亨之】10 カウシ 字號。㊀宋、葉安節(9－31387‥150)の字。㊁宋、林大有(6－14551‥382)の字。㊂明、許國泰(10－35298‥285)の字。㊃明、蔡雲程(9－31818‥140)の字。

【亨叔】11 カウシユク 宋、鄭振(11－39647‥179)の字。

【亨孰】12 ハウジユク 十分ににる。孰は熟。亨熟。〔禮、祭義〕亨二孰羶薌一、嘗而薦レ之、非レ孝也、養也。

【亨煑】13 ハウシヨ にること。烹煑。〔周禮、天官、亨人〕職二內外饔之爨亨煑一、辨二膳羞之物一。〔漢書、景十三王、廣川惠王越傳〕望卿前亨煑、卽取二他死人與二都死一、幷付二其母一。

【亨人】14 ハウジン 周官の名。天官の屬。鼎鑊で物を煮ることを掌る。〔周禮、天官、亨人〕亨人掌下共二鼎鑊一以給中水火之齊上。

【亨飪】15 ハウジン にたきする。烹飪。〔易、鼎〕以レ木巽レ火、亨飪也。〔孫逖、裴公德政頌序〕蔬食以同二其亨飪一、野次以同二其燥濕一。

【亨泰】16 カウタイ 物事がすらすらと通つて安泰なこと。〔梁元帝、高祖武皇帝諡議〕天衢亨泰、王道升平。

【亨大】17 カウダイ 明、林瀚(6－14551‥56)の字。

【亨道】18 カウダウ 字號。㊀陳、許亨(10－35298‥29)の字。㊁宋、朱泰卿(6－14424‥907)の字。

【亨仲】19 カウチユウ 字號。㊀宋、鄭剛中(11－39647‥325)の字。㊁明、唐泰(2－3709‥250)の字。

【亨通】20 カウツウ とほり通ずる。〔易、隨、疏〕元亨者、於二相隨之世一、必大得二亨通一、若其不二大亨通一、則无二以相隨一、逆二於時一也。〔曾文正公全集〕自有二亨通精進之一日一。

【亨途】21 カウト 平易な路。〔鄭谷、詠懷詩〕自許亨途在、儒綱復振時。

【亨伯】22 カウハク 字號。㊀宋、蔣汝通(9－31820‥179)の字。㊁宋、陳遘(11－41698‥248)の字。

【亨敏】23 カウビン 清、李仕學(6－14459‥1304)の字。

【亨父】24 カウホ 字號。㊀宋、嚴世父(2－4589‥298)の字。㊁宋、羅必元(9－28397‥399)の字。㊂明、張泰(太倉の人)(4－9812‥520)の字。

【亨甫】25 カウホ 字號。㊀元、諸葛泰(10－35743‥37)の字。㊁元、范梈(9－30834‥104)の字。㊂明、盛汝謙(8－23005‥217)の字。㊃清、張際亮(4－9812‥1063)の字。

【亨利】26 ヘンリー Henry の音譯。㊀英國の王の名。第一世から第八世に至る。㊁ローマ皇帝の名。第一世から第七世に至る。㊂佛國の王の名。四人ある。㊃ポルトガル王國の始祖。㊄アメリカの物理學者の名。

【亨泉先生】27 カウセンセンセイ 宋、張方(資中の人)(4－9812‥598)の尊稱。

【㐬】296

［一］リウ ル ［二］クワウ 〔集韻〕力求切 尤

［一］はたあし。旒(5－13676)に同じ。〔集韻〕旒、旌旗之旒也、或省。［二］荒(9－30953)に同じ。〔字彙補〕㐬、與レ荒同。

【㐭】297

ダウ ネウ 〔五音篇海〕奴教切 效

靜かでない。〔五音篇海〕㐭、不レ靜也。

六畫

【享】298

［一］キヤウ カウ 〔集韻〕許兩切 丅一尢ˇ hsiang³ 養

［二］カウ キヤウ 〔集韻〕虛庚切 庚

小篆

籀文

［一］［二］㊀すすめる。みつぐ。獻上する。又、獻上するもの。亯(1－305)に同じ。〔集韻〕亯、隷作レ享。〔說文〕亯、獻也、从二高省一、曰象二孰物形一、孝經曰、祭則鬼亯レ之。〔爾雅、釋詁〕享、獻也。〔詩、小雅、楚茨〕以享以祀。〔箋〕享、獻也。〔書、洛誥〕識二百辟之享一。〔傳〕奉レ上、謂二之享一。〔周禮、考工記、玉人〕諸侯以享二天子一。〔注〕享、獻也。〔儀禮、聘禮〕受レ享。〔注〕享、獻也。〔禮、曲禮上〕五官致レ貢曰レ享。〔釋文〕享、獻也。㊁もてなす。饗(12－44431)に通ず。〔說文通訓定聲〕享、段借爲レ饗。〔爾雅、釋詁、舍人注〕獻二食物一曰レ享。〔左氏、成、十二〕享以訓二恭儉一、宴以示二慈惠一。〔左氏、昭、五〕享頫有レ璋。〔注〕享、饗也。〔穀梁、哀、元〕郊享道也。〔注〕享者、飲食之道。〔淮南子、氾論訓〕犒以二十二牛一、〔注〕酒肉曰レ享。㊂祭る。祀る。〔爾雅、釋詁〕享、孝也。〔廣雅、釋言〕亯、祀也。〔易、升〕王用享二於岐山一。〔釋文〕享、祭也。〔書、盤庚上〕茲予大享二于先王一。〔傳〕大享、烝嘗也。〔禮、祭義〕死則敬享。〔注〕享、猶二祭也、饗也一。㊃春の祭。〔國語、魯語上〕嘗禘烝享。〔注〕春祭曰レ享。㊄祫祭。〔孔子家語、郊問〕不レ足二以大享一。〔注〕大饗、祫二祭天地一。㊅あたる。うける。食む。應ずる。〔小爾雅、廣言〕享、當也。〔書、咸有一德〕克享二天心一。〔傳〕享、當也。〔左氏、僖、二十三〕享二其生祿一。〔注〕享、受也。〔公羊、僖、十〕桓公之享レ國也長。〔注〕享、食也。〔孟子、萬章上〕使二之主レ祭、而百神享レ之。〔國語、周語上〕大臣享二其祿一。〔注〕享、食也。㊆やしなふ。〔廣雅、釋詁一〕亯、養也。㊇篆文は𦎫(1－319)

に作る。〔說文〕亯、篆文亯。〔段注〕亯者、籒文也、小篆作㆑亯、故隸書作㆑亨、作㆑享、小篆之變也。㊈亨(1－295)に通ず。〔集韻〕亨、嘉之會也、或作㆑享。

名乘 ユキ。ミチ。アキラ。タカ。

解字 會意。高の省形と日との合字。日は孰(熟)物のかたち。孰物を高くもつて上に進めること。故に獻ずと訓む。周禮を按ずるに、祭には亯、饗燕には饗字を用ひる。假借して饗とする。〔說文、亯、段注〕下進㆑上之詞也、按、周禮用字之例、凡祭亯用㆓亯字㆒、凡饗燕用㆓饗字㆒。〔說文通訓定聲〕亯、亯神道也、饗人道也、云云、叚借爲㆑饗。▽(金文)象形。臺上に祖先神を祭つたさまに象り、祖先神に飲食物を供へる意を表はす。

參考 亨(1－295)の參考を見よ。

【享右】1 キヤウイウ 食を獻じすすめるをいふ。右は、すすめる。享侑。〔周禮、春官、大祝〕以享㆓右祭祀㆒。〔注〕享、獻也、謂㆓朝獻饋獻㆒也、右、讀爲㆑侑、侑㆓勸尸食㆒而拜。

【享有】2 キヤウイウ うけたもつ。受領。

【享侑】3 キヤウイウ もてなす。饗應する。侑は、すすめる意。享右。〔宋史、樂志八〕既享既侑、誠中禮擧。

【享祐】4 キヤウイウ 神の助をうける。〔揚雄、劇秦美新〕專用㆓己之私㆒、而能享㆑祐者哉。

【享宴】5 キヤウエン 下の者に賜はる酒宴。賜酺。饗宴。〔左氏、成、十二〕於㆑是乎、有㆓享宴之禮㆒。

【享祈】6 キヤウキ 物を神に供へて福を祈り乞ふこと。〔崔駰、北巡頌〕禋潔享祈、歆㆓嘗百神㆒。

【享儀】7 キヤウギ 神を祭る儀禮。祭儀。〔高啓、夜宿㆓太廟齋宮㆒詩〕太常齋禁密、列祖享儀崇。

【享牛】8 キヤウギウ 祭にそなえる牛。〔周禮、地官、牛人〕凡祭祀、共㆓其享牛㆒。

【享御】9 キヤウギヨ 天子の位をうける。〔後漢書、安帝紀論〕孝安雖㆓稱㆑尊享㆑御、而權歸㆓鄧氏㆒。

【享覲】10 キヤウキン 王に見えて幣物を獻上すること。〔穀梁、僖、五〕天子微、諸侯不㆓享覲㆒。〔國語、周語中〕其享覲之幣薄、而言諂。

【享獻】11 キヤウケン そなへまつる。〔漢書、禮樂志〕畏敬之意難㆑見、則著㆓之於享獻・辭受・登降・跪拜㆒。

【享國】12 キヤウコク 國祚をうける。又、君主在位の年數。饗國。〔書、無逸〕肆中宗之享㆑國、七十有五年。〔公羊、僖、十〕桓公之享㆑國也長、美見㆓乎天下㆒。〔賈誼、過秦論〕享㆑國之日淺。

【享穀】13 キヤウコク 穀物を神にそなへる。〔淮南子、泰族訓〕享㆑穀食㆑氣者、皆受㆑焉。

【享祭】14 キヤウサイ 物をそなへて神をまつること。享祀。〔管子、侈靡〕安㆑鄕樂㆑宅享祭。〔孔子家語、致思〕將㆓以享祭㆒。

【享祀】15 キヤウシ 物をそなへて神をまつる。饗祀。享祭に同じ。〔易、困〕困㆓于酒食㆒、朱紱方來、利㆓用享祀㆒。〔詩、魯頌、閟宮〕享祀不㆑忒。〔左氏、僖、五〕公曰、吾享祀豐絜、神必據㆑我。〔國語、周語上〕享祀時至。〔史記、太史公自序〕百世享祀。

【享祠】16 キヤウシ まつる。〔史記、周紀〕命㆓宗祝㆒、享㆓祠于軍㆒。

【享嗣】17 キヤウシ のちを受けつぐこと。〔南史、荀伯子傳〕功盛㆓平吳㆒、而享嗣闕然。

【享賜】18 キヤウシ もてなしたまはる。酒盛をする。饗賜。〔國語、周語下〕宴好享賜、不㆑踰㆓其上㆒。〔注〕享賜、所㆓以醻㆑賓賜㆒㆑下也。〔新書、禮容語下〕燕好享賜、雖㆑歡不㆑踰㆑等。

【享嘗】19 キヤウシヤウ 春の祭と秋の祭。轉じて、四時祭の略。〔禮、祭法〕遠廟爲㆑祧、有㆓二祧㆒、享嘗乃止。〔陳澔集說〕此不㆑在㆓月祭之例㆒、但得㆓四時祭㆒㆑之耳、故云、享嘗乃止。

【享受】20 キヤウジユ ㊀物をうける。〔後漢書、方術、樊英傳〕及㆔其享㆓受爵祿㆒、又不㆑聞㆓匡救之術㆒。㊁hsiang^3 shou^4 役に立つ。

【享壽】21 キヤウジユ 年壽をうける。又、天から受けた長壽をいふ。壽命。〔徐彥伯、南郊賦〕享壽千億、傳㆓無窮㆒兮。

【享烝】22 キヤウジヨウ 物をすすめて宗廟を祭ること。〔周禮、夏官、大司馬〕獻㆑禽以享烝。〔注〕又以㆑禽祭㆓宗廟㆒。

【享食】23 キヤウシヨク ㊀食物をすすめる。大牢を具へて飲食させる。饗食。〔左氏、成、十四〕古之爲㆓享食㆒也、以觀㆓威儀㆒、省㆓禍福㆒也。〔漢書、五行志中之上〕古之爲㆓享食㆒也。㊁封をうける。〔後漢書、宋意傳〕以㆓支庶㆒享㆓食大國㆒。

【享薦】24 キヤウセン まつりすすめる。〔後漢書、章帝紀〕盥洗享薦。〔漢書、兒寬傳〕享薦之義、不㆑著㆓于經㆒。

【享祚】25 キヤウソ 天祚をうける。國の壽命。さいはひをうける義。饗祚。〔列子、楊朱〕享㆑祚百年。

【享敦】26 キヤウタイ 饗應用の粢器。敦は黍稷を盛る器、粢の類。〔董逌、銅敦銘跋〕享敦・祭敦、制度不㆑同。

【享堂】27 キヤウダウ 祖宗の位牌を祀るところ。饗堂。

【享覿】28 キヤウテキ 朝聘の時、賓が享獻の禮で朝見すること。覿は見える義。〔左氏、昭、五〕享覿有㆑璋。〔注〕享、饗也、覿、見也、既朝聘而享見也、臣爲㆑君、使㆑執㆑璋。〔疏〕案、小行人合㆓六幣㆒、圭以㆑馬、璋以㆑皮、璧以㆑帛、琮以㆑錦、琥以㆑繡、璜以㆑黼、鄭玄云、上公享㆑王、圭以㆑馬、享㆑后、璋以㆑皮、云云、此云㆓享覿有㆑璋者、據㆓上公享㆑后言㆑之、所㆓以特擧㆑享㆑后者、擧㆑璋與㆑圭相對、其實享禮、圭與㆓璧琮琥璜㆒皆有、今檢㆓杜注意義㆒則不㆑然、謂㆘王國設㆓酒食㆒以饗㆑賓、賓則執㆑璋以行㆖㆑禮、故云㆓享覿有㆑璋。

【享天】29 キヤウテン 後蜀、李漢韶(6－14459‥974)の「字。

【享殿】30 キヤウデン 神を祭るために設けた宮殿。廟の傍にある。饗殿(12－44431‥30)を見よ。

【享德】31 キヤウトク ㊀德をうけつぐこと。〔書、微子之命〕世世享㆑德、萬邦作㆑式。〔左氏、昭、七〕今無祿早世、不㆑獲㆓久享㆑德。㊁第百二代、後花園天皇の年號。(1452－1455)

【享年】32 キヤウネン ㊀天からうけた年數。壽齡。〔蔡邕、郭泰碑〕稟㆑命不㆑融、享年四十有二。㊁王朝の年數などにもいふ。〔隋書、庾季才傳〕周武王、以㆓一月甲子㆒定㆓天下㆒、享年八百。

【享保】33 キヤウハウ ㊀うけたもつ。〔藝文類聚、靈異〕服食享㆓遐紀㆒、延壽保㆓無疆㆒。㊁第百十四代、中御門天皇の年號。(1716－1736)

【享法】34 キヤウハフ 飮食で人をもてなす法式。〔左氏、襄、二十七〕宋人享㆓趙文子㆒、叔向爲㆑介、司馬置㆓折俎㆒、禮也。〔疏〕享㆑公、當㆘依㆓享法㆒有㆗體薦㆖也。

【享福】35 キヤウフク さいはひをうける。福を授かる。享祉。饗福。〔後漢書、朗顗傳〕易曰、天道無㆑親、常與㆓善人㆒、是故高宗以享㆑福、宋景以延㆑年。〔通俗編、祝誦、享福〕宋尙宮女論語、夫婦享㆑福、歡笑忻忻。

【享福器】36 キヤウフクノキ 天子の福分ある人物。〔桃花扇、劫寶〕俺看㆓這位皇帝㆒、不㆑像㆓享福之器㆒。

【享樂】37 キヤウラク たのしみをうける。樂しむこと。

【享樂主義】38 キヤウラクシユギ たのしむことを人生究竟の目的とする主義。倫理學では快樂說、文藝では耽美派の主張する所である。

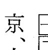
【享禮】39 キヤウレイ 聘禮が終つてから禮物を獻ずる儀式。饗禮。〔論語、鄕黨〕享禮有㆓容色㆒、私覿愉愉如也。〔集解〕鄭玄曰、享、獻也、聘禮、既聘而享、則用㆓圭璧㆒、有㆓庭實㆒。〔白虎通、王者不臣〕享禮而後歸。

【享祿】40 キヤウロク ㊀福祿をうける。又、祿を食む。〔易、大畜、大畜利㆑貞不㆓家食㆒吉利㆑涉㆓大川㆒、程傳〕既道德充㆓積於內㆒、宜㆘在㆓上位㆒、以享㆓天祿㆒、施爲㆗於天下㆖。〔國語、周語上〕大臣享㆓其祿㆒、弗㆑諫而阿㆑之、亦必及焉。〔注〕享、食也。〔陳琳、檄㆓吳將校部曲㆒文〕乃建㆓丘山之功㆒、享㆓不訾之祿㆒。㊁第百五代、後奈良天皇の年號。(1528－1532)

【享和】41 キヤウワ ㊀うけやはらぐ。〔干寶、晉紀總論〕順㆓乎天㆒而享㆓其運㆒、應㆓乎人㆒而和㆓其義㆒、然後設㆓禮文㆒。㊁第百十九代、光格天皇の年號。(1801－1804)

【享帚山房】42 キヤウサウサンバウ 淸、朱霞(6－14424‥66)の室名。

【京】299


小篆

㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕居卿切 庚 ㄐㄧㄥ ching¹
㊁キン 〔正字通〕居欣切 文
㊂ゲン 〔禮記釋文〕音原

㊀㊁㊀高い丘。大きい丘。〔說文〕京、人所㆑爲、絕高丘也、从㆓高省㆒、丨象㆓高形㆒。〔說文通訓定聲〕京、按、對文則人力所㆑作者爲㆑京、地體自然者爲㆑邱、

散文則亦通稱也。〔爾雅、釋丘〕丘絕高曰レ京。〔廣雅、釋丘〕四起曰レ京。〔詩、大雅、皇矣〕依其在レ京。〔傳〕京、大阜也。〔詩、鄘風、定之方中〕望二楚與一レ堂、景山與レ京。〔注〕京、大邱也。〔詩、小雅、甫田〕如レ坻如レ京。〔傳〕京、高邱也。㊁大きい。さかん。〔爾雅、釋詁〕京、大也。〔方言、一〕京、大也、燕之北鄙、齊楚之郊、或曰レ京。〔左氏、莊、二十二〕八世之後、莫二之與京一。〔注〕京、大也。㊂たかい。〔張衡、西京賦〕整二行伍一、燎二京薪一。〔注〕綜曰、積高爲レ京。㊃みやこ。君主の居城のある土地。〔詩、大雅、文王〕祼二將于京一。〔公羊、桓、九〕京師者何、天子之居也、京者何、大也。〔獨斷、上〕天子所レ都曰二京師一、京、水也、地下之衆者、莫レ過二於水一、地上之衆者、莫レ過二於人一、京、大、師、衆也、故曰二京師一也。㊄くら。〔廣雅、釋室〕京、倉也。〔管子、輕重丁〕新成二囷京一者。〔注〕大囷曰レ京。〔史記、倉公傳〕見二建家京下方石一。〔注〕集解曰、京者、倉廩之屬也。㊅數の名。兆の十倍。今、兆の一萬倍とす。〔太平御覽、工藝、數〕風俗通、論數云、十億曰レ兆、十兆曰レ京、十京曰レ核。㊆うれへるさま。京京(17)を見よ。㊇くぢら。鯨(**12－46257**)に通ず。〔漢書、揚雄傳〕騎二京魚一。〔注〕師古曰、京、大也、或讀爲レ鯨、鯨、大魚也。㊈彊(**4－9872**)に通ず。〔山海經、大荒東經〕禺貙生二禺京一。〔注〕禺京、卽禺彊也。㊉地名。春秋、鄭の邑。漢、京縣を置く。〔左氏、隱、元〕請レ京使レ居レ之、謂二之京城大叔一。〔注〕京、鄭邑、今滎陽京縣也。〔國語、楚語上〕昔鄭有二京櫟一。〔注〕京、莊公弟叔段之邑。⓫姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕京氏、鄭武公少子、改封二於京一、謂二之京城太叔一、因氏焉、又李氏改爲二京氏一、望出二譙國一。〔路史〕老子之後、有二京氏一。[三]原(**2－2973**)の誤。〔禮、檀弓下〕以從二先大夫於九京一也。〔注〕京、蓋字之誤、當レ爲レ原。〔國語、晉語八〕趙文子與二叔向一、游二於九京一。〔注〕京、當レ爲レ原、九原、晉墓地。

㊄ 京 (三才圖會)

名乘 アツ。

解字 會意。⿱亠⿵冂口(高の省形)と丨(高い形を象る)との合字で、人の作つた高い丘をいふ。丘は高いことから大とし、又、人は多く丘に集まり住むので都とする。〔說文、京、段注〕按、釋詁云京大也、其引申之義也、凡高者必大。〔說文通訓定聲〕京、从二高省一、丨、象二高形一、按、丨引而上、指事也、云云、對文、則人力所レ作者爲レ京、地體自然者爲レ邱、散文、則亦通稱也。▽(金文) 象形。高い岡の上に立つ建物のさまに象る。

【京邑】1 ケイイフ みやこ。〔杜審言、贈二蘇味道一詩〕輿駕還二京邑一、朋遊滿二帝畿一。

【京尹】2 ケイイン ㊀京師の地方長官。京兆尹(90)の㊀を見よ。〔張衡、西京賦〕封畿千里、統以二京尹一。㊁德川時代、東都所司代の別名。〔書言故事、府尹類〕京都府主、曰二京尹一。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕勝重爲二京尹一。

【京鋌】3 ケイエン 京師の茶。〔談苑〕江左李氏、別令取二茶之乳一作レ片、或號二京鋌的乳及骨子等一、是則京鋌之品、自二南唐一始也。

【京江】4 ケイカウ 揚子江の一名。江蘇省の京口地方を流れる際の呼稱。〔潤州志〕揚子江、一名京江、江從レ蜀來、數千里至二京口一、北距二廣陵一、東注二大海一。〔讀史方輿紀要、江南、鎭江府、丹徒縣〕大江、府西北二里、卽揚子江也、亦曰二京江一。

【京郊】5 ケイカウ 都の町はづれ。特に京都の町はづれをいふ。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕自二父祖一居二京郊一。

【京腔】6 ケイカウ ㊀北京に行はれてゐる戲曲の音曲の名。西皮・二黃の別がある。京調(96)に同じ。㊁清代の花部戲劇の一種。弋陽腔が北京に入つて後、其の本來の調子を變改したもの。㊂清代に、北京語を指していふ。純粹の北京人のなまり。

【京毫】7 キヤウガウ 都で作つた筆。京の筆。〔賴山陽、薩摩詞〕御墨京毫譜二價値一、自稱兩度入二燕山一。

【京閒】8 キヤウマ 尺度の名。一閒を曲尺六尺三寸、或は六尺五寸の長さとする。もと京都で座敷の尺度としたからいふ。あひのま、又はゐなかまの對。〔律原發揮〕以二六尺三寸一爲二一步一、俗稱二京閒一。

【京漢】9 ケイカン 北京と漢口。

【京漢鐵路】10 ケイカンテツロ 北京から漢口に至る鐵道。

【京圻】11 ケイキ みやこ。王畿千里の內をいふ。京畿。〔李朮、魯狆詩〕襄城下封寵、汝潁皆京圻。

【京畿】12 ケイキ ㊀王畿千里の地。みやこ。京師。京圻。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕出宿薄二京畿一、晨裝摶二魯颸一。〔杜淹、文中子世家東征歌〕我思二國家一兮、遠游二京畿一。㊁唐の道名。今の陝西省中部の地。故治は今の長安縣。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕明皇增二飾舊章一分二十五道一、曰、京畿、治二西京一、京兆・岐・同・華・邠・商・金等府州屬焉、分二關內道一置。

【京畿道】13 ケイキダウ 朝鮮の中部西境にある地區の名。首邑を京城といふ。鐵道・道路が發達し、交通が便利で農業・水產業が盛である。

【京畿嶺】14 ケイキレイ 嶺の名。江蘇省丹徒縣の西。又、金鷄嶺ともいふ。

【京戲】15 ケイギ 中國劇の一。京調。

【京丘】16 ケイキウ 敵の屍をつんだ上に土を高く盛つた塚。京觀。〔呂覽、禁塞〕故暴二骸骨一無二量數一、爲二京丘一若二山陵一。

【京京】17 キヤウキヤウ 憂の去らないさま。〔爾雅、釋訓〕京京、憂也。〔詩、小雅、正月〕念我獨兮、憂心京京。〔傳〕京京、憂不レ去也。〔後漢書、安帝紀〕憂心京京。

【京魚】18 ケイギヨ ㊀大きい魚。一說に、くぢらをいふ。鯨魚。〔漢書、揚雄傳上〕乘二鉅鱗一、騎二京魚一。〔注〕師古曰、京、大也、或讀爲レ鯨、鯨、大魚也。㊁魚名。いしぶし。杜父魚(**6－14477··223**)の異名。〔事物異名錄、水族、吐哺〕正字通、京魚、一曰二吐鮗一、食物本草曰二渡父一、臨海志曰、伏念魚、一名黃鰍、俗呼二船矴魚一、見レ人、則以喙二插入泥土中一、如二船矴一也。

【京局】19 ケイキヨク 寶泉局及び寶源局の稱。淸代、錢を鑄たところ。〔周禮政要、金布〕京局所レ鑄、當二十大錢一、質劣制小。

【京花】20 ケイクワ 蜀人が、京洛の千葉種の牡丹をいふ語。〔范成大、淸明日試二新火一作二牡丹會一詩〕那得靑烟穿二御柳一、且下將二銀燭一照中京花上。〔自注〕蜀人以二洛中千葉種一爲二京花一、單葉爲二川花一。

【京貨】21 ching^{1} huo^{4} みやこに產出する物資。

【京菓】22 ching^{1} kuo^{3} 北京の果物。

【京華】23 ケイクワ みやこ。花の都。華は文華の意。〔謝靈運、齋中讀レ書詩〕昔余游二京華一、未三嘗廢二丘壑一。〔駱賓王、帝京篇〕倡家桃李自芳菲、京華游俠盛二輕肥一。

【京外】24 ケイグワイ 都の外。首府以外の地。〔周禮政要、選擧〕可戊放下成周達吏、漢唐徵二辟曹掾一之法上、令丁京外各官、皆得丙徵乙辟屬官甲。

【京官】25 ケイクワン 京師の地に在勤する役人。輔相以下、皆京官といふ。內官。外官に對する稱。宋代には、京師に在勤する役人のうち、朝謁に與らぬものをいふ。京秩。〔老學庵筆記、八〕唐、自二相輔一以下、皆謂二之京官一、言レ官二于京師一也、其常參者、曰二常參官一、未二常參一者、曰二未常參官一、國初、以二常參官一預二朝謁一、故謂二之升朝官一、而未レ預者、曰二京官一。

【京欵】26 ching^{1} k'uan^{3} 都風。北京式。

【京觀】27 ケイクワン 武功を示す爲に、敵の屍を積んだ上に土を高く封じた塚。京丘。〔左氏、宣、十二〕君盍下築二武軍一而收二晉尸一、以爲中京觀上。〔注〕積レ尸封二土其上一、謂二之京觀一也。〔會箋〕漢書翟方進傳注、師古云、京、高丘也、此京、蓋象二其崇積之狀一而名、大誅二罪人一、積二首級一令レ崇、以觀二示四方一、而懲二兇慝一、故謂二之京觀一、猶二後世髑髏臺一之意。〔漢書、翟方進傳〕於レ是乎、有二京觀一以懲二淫慝一。〔注〕師古曰、京、高丘也、觀、謂レ如二闕形一也。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕古者克レ敵、收二其

屍、以爲二京觀。

【京家】28 ㊀公卿の家。〔太平記、二、天下怪異事〕七大寺詣でする京家の青侍なんどの。㊁藤原氏四家の一。不比等の子、麻呂の子孫。

【京卿】29 京官で顯職にあるもの。

【京劇】30 ㊀都の繁華なところ。〔李頎、望二鳴皐山白雲一寄二洛陽盧主簿一詩〕故人吏二京劇一、每事多二閑放一。〔賈至、授二李華禮部員外郎一制〕譽汎二京劇一。㊁清代戲劇の名。京調(96)を見よ。

【京闕】31 都の王宮。〔沈約、卻二出東西門一行〕驅馬城西阿、遙眺想二京闕一。〔李白、梁園吟〕我浮二黃雲一去二京闕一。

【京峴】32 山名。江蘇省鎭江縣の東、秦の時、罪人を驅使して其の南坑を鑿つたといふ。〔鎭江府志〕京峴、本二山、此爲二京山一、今縣東南五里有二峴山一。

【京縣】33 ㊀縣名。漢置く。故城は河南省滎陽縣の東南。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、京、㊁清代の制度に於て、順天府では、大興・宛平の二縣を京縣として順天府に直隸させ、各省の州縣と其の待遇を異にした。〔清會典事例、吏部、官制、漢官品級〕通政司知事、太常寺典簿、京縣知縣、外府通判、外縣知縣。

【京胡】34 ching¹ hu² 樂器の一種。胡弓。

【京口】35 ㊀地名。今の江蘇省丹徒縣治。〔元和志〕孫權自二吳徙一治丹徒一、號曰二京城一、後遷二建業一、於二此置一京口鎭一。〔讀史方輿紀要、江南〕鎭江府、禹貢揚州之域、春秋時吳地、云云、三國吳曰二京口鎭一、漢建安十三年、孫權自二吳徙一治丹徒、號曰二京城一、十六年遷二建業一、復於二此置一京督、爲二重鎭一云云、爾雅曰、邱絕高曰二京一、蓋丹徒城憑二山臨一レ江、故有二京口之名一。

【京口儕】36 ケイコウサイ 江蘇省の丹徒で出來る餅の一種。〔鎭江府志〕京口儕、餅類也、和二油麵雜椒鹽一爲二六角形一、入二爐火中一炙透、藏器中、勿レ令二風戾一、可二以致一レ遠、此物原非二珍品一、然是丹徒土人專能、與二百花露酒一、同爲二他邑所一レ不レ能二學步一也、儕、集韻同レ儕、今讀若レ齊。

【京口耆舊傳】37 ケイコウキキウデン 書名。九卷。撰者未詳。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【京控】38 ケイコウ 人民が地方官の裁判に不平の時、上京して上訴すること。〔清會典事例、刑部、刑律訴訟、越訴〕各省軍民人等、赴レ京控二訴事件一。〔清國行政法汎論、民政部、工巡總局〕受二理京控一、凡督撫以下地方官之裁判不二公平一、而人民有二冤枉一、則可レ控二訴之都察院、及步軍統領衙門一、以達二天聽一、謂二之京控一。

【京國】39 ケイコク みやこ。京都。〔曹植、王仲宣誄〕我公寔嘉、表二揚京國一。〔江淹、雜體、袁太尉淑從駕詩〕辨レ詩測二京國一。〔杜審言、渡二湘江一詩〕獨憐京國人南竄、不レ似二湘江水北流一。

【京獄】40 ケイゴク 京都の牢獄。〔日本外史、源氏前記、平氏〕梟二于京獄一。

【京債】41 ケイサイ 地方官が赴任の際に、京の方で旅費・支度費等を借用すること。日知錄、卷二十八に見ゆ。〔舊唐書、武宗紀〕會昌二年二月丙寅、中書奏、赴レ選官人、多二京債一、到レ任填還、致二其貪求一、罔レ不レ由レ此。〔通俗編、貨財、京債〕按、近世外官初選、在レ京借レ銀辦レ裝、謂二之京債一、唐亦有レ然。〔清國行政法汎論、官吏法、武官、廻避〕其赴任也、道程寫遠、盤費尤多、而吏部規定、固無二支給旅費一等項一、故殷富者、姑措弗レ論、其寒苦者、乃借二財於他人一、是京債之所二以起一焉。

【京倉】42 ケイサウ ㊀米粟を貯へる大きな倉。〔張衡、東京賦〕發二京倉一、散二禁財一。〔注〕綜曰、發、開也、京、大也。㊁都にある米粟を儲へる倉。清制では、北京に十三倉あつた。祿米・南新・舊太・富新・興平の五倉は朝陽門內、海運・北新の二倉は東直門內、太平・萬安の二倉は朝陽門外、本裕・豐益の二倉は德勝門外、儲濟・裕豐の二倉は東便門外に在り、通じて京倉といふ。〔清會典事例、戶部、倉庾〕京通倉廠、京師十有三倉。

【京曹】43 ケイサウ 中央政府の官吏で、各部の司官以下をいふ。

【京索】44 ケイサク 地名。京は、河南省滎陽縣の東南で、春秋、鄭の邑、共叔段の居たところ。索は、滎陽縣で、古の大索城。又、小索城は縣の北に當る。〔史記、項羽紀〕〔楚〕與二漢一戰二滎縣南京索一。〔史記、蕭相國世家〕漢王與二項羽一相二距京索之閒一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕京索既扼。

【京察】45 ケイサツ 明清時代に、每年一回、各部の長官が其の部下の官員の功過を考へ、上奏して黜陟を行つた。其の京官に關するものを京察といひ、地方官に關するものを大計といふ。〔清會典事例、吏部、漢員銓選〕京察大計停升、順治十三年議准、內外各官、遇二京察大計之月一、題明停二其升補一、俟二已入榜後一、仍按二各月所出之缺一升補。〔六部成語、吏部、京察、注解〕京城之文官、三年考察一次、謂二之京察一。〔清國行政法汎論、官吏法、京察及大計〕京察者、專以對二京官一卽中央政府官吏一所レ行之詮考一爲二其主要一。

【京山】46 ㊀縣名。隋、置く。湖北省應城縣の西北。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府〕京山縣、漢爲二竟陵縣地一、云云、隋初、郡廢、大業初、州廢改レ縣曰二京山一、屬二安陸郡一。〔清史稿、地理志〕湖北、安陸府、縣四、京山。㊁山名。京山縣の東にある。

【京氏】47 ケイシ 漢の京房(107)をいふ。〔國朝經師經義目錄〕又有二京氏學一、京氏、京房也。

【京氏易】48 ケイシエキ 漢の京房の傳へた易。坎震離兌の四正卦を除いて、餘の六十卦を一年三百六十五日四分の一に配當すると、一卦は六日八十分の七となる。之を六日七分といひ、其の六日七分で占をするもの。〔漢書、儒林傳贊〕至二元帝世一、復立二京氏易一。〔後漢書、章帝紀〕孝宣皇帝以來、去レ聖久遠、學不レ厭博、故遂立二大小夏侯尚書一、後又立二京氏易一。〔注〕京氏、京房也。

【京氏易傳】49 ケイシエキデン 書名。三卷。漢、京房撰。京房は焦氏の學を傳へたので、術數をいふものは兩氏を並べて焦京と稱す。今世の錢卜の法は、實に此の京氏易から出たものといふ。〔四庫提要、子、術數類〕。

【京氏之學】50 ケイシノガク 漢の京房の易學。〔漢書、京房傳〕易有二京氏之學一。

【京師】51 ケイシ 天子の都。京は大、師は衆。大衆の居る所。京都。京輦。京華。〔詩、大雅、公劉〕京師之野。〔傳〕是京乃大衆所レ宜レ居之地也。〔集傳〕董氏曰、所謂京師者、蓋起二於此一、其後、世因以レ所レ都爲二京師一也。〔詩、曹風、下泉〕愾我寤嘆、念二彼京師一。〔春秋、成、十三〕公如二京師一。〔公羊、桓、九〕京師者何、天子之居也、京者何、大也、師者何、衆也、天子之居、必以二衆大一言レ之。〔後漢書、樊宏傳〕京師翼翼、四方是則。〔馬融、長笛賦序〕融去二京師一踰レ年。〔書言故事、都邑類〕京都曰二京師一。

【京師大學堂】52 ケイシダイガクダウ 清の光緒年間に李端棻・王鵬運の奏請によつて設立せられた學校。庚子の亂に校務が停頓したが、二十八年、復興し、章程を改めて、大學院並に政治・文學・格致・農・工・商・醫の七科に分け、更に二十九年、經學科を加へた。國民に至り、北京大學といふ。

【京師環城鐵路】53 ケイシクワンジヤウテツロ 北京に在る鐵道の名。西直門から正陽門に至る環城線で、京奉線に接續する。

【京師朱子學派】54 ケイシシュシガクハ 藤原惺窩を祖として京都に勃興した朱子學派をいひ、大別して二つとする。卽ち、藤原惺窩・林羅山・木下順菴の系統と、藤井懶齋・中村惕齋・貝原益軒の系統。

【京茲】55 ケイジ 地名。春秋、齊の地。山東省平陰縣の東南。〔左氏、襄、十八〕己卯、荀偃士匄、以二中軍一克二京茲一。〔注〕在二平陰城東南一。

【京周】56 ケイシウ 周の天子の都。周京(2—3441‥13)に同じ。〔詩、曹風、下泉〕愾我寤嘆、念二彼京周一。〔集傳〕京周、猶二周京一也。

【京式】57 ching¹ shih⁴ 都風。北京式。北京風。

【京職】58 ケイシキ ㊀平安朝時代に於ける平安京の行政廳。左右の兩京職があつて、市中を分掌した。唐名を京兆といふ。みさとづかさ。〔續日本紀、四〕左右京職、各六員。㊁ショク 德川時代、京都所司代の稱。〔藩翰譜、五〕重宗を召して京職に補せられ。

【京室】59 ケイシツ ㊀王室(7—20823‥487)といふに同じ。〔詩、大雅、思齊〕思二媚周姜、京室之婦一。〔傳〕京室、王室也。〔左思、魏都賦、翼翼京室。〔隋書、音樂志下、恩覃二外區一、福流二京室一。㊁縣名。漢、置く。陝西省の境。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、京室。

【京相】60 ケイシヤウ 複姓。〔尚友錄〕京相、見二英賢傳一、望出二濟南一。

【京餉】61 ケイシヤウ 各省から北京に輸送する稅金。

清代では、毎年春秋二回に送つた。〔清會典、戸部、田賦、部撥京餉〕雍正三年奏准、直省於二春秋二季一、將二實在存庫紮銀一、造二具清冊一、春季限二於二月一、秋季限二於八月一、到レ部、由レ部據二各省所レ報現存實數一、酌二定數目一、奏明撥解、除下僅敷二本省需用一之福建・廣東・廣西等省、及不レ敷二本省需用一之陝西・甘肅・四川・雲南・貴州等省、存二留本省一、不中解至上京、餘省春秋二季、冊報二實存銀數一、酌二量本省一、以備三協二濟鄰省兵餉一。

【京城】62 ケイジヤウ ❶天子のいます所。皇居。轉じて、みやこ。〔左思、詠史詩〕濟濟京城內、赫赫王侯居。〔白居易、琵琶行〕自言本是京城女、家在二蝦蟇陵下一住。〔張說、幽州新歲作詩〕邊鎭戍歌連夜動、京城燎火徹レ明開。❷周代、諸侯の子弟又は卿大夫の封地をいふ。都城(**11－39509**‥89)に同じ。〔水經、濟水注〕祭仲曰、京城過二百雉一、國之害也。❸朝鮮の首都。漢城又は漢陽とも呼ばれ、李朝五百年の王城の地。明治四十三年、日韓併合に際して、京城府と改む。❹複姓。〔元和姓纂〕鄭京城太叔之後、爲二京城氏一。

〔京城大叔〕63 ケイジヤウタイシユクノ 春秋、鄭の共叔段(**2－1458**‥75)をいふ。〔左氏、隱、元〕初鄭武公娶二於申一、曰二武姜一、生二莊公及共叔段一、愛二共叔段一欲レ立レ之、亟請二於武公一、公弗レ許、及二莊公卽一レ位、爲レ之請レ制、公曰、制巖邑也、虢叔死レ焉、佗邑惟命、請レ京、使レ居レ之、謂二之京城大叔一。

【京叔】64 ケイシユク 元、劉祁(**2－2224**‥142)の字。

【京津】65 ching¹ chin¹ 北京天津地方一帶。

【京訊】66 ching¹ hsün⁴ 南京通信。

【京薪】67 ケイシン 高く積んだ薪。京は、高大の義。〔張衡、西京賦〕燎二京薪一、駴二雷鼓一。〔注〕綜曰、積高爲レ京。

【京水】68 ケイスイ 河の名。源は河南省滎陽縣の東南。鄭縣の西南から東北流して鄭水に入る。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、鄭州、滎陽縣〕京水、源出二嵩渚山一、經二鄭州西南十五里一、東北入二鄭水一。

【京西】69 ケイセイ 路名。宋代に置く。今の河南の洛陽以西、黃河以南の全境。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、宋〕京西路、東暨二汝潁一、西距二崤函一、南逾二漢沔一、北抵二河津一、統二府一、州十六、軍二一。

【京少】70 セイセウ 清、蔣景祁(**9－31820**‥139)の字。

【京抄】71 ケイセウ 清朝時代の官報の名。〔清國行政法汎論、成文法之公布〕清國夙有二京報・京抄・邸報・邸抄等一。

【京鈔】72 ching¹ ch'ao⁴ 中國交通銀行の北京本店で發行した紙幣。

【京燒】73 キヤウヤキ 京都市から產する陶器磁器の總稱。清水燒・粟田燒・樂燒など。

【京甎】74 ching¹ chuan¹ 紅茶を煉瓦のやうに固めた小形のもの。

【京錢】75 ケイセン ❶唐代、京師で鑄た錢。〔唐書、食貨志四〕京師爲二京錢一、大小徑寸。❷銅錢一個を二文、五十個を一吊と計算する錢をいふ。今は票錢一百を一吊とする。〔朝市叢載〕五十京錢當二一吊一、憑レ誰敏慧也糊塗。❸キヤウゼニ キンセン 貨幣の一種。解釋一定せず。鐚錢といひ、雜錢といひ、異朝代々の古錢ともいふ。

【京足】76 ching¹ tsu² 京平(秤の名)ではかる純銀。

【京臺】77 ケイダイ 古、楚の國に在つた立派な建物。〔淮南子、原道訓〕所謂樂者、豈必處二京臺章華一。〔注〕京臺・章華、皆楚之大臺。〔顏延之、始安郡還レ都與二張湘州一登二巴陵城樓一作詩〕卻倚二雲夢林一、前瞻二京臺囿一。

【京塘】78 ケイタウ 中央政府と地方官廳との郵便を直接に取次ぐこと。〔清會典事例、兵部、郵政、塘務〕八年奏准、各省駐レ京提塘、以二本省武進士及候補候選守備一充補、三年爲レ滿。

【京鏜】79 ケイタウ 宋、豫章の人。字は仲遠。號は松坡居士。諡は莊定。紹興の進士。金に使して歸り、權工部侍郎に拔擢さる。慶元中左丞相となつたが、專ら韓侂胄の旨を奉じ、劉德秀を薦めて僞學の禁を興した。〔宋史、三百九十四〕・〔宋史新編、一百四十六〕・〔南宋書、四十三〕。

【京堂】80 ケイダウ 清代の京官。都察院・通政司・太理・太常・太僕・光祿・鴻臚、又は詹事府・國子監等の類の職にあるものをいふ。後、虛位となり、三品京堂・四品京堂等の類がある。〔清會典事例、吏部、滿州開列、京堂翰詹開列夾單〕雍正五年諭、開二列京堂翰詹等官一、照二例開三列應レ升人員、其轉補、及其次應レ升人員一、皆著二別行開單一、夾二於本內一進呈。

【京談】81 キヤウダン 京言葉。〔東海道中膝栗毛、六編下〕京談でやらんせにや工合ひが惡かろが。

【京地】82 キヤウチ ❶みやこ。❷かみがた。

【京峙】83 ケイチ 高い丘。〔張衡、西京賦〕散似二驚波一、聚似二京峙一。〔注〕綜曰、京、高也、水中有レ土曰レ峙、向曰、京峙、高丘也。

【京秩】84 ケイチツ 京師で勤める官。京官(25)に同じ。〔葉適、郭伯山挽詞〕未レ奏二邊功一明主惜、將レ成二京秩一故人悲。

【京張】85 ching¹ chang¹ 北京・張家口地方一帶。

〔京張鐵路〕86 ケイチヤウテツロ 平綏鐵路(北京・綏遠間)の一部。

【京中】87 ケイチユウ 京都市中。洛中。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕吾宜レ死二於京中一。

【京挺】88 ケイテイ 銘茶の名。〔貢茶錄〕五代之季、建安屬二南唐一、歲率二諸縣民一、採二茶北苑一、初造二研膏一、繼造二蠟面一、既又製二其佳者一、號曰二京挺一。

【京兆】89 ケイテウ ❶京兆尹の略。㋑官名。京兆尹の❶を見よ。〔漢書、張敞傳〕敞爲二京兆一。〔後漢書、趙典傳〕典兄子溫、字子柔、初爲二京兆丞一。㋺地名。漢代、京兆・左馮翊・右扶風を三輔といひ、帝室の輔翼とした。京兆尹の❷を見よ。❷郡名。㋑晉、置く。故治は、陝西省長安縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西〕西安府、禹貢雍州地、周爲二王畿一、東遷後續レ秦、始皇置二內史郡一、漢初爲二渭南郡一、尋復爲二內史一、景帝二年、分二置左右內史一、此爲二右內史一、武帝太初元年、改二京兆尹一、與二左馮翊・右扶風一爲二三輔一、後漢因レ之、三國魏改レ尹爲レ守、後爲二秦國一、又爲二京兆國一、晉爲二京兆郡一。㋺晉、置く。故治は、湖北省襄陽縣の東北。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、襄陽縣〕鄧城、府東北二十里、本春秋鄧國地、云云、晉末僑二置京兆郡一。㋩南齊、置く。四川省の境に當る。㊁南齊、置く。陝西省南鄭縣の地。❸縣名。㋑南齊、置く。陝西省の境に當る。㋺後魏、置く。河南省潢川縣の境。㋩後魏、置く。南宋の益昌縣を改めたもの。四川省昭化縣治。❹今の北京、卽ち明清時代の順天府。❺複姓。〔敦煌實錄〕。❻左京職・右京職の唐名。〔職原抄〕左京職、唐名京兆、右京職、同レ左。

〔京兆尹〕90 ケイテウイン ❶官名。漢の武帝の太初元年、右內史を改めて京兆尹を置く。秦代には內史の官が關內百里の地を管轄したが、漢の武帝に至つて之を京兆尹・左馮翊・右扶風の三つに分け、之を三輔と稱した。京兆尹は、長安以下の十二縣を治めることを掌る。京尹。〔漢書、百官公卿表上〕內史周官、秦因レ之、掌レ治二京師一、景帝二年、分二置左內史・右內史一、武帝太初元年、更二名京兆尹一、屬官有二長安・市廚兩令丞一、又都水・鐵官兩長丞一。〔通典、職官典、州郡下、京尹〕周官有二內史一、秦因レ之、掌レ治二京師一、漢景帝二年、分二置左右內史一、武帝太初元年、更二名右內史一爲二京兆尹一、更二名左內史一爲二左馮翊一、初秦官有二主爵中尉一、掌二列侯一、漢景帝中元六年、更二名都尉一、武帝太初元年、更二名右扶風一、與二左馮翊京兆尹一、是爲二三輔一、治二長安城中一。❷京兆尹の管轄する土地。今の陝西省長安以東、華縣に至るまでの地で、長安以下の十二縣が之に屬する。三國、魏の時代に、尹を改めて府とし、晉代に、京兆郡と改めた。❶を見よ。〔漢書、地理志上〕京兆尹、元始二年、戶十九萬五千七百二、口六十八萬二千四百六十八、縣十二、長安・新豐・船司空・藍田・華陰・鄭・湖・下邽・南陵・奉明・霸陵・杜陵。〔讀史方輿紀要、陝西〕西安府、禹貢雍州地、云云、景帝二年、分二置左右內史一、此爲二右內史一、武帝太初元年、改二京兆尹一、與二左馮翊・右扶風一爲二三輔一、後漢因レ之、三國魏改レ尹爲レ守、後爲二秦國一、又爲二京兆國一、晉爲二京兆郡一。❸民國時代、順天府尹を改めて京兆尹とし、北京に駐在して、大興・宛平・良鄕・固安・永淸・安次・香河・三河・霸・涿・通・薊・昌平・武淸・寶坻・順義・密雲・懷柔・房山・平谷の二十縣を管轄した。❹左京大夫・右京大夫の唐名。〔職原抄〕左京職、大夫一人、唐名京兆尹、右京職、同レ左。❺德川時代、京都所司代の別名。京職。

〔京兆鳥〕91 ケイテウテウ 畫眉鳥のこと。漢の張敞が畫いた眉に似て美しいからいふ。京兆眉を見よ。〔事物異名錄、禽鳥、畫眉〕金陵瑣事、畫眉鳥、一友人名レ之曰二京兆鳥一、乃取二張敞故事一。

【京兆眉】92 ケイチョウビ 漢の京兆尹張敞が妻の爲に眉を畫いた故事。〔漢書‧張敞傳〕敞爲二京兆尹一、云云、又爲レ婦畫レ眉、長安中傳二張京兆眉黛一。有司以奏レ敞、上問レ之、對曰、閨房之內、夫婦之私、有下過二於畫眉一者上。

【京兆司錄】93 ケイチョウシロク 官名。左京進・右京進の唐名。〔職原抄〕左京職、進、唐名京兆司錄、右京職、同レ左。

【京兆少尹】94 ケイチョウショウイン 官名。左京亮・右京亮の唐名。〔職原抄〕左京職、亮、唐名京兆少尹、右京職、同レ左。

【京兆錄事】95 ケイチョウロクジ 官名。左京屬・京右屬の唐名。〔職原抄〕左京職、屬、唐名京兆錄事、右京職、同レ左。

【京調】96 ケイテウ 劇曲中の西皮・二黃をいふ。もと鄂調であつたが、其の後、石門・桐城・休寧間の人が眞似て徽調のものを作つた。然るに清の盛時、皖人で京都に居るものが多く、爲に皖人の調が、大いに京師に流行した。南方の人、これを京調といふ。二黃（1－247‥232）を見よ。

【京都】97 ケイト ❶天子の都。京師（61）に同じ。〔漢書、孝武許皇后傳〕顯二禍敗一及二京都於東井一。〔魏志、文帝紀〕任城王彰薨二於京都一。〔學山錄〕稱二京師一爲二京都一、始二于司馬晉時一、蓋景王諱師、故晉人避レ之也。❷京都府にある市。古の平安京。西京。❸豐前國の郡名。

【京都所司代】98 キョウトショシダイ 德川幕府の職名。皇室に關する事務をとり、京都・伏見・奈良の町奉行を監督し、社寺を管理し、訴訟を裁判した。京職。京兆尹。

【京都町奉行】99 キョウトマチブギョウ 江戸幕府の職制の一。〔柳營祕鑑、四〕一京都町奉行二人。

【京東】100 ケイトウ ❶都の東。〔蘇軾、次二韻周邠寄二鴈蕩山圖一詩〕二華行觀雄二陝右一、九仙今已壓二京東一。❷路名。宋、置く。河南省の舊開封・歸德の二府、及び山東省の黃河以南の全境。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、宋〕京東路、東至レ海、西至レ汴、南極二淮泗一、北薄二於河一、統二府一、州十六、軍四、監二。

【京童】101 キョウワラベ 都のこども。〔謠曲、丹後物狂〕京わらべのわざにてこそ候へ。

【京鈍】102 ケイトン 都風の團子の一種。〔聞雜記〕南越志云、閏人十月一日、皆作二京鈍一祀レ祖、今福州俗、於二冬至前一夜一作二粉團一、且以供二神祀一レ祖、幷饋二送親友一、蓋緣二京鈍之遺一。

【京派】103 ching¹ p'ai⁴ 北京風。

【京方】104 ching¹ fang¹ ❶都附近。首都方面。❷㋑みやこがた。かみがた。〔義經記、三、熊野別當亂行〕我がもとは上下の行所なりければ、もし京方の者ありやとて。㋺公家。京家。

【京報】105 ケイハウ 諭旨及び章奏類を彙集した官報。明代に始まる。唐宋時代の朝報の遺制。〔周禮政要、廣報〕至二京報邸鈔一、卽唐宋朝報之遺。〔淸國行政法汎論、成文法之公布〕京報者、載二有諭旨題奏、及宮廷動靜、其他公事關繫之報告一、雖レ非二政府之公設一、其發行者、既有二特定官吏一、所謂提塘官、專官掌レ之。

【京坊】106 キョウバウ みやこの街。〔隋書、百官志中〕太府寺、云云、領二京坊・河東・信都三局丞一。〔韻府引、歐陽脩、詩〕棲二身客二京坊一。

【京房】107 ケイバウ 漢、頓丘の人。字は君明。本姓は李。音律の理を推して自ら京と改む。梁人焦延壽に就いて易を治め、官は郎中・魏郡太守。災異を說き、永光・建昭年間に屢〻上疏して、石顯・五鹿充宗を誹謗して疾まれ、獄に下つて棄死せらる。時に年四十一。著に京氏易傳がある。〔前漢書、七十五〕。

【京房易】108 ケイバウエキ 漢の京房の易學。京氏之學（50）を見よ。〔經學通誥、六證〕如下京氏易傳、爲二孟喜易義一、焦贛易林、爲中京房易義上。

【京房推律】109 ケイバウスイリツ 蒙求の標題。漢の京房は本姓は李であつたが、音律を好み、遂に音律の理を推して自ら姓を京氏と定めて京房といつた、故事。〔漢書、京房傳〕京房、字君明、東郡頓丘人也、云云、房、本姓李、推二律自定爲一京氏一、死時年四十一。

【京班】110 ケイハン 乾隆末年の北京の花部俳優の班名。主として京腔を演じた。乾隆四十四年、秦腔の花旦魏長生が入京してから、漸次衰微した。

【京府】111 ケイフ みやこ。京畿。〔宋史、愼從吉傳〕權知二開封府一、既受レ命、召戒レ之曰、京府浩穰。〔資治通鑑、唐紀〕〔則天武后、長安三年〕問二宰相一曰、誰堪二雍州一者、元忠對曰、今之朝臣、無三以易二薛季昶一、太后曰、季昶久任二京府一、朕欲三別除二一官一。

【京府寄牧】112 ケイフキボク 明代、政府から京府の民家に馬匹の飼養を託したこと。〔萬曆會典、百五十二〕。

【京風】113 キョウフウ みやこの手ぶり。

【京平】114 ching¹ p'ing² 秤の名。京平の一兩四分は、庫平の一兩に當る。

【京輔】115 ケイホ 都のこと。〔王儉、褚淵碑文〕丹陽京輔、遠近攸レ則。

【京輔都尉】116 ケイホトヰ 官名。漢、置く。都を治めることを掌る。〔史記、田叔傳〕拜爲二京輔都尉一。〔漢書、百官公卿表〕左右京輔都尉、尉丞兵卒、皆屬レ焉。

【京北】117 ケイホク ❶都の北。❷ching¹ pei³ 北京の北部地方。

【京牧】118 ケイボク 官名。司隸校尉（2－3257‥831）をいふ。〔資治通鑑、晉紀〕〔簡文帝、咸安二年〕端右事繁、京牧任大。〔注〕京牧、司隸校尉也。

【京本】119 ケイホン 蜀本・杭本・閩本など、各地方に於て出版せられた書物に對し、都で出版された本を京本といふ。主として小說が多く、京本三國志などといふが、小說のみには限らなかつた。

【京本通俗小說】120 ケイホンツウゾクセウセツ 宋代小說の書名。今、十卷から十六卷迄を存す。小說と題せられる書物の中で最古のもの。其の目は、第十卷、碾玉觀音。第十一卷、菩薩蠻。第十二卷、西山一窟鬼。第十三卷、志誠張主管。第十四卷、拗相公。第十五卷、錯斬崔寧。第十六卷、馮玉梅團圓。〔魯迅、中國小說史略〕。

【京樣】121 ケイヤウ みやびやか。華美な容姿。〔琅琊代醉編、刊字〕都何以訓レ美、都者、鄙之對也、云云、今諺云、京樣、卽古之所謂都、相如傳、車從甚都、是也。

【京庾】122 ケイユ 大きな倉。〔左思、魏都賦〕囹圄寂寥、京庾流衍。〔注〕翰曰、京、大、庾、倉也。

【京用】123 ケイヨウ 金、冀禹錫（2－1500‥21）の字。

【京洛】124 ケイラク ❶洛陽。周の平王が始めて此處に都を定め、東漢も亦此處を都としたので、京洛といふ。〔班固、東都賦〕不レ知二京洛之有レ制。〔蔡邕、述行賦〕余有レ行二于京洛一。〔陸機、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕京洛多二風塵一。〔司空圖、下方詩〕二十年來往、中閒京洛塵。〔張謂、同二王徵君一湘中有レ懷詩〕故人京洛滿、何日復同遊。〔司空圖、江行詩〕何時京洛路、馬上見二人煙一。❷キョウラク 我が國の京都をいふ。〔太平記、十一、金剛山寄手等被レ誅事〕京洛已に靜まりぬ。

【京吏】125 ケイリ 京師各官衙の役人。供事・儒士・經承の三別がある。〔淸會典、吏部、驗封淸吏司〕凡京吏之別三、一曰供事、二曰儒士、三曰經承。

【京里】126 ケイリ みやこ。〔劉鑠、擬古二首、擬二行行重行行一詩〕回車背二京里一、揮レ手從レ此辭。

【京陵】127 ケイリョウ ❶高い丘や、大きな陵。〔左氏、襄、二十五〕鳩二藪澤一、辨二京陵一。❷縣名。漢置く。故城は、山西省平遙縣の東。〔漢書、地理志上〕太原郡、縣二十一、京陵。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府、平遙縣〕京陵城、縣東七里、城塚記、周宣王北伐二玁狁一時所レ築、漢置二京陵縣一、屬二太原郡一。

【京輦】128 ケイレン 京師。輦は輦轂の下の義。〔後漢書、酷吏、周紆傳〕太傅鄧彪奏、紆在レ任過酷、不レ宜二典一司京輦一。〔杜甫、故祕書少監武公蘇公源明詩〕灑落辭二幽人一、歸來潛二京輦一。

【京話】129 ching¹ hua⁴ 北京語。

【京尤子】130 ching¹ yu² tzŭ 北京人。北京ッ子。純粹の北京土着の人を罵る語。

【京極殿】131 ケイゴクデン 京極土御門殿、又は御堂殿ともいふ。藤原道長の第宅。京都土御門の南、京極の西に在つた。

【京相璠】132 ケイサウハン 晉の人。著に春秋書地名二卷がある。〔尙友錄〕。

【京鹿子】133 キョウカノコ 京都染の鹿子しぼり。

【京滬鐵路】134 ケイコテツロ 南京から上海に至る鐵道。長さ約三五〇公里。本の名は滬寧鐵路。民國十八年、改名。

【京湘鐵路】135 ケイショウテツロ 未完成の鐵道で、舊名を寧湘鐵路といふ。南京から起り江西省の萍鄉

縣に至る。
【京綏鐵路】136 ケイスイテツロ 北京から張家口を經て綏遠省の綏遠に至る鐵道。
【京詔鐵路】137 ケイセウテツロ 民營未完成の鐵道で、南京から江蘇・安徽・浙江・福建等の各省を經て詔安に至る。長さ約一二〇〇公里。
【京靛大布】138 ching¹ tien⁴ ta⁴ pu⁴ 北京特製の藍染織物の一種。
【京蕪鐵路】139 ケイブテツロ 江南鐵路公司の民營鐵道で、南京から安徽省にいたり、江寧鎭を經て蕪湖にいたる。
【京奉鐵路】140 ケイホウテツロ 北寧鐵路(**2**—**2574**··538)の舊名。
【京魯鐵路】141 ケイロテツロ 南京江浦を起點とし、六合・淮南・邳縣を經て山東省の郯城に至る約四一〇公里の未完成鐵道。

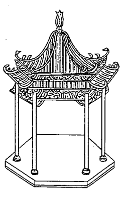
【㐭】300 リン 廩(**4**—**9515**)の本字。〔正字通〕㐭、廩本字。

【亰】301 イ 〔五音篇海〕延知切 支
花の名。〔五音篇海〕亰、花名。

【亯】302 コク 克(**1**—**1355**)の古字。〔集韻〕克、古作亯。

七畫

【亭】303 テイ チヤウ 唐チン 〔集韻〕唐丁切 青 ㄊㄧㄥ t'ing² 小篆
㊀**やどり**。**しゆくば**。宿驛。〔說文〕亭、民所安定也、亭有樓、从高省、丁聲。〔釋名、釋宮室〕亭、停也、人所停集也、凡驛亭・郵亭・園亭、並取此義爲名。〔漢書、高帝紀上〕爲泗上亭長。〔注〕師古曰、亭、謂停留行旅宿食之館。〔漢書、平帝紀〕因郵亭書以聞。〔漢書、百官公卿表〕十里一亭、十亭一鄉、亭有亭長。〔東觀漢紀〕鑿山通路、列亭置郵。㊁**ものみ臺**。たかやぐら。〔後漢書、光武紀下〕築亭候。〔注〕亭候、伺候望敵之所。㊂**ちん**。あづまや。四阿。〔正字通〕亭、亭榭。〔漢書、息夫躬傳〕寄居丘亭。〔蘇軾、喜雨亭記〕爲亭於堂之北、云云、以爲休息之所。㊃**とどまる**。停(**1**—**864**)・渟(**7**—**17763**)に通ず。〔說文通訓定聲〕亭、字亦作停、作渟。〔正字通〕停、古作亭。〔太平御覽、居處、亭〕風俗通曰、亭、留也。〔釋名、釋宮室〕亭、停也、亦人所停集也。〔漢書、西域傳〕其水亭居。〔謝靈運、初去郡詩、止監流歸停、注〕善曰、蒼頡篇曰、亭、定也、停與亭同、古字通。㊄**平かにする**。**ととのへる**。定(**3**—**7109**)に通ず。〔說文通訓定聲〕亭、叚借爲定。〔史記、秦始皇紀〕決河亭水。〔注〕正義曰、亭、平也。〔史記、酷吏、張湯傳〕亭疑法。〔注〕集解曰、李奇云、亭、平也、均也。〔漢書、張湯傳〕平亭疑法。〔注〕李奇曰、亭、亦平也。師古曰、亭、均也、調也。〔淮南子、原道訓〕味者甘立而五味亭矣。〔注〕亭、平也。㊅**至る**。〔孫綽、遊天台山賦〕羲和亭午。〔注〕良曰、亭、至也。㊆**正しい**。〔正字通〕亭、直也。〔史記、五帝紀、以征不享、注〕索隱曰、本或作亭、亭訓直、以征諸侯之不直者。



㊂ 亭 (三才圖會)

㊇**別ける**。萬物の形を作り區別する。轉じて、やしなふ。亭毒(60)を見よ。〔老子、五十一〕亭之毒之。〔釋文〕亭、別也。〔劉峻、辨命論〕生之無亭毒之心。〔注〕善曰、老子曰、云云、王弼曰、亭、謂品其形。㊈**ひいでる**。〔袁宏、三國名臣序贊〕嶺無亭菊。〔注〕銑曰、亭、秀也。㊉**物のさま**。亭亭(54)の㊀㊁㊂㊃㊄を見よ。⓫**姓**。〔萬姓統譜〕亭、見姓苑。

【亭尉】1 テイヰ 官名。司空の屬官。〔墨子、雜守〕亭尉次司空、亭一人。
【亭郵】2 テイイウ しゆくば。宿驛。うまや。〔禮、檀弓下、三家視桓楹、注、四植謂之桓、疏〕案、說文、桓、亭郵表也、謂亭郵之所而立表木、謂之桓。〔宋史、禮志十二〕紹興二年十一月、禮部太常寺言、淵聖皇帝御名、見於經傳義訓者、或以威武爲義、或以回旋爲義、又爲植立之象、又爲亭郵表名、又爲圭名、又爲姓氏、又爲木名、當各以其義類求之。
【亭育】3 テイイク そだて養ふ。化育。亭毒。停育。〔老子、五十一〕長之育之、亭之毒之。〔江總、勞酒賦〕顧曲私之亭育、遞寒暑而徂遷。〔盧照鄰、釋疾文〕亭育雖繁、恩已絕乎斯代。
【亭員】4 テイヰン 亭長(51)をいふ。〔稱謂錄、各役、亭員〕北堂書鈔、亭長、舊名亭員、後改爲長。
【亭院】5 テイヰン うてな。樓屋。〔遼邸記聞〕遼王好營宮室、置亭院二十餘區。〔郭良、題李將軍山亭詩〕誰知貴公第、亭院有煙霞。
【亭宇】6 テイウ 樓臺。うてな。〔韋應物、西亭詩〕亭宇麗朝景、簾牖散暄風。〔宋史、職官志五〕園苑四、玉津・瑞聖・宜春・瓊林苑、掌種植蔬蒔、以待供進、脩飾亭宇、以備游幸宴設。
【亭景】7 テイエイ 亭のかげ。〔杜甫、陪王侍御宴通泉東山野亭詩〕亭景臨山水、村煙對浦沙。
【亭驛】8 テイエキ 宿場。〔蜀志、張嶷傳〕千里肅清、復古亭驛。
【亭下】9 テイカ ㊀驛次。〔史記、李將軍傳〕止廣宿亭下。㊁亭の邊り。〔卞司、倪雲林畫詩〕亭下不逢人、斜陽澹秋影。㊂鎭の名。浙江省奉化縣の西北。
【亭岡】10 テイカウ 河の名。山西省平遙縣の南。〔明一統志〕亭岡水、在汾州府平遙縣南二十八里。
【亭皐】11 テイカウ 澤中に堤を作り、堤上、十里ごとに置いた亭。或は、地を築き平かにすることもいふ。皐は澤。〔司馬相如、上林賦〕亭皐千里、靡不被築。〔注〕善曰、服虔曰、皐、澤也、隄上十里一亭、郭璞曰、皆築地令平也、銑曰、皐澤中有隄、隄上十里置一亭、是名亭皐也。〔王勃、餞韋兵曹詩〕亭皐分遠望、延想間雲涯。
【亭閣】12 テイカク うてな。樓臺。〔唐書、長寧公主傳〕魏王泰故第、東西盡一坊、瀦沼三百畝、泰薨、以與民、至是、主匄得之、亭閣華詭、埒西京。
【亭檻】13 テイカン あづまやの手すり。〔鄒浩、四柏賦〕蕙蘭馥郁乎亭檻、綿綺焜煌乎塗泥。
【亭菊】14 テイキク 見事な菊。〔袁宏、三國名臣序贊〕谷無幽蘭、嶺無亭菊。〔注〕銑曰、亭、秀也。
【亭居】15 テイキヨ とどまる。溜る。亭は渟に通ず。〔漢書、西域傳上〕其水亭居、冬夏不增減。
【亭館】16 テイクワン うてな。樓屋。〔南史、梁昭明太子統傳〕性愛山水、於元圃穿築、更立亭館、與朝士名素者遊其中。〔張協、遊仙詩〕亭館籠雲搆、脩梁流三曜。〔劉禹錫、夏日寄宣武令狐相公詩〕近來溽暑侵亭館、應覺清談勝綺羅。
【亭觀】17 テイクワン うてな。樓臺。〔水經、濛水注〕羊水、又東注如渾水、又南至靈泉池南、而舊京北背、左方嶺右山原、亭觀繡峙、方湖反景、若三山之倒水下。〔唐書、馬暢傳〕終少府監、贈工部尙書、諸子無室廬、自宅奉誠園亭觀、卽其安邑里舊第云。
【亭徼】18 テイケウ 邊境の守備。〔史記、平準書〕新秦中、或千里無亭徼。〔注〕集解曰、如淳曰、徼、亦卒、求盜之屬也、晉灼曰、徼、塞也、瓚曰、既無亭候、又不徼循、無衞邊之備也。
【亭戶】19 テイコ 唐宋時代、官命によつて鹽を製造した家。〔唐書、食貨志四〕游民業鹽者、爲亭戶。〔宋史、食貨志下四〕環海之湄、有亭戶、有鍋戶、有正鹽、有浮鹽、正鹽出於亭戶、歸之公上者也、浮鹽出於鍋戶、鬻之商販者也。

【亭午】20テイゴ　正午の時。亭は至、午は日中。又、日の午に在るのを亭といふ。停午。〔正字通〕亭、又亭午、孫綽遊二天台山一賦、義和亭レ午、游氣高褰、註、亭、至也、午、日中也、云云、一日、亭、直也、亭午卽直午之義。〔梁元帝纂要〕日在レ午曰レ亭。〔孫綽、遊二天台山一賦〕義和亭レ午、遊氣高褰。〔注〕善曰、午、日中、良曰、亭、至也。

【亭口】21テイコウ　鎭の名。❶金、置く。陝西省汾縣の西。❷山東省平度縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東萊州府、平度州〕亭口鎭、州西南七十里、卽膠萊河所レ經、有二巡司戍守一。

【亭公】22テイコウ　宿驛の長をいふ。亭長（51）に同じ。〔方言、二〕楚東海之間、亭父謂二之亭公一。〔注〕亭レ民也。

【亭侯】23テイコウ　漢代、列侯の小なる者。大なる者は縣を食邑とし、小なる者は鄉亭を食邑とする。後漢の獻帝の初、曹操を封して費亭侯としたのに始まり、魏晉、之に因る、位は關內侯の上に在る。日知錄、卷二十二に見ゆ。〔後漢書、桓帝紀〕勳等七人爲二亭侯一。〔魏志、文帝紀〕黃初二年初制、封二王之庶子一爲二鄉公一、嗣王之庶子爲二亭侯一公之庶子爲二亭伯一。〔通典、職官典、歷代王侯封爵〕漢、凡列侯、金印紫綬、大者食レ縣、小者食二鄉亭一云云、後漢、至二獻帝建安初一、封二曹操一爲二費亭侯一、亭侯之制、自レ此始也、云云、魏、凡國、王・侯・公・伯・子・男六等、次縣侯、次鄉侯、次亭侯、次關內侯、云云、晉亦有二王・公・侯・伯・子・男六等之封一、晉令曰、有二開國郡公・縣公・郡侯・縣侯・伯・子・男、及鄉亭・關內・關外等侯之爵一。〔稱謂錄、各等封爵古稱、亭侯〕通典、漢獻帝建安初、封二曹操一爲二費亭侯一、亭侯之制、自レ此始也、案、漢之列侯、大者食レ縣、小者食二鄉亭一、則有レ稱二亭侯者一、亦必有レ稱二鄉侯縣侯者一。

【亭候】24テイコウ　邊境に築いて敵のやうすをうかがふ物見臺。〔後漢書、光武紀下〕築二亭候一、修二烽燧一。〔張衡、東京賦〕亭候修勅。〔唐書、張茂昭傳〕列二亭候一、平二易道路一。

【亭際】25テイサイ　亭のほとり。〔方干、海石榴詩〕亭際天妍日看、每朝顏色一般殷。

【亭材】26テイザイ　亭を作る材料。〔唐書、宗室、漢傳〕舶賈獻二沉香亭材一、帝受レ之。

【亭竈】27テイサウ　鹽を燒くかまど。〔宋史、河渠志七〕本朝天聖改元、范仲淹爲二泰州西溪鹽官一、日、風潮泛溢、淹二沒田產一、毀二壞亭竈一、有レ請二於朝一、調二四萬餘夫、修築二旬、畢レ工、遂使下海瀕沮洳湯鹵之地、化爲中良田上。

【亭山】28テイザン　❶山名。㋑山東省章丘縣の西南。隋が衞國縣を改めて亭山縣としたのは、此の山の有るに因る。❷を見よ。㋺安徽省和縣の西北の歷陽山をいふ。淮南子には歷山に作る。〔竹書紀年〕夏桀卒二于亭山一。〔荀子、解蔽〕桀死二於亭山一。㋩浙江省紹興縣の南。晉の司空何無忌が亭を山上に置いたので名づける。唐の乾寧中、錢鏐が董昌を攻めて、亭山の寨に克つた。〔讀史方輿紀要、浙江、紹興府、會稽縣〕亭山、府南十里、唐乾寧中、錢鏐攻二董昌一、克二其亭山寨一、又明初、胡大海攻二郡城一、駐二兵其上一。❸縣名。隋、置く。故城は、山東省章邱縣の西南。〔讀史方輿紀要、山東、濟南府、章邱縣〕亭山城、縣西南六十里、漢東平陵縣地、宋元嘉五年、析二置衞國縣一、後魏廢、北齊復置、隋改曰二亭山一、屬二齊州一、唐因之、元和十五年廢、今其地有二亭山一、蓋隋因以名レ縣。❹清、胡大年（9—29400・548）の字。

【亭山山人】29テイザンサンジン　清、陳鍾祥（11—41698・1014）の號。

【亭子】30テイシ　❶晉代の官名。賤役。〔晉書、劉卞傳〕少爲二縣吏一、功曹夜醉如レ廁、使二卞執燭一、不レ從、功曹銜レ之、以二他事一補二亭子一。❷うてな。ちん。子は助字。〔杜甫、題二鄭縣亭子一詩〕鄭縣亭子澗之濱。〔大業雜記〕帝於二江山一造二亭子十二所一、其最上名二翠微亭一。

【亭一】31テイイチ　清、王明弼（7—20823・2135）の字。

【亭寺】32テイジ　宿場の役所。〔後漢書、質帝紀〕夏四月、丹陽賊陸宮等、圍レ城燒二亭寺一、丹陽太守江漢、擊破レ之。〔宋書、明帝紀〕自今、凡竊二執官仗一、拒二戰邏司一、或攻二剽亭寺一、及害二民者一、凡此諸條、悉依二舊制一。

【亭次】33テイジ　しゆくば。驛次。〔後漢書、趙咨傳〕「咨不二爲留、曷送至二亭次一。

【亭舍】34テイシャ　宿場の廬舍。〔後漢書、第五倫傳〕乃僞止二亭舍一、陰乘レ船去。〔魏書、甄侃傳〕夜宿二洛水亭舍一、毆二擊主人一。

【亭樹】35テイジュ　うてな。ちん。樹は屋宇のある臺。亭臺。〔謝朓、三日侍二宴曲水一代人應詔詩〕極望天淵、曲阻亭樹。〔宋史、樂黃目傳〕久在レ洛、因卜居、有二亭樹竹樹之勝一、優游自得。〔劇談錄、亭樹清峻〕。

【亭鄣】36テイショウ　とりでの要所に置く番所。亭障に同じ。〔史記、大宛傳〕於レ是酒泉列二亭鄣一、至二玉門一矣。〔漢書、賈捐之傳〕女子乘二亭鄣一。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕北上二馬嶺一、歷二亭鄣堡戍一。極望天淵、曲阻亭樹。〔宋史、樂黃目傳〕久在レ洛、因卜居、有二亭樹竹樹之勝一、優游自得。〔劇談錄、亭樹清峻〕。

【亭障】37テイショウ　とりでの要所に、番所を築いて、斥候の用に充てたもの。亭鄣。〔戰國、魏策〕守二亭障一者參列。〔史記、蒙恬傳〕行觀下蒙恬所二爲レ秦築一長城亭障上。〔漢書、孝武紀〕匈奴行壞二光祿諸亭障一。〔注〕師古曰、漢制、每塞要處、別築爲レ城、置二人鎭守一、謂二之候城一、此卽障也。〔白居易、策林四十八、禦二戎狄一〕不レ以二亭障靜而煙塵銷一、輕レ之而去中守備上。

【亭上】38テイジョウ　亭のほとり。〔高適、漣上題二樊氏水亭一詩〕亭上酒初熟、廚中魚每鮮。〔戴叔倫、蘇溪亭詩〕蘇溪亭上草漫漫、誰倚二東風十二闌一。〔李紳、江南暮春寄レ家詩〕劍水寺前芳草合、鏡湖亭上野花開。

【亭主】39テイシュ　❶亭を管理する人。〔楞嚴經、二〕掌レ亭人、都無レ所レ云、名爲二亭主一。❷家のあるじ。主人。〔搜神記、十八〕來二往戶外一、呼二亭主一。❸をつと。

【亭主八杯客三杯】40テイシュハチハイキャクサンバイ　客をもてなすとき、主人が反つて多く飮むこと。

【亭戍】41テイジュ　宿場のまもり。〔王昌齡、山行入二涇州一詩〕西臨有二邊邑一、北走盡二亭戍一。

【亭植】42テイチ　眞直に伸びたつ。〔周敦頤、愛蓮說〕香遠益清、亭亭淨植。

【亭隧】43テイスイ　とりでの物見やぐらと地下道。〔漢書、匈奴傳下〕至二孝武世一、出二師征伐一、斥二奪此地一、攘二之漠北一、建二塞徼一、起二亭隧一、築二外城一、設二屯戍一、以守レ之。〔注〕師古曰、隧、謂下深開二小道一、而避レ敵鈔中寇也。〔王粲、七哀詩〕登レ城望二亭隧一、翩翩飛二戍旗一。

【亭燧】44テイスイ　とりでに設けた合圖ののろし。〔後漢書、西羌傳〕障塞亭燧、出二長城外數千里一。〔顏延之、從軍行〕臥伺二金柝響一、起候二亭燧烟一。

【亭沼】45テイショウ　あづまやと池。亭池に同じ。〔宋史、盧秉傳〕末レ冠有二鶴警一、嘗謁二蔣堂一、坐二池亭一、堂曰、亭沼粗適、恨林木未レ就爾、秉曰、亭沼如二爵位一、時來或有レ之。

【亭然】46テイゼン　そびえ立つさま。卓立するさま。〔南史、王僧祐傳〕亭然獨立、不レ交二當世一。

【亭臺】47テイダイ　あづまや。うてな。亭榭。〔高適、陪二竇侍御靈雲南亭宴一詩〕人幽宜二眺聽一、目極喜二亭臺一。〔劉得仁、冬日駱家亭子詩〕亭臺臘月時、松竹見二貞姿一。〔趙嘏、送二權先輩歸覲一信安詩〕野色亭臺晚、灘聲枕簟涼。

【亭當】48テイタウ　物事の安定せるさま。亭當。〔新方言、釋言〕今謂二物之安、事之定一、曰二亭當一。

【亭池】49テイチ　あづまやと池。亭沼。〔南齊書、顧歡傳〕貴勢之流、貨室之族、車服伎樂、爭相奢麗、亭池第宅、競趣二高華一、至下山澤之人、不レ敢採二飮其水草一、貧富相輝、捐源尙末。

【亭置】50テイチ　宿場。うまつぎば。宿驛。驛次。亭傳。驛亭。〔史記、大宛傳、其西則條枝、注、正義曰、郵驛・亭置、如二中國一。

【亭長】51テイチャウ　宿驛の長。鄉村の長。秦漢の制、十里に一亭を置き、亭に長があり、盜賊の逮捕取調を掌る。隋では亭長の名を用ひ、流外の號とし、唐もこれに因り、省門を守り、禁約を通傳することを掌る。亭公。亭貝。亭父。〔史記、項羽紀〕乃謂二亭長一曰、吾知二公長者一。〔漢書、高帝紀上〕爲二泗上亭長一。〔注〕師古曰、秦法、十里一亭、亭長者、主下亭之吏也、亭、謂下停二留行旅一、宿食之館上。〔後漢書、百官志五〕亭有二亭長一、以禁二盜賊一、本注曰、亭長主下求二捕盜賊一、承中望都尉上。〔注〕設二十里一亭、云云、亭長持二尺板一以劾二賊、索繩以收二執賊一、云云、亭、留也、蓋行旅宿會之所館、亭吏舊名、負弩、改爲レ長、或謂二亭父一。〔稱謂錄、各役、亭長〕宋書、五家爲レ伍、伍長主レ之、二伍爲レ什、什長主レ之、十什爲レ里、里魁主レ之、十里爲レ亭、亭長主レ之。〔稱謂錄、各役、亭貝〕顏眞子云、唐祕書省、凡六十七人、典書四人、亭長六人、世但知二鄉村之長、謂二之亭長一、不レ知二唐諸司皆

有レ之、尙書省唐志曰、以二亭長一啓閉傳二禁約一、則知二三省亦有一也。

【亭場】52テイヂヤウ 宋代、鹽を賣買した處。〔宋史、食貨志下三〕鬻レ鹽之地曰二亭場一、民曰二亭戶一、或謂二之竈戶一。

【亭中】53テイチユウ 宿驛のなか。〔後漢書、王忳傳〕縣署二忳大度亭長一、初到之日、有レ馬、馳入二亭中一而止。

【亭亭】54テイテイ ❶高く聳え立つさま。卓立するさま。亭然。〔太公兵法〕高山盤石、其上亭亭。〔張衡、西京賦〕狀亭亭以岧嶢。〔注〕綜曰、亭亭、岧嶢、高貌。〔何敬祖、遊仙詩〕亭亭高山栢。〔張祜、胡渭州詩〕亭亭孤月照二行舟一、寂寂長江萬里流。〔周敦頤、愛蓮說〕亭亭淨植、可二遠觀一、而不レ可二褻翫一焉。❷遠くはるかなさま。〔司馬相如、長門賦〕荒亭亭而復明。〔注〕善曰、亭亭、遠貌。〔謝惠連、泛レ湖歸出二樓中一翫レ月詩〕亭亭映二江月一。〔注〕善曰、亭亭、迥貌。〔劉長卿、登二餘干古縣城一詩〕平江渺渺來人遠、落日亭亭向レ客低。〔常建、西山詩〕亭亭碧流暗、日入孤霞繼。❸依るべ無いさま。〔後漢書、蔡邕傳〕情志泊兮心亭亭。〔注〕亭亭、孤峻之貌。〔魏文帝、雜詩〕西北有二浮雲一、亭亭如二車蓋一。〔注〕善曰、亭亭、迥遠無レ依之貌也。❹美しいさま。〔沈約、麗人賦〕亭亭似レ月、嬿婉如レ春。❺山名。泰山の支峯。山東省泰安縣の南。〔管子、封禪〕黃帝封二泰山一、禪二亭亭一。〔史記、封禪書〕封二泰山一、禪二亭亭一。〔白虎通、封禪〕五帝禪二於亭亭一者、制度審諟、德著明也。

【亭亭山人】55テイテイサンジン 明、張丑(**4－9812**··547)の號。

【亭傳】56テイデン 宿場。うまつぎば。傳は傳遽。〔後漢書、陳忠傳〕繕二理亭傳一、多設二儲跱一。〔魏志、張魯傳〕諸祭酒皆作二義舍一、如二今之亭傳一。

【亭殿】57テイデン あづまやと御殿。〔海山記〕湖中積二土石一爲レ山、構二亭殿一。

【亭曈】58テイトウ 初日の光。〔馮宿、初日照二冰池一賦〕以二涸沍之寒質一、承二亭曈之曉光一。

【亭童】59テイドウ 眞直に立つさま。停僮。〔溫庭筠、雍臺歌〕羽葆亭童拂二交戟一。〔宋史、樂志十六〕亭童芝蓋、擁レ旌龍列。

【亭毒】60テイドク テイトク そだてやしなふ。化育する。亭は形を與へ區別すること、毒は質を成すこと。又、亭は平、毒は篤で、平は成すこと、篤は熟することともいふ。亭育。〔老子、五十一〕故道生レ之、德畜レ之、長レ之育レ之、亭レ之毒レ之、養レ之覆レ之。〔大田晴軒、老子全解〕淮南原道訓、味者甘立而五味亭矣、注、亭、平也、毒、卽篤借字、謂二平レ之而使レ不レ危、篤レ之而使レ不レ耗也、一作二成レ之熟一レ之。〔劉峻、辨命論〕生レ之無二亭毒之心一、死レ之豈虔劉之志。〔注〕善曰、老子曰、亭レ之毒レ之、蓋レ之覆レ之、王弼曰、亭謂レ品二其形一、毒謂レ成二其質一、翰曰、亭毒、均養也。〔宋書、禮志〕道冠二軒堯一、惠深二亭毒一。

【亭伯】61テイハク ❶爵の名。魏の制で、公の庶子を亭伯とする。〔魏志、文帝紀〕黃初三年初制、封二王之庶子一爲二鄕公一、嗣王之庶子爲二亭侯一、公之庶子爲二亭伯一。❷後漢、崔駰(**4－8178**··9)の字。

【亭畔】62テイハン 亭のほとり。〔翁承贊、漢上登レ舟憶レ閩詩〕漢高亭畔起二西風一、半挂二征帆一立向レ東。〔唐彥謙、寄レ懷詩〕有レ客傷レ春復怨レ離、夕陽亭畔草青時。〔宋史、樂志十六〕大椿亭畔蒼蒼柳、悵無レ由三挽二住天衣一。

【亭碑】63テイヒ 亭中の碑。〔李東陽、奎文閣賦〕亭碑矗兮林立、壇屋隱兮如レ蓋。

【亭父】64テイフ 宿驛の長。陳楚宋衞地方の語。亭長(51)に同じ。〔廣雅、釋訓〕亭父更褚、卒也。〔王念孫疏證〕方言南楚東海之閒、亭父謂二之亭公一、卒謂二之弩父一、或謂二之褚一、續漢書百官志注、引二風俗通義一云、漢家因レ秦、大率十里一亭、亭、留也、蓋行旅宿食之所レ館、亭吏舊名二負弩一、改爲二亭長一、或謂二亭父一、漢書高祖紀、應劭注云、舊時亭有二兩卒一、一爲二亭父一、掌二開閉掃除一、一爲二求盜一、掌三逐二捕盜賊一。〔事物異名錄、爵位、驛丞〕風俗通、漢家因レ秦、十里一亭、亭長者、一亭之長率也、舊名二負弩一、今改爲二亭長一、陳楚宋衞、謂二之亭父一、按、今驛丞、卽古亭父遺意。

【亭壁】65テイヘキ 宿驛の城壁。〔庾信、哀江南賦序〕江淮無二涯岸之阻一、亭壁無二藩籬之固一。

【亭北】66テイホク 清、景星杓(**5－13983**··348)の字。

【亭落】67テイラク 驛亭村落。宿場、村里。〔新語、至德〕官府若レ無レ吏、亭落若レ無レ民。

【亭吏】68テイリ 宿驛の役人。〔世說新語、雅量〕褚公云云、投二錢唐亭一住、爾時、吳興沈充爲二縣令一、當レ送レ客過二浙江一、客出、亭吏驅レ公移二牛屋下一。

【亭立】69テイリツ 淸、金士松(**11－40152**··1265)の字。

【亭林】70テイリン ❶鎭の名。江蘇省松江縣の東南。高丘あり、梁の顧野王が居たので、野王讀書堆とも呼び、又、鎭の北に湖があるから顧亭湖ともいひ、鎭の南に林があるので顧亭林ともいふ。淸初、顧亭林(炎武)も此處に居た。宋の蘇軾に顧亭林の詩がある。〔蟹譜〕亭林湖、於二天聖之末一、俄生二白蟹一。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、婁縣〕亭林鎭、府東南三十六里、亦曰二顧亭林一、宋乾道九年、修二瀕海諸堰一、因置二監堰官於亭林一、以防二鹽運私發諸堰之弊一、今爲二商旅輳集之所一。❷字號。㋑明、顧正誼(華亭の人)(**12－43689**··299)の號。㋺淸、顧炎武(**12－43689**··223)の號。

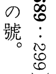
〔亭林遺書〕71テイリンヰシヨ 書名。六十五卷。淸、顧炎武(號は亭林)の遺書を朱記榮が輯めたもの。第一冊、左傳杜解補正三卷・九經誤字一卷。第二・三冊、五經同異三卷。第四冊、韻補正一卷・聖安記事二卷・顧氏譜系攷一卷。第五冊、明季實錄一卷。第六—九冊、歷代帝王宅京記二十卷。第十冊、營平二州地名記一卷・昌平山水記二卷。第十一冊、京東攷古錄一卷・山東攷古錄一卷・譎觚十事一卷。第十二冊、求古錄一卷。第十三・十四冊、金石文字記六卷・石經攷一卷。第十五冊、菰中隨筆三卷。第十六・十七冊、救文格論一卷・亭林雜錄一卷・亭林文集六卷。第十八・十九冊、亭林詩集五卷・亭林餘集一卷・亭林佚詩一卷。第二十冊、顧亭林先生年譜一卷・亭林先生神道表一卷・同志贈言一卷。

【亭歷】72テイレキ 野菜の名。にがぜり。苦菜。本草は葶藶に作る。〔爾雅、釋草〕蕇、亭歷。〔注〕實葉皆似レ芥、一名、狗薺。〔廣雅、釋草〕狗薺・大室、亭歷也。〔韓非子、難勢〕此味非二飴蜜一也、必苦菜亭歷也。〔淮南子、繆稱訓〕大戟去レ水、亭歷愈レ張。

【亭樓】73テイロウ うてな。やしき。〔漢書、甘延壽傳〕少以二良家子一善レ騎、爲二羽林一、投石拔距、絕二於等倫一、嘗超二踰羽林亭樓一、由レ是遷爲レ郎。〔江淹、尙書符〕或飲二羽石梁一、或超二踰亭樓一、索鐵拔距、孤視二萬旅一。〔孟浩然、峴山送三蕭員外之二荊州一詩〕亭樓明二落照一、井邑秀二通川一。

【亭獨尸逐侯鞮單于】74テイドクシチクコウテイゼンウ 後漢、和帝の時の匈奴の單于。名は師子。醢僮尸逐侯鞮單于適の子。卽位以前から前左谷蠡王として屢〻和帝に從つて軍功を立てた。永元六年南單于となり、同九年卒す。〔後漢書、四・一百十九〕。

【亮】304


小篆

㈠リヤウ 〔集韻〕力讓切 漾
㈡リヤウ 〔集韻〕呂張切 陽
カ一尢 liang4

㈠❶あきらか。あかるい。倞(**1－780**)に同じ。〔說文〕亮、明也、从二儿高省一。〔段注〕各本無、此依二六書故所一レ據唐本一補。〔說文通訓定聲〕倞、明也、从レ人京聲、字亦作レ亮、錢辛楣師曰、漢分隸、往往以レ亮爲レ倞、蓋隸變移二人旁于京下一、又省二京中一、遂爲二亮形一、按、此說是也。〔嵇康、雜詩〕皎皎亮月。〔注〕亮、明也。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕寸心若不レ亮。〔注〕善曰、亮、猶レ明也。❷まこととする。信。諒(**10－35653**)に通ず。〔爾雅、釋詁〕亮、信也。〔詩、鄘風、柏舟〕不レ亮人只。〔釋文〕亮、本亦作レ諒。〔孟子、告子下〕君子不レ亮。〔注〕亮、信也。❸まことに。〔書、舜典〕亮采二惠疇一。〔傳〕亮、信也。〔書、皐陶謨〕亮采二有邦一。〔古詩〕君亮執二高節一、賤妾亦奚爲。❹たすける。〔爾雅、釋詁〕亮、導也、亮、右也。〔廣雅、釋言〕亮、相也。〔詩、大雅、大明〕涼二彼武王一、〔釋文〕韓詩作レ亮、云、相也。〔晉書、王導傳〕勳格二四海一、翼二亮三世一。❺⿱穴京(**5－13726**)に通ず。〔說文、⿱穴京、段注〕按、水部曰、涼、薄也、云云、⿱穴京則爲レ事有二不善一之言、若レ亮

則爲レ明也、諒則爲レ信也、四字在二說文一義別、而古經傳多相假。【名乘】姓。〔萬姓統譜〕亮、出二姓苑一。㊁亮陰は天子が喪に居ること。亮陰(一)を見よ。【訓】すけ。我が國古昔の官制は、かみ・すけ・じょう・さくわんの四等に分ち、職キでは太夫・亮・進・屬の文字を宛てる。すけは長官を輔佐する官。

【名乘】スケ。アキ。アキラ。フサ。

【解字】會意。儿と高の省形との合字。儿は人。人が高處に居れば明かに見えるから、明かの義となる。又、高明の士は人を補佐することが出來るから、轉じて、たすける義となる。〔說文、亮、段注〕人處レ高則明、故其字从二儿高一、明者可二以佐一人、故釋詁曰、亮、相導也。

【參考】此の字は說文の舊本に無く、段玉裁の補つたもの。通訓定聲は倞の變形としてゐる。

【亮陰】1 リャウアン 天子の忌中。また大喪の期間。また諒陰・諒闇・梁闇・亮闇に作る。尙、亮陰の原義については、下の二つの說がある。〔書、說命上〕王宅レ憂、亮二陰三祀一、既免レ喪、其惟弗レ言。〔論語、憲問〕高宗諒陰、三年不レ言。〔禮、喪服四制〕書曰、高宗諒陰、三年不レ言、善之也。〔王安石、進レ戒疏〕陛下既終二亮陰一。❶倚廬の義とするもの。倚廬(1—776‥97)を見よ。〔禮、喪服四制、高宗諒陰、注〕諒、古作レ梁、楣謂二之梁一、闇、讀如二鶉鶉之鶉一、闇、謂レ廬也、廬有レ梁者、所謂柱楣也。❷天子は喪に服する間、事を冢宰に任せ、政治上のことを言はぬ義とするもの。〔書、說命上、王宅レ憂亮陰三祀、傳〕陰、默也、居レ憂、信默三年不レ言。〔論語、憲問、高宗諒陰、集解〕孔安國曰、諒、信也、陰、猶レ默也。〔疏〕謂下信二任冢宰一、默而不レ言也。

【亮菴】2 リャウアン 清、卓天寅(2—2741‥83)の號。

【亮闇】3 リャウアン 天子の忌中。亮陰(1)に同じ。〔史記、魯世家〕其在二高宗一、作二其卽位乃有一亮闇一、三年不レ言。〔注〕集解曰、鄭玄曰、楣、謂二之梁一、闇、謂レ廬也。

【亮楅】4 リャウヒク 格子。〔通俗編、居處、亮楅〕襄牖閑評、取明楅子、人多呼爲二亮楅一。〔水滸傳、四回〕把二亮楅一關上。

【亮簏】5 リャウカク 障子のこと。竹障。〔訓蒙字會〕竹障、俗稱二亮簏一。

【亮鑒】6 liang⁴ chien⁴ 書翰文用語。御推量ありたしの意。

【亮許】7 リャウキョ おゆるし。許容。〔宋書、王僧達傳〕公私誠願、宜レ蒙二亮許一。

【亮卿】8 リャウケイ 宋、李柒(6—14459‥352)の字。

【亮轎】9 liang⁴ chiao⁴ 四方明けはなしのかご。〔紅樓夢、二十九回〕賈母獨坐二乘八人大亮轎一。

【亮月】10 リャウゲツ 明かな月かげ。明月。皎月。〔嵇康、雜詩〕皎皎亮月、麗二於高隅一。

【亮工】11 リャウコウ 字號。❶清、黃采(12—47926‥96)の字。❷清、曾煜(5—14299‥5)の字。❸清、趙宏燮(10—37171‥486)の字。❹清、廖寅(4—9464‥1)の字。

【亮采】12 リャウサイ 庶事を明かにすること。一說に、庶事をたすけること。〔書、舜典〕亮レ采惠レ疇。〔蔡傳〕亮、明、云云、一說、亮、相也、云云、明二亮庶事一而順二成庶類一也。〔傳說彙纂〕林之奇曰、亮采者、輔相之義。

【亮濟】13 リャウサイ 明かで滯らぬ。〔魏志、崔林傳、注〕術弟隨、管尙書僕射、爲レ人亮濟。

【亮察】14 リャウサツ おもひやる。同情する。諒察。書簡等に用ひる辭。〔王守仁、與二安宣慰一書〕不レ敢不二以レ正對一幸亮察。

【亮子】15 liang⁴ tzŭ 清代の陸軍の一部隊。五百人を定員とする。

【亮之】16 シャウシ 字號。❶明、郁采(11—39371‥10)の字。❷清、王應昌(7—20823‥1214)の字。

【亮四】17 リャウシ 清、畢振姬(7—21829‥102)の字。

【亮兒】18 liang⁴ êrh 光。

【亮章】19 リャウシャウ まことにあきらかなこと。信明。〔班固、典引〕夫圖書、亮章天哲也。〔注〕蔡邕曰、亮、信也、章、明也、言、河圖洛書、至信至明而出、天賜レ之、使二視而行一之。

【亮情】20 liang⁴ ch'ing² 好意を寄せる。

【亮鐘】21 liang⁴ chung¹ 曉の鐘。

【亮臣】22 リャウシン 清、陸光熙(11—41708‥299)の字。

【亮生】23 リャウセイ 字號。❶清、朱采(6—14424‥300)の字。❷清、王遜(7—20823‥1062)の字。

【亮儕】24 リャウセイ 清、魯之裕(12—46013‥165)の字。

【亮跡】25 リャウセキ あきらかないさを。〔陸機、漢高祖功臣頌〕貞軌偕沒、亮跡雙升。

【亮節】26 リャウセツ 清らかなみさを。清操。〔陸機、猛虎行〕亮節難レ爲レ音。〔注〕善曰、亮、信也、謂有二貞信之節一、言必慷慨。〔陸雲、豫章內史夏府君誄〕亮節二恪。〔白居易、與二仕明一詔〕忠誠亮節。

【亮然】27 リョウゼン 明かなさま。ほがらかなさま。〔晉書、劉元海載記〕縱レ酒長嘯、聲調亮然。

【亮達】28 リャウタツ 明かに事理に通達する。〔後漢書、陳蕃傳〕齊二七政一訓二五典一、臣不レ如二議郎王暢一、聰明亮達、文武兼姿、臣不レ如二弛形徒李膺一。

【亮中】29 リャウチュウ 清、林開登(6—14551‥278)の字。

【亮直】30 リャウチョク ❶心があきらかで正しい。又、其の人。〔漢書、敍傳下〕賓二禮故老一、優二繇亮直一。〔後漢書、劉矩傳〕性亮直、不レ能二諧二附勢貴一。〔魏志、司馬芝傳〕芝性亮直、不レ矜二廉隅一。〔晉書、傅玄傳〕性剛勁亮直、不レ能レ容二人之短一。❷清、徐葆光(4—10110‥603)の字。

【亮拔】31 リャウバツ 心があきらかで才能がすぐれてゐること。〔孫綽、潁州府君碑〕茂才亮拔。

【亮甫】32 リャウホ 字號。❶清、姚祖同(3—6202‥178)の字。❷清、朱右曾(6—14424‥646)の字。

【亮話】33 liang⁴ hua⁴ 明かな言葉。率直な言葉。

【亮座主】34 リャウザス 唐の人。南岳山下・西山亮座主ともいふ。馬祖道に參じて大悟す。〔傳燈錄、八〕

【亮遺巾幗】35 リャウキンカク 蒙求の標題。蜀の諸葛亮が司馬懿(晉の宣帝)と渭水に對陣した時、懿が自重して動かなかつたので、婦人の髮飾りをおくつて其の丈夫の志なきを辱しめた故事。〔晉書、宣帝紀〕青龍二年、時朝廷以二亮儁軍遠寇一、利在二急戰一、每命レ帝持重以候二其變一、亮數挑レ戰、帝不レ出、因遺二帝巾幗婦人之飾一。

【亮陟隔坐】36 リャウチョクカクザ 蒙求の標題。三國、吳の孫休の時、紀陟の父亮が、尙書となり、陟は、中書令となつたが、朝會每に詔して屛風を以て其の坐をしきつて寵遇したといふ故事。〔蒙求、下、亮陟隔坐〕吳錄、紀陟、字子上、丹陽人、吳王孤休時、其父亮爲二尙書一、而陟爲二中書令一、每二朝會一、詔以二屛風一隔二其坐一、舊注引二宣城記一云、隔以二雲母屛風一。

【亮亮草紙】37 ザツシャ 書名。三卷。木下幸友編。年來書き溜めた雜著を取捨編輯したもの。

【亮棗長官司】38 リャウサウチャウクワンシ 土司の名。貴州省黎平縣の東北。元、置く。明・淸は共に之に因る。長官は龍姓。司の西に諸葛亮寨がある。諸葛亮が南征の時、兵を屯した處。〔明史、貴州土司傳〕賊欲下取二龍里一爲二巢穴一攻二破亮棗一。〔讀史方輿紀要、貴州、黎平府〕亮棗蠻夷長官司、府東北九十里、元置二亮棗蠻夷軍民長官司一、屬二思州安撫司一、明朝洪武五年、置、今司一、授二土酋龍政中一、屬二思州宣慰司一、永樂中、屬二新化府一、後改今屬、編戶一里。

【亰】307 □ケイ ㊁京(1—299)に同じ。〔康熙字典〕京、京、古通假。㊂原(2—2973)の本字。〔正字通〕京、原本字。

【亳】308 コク 克(1—1355)の古字。〔玉篇〕亳、古文克。

【佢】309 ヤ 夜(3—5763)の俗字。〔中華大字典〕佢、夜俗字。

【奇】310 キ 奇(3—5892)の俗字。〔正字通〕奇、俗作レ奇。

【囧】305 キャウ 享(1—298)の本字。〔正字通〕囧、享本字。

【囪】306 □イウ ㊁遹(11—38981)に同じ。〔康熙字典〕囪、石鼓文、其來囪囪、云云、卽遹字也。㊂直(8—23136)に同じ。〔字彙〕囪、周宣王石鼓文、其來囪、薛作レ首、鄭作レ遹、卽直字。

【亲】311 シン 親(10−34918)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕親、通俗小說、作レ亲。

八畫

【亳】312 ハク バク 〔集韻〕白各切 ㄅㄛˋ po⁴ 藥

小篆

❶**殷の都**。西亳・北亳・南亳の三あり。三亳(1−12・・1482)を見よ。〔書、般庚序〕盤庚五遷、將レ治二亳殷一。〔書、說命下〕自レ河徂レ亳。❷**驛の名**。漢の頃、長安の杜陵縣にあつた。〔說文〕亳、京兆杜陵亭也、从二高省一乇聲。〔段注〕按、許不レ言二三亳一、而獨言二杜陵亳亭一者、正爲二其字从レ高、則以二此亭一當レ之也、然十里一亭者秦制、亳亭之名、秦漢乃有レ之、亳之字、固不レ起二於亭一也。❸**國の名**。春秋時代の陳の地。後周の時、改めて亳州と爲す。今、安徽省亳縣に屬す。〔廣韻〕亳、國名、春秋時陳地、漢爲二沛之譙縣一、魏爲二譙郡一、晉爲二南袞州一、齊爲二亳州一。❹**薄(9−32083)に通ず**。〔說文、亳、段注〕亳、古亦借レ薄爲レ之、如二禮記薄社北牖一。❺**姓**。〔字彙〕亳、姓。〔萬姓統譜〕亳、州名。

【亳殷】1 ハクイン 地名。殷の都。三亳(1−12・・1482)を見よ。〔書、盤庚序〕盤庚五遷、將レ治二亳殷一。〔傳〕自レ湯至二盤庚一、凡五遷レ都、盤庚治二亳殷一。

【亳丘】2 ハクキウ 地名。河南省鞏縣亳丘。亳丘子を見よ。

【亳丘子】3 ハクキウシ 晉、嵇含(4−8272・・4)の號。地名から名づけた。〔晉書、嵇含傳〕含好レ學、能屬レ文、家在二鞏縣亳丘一、自號二亳丘子一。

【亳縣】4 ハクケン 縣名。民國、置く。安徽省阜陽縣の西北。春秋、陳の譙邑。

【亳姑】5 ハクコ ❶書經逸篇の篇名。〔書、亳姑序〕周公在レ豐、將レ沒、欲レ葬二成周一、薨、成王葬二于畢一、告二周公一、作二亳姑一。❷地名。山東省博興縣の東北。蒲姑(9−31611・・37)を見よ。〔書、亳姑序、傳說彙纂〕蘇氏軾曰、亳姑、蒲姑也。

【亳州】6 ハクシウ 州名。北周、置く。民國、改めて縣とす。安徽省阜陽縣の西北。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府〕亳州、古豫州地、周武王封二神農之後於焦一、卽此、後改爲レ譙、春秋時、爲二陳國之譙邑一、戰國屬レ宋、後屬レ楚、云云、後周改爲二亳州一。〔淸史稿、地理志〕安徽、潁州府、州一、亳州。

【亳社】7 ハクシヤ 殷代の社。又、殷のこと。古、國を建てると、必ず先づ社を建てた。殷は亳に都したからかく名づけた。又、薄社・蒲社に作る。〔春秋、哀、四〕六月辛丑、亳社災。〔杜注〕亳社、殷社、諸侯有レ之、所三以戒二亡國一。〔穀梁、哀、四〕亳社者、亳之社也、亳、亡國也、亡國之社、以爲二廟屛戒一也。〔注〕亳卽殷也、殷都二于亳一、故因謂二之亳社一。

【亳王】8 ハクワウ 西戎の君の號。自ら成湯の子孫と號し、亳王といふ。〔史記、秦紀〕寧公二年、公徙居二平陽一、遣レ兵伐二蕩社一、三年與レ亳戰、亳王奔レ戎、遂滅二蕩社一。〔注〕集解曰、徐廣曰、蕩音湯、社、一作レ杜、皇甫謐云、亳王號レ湯、西夷之國也、索隱曰、西戎之君、號曰二亳王一、蓋成湯之胤、其邑曰二蕩社一、徐廣云、一作二湯杜一、言、湯邑在二杜縣之界一、故曰二湯杜一也、正義曰、按、其國蓋在二三原始平之界一矣。

【亯】313 ㊀ハウ ㊁カウ ㊀亯(7−19049)の古字。〔集韻〕亯、古作レ亯。㊁亨(1−295)の古字。〔集韻〕亨、古作レ亯。

【兖】314 ショウ 乘(1−154)の古字。〔集韻〕乘、古作レ兖。〔說文〕兖、古文乘从レ几。

【侇】315 ケイ 義未詳。〔五韻篇海〕侇、音畦。

【亭】316 テイ 亭(1−303)の俗字。〔正字通〕亭、俗作レ亭、非。

【亮】317 リヤウ 亮(1−304)の俗字。

九畫

【兗】318 ショウ 乘(1−154)に同じ。〔集韻〕乘、或作レ兗。

【亭】319 キヤウ 亯(1−305)の篆字。〔說文〕亭、篆文亯。

【亯】320 コク 克(1−1355)の古字。〔集韻〕克、古作レ亯。

【勉】321 ベン 義未詳。〔搜眞玉鏡〕勉、音勉。

【亳】322 ハク 亳(1−312)の俗字。

十畫

【亵】323 シユク 孰(3−6995)に同じ。〔字彙〕亵、同レ孰。

【亷】324 クワツ 聒(9−29062)の古字。〔字彙補〕亷、古文聒字。

【亮】325 ショウ 勝(2−2409)の古字。〔集韻〕勝、古作レ亮。

【亴】326 ハウ ホウ 〔集韻〕博毛切 豪

人名。三國、吳の景帝の第四子。〔集韻〕亴、吳王孫休名レ子。〔吳志、孫休傳、注〕吳錄曰、次子名亴、亴、音如二褒衣下寬大之褒一。

【亶】327 ギウ グ 〔字彙補〕魚救切 宥

とぶ。〔字彙補〕亶、飛也。

十一畫

【亶】328 ㊀タン 〔集韻〕黨旱切 ㄉㄢˇ tan³ 旱 ㊁セン ゼン 〔集韻〕時戰切 霰 ㊂セン ゼン 〔集韻〕時連切 先 ㊃テン 〔集韻〕張連切 先

小篆

㊀❶**まこと**。**まことに**。〔爾雅、釋詁〕亶、誠也、信也。〔書、盤庚中〕誕告用レ亶。〔詩、大雅、板〕不レ實二于亶一。〔傳〕亶、誠也。〔詩、小雅、祈父〕亶不レ聰。〔詩、小雅、常棣〕是究是圖、亶其然乎。〔傳〕亶、信也。〔儀禮、士冠禮〕醮辭曰、旨酒既淸、嘉薦亶時。〔注〕亶、誠也。❷**ゆたか**。穀物が多い。〔說文〕亶、多穀也、从レ㐭旦聲。❸**つくす**。殫(6−16581)に通ず。〔說文通訓定聲〕亶、叚借爲レ殫。〔太玄經、玄瑩〕君子所二以亶表一也。〔注〕亶、盡也。❹**あつい**。あつくする。或は單(2−3993)に作る。〔爾雅、釋詁〕亶、厚也。〔集韻〕亶、厚也、或作レ單。〔詩、周頌、昊天有成命〕單二厥心一。〔國語、周語下〕亶二厥心一。〔注〕亶、厚也。❺**おほきい**。〔廣韻〕亶、大也。❻**病む**。癉(7−22541)に通ず。〔禮、緇衣〕下民卒癉。〔注〕癉、病也。〔釋文〕癉、本亦作レ亶。❼**ただ**。た

だし。ただに。但(1－495)に通ず。〔漢書、賈誼傳〕非二亶倒懸而已一。〔注〕亶、讀曰レ但。〔揚雄、羽獵賦〕亶觀二夫剽禽之紲踪一。〔注〕亶、古但字。㊅かたぬぐ。襢(10－34652)・袒(10－34184)に通ず。〔正字通〕亶、與二襢・袒一通。〔荀子、議兵〕路亶者也。〔注〕亶、讀爲レ襢。㊈海外の國の名。〔韓愈、送二鄭尚書一序〕夷亶之州。〔注〕夷州・亶州、俱國名。十姓。〔萬姓統譜〕亶、徵音。〔奇姓通〕亶誦、中謁者、延光二年、與二張衡周興等一論レ曆。

㊀㊀たたずむ。屯亶は行き難く進まないさま。〔正字通〕亶、屯亶、難レ行不レ進貌。㊁もつぱら。ほしいまま。擅(5－12790)に通ず。〔荀子、彊國〕相國之於二勝レ人之勢一、亶有レ之矣。〔注〕亶、讀爲レ擅。本亦或作レ擅。

㊂㊀亶爰は山の名。〔集韻〕亶、亶爰、山名。〔山海經、南山經〕亶爰之山。㊁飛ぶ。かける。翾(9－28821)に通ず。〔康熙字典〕亶、與レ翾同。〔揚雄、蜀都賦〕堪巖亶翔。㊂行きなやむさま。邅(11－39175)に同じ。〔集韻〕邅、屯邅、難レ行不レ進兒、或作レ亶。

名乘 アツ。タダ。

【亶爰】1 タンエン 山名。〔山海經、南山經〕亶爰之山、多二水無一レ草木一不レ可二以上一。

【亶爰子】2 タンエンシ 明、江暉(6－17140・79)の號。

【亶甲】3 タンカフ 城の名。殷の時、河亶甲の都した所。河南省安陽縣の西。又、河南省内黃縣の南の昔の殷の城をも亶甲城といふ。又、河甲ともいふ。〔通鑑地理通釋〕安陽縣亶甲城、在二洹水南岸一、又有二河亶甲故都一、在二臨亶縣西南五十里一。〔廣川書跋〕始余得二亶甲城觚一、考二其制一、蓋古所謂觶也。〔括地志〕湯遷二西亳一、仲丁遷レ敖、河甲居レ相。

【亶時】4 タンジ 誠に其の時を得てゐる。〔詩、大雅、生民〕胡臭亶時。〔箋〕亶、誠也。〔儀禮、士冠禮〕旨酒既清、嘉薦亶時。

【亶州】5 タンシウ 島の名。亶洲を見よ。〔楊炯、遂州長江縣先聖孔子廟堂碑〕坐二於緇帷之林一、游二於亶州之海一。

【亶洲】6 タンシウ 島の名。秦の徐福が仙人を求めて止まつたところといふ。亶州。〔史記、秦始皇紀〕入レ海求二僊人一、〔注〕正義曰、括地志云、亶洲在二東海中一、秦始皇使下徐福將二童男女一入レ海求中僊人上、止在二此洲一、其數萬家、至レ今、洲上人有下至二會稽一市易者上、吳人外國圖云、亶洲去二琅邪一萬里。

【亶翔】7 タンシヤウ 飛びかける。翾翔。〔揚雄、蜀都賦〕南則有二犍牂・潛夷昆明、裁眉絕限、喉嚨堪巖亶翔一。〔古文苑注〕翾翔、言二山勢之飛舞一、亶、卽翾字。

【亶亶】8 タンタン 平かなさま。坦坦(3－4971・32)に同じ。〔新書、君道〕書曰、大道亶亶、其去レ身不レ遠。

【亶父】9 タンフ 周の太王をいふ。亶甫及び古公亶父(2－3233・154)を見よ。〔詩、大雅、緜〕古公亶父、陶復陶穴。〔淮南子、道應訓〕大王亶父居二邠一、翟人攻レ之。

【亶甫】10 タンフ 周の太王をいふ。又、亶父に作る。亶父及び古公亶父(2－3233・154)を見よ。〔孟子、梁惠王下〕詩云、古公亶甫。

十三畫

【襄】329 シヤウ 襄(10－34556)の略字。

【贔】330 ラ〔篇海〕力果切 哿

㊀相承けること。〔字彙補〕贔、相承曰レ贔。㊁うり。蔬(9－31658)に同じ。〔篇海〕贔、同レ蔬、果贔。

【㚔】331 スイ 衰(10－34127)の古字。〔字彙補〕㚔、古文衰字。〔亢倉子、道政〕㚔末之世。

【奧】332 アウ 奧(3－5985)に同じ。〔字彙補〕奧、與レ奧同。

十四畫

【齊】333 音義未詳。〔康熙字典〕齊、石林燕語、唐時、王起不レ識二齊爵一二字、今考二列子一、爵音丙、齊未レ見レ所レ出、存以備レ考。

【喜】334 ヨウ 庸(4－9378)の古字。〔集韻〕庸、古作レ喜。

【廩】335 キ〔五音篇海〕音圍

つつむ。〔五音篇海〕廩、裹也。

【黽】336 キヨク 義未詳。〔海篇〕黽、音旭。

【黽】337 アウ 義未詳。〔龍龕手鑑〕黽、音奧、出二六度集一。

【喜】338 ヨウ 鄘(9－30125)の譌字。〔康熙字典〕喜、按、卽鄘字之譌。

十五畫

【喜】339 ヨウ 喜(1－334)の譌字。〔康熙字典〕喜、按、喜字之譌。

十六畫

【龔】340 スイ 義未詳。〔五音篇海〕龔、音衰。

十七畫

【龔】341 シヤウ 襄(10－34556)に同じ。〔集韻〕襄、或作レ龔。

二十畫

【亹】342 ㊀ビ ㊁ミ 〔集韻〕武斐切 尾 ㊂ボン モン 〔集韻〕謨奔切 元 ㊃ビ

㊀㊀物のさま。亹亹(2)を見よ。㊁うつくしい。裴亹。〔廣韻〕亹、美也。㊂水門。水が峽中を流れて、兩岸が門の様に對立するところ。〔集韻〕亹、山絕レ水也。〔詩、大雅、鳧鷖〕鳧鷖在レ亹。〔傳〕亹、山絕レ水也。〔箋〕亹之言、門也。〔集傳〕亹、音門、水流二峽中一、兩岸對出若レ門也。㊃まゆ。眉(8－23190)に同じ。〔正字通〕亹、古鼎文眉、卽今之亹字。

參考 字形、もと亹・亹に作る。

【亹壽】1 ビジュ ながいき。長壽。亹は眉。ながいきをすると眉が秀でるからいふ。眉壽(8－23190・31)に同じ。〔周韓城、鼎銘〕用祈二亹壽一。

【亹亹】2 ビビ ㊀つとめて倦まぬさま。〔爾雅、釋詁〕亹亹、勉也。〔易、繫辭上〕成二天下之亹亹一者。〔詩、大雅、文王〕亹亹文王、令聞不レ已。〔傳〕亹亹、勉也。〔禮、禮器〕天時雨澤、君子達二亹亹一焉。〔注〕亹亹猶二勉勉一也。〔國語、周語上〕亹亹忧惕。〔注〕亹亹、勉勉也。〔漢書、張敞傳〕亹亹、不レ舍二晝夜一。㊁進むさま。〔廣雅、釋訓〕亹亹、進也。〔楚辭、宋玉、九辯〕時亹亹而過レ中兮。〔注〕亹亹、進貌也。〔張衡、思玄賦〕時亹亹而代序兮。〔左思、吳都賦〕玄蕤耽耽、清流亹亹。〔注〕善曰、韓詩注、亹、進也。㊂走るさま。〔陸機、赴レ洛詩〕

亹亹孤獸騁。〔注〕善曰、亹亹、走貌也。

二十二畫

【⿱亹豕】343 ビ 義未詳。〔搜眞玉鏡〕⿱亹豕、音尾。

人部

【人】344 ジン ニン 〔集韻〕而鄰切 眞 日ㄣ˙ jen²

小篆

㊀ひと。**人間**。人類。萬物の靈長。〔說文〕人、天地之性取貴者也、象二臂脛之形一。〔書、泰誓上〕惟人萬物之靈。〔禮、禮運〕人者、天地之德、陰陽之交、鬼神之會、五行之秀氣也。〔列子、黃帝〕有二七尺之骸、手足之異一、戴レ髮含レ齒、倚而食者、謂二之人一。〔素問、寶命全形論〕天地合レ氣、命レ之曰レ人。〔淮南子、精神訓〕精氣爲レ人。〔太玄經、玄文〕物之所レ尊曰レ人。〔論衡、論死〕氣凝爲レ人。〔白虎通、三軍〕人者天之貴物也。㊁**人民**。國民。住民。民(**6－17028**)に通ず。〔書、堯典〕敬授二人時一。〔漢書、律歷志上〕書曰、敬授二民時一。〔左氏、襄、三十一〕人生幾何。〔漢書、五行志中之上〕襄公三十一年、云云、民生幾何。〔左氏、昭、二十〕聊攝以東、姑尤以西、其爲レ人也多矣。〔國語、周語上〕勤二恤民隱一、而除二其害一也。〔後漢書、張衡傳〕勤二恤人隱一。〔注〕國語曰、勤二恤人隱一、而除二其害一也。〔管子、君臣下〕以レ人役レ上。〔注〕人、謂二百姓一。㊂**他人**。〔論語、雍也〕己欲レ達而達レ人。〔論語、憲問〕修レ己以安レ人。〔集解〕孔安國曰、人、謂二朋友九族一。〔孟子、梁惠王上〕老二吾老一、以及二人之老一。㊃**ある人**。〔韓非子、說林〕今有レ人、見レ君則眣二其一目一。〔史記、伍子胥傳〕使三人謂二子胥一曰、云云。㊄**立派な人**。すぐれた人。位にある人。人君。〔左氏、文、十三〕子無レ謂二秦無一レ人。〔老子、二十〕人之所レ畏、不レ可レ不レ畏。〔注〕人、謂二道人一也。〔老子、五十七〕人多二伎巧一。〔注〕人、謂二人君百里諸侯一也。〔韓愈、送二溫處士一序〕相爲二天子一得二人於朝廷一。㊅**凡人**。小人。つまらぬ人。〔列子、仲尼〕人之游也。〔注〕人、謂二凡人小人一也。㊆**ひとびと**。ひと每に。〔史記、平準書〕人給家足。㊇**ひととなり**。性質。人物。〔論語、學而〕其爲レ人也孝弟。〔史記、司馬相如傳〕慕二藺相如之爲一レ人。〔王安石、祭二歐陽公一文〕讀二其文一、則其人可レ知。㊈**ひとわざ**。人爲。〔莊子、秋水〕牛馬四足、是謂レ天、落二馬首一、穿二牛鼻一、是謂レ人。㊉**けらい**。目下の人。〔周禮、秋官、掌訝〕使二人道一レ之。〔注〕人、其屬胥徒也。〔儀禮、聘禮記〕主人使三人與レ客讀二諸門外一。〔注〕人、內史也。〔左氏、莊、七〕王人子突救レ衞。〔左氏、昭、七〕馮二依於人一。〔史記、燕召公世家〕啓レ人爲レ吏。〔注〕人、猶レ臣也。⑪**春秋の筆法**。㋑多くの人をさす時、人と稱す。〔公羊、莊、十七〕齊人瀸二于遂一。〔注〕稱レ人者、衆辭也。〔穀梁、隱、四〕其稱二人立一レ之、何也、得レ衆也。㋺大將の身分が低く人數の少い軍隊を人と稱す。〔左氏、隱、二〕莒人入レ向。〔注〕將卑師少、稱レ人。〔公羊、隱、五〕將卑師少、稱レ人。〔注〕鄭人伐レ衞、是也。⑫**易で乾と震とにあてる**。㋑乾を人にあてたもの。〔易、履〕不レ咥レ人。〔虞注〕乾爲レ人。㋺震を人にあてたもの。〔易、比〕邑人不レ戒。〔虞注〕震爲レ人。⑬**あはれむ**。〔方言、十〕沅澧之原、凡言二相憐哀一、謂二之嘳一、云云、九疑湘潭之閒、謂二之人兮一。⑭**さね**。果實の核中にあつて芽を生ずるもの。〔說文通訓定聲〕人、果實之人、在二核中一、如三人在二天地之中一、故曰レ人、俗以レ仁爲レ之。⑮仁(**1－349**)に通ず。〔釋名、釋形體〕人、仁也、仁生レ物也、故易曰、立二人之道一、曰二仁與一レ義。〔廣雅、釋詁四〕人、仁也。〔禮、表記〕仁者、人也。〔中庸〕仁者、人也。⑯古は同(**2－1510**)に作り、則天武后は𤯔(**7－21672**)に作る。〔集韻〕人、古作レ同、唐武后作レ𤯔。⑰**姓**。〔萬姓統譜〕人、見二姓苑一。

名乘 ヒト。サネ。

解字 象形。人の立つた姿を側面から見た形。人(從生)は凡ての人以外の萬物(橫生)より尊いとし、立てる人の臂と脛との形に象るといふ。人を天地の心とし、更に果物の心を人といふ。而して、果實の人は、後世仁の字につくる。〔說文〕人、象二臂脛之形一。〔段注〕人以二從生一貴二於橫生一、故象二其上臂下脛一。〔說文通訓定聲〕人、轉注、仁者、人也、叚借、果實之人、在二核中一、如三人在二天地之中一、故曰レ人、俗以レ仁爲レ之。

參考 偏に用ひる場合はイの形とし、にんべんと稱す。〔字彙、檢字〕凡从レイ者、屬二人部一。

【人痾】1 ジンア 人體に起る變態的現象。男が女に化し、女が男と成る類。人妖。〔漢書、五行志中之上〕六畜謂二之旤一、言二其著一也、及レ人謂二之痾一。

【人衣】2 ジンイ ころも。〔謝莊、月賦〕佳期可二以還一、微霜霑二人衣一。

【人意】3 ジンイ 人の心。人の意志。又、人民の心。人心。〔詩、小雅、無羊〕麾レ之以レ肱、畢來既升、〔箋〕此言三擾馴二從人意一也。〔蜀志、秦宓傳〕上當二天心一、下合二人意一。

【強二人意一】4 ジンイヲツヨクス 人をして心づよく思はしめる。〔後漢書、吳漢傳〕吳公、差彊二人意一。

【人位】5 ジンヰ 天地に對する人の地位。又、人臣の位階。〔管子、五行〕作二立五行一、以正二天時一、五官以正二人位一。〔南史、張齊傳論〕張齊人位本下、志望易レ充、績宣所レ莅、其殆優也。

【人爲】6 ジンヰ 人の力でなすること。人間わざ。〔法言、問明〕或問レ命曰、命者、天之命也、非二人爲一也、人爲不レ爲レ命、請問二人爲一、曰、可二以存亡一、可二以死生一、非レ命也、命不レ可レ避也。

【人爲美】7 ジンヰノビ 自然美に對して、人工の美をいふ。

【人爲淘汰】8 ジンヰタウタ 人力を以て生物の或る種類を養成發達させ、又或る種類を排除絕滅させること。

【人爲分類】9 ジンヰブンルイ 自然に發達分化したものを、便宜上、人爲を以て分類すること。

【人域】10 ジンヰキ 人の居住する處。人間の世界。人寰。人區。又、人間の居るべき處。禮をいふ。〔史記、禮書論〕君子之性、守二宮庭一也、人域是域、士君子也、外レ是民也。〔注〕索隱曰、域、居也、言下君子之行、非二人居一亦弗上レ居也。

【人因】11 ニンイン 佛 人に生れる因緣。〔釋氏要覽〕人因、云云、由三先造二增上下品身語意妙行一、故生二人道一。

【人隱】12 ジンイン ㊀人民の苦しみ。隱は隱痛。民隱。〔後漢書、張衡傳〕同レ心戮レ力、勤二恤人隱一。〔注〕隱、病也、國語曰、勤二恤人隱一、而除二其害一也。㊁世間に在つて俗人と混じてゐる隱者。〔琅琊代醉編、隱〕人隱者、詭レ迹混レ俗、不レ異二衆人一、如二東方朔之類一是也。㊂人がかくれる。人が隱居する。〔詩、小雅、白駒、在二彼空谷一、傳、空大也、疏〕以下谷中容二人隱一焉、其空必大上、故云二空大一。

【人員】13 ジンヰン ひとかず。人數。〔淸會典事例、宗人府、儀制〕揀選升補人員、必先咨二兵部一查覈。

【人影】14 ジンエイ 人のかげ。ひとかげ。人の姿。〔張

謂、送二裴侍御歸一上都一詩）江月隨二人影一、山華趁二馬蹄一。（劉廷芝、公子行）馬聲廻合青雲外、人影動搖綠波裏。（蘇軾、後赤壁賦）人影在レ地、仰見二明月一。

【人妖】15 ジンヨウ ㊀人體に起る變態的現象。人痾。（荀子、天論）物之已至者、人妖則可レ畏也。㊁人の怪物。人のおばけ。（南史、崔慧景傳）東陽女子婁逞、變レ服詐爲二丈夫一、云云、仕至二揚州議曹從事一、事發、明帝驅令レ還レ東、逞始作二婦人服一而去、歎曰、云云、此人妖也。

【人役】16 ジンエキ ㊀人に使はれる者。下賤な人。（孟子、公孫丑上）不レ仁不レ智、無レ禮無レ義、人役也。㊁人民の力役。賦役。（揚雄、劇秦美新）經二井田一免二人役一。

【人益】17 ジンエキ 人の受ける利益。又、人から受ける利益。（莊子、山木）無レ受二天損一易、無レ受二人益一難。

【人烟】18 ジンエン 人家から立ちのぼる烟。竈の烟。轉じて、人・人家をいふ。人煙。（李白、蜀道難）爾來四萬八千歲、不下與二秦塞一通上人烟上。（岑參、磧中作詩）今夜不レ知何處宿、平沙萬里絶二人烟一。

【人煙】19 ジンエン 人烟に同じ。（曹植、送二應氏一詩）中野何蕭條、千里無二人煙一。（平野金華、早發二深川一詩）月落人煙曙色分、長橋一半限二星文一。

【人緣】20 jen2 yüan2 ㊀人に愛せられる。人と親和する。㊁評判。人氣。

【人垣】21 ガキ 多くの人が垣のやうに列をなして並んで居ること。（儀式帳）人垣立。

【人遠】22 エンジン 清、朱爾邁（6－14424・825）の字。

【人翁】23 ジンオウ 明、豐坊（10－36304・176）の字。

【人應】24 ジンオウ 人が應ずること。（後漢書、光武紀上）受命之符、人應爲レ大。

【人屋】25 ジンオク 清、八大山人（2－1450・351）の號。

【人音】26 ジンオン ㊀人の聲。（史記、封禪書）言與二人音一等。㊁ヒトオト ㋑人の來る音。（和漢三才圖會、鼠類、歟）聞二人音一則逃去。㋺人の居る音。

【人家】27 ジンカ ㊀人の住む家。民家。（後漢書、董卓傳）既到二太陽一、止二於人家一。（杜牧、山行詩）遠上寒山二石徑斜一、白雲生處有二人家一。（楊萬里、過二臨平蓮蕩一詩）人家星散水中央、十里芹藜孤飯香。（劉基、憶昔詩）憶昔揚州看二月華一、滿城絃管滿二人家一。㊁jen2 chia ㋑他人。よその人。㋺賀。㋩住居。

【興二人家一】28 ジンカヲオコス 家をおこし盛にする。（通俗編、祝誦）興二人家一）北史慕容燕傳、人曰、此兒闊達好レ奇、終能破二人家一、或能興二人家一。

【人我】29 ジンガ ㊀他人と我。（莊子、天下）人我之養、畢足而止。（關尹子、二柱）渾二人我一、同二天地一。㊁佛 ニンガ 人間に不變の實體（我）がある意。佛教は無我を說く。法我（6－17290・29）の對。（六祖壇經）無二人我貢高貪愛執着一、爲二離欲尊一。

【人界】30 ニンカイ ジンカイ 佛 佛教十法界の一。人の住んでゐる世界。此の世。人間界。十法界（2－2695・680）を見よ。

【人海】31 ジンカイ 人の多く集まつてゐる喩。澤山な人出。人山人海。（蘇軾、病中聞二子由得一告不レ赴二商州一詩）惟有二王城最堪レ隱、萬人如レ海一身藏。（張養浩、九日雲山云云詩）人海誰知我亦鷗。（人海隱居）32 ジンカイインキョ 清、程恭壽（8－25081・176）の號。

【人害】33 ジンガイ 人の受ける害。又、人の加へる危害。（管子、內業）心全於中、形全於外、不レ逢二天菑一、不レ遇二人害一、謂二之聖人一。

【人行】34 ジンコウ ㊀人のおこなひ。民行。（漢書、杜欽傳）孝、人行之所レ先也。㊁人の通行。（白居易、長恨歌）峨嵋山下少二人行一、旌旗無レ光日色薄。（耿湋、秋日詩）古道少二人行一、秋風動二禾黍一。

【人香】35 ヒトガ ㊀人のにほひ。（裴說、詠二鸚鵡一詩）語傳二明主意一、衣拂二美人香一。㊁人の居る氣はひ。

【人綱】36 ジンコウ 人道の大本。人倫の綱紀。（揚雄、解嘲）吾聞、上世之士、人綱人紀、不レ生則已。

【人膏】37 ジンコウ 山椒魚の脂膏。人魚膏（82）を見よ。（史記、秦始皇紀）以二人魚膏一爲レ燭。（漢書、劉向傳）石槨爲二游館一、人膏爲二燈燭一、水銀爲二江海一、黃金爲二鳧雁一。

【人豪】38 ジンガウ 器量のすぐれた人物。人中の豪傑。人傑。（史記、陳餘傳）於二此時一而不レ成二封侯之業一者、非二人豪一也。（魏志、張遼傳）足二以爲一人豪一。

【人客】39 ジンカク 客人。（杜甫、遣興詩）問知人客姓、誦得老夫詩。（白居易、別二周從事一詩）腰痛拜迎人客倦。

【人格】40 ジンカク ㊀ひとがら。人品。㊁高尚な人柄。人格者を見よ。㊂人間。人格化を見よ。㊃道德行爲の主體をいふ。自覺的・統一的・理想的の三特性を有す。㊄法律上では、人の自由獨立の資格。人格權を見よ。「見做すこと。

【人格化】41 ジンカクカ 人以外の事物を、人間同樣に

【人格權】42 ジンカクケン 法律上、生命・名譽・自由等の、人間の生存上に必要な權利。

【人格者】43 ジンカクシャ 人格の具はつた人。人格の高尚な人。

【人格主義】44 ジンカクシュギ 自覺的・自律的人格の絶對的價値を道德の根本とする倫理學說の總稱。カント、フイヒテ、リツプス、グリーン等の學說。

【人格統一】45 ジンカクトウイツ 常に精神を統一し、時所に拘らず一貫して自己を喪失しないこと。

【人格分裂】46 ジンカクブンレツ 人格變換に同じ。

【人格變換】47 ジンカクヘンカン 意識に分裂が起り、狐憑者 キツネ のやうに、時を異にして異なつた人格をもつやうになること。人格分裂。

【人汗】48 ジンカン 人の汗。（本草、人汗）集解、時珍曰、汗出二于心、在一內則爲レ血、在二外則爲一レ汗、故曰、奪二汗者無一レ血、奪二血者無一レ汗、氣味鹹有レ毒。

【人肝】49 ジンカン 人のきも。（莊子、盜跖）盜跖乃方休二卒徒太山之陽一、膾二人肝一而餔之。

【人間】50 ニンゲン ジンカン ㊀人の世。世間。俗界。（韓非子、解老）不レ能レ免二人間法令之禍一。（史記、留侯世家）願棄二人間事一。（後漢書、賈逵傳）在二太學一、不レ通二人間事一。（李白、山中問答詩）別有二天地非二人間一。㊁人。人類。俗に誤つていふ。㊂民間。特に唐の世に太宗皇帝の名の世民を避けていふ。（後漢書、王昌傳）普天率土、知二朕隱在二人間一。

【人間界】51 ニンゲンカイ ㊀人類の生息する世界。㊁佛 人界（30）に同じ。十法界の一。

【人間訓】52 ニンゲンクン 淮南子の篇名。

【人間世】53 ニンゲンセイ 莊子の篇名。

【人間味】54 ニンゲンミ 人間らしい溫い感情。

【人間詞話】55 ジンカンシワ 書名。民國、王國維撰、詞に關する論說を收む。民國十五年二月、北京、樸社刊。

【人間行路難】56 ニンゲンカウロナン 世渡りはむづかしいものである。（蘇軾、魚蠻子詩）人間行路難、踏レ地出二賦租一、不レ如魚蠻子、駕レ浪浮二空虛一。

【人間五十歲】57 ニンゲンゴジッサイ 人の一生は大體五十年である。（法苑珠林）天壽者如レ人間五十歲、爲二四天王天一日一夜。

【人間榮耀因緣淺】58 ニンゲンノエイエウインエンアサシ 世間的な榮耀にはゆかりが薄い。（白居易、老來生計詩）老來生計君看取、白日遊行夜醉吟、陶令有レ田唯種レ秫、鄧家無レ子不レ留レ金、人間榮耀因緣淺、林下幽閑氣味深、煩慮漸銷虛白長、一年心勝二一年心一。

【人間禍福愚難レ料】59 ニンゲンノクワフクグナンリョウ 愚人には人間の禍福は料り難い。（白居易、戊申歲暮詠レ懷詩）七年囚閉作二籠禽一、但願開レ籠便入レ林、幸得レ展二張今日翅一、不レ能レ辜二負昔時心一、人間禍福愚難レ料、世上風波老不レ禁、萬一差池似二前事一、又應追悔不レ抽簪。

【人間萬事塞翁馬】60 ニンゲンバンジサイオウノウマ 人の世の禍福の定め難い喩。國境のとりでのほとりに住む翁の馬が胡地に逃げ出したので隣人が之を見舞つたところ、翁は少しも悲しまず、やがて幸福の基となるであらうと言つた。數月經つと、其の馬が胡地の駿馬をつれて歸つたので、隣人が之を賀すると、翁は又、禍の來ることを豫言した。程なく其子が落馬して、重傷を負つた。隣人が見舞つたところ、又、やがては幸福の基となるであらうと言つた。其の後一年たつて、胡人が國境を侵した際、塞の近くの若者は大勢徵發されて戰死したが、其の子は不具の爲に命を全うしたといふ。禍福はあざなへる繩の如し。（淮南子、人間訓）近二塞上一之人、有二善術者一、馬無二故亡而入レ胡、人皆弔レ之、其父曰、此何遽不レ爲二福乎一、居數月、其馬將二胡駿馬一而歸、人皆賀レ之、其父曰、此何遽不レ爲二禍乎一、家富二良馬一、其子好レ騎、墮而折二其髀一、人皆弔レ之、其父曰、此何遽不レ爲二福乎一、居一年、胡人大入レ塞、丁

壯者引レ弦而戰、近レ塞之人、死者十九、此獨以二跛之故一、父子相保、故福之爲レ禍、禍之爲レ福、化不レ可レ極、深不レ可レ測也。〔葛原詩話〕元僧熙晦機、寄二徑山虛谷陵和尙一詩曰、前度劉郎景定先、宜春風物尙依然、青山湧出黃金色、白日夢昇兜率天、水鳥樹林羅二帝網一、栴檀樓閣接二西乾一、人閒萬事塞翁馬、推二枕軒中一聽レ雨眠。

〔不レ知三人閒有二羞恥事一〕61 人閒の世には恥づべき事のあるのを知らない。破廉恥の人を嘲る辭。〔歐陽脩、與二高司諫一書〕足下猶能以二面目一見二士大夫一、出二入朝中一稱二諫官一、是足下不四復知三人閒有二羞恥事一爾。

【人銜】62 藥草の名。人參(276)の異名。〔本草、人參〕釋名、人蓡・黃參・血參・人銜、時珍曰、其成有二階級一、故曰二人銜一。〔蘇軾、紫團參寄二王定國一詩〕舊聞人銜芝、生二此羊腸嶺一。

【人鑑】63 人のかがみ。又、人を以て鑑とする。唐の太宗が魏徵を稱した語。人鏡(77)を見よ。〔唐書、魏徵傳〕帝後臨レ朝歎曰、以レ銅爲レ鑑、可レ正二衣冠一、以レ古爲レ鑑、可レ知二興替一、以レ人爲レ鑑、可レ明二得失一、朕嘗保二此三鑑一、內防二己過一、今魏徵逝、一鑑亡矣。

【人祇】64 人と神。〔陸倕、石闕銘〕龜筮協從、人祇響附。〔注〕銑曰、祇、神也。

【人紀】65 人たる者の履むべきすぢみち。倫理。民紀。〔書、伊訓〕先王肇修二人紀一。〔揚雄、解嘲〕吾聞、上世之士、人綱人紀、不レ生則已。

【人氣】66 ㊀人の心。人心。〔莊子、人閒世〕德厚信矼、未レ達二人氣一。〔鬼谷子、本經陰符〕知二人氣盛衰一、而養二其氣志一。〔法言、脩言〕人氣也者、所レ適二善惡一之馬也歟。㊁人の臭氣。人香。〔文天祥、正氣歌序〕駢肩雜遝、腥臊汗垢、時則爲二人氣一。㊂㋑人望。氣うけ。㋺人の氣風。〔新永代藏、一〕天道人氣に空しからず。㋩人の居る氣はひ。〔源氏物語、榊〕人げ少なく。

〔人氣取〕67 自己の名望を弘めようとする手段。又、さういふ手段を用ひる人。

【人鬼】68 ㊀死人のたましひ。靈魂。〔周禮、春官、大宗伯〕掌レ建二天神人鬼地示之禮一。㊁佛 人閒と鬼。〔無量壽經、下〕如レ是之惡、著二於人鬼一。

【人器】69 死者を送り、死者とともにうづめる器。殷人は祭祀に用ひる器を死者とともにうづめたといふ。祭祀の器は人の用ひるものであるから人器といふ。鬼器(12-45758・・23)の對。〔禮、檀弓上〕仲憲言二於曾子一曰、夏后氏用二明器一、示二民無レ知也、殷人用二祭器一、示二民有レ知也、云云、夫明器、鬼器也、祭器、人器也。〔疏〕夏后氏所下以別作二明器一送中亡人上者、言下亡人無レ知、故以二不レ堪レ用之器一送レ之、表中示其無上レ知也、殷人用二祭器一、示二民有レ知也者、憲又言、殷家不三別作二明器一、而卽用二祭祀之器一、送二亡人一者、祭器堪レ爲二人用一、以言下亡者有レ知與レ人同、故以二有用之器一送レ之、表中示其有上レ知也。

【人義】70 人のふむべき道。〔禮、禮運〕父慈、子孝、兄良、弟弟、夫義、婦聽、長惠、幼順、君仁、臣忠、十者謂二之人義一。

【人虯】71 清、吳山秀(2-3365・・585)の字。

【人給】72 ㊀隨行者の乘る車。副車。〔源氏物語、葵〕人だまひの奧に押しやられて。㊁人々に給はること。又、其のもの。〔內裏式、五月五日〕人給、乃菖蒲草。

【人給家足】73 どの人もどの家も衣食住に不足のないこと。〔史記、太史公自序〕彊レ本節レ用、則人給家足之道也。〔史記、平準書〕漢興、七十餘年之閒、國家無事、非レ遇二水旱之災一、民則人給家足。

【人境】74 人の住む所。人寰。〔陶潛、飲酒詩〕結レ廬在二人境一、而無二車馬喧一。

【人境廬】75 清、黃遵憲(12-47926・・1157)の室名。

【人境廬詩草】76 書名。清、黃遵憲撰。十一卷。

【人鏡】77 人のかがみ。生きたかがみ。人鑑(63)を見よ。〔元稹、崔鄘授二諫議大夫一制〕昔我太宗文皇帝、以二魏徵一爲二人鏡一、而姦膽形二於下一、逆耳聞二於上一。

〔人鏡芙蓉〕78 科擧に及第する前兆。唐の李固言が老婆から、明年、芙蓉鏡下に及第するであらうと言はれたところ、果して其の通りであつた故事。芙蓉鏡(9-30694・・15)を見よ。〔酉陽雜俎續集、支諾臯中〕相國李固言、元和六年、下第遊レ蜀、遇二一老姥一、言、郎君明年芙蓉鏡下及第、後二紀拜レ相、當レ鎭二蜀土一、某此時不三復見二郎君出將之榮一也、明年果然狀頭及第、詩賦題有二人鏡芙蓉之目一。

【人居】79 人の住むところ。人家。民居。〔陶潛、擬二輓歌一詩〕四面無二人居一、高墳正嶕嶢。

【人據】80 人の考據すべき諸現象。〔莊子、寓言〕天有二曆數一、地有二人據一。

【人魚】81 ㊀魚の名。さんせう魚。山椒魚。鯢魚。〔山海經、西山經〕其中多二水玉一、多二人魚一。〔本草、鯑魚〕釋名、人魚、孩兒魚、集解、弘景曰、人魚、荊州臨沮青溪多有レ之、似レ鯷而有二四足一、聲如二小兒一、其膏然レ之不二消耗一、秦始皇驪山冢中所レ用人膏、是也。〔本草、鯢魚〕釋名、人魚、魶魚、鰨魚、時珍曰、鯢聲如二小兒一、故名、卽鯑魚之能上レ樹者、俗云、鮎魚上レ竿、乃此也。㊁海中に住んでゐる靈物で、上半身は女人、下半身は魚の形をなし、其の肉を食ふ者は不老不死の壽を得るといふ想像上の動物。〔徂異記〕査道使二高麗一、見二婦人紅裳雙袒、髻鬟紛亂一、腮後微有二紅鬣一、命扶二於水中一、拜手感戀而沒、乃人魚。

【人魚膏】82 さんせう魚のあぶら。人魚の㊀を見よ。人膏。〔史記、秦始皇紀〕以二人魚膏一爲レ燭。〔注〕集解曰、徐廣曰、人魚似レ鮎四腳、正義曰、廣志云、鯢魚、聲如二小兒啼一、有二四足一、形如レ鱧、可二以治一レ中、出二伊水一、異物志云、人魚似二人形一、長尺餘、不レ堪レ食、皮利二於鮫魚一、鋸二材木一入二頂上一、有二小穿一、氣從レ中出、秦始皇冢中、以二人魚膏一爲レ燭、卽此魚也、出二東海中一、今台州有レ之、按、今帝王用二漆燈冢中一、則火不レ滅。

【人凶】83 人のなした災。〔管子、揆度〕今天下起レ兵加レ我、民棄二其耒耜一、出持二戈於外一、然則國不レ得レ耕、此非二天凶一也、此人凶也。

【人極】84 ㊀人類の無上の道。民極。〔文中子、述史〕仰以觀二天文一、俯以察二地理一、中以建二人極一。〔周敦頤、太極圖說〕聖人定レ之以二中正仁義一、而主レ靜立二人極一焉。㊁人の力が盡きる。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕庸人之御二駑馬一、亦傷レ吻斃筴、而不レ進二於行一、胸喘膚汗、人極馬倦。

【人琴】85 人と琴。人琴俱亡を見よ。

〔人琴俱亡〕86 人の死を甚だ悼む喩。晉の王獻之(字は子敬)の歿後、其の愛用の琴もまた不調となつた故事。〔晉書、王徽之傳〕獻之卒、徽之奔レ喪不レ哭、直上二靈牀一、坐取二獻之琴一彈レ之、久而不レ調、嘆曰、嗚呼子敬、人琴俱亡、因頓絕。

〔人琴之嘆〕87 人の死を悼むことをいふ。人琴俱亡を見よ。

【人禽】88 ㊀人と禽獸。〔禮、曲禮上〕聖人作、爲レ禮以敎レ人、使四人以有レ禮、知三自別二於禽獸一。〔庾信、園亭詩〕人禽或對レ巢。㊁とりこ。〔漢書、鼂錯傳〕戰則爲二人禽一。

【人區】89 人の住んで居る場所。人域。〔後漢書、方術傳序〕所下以探二抽冥賾一、參中驗人區上、時有二可レ聞者一焉。〔注〕區、域也。

【人偶】90 相尊敬し相親愛すること。漢代の語。又耦べる人をもいふ。人耦。〔詩、檜風、匪風、箋〕誰將者、亦言下人偶能輔二周道一治レ民者上也。〔疏〕人偶者、謂下以二人恩一尊中偶之上也。〔中庸、仁者人也、注〕人也、讀如二相人偶之人一、以二人意一相存問之言。〔新書、匈奴〕時人二偶人一。〔注〕人偶、漢時有二此語一、乃相親愛之意。

【人耦】91 人偶に同じ。〔儀禮、聘禮、注〕每門輒揖者、以二相人耦一爲レ敬也。〔疏〕云レ以二相人耦一者、以二人意一相存偶也。

【人火】92 人の過失による火事。〔左氏、宣、十六〕夏、成周宣榭火、人火レ之也、凡火、人火曰レ火、天火曰レ災。

【人禍】93 人から受けるわざはひ。〔列女傳、仁智、魯公乘姒傳〕非レ有二天咎一、必有二人禍一。〔韓愈、答二劉秀才一書〕不レ有二人禍一、則有二天刑一。

【人悔】94 人の悔いる心。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕否來王澤竭、泰往人悔形。

【人外】95 ㊀出家の境涯。俗世の外。〔宋書、隱逸、孔淳之傳〕法崇嘆曰、緬二想人外一三十年矣。〔文心雕龍、情采〕心纏二幾務一、而虛述二人外一。㊁㋑人の守るべき道にはづれてゐる人。人道に背く人。〔源氏烏帽子折、一〕牛馬に劣り

たる人外と思し召せ。㋺人類以外のものの義。非人の稱。

〔人外游〕96 俗世を離れた遊。〔南史、孔淳之傳〕淳之與二徵士戴顒・王弘之及王敬弘等一、共爲二人外之游一。〔謝朓、往二敬亭一路中聯句〕幸藉二人外游一、盤桓未レ能レ徙。

【人皇】97 ㊀太古第三代の王族。〔史記、三皇紀〕人皇、九頭、乘二雲車一、駕二六羽一、出二谷口一、兄弟九人、分長二九州一、各立二城邑一、凡一百五十世、合四萬五千六百年。〔春秋保乾圖〕天皇・地皇・人皇、兄弟九人、兄弟分爲二九州一、長二天下一。〔拾遺記、庖犧〕昔者人皇蛇身九首。㊁人の代となつてからの天皇。神武天皇以後の天皇。〔太平記、一、後醍醐天皇御治世事〕本朝人皇の始め神武天皇より九十五代の帝。

人皇氏㊀（三才圖會）

【人患】98 人のうれへ。又、人のなすわざはひ。〔禮、禮運〕爭奪相殺、謂二之人患一。

【人寰】99 人の住むところ。人境(74)に同じ。〔鮑照、舞鶴賦〕去二帝鄉之岑寂一、歸二人寰之喧卑一。〔白居易、長恨歌〕迴レ頭下望二人寰一處、不レ見二長安一見二塵霧一。〔蘇軾、送二程七表弟知二泗州一詩〕赤子視二萬類一、流萍閱二人寰一。

【人君】100 きみ。君主。人主(229)に同じ。〔大學〕爲二人君一止二於仁一、爲二人臣一止二於敬一。〔孟子、梁惠王上〕望レ之不レ似二人君一、就レ之而不レ見レ所レ畏焉。〔管子、權修〕人君之欲無レ窮。〔魏志、中山恭王袞傳〕早爲二人君一、但知レ樂不レ知レ苦。

〔人君表〕101 人君の象徵。一國に君臨して人民を統治すべき人君のすがたをあらはしたもの。〔漢書、李尋傳〕夫日者、衆陽之長、輝光所レ燭、萬里同レ晷、人君之表也、云云、月者、衆陰之長、云云、妃后・大臣・諸侯之象也。

〔人君猶レ盂〕102 水は方圓の器に從つて其の形を變化する如く、人民の習俗はすべて人君の所爲に隨つて變化することをいふ。盂は水を入れる器。〔韓非子、外儲說左上〕孔子曰、爲二人君一者、猶レ盂也、民猶レ水也、盂方水方、盂圜水圜。〔荀子、君道〕君者、盂也、盂方而水方。

【人羣】103 人のむれ。人人。人衆。〔莊子、天道〕馳二萬物一、而用二人羣一之道也。

【人兮】104 相あはれむことをいふ。九疑湘潭地方の方言。〔方言、十〕凡言二相憐哀一、九疑湘潭之間、謂二之人兮一。

【人兄】105 一群の人の長をいふ。魁師。首長。君長。

【人形】106 ㊀ひとのかたち。ひとがた。〔淮南子、覽冥訓〕直偶二于人形一。〔晉書、苻堅載記下〕八公山上草木、皆類二人形一。㊁でく。偶人。傀儡。泥孩。〔遼史、禮志六〕五月重五日午時、以二綵絲一宛轉爲二人形一簪レ之、謂二之長命縷一。

〔人形遣〕107 人形をあやつる人。〔人倫訓蒙圖彙、七〕人形遣、さまざまの人形あり。

【人徑】108 人の步む小みち。人逕。〔沈約、遊二沈道士館一詩〕都令二人徑絕一。〔陳後主、折楊柳樂府〕花落幽人徑、步隱將軍屯。

【人逕】109 人の通ふべきみち。人徑。〔王維、過二香積寺一詩〕古木無二人逕一、深山何處鐘。

【人慶】110 南宋の時、西夏、仁宗(李仁孝)の年號。(1144—1148)

【人迎】111 脈の名。㊀頸脈。〔素問、六節臟象論〕人迎一盛、病在二少陽一。㊁掌の後一寸にある動脈。〔靈樞終始篇〕持二其脈口人迎一、以知二陰陽有レ餘不レ足、平與二不平一。

【人血】112 人の血。〔酉陽雜俎、玉格〕有二老人一曰、郎君年少、豈解レ哀二此鶴一耶、若得二人血一、一塗則能飛。〔儲光義、猛虎詞〕人血豈不レ甘、所レ惡傷二明神一。

〔人血爲二野火一〕113 人の血が化して鬼火となる。〔列子、天瑞〕馬血之爲二轉燐一也、人血之爲二野火一也。

【人杰】114 清、鄭杰(**11**—**39647**··110)の字。

【人傑】115 衆人にすぐれた人物。人中の傑物。人豪。〔史記、高祖紀〕此三者皆人傑也。〔魏志、武帝紀〕劉備人傑也。〔蘇軾、范文正公文集序〕韓・范・富・歐陽、此四人者人傑也。

〔人傑地靈〕116 人物がすぐれて居り、又、其の土地も勝れてゐる。〔王勃、滕王閣序〕人傑地靈、徐孺下二陳蕃之榻一。〔乃木希典、神州詩〕休レ說區區風物美、地靈人傑是神州。

【人欠】117 jen² ch'ien⁴ 債權。

〔人欠欠人〕118 jen² ch'ien⁴ ch'ien⁴ jen² 貸借關係。貸と借。

【人犬】119 人と犬。〔史記、李斯傳〕年少時、爲二郡小吏一、見下吏舍廁中鼠、食二不絜一、近二人犬一數驚中恐之上。

【人見】120 ［佛］人に不變の實體があると固執する考。我見。人我見。〔楞嚴經、三〕寧取二人見一、如二須彌山一。

〔人見懋齋〕121 丹波の人。本姓は藤田。名は傳。字は士傳。號は懋齋・竹墩・井井堂。通稱は又左衞門・道設。林鵞峯・朱舜水に學び、程朱の學を宗とす。水戶藩に仕へ彰考館總裁・寺社奉行に歷任す。元祿九年に歿す。年五十九。著に考訂名字鈔・春秋備考・井井堂稿がある。〔水戶文籍考〕。

【人肩】122 人の肩。〔史記、蘇秦傳〕臨菑之塗、車轂擊、人肩摩、連レ衽成レ帷、擧レ袂成レ幕。

【人絹】123 人造絹絲(179)の略。

【人險】124 jen² hsien³ 生命保險。

【人獻】125 人が獻じたもの。〔海山記〕不レ容二人獻一。

【人權】126 廣義では、人類一切の主張すべき權利。狹義では、人權中の人格權。

〔人權蹂躙〕127 人格權を無視し、其の自由を束縛して無法の行爲をすること。

〔人權宣言〕128 フランス革命の初期、ラファイエットの動議により、西曆一七九八年八月二十六日、國民議會の名に於て發布された宣言。自由主義的思想に立脚し、封建諸權利の行使に對して反對を宣言したもの。

【人元】129 ㊀夏曆の歲首。周曆の歲首は天元、殷曆は地元。元とは改曆の始、卽ち歲首をいふ。人正。三正(**1**—**12**··993)・三統(**1**—**12**··1375)を見よ。〔漢書、李尋傳〕言大運壹終、更紀二天元・人元一、考レ文正レ理、推レ歷定レ紀、數如二甲子一也。〔後漢書、陳寵傳〕寵奏曰、夫冬至之節、陽氣始萌、故十一月有二蘭射干芸荔之應一、時令曰、諸生蕩安二形體一、天以爲レ正、周以爲レ春、十二月陽氣上通、雉雊雞乳、地以爲レ正、殷以爲レ春、十三月陽氣已至、天地已交、萬物皆出、蟄蟲始振、人以爲レ正、夏以爲レ春、三微成レ著、以通二三統一、周以二天元一、殷以二地元一、夏以二人元一、若以二此時一行レ刑、則殷周歲首、皆當下流血不レ合二人心一、不上レ稽二天意一。〔注〕正・春、皆始也、十一月、萬物微而未レ著、天以爲レ正、而周以爲二歲首一也、十二月、二陽爻生、鴈北鄉、陽氣上通、諸生皆動、始萌芽、地以爲レ正、殷以爲二歲首一也、十三月、今正月也、天子迎二春東郊一、陰陽交合、萬物皆出二於地一、人始初見、故曰、人以爲レ正、夏以爲二歲首一也。㊁人閒のあたま。〔潛夫論、志氏姓〕後有二仲衍一、鳥體人元、爲二夏帝大戊御一。

【人言】130 ㊀世人のうはさ。取り沙汰。人口。又、或人の言葉。〔左氏、昭、四〕詩曰、禮義不レ愆、何恤二於人言一。〔史記、淮陰侯傳〕果若二人言一。〔後漢書、班超傳〕內省不レ疚、何卹二人言一。㊁人閒のことば。〔儲光義、昭聖觀詩〕石池辨二春色一、林獸知二人言一。㊂砒石(**8**—**24068**··4)の別名。中國の信州から出るので信石ともいひ、更に信の字の隱語を用ひて人言といふ。〔本草、砒石〕釋名、信石、人言、時珍曰、惟出二信州一、故人呼爲二信石一、而又隱二信字一爲二人言一。

【人戶】131 民の家。民戶。〔蘇軾、論二積欠一狀〕人戶既未レ納足、則追擾常在。

【人股】132 jen² ku³ 支配人所得の配當金。

【人故】133 人閒社會のことがら。人事。〔國語、周語下〕敢問二天道一乎、抑人故也。〔注〕故、事也、將下以二天道一占上レ之乎、以二人事一知レ之也。

【人後】134 ㊀他家のあとを繼ぐ者。〔儀禮、喪服〕爲二人後一者孰後、後二大宗一也。〔後漢書、謝弼傳〕禮爲二人後一者、爲二之子一。〔魏志、明帝紀〕當レ明下爲二人後一之義上。〔孔子家語、觀鄉射〕爲二人後一者、不レ得レ入。㊁人のしりへ。人のあと。落二人後一を見よ。㊂他家のあと。繼二人後一を見よ。

〔繼二人後一〕135 他家のあとを繼ぐこと。〔唐律、戶婚、子孫不得別籍〕若祖父母・父母、令二

別籍、及以二子孫一妄繼二人後一者、徒二年、子孫不レ坐。

『落二人後一』136 ジンゴオツ　人よりあとになる。人に負ける。〔李白、流二夜郎一贈二辛判官一詩〕風流肯落二他人後一。〔眞德秀、跋二黃君汝宜廷對策後一文〕鰓鰓然唯恐レ落二人後一。

『人語』137 ジンゴ　人のことば。人のかたらひ。〔王維、鹿柴詩〕空山不レ見レ人、但聞二人語響一、返景入二深林一、復照二青苔上一。

『人口』138 ジンコウ　❶ひとかず。人員。人數。〔漢書、王莽傳上〕人口可二萬二千人一。〔淮南子、本經訓、注〕會計、計二人口數一。❷人のくち。人の言葉。人言。〔孔叢子、抗志〕以二人口一而疏二慢吾一矣。

『人口稅』139 ジンコウゼイ　人口を按じて徵收する稅。丁賦。俗に之を人頭稅といふ。

『人口論』140 ジンコウロン　人口の本質及び其の增減移動並にそれの對策等に關する論。マルサスの人口原論が特に有名である。

『人口過剩』141 ジンコウクジョウ　地積に比して住民の數が非常に多く、ために住民の生計維持が困難なる狀態をいふ。マルサス人口論が著名。

『膾二炙人口一』142 カイシャジンコウニアリス　なますや燒肉が美味で何人の口にも賞玩せられるやうに、廣く人人に言ひはやされることをいふ。膾は生のまま細く切つた魚。炙はあぶつた肉。〔林嵩、周朴詩集序〕一篇一詠、膾二炙人口一。〔宣和畫譜〕韓偓所レ著、歌詩頗多、其間綺麗得意者數百篇、往往膾二炙人口一。

『人工』143 ジンコウ　人のしわざ。人爲。自然に對していふ。〔潘岳、西征賦〕役二鬼傭一其猶呂、矧人力之所レ爲工。〔陶潛、飮酒詩〕貧居乏二人工一、灌木荒二余宅一。

『人工榮養』144 ジンコウエイヤウ　❶食物の攝取が不十分か不可能か、或は食物が病の治療に有害な場合に、榮養液を注射・灌腸或は護謨管等で注入補給すること。❷母乳の不足・不良等の際、其の代用品を乳兒に給與すること。

『人工呼吸』145 ジンコウコキフ　氣絕した者の呼吸を誘導するために施す術。

『人工養殖』146 ジンコウヤウショク　人爲的に魚卵に精液を注ぎ、孵化せしめて稚魚を仕立てること。

『人工孵化法』147 ジンコウフクワホフ　鳥類・魚類の卵を取り、器械を用ひて之を孵化せしめる方法。

『人工孵卵器』148 ジンコウフランキ　人工孵化に使用する器械。

『人功』149 ジンコウ　人の仕事。又、人のいさを。人のちから。〔謝靈運、田南樹園激レ流植レ援詩〕寡欲不レ期レ勞、即レ事窮二人功一。

『人告』150 ジンコク　他人のうつたへ。〔福惠全書、刑名部、人命中、圖賴〕至二于人告一、亦輕二于自告一。

『人國』151 ジンコク　人の國。國。〔荀子、儒效〕何謂二其無レ益二於人之國一也。〔史記、范雎傳〕徙亂二人國一耳。〔蘇洵、管仲論〕豎刁・易牙・開方三子、彼固亂二人國一者。

『人穀』152 ジンコク　明、韓會駒（12－43159‥342）の字。

『人骨』153 ジンコツ　❶人の骨。〔本草、人骨〕集解、時珍曰、許愼云、骨者、肉之核也。❷人をいふ。〔韋應物、休暇日訪二王侍御一不レ遇詩〕怪來詩思淸二人骨一、門對二寒流一雪滿レ山。

『人魂』154 ジンコン　❶人の陽のたましひ。人魄の對。人魄（406）を見よ。❷ヒトダマ　㋑夜間空中を飛ぶ燐火。古來、死人の魂であるといはれてゐる。〔台記〕康治二年五月二十六日、是夜有二人魂一、自レ艮向レ坤、其體太長。〔和漢三才圖會、火類、靈魂火〕然人魂火飛者、十箇年中唯見二一兩度一耳。㋺流星の俗稱。〔扶桑略記〕流星差二良方一渡、俗云二人魂一也。

『人才』155 ジンサイ　才能のある人。人材。〔南齊書、文學傳論〕子桓之品藻人才。〔李覯、袁州州學記〕大懼四人才放失、儒效闇疏、亡二以稱一上旨一。

『人才登用』156 ジンサイトウヨウ　人材をあげ用ひて官職を授ける。

『人才內閣』157 ジンサイナイカク　一黨に偏せず、全國の人材を集めて組織する內閣。

『人災』158 ジンサイ　人間の作るわざはひ。愛憎より起るわざはひ。〔莊子、庚桑楚〕禍福無レ有、惡有二人災一也。

『人妻』159 ジンサイ　ひとづま。他人の妻。〔漢書、廣川惠王越傳〕海陽女弟爲二人妻一。〔漢書、朱博傳〕長陵大姓尚方禁、少時嘗盜二人妻一、見レ斫、創著二其頰一。

〔後漢書、明帝紀〕女子嫁爲二人妻一。

『人齋』160 ジンサイ　淸、祝淦（8－24672‥77）の字。

『人齋先生』161 ジンサイセンセイ　宋、胡一桂（9－29400‥39）の尊稱。

『人材』162 ジンザイ　才能のある人。日知錄、卷八に見ゆ。人才（155）に同じ。〔詩、小雅、菁菁者莪序〕菁菁者莪、樂二育レ材也、君子能長二育人材一、則天下喜二樂之一矣。〔淮南子、主術訓〕如レ此、則人材釋而公道行矣。

『人材簿』163 ジンザイボ　人材の名を記した名簿。〔宋史、選擧志六〕帝謂二輔臣一曰、朕有二一人材簿一、臣下有レ所二薦揚一、退則記二其姓名一。

『人材網羅』164 ジンザイマウラ　才能の優れた人物を悉く集め收めること。

『人財』165 ジンザイ　人の財產。〔呂覽、聽言〕以奪二人財一、輕用二民死一。〔孔叢子、記義〕夫受二人財一、不二以成レ富。

『人財兩空』166 jen² ts'ai² liang³ k'ung¹　人も財產も共になくなる。❶人をさらつて金までも橫取りする。❷娘を嫁にくれたことにいふ。

『人相』167 ニンサウ　❶人の顏かたち。容貌。〔皮日休、相解〕今之相工、言二人相一者、必曰、某相類レ龍。〔神相全編、相說〕大凡觀二人之相貌一、先觀二骨格一。❷㒵我は人なりとの我執を持つもの。四相（8－4682‥403）を見よ。

『人相學』168 ニンサウガク　人相をみる學問。人の外貌によつて其の性質賢愚等を判斷する學問。

『人相見』169 ニンサウミ　人相を見て人の運命吉凶等を判斷することを業とするもの。相者。風鑑者。〔新可笑記、一〕天眼通を得たる人相見。

『人相書』170 ニンサウガキ　人相の特徵を記した書類。逃亡人などを搜す爲に、四方に配布するもの。

『人草』171 ジンソウ　人民。蒼生。〔古事記、上〕汝國之人草。

『人曹』172 ジンサウ　官名。唐の太宗の諱が世民であつた爲、唐代、民曹（6－17028‥66）の民の字を諱んでかくいふ。〔元稹、授二韋審規等左司戶部郎中等一制〕登生齒以比レ董、九賦人曹之任非レ輕。

『人箏』173 ジンサウ　樂器の名。箏は小琴のこと。〔楚辭、九歎、愍命〕挾二人箏一而彈レ緯。〔補注〕秦人薄レ義、劉向父子爭二瑟而分一之、因以爲レ名。

『人造』174 ジンザウ　人が作る。人の力でこしらへる。又、人が作つた物。〔字彙、鹵部〕說文、天生曰レ鹵、人造曰レ鹽。

『人造金』175 ジンザウキン　黃金色を呈する僞金。銅・亞鉛の合金に錫と鉛とを加へたもの。

『人造石』176 ジンザウセキ　セメントに砂の小量及び石粉を混じ、水を加へて所要の形狀・色合に固めたもの。代用石。

『人造皮』177 ジンザウヒ　伊太利產の麻に藥を加へて造つた皮。

『人造冰』178 ジンザウヒョウ　人工的に造つた氷。

『人造絹絲』179 ジンザウケンシ　動植物質の原料に種々の化學的處理をほどこして得られる粘液を、極めて細い穴から壓出して凝固せしめ、宛かも天然絹絲のやうに造つた織物原料。人絹。

『人造語言』180 ジンザウゴゲン　自然に發達したものではなく、人爲的に造成した言語。例へば、エスペラント語の如きもの。

『人造石絨』181 ジンザウセキジュウ　人工の石わた。機械で礦滓又は岩石を纖維として作る。不良導體で耐火用となる。效力は岩石の石絨と同じ。

『人造肥料』182 ジンザウヒレウ　販賣肥料の中、特に工場で加工製造せられた肥料をいふ。

『人造金剛石』183 ジンザウコンガウセキ　人工的に作つたダイヤモンド。

『人殺』184 ジンサツ　人が殺すこと。〔唐書、魏玄同傳〕人殺與二鬼殺一等耳。

『人斬』185 ヒトキリ　❶人を斬ること。❷死刑囚を斬るのを職とする人。

『人斬庖丁』186 ヒトキリバウチャウ　刀の異稱。

『人士』187 ジンシ　士たるものの行ある立派な人々。ひとびと。〔詩、小雅、都人士〕彼都人士、狐裘黃黃。〔箋〕城郭之域曰レ都。古明王時、都人之有二士行一者。〔後漢書、鄧騭傳〕人士荒飢、死者相望。〔李密、陳情表〕臣之辛苦、非二獨蜀之人士、及二州牧伯一所レ見明知一。

『人子』188 ジンシ　人の子。子供。又、他人の子。〔禮、曲禮上〕百年曰レ期頤、疏〕人子用レ心、要二求親之意一而盡二養道一也。〔左氏、宣、十二〕不レ以二人

子、吾子其可レ得乎。

【人子之道】189 ジンシノ　子として盡すべき道。孝道。〔孔叢子、執節〕不レ明二乎人子之道一。

【人子之禮】190 ジンシノ　子として盡すべき禮節。〔史記、晉世家〕重耳謝曰、負二父之命一出奔、父死不レ得レ修二人子之禮一、待レ喪、重耳何敢入、大夫其更二立他子一。

【人死】191 ジンシ　一人が死ぬこと。〔莊子、田子方〕人死亦次レ之。二不慮の出來事の爲に人が死ぬこと。〔本朝若風俗、六〕人死に絶えまじ。

【人死留レ名】192 ヒトハトムルヲシテ　人は死んでも後世に名を殘すべきである。名譽の重んずべきをいふ。〔五代史、王彦章傳〕豹死留レ皮、人死留レ名。

【人豕】193 ジンシ　豚のやうな人。人彘（378）に同じ。〔漢書、爰盎傳〕陛下所二以爲一慎夫人一、適所二以禍一之也、獨不レ見二人豕一乎。

【人豕之譏】194 ジンシノ　人を豚の如くにあつかつて虐待したといふ惡評。人彘（378）を見よ。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕下不レ令二陰氏有二人豕之譏一。

【人屎】195 ジンシ　人糞。大便。〔本草、人屎〕釋名、人糞、大便、時珍曰、屎糞、乃糟粕所レ化、故字從レ米、會意也。

【人施】196 ジンシ　他人からのほどこし。〔孔子家語、在厄〕吾聞、受二人施一者、常畏レ人。

【人師】197 ジンシ　人の師。先生。又、人の師たるに足る人。儒教的見地からすれば、師は常に道德的意味を以て言はれるのであるが、經師（8－27 508‥126）に對して言ふ時の人師は、特に專ら其の意味に用ひられる。人師難レ遇を參照。〔荀子、儒效〕四海之內若二一家一、通達之屬、莫レ不レ從服一、夫是之謂二人師一。〔注〕言四儒者之功如レ此、故可二以爲一人師長一也。〔韓詩外傳、五〕智如二泉源一、行可二以爲一表儀一者、人師也。〔止觀、五〕人師國寶、非レ此是誰。

【人師難レ遇】198 ジンシハアヒガタシ　師として仰ぐべき人は得がたいこと。人師を見よ。〔資治通鑑、漢紀〕（桓帝、延熹七年）魏昭請二於泰一曰、經師易レ遇、人師難レ遇。〔注〕人師謂下謹レ身脩レ行、足二以範一レ俗者。上

【人次】199 ジンジ　人の仲間。人類。〔晉書、庾亮傳〕雖二生之日一、亦猶二死之年一、朝廷復何理、齒二臣於人次一、臣亦何顏、自次二於人理一。

【人事】200 ジンジ　一人のしわざ。人故。〔孟子、告子上〕今夫麰麥播種而耰レ之、其地同、樹レ之時又同、浡然而生、至二於日至之時一皆熟矣、雖レ有レ不レ同、則地有二肥磽、雨露之養一、人事之不レ齊也。二人間社會の事柄。〔史記、秦始皇紀〕萬物之紀、以明二人事一。〔賀知章、回二鄉偶書詩〕離二別家鄉一歲月多、近來人事半銷磨。三人に贈る禮物。つかひもの。人事物を見よ。〔曖妹由筆〕今人、凡交遊往來及贊見、不レ論二貴賤一、但有二餽送之禮一、貨物不レ等、皆謂二之人事一、自樂天事宜狀云、上須二進奉一、下須二人事一、其來已久。〔通俗編、儀節、人事〕晉書武帝紀、泰始四年、頒二五條詔書于郡國一、五曰、去二人事一、按、人事、乃餽遺之稱。四人の身分・能力に關する事務。五房事。

【人事局】201 ジンジキョク　舊陸海軍省にあつた一局。將校・准士官の一身上に關する事務を取扱ふ役所。

【人事係】202 ジンジガカリ　官公署・會社等で人事異動に關する事務を取扱ふかかり。又、其の人。

【人事物】203 ジンジブツ　人に贈與する禮物。つかひもの。人事の二を見よ。〔韓愈、謝レ許二受王用男人事物狀一〕幷令二臣受一領人事物等一、承レ命震悚、再欣再躍。〔東齋記事〕今人以レ物相遺、謂二之人事物一、韓退之有下奏二韓弘入事物狀一乃知二此稱自一唐已有上之。

【人事行政】204 ジンジギヤウセイ　任免轉補などに就いての政務。

【人事訴訟】205 ジンジソショウ　婚姻・隱居等、人の身分・能力に關する訴訟をいふ。

【人事代謝】206 ジンジタイシヤ　人間界のことは、次々とかはるものであるとの意。〔孟浩然、與二諸子一登二峴山一詩〕人事有二代謝一、往來成二古今一。

【人事登記】207 ジンジトウキ　人事上の事項を法によつて役所の簿冊に記錄すること。中國では出生・認領・收養・結婚・離婚・監護・死亡・死亡宣言・繼承等に分つ。

【人事不省】208 ジンジフセイ　意識を失つた狀態。〔朱震亨心法、中暑〕戴思恭云、暑風者、夏月卒倒不レ省二人事一者、是也。

【人事蓋棺定】209 ジンジハカヲヲフテサダマル　人の是非善惡は、死後、初めて決定する。〔晉書、劉毅傳〕丈夫蓋レ棺事方定。

【人事則盡レ之】210 ジンジチヤスツクス　人の爲し得ることは全力を盡してする。〔呂覽、不廣〕管子之慮近レ之矣、若レ是而猶不レ全也、其天邪、人事則盡之矣。

【盡二人事一而待二天命一】211 ジンジヲツクシテテンメイヲマツ　十分に人力を盡して、結果は唯運命に任せる。〔胡寅、讀史管見〕盡二人事一而待二天命一。〔初學知要、知命〕篤信二貝原益軒一嘗謂、學者之於二患難一只以レ義處置了、而後須二放下一、是盡二人事一而後委二天命一也、學者須レ守二處置・放下之二事一、此外何復思、何憂乎。

【人時】212 ジンジ　耕作・收穫等を行ふべき時候をいふ。〔書、堯典〕曆二象日星辰一、敬授二人時一。〔蔡傳〕人時、謂二耕穫之候一。

【人膝】213 ジンシツ　伊水にすむ水中の妖物。〔刀劍錄〕漢章帝鑄二一金劍一、令二投二入於伊水中一、以厭二人膝之怪一。按、水經云、伊水有二一物一、如二人膝頭一、有レ爪、浴者輒沒不二復出一。

【人質】214 ヒトチ　誓約のしるしに相手方に遣はした自分の妻子などをいふ。質子（10－36833‥38）に同じ。〔東鑑、四十四〕建長六年五月一日、人質事有二沙汰一。

【人日】215 ジンジツ　正月七日をいふ。一日から六日までは獸畜を占ひ、七日には人を占ふからいふ。人勝日。琅琊代醉編、卷二に見ゆ。〔荊楚歲時記〕正月七日爲二人日一、以二七種菜一爲レ羹、翦レ綵爲レ人、或鏤二金箔一爲レ人、以貼二屏風一、亦戴二之頭鬢一、又造二華勝一以相遺、登レ高賦詩。〔事物紀原、正朝曆數部、人日〕東方朔占書曰、歲正月一日占レ鷄、二日占レ狗、三日占レ羊、四日占レ猪、五日占レ牛、六日占レ馬、七日占レ人、八日占レ穀、皆晴明溫和、爲二蕃息安泰之候一、陰寒慘烈、爲二疾病衰耗一。〔高適、人日寄二杜二拾遺一詩〕人日題詩寄二草堂一、遙憐故人思二故鄉一。

【人日鳥】216 ジンジツテウ　はと。鴿。鴿の字は人日鳥の合字に類することから、誤り用ひた語。〔清異錄、禽、人日鳥〕南唐王建封、不レ識二文義一、族子有二動植疏一、俾二吏錄一レ之、其載二鴿事一、以二傳寫訛謬一、分二一字一爲二二變一而爲二人日鳥一矣、建封信レ之、每二人日開筵一、必首進二此味一。

【人車】217 ジンシヤ　一人力車。二人車鐵道の車輛。

【人車鐵道】218 ジンシヤテツダウ　人力鐵道ともいふ。軌道上を人力で車輛を運轉する鐵道。

【人者】219 ジンシヤ　なさけある人。仁者（1－347‥111）に同じ。人と仁とは古通ず。〔墨子、非命下〕命者、暴王所レ作、窮人所レ術、非二仁者之言一也。〔閒詁〕舊本、仁作レ人、誤、今據二道藏本吳鈔本一正。

【人商】220 ヒトアキナヒ　人身の賣買。〔新編追加、政所〕可レ令二禁制一人賣一事、右稱二人商一。

【人狀】221 ジンジヤウ　人柄。〔竹取物語〕人ざまもよき人におはす。

【人情】222 ジンジヤウ　一人の心。人の感情。人の情欲。又、人間らしい心。人間らしい感情。おもひやり。なさけ。〔禮、禮運〕何謂二人情一。喜・怒・哀・懼・愛・惡・欲、七者弗レ學而能。〔禮、問喪〕思慕之心、孝子之志也、人情之實也。〔列子、力命〕度二人情一。〔荀子、榮辱〕是人情之所二同欲一也。〔韓非子、難言〕激二急親近一、探二知人情一、則見二以爲一潛而不レ讓。〔管子、權修〕人情不レ二。〔史記、平準書〕此非二人情一。〔漢書、食貨志〕人情、一日不二再食一則飢。〔漢書、張耳陳餘傳〕人情豈不二各愛一其父母妻子一哉。〔歐陽建、臨終詩〕人情難二豫觀一。二おくりもの。遺贈。〔杜甫、戲作二俳諧體一遣レ悶詩〕於レ菟侵二客恨一、粗救作二人情一。〔通俗編、儀節、人情〕按、以二禮物一相遺、曰レ送二人情一、唐宋元人、皆言レ之也。三jen2 ch'ing2 ㋑私情。㋺交際。㋩義理。人情。

【人情美】223 ニンジヤウビ　人間の愛情の美しさ。

【人情本】224 ニンジヤウボン　江戸時代後期に流行した一種の小說の總稱で、世態人情を描寫した本といふ意。

【人情冷暖】225 ニンジヤウレイダン　人情の冷淡なことと暖いこと。人情の變化。〔白居易、迂叟詩〕冷暖俗情諳二世路一、是非閑論任二交親一。〔故事成語考、歲時〕可レ憎者、人情冷暖、可レ厭者、世態炎涼。

〖不レ近ニ人情一〗226 世の常の人情にはづれている。人情にそむく。〔莊子、逍遙遊〕大有ニ逕庭一、不レ近ニ人情一焉。

【人爵】227 人から與へられる位。人の定めた位。此の世の官爵。天爵(3−5833‥785)の對。〔孟子、告子上〕有ニ天爵者一、有ニ人爵者一。仁義忠信、樂レ善不レ倦、此天爵也、公卿大夫、此人爵也。

【人手】228 ㊀人間の手。〔山海經、南山經〕有レ鳥焉、其狀如レ鴟而人手。㊁他人の手。〔淮南子、人間訓〕身死ニ人手一、社稷爲レ墟。㊂㋑他人のてだすけ。人の勞働力。㋺棘皮動物中、海盤車類の總稱。うみつばめ。ひとで。海盤車。

【人主】229 ㊀きみ。天子。人君。〔老子、三十〕以レ道佐ニ人主一者。〔荀子、仲尼〕人主不レ務レ得道。〔韓非子、愛臣〕人主不レ能レ用ニ其富一、則終ニ於外一也。〔管子、權修〕民賤ニ其爵服一、則人主不レ尊。〔史記、高祖紀〕太公曰、帝人主也。〔揚雄、解嘲〕上說ニ人主一、下談ニ公卿一。㊁韓非子の篇名。

〖人主必信〗230 人君は必ずまことでなければならない。〔呂覽、貴信〕凡人主必信、信而又信、誰人不レ親。

〖人主之情不レ能レ愛レ所レ非〗231 人君の心は、非と認めた臣下を愛することは出來ない。〔呂覽、愼小〕人臣之情、不レ能レ爲レ所レ怨、人主之情、不レ能レ愛レ所レ非。

〖人主者利害之軺轂也〗232 人君は例へば軺といふ背の高い車や、車輪の中心を爲す轂のやうなもので、群臣の利害の集中する所である。〔韓非子、外儲說右上〕人主者、利害之軺轂也、射者衆、故人主共矣。

【人首】233 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【人種】234 ㊀人のたね。子孫をいふ。〔法苑珠林〕欲レ令ニ人種不ニ斷絕一。〔世說新語、任誕〕阮仲容先幸ニ姑家鮮卑婢一、及レ居ニ母喪一、姑當ニ遠移一、初云當レ留レ婢、既發、定將レ去、仲容借ニ客驢一、著ニ重服一、自追レ之曰、人種不レ可レ失。㊁人の種類。種族。皮膚骨格等によつて、黃色人種・白色人種・銅色人種・黑色人種・褐色人種の五つに分つ。

〖人種學〗235 人種の系統及び性質等を研究して其の相互關係を探索する學問。

【人壽】236 人の壽命。〔應璩、與ニ從弟君苗君胄一書〕俟ニ河之淸一、人壽幾何。

〖人壽保險〗237 jen^2 shou^4 pao^2 hsien^3 保險の一種。生命保險。

【人衆】238 多くの人。人群。又、單に人の意にも用ひる。〔史記、平津侯主父偃傳〕豈人衆不レ足、兵革不レ備哉。

〖人衆者勝レ天〗239 人が多く惡勢の盛な時は、其の凶暴が一時は天理に勝つて、非を遂げることがある。多勢の惡運が強くて天罰が容易に至らないこと。天定亦能破レ人(3−5833‥1165)を見よ。〔史記、伍子胥傳〕吾聞レ之、人衆者勝レ天、天定亦能破レ人。

【人淑】240 明、豐坊(10−36304‥176)の字。

【人庶】241 人民。庶民。〔後漢書、安帝紀〕人庶流冗。〔後漢書、劉玄傳〕人庶羣ニ入野澤一、掘ニ鳧茈一而食レ之。

【人勝】242 人日に用ひる首飾。人日(215)を見よ。〔杜甫、人日詩〕勝裹金花巧耐レ寒。〔韋元旦、奉レ和下人日宴ニ大明宮一恩中賜綵縷人勝上應制詩〕青韶既肇人爲レ日、綺勝初成日作レ人。

〖人勝節〗243 人日、卽ち正月七日をいふ。人勝・人日(215)を見よ。〔李乂、奉下和人日淸暉閣宴ニ羣臣一遇レ雪應制上詩〕幸陪人勝節、長願奉ニ垂衣一。

【人蹤】244 人の足あと。〔柳宗元、江雪詩〕千山鳥飛絕、萬徑人蹤滅。〔崔琪、擊柝賦〕嚴城暮兮絕ニ人蹤一。

【人證】245 證人の陳述による證據。證書に對していふ。

【人乘】246 佛 五乘の一。五戒の行法に乘じて人間に生れるもの。

【人色】247 人の生々としてゐるいろつや。生色。無ニ人色一を見よ。

〖無ニ人色一〗248 ㊀甚だおそれて青ざめること。〔漢書、李廣傳〕吏士無ニ人色一、而廣意氣自如。㊁饑ゑや疲れの甚だしいために生々とした色つやのないこと。〔晉書、劉琨傳〕琨募得ニ千餘人一、轉鬭至ニ晉陽一、其有レ存者、饑羸無ニ復人色一。

【人心】249 ㊀人の心。ひとごころ。人意。〔易、咸〕聖人感ニ人心一、而天下和平。〔公羊、文、二〕以ニ人心一爲ニ皆有レ之。〔孟子、滕文公下〕我亦欲下正ニ人心一、息ニ邪說一、距ニ詖行一、放ニ淫辭一、以承中三聖者上。〔孟子、盡心上〕豈惟口腹有ニ飢渴之害一、人心亦皆有レ害。〔莊子、田子方〕陋ニ於知ニ人心一。〔列子、黃帝〕禽獸未ニ必無ニ人心一。〔宋玉、高唐賦〕使ニ人心瘁一。〔朱熹、大學章句〕蓋人心之靈、莫レ不レ有レ知。㊁わたくしのこころ。肉體の欲から生ずる心。道心(11−39010‥262)の對。人心惟危道心惟微を見よ。㊂㋑人情。愛情。㋺平生の精神。通常の意識。人ごこち。正氣。

〖人心洶洶〗250 人心が動搖すること。〔唐書、陸贄傳〕人心驚疑、如ニ風濤一然、洶洶靡レ定。

〖人心如レ面〗251 人の心のさまざまなことは、其の顏の同じくないのと同樣である。〔左氏、襄、三十一〕人心之不レ同、如ニ其面一焉、吾豈敢謂ニ子面如ニ吾面一乎。

〖人心難レ測〗252 人のこころは知りがたい。〔史記、淮陰侯傳〕(常山王・成安君)此二人相與、天下至驩也、然而卒相禽者何也、患生ニ於多欲一而人心難レ測也。

〖人心險ニ於山川一〗253 人の心は山川よりも險しく恐るべきものである。〔莊子、列禦寇〕孔子曰、凡人心險ニ於山川一、難ニ於知一レ天。〔白居易、太行路〕太行之路能摧レ車、若比ニ人心一是坦途、巫峽之水能覆レ舟、若比ニ人心一是安流。

〖人心不レ足蛇呑レ象〗254 人間の欲には際限がない、人の心は貪つて飽くことを知らないといふ諺。〔通俗編、禽魚、人心不レ足蛇呑レ象〕羅洪先詩、人心不レ足蛇呑レ象、世事到頭螳捕レ蟬。

〖人心惟危道心惟微〗255 肉體的欲望から生ずる心は、物欲に迷つて邪道に陷る危險があり、人間本來の道義の心は物欲に蔽はれて明かにし難い。〔書、大禹謨〕人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執ニ厥中一。〔蔡傳〕心者、人之知覺、主ニ於中一而應ニ於外一者也、指下其發ニ於形氣一者上而言、則謂ニ之人心一、指下其發ニ於義理一者上而言、則謂ニ之道心一、人心易レ私而難レ公、故危、道心難レ明而易レ昧、故微、惟能精以察レ之、而不レ雜ニ形氣之私一、一以守レ之、而純ニ乎義理之正一、道心常爲ニ之主一、而人心聽レ命焉、則危者安、微者著、動靜云爲、自無ニ過不及之差一、而信能執ニ其中一矣。〔荀子、解蔽〕道經曰、人心之危、道心之微、危微之幾、惟明君子而後能知レ之。

〖人心不レ可ニ一日無ニ喜神一〗256 すべて世の中は心の持ちやう一つで苦ともなり樂ともなるのであるから、人はいつも晴やかで愉快な精神を失つてはならない。〔菜根譚、前、六〕人心不レ可ニ一日無ニ喜神一。

【人臣】257 臣下。けらい。〔左氏、僖、十五〕敗而不レ死、又使レ失レ刑、非ニ人臣一也。〔荀子、王霸〕人主不レ公、人臣不レ忠也。〔墨子、節葬下〕爲ニ人臣一者、求ニ之君一而不レ得。〔史記、殷紀〕矜ニ人臣一以レ能。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕人臣出ニ萬死一、不レ顧ニ一生之計一。

〖人臣之節〗258 臣下として守るべき節操。〔孔叢子、執節〕伊尹執ニ人臣之節一、而弼ニ其君一以レ禮、亦行ニ此道一而已矣。

〖人臣之禮〗259 臣下として盡すべき禮節。〔孔叢子、居衞〕夫子未ニ嘗失ニ人臣之禮一、而猶聖道不レ行。

〖人臣儆心錄〗260 書名。一卷。淸の世祖が官吏を戒めた書。〔四庫提要、史、職官類〕。

〖人臣無ニ外交一〗261 人の臣たるものは、猥りに他國の人と交際してはならない。〔禮、郊特牲〕爲ニ人臣一者無ニ外交一、不ニ敢貳レ君也。〔注〕私覿、是外交也。

〖人臣之情不レ能レ爲レ所レ怨〗262 人臣の心として、怨む所の君に對して力を竭し、節義を盡すことは出來ない。〔呂覽、愼小〕人臣之情、不レ能レ爲レ所レ怨、人主之情、不レ能レ愛レ所レ非。

〖爲ニ人臣一無レ忘レ盡レ忠得レ死者一〗263 臣たる者は、忠義を盡して命を捨てることを忘れてはならない。〔史記、鄭世家〕解揚、云云、將レ死、顧謂ニ楚軍一曰、爲ニ人臣一無レ忘ニ盡レ忠得レ死者一。

【爲二人臣一者君憂臣勞君辱臣死】264 モンシングルヘキミ　人臣たる者は、君に憂へがある時は、心を勞して其の憂へをうれへ、君が恥辱を受けた時には、其の恥辱を雪ぐ爲に命を捨てて盡す。〔國語、越語下〕爲二人臣一者、君憂臣勞、君辱臣死、昔者、君王辱二於會稽一、臣所二以不一レ死者一、爲二此事一也。

【人身】265 ジンシン　❶からだ。肉體をいふ。〔灌頂經、十二〕困苦疲極、亡二失人身一。〔顏氏家訓、歸心〕人身難レ得。❷ひとがら。人品。〔世說新語、賢媛〕王凝之謝夫人、既往二王氏一、大薄二凝之一、既還二謝家一、意大不レ悅、太傅慰二釋之一曰、王郎逸少之子、人身亦不レ惡、汝何以恨レ遁爾。

【人身權】266 ジンシンケン　身體・名譽・自由又は親子・夫婦等に關する權利、卽ち人格權と身分權。

【人身牛】267 ジンシンギュウ　㊀無聞無智の人をいふ。人の形をした牛の意。〔智度論、五〕無二聞亦無レ智、是名二人身牛一。

【人身窮理】268 ジンシンキュウリ　今の生理學。

【人身御供】269 ヒトミゴクウ　昔、人身を犧牲として神に供へたこと。又轉じて、人の爲に犧牲になること。〔持統天皇歌軍法、五〕人身御供の圖取りに當つたも同然。

【人身攻撃】270 ジンシンコウゲキ　人の私行などをとりあげて非難すること。

【人身保險】271 ジンシンホケン　生命保險と傷害保險とをいふ。

【人身保護律】272 ジンシンホゴリツ　イギリスで一六七九年に發布せられたところの、人民の身體の自由を擁護する法律。

【人神】273 ジンシン　❶人の魂。日々體内をめぐるといふ。〔千金方〕灸法、當須レ避二人神一。❷人と神。〔魏書、李彪傳〕作二雅樂一、以協二人倫一、則人神交慶矣。〔曹植、洛神賦〕動二朱唇一以徐言、陳二交接之大綱一、恨二人神之道殊一兮。

【人神共憤】274 ジンシントモニイキドホル　人も神も共にいきどほる。〔舊唐書、于頔傳〕肆レ行暴虐、人神共憤、法令不レ容。

【人人】275 ヒトビト　ひとびと。各人。〔史記、酷吏傳〕宗室豪傑、皆人人惴恐。〔漢書、賈誼傳〕人人各如二其意所一出。〔後漢書、隗囂傳〕王之將吏、羣居穴處之徒、人人抵掌、欲レ爲二不善之計一。〔陶潛、飲酒詩〕道喪向二千載一、人人惜二其情一。

【人參】276 ニンジン　❶藥草の名。おたねにんじん。てうせんにんじん。こまにんじん。うこぎ科に屬する宿根草。根は多肉性で香氣があり、藥用に供せられる。朝鮮の名産で、殊に根が人の形に類するものを賞用する。人蔘。人參。人銜。人微。〔本草、人參〕釋名、人蔘、黃參、血參、人銜、鬼蓋、神草、土精、地精、海腴、集解、別錄曰、人參生二上黨山谷及遼東一、二月四月八月上旬采レ根、竹刀刮暴乾、無レ令レ見レ風、根如二人形一者有レ神。〔春秋緯運斗樞〕搖光星散而爲二人參一、人君廢二山之利一瀆、則搖光不レ明、人參不レ生。〔韓翃、送二客之一潞府詩〕佳期別在二春山裏一、應二是人蔘五葉齊一。❷蔬菜の名。なにんじん。やほやにんじん。さんけい科の二年生草。根は圓錐形多肉で黃赤色をなし、食用に供せられる。

【人參座】277 ニンジンザ　昔、藥用にする人參を賣買したところ。〔本朝世事談綺、五、人事〕堺屋七郎兵衞するが町において人參座立つ。

【人參木】278 ボク　木の名。なまえのき。くまつづら科の落葉灌木。高さ四五尺。葉は掌狀複葉で、七八月の頃、淡紫色の花を開く。觀賞用の外、果實及び根の液汁は藥用に供せられる。

【人蔘】279 ニンジン　藥草の名。人參(276)に同じ。〔廣雅、釋草〕葖、地精、人蔘也。

【人蔘】280 ニンジン　藥草の名。人參(276)に同じ。〔本草、人參〕釋名、時珍曰、人蔘年深浸漸長成者、根如二人形一有レ神、故謂二之人蔘神草一、蔘字從レ渗、亦浸漸之義、渗卽浸字、後世因二字文繁一、遂以二參星之字一代レ之、從二簡便一爾。

【人數】281 ニンズウ　❶人のかず。人員。人口。〔金史、章帝紀〕勿レ限二人數一。❷多數の人。おほぜい。多勢。❸人間の仲間。〔莊子、達生〕汝得下全二而形軀一、具二而九竅一、無中道夭上於聾盲跛蹇一而比中於人數上、亦幸矣。

【人瑞】282 ジンズイ　❶人事上のめでたいしるし。〔王褒、四子講德論〕天符既章、人瑞又明。〔吳志、孫皓傳〕吳興陽羨山、有二空石一長十餘丈、名曰二石室一、在所、表爲二人瑞一。❷學德の勝れた人。唐の鄭肅が自ら稱した故事。〔唐書、鄭肅傳〕鄭肅、字仁表、嘗以二門閥文章一自高、曰、天瑞有二五色雲一、人瑞有二鄭仁表一。

【人瑞翁】283 ジンズイオウ　明、林春澤(6—14551‥357)の號。

【人世】284 ジンセイ　世の中。〔潘岳、秋興賦〕放二曠乎人間之世一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕自レ今以往、吾其無レ意二於人世一矣。〔劉禹錫、西塞山懷古詩〕人世幾回傷二往事一、山形依レ舊枕二寒流一。

【人正】285 ジンセイ　❶夏曆の歲首。又、夏曆。人元(1129)に同じ。〔白虎通、三正〕十一月之時、陽氣始養二根株黃泉之下一、萬物皆赤、赤者盛陽之氣也、故周爲二天正一、色尚二赤也一、十二月之時、萬物始牙而白、白者陰氣、故殷爲二地正一、色尚二白也一、十三月之時、萬物始達、孚甲而出、皆黑、人得レ加レ功、故夏爲二人正一、色尚二黑一。❷北極にある國の名。〔呂覽、求人〕北至二人正之國一、夏海之窮一。〔注〕人正、北極之國也。

【人生】286 ジンセイ　❶人間の生命。又、人間が此の世に生存してゐる間。人の一生。〔左氏、成、二〕人生實難、其有レ不レ獲レ死乎。〔列子、周穆王〕人生百年。〔司馬法、定爵〕人生之宜、謂二之法一。〔史記、屈原傳〕人生有レ命兮、各有二所レ錯兮一。〔潘岳、閑居賦〕人生安樂、孰知二其佗一。〔白居易、與二元微之一書〕不レ得二足下書一、欲二一年一矣、人生幾何、離闊如レ此。❷人間が生まれる。人生而靜天之性也を見よ。❸人間が生きてゆくこと。人間の生活。人生在レ勤を見よ。❹人間。人。人生識レ字憂患始(303)を見よ。

【人生界】287 ジンセイカイ　地質學用語。第四紀をいふ。この紀の地層に始めて人類生活の遺跡を發見し得ることからいふ。

【人生觀】288 ジンセイカン　人生の目的價値・手段等に關する見解。樂天主義・厭世主義など。

【人生一世】289 ジンセイイッセイ　人の一生。〔史記、魏豹彭越傳〕人生一世間、如二白駒過一レ隙耳。〔後漢書、張霸傳〕人生一世、但當二敬二畏于人一。

【人生在レ勤】290 ジンセイアリキン　人間の生活は勤め働くことに依つて維持せられるものである。人が生きてゆく爲には勤め働くことが大切である。又、單に、人間は働くことが大切であるといふ意に用ひる。民生在レ勤。〔左氏、宣、十二〕民生在レ勤、勤則不レ匱。〔會箋〕生、如下生二於憂患一之生上。〔言行錄〕蘇頌嘗曰、人生在レ勤、勤則不レ匱、戶樞不レ蠹、流水不レ腐、此其理也。〔宋史、辛棄疾傳〕嘗謂、人生在レ勤、當二以レ力曰爲一レ先。

【人生如レ寄】291 ジンセイゴトシ　人が此の世に生存してゐるのは假住居のやうなものだ。死の忽ち至るをいふ。人生如レ寓。〔魏文帝、善哉行〕人生如レ寄、多憂何爲。〔曹植、仙人篇〕俯觀二五嶽間一、人生如二寄居一。〔北史、韓鳳傳〕人生如レ寄、唯當二行樂一、何用レ愁爲。

【人生如レ寓】292 ジンセイゴトシ　人生如レ寄に同じ。〔曹植、浮萍篇〕日月不二恆處一、人生忽若レ寓。

【人生如レ夢】293 ジンセイゴトシ　人の一生は夢のやうにはかないものである。〔蘇軾、念奴嬌〕我早生二華髮一、人生如レ夢、一樽還酹二江月一。

【人生哲學】294 ジンセイテツガク　人生の目的・結果・價値等を研究する學問。

【人生行樂耳】295 ジンセイカクラクセンノミ　人生は短いから唯樂しんで一生を暮さう。漢の楊惲の語。〔漢書、楊惲傳〕田家作苦、歲時伏臘、烹二羊炮一羔、斗酒自勞、云云、酒後耳熱、仰レ天拊レ缶、而呼二烏烏一、其詩曰、田二彼南山一、蕪穢不レ治、種二一頃豆一、落而爲レ萁、人生行樂耳、須二富貴一何時。

【人生感二意氣一】296 ジンセイカンイキニ　人は知遇に感激して事を爲すべきであるといふ意。意氣は、知遇・恩顧の意。又、人間は意氣相投合することを貴ぶといふ意にも用ひる。〔魏徵、述懷詩〕季布無二二諾一、侯嬴重二一言一、人生感二意氣一、功名誰復論。

【人生如二朝露一】297 ジンセイハチョウロノゴトシ　人の一生は、日が出ると忽ち乾く朝露のやうにはかないものである。〔漢書、蘇武傳〕人生如二朝露一、何久自苦如レ此。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕人生處二一世一、去若二朝露晞一。〔注〕向曰、言下人在二一世一、若レ日照二朝露一、其乾在レ須臾上。〔潘岳、內顧詩〕獨悲安所レ慕、人生若二朝露一。

【人生如二風燈一】298 ジンセイハフウトウノゴトシ　人の生命は、風

前の燈火のやうに、何時消えてなくなるか分らぬはかないものである。〔遼史、耶律和尙傳〕顧人生如二風燈・石火一、不レ飮將何爲、晚年沈湎尤甚、人稱爲二酒仙一云。

【人生不レ見二日月一】299　生れて直ちに死ぬこと。〔列子、天瑞〕人生有下不レ見二日月一、不レ免二襁褓一者上、吾既已行年九十矣、是三樂也。

【人生何處不二相逢一】300　人間はどこで再び會はれないことがあろうか、どこかでまためぐりあへる。〔通俗編、交際、人生何處不二相逢一〕歸田錄、寇忠愍準貶二雷州司戶一、時丁晉公・馮相拯、同在二中書省一、丁當レ秉レ筆欲レ貶二崖州一、忽自疑語レ馮曰、崖州再涉二鯨波一如何、馮唯唯乃擬二雷州一、及二丁之貶一、馮遂擬二崖州一、當時好事者相語曰、若見二雷州寇司戶一、人生何處不二相逢一。

【人生五十愧レ無レ功】301　人の一生は五十年、其の間に世の爲人の爲になるやうなことをしないのを恥づかしく思ふ。〔細川賴之、海南行〕人生五十愧レ無レ功、花木春過夏已中、滿室蒼蠅掃難レ去、起尋二禪榻一臥二淸風一。

【人生自レ古誰無レ死】302　人は昔から誰も、死なない者はない。人は皆必ず死ぬものである。〔文天祥、過二零丁洋一詩〕辛苦遭逢起二一經一、干戈落落四周星、山河破碎風拋レ絮、身世飄搖雨打レ萍、皇恐灘頭說二皇恐一、零丁洋裏歎二零丁一、人生自レ古誰無レ死、留二取丹心一照二汗靑一。

【人生識レ字憂患始】303　人は學問をすることによつて苦勞を知る。文字を學び學問をすれば、物事の道理が分つて却つて苦勞が多いから、無學の方がよい。〔蘇軾、石蒼舒醉墨堂詩〕人生識レ字憂患始、姓名粗記可二以休一、何用草書誇二神速一、開レ卷惝怳令二人愁一、我嘗好レ之每自笑、君有二此病一何年瘳、自言其中有二至樂一、適意無レ異二逍遙遊一、近者作レ堂名二醉墨一、如下飮二美酒一銷中百憂上、乃知柳子語不レ妄、病嗜二土炭一如二珍羞一、君於二此藝一亦云至、堆墻敗筆如二山丘一、興來一揮百紙盡、駿馬倏忽踏二九州一、我書意造本無レ法、點畫信レ手煩二推求一、胡爲議論獨見レ假、隻字片紙皆藏收、不レ減二鍾張一君自足、下方二羅趙一我亦優、不レ須臨池更苦學、完取二絹素一充二衾裯一。

【人生七十古來稀】304　人の生命は短いもので、七十の齡を重ねる者は昔から少い。古稀。〔杜甫、曲江詩〕朝回日日典二春衣一、每日江頭盡レ醉歸、酒債尋常行處有、人生七十古來稀、穿レ花蛺蝶深深見、點レ水蜻蜓款款飛。

【人生得レ意須レ盡レ懽】305　人間は志を達したならば、十分に歡樂を盡すがよい。〔李白、將進酒〕人生得レ意須レ盡レ懽、莫レ使二金罇空對一レ月。

【人生莫レ作二婦人身一】306　人は婦人と生れるな。婦人の榮枯禍福は、一に其の夫の如何に依つて左右されるからかくいふ。〔白居易、太行路〕人生莫レ作二婦人身一、百年苦樂由二他人一。

【人生而靜天之性也】307　人が生れて靜かなるは人の天性である。人の性は本來靜にあるといふ意。〔禮、樂記〕人生而靜、天之性也、感二於物一而動、性之欲也。

【人生若二白駒之過一レ郤】308　人の一生は短くて、白駒が疾走して僅かの間隙を通過する樣なものである。白駒(**8**－**22678**‥288)を見よ。〔莊子、知北遊〕人生二天地之間一、若二白駒之過一レ郤。

【人生一世間如二白駒過一レ隙】309　人生若二白駒之過一レ郤に同じ。〔史記、留侯世家〕彊食レ之曰、人生一世間如二白駒過一レ隙、何至二自苦如一レ此乎。

【人生貴レ適レ志何要二名爵一乎】310　人にとつては、思ふ通りの行ひをしてゆけることが一番願はしいことである、名譽や爵位を求めることはいらない。〔晉書、張翰傳〕翰因レ見二秋風起一、乃思二吳中菰菜・蓴羹・鱸魚膾一、曰、人生貴レ得レ適レ志、何能羈二宦數千里一、以要二名爵一乎。

【人性】311　人の性質。人のうまれつき。〔荀子、性惡〕今人之性、固無二禮義一、故彊學而求レ有之也。〔淮南子、脩務訓〕人性各有レ所二脩短一。〔法言、修身〕人之性也、善惡混。〔歐陽脩、吉州學記〕敎學之法、本二於人性一。

【人政】312　人間社會の政治。〔大戴禮、少閒〕天政曰レ正、地政曰レ生、人政曰レ辨。

【人星】313　星の名。危星の北にある。〔星經〕人星五星、在二危北、車府東南一、如二人象一、主二衆庶安危一、一曰二臥星一、主二防淫一、明潤則吉、暗動則人事乖異。〔天皇會通〕人星、萬民之精也、周禮、獻二民數一而祭二天之司民一。

【人勢】314　陰莖をいふ。〔本草、人勢〕釋名、陰莖、時珍曰、陶九成輟耕錄載、杭州沈生、犯レ姦事露、引レ刀自割二其勢一、流レ血經レ月不レ合。

【人精】315　人の精液。〔本草、人精〕集解、時珍曰、營氣之粹化而爲レ精、聚二于命門一、命門者、精血之府也。

【人請】316　㊀他人の氣うけ。㊁奉公人などの身元を保證すること。〔悔草〕人請などにたたんこと。

【人請證文】317　身元引受の證書。

【人聲】318　ひとごゑ。人のこゑ。〔莊子、山木〕木聲與二人聲一、犁然有レ當二於人之心一。〔枚乘、七發〕惡レ聞二人聲一。〔後漢書、襄楷傳〕人聲正諠。

【人蛻】319　蛇や蟬が脫皮するやうに、人間の靈魂が其の軀體を離れること。蛻はぬけがら。〔酉陽雜俎、廣知〕俗諱二五月上一レ屋言、五月人蛻、上レ屋見レ影魂當レ去。

【人迹】320　人のあしあと。又、轉じて、ひとあし。又、單に人をいふ。人跡。〔史記、秦始皇紀〕人迹所レ至、無レ不二臣者一。〔漢書、鼂錯傳〕人迹所レ及。〔馬融、長笛賦〕人迹罕到。〔漢書、嚴助傳〕人迹絕、車道不レ通。

【人腊】321　干からびた人體。木乃伊。又、轉じて、痩せた人をいふ。輟耕錄、卷十四に見ゆ。〔酉陽雜俎、物異〕李章武有二人腊一、長三尺許、云云、百骸皆具、云二是僬僥國人一。

【人跡】322　人のあしあと。人迹(320)に同じ。〔淮南子、氾論訓〕人跡所レ到、舟車所レ通。〔張協、雜詩〕磎壑無二人跡一。

【人跡未到】323　人が未だ行つたことがない。人跡未踏。

【人跡板橋霜】324　朝早く出かけて行くと、自分より先に人が通つたと見えて、板橋の上においた霜に人の足跡がついてゐる。〔溫庭筠、商山早行詩〕晨起動二征鐸一、客行悲二故鄕一、鷄聲茅店月、人跡板橋霜。

【人籍】325　㊀戶籍簿。〔正字通〕黃、又小兒曰二黃口一、唐開元制曰、凡男女始生爲レ黃、四歲爲レ小、十六爲レ中、二十一爲レ丁、六十爲レ老、每歲一造二計帳一、三年一造二戶籍一、卽今黃冊、謂レ之曰レ黃、自二男女始生一登レ籍而名レ之也、齊高帝時、敕二虞玩之等一檢定、詔曰、黃籍人之大綱、國之政端、亦曰二人籍一。㊁書物。又、書籍に載せ傳へられること。〔後漢書、酈炎傳〕富貴有二人籍一、貧賤無二天錄一。〔注〕富貴者、爲二人所一レ載二於典籍一也。

【人節】326　人の紋樣のついてゐる節符。節は、君命を奉じて他國に使する者の持つしるし。〔周禮、地官、掌節〕凡邦國之使節、山國用二虎節一、土國用二人節一、澤國用二龍節一。〔注〕使節、使三卿大夫聘二於天子諸侯一、行道所レ執之信也、土、平地也、山多レ虎、平地多レ人、澤多レ龍、以レ金爲レ節、鑄レ象焉、必自以二其國所一レ多者一、於二以相別一爲二信明一也。

人節(名物圖)

【人仙】327　佛 佛の德號。〔涅槃經、二〕遠二離於人仙一、永無レ有二救護一。

【人先】328　子孫の繁榮を掌る神の名。高禖。〔詩、大雅、生民、克禋克祀、疏〕蔡邕月令章句、高禖、祀名、高猶レ尊也、禖猶レ媒也、吉事先見二之象一、謂二之人先一。

【人選】329　衆くの人の中からえりぬく。選拔。選擧。

【人宗】330　人の尊敬を受ける者。宗は尊。〔任昉、王文憲集序〕莫レ不下北二面人宗一、自同中資敬上。〔注〕銑曰、人宗、謂レ爲二人所一レ尊也。

【人足】331　㊀人每に足る。凡ての人の生活が豐かである。〔後漢書、魯恭傳〕家給人足、安レ業樂レ產。㊁人の足。〔山海經、西山經〕其狀如レ鴟而人足。㊂㋑人の往來をいふ。〔狂言記、猿座頭〕人足が繁うなつた。㋺人に傭はれる勞働者。人夫。〔運步色葉集〕人足。

【人足寄場】332　㊀普請などの人足をよせ集める場所。㊁德川時代寬政頃、罪人・浮

浪人などを拘留して置いて使役した處。〔天保集成絲綸錄、百〕寛政二年三月、人足寄場江可レ被レ遣候。

【人則】333 ソクン 人の手本。〔左氏、昭、元〕能爲二人則一者、不レ爲二人下一矣。

【人卒】334 ソツ 人民。〔莊子、天地〕天地雖レ大、其化均也、萬物雖レ多、其治一也、人卒雖レ衆、其主君也、君原二於德一、而成二於天一。

【人尊】335 ソン 佛の德號。〔增一阿含經、序品〕人尊說二六度無極一。

【人待】336 マチ 人の來るのを待つこと。

【人待顏】337 ガホマチ 人の來るのを待ちもうけてゐる樣子。〔拾遺和歌集、雜、戀〕人知れぬ人待ち顏に見ゆめるは。

【人退】338 タイ 髮の異稱。方家の語。〔本草、亂髮〕釋名、血餘、人退、時珍曰、髮者血之餘、血者水之類也、今方家呼二髮爲一血餘一。

【人頽】339 ナダレ 多數の群集してゐる人が押されてなだれくづれること。人雪頽。〔太平記、十七、山門攻事〕大獄より人雪頽をつかせてぞ逃げたりける。

【人體】340 ジンタイ 人のからだ。人身。〔後漢書、方術下、華佗傳〕佗語レ普曰、人體欲レ得二勞動一、但不レ當レ使レ極耳。

【人體美】341 ビジンタイ 人體に現はれてゐる美、即ち、其の外形の線の優美、或は豪壯均整、肉附の豐滿等をいふ。

【人體組織學】342 ソシキガク 人體の各機關の組織を研究する學科。顯微鏡的解剖學。

【人道】343 ダウ ❶人のふみ行ふべきみち。人倫。〔禮、喪服小記〕親レ親、尊レ尊、長レ長、男女之有レ別、人道之大者也。〔中庸〕人道敏レ政、地道敏レ樹。〔國語、魯語上〕犯二人道一。〔莊子、在宥〕何謂レ道、有二天道一、有二人道一。〔荀子、非相〕人道莫レ不レ有レ辨。〔史記、禮書〕人道經緯萬端。〔史記、外戚世家〕夫婦之際、人道之大倫也。〔淮南子、繆稱訓〕欲知二人道一、從二其欲一。❷男女の交り。交接。〔詩、大雅、生民、箋〕如レ有二人道感一己者一也。〔輟耕錄、黃門〕惠帝時、京洛有二人、兼二男女體一、亦能兩用人道、而性尤淫亂。❸車馬道と區別して、專ら人が徒步往來する爲の道をいふ。❹〔佛〕人間界。六道の一。〔業報差別經〕由二先造一增上下品身語意妙行一、故生二人道一。

【人道我】344 ガ くしやみ。〔詩、邶風、終風、箋〕今俗、人噏云二人道我一、此古之遺語也。

【人道教】345 ジンダウケウ 佛蘭西のコムト氏の唱へた宗教。愛情を根本として、人類の幸福を說く。人類教。

【人道邇】346 ハジンダウチカシ 人のふみ行ふべき道は卑近な所にある。〔左氏、昭、十八〕天道遠、人道邇。〔孟子、離婁上〕道在レ邇、而求二諸遠一。

【人道之患】347 ウレンダウノ 刑罰をいふ。〔莊子、人間生〕吾未レ至二乎事之情一、而既有二陰陽之患一矣、事若不レ成、必有二人道之患一。〔注〕事未レ成、則唯恐レ不レ成耳、若果不レ成、則恐懼結二於內一、而刑網羅二於外一也。

【人道主義】348 ジンダウシュギ 人種・國家・宗教等のあらゆる差別を超越して、すべての人間に平等の人格を認め、人類全體の安寧幸福を圖ることを理想とする主義で、一に博愛主義ともいふ。

【人道惡レ盈而好レ謙】349 ジンダウハ ミツルヲ ニクミテ ケンヲ コノム 人間の世界に於ては、盈滿を惡み、謙遜を好む。〔易、謙〕天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙。

【人宅】350 ジンタク 他人の家。〔顏氏家訓、治家〕齊吏部侍郎房文烈、未二嘗嗔怒一、云云、嘗寄二人宅一、奴婢徹レ屋、爲レ薪略盡、聞レ之顰蹙、卒無二一言一。

【人擇】351 jen² tse² 人爲淘汰のこと。人爲淘汰(8)を見よ。

【人膽】352 ジンタン 人のきも。〔本草、人膽〕發明、時珍曰、北虜戰場中、多取二人膽汁一、傳二金瘡一、云極效、但不レ可二再用一他藥一、必傷爛也。

【人地】353 チ ❶才能品格と門閥。〔南齊書、張緒傳〕人地兼美。〔南史、王融傳〕自恃二人地一。〔北史、齊文襄帝紀〕沙汰尚書郎、妙選二人地一、以充レ之。❷ jen² ti⁴ 人と土地。

【人地相宜】354 ジンチアヒヨロシ 其の人相當な地位を得ること。

【人地生疎】355 セイソ 其の土地が馴れない土地であり、又、見知つた人もゐないこと。知り合ひもなく、又土地も不案內。

【人治】356 ジン ❶人を正し治めること。〔禮、大傳〕名者、人治之大者也、可レ無レ愼乎。〔注〕人治、所二以正一人也。〔疏〕名、謂二母婦之名一、言、得レ之則昭穆明、失レ之則上下亂、是人治之大者也、可レ得レ不レ愼乎。❷法治に對する語。國家の治亂は法の有無によらず、統治者の賢否に依るをいふ。儒家の說。

【人知】357 チ ❶人が知る。〔邵雍、淸夜吟〕一般淸意味、料得少二人知一。❷南宋の初、高宗の時、雷進の僭年號。(1129)

【人智】358 チ 人の智能。〔淮南子、齊俗訓〕博聞強志、口辯辭給、人智之美也。

【人畜】359 チク 人間と獸類。〔漢書、陳湯傳〕兵來道遠、人畜罷極。

【人長】360 ヂンヤウ 神樂の舞人の長。〔江家次第、十一、內侍所御神樂〕人長亦同。

【人腸】361 ヂンヤウ 人のはらわた。〔岑參、酒泉太守席上醉後作詩〕胡笳一曲斷二人腸一、坐客相看淚如レ雨。

【人聽】362 ヂンチヤウ 人がきくこと。人の耳に入ること。轉じて、人の耳。〔後漢書、朱浮傳〕事雖レ昭明、未レ達二人聽一。

【人中】363 ヂンチウ ❶鼻と上脣との間の中央に、縱に通つてゐるくぼみ。はなみぞ。流年運氣(6—174 31‥307)を見よ。〔相書〕人中長一寸、壽一百。〔輟耕錄、人中〕錢唐陳鑑如、以レ寫レ神見レ推二一時一、嘗持二趙文敏公眞像一、來呈、公援レ筆改二其所一レ未レ然者一、因謂曰、脣之上、何以謂二之人中一、若曰二人身之中半一、則當在二臍腹間一、蓋自レ此而上、眼耳鼻皆雙竅、自レ此而下、口瞥二一便一、皆單竅、三晝陰、三晝陽、成二泰卦一也。❷人のなか。ひとなか。〔智度論、七〕佛爲二人中師子一。❸明、陳子龍(11—41698‥900)の字。

【人中黃】364 ヂンチウクワウ 人糞から採つた藥の名。熱病にきくといふ。〔本草、人屎〕糞淸、釋名、黃龍湯、還元水、人中黃、大明曰、臘月截二淡竹一去青皮一、浸滲取レ汁、治二天行熱疾中毒一、名二糞淸一、浸二皂莢甘蔗一、治二天行熱疾一、名二人中黃一。

【人中尊】365 ニンチウソン 〔佛〕人類中の最も尊くすぐれた者。佛。菩薩。〔千部、觀世音像贊〕丹靑相好兮人中尊。

【人中白】366 ハヂンチウハク 人の小便の滓から取つた藥。逆上を下げる效能があるといふ。〔本草、溺白垢〕釋名、人中白、時珍曰、滓淀爲レ垢、此乃人溺澄下白垢也、以二風日久乾者一爲レ良、入レ藥。

【人中龍】367 ジンチウリウ 非凡にして測るべからざる人。晉の宋纖をいふ。〔晉書、宋纖傳〕不二與レ世交一、隱二居于酒泉南山一、不レ應二州郡辟命一、太守馬岌嘆曰、名可レ聞、而身不レ可レ見、德可レ仰、而形不レ可レ覩、吾今而後知二先生人中之龍一也。

【人中騏驥】368 ジンチウキキ 才能の衆に優れた人。梁の徐勉をいふ。〔南史、徐勉傳〕勉、字修仁、幼孤貧、及長好レ學、宗人孝嗣見レ之、歎曰、此所謂人中騏驥、必能致二千里一。

【人中牛王】369 ニンチウゴワウ 〔佛〕佛の德號。佛が大力の有ること恰も牛王のやうであるからいふ。〔涅槃經、十八〕人中象王・人中牛王・人中龍王。

【人中師子】370 ノンヂウシシ ❶人に勝れた者。師子は獅子に同じ。〔釋氏要覽〕治禪經後序云、天竺大乘沙門佛陀斯那、天才特拔、諸國特步、內外綜博、莫二籍不一練、世人咸曰二人中師子一。〔十六國春秋、北涼錄〕天竺法師佛馱斯那、本學二大乘一、天才秀發、誦二半億偈一、西方諸國、號爲二人中師子一。❷唐、曇一(5—14172‥1)の尊稱。

【人陳】371 チンチン 陳法の名。〔六韜、虎韜、三陳〕凡用レ兵、爲二天陳・地陳・人陳、奈何、云云、用二車用レ馬、用レ文用レ武、此謂二人陳一。

【人鎭】372 チンチン 天をいふ。高い所に居つて人ををさめるからいふ。〔白虎通、天地〕天者何也、天之爲言、鎭也、居レ高理レ下、爲二人鎭一也。

【人丁】373 テイチン ❶丁年の人。壯年の人。壯丁。〔唐書、食貨志、二〕租庸調之法、以二人丁一爲レ本。〔皇朝文獻通考、戶口考、戶口丁中賦役〕直隸布政使司人丁、每口科レ銀、三分至二二兩六錢五分七釐一不レ等、奉天府屬人丁、每口科銀、一錢五分至二二錢一不レ等。❷ jen² ting¹ 人口。人數。

【人丁銀】374 ヂンティ 人口稅。人頭稅。〔淸國行政法汎論、戶部、職權、淸國之制、地租以外、有下稱二人丁銀一者上、卽賦二課人頭稅一也。

【人定】375 ジンテイ ❶今の午後八時。甲夜をいふ。一說に、今の十時。夜が更けて人が寢しづまる時刻であるからいふ。人定鐘を見よ。〔後漢書、來歙傳〕歙自書表曰、臣夜人定後、爲三何人所二賊傷一、中二臣要害一。❷人が一所懸命になること。人定勝レ天を見よ。

【人定鐘】376 ジンテイショウ 人の寢しづまる時刻に撞くかね。ねよとのかね。〔海錄碎事、人事、叔姪〕柳公綽、毎日與二子弟一論レ文、或講二求蒞レ官治レ家之要一、至二人定鐘一、始歸寢。

【人定勝レ天】377 ヒトサダマツテテンニカツ 人力の能く運命を挽回すること。決心して一所懸命にやれば、どんな困難にも打克てる。人強勝レ天。〔歸潛志〕天定能勝レ人、人定亦能勝レ天。〔逸周書、文博解〕兵強勝レ人、人強勝レ天。

【人彘】378 ジンテイ 豚のやうな人といふ意。人豕。漢の呂后が、高祖の愛姬戚夫人の手足を切り、眼をゑぐり、且聾啞として廁中に置き、人彘といつた故事。〔史記、呂后紀〕(高祖)得二定陶戚姬一愛幸、生二趙隱王如意一。(高祖)常欲下廢二太子一立中如意上、賴二大臣爭一レ之、太子得レ毋レ廢。(高祖崩)呂后最怨二戚夫人及其子趙王一、乃令三永巷囚二夫人一、而召二趙王一、云云。使三人持レ酖飮二之、云云、太后遂斷二戚夫人手足一、去レ眼煇レ耳、飮二瘖藥一、使レ居二廁中一、命曰二人彘一。〔故事成語考、鳥獸〕呂后斷二戚夫人手足一、號曰二人彘一。

【人鳥】379 ジンテウ ❶人と鳥。〔顯密二教論、上〕文隨二執見一隱、義逐二機根一現而已、譬如三天鬼見別二人鳥明暗一。〔王僧孺、秋日愁居答二孔主簿一詩〕物我一無レ際、人鳥不二相驚一。❷山名。月支國にある。〔枕中書〕王方平、今爲二上相一、治二月支國人鳥山一。

【人敵】380 ヒトガタキ 人のかたきとなること。又、其の人。あだ。かたき。〔榮華物語、花山〕人がたきはとらぬこそよけれ。

【人天】381 ジンテン ❶食物。食物は人になくてはならぬ天の如きものであるからいふ。〔舊唐書、音樂志三〕粒食伊始、農之所レ先、古今攸レ賴、是曰二人天一。❷君をいふ。〔劉禹錫、砥石賦〕天爲二物天一、君爲二人天一。❸人と天。〔魏書、釋老志〕人天道殊、卑高定分。❹人道と天道。〔晉書、陸雲傳〕帝堯昭煥、而道協二人天一。

【人天眼目】382 ニンテンガンモク 佛❶極めて智慧の勝れた人。〔禪苑蒙求〕此僧、人天眼目也。❷書名。六卷。宋、智昭撰。禪宗諸家の要義を集む。

【人天主義】383 ジンテンシュギ 朝鮮の崔水雲が發表した學說。人と天とを同一と見做して、人卽天を主張す。

【人徒】384 ジント ❶下僕。輿隸。〔荀子、王霸〕人徒有レ數。〔注〕人徒、謂下胥徒給二徭役一者上也。〔管子、立政〕宮室有レ度、六畜人徒有レ數。〔纂詁〕人徒、輿隸之屬。❷人々。衆人。〔墨子、非攻中〕人徒之衆、未レ至レ有二數十萬人一也。〔史記、春申君傳〕王若負二人徒之衆一、仗二兵革之彊一。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕寢レ瘵謝二人徒一。

【人奴】385 ジンド 奴隸。轉じて、人を輕蔑していふ語。〔史記、季布傳贊〕爲二人奴一而不レ死。〔漢書、衞靑傳〕人奴之生、得レ無二笞罵一、卽足矣。

【人奴產子】386 ジンドサンシ 或る家の奴隸の子として生れ、繼いで仍ほ賤役に服する者をいふ。一說に、人奴と產子。〔資治通鑑、秦紀〕(二世皇帝、元年)使下章邯免二驪山徒人奴產子一、悉發以擊中楚軍上。〔注〕服虔曰、人奴產子、家人之產奴、師古曰、奴產子、猶三今人云二家生奴一、仲馮曰、人奴一物、產子又一物、臣瓚曰、人奴之產子、今田客家兒也。

【人統】387 ジントウ 夏曆をいふ。正朔(**6**―**16255**‥183)・三統(**1**―**12**‥1375)を見よ。

【人頭】388 ジントウ ❶人のあたま。〔史記、張儀傳〕左挈二人頭一。〔山海經、海內東經〕雷澤中有二雷神一、龍身而人頭。❷山名。㋑福建省安溪縣。㋺四川省昭化縣の西。山巓が人の頭のやうに突出してゐる。〔讀史方輿紀要、四川、保寧府、昭化縣〕人頭山、縣西四十里、山巓突出、宛若二人頭一、後唐長興初、王宏贄攻二劍門一、道出二於此一。

【人頭稅】389 ジントウゼイ 頭割りに課せられる稅で、性・年齡・職業・身分等の一切の條件を無視して、各個人に一律的に課するもの。課稅の最も原始的なもの。人口稅。

【人頭畜鳴】390 ジントウキウメイ 人でありながら、善惡が分らず、只獸の鳴くのと同樣に徒らに物をいふこと。人面獸心。〔史記、秦始皇紀〕始皇旣沒、胡亥極愚、云云、痛哉言乎、人頭畜鳴。〔注〕正義曰、畜、許又反、言、胡亥人身、有二頭面口一、能言語、不レ辨二好惡一、若二六畜之鳴一。

【人德】391 ジントク 其の人に備はつた德。〔淮南子、泰族訓〕俯視二地理一、以制二度量一、察二陵陸水澤肥墽高下之宜一、立レ事生レ財、以除二飢寒之患一、中考二乎人德一、以制二禮樂一、行二仁義之道一、以治二人倫一、而除二暴亂之禍一、乃澄二列金木水火土之性一。

【人毒】392 ジンドク 人を毒するもの。〔莊子、列禦寇〕彼所二小言一、盡人毒也。〔釋文〕小言、言不レ入レ道、故曰二小言一、人毒、以二其多レ患、故曰二人毒一。

【人肉】393 ジンニク 人の肉。〔本草、人肉〕發明、時珍曰、陶九成輟耕錄載、古今亂兵食二人肉一、謂二之想肉一、或謂二之兩脚羊一、此乃盜賊之無二人性一者、不レ足レ誅矣。〔紅樓夢、三十五回〕只是嫌二人肉酸一。

【人尿】394 ジンネウ 小便。〔本草、人尿〕釋名、小便、時珍曰、尿從レ尸從レ水、會意也、方家謂二之輪廻酒・還元湯一、隱語也。

【人波】395 ヒトナミ 群集した人の動搖するさまを波にたとへて言つた語。

【人馬】396 ジンバ ❶人と馬。〔六韜、犬韜、戰車〕人馬數動。〔吳子、治兵〕無レ絕二人馬之力一。〔史記、項羽紀〕人馬俱驚、辟易數里。〔吳志、孫韶傳〕權問二靑徐諸屯、要害遠近、人馬衆寡一。〔魏武帝、苦寒行〕行行日已遠、人馬同時饑。❷水中に棲む動物の名。〔古今注、魚蟲〕人馬、有二鱗甲一、如二大鯉魚一、但手足耳目鼻、與レ人不レ異爾、見レ人良久、乃入二水中一。

【人馬宮】397 ジンバキウ 天文學用語。黃道十二宮の第九宮。弓宮ともいふ。現在では天秤座の東界から射手座の西境までを占めてゐる。黃道帶(**12**―**47926**‥617)を見よ。

【人馬座】398 ジンバザ 星座の名。射手座の中國名。黃道十二宿の一。蠍座の西南に位す。一名、弓手座。

【人馬平安】399 ジンバヘイアン 人も馬も無事。旅行の平安なことをいふ。〔通俗編、祝誦、人馬平安〕易林、玄驖黑顙、遠抵二天門一、見二我眞君一、人馬安全、按、元時新官升二廳事一、隸卒排レ衙、例有レ辭云、在衙人馬平安、雜劇中見レ之甚多、今遠行及遷居者、亦書レ此自祝。

【人排】400 ジンパイ 人の力で挽くうす。馬排・水排等に對していふ。挽臼。〔魏志、韓曁傳〕舊時治作二馬排一、毎二一熟石一、用二馬百匹一、更作二人排一、又費二功力一、曁乃因二長流一爲二水排一、計二其利益一、三二倍於前一。

【人買】401 ヒトカヒ かどはかされた兒女などを買ふことを業とする者をいふ。〔謠曲、自然居士〕人買と申しつるは。

【人胞】402 ジンパウ えな。胎衣。〔本草、人胞〕釋名、胞衣、胎衣、紫河車、混沌衣、混元母、佛袈裟、仙人衣、時珍曰、人胞包レ人如レ衣、故曰二胞衣一。

【人望】403 ジンバウ 衆人の喜び望む所。人々が慕ひ仰ぐこと。人氣ニンキ。〔後漢書、齊武王傳〕諸將會議立二劉氏一、以從二人望一。〔南史、江淹傳〕人望所レ歸。〔白居易、與二茂昭一詔〕迫二於人望一、遂抑二予懷一。

【人貌】404 ジンバウ 人の顏かたち。〔莊子、田子方〕子方曰、其爲レ人也眞、人貌而天。

【人伯】405 ジンパク 明、馬宏衜(**12**―**44572**‥748)の字。

【人魄】406 ジンパク 人の陰のたましい。人魂(154)の對。人が生命を保つには、陽のたましひなる魂と陰のたましひなる魄とが必要であるといふ。〔本草、人魄〕集解、時珍曰、此是縊死人、其下有レ物、如二麩炭一、卽時掘取便得、稍遲則深入矣、不レ掘、則必有二再縊之禍一、蓋人受二陰陽二氣一、合成二形體一、魂魄聚則生、散則死、死則魂升二于天一、魄降二于地一、魄屬レ陰、其精沈淪入レ地、化爲二此物一。

【人瘼】407 ジンバク 人民の患苦をいふ。瘼は病。〔舊五代史、唐李琪傳〕救二人瘼一者、以二重斂一爲二病源一。

【人犯】408 ジンパン 犯人。罪人。〔淸會典事例、刑部、刑律斷獄、囚應レ禁而不レ禁〕康熙五十一年議准、刑部原定三十四條、款目稍多、恐二省監羈禁人犯愈衆一、茲將二原定條款一、覈二其情罪一。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕詞訟人犯、拘齊掛レ審。

【人範】409 ジンパン 常人の法。普通一般の人のやりかた。〔任昉、王文憲集序〕皇太子不レ矜二天姿一、俯同二人範一。〔注〕向曰、言、太子不三矜二夸天子之姿一、俯同二常人之法一、以レ尊訓レ學也。

【人非】410 ジンピ 人のそしり。人からそしられる。〔莊子、天道〕故知二天樂一者、無二天怨一、無二人非一、

無二物累一、無二鬼責一。

【人非人】411 ニンピ ❶佛 ㋑緊那羅（Kimnara）の別名。音樂の神。形が人に似て一本の角を有してゐる。〔法華文句、二〕緊那羅、亦云二眞陀羅一、此云二疑神一、似レ人而有二一角一、故號二人非人一、天帝法樂神、居二十寶山一。㋺天龍などの八部衆。元來人ではないが、佛所に行く時に人の形となるからいふ。〔舍利弗問經〕八部皆曰二人非人一。❷ひとでなし。人にして人の資格のないもの。人面獸心。〔平家物語、一、禿童事〕此の一門にあらざらん者は皆人非人たるべし。

【人非二木石一】412 ヒトハニアラズ 人は木や石のやうに心のない者ではない。〔司馬遷、報二任少卿一書〕身非二木石一、獨與二法吏一爲レ伍。

【人鄙】413 ジンピ 仁と不仁。善と不善。淮南子、本經訓には、仁鄙に作る。人は仁に通ず。〔文子、下德〕人鄙不レ齊、比周朋黨、各推二其與一、懷二機械巧詐之心一、是以貴レ義。〔淮南子、本經訓〕當二此之時一、無二慶賞之利、刑罰之威一、禮義廉恥不レ設、誹譽仁鄙不レ立、萬民莫二相侵欺暴虐一、猶レ在二于混冥之中一、逮レ至二衰世一、人衆而財寡、事力勞而養不レ足、於レ是忿爭生、是以貴仁、仁鄙不レ齊、比周朋黨、設二詐諝一、懷二機械巧故之心一、而性失矣、是以貴レ義。

【人微】414 ジンビ 人が身分の低いこと。

【人微權輕】415 ヒトビケンケイ 身分が低く、權力が弱い。〔史記、司馬穰苴傳〕穰苴曰、臣素卑賤、君擢二之閭伍之中一、加二之大夫之上一、士卒未レ附、百姓不レ信、人微權輕。

【人微言輕】416 ヒトビゲンケイ ❶身分が卑しく、言ふことが立派でない。謙遜の辭。〔蘇轍、分二司南京一到二筠州一謝表〕人微固無レ可レ言、恩深繼之以位。❷ヒトナレバカロンゼラル 地位が低いと、言ふ事も重んぜられない。

【人品】417 ジンピン ❶なりふり。風采。〔沈約、奏二彈王源一文〕源雖二人品庸陋一、胄實參レ華。❷ひとがら。品格。人格。〔愧郯錄〕乃人品耳。〔史記抄、循吏傳〕人品の次第の高ことぞ。❸風采のよいこと。人柄がすぐれてゐること。

【人夫】418 ニンプ ❶使役に服する者。使ひたてられる人。〔北史、趙郡王幹傳〕謫召二近州人夫一、閉二四門一、內外嚴固、搜二掩城人一。❷古、公の仕事に使はれた民。夫役を課せられた民。役夫。〔唐詩紀事、李休烈〕何勞兩縣索二人夫一。❸荷物運搬。又は土木工事の手つだひなどする勞働者。日庸。人足。

【人譜】419 ジンプ 書名。一卷。附、人譜類記二卷。明、劉宗周撰。人譜一卷は、首に太極圖說を擧げ、次に過格・改過說がある。人譜類記二卷は、體獨・知幾・凝道・考疑・作聖の五篇からなる。皆古人の嘉言善行を集めたもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【人舞】420 ジンブ 素手でまふ舞。〔周禮、春官、樂師〕凡舞有二帗舞一、有二人舞一。〔注〕人舞者、無レ所レ執、以二手袖一爲二威儀一。

【人風】421 ジンプウ 人民の風俗。民風（6—17028‥18）に同じ。〔柳宗元、捕蛇者說〕爲二之說一、以俟下夫觀二人風一者得上焉。

【人拂】422 ヒトボシ 人を拂ひのけて遠ざけること。

【人物】423 ジンブツ ❶人と物。〔漢書、匡衡傳〕傳曰、審二好惡一而理二情性一、而王道畢矣、能盡二其性一、然後能盡二人物之性一、能盡二人物之性一、可レ以贊二天地之化一。〔晉書、干寶傳〕寶撰二集古今神祇靈異人物變化一。〔唐無名氏、初過二漢江一詩〕襄陽好向二峴亭一看、人物蕭條屬二歲闌一。〔李白、明堂賦〕人物禽獸、奇形異模。❷ひと。人のかたち。〔後書品〕江都王書二人物狗馬、各有二眞相一。❸人のねうち。ひとがら。人品。〔後漢書、許邵傳〕好覈二論鄉黨人物一。〔吳志、張昭傳〕甄二識人物一。〔唐書、李揆傳〕卿門地・人物・文學、皆當世第一。❹すぐれた人。才能ある人。人材。〔杜甫、贈二崔十三評事公輔一詩〕舅氏多二人物一、無レ慙困二翻垂一。〔陸游、溪上作〕紹興人物嗟誰在、空記當年接二俊遊一。

【人物海】424 ジンブツカイ 立派な人が澤山居ること。〔抱朴子、彈禰〕許下、人物之海也。〔注〕許下、許昌也。魏所二都一。

【人物畫】425 ジンブツグワ 「畫」。

【人物志】426 ジンブツシ 人間を主題として描いた圖

【人別】436 ニンベツ ❶ひとりびとり。人ごとに。〔魏書、柳崇傳〕崇見レ之不レ問二賊事一、人人別借以二溫顏一。〔法苑珠林〕人別不レ同。❷ニンベツ ㋑人民を一人一人に數へた數。人口。㋺戸籍。人別帳の略。〔天保集成絲綸錄、六十二〕寛政四年閏二月、人別表紙之裏。

【人別改】437 ニンベツアラタメ 德川幕府が吉利支丹彈壓のため、人毎に戸籍宗教を調査したこと。〔德川禁令考、六十、戸籍〕當時町町人別改方之儀、例年四月九月相改。

【人別帳】438 ニンベツチョウ 江戸時代、人別改の戸籍簿。〔德州禁令考、六十〕寛政八年四月、名主方江取置候人別帳。

【人便】439 jen² pien⁴ よいついで。幸便。

【人寶】440 ボウ 佛 ❶人の寶。他人の寶物。數人寶を見よ。❷佛をいふ。〔維摩經、佛國品〕熟聞二人寶一不二敬承一。

【數人寶】441 サヘリクタカラ 佛 佛に歸依して口に經を誦へても、其の眞面目を得なければ、只隣人の寶玉を數へるやうなもので、己が身に益のないこと。〔華嚴經、譬若貧窮人日夜數二人寶一〕

【人謀】442 ボウ 人の計略。又、人智を盡したはかりごと。〔易、繫辭下〕人謀鬼謀、百姓與レ能。〔蜀志、諸葛亮傳〕非二惟天時一、抑亦人謀也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕人謀是與。

【人木】443 ボク 樹木の名。人が笑ふ樣に笑ふといふ木。〔西陽雜俎、物異〕人木、大食西南二千里有レ谷、山谷間樹枝上、化二生人首如レ花、不レ解レ語、人借問、笑而已、頻笑輒落。

【人牧】444 ボク 人民を養ひ治める者。人君をいふ。〔孟子、梁惠王上〕今夫天下之人牧、未レ有二不レ嗜レ殺人者一也。〔集注〕人牧、謂二牧民之君一也。〔焦循正義〕天下之人牧、卽天下之人君也、說文支部云、牧、養レ牛人也、牧之義爲レ養、每一州之中、天子選二諸侯之賢者一、以養二一州之人一、卽以名レ之爲レ牧。

【人孟】445 マウ 明、顧永傑（11—41470‥236）の字。

【人滿】446 マン 人が多くてをさまらないこと。〔管子、霸言〕人衆而不レ理、命曰二人滿一。〔注〕謂二人多而政少一。

【人民】447 ミン ❶たみ。國民。蒼生。〔周禮、地官、

大司徒」知二其利害一、以阜二人民一。〔孟子、盡心下〕諸侯之寶三、土地・人民・政事。〔呂覽、有始〕人民禽獸。〔管子、七法〕人民鳥獸草木之生。〔墨子、尚賢中〕王公大人之君二人民一主二社稷一。㊁無位無官の人。平民。

【人民團體】448 ジンミンダンタイ　人民が生活を改善し、知識を高め、又生産を促進すること等のために組織する團體で、農業・漁業・工業・商業各方面の各種團體、學生會其の他の文化團體、並に宗教團體などがこれに屬する。國民政府は人民團體組織方案を公布して、指導監督にあたつた。

【人民投票】449 ジンミントウヘウ　法律の制定、其の他の重要政務に對して、一般國民の贊否を表明する投票。國民投票。

【人名】450 ジンメイ　人の名。〔南齊書、王僧虔傳〕太祖善レ書、示二僧虔古跡十一紙一、就求二能書人名一。

【人名簿】451 ジンメイボ　知人・顧客などの住所・姓名等を記入しておく帳簿。人名帳。

【人名勘定】452 ジンメイカンジヤウ　金錢の貸借を、相手方の人名を口座として處理すること。

【人命】453 ジンメイ　㊀人のいのち。〔古詩〕嘉賓難二再遇一、人命不レ可レ續。〔後漢書、鍾離意傳〕愼二人命一、緩二刑罰一。〔蜀志、許靖傳〕人命無レ常。〔曹植、送二應氏一詩〕天地無二終極一、人命若二朝霜一。㊁ひとごろし。殺人。〔福惠全書、刑名部、監禁〕重囚之中、有二強盜一有二人命一。

【人命案】454 jen² ming⁴ an⁴　殺人事件。

【人命犯】455 jen² ming⁴ fan⁴　殺人犯。〔紅樓夢、四回〕人命犯。

【人命官司】456 jen² ming⁴ kuan¹ ssŭ　殺人事件。

【人命至重】457 ジンメイシヂヂユウ　人のいのちは大變貴重なものである。〔日本政記、後陽成天皇論〕慶長三年、誡二人命至重一、人主雖レ操二生殺之權一、不二妄用一レ之也。

【人命第一】458 ジンメイダイイチ　㊀一切のものの中で人の命は尤も貴重なものである。〔智度論、十三〕一切寶中、人命第一。

【人命不停】459 ジンメイフテイ　㊀人の命は無常なものである。〔涅槃經、二十三〕人命不レ停、過二於山水一、今日雖レ存、明亦難レ保。

【人面】460 ジンメン　㊀人の顏。〔山海經、南山經〕其中多二赤鱬一、其狀如レ魚而人面。〔後漢書、章帝紀〕詔惟人面靡レ不レ率。〔李白、送二友人入レ蜀詩一〕山從二人面一起、雲傍二馬頭一生。㊁人の顏に象つたおめん。〔隋唐嘉話、高齊蘭陵王長恭、貌類二婦人一、乃著二假面一、以對レ敵、今之人面、是也。〕

【人面瘡】461 jen² mien⁴ ch'uang¹　腫物の名。膝蓋に生じ、腐爛して人面の狀をなす。

【人面子】462 ジンメンズ　果實の名。其の核が人の面の如くであるといふ。〔本草、人面子、草木狀云、出二南海一、樹似二含桃一、子如二桃實一、云云、其核正如二人面一、可レ玩。〔南越筆記〕人面子、以二增城水東所一レ產者一爲レ佳、子如二大梅李一、核類二人面一、兩目鼻口皆具、肉甘酸、宜レ爲二蜜煎一、仁絕美、以點レ茶、如二梅花片一、光澤可レ愛。〔嶺南雜記〕人面子、核如二人面一、余剜視之、殊不二甚似一、略具二數孔一耳、土人皆以入レ饌。

【人面竹】463 ジンメンチク　竹の一種。布袋竹。根本の節のこんだ所の形が人の面に似てゐるといふ。〔羣芳譜〕人面竹、出二剡山一、徑幾寸、近レ本節密而凸、宛如二人面一。

【人面狗心】464 ジンメンクシン　容貌は美しいが無能である。見かけだけ立派で何も出來ない人を誹る語。〔晉書、符朗載記〕沙門釋法汰、問レ朗曰、見二王吏部兄弟一未、朗曰、吏部爲レ誰、非二人面而狗心一、狗面而人心兄弟者乎、王忱醜而才慧、國寶美貌而才劣二於弟一、故朗云レ然。

【人面獸行】465 ジンメンジウカウ　人間の顏はしてゐるが、行ひは獸のやうである。〔日本外史、德川氏前記、織田氏下〕豈傚二公等人面獸行一。

【人面獸心】466 ジンメンジウシン　顏は人間だが心は畜生。義理・人情を辨へぬことをいふ。〔列子、黃帝〕夏桀・殷紂・魯桓・楚穆、狀貌七竅、皆同二於人一、而有二禽獸之心一。〔漢書、匈奴傳贊〕夷狄之人、貪而好レ利、被髮左衽、人面獸心。〔劉峻、辨命論〕彼戎狄者、人面獸心。〔晉書、孔嚴傳〕降附之徒、皆人面獸心、貪而無レ親、難二以感一義。〔北史、太武五王、臨淮王昌傳〕人面獸心、去留難レ測。

【人面獸身】467 ジンメンジウシン　顏は人で身體は獸。怪物の形狀。〔史記、五帝紀、以御二螭魅一、注〕集解曰、服虔曰、螭魅、人面獸身、四足、好惑レ人。〔山海經、大荒北經〕人面獸身、名曰二大戎一。

【人面桃花】468 ジンメンタウクワ　美人の顏と桃の花。唐の崔護の人面桃花相映紅の句から出た語で、以前佳人に遭つた所に其の人を見出し得ない意にこの語を用ひる。崔護は、桃花の下で美女を見染め、忘れ兼ねて明年復た尋ねた時、其の人が見えないので、人面桃花云云の詩を詠じて思慕の情を表はし、其れを女の門に書いて歸つたが、女は後で其の詩を見て絕食して死んだ。之を聞いた護が、屍に向つて呼んだところ、女は復び生きかへつたといふ。〔麗情集〕崔護、清明日、獨遊二都城南一、見二莊居桃花繞レ宅、叩レ門求レ漿、有二女子一、開レ門、以二盂水一飮レ護、四目注視、屬意甚殷、來歲清明、護復往、則門已扃鎖、因題二其上一曰、去年今日此門中、人面桃花相映紅、人面祇今何處去、桃花依レ舊笑二春風一、後日復往聞二哭聲一、一老父曰、子非二崔護一耶、我女見二此題詩一、絕食而卒、崔亦感動、詣二殯所一大呼曰、護在レ此、女遂復生。

【人面鳥身】469 ジンメンチヤウシン　顏は人で身體は鳥。神の容貌。〔墨子、非攻下〕有レ神、人面鳥身、若レ瑾以侍。〔山海經、海外北經〕北方禺彊、人面鳥身。

【人面鳥喙】470 ジンメンチヨウクワイ　人の顏をしてゐるが、口は鳥に似てゐる。〔新序、節士〕中行衍、人面鳥喙、降佐二帝太戊及周天子一、皆有二明德一。

【人面龍身】471 ジンメンリユウシン　顏は人で身體は龍。或る神の容貌。〔山海經、西山經〕又西北四百二十里曰二鍾山一、其子曰レ鼓、其狀如二人面一而龍身。〔淮南子、墜形訓〕其神、人面龍身而無レ足。

【人門】472 ジンモン　㊀人を立てて門の代りにしたもの。殿門（6－16651：97）を見よ。〔周禮、天官、掌舍〕無レ宮、則共二人門一。〔注〕立二長大之人一、以表レ門。㊁人の踐むべき道。人道。〔法言、脩身〕由二於禮義一、入自二人門一。㊂河南省の二門山の北を人門といふ。二門（1－12‥1695）の㊂の㋑を見よ。

【傍二人門戶一】473 ヒトノモンコ　人の家に寄りそふ。人に賴ること。唐の章孝標が辭任した時、庚承侍郎に詩を上り、これよりは何れをよるべとすべきかと悲歎の情を述べた故事。〔章孝標、歸燕詞辭二工部侍郎一詩〕舊壘危巢泥已落、今年故向二社前一歸、連レ雲大廈無二棲處一、更望二誰家門戶一飛。〔注〕一作二下第後獻一主司一、望、一作レ傍。〔東坡志林、桃符仰二視艾人一而罵曰、汝何等草芥、輒居二我上一、艾人俯而應曰、汝已半截入レ土、猶爭二高下一乎、桃符怒、紛然不レ已、門神解レ之曰、吾輩不肖、方傍二人門戶一、何暇レ爭二閒氣一耶。〔故事成語考、科第〕傍二人門戶一、憐二士無レ依。

【人問】474 ジンモン　人のもだえ。〔李白、江夏贈二韋南陵冰一詩〕人悶還心悶、苦辛長二苦辛一。

【人也】475 ジンヤ　清、馮行（12－44579：30）の字。

【人野】476 ジンヤ　貴人と野人。貴賤。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕置二之虛室一、人野何辨。〔注〕善曰、孟子曰、舜之居二深山之中一、所レ以異二於深山之野人一者、幾希。劉熙曰、當二此之時一、舜與二野人一、相去豈遠哉、向曰、置二此小山中虛室一、則貴人與二野人一、何所二分辨一、蓋一理也。

【人洋】477 jen² yang²　香港で鑄造する一圓銀貨。

【人養】477 ジンヤウ　他人が養ふ。他人の養ひ。〔列子、仲尼〕受二人養一而不レ能二自養一。

【人厄】478 ジンヤク　人爲によつて蒙むる災厄をいふ。〔蘇軾、登州海市詩〕率然有レ請不二我拒一、信我人厄非二天窮一。

【人雄】479 ジンユウ　人の中のすぐれた者。〔蜀志、劉焉傳評〕璋才非二人雄一、而據レ土亂レ世。

【人雄師子】479′ ジンユウシシ　㊐すぐれた人。師子は獅子に同じ。佛の德號。〔無量壽經、上〕人雄師子、神德無量。

【人熊】480 ジンユウ　獸の名。㊀羆（9－28398）の異稱。人の樣に立つからいふ。〔本草、熊〕釋名、時珍曰、俗呼二熊爲一豬熊一、羆爲二人熊一、馬熊一。㊁狒狒（7－20338：2）の異名。〔本草、狒狒〕集解、時珍曰、方輿志、狒狒、西蜀及處州山中亦有レ之、呼爲二人熊一。

【人譽】481 ジンヨ　世間の評判。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕仰觀二乾象一、參二之人譽一。

【人欲】482 ジンヨク　人間の嗜欲。人間の慾望。〔禮、樂記〕滅二天理一而窮二人欲一者也。〔大學、大學之道、

章句〕必其有ニ以盡ニ夫天理之極一、而無ニ一毫人欲之私一也。〔王粲、雜詩〕人欲天不レ違、何懼レ不ニ合幷一。

【人籟】483 ジンライ 人爲を以て出す音。例へば樂器の音の類。天地自然の音響を天籟・地籟といふに對す。〔莊子、齊物論〕地籟則衆竅是已、人籟則比竹是已。

【人樂】484 ジンラク 人閒界のたのしみ。〔莊子、天道〕與レ人和者、謂ニ之人樂一、與レ天和者、謂ニ之天樂一。

【人吏】485 ジンリ 役人。人の命令のままに動くだけの役人。法令に從ひ、職務を忠實に履行し、惡はしないが、他人に何の益も與へない役人を言ふ。〔韓詩外傳、五〕智如ニ泉源一、行可ニ以爲ニ表儀一者、人師也、智可ニ以砥一、行可ニ以爲ニ輔弼一者、人友也。據レ法守レ職、而不ニ敢爲レ非者、人吏也、當レ前決レ意、一呼再諾者、人隸也、故上主以レ師爲レ佐、中主以レ友爲レ佐、下主以レ吏爲レ佐、危亡之主、以レ隸爲レ佐。

【人利】486 ジンリ 人の利益。〔禮、禮運〕講レ信脩レ睦、謂ニ之人利一。

【人里】487 ジンリ ひとざと。人の住む村里。〔法苑珠林〕遂擔ニ負母一、下趣ニ人里一。

【人理】488 ジンリ ㊀人のふむべき道理。人事。人道。〔莊子、漁父〕其用ニ於人理一也、事レ親則慈孝、事レ君則忠貞。〔漢書、敍傳下〕窮ニ人理一、該ニ萬方一。〔蜀志、孟光傳〕上犯ニ天時一、下違ニ人理一。〔陸機、塘上行〕人理無ニ常全一。㊁單に人の意。人理之悔吝を見よ。

【人理之悔吝】489 ジンリノクワイリン 人に起る悔吝の變化。悔は後悔して惡から善に行くこと。吝は鄙吝の行ひをして善から惡に行くこと。〔列子、楊朱〕不レ知ニ世道之安危、人理之悔吝、室內之有亡、九族之親疏、存亡之哀樂一也。

【人柳】490 ジンリウ 樹木の名。檉柳(**6—15650**‥6)の一名。人の形をしてゐるからいふ。琅琊代醉編、卷三十四に見ゆ。〔本草、檉柳〕釋名、赤檉、赤楊、河柳、雨師、垂絲柳、人柳、三眠柳、觀音柳。〔三輔故事〕漢苑中有レ柳、狀如ニ人形一、號曰ニ人柳一、一日三眠三起。

【人流】491 ジンリウ 普通の人。〔顏氏家訓、後娶〕河北鄙ニ於側出一、不レ預ニ人流一。

【人溜】492 ヒトダマリ 人の集つてゐること。又、其の所。

【人瘤】493 ジンリウ 人骨をいふ。〔北齊書、徐之才傳〕有下以レ骨爲ニ刀子靶一者上、五色斑爛、之才曰、此人瘤也、問ニ得處一、云、於ニ古冢一見ニ髑髏一、額骨長數寸、試削視、有ニ文理一、故用レ之。

【人立】494 ジンリツ 人の如くに立つ。〔左氏、莊、八〕公怒曰、彭生敢見、射レ之、豕人立而啼。

【人虜】495 ジンリヨ とりこ。とらはれびと。〔六韜、犬韜、練士〕贅壻人虜。〔史記、天官書〕卒雖レ衆、將爲ニ人虜一。

【人龍】496 ジンリヨウ 腹中に寄生する長い虫。蛔蟲。蚘蟲の異名。〔本草、蚘蟲〕釋名、人龍、集解、時珍曰、蚘、人腹中長蟲也。

【人力】497 ジンリヨク ㊀ひとのちから。又、人閒業。〔中庸〕舟車所レ至、人力所レ通。〔老子、六十八〕是謂レ用ニ人之力一。〔管子、形勢解〕明主度ニ量人力之所ニ能爲一。〔漢書、董仲舒傳〕必有下非ニ人力所ニ能致一、而自至者上。㊁jen² li⁴ 人に使役される者。小使。㊂ジンリキ 人力車の略。

【人力車】498 ジンリキシヤ 人を載せて輓く二輪車。高山幸助・和泉要助・鈴木德次郎等の創製にかかる。中國では東洋車、又は洋車といふ。

【人力難レ爭】499 ジンリヨクアラソヒガタシ 人の力ではどうにもならない。〔六部成語、工部、人力難レ爭、注解〕河水爲レ患、乃出ニ天災一、人力不レ能ニ挽回一也。

【人林】500 ニンリン 樹木の名。〔阿毘曇論、一〕人林、果形如レ人。

【人倫】501 ジンリン ㊀人の履むべきみち。人たる道。五倫。五常。人道。〔孟子、滕文公上〕人倫明ニ於上一、小民親ニ於下一。〔莊子、知北遊〕人倫雖レ難、所ニ以相齒一。〔管子、八觀〕倍ニ人倫一而禽獸行。〔史記、衞將軍驃騎傳〕匈奴逆ニ天理一、亂ニ人倫一。〔淮南子、泰族訓〕行ニ仁義之道一、以治ニ人倫一。〔漢書、禮樂志〕象ニ天地一而制ニ禮樂一、所下以通ニ神明一、立ニ人倫一、正ニ情性一、節中萬事上者也。〔班固、東都賦〕君臣初建、人倫寔始。〔後漢書、荀爽傳〕夫婦人倫之始、王化之端。㊁人々。人類。〔荀子、富國〕人倫並處、同レ求而異レ道、同レ欲而異レ知。〔注〕倫、類也、並處、羣居也。㊂身內。肉親。〔鹽谷宕陰、送ニ安井仲平東遊一序〕竄突未レ黔、累逢ニ不虞之難、人倫之變一。

【人倫鑒】502 ジンリンノカガミ 人の手本。〔北齊書、刑邵傳〕族兄巒有ニ人倫鑒一。

【人倫之紀】503 ジンリンノキ 人の履むべき道の綱紀。〔杜預、春秋左氏傳序〕王道之正、人倫之紀備矣。

【人倫不レ飭】504 ジンリントトノハズ 人の常道が行はれない。〔莊子、漁父〕人倫不レ飭、百姓淫亂。

【人倫以ニ十際一爲レ安】505 ジンリンハジツサイヲモツテヤスキヲナス 人の常道は十際をよく行ふことが大切である。十際とは、君臣・父子・兄弟・朋友・夫妻の閒柄をいふ。〔呂覽、壹行〕四曰、先王所レ惡、無レ惡ニ於不レ可レ知、不レ可レ知、則君臣・父子・兄弟・朋友・夫妻之際敗矣、十際皆敗、亂莫レ大レ焉、凡人倫以ニ十際一爲レ安者也、釋ニ十際一、則與ニ麋鹿虎狼一無ニ以異一。

【人輪】506 ジンリン 相術家の語。流年運氣(**6—17431**‥307)を見よ。

【人類】507 ジンルイ ひとのたぐひ。にんげん。又、特に父子の閒をいふ。〔公羊、隱、元、公子益師卒、注〕將下以理ニ人倫一、序ニ人類一、因制中治亂之法上。〔疏〕理ニ人倫一者、斷ニ理君臣之倫次一、令レ得レ所也、序ニ人類一者、類、謂ニ父子一、序ニ父子之恩一、使ニ之厚一也。〔莊子、知北遊〕已化而生、又化而死、生物哀レ之、人類悲レ之。〔列子、湯問〕筋骨皮肉、非ニ人類一也。〔漢書、韋玄成傳〕出ニ美人一、重レ絕ニ人類一。

【人類學】508 ジンルイガク 生理學・史學などの上から人の身體・精神を究明し、人種の發達異同又は盛衰の歷史を研究する學問。

【人類教】509 ジンルイケウ 佛蘭西のコムトの唱へた宗教。人道教(345)に同じ。

【人類中心說】510 ジンルイチユウシンセツ 人を宇宙の主宰者とし、萬物はみな人類のために創設せられたとする說。人本說。

【人隸】511 ジンレイ しもべ。〔後漢書、獨行、周嘉傳〕嘉乃擁レ敞、以レ身扞レ之、因呵レ賊曰、卿曹皆人隸也、爲レ賊既逆也、豈有下還害ニ其君一者上邪。

【人靈】512 ジンレイ 人閒。人は萬物の靈長であるからいふ。〔劉峻、廣絕交論〕媲ニ人靈於豺虎一、蒙有レ猜レ焉。〔注〕善曰、尙書曰、惟人萬物之靈。

【人和】513 ジンワ ㊀人が和合する。又、人の和合。〔孟子、公孫丑下〕天時不レ如ニ地利一、地利不レ如ニ人和一。〔荀子、富國〕上失ニ天時一、下失ニ地利一、中失ニ人和一。〔范仲淹、岳陽樓記〕政通人和、百廢俱興。㊁南宋の初、高宗(趙構)の時、雷進の僭年號、人知の一稱。(1129)

【人限】514 ニトクマ 人の居ない所。〔紫式部日記〕ひとぐまをも用意するに隱れてぞ侍る。「人王」。

【人王】515 ニンワウ 人の王。天子。〔法苑珠林〕天王及

【人込】516 ヒトゴミ 人が衆く集まつてこみあふこと。又、其の場所。〔狂言記、太刀奪〕人込ぢやによつて。

【爲レ人】517 ヒトトナリ ㊀うまれつき。人柄。〔論語、學而〕其爲レ人也孝弟、而好レ犯レ上者鮮矣。〔列子、力命〕其爲レ人也、上忘而不レ叛。〔呂覽、權勳〕子反之爲レ人也、嗜レ酒。〔史記、夏紀〕禹爲レ人、敏給克勤。〔魏志、武帝紀〕吾知ニ紹之爲一レ人、志大而智小。㊁ヒトノタメニス ㋑人に見せるためにする。〔論語、憲問〕古之學者爲レ己、今之學者爲レ人。㋺人の爲にする。〔莊子、天下〕其爲レ人太多。

【爲レ人作レ嫁】518 ヒトノタメニカヲナス 貧女が他人の爲に花嫁衣裝の賃仕事をすること。貧女の憐むべきこと。作レ嫁は作ニ嫁衣裳一の略。〔秦韜玉、貧女詩〕苦恨年年壓ニ金線一、爲ニ他人一作ニ嫁衣裳一。

【爲レ人謀而不レ忠乎】519 ヒトノタメニハカリテチユウナラザルカ 人の爲に事を謀つて、誠を盡くさなかつたのではないか。曾子が每日反省した事項の一つ。〔論語、學而〕曾子曰、吾日三省ニ我身一、爲レ人謀而不レ忠乎、與ニ朋友一交而不レ信乎、傳不レ習乎。

【有レ人】520 ヒトアリ 立派な人物がゐる。物の分る人物がある。〔晉書、忠義列傳序〕其餘卽敍ニ其行事一、以爲ニ忠義傳一、用旌ニ晉氏之有一レ人焉。

【可レ人】521 ヒトニカナリ 人を鄭重にあつかふ。〔唐書、溫造傳〕州刺史張建封聞ニ其名一、書幣招禮、造欣然曰、可レ人也、往從レ之。

【急レ人】522 ヒトニキフナリ 力を盡して人の急を助ける。〔漢書、地理志下〕敢ニ於急一レ人。〔注〕如淳曰、赴ニ人之急一、果ニ於赴一レ難也。

【兼レ人】523 ヒトヲカヌ 人を凌ぐこと。又、一人で數人前のことをやる。〔論語、先進〕子曰、求也退、故進レ

之、由也兼レ人、故退レ之。〔集注〕兼レ人、謂レ勝レ人也。〔荀子、議兵〕凡兼レ人者有二三術一、有下以レ德兼レ人者上、有下以レ力兼レ人者上、有下以レ富兼レ人者上。〔漢書、韓信傳〕無二兼レ人之勇一、不レ足レ畏也。

【知レ人】524 ヒトヲシル　人物の賢愚を知りわける。〔書、皐陶謨〕知レ人則哲、能官レ人。

〔知レ人之明〕525 ヒトヲシルノメイ　人の賢愚を知る眼識。人物を見ぬく識量。〔後漢書、吳祐傳〕功曹以二祐倨一請レ黜レ之、太守曰、吳季英有二知レ人之明一、卿且勿レ言。

〔知レ人者智自知者明〕526 ヒトヲシルモノハチ ミズカラシルモノハメイ　人の賢否を見分ける者は智といふべく、己が賢否を辨へ知るものは智以上の明といふべきである。〔老子、三十三〕知レ人者智、自知者明、勝レ人者有レ力、自勝者强。

【適レ人】527 ヒトニユク　嫁ぐ。特に士庶人に嫁入りするにいふ。〔儀禮、喪服、子嫁反在二父之室一、注〕凡女行二大夫以上一曰レ嫁、行二於士庶人一曰レ適レ人。〔大戴禮、本命〕有二三從之道一、在レ家從レ父、適レ人從レ夫、夫死從レ子。

【得レ人】528 ヒトヲウ　適當な人を得る。立派な人材を得る。〔左氏、僖、二十三〕保二君父之命一、而享二其生祿一、於レ是乎得レ人。〔論語、雍也〕子曰、女得レ人焉爾乎。〔孟子、滕文公上〕爲二天下一得レ人者、謂二之仁一。〔漢書、馮奉世傳〕賀三將軍所レ擧得二其人一。

〔得レ人爲レ梟〕529 ヒトヲウルヲケウトナス　人材を得るのを勝ちとする。梟とは樗蒲の采の名で、梟を得たものは勝者となるから、勝ちの義に用ひる。〔後漢書、張衡傳〕咸以レ得レ人爲レ梟、失レ士爲レ尤。〔注〕梟、猶レ勝也、猶下六博得レ梟爲上レ勝。

【人牙子】530 jen² ya² tzŭ　人の買賣を周旋する者。周旋屋。

【人看レ人】531 ヒトヒトヲミル　人が人をみる。雜沓の形容。〔通俗編、交際、人看レ人〕萬姓統譜、載二宋熊知至、觀燈詩一、樓臺上下火照レ火、車馬往來人看レ人、又友溪乙稿、燈夕詩、樓臺拚飲夜不レ夜、羅綺飄香人看レ人。

【人月圓】532 ジンゲツエン　詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では大石調正曲に入り、套曲では大石角に入り、北曲では平調隻曲に入り、又、本調套曲に入る。〔金源樂府〕吳激赴二金人張總家集一、出二侍兒一侑レ觴、故宋宮姬也、時宇文叔通賦二忽奴嬌一將レ成、見三激作二人月圓一、云云、叔通遂閣レ筆、退而語レ人曰、吳郎近以二樂府一高二天下一。

【人虎傳】533 ジンコデン　小說の名。唐、李景亮作。物怪に關する事を載す。〔唐人說薈、第二十冊〕。

【人勾引】534 ヒトカドヒ　人をかどはかすもの。〔東鑑、三十九〕寶治二年六月五日、人勾引事。

【人差指】535 ヒトサシユビ　食指。第二指。

【人鮓甕】536 ジンサヨウ　灘の名。湖北省秭歸縣の西。宋、黃庭堅に人鮓甕の詩がある。〔侯鯖錄〕瞿塘之下地、名二人鮓甕一。〔吳船錄〕未レ到二歸州一數里、曰二吒灘一、又過二東奔灘一、連二接新城下大灘一曰二人鮓甕一。

【人之天】537 ヒトノテン　人の淺はかな智慧。天の深い智慧に對す。〔莊子、達生〕不レ開二人之天一、而開二天之天一。〔注〕不レ慮而知、開レ天也、知而後感、開レ人也、然則開レ天者、性之動也、開レ人者、知之用也。

【人字草】538 ジンジサウ　草の名。やつでゆきのした。きくばだいもんじさう。もみぢばだいもんじさう。山谷の濕地に生ずる宿根草で、ゆきのした科に屬す。人字形の小花をつけ、觀賞に供せられる。

【人獸關】539 ジンジウクワン　傳奇の名。淸、李玉作。一捧雪・永團圓・占花魁等の諸傳奇と倂稱せられる。桂遷といふものが施濟の恩を忘れた罰により、其の妻子が輪廻して施家の犬に生れたことを演べたもの。

【人嗇夫】540 ジンシヨクフ　人民を取りしまる官。〔管子、君臣上〕吏嗇夫任レ事、人嗇夫任レ敎。〔注〕人嗇夫、亦謂下檢二束百姓一之官上。

【人眞似】541 ヒトマネ　他人の眞似をすること。〔源氏物語、帚木〕人まねに心をいるることもあるに。

【人持花】542 ジンヂクワ　那羅陀(**11**－**39305**・・70)の花。誰もが持つ花であるから名づける。〔翻譯名義集〕那羅陀、其花香妙、人皆持レ之、故名二人持花一也。

【人本說】543 ジンポンセツ　人を宇宙の主宰者とする說。人類中心說(510)に同じ。

【人目關】544 ヒトメノセキ　關所が人を容易に通さぬやうに、他人の目が人の祕事を見逃さぬこと。

【人樣子】545 ジンヤウシ　人の標本。人品容貌の優美な者をいふ。樣子は標本の意。〔過庭錄〕宋神宗大長公主、哲宗朝、重レ於求レ配、遍二士族中一求レ之、莫レ中二聖意一、近臣奏曰、不レ知要二如何人物一、哲宗曰、人物要下如二狄詠一者上、天下謂レ詠爲二人樣子一。

【以レ人禱】546 ヒトヲモツテイノル　人を犧牲として供へて祈る。〔帝王世紀〕湯自レ伐レ桀後、大旱七年、殷史卜曰、當二以レ人禱一。

【解二人頤一】547 ヒトノオトガヒヲトク　人をして其の所說に感服し、口を開いて惘然自失せしめることをいふ。又、人を笑はせること。解頤(**10**－**35067**・・8)を見よ。〔漢書、匡衡傳〕衡好レ學、云云、尤精力過二絕人一、諸儒爲レ之語曰、無レ說レ詩、匡鼎來、匡說レ詩、解二人頤一。〔注〕如淳曰、使二人笑不一レ能レ止也。〔蒙求標疏〕衡之詩說、非二可一レ笑者、淳說恐非、蓋笑者固開レ口、惘然自失者亦開レ口、共可レ謂二之解一レ頤、晦庵關睢集傳、引二衡說一、稱二能說一レ詩、其精微實足レ使二人自失一。〔西京雜記、二〕匡衡能說レ詩、時人爲レ之語曰、無レ說レ詩、匡鼎來、匡說レ詩、解二人頤一、鼎、衡小名也。〔近古史談、德篇上、曾呂利某〕談言微中、善解二人頤一。

【驚レ人句】548 ヒトヲオドロカスク　世人を驚かす妙句。詩林廣記では、唐の韓退之の大華峯頭玉井蓮、開花十丈藕如レ船や、韓子蒼衡嶽圖の詩、故人來レ自二天柱峯一、手持二石廩一與二祝融一、兩山坡陁幾千里、安得レ置二之行李中一などを引き、詩轍では、唐の李白の白髮三千丈や、燕山雪花大如レ席、又、宋の陸游の磅礴崑崙三萬里、不レ知何處可レ埋レ愁などを引いて驚レ人句の例としてゐる。〔陳與義、漫郎詩〕星霜屢費二驚レ人句一。

【驚レ人詩】549 ヒトヲオドロカスシ　人を驚かすほどの立派な詩。〔世說新語補、豪爽〕李白登二華山落雁峯一曰、此處呼吸之氣、想通二帝坐一、恨レ不下攜二謝脁驚レ人詩一來、搔レ首問中靑天上爾。

【出二人下一】550 ジンカニイヅ　身を卑しくして人の下手に出る。〔史記、秦始皇紀〕居レ約、易レ出二人下一。

【樂レ殺レ人】551 ヒトヲコロスヲタノシム　他人をころすことをたのしむ。〔老子、三十一〕勝而不レ美、而美レ之者、是樂レ殺レ人也。

【人惟求レ舊】552 ヒトハタダキウヲモトム　人物を求めるには、事務に通達した世臣舊家から求める。〔書、盤庚上〕遲任有レ言、曰、人惟求レ舊、器非レ求レ舊、惟新。〔傳〕言二人貴レ舊、器貴レ新。〔蔡傳〕蘇氏曰、人舊則習、器舊則敝、當下常使二舊人一用中新器上也、今按、盤庚所レ引、其意在二人惟求レ舊一句一、而所謂求レ舊者、非レ謂二老人一、但謂レ求二人於世臣舊家一云爾、云云、若以二舊人一爲二老人一、又何侮二老成人一之有。

【人有二三怨一】553 ヒトニサンエンアリ　人から怨まれる三つのもの。高爵・大官・厚祿。〔列子、說符〕狐丘丈人謂二孫叔敖一曰、人有二三怨一、子知レ之乎、孫叔敖曰、何謂也、對曰、爵高者人妒レ之、官大者主惡レ之、祿厚者怨逮レ之。

【人有二十等一】554 ヒトニジツトウアリ　人間に十の階級がある。王・公・大夫・士・皁・輿・隸・僚・僕・臺。〔左氏、昭、七〕天有二十日一、人有二十等一、下所二以事一レ上、上所二以共一レ神也、故王臣レ公、公臣二大夫一、大夫臣レ士、士臣レ皁、皁臣レ輿、輿臣レ隸、隸臣レ僚、僚臣レ僕、僕臣レ臺。〔魏志、程曉傳〕春秋傳曰、天有二十日一、人有二十等一。

【人一己百】555 ヒトヒトタビスレバオノレハヒヤクタビス　人が一たびやれば、己は人の百倍も勉强すること。人一能レ之己百レ之(664)を見よ。

【人云亦云】556 ヒトイヘバマタイフ　㊀人の說を其のままにまねること。〔蔡松年、槽聲同彥高賦〕他日人云我亦云。㊁自說がなくて人の言に從ふ。

【人焉廋哉】557 ヒトイヅクンゾカクサンヤ　人はどうして心・本性(ホンシヤウ)を隱すことが出來ようや。廋は匿す意。〔論語、爲政〕子曰、視二其所一レ以、觀二其所一レ由、察二其所一レ安、人焉廋哉、人焉廋哉。〔集注〕廋、匿也。〔孟子、離婁上〕胷中不レ正、則眸子眊焉、聽二其言一也、觀二其眸子一、人焉廋哉。

【人各有レ耦】558 ヒトオノオノグウアリ　人には身分相應の配耦がある。〔左氏、桓、六〕人各有レ耦、齊大、非二吾耦一也。

【人棄我取】559 ヒトステテワレトル　人の棄てたものを取り用ひる。見る所が常人と異なることをいふ。〔史記、貨殖傳〕白圭樂レ觀二時變一、故人棄我取、人取我

與。〔評林〕何孟春曰、白圭治レ生、樂レ觀二時變一、人棄我取、人取我與、而卒以致レ富、素襲不レ好學、不レ應二辟命一、棄二衆人之所レ取、取二衆人之所レ棄、而卒以成レ德。

【人急生レ計】560 人はいざとなれば智慧が出る。窮すれば通ず。人急智生。

【人急智生】561 せつぱつまれば何とかよい考へが浮ぶ。人急生レ計。

【人強勝レ天】562 人定勝レ天(377)に同じ。〔亢倉子、政道〕周之秩官云、人強勝レ天。

【人窮志短】563 人は貧困に遇ふと遠大な志がなくなる。貧すれば貪する。人貧志短(586)に同じ。〔通俗編、境遇、人窮令二志短一〕陳師道詩、見二鷄肋編一。

【人窮反レ本】564 人間は困窮すると父母を思ひ出す。人有二疾病一則呼二天地父母一(718)を見よ。〔史記、屈原傳〕人窮則反レ本、疾痛慘怛、未二嘗不レ呼二父母一也。

【人己一視】565 他人も自分も同一に見る。〔鶴林玉露、人、論事任事〕此正無レ意無レ我、人己一視之道。

【人贓併獲】566 犯人と盜品とを一緒に捕へる。

【人山人海】567 jen² shan¹ jen² hai³ 人が多く群集してゐる所。人が雜沓してゐる所。又、其のこと。澤山な人出。〔還魂記、索元〕人山人海、那裏淘氣去。

【人之安宅】568 仁の德をいふ。仁德のある者に對しては危害を加へる者がないから、仁德は人の安んじて居るべき處だといふ。〔孟子、公孫丑上〕夫仁、天之尊爵也、人之安宅也。

【人之準繩】569 人の模範。準は水もり。繩は墨なは。〔子華子、虎會問〕仲尼、人之準繩也。

【人之水鏡】570 人間の中の水鏡。精神の清く明かな人をいふ。〔晉書、樂廣傳〕此人之水鏡、見レ之瑩然、若下披二雲霧一而睹中青天上也。

【人之正數】571 人間の標準的な壽命。百歲をいふ。〔論衡、氣壽〕百歲之壽、蓋人之正數也、猶二物至レ秋而死、物命之正期一也。

【人之大惡】572 人の最もにくむもの。死亡と貧苦とをいふ。〔禮、禮運〕飲食男女、人之大欲存レ焉、死亡貧苦、人之大惡存レ焉。

【人之大欲】573 人の最も欲するもの。男女の色と飲食物とをいふ。〔禮、禮運〕飲食男女、人之大欲存レ焉。

【人之領袖】574 人を率ゐて儀表となるもの。衆人の頭。領袖(**12**－**43423**・57)を見よ。〔晉書、魏舒傳〕文帝深器二重之一、每二朝會座罷一、目二送之一曰、魏舒堂堂、人之領袖也。

【人自爲レ鬭】575 人々は自分から爭ひの種をまく。〔史記、張耳陳餘傳〕家自爲レ怨、人自爲レ鬭、各報二其怨一、而攻二其讎一。

【人取我與】576 見る所が常人と異なることをいふ。人棄我取(559)を見よ。

【人盡夫也】577 女子にとつては、男は皆夫たるべき對象となる。〔左氏、桓、十五〕祭仲專、鄭伯患レ之、使二其壻雍糾殺一レ之、將レ享二諸郊一、雍姬知レ之、謂二其母一曰、父與レ夫孰親、其母曰、人盡夫也、父一而已、胡可レ比也。

【人姓木邊】578 木篇の字を姓とするもの。〔海錄碎事、聖賢人事、族望〕桓伊詣二王遵一、遵謂二左右一曰、門何爲通二桓氏一、我聞二人姓木邊者一、便欲レ殺レ之、況諸桓乎。

【人存政擧】579 上に立派な人を得れば、政治が立派に行はれる。人亡政息(582)の對。〔中庸〕其人存則其政擧、其人亡則其政息。

【人多缺少】580 役人が多いのに、官職の空位が少い。〔通俗編、仕進、人多缺少〕唐趙憬審官六議、有二人少闕多、人多闕少之語一、闕與レ缺同、苕溪漁隱叢話、政和間、先君赴二調京師一、步二月景德寺一、指レ月爲レ對云、員少缺多天上月、同赴調者、應レ聲戲曰、員多缺少部中官、按、論衡累害篇、位少人衆、仕者爭進、當時蓋已患レ之。

【人代名詞】581 文法用語。代名詞の一。人の名を呼ぶ代りに用ひる代名詞。自稱(第一人稱)・對稱(第二人稱)・他稱(第三人稱)の三種がある。

【人亡政息】582 上に立派な人が居なければ、政治はうまく行はれない。人存政擧(579)の對。〔中庸〕其人存則其政擧、其人亡則其政息。

【人亡物在】583 事物は舊のままに存在するが、共に見た其の人は今はない。人生のはかなさを悲しんだ語。〔曾會重、登二蕭相樓一詩〕物在人亡空有レ淚、時殊事變獨傷レ心。

【人莫レ若レ故】584 交はるには古くからの知合ひ程よいものはない。人不レ厭レ故(587)に同じ。〔晏子、雜、上〕晏子稱曰、衣莫レ若レ新、人莫レ若レ故。

【人萬物靈】585 人は萬物の中で最もすぐれたものである。靈はすぐれたものの義。〔書、泰誓上〕惟天地萬物父母、惟人萬物之靈。〔傳〕靈、神也、天地所レ生、惟人爲レ貴。〔蔡傳〕萬物之生、惟人得二其秀一而靈。

【人貧志短】586 人は貧困の境地に立つと遠大の志がなくなる。人窮志短(563)に同じ。〔五燈會元〕演曰、人貧志短、馬瘦毛長。

【人不レ厭レ故】587 交はるには舊い間柄の人ほどよろしい。人莫レ若レ故(584)に同じ。

【人不レ若レ名】588 只何處の國の人と稱するよりは、某と其の名を云つた方がはつきりする。〔公羊、莊、十〕州不レ若レ國、國不レ若レ氏、氏不レ若レ人、人不レ若レ名、名不レ若レ字、字不レ若レ子。〔疏〕解云、言レ荆不レ如レ言レ楚、言レ楚不レ如レ言二潞氏甲氏一、言二潞氏一不レ如レ言二楚人一、言二楚人一不レ如レ言二介葛盧一、言二介葛盧一不レ如レ言二邾婁儀父一。

【人浮二于食一】589 人物が待遇以上に立派なこと。〔禮、坊記〕君子與四其使三食浮二于人一也、寧使三人浮二于食一。〔注〕食、謂レ祿也、在レ上曰浮、祿勝レ己則近レ貪、己勝レ祿則近レ廉。

【人平不レ語】590 人は滿足すれば何もいはない。〔通俗編、言笑、人平不レ語〕五燈會元、守卓云、人平不レ語、水平不レ流、按、即韓公云下不レ得二其平一則鳴上之意。

【人樣猳駒】591 人の形をした兒豚。人を罵る語。〔西廂記、張君瑞慶二團圝一雜劇〕乍嫁二那不レ值レ錢人樣猳駒一。

【人老倒縮】592 人は老境に入ると却つてちぢまる。〔通俗編、境遇、人老倒縮〕釋名、叟、縮也、人及物老、皆縮二小于舊一也。

【愛レ人以レ德】593 人を愛することに依つて己の德を完成する。〔禮、檀弓上〕君子之愛レ人也、以レ德、細人之愛レ人也、以二姑息一。〔注〕成二己之德一。〔疏〕君子之愛レ人也、必以二善事一、成二己之德一云云、細小之人愛レ人也、不レ顧二道理一、且相寧息。

【以レ人爲レ鑑】594 他人の行爲にかんがみて、自己の戒とする。人鑑。鑑は鏡と同義。〔墨子、非攻中〕君子不レ鏡二於水一、而鏡二於人一。〔唐書、魏徵傳〕魏徵薨、帝後臨レ朝歎曰、以レ銅爲レ鑑、可レ正二衣冠一、以レ古爲レ鑑、可レ知二興替一、以レ人爲レ鑑、可レ明二得失一、朕嘗保二此三鑑一、內防二己過一、今魏徵逝、一鑑亡矣。

【以レ人擇レ官】595 人物の如何によつて適當な官職を授ける。〔魏志、杜恕傳〕以レ人擇レ官、不二爲レ官擇レ人也。

【爲二人所レ引】596 他人に誘惑せられる。人に引きづられる。〔通俗編、交際、爲二人所レ引〕晉書劉聰載記、爲二他人所レ引、遂成レ癡也。

【爲二人所レ嗾】597 他人にそそのかされる。〔北史、宋弁傳〕李沖頗抑二宋氏一、弁恨レ沖、而與二李彪一交結、云云、及二彪之抗レ沖、沖謂レ彪曰、爾如レ狗耳、爲二人所レ嗾。

【誘レ人犯レ法】598 人を詐き誘つて法をおかさせる。〔通俗編、政治、誘レ人犯レ法〕刑律、詐僞科目、有三詐教二誘レ人犯レ法。

【因レ人成レ事】599 獨立の氣力に乏しく、人によつて事を成しとげる。〔史記、平原君傳〕毛遂左手持二槃血一、而右手招二十九人一曰、公等錄錄、所謂因レ人成レ事者也。

【加二人一等】600 常人より一段と勝れてゐること。〔禮、檀弓上〕孟獻子禫、縣而不レ樂、比御而不レ入、夫子曰、獻子加二於人一一等矣。〔唐書、陸象先傳〕性恬靜寡欲、議論高簡、爲二時推向一、崔湜嘗曰、陸公加二於人一一等。

【降レ人以レ心】601 心から人にしたがふ。〔三略、下略〕聖人之政、降レ人以レ心。

【降レ人以レ體】602 謙讓な態度で人にしたがふ。心から從つてゐるか否かは別問題で

あるが、態度の上からは人に從つてゐること。降レ人以レ心の對。〔三略、下略〕賢人之政、降レ人以レ體。

【看二人眉睫一】603 他人の眉やまつげの動きに注意して、其の人の機嫌をうかがふこと。〔北史、崔亮傳〕隴西李沖、當レ朝任レ事、崔亮族兄光、往依レ之、謂レ亮曰、安能久事二筆硯一、而不三往託二李氏一也、彼家饒レ書、因可レ得レ學、亮曰、弟妹飢寒、豈容二獨飽一、自可レ觀二書於市一、安能看二人眉睫一乎。

【寄二人籬下一】604 ㊀他人の籬の下に身を寄せる。詩文などで先人の眞似をする喩。捨二人涕唾一(620)に同じ。〔張融、門律自序〕夫文豈有二常體一、但以レ有レ體爲レ常、政當レ使三常有二其體一、丈夫當下刪二詩書一、制中禮樂上、何至三因循寄二人籬下一。〔嚴羽、答二吳景仙一書〕僕之詩話、云云、是自家蔽レ門、鑿二破此片田地一、卽非下傍二人籬壁一、拾二人涕唾一得來者上。㊁人に食を仰ぐこと。食客。居候。〔荆釵記〕依二人籬下一、艱難家境、怕惹二憎嫌一。

【貴レ人賤レ己】605 人をたふとんで、己を卑下する。君子たる者の行ひの一。〔禮、坊記〕君子貴レ人賤レ己、先レ人而後レ己。

【仰二人鼻息一】606 他人の鼻息をうかがふ。其の人にたよる爲、只管其の喜怒を伺つて機嫌を損ぜぬやうにすること。〔後漢書、袁紹傳〕孤客窮軍、仰二我鼻息一、譬如三嬰兒在二股掌之上一、絕二其哺乳一、立可二餓殺一。〔資治通鑑、漢紀、孝獻皇帝、初平二年、仰二我鼻息一、注〕鼻氣噓レ之則温、吸レ之則寒、故云レ然。

【御レ人如レ馬】607 神武といふ者が、暴れ馬を一刀の下に剪り伏せ、惡人を扱ふこと此の馬の如くならんと言つた故事。〔北史、齊高祖神武帝紀〕劉貴事レ榮、盛言二神武美一、至レ是始得レ見、以二憔悴故一、未二之奇一也、貴乃爲二神武一更レ衣復求レ見焉、因隨二榮之廐一、廐有二惡馬一、榮命剪レ之、神武乃不レ加二羈絆一而剪、竟不二蹄齧一、已而起曰、御二惡人一亦如二此馬一矣、榮遂坐二神武於牀下一、屛二左右一而訪二時事一。

【遇二人不淑一】608 連れそふ夫に好遇されないこと。又、災厄饑饉等に遭遇して夫に棄てられること。淑は善。〔詩、王風、中谷有蓷〕有レ女仳離、條其歗矣、條其歗矣、遇二人之不淑一矣。〔箋〕淑、善也、君子於レ己不レ善也。〔集傳〕淑、善也、古者謂二死喪饑饉一皆曰二不淑一、云云、曾氏曰、凶年而遽相棄背、蓋衰薄之甚者、而詩人乃曰、遇二斯人之艱難一、遇二斯人之不淑一。

【過レ人之量】609 人なみ以上の度量。〔晏子、問、下〕君之強、過レ人之量。

【誨レ人不レ倦】610 善く人を教へて倦怠しない。〔論語、述而〕子曰、默而識レ之、學而不レ厭、誨レ人不レ倦、何有二於我一哉。〔孟子、公孫丑上〕昔者、子貢問二於孔子一曰、夫子聖矣乎、孔子曰、聖則吾不レ能、我學不レ厭、而教不レ倦也。

【玩レ人喪レ德】611 人を輕侮して玩べば、遂に我が心の德を失ふに至る。〔書、旅獒〕玩レ人喪レ德、玩レ物喪レ志。〔傳〕以レ人爲二戲弄一、則喪二其德一、以二器物一爲二戲弄一、則喪二其志一。

【刑レ人於レ市】612 罪人に刑罰を加へるには、人々を戒める爲に、衆人の集まる所でする。市は衆人の集まる所。〔孔子家語、刑政〕刑レ人於レ市、與レ衆棄レ之也。

【罪レ人不レ孥】613 罪人を罰する場合に、本人だけを罰して、妻子には罰を及ぼさない。孥は妻子。〔孟子、梁惠王下〕關市譏而不レ征、澤梁無レ禁、罪レ人不レ孥。〔注〕孥、妻子也、云云、罪レ人不レ孥、惡レ惡止二其身一、不レ及二妻子一。〔史記、文帝紀〕罪レ人不レ孥、不レ誅レ無レ罪。

【作二人腳指一】614 人の足の指となる。僅かな役にたつ。〔通俗編、身體、作二人腳指一〕北史李幼廉傳、神武責二諸人一曰、卿等作二得李長史一腳指一不。

【殺レ人自生】615 自分が生きて行く爲に、邪魔になる人間を殺すこと。〔蜀志、秦宓傳〕殺レ人自生、亡レ人自存、經之所レ疾。

【殺レ人如レ藝】616 草を切るやうに人を殺すこと。藝は、草ぎること。〔唐書、黃巢傳〕巢圍二福州一、入レ之、焚二室廬一、殺レ人如レ藝。

【殺レ人不レ忌】617 はばかる所なく人を殺すこと。〔左氏、昭、十四〕殺レ人不レ忌、爲レ賊。

【施レ人勿レ念】618 人に恩を施して其の報いを期待してはならない。恩を賣ること勿れの意。〔崔瑗、座右銘〕施レ人愼勿レ念、受レ施愼勿レ忘。

【視レ人猶レ芥】619 人を芥の如くに見る。驕つて人を輕んずること。〔抱朴子、刺驕〕器滿意得、視レ人猶レ芥。

【拾二人涕唾一】620 詩文などを作る時に先人の眞似をする喩。寄二人籬下一(604)の㊀に同じ。〔滄浪詩話〕僕之詩話、云云、自家鑿二破此片田地一、卽非下傍二人籬壁一、拾二人涕唾一得來者上。

【成二人之美一】621 人の美點・長所を十分に伸ばすやうに助力する。轉じて、人を助けて事を成就せしめるをいふ。〔論語、顏淵〕子曰、君子成二人之美一。〔注〕成者、誘掖獎勸、以成二其事一也。

【析二人之珪一】622 諸侯に任ずること。人は人君。珪は人君から諸侯に封ぜられる時に賜はる玉。〔揚雄、解嘲〕析二人之珪一、儋二人之爵一。〔注〕銑曰、分二人君之珪一、以爲二上列之諸侯一。

【先レ人奪レ人】623 先手を打てば、相手の心を奪ひ取つて、勝を制する。先んずれば人を制す。〔左氏、文、七〕〔趙盾曰〕先レ人有レ奪二人之心一、軍之善謀也。

【損レ人益レ己】624 他人を毀損して己の利益をはかる。〔舊唐書、陸象先傳〕爲レ政者、理則可矣、何必嚴レ刑樹レ威、損レ人益レ己。

【持レ人爲レ質】625 人をとらへて其れを人質にする。〔唐律、賊盜、規避執人〕諸有レ所二規避一、而執二持人一爲レ質者、皆斬。

【聽二人穿一レ鼻】626 人に自分の鼻を穿たせる。俗に、人に鼻毛を數へられるといふに同じ。愚昧の喩。〔南史、張弘策傳〕〔梁武帝曰〕徐孝嗣、才非二柱石一、聽二人穿一レ鼻。〔陔餘叢考、成語、聽二人穿一レ鼻〕梁武論二徐孝嗣一、才非二柱石一、終當レ聽二人穿一レ鼻、又五代史、張彥反、梁末帝諭以二詔書一、彥曰、愚主聽二人穿一レ鼻、難二與共一レ事矣。

【亡レ人自存】627 人を犧牲にして自分が生存する。〔蜀志、秦宓傳〕殺レ人自生、亡レ人自存、經之所レ疾。

【非二人所一レ爲】628 人間のすることではない。人らしい心を持つてゐる者にはやれないことである。〔漢書、外戚、呂皇后傳〕太后遂斷二戚夫人手足一、去レ眼煇レ耳、飮二瘖藥一、使レ居二鞠域中一、名曰二人彘一、居數月、迺召二惠帝一視二人彘一、帝視而問知二其戚夫人一、迺大哭、因病、歲餘不レ能レ起、使三人請二太后一曰、此非二人所一レ爲、臣爲二太后子一、終不レ能三復治二天下一、以レ此日飮爲二淫樂一、不レ聽レ政、七年而崩。

【不レ因二人熱一】629 獨立して人の力を借りないこと。人の熱によつて飯を炊かぬ意。〔東觀漢記〕梁鴻少孤、以二童幼一詣二太學一受レ業、治二禮詩春秋一、常獨止、不二與レ人同食一、比舍先炊已、呼レ鴻及二熱釜一炊、鴻曰、童子不レ因二人熱一者也、滅レ竈更然レ之。〔世說新語補、德行上〕梁伯鸞少孤、嘗獨止、不二與レ人同食一、比舍先炊已、呼二伯鸞一及二熱釜一炊、伯鸞曰、童子鴻、不レ因二人熱一者也、滅レ竈更燃レ之。

【不レ信二人直一】630 他人の正しさを信じない。〔通俗編、交際、不レ信二人直一〕五燈會元、僧再問二向上事一、嗣元曰、好不レ信二人直一。

【辟レ人之士】631 暗君をさけ明君を求めて奔走する人。あそこここと人を避けて東西に奔走し、然るべき人を求めて仕へようとする人。〔論語、微子〕與三其從二辟レ人之士一也、豈若レ從二辟レ世之士一哉。

【令二人深省一】632 人に深く反省させる。〔書言故事、樂器類、令二人深省一〕杜詩、欲レ覺聞二晨鐘一、令三人發二深省一。

【人各有二一癖一】633 人にはそれぞれ何か一つの癖がある。無くて七癖。〔白居易、山中獨吟詩〕人各有二一癖一、我癖在二章句一。

【人苦レ不レ知レ足】634 人は欲望に限りがないので苦しむ。〔後漢書、岑彭傳〕車駕東歸、敕二彭書一曰、兩城若下、便可三將レ兵南擊二蜀虜一、人苦レ不レ知レ足、既平レ隴復望レ蜀、每二一發レ兵、頭鬚爲レ白。

【人難二與レ天鬭一】635 人は天に勝つことは出來ない。〔通俗編、天文、人難二與レ天鬭一〕王符潛夫論、世主欲二無レ功之人、而強富レ之、則是與レ天鬭也、況使下無レ德之人、與二皇天一鬭上、而欲二久立一、自レ古以來、未二之嘗聞一。

【人怕二老來貧一】636　人間は年老いてからの貧をおそれる。人は老後の貧乏が恐しい。〔通俗編、境遇、人怕二老來貧一〕陳後山談叢、引レ諺曰、田怕二秋旱一、人怕二老貧一。

【人不レ天不レ成】637　人事は天の時を得なければ成功しない。〔法言、重黎〕天不レ人不レ因、人不レ天不レ成。

【人模様先生】638　明、賀時泰(**10**－**36725**··132)の尊稱。

【威二逼人一致レ死】639　自己の威權勢力を以て、相手を強迫して自殺するに至らしめること。〔明律、刑律、人名〕凡因レ事威二逼人一致レ死、杖一百。

【引レ人著二勝地一】640　人の心持を浮き浮きさせること。勝地は、氣分の善いこと。〔世說新語、任誕下〕王衞軍云、酒正引レ人箸二勝地一。

【殺レ人不レ眨レ眼】641　人を殺しながら目もまじろがない。豪膽なこと。〔五燈會元〕曹翰渡レ江入二廬山寺一、緣德淡坐如レ常、翰曰、汝不レ聞二殺レ人不レ眨レ眼將軍一乎、德熟視曰、汝安知レ有下不レ懼二生死一和尙上耶。

【射レ人先射レ馬】642　馬上の人を射とめるには、先づ其の馬を射殪せ。轉じて、對手を倒すには、先づ其の據る處を奪へとの喩。欲レ射レ將先射二其馬一。〔杜甫、前出塞詩〕射レ人先射レ馬、擒レ賊先擒レ王。

【責レ人則以レ人】643　他人に對して寬大にすること。人を責めるには、仁恕の心を以てする。人は、仁に通ずる。〔呂覽、擧難〕由レ此觀レ之、物豈可レ全哉、故君子責レ人則以レ人、自責則以レ義。

【任レ人者故逸】644　然る可き人を選んで、其の人に一切をまかせる人は、仕事に骨を折らないですむ。〔呂覽、察賢〕任レ力者故勞、任レ人者故逸。

【不二以レ人廢一レ言】645　其の人が劣つた人でも、其の爲に其の人の言ふ事を棄てることなく、それが立派であれば、採り用ひる。〔論語、衞靈公〕君子不二以レ言擧一レ人、不二以レ人廢一レ言。

【不レ成二人之惡一】646　人の缺點短所を匡正して其れを成就させないやうにする。〔論語、顏淵〕君子成二人之美一、不レ成二人之惡一。

【不レ忍レ人之心】647　人を害したり、人の難儀を見捨てたりするに忍びない心、卽ち、他人に對する同情心をいふ。惻隱の心。〔孟子、公孫丑上〕人皆有二不レ忍レ人之心一。

【逢レ人說二項斯一】648　頻りに人の善行を稱贊する義。唐の國子祭酒楊敬之が項斯といふ者の才を愛して、人に逢ふ每に之をほめた故事。〔唐書、楊敬之傳〕敬之愛二士類一、得二其文章一、孜孜玩諷、人以爲二癖雅一、愛二項斯爲詩一、所レ至稱レ之。〔全唐詩話〕項斯、字子遷、始未レ爲二聞人一、因三以レ卷謁二楊敬之一、楊苦愛レ之、贈レ詩云、幾度見レ詩詩盡好、及レ覽二標格一過二於詩一、平生不三懷二藏人善一、到處逢レ人說二項斯一、未レ幾、詩達二長安一、明年擢二上第一。

【人有臉樹有皮】649　jen^2 yu^2 lien^3 shu^4 yu^3 p'i^2　人には面子あり、樹には皮あり。人の面目は大切なものだといふ諺。

【人棄レ常則妖興】650　人が常道を行はないやうになると、種々の妖禍が其の隙に乘じて起る。〔左氏、莊、十四〕人之所レ忌、其氣炎以取レ之、妖由レ人興也、人無レ釁焉、妖不二自作一、人棄レ常則妖興、故有レ妖。

【人飢不レ食二烏喙一】651　人は饑餓に逼られても、烏喙は食はない。烏喙は毒草。空腹を滿しても其の毒にあたれば、餓死するのと同じ結果になるからである。如何に困つても結局己を害するやうなことはするなといふ喩。〔戰國、燕策〕人之飢、所二以不レ食二烏喙一者、以爲下雖二偸充一レ腹、而與レ死同上患也。

【人之所レ助者信】652　信義を守れば、必らず人に助けられる。〔魏志、何夔傳〕天之所レ助者順、人之所レ助者信。

【人之生氣之聚】653　宇宙の氣が聚まつて人間が生まれる。〔莊子、知北遊〕人之生、氣之聚也、聚則爲レ生、散則爲レ死。

【人至察則無レ徒】654　明察に過ぎると、人が寄りつかない。〔孔子家語、入官〕水至淸、則無レ魚、人至察、則無レ徒。

【人初生日初出】655　人が初めて此の世に現れた時と、日が初めて出た時とは同じである。〔通俗編、天文、人初生日初出〕王建短歌行、云云、今諺云、初出日頭暴二出世一、卽此。

【人冉冉而行暮】656　次第に老人となる。冉冉は、進むさま。〔陸機、歎逝賦〕川閱レ水以成レ川、水滔滔而日度、世閱レ人而爲レ世、人冉冉而行暮。

【人不レ學不レ成レ行】657　學問をしない者には、立派な行は出來ない。〔韓詩外傳、二〕玉不レ琢、不レ成レ器、人不レ學、不レ成レ行。

【人不レ學不レ知レ道】658　學問をしない者には、人の蹈むべき道が分らない。〔禮、學記〕玉不レ琢、不レ成レ器、人不レ學、不レ知レ道。

【人不レ知鬼不レ覺】659　誰も知らぬ間にこつそりと。〔通俗編、神鬼、人不レ知鬼不レ見〕墨子耕柱篇、巫馬子謂、墨子之爲レ義也、人不レ見而貴、鬼不レ見而富、元人爭報恩・冤家債主等曲、俱有二人不レ知鬼不レ覺語一。

【求レ人不レ如レ求レ己】660　人に要求するよりは先づ己に求めよ。自己の力に賴るがよいといふ意。〔貴耳集〕宋孝宗幸二靈隱一、見二觀音像一手持二數珠一、問曰、何用、僧淨輝對曰、念二觀世音菩薩一、問、自念則甚、對曰、求レ人不レ如レ求レ己。〔通俗編、交際、求レ人不レ如レ求レ己〕文子上德篇、怨レ人不レ如二自怨一、求二諸人一、不レ如レ求二之己一。

【後レ人有レ待二其衰一】661　一旦、人におくれを取ると、自ら衰敗を招くより外はない。先んずれば人を制すの反對をいふ。〔左氏、昭、二十一〕先レ人、有レ奪二人之心一、後レ人、有レ待二其衰一。〔會箋〕言、若後二於人一、則自取二其衰敗一而已。

【恃レ人不レ若二自恃一】662　人を恃むより、自分を恃みとするがよい。〔韓非子、外儲說右下〕此明二夫恃レ人不レ如二自恃一也、明二於人之爲レ己者、不レ如二己之自爲一也。

【不二將レ人做レ人看一】663　人を人ともみとめない。人を人と思はない。〔通俗編、交際、不二將レ人做レ人看一〕朱子語錄、柳下惠任四袒二裼裸二裎于我側一、分明是不三將レ人做レ人看了一。

【人一能レ之己百レ之】664　人が一回やつて出來ることは、自分は百回行ふ。人に百倍の努力をする。〔中庸〕人一能レ之、己百レ之、人十能レ之、己千レ之、果能二此道一矣、雖レ愚必明、雖レ柔必強。

【人各有レ能有二不能一】665　人には各々得手不得手がある。〔左氏、定、五〕人各有レ能有二不能一。〔晉書、袁甫傳〕甫曰、人各有レ能有二不能一、譬繪中之好、莫レ過レ錦、錦不レ可二以爲一レ幍。〔韓愈、上二張僕射一書〕人各有レ能有二不能一。

【人所レ歸者天所レ與】666　多くの人が歸服するものは、畢竟、天が味方してゐるものである。民意は卽ち天意の象徵である。〔後漢書、申屠剛傳〕愚聞、人所レ歸者、天所レ與、人所レ畔者、天所レ去也。

【人善人欺天不レ欺】667　善い人は人には欺かれるが、天に欺かれることはないから、結局は幸福を得る。〔通俗編、品目、人善人欺天不レ欺〕元曲選、楊氏勸夫・花間四友二曲、有二此語一。

【人怕出名猪怕壯】668　jen^2 p'a^4 ch'u^1 ming^2 chu^1 p'a^4 chuang^4　人は名が出ることを恐れ、豚は肥えることを恐れる。人は有名になれば嫉まれて禍を受けるし、豚は大きくなると殺される。

【人莫レ知二其子之惡一】669　人は愛情に溺れて、其の子の醜いのに氣がつかない。〔大學〕人莫レ知二其子之惡一、莫レ知二其苗之碩一。

【人不下以二善言一爲上レ賢】670　言ふことが立派でも、それだけでは其の人を賢者だといふことは出來ない。〔莊子、徐無鬼〕狗不下以二善吠一爲上レ良、人不下以二善言一爲上レ賢。

【人不求人一般大】671　jen^2 pu^4 ch'iu^2 jen^2 i^4 pan^1 ta^4　人は他人の援助を得なければ、いづれも一樣の人物で、格段の相違はない。

【人逢二好事一精神爽】672　人はよい事にあふと精神が爽快である。〔通俗編、行事、人逢二好事一精神爽〕見二五燈會元一。

【愛レ人者則人愛レ之】673　人を愛する者は、人から愛される。〔孔子家語、賢君〕

愛レ人者、則人愛レ之、惡レ人者、則人惡レ之。〔孟子、離婁下〕愛レ人者、人恆愛レ之、敬レ人者、人恆敬レ之。

【謂三人莫二己若一者亡】674 ヒトオノレニシクナシトイフモノハホロブ　自慢する者は亡びる。自分に勝る者はないと自惚れる様なものは亡びる。〔書、仲虺之誥〕予聞、曰、能自得レ師者王、謂三人莫二己若一者亡。

【成二人美一不レ成二人惡一】675 ヒトノビヲナシヒトノアクヲナサズ　人の美徳をたすけて成就せしめ、惡事は正し救つて成し遂げさせない。〔論語、顔淵〕君子成二人之美一、不レ成二人之惡一、小人反レ是。

【致レ人而不レ致二於人一】676 ヒトヲイタシテヒトニイタサレズ　人を自分の思ふやうにさせ、自分は人の思ふやうにはさせられない。〔魏志、三少帝、陳留王奐紀〕致レ人而不レ致二於人一、兵家之上略。

【溺二於人一不レ可レ救也】677 ヒトニオボレタルハスクフベカラザルナリ　女等に夢中になつた者は救ひ難い。〔大戴禮、武王踐祚〕溺二於淵一尚可レ游也、溺二於人一不レ可レ救也。

【得レ饒レ人處且饒レ人】678 ヒトニユルシウルノトコロハシバラクヒトニユルス　人に先を讓つて差支ない所は人にゆづる。〔唾玉集〕蔡州褒信縣、有二一道人一、工レ棋、常饒二人先一、自爲レ詩曰、爛柯仙客妙通レ神、一局曾經幾度春、自出レ洞來無二敵手一、得レ饒レ人處且饒レ人。

【不レ患三人之不二己知一】679 ヒトノオノレヲシラザルヲウレヘズ　我が才徳が他人に認められなくとも、其れをうらみに思はない。〔論語、學而〕不レ患三人之不二己知一、患レ不レ知レ人也。〔論語、憲問〕不レ患三人之不二己知一、患二其不一レ能也。

【逢レ人只可二三分話一】680 ヒトニアハバタダサンブハナスベシ　人に對しては、我が心のすべてを明してはならない。〔續傳燈錄、大覺璉語〕逢レ人只可二三分話一、未レ可三全拋二一片心一。

【逢レ人只可二少說話一】681 ヒトニアハバタダスコシクセツワスベシ　人に對しては、我が心のすべてを明してはならない。〔通俗編、言笑、逢レ人只可二少說話一〕劉改之詩、對句云、賣レ術不レ須二多要一レ銀。

【人有レ不レ及可二以レ情恕一】682 ヒトオヨバザルアラバジヤウヲモツテジヨスベシ　他人に足らない所がある時には、思ひやりの心を以てそれを宥すべきである。〔世說新語補、德行〕衞洗馬常以、人有レ不レ及、可二以レ情恕一、非意相干、可二以レ理遣一。

【人之過也各於二其黨一】683 ヒトノアヤマツヤオノオノソノタグヒニオイテス　人は各〻其の性格に應じて、其の人らしい過をするものである。〔論語、里仁〕人之過也、各於二其黨一、觀レ過、斯知レ仁矣。

【人之患在三好爲二人師一】684 ヒトノウレヘハコノミテヒトノシトナルニアリ　人の患ふべき事は、好んで人の師となりたがる事である。知つたかぶりをする事を戒めた語。〔孟子、離婁上〕孟子曰、人之患在三好爲二人師一。

【人之短生猶如二石火一】685 ヒトノタンセイハナホセキクワノゴトシ　人の一生は、恰も石が打ちあつて發する火の一瞬にして消え去るが如く短いものである。〔新論、惜時〕人之短生、猶如二石火一、炯然以過。

【人之將レ死其言也善】686 ヒトノマサニシセントスルソノゲンヤヨシ　人が臨終に當つて言ふ言葉は、何れも本當のことである。人窮すれば本心に立歸る。〔論語、泰伯〕曾子曰、鳥之將レ死、其鳴也哀、人之將レ死、其言也善。

【人之壽久レ之不レ過レ百】687 ヒトノジユハコレヲヒサシウスルモヒヤクニスギズ　人の壽は、長生しても百歳に過ぎない。〔呂覽、安死〕人之壽、久レ之不レ過レ百、中壽不レ過二六十一。

【人之所レ欲莫レ不レ有レ辭】688 ヒトノホツスルトコロジアラザルナシ　人が是非と希望する所には、何とか理窟のつかぬものはない。〔魏志、陳羣傳〕夫人之所レ欲、莫レ不レ有レ辭、況乃天王、莫二之敢違一。

【人之生也與レ憂倶生】689 ヒトノウマルルヤウレヘトトモニウマル　人には生れると同時に憂が附いてまはる。〔莊子、至樂〕人之生也、與レ憂倶生、壽者惛惛、久憂不レ死、何レ之若也、其爲レ形也、亦遠矣。

【人而無レ義唯食而已】690 ヒトニシテギナケレバタダクラフノミ　人間でありながら義の心がなければ、只食ふばかりで禽獸と同じである。〔列子、說符〕人而無レ義、唯食而已、是雞狗也。

【人而無レ禮胡不二遄死一】691 ヒトニシテレイナクンバナンゾスミヤカニシセザル　人でありながら禮に從はぬ者は、早く死んだ方がよい。無禮を惡むことの甚しい語。〔詩、鄘風、相鼠〕人而無レ禮、胡不二遄死一。

【可二以レ人而不レ如レ鳥乎】692 ヒトヲモツテシテトリニシカザルベケンヤ　人でありながら、鳥に及ばないやうなことでよからうか。〔大學〕詩云、緡蠻黃鳥、止二于丘隅一、子曰、於レ止知二其所一レ止、可二以レ人而不レ如レ鳥乎。

【假二人於越一而救二溺子一】693 ヒトヲエツニカリテデキシヲスクフ　越の人は水泳には達者だが、遠地のものであるから、現に此處で溺れかかつてゐる子を救ふ間には合はない。遠く離れてゐる者は事の急に應ずることの出來ない喩。〔韓非子、說林上〕假二人於越一而救二溺子一、越人雖二善游一、子必不レ生矣、失レ火而取二水於海一、海水雖レ多、火必不レ滅矣。〔韓非子、難勢〕待二越人之善海游者一、以救二中國之溺人一、越人善游矣、而溺者不レ濟矣。

【疑レ人勿レ使使レ人勿レ疑】694 ヒトヲウタガヒテハツカフナカレヒトヲツカヒテハウタガフナカレ　自分の疑つてゐる者を用ひてはならぬと同時に、人を用ひた以上は疑つてはならない。〔金史、熙宗紀〕疑レ人勿レ使、使レ人勿レ疑。

【繪レ人者不レ能レ繪二其情一】695 ヒトヲヱガクモノハソノジヤウヲヱガクアタハズ　人の像を畫く者も、其の人の心情を繪にはかきあらはすことは出來ない。〔鶴林玉露、繪事〕繪レ雪者不レ能レ繪二其清一、繪レ月者不レ能レ繪二其明一、繪レ花者不レ能レ繪二其馨一、繪レ泉者不レ能レ繪二其聲一、繪レ人者、不レ能レ繪二其情一、然則言語文字、固不レ足二以盡一レ道也。

【殺レ人一萬自損八百】696 ヒトヲコロスコトイチマンミヅカラソンズルコトハツピヤク　敵を殺すこと一萬人、之に對して自らの損害は八百人。大勝利をいふ。〔通俗編、武功、殺レ人一萬自損八百〕見二元史本紀一、按、今俗述爲二恆語一、小變云二殺レ人三千一。

【殺レ人可レ恕無レ禮難レ容】697 ヒトヲコロスハジヨスベキモレイナキハイレガタシ　殺人犯はまだ許されるが、禮儀のない者はゆるし得ない。〔通俗編、儀節、殺レ人可レ恕無レ禮難レ容〕見二五燈會元一、按、元人氣英布曲、作二情理難一レ容、俚俗循レ之、然語意當二以レ無レ禮爲一レ是。

【殺レ人償レ命欠債還レ錢】698 ヒトヲコロセバメイヲツグナヒケンサイニハゼニヲカヘス　人を殺した者は其の代償として自分の命をさし出さねばならず、債務者は錢を返却せねばならぬ。何事にもそれ相當の制裁があり、代償なしで事はやれないといふ諺。〔陔餘叢考、成語、殺レ人償レ命欠債還レ錢〕方禹爲二楊五所一レ害死、後向レ楊索レ命之詞。

【責レ人則明恕レ己則昏】699 ヒトヲセムルハスナハチアキラカニオノレヲジヨスルハスナハチクラシ　人の過失・缺點はよく見つけて責めるが、自分の過失・缺點に對してはゆるがせになりがちである。人を責めるのに酷で、自ら責めるのに寬大なこと。〔宋名臣言行錄後集、范純仁〕戒二子弟一曰、人雖二至愚一、責レ人則明、雖レ有二聰明一、恕レ己則昏、爾曹、但常以二責レ人之心一責レ己、恕レ己之心恕レ人、不レ患レ不レ到二聖賢地位一也。

【贈レ人以レ言重二于珠玉一】700 ヒトニオクルニゲンヲモツテスルハシユギヨクヨリオモシ　人に忠言するのは、金石珠玉を贈るのよりも貴い。〔荀子、非相〕贈レ人以レ言、重二於金石珠玉一、觀レ人以レ言、美二於黼黻文章一。

【存二乎人一者莫レ良二眸子一】701 ヒトニソンスルモノハボウシヨリヨキハナシ　人の心を察するには、其の瞳の清濁を見るのが一番よい方法である。一說に、存を察の意に解する。〔孟子、離婁上〕存二乎人一者、莫レ良二於眸子一、眸子不レ能レ掩二其惡一。〔注〕存レ人、存二在人之善惡一也。〔集疏〕正義云云、趙氏云云、蓋以レ存爲レ在、卽以レ在爲レ察。

【無レ道二人短一無レ說二己長一】702 ヒトノタンヲイフコトナカレオノレノチヤウヲトクコトナカレ　人の短所をあげつらつてはならない。同時に、己の長所を誇つてはならない。〔崔瑗、座右銘〕無レ道二人之短一、無レ說二己之長一、施レ人愼勿レ念、受レ施愼勿レ忘。

【與二人善言一煖二於布帛一】703 ヒトニゼンゲンヲアタフルハフハクヨリモアタタカナリ　人に善言を與へるのは、暖い布帛を與へるにもました惠みである。〔荀子、榮辱〕與二人善言一、煖二於布帛一、傷レ人之言、深二於矛戟一。

【與レ人不レ睦勸レ人造レ屋】704 ヒトトムツマジカラザレバヒトニススメテヲクヲツクラシム　親しくない人に事をさせようとする時、初めから大きな事を賴んでも承知しないから、相手が受け入れ易いやうな小さい事を賴み、一旦著手してから次第に要求を擴大してゆくがよい。一旦引き受けたら、要求が大きくなつたからとて中途で斷りにくくなり、最後までやつてくれるから。〔陔餘叢考、成語、勸レ人造レ屋〕宋王韶欲レ取二洮河一、言、只用二回易錢一便足、文彥博曰、工師造レ屋、初必小計、冀三人易二於動一、工既興作、知レ不レ可レ已、乃方增多、此諺所レ本也。

【譽レ人而適足二以敗一レ之】705 ヒトヲホメテタマタマモツテコレヲヤブルニタル　人を譽めて、却つて其の人を傷つける結果になる事がある。〔淮南子、人間訓〕或譽レ人、而適足二

以敗レ之、或毀レ人、而乃反成レ之。

【欲レ勝レ人者必先自勝】706 ヒトニカタントホツスルモノハカナラズマヅミヅカラカテ　人に勝たうと思へば、先づ自ら己の情欲に勝たねばならぬ。〔呂覽、先己〕欲レ勝レ人者、必先自勝、欲レ論レ人者、必先自論。

【欲二人勿一レ知莫レ若レ勿レ爲】707 ヒトノシルナキヲホツスルハナスナキニシクハナシ　自分の惡事を他人に知られたくないと思ふならば、惡事をしないがよい。〔說苑、正諫〕欲二人勿一レ聞、莫レ若レ勿レ言、欲二人勿一レ知、莫レ若レ勿レ爲。

【勞二於索一レ人佚二於使一レ人】708 ヒトヲモトムルニラウシテヒトヲツカフニイツス　人君たる者は、先づ人物を求めるのに苦勞するが、一旦求め得たならば、其の人に一任して自らは佚樂する。〔荀子、王霸〕君レ人、勞二於索一レ之而休二於使一レ之。〔韓非子、難二〕桓公曰、吾聞、君レ人者、勞二於索一レ人、佚二於使一レ人。吾得二仲父一已難矣、得二仲父一之後、何爲不レ易乎哉。〔呂覽、士節〕賢主勞二於求一レ人、而佚二於治一レ事。

【人咸蹪二於垤一莫レ蹪二於山一】709 ヒトミナテツニツマヅケドモヤマニツマヅクナシ　山にはつまづかぬが、却つて小さい蟻塚につまづく。人が小事をゆるがせにして失敗することの喩。〔韓非子、六反〕不レ蹪二於山一、而蹪二於垤一、山者大、故人順レ之、垤微小、故人易レ之也。〔揚雄、揚州箴〕人咸蹪二于垤一、莫レ蹪二于山一。

【人方爲二刀俎一我爲二魚肉一】710 ヒトハマサニタウソタリワレハギヨニクタリ　相手は庖丁であり、まないたであり、自分はそれによつて料理せられる魚や肉のやうなものである。生死の權を他人に握られて居る喩。〔史記、項羽紀〕如今、人方爲二刀俎一、我爲二魚肉一、何辭爲。

【人必自侮然後人侮レ之】711 ヒトカナラズミヅカラアナドリテシカルノチヒトコレヲアナドル　人は自ら己を侮るやうなことをするから、他人に侮られるやうになる。〔孟子、離婁上〕夫人必自侮、然後人侮レ之、家必自毀、而後人毀レ之、國必自伐、而後人伐レ之。

【人無二於レ水監一當二於レ民監一】712 ヒトミヅニカンガミルコトナクマサニタミニカンガミルベシ　人君は水に姿を寫して見るやうなことをしないで、民の行事を見て政の得失を反省するがよい。監は鑑。〔書、酒誥〕王曰、封、予不二惟若レ茲多誥一、古人有レ言、曰、人無二於レ水監一、當二於レ民監一。〔傳〕古賢聖有レ言、人無二於レ水監一、當二於レ民監一、視レ水見二己形一、視二民行事一、見二吉凶一。〔蔡傳〕水能見二人之姸醜一而已、當二於レ民監一、則其得失可レ知。

【人無レ蹪二於山一而蹪二於垤一】713 ヒトヤマニツマヅクコトナクシテテツニツマヅク　人は大きい山にはつまづくことがないが、蟻塚のやうな小さい物につまづくものである。大事は愼しむから失敗が少く、小事は輕く見るから却て失敗が多いといふ喩。〔淮南子、人閒訓〕事者、難レ成易レ敗也、名者、難レ立而易レ廢也、千里之隄、以二螻螘之穴一漏、百尋之屋、以二突隙之煙一焚、堯戒曰、戰戰慄慄、日愼二一日一、人無レ蹪二於山一、而蹪二於垤一。

【飮二人狂藥一責二人之正禮一】714 ヒトニキヤウヤクヲノマシメテヒトノセイレイヲセム　人に酒を強ひながら、其の醉狂無禮を責める。無理な要求をいふ。〔晉書、裴楷傳〕長水校尉孫季舒、嘗與二石崇一酣宴、慢傲過レ度、崇表欲レ免レ之、楷聞レ之、謂レ崇曰、足下飮二人狂藥一、責二人正禮一、不二亦乖一乎、崇乃止。

【好三面二譽人一者背而毀レ之】715 ヒトヲメンヨスルコトヲコノムモノハソムキテコレヲソシル　好んで人を其の面前でほめる者は、かげでは人を誹るものである。〔莊子、盜跖〕吾聞レ之、好三面二譽人一者、亦好二背而毀一レ之、今告レ我以二大城衆民一、是欲二規レ我以一レ利、而恆民畜レ我也。

【乘二人之車一者載二人之患一】716 ヒトノクルマニノルモノハヒトノウレヘニノル　他人の車をかりて乘る樣に他人の恩惠を受ければ、亦其の人の憂患を引受けて力を盡さねばならない。〔史記、淮陰侯傳〕乘二人之車一者、載二人之患一、衣二人之衣一者、懷二人之憂一、食二人之食一者、死二人之事一。

【食二人之食一者死二人之事一】717 ヒトノシヨクヲハムモノハヒトノコトニシス　人から祿を受けるものは、其の人の爲に命を差し出さねばならぬ。乘二人之車一者載二人之患一を見よ。

【人有二憂疾一則呼二天地父母一】718 ヒトイウシツアレバスナハチテンチフボヲヨブ　人は常には大恩ある天地父母を忘れがちに暮してゐるが、憂患疾病にかかつた時には我知らず之を呼び、之にすがる。人の至情をいふ。〔史記、屈原傳〕夫天者、人之始也、父母者、人之本也、人窮則反レ本、故勞苦倦極、未三嘗不二呼レ天也、疾痛慘怛、未三嘗不二呼二父母一也。〔顏氏家訓、風操〕人有二憂疾一、則呼二天地父母一、自レ古而然。

【人皆苦二炎熱一我愛二夏日長一】719 ヒトハミナエンネツニクルシムモワレハカジツノナガキヲアイス　世人はみな夏の暑熱を苦しいと思つてゐるが、我は夏の日の長いのが好きである。〔舊唐書、柳公權傳〕文宗、夏日與二學士一聯句、帝曰、人皆苦二炎熱一、我愛二夏日長一、公權續曰、薰風自レ南來、殿閣生二微涼一。

【人作二千年調一鬼見拍レ手笑】720 ヒトセンネンノテウヲナセバキミテテヲウツテワラフ　人の命は短いのに、若し人が千年の計を立てたとしたならば、鬼は手をうつて笑ふであらう。〔通俗編、神鬼、人作二千年調一鬼見拍レ手笑〕雞肋編、載二北宋俚語一云云、又雲溪友議、朗公梵志詩、世無二百年人一、擬レ作二千年調一、打レ鐵作二門限一、鬼見拍レ手笑、陳無己詩、早作二千年調一、一生也作二千年調一、倶用レ之。

【人之有レ學猶三木之有二枝葉一】721 ヒトノガクアルハナホキノシエフアルガゴトシ　人に學問があれば他人を益することは、恰も木が枝葉を以て蔭を與へ、以て人を庇護し益を與へるのと同じであるといふ意。〔國語、晉語九〕范獻子曰、人之有レ學也、猶三木之有二枝葉一也、木有二枝葉一、猶庇二蔭人一、而況君子之學乎。

【人之將レ死惡レ聞二酒肉之味一】722 ヒトノマサニシセントスルヤシユニクノアヂヲキクヲニクム　人が死なうとする時には、命をつなぐべき酒肉の味についての話を聞くことさへも嫌がる。邦の亡びようとする時には、忠臣の氣節についての話を聞くことさへ嫌ふといふ喩。〔越絕書、越絕德序外傳記〕曰、人之將レ死、惡レ聞二酒肉之味一、邦之將レ亡、惡レ聞二忠臣之氣一。

【人而不仁疾レ之已甚亂也】723 ヒトニシテフジンナルモコレヲニクムコトハナハダシキトキハミダル　人が不仁であつても、餘りひどく其の不仁を惡み過ぎると、其の人は身の置き所も無い爲、終に亂を爲すやうになる。〔論語、泰伯〕好レ勇疾レ貧、亂也、人而不仁、疾レ之已甚、亂也。〔劉寶楠正義〕鄭注云、不仁之人、當三以レ風二化之一、若疾レ之甚、是益使レ爲レ亂。

【人而無レ恆不レ可三以作二巫醫一】724 ヒトニシテツネナケレバモツテフイヲナスベカラズ　若し人に恆心がなかつたならば、巫醫の末技すら爲すことは出來ない。恆心の必要を說く。巫醫は、みこと醫者。〔禮、緇衣〕子曰、南人有レ言、人而無レ恆、不レ可三以爲二卜筮一、古之遺言與。〔論語、子路〕子曰、南人有レ言、曰、人而無レ恆、不レ可三以作二巫醫一。

【人不說不知木不鑽不透】725 jen^2 pu^4 shuo^1 pu^4 chih^1 mu^4 pu^4 tsuan^3 pu^2 t'ou^4　人は話をしなければ諒解は出來ず、木も錐で穴をあけなければ通らない。何事も說明しなければ諒解出來ない。

【人不レ通二古今一馬牛而襟裾】726 ヒトココンニツウゼザレバギウバニシテキンキヨスルノミ　古今の道理を解しない人は、馬や牛が衣服を着けた樣なもので、人としての價値がない。襟裾は、えりとすそ。轉じて、衣服をいふ。〔韓愈、符讀二書城南一詩〕人不レ通二古今一、馬牛而襟裾。

【人無二害レ獸之心一獸不レ害レ人】727 ヒトジウヲガイスルノココロナクンバジウモヒトヲガイセズ　人に獸を害する考が無ければ、獸も亦人を傷けはせぬ。人に仁心があれば、獸も感應する。〔晉書、郭文傳〕有二猛獸一、張レ口向レ文、文視三其口中有二橫骨一、乃以レ手探去レ之、溫嶠問曰、猛獸害レ人、人之所レ畏、而先生獨不レ畏耶、文曰、人無二害レ獸之心一、則獸亦不レ害レ人。〔通俗篇、獸畜、人無二害レ虎心一虎無二傷レ人意一〕按、史但云二猛獸一、元人連環計曲乃云、人無二害レ虎心一、虎無二傷レ人意一、蓋獸本虎之避諱字也。

【成レ人不二自在一自在不レ成レ人】728 ヒトトナルハジザイナラズジザイナラバヒトトナラズ　立派な人になるには苦勞せねばならず、苦勞せねば立派な人にはなれない。〔通俗編、品目、成レ人不二自在一自在不レ成レ人〕鶴林玉露引レ諺。

【人有レ不レ爲也而後可二以有一レ爲】729 ヒトナサザルアリシカルノチモツテナスアルベシ　斷じて不義を爲さぬといふ人でこそ、始めて立派な事を爲し得る。〔孟子、離婁下〕孟子曰、人有レ不レ爲也、而後可二以有一レ爲。

【人常咬二得菜根一則百事可レ做】730 ヒトツネニサイコンヲカミエバスナハチヒヤクジナスベシ　人にして常に菜根を食べるやうな質素な生活に甘んじて、外物に心を動かされなければ、何でも成功する。〔呂氏、師友雜誌〕汪信民嘗言、人常咬二得菜根一、則百事可レ做、胡康侯聞レ之、擊レ節歎賞。〔萬姓統譜〕汪革、性孝友、家貧好レ學、生平深厚不レ伐、嘗曰、咬二得菜根一、則百事可レ做。

【人所ㇾ應ㇾ有盡有人所ㇾ應ㇾ無本無】731 人の有してゐる可きものは皆有してゐるが、人の有してゐてはならないものは何もつてゐない。〔陔餘叢考、成語、人所ㇾ應ㇾ有盡有人所ㇾ應ㇾ無本無〕南史沈懷文稱二江智淵一之詞、又庾亮問二桓彝一、以二徐安期一爲ㇾ人、彝曰、人所ㇾ應ㇾ有而不二必有一、人所ㇾ應ㇾ無而不二必無一。

【見二人之急一也若三自在二危厄之中一】732 他人の危急を人に知らせるに、恰も自分が危急に直面してゐるかのやうにありありと話す。言說の巧みなことをいふ語。〔呂覽、報更〕善說者、陳二其勢一言二其方一、見二人之急一也、若三自在二危厄之中一。

【人皆知二以ㇾ食愈ㇾ飢莫ㇾ知二以ㇾ學愈ㇾ愚】733 食物で飢ゑを充すことは知つて居るが、學問で愚を治すことは知らない。人が學を勉めないのを警めた語。〔說苑、建本〕孟子曰、人皆知三以ㇾ食愈ㇾ飢、莫ㇾ知二以ㇾ學愈ㇾ愚。

【譽ㇾ人不ㇾ增二其義一則聞者不ㇾ快二於心一】734 人を譽める時に、事實以上に推稱しないと、聞く者が滿足しない。〔新論、傷讒〕譽ㇾ人不ㇾ增二其義一、則聞者不ㇾ快二於心一、毀ㇾ人不ㇾ益二其惡一、則聽者不ㇾ滿二於耳一。

一畫

【亼】345 シフ ジフ 〔集韻〕籍入切 緝。

小篆 △

あつまる。〔說文〕亼、三合也、从二入一、象二三合之形一、讀若ㇾ集。〔六書正譌〕亼、古集字、凡會合等字、竝从ㇾ此。

解字 象形。三つのものが會合したかたちに象る。又一說に、入と一の合字とし、指事とす。〔說文、亼、段注〕曰ㇾ象二三合之形一、謂下似二會意一、而實象形上也。

【亽】346 クワ 〔同文擧要〕音寡

ひとりぼつち。寡(3－7286)に同じ。〔同文擧要〕亽、从ㇾ一从ㇾ人、不ㇾ曲ㇾ脚、會二孤孑意一、與ㇾ兀別。〔正字通〕亽、同ㇾ寡。

【亇】347 テイ 丁(1－2)の古字。〔集韻〕丁、古作ㇾ亇。

参考 个(1－70)は別字。〔康熙字典、辨似〕二字相似、个、歌、去聲、枚也。亇、古丁字。

二畫

【什】348 シフ ジフ 〔集韻〕寔入切 緝。 ㄕˊ shih² ㄕㄣˊ shen² ㄕㄜˊ shê²

小篆

❶十人。十家。〔管子、立政〕十家爲ㇾ什。〔後漢書、宣秉傳〕帳帷什物。〔注〕軍法、五人爲ㇾ伍、二五爲ㇾ什、則共二其器物一、故通謂二生生之具一爲二什物一。❷くみ。〔說文〕什、相什保也、从二人十一。〔周禮、秋官、士師〕其民人之什伍。〔管子、立政〕什伍皆有ㇾ長焉。❸とを。十。十(2－2695)に通ず。〔說文通訓定聲〕什、叚借爲ㇾ十。〔正字通〕十、通作ㇾ什、公羊傳・孟子・漢志、十、皆作ㇾ什、義同。〔周禮、地官、載師〕園廛二十而一、近郊十一。〔周禮、考工記、匠人〕九夫爲ㇾ井、注〕載師職曰、園廛二十而一、近郊什一。❹十倍。〔孟子、滕文公上〕或相倍蓰、或相什百。❺十等分。〔史記、越世家〕逐二什一之利一。❻詩經の雅・頌各十篇をいふ。後、轉じて詩篇の稱とする。〔五經通義〕國風多寡不ㇾ等、不ㇾ侔ㇾ什、雅頌十篇爲ㇾ聯、惟魚藻・蕩、及閔予小子、雖ㇾ過二乎什一亦侔ㇾ什、擧二成數一耳、若不ㇾ及者、如二駉頌四篇那頌五篇一、皆不ㇾ侔ㇾ什也。〔沈約、宋書謝靈運傳論〕紛披二風什一。〔注〕善曰、詩每二十篇一同ㇾ卷、故曰ㇾ什也。〔任昉、奉ㇾ敕示二七夕詩一啓〕託二情風什一。〔江總、皇太子太學講碑〕高觀華池、遠跨二魏王之什一。❼まじる。あつまる。〔三蒼〕什、聚也、雜也。❽什器・什物は日常使用するもの。道具。〔華嚴經音義、上〕三蒼曰、吳楚之間、謂二資生之具一爲二什物一。〔史記、五帝紀〕舜作二什器於壽丘一。〔注〕索隱曰、什器、什、數也、蓋人家常用之器非ㇾ一、故以ㇾ十爲ㇾ數、猶三今云二什物一也。〔漢書、薛宣傳〕處二置什器一。〔注〕師古曰、什器、爲ㇾ生之具。〔後漢書、宣秉傳〕帳帷什物。〔注〕軍法、五人爲ㇾ伍、二五爲ㇾ什、則共二其器物一、故通謂二生生之具一爲二什物一。❾拾(5－12014)・恁(4－10518)に通ず。什麼(25)を見よ。❿姓。後魏の拓跋氏の什翼犍から出る。或は軍の什伍を掌る者から出る。〔魏書、昭成紀〕昭成皇帝、諱什翼犍立、平文次子也。

解字 會意形聲。人と十との合字。十はまた聲。古、十家を一組とし、又、軍旅に十人を一組として組の內を治めさせたことから、十家又は十人一組をいふ。又、日常使用する雜具は數が多い所から什物といひ、又、食器類は人々が共用する所から什物といふ。假借して十とする。〔說文、什、段注〕五家爲ㇾ比、十家爲ㇾ聯、五人爲ㇾ伍、十人爲ㇾ聯、使二之相保相受一。〔說文通訓定聲〕什、轉注、三蒼、什、聚也、襍也、吳楚之間、謂二資生襍具一爲二什物一、云云、人家常用之器非ㇾ一、故以ㇾ十爲ㇾ數、云云、軍法、五人爲ㇾ伍、二五爲ㇾ什、則共二其器物一、故通謂二生生之具一爲二什物一。

参考 仟(1－380)は別字。

【什一】1 ❶十分の一。一割。〔史記、越世家〕候ㇾ時轉ㇾ物、逐二什一之利一。〔楊惲、報二孫會宗一書〕糴ㇾ賤販ㇾ貴、逐二什一之利一。❷井田の法に於ける十分の一の地租。〔孟子、滕文公上〕夏后氏五十而貢、殷人七十而助、周人百畝而徹、其實皆什一也。〔集注〕其實皆什一者、貢法固以二十分之一一爲二常數一、惟助法乃是九一、而商制不ㇾ可ㇾ考、周制則公田百畝、中以二二十畝一爲二廬舍一、一夫所ㇾ耕公田、實計十畝、通二私田百畝一、爲三十一分而取二其一一、蓋又輕二於什一一矣。〔孟子、滕文公下〕什一、去二關市之征一。〔集注〕什一、井田之法也。〔法言、先知〕什一、天下之正也。

【什一二】2 十中の一か二。僅少なこと。〔史記、大宛傳〕還至二燉煌一、士不ㇾ過二什一二一。

【得二什一於千百一】3 千に十、百に一を殘す。衆多のうちの僅少な部分をとどめ殘す。〔陸機、歎逝賦〕親落落而日稀、友靡靡而愈索、顧二舊要於遺存一、得二什一於千百一。

【什器】4 家財。人家常用の器。什は十で、多數の義。什物。什具。字解の❼を見よ。〔史記、五帝紀〕作二什器於壽丘一。〔注〕索隱曰、什器、什、數也、蓋人家常用之器非ㇾ一、故以ㇾ十爲ㇾ數、猶三今云二什物一也。〔漢書、薛宣傳〕處二置什器一。〔注〕師古曰、什器、爲ㇾ生之具也。

【什具】5 ❶日用道具。什物。〔唐書、崔圓傳〕列二館宇一、儲二什具一。〔事物異名錄、飲食、食器〕古者師行、二伍爲ㇾ什、食器之類、必供ㇾ之、故曰二什物什具一也。❷罪人を吟味する道具。

【什菓】6 shih² kuo³ 雜菓。

【什件】7 shih² chien⁴ 常用の道具。

【什伍】8 ❶十人又は五人の隊伍。〔周禮、天官、宮正〕會二其什伍一、而教二之道藝一。〔注〕五人爲ㇾ伍、二伍爲ㇾ什。〔禮、祭義〕軍旅什伍、同ㇾ爵則尚ㇾ齒。〔疏〕五人爲ㇾ伍、二伍爲ㇾ什。❷五家十家の組合。什は十家、伍は五家。〔管子、立政〕分ㇾ國以爲二五鄉一、鄉爲二之師一、分ㇾ鄉以爲二五州一、州爲二之長一、分ㇾ州以爲二十里一、里爲二之尉一、分ㇾ里以爲二十游一、游爲二之宗一、十家爲ㇾ什、五家爲ㇾ伍、什伍皆有ㇾ長焉、云云、游宗以譙二于什伍一、什伍以

譙二于長家一。〔龜錯、上書言二兵事一書〕游弩往來、什伍俱前。

【什伍之制】9 シブゴノ 什（十家）・伍（五家）をして互に非違を糾發させる制度。商鞅が秦に事へて設けた制。〔史記、商君傳〕令下民爲二什伍一、而相收司連坐上。〔注〕索隱曰、劉氏云、五家爲レ保、十保相連也、收司、謂二相糾發一也、一家有レ罪、而九家連擧發、若不二糾擧一則十家連坐。

【什二】10 ジフノ 十分の三。〔墨子、號令〕某里某子家、食口十人、積粟百石、出二粟米一有二期日一、過二期不一レ出者、王穴有レ之、有二能得一、若告レ之、賞レ之什三、愼無レ令二民知一吾粟米多少一。

【什襲】11 ジフシフ 十重。幾重にも包む。轉じて、大切に祕藏すること。珍藏。愛藏。〔太平御覽、地部、石〕闕子曰、宋之愚人、得二燕石於梧臺之東一、歸而藏之、以爲二大寶一、周客聞而觀焉、主人端冕玄服、以發レ寶、革匱十重、緹巾什襲、客見レ之、盧胡而笑曰、此燕石也、與二瓦甓一不レ異、主人大怒、藏レ之愈固。

【什祖】12 ソ 複姓。〔大戴禮、帝繫〕季連產二什祖氏一、什祖氏產二內熊一。

【什長】13 ヂフチヤウ ❶兵卒十人の長。什吏。〔墨子、迎敵祠〕五步有二五長一、十步有二什長一。〔史記、匈奴傳〕各自置二千長・百長・什長一。〔宋史、兵志〕凡其制、爲二什長之法一。❷十家組合の長。〔管子、立政〕十家爲レ什、五家爲レ伍、什伍皆有レ長焉。

【什一】14 ジフノ 十分の一。轉じて、商賣の利益をいふ。〔史記、蘇秦傳〕周人之俗、治二產業一、力二工商一、逐二什二一以爲レ務。

【什一二三】15 ジフノ 十の中二三。二三割。〔漢書、高惠高后文功臣表〕戶口可レ得而數、裁什一二三。〔注〕師古曰、十分之內、纔有二三一也。

【什倍】16 ジバイ 十倍。〔新書、過秦上〕什倍之地、百萬之衆。

【什邡】17 ジフ 縣名。漢、置く。漢の高祖が雍齒を封じて什邡侯となした。四川省成都縣の北。又、什方・汁方・汁邡に作る。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、漢州〕什邡縣、州西二十里、東南至二新都縣一五十里、漢縣、屬二廣漢郡一、高祖封二雍齒一爲二侯邑一、後漢仍屬二廣漢郡一、晉屬二新都郡一、宋齊仍屬二廣漢郡一、後周改二方亭縣一、尋廢入二雒縣一、唐武德二年一、復置二什邡縣一、屬二益州一、尋屬二漢州一、宋因レ之、今城、周三里有奇、編戶四里。〔清史稿、地理志〕四川、成都府、縣十三、什邡。

【什寶】18 ジフ 家寶として祕藏する什物。たからもの。〔都林泉名勝圖會、二〕其の時什寶多く離散しけるとぞ聞えし。

【什伯】19 ジフ 十人又は百人の兵卒の隊伍。伯は百の意。〔史記、秦始皇紀〕陳涉甕牖繩樞之子、云云、躡足行伍之間、而倔二起什伯之中一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、首出二十長百長之中一、如淳曰、時皆辟屈在二十百之中一。

【什伯之器】20 ジフハクノキ 普通の人に十倍百倍する器量。〔老子、八十〕小國寡民、使下有二什伯人之器一而不レ用。

【什八】21 ジフハチ 十分の八。〔漢書、刑法志〕朝無二威福之臣一、邑無二豪桀之俠一、以口率計二斷獄一、少二於成哀之閒一什八、可レ謂レ清矣。〔注〕師古曰、十少二其八一也。

【什八九】22 ジフハツク 十中の八九。〔漢書、宣帝紀〕畜產大耗、什八九。

【什百】23 ジフヒヤク 十倍、百倍。〔孟子、滕文公上〕或相什百、或相千萬。〔集注〕什百千萬、皆倍數也。

【什物】24 ジフブツ ❶日用の器具。什器。什具。什は十、普通の家で常用する器具は十を以て數へるから、卽ち何十と數へる程多くあるからいふ。〔一切經音義、二〕什物、什者、十也、聚也、亦會數之雜名也、又貧生之物也、今人謂二家產器物一、猶云二什物一。〔史記、五帝紀、作二什器於壽丘一、注二什器、什、數也、蓋人家常用之器非レ一、故レ十爲レ數、猶云二什物一也。〔後漢書、周景傳〕贈二送什物一、無レ不二充備一。〔顏氏家訓、風操〕若尋常墳典、爲レ生二什物一、安可二悉廢之乎一。❷祕藏の寶もの。什寶。〔和漢三才圖會、樂器類、琵琶〕平經盛亦爲二上手一、於二竹生島一彈レ之、時有二感應一、其撥子レ今在二竹生島一、爲二什物一。

【什麼】25 イツマ いかに。なに。疑問の辭。小說に用ひる俗語。恁麼。もと拾沒の通用。〔康熙字典〕拾、不レ知而問、曰二拾沒一、俗譌爲二什麼一。〔摭言〕韓愈問二牛僧孺一曰、且以二拍板一爲二什麼一。〔蘇軾、醉僧圖頌〕有二刼刼地走爲二什麼句一。〔通俗編、語辭、什麼〕按、什麼、當二恁麼之轉一、或又作二甚麼一。〔祖庭事苑、二〕什麼、當レ作二甚麼一、甚麼、問辭也。

【什麼生】26 shih² mê shêng¹ 俚語。いかに、どうした等の意。作麼生（1－518‥205）と同じ。

【什吏】27 ジフリ 十人の長。什長。〔左氏、襄、十三〕使下其什吏率二其卒一乘官屬上、以從中於下軍上、禮也。〔疏〕什吏、謂二十人長一也。

【什料】28 shih² liao⁴ 材料。

【什六】29 ジフロク 十分の六。轉じて、過半數。〔漢書、地理志下〕量、其富、居二什六一。

【什鉢苾】30 ジフハツヒツ 唐、突利可汗（8－25439‥73）の名。

【什不閑】31 shih² pu⁴ hsien² 蓮花落。十數人一組となり、其の中の四五人は、假髮をつけ、白粉を塗つて婦人に扮し、又二三人は丑兒に扮し、竹板を打つて各種の詞曲を歌ふものをいふ。

【什伏代】32 ジフフクダイ 北周、達奚寔（11－39011‥25）の字。

【什門派】33 ジフモンハ 倆日什を祖とする日蓮宗の一派。後、顯本法華宗と改稱す。一名、妙滿寺派。

【什翼犍】34 ジフヨクケン 後魏、昭成帝の名。魏、昭成帝（5－13855‥216）を見よ。

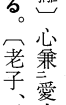
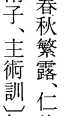
【什錦箋紙】35 shih² chin³ chien¹ chih³ 色模様の用箋數種を、一匣中に取合せて收めたもの。

【什門四聖】36 ジフモンノシセイ 倆鳩摩羅什の四弟子。道生・僧肇・道融・僧叡。什門とは羅什の門下の略。〔佛祖統紀、三十六〕羅什弟子、有二生・肇・融・叡一、時號二關中四聖一。〔釋氏、稽古略、二〕師之弟子、曰二生・肇・融・叡一、謂二之什門四聖一。

【什列斯威好斯敦】37 シユレスヴイヒホルンエスヴイヒ ドイツの一州。ユトランド半島の南部及び沿海の屬島を管轄する。Schleswig-Holstein の音譯。

【仁】349

ジン ニン〔集韻〕而鄰切〔眞〕日ㄣ jen²

小篆  古文 

❶いつくしむ。親しむ。愛する。〔說文〕仁、親也、从二人一二一。〔禮、樂記〕仁以愛レ人。〔禮、經解〕上下相親、謂二之仁一。〔禮、中庸、仁者人也、注、讀如二相人偶之人一、疏〕仁、謂二仁愛相親偶一也。〔論語、顏淵〕樊遲問レ仁、子曰、愛レ人。〔孟子、告子下〕親レ親、仁也。〔韓非子、解老〕仁者、謂二其中心欣然愛レ人一。〔墨子、經說上〕仁、愛也。〔韓愈、原道〕博愛之謂レ仁。❷いつくしみ。したしみ。めぐみ。愛。〔書、仲虺之誥〕克寬克仁。〔詩、鄭風、叔于田〕不レ如レ叔也、洵美且仁。〔國語、周語下〕仁、文之愛也。〔莊子、在宥〕親而不レ可レ不レ廣、仁也。〔莊子、天地〕愛レ人利レ物、謂二之仁一。〔荀子、大略〕仁愛也、故親。〔墨子、經、上〕仁、體レ愛也。〔新書、道術〕心兼二愛人一謂二之仁一。〔春秋繁露、仁義法〕仁者、愛レ人之名。〔淮南子、主術訓〕仁者愛レ類也。〔太玄經、玄攡〕心兼二愛人一謂二之仁一。❸めぐみそだてる。〔老子、五〕天地不レ仁。〔林注〕生レ物仁也。〔太玄經、玄數〕性仁。〔注〕長二養萬物一曰レ仁。❹あはれむ。〔韓愈、上二宰相一書〕將下大二其聲一、疾呼而望中其仁上之也。❺しのぶ。〔釋名、釋言語〕仁、忍也、好二生惡一殺、善含忍也。〔論語、顏淵〕仁者、其言也訒。〔集注〕訒、忍也。〔莊子、繕性〕德無レ不レ容、仁也。❻なさけ。おもひやり。同情。〔論語、顏淵〕仲弓問レ仁、云云、己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。〔孟子、盡心下〕人皆有レ所レ不レ忍、達二之於其所レ忍、仁也。〔大戴禮、衞將軍文子〕恕者、仁也。〔白虎通、情性〕仁者不レ

忍也、施レ生愛レ人也。⑦うるほひ。利潤。〔淮南子、墬形訓〕江水肥仁而宜レ稻。⑧德敎。德化。善い政治。〔論語、子路〕如有二王者一必世而後仁。〔集注〕仁、謂二敎化浹一也。〔孟子、滕文公上〕爲二天下一得レ人者、謂二之仁一。〔國語、周語中〕畜レ義豐レ功、謂二之仁一。〔荀子、非十二子〕貴レ賢、仁也。〔韓非子、詭使〕寬惠行レ德、謂二之仁一。〔新序、雜事四〕受二規諫一仁也。〔白虎通、諫諍〕順レ諫者仁也。⑨**人。又、人の心。**〔中庸〕仁者、人也。〔孟子、告子上〕仁者、人心也。〔孟子、盡心下〕仁也者、人也。〔春秋繁露、仁義法〕仁之爲レ言、人也。⑩**心の本體。性。理。覺。**〔論語、學而〕孝弟也者、其爲レ仁之本與。〔集注〕程子曰、蓋仁是性也。〔上蔡語錄〕仁者、天之理。〔橫浦心得〕仁卽是覺。⑪**愛の理、心の德。**〔論語、學而、集注〕仁者愛之理、心之德。⑫**己を修めること。**〔中庸〕成レ己仁也。〔論語、顏淵〕顏淵問レ仁、子曰、克レ己復レ禮爲レ仁。⑬**諸德の總稱。**〔識仁篇〕渾然與レ物同レ體、義禮智信、皆仁也。⑭**有德の人。**〔論語、學而〕汎愛レ衆而親レ仁。〔集注〕仁、謂二仁者一。〔史記、伯夷傳〕以レ臣殺レ君、可レ謂レ仁乎。⑮**存する。**〔禮、仲尼燕居〕郊社之禮、所三以仁二鬼神一也。〔注〕仁、猶レ存也。⑯**五行で東・春・乾・木に配當する。**㋑東にあてる。〔論衡、驗符〕東方曰レ仁。㋺春にあてる。〔禮、鄕飮酒義〕春爲レ仁。㋩乾にあてる。〔易、繫辭下〕小人不レ恥不レ仁、虞注〕乾爲レ仁。㊁木にあてる。〔大戴禮、盛德、宗伯之官以成レ仁、注〕木爲レ仁也。⑰**果實のさね。**〔說文通訓定聲〕人、果實之人、在二核中一、故曰レ人、俗以レ仁爲レ之。〔顏氏家訓、養生〕服二杏仁一。⑱人（**1**－**344**）に通ず。〔說文通訓定聲〕仁、叚借爲レ人。〔論語、雍也〕雖三告レ之曰二井有一レ仁焉、其從レ之也。〔集注〕劉聘君曰、有レ仁之仁、當レ作レ人。⑲民（**6**－**17028**）に通ず。〔說文通訓定聲〕仁、叚借爲レ民。〔禮、表記〕以レ德報レ怨、則寬身之仁也。〔注〕仁、亦當レ言レ民。聲之誤也。⑳古は忎（**4**－**10314**）・𡰥（**4**－**7636**）に作る。〔說文〕仁、忎、古文仁、从二千心一作、𡰥、古文仁、或从レ尸。㉑**姓。**〔姓氏尋源〕文王之後、有二虔仁氏一、仁姓出二於虔仁一。〔通志、氏族略、平聲〕仁氏、見二姓苑一、出二彭城一。〔舊五代史、回鶻傳〕其本國權知可汗仁美、遣二都督李引釋迦一。

名乘 ヒト。キミ。マサ。サト。サネ。トヨ。ヨシ。

解字 會意形聲。人と二の合字。人はまた聲。二人が彼此相親密する意。又、慈愛の德をいひ、善行の綜稱とする。〔說文、仁、段注〕仁者、人也、讀如二相人偶之人一。〔說文通訓定聲〕仁、親也、从レ人从レ二、會意、按、人亦聲、二者、儀禮鄭注所謂相人偶之意、古語、相人偶者、諧合耦俱、彼此親密之辭也。

【仁愛】1 ジンアイ いつくしみ。いつくしむ。仁親。〔史記、袁盎傳〕調爲二隴西都尉一、仁二愛士卒一。〔漢書、董仲舒傳〕以レ此見二天心之仁愛一。

【仁安】2 ジンアン ①隋、楊倓（**6**－**15112**‥274）の字。②年號。㋑唐代、渤海武王（大武藝）の時。（719－737）㋺ニンアン・ニンナン 第七十九代六條天皇の御代。（1166－1169）〔藤原成光勘文〕毛詩正義曰、行二其寬仁安靜之政一、以定二天下一、得レ至二於太平一。

【仁菴】3 ジンアン 字號。①清、丘士任（**1**－**33**‥141）の號。②清、蔡毓榮（**9**－**31818**‥137）の字。③清、王恩榮（**7**－**20823**‥1224）の字。

【仁威】4 ジンヰ ①陳・隋の頃に置かれた軍團の名。又、其の將軍の號。〔南史、周弘讓傳〕承聖初、爲二國子祭酒一、二年、爲二仁威將軍一、城二句容一以居レ之、命曰二仁威壘一。〔隋書、百官志上〕有司奏置二一百二十五將號軍一、智威・仁威・勇威・信威・嚴威、爲二十六斑一、明威爲二十三斑一、武威爲二十二斑一、電威爲二十一斑一、貞威爲二八斑一。②北齊、高儼（**12**－**45313**‥306）の字。

【仁友】5 ジンイウ 北齊、薛裕（**9**－**32123**‥127）の字。

【仁有】6 ジンイウ 明、成勇（**5**－**11544**‥300）の字。

【仁宥】7 ジンイウ なさけを以てゆるす。〔王起、瞽者告二協風一賦〕以二仁宥一宥二萬國一。

【仁悠】8 ジンイウ 南齊、謝顥（**10**－**35827**‥32）の字。

【仁宇】9 ジンウ ①物をいつくしみ蓋ふこと。宇は蓋。〔沈約、瑞石像銘〕惟聖仁宇、寶化潛融。②立派な家。仁は美稱。〔李直方、白蘋亭記〕道出二公之仁宇一、目覽二亭之崇構一。

【仁烏】10 ジンウ 烏をいふ。烏は仁を辨へてゐるとてかくいふ。慈烏。〔拾遺記、魯僖公〕戒二所レ焚之山數百里居人一、不レ得レ設二網羅一、呼曰二仁烏一、俗亦謂二烏白臆者一、爲二慈烏一、則其類也。

【仁英】11 ジンエイ 北齊、高歸彥（**12**－**45313**‥1088）の字。

【仁瑛】12 ジンエイ 梁、蕭大摯（**9**－**32012**‥453）の字。

【仁叡】13 ジンエイ 梁、蕭大封（**9**－**32012**‥458）の字。

【仁益】14 ジンエキ 宋、童益（**8**－**25775**‥5）の一名。

【仁豔】15 ジンエン 清、章撫功（**8**－**25761**‥230）の字。

【仁遠】16 ジンエン 北周、蕭巋（**9**－**32012**‥68）の字。

【仁翁】17 ジンヲウ 宋、杜汝霖（**6**－**14477**‥343）の字。

【仁恩】18 ジンオン いつくしみ。〔王褒、洞簫賦〕剛毅彊䝁反二仁恩一兮。〔曹植、娛賓賦〕揚二仁恩於白屋一兮。〔徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑文〕仁恩可三以懷二猛獸一。

【仁孝】19 ジンカウ ①あはれみ深くて孝行なこと。〔史記、留侯世家〕太子爲レ人、仁孝恭敬愛レ士。〔漢書、叔孫通傳〕今太子仁孝、天下皆聞レ之。〔晉書、禮志下〕虞舜體二仁孝之性一、盡二事親之禮一。②ニンカウ 人皇第百二十代の帝諡。

『仁孝后』20 ジンカウゴウ 明、成祖の后、徐后（**4**－**10110**‥129）の諡。

【仁綱】21 ジンカウ 北齊、後主（**4**－**10098**‥357）の字。

【仁學】22 ジンガク 書名。二卷。清、譚嗣同撰。仁を以て心の體とし、至善を以て其の本質とし、天理天道に基づいて、萬物は無差別平等なりといふ。基督敎の精神や公羊學の太平大同の思想も加はつてゐる。

【仁洽】23 ジンカフ なさけがあまねく行きわたること。〔張衡、東京賦〕既光二厥武一、仁洽道豐。〔王儉、褚淵碑文〕仁洽兼濟、愛深善誘。

【仁幹】24 ジンカン 北周、侯植（**1**－**633**‥63）の字。

【仁簡】25 ジンカン なさけぶかくておほまかなこと。〔後漢書、吳祐傳〕政唯仁簡、以レ身率レ物。

『仁簡先生』26 ジンカンセイセイ 清、彭瓏（**4**－**10003**‥128）の私諡。

【仁卉】27 ジンキ 王者の仁德の祥瑞として生ずる花卉。嘉禾。瑞草。〔證祥記〕王者盛德、則嘉禾生、嘉禾者、仁卉也、其大盈レ箱、一稃二米。

【仁熙】28 ジンキ 宋、曹仁希（**5**－**14297**‥265）の一名。

【仁器】29 ジンキ 王者の持つべき器物。〔晉中興書〕神鼎見、鼎者仁器也。

【仁義】30 ジンギ ①仁と義。又、道德。仁義は德目中の代表的なものであることから、轉じて、道德の意にも用ひられる。仁誼。〔孟子、梁惠王上〕孟子對曰、王何必曰レ利、亦有二仁義一而已矣。〔集注〕仁者、心之德、愛之理、義者、心之制、事之宜也。〔國語、周語上〕禮所三以觀二忠信仁義一也。〔老子、十八〕大道廢、有二仁義一。〔莊子、大宗師〕堯謂レ我、汝必躬服二仁義一、而明言二是非一。〔列子、天瑞〕有下舞二仁義一者上。〔荀子、勸學〕將下原二先王一本中仁義上。〔管子、中匡〕今言二仁義一、則必以二三王一爲二法度一。〔墨子、天志上〕上說二諸侯一、下說二列士一、其於二仁義一、則大相遠也。〔史記、漢興以來諸侯年表序〕形勢雖レ彊、要レ之以二仁義一爲レ本。〔新書、大政上〕仁義者、明君之性也。〔淮南子、說山訓〕仁義之不レ能レ大二於道德一也。②鎭の名。山西省靈石縣の南。砦がある。〔宋史、楊廷璋傳〕世宗、率レ兵入二太原境一、拔二仁義高壁等砦一。〔靈石縣志〕相傳、堡係二劉武周所レ築、山厓壁立、四面塹削、若二天成一者。

『履二仁義一』31 ジンギヲフム 仁義の道をふみ行ふ。〔顏氏家訓、養生〕行二誠孝一而見レ賊、履二仁義一而得レ罪、喪レ身以全レ家、泯レ軀而濟レ國、君子不レ咎也。

【仁義之情】32 ジンギノジヤウ 仁義の本質。〔莊子、天道〕

孔子曰、中心物愷、兼愛無レ私、此仁義之情也。

【仁義之道】33 ジンギノミチ 仁と義との道。道德。仁義の㊀を見よ。〔呂覽、愼人〕今丘也、拘二仁義之道一、以遭二亂世之患一。

【仁義之端】34 ジンギノタン 仁義のいとぐち。〔莊子、齊物論〕仁義之端、是非之塗、樊然殽亂、吾惡能知二其辯一。

【仁義之風】35 ジンギノフウ 仁義の教化。〔孔叢子、記問〕堯舜之化、百世不レ輟、仁義之風遠也。

【仁義之兵】36 ジンギノヘイ 仁義を行ふ爲に用ひる軍隊。〔荀子、議兵〕此四帝兩王、皆以二仁義之兵一、行二於天下一也。

【仁義多レ責】37 ジンギハセメオホシ 仁義を行ふ者は、天下の人々から其の愛せられんことを求められるから、人に責められることが多くなる。儒教に反對した莊子の語。〔莊子、列禦寇〕勇動多レ怨、仁義多レ責。

【仁義道德】38 ジンギダウトク 仁義と道德。單に道德の意。仁義の㊀を見よ。〔韓愈、原道〕噫後之人、其欲レ聞二仁義道德之說一、孰從而聽レ之。

【仁義忠孝】39 ジンギチュウカウ 仁と義と忠と孝との四德。又、此の四者は德目中の代表的なものであるから、此の四者を以て道德の意に用ひる。〔元田永孚、幼學綱要序〕遂將レ至レ不レ知二仁義忠孝之爲二何物一。

【仁義禮智】40 ジンギレイチ 仁・義(**9**－**28504**)・禮(**8**－**24844**)・智(**5**－**14010**)の四德。各條を見よ。〔孟子、公孫丑上〕惻隱之心、仁之端也、羞惡之心、義之端也、辭讓之心、禮之端也、是非之心、智之端也。〔孟子、告子上〕仁義禮智、非二由レ外鑠一レ我也、我固有レ之也、弗レ思耳矣。

【仁義人之性】41 ジンギハヒトノセイ 仁義を行はうとするのは人の本性である。〔莊子、天道〕老聃曰、請問、仁義人之性邪、云云、孔子曰、中心物愷、兼愛無レ私、此仁義之情也。

【仁義禮智信】42 ジンギレイチシン 仁・義・禮・智・信の五德。五常(**1**－**257**‥550)に同じ。〔漢書、董仲舒傳〕夫仁・誼・禮・智・信、五常之道、王者所レ當二脩飭一也、五者脩飭、故受二天之祐一、而享二鬼神之靈一、德施二於方外一、延及二羣生一也。〔白虎通、情性〕五常者何、謂二仁・義・禮・智・信一也。

【仁義之士貴レ際】43 ジンギノシハサイヲタフトブ 仁義の士は、會盟の事、又は人との交際を貴ぶ。仁義を行はんが爲である。〔莊子、徐無鬼〕禮樂之士敬レ容、仁義之士貴レ際。〔釋文〕貴レ際、謂二盟會事一。〔疏〕世有二沌邅一、時逢二際會一、則施二行仁義一、以著二名勳際會一也。〔集釋〕家世父曰、貴レ際、謂下相與交際、仁義之用、行二乎交際之閒一者上也、鄭康成禮記中庸注、云云、以二人意一相存問之言、故人與レ人比、而仁見焉、仁義之士、所二以貴レ際也、釋文、貴レ際、謂二盟會事一、誤。

【仁義繩墨之言】44 ジンギジョウボクノゲン 仁義五德聖智の言。轉じて、紋切形の道德論。〔莊子、人閒世〕未レ達二人心一、而彊以二仁義繩墨之言一、術二暴人之前一者、是以レ人惡レ有二其美一也。〔疏〕繩墨之言、卽五德聖智也。

【仁義先王之蘧廬】45 ジンギハセンワウノキョロ 仁義は先王の作つた宿屋のやうなもので、長く留まつてゐるべき處ではない。長く居れば、やがて禍を招く。蘧廬は、旅館。〔莊子、天運〕仁義、先王之蘧廬也、止可二以一宿一、而不レ可二以久處一、覯而多レ責。〔疏〕蘧廬、逆旅傳舍也、覯、見也、亦久也、夫蘧廬客舍、不レ可二久停一、仁義禮智、用訖宜レ廢、客停久、疵釁生。

【仁義陶鈞道德橐籥】46 ジンギノタウキンダウトクノタクヤク 經書を喩へて言つた語。經書は仁義道德の源泉であるといふ意。陶鈞は、陶工が陶器を製する時に模型の下に備へて圓轉するもの。橐籥は鍛工の用ひる鞴。〔隋書、經籍志一〕夫經籍也者、云云、實仁義之陶鈞、誠道德之橐籥也。

【仁義之事君子不レ厭二忠信一】47 ジンギノコトニハクンシチュウシンヲイトハズ 仁義の事に對しては、君子は如何なるまことをも盡す。〔淮南子、人閒訓〕仁義之事、君子不レ厭二忠信一、戰陳之事、不レ厭二詐僞一。

【仁誼】48 ジンギ 仁義(30)の㊀に同じ。〔漢書、刑法志〕言以二仁誼一綏レ民者、無レ敵二於天下一也。〔漢書、食貨志〕貴二詐力一、而賤二仁誼一。〔漢書、文三王傳〕往者、傳相亦不下純以二仁誼一輔中翌上立。

【仁杏】49 jen² hsing⁴ 銀杏。いてふの異名。

【仁彊】50 ジンキャウ 仁にして強い。〔史記、淮陰侯傳〕大王自料、勇悍仁彊、孰二與項王一。

【仁擧】51 ジンキョ 明、沈嗣選(**6**－**17189**‥520)の字。

【仁矜】52 ジンキョウ あはれみ深い。〔後漢書、陳寵傳〕永元六年、寵代二郭躬一爲二廷尉一、性仁矜、及レ爲二理官一、數議二疑獄一、常親自爲レ奏、每附二經典一、務從二寬恕一。

【仁玉】53 ジンギョク 梁、蕭大球(**9**－**32012**‥447)の字。

【仁近】54 ジンキン 元、仇遠(**1**－**355**‥8)の字。

【仁禽】55 ジンキン 仁智の鳥。鳳凰をいふ。〔晉中興書〕仁智之禽、鵠頸而龜腹。

【仁謹】56 ジンキン ㊀いつくしみつつしむ。〔吳志、薛綜傳〕先輩仁謹、不レ曉二時事一。〔吳偉業、虞兮詩〕千夫辟易楚重瞳、仁謹居然百戰中。㊁隋、恭帝(**4**－**10596**‥94)の字。

【仁寓】57 ジングウ 淸、馮培(**12**－**44579**‥130)の字。

【仁化】58 ジンクワ ㊀めぐみによる敎化。仁政。〔後漢書、爰延傳〕後令史昭、以爲二鄉嗇夫一、仁化大行。〔吳志、陸凱傳〕務修二仁化一。㊁縣名。唐、置く。廣東省樂昌縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府〕仁化縣、本曲江縣地、唐垂拱四年、析置二仁化縣一、屬二廣州一、天寶中、改屬二始興郡一、南漢仍屬二韶州一、宋開寶五年、省入二樂昌縣一、咸平三年復置。〔淸史稿、地理志〕廣東、韶州府、縣六、仁化。

【仁科】59 シナ 姓氏。

【仁誨】60 ジンクワイ 情深いよい訓。〔陸雲、與二戴季甫一書〕加承二仁誨一、益以二惻愴一。

【仁懷】61 ジンクワイ ㊀縣名。明、置く。今、貴州省遵義縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、遵義府、眞安州〕仁懷縣、唐芙蓉縣地、屬二播州一、宋大觀中、爲二琅川縣地一、尋廢爲二琅川城一、屬二南平郡一、端平中、復屬二播州一、元廢、明萬曆二十七年、改置二今縣一。〔淸史稿、地理志〕貴州、遵義府、縣四、仁懷。㊁直隸廳の名。淸、置く。貴州に屬す。後改めて赤水廳とし、今、赤水縣とす。〔淸史稿、地理志〕貴州、遵義府、赤水廳。〔注〕要府西北二百四十里、雍正八年、以二通判一分二駐之一、留二元壩一、改置二仁懷廳一、乾隆四十一年、升二直隸廳一。

【仁懷皇后】62 ジンクワイクワウゴウ 宋、朱后(**6**－**14424**‥288)の諡。

【仁宏】63 ジンクワウ 明、郭詡(**11**－**39474**‥60)の字。

【仁君】64 ジンクン ㊀なさけ深い君。〔易林〕開二惠觀一見二仁君一。㊁人を尊んで呼ぶ語。〔後漢書、趙壹傳〕今壹自譴而已、豈敢有レ猜二仁君一、忽二一匹夫一、於レ德何損、而遠辱二手筆一、追レ路相尋、誠足レ愧也。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一書〕仁君年壯氣盛、緖信二所嬖一。〔注〕銑曰、仁君、權也、相敬之辭。

【仁兄】65 ジンケイ 友人に對する敬稱。貴兄。大兄。〔後漢書、趙壹傳〕守レ門實望二仁兄一、昭二其懸遲一。

【仁形】66 ジンケイ 至仁の德の象徵。〔何晏、景福殿賦〕騶虞承レ獻、素質仁形。〔注〕良曰、天子有二至仁之德一、則遠方承レ命而獻レ之、故云、有二仁形一也、魏有二此瑞一、今作二其形於殿一、以彰二天瑞之休明、遠方來二王庭一也。

【仁卿】67 ジンケイ 字號。㊀金、蒲察琦(**9**－**31611**‥47)の字。㊁元、齊榮顯(**12**－**48560**‥274)の字。㊂元、趙弘毅(**10**－**37171**‥551)の字。㊃元、吳宏道(**2**－**3365**‥512)の字。㊄元、李治(**6**－**14459**‥580)の字。㊅元、王壽(**7**－**20823**‥553)の字。㊆明、應廷育(**4**－**11330**‥274)の字。㊇明、華愛(**9**－**31214**‥1)の字。㊈明、唐伯元(**2**－**3709**‥502)の字。

【仁惠】68 ジンケイ 慈しみ惠む。あはれみ。仁慈。〔史記、律書〕今陛下仁惠、撫二百姓一。〔後漢書、王暢傳〕敷二仁惠之政一。〔論衡、幸偶〕仁惠之情、俱發二於心一。〔忠經、盡忠章〕賢臣盡レ忠、則君德廣矣、云云、仁惠以レ之而布。

【仁惠皇帝】69 ジンケイクワウテイ 安南、李朝の儂智高の僭稱。儂智高は、宋の太宗の時謀叛し、國を大南國と稱し、自ら仁惠皇帝と僭稱した。〔欽定越史通鑑綱目、三〕

【仁敬】70 ジンケイ 宋、廖復之(**4**－**9464**‥66)の字。

【仁慧】71 ジンケイ 慈愛深く、聰明なこと。〔國史略、允恭天皇〕帝自レ幼岐嶷、仁慧謙遜。

【仁慶】72 ジンケイ 字號。北周、閻慶(**11**－**41379**‥8)の字。

【仁經】72′ ジンケイ 梁、蕭大春(**9**－**32012**‥454)の字。

【仁羿】73 ジンケイ 仁德あつて才藝あるもの。羿は古の才藝のあつた人。〔山海經、海內西經〕非二仁羿一、莫三能上二岡之巖一。〔注〕言、非下仁人及有二才藝一如レ羿者上、不レ能レ得レ登二此山之岡嶺巉岩一。

【仁傑】74 ㊀宋、徐人傑（4－10110・・505）の一名。㊁元、張英（4－9812・・48）の字。
【仁堅】75 北齊、高貞（12－45313・・685）の字。
【仁儉】76 唐、皇甫無逸（8－22701・・255）の字。
【仁賢】77 ㊀仁と賢。又、仁にして賢い。〔逸周書、官人解〕有下隱二于仁賢一者上。〔韓非子、難言〕此十數人者、皆世之仁賢忠良、有二道術一之士也。〔史記、宋微子世家〕（周）公既承二成王命一、誅二武庚一、殺二管叔一、放二蔡叔一、乃命二微子開一、代二殷後一、奉二其先祀一、作二微子之命一以申レ之、國二于宋一。微子故能仁賢、乃代二武庚一、故殷之餘民、甚戴二愛之一。〔晉書、向雄傳〕雖二枯骨一、而捐二之中野一、爲二將來仁賢之資一、不二亦惜一乎。㊁仁人と賢人。〔孟子、盡心下〕孟子曰、不レ信二仁賢一、則國空虛、無二禮義一、則上下亂、無二政事一、則財用不レ足。〔三略、上略〕抑二挫仁賢一。〔漢書、孔光傳〕毀二譖仁賢一、誣二愬大臣一。〔後漢書、魯丕傳〕丕因上疏曰、陛下既廣納二謇謇一以開二四聰一、無レ令二芻蕘以レ言得レ罪、既顯二巖穴一以求二仁賢一、無レ使三幽遠獨有二遺失一。㊂ニンケン 人皇第二十四代の帝諡。
【仁顯】78 梁、蕭大圜（9－32012・・443）の字。
【仁言】79 情深い言葉。〔孟子、盡心上〕仁言不レ如二仁聲之入レ人深一也。
【仁言利博】80 仁者の言は其の利益するところが廣博なのをいふ。〔左氏、昭、三〕君子曰、仁人之言、其利博哉、晏子一言、而齊侯省レ刑。
【仁姑】81 情深いをば。又、父の姉妹に對する敬稱。〔潘岳、南陽長公主誄〕國之仁姑、家之慈母。
【仁公】82 他人に對する敬稱。明公。〔王儉、褚淵碑文〕誠由二太祖之威風一、抑亦仁公之翼佐。
【仁侯】83 仁德ある君主。〔福惠全書、敎養部、勸農功〕百姓戴二父母之德一、樂二仁侯之利一。
【仁厚】84 なさけ深くて手あつい。〔荀子、富國〕仁厚足二以安一レ之。〔韓非子、外儲說右下〕田成恆以二仁厚一爲二圃池一也。
【仁厚義勇】85 なさけぶかく手厚く、義に勇むこと。〔弘道館記述義、上〕天地之氣、不レ得二獨正大一、亦必有レ參二於仁厚義勇之風一。

【仁坤】86 清、洪秀全（6－17402・・241）の字。
【仁妻】87 よい妻。良妻。〔陶潛、詠二貧士一詩〕年飢感二仁妻一、泣涕向レ我流。
【仁宰】88 仁政を施す爲政者。〔福惠全書、錢穀部、解給〕賙レ急憫レ貧、仁宰之事。
【仁濟】89 明、鮑原弘（12－46074・・91）の名。
【仁齋】90 字號。㊀宋、陳駿（11－41698・・347）の號。㊁宋、楊士瀛（6－15112・・551）の號。㊂伊藤維楨の號。伊藤仁齋（1－432・・215）を見よ。
【仁齋學派】91 伊藤仁齋の古學を奉ずる學派。其の主張に依つて古義學派といひ、また其の居宅に因んで堀川學派ともいふ。其の門下には伊藤東涯・伊藤梅宇・伊藤介亭・伊藤竹里・伊藤蘭嵎の五男を初め、並河天民・中江岷山・北村篤所・荒川蘭室等があり、東涯門下からは伊藤東所・奧田三角・青木昆陽等が輩出し、東所門下からは伊藤東里・川田東岡・倉成龍渚などがでた。かくてこの學派は德川時代の一大潮流をなしたのである。
【仁齋直指】92 書名。二十六卷、附、傷寒類書活人總括七卷。宋、楊士瀛撰。七十九篇。〔四庫提要、子、醫家類〕。
【仁草】93 ㊀瑞草。〔鮑照、河淸頌〕仁草晨茡、德宿宵映。㊁たばこ。煙草。〔南越筆記〕煙草今在處有レ之、按、熊人林地緯云、粵中有二仁草一、名二金絲醺一、可レ辟二瘴氣一、多吸レ之、能令二人醉一、亦曰二酒煙一。
【仁棗】94 樹木の名。川揀子。〔淸異錄、藥、藥譜〕仁棗、川揀子。
【仁策】95 いつくしみあるはかりごと。〔漢書、王褒傳〕竭レ智附レ賢者、必建二仁策一。
【仁杉】96 姓氏。〔日用重寶記、二〕。
【仁贊】97 後蜀、孟昶（3－6960・・198）の初名。
【仁山】98 ㊀山名。浙江省蘭谿縣の西。道峯山と相對す。元の金履祥の家は此の山の下に在つたので、金履祥を仁山先生と稱した。㊁字號。㋑明、程彌壽（8－25081・・278）の號。㋺淸、余文本（1－515・・120）の字。
【仁山集】99 書名。六卷。宋、金履祥撰。著者は宋末經史の研究家。文は持論に根柢がある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【仁山先生】100 元、金履祥（11－40152・・1405）の尊稱。仁山の㊀を見よ。
【仁山智水】101 仁者は山を樂しみ、智者は水を樂しむ。仁者樂レ山（118）を見よ。
【仁士】102 仁德の有る士。〔墨子、耕柱〕天下無レ道、仁士不レ處レ厚焉。
【仁子】103 明、王寰洽（7－20823・・1359）の字。
【仁施】104 なさけをほどこす。〔魏志、張邈傳〕太祖之禽レ宮也、問レ宮、欲レ活二老母及女一不、宮對曰、宮聞、孝治二天下一者、不レ絕二人之親一、仁施二四海一者、不レ乏二人之祀一、老母在レ公、不レ在レ宮也。
【仁師】105 梁、蕭大款（9－32012・・450）の字。
【仁祠】106 寺の別名。〔後漢書、楚王英傳〕誦二黃老之微言一、尙二浮屠之仁祠一。〔釋門正統、三〕精舍所レ踞、號曰二仁祠一。
【仁兒】107 jen² êrh 果實の核。〔還魂記、尋夢〕偏迸着苦、仁兒裏撒圓。
【仁慈】108 いつくしみめぐむ。又、いつくしみ。仁惠。〔漢書、楚孝王囂傳〕素行孝順仁慈。〔曹植、聖皇篇〕侍臣省二文奏一、陛下體二仁慈一。
【仁柔】109 情深くやさしい。〔宋史、高麗傳〕性仁柔、惡レ殺不レ屠レ宰。
【仁獸】110 いつくしみの心のある獸。麒麟をいふ。口に生物を食はず、足に生草を踐まず、聖代にあらはれる獸と稱せられる。〔公羊、哀、十四〕麟者、仁獸也、有二王者一則至。〔劉楨、公讌詩〕靈鳥宿二水裔一、仁獸游二飛梁一。〔注〕良曰、仁獸、麟也。
【仁者】111 ㊀なさけある人。德の完成した人。仁人。人者。〔論語、憲問〕仁者必有レ勇。〔論語、子罕〕仁者不レ憂。〔墨子、節葬下〕雖下仁者之爲二天下一度上、亦猶レ此也。㊁乳母をいふ。〔大戴禮、保傳〕成王生、仁者養レ之。〔注〕仁者、謂二乳母一也。㊂佛 ニンシャ きみ。なんぢ。人を呼ぶ稱。〔大日經疏、四〕梵音爾儞（jina）、名爲二仁者一。
【仁者守】112 仁者には衆人が歸服するから、守りが必ず堅固である。〔穀梁、隱、二〕知者慮、義者行、仁者守。〔注〕衆之所レ歸、守必堅固。
【仁者安レ仁】113 仁者はよく天命を知り仁に安んじて心を動かさぬ。〔論語、里仁〕仁者安レ仁、知者利レ仁。

【仁者好レ生】114 仁者は萬物の生々を好む。〔白虎通、情性〕肝所二以仁一者何、肝木之精也、仁者好レ生、東方者陽也、萬物始生、故肝象三木色靑而有二枝葉一。
【仁者不レ憂】115 仁者は道理に從つて疚しいことがないから憂へない。〔論語、子罕〕仁者不レ憂、知者不レ惑、勇者不レ懼。〔集注〕理足二以勝一レ私、故不レ憂。
【仁者不レ殺】116 仁者は生物を殺さない。仁者好レ生を見よ。〔說苑、至公〕君子以二其不殺一爲レ仁。〔顏氏家訓、歸心〕仁者不殺之禁也。
【仁者無レ敵】117 仁者はあまねく人を愛するから、天下に敵對する者が無い。〔孟子、梁惠王上〕王往而征レ之、夫誰與レ王敵、故曰、仁者無レ敵、王請勿レ疑。
【仁者樂レ山】118 仁者は義理に安んじ重厚で、其の心境が山に似てゐるから自然山を樂しむ。〔論語、雍也〕知者樂レ水、仁者樂レ山、知者動、仁者靜、知者樂、仁者壽。〔集注〕仁者安二於義理一、而厚重不レ遷、有レ似二於山一、故樂レ山。
【仁者食二饑餓一】119 仁者は饑餓の者に食を與へて養ふ。〔呂覽、長攻〕義兵不レ攻レ服、仁者食二饑餓一。
【仁者德之光】120 仁は德の立派なものである。〔韓非子、解老〕功有レ實、而實有レ光、仁者德之光。
【仁者不二窮約一】121 仁者は行きつまり苦しむことがない。〔孔子家語、屈節解〕仁者不二窮約一、智者不レ失レ時。
【仁者義之本也】122 仁は義を行ふ根本である。〔禮、禮運〕仁者義之本也、順之體也。
【仁常】124 字號。㊀明、胡士容（9－29400・・476）の字。㊁明、董孝初（9－31433・・181）の字。
【仁讓】125 情深くてへりくだること。〔後漢書、儒林上、孫期傳〕遠人從二其學一者、皆執二經壟畔一以追レ之、里落化二其仁讓一。
【仁弱】126 情深くてよわよわしい。〔史記、呂后紀〕孝惠爲レ人仁弱。〔漢書、外戚上、高祖呂皇后

傳〕太子爲ㇾ人仁弱。

【仁壽】127 ジンジュ ❶仁德があり命が長い。〔論語、雍也〕知者動、仁者靜、知者樂、仁者壽。〔漢書、禮樂志〕驅二一世之民一、濟二之仁壽之域一。〔漢書、董仲舒傳〕堯舜行ㇾ德、則民仁壽。〔王融、永明十一年策二秀才一文〕躋二俗於仁壽之地一。❷縣名。隋、置く。漢の武陽縣の東境。今、四川省成都縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕仁壽縣、漢犍爲郡武陽縣之東境、云云、隋開皇初、郡廢、十八年、改ㇾ縣曰二仁壽一、仍爲二陵州治一、大業初、改ㇾ州爲二隆山郡一、唐初復曰二陵州一、天寶初、曰二仁壽縣一、乾元初、復曰二陵州一、俱治ㇾ此、宋初因ㇾ之、熙寧五年、廢爲二陵井監一、宣和四年、改曰二仙井監一、隆興初、又改爲二隆州一、元至元二十年、幷ㇾ州入二仁壽縣一、明朝因ㇾ之。〔淸史稿、地理志〕四川、資州直隸州、縣四、仁壽。❸年號。㋑隋の高祖・文帝・楊堅の時。(601－604) ㋺ ニンジュ 第五十五代、文德天皇の御代。(751－754)

【仁壽鏡】128 ジンジュキャウ 仁壽殿に置かれた鏡の名。仁壽殿を見よ。〔溫庭筠、上二翰林蕭舍人一詩〕萬象晩歸仁壽鏡、百花春隔景陽鐘。

〔仁壽宮〕129 ジンジュキュウ 宮殿の名。隋、建つ。唐は之を修復して九成宮といひ、後更に萬年宮と改めた。故址は今の陝西省麟遊縣の西、天台山上に在る。〔讀史方輿紀要、陝西、鳳翔府、麟遊縣〕仁壽宮、在二縣西五里一、隋開皇十三年作、十五年成、最爲二宏麗一、屢臨幸焉、義寧元年、宮廢、置二鳳棲郡於此一、二年、於二宮中一獲二白麟一、因曰二麟遊郡一、唐貞觀五年、修二仁壽宮一、更名二九成一、自ㇾ是屢臨幸、永徽二年、改二名萬年宮一。

〔仁壽節〕130 ジンジュセツ 五代南唐の祝節の一。陰曆十二月二日で、烈祖が禪りを受けた日。〔南唐書〕烈祖初受ㇾ禪、以二十二月二日一、爲二仁壽節一。

〔仁壽殿〕131 ジンジュデン ❶宮殿の名。〔魏明帝、與二陳王植一詔〕昔先帝時、甘露屢降二於仁壽殿前一、靈芝生二芳林園中一、自三吾建二承露盤一已來、甘露復降二芳林園仁壽殿前一。〔陸機、與二弟雲一書〕仁壽殿前、有二大方銅鏡一、高可二五尺餘一、廣三尺二寸。❷ジジュデン 內裏の紫宸殿の後に在り、もとは天皇の常の御座所であつたが、後に御座が清涼殿に移されてから、專ら內宴の相撲蹴鞠などの行はれる所となつた。中殿。〔和漢三才圖會、家宅類、殿〕紫宸殿、仁壽殿、云云、以上十七、禁內之殿名也。

〔仁壽木〕132 ジンジュボク 樹木の名。柏に似て、枝長く葉軟く、花は食用になるといふ。〔拾遺記、魯僖公〕僖公十四年、晉文公焚ㇾ林、以求二介之推一、有二白鴉一遶ㇾ煙而噪、或集二之推之側一、火不ㇾ能ㇾ焚、晉人嘉ㇾ之、起二一高臺一、名曰二思烟臺一、種二仁壽木一、木似ㇾ柏、而枝長柔軟、其花堪ㇾ食、故呂氏春秋云、木之美者、有二仁壽之華一焉、卽此是也。

〔仁壽之華〕133 ジンジュノクワ 樹木の名。仁壽木に同じ。仁壽木を見よ。

【仁叔】134 ジンシュク 字號。❶宋、燕瑛(**7**－**19429**・・15)の字。❷元、陶復亨(**11**－**41705**・・226)の字。❸明、吳宗堯(**2**－**3365**・・731)の字。❹明、蔣悌生(**9**－**31820**・・201)の字。

【仁熟】135 ジンジュク 宋、周穜(**2**－**3441**・・401)の字。

【仁恤】136 ジンジュツ あはれみ情をかけること。

【仁術】137 ジンジュツ ❶仁の道を行ふ手だて。〔孟子、梁惠王上〕無ㇾ傷也、是乃仁術也、見ㇾ牛未ㇾ見ㇾ羊也。❷醫術。

【仁恕】138 ジンジョ ❶あはれみ深くて思ひやりがある。〔漢書、敍傳上〕寬明而仁恕。〔列女傳、母儀、周室三母傳〕太王仁恕。〔後漢書、陳寵傳〕咸性仁恕。❷字號。㋑梁、蕭大心(**9**－**32012**・・455)の字。㋺明、居仁(**4**－**7663**・・94)の字。

〔仁恕掾〕139 ジンジョエン 後漢の官名。獄を司る。〔後漢書、魯恭傳〕使二仁恕掾肥、親往廉ㇾ之。〔注〕仁恕掾、主ㇾ獄、屬二河南尹一。

〔仁恕堂〕140 ジンジョダウ 淸、黎士宏(**12**－**47994**・・102)の室名。

【仁植】141 ジンショク 明、方孔炤(**5**－**13620**・・516)の號。

【仁心】142 ジンシン 仁の心。人を愛する心。〔孟子、離婁上〕今有二仁心仁聞一、而民不ㇾ被二其澤一、不ㇾ可ㇾ法二於後世一者、不ㇾ行二先王之道一也。〔集注〕仁心、愛ㇾ人之心也。〔新書、過秦上〕一夫作ㇾ難、而七廟墮、身死二人手一、爲二天下笑一者、何也、仁心不ㇾ施、而攻守之勢異也。

【仁親】143 ジンシン いつくしみしたしむ。仁愛(二)に同じ。又、親しむべき人を愛する。〔大學〕舅犯曰、亡人無二以爲ㇾ寶、仁親以爲ㇾ寶。

【仁人】144 ジンジン ❶德の完成した人。成德の人。仁者(111)の❶に同じ。〔書、泰誓中〕雖ㇾ有二周親一、不ㇾ如二仁人一。〔論語、衞靈公〕志士仁人、無ㇾ求ㇾ生以害ㇾ仁。〔集注〕仁人、則成德之人也。〔荀子、不苟〕是非二仁人之情一也。〔六韜、文韜、文師〕仁人能受二正諫一。〔漢書、董仲舒傳〕戊ㇾ國不ㇾ問二仁人一。〔新序、雜事四〕仁人也者、國之寶也。❷唐、宇文士及(**3**－**7067**・・78)の字。

〔仁人之安宅也〕145 ジンハヒトノアンタクナリ 仁德を守ることは、人に取つて此の上なく安全な住家である。〔孟子、離婁上〕孟子曰、仁、人之安宅也、義、人之正路也、曠二安宅一而不ㇾ居、舍二正路一而不ㇾ由、哀哉。

〔仁人之言其利博〕146 ジンジンノゲンソノリヒロシ 仁者のいふ所は、其の利益する所が非常に大きい。仁言利博。〔左氏、昭、三〕仁人之言、其利博哉、晏子一言、而齊侯省ㇾ刑。

〔仁人者送ㇾ人以ㇾ言〕147 ジンジンハヒトニオクルニゲンヲモツテス 仁者は人を送る時に有益な言葉をはなむけとする。〔史記、孔子世家〕老子送ㇾ之曰、吾聞、富貴者送ㇾ人以ㇾ財、仁人者送ㇾ人以ㇾ言。

〔仁人得ㇾ飴以養ㇾ疾侍ㇾ老〕148 ジンジンアメヲウレバモツテシツヲヤシナヒラウニジス 仁者は飴を得れば、病人を養ひ老者に與へようと思ふ。之に反し、盜跖・莊蹻のやうな盜人は、其の飴を使つて人の府庫を開き財物を奪はうと考へる。同じ物でも善惡の人によつて用ひ方が異なることをいふ。〔呂覽、異用〕仁人之得ㇾ飴、以養ㇾ疾侍ㇾ老也、跖與二企足一得ㇾ飴、以開ㇾ閉取ㇾ楗也。〔淮南子、說林訓〕柳下惠見ㇾ飴曰、可二以養ㇾ老、盜跖見ㇾ飴曰、可二以黏ㇾ牡、見ㇾ物同、而用ㇾ之異。〔注〕牡、門戶籥牡也。

【仁瑞】149 ジンズイ 聖人が位にある時現はれるといふめでたいしるし。鳳凰・龍・麒麟などをいふ。〔詩、大雅、卷阿、鳳皇于飛、傳〕鳳凰、靈鳥、仁瑞也。〔論衡、驗符〕東方曰ㇾ仁、龍、東方之獸也、皇帝聖人、故仁瑞見。

【仁政】150 ジンセイ 王者が民をいつくしむまつりごと。仁化。〔孟子、滕文公上〕夫仁政、必自二經界一始。〔董仲舒、詣二丞相公孫弘記室一書〕發ㇾ號出ㇾ令、利二天下之民一者、謂二之仁政一。〔北史、陸逞傳〕〔通弟逞〕除二京兆尹一、云云、時論以、郢仁政所ㇾ致。〔杜牧、寄二牛相公一詩〕六年仁政謳歌去、柳遶二春堤一處處聞。

【仁聖】151 ジンセイ 仁にして聖。知德の高いものをいふ。〔禮、經解〕其在二朝廷一、則道二仁聖禮義之序一、燕處則聽二雅頌之音一。〔列子、楊朱〕仁聖亦死。〔史記、伯夷傳〕仁聖賢人。

〔仁聖盛明〕152 ジンセイセイメイ 仁德聖德があり、其の德の盛で明かなこと。〔白虎通、謚〕仁聖盛明、謚曰ㇾ舜。

【仁靖】153 ジンセイ 梁、蕭大連(**9**－**32012**・・460)の字。

【仁靜】154 ジンセイ 仁者の心の靜かなことをいふ。〔論語、雍也〕知者動、仁者靜。〔北史、郭祚傳〕山以ㇾ仁靜、水以ㇾ智流。

【仁聲】155 ジンセイ ❶仁を行ふといふ評判。仁聞。〔孟子、盡心上〕仁言不ㇾ如二仁聲之入ㇾ人深一也。〔集注〕仁聲、謂二仁聞一、謂下有二仁之實一、而爲三衆所二稱道一者上也。〔王褒、洞簫賦〕其仁聲、則若二颽風紛披、容與而施ㇾ惠。〔揚雄、羽獵賦〕仁聲惠二於北狄一。〔蜀志、楊戲傳〕仁聲洽著。❷宋、方勺(**5**－**13620**・・247)の字。

【仁錫】156 ジンセキ 淸、蔡德晉(**9**－**31818**・・227)の字。

【仁說】157 ジンノセツ 仁に關する說。諸說の大要は次の如くである。周禮大司徒には知・仁・聖・義・忠・和を稱して六德といひ、詩經鄭風叔于田には大叔段を稱して洵美而仁といひ、書經金縢には予仁若ㇾ考、能多材多藝といふ。以上は孔子以前に於ける仁の用例であるが、孔子に至つては最も仁を重んじ、論語に仁を論ずるもの五十八章、仁の字は一百五字に及んだ。併し、孔子は仁に對して別に特解を下さなかつたので、後世、種々の解釋を生み、愛ㇾ人の義に用ひ、人我兼愛の義に用ひ、或は政治事功の上に就いて說き、或は修己を以て說き、又は利害禍福の上に超然たるものをいふといふ。中庸には仁者、人也といひ、孟子告子下篇には之を補正して仁者、人心也といひ、先秦諸子に至つては、墨子經說上には仁體ㇾ愛也といひ、又、仁、愛也といひ、莊子天地篇には愛ㇾ人利ㇾ物、謂二之仁一といひ、

韓非子解老篇には仁者、謂二其中心欣然愛一人といひ、唐の韓愈は原道に博愛之謂レ仁といふ。宋代に至つて程伊川は四德、卽ち元亨利貞の元は五常の仁に同じで、偏言すれば一、專言すれば四者を兼ねるといひ、朱熹は論語學而篇注に仁者、愛之理、心之德といひ、天にあつては萬物を生成する力、人にあつては一切倫理を實行する力だとし、偏言の仁、專言の仁に分けて說いた。我が國では伊藤仁齋が語孟字義に慈愛之德、遠近內外、充實通徹、無レ所レ不レ至、之謂レ仁、といひ、荻生徂徠は長人安民之德といひ、大田錦城は衆善の統宗といつた。今日では狹義に於ては慈愛の德とし、廣義に於ては一切の諸德の統一的原理として慈愛・忠恕・重厚・利澤・克己の諸德を意味するものとせられてゐる。

【仁節】158 ジンセツ 明、陶琰（崑山の人）（11－41705‥21）の號。

【仁川】159 ジンセン 地名。朝鮮京畿道にある。京城の西。朝鮮第一の港。一名、濟物浦。

【仁宣】160 ジンセン 梁、蕭大臨（9－32012‥459）の字。

【仁善】161 ジンゼン なさけ深くて善良なこと。〔史記、外戚世家〕疾二外家呂氏彊一、皆稱二薄氏仁善一。〔史記、衞將軍驃騎傳〕大將軍爲レ人仁善退讓。

【仁祖】162 ジンソ ❶晉、謝尙（10－35827‥101）の字。❷朝鮮、李朝第十六代の王。宣祖の第五子。諱は倧。字は和伯。號は松窓。謚は憲文定武仁明純孝。其の在位二十七年間に、外は滿洲から侵入があり、國內には朋黨の爭論に加へて和約論と斥和論とがあり、加ふるに從來の明との關係から頗る多難であつた。（仁祖實錄）。

【仁宗】163 ジンソウ ❶廟號。㋑宋、第四代の王、趙禎（10－37171‥238）の廟號。㋺西夏、李仁孝（6－14459‥1528）の廟號。㋩西遼、第二代の王、耶律夷列の廟號。遼、仁宗（11－39137‥51）を見よ。㋥元、第四代の王、愛育黎拔力八達（4－10947‥6）の廟號。㋭明、第四代の王、朱高熾（6－14424‥69）の廟號。㋬清、第七代の王、愛親覺羅顒琰の廟號。清、仁宗（7－17695‥879）を見よ。㋣朝鮮、高麗第十七代の王。諱は楷。字は仁表。睿宗の長子。母は李資謙の女順德太后。性仁孝寬慈で、學を好んだ。但し其の優柔不斷のため、初め外戚の資謙が、政を專らにし、のち俊京が權を恣にした。また僧妙淸等の言に動かされ、西京に幸して是に大花宮を營んだが、金富軾・李之氏等の彈劾にあひ、遂に妙淸等を降した。（高麗史、十五・十六・十七）。㋷朝鮮、李朝、第十二代の王。諱は皓。謚は獻文懿武肅欽孝大王。中宗の元子。中宗の三十九年禪を受けて卽位し、翌年七月登遐す。在位八月。（仁宗實錄）。❷安南、李朝の第四世。聖宗の長子。名は乾德。母は倚蘭夫人。七歲で卽位し大寧と改元し、翌年宋から交趾郡王に冊封せられた。田租を定め、軍糧を充實し、會典を制し、國士監を設けて科擧の制を布くなど、國政大いに擧がり、外は宋の神宗が王安石の策によつて交州討伐の擧に出ることを豫知し、之に先んじて欽州・邕州を攻略し、やがて王安石の派遣した郭逵・趙卨等と如月江・富良江に戰つて宋兵を破り、南は臨平・布政・明靈の故地を恢復して、大いに治績を擧げた。天符慶壽元年卒す。年六十三。（欽定越史通鑑綱目、二‥四）。㋸安南、陳朝の第三代の王。名は昑。寶符六年卽位して翌年紹寶と改元し、文事を重んじ天長府學を建て、人身賣買を禁ずる等、內治を擧げた。又、再度に亙る元軍の侵寇を受け、淸化或は嗷南に難を避けた事もあつたが、國峻・慶全等の防戰によつて之を却け、其の後屢〻元に入貢して、事なきを得た。興隆九年英宗に讓位し、同十六年、五十一歲を以て崩ず。（欽定越史通鑑綱目、七・八・九）。㋹安南、黎朝の第三王。名は邦基。太宗の崩後僅か二歲で卽位し、年號を太和と稱した。在位年間は黎朝の極盛期に當り、內は內政の實をあげて、刑を輕くし貧民救恤に努め、私有地に園池を造ることを禁じ、延寧通寶を出し、外は明との友交を保ち、太和元年には明から安南國王に冊封せられ、又、南は占城の故王を降した。晚年宜民の叛にあひ禁中に弑虐せられた。（欽定越史通鑑綱目、十八・十九）。❸字號。㋑梁、蕭大器（9－32012‥446）の字。㋺宋、鄭樸翁（11－39647‥557）の字。

【仁叟】164 ジンソウ 字號。❶宋、畢士安（7－21829‥94）の字。❷宋、霍端友（12－42321‥60）の字。❸宋、胡宏（9－29400‥98）の字。❹宋、趙不愚（10－37171‥863）の字。㋺宋、孟忠厚（8－6960‥325）の字。㋩元、蘇壽元（9－32427‥249）の字。㋥元、彭天錫（4－10003‥197）の字。㋭明、劉春（2－2224‥362）の字。㋬淸、傅山（1－939‥56）の字。

【仁忠】181 ジンチュウ 唐、于向（1－252‥25）の字。

【仁重】182 ジンジュウ 元、陸厚（11－41708‥106）の字。

【仁徵】183 ジンチョウ 明、劉天麒（2－2224‥1222）の字。

【仁直】184 ジンチョク 北周、薛端（9－32123‥100）の字。

【仁通】185 ジンツウ 北齊、高綽（12－45313‥450）の字。

【仁弟】186 ジンテイ 上の者が下の者を呼ぶ敬稱。例へば、兄が弟に對し、師が弟子に對し、年長者が年少者を呼ぶなど。〔孔叢子、連叢子、與二從弟一書〕豈非二聖祖之靈一、欲レ令下仁弟讚二明其道一、以闡中其業者上哉。

【仁貞】187 ジンテイ 唐、吐突承璀（2－3300‥64）の字。

【仁悌】188 ジンテイ 仁と悌。悌はよく長上に事へること。〔後漢書、劉趙淳于等贊〕淳于、仁悌亘孝以名。〔唐書、趙隱傳〕性仁悌、不下敢以二貴權一自處上。

【仁挺】189 ジンテイ 梁、蕭大球（9－32012‥447）の字。

【仁鳥】190 ジンチョウ 鳳凰の異名。〔山海經、海內經〕鳳鳥、膺文曰レ仁、背文曰レ義。〔漢書、梅福傳〕夫戴鵲遭レ害、則仁鳥增逝。〔事物異名錄、禽鳥、鳳凰〕孫氏瑞應圖、鳳凰、仁鳥也。

【仁同】191 ジンドウ 明、席春（4－8926‥34）の字。

【仁德】192 ジントク ❶なさけ深い至善の德。〔淮南子、繆稱訓〕善之由レ我、與二其由一人、若二仁德之盛者一也。〔新序、雜事四〕臣聞、天道無レ親、惟德是輔、君有二仁德一、天之所レ奉也。〔後漢書、魯恭傳〕進二柔良一、退二貪殘一、奉二時令一、所下以助二仁德一、順二昊天一、致二和氣一、利中黎民上者也。〔宋書、武帝紀中〕靡不レ謳歌仁德、扑舞來庭上。❷字號。㋑梁、蕭大訓（9－32012‥451）の字。㋺宋、貢祖文（10－36665‥78）の字。㋩ヒト 人皇第十六代の帝諡。〔仁德皇后〕193 ジントクコウ 遼の聖宗の后、蕭后（9－32012‥117）の追號。

【仁篤】194 ジントク ❶いつくしみ深く手厚い。〔漢書、

【仁仲】180 ジンチュウ 字號。❶宋、霍端友（12－42321‥62）の字。❷宋、胡宏（9－29400‥98）の字。❸宋、趙不愚（10－37171‥863）の字。㋺宋、孟忠厚（8－6960‥325）の字。㋩元、蘇壽元（9－32427‥249）の字。㋥元、彭天錫（4－10003‥197）の字。㋭明、劉春（2－2224‥362）の字。㋬淸、傅山（1－939‥56）の字。

王莽傳上〕忠孝仁篤。〔蔡邕、郭泰碑〕仁篤慈惠。❸三國蜀、許慈(10－35298‥106)の字。

【仁寶】195 ハンバウ 明、郎瑛(11－39431‥4)の字。

【仁伯】196 ハンバク 字號。❶宋、應舜臣(4－11330‥26)の字。❷宋、徐元杰(4－10110‥410)の字。

【仁博】197 ハンバク 梁、蕭大鈞(9－32012‥449)の字。

【仁萬】193 マ 石見國の地名。

【仁鄙】199 ビン 仁と鄙。鄙は不仁。〔淮南子、本經訓〕當此之時、無慶賀之利、刑罰之威、禮義廉恥不設、誹譽仁鄙不立、而萬民莫相侵欺暴虐、猶在于混冥之中、逮至衰世、人衆財寡、事力勞、而養不足、於是忿爭生、是以貴仁、仁鄙不齊、比周朋黨、設詐諝、懷機械巧故之心、而性失矣、是以貴義。〔論衡、命祿〕仁鄙在時不在行、利害在命不在智。

【仁賓】200 ジンビン 果樹の名。仁頻。檳榔(6－15734‥3)に同じ。〔孫祿、散木賦〕彼夫五柞三槐、仁賓君子、東吳豫章、西蜀蕭杞。

【仁頻】201 ジンビン 果樹の名。檳榔樹。仁賓に同じ。〔本草、檳榔〕釋名、賓門、仁頻、洗瘴丹。〔漢書、司馬相如傳上〕仁頻并閭。

【仁敏】202 ジンビン めぐみ深くさとい。〔蜀志、杜微傳〕天姿仁敏、愛ㇾ德下ㇾ士。

【仁閔】203 ジンビン いつくしみあはれむこと。〔道教靈驗記〕仁憫道息、貞正事際。

【仁夫】204 ジンフ 字號。❶宋、眞志道(8－23235‥335)の字。❷明、翁萬達(9－28635‥92)の字。❸明、姜麟(3－6205‥73)の字。❹明、李戴(6－14459‥549)の字。❺宋、呂廣問(2－3386‥189)の字。

【仁風】205 ジンフウ ❶仁德の風化。〔後漢書、章帝紀〕仁風行ㇾ於千載。〔應貞、晉武帝華林園集詩〕仁風潛扇。〔唐太宗、述聖賦〕流ㇾ惠澤于瀛表、鼓ㇾ仁風于區外。❷扇の異名。晉の袁宏が餞けに扇を贈られたところ、仁風を奉揚して彼の黎庶を慰めんと答へた故事から起つた名。〔晉書、文苑、袁宏傳〕出爲ㇾ東陽郡、乃祖ㇾ道於治亭、時賢皆集、安欲ㇾ以ㇾ卒迫ㇾ試ㇾ之、臨ㇾ別執ㇾ其手、顧就ㇾ左右、取ㇾ一扇ㇾ而授ㇾ之曰、聊以贈ㇾ行、宏應ㇾ聲答曰、輒當奉ㇾ揚仁風、慰ㇾ彼黎庶ㇾ、時人歎ㇾ其率而能要ㇾ焉。〔書言故事、器物類、扇〕扇曰ㇾ仁風ㇾ。❸梁、蕭大雅(9－32012‥444)の字。

【仁聞】206 ジンブン 仁政の評判。いつくしみの德のきこえ。仁聲。〔孟子、離婁上〕今有ㇾ仁ㇾ心仁聞ㇾ、而民不ㇾ被ㇾ其澤ㇾ。〔集注〕仁聞者、有ㇾ愛ㇾ人之聲聞ㇾ於人ㇾ也。

【仁平】207 ❶いつくしみ深く公平なこと。〔後漢書、孔奮傳〕奮既立ㇾ節、治貴ㇾ仁平ㇾ。❷年號。❸唐時代の新羅の善德女王、德曼の時。(632－646) ㊐ニンピヤウ 第七十六代近衛天皇の御代。(1151－1154)

【仁廟】208 ジンベウ 清、聖祖の廟號。

【仁父】209 ジンポ 字號。❶元、仇遠(1－355‥8)の字。❷元、王懋德(7－20823‥2112)の字。❸清、韓孔當(12－43159‥288)の字。

【仁甫】210 ジンポ 字號。❶宋、將芸(9－31820‥8)の字。❷宋、包麟(2－2506‥140)の字。❸宋、萬規(9－31339‥53)の字。❹宋、李燾(6－14459‥560)の字。❺元、安宅(3－7072‥321)の字。❻元、趙復(10－37171‥326)の字。❼元、白樸(8－22678‥1064)の字。❽元、劉恩(2－2224‥66)の字。❾明、吳昊(2－3365‥60)の字。❿明、詹榮(10－35458‥2)の字。⓫明、萬象春(9－31339‥595)の字。⓬明、李元陽(6－14459‥1183)の字。⓭明、林有麟(6－14551‥265)の字。⓮清、沈應霖(6－17189‥436)の字。

【仁圃】211 ジンポ 字號。❶清、胡祥麟(9－29400‥491)の字。❷清、趙國麟(10－37171‥569)の字。❸清、王謨(7－20823‥972)の字。

【仁輔】212 ジンホ 字號。❶梁、蕭大鈞(9－32012‥449)の字。❷唐、朱忠亮(6－14424‥926)の字。❸明、張德勝(4－9812‥1420)の字。

【仁峯】213 ジンポウ 明、汪循(6－17154‥74)の號。

【仁木】214 ニンキ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【仁牧】215 ジンボク いつくしみがふかい長官。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、自首〕未ㇾ嘗不ㇾ望ㇾ賢侯仁牧ㇾ。

【仁本】216 ジンポン ❶司馬法の篇名。❷明、金德玹(11－40152‥1351)の字。

【仁明】217 ジンメイ ❶いつくしみ深くて智の明かなこと。〔後漢書、郭賀傳〕賀拜ㇾ荊州刺史、引見賞賜、恩寵隆異、及ㇾ到ㇾ官、有ㇾ殊政、百姓便ㇾ之、歌曰、厥德仁明郭喬卿、忠正朝廷上下平。〔東觀漢紀、章帝紀〕孝章皇帝、諱炟、壯而仁明謙恕、溫慈惠和。〔晉書、簡文帝紀〕永昌元年、元帝詔曰、先公武王、先考恭王、君ㇾ臨瑯邪、繼世相承、國嗣未ㇾ立、恭嘗辟ㇾ三、朕常悼ㇾ心、子昱、仁明有ㇾ智度ㇾ、可ㇾ以虔ㇾ奉宗廟ㇾ、以慰ㇾ罔極之恩ㇾ。❷ニンミヤウ 人皇第五十四代の帝諡。

【仁約】218 ヤク 唐、韋思謙(12－43108‥188)の名。

【仁勇】219 ユウ いつくしみ深く勇氣がある。〔吳子、論將〕威德仁勇。〔漢書、辛慶忌傳〕質行正直、仁勇得ㇾ衆心。

【仁譽】220 ジンヨ 仁政を行つてゐるといふ善い評判。〔新書、大政上〕上有ㇾ仁譽ㇾ而下有ㇾ治名ㇾ。

【仁容】221 ヨウ 梁、蕭大威(9－32012‥442)の字。

【仁朗】222 ラウ 梁、蕭大昕(9－32012‥448)の字。

【仁里】223 リ ❶風俗の美しい鄉。〔論語、里仁〕子曰、里仁爲ㇾ美。〔張衡、思玄賦〕匪ㇾ仁里ㇾ其焉宅兮、匪ㇾ義跡ㇾ其焉追。❷佐々木世元の號。佐々木琴臺(1－506‥77)を見よ。

【仁良】224 リリヤウ いつくしみ深くてすなほなこと。〔管子、宙合〕仁良既明。

【仁略】225 リリヤク 北齊、李曉(6－14459‥299)の字。

【仁禮】226 レイ ❶仁と禮の德。〔孟子、離婁下〕君子以ㇾ仁存ㇾ心、以ㇾ禮存ㇾ心。❷梁、蕭大莊(9－32012‥452)の字。❸ㇾ姓氏。

【仁靈】227 レイ なさけ深くて不思議な力のあること。〔歐陽詹、懷忠賦〕鳳實仁靈之類、豈鷹鸇之同列。

【仁廉】228 レン いつくしみ深くていさぎよい。〔商子、農戰〕善修ㇾ仁廉辯慧ㇾ。〔孔子家語、在厄〕有ㇾ埃墨ㇾ墮ㇾ飯中、顏回取而食ㇾ之、子貢自井望見之、不悅、以爲ㇾ竊ㇾ食也、入問ㇾ孔子ㇾ曰、仁人廉士、窮改ㇾ節乎、孔子曰、改ㇾ節、卽何稱ㇾ於仁廉ㇾ哉。

【仁和】229 ワ ❶仁心の和。又、仁德があつてなごやかなこと。〔禮、儒行〕溫良者、仁之本也、云云、言談者、仁之文也、歌樂者、仁之和也、分散者、仁之施也。〔魏書、游明根傳〕明根歷ㇾ官、內外五十餘年、處ㇾ身以ㇾ仁和、接ㇾ物以ㇾ禮讓、時論貴ㇾ之。❷縣名。宋、置く。漢の錢塘の地。浙江省杭縣內。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府〕仁和縣、唐錢塘鎭官ㇾ縣地、云云、宋太平興國四年、改今名、尋徙ㇾ府治北、元移ㇾ今治ㇾ。〔清史稿、地理志〕浙江、杭州府、縣八、仁和。❸清、滿洲鑲黃旗人、姓は鈕祜祿氏。乾隆年閒、金川の役に從つて提督と爲り、後、英吉沙爾領隊大臣に至る。〔國朝耆獻類徵、二百九十〕〔國史列傳、十九〕。❹梁、蕭大成(9－32012‥456)の字。❺ニン 第五十八代、光孝天皇、第五十九代、宇多天皇の年號。(785－787)

【仁和樂】230 ガク 樂の名。高麗樂の壹越調。仁和年中に、百濟の眞雄の作つたもの。〔和漢三才圖會、藝能、舞樂名〕仁和樂。

【仁和場】231 ヂヤウ 地名。❶浙江省杭縣の淸泰門外。海鹽を產す。〔淸會典、戶部、鹽法〕兩浙都轉鹽運使司專理、轄ㇾ鹽場三十有二ㇾ仁和場。〔注〕在ㇾ仁和縣ㇾ。❷四川省西充縣の西。

【仁王】232 ワウ 佛 ❶仁王經に見える印度十六大國の國王。❷ワウ 二王。金剛神をいふ。勇猛悍惡の相をなし、寺門の左右に分けて安置する。其の左を密跡金剛、右を那羅延金剛といふ。共に千佛の法を護る神。二王(1－247‥1162)を見よ。❸佛の尊稱。佛を能仁、又、法王とする。〔仁王經〕。

【仁王會】233 エ 佛 仁王經護國品の說。仁王經を講讀して災難を攘ふ。唐代は不空三藏の譯を用ひ、雨を祈つて驗があつたといふ。我が國では古、大極殿・紫宸殿・淸涼殿等で、朝家祈禱の爲、仁王護國般若經を講じた公事で、陰曆三月と七月とに行つた。〔日本紀略、後篇、一、醍醐天皇〕延喜五年五月十二日、仁王會。

【仁王經】234 ギヤウ 佛 經名。舊譯は羅什譯で、佛說仁王經般若波羅蜜經といひ、新譯は不空譯で、仁王護國般若波羅蜜多經といふ。共に各〻二卷。此の經を護持するときは、七難起らず、災害生ぜず、萬民豐樂であるといふ。我が國でも之によつて、古くから仁王會・仁王講・仁王供などが行はれた。

【仁王門】235 ニワウモン　仁王の像を左右に安置してある社寺の門。

【詠レ仁】236 ジンヲエイズ　仁德を詠ずる。〔班固、東部賦〕是以四海之內、學校如レ林、庠序盈レ門、獻酬交錯、俎豆莘莘、下舞上歌、蹈レ德詠レ仁。〔注〕銑曰、言、四海既多二學校一、皆手足蹈、歌二詠仁德一。

【假レ仁】237 ジンヲカル　仁の心の無いものがうはべだけ仁をよそほふこと。霸者の事。〔孟子、公孫丑上〕以レ力假レ仁者霸。

【歸レ仁】238 ジンニキス　天下の人が皆其の人の仁德に歸服すること。〔論語、顏淵〕一日克レ己復レ禮、天下歸レ仁焉。

【積レ仁】239 ジンヲツム　仁行を積み重ねる。〔傅亮、爲二宋公一脩二楚元王墓一教〕楚元王、積レ仁基レ德。

【殲レ仁】240 ジンヲコロス　仁賢の士を殺す。一說に、殷の紂王が比干・箕子・微子の三仁を殺したことをいふ。〔班固、幽通賦〕東鄰虐而殲レ仁兮。〔注〕善曰、曹大家曰、殲、盡也、仁、謂二三仁一也、翰曰、殲、殺也、言、暴虐殺二仁賢之士一也。

【體レ仁】241 ジンヲタイス　仁の德を身に體得してゐること。〔易、乾〕君子體レ仁、足二以長一レ人、嘉會足二以合一レ禮、利レ物足二以和一レ義、貞固足二以幹一レ事、君子行二此四德一者、故曰、乾、元亨利貞。〔疏〕君子體レ仁、足二以長一レ人者、自レ此已下、云云、言、君子之人、體二包仁道一、汎愛施レ生、足三以尊二長於人一也、仁則善也、謂下行二仁德一、法中天之元德上也。

【輔レ仁】242 ジンヲタスク　朋友相共に善を責めて、仁德を增進する。〔論語、顏淵〕曾子曰、君子以レ文會レ友、以レ友輔レ仁。〔集解〕孔安國曰、有二相切磋之道一、所三以輔二成己之仁一。

【仁氣樓】243 ジンキロウ　明、吳維嶽（**2**－**3365**・・426）の室名。

【仁虞院】244 ジングヰン　元時代の獸を養ふ處。騶虞は仁獸であるから、仁虞と名づけた。〔帝京景物略〕元時有二仁虞院一、蓄獸之地、卽今南海子。

【仁皇帝】245 ジンクワウテイ　清、聖祖（**9**－**29074**・・191）をいふ。

【仁功侯】246 ジンコウコウ　元、葉恒（**9**－**31387**・・47）の封號。

【仁在堂】247 ジンザイダウ　清、路德（**10**－**37524**・・85）の室名。

【仁之方】248 ジンノハウ　仁を行ふ手段方法。論語では近く身に譬を取るを以て仁の方としてゐる。〔論語、雍也〕能近取レ譬、可レ謂二仁之方一也已。

【仁之本】249 ジンノモト　仁の根本。論語では孝弟を仁の本とし、禮記では溫良を仁の本とす。〔禮、儒行〕溫良者、仁之本也、敬愼者、仁之地也、寬裕者、仁之作也、孫接者、仁之能也、禮節者、仁之貌也、言談者、仁之文也、歌樂者、仁之和也、分散者、仁之施也。〔論語、學而〕孝弟也者、爲二仁之本一與。

【仁端錄】250 ジンタンロク　書名。十六卷。明、徐謙撰。其の門人陳葵の刪定。痘を治める方法、及び病症を論ず。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【仁不仁】251 ジンフジン　人非人をいふ。ひとでなし。〔琵琶記、路途勞頓〕我自須レ防二仁不仁一。

【仁懿皇后】252 ジンイクワウゴウ　遼の興宗の后、蕭后（**9**－**32012**・・117）の諡。

【仁至義盡】253 ジンイタリギツク　仁義の道を十分につくす。〔禮、郊特牲〕饗二農及郵表畷・禽獸一、仁之至、義之盡也、云云、葛帶榛杖、喪殺也、蜡之祭、仁之至、義之盡也。〔疏〕仁之至、義之盡也者、不レ忘レ恩而報レ之、是仁、有レ功必報レ之、是義也、蜡祭有二仁義之至盡一也。〔宋史、文天祥傳〕其衣帶中、有レ贊曰、云云、惟其義盡、所二以仁至一。

【仁漿義粟】254 ジンシヤウギゾク　仁義のこもつた飮物と穀物。慈善家の布施する飮食物。募賑の函に多く此の句を用ひる。〔後漢書、黃香傳〕延光元年、遷二魏郡太守一、云云、時被レ水年飢、乃分二奉祿及所レ得賞賜一、班二贍貧者一、於レ是豐富之家、各出二義穀一助レ官、稟二貸荒民一、獲レ全。〔搜神記十一〕楊公伯雍汲レ水作二義漿於坂頭一、行者皆飮レ之。

【仁知堂主】255 ジンチダウシユ　宋、朱熹（**6**－**14424**・・108）をいふ。

【仁文之愛】256 ジンブンノアイ　仁は慈愛の德である。文とは、德の總名。〔國語、周語下〕夫敬、文之恭也、忠、文之實也、信、文之孚也、仁、文之愛也、義、文之制也、知、文之輿也、勇、文之帥也、敎、文之施也、孝、文之本也、惠、文之慈也、讓、文之材也。〔注〕文者、德之總名、云云、仁者、文之慈愛。

【成レ仁取レ義】257 ジンヲナシギヲトル　孔子は仁を成しとげ、孟子は義を取るべきことを天下に說いた。宋の文天祥の衣帶中の贊の語。〔宋史、文天祥傳〕天祥臨レ刑、殊從容謂二吏卒一曰、吾事畢矣、南鄕拜而死、年四十七、其衣帶中有レ贊曰、孔曰レ成レ仁、孟曰レ取レ義、惟其義盡、所二以仁至一、讀二聖賢書一、所レ學何事、而今而後、庶二幾無一レ媿。

【絕レ仁棄レ義】258 ジンヲタチギヲスツ　仁義をたちすてる。〔老子、十九〕絕レ仁棄レ義、民復二孝慈一。

【漸レ仁摩レ義】259 ジンニゼンシギヲマス　民を感化して次第に仁義の道に入らしめる。〔漢書、董仲舒傳〕立二大學一以敎二於國一、設二庠序一以化二於邑一、漸レ民以レ仁、摩レ民以レ誼。

【仁可二與託一レ孤】260 ジンハトモニコヲタクスベシ　仁者には幼君を依託することが出來る。〔論語、泰伯〕曾子曰、可三以託二六尺之孤一、可三以寄二百里之命一、臨二大節一而不レ可レ奪也、君子人與、君子人也。〔孔叢子、陳士義〕智可二與徵一レ謀、仁可二與託一レ孤。

【仁信智勇嚴】261 ジンシンチユウゲン　大將たるものの、身に備ふべき五つの德。〔孫子、始計〕將者、智・信・仁・勇・嚴也。〔宋史、岳飛傳〕張俊嘗問二用兵之術一、飛曰、仁・智・信・勇・嚴、闕レ一不可。

【仁井田南陽】262 ニヰダナンヤウ　紀州の人。名は好古。字は伯信。號は南陽。通稱は模一郞。嘉永元年歿す、年七十九。著に毛詩補傳三十一卷・論語古傳若干卷・樂古堂文集若干卷・紀伊續風土記百四十卷・周禮圖說がある。

【賊レ仁者謂二之賊一】263 ジンヲソコナフモノコレヲゾクトイフ　仁の德を害するものは之を賊といふ。〔孟子、梁惠王下〕賊レ仁者、謂二之賊一、賊レ義者、謂二之殘一、殘賊之人、謂二之一夫一。

【當レ仁不レ讓二於師一】264 ジンニアタリテハシニモユヅラズ　仁道を行ふ上に於ては、師に對しても之に遜るに及ばない。〔論語、衞靈公〕子曰、當レ仁不レ讓二於師一。〔集注〕當レ仁、以レ仁爲二己任一也、雖レ師亦無レ所レ遜、言レ當二勇往而必爲一也、蓋仁者人所二自有一而自爲レ之、非レ有レ爭也、何遜之有。

【仁可レ過義不レ可レ過】265 ジンハスグベシギハスグベカラズ　寧ろ寬仁に過ぎても、義に過ぎてはならない。〔蘇軾、刑賞忠厚之至論〕可二以賞一可二以無一レ賞、賞レ之過二乎仁一、可二以罰一可二以無一レ罰、罰レ之過二乎義一、過二乎仁一、不レ失レ爲二君子一、過二乎義一、則流而入二於忍人一、故仁可レ過也、義不レ可レ過也。

【仂】350

㊀ロク　〔集韻〕歷德切　lê⁴　職。
㊁リョク　リキ　〔集韻〕六直切　職。

㊀❶**あまり。數の餘。**通じて阞（**11**－**41543**）に作る。〔正字通〕仂、數之餘也、云云、通作レ阞。〔禮、王制〕祭用二數之仂一。〔疏〕仂、是分散之名。❷**十分の一。又、三分の一。**〔集韻〕仂、什一也。〔禮、王制〕喪用二三年之仂一。〔注〕喪、大事、用二三歲之什一一。〔周禮、考工記、輪人〕以二其圍之阞一捎二其數一。〔注〕阞、三分之一也。㊂**つとめる。**力（**2**－**2288**）に通ず。〔廣雅、釋詁四〕仂、勤也。〔一切經音義、七〕字書曰、仂、勤也、今皆爲二力字一。

参考　俗に働（**1**－**1079**）の略字として用ひる。

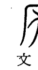
【仃】351

テイ

❶⿰彳丁（**4**－**10040**）に同じ。〔正字通〕仃、同レ⿰彳丁。❷酊（**11**－**39764**）に同じ。〔集韻〕酊、或作レ仃。

【仄】352

ショク　シキ　〔集韻〕札色切　tsê⁴　職。
慣ソク


小篆

籀文

❶**かたむく。**〔說文〕仄、側傾也、从二人在一レ厂下。〔逸周書、周祝解〕日之中也仄。〔注〕仄、昳也。〔後漢書、光武紀〕每日視レ朝、日仄乃罷。❷**そばだつ。**〔漢書、鼂錯傳〕險道傾仄、且馳且前。❸**そりかへる。**〔魏志、陳思王植傳〕瞻望反仄。❹**ほのかに。かすかに。又、かすか。**〔漢書、賈誼傳〕仄聞屈原兮、自湛二汨羅一。〔陸龜蒙、祀竈解〕帝至尊嚴、鬼至幽仄。❺**いやしい。せまい。**〔廣雅、釋詁一〕仄、陋也。〔宋書、武帝紀〕

無レ漏ニ于幽仄一。㊅かたはら。側（1－897）に通ず。〔爾雅、釋水〕穴出、仄出也。〔釋文〕仄、本亦作側。〔周禮、考工記、車人、行レ山者仄レ輮、注〕故書、仄爲レ側。〔漢書、鮑宣傳〕旁仄素餐之人。㊆籀文は厓（2－2897）に作る。〔說文〕仄、厓、籀文、从レ石、石亦聲。㊇韻を平仄に二大別し、其の中、上聲・去聲・入聲を仄とする。平仄（4－9167‥400）を見よ。〔沈約、四聲譜〕上去入爲ニ仄聲一。

解字　會意。一下に人の在る形。人が山の厓の下にゐて側だち傾く義。それからかたむく意となる。籀文の矢に從ふのは、また頭を傾けること。轉注して傾とし、假借して側・戾とする。〔說文、仄、段注〕傾下曰ニ仄也一、此仄下云ニ傾也一、是之謂ニ轉注一古與ニ側・戾字一相假借。

【仄暗】1 ソクアン　うすぐらいこと。〔蟬丸、一〕かげろふの森ほのぐらし。

【仄韻】2 ソクイン　漢字を平・上・去・入の四聲に分けて、上聲・去聲・入聲を仄韻といひ、仄韻に屬する字を仄字といふ。仄聲。平仄（4－9167‥400）を見よ。〔詩法詳論、七言古詩〕平韻五言上句第三四五字、宜ニ連一用仄一、下句第二四五字、宜ニ連一用平一、七言上句第五六七字、宜ニ連一用仄一、下句第五六七字、宜ニ連一用平一、仄韻照ニ此反一之。

【仄韻詩】3 ソクインシ　詩體の一。五言絶句・七言絶句共に仄韻を用ひる詩があつて、此等は皆、拗體である。殊に五言絶句は元來古體に近いために拗體が多くて、唐詩選七十四首中には九首の仄韻詩がある。其の他、唐の李白の王昭君、王維の雜詩、柳宗元の江雪などは皆此の例である。七言絶句は平韻を用ひるを常則とするから、古人の作にも甚だ少く、唐詩選に四首、三體詩に六首を數ふ。拗體（5－11962‥16）を見よ。

【仄影】4 ソクエイ　扇の名。周の昭王の時、塗修國から獻じた丹鵲の羽で作つたものといふ。〔拾遺記、周〕昭王二十四年、塗修國獻ニ青鳳丹鵲一、各一雌一雄、孟夏之時、鳳鵲皆脫ニ易毛羽一、聚ニ鵲翅一以爲レ扇、綴ニ鳳羽一以飾ニ車蓋一也、扇一名ニ遊飄一、二名ニ條翮一、三名ニ虧光一、四名ニ仄影一、時東甌獻ニ二女一、一名ニ延娟一、二名ニ延娥一、使下二人更搖ニ此扇一、侍ニ於王側一、輕風四散、冷然自涼、此二人辯口麗辭、巧善歌笑、步ニ塵上一無レ跡、行日中無レ影、及ニ昭王淪ニ於漢水一、一女與ニ王乘レ舟、夾ニ擁王身一、同溺ニ於水一、故江漢之人、到ニ今思之一、立ニ祀於江渚一、數十年間、人於ニ江漢之上一猶見ニ王與ニ二女一、乘レ舟戲ニ於水際一。

【仄行】5 ソクカウ　❶貴人に敬意を表して謙遜して歩む。脇によける。側行（1－897‥5）に同じ。❷横さまに歩く。蟹の類をいふ。〔周禮、考工記、梓人〕卻行仄行。〔注〕卻行、蟪蛄之屬、仄行、蟹屬。

【仄起】6 ソクキ　漢詩で、絶句の起句の第二字が仄字であるもの。平起（4－9167‥117）の對。平仄式（4－9167‥401）を見よ。〔詩法詳論、排律平仄〕平起譜法、亦無ニ甚異一、不レ過將ニ仄起四句一、粘ニ聯中一、下聯移レ上、上聯移レ下、下聯上句第五字換レ平、七字換レ仄爾、餘同。

【仄字】7 ソクジ　上聲・去聲・入聲に屬する漢字。仄韻の字。仄韻（2）を見よ。〔詩法詳論、律詩平仄〕三五七句第七字、要ニ仄字一。

【仄輮】8 ソクジウ　車輪の外周の、木の柔い方を內側にし、堅い方を外側にすること。昔は、車輪の外周は一本を曲げて作つた。〔周禮、考工記、車人〕行ニ澤者反レ輮、行レ山者仄輮、反レ輮則易、仄輮則完。〔注〕故書仄爲レ側、鄭司農云、反レ輮、謂レ輪輮反ニ其木裏一需者在レ外、澤地多レ泥柔也、側當レ爲レ仄、山地剛、多ニ沙石一、玄謂、反レ輮、爲ニ泥之黏一、欲レ得ニ心在レ外滑一、仄レ輮、爲ニ沙石破一ニ碎之一、欲レ得ニ表裏相依堅刃一。〔疏〕釋曰、此注、後鄭增ニ成先鄭之義一言、仄レ柔者、堅者在レ外、柔者在レ內、以下其取ニ堅刃一相成上故也。

【仄室】9 ソクシツ　側室（1－897‥29）に同じ。❶妾をいふ。〔淮南子、修務訓〕琴或撥剌枉橈、闇解漏越、而稱以ニ楚莊之琴一、仄室爭鼓レ之。〔注〕撥剌不正、枉橈曲弱、闇解壞、漏越音聲散、託レ之爲ニ楚莊王琴一、則側室之寵人、爭鼓レ之也。❷卿大夫の庶子。衆子。〔漢書、賈誼傳〕天下殽亂、高皇帝與ニ諸公一併起、非下有ニ仄室之勢一、以豫席上之也。〔注〕應劭曰、禮、卿大夫之支子爲ニ側室一、席、大也、臣瓚曰、席、籍也、言、非下有ニ側室之勢一、爲レ之資藉上也、師古曰、瓚說是也。

【仄日】10 ソクジツ　傾く日。ゆふひ。斜陽。斜暉。〔梁簡文帝、餞ニ廬陵內史王脩一應令詩〕疎槐未レ合レ影、仄日暫流光。

【仄聲】11 ソクセイ　漢字の上聲・去聲・入聲をいふ。仄韻（2）に同じ。〔沈約、四聲譜〕上去入爲ニ仄聲一。

【仄席】12 ソクセキ　自分の席を側によせる。人の爲によい席をあけること。轉じて、己を虛しくして人を待つこと。側席（1－897‥41）に同じ。仄は側の古字。〔漢書、陳湯傳〕湯曰、臣聞、楚有ニ子玉得臣一、文公爲レ之仄レ席而坐。〔注〕師古曰、禮記曰、有レ憂者、側レ席而坐、仄、蓋古側字也。

【仄慝】13 ソクトク　月と日との運行が食い違つて、陰曆朔日に月が出ること。尙書大傳、洪範には側匿に作る。仄匿。〔漢書、五行志下之下〕朔而月見ニ東方一、謂ニ之仄慝一、云云、仄慝者、不レ進之意、君肅急則臣恐懼、故日行疾而月行遲、不ニ敢迫一ニ近君一也。〔注〕孟康曰、仄慝者、月行遲在ニ日後一、當レ沒而更見也。

【仄媚】15 ソクビ　よこしまで人に媚びる。側媚。〔亢倉子、賢道〕若天子疑ニ忌大臣一、巧隨レ之求レ士、則奇姓異名、仄媚怪術之材至。〔文心雕龍、程器〕孔光負ニ衡據一、鼎而仄ニ媚董賢一。

【仄微】16 ソクビ　身分が低くいやしい。低くいやしい身分。又、衰へる。側微（1－897‥66）に同じ。〔漢書、敍傳下〕王氏仄微、世武作レ嗣。〔魏志、文帝紀、肅承ニ天命一、注〕孝宣仄微、字成ニ木葉一、光武布衣、名已勒識。〔舊五代史、周世宗紀贊〕世宗頃在ニ仄微一、尤務ニ韜晦一。

【仄聞】17 ソクブン　ほのかにきく。風の便りにきく。側聞。〔漢書、賈誼傳〕仄聞屈原兮、自湛ニ汨羅一。〔注〕師古曰、仄、古側字。〔荻生徂徠、復ニ安澹泊一書〕不佞茂卿、自ニ少小一仄聞ニ大邦之風一、私心鄉往者尙矣。

【仄目】18 ソクモク　目をそばめる。まともに見ないこと。側目。〔漢書、息夫躬傳〕衆畏ニ其口一、見レ之仄レ目。

【仄陋】19 ソクロウ　賤しい身分。側陋（1－897‥85）に同じ。〔晏子、重而異者〕如ニ樂者一、仄陋之人也。〔漢書、循吏傳序〕孝宣繇ニ仄陋一而登ニ至尊一。〔注〕師古曰、仄、古側字、仄陋、言下非ニ正統一而身經ニ微賤一上也。〔後漢書、竇融傳論〕非下復搜ニ揚仄陋一、選ニ舉而登上也。

【仄二聯】20 ソクレンサン　近體詩句の下二字に全仄を用ひるもの。仄二連。下二聯（1－14‥631）を見よ。

【仄注冠】21 ソクチウクワン　形がそばだつて、先が下に垂れた冠。〔漢書、五行志中之上〕多治ニ仄注冠一。〔注〕應劭曰、今法冠、是也、師古曰、謂ニ之仄注冠一者、言ニ形側立而下注一也。

【仄入格】22 ソクジフカク　詩の變格。律詩八句、すべて第一字を仄字にした詩。〔詩人玉屑〕八句仄入格。

仅 353

㊀フ　㊁付（1－373）に同じ。〔六書正譌〕又、手也、从ニ手持レ物以對ニ人曰一仅。㊂奴（3－6039）に同じ。〔集韻〕奴、或作レ仅。

仆 354

小篆

㊀フ　〔集韻〕芳遇切　遇　ㄈㄨˋ　fu⁴

㊁ホク　〔集韻〕普木切　屋　ㄆㄨˋ　p'u⁴

㊂ホク　〔集韻〕鼻墨切　職　ㄅㄧˋ　pi⁴

㊃ホク　〔集韻〕敷救切　宥　ㄆㄧㄡˋ　p'iu⁴

㊄フウ　〔集韻〕匹候切　宥　ㄆㄧㄡˋ　p'iu⁴

㊅ホウ　〔集韻〕芳遇切　遇　ㄈㄨˋ　fu⁴

㊀㊁㊂㊃㊄㊅❶たふれる。たふす。〔說文〕仆、頓也、从ニ人卜聲一。〔集韻〕仆、說文、頓也、一曰、僵也。〔史記、司馬穰苴傳〕仆レ表決レ漏。〔注〕索隱曰、仆者、臥ニ其表一也。〔漢書、周勃傳〕執戟皆仆兵罷。〔注〕師古曰、仆、頓也。〔漢書、何並傳〕代到、將ニ有ニ僵仆者一。〔注〕師古曰、仆、顚也。〔陸雲、愁霖賦〕黍稷仆ニ於中田一。〔素問、經脈別論〕度レ水跌仆。〔注〕仆、謂ニ身倒一也。

❷くつがへる。顚覆する。〔韓愈、祭二李郴州一文〕名顚位仆。〔唐書、房杜傳贊〕興レ仆植レ僵。❸斃れる。死ぬ。ころす。〔漢書、董仲舒傳〕日以仆滅。〔注〕師古曰、仆、斃也。〔漢書、司馬相如傳上〕弦矢分、藝殪仆。〔注〕郭璞曰、仆、斃也。〔唐書、薛仁貴傳〕所レ射皆應レ弦而仆。❹或は赴(10－37182)・趏(10－37158)・掊(5－12244)・踣(10－37649)に作る。〔一切經音義、四〕仆、古文作レ踣。〔釋名、釋姿容〕仆、踣也、頓レ路而前也。〔集韻〕仆、或作二赴・趏・掊・踣一。

【仆偃】1 フエン たふれふす。たふれる。偃仆。

【仆僵】2 フキヤウ たふれる。偃仆。〔潘尼、惡道賦〕輪輿顚覆、人馬仆僵。

【仆臥】3 フグワ たふれふす。〔南史、梁吳平侯勵傳〕遇二風雨一仆二臥中路一。

【仆死】4 フシ たふれ死ぬ。又、其の死骸。〔後漢書、王符傳〕乃有下仆二死深牢一、銜中刀都市上。

【仆質】5 フシツ しかばね。死屍。〔顏延之、赭白馬賦〕加二弊帷一收二仆質一、天情周皇恩畢。「に同じ。

【仆顚】6 フテン たふれふす。顚仆(12－43628・・49)

【仆頓】7 フトン たふれる。頓はつまずく。仆倒。仆顚。顚倒。〔論衡、效力〕猶有二仆頓之禍一。

【仆斃】8 フヘイ たふれて死ぬ。斃死。〔漢書、司馬相如傳上〕弦矢分、藝殪仆、注〕郭璞曰、仆、斃也。

【仆滅】9 フメツ たふれ亡びる。〔漢書、董仲舒傳〕然猶不レ能レ反、日以仆滅。〔注〕師古曰、仆、斃也。

【仆柳】10 フリウ たふれた柳。〔漢書、劉向傳〕孝昭帝時、冠石立二於泰山一、仆柳起二於上林一。

【仇】355

小篆

㈠キウ 〔集韻〕渠尤切 尤 chʻou² ㄔㄡˊ
㈡グ
㈢ク 〔集韻〕恭于切 虞 chʻiu² ㄑㄧㄡˊ

㈠❶あだ。かたき。うらみ。〔說文〕仇、讎也、从レ人九聲。〔禮、檀弓上〕父母之仇。〔左氏、桓、二〕嘉耦曰レ妃、怨耦曰レ仇、古之命也。〔詩、周南、兔罝〕公侯好仇。〔箋〕怨耦曰レ仇、此兔罝之人、敵國有二來侵伐者一、可レ使三和二好之一。〔史記、留侯世家〕張良爲レ韓報レ仇。〔張衡、東京賦〕忘二民怨之爲一レ仇。❷あだする。かたきとする。うらむ。にくむ。〔廣雅、釋詁三〕仇、惡也。〔書、五子之歌〕萬姓仇レ予。〔傳〕仇、怨也。〔書、仲虺之誥〕乃葛伯仇レ餉。〔傳〕仇、怨也。〔太玄經、斷〕爾仇不レ闊。❸つれあひ。つれあふ。たぐひ。とも。〔爾雅、釋詁〕仇、合也、匹也。〔注〕謂二對合一也。〔詩、秦風、無衣〕與レ子同仇。〔傳〕仇、匹也。〔禮、緇衣〕君子好仇。〔注〕仇、匹也。❹おごり高ぶるさま。仇仇(15)を見よ。❺或は执(1－195)に作り、通じて逑(11－38878)に作る。〔一切經音義、十五〕仇、古文逑同。〔集韻〕仇、或作レ执、通作レ逑。❻姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕仇氏、宋大夫仇牧之後、王莽時有二仇延一、唐宦者仇士良、宋朝仇靄、登二進士第一、又有二仇著・仇伯玉一、並開封人、又有二仇悆待制一、望出二南陽一。㈡くむ。斞(5－13531)に通ず。〔集韻〕斞、說文、挹也、或作レ仇。〔詩、小雅、賓之初筵〕賓載手仇。〔箋〕仇、讀曰レ斞。云云、賓手挹レ酒。〔釋文〕仇、謂三挹二取酒一。

【仇維】1 キウヰ 山名。甘肅省成縣の西。仇池。〔三秦記〕仇池山、本名二仇維一、其上有レ池、故曰二九池一、仇池方百頃、其旁平地二十餘里、四面斗絕而高、爲二羊腸盤道一三十六回而上、魏・晉之世、楊氏世據二九池一。

【仇由】2 キウイウ 春秋時代の小國。仇猶の❶を見よ。〔韓非子、說林下〕智伯將レ伐二仇由一、而道難不レ通、乃鑄二大鐘一、遺二仇由之君一。

【仇猶】3 キウイウ ❶春秋時代の國の名。今の山西省盂縣の東北。晉の荀瑤に滅ぼされた。又、仇由(韓非子、說林)・厹繇(呂覽、權勳)・厹由(戰國、西周策)・仇首(戰國、西周策、高誘注)・厹猶(漢書、地理志)に作る、皆同じ。〔史記、樗里子傳〕智伯之伐二仇猶一、遺二之廣車一。❷川の名。腥河のこと。今の盂縣にある。仇猶君の妃が節に殉じたところであるからいふ。

【仇殷】4 キウイン 後梁の人。象緯・曆數に通ず。官は欽天監。〔舊五代史、二十四〕。

【仇英】5 キウエイ 明、太倉の人。字は實父。號は十洲。明代隨一の宮廷畫家で、特に人物畫・山水畫に秀づ。〔明畫錄、一〕。

【仇鉞】6 キウエツ 明、鎭原の人。字は廷威。諡は武襄。官は寧夏總兵官。〔明史、一百七十五〕・〔萬斯同明史、二百六十三〕・〔明史稿、一百五十七〕。

【仇怨】7 キウエン うらみ。怨恨。〔史記、秦始皇紀〕諸嘗與二王生レ趙時母家一有二仇怨一、皆阬レ之。〔史記、留侯世家〕所レ誅者、皆生平所二仇怨一。

【仇遠】8 キウエン 元、錢塘の人。字は仁近、又、仁父。餘杭の溪山の仇山に居り、自ら山村民と號す。又、號は金淵。宋末、白珽と名を齊しくし、仇白と稱せらる。元初、溧陽州儒學教授。詩文に巧。著に金淵集・山村遺集がある。〔新元史、二百三十七〕。

【仇惡】9 キウヲ 仇としてにくむ。〔舊唐書、陸贄傳〕延齡姦佞得レ君、天下仇惡、無二敢言一。

【仇家】10 キウカ 怨のある家。又、かたき。〔史記、酷吏、楊僕傳〕仇家欲レ燒二其尸一。〔漢書、郭解傳〕洛陽人有二相仇者一、解夜見二仇家一。

【仇海】11 キウカイ 父が海に溺死したので、海を仇として賦を作った孝子陳彥廉の故事。〔樂郊私語〕陳彥廉、父思恭、溺二死海中一、陳涕泣曰、陽侯吾父仇也、恨不下能如二精衞一以二木石一塞上此、黃子久爲作二仇海賦一以紀二其事一。

【仇香】12 キウカウ ❶主簿の異名。〔事物異名錄、爵位、主簿〕野客叢書、文士有下因二其人名一、遂爲二事用一者上、如下近日呼二主簿一爲二仇香一之類上。〔書言故事、主簿類〕常談、主簿曰二仇香一。❷後漢、仇覽(60)の一名。

【仇校】13 キウカウ 二つの書物を引き合せて其の異同を正すこと。仇はかたきのやうにする意。校正。校合。校讐。〔事類全書〕喜藏二異書一、皆手自仇校。

【仇忌】14 アタユマヒ 他人を仇敵の如く怨むこと。一說に、あたはら(疝氣)に同じといふ。〔萬葉集、二十〕ふたほがみ、あしけ人なり、あたゆまひわがする時に、さきもりにさす。

【仇仇】15 キウキウ 傲るさま。〔爾雅、釋訓〕仇仇・敖敖、傲也。〔詩、小雅、正月〕執レ我仇仇、亦不二我力一。〔傳〕仇仇、猶二謷謷一也。

【仇牛】16 キウギウ 夷の名。〔漢書、王莽傳中〕自二越嶲・遂久・仇牛・同亭・邪豆之屬反畔一以來、積且二十年一。

【仇偶】17 キウグウ つれあひ。つれあひとなる。配偶。匹耦。〔王褒、四子講德論〕鳴聲相應、仇偶相從。

【仇貨】18 chʻou² huo⁴ 排外者が、敵と思ふ國の貨物を憎んでいふ。

【仇景】19 キウケイ 漢、南道の人。游俠を以て聞えた。「〔漢書、九十二〕。

【仇敬】20 キウケイ 明、曲沃の人。字は中立。若くして郝修己と共に紫金山に棲む。洪武の初、鄕試第一。進士より肇昌知府に至る。〔萬姓統譜〕。

【仇溪】21 キウケイ 川の名。浙江省餘杭縣の東北。二源あつて、一は臨安縣の高陸山に、一は獨松嶺に發し、仇山の下で合流する。〔讀史方輿紀要、浙江、杭州府、餘杭縣〕仇溪、縣東北二十里、有二二源一、一出二縣西北高陸山一、東流八十六里、至二縣北十五里仇山北一、一出二縣西北獨松嶺一、東流八十里、亦至二仇山下一而合流、又東十里入二于苕溪一。

【仇隙】22 キウゲキ 自分の仲の惡い人や怨に思つてゐる人。〔後漢書、質帝紀〕恩阿レ所レ私、罰枉二仇隙一。

【仇隟】23 キウゲキ 世說新語の篇名。

【仇嫌】24 キウケン 仇としてにくむ。仲が惡い。不和。仇惡。〔後漢書、西羌傳論〕羣種蜂起、遂解二仇嫌一結二盟詛一。

【仇儼】25 キウゲン 後魏の人。洛齊の養子。諡は靜。官は虎牢鎭將。〔魏書、九十四〕。

【仇吾】26 キウゴ ❶國の名。❷を見よ。❷複姓。〔萬姓統譜〕仇吾、韓子云、仇吾國、爲二知伯所一レ滅、因氏焉。

【仇告】27 キウコク 不和のうつたへ。〔福惠全書、刑名部、逃人、部文行レ提〕係二謊告仇告一、將二首告人一

枷號。

【仇國】28 キウコク 仇のある國。敵國。

【仇國論】29 キウコクロン 書名。蜀、譙周撰。軍旅の利害を論じたもの。〔蜀志、譙周傳〕時軍旅數出、百姓彫瘁、周與二尚書令陳祇一論二其利害一、退而書レ之、謂二之仇國論一。

【仇恨】30 キウコン あだ。うらみ。仇怨。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕一笑釋二仇恨一、百金交二弟兄一。

【仇殺】31 キウサツ かたきに殺される。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕不二敢復言一仇殺一。

【仇山】32 キウザン 山名。浙江省杭縣の北。山上にも仇王廟があつたので名を得た。

【仇屍】33 キウシ 死屍を斬る。屍は死者の腐肉。〔海錄碎事、人事、報怨〕至二姦人仇レ屍以逞一、謂レ斷レ棺也、唐書。

【仇視】34 キウシ かたきと見なす。敵意をもつ。仇敵のやうに視る。敵視(5－13354‥33)を見よ。

【仇讎】35 キウシウ あだかたき。〔左氏、莊、二十八〕今、令尹不レ尋二諸仇讎一、〔韓非子、八經〕人不レ私二父兄一、而進二其仇讎一。〔戰國、秦策〕商君固秦王之仇讎也、願大王圖レ之。〔范甯、穀梁傳序〕以不レ納二子糾一爲二內惡一、是仇讎可二得而容一也。

【仇讎敵戰之國】36 キウシウテキセンノクニ あだかたきとして戰ふ國。〔呂覽、長攻〕夫吳之與レ越、接レ土鄰レ境、道易二人通一、仇讎敵戰之國也。

【仇相】37 キウシヤウ 明、淄川の人。字は君佐。官は饒陽令。後、崢縣に轉ず。〔國朝獻徵錄、五〕・〔本朝分省人物攷、九十四〕。

【仇餉】38 キウシヤウ 糧食を運ぶ者を殺して其の糧食を奪ふこと。〔書、仲虺之誥〕葛伯仇レ餉。〔傳〕葛伯遊行、見二農民之餉一、於田一者一、殺二其人一奪二其餉一、故謂二之仇一餉。〔孟子、滕文公下〕孟子曰、湯居レ亳、與二葛爲一鄰、葛伯放而不レ祀、湯使二人問一レ之、曰、何爲不レ祀、曰、無二以供一犧牲一也、湯使レ遺二之牛羊一、葛伯食レ之、又不二以祀一、湯又使二人問一レ之、曰、何爲不レ祀、曰、無二以供一粢盛一也、湯使二亳衆往爲一之耕、老弱饋レ食、葛伯率二其民一、要二其有一酒食黍稻一者一奪レ之、不レ授者殺レ之、有二童子一、以二黍肉一餉、殺而奪レ之、書曰、葛伯仇レ餉、此之謂也。

【仇首】39 キウシユ 春秋時代の國の名。仇猶(3)の(一)を見よ。

【仇人】40 キウジン (一)かたき。敵手。〔韓非子、揚權〕彼求我予、假二仇人斧一。(二)ピト 浮氣者。〔古今集、十五〕秋といへばよそにぞ聞きしあだびとのわれをふるせる名にこそありけれ。

【仇成】41 キウセイ 明、含山の人。謚は莊襄。官は橫海指揮同知。雲南に從軍して功を立つ。〔明史、一百三十一〕・〔萬斯同明史、一百六十六〕・〔明史稿、一百十九〕。

【仇討】42 アダウチ 怨ある人を討つこと。復讐。

【仇討免許狀】43 アダウチメンキヨジヤウ 德川時代、上司から仇討を許すと證して下付する文書。

【仇池】44 キウチ (一)山名。甘肅省成縣の西。仇維。〔三秦記〕山本名二仇維一、其上有レ池、故曰二仇池一。〔後漢書、西南夷傳〕仇池〕方百頃、四面斗絕。(二)郡名。㋑晉の時、楊定が天水の西縣と武都と上祿とを割いて仇池郡とすることを求めた。故城は今の甘肅省成縣の仇池山に在る。後魏、仇池郡を置く。隋の時に改めて漢楊郡とす。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、成縣〕仇池城、在二縣西北百里仇池山上一、云云、晉大寧初、劉曜遣レ將侵二楊難敵一、難敵南奔二漢中一、曜置二益州刺史一、鎭二仇池一、既而難敵復據二五都一、襲取二仇池一、永和三年、楊初稱二藩於晉一、因置二仇池郡一。㋺南齊、置く。今の陝西省南鄭縣の地。

【仇池筆記】45 キウチヒツキ 書名。二卷。舊本には宋の蘇軾の撰と署してあるが、軾の手著ではない。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【仇尼】46 キウニ 複姓。〔十六國春秋、後燕錄〕鮮卑有二仇尼氏一、北燕有二此姓一、多爲二顯官一。

【仇邸】47 キウテイ かたきの屋敷。

【仇敵】48 キウテキ かたき。あだ。〔左氏、昭、十八〕許、於レ鄭仇敵也。〔荀子、王制〕彼將日日挫二頓竭一之於仇敵。〔史記、蔡澤傳〕楚、趙天下之彊國、而秦之仇敵也。

【仇波】49 アダ 表面だけにたつ浪。徒らに立騷ぐ波。轉じて、思ひいらだつに譬へていふ。徒波。〔古今和歌集、戀四〕そこひなき淵やはさはぐ山川の淺き瀨にこそあだなみはたて。

【仇方】50 キウハウ 大惡を行ふ隣國。又、かたきの國。仇國。〔詩、大雅、皇矣〕帝謂二文王一、詢二爾仇方一。〔箋〕怨耦曰レ仇、仇方、謂レ旁國諸侯、爲二暴亂大惡一者一。〔集傳〕仇方、讐國也。

【仇博】51 キウバク 宋、新安の人。字は彥文。文を善くし、年十二にして至樂堂記を作り、蘇軾に奇とせらる。後、擧に應ずるも第せず、慨然として采石に遊び、李白の祠に謁し、之と對飮し、誄を作る。〔萬姓統譜〕。

【仇扳】52 キウハン 私怨のため、その人に何等關係のない事で訴訟事件を起すこと。扳は、かかりあひ。〔六部成語、刑部、仇扳、注解〕扳、牽涉也、因下與二此人一有レ仇、將二無レ干之事一、牽涉訟之也。

【仇匹】53 キウヒツ 同等のあひて。同じなかま。同輩。〔詩、秦風、無衣、與レ子同仇、疏〕與レ子同爲二仇匹一。〔春秋繁露、楚莊王〕百物皆有二合偶一、偶レ之合レ之、仇レ之匹レ之、善矣、詩云、威儀抑抑、德音秩秩、無怨無惡、率二由仇匹一、此之謂也。

【仇証】54 キウ 不和に本づく言ひがかり。〔福惠全書、刑名部、拿審〕首人必係二仇証一、律當二反坐一。

【仇物】55 モノ あでやかな美人。

【仇剽】56 ヘウ あだしおびやかす。〔唐書、滕東王道彥傳〕我資二其軍一、而隋無レ信、反見二仇剽一。

【仇矛】57 ホコ 三叉ある矛。〔釋名、釋兵器〕仇矛、頭有二三叉一、言下可二以討一仇敵一之矛上也。

【仇牧】58 ボク 春秋、宋の大夫。宋の南宮萬が閔公を殺した時、共に死んだ忠臣。〔春秋、莊、十二〕宋萬弒二其君捷一、及二大夫仇牧一。〔史記、宋世家〕(南宮萬)遂以局二殺湣公于蒙澤一、大夫仇牧聞レ之、以レ兵造二公門一、萬搏レ牧、牧齒著二門闔一死。

【仇愈】59 キウヨ 宋、益都の人。字は泰然。大觀の進士。官は陝西都轉運使。秦檜に憎まれて落職したが、後、官を積んで左朝議大夫に至る。爵は益都縣伯。〔宋史、三百九十九〕・〔宋史新編、一百三十七〕・〔南宋書、二十六〕。

【仇覽】60 キウラン 後漢、考城の人。一名、香。字は季智。官は蒲の亭長。其の三子は皆、文學の才を以て知られた。〔後漢書、一百六〕。

【仇覽棲鸞】61 キウランセイラン 蒙求の標題。後漢の仇覽が鸞鳳の如き仁愛の德を以て人を化した故事。〔後漢書、循吏、仇覽傳〕時考城令河內王渙、政尙二嚴猛一、聞二覽以德化一レ人、署爲二主簿一、謂レ覽曰、主簿聞二陳元之過一、不レ罪而化レ之、得無レ少二鷹鸇之志一邪、覽曰、以爲鷹鸇不レ若二鸞鳳一、渙謝遣曰、枳棘非二鸞鳳所一レ棲、百里豈大賢之路、今日太學曳レ裾二飛名譽一、皆主簿後耳、以二一月奉一爲レ資、勉卒二景行一。

【仇鸞】62 キウラン 明、鎭原の人。鉞の孫。官は太子太保。俺答が京師を犯すや、これを擊ち、却つて潰走す。後、嚴嵩と結んで免ぜられた。〔明史、一百七十五〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百五十七〕。

【仇虜】63 リヨ 捕虜。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕朝爲二仇虜一、夕爲二上將一。

【報レ仇】64 アダヲムクユ 讐を復する。〔史記、呂后紀〕託レ天報レ仇。〔史記、留侯世家〕長良爲レ韓報レ仇。

【仇巨川】65 キウキヨセン 清、順德の人。字は少滄、又、匯州。號は竹輿。書室を勒竹齋といふ。著に勒竹齋集がある。

【仇桂芳】66 キウケイハウ 明の人。養蒙の子。字は月賓。母に事へて至孝。官は洧川令。〔陝西通志〕。

【仇士良】67 キウシリヤウ 唐、興寧の人。字は匡美。武宗の時、觀軍容使となり、左右軍を統ぶ。嘗て二王・一妃・四宰相を殺し、貪酷二十餘年に及ぶ。〔唐書、二百七〕。

【仇廷模】68 キウテイボ 清、寧波の人。字は季亭。康熙の擧人。官は知縣。著に古今韻表新編がある。〔四庫提要、四十四〕。

【仇兆鰲】69 キウテウガウ 清、鄞の人。字は滄柱。康熙の進士。官は吏部右侍郎。若くして黃宗羲に學び、性命の學を講求す。著に四書說約・杜詩詳注がある。〔國朝耆獻類徵、六十二〕・〔文獻徵存錄、十五〕。

【仇摩置】70 チマ 于闐南山の俗稱。今の和闐の南の尼蘇依山。〔水經、河水注〕河水又東、與二于闐河一合、南源導二于闐南山一、俗謂二仇摩置一、自レ置北流、逕二于闐國西一、又西北流注二於河一。

【仇養蒙】71 キウヤウモウ 明、富平の人。父母に事へ、よく孝養をつくす。〔陝西通志〕。

【仇洛齊】72 キウラクセイ 後魏、中山の人。本姓は侯氏。外家、仇氏の養子と爲る。謚は康。官は太武帝の時、給事黃門侍郎。涼州を平げた功で內都大官に拜せらる。〔魏書、九十四〕・〔北史、九十二〕。

【仈】356 ハツ ハチ 〔字彙〕布拔切 黠

姓。〔字彙〕仈、姓也。

【仉】357 シヤウ 〔集韻〕止兩切 養

❶姓。〔萬姓統譜〕仉、見二姓苑一、周孟子母仉姓。❷仉督は人名。仉(1－458)に通ず。〔集韻〕仉、仉督、梁四公子名、或从レ爪、一說从レ几者誤。

【今】358 キン コン 〔集韻〕居吟切 ㄐㄧㄣ chin¹ 侵

小篆 ❶いま。㋑このとき。〔說文〕今、是時也、从二亼乁一、乁、古文及。〔史記、項羽紀〕今釋弗レ擊、此所謂養レ虎自遺レ患也。㋺けふ。今日。〔詩、召南、摽有梅〕迨二其今一兮。〔集傳〕今、今日也。〔陶潛、歸去來辭〕覺二今是而昨非一。㋩現在。現代。現世。〔中庸〕生二乎今世一、反二古之道一。〔孟子、梁惠王下〕今之樂、由二古樂一也。〔漢書、元帝紀〕是レ古非レ今。〔韓愈、原道〕古之爲レ民者四、今之爲レ民者六。〔圓覺經〕無レ起無レ滅、無二去來今一。㋥ただちに。卽。〔經傳釋詞、三〕孫炎注二爾雅釋詁一曰、卽、猶レ今也、故今亦可二訓爲一レ卽、書召誥曰、其丕能諴二于小民一、今休、又曰、王厥有二成命一、治レ民今休、皆謂二卽致二太平之美一也、云云、今字竝與レ卽同レ義。〔詩、召南、摽有梅〕迨二其今一兮。〔傳〕今、急辭也。〔史記、汲鄭傳〕吾今召レ君矣。〔注〕索隱曰、今、猶二卽今一也。❷これ。ここに。指事の詞。〔經傳釋詞、三〕今、指事之詞也、云云、禮記三年問曰、今是大鳥獸、晉語、今君之所レ聞也、猶レ言二是君之所一レ聞也、宣十五年公羊傳、是何子之情也、韓詩外傳、是作レ今、皆指事之詞。❸或は。若し。發語の辭。〔禮、曾子問〕今墓遠、則其葬也如レ之何。〔經傳釋詞、三〕家大人曰、今猶レ若也、云云、今墓遠、則其葬也如レ之何、今墓遠、若墓遠也。〔陳師道、思亭記〕今夫升レ高、以望二松梓一。❹姓。〔萬姓統譜〕今、姓。

名乘 コン(姓)。

解字 會意。亼と乁との合字。亼は三合の象で、數世を合すること。乁は及の字。故に數世を合して是時に及ぶの意。更に急辭とし、卽今とする。〔說文、今、段注〕今者對レ古之稱、是時者、如レ言二目前一、云云、會意、乁、逮也。〔說文通訓定聲〕今、蒼頡篇、今、時辭也、詩摽有梅、迨二其今一兮、傳、今、急辭也、史記汲鄭傳、吾今召レ君矣、索隱、今猶二卽今一也。▽Ａ(甲骨文) 指事。物を上から覆ひ含む意を示すと思はれる。

參考 令(1－387)は別字。

【今案】1 コンアン 佛今の自分の考。〔法華文句、三上〕今案彼經釋、無量義者從二一法一生。〔職原鈔、跋〕只任二道理一、不レ加二今案一。

【今韻】2 キンヰン 古韻(2－3233‥12)の對。齊・梁以後の韻書で、四聲に分つた者の稱。特に今日通用の詩韻を指して言ふのではない。今音。〔四庫提要、經、小學類〕案、韻書爲二小學之一類一、而一類之中、又自分二三類一、曰、今韻、曰、古韻、曰、等韻也、本各自一家之學、至レ金而等韻合二於今韻一、至二南宋一而古韻亦合二於今韻一、至二國朝一而等韻又合二於古韻一、三類遂相牽而不レ能レ分、今但通以二時代一次レ之、其篆韻之類、本不二爲レ韻而作一者、則仍歸二之於字書一。〔說文通訓定聲、古今韻準自敍〕復取二今韻一、而權二衡之一。〔經解入門、說レ經必先知二音韻一〕字有二古音一、卽有二古韻一、以二今音・今韻一繩レ之、則扞格不レ合、猶下語有二北音一、以二南音一繩上レ之、扞格猶レ故也、人知二南北之音繫二於地一、不レ知三古今音之繫二乎時一。

【今雨】3 キンウ 新に交はつた友。雨は友と音通。〔杜甫、秋述〕秋、杜子臥二病長安一、旅次多レ雨生レ魚、青苔及レ榻、常時車馬之客、舊雨來、今雨不レ來。〔范成大、題二清息齋一詩〕冷煖舊雨今雨、是非一波萬波。

【今音】4 キンオン 魏・晉・唐・宋閒の語音。周・秦・兩漢の古音に對していふ。或は今韻ともいふ。切韻以下廣韻・集韻・禮部韻略・韻府群玉・佩文詩韻など皆今音に屬す。今韻(2)を見よ。〔錢大昕、六書音均表序〕不三惟無二常於今音一、而古音亦滋茫昧矣。

【今夏】5 コンカ ことしの夏。〔杜甫、述レ懷詩〕今夏草木長、脫レ身得二西走一。〔陸游、秋雨排レ悶詩〕今夏久無レ雨、從レ秋卻少レ晴。

【今庚】6 chin¹ kêng¹ 今年。ことし。

【今學】7 キンガク ❶書法に於て北碑漢篆をいふ。〔廣藝舟雙楫〕今學者、北碑漢篆也、所レ得以レ碑爲レ主、凡鄧石如・張廉卿等、是也。❷經學の一派。今文學(100)の略稱。

【今器】8 キンキ 現代の樂器。〔白居易、復二樂古器古曲一文〕若廢二今器一用二古器一、則哀淫之音息矣。

【今鏡】9 イマカガミ 書名。十卷。作者未詳。大鏡のあとを受けて、後一條天皇から高倉天皇までの百四十餘年閒の事を記す。一名、續世繼。

【今宮】10 イマミヤ 今生れ給へる皇子。〔源氏物語、竹川〕この今宮をば思ひきこえたまへり。

【今宮祭】11 イマミヤマツリ 山城國紫野の今宮の祭。陰曆五月九日に行ふ。

【今曲】12 キンキヨク 新しい曲。新曲。〔白居易、復二樂古器古曲一文〕若捨二今曲一奏二古曲一、則正始之音興矣。

【今回】13 コンクワイ このたび。今次。今般。

【今家】14 コンケ 佛自己の宗派。〔止觀大意〕今家教門、以二龍樹一爲二始祖一。

【今曉】15 コンゲウ けさ。今朝。〔楊萬里、雪後十日日暖雪猶未レ融詩〕今曉還差暖、淸寒退尙遲。

【今月】16 コンゲツ ❶この月。當月。〔任昉、到二大司馬記室一牋〕伏承、以二今月令辰一、肅膺二典冊一。〔隋書、李穆傳〕以二今月十三日一、恭膺二天命一。❷キンゲツ 今の世の月のひかり。今月古月を見よ。

【今月古月】18 キンゲツコゲツ 今の月と昔の月。〔抱朴子、尙博〕今月不レ及二古月之朗一。〔李白、把レ酒問レ月詩〕今人不レ見二古時月一、今月曾經照二古人一。

【今古】18 キンコ ❶いまとむかし。古今。今昔。今故。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕議論證二據今古一、出二入經史百子一。〔杜牧、題二宣州開元寺水閣一詩〕六朝文物草連レ空、天澹雲閑今古同。❷今文と古文。

【今古文】19 キンコブン 經學の今文と古文とをいふ。今古學派を見よ。

【今古學攷】20 キンコガクカウ 書名。一卷。淸、廖平撰。孔子は、壯年時代には、古學に從ひ周禮を正宗とし、周公を祖としたが、晚年には、今學に從ひ、春秋を正宗としたといひ、孔子の理想は春秋に寓せられて居ると論じてゐる。〔六譯館叢書、第十七・十八冊〕。

【今古學派】21 キンコガクハ 經學の今文學派と古文學派。古文(2－3233‥438)及び今文學(100)を見よ。

【今古奇觀】22 キンコキクワン 小說書の名。四十卷。明、抱甕老人撰。喩世明言・警世通言・醒世恆言等の所謂三言や古今小說の中から物語・小說等凡そ四十篇を選刻したもの。淸代の傳奇の胡蝶夢や、我が國の瀧澤馬琴の松染情史・美少年錄、都賀庭鐘の英草紙等に甚だしく影響した。

【今故】23 キンコ 今古(18)に同じ。〔莊子、秋水〕證二嚮今故一、故遙而不レ悶。〔注〕今故猶二今古一。

【今吾】24 キンゴ ❶前日の吾に對して、今日の吾。〔王炎、元日書レ懷詩〕年光除日又元日、心事今吾非二故吾一。❷淸、徐是傚(4－10110‥455)の號。

【今後】25 コンゴ 今よりのち。〔賈島、寄二李輈侍郞一詩〕追琢垂二今後一、敦龐得二古初一。

【今歲】26 コンサイ ことし。今年。〔元稹、賦レ得數蓂詩〕堯年始二今歲一、方欲レ瑞二千齡一。

【今在】27 コンザイ まのあたり。目前。〔大藏流狂言、

宗論）今在西方阿彌陀。

【今早】28 キサウ 今朝。（福惠全書、刑名部、賊盜上、失事）今早從二何處一起レ身、歇家是何姓名。

【今草】29 キンサウ 晉・唐以後に作られた草書。章草（8－25761‥80）に對す。（宣和書譜、草書敍論）至二張白英一、遂復脫二落前習一、以成二今草一。

【今參】30 イマイリ 新參者。（枕草紙、二）今參りの、さし越えて物知顏に教へやうなる事。

【今次】31 コンジ 此度。今回。

【今事】32 コンジ 今の時代の事柄。（漢書、劉向傳）竊推二春秋災異一、以救二今事一二一。

【今兒】33 chin¹ ərh けふ。今天。今日。

【今兒個】34 chin¹ ərh kè 今日。今兒・今天（8－4）の●に同じ。

【今時】35 コンジ 當今。今者。（戰國、燕策）今時趙之於レ秦、猶二郡縣一也。（萬楚、五日觀レ妓詩）西施讓道浣二春紗一、碧玉今時嗣二麗華一。

【今玆】36 キンジ ●今年。（左氏、僖、十六）今玆魯多二大喪一。（左氏、宣、十二）昔歲入レ陳、今玆入レ鄭。（孟子、滕文公下）什一去二關市之征一、今玆未レ能、請輕レ之、以待二來年一。●ここに。此の時。

【今秋】37 コンシウ 今年の秋。（沈約、悼往詩）去秋二五月、今秋還照レ房。（白居易、早秋曲江感懷詩）去歲此悲レ秋、今秋復來レ此。

【今日】38 コンニチ ●このひ。けふ。（禮、文王世子）今日安否何如。（孟子、公孫丑上）宋人有下閔二其苗之不一長、而揠レ之者上、芒芒然歸、謂二其人一曰、今日病矣、予助レ苗長矣。（荀子、不苟）天地始者、今日是也。●このごろ。現在。（荀子、非相）欲レ觀二千載一、則數二今日一。（墨子、大取）昔者之慮也、非二今日之慮一也。

【今日箇】39 chin¹ jih⁴ kè 今日に同じ。（西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇）今日箇、玉堂人物難親近。

【今日之民】40 コンニチノタミ 今の世の民。（山陽文稿）今日之民、猶二古昔之民一也。

【今日之顏子】41 コンニチノガンシ 賢德ある人。晉の羊祜の德を稱していふ。今の世に於ける顏子であるといふ意。顏子は孔子の高弟顏回。（晉書、羊祜傳）太原郭奕見レ之曰、此今日之顏子也。

【今日之天下】42 コンニチノテンカ 今日の世界。今の世。（山陽文稿）今日之天下、猶二古昔之天下一也。

【今守】53 シュ 現在の太守。（沈約、和二謝宣城一詩）昔賢侔二時雨一、今守馥二蘭蓀一。

【今種】54 キンシュ 清（屈大均（4－7669‥157）の名。

【今春】55 コンシュン ●今年の春。（沈約、悼亡詩）今春蘭蕙草、來春復吐レ芳。（杜甫、絕句詩）今春看又過、何日是歸年。●コンパル ㋑今春氏信の創めた能樂の一派。㋺姓氏。

【今書】56 キンショ 故書に對して現代の書物をいふ。

【今職】57 chin¹ chih² 現在の職務。現職。

【今津】58 コンシン 丹後國の地名。

【今人】60 コンジン いま生きてゐる人。現代の人。（劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩）古人無二復洛城東一、今人還對落花風。（裴迪、孟城坳詩）古城非二疇昔一、今人自來往。（性靈集、一、遊山慕仙詩）古人今不レ見、今人那得レ長。（田氏家集、中、仲春釋典聽二古文尚書一詩）今人欲レ聽古人歸、屬レ耳春堂到二落暉一。

【今人不見古時月】61 コンジンハミヌ コジンノツキ 今の人は昔照した月を見ることは出來ぬ。（李白、把酒問月詩）青天有レ月來幾時、我今停レ杯一問レ之、人攀二明月一不レ可レ得、月行卻與レ人相隨、皎如二飛鏡臨一丹闕一、綠烟滅盡清輝發、但見宵從二海上一來、寧知曉向二雲間一沒、白兔搗レ藥秋復春、嫦娥孤棲與レ誰鄰、今人不レ見古時月、今月曾經照二古人一、古人今人若二流水一、共看二明月一皆如レ此、唯願當レ歌對レ酒時、月光長照二金尊裡一。

【今是】62 ゼキ 今は是である。今は昨非を見よ。

【今是翁】63 ゼキオウ 明、吳文元（2－3365‥656）の號。

【今是堂】64 ゼキドウ 宋、邵囦（11－39343‥9）の室名。

【今是昨非】65 コンゼサクヒ 今日は是で昨日は非。今までのあやまちを今始めて悟つた義。（淮南子、原道訓）蘧伯玉、年五十而知二四十九年之非一。（陶潛、歸去來辭）悟二已往之不レ諫、知二來者之可レ追、實迷二途其未レ遠、覺二今是昨非一。

【今世】66 コンセイ いまのよ。現代。今代。（中庸）生二乎今之世一、反二古之道一。（漢書、龔錯傳）願陛下幸擇下聖人之術可レ用二今世一者上、以賜二皇太子一。（孔子家語、儒行解）今世行レ之、後世以爲レ楷。

【今世說】67 キンセツ 書名。八卷。清、王晫撰。宋の劉義慶の世說新語の體により、ただ自新・黜免・儉嗇・讒險・紕繆・仇隙の六類を省く。（粵雅堂叢書、第八十二・八十三冊）。

【今世之士】68 コンセイノシ 今の世のひと。又、今の世の輕薄な人。（鹽谷宕陰、送二安井仲平東遊一序）齡垂二五十一、俛焉刻厲、不レ知二頭之將レ蒼、此豈今世之士哉。

【今宵】69 こよひ 今夜（104）に同じ。（除陵、走筆戲書應令詩）今宵花燭淚、非二是夜迎一人。（唐太宗、除夜詩）冬盡今宵促、年開明日長。（雍陶、宿二嘉陵驛一詩）今宵難レ作刀州夢、月色江聲共一樓。

【今宵有レ酒今宵醉】70 コンセウサケアラバコンセウエヨ 今夜酒が有れば今夜醉ふ。今日は今日、明日は明日の意。今日のことは今日行へ。（權審、絕句詩）得卽高歌失卽休、多悲多恨謾悠悠、今宵有レ酒今宵醉、明日愁來明日愁。

【今夕】71 コンセキ こよひ。今宵。（詩、小雅、頍弁）樂二酒今夕一、君子維宴。（左思、蜀都賦）樂二飮今夕一、一醉累レ月。（韓愈、翫月喜下張十八員外與二王六祕書一至上詩）況當二今夕圓一、又以二嘉客一隨。

【永二今夕一】72 ナガクコンセキヲ 今夕を樂しく暮さう。（詩、小雅、白駒）縶二之維之一、以永二今夕一。

【今夕何夕】73 コンセキナンセキゾヤ 今晚は何たる良き夕であるぞ。又、今夜は何たる寂しい晚であるぞ。（詩、唐風、綢繆）綢繆束薪、三星在レ天、今夕何夕、見二此良人一。子兮子兮、如二此良人一何。（杜甫、今夕行）今夕何夕歲云徂、更長二燭明一不レ可レ孤。

【今夕不レ爲二明旦計一】74 コンセキアシタノケイヲナサズ 明日のことを心配しない。（通俗編、時序、今日不知明日事）陸游詩、渠曹定是別肺腸、今夕不爲二明旦計一。

【今昔】75 コンジャク ●いまとむかし。今古（18）に同じ。（韓愈、和二裴僕射相公假山十一韻一詩）於焉傲二今昔一。（歐陽脩、書錦堂記）此人情之所レ榮、而今昔之所レ同也。●コンセキ ゆふべ。昨夜。（呂覽、博志）北面再拜曰、今昔、臣夢受レ之。（史記、龜策傳）今昔壬子、宿在二牽牛一。（注）索隱曰、今昔、猶二昨夜一也。

【今昔之感】76 コンジャクノカン 今の身の上から、過ぎ去つた昔をしのぶ感慨。時世や境遇の變遷に對

する思ひ出。

〖今昔物語〗77 コンジヤクモノガタリ 書名。六十卷。源隆國撰。天竺・震旦・本朝の三部に分けて、古今の雜話を集錄したもの。毎條、「今は昔」と書出してあるから此の名がある。一名、宇治大納言物語。

【今瘠】78 キンセキ 書體の名。肉細の書法。古肥今瘠（**2**－3233‥609）を見よ。

【今體】79 キンタイ コンタイ 古體に對していふ。今風。近體。㊀六朝時代の詩文を古體といふに對し、唐代以後の詩文などに言ふ。〔南史、庾肩吾傳〕遠則揚・馬・曹・王、近則潘・陸・顏・謝、觀二其遺辭用心一、了不二相似一、若以二今文一爲レ是、則昔賢爲レ非、若以二昔賢一可レ稱、則今體宜レ棄。〔舊唐書、李商隱傳〕自レ是始爲二今體章奏一。〔韋莊、浣花集〕今體詩凡四十八首。㊁書法にいふ。〔法書要錄〕制二成今體一、乃窮二奧旨一。㊂今體詩を見よ。

〖今體詩〗80 キンタイシ 律詩と絶句をいふ。近體詩（**11**－**38752**‥135）に同じ。〔張籍、酬二祕書王丞見レ寄詩〕今體詩中偏出レ格、常參官裏毎同レ班。

【今代】81 キンダイ いまのよ。現代。今世。〔杜甫、送三韋十六評事充二同谷防禦判官一詩〕古來無人境、今代橫二戈矛一。〔李覯、袁州州學記〕今代遭二聖神一、爾袁得二賢君一。〔續日本紀、和銅元年二月戊寅〕往古已降、至二于近代一。

【今旦】82 コンタン けさ。今朝。〔史記、孟嘗君傳〕蘇代謂曰、今旦代從レ外來。〔鮑照、上二潯陽一還レ都道中作詩〕昨夜宿二南陵一、今旦入二蘆洲一。

【今治】83 イマバリ ㊀伊豫國の地名。㊁姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【今朝】84 コンテウ けさ。今曉。今旦。今晨。〔詩、小雅、白駒〕縶レ之維レ之以永二今朝一。〔孫楚、征西官屬、送二於陟陽侯一作詩〕齊契在二今朝一、守レ之與偕老。〔白居易、三月三十日題二慈恩寺一詩〕慈恩春色今朝盡、盡日徘徊倚二寺門一。

【今天】85 chin¹ t'ien ㊀今日。今兒。㊁只今。現在。

〖今天子〗86 キンテンシ 今の天子。今上。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕今天子至和三年。

【今度】87 コンド このたび。今回（13）に同じ。

【今冬】88 コントウ 此の冬。〔應瑒、侍二五官中郎將建章臺集一詩〕今冬客二南淮一。

【今年】89 コンネン ことし。今茲。今歲。〔韓愈、祭二十二郎一文〕吾自二今年一來、蒼蒼者或化而爲レ白矣。〔朱熹、勸學文〕勿レ謂三今年不レ學而有二來年一。

〖今年花似去年好〗90 コンネンノハナハキヨネンノヨキニニタリ 今年の花は、去年に變らず美しく咲いてゐる。〔岑參、韋員外家花樹歌〕今年花似二去年好一、去年人到二今年一老、始知人老不レ如レ花、可レ惜落花君莫レ掃、君家兄弟不レ可レ當、列卿御史尚書郞、朝回花底恆會レ客、花撲二玉缸一春酒香。

〖今年花落顏色改〗91 コンネンハナオチテガンシヨクアラタマル 今年も花は落ち盡くし、人の容貌も衰へ改まる。〔劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩〕今年花落顏色改、明年花開復誰在、已見松柏摧爲レ薪、更聞桑田變成レ海、古人無二復洛城東一、今人還對落花風。

【今培】92 キンバイ 字號。㊀清、張奕樞（**4**－**9812**‥819）の字。㊁清、毛健（**6**－**16772**‥63）の字。

【今方】93 イマガタ いましがた。今少し前。

【今般】94 コンパン このたび。今回。這般。這次。

【今晚】95 コンバン 今夕。〔魏書、甄琛傳〕今晚始顧。〔白居易、詠レ所レ樂詩〕昨朝拜レ表迴、今晚行レ香歸。

【今番】96 コンバン 此度。今回。此の機會。今次。

【今風】97 イマフウ 當世風。今樣（105）の㊁の㋑に同じ。〔本朝若風俗〕取りなり今ふうのしだし。

【今文】98 キンブン ㊀當代の通行文字。㊁漢の今文。隸書をいふ。先秦の古文に對していふ。〔史記、儒林傳〕孔氏有二古文尚書一、而安國以二今文一讀レ之。㊂今の文章。

〖今文家〗99 キンブンカ 今文學家。古文家に對して、今文學を傳承した學者をいふ。〔經學歷史、經學昌明時代〕故漢立二博士十四一、皆今文家。

〖今文學〗100 キンブンガク 今文經を中心とした學問をいふ。西漢の學者は今文經典を注解し、師傳を重んじた。漢の武帝の時、董仲舒の建言によつて五經博士が立てられ、以後、易は施讎・孟喜・梁丘賀・京房の四家、詩は申公培の傳へた魯詩、轅固生の齊詩、韓嬰の韓詩、書は歐陽生・大夏侯（勝）・小夏侯（建）の三家、禮は大戴（戴德）・小戴（戴聖）、春秋は公羊の嚴彭祖・顏安樂の二家があつた。前漢末に至り、劉歆が毛詩・古文尚書・逸禮・左氏春秋等の古文學を學官に立てることを要求し、因つて今文家との間に立學の爭ひを生じ、今古文學の區別が茲に漸く明かとなり、後漢の初にも兩家の間に論爭があつた。此の期を最後として今文學は次第に衰へ、東晉の元帝の頃には今文の傳が全く絶え、古文が獨り盛行を極めるに至つた。清代には、最初は漢宋兼採の學風から古文學に向つたが、道光・咸豐以後、漸く轉じて今文學の再興を見るに至つた。其の中心を成したものは公羊學者である。蓋し西漢今文學の中、公羊傳が最も完全に遺存したので、後世の今文學の中心となつたのである。清朝では莊存與が何休注公羊傳を傳へ、以下劉逢祿・龔自珍・廖平・康有爲・梁啓超・皮錫瑞等が出た。今學。〔經學歷史、經學昌明時代〕惟前漢今文學、能兼二義理訓詁之長一。

〖今文經〗101 キンブンケイ 西漢の文字、卽ち隸書を以て記された經書。詩（魯・齊・韓）、書（今文尚書）、易、儀禮、春秋（公羊・穀梁）、論語（齊・魯）、孝經（十八章）。

〖今文學派〗102 キンブンガクハ 經書の解義は、西漢今文學の師說によるべく、東漢以後の古文學の解義によるべからずと固執する、清朝乾隆以後に起つた一學派。今文家。今文學を見よ。

〖今文尚書〗103 キンブンシヤウシヨ 漢初、伏生の傳へた書經中の二十九篇の文で、隸書をもつて書いたものをいふ。もと、伏生の壁藏したものは古文であるが、之に本づいて歐陽大小夏侯に傳授した時には、隸書に書き改められた。其の篇目は、堯典・皐陶謨・禹貢・甘誓・湯誓・盤庚・高宗肜日・西伯戡黎・微子・太誓（今の太誓ではない）・牧誓・洪範・金縢・大誥・康誥・酒誥・梓材・召誥・雒誥・多士・無逸・君奭・多方・立政・顧命・粊誓・呂刑・文侯之命・秦誓の二十九篇である。論衡正說及び隋書經籍志は、右の中、太誓を後得のものとして、二十八篇說を主張し、書の大序は、太誓の代りに書序一卷を加へて、二十九篇に合せようとしてゐるが、いづれも誤りである。尚書（**4**－**7493**‥85）を見よ。

【今夜】104 コンヤ 今宵。こよひ。〔庾信、夜聽レ擣レ衣詩〕今夜長門月、應レ如二晝日明一。〔徐禎卿、在二武昌一作詩〕高齋今夜雨、獨臥武昌城。

【今樣】105 キンヤウ ㊀いまどきのかた。いまの。〔楊萬里、和二周子中病中代書之韻一云云詩〕昔無二今樣懶一、新欠二故人書一。㊁イマヤウ ㋑現今のはやり。當世風。今體。〔枕草紙、一〕今やうは易げなり。㋺今樣歌の略。〔東鑑、三〕壽永三年四月廿日、祐經打レ鼓歌二今樣一。

〖今樣歌〗106 イマヤウウタ ㊀當今流行の歌。〔紫式部日記〕いまやう歌うたふも。㊁七五調八句を聯ねた歌。平安朝時代に始まる。

【今來】107 コンライ ㊀今まで。〔潘岳、西征賦〕古往今來、邈矣悠哉。㊁ただ今。〔曹植、情詩〕始出嚴霜結、今來白露晞。

【今良】108 ゴンリヤウ イマヨシ 古の禁中の掃除夫の類。もとは賤しいが今は良いといふ義。〔齋宮寮式〕今良四人、仕丁十二人、女丁八人。

【今閵】109 キンリン 鳥の名。雉鴿に似て黃色な鳥。〔說文〕閵、今閵似二雉鴿一而黃。

【今隸】110 キンレイ 楷書をいふ。卽ち、漢代の隸書に對して、晉・唐人の楷書をいふ。〔宣和書譜、二、隸書敍論〕字同二今隸一。

【今有術】111 キンイウジユツ 算法の一。今の比例法。三率法（**1**－**12**‥1924）を見よ。〔隋書、律曆志上〕齊同以通レ之、今有以貫レ之。

【今有堂】112 キンイウダウ 清の程夢星（**8**－**25081**‥291）の室名。

【今歸仁】113 ナチジン 琉球の地名。

【今戶燒】114 イマドヤキ 今の東京淺草今戶町附近で產した陶器。〔江戶名所圖會、十七〕。

【今之急】115 イマノキフ 現在の急務。〔孔子家語、致思〕欲レ知二死者有レ知與一レ無レ知、非二今之急一。

【今始堂】116 キンシダウ 明、姚綬（**3**－**6202**‥66）の室名。

【今水經】117 キンスイケイ 書名。一卷。清、黃宗羲撰。諸水の名をつらね、海に入るものを以て主とし、注ぎ入る支流を附す。酈道元の水經に對して今水經といふ。〔知不足齋叢書、第九十五冊〕。

【今石動】118 イマイスルギ 越中國の地名。

【今接輿】119 キンセフヨ 唐、陸羽（**11**－**41708**‥11）の綽號。接輿は論語に現れてゐる楚の狂者の名。〔唐書、陸羽傳〕羽、上元初、更隱二苕溪一、自稱二桑苧

翁一、闔レ門著レ書、或獨行ニ野中一、誦レ詩擊レ木、裴回不レ得レ意、或慟哭而歸、故時謂ニ今接輿一也。

【今內裏】120 イマダイリ 內裏の燒失などにより、天子が、一時在します假の御殿。里內裏(11－40131・・88)に同じ。〔枕草紙、一〕今だいりのひんがしをば。

【今董狐】121 キントウコ 唐の吳兢をいふ。晉の董狐の樣な、史家としての節操ある人の意。〔唐書、吳兢傳〕初與ニ劉子玄一撰ニ定武后實錄一、敍ト張昌宗誘ニ張說一、誣ニ證魏元忠一事上、頗言說已然可、賴ニ宋璟等激勵苦切一、故轉レ禍爲レ忠、不レ然、皇嗣且レ殆、後說爲レ相、讀レ之心不レ善、知ニ兢所レ爲、卽從容謬謂曰、劉生書ニ魏齊公事一、不ニ少假借一、奈何、兢曰、子玄已亡、不レ可レ受ニ誣地下一、兢實書レ之、其草故在、聞者歎ニ其直一、說屢以レ情蘄レ改、辭曰、徇ニ公之情一、何名ニ實錄一、卒不レ改、世謂ニ今董狐一云。

【今獻備遺】122 キンケンビキ 書名。四十二卷。明、項篤壽撰。明代の名臣の事迹をとつて列傳體とし、洪武から弘治まで、二百四人を錄す。蓋し袁褰の舊稿によつて增損したもの。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【今之樂廣】123 イマノガククワウ 南齊の張緒をいふ。樂廣は晉の人で、極めて高潔の譽れがあつた。故に張緒の高潔を之に比して言ふ。〔南齊書、張緒傳〕緒少知レ名、淸簡寡欲、叔父鏡謂レ人曰、此兒今之樂廣也。

【今愁古恨】124 キンシウココン 今人の愁と古人の恨。今人と古人とのかなしみ。今人は自分、古人は嘗て此の地で榮えた人々。〔白居易、題ニ靈巖寺一詩〕今愁古恨入ニ絲竹一、一曲涼州無限情。

【今傳是樓】125 キンデンシロウ 民國、王揖唐(7－20823・・1164)の室名。 「の室名。

【今白華堂】126 キンハククワダウ 清、童槐(8－25775・・28)

【自レ今以往】127 イマヨリイワウ これから後。〔左氏、襄、二十五〕自レ今以往、兵其少弭矣。〔孔子家語、屈節解〕自レ今以往、單父非ニ吾有一也。

【不レ今不レ古】128 イマニナラズイニシヘニナラズ 今にも非ず、古にも非ず。學に得る所なく、徒らに詭異を爲すことを譏つた語。轉じて、折衷する義に用ひる。〔太玄經、更〕童牛角馬、不レ今不レ古。

【疑レ今者察ニ之古一】129 イマヲウタガフモノハコレヲイニシヘニサツス 今日の時世に就いて疑ふ所があるならば、之を古昔に考へるがよい。古今は同一理であるから。〔管子、形勢〕疑レ今者、察ニ之古一、不レ知レ來者、視ニ之往一。

【今我不レ樂日月其除】130 イマワレタノシマズンバジツゲツソレサラン 今の中に樂しまねば、光陰は忽ち過ぎ去る。〔詩、唐風、蟋蟀〕蟋蟀在レ堂、歲聿其莫、今我不レ樂、日月其除。

【今之視レ古亦猶ニ後之視一レ今也】131 イマノイニシヘヲミルコトノチノイマヲミルガゴトシ 今世に在つて古昔を視るのは、後世から今世を視るのと同一である。〔漢書、京房傳〕臣恐ニ後之視一レ今、猶ニ今之視一レ前也。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕後之視レ今、亦猶ニ今之視一レ昔。〔世說新語、規箴上〕將恐今之視レ古、亦猶ニ後之視一レ今也。

【未レ知ニ今之所レ謂是之非ニ五十九非一】132 イマダイハユルゼノゴジフクノヒニアラザルヲシラズ 六十歲の今、是と思つてゐる事も亦、非でないとは限らない。五十九歲まで、其の時々に於て是と考へた事は、後になつて見ると、皆非であつた。同樣に、現在是としてゐる事も、實際は非であるのかも知れない。〔莊子、則陽〕蘧伯玉、行年六十而六十化、未ニ嘗不ニ始ニ於是一レ之、而卒詘レ之以ニ非也、未レ知ニ今之所謂是之非ニ五十九非一也。

【介】359

カイ 〔集韻〕居拜切 ㄐㄧㄝ 卦 chieh4

小篆 ❶**へだてる**。㋑くぎる。〔說文〕介、畫也、从レ人从レ八。〔易、兌〕介レ疾有レ喜。〔注〕介、隔也。〔左氏、昭、二十〕偪介之關。〔注〕介、隔也。〔漢書、翼奉傳〕後介ニ大河一。㋺わける。〔爾雅、釋言、縭、介也、李巡注〕介、別也。〔莊子、庚桑楚〕介而離レ山。〔釋文〕介、一本作レ分。❷**はさまる。間に居る**。〔集韻〕介、一曰、間也。〔左氏、襄、九〕介ニ居二大國之間一。〔左氏、襄、三十〕以介ニ大國一。〔注〕介、猶レ間也。〔史記、十二諸侯年表〕楚介ニ江淮一。〔注〕索隱曰、介者、夾也。〔後漢書、竇融傳〕介ニ在其間一。〔注〕介、猶レ間也。❸**きは。さかひ**。〔易、繫辭上〕憂ニ悔吝一者存ニ乎介一。〔傳〕介、謂ニ辨別之端一。❹**ほとり。そば**。界(7 21775)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ界。〔楚辭、九章、哀郢〕悲ニ江介之遺風一。❺**よる。賴る**。〔左氏、文、六〕介ニ人之寵一、非レ勇也。〔注〕介、因也。〔左氏、成、十六〕敢介ニ大國一、以來レ厚焉。〔注〕介、因也。〔漢書、南粵王傳〕欲下介ニ使者權一、誅中嘉等上。〔注〕介、恃也。❻**助ける**。〔爾雅、釋詁〕介、右也。〔集韻〕介、一曰、助也。〔詩、豳風、七月〕以介ニ眉壽一。〔箋〕介、助也。〔詩、小雅、甫田〕以介ニ我稷黍一。〔箋〕介、助也。❼**とりつぐ。さしぞへする。なかだち**。〔左氏、哀、十四〕介達レ之。〔釋文〕介、媒介也。〔漢書、谷永傳〕無ニ一日之雅、左右之介一。〔注〕介、紹也。〔孔叢子、雜訓〕士無レ介不レ見、女無レ媒不レ嫁。〔李庸、運命論〕不レ介而自親。〔注〕銑曰、介、媒也。❽**たすけ。たすけるもの。介添**。〔詩、周頌、臣工〕嗟嗟保介。〔儀禮、士冠禮〕贊冠者爲レ介。〔注〕介、賓之輔、以レ贊爲レ之尊レ之、飮酒之禮、賢者爲レ賓、其次爲レ介。〔儀禮、聘禮〕戒ニ上介一亦如レ之。〔釋文〕介、副也。〔禮、檀弓下〕子服惠伯爲レ介。〔注〕介、副也。〔禮、聘義〕上公七介、侯伯五介、大夫三介。〔左氏、成、十三〕王以爲レ介、而重賄レ之。〔注〕介、輔ニ相威儀一者。〔荀子、大略〕諸侯相見、卿爲レ介。〔注〕介、副也。❾**第二の官。すけ**。副。〔左氏、昭、四〕介卿以葬。〔注〕介、次也。❿**やどる。とまる。とめる**。〔詩、小雅、甫田〕攸レ介攸レ止。〔箋〕介、舍也。〔列子、黃帝〕不レ用レ介レ意。⓫**近づける**。〔穀梁、文、十五〕不ニ以レ難介ニ我國一也。〔注〕介、猶レ近也。⓬**かかる。つながる**。〔漢書、匡衡傳〕情欲之感、無レ介ニ乎容儀一。〔注〕師古曰、介、繫也、言乙不下以ニ情欲一繫レ心、而著中容儀上者甲。⓭**おほきい。大きくする**。奓(3－5865)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ奓。〔爾雅、釋詁〕介、大也。〔易、晉〕受ニ茲介福于其王母一。〔虞注〕介、大也。〔詩、小雅、小明〕介ニ爾景福一。〔傳〕介、大也。〔國語、吳語〕受ニ而介福一。〔注〕介、大也。〔太玄經、竈〕黃鼎介。〔注〕介、大也。〔張衡、思玄賦〕九皐之介鳥兮。〔注〕濟曰、介、大也。⓮**かたい**。執り守るさま。〔易、豫〕介ニ于石一。〔注〕故不レ改ニ其操一、介如レ石焉。〔荀子、脩身〕善在レ身、介然必以自好也。〔注〕介然、堅固貌。⓯**みさを。節義。見識**。〔孟子、盡心上〕不下以ニ三公一易中其介上。〔注〕介、操也。〔楚辭、九章、悲回風〕介眇志之所レ感兮。〔注〕介、節也。〔嵆康、與ニ山巨源一絕レ交書〕吾昔讀レ書、得ニ并介之人一。〔注〕善曰、介、謂ニ自得無レ悶也。⓰**よい**。价(1－412)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ价。〔爾雅、釋詁〕介、善也。〔漢書、諸侯王表序〕介人惟藩。〔注〕師古曰、介、善也。⓱**ひとつ**。㋑ひとり。〔廣雅、釋詁三〕介、獨也。〔書、秦誓〕若有ニ一介臣一。〔國語、吳語〕一介嫡女。㋺ひとりぼつち。〔史記、陳餘傳〕獨介ニ居河北一。〔注〕介、特也。〔後漢書、朱暉傳〕鄕黨譏ニ其介一。〔注〕介、特也。〔張衡、思玄賦〕孑不レ羣而介立。〔注〕衡曰、介、特也。⓲**配偶のな**

い獸。〔方言、六〕介、特也、獸無レ偶曰レ介。⑲脚きる。一本脚。兀(1—1337)に通ず。〔莊子、養生主〕惡乎介也。〔釋文〕司馬云、介、刖也。〔莊子、德充符〕未三嘗知二吾介者一也。〔釋文〕介、本又作レ兀。⑳小さい。少し。又、其の物。芥(9—30715)に通ず。〔一切經音義、十五〕介、微也。〔易、豫〕介二于石一。〔釋文〕介、纖介也。〔列子、楊朱〕無二介然之慮一者。〔釋文〕介、微也。〔孟子、萬章上〕一介不二以與レ人、一介不三以取二諸人一。〔集注〕介、與二草芥之芥一同。〔漢書、元后傳〕不下以二往事一爲中纖介上。〔法言、吾子〕升二東嶽一而知二衆山之峛崺一也、況介丘乎。〔後漢書、孔融傳〕往聞、二君有下執二法之平一以爲中小介上。〔注〕介、猶二蔕芥一也。㉑物を數へる單位。个(1—70)に通ず。〔書、秦誓〕若有二一介臣一。〔釋文〕介、字又作レ个。〔大學〕若有二一个臣一。㉒よろひ。甲(7—21725)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ甲。〔廣雅、釋器〕介、鎧也。〔釋名、釋兵〕甲、亦曰レ介。〔詩、鄭風、淸人〕駟介旁旁。〔傳〕介、甲也。〔禮、曲禮上〕介冑則有二不レ可レ犯之色一。〔注〕介、甲也。〔公羊、宣、六〕吾君孰爲レ介。〔注〕介、甲也。㉓かふら。甲蟲。〔禮、月令〕孟冬之月、其蟲介。〔注〕介、甲也。〔韓詩外傳、二〕倮介之蟲、無レ不二延レ頸以聽一。〔淮南子、墬形訓〕介鱗者、夏食而冬蟄。〔注〕介、甲、龜鼈之屬。〔孔子家語、執轡〕介鱗夏食而冬蟄。〔注〕介、甲蟲也。㉔大きい圭。玠(7—20861)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ玠。〔詩、大雅、崧高〕錫二爾介圭一。〔箋〕圭長尺二寸謂二之介一。〔爾雅、釋器、注〕錫二爾玠圭一。〔後漢書、張衡傳〕介圭作レ瑞。〔注〕圭長尺二寸、謂二之介一也。㉕しぐさ。さま。曲本に用ひる語。〔長生殿、定情〕旦進拜介。〔燕子箋、約試〕副末持レ書上介。㉖からし。芥(9—30715)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ芥。〔左氏、昭、二十五〕季氏介二其雞一。〔疏〕介、一說、擣二芥子一爲レ末、播二雞羽一。〔釋文〕介、又作レ芥。㉗けづる。する。扴(5—11838)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ扴、易、豫、介二于石一、馬注、觸二小石一聲。㉘はがみする。齘(12—48603)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ齘、莊子、馬蹄、而馬知二介倪一、按、齘輗也、注二睥睨一、非レ是。㉙馬のしり緒。[馬介](12—44606)に通ず。〔說文通訓定聲〕介、叚借爲レ[馬介]、詩、淸人、駟介旁旁。㉚物のさま。又、たちまち。介介(9)・介然(82)を見よ。㉛國の名。周時の東夷の國。〔左氏、僖、二十九〕介葛盧來朝。〔注〕介、東夷國。㉜姓。〔元和姓纂〕介、出二晉介之推一。〔尙友錄〕介、見二姓苑一、望出二太原一。

名乘 スケ。ユキ。ヨシ。

解字 會意。人と八との合字。八はわかつこと。人各〻其の分つところを守るの意。故にくぎる意となる。又一說に、八はわかれることで、人の身體の左右に分れる義を取つて、くぎる意としたといふ。〔說文、介、从レ人从レ八、段注〕人各守二其所レ分也。〔說文通訓定聲〕介、按、八者分也、从レ人者、取二人身之左右一以見レ意。

參考 片假名ケは介の省畫。一說に、个の一體といふ。

【介庵】1 カイアン 介菴を見よ。

【介菴】2 カイアン 字號。菴は又、庵・葊・盦に作る。㊀宋、趙彥端(10—37171··541)の號。㊁明、黃淮(12—47926··974)の號。㊂明、章袞(8—25761··75)の號。㊃明、陳鎰(11—41698··17)の號。㊄明、鄭文康(11—39647··544)の號。㊅明、李錦(6—14459··224)の號。㊆淸、吳嘉枚(2—3365··466)の號。㊇淸、朱虛(6—14424··117)の號。㊈淸、勞之辨(2—2410··140)の號。㊉淸、黎耿然(12—47994··87)の字。⑪中井曾弘の號。中井仙坡(1—73··910)を見よ。

〖介菴詞〗3 カイアンシ 書名。一卷。宋、趙彥端撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【介葊】4 カイアン 介菴(2)を見よ。

【介盦】5 カイアン 介菴(2)を見よ。

【介異】6 カイイ 孤立して他と異なる態度をとること。〔韓非子、外儲說左下〕夫介二異於人臣一、而獨忠二於主一、主賢明能聽レ汝、不明將レ不二汝聽一。

【介意】7 カイイ 氣にかける。懸念する。介懷。〔列子、黃帝〕不二用介レ意。〔後漢書、度尙傳〕所レ亡少少、何足レ介レ意。〔蜀志、先主劉備傳〕冢中枯骨、何足レ介レ意。

【介翁】8 カイヲウ 字號。㊀宋、陳力修(11—41698··1311)の字。㊁元、于石(1—252··67)の字。

【介介】9 カイカイ ㊀心が潔白で、世俗と相容れぬさま。耿耿。〔後漢書、馬援傳〕介介獨惡レ是耳。㊁害あるさま。〔太玄經、傒〕次七、傒禍介介、凶人之郵。〔注〕介介、有レ害也。

【介岡】10 カイカウ 淸、饒允坡(12—44400··60)の號。

【介殼】11 カイガラ 貝類、又は甲蟲類の外被。貝殼。かふら。

〖介殼狀〗12 カイガラジヤウ 鑛物の斷口が圓曲して介殼の狀を呈すること。黑曜石・石英・白鉛鑛等の斷口に之を見る。

〖介殼蟲〗13 カイガラムシ 果樹につく楕圓形の害蟲。

【介學】14 カイガク 貝殼學。動物學上軟体動物貝殼の形狀色澤を研究する學。

【介甲】15 カイカフ よろひ。〔宋史、路振傳〕介甲而馳、不レ飮不レ秣。〔陳造、謝三張德恭送二糟蚶一詩〕半捐二介甲一露穠纖。

【介龕】16 カイガン 明、葛徵奇(9—31420··136)の號。

【介巖】17 カイガン 宋、潘墀(7—18236··71)の字。

【介祺】18 カイキ 淸、王餘佑(7—20823··2152)の字。

【介丘】19 カイキウ ㊀小さいをか。〔法言、吾子〕升二東嶽一而知二衆山之峛崺一也、況介丘乎。〔注〕宋咸曰、邐迤猶二卑眇一也、介、小也。〔注〕司馬光曰、宋吳本峛崺作二邐迤一、今從二李本一。〔增注〕字典、峛崺、山卑長也。㊁大きいをか。泰山をさす。〔司馬相如、封禪文〕以登二介丘一、不二亦恧一乎。〔注〕善曰、服虔曰、介、大丘也。云云、登二泰山一封禪、不二亦慙一乎。㊂淸、髡殘(12—45361··9)の字。

〖介丘山人〗20 カイキウサンジン 淸、尹耜(4—7631··37)の號。

【介休】21 カイキウ 縣名。㊀秦、置く。今の山西省汾休縣の東南。〔讀史方輿紀要、山西、汾州府〕介休縣、府東南七十里、東北至二太原府祁縣一九十里、北至二文水縣一八十里、晉大夫士彌牢邑、秦置二介休縣一、以二介山一爲レ名、漢屬二太原縣一、晉屬二西河國一、後魏仍屬二西河郡一、東魏興和二年、析二置平昌縣一、兼置二定陽郡一、後周改レ郡曰二介休一、以二介休故縣一、省二入平昌一。〔淸史稿、地理志〕山西、汾州府、縣七、介休。㊁後魏、置く。今の河南省汲縣の地。

【介居】22 カイキヨ ㊀はさまり居る。中間にある。介立。介在。〔左氏、襄、九〕使三介二居二大國之間一。〔注〕介、猶レ閒也。㊁たすけなく、獨立してゐる。介立。獨立。〔史記、陳餘傳〕獨介二居河北一。〔顏延之、陶徵士誄〕自二爾介居一、及二我多暇一。

【介玉】23 カイギヨク 字號。㊀宋、王玠(7—20823··117)の字。㊁淸、金玠(11—40152··86)の字。

【介懷】24 カイクワイ 心にかける。くよくよする。心配する。介意。介心。〔南史、張盾傳〕張盾爲二無錫令一、遇レ劫、云云、生資皆盡、不二以介レ懷。

【介圭】25 カイケイ ㊀大きい圭。長さ一尺二寸。天子が諸侯を封ずるとき賜はるもの。圭は珪。介珪。〔書、顧命〕太保承二介圭一。〔傳〕大圭、尺二寸、天子守レ之。〔詩、大雅、崧高〕錫二爾介圭一、以作二爾寶一。〔箋〕圭、長尺二寸、謂二之介一、非二諸侯之圭一。㊁淸、韓錫胙(12—43159··334)の字。

【介珪】26 カイケイ 大きい圭。介圭に同じ。〔王延壽、魯靈光殿賦〕錫二介珪一以作レ瑞、宅二附庸一而開レ宇。〔注〕載曰、介、大也、珪、長尺二寸、謂二之介一、良曰、玠珪、諸侯執者。〔史岑、出師頌〕介珪既削。

【介卿】27 カイケイ ㊀次卿。介は第二の官。〔左氏、昭、四〕冢卿無レ路、介卿以葬。〔注〕介、次也。㊁字號。㋑宋、郭知微(11—39474··378)の字。㋺淸、呂堅(2—3386··59)の字。

【介倪】28 ゲイ にらむ。睥睨(8－23458‥1)に同じ。一説に、歯がみする意であるという。齕幎。〔荘子、馬蹄〕馬知二介倪一。〔翼〕介、音戛。介倪、猶二睥睨一也。〔説文通訓定聲〕介、叚借爲二齕幎一。荘子、馬蹄、而馬知二介倪一。按、齕幎也、注二睥睨一、非是也。

【介潔】29 ケツ 自らとり守る所のいさぎよいこと。〔柳宗元、東明張先生墓誌〕介潔而周流、苞涵而清寧。

【介軒】30 ケン 字號。❶宋、董夢程(9－31433‥26 5)の號。❷明、花潤生(9－30734‥604)の號。

【介軒老人】31 ラウジン 元、陶復初(11－41705‥227)の號。

【介公】32 コウ 明、雷縯祚(12－42245‥172)の字。

【介侯】33 コウ 字號。❶清、張澍(4－9812‥388)の號。❷明、陸士楷(11－41708‥327)の字。

【介根】34 コン 地名。春秋、莒の邑。漢は此處に計斤縣を置いた。今の山東省膠縣の西南。〔左氏、襄、二十四〕崔杼帥レ師送レ之、遂伐二莒侵一介根一。〔注〕介根、莒邑。今城陽黔陬縣東北、計其城、是也。

【介在】35 ザイ はさまる。中間にある。介居(22)の❶に同じ。〔左氏、襄、三〕以二敝邑一介二在東表一、密二邇仇讎一。〔後漢書、竇融傳〕臣融孤弱、介二在其間一。〔注〕杜預注二云、介猶レ間也。

【介幘】36 サク 文官の用ひる幘。幘は頭を包むもの。〔隋書、禮儀志六〕幘、尊卑貴賤皆服レ之、文者長耳、謂二之介幘一、武者短耳、謂二之平上幘一。

【介三】37 サン 清、黄遇隆(12－47926‥1049)の字。

【介山】38 ザン 山名。❶山西省の沁水・靈石・介休の三縣の界に在り、又、介美山・縣山ともいふ。春秋の時、晉の介之推が其の母と共に隠れた所。山下に縣上聚がある。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、霍州、靈石縣〕介山、在二縣東二十里一。春秋時、介子推隠レ此、因名。一名介美山、亦曰二綿山一。接二沁水・介休縣境一。❷山西省萬泉縣の東。即ち汾山。其の山特立す。漢の武帝が后土を祭り、成帝も亦介山に遊んだ。〔漢書、武帝紀〕太初二年夏四月、詔曰、朕用事二介山一、祭二后土一、皆有二光應一。〔注〕文穎曰、介山、在二河東皮氏縣東南一。水經、汾水注レ介山、即汾山也。❸複姓。〔史記、仲尼弟子傳〕介山子然。❹字號。㋑清、金張(11－40152‥844)の字。㋺清、宋和(3－7078‥64)の字。㋩清、羅信東(9－28397‥365)の字。㋥清、王又樸(7－20823‥1140)の號。

【介山之志】39 カイザンノシ 春秋、晉の介之推が、己の功を誇らず、晉の文公の祿を固辭した高潔な志。〔任昉、宣德皇后令〕一馬之丑、介山之志、愈厲。〔注〕濟曰、介山、介之推也、謂二介之推不レ受二晉侯祿一也。

【介士】40 シ ❶甲冑を著けた兵士。介者。介夫。介冑之士。〔韓非子、五蠹〕國平養二儒俠一、難至用二介士一。〔漢書、張安世傳〕秋薨、天子贈二印綬一、送以二輕車介士一。〔王褒、四子講德論〕介士奮竦。〔注〕向曰、介士、甲士也。❷堅く心に守る所ある士。耿介の士。

【介子】41 シ ❶大夫となった庶子が宗子に副となる者をいふ。〔禮、曾子問〕曾子問曰、宗子爲レ士、庶子爲二大夫一、其祭也如レ之何、孔子曰、以二上牲一祭二於宗子之家一、祝曰、孝子某、爲二介子某一薦二其常事一。〔疏〕孝子、謂二宗子一也、某、是宗子之名、云二云、介子、謂一庶子爲二大夫一者介副レ也。❷晉の介子推(140)をいふ。〔淮南子、說山訓〕介子歌二龍蛇一、而文君垂レ泣。〔注〕介子、介推也。〔元稹、春詩〕晉悲焚二介子一。❸清、屈大均(4－7669‥157)の字。

【介之】42 シ 字號。❶宋、許玠(10－35298‥25)の字。❷宋、趙師俠(10－37171‥625)の字。❸宋、楊石(6－15112‥249)の字。❹元、饒介(12－44400‥11)の字。❺明、黄毓祺(12－47926‥988)の字。❻明、吳爾壎(2－3365‥633)の字。

【介氏】43 シ 國の名。春秋の介國。〔列子、黄帝〕今東方介氏之國、其國人數數解二六畜之語一者、蓋偏知之所レ得。

【介使】44 シ 正使にそふもの。副使。〔論語大全〕正使不レ能レ答、則介使助レ之。

【介祉】45 シ 大きな幸福。介福(127)に同じ。〔風俗通、祀典〕歳終更始、受二介祉一也。

【介詞】46 シ 文法上の品詞の一。介字に同じ。

【介馹】47 シ 兵車につける武裝した四頭立ての馬。〔新論、類感〕干戈戢興、介馹將レ動、而禽獸應レ之。

【介字】48 カイ 名詞或は代名詞等を他種類の詞に連結して、其の間の關係を顯示する字。前置詞。〔馬氏文通、正名〕凡虚字、以聯二實字相關之義一者、曰二介字一。云云、介字者、凡實字、有二維繫相關之情一、介二於其間一、以聯レ之耳。

【介次】49 ジ 市場の事務所に附屬する小さな建物。〔周禮、地官、司市〕壄二于介次一、而聽二小治・小訟一。〔注〕介次、市亭之屬、別小者也。

【介特】50 ジ たよる。〔左氏、襄、二十四〕以下陳國之介二特大國一、而陵二虐於敝邑一。〔左氏、襄、二十五〕棄二我姻親一、介二特楚衆一。〔孔子家語、正論解〕陳亡二周之大德一、介二特楚衆一。

【介玆】51 ジ 字號。❶清、范景福(9－30834‥167)の字。

【介貳】52 ジ 附きそうて助ける。つき添ふ。かいぞへ。〔常袞、咸陽縣丞郭君墓誌銘〕凡所二介貳一、皆有二卓絶之稱一。

【介疾】53 シツ やまひを隔てる。小人が人君に近づかうとするのを隔て遮るをいふ。〔易、兌〕九四、商兌未レ寧、介レ疾有レ喜。〔注〕介、隔也、三爲二佞說一、將レ近二至尊一、故四以二剛德一、裁而隔レ之。

【介質】54 シツ 物理的作用を或る場所より他の場所へ傳達する仲介物。空氣は音波の介質である類。媒質。

【介者】55 シャ ❶甲冑を著けた兵士。介士。介者不レ拜を見よ。❷足きられたもの。〔荘子、德充符〕未二嘗知二吾介者一也。〔釋文〕介、本又作レ兀、兩通。〔荘子、庚桑楚〕介者移レ畫、外二非譽一也。❸甲羅のあるもの。甲蟲。〔淮南子、墜形訓〕凡介者生二於庶龜一。

【介者不レ拜】56 ハイセザルヲ 甲冑をつけたものは拜する禮をしない。軍中に在つては心を軍事にのみ專らにして、他を顧み得ないこと。介胄在レ身不レ能レ全レ禮(95)に同じ。〔禮、曲禮上〕介者不レ拜。〔疏〕介、甲鎧也、著二鎧者不一レ爲二武敬一、故宜レ無二所レ拜之也。〔尉繚子、武議〕竭二人之力一不レ責レ禮、故古者介胄之士不レ拜。〔孔叢子、問軍禮〕介胄在レ身、執レ銳在レ列、雖二君父一不レ拜。

【介象】57 シャウ 三國、吳の會稽の人。字は元則。道家の術を修め、神仙の幻術を能くす。〔吳志、趙達傳注〕、〔神仙傳、九〕。

【介錯】58 シャク ❶かしづくこと。後見すること。介抱。〔保元物語、義朝幼少弟被二悉失一〕死出の山、三途の河をば、誰れかは介錯申すべき。❷切腹する者の首をはねること。其の人を介錯人といふ。〔阿州將裔記〕兜にささはり介錯ならず。

【介爵】59 シャク 賓を助けるもののさかづき。〔禮、少儀〕客爵居レ左、其飲居レ右、介爵・酢爵、僎爵、皆居レ右。〔注〕介、賓之輔也。

【介壽】60 ジュ ❶長壽を助ける。人の壽を祝するに用ひる語。〔詩、豳風、七月〕爲二此春酒一、以介二眉壽一。〔箋〕介、助也。〔集傳〕介二眉壽一者、頌禱之詞也。❷清、許友(10－35298‥4)の號。

【介儒】61 ジュ 明、范守己(9－30834‥192)の字。

【介孺】62 ジュ 明、呂維祺(2－3386‥159)の字。

【介衆】63 シュウ 大衆。介は大。〔左氏、昭、二十四〕士伯立二于乾祭一、而問二於介衆一。〔注〕介、大也。

【介叔】64 シュク 宋、顔徹(12－43591‥90)の字。

【介肅】65 シュク 諡號。❶明、魏允貞(12－45872‥158)の諡。❷明、吳嶽(2－3365‥74)の諡。❸明、張綍〔漢川の人〕(4－9812‥420)の私諡。

【介僎】66 シュン 介と僎。介は賓を輔ける者。僎は主人を輔ける者。〔禮、鄉飲酒義〕介僎、象二陰陽一也。〔釋文〕介者戒二下放一、此輔二賓者一、僎音遵、輔二主人一者。

【介純】67 ジュン 清、劉珊(2－2224‥302)の字。

【介乘】68 ジョウ 甲冑と軍車。〔風俗通、皇霸〕左任二介乘一奄有二河室一。

【介心】69 シン ❶固い心。〔曹植、蟬賦〕聲皦皦而彌厲兮、似二貞士之介心一。❷氣にかける。介懷(24)に同じ。

【介臣】70 シン 清、沙張白(6－17212‥274)の字。

【介岑】71 シン 清、龔佳育(12－48837‥58)の字。

【介人】72 ジン ❶善人。〔漢書、諸侯王表序〕介人惟藩。〔注〕師古曰、介、善也。❷字號。㋑清、袁鼒(10－34152‥161)の字。㋺清、汪价(6－17154‥16)の字。㋩清、李藩(6－14459‥673)の字。㋥清、王翊(7－20823‥295)の字。㋭清、王文潞(7

−20823‥2084)の字。

【介推】73 カイスイ 介子推(140)に同じ。〔潛夫論、遏利〕白駒・介推、遯二逃於山谷一。

【介性】74 カイセイ 世俗に從はず、操を固く執り守る性質。〔後漢書、逸民傳序〕亦云二介性所一レ至而已。〔注〕特稟二耿介之性一也。〔中華書局本、校勘記〕按、文選、性分作二介性一。

【介紹】75 カイセウ とりつぐ。ひきあはせる。なかだち。紹介。〔禮、聘義〕介紹而傳レ命。〔王褒、四子講德論〕夫子曰、無二介紹之道一、安從行二乎公卿一。〔注〕銑曰、介紹、傳レ命也。〔福惠全書、教養部、講學〕仍追二咎原介紹之友一、紀二錄一過一。

【介石】76 カイセキ ㊀節義を守ることが石の如く堅い〔易、豫〕六二、介二于石一、不レ終レ日、貞吉。〔注〕故不レ改二其操一、介如レ石焉。〔宋書、謝靈運傳〕時來之機、悟先二于介石一。㊁字號。㋑元、毛應龍(6−16772‥259)の字。㋺明、王如堅(7−20823‥1689)の字。㋩清、李彀(6−14459‥140)の號。㋥清、耿介(9−29026‥8)の字。㋭清、張懋建(4−9812‥1525)の字。㋬民國、蔣中正(9−31820‥193)の字。㋣谷口中秋の號。谷口藍田(10−36182‥27)を見よ。「の號。

【介石齋】77 カイセキサイ 明、朱國祚(6−14424‥784)の號。

〖介石生〗78 カイセキセイ 清、錢澧(11−40563‥232)の號。

〖介石堂〗79 カイセキダウ 清、郭起元(11−39474‥263)の室名。

【介絕】80 カイゼツ 孤立。〔前漢紀、宣帝紀四〕荀悅曰、春秋之義、王者無レ外、欲レ一二於天下一也、書曰、西戎即序、言三皆順二從其序一也、道理遼遠、人物介絕、人事所レ不レ至、血氣所レ不レ沾、不三告諭以二文辭一、故正朔不レ及、禮義不レ加、非レ導レ之也、其勢然也。

【介鮮】81 カイセン 貝魚類をいふ。介は貝殼、貝類。鮮は魚。〔後漢書、馬融傳〕鴈二介鮮一、散二毛族一。

【介然】82 カイゼン ㊀堅固なさま。確定したさま。〔荀子、脩身〕善在レ身介然、必以自好也。〔注〕介然、堅固貌。〔資治通鑑、晉紀〕(元帝、太興二年)奈何以二華夷之異一、介然疏レ之哉。〔注〕介然、堅正不レ移之貌。㊁たちまち。〔孟子、盡心下〕山徑之蹊、閒介然用レ之而成レ路。〔集注〕介然、倏然之頃也。㊂小さいさま。又、大きなさま。〔老子、五十三〕使二我介然有一レ知、行二於大道一、唯施是畏。〔河上公注〕介、大也。〔箋注〕介、微也。㊃ひとり異なるさま。〔漢書、律歷志上〕其形介然有レ常、有レ似二於士君子之行一。〔注〕師古曰、介然、特異之意。㊄安んじないさま。〔漢書、陳湯傳〕百姓介然有二秦民之恨一。〔注〕師古曰、介然、猶二耿耿一也。㊅物がはさまつて氣にかかるさま。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕其何能無三介二然於懷一耶。㊆宋、黎確(12−47994‥4)の字。

〖介然之有〗83 カイゼンノイウ 微小な有形物。〔列子、仲尼〕其有二介然之有、唯然之音一。

【介屬】84 chieh¹ shu³ 甲を有する蟲類。

【介卒】85 カイソツ 甲冑を著けた兵卒。甲兵。〔新書、匈奴〕五口而出二介卒一人一。

【介存】86 カイソン 清、周濟(2−3441‥206)の字。

〖介存齋〗87 カイソンサイ 清、周濟(2−3441‥206)の號。

【介堂】88 カイダウ 清、馬維騏(12−44572‥683)の字。

【介潭】89 カイタン 甲介類の先祖。〔淮南子、墬形訓〕介潭生二先龍一、先龍生二玄黿一、玄黿生二靈龜一、靈龜生二庶龜一、凡介者生二於庶龜一。

【介冑】90 カイチウ よろひとかぶと。甲冑。又、甲冑を身につる。又、甲冑を身につけた人。介冑之士。〔禮、曲禮上〕介冑則有二不レ可レ犯之色一。〔注〕介、甲也。〔管子、小匡〕介冑執レ枹、立二於軍門一。〔晏子、雜、上〕穰苴介冑、操レ戟立二于門一。

〖介冑之閒〗91 カイチウノカン 戰爭中。又、戰場。〔蘇洵、上二韓樞密一書〕高祖死二於介冑之閒一。

〖介冑之士〗92 カイチウノシ よろひかぶとを著けた兵士。介者。介士。〔尉繚子、武議〕竭二人之力一、不レ責レ禮、故古者介冑之士不レ拜。〔史記、韓非子傳〕急則用二介冑之士一。〔漢書、陳湯傳〕介冑之士、靡レ不レ慕レ義。〔後漢書、樊準傳〕期門羽林介冑之士、悉通二孝經一。

〖介冑之臣〗93 カイチウノシン よろひかぶとを著けた臣下。〔後漢書、桓譚傳〕安平則尊二道術之士一、有レ難則貴二介冑之臣一。

〖介冑生二蟣蝨一〗94 カイチウキシツヲシヤウズ 戰爭の久しきにわたる義。甲冑のなかにまで蝨が生ずる。蟣はしらみの子。蝨はしらみ。〔韓非子、喩老〕甲冑生二蟣蝨一、鷰雀處二帷幄一。〔史記、平津侯主父偃傳〕介冑生二蟣蝨一。

〖介冑在レ身不レ能レ全レ禮〗95 カイチウミニアレバレイヲマツタウスルアタハズ よろひかぶとを著けた兵士は拜禮を行はない。介者不レ拜(56)を見よ。〔通俗編、武功、介冑在レ身不レ能レ全レ禮〕曲禮、介者不レ拜、爲二其拜而蓌一レ拜、孔叢問軍篇、介冑在レ身、執レ銳在レ列、雖二君父一不レ拜、尉繚武議篇、竭二人之力一不レ責レ禮、故古者介冑之士不レ拜、史記絳侯世家、亞夫持レ兵揖曰、介冑之士不レ拜、請以二軍禮一見二天子一。

【介鬯】96 カイチヤウ 王が諸臣に弔臨する時、副使となつて鬯酒を神前に進める者。鬯酒は香草を漬した酒。〔周禮、春官、鬯人〕凡王弔臨共二介鬯一。〔疏〕釋曰、介、副也、王弔二臨諸臣一、則有二副使從行者一、云云、介使則進二此鬯於神前一、故云二介鬯一。

【介仲】97 カイチユウ 宋、張克公(4−9812‥1050)の字。

【介蟲】98 カイチユウ 甲殼を有する蟲。甲蟲。〔鬼谷子、權〕介蟲之捍也。〔淮南子、說山訓〕介蟲之動以レ固。〔後漢書、五行志一〕時則有二介蟲之孽一。

〖介蟲之火〗99 カイチユウノヒ 甲殼のある蟲の火。〔管子、幼官〕飲二於白后之井一、以二介蟲之火一爨。

【介弟】100 カイテイ 他人の弟に對する敬稱。大弟。〔左氏、襄、二十六〕寡君之貴介弟也。〔注〕介、大也。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕況我君斯、皇之介弟。

【介亭】101 カイテイ 字號。㊀宋、陶岳(11−41705‥32)の號。㊁清、江濬源(6−17140‥481)の號。㊂清、鞏建豐(12−42819‥19)の號。㊃清、周位庚(2−3441‥533)の字。㊄清、徐景福(4−10110‥394)の字。㊅清、帥仍祖(4−8886‥37)の號。㊆清、湯準(7−17874‥69)の號。㊇伊藤長衡の號。伊藤介亭(1−432‥211)を見よ。

【介鳥】102 カイテウ ㊀大きい鳥。鶴の美稱。〔張衡、思玄賦〕遇二九皐之介鳥一兮、怨二素意之不一レ呈。〔注〕濟曰、介、大也、大鳥謂レ鶴也。㊁猛しい鳥。雉をいふ。〔禽經〕雉、介鳥也。〔精註雅俗故事讀本、下、禽獸〕雉有二疏趾之名一、又稱二介鳥之號一。

【介狄】103 カイテキ 遠大。又、大道遠慮。又、武裝した夷狄。〔詩、大雅、瞻卬〕舍二爾介狄一、維予胥忌。〔傳〕狄、遠。〔疏〕毛讀レ狄爲レ逖、故爲レ遠也、云云、王肅云、舍二爾大道遠慮一、反與二我賢者一怨乎。〔箋〕介、甲也、云云、乃舍下女被レ甲夷狄來侵二犯中國一者上、反與レ我相怨。

【介添】104 カイソヘ ㊀助けて事をする人。〔笠懸日記、上〕かいぞへの者は、云云、弓矢等に至る迄、能改めて出たたせ申也。㊁嫁入のときに、つき添うて世話をする女。

【介途】105 カイト 孤介のみち。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕有下介途遼遠、頗乏二紀綱一、承二親友關切送至一者上。

【介特】106 カイトク 介獨。介立。㊀ひとりぼつち。孤獨で助けの無いこと。又、其の人。〔左氏、昭、十四〕養二老疾一、收二介特一。㊁操を守り自ら高しとして世に迎合しないこと。又、其の人。〔後漢書、馬融傳〕察二淫侈之華譽一、顧二介特之實功一。〔注〕華譽、虛譽也、介特、謂二孤介特立一也。介獨(109)を見よ。

【介德】107 カイトク 大きな德。大德。〔逸周書、武順解〕元忠尙讓、親均惠レ下、集二固介德一。

【介毒】108 カイドク 介蟲の毒。〔鹽鐵論、訟賢〕有下以二蜂蠆介毒一而自害上也。

【介獨】109 カイドク 介特(106)に同じ。〔韻府引、梅堯臣、詩〕自持二介獨一輕二貨珍一。

【介爾】110 ニケ 佛 極めて微弱な心の形容。〔止觀、五上〕此三千在二一念心一、若無レ心而已、介爾有レ心、卽具二三千一。

【介馬】111 カイバ 馬に武裝させる。又、武裝した馬。〔左氏、成、二〕齊侯曰、余姑翦二滅此一而朝食、不レ介レ馬而馳レ之。〔蘇洵、送二石昌言使一レ北引〕聞二介馬數萬騎馳過、劍槊相摩、終夜有一レ聲。

【介裴】112 カイハイ 清、朱休度(6−14424‥714)の字。

【介貝】113 カイバイ 貝類。〔說文〕貝、爲二介蟲一也。

【介抱】114 カイハウ 世話する。看病する。又、其のこと。〔傾城冥途飛脚、上〕後家妙閑の介抱故、啇ひ功者。

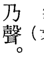
【介白】115 カイハク 字號。㊀明、徐白(4−10110‥255)の字。㊁清、張澍(4−9812‥388)の號。

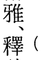
〖介白堂〗116 カイハクダウ 清、劉光第(2−2224‥836)の

室名。
【介伯】117 カイハク 清、薛壽(9−32123··73)の字。
【介八】118 カイハチ 二つの物の根柢がつながつてゐるところ。山東・直隸地方の方言。〔新方言、釋言〕今直隸・山東、謂㆓兩物根柢相連之閒㆒曰㆓介八㆒、若㆘兩指閒曰㆓手介八㆒、腳介八、兩枝閒曰㆗樹介八㆖是也。
【介眉】119 カイビ 字號。❶清、龔百藥(12−48837··93)の字。❷清、陳錫嘏(11−41698··1066)の字。❸清、王延年(7−20823··1203)の字。
【介麋】120 カイビ 大きな鹿。〔左氏、哀、十四〕迹人來告曰、逢澤有㆓介麋㆒焉。〔注〕介、大也。
【介儐】121 カイヒン 應接方。接待掛り。介は客の附添ひ、儐は主人の附添ひ。介擯。〔馬璧、詩〕接㆑武如㆓朋簪㆒、承迎如㆓介儐㆒。
【介擯】122 カイヒン 介儐に同じ。擯(5−12880)の字解を見よ。
【介愍】123 カイビン 明、胡子昭(9−29400··479)の諡。
【介夫】124 カイフ ❶甲冑をつけた兵士。介士。〔禮、檀弓下〕陽門之介夫死、司城子罕入而哭㆑之。〔注〕介夫、甲衞士。❷字號。㋑唐、馮定(12−44579··124)の字。㋺宋、黃通(12−47926··662)の字。㋩宋、孫立節(3−6987··552)の字。㋥宋、鄭俠(11−39647··111)の字。㋭宋、陸詵(11−41708··156)の字。㋬宋、林石(6−14551··154)の字。㋣元、何景福(1−511··250)の字。㋠明、吳自守(2−3365··628)の字。㋷明、蔡淸(9−31818··75)の字。㋦明、張節(4−9812··482)の字。㋸明、楊廷和(6−15112··707)の字。㋾明、劉節(大庾の人)(2−2224··445)の字。㋻明、汪禔(6−17154··66)の字。㋕清、鄭廉(11−39647··282)の字。
【介婦】125 カイフ 介添の女。衆婦。〔禮、內則〕介婦請㆓于冢婦㆒。〔注〕介婦、衆婦也。
【介副】126 カイフク かいぞへ。〔何曾、請㆑設㆓軍副㆒表〕賓命遣㆑使則設㆓介副㆒、臨㆑敵交㆑刃則參㆓御右㆒。〔張薦、論㆓顏眞卿㆒疏〕親黨不㆑遑㆓告別㆒、介副不㆑及㆓陳請㆒。
【介福】127 カイフク ❶大きな幸。介祉。〔易、晉〕受㆓茲介福于其王母㆒。〔注〕介、大也。〔詩、小雅、信南山〕報以㆓介福㆒、萬壽無㆑疆。〔左氏、襄、七〕如㆑是、則神聽㆑之、介福降㆑之。❷清、周壽昌(2−3441··705)の字。
【介物】128 カイブツ 甲羅のある動物。〔周禮、地官、大司徒〕其動物宜㆓介物㆒。〔注〕介物、龜鼈之屬。〔周禮、春官、大司樂〕五變而致㆓介物㆒。
【介文】129 カイブン 清、周士彬(2−3441··672)の字。
【介屛】130 カイヘイ 清、王椿源(7−20823··1929)の字。
【介僻】131 カイヘキ 性質が一徹なこと。又、かたくなで人と合はないこと。合はぬこと。一てつ。一こく。狷介。〔宋史、隱逸中、陳烈傳〕性介僻篤㆓于孝友㆒、居㆓親喪㆒、勺飮不㆑入㆓于口㆒五日。〔道山淸話〕性介僻、不㆓與㆑人往還㆒。
【介甫】132 カイホ 字號。❶宋、王安石(7−20823··1112)の字。❷元、程思廉(8−25081··217)の字。❸明、吳崇節(2−3365··691)の字。❹明、楊畏知(6−15112··411)の字。
【介母】133 カイボ 注音符號の一・ㄨ・ㄩの三韻符の舊稱。聲母と韻母との閒に介在して兩母を繼ぐ用を爲すからいふ。今、此の名稱を用ひず、韻符の中に入れる。
【介木】134 三河國の地名。
【介立】135 カイリツ ❶ひとりだち。孤立して助けがない。獨立。介特。❷堅くみさを守り、迎合しない。〔張衡、思玄賦〕何孤行之煢煢兮、孑不㆑羣而介立。〔注〕衡曰、介、特也。〔後漢書、樂恢傳〕性廉直介立、行不㆑合㆑己者、雖㆑貴不㆓與交㆒。❸呂覽の篇名。
【介立山人】136 カイリツサンジン 明、林時(6−14551··121)の號。
【介旅】137 カイリヨ 甲のある多くの蟲。〔後漢書、馬融傳〕刊㆓重冰㆒、撥㆓蟄戶㆒、測㆓潛鱗㆒、踵㆓介旅㆒。〔注〕介、謂㆓鱗蟲之屬㆒也、旅、衆也。
【介鱗】138 カイリン ❶魚鼈の類。介は鱗甲の義。字解の❸を見よ。鱗介。〔淮南子、墬形訓〕介鱗者、夏食而冬蟄。〔注〕介、甲也、龜鼈之屬也、鱗、魚龍之屬。❷遠方の夷に喩へる。〔資治通鑑、漢紀〕章帝、建初元年、不㆘以㆓介鱗㆒易㆗我衣裳㆖。〔注〕賢曰、介鱗、喩㆓遠夷㆒、其人與㆓魚鼈㆒無㆑異也、衣裳謂㆓中國㆒也。
【介葛盧】139 カイカツロ 春秋時代の介國の君。僖公二十九年、魯に朝す。能く牛語に通ず。今の山東省膠縣の南の古介亭は、古の介國の地。〔左氏、僖、二十九〕。
【介子推】140 カイシスイ ❶春秋、晉の人。又、介之推に作る。子・之は語助。推は其の名。晉の文公に從つて出亡すること十九年、還るに及んで文公に疏んぜられ、遂に其の母と緜山に隱棲した。公は之を索し求めたが得ることが出來ず、之を出さうとして山を焚いたが、竟に出でないで焚死した。故に、緜山を一に介山といふ。介子。介推。〔左氏、僖、二十四〕・〔史記、三十九〕・〔琅琊代醉編、七〕・〔日知錄、二十五〕。❷春秋時代の人。年十五にして楚の相となる。〔說苑、尊賢〕。
【介子綏】141 カイシスイ 人名。介子推の❶に同じ。〔琴操〕介子綏割㆓其腓股㆒以啗㆓重耳㆒、重耳復㆑國、介子綏獨無㆑所㆑得。
【介之推】142 カイシスイ 人名。介子推(140)の❶に同じ。〔左氏、僖、二十四〕晉侯賞㆓從亡者㆒、介之推不㆑言㆑祿、祿亦弗㆑及。
【介和堂】143 カイワドウ 清、任辰旦(1−416··225)の室名。
【介節先生】144 カイセツセンセイ 清、錢邦寅(11−40563··413)の私諡。

【仌】360 ヒョウ 冰(2−1612)の本字。〔說文〕仌、凍也、象㆓水冰之形㆒。〔說文通訓定聲〕仌、經史皆以㆑冰爲㆑之。

【仍】361 ジョウ ニョウ 〔集韻〕如蒸切 日ㄥ´ jêng² 蒸


(說文小篆)


(段注本小篆)

❶よる。したがふ。〔說文〕仍、因也、从㆑人乃聲。〔爾雅、釋詁〕仍、因也。〔廣雅、釋詁一〕仍、從也。〔書、顧命〕華玉仍㆑几。〔注〕仍、因也。〔周禮、春官、司几筵〕吉事變㆑几、凶事仍㆑几。〔注〕仍、因也。〔論語、先進〕仍㆓舊貫㆒如㆑之何。〔楚辭、九章、悲回風〕觀㆓炎氣之相仍㆒兮。〔注〕相仍者、相從也。〔漢書、藝文志〕據㆓行事㆒、仍㆓人事㆒。〔張衡、思玄賦〕夫吉凶之相仍兮。❷かさねる。かさなる。〔爾雅、釋親〕晜孫之子、爲㆓仍孫㆒。〔注〕仍、亦重也。〔廣雅、釋詁四〕仍、重也。〔廣雅、釋言〕仍、再也。〔小爾雅、廣言〕仍、再也。〔漢書、王莽傳〕吉瑞累仍。❸しきりに。しばしば。かさねて。〔國語、周語下〕晉仍無道。〔注〕仍、數也。〔國語、晉語四〕晉仍無道。〔注〕仍、重也。〔漢書、武帝紀〕今大將軍、仍復克獲。〔注〕師古曰、仍、頻也。〔漢書、五行志〕天像仍見。〔注〕師古曰、仍、重也。〔漢書、谷永傳〕饑饉仍臻。❹つく。ついて。扔(5−11782)に通ず。〔說文通訓定聲〕仍、叚借爲㆑扔。〔詩、大雅、常武〕仍執㆓醜虜㆒。〔傳〕仍、就。❺すなはち。〔爾雅、釋詁〕仍、乃也。〔史記、淮南衡山王傳贊〕仍父子再亡㆑國。❻あつい。訒(10−35212)に通ず。〔說文通訓定聲〕仍、叚借爲㆑訒。〔爾雅、釋詁〕仍、厚也。❼物のさま。仍仍(5)を見よ。❽有仍は古の國の名。有仍(5−14332··193)を見よ。❾姓。〔姓苑〕夏侯國、有仍氏之後、以㆑國爲㆑氏。❿現なほ。尙。
名乘 ヨリ。ナホ。アツ。
【仍几】1 ジョウキ 人の死後、生前そのままに使ふつくゑ。〔書、顧命〕華玉仍㆑几。〔傳〕仍、因也、因㆓生時几㆒、不㆓改作㆒。〔周禮、春官、司几筵〕凶事仍㆑几。
【仍舊】2 ジョウキュウ 舊による。やはり。前のやうに。元の通り。依然として。仍貫を見よ。仍照。仍屬。仍然。仍復。〔魏書、食貨志〕夏殷之政、九州貢㆑金、以定㆓五品㆒、周仍㆓其舊㆒。
【仍貫】3 ジョウカン 舊い慣習によつて、改めぬ。仍舊を見よ。〔論語、先進〕仍㆓舊貫㆒、如㆑之何、何必改作。〔書言故事、評論類〕事如㆑舊曰㆓仍貫㆒。
【仍是】4 jêng² shih⁴ なほ。やはり。依然。
【仍仍】5 ジョウジョウ ❶志を得ないさま。〔淮南子、精神訓〕仍仍然、知㆓盆瓴之足㆑羞也。〔注〕仍仍、不㆑

人部〔二畫〕介仌仍

得レ志之貌。㊂衆いさま。〔廣雅、釋訓〕仍仍、衆也。㊂頻頻たるさま。〔戴良、詩〕罅隙仍仍掩。

【仍世】6（ジヨウセイ） 世々。累世。〔晉書、武帝紀〕粤在魏室、仍世多レ故、幾ニ於顚墜一。

【仍照】7 jêng² chao⁴ やはり。元通り。

【仍前】8 jêng² ch'ien² 前のとほり。もと通り。

【仍然】9（ジヨウゼン） やはり。元通り。相變らず。依然。仍舊(2)に同じ。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕漲者未ニ實陞一、而坍者仍然賠累。

【仍屬】10 jêng² shu³ やはり。元通り。

【仍孫】11（ジヨウソン） ㊀已から七代目の孫。昆孫の子。〔爾雅、釋親〕昆孫之子爲ニ仍孫一。〔駢雅、釋名稱〕孫之子、一世爲ニ曾孫一云云、五世爲ニ仍孫一。㊁孫。〔太玄經、數〕一爲ニ玄孫一、二爲ニ曾孫一、三爲ニ仍孫一、四爲レ子、五爲レ身。

【仍多】12（ジヨウタ・ナホオホシ） その上、多い。仍は、云云であ る其れに加えて。〔白居易、寒食詩〕豈獨好風土、仍多舊親戚。

【仍重】13（ジヨウチヨウ） 頻りにかさなる。幾度もあること。〔漢書、成帝紀〕天災仍重、朕甚懼焉。

【仍雕】14（ジヨウテウ） 其の形によつて飾ること。〔禮、明堂位〕爵用ニ玉璣仍雕一。〔注〕仍、因也、因ニ爵之形一爲ニ之飾一也。

【仍復】15 jêng² fu⁴ やはり。元通りになる。

【仍盡本法】16（ジヨウジンホンパフ） 法律の規定する本條の例に仍つて處分する。〔讀律提綱〕律有ニ仍盡本法者一、名例律犯罪自首條、其損ニ傷於人一、因レ犯ニ殺傷一而自首者、得レ免ニ所レ因之罪一、仍從ニ本殺傷法一、本過失者、聽レ從ニ本法一、此卽仍盡本法之例。

【从】362 シヨウ ジユ 慣ジユウ 〔集韻〕牆容切 ㄘㄨㄥˊ t's ung² 冬

小篆 ㊀したがふ。從(4－10152)の本字。〔說文〕从、相聽也、从ニ二人一。〔集韻〕从、隷作レ從。㊁古は刅(2－1862)に作り、或は迦(11－38765)に作る。〔集韻〕从、古作レ刅、或作レ迦。

解字 會意。人の字を二つ合せた字。類を以て同心合體相ともにし隨ふこと。故に說文は相聽(ゆるす)也と訓ず。今、從の字につくる。〔說文、从、段注〕聽者聆也、引申爲ニ相許之偁一、按、从者今之從字、從行而从廢矣。

參考 两の古字の从(1－1419)とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕从、古從字。从、古兩字。

【从吉】1（ジユウキチ） 從吉(4－10152・・34)に同じ。

【从古】2（シヨウコ） 古來書き慣れた正字に從ふことをいふ。漢字には正字と俗字とある。正字とは正畫の文字をいひ、俗字とは世俗に書き傳へる訛舛の文字をいふ。〔字彙、首卷、从古〕古人六書、各有レ取レ義、遞傳ニ於後一、漸失ニ其眞一、故於ニ古字當レ从者一、紀而闡レ之。

【亼】363 サ 乍(1－130)の本字。〔正字通〕亼、乍本字。

【仏】364 ブツ 佛(1－517)の古字。〔正字通〕仏、古文佛、宋張子賢言、京口甘露寺鐵鑊有レ文、梁天監造ニ仏殿前一。

【仃】365 ケツ 孑(3－6931)の僞字。〔海篇〕仃、孑字之譌。

【仒】366 サン 傘(1－966)の略字。

【内】366 ナイ ダイ 內(1－1418)に同じ。

三畫

【仔】367 ㊀シ 〔集韻〕祖似切 ㄗˇ tzŭ¹·³ 紙
㊁シ 〔集韻〕津之切 ㄗㄞˇ tsai³ 支

小篆 ㊀㊁ ㊀能くする。たへる。任ずる。〔說文〕仔、克也、从レ人子聲。〔段注〕按、克、勝也、勝與レ任、義似レ異而同。〔廣雅、釋言〕仔、克也。〔集韻〕仔、仔肩、克也。〔字彙〕仔、任也。㊁こまかに。子(3－6930)に通ず。仔細(3)の㊀を見よ。㊂子(3－6930)に通ず。

現 幼少のもの。子(3－6930)に通ず。廣東語ではサイ(sai³)と讀む。

【仔賡】1（シカウ） 清、許昌國(10－35298・・309)の字。

【仔肩】2（シケン） 能くする。一說に、負擔の意といふ。責任。〔詩、周頌、敬之〕佛ニ時仔肩一、示ニ我顯德行一。〔傳〕仔肩、克也。〔箋〕仔肩、任也。

【仔細】3（シサイ） ㊀こまかに。氣をつけて。又、こまかなこと。くはしいこと。綿密。子細(3－6930・・349)に同じ。〔杜甫、九日藍田崔氏莊詩〕明年此會知誰健、醉把ニ茱萸一仔細看。〔桃花扇、偵戲〕你也挐レ帖跟去、俱要ニ仔細著一。㊁委細の事情。ことがら。いはれ。㊂かれこれといひ立てる程の事情。差支へのある事柄。〔平治物語、源氏勢汰事〕平氏一類を滅さんこと、何の仔細かあるべき。

【仔蟲】4（シチユウ） 昆蟲のかへりたてのもの。

【仔傳】5（シデン） 清、應澧(4－11330・・222)の字。

【仔琫】6（シホウ） 西藏の官名。財政を管理する商上といふ官廳の事務官。〔淸會典事例、理藩院、設官、西藏官制〕至ニ前藏商上鑄ニ造銀錢一、著ニ專派鑄錢仔琫二名、濟仲喇嘛二名一、以專責レ成。〔清國行政法汎論、藩部、西藏〕仔琫 Tsai Pêng 稱下其管ニ理財政一之官廳上曰ニ商上一、Shang Shang 其事務官、則設ニ仔琫三人一、派ニ噶布倫一人一、以管ニ理之一。

【仕】368 シ ジ 〔集韻〕上史切 ㄕˋ shih⁴ 紙

小篆 ㊀つかへる。㋑官途に就く。つかへ。仕宦。事(1－241)に通ず。〔正字通〕仕、宦也、云云、與レ事通。〔禮、曲禮上〕四十曰レ強、而仕。〔禮、禮運〕仕ニ于公一曰レ臣、仕ニ于家一曰レ僕。〔公羊、宣、元〕退而致レ仕。〔文中子、事君〕子曰、古之從仕者養レ人、今之從仕者養レ己。㋺しごととする。〔詩、小雅、四月〕盡瘁以仕。〔箋〕仕、事也。〔詩、大雅、文王有聲〕武王豈不レ仕。〔傳〕仕、事。㊁まなぶ。あきらかにする。〔說文〕仕、學也、从レ人士聲。〔詩、小雅、節南山〕弗レ問弗レ仕、勿レ罔ニ君子一。〔箋〕仕、察也。㊂姓。〔萬姓統譜〕仕、見ニ姓苑一、仕鳳昌黎人、正統中、山東陽信縣主簿。邦 つかまつる。なす・いたすの敬語。

解字 會意形聲。人と士との合字。士は又聲。士は事、十と一との合したもの。學びて君に事へること。故に人と士とを合して學とする。說文によれば、人に從ひ士は聲とし、形聲となる。〔說文通訓定聲〕仕、學也、从レ人从レ士、會意、士亦聲、按、猶ニ今試用一也、云云、叚借爲レ事。

【仕悠】1（シイウ） 明、段永(6－16619・・1)の字。

【仕隱】2（シイン） 仕官して役所の中に隱れてあらはれない。吏隱。琅琊代醉編、卷三十に見ゆ。〔紀談〕唐暢爲ニ江西從事一、不レ親ニ公牘一、人稱ニ仕隱一。

【仕譯】3（シワケ） 簿記用語。各種の取引を、勘定を定めて借貸に振分けること。

【仕譯帳】4（シワケチヤウ） 取引の仕譯を記入する帳簿。

【仕遠】5（シエン） 明、邊永(11－39216・・9)の字。

【仕家】6（シカ） 役人と爲り得る家柄。〔唐書、韋丹傳〕立ニ學官一、取ニ仕家子弟十五人一。

【仕向】7（シムケ） しむけること。あてがひ。

【仕學】8（シガク） 仕官することと學問すること。又、仕官して一方に學問する。仕學竝長を見よ。〔劉基、送ニ胡生之ニ定遠教諭任一詩〕仕學猶ニ兩翅一、對舉不レ可レ遺。

【仕學齋】9（シガクサイ） 安東守經の號。安東仕學齋(3－7072・・382)を見よ。

【仕學規範】10（シガクキハン） 書名。四十卷。宋、張鎡撰。

爲學・行己・莅官・陰德・作文・作詩の六類に分け、宋代名臣の事狀を載せて居る。〔四庫提要、子、雜家類〕。

〖仕學竝長〗11 シガクナラビチヤウズ 官職上の事務をとる才能と學問とが一方に偏することなく、竝に長じ進む。〔論語、子張〕子夏曰、仕而優則學、學而優則仕。

【仕合】12 シアハセ ❶めぐりあはせ。宿命。〔好色二代男〕是非に及ばぬ仕合。❷幸運に際會する事。幸福。〔狂言記、末廣がり〕仕合せな事で御座る。❸アヒ 武道競技などの勝敗を競ふこと。

【仕驥】13 シキ 清、魯九皐(**12－46013**・・152)の原名。

【仕儀】14 ギシ なりゆき。事のありさま。

【仕休】15 シキウ 後魏、賈思伯(**10－36755**・・173)の字。

【仕官】16 シクワン やくに就く。役人になる。又、其のこと。仕宦。出仕。奉職。就職。仕進。〔史記、魯中連傳〕好ニ奇偉俶儻之畫策一、而不レ肯ニ仕官任一レ職。〔漢書、疏廣傳〕今仕官至ニ二千石一、宦成名立、如レ此不レ去、懼有ニ後悔一。

【仕宦】17 シクワン 役につく。仕官に同じ。〔史記、平準書〕市井之子孫、亦不レ得ニ仕宦爲一レ吏。〔論衡、逢遇〕仕宦無ニ常遇一。〔歐陽脩、相州晝錦堂記〕仕宦而至ニ將相一、富貴而歸ニ故鄉一。

〖仕宦當レ作ニ執金吾一〗18 シクワンセバマサニシツキンゴトナルベシ 後漢の光武帝が、微賤のとき、仕官して執金吾といふ官を得たいと望んだこと。〔後漢書、光烈陰皇后紀〕仕宦當レ作ニ執金吾一、娶レ妻當レ得ニ陰麗華一。

【仕國】19 シコク 仕へるだけの値打のある國。〔孟子、滕文公下〕晉國亦仕國也、未ニ嘗聞一仕如レ此其急一。〔集注〕仕國、謂ニ君子游宦之國一。

【仕子】20 シシ 役人。〔陸機、五等諸侯論〕仕子之常志、脩レ己安レ民。〔宋書、王華傳〕公路日清、私請漸塞、處士砥ニ自求之節一、仕子藏ニ交馳之情一。〔鮑照、詠史詩〕仕子彯ニ華纓一、遊客竦ニ輕轡一。〔鮑照、翫ニ月城西門廨中一詩〕仕子倦ニ飄塵一。

【仕事】21 シゴト わざをすること。わざ。職業。

【仕者】22 シシヤ 仕へるもの。役人。官吏。〔孟子、梁惠王上〕使ニ天下仕者、皆欲レ立ニ於王之朝一。

【仕上】23 シアゲ ❶仕事の終ること。事業を成し遂げること。❷仕事を終へた結果。又、仕上げようとする最後。〔鶉衣、剃髮辯〕かりそめながら生涯の仕上げなれば。

〖仕上拂〗24 シアゲバラヒ 仕事の仕上つた時に金を支拂ふこと。

【仕手】25 シテ 市場用語。市場に於ける主なる賣方買方。其の賣買取組を仕手關係といひ、仕手關係で變動する相場を仕手相場といふ。

【仕出】26 シダシ 註文により料理を調へて屆けること。でまへ。〔江戸名物詩、初編〕八百善仕出、八百善名響ニ海東一、年中仕出太平風、此家欲レ識ニ鹽梅妙一、請見ニ數編料理一通。

【仕所】27 ツカヘドロロ ❶仕へる所。❷仕へ易い所。❸院に事へてゐる無位無官の人。又、其の詰所。〔日本紀略、三〕天曆元年五月三日、朱雀院定ニ主典代・仕所・御書所別當等一。❹檢非違使廳の稱。〔宇津保物語、俊蔭〕つかへどころに遣はし。

【仕臣】28 シシン 家來。士臣(**3－5638**・・111)に同じ。

【仕進】29 シシン 役につく。仕官(16)に同じ。〔後漢書、崔駰傳〕常以ニ典籍一爲レ業、未レ遑ニ仕進之事一。

【仕人】30 ツカヘビト ツカマツリビト 仕へる人。つかへまつる人。〔井筒業平河內通、三〕君につかへ人、其の品品の多き中に。

【仕切】31 シキリ ❶かぎり。さかい。❷帳面の決算。❸相撲で兩力士の立合ふ前の所作・構へ。

【仕組】32 シクミ ❶工夫してくみ立てる。又、くはだて。工夫。計畫。❷小說・脚本などの趣向。脚色。くみたて。

【仕穉】33 チシ 明、黃童(**12－47926**・・716)の字。

【仕丁】34 シチヤウ ❶昔、國々から賦役に指されて京師へ上ぼつて仕へた者。❷昔、主殿寮・木工寮・院の廳、其の他の諸官省で、種々の雜役に驅使せられた者。〔民部省式〕每月晦日、令ニ諸司仕丁掃ニ除宮中一。〔三代實錄、四十九〕仁和二年四月三日、木工寮仕丁、立縫彥庥呂。〔西宮記、十七、院宮〕仕所調ニ節器一、進ニ仕丁一。❸江戸時代、御臺所で御輿舁其の他諸事の使役に從事させた者。〔吏徵、下〕仕丁二十三人。❹チヤウ 明治の初、各官廳に置き、廳中の雜役に從事させた等外吏。明治十年一月十一日に廢せられた。小使。使丁。〔明治職官沿革表、一、職官部上〕仕丁。

【仕女】35 シヂヨ つかひめ。官女。轉じて、美女の意。仕女班頭を見よ。

〖仕女班頭〗36 シヂヨノハントウ 第一の美女。班頭は其の仲間の第一のもの。〔西廂記、草橋店夢ニ鶯鶯一雜劇〕姐姐是仕女班頭。

【仕朝】37 シテウ 明、兪士悅(**1－1437**・・99)の字。

【仕途】38 シト 仕官の道。官途。官界。仕塗。仕路。〔陳造、凌震張司戶惠レ詩次韻詩〕仕途決矣息ニ交遊一。

【仕塗】39 トシ 仕官の道。仕途に同じ。〔後漢書、皇甫規傳〕芳曰、威明欲レ避ニ第仕塗一、故激ニ發我一耳。〔注〕言レ欲ニ歸レ第避ニ仕宦之塗一也。〔唐書、隱逸傳序〕放利之徒、假レ隱自名、以詭ニ祿仕一、至下號ニ終南嵩少一、爲中仕塗捷徑上。

【仕入】40 シイレ 商品などを買ひ入れること。

〖仕入狀〗41 シイレジヤウ 買込んだ商品の明細書。

〖仕入帳〗42 シイレチヤウ 商品の仕入れに關する詳細を記錄する帳簿。

【仕版】43 シハン 官吏の名簿。〔宣和書譜〕張華爲ニ本郡太守所一レ薦、始登ニ仕版一。

【仕拂】44 シハラヒ 代價などを拂ふこと。

〖仕拂人〗45 シハラヒニン 手形の金額を仕拂ふ義務のある人。

〖仕拂命令〗46 シハラヒメイレイ 國務大臣又は他の當該官吏が、債權者に仕拂ひする義務のある場合に、國庫又は金庫に向つて發する仕拂方の命令。

【仕明】47 シメイ 字號。❶後魏、賈思同(**10－36755**・・172)の字。❷後魏、常爽(**4－8955**・・109)の字。

【仕鳴】48 シメイ 明、萬鏜(**9－31339**・・340)の字。

【仕樣】49 シヤウ 仕方。方法。〔日本振袖始、二〕仕樣模樣もありさうな事。

【仕流】50 シリウ 仕官。役人。〔福惠全書、郵政部、稽查徒犯〕無レ論ニ仕流一、宜下加ニ優禮一、設レ飲餽上レ賚、以湔中其恥辱上。

【仕林】51 シリン 仕官。〔福惠全書、稟啓附、候ニ川撫劉公一〕仕林樗質、宦海萍蹤。

【仕歷】52 シレキ 多くの官に歷仕すること。歷仕。〔晉書、王湛傳〕湛少仕ニ歷秦王文學・太子洗馬・尚書郎・太子中庶子一。

【仕廉】53 シレン 元、萬淸(**9－31339**・・305)の字。

【仕路】54 シロ 仕官の道。仕途(38)に同じ。〔書、舜典、闢ニ四門一疏〕門者、行之所レ由、故以レ門言ニ仕路一。〔金史、左泌傳〕侵ニ尋仕路一、又三十年。〔書言故事、仕進類〕作レ官、曰レ在ニ仕路一。

〖仕路狹〗55 シロセマシ 仕官のみちがせまい。〔通俗編、仕進、仕路狹〕後漢書和帝詔、束修良吏、進仕路狹。

【致レ仕】56 シヲイタス 致仕(**9－30146**・・53)を見よ。

【仕附方】57 シツケカタ 禮儀作法のしこみかた。躾方。〔甲陽軍鑑、四〕仕附方何事もそれぞれに恥ぢをかかず。

【仕込杖】58 シコミヅヱ 刀・槍の刃を杖に仕込んだもの。〔太平記曦鎧、一〕振り廻はす樫丸太に、鐵の疣仕込杖。

【仕非レ爲レ貧】59 シハヒンノタメニスルニアラズ 士が仕官する本意は道を天下に行ふためであつて、衣食の爲ではない。〔孟子、萬章下〕孟子曰、仕非レ爲レ貧也、而有レ時乎爲レ貧。

【善レ仕不レ如ニ遇合一】60 シヲヨクスルハグウガフニシカズ 善い條件で仕へようと考へてゐるよりも、よい君に出遇ふ方が早道だ。〔史記、佞幸傳〕諺曰、力レ田不レ如レ逢レ年、善レ仕不レ如ニ遇合一。

【仞】369

シン 信(**1－707**)の古字。〔正字通〕仞・古文信。

【他】370

㊀タ 〔集韻〕湯何切 歌 ㄊㄨㄛ t'uo

㊁ダタ 〔集韻〕唐佐切 箇 ㄊㄚ t'a

㊀❶**ほか**。**よそ**。**餘事**。**別事**。〔書、秦誓〕無ニ他技一。〔詩、小雅、小旻〕人知ニ其一一、莫レ知ニ其他一。〔大學〕斷斷兮無ニ他技一。〔孟子、梁惠王下〕王顧ニ左右一而言レ他。〔呂覽、貴生〕又況於ニ他物一乎。❷**骨肉以外の人**。他人。〔詩、小雅、頍弁〕兄弟匪レ他。〔箋〕皆兄弟與レ王無レ他、言ニ至親一。❸**ふたごころ**。**あだしごころ**。**二心**。**よこしま**。〔詩、鄘風、

柏舟〕之死矢靡レ他。〔傳〕無二他心一也。〔法言、問道〕君子正而不レ他。❹かれ。かの。あれ。此(6―16259)の對。〔正字通〕他、彼之稱也。〔杜審言、戲贈二趙使君美人一詩〕羅敷獨向二東方一去、謾學二他家一作二使君一。❺たれ。〔玉篇〕他、誰也。❻助字。〔王維、與二盧員外象一過二崔處士興宗林亭一詩〕科頭箕踞長松下、白眼看他世上人。❼佗(1―513)・它(3―7057)に同じ。〔集韻〕佗、彼之稱、或从レ也。〔正字通〕他、通作レ佗、或省作レ它。〔二〕❶家畜が物を負ふこと。駄(12―44589)に通ず。〔集韻〕馱、畜負レ物也、或作レ他。❷かさなるさま。他他(71)を見よ。

名乘　ヒト。

參考　佗(1―513)の字解を見よ。

【他愛】1 タアイ　自己の利益を犧牲にして、他人のために力を盡す。自愛(9―30095‥1)の對。

〔他愛主義〕2 タアイシユギ　他人を自己と同等、或は自己以上に愛する主義。

【他異】3 タイ　外とことなること。它異。

【他意】4 タイ　❶他の考。別意。❷ふたごころ。あだし心。他心。〔漢書、戾太子據傳〕上知三太子惶恐無二他意一。〔魏志、劉表傳〕知三嵩無二他意一、乃止。

【他邑】5 タイウ　ほかの土地。それ以外の土地。〔左氏、隱、元〕佗邑唯命。〔校勘記〕石經本・岳本・足利本、佗作レ他。

【他緣】6 タエン　佛 一切の事物が自存するのではなく、互に他のものに緣つて存在すること。〔釋門歸敬儀、上〕我身屬二於他緣一、冥冥不レ知二來處一。

【他家】7 タカ　❶他人の家。〔詩、唐風、葛生、蘞蔓二于野一、傳〕喩三婦人外成二於他家一。❷彼。家は助字。〔杜審言、戲贈二趙使君美人一詩〕羅敷獨向二東方一去、謾學二他家一作二使君一。

【他界】8 タカイ　❶他の地方。〔周書、劉璠傳〕其德化爲二他界所一レ歸。❷他の世界。あの世。又、あの世に行く義。死去。逝去。〔東鑑、十二〕建久三年八月二十二日、玄夏頃他界。

【他行】9 タカウ　他の地に行く。他所に行く。〔魏書、列女、魏溥妻房氏傳〕房命レ駕給云二他行一、因而遂歸、其家弗レ知レ之也。

【他客】10 タカク　招かない客。又、他の客。〔羣談採餘〕康節笑曰、他客得レ至レ此耶。

【他樂】11 タガク　他の舞樂。〔史記、吳太伯世家〕若有二他樂一、吾不二敢觀一。

【他岐】12 タキ　ほかのえだみち。他歧。〔韓愈、寄二崔二十六立之一詩〕廻レ首卿相位、通途無二他岐一。

【他技】13 タギ　外の技藝。他伎。〔公羊、文、十二〕斷斷焉無二他技一。〔大學〕斷斷兮無二他技一。〔史記、孟嘗君傳〕長者無二他伎能一。〔注〕集解曰、伎亦作レ技。

【他義】14 タギ　外の意義。別のわけ。〔文體明辯、原〕或曰二原某一、或曰二某原一、亦無二他義一。

【他議】15 タギ　他人を批評すること。〔史記、三王世家〕乃敢惟二他議一、以干二用レ事者一。

【他竟】16 タキヤウ　ほかの國。よその土地。他竟。他國(38)・他鄉(17)に同じ。〔左氏、襄、十四〕君不レ撫二社稷一、而越在二他竟一。〔左氏、昭、十八〕鄭有二他竟一。〔左氏、定、十〕若使三郈在二君之他竟一、寡人何知焉。

【他鄉】17 タキヤウ　故鄉を離れた地。よそ。異鄉。〔古樂府、飮馬長城窟行〕夢見在二我旁一、忽覺在二他鄉一。〔王勃、蜀中九日詩〕九月九日望鄉臺、他席他鄉送レ客杯。〔高適、夜別二韋司士一詩〕莫レ怨他鄉暫離別、知君到處有二逢迎一。

〔他鄉異縣〕18 タキヤウイケン　よその土地。〔顏氏家訓、慕賢〕他鄉異縣、微藉二風聲一。

〔他鄉見二故知一〕19 タキヤウニコチヲミル　故鄉を離れて舊い知己に出會ふ。喜ばしいことの一つ。〔容齋四筆、得意失意詩〕久旱逢二甘雨一、他鄉見二故知一。

【他境】20 タキヤウ　他竟(16)に同じ。

【他疆】21 タキヤウ　他竟(16)に同じ。〔李華、安陽縣令廳壁記〕他疆之人、父母之居。

【他玉】22 タギヨク　他の玉。〔左氏、哀、十四〕與二之他玉一、而奔レ齊。

【他伙】23 t'a¹ huo³　他の組。外のなかま。

【他官】24 タクワン　ほかの官職。〔國史略、二一條天皇〕其功宜レ任二左馬頭一、何拜二他官一、遂不レ受焉。

【他願】25 タグワン　ほかのねがひ。〔吳偉業、口占詩〕吾生此外無二他願一、飮レ谷棲レ邱二十年。

【他化】26 タケ　佛 他化自在天の略。

〔他化自在天〕27 タケジザイテン　佛 欲界六天の第六。欲界の天主大魔王の住むところ。此處では快樂を爲すのに他の樂事を假りて自在に遊戲するから、他化自在といふ。第六天。〔俱舍頌疏、世間品、一〕他化自在天、於二他化中一得二自在一故。〔智度論、九〕此天奪二他所化一而自娛樂、故言二他化自在一。

【他計】28 タケイ　ほかのはかりごと。〔李絳、對二憲宗一論二朋黨一文〕不レ爲二他計一、苟二安其位一。

【他見】29 タケン　ひとに見られる。他人の目にふれる。よそめ。〔遺敎法律〕他見生レ謗。

【他縣】30 タケン　よその縣。〔明外史、循吏傳〕他縣多以レ威取、音獨不レ忍。

【他言】31 タゲン タゴン　❶ひとに話すこと。外に漏らすこと。又、其の言葉。かげぐち。〔漢書、文帝紀〕其有二他言一、吏又以爲二誹謗一。❷其のほかの言葉。〔史記、留侯世家〕遂去、無二他言一。

【他己】32 タコ　佛 他人と自己。自他。〔出生菩提心經〕當レ知、是人解二脫他己一、立二安人天一。

【他戶】33 タコ　外の家。他家。

【他故】34 タコ　ほかのわけ。他の理由。別の事情。〔儀禮、士昏禮〕某以非二他故一。〔大戴禮、禮察〕此無二他故一也、湯武之定二取舍一審、秦王之定二取舍一不レ審也。〔韓非子、外儲說右上〕一擧而八有レ功、所二以然一者、無二他故異物一。〔楚辭、離騷〕豈其有二他故一兮。〔史記、禮書〕是故刑罰省、而威行如レ流、無二他故一焉、由二其道一故也。

【他伍】35 タゴ　ほかの伍。伍は、軍隊の五人の一組。〔墨子、號令〕若非二其左右及他伍一捕告者、封二之二千家之邑一。

【他語】36 タゴ　ほかの言葉。別の言葉。〔漢書、高五王傳〕恐不レ能レ言者、終無二他語一。

【他功】37 タコウ　他の手柄。〔白虎通、嫁娶〕紀侯無二他功一。〔風俗通、愆禮〕子衡臨レ郡、日淺無二他功一。

【他國】38 タコク　ほかの國。ことくに。外國。他境。異國。〔孟子、盡心下〕去レ齊、接レ淅而行、去二他國一之道也。〔戰國、趙策〕他國莫レ可。〔史記、商君傳〕欲レ之二他國一。

【他罪】39 タザイ　他の罪。〔史記、楊僕傳〕其時兩弟及兩婚家、亦各自坐二他罪一而族。

【他殺】40 タサツ　ひとに殺されること。殺害せられること。自殺(9―30095‥231)の對。

【他山】41 タザン　❶別の山。他の山。〔鄭谷、登二杭州城一詩〕潮來無二別浦一、木落見二他山一。〔李材、遊二山寺一詩〕細泉分二別澗一、小徑入二他山一。❷字號。㋑清、玉德(7―20821‥720)の號。㋺清、查愼行(6―14643‥103)の號。

〔他山之石〕42 タザンノイシ　他山から出る粗惡な石も、それを用ひて我が玉を磨いて、美しくすることが出來る。不善の人も、善人の德器を增す具となる喩。又、直接自分に關係の無いものでも、自分の反省の資料と爲すことが出來る喩。〔詩、小雅、鶴鳴〕他山之石、可二以攻一レ玉。

【他士】43 タシ　ほかの人。他人(85)の❶に同じ。一說に、他事の意。士は事。〔詩、鄭風、褰裳〕子不二我思一、豈無二他士一。〔傳〕士、事也。〔箋〕他士、猶二他人一也。

【他志】44 タシ　ふたごころ。異心。他意。他心。〔禮、檀弓下〕或下敢有二他志一、以辱中君義上。〔左氏、襄、三十一〕令尹似レ君矣、將レ有二他志一。〔史記、吳世家〕伍員知三光有二他志一。

【他師】45 タシ　ほかの師匠。又、師匠をかへる。他の師匠につく。〔漢書、云敞傳〕門人盡更レ名他レ師。〔注〕師古曰、更以二他人一爲レ師。

【他覗】46 タシ　よそみする。〔丸經〕擊不二他覗一、專覩二其丸一。

【他事】47 タジ　其のほかの事。よそごと。餘事。〔左氏、襄、二十六〕對曰、晉士起、將レ歸二時事於宰旅一、無二他事一矣。〔漢書、東方朔傳〕世所レ傳他事、皆非也。

【他時】48 タジ　さきに。往時。〔史記、秦始皇紀〕他時秦地不レ過二千里一。

【他州】49 タシウ　他の州。外の地方。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕觀察使下二其法於他州一。〔戴復古、元日二首呈二永豐劉叔治知縣一詩〕焚香拜二元日一、受

歲客二他州一。

【他室】50 タシツ ❶ほかのへや。別室。他房。〔禮、雜記下〕哭二之他室一。❷妾をいふ。〔稱謂錄、妾、他室〕元潘澤碑、子希永他室李出。

【他日】51 タジツ ❶今より以前の日。前日。以前。〔左氏、襄、二十九〕使レ民不レ嚴、異二於他日一。〔左氏、襄、二十九〕言二季氏一如二他日一。〔孟子、梁惠王下〕他日君出、則必命二有司所一レ之、今乘輿已駕矣、有司未レ知レ所レ之。〔史記、鄭世家〕楚獻二黿於靈公一、子家・子公、將レ朝二靈公一、子公之食指動、謂二子家一曰、佗日指動、必食二異物一。及二入見一、靈公進二黿羹一、子公笑曰、果然。❷其の事があつてから後の日。後日。異日。〔孟子、滕文公上〕昔者、孔子沒、三年之外、門人治レ任將レ歸、云云、他日、子夏・子張・子游、以三有若似二聖人一、欲下以レ所レ事二孔子一事上レ之。〔孟子、滕文公上〕他日又求レ見二孟子一。〔史記、孔子世家〕他日又復問二政於孔子一。孔子曰、政在レ節レ財。❸此の後の日。いつか。今後。異日。

【他借】52 タシャク ほかから借りること。

【他從】53 タジュウ 他に從ふ。〔史記、韓世家〕彼韓急、則將二變而他從一。

【他出】54 タシュツ 外へ出て行くこと。外出。〔名山藏、胡世寧傳〕調二兵江西一、方他出。

〔託二他出一〕55 タシュツニタクス 留守を使ふこと。〔過庭錄〕建有二章黃生者一、問二先子所一レ居、以レ刺投レ謁、先子昧二其人一、託以二他出一。

【他術】56 タジュツ 別の方法。〔唐書、裴度傳〕治亂之本、非レ有二他術一。

【他所】57 タショ 別の所。外の土地をいふ。〔漢書、五行志下之上〕風發二於他所一。

【他處】58 タショ ほかのところ。他所。〔韓愈、張中丞傳後序〕苟此不レ能レ守、雖レ避二之他處一何益。〔薛能、望二蜀亭一詩〕前軒一望無二他處一、從レ此西川只在レ心。

【他署】59 タショ 他の役所。〔墨子、號令〕離二署左右一、共入二他署左右一。

【他稱】60 タショウ 文法用語。第三人稱。

【他心】61 タシン ❶ほかの考。別の考。又、ふたごころ。あだしごころ。他意。他志。他腸。〔戰國、趙策〕智伯曰、兵著二晉陽一三年矣、旦暮當レ拔レ之而饗二其利一、乃有二他心一、不可、子愼勿二復言一。❷佛 他人の心。〔大乘義章、十五〕非二己之慮一、稱曰二他心一。

〔他心通〕62 タシンツウ 佛 六通の一。他人の心を知る自在無碍の力。他心智。

【他世】62′ タセイ タセ 佛 現世に對して、過去、或は未來の世をいふ。前世、或は未世。〔觀无量壽經〕捨レ身、他生必生二淨國一、心得レ無レ疑。

【他生】63 タシャウ 佛 今生より過去・未來の生をいふ。〔白居易、香山寺詩〕他生當レ作二此山僧一。〔李商隱、馬嵬詩〕海外徒聞更九州、他生未レ卜此生休。〔元稹、僧如展及韋戴同遊二碧澗寺一詩〕重吟前日他生句。

〔他生之緣〕64 タシャウノエン 佛 現在に於て近づきになるのは、前世に於て親しかつた緣によること。又、多生之緣の誤りなりともいふ。〔謠曲、田村〕一河の流れを汲んで、他生の緣ある旅人に。

【他姓】65 タセイ おのれと異なる姓。別の姓。異姓。

【他甥】66 タセイ 外に嫁いだ姉妹の子。をひ。〔唐書、太穆皇后竇氏傳〕武帝愛二養宮中一、異二他甥一。

【他宵】67 タセウ 後日の夜。〔白居易、南池詩〕淹泊方難レ遂、他宵關二夢魂一。

【他席】68 タセキ 他の宴席。隣席。〔王勃、蜀中九日詩〕九月九日望鄉臺、他席他鄉送レ客杯。

【他說】69 タセツ ほかの說。他の言說。〔荀悅、經籍論〕爽又著二詩傳一、皆附二正義一、無二他說一。

【他族】70 タゾク 他のやから。〔左氏、隱、十一〕無下滋二他族一、實偪二處此一、以與二我鄭國一爭中此土上也。〔晉書、列女、謝氏傳〕何關二他族一。〔顏氏家訓、風操〕言禮成二他族一。

【他他】71 タタ 禽獸が多く殺されて倒れ重なるさま。史記の司馬相如傳は佗佗に作る。〔司馬相如、上林賦〕他他藉藉、塡レ坑滿レ谷。〔注〕善曰、他他藉藉、言二交橫一也、向曰、他他藉藉言レ多也。

【他道】72 タダウ ❶異なる道。聖人の道以外の道。〔法言、問道〕非二堯舜文王一者、爲二他道一。❷他の方法。〔李衞公問對、上〕諸葛亮七擒二孟獲一、無二他道一也。

【他端】73 タタン ほかの善い考。外の策。他計。〔史記、信陵君傳〕今有レ難、無二他端一、而欲レ赴二秦軍一、譬若三以レ肉投二餒虎一、何功之有哉。

【他帙】74 タチツ 他の書帙。〔韓愈、張中丞傳後序〕因亂二抽他帙一以試、無レ不二盡然一。

【他町】75 タチャウ ほかのまち。

【他長】76 タチャウ 他人の長所。〔佐久間象山、題二那波利翁像一詩〕守レ株未レ知レ師二他長一、矮舟誰能操二元戎一。

【他腸】77 タチャウ ふた心。他心(61)に同じ。〔唐書、陸扆傳〕天復初、帝密語二韓偓一曰、陸扆裴贄、孰忠二於我一、偓曰、扆等皆宰相、安有二他腸一。

〔無二他腸一〕78 タチャウナシ ふた心がない。他の惡意がない。〔史記、衞綰傳〕上以爲三廉忠實無二他腸一。

【他店】79 タテン ほかのみせ。

【他田】80 ヲサダ ❶駿河國の地名。〔倭名類聚抄〕。❷姓氏。〔姓名錄〕。

【他土】81 タド 佛 他の世界。安樂の世界。〔法華經、寶藏品〕移二諸天人一、置二於他土一。

【他動】82 タドウ 對象に向つて働く動作。自動(9－30095・456)の對。

〔他動詞〕83 タドウシ 文法用語。他の事物に動作を及ぼす意を表はす動詞。擊つ・助く・耕すの類。自動詞(9－30095・457)の對。

【他納】84 t'a¹ na⁴ あの方。他人に對する尊稱。

【他人】85 タニン ❶我よりほかの人。あだしびと。ひと。〔詩、唐風、山有樞〕他人是愉。〔公羊、哀、七〕入不レ言レ伐、此言レ伐何、內辭也、若レ使二他人一然。〔白居易、太行路〕人生莫レ作二婦人身一、百年苦樂由二他人一。❷親類でない人。

〔容二他人鼾睡一耶〕86 タニンノカンスイヲイレンヤ 傍で他人がいびきをかいて眠るのを其の儘許して置けようか、許されぬとの意にて、他人が別に一國をなすことは許して置けぬといふ喩。〔桯史〕但天下一家、臥榻之側、豈容二他人鼾睡一耶。

〔爲二他人一作二嫁衣裳一〕87 タニンノタメニカイシャウヲツクル 貧女が、自分の衣裳は作り得ず、常に他人の婚禮の衣裳を作ること。貧女の憐むべきさまをいふ。〔秦韜玉、貧女詩〕苦恨年年壓二金線一、爲二他人一作二嫁衣裳一。

〔他人有レ心予忖二度之一〕88 タニンココロアリワレコレヲソンタクス 他人の心を、己は善く推測する。〔詩、小雅、巧言〕他人有レ心、予忖二度之一。〔集傳〕以興三他人有レ心、則予得而忖二度之一。

【他年】89 タネン ❶まへのとし。前年。〔陸游、詩〕他年鼓角榆關路、馬上遙見與レ之同。❷今後のとし。後年。〔左氏、成、十三〕晉人以二其役之勞一、請レ俟二他年一。

【他念】90 タネン ほかの考。別のおもはく。他意。他心。餘念。

〔他念他翁〕91 タネンタオウ 山名。怒山をいふ。怒江と瀾滄江との間にあり、西康から雲南の西北に連り、北端は唐古剌大山脈に接す。

【他能】92 タノウ 他の才能。〔史記、佞幸、鄧通傳〕文帝時時如二鄧通家一遊戲、然鄧通無二他能一。

【他儂】93 タノウ 他人。〔孟珠曲〕揚州石榴花、摘插二雙襟中一、葳蕤當レ憶レ我、莫レ持二豔他儂一。〔讀曲歌〕詐レ我不レ出レ門、冥就二他儂宿一、鹿轉方相頭、丁倒欺二人目一。

【他方】94 タハウ 別の方向。ほかの方面。一方。又、他國。〔魏志、文德郭皇后傳〕后外親劉斐、與二他國一爲レ婚、后聞レ之、勅曰、諸親戚嫁娶、自當レ與二鄉里門戶匹敵者一、不レ得下因二勢彊一與二他方人一婚上也。〔杜甫、贈二崔融一詩〕十年但薄宦、萬里各他方。

【他邦】95 タハウ 外國。〔論語、鄉黨〕問二人於他邦一、再拜而送レ之。

【他法】96 タハウ ほかの方法。別の方法。〔唐律、斷獄〕以二他法一拷掠。

【他藩】97 タハン 外の藩。

【他物】98 タブツ ほかのもの。別のもの。〔呂覽、貴生〕天下重物也、而不三以害二其生一、又況於二他物一乎。〔漢書、東方朔傳〕復使レ射二他物一、連中、輒賜レ帛。〔論衡、言毒〕他物之氣、入二人鼻目一。

〔他物權〕99 タブツケン 他人の所有物の上に存する物權。地上權・永小作權・質權・抵當權の類。

【他聞】100 タブン 他人にきかれること。ひとぎき。外聞。

【他辯】101 タベン ほかの方面から辯明する。〔公孫龍子、通變〕曰他辯、曰青以レ白非レ黃、白以レ青非レ碧。

【他寶】102 タホウ 佛 他人の寶。自分に何等益のないこと。〔華嚴經偈〕譬如二貧窮人一、晝夜數二他寶一、自無二半錢分一、多聞亦如レ是。
【他毎】103 タマイ 彼等。あのひとたち。他們。〔元曲、玉鏡台〕他毎都恃著口強。
【他面】104 タメン ほかの半面。又、他の方面。一方。
【他門】105 タモン 一 ほかの門。〔墨子、號令〕門將并守二他門一。二 ほかの家。他家。〔剪燈新話、翠翠傳〕誓不レ登二他門一也。三 佛 他の宗派。
【他們】106 t'a¹ men 彼等。們はともがら。彼輩。
【他郎】107 タラウ 一 廳名。清、置く。民國、縣に改む。二を見よ。〔清史稿、地理志〕雲南、普洱府、廳三、他郎廳。二 縣名。民國、置く。雲南省元江縣の西南。後、墨江縣と改名す。
【他郎甸】108 タラウテン 甸の名。雲南省新平縣の西北。もと馬龍・他郎二甸の地。明代に州とし、清代に廢せらる。
【他流】109 タリウ 己の流儀と異なつた流儀。
【他流試合】110 タリウジアヒ 武藝などで他流の人と試合すること。
【他力】111 タリキ 一 佛 淨土門に說く所で、極惡の凡夫も愚痴の衆生も極樂に往生することを得るは、全く自力でなくて、阿彌陀如來の本願力に依るものであるといふこと。〔淨土論注、下〕如下劣夫跨レ驢不レ上、從二轉輪王行一、便乘二虛空一、遊二四天下一、無上レ所二障礙一、如レ是等、名爲二他力一。〔樓炭經〕或依二他力一。二 自力に對していふ。凡そ自力に屬しないものは皆他力といふ。
【他力教】112 タリキケウ 佛の本願力により極樂に生まれ、佛となるといふ目的を達し得ることを說く教。
【他力宗】113 タリキシユウ 佛 阿彌陀如來本願の力の回向に賴り往生を遂げようとする宗派をいふ。他力の一を見よ。
【他力本願】114 タリキホングワン 佛 阿彌陀如來の本願力によつて極樂往生の望みを遂げること。〔教行信證、二〕言二他力一者、如來本願力也。〔阿彌陀經見聞私、下一〕彌陀の本願を他力と云也。
【他律】115 タリツ 一 ほかの規定。二 他から律せられること。卽ち自己の眞本質に基づかない法則によつて支配せられること。自律(9－30095‥57)の對。
【他慮】116 タリヨ 他のおもんぱかり。他の考。〔戰國、秦策〕願君之專二志於攻一レ齊、而無二他慮一也。
【他類】117 タルイ 類を異にするもの。別類。異類。〔論衡、亂龍〕磁石引レ針、皆以二其眞是一、不レ假二他類一。他類肖次、不レ能二掇取一者、何也。
【他禮】118 タレイ 他の禮式。〔史記、封禪書〕他禮如レ故。
【他魯】119 タロ 河の名。洮兒河(6－17408‥9)をいふ。魏書に太魯河といひ、唐書に他漏河・它漏河に作り、遼に他魯河といひ、金は撻魯古河といふ。〔遼史、地理志一〕更名二上京府一曰二臨潢一、涞流河自二西北一南流、遶二京三面一、東入二於曲江一、其北東流爲二按出河一、又有二御河他魯河一。
【他樓】120 タロウ 縣名。隋、置く。故治は甘肅省固原縣の北。〔資治通鑑、晉紀〕(武帝、太元十六年)八月、乾歸帥二騎一萬一、討二沒奕干一、沒奕干奔二他樓城一。
【他往】121 タワウ 他出する。よそへ出る。
【無レ他】122 タナシ 一 ほかの原因・理由があるのではない。ほかの方法があるわけではない。〔孟子、梁惠王上〕古之人、所二以大過一レ人者、無レ他焉、善推二其所一レ爲而已矣。〔孟子、告子下〕其兄關レ弓而射レ之、則己垂二涕泣一而道レ之、無レ他、戚レ之也。〔孟子、盡心上〕人之所二不レ學而能一者、其良能也、云云、無レ他、達二之天下一也。二 ふた心がない。異心を持たぬ。〔詩、鄘風、柏舟〕之レ死矢靡レ他。〔傳〕靡、無也、之、至也、至二己之死一、信無二他心一也。〔國語、晉語三〕必事レ秦、有レ死無レ他。
【他坦兒】123 t'a¹ t'an³ êrh 場所の意。滿洲語。
【他那裏】124 タナリ あちら。かしこ。他那里。〔琵琶記、兩賢相遘〕他那裏既有二妻房一。
【他媽兒】125 t'a¹ ma¹ êrh 人を罵る語。
【他駱拔】126 タラクバツ 複姓。〔魏書、官氏志〕他駱拔氏、後改爲二駱氏一。
【他汗可汗】127 タカンカカン 北魏の世宗の時、蠕蠕の王。名は伏圖。伏古敦可汗の從兄弟に當る。年號を始平といふ。高車に西征したが高車王彌俄突に殺された。〔魏書、一百三〕・〔北史、九十八〕。
【他弓莫レ挽】128 タノユミハヒクナカレ 他人の弓は引くな。無益のことはするな。心を他に馳せてはならぬ。〔無門關〕他弓莫レ挽、他馬莫レ騎。
【他那個人】129 t'a¹ na⁴ kê jên² あの人。彼奴。
【他鉢可汗】130 タハツカカン 突厥第四代の王。木杆可汗の弟。北周の建德元年立つ。時に北支に周・齊の兩朝があり、共に突厥と結んで牽制せんと圖つたので、突厥の威勢は大いに重んぜられ、他鉢は東方に爾伏可汗を、西方に步離可汗を配し、控弦數十萬といはれた。また齊・周の內政にも干涉する所が多かつた。齊の僧惠琳によつて佛教に歸依し、伽藍を建てた。隋の開皇元年歿す。〔周書、五十〕・〔隋書、八十四〕。
【他餘之務】131 タヨノツトメ 其の他の務め。〔魏志、和洽傳〕損二除他餘之務一、以爲二軍戎之儲一。
【數二他珍寶一】132 タノチンパウヲカゾフ 專ら他人の批判ばかりして、自己の修行を力めぬ。〔祖庭事苑〕譬如下貧賤人、日夜數二他珍寶一、無中半錢分上。
【他摩圖羣島】133 ツアモツグンタウ 南太平洋ツブアイ諸島の東北方に在る二列の島群。Tuamotu Islands

【仗】371

一 チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕直亮切 ㄓㄤˋ chang⁴ 漾
二 チヤウ ヂヤウ 〔集韻〕雉兩切 養

一二 一 **兵器**。つはもの。刀戟の總稱。〔集韻〕仗、兵器。〔華嚴經音義、上〕風俗通曰、仗、刀戟之總名也。二 **よる**。〔正字通〕仗、憑倚也。〔詩、大雅、卷阿、有レ馮有レ翼、疏〕馮者可二以委仗一。〔漢書、杜欽傳〕莫レ可二據仗一。〔南史、梁武帝紀〕仗レ義而動。三 **まもり**。**護衞**。唐の制で、宮殿の兵衞。〔唐書、儀衞志〕凡朝會之仗、三衞番上、分爲二五仗一、云云、皆帶レ刀捉レ仗、列二於東西廊下一、每月以二四十六人一、立二內廊閤外一、號曰二內仗一、朝罷放レ仗、天子出、則有二細仗黃麾仗一。四 **よりどころ**。**たよるもの**。〔淮南子、原道訓〕無レ忘二玄仗一。〔注〕玄仗、道也。五 **つゑ**。**つゑつく**。杖(6－14469)に通ず。〔正字通〕仗、史漢通作レ杖。〔魏徵、述懷詩〕仗レ策謁二天子一。〔唐詩選箋注〕陸機詩曰、整レ駕肅二時命一、杖レ策將二遠尋一、卽發レ途之狀。

名乘 ヨル。

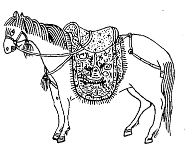
參考 伏(1－438)は別字。

【仗衞】1 ヂヤウエイ 儀仗護衞をいふ。〔玉海、車服、儀仗、元豐更造仗衞〕元豐六年正月丁丑朔、詔二閤門御史臺一、詳二定朝會儀一、更二造仗衞輿輅冠服一。
【仗氣】2 ヂヤウキ 血氣にたよる。血氣にはやる。使氣。〔陳書、後主紀〕其有下負レ能仗レ氣、擯二壓當時一者上、著二賓戲一以自憐、草二客嘲一以慰レ志。
【仗義】3 ヂヤウギ 正義によつて事をする。義憤を發して起つ。〔新語、道基〕聖人懷レ仁仗レ義。〔魏志、桓階傳〕曹公雖レ弱、仗レ義而起。〔南史、梁武帝紀上〕太白出二西方一、仗レ義而動。〔文中子、問易〕王澤竭、而諸侯仗レ義矣。
【仗義疎財】4 ヂヤウギソザイ 戲曲の名。明、周憲王作。雜劇十段錦の一。梁山塞の黑旋風李逵が、李㦛吉の女が趙都巡に強娶されようとするのを救つたことを取扱ふ。
【仗儀】5 ヂヤウギ 儀式に用ひる兵仗。儀仗。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕冊籍仗儀、整齊具備。
【仗戟】6 ヂヤウゲキ 刀戟。兵器。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕仗戟載レ途者、十有七日。
【仗劍】7 ヂヤウケン 刀を杖つく。つるぎを携へる。仗は杖に通ず。杖劍(6－14469‥27)に同じ。
【仗策】8 ヂヤウサク 馬策をつゑつく。〔魏徵、述懷詩〕仗レ策謁二天子一、驅レ馬出二關門一。
【仗身】9 ヂヤウシン 護衞の士。〔南史、周山圖傳〕山圖於二新林一立二墅舍一、晨夜往還、上謂曰、卿罷二萬人都督一、而輕行二郊外一、自レ今往レ墅、可下以二仗身一自隨上、以備中不虞上。〔資治通鑑、齊紀、明帝建武二年、注〕仗身、執レ仗之衞士也、天子禁衞、有二齋內仗身一、見二齊書蕭諶傳一、又按二杜佑通典一曰、唐制、鎮戍之官、給二仗身一、其人數眡二鎮戍之上中下一爲レ差、京官五品以上、亦有二仗身職員一。
【仗勢】10 ヂヤウセイ 勢を恃む。勢力を笠にきる。

【仗節】11 チヤウセツ 操を守る。節義に從つて行動する。〔後漢書、吳漢傳〕賊衆雖レ多、非レ有ニ仗レ節死レ義者一也。〔白虎通、文質〕士賤仗レ節死レ義。〔中論、智行〕召忽仗レ節死レ難、人臣之美義也。

【仗隊】12 チヤウタイ 儀仗隊。〔宋史、儀衞志二〕左右驍衞將軍各一員、左右廂各步軍六隊、分ニ東西一在ニ仗隊後一。

【仗馬】13 チヤウバ 儀仗の馬。立レ仗之馬(15)を見よ。〔淸會典圖、輿衞、仗馬〕仗馬、鞅及絡首鉤膺鞦攀、皆編ニ黃絨紃一、飾以ニ雜寶一、項及膺、各懸ニ朱纓一、黃緞爲レ韉、繡ニ金盤龍一、周爲ニ八寶一、藉以ニ朱氈一、鞍鐙皆銅質鋄金、坐具黃氈靑緣。



仗馬（淸會典圖）

【仗和】14 チヤウワ 明、劉釪(2—2224‥130)の字。

【立レ仗之馬】15 チヤウニタツノウマ 己の身に禍の及ぶことを恐れて事を言はないこと。儀仗の內に立つてゐる馬は聲を立てれば、すぐ退けられるからいふ。〔唐書、李林甫傳〕林甫居レ相、蔽ニ欺天下耳目一、以レ語動ニ其餘一曰、君不レ見ニ立レ仗之馬一乎、終日無レ聲、食ニ三品芻豆一、一鳴則黜レ之。

【㐱】372

シン 〔集韻〕止忍切 軫

小篆 **豐かな髮**。或は鬒(**12**—**45543**)に作る。〔說文〕㐱、稠髮也、从レ彡人聲、詩曰、㐱髮如レ雲、鬒、㐱或从レ髟、眞聲。〔集韻〕㐱、或作レ鬒。

【付】373

フ 〔集韻〕方遇切 ㄈㄨˋ fu^4 遇

小篆 ❶**さづける**。**あたへる**。〔說文〕付、予也、从ニ寸持レ物吕對レ人。〔段注〕寸者、手也。〔廣雅、釋詁三〕付、予也。〔正字通〕付、授也。〔孔叢子、記義〕孔子曰、若苟付レ可付、則己不レ勞、而賢才不レ失矣。❷**託する**。**たのむ**。〔後漢書、袁紹傳〕以ニ首領一相付矣。〔諸葛亮、出師表〕受レ命以來、夙夜憂慮、恐ニ付託不レ效、以傷ニ先帝之明一。〔曹冏、六代論〕無レ所ニ寄付一。❸**祭の名**。祔(**8**—**24662**)に通ず。〔篇海〕付、亦作レ祔。〔說文通訓定聲〕付、叚借爲レ祔。〔周禮、春官、大祝〕付・練・祥。〔注〕付、當レ爲レ祔。❹**つける**。附(**11**—**41606**)に通ず。〔書、梓材〕皇天既付ニ中國民、越厥疆土于先王一。〔釋文〕付、馬本作レ附。❺**姓**。〔元和姓纂〕鄭人史付之後。邦 **つき**。**ゆゑに**。對しての意。

解字 會意。人と寸の合字。寸は手のこと。手に物を持つて人に對すること。故にあたふとよむ。假借して祔とす。〔說文通訓定聲〕付、與也、从ニ寸持レ物對レ人、會意、云云、叚借爲レ祔。

【付郵】1 fu^4 yu^2 郵便で差出す。

【付印】2 fu^4 yin^4 印刷に付す。印刷する。

【付價】3 fu^4 chia^4 代價を拂ふ。

【付項】4 fu^4 hsiang^4 貸方。付方(32)に同じ。

【付刊】5 fu^4 k'an^1 出版する。付印(2)に同じ。

【付勘】6 フカン 審査に付すること。勘は勘考。〔明律、吏律、職制〕凡各衙門官吏、給レ由到ニ吏部一、限ニ五日一付勘完備。

【付寄】7 fu^4 chi^4 送付する。發送する。

【付議】8 フギ 議に付する。相談にかける。

【付訖】9 fu^4 ch'i^3 代金支拂ひずみ。支拂終了。

【付給】10 fu^4 chi^3 與へる。給與する。

【付火】11 フクワ 火にくべて燒き棄てる。燒却。〔徐夤、新葺茆堂詩〕筆硏不才當レ付レ火、方書多誑罷レ燒レ金。

【付過】12 フクワ わたす。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕應ニ付過一若干、有無開鎖領給未レ完。

【付款】13 フクワン 金を支拂ふ。金を拂渡す。

【付還】14 フクワン 還付する。

【付現】15 fu^4 hsien^4 現金支拂ひ。

【付股】16 fu^4 ku^3 委員會に付託する。

【付財】17 フザイ 佛 小乘の比丘に大乘の法財を附與すること。〔四教儀集注、上〕所四以令三其轉ニ教菩薩意一、在ニ二乘領ニ法門一、故曰ニ付財一。

【付梓】18 fu^4 tzŭ^3 出版する。付印(2)に同じ。

【付償】19 fu^4 ch'ang^2 つぐなふ。

【付上】20 fu^4 shang^4 同封して送る。

【付授】21 フジユ さづける。わたす。手わたしする。〔晉書、羊祜傳〕功名之際、臣所レ不ニ敢居一、若事了、當レ有レ所ニ付授一、願審擇ニ其人一。

【付書】22 fu^4 shu^1 手紙を送る。

【付屬】23 フシヨク ❶たのむ。まかす。〔王安石、上ニ仁宗皇帝一言レ事書〕伏惟、三廟祖宗神靈、所ニ以付ニ屬陛下一、固將レ爲ニ萬世血食、而大庇ニ元元於無窮一也。❷佛 ゾク 業を付托し手渡す。〔法華經、囑累品〕我於ニ無量百千萬億阿僧祇劫一、修ニ習是難得阿耨多羅三藐三菩提法一、今以付ニ屬汝等一。❸フゾク 附屬物。

【付囑】24 フシヨク 言ひ附ける。たのむ。又、いひつけ。たのみ。付屬の❶に同じ。〔白居易、與ニ濟法師一書〕佛之付囑、豈不ニ不寧一也。〔法苑珠林〕親受ニ付囑一。

【付信】25 fu^4 hsin^4 書信を送る。

【付淸】26 fu^4 ch'ing^1 支拂濟。皆濟する。きれいに支拂ふ。淸算する。

【付託】27 フタク たのみ。たのむ。委託。寄託。〔諸葛亮、出師表〕恐ニ付託不レ效、以傷ニ先帝之明一。〔王安石、本朝百年無レ事劄子〕指揮付託、必盡ニ其材一。

【付治】28 フチ 有司に言ひつけて罪を調べさせる。〔資治通鑑、陳紀〕(臨海王、光大元年)王暹・殷不佞並付レ治。〔注〕付治、付ニ有司一治レ罪也、或作ニ付治一、付ニ東治一使ニ徒作一也。

【付賬】29 fu^4 chang^4 金を返す。

【付定】30 fu^4 ting^4 手附金を渡す。

【付泥】31 フデイ 星の異名。〔事物異名錄、乾象、星〕日本寄語、星曰ニ付泥一。

【付方】32 fu^4 fang^1 簿記用語。貸方。

【付法】33 フハフ ❶法律に訴へて罪をきめる。〔朝野僉載〕盡奏、請レ付レ法。❷ホウフ 佛 法門を付屬すること。〔五燈會元〕四祖優婆毱多尊者付法、已乃踊ニ身虛空一。

【付畀】34 フヒ あたへる。付與。〔書、康王之誥〕皇天用訓ニ厥道一、付ニ畀四方一。

【付俾】35 フヒ あたへる。付畀。付與(41)に同じ。〔逸周書、祭公解〕維皇皇上帝度ニ其心一、寘ニ之明德一、付ニ俾於四方一、用應ニ受天命一、敷レ文在レ下。〔注〕付ニ與四方一、受ニ命於天一、而敷ニ其文德一、在ニ下土一也、沈云、當レ作レ畀。

【付物】36 フブツ そへもの。附物。

【付丙】37 fu^4 ping^3 火で焚く。祕密の手紙などを火中に投じて焚く義。丙は火。付ニ丙丁一(**1**—**35**‥**21**)を見よ。

【付末】38 フマツ 北曲に於ける俳優の名。一に冲末ともいふ。立役者正末に副ふものの稱。

【付命】39 フメイ 天命を授ける。天命を付與する。孚命。附命。〔漢書、孔光傳〕天既付レ命、正ニ厥德一、言ニ正レ德以順レ天也。〔注〕師古曰、商書高宗肜日之辭、言、既受ニ天命一、宜レ正ニ其德一。

【付予】40 フヨ あたへる。さづける。付與に同じ。〔韓愈、平ニ淮西一碑〕嗚呼天既全付ニ予有象一。〔王安石、上ニ杜學士一書〕豈主上與ニ一二股肱之臣一、不レ惟ニ付予一、必久而後可レ要ニ以效一哉。〔朱子語類、論ニ心性命一〕命之正者出ニ於理一、命之變者出ニ乎氣一、要レ之、皆天所ニ付予一。

【付與】41 フヨ あたへる。さづける。付畀。〔漢書、五行志下之上〕哀帝建平四年正月、民驚走、持レ稾、或掫ニ一枚一、傳相付與曰、行ニ詔籌一。〔韓愈、元和聖德詩〕皇帝曰然、嗟遠士女、苟附而安、則且付與。〔杜甫、杜鵑詩〕聖賢古法則、付ニ與後世一傳。

【付利】42 fu^4 li^4 利息を入れる。

【付里】43 フリ 複姓。〔荀子、宥坐〕管仲誅ニ付里乙一、子產誅ニ鄧析史付一。

【仙】374

セン 〔集韻〕相然切 ㄒㄧㄢ hsien^1 先

❶**仙人**。山に入つて不老不死の術を得た人。又、其の術。轉じて天子・上皇に關する

ものに、此の字を用ふ。〔釋名、釋長幼〕老而不レ死曰レ仙、仙、遷也、遷二入山一也、故其制レ字、人傍作レ山也。〔列子、黃帝〕仙聖爲二之臣一。〔楚辭、遠遊〕美二往世之登仙一。❷**世俗をはなれた人**。〔杜甫、飲中八仙歌〕自稱臣是酒中仙。〔皎然、詩式〕此爲二詩中之仙一。❸**道教の別稱**。〔宋史、藝文志〕釋仙論一卷。❹古、僊(**1－1314**)に作り、僊(**1－1055**)に同じ。〔廣韻〕仙、僊、上同、僊、古文。〔漢書、郊祀志〕僊人羨門之屬。〔注〕師古曰、古以レ僊爲二仙字一。❺**木の名**。〔集韻〕仙、木名、出二祁連一。❻**姓**。〔正字通〕仙、仙姓、宋仙源明・仙時忠。❼現セント(cent)。アメリカ合衆國の貨幣。❽佛**梵行を修め神通力ある人格**。〔般若燈論〕聲聞菩薩等、亦名レ仙。

名乘 ノリ。ヒサ。

【仙幄】1 センアク 神聖なとばり。天子の坐臥する所。〔李嶠、大周降禪碑〕天子乃幸二齋寢一披二仙幄一。

【仙衣】2 センイ 仙人のきる衣。〔杜甫、雨不レ絕詩〕舞石旋應レ將二乳子一、行雲莫三自濕二仙衣一。〔李商隱、垂柳詩〕朝佩皆垂レ地、仙衣盡帶レ風。〔楊億、致二齊太一宮一詩〕赤章修二祕祝一、盤石拂二仙衣一。

【仙尉】3 センヰ 縣佐を頌する語。嘗て南昌縣尉であつた漢の梅福が、引退後、王莽の專政を憎み、妻子を捨て、逃れて仙人となつた故事。〔漢書、梅福傳〕至二元始中一、王莽顓レ政、福一朝弃二妻子一、去二九江一、至レ今傳二以爲一レ仙。〔陶弘景、瘞鶴銘〕丹陽仙尉、江陰眞宰。

【仙幃】4 センヰ 神仙のとばり。俗界を離れた幽邃清淨な所。〔王勃、益州德陽縣善寂寺碑文〕玉衣流二慶事一、屬二于仙幃一、金屋延二祥福一、纏二梵宇一。

【仙闈】5 センヰ 神仙の宮殿。天子の居城。〔孫欣、冷井詩〕仙闈初開レ井、雪液沁成レ泉。〔錢起、畫鶴篇詩〕日暖花明梁燕歸、應下驚二片雲一在中仙闈上。

【仙友】6 センイウ 巖桂をいふ。宋の曾端伯が草木の花十種を品評して雅友になぞらへた故事。十友(**2－2695**・・8)の❶を見よ。

【仙遊】7 センイウ ❶仙人のやうな遊び。〔李白、感興詩〕十五遊二神仙一、仙遊未二曾歇一。〔孔武仲、次二韻瀛倅鄧愼思見レ寄詩〕官是麟臺卻二佐州一、蓬瀛俱稱列仙遊。❷天子のみゆき。行幸。〔宋之問、扈二從登封一途中作詩〕帳殿鬱崔嵬、仙遊實壯哉。❸人の死を頌する語。仙人と成つて天に昇る意。❹淵の名。陝西省盩厔縣の南。今は埋まつてゐる。〔盩厔縣志〕仙遊潭、歲旱禱レ雨多應、潭上有二石壁一、峭絕、宋蘇軾・章惇遊レ此、惇履レ險而上、以二漆黑書一名二於石一、今謂二之蘇章石壁一。❺門の名。〔唐書、潘師正傳〕(師正)居二逍遙谷一、帝尊二異之一、詔卽二其廬一作二崇唐觀一、及レ營二奉天宮一、又敕直二逍遙谷一、作レ門曰二仙遊一、北曰二尋眞一。❻寺の名。〔白居易、送二王十八歸山一詩〕曾於二太白峯前一住、數到二仙遊寺裏一來。❼縣名。唐、置く。漢の治縣。今、福建省莆田縣の西。縣城は木蘭溪の邊。物產に富んで、商業も發達してゐる。〔唐書、地理志五〕江南道、泉州、縣四、仙游。〔讀史方輿紀要、福建、興化府〕仙遊縣、本莆田縣地、唐聖曆二年、析二置清源縣一、屬二泉州一、天寶初、改曰二仙遊縣一。〔清史稿、地理志〕福建、興化府、縣二、仙遊。

【仙音】8 センイン/センオン ❶美妙な音樂。〔唐詩紀事、劉禹錫〕今蒲州逍遙樓楣上、有三唐人橫書類二梵字一、相傳、是霓裳譜、字訓不レ通、莫レ知二是非一、或謂、今燕部有二獻仙音曲一。〔王逢、詩〕欽天朝帝動二仙音一。❷佛センオン/センノン 佛の音聲。〔楞嚴經、一〕伽陵仙音偏二十方界一。

【仙音院】9 センオンヰン 唐の宮中で、伶人の居る處。仙韶院(266)に同じ。〔漢宮秋、四折〕猛聽得、仙音院鳳管鳴、更說二甚簫韶九成一。

【仙院】10 センヰン 仙洞(165)の❸に同じ。〔太平記、三十七、楊國忠事〕仙院の故宮にぞ御座しける。

【仙韻】11 センヰン 仙界の如き氣韻。俗を離れた情趣をいふ。〔僧明本、梅花詩〕朶中飛下玉屑神、仙韻嶠姝一粉眞。

【仙宇】12 センウ 仙人の居所。世俗を離れた清淨な所。仙境。〔江總、玄圃石室銘〕仙巖石榻、仙宇石牆。〔宋史、樂志十五〕尊祖趨二仙宇一、金石韻鏘洋。

【仙羽】13 センウ 鳥の名。つる。鶴(**12－47185**)の異稱。〔錢起、送三陸贄擢レ第還二蘇州一詩〕華亭養二仙羽一。〔事物異名錄、禽鳥、鶴〕按、仙羽、謂レ鶴也。

【仙雲】14 センウン 仙人の乘る雲。轉じて、仙人。〔賈至、送二王道士還一レ京詩〕一片仙雲入二帝鄉一、數聲秋雁至二衡陽一、借問清都舊花月、豈知三遷客泣二瀟湘一。

【仙醞】15 センウン 仙界の美酒。非常によい酒。〔宋之問、奉レ和三九月九日登二慈恩寺浮屠一應制詩〕時菊芳二仙醞一、秋蘭動二睿篇一。〔王昌齡、題二朱鍊師山房一詩〕百花仙醞能留レ客、一飯胡麻度二幾春一。

【仙掖】16 センエキ ❶宮中のには。宸掖。宮掖。〔沈佺期、和三戶部岑尙書參二迹樞機一詩〕御柳垂二仙掖一。❷翰林院(**9－28780**・・49)の異稱。〔東軒筆錄〕翰林清要、謂二之仙掖一。

【仙液】17 センエキ 溫泉。〔李頎、送二李回一詩〕歲發二金錢一供二御府一、晝看三仙液注二離宮一。

【仙苑】18 センエン ❶仙人の花園。仙園。〔李商隱、牡丹詩〕仙苑他年未レ可レ追、西州今日忽相期。❷天子の宮苑。〔楊巨源、春日奉レ獻二聖壽無疆一詞〕年華富二仙苑一、時哲滿二公車一。❸佛センヲン 鹿野苑(**12－47586**・・169)の異名。〔輔行、一〕鹿羣所レ居、故名二鹿苑一、佛初於レ此而轉二法輪一、云云、仙所レ住、故亦曰二仙苑一。

【仙媛】19 センエン 仙界の美女。轉じて、極めて美しい女。〔宋之問、壽陽王花燭圖詩〕仙媛乘レ龍日、天孫捧レ雁來。〔張光、朝觀二榮王聘妃一詩〕仙媛來二朱邸一、名山出二紫微一。

【仙園】20 センエン ❶仙人の花園。仙苑。〔庾信、三月三日華林園馬射賦〕皇帝翊二四校于仙園一、廻二六龍于天苑一。❷佛センヲン 仙苑(18)の❸に同じ。

【仙哥】21 センカ 獸の名。ねこ。猫(**10－36595**)の異名。燕眞人の殘した猫を人が仙哥と呼んだ時、猫が返事したといふことからいふ。〔事物異名錄、獸畜、猫〕山川紀異、燕眞人丹成、雞犬俱昇仙、獨猫不レ去、人嘗見レ之、就レ洞呼二仙哥一、則聞レ有二應者一。

【仙家】22 センカ 仙人の家。仙人。〔海內十洲記、元洲〕元洲有二五芝一、服レ此、得二長生不死一、上多二仙家一。〔劉禹錫、崔元受少府自二貶所一還遺二山薑花一答以レ詩詩〕採從二碧海上一、來自二謫仙家一。〔杜荀鶴、遊二茅山一詩〕步步入二山門一、仙家鳥徑分。

【仙家道】23 センカノミチ 宴曲の題名。太上玄始の玄宮の事に筆を起し、道家の說を述べ、白日羽化の輩、三千年に一度實る果實、天地を籠めた壺、巴卭の橘、商山の隱士等の仙人に關する故事を謠つたもの。〔拾菓抄〕。

【仙家九轉丹】24 センカノキウテンタン 仙人の鍊つた藥。〔呂溫、題二尋眞觀李寬中秀才書院一詩〕願君此地攻二文字一、如レ鍊二仙家九轉丹一。〔抱朴子、內篇〕金丹、九轉之丹者、封二塗之於土釜中一、糠火先レ文後レ武、其一轉至二九轉一、遲速各有二日數一。

【仙舸】25 センカ 神仙の乘る船。仙境に浮ぶ船。〔暢當、宿二潭上一詩〕夜潭有二仙舸一、與レ月當二水中一。

【仙霞】26 センカ ❶山名。浙江省江山縣の南。仙霞嶺。古、泉山ともいふ。唐末、黃巢の賊の據つた所。〔名勝志〕江山縣界之極南者、曰二仙霞嶺一。❷關の名。浙江省江山縣の仙霞嶺の上。浙閩の要衝。嶺には安民・六石・黃塢・木城・二渡・仙霞の六關ある中、仙霞が最も著名。〔讀史方輿紀要、浙江、重險〕仙霞關、在二衢州府江山縣南百里仙霞嶺上一、又南至二福建浦城縣一一百二十里、爲二浙閩往來之衝要一、或曰、仙霞嶺、卽古泉山也。

【仙芽】27 センガ 茶をいふ。〔清異錄、茗荈、十六湯〕蘇廙仙芽傳、第九卷、載二作レ湯法十六法一。

【仙娥】28 センガ ❶仙女。天女。又、美人の稱。〔駱賓王、代二女道士王靈妃一贈二道士李榮一詩〕臺前鏡影伴二仙娥一、樓上簫聲隨二鳳史一。〔許渾、秋晚雲陽驛西亭蓮池詩〕神女暫來雲易レ散、仙娥初去月難レ留。〔剪燈新話、鑑湖夜泛記〕見二珠宮岌然、貝闕高聳一、有二一仙娥一。❷河の名。外蒙古の色楞迦河。仙蕚。〔舊唐書、賈耽傳〕踰二大磧一、通レ道、北至二仙娥一。

【仙蛾】29 センガ 仙蛾妝を見よ。

【仙蛾妝】30 センガノシヤウ まゆずみを一線に細長くひく化粧。〔粧臺記〕魏武帝令下宮人掃二青黛眉連頭眉一、一畫連心細長上、謂二之仙蛾妝一。

【仙駕】31 センガ 神仙、又は王者の乘物。〔陳後主、七夕宴重詠二牛女一詩〕明月照二高臺一、仙駕忽徘徊。

【仙界】32 センカイ 仙人の住居する所。俗氣を離れた清淨な地。仙境。仙鄉。〔劉滄、過二鑄鼎原一詩〕仙界日長青鳥度、御衣香散紫霞飄。

【仙海】33 センカイ 青海をいふ。僊海(**1－1055**・・1)を

見よ。

【仙階】34 センカイ 仙人の住んでゐる宮殿の階段。〔雲笈七籤、序〕斗極之仙階。〔李義府、在二嶲州一遙敍二封禪一詩〕仙階溢二祕秬一、靈檢燿二祥芝一。

【仙蘅】35 センカウ 淸、聯元(9－29153‥24)の字。

【仙客】36 センカク ㊀仙人。〔唐玄宗、送三胡眞師還二西山一詩〕仙客厭二人閒一。〔許渾、重遊二飛泉觀一題二故梁道士宿龍池一詩〕仙客不レ歸龍亦去。㊁鳥の名。㋑つる。鶴(12－47185)の異稱。仙禽(57)の㊀に同じ。〔楊文公、談苑〕鶴曰二仙客一。㋺ほととぎす。杜鵑(6－14477‥99)の異名。〔柳軒雜識〕杜鵑爲二仙客一。㊂白鹿をいふ。〔鄭嵎、津陽門詩、注〕上常於二芙蓉園中一獲二白鹿一、云云、移二於北山一、目レ之曰二仙客一。㊃木の名。㋑瓊花(7－21328‥25)の異名。又、三十客(1－12‥733)を見よ。㋺桂をいふ。宋の張敏叔が十二種の花を以て十二客と稱した故事。〔西溪叢語〕瓊花爲二仙客一。〔三餘贅筆〕宋張敏叔、以二十二花一爲二十二客一、各賦二詩一章一、牡丹爲二賞客一、梅爲二淸客一、菊爲二壽客一、瑞香爲二佳客一、丁香爲二素客一、蘭爲二幽客一、蓮爲二靜客一、茶䕷爲二雅客一、桂爲二仙客一、薔薇爲二野客一、茉莉爲二遠客一、芍藥爲二近客一。〔事物異名錄、花卉、桂〕類書、宋曾端伯、謂レ桂爲二仙友一、張敏叔、謂レ桂爲二仙客一。㊄人名。牛仙客(7－19922‥337)を見よ。

【仙閣】37 センカク ㊀仙人の棲む樓閣。轉じて、天子の宮殿。〔宋孝武帝、詩〕逢皐列二神苑一、遭壇樹二仙閣一。〔劉允濟、明堂賦〕望二仙閣之秀出一、瞻二月觀之宏峙一。㊁尚書省をいふ。〔沈佺期、酬下蘇員外味道夏晚寓二直省中一見上レ贈詩〕竝命登二仙閣一、分宵直二禮闈一。

【仙鶴】38 センカク 鶴。〔王勃、還二冀州一別二洛下知己一序〕仙鶴隨レ雲、直去二千年之後一。

【仙蕚】39 センガク 河の名。外蒙古に在る。今の色楞格河。又、仙娥に作る。

【仙樂】40 センガク 仙人の奏する音樂。又、美しい音樂。〔王維、三月三日曲江侍宴應制詩〕仙樂龍媒下、神皐鳳蹕留。〔白居易、長恨歌〕驪宮高處入二靑雲一、仙樂風飄處處聞。〔瑯嬛記〕琴曰二文鵠一、笙曰二采庸一、鼓曰二迭君一、鐘曰二華由一、磬曰二洗東一、皆仙樂也。

【仙嶽】41 センガク 神靈な山。〔盧思道、遼陽山寺願文〕受二錄錯于靈河一、開二金簡于仙嶽一。

【仙翰】42 センカン ㊀天子の書簡。宸翰。〔李嶠、奉レ教追二赴九成宮一途中口號詩〕委レ質承二仙翰一、祗レ命遄二遙策一。㊁鳥の名。ほうわう。鳳(12－46657)の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鳳凰〕唐太宗賦、仙翰屈而復還、按、仙翰謂レ鳳也。

【仙岩】43 センガン 仙巖に同じ。

【仙巖】44 センガン ㊀山名。浙江省瑞安縣の東北。宋の陳傅良が讀書した所。朱子は之を訪うて、「溪山第一」の四字を書いた。〔讀史方輿紀要、浙江、溫州府、瑞安縣〕仙巖山、在二縣東四十里一、當二大羅山之陽一、山巓有二黃帝池一、廣五百餘畝。㊁淸、保逢泰(1－702‥279)の號。

【仙期】45 センキ ㊀仙人になる時期。轉じて、人の死をいふ。〔劉禹錫、遊二桃源一詩〕一旦前致レ辭、自云仙期迫。㊁陰曆七月七日をいふ。〔李嶠、奉二和七夕兩儀殿會宴一應制詩〕靈匹三秋會、仙期七夕過。㊂字號。㋑隋、孫萬壽(3－6987‥544)の字。㋺淸、柳遇(6－14662‥68)の字。

【仙驥】46 センキ 鳥の名。つる。鶴(12－47185)の異名。仙人の乘るもの。〔相鶴經〕蓋羽族之宗長、仙人之騏驥也。〔黃庭堅、倦鶴圖贊〕偉二萬里之仙驥一、狃二九關一而天翺。〔倪瓚、送三張伯雨入二茅山一詩〕仙驥歸來風滿レ林。

【仙妓】47 センギ 美しい女。〔王維、奉レ和下聖製上巳於二望春亭一觀レ禊飮上應制詩〕畫鷁移二仙妓一、金貂列二上公一。〔錢起、陪二郭常侍令公東亭宴集一詩〕詞人載レ筆至、仙妓出レ花迎。

【仙九】48 センキウ 淸、季芝昌(3－6965‥290)の號。

【仙鄕】49 センキヤウ 俗界を離れたところ。仙寰。仙界(32)に同じ。〔李中、思二簡寂觀舊遊一寄二重道者一詩〕閑憶當年遊二物外一、羽人曾許駐二仙鄕一。

【仙境】50 センキヤウ 仙人の住む所。淸く靜かな地。仙界。仙路。〔宋之問、奉レ陪二武駙馬一宴二唐卿山亭一序〕苔閣茅軒、髣髴入二神仙之境一。〔周必大、遊二廬山一弔二大林一詩〕康廬第一推二仙境一。

【仙宮】51 センキユウ 仙人の住んでゐる家。仙府。遷宮。〔江淹、雜體、顏特進延年侍レ宴詩〕列レ漢構二仙宮一。〔高適、玉眞公主歌〕仙宮仙府有二眞仙一、天寶天仙祕莫レ傳。

【仙去】52 センキヨ 仙人になつて去る。又、死ぬこと。仙逝。〔神仙傳、孫博〕後入二林慮山一、服二神丹一而仙去。〔江南府志〕拔レ劍刺レ地、湧泉甘潔、一日仙去。

【仙居】53 センキヨ ㊀仙人のすまひ。俗界を超絕した淸雅な住居。〔李白、早秋單父南樓酬二竇公衡一詩〕幽簾淸寂若二仙居一。〔白居易、答三微之誇二越州州宅一詩〕大誇州宅似二仙居一。㊁山名。㋑河南省光山縣の西南。〔太平寰宇記〕仙居山、原名二樂安山一、唐天寶初改レ名、亦名二北仙居山一。㋺江西省黎川縣の西北。石峽嶺と溪を隔てて對峙す。㋩靈隱山(12－42532‥11)をいふ。〔事物異名錄、坤輿、諸名山〕通志、武林山卽靈隱山、亦曰二靈苑一、曰二仙居一、俗稱二西山一。㋥湖北省荊門縣の西北。〔輿地紀勝〕其峯橫跨二石壁閒一、流泉在二其下一、若二神仙所一レ造、故名。㋭浙江省泰順縣の東。仙居溪を見よ。㊂縣名。㋑唐、置く。今の河南省光山縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、光山縣〕仙居城、在二縣西一、劉宋置二樂安縣一、屬二弋陽郡一、云云、唐初亦曰二樂安縣一、天寶初、改爲二仙居縣一。㋺宋、置く。今、浙江省臨海縣の西。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府〕仙居縣、始豐縣地、永和三年、析二置樂安縣一、屬二臨海郡一、云云、宋景德四年、改曰二仙居縣一。〔淸史稿、地理志〕浙江、台州府、縣六、仙居。

【仙居溪】54 センキヨケイ 川の名。浙江省泰順縣の東。源は西北の諸山。東流して仙居山の下を通る。〔讀史方輿紀要、浙江、溫州府、泰順縣〕仙居溪、在二縣東十五里仙居山下一、源出二縣西北諸山一、東流經レ此、云云、經二龍鬬山下一、抵二瑞安界一、入二於海一。

【仙裾】55 センキヨ 天子の衣裳。〔王融、謝三敕二賜御裘等一啓〕雲衣降授、仙裾曲委。

【仙馭】56 センギヨ 鶴。仙人の乘るもの。〔薛能、答二賈支使寄一レ鶴詩〕瑞羽奇姿踉蹌形、稱爲二仙馭一過二靑冥一。

【仙禽】57 センキン ㊀鳥の名。つる。鶴(12－47185)の異名。仙客。仙鶴。〔本草、鶴〕釋名、仙禽、胎禽。〔鮑照、舞鶴賦〕偉二胎化之仙禽一。〔韋莊、信州溪岸夜吟作詩〕一城人悄悄、琪樹宿二仙禽一。㊁尊い鳥。〔劉禹錫、飛鳶操〕靑鳥自愛玉山禾、仙禽徒貴華亭露。

【仙臞】58 センク 字號。㊀明、何偉然(1－511‥214)の字。㊁淸、謝彬(10－35827‥194)の號。

【仙窟】59 センクツ 仙人のすむ處。俗界を離れた住居。仙境。仙寰。〔高允、鹿苑賦〕鑿二仙窟一以居禪。

【仙化】60 センクワ 化して仙人になる。轉じて、道士の死をいふ。羽化。〔魏書、釋老志〕帝以三淸淨無爲有二仙化之證一、遂信二行其術一。〔書言故事、道教類〕道士亡、曰二羽化・仙化一。

【仙果】61 センクワ ㊀不思議な木の實。〔劉禹錫、蘇州白舍人寄二新詩一有下歎二早白無一レ兒之句上因以贈レ之詩〕海中仙果子生遲。㊁木の名。もも。桃(6－14757)の異名。桃は、西王母の故事などで、仙人と緣が深いからいふ。仙桃。〔本草、桃〕集解、時珍曰、昔人謂レ桃爲二仙果一、殆此類歟。

【仙官】62 センクワン 神仙界の官職。〔神仙傳、彭祖〕欲下擧形登二天上一補中仙官上。〔眞靈位業圖〕玉淸境、元始天尊爲レ主、自二九宮一以上、上淸以下、高眞仙官、皆得二朝宴一焉。〔眞靈位業圖〕西明公周公、東明公夏啓、南明公召奭、北明公吳季札、主二領四方一、各治二一天一、在職一千六百年、得レ補二仙官一。〔皮日休、奉レ和二魯望上元日道室焚修一詩〕明眞臺上下仙官、玄藻初吟萬籟寒。

【仙官慶會】63 センクワンケイクワイ 戲曲の名。明、周憲王作。奢摩他室曲叢の一。福祿壽の三仙が鍾馗及び門神を召して鬼を捉へしめることを演ず。

【仙寰】64 センクワン 俗界を離れたところ。仙窟。仙鄕(49)に同じ。〔陳旅、題二龍虎山圖一詩〕龍虎之山仙所レ寰、我昔夢寐游二其閒一。

【仙館】65 センクワン 仙人の修道するところ。〔晉書、許邁傳〕放二絕世務一、以尋二仙館一。

【仙願】66 セングワン 俗界を離れ、仙界に昇りたいといふ願。〔孟郊、登二華嚴寺樓一望二終南山一詩〕一望俗慮醒、再登仙願崇。

【仙郡】67 センゲン 仙人の居るところ。〔姚合、酬二禮部李員外一詩〕本求二仙郡一是閑居、豈向二郎官一更有レ書。

【仙桂】68 センケイ 月桂樹。轉じて、他人の子を褒め

て言ふ美稱。〔事物異名錄、倫屬、子〕厚德錄、馮道贈二竇禹鈞一詩曰、靈椿一枝老、仙桂五枝芳、靈椿謂三禹鈞生二五子儀・儼・侃・偁・僖一。

〖攀二仙桂一〗69 センケイヲヨヅ 進士の試驗に及第することをいふ。〔黃韜、出レ京別二同年一詩〕一枝仙桂已攀援、歸去煙濤浦口郵。〔書言故事、科第類〕及第、手攀二仙桂一。

【仙經】70 センケイ 仙道を書いた書物。道教の經典。〔鮑照、代二淮南王一詩〕淮南王好二長生一、服食鍊氣讀二仙經一。〔呂巖、七言四十三首〕萬卷仙經三尺琴、劉安聞說是知音。

【仙橋】71 センケウ ㊀仙境にかかつた橋。〔盧照鄰、還レ京贈別詩〕一去仙橋道、還望錦城遙。〔張詠、送二馬道人一詩〕囊攜二鼎藥一身難レ老、路接二仙橋一眼更明。〔費氏、宮詞〕東宮花燭綵樓新、天上仙橋不レ鎖レ春。㊁唐、楊仙喬（6—15112‥655）の一名。

【仙訣】72 センケツ 仙術の奧儀。〔儲光羲、題二應聖觀一詩〕登レ門駭二天書一、啓レ籥問二仙訣一。

【仙闕】73 センケツ 仙人の住んでゐる宮闕。〔王勃、遊二武擔山一詩序〕瑤臺玉甃尙控二霞宮一、寶刹香壇猶芬二仙闕一。

【仙源】74 センゲン ㊀神仙の居る所。俗人の行けない靈境。〔王維、桃源行〕春來遍是桃花水、不レ辨仙源何處尋。〔雲笈七籤〕福地第四曰二東仙源一、福地第五曰二西仙源一。㊁鼻（12—48498）の異稱。〔眞誥〕鼻爲二仙源一。㊂宋代、宗室の牒譜圖籍の一。〔稱謂錄、宗室、仙源〕宋四朝志、修二纂牒譜圖籍一、其別有レ五、一曰、仙源。㊃縣名。宋、置く。山東省曲府縣治。〔讀史方輿紀要、山東、兗州府〕曲阜縣、古少皞之墟、周公封二於此一、魯所レ都也、秦爲二薛郡治一、漢置二魯縣一、云云、宋大中祥符五年、改曰二仙源縣一。

〖仙源居士〗75 センゲンコジ 宋、趙長卿（10—37171‥780）の號。

〖仙源類譜〗76 センゲンルイフ 宋の皇室の氏族譜。〔宋史、禮志十七〕沈該言、宣祖太祖太宗魏王下各宗、仙源類譜、五世昭穆、今已修寫進レ本。〔事物異名錄、爵位、宗室〕宋四朝志、修二纂牒譜圖籍一、其別有レ五、一曰、仙源積慶圖。

【仙姑】77 センコ ㊀仙女。〔金華府志〕三皇時仙姑、相傳、爲二軒轅皇帝少女一。㊁けらの異名。〔本草、螻姑〕釋名、仙姑、石鼠。

【仙庫】78 センコ 相術家用語。鼻下の人柱の兩側をいふ。仙源（74）の㊁及び流年運氣（6—17431‥307）を見よ。

【仙語】79 センゴ 仙人の語。〔劉禹錫、步虛詞〕星星仙語人聽盡、卻向二五雲一翻レ翅飛。

【仙公】80 センコウ 仙人（169）の㊀に同じ。〔杜甫、奉二漢中王手札一詩〕少年疑二柱史一、多術怪二仙公一。

【仙猴】81 センコウ 猿の一種。〔本草、果然〕釋名、禺、狖、蜼、仙猴、時珍曰、羅願云、人捕二其一一、則擧レ羣啼而相赴、雖レ殺レ之不レ去也、謂二之果然一、以二來之可一レ必也、大者爲レ然爲レ禺、小者爲レ狖爲レ蜼、南人名二仙猴一、俗作二猓然一。

【仙骨】82 センコツ 仙人の骨相といふ意で、非凡な風采。〔神仙傳〕墨子入二周狄山一、精二思道法一、想二像神仙一、云云、於レ是神人授以二素書一、云云、二十五篇、告二墨子一曰、子有二仙骨一、又聰明、得レ此便成、不二復須レ師。〔杜甫、送三孔巢父謝レ病歸二游江東一兼呈二李白一詩〕自是君身有二仙骨一、世人那得レ知二其故一。〔湘山野錄〕錢若水謁二陳摶一求レ相、陳召レ僧決レ之云、身無二仙骨一、位可レ作二公卿一耳。

【仙根】83 センコン 清、鮑楷（常熟の人）（12—46074‥6）の號。

【仙査】84 センサ 仙人の乘るいかだ。天の河の浮木。仙槎。査は楂（6—15094）に同じ。〔拾遺記、唐堯〕査常浮二繞四海一、十二年一二周天一、周而復始、名曰二貫月査一。

【仙槎】85 センサ ㊀仙人の乘るいかだ。仙査（84）に同じ。〔張正見、秋河曙耿耿詩〕德星猶可レ見、仙槎不二復留一。〔徐陵、太極殿銘序〕嵯峨容與、若二漢水之仙槎一、搖漾波濤、似二新亭之龍刹一。〔陸游、過二建陽縣一云云詩〕斷厓幽洞白雲深、縹緲仙槎無二古今一。〔洞天集〕嚴遵仙槎、唐置二之於麟德殿一、長五十餘尺、聲如二銅鐵一、堅而不レ蠧、李德裕截二細枝尺餘一、刻爲二遵像一、往往飛去復來、廣明以來失レ之、槎亦飛去。㊁清、何淩漢（1—511‥380）の字。

【仙才】86 センサイ 仙人の才。人に優れた才。〔漢武帝內傳〕劉徹好レ道、然形慢神穢、雖レ當三語レ之以二至道一、殆恐非二仙才一也。〔郭璞、遊仙詩〕燕昭無二靈氣一、漢武非二仙才一。〔李白、遊二太山一詩〕稽首再二拜之一、自愧非二仙才一。〔白居易、夢仙詩〕帝言汝仙才、努力勿二自輕一。

〖仙才鬼才〗87 センサイキサイ 凡俗に超越した才。〔詩話總龜〕宋景文評二唐人詩一云、太白仙才、長吉鬼才。〔滄浪詩話〕人言、太白仙才、長吉鬼才、不レ然、太白天仙之詞、長吉鬼仙之詞耳。

【仙菜】88 センサイ 草の名。しをん。紫菀（8—27337‥43）の異名。〔本草、紫菀〕集解、穎曰、紫菀連二根葉一採レ之、醋浸入二少鹽一、收藏作レ菜、辛香、號名二仙菜一。

【仙草】89 センサウ すぐれて靈妙な草。神草。〔十洲記〕瀛洲生二神芝仙草一、長洲有二仙草靈藥一。

【仙曹】90 センサウ 唐時、尙書省の諸曹をいふ。又、郎中をいふ。〔稱謂錄、郎中古稱、仙曹〕韋莊詩、文昌二十四仙曹、白帖、諸曹郎亦曰二仙曹一。

【仙棗】91 センサウ 木の名。棗の一種。仲思棗（1—403‥193）の異名。〔本草、仲思棗〕釋名、仙棗、志曰、北齊時有二仙人仲思一、得二此棗一種レ之、因以爲レ名、集解、時珍曰、按、杜寶大業拾遺記云、隋時、信都郡獻二仲思棗一、長四寸圍五寸、云云、亦名二仙棗一。

【仙藻】92 センサウ 雪（12—42216）の異名。〔李嶠、遊二禁苑一遇レ雪應制詩〕六出迎二仙藻一、千箱答二瑞年一。〔張說、瑞雪應制詩〕欲レ驗二豐年象一、飄颻仙藻來。

【仙山】93 センザン 仙人の居る山。〔劉禹錫、三鄕驛樓有レ感詩〕三鄕陌上望二仙山一、歸作霓裳羽衣曲。〔白居易、長恨歌〕忽聞海上有二仙山一、山在二虛無縹渺間一。

【仙子】94 センシ ㊀仙人。〔劉禹錫、桃源行〕俗人毛骨驚二仙子一、爭來致レ詞何至レ此。〔李商隱、杏花詩〕仙子玉京路。㊁仙女。〔白居易、長恨歌〕樓閣玲瓏五雲起、其中綽約多二仙子一。

【仙使】95 センシ ㊀仙人の使者。〔伏知道、爲二王寬與二婦義安主一書〕玉山青鳥、仙使難レ通。㊁帝王の使。〔鮑照、謝レ賜レ藥啓〕惠非二河閒一、謬二仙使之屈一。

【仙姿】96 センシ 仙人のやうに俗をはなれた秀逸な姿。〔朱熹、詩〕仙姿瀟灑出二風塵一。〔馬祖常、雙頭菊詩〕秋雲如レ幄貯二仙姿一。

〖仙姿玉質〗97 センシギヨクシツ 美人の形容。〔古今詩話〕仙姿玉質、肌香體輕。

【仙輀】98 センジ 死者を乘せる車。喪車。〔紅樓夢、十五回〕豈可下越二仙輀一而進上也。

【仙州】99 センシウ 州名。唐、置く。河南省葉縣。漢の葉令王喬が、仙人となつた所。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、裕州〕葉縣、唐初于レ此置二葉州一、貞觀初、州廢、縣仍屬二許州一、開元三年、置二仙州一。

【仙舟】100 センシウ ㊀華麗な裝飾を施した遊山船。畫舫（7—21859‥177）に同じ。〔江總、洛陽道詩〕仙舟李膺棹、小馬王戎鑣。〔江采蘋、樓東賦〕奏二舞鸞之妙曲一、乘二畫鷁之仙舟一。〔元好問、雪行圖詩〕太一仙舟雲錦重、新郎走馬杏園紅。㊁字號。㋑清、戈源（5—11530‥17）の字。㋺清、李觀（6—14459‥270）の號。

【仙洲】101 センシウ 清、張汝瀛（4—9812‥1200）の字。

【仙獸】102 センジウ 鹿をいふ。〔事物異名錄、獸畜、鹿〕埤雅、鹿者仙獸、常自能樂二性林泉一。

【仙室】103 センシツ ㊀後漢、東觀の異名。東觀（6—14499‥231）を見よ。〔王融、三月三日曲水詩序〕紀二言事於仙室一。〔注〕善曰、華嶠後漢書曰、學者稱二東觀一、爲二老氏藏室道家蓬萊一、今故言二仙室一。㊁山名。武當（6—16273‥267）の初名。〔事物異名錄、坤輿、諸名山〕山堂肆考、襄陽府均州南有二武當山一、初名二仙室山一、眞武奉二玄君一遊覽至レ此、後人謂下非二元武一不上レ足三以當二此山一、改二名武當一。

【仙質】104 センシツ 俗を離れた淸い性質。脫俗の氣質。〔厲九疇、癭剋詩〕雲散惟餘青屈盤、頤隱二于臍一變二仙質一。

【仙實】105 センジツ 仙界の果實。又、桃の實。仙果（61）を見よ。〔張籍、求仙行〕招搖在レ天迴二白日一、甘泉玉樹無二仙實一。

【仙車】106 センシヤ 仙人の車。仙鑣。〔張衡、西京賦〕含二利颬颬一、化爲二仙車一。〔注〕濟曰、言、初爲レ獸、後化爲二仙人車一。〔何遜、詠二七夕一詩〕仙車駐二七襄一、鳳駕出二天潢一。

【仙者】107 センジヤ 仙人。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕上要二求於仙者一。〔注〕上則要下結二仙人一從レ之受上レ道也。

【仙倡】108 センシヤウ 仙人のわざをぎ。〔張衡、西京賦〕

總二會仙倡一、戲レ豹舞レ羆。〔注〕向曰、總會、謂レ集二神仙之倡伎一。

【仙掌】109 センシヤウ ㊀仙人が手掌をもつて盤を捧げた像を作り、甘露を受ける樣にしたもの。仙人掌（178）の㊃に同じ。〔班固、西都賦〕抗二仙掌一以承レ露。〔注〕善曰、漢書曰、孝武作二栢梁・銅柱・承露・仙人掌之屬一、三輔故事云、武帝作二銅露盤一、承二天露一、和二玉屑一飮レ之、欲二以求一レ仙。〔張衡、西京賦〕立二脩莖之仙掌一。㊁華山の兩峯が對峙してゐるところをいふ。〔唐書、地理志一〕華陰、垂拱元年、更二名仙掌一。

【仙裳】110 センシヤウ ㊀仙人の衣のもすそ。〔拾遺記、瀛洲〕每鳴翔而吐レ珠累斛、仙人常以二其珠一飾二仙裳一。㊁清、黃雲（**12**－**47926**‥39）の字。

【仙氅】111 センシヤウ 隱者の著る鶴の毛ごろも。〔鄭谷、所レ知從二事近藩一偶有レ懷寄詩〕雲霞仙氅挂二吟身一。〔王叔承、張公善權二洞歌〕山中鶴翎墮二仙氅一、秋風贈レ我逍遙衣。

【仙雀】112 センジヤク 神靈な雀。讖緯說で雀を瑞祥の一とすることからいふ。〔許善心、神雀頌〕未レ如三仙雀近賀二王宮一。

【仙手】113 センシユ 其の道の名人。名手。〔書苑〕李邕書、始變二右軍法一、頓挫起伏、李陽冰謂、爲二書中仙手一。

【仙姝】114 センシユ 女の仙人。仙女。〔蘇軾、留二題仙遊潭中興寺一詩〕還訪二仙姝一款二石閨一。〔太平廣記〕簷楹見二一仙姝一。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕綽約若二仙姝神女一。

【仙樹】115 センジユ 木の名。一名、四味木。此の實を剖く道具によつて味が異なるといふ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕仙樹、祁連山上有二仙樹實一、行旅得レ之止二饑渴一、一名四味木、其實如レ棗、以二竹刀一剖則甘、鐵刀剖則苦、木刀剖則酸、蘆刀剖而辛。

【仙術】116 センジユツ 仙人の行ふ神靈の術。〔漢書、郊祀志下〕此黃帝穀仙之術也。〔朱熹、過二武夷一作詩〕不レ學飛仙術、纍纍丘冢多。〔瑞州府志〕蜀人後來高安名眞、嘗得二仙術一、自稱二年八百餘歲一。

【仙勝】117 センシヨウ 後魏、寇臻（**3**－**7209**‥28）の字。

【仙蹤】118 センシヨウ 仙人の足跡。〔劉禹錫、元和甲午歲云云自二武陵一赴レ京云云詩〕雲雨江湘起二臥龍一、武陵樵客躡二仙蹤一。

【仙鐘】119 センシヨウ 仙人の用ひるつりがね。〔劉禹錫、客有下爲レ余話中登二天壇一遇レ雨之狀上因以賦レ之詩〕洞府撞二仙鐘一、村墟起二夕靄一。

【仙食】120 センシヨク 仙人の食ふもの。〔鍾會、菊花賦〕流中輕體、神仙食也。〔賈島、早起詩〕旅途少顏盡、明鏡勸二仙食一。

【仙職】121 センシヨク 詞臣をいふ。〔事物異名錄、爵位、翰林〕續翰林志、詞臣、實神仙之職。

【仙心】122 センシン 仙人のこころ。高尙で俗塵を超脫した心をいふ。〔文心雕龍、明詩〕及二正始明レ道、詩雜二仙心一。

【仙井】123 センセイ 仙人用の井。〔張正見、賦二得山卦名一詩〕雲歸二仙井一暗、霧解二石橋一通。

【仙逝】124 センセイ 仙人となること。又、死ぬことの敬語。仙去（52）と同じ。

【仙聖】125 センセイ 傑出した聖人。〔列子、黃帝〕仙聖爲二之臣一。〔注〕仙、壽考之跡、聖、治世之名。〔列子、湯問〕皆仙聖之種。

【仙石】126 センセキ ㊀清、劉書年（**2**－**2224**‥1060）の字。㊁センゴク 姓氏。〔和爾雅〕。

【仙席】127 センセキ 俗を離れた尊い坐席。〔謝朓、謝三隨王賜二紫梨一啓〕將恐帝臺妙棠、安期靈棗、不レ得下孤擅二玉盤一、獨甘中仙席上。

【仙跡】128 センセキ 仙人の遺跡。仙蹟。〔剪燈餘話、幔亭遇仙錄〕攜二仙跡一、遨二遊名山一。

【仙蹟】129 センセキ 仙跡に同じ。〔寧遠縣志〕縣南二十里、有二彭祖塘一、中有二釣磯仙蹟一。

【仙籍】130 センセキ ㊀仙人の戶籍。〔雲笈七籤〕名上二仙籍一。㊁侍臣の名札。〔通略〕入レ館登二瀛洲一、叩二名于仙籍一。〔劉滄、及第後宴二曲江一詩〕紫毫粉壁題二仙籍一。㊂㋑殿上に出仕する者の名札。日給簡。㋺藏人頭の唐名。〔職原抄〕藏人所、頭二人、仙籍、貫首。

【仙妾】131 センセフ 仙女。〔李賀、天上謠〕玉宮桂樹花未レ落、仙妾採レ香垂二珮纓一。

【仙仙】132 センセン 舞をまふさま。僊僊（**1**－**1055**‥3）を見よ。

【仙蟾】133 センセン 蜥蜴の一種。蛤蚧（**10**－**33023**‥1）の異名。僊蟾。〔本草、蛤蚧〕釋名、蛤蟹、仙蟾、時珍曰、仙蟾、因レ形而名。

【仙饌】134 センセン 天子から下賜せられる酒食。〔苑咸、爲二晉公一謝レ賜レ蟹狀〕朝レ天賜二浴于御湯一、退食每霑二于仙饌一。

【仙祖】135 センソ 仙人の祖先。〔寧遠縣志〕後爲二巫山仙祖一、至レ今猶傳二其敎一。

【仙鼠】136 センソ 動物の名。かうもり。蝙蝠（**10**－**33271**‥3）の異名。僊鼠。僊鼠。〔爾雅、釋鳥、蝙蝠服翼、注〕齊人呼二蟙䘃一、或謂二之仙鼠一。〔方言、八〕蝙蝠、自レ關而東、謂二之服翼一、云云、或謂二之僊鼠一。〔廣雅、釋鳥〕仙鼠、蚥蠌也。

【仙族】137 センゾク 仙人の仲閒。〔何承天、臨高臺篇〕辭二仙族一歸二人羣一、懷レ忠抱レ義奉二明君一。

【仙村】138 センソン 仙人の住む村。俗世間と遠ざかつた部落。〔參同契〕得二長生一、居二仙村一。〔蘇軾、介亭餞二楊傑次公一詩〕籃輿西出二登山門一、嘉與二我友一尋二仙村一。

【仙樽】139 センソン 仙界にあるやうな俗氣のない酒樽。〔王勃、山亭宴序〕彭澤陶潛之菊影、泛二仙樽一。

【仙陀】140 センダ 佛寺の稱。金山。僊陀。〔藝林伐山〕佛寺曰二仙陀一、又曰二仁嗣一、又曰二寶坊一、又曰二香阜一、又曰二柰園一。

【仙臺】141 センダイ ㊀臺の名。陝西省長安西山に在る。〔韓翃、同題二仙游觀一詩〕仙臺下見五城樓、風物淒淒宿雨收。㊁峒の名。廣西省平南縣の北。花相・白竹・古陶・羅鳳等の峒が近くにある。明の嘉靖の時、王守仁は仙臺・花相等の諸賊を平げた。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州府、平南縣〕仙臺峒、縣北百餘里、其相近有二花相・白竹・古陶・羅鳳等峒一、迴環相屬、皆斷藤賊連結煽亂處也、嘉靖七年、王守仁勦二仙臺・花相諸賊一、皆平レ之、卽此。㊂宮城縣の市名。東北地方第一の大都會。

【仙臺平】142 センダイヒラ 陸前國仙臺から產する袴地の名。

【仙臺郞】143 センダイラウ 仙人の官名。〔海錄碎事、鬼神道釋、仙〕侯道華晨起、飛在二松頂一、揮レ手謝レ衆曰、玉皇詔レ我爲二仙臺郞一、今去矣。

【仙桃】144 センタウ ㊀桃の一種。仙果。仙人桃。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕仙桃出二郴州蘇耽仙壇一、有レ人至心祈レ之、輒落二壇上一、至二五六顆一、形似二石塊一、赤黃色、破レ之如レ有レ核、研飮レ之愈二衆疾一、尤治二邪氣一。㊁桃の樹をいふ。〔杜甫、奉レ和三賈至舍人早朝二大明宮一詩〕九重春色醉二仙桃一。

【仙桃巾】145 センタウキン 宋代、道士のつけた頭巾。〔事文類聚〕伊川常戴二紗巾一、乃似二今道士仙桃巾一。

【仙桃鎭】146 センタウチン 地名。湖北省沔陽縣の東北。漢水の北岸にある商業地。

【仙濤】147 センタウ 民國、張海鵬（**4**－**9812**‥858）の字。

【仙道】148 センダウ ㊀仙人の道術。〔史記、司馬相如傳〕相如見三上好二仙道一。〔漢武帝內傳〕（徹）及二卽位一、好二神仙之道一。〔陳子昂、感遇詩〕古之得二仙道一、信與二元化一並。㊁㊕比丘の名。勝音城王の非法を諭し、後、阿羅漢となる。〔有部毘奈耶、四十六〕。㊂中仙道（**1**－**73**‥547）の略。〔藩翰譜〕中納言殿はせんだうを打つて登らせ給ふに。

【仙丹】149 センタン 仙人が煉つて作つた藥。不老不死の藥。仙藥。神藥。〔眞誥〕傳先生入二焦山一、云云、遂得二仙丹一升レ天。〔剪燈新話、申陽洞記〕吾君旣獲二仙丹一永レ命。

【仙壇】150 センダン ㊀仙人の居所。〔元結、登二九疑第二峯一詩〕九疑第二峯、其上有二仙壇一。㊁神おろしをする壇。乩壇をいふ。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕仙桃出二郴州蘇躭仙壇一。

【仙豸】151 センチ 明、濟寧の人。字は直卿。嘉靖中の擧人。官は聞喜令。〔濟寧州志〕。

【仙仗】152 センヂヤウ 天子の儀仗。〔岑參、奉レ和三賈至舍人早朝二大明宮一詩〕玉階仙仗擁二千官一。〔剪燈餘話、至正妓人行〕鹵簿曉排二仙仗一發。

【仙蟲】153 センチユウ 蟲の名。せみ。蟬（**10**－**33616**）の異名。仙蟲社を見よ。

【仙蟲社】154 センチユウシヤ 蟬を啼かせて聲の長短を爭ふ遊戲。〔淸異錄、蟲、靑林音樂〕唐世、京城游手、夏月採レ蟬貨レ之、唱曰、只賣二靑林音樂一、婦妾小兒爭買、以レ籠懸二窗戶閒一、有下驗二其聲長短一爲二勝負一者上、謂二之仙蟲社一。

【仙朮】155 センヂユツ 藥草の名。をけら。蒼朮（**9**－**31627**‥104）の異名。〔本草、蒼朮〕釋名、赤朮、山精、仙朮、山薊、時珍曰、朮者山之精也、服レ之、令三人長生辟レ穀致二神仙一、故有二山精・仙朮之號一。

【仙椿】156 センチン 長命を保つといふ珍木。椿は八千年を以て春となし、八千年を以て秋とする。〔宋史、樂志十五〕含生普治空ニ鴻福一、聖壽比ニ仙椿一。

【仙女】157 センジョ 女の仙人。又、美女。仙娥(28)の㊀に同じ。仙姝。〔施肩吾、仙女詞〕仙女羣中名最高、曾看王母種ニ仙桃一。〔沈佺期、昆明池侍宴應制詩〕靈魚銜レ寶躍、仙女廢レ機迴。〔雲笈七籤〕開有レ人、導至ニ方丈山一、遇ニ二仙女一。

【仙女座】158 センジョザ 北天の星座の一。大體、赤經零度、赤緯北四十度に在り、十一月は午后零時半頃、南中する。ギリシヤ神話で有名なアンドロメダ座。

【仙女嵩】159 スウジョ 草花の名。雛罌粟ヒナゲシ。美人草ビジンサウ。麗春(12－47663‥49)の異名。〔本草、麗春草〕釋名、仙女嵩、定參草、頌曰、並呼爲ニ龍羊草一。

【仙女廟】160 センジョビョウ 仙女を祀つた廟。又、鎭名。江蘇省江都縣の東北。運鹽河の北岸。仙女の廟があつたので名づけた。

【仙女嶺】161 センジョレイ 山名。廣西省貴縣の北。旁に登仙厓がある。明の嘉靖の初、藤峽の蠻賊が、此の地に據る。仙女嶺ともいふ。〔讀史方輿紀要、廣西、潯州府、貴縣〕仙女山、縣北七十里、亦曰ニ仙女嶺一、嘉靖初、藤峽猺賊據レ此、謂ニ之仙女砦一。

【仙諜】162 センテフ 仙人の家の祕籍。〔王勃、乾元殿頌〕具ニ靈篇之絕貺一、究ニ仙諜之殊休一。

【仙都】163 センド ㊀仙人の居るところ。〔十洲記〕滄海島中、有ニ九老仙都一。〔蘇軾、和ニ陶讀ニ山海經一詩〕仙都浩如レ海。㊁山名。浙江省縉雲縣の東。一名、縉雲山。天寶七年に彩雲仙樂の異象があつたので勅命で今の名に改めた。黃帝が丹を煉つた處と傳へる。〔隋書、地理志下〕括蒼有ニ縉雲山一。〔讀史方輿紀要、浙江、處州府、縉雲縣〕仙都山、縣東二十三里、高六百丈、周三百里、本名縉雲山、唐神龍初、以ニ此名一レ縣、又名ニ丹峯山一、天寶七載、改ニ今名一、道書以爲ニ第二十九洞天一、傍有ニ獨峯、廣三百丈、周迴二百六十丈、一名玉柱峯、頂有レ湖、亦名ニ鼎湖一、唐六典、十道名山之一、曰ニ縉雲一、又有ニ小仙都山一、在ニ縣南二十里一、亦高秀。

【仙都觀】164 センドクワン 四川省酆都縣平都山にある。宋では景德、又は白鶴觀といふ。前漢の王方平、後漢の陰長生が長生道を得た所。〔道教靈驗記〕忠州豐都縣平都山仙都觀、前漢眞人王方平、後漢眞人陰長生、得レ道昇レ天之所、蕪沒既久、基址僅存。

【仙洞】165 センドウ ㊀仙人の住んでゐる所。〔白居易、春題ニ華陽觀一詩〕帝子吹レ簫逐ニ鳳皇一、空留ニ仙洞一號ニ華陽一。㊁佛釋尊が仕へた阿私仙の居處。〔法華經、提婆品〕。㊂上皇の御所。院の御所。仙洞御所。轉じて、上皇の稱。仙院。〔和漢三才圖會、人倫、仙洞〕仙院、脫履、虛舟、上皇、射山、姑射、云云、天子遁レ位、呼ニ曰仙洞一。

【仙洞御所】166 センドウゴショ 上皇の御すまひ。

【仙童】167 センドウ 仙人の使役する童子。〔張正見、神仙篇〕已見ニ玄笑投レ壺、復覩ニ仙童欣ニ六博一。〔杜甫、寄ニ司馬山人一詩〕有レ時騎ニ猛虎一、虛室使ニ仙童一。〔雲笈七籤〕有ニ仙童六人一、負レ眞執レ錄。

【仙童仙女】168 hsien¹ t'ung² hsien¹ nü³ 喪儀の時、靈座の左右に置く男女の紙人。僕婢に象る。又、金童玉女といふ。

【仙人】169 センニン ㊀道士の理想的人物。俗を離れ穀を避け、多くは山に棲み、不老不死の術を修め、雲に乘じ、風を致し、變幻の事を行ひ、天上に飛昇するといふ。戰國末、莊子・列子等の假設的言說に本づき、燕・齊の怪誕の思想が加はり、かやうな人物を想出した。秦に至つては廣く信ぜられ、秦の始皇は海上に遊んで仙人を求め、漢の武帝は之を尊び、封禪を修め、祀祠を設けた。爾來儒家の聖人、佛家の佛に對して道家の理想的人物となつた。仙公、仙子。仙夫。仙客。僊人。〔釋名、釋長幼〕老而不レ死曰ニ仙一、仙、遷也、遷入ニ山也一。〔史記、秦始皇紀〕使ニ韓終侯公石生求ニ仙人不死之藥一。〔漢書、郊祀志上〕仙人羨門之屬。〔論衡、雷虛〕物無レ翼而飛、謂ニ仙人一、畫ニ仙人之形一、爲ニ之作レ翼、如ニ雷公一。〔南史、隱逸上、龔祈傳〕風姿端雅、容止可レ觀、中書郎范述見レ之歎曰、此荆楚之僊人也。㊁佛外道の高德のもの。〔楞伽經、四〕有レ知ニ仙人一者上。

【仙人衣】170 センニンイ ㊀仙人のきる衣。轉じて、群る白雲をいふ。〔隋書、天文志下〕白氣如ニ仙人衣一。〔劉禹錫、觀雲篇〕深夜渡ニ銀漢一、漠漠仙人衣。㊁えなの異名。胞衣。〔本草、人胞〕釋名、胞衣、胎衣、紫河車、混沌衣、混元母、佛袈裟、仙人衣。

【仙人蓋】171 センニンガイ 頭蓋骨をいふ。〔本草、天靈蓋〕釋名、腦蓋骨、仙人蓋、頭顱蓋。

【仙人過】172 hsien¹ jen² kuo⁴ 碁の打方の一稱。和碁の意。

【仙人關】173 センニンクワン 地名。陝西省鳳縣の西南。宋の吳玠が、此の關を築いて大いに金軍を破つてから、金軍は蜀を窺はなかつたといふ。〔讀史方輿紀要、漢中府、鳳縣〕仙人關、在ニ縣南百二十里一、近ニ略陽縣界一、宋紹興二年、金人入ニ興元一、吳玠守ニ仙人關一、自ニ西縣開道一、會ニ劉子羽於二泉一、子羽留ニ玠共守一、玠曰、關外蜀門戶、不レ可ニ輕棄一、復往守ニ於仙人關一、紹興四年、玠與ニ弟璘一、破ニ金人於此一、端平二年、曹友聞レ却ニ蒙古將汪世顯於大安一、遂引レ兵扼ニ仙人關一、一統志、仙人關、路分ニ左右一。

【仙人拳】174 センニンケン 仙人掌の一種。莖は橢圓形をなすので、俗に仙人球ともいふ。

【仙人骨】175 センニンコツ 干大根の異稱。乾蘿蔔。〔本草、萊菔〕釋名、時珍曰、王氏溥濟方、稱ニ乾蘿蔔一爲ニ仙人骨一。

【仙人草】176 センニンサウ ㊀藥草の名。階庭の間に生ずる。高さ二三寸。葉は細くて齒がある。丹毒の藥となる。〔本草、仙人草〕集解、藏器曰、生ニ階庭閒一、高ニ三寸一。〔謝惠連、仙人草贊序〕余之中園、有ニ仙人草一焉、春穎ニ其苗一、夏秀ニ其英一、秋有ニ貞實一、冬無ニ凋色一、可レ謂下貫ニ四時一而不レ改者上也。㊁毒草の名。きつねのぼたん科の多年生蔓草。たかだて。はこぼん。はぼろし。うまくはず。くつくさ。うしのこぼれ。

【仙人棗】177 センニンサウ 棗の一種。〔西陽雜俎、廣動植、木篇〕晉時、太倉南有ニ翟泉一、泉西有ニ華林園一、園有ニ仙人棗一、長五寸。〔洛陽伽藍記、二〕百果園有ニ仙人棗一、長五寸、把レ之、兩頭俱出、核細如レ鍼、霜降乃熟、食レ之甚美、傳云、出ニ崑崙山一。

【仙人掌】178 センニンシャウ ㊀植物の名。さぼてん。霸王樹(12－42490‥53)異名。〔花鏡〕仙人掌非レ草非レ木、非ニ果蔬一、無レ枝無レ葉、又幷無レ花、土中突ニ出一片一、與ニ手掌一無レ異、其膚色青綠、光潤可レ觀。㊁草の名。ひあふぎ。射干(4－7434‥23)の異名。〔本草、射干〕釋名、烏扇、烏翣、烏吹、烏蒲、鳳翼、鬼扇、扁竹、仙人掌、紫金牛、野萱花、草薑、黃遠。㊂貝の名。かめのて。石蜘(8－24024‥268)の異名。〔事物異名錄、水族、石蜘〕廣雅、紫蜘、紫蠏、卽今仙人掌。㊃仙人が掌をもつて盤をささげてゐる形に像り、甘露を受けるやうに作つたもの。仙掌。僊人掌(1－1055‥7)を見よ。㊄茶(9－30915)の異名。〔李白、答ニ族姪僧中孚贈ニ玉泉仙人掌茶一詩序〕拳然重疊、其狀如レ手、號爲ニ仙人掌茶一。〔海錄碎事、飮食、茶〕仙人掌茶、出ニ荆州玉泉寺一、拳然重疊、其狀如レ手、故號ニ仙人掌茶一。玉泉眞公採而食レ之、年八十餘歲、顏色如ニ桃花一、此茗淸香骨熱、異ニ於他茗一、所以能還ニ童枯一扶ニ衰壽上一。㊅峯の名。陝西省縣陰縣の太華山の東峯をいふ。僊掌。〔華嶽志〕嶽頂東峯曰ニ仙人掌一、峯側石上有レ痕、自下望レ之、宛然一掌、五指俱備。〔崔顥、行經ニ華陰一詩〕仙人掌上雨初晴。

【仙人酒】179 センニンシュ 乳(1－190)の異名。乳汁。乳漿。〔本草、乳汁〕釋名、嫩汁、仙人酒、時珍曰、乳者化之信、故字從ニ孚化省文一、方家隱ニ其名一、謂ニ之仙人酒一、生ニ人血一、白硃砂。

【仙人燭】180 センニンショク 木の名。方術家の隱語。梧桐の異名。〔海錄碎事、服用、燈燭〕仙人燭、木似ニ梧桐一、其皮枯剝如レ筒、挂以爲レ燭、可レ延ニ數十刻一。

【仙人桃】181 センニンタウ 桃の一種。仙桃(144)の㊀に同じ。〔洛陽伽藍記、二〕景陽山南有ニ百果園一云云、又有ニ仙人桃一、其色赤、表裏照徹、得レ霜卽熟、亦出ニ崑崙山一、一曰ニ王母桃一也。

【仙人條】182 センニンデウ 苔の一種。仙人綰に同じ。〔西陽雜俎、廣動植、草篇〕仙人條、出ニ衡嶽一、無ニ根帶一、生ニ石上一、狀如ニ同心帶一、三股色綠、亦不ニ常有一。

【仙人綰】183 センニンワン 苔の一種。一に仙人條に作る。〔益部方物記〕仙人綰、生ニ大山中一、與ニ苔同種一、但巖陰石隈多ニ鮮翠一、長ニ三三尺一、叢垂若レ綰、

或言、深谷有二長丈餘者一

【仙人杖】184 ❶木の名。くこ。枸杞(6—145 88‥7)の異名。〔本草、枸杞地骨皮〕釋名、枸櫪、枸棘、苦杞、甜菜、天精、地骨、地節、地仙、卻老、羊乳、仙人杖、西王母杖。〔陳子昂、觀荊玉篇序〕惟有二仙人杖一、往往叢生。❷竹の立枯となつたもの。〔本草、仙人杖〕集解、藏器曰、此是筍欲レ成レ竹時立死者、色黑如レ漆。

【仙人鳥】185 ㊀青雀の一種。佛が成道の時、世人はこの瑞に感じたといふ。〔大疏、九〕形似二青雀一而青、方俗聞所謂仙人鳥也。

【仙人跳】186 hsien¹ jen² tiao⁴ 詐欺取財をいふ。上海の方言。仙人だけ知る意。もと美人局の意。

【仙人帽】187 芽の一種。きぬがさだけ。こむさうだけ。〔本草、土菌〕釋名、藏器曰、地上經二秋雨一生レ菌重臺者、名二仙人帽一。〔菌譜、鍾馗菌〕鍾馗菌、卽土菌、地上經二秋雨一生二重臺一者一名仙人帽、蓋鍾馗神名也、此菌釘上若レ徹、其狀如二鍾馗之帽一、故以名レ之、亦名二地雞一、亦名二獐頭菌一。

【仙人柏】188 木の名。さはら。椹(6—1508 2)の異名。

【仙人篇】189 樂府雜曲の歌辭。魏の曹植に歌辭がある。〔樂府詩集、雜曲歌辭、仙人篇〕樂府廣題曰、秦始皇三十六年、使二博士一爲二仙眞人詩一、遊二行天下一、令二樂人一歌レ之、曹植仙人篇曰、仙人攬二六著一、言人生如レ寄、當養二羽翼一、徘二徊九天一、以從二韓終王喬於天衢一也。〔曹植、仙人篇〕仙人攬二六著一、對博太山隅、湘娥拊二琴瑟一、秦女吹二笙竽一云云。

【仙人間】190 仙人の住むむらざと。〔漢書、武帝紀、封二泰山一禪二石閭一(注)〕應劭曰、石閭山、在二泰山下趾南方一、方士言、仙人閭也。

【仙人掌科】191 植物分類上の一部門。種子植物門、被子植物亞門、雙子葉植物綱、古生花被植物亞綱、さばてん目に屬す。多くは多肉植物。稀に扁平又は圓筒狀の葉を有するが、多くは脫落、又は棘針に變ず。花の諸器官は半ば輪狀に排列し、兩性・多軸性、往々やや單軸性。雄蘂は多數、心皮は四乃至八個。子房は下位。果實は漿果。主として熱帶及び溫帶アメリカに產す。さばてん科。

【仙人墮處】192 ㊀仙人が、婬女を見て欲心をおこし、墮落したところ。〔大毘婆沙論、百八十二〕仙人墮處、昔有二五百仙人一飛二行空中一、至レ此、遇二退因緣一、一時墮落。

【仙人堂寨】193 寨の名。福建省將樂縣の南。地名は余家坪・峭壁萬重、百里に亙つてゐる。清、順治七年、白蓮賊が七十二の砦を構へた所。

【仙人住處】194 ㊀仙人の住む處。〔大毘婆沙論、百八十二〕佛出世時、有二佛大仙及聖弟子仙衆一所住、佛不二出世一時、有二獨覺仙一所レ住、云云、故名二仙人住處一。

【仙人博士】195 仙人のことを研究した人。〔魏書、釋老志〕太祖好二老子之言一、誦詠不レ倦、天興中、儀曹郎董謐、因獻二服食仙經數十篇一、於是置二仙人博士一、立二仙坊一、煮二鍊百藥一。

【仙人餘糧】196 藥草の名。なるこゆり。〔本草、黃精〕釋名、黃芝、戊己芝、菟竹、鹿竹、仙人餘糧、救窮草、米餅、野生薑、重樓、雞格、龍銜、垂珠。

【仙人鹿野苑】197 ㊀釋迦のはじめて說教した處。又、仙人園・仙人鹿園ともいふ。〔法顯佛國記〕今現有レ僧、復順二恆水一、西行十二由延、到二迦尸國波羅捺城一、城東北十里許、得二仙人鹿野苑一。

【仙坡】198 中井曾弘の號。中井仙坡(1—73‥910)を見よ。

【仙婆】199 古の巫女の名。輕じて、巫女ニ・巫覡イチの類をいふ。〔貴州通志〕仙婆、永寧人、名滿道、篤二於戒行一、善知二休咎一、人多就決焉、卒葬二於烏降山一、至レ今呼爲二仙婆墓一。

【仙茅】200 藥草の名。梵語で河輪勒陁といふ。莖の高さ四五寸、茅に似、夏に深黃色の花を開く。根には節がある。又、婆羅門參といふ。和名、きんばいざさ。〔本草、仙茅〕釋名、獨茅、茅瓜子、婆羅門參、珣曰、其葉似レ茅、久服輕レ身、故名二仙茅一、梵音、呼爲二河輪勒陁一。

仙茅(三圖會)

【仙夫】211 仙人。〔後漢書、張衡傳〕天不レ可レ階仙夫希。〔注〕仙夫、仙人也。

【仙府】212 仙人の居る所。仙居。〔高適、玉眞公主歌〕仙宮仙府有二眞仙一、天寶天仙祕莫傳。

【仙鳧】213 ❶後漢の王喬が往來するのに、車騎は見えず、只二羽の鳧が飛んで來るのが見えるだけなので、此の鳧を捕へたら王喬の鳥ッを得たといふ故事。〔後漢書、王喬傳〕王喬者、河東人也、顯宗世爲二葉令一、喬有二神術一、每月朔望、常自レ縣詣二臺朝一、帝怪二其來數而不レ見二車騎一、密令二太史伺一レ望之一、言、其臨至、輒有二雙鳧一、從二東南一飛來、於二是候一レ至、擧レ羅張レ之、但得二一雙鳥一焉、乃詔二尚方一診視、則四年中所レ賜、尚書官屬履也。〔馬懷素、餞二唐永昌一詩〕別後相思在二何處一、祇應二闕下望一仙鳧。❷鳥名。かも。鴨(12—46823)の異名。〔李邕、鬬鴨賦〕徵二羽毛之好鳥一、得二渤澥之仙鳧一。❸縣名。唐、置く。河南省葉縣。〔唐書、地理志二、汝州臨汝郡葉縣、注〕大曆四年、析置二仙鳧縣一。

【仙部】214 仙人に關する書物。〔拾遺記、前漢上〕考二諸仙部一、驗以二衆說一、未レ有レ異二於斯一乎。

【仙分】215 仙人の素質。〔張養浩、過二長春宮一詩〕平生頗似レ有二仙分一、足跡未レ到神光通。

【仙袂】216 仙人の衣のたもと。〔白居易、長恨歌〕風吹二仙袂一飄飄擧、猶似二霓裳羽衣舞一。

【仙標】217 仙人の風格。脫俗の風。〔李白、春陪二商州裴使君遊二石娥溪一詩〕裴公有二仙標一、拔レ俗數十丈。

【仙鑣】218 仙人の乘る車。仙車(106)に同じ。〔事物異名錄、舟車、車〕初學記、仙臺隱螭駕、又帝命扈二仙鑣一。

【仙步】219 仙人のあゆみ。〔何劭、雜詩〕心虛體自輕、飄颻若二仙步一。

【仙木】220 ❶木の名。もも。桃(6—14757)の異名。〔埤雅、釋木〕桃、典術曰、桃者、五木之精、故能厭二伏邪氣一、服二其華一令二人好色一、蓋仙木也。〔荊楚歲時記〕謂二之仙木一云云、桃者、五行之精、厭二伏邪氣一、制二百鬼一也。❷桃の木で造つた護符。元日に戶口につけるもの。〔本草、桃符〕集解、時珍曰、風俗通云、東海度朔山有二大桃一、蟠二

屈千里、其北有二鬼門一、二神守レ之、曰二神荼・鬱壘一、主二領衆鬼一、黄帝因立二桃板于門一、畫二二神一、以禦二凶鬼一、典術云、桃乃西方之木、五木之精、仙木也、味辛氣惡、故能厭二伏邪氣一、制二百鬼一、今人門上用二桃符一、辟レ邪以レ此也。〔白孔六帖〕正月一日、造二桃符一著レ戸、謂二之仙木一、百鬼所レ畏。

【仙凡】221 ㊥ 仙人と俗人。仙界と俗界。〔沈遼、禪僧巖詩〕涓涓乳泉白如レ雪、由來此地殊二仙凡一。〔王渾、靈巖寺詩〕地靈連二海岱一、境勝隔二仙凡一。〔劉因、遊二天城一詩〕四壁立如レ埽、天設限二仙凡一。〔孟郊、海柳詩〕飲レ柏況二仙味一、詠レ蘭擬二古詞一。

【仙民】223 ㊥ 宋、宋喬年（3－7078‥266）の字。

【仙霧】224 ㊥ 仙鄉にのぼり立つ清らかな霧。又、仙人の食べる霧。〔劉潛、平等刹下銘〕樹似二菴林一、峯疑二鷲色一、孕二吐仙霧一、湧二漱靈泉一。

【仙名】225 ㊥ 仙人の名。〔鄧雲霄、清 靈眞人傳〕刻二玉簡一、記二仙名一。

【仙面】226 ㊥ 仙人の顔。〔呂巖、獻二鄭思遠一施眞人二仙一詩〕如今獲遇眞仙面、紫府仙扉得二姓名一。

【仙門】227 ㊥ 仙人の住居の門。又、皇居の宮門。〔王維、奉レ和二聖製從二蓬萊一向二興慶閣一道中留二春雨中一春望之作一應制詩〕鑾輿迴出二仙門一柳、閣道廻看上苑花。

【仙藥】228 ㊥ ❶飲めば仙人になることが出來るといふ靈藥。又、よく利く神藥。仙丹。〔吳志、孫權傳〕秦始皇帝遣二方士徐福一、將二童女數千人一、入レ海、求二蓬萊神山及仙藥一。❷木の名。柏（6－14617）の異名。〔續博物志、五〕柏是仙藥。

【仙輿】229 ㊥ ❶天子の乘る車。乘輿。〔鄭愔、奉二和九月九日登二慈恩寺浮圖一應制詩〕湧霄開二寶塔一、倒影駐二仙輿一。❷上皇の御乘物。

【仙容】230 ㊥ ❶仙人の容貌。〔貫休、歸二東陽一臨二岐上杜使君一詩〕誰報田中有二黑蟲一、一家齋戒減二仙容一。❷清、卞永譽（2－2778‥29）の號。

【仙來】231 ㊥ 清、梁機（6－14825‥46）の字。

【仙浪】232 ㊥ 遠い遙かな浪。〔康與之、洞仙歌令詞〕千里綿綿仙浪遠、何處凌凌波微步。

【仙郎】233 ㊥ ❶仙人のこと。〔剪燈餘話、連理樹記〕縱令肯作二仙郎伴一、其奈二孤山處士一何。❷唐代、尚書省の各部郎中の員外をいふ。〔王維、重酬二苑郎中一詩〕仙郎有レ意憐二同舍一。〔劉禹錫、衢州徐員外使君云云成一篇用答二佳貺一詩〕斕柯山下舊仙郎。〔李頎、寄二司勳盧員外一詩〕秦地立春傳二太史一、漢宮題レ柱憶二仙郎一。〔白孔六帖〕諸曹郎稱爲二仙郎一。❸五位藏人の唐名。〔職原抄〕五位藏人二人、唐名仙郎、或夕拜郎。

【仙李】234 ㊥ 老子。老子の姓は李であることからいふ。〔杜甫、冬日洛城北謁二玄元皇帝廟一詩〕仙李盤根大、猗蘭奕葉光、世家遺二舊史一、道德付二今王一。

【仙立】235 ㊥ 宋、寧國の人。字は紹初。屢〻戰功があった。官は右武大夫惠州刺史。〔寧國縣志〕。

【仙呂】236 ㊥ 音樂の調の名。仙呂調を見よ。

【仙呂宮】237 ㊥ 樂曲の音調。宮聲七調の一。〔唐書、禮樂志十二〕正宮・高宮・中呂宮・道調宮・南呂宮・仙呂宮・黄鍾宮、爲二七宮一。

【仙呂調】238 ㊥ 樂曲の音調。羽聲七調の一。〔樂府雜錄、羽七調、第四運仙呂調。〔宋史、律歷志四〕仲呂羽爲二仙呂調一、〔補筆談、樂律〕中呂羽今爲二仙呂調一、用二上字一。〔碧雞漫志〕夷則羽、俗呼二仙呂調一。〔燕樂考原〕七羽之第四運、卽琵琶四弦之第六聲、云云、南宋燕樂七羽一均、亦用二黄鐘以下七律一、此調居二第六一、當二夷則之位一、故碧雞漫志、以二仙呂調一爲二夷則羽一也。〔荆川稗編〕夷則羽、俗呼爲二仙呂調一、南呂羽、俗呼二中管仙呂調一。

【仙呂點絳脣】239 ㊥ 戲曲の套數の名。北曲の第一折は殆ど皆、仙呂宮を用ひ、點絳脣の曲を以て始まる。

【仙呂入雙調】240 ㊥ 樂曲の音調。南曲十三調の一。〔唐書、禮樂志十二〕凡所謂俗樂者、二十有八調、正宮・高宮・中呂宮・道調宮・南呂宮・仙呂宮・黄鍾宮、爲二七宮一、越調・大食調・高大食調・雙調・小食調・歇指調・林鍾商、爲二七商一。

【仙類】241 ㊥ 仙人の類。〔何劭、遊仙詩〕長懷慕二仙類一、眇然心緜邈。

【仙靈】242 ㊥ 神仙。〔左思、吳都賦〕圖以二雲氣一、畫以二仙靈一。〔鮑照、代昇天行〕從レ師入二遠嶽一、結レ友事二仙靈一。〔江淹、從二冠軍建平王一登二廬山香爐峯一詩〕此山具二鸞鶴一、往來盡仙靈。

【仙靈毗】243 ㊥ 藥草の名。いかりさう。淫羊藿（7－17678‥153）の異名。仙靈脾。〔柳 宗元、種二仙靈毗一詩〕窮陋闕二自養一、瘴氣劇囂煩。〔注〕本草名二淫羊藿一。

【仙靈脾】244 ㊥ 藥草の名。いかりさう。淫羊藿（7－17678‥153）の異名。陰萎・健忘性に特效がある。〔本草、淫羊藿〕釋名、時珍曰、豆葉曰レ藿、此葉似レ之、故亦名レ藿、仙靈脾・干兩金・放杖剛、前胡皆言二其功力一也、雞筋・黄連祖、皆因二其根形一也、柳子厚文作二仙靈毗一、入レ臍曰レ毗、此物補レ下、於二理尤通一。

【仙路】245 ㊥ 仙境への路。又、禁中や寺院などへの路。〔沈佺期、再入二道場一紀レ事應制詩〕行隨二香輦登一仙路一、坐近二爐煙講法筵一。

【仙艫】246 ㊥ 神仙のふね。立派なふね。〔駱賓王、久戍二邊城一有レ懷〔京邑〕詩〕秋濤飛喰レ馬、春水泛二仙艫一。

【仙漏】247 ㊥ 宮廷の水時計。〔鄭谷、蠟燭詩〕仙漏遲遲出二建章一、宮簾不レ動透二清光一。

【仙樓】248 ㊥ ❶仙境の樓閣。又、天子の宮殿。〔岑羲、奉二和春日幸二望春宮一應制詩〕南山近壓二仙樓上一、北斗平臨二御扆前一。❷奥田元繼の號。奥田松齋（3－5985‥99）を見よ。

【仙錄】249 ㊥ 仙人の名を錄した名簿。〔鄧雲霄、清 靈眞人傳〕定レ新得レ道、始入二仙錄一之人一。

【仙籙】250 ㊥ 仙方を書いた書物。〔葉法善、留詩〕黍以掌二仙籙一、去來乘二煙霞一。〔錢起、石門春暮詩、仙籙滿牀閑不レ厭、陰符在レ篋老羞レ看。〔雲仙雜記〕次律徵問二葛洪仙籙中事一。

【仙掄】251 ㊥ 宋、劉儗（2－2224‥166）の名。

【仙王】252 ㊥ 仙人の王。〔雲笈七籤〕自二玄都一至二京以下一、合有二三十六天一、其次卽至二三境一、境別有二左右中三宮一、宮別有二仙王・仙公・卿仙・伯仙・大夫一。

【仙王座】253 ㊥ 星座の名。カシオペイア座と龍座とに挾まれ、北端は北極星に接する星座。十月上旬午后九時頃、子午線を經過する。

【得レ仙】254 ㊥ 仙人となる。〔神仙傳〕陰長生著二書九篇一云、漢興以來、得レ仙者四十五人、連レ余爲レ六矣。〔陶潛、連雨獨飲詩〕故老贈二余酒一、乃言飲得レ仙。

【仙遺糧】255 ㊥ 草の名。土茯苓（3－4867‥472）の異名（本草、土茯苓）釋名、土草薢、刺猪苓、山猪糞、草禹餘糧、仙遺糧、云云、時珍曰、言、昔禹行二山乏一レ食、采レ此充レ粮、而棄二其餘一、故有二此名一、觀二陶氏此說一、卽今土茯苓也、故今尚有二仙遺糧・冷飯團之名一。

【仙翁花】256 ㊥ 草花の一種。石竹科。山城國嵯峨の仙翁寺から出たから名づく。剪紅羅。〔和漢三才圖會、濕草類、剪紅羅〕俗云、仙翁花。

【仙鶴林】257 ㊥ 清、滋陽の人。嘉慶の初、湖南の苗族を平げて功あり、後、屢〻苗疆を平定して湖南提督に至つたが、事に坐して職を奪はれ、後、再び起用せられ、河北鎭總兵に累擢せられた。〔清史列傳、二十九〕、〔國朝耆獻類徵、三百五〕。

【仙藿酒】258 ㊥ 糜飲棗と諸香とを混じて作つた酒。糜飲酒。〔緝柳編〕糜飲棗出二眞陵山一、食二一枚一大醉、經二年不レ省、東方朔嘗游二其地一、以二一斛一進上、上和二諸香一作レ丸、大如二芥子一、每集二羣臣一、取二丸入レ水一石一、頃刻成レ酒、味逾醇醪、謂二之糜飲酒一、又謂二之眞飲酒一、仙藿酒、香經二旬不一レ歇。

【仙花紙】259 ㊥ 伊豫國宇和島から產する厚くて強い紙。仙過紙。

【仙華生】260 ㊥ 明、宋濂（3－7078‥216）の號。

【仙過紙】261 ㊥ 仙花紙に同じ。

【仙居座】262 ㊥ 星座の名。アンドロメダ座の北東にあり、W形をなす。北斗七星と向ひ合つて北極星を指示する。カシオペイア座。

【仙克謹】263 ㊥ 明、寧國の人。字は仲恆。萬曆の進士。隆平縣の長官となつて善政あり。後、官は都御史・山西巡撫。〔江南通志〕。

【仙赤廬】264 ㊥ 清、丁泰（1－2‥128）の室名。

【仙沼子】265 ㊥ 蔓草の名。預知子（12－43373‥24）の異名。或は仙棗の誤といふ。〔本草、預知子〕釋名、聖知子、聖先子、盍合子、仙沼子、時珍曰、仙沼、疑是仙棗之訛。

【仙韶院】266 ㊥ 唐の宮中で、伶人が居る所。仙音院。〔舊唐書、文宗紀下〕開成三年四月、改法

曲一爲二仙韶曲一、仍以二伶官所一レ處爲二仙韶院一。

【仙仲友】267 センチユウイウ 宋の人。立の子。字は輔仁。武舉。劉猊と戰ひ、其の全軍を覆滅した。官は宣・歙・廣德三郡の都巡檢使。〔寧國縣志〕。

【仙峯石】268 センポウセキ 石の名。四川省峨眉縣峨眉山の觀音巖の西。二石が道を夾んで門のやうに對立してゐるので、天門石ともいふ。數十步の所に仙峯寺がある。

【仙鹿王】269 センロクワウ 佛鹿のすぐれたもの。鹿は山に居るので仙といひ、其の類中の勝れたものを王といふ。〔往生要集、上末〕仙鹿王之膊、千輻輪之趺。

【仙乎仙乎】270 センカセンカ 仙人よ仙人よと、仙人を希求する意。〔飛燕外傳〕后歌二舞歸風送遠之曲一、帝以二文犀簪一擊二玉甌一、令三后所レ愛侍郞馮無方吹レ笙以倚二后歌一、中流、歌酣風大起、云云、后揚レ袖曰、仙乎仙乎、去レ故而就レ新、寧忘レ懷乎。

【仙書雲篆】271 センシヨウンテン 仙人の書く字體。また巧な書風。〔剪燈餘話、月夜彈琴記〕縱以相付、仙書雲篆、公亦不レ能レ識也。

【仙宗十友】272 センソウジフイウ 仙人の仲閒十人。世俗を超脫した十人の人々。唐の司馬承禎・陳子昂・盧藏用・宋之問・王適・畢構・李白・孟浩然・王維・賀知章の十人をいふ。唐書、陸餘慶傳には方外十友に作る。仙宗は仙人の仲閒。〔海錄碎事、人事、朋友〕唐司馬承禎與二陳子昂・盧藏用・宋之問・王適・畢構・李白・孟浩然・王維・賀知章一、爲二仙宗十友一、出二本傳一。

【仙風道骨】273 センプウダウコツ 仙人や道者の風骨。非凡の風采。〔李白、大鵬賦序〕天台司馬子微、謂レ余、有二仙風道骨一、可三與レ神遊二八極之表一。〔通俗編、釋道、仙風道骨〕宋名臣傳、錢若水過二華山一見二陳摶一、大加二賞歎一、以爲レ有二仙風道骨一。

【仙屛書屋】274 センペイシヨヲク 清、黃爵滋(**12－47926··1136**)の室名。

【仙露明珠】275 センロメイシユ 仙人の降らせる露と美事な珠。書法の圓滑な喩。〔唐太宗、大唐三藏聖教序〕松風水月、未レ足レ比二其清華一、仙露明珠、詎能方二其朗潤一。

【仚】375

ケン 〔集韻〕虛延切 先

小篆

❶ **人が山の上に在るさま。**〔說文〕仚、人在二山上一皃、从二人山一。❷ **とぶ。** 輕く擧るさま。〔集韻〕仚、輕擧也。〔正字通〕仚、輕擧貌。〔鮑照、書勢〕鳥仚魚躍。

解字 會意。人と山との合字。人が山上にあるかたち。假借して䙴(高く擧がる)とす。〔說文通訓定聲〕仚、人在二山上一皃、从レ人从レ山、會意、云云、叚借、爲レ䙴。

參考 仚(**4－7874**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕仚、音軒、輕擧貌、人在二山上一。仚、仙同、入レ山爲レ仙。

【仛】376

㊀タ 〔集韻〕丑亞切 禡
㊁タク ダク 〔集韻〕達各切 藥

㊀❶ **をとめ。少女。** 奼(**3－6051**)に同じ。〔集韻〕奼、說文、少女也、或作レ仛。❷ **おごる。**〔玉篇〕仛、驕逸也。㊁❶ **他。ほか。**〔集韻〕仛、他也。❷ **よる。** 侂(**1－576**)に同じ。〔集韻〕侂、說文、寄也、謂二依止一也、或作レ仛。

【仜】377

コウ グ 〔集韻〕胡公切 東

小篆

❶ **腹がふくれる。**〔說文〕仜、大腹也、从レ人工聲、讀若レ紅。❷ **肥大のさま。** 朦仜。〔集韻〕仜、朦仜、肥大皃。❸ **もつ。** 龓(**12－48832**)に通ず。〔說文通訓定聲〕仜、叚借爲レ龓。〔廣雅、釋詁一〕仜、有也。❹ 或は肛(**9－29271**)に作る。〔說文通訓定聲〕仜、字亦作レ肛。

【仝】378

トウ ヅ 〔廣韻〕徒紅切 東 慣ドウ ㄊㄨㄥˊ t'ung²

❶ **おなじ。** 同(**2－3294**)の古字。〔廣韻〕同、仝、古文、出二道書一。〔正字通〕仝、古文同、从レ人从レ工、道書、同作レ仝。❷ **姓。**〔睢寧縣志〕仝文瑞、元時任二兵部尙書一、鎭二潼關一有レ功。

參考 入部二畫の仝(**1－1422**)とは別字。〔字彙、辨似、二字相似〕仝、卽同字、从レ人。仝、卽全字、从レ入。

【仝異】1 ドウイ 同異(**2－3294··9**)に同じ。〔盧仝、與二馬異一結レ交詩〕仝不レ仝、異不レ異、是謂二大仝而小異一、今日仝自仝、異不レ異、是謂二仝不レ往兮異不レ至。

【仝寅】2 ドウイン 明、安邑の人。瞽者。京房易を學び、占斷がよく的中し、筮を以て公卿の閒に遊ぶ。〔明史、二百九十九〕・〔萬斯同明史、三百九十七〕・〔明史稿、二百八十一〕。

【仝軌】3 ドウキ 淸、郯の人。字は車同。康熙の擧人。詩に精通す。晚年、洛閩の學を究め、從學する者日に衆く、平山先生と稱す。著に夔園・眞志堂等の集がある。〔國朝耆獻類徵、四百五〕。

【仝敬】4 ドウケイ 明、睢寧の人。經史に精通す。時人、廣文先生といふ。〔睢寧縣志〕。

【仝祉】5 ドウシ 明、睢寧の人。號は西廓。官は判湖州府。正直廉明にして、士民に敬慕せらる。〔睢寧縣志〕。

【仞】379

ジン ニン 〔集韻〕而振切 震 ㄖㄣˋ jen⁴

小篆

❶ **ひろ。たての一ひら。** 高さ、又は深さをはかる尺度の單位。古來其の長さについて以下の數說がある。

㋑ 八尺說。〔說文〕仞、伸レ臂一尋、八尺、从レ人刃聲。〔正字通〕仞、古以二周尺八尺一爲レ仞、中人之身長八尺、兩臂尋レ之亦八尺、兩足步レ之亦八尺、度二高深一以レ仞、度二長短一以レ尋、度レ地以レ步、小爾雅、四尺曰レ仞、王肅从レ之、包咸・鄭玄謂、七尺曰レ仞、書、爲レ山九仞、釋文、仞、七尺也、應劭漢書注、五尺六寸曰レ仞、顏師古非レ之曰、八尺曰レ仞、取二人申レ臂之一尋一也、顏說與二孔安國一同、顏以二八尺一爲レ仞、是也、顏泥二說文一、以レ仞爲二申レ臂一尋一、則非也、一尋止六尺耳、或曰、古尺短、周尺八尺、以二今度之一寸一、又減二二分一、應劭之說、據二漢尺一也、莊子庚桑楚、步二仞之丘一、注、七尺曰レ仞、亦非。〔書、旅獒〕爲レ山九仞。〔傳〕八尺曰レ仞。〔山海經、西山經〕其高五千仞。〔注〕仞、八尺也。㋺ 七尺說。〔說文 仞、段注〕按、此解疑非二許之舊一、恐後人改竄爲レ之、尺部下云、周制、寸・尺・咫・尋・常・仞、諸度量、皆以二人之體一爲レ法、假令尋仞同物、許不レ當三兩擧二之矣、諸家之說レ仞也、王肅・趙岐・王逸・曹操・李筌・顏師古・房玄齡・鮑彪諸人、並曰二八尺一、而鄭周禮儀禮注・包咸論語注・高誘注呂氏春秋・王逸注大招招䰟・李謐明堂制度論・郭璞注司馬相如賦、用二司馬彪之說一、陸德明莊子釋文、則皆謂二七尺一、淮南子原道訓注、八尺、而覽冥訓注、則云二七尺一、百仞者七百尺、證以二呂氏春秋注一、則原道注可レ疑、近歙程氏瑤田通藝錄、有レ說曰、言二七尺一者、是也、揚雄方言云、度レ廣曰レ尋、杜預左傳仞二溝洫一注、度レ深曰レ仞、二書皆言下人伸二兩手一以度レ物之名上、而尋爲二八尺一、仞必七尺者、何也、同一伸レ手度レ物、而廣深用レ之、其勢自不レ得レ不レ異、人長八尺、伸二兩手一亦八尺、用以

度ㇾ廣、其勢全伸而不ㇾ屈、而用ㇾ之以度ㇾ深、則必上二下其左右手一而側二其身一焉、身側則胸與二所ㇾ度之物一、不ㇾ能二相摩一、於ㇾ是兩手不ㇾ能二全伸一、而成二弧之形一、弧而求二其弦一、以爲ㇾ仞、必不ㇾ能二八尺一、故七尺曰ㇾ仞、亦其勢然也、說文、測下云、深所ㇾ至也、玉篇云、度ㇾ深曰ㇾ測、測之爲ㇾ言、側也、余說與ㇾ之合矣、玉裁謂、程說甚精、仞說可ㇾ定矣、考工記、廣二尋、深二仞、謂二之澮一、倘其度同八尺、何不下皆曰二二尋一、如上文廣二尺深一尺之例上也、許書於二尺下一既尋仞兼舉、尋者八尺也、見二寸部一、則仞下必當レ云七尺、今本乃淺人所二竄易一耳、程氏又曰、小爾雅云、四尺、應劭云、五尺六寸、此其繆易ㇾ見也。〔書、旅獒〕爲ㇾ山九仞。〔釋文〕七尺曰ㇾ仞。〔儀禮、鄉射禮記〕杠長三仞。〔注〕七尺曰ㇾ仞。〔禮、祭義〕築ㇾ宮仞有三尺。〔注〕七尺曰ㇾ仞。〔論語、子張〕夫子之牆數仞。〔皇疏〕七尺曰ㇾ仞。㈥五尺六寸說。〔漢書、食貨志上〕有二石城十仞一。〔注〕應劭曰、仞、五尺六寸也。㈦四尺說。〔小爾雅、廣度〕四尺謂二之仞一。㊀**はかる**。深さ・高さをはかる。〔左氏、昭、三十二〕仞二溝洫一。〔注〕度ㇾ深曰ㇾ仞。㊁**満ちる。満たす**。軔(7－19935)に通ず。〔正字通〕仞、與ㇾ牣同。〔司馬相如、子虛賦〕充二仞其中一。〔司馬相如、上林賦〕虛二宮觀一而勿ㇾ仞。〔注〕善曰、郭璞曰、仞、滿也。㈣認(10－35502)に通ず。〔讀書通〕仞、通作ㇾ認。〔列子、周穆王〕夢仞二入鹿一。〔釋文〕仞、一本作ㇾ認。〔淮南子、人間訓〕非二其事一者勿仞也、云云、仞人事者敗。㈤或は軔(10－38190)に作る。〔孟子、盡心上〕掘ㇾ井九軔。〔釋文〕軔、義與ㇾ仞同、借用耳。㈧刃(2－1848)に通ず。

【仟】380

セン　〔集韻〕倉先切　先　ㄑㄧㄢ　ch'ien¹

㊀**千人の長**。〔集韻〕仟、千人之長曰ㇾ仟。〔史記、陳涉世家〕俛二仰仟佰之中一。〔注〕索隱曰、仟佰、謂二千人百人之長一也。㊁**千錢**。千(2－2697)に通ず。〔漢書、食貨志上〕有二仟伯之得一。〔注〕仟、謂二千錢一、伯、謂二百錢一。㊂**南北に通ずる路**。阡(11－41548)に通ず。〔正字通〕仟、通作阡。〔漢書、地理志下〕開二仟伯一。〔漢書、食貨志上〕開二仟伯一。〔注〕師古曰、仟伯、田閒之道也、南北曰ㇾ仟、東西曰ㇾ伯。㊃**草木の生ひ繁るさま**。羊(9－30669)に通ず。仟仟を見よ。

參考　什(1－348)は別字。

【仟仟】1 セン　草の盛に繁るさま。芊芊。〔潘岳、在二懷縣一作詩〕稻栽肅仟仟、黍苗何離離。〔注〕五臣作二芊芊一、良曰、芊芊離離、長茂貌。〔謝朓、遊二東田一詩〕遠樹曖阡阡、生煙紛漠漠。〔注〕善、作二仟仟一、善曰、仟、與二芊同一。

【仟伯】2 バク　㊀千錢。百錢。千百(2－2697‥368)に同じ。〔漢書、食貨志上〕有二仟伯之得一。〔注〕師古曰、仟、謂二千錢一、伯、謂二百錢一也、今俗猶謂二百錢一爲二一伯一。㊁田閒の道。南北を仟といひ、東西を伯といふ。阡陌。〔漢書、食貨志上〕及二秦孝公一用二商君一、壞二井田一、開二仟伯一。〔注〕師古曰、仟伯、田閒之道也、南北曰ㇾ仟、東西曰ㇾ伯。

【仟佰】3 バク　千人の長と百人の長。〔史記、陳涉世家〕俛二仰仟佰之中一。〔注〕索隱曰、仟佰、謂二千人百人之長一也。

【仟眠】4 ミン　草木の茂るさま。又、ほの暗いさま。芊眠。芊蔚。〔楚辭、王褒、九懷、通路〕遠望兮仟眠、聞雷兮闐闐。〔注〕遙視二楚國一闇未ㇾ明也、一作二芊暝一、一作二晦昏一。〔楚辭、王逸、九思、悼亂〕菅蒯兮塹莽、藿葦兮仟眠。〔注〕一作二千眠一、一作二仟玄一。

【任】381

㊀カン　〔集韻〕古旱切　旱
㊁カン　〔集韻〕侯旰切　翰
㊀**長い**。〔集韻〕任、長也。㊁**そこなふ**。**又、まもる**。**ふせぐ**。扞(5－11802)に同じ。〔集韻〕扞、說文、忮也、一曰、衛也、或作ㇾ任。

【仡】382

㊀キツ　コチ　〔集韻〕許訖切　物　一、ㇶ
㊁ギツ　ゴチ　〔集韻〕魚乙切　物
㊂ゴツ　ゴチ　〔集韻〕五忽切　月

小篆　㊀㊁㊀**いさましい**。もと伎(1－406)に作る。〔正字通〕仡、本作ㇾ伎。〔說文〕伎、勇壯也、从ㇾ人气聲。〔廣雅、釋詁二〕仡、勇也。〔何晏、景福殿賦〕悍獸仡以儷陳。〔注〕銑曰、仡、壯勇貌。㊁**頭を擧げる**。〔史記、司馬相如傳〕仡以佁儗兮。〔注〕索隱曰、仡、擧ㇾ頭也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕仡奮鬐而軒鬐。㊂**高い**。圪(3－4883)に通ず。〔說文通訓定聲〕仡、段借爲ㇾ圪、詩、皇矣、崇墉仡仡。㊃**船がゆれるさま**。**不安のさま**。舠(9－30354)に同じ。〔集韻〕舠、說文、船行不ㇾ安也、亦作ㇾ仡。〔方言、九〕僞謂二之仡一、仡、不ㇾ安也。〔注〕仡、船動搖之貌也。〔正字通〕仡、音兀、動ㇾ舟貌。

【仡仡】1 キツ　㊀勇壯なさま。〔廣雅、釋訓〕仡仡、武也。〔書、秦誓〕仡仡勇夫、射御不ㇾ違。〔蔡傳〕仡仡、勇貌。〔漢書、李尋傳〕任二仡仡之勇一。〔注〕師古曰、仡仡、壯健也。〔揚雄、甘泉賦〕金人仡仡其承二鐘虡一兮。㊁高大なさま。屹屹。〔詩、大雅、皇矣〕崇墉仡仡。〔傳〕仡仡、猶言言也。〔疏〕崇城仡仡然高大。㊂ブツ　舟のゆれるさま。又、安からぬさま。〔詩、大雅、皇矣〕崇墉仡仡。〔釋文〕韓詩云、搖也。〔柳宗元、晉問〕巨舟軒昂仡仡環。

【仡仡然】2 キツキツ　勇みはげむさま。〔晏子、雜、下〕欲ㇾ登二彼相相之上一、仡仡然不ㇾ知ㇾ厭。

【仡然】3 キツ　たけく勇しいさま。〔公羊、宣、六〕仡然從二乎趙盾一而入。〔注〕仡然、壯勇貌。

【仡黨】4 キツタウ　刀の名。小さい刀。〔溪蠻叢笑〕出入坐臥、必以ㇾ刀自隨、小者尤銛利、名二仡黨一。

【伏】383

タイ　ダイ　〔集韻〕徒蓋切　泰

島の名。〔集韻〕伏、地名、在二海中一。

參考　伏(1－438)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕伏、音代、海中地名。伏、音服、俯伏。

【仞】384

㊀ハン　ボン　〔集韻〕符咸切　咸
㊁ハン　ボン　〔集韻〕扶梵切　陷
㊀㊁**かろんずる**。〔廣雅、釋詁三〕仞、輕也。〔方言、十〕仞、輕也、楚凡相輕薄、謂二之相仞一。

【仞】385

㊀ハク　バク　〔集韻〕弼角切　覺
㊁シヤク　ジヤク　〔集韻〕實若切　藥
㊂テキ　ヂヤク　〔集韻〕亭歷切　錫

小篆　㊀㊁㊂**流星**。的(4－10043)に同じ。〔說文〕仞、約也、从ㇾ人勺聲。〔段注〕疊韻爲ㇾ訓、云云、或云、許本作ㇾ仞

約也。〔廣韻〕𠯿、𠯿約、流星。〔集韻〕𠯿、爾雅、奔星爲ㇾ𠯿、或作ㇾ𠯿。〔爾雅、釋天〕奔星爲ニ𠯿約一。

【代】386

タイ ダイ 〔集韻〕待戴切 隊 ㄉㄞˋ tai⁴

小篆 **㊀かはる。かへる。**〔說文〕代、更也、从ㇾ人弋聲。〔方言、十〕皆南楚江湘之間、代語也。〔注〕凡以ニ異語一相易、謂ニ之代一也。〔正字通〕代、更也、替也。〔書、皋陶謨〕天工、人其代ㇾ之。〔左氏、莊八〕及ㇾ瓜而代。〔莊子、逍遙遊〕不ニ越ㇾ俎而代ㇾ之。〔國語、晉語三〕使ニ子父代ㇾ處ㇾ秦。〔注〕代、更也。〔漢書、食貨志〕歲代ㇾ處、故曰ニ代田一。〔注〕師古曰、代、易也。**㊁かはるがはる。**〔中庸〕如ニ日月之代明一。〔孟子、滕文公下〕暴君代作。〔國語、魯語下〕自ㇾ是、齊楚代討ニ於魯一。〔注〕代、更也。〔管子、君臣上〕代相序也。〔楚辭、離騷〕春與ㇾ秋其代序。〔注〕代、更也。〔史記、樂書〕代相爲ㇾ經。〔注〕正義曰、代、更也。〔淮南子、俶眞訓〕二者代謝舛馳。**㊂かはり。かはる者。**〔陸倕、新刻漏銘〕神道無跡、天工罕ㇾ代。**㊃よ。世。**又、王朝。〔正字通〕代、世也。〔書、周官〕仰ニ惟前代一時若。〔論語、八佾〕周監ニ於二代一郁郁乎文哉。〔孟子、滕文公上〕夏曰ㇾ校、殷曰ㇾ序、周曰ㇾ庠、學則三代共ㇾ之。**㊄よよ。だいだい。**〔隋書、李渾傳〕家代隆盛。**㊅血脈が結滯すること。**〔素問、脈要精微論〕數動一代者。〔注〕代、止也。〔史記、倉公傳〕脈長而弦、不ㇾ得ㇾ代ニ四時一者。〔注〕正義曰、王叔脈經云、來數而中止、不ㇾ能ニ自還一因而復動者名ㇾ代、代者死。**㊆國の名。**㋑戰國時代、趙にあつた代國。河北省蔚縣。代郡(38)を見よ。〔史記、趙世家〕趙襄子以ニ科繫一殺ニ代王及從官一、遂興ㇾ兵平ニ代地一。㋺晉の時、鮮卑の拓跋氏の建てた國。後、後魏となる。河北省蔚縣の東。〔魏書、穆帝紀〕八年、晉愍帝進ㇾ帝爲ニ代王一、置ニ官屬一、食ニ代常山二郡一。**㊇姓。**〔萬姓統譜〕代、古代君、爲ニ趙襄子所ㇾ滅、以ㇾ代爲ㇾ氏。

名乘 しろ。㋑價。㋺材料。㋩稻田の地。

邦 ノリ。ヨ。ヨリ。シロ。

【代位】1 ㊀先君に代つて位につく。〔新序、善謀上〕秦孝公曰、代位不ㇾ亡ニ社稷一、君之道也。**㊁**法律上、第三者が當事者のなすべき或る行爲を行ひ、其の結果として權利者の地位に立つこと。

【代位訴權】2 法律上、債權者が債權を保全する爲に、債務者に屬する權利を代位して行ふことを許されてゐる其の權利をいふ。間接訴權(11－41248··158)に同じ。直接訴權(8－2313 6··172)の對。

【代位辨濟】3 法律上、第三者又は共同債務者の一人が、債務者に代つて辨濟することをいふ。

【代喂】4 かはつて飼はせる。〔福惠全書、郵政部、立局〕或托ニ人代喂一。

【代印】5 他人の印の代りに、己の印を捺す。

【代淵】6 宋、代州の人。字は仲顏。號は虛一子。進士。學を李畋に受く。官は太子中允。著に周易指要・老佛雜說數十篇がある。〔宋史、四百五十八〕・〔宋史新編、一百七十七〕・〔東都事略、一百十三〕・〔隆平集、十五〕。

【代下】7 能登國の地名。

【代價】8 あたひ。ね。**㊀**物の價に當る金錢。**㊁**金錢と交換するもののねうち。

【代解】9 人を代りにやる。〔福惠全書、刑名部、逃人、起解逃人〕或僱ニ人代解一。

【代交】10 tai⁴ chiao¹ 取次ぐ。代つて渡す。

【代行】11 代理する。又、代理して執行すること。

【代香】12 他人に代つて燒香する。〔奧女中袖鏡〕御代參、御代香。

【代耕】13 官からもらふ祿米。轉じて、仕官すること。耕さずに食ふこと。又、小作米の類をいふ。〔禮、王制〕諸侯之下士、視ニ上農夫一、祿足ニ以代ニ其耕一也。〔孟子、萬章下〕下士與ニ庶人在ニ官者一同ㇾ祿、祿足ニ以代ニ其耕一也。〔潘岳、藉田賦〕朝靡ニ代耕之秩一。〔潘岳、閑居賦序〕池沼足ニ以漁釣一、春稅足ニ以代耕一。〔注〕向曰、春稅、謂ニ舂粟爲ㇾ米、稅ニ其利一以代ニ耕也。〔陶潛、雜詩〕代耕本非ㇾ望、所ㇾ業在ニ田桑一。〔謝瞻、於ニ安城一答ニ靈運一詩〕幸會果ニ代耕一。

【代講】14 人に代つて講義をする。〔南史、紀少瑜傳〕經博士東海鮑皦、雅相欽悅、時皦有ㇾ疾、請ニ少瑜一代講。

【代客】15 tai⁴ k'e⁴ 仲買人。

【代間】16 世の中。世間。〔隋書、高祖文帝紀上〕此兒、風骨不ㇾ似ニ代間人一。

【代寄】17 tai⁴ chi⁴ 代理で送附する。

【代捺】18 tai⁴ k'uei³ 代つてする。捺は國務總理の代理を略稱していふ。

【代置】19 乏しい時に他物をもつて其の代用とすること。〔左氏、成、九〕詩曰、雖有ニ絲枲一、無ㇾ棄ニ菅蒯一、雖有ニ姬姜一、無ㇾ棄ニ蕉萃一。凡百君子、莫ㇾ不ㇾ代ㇾ匱、言ニ備之不ㇾ可ニ以已一也。〔會箋〕凡有ニ匱乏之時一、無ニ物不ㇾ可ニ代用一者ニ。〔後漢書、應劭傳〕左氏實云、雖有ニ姬姜絲枲一、不ㇾ棄ニ憔悴菅蒯一、蓋所ニ以代ㇾ匱也。〔劉攽、知ニ襄州一謝上表〕思皇之際、亦代ニ匱於細微一。

【代翁】20 代る代る弱まる。翁はちぢむこと。張の反對。〔荀子、議兵〕代翕代張、代存代亡、相爲雌雄一耳。〔注〕翕、斂也、代翕代張、代存代亡、猶言ニ代彊代弱一也。

【代居】21 代る代る座に居る。〔法苑珠林〕金剛之座、千佛代居。

【代御】22 かはるがはる支配する。うつりかはる。〔荀子、天論〕列星隨旋、日月遞炤、四時代御、陰陽大化、風雨博施。

【代金】23 物の價に當るかね。ねだん。代價。〔吏徵、上、御目見以上〕御同朋頭三人、御四季施、正月小袖一、上下、代金一兩二朱。

【代金引換郵便】24 郵便局が差出人の委託に依り、其の郵便物を、到著郵便局で代金と引換へに受取人に交付し、其の代金を取りたてて差出人に交付するもの。

【代句】25 **㊀**詩文の句を代へ改めること。〔文心雕龍、附會〕改ㇾ章難ニ於造篇一、易ㇾ字難ニ於代ㇾ句。**㊁**他人に代つて作る詩文の句。代作の句。

【代晦】26 tai⁴ hue⁴ 陰曆二月二日、中和節の別稱。

【代官】27 **㊀**官吏交替の時、其の新任の官を代官といふ。〔明律、吏律、職制〕代官已到、舊官各照ニ已定限期一、交ニ割戶口錢糧刑名等項、及應ㇾ有卷宗籍冊一。**㊁**德川時代の地方官。年貢・戶籍等のことを司る。〔明良帶錄、世職〕御代官。**㊂**ローマ帝國時代、一政區を代つて治める長官。後、專ら教會に用ひる。

【代官所】28 代官が事務を取扱ふ所。

【代換】29 かはる。かへる。〔顏氏家訓、風操〕凡避ニ諱者、皆須下得ニ其同訓一以代ニ換之一上

【代管】30 tai⁴ kuan³ 代つて世話をする。

【代願】31 人に代つてねがふこと。

【代郡】32 郡名。**㊀**古の代國。戰國の時、趙に屬し、代郡を置く。漢初、代國と改め、後、又代郡に復す。故治は河北省蔚縣の東北。〔史記、匈奴傳〕自代並ニ陰山一下至ニ高闕一爲ㇾ塞、而置ニ雲中・鴈門・代郡一。**㊁**後魏、置く。故治は山西省大同縣の東。

【代月】33 **㊀**月に代る。月の代り。〔新論、貴農〕璧不ㇾ可ニ以禦ニ寒、珠未ㇾ可ニ以充ニ飢、雖有ニ奪ㇾ目之鑑、代ニ月之光一、歸ニ于無用一也。**㊁** tai⁴ yüeh⁴ 燈籠。提燈。

【代脊】34 前方のあばらぼね。〔儀禮、少牢饋食禮〕短脅一、正脅一、代脅一。〔胡培翬正義〕脊兩旁之肋、謂ニ之脅一、脅有ニ三、前爲ニ代脅一、中爲ニ正脅一、後爲ニ短脅一。

【代縣】35 縣名。**㊀**漢、置く。昔の代國。故城は河北省蔚縣の東。〔漢書、地理志下〕代郡、縣十八、代、〔注〕應劭曰、故代國。**㊁**民國、置く。戰國の時、趙の雁門郡の地。明の時、縣とし、後、

州とした。今、山西省繁峙縣の西。

【代言】36 ダイゲン 人に代つていふ。〔書、說命上〕夢帝賚予良弼、其代予言。〔宋史、基崇禮傳〕崇禮再入翰林、凡五年、所撰詔命數百篇、文簡意明、不私美、不寄怨、深得代言之禮。

【代言人】37 ダイゲンジン 法律上、當事者の代理となつて口をきく者。今の辯護士。

【代工】38 ダイコウ 天のはたらきにかはる。天に代つて仕事をする。天工に代る。〔書、皐陶謨〕無曠庶官、天工人其代之。〔謝瞻、張子房詩〕伊人感代工、聿來扶興王。

【代興】39 ダイコウ かはるがはるおこる。〔左氏、昭、十二〕寡人中不レ此、與レ君代興。〔荀子、不苟〕變化代興、謂二之天德一。〔呂覽、大樂〕四時代興、或暑或寒。〔史記、歷書〕雌雄代興。

【代購】40 ダイコウ 代理して買ふ。代つて買ふ。

【代谷】41 ダイコク 地名。山西省代縣の西北。漢初、匈奴の冒頓單于が、嘗て此處に居た。〔水經、濛水注〕梅福上レ事曰、代谷者、恆山在二其南一北塞在二其北一。

【代哭】42 ダイコク 喪の時、哭聲を絶たぬ爲に更代で哭すること。〔周禮、夏官、契壺氏〕縣壺以代哭。〔注〕代、亦更也。禮、未二大斂一代哭。〔疏〕禮、未大斂代哭者、未殯已前、無問尊卑、皆哭不絶聲、大斂之後、乃更代而哭、亦使レ哭不絶聲。〔儀禮、士喪禮〕主人拜二送于門外一、乃代哭、不以官。〔注〕代、更也、孝子始有二親喪一、悲哀憔悴、禮防二其以死傷一生、使二之更哭一不レ絶聲而已。〔胡培翬正義〕蓋謂二更番相代一也。褚氏宙亮云、此乃更代之代、非二替代之代一。呂氏坤、誤認爲二替代一、故言、雇二倩下賤一、僞爲二哭聲一、以應二弔賓一、而欲レ廢二此禮一、今案、倩哭以應二弔賓一、乃後世之事、先王時未レ有也、此代哭者、皆有レ服之人、應レ在二哭位一者、亦非二下賤之謂一、未レ殯以前、哭不レ絶レ聲、但自二始死一至二小斂一、已踰二歷晝夜一、恐二其以哀致レ毀、故制二代哭之禮一、使二之相代而哭一、非謂二有二代哭者一、而孝子遂不レ哭也。〔禮、喪大記〕乃官代哭。〔疏〕縣漏分レ時、使レ均二其官屬一、更次相代而哭、使二聲不一レ絶也。

【代宰】43 ダイサイ 莊園の下司などのやうなもの。宰は差配役。

【代作】44 ダイサク ❶入りかはつて出て來る。かはるがはるおこる。〔孟子、滕文公下〕暴君代作。❷詩文などを人に代つて作る。

【代參】45 ダイサン 人になりかはつて神佛に參詣する。代拜。〔娥歌加留多、五〕となせの局は中宮の御願御代參の仰せをかうぶり。

【代子】46 ダイシ 諸侯王の世子をいふ。代宗。〔白虎通、爵〕漢制、天子稱二皇帝一、其嫡嗣稱二皇太子一、諸侯王之嫡、稱二代子一、後代咸因レ之。〔稱謂錄、長子、代子〕案、此疑唐人避レ諱改レ之、唐世宗、亦稱二代宗一。

【代支】47 ダイシ ❶他の銀にかへて渡す。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕或代支而未レ經二補領一。❷代理で支出する。

【代死】48 ダイシ かはつて死ぬ。人の死にかはる。替死。〔書、金縢、以旦代二某之身一、〔疏〕命有二定分一、非レ可二代死一。〔晉書、王徽之傳〕與二獻之一俱病篤、有二術人一云、人命應レ終、而有二生人樂一代者、則死者可レ生、徽之謂曰、吾才位不レ如レ弟、請以二餘年一代レ之、術者曰、代死者、以二己年一有レ餘、得二以足一亡者一耳、今君與弟算俱盡、何代也。〔通俗編、境遇、代死〕按、俚俗亦謂二之替死一、唐孔璋有レ請レ替二李邕死一表。上

【代字】49 ダイジ ❶代名詞。〔馬氏文通、二、代字者、所二以指一名也、文中隨在代レ名、而有レ所レ指也、凡行文所二以用一代字一者、免二重複一、求二簡潔一耳。❷代書。

【代州】50 ダイシウ 州名。隋、置く。清、山西省に在る直轄州で、五臺・崞・繁峙の三縣を領す。〔讀史方輿紀要、山西、大原府〕代州、春秋時晉地、戰國趙地、秦爲二太原鴈門二郡之境一、兩漢魏晉因レ之、云云、隋改爲二代州一。〔清史稿、地理志〕山西、代州直隸州、領二縣三、五臺・崞・繁峙。

【代收】51 ダイシウ 代つて受取る。代つて取立てる。

【代收貨價】52 tai⁴ shou¹ huo⁴ chia⁴ 代金引換。品代代理取立。

【代售】53 tai⁴ shou⁴ 取次販賣。委托販賣。售は賣ること。

【代舍】54 ダイシャ 客を饗應する舍の名。春秋、齊の公族、孟嘗君が、客を置くに用ひた一等の舍。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君遷二之代舍一。〔注〕索隱曰、按、傳舍・幸舍及代舍、並當二上中下三等之客所一レ舍之名一耳。

【代赭】55 タイシャ 色が赤黑く、質の堅い鑛物で、繪具とする。代赭石を見よ。

【代赭石】56 タイシャセキ 山西省代縣に產する赭石、赤鐵鑛の一種。代赭。〔本草、代赭石〕釋名、須丸、血師、土朱、鐵朱、別錄曰、出二代郡一者名二代赭一、出二姑幕一者名二須丸一、時珍曰、赭、赤色也、代、卽雁門也。

【代謝】57 ダイシャ 代り來り謝し去る義で、新しいものが來て交替し、舊いものが辭し去る現象。次次とうつりかはること。新陳代謝。〔淮南子、俶眞訓〕二者代謝舛馳、各樂二其成形一。〔注〕代、更也、謝、殺也。〔淮南子、兵略訓〕若二春秋有一代謝一、若二日月有一晝夜一。〔後漢書、馮衍傳下〕循二四時之代謝一、兮、分二五土之刑德一。〔曹植、朔風詩〕四氣代謝、懸運周。〔陶潛、飲酒詩〕寒暑有二代謝一、人道每如レ茲。〔孟浩然、與二諸子一登二峴山一詩〕人事有二代謝一、往來成二古今一。

【代謝作用】58 ダイシャサヨウ 生活體內に於ては酸化・燃燒作用によつて有機性物質は崩壞し、既存の古い細胞並に要素は死滅し、是に代つて攝取した養素から新しい細胞要素が構成補充せられる作用。新陳代謝。

【代將】59 ダイシャウ ❶海軍官の階級の名。少將に次ぐ。❷古代ローマの副將軍。

【代償】60 ダイシャウ 人にかはつて損害の代償を拂ひつぐなふ。〔宋史、張汝明傳〕汝明、爲鬻二棗中裝一代二償之一。

【代償作用】61 ダイシャウサヨウ 生理學上、或る臟器が萎縮するとき、他の臟器が膨大して調節する類の作用をいふ。

【代手】62 tai⁴ shou³ 代つて骨折る。代勞(151)に同じ。

【代書】63 ダイショ ❶人にかはつて文書をかくこと。代筆。又、其の人。〔福惠全書、蒞任部、攷二代書一〕其鄉愚孤煢、不レ能二自寫一、必倩二代書一、類多二積年訟師一、慣レ弄二刀筆一。❷手紙のかはり。〔黃庭堅、代レ書寄二翠巖新禪師一詩〕山谷青石牛、自負二萬鈞重一。

【代書業】64 ダイショギョウ 他人の委託を受けて代書をする營業。

【代署】65 ダイショ 本人に代つて名を記す。〔唐書、崔祐甫傳〕聽二直者代署以聞一。

【代序】66 ダイジョ 次第を逐つて入りかはる。逐次交代する。代敍。〔楚辭、離騷〕日月忽其不レ淹兮、春與レ秋其代序。〔注〕代、更也、序、次也、言二天時易レ過也。〔張衡、思玄賦〕時亹亹而代序兮、疇可二與乎比伉一。〔潘岳、秋興賦〕四運忽其代序兮、萬物紛以迴薄。〔江淹、雜體、潘黃門岳述哀詩〕日月方代序、寢興何時平。

【代敍】67 ダイジョ 代序に同じ。〔鹽鐵論、論菑〕四時代敍、而人則其功。

【代食】68 ダイショク 他に代つて祿を食む。〔詩、大雅、桑柔〕好二是稼穡一、力民代食。〔傳〕力民代食、代二無功者一食二天祿一也。

【代診】69 ダイシン 醫者の代理をして病人を診察する。主治醫の代りに診察する。代脈。轉じて、醫者の弟子。

【代數】70 ダイスウ ❶世代を重ねた數。❷代數學の略。〔周禮政要、通藝〕亦レ及二幾何點線面體之賅、代數微分積分之捷一。

【代數學】71 ダイスウガク algebra 數學の一分科。❶數字と文字(羅馬字)とを用ひて、數の性質及び關係を研究する學問。代數とは數を代表するのに文字を使用するといふ意。中國では四元、和算では點竄術といふ。❷抽象代數學。abstract algebra 取扱ふ對象を數といふやうな特殊のものに限らず、四則算法も更に一般化して、從來の代數學を極めて廣義に且つ抽象的に改造したもの。近年、シユタイニツチ・ネーター・アルチン等の研究により漸次完成の域に達した。

【代數差】72 ダイスウサ 數學用語。代數學上AとBとの代數差とはA−Bのこと。その値はA∨Bに於ては正、A∧Bに於ては負となる。

【代數式】73 ダイスウシキ 數學用語。代數學上の式。加・減・乘・除・冪・根の六個の運算符號で連結された式。有理式・無理式・一項式・多項式に分れる。

有理式は更に整式・分數式の二種とする。

【代數和】74 ダイスウワ 數學用語。代數學上AとBとの代數和とはA+Bのこと。A・Bを任意の正數及び負數とするときは、和は必ずしも增加ではない。

【代數曲線】75 ダイスウキョクセン 數學用語。點の坐標間の關係を普通代數式を以て表はしたもの。二次曲線・三次曲線・四次曲線等に分れる。

【代數幾何學】76 ダイスウキカガク 解析幾何學(10—35067:163)の別稱。代數學上の解法を幾何學に應用したもの。

【代數方程式】77 ダイスウホウテイシキ 數學用語。未知數を含んだ代數函數を零に等しと置いた方程式。一元・二元・多元方程式等に分れる。

【代數分析法】78 ダイスウブンセキハフ 代數方程式を利用して幾何作圖を研究する方法。代數解析法。

【代請】79 ダイセイ 代つて請ふ。

【代銷】80 tai⁴ hsiao¹ 代理して賣捌く。代理販賣。

【代席】81 tai⁴ hsi² 謝禮金の包の表に記す文字。我が國の酒肴料の意。

【代絕】82 ダイゼツ 脈が結滯する。代脈。字解の㊀を見よ。〔史記、倉公傳〕其代絕而脈賁者、病得二之酒且內一。

【代餞】83 ダイセン 御見送りに代へる。

【代善】84 ダイゼン 清の人。太祖の第二子。謚は烈。英勇、人に過ぐ。哈達・輝發・葉赫等の國に從征して貝勒を授けられ、布占泰を破り、葉赫を平げ、屢〻戰功あり、又太祖に從つて明を伐ち、和碩禮親王に封ぜられた。世祖が初めて立つや、代善の子碩託・孫の阿達禮が、多爾袞を立てようと謀つたので、代善は其の謀を發いて倶に誅に伏した。〔清史稿、二百二十二〕・〔清史列傳、一〕・〔國朝耆獻類徵、首三〕・〔碑傳集、一〕。

【代租】85 ダイソ 年貢米のかはりに納める稅。〔唐書、食貨志一〕以布代レ租。

【代宗】86 ダイソウ 唐の第八世、李豫(6—14459‥772)の廟號。

【代奏】87 ダイソウ 他人に代つて天子に申上げる。代理上奏。〔張協、七命〕折二龍眼之房一、剖二椰子之殼一、芳旨萬選、承レ意代奏。

【代奏謝恩】88 ダイソウシャオン 皇帝から恩典を受けた者が直接奏事の資格がない時、堂上官、又は本省の總督巡撫が之に代つて奏聞をすること。〔皇朝政治學問答〕無二奏事之責一而應レ謝レ恩者、倶由二堂官或本省督撫一代爲二奏聞一。

【代存】89 ダイソン 代る代る存する。〔荀子、議兵〕代存代亡、相二爲雌雄一耳矣。

【代兌】90 tai⁴ tuei⁴ 代理兌換。

【代替】91 ダイタイ かはるがはる。こもごも。替代(5—14300‥14)に同じ。

【代替物】92 ダイタイブツ 交易上、他の同種類・同品質・同數量・同容積の物を以て、之に替へることの出來る品物。貨幣・酒・米・油など。特別物で交換出來ないものを非代替物といふ。

【代代】93 ダイダイ ㊀つぎつぎの世。歷代。累代。〔庾信、周大將軍司馬裔碑〕茫茫丘壟、代代英賢。㊁よよ。永世。いつの世迄も。〔張若虛、春江花月夜詩〕人生代代無二窮已一、江月年年望相似。

【代代花】94 ダイダイファ 橙ダイの花。

【代當】95 tai⁴ tang¹ 代る。代辦する。代理する。

【代斲】96 ダイタク 代つてきる。〔老子、七十四〕常有二司レ殺者一殺、而代二司レ殺者一殺、是代二大匠一斲、夫代二大匠一斲、希レ有レ不レ傷二其手一矣。〔李夷簡、西亭暇日書懷十二韻獻上詩〕代斲豈容易、守成獲二優游一。

【代地】97 ダイチ かへち。かはりの土地。〔天明集成絲綸錄、四十七〕明和五年二月、右町屋敷、先達而被二召上一候爲二代地一云云、貳百坪被二下一。

【代治】98 ダイチ 他に代つて事を治める。〔書、洪範、禹乃嗣興、疏〕代治二洪水一、決レ道使レ通。

【代茶】99 tai⁴ ch'a² 昏禮の時、男の家から女の家に送る聘金。古は茶を以て婚禮の禮物とした。茶金。茶禮。

【代張】100 ダイチャウ 代る代る勢力を張る。〔荀子、議兵〕代翕代張、代存代亡。

【代追】101 ダイツイ かはつて取りたてる。〔福惠全書、刑名部、雜犯、債負〕張冠李戴、請託代追。

【代天】102 ダイテン 天の意志に代る。〔國史略、村上天皇〕拜除之恩惟一、榮枯之分不レ同、依レ人異レ事、雖似二偏頗一、代レ天授レ官、誠懸二運命一。

【代塾】103 ダイテン 立替へ。

【代田】104 ダイデン 年年場所をかへて耕す田。〔漢書、食貨志〕以二趙過一爲二搜粟都尉一、過能爲二代田一、一晦三畎一、歲代レ處、故曰二代田一、古法也。〔注〕師古曰、代、易也。

【代電】105 ダイデン 公文の一種。速達郵便の如きもので、電報に代るもの。

【代度】106 ダイド 僧尼古、朝廷から僧を還俗させられる場合に、其の僧に代つて、或は又、賤者が貴者に代つて、其の冥福を祈る爲に得度するをいふ。〔續日本紀、二〕大寶元年三月壬辰、令二僧辨紀還俗一、代度一人。

【代德】107 ダイトク ㊀代つて天下を治める德。又、其の有德者。〔逸周書、芮良夫解〕厥德不レ遠、罔レ有二代德一。〔注〕代德、謂下可二以代レ周之人一上。左氏、僖、二十五〕晉侯朝レ王、王饗醴、命二之宥一、請レ隧、弗レ許、曰、王章也、未レ有二代德一而有二二王一、亦叔父之所レ惡也。㊁五行の德によつて、代る代るにおこる。〔宋書、武帝紀中〕代德之符、著乎幽顯一。

【代挪】108 tai⁴ nuo² 代つて立替へる。

【代納】109 ダイナフ 他人に代つて稅金を納める。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕准下豁二其遺產一爲レ之代納上。

【代人】110 ダイニン みやうだい。代理人。〔今昔物語、三二〕其れを以て祇園の神人等・代人等の延曆寺に寄文を書儲て。

【代任】111 ダイニン 人に代つて其の役にあたる。〔漢書、地理志下〕幼者扶レ老、而代二其任一。

【代馬】112 ダイバ ㊀北方の代の地から產する名馬。〔曹植、朔風詩〕願騁二代馬一、倏忽北徂。〔注〕良曰、代馬、胡馬也。〔任昉、宣德皇后令〕代馬不二敢南牧一。〔注〕翰曰、代、謂二北胡一也。㊁地名。代郡で馬を產する邑。代は卽ち冀北。〔史記、蘇秦傳〕秦四塞之國、云云、南有二巴蜀一、北有二代馬一。〔注〕索隱曰、謂二代郡馬邑一也。地理志、代郡又有二馬城縣一。云云、代馬謂二代郡一、兼レ有二胡馬之利一。

【代馬依北風】113 ダイバフイホクフウ 物は皆其の故鄉を懷ふの情あること。故鄉の忘れがたい喩。胡馬依二北風一。〔鹽鐵論、未通〕文學曰、樹木數徙則瘁、蟲獸徙レ居則壞、故代馬依二北風一、飛鳥翔二故巢一。莫レ不レ哀二其生一。〔曹植、朔風詩、願騁二代馬一、注〕善曰、韓詩外傳曰、詩云、代馬依二北風一。

【代拜】115 ダイハイ ㊀人の代理として官職をうける。〔宋書、殷景仁傳〕上使二綱紀代拜一。㊁他に代つて神佛などに參拜する。代參。

【代庖】116 ダイハウ 料理人に代る。轉じて、人の代理をする。人に代つて處理する。庖代(4—9266‥14)を見よ。〔莊子、逍遙遊〕庖人雖レ不レ治レ庖、尸祝不下越二樽俎一而代上之矣。〔淮南子、主術訓〕是猶下代二庖宰一剝牲、而爲二大匠一斲上也。〔故事成語考、人事〕代レ人作レ事、曰二代庖一。

【代亡】117 ダイバウ 代る代る亡びる。〔荀子、議兵〕代存代亡、相二爲雌雄一耳矣。

【代拍】118 ダイハク かはるがはる打つ。交代に拍子を打つ。交代に調子をとる。〔硯崗筆記〕敲鐙代拍、唱徹二三十六遍一。

【代發】119 tai⁴ fa¹ 代理して賣捌く。代理販賣。

【代飯】120 tai⁴ fan⁴ 賄附き。代は帶の意。

【代番】121 ダイバン かはるがはるつとめる。交番。〔武家義理物語、三〕ある時隼人煩ひて、代番賴み引籠りしに。

【代筆】122 ダイヒツ 人に代つて書く。代書。〔元史、選擧志二〕諸冒レ名就レ試、別立二姓名一、及受レ財爲レ人懷挾、代筆傳義者、竝許二人告一。〔湧幢小品〕會試、沈同和、以二代筆一中二第一名一、代筆者魁鳴陽、中二第六名一、倶吳江人、事發、竝罪除レ名。

【代筆相公】123 ダイヒツシャウコウ 代理人。〔桃花扇、訪翠〕孩兒覷覦、請二箇代筆相公一罷。

【代物】124 ダイブツ ㊀代りのもの。代品。㊁モノ ㋑賣買する品物。貨物。商品。㋺貨物の代金。〔奧州會津年譜〕倭俗謂二錢曰一代物一。㋩美しい女。㋥人を卑しめていふ語。〔浮世風呂、三下〕あゝいふしろものだはな。

【代物淸償】125 ダイブツセイシヤウ 代物辨濟を見よ。

【代物辨濟】126 ダイブツベンサイ 債務者が債權者の承諾を得て、その本來負擔した給付に代へて他の給付をすること。代物淸償。

【代表】127 ダイヘウ 法人・團體、又は一箇人に代つて其

の意志を發表すること。又、其の人。

【代表者】128 ダイヒョウシャ 代表するもの。

【代表貨幣】129 ダイヒョウカヘイ 紙幣をいふ。信用貨幣。

【代票】130 ダイヘウ 地方官署の書記が、富裕な農民に代つて稅金を納めてから、納稅濟證票を作つて當人から倍加の返還を求めること。〔王邦璽、論二江西丁漕積缺一文〕書差輒擇二中下家產一、能自完納之花戶一代爲裁串一完糧、然後持レ票、向二本戶一加倍、糧還入レ己、名曰二代票一。

【代扑】131 ダイボク 手を拍つのに代へる。〔事物異名錄、音樂、樂器〕拍板、長闊如レ手、重十餘枚一、以レ掌連レ之、擊以代レ扑。

【代辦】132 ダイベン 人に代つて事を處理する。よいやうに取りはからふ。代理。〔福惠全書、錢穀部、催徵、甦排落印〕誘以二代辦之詞一、科二其不貲之費一。

【代辦商】133 ダイベンシャウ 經理人でなくて商店の委託を受け、一定の場所・一定の區域内に於て、その商店の名義を用ひ、その業務の全部又は一部を代つて處理するもの。

【代辦使事】134 ダイベンシジ 官名。公使の第三級。外交部より外國の外務省に對して派遣するもの。高級外交官を置かない諸國に之を置く。代理公使。

【代步】135 ダイホ 歩くことに代へる。足に代へる。又、足の代りとなるもの。車・馬・船。〔李尤、天軿車銘〕輪以代レ歩。〔裴度、酬二張祕書因寄レ馬贈一詩〕代歩本慙非二逸足一。〔白居易、足疾詩〕代レ歩多乘二池上舟一。

【代墨】136 ダイボク 上野國の地名。〔昆陽漫錄〕。

【代脈】137 ダイミャク ㊀血脈の結滯。代絕(82)を見よ。〔傷寒論〕脈來動而中止、不レ能二自還一、因而復動者、名曰レ代。 ㊁代診(69)に同じ。

【代明】138 ダイメイ 代る代る明かなこと。代る代る照すこと。〔中庸〕如二日月之代明一。〔孔叢子、論書〕昭昭然、若二日月之代明一。

【代面】139 ダイメン ㊀めん。假面。〔秘言〕。 ㊁書を寄せて面談にかへる。今、電話を以て面談にかへることをもいふ。〔宋書、自序〕薄因二末牘一、以代二一面一。〔白居易、醉封二詩筒一寄二微之一詩〕展二眉只仰三杯後、代レ面唯憑五字中。 ㊂唐代の戲劇。戲者が巨大な面を被り、身に紫衣を着け、腰に金裝刀を帶び、手に鞭を執つて舞ふ戲劇。北齊の蘭陵王長恭は、勇武であつたが、其の容貌が美しかつた爲、敵と戰ふに方り、常に假面を著けて出たのを、時人が壯として此の舞を作り、其の指麾擊刺の狀を寫し、稱して蘭陵王入陣曲といつた。これが此の劇の起原である。又、教坊記に據れば、當時の教坊歌曲に蘭陵王があり、宋代の慢詞で蘭陵王と名づける者は、其の遺聲であらう。此の戲はただ搬演ばかりでなく、當初已に之に伴ふ歌があつたと思はれる。我が國雅樂の蘭陵王は其の遺風といふ。又、大面に作る。〔舊唐書、音樂志〕、〔樂府雜錄〕。

【代目】140 カハリメ 物事のかはりあふとき。〔浮世床、初編下〕代り目代り目に、幾度も御らうじて。

【代洋】141 tai⁴ yang² 現金の代用とする。

【代輸】142 ダイユ 他に代つて租稅を出すこと。〔劉宰、鴉去鵲來詩〕千錢代輸猶可レ出、今日方輸又明日。

【代用】143 ダイヨウ 物の代りに用ひる。〔左氏、成、九、莫レ不レ代レ匱、會箋〕凡有二匱乏之時一、無レ物不レ可二代用一者。

【代用價格】143' ダイヨウカカク 株式の信用取引などで證據金の代りに用ゐる代用證券の評價額。

【代用器官】144 ダイヨウキクワン 植物學用語。他の器官の作用を兼ね代營する器官。例へば蠶豆の葉を摘み去つたとき、莖枝が發達して葉の代營をする如きもの。

【代用教員】145 ダイヨウケウイン 教師となる資格を得てゐないで教育に從事してゐる教員。

【代用國民學校】146 ダイヨウコクミンガクカウ 私立の國民學校で、公立の國民學校に代用し得られる資格あるもの。

【代庸】147 ダイヨウ 人に代る。又、代りの人。〔漢書、廣陵厲王胥傳〕死不レ得レ取二代庸一、身自逝。

【代來】148 ダイライ 城の名。代來城を見よ。

【代來城】149 ダイライジャウ 城の名。東晉、置く。綏遠省蒙古鄂爾多斯の左翼界内。一名、悅跋城。〔晉書、赫連勃勃載記〕苻堅以二衞辰一爲二西單于一、督二攝河西諸虜一、屯二代來城一。〔讀史方輿紀要、陝西、榆林鎭〕代來城、在二鎭北一、亦謂二之悅跋城一。

【代禮】150 ダイライ 囘代人に他を禮拜させるときは、先づ己が其の代人に禮して、然る後、傳拜させること。〔釋氏要覽、中〕代禮、若二此方俗之傳拜一也、十誦律云、弟子遊レ方、和尚知二彼有二靈蹤聖像名德人一、和尚令レ傳二禮於彼一、其弟子得二側レ身受一和尚禮一。

【代勞】151 ダイラウ 他人に代つて骨折ること。代理して處置する。代手。〔李百藥、渡二漢江一詩〕客心既多緒、長歌且代レ勞。〔廣異記〕魏元忠嘗呼二蒼頭一、未レ應、大輒代呼レ之、元忠曰、此孝順大也、乃能代二我勞一。

【代理】152 ダイリ ㊀他に代つて事を理める。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕未レ免二市城積棍出レ身代理一。 ㊁法律用語。本人でないものが、本人に代つて法律行爲をなし、其の效果が本人に及ぶもの。委任代理・法定代理の二つに分れる。

【代理官】153 ダイリクワン 他の官吏に代つて其の職務を行ふ官吏。

【代理業】154 ダイリゲフ 代理商の營業。

【代理權】155 ダイリケン 代理人が本人にかはつて法律行爲を行ふ權限。もともと權利ではないが、一般人が一種の權利の如く見做すことからかくいふ。

【代理商】156 ダイリシャウ 商業使用人でなくて、一定の商人のために、平常營業の類屬に從ふ商行爲の代理又は媒介をする者。

【代理店】157 ダイリテン 代理商のみせ。

【代理人】158 ダイリニン 本人に代つて其の意志を表示する人。

【代理公使】159 ダイリコウシ 駐劄使臣の賜暇歸朝中などに、一時代つて職務を處理する部下の外交官。

【代理占有】160 ダイリセンイウ 占有者が他人をして自己に代つて其の目的物を所持せしめること。

【代立】161 ダイリツ 先君に代つて君主の位にたつ。代位。〔商子、更法〕代立不レ忘二社稷一、君之道也。

【代鈴】162 tai⁴ ling² 出產の祝。產み月に贈る祝儀の封面に書く文字。鈴鐺(11－40267··17)に代へる意。

【代料】163 ダイレウ 物のあたひ。代金。

【代路】164 ダイロ 代國へ往來する路。〔張衡、思玄賦〕寶號行二於代路一兮、後靡レ祚而繁蕪。

【代王】165 ダイワウ ㊀城の名。河北省蔚縣の東。代縣の故城。代王城。〔兩鎭三關志〕蔚廢代城、俗呼二代王城一、周二十五里、九門遺址尚在、趙襄子所レ幷之代、是也。〔明一統志〕代王城、在二蔚州東二十里一。〔讀史方輿紀要、山西、大同府、蔚州〕代王城在二府東北二十里一。 ㊁君主を代表して一屬國或は一省を治めるもの。總督。

【代王侑】166 ダイワウイウ 楊侑(6－15112··10)を見よ。

【代王恆】167 ダイワウカウ 漢、文帝(5－13450··701)を見よ。

【代孝王】168 ダイカウワウ 漢、劉參(2－2224··303)の封謚號。

【代簡王】169 ダイカンワウ 明、朱桂(6－14424··253)の封謚號。

【代機紗】170 tai⁴ chi¹ sha¹ 紗の一種。長さ二丈八尺、幅一尺のもの。

【代犧圖】171 ダイギヅ 唐の闇朝隱が、身を以て武后の疾の回癒を祈り、自ら犧牲となつて俎盤に伏した故事を張元一が圖に畫いたもの。〔易齋笑林〕唐武后疾、闇朝隱以レ身代レ犧、沐浴伏二於俎盤一、令二僧道迎至二神所一、會疾愈、特加二賞賚一。張元一畫二代犧圖一。

【代議院】172 ダイギヰン 議院(10－36027··3)に同じ。

【代議士】173 ダイギシ 人民に選擧せられ、衆民の代表者となつて國の議會に出て、立法に參與する人。衆議院議員。參議院議員。

【代獻官】174 ダイケンクワン 代つて酒を獻ずるもの。〔桃花扇、拜壇〕陪禮官就レ位、代獻官就レ位。

【代執行】175 ダイシッカウ 行政上の強制執行の一種。特定の義務行爲を履行しない場合、官廳に於て自ら之をなし、又は他の第三者をして之を行はしめて、その費用を強制徵收するをいふ。

【代拏木】176 tai⁴ na² mu⁴ ダイナモ。發電機。代那模。

【代派書】177 tai⁴ pai⁴ shu¹ 代理店。

【代名詞】178 ダイメイシ 品詞の名。名詞の代りに用ひて人物・事類の名稱を代表するものをいふ。性質上五種に分ける。一、人代名詞。自他の名に代

用するもので、自稱（吾・我・予・余・愚・小子・不肖・不佞 僕・臣）、對稱（爾・汝・女・而・夫子 子・吾子・先生・公・君等）、他稱（彼・夫・渠）の三に分れる。二、指示代名詞。事物を指示する時に使用するもので、是・此・之・茲・其の類。三、假設代名詞。或る事物を意中に虛構假設して指定するもので、前文を承受する所なく、又、後文を指示するものでもない。卽ち其・之の兩字で、例へば先行ニ其言一而後從レ之の其、視レ之不レ見の之の類。四、疑問代名詞。二種ある。第一は人に關するもので誰・孰・疇の類。第二は事柄・場所・時期に關するもので、何・奚・安・何如・奈何・焉・惡の類。五、轉接代名詞。上文を承けて下文に轉ずる時に用ひるもので、其・斯・如是・夫・斯其・其或・夫如是の類。代字。

【代漏龍】179 タイロウリョウ　時計魚をいふ。一更ごとに一躍して漏刻に代るといふ。知更魚（8－23935‥32）に同じ。〔採蘭雜志〕薛若社好ニ讀書一、過ニ比邱一、就ニ水中一捉ニ一魚一、赤色、與レ薛曰、此謂ニ知更魚一、每レ至ニ一更一則一躍、薛畜ニ盆中一、至ニ三更一、魚果三躍、更レ名曰ニ代漏龍一。

【代引呼吸】180 tai⁴ yin³ hu¹ hsi¹　人工呼吸。

【代議制度】181 ダイギセイド　人民が代表を選擧して國政を議せしめる制度。

【代議政體】182 ダイギセイタイ　國民に代議士を選ばしめて立法に參與させる政體。

【代形合參】183 ダイケイガフサン　解析幾何學。

【代拆代行】184 tai⁴ ch'ai¹ tai⁴ hsing²　事務を代行する。官吏が暫時其の職を離れる時、他の人が其の委任を受けて公事を代つて處理すること。代拆とは外から來た文書を代つて開くこと。代行は外へ發送する公文を代つて處理すること。

【代報匯信】185 tai⁴ pao⁴ huei⁴ hsin⁴　荷爲替。

【代貨主收價】186 tai⁴ huo⁴ chu³ shou¹ chia⁴　代金引換郵便。

【代悲白頭翁】187 ダイヒハクトウヲウ　樂府の名。唐の劉廷芝に歌辭がある。

【令】387

㊀レイ リヤウ　〔集韻〕力正切　ㄌㄧㄥˋ ling⁴　敬

㊁レイ リヤウ　〔集韻〕郎丁切　ㄌㄧㄥˊ ling²　靑

㊂レイ リヤウ　〔集韻〕離貞切　庚

㊃レイ リヤウ　〔集韻〕郎定切　徑

㊄レン　〔集韻〕陵延切　先

小篆

㊀❶**ふれ**。**布告**。**おきて**。**法律**。〔廣韻〕令、律也、法也。〔書、說命上〕臣下罔レ攸レ稟レ令。〔書、冏命〕發レ號施レ令。〔周禮、夏官、大司馬〕犯レ令陵レ政、則杜レ之。〔周禮、秋官、士師〕四曰、犯ニ邦令一。〔國語、楚語上〕教ニ之令一。〔注〕令、謂ニ先王之官法時令一也。〔獨斷、上〕奉而行レ之、名曰レ令。❷**みことのり**。君主の命令。〔新書、等齊〕天子之言、曰レ令。〔管子、法法〕令者、人主之大寶也。❸**いましめ**。**をしへ**。**訓戒**。〔釋名、釋典藝〕令、領也、理ニ領之一、使レ不レ得ニ相犯一也。〔廣雅、釋詁四〕令、禁也。〔禮、曲禮上〕畏ニ法令一也。〔注〕令、教訓也。〔孝經、諫爭章〕子從ニ父之令一、可レ謂レ孝乎。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕其次不レ辱ニ辭令一。〔注〕善曰、令、謂ニ教令一。❹**いひつける**。命ずる。法令などを發布する。〔說文〕令、發レ號也、从ニ亼卪一。〔爾雅、釋詁〕令、告也。〔詩、齊風、東方未明〕自レ公令レ之。〔傳〕令、告也。〔周禮、秋官、遂士〕王令ニ三公一會ニ其期一。〔注〕令、猶レ命也。〔大學〕其所レ令、反ニ其所レ好、而民不レ從。〔論語、子路〕不レ令而行。〔集解〕令、教令也。❺**をさ**。**君**。**長官**。〔集韻〕令、一曰、官署之長、漢法、縣万戶以上爲レ令、以下爲レ長。〔廣雅、釋詁一〕令、君也。〔韓非子、內儲說上〕卜皮爲ニ縣令一。〔呂覽、去私〕南陽無レ令。〔注〕令、君也。〔後漢書、光武紀上〕南頓令欽。〔注〕萬戶以上爲レ令。〔後漢書、董宣傳〕因勅、強項令出。❻**よい**。〔爾雅、釋詁〕令、善也。〔書、太甲下〕今王嗣有ニ令緒一。〔傳〕令、善也。〔詩、邶風、凱風〕我無ニ令人一。〔箋〕令、善也。〔公羊、宣、十二〕君之不レ令。〔注〕令、善也。〔禮、檀弓上〕虛レ之不レ令。❼**敬稱**。令兄（39）の❶❷を見よ。❽**さける**。〔廣雅、釋詁三〕令、避也。❾**召す**。〔廣雅、釋言〕令　靚也。❿**まつたい**。〔廣雅、釋詁四〕令、完也。⓫**文體の名**。〔文體明辯、令〕按、劉良云、令、卽命也、七國之時、竝稱曰レ令、秦法、皇后・太子稱レ令、至ニ漢王一、有下赦ニ天下一令上、淮南王有下謝ニ羣公一令上、則諸侯王皆得レ稱レ令矣、意、其文與ニ制詔一無ニ大異一、特避ニ天子一而別ニ其名一耳。⓬**詞牌・曲牌の名に用ひる語**。聲律の義にとる。〔辭海〕令、詞牌・曲牌以レ此爲レ名、如ニ如夢令・叨叨令之類一、猶下以ニ歌行引等一名上レ詩也。⓭**小もの**。**小使**。伶（1－478）に通ず。〔廣雅、釋言〕令、伶也。〔詩、秦風、車鄰〕寺人之令。〔釋文〕令、韓詩作レ伶。⓮**姓**。〔史記、文帝紀〕中大夫令勉。〔注〕索隱曰、依ニ風俗通一令氏、楚令尹子文之後。⓯現英米の長さの單位。令克の略稱。令克（66）を見よ。㊁㊂❶**せしめる**。**させる**。**使ふ**。使役の辭。〔廣雅、釋詁一〕令、使也。〔詩、大雅、韓奕〕慶既令レ居。〔釋文〕令、使也。〔孟子、梁惠王上〕便嬖不レ足ニ使ニ令於前一與。〔史記、孫吳傳〕臣能令ニ君勝一。❷**もし**。**たとひ**。〔史記　張耳傳〕令事成歸レ王。❸**音のさま**。令令（181）を見よ。❹**鳥の名**。鴒（12－46770）に同じ。〔詩、小雅、常棣〕脊令在レ原。〔釋文〕令、本亦作レ鴒。❺瓴（7－21471）に通ず。〔詩、陳風、防有鵲巢〕中唐有レ甓。〔傳〕甓、令適也。〔釋文〕令、字書作レ瓴。❻零（12－42242）に通ず。〔漢書、陳湯傳〕丁令。〔注〕師古曰、令、與レ零同。㊃**地名**。令支（74）の❶❷を見よ。〔集韻〕令、令支、縣名、在ニ遼西一。㊄**地名**。令居（31）の❷を見よ。〔集韻〕令、令居、縣名、在ニ金城郡一。

名乘　ノリ。ヨシ。ハル。

解字　會意。亼と卪との合字。亼は合（集合の意）、卪は瑞信（しるしの玉）。瑞信卽ち權能を以て招集して行動せしめることを示す。よつて號令を發して人を使ふこと、命令の意とする。〔說文、令、發レ號也、段注〕號者、嘑也、發レ號者、發ニ其號嘑一以使レ人也。

參考　今（1－358）は別字。

【令愛】1 レイアイ　人の娘を呼ぶ敬稱。令孃。令娘。令媛。〔類書纂要〕稱ニ人女一曰ニ令愛一、又曰ニ愛玉一。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕誰想令愛喪レ夫、穎亦喪レ婦。

【令詒】2 レイイ　淸、楊汝穀（6－15112‥621）の字。

【令貽】3 レイイ　淸、溫睿臨（7－17968‥254）の字。

【令威】4 レイヰ　宋、姚寬（3－6202‥46）の字。

【令友】5 ling⁴ yu³　人の友達。お友達。御友人。

【令攸】6 レイイウ　賢妻をいふ。〔秦嘉、述レ婚詩〕神啓ニ其吉一、果獲ニ令攸一、我之愛矣、荷ニ天之休一。

【令猷】7 レイイウ　よいはかりごと。令謨。令圖。〔謝瞻、於ニ安城一答ニ靈運一詩〕行矣勵ニ令猷一、寫レ誠酬ニ來訊一。

【令乙】8 レイイツ　第二令をいふ。令甲（22）を見よ。〔新書、等齊〕天子之言曰レ令、令甲・令乙、是也。

【令邑】9 レイイフ　淸、周禮（長洲の人）（2－3441‥497）の字。

【令尹】10 レイイン　❶周代、楚國にあった官名。上卿で政治を執る最高の官位。〔左氏、莊、四〕令尹鬬祁・莫敖屈重、除レ道梁レ溠。〔會箋〕令尹始見、蓋

亦武王所ニ創置一也。〔左氏、莊、三十〕鬮穀於菟爲ニ令尹一。〔論語、公冶長〕令尹子文、三仕爲ニ令尹一。〔集注〕令尹、官名、楚上卿執レ政者也。〔荀子、非相〕令尹子西・司馬子期、皆死焉。〔史記、楚世家〕今君已爲ニ令尹一矣、此國冠之上。〔注〕索隱曰、令尹、乃尹中最尊、故以ニ國爲一レ言、猶如ニ卿子冠軍一然。〔漢書、高帝紀上〕其父呂青爲ニ令尹一。〔鮑照、擬古詩〕既荷ニ主人恩一、又蒙ニ令尹顧一。〔注〕善曰、臣瓚漢書注曰、諸侯之卿、唯楚稱ニ令尹一、其餘國稱ニ相也一。❶後世、地方長官の異稱。秦漢以來、縣知事を縣令といひ、元代には縣尹と稱したからいふ。〔書言故事、縣宰類〕謂レ宰曰ニ令尹一。

【令尹子文】11 レイイン シブン 鬮穀於菟（12－45657・11 6）を見よ。

【令胤】12 レイイン よい後つぎ。他人の子を呼ぶ敬稱。御子息。〔前言往行錄〕吾與ニ令胤一相熟。

【令遠】13 レイエン 字號。❶晉、荀藎（9－30929・43）の字。❷清、何永紹（1－511・221）の字。

【令翁】14 ling⁴ wēng¹ 御親父。相手の父の敬稱。

【令家】15 ムネ 姓氏。

【令价】16 ling⁴ chieh⁴ お使。御使者。御召使。

【令艾】17 レイガイ 晉、宋纖（3－7078・152）の字。

【令格】18 レイカク おきて。規則。法律。〔魏書、刑罰志〕奏以待レ報、著ニ之令格一。

【令岳】19 レイガク 人の妻の父を呼ぶ敬稱。令嶽に同じ。〔琵琶記、一門旌奬〕何敢受ニ令岳之賜一。

【令岳翁】20 レイガクオウ お舅さん。

【令嶽】21 レイガク 人の妻の父を呼ぶ敬稱。令岳。嶽翁。〔合璧事類〕青城山爲ニ五嶽之長一、故名ニ丈人山一、今世呼ニ人婦翁一爲ニ令嶽一、妻之伯叔爲ニ列嶽一。

【令甲】22 レイコウ 最初の第一令。漢代に數世以前の詔令を保存し、發布の前後に依り、令甲・令乙・令丙と云つた。轉じて廣く政令の意に用ひる。琅琊代醉編、卷二十二に見ゆ。〔史記、惠景閒侯者年表〕長沙王者、著ニ令甲一、稱ニ其忠一焉。〔漢書、宣帝紀〕令甲、死者不レ可レ生。〔注〕文穎曰、令甲、前帝第一令也、如淳曰、令有ニ前後一、故有ニ令甲・令乙・令丙一、師古曰、如說、是也、甲乙者、若ニ今第一第二篇一耳。〔新書、等齊〕天子之言曰レ令、令甲・令乙、是也。

【令閤】23 レイコウ 人の妻を呼ぶ敬稱。令閨。〔侯鯖錄、三〕東坡再謫ニ惠州一、老拳人年六十九、爲ニ隣其妻二十一誕ニ子、爲ニ具邀ニ公、公欣然而往、酒酣乞レ詩、公戲ニ一聯一云、令閤方當ニ而立歲一、賢夫已近ニ古稀年一。

【令顏】24 レイガン 美しい顏。美人。〔曹植、美女篇〕容華耀ニ朝日一、誰不レ希ニ令顏一。〔注〕向曰、令、善也。

【令軌】25 レイキ 善いおきて。〔魏志、高堂隆傳〕闇君荒主、不レ崇ニ先王之令軌一。

【令暉】26 レイキ 清、鮑詩（12－46074・35）の字。

【令旗】27 レイキ 兵を指揮するに用ひる旗。令箭（121）を見よ。

【令器】28 レイキ よいうつは。善い材物。人の美材の喩。〔吳志、張紘傳、評〕張紘、文理意正、爲ニ世令器一。〔晉書、石苞傳〕苞子俶、少有ニ名譽一、議者稱爲ニ令器一。〔南史、沈演之傳〕此童終爲ニ令器一。

【令儀】29 レイギ 威儀を善くする。又、立派な威儀。〔詩、小雅、湛露〕豈弟君子、莫レ不レ令儀。〔集傳〕令儀、言ニ醉而不レ喪ニ其威儀一也。〔詩、小雅、賓之初筵〕飲酒孔嘉、維其令儀。〔詩、大雅、烝民〕令儀令色、小心翼翼。〔傳〕令、善也、善威儀。

【令仰】30 レイギョウ 令して、云云させる。云云せしむ。

【令居】31 レイキョ ❶善い住居。〔詩、大雅、韓奕〕慶ニ既令居一、韓姞燕譽。〔集傳〕令、善也、喜ニ其有ニ此善居一也。❷縣名。漢置く。故城は甘肅省平番縣の西北。漢の武帝は此の地に兵を追ひ、又、趙充國は茲で西羌を討つた。〔史記、平準書〕數萬人度レ河、築ニ令居一。〔史記、匈奴傳〕自ニ朔方一以西、至ニ令居一。〔漢書、地理志下〕金城郡、縣十三、令居。〔注〕孟康曰、令音連。〔漢書、西域傳上序〕始築ニ令居以西一。

【令璩】32 レイキョ 南齊、褚后（10－34457・17）の名。

【令擧】33 レイキョ 宋、陳舜兪（11－41698・989）の字。

【令欽】34 レイキン 北周、蘇椿（9－32427・149）の字。

【令光】35 レイコウ 梁、丁貴嬪（1－2・240）の名。

【令官】36 レイカン 役人。〔紅樓夢、二十八回〕令官都准了。

【令君】37 レイクン ❶漢末以後、尚書令の異稱。〔晉書、荀勗傳〕帝嘗謂ニ曰、魏武帝言、荀文若之進レ善、不レ進不レ止、荀公達之退レ惡、不レ退不レ休、二令君之美、亦望ニ於君一也。❷縣知事をいふ。〔稱謂錄、知縣、令君〕梅磵詩話、梁鄭公克家未レ第時、爲ニ潮州揭陽宰一、有ニ梅九月盛開、邑士多賦レ詩詔、令君梁公亦賦ニ一篇一。

【令君香】37 レイクンコウ 荀尚書令が人の家に行つて坐つたところ、二日間香氣が去らなかつたといふ故事。世說注には荀彧といひ、李義山の詩注には荀勗の故事といふ。〔襄陽記〕荀令君至ニ人家一坐レ幔、三日香氣不レ歇。〔李歇、寄ニ蔡母ニ詩〕顧盼一過丞相府、風流二接令公香。〔李商隱、韓翃舍人即事詩〕橋南荀令過、十里送ニ衣香一。

【令外】38 リョウゲ 令外官のこと。〔續日本紀、七〕養老元年二月丙申、除ニ造宮省一之外、令外諸司判官、例無ニ大少一、官品宜レ准ニ令員判官一人之例一。

【令外官】38 リョウゲノカン 大寶令以後の新加の官。內大臣・中納言・參議など。〔續日本紀、三十〕寶龜元年九月壬戌、令外之官、其員繁夥。

【令兄】39 レイケイ 人の兄を呼ぶ敬稱。古は自分の兄を稱した。〔蘇纏、欒城遺言〕貢父嘗謂ニ公所一レ爲訓辭一曰、君所レ作、強ニ於令兄一。〔稱謂錄、稱ニ人之兄一、令兄〕隋書、煬帝將ニ卽位一、先縊ニ死其兄勇一。曰、令兄之弟果堪ニ大用一、錢大昕曰、令兄令弟之稱、蓋本ニ於詩角弓此令兄弟語一。

【令兄弟】40 レイケイテイ よい兄弟。〔詩、小雅、角弓〕此令兄弟、綽綽有レ裕。〔箋〕令、善也。〔禮、坊記〕此令兄弟。

【令閨】41 レイケイ 人の妻を呼ぶ敬稱。令室。令閤。令臺。令閫。

【令慧】42 レイケイ かしこい。さとい。〔晉書、孫放傳〕幼稱ニ令慧一、年七八歲、在ニ荊州一、與レ父俱從ニ庾亮一獵、亮謂曰、君亦來耶、應レ聲答曰、無レ小無レ大、從ニ公于邁一。

【令月】43 レイゲツ ❶よい月。〔儀禮、士冠禮〕令月吉日。〔張衡、歸田賦、仲春令月、時和氣清。〔孔子家語、冠頌解〕頌曰、令月吉日、王始加ニ元服一。❷陰曆二月の異名。〔梁昭明太子、錦帶書十二月啓、夾鍾二月〕時登ニ令月一。〔事物異名錄、歲時、二月〕山堂肆考、二月曰ニ仲陽一、曰ニ令月一。

【令眷】44 レイケン おくさま。おかみさん。人の妻を稱する敬語。眷は家族。令正（113）の❶を見よ。

【令言】45 レイゲン 晉、劉訥（2－2224・534）の字。

【令原】46 レイゲン 急難のある時に、兄弟が互に救ひ合ふこと。令は鶺鴒原上の鶺鴒は落着かぬ姿であるから、兄弟急難の興とする。〔詩、小雅、常棣〕脊令在レ原、兄弟急難。〔傳〕脊令、雝渠也、飛則鳴、行則搖、不レ能ニ自舍一耳、急難、言ニ兄弟之相ニ救於急難一。〔書言故事、兄弟類〕兄弟急難相救、如ニ脊令在レ原。

【令嚴】47 レイゲン ❶命令の嚴格なこと。〔戰國、趙策〕令嚴政行、不レ可ニ與戰一。〔杜甫、後出塞詩〕中天懸ニ明月一、令嚴夜寂寥。❷人の父を呼ぶ敬稱。令尊。

【令狐】48 レイコ ❶城の名。山西省猗氏縣の西。〔左氏、文、七〕〔晉〕敗ニ秦師於令狐一、至ニ於刳首一。〔注〕令狐在ニ河東一、與ニ刳首一相接。❷複姓。〔唐書、宰相世系表五下〕令狐氏、出ニ自ニ姬姓一、周文王子、畢公高孫畢萬、爲ニ晉大夫一、生ニ芒季一。芒季生ニ武子魏犨一、犨生レ顆、以ニ獲ニ秦將杜回一功一、別封ニ令狐一生ニ文子趙一、因以爲レ氏、世居ニ太原一。

【令狐熙】49 レイコキ 隋の人。整の子。字は長熙。三禮に精通した。官は桂州總督。〔北史、六十七〕〔隋書、五十六〕。

【令狐休】50 レイコキュウ 北周の人。整の弟。文武の才あり、兄の整と共に張保を驅逐し、燉煌の郡守となり、合州刺史に進む。〔周書、三十六〕・〔北史、六十七〕。

【令狐峘】51 レイコソク 唐の人。德棻五世の孫。天寶の進士。官は祕書少監。玄宗の時、玄宗實錄二百卷・代宗實錄四十卷を編纂した。〔舊唐書、一百四十九〕・〔唐書、一百二〕。

【令狐鋸】52 レイコキョ 明、猗氏の人。字は大任。性、隱惡。〔猗氏縣志〕。

【令狐洼】53 サクイコ 明の人。鋸の子。字は伯方。官は漳浦知縣。著に四書訓注・詩韻辨音がある。〔猗氏縣志〕。

【令狐仕】54 レイコシ 後魏、猗氏の人。孝子。〔魏書、八十六〕。

【令狐彰】55 レイコショウ 唐、富平の人。字は伯陽。御史大夫となり、霍國公に封ぜられた。〔舊唐書、一百二十四〕・〔唐書、一百四十八〕。

【令狐緒】56 ショコ 唐の人。楚の子。官は隨・汝・壽三州の刺史。〔舊唐書、一百七十二〕・〔唐書、一百六十六〕。

【令狐整】57 セイコ 北周、燉煌の人。字は延保。謚は讓。鄧彥を破つて功をたてた。官は大將軍。〔周書、三十六〕・〔北史、六十七〕。

【令狐邵】58 ショウコ 三國、魏の冀州の人。弘農の太守となり、郡中の諸吏を河東に遣はして學ばしめてから、弘農の地に文學の士が多くなつた。〔三國志、十六〕。

【令狐楚】59 ソコ 唐の人。德棻の裔孫。字は殼士(慤士)。號は白雲孺子。謚は文。五歲にして文を能くし、弱冠にして進士に貢せられた。後、官は山南西道節度使に至る。〔舊唐書、一百七十二〕・〔唐書、一百六十六〕。

【令狐總】60 ソウコ 明、猗氏の人。字は仲平。文學に巧。官は確山教諭・朝邑の令・合州の長官。著に性理纂要・大學衍義日抄・家禮集要・保生心鑑がある。〔猗氏縣志〕。

【令狐綯】61 タクコ 唐の人。緒の弟。字は子直。官は吳興の太守。龐勛を徐州に討つて敗る。〔舊唐書、一百七十二〕・〔唐書、一百六十六〕。

【令狐亦岱】62 エキタイ 清、猗氏の人。字は太峰。官は縉雲知縣。著に諸儒檢身錄がある。〔四庫提要、一百三十三〕。

【令狐德棻】63 トクフン 唐の人。熙の子。謚は憲。文學を以て知られ、高祖の時、祕書丞となり、弘文館學士に進み、經籍の逸亡を慨き、奏請して遺書を購募し、貞觀中、梁・陳・周・齊・隋の五史を編修する議を立て、自ら周書を撰した。〔舊唐書、七十三〕・〔唐書、一百二〕。

【令公】64 コウ ❶中書令の尊稱。魏、高允が中書令となるや、高祖之を重んじて常に令公と呼んだ故事から、隋唐の時も中書令の尊稱とした。〔魏書、高允傳〕高宗重レ允、常不レ名レ之、恒呼爲二令公一。❷唐、郭子儀(11—39474‥305)の敬稱。

【令侯】65 コウ 明、童朝儀(8—25775‥126)の字。

【令兒】66 リン 英米二國の尺度。七・九二吋。約六寸六分三厘八毛。略稱は令。Link の音譯。

【令圖】67 レイコン 人の妻を呼ぶ尊稱。圖は門のしきみの内。尊閨。令閨(41)に同じ。

【令妻】68 サイ ❶よい妻。良妻。〔詩、魯頌、閟宮〕魯侯燕喜、令妻壽母。〔集傳〕令妻、令善之妻。❷人の妻を呼ぶ敬稱。〔剪燈餘話、鸞鸞傳〕令妻若在、吾當レ爲二玉成一。

【令草】69 サウ 草の名。わすれぐさ。宜男草(3—7111‥6ウ)をいふ。〔傅玄、宜男花賦〕猗猗令草、生二於中方一。

【令嫂】70 ling⁴ sao³ 他人の兄嫁をいふ敬語。

【令士】71 シ 立派な人。善士。〔吳志、陸績傳〕

【令子】72 シ ❶善い子。人の男子を呼ぶ敬稱。御子息。令息。〔南史、任昉傳〕褚彥回謂レ遙曰、聞、卿有二令子一。〔北史、高琳傳〕必生二令子一。〔舊唐書、鄭澣傳〕卿之令子、朕之直臣。〔書言故事、子孫類〕稱二人子一曰二令子一。❷己の子をいふ。〔稱謂錄、稱二人之子、令子一〕案二碑版廣例、宏農楊氏傷レ子辭曰、予有二令子一、儉衣削レ食、是己之子亦稱二令子一。❸字號。㋑宋、丁希顏(1—2‥23ウ)の字。㋺清、王士譽(7—20823‥1526)の字。

【令之】73 シ 清、卞永譽(2—2778‥29)の字。

【令支】74 シ ❶國の名。春秋の時、山戎の屬國。逸周書には不令支とあるが、不は發語の聲。史記に離支とあるは令支の誤。〔國語、齊語〕遂北伐二山戎一、刜二令支一、斬二孤竹一。〔注〕二國、山戎之與也、令支、今爲二縣屬一遼西一。〔管子、大匡〕桓公乃北伐二令支一。〔說苑、正諫〕吾北伐二孤竹一、剋二令支一。❷縣名。漢、置き、晉初、鮮卑に陷られた。故城は河北省遷安縣の西に在る。〔漢書、地理志下〕遼西郡、縣十四、令支。

【令史】75 レイシ 蘭臺尚書の屬官。文書事務を掌る。漢代に始まり、歷代之に因つたが、其の位は次第に卑しくなり、明代に至つて廢せられた。〔史記、周陽由傳〕用レ廉爲二令史一。〔通典、職官典、尚書、歷代都事主事令史〕令史、漢官也、後漢尚書令史十八人、曹有二三人一主レ書、後增二劇曹三人一、合二十一人一、皆選二於蘭臺一、符節簡練有二吏能一者上爲レ之、其尚書郎、初與二令史一、皆主二文簿一、其職一也、郎缺、以二令史久次者一補レ之、光武始革用二孝廉一、孝廉恥レ爲、舊制、尚書郎限滿、補二縣長一、令史補二丞尉一、尚書令鄭弘奏曰、職尊賞薄、多無二樂者一、請郎補二千石一、令史爲レ長、帝從レ之、西晉、令史朝晡詣レ都座レ朝、江左唯早朝而已、又賈充爲二尚書令一、以二目疾一、表置二省事一自レ此始也、其品職與二諸曹令史一同、晉宋蘭臺寺正書令史、雖レ行二文書一、皆有二品秩一、朱衣執レ板給二書僮一、孔顗爲二御史中丞一、坐レ鞭二令史一、爲二有司所レ糾、梁陳與二晉宋一同、後魏令史亦朱衣執レ笏、然謂二之流外勳品一、北齊尚書郎判事正令史側坐、書令史過レ事、令史皆平揖、郎無レ拜、自レ隋以來、令史之任、文案煩屑、漸爲二卑冗一、不レ參二官品一、煬帝以二四省二臺、皆曰二令史一、九寺五監諸衞府、則皆曰二府史一、於レ時令史得レ官者甚少、年限亦賒。〔事物紀原、律令刑罰部、令史〕通典曰、令史漢官也、漢官儀曰、能通二倉頡篇一、補二蘭臺令史一、漢韋彪疏曰、往時楚獄大起、故署二令史一以助二郎職事一也。

【令旨】76 シ ❶皇太后の命令。懿旨。〔金史、章宗紀一〕以二皇太后命一爲二令旨一。❷リョウシ 皇后・皇太后・東宮・親王の命令を記した書きつけ。〔名目抄、諸公事言說篇〕令旨、春宮・四宮・女院等仰也、又、親王等之所レ命、同歟。

【令姊】77 シ 人の姉を呼ぶ敬稱。〔李白、竄夜郎、於二烏江一留別宗十六璟一詩〕我非二東牀人一、令姊忝二齊眉一。

【令姿】78 シ 美しい姿。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩〕金璫綴二惠文一、煌煌發二令姿一。〔注〕言、冠文彩增、發二於令善之姿容一也。

【令思】79 シ 晉、華譚(9—31214‥292)の字。

【令疵】80 シ 古の九塞の一。遼西に在りといふ。〔淮南子、墜形訓〕何謂二九塞一、曰、太汾・澠阨・荊阮・方城・殽阪・井陘・令疵・句注・居庸。〔注〕令疵、在二遼西一。

【令嗣】81 シ 他人の子息を呼ぶ敬稱。令緒。〔張九皐、神道碑〕遺芳襲二于令嗣一矣。〔黃庭堅、與レ人書〕向見二令嗣一眉目明秀。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕令嗣晚聞免レ回。

【令謚】82 シ よいおくり名。〔漢書、儒林、張山拊傳〕宜下加二其葬禮一賜中之令謚上。

【令似】83 ジ 人の子を呼ぶ敬稱。似は續ぐ意で、古の人に續ぐ義。〔詩、周頌、良耜〕以似以續、續二古之人一。〔王銍、默記〕劉原父就二省試一、父立之止以候レ榜、郡守曰、雖レ令似才俊、豈可二預料一。

【令兒】84 ling⁴ erh 酒宴の席で催す餘興の規定、酒令。〔桃花扇、訪翠〕何不行箇令兒大家歡飲。

【令慈】85 レイジ 人の母を呼ぶ敬稱。御母堂。令堂。令萱。

【令辭】86 ジ うまいことば。〔江淹、效二阮公一詩〕忼慨少二淑貌一、便娟多二令辭一。

【令式】87 シキ 字號。❶晉、王矩(7—20823‥267)の字。❷清、勵廷儀(2—2472‥22)の字。

【令室】88 シツ 妻をいふ。又、他人の妻を呼ぶ敬稱。令正。〔傅玄、和二秋胡行一詩〕秋胡納二令室一、三日宦二他鄉一。

【令日】89 ジツ 吉日。〔漢書、韋玄成傳〕卽以二令日一遷二云云孝昭太后寢一。〔注〕師古曰、令、善也、謂二吉日一也。

【令姐】90 ling⁴ chieh³ 人の姉を呼ぶ敬稱。

【令舍】91 シャ 縣令の居る家。〔韓非子、十過〕臣聞、董子治二晉陽一也、公宮令舍之堂、皆以二鍊銅一爲二柱質一、君發而用レ之。

【令章】92 ❶飲酒の儀式。酒令。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕能咆虎嘯、不レ存二令章一。❷戲劇の名。〔宋史、禮志二十八〕詔曰、訪二聞喪葬之家一、有二擧樂及令章者一云云、擧奠之際、歌吹爲レ娛、靈柩之前、令章爲レ戲、甚傷二風教一、實紊二人倫一。

【令璋】93 シャウ 唐、姚璹(3—6202‥67)の字。

【令狀】94 ジャウ 役所から出す命令の書きつけ。さしがみ。命令書。

【令綽】95 シャク 字號。❶北周、蘇綽(9—32427‥93)の字。❷宋、曾孝寬(5—14299‥171)の字。

【令主】96 シュ 善い主人。又は善い國君。〔左氏、昭、十三〕爲二之令主一、而共二其乏困一。〔陸機、五等諸侯論〕國乏二令主一、十有餘世。

【令酒】97 ling⁴ chiu³ 酒令を出す人の、最初にまづ飲む定めの一杯。〔紅樓夢、四十回〕老太太到底吃一杯令酒纔是。

【令終】98 シュウ をはりをよくする。善死。〔詩、大

雅、既醉〕高朗令終。〔箋〕令、善也、天既與レ女、以二光明之道一、又使二之長一、有二高明之譽一、而以二善名一終。〔嵇康、琴賦〕又善レ始而令レ終。

【令叔】99 レイシュク ㊀人の叔父・叔母を呼ぶ敬稱。〔魏志、后妃、文德郭皇后紀〕擇二其令叔一、以統二六宮一。㊁唐、李巽(**6**－**14459**‥544)の字。

【令宿】100 レイシュク 宿つて王宮を護衞すること。〔周禮、天官、宮正〕國有レ故、則令宿、其比亦如レ之。〔注〕謂三禍災令レ宿、宿二衞王宮一。

【令淑】101 レイシュク 上品でしとやかなこと。〔北史、隋蕭后傳〕顧二微躬之寡昧一、思二令淑之良難一、〔世說新語、賢媛〕王渾妻鍾氏、生レ女令淑。〔溫子昇、常山公主碑〕令淑之至、比二光明于宵燭一。

【令準】102 レイジュン よい手本。よい標準。〔宋書、徐爰傳〕近代之令準、式遠之鴻規。

【令書】103 レイショ おふみ。皇族の賜はる書狀。〔南史、王規傳〕(齊王規侍二東宮一) 太子賜以二所レ服貂蟬一、幷降二令書一。

【令緒】104 レイショ ㊀立派な功業。〔書、太甲下〕今王嗣二有令緒一、尙監レ茲哉。㊁よいあとつぎ。令嗣。

【令升】105 レイショウ 晉、干寶(**4**－**9165**‥82)の字。

【令稱】106 レイショウ 善いほまれ。善い名稱。令名。〔漢書、王莽傳下〕以爲、曲陽非二令稱一。〔桓範、薦二管寧一表〕束脩著行、少有二令稱一。〔白居易、楊景復可二檢校膳部員外郞一制〕祇レ命、頗著二令稱一。

【令丞】107 レイジョウ 官名。令と丞。〔史記、淮南王傳〕丞相・御史・大將軍・軍吏・中二千石・都官・令丞印。〔漢書、百官公卿表〕太樂・太祝・太宰・太史・太卜・太醫、六令丞。

【令色】108 レイショク 顏色をよくする。こびへつらつて人の意を迎へる。〔書、皋陶謨〕何畏二乎巧言令色孔壬一。〔詩、大雅、烝民〕令レ儀令レ色。〔傳〕令、善也、善二威儀一、善二顏色一。〔論語、學而〕巧言令色、鮮矣仁。〔集注〕巧、好、令、善也、好二其言一、善二其色一、致二飾於外一、務以悅レ人、則人欲肆而本心之德亡矣。

【令辰】109 レイシン めでたい日。吉日。吉辰。佳辰。佳節。〔儀禮、士冠禮〕吉月令辰。〔任昉、到二大司馬記室一牋〕以二令月令辰一、肅膺二典冊一。

【令親】110 レイシン 人の親戚。〔剪燈餘話、田洙遇二薛濤一聯句記〕此令親見レ留。

【令嬸】111 ling^{4} shen^{3} 人の叔母を呼ぶ敬稱。御叔母。嬸は叔母。

【令人】112 レイジン ㊀よい人。善行の人。〔詩、邶風、凱風〕母氏聖善、我無二令人一。〔箋〕令、善也。㊁婦人の封贈の號。宋の政和中、定む。〔宣和遺事、後集〕爲二令人一者八、爲二安人一者十。㊂夫を失つた妻をいふ。〔稱謂錄、亡妻、令人〕朱子年譜、四十七歲、令人劉氏卒、案稱二其妻一也。㊃人をして云云せしめる。

【令正】113 レイセイ ㊀文辭命令を作ることを主る官の長。〔左氏、襄、二十六〕子大叔爲二令正一。〔注〕主レ作二辭令一之正。㊁人の妻を呼ぶ敬稱。正は政で、家政の義。令政。相正。令閨。令閤。令室。令夫人。令眷。〔古今類書纂要、人道部〕稱二人之妻一曰二尊閫一、又曰二令正・令眷・尊正・相正一。

【令政】114 レイセイ ㊀善政。〔書、呂刑〕庶民罔レ有三令政在二于天下一。〔左氏、昭、十八〕鄭方有二令政一。㊁人の妻の敬稱。令正の㊁に同じ。

【令壻】115 レイセイ よいむこ。人のむこを呼ぶ敬稱。令婿。

【令聲】116 レイセイ ㊀よい評判。令名。〔漢書、韋玄成傳〕隊二彼令聲一、申二此擇辭一。〔注〕令、善也。㊁宋、姚宏(**3**－**6202**‥40)の字。

【令昭】117 レイセウ 清、袁于令の字。

【令節】118 レイセツ 重陽の節句。〔宋之問、奉レ和二九日侍宴一詩〕令節三秋晚、重陽九日歡。〔山東志書、棲霞縣〕九月九日、作二絳囊一、盛二茱萸一以繫レ臂、登レ高飮二菊花酒一、始二於費長房桓景一、而龍山落帽、白衣送酒、騷人韻士、往往以二是日一爲二令節一。

【令先】119 レイセン 三國蜀、郤正(**11**－**39440**‥18)の字。

【令萱】120 ling^{4} hsüan^{1} 御母上樣。御母堂樣。人の母を呼ぶ敬稱。令堂。

【令箭】121 レイセン 指揮に用ひる箭。〔六部成語、兵部、令旗令箭、注解〕各省督撫皆賜、及提鎭大員、各有二令字旗箭一、以爲二調兵之憑信一。

【令祖】122 ling^{4} tsu^{3} 他人の祖父を呼ぶ敬稱。おぢぢさま。おぢいさん。

【令宗】123 ヨシムネ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【令則】124 レイソク 字號。㊀晉、荀羨(**9**－**30929**‥47)の字。㊁晉、羅憲(**9**－**28397**‥93)の字。㊂清、范芳(**9**－**30834**‥103)の字。 「郞。

【令息】125 レイソク 人の男の子を呼ぶ敬稱。令子。令

【令族】126 レイゾク 聲望のある一族。望族(**5**－**14368**‥106)を見よ。〔陶潛、贈二長沙公族祖一詩〕於穆令族、允構二斯堂一。

【令孫】127 レイソン ㊀人のまごを呼ぶ敬稱。〔錢起、酬下陶六辭レ秩歸二舊居一見上レ柬詩〕靖節昔高尙、令孫嗣二清徽一。㊁南朝宋、檀韶(**6**－**15632**‥38)の字。

【令尊】128 レイソン 人の父を呼ぶ敬稱。令嚴。〔李公佐、南柯記〕王曰、前奉二令尊命一、不レ棄二小國一。

【令臺】129 ダイ 人の妻を呼ぶ敬稱。令室。令閨(4こ)に同じ。

【令堂】130 レイダウ 人の母を呼ぶ敬稱。御母堂。令慈。萱堂。〔稱謂錄、稱二人之母一、堂〕今之稱二人母一者、或曰二堂上一、或曰二令堂一、皆本レ此。

【令坦】131 レイタン 御令壻。人の壻を呼ぶ敬稱。

【令知】132 レイチ 令文で知らせる。承知せしめる。

【令長】133 レイチャウ ㊀縣の長官。萬戶以上を令とし、以下を長とする。日知錄、卷九に見ゆ。〔廣雅、釋詁一〕令長、君也。〔獨斷、上〕今之令長、古之諸侯。〔漢書、百官公卿表上〕縣令長、皆秦官、掌レ治二其縣一。〔後漢書、光武紀上、注〕前書曰、令長、皆秦官也、萬戶以上爲レ令、不レ滿二萬戶一爲レ長。〔連文釋義〕漢法、縣萬戶以上爲レ令、以下爲レ長。㊁晉、薛兼(**9**－**32123**‥51)の字。 「愛。

【令娘】134 レイヂヤウ 人のむすめを呼ぶ敬稱。令孃。令

【令孃】135 レイヂヤウ 人の娘を呼ぶ敬稱。お孃さま。令愛。令媛。

【令女】136 レイヂヨ 人のむすめを呼ぶ敬稱。〔林逋、聘二人妹一書〕令女有二林下風一、德容兼備。〔翰墨全書、婚禮門、宗女王親〕令女姿亞二嫦娥一、況有二乘鸞之標格一。

【令女之節】137 レイヂヨノセツ 魏の曹令女の故事。令女は文叔の妻。夫の死後も他に嫁せず、遂に其の貞節を全うした。〔魏志、曹爽傳、注〕皇甫謐列女傳曰、爽從弟文叔妻、譙郡夏侯文寧之女、名令女、文叔早死、服闋、自以二年少無一レ子、恐二家必嫁一レ己、乃斷レ髮以爲レ信、其後、家果欲レ嫁レ之、令女聞、卽復以レ刀截二兩耳一、及二爽被一レ誅、令女叔父上書與二曹氏一絕レ婚、彊迎二令女一歸、時文寧爲二梁相一、云云、使二人諷一レ之、云云、令女於レ是竊入二寢室一、以レ刀斷レ鼻、蒙レ被而臥、其母呼與語、不レ應、發レ被視レ之、血流滿二牀席一、云云、或謂レ之曰、人生二世閒一、如三輕塵棲二弱草一耳、何至二辛苦迺爾一、且夫家夷滅已盡、守レ此欲二誰爲一哉、令女曰、聞、仁者不下以二盛衰一改上レ節、義者不下以二存亡一易上レ心、曹氏前盛之時、尙欲レ保レ終、況今衰亡、何忍レ棄レ之、禽獸之行、吾豈爲乎、司馬宣王聞而嘉レ之、聽レ使二乞レ子字養一、爲二曹氏後一、名顯二于世一。

【令通】140 レイツウ 字號。㊀晉、陳敏(**11**－**41698**‥522)の字。㊁南唐、何溥(**1**－**511**‥183)の字。

【令丁】141 レイテイ ㊀人を尋ねる時に振る鈴。又、文體の名。鈴を振つて人をたづねたことから、器物の名を文體の名とした。零丁(**12**－**42242**‥28)を見よ。〔說文〕鈴、令丁也。〔段注〕鐲・鈴、一物也、古謂二之丁寧一、漢謂二之令丁一。㊁ling^{4} ting^{1} 人を警める文。

【令弟】142 レイテイ ㊀己の弟を呼ぶ敬稱。陔餘叢考、卷三十七に見ゆ。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕末路値二令弟一、開レ顏披二心胸一。〔李嘉祐、送三從弟歸二河朔一詩〕故鄕那可レ到、令弟獨能歸。㊁人の弟を呼ぶ敬稱。〔應亨、贈二四王冠一詩〕濟濟四令弟、妙年踐二二九一。〔通俗編、稱謂、令弟〕按、今人稱二人弟一曰二令弟一、自稱二其弟一曰二賢弟一、與二古人一正相易用レ之矣。

【令條】143 レイデウ 法令の條文。〔國史略、村上天皇〕「令條之外、不レ得二雜使一。

【令適】144 レイテキ かはら。しきがはら。瓴甋。〔詩、陳風、防有鵲巢、中唐有レ甓、傳〕甓、瓴甋也。〔校勘記〕小字本、瓴甋、作二令適一、案、小字本是也。

【令姪】145 レイテツ 人の甥を呼ぶ敬稱。〔杜甫、送三韋十六評事充二同谷郡防禦判官一詩〕令姪才俊茂。

【令典】146 レイテン ㊀よいおきて。〔左氏、宣、十二〕蔿敖爲レ宰、擇二楚國之令典一、軍行、右轅、左追レ蓐。〔荀悅、漢紀序〕虞夏商周之書、其揆一也、皆古之令典。㊁法令。〔魏文帝、禁レ設二非禮之祭一詔〕自レ今其敢設二非禮之祭、巫祝之言一者、皆以レ執二左道一論、著二于令典一。

【令梃】147 レイテン 清、王善檽(**7**－**20823**‥1825)の字。

【令圖】148 レイト よいはかりごと。令謨。令猷。〔左

氏、昭、元〕君子能知二其過一、必有二令圖一、令圖天所レ贊也。〔孔叢子、答問〕必有二令圖一。〔謝朓、和二王著作八公山一詩〕平生仰二令圖一。

【令東】149 ling⁴ tung¹ 御主人。人の主人の敬稱。

【令德】150 レイトク 立派な德。美德。善德。〔書、君陳〕君陳、惟爾令德孝恭。〔詩、小雅、蓼蕭〕宜レ兄宜レ弟、令德壽豈。〔詩、小雅、湛露〕莫レ不二令德一。〔詩、大雅、假樂〕顯顯令德、宜レ民宜レ人。〔左氏、隱、三〕光二昭先君之令德一。〔古詩十九首〕令德唱二高言一、識レ曲聽二其眞一。

【令婆】151 ling⁴ p'o² 人の祖母を呼ぶ敬稱。おばあさん。

【令邦】152 レイハウ 動物の名。おじぎねずみ。鼲鼠(12−48458・・3)の異名。〔本草、黄鼠〕釋名、時珍曰、古文謂二之鼲鼠一、遼人呼爲二貔貍一、云云、胡人亦名二令邦一。

【令芳】153 レイハウ 善い香。芳香。〔儀禮、士冠禮〕薦二令芳一。〔儀禮、士冠禮〕旨酒令芳、籩豆有レ楚。

【令望】154 レイバウ よい德があつて人氣のあること。善い評判。令聞令望(163)を見よ。

【令伯】155 レイハク ㊀人の伯父・伯母をいふ。㊁晉、李密(6−14459・・755)の字。

【令範】156 レイハン よいのり。〔王融、三月三日曲水詩序〕斧二藻至德一、琢二磨令範一。〔注〕良曰、令、善、範、法也。

【令裨】157 レイヒ 宋、趙令裨(10−37171・・941)の初名。

【令匹】158 レイヒツ よいつれあひ。相應してゐる配偶者。〔唐書、柳玭傳〕女福豐厚、必有二令匹一。

【令斌】159 レイヒン 明、陳邦彥(11−41698・・1183)の字。

【令文】160 レイブン 晉、宋纖(3−7078・・152)の字。

【令聞】161 レイブン ㊀善いほまれ。令名。〔書、微子之命〕爾惟踐二修厥猷一、舊有二令聞一。〔詩、大雅、文王〕亹亹文王、令聞不レ已。〔詩、大雅、江漢〕明明天子、令聞不レ已。〔孟子、告子上〕令聞廣譽施二於身一、所三以不レ願二人之文繡一也。㊁宋、趙元僆(10−37171・・519)の字。

【令聞嘉譽】162 レイブンカヨ よいほまれ。立派な評判。〔國語、周語上〕爲二令聞嘉譽一、以聲レ之。

【令聞令望】163 レイブンレイバウ よい評判と立派な威儀。〔詩、大雅、卷阿〕顒顒卬卬、如レ圭如レ璋、令聞令望、豈弟君子、四方爲レ綱。〔集傳〕令聞、善譽也、令望、威儀可二望法一也。〔王融、三月三日曲水詩序〕令聞令望、朱芾斯皇。

【令丙】164 レイヘイ 最初から第三番目の命令。令甲(22)を見よ。

【令辟】165 レイヘキ かはら。令適。瓴甋(7−21471・・3)に同じ。令甓。〔漢書、尹賞傳〕穿レ地、方深各數丈、致二令辟一爲レ郭。

【令甓】166 レイヘキ かはら。しきがはら。令辟に同じ。〔周禮、考工記、匠人〕堂涂十有二分。〔注〕謂二階前一、若二今令甓祴一也。〔釋文〕爾雅云、瓴甋謂二之甓一。〔疏〕若二今令甓祴一者、漢時名二堂涂一爲二令甓祴一、令辟則今之塼也、祴則塼道也。

【令母】167 レイボ 人の母を呼ぶ敬稱。〔蔡邕、濟北相崔君夫人誄〕于二其令母一、受二茲義方一。

【令謨】168 レイボ よいはかりごと。嘉謨。令猷。令圖。良謨。〔後漢書、橋玄傳〕懿德高軌、汎愛博容、國念二明訓一、士思二令謨一。

【令僕】169 レイボク 尙書令と僕射。〔晉書、殷浩傳〕浩有レ德有レ言、向使レ作二令僕一、足三以儀二刑百揆一。

【令妹】170 レイマイ ㊀己の妹(イモウト)を呼ぶ稱。〔左思、悼レ離贈レ妹詩〕峨峨令妹、應レ期二挺生一。㊁人のいもうとを呼ぶ敬稱。〔稱謂錄、稱二人之妹一、令妹〕左思贈レ妹詩、峩峩令妹、應レ期二誕生一、案、此自稱二其妹一也、今皆以レ此稱レ人。

【令民】171 レイミン 淸、徐鐸(4−10110・・212)の字。

【令名】172 レイメイ ㊀よい評判。好評。令稱。令譽。令聞。〔禮、內則〕父母雖レ沒、將レ爲レ善、思レ貽二父母令名一、必果。〔左氏、閔、元〕猶有二令名一。〔孝經、諫爭章〕士有二爭友一、則身不レ離二於令名一。〔後漢書、袁紹傳〕令名顯達。㊁よい名。立派な名稱。〔史記、秦始皇紀〕阿房宮未レ成、成欲三更擇二令名一。㊂淸、何矞雲(1−511・・218)の字。

【令名德之輿也】173 レイメイハトクノヨナリ 令名は人の德を遠くに傳へる。德は令名を待つて遠くきこえる。輿は乘物で、遠く物を運ぶ器。〔左氏、襄、二十四〕〔范宣子爲レ政、諸侯之幣重〕子產寓二書於子西一以告二宣子一曰、夫令名、德之輿也、德、國家之基也。

【令明】174 レイメイ 字號。㊀三國魏、龐悳(12−48824・・33)の字。㊁南朝宋、王悳(7−20823・・323)の字。㊂晉、王機(7−20823・・207)の字。

【令門】175 レイモン 城門の名。〔墨子、號令〕四人夾二令門一內坐。

【令問】176 レイモン よいほまれ。令名。令聞。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕承保天休、令問不レ忘。〔漢書、匡衡傳〕令問休譽、不三專在二將軍一者何也。〔注〕師古曰、令、善也、問、名、休、美也。〔史岑、出師頌〕傳レ子傳レ孫、顯顯令問。

【令約】177 レイヤク 規約。おきて。〔史記、匈奴傳〕犯二令約一者殺レ之。

【令譽】178 レイヨ ほまれ。芳譽。〔魏書、張烈傳〕烈字徽仙、云云、時靑州有二崔徽伯・房徽叔一、與レ烈並有二令譽一、時人號曰二三徽一。

【令郎】179 レイラウ 人の子を呼ぶ尊稱。令子。令息。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕有二此令郎君一、既欲レ結二大義一。〔類書纂要〕稱二人子一曰二令子一、又曰二令嗣・令郎一。

【令吏】180 レイリ 小役人。〔琵琶記、春宴二杏園一〕管排設的令吏。

【令令】181 レイレイ 犬の首につけた環の鳴る音の形容。鈴鈴。〔詩、齊風、盧令〕盧令令。〔傳〕令令、纓環聲。

【令和】182 レイワ 字號。㊀後魏、趙邕(10−37171・・362)の字。㊁南齊、江謐(6−17140・・386)の字。㊂隋、乞伏慧(1−170・・61)の字。

【令王】183 レイワウ ㊀德ある天子。〔左氏、成、八〕三代之令王、皆數百年、保二天之祿一。〔左氏、昭、元〕自レ無二令王一、諸侯逐進。㊁王族で內史令であつた人。〔隋書、崔賾傳〕〔賾答二豫章王一書〕伏惟、令王殿下。

【施レ令】184 レイヲホドコス 命令を出す。〔書、冏命〕發レ號施レ令、罔レ有レ不レ臧。

【申レ令】185 レイヲカサヌ 重ねて命令する。〔班固、東都賦〕擧レ烽代レ鼓、申レ令三驅。

【令高堂】186 ling⁴ kao¹ t'ang² 御兩親。御父母。

【令義解】187 リヤウノギゲ 書名。十卷。天長年間、淸原夏野等奉勅撰。養老令を注解したもの。

【令昆仲】188 ling⁴ k'uen¹ chung⁴ 御兄弟。人の兄弟の敬稱。

【令字旗】189 レイジキ 罪を犯した兵士は、軍棍でこれを打ち、一尺許りの小さい箭に小さい旗をつけたものを耳朶に突きさして兵營內を步かせる。此の旗を令字旗といふ。插箭遊營(5−12346・・40)を見よ。

【令集解】190 リヤウノシフゲ 書名。三十卷。惟宗直本撰。養老令の注釋書で、古くは金澤文庫等に傳へられ、慶安三年、立野春節が上梓し、明治になつて刊行せられた。著者は明法博士で、同じく養老令の注釋書である令義解を始め、當時の明法諸學者の學說を集大成して、令の性質を明かにしてゐる。日本令と中國法制との關係、古令と新令との關係及び諸學說等を知るに好い。

【令千金】191 ling⁴ ch'ien¹ chin¹ 他人の娘を呼ぶ敬稱。令愛。令孃。

【令大夫】192 レイタイフ 長大夫。〔管子、輕重甲〕足二其所一、不レ賂二其游一者、責二之令大夫一。〔纂詁〕令、長也、自足二其處一、不レ贍二財於游客一、責二之長大夫一。

【令大父】193 レイタイフ 人の祖父を呼ぶ敬稱。

【令太太】194 ling⁴ t'ai⁴ t'ai 人の妻を呼ぶ敬稱。おくさま。

【令法科】195 レイハフクワ 山茶花科。

【令夫人】196 レイフジン 身分ある人の妻を呼ぶ敬稱。古、諸侯の妻をいふ。夫は扶で、夫を扶ける義。

【令以二木鐸一】197 レイスルニボクタクヲモツテス 古、政令を宣傳する時に木鐸をならしたこと。木鐸は木舌の大鈴。〔周禮、秋官、小司寇〕令以二木鐸一曰、不レ用レ法者、國有二常刑一。

【令行禁止】198 レイスレバオコナハレキンズレバトドマル 人民がよく法令を守ること。法令が出れば行はれ、又、禁制が出れば直ちに其の行をやめる。〔管子、明法解〕故明主操二必勝之數一、以治二必用之民一、處二必尊之勢一、以制二必服之臣一、故令行禁止、主尊而臣卑。〔淮南子、主術訓〕天子發レ號、令行禁止、以レ衆爲レ勢也。

【令出惟行】199 レイイデテコレオコナハル 出された命令がすべて必ず實行されること。〔書、周官〕欽二乃攸一レ司、愼二乃出令一、令出惟行、弗二惟反一。

【令不二虛行一】200 レイムナシクオコナハレズ 法令は上に實がなけ

れば、只では行はれない。〔管子、重令〕國不二虛重一、兵不二虛勝一、民不二虛用一、令不二虛行一。

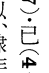
【奉レ令承レ教】201 命令に從ふこと。〔史記、樂毅傳〕臣竊不二自知一、自以爲二奉レ令承レ教、可二幸無一レ罪。

【令苛則不レ聽】202 法令が苛酷であれば、却つて遵奉されない。〔呂覽、適威〕令苛則不レ聽、禁多則不レ行。

【以】388

㊀イ〔集韻〕養里切 紙 i^3

㊁シ ジ〔集韻〕象齒切 紙


小篆

㊀❶用ひる。㠯(4－8747)・已(4－8743)に同じ。〔正字通〕以、隸作レ㠯。〔正字通〕㠯、以本字、說文、㠯、用也、反レ已爲レ㠯、云云、已與レ㠯、古共一字、隸作二已以一。〔說文〕㠯、用也、从二反已一、賈侍中說、已意已實也、象形。〔段注〕按、今字皆作レ以、由レ隸變加二人於右一也。〔說文通訓定聲〕㠯、用也、从二反已一、指事、賈侍中說、已意已實也、象形、按、賈謂二薏苡實、象形、不レ从二反已一、隸亦作レ㠯、作レ以。〔廣雅、釋詁四〕以、用也、〔易、明夷〕文王以レ之。〔虞注〕以、用也。〔書、梓材〕以二厥庶民、暨厥臣一、達二大家一。〔周禮、地官、鄉大夫〕退而以二鄉射禮五物一、詢二衆庶一。〔注〕以、用也。〔禮、曾子問〕有二庶子祭者一以レ此。〔注〕以、用也。〔左氏、昭、四〕死生以レ之。〔注〕以、用也。〔論語、微子〕不レ使三大臣怨二乎不一レ以。〔集解〕孔安國曰、以、用也。〔孟子、梁惠王上〕以レ羊易レ之。❷ひきゐる。〔左氏、僖、二十六〕凡師能左二右之一曰レ以。〔國語、魯語下〕魯人以二莒人一先濟。〔注〕能東二西之一曰レ以。〔戰國、秦策〕向欲二以レ齊事一レ王。〔注〕以、猶レ使也。❸して。にして。而して。〔經傳釋詞、一〕以、猶レ而也、云云、易、同人、彖傳曰、文明以健、中正而應、繫辭傳曰、蓍之德、圓而神、卦之德、方以知、禮記聘義曰、溫潤而澤、仁也、縝密以栗、知也、云云、以亦而也、互文耳。〔書、堯典〕克明二俊德一、以親二九族一。〔書、泰誓下〕作二奇技淫巧一、以悅二婦人一。〔左氏、僖、十五〕若晉君朝以入、則婢子夕以死。〔史記、仲尼弟子傳〕城高以厚、地廣以深。❹もつて。ここを以て。かくして。よつて。意味を強める辭。〔詩、邶風、谷風〕以陰以雨。〔左氏、僖、四〕君實不レ察二其罪一、被二此名一也、以出、人誰納レ我。〔大學〕可二以レ人而不レ如レ鳥乎。〔論語、泰伯〕可三以託二六尺之孤一、可三以寄二百里之命一。❺と。ともに。與(9－30212)に通ず。〔廣雅、釋詁三〕以、與也。〔詩、召南、江有汜〕江有レ汜、之子歸、不二我以一。〔箋〕以、猶レ與也。〔詩、邶風、擊鼓〕不二我以歸一。〔儀禮、鄉射禮〕各以二其耦一進。〔注〕今文、以爲レ與。〔儀禮、燕禮〕君曰、以レ我安。〔注〕以、猶レ與也。❻やむ。已(4－8743)に通ず。〔經傳釋詞、一〕㠯、或作レ以、或作レ已、鄭注二禮記檀弓一曰、以與二已字一本同。〔孟子、梁惠王上〕無レ以則王乎。〔集注〕以已通用。❼もつてする。爲す。なる。爲(7－19686)に通ず。〔玉篇〕以、爲也。〔左氏、定、十〕封疆社稷是以。〔注〕以、猶レ爲也。〔論語、爲政〕視二其所レ以。〔集注〕以、爲也。❽これ。この。〔經傳釋詞、一〕已、爾雅曰、已、此也、云云、或作レ以、禮記祭統、衞孔悝之鼎銘曰、對二揚以辟一レ之勤二大命一、施二於烝彝鼎一、以、此也。❾もつて。時を表はす詞。〔左氏、桓、二〕其弟以二千畝之戰一生。❿もつてすれば。もつてす。事を論ずる標準を表はす。〔左氏、宣、四〕以レ賢則去疾不レ足、以レ順則公子堅長。〔公羊、隱、元〕立レ適以レ長不レ以レ賢、立レ子以レ貴不レ以レ長。⓫ゆゑ。由(7－21724)に通ず。〔經傳釋詞、一〕以、猶レ由也。〔詩、邶風、旄丘〕必有レ以也。〔左氏、昭、十三〕我之不レ共、魯故之以。〔列子、周穆王〕宋人執而問二其以一。⓬おもふ。おもふに。〔經傳釋詞、一〕以、猶レ謂也、禮記、檀弓曰、吾以、將レ爲二賢人一也、言、吾謂レ將レ爲二賢人一也。〔韓愈、論二佛骨一表〕伏以、佛者夷狄之一法耳。⓭はなはだ。已(4－8743)に通ず。〔經傳釋詞、一〕鄭注二考工記一曰、已、太也、甚也、亦常語也、或作レ以。〔左氏、文、五〕嬴曰、以剛。〔公羊、莊、元〕羣公子之舍、則以卑矣。〔孟子、公孫丑下〕不若二以美一然。⓮およぶ。〔經傳釋詞、一〕以、猶レ及也、易、小畜、九五曰、富以二其鄰一、虞翻注曰、以、及也、泰、初九曰、拔二茅茹一以二其彙一、言レ及二其彙一也、剝、初六曰、剝牀以レ足、六二曰、剝牀以レ辨、六四曰、剝牀以レ膚、言二及レ足、及レ辨、及一レ膚也。⓯より。て。〔禮、內則〕由二命士一以上。〔釋文〕以、或作レ已。〔左氏、昭、二十〕聊攝以東、姑尤以西。〔史記、李斯傳〕李斯以二閭閻一歷二諸侯一。〔史記、西南夷傳〕以二長沙一往。⓰似(1－485)に通ず。〔易、明夷〕文王以レ之。〔釋文〕以、荀向本、作レ似。〔漢書、高帝紀上〕鄉者夫人兒子、皆以レ君。〔注〕如淳曰、以、或作レ似。⓱閒民。やとひ人。〔詩、周頌、載芟〕侯彊侯以。〔箋〕以、謂二閒民一、今時傭賃也。⓲姓。〔萬姓統譜〕以、見二姓苑一、以彤漢人。㊁佀(1－489)に同じ。〔集韻〕佀、說文、象也、或作レ似、亦省。

名乘 シゲ。ノリ。モチ。ユキ。

解字 指事。說文、㠯に作る。反已に從ふ。已の倒形。說文では已を已(やむ)と解し、㠯は之を反對にしたもので、止むの反對卽ち行ふ、用ひるの意とす。今、以に作る。說文に一說として賈逵の說を引き、已意已實也、象形と注す。段注之を解して、我が意既に堅實なる義とし、意堅實ならば自ら之を實行し、或は人を用ひて行ふから、用ひる義と解す。通訓定聲では意已を薏苡と解し、薏苡の實の象形とす。〔說文、㠯、段注〕與レ已篆形勢略相反也、已主二乎止一、㠯主二乎行一、故形相反、二字古有二通用者一。▽ (甲骨文)象形。耜を用ひて耕すに象る。

參考 ❶同一の篆文を以と見、已と見るので、其の當否を別ちがたい。今、段注に隨つて以とする。❷平假名「い」は以の草體。

【以安】1 イアン 明、沈節甫(6－17189··578)の字。

【以爲】2 オモヘラク おもふには。おもふやうは。〔禮、檀弓上〕以爲、薑桂之謂也。〔孟子、梁惠王下〕王喜以爲、能勝二其任一也。〔讀書作文譜、文中用字法〕又一類、以爲、將レ言二其故一之辭。

【以謂】3 オモヘラク おもふには。おもふやうは。〔胡安國、春秋傳序〕故君子以謂、五經之有二春秋一、猶二法律之有二斷例一也。〔讀書作文譜、文中用字法〕又一類、蓋謂、推二原其說一之辭、亦可レ用二於起處一、以謂、義同。

【以閱】4 イエツ 宋、葛長庚(9－31420··135)の字。

【以下】5 イカ 云云よりした。已下。以去。〔論語、雍也〕中人以下、不レ可二以語一レ上也。〔朱熹、中庸章句〕自レ此以下十二章、皆子思之言。

【以嘉】6 イカ 明、衞靖(10－34074··78)の字。

【以介】7 イカイ 明、溫璜(7－17968··52)の初名。

【以行】8 イカウ 字號。❶宋、鮑輗(12－46074··27)の字。❷明、吳士義(2－3365··589)の字。❸明、趙紳(10－37171··233)の字。

【以孝】9 イカウ 明、鄭忠(11－39647··219)の字。

【以降】10 イカウ 云云よりこのかた。以來。又、云云

より後。以後。〔後漢書、逸民傳論〕自レ茲以降、風流彌繁。

【以鄂】11 イガク 明、丘懋煒(1－33・・165)の字。

【以學】12 イガク 明、劉仕(2－2224・・317)の字。

【以義】13 イギ 明、丘養浩(1－33・・171)の字。

【以休】14 イキウ 長森敬一の號。長森以休(11－41100・・952)を見よ。

【以去】15 イキヨ 以下(5)に同じ。〔成玄英、莊子序〕自二外篇一以去、則取二篇首二字一爲二其題目一。

【以居】16 イキヨ 元、鄭介夫(11－39647・・316)の字。

【以愚】17 イグ 元、方道叡(5－13620・・581)の字。

【以外】18 イグワイ このほか。其の他。特に明示した物ごとよりほか。〔顏氏家訓、勉學〕以外率多二田里閒人一。

【以寛】19 イクワン 明、詹儼(10－35458・・11)の字。

【以還】20 イクワン 云云よりこの方。以後。又、以下。〔世說新語、文學〕自二中人一以還、看レ書如二顯處視一レ月。〔元稹、唐故工部員外郎杜君墓碑銘序〕秦漢以還、採詩之官既廢。

【以敬】21 イケイ 字號。❶元、汪汝懋(6－17154・・263)の字。❷明、孔弘緒(3－6933・・299)の字。

【以軒】22 イケン 明、本以(6－14421・・4)の字。

【以賢】23 イケン 明、宋景(3－7078・・72)の字。

【以憲】24 イケン 明、黃憲淸(12－47926・・1072)の字。

【以元】25 イゲン 宋、詹初(10－35458・・20)の字。

【以言】26 イゲン 字號。❶明、周詩(2－3441・・231)の字。❷明、徐學詩(4－10110・・362)の字。❸淸、陸詩(11－41708・・129)の字。

【以後】27 イゴ 云云よりのち。爾後。〔南史、劉杳傳〕因著二林庭賦一、王僧孺見而歎曰、郊居以後、無二復此作一。

【以公】28 イコウ 明、楊選(6－15112・・261)の字。

【以載】29 イサイ 字號。❶明、范輅(9－30834・・136)の字。❷淸、朱厚章(6－14424・・771)の字。

【以齋】30 イサイ 字號。❶宋、陽恪(11－41725・・37)の號。❷淸、任陳晉(1－416・・240)の號。❸淸、楊雍建(6－15112・・799)の字。

【以莊】31 イサウ 淸、胡敬(9－29400・・110)の字。

【以次】32 イジ 順序によって。〔漢書、叔孫通傳〕謁者治レ禮引、以レ次入二殿門一。

【以次成丁】33 イジセイテイ 代りとなる成年の男子。〔明律、名例〕家無二以次成丁一者。

【以時】34 イジ 字號。❶明、錢學孔(11－40563・・266)の字。❷淸、徐言(4－10110・・122)の字。

【以質】35 イシツ 元、汪斌(6－17154・・124)の字。

【以上】36 イジヤウ ❶云云より上。〔論語、雍也〕中人以上、可二以語一レ上也。〔漢書、賈誼傳〕五尺以上、不二輕得一レ息。❷文書・目錄・書翰文等の結尾に記して、其の終を表はす語。

【以常】37 イジヤウ 宋、黎立武(12－47994・・127)の字。

【以純】38 イジユン 明、鄭閎(11－39647・・90)の字。

【以順】39 イジユン 明、劉希簡(2－2224・・767)の字。

【以乘】40 イジヨウ 明、林大輅(6－14551・・387)の字。

【以人】41 イジン 明、周鑑(2－3441・・78)の字。

【以仁】42 イジン 字號。❶元、鮑觀(12－46074・・23)の字。❷明、熊榮(7－19294・・3)の字。❸淸、永貴(6－17088・・54)の字。

【以正】43 イセイ 字號。❶明、夏時(3－5720・・142)の字。❷明、韓楷(12－43159・・30)の字。❸明、姜廷頤(3－6205・・111)の字。

【以西】44 イセイ 云云より西。〔左氏、昭、二十〕姑尤以西。〔水經、漾水注〕嶓冢以西、水皆西流。

【以成】45 イセイ 字號。❶明、劉繹(2－2224・・49)の字。❷淸、錢繹(11－40563・・16)の字。

【以制】46 イセイ 明、權衡(6－15926・・14)の字。

【以政】47 イセイ 字號。❶明、沈政(閩の人)(6－17189・・243)の字。❷明、李在(6－14459・・358)の字。

【以淸】48 イセイ 明、賀廉(10－36725・・116)の字。

【以誠】49 イセイ 明、謝孚(10－35827・・195)の字。

【以齊】50 イセイ 明、樊玉衡(6－15414・・83)の字。

【以聲】51 イセイ 元、周鏜(2－3441・・355)の字。

【以昭】52 イセウ 明、朱多熲(6－14424・・903)の字。

【以占】53 イセン 明、蕭良有(9－32012・・531)の字。

【以先】54 イセン 明、邵玘(蘭溪の人)(11－39343・・14)の字。

【以潛】55 イセン 明、沈玄(6－17189・・148)の字。

【以瞻】56 イセン 明、孫宏軾(3－6987・・376)の字。

【以前】57 イゼン ❶云云よりまへ。まへかた。〔史記、趙世家〕今、三世以前、至二於趙主之子孫爲一レ侯者。❷そのむかし。かつて。往時。〔謠曲、七騎落〕以前某に心を盡くさせられ候。

【以善】58 イゼン 字號。❶明、盛賚汝(8－23005・・238)の字。❷明、端復初(8－25806・・216)の字。❸明、林良(6－14551・・242)の字。❹明、連繼芳(11－38902・・331′)の字。

【以太】59 イエーテル 彈性的性質があり、太空及び物質分子閒に瀰漫充溢してゐて、光・熱及び電磁の媒介をなす物理的實在物。近年相對性原理は其の物質的實在性を否定して、單なる物質的空閒としてのみ意義づけてゐる。以脫。Ether の音譯。

【以泰】60 イタイ 淸、康國器(4－9376・・180)の初名。

【以道】61 イダウ 字號。❶宋、晁說之(5－13889・・19)の字。❷元、王文統(7－20823・・2079)の字。❸明、高邦佐(12－45313・・1300)の字。❹明、章拯(8－25761・・102)の字。❺明、程啓充(8－25081・・187)の字。❻明、王敬臣(7－20823・・1380)の字。

【以脫】62 イエーテル Ether の音譯。以太(59)に同じ。

【以中】63 イチユウ 字號。❶明、韓貞(12－43159・・173)の字。❷明、陳道基(11－41698・・1113)の字。❸明、白範(8－22678・・984)の字。

【以忠】64 イチユウ 字號。❶宋、檀固(6－15632・・21)の字。❷明、夏子孝(3－5720・・312)の字。❸明、鮑弼(12－46074・・69)の字。❹明、萬廷言(9－31339・・615)の字。❺明、劉簡(2－2224・・134)の字。

【以除】65 イヂヨ 淸、王宗炎(7－20823・・1832)の字。

【以通】66 イツウ 明、陳援(11－41698・・44)の字。

【以貞】67 イテイ 字號。❶明、曹元(5－14297・・77)の字。❷明、范希正(9－30834・・152)の字。

【以天】68 イテン 山城國の禪僧。諱は宗清。天文二十三年寂す、年八十三。紫野大德寺に住す。相模國小田原の早雲寺の開祖。正宗大隆禪師を賜はる。

【以東】69 イトウ ❶云云より東。〔左氏、莊、二十一〕自二虎牢一以東。〔水經、河水注〕自二高闕一以東、夾レ山帶レ河。❷明、王震(吳の人)(7－20823・・633)の字。

【以棟】70 イトウ 明、凌稚隆(2－1669・・144)の字。

【以登】71 イトウ 明、張納陛(4－9812・・1429)の字。

【以同】72 イドウ 明、沈宗墕(6－17189・・584)の字。

【以德】73 イトク 字號。❶明、韓福(膠州の人)(12－43159・・204)の字。❷明、孫繼皐(3－6987・・384)の字。❸明、趙良仁(10－37171・・929)の字。❹淸、舒化民(9－30300・・101)の字。

【以篤】74 イトク 淡路國の禪僧。諱は以篤。字は信中。俗姓は三善氏。五山の文學者。東福寺・天龍寺・南禪寺等に住し、寶德三年寂す。著に晦夫集・宗鏡集がある。

【以內】75 イナイ 云云よりうち。又、以下。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例〕統轄官罰俸一年、不レ同下城在二百里以內一者上。

【以南】76 イナン ❶云云より南。〔水經、河水注〕安陽縣以南悉沙阜。❷字號。㋑元、汪夢斗(6－17154・・344)の字。㋺淸、曹學詩(5－14297・・206)の字。

【以寧】77 イネイ 字號。❶宋、劉文裕(2－2224・・1303)の字。❷明、蕭良乾(9－32012・・532)の字。❸明、曹安(5－14297・・1)の字。❹明、梁安(6－14825・・4)の字。❺淸、金焜(11－40152・・417)の字。

【以方】78 イハウ 字號。❶明、黃直(12－47926・・656)の字。❷明、周子義(2－3441・・674)の字。

【以發】79 イハツ 明、朱集璜(6－14424・・830)の字。

【以復】80 イフク 抗論する。口ごたへをする。〔宋濂、送二東陽馬生一序〕不下敢出二一言一以復上。

【以文】81 イブン ❶淸、顧壽楨(12－43689・・287)の初名。❷字號。㋑元、程文(8－25081・・131)の字。㋺淸、鮑廷博(12－46074・・106)の字。

【以聞】82 イブン 臣民が天子に上書する時に用ひる語。上聞(1－13・・699)に同じ。〔禮、曾子問〕有司以聞曰、古之禮、慈母無レ服。〔曹植、上二責レ躬應レ詔詩一表〕冒レ顏以聞。〔陸機、謝二平原內史一表〕臣不レ勝二屛營延仰一、謹拜表以聞。

【以平】83 イヘイ 明、夏衡(3－5720・・40)の字。

【以北】84 イホク 云云より北。〔水經、河水注〕長安以北、朔北以南也。

【以明】85 イメイ 明、石銳(8－24024・・33)の字。

【以養】86 イヤウ 淸、朱一是(6－14424・・663)の字。

【以來】87 イライ ❶云云よりこのかた。其の後。以降。〔孟子、公孫丑上〕自レ有二生民一以來、未レ有二

孔子一也。〔朱熹、中庸章句序〕自レ是以來、聖聖相承。❷今より後。以後。自今。向後。今後。〔戰國、韓策〕自レ今以來、率且ニ正ニ言之ニ而已矣。

【以裏】88 i² li³ 以內。

【以立】89 イリツ 字號。❶元、周聞孫(2－3441・851)の字。❷明、姚學禮(3－6202・140)の字。

【以和】90 イワ 字號。❶明、易英(5－13814・18)の字。❷明、孔弘泰(3－6933・300)の字。

【以往】91 イワウ 云云よりのち。云云よりさき。〔左氏、僖、二十八〕自ニ今日ニ以往、既盟之後、行者無レ保ニ其力ニ、居者無レ懼ニ其罪ニ。〔左氏、文、十六〕自ニ廬以往ニ、振ニ廩同食。

【以色列】92 イスラエル Israel の音譯。❶國の名。西暦前九三三年より七二一年に亙り、パレスチナに存在した王國。❷舊約聖書時代のユダヤ民族。❸新約聖書に於ては、信仰により神の撰擇と祝福とに與つた人々。

【以得撒】93 エデッサ トルコ東南部の都邑ウルファの古名。Edessa の音譯。

【以弗所】94 エフェスス 小アジヤ、古代イオニヤ地方十二都市の一。女神アルテミス大神殿の所在地。Ephesus の音譯。

【以心傳心】95 イシンデンシン 佛心から心に傳へる。言語・文字を用ひずして傳へる。〔傳燈錄〕佛滅後、付ニ法於迦葉ニ、以レ心傳レ心。

【以信代慧】96 イシンダイエ 佛智慧を研く代りに、ひたすら信心して佛道修行の因と爲すをいふ。日蓮宗の所說。〔四信五品抄〕五品之初、二三品、佛正制ニ止戒定二法ニ、一向限ニ慧一分ニ、慧復不レ堪、以レ信代レ慧、信一字爲レ要。

【以佃以漁】97 モツテデンシモツテギヨス 漁獵をすること。禽獸に佃といひ、魚介に漁といふ。〔易、繫辭下〕作ニ結繩ニ而爲ニ罔罟ニ、以佃以漁、蓋取ニ諸離ニ。〔疏〕或陸畋以羅ニ鳥獸ニ、或水澤以罔ニ魚鼈ニ也。

【以呂波歌】98 イロハウタ 四十七字を以て一字の重複もなしに作つた八句の今樣歌。涅槃經の諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂の偈を意譯したもの。卽ち、色は匂へど散りぬるを、我が世誰ぞ常ならむ、有爲の奥山今日越えて、淺き夢見じ醉ひも爲ず。伊呂波歌。〔和漢三才圖會、藝才、以呂波〕四十七字。云云。

【有レ以也夫】99 ユエアルカナ 事の理由あるを嘆稱する言。〔史記、田儋傳〕遂自剄、令ニ客奉ニ其頭ニ、從ニ使者ニ、馳奏ニ之高帝ニ。高帝曰、嗟乎有レ以也夫。

【可ニ以勿レ藥】100 モツテヤクスルコトナカルベシ 服藥せずともよろしいといふ意で、其の病氣の輕いのを喜んでいふ語。〔易、无妄〕无妄之疾、勿レ藥有レ喜。〔故事成語考、疾病死喪〕可ニ以勿レ藥、喜ニ其病安ニ。

【以恬養志齋】101 イテンヤウシサイ 清、程庭鷺(8－25081・264)の室名。

【可ニ以久ニ而久】102 モツテヒサシカルベクンバスナハチヒサシクス 久しく留まつて宜い場合には久しく留まる。〔孟子、萬章下〕可ニ以速ニ而速、可ニ以久ニ而久。

【可ニ以仕ニ而仕】103 モツテツカフベクンバスナハチツカフ 仕へるべき適當な場合には仕へる。〔孟子、萬章下〕可ニ以處ニ而處、可ニ以仕ニ而仕、孔子也。

【可ニ以處ニ而處】104 モツテヲルベクンバスナハチヲル 官に仕へずに居る方がよい場合には仕へずに野に居る。〔孟子、萬章下〕可ニ以處ニ而處、可ニ以仕ニ而仕。

【可ニ以速ニ而速】105 モツテスミヤカナルベクンバスナハチスミヤカニス 速かに去るのが宜い場合には速かに其處を去る。〔孟子、萬章下〕可ニ以速ニ而速、可ニ以久ニ而久、可ニ以處ニ而處。

【仉】389 ゴツ 兀(1－1337)・卼(2－2868)に同じ。〔集韻〕卼、或作レ仉。〔正字通〕仉、同レ兀。

【伦】390 カウ 高(12－45313)に同じ。〔通志、六書略〕伦、同レ高。

【仂】391 ハン 攀(5－12926)の俗字。〔玉篇〕仂、俗攀字。

【仏】392 サウ 仯(1－399)の譌字。〔康熙字典〕仏、按、仯字之譌。

【伵】393 サク 作(1－518)に同じ。〔字彙補〕伵、晉姜鼎作字。

【伕】394 チヤウ 長(11－41100)に同じ。〔字彙補〕伕、與レ長同。

【攸】395 ブ 侮(1－630)の古字。〔集韻〕侮、古作レ攸。

【伒】396 ㊀ゲン〔集韻〕魚檢切 琰 ㊁ゲン〔集韻〕魚窆切 豔 ㊀㊁❶おろか。俺伒。〔集韻〕伒、俺伒、癡也。❷或は俨(1－803)に作る。〔集韻〕伒、或作レ俨。

【仨】397 サ 〔辭海〕讀如ニ私啊合音ニ。ㄙㄚ sa¹ **三個**。北方の方言。〔辭海〕仨、北方語音、數詞、三個也。

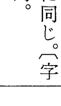
四畫

【仮】398 ㊀ハン ㊁カ ㊀反(2－3127)に同じ。〔集韻〕反、或作レ仮。㊁假(1－835)の略字。

【仯】399 ㊀サウ〔集韻〕楚教切 效 ㊁ベウ メウ〔集韻〕弭沼切 篠 ㊀㊁**小さいさま**。〔集韻〕仯、小皃。

【仯仯】1 ベウベウ 小子をいふ。〔廣韻〕仯、仯仯、小子。

【仰】400 ㊀ギヤウ ガウ〔集韻〕語兩切 養 一尢 yang³ ㊁ギヤウ ガウ〔集韻〕魚向切 漾 ㊂ガウ〔集韻〕魚剛切 陽 慣カウ


小篆

㊀❶**あふぐ**。㋑首をあげて望む。見上げる。〔說文〕仰、擧也。从ニ人卬ニ。〔廣雅、釋詁一〕仰、擧也。〔易、繫辭上〕仰以觀ニ於天文ニ。〔詩、小雅、車舝〕高山仰止、景行行止。〔禮、檀弓上〕泰山其頹、則吾將ニ安仰ニ。〔莊子、天運〕引レ之則俯、舍之則仰。㋺目上の者に對する。尊敬の意を表はす。〔孟子、梁惠王上〕仰足ニ以事ニ父母ニ、俯足ニ以畜ニ妻子ニ。㋩たのむ。〔廣雅、釋詁三〕仰、恃也。〔後漢書、鄧禹傳〕無ニ可レ仰之積ニ。〔注〕仰、猶ニ恃也。㋥したふ。〔詩、小雅、車舝〕則慕ニ仰之ニ。〔疏〕仰、是心慕之辭。㋭毒藥などを吞む。〔漢書、息夫躬傳〕仰レ藥而伏レ刃。〔唐書、楊收傳〕自作レ書、謝ニ天子ニ、卽仰レ鴆死。❷**おほせ**。上から命令を下す時に用ひる語。仰議(15)を見よ。❸或は卬(2－2841)に作る。〔集韻〕仰、或省。〔荀子、議兵〕上足卬、則下可レ用也。〔注〕卬、古仰字、下託レ上曰レ仰。〔列子、黃帝〕仰レ天而歎。〔釋文〕仰、本作レ卬。❹**姓**。〔尙友錄〕仰、汝南宮音、見ニ姓苑ニ、今新安吳興、並有ニ此姓ニ。〔又望出ニ錢唐ニ。❺現㋑云云すべし。㋺云云をして云云せしむ。㊁**たのむ**。**よる**。**まつ**。〔集韻〕仰、廣雅、恃也。〔正字通〕仰、恃也、俟也、資也。〔史記、平準書〕衣食仰ニ給縣官ニ。㊂❶**たかい**。昂(5－13783)に通ず。〔禮、曲禮上、注、令ニ左卬右低ニ、釋文〕卬、本又作レ昂、又作レ仰。❷通じて卬(2－2841)に作る。〔漢書、揚雄傳下、激ニ卬萬乘之主ニ、注〕師古曰、卬、讀曰レ仰。

名乘 モチ。

解字 會意形聲。人と卬の合字。卬は又聲。卬は

望むこと。故に人が首をあげて望む意。〔說文、仰、从二人卬一、段注〕此擧二會意一包二形聲一。

【仰閱】1 ギョウエツ 仰ぎ見る。仰視。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕仰閱豐施、降二惟微物一。〔注〕翰曰、閱、視也。

【仰延】2 ギョウエン 舜の時、二十三絃の瑟を作った人。〔呂覽、古樂〕瞽叟乃拌二五弦之瑟一、作以爲二十五弦之瑟一、命レ之曰二大章一、以祭二上帝一。舜立、仰延乃拌二瞽叟之所レ爲瑟一、益之八弦一、以爲二二十三弦之瑟一。

【仰屋】3 ギョウオク 窮して徒らに屋を仰ぐ。嘆息する意。〔宋史、富弼傳〕富弼手疏稱、老臣無レ所二告訴一、但仰レ屋竊歎者、卽當レ至矣。

【仰屋著書】4 ギョウオクチョショ 梁の子恭が、床上に仰臥して、屋梁を見ながら書を著したといふ故事。〔梁書、南平王恭傳〕子恭爲二湘州刺史一、每從容謂レ人曰、下官歷二觀世人一、多有レ不レ好二歡樂一、乃仰二眠床上一、看二屋梁一而著書、千秋萬歲、誰傳レ此者。

【仰荷】5 ギョウカ 人から受けた恩恵を有難く仰ぎ感ずる。〔十六國春秋、北涼錄〕仰荷二覆悌之仁一、俯蹈二康哉之詠一。

【仰亢】6 ギョウカウ 仰ぐほどに高いこと。〔福惠全書、教養部、修水利〕北方地仰亢、多二平原曠野一。

【仰高】7 ギョウカウ 高きを仰ぐ。高徳あるものを仰慕する。〔曹昭、東征賦〕勉仰レ高而蹈レ景兮、盡二忠恕一而與レ之。〔論語、子罕〕仰レ之彌高、鑽レ之彌堅。

【仰高堂】8 ギョウカウダウ 室名。❶宋、曾三異（5－142 99‥193）の室名。❷宋、米芾（8－26832‥84）の室名。

【仰角】9 ギョウカク ❶履物の一種。一に卬角に作る。〔釋名、釋衣服〕仰角、履上施レ履之名也。❷人目の仰いで見た視線と水平線とのなす角。俯角（1－722‥6）に對していふ。

【仰感】10 ギョウカン 仰いで君恩の厚きに感ずる。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕誠蒙二厚恩一、得レ保二須臾之命一、不レ勝二仰感俯愧一。

【仰企】11 ギョウキ 甚しく思ひ慕ふ。首をあげ足をつまだてて慕ふ義。〔孟郊、貧女詞寄二從叔先輩簡一詩〕仰企碧霞仙、高控滄海雲。

【仰睎】12 ギョウキ 仰ぎのぞむ。〔潘岳、懷舊賦〕仰睎二歸雲一、俯鏡二泉流一。

【仰揆】13 ギョウキ 仰ぎはかる。揆は度の意。〔蜀志、先主劉備傳評〕仰揆二彼之量一、必不レ容レ己、非二唯競一レ利、且以避二害云爾。

【仰窺】14 ギョウキ 仰ぎうかがふ。〔獨孤及、賀二櫟陽縣醴泉一表〕仰窺二天意一、豈不二以是彰一陛下之德施一乎。

【仰議】15 ギョウギ 命を受けて議する。〔北齊書、昭帝紀〕甲午、詔曰、云云、但二王二恪、舊說不レ同、可レ議二定是非一、列レ名條奏、其禮儀體式亦仰二議之一。

【仰泣】16 ギョウキフ あふいで泣く。〔宋史、馮伸巳傳〕今我奉二天子命一來、汝聽二吾言一則生、不則無二噍類一矣、衆仰泣羅拜。

【仰給】17 ギョウキフ 上から給與をいただく。〔史記、平準書〕轉轂百數、廢居居レ邑、封君皆低二首仰一レ給。〔漢書、食貨志下〕衣食皆仰二給於縣官一。

【仰仰】18 ギョウギョウ ❶軍の士氣の振ふさま。〔周禮、地官、保氏、五曰、軍旅之容、注〕軍旅之容、闕闕仰仰。〔釋文〕仰、本又作レ卬、五剛反。❷おほげさ。仰山。たいさう。

【仰忻】19 ギョウキン 宋、永嘉の人。字は天賦。力學篤行。母の死後、墓側に廬を結んで厚く弔ふ。〔宋史、四百五十六〕（宋史新編、一百七十六）。

【仰欽】20 ギョウキン あふぎしたふ。〔陸雲、答二顧秀才一詩〕仰欽德類、依懷二惠詮一。

【仰瓦】21 ギョウクワ 瓦の一種。平瓦。牝瓦。〔五雜組、天部二〕月如二仰瓦一、不レ求自下、月如二彎弓一、少雨多風。

【仰臥】22 ギョウガ あふむきに寢る。仰眠。〔世說新語、排調〕郝隆七月七日出、日中仰臥。

【仰晦】23 ギョウクワイ 清、孫希朱（3－6987‥358）の字。

【仰晦先生】24 ギョウクワイセンセイ 清、孫希朱（3－6987‥358）の尊稱。

【仰槐】25 ギョウクワイ 明、李士達（6－14459‥1276）の字。

【仰懷】26 ギョウクワイ 明、李士達（6－14459‥1276）の字。

【仰光】27 ギョウクワン 緬甸の都會。Rangoon 一號。

【仰官】28 ギョウクワン 御上から頂く。官から賜はる。〔蜀志、諸葛亮傳〕至二於臣一、在二外位一、無二別調度一、隨レ身衣食、悉仰二於官一、不二別治一レ生以長二尺寸一。

【仰觀】30 ギョウクワン 仰いでみる。仰觀俯察を見よ。

【仰觀俯察】31 ギョウクワンフサツ 仰いで天文を見、俯して地理を察する。〔易、繫辭上〕易與二天地一準、故能彌二綸天地之道一、仰以觀二於天文一、俯以察二於地理一。〔京氏易傳〕聖人所二以仰觀俯察、象二天地日月星辰草木萬物一。〔張蘊古、大寶箴〕今來古往、俯察仰觀。

【仰見】32 ギョウケン 仰ぎ見る。〔國史略、光仁天皇〕仰二見海天一、以二國言一作二三笠山月歌一。

【仰原】33 ギョウゲン 清、張憲載（4－9812‥996）の字。

【仰顧】34 ギョウコ 仰ぎみる。仰視。〔江淹、青苔賦〕絕礪俯視、崩壁仰顧。

【仰攻】35 ギョウコウ 仰いで攻める。高所を攻める意。〔新書、過秦上〕嘗以二十倍之地、百萬之衆一、仰關而攻レ秦。〔世說新語、文學〕劉眞長與二殷淵源一談、劉理如二小屈一、殷曰、惡二卿不レ欲作一將善雲梯一仰攻上。

【仰告】36 ギョウコク 仰ぎ告げる。仰いで願ふ。〔詩、小雅、巷伯、疏〕仰二告蒼天一、蒼天何不下視二察彼人之虛妄一而矜中哀此勞人上。

【仰嗟】37 ギョウサ 天を仰いでなげく。仰歎。〔郭璞、江賦〕駭二黃龍之負レ舟、識二伯禹之仰嗟一。

【仰窓】38 ギョウサウ 明り取りの窓。引き窓。〔王安石、紙暖閣詩〕側坐對敷紅絮暖、仰窓分啓碧紗涼。

【仰贊】39 ギョウサン 仰いでほめたたへる。〔王儉、褚淵碑文〕公實仰二贊宏規一、參二聞神算一。

【仰山】40 ギョウザン ❶山名。江西省宜春縣の南。唐末、高僧の慧寂が此の山に居り、山下には唐の鄭谷が讀書した處が在る。又、縣の南に在る小仰山は、晉の鄧表が煉を修めたところといふ。〔袁州府志〕仰山在二府城南八十里一、爲二府之鎭山一、周迴數百里、高聳萬仞、不レ可二登陟一、只可二仰觀一。因名。❷唐の高僧、慧寂をいふ。仰山は號。十四歲で出家し、初めて忠國師の侍者耽源に謁し、國師の圓相を授けられた。〔傳燈錄、十一〕。❸字號。㋑清、楊高望（6－15112‥458）の字。㋺清、汪廷榜（6－17154‥312）の號。㋩サギョウ ㋑大きいさま。多いさま。〔淀鯉出世瀧德、上〕仰山な酒飲みと聞いたか。㋺おほげさ。おほぎやう。針小棒大。〔心中重井筒、上〕ああおやぢ樣、なんぞと思へば仰山な。

【仰山堂】41 ギョウザンダウ 室名。❶清、黃紹統（12－47 926‥1193）の室名。❷清、翟漱芳（9－28727‥56）の室名。

【仰山窪】42 ギョウザンワ 地名。北京の北方。清代、每年十月十五日に旗人の大操練を行つたところ。〔燕京歲時記、仰山窪〕仰山窪、在二安定門外正北十里一、有二將臺一座一、每至二十月十五日一、八旗合操、演二九進十連環一、前鋒護軍統領跑交冲馬、已成二俗例一、大寒之歲、兵丁有二凍斃者一、故非二豪俠少年一、不レ能二往觀一也。

【仰子】43 ギョウシ 明、顏茂猷（12－43591‥193）の字。

【仰之】44 ギョウシ ❶あふぎ慕ふ。仰止の❶に同じ。仰高（ク）を見よ。〔管子、九守〕高山仰レ之、不レ可レ極也、深淵度レ之、不レ可レ測也。〔史記、三王世家〕武帝制曰、高山仰レ之、景行嚮レ之、朕甚慕焉。〔李商隱、太尉衞公會昌一品集序〕緊爾來者、景山仰レ之。❷清、崇恩（4－8152‥14）の字。

【仰止】45 ギョウシ ❶仰ぎ慕ふ。止は語助。仰之の❶に同じ。〔詩、小雅、車舝〕高山仰止、景行行止。〔集韻〕仰、瞻望也。〔潘岳、西征賦〕心翹勩以仰止。〔王儉、褚淵碑文〕方二高山一而仰止、刊二玄石一以表レ德。❷清、尙兆山（4－7493‥180）の字。

【仰思】46 ギョウシ 仰ぎ思ふ。〔孟子、離婁下〕周公思兼二三王一、以施二四事一、其有二不レ合者一、仰而思レ之、夜以繼レ日。〔班固、幽通賦〕眇所寤而仰思兮。

【仰視】47 ギョウシ 仰ぎみる。仰瞻。〔史記、孔子世家〕明日與二孔子一語、見二蜚鴈一、仰視之、色不在二孔子一、孔子遂行。〔漢書、韓信傳〕信乃仰視、適見二滕公一。〔論衡、書虛〕低レ頭不二敢仰視一。〔文天祥、正氣歌〕顧此耿耿在、仰視浮雲白。

【仰視千七百二十九鶴齋】48 ギョウシセンチヒヤクニジフクカクサイ 清、趙之謙（10－37171‥609）の室名。

【仰視千七百二十九鶴齋叢書】49 ギョウシセンチヒヤクニジフクカクサウショ 叢書の名。清、趙之謙編。舊時の所藏書と自分の作とを合して著したもの。

【仰酬】50 ギョウシウ 恭しくむくいること。〔沈約、與二范述曾一書〕雖二復吟誦廻環、編離字滅、終無レ所レ辨、仰酬二睿旨一、微表二寸長一。

【仰式】51 ギョウシキ 仰ぎのつとる。〔蜀志、郤正傳〕俯

憲ニ坤典ニ、仰式ニ乾文ニ。

【仰手】52 ギョウシュ 手を上げる。擧手。〔曹植、白馬篇〕仰レ手接ニ飛猱ニ、俯レ身散ニ馬蹄ニ。

【仰取】53 ギョウシュ 仰ぎ取る。〔史記、貨殖傳〕俛有レ拾、仰有レ取。〔蘇軾、代書答ニ梁先ニ詩〕學如ニ富賈ニ在ニ博收ニ、仰取俯拾、無ニ遺籌ニ。

【仰首】54 ギョウシュ 首をあげる。〔曹植、遠遊篇〕瓊蘂可レ療レ飢、仰首吸ニ朝霞ニ。

【仰首伸眉】55 ギョウシュシンビ 首をあげ眉を伸ばす。態度が高抗で屈せぬさま。〔司馬遷、報ニ任少卿ニ書〕欲ニ仰レ首伸レ眉論ニ列是非ニ、不ニ亦輕ニ朝廷ニ羞ニ中當代之士ニ邪。

【仰承】56 ギョウショウ あふぎうける。うけたまはる。〔沈約、梁ニ三朝雅樂歌〕仰ニ承元首ニ。

【仰食】57 ギョウショク 他人に頼って生活する。〔淮南子、主術訓〕中田之穫、卒歲之收、不レ過ニ畝四石、妻子老弱、仰而食レ之。〔魏志、荀攸傳〕繡以ニ遊軍ニ仰ニ食於表ニ。

【仰信】58 ギョウシン 信仰する。〔國史略、平城天皇〕巫覡之徒、妄說ニ禍福ニ、庶民之愚、仰ニ信妖言ニ、虧ニ損淳風ニ。

【仰成】60 ギョウセイ 成功を俟つ。成り行きをまつ。〔書、畢命〕予小子、垂拱仰レ成。〔魏志、杜畿傳〕（杜）畿謂ニ衞固・范先ニ曰、衞・范、河東之望也、吾仰成而已ニ。

【仰泉】61 ギョウセン 明、朱文山（6－14424‥980）の號。

【仰羨】62 ギョウセン 仰ぎ望んでうらやむ。慕ひあこがれる。〔謝惠連、祭ニ古冢ニ文〕仰ニ羨古風ニ爲レ君改ト。〔杜甫、獨坐詩〕仰羨黃昏鳥。

【仰磚】63 yang³ chuan¹ 瓦。又は煉瓦の一種。平瓦。平かな煉瓦。

【仰瞻】64 ギョウセン ❶仰ぎみる。仰視。〔後漢書、襄楷傳論〕仰瞻俯察。〔蜀志、許靖傳〕仰ニ瞻光靈ニ、延レ頸企レ踵。❷明、長洲の人。官は大理丞。王振の意に忤ひ大同に謫戍せられた。〔明史、一百五十‧萬斯同明史、二百八‧〔明史稿、一百四十〕

【仰善】65 ギョウゼン 明、蕭晅（9－32012‥103）の字。

【仰訴】66 ギョウソ 仰ぎ訴へる。仰愬。〔魏志、文德郭皇后紀、注〕叩レ心擗踊、號咷仰訴。

【仰愬】67 ギョウソ 仰訴に同じ。〔詩、王風、黍離、悠悠蒼天、此何人哉、箋〕遠乎蒼天、仰愬欲ニ其察ニ己言ニ也。

【仰奏】68 ギョウソウ 謹んで申し上げる。〔宋書、禮志一〕大鴻臚稱レ臣、一拜仰奏請ニ行事ニ。

【仰倒】69 ギョウトウ 仰向けに倒れる。仰仆。〔北夢瑣言〕陳抽刀一揮、馬生仰倒。

【仰禱】70 ギョウトウ 仰ぎ祈る。〔北史、崔浩傳〕父浩疾篤、乃翦爪截レ髮、夜在ニ庭中ニ仰禱ニ斗極ニ、爲ニ父請レ命、求ニ以レ身代ニ。〔南齊書、顧歡傳〕陸下宜ニ仰答ニ天人引領之望ニ。

【仰歎】72 ギョウタン 天を仰いでなげく。仰嗟。〔戰國、中山策〕中山君、喟然而仰歎。〔繁欽、與ニ魏文帝箋〕同坐仰歎。

【仰伏】73 ギョウフク 仰ぎよる。たよる。依賴する。〔晉書、康獻褚皇后傳〕傾俛敬從、弗レ遑ニ固守ニ、仰憑ニ七廟之靈ニ、俯伏ニ羣后之力ニ。

【仰鴆】74 ギョウチン 鴆毒を呑むこと。〔晉書、宣帝紀〕即以ニ凌歸ニ于京師ニ、道經ニ賈逵廟ニ、凌呼曰、賈梁道・王淩、是大魏之忠臣、惟爾有ニ神知レ之、至頃仰レ鴆而死。〔唐書、楊收傳〕自作レ書、謝ニ天子ニ、即仰レ鴆死。

【仰塵】75 ギョウジン 座の天井に張つて、塵土を承ける幕。ひらとばり。承塵。〔聞見近錄〕文公一日詣ニ于晉公ニ、晉公曰、內翰拜時鬚拂レ地、文公起、視ニ其仰塵ニ曰、相公坐處幕漫レ天。

【仰眺】76 ギョウチョウ 仰ぎ視る。仰眄。〔張衡、西京賦〕上ニ飛闥ニ而仰眺、正視ニ瑤光與ニ玉繩ニ。〔注〕銑曰、眺、視也。

【仰天】77 ギョウテン ❶天を仰ぐ。あふむく。㋑歎息するさま。〔左氏、襄二十五〕晏子仰レ天歎。〔莊子、齊物論〕仰レ天而噓。〔後漢書、祭肜傳〕仰レ天指レ心。〔曹植、三良詩〕臨レ穴仰レ天歎。㋺大いに笑ふさま。〔莊子、秋水〕仰レ天而笑。〔史記、滑稽傳〕淳于髡仰レ天大笑、冠纓索絕。❷おどろく。びつくりする。喫驚。〔宇治拾遺物語、十二〕陰陽師心得ず仰天して。

【仰天娥】78 yang³ t'ien¹ é² 茸の一種。かはたけ。まだけ。

【仰天皮】79 ギョウテンヒ 苔の一種。地衣（3－4890‥2）の異名。〔本草、地衣草〕釋名、仰天皮・掬天皮。

【仰塗】80 ギョウト 上を向いて壁をぬる。〔漢書、揚雄傳下、注〕服虔曰、古之善塗墜者也、施ニ廣領大袖ニ以仰塗而領袖不レ汗。

【仰登】81 ギョウトウ 上を見ながらのぼる。〔曹植、朔風詩〕俯降ニ千仞ニ、仰登ニ天阻ニ。

【仰毒】82 ギョウドク 毒藥をのむ。〔謝靈運、盧陵王誄序〕迹非ニ任城ニ、而暴甚ニ於仰レ毒。

【仰讀】83 ギョウドク 見あげて讀む。〔國朝漢學師承記、張弨〕藉ニ落葉ニ而坐、仰讀ニ瘞鶴銘ニ。

【仰罵】84 ギョウバ 頭をあふむけてののしる。〔後漢書、蓋勳傳〕以ニ兵扞ニ衆口ニ、蓋長史賢人、汝曹殺レ之者、爲レ負レ天、勳仰罵曰、云云。

【仰望】85 ギョウボウ 仰ぎ見る。見上げる。轉じて、尊び慕ふ。あがめる。仰望終レ身を見よ。〔史記、封禪書〕百姓仰望。〔楊脩、答ニ臨侯淄ニ牋〕脩之仰望、殆如ニ此矣ニ。〔岑參、虢州郡齋南池幽興詩〕仰望浮與沈、忽如ニ雲與泥ニ。

【仰望終レ身】86 ギョウボウシュウシン 一生尊び慕つて我が身を託する。妻が夫に對していふこと。〔孟子、離婁下〕良人者、所ニ仰望而終レ身也ニ。

【仰伯】87 ギョウハク 明、馬剛中（12－44572‥716）の字。

【仰攀】88 ギョウハン 高所に攀ぢのぼる。轉じて、己より身分の高い人と交際することに用ひる。〔秉燭、遊讌詩〕徙倚ニ憑高山ニ、仰攀ニ桂樹柯ニ。〔李白、登ニ瓦官閣ニ詩〕杳出ニ霄漢上ニ、仰攀ニ日月行ニ。

【仰庇】89 ギョウヒ 仰いで蔽ひかばふ。〔李漢然、竇希璩神道碑〕仰庇ニ軒星之曜ニ、旁通ニ閒氣之英ニ。

【仰披】90 ギョウヒ あふぎひらく。人の書翰などを讀むことの敬語。〔徐陵、答ニ周處士弘讓書〕仰ニ披華翰ニ、甚慰ニ翹結ニ。

【仰飛】91 ギョウヒ 上を向いて飛ぶ。〔列子、黃帝〕仰飛伏走、謂ニ之禽獸ニ。

【仰鼻】92 ギョウビ 上向きの鼻。はすきりばな。〔葆光錄〕獵得ニ一獸ニ、形如レ豕、仰鼻長尾。〔蘇軾、師子屏風贊〕圓ニ其目ニ、仰ニ其鼻ニ。〔徐貞卿、醜女賦〕闊眉豐吭、突額仰鼻。

【仰仆】93 ギョウフク あふ向けに倒れる。仰倒。〔朝野僉載〕著ニ吉莫靴者ニ、行則仰仆。〔日本外史、源氏前記、平氏〕賴盛拔レ刀截レ搭、二郎仰仆。

【仰夫】94 フギョウ 宋、趙士暤（10－37171‥578）の字。

【仰俯】95 フギョウ あふぐこととうつぶすこと。俯仰。〔易、繫辭上〕仰以觀ニ於天文ニ、俯以察ニ於地理ニ。〔易、繫辭下〕古者包犧氏之王ニ天下ニ也、仰則觀ニ象於天ニ、俯則觀ニ法於地ニ。〔尚書大傳、梓材〕商子曰、南山之陽有レ木名レ梓、云云、見ニ橋木高而仰、梓木晉而俯ニ。〔葉適、賦詠歸レ堂詩〕豈無ニ濠上亭ニ、蹙步難ニ仰俯ニ。

【仰文】96 ギョウブン 明、胡天起（9－29400‥576）の字。

【仰扑】97 ギョウボク 仰いで手をたたく。〔成公綏、嘯賦〕喟仰扑而抗首、嘈長引而慘亮。〔注〕向曰、兩手相撫曰レ扑。

【仰眄】98 ギョウベン 仰ぎながめる。仰眺。〔孫綽、聘士徐君墓頌序〕徘ニ徊墟壠ニ、仰ニ眄松林ニ。

【仰辨】99 ギョウベン 恭しく力をいたす。〔魏志、劉馥傳〕有司供ニ承王命ニ、百里垂拱仰辨、雖ニ昔張趙ニ王之治ニ、未レ足ニ以加ニ也ニ。

【仰哺】100 ギョウホ 大切に養ふ。〔唐太宗、報ニ竇建德書〕足下欲ニ以ニ三軍之衆ニ仰ニ哺他人千金之資ニ、坐求ニ外貴ニ、理如ニ畫餅ニ、未レ見ニ其宜ニ。

【仰慕】101 ギョウボ 仰ぎしたふ。〔後漢書、李固傳〕堯殂之後、舜仰慕ニ三年ニ。〔張華、勵志詩〕隰朋仰慕。

【仰模】102 ギョウボ のりを仰ぐこと。〔任昉、王文憲集序〕無レ以仰ニ模淵旨ニ、取ニ則後昆ニ。

【仰奉】103 ギョウホウ うやまひ仕へる。〔晉書、文明王皇后傳〕仰ニ奉慈親ニ、冀無ニ後艱ニ。

【仰秣】104 ギョウマツ 上を向いてまぐさを食ふ。轉じて、馬が物音に聞入るさま、又、馬の笑ふさま。〔荀子、勸學〕伯牙鼓ニ琴ニ、而六馬仰秣。〔注〕仰秣、仰ニ首而秣ニ、聽ニ其聲ニ也。〔淮南子、說山訓〕伯牙鼓レ琴、駟馬仰秣。〔注〕仰秣、仰レ頭吹レ吐、謂ニ馬笑ニ也。〔左思、吳都賦〕軍馬弭レ髦而仰秣、淵魚竦レ鱗而上升。

【仰眠】105 ギョウミン あふむいてねむる。〔梁書、南平王恭傳〕乃仰ニ眠床上ニ、看ニ屋梁ニ而著レ書。〔孟郊、邊城吟詩〕何處鵲突夢、歸思寄ニ仰眠ニ。

【仰面】106 ギョウメン 顏を上にむける。仰ぎみる。〔南史、王僧辯傳〕百姓咸仰ニ面目レ之。〔隋煬帝、望ニ江南ニ曲〕仰面莫レ思ニ梁苑賦、朝來且聽ニ玉人歌ニ。

【仰藥】107 ギョウヤク 毒藥を飲む。〔漢書、息夫躬傳〕其

有二大馬之決一者、仰レ藥而伏レ刃。

【仰藥】108 ギャウラク あふぎたのしむ。上のなす所を下の者が仰ぎ見てたのしむこと。〔詩、小雅、桑扈、交交桑扈、篧二天下亦觀視而仰二樂之一。〕

【仰燎】109 ギャウレウ 高く燃えること。〔南齊書、樂志〕牲鑊俯陳、柴幣仰燎。

【仰戀】110 ギャウレン あがめしたふ。仰望。〔晉書、陶侃傳〕仰二戀天恩一、悲酸咸結。

【仰祿】111 ギャウロク 上から祿をいただく。〔荀子、堯問〕仰祿之士、猶可驕也。

【仰腕】112 ギャウワン 矢を射放つたとき、右腕が後方に撥ねて仰向になること。〔射經〕右手摘レ弦盡レ勢、飜手向後、要二肩臂與一レ腕一般平直一、仰レ掌現二掌紋一、指不レ得二開露一、此爲二厭肘仰腕一。

【仰蕭樓】113 ギャウセウロウ 清、張星鑑（4－9812‥1251）の室名。

【仰節堂】114 ギャウセツダウ 明、曹于汴（5－14297‥199）の室名。

【仰節堂集】115 ギャウセツダウシフ 書名。十四卷。明、曹于汴撰。文十一卷・詩三卷。高攀龍の序に、其の文は羣書を定め學術を明かにするに足り、其の詩は天機を暢べ性蘊を流すに足ると評してゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【仰忠亭】116 ギャウチウテイ 亭の名。廣東省新興縣の南。宋の紹興中、胡銓が新州に謫官せられて、此處に寓居したので、淳熙中、州守の王揆が、其の舊址に因つて亭を作つて仰忠と名づけた。〔廣東通志、肇慶府〕仰忠亭、在二新興縣南百步一、宋紹興中、胡銓謫二官新州一寓二居於此一、去而茅葦叢生矣、淳熙中、王揆來二守州一、即二其舊址一、祀レ公、又作レ亭、名曰二仰忠一、環植二桃梅松竹一、幽趣可レ愛、又闢二地引レ泉、窮冬不レ竭。

【仰事俯育】117 ギャウジフイク 仰事俯畜に同じ。〔日本政記、清和天皇〕貞觀九年冬十月、宜下勉二廉節一期中榮進上、特爲二仰事俯育一。〔龜谷省軒、商法必讀序〕民之仰事俯育資レ焉。

【仰事俯畜】118 ギャウジフチク 上は父母に事へ、下は妻子をやしなふ。〔孟子、梁惠王上〕仰足二以事一父母一、俯足二以畜一妻子一。

【仰卽遵照】119 yang³ chi² tsuen¹ chao⁴ 直ちに其の旨を遵奉すべしの意。

【仰不レ愧レ天】120 アフギテテンニハヂズ 心に不正がなければ、天に對しても恥ぢることはない。〔孟子、盡心上〕仰不レ愧二於天一、俯不レ怍二於人一、二樂也。

【伶】401

㊀ケン 〔集韻〕其淹切 鹽
㊁キヨウ 〔集韻〕居陵切 蒸
㊂キン ゴン 〔後漢書注〕渠禁反 沁

㊀伶侏は樂人。伶侏（1）を見よ。㊁ほこる。つつしむ。通じて矜（8－23852）に作る。〔集韻〕伶、大也、愼也、通作二矜一。㊂㊀禁（8－24743）に通ず。北方の樂。伶侏（2）を見よ。㊃僸（1－1161）に同じ。〔後漢書、班固傳〕伶侏兜離。〔班固、東都賦〕僸侏兜離。

【伶侏】1 シケン 音樂を奏する人。樂人。〔集韻〕伶、伶侏、古樂人。

【伶侏】2 ケイシュ 夷の樂の名。北方の樂を伶といふ、東方の樂を侏といふ。〔後漢書、班固傳下〕伶侏兜離、罔レ不二具集一。〔注〕鄭玄注二周禮一云、四夷之樂、東方曰レ韎、南方曰レ任、西方曰二株離一、北方曰レ禁、禁、字書作レ伶、音渠禁反、侏、音摩葛反、周禮、伶作レ禁、侏作レ韎、兜作レ株也。

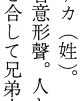
【仗】402

ケン 欠（6－15991）に同じ。〔集韻〕欠、或从レ人。

【仲】403

チユウ 〔集韻〕直衆切 送 ㄓㄨㄥˋ chung⁴

篆文


小篆（小注段）

㊀なか。中（1－73）に通ず。〔說文〕仲、中也、从二人中一、中亦聲。〔段注〕古中・仲二字互通。〔禮、月令〕仲春之月。〔注〕仲、中也。㊁中に在る位。第二番目。〔釋名、釋親屬〕父之弟曰二仲父一、仲中也、位在レ中也。㊂字に加へて兄弟の順の第二位を表はす。〔說文通訓定聲〕仲、按、古者幼名、冠字、冠字謂二之且字一、且、荐也、表レ之以レ字、所レ以爲二伯仲叔季之籍一也、殷禮、二十爲レ字之時、卽兼二伯仲叔季一、周禮、始字不レ評二伯仲一、至二五十一乃加而評レ之、女子則笄而字、卽稱二伯姬仲姬一、又兄弟之數逾二四人一者、殷禮則積レ仲、周禮則積レ叔。〔禮、檀弓上〕幼名、冠字、五十以二伯仲一。㊃百歳を經た鼠。〔抱朴子、對俗〕百歳鼠色白、善憑レ人而卜、名曰二仲。㊄樂器。笋（8－26014）に通ず。〔爾雅、釋樂〕大簫謂二之產、其中謂二之仲一。〔釋文〕仲、或作レ筍、同。㊅姓。〔通志、氏族略、以レ次爲レ氏〕仲氏、高辛氏才子八元、仲堪仲熊之後、又仲虺爲二湯左相一、其後並爲二仲氏一、又魯公子慶父曰二共仲一、亦爲二仲氏一、亦爲二仲孫氏一、慶父有二弒レ君之罪一、更爲二孟氏一、又公子譜云、宋莊公子仲之後、亦稱二仲氏一。㊆邦㊀なか。人と人との關係。㊁なかだち。

名乘 ナカ（姓）。

解字 會意形聲。人と中の合字。中は又聲。人と中とを合して兄弟中の第二位のものをいふ。假借して中とする。〔說文通訓定聲〕仲、言二位在レ中也一、云云、假借爲レ中。

【仲哀】1 チユウアイ 人皇第十四代の帝諡。〔書、大誥〕肆予沖人、永思レ艱、曰、嗚呼、允蠢、鰥寡哀哉。〔盂籀錄〕仲哀天皇仲字、恐從二水傍字一、古帝諡號、無下不レ有二意義本據一者上、唯仲字、是伯仲之仲、不レ應レ配レ諡、沖・仲、艸體相近而誤、猶二淳和天皇一、宋史作二浮化天皇一耳、此亦艸體之誤也、且古帝諡號、摸二漢諸帝一者最多、漢有二沖帝・哀帝一、皆天折之稱、恐據レ此稱二沖哀一也。

【仲安】2 チユウアン 字號。㊀後魏、李孚（6－14459‥698）の字。㊁明、汪坦（6－17154‥101）の字。㊂清、戴煦（5－11685‥44）の號。

【仲逸】20 チユウイツ 宋、郭維（11－39474‥5）の字。

【仲尹】21 チユウイン 清、彭肇洙（4－10003‥195）の字。

【仲因】22 チユウイン 清、關天培（11－41470‥249）の字。

【仲寅】23 チユウイン 字號。㊀明、章陬（8－25761‥91）の字。㊁明、王亮采（7－20823‥2172）の字。

【仲伊】3 チユウイ 字號。㊀明、任洛（1－416‥194）の字。㊁清、汪宗沂（6－17154‥281）の字。

【仲怡】4 チユウイ 明、季篪（3－6965‥185）の字。

【仲貽】5 チユウイ 字號。㊀宋、高世則（12－45313‥1239）の字。㊁明、許穀（10－35298‥88）の字。

【仲異】6 チユウイ 三國吳、孫瑜（3－6987‥284）の字。

【仲威】7 チユウイ 字號。㊀後漢、禮震（8－24844‥121）の字。㊁後漢、朱寵（6－14424‥460）の字。㊂宋、趙振（10－37171‥231）の字。㊃明、温儀（7－17968‥30）の字。㊄清、王鉞（7－20823‥73）の字。

【仲韋】8 チユウイ 清、查昇（6－14643‥37）の字。

【仲偉】9 チユウイ 梁、鍾嶸（11－40672‥30）の字。

【仲蔚】10 チユウウツ 明、兪允文（1－1437‥80）の字。

【仲蔚蓬蒿】11 チユウウツホウカウ 蒙求の標題。後漢の張仲蔚が窮素に居り、其の家は蓬蒿が人を沒する程であつた故事。〔高士傳、中、張仲蔚〕張仲蔚者、平陵人也、與二同郡魏景卿一、俱修二道德一、隱レ身不レ仕、明二天官一、博物、善屬レ文、好二詩賦一、常居二窮素一、所レ處蓬蒿沒レ人、閉門養レ性、不レ治二榮名一、時人莫レ識、唯劉龔知レ之。

【仲友】12 チユウユウ 宋、張惟孝（4－9812‥772）の字。

【仲由】13 チユウユウ ㊀春秋、魯の卞の人。字は子路、又は季路。孔子の弟子。勇を以て名高い。嘗て孔悝の邑宰となり、蒯聵の亂に孟縶に殺された。〔左氏、定、十二・哀、十五〕・〔史記、六十七〕。㊁明、徐昭（4－10110‥174）の字。

【仲祐】14 チユウユウ 宋、呂公緯（2－3386‥201）の字。

【仲猷】15 チユウユウ 宋、楊徽之（6－15112‥467）の字。

【仲育】16 チユウイク 清、周厚堉（2－3441‥658）の字。

【仲彧】17 チユウイク 後漢、孫期（3－6987‥57）の字。

【仲一】18 チユウイツ 宋、沈體仁（6－17189‥589）の字。

【仲乙】19 チユウイツ 字號。㊀漢、宋果（3－7078‥65）の字。㊁清、戴煦（5－11685‥44）の號。

【仲羽】24 チュウウ 元、李翼(6−14459‥783)の字。

【仲迂】25 チュウウ 元、吳迂(2−3365‥14)の字。

【仲烏】26 チュウウ 複姓。〔萬姓統譜〕仲烏嬴、見㆓容齋隨筆㆒。

【仲雲】27 チュウウン 字號。❶清、金寶田(11−40152‥1359)の字。❷清、吳振棫(2−3365‥679)の字。

【仲永】28 チュウエイ 宋、蔣長源(9−31820‥192)の字。

【仲英】29 チュウエイ 字號。❶後漢、魏桓(12−45872‥38)の字。❷宋、吳雄(2−3365‥390)の字。❸清、文世光(5−13450‥1011)の字。

【仲瑛】30 チュウエイ 元、顧德輝(12−43689‥340)の字。

【仲榮】31 チュウエイ 明、沈萬三(6−17189‥627)の字。

【仲穎】32 チュウエイ 字號。❶後漢、董卓(9−31433‥123)の字。❷清、王之銳(7−20823‥1545)の字。

【仲瑤】33 チュウエウ 明、黄寶(12−47926‥750)の字。

【仲易】34 チュウエキ 字號。❶宋、虞剛簡(9−32723‥160)の字。❷清、趙希乾(10−37171‥455)の字。

【仲益】35 チュウエキ 字號。❶五代、鍾謨(11−40672‥107)の字。❷宋、魚崇諒(12−45956‥330)の字。❸宋、孫覿(3−6987‥231)の字。❹宋、王友(7−20823‥21)の字。❺清、王謹培(7−20823‥1331)の號。

【仲曄】36 チュウエフ 唐、敬暉(5−13303‥39)の字。

【仲囦】37 チュウエン 宋、趙宗萬(10−37171‥764)の字。

【仲兗】38 チュウエン 後漢、夏承(3−5720‥164)の字。

【仲衍】39 チュウエン ❶太古の人。皐陶の子伯翳の後。鳥身人首であつたといふ。〔潛夫論、志氏姓〕後嗣有㆓皐陶㆒事㆑舜、云云、其子伯翳、能議㆓百姓㆒、云云、舜賜㆓姓嬴㆒、後有㆓仲衍㆒、鳥體人元、爲㆓夏帝大戊御㆒。❷明、孫蕡(3−6987‥263)の字。

【仲淵】40 チュウエン 字號。❶宋、李縕(6−14459‥89)の字。❷宋、王珠(7−20823‥552)の字。❸元、高源(12−45313‥305)の字。❹元、李源道(6−14459‥1203)の字。❺元、劉德淵(燕の人)(2−2224‥1239)の字。❻明、何弘仁(1−511‥268)の字。❼明、胡深(處州の人)(9−29400‥195)の字。❽清、李如滂(6−14459‥1482)の字。

【仲淹】41 チュウエン 字號。❶隋、王通(7−20823‥816)の字。❷明、汪道貫(6−17154‥303)の字。

【仲遠】42 チュウエン 字號。❶後漢、應劭(4−11330‥131)の字。❷後漢、周毖(2−3441‥427)の字。❸晉、刁暢(2−1846‥39)の字。❹後魏、沈文秀(6−17189‥635)の字。❺陳、周敷(2−3441‥445)の字。❻隋、劉弘(2−2224‥275)の字。❼宋、義太初(9−28504‥310)の字。❽宋、京鏜(1−299‥79)の字。❾宋、蔡延慶(9−31818‥144)の字。❿宋、蔣猷(9−31820‥4)の字。⓫宋、劉景(2−2224‥231)の字。⓬元、岳浚(4−8001‥18)の字。⓭元、張可久(4−9812‥840)の字。⓮清、張曜孫(4−9812‥816)の字。

【仲翁】43 チュウヲウ 漢、疏廣(7−22000‥49)の字。

【仲歐】44 チュウオウ 清、顧脩(12−43689‥89)の字。

【仲恩】45 チュウオン 後漢、桓郁(6−14774‥5)の字。

【仲溫】46 チュウヲン 字號。❶宋、曉瑩(5−14176‥14)の字。❷明、宋克(3−7078‥97)の字。

【仲可】47 チュウカ 字號。❶宋、蔣行簡(9−31820‥128)の字。❷明、孫宜(3−6987‥62)の字。

【仲河】48 チュウカ 後漢、袁湯(10−34152‥102)の字。

【仲夏】49 チュウカ 夏三箇月の中の月。即ち陰暦五月の異名。なかのなつ。〔書、堯典〕日永星火、以正㆓仲夏㆒。〔禮、月令〕仲夏之月、日在㆓東井㆒。〔注〕仲夏者、日月會㆓於鶉首㆒、而斗建㆑午之辰也。〔淮南子、時則訓〕仲夏之月、招搖指㆑午。

〖仲夏紀〗50 チュウカキ 呂氏春秋の篇名。

【仲家】51 チュウカ 後漢の袁術が天子となつて號した名。又、冲家とも書く。〔後漢書、袁術傳〕建安二年、以㆓河內張炯符命㆒、遂果潛號、自稱㆓仲家㆒。〔注〕仲、或作㆑冲。

【仲嘉】52 チュウカ 字號。❶宋、汪大猷(6−17154‥292)の字。❷明、許士柔(10−35298‥291)の字。❸明、汪道會(6−17154‥302)の字。❹清、徐穎柔(4−10110‥340)の字。❺清、張文嘉(4−9812‥1474)の字。

【仲我】53 チュウガ 清、朱孔彰(6−14424‥767)の字。

【仲雅】54 チュウガ ❶中位の杯。大を伯雅、小を季雅といふ。〔典論、酒誨〕荊州牧劉表、跨㆓有南土㆒、子弟驕貴、並好㆑酒爲㆓三爵㆒、大曰㆓伯雅㆒、次曰㆓仲雅㆒、小曰㆓季雅㆒、伯雅受㆓七勝㆒、中雅受㆓六勝㆒、季雅受㆓五勝㆒。❷字號。㋑宋、張佶(4−9812‥191)の字。㋺明、朱夢炎(6−14424‥1004)の字。

【仲介】55 チュウカイ 兩者の間に立つて世話をする。なかだち。なかうど。

【仲交】56 チュウカウ 明、盛時泰(8−23005‥213)の字。

【仲好】57 チュウカウ 明、馮從吾(12−44579‥237)の字。

【仲行】58 チュウカウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕左傳、秦三良仲行之後、晉有㆓仲行氏㆒。❷字號。㋑明、方有執(5−13620‥479)の字。㋺清、汪行恭(6−17154‥186)の字。

【仲珩】59 チュウカウ 明、宋璲(3−7078‥144)の字。

【仲耕】60 チュウカウ 宋、錢佃(11−40563‥157)の字。

【仲高】61 チュウカウ 字號。❶宋、杜旃(6−14477‥179)の字。❷明、朱勝(6−14424‥394)の字。

【仲康】62 チュウカウ ❶夏の王。太康の弟。在位十三年。史記には中康に作る。〔書、胤征〕惟仲康、肇位四海。❷字號。㋑後漢、魯恭(12−46013‥20)の字。㋺三國魏、許褚(10−35298‥173)の字。㋩金、鄭時昌(11−39647‥423)の字。

【仲綱】63 チュウカウ 字號。❶後魏、元羅(1−1340‥586)の字。❷宋、李紘(6−14459‥246)の字。❸元、黄常(12−47926‥456)の字。

【仲衡】64 チュウカウ 字號。❶明、何鈞(1−511‥53)の字。❷明、丁璿(1−2‥126)の字。❸明、趙銓(10−37171‥261)の字。

【仲鏗】65 チュウカウ 清、朱彭年(6−14424‥961)の字。

【仲格】66 チュウカク 宋、趙顒(10−37171‥20)の字。

【仲覺】67 チュウカク 宋、蔡模(9−31818‥116)の字。

【仲岳】68 チュウガク 清、羅澤南(9−28397‥384)の字。

【仲學】69 チュウガク 字號。❶宋、林宗道(6−14551‥376)の字。❷明、蔣以化(9−31820‥108)の字。❸明、李用敬(6−14459‥1973)の字。

【仲鶡】70 チュウカツ 明、戴冠(信陽の人)(5−11685‥47)の字。

【仲洽】71 チュウカフ 晉、摯虞(5−12633‥1)の字。

【仲咸】72 チュウカン 元、戚崇僧(5−11594‥60)の字。

【仲涵】73 チュウカン 字號。❶明、鄭淵(11−39647‥27)の字。❷清、王洛(7−20823‥1050)の字。

【仲堪】74 チュウカン 舜の臣。高辛氏の才子。八元の一。舜に用ひられ、五教を四方に布いた。〔左氏、文、十八〕・〔史記、六十七〕・〔潛夫論、五德〕。

【仲間】75 なかま ❶己と事を同じうする者。同志。伴侶。〔博多小女郎波枕、上〕頭を頭と敬ひし、禮儀ぞ仲間の花香なる。❷チュウゲン 中間の❹に同じ。

【仲幹】76 チュウカン 北齊、房豹(5−11714‥122)の字。

【仲僩】77 チュウカン 宋、趙仲僩(10−37171‥784)の一名。

【仲澗】78 チュウカン 宋、趙仲僩(10−37171‥784)の一名。

【仲緘】79 チュウカン 字號。❶五代前蜀、林罕(6−14551‥49)の字。❷明、堵允錫(3−5279‥26)の字。

【仲簡】80 チュウカン ❶宋、江都の人。字は畏之。楊億の弟子。進士。官は天章閣待制・廣州の長官・兵部郎中。〔宋史、三百四〕。❷明、張簡(4−9812‥150)の字。

【仲含】81 チュウガン 字號。❶明、周賢宣(2−3441‥640)の字。❷明、曾櫻(5−14299‥2)の字。

【仲顏】82 チュウガン ❶複姓。〔通志、氏族略、以㆑名爲㆑氏〕左傳、魯有㆓仲顏莊叔・齊臨淄大夫仲顏據㆒。❷宋、代淵(1−386‥6)の字。

【仲季】83 チュウキ ❶仲と季。仲は中子。季は末子。〔易林〕利㆓我仲季㆒。❷揚雄の太玄經の九序の第六番目。〔太元經、太玄數〕九序、六爲㆓仲季㆒。

【仲奇】84 チュウキ 明、程勝(8−25081‥75)の字。

【仲姬】85 チュウキ 元、管道昇(8−26162‥198)の字。

【仲紀】86 チュウキ 明、張正常(4−9812‥1243)の字。

【仲虺】87 チュウキ 殷の人。湯王の左相奚仲の後。湯王が夏から歸り、大坰に至つた時、仲虺が誥を作つた。尙書正義に、字は仲、名は虺といひ、史記には中䨓に作り、荀子の堯問篇には中蘬に作る。仲虺之誥を見よ。〔左氏、宣、十二・襄、十四・三十〕・〔史記、三〕。

〖仲虺之誥〗88 チュウキシカウ 書經、商書の篇名。東晉の僞古文。殷の湯王は、夏の桀王を征誅したが、古の堯舜の揖讓に慚づるところがあり、將來之を口實として反逆者の出るのを懼れたので、仲虺が之を釋き、併せて其の臣民に曉したもの。內容は孟子の所謂、一夫紂を誅するの思想と同じ。〔書、仲虺之誥序〕湯歸㆑自㆑夏、至㆓于大坰㆒、仲虺作㆑誥。

【仲軌】89 チュウキ 後魏、李憲(6−14459‥315)の字。

【仲起】90 チュウキ 伏羲氏の六佐の一。海・陸のこと

を主る。〔聖賢羣輔錄〕金提主ニ化俗ニ、鳥明主ニ建福ニ、視默主ニ災惡ニ、紀通爲ニ中職ニ、仲起爲ニ海陸ニ、陽侯爲ニ江海ニ、右伏羲六佐、六佐出レ世。〔注〕宋均曰、主ニ平地ニ、兼統レ海也。

【仲基】91 字號。❶元、黎載(12－47994‥2 9)の字。❷清、左宗植(4－8720‥468)の字。

【仲暉】92 宋、樓炤(6－15430‥43)の字。

【仲熙】93 字號。❶後魏、李郢(6－14459‥1 85)の字。❷後周、扈載(5－11746‥7)の字。❸宋、高化(12－45313‥208)の字。❹明、鄒緝(11－39562‥27)の字。❺清、李林松(6－14459‥2 000)の字。

【仲毅】94 字號。❶明、夏毅(3－5720‥53)の字。❷清、郭崑燾(11－39474‥297)の字。

【仲輝】95 明、黎光(12－47994‥14)の字。

【仲璣】96 明、聞人詮(9－29104‥35)の字。

【仲夔】97 清、陳大章(11－41698‥1094)の字。

【仲儀】98 字號。❶宋、郭贄(11－39474‥10 4)の字。❷宋、王應鳳(7－20823‥1219)の字。❸宋、王素(7－20823‥709)の字。❹明、于守禮(1－252‥121)の字。

【仲求】99 清、莊士敏(9－31035‥165)の字。

【仲紀】100 宋、趙顧(10－37171‥69)の字。

【仲舅】101 母の弟をいふ。〔稱謂錄、母之弟、仲舅〕裴延翰樊川集後序、竊觀ニ仲舅之文ニ高騁夐厲、旁紹曲摭。

【仲吉】102 宋、鄧寧(11－39630‥91)の字。

【仲嚮】103 後漢、田盛(7－21723‥178)の字。

【仲饗】104 後漢、周景(2－3441‥144)の字。

【仲弓】105 字號。❶春秋魯、冉雍(2－1514‥20)の字。❷後漢、何湯(1－511‥146)の字。❸後漢、陳寔(11－41698‥366)の字。❹宋、章甫(8－25761‥71)の字。❺明、韓昌箕(12－43159‥307)の字。

【仲躬】106 宋、曾逮(5－14299‥115)の字。

【仲居】107 ❶字號。㋑梁、鄧元起(11－39630‥144)の字。㋺清、張成(4－9812‥459)の字。❷㋑德川時代の奥向の女中。㋺遊廓料理店などで、遊女を扶けて客を取りなす老巧の女。〔心中二枚繪草紙、中〕其の上お前は當もない花車や娘仲居にまで、仕着をして。

【仲虛】108 明、狄沖(7－20290‥21)の字。

【仲擧】109 字號。❶後漢、陳蕃(11－41698‥513)の字。❷宋、司馬掁(2－3257‥244)の字。❸宋、張頡(4－9812‥265)の字。❹宋、陳鱉(11－41698‥92)の字。❺宋、汪綱(6－17154‥23)の字。❻元、張翥(4－9812‥421)の字。❼明、梅鵬祚(6－14830‥252)の字。❽明、楊翥(6－15112‥218)の字。

【仲御】110 字號。❶晉、夏統(3－5720‥223)の字。❷明、周鑣(2－3441‥456)の字。

【仲魚】111 清、陳鱣(11－41698‥490)の字。

【仲恭】112 ❶字號。㋑三國魏、毌丘儉(6－16722‥2)の字。㋺宋、彭欽(4－10003‥23)の字。㋩宋、楊次山(6－15112‥585)の字。㋥宋、羅靖(9－28397‥159)の字。㋭明、顧大韶(12－43689‥318)の字。❷第八十五代の帝諡。〔公文錄、神祇官部〕明治三年庚午五月、神祇官ノ稟申ニ云ク、云云、仲ノ伯仲ノ仲也、第二子トアリ、諡法ニ敬事供上(供ハ奉也)曰レ恭トアリ。〔逸周書、諡法解〕敬事供レ上曰レ恭、尊レ賢貴レ義曰レ恭。

【仲玉】113 字號。❶唐、李石(6－14459‥513)の字。❷宋、黃振龍(12－47926‥1171)の字。❸宋、吳玨(興化の人)(2－3365‥68)の字。❹元、羅壁(9－28397‥245)の字。❺明、衞景瑗(10－34074‥131)の字。❻明、鄒琥(11－39753‥9)の字。

【仲均】114 金、魏子平(12－45872‥213)の字。

【仲欽】115 宋、李肅(6－14459‥437)の字。

【仲鈞】116 清、朱大韶(6－14424‥909)の字。

【仲覲】117 明、周炳謨(2－3441‥854)の字。

【仲瞿】118 清、王曇(7－20823‥866)の字。

【仲愚】119 字號。❶元、張師愚(4－9812‥112 3)の字。❷清、孫寶侗(3－6987‥522)の字。❸清、王仲(7－20823‥795)の字。

【仲虞】120 字號。❶後漢、鄭均(11－39647‥79)の字。❷清、姚配中(3－6202‥196)の字。

【仲化】121 字號。❶明、沈鯉(6－17189‥390)の字。❷明、馬蒔(12－44572‥262)の字。

【仲華】122 字號。❶後漢、鄧禹(11－39630‥11)の字。❷後漢、樊曄(6－15414‥7)の字。❸後魏、劉懋(2－2224‥608)の字。❹宋、陳太素(11－41698‥1107)の字。❺元、文才(5－13450‥344)の號。❻明、朱榮(6－14424‥43)の字。❼清、榮祿(6－15273‥170)の字。❽清、兪萬春(1－1437‥132)の字。❾清、凌堦(2－1669‥46)の字。

【仲回】123 字號。❶魏、王丹(7－20823‥764)の字。❷宋、臧丙(9－30083‥59)の字。❸清、譚咏昭(10－35978‥42)の字。

【仲晦】124 字號。❶唐、許渾(10－35298‥92)の字。❷宋、朱熹(6－14424‥108)の字。❸金、女奚烈守愚(3－6036‥345)の字。❹元、藍光(9－32258‥21)の字。❺元、劉秉忠(2－2224‥1310)の字。

【仲光】125 字號。❶宋、黃隱(12－47926‥34)の字。❷元、趙奕(10－37171‥30)の字。❸明、胡纘宗(9－29400‥104)の字。❹明、徐謙(4－10110‥121)の字。❺明、方賓(5－13620‥404)の字。❻明、王賓(長州の人)(7－20823‥916)の字。

【仲宏】126 字號。❶元、李唐(6－14459‥551)の字。❷明、茹洪(9－30921‥15)の字。❸明、譚廣(10－35978‥12)の字。❹明、王宇(7－20823‥43)の字。

【仲黃】127 後漢、韓韶(12－43159‥146)の字。

【仲廣】128 宋、傅大聲(1－939‥193)の字。

【仲桓】129 字號。❶後漢、楊厚(6－15112‥152)の字。❷晉、沈矯(6－17189‥141)の字。

【仲寬】130 字號。❶宋、兪偉(1－1437‥1)の字。❷元、袁裕(10－34152‥148)の字。❸元、劉容(2－2224‥631)の字。❹元、和裕(2－3490‥389)の字。

【仲環】131 清、朱綬(6－14424‥378)の字。

【仲勳】132 明、顧仕隆(12－43689‥273)の字。

【仲兄】133 なかの兄。仲氏。〔近古史談、織篇、藝侯戒ニ諸子ニ〕元就悦以爲レ然、顧ニ諸子ニ曰、宜レ從ニ仲兄之言ニ。

【仲圭】134 字號。❶宋、葉采(9－31387‥50)の字。❷元、吳鎭(2－3365‥313)の字。

【仲扈】135 貝の名。蛤(10－33023)の異名。〔事物異名錄、水族、蛤〕水族加恩簿、合州刺史、仲扈既命レ之、爲ニ含津令ニ、陞レ之爲ニ殼誠君ニ矣、粉身功大、宜レ授ニ紫暉將軍・甘鬆左右丞監試・甘圓內史ニ。

【仲卿】136 字號。❶漢、乙瑛(1－161‥2)の字。❷漢、衞青(10－34074‥74)の字。❸漢、虞俊(9－32723‥89)の字。❹漢、王章(7－20823‥530)の字。❺後漢、陳綱(11－41698‥81)の字。❻明、倪嵩(1－792‥19)の字。

【仲惠】137 清、方若徽(5－13620‥544)の字。

【仲景】138 後漢、張機(4－9812‥178)の字。

【仲敬】139 字號。❶明、梁臨(6－14825‥195)の字。❷元、申屠澈(7－21726‥122)の字。

【仲經】140 後漢、趙典(10－37171‥296)の字。

【仲慶】141 北齊、司馬膺之(2－3257‥353)の字。

【仲璟】142 明、劉璟(2－2224‥235)の字。

【仲蕙】143 清、方若徽(5－13620‥544)の字。

【仲褧】144 明、黃褧(12－47926‥325)の字。

【仲橋】145 橋の名。陝西省醴泉縣の東北にある。〔資治通鑑、晉紀〕成帝、咸和四年、趙南陽王胤、帥ニ衆數萬ニ、自ニ上邽ニ趨ニ長安ニ、云云、諸郡戍、夏皆起レ兵應レ之、胤軍ニ于仲橋ニ、〔注〕鄭國渠逕ニ仲山ニ、渠上有レ橋、謂ニ之仲橋ニ、在ニ九嵕山之東ニ、宋白曰、雍州醴泉縣卽仲橋城。

【仲傑】146 元、張弘略(4－9812‥1037)の字。

【仲潔】147 清、朱綬(6－14424‥378)の字。

【仲協】148 清、鄭恭和(11－39647‥339)の字。

【仲業】149 後魏、張偉(4－9812‥11)の字。

【仲堅】150 字號。❶宋、梁固(6－14825‥75)の字。❷金、翟永固(9－28727‥47)の字。

【仲賢】151 字號。❶宋、鄭文寶(11－39647‥549)の字。❷宋、晁補之(5－13889‥11)の字。❸宋、文寶(5－13450‥754)の字。❹宋、梁適(6－14825‥155)の字。❺元、劉鈇(2－2224‥186)の字。❻元、劉貫道(2－2224‥846)の字。❼明、黃

獻(12－47926‥353)の字。㈥明、蔣賢(9－31820‥43)の字。㈦明、朱慶聚(6－14424‥738)の字。㈧明、方維儀(5－13620‥476)の字。

【仲謙】152 字號。❶宋、姜克讓(3－6205‥86)の字。❷宋、趙公豫(10－37171‥546)の字。❸宋、莫叔光(9－31078‥114)の字。❹元、張文謙(4－9812‥1483)の字。㈤明、顧謙(12－43689‥67)の字。㈥明、陳撝(11－41698‥144)の字。㈦清、帥遠燁(4－8886‥33)の字。㈧清、濮澄(7－18526‥14)の字。❾清、李福培(6－14459‥1893)の字。

【仲權】153 字號。❶宋、吳鎰(2－3365‥12)の字。❷宋、李巽(6－14459‥544)の字。❸金、毛碩(6－16772‥130)の字。❹明、程可中(8－25081‥164)の字。

【仲顯】154 金、路伯達(10－37524‥130)の字。

【仲元】155 字號。❶漢、李弘(6－14459‥33)の字。❷晉、江績(6－17140‥263)の字。❸後魏、張湛(4－9812‥539)の字。❹宋、黃禹錫(12－47926‥992)の字。㈤宋、饒魯(12－44400‥57)の字。㈥元、王德元(7－20823‥1990)の字。

【仲玄】156 宋、延壽(4－9569‥107)の字。

【仲言】157 ❶唐、李訓(6－14459‥271)の初名。❷字號。㈠梁、何遜(1－511‥141)の字。㈡宋、子溫(3－6930‥82)の字。㈢宋、戚綸(5－11594‥49)の字。㈣宋、陳恕(11－41698‥356)の字。㈤宋、王明清(7－20823‥2124)の字。㈥清、吳訥(2－3365‥338)の字。㈦清、唐汝詢(2－3709‥447)の字。

【仲彥】158 字號。❶漢、矯愼(8－24015‥38)の字。❷晉、劉喬(2－2224‥237)の字。

【仲紘】159 雅樂の曲態十操の一。延只拍子の曲態をいふ。採桑老は其の例である。〔十操記〕仲紘拍子、二重打也。

【仲源】160 字號。❶南朝宋、褚淡之(10－34457‥49)の字。❷宋、何灌(1－511‥56)の字。❸明、源湜(7－17926‥28)の字。

【仲嚴】161 字號。❶後漢、魯峻(12－46013‥82)の字。❷宋、李宥(6－14459‥25)の字。❸清、黃中松(12－47926‥1243)の字。

【仲古】162 宋、折彥質(5－11890‥234)の字。

【仲固】163 宋、劉韞(2－2224‥32)の字。

【仲虎】164 字號。❶宋、蔣炳文(9－31820‥217)の字。❷元、胡炳文(9－29400‥615)の字。❸清、徐建寅(4－10110‥405)の字。

【仲祜】165 民國、丁福保(1－2‥302)の字。

【仲公】166 ❶年長の弟に對する敬稱。長弟。〔後漢書、丁鴻傳〕留レ書與レ盛曰、願讓二爵仲公一。❷字號。㈠漢、師丹(4－8916‥134)の字。㈡後漢、雷義(12－42245‥25)の字。㈢元、李存(6－14459‥542)の字。

【仲弘】167 字號。❶南朝宋、何偃(1－511‥14)の字。❷元、倪士毅(1－792‥48)の字。❸元、楊載(6－15112‥161)の字。❹明、滕毅(7－18036‥12)の字。㈤明、汪垍(6－17154‥32)の字。

【仲厚】168 明、郭敦(11－39474‥180)の字。

【仲恆】169 ❶清、錢塘の人。字は道久。號は雪亭。著に詞韻がある。〔四庫提要〕二百〕❷明、仙克謹(1－374‥263)の字。

【仲谷】170 元、吳定翁(2－3365‥796)の字。

【仲佐】171 金、張汝弼(4－9812‥1204)の字。

【仲才】172 字號。❶後魏、山偉(4－7869‥21)の字。❷元、戴璹(5－11685‥103)の字。❸明、杜智(6－14477‥197)の字。

【仲采】173 唐、陸璟(11－41708‥118)の字。

【仲裁】174 爭つてゐる者の中に入つて雙方を和解させる。又、其のこと。居中調停。

【仲裁契約】175 仲裁人に民事上の爭の裁斷をさせることについての當事者間の契約。

【仲裁裁判】176 國際法上、一つの國家と他の國家とが爭議を生じて互に相讓らないとき、第三者が其の中間に入つて判決をする、其のさばき。

【仲材】177 隋、程杉(8－25081‥54)の字。

【仲莊】178 字號。❶宋、沈僩(6－17189‥88の字。❷宋、王希逸(7－20823‥1279)の字。❸明、戴安仲(5－11685‥148)の字。

【仲藻】179 北齊、封子繪(4－7426‥188)の字。

【仲二】180 民國、曹錕(5－14297‥87)の字。

【仲山】181 ❶山名。陝西省涇陽縣の西北に在り、北は淳化縣の界に跨がる。俗に漢の高祖の兄、仲が居た所といふ。中山。〔涇陽縣志〕仲山、東北接二嵯峨西楚一、中隔二泊谷一、西南連二九嵕山一、涇河逕二其中一。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、涇陽縣〕中山、漢元鼎初、獲二寶鼎於汾陰一、薦二之甘泉一。鼎至二中山一、氤氳有二黃氣一、蓋焉、俗譌爲二仲山一云。漢高祖兄仲居レ此。❷字號。㈠後漢、孔嵩(3－6933‥153)の字。㈡三國吳、沈珩(6－17189‥76)の字。㈢北齊、庫狄伏連(4－9330‥48)の字。㈣唐、王丘(7－20823‥220)の字。㈤宋、許安仁(10－35298‥229)の字。㈥宋、柴望(6－14664‥75)の字。㈦宋、朱壽隆(6－14424‥848)の字。㈧宋、劉元高(2－2224‥880)の字。㈨宋、林邑(6－14551‥157)の字。㈩明、徐源(4－10110‥125)の字。⑪明、王問(7－20823‥1017)の號。⑫清、徐咸清(4－10110‥365)の字。⑬清、彭翊(4－10003‥119)の字。⑭清、廖壽恒(4－9464‥53)の字。⑮清、盧生甫(8－23050‥258)の字。

【仲山先生】182 明、王問(7－20823‥1017)の尊稱。

【仲珊】183 民國、曹錕(5－14297‥87)の字。

【仲子】184 ❶兄弟中のなかの子。なかつこ。〔康熙字典、仲、與レ中通、云云、仲子、亦曰二中子一。〔史記、楚世家、中子紅爲二鄂王一。❷春秋、鄭の祭仲をいふ。〔詩、鄭風、將仲子〕將仲子兮、無レ踰二我里一。〔傳〕仲子、祭仲也。❸漢の宋仲子をいふ。〔晉書、律歷志下〕漢末宋仲子、集二七歷一、以考二春秋一。❹漢の雍仲子をいふ。〔記事珠〕漢雍仲子、進二南海香物一、拜二涪陽尉一、人謂二香尉一。❺字號。㈠後漢、宋弘(3－7078‥94)の字。㈡後漢、宋衷(3－7078‥170)の字。㈢後漢、王良(7－20823‥1064)の字。㈣明、胡舜咨(9－29400‥499)の字。㈤清、陸震(11－41708‥157)の字。

【仲之】185 明、殷善(6－16627‥96)の號。

【仲止】186 宋、薛嵎(9－32123‥40)の字。

【仲氏】187 ❶二番目の兄。仲兄。〔詩、小雅、何人斯〕伯氏吹レ壎、仲氏吹レ篪。〔箋〕伯仲、喩二兄弟一也。❷衞の戴嬀。〔詩、邶風、燕燕〕仲氏任只、其心塞淵。〔傳〕仲氏、戴嬀字也。

【仲氏易】188 書名。三十卷。清、毛奇齡撰。易に變易・交易・反易・對易・移易の五義があるとし、序卦・分篇・繫辭に對して新しい解釋を加へたもの。大抵は古說に據つて說を立てゐる。〔四庫提要、經、易類〕

【仲仕】189 ナカ 貨物又は材料の運搬に從事する勞働者。勞働の場所に從つて、沖仲仕・濱仲仕・工場仲仕等に分れてゐる。

【仲至】190 字號。❶宋、鞏豐(12－42819‥12)の字。❷宋、留正(7－21808‥102)の字。❸宋、王欽臣(7－20823‥1330)の字。

【仲志】191 北齊、陸操(11－41708‥117)の字。

【仲思】192 字號。❶宋、榮諤(6－15273‥8)の字。❷宋、楊道夫(6－15112‥680)の字。

【仲思棗】193 仙人仲思の植ゑたといふ棗の一種。仙棗。〔本草、仲思棗〕釋名、仙棗、志曰、北齊時、有二仙人仲思一、得二此棗一種レ之、因以爲レ名。集解、志曰、仲思棗、形如二大棗一。

【仲師】194 字號。❶後漢、鄭衆(11－39647‥167)の字。❷陳、沈烜(6－17189‥202)の字。❸唐、楊衡(6－15112‥55)の字。❹宋、樊知古(6－15414‥104)の字。

【仲嗣】195 三國吳、張承(4－9812‥427)のとりつぎ。

【仲次】196 宋、蘇籀(9－32427‥145)の字。

【仲璽】198 明、劉玉(磁州の人)(2－2224‥183)の字。

【仲秋】199 秋三箇月の中の月。卽ち陰曆八月。仲商。なかのあき。八月十五日を指す中秋は、これとは別の語。〔書、堯典、宵中星虛、以殷二仲秋一〕〔禮、月令〕仲秋之月、日在レ角。

【仲秋紀】200 呂氏春秋の篇名。

【仲秋獵田】201 晉の鼓吹曲の名。晉、傅玄作。晉は文德があつたが、文の一方にのみ偏して武事を廢することをせず、時に順つてよく武を用ひたことをのべる。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、仲秋獵田〕古遠期行、古今樂錄曰、

仲秋獵田、言ㇾ大晉雖ㇾ有ニ文德一、不ㇾ廢ニ武事一、順ㇾ時以殺伐ㇾ也。（傅玄、仲秋獵田）仲秋獵田、金德常剛、涼風清且厲、凝露結爲ㇾ霜、白臧司ㇾ辰、蒼隼時鷹揚、鷹揚猶ニ尚父一、順ㇾ天以殺伐、春秋時序、雷霆挺ニ威曜一、進退由ニ鉦鼓一、致ㇾ禽祀ニ祐、羽毛之用、充ニ軍府一、赫赫大晉、德芬烈陵、二三敷ㇾ化、以ㇾ文雖ㇾ治、不ㇾ廢ニ武光一、宅ニ四海一、永享ニ天之祐一。

【仲秋丁祭】202 チュウシュウテイサイ　陰暦八月の初の丁日に行ふ孔子祭。上丁（1‥13‥580）・釋奠（11‥40129‥64）を見よ。〔和漢三才圖會、時候類、釋奠〕按、每ニ八月初丁日一、祭ニ孔子及十哲一、或用ニ次丁日一、謂ニ之釋奠一。

【仲修】203 チュウシュウ　字號。仲脩。❶宋、周常（2‥3441‥256）の字。❷宋、董德修（9‥31433‥247）の字。❸金、李復亨（6‥14459‥1889）の字。❹元、劉永之（2‥2224‥699）の字。❺明、黃愼（12‥47926‥520）の字。❻明、桑愼（6‥14772‥85）の字。❼明、晉爵（5‥13898‥43）の字。❽明、張士隆（4‥9812‥1089）の字。❾明、劉效祖（2‥2224‥747）の字。❿清、譚獻（10‥35978‥15）の字。

【仲脩】204 チュウシュウ　仲修を見よ。

【仲實】205 チュウジツ　字號。❶宋、應孟明（4‥11330‥281）の字。❷宋、黃穎（莆田の人）（12‥47926‥44）の字。❸宋、黃蕡（12‥47926‥816）の字。❹宋、吳元美（2‥3365‥547）の字。❺宋、鮑若虛（12‥46074‥100）の字。❻宋、李充（6‥14459‥432）の字。❼金、完顏璹（3‥7079‥30）の字。❽金、鄭建充（11‥39647‥360）の字。❾元、梅賓（6‥14830‥147）の字。❿元、李德輝（6‥14459‥1819）の字。⓫元、呂思誠（2‥3386‥207）の字。⓬明、溫秀（7‥17968‥97）の字。⓭明、鍾芳（11‥40672‥98）の字。⓮明、唐桂芳（2‥3709‥389）の字。⓯明、萬文英（9‥31339‥625）の字。⓰清、章惺（8‥25761‥81）の字。

【仲縝】206 チュウシン　明、劉熙祚（2‥2224‥785）の字。

【仲車】207 チュウシャ　宋、徐積（4‥10110‥191）の字。

【仲昌】208 チュウショウ　宋、史緒（2‥3249‥89）の字。

【仲庠】209 チュウショウ　元、毛倫（6‥16772‥239）の字。

【仲商】210 チュウショウ　仲秋（199）に同じ。五音を四季に配すると、秋は商にあたるからいふ。〔梁元帝纂要〕八月曰ニ仲商一。

【仲將】211 チュウショウ　三國魏、韋誕（12‥43108‥109）の字。

【仲祥】212 チュウショウ　❶宋、厲仲方（2‥3041‥77）の原名。❷字號。㋑宋、吳景鸞（2‥3365‥523）の字。㋺宋、徐天麟（4‥10110‥596）の字。

【仲章】213 チュウショウ　字號。❶宋、薛紱（9‥32123‥120）の字。❷宋、劉渙（2‥2224‥214）の字。❸宋、梁藻（6‥14825‥92）の字。❹元、貢奎（10‥36665‥16）の字。❺明、萬達甫（9‥31339‥614）の字。

【仲翔】214 チュウショウ　字號。❶三國吳、虞翻（9‥32723‥143）の字。❷唐、王方翼（7‥20823‥2016）の字。❸宋、董羽（9‥31433‥11）の字。

【仲璋】215 チュウショウ　金、劉璣（2‥2224‥160）の字。

【仲牆】216 チュウショウ　明、孫楨（3‥6987‥226）の字。

【仲常】217 チュウジョウ　字號。❶宋、柯述（6‥14658‥14）の字。❷宋、郭道卿（11‥39474‥374）の字。❸宋、曾恕（5‥14299‥52）の字。❹金、高憲（12‥45313‥286）の字。❺金、麻秉彝（12‥47887‥155）の字。❻元、虞槃（9‥32723‥129）の字。❼元、喬彝（2‥3990‥1）の字。❽元、傅常（1‥939‥67）の字。❾元、李秉彝（6‥14459‥1925）の字。❿元、王思廉（7‥20823‥1586）の字。⓫明、郭之奇（11‥39474‥310）の字。⓬明、權謹（6‥15926‥27）の字。⓭明、胡子昭（9‥29400‥479）の字。⓮明、薛應旂（9‥32123‥146）の字。⓯清、董棨（9‥31433‥7）の字。

【仲讓】218 チュウジョウ　字號。❶後魏、高推（12‥45313‥500）の字。❷後魏、魏惇（12‥45872‥80）の字。

【仲若】219 チュウジャク　字號。❶南朝宋、戴顒（5‥11685‥39）の字。❷明、程國祥（8‥25081‥206）の字。❸明、費經虞（10‥36717‥91）の字。❹清、張景（4‥9812‥253）の字。

【仲殊】220 チュウシュ　宋の承天寺の僧。字は師利。號は密殊・太平閒人。蘇軾と交游あり。詩詞に巧。著に寶月集がある。〔宋人軼事彙編、四十七〕。

【仲儒】221 チュウジュ　字號。❶唐、宋單父（8‥7078‥362）の字。❷明、薛三才（9‥32123‥182）の字。❸清、惠士奇（4‥10822‥151）の字。

【仲孺】222 チュウジュ　字號。❶漢、灌夫（7‥18759‥63）の字。❷後魏、盧景裕（8‥23050‥207）の字。❸宋、單父（2‥3993‥263）の字。❹元、道隱（11‥39010‥19）の字。

【仲叔】223 チュウシュク　❶兄弟の中位の者。〔書、呂刑〕伯兄・仲叔・季弟。❷複姓。〔萬姓統譜〕仲叔于奚、衛大夫。❸字號。㋑漢、弭生（4‥9768‥7）の字。㋺後漢、閔貢（11‥41251‥12）の字。㋩宋、盛陶（8‥23005‥140）の字。㋥明、朱華園（6‥14424‥719）の字。

【仲叔園】224 チュウシュクエン　春秋衞、孔圉（3‥6933‥38）をいふ。

【仲春】225 チュウシュン　❶春三箇月の中の月。卽ち陰暦二月。なかのはる。中春。仲陽。〔書、堯典〕日中星鳥、以殷ニ仲春一。〔禮、月令〕仲春之月、日在ニ奎一。〔楚辭、九章、哀郢〕民離散而相失兮、方ニ仲春一而東遷。〔謝靈運、酬ニ從弟惠連一詩〕仲春善遊遨。❷明の人。軍府千戶となり、礦を開かんことを請うた。〔明史、二百三十七〕。

【仲春紀】226 チュウシュンキ　呂氏春秋の篇名。

【仲春上丁】227 チュウシュンジョウテイ　陰暦二月の初の丁日に行ふ孔子祭。仲秋丁祭（202）を見よ。

【仲春振旅】228 チュウシュンシンリョ　晉の鼓吹曲の名。晉、傅玄作。晉はよく文武の教を布き、時を以て田獵することを述べる。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、仲春振旅〕古聖人出行、古今樂錄、仲春振旅、言ㇾ大晉申ニ文武之教一、畋獵以ニ時也一。〔傅玄、仲春振旅〕仲春振旅、大致ニ民武教一、於時日新、師執提、工執ㇾ鼓、坐作從ㇾ節、有ㇾ序盛矣、允文允武、蒐田表ニ禡甲法誓一、遂圍ニ禁獸一社祭、允以ㇾ時明ニ國制一、文武並用、禮之經、列ㇾ車如ㇾ戰、大教明ニ古今一、誰能去ㇾ兵、大晉繼ニ天濟一、羣生。

【仲春丁期】229 チュウシュンノテイキ　陰暦二月の丁の日に行はれる孔子祭をいふ。〔桃花扇、闖丁〕今日又是仲春丁期。

【仲順】230 チュウジュン　琉球の地名。

【仲儁】231 チュウシュン　成漢、李雄（6‥14459‥769）の字。

【仲純】232 チュウジュン　字號。❶宋、姚孝錫（3‥6202‥135）の字。❷元、張理（4‥9812‥720）の字。

【仲淳】233 チュウジュン　宋、李景孟（6‥14459‥1091）の字。

【仲循】234 チュウジュン　宋、陳大卞（11‥41698‥1100）の字。

【仲詢】235 チュウジュン　字號。❶宋、潘美（7‥18236‥83）の字。❷宋、李諮（6‥14459‥394）の字。

【仲醇】236 チュウジュン　明、陳繼儒（11‥41698‥800）の字。

【仲遵】237 チュウジュン　明、王路（7‥20823‥1100）の字。

【仲初】238 チュウショ　字號。❶晉、庾闡（4‥9398‥30）の字。❷唐、王建（7‥20823‥348）の字。

【仲書】239 チュウショ　字號。❶明、安文璧（8‥7072‥582）の字。❷清、顧銘（12‥43689‥188）の字。

【仲庶】240 チュウショ　宋、吳中復（2‥3365‥777）の字。

【仲如】241 チュウジョ　宋、楊恕（6‥15112‥219）の字。

【仲舒】242 チュウジョ　字號。❶後魏、董繼（9‥31433‥1063）の字。❷唐、李紓（6‥14459‥452）の字。❸元、鄭燾（11‥39647‥207）の字。❹明、蔣一葵（9‥31820‥113）の字。

【仲升】243 チュウショウ　❶清、陳允升（11‥41698‥654）の一名。❷字號。㋑後漢、班超（7‥20976‥79）の字。㋺金、張潛（4‥9812‥496）の字。㋩明、嚴升（2‥4589‥148）の字。㋥清、惲日初（4‥10857‥11）の字。㋭清、翁自涵（9‥28635‥75）の字。

【仲承】244 チュウショウ　後漢、劉淑（樂成の人）（2‥2224‥358）の字。

【仲湜】245 チュウショク　明、張濂（平南の人）（4‥9812‥333）の字。

【仲申】246 チュウシン　明、胡翰（9‥29400‥68）の字。

【仲辛】247 チュウシン　宋、盧革（8‥23050‥21）の字。

【仲辰】248 チュウシン　宋、廖衙（4‥9464‥4）の字。

【仲信】249 チュウシン　字號。❶後漢、郤巡（11‥39440‥16）の字。❷宋、盧臣忠（8‥23050‥253）の字。

【仲眞】250 チュウシン　字號。❶後漢、苑康（9‥30774‥2）の字。❷後漢、賀純（10‥36725‥51）の字。❸晉、梅賾（6‥14830‥129）の字。❹元、董鎭（9‥31433‥131）の字。

【仲深】251 チュウシン　字號。❶元、倪淵（1‥792‥2）の字。❷明、丘濬（1‥33‥53）の字。❸清、王原（7‥20823‥375）の字。

【仲紳】252 チュウシン　字號。❶明、張紳（4‥9812‥445）の字。❷清、余縉（1‥515‥37）の字。

【仲進】253 チュウシン 後漢、周福（2−3441‥451）の字。
【仲縉】254 チュウシン 明、王紳（7−20823‥629）の字。
【仲仁】255 チュウジン ❶宋の僧。會稽の人。衡州の華光山に住す。號は華光老人。梅花を好み、墨梅に巧。著に華光梅譜がある。〔畫繼〕・〔畫史會要〕。❷字號。㋑晉、卞敦（2−2778‥23）の字。㋺隋、董展（9−31433‥135）の字。㋩明、謝士元（10−35827‥285）の字。㋥明、陶顯位（11−41705‥185）の字。㋭明、端宏（8−25806‥47）の字。㋬清、史麟（2−3249‥163）の字。
【仲壬】256 チュウジン 殷王成湯の子。兄の外丙を繼いで立つ。竹書紀年には在位四年とあるが、書、伊訓の序には、成湯既に沒し、太甲元年とあつて外丙・仲壬の事を述べず。又、卜辭に於ては未だ仲壬の名を見出さない。〔竹書紀年〕・〔史記、三〕。
【仲訒】257 チュウジン 明、姜逢元（3−6205‥119）の字。
【仲綏】258 チュウスイ 後漢、郎宗（11−39431‥36）の字。
【仲樞】259 チュウスウ 唐、李固言（6−14459‥1204）の字。
【仲正】260 チュウセイ 字號。❶梁、蕭確（9−32012‥46）の字。❷金、郭用中（11−39474‥419）の字。❸元、黃叔雅（12−47926‥1144）の字。❹明、倪端（1−792‥24）の字。
【仲成】261 チュウセイ 字號。❶後漢、司馬苞（2−3257‥300）の字。❷唐、方竦（5−13620‥269）の字。❸宋、伍文仲（1−435‥56）の字。❹宋、汪繹（6−17154‥11）の字。
【仲制】262 チュウセイ 宋、章節夫（8−25761‥214）の字。
【仲青】263 チュウセイ 清、許沅（10−35298‥77）の字。
【仲清】264 チュウセイ 元、華廉（9−31214‥466））の字。
【仲靖】265 チュウセイ 宋、南宮靖一（2−2750‥173）の字。
【仲誠】266 チュウセイ 字號。❶宋、陳之純（11−41698‥904）の字。❷宋、彭鉉（4−10003‥36）の字。❸清、張沐（4−9812‥692）の字。
【仲齊】267 チュウセイ 宋、歐陽新（6−16185‥75）の字。
【仲靜】268 チュウセイ 晉、郭澄之（11−39474‥383）の字。
【仲聲】269 チュウセイ 字號。❶清、周堪賡（2−3441‥582）の字。❷清、楊遠（6−15112‥34）の字。
【仲霽】270 チュウセイ 字號。❶清、紀炅（8−27234‥21）の字。❷清、郭沛霖（11−39474‥394）の字。
【仲贅】271 チュウゼイ 元、顧盟（12−43689‥187）の字。
【仲昭】272 チュウセウ 字號。❶陳、黃法氍（12−47926‥1292）の字。❷宋、糜弁（12−47625‥1）の字。❸元、諸葛晉（10−35743‥34）の字。❹明、夏景（3−5720‥200）の字。❺明、陸時雍（桐鄉の人）（11−41708‥347）の字。❻清、王嗣槐（7−20823‥1596）の字。
【仲詔】273 チュウセウ 明、米萬鍾（8−26832‥121）の字。
【仲韶】274 チュウセウ 字號。❶宋、韓醇（12−43159‥131）の字。❷明、朱統鍥（6−14424‥947）の字。❸明、葉紹袁（9−31387‥220）の字。❹清、朱韶（6−14424‥416）の字。
【仲霄】275 チュウセウ 北周、裴漢（10−34362‥16）の字。
【仲石】276 チュウセキ 宋、若芬（9−30796‥114）の字。
【仲席】277 チュウセキ 漢、傅柔（1−939‥64）の字。
【仲碩】278 チュウセキ 宋、潘安固（7−18236‥105）の字。
【仲錫】279 チュウセキ 宋、曾孝廣（5−14299‥170）の字。
【仲雪】280 チュウセツ 字號。❶明、魏浣初（12−45872‥190）の字。❷清、費誓（10−36717‥54）の號。
【仲說】281 チュウセツ 元、沈右（6−17189‥9）の字。
【仲節】282 チュウセツ 字號。❶三國吳、張秉（4−9812‥659）の字。❷宋、蔡抗（建陽の人）（9−31818‥23）の字。❸清、李符清（6−14459‥1887）の字。
【仲先】283 チュウセン 字號。❶後漢、朱祐（6−14424‥23）の字。❷宋、魏野（12−45872‥141）の字。❸宋、郭用孚（11−39474‥420）の字。❹宋、廖天覺（4−9464‥62）の字。❺金、孔敬宗（3−6933‥283）の字。❻元、黃紹（12−47926‥554）の字。❼明、周起元（2−3441‥591）の字。
【仲宣】284 チュウセン 字號。❶三國魏、王粲（7−20823‥432）の字。❷宋、任宗誼（1−416‥230）の字。❸宋、廉布（4−9436‥101）の字。❹清、吳大桂（2−3365‥748）の字。❺清、吳棠（2−3365‥284）の字。❻清、陳瑄（11−41698‥412）の字。
〖仲宣樓〗285 チュウセンロウ 樓の名。湖北省當陽縣の東南に在る。〔水經、漳水注〕（漳水）南逕二麥城東一、王仲宣登二其東南隅一、臨二漳水一而賦レ之。〔杜甫、短歌行贈二王郎司直一〕仲宣樓頭春色深、青眼高歌望二吾子一、眼中之人吾老矣。〔清一統志〕仲宣城、荆州記、以爲二當陽城樓一、與二水經注一合、唐劉良文選注、以爲レ在二江陵一、明王世貞、以爲レ在二襄陽一、諸說不レ同、自以下在二當陽一者上爲二定論一。
〖仲宣獨步〗286 チュウセンドッポ 魏の王粲が文章に長じて、追隨する者のないのを褒めていふ。〔曹植、與二楊德祖一書〕今世作者、可二略而言一也。昔仲宣獨二步於漢南一、孔璋鷹二揚於河朔一、偉長擅二名於靑土一、公幹振二藻於海隅一、德璉發二跡於此魏一、足下高二視於上京一。
【仲泉】287 チュウセン 明、孫墀（3−6987‥216）の字。
【仲潛】288 チュウセン 字號。❶宋、宋剛中（3−7078‥235）の字。❷宋、王綸（7−20823‥1023）の字。
【仲暹】289 チュウセン 明、唐光祖（2−3709‥384）の字。
【仲瞻】290 チュウセン 清、蘇誼（9−32427‥35）の字。
【仲善】291 チュウゼン 明、陸中善（11−41708‥389）の字。
【仲然】292 チュウゼン 清、栗燿（6−14695‥3）の字。
【仲祖】293 チュウソ 字號。❶晉、毛安之（6−16772‥250）の字。❷晉、王濛（7−20823‥1009）の字。
【仲素】294 チュウソ 字號。❶三國魏、文聘（5−13450‥844）の字。❷宋、羅從彥（9−28397‥351）の字。❸元、繆貞（8−27855‥38）の字。
【仲宗】295 チュウソウ 字號。❶後魏、李茂（6−14459‥756）の字。❷陳、章華（8−25761‥50）の字。❸宋、張元幹（4−9812‥1004）の字。❹明、鄭洧（11−39647‥7）の字。
〖仲宗根〗296 ナカズネ 琉球の地名。　「字。
【仲足】297 チュウソク 春秋鄭、祭仲（8−24700‥72）の
【仲則】298 チュウソク 字號。❶後漢、曹喜（5−14297‥36）の字。❷後漢、沈儀（6−17189‥102）の字。❸唐、田令孜（7−21723‥425）の字。❹清、黃景仁（12−47926‥1063）の字。
【仲村】299 チュウソン 清、慶蘭（4−11145‥138）の字。
〖仲村渠〗299′ ナカムタガリ ❶琉球の地名。❷ナカンダカレ 琉球の地名。
【仲孫】300 チュウソン ❶複姓。〔通志、氏族略、以二族系一爲レ氏〕仲孫氏、魯公子慶父之子後、慶父曰二共仲一、故以爲二仲氏一、亦曰二仲孫氏一、爲二閔公一之故、諱二殺レ君之罪一、更爲二孟氏一、亦曰二孟孫氏一。❷後漢、郭躬（11−39474‥48）の字。
〖仲孫貜〗301 チュウソンクワク 春秋、魯の大夫。卽ち孟僖子。蔑の曾孫。死に臨み、諸大夫を召して禮の重んずべきことを說き、其の子、何忌を孔子に師事させた。〔左氏、昭、九・十・十一・二十四〕。
〖仲孫穀〗302 チュウソンコク 春秋、魯の人。慶父の孫。卽ち文伯。〔左氏、文、七・十四〕。
〖仲孫湫〗303 チュウソンシウ 春秋、齊の大夫。桓公が魯を伐つて取る可きかと問うたとき、之に反對して、魯は猶周禮を秉る、寧ろ魯の難を寧んじて之に親しむべきであると答へた。〔左氏、閔、元・僖、十三〕。
〖仲孫捷〗304 チュウソンセフ 春秋、魯の大夫。謚は敬、孟敬子といふ。武伯の子。〔論語、泰伯、注〕。
〖仲孫速〗305 チュウソンソク 春秋、魯の人。蔑の子。卽ち孟莊子。幼にして勇を以て諸侯に聞え、襄公の時、屢〻師を從へて齊を伐つた。〔左氏、襄、二十・二十三〕。
〖仲孫彘〗306 チュウソンテイ 春秋、魯の大夫。孔子の弟子。仲孫何忌の子。謚は武、孟武伯といふ。〔論語、爲政、注〕。
〖仲孫蔑〗307 チュウソンベツ 春秋、魯の大夫。卽ち孟獻子。賢大夫の稱があつた。〔左氏、宣、九・十五・成、五・六・襄、元・二・五〕。
〖仲孫何忌〗308 チュウソンカキ 春秋、魯の大夫。卽ち孟懿子。貜の子。昭公が季氏を伐つや、郈孫をして懿子を逆へしめたが、叔孫氏は季氏を救ひ、孟氏は郈孫を執へて殺し、遂に公の徒を伐つた爲に、公は齊に奔つた。〔春秋、昭、三十二〕・〔左氏、定、三・八・十・十二・哀、元・二・三・六・十四〕。
【仲尊】309 チュウソン 清、陳樽（長洲の人）（11−41698‥440）の號。
【仲遜】310 チュウソン 宋、程公碩（8−25081‥200）の字。
【仲退】311 チュウタイ 元、吳存（2−3365‥277）の字。
【仲臺】312 チュウダイ 三國魏、孫觀（3−6987‥89）の字。
【仲弢】313 チュウタウ 字號。❶明、夏元彬（3−5720‥307）の字。❷清、王韜（7−20823‥749）の號。
【仲韜】314 チュウタウ 明、馬文煒（12−44572‥936）の字。
【仲道】315 チュウダウ 晉、董養（9−31433‥158）の字。
【仲澤】316 チュウタク 字號。❶金、張汝霖（4−9812‥1206）の字。❷金、王渥（7−20823‥2）の字。

【仲達】317 字號。❶後漢、龐參(12－48824‥21)の字。❷三國魏、司馬懿(2－3257‥204)の字。❸南朝宋、沈攸之(6－17189‥422)の字。❹南齊、沈文季(6－17189‥633)の字。❺南齊、蕭敷(9－32012‥242)の字。❻隋、于宣敏(1－252‥126)の字。❼唐、孔穎達(3－6933‥263)の字。❽後周、韓通(12－43159‥172)の字。❾宋、洪彦昇(6－17402‥237)の字。❿宋、上官悟(1－13‥195)の字。⓫宋、戴侗(5－11685‥109)の字。⓬劉通(齊河の人)(2－2224‥507)の字。⓭明、高孝誌(12－45313‥1075)の字。⓮明、徐忠(4－10110‥222)の字。⓯明、李應昇(6－14459‥90「字。

【仲治】318 清、高之騄(12－45313‥1186)の字。

【仲智】319 晉、周嵩(2－3441‥305)の字。

【仲簫】320 元、黃復祖(12－47926‥1306)の字。

【仲尼】321 ❶孔子(3－6933‥78)の字。〔史記、孔子世家〕禱於尼丘一得孔子一、魯襄公二十二年而孔子生、生而首上圩頂、故因名曰レ丘云、字仲尼。❷列子の篇名。

【仲尼燕居】322 禮記の篇名。孔子が家にくつろいで居る際も怠らず、弟子と禮を論じたことを記す。〔禮、仲尼燕居、疏〕案鄭目錄云、名曰二仲尼燕居一者、善下其不レ倦、燕居猶使二三子侍レ之、言中及於禮上著二其字一、言事可レ法、退レ朝而處、曰二燕居一、此於二別錄一屬二通論一。

【仲尼之徒】323 孔子の門人。〔孟子、梁惠王上〕仲尼之徒、無下道二桓文之事一者上。

【仲尼不レ爲已甚者】324 孔子は極端なことをしない人で、其の行が中庸にかなってゐる。〔孟子、離婁下〕孟子曰、仲尼不レ爲已甚者。〔集注〕已、猶レ太也、楊氏曰、言、聖人所レ爲、本分之外、不加二毫末一。

【仲尼之門考以四科一】325 孔子の門では、德行・政事・言語・文學の四科を以て人材を試みた。四科(3－4682‥201)を見よ。〔後漢書、鄭玄傳〕汝南應劭自贊曰、故太山太守應中遠、北面稱二弟子一、何如、玄笑曰、仲尼之門、考以二四科一、回賜之徒、不レ稱二官閥一、劭有二慙色一。

【仲尼栖栖突不レ暇レ黔】326 孔子が世を救ふ事に汲々として、自宅に安んずる暇のなかつたこと。栖栖は、忙しいさま。突は煙突。家に居ることが少いので煙突がくろくならない。孔席不レ暖(3－6933‥162)墨突不レ黔(3－5469‥173)を見よ。〔新論、惜時〕仲尼栖栖、突不レ暇レ黔、墨翟遑遑、席不レ及レ煖、皆行二其德義一、拯二世危溺一、立二功垂一レ楷、延二芳百世一。

【仲尼之門五尺童子羞レ稱二五霸一】327 孔子の門下では、十二三歳の小童でも、齊の桓公・晉の文公等の五伯の事を口にするのを恥とした。王道を尊び、霸道を賤しむ語。五伯(1－257‥930)を見よ。〔孟子、梁惠王上〕齊宣王問曰、齊桓晉文之事、可レ得レ聞乎、孟子對曰、仲尼之徒、無下道二桓文之事一者上。〔集注〕董子曰、仲尼之門、五尺童子、羞レ稱二五霸一、爲下其先二詐力一而後中仁義上也、亦此意也。〔荀子、仲尼〕仲尼之門人、五尺之豎子、言羞レ稱二乎五伯一。〔集解〕王念孫曰、仲尼門人、人字、後人所レ加也。〔春秋繁露、對膠西王〕越大夫不レ得爲二仁仲尼之門、五尺童、言羞レ稱二五伯一、爲二其詐以成一レ功苟爲而已也。

【仲持】328 明、鄭湜(11－39647‥175)の字。

【仲儔】329 元、張易(4－9812‥59)の字。

【仲疇】330 元、張弘範(4－9812‥1036)の字。

【仲長】331 ❶複姓。〔通志、氏族略〕以レ名爲レ氏〕仲長氏、見二纂要一。❷宋、趙演(10－37171‥37)の字。

【仲長統】332 後漢、高平の人。字は公理。學を好み、默語常なく、直言を敢てし、狂生と呼ばる。官は尚書郎。曹操の軍事に參畫した。著に昌言がある。〔後漢書、七十九〕。

【仲長子光】333 唐、洛陽の人。字は不曜。妻子なく、北渚に隱居し、獨り王績と親交があつた。〔唐書、一百九十六〕。

【仲張】334 清、張英(海寧の人)(4－9812‥48)の字。

【仲女】335 兄弟の女をいふ。〔稱謂錄、兄弟之女、仲女〕後漢劉平弟仲、爲二賊所レ殺、平抱二仲女一、而棄二其子一。

【仲徽】336 清、吳昕(2－3365‥116)の字。

【仲直】337 三國蜀、周羣(2－3441‥137)の字。

【仲珍】338 字號。❶宋、傅瑾(1－939‥128)の字。❷明、韓守益(12－43159‥313)の字。

【仲通】339 字號。❶後漢、楊統(6－15112‥299)の字。❷後漢、王景(7－20823‥324)の字。❸後魏、盧敏(8－23050‥152)の字。❹梁、王泰(7－20823‥737)の字。❺隋、陸知命(11－41708‥385)の字。❻宋、郭逵(11－39474‥40)の字。❼宋、羅存(9－28397‥175)の字。❽宋、李敏之(6－14459‥1883)の字。❾宋、利申(2－1932‥103)の字。❿金、裴滿享(10－34362‥89)の字。⓫明、關思(11－41470‥79)の字。⓬清、華時亨(9－31214‥491)の字。

【仲丁】340 殷、第八代の王。太戊の子。國を亳から懷に遷す。在位十三年。〔史記、三〕。

【仲悌】341 三國魏、呂安(2－3386‥1)の字。

【仲鼎】342 明、王維新(7－20823‥1132)の字。

【仲禎】343 清、陳爾幹(11－41698‥938)の字。

【仲調】344 字號。❶清、陶汝鼐(11－41705‥199)の字。❷清、白夢鼐(8－22678‥1407)の字。

【仲哲】345 後魏、元朗(1－1340‥591)の字。

【仲恬】346 明、陳伯友(11－41698‥1196)の字。

【仲田】347 明、徐暉(4－10110‥174)の字。

【仲都】348 ❶方士の王仲都をいふ。〔宋書、孝武文穆王后傳〕王偃無二仲都之質一、而偏ニ露於北階一、何瑀闕二龍工之姿一、而投二軀於深井一。❷字號。㋑漢、安丘望之(3－7072‥86)の字。㋺後漢、李忠(6－14459‥588)の字。

【仲塗】349 字號。❶宋、許遵(10－35298‥123)の字。❷宋、馬遵(12－44572‥317)の字。❸宋、柳開(6－14662‥44)の字。

【仲度】350 南朝宋、傅弘之(1－939‥161)の字。

【仲冬】351 冬三箇月の中の月。陰曆十一月。なかのふゆ。〔書、堯典〕日短星昴、以正二仲冬一。〔禮、月令〕仲冬行二夏令一、則其國乃旱。〔淮南子、時則訓〕仲冬之月、招搖指レ子。

【仲冬紀】352 呂氏春秋の篇名。

【仲德】353 字號。❶三國魏、程昱(8－25081‥3)の字。❷南朝宋、劉鑠之(2－2224‥1200)の字。❸南朝宋、王懿(7－20823‥10)の字。❹元、趙琬(10－37171‥38)の字。❺明、袁宗皋(10－34152‥225)の字。❻明、邵經邦(11－39343‥106)の字。❼明、張驥(4－9812‥186)の字。

【仲訥】354 清、凌堃(2－1669‥48)の字。

【仲人】355 結婚のなかだちをする人。なかうど。媒妁人。媒介人。月下氷人。

【仲寧】356 字號。❶後漢、梁統(6－14825‥162)の字。❷晉、虞喜(9－32723‥20)の字。❸明、楊靖(6－15112‥241)の字。❹明、范寧(9－30834‥102)の字。

【仲年】357 明、方祉(5－13620‥345)の字。

【仲能】358 ❶三百歳の壽に達し、白色になつた鼠。能く事の吉凶を知るといふ。〔抱朴子、對俗〕鼠壽三百歳、滿二百歳一、則色白、善憑二人而ト、名曰二仲能一、知二一年中吉凶一、及千里外事一。〔本草、鼠〕集解、時珍曰、抱朴子云、鼠壽三百歳、善憑二人而ト一、名曰二仲能一、能知二一年中吉凶一。❷字號。㋑宋、湯巾(7－17874‥26)の字。㋺明、程徐(8－25081‥73)の字。

【仲背】359 米俵などの積おろしや運搬などに任ずる人。

【仲培】360 字號。❶宋、戴埴(5－11685‥80)の字。❷明、檀日茂(8－15632‥61)の字。

【仲買】361 需要者と供給者との間に立つて物品や權利の賣買をはかること。〔好色二代女、二〕大商人、心太の仲買ぢや。

【仲買業】362 仲買の營業。

【仲買人】363 仲買業に從事する人。

【仲方】364 字號。❶漢、士孫張(3－5638‥141)の字。❷宋、李維(6－14459‥17)の字。❸宋、劉潛(2－2224‥455)の字。❹元、李有(6－14459‥22)の字。❺明、顧正誼(12－43689‥299)の

字。㊅明、周槼(2−3441・・116)の字。㊆明、石琚(8−24024・・160)の字。㊇明、劉矩(2−2224・・195)の字。㊈清、沈起(6−17189・・93)の字。

【仲芳】365 チュウハウ 字號。㊀元、李有(6−14459・・22)の字。㊁元、李士傳(6−14459・・1278)の字。㊂明、楊繼盛(6−15112・・511)の字。㊃清、聶緝槼(9−29179・・30)の字。㊄清、錢棻(11−40563・・195)の字。
「字。

【仲彭】366 チュウハウ 清、李成文(6−14459・・1560)の字。

【仲褒】367 チュウハウ 宋、郭勸(11−39474・・71)の字。

【仲寶】368 チュウハウ 字號。㊀南齊、王儉(7−20823・・355)の字。㊁梁、褚球(10−34457・・11)の字。㊂梁、劉㲉(2−2224・・119)の字。㊃唐、李琛(6−14459・・479)の字。㊄五代後周、施璘(5−13629・・122)の字。㊅宋、賈玭(10−36755・・120)の字。㊆宋、潘緯(7−18236・・1)の字。㊇宋、邊珣(11−39216・・104)の字。㊈宋、楊守珍(6−15112・・608)の字。㊉宋、楊昭儉(6−15112・・646)の字。⑪宋、王審琦(7−20823・・1731)の字。⑫金、完顏璹(3−7079・・30)の字。⑬元、圓琛(3−4819・・137)の字。

【仲房】369 チュウバウ 字號。㊀宋、虞似良(9−32723・・168)の字。㊁明、魏驥(12−45872・・26)の字。㊂明、馬汝驥(12−44572・・829)の字。

【仲茅】370 チュウバウ 明、俞彥(1−1437・・27)の字。

【仲白】371 チュウハク 宋、趙庚夫(10−37171・・444)の字。

【仲伯】372 チュウハク 宋、錢涒(11−40563・・163)の字。

【仲博】373 チュウハク 清、陳觀酉(11−41698・・774)の字。

【仲邈】374 チュウバク 三國蜀、霍峻(12−42321・・28)の字。

【仲發】375 チュウハツ 字號。㊀宋、劉士英(2−2224・・945)の字。㊁明、王世琮(7−20823・・1760)の字。

【仲盤】376 チュウバン 明、趙安(10−37171・・3)の字。

【仲蟠】377 チュウバン 北周、柳虯(6−14662・・62)の字。

【仲美】378 チュウビ 字號。㊀宋、陳琳(11−41698・・600)の字。㊁明、謝成(10−35827・・138)の字。㊂清、王懿修(7−20823・・1128)の字。

【仲微】379 チュウビ 字號。㊀後漢、戴孟(5−11685・・133)の字。㊁宋、郭稹(11−39474・・137)の字。㊂宋、張旨(4−9812・・347)の字。㊃明、平顯(4−9167・・198)の字。

【仲弼】380 チュウヒツ 明、鄧汝相(11−39630・・165)の字。

【仲謐】381 チュウヒツ 唐、于志寧(1−252・・114)の字。

【仲馮】382 チュウヒョウ 宋、劉奉世(2−2224・・1319)の字。

【仲彬】383 チュウヒン 元、周文質(2−3441・・843)の字。

【仲賓】384 チュウヒン 字號。㊀宋、歐陽觀(6−16185・・59)の字。㊁宋、曹覲(5−14297・・53)の字。㊂宋、張觀(4−9812・・244)の字。㊃元、李衎(6−14459・・152)の字。

【仲敏】385 チュウビン 字號。㊀元、張遜(4−9812・・518)の字。㊁明、宋訥(滑縣の人)(3−7078・・179)の字。㊂明、方鈍(5−13620・・384)の字。

【仲父】386 チュウフ ㊀父のおとうと。叔父。〔釋名、釋親屬〕父之弟曰二仲父一、仲、中也、位在レ中也。㊁チュウホ 春秋、齊の桓公が管仲を尊んで呼んだ名。〔荀子、仲尼〕(桓公)見三管仲之能足二以託一レ國也、是天下之大知也、安忘二其怒一、出忘二其讎一、遂立以爲二仲父一、是天下之大決也。〔注〕仲者、夷吾之字、父者、事レ之如レ父、故號爲二仲父一。〔韓非子、難二〕有司請レ禮、桓公曰レ告二仲父一者三、而優笑曰、易哉爲レ君、一曰二仲父一、二曰二仲父一。㊂秦の始皇が呂不韋を尊んで呼んだ名。〔史記、呂不韋傳〕秦太子政、立爲レ王、尊二呂不韋一爲二相國一、號稱二仲父一。㊃晉、王導(7−20823・・757)をいふ。〔晉書、王導傳〕導爲レ政、務在二清靜一、每勸レ帝、克レ己勵レ節、匡レ主寧レ邦、於レ是尤見二委仗一、情好日隆、朝野傾レ心、號爲二仲父一。㊄宋、韓元象(12−43159・・279)の字。

【仲孚】387 チュウフ 字號。㊀宋、張昭允(4−9812・・1258)の字。㊁明、程觀生(8−25081・・184)の字。㊂明、鮑恂(12−46074・・42)の字。

【仲負】388 チュウフ 清、祕不笈(8−24663・・98)の字。

【仲溥】389 チュウフ 宋、裴濟(10−34362・・68)の字。

【仲鳧】390 チュウフ 明、崔銑(4−8178・・117)の字。

【仲敷】391 チュウフ 唐、柳芳(6−14662・・202)の字。

【仲武】392 チュウブ 元、賈文備(10−36755・・209)の字。

【仲復】393 チュウフク 字號。㊀宋、滕璞(7−18036・・36)の字。㊁明、馬大壯(12−44572・・874)の字。㊂清、沈秉成(6−17189・・637)の字。㊃清、王建常(7−20823・・1408)の字。

【仲文】394 チュウブン 字號。㊀後漢、馮豹(12−44579・・143)の字。㊁晉、朱伺(6−14424・・343)の字。㊂南朝宋、庾炳之(4−9398・・74)の字。㊃後魏、李煥(6−14459・・265)の字。㊄隋、顧彪(12−43689・・170)の字。㊅唐、錢起(11−40563・・37)の字。㊆宋、韓綜(12−43159・・157)の字。㊇宋、崔翰(4−8178・・36)の字。㊈宋、朱質(6−14424・・360)の字。㊉宋、秦翰(8−24995・・32)の字。⑪宋、陳郁(11−41698・・16)の字。⑫宋、羅彧(9−28397・・12)の字。⑬宋、劉韡(2−2224・・12)の字。⑭元、黃周(12−47926・・441)の字。⑮元、崔斌(4−8178・・150)の字。⑯明、賀運和(10−36725・・121)の字。⑰明、姜士昌(3−6205・・89)の字。⑱明、潘緯(7−18236・・1)の字。⑲明、劉師朱(2−2224・・1003)の字。⑳明、藺芳(9−32399・・7)の字。㉑清、鄒炳泰(11−39562・・119)の字。

【仲文照鏡】395 チュウブンセウキャウ 蒙求の標題。晉の殷仲文が、謀反して誅せられる數日前、鏡に照して其の顏が映らなかつたが、果して、禍に遇つた故事。〔晉書、殷仲文傳〕仲文素有二名望一、自謂必當二朝政一、又謝混之徒、疇昔所レ輕者、並皆比レ肩、常怏怏不レ得レ志、忽遷爲二東陽太守一、意彌不レ平、云云、又以下仲文與二駱球等一謀反上、及二其弟南蠻校尉叔文一並伏レ誅、仲文時照レ鏡、不レ見二其面一、數日而遇レ禍。

【仲聞】396 チュウブン 唐、韓皐(12−43159・・35)の字。

【仲平】397 チュウヘイ 字號。㊀成漢、李蕩(6−14459・・558)の字。㊁宋、蔡權(9−31818・・45)の字。㊂宋、种世衡(8−24942・・14)の字。㊃宋、王衡仲(7−20823・・1262)の字。㊄元、許衡(10−35298・・36)の字。㊅明、何濤(1−511・・148)の字。㊆明、高名衡(12−45313・・1339)の字。㊇明、令狐鏓(1−387・・60)の字。㊈清、徐準宜(4−10110・・488)の字。

【仲幷】398 チュウヘイ 宋、江都の人。字は彌性。紹興の進士。官は光祿丞・蘄州の長官。問學に潛心し、力めて王氏の說を排す。詩文に巧。著に浮山集がある。〔宋史翼、二十八〕。

【仲秉】399 チュウヘイ 宋、李儒用(6−14459・・1421)の字。

【仲炳】400 チュウヘイ 明、郭文(11−39474・・200)の字。

【仲璧】401 チュウヘキ 明、鄭瑗(11−39647・・31)の字。

【仲俛】402 チュウベン 明、雒昂(11−42026・・4)の字。

【仲甫】403 チュウホ 字號。㊀宋、譙仲午(10−35976・・38)の字。㊁宋、盧秉(8−23050・・158)の字。㊂清、左輔(4−8720・・398)の字。㊃清、盛惇大(8−23005・・228)の字。㊄清、張應昌(4−9812・・835)の字。㊅清、馬逢伯(12−44572・・944)の字。

【仲輔】404 チュウホ 南朝宋、賀弼(10−36725・・91)の字。

【仲模】405 チュウボ 宋、向傳範(2−3301・・113)の字。

【仲謨】406 チュウボ 字號。㊀南朝宋、順帝(12−43349・・114)の字。㊁宋、宋昌言(3−7078・・302)の字。㊂宋、湛兪(7−17846・・59)の字。㊃宋、趙昌言(10−37171・・656)の字。㊄宋、梁汝嘉(6−14825・・275)の字。

【仲謀】407 チュウボウ 字號。㊀後漢、第五訪(8−25943・・50)の字。㊁三國吳、孫權(3−6987・・111)の字。㊂五代梁、張圖(4−9812・・586)の字。㊃宋、郭諮(11−39474・・103)の字。㊄宋、阮思聰(11−41569・・58)の字。㊅宋、張詢(4−9812・・412)の字。㊆宋、彭孫(4−10003・・85)の字。㊇宋、楊應詢(6−15112・・441)の字。㊈元、王惲(7−20823・・49)の字。㊉清、曹秉鈞(5−14297・・310)の字。⑪清、彭孫貽(4−10003・・182)の字。⑫清、傅弘烈(1−939・・162)の字。

【仲木】408 チュウボク 字號。㊀明、程一枝(8−25081・・154)の字。㊁明、呂柟(2−3386・・121)の字。㊂清、吳蕃昌(2−3365・・838)の字。㊃清、邵儒榮(11−39343・・116)の字。

【仲穆】409 チュウボク 字號。㊀元、趙雍(10−37171・・364)の字。㊁清、郭雍(11−39474・・213)の字。

【仲本】410 チュウホン 字號。㊀宋、戚維(5−11594・・3)の字。㊁明、樂良(6−15399・・275)の字。

【仲密】411 チュウミツ 北齊、高愼(12−45313・・495)の字。

【仲明】412 チュウメイ ㊀魚の名。しび。鮪(12−46126)の異名。〔詩、衞風、碩人〕鱣鮪發發、〔疏〕鮪、一名鮥、肉色白、味不レ如レ鱣也、今東萊遼東人、謂二之尉魚一、或謂二之仲明一、仲明者、樂浪尉也、溺二死海中一、化爲二此魚一。㊁字號。(イ)後漢、蔡朗(9−31818・・124)の字。(ロ)北周、陸通(11−41708・・200)の

字。㋑梁、鄭紹叔(11－39647‥481)の字。㋒宋、蔚昭敏(9－31805‥46)の字。㋓宋、宇文光(3－7067‥47)の字。㋔宋、許烋(10－35298‥204)の字。㋕宋、趙顥(10－37171‥69)の字。㋖宋、李覺(6－14459‥143)の字。㋗宋、王旭(7－20823‥253)の字。㋘宋、王博文(7－20823‥2043)の字。㋙金、赤盞暉(10－36993‥120)の字。㋚元、尹廷高(4－7631‥135)の字。㋛元、賈居貞(10－36755‥152)の字。㋜元、唐煜(2－3709‥4)の字。㋝元、陳顯(11－41698‥89)の字。㋞元、汪世顯(6－17154‥272)の字。㋟明、賈仲名(10－36755‥193)の一名。㋠明、葛曦(9－31420‥10)の字。㋡明、張昊(4－9812‥661)の字。㋢明、羅璟(9－28397‥84)の字。㋣清、甘文焜(7－21643‥252)の字。㋤清、是鏡(5－13859‥10)の字。

【仲銘】413 ナカナ 明、克新(1－1355‥66)の字。

【仲鳴】414 ナカナ 明、翟鑾(9－28727‥43)の字。

【仲茂】415 ナカモ 三國魏、荀詵(9－30929‥23)の字。

【仲蒙】416 ナカモ 宋、芮煜(9－30731‥2)の字。

【仲默】417 ナカモ 字號。❶宋、蔡沈(9－31818‥94)の字。❷明、何景明(1－511‥251)の字。❸明、秦聚奎(8－24995‥232)の字。

【仲間】418 ナカモ 宋、鞏嶸(12－42819‥4)の字。

【仲冶】419 ナカヤ 清、張問陶(4－9812‥1550)の字。

【仲野】420 ナカヤ 宋、張奎(4－9812‥247)の字。

【仲陽】421 ナカヤ ❶仲春(225)に同じ。陽は春のあたたかい氣。〔梁元帝纂要〕二月爲二仲陽一。❷宋、錢乙(11－40563‥5)の字。

【仲養】422 ナカヤ 明、鄭瀾(11－39647‥107)の字。

【仲約】423 ナカヤ 字號。❶明、陳體文(11－41698‥1111)の字。❷清、李文田(6－14459‥1918)の字。

【仲愈】424 ナカユ 元、彭寀(4－10003‥69)の字。

【仲裕】425 ナカユ 明、汪克寬(6－17154‥228)の字。

【仲雄】426 ナカユ ❶複姓。〔路史〕仲雄、楚公族之後。❷晉、劉毅、掖の人(2－2224‥157)の字。

【仲熊】427 ナカユ ❶複姓。〔萬姓統譜〕仲熊、羋姓、楚公族、有二仲熊氏一。❷上古の人。高辛氏の才子。八元の一人。舜に擧用せられ、五教を天下に布いた。〔左氏、文、十八〕、〔史記、六十七〕。

【仲輿】428 ナカヨ 明、錢春沂(11－40563‥351)の字。

【仲豫】429 ナカヨ 字號。❶後漢、荀悦(9－30929‥9)の字。❷南朝宋、庾悦(4－9398‥4)の字。❸宋、劉隨(2－2224‥413)の字。

【仲輿】430 ナカヨ 字號。❶晉、和郁(2－3490‥10)の字。❷明、郝敬(11－39430‥10)の字。

【仲璵】431 ナカヨ 明、莫璠(9－31078‥67)の字。

【仲譽】432 ナカヨ 後漢、袁京(10－34152‥47)の字。

【仲用】433 ナカヨ 明、梁穀(6－14825‥87)の字。

【仲容】434 ナカヨ ❶上古の人。高陽氏の才子。八愷の一人。舜に譽用せられ、后土を主る。〔左氏、文、十八〕、〔史記、六十七〕。❷字號。㋑晉、阮咸(11－41569‥7)の字。㋒晉、石苞(8－24024‥645)の字。㋓宋、韓境(12－43159‥62)の字。㋔宋、許渤(10－35298‥208)の字。㋕宋、章粹(8－25761‥107)の字。㋖宋、楊文廣(6－15112‥774)の字。㋗宋、汪澥(6－17154‥17)の字。㋘元、丁復(1－2‥184)の字。㋙明、焦竑(7－19119‥29)の字。㋚清、袁枚(10－34152‥93)の字。㋛清、孫詒讓(3－6987‥311)の字。㋜清、德保(4－10243‥256)の字。

『仲容青雲』435 ナカヨウセイウン 蒙求の標題。晉の阮咸(字は仲容)を、顔延之が五君詠を作つて青雲の器といつた故事。〔顔延之、五君詠〕阮始平仲容青雲器、實稟二生民秀一。〔蒙求、上、仲容青雲器、實稟二生民秀一〕

【仲庸】436 ナカヨ 字號。❶宋、黃中(平陽の人)(12－47926‥646)の字。❷明、沈秩(6－17189‥289)の字。

【仲雍】437 ナカヨ ❶殷の人。周の太王の次子。即ち虞仲。兄太伯と倶に、弟季歷を避けて荊蠻に適き、荊蠻は太伯を立てて吳君としたが、太伯卒して子なく、仲雍は之を嗣いで立つた。〔左氏、哀、七〕、〔史記、三十一〕。❷宋、上官愔(1－13‥185)の字。

【仲膺】438 ナカヨ 後漢、舒邵(9－30300‥50)の字。

【仲來】439 ナカライ 明、賀復徵(10－36725‥153)の字。

【仲朗】440 ナカラウ 唐、周昉(2－3441‥413)の字。

【仲樂】441 ナカラク 字號。❶北周、史文忻(2－3249‥271)の字。❷隋、宇文忻(3－7067‥46)の字。

【仲蘭】442 ナカラン 字號。❶清、周世金(2－3441‥730)の字。❷清、戚人鏡(5－11594‥59)の字。❸清、葉元堦(9－31387‥188)の字。

【仲理】443 ナカリ 字號。❶後漢、楊倫(6－15112‥390)の字。❷三國、帛和(4－8855‥33)の字。❸明、劉政(2－2224‥421)の字。❹明、王亨(7－20823‥132)の字。

【仲履】444 ナカリ 字號。❶元、王守道(7－20823‥1650)の字。❷明、潘允端(7－18236‥117)の字。

【仲立】445 ナカリツ ❶字號。㋑宋、上官基(1－13‥187)の字。㋺宋、范寬(9－30834‥27)の字。㋩明、金建中(11－40152‥1243)の字。㋥明、東野子儀(6－14499‥696)の字。㋭清、朱賓占(6－14424‥974)の字。❷雙方の中に立つて事を取次ぎ意を通ずること。又、其の人。〔源氏物語、東屋〕中だちのかくことよくいみじきに。㋺他人の間に立つて賣買の媒介をする者。口入れ。

『仲立口』446 ナカタチグチ うまく双方を取りなすこと。

『仲立營業』447 ナカタチエイゲフ 商法上、他人間の商行爲の媒介をする營業をいふ。

【仲栗】448 ナカリツ 明、徐寬(4－10110‥104)の字。

【仲良】449 ナカリヤウ 字號。❶北周、薛善(9－32123‥92)の字。❷宋、傅康(1－939‥18)の字。❸明、都愈(11－39509‥182)の字。❹明、馬之駿(12－44572‥7)の字。❺清、劉秉璋(2－2224‥1307)の字。

【仲亮】450 ナカリヤウ 字號。❶北齊、王昭(7－20823‥669)の字。❷清、范明徵(9－30834‥270)の字。

【仲梁】451 ナカリヤウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕仲梁懷、魯大夫。❷元、杜仁傑(6－14477‥352)の字。

【仲略】452 ナカリヤク 後魏、路雄(10－37524‥107)の字。

【仲呂】453 ナカリヨ 音樂の十二律の陰に屬する調子。陰曆四月に配す。中呂(1－73‥831)を見よ。〔呂覽、孟夏紀〕孟夏之月、云云、律中二仲呂一。〔淮南子、天文訓〕仲呂者、中充大也。

【仲慮】454 ナカリヨ 漢、費汎(10－36717‥65)の字。

【仲林】455 ナカリン 字號。❶清、余蕭客(1－515‥103)の字。❷林慮の號。林鶩峰(6－14551‥277)を見よ。

【仲倫】456 ナカリン 字號。❶南朝宋、雷次宗(12－42245‥189)の字。❷陳、沈君理(8－17189‥486)の字。❸元、李序(6－14459‥455)の字。❹清、吳德旋(2－3365‥813)の字。

【仲綸】457 ナカリン 字號。❶宋、陳之經(11－41698‥903)の字。❷明、傅宗龍(1－939‥189)の字。

【仲禮】458 ナカレイ 字號。❶宋、張安上(4－9812‥763)の字。❷金、移剌光祖(8－25045‥111)の字。❸元、滕安上(7－18036‥44)の字。❹元、楊敬悳(6－15112‥506)の字。❺明、魏富(12－45872‥129)の字。❻明、彭富(4－10003‥109)の字。❼清、周凱(2－3441‥49)の字。

【仲靈】459 ナカレイ 宋、契嵩(8－5917‥35)の字。

【仲列】460 ナカレツ 唐、王無競(7－20823‥2118)の字。

【仲烈】461 ナカレツ 字號。❶後魏、宋紀(3－7078‥47)の字。❷宋、吳挺(2－3365‥317)の字。

【仲連】462 ナカレン 字號。❶宋、胡嶧(9－29400‥22)の字。❷宋、趙必漣(10－37171‥854)の字。

『仲連蹈海』463 ナカレンタウカイ 蒙求の標題。戰國、齊の魯仲連が、秦が天子となつたら東海を蹈んで死せんといつた故事。〔史記、魯仲連傳〕魯仲連適游レ趙、會二秦圍一レ趙、聞二魏將一レ欲レ令二趙尊一レ秦爲レ帝、云云、魯仲連曰、世以二鮑焦一爲レ無二從頌一、而死レ者、皆非也、衆人不レ知、則爲二一身一、從秦者、弃二禮義一、而上二首功一之國也、權使其士、虜二使其民一、彼即肆然而爲レ帝、過而爲二政於天下一、則連有レ蹈二東海一、而死耳、吾不レ忍レ爲二之民一也。

【仲廉】464 ナカレン 字號。❶元、吳簡(2－3365‥82)の字。❷明、韓廉(娄源の人)(12－43159‥284)の字。❸清、馮偉(12－44579‥8)の號。

【仲璉】465 ナカレン 南齊、封延伯(4－7426‥184)の字。

【仲路】466 ナカロ 宋、高居簡(12－45313‥1090)の字。

『仲路諾』467 ナカロダク 一度承諾したならば直ちに實行することの喩。仲路は、仲由、字は子路、孔子の弟子。論語、顔淵篇の子路無レ宿レ諾から出た故事。〔江淹、雜體、謝法曹惠連贈別詩〕共秉二延州信一、無レ慙二仲路諾一。

【仲幹】468 ナカロ 清、侯七乘(1－633‥118)の字。

【仲魯】469 ナカロ 字號。❶元、閔甲(11－41251‥4)

の字。❷明、邵一儒(11−39343‥88)の字。❸明、潘希曾(7−18236‥136)の字。❹明、汪叡(6−17154‥10)の字。

【仲盧】470 チュウロ 後漢、丁茂(1−2‥194)の字。

【仲和】471 チュウワ 字號。❶後漢、孔僖(3−6933‥29)の字。❷後漢、任隗(1−416‥48)の字。❸南齊、王諶(7−20823‥638)の字。❹北周、李基(6−14459‥176)の字。❺後魏、蘇淑(9−32427‥95)の字。❻宋、韓燮(12−43159‥152)の字。❼宋、嚴思義(2−4589‥282)の字。❽宋、吳塤(2−3365‥160)の字。❾宋、李鉤(6−14459‥221)の字。❿金、李獻可(6−14459‥1145)の字。⓫元、艾易(9−30648‥4)の字。⓬元、郭侃(11−39474‥34)の字。⓭元、謝讓(10−35827‥109)の字。⓮元、謝庭芝(10−35827‥331)の字。⓯元、李賓橋(6−14459‥867)の字。⓰明、徐象梅(4−10110‥475)の字。⓱明、詹僖(10−35458‥6)の字。⓲明、盧祥(8−23050‥86)の字。⓳清、潘凱(7−18236‥10)の字。⓴清、楊調元(6−15112‥724)の號。

【仲雲澗】472 チュウウンカン 清、江蘇蘇州の人。其の名は詳かでない。紅豆村樵と號す。著に紅樓傳奇がある。

【仲永檀】473 チュウエイダン 清、濟寧の人。乾隆の進士。官は監察御史。抗直敢言、建白する所多く、步軍統領鄂善の受賄を彈劾して、僉都御史に擢んでられたが、鄂容と黨を結び、坐して職を奪はる。〔清史稿、三百十二〕・〔清史列傳、十八〕・〔國朝耆獻類徵、八十二〕。

【仲開一】474 チュウカイイツ 清、仲宏道(476)を見よ。

【仲鶴慶】475 チュウカクケイ 清、泰州の人。字は品崇。號は松嵐。乾隆の進士。詩に巧で、又善く蘭を畫く。〔清畫家詩史、丁、上〕・〔墨香居畫識、一〕。

【仲宏道】476 チュウクワウダウ 清、嘉興の人。字は開一。著に增定史韻・讀史小論などがある。〔顏李師承記、五〕。

【仲元熙】477 チュウゲンキ 清、吳江の人。字は澄生。官は雲騎尉を廕襲した。著に澄生文稿がある。

【仲山父】478 チュウザンポ 仲山甫を見よ。

【仲山甫】479 チュウザンポ 周の宣王の時の卿士。采を樊に食み、爵は侯。字は仲山甫。宣王を補佐して中興の治をなす。漢書、古今人表には中山父に作り、國語、周語には樊仲山父に作る。權德輿は姓を姬とする。史記正義には毛萇の說を引いて、仲山甫は樊穆仲なりといひ、穆は山甫の謚とする。〔左氏、宣、二〕・〔史記、四〕。

【仲子崔】480 チュウシサイ 春秋、魯の人。孔門の子路の子。子路が衞の蒯聵の亂に赴いて孟黶に殺されて後、衞に入つて黶と戰ひ、黶を討取つて仇を報じた。〔師覺授、孝子傳〕・〔淵鑑類函、人、報讎〕。

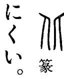
【仲子陵】481 チュウシリヨウ 唐、嶲眉の人。賢良方正に擧げられ、太常博士となる。〔唐書、二百〕。

【仲昰保】482 チュウシハウ 清、常熟の人。字は羹梅。號は翰村。著に翰村詩稿がある。〔四庫提要、一百八十五〕。

【仲雝山人】483 チュウヨウサンジン 清、許佑(10−35298‥8)の號。

【仳】404

㊀ヒ ビ 〔集韻〕普弭切 ㄆㄧˇ p'i³ 紙
㊁ヒ ビ 〔集韻〕頻脂切 支


小篆

㊀**わかれる**。〔說文〕仳、別也、从ㇾ人比聲、詩曰、有ㇾ女仳離。㊁**みにくい**。仳倠。〔說文〕倠、仳倠、醜面也。〔廣雅、釋詁二〕仳倠、醜也。〔廣韻〕仳、仳倠、醜女。

【仳倠】1 ヒキ しこめ。醜女。又、古の醜女の名。〔廣雅、釋詁二〕仳倠、醜也。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕仳倠倚㆓於彌楹㆒。〔注〕仳倠、醜女也。〔淮南子、脩務訓〕雖㆓粉白黛黑㆒、弗ㇾ能ㇾ爲ㇾ美者、嫫母・仳倠也。〔注〕嫫母・仳倠、古之醜女。

【仳脇】2 ヒケフ 一枚あばらをいふ。仳は比に通ず。〔論衡、骨相〕晉公子重耳仳脇、爲㆓諸侯霸㆒、云云、張儀仳脇、亦相㆓秦魏㆒。

【仳別】3 ヒベツ ❶別れる。〔謝惠連、西陵遇ㇾ風獻㆓康樂㆒詩〕哲兄感㆓仳別㆒、相送越㆓坰林㆒。〔注〕善曰、毛萇曰、仳、別也。❷區別する。〔還魂記、冥誓〕怎做㆓的露水㆒相看仳別。

【仳離】4 ヒリ 別離をいふ。〔詩、王風、中谷有蓷〕有ㇾ女仳離、嘅其嘆矣。〔傳〕仳、別也。〔箋〕有㆘女遇㆓凶年㆒而見ㇾ棄、與㆓其君子㆒別離㆖。

【叏】405

ダウ 閙(12−45639)に同じ。〔玉篇〕叏、與ㇾ閙同。

【⿰亻气】406

キツ 仡(1−382)の本字。〔正字通〕⿰亻气、仡本字。

【⿰亻兮】407

ゲイ 〔集韻〕研奚切 齊

⿰亻兮倪は佯つて知らぬふりをするさま。〔集韻〕⿰亻兮、⿰亻兮倪、陽不ㇾ知皃。

【仴】408

グヮツ グヮチ 〔玉篇〕五活切 曷

地名。〔玉篇〕仴、地名。

【仵】409

㊀ゴ 〔集韻〕阮古切 ㄨˇ wu³ 麌
㊁ゴ 〔集韻〕五故切 遇

㊀❶**あたる**。**あひて**。〔玉篇〕仵、偶敵也。〔集韻〕仵、偶也。❷仵作は檢死係の役人。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕一面、印官帶㆓同仵作・刑書・硃墨・筆硯・紙張㆒、親身往驗。❸通じて伍(1−435)に作る。〔正韻〕仵、通作ㇾ伍。❹**屍體を檢べる**。仵作(2)を見よ。❺**姓**。〔路史〕楚公族有㆓仵氏㆒。〔姓苑〕襄陽莆田、多㆓此姓㆒。㊁**おなじ**。〔集韻〕仵、同也。〔莊子、天下〕以㆓觭偶不仵之辭㆒相應。〔釋文〕不仵、音誤、徐音五、仵、同也。

【仵璪】1 ゴサウ 明、鳳陽の人。字は時傑。本姓は午。官は翰林學士。姓を仵と賜はる。後、文華殿學士に至る。〔六安州志〕。

【仵作】2 ゴサク 檢屍係の役人。宋代から置かれ、清末、改めて檢驗吏といふ。〔福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗〕兇犯未ㇾ獲、一面、差ㇾ役先拿、星㆓赴驗所㆒、一面、印官帶㆓同仵作・刑書・硃墨・筆硯・紙張㆒親身往驗。〔稱謂錄、隸、仵作〕仵作、宋已有ㇾ之、折獄龜鑑、有ㇾ人行商回、見㆘妻爲㆓人殺㆒而失㆗其首㆖、不ㇾ勝㆓捶楚㆒、自誣ㇾ殺ㇾ妻、府從事獨疑ㇾ之、乃追㆓封內仵作行人㆒、令ㇾ供㆓近日異人安厝去處㆒。〔六部成語、刑部、仵作、注解〕驗尸之男役也。

【仵作學士】3 ゴサクガクシ 檢屍係から出世した學士の意。蔣彝といふものが、朱沖の葬事を辨じて直祕閣に除せられたのでかくいはれた。〔泊宅編〕近歲除㆓直祕閣㆒者尤多、兩浙市舶張苑、進㆓篤祿香㆒得ㇾ之、時號㆓篤祿學士㆒、運判蔣彝、應㆓副朱沖葬事㆒得ㇾ之、號㆓仵作學士㆒、越州通判魏志崇、獲㆓盜黃烏觜㆒得ㇾ之、號㆓賊學士㆒。

【仵匠】4 wu^3 $chiang^4$ 死骸を檢査し片付ける役。

【仵城】5 ゴジヤウ 縣名。唐、置く。後魏の五城縣。隋、伍城と改む。故城は山西省吉縣の北。又、金、置く。故治は山西省隰縣の南。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、吉州〕仵城廢縣、本北屈縣地、後魏置㆓五城縣㆒、兼置㆓五城郡治㆒焉、魏收志、五城縣、初曰㆓京軍㆒、太和二十一年、改名㆓五城㆒、隋初郡廢、改ㇾ縣曰㆓伍城㆒、屬㆓汾州㆒、唐武德二年、改置㆓仵城縣㆒、屬㆓昌州㆒、貞觀初、縣廢、尋復置、改屬㆓慈州㆒、宋廢爲㆓仵城鎭㆒、金興定五年、復置㆓仵城縣㆒、屬㆓隰州㆒、元廢。

【仵人】6 wu^3 jen^2 檢屍者。

【仵瑜】7 ゴユ 明、蒲圻の人。字は忠父。正德の進士。官は世宗の初、禮部主事。後、群臣と闕下に伏して大禮を爭ひ、遂に罪せられて死す。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十八〕・〔明史稿、一百八十九〕。

【仵正臣】8 ゴセイシン 元、樂安の人。字は眞卿。品行方正で、官を辭して親に事へ、孝を以て聞ゆ。

〔山東通志〕。

【件】410

日ケン ゲン 〔集韻〕巨展切 銑 ㄐㄧㄢˇ chien⁴
曰ボウ

㊀㊀わかつ。物の別。區別。〔説文〕件、分也、从レ人从レ牛、牛大物、故可レ分。〔六書故〕件、物別也。㊁すぢ。くだり。箇條。分疏した條項。事物の數を數へるに用ひる。〔正字通〕件、又名件條件、俗號二物數一曰二若干件一。〔北史、郎基傳〕遂條件、申二臺省一。〔北史、盧仝傳〕具二件階級數一。〔汪元量、湖州歌〕花毯褥裀三萬件。〔唐書、刑法志〕所レ犯十人以上、所二斷罪一二十件以上爲レ大。㊂俌(1－597)に同じ。〔集韻〕俌、或省。邦くだん。くだりの音便。前に記した物事。前記の文面。證書の結尾に用ひる。

名乘 カズ。ナカ。ワカ。

參考 此の字は元來説文に無く、大徐の補入にかかる。伴の譌字。〔説文通訓定聲〕件、此字、大徐補入説文、爲二十九文之一一訓分也、从レ人从レ牛、牛大物、故可レ分、據レ所レ釋卽半字、愚按、卽伴字从レ人半省聲、後世所レ用條件名件字、皆借レ伴爲レ半耳。

【件作】1ケンサク 箇條箇條。しなじな。各條。〔王阮、代二胡倉一進二聖德惠民一詩〕件件絲盈レ軸、方方麥薦レ籧。〔桃花扇、先聲〕件件具全、豈不レ可レ賀。

【件色】2 chien⁴ se⁴ 品物の類別。

【件數】3ケンスウ ㊀事がらの數。事件の數。㊁品數。貨物の數。

【如レ件】4クダンノゴトシ 前に述べた通りといふ意。〔島津文書〕目安如レ件。〔傾城佛原、一〕其の爲め如レ件と讀み。

【件名簿】5ケンメイボ 事柄を箇條別に書き記す帳簿。

【伕】411

タン ドン 〔集韻〕徒感切 感

㊀髮の垂れたさま。髡(12－45378)に同じ。〔集韻〕髡、髮垂皃、或从レ人。〔詩、鄘風、柏舟〕髡彼兩髦。〔釋文〕髡、本又作レ伕。㊁とどめる。〔正字通〕伕、止也。

【伽】412

カイ 〔集韻〕居拜切 卦 ㄐㄧㄝˋ chieh⁴

小篆 ㊀よい。或は俴(1－638)に作る。〔説文〕伽、善也、从レ人介聲。〔集韻〕伽、或作レ俴。〔詩、大雅、板〕伽人維藩。〔傳〕伽、善也。㊁大きい。〔正韻〕伽、大也。〔詩、大雅、板〕伽人維藩。〔集傳〕伽、大也、大德之人也。㊂甲をかうむる人。又、なかだちする。介(1－359)に通ず。〔正字通〕伽、俗借作レ價。

參考 俗に價の字に借り用ひる。〔辭海〕伽、俗借作レ價。

【伽人】1カジン ㊀甲を被る人。卿士で軍事を掌る者をいふ。一説に、善い人、又、大人。字解の㊀㊂を見よ。〔詩、大雅、板〕伽人維藩。〔傳〕伽、善也。〔箋〕伽、甲也、被レ甲之人、謂下卿士掌二軍事一者上也。㊁字號。㋑清、宋維藩(3－7078：219)の字。㋺清、李藩(6－14459：673)の字。㋩清、柳以蕃(6－14662：235)の字。「名。

【伽夫】2カフ 明、陳介夫(11－41698：691)の一

【伽婦】3カフ しもべ。〔稱謂錄、婢、伽婦〕留青集、僕妾也。

【俔】413

エウ 〔集韻〕於兆切 篠

㊀よわい。〔集韻〕伕、尪弱謂二之伕一。㊁伸びないさま。〔集韻〕伕、一曰、伕僑、不レ伸。㊂夭(3－5838)に同じ。〔正字通〕伕、與レ夭同。㊃妖(3－6086)・祆(8－24637)・殀(6－16390)に通ず。〔正字通〕伕、又與二妖・祆・殀一通。

【俳】414

フウ ㊀丰(1－76)に通ず。〔正字通〕俳、與レ丰通。㊁仙人の名。〔字彙〕丰、仙人名。

【佺】415

サウ 倉(1－756)の古字。〔集韻〕倉、奇字作レ佺。

【任】416

日ジン ニン 〔集韻〕如林切 侵 ㄖㄣˊ jen²
曰ジン ニン 〔集韻〕如鴆切 沁 ㄖㄣˋ jen⁴

小篆 ㊀㊀あたる。〔左氏、僖、十五〕衆怒難レ任。〔注〕任、當也。〔左氏、成、二〕後之人、必有レ任レ是夫。〔釋文〕任、當也。㊁いだく。おふ。になふ。〔正字通〕任、負也、擔也。〔詩、大雅、生民〕是任是負。〔傳〕任、猶レ抱也。〔楚辭、九章、悲回風〕任二重石一之何益。〔注〕任、負也。〔國語、晉語三〕任二大惡一。〔注〕任、荷也。㊂のせる。〔呂覽、博志〕以重載、則不レ能二數里一、任レ重也。〔注〕任、載也。〔淮南子、道應訓〕於レ是、爲二商旅一將レ任レ車。〔注〕任、載也。㊃たもつ。うけあふ。保證する。〔説文〕任、保也、从レ人壬聲。〔廣雅、釋言〕任、保也。〔淮南子、説山訓〕生レ子者、不レ能レ任二其必孝一也。〔注〕任、保也。㊄にもつ。〔禮、王制〕輕任幷、重任分。〔孟子、滕文公上〕門人治レ任將歸。〔釋文〕治レ任、謂レ治二擔任之具一。〔韓非子、外儲説左上〕引二三十石之任一、致レ遠力多。㊅たへる。〔廣韻〕任、堪也。〔國語、魯語上〕不レ能レ任レ重。〔注〕任、勝也。〔楚辭、天問〕不レ任二汩鴻一。〔史記、白起王翦傳〕病不レ任レ行。〔注〕正義曰、任、堪也。㊆能。才能。〔莊子、秋水〕任士之所レ勞。〔釋文〕任、能也。㊇まこと。友に信あること。むつまじい。〔正字通〕任、誠篤也。〔詩、邶風、燕燕〕仲氏任只。〔箋〕以レ恩相親信也。〔周禮、地官、大司徒〕二曰六行、孝友睦婣任恤。〔注〕任、信二於友道一。㊈をとこぎ。俠氣。〔墨子、經、上〕任、士損レ己、而益レ所レ爲也。〔史記、灌夫傳〕夫不レ善二文學一、好二任俠一。㊉仁義をよくすること。〔新書、道術〕仁義修立、謂二之任一。㊊つかふ。もちひる。〔廣雅、釋詁一〕任、使也。〔周禮、秋官、司隸〕爲二百官一積二任器一。〔注〕任、猶レ用也。㊋ねぎける。〔集(6－14711)又は壬(3－5639)に通ず。〔説文通訓定聲〕任、又借爲レ銋。〔爾雅、釋詁〕任、佞也。〔正韻〕壬、佞也、亦作レ任。〔書、舜典〕而難二任人一。〔傳〕任、佞。㊌大きい。〔詩、邶風、燕燕〕仲氏任只。〔傳〕任、大也。㊍古の南夷の樂。〔禮、明堂位〕任、南蠻之樂也。〔公羊、昭、二十五、以舞二大夏一、注〕南夷之樂曰レ任。㊎任木。車輿の下にあつて、輿の重さを支へるもの。一説に、輦ともいふ。〔周禮、考工記、輈人、任木、孫詒讓正義〕淮南子、説林訓云、任動者、車鳴也、任、蓋卽指二

任木、高注釋爲ㇾ輦、失ㇾ之。〔淮南子、說林訓〕任動者、車鳴也。〔注〕任者、輦、詩云、我任我輦。㊀**國の名。**周の時の風姓の國。今の山東省濟寧縣。〔左氏、僖、二十一〕任・宿・須句・顓臾、風姓也。〔莊子、外物〕任公子、爲ニ大鉤巨緇一。〔釋文〕任、國名。㊁**姓。**〔唐書、宰相世系表〕任姓、出ㇾ自ニ黃帝少子禹陽一、受ニ封於任一、因以爲ㇾ姓。㊂(一)**つとめ。職務。やくめ。しごと。事。つとめをする。**〔周禮、夏官、大司馬〕以任ニ邦國一。〔注〕任、猶ㇾ事也、事以ニ其力之所ㇾ堪。〔論語、泰伯〕仁以爲ニ己任一。〔國語、周語上〕保ㇾ任戒懼。〔注〕任、職也。(二)**まかす。ゆだねる。**〔管子、五行〕任ニ君賜賞一。〔注〕任、委也。〔史記、高祖紀〕陳平智有ㇾ餘、然難ニ獨任一。(三)**さづける。**任用する。〔書、大禹謨〕任ㇾ賢勿貳。〔史記、韓非子傳〕求ㇾ人任ㇾ賢。(四)**功を立てる。**〔周禮、天官、大宰〕以任ニ百官一。〔注〕任、猶ㇾ傳也。〔疏〕傳、猶ㇾ立也、東齊人、物立ニ地中一爲ㇾ傳、云云、欲ㇾ使ニ百官皆立ニ其功一也。(五)**よる。**凭(12－1766)に通ず。〔說文通訓定聲〕任、叚借爲ㇾ凭。〔謝惠連、雪賦〕任ㇾ地班ㇾ形。〔注〕任、猶ㇾ因也。(六)**もちひる。**〔周禮、地官、牛人〕以載ニ公任器一。〔注〕任、猶ㇾ用也。〔呂覽、察今〕此任ㇾ物亦必悖矣。〔注〕任、用。(七)**よくする。**〔戰國、魏策〕是大王籌策之臣無ㇾ任矣。〔注〕任、能也。(八)**ほしいまま。きまま。**〔晉書、張翰傳〕縱任不ㇾ拘。(九)**任地。**主宰する地方。〔潘岳、楊荊州誄〕君蒞ニ其任一、視ㇾ民如ㇾ傷。〔宋史、職官志〕其赴ニ任川陝一者、給ニ驛券一。(十)**漢末に、王莽が公主に授けた爵。**〔說文通訓定聲〕任、叚借爲ㇾ男、按、亦男爵也、易ニ其字一、以別ニ於男子之稱一耳。〔漢書、王莽傳〕封ニ王氏齊繆之屬一、爲ㇾ侯、大功爲ㇾ伯、小功爲ㇾ子、其女皆爲ㇾ任。(十一)**脈の名。**任脈(184)を見よ。〔素問、上古天眞論〕任脈通。〔注〕任脈衝脈、皆奇經脈也。(十二)**はらむ。**妊(3－6072)・姙(3－6200)に通ず。〔說文通訓定聲〕妊、漢書元后傳、李親任ニ政君一在ㇾ身、以ㇾ任爲ㇾ之。〔正字通〕任、與ニ妊・姙一同。〔大戴禮、保傅〕周后妃任ニ成王於身一。

名乘　タダ。タフ。タネ。ヒデ。

【任愛】1 ニンアイ　任じ愛する。〔漢書、陳平傳〕其所ニ任愛一、非ニ諸項一、卽妻之昆弟。

【任安】2 ジンアン　(一)漢、滎陽の人。字は少卿。初、衞青の舍人となり、終始節を守つて去らず。後、官は益州の刺史。武帝の時、太子の事を以て吏に下されて誅せられる。〔史記、一百四〕・〔前漢書、六十二〕。(二)後漢、綿竹の人。字は定祖。少時より學を好み、隱居して名利を求めなかつたので、時人、任孔子と稱す。又、史記魯仲連傳を讀み、感歎して終身仕へなかつたから、時人は任徵君とも號した。〔後漢書、二百九上〕・〔高士傳、下〕。

【任菴】3 ジンアン　字號。任盦。(一)清、王鋐(7－20823：73)の號。(二)清、董宏毅(9－31433：192)の號。(三)清、王莘(7－20823：630)の字。(四)清、王端(7－20823：769)の號。

【任盦】4 ジンアン　任菴を見よ。

【任意】5 イニン　心のまま。氣まかせ。隨意。〔何休、春秋公羊傳序〕說者疑惑、至ㇾ有ニ倍ㇾ經任ㇾ意、反ㇾ傳違戾者一。〔仲長統、述志詩〕任ㇾ意無ㇾ非、適ㇾ物無ㇾ可。

【任意法】6 ニンイホウ　強行法に對して、個人の意志によつて遵ふか否かを決定し得る法律。民法・商法等のやうなもの。

【任意債務】7 ニンイサイム　法律上、債務者が其の債務の目的外の物を提供して辨濟することを得る債務。

【任意出頭】8 ニンイシュットウ　法律上、召喚狀によらないで、官署へ任意に出頭すること。

【任意代理】9 ニンイダイリ　代理の一つ。法定代理に對して、本人の意志に基づいて代理權が授與された場合の代理をいふ。

【任願】10 ジンカン　清の人。熊の族子。字は伯年。少くして孤、母に事へて孝。人物畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【任委】11 ニンキ　まかす。委任。〔南史、陳慶之傳論〕慶之初同ニ鷙雀之游一、終懷ニ鴻鵠之志一、及ニ乎一見ニ任委一、長驅伊洛一、前無ニ強陣一、攻靡ニ堅城一。

【任瑋】12 ジンキ　唐、任瓊(50)をいふ。

【任由】13 jen² yu²　隨意に。任意。

【任運】14 ニンウン　運命の自然にまかせる。〔宋書、王景文傳〕有ㇾ心ニ於避ㇾ禍、不ㇾ如ㇾ無ㇾ心ニ於任ㇾ運。

【任永】15 ジンエイ　後漢、陝道の人。字は君業。好古博學。公孫述に徵されて就かず。〔後漢書、一百十一〕。

【任延】16 ジンエン　後漢、宛の人。字は長孫。幼時から春秋・詩・易に通じたので、任聖童と稱せらる。官は潁川太守。〔後漢書、一百六〕。

【任淵】17 ジンエン　宋、新津の人。字は子淵。紹興の初、文藝類を以て有司の第に試みらる。官は潼州憲。著に山谷內集注・后山詩注・精華錄がある。〔四庫提要、一百五十四〕。

【任怨】18 ニンエン　自ら進んで怨を引き受ける。〔漢書、石顯傳〕誠不ㇾ能ㇾ以ニ一軀一稱ニ快萬衆一、任ニ天下之怨一。〔宋史、周必大傳〕有ㇾ介ニ椒房之援一、求ㇾ爲ニ郎者一上俾ニ諭給舍一繳駁、必大曰、云云、命下之日、臣等自當ニ執奏一、上喜曰、肯如ニ此、任ㇾ怨耶、必大曰、當ㇾ予而不ㇾ予、則有ㇾ怨、不ㇾ當ㇾ予而不ㇾ予、何怨之有、上曰、此任ㇾ責、非ㇾ任ㇾ怨也。

【任瑗】19 ジンエン　清、江蘇山陽の人。字は恕菴。號は東澗。年十八、擧子の業を棄てて講學靜坐三年、既にして之を悔い、孔孟程朱の書を取つて、潛玩力索、久しくして得る所があつた。書室を六有軒・六溪山房といふ。著に朱子文類纂注・論語困知錄・中庸困知錄・大學困知錄・周易筆解・易學象數傳心錄・太極圖說析疑・通書測・讀經管見・小泉筆記・困學恐聞・反經說・陽明傳習錄辨・小泉集・知言劉記・朱子年譜・讀史衡說・史記論文・史記筆談・六溪山房文稿・六有軒存稿・寒山吟漫錄・拊缶集・六有軒詩漫抄・藝林がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百十一〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【任可】20 ニンカ　清、徐志辛(4－10110：452)の字。

【任何】21 jen² ho²　如何なる。何事も。任甚麼(227)に同じ。

【任河】22 ジンカ　河の名。四川省城口縣に發源し、北流して陝西省紫陽縣に入り漢口に注ぐ。

【任暇】23 ジンカ　三國、魏の人。旐の子。字は昭先。十四の時から二年の間に五經の義を究め盡した。官は黃門侍郎。〔後漢書、六十五〕。

【任愷】24 ガイ　晉、博昌の人。字は元褒。諡は元。官は吏部尚書。封は昌國縣侯。後、賈充等に讒せらる。〔晉書、四十五〕。

【任好】25 カン　春秋、秦の穆公(8－25251：14)の「名。

【任昂】26 ジンカウ　明、河陰の人。字は伯顒。元末の進士。官は禮部尚書。太祖の命を受けて監規八條を增定し、制度典禮の事に功あり。〔明史、一百三十六〕・〔萬斯同明史、一百七十九〕・〔明史稿、一百二十四〕。

【任敖】27 ガウ　漢、沛の人。諡は懿。少時獄吏となり、高祖と親交を結び、高祖の項羽を擊つや、陳豨と戰つて功を立つ。官は御史大夫。封は廣阿侯。〔史記、九十六〕・〔前漢書、四十二〕。

【任囂】28 ガウ　秦の人。始皇の時、南海尉に拜せられて、揚粵の亂を平定し、又、秦の滅亡後、關隘を築いて寇を禦ぎ、南海の地の太平を致した。〔史記、一百十三〕。

【任囂城】29 ジンガウ　城の名。秦の任囂の築いたもの。廣東省樂昌縣の西南に當る。〔水經、溱水注〕瀧口西岸、有ニ任將軍城一、南海都尉任囂所ニ築也一、囂死、尉佗自ニ龍川一始居ニ之一。〔讀史方輿紀要、廣東、韶州府、樂昌縣〕樂昌廢城、縣西南二里、志云、秦時任囂所ニ築置一、戍ニ兵於此一。

【任幹】30 ニンカン　大事を任ずることの出來る人材。〔吳志、樓玄傳〕諸吏之中、任幹之事、足ㇾ委ニ杖者、無ニ勝於樓玄一。

【任漢】31 ジンカン　明、溫江の人。字は寧海。弘治の進

士。官は御史・都御史大理寺卿。〔國朝列卿記、九十二・一百三・一百十二〕・〔本朝分省人物攷、一百七〕。

【任瀚】32(ジンカン) 明、南充の人。字は少海。嘉靖の進士。官は翰林院檢討。六經に心を潛め、殊に晩年には易に心を注ぐ。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十四〕・〔明詩綜、四十一〕。

【任氣】33(キニン) 任俠の氣。又、勇氣にまかせて振舞ふこと。〔吳志、凌統傳〕剛勇任氣。〔梁元帝、追二思張讀一詩序〕簡憲之爲レ人也、不レ事二王侯一、負レ才任レ氣。

【任寄】34(キニン) まかす。ゆだねる。〔江淹、王僕射加レ兵詔〕忠欵昭著、任寄隆深。

【任期】35(キニン) 職を奉じて任地に在る年限。任限。

【任貴】36(キジン) 金、易州の人。畫を善くし、好んで兵を談じた。〔金史、百二十五〕。

【任熙】37(キニン) 晉、成都の人。字は伯遠。毛詩・京房易を治め、五經に通ず。南鄭・梓潼の令に歷任して治績があつた。後、朱提太守に任ぜられたが辭退す。述作を好み、其の詩誄論難は何れも艷麗の趣を具へた。

【任器】38(キニン) ❶其の人の器量にまかす。〔歐陽詹、與二王式一書〕任レ材任レ器。❷使用する器物。雜用の器。用器。〔周禮、地官、牛人〕凡會同軍旅行役、共二其兵車之牛一、與二其牽徬一以載二公任器一。〔注〕任、猶レ用也。〔周禮、秋官、司隸〕爲二百官一積二任器一。〔周禮、秋官、司厲〕掌二盜賊之任器貨賄一。〔晏子、諫、上〕致二任器于陌一。

【任儀】39(ジンギ) 明、閬中の人。進士から御史に至つたが、事有つて劉瑾の爲に西安同知に貶謫せられた。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十六〕。

【任誼】40(ジンギ) 宋の人。字は才仲。官は澧州通判。畫に巧。〔畫繼〕。

【任丘】41(ジンキウ) 縣名。北齊、置く。漢、鄚縣の地。故城は河北省任丘縣の南。唐の時、復、置く。太平寰宇記には二郡記を引いて、漢の元始二年、巡海使の中郎將任丘が、此の城を築いて海口を防いだので名づけたといふ。併し、漢書に任丘なる人のない所から見て、三郡記の記事は恐らく假托であらう。〔讀史方輿紀要、直隸、河閒府〕任丘縣、府北七十里、漢鄚縣地、屬二涿郡一。平景元始二年、使二中郎將任丘築一レ城於此一、以防二海寇一、因名、高齊始置二任丘縣一。隋省。唐武德五年復置、屬二瀛州一。〔清史稿、地理志〕直隸、河閒府、縣十、任邱。

【任咎】42(キンキウ) 責任を引受ける。〔北史、王昕傳〕府主自忽傲、僚佐敢任二其咎一者乎。〔宋史、蘇軾傳〕推レ所二從來一、則必有レ任二其咎一者乎。

【任擧】43(キンキョ) ❶責任を負つて推擧する。〔禮、儒行〕其任擧有二如此者一。〔疏〕謂二朋友更相委任擧薦一、有レ如二此在レ上諸事一。〔管子、立政〕觀樂玩好之說勝、則姦民在二上位一、請謁任擧之說勝、則繩墨不レ正。〔史記、穰侯傳〕白起者、穰侯之所二任擧一也。❷〔ジンキョ〕清、大同の人。謚は勇烈。雍正の進士。固原城守營參將となつて戰功を立つ。〔清史稿、三百十七〕・〔清史列傳、二十四〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十八〕。

【任旭】44(ジンキョク) 晉、章安の人。字は次龍。孝廉に擧げられ、屢〻徵されたが、就かず。〔晉書、九十四〕。

【任禁】45(キンキン) 任と禁との二つの音樂。任は南夷、禁は北夷の樂。〔左思、魏都賦〕蛛昧任禁之曲。〔注〕善曰、孝經鉤命決曰、東夷曰レ昧、南夷曰レ任、西夷之樂曰二株離一、北夷之樂曰レ禁。

【任遇】46(ジングウ) 任じ遇する。〔柳宗元、懲咎賦〕哀二吾黨之不レ淑兮、遭二任遇之辛迫一。

【任果】47(ジンクワ) 北周、南安の人。字は靜鸞。文帝の時、蜀を討つて功あり。官は始州の刺史。封は安樂郡公。後、刺客に殺さる。〔周書、四十四〕・〔北史、六十六〕。

【任隗】48(ジンクヰ) 後漢の人。光の子。字は仲和。官は司空。〔後漢書、五十一〕。

【任槐】49(ニンクヰ) 大臣に任ぜられること。槐は大臣の位。二槐(1－12：355)を見よ。〔梁書、呂僧珍傳〕參任二台槐一、式隆二朝寄一。

【任瓌】50(ジンクヰ) 唐、合淝の人。字は瑋。高祖の時、穀州の刺史となり、王世充・徐圓朗・輔公祐等を討つて功あり。〔唐書、九十〕・〔舊唐書、五十九〕。

【任光】51(ジンクワウ) 後漢、宛の人。字は伯卿。更始の初、郡國皆これに歸したのに、光のみが降らなかつたから、光武皇帝は光を左將軍に拜し、阿侯に封じた。〔後漢書、五十一〕。

【任宏】52(ジンクワウ) 漢、成帝の時の人。官は步兵校尉。兵書四篇を校す。〔前漢書、三十〕。

【任廣】53(ジンクワウ) 宋、浚儀の人。字は德儉。著に書敍指南がある。〔四庫提要、一百三十五〕。

【任官】54(ニンクワン) 官職に任ずる。〔書、咸有一德〕任レ官惟賢材、左右惟其人。〔傳〕官二賢才一而任レ之。〔清國行政法汎論、官吏法、文官任命形式〕蓋均皆謂二之任官一、然有二除補轉改調陞之區別一。

【任圜】55(ジンクワン) 五代、後唐の三原の人。明宗の時、同中書門下平章事となり、才俊を拔擢し、僥倖を抑絶す。後、安重誨と不和となり、害せらる。〔五代史、二十八〕・〔舊五代史、六十七〕。

【任環】56(ジンクワン) 明、長治の人。字は應乾。號は復菴。嘉靖の進士。官は山東右參政。著に山海漫談がある。〔明史、二百五〕・〔萬斯同明史、二百九十五〕・〔明史稿、一百八十〕。

【任君】57(ジンクン) 梁、任昉(461)の稱。〔梁書、任昉傳〕昉好二交結一、奬二進士一、友得二其延譽一者、率多升擢、故衣冠貴遊、莫レ不二爭與交好一、坐上賓客、恆有二數十一、時人慕レ之、號曰二任君一。言、如二漢之三君一也。

【任薰】58(ジンクン) 清の人。熊の弟。字は阜長。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【任扃】59(ジンケイ) 明、滁州の人。字は啓敬。經術に通じ、詩を能くす。著に玉山樵唱集がある。

【任計】60(ニンケイ) はかりごとにまかす。任算。〔荀子、哀公〕明主任二計不一レ信レ怒、闇主信レ怒不レ任二計一。

【任惠】61(ジンケイ) 明、灤州の人。弘治の進士。官は南京吏科給事中。中官高鳳を彈劾して廷杖せられた。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十八〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【任教】62(ニンケウ) ❶教育に任ずる。教育を職とする。〔管子、君臣上〕吏嗇夫任レ事、人嗇夫任レ教。❷〔サセマヲバ〕ままよ。どうにでもなれ。遮莫(11－39 086：47)に同じ。〔詩法詳論、語解〕任教、任教遊子笑。

【任玥】63(ジンゲツ) 清、高密の人。字は少玉。號は希菴。順治の進士。縣の長官から御史に擢んでらる。書を善くし、敬事初編の著がある。〔國朝耆獻類徵、一百三十四〕・〔碑傳集、五十三〕。

【任俠】64(ニンケフ) をとこだて。をとこぎ。〔史記、季布傳〕爲二氣任俠一、有レ名二於楚一。〔注〕集解曰、孟康曰、信二交道一曰レ任、如淳曰、相與信爲レ任、同二是非一爲レ俠、所謂權行二州里一、力折二公侯一者也。〔漢書、灌夫傳〕不レ好二文學一、喜二任俠一。〔後漢書、王昌傳〕時趙繆王子林、好二奇數一、任二俠於趙魏閒一。〔魏志、武帝紀〕有二權數一而任俠。〔左思、吳都賦〕其隣則有二任俠之靡、輕訾之客一。

【任賢】65(ニンケン) ❶賢者に任ずる。〔書、大禹謨〕任レ賢勿レ貳。〔吳子、料敵〕任レ賢使レ能。〔孔叢子、記問〕爲二人君一者、莫レ不レ知二任賢之逸一也。❷〔ジンケン〕明、裕州の人。弘治の閒、鄉擧に中る。官は監察御史。正德中、流賊が裕州を掠めた時、邑人と共に拒ぎ戰ひ、城陷つて死す。〔明史、二百八十九〕・〔萬斯同明史、三百七十六〕。

【任縣】66(ニンケン) 縣名。漢、置く。春秋、晉の任邑。故城は河北省任縣の東南。唐の時、また置く。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府〕任縣、漢置二任縣一、屬二通平國一、後漢屬二鉅鹿郡一、晉屬二廣平郡一、後魏因レ之、永安中、改屬二北廣平郡一、高齊時、縣廢、隋開皇十六年、復置、屬二邢州一、大業初、廢入二南和縣一、唐武德四年、復置、仍屬二邢州一。〔清史稿、地理志〕直隸、順德府、縣九、任。

【任原】67(ジンゲン) 明、休寧の人。字は本初。官は顯武將軍雄峯翼管軍萬戶。著に詩文集がある。〔明人小傳、一〕・〔明詩綜、十三〕・〔明詩紀事、甲、十五〕・〔列朝詩集小傳、甲〕。

【任限】68(ニンゲン) 任期(35)に同じ。

【任源】69(ジンゲン) ❶宋、漢州の人。少くして軍籍に屬す。畫に巧で張希賢の高弟であつた。〔畫繼〕。❷宋、徽宗の時の宦者。字は道源。號は眞常子。畫に巧。

【任公】70(ジンコウ) ❶任公子を見よ。❷漢、宣曲の人。其の先は晉道の倉吏。楚漢の際、諸豪傑の金玉、盡く任氏に歸し、遂に巨富を致す。〔史記、一百二十九〕。❸漢、淄川の人。官は少府。公羊春秋

を顏安樂に學ぶ。〔前漢書、八十八〕。㊃字號。㋑明、莊鼇獻(**9−31035**··156)の字。㋺民國、梁啓超(**6−14825**··231)の字。

【任公鉤】71 ジンコウノコウ 任公子が大魚を釣つて多くの人を滿足させたやうに、道をもつて人を養ふ喩。鉤はつりばり。任公子を見よ。〔謝靈運、七里瀨詩〕想屬二任公鉤一。〔注〕銑曰、任公子有道者、以二大鉤巨綸一釣二於東海一、而獲二大魚一、離而腊レ之、自二淛河一以東、蒼梧以北、皆厭二此魚一、喩レ道也、以レ道養レ人、故衆足、言下經二此釣處一、屬中想其人以レ道濟上レ衆也。

【任公子】72 ジンコウシ 先秦の人。大きな釣針と太い釣絲とを作り、五十匹の去勢した牛を餌とし、會稽に蹲つて竿を東海に投じたが、まる一年間、魚を得なかつた。やがて、大魚を釣り、其の肉を切りはなして乾肉としたところ、淛河以東、蒼梧以北の人は、皆此の魚の肉に厭かないものはなかつたといふ。任子。任父。〔莊子、外物〕任公子、爲二大鉤巨緇一、五十犗以爲レ餌、蹲二乎會稽一、投二竿東海一、旦旦而釣、期年不レ得レ魚、已而大魚食レ之、牽二巨鉤一、錎沒而下、騖揚而奮レ鬐、白波若レ山、海水震蕩、聲侔二鬼神一、憚二赫千里一、任公子得二若魚一、離而腊レ之、自二制河一以東、蒼梧已北、莫下不レ厭二若魚一者上。

【任國】73 ニンコク ㊀男爵の國。王事に任ずる國の意。男服。〔史記、夏紀〕二百里任國。〔注〕集解曰、孔安國曰、任二王事一者。㊁ニンゴク 昔、國司が任を受けて赴任した國。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕矜レ功要レ賞、敢擇二任國一。

【任座】74 ジンザ 戰國、魏の人。文侯の臣。直言を以て上客となる。〔新序、雜事一〕・〔說苑、奉使〕。

【任算】75 ニンサン 計略にまかせる。任計。〔魏志、武帝紀評〕矯レ情任レ算、不レ念二舊惡一。

【任山】76 ジンザン 宋、平晉の人。號は晉溪。春秋に法つて通記を作り、井田に擬して中田圖を作る。富弼の厚遇を受く。著に晉溪集がある。〔尙友錄、十三〕。

【任士】77 ニンシ 事に任ずる士。〔莊子、秋水〕五帝之所レ連、三王之所レ爭、仁人之所レ憂、任士之所レ勞、盡レ此矣。

【任子】78 ニンシ ㊀顯貴の官に在る者の子が、父のお蔭によつて官に任ぜられることをいふ。漢に始まり、唐に備はる。任子令を見よ。〔文獻通考、選擧考七、任子〕按、任子法始二於漢一、而其法尤備二於唐一、漢唐史列傳中、凡以二門蔭一入仕者、皆備二言之一、獨魏晉南北史、不レ言二門蔭之法一、而列傳中亦不下言下以二門蔭一入仕之人上何也、蓋兩漢入仕之途、或擧二孝廉一、至二隋唐一、則專以二科目一取レ人、所下以漢唐之以二門蔭一入仕上者、皆不レ由二科目與二辟召一者也、自二魏晉一以來、始以二九品中正一爲二取レ人之法一、而九品所レ取、大槩多以二世家一爲レ主、所謂上品無二寒門一、下品無二世族一、故自二魏晉一以來、仕者多二世家一、逮二南北分裂凡三百年一、而用レ人之法、多取二之世族一、如二南之王謝、北之崔盧一、雖二朝代推移、鼎遷物改一、猶卬然以二門地一自負、上之人亦緣二其門地一而用レ之、故當時南人有下三公之子傲二九棘之家一、黃散之孫蔑二令長之室一之說上、北人亦有二以レ貴襲レ貴、以レ賤襲レ賤之說一、往往其時仕者、或從二辟召一、或擧二孝廉一、雖下與二兩漢一無上レ異、而所謂從二辟召一擧二孝廉一之人、則皆貴冑也、其起レ自二單族匹士一而顯貴者、蓋所二罕見一、當時既皆尊二世冑一、而賤二孤寒一、故不レ至レ如下後世之誇二特起一、而鄙中門蔭上、而史傳中所二以不下言下以二蔭敍一入乙官者、蓋所丙以見乙當時雖下以二他途一登仕、版二居清要一者上、亦皆世家甲也。㊁任公子(72)に同じ。〔曹植、七啓〕使二任子重レ釣、魏氏發レ機。〔注〕向曰、任子、任公子、善レ釣者。

【任子令】79 ニンシレイ 父兄の官位のお蔭に依つて、其の子孫が任官されることを規定した法令。〔漢書、哀帝紀〕除二任子令及誹謗詆欺法一。〔注〕應劭曰、任子令者、漢儀注、吏二千石以上、視レ事滿二三歲一、得下任二同產若子一一人一爲上レ郞。〔漢書、王吉傳〕使二今俗吏得レ任二子弟一、率多二驕驁一、不レ通二古今一、云云、宜三明レ選求レ賢、除二任子之令一。〔注〕張晏曰、子弟以二父兄任一爲レ郞。〔西漢會要〕蘇武以二父任一爲レ任、劉向以二父任一爲二輦郞一。

【任子之法】80 ニンシノハフ 晉代、蘇峻の謀反以後、貳心なき保證として諸將に其の子を人質とさせた法。〔晉書、元經傳〕自二蘇峻反一後、諸將多以レ子爲レ質、謂二之保任一、至レ是、王導慮二郭默之不レ可レ制、乃詔、除二任子之法一。

【任之】81 ジンシ 字號。㊀明、尹一仁(**4−7631**··94)の字。㊁明、徐楠(**4−10110**··243)の字。

【任氏】82 ジンシ 晉の皇甫謐の叔母。謐は年二十に至つて尙游蕩を事としたが、任氏はよく之を感激せしめて學に嚮はせた。〔晉書、五十一〕。

【任氏傳】83 ジンシデン 小說の名。唐、沈既濟撰。狐に魅かされた話を記す。〔唐人說薈、二十册〕・〔龍威祕書、二十九册〕。

【任氏童】84 ジンシドウ 魏の任嘏の子供が、皆早成であるのを稱した語。〔海錄碎事、人事、敏慧〕魏任嘏、先世皆早成、人時語曰、蔣氏翁、任氏童。

【任孜】85 ジンシ 宋、眉山の人。字は遵聖。文學の才に富み、氣節あり。光祿大夫となる。弟の伋と共に名を一時に知られ、大任・小任と稱せらる。〔宋史、三百四十五〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百〕・〔宋元學案、九十九〕。

【任志】86 ジンシ 元、壺關の人。木華黎に歸し、金人と戰つて功あり。後、金人に殺さる。〔元史、一百九十三〕。

【任使】87 ニンシ まかせ切つて人を使ふ。人を任用して職務をまかせる。〔左氏、昭、六〕民於レ是乎可二任使一也。〔中庸〕官盛任使、所三以勸二大臣一也。〔章句〕官盛任使、謂二官屬衆盛、足レ任二使令一也。〔戰國、燕策〕荆軻曰、此國之大事也、臣駑下、恐レ不レ足二任使一。〔墨子、尙賢中〕尊二尙賢一、而任二使能一。

【任事】88 ニンジ ㊀仕事をさせる。又、仕事に從事する。執務する。〔禮、王制〕論辨、然後使レ之、任レ事、然後爵レ之、位定、然後祿レ之。〔莊子、天道〕無レ爲也、則任レ事者責矣。㊁jên² shih⁴ ㋑事を爲す。㋺何事も。

【任姒】89 ジンジ 周の大任と大姒。大任は文王の母、大姒は武王の母。共に賢母であつた。〔班婕妤、自悼賦〕榮二任姒之母レ周。〔新序、雜事〕文武之興也、以二任姒一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕齊二蹤虞妃一、比二跡任姒一。〔注〕任、文王母、姒、武王母也。〔後漢書、獻帝伏皇后紀〕無二任姒徽音之美一。

【任實】90 ニンジツ 性情にまかせること。我儘なること。〔嵆康、與二山巨源一絶レ交書〕任實之情轉篤。〔注〕良曰、任實、謂レ用二本情一也。

【任車】91 ニンシヤ 荷を積んだ車。〔呂覽、擧難〕於レ是、爲二商旅一、將二任車一以至レ齊。

【任祥】92 ジンシヤウ 北齊、廣寧の人。字は延敬。初、葛榮に從つて賊と爲つたが、榮の敗れるや、部下を擁して降り、後、神武に隨つて兵を起し、封は魏郡公、位は開府儀同三司に至り、天平の初、滁州刺史に遷る。北齊書は任延敬に作る。〔北齊書、十九〕・〔北史、五十三〕。

【任章】93 ジンシヤウ 戰國、魏の人。桓子に策を獻じ、知伯の求める地を與へて、遂に知伯を滅さしめた。〔戰國、魏策〕・〔韓非子、說林上〕。

【任城】94 ジンジヤウ 縣名。漢、置く。今、山東省濟寧縣。〔史記、萬石張叔傳〕其先、故任城人也。〔漢書、地理志下〕東平國、縣七、任城。

【任城孝王】95 ジンジヤウカウワウ 後漢、劉尙(**2−2224**··334)の封諡號。

【任城景王】96 ジンジヤウケイワウ 晉、司馬陵(**2−3257**··323)の封諡號。

【任情】97 ニンジヤウ 感情にまかせる。心のままに振舞ふ。思ひのままにする。勝手に振舞ふ。〔北史、李粟傳〕舒放倨傲、不二自祇肅一、笑唾任レ情。

【任授】98 ニンジユ 任用して官職を授ける。〔國史略、村上天皇〕方今、任授之道非レ不レ正、黜陟之規非レ不レ明。

【任儒】99 ジンジユ 高麗の人。初名は克仁。諡は良淑。明宗の時に登第し、爾後、五朝に歷事す。官は中書侍郞平章事・守太傅門下侍郞平章事。〔高麗史〕。

【任從】100 ニンジユウ 氣儘。任縱(109)に同じ。〔無門關、第二十七、不是心佛〕任從滄海變。

【任恤】101 ニンジユツ 六行中の二つの德。任と恤。任は友に信あること。恤はあはれみの心の深いこと。〔周禮、地官、閭胥〕書二其敬敏任恤者一。〔周禮、地官、大司徒〕三曰六行、孝友睦婣任恤。〔注〕任、信二於友道一。

【任術】102 ニンジユツ ㊀官職に在る者の心得べき道。〔新書、傳職〕敎二之任術一。㊁權謀術策によつて事を行ふこと。〔陸機、五等諸侯論〕棄レ道任レ術。

【任峻】103 ジンシユン 三國、魏の中牟の人。字は伯達。諡は成。騎都尉・典農中郞將に歷任し、よく粟

を積畜して軍食に供し、勳功があつた。封は都亭侯。〔三國志、十六〕。

【任濬】104 シンシュン 清、益都の人。明の崇禎の進士。兵部右侍郎・兼右僉都御史に累官す。李自成の京師を陷れるや、執へられて屈せず。順治年間、刑部尚書に進んだが、年老いて致仕す。〔清史列傳、七十八〕・〔碑傳集、十〕。

【任詢】105 ジンジュン 金の人。貴の子。字は君謨。號は南麓。書は當代隨一と稱せられ、又畫を善くした。正隆の進士。官は北京鹽使。〔金史、一百二十五〕。

【任所】106 ニンショ 奉職地。赴任先。任地（141）に同じ。〔六部成語、吏部、任所、注解〕本任之處。〔雜令〕凡外任官人、不レ得下將二親屬賓客一往中任所上。

【任處】107 ニンショ 奉職地。赴任先。任所。〔日本外史、足利氏後記、後北條氏〕生二男子一任處。

【任敍】108 ニンジョ 官に任じ、位を授ける。敍任（5—13205‥32）に同じ。〔明治四年五月十四日辨官達〕自今、天機伺・任敍御禮等。

【任縱】109 ニンショウ 氣ままでしめくくりがない。放縱。任從。〔晉書、胡母輔之傳〕性嗜二酒任縱一、不レ拘二小節一。〔顏氏家訓、勉學〕此任縱之徒耳。

【任職】110 ニンショク 職務を命ずる。又、職務を命ぜられる。〔史記、汲黯傳〕使二黯任一職居レ官、無二以踰レ人。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕任レ職得レ行二其術一。

【任職相】111 ニンショクソウ よく職をつくす宰相。〔後漢書、陳寵傳〕寵雖レ傳二法律一、而兼通二經書一、奏議溫粹、號爲二任職相一。〔後漢書、杜林傳〕代二朱浮一爲二大司空一、博雅多通、稱爲二任職相一。

【任心】112 ニンシン 心にまかせる。思ふ通りにする。任意。〔魏志、明帝紀評〕明帝沈毅斷識、任レ心而行、蓋有二君人之至槩一焉。〔楊漣、彈二魏忠賢一疏〕信手任レ心。

【任身】113 ニンシン 子をはらむ。懷妊。妊娠。〔國語、鄭語、既笄而孕、注〕孕、任身也。〔呂覽、本味居二伊水之上一孕、注〕任身爲レ孕。〔漢書、元后傳、末〕嘗任身就レ館也。

【任娠】114 ニンシン 懷胎する。妊娠（3—6072‥一）に同じ。〔後漢書、靈思何皇后紀〕時王美人任娠、畏レ后、乃服レ藥、欲レ除レ之。

【任眞】115 ニンシン 天然のまま。ありのまま。〔晉書、陶潛傳〕穎脫不羈、任眞自得、爲二鄉鄰之所一レ貴。〔陶潛、連雨獨飮詩〕天豈去レ此哉、任眞無二所レ先。

【任人】116 ニンジン ❶心に兇惡を包みかくす人。ねぢけびと。佞人。任は佞に通ず。〔書、舜典〕難二任人一、蠻夷率服。〔傳〕任、佞、難、拒也。〔蔡傳〕任、古文作レ壬、包二藏凶惡一之人也。❷保證して役人にする。〔史記、鄭當時傳〕莊任二人賓客一、爲二大農僕人一。〔注〕集解曰、瓚曰、任人、謂二保任見一舉者一。❸他人に事をまかせる。〔呂覽、察賢〕任レ力者故勞、任レ人者故逸。❹常に政に任ずるもの。六卿をいふ。〔書、立政〕立レ政、任人・準夫・牧、作二三事一。〔傳〕文武亦法二禹湯一、以立レ政、常任・準人、及牧、治二爲天地人之三事一。〔疏〕任人、則前經所レ云、常任六卿也。〔蔡傳〕任人、常任也。

【任隨】117 ニンスイ 宋の人。詩人。西崑體を能くする。其の詩は、西崑酬唱集に見ゆ。〔四庫提要、一百八十六〕。

【任數】118 ニンスウ 呂氏春秋、審分覽の篇名。

【任正】119 ニンセイ 車輿の下部にある材で、重さにたへ、車の平衡を持するもの。〔周禮、考工記、輈人〕凡任木、任正者、十三分其輈之長、以二其一爲二之圍一。〔注〕任正者、謂下輿下二面材一、持二車正一者上也。〔疏〕名二任正一者、此木任レ力、車輿所レ取正、以下其兩輈之所レ樹、於二此木一、較式依中於兩輈、故曰二任正一也。

【任生】120 ニンセイ 自然に任せて生ずる。〔白虎通、情性〕象二水之化一、須待二任生一也。〔疏證〕水、舊作レ大、訛、又無二須待之二字一、盧據二御覽一正。

【任制】121 ニンセイ おさへとどめる。〔釋名、釋喪制〕小要又謂二之衽一、衽、任也、任制際會、使下不レ解也。

【任性】122 ニンセイ ❶本性をためず、生地のままにまかせる。〔後漢書、馬融傳〕融善二鼓琴一、好二吹笛一、達レ生任レ性、不レ拘二儒者之節一。❷我が儘、氣儘。〔後漢書、楊終傳〕終與二廖交善一、以レ書戒レ之曰、黃門郎年幼、血氣方盛、云云、縱而莫二誨、視レ成任レ性。

【任政】123 ニンセイ 政治を委ねる。〔史記、齊太公世家〕桓公厚レ禮、以爲二大夫一任レ政。〔忠經、政理〕任レ政非レ德則薄。

【任勢】124 ニンセイ ❶或る情勢を作り出して、事の處理を其れに委ねまかせる。又、委任した情勢。〔韓非子、有度〕天爲二之人主一、而身察二百官一、則日不レ足、力不レ給、云云、故舍二己能一、而因二法數一、審二賞罰一、云云、故治不レ足、而日有レ餘、上之任勢使レ然也。〔翼奉〕作二爲不レ得下不レ然之物一而任之、故然也。❷性質・ありさま・はずみ・なりゆきなどを利用する。〔孫子、兵勢〕激水之疾、至二於漂レ石者勢也、云云、治亂數也、勇怯勢也、彊弱形也、云云、故善戰者、求二之於勢一、不レ責二於人一、故能擇レ人而任レ勢、任レ勢者、其戰レ人也、如二轉木石一、木石之性安則靜、危則動、方則止、圓則行、故善戰レ人之勢、如二轉圓石於千仞之山一者、勢也。

【任石】125 ニンセキ 重い物を負ふ。自ら重責に任ずるをいふ。石は百二十斤。一說に、沙石を抱く意ともいふ。〔楚辭、九章、悲回風〕望二大河之洲渚一兮、悲二申徒之抗迹一、驟諫レ君而不レ聽兮、任二重石一之何益。〔注〕任、負也、百二十斤爲レ重、言、已數諫レ君、而不レ見レ聽、雖レ欲二自任以二重石憂一、終無二益於萬分一也。〔郭璞、江賦〕悲二靈均之任一レ石。〔注〕善曰、楚辭曰、云云、又曰、望二大河之洲渚一、悲二申徒之抗直一、驟諫レ君而不レ聽、任二重石一之何益。又曰、懷二沙礫一而自沈兮、不レ忍レ見二君之蔽壅一。史記曰、屈原作二懷沙賦一、懷石自投二汨羅一、懷沙、卽任レ石也、義與二王逸一不レ同。

【任設】126 ニンセツ 常置の職でない者を、必要に應じて臨時的に任命・設置すること。又、其の任ぜられた人。

【任選】127 ニンセン 春秋、楚の任不齊（247）をいふ。

【任瞻】128 ニンセン 唐の人。字は育長。少くして令名が有つた。〔尚友錄、十三〕。

【任顓】129 ニンセン 宋、壽光の人。字は誠之。進士。官は戶部侍郎。著に治戎精要三篇がある。〔宋史、三百三十〕・〔宋史新編、一百八〕。

【任前】130 ニンゼン 仕官せぬ前。〔福惠全書、筮仕部、謁選〕官中還レ債、莫レ若二任前省一錢。

【任屬】131 ニンゾク 他人にまかせたのむ。〔漢書、韓信傳〕不レ能二任二屬賢將一。

【任率】132 ニンソツ 言動が自然で、少しも飾らぬこと。〔晉書、王戎傳〕爲レ人短小、任率不レ修二威儀一。

【任他】133 ニンタ さもあらばあれ。ままよ。從他。莫遮。〔元稹、放言詩〕身外功名一任他。〔五十朋、次二韻李刑曹病起書懷一詩〕惟有二詩懷禁不レ得、任他惟瘦不レ勝レ衣。

【任棠】134 ニンタウ 後漢、上邽の人。奇節を以て知られた。〔後漢書、八十一〕・〔高士傳、下〕。

【任鐿】135 ニンダク 明、夏邑の人。母卒して墓側に廬すること二年。時に黃河が氾濫して水が墓に及ばうとしたので、鐿が地に伏して號哭すると、水勢が南に移つたといふ。〔明史、二百九十七〕。

【任道】136 ニンダウ 明、焦白（7—19119‥90）の字。

【任澤】137 ニンタク 宋の人。仙遊夫人の母弟。字は天錫。諡は恭僖。官は嘉州刺史。〔宋史、四百六十四〕・〔宋史新編、一百八十二〕。

【任達】138 ニンタツ 勝手にふるまふ。氣まま我がままをする。〔晉書、阮咸傳〕咸任達不レ拘。

【任誕】139 ニンタン 世說新語の篇名。

【任壇】140 ニンダン 明、鄞の人。字は廷堅。進士。官は江西按察使僉事。〔尚友錄、十三〕。

【任地】141 ニンチ ❶土地の性質に從つて適當な作物を植ゑ、或は荒地を開墾するなど、地力を充分發揮させ、利用すること。又、土地の肥瘠等を考へて適切な賦稅を出させること。任土（153）・任地待役之律を見よ。〔周禮、地官、載師〕凡任二地、國宅無レ征、園廛二十而一。〔注〕鄭司農云、任地、謂下任二土地一、以起中稅賦上也。〔墨子、號令〕安二國之道、道レ任レ地始、地得二其任一則功成、地不レ得二其任一、則勞而無レ功。〔商子、算地〕凡世主之患、用二兵者不レ量レ力、治二草萊一者不レ度レ地、云云、故爲二國任一地者、山林居二什一、藪澤居二什一、谿谷流水居二什一、都邑蹊道居二什四一、此先王之正律也、故爲二國分一田數、小畝五百、足レ待二一役一、此地不レ任也。❷役目を務める土地。奉職地。任所。任處。❸〔ダイエキノリツ〕地力に任じて戰備をなし、以て戰爭を待つ法則。〔商子、算地〕其墾田、足二以食一其民一、都邑遂路、足二以處一其

【任地待役之律】142 ニンチタイエキノリツ

民、山林藪澤谿谷、足ニ以供ニ其利一、藪澤堤防、足ニ以畜一、故兵出糧給、而財有レ餘、兵休民作、而畜長足、此所謂任地待役之律也。

【任智】143 チニン 智能を使用する。〔列子、楊朱〕任レ智而不レ恃レ力。〔漢書、刑法志〕任ニ智而不レ恃レ力、此其所ニ以爲一レ貴也。

【任忠】144 チヂウ 陳、汝陰の人。字は奉誠。譎詭計略多く、尤も射を善くす。梅伯龍に從ひ侯景を討つて功を立つ。官は開府儀同三司。〔陳書、三十一〕〔南史、六十七〕。

【任重】145 ヂヂウ 任務が重い。任重而道遠を見よ。〔後漢書、皇后紀序〕任重道悠、利深禍速。〔後漢書、輿服志上〕任重致レ遠。

【任重而道遠】146 ニンヂウシテミチトホシ 背に負ふ荷は重く、ゆくべき道は遠い。士人の責任の重大な喩。〔論語、泰伯〕曾子曰、士不レ可ニ以不一レ弘毅一、任重而道遠、仁以爲ニ己任一、不ニ亦重一乎、死而後已、不ニ亦遠一乎。

【任重道遠者不レ擇レ地而息】147 ニンヂウミチトホキモノハチヲエラバズヤスム 重い荷物を負うて遠い道をゆくものは、どんな地でも構はず休息する。〔韓詩外傳、一〕任重道遠者、不レ擇レ地而息、家貧親老者、不レ擇レ官而仕。

【任珍】148 チヂン 清、宜陽の人。明の副將。河州の守。順治中、阿濟格の陝西を定めるや迎へて之に降る。其の後、功を積んで興安總兵に擢んでられ、左都督に進み、太子太保を加へられ、三等子を授けらる。後、事に坐して遼陽に徙さる。〔清史列傳、七十九〕。

【任鈞】149 ヂンキン 任公の鈞をいふ。任公鈞(71)を見よ。〔千字文〕鈞巧任鈞。

【任旅】150 ヂンリョ 後漢、博昌の人。字は子旗。孝廉に擧げらる。官は酸棗・祝阿の令に歷任す。〔萬姓統譜〕。

【任天】151 テンニン 天にまかせる。天命に隨ふ。〔宋書、顧覬之傳〕若籍數任レ天、則放情蕩思。

【任轉】152 テンニン 任官と轉任。〔清國行政法汎論、吏部、文選清吏司〕專掌ニ文官任轉位階官等等事一。

【任土】153 ドニン 任地(141)の❶に同じ。〔書、禹貢序〕禹別ニ九州一、隨レ山濬レ川、任レ土作レ貢。〔傳〕任ニ其土地所一レ有、定ニ其貢賦之差一。〔周禮、地官、載師〕載師掌ニ任ニ土之灋一、以物ニ地事一授ニ地職一、而待ニ其政令一。〔注〕任レ土者、任ニ其力勢所一レ能生育一、且以制ニ貢賦一也。〔疏〕言ニ任レ土之法一者、任謂レ任ニ其力勢所一レ能生育一、云云、云云而待ニ其政令一者、謂下因ニ職事一使中出ニ賦貢一。

【任棟】154 ジントウ 明、永壽の人。李自成の叛を拒ぎ、功によつて保定監軍僉事となる。後、賊に逼られて戰死す。〔明史、二百九十三〕〔萬斯同明史、二百七十九〕〔明史稿、二百七十四〕。

【任德】155 ニントク 主として道德に依つて政治を行ふ。又、有德者にまかせる。〔漢書、禮樂志〕以ニ此見ニ天之任ニ德不一レ任レ刑也。〔論衡、非韓〕治國之道、當レ任ニ德也。〔風俗通、五帝〕帝者任ニ德設一レ刑。

【任那】156 ミマナ 古の國の名。朝鮮の南端に當り、新羅と百濟との間に介在した國。今の慶尙南道の地を占めた。前漢末、朝鮮南部に加羅(駕洛)の國名を以て興り、我が國に入貢して保護國となり、垂仁天皇から任那の國名を授けられ、神功皇后の新羅征討には、日本府が置かれたが、後、新羅に減ぼされた。〔南史、倭國傳〕都ニ督倭・百濟・新羅・任那云云六國一。

【任那國司】157 ミマナノコクシ 任那國を治める國司。〔日本書紀、雄略紀〕拜ニ田狹一爲ニ任那國司一。

【任內】158 ニンナイ 役目のうち。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕自ニ前官任內應レ徵錢糧一云云。

【任能】159 ノウ 才能のある者を任用する。才能によつて適當な官職に任用する。〔左氏、閔、二〕敬レ教勸レ學、授ニ方任一能。〔會箋〕教學以育ニ人才一、然後授ニ官之方一、各以ニ其能一任レ之也。〔尉繚子、戰威〕擧レ賢任レ能。

【任放】160 ニンパウ ❶禮法をすてて、心のままに行ふ。ほしいまま。〔世說新語、德行〕王平子胡毋彥國諸人、皆以ニ任放一爲レ達、或有ニ裸體者一。❷うちまかせて捨ておく。〔梁昭明太子、陶淵明集序〕宜乎與ニ大塊一而盈虛、隨ニ中和一而任放。❸ままよ。さもあらばあれ。〔歐陽脩、和ニ出省一詩〕晴陌便當ニ聯騎去一、春風任放百花開。

【任昉】161 ニンバウ ❶後漢、成都の人。字は文始。官は尙書令。〔萬姓統譜〕。❷梁、博昌の人。字は彥昇。初、齊に仕へて太學博士となり、王儉・沈約等の稱譽する所となる。後、梁に仕へて義興・新安の太守となる。著に文章緣起・述異記がある。〔梁書、十四〕・〔南史、五十九〕。

【任保】162 ニンパウ 其の責に任ずる。うけあふ。又、そのこと。〔宋史、蔡崇禮傳〕秦檜罷レ政、崇禮草レ詞、顯ニ著其惡一、無ニ所ニ隱〔秦〕檜深憾レ之云云、且將レ修ニ怨、會崇禮已沒、故身後所レ得恩澤、其家畏懼不ニ敢陳一、士丈夫亦無ニ敢爲一ニ其任保一。

【任法】163 ニンパフ ❶法にまかせる。法を重んじ法に依つて政を行ふこと。〔孔叢子、記問〕管子任レ法以治レ齊、而天下稱レ仁。❷管子の篇名。

【任法獸】164 ニンパフジウ 獸の名。獬豸(7－20734・4)の異名。〔事物異名錄、獸畜、獬豸〕格物論、獬豸、性忠直、一名、任法獸。

【任蕃】165 ジンバン ❶後漢の人。字は憲相。官は涪陵太守。〔萬姓統譜〕。❷唐の人。晚唐の會昌年間の詩人。蕃、一に翻に作る。〔唐才子傳、七〕〔全唐詩、二十七〕。

【任鄙】166 ジンピ 戰國、秦の力士。武王が力を好むと聞き、闕を叩いて自ら鬻ぎ、烏獲・孟說と共に皆大官に至つた。〔史記、七十一〕。

【任罷】167 ヒニン 使役に疲れる。〔漢書、賈山傳〕賦斂重數、百姓任罷。

【任美】168 タクミ 姓氏。〔和爾雅〕。

【任憑】169 ニンピョウ ❶各自の心まかせにする。〔福惠全書、錢穀部、漕項收兌〕不レ得ニ任ニ憑旗甲揀厥及倉胥、私撥ニ零分一。❷jen² p'ing² ④たとひ如何樣でも。㊁まかせる。

【任布】170 ジンフ 宋、河南の人。字は應之。謚は恭惠。安肅軍判官となり、邊備を嚴にせんことを上疏して神宗に知られた。官、太子少保に至る。書室を五知堂といふ。〔宋史、二百八十八〕・〔宋史新編、八十八〕・〔東都事略、五十五〕。

【任負】171 フニン ❶になふ。〔詩、大雅、生民〕是任是負。❷重い物を載せる。〔荀子、宥坐〕百仞之山、任負車登レ焉。〔注〕負、重也、任負車、任レ重之車也。

【任符】172 フニン 古、國司新任のとき、太政官から其の命を國府の官吏に通告した文書。〔類聚符宣抄、八〕頃者給ニ新國司一任符、多後ニ裝束程一、不レ守ニ法制一之所レ致也。

【任福】173 フクジン 宋、開封の人。字は祐之。官は慶州の長官。子の懷亮と骨咩等の四十一族を平定す。康定の初、西討して戰死す。〔宋史、三百二十五〕・〔宋史新編、一百五〕・〔東都事略、一百十〕・〔隆平集、十九〕。

【任丙】174 ヂンピン 任渭南(200)を見よ。

【任便】175 jen⁴ pien⁴ まかせる。自由。便宜に從ふ。任意。

【任勉】176 ベンジン 明、松江華定の人。字は近思。洪武中、鄱陽縣令となり、禮義廉恥を以て縣人を敎導す。後、官は福建參政。〔明史、二百九十六〕・〔本朝分省人物攷、九十・九十二〕。

【任辯】177 ベンニン 雄辨者の意見に從ふ。實行を伴なはない口先だけの人の意見を用ひる。〔韓非子、顯學〕魏任ニ孟卯之辯一、而有ニ華下之患一、趙任ニ馬服之辯一、而有ニ長平之禍一、此二者、任レ辯之失也。

【任父】178 ジンフ 先秦の人。任公子(72)に同じ。〔左思、吳都賦〕術兼ニ詹公一、巧傾ニ任父一。〔注〕劉曰、任父、任公子也。

【任甫】179 ホジン 民國、梁啓超(6－14825・231)の字。

【任謀】180 ボウジン 場合に相當したはかりごと。〔逸周書、成開解〕任謀生レ詐。〔注〕任謀、謂ニ權變一也。

【任木】181 ボクジン 車輿の下に在つて輿を支へる木。〔周禮、考工記、輈人〕凡任木、任正者、十分其輈之長、以ニ其一一爲ニ之圍一。〔孫詒讓正義〕車輿下橫ニ直材一、持ニ任輿之重一、以行者、通謂ニ之任木一。

【任末】182 マツジン 後漢、新繁の人。字は叔本。少時、齊詩を習ひ、京師に遊び敎授すること十餘年。官は郡公曹。〔後漢書、一百九〕。

【任滿】183 マンニン 任期が滿ちること。〔清律、名例〕凡任滿得レ代、改ニ除敍仕等官一、與ニ見官一同。〔注〕任滿、如ニ職任已滿、俸已住支不レ管一事者。

【任脈】184 ニンミャク 人體の經脈の名。奇經八脈の一つ。少腹からおこり、のどに至る。女は十四歲で任脈が通じ、子が出來るといふ。〔素問、上古天眞論〕岐伯曰、女子二七而天癸至、任脈通。

【任務】185 ニンム つとめ。やくめ。職務。

【任命】186 メイニン ❶運命にまかせる。〔孽虞、思遊賦〕

以明二信レ天任レ命之不レ可レ違。●二役を授けること。

【任命狀】187 人に役を授けるときの辭令。官吏任命の公文。

【任免】188 官職に任ずることとやめること。任官と免官。〔清國行政法汎論、吏部、職權〕吏部管下掌文官銓考・任免黜陟、及關二於封爵一等之事務上。

【任養】189 たもちやしなふ。〔白虎通、禮樂〕南之爲レ言任也、任二養萬物一。

【任熊】190 清、浙江山陰の人。字は渭長。畫に巧。弟薰、族子頤と共に三任と稱せられ、同光間に名を知らる。著に劍俠高士先賢等傳がある。〔國朝書畫家筆錄、四〕。

【任預】191 清の人。熊の子。字は立凡。山水畫に長じ、別に一家の風を成す。

【任譽】192 任俠者といふ名譽。〔韓非子、六反〕活レ賊匿レ姦、當レ死之民也、而世尊レ之、曰二任譽之士一。〔翼毳〕任俠名譽、斥二孟嘗信陵之徒一也。

【任用】193 人に役目をあてがつて使ふこと。官吏に登用すること。〔戰國、魏策〕夫魏王之愛二習魏信一也甚矣、其智能而任二用之一也厚矣、其畏二惡嚴三尊秦一也明矣。〔荀子、成相〕任二用讒夫一、不レ能レ制。〔史記、項羽紀〕以レ此不三任二用公一。〔漢書、嚴助傳〕唯助與二壽王一見二任用一。〔說苑、至公〕當世諸侯、莫二能任用一。

【任洛】194 明、鈞州の人。字は仲伊。進士。官は都御史。〔國朝列卿記、一百十九・一百二十七〕・〔蘭臺法鑒錄、十四〕。

【任良】195 善良者を任用する。〔左氏、昭、十四〕任レ良物レ官。

【任諒】196 宋、眉山の人。字は子諒。進士。官は徽猷閣待制。郭藥師の反を豫言した。〔宋史、三百五十六〕・〔宋史新編、一百二十四〕。

【任力】197 力にたへる。〔呂覽、去尤〕今竅滿矣而任レ力者半耳。

【任禮】198 明、臨漳の人。字は尙義。諡は僖武。樂安及び兀良哈の征討に從つて功を立て、阿台を破る。官は左都督。封は寧遠伯。〔明史、一百五十五〕・〔萬斯同明史、二百四〕・〔明史稿、一百三十五〕。

【任料】199 賣官（財物を納めさせて官位を授けること）の料。別功の價。〔多武峯略記、講堂〕以二佐伯祿雅文一、申二成當國權大掾一、以二彼任料三百貫文一如レ是。

【任渭南】200 清、江南の人。名は丙。弈棋を善くし、道咸の時の十八國手の一人。

【任延皓】201 五代、後晉の幷州の人。高祖に寵遇せられたが、寵を恃んで專橫多く、麟州に流謫せられて殺さる。〔舊五代史、一百八〕。

【任亨泰】202 明、襄陽の人。洪武の進士。官は禮部尙書。太祖は其の學行を重んじ、常に襄陽任と呼んで名を言はなかつた。又、安南に使して重きをなした。〔明史、一百三十七〕・〔萬斯同明史、一百七十五〕・〔明史稿、一百二十六〕。

【任孝恭】203 梁、臨淮の人。母につかへて孝。武帝と親交あり、西省撰史に召さる。太清中、侯景の寇起るに及び、賊に殺さる。〔梁書、五十〕・〔南史、七十二〕。

【任孝子】204 清、任遇亨(206)をいふ。

【任希夷】205 宋の人。字は伯起。號は斯庵。諡は宣獻。淳熙の進士。朱熹に師事す。官は端明殿學士。〔宋史、三百九十五〕・〔宋史新編、一百四十七〕・〔南宋書、四十四〕・〔宋元學案、六十九〕。

【任遇亨】206 清、崑山の人。字は華宇。至性あり、膂力人に過ぐ。盜が其の父を劫すや、遇亨、盜藪に突入し、父を負うて歸る。其の際、腹に負傷し腸が露出したが、神醫に遇つて死を免れ、時人は任孝子と稱した。〔清史稿、五百三〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十五〕・〔碑傳集、一百四十四〕。

【任宏嘉】207 清、宜興の人。字は葵尊・丹菽。康熙の進士。御史に擢んでらる。敢言を以て稱せられ、強項の聲は、朝野に震つたといふ。官は通政使參議。〔清史稿、二百八十八〕・〔國朝耆獻類徵、五十九〕・〔碑傳集、五十四〕。

【任觀瀛】208 清、蕭の人。字は子登、或は紫登に作る。康熙の進士。官は陝西潼商道。書室を夢鼎堂といふ。著に夢鼎堂文集・若溪集がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【任啓運】209 清、荊溪の人。字は翼聖。古の釣臺の近くに住んだから、釣臺先生といふ。雍正の進士。庶吉士に改められ、編修を授けらる。官は宋人府府丞。儀禮に精通す。書室を清芬樓といふ。著に周易洗心・宮室考・肆獻祼饋食禮・四書約指・經傳通纂・清芬堂文集等がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百十二〕・〔碑傳集、一百二十九〕・〔國朝先正事略、三十二〕。

【任敬臣】210 唐、棣州の人。字は希古。五歲で母を喪ひ、發憤して學に志し、孝廉に擧げらる。官は太子舍人。〔唐書、一百九十五〕。

【任獻夫】211 宋、蒲圻の人。字は安世。政和の進士。官は荊門刑曹。〔萬姓統譜〕。

【任元厚】212 高麗の人。初名は元凱。官は門下侍中。封は定安公。〔高麗史〕。

【任元祥】213 任源祥(215)を見よ。

【任元發】214 任仁發(226)を見よ。

【任源祥】215 清、宜興の人。本名は元祥。字は王谷。自號は善卷子。學者、息齋先生と稱す。諸生。著に鳴鶴堂集がある。歿後、貧困の爲、其の詩文を上梓することを得なかつたが、妻の黃氏は、蠶績刺繡、十餘年を積み、詩十卷を刻した。〔清史列傳、七十〕・〔碑傳集補、四十四〕。

【任克溥】216 清、聊城の人。順治の進士。官は刑部左侍郞。〔清史稿、二百七十〕・〔國朝耆獻類徵、四十六〕。

【任士林】217 元の人。其の先は綿竹の人。字は叔實。號は松鄉。其の文は沈厚正大、專ら理を以て主とす。正大の初、安定書院山長を授けらる。著に中庸論語指要・松鄉文集がある。〔元史、一百九十〕・〔宋元學案、六十四〕。

【任思謙】218 清、吳江の人。字は純仁。少くして皇極經世書外篇を讀み、自ら省みるところあり、徹夜默坐すること三月に及ぶ。業を陸隴其の弟子、張漢瞻に受け、易要一書を著はす。歲貢生を以て終る。〔清史列傳、六十八〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【任七川】219 伊豫國の地名。

【任象先】220 宋の人。伯雨の長子。世科に登り、又、詞學及び茂科に中る。官は秦州戶曹掾。〔宋史、三百四十五〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百〕・〔宋元學案、九十九〕。

【任守忠】221 宋の人。字は稷臣。官は內黃門。仁宗に嗣子がなくて、英宗を立てようとした時、守忠は昏弱を立てて利を得んとした。〔宋史、四百六十八〕・〔宋史新編、一百八十四〕・〔東都事略、一百二十〕。

【任叔英】222 朝鮮、李朝の豐川の人。初名は湘。字は茂叔。號は疎菴。副修撰經筵檢討官知製敎兼春秋館記注官となり、論建する所多し。後、官は司憲府持平。〔人物考〕。

【任繩隗】223 清、宜興の人。字は青際。號は直木齋。順治の擧人。著に直木齋集がある。

【任申先】224 宋の人。象先の弟。父の伯雨が流謫された際、申先も亦罪を蒙つて、海上にあること三年、後釋さる。官は中書舍人。〔宋史、三百四十五〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百〕・〔宋史翼、二十七〕・〔宋元學案、九十九〕。

【任辰旦】225 清、蕭山の人。字は千之。號は待菴。幼くして奇慧、毛奇齡と名を齊しうす。順治の進士。官は大理寺丞。書室を介和堂といふ。著に介和堂集・言近錄がある。〔清史稿、四百八十二〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百四十一〕・〔碑傳集、九十二〕。

【任仁發】226 元、上海の人。一に元發に作り、又、霆發に作る。字は子明。號は月山（月山道人）。年十八にして鄕擧に中る。官は浙東道宣慰副使。著に浙西水利議答錄がある。〔萬姓統譜〕。

【任甚麼】227 jen^4 shen^2 mê 何でも。任何。

【任盡言】228 宋、華亭の人。字は元受。進士。慷慨、よく事を論じた。〔宋史翼、二十八〕。

【任瞻山】229 清、湘陰の人。字は師韓。醫術に精通し、能く垣を隔てて聲を辨じ、人の生死を豫言した。著に任氏醫案がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十四〕。

【任宗誼】230 宋、博平の人。字は仲宜。官は淄州の長官。〔宋史翼、二十〕。

【任曾貽】231 ジンソウイ 清、荊溪の人。字は淡存。詞に巧。著に衿秋閣詞がある。

【任速哥】232 ジンソクカ 元、渤海の人。英宗に寵遇され、英宗の弑せられるや官を去る。官は禮部尚書。〔元史、一百八十四〕。

【任大椿】233 ジンダイチン 清、江蘇興化の人。字は幼植、又は子田。乾隆の進士。官は御史。四庫の纂修に參す。書室を熊禧堂といふ。著に弁服釋例・深衣釋例釋繒・吳越備史注・小學鉤沈・字林考逸がある。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十七〕・〔碑傳集、五十六〕・〔國朝先正事略、三十五〕・〔國朝漢學師承記、六〕。

【任道遜】234 ジンダウソン 明、瑞安の人。字は克誠。號は坦然居士、又、八一道人。七歲にして能く詩を賦す。官は太常卿。〔國朝獻徵錄、二十二〕・〔明名人傳、二十一〕・〔本朝分省人攷、五十六〕。

【任端書】235 ジンタンショ 清の人。蘭枝の子。字は念齋。號は南屏。乾隆の進士。官は編修。著に南屏集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕。

【任中師】236 ジンチユウシ 宋の人。中世の弟。字は祖聖。諡は安惠。官は戶部侍郎。晚年養生の術を修めて大魂翁と號す。〔宋史、二百八十八〕・〔宋史新編、八十八〕・〔東都事略、四十四〕・〔隆平集、六〕。

【任中正】237 ジンチユウセイ 宋、濟陰の人。字は慶之。諡は康懿。益州の長官となつて善政あり。仁宗の時に兵部尚書となり、後、禮部尚書に遷る。〔宋史、二百八十八〕・〔宋史新編、八十八〕・〔東都事略、四十四〕・〔隆平集、六〕。

【任徵君】238 ジンチヨウクン 後漢、任安（綿竹の人）(2)をいふ。

【任直亮】239 ジンチヨクリヤウ 唐の人。一に貞亮に作る。開元中、集賢院に直し、畫を以て名あり。〔歷代名畫記〕。

【任陳晉】240 ジンチンシン 清、江蘇興化の人。字は似武。號は後山、又、以齋。乾隆の進士。官は徽州府教授。著に易象大意存解がある。〔國朝耆獻類徵、二百五十四〕・〔清儒學案小識、十三〕。

【任廷貴】241 ジンテイキ 清、常熟の人。字は雨生。號は紫卿、又、南沙。書畫に巧。

【任兆麟】242 ジンテウリン 清、震澤の人。字は文田、又、心齋。號は竹居。書室を邃古堂といふ。諸生。孝廉方正に擧げらる。嘗て夏小正に注し、王鳴盛に其の確當を稱せらる。著は外に字林考逸補正・述記・竹居集がある。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十〕・〔國朝先正事略、三十五〕。

【任迪簡】243 ジンテキカン 唐、萬年の人。諡は襄。進士。官は太常少卿・易定節度使・太子賓客。〔舊唐書、一百八十五〕・〔唐書、一百七十〕。

【任天寵】244 ジンテンチヨウ 金、定陶の人。字は清叔。諡は純肅。明昌の進士。官は中都路都轉運使・戶部尚書。〔金史、一百五〕。

【任德成】245 ジントクセイ 清、吳江の人。字は象元。諸生。儒行に篤く、朱子の白鹿洞規を尊奉し、漢から明に至るまでの先正の格言で、洞規と相發明するものを集めて一編とし洞規大義といふ。雍正の初、賢良方正に擧げられたが、固辭して出でず。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝耆獻類徵、四百十二〕・〔國朝先正事略、三十二〕。

【任伯雨】246 ジンハクウ 宋の人。孜の子。字は德翁。諡は忠敏。經術に深く、右正言となる。諫省にあること半歲の間に、凡そ一百八疏を上つたが、曾布の憚る所となつて貶せらる。〔宋史、三百四十五〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔東都事略、一百〕・〔宋元學案、九十九〕。

【任不齊】247 ジンフセイ 春秋、楚の人。字は選。孔子の弟子。尙友錄に字を子選に作るは誤。〔史記、六十七〕。

【任風子】248 ジンプウシ 戲曲の名。元、馬致遠作。任屠が馬眞人に從つて成道したことを演ずる。漢宮秋・黃粱夢・靑衫淚・岳陽樓・陳摶高臥・薦福碑と共に馬氏名作七種と稱せられる。

【任文獻】249 ジンブンケン 明、郟城の人。字は國光。弘治の進士。官は御史。〔萬姓統譜〕。

【任文公】250 ジンブンコウ 後漢、閬中の人。少時、父文孫から天宮風星の學を受け、後、召されて司空掾となる。平帝の即位と共に疾と稱して官をやめ、王莽が漢を奪ふや、大亂の勃發を豫見して子公山に奔り、十餘年の閒兵革を被らなかつたといふ。〔後漢書、一百十二〕。

【任裕德】251 ジンユウトク 清の人。遇亨の從子。字は厚齋。父母に事へて至孝。〔清史稿、五百三〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十五〕・〔碑傳集、一百四十四〕・〔國朝先正事略、五十八〕。

【任熊祥】252 ジンユウシヤウ 金の人。圜の後。字は子仁。進士。官は太子少師。〔金史、一百五〕。

【任蘭枝】253 ジンランシ 清、溧陽の人。字は香谷・隨齋。號は南樓。康熙の進士。編修を授けらる。雍正中、內閣學士兼禮部侍郎に累進し、安南を宣諭し、乾隆中、禮部尚書を授けらる。六卿に登つて以來禮部に在ること十年に及び、吉凶賓嘉の事、皆之を總治した。著に南樓文集詩集がある。〔清史稿、三百九十六〕・〔清史列傳、十九〕・〔碑傳集、二十五〕。

【任蘭生】254 ジンランセイ 清、震澤の人。字は畹香。咸豐の末、貲を納れて同知と爲る。同治中、雉河集を守り、捻匪と相對峙すること四十餘日、援軍至るに及んで大いに之を破る。官は鳳潁六泗道。〔清史列傳、七十七〕・〔續碑傳集、三十七〕。

【任課教員】255 ニンクワケウヰン 擔任の教員。

【任口胡說】256 jen⁴ k'ou³ hu² shuo¹ 口から出まかせに喋舌る。

【任着意兒】257 jen⁴ chê i⁴ êrh 心のままに。隨意に。

【任筆沈詩】258 ジンピツシンシ 梁の任昉の文章と沈約の詩。共に當時に著名であつた。〔南史、任昉傳〕昉既以二文才一見レ知、時人云二任筆沈詩一、昉聞、甚以爲レ病、晚節轉好著レ詩、欲三以傾二沈。

【任】417 キヤウ 侹(1－670)の譌字。〔正字通〕任、侹字之譌。

【份】418 ㊀ヒン 〔集韻〕悲巾切 眞 ㊁フン 〔辭海〕讀如レ分。ㄈㄣˋ fen⁴

小篆

古文

㊀文と質とがならびそなはる。古は彬(4－9996)に作り、俗に斌(5－13468)に作る。〔說文〕份、文質備也、从レ人分聲、論語曰、文質份份、彬、古文份、从二彡林一、林者从二焚省聲一。〔集韻〕份、古从二彡林一、俗作レ斌 非レ是。㊁現一部分。また、わけ前。

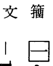
【份子】1 fen⁴ tzŭ 部分。分けまへ。出しまへ。

【份生】2 ヒンセイ 清、林元俊(6－14551··309)の字。

【伍】419 テイ 低(1－504)の俗字。〔正字通〕伍、俗低字。

【仿】420 ㊀ハウ バウ 〔集韻〕符方切 陽 ㊁ハウ 〔集韻〕撫兩切 養 ㄈㄤˇ fang³

小篆


籀文

㊀さまよふ。或は彷(4－10052)に作り、通じて方(5－13620)に作る。〔集韻〕仿、仿佯、徙倚、或从レ彳、通作レ方。〔正字通〕仿、同レ彷、仿偟猶二徘徊一。㊁❶相似るさま。ほのかに似たさま。さも似たり。仿佛。〔說文〕仿、仿佛、相佀視不レ諟也、从レ人方聲。❷ならふ。くらべる。或は倣(1－785)に作る。〔說文通訓定聲〕仿、字亦作レ倣。〔楊基、送二陳資深歸一レ廣詩〕人生還レ鄉樂、無三物堪二比仿一。❸籀文は俩(1－469)に作る。〔集韻〕仿、籀从レ丙。❹或は髣(12－45371)・彷(4－10052)・方(5－13620)・放(5－13133)・髣(12－45370)・扐(5－11866)に作る。〔集韻〕仿、或作二髣・髣・扐一。〔一切經音義、二〕仿佛、作二髣髴一、謂二相似見不レ諦也。〔正字通〕仿、別作二彷佛・方弗・放弗一。

參考 熟語は倣(1－785)を併せ見よ。

【仿行】1 ハウカウ まねて作る。其の形式に從つてやる。

【仿效】2 ハウカウ ならふ。まねする。放效。倣效。模

倣。〔楊繼盛、彈二嚴嵩十大罪一狀〕此俑既成、仿效成レ風。

【仿偟】3 ハウクワウ さまよふ。彷徨。〔後漢書、馬皇后紀〕帝感二悟之一、夜起仿偟、爲思レ所レ納。

【仿圈】4 fang³ ch'üan¹ 文鎭。

【仿古】5 ハウコ 古式に似せる。古人の作つた物に仿ふ。放古。倣古。

〖仿古京莊〗6 fang² ku³ ching¹ chuang¹ 仿古湖筆の一名稱。

〖仿古湖筆〗7 fang² ku³ hu² pi³ 水筆の一種。

【仿造】8 ハウザウ まねて造る。模造。仿製。

【仿像】9 ハウザウ かたどる。さも似たり。〔晉書、劉粲載記〕相國之府、仿二像紫宮一。

【仿寫】10 ハウシヤ 書いた通りにうつしならふ。〔福惠全書、教養部、立義學〕仿寫畢、必爲レ之定二妍媸一、妍者圈レ之、媸者抹レ之、使レ知レ所レ改、必擇二難字一與記。

【仿單】11 fang³ tan¹ 商店の引札。說明書。ちらし。廣告。

【仿佛】12 ハウフツ ほんのり見えるさま。又、相似ること。宛も云云の如し。云云と同樣だ。髣髴。彷佛。〔史記、司馬相如傳〕縹乎忽忽、若二神仙之仿佛一。〔淮南子、原道訓〕叫呼仿佛。〔漢書、眭兩云云傳贊〕察二其所一レ言、仿二佛一端一。

【仿佯】13 ハウヤウ ぶらぶらとさまよふさま。方羊。彷徉。〔廣雅、釋訓〕仿佯、徙倚也。〔呂覽、行論〕仿二佯於野一、以患二帝舜一。〔楚辭、招魂〕仿佯無レ所レ倚。〔注〕一作二仿佯一、五臣云、仿佯、遊行貌。〔淮南子、俶眞訓〕芒然仿二佯于塵埃之外一。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕消搖仿佯、弭レ節而旋。

【仿徉】14 ハウヤウ 仿佯に同じ。

【仿宋字】15 ハウソウジ 刻書の字體の一。北宋版本の字體に模して作つたもので、稍〻長めの方體をなす。

【仿宋本】16 ハウソウボン 宋代の刊本の行數字畫など其の儘に重版刊行した書物。〔書林淸話、明人刻書之精品〕仿宋刻九行本、桓寬鹽鐵論十卷。

【仿連史紙】17 ハウレンシシ 木材を主として稻草等を和して作つた上質潔白の紙。印刷寫字等に用ひる。

【伀】421

シヨウ シユ 〔集韻〕諸容切 冬

小篆

一おほやけ。ひろい。〔說文〕伀、志及レ衆也、从レ人公聲。〔段注〕伀、與レ公同義。二おそれる。恐(4－10552)に通ず。〔說文通訓定聲〕伀、叚借爲レ恐。〔廣雅、釋詁二〕伀、懼也。三夫の兄。又、舅。〔釋名、釋親屬〕夫之兄曰レ公、云云、俗間曰二兄章一、云云、又曰二兄伀一、是己所レ敬、見レ之、怔伀自肅肅也、云云、俗或謂レ舅曰レ章、又曰レ伀、亦如レ之也。

【伀矇】1 シヨウボウ おそれる。〔吳志、周魴傳〕卒奉二大略一、伀矇狼狽。

【企】422

一キ 〔集韻〕去智切 寘 くー ch'i⁴
二キ 〔集韻〕遣尒切 紙

小篆　古文

一二一つまだつ。踵を擧げる。〔說文〕企、擧レ踵也、从二人止一。〔漢書、高帝紀〕日夜企而望レ歸。〔郭璞、江賦〕渠黃不レ能レ企二其景一。〔注〕企、與レ跂同。二立つ。〔廣雅、釋詁四〕企、立也。〔爾雅、釋鳥〕其踵企。〔潘岳、笙賦〕如二鳥斯企、翾翾岐岐一。〔注〕企、立也。三のぞむ。〔傅長虞、贈二何劭王濟一詩〕豈不レ企二高蹤一。〔注〕企、望也。〔曹植、閑居賦〕登二高丘一以延企。四こひねがふ。〔文中子、天地〕程元不三敢企二董常一。五心を寄せる。〔孟郊、貧女詞寄二從叔先輩一簡〕仰企碧霞仙、高控滄海雲。六くはだてる。計畫する。又、くはだて。計畫。〔唐書、王勃傳〕可二以企一レ之。七古は⿱人足(1－636)に作る。〔說文〕⿱人足、古文企从レ足。八或は⿰足企(10－37523)・跂(10－37416)に作る。〔集韻〕企、或作レ⿰足企。〔集韻〕企、或作レ跂。九姓。〔萬姓統譜〕企、見二姓苑一。

名乘 モト。

解字 會意。人と止との合字。止は足、故に人の踵をあげてつまだつ意。

【企詠】1 キエイ 詩歌文章を作らうと思ふこと。〔謝靈運、答二范光祿一書〕企詠之結、實成二飢渴一。

【企延】2 キエン 淸、俞時篤(1－1437··106)の字。

【企鵝】3 ガキ 南極洋方面に分布する鳥類の一種。大きなものは三尺位に達し、翼はあるが、扁平で小さく、羽毛は剛く短くて、飛翔する力がない。陸上では體の後方に附着する脚部を用ひて步行し、水中では翼で橈のやうに水をうつて前進する。甲殼類、いか、其の他の軟體動物、小魚を食す。鱗鵝。ペンギン。penguin

【企救】4 クキ 一豐前國の郡名。〔倭名類聚鈔〕二姓氏。〔和爾雅〕。

【企及】5 キキフ 一及ばんことを企て望む。得たいと思ふ。〔陸機、五等諸侯論〕蓋企及進取、仕子之常志。〔注〕善曰、企及進取、奔競以招レ譽。二企てて及ぶ。追ひつく。〔唐書、杜甫傳〕揚雄・枚皐、可二企及一也。

【企腳】6 キキヤク 足をつまだてることをいふ。〔世說新語、容止〕桓大司馬曰、諸君莫二輕道一、仁祖企二腳北窓下一、彈二琵琶一、故自有二天際眞人想一。

【企畫】7 キクワク 事をくはだてる。企劃。企圖。

〖企畫院〗8 キクワクヰン 我が國に於て、高度國防國家體制確立の目的を以て、官廳機能を刷新し、國政の綜合計畫を立てるために內閣に置かれた役所。

【企劃】9 キクワク 企畫に同じ。

【企業】10 キゲフ 事業を企て起す。又、企て起す事業。生產營利を目的とするものについていふ。

〖企業家〗11 キゲフカ 企業の經營を自己の責任に於て實際に行ふ者。企業主體。

〖企業熱〗12 キゲフネツ 企業に熱中する風潮。

〖企業合同〗13 キゲフガフドウ 同種の生產に從事する企業家が自由競爭による生產過剩・價格低落を防止する爲に合同し、且つ市場及び利益の獨占を得ようとする組織。經營結合。トラスト。

〖企業公債〗14 キゲフコウサイ 企業のために要する資金を募集する公債。

〖企業聯合〗15 キゲフレンガフ 同一產業に屬する諸企業が互に協定を結んで市場に於ける競爭を避け、其の他加盟諸企業の自由活動性に一定の制限を加へることによつて在來の利潤を維持し或は高めようとする企業の聯合團體。カルテル。

〖企業獨占權〗16 キゲフドクセンケン 或る特定の企業に對し國家が認める獨占經營の權利。

【企候】17 ch'i⁴ hou⁴ 望み待つ。切望する。

【企想】18 キサウ つまだち望んでおもふ。又、其のこと。〔潘岳、射雉賦〕甘レ疲二心于企想一、分二倦レ目以寓レ覩。〔李程、華淸宮望幸賦〕徒企想以忡忡、復懷慕而耿耿。

【企山】19 キザン 字號。一淸、楊述曾(6－15112··613)の號。二淸、汪景望(6－17154··210)の字。

【企之】20 キシ 宋、曹仁希(5－14297··265)の字。

【企祝】21 ch'i⁴ chu⁴ 遙かに祝意を表する。

【企竦】22 キシヨウ 足を爪だてて立つ。〔曹植、求二自試一表〕臨レ博而企竦、聞レ樂而竊抃者。

【企頌】23 ch'i⁴ sung⁴ 企祝(21)に同じ。

【企踵】24 キシヨウ かかとをあげる。つまだちして望み見る。願望することの甚しい意に用ひる。〔漢書、蕭望之傳〕天下之士、延レ頸企レ踵、爭願三自效以輔二高明一。〔揚雄、劇秦美新〕海外遐方、信延レ頸企レ踵。〔吳志、周魴傳〕民誰不二企踵一。〔顏氏家訓、慕賢〕延レ頸企レ踵、甚二於饑渴一。

【企晉】25 キシン 淸、吳泰來(2－3365··744)の字。

【企泉】26 キセン 淸、董洵(9－31433··94)の字。

【企羨】27 キセン 一つまだちして望み慕ふ。〔北史、陽休之傳〕鄕曲人士、莫レ不二企羨一焉。二世說新語の篇名。

【企大】28 キダイ 淸、陶成(11－41705··108)の字。

【企塘】29 キタウ 淸、俞瑅(1－1437··58)の字。

【企禱】30 キタウ 心を寄せていのる。希ふ。切望。

【企佇】31 キチヨ 踵をあげて待つ。心から待つてゐること。又、待遠しく思ふこと。〔曹植、求レ通二親親一表〕臣僂僂之誠、竊所二獨守一、寔懷二鶴立企佇之心一。〔注〕向曰、企、擧レ踵也、佇、久也。

【企圖】32 トキ くはだてはかる。もくろみ。計畫。企畫。〔清國行政法汎論、宦官〕自殘二其肢體一、企三圖出二入宮廷一。

【企佩】33 ch'i4 p'ei4 其の人の風を望んで敬服すること。敬服する。

【企望】34 キバウ つまだちして望む。心から願ひ望む意。企而望(40)を見よ。〔後漢書、袁紹傳上〕企三望義兵以釋二國難一。〔後漢書、袁術傳〕非三海內企望之意一也。〔魏志、衞覬傳〕企望思レ歸。

【企盼】35 ch'i4 p'an4 切望する。翹望する。

【企萬】36 キバン 清、徐雲路(**4−10110**‥335)の號。

【企予】37 キヨ つまだちすること。詩の衞風、河廣の跂予望レ之から出た語。〔陸機、歎逝賦〕望三暘谷二之企予。〔注〕善曰、毛詩曰、企予望レ之、鄭玄曰、跂、足則可三望二見之一、企與レ跂同。

【企立】38 キリツ 爪先を立てて立つ。つまだつ。望み待つ心を表はす。〔剪燈新話、聯芳樓記〕企三立船舷一、如レ有レ所レ俟。

【企鴻軒】39 キコウケン 宋、賀鑄(**10−36725**‥79)の室名。

【企而望】40 キシテノゾム つまだちして遠方を望む。企望(34)を見よ。〔漢書、高帝紀上〕日夜企而望レ歸。

【企喩歌辭】41 キユカジ 梁の鼓角橫吹の曲名。古今樂錄に企喩歌四曲あり、もと北狄の馬上の樂。中國に入つて、隋代に其の辭が一般に奏せられた。〔樂府詩集、橫吹曲辭、梁鼓角橫吹曲、企喩歌辭〕古今樂錄曰、企喩歌四曲、或云、後又有二二句一、頭毛墮落魄、飛揚百草頭、最後男兒可レ憐レ蟲一曲、是苻融詩、云云、唐書樂志曰、北狄樂、其可レ知者、鮮卑・吐谷渾・部落稽三國、皆馬上樂也。〔古樂府、企喩歌辭〕男兒欲レ作レ健、結伴不レ須レ多、鷂子經レ天飛、羣雀兩向レ波。

【尬】423 カイ 尬(**4−7560**)の譌字。〔正字通〕尬、尬字之譌。

【伂】424 ハイ 〔集韻〕博蓋切 泰 顚伂は仆れること。通じて沛(**6−17216**)に作る。〔集韻〕伂、顚伂、仆也、通作レ沛。

【伃】425 [一]ヨ 〔集韻〕羊諸切 魚 ㄩˊ yü2 [二]ヨ 〔集韻〕演女切 語 (小篆)
[一]❶**倢伃は婦官**。〔說文〕伃、婦官也、从レ人予聲。❷**美しい貌**。**又、美しいものの稱**。〔集韻〕伃、漢有二倢伃一、伃、美皃。〔漢書、外戚傳〕至二武帝一、制二倢伃、云云一。〔注〕師古曰、伃、美稱也。❸或は好(**3−6105**)に作る。〔集韻〕伃、或从レ女。[二]**大きい**。**又、長い**。〔方言、二〕燕記曰、豐人杼首、杼首、長首也、楚謂二之伃一。〔集韻〕伃、大也。

【伄】426 テウ 〔集韻〕多嘯切 嘯 ㄉㄧㄠˋ tiao4
❶伄儅は常ならぬこと。〔集韻〕伄、伄儅、不レ常也。❷[現]商業用語。市場に商品の缺乏することを伄儅といふ。

【伅】427 トン ドン 〔集韻〕杜本切 阮
倱伅はさとくないこと。或は敦(**5−13276**)に作る。〔集韻〕伅、倱伅、不レ慧、或作レ敦。

【伆】428 [一]ブン モン 〔集韻〕武粉切 吻 [二]ブツ モチ 〔集韻〕文拂切 物
[一][二]**離れる**。〔集韻〕伆、離也。

【伆邈】1 ブンバク そむき離れる。〔方言、六〕伆邈、離也、楚謂二之越一、或謂二之遠一、吳越曰レ伆。〔注〕謂二乖離一也。

【役】429 エキ ヤク 〔集韻〕營隻切 陌
❶役(**4−10057**)に同じ。〔集韻〕役、說文、戍邊也、隸省。〔漢書、劉向傳〕天下苦二其役一而反レ之。〔王先謙補注〕錢大昭曰、役、古文役字、見二說文一、先謙曰、官本作レ役。❷**すてる**。〔漢書、匈奴傳〕近不レ過二旬月之役一。〔方言、十〕役、棄也、淮汝之間、謂二之役一。

【伈】430 [一]シン 〔集韻〕斯荏切 寑 ㄒㄧㄣˇ hsin3 [二]シン 〔集韻〕七鴆切 沁
[一][二]**恐れるさま**。〔集韻〕伈、博雅、伈伈、懼也。〔集韻〕伈、恐也。

【伈伈】1 シンシン 恐れるさま。〔韓愈、鱷魚文〕伈伈睍睍、爲二民吏羞一。

【伉】431 [一]カウ 〔集韻〕口浪切 漾 ㄎㄤˋ k'ang4 [二]カウ 〔集韻〕居郎切 陽 (說文小篆) (段注本小篆)
[一]❶**たぐひ**。**つれあひ**。**ならぶ**。〔集韻〕伉、一曰、匹也。〔左氏、成、十一〕不レ能レ庇二其伉儷一。〔注〕伉、敵也。〔疏〕伉者、相當之言、故爲レ敵也、伉儷者、言二是相敵之匹耦一。〔國語、周語中〕棄二其伉儷妃嬪一。〔注〕伉、對也。〔張衡、思玄賦〕疇可二與乎比伉一。〔注〕衡曰、伉、儷也。❷**敵する**。**あたる**。抗(**5−11889**)に通ず。〔字彙〕伉、敵也、與レ抗同。〔儀禮、燕禮、主人亦升レ自二西階一賓右北面、注〕以二其尊一莫二敢伉禮一也。〔釋文〕伉、敵也。〔戰國、秦策〕天下莫二之能伉一。〔注〕伉、對也。❸**たかい**。〔詩、大雅、緜〕皐門有レ伉。〔傳〕伉、高大。❹**あげる**。**又、きはむ**。〔荀子、富國〕正二身行一、伉二隆高一。〔注〕伉、擧也。〔集解〕王念孫曰、案、楊說二伉字之義一、非レ是、伉者、極也。❺**すこやか**。**つよい**。犺(**7−20261**)に通ず。〔說文通訓定聲〕伉、叚借爲レ犺。〔集韻〕伉、一曰、健也。〔漢書、宣帝紀〕伉健習二騎射一者。〔注〕師古曰、伉、強也。❻**手がるでかざらぬ**。**なほい**。〔正字通〕伉、直也。〔法言、吾子〕事勝レ辭則伉。❼**おごる**。〔韓非子、亡徵〕太子輕而庶子伉。❽亢(**1−288**)に通ず。〔穀梁、桓、九〕使下世子伉二諸侯之禮一而來朝上。〔釋文〕伉、本作レ亢。❾**人名**。〔說文〕伉、人名、从レ人亢聲、論語有二陳伉一。❿**姓**。〔路史〕微子後、有二伉氏一。[二]**正直のさま**。〔集韻〕伉、剛正皃、後漢書、難經伉伉劉太常。〔正字通〕伉、正直貌。〔宋史、唐介傳〕爲レ人簡伉。

【伉行】1 カウカウ おごり高ぶつた行。驕傲の行。〔淮南子、齊俗訓〕矜僞以惑レ世、伉行以違レ衆。

【伉合】2 カウガウ ならび合ふ。〔沈約、奏二彈王源一文〕交二二族之和一、辨二伉合之義一。〔注〕銑曰、伉合、相敵而合也。

【伉俠】3 カウケフ 權力に抗して屈しないこと。をとこだて。任俠。〔漢書、朱博傳〕伉俠好レ交、隨二從士大夫一、不レ避二風雨一。〔注〕師古曰、伉、健也。

【伉健】4 カウケン 強くすこやかなこと。又、強くたけきこと。〔漢書、宣帝紀〕選下郡國吏三百石、伉健習二騎射一者上、皆從レ軍。〔後漢書、馮異傳、注〕東觀記曰、緱字幼春、定陵人、伉健有二武略一。

【伉直】5 カウチョク 義理を曲げず正直なこと。〔史記、仲尼弟子傳〕子路性鄙好二勇力一、志伉直。〔史記、

酷吏傳贊〕郅都伉直、引二是非一、爭二天下大體一。〔漢書、周昌傳〕其人、堅忍伉直。

【伉配】6 カウハイ 夫婦。つれあひ。伉儷。

【伉厲】7 カウレイ つよくて、きびしい。〔史記、汲黯傳〕黯伉厲守レ高不レ能レ屈。〔魏志、孫禮傳評〕剛斷伉厲。

【伉禮】8 カウレイ 尊卑の差別をつけない。對等の禮儀を用ひる。抗禮。〔儀禮、燕禮、賓升レ自二西階一、主人亦升レ自二西階一、注〕以二其尊一莫二敢伉禮一也。〔莊子、漁父〕萬乘之王、千乘之君、見二夫子一、未三嘗不二分レ庭伉禮一。〔韓非子、外儲說左上〕伉禮下二布衣之士一。

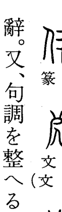
【伉儷】9 カウレイ つれあひ。儷は對の意。夫妻。配偶。〔左氏、成、十一〕不レ能レ庇二其伉儷一。〔疏〕伉儷者、言二是相敵之匹耦一。〔國語、周語中〕棄二其伉儷妃嬪一。〔禰衡、鸚鵡賦〕哀二伉儷之生離一。〔白居易、鶴答レ雞詩〕爾爭二伉儷一泥中鬬。〔書言故事、夫婦類〕賀二人娶レ妻、曰三榮諧二伉儷一。

【伉儷殊篤】10 カウレイコトニアツシ 夫婦の親しみの取りわけ深いこと。〔近古史談、德篇下、節婦二〕生二子三人一、伉儷殊篤。

【伉王】11 カウワウ 強い王。英主をいふ。〔史記、趙世家〕至二于後世一、且レ有二伉王一、赤黑、龍面而鳥噣。

【伊】432 イ

〔集韻〕於夷切 一 ㄧ 支



小篆　古文（說文）　古文（通訓定聲）

㊀これ。この。發語の辭。又、句調を整へる辭。〔爾雅、釋詁〕伊、維也。〔注〕發語辭。〔詩、邶風、雄雉〕我之懷矣、自貽二伊阻一。〔傳〕伊、維。〔箋〕伊、當レ作レ緊、緊、猶レ是也。〔詩、邶風、谷風〕不レ念二昔者、伊余來塈一。〔箋〕伊、維也。〔詩、小雅、都人士〕匪二伊垂一レ之。〔箋〕伊、辭也。〔儀禮、士冠禮〕嘉薦伊脯。〔注〕伊、惟也。〔漢書、揚雄傳〕伊年暮春。〔注〕師古曰、伊、是也。㊁かれ。彼。人を指す語。〔太倉州志〕吳語、指レ人曰レ伊。㊂動作狀態を形容する助辭。字の前後について熟語を作る。〔後漢書、崔寔傳〕智士鬱二伊於下一。〔注〕鬱伊、不レ申之貌。㊃よる。因。〔詩、鄭風、溱洧〕維士與レ女、伊其相謔。〔箋〕伊、因也。㊄おす。〔逸周書、大匡解〕展盡不レ伊。〔注〕伊、推也。㊅ふさぐ。堙（3－5041）に通ず。〔說文通訓定聲〕伊、叚借爲レ堙、漢石經、洪範、鯀伊二洪水一。㊆川の名。伊水（77）を見よ。㊇伊尹は、殷の湯王の相。伊尹（6）を見よ。〔說文〕伊、殷聖人阿衡也、尹二治天下一者、从二人尹一。〔段注〕殷聖人之上、當レ有二伊尹二字一、傳寫奪レ之。㊈古は𣪠（9－31122）・𠑹（1－709）に作る。〔集韻〕伊、古作レ𠑹。〔字彙補〕𣪠、古文伊。㊉姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕伊氏、卽伊祈氏之後也、裔孫伊尹名摯、相レ湯、生レ陟、風俗通、漢有二議郎伊推一、又伊嘉爲二鴈門都尉一、石顯黨、又伊婁氏、改爲二伊氏一。㊋物のさま。伊優（4）・伊吾（42）の㊁を見よ。

名乘 コレ。ヨシ。

解字 會意。人と尹との合字。尹は天下を治平する意。人と合して天下を平治する人の意とする。故に阿衡（依倚して天下を平治する官）をいひ、殷の聖人伊尹の名は、彼が湯王の相としてよく天下を平治したことから取つたもの。假借して堙（ふさぐ）とし、又、發聲の辭とする。〔說文、伊、段注〕尹治、猶レ言二治平一、此說下从二人尹一之意上也、言、阿衡者尹二治天下一者也、故又謂二之伊尹一、而伊字亦从レ尹。〔說文通訓定聲〕伊、叚借爲レ堙、又發聲之詞。

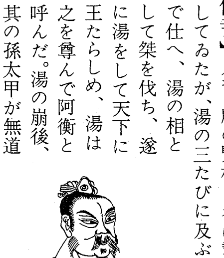
【伊威】2 イヰ 蟲の名。おめむし。わらぢむし。夏秋の交、濕地に生じ、體は灰白色で橢圓形、數對の足が有る。委黍。鼠婦。蛜蝛。〔詩、豳風、東山〕伊威在レ室、蠨蛸在レ戶。〔傳〕伊威、委黍也。

【伊宥】3 イイウ 高俊の號。高葛坡（12－45313‥1078）を見よ。

【伊優】4 イイウ 言語の不明瞭なさま。咿嚘。伊優亞及び伊吾（42）の㊁を見よ。轉じて、言葉を濁して自己の意志を明らかにせず、腰を低くしてへつらふさまをいふ。〔後漢書、趙壹傳〕有二秦客者一、乃爲レ詩曰、云云、伊優北堂上、抗髒倚二門邊一。〔注〕伊優、屈曲佞媚之貌。

【伊優亞】5 イイウア 言語の不明瞭なさま。言はうとして聲は出してゐるが未だ言葉をなさないさま。あー・うーん。伊優。伊吾。〔漢書、東方朔傳〕伊優亞者、辭未レ定也。

【伊尹】6 イイン 殷の賢相。名は摯。初、莘野に耕してゐたが、湯の三たびに及ぶ招聘によつて出で仕へ、湯の相として桀を伐ち、遂に湯をして天下に王たらしめ、湯は之を尊んで阿衡と呼んだ。湯の崩後、其の孫太甲が無道であつた爲、伊尹は之を桐宮に放ち、其の後三年、太甲の悔悟するに及んでまた亳に歸した。〔史記、三〕・〔陔餘叢考、四〕。



伊尹（三才圖會）

【伊尹書】7 イインシヨ 書名。殷、伊摯撰と傳へる。道家に列す。〔玉函山房輯佚書、第八十七册〕。

【伊尹之任】8 イインノニン 殷の伊尹が天下の重任を自分一身に引き受けて力をつくしたのをいふ。〔孟子、萬章下〕伯夷、聖之清者也、伊尹、聖之任者也。〔曾鞏、撫州顏魯公祠堂記〕伯夷之清、伊尹之任。

【伊尹負鼎】9 イインフテイ 蒙求の標題。伊尹が殷の湯王に事へるために料理人となり、遂に志を得て、宰相の位に登り、國政を執るに至つた故事。〔史記、殷紀〕伊尹名二阿衡一、阿衡欲レ奸レ湯而無レ由、乃爲二有莘氏媵臣一、負二鼎俎一、以二滋味一說レ湯、致二于王道一。

【伊尹太公之謀】10 イインタイコウノハカリゴト 天下を平治する計策。太公は、周の文王を輔けた太公望呂尙をいふ。〔蘇軾、留侯論〕子房以二蓋世之才一、不レ爲二伊尹太公之謀一、而特出二於荊軻聶政之計一、以僥二倖於不一レ死。

【有二伊尹之志一則可】11 イインノココロザシアレバスナハチカナリ 伊尹が其の君太甲を廢立したことは不臣の行ではあるが、伊尹のやうに眞に國を思ひ君を愛する志があれば、之を爲してもよろしい。〔孟子、盡心上〕賢者之爲二人臣一也、其君不賢、則固可レ放與、孟子曰、有二伊尹之志一則可、無二伊尹之志一則簒也。〔注〕人臣秉二忠志一、志若三伊尹欲レ寧二殷國一、則可下放レ惡、而不二卽立一レ君、宿留冀中改而復上レ之、如無二伊尹之忠一、見レ間乘レ利、簒心乃生、何可レ放也。

【伊鬱】12 イウツ ㊀心が結ぼれて解けないさま。憂へ怨む。又、憤怒のさま。伊は助辭。〔班彪、北征賦〕諒時運之所レ爲兮、永伊鬱其誰愬。〔注〕銑曰、伊鬱、憂怨也。〔王褒、洞簫賦〕憤伊鬱而酷䬣。〔注〕銑曰、伊鬱、憤怒貌。㊁むし暑いさま。暑くるしいさま。鬱伊。〔何晏、景福殿賦〕感二乎溽暑之伊鬱一、而慮二性命之所一レ平。〔注〕善曰、伊鬱、煩熱貌。

【伊園】13 イエン 淸、王景賢（7－20823‥1377）の號。

【伊河】14 イカ 川の名。河南省盧氏縣の東南の悶頓嶺に發源し、東北流して嵩・伊陽・洛陽・偃師の諸縣を經て、洛水に注ぐ。〔書、禹貢〕伊洛瀍澗、既入二于河一。〔禹貢錐指〕賈讓言、大禹鑿二龍門一、辟二伊闕一、當時伊水爲レ害必甚、故禹治二四水一、以二伊爲一レ先、伊既入レ洛、乃疏以入レ河、最後治二瀍澗一也。

【伊嘉】15 イカ 漢の人。元帝の時、石顯に黨附して御史中丞に至つたが、顯の敗れるに及んで、鴈門都尉に左遷せらる。〔前漢書、九十三〕。

【伊海】16 イカイ 淸代の畫家。字は孚九。號は莘野・也堂。特に山水畫に長ず。日本に來遊して以來、其の畫風は日本畫の影響を受けたといふ。

【伊香】17 イカ ㊀近江國の地名。十二郡の一。〔郡名錄〕。㊁イゴ 姓氏。〔姓名錄〕。㊂イカウ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【伊皐】18 イカウ 殷の湯王の相の伊尹と、唐虞の際の皐陶。共に古の良相。〔後漢書、班固傳上〕將軍宜下詳二唐殷之舉一、察中伊皐之薦上、令中遠近無レ偏、幽隱必達上。〔注〕堯舉二皐陶一、湯舉二伊尹一。〔劉

基、賣柑者言〕峩二大冠一拖二長紳一者、昂昂乎廟堂之器也、果能建二伊皋之業一邪。

【伊蒿】19 イカウ 清、閻循觀(11－41379・・82)の號。

〖伊蒿子〗20 イカウシ 明、嚴本(2－4589・・232)の號。

〖伊蒿室〗21 イカウシツ 清、王效成(7－20823・・1260)の室名。

〖伊蒿老人〗22 イカウラウジン 清、康辰(4－9376・・94)の號。

【伊顏】23 イガン 伊尹と顏回。〔劉峻、辨命論〕雖二游夏之英才、伊顏之殆庶一、焉能抗レ之哉。〔注〕向曰、伊、伊尹、顏、顏回也。

【伊祁】24 キイ ㊀春の神。〔周繇、夢二舞鍾馗一賦〕彼號二伊祁一、亦名二鬱壘一。〔皮日休、桃花賦〕伊祁氏之作レ春也。〔注〕春神也。㊁複姓。堯は伊祁山に生れたので、伊祁を姓とした。伊祈。〔史記、五帝紀、帝堯者、注〕索隱曰、堯、謚也、放勳名、帝嚳之子、姓伊祁氏。〔通志、氏族略、以レ姓爲レ氏〕伊祁氏、堯之姓、亦作二伊祁一。

【伊祈】25 キイ 伊祁の㊁に同じ。〔魏書、高祖紀上〕懷州民、伊祈苟初、自稱二堯後一、應レ王、聚二衆於重山一。

【伊箕】26 キイ 殷の湯王の相伊尹と、殷の紂王の時の賢人箕子。〔後漢書、崔寔傳〕伊箕作レ訓、而殷周用隆。〔注〕伊尹作二伊訓一、箕子作二洪範一。

【伊耆】27 キイ ㊀古の帝の名。〔禮、明堂位〕土鼓蕢桴葦籥、伊耆氏之樂也。〔注〕伊耆氏、古天子、有二天下一之號也。㊁官名。伊耆氏を見よ。㊂複姓。〔路史〕炎帝神農氏、姓伊耆、名軌。

〖伊耆氏〗28 イキシ 周官の名。秋官の屬。老者に杖を授けることを掌る。〔周禮、秋官、序官、伊耆氏、注〕伊耆、古王者號、始爲レ蜡、以息二老物一、後王識二伊耆氏之舊德一、而以名レ官與、今姓有二伊耆氏一。〔周禮、秋官、伊耆氏〕掌下國之大祭祀、共二其杖咸一、軍旅授二有爵者杖一、共中王之齒杖上。

【伊吉】29 キイ 姓名。〔拾芥抄〕。

【伊鄉】30 イキヤウ 縣名。漢、置く。江蘇省灌雲縣の境。〔漢書、地理志上〕琅邪郡、縣五十一、伊鄉。

【伊具】31 グイ ㊀磐城國の郡名。㊁クイ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【伊廣】32 イクワウ 唐、兗州の人。李克用に結んで檢校司徒となる。乾寧中、劉仁恭を征して、克用の兵屢〻破れ、廣は賊の爲に殺さる。〔舊五代史、五十五〕。

【伊璜】33 イクワウ 清、查繼佐(6－14643・・88)の字。

【伊霍】34 イクワク 殷の伊尹と漢の霍光。共に國家のため暗君を廢した人。〔後漢書、宦者傳序〕或稱二伊霍之勳一、無レ謝二于往載一。〔注〕謂二伊尹・霍光一也。〔晉書、桓溫傳〕專執二國政一、擅行二廢立一、出二入將相一、自比二伊霍一。

【伊管】35 イクワン 殷の伊尹と齊の管仲。〔漢書、鄒陽傳〕蒙二堯舜之術一、挾二伊管之辯一。

【伊訓】36 イクン 書經、商書の篇名。伊尹の作。太甲が湯の後を承けて、祖先の業を纂修することの出來ないのを恐れて、書を作つて之を戒めたもの。〔書、伊訓序〕成湯既沒、太甲元年、伊尹作二伊訓、肆命二徂后一。

【伊計】37 チイ 琉球の地名。

【伊藝】38 ジイ 琉球の地名。

【伊堯】39 ゲイウ 三河國の禪僧。字は天室。元和八年寂す。妙嚴寺直心に從つて祝髮し、直心の寂後其の席に補せられ、後、上野天增寺の開山となる。〔日本洞上聯燈錄〕。

【伊闕】40 ケイツ 漢の靈帝の八關の一つ。河南省洛陽縣の南に當る。春秋時代の周の闕塞。秦の昭襄王十四年に、秦將白起が、大いに韓・魏の軍を破つた處。〔史記、秦紀〕十四年、左更白起、攻二韓魏於伊闕一、斬レ首二十四萬、虜二公孫喜一、拔二五城一。〔史記、淮南王傳〕塞二轘轅伊闕之道一。〔淮南子、本經訓〕舜乃使下禹疏二三江五湖一、闢二伊闕一、導中廛澗上。〔曹植、洛神賦〕背二伊闕一、越二轘轅一。

〖伊闕佛龕〗41 イケツブツガン 河南省洛陽縣にある佛龕。北魏の宣武帝の創めたもの。

【伊吾】42 ゴイ ㊀地名。伊吾盧の略。〔後漢書、楊終傳〕伊吾之役、樓蘭之屯、久而未レ還。〔後漢書、西域傳序〕伊吾地、宜二五穀桑麻蒲萄一、其北又有二柳中一、皆膏腴之地、故漢常與二匈奴一爭レ之、以制二西域一。㊁言語の不明瞭なさま。讀書の聲・歌を歌ふ聲・うめく聲の形容。咿唔。吾伊。〔正字通〕伊吾、吟哦聲、亦作二咿唔一。〔類書纂要、人事部〕吾伊、書聲也、云云、不二聰慧一者、口訥讀レ書、故有二此聲一也。〔黃庭堅、考試局與二孫元忠博士一竹間對レ窗夜聞二元忠誦レ書聲調悲壯一戲作二竹枝歌三章一和レ之詩〕南窗讀レ書聲伊吾、北窗見レ月歌二竹枝一。

〖伊吾盧〗43 イゴロ 地名。今の新疆省哈密縣。周の昆吾の戎の地。漢代に伊吾盧と稱した。又、伊吾ともいふ。匈奴の呼衍王の庭地。〔後漢書、西域傳序〕明帝乃命二將帥一、北征二匈奴一、取二伊吾盧地一。〔注〕在二今伊州伊吾縣一也。

【伊公】44 イコウ 殷の伊尹(6)をいふ。〔梁昭明太子、七契〕加以二伊公調和、易氏燔爨一。

【伊恆】45 イコウ 明、吳縣の人。字は宗有。官は尙寶少卿。〔續吳先賢譜、十二〕。

【伊洪】46 イオン 電荷を有する原子、或は原子團。陰イオンと陽イオンとがある。游子。伊翁。Ion

【伊克】47 クイ ㊀湖の名。一名、荷爾巴湖。西藏阿里の西北に在つて、海拔一萬七千尺。湖面の高度は世界第一。㊁蒙古語で、大きい意。〔淸會典、戶部〕越蒙古、其澤阿拉克。〔注〕阿拉克泊、在二科布城之東一、云云、蒙古稱曰二伊克阿拉克一、伊克、蒙古語、謂レ大也。

〖伊克招〗48 イクチヤオ 廟の名。西藏の拉薩にある。唐の文成公主の建てたものと傳へ、今も唐代の佛像がある。招は廟の意、大廟といふに同じ。伊克昭盟とは別。

〖伊克昭盟〗49 イクチヤオメイ 地名。內蒙古の西の二盟の一。今の綏遠省特別區域の南境。綏遠、歸綏縣の西二百八十支里に當る。東西北の三面は黃河に圍繞せられ、南方は長城を距てて寧夏及び陝西の二省に接する。秦は之を新秦中といふ。漢初には匈奴河南王の地となり、後、朔方上郡を置く。卽ち鄂爾多斯七旗である。魏の夏州、隋の勝州並に豐州、唐末五代金の西夏の地に當る。元は中興路を立て、明時代には達延汗が之によつた。蒙古語で、伊克は大、廟は招・昭・召に通ず。其の地に成吉斯汗の廟があるからいふ。〔淸會典、理藩院〕凡內札薩克之盟六、各定二其所レ會之地一、六曰、伊克昭、同盟之旗七。〔注〕伊克昭盟地、在二鄂爾多斯左翼中旗・右翼後旗・右翼前旗、三旗接壤之閒一。

〖伊克穆河〗50 イクムカ 河の名。外蒙古唐努烏梁海。二源があつて、南源を騰吉斯河、一名、華克穆河、或は烏魯黑穆河といひ、北源を貝克穆河といふ。伊克穆河はまた克穆河・大克穆河とも稱し、元史では謙河といふ。〔淸會典、戶部〕越蒙古、其川克穆。〔注〕克穆河、出二唐努烏梁海旗之北托羅斯嶺一、凡二源、曰華克穆、曰貝克穆、華克穆南流、折而西流、復折而北流、貝克穆、自二伯魯克泊一流出、西南流、北納二圖集泊特爾里克泊之水一、西流、與二華克穆河一合、爲二大克穆河一、西流、復與下出二唐努烏梁海旗西境一之克穆齊克河上合、北流、入二俄羅斯境一。

〖伊克阿拉克泊〗51 イクアラクポ 湖の名。阿拉克泊の蒙古稱。一名、哈喇烏蘇湖。外蒙古科布多の科布多城の東。又の名、慈母湖。〔淸會典、戶部〕越蒙古、其澤阿拉克。〔注〕阿拉克泊、在二科布城之東一、云云、蒙古稱曰二伊克阿拉克一、伊克、蒙古語、謂レ大也。

〖伊克納剌蘇台〗52 イクナラスタイ 地名。滿洲熱河省、翁牛特左翼旗の南二十里の地。今の熱河省平泉縣の東北の大寧城、卽ち、もとの中京と呼ばれた所から、今の興安西省、卽ちもとの上京と呼ばれた地方に至る大道に沿つた驛舍であつた。遼では松山館といつた。〔蒙古遊牧記、三〕。

【伊縠】53 イコク 伊瀔に同じ。〔謝朓、和二王著作八公山詩一詩〕戎州昔亂レ華、素景淪二伊縠一。

【伊瀔】54 イコク 洛陽の近くにある二水の名。伊水・瀔水。〔顏延之、北使レ洛詩〕伊瀔絕二津濟一、臺館無二尺椽一。〔注〕善曰、伊瀔、二水名也。

【伊佐】55 サイ ㊀清、桑調元(6－14772・・166)の字。㊁イサナ 但馬國の地名。

【伊砂】56 イスカ ㊀遠江國の地名。㊁姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【伊在】57 イザイ 字號。㊀清、顧汧(12－43689・・62)の字。㊁清、沈湄(6－17189・・330)の字。

【伊索】58 イソツプ 古代ギリシヤの傳說的寓話詩人。フリギヤの人。其の作といはれるイソツプ物語は譬喩文學の源泉と呼ばれる。Æsop の音譯。

〖伊索寓言〗59 イソツプグウゲン 諷刺詩物語の一種。イソツプが日常に物語つたとして傳へられる比喩・訓話の類を蒐集した寓話集。イソツプ物語。

【伊參】60 イサマ 上野國の地名。

【伊讚】61 サイ 常陸國の地名。

【伊始】62 云云早々。其の始め。

【伊摯】63 イシ 伊尹(6)に同じ。摯は名。〔墨子、尚賢中〕伊摯、有莘氏女之私臣。〔楚辭、天問〕帝乃降觀、下逢伊摯。〔注〕摯、伊尹名也。

【伊次】64 イツギ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【伊兒】65 イルカン 國の名。藩王の意。蒙古の四大藩の一つ。伊兒汗國を見よ。

【伊兒汗國】66 イルカンコク また伊蘭汗國ともいふ。元の太祖、成吉思汗の孫、旭烈兀フラーの建てた國。元の憲宗の時、弟旭烈兀は、帝命によつて裏海附近の木剌奚部を滅したが、帝が釣魚山に崩ずるに及び、遂に西亞に留まつて西域を鎭し、庭を波斯の忽里模子の地に建て、後、又マラガに遷つた。當時其の封土は、實に東は阿母河から、西は地中海沿岸に至つた。其の後、王の阿八哈は、東羅馬帝と婚を通じ、且英佛諸國と交際して盛に文物を輸入した。更に其の孫、合贊も亦大いに西方の文化を輸入し、內は憲法を制定して國政を改善し、外は十字軍と共同して埃及の回教徒を伐ち、國勢甚だ揚がつた。併し合贊の從子、不賽因(一に阿不賽音に作る)が後を繼ぐ頃から、國人は漸く汗の威令を奉ぜず、不賽因の歿後、嗣子のないため汗國は分崩した。而も帖木兒が其の機に乘じて來侵し、遂に滅亡するに至つた。旭烈兀の建國(1256)から六世八十年である。

拖雷—(一)旭烈兀(九年)—(二)阿八哈(十六年)—(三)阿魯渾(十一年)—(四)合贊(七年)—(六)阿不賽因(二十年)
(五)鄂勒哲圖(十二年)

【伊邇】67 イジチカシ 近い。伊は發語の辭。〔詩、邶風、谷風〕不レ遠伊邇、薄送二我畿一。

【伊州】68 イシウ ❶樂曲の名。〔白居易、伊州詩〕新教二小玉唱一伊州一。〔羅虬、比紅兒詩〕紅兒謾唱二伊州一。❷州名。㋐隋、置く。河南省臨汝縣の治。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府〕汝州、禹貢、豫州之域、周爲二王畿地一、春秋時、爲二戎蠻子邑一、亦楚鄭二國之境一、戰國屬レ韓、秦屬二三川郡一、漢爲二潁川・河南・南陽郡地一、云云、隋初曰二伊州一。㋑唐、置く。新疆省哈密縣。伊吾盧(83)を見よ。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、哈密衞〕伊吾廢縣、今衞治。本匈奴中地、云云、唐貞觀四年、突厥亡二伊吾城一、主入朝、擧二其國七城一來降、因置二西伊州一、六年、改曰二伊州一。

【伊州令】69 イシウレイ 詞牌の名。唐樂府伊州歌から取つて名づけたもの。〔古今詞話〕西風昨夜穿二簾幕一、閨院添二蕭索一云云、此伊川令范仲胤妻寄レ外詞也、范爲二相州錄事一、久不レ歸、其妻製二此詞一寄レ之、伊字旁夫二寫人字一。

【伊周】70 イシウ 殷の湯王の相伊尹と、周の武王・成王の相周公旦。二人共に古の良相。伊旦。〔潘岳、西征賦〕彼負荷之殊重兮、雖二伊周一其猶殆。〔注〕向曰、伊尹相二太甲一、致二桐宮之師一、周公輔二成王一、有二流言之謗一。

【伊周奉レ轡】71 イシウフタウズ 伊尹・周公がくつわを奉じて馬を馭す。偉大な人物が卑しい仕事に使はれる喩。〔任昉、到二大司馬記室一牋〕將レ使二伊周奉レ轡、桓文扶レ轂。〔注〕翰曰、伊尹・周公、輔二佐殷・周一也、桓文、謂二齊桓・晉文一、翼二戴周室一也、使二之奉レ轡扶レ轂、謂二高祖功過レ之一。

【伊脩】72 イシウ 城の名。鄯善國にあつた。又、伊循の誤ともいふ。〔漢書、馮奉世傳〕送二大宛諸國客一至二伊脩城一。〔注〕師古曰、伊脩城、在二鄯善國一、漢於二其中一置二屯田吏士一也。〔王先謙補注〕齊召南曰、伊脩城、當作二伊循城一、各本俱誤、西域傳、鄯善國中有二伊循城一、其地肥美、漢置二都尉一、所謂伊循田官也。通鑑亦作二伊循一、知宋時漢書本尚不レ誤、後來刊本、訛レ循作レ脩耳、顏注亦然、錢大昕曰、循脩二字相似、因譌作レ脩耳、三國志蜀後主傳、費禕爲二蜀降人郭循所一レ殺、禕傳亦作二郭循一、而魏二嗣王傳・張嶷傳、竝作二郭脩一。

【伊循】73 イジュン 城の名。鄯善國境內にあつた。〔漢書、西域上、鄯善傳〕國中有二伊循城一、其地肥美、願漢遣二一將一屯田積レ穀。

【伊乘】74 イジョウ 明、江寧の人。字は德載。成化の進士。官は四川按察僉事。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十五〕。

【伊愼】75 イシン 唐、兗州の人。字は寡海。謚は壯繆。春秋・國策・天官・五行の書に通ず。官は右衞上將軍。封は南充郡王。〔舊唐書、一百五十一〕・〔唐書、一百七十〕。

【伊人】76 イジン ❶此の人。又、彼の人。〔詩、秦風、蒹葭〕所謂伊人、在二水一方一。〔傳〕伊、維也。〔集傳〕伊人、猶レ言二彼人一也。〔陸機、豪士賦序〕伊人頗覽二天道一。❷字號。㋐清、顧湄(12－43689‥169)の字。㋑清、王廣心(7－20823‥1355)の字。

【伊水】77 イスイ 河南省にある河の名。伊河(14)に同じ。〔沈約、應レ詔樂游苑餞二呂僧珍一詩〕伐レ罪芒山曲、弔二民伊水濱一。

【伊推】78 イスイ 漢の人。官は侍郎。公羊學に精通し、甘露の初、五經名儒に召され、殿中に公羊・穀梁の異同を議した際、推も之に與つた。〔前漢書、八十八〕。

【伊生】79 イセイ 殷の伊尹(6)をいふ。〔陸機、豪士賦序〕伊生抱二明允一以嬰レ戮、文子懷二忠敬一而齒レ劒。〔注〕翰曰、伊生、伊尹也。

【伊昔】80 イセキコレカン 昔といふに同じ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕伊昔不レ造、鴻化中微。〔注〕向曰、伊、惟。

【伊籍】81 イセキ 三國、蜀の山陽の人。字は機伯。官は昭文將軍。嘗て吳に使して孫權に其の才辯を認められる。〔三國志、三十八〕。

【伊籍一拜】82 イセキイツパイ 蒙求の標題。三國、蜀の伊籍は、先主劉備に仕へて、吳に使した。吳主孫權は伊籍が參入して禮拜するや、無道の君に事へて骨折るとは御苦勞千萬であるといふ。孫權の意は劉備を指したのであるが、伊籍はそれを逆に孫權として、一拜する如きは敢て勞としないと答へて主命を辱しめなかつた故事。〔蜀志、伊籍傳〕遣二東使一於吳、孫權聞二其才辯一、欲レ逆折以レ辭、籍適入拜、權曰、勞事無道之君乎、籍卽對曰、一拜一起、未レ足レ爲レ勞、籍之機捷、類皆如レ此。

【伊川】83 イセン ❶地名。伊川は卽ち伊河で、其の流域を伊川といふ。河南省の嵩縣及び伊陽縣の地。〔左氏、僖、二十二〕辛有適二伊川一、見二被髮而祭一於野一者一。〔會箋〕伊川、今河南汝州伊陽縣也。❷宋、程頤の號。伊川先生を見よ。

【伊川先生】84 イセンセイ 宋の程頤(8－25081‥2)の尊稱。頤は嵩縣の西北の把樓山麓伊川の流域に居つたので、世人は伊川先生といふ。〔宋史、道學一、程頤傳〕世稱爲二伊川先生一。「號。

【伊川田父】85 イセンデンプ 唐、郗純(11－39413‥8)の書名。二十二卷。附錄一卷。宋、邵雍撰。其の五七言詩を體類を分たず雜收したもの。附錄は其の語錄を收める。明、吳翰の摘注、吳泰の增注本十卷がある。

【伊川擊壤集】86 イセンゲキジャウシフ

【伊祖】87 イイズ 琉球の地名。

【伊遜】88 イソン 清、滿洲鑲白旗人。姓は瓜爾佳氏。謚は襄壯。費英東の弟子。太祖の征討に從つて、屢〻戰功を立つ。官は天聰中、兵部承政・副都統。〔清史稿、一百三十三〕・〔國朝耆獻類徵、四十一〕。

【伊達】89 テダ ❶意氣を競ふこと。はでな振舞をすること。〔槍權二重帷子、上〕物數寄も好く、氣もだてに。❷外見を飾ること。いきな風をすること。〔曾我五人兄弟、四〕此の袈裟衣は伊達に著るか、化粧に著るか。❸若代國の郡名。❹姓氏。〔和爾雅〕。

【伊達者】90 ダテシヤ ❶華美を好む人。衣服を着飾る人。〔槍權二重帷子、上〕槍の權三は伊達者の。❷外見を飾る人。みえを張る人。

【伊旦】91 イタン ❶殷の湯王の相伊尹と周の武王・成王の相周公旦。轉じて、賢宰相をいふ。伊周。〔宋書、樂志四〕三王到レ氏、文武贊二丞相作一レ輔、屬二伊旦一。❷清、黃日起(12－47926‥1129)の字。

【伊尼】92 イニ 獸の名。しか。鹿(12－47586)の異名。〔黃庭堅、德孺五丈和之字詩韻難而愈工輒復和成レ一レ發二一笑一詩、燒野得二伊尼一。〔事物異名錄、獸畜、鹿〕翻譯名義集、佛書、謂レ鹿爲二伊尼一。

【伊尼冀】93 イキ 里長をいふ。〔北史、倭國傳〕八十戶置二一伊尼冀一、如二今里長一也。

【伊秩】94 イチツ ❶複姓。〔通志、氏族略、以レ族爲レ氏〕伊秩氏、伊尹之孫、又爲二伊秩氏一。❷ヴィツ姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【伊仲】95 イチウ 清、吳翌鳳(12－3365‥885)の字。

【伊陟】96 イチヨク 殷の太戊の賢相。伊尹の子。〔書、君奭〕時則有レ若二伊陟臣扈一。〔鄭注〕伊陟、伊尹之

子。〔史記、封禪書〕伊陟曰、妖不ㇾ勝ㇾ德、太戊修ㇾ德、桑穀死。

【伊通】97 ㊀河の名。益褪河(金史)、一禿河・一統河(明一統志)、伊屯河(滿洲源流考)、伊敦河(清一統志)ともいふ。吉林省磐石縣の西境の石板屯に發源し、西北流して伊通縣の境に至る。〔皇朝文獻通考、輿地考、盛京、吉林將軍管轄地〕伊通河、在二吉林烏拉城西北九十里一、本朝雍正六年、設二佐領乃防禦驍騎校等員一、於ㇾ是管二理各旗戶一。㊁州名。清、置く。吉林省吉林府に屬す。今、縣に改む。㊂を見よ。〔清史稿、地理志〕吉林、伊通州。㊂縣名。金の咸平路の地。今、滿洲吉林省長春縣の南。

【伊通門】98 地名。滿洲吉林省伊通縣の北で、伊通河の西岸。もと伊屯邊門に作る。清の高宗に、入二伊屯邊門一詩がある。〔皇朝文獻通考、輿地考、盛京、吉林將軍管轄地〕伊通邊門、在二吉林烏拉城西北一百九十里一、本朝設二防禦一駐ㇾ此、屬二吉林將軍一。

【伊圖】99 清、滿洲鑲紅旗人。姓は覺羅氏。謚は文僖。順治中、祕書院學士から兵部尚書に累擢せられ、弘文院大學士に至る。〔清史列傳、七〕〔國朝耆獻類徵、二〕。

【伊統】100 ㊀姓氏。〔拾芥抄〕。㊁ムネモト 姓氏。〔姓名錄〕。

【伊寧】101 縣名。民國、置く。伊犂の寧遠城の地。清の咸豐元年に露國と締結した通商條約により開いて商埠とした。光緒の時、寧遠縣とし、今、新疆省に直屬する。

【伊農】102 姓氏。〔和爾雅〕。

【伊霸】103 琉球の地名。

【伊拜】104 清、滿洲正藍旗人。姓は赫舍里氏。謚は勤直。崇德中、屢〻明と戰ひ、洪承疇を松山に擒にす。官は順治中、正藍旗蒙古都統。封は三等男。〔清史稿、二百四十七〕・〔清史列傳、五〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十六〕。

【伊魴】105 伊水産の魴魚をいふ。〔埤雅、釋魚、魴〕今更與二鰋魚一連道、以著二韓國水土之善者一、蓋魴魚雖二等美一而緣二水之異一、則有二優劣一、故里語曰、洛鯉伊魴、貴二於牛羊一、言下洛以二渾深一宜ㇾ鯉、伊以二清淺一宜ㇾ魴也。〔海錄碎事、飲食、魚肉〕里語曰、洛鯉伊魴、貴二于牛羊一。

【伊望】106 殷の伊尹と周の太公望。共に古の賢相。伊呂。〔後漢書、馮衍傳上〕伊望之策、何以加ㇾ茲。〔傅亮、爲二宋公一脩二張良廟一教〕夷ㇾ項定ㇾ漢、大拯二橫流一、固已參二軌伊望一。

【伊敖】107 後魏、代の人。太武の時、侍郎となり、涼州の役に軍謀に參畫した。官は司空。〔魏書、四十四〕・〔北史、二十五〕。

【伊敏】108 河の名。滿洲黑龍江省呼倫縣に在る。金史の伊米河。

【伊傅】109 殷の湯王の相伊尹と、殷の高宗の相傅說。共に良相。〔後漢書、崔駰傳〕嘉二昔人之遇ㇾ辰兮、美二伊傅之選ㇾ時。〔注〕伊尹於ㇾ湯、傅說遇二高宗一。

【伊溥】110 明、吳縣の人。字は紹方。詩に巧。隱居して仕へず、自ら天闕山樵と號す。年八十餘歲で猶山川を跋涉し、薪を採つて酒に代へ、田夫野老と吟嘯した。著に伐柯吟がある。

【伊壁】111 清、徐昭華(4－10110：524)の字。

【伊壁鳩魯】111' 古代ギリシヤの哲學者。エピクロス學派の始祖。初、プラトン派に學び、後、快樂主義を主張し、アテネに於て學を講じた。エピクロス學派は利己主義的、快樂主義的倫理說を持し、快樂を以て最終の目的とする。Epicurus の音譯。

【伊闢】112 清、直隸新城の人。字は盧源。別の字は翕菴。順治の進士。康熙中、雲南・建昌・畢節等の地方を巡撫して軍に卒す。晉人の書帖を喜び、能品に入る。〔清史稿、二百六十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十六〕・〔碑傳集、六十三〕。

【伊輔】113 清、丁善慶(1－2：282)の字。

【伊陽】114 縣名。㊀唐、置く。伊水の陽にあるから名を得た。河南省嵩縣の治。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、汝州〕伊陽縣、周伊川地、漢爲二陸渾縣地一、唐宋爲二伊陽縣地一、明初爲二嵩縣地一、成化十二年、析二嵩縣汝州地一、置二今縣一、屬二汝州一。〔清史稿、地理志〕河南、汝洲直隸州、縣四、伊陽。

【伊羅】115 ギリシヤ神話に於ける愛の神。ローマ神話のクピトに當る。Eros の音譯。

【伊羅伊羅】116 Iloilo の音譯。㊀フイリツピン群島パナイ島の縣名。米・煙草・カカオ・砂糖・金等を產す。㊁同縣の首府。港。「の音譯。

【伊朗】117 國の名。舊名ペルシヤ。伊蘭。Iran

【伊洛】118 ㊀伊水・洛水の二川。〔書、禹貢〕伊洛瀍澗、既入二于河一。〔後漢書、西羌傳〕伊洛間、有二楊拒泉皐之戎一。〔何劭、遊仙詩〕友ㇾ道發二伊洛一。㊁程朱の學をいふ。伊は伊川、洛は洛陽。二程子は學を伊洛の間に講じ、朱子亦其の學統を受けたからいふ。〔宋史、藝文志四〕伊洛淵源十三卷。〔注〕不ㇾ知二作者一。〔宋史、劉勉之傳〕時蔡京用ㇾ事、禁止毋ㇾ得ㇾ挾二元祐書一、自ㇾ是、伊洛之學不ㇾ行。

【伊洛竭】119 伊水と洛水との水が竭きる。國が滅亡する前兆にいふ。〔國語、周語上〕伯陽父曰、周將ㇾ亡矣、云云、昔伊洛竭而夏亡、河竭而商亡。〔注〕伊出二熊耳一、洛出二冢嶺一、禹都二陽城一、伊洛所ㇾ近、商人都ㇾ亳、河水所ㇾ經。

【伊洛淵源錄】120 書名。十四卷。宋、朱熹撰。周茂叔以下、二程子の交游や、門弟子四十六人の言行を錄す。〔四庫提要、史、傳記錄〕。

【伊洛瓦底江】121 ビルマの大河。アツサムの東北に源を發して南流す。其の流域はラングーン米の產地として知られる。Irawaddy

【有二伊洛閒意一】122 心を世外に馳せて、仙人にならうとする意志がある。伊洛は、伊水・洛水。〔南史、謝恂傳〕恂子孺子、少與二族兄莊齊一名、多二藝能一、尤善二聲律一、車騎將軍王彧、孺子姑之子也、嘗與二孺子一宴二桐臺一、孺子吹レ笙、彧自起舞、既而歎曰、今日眞使二人飄颻有二伊洛閒意一。〔名山記〕昔周靈王太子晉、好吹レ笙、作二鳳鳴一、遊二伊洛閒一。

【伊洛淵源續錄】123 書名。六卷。明、謝鐸撰。伊洛淵源錄に繼いで、朱熹以下の二十一人を錄す。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

【伊蘭】124 ㊀草花の名。賽蘭香。〔天祿識餘〕蜀中有レ花、名二賽蘭香一、花小如二金粟一、特馥烈、戴二之髮髻一、香聞二十步一、經月不レ散、西域以二之供一佛、名二伊蘭一。㊁地名。アフガニスタン・ペルシヤ地方の總稱。伊蘭は、波斯の古語で、光明の意。Iran の音譯。㊂佛Eranda の音譯。臭の惡い草。此の叢中に牛頭旃檀といふ香木が一株でも生えると、伊蘭の持つ屍の臭氣も變つて芳香を放つといふので、此の二つを夫〻煩惱と菩提とに喩へる。〔觀佛三昧經、一〕衆人皆聞二旃檀上妙之香一、永無二伊蘭臭惡之氣一。

【伊蘭高原】125 イラン國の大部は高い卓狀地をなしてゐて、この地方をイラン高原といふ。Iran Plateau

【伊犂】126 伊犂とも書く。もと伊列・伊麗・益離とも書いた。㊀河の名。新疆省の西部に發し、西流して露領に入り、終に巴勒哈什湖に注ぐ。伊犂河とは、帖克斯河と崆吉斯河と合流し、伊寧縣の東で更に哈什河を併せてからの稱であり、從つて伊犂河の大部分は露領に在る。㊁地域の名。新疆省西北部の重要な一地域。伊犂道を見よ。㊂地名。伊犂府を見よ。土名を固爾札といふ。

【伊犂道】127 道名。民國、置く。新疆省に屬す。伊寧縣を治とし、綏定・伊寧・精河・塔城・霍爾果斯の五縣を管轄する。

【伊犂府】128 府名。漢時代の烏孫國の地。元の阿力麻里。明の時、瓦剌の據つた處。清代に入り、高宗は最強の準噶爾を滅して此處に將軍を置き、清末に至つて府を置く。城名は惠遠といひ、新疆省に屬す。清の咸豐十年、伊犂塔爾巴哈台の通商條約によつて商埠とした。〔皇朝文獻通考、輿地考、西域〕是平二定準噶爾一後勒レ銘、伊犂之碑所二由作一也。

【伊犂條約】129 清の穆宗の同治年間に伊犂地方の回教徒が反亂を起した時、露國は國境保安を名として同地方を占領した。清はリヴアヂヤに於て條約を結んだが、清に不利であつた爲、西曆一八八一年、卽ち德宗の光緒七年二月

二十四日、露都セント・ペテルスブルグに於て更に條約を結び、國境を確定したもの。一名、聖彼得堡條約。

【伊陸】130 ダチ 周防國の地名。

【伊涼】131 リヤウ 伊州・涼州の二曲。〔蘇軾、子玉家宴用二前韻一見レ寄復答レ之詩〕自酌二金樽一勸二孟光一更教二長笛奏一伊涼一

【伊呂】132 リヨ 殷の太甲を輔けた伊尹と、周の文王の師で武王・成王の相であつた太公望呂尚との併稱。共に天下の良相。伊望。〔漢書、董仲舒傳贊〕劉向稱、董仲舒有二王佐之材一、雖レ伊呂一亡二以加一。〔杜甫、詠二懷古跡一詩〕伯仲之間見二伊呂一。

【伊呂之勳】133 ノクン 殷の賢相伊尹と、周の賢相太公望呂尚との立てた勳功。〔後漢書、趙岐傳〕遜太無二岐山之操一、仕無二伊呂之勳一。

【伊呂之業】134 ノゲフ 殷の賢相伊尹と、周の宰相太公望呂尚との國政輔翼の大業。〔後漢書、隗囂傳〕足下將レ建二伊呂之業一、弘二中興之功一。

【伊呂波歌】135 ウタ 色葉・以呂波とも書く。發音の異なる假名四十七字を七五調の歌にしたもの。手習詞歌の一。以呂波歌（1－388：98）に同じ。

【伊婁】136 ル ❶河の名。江蘇省江都縣の南。南は大江に通じ、北は揚子橋に至る。瓜洲運河をいふ。〔唐書、地理志〕開元二十二年、以下州北隔レ江、舟行遶二瓜步一、回遠六十里上、乃於二京口埭下一、直趨渡レ江、二十里、開二伊婁河一、二十五里、渡二揚子一立レ埭。❷複姓。〔尚友錄〕伊婁、後魏獻帝第六弟爲二伊婁氏一、爲二十姓一、見二官氏志一。

【伊婁謙】137 ケンル 隋の人。もと鮮卑の人。字は彦恭。官は澤州の刺史。封は陽縣侯。〔隋書、五十四〕、〔北史、七十五〕。

【伊婁穆】138 ボクル 北周、代の人。字は奴干。邙山の役に功あり、又、吐谷渾の征討に從軍す。官は總管府長史。封は安陽縣公。〔周書、二十九〕、〔北史、六十六〕。

【伊戾】139 レイ 春秋、宋の人。姓は惠牆氏。伊戾は其の名。宋の逆臣。太子內師となつたが、寵のないのを恨み、讒を構へて太子を死に陷れ、事あらはれて烹らる。〔左氏、襄、二十六〕。

【伊禮】140 イレイ 琉球の地名。

【伊麗】141 レイ 地名。今の伊犁。唐の高宗の時、蘇定方を伊麗道行軍總管として西突厥を討つて之を降し、又、王方翼が伊麗河で之を敗つた。伊麗河は今の伊犁河。〔讀史方輿紀要、陝西、附考、亦力把力〕伊麗水、在二焉耆西一云云、顯慶中、蘇定方爲二伊麗道行軍總管一、追二西突厥阿史那賀魯於伊麗河一、又追至二碎葉水一、盡降二其衆一、永淳初、西突厥車薄啜、圍二弓月城一、安西都護王方翼、敗二之於伊麗河一。

【伊連】142 レン 北海の名。〔初學記、地部中、海〕按、北海大海之別、有二瀚海一、瀚海之南、小水名レ海者、則有二渤鞮海・伊連海・私渠海一。

【伊盧】143 ロ 山名。江蘇省灌雲縣の東南。伊萊山とも書く。〔史記、淮陰侯傳〕項王亡將鍾離昧、家在二伊盧一。〔後漢書、郡國志〕朐有レ鐵、有二伊盧鄉一。〔太平寰宇記〕伊盧鄉、亦名二中盧一。〔元和志〕中盧、盧石在レ東、句盧在レ西、故曰二中盧一、又名二伊萊山一、盧萊音近、音訛也。

【伊阿衡】144 アカウ 殷の賢相、伊尹（6）をいふ。

【伊賀袴】145 イガバカマ 裾を括つた袴。〔烈公行實〕賢布外被、伊賀袴。

【伊子思】147 イシ 攝津國の地名。子は孫の略字であらうといはれる。〔大日本地名辭書〕。

【伊興額】148 コウカク 清、蒙古正白旗人。姓は阿圖哩氏。本名は伊清阿。字は松坪。諡は壯愍。咸豐の間、粵捻を征し、江蘇・安徽・河南・山東に轉戰し、後、捻匪を東平に追擊して戰死す。官は副都統。〔清史稿、四百二十三〕・〔續碑傳集、六十六〕。

【伊差川】149 チヤセン 琉球の地名。

【伊桑阿】150 サウア ❶清、滿洲正黃旗人。姓は伊爾根覺羅氏。諡は文端。順治の進士。官は吏部尚書。〔清史稿、二百五十六〕・〔清史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、六〕・〔國朝先正事略、五〕。❷清、滿洲鑲黃旗人。姓は高佳氏。官は乾隆四十年、工部筆帖式から直隸保定府同知となり、同五十年、山西巡撫に擢んでられ、次いで正紅旗漢軍副都統に任じ、五十八年、庫車辦事大臣に補任す。嘉慶六年、調雲南巡撫に任ぜられたが、苗匪鎭定に關して非違があつた爲絞刑に處せらる。〔國史列傳、四十二〕。❸蒙古の醫師。姓は覺羅氏。清の乾隆年間、整骨を以て名を知らる。〔清史稿、五百七〕、〔國朝耆獻類徵、四百八十二〕。

【伊士奇】151 キエス ギリシヤの悲劇詩人。現存作品は七篇あり、多くはギリシヤ傳說中の英雄に取材し、宗教的色彩が強い。Æschylus の音譯。

【伊尸品】152 ヒシン 朝鮮の駕洛國、卽ち金官駕洛國の第四代の王。居叱彌王の子。王妃は司農卿克忠貞信。王子の坐知を生む。〔三國遺事〕。

【伊嗣侯】153 コウシ 唐の太宗の頃、イランのサーサーン朝最後の王。貞觀六年卽位したが、サラセン帝國のため次第に敗れ、高宗の永徽二年、メルヴに於て弑殺せられ、サーサーン朝は滅亡した。新唐書は伊嗣侯に作る。〔舊唐書、一百九十八上〕、〔唐書、二百二十一下〕。

【伊爾登】154 トウン 清、滿洲鑲黃旗人。姓は鈕祜祿氏。諡は忠直。天命の初、界藩及び薩爾滸城を築いて功を立て、太宗の時、十六大臣に列す。官は議政兼內大臣。封は二等伯。〔清史稿、二百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十一〕・〔國朝先正事略、一〕。

【伊爾德】155 トク 清、滿洲正黃旗人。姓は舒穆祿氏。諡は襄敏。揚古利の從子。天聰・崇德・順治の間大いに戰功を立てたが、後、桂王を攻め、貴陽から雲南省城に進んで戰死す。官は寧海大將軍。封は一等侯。〔清史稿、二百四十一〕・〔清史列傳、五〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十六〕・〔國朝先正事略、一〕。

【伊集院】156 イジフ ❶鹿兒島縣の地名。❷姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【伊昌阿】157 アシヤウ 清、蒙古正紅旗人。姓は烏勒甲特氏。回匪・教匪を勦蕩して功あり。官は雲南開化鎭總兵。〔國朝耆獻類徵、三百十一〕。

【伊審徵】158 シンチヨウ 宋、幷州の人。字は申圖。初、父に隨つて後蜀に仕へたが、後、宋に入つて右屯衞上將軍となる。〔宋史、四百七十九〕・〔宋史新編、一百九十〕。

【伊吹颪】159 イブキオロシ ❶近江の伊吹山から吹きおろす風。〔山家和歌集、下〕いぶきおろしの風さきに。❷強く吹き下す嵐。

【伊清阿】160 イセイア 清、伊興額（148）の本名。

【伊刹尼】161 イセツニ 梵 Iksanikā の音譯。他人が心中に思つてゐることを知り得る呪術の名。〔玄應音義〕伊刹尼、此云二占相觀察一。〔俱舍論、二十七〕有二呪術一、名二伊刹尼一、持レ此、便能知二他心念一。

【伊組似】162 ソジ 清の伊秉綬（180）をいふ。組似は其の字。

【伊蘇志】163 シソ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【伊多語】164 イゴ 國際語の一種。エスペラント改良運動の一種で、西曆一九〇七年フランスのボーフロンが發表したもの。エスペラントを基礎として一層國際的、且つ簡單化したものである。Ido

【伊湯安】165 タウアン 清、滿洲正白旗人。姓は拜都氏。字は小尹。號は耐圃。乾隆の擧人。嘉慶中、嘉興の守であつた時、郡志を編し、阮元に其の體例に三善ありと稱せらる。官は內閣學士。

【伊汀洲】166 テイシウ 清、伊秉綬（180）をいふ。

【伊朝棟】167 テウトウ 清、寧化の人。字は用侯。乾隆の進士。事にあたつて勤恪、性理の書を好み、愼獨を以て本とす。其の詩は高韻逸氣を以て名高い。官は光祿卿。著に南窗叢書・賜硯齋集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、九十九〕・〔國朝先正事略、三十一〕。

【伊都立】168 イトツ 清の人。伊桑阿の三子。字は學庭。康熙の擧人。官は雍正中、雲貴總督。書を李塨に學ぶ。書室を嘉樂堂といふ。著に嘉樂堂詩集がある。〔清史稿、二百五十六〕。

【伊那何】169 イナカ 曲調の餘聲。〔古今樂錄〕羊無夷・伊那何、皆曲調之餘聲。

【伊念曾】170 ネンソウ 清の人。秉綬の子。字は少沂。號は守研齋・梅石。嘉慶の拔貢。書畫に巧。官は嚴州府同知。洪楊の難に殉ず。著に守研齋詩鈔がある。〔清畫家詩史、庚、下〕・〔國朝書畫家筆錄、四〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【伊巴罕】171 ハカン 清、滿洲正白旗人。姓は格濟勒氏。初め三等侍衞を授けらる。順治中、桂王に從征し、康熙中、耿精忠・吳三桂を討ち、江西・湖

廣に轉戰し、盛京將軍に累遷したが、召されて京に還り、前鋒統領を授けられた。老を以て休を乞ふ。〔清史稿、二百六十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十四〕。

【伊泊爾】172 イー プル　ヨーロッパ西部の都邑。Ypres の音譯。

【伊濱集】173 イヒン シフ　書名。二十四卷。元、王沂撰。廟堂の著作が多く、天下の治平喪亂の樣が一目にわかる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【伊敏生】174 イ ビンセイ　明、上元の人。嘉靖中、御史となり、嚴嵩の擅權を惡んで彈劾す。官は山東參政。〔明史、二百十〕・〔萬斯同明史、二百九十八〕・〔明史稿、一百九十四〕。

【伊蒲饌】175 イブ セン　佛 僧に供する食物。伊蒲塞を見よ。〔陸游、詩〕伊蒲塞饌分レ香積、優鉢羅花散二道場一。〔名山記〕謝東山遊二雞足山一記曰、山之絶頂一僧、洛陽人、留供レ食、所レ具皆佳品、予謂二野亭一曰、此伊蒲饌也。〔書言故事、釋教類〕齋供レ食、曰二伊蒲饌一。

【伊蒲塞】176 イブ ソク　佛 五戒を受けた男子。優婆塞(Upāsaka)の轉音。〔後漢書、光武十王、楚王英傳〕還レ贖、以助二伊蒲塞桑門之盛饌一。〔注〕伊蒲塞、卽優婆塞、中華飜爲二近住一、言、受二戒行一、堪二近レ僧住一也。〔大唐西域記、九、摩揭陁國下、鄔波索迦注〕唐言二近事男一、舊曰二伊蒲塞一、又曰二優婆塞一、皆訛也。

【伊福形】177 イ ガタ　日向國の地名。

【伊福納】178 イフク ナフ　清、滿洲の人。字は兼五、又、肩吾、或は抑堂。雍正の進士。官は御史。著に白山詩鈔がある。

【伊平屋】179 イヒ ヤ　琉球の島の名。

【伊秉綬】180 イ ヘイジュ　清の人。朝棟の子。字は組似。號は墨卿。世人、伊汀洲といふ。乾隆の進士。官は揚州の長官。詩を善くし、書に巧で、好んで古書畫を蓄ふ。又性命の學に通ず。書室を留春草堂・秋水園・春及草堂といふ。著に留春草堂集がある。〔清史稿、四百八十四〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百四十四〕・〔國朝先生事略、三十二〕。

【伊墨卿】181 イ ボクケイ　清、伊秉綬をいふ。墨卿は其の號。

【伊盆生】182 イ ボンセイ　後魏の人。敵の孫。驍勇にして膽氣あり、戰功を立つ。官は西道都督。平城子に封ぜらる。〔魏書、四十四〕。

【伊瑪喇】183 イ マラ　清、滿洲の人。姓は那木都魯氏。順治中、四川を平げ、康熙中、王輔臣を平げて參領を授けられ、一等男を襲封す。〔清史稿、二百三十九〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十五〕。

【伊野波】184 ノウ リ　琉球の地名。

【伊豫簾】185 イヨスダレ イヨス　伊豫國浮穴郡父之川村露峯山中の篠で製した簾。〔和漢三才圖會、家飾具、簾〕出二於豫州一、呼曰二伊豫簾一。

【伊樂堯】186 イ ラクゲウ　清、錢塘の人。字は遇羹。咸豐の擧人。少時、仁和の邵懿辰と交遊して、漢唐の經注、及び近世の爾雅說文の學に精しく、尤も程朱の學を好む。從學者多し。著に孝經指解說注・孝經辨異解補正がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔續碑傳集、七十二〕。

【伊拉克】187 イラ ク　國の名。イラク王國。イラン高原とアラビヤ高原との閒の低地。首府はバグダード。Iraq の音譯。

【伊利湖】188 エリー コ　北米五大湖の一。合衆國とカナダとの境をなし、ナイヤガラ瀑布はここの排水口にかかる。Erie Lake

【伊里齊】189 イリ セイ　地名。今の新疆省和闐縣城。西域の人は伊里齊といふ。

【伊里布】190 イ リフ　清、滿洲鑲黃旗人。謚は文敏。嘉慶の進士。道光二十年、鴉片戰爭起るや、欽差大臣となり、浙江に赴いて軍務を督し、英將と休戰を約したが、明年、約破れて免職せられた。併し、英軍が廈門・定海・鎭海・寶山・上海を陷れ、進んで江寧に逼るに及び、復、欽差大臣を命ぜられて英と江寧に於て和を講じた。官は廣東將軍。〔清史稿、三百七十六〕・〔清史列傳、三十六〕・〔國朝耆獻類徵、四十〕。

【伊理布】191 イ リフ　清、滿洲正白旗人。姓は他塔喇氏。謚は武壯。官は康熙中、本旗滿洲都統・議政大臣に列す。吳三桂の反に永興を守つて陣歿す。〔清史稿、二百六十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十三〕。

【伊力嘎】192 イリキ カツ　滿洲吉林省撫遠縣の土名。〔清史稿、地理志〕吉林省、綏遠州、清初使二犬部額眞喀喇人居一レ之、隷二三姓副都統一、曰二伊力嘎一。

【伊良波】193 イラ ファ　琉球の地名。

【伊厲王】194 イレイ ワウ　明、朱㰘(**6**－**14424**‥16)の封謚號。

【伊齡阿】195 イ レイア　清、滿洲の人。字は精一。官は侍郎。詩に巧で、書を能くし、善く梅・蘭を畫く。〔國朝耆獻類徵、九十一〕。

【伊勒愼】196 イ ロクシン　清の人。世々薩齊庫に居り、後、滿洲鑲黃旗に隷屬した。姓は費莫氏。天聰中、兵を統べて海州を鎭し、三等男に封ぜられ、ついで明の水軍を却けたが、後、事に坐して死を論ぜられること二度に及び、何れも職を奪はれ、鞭百を加へらる。順治中、牛莊城守となり、官に卒す。〔清史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十四〕。

【伊於胡底】197 i^1 yü^2 hu^2 ti^3　どんな程度になるか。

【伊賀專女】198 イガ タウメ　❶狐の異稱。〔新猿樂記、野干坂伊賀專女〕野干坂伊賀專之男祭。❷人を欺く仲人。〔源氏物語、東屋〕いがたうめにや。

【伊奇岡子】199 イキ カウシ　山名。滿洲吉林省敦化縣の西。伊奇は、細葉松と譯す。細葉松を產するので此の名がある。〔吉林通志〕伊奇松、堅二於他松一、其根近レ水、年久成二砮石一、所謂肅愼氏之砮也。

【伊克唐阿】200 イコク タウア　清、黑龍江旗人。字は堯圃。謚は淸惠。官は副都統より黑龍江將軍に進み、盛京將軍に遷る。〔清史稿、四百七十六〕・〔清史列傳、五十九〕・〔國朝耆獻類徵、三百六十八〕。

【伊克坦布】201 イコク タンプ　清、滿洲正藍旗人。依爾根覺羅氏。嘉慶十八年、河南滑縣の敎匪討伐に從つて功あり、同二十一年、驍騎校を授けられ、翌年步軍校に升り、道光二十三年、提標中軍參將に升り、二十五年、曲靖協副將を署す。其の閒、英船の廣東虎門に突入するや、雲貴總督桂良に隨つて同地に赴いて勦討に從ひ、また張必祿に隨つて永昌府の回匪を討ち、道光三十年、廣西の太平賊討伐中、陣中に歿す。〔國朝耆獻類徵初編、三百七十二〕。

【伊齋那灣】202 エギナ ワン　ギリシヤの東南アツチカとペロポンネソスとの閒にある灣。灣內にはサラミス・エギナ島などがある。エギナ島は穀物・果實を產す。Aegina

【伊薩伯拉】203 イサ ベラ　スペイン女王。コロンブスの大西洋西航を援助す。Isabella の音譯。

【伊思巴罕】204 イスパ ハン　地名。ペルシヤの舊首都。テーランの南方高台上にある。Ispahan, Isfahan の音譯。

【伊斯特曼】205 イースト マン　アメリカの發明家。コダツク、カメラの完成者。George Eastman

【伊斯蘭教】206 イスラム ケウ　マホメツト教。回教。西紀第七世紀の前半、マホメツトを教主とし、彼の人格を中心とし起つた一神教。アジヤ西方、アフリカの北方に行はれてゐる。

【伊勢大廟】207 イセ タイベウ　伊勢國度會郡五十鈴川の邊に鎭座する。天照大神の御宮をいふ。〔二所皇太神宮御鎭座傳記〕兩宮者、天神地祇大宗、君臣上下元祖也、惟天下大廟也、國家社稷也。

【伊齋轄庫】208 イセイ カツコ　清代の大理寺正の滿洲名。〔稱謂錄、大理寺職官、伊齋轄庫〕皇朝通攷、大理寺卿、滿字稱爲二阿里哈哈番一、漢字稱爲レ卿、俱作二正三品一、云云、寺正、滿字稱爲二伊齋轄庫一、漢字稱爲二寺正一、俱作二正六品一。

【伊田道人】209 イデン ダウジン　清、金天德(**11**－**40152**‥1347)の號。

【伊甸樂園】210 エデンノ ラクエン　ヘブライの古傳の、樂園の名。快樂園の意。アダムとエヴアとが始めて住んだ地で、惡蛇の誘惑によつて禁斷の果實を食べて此の園を逐はれたといふ。Eden

【伊藤介亭】211 イトウ カイテイ　京都の人。名は長衡。字は正藏。號は介亭、又、謙謙齋。通稱も亦、正藏。攝津國高槻藩儒。仁齋の第三子。家學を繼承す。書畫に巧。安永元年歿す、年八十八。著に謀野危言・救荒小言・經濟小言・謙節遺稿がある。〔先哲叢談、續、六〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【伊藤錦里】212 イトウ キンリ　京都の人。名は縉。字は君夏。號は錦里、又、鳳陽。通稱は莊治、又、宗太郎。文恪先生と謚す。龍洲の長子。經術を以て

顯はる。福井藩儒。安永元年歿す、年六十三。著に邀翠館集・尋海草・尋山草・文恪先生集・邀翠館雜記がある。〔先哲叢談、後、六〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【伊藤冠峯】213 伊勢の人。名は一元。字は吉甫。號は冠峯。通稱も一元。晩年美濃國笠松に隱居し、教授を業とす。詩歌に長ず。天明中歿す、年七十餘。著に閑居放言・自放編・冠峯文集・綠竹園詩集がある。〔先哲叢談、後、七〕・〔慶長以來諸家著述目錄〕。

【伊藤五藏】214 伊藤仁齋の五子をいふ。兄弟五人何れも儒者で、皆藏の字を名に持ち、長は原藏、次は重藏、仲は正藏、叔は平藏、季は才藏といふ。

【伊藤仁齋】215 京都の人。名は維楨。初名は維貞。字は源佐。號は仁齋、又、古義堂・棠陰・棠隱。古學と諡す。帷を京都堀河に下して教育に從事すること凡そ四十年、贄を執るもの三千餘人に上る。初め宋學を奉じたが、年三十七八に及んで始めて己が見を出す。其の學は論孟古義を中心とし、大學定本・中庸發揮・語孟字義を翼とす。之を古義學、又は堀河學といふ。寶永二年歿す、年七十九。正四位を贈らる。著に古學先生歌集抄錄・古學先生文集・詩集・孟子古義・論語古義・易雜記・語孟字義・中庸發揮・周易乾坤古義・春秋經傳通解・心學原論・仁齋日札・性善論・送水野侯國字序・大學定本・大學非孔書辨・太極論・童子問・續近思錄鈔・文式がある。〔先哲叢談、正、四〕・〔近代名家著述目錄〕。

【伊藤坦菴】216 京都の人。名は宗恕。字は元務。號は坦菴、又、白雲散人・不輟齋。福井藩儒。專ら程朱の學を唱ふ。寶永五年歿す、年八十六。著に櫻川研銘・剛齋遺稿序・活所遺稿序・慶元鬪戰記・聚遠亭記・坦菴文集・不輟歌集・法苑珠林捷徑序・賴朝論・老人雜話・老圃集序がある。〔先哲叢談、後、二〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【伊藤竹里】217 京都の人。名は長準。字は平藏。號は竹里。通稱は平藏。久留米藩儒。仁齋の第四子。家學を繼述し、博覽にして最も史學に長ず。寶曆六年歿す、年六十五。著に赤羽漫筆・枕干小錄・竹里遺集がある。〔先哲叢談、續、六〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【伊藤東涯】218 京都の人。仁齋の長子。母は緒方氏。名は長胤。字は原藏。號は東涯、又、慥慥齋といふ。紹述と諡す。博學多識、家塾を繼いで子弟の教育に從事し、家學を紹述して堀河學の完成に力を致す。文章を善くし、又、制度典故に精通す。所謂堀河學首尾藏の一人。元文元年歿す、年六十七。著に異學辨・幼學類編校刊・鹽鐵論校刊・庚寅日錄・考古雜編・盍簪錄・盍簪餘錄・學問關鍵・閑居筆錄・刊謬正俗・己丑筆記・記聞小牘・訓蒙字義・訓蒙用字格・經學文衡・經史博論・經史論苑・經說・藝林伐山校刊・權字考・古學指要・古學先生行狀・後漢官制・五經集注校正・古今學變・古今教法沿革圖・故事雕龍校刊・語孟字義標注・操觚字訣・同拾遺・慥慥齋外集・慥慥齋雜著・作文眞訣・三奇一覽・周易義例卦變考・周易經翼通解・詩經要領・詩經正文・詩經說約校正・四書集注大全校正・四書集注標注・釋親考・釋親考續編・春秋左氏傳校正・書經要領・助字考・鄒魯大旨・勢遊志・聖語述・制度通・紹述遺稿・紹述雜抄・紹述先生詩集・紹述先生文集・同附錄・先游傳續編・大禹謨辨・大學定本釋義・太極管見・太極圖說十論・唐官品圖・唐詩名花集校刊・唐官抄・中庸發揮標釋・通書管見・帝王譜略・朝鮮官職考・天命或問・東涯先生消息・童子問標釋・讀易私說・讀易圖例・讀書法・復性辨・文章軌範校正・文體辨略補遺・秉燭譚・辨疑錄・本朝官制沿革圖考・漫筆・明官制圖・名物六帖・用字格・歷代官制沿革圖・同補・論語集解校正・論孟古義標注・和漢紀聞錄等がある。〔先哲叢談、正、四〕・〔近代名家著述目錄〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【伊藤梅宇】219 京都の人。名は長英。字は重藏。號は梅宇、又、相遺窩。仁齋の第二子。專ら家學の繼述に力む。德山及び福山藩の藩儒。延享二年歿す、年六十三。著に志林・談叢・講學日記・相遺窩詩稿・梅宇文稿・康獻先生詩集・康獻先生文集がある。〔先哲叢談、續、六〕・〔近代著述目錄後篇〕。

【伊藤蘭嵎】220 京都の人。名は長堅。字は才藏。號は蘭嵎、又、應躔。仁齋の第五子。能く家學を繼述し、博學にして文章を善くす。所謂堀河首尾藏の一人。和歌山藩儒。安永七年歿す、年八十五。著に易疑・經說叢話・左傳獨斷・周易本旨・詩古言・書反正・紹衣稿・紹衣稿拾遺・紹明先生全集・明詩大觀・蘭嵎雜記・蘭臭編がある。〔先哲叢談、正、四〕・〔近代著述目錄後編〕。

【伊藤龍洲】221 京都の人。名は道基。字は子崇。號は龍洲、又、宜齋。通稱は莊司。坦菴の嗣となる。福井藩儒。經學は程朱を主とす。寶曆五年歿す、年七十三。著に居閑集・源家傳統錄・三餘清事・四書通辨・荀子全書校がある。〔近代名家著述目錄〕。

【伊庇魯斯】222 北部ギリシヤ西部海岸の古稱。今のアルバニヤ南部地方。Epirus の音譯。

【伊弗蘭寺】223 高句麗に建てられた最古の寺の名。小獸林王の二年、前秦の苻堅の使者が僧順道と共に佛像經典を携へ來り始めて高麗に佛法を傳へ、更に四年には東晉から僧阿道も來たので、五年二月に此の寺を建てて阿道をこれに居らしめた。〔三國史記〕・〔海東高僧傳〕。

【伊蘭豆漫】224 元末明初に於ける東北女眞の住地。今の滿洲吉林省依蘭縣一帶をいふ。元初に斡朶憐・桃溫・胡里改三萬戶府が置かれ、元末には斡朶里・托溫・火兒阿等女眞の住地となり、明初洪武十九年、此の地に三萬衞が置かれた。〔龍飛御天歌、七〕。

【伊利可汗】225 突厥初代の王。名は土門。もと柔然に隷屬してゐた突厥阿史那氏の長であつたが、鐵勒を降しズンガル地方を平定するや、柔然を離れて獨立し、西魏の長樂公主の降嫁を得て中國との交涉を深めた。元帝の承聖元年、遂に柔然の頭兵可汗を殺して伊利可汗を稱したが、其の年内に歿した。〔周書、五十〕。

【伊利諾斯】226 Illinois の音譯。㊀アメリカ中央東北部の州。主邑はシカゴ。㊁河の名。イリノイ洲を東北から西南に流れる。

【伊利里亞】227 古代ヨーロッパのアドリヤ海の東にあつた國の名。アルバニヤ人はイリリヤ人の後といはれる。Illyria, Illyricum の音譯。

【伊哩烏盧】228 讀書の聲。伊吾。〔通俗編、聲音、伊哩烏盧〕讀書聲也、見㆓元人凍蘇秦劇㆒、按、此卽以㆓伊吾㆒長㆓言之㆒也、凡此等語、本無㆓定字㆒、唯經㆓古人用過㆒、乃爲㆑典。

【伊勒希布】229 遼朝で、刑部尙書をいふ。〔稱謂錄、刑部、伊勒希布〕遼稱㆓刑部尙書㆒曰㆓伊勒希布㆒。

【伊勒都齊】230 清、蒙古正黃旗人。姓は莽努氏。順治中、關に入つて、李自成を破り、潼關に克ち、江南・浙江・湖南を定め、正黃旗滿洲都統・兼刑部侍郎に累官し、封は二等男。康熙中、吳三桂の反に從軍して陣歿す。〔國朝耆獻類徵、二百七十一〕。

【伊勒門河】231 河の名。移里閔河（金史）、一迷河（明一統志）ともいふ。又、額勒敏河・伊密河にも作る。今は驛馬河ともいふ。源は滿洲吉林省磐石縣東北の呼蘭嶺に發し、農安縣の界で伊通河に注ぐ。

【伊奧利亞人】232 小アジヤ西海岸地方に住んでゐた古代ギリシヤ民族中の一支派。Æolia

【伊斯坦波爾】233 Istanbul の音譯。

【伊兒知吉歹】234 元初の武將。太祖の弟哈準の子。太祖の二年、皇子朮赤から降民二千戶を賜ひ、太宗二年より金征伐に從つて、三峰山に金を破り、又八年、宋征伐に從ひ、闊出の死に遇ふや代つて主將となつて宋軍を破る。憲宗の推戴に與つて功あり、其の重んずる所となる。〔新元史、一百五〕。

【伊茲剌亞斯】235 オランダの畫家。Israels の音譯。

【伊爾庫次克】236 勞農ロシヤ直轄の東シベリヤ地方の首都。Irkutsk の音譯。

【伊爾的什河】237 オブ河の支流で、源を蒙古アルタイ山脈中に發す。山脈を横切つて中央アジヤに出て、オブ河に合流する。Irtish River

【伊什罕伯克】238 回部の職官。阿奇木伯克の副官。〔清國行政法汎論、藩部、回部、伯克〕

伯克之大者、曰二阿奇木伯克一(Ak'im Beg)、統二理城村大小之事務一、買那斯氏以爲、其副官爲二伊什罕伯克一(Ishkhan Beg)。

【伊賞那補羅】239 イシャナプラ Īśāna-pura の音譯。國の名。今の柬蒲塞といはれる。〔大唐西域記、十、三摩呾吒國〕從レ此東北大海濱山谷中、有二室利差呾羅國一、次東南大海隅、有二迦摩浪迦國一、次東有二墮羅鉢底國一、次東有二伊賞那補羅國一、次東有二摩訶瞻波國一、卽此云二林邑一、是也、次西南有二閻摩那洲國一、凡此六國、山川道阻、不レ入二其境一、然風俗壤界、聲聞可レ知。

【伊西嘉穆錯】240 イシギャムツォー 第六世達賴の名。一に伊什嘉穆錯に作る。青海和碩特部の拉藏汗に擁立せられたが、拉薩の衆喇嘛、青海の諸台吉は之に從はずして羅卜藏噶勒藏嘉穆錯を擁立し、青海諸台吉と拉藏汗との抗爭が激化したので、清の康熙帝は伊西嘉穆錯を眞の六世達賴と定めた。併し青海諸台吉はなほ之に從はず、遂に拉藏汗を殺し、西邊漸く擾亂するに至つた。是に於て、帝は大軍を以て之を鎭め、伊西は終に廢位せられ、清の威令は漸く西藏に延びることとなつた。

【伊勢齋宮允】241 イセノサイグウノジョウ 伊勢齋宮寮の屬官。大少がある。〔職原抄〕伊勢齋宮寮、允大少。

【伊勢齋宮助】242 イセノサイグウノスケ 伊勢齋宮寮の屬官。〔職原抄〕伊勢齋宮寮、助。

【伊勢齋宮屬】243 イセノサイグウノサクワン 伊勢齋宮寮の屬官。大少がある。〔職原抄〕伊勢齋宮寮、屬大少。

【伊勢齋宮頭】244 イセノサイグウノカミ 伊勢齋宮寮の長官。〔職原抄〕伊勢齋宮寮、頭一人。

【伊勢齋宮寮】245 イセノサイグウレウ 官署の名。齋宮の御事を掌る。天皇御卽位の時に置かれ、常置せられない。いせのいつきのみやのつかさ。〔職原抄〕伊勢齋宮寮、無二唐名一。

【伊帝目多伽】246 イダイモクタカ 佛 Itivṛttaka の音譯。十二部經の一。本事と譯す。佛弟子の過去世の因緣を說く經文。十二部經は佛の教を十二種に分けた名。

【伊稚斜單于】247 イチシャゼンウ 漢時代の匈奴の單于。元朔三年卽位し、同四年、漢の代郡・定襄郡・上郡に攻侵したが、翌五年、衞青を主將とする十餘萬の漢軍のため其の衆一萬五千餘、裨王十餘人を奪はれた。以後互に成敗あり、最後に武帝の匈奴大討伐の軍のため衞青や霍去病等に破られた。元鼎三年歿す、在位十二年。〔史記、一百十〕・〔前漢書、九十四上〕。

【伊特剌斯坎】248 エトラスカン 古代イタリヤ中部の民族。西紀前十世紀頃小アジヤから移動し、イタリヤの北部エトルリヤ地方に定住した。尙武的で美術工藝を愛し、エトルリヤ語を創造して特殊の文化を造つた。Etrascan の音譯。

【伊特魯立亞】249 エトルリヤ 古代イタリヤ中部の市府、又、地名。Etruria の音譯。

【伊利目單于】250 イリモクゼンウ 前漢の宣帝の時、匈奴を擾亂して竝立した五單于の一人で、屠耆單于の小弟。もと呼韓邪單于に侍してゐたが、逃亡して故鄕なる匈奴の右地に歸り、兩兄の餘兵數千人を得、自立して伊利目單于となる。後、郅支單于に殺された。〔前漢書、九十四下〕。

【伊勒希哈番】251 イロクキカフバン 清代、大理寺少卿の滿洲名。〔稱謂錄、大理寺職官、伊勒希哈番〕皇朝通攷、大理寺卿、滿字稱爲二阿里哈哈番一、漢字稱爲レ卿、云云、少卿、滿字稱爲二伊勒希哈番一、漢字稱爲二少卿一、倶作二正四品一。

【伊勒呼里山】252 イリホリサン 山名。滿洲黑龍江省の北境。內興安嶺の北幹をなし、南は大興安嶺と接する。本幹は東北に直走して、やや東南に轉じ、呼瑪爾河と嫩江の水源との間に介在する。

【伊勒呼里山脈】253 イリホリサンミャク 滿洲黑龍江省と興安東省との境を走る山脈。大興安嶺山脈の一支脈。

【伊格那替業福】254 イグナーチエフ ロシヤの外交家。初め軍籍にあつたが、後其の手腕を認められて、アイゴン條約の成立に盡力し、又、一八六一年、公使として北京に駐劄し、北京條約を締結す。後トルコ大使となり、露土戰爭後、歸國して內相となる。Nikolai Pavlovitch Ignatiev

【伊斯的亞半島】255 イストリヤハンタウ イタリヤ半島の東部、アドリヤ海の北岸に突出する半島。Istria

【伊特忽失可汗】256 イトクコツシツカカン 唐の薛延陀の可汗。眞珠毗伽可汗夷男の兄の子。名は咄摩支。夷男を嗣いだ拔酌多彌可汗が鐵勒諸部に滅ぼされるや、咄摩支は其の敗殘の部衆を率ゐて伊特忽失可汗を稱したが、其の後漸く衰勢に趨き、唐に入朝降附して長安に留り、右武衞將軍を拜して田宅を賜給せられた。〔舊唐書、一百九十九下〕・〔唐書、二百十七下〕。

【伊柏立安半島】257 イベリヤハンタウ 大西洋と地中海との間に突出する半島。イスパニヤ、ポルトガルの二國に分れてゐる。Iberian

【伊拉瑪博囉山】258 イラマポーロサン 山名。青海に在る。耳麻不莫利とも書く。今の名は阿木奈瑪勒占木遜山。阿木奈（西番語）は祖の意。瑪勒占木遜（蒙古語）の瑪勒占は花の色、木遜は冰の意。山石斑駁、雲を戴き、青海の望山である所から尊んで名づける。一に阿木尼麻禪母遜阿林とも書く。禹貢の石積で、大積石山のこと。元史では崑崙といふ。

【伊爛拏鉢伐多】259 イーリナパルヴアタ 古代印度の東部にあつた國の名。Īraṇa-parvata の音譯。國都は恆河の南岸に在り、伽藍十餘、僧徒四千餘人あつたといふ。都城に近く伊爛拏山がある。今のビハール州モーンギルに比定せられる。〔大唐西域記、十〕伊爛拏鉢伐多國、周三千餘里、國大都城北臨殑伽河、周二十餘里、稼穡滋植、花果具繁、氣序和暢、風俗淳質、伽藍十餘所、僧徒四千餘人、多學二小乘正量部法一、天祠二十餘所、異道雜居、云云、大城側臨二殑伽河一、有二伊爛拏山一、含二吐煙霞一、蔽二虧日月一。

【伊屠於閭鞮單于】260 イトオリョテイゼンウ 後漢、南匈奴第七代の單于。名は宣。伊代於盧鞮單于汗の子。章帝の元和二年單于の位に就く。日逐王師子を遣つて北匈奴を討たせた。章帝の章和二年、在位三年で歿す。〔後漢書、一百十九〕。

【伊伐於盧鞮單于】261 イバツオリョテイゼンウ 後漢、南匈奴第三代の單于。後漢の光武帝の中元二年に兄比及莫に繼いで單于となる。在位二年、明帝の永平二年歿す。〔後漢書、一百十九〕。

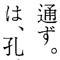
【伊陵尸逐就單于】262 イリョウシチクシウゼンウ 後漢、南匈奴第十六代の單于。名は居車兒。後漢の桓帝の建和元年單于となる。延熹元年、其の所屬の諸部が離叛して漢の緣邊の九郡を侵すや、張奐の征討する所となり、張奐は、單于が其の國事を統べる力無きを責めたが、桓帝は之を許して單于の位を存續させた。熹平元年、在位二十五年を以て歿す。〔後漢書、一百十九〕。

【伊齊額爾吉愛什拉喇哈番】263 イチオールチアイシララハファン 清代の右參議の滿洲名。〔稱謂錄、通政司職官、伊齊額爾吉愛什拉喇哈番〕皇朝通攷、右參議、滿字稱爲二伊齊額爾吉愛什拉喇哈番一、漢字稱爲二右參議一、倶作二正五品一。

【伊齊額爾吉哈福布勒哈番】264 イチオールチハフプロハファン 清代の右通政の滿洲名。〔稱謂錄、通政司職官、伊齊額爾吉哈福布勒哈番〕皇朝通攷、右通政、滿字稱爲二伊齊額爾吉哈福布勒哈番一、漢字稱爲二右通政一、倶作二正四品一。

【伋】433

㊀キフ 〔集韻〕訖立切 緝。 ㄐㄧˊ chi²
㊁キフ ゴフ 〔集韻〕極入切 緝。
㊂ハ 〔尚書大傳注〕讀曰レ播。


小篆

㊀❶**きびしい**。急(**4－10475**)に通ず。〔字彙〕伋、與レ急同。❷**人名**。孔伋は、孔子の孫の名。〔說文〕伋、人名、从レ人及聲。❸**姓**。〔路史〕伋、衞之後。㊁伋伋は、いつはるさま。汲(**6－17163**)に同じ。伋伋(1)を見よ。㊂伋然(2)を見よ。

【伋伋】1 キフキフ いつはるさま。〔集韻〕伋、伋伋、虛詐皃、或作レ汲。

【伋然】2 ハゼン 變じ動くさま。〔尚書大傳、洛誥〕諸侯在二廟中一者、伋然淵二其志一。〔鄭注〕伋、讀曰レ播、播、播然、變動貌。

【佤】434

アイ エ 〔集韻〕烏懈切 卦。

くるしむ。〔集韻〕佤、困也。

【伍】435 小篆 ゴ 〔集韻〕阮古切 麌 ㄨˇ wu³

一まじはる。相參伍する。雜處する。〔說文〕伍、相參伍也、从二人五一。〔荀子、議兵〕欲二伍以參一。〔注〕伍參、猶二錯雜一也。〔史記、淮陰侯傳〕生乃與二噲等一伍。二くみ。㋑五戸を一組とする行政上の單位。〔釋名、釋州國〕五家爲レ伍、以レ五爲レ名也。〔左氏、襄、三十〕田有二封洫一、廬井有レ伍。〔逸周書、大聚解〕五戸爲レ伍。〔管子、立政〕五家爲レ伍。〔漢書、尹翁歸傳〕盜賊發二其比伍中一。〔注〕五家爲レ伍。㋺五人を一組とする行政上の單位。〔周禮、天官、宮正〕會二其什伍一、而教二之道義一。〔注〕五人爲レ伍。㋩五人を一組とする軍隊編成上の單位。〔周禮、地官、小司徒〕五人爲レ伍。〔疏〕在レ家爲レ比、在レ軍爲レ伍。〔左氏、桓、五〕先レ偏後レ伍。〔注〕五人爲レ伍。三相對するひとくみ。耦。〔漢書、律歷志上〕八八爲レ伍。〔注〕孟康曰、伍、耦也。四くみがしら。〔後漢書、馬融傳〕甲乙相伍。〔注〕伍、伍長也。五なかま。たぐひ。〔漢書、司馬遷傳〕獨與二法吏一爲レ伍。六軍隊。隊列。〔孫子、謀攻〕全レ伍爲レ上。〔張衡、西京賦〕整二行伍一。〔注〕善曰、伍、亦卒之行列也。七兵車百二十乘。又、百二十五乘。〔周禮、夏官、司右〕比二其乘一、〔疏〕司馬法云、以二百二十五乘一爲レ伍。〔左氏、昭、元〕伍於後。〔疏〕服虔引二司馬注一云、百二十乘爲レ伍。八五(1—257)に通ず。〔說文通訓定聲〕伍、叚借爲レ五。〔易、繫辭上〕參伍以變。〔疏〕伍、五也。〔漢書、律歷志上〕參伍以變。九姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕伍氏、芈姓、楚大夫伍參之後也、伍子胥奔レ吳、其子又爲二王孫氏一、適レ齊、漢有二伍被一、楚人、望出二安定武陵一、又有二五氏一、本伍氏、避レ仇、改爲レ五。

解字 會意形聲。人と五との合字。五は又聲。五は、天地間に陰陽の交午すること。故にまじはるの意。錯綜すること。又、軍にて五人を一組とし、之を伍とする。それより組とし、五戸を伍とし、耦（ひとくみ）とし、兵車百二十乘、又百二十五乘を伍とする。假借して五とする。〔說文、伍、段注〕凡言二參伍一者、皆謂二錯綜以求一レ之。

參考 記數の時は、閒違を防ぐために五の代りに伍を用ひる。〔六書故〕一、惟財用出內之簿書、用二壹貳參肆伍陸柒捌玖拾阡陌一、吕防二姦易一。

【伍祐】1 ゴイウ 宋の人。正己の曾孫。字は祐之。大中祥符の進士。官は楚州團練推官。州に鹽場があつて、久しく廢棄されてゐたが、祐の興復の議によつて、遂に歲に緡錢數萬の收入を見るに至り、時人は祐を伍祐場と呼んだ。後、官は太常博士。〔尚友錄、十五〕。

【伍員】2 ゴウン 春秋、楚の人。奢の子。尚の弟。字は子胥。父兄俱に楚の平王の爲に殺された時、員は吳に奔り、吳を佐けて楚を伐ち、後、越の賄を受けた太宰嚭に讒せられ、死を賜はる。〔史記、六十六〕。

伍子胥（三才圖會）

【伍員吹簫】3 ゴウンスイセウ 戲曲の名。元、李壽卿作。元曲選の一。楚の臣費無忌が伍子胥の父伍奢を平公に讒して其の一族を誅滅し、禍は將に子胥にも及ばんとした。楚の公子芈建は己の幼兒勝を抱いて子胥の許に至つて難を告げ、子胥は之と共に鄭に走り、兵を借りて讎を報ぜんとしたが許されず。かかる閒に、芈建が鄭人に殺されたので、子胥は其の子勝を抱いて吳に至り、兵を借らうとしたが又許されず、里閭に隱れ、簫を吹いて纔かに口を糊した。一日、村社の祭に出て、衆人から侮辱を受ける處を、好漢鱄諸に救はれたことが緣となり、其の助力を得、吳の兵六十萬を借りて楚を攻め、費無忌を虜にして父兄の讎を報ずるといふ筋。曲詞淸奇、結構甚だ整頓し、毫も繁瑣の嫌なく、史劇中の傑作といはれる。京劇魚腸劇は之を改作したもの。〔元人百種曲、丁集下〕。

【伍雲】4 ゴウン 明、鳳陽定遠の人。官は荊州護衞指揮使。交阯に從軍し、黎利を討つて戰死す。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、二百二〕・〔明史稿、一百三十六〕。

【伍牙】5 ゴガ 山名。一名、護牙山。江蘇省溧陽縣の西南。安徽省郎縣境に接す。春秋、楚の伍子胥が楚を伐つて吳に歸るとき、此の山を經て牙旗を樹てたことから名づけたと傳へる。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、溧陽縣〕伍牙山、在二縣西南六十里一、相傳、伍子胥伐レ楚還、建二牙旗於山上一、因名、亦名二護牙山一。

【伍誥】6 ゴカウ 宋、安福の人。字は純甫。治平の進士。官は英宗の時、石城知縣事。文を作るに上は孟軻に法り、下は司馬子長に及ぶ。王安石は、其の文、人に過ぐと薦め、諸王教授に起用した。〔尚友錄、十五〕。

【伍驥】7 ゴキ 一明、新會の人。字は弘道。號は訥翁。藏書數千卷。萬姓統譜・尚友錄には、字を惟良とする。〔萬姓統譜〕・〔尚友錄、十五〕。二明、安福の人。字は德良。景泰の進士。英宗の時、福建に巡撫となり、賊首李宗政を擒にす。〔明史、一百六十五〕・〔萬斯同明史、二百二十一〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【伍擧】8 ゴキョ 春秋、楚の大夫。參の子。邑を椒に食し、椒擧ともいふ。〔史記、六十六〕。

【伍瓊】9 ゴケイ 後漢の人。官は城門校尉。董卓に信任せらる。〔三國志、六〕・〔英雄記鈔〕。

【伍喬】10 ゴケウ 一五代、南唐の廬江の人。性、學を嗜み、淮右に己の右に出るものが無いので、更に江を渡つて廬山に入り、勤學苦節した。李璟の時、進士第一に擧げられ、官は考功郎中に至る。〔陸游、南唐書〕。二淸、程夢星(8—25081・291)の字。

【伍喬星】11 ゴケウセイ 五代、南唐の伍喬が廬山で夢に見た星。〔陸游、南唐書、列傳第十二〕伍喬居二廬山一、有二浮屠一、夢仰視、見二一大星芒色甚異一、旁有レ人、指曰、此伍喬星也。

【伍軒】12 ゴケン 原忠成の號。原尙不愧齋(2—2973・269)を見よ。

【伍愿】13 ゴゲン 伍正己(47)を見よ。

【伍洪】14 ゴコウ 一唐の人。正己の子。武陵に隱れ、抱朴居士と號す。〔尚友錄、十五〕。二明、安福の人。字は伯宏。洪武の進士。官は上元縣の長官。母に事へて孝。〔明史、二百九十六〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【伍候】15 ゴコウ 人民に組合を作らせて、互に其の狀況を探らせること。〔左氏、昭、二十三〕親二其民人一、明二其伍候一。〔注〕使下民有二部伍一、相中爲候望上也。

【伍佐】16 ゴサ 明、新化の人。字は文峰。弘治の擧人。官は思南知府。

【伍壯】17 ゴサウ 組合の若者。〔福惠全書、保甲部、防二救失火一〕傳二伍壯一齊集。

【伍參】18 ゴサン 一參列の五倍。卽ち三百七十五人をいふ。小列は五人、大列は二十五人、參列は七十五人。〔李衞公問對、中〕小二列之一五人、大二列之一二十五人、參二列之一七十五人、又伍二參其數一、得二三百七十五人一。二紛れ入つて敵の狀況を探る。〔荀子、議兵〕窺レ敵觀レ變、欲二潛以深一、欲二伍以參一。〔注〕伍參、猶二錯雜一也、使下閒諜或參レ之、或伍レ之於敵之閒一、而盡知中其事上。韓子曰、省二同異之言一、以知二朋黨之分一、偶二參伍之驗一、以責二陳言之實一、又曰、參レ之以比レ物、伍レ之以合レ虛也。〔資治通鑑、秦紀〕昭襄王、五十二年、窺レ敵觀レ變、欲二潛以深一、欲二伍以參一。三複姓。〔萬姓統譜〕伍參、楚伍參之後、支孫以爲レ氏。四春秋、楚の人。莊王の嬖人。莊王の鄭を伐つや、晉が之を救つたので、參は、孫叔敖の言を用ひず、莊王に說き晉と戰つて之を敗る。〔左氏、宣、十二。襄、二十六〕。

【伍奢】19 ゴシャ 春秋、楚の人。擧の子。子胥の父。平王に事へて太子太傅となつたが、費無忌に讒せられて殺された。〔史記、六十六〕。

【伍尙】20 ゴシャウ 春秋、楚の人。奢の長子。父の奢と

俱に費無忌に讒せられて殺された。〔史記、六十六〕。

【伍相】21 ゴシャウ 複姓。五相(1－257・542)に同じ。〔元和姓纂〕吳相五員子孫、吳人號ニ之五相之後一、一作ニ伍相氏一。

【伍讓】22 ゴジャウ 明、衡陽の人。字は子謙。萬曆の進士。官は河南參議。後、南贛道副使。〔明詩紀事、庚、十一〕。

【伍乘】23 ゴジャウ 伍は古の軍制で、五人を一組としたもの。乘は戰車。〔左氏、昭、二十一〕不レ死ニ伍乘一、軍之大刑也。〔注〕同乘共伍、當ニ皆死一。

【伍人】24 ゴジン 同伍の人をいふ。伍は五家。〔漢書、酷吏、尹賞傳〕乃部ニ戶曹・掾史、與ニ鄉吏・亭長・里正・父老・伍人一。〔注〕師古曰、五家爲レ伍、伍人者、各其同伍之人也。

【伍籍】25 ゴセキ 組合の戶籍。〔韻府引、唐書、秦彦傳〕本名立、隸ニ伍籍一。

【伍長】26 ゴチャウ ㊀軍制で、五人の長。〔周禮、夏官、大司馬〕凡制レ軍、云云、五人爲レ伍、伍皆有レ長。〔疏〕伍長、是比長下。〔蘇轍、進士策問〕及レ有ニ軍旅之事一、則以ニ比長一爲ニ伍長一。㊁戶口の制で、五家のかしら。軌長。五長。〔管子、立制〕十家爲レ什、五家爲レ伍、什伍皆有レ長焉。〔漢書、黃霸傳〕置ニ父老・師帥・伍長一。㊂陸軍下士の階級。軍曹の次に位するもの。

【伍貞】27 ゴテイ 明、無爲州の人。號は隴耕野人。性、孝友で、學を好み、施與を樂しむ。著に隴耕野人集がある。〔無爲州志〕。

【伍朝】28 ゴテウ 晉、漢壽の人。字は世明。閒居して道を樂しみ、徵に應ぜず。〔晉書、九十四〕。

【伍鈍】29 ゴドン 明、鄞の人。字は文璉。母に事へて至孝。鄉里、伍孝といふ。〔尚友錄、十五〕。

【伍百】30 ゴハク ㊀伍伯の㊁の㋑に同じ。〔後漢書、輿服志上〕大使車、云云、伍百璟弩十二人。㊁伍伯の㊁の㊁に同じ。〔韓愈、寄ニ盧仝一詩〕立召ニ賊曹一呼ニ伍百一盡取ニ鼠輩一戶ニ諸市一。

【伍伯】31 ゴハク ㊀一伍の長。又、戶伯といふ。〔古今注、輿服〕伍伯、一伍之伯也、五人曰レ伍、伍長曰レ伯、故稱ニ伍伯一、一曰ニ戶伯一、漢制、兵吏五人一戶竈、置ニ一伯一、故戶伯亦曰ニ火伯一、以爲ニ一竈之主一也。㊁卒役の名。又、五百といふ。㋑前に立つて導くもの。〔後漢書、輿服志上〕車前伍伯、公八人、中二千石・二千石・六百石皆四人。〔後漢書、曹節傳、節弟破石爲ニ越騎校尉一越騎營五百一、注〕章昭辨釋名曰、五百字、本爲ニ伍伯一、伍、當也、伯、道也、使レ之導引當ニ道陌中一、以驅除上也、案、今俗呼ニ行杖人一爲ニ五百一也。㋺刑を行ふもの。〔魏志、梁習傳、注〕魏略、苛吏傳曰、使使レ伍伯曳ニ五官掾孫弼一入、頓頭責レ之。〔魏志、荀彧傳、注〕典略曰、祖以爲罵レ己也、大怒、顧ニ伍伯一、捉レ頭出、左右遂扶以去、拉而殺レ之。

【伍被】32 ヒ 漢、楚の人。或は子胥の後といふ。材能を以て淮南中郎となり、淮南王が英雋を招致した時、被は其の冠首であつた。〔前漢書、四十五〕。

【伍孚】33 フ 後漢、汝南吳房の人。一說に、伍瓊と同一人といふ。字は德瑜。官は靈帝の時、越騎校尉。獻帝の時、董卓を刺さうとして成らず、却つて卓に殺さる。〔後漢書、一百二〕・〔尚友錄、十五〕。

【伍符】34 フ 軍の部隊の符信。〔漢書、馮唐傳〕安知ニ尺籍伍符一。〔注〕李奇曰、伍符、軍士五五相保之符信也。〔李衞公問對、中〕漢制有ニ尺籍伍符一。

【伍福】35 フク ㊀明の人。四庫提要には伍餘福に作る。禮の弟。字は天錫。號は南山居士。正統の擧人。官は陝西按察副使・提督學政。詩文典雅、兼ねて書法に巧。著に咸寧縣志・陝西通志・萃野纂聞・三吳水利論・南山居士集・雲峯清賞集がある。〔萬姓統譜〕・〔臨川縣志〕。㊁清、江寧の人。字は貽堂。國子生。畫に巧。

【伍老】36 ラウ 五家の長。〔韓非子、外儲說右下〕訾ニ其里正與ニ伍老一屯二甲。

【伍禮】37 レイ 明、臨川の人。字は天秩。號は南坡。官は英宗の時、曹州の長官。著に南坡集がある。〔江西通志〕。

【伍列】38 レツ 隊を組む。隊列。〔左氏、昭、十八〕城下之人、伍列登レ城。〔注〕爲ニ部伍一登レ城。

【伍安賓】39 アンピン 梁、武陵の人。常德府志は、賓を貧に作る。學を好み、仕官を欲せず。著に武陵圖志がある。〔尚友錄、十五〕。

【伍維壽】40 ゴヰジュ 清、長沙の人。咸豐中、從軍し、洪楊の軍と江西・安徽に轉戰して、屢〻功あり。官は寧夏鎭總兵。〔清史稿、四百二十〕。

【伍袁萃】41 ゴエンスイ 明、吳縣の人。字は聖起。萬曆の進士。官は廣東海北道副使。法を執ること嚴正で、貴倖を避けず。著に林居漫錄・彈園雜志等がある。〔明史、二百二十三〕・〔明史稿、二百六〕。

【伍希淵】42 ゴキエン 明、安福の人。字は士淵。官は憲宗の時、廣川府の長官。〔萬姓統譜〕。

【伍光瑜】43 ゴクワウユ 清、江寧の人。字は孚尹。號は屏秋、又、補園。歲貢生。易に精通し、詩を能くす。著に補園集がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十〕。

【伍子胥】44 ゴシショ 伍員(22)を見よ。

【伍子濤】45 ゴズウ 怒濤をいふ。海濤は伍子胥の憤氣によつて生ずるといふ。〔李德裕、述レ夢詩〕地接ニ茅嶺一、川迎ニ伍子濤一。〔自注〕代傳、海濤是伍子憤氣所レ作。

【伍崇曜】46 ゴスウエウ 清、南海の人。字は紫垣。粵雅堂叢書・嶺南遺書・廣東十三家集・楚庭耆舊遺詩を刊す。

【伍正己】47 ゴセイキ 唐、寧化の人。初名は愿。字は公謹。大中年間の進士。官は御史中丞。朋黨の盛となるのを見て官を去り、武陵原に隱れて抱朴居士と稱した。〔尚友錄、十五〕。

【伍制令】48 ゴセイレイ 尉繚子の篇名。

【伍擇之】49 タクシ 宋の人。祐の子。字は元賓。博洽で器識があり、名利に淡白であつた。〔萬姓統譜〕。

【伍長華】50 チャウクワ 清、上元の人。字は實生。號は雲卿。嘉慶の進士。官は編修より雲南布政使に歷任し、湖北巡撫に至る。花卉を畫くことに巧で、行楷書をも善くす。著に雲南銅法志がある。〔續碑傳集、二十一〕。

【伍仲休】51 ゴチュウキウ 宋の人。正己の五世の孫。字は通遠。大觀の進士。官は河源縣の長官。後に承直郎。〔萬姓統譜〕。

【伍廷芳】52 ゴテイハウ 民國、廣東省新會縣の人。字は秩庸。駐米・駐西班牙公使等を歷任す。第一革命には革命派の外交部長として活躍し、南京臨時政府成立するや司法總長に任ぜらる。後、孫文・唐紹儀等と廣東軍政府を組織し、其の外交部長として活躍す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【伍朝樞】53 ゴテウスウ 民國、廣東省新會縣の人。字は梯雲。伍廷芳の子。幼くして渡米し、後、英國倫敦大學に學ぶ。第一革命に際し、歸國して湖北外交司長となり、衆議院議員・國務院參議等に擧げられたが、南北決裂後、廣東に歸つて護法運動に從事し、蔣介石の南京國民政府成立と共に外交部長に擧げられ、遂に國民政府司法院長に至る。其の間、駐米公使・中央執行委員等に就任す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【伍田地】54 チ 清初、王族護衞の勳功者に償恤した土地をいふ。

【伍彌泰】55 ゴビタイ 清、蒙古正黃旗人。姓は伍彌。謚は文端。雍正中、三等伯を襲封し、散秩大臣に任ぜらる。後、西安將軍となり、撒哈爾の回民叛するや、兵を率ゐて救援し、蘭州の圍を解く。其の後、官は東閣大學士に進んだが、大局に通じ、事に澁滯がなかつたので、阿桂は眞宰相の才と歎稱した。〔清史稿、三百二十九〕・〔清史列傳、二十一〕・〔國朝耆獻類徵、二十二〕。

【伍文仲】56 ゴブンチウ 宋の人。正己の五世の孫。字は仲成。七歲にして文を屬し、神童と稱せらる。紹興の進士。博學弘詞科に應ず。〔萬姓統譜〕。

【伍文定】57 ブンティ 明、松滋の人。字は時泰。謚は忠襄。弘治の進士。吉安府の長官となり、王守仁と共に宸濠の亂を平定し、兵部尚書に擢んでらる。節義を尚び兵談を好み、儒將の風あり。〔明史、二百〕・〔萬斯同明史、二百七十三〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【伍民憲】58 ミンシン 明、晉江の人。嘉靖中、倭寇が其の父を殺すや、身を挺してこれと戰ひ、手を切斷せられて後死す。〔明史、二百九十七〕。

【伍名溝】59 ゴミャウ 河の名。安徽省阜陽縣の北。楚の伍胥の開いたものと傳へる。土地高低の差は殆んど數仞で、水聲が鼓を打つやうに響くこと

から、一に響鼓溝といふ。

【伍餘福】60 ゴヨフク 伍福(35)の❶を見よ。

【伍良臣】61 ゴリヤウシン 元、高安の人。字は雲從。官は臨江經歷。著に中流一壺集がある。〔萬姓統譜〕。

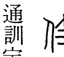
【伍間增加】62 ゴカンゾウカ 軍用語。戰鬪中、增援隊又は豫備隊を散兵線に增加し、戰鬪線に入れる事。

【伍子之山】63 ゴシノヤマ 伍子胥を祠つた山。伍員(2)を見よ。〔枚乘、七發〕弭二節伍子之山一、通二厲骨母之場一。〔注〕善曰、史記曰、吳王殺二子胥一、投二之于江一、吳人立二祠於江上一、因名二胥母山一、王逸楚辭注曰、高厲、遠行也、越絕書曰、闔閭旦食二䱉山一、晝游二於胥母一、疑骨母字誤也。

【伍德合金】64 ゴトクガフキン 蒼鉛・鉛・錫・カドミウムの合金。溶解點六十度で、電氣の安全裝置に使用せられる。

【伎】436

㊀ギキ 〔集韻〕巨綺切 紙 ㄐㄧˋ chi⁴
㊁シ 〔集韻〕支義切 寘
㊂ギキ 〔集韻〕翹移切 支


小篆

㊀❶うでまへ。はたらき。才。藝。技(5－11855)に通ず。〔說文通訓定聲〕伎、叚借爲レ技。〔正字通〕伎、伎倆。〔史記、孟嘗君傳〕無二他伎能一。〔法言、重黎〕可レ謂レ伎矣。〔注〕伎、才也。〔法言、君子〕通二天地一而不レ通レ人、曰レ伎。〔唐書、衞伯玉傳〕少習二武伎一。❷智。たくみ。〔集韻〕伎、巧。〔老子、五十七〕人多二伎巧一。❸わざをぎ。女樂。やくしや。〔唐書、禮樂志〕坐部伎六。〔唐書、元載傳〕歌者名姝異伎。❹ともに。ともがら。くみする。〔說文〕伎、與也、从レ人支聲、詩曰、鞫レ人伎忒。〔廣韻〕伎、侶也。㊁そこなふ。忮(4－10375)に通ず。〔說文通訓定聲〕伎、叚借爲レ忮、說文引詩、瞻卬、鞫レ人伎忒。〔廣韻〕伎、傷害也、詩云、鞫人伎忒、亦作レ忮。〔集韻〕忮、或从レ人。㊂ゆるやかなさま。跂(10－37067)に通ず。〔說文通訓定聲〕伎、叚借爲レ跂。〔廣韻〕伎、舒散。〔集韻〕伎、舒皃。

名乘 クレ(姓)。

【伎苛】1 ギカ 混み入つて煩雜なこと。〔管子、宙合〕憂則所二以伎苛一、伎苛所二以險レ政。〔纂詁〕伎苛、猶三後世言二伎癢一、言二多事煩碎一也。

【伎荷】2 ギカ 荷ハスの葉のまだ開かずに卷いてゐるもの。伎は立で、直立してゐるのをいふ。〔老學庵筆記、十〕今人謂二卷荷一爲二伎荷一、伎、立也、卷荷出二水面一、亭亭植立、故謂二之伎荷一、或作レ芰、非レ是。

【伎巧】3 ギコウ たくみ。巧みな手わざ。技巧。〔老子、五十七〕人多二伎巧一、奇物滋起。〔淮南子、主術訓〕伎巧不レ知。〔後漢書、趙咨傳〕伎巧費二於窀穸一。〔左思、蜀都賦〕伎巧之家。

【伎樂】4 ギガク ❶俳優の奏する音樂。〔孔子家語、辨政〕五官伎樂、不レ解二於時一。〔後漢書、百官志二〕大樂令、云云、本注曰、掌二伎樂一。❷推古天皇の時に百濟の味摩之が我が國に傳へた舞樂。味摩之は之を吳クレに學んだといふので、吳樂クレガクともいふ。〔令義解、職員令〕伎樂、謂二吳樂一。〔樂家錄、三十四番舞〕抑謂二伎樂一者、非二笙篳篥之曲一、不レ用二三鼓一、特橫笛爲二祕曲一、而甚重レ之。

【伎樂師】5 ギガクシ 雅樂寮職員の一。伎樂を教へる。伎樂生を見よ。

【伎樂生】6 ギガクセイ 雅樂寮に在つて伎樂を學ぶ學生。〔職員令〕伎樂師一人、掌レ教二伎樂生一、其生以二樂戶一爲レ之。

【伎伎】7 キキ 步みの緩やかなさま。〔詩、小雅、小弁〕鹿斯之奔、惟足伎伎。〔傳〕伎伎、舒貌。〔箋〕鹿之奔走、其勢宜レ疾、而足伎伎然、舒二留其羣一也。

【伎戲】8 ギギ わざをぎのたはむれ。芝居。〔湘山野錄〕伎戲之事。

【伎曲】9 ギキヨク 才能智術を以て罪を免れること。〔法言、重黎〕或問、淳于越曰二伎曲一、請問、曰、始皇方虎捌而梟磔、噬レ士猶レ腊レ肉也、越興亢レ眉、終無レ撓レ辭、可レ謂レ伎矣、仕二无妄之國一、食二无妄之粟一、分二无妄之橈一、自令之閒而不レ違、可レ謂レ曲矣。

【伎藝】10 ギゲイ ❶たくみ。手わざ。伎巧。〔韓詩外傳、四〕其於二百官一、伎藝之人也。〔漢書、鼂錯傳〕駁射伎藝、過レ人絕遠。❷技藝のある人。〔顏氏家訓、勉學〕伎藝則沈二思法術一。

【伎工】11 ギコウ わざをぎ。役者。〔隋書、禮儀志二〕選下伎工端潔、善二謳詠一者上。

【伎術】12 ギジユツ てわざ。技術(5－11855・・14)に同じ。〔鬼谷子、中經〕逢下好學二伎術一者上。

【伎人】13 クレ 攝津國の古地名。

【伎水】14 キスイ 水中に入つて魚蟲を捕へる者。〔揚雄、羽獵賦〕使三文身之伎水格二鱗蟲一。〔注〕翰曰、伎、謂三入レ水格二取鱗蟲一。

【伎數】15 キスウ 方伎醫方と數術。〔後漢書、桓譚傳〕巧慧小才伎數之人。〔注〕伎、謂二方伎醫方之家一也、數、謂二數術一。

【伎妾】16 ギセフ わざをぎをなすそばめ。女のわざをぎ。〔晉書、王國寶傳〕後房伎妾、以レ百數。

【伎道】17 キドウ 醫道。〔論衡、亂龍〕伎道之家、鑄二陽燧一取二飛火於日一。

【伎女】18 キヂヨ 妓女をいふ。〔後漢書、千乘貞王伉傳〕伎女二十四人。

【伎忒】19 キトク 人を害し且つ變化して常の無いこと。詩經は忮忒に作る。〔廣韻〕伎、傷害也、詩云、鞫レ人伎忒。

【伎能】20 ギノウ はたらき。うでまへ。伎倆。才能。技爲。〔管子、問〕問、男女有二巧伎能一、利二備用一者幾何人。〔史記、孟嘗君傳〕代舍客馮公、形容狀貌、甚辯長者、無二他伎能一。〔淮南子、繆稱訓〕度二伎能一而裁二使之一者、聖人也。〔論衡、自然〕人之賤不レ用二於大一者、類多二伎能一。

【伎懩】21 ギヤウ 伎癢に同じ。〔潘岳、射雉賦〕昇二發布一而累息、徒心煩而伎懩。〔注〕爰曰、有二伎藝一欲レ逞、曰二伎懩一也。

【伎癢】22 ギヤウ 技倆ある者が、人のするわざを見てはがゆく思ふ。伎懩。伎養。〔風俗通、聲音、筑〕高漸離、變レ名易レ姓、爲レ人傭保、云云、聞二其家堂上客擊レ筑、伎癢不レ能レ出レ言、曰、彼有二善不善一。〔顏氏家訓、書證〕伎癢不レ能レ無レ出レ言。

【伎倆】23 ギリヤウ はたらき。うでまへ。伎能。手腕。技倆。〔舊唐書、司空圖傳〕耐辱以居士歌、題二於東北楹一曰、諾咄休休休、莫莫莫、伎倆雖レ多性靈惡、賴レ是長教二閑處著一、休休休、莫莫莫、一局棋、一鑪藥、天意時情可二料度一、白日偏催二快活人一、黃金難レ買堪レ騎レ鶴。〔書言故事、拾遺類〕人智計曰二伎倆一。

【伎陵】24 ギリヨウ 明、張鳳翔(4－9812・・1515)の號。

【伎力】25 ギリヨク わざと力。〔白虎通、姓名〕貴二功德一、賤二伎力一。

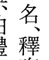
【仳】437

㊀ギン ㊀乑(1－139)に同じ。
㊁シユウ 〔正字通〕乑、說文字原仳。㊁眾(8－23321)の本字。〔正字通〕仳、衆本字。

參考 𠂢(1－138)は別字。

【伏】438

㊀フク ブク 〔集韻〕房六切 屋 ㄈㄨˊ fu²
㊁フウ ブ 〔集韻〕扶富切 宥
㊂ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職


小篆

㊀❶ふす。ふせる。うつむく。〔釋名、釋姿容〕伏、覆也。〔集韻〕伏、偃也。〔禮、曲禮上〕寢毋レ伏。〔注〕伏、覆也。〔後漢書、劉寬傳〕被レ酒睡伏。❷かくれる。かくす。〔廣雅、釋詁四〕伏、藏也。〔廣韻〕伏、匿藏也。〔書、大禹謨〕嘉言罔レ攸レ伏。〔詩、小雅、正月〕潛雖レ伏矣。〔漢書、趙廣傳〕發レ奸擿レ伏如レ神。❸うかがふ。〔說文〕伏、司也、从二人犬一、犬司レ人也。〔段注〕司、今之伺字。❹まちぶせする兵。伏兵。伏勢。〔孫子、行軍〕鳥起者、伏也。❺したがふ。服(5－14345)に通ず。〔說文通

訓定聲)伏、段借爲レ服。〔書、康誥〕罪人黜伏。〔左氏、隱、十一〕既伏二其罪一矣。〔荀子、性惡〕伏レ術爲レ學。〔注〕服二膺於術一。〔史記、陳豨傳〕四人慙伏。❻よる。〔張衡、西京賦〕伏二櫺檻一而頻聽。〔注〕綜曰、伏、猶レ憑也。❼をる。〔左氏、定、四〕未レ獲レ所レ伏。〔注〕伏、猶レ處。❽去る。〔國語、晉語八〕宵靜二女德一、以伏二蠱慝一。〔注〕伏、去也。❾陰暦六月の節の名。夏至後の第三庚を初伏、第四庚を中伏、立秋後の初庚を末伏といふ。庚は金に當り、金は火を畏れる故、此の極暑中には、金氣が伏藏するといふ。〔釋名、釋天〕伏者、金氣伏藏之日也。〔注〕夏至後、三庚爲二初伏一、第四庚爲二中伏一、立秋後、初庚爲二末伏一。〔史記、秦紀〕德公二年、初伏。〔注〕正義曰、六月三伏之節、起二秦德公一、故云二初伏一。❿車の具。紱(8—27431)に通ず。〔說文通訓定聲〕伏、段借爲レ紱。〔史記、酷吏、周陽由傳〕未レ嘗敢均二茵伏一。〔注〕集解曰、伏者、軾。⓫庖(4—9266)・虙(9—32702)・宓(3—7098)に通ず。〔說文通訓定聲〕伏、太皞伏羲氏、按、猶二藏氣一也、亦作二庖犧一云云、又作二虙、作一宓。⓬姓。〔尚友錄〕伏、太原商音、伏羲風姓之後、子孫氏レ焉、與二任宿濮句顓臾一同レ祖、又望出二高縣一。〔氏族博考〕伏・宓、同出二伏羲氏一、異レ文者、後之人、以別レ族也。〔一〕鳥が卵を覆ふ。窻(8—25577)に通ず。孵化。〔集韻〕伏、憑卵也、或作レ窻。〔漢書、五行志中之上〕雌雞伏レ子。〔二〕はらばふ。匐(2—2545)に通ず。〔說文通訓定聲〕伏、段借爲レ匐。〔集韻〕匐、或作レ伏。〔左氏、昭、十三〕飲レ冰以蒲伏。〔釋文〕伏、本又作レ匐。〔史記、范雎傳〕膝行蒲伏。

名乘 ヤス。

解字 會意。人と犬との合字。犬が人の側に伺ひ伏す事。故にうかがふとし、轉じて、ふす・ふせる意とし、又かくれる・處る・去る等とする。〔說文、伏司也、段注〕司者、臣司二事於外一者也、司、今之伺字、凡有レ所レ司者、必專守レ之、伏伺、卽服事也、引伸之爲二俯伏一、又引伸之爲二隱伏一。

參考 伏(1—383)・伕(1—371)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕伏、音代、海中地名。伏、音服、俯伏。

【伏安】1 fú ān 暑中の安泰。書翰文用語。

【伏案】2 ㊀机に向つて讀書・著述などの事に從ふこと。〔國朝漢學師承記、程晉芳〕君伏レ案著レ書、若二無レ事者一然。㊁文章法の名。伏筆(152)に同じ。

【伏庵】3 小さくて汚ない家。〔萬葉集、五〕ふせいほのまげいほのうちに。

【伏菴】4 清、范必英(9—30834·256)の號。

【伏闇】5 暗い所に隱れ伏せる。〔管子、水地〕伏レ闇能存而能亡者、蓍龜與レ龍。

【伏黯】6 後漢の人。湛の弟。字は稚文。齊詩に明通し、詩解九篇を作る。位は光祿勳。〔後漢書、一百九下〕。

【伏以】7 伏しておもんみるに。下から上に對していふ謙辭。伏惟に同じ。〔韓愈、論二佛骨一表〕臣某言、伏以、佛者夷狄之一法耳、自二後漢時一、流二入中國一、上古未二嘗有一也。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕伏以、大唐受レ命有二天下一、四海之內、莫レ不二臣妾一。

【伏惟】8 謹んで考へ思ふ意。下から上に對していふ謙辭。伏以。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕府吏長跪告、伏惟啓二阿母一。〔李密、陳情表〕伏惟、聖朝以二孝治一天下一。〔韓愈、上二宰相一書〕伏惟、覽二詩書孟子所レ指、念二育才錫レ福之所レ以。〔柳宗元、獻平二淮夷一雅表〕伏惟、睿聖文武皇帝陛下、天造神斷、克二清大慝一。

【伏允】9 唐の人。吐谷渾呂夸の子。隋の開皇の末、國亂れ、國人、其の兄を殺して伏允を立つ。屢〻隋に破られたが、大業の末、始めて其の故地を回復し、唐の高祖の卽位するに及んで之と和を通じた。貞觀中、唐使を拘留する故を以て李靖等に討破られ、其の子順は國を擧げて降り、伏允は頸をくくつて死す。〔隋書、八十一〕・〔唐書、一百九十八〕。

【伏陰】10 夏の時節に、猶、陰氣が滯伏して寒く霜雹をふらすことをいふ。〔左氏、昭、四〕夏無二伏陰一、春無二凄風一。〔注〕伏陰、謂二夏寒一也。〔國語、周語下〕天無二伏陰一、地無二散陽一。〔注〕伏陰、夏有二霜雹一。

【伏隱】11 ふしかくれる。伏匿。〔左氏、昭、十三〕盜賊伏隱。〔新語、資質〕伏二隱於蒼廬之下一。

【伏榮】12 後魏、元子華(1—1340·670)の字。

【伏瘞】13 古の祭の儀式。伏は王が外へ出かける時に、途中の安全を祈る祭を行ひ、其の犧牲の犬を土中に埋めて置き、王の車で之を轢いて出發すること。瘞は地神を祭る時に其の供物を土中に埋めること。〔周禮、秋官、犬人〕伏瘞亦如レ之。〔注〕伏、謂下伏レ犬以二王車一轢上之、瘞、謂二埋祭一也。

【伏謁】14 伏して御目通りする。〔史記、齊太公世家〕大夫皆伏謁。〔漢書、陳餘傳〕伏謁道旁。

【伏怨】15 外に表はれない怨み。かくれた怨み。〔韓非子、用人〕內無二伏怨之亂一、外無二矯服之患一。

【伏屋】16 低く汚ない家。矮屋。陋屋。〔蕪村句〕寢ぐるしき伏屋を出れば夏の月。

【伏夏】17 伏日(76)に同じ。三伏(1—12·1567)を見よ。

【伏行】18 かくれて運行する。〔史記、天官書〕伏行十一舍百三十日。

【伏櫜】19 攻城の具。地道中に設け、毒煙や烈火を送るに用ひるふいご。〔韓非子、八說〕干城距衝、不レ若二埋穴伏櫜一。

【伏角】20 重心を支へられてゐる磁針が水平面となす角をいふ。

【伏甲】21 甲兵をふせる。又、ふせぜい。伏兵。〔左氏、宣、二〕晉侯飲二趙盾酒一、伏レ甲將レ攻之。〔史記、刺客、專諸傳〕公子光出二其伏甲一。

【伏閤】22 宮中に奉伺する。閤門に伏す。〔唐書、高銖傳〕文宗得二李訓一、驟拜二侍講學士一、銖率二諫官一、伏閤言、訓素行儉邪、不レ可レ任。

【伏氣】23 ㊀息をこらしておそれちぢまること。〔韓愈、唐朝散大夫贈司勳員外郎孔君墓誌銘〕從史妻、面頸發レ赤、抑レ首伏レ氣、不下敢出二一語一以對上。〔注〕此言二伏氣一、猶レ言二屏氣一耳。㊁負ける。〔琵琶記、蔡母嗟レ兒〕公公又不二伏氣一、只管和二婆婆一鬧爭。㊂fú chì 心から喜ぶ。

【伏起】24 ひそみ隱れてゐて急に立ち現はれる。〔魏志、郭嘉傳〕策輕而無レ備、雖レ有二百萬之衆一、無レ異二於獨一行中原一也、若刺客伏起、一人之敵耳、云云、策臨レ江未レ濟、果爲二許貢客所一レ殺。

【伏鬼】25 かくれてゐる鬼。〔荀子、解蔽〕俯見二其影一、以爲二伏鬼一也。

【伏羲】26 上古の帝王の名。風姓。其の聖德は日月の明に象るから太昊といふ。民に佃漁牧畜を教へ、犧牲を養つて庖廚に充てたので、庖犧ともいふ。始めて八卦を畫し、書契を造る。陳に都し、在位一百五十年。伏戲・伏犧・伏羲・包犧・宓羲・宓戲・宓犧・虙羲・虙戲・虙犧・炮犧に作る。〔三皇(1—12·3609)を見よ。〔補史記、三皇紀〕・〔白虎通、號、三皇〕。

【伏羲陵】27 陵の名。山東省魚臺縣の東北に當り、鳧山の南に在る。陵の前に廟がある。〔九域志〕兗單皆有二伏羲陵一。〔路史〕陵在二山陽一。

【伏龜】28 伏してゐる龜。〔淮南子、說山訓〕上有二叢蓍一、下有二伏龜一。

【伏戲】29 上古の帝王。伏羲(26)に同じ。〔莊子、人間世〕伏戲几蘧之所二行終一。〔荀子、成相〕文武之道同二伏戲一。〔注〕伏戲、古帝王太昊氏、始畫二八卦一、造二書契一者、戲與レ羲同。

(索石金)氏羲伏

【伏犧】30 フクキ 上古の帝王。伏羲(26)に同じ。〔法言、問道〕鴻荒之世、聖人惡レ之、是以法始二乎伏犧一而成二乎堯一。〔注〕伏犧畫二八卦一以敍二上下一。

【伏牛】31 フクギウ 山名。❶河南省嵩縣の西南。盧氏・內鄉二縣の界に接す。汝水・白河は皆此の山から出る。〔元和志〕天息山、一名、伏牛山、今伊淮二水之閒、河南汝陽道境之山、地學家總名曰二伏牛山脈一。❷山西省潞城縣の東南。〔玉海、祥瑞、龍、唐黃龍再見〕九月五日、見二于上黨伏牛山之南岡一。❸山西省沁縣の西。洞䫻水は此の山から出る。❹江西省南城縣の西北、旴江の西岸。山の下に伏牛市がある。

【伏牛花】32 フクギウクワ 草の名。形は小灌木に似て、高さ二尺ばかり、枝が非常に多い。〔本草、伏牛花〕集解、頌曰、伏牛花、生二蜀地一、所在皆有、今惟益州蜀地有レ之、多生二川澤中一、葉青細、侶二黃蘗葉一而不レ光、莖赤有レ刺、開レ花淡黃色、作レ穗、侶二杏花一而小。

伏牛花（古今圖書集成）

【伏羌】33 フクキヤウ 縣名。唐、置く。甘肅省に屬す。民國、甘谷と改名す。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕伏羌縣、古冀戎地、秦武公十年、置二冀縣一、漢屬二天水郡一、東漢爲二漢陽郡治一、云云、唐武德三年、改爲二伏羌縣一、仍置二伏州一、八年、州廢、縣屬二秦州一。〔清史稿、地理志〕甘肅、鞏昌府、縣七、伏羌。

【伏羌堡】34 フクキヤウホ 寨の名。❶明の嘉靖年間に築く。甘肅省西寧縣の南。一名、南川營。❷四川省北川縣の北。

【伏恭】35 フクキヨウ 後漢の人。湛の兄の子。字は叔齊。從父黯の後を嗣いで、建武中、劇の令となり、公廉を以て聞ゆ。官は司空。章帝は饗禮の時、恭を三老とした。〔後漢書、一百九下〕。

【伏金】36 フクキン 隱し藏した金。〔管子、揆度〕吾有二伏金千斤一、爲レ此奈何。

【伏虞】37 フクグ ❶山名。四川省儀隴縣の東南。險難の地。夷獠は征伐せらるるときは、常に此の山中に避難した。❷縣名。隋、置く。故治は四川省儀隴縣の東。伏虞山によつて名づける。

【伏遇】38 フクグウ 謹んで遇ふ。臣下が時の皇帝の世にあふことをいふ謙辭。〔歐陽脩、謝二明堂覃恩轉官加勳一表〕伏遇、尊號皇帝陛下、堯舜聰明、禹湯勤儉。〔劉敞、揚州謝上表〕伏遇、皇帝陛下、天廣容レ物、聖賢盡レ人。

【伏火】39 フククワ ❶大火心星が、陰曆六月の黃昏に中し、大暑の後、退伏すること。〔庾信、奉二和初秋一詩〕落星初伏火、秋霜正動レ鐘。❷道家で、火で調伏して造つた煉丹砂をいふ。〔包佶、答二竇拾遺臥レ病見レ寄詩〕瓶開二枸杞懸泉水一、鼎鍊二芙蓉伏火砂一。

【伏完】40 フククワン 後漢の人。無忌の孫。桓帝の女の陽安公主に尙し、其の女は孝獻皇后となる。後、曹操は后を殺し、伏氏を誅した。其の裔の伏勝から後は、世〻經學を傳へ、淸靜にして競ふ者が無かつたので、東州では號して伏不鬭といつた。〔後漢書、五十六〕。

【伏願】41 フクグワン フシテネガハクハ 謹んでねがふ。多く奏疏に用ひる語。〔韓愈、爲二裴相公一讓レ官表〕伏願、博選二周行一、旁及二巖穴一。

【伏檠】42 フクケイ 檠の中に弓を入れて輔正する。檠は、弓匣で、弓を入れて輔正する器。〔韓非子、外儲說左上〕范且曰、弓之折、必於二其盡一也、不レ於二其始一也、夫工人張レ弓也、伏レ檠三旬而蹈レ弦、一日犯レ機、是節二之其始一、而暴二之其盡一也、焉得レ無レ折。

【伏雞】43 フクケイ 卵をあたためてゐる雞。伏鷄。〔方言、八〕北燕朝鮮洌水之閒、謂二伏雞一曰レ抱。〔公羊、莊、十二、仇牧可レ謂レ不レ畏二彊禦一矣、注〕猶二乳犬攫レ虎、伏雞搏一レ貍。〔疏〕似乙若下產乳之犬、不レ憚二猛虎一、伏雞愛レ子、投レ命敵上貍之類甲。〔淮南子、說林訓〕伏雞之搏レ狸也。〔列女傳、節義、魏節乳母傳〕伏雞搏レ貍。

【伏闕】44 フクケツ 御所に御伺する。闕門にひれふす。〔宋史、李綱傳上〕乃者、敵在二近郊一、士庶伏レ闕。〔陸游、放翁題跋〕伏レ闕上書。

【伏見】45 フシテミル ❶謹んで思ふ。〔柳宗元、駁二復讎一議〕臣伏見、天后時、有二同州下邽人徐元慶者一。〔歐陽脩、論レ選二皇子一疏〕今者伏見、兗國公主、近已出降、臣因竊思、人之常道、莫レ親二於父子之親一。❷フシミ 第九十二代の帝諡。〔繼塵記〕法皇・院、幸二伏見殿新御所一、爲二御逗留一。

【伏愆】46 フクケン 罪に伏す。〔列女傳、節義、珠崖二義傳〕頌曰、珠崖夫人、甚有二母恩一、假繼相讓、維女亦賢、納二珠于關一、各有二伏愆一、二義如レ此、爲二世所一レ傳。

【伏晅】47 フクケン 梁の人。曼容の子。字は玄曜。齊に仕へて鄞縣の令となり、武帝の時五經博士を兼ねた。〔梁書、五十三〕。

【伏劍】48 フクケン 身を劍に伏せて自殺すること。劍、一に劒に作る。伏刃。〔左氏、襄、三〕魏絳至、授二僕人書一、將レ伏レ劍。〔疏〕謂下仰二劍刃一、身伏二其上一而取上レ死也。〔戰國、趙策〕豫讓拔レ劍三躍、云云、遂伏レ劍而死。〔呂覽、忠廉〕果伏レ劍而死。〔史記、豫讓傳〕伏レ劍自殺。〔江淹、詣二建平王一上書〕常欲三結レ纓伏レ劍、少謝二萬一一。

【伏彥】49 フクゲン 野にかくれて居るすぐれた人。彥は賢人。〔鮑照、河淸頌〕野旌二伏彥一、朝賞二登賢一。

【伏儼】50 フクゲン 後漢、琅邪の人。字は景弘。著に前漢書糾謬がある。〔尙友錄、二十一〕。

【伏虎】51 フクコ ❶うづくまりふしてゐる虎。〔韓詩外傳、六〕楚熊渠子夜行、寢石以爲二伏虎一、彎レ弓而射レ之。〔周廷寀校注〕趙本作レ見二寢石一。〔荀子、解蔽〕見二寢石一以爲二伏虎一也。〔新書、威不信〕大不敬、邊長不レ寧、中長不レ靜、譬如二伏虎一。❷肺神をいふ。〔子華子、北宮意問〕肺之精爲レ金、云云、其神爲二伏虎一。❸溺器。おまる。おかは。虎子(9—32675‥69)を見よ。〔駢雅、釋器〕伏虎、溺器也。〔芸窗私志、虎子〕客問二瑤卿一曰、溺器而曰二虎子一、何也、答曰、神鳥之山、去二中國一二十五萬里、有レ獸焉、名曰二麟主一、服二衆獸一而卻二百邪一、此獸欲レ溺、則虎伏レ地仰レ首、麟主于レ是垂二其背一而溺二其口一、故中國制二溺器一、名二虎子一也。

【伏虎禪師】52 フクコゼンシ ❶梁の僧。武帝の時、拾寶巖に居る。夜、山中を行く每に虎が避け逃げたので、伏虎禪師の號を賜はつた。❷唐、行儒(10—34029‥254)の號。

【伏后】53 フクコウ 後漢の人。完の女。名は壽。興平中、獻帝の后に立ち、曹操が董貴人を殺すや、后は父に書を送り、操の殘逼の狀を述べて之を殺さうと圖つたが、事泄れて幽殺せらる。〔後漢書、十下〕。

【伏寇】54 フクコウ ひそみかくれてゐるあだ。〔管子、君臣下〕古者有二二言一、牆有レ耳、伏寇在レ側、牆有レ耳者、微謀外泄之謂也、伏寇在レ側者、沈疑得レ民之道也。〔魏收、枕中篇〕門有二倚禍一、事不レ可レ不レ密、牆有二伏寇一、言不レ可二或失一。

【伏查】55 fu² ch'a² 調查する。

【伏在】56 フクザイ ひそみかくれてある。

【伏罪】57 フクザイ ❶罪にしたがひ服す。伏刑。〔左氏、隱、十一〕許既伏二其罪一矣。〔史記、趙世家〕夫二子已伏レ罪。〔漢書、景帝紀〕有罪者不レ伏レ罪。❷まだあらはれない罪惡。〔漢書、元后傳〕新都侯莽、告二長伏罪一。

【伏草】58 フクサウ 淸、王著(7—20823‥468)の字。

【伏藏】59 フクザウ ふしかくれる。〔墨子、雜守〕所二伏藏一之處。〔白虎通、五行〕萬物伏藏也。

【伏竄】60 フクザン ふしかくれる。姿をかくす。潛む。〔左氏、襄、二十一〕罪重二於郊甸一、無レ所二伏竄一。

【伏士】61 フクシ ふせぜい。伏兵。〔史記、晉世家〕靈公伏士未レ會、先縱二齧狗名敖一。

【伏尸】62 フクシ ❶死骸。伏屍。〔莊子、則陽〕伏尸數萬。〔管子、山至數〕伏尸滿レ衍。〔墨子、非儒下〕伏尸以二言術一數。〔閒詁〕或云、當レ作下以二意術一數上、意・言篆文相近、卽億之省、術・率通。〔賈誼、過秦論〕伏尸百萬。❷屍のやうに地に伏せる。〔資治通鑑、漢紀〕(質帝、本初元年)固伏尸號哭。〔注〕言二伏レ地而號哭、其狀如一レ尸也。

【伏死】63 フクシ 死に伏する。命を捨てる。又、伏して死ぬ。倒れて死ぬ。〔漢書、鄒陽傳〕士有三伏二死堀穴巖藪之中一耳、安有下盡二忠信一而趨中闕下上者上哉。〔孔叢子、記義〕不レ念二伏レ死以爭一、而素規二去就一、尸レ利攜レ貳。

【伏伺】64 フクシ 役人となつて君に事へること。仕事に服す。伏は服に、伺は事に通ず。服事。〔說文、伏、司也、段注〕司、今之伺字、凡有レ所レ司者、必專二守之一、伏伺、卽服事也。

【伏俟】65 フクシ 城の名。青海の西にある。東魏の時、吐谷渾の夸呂は始めて可汗と稱し、伏俟城を治めた。隋は此處に西海郡を置く。〔讀史方輿紀

要、陝西、西甯鎭〕伏俟城、在二西海西十五里一、本吐谷渾國都也、梁大同六年、吐谷渾王夸呂、始稱二可汗一、居二伏俟城一。

【伏屍】66 フクシ ❶死體の仆れ伏したもの。伏尸。死骸。〔戰國、魏策〕秦王曰、天子之怒、伏屍百萬、流血千里、若士必怒、伏屍二人、流血五步。❷屍の上に伏す。〔戰國、燕策〕太子聞レ之、馳往伏レ屍而哭極レ哀。

【伏祠】67 フクシ 陰暦六月土用の祀。伏日(76)を見よ。〔漢書、郊祀志〕作二伏祠一。〔注〕孟康曰、六月伏日也、周時無、至レ此乃有レ之、師古曰、伏者、謂下陰氣將レ起、迫二於殘陽一、而未レ得レ升、故爲中藏伏上、因名二伏日一也、立秋之後、以レ金代レ火、金畏二於火一、故至二庚日一必伏、庚金也。

【伏獅】68 フクシ うつぶした獅子。〔名勝志〕文殊山在二巖源一、狀若二伏獅一。

【伏雌】69 フクシ 卵を伏せてゐる雌の鷄。〔古詩紀、百里奚妻歌〕百里奚、五羊皮、憶レ別時、烹二伏雌一、炊二扊扅一、今富貴、忘レ我爲。

【伏事】70 フクジ ❶隱し祕めた事。〔戰國、趙策〕樓緩將レ使、伏事、辭行。〔注〕吳師道曰、伏事、隱祕之事也。❷伏しつかへる。かしづく。〔齊職儀〕后稷伏二事虞夏一、敬二事民時一。〔陸機、吳王郎中時從二梁陳一作詩〕誰謂伏事淺、契闊踰二三年一。

【伏侍】71 フクジ かしづく。世話する。〔水滸傳、四十六回〕爾與レ我拔二了這賤人的頭面一、剝二了衣裳一、我自伏二侍他一。

【伏獸】72 フクジウ 伏しかくれてゐる獸。狸などのやうに穴にひそんでゐる獸をいふ。〔爾雅、釋獸、貍子隸、疏〕字林云、貍、伏獸、似レ貙、其子名レ隸。

【伏室】73 フクシツ 洞窟の室。〔資治通鑑、晉紀〕成帝、咸康二年、甃以二文石一、下穿二伏室一。〔注〕伏室、卽窟室也。

【伏質】74 フクシツ 斬刑に處せられる。伏鑕に同じ。〔漢書、梅福傳〕雖二伏質橫分一、臣之願也。〔注〕師古曰、伏質、斬刑也。〔漢書、王訢傳〕勝之過二被陽一、欲レ斬レ訢、訢已解レ衣伏レ質。〔注〕師古曰、質、鑕也、欲レ斬レ人、皆伏二於鑕上一。

【伏鑕】75 フクシツ 斬刑に處せられる。鑕は、人を斬る臺。〔班彪、王命論〕潤レ鑊伏レ鑕。〔注〕向曰、鑕、砧也。

【伏日】76 フクジツ 盛夏の日。三伏。伏暑。伏は、金氣伏藏の義。伏夏。〔漢書、東方朔傳〕伏日詔、賜二從官肉一。〔事物紀原、正朔曆數部、伏日〕曆忌釋曰、四時代謝、皆以二相生一、立秋以レ金代レ火而畏レ火、故至二庚日一必伏、故謂二之伏日一。「ること。

【伏射】77 フクシヤ 腹ばひの姿勢になつて銃を發射す

【伏謝】78 フクシヤ 身を伏せて辭退する。〔史記、汲黯傳〕乃召拜レ黯爲二淮陽太守一、黯伏謝不レ受レ印。

【伏狀】79 fu² chuang⁴ 謝罪狀。あやまり證文。

【伏戎】80 フクジユウ 兵をふせる。又、ふせぜい。伏兵(154)に同じ。〔易、同人〕九三、伏二戎于莽一、升二其高陵一、三歲不レ興。

【伏處】81 フクシヨ かくれ居る。〔莊子、在宥〕天下脊脊大亂、罪在レ攖二人心一、故賢者伏二處大山嵁巖之下一、而萬乘之君、憂二慄乎廟堂之上一。

【伏暑】82 フクシヨ 陰暦六月の暑さ。伏日(76)の暑さ。〔福惠全書、郵政部、喂養〕若二伏暑之鞍一、又宜二急卸一。

【伏承】83 フクシヨウ 謹んで承る。伏蒙。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕十二月某日、愈頓首、伏承、天恩詔二河南一、敦諭二拾遺公一。

【伏勝】84 フクシヨウ 漢、濟南の人。字は子賤。秦の博士。世人は伏生といふ。文帝の時、能く尙書を治める者を求めて伏生を得たが、時に年九十餘に達し、行くことが出來なかつたので、帝は鼂錯を遣はして、勝から尙書を受けしめて二十九篇を得た。これが、後の今文尙書である。尙書大傳は伏勝の著であるといふ。〔史記、一百二十一〕・〔前漢書、八十八〕。

【伏式】85 フクシヨク 車前の橫木に凭つて禮すること。伏軾(87)に同じ。〔史記、田敬仲完世家〕伏レ式結レ軼西馳者、未レ有二一人言レ善レ齊者一也。

【伏食】86 フクシヨク 服食(**5**－**14345**··78)に同じ。〔參同契、三相類、下〕欲レ知二伏食法一、事約而不レ繁。〔注〕伏者、伏二先天之氣一、食者、呑二黍米之丹一。

【伏軾】87 フクシヨク 車前の橫木に凭つて禮すること。伏式。〔戰國、韓策〕伏レ軾結レ靷西馳者、未レ有二一人言レ善レ韓者一也。〔莊子、漁父〕孔子伏レ軾而歎。〔史記、淮陰侯傳〕酈生一士、伏レ軾、掉二三寸之舌一、下二齊七十餘城一。〔盧諶、覽古詩〕伏レ軾徑入レ關。

【伏身】88 フクシン 身をかくす。〔莊子、繕性〕古之所謂隱士者、非下伏二其身一而弗上見也。

【伏辰】89 フクシン 星が日光の爲にかくれて顯はれず、其の舍にやどること。〔左氏、僖、五〕丙子之晨、龍尾伏レ辰。〔注〕龍尾、尾星也、日月之會曰レ辰、日在レ尾、故尾星伏不レ見。〔會箋〕伏レ辰、猶レ云レ伏二其次一、日月星之舍次、皆謂二之辰一、不二必日與レ月之會一、此只謂二星之舍次一、而伏者因二日光一、非レ干レ月。

【伏晨】90 フクシン 後漢の人。湛の孫。謙恭博愛の士。〔後漢書、五十六〕。

【伏寢】91 フクシン 伏しかくれて安んずる。〔淮南子、泰族訓〕夫蛟龍伏二寢於淵一。

【伏刃】92 フクジン やいばに伏して死ぬ。伏劍。〔漢書、息夫躬傳〕其有二犬馬之決一者、仰レ藥而伏レ刃。

【伏汛】93 フクジン 夏期に入つて、黃河の水の氾濫する時候。桃汛後、立秋に至るまでをいふ。〔淸會典、工部、都水淸吏司〕凡河工、曰歲修、曰搶修、各辦二其桃汛・伏汛・秋汛一、而禦レ之。〔注〕自二桃汛一至二立秋前一爲二伏汛一。〔六部成語、工部、伏汛、注解〕夏日入レ伏、河水乃漲發之候也。

【伏生】94 フクセイ ❶伏勝(84)を見よ。❷明、孫胤伽(**3**－**6987**··325)の字。

『伏生女』95 フクセイノヂヨ 漢、鄒平の人。伏勝の子。名は羲娥。伏生が尙書を鼂錯に傳へたとき、年老いて正言することが出來ないので、羲娥を介して授けた。伏女(120)を見よ。

『伏生壁藏』96 フクセイヘキザウ 秦の始皇帝が焚書を行つた時、伏生が百篇の尙書を壁の中に藏したことをいふ。伏勝(84)を見よ。〔史記、儒林、伏生傳〕秦時焚レ書、伏生壁二藏之一、其後兵大起、流亡、漢定、伏生求二其書一、亡二數十篇一、獨得二二十九篇一、卽以教二于齊魯之閒一。

【伏犀】97 フクセイ 骨骼の名。天庭から頭頂に至るもの。〔唐書、袁天綱傳〕見二竇軌一曰、君伏犀貫二玉枕一、十年且レ顯、見二馬周一曰、馬君伏犀貫レ腦、背若レ有レ負、貴驗也。〔稗編〕從二天庭一貫レ頂、名二伏犀骨一。

【伏請】98 フクセイ 伏して請願する。〔國史略、元正天皇〕詣レ闕伏請、三人爲二官奴一、贖二父罪一。

【伏勢】99 フクセイ フクゼイ 隱れてゐて不意に敵を襲ふ軍勢。伏兵。

【伏礁】100 fu² chiao¹ 暗礁。

【伏節】101 フクセツ 節義の爲に死ぬ。〔漢書、刑法志〕師旅亟動、百姓罷敝、無二伏レ節死レ難之誼一。〔漢書、諸葛豐傳〕今以二四海之大一、曾無二伏レ節死レ誼之臣一。〔春秋繁露、天地之行〕伏レ節死レ義、代二四時一也、而人之所レ治也。

『伏節之報』102 フクセツノハウ 節義を盡した報い。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕詔曰、署二余孫倫吏一、使レ蒙二伏節之報一。

【伏泉】103 フクセン 地下の泉。地下水。〔張協、雜詩〕階下伏泉涌、堂上水衣生。〔注〕良曰、伏、潛也。

【伏線】104 フクセン 文章などの構造について用ひる語。始めは人に氣付かしめないで、後に或る事實を導く種になるもの。

【伏組】105 フセグミ じやばらぶせ。左からの絲と、右からの絲とを併せて伏縫にしたもの。〔榮華物語、鳥邊野〕絲してふせぐみし。

【伏走】106 フクソウ 伏して走る。〔列子、黃帝〕傅レ翼戴レ角、分レ牙布レ爪、仰飛伏走、謂二之禽獸一。

【伏奏】107 フクソウ 謹み伏して天子に事を申し上げる。〔南齊書、倖臣傳論〕伏奏之務既寢。〔李商隱、祭二薛郎中一文〕伏奏多レ可。

【伏息】108 フクソク ひそみやむ。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕姦僞不レ萌、妖孽伏息。

【伏打】109 ボルタ イタリヤの物理學者。電氣學に貢獻した。Alessandro Volta

『伏打表』110 ボルタヘウ 二點間の電位差を測定する計器。電壓計。伏特計。ボルタメーター。

『伏打電池』111 ボルタデンチ イタリヤ人ボルタの發明した電池。銅板と亞鉛板との閒に食鹽水又は酸で濕した布を挾んだもので、電池の基礎をなすもの。

【伏弢】112 フクタウ ゆみぶくろに寄りかかる。傷ついて尙指揮することをいふ。弢は、ゆみぶくろのこと。〔左氏、哀、二〕伏レ弢嘔レ血。〔注〕弢、弓衣、嘔、吐也。

【伏滔】113 フクタウ 晉、安丘の人。字は玄度。才學あり、桓溫の參軍として、溫に從つて袁眞を伐ち、功を立つ。封は聞喜縣侯。太元中、官は游擊將軍。〔晉書、九十二〕。

【伏湛】114 フクタン 後漢の人。理の子。字は惠公。少時、父の業をついで數百人に教授し、更始の時、平原太守となり、ついで光武に召されて尚書に至る。〔後漢書、五十六〕。

【伏地】115 フクチ 地に伏す。地にひれ伏す。〔漢書、淮南厲王長傳〕追二念辠過一、恐懼伏レ地。〔後漢書、朱暉傳〕皆惶迫伏レ地、莫二敢動一。

【伏螭】116 フクチ ひそんでゐるみづち。〔張衡、南都賦〕其水蟲、則有二蠳龜・鳴蛇・潛龍・伏螭一。

【伏聽】117 フクチヤウ 隱伏して敵の虛實を聽くこと。〔史記、衞將軍驃騎傳〕捕二伏聽者三千七十一級、執訊獲レ醜。

【伏誅】118 フクチユウ 誅に伏す。誅罰せられる。〔戰國、趙策〕今日之事、臣故伏レ誅。

【伏豬】119 フクチヨ ㊀藥草の名。〔廣雅、釋草〕伏豬、木禾也。㊁フスヰ 臥してゐる豬。〔新撰六帖、二〕ふすゐのこと。

【伏女】120 フクヂヨ 漢の伏生の女。名は羲娥。伏生は老い、正言することが出來ないので、羲娥をして尚書を鼂錯に傳へしめた。〔漢書、儒林、伏生傳〕使二掌故朝錯往受レ之、注〕師古曰、衞宏定古文尚書序云、伏生老、不レ能二正言一、言不レ可レ曉也、使二其女傳レ言教レ錯。〔王先謙補注〕劉台拱曰、伏女傳レ言、所謂受レ讀也。

【伏挺】121 フクテイ 梁の人。暅の子。字は士標。任昉に認められ、武帝の時、征東參軍となる。官は南臺書侍御史。著に邇說がある。〔梁書、五十〕・〔南史、七十一〕。

【伏眺】122 フクテウ ふしてながめる。俯瞰。〔李巨仁、詩〕伏眺盡二山川一。

【伏鳥】123 フセドリ 雉・鶉などのやうに、草中に伏し隱れてゐる鳥。射藝の語。翔鳥(**9**－28689‥30)に對す。〔高忠聞書〕ふせ鳥・かけ鳥を射る時。

【伏帖】124 フクテフ 熨斗をかけて皺をのすこと。熨帖。〔廣羣芳譜〕世人多用二竹器一貯レ茶、雖三復多用二箬護一、然箬性峭勁、不三甚伏帖一。

【伏天】125 fu² t'ien¹ 夏の土用。

【伏天兒】126 fu² t'ien¹ êrh 蜩。ひぐらし。

【伏兔】127 フクト ㊀伏し隱れてゐる兔。〔漢書、鄒陽傳〕今胡數涉二北河之外一、上覆二飛鳥一、下不レ見二伏兔一。㊁馬車の軸の板覆ひ。とこしばり。輹(**10**－38440)に同じ。〔周禮、考工記、輈人〕良輈環灂、自二伏兔一不レ至レ軏七寸。㊂藥草の名。茯苓(**9**－30906‥2)の異名。〔本草、茯苓〕釋名、伏靈・伏兔・松腴・不死麪、抱レ根者名二伏神一。

【伏覩】128 フシテミル 謹んで思ふに。臣下が君主に上書する時の謙遜の語。〔陸游、高宗賜二趙延康一御書〕臣某伏覩、高皇帝、御二天下一幾三十年。

【伏圖】129 フクト 蠕蠕の王。他汗可汗(**1**－370‥127)を見よ。

【伏弩】130 フクド 弓隊の伏兵。〔漢書、高帝紀上〕羽大怒、伏弩射中二漢王一。

【伏董】131 フクトウ 漢の伏勝と董仲舒。〔經學歷史、經學復盛時代〕實能述二伏董之遺文一。

【伏樋】132 フセドヒ 地中に埋めた樋。暗渠。

【伏特】133 ボルト 電壓の單位。一オームの電氣抵抗を有する導體中に一アンペヤの電流を通じた際に、導體の兩端間に生ずる電位差を一ボルトといふ。

〔伏特計〕134 ボルトケイ 伏打表(110)に同じ。

【伏匿】135 フクトク ふしかくれる。ひそむ。世を避ける。伏隱。〔韓非子、詭使〕士卒之逃レ事狀匿、附二託有威之門一、以避二傜賦一。〔集解〕王先謙曰、狀、卽伏字、形近而誤。〔晏子、問、上〕聖人伏匿隱處。〔楚辭、天問〕伏匿穴處、爰何云。〔史記、范雎傳〕遂操二范雎一亡、伏匿。〔史記、酷吏、尹齊傳〕豪惡吏伏匿、而善吏不レ能レ爲レ治。

【伏讀】136 フクトク 謹んで讀む。臣下が君主の勅諭を讀む時の謙遜の語。〔孔叢子、雜訓〕北面再拜、受レ書伏讀。〔六部成語、吏部、伏讀、注解〕凡督撫接二奉上諭一、有二交辦事件一、後來覆奏、摺內必敍云下臣伏讀二上諭一云云上。

【伏突】137 フクトツ 刀の名。〔癸巳存稿〕顏眞卿李武穆王光弼碑云、毎レ臨レ陳、常貯二伏突於靴中一、義不レ受レ辱、伏突者、唐書傳、以爲レ刀。

【伏肉】138 フクニク 死肉。〔水滸傳、二回〕自レ古道、大蟲不レ喫二伏肉一。

【伏熱】139 フクネツ 三伏の暑さ。〔白居易、天竺寺七葉堂避レ暑詩〕鬱鬱復鬱鬱、伏熱何時畢。

【伏念】140 フシテオモフ 謹んで思ふ。臣下から君主に上書する時、又は下の者が上の者に書を上る時の謙遜の語。〔韓愈、上二宰相一書〕伏念、今有三仁人在二上位一、若不二往告一レ之、而遂行、是果二於自棄一、而不下以二古之君子之道一待中吾相上也。

〔伏念魚〕141 フクネンギヨ 魚の名。吐哺(**2**－3300‥76)の異名。〔太平御覽、鱗介部、伏念魚〕臨海水土記曰、伏念魚、似二吹沙魚一。〔事物異名錄、水族、吐哺〕臨海志曰、伏念魚、一名、黃魩、俗呼二船矴魚一、見レ人則以レ喙插二入泥土中一、如二船矴一也。

【伏波】142 フクハ ㊀伏波將軍の略。〔鮑照、苦熱行〕伏波賞亦微。〔注〕善曰、後漢書曰、交阯女子徵側反、拜二馬援一爲二伏波將軍一。㊁伏して居る波。〔韓愈、南海神廟碑〕日光穿漏、伏波不レ興。

〔伏波山〕143 フクハサン 巖石の名。廣西省桂林縣治の東北。一名、伏波巖。突起すること千尺、獨秀山と相望む。巖の傍の水際に環珠洞があり、本名は玩珠であつたのを、宋の提刑張維が今の名に改めた。〔讀史方輿紀要、廣西、桂林府、臨桂縣〕伏波山、在二府治東北一、亦曰レ巖、山特起千丈、與二獨秀山一相望、巖旁水際、有二環珠洞一、志云、洞本名玩珠、宋張維易二今名一。

〔伏波將軍〕144 フクハシヤウグン 漢の武帝の時の武官の名。水軍を率ゐ、其の威力が風波をしづめるとの意。〔史記、衞將軍驃騎傳〕博德以二衞尉一爲二伏波將軍一。〔漢書、南粤王趙佗傳〕衞尉路博德、爲二伏波將軍一、出二桂陽一下二湟水一。〔後漢書、馬援傳〕璽書拜二援伏波將軍一云云、南擊二交阯一。〔魏志、夏侯惇傳〕太祖平二河北一、爲二大將軍一後拒レ鄴破、遷二伏波將軍一。〔魏書、溫子昇傳〕子昇加二伏波將軍一。

〔伏波標柱〕145 フクハヘウチユウ 蒙求の標題。後漢の馬援が交趾に到り、銅柱を立てて漢の極界とした故事。〔蒙求、上、伏波標柱〕廣州記曰、援到二交阯一、立二銅柱一爲二漢之極界一。

【伏拜】146 フクハイ ふしをがむ。ひれふしぬかづく。〔後漢書、南匈奴傳〕單于當二伏拜受一レ詔

【伏方】147 フクハウ 北方をいふ。北は冬に當り、冬は萬物が皆伏するからいふ。〔史記、五帝紀、便二在伏物一、注〕索隱曰、尸子亦曰、北方者、伏方也。

【伏望】148 フクバウ 謹んで希望する。〔王禹偁、滁州謝上表〕伏望、陛下思二直木先伐之義一、考二衆惡必察之言一。〔歐陽脩、亳州乞二致仕一第二表〕伏望、皇帝陛下、惻以二深仁一、矜二其至懇一、俾下解二方州之任一、遂歸中環堵之居上。

【伏魄】149 フクハク 人が死んだ日、屍に衣をかけて魂を招くこと。たまよび。復魄(**4**－10183‥139)を見よ。〔世說新語、賢媛〕魏武帝崩、文帝悉取二武帝宮人一自侍、及二帝病困一、卞后出看レ疾、太后入レ戶、見二直侍一並是昔日所二愛幸一者、太后問、何時來耶、云、正伏魄時過、因不二復前一而歎曰、狗鼠不レ食二汝餘一、死故應レ爾、至二山陵一、亦竟不レ臨。

【伏法】150 フクハフ 法律に服して刑を受ける。〔史記、田叔傳〕今梁王不レ伏レ誅、是漢法不レ行也、如其伏レ法、而太后食不レ甘レ味、臥不レ安レ席、此憂在二陛下一也。〔漢書、司馬遷傳〕僕伏レ法受レ誅。〔論衡、福虛〕庖廚監食、皆當レ伏レ法。

【伏妃】151 フクヒ 虙妃(**9**－32702‥1)を見よ。

【伏筆】152 フクヒツ 文章法の名。或は埋伏といひ、又、伏脈・伏案・伏線・針線・線索・草蛇灰線等ともいふ。下文に言はうとする事を、上文にほのめかしておくことをいふ。伏筆は人が讀んで直ちに氣付かぬやうに綴るを妙とする。

【伏物】153 フクブツ 人畜などで、冬になつて伏し隱れる物をいふ。〔史記、五帝紀〕申命二和叔一居二北方一、曰二幽都一、便二在伏物一。〔注〕索隱曰、使三和叔察二北方藏伏之物一、謂二人畜積聚等、冬皆藏伏一。

【伏兵】154 フクヘイ 兵をふせる。又、ふせぜい。伏士。伏戎。〔史記、淮陰侯傳〕陳レ船欲レ渡二臨晉一、而伏レ兵從二夏陽一以二木罌缻一渡レ軍。〔漢書、昭帝紀〕伏兵殺二大將軍光一。〔蜀志、趙雲傳、注〕雲陷レ敵還、更大開レ門、偃レ旗息レ鼓、公軍疑三雲有二伏兵一引去。

【伏閉】155 フクヘイ 伏日には萬鬼が横行するといふので、一日中戶を閉ぢふさぐこと。〔後漢書、和帝紀〕初令二伏閉盡日一。〔注〕漢官舊儀曰、伏日萬鬼行、故盡日閉、不レ干二他事一。

【伏豹】156 フクヘウ 初めて官に就いて宿直すること。

他の官吏が皆退出して行くのを、己一人留まり見送る様が伏しかくれてゐる豹が獲物を伺つてゐる様に似てゐるからいふ。〔封氏聞見記、豹直〕御史舊例、初入レ臺陪直二十五日、節假直日、謂二之伏豹一、亦曰二豹直一、百司州縣初授官陪直者、皆有二此名一。杜易簡解二伏豹之義一云、宿直者、離レ家獨宿、云云、伏豹者、言、衆官皆出、己獨留、如二藏伏之豹伺候待レ搏、故云二伏豹一。

【伏鼈】157 フクベツ　伏してゐるすつぽん。〔漢書、天文志〕旬始、出二於北斗旁一、狀如二雄雞一、其怒青黑色、象二伏鼈一。

【伏辯】158 ベン　自分から罪に服すること。詫證文。又、服辯に作る。伏狀。〔元典章〕府司官對レ眾審訖、取二服辯文狀一。〔讀書脞錄續編〕梁曜北曾記、律有二獄囚取一服辯一條一、引二樓鑰攻媿集一、以爲二宋時已有一此稱一、不レ始二於元典章一、志祖案、禮記王制云、異二其死刑一之罪而要レ之、卽是囚之伏辯、錄爲二要狀一、然則唐時已有二此稱一、并不レ始二於宋一矣。

【伏浦】159 フク　水のほとりに伏しかくれる。〔江淹、雜體、魏文帝丕遊宴詩〕淵魚猶伏レ浦、聽者未二云疲一。

【伏蒲】160 フク ホ　蒲席の上に伏す。元帝の疾病の時に、太子を廢さうとしたのを、漢の史丹が青蒲の上で諫止したこと。〔漢書、史丹傳〕竟寧元年、上寢レ疾、傅昭儀及定陶王、常在二左右一、而皇后太子希レ得二進見一。上疾稍侵、意忽忽不レ平、數問二尚書一以二景帝時立二膠東王一故事一、是時太子長舅陽平侯王鳳、爲二衞尉侍中一、與二皇后太子一皆憂、不レ知二所出一、丹以二親密臣一得二侍視疾一、候二上閒獨寢時一、丹直入臥內、頓首伏二青蒲上一、涕泣言曰、皇太子以二適長一立、積二十餘年一、名號繫二於百姓一、天下莫レ不レ歸レ心、臣子見二定陶王一雅素愛幸一、今者道路流言、爲二國生レ意一、以爲、太子有二動搖之議一、審若レ此、公卿以下必以レ死爭不レ奉レ詔、臣願先賜レ死、以示二羣臣一、天子素仁不レ忍、見レ丹涕泣言又切至一、上意大感、喟然太息曰、吾且困劣、而太子兩王幼少、意中戀戀、亦何不レ念乎、然無レ有二此議一、且皇后謹愼、先帝又愛二太子一、吾豈可レ違レ指、駙馬都尉、安所受二此語一。丹卽卻頓首曰、愚臣妄聞、罪當レ死、上因納、謂レ丹曰、吾病寢加、恐不レ能二自還一、善輔二道太子一、毋レ違二我意一、丹噓唏而起、太子由レ是遂爲二嗣矣。〔許渾、聞二邊將劉皐無一辜受レ戮詩〕卻賴漢庭多二烈士一、至レ今猶自伏二蒲論一。

【伏奉】161 フクホウ　謹んで承奉する。〔晏殊、侍讀學士等請二宮中視學一表〕伏奉二聖旨一、以二時暑一暫住、講レ書至二秋涼一。

【伏縫】162 フクホウ　縫目の見えぬやうに縫ふこと。〔狂言記、布施無〕ふせぬひに致さう。

【伏木】163 フクボク　倒れた木。倒れてゐる木。臥木。〔源平盛衰記、二十一、兵衞佐殿隱二伏木一事〕伏木不審也、うつぼに入りて搜せ。

【伏魔】164 フクマ　惡魔を伏從させる。〔皇甫冉、贈二普門上人一詩〕惠力堪レ傳レ教、禪功久伏レ魔。

【伏木】163 フクボク　倒れた木。倒れてゐる木。臥木。〔源平盛衰記、二十一、兵衞佐殿隱二伏木一事〕伏木不審也、うつぼに入りて搜せ。

【伏魔殿】165 フクマデン　惡魔の伏在してゐる殿堂。轉じて、禍亂惡事をたくらむ者が大勢集まつてゐる所。〔水滸傳、楔子〕書二四箇金字一、寫二道伏魔之殿一。

【伏魔大帝】166 フクマダイテイ　明の萬曆四十二年に勅して、蜀漢の關羽を二界伏魔大帝に封じた。〔畿輔通志〕萬曆四十二年十月十一日、司禮監大監李恩、齎二捧九旒冠玉帶龍袍金牌牌書一、敕封二三界伏魔大帝神威遠震天尊關聖帝君一于正陽門一祀。

【伏莽】167 フクモウ　軍隊を叢の中に匿す。後世は、匪賊などが潛み匿れるにいふ。〔易、同人〕伏二戎于莽一。〔舊唐書、高祖紀論〕伏莽知レ非。「ふ。

【伏面】168 fu² mien⁴　面目を失ふ。名譽をそこなつて承はる。伏承（83）に同じ。

【伏蒙】169 モウ　謹んで承はる。伏承（83）に同じ。〔歐陽脩、謝二宣召入二翰林一狀〕伏蒙、尊號皇帝陛下、俯憐二舊物一、曲軫二宸慈一。

【伏目】170 フシメ　俯視すること。うつむくこと。〔源氏物語、若紫〕ふし目になりて。

【伏膺】171 フクヨウ　心に記して忘れない。服膺（5－143 45‥139）に同じ。〔後魏高貞碑〕伏二膺文武一。

【伏翼】172 フクヨク　動物の名。かうもり。蝙蝠（10－332 71‥3）の異名。服翼。〔廣雅、釋鳥〕伏翼、飛鼠・仙鼠、蚘蠷也。〔本草、伏翼〕釋名、蝙蝠、天鼠、仙鼠、飛鼠、夜燕、恭曰、伏翼者、以二其晝伏有レ翼也、時珍曰、伏翼、爾雅作二服翼一、齊人呼爲二仙鼠一、仙經列爲二肉芝一。〔盧照鄰、五悲文〕操二太阿一以烹二小鮮一、飛二夜光一而彈二伏翼一。

【伏老】173 フクラウ　❶貝の名。あかがひ。魁蛤（12－457 85‥6）の異名。蝙蝠（伏翼）の年老いたものが化してなるといふ。〔本草、魁蛤〕釋名、伏老、頌曰、說文云、老伏翼化爲二魁蛤一、故名二伏老一。❷年老いて氣力が衰へること。〔秦觀、與二鄧愼思一云云詩〕不二是對レ花能伏老一、自緣レ無二酒可一澆レ春。

【伏臘】174 フクラフ　伏と臘。伏は夏祭、臘は冬祭をいふ。琅琊代醉編、卷二十六に見ゆ。〔史記、留侯世家〕留侯死、并二葬黃石家一、每二上冢伏臘一祠二黃石一。〔漢書、楊惲傳〕田家作苦、歲時伏臘、烹二羊羔一、斗酒自勞。〔後漢書、明帝紀〕伏臘無二糟糖一而牲牢兼二於一臺一。〔潘岳、閑居賦序〕牧二羊酪一、以供二伏臘之費一。

【伏蠟】175 フクラフ　㊀陰暦の四月十五日から七月十五日まで、酒色を斷つて禁足戒行すること。〔曾三異、因話錄〕伏蠟、僧家所謂伏蠟者、謂下削レ髮之後、卽受レ戒、若斷二酒色一等件、每歲禁足結夏上、自二四月十五日一至二七月十五日一終、結レ夏之時、隨二其身之輕重一、以レ蠟爲二其人一、解レ夏之後、以二蠟人一爲レ驗、輕重無レ差、卽爲レ無二妄想一、其有二妄想一者、氣血耗散、必輕二於蠟人一矣、湯朝美作二本然僧塔銘一作二伏臘之臘一、蓋未レ詳二此也一。

【伏卵】176 フクラン　卵を抱いて巢につく。卵をあたためる。〔方言、三〕雞伏卵而未レ孚、始化之時、謂二之涅一。〔莊子、庚桑楚〕越雞不レ能伏二鵠卵一。

【伏鸞】177 フクラン　隱れた賢者。二國、魏の鄧艾（11－3 9630‥23）をいふ。伏鸞隱鵠を見よ。

【伏鸞隱鵠】178 フクランインコク　隱れた賢者。三國、魏の鄧艾と晉の陸雲とをいふ。〔青箱雜記〕鄧艾號二伏鸞一、陸雲號二隱鵠一。

【伏利】179 フクリ　隱れて現はれない寶。〔管子、五輔〕發二伏利一、輸二墝積一、修二道途一、便二關市一、愼二將宿一、此謂二輸之以財一。

【伏理】180 フクリ　漢の東武の人。字は君游。匡衡から齊詩の學を受け、師の匡衡と並んで匡伏の學と稱せらる。官は高密王太傅。〔前漢書、八十八〕。

【伏流】181 フクリュウ　❶地下を潛り流れる水。地下の流れ。〔左思、蜀都賦〕龍池濕瀑潰二其隈一、漏江伏流潰二其阿一。❷城の名。河南省嵩縣の東北。南陸渾の故城。後魏の孝武帝が、韋法保を東洛州刺史として柵を置かしめた處。〔讀史方輿紀要、河南、河南府、嵩縣〕伏流城在二縣北一、此南陸渾也、云云、東魏以二長壽堙韋法保一爲二東洛州刺史一、助二延孫一拒守、法保與二延孫一連レ兵、置二柵於伏流一、是也。

【伏流千里】182 フクリュウセンリ　古、黃河の源流が千里も地中にかくれて流れたこと。〔元史、地理志六〕河源古無レ所レ見、禹貢導レ河止自二積石一、漢使張騫持レ節道二西域一、度二玉門一、見二二水交流一、發二葱嶺一、趨二于闐匯鹽澤一、伏流千里、至二積石一而再出。

【伏陸】183 フクリク　山名。陝西省甘泉縣の東北。〔元和志〕有二阿伏斤谷一、其水出又潛流、隱二伏川陸一、故號二伏陸一、天寶元年、改爲二甘川谷一。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、甘泉縣〕伏陸山、在二縣治東北一、唐以二此山一名レ縣。

【伏笠】184 フクリュウ　笠を前さがりにかぶること。〔ねごと草〕伏笠を召す。

【伏苓】185 フクリョウ　藥草の名。茯苓（9－30906‥2）に同じ。伏靈。〔淮南子、說林訓〕山雲蒸、柱礎潤、伏苓掘、兔絲死。

【伏苓芝】186 フクリョウシ　唐の李邕が書を石に刻む時に用ひた假りの名。〔海錄碎事、文學、書札〕唐李邕善二書、仍自刻、多假二刻字人名一、伏苓芝・黃仙鶴之類、是也。

【伏梁】187 フクリョウ　身體の各部が腫脹する病氣。〔素問、腹中論〕帝曰、人有二身體髀股脛皆腫、環臍而痛一、是爲二何病一、岐伯曰、病名伏梁、此風根也。

【伏隆】188 フクリュウ　後漢の人。湛の子。字は伯文。節操を以て聞えた。光武の時、張步が齊の地に據つて王たらんとした際、使して張步の爲に殺された。〔後漢書、五十六〕。

【伏龍】189 フクリュウ　❶かくれてゐる龍。世に知られない大人物の譬。潛龍。臥龍。伏龍鳳雛を見よ。〔朱熹、齋居感興詩〕伏龍一奮躍、鳳雛亦飛翔。❷龍の神。〔容齋四筆、伏龍肝〕又列二作竈忌日一云、伏龍在、不レ可二移作一、所謂伏龍者、竈之神也。❸山名。㋑浙江省鎭海縣の西北。一名、箬山。〔讀史方輿紀要、浙江、寧波府、定海縣〕伏

龍山、縣西北八十里、首尾跨㆓東西兩海門㆒、狀如㆓臥龍㆒云云、一名箬山。㋺湖北省襄陽縣の南。〔方輿勝覽〕曾鞏知㆓州事㆒、嘗祈㆓雨於此㆒。㋩四川省蓬溪縣の西。〔讀史方輿紀要、四川、潼川州、蓬溪縣〕伏龍山、縣西二百里、其山盤曲、形如㆓伏龍㆒、下有㆓火井㆒。㋥陝西省膚施縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府、膚施縣〕伏龍山、府北五里、郡國志、上郡之名山也。

【伏龍肝】190 フクリヨウカン　藥の名。舊い竈の釜の臍の下にあたる部分の黃土。色は紫瓷に似てゐる。〔本草、伏龍肝〕釋名、竈心土、時珍曰、獨孤滔丹書言、伏龍肝取㆑經㆓十年㆒、竈下掘深一尺、有㆘色如㆓紫瓷㆒者㆖是眞可㆔縮㆑賀伏㆓丹砂㆒、蓋亦不㆑知㆓猪肝之義㆒、而用㆓竈下土㆒以爲㆑之也。

【伏龍屎】191 フクリヨウシ　竈の灰火。〔道書〕竈下灰火、謂㆓之伏龍屎㆒、不㆑可㆓爇香事㆒㆑神。

【伏龍鳳雛】192 フクリヨウホウスウ　俊傑をいふ。伏龍は、蜀の諸葛孔明。鳳雛は、龐士元をいふ。司馬德操が二人を評した語。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕襄陽記曰、劉備訪㆓世事於司馬德操㆒、德操曰、儒生俗士、豈識㆓時務㆒、識㆓時務㆒者、在㆓乎俊傑㆒、此閒自有㆓伏龍鳳雛㆒、備問、爲㆑誰、曰、諸葛孔明・龐士元也。〔故事成語考、鳥獸〕伏龍鳳雛、司馬徽稱㆓孔明・龐士元之奇㆒。

【伏鱗】193 フクリン　水中に潛みかくれてゐる魚類。〔子華子、陽城胥渠問〕飛羽伏鱗、無㆔以幸㆓其生㆒矣。

【伏靈】194 フクレイ　㊀白い光をした彗星の名。〔晉書、天文志中〕太白散爲㆓天杵・天柎・伏靈、云云、白彗㆒。㊁藥草の名。茯苓（**9－30906··2**）に同じ。〔史記、龜策傳〕下有㆓伏靈㆒、上有㆓兔絲㆒。

【伏歷】195 フクレキ　伏櫪に同じ。〔漢書、李尋傳〕馬不㆑伏㆑歷、不㆑可㆓以趨㆒㆑道。〔注〕師古曰、伏㆑歷、謂㆘伏㆓槽歷㆒而秣㆖㆑之也。〔漢書、梅福傳〕雖㆑有㆓景公之位、伏歷千駟㆒、臣不㆑貪也。

【伏櫪】196 フクレキ　馬が廐の中に伏してゐること。馬が飼はれてゐること。又、その馬。又、人が雌伏するのに喩へる。櫪は、廐のねだ板。〔漢紀、孝成紀二〕雖㆑有㆓齊景之位、伏櫪千駟㆒、臣不㆑貪也。〔魏武帝、碣石篇〕老驥伏㆑櫪、志在㆓千里㆒。〔杜甫、高都護驄馬行〕雄姿未㆑受伏櫪恩、猛氣猶思戰場利。

【伏籠】197 フセゴ　薰爐の上に伏せ、上に衣などをかけて薰物の香を焚き染めるに用ひる籠。〔狹衣、三、上〕ふせご數多して。

【伏窩】198 fu^2 wo^1　鳥が卵をあたためること。伏㆑卵。

【設㆑伏】199 フクヲマウク　伏兵をおく。〔漢書、藝文志〕出㆑奇設㆑伏、變詐之兵竝作。

【伏愚子】200 フクグシ　三國蜀、譙周（**10－35976··14**）の號。

【伏扣子】201 fu^2 $k'ou^4$ $tz\breve{u}$　春は繭で、夏に蛾となつて抜けでたもの。

【伏侯注】202 フクコウチユウ　後漢の伏無忌の作つた古今注。古今注（**2－3233··163**）を見よ。〔後漢書、伏湛傳〕元嘉中、桓帝復詔㆓無忌、與㆓黃景崔寔等㆒共撰㆓漢記、又自采㆓集古今、刪㆓著事要、號曰㆓伏侯注㆒。〔注〕其書、上自㆓黃帝、下盡㆓漢質帝、爲㆓八卷、見㆑行㆓於今㆒。

【伏上水】203 fu^2 $shang^4$ $shuei^3$　權貴な人に媚びへつらふこと。

【伏繩目】204 フシナハメ　紺・白・藍の三色を並べ、繩を重ね伏せた形に染めた革。〔保元物語、白河殿攻落事〕伏繩目の腹卷。

【伏敵門】205 フクテキモン　筑前の箱崎八幡宮の門をいふ。醍醐天皇御宸筆の敵國降伏の四字が額に刻んで拓臨して揭げてあるからいふ。〔廣瀨淡窓、筑前城下作詩〕伏敵門頭浪拍㆑天、當時築石自依然。

【伏菟野】206 フトノ　紀伊國の地名。

【伏不鬬】207 フクフトウ　後漢の伏完（40）をいふ。

【伏無忌】208 フクブキ　後漢の人。湛の玄孫。侯爵を嗣ぎ、順帝の時、侍中屯騎校尉となる。詔を受けて黃景と共に五經・諸子百家の藝術を校定し、更に桓帝の時、詔により黃景・崔寔等と共に伏侯古今注を著はす。〔後漢書、五十六〕。

【伏曼容】209 フクマンヨウ　梁の人。滔の曾孫。字は公儀。易學に通じ、宋齊二國に歷仕して後、梁の司馬となり、臨海太守に終る。著に周易・毛詩・喪服の集解、及び老・莊・論語の義がある。〔梁書、四十八〕・〔南史、七十一〕。

【伏熊軾】210 フクユウシヨク　伏した熊の飾のある軾。〔後漢書、輿服志上〕倚鹿較、伏熊軾。

【伏熊枕】211 フクユウチン　枕の一種。唐の韋后の妹が作つたもの。〔唐書、五行志一〕韋后妹爲㆓豹頭枕㆒、以辟㆑邪、白澤枕以辟㆑魅、伏熊枕以宜㆑男。

【伏原佩蘭】212 フクハライラン　京都の人。本姓は淸原。名は宣條。號は佩蘭。字は條子。官は桃園天皇の侍讀・明經博士・少納言。正二位。寬政二年九月十七日歿す、年七十一。著に古文孝經・正本尙書・正本毛詩鄭箋・正本倭漢善行錄がある。〔近代著述目錄後篇〕。

【伏而咶㆑天】213 フシテテンヲナム　下を向いて天をなめる。事の遠く離れて及ばない喩。〔荀子、仲尼〕是猶㆔伏而咶㆑天、救㆑經而引㆓其足㆒也。〔注〕咶、與㆑舐同、伏而咶㆑天、愈益遠也。

【伏章申表】214 フクシヤウシンペウ　天帝に奉る表文を奏すること。〔紅樓夢、十四回〕那道士們、正伏章申表。

【伏獵侍郎】215 フクレフジラウ　唐の戶部侍郎蕭炅が文字に闇くて、伏臘と伏獵とを誤つた爲に此の嘲を得た。〔舊唐書、嚴挺之傳〕蕭炅爲㆓戶部侍郎㆒、嘗與㆓挺之㆒同行㆓慶弔㆒、客次有㆓禮記㆒、蕭炅讀㆑之曰、蒸嘗伏獵、炅早從㆑官無㆓學術㆒、不㆑識㆓伏臘之意㆒、誤讀㆑之、云云、挺之白㆓張九齡㆒曰、省中豈有㆓伏獵侍郎㆒。

【伏古敦可汗】216 フクコトンカカン　蠕蠕第七代の王。名は豆崙。大檀牟汗紇升蓋可汗四代の孫。北魏の高祖孝文帝の太和九年に、父の受羅部眞可汗予成の後を承けて立ち、太平と改元す。高車の阿伏至羅と戰つて敗れた時、平素彼の殘虐好殺の性を惡んでゐた部衆の爲に殺された。〔魏書、一百三〕・〔北史、九十八〕。

【伐】439

ハツ　ボチ　慣バツ　〔集韻〕房越切　ㄈㄚˊ　$fa^{1\cdot2}$　月。

小篆

㊀**うつ。たたく。**〔說文〕伐、擊也、从㆓人持㆒㆑戈。〔詩、小雅、采芑〕伐㆑鼓淵淵。〔禮、郊特牲〕伐㆑鼓何居。〔注〕伐、猶㆑擊也。㊁**うつ。**㋑敵國を攻めうつ。〔孟子、告子下〕天子討而不㆑伐。〔注〕伐者、敵國相征伐也。〔史記、孔子世家〕附㆓於晉㆒、則楚來伐。㋺鐘鼓を用ひてうつ。〔詩、商頌、殷武〕奮伐㆓荊楚㆒。〔箋〕有㆓鍾鼓㆒曰㆑伐。〔周禮、夏官、大司馬〕以㆓九伐之灋㆒正㆓邦國㆒。〔左氏、莊、二十九〕凡師有㆓鐘鼓㆒曰㆑伐。㋩つみする。罪を明かにしてうつ。〔春秋本義引陸希聲左傳通例〕聲㆑罪致㆑討曰㆑伐。㋥やぶる。攻め入つて破壞する。〔說文〕伐、一曰、敗也。〔段注〕攴部曰、敗者、毀也。〔穀梁、隱、五〕斬㆓樹木㆒壞㆓宮室㆒曰㆑伐。㊂**殺す。さす。**〔廣雅、釋詁一〕伐、殺也。〔書、牧誓〕不㆑愆㆓於四伐五伐六伐七伐㆒。〔傳〕伐、謂㆓擊刺㆒。〔荀子、議兵〕堯伐㆓驩兜㆒。㊃**きる。**〔說文〕伐、亦斫也。〔詩、周南、汝墳〕伐㆓其條枚㆒。〔詩、小雅、伐木〕伐㆑木丁丁。〔呂覽、上農〕山不㆓敢伐㆑材下㆑木。㊄**なじる。**〔廣川題跋〕黨學相伐。㊅**いさを。てがら。**〔左氏、莊、二十八〕且旌㆓君伐㆒。〔注〕伐、功也。〔史記、高祖功臣侯者年表〕古者人臣、功有㆓五品㆒、云云、明㆓其等㆒曰㆑伐、積㆑日曰㆑閱。㊆**うるはしい。**〔小爾雅、廣詁〕伐、美也。㊇**ほこる。**〔書、大禹謨〕汝惟不㆑伐。〔傳〕自功曰㆑伐。〔論語、憲問〕克伐怨欲。〔集解〕馬融曰、伐、自伐㆓其功㆒。㊈**とる。**〔老子、二十二〕不㆓自伐㆒、故有㆑功。〔河上公注〕伐、取也。㊉**結婚の媒介をする。**〔太平廣記〕以㆔韓有㆓同姓之親㆒作㆑伐。(十一)**たて。兵器。**〔詩、秦風、小戎〕蒙伐有㆑苑。〔傳〕伐、中干也。〔釋文〕伐、本或作㆑瞂。(十二)**星の名。**茷（**9－30916**）に通ず。〔說文通訓定聲〕伐、叚借爲㆑茷。〔周禮、考工記、輈人〕熊旂六斿、以象㆑伐也。〔注〕伐、屬㆓白虎宿㆒、與㆑參連㆑體而六星。〔晉書、天

文志〕四曰、伐星、主二天理一伐二無道一。㊀おこす。すきおこした土。發(7－22669)に通ず。〔說文通訓定聲〕伐、段借爲レ發。〔周禮、考工記、匠人〕一耦之伐、廣尺深尺、謂二之甽一。㊀みだれる。もとる。悖(4－10663)に通ず。〔說文通訓定聲〕伐、段借爲レ悖、詩、賓之初筵、是謂二伐德一、按、亂也。㊁ひるがへるさま。茂(9－30916)に通ず。〔詩、魯頌、泮水、其旂茂茂、釋文〕伐、本又作レ茂。㊂或は閥(1－976)に作る。〔集韻〕伐、或作レ閥。㊃姓。〔張澍、姓氏五書〕周時有二伐子一、必以レ有二戰伐之功一、因爲レ氏。

名乘　ノリ。

解字　會意。人と戈との合字。人が戈を持つ形。故に擊つこと・たたくこと。それより征伐の意となる。〔說文、伐、段注〕傳皆曰、擊也、云云、按、此伐之本義也、引伸之、乃爲二征伐一。

【伐閱】1(バツエツ)　功勞と經歷。又、其の家がら。閱閱。〔史記、高祖功臣侯者年表序〕古者人臣、功有二五品一、以レ德立二宗廟一、定二社稷一、曰レ勳、以レ言曰レ勞、用レ力曰レ功、明二其等一、曰レ伐、積レ日曰レ閱。〔漢書、車千秋傳〕千秋無二他材能術學一、又無二伐閱功勞一。〔注〕師古曰、伐、積功也、閱、經歷也。

【伐柯】2(バツカ)　㊀斧の柄にする木をきる。其の太さ長さは、持つてゐる斧の柄を手本とすればよいのであつて、人の手本とすべきものも眼前にある、遠く求めるに及ばないといふ喩。〔詩、豳風、伐柯〕伐レ柯伐レ柯、其則不レ遠。〔箋〕則、法也、伐レ柯者、必用レ柯、其大小長短、近取二法於柯一、所謂不二遠求一也。〔中庸〕詩云、伐レ柯伐レ柯、其則不レ遠、執レ柯以伐レ柯、睨而視レ之、猶以爲レ遠。㊁媒介。伐柯人を見よ。㊂詩經、豳風の篇名。周公を嘆美した詩。〔詩、豳風、伐柯序〕伐柯美二周公一也、周大夫刺二朝廷之不一レ知也。

【伐柯人】3(バツカジン)　媒介をいふ。詩經、豳風、伐柯の、柯を伐るには如何、斧に匪ざれば克はず、妻を取るには如何、媒に匪ざれば克はずの句に本づく。〔詩、豳風、伐柯〕伐レ柯如何、匪レ斧不レ克、取レ妻如何、匪レ媒不レ得。〔夢粱錄、嫁娶〕其伐柯人、兩家通報、擇レ日過レ帖、各以二色綵襯盤一、安二定帖送過一、方爲二安論一、然後男家擇二日備一酒禮一、詣二女家一、或借二園圃一、或湖舫內、兩親相見、謂二之相親一。

【伐害】4(バツガイ)　そこなふ。殺す。〔鬼谷子、中經〕或當因免二闑坑一、或當レ伐二害能言一。

【伐交】5(バツカウ)　戰ふとき、先づ敵の友國を伐つて其の勢力を殺ぐこと。〔孫子、謀攻〕上兵伐レ謀、其次伐レ交。〔集注〕李筌曰、伐二其始交一也。

【伐蛟】6(バツカウ)　洪水の害を去ること。古は、洪水は蛟が地中から出ようとする時に起ると考へたので、洪水を治めるのに、蛟を掘つて去るといふ。〔禮、月令〕季夏之月、命二漁師一、伐レ蛟取レ鼉、登レ龜取レ黿。〔呂覽、季夏〕令二漁師一伐レ蛟取レ鼉、升レ龜取レ黿。

【伐檗】7(バツカク)　伐檗の誤といふ。伐檗は、太鼓を打つ。〔荀子、正論〕代檗而食。〔集解〕劉台拱曰、代檗當爲二伐檗一、主術訓注、引二詩鼓鐘伐レ鼛、考工記韗人、作二檗鼓一。

【伐鼛】8(バツカウ)　太鼓をうつ。鼛は長さ一丈二尺ある鼓。伐檗。〔詩、小雅、鼓鍾〕鼓レ鍾伐レ鼛。〔傳〕鼛、大鼓也。

【伐器】9(バツキ)　攻伐の器械。兵器。〔楚辭、天問〕爭遣二伐器一、何以行レ之。〔注〕伐器、攻伐之器也。

【伐矜】10(バツキヨウ)　ほこる。〔管子、重令〕便辟伐矜之人、將二以此貿一譽成一名。

【伐形】11(バツケイ)　敵から伐たれるらしい形勢。〔史記、韓世家〕有二伐形一、因發二兵、言一救レ韓。

【伐擊】12(バツゲキ)　伐つ。〔白虎通、誅伐〕伐者何、謂二伐擊一也。

【伐鼓】13(バツコ)　つづみをうつ。〔詩、小雅、采芑〕伐レ鼓淵淵、振旅闐闐。〔禮、郊特牲〕二日伐レ鼓所居。

【伐功】14(バツコウ)　鹽鐵論の篇名。

【伐國】15(バツコク)　國を伐つ。〔左氏、昭、四〕召二諸侯一而來、伐レ國而克。〔穀梁、隱、五〕伐レ國不レ言レ圍レ邑。〔漢書、董仲舒傳〕吾聞、伐レ國不レ問二仁人一、此言何爲至二於我一哉。

【伐採】16(バツサイ)　木などをきりとる。〔論衡、超奇〕與二彼草木不一レ能二伐採一實也。

【伐材】17(バツザイ)　㊀材木をきる。〔呂覽、上農〕山不二敢伐一レ材下レ木、澤人不二敢灰僇一。㊁物に馴れる。玄人。伐山(20)を見よ。

【伐罪】18(バツザイ)　罪を責める。處罰する。〔左氏、哀、二十三〕以レ辭伐レ罪足矣、何必卜。〔沈約、應詔樂遊苑餞二呂僧珍一詩〕伐レ罪芒山曲、弔レ民伊水滸。〔千字文〕弔レ民伐レ罪。

【伐殺】19(バツサツ)　伐ち殺す。〔後漢書、章帝紀〕方春所レ過、無レ得二有一所二伐殺一。

【伐山】20(バツザン)　始めて山に斧を入れることから、物の始、又、しろうとをいふ。伐材(17)の對。〔王公四六話〕四六有二伐山語一、伐材語一、伐材語者、如二已成之柱桷一、略加二繩削一而已、伐山語者、則搜レ山開レ荒、自レ我取レ之、伐材、謂二熟事一也、伐山、謂二生事一也。

【伐取】21(バツシユ)　伐りとる。〔馬融、長笛賦〕逮二乎其上一、匍匐伐取。

【伐生】22(バツセイ)　生命をたつ。〔管子、海王〕吾欲レ藉二於樹木一、管子對曰、此伐レ生也。〔管子、輕重甲〕管子對曰、不可、是伐レ生也。

【伐星】23(バツセイ)　星の名。字解の㊀を見よ。

【伐射】24(バツセキ)　伐ち射る。攻め射つ。〔漢書、天文志〕枉矢所レ觸、天下之所二伐射一、滅亡象也。

【伐善】25(バツゼン)　己の善にほこる。自己の長所を誇る。〔論語、公冶長〕願無レ伐レ善、無レ施レ勞。〔集注〕伐、誇也、善、謂二有能一。

【伐賊】26(バツゾク)　賊をうつ。〔諸葛亮、後出師表〕知二臣伐レ賊才弱敵強一也。

【伐檀】27(バツダン)　詩經、魏風の篇名。在位者が功なくして祿を受けるのを刺つた詩。〔詩、魏風、伐檀序〕伐檀、刺レ貪也、在位貪鄙、無レ功而受レ祿、君子不レ得二進仕一爾。〔司馬相如、上林賦〕悲二伐檀一、樂二樂胥一。

【伐檀齋】28(バツダンサイ)　明、張元凱(4－9812‥1003)の號。

【伐檀集】29(バツダンシフ)　書名。詩一卷・文一卷。宋、黃庶撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【伐檀齋集】30(バツダンサイシフ)　書名。十二卷。明、張元凱撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【伐斷】31(バツダン)　たち伐る。〔漢書、五行志中之下〕山陽橐茅鄉社有二大槐樹一、吏伐二斷之一、其夜、樹復立二故處一。

【伐地】32(バツチ)　地名。西域記に、戊地を伐地に作る。戊地(5－11532‥3)を見よ。

【伐知】33(バツチ)　知にほこる。〔國語、晉語六〕伐レ知而多レ力、怠レ教而重レ斂。

【伐德】34(バツトク)　德を害ふ。〔詩、小雅、賓之初筵〕醉而不レ出、是謂伐レ德。〔集傳〕伐、害。

【伐那】35(ヴァナ)　地名。ブルガリヤの黑海西岸に在る港市。Varna の音譯。

【伐伐】36(バツバツ)　旗のひるがへるさま。茂茂。〔詩、魯頌、泮水、其旂茂茂、釋文〕伐、本又作レ茂。〔集傳〕茂茂、飛揚也。〔羣經音辨、三〕其旂伐伐、伐伐、旂貌也。

【伐叛】37(バツハン)　叛くものを伐つ。〔劉琨、勸進表〕柔レ服以レ德、伐レ叛以レ刑。〔注〕良曰、叛、亂也。

【伐氷】38(バツヒヨウ)　氷切り。氷を斫りとること。伐氷之家を見よ。

【伐氷之家】39(バツヒヨウノイヘ)　卿大夫以上の貴い家。古時、卿大夫以上の家では、喪祭に氷を使用したからいふ。〔大學〕伐氷之家、不レ畜二牛羊一。〔注〕伐氷之家、卿大夫以上、喪祭用レ冰。〔後漢書、馮衍傳下〕夫伐氷之家、不レ利二雞豚之息一。

【伐謀】40(バツボウ)　敵の計畫を破ること。敵の計の成らぬ中に伐つこと。〔孫子、謀攻〕上兵伐レ謀、其次伐レ交。〔集注〕曹操曰、敵始有レ謀、伐レ之易也、李筌曰、伐二其始謀一。

【伐木】41(バツボク)　㊀木をきる。〔詩、小雅、伐木〕伐木丁丁、鳥鳴嚶嚶。〔國語、晉語一〕伐レ木不レ自二其本一、必復生。〔晏子、諫下〕伐レ木不レ自二其根一、則擊又生也。〔傅亮、爲二宋公一至二洛陽一謁二五陵一表〕伐レ木通レ徑。㊁詩經、小雅、鹿鳴之什の篇名。朋友故舊をいたはる詩。〔詩、小雅、伐木序〕伐木、燕二朋友故舊一也、自二天子一至二于庶人一、未レ有二不レ須レ友以成者一、親親以睦、友賢不レ棄、不レ遺二故舊一、則民德歸レ厚矣。

【伐木友生之義】42(バツボクイウセイノギ)　詩經、小雅、伐木の詩から出て、朋友の道をいふ。伐木の㊁を見よ。〔魏志、陳思王植傳〕下思二伐木友生之義一、終懷

蓼莪罔極之哀㆒。

【伐木丁丁山更幽】43 バツボクタウタウトシテヤマサラニシヅカナリ 木をきる音の響が山の靜けさを一段と深める。深山の幽趣を賞する句。〔杜甫、題㆓張氏隱居㆒詩〕春山無㆑伴獨相求、伐木丁丁山更幽、澗道餘寒歷㆓冰雪㆒、石門斜日到㆓林丘㆒、不㆑貪夜識㆓金銀氣㆒、遠㆑害朝看㆓麋鹿遊㆒、乘㆑興杳然迷㆓出處㆒、對㆑君疑是泛㆓虛舟㆒。

【伐滅】44 バツメツ 伐ち滅ぼす。〔漢書、張良傳〕今秦無道、伐㆓滅六國㆒、無㆓立錐之地㆒。

【伐櫓】45 バツロ 盾(8－23171)の異名。〔詩、秦風、小戎、蒙伐有㆑苑、傳、伐中干也、疏〕左傳說、狄虒彌建㆓大車之輪㆒、而蒙㆑之以㆑甲、以爲㆑櫓、櫓、是大盾、故以㆑伐爲㆓中干㆒、干伐、皆盾之別名也。

【不㆑伐】46 ホコラズ 功名に誇らない。〔論語、雍也〕孟之反不㆑伐、奔而殿。〔集解〕孔安國曰、不㆑伐者、不㆔自伐㆓其功㆒。

【不㆑伐不㆑德】47 ホコラズトクトセズ 己の功勞に誇らない。〔易、繫辭上〕子曰、勞而不㆑伐、有㆑功而不㆑德、厚之至也、謂㆘以㆓其功㆒下㆑人者㆖也。

【伐烏林】48 バツウリン ❶樂府、吳鼓吹曲の名。吳、韋昭作。魏の武帝が荊州を破り、流に順つて東下の際、吳の孫權が周瑜に命じ、之を烏林に擊つて走らしめた事を歌ふ。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、吳鼓吹曲、伐烏林〕古今樂錄曰、伐烏林者、言㆘魏武既破㆓荊州㆒、順㆑流東下、欲㆓來爭㆑鋒、孫權命㆓將周瑜㆒、逆㆓擊之於烏林㆒、而破走㆖也、當㆓漢上之回㆒。〔韋昭、伐烏林〕曹操北伐拔㆓柳城㆒、乘㆑勝席捲遂南征、劉氏不㆑睦、八郡震驚、衆既降、操屠㆑荊、舟車十萬揚㆓風聲㆒、議者狐疑慮㆑無㆑成、賴㆓我大皇㆒發㆓聖明㆒、虎臣雄烈周與㆑程、破㆓操烏林㆒、顯㆓章功名㆒。❷fa^{1} wu^{1} lin^{2} ヴァイオリンの音譯。

【伐休王】49 バツキウワウ 新羅第九代の王。一に發暉に作る。脫解王子仇鄒角干の子。母は金氏、只珍內禮婦人。風雲を占ひ、水旱及び年の豐凶を豫知し、人の邪正を知つたので、世に聖名があつた。在位十三年にして崩ず。〔三國史記、二〕

【伐闍羅】50 バジャラ バザラ 佛 Vajra の音譯。金剛(11－40152··109)に同じ。〔大唐西域記、九、摩揭陁國下〕其王之子伐闍羅、唐言㆓金剛㆒。〔黃庭堅、十六羅漢贊〕我今稽㆓首伐闍羅㆒、是眞離欲阿羅漢。

【伐臘毘】51 ヴァラビー Valabhī の音譯。西印度にあつた國の名。一に跋臘毘に作る。佛法が盛で、六世紀の初頃、此所で大結集が行はれた。耆那教も弘く行はれてゐた。今のカーティアーワール半島の東部。〔大唐西域記、十一、伐臘毗國〕周六千餘里、大都城周三十餘里、土地所㆑產、氣序所㆑宜、風俗人性、同㆓摩臘婆國㆒、居人殷盛、家室富饒、積財百億者、乃有㆓百餘室㆒矣、遠方奇貨、多聚㆓其國㆒、伽藍百餘所、僧徒六千餘人、多學㆓小乘正量部法㆒、天祠數百、異道寔多、如來在世屢遊㆓此國㆒、故無憂王於㆓佛所㆑止皆樹㆓旌表㆒、建㆓窣堵波㆒、過去三佛坐、及經行說法之處、遺跡相閒。

【伐性之斧】52 バッセイノヲノ 性命を斷つ斧。人の心を蕩す女色や僥倖などをいふ。〔韓詩外傳、九〕徼幸者、伐㆑性之斧也、嗜慾者、逐㆑禍之馬也。〔呂覽、本性〕靡曼皎齒、鄭衞之音、務以自樂、命㆑之曰㆓伐性之斧㆒、三患者、富貴之所㆑致也。〔枚乘、七發〕且夫出輿入輦、命曰㆓蹷痿之機㆒、洞房清宮、命曰㆓寒熱之媒㆒、皓齒娥眉、命曰㆓伐性之斧㆒、甘脆肥醲、命曰㆓腐腸之藥㆒。

【伐毛洗髓】53 バツマウセンズイ けがれを滌ひ去ることをいふ。仙人黃翁が髓まで洗ひ、毛まで伐つた故事。〔洞冥記〕東方朔遊㆓鴻濛之澤㆒、有㆓黃翁㆒、告㆑朔曰、吾卻㆑食吞㆑氣、已九千餘歲、目中瞳子、色皆青光、能見㆓幽隱之物㆒、三千歲、一反㆑骨洗㆑髓、二千歲、一剝㆑骨伐㆑毛、自㆓吾生㆒、已三洗㆑髓、五伐㆑毛矣。

【休】440

小篆

㊀キウ ク 〔集韻〕虛尤切 ㄒㄧㄡ hsiu^{1} 尤
㊁ク 〔集韻〕吁句切 遇

㊀❶**やすむ**。㋑いこふ。やすませる。〔說文〕休、息止也、從㆓人依㆑木。〔爾雅、釋詁〕休、息也。〔左氏、襄、二十八〕吾乃休㆓吾民㆒矣。〔注〕休、息也。〔穆天子傳、二〕休㆓羣玉之山㆒。〔注〕休、遊息也。㋺業をしない。〔禮、月令〕季秋之月、霜始降、則百工休。㋩ねる。〔道德指歸論〕暮休早起。❷**やむ**。**やめる**。〔左氏、昭、二十七〕休㆓公徒之怒㆒。〔注〕休、息也。〔呂覽、觀表〕未㆓嘗休㆒也。〔注〕休、止也。〔杜甫、旅夜書懷詩〕名豈文章著、官應㆓老病㆒休。❸**つづまやか**。〔爾雅、釋訓〕瞿瞿休休、儉也。〔注〕皆良士節儉。❹**やすみ**。〔正字通〕休、休沐、言㆓休假㆒也、一曰㆓下沐㆒、一曰㆓旬休㆒、唐法、旬休者、一月三旬、遇㆑旬則休沐、卽十日一洗沐也。❺**いとま**。**ひま**。賜暇。〔後漢書、蔡邕傳〕長休百日。〔注〕休、假也。〔宋史、韓贄傳〕退休十五年。❻**よい**。**うるはしい**。**大きい**。**さかん**。〔爾雅、釋詁〕休、美也。〔集韻〕休、善也。〔書、武成〕俟㆓天休命㆒。〔詩、大雅、江漢〕對㆓揚王休㆒。〔詩、周頌、載見〕休有㆓烈光㆒。〔蜀志、楊戲傳〕允休允烈。❼**さいはひ**。**よろこび**。**よろこぶ**。福祿。喜(2－3957)に通ず。〔說文通訓定聲〕休、叚借爲㆑喜、休喜一聲之轉。〔爾雅、釋言〕休、慶也。〔廣雅、釋詁一〕休、喜也。〔詩、商頌、長發〕何㆓天之休㆒。〔左氏、襄、二十八〕以㆑禮承㆓天之休㆒。〔注〕休、福祿也。〔國語、周語中〕以承㆓天休㆒。〔注〕休、慶也。〔國語、周語下〕爲㆑晉休戚。〔注〕休、喜也。❽**やすい**。**ゆるい**。**ひろい**。寬大。〔書、秦誓〕其心休休焉。〔鄭注〕休休、寬容貌。〔書、周官〕作㆑德、心逸日休。〔詩、小雅、菁菁者莪〕我心則休。❾**ゆるす**。**なだめる**。〔書、呂刑〕雖㆑休勿㆑休。〔鄭注〕休、宥㆑之也。❿**さだまる**。**さだめる**。〔詩、大雅、民勞〕汔可㆓小休㆒。〔傳〕休、定也。⓫**もとる**。〔爾雅、釋言〕休、戾也。⓬**實のない李**。〔爾雅、釋木〕休、無㆑實李。⓭**人形芝居**。〔正字通〕休、方言、稱㆓傀儡戲㆒曰㆑休、亦曰㆓提休㆒。⓮**やめよ**。**なかれ**。禁止の辭。〔杜甫、諸將詩〕休㆑道秦關百二重。〔李商隱、寄㆓令狐郎中㆒詩〕休㆑問梁園舊賓客。⓯**離別する**。休棄(31)を見よ。⓰或は庥(4－9311)・茠(9－30882)に作る。〔說文〕休、庥、休或从㆑广。〔爾雅、釋言〕庥、蔭也、〔釋文〕字又作㆑休。〔集韻〕休、或从㆑广、从㆑艸。⓱**城の名**。山東省滕縣の西。〔山東通志〕孟子去㆑齊居㆑休、漢楚元王子富、封爲㆓休侯㆒、卽此。⓲**姓**。〔史記、惠景閒侯者年表〕休、楚元王子侯。㊁❶**あたためる**。煦(7－19225)・呴(2－3457)に通ず。〔說文通訓定聲〕休、叚借爲㆑煦、休煦一聲之轉。〔集韻〕呴、氣以溫㆑之也、或作㆑休。〔周禮、考工記、弓人〕㷼㆓於㓷㆒而休㆓於氣㆒。〔注〕休、讀爲㆑煦。❷**痛み念ずる聲**。**なげく**。**いたむ**。〔左氏、昭、三〕民人痛疾、而或燠㆓休之㆒。〔注〕燠休、痛念聲。〔魏志、蔣濟傳〕先料㆓其民力㆒、而燠㆓休之㆒。

名乘 ヨシ。ヤス。ノブ。

解字 會意。人と木との合字。人が木蔭に依る形。故にやすむこと。それから暇（いとま）の意とし、假借して、美也、喜也とし、又、煦とする。休休と重ねて寬容の貌とする。

【休已】1 キウイ やめる。〔戰國、魏策〕人民之衆、車馬之多、日夜行不㆓休已㆒、無㆔以異㆓於三軍之衆㆒。

【休意】2 キウイ 心をやすめる。休神。〔張祜、秋霽詩〕垂㆑老歸休㆑意、棲棲陋巷中。

【休懿】3 キウイ さかん。うるはしいこと。〔風俗通、十反〕咨嘉㆓休懿㆒、相㆓授歲貢㆒。

【休佑】4 キウイウ よいさいはひ。しあはせ。吉祥。〔班固、西都賦〕禮㆓上下㆒而接㆓山川㆒、究㆓休佑之所㆑用。〔注〕銑曰、佑、福也。

【休猷】5 キウイウ 南朝宋、陸徽(11－41708··57)の字。

【休因】6 隋、長孫覽(11－41100‥603)の字。
【休羽】7 草の名。はまびし。疾藜(9－31622‥2)の異名。〔本草、疾藜〕釋名、茨、旁通、屈人、止行、休羽、升推。
【休映】8 梁、江革(6－17140‥61)の字。
【休詠】9 よい歌。〔劉琨、勸進表〕宣王之興、周詩以爲二休詠一。
【休哉】10 hsiu¹ yao¹ 云云するな。
【休奕】11 晉、傅玄(1－939‥49)の字。
【休謁】12 休暇を賜はること。賜暇。〔漢書、楊敞傳〕其疾病休謁洗沐、皆以二法令一從レ事。
【休延】13 太平の世。〔魏書、高允傳〕屬二休延之會一、應二旌弓之擧一。
【休宴】14 休み息ふ。〔范成大、大暑舟行含山道中雨驟至云云詩〕水車競施行、歲事敢休宴。
【休假】15 やすみふす。やすむ。いこふ。〔唐書、崔元綜傳〕坐二政事堂一束帶、終日不二休偃一。
【休淵】16 南朝宋、劉湛(2－2224‥286)の字。
【休園】17 清、鄭俠如(11－39647‥359)の號。
【休遠】18 字號。❶南朝宋、劉劭(2－2224‥435)の字。❷梁、王茂(7－20823‥1007)の字。❸明、圓復(8－4819‥173)の字。
【休應】19 事實となつてあらはれた、めでたいしるし。休徵。瑞應。〔魏志、管輅傳〕履レ道休應、非二筮之所一明也。〔唐書、五行志二〕武后以爲二休應一、名曰二慶山一。
【休下】20 官休日に、官省から私宅に歸ること。〔南史、江子一傳〕當朝休下之日、賓客輻湊。〔資治通鑑、梁紀〕〔武帝、大同五年〕每二休下一、車馬塡レ門。〔注〕休沐之日、自二省中一出還二私第一、爲二休下一。
【休假】21 やすみ。休暇。〔漢書、高帝紀上、嘗告歸之レ田、注〕孟康曰、古者、名二吏休假一曰レ告。〔南史、張敬兒傳〕每二休假一輒傭賃自給。
【休暇】22 やすみ。休假。休日。〔王勃、滕王閣序〕十旬休暇、勝友如レ雲、千里逢迎、高朋滿レ座。
【休暇事件】23 裁判所が、養子緣組・婚姻事件等の主なものに限り、七月十一日から九月十日までの夏期休暇中にも取扱つたもの。
【休嘉】24 善いこと。喜ばしいこと。祝福。嘉祥。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕休嘉砰隱溢二四方一。〔注〕師古曰、休、美也、嘉、慶也。〔申鑑、俗嫌〕咎徵不レ至、而休嘉集レ之、壽之術也。
【休行】25 立派な行爲。〔蔡邕、袁滿來碑文〕茂德休行、曰袁滿來、太尉公之孫、司徒公之子、逸才淑姿、實天所レ授。「る。
【休校】26 學校をやすむ。學校がやすみになること。又、生徒が暫く學問の研究をやめること。
【休學】27 事故のために暫く學問の研究をやめること。又、生徒が暫く登校しないこと。
【休刊】28 新聞雜誌などの發行を休むこと。
【休氣】30 よい氣。めでたい氣。瑞氣。〔白虎通、封禪〕陰陽和、萬物序、休氣充塞。
【休棄】31 姦通した場合、金を出させて其の關係を認め、許して離婚すること。休は離。〔明律、刑律、犯姦〕若買休人與二婦人一用レ計、逼二勒本夫一休棄、其夫別無二賣休之意一者不レ坐、買休人及婦人、各杖六十、徒一年。〔纂注〕休、離也、云云、若買休人與二婦人一用レ計逼二勒本夫一休棄、在二本夫別無一賣休之情一者、則不レ坐、買休人與二婦人一、各杖六十、徒一年。
【休歸】32 歸つて休む。歸休。〔莊子、徐無鬼〕舜擧二乎童土之地一、年齒長矣、聰明衰矣、而不レ得二休歸一、所謂卷婁者也。
【休休】33 ❶道を樂しんでやすらかなさま。〔詩、唐風、蟋蟀〕好レ樂無レ荒、良士休休。〔傳〕休休、樂レ道之心。〔後漢書、吳漢等傳贊〕宮俊休休。〔注〕詩曰、良士休休。❷心が寬いさま。一に、善を好むさま。〔書、秦誓〕其心休休焉、其如レ有レ容。〔鄭注〕休休、寬容貌。〔傳〕其心休休焉樂レ善。〔疏〕休休、好レ善之意。❸つつましやかなさま。〔爾雅、釋訓〕瞿瞿休休、儉也。❹美しく大きいさま。〔公羊、文、十二〕其心休休。〔注〕休休、美大貌。❺退き休む。休休休を見よ。❻クク氣の蒸發するさま。〔蘇軾、沐二浴啓聖僧舍一與二趙德麟一邂逅詩〕酒清不レ醉休休暖、睡穩如レ禪息息勻。
【休休(休)】34 唐の司空圖が退隱して、其の亭の楹に書きつけた語。休息して事をしない意。〔舊唐書、文苑下、司空圖傳〕晩年爲レ文、尤事二放達一、嘗擬二白居易醉吟傳一、爲二休休亭記一、曰、司空氏禎貽溪之休休亭、本名二濯纓亭一、爲二陝軍所レ焚、天復癸亥歲、復葺二於壞垣之中一、乃更名曰二休休休一。休也、美也、既休而具レ美存焉、蓋量其才、一宜レ休、揣二其分一、二宜レ休、老且聵、三宜レ休、又少而惰、長而率、老而迂、是三者、皆非レ濟時之用一、又宜レ休也、云云、題二於東北楹一曰、咄咄、休休休、莫莫莫、伎倆雖レ多性靈惡、賴レ是長教二閑處着一、休休休、莫莫莫、一局棊、一爐藥、天意時情可二料度一、白日偏催二快活人一、黃金難レ買堪レ騎レ鶴。
【休休散】35 湖湘地方で人を毒殺する藥の名。〔清異錄、蔬〕湖湘習下爲二毒藥一以中レ人、遇者無レ不レ赴二泉壤一、世人號爲二休休散一。
【休休子】36 字號。❶宋、石余亨(8－24024‥1044)の號。❷明、江淵(6－17740‥25)の號。
【休休亭】37 唐の司空圖の亭の名。休休休(34)を見よ。〔唐書、卓行、司空圖傳〕圖本居二中條山王官谷一、有二先人田一、遂隱不レ出、作二亭觀素室一、悉圖二唐興節士文人名一、亭曰二休休一。〔唐詩紀事、司空圖〕題二休休亭之楹一曰、云云。
【休咎】38 よろこびとわざはひ。禍福。吉凶。〔書、洪範〕曰休徵、云云、曰咎徵。〔漢書、劉向傳〕向見二尚書洪範、箕子爲二武王一、陳二五行陰陽休咎之應一。〔陸機、君子行〕休咎相乘躡、翻覆若二波瀾一。〔北史、李士謙傳〕積善餘慶、積惡餘殃、豈非二休咎一耶。
【休牛】39 軍用の牛を休める。戰爭をしない意。〔新序、善謀下〕休二牛於桃林一、以示レ不二復輸一糧。〔潘岳、西征賦〕聞二休牛之故林一、感徵名於桃園。〔注〕善曰、尚書武成曰、放二牛於桃林之野一、示二天下弗一レ服。〔郭璞、山海經桃林贊〕武王克レ商、休レ牛風レ馬。
【休享】40 立派な供物。又、それをすすめること。〔書、洛誥〕明禋拜手稽首休享。〔傳〕周公攝政七年、致二太平一、以二黑黍酒一二器一、明潔致レ敬、告二文武一、以美享、既告而致レ政、成王留レ之。
【休居】41 官職を辭して家に居る。致仕して家に居ること。〔韓非子、十過〕管仲老、不レ能レ用レ事、休居於家、桓公從而問レ之。〔商子、墾令〕休居不レ聽。
【休懼】42 嘉ミョシ懼れる。〔國語、楚語上〕休二懼其動一。〔注〕休、嘉也。
【休和】43 やすんじやはらぐ。〔左氏、襄、十三〕一人刑善、百姓休和。〔後漢書、孔融傳〕求二俗休和一、弗レ可レ得已。〔蔡邕、協和婚賦〕惟休和之盛代、男女得二乎年歯一。
【休回】44 hsiu¹ hui² 妻を離緣して里へかへす。
【休怪】45 hsiu¹ kuai⁴ ごめん。失禮。〔水滸傳、二回〕向前扶住道、休怪休怪。
【休會】46 會議を休む。
【休光】47 ❶立派ないさを。休烈。丕績。〔漢書、匡衡傳〕使下羣下得丙望二盛德休光一、以立乙基楨甲。〔韓愈、與二于襄陽一書〕能垂二休光一。❷うるはしい光。〔嵇康、琴賦〕吸二日月之休光一。〔注〕良曰、休、美也。
【休嵲】48 湖の名。四川省巴中縣にある。〔南史、謝靈運傳〕始寧有二休嵲湖一。
【休澣】48' 官吏の休暇。休沐(175)を見よ。〔鮑照、翫二月城西門廨中一詩〕休澣自レ公日、宴慰及二私辰一。
【休勳】49 立派ないさを。丕勳。〔班固、高祖沛水亭碑銘〕休勳顯祚、永永無疆。「字。
【休景】50 南朝宋、明帝(5－13805‥445)の祥慶。〔後漢書、馬融傳〕迎二和氣一、招二致休慶一。〔魏書、崔光傳〕咸致二休慶一。
【休慶】51 よろこび。目出度いこと。嘉慶。
【休憩】52 休み息ふ。休息。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕雖レ非二休憩地一、聊取二永日閑一。
【休憩所】53 休息所。やすみどころ。
【休憩時間】54 やすみの時間。
【休歇】55 やむ。やすむ。休止。〔蔡琰、胡笳十八拍〕覺二後痛一吾心兮、無二休歇時一。〔崔顥、江畔老人愁詩〕直言榮華未二休歇一、不レ覺山崩海將レ竭。
【休業】56 ❶しごとを休む。家業を休む。❷南朝宋、王素(7－20823‥709)の字。
【休業式】57 學校で學期末、休暇に入る時あげる式。
【休倦】58 飽いてやすむこと。〔晉書、姚興載

記下)奉レ旨求レ賢、弗二會休倦一。

【休堅】59 キウケン 字號。❶遼、耶律谷欲(9—29008‥78)の字。❷遼、耶律大悲奴(9—29008‥161)の字。

【休遣】60 キウケン 罪人をやすませ釋放する。〔後漢書、虞延傳〕除二細陽令一、毎レ至二歳時伏臘一、輒休二遣徒繫一、各使レ歸レ家、竝感二其恩德一、應レ期而還。

【休賢】61 キウケン 後魏、李柬(6—14459‥151)の字。

【休顯】62 キウケン ❶榮達する。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕出不二休顯一、賤不二憂戚一。❷うるはしく明かなこと。〔何晏、景福殿賦〕彰二天瑞之休顯一、照二遠戎之來庭一。〔注〕良曰、以彰三天瑞之休明、遠方之來二王庭一也。

【休元】63 キウゲン 三國蜀、馮習(12—44579‥89)の字。

【休玄】64 キウゲン 字號。❶南朝宋、褚湛之(10—34457‥45)の字。❷南朝宋、劉鑠(2—2224‥349)の字。

【休固】65 キウコ やすらかで堅固。〔宋史、樂志十〕神欽二奉儲一、休固太平。

【休祜】66 キウコ さいはひ。休禎。〔王韶之、宋宗廟開封府君歌〕不レ顯二洪烈一、永介二休祜一。

【休告】67 キウコク ❶官吏のやすみ。〔漢書、魏相傳〕休告從レ家還。〔謝朓、酬德賦〕排二重關一而休告、知二南館之有一レ依。❷辭職を願ひ出る。

【休溷】68 キウコン 戎狄の地名。〔史記、趙世家〕奄二有河宗一、至二于休溷諸貉一。〔注〕正義曰、自二河宗一休溷諸貉、乃戎狄之地也。〔風俗通、六國〕奄二有河室一、至二于休溷諸貉一。

【休坐】69 キウザ すわつて休む。〔莊子、漁父〕孔子遊二乎緇帷之林一、休二坐乎杏壇之上一。

【休妻】70 キウサイ 妻を離縁すること。休棄(31)を見よ。

【休哉】71 ヨイカナ 事をほめることば。又、吉慶の意。

【休齋】72 キウサイ 明、尤良(4—7543‥41)の號。

〖休齋居士〗73 キウサイコジ 宋、陳知柔(11—41698‥123)の號。

【休臧】74 キウザウ 前涼、氾禕(6—17101‥3)の字。

【休作】75 キウサク 仕事を休む。〔列女傳、母儀、魯母師傳〕臘日、休作者歳祀。

【休之】76 キウシ 唐、杜孺休(6—14477‥334)の字。

【休止】77 キウシ やむ。やすむ。休歇。休息。〔史記、文帝紀〕至二高陵一休止。〔易林、屯之第三、升〕勞二我君子一、役使休止。〔説苑、反質〕無レ所二休止一。

〖休止符〗78 キウシフ 樂譜に於て、樂曲の進行中に、音聲の休止を示す符號。

【休思】79 キウシ 休む。いこふ。思は息の誤ともいひ、又、助字ともいふ。〔詩、周南、漢廣〕南有二喬木一、不レ可二休息一、〔釋文〕休息並如レ字、古本皆爾、本或作二休思一、此以レ意改爾。〔傳〕思、辭也。〔韓詩外傳、一〕詩曰、南有二喬木一、不レ可二休思一、漢有二游女一、不レ可レ求思。

【休熾】80 キウシ 盛なこと。〔論衡、累害〕以二休熾之聲一、彌二口舌之患一。

【休字】81 ヤスメジ 文章中にあつて、特には意をあらはさない字。例へば、「名にしおはば」のしの字の如きもの。休辭。〔醒醉笑、七〕恐れはやすめ字、惜しいは定であらうぞ。

【休時】82 キウジ 休憩時間。〔莊子、則陽〕窮二困人之身一、使レ無二休時一。〔史記、貨殖傳〕日夜無二休時一。

【休辭】83 キウジ 休字(81)に同じ。

【休囚】84 キウシウ 時を失ふことをいふ。〔通俗編、祝誦、旺相〕俗語、以二凡得レ時爲二旺相一、失レ時爲二休囚一也。

【休秀】85 キウシウ 南朝宋、劉禕(2—2224‥11)の字。

【休愁】86 キウシウ 晉、柳隱(6—14662‥11)の字。

【休日】87 キウジツ やすみの日。休業日。〔唐書、裴寛傳〕會二休日一登レ樓、見二人於後圃一。

【休舍】88 キウシャ やすむ。休息。〔韓非子、説林下〕公奚不三休舍且待二後車一。〔史記、高祖紀〕欲レ止二宮休舍一。〔注〕正義曰、言下居二止宮殿中一而息上也。

【休祥】89 キウシャウ さいはひ。吉祥。〔書、秦誓中〕朕夢協二朕卜一、襲二于休祥一。〔史記、武帝紀〕厥維休祥。

【休若】90 キウジャク 後漢、荀衍(9—30929‥10)の字。

【休手】91 hsiu¹ shou³ 仕事の手を休める。

【休循】92 キウジュン 漢代、西域の國の名。〔漢書、西域上、休循國傳〕治二鳥飛谷一、在二葱嶺西一。

【休書】93 キウショ 夫から妻に出す離縁状。みくだり半。休は、妻を離別すること。休棄(31)を見よ。〔水滸傳、八回〕小人今日就二高鄰在レ此、明白立二紙休書一、任二從改嫁一、並無二爭執一。

【休緒】94 キウショ 三國蜀、董恢(9—31433‥53)の字。

【休如】95 キウジョ 清、鄂容安(11—39520‥55)の字。

【休承】96 キウショウ 字號。❶明、文嘉(5—13450‥79)の字。❷清、朱士彥(6—14424‥798)の字。

【休蹤】98 キウショウ 立派な功績。〔張華、晉四廂樂歌、食擧東西廂樂詩〕揚二芳烈一、播二休蹤一。

【休食】99 キウショク 休み食する。〔莊子、讓王〕春耕種、形足二以勞動一、秋收斂、身足二以休食一。

【休職】100 キウショク 官吏(又は公吏)が一時現職の服務を解除せられること。

【休神】101 キウシン 精神を休める。安心する。休意。〔淮南子、俶眞訓〕休二其神一者、神居レ之。

【休盛】102 キウセイ うるはしく盛なこと。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕遠方珍物、陳二于太廟一、德甚休盛。〔注〕師古曰、休、美也。

【休昭】103 キウセウ 三國蜀、董允(9—31433‥9)の字。

【休戚】104 キウセキ よろこんだり、うれへたりする。又、よろこびとうれへ。禍福。喜憂。休慼。〔國語、周語下〕爲レ晉休戚、不レ背レ本也。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕義等二休戚一、好同二興廢一。〔注〕向曰、義、善、戚、憂也。

【休慼】105 キウセキ よろこびとうれへ。休戚に同じ。〔晉書、溫嶠傳〕安危休慼、理既同レ之。

【休説】106 キウセツ 言ふことを止めよ。〔楊萬里、贈二劉景明來訪一詩〕交游存沒休休説、且爲二梅花一釂二玉缸一。

【休戰】107 キウセン 戰爭を休止する。又、敵味方が申し合はせて、ある期間いくさを中止すること。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕賊益畏憚、休レ戰築二長圍一環守。

【休然】108 キウゼン 晉、段灼(6—16619‥27)の字。

【休祖】109 キウソ 晉、繆胤(8—27855‥4)の字。

【休祚】110 キウソ ❶立派な位。〔後漢書、質帝紀〕詔曰、孝殤皇帝、雖レ不レ永二休祚一、而卽位踰レ年、君臣禮成。❷さいはひ。〔晉書、樂志〕本支奮二百世一、休祚鍾二聖躬一。〔陸雲、張侯頌〕休祚頻繁、寵靈仍世。

【休足】111 キウソク 足をやすめる。休息に同じ。〔史記、晉世家〕以二近易レ通、故且二休足一、休足久矣、固願レ徙二之大國一。

【休息】112 キウソク やすみいこふ。やすむ。又、其のこと。休憩。休思(79)を見よ。〔詩、周南、漢廣〕南有二喬木一、不レ可二休息一。〔禮、月令〕勞レ農以休二息之一。〔列子、周穆王〕多二馳歩一、少二休息一。〔荀子、成相〕擧二舜甽畝一、任二之天下一、身休息。〔商子、徠民〕安居而農、則敵得二休息一。〔史記、秦始皇紀〕不レ中レ呈、不レ得二休息一。〔淮南子、精神訓〕死乃休息也。〔漢書、昭帝紀贊〕輕レ繇薄レ賦、與レ民休息。

〖休息所〗113 キウソクジョ やすみの場所。〔蘇軾、喜雨亭記〕爲二亭於堂之北一、云云、以爲二休息之所一。

〖休息萬事〗113′ キウソクバンジ 萬事を休息す。一切の妄執の念を捨て去ること。〔景德傳燈錄、六〕。

【休族】114 キウゾク 北齊、盧文偉(8—23050‥286)の字。

【休惰】115 キウダ やすみおこたる。休怠。〔北史、齊高祖紀〕竇泰奄至二尒朱兆庭一、軍人因レ宴休惰、忽見二秦軍一驚走、追破二之于赤洪嶺一。

【休怠】116 キウタイ 休み怠る。休惰。〔左氏、昭、五〕滋敝邑休怠、而忘二其死一。

【休泰】117 キウタイ 南朝宋、王韶之(7—20823‥1803)の字。

【休退】118 キウタイ 休暇。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕且有二休退之日一。

【休臺】119 キウダイ 茶爐の具。

【休題】120 キウダイ 説くことをやめる。話を轉ずる。題は説く意。閑話休題。〔水滸傳、十回〕且把二閒話一休題、只説二正話一。

〖休題起〗121 hsiu¹ tʻi² chʻi³ 言ひ出す勿れ。問題として引出すなの意。

【休當】122 hsiu¹ tang³ 想像する勿れ。

【休道】123 キウダウ ❶言ふことをやめよ。言ふなかれ。〔廣瀨淡窓、桂林莊雜詠示二諸生一詩〕休レ道他鄉多二苦辛一、同袍有レ朋自相親。❷南朝宋、劉昶(2—2224‥494)の字。

【休澤】124 キウタク 立派なめぐみ。恩惠。〔韓愈、贈二崔復州一序〕慶二復人之將レ蒙二其休澤一也。

【休達】125 キウタツ 南朝宋、薛安都(9—32123‥137)の字。

【休祉】126 キウチ キウシ さいはひ。多福。〔後趙錄〕佛圖澄謂レ虎曰、國家心存二佛理一、建レ寺度レ僧、當レ蒙二休

祉一。〔梁武帝、卽位告天文〕克播ニ休祉一。

【休致】127 キウチ　官吏が老衰して官職を辭しやめること。休官致仕。〔王禹偁、高閑詩〕更待ニ吾家婚嫁了一、解レ龜休致未ニ全遲一。〔六部成語、吏部、休致、注解〕官員年老無レ用、則上官奏請、將ニ其休官致仕一、而仍留ニ其原來品級一。〔清國行政法汎論、官吏法、休致〕休致者、謂下官吏以ニ老衰不レ勝レ任去中其職上也。

【休暢】128 キウチヤウ　美しく榮える。のびのびする。〔李陵、答ニ蘇武一書〕榮問休暢、幸甚幸甚。〔注〕銑曰、休、美、暢、通也。〔水經、沔水注〕司馬德操、云云、望レ衡對レ宇、歡情自接、泛レ舟褰レ裳、率爾休暢。

【休場】129 キウヂヤウ　㊀工場・興行館などの休むこと。㊁興行に登場しないこと。

【休徵】130 キウチヨウ　㊀めでたいしるし。えんぎ。祥瑞。吉兆。休兆。〔書、洪範〕曰休徵、曰肅、時雨若。〔傳〕敍ニ美行之驗一。〔漢書、平帝紀贊〕休徵嘉應、頌聲竝作。〔班固、兩都賦、靈臺詩〕爰考ニ休徵一、三光宣レ精。〔後漢書、張奐傳〕順至爲ニ休徵一。〔晉書、伏滔傳〕懸象著明、而休徵表ニ於列宿一。㊁字號。㋑晉、王祥(**7－20823**‥528)の字。㋺北周、劉祥(**2－2224**‥338)の字。㋩明、張應治(**4－9812**‥836)の字。㊁明、李國祥(**6－14459**‥1242)の字。

【休寵】131 キウチヨウ　よいめぐみ。〔魏志、管輅傳〕安ニ百祿一、以光ニ休寵一。

【休貞】132 キウテイ　うるはしく正しい。貞吉。考ニ休貞一を見よ。

〖考ニ休貞一〗133 キウテイヲカンガフ　卜して貞吉を考へる。墓地を卜し擇ぶことをいふ。休は吉。〔陸機、挽歌詩〕卜擇考ニ休貞一、嘉命咸在レ茲。〔注〕翰曰、卜ニ擇葬地一、考ニ其貞吉一、嘉善之命、云レ在ニ此中一。

【休停】134 キウテイ　やすみとどまる。やすむ。〔晉書、范甯傳〕殆無ニ三日休停一。〔魏書、孝莊帝紀〕詔ニ群官一、休停在レ外者、皆令レ赴レ闕。

【休提】135 キウテイ　言いだす勿れ。提は提言すること。休題(120)を見よ。〔還魂記、悵眺〕韓兄、這長遠的事、休提了。

【休禎】136 キウテイ　さいはひ。休佑(4)に同じ。〔後漢書、陳蕃傳〕休禎符瑞、豈遠乎哉。

【休兆】137 キウテウ　めでたいしるし。休徵。〔全唐詩話〕聖人啓レ運、休兆必彰。

【休典】138 キウテン　立派な手本。美しい法則。〔漢書、韋玄成傳〕承ニ祖宗之休典一、取ニ象於天地一。〔注〕師古曰、休、美也、典、法也。

【休屠】139 キウト　㊀僧侶。佛陀。浮屠(**6－17487**‥212)に同じ。〔漢書、霍去病傳〕收ニ休屠祭ニ天金人一。〔注〕如淳曰、祭レ天以ニ金人一爲レ主也、張晏曰、佛徒祠ニ金人一也、師古曰、今之佛像是也。〔魚豢、魏略、西夷傳〕哀帝元壽元年、博士弟子景憲、受ニ大月氏王一、使ニ伊存口傳ニ休屠經一。㊁漢代、匈奴の王號。〔史記、匈奴傳〕渾耶王殺ニ休屠王一、幷將ニ其衆一降レ漢。〔漢武故事〕昆邪王殺ニ休屠王一、以ニ其衆一來降、得ニ其金人之神一、置ニ之甘泉宮一、金人皆長丈餘、其祭不レ用ニ牛羊一、惟燒レ香禮拜、上使下依ニ其國俗一祀上レ之。〔范雲、傚レ古詩〕夜薄ニ休屠營一。〔注〕良曰、休屠、皆戎狄之王號。㊂澤の名。今名は魚海。又、哈剌泊・玉海ともいふ。甘肅省鎭番縣の東北。蒙古阿剌善旗の內。書經禹貢の豬野。〔漢書、地理志下〕武威郡、武威、休屠澤在ニ東北一、古文以爲ニ豬壄澤一。〔清一統志〕三岔河自ニ鎭番東北一出レ邊、又三百餘里、瀦爲レ澤、方廣數十里、俗名ニ魚海子一、卽白亭海、古休屠澤也、去ニ涼州一殆五百里。㊃縣名　漢、置く。もと休屠王の地。今の甘肅省武威縣の北。〔漢書、地理志下〕武威郡、縣十、休屠。

【休圖】140 キウト　立派なはかりごと。良謨。〔南齊書、樂志〕北郊樂章、承ニ帝休圖一、祇敷ニ靈祉一。

【休度】141 キウド　南朝宋、劉宏(**2－2224**‥208)の字。

【休得】142 hsiu¹ tê²　必要としない。云云しない。

【休德】143 キウトク　㊀立派な德。美德。〔國語、齊語〕有功休德。〔楚辭、遠遊〕貴ニ眞人之休德一兮。〔史記、司馬相如傳〕奉ニ至尊之休德一。〔漢書、禮樂志〕安世房中歌十七章、其詩曰、大孝備矣、休德昭清、云云、慈惠所レ愛、美若ニ休德一。〔注〕師古曰、休亦美也。〔漢武帝、賢良詔〕彰ニ先帝之洪業休德一。㊁三國吳、謝淵(**10－35827**‥21)の字。

【休那】144 キウナ　清、姚康(**3－6202**‥21)の字。

【休納】145 キウナフ　縣名。本の休納城。元、置く。後、廢せられて新興州に入る。雲南省に屬す。今、玉溪縣と改名す。〔讀史方輿紀要、雲南、徵江府、新興州〕休納城、今州治、志云、昔有ニ強宗部蠻之裔一、長曰ニ部旁一、次曰ニ普舍一、部旁據ニ普具龍城一、亦名ニ休制部一、元初立ニ部旁千戶所一、至元七年、改爲ニ休納縣一、十三年、置ニ州於此一、尋省レ縣入レ州、明朝正德閒、始築ニ土城一。

【休寧】146 キウネイ　㊀やすんずる。〔史記、律書〕結レ和通レ使、休ニ寧北陲一。㊁縣名。隋の時、晉の海寧を改め稱す。今の安徽省歙縣の西。綠茶を產す。〔讀史方輿紀要、江南、徽州府〕休寧縣、本歙縣地、三國吳析ニ置休陽縣一、後以ニ景帝諱一、改曰ニ海陽一、晉曰ニ海寧一、屬ニ新安郡一、梁屬ニ新寧郡一、隋開皇十八年、改曰ニ休寧一、屬ニ婺州一。〔清史稿、地理志〕安徽、徽州府、縣六、休寧。

【休廢】147 キウハイ　すたれる。〔魏志、和洽傳〕時鳳不レ至、而有ニ休廢之氣一。

【休寶】148 キウハウ　立派なたから。美寶。〔王融、永明九年策ニ秀才一文〕上帝溥臨、賜ニ朕休寶一。

【休伯】149 キウハク　後漢、繁欽(**8－27849**‥27)の字。

【休泊】150 キウハク　休息宿泊すること。

〖休泊所〗151 キウハクジヨ　休泊するところ。

【休範】152 キウハン　立派なてほん。よいもはん。〔晉書、苻堅載記〕敷ニ純風於天下一、流ニ休範於無窮一。

【休否】153 キウヒ　㊀運り合せの惡い時によい事を行ふこと。〔易、否〕九五、休否、大人吉。〔疏〕休否者、謂ニ能行ニ休美之事于否塞之時一。㊁運命の、ふさがり通ぜぬこと。〔後漢書、李膺傳〕方今天地氣閉、大人休否。〔注〕易文言曰、天地閉賢人隱、否、九五曰、大人休否、休否、謂ニ休廢而否塞一。

【休美】154 キウビ　麗しい。〔蜀志、楊戲傳〕贊ニ時休美一、和ニ我業世一。

【休武】155 キウブ　北齊、堯雄(**3－5272**‥69)の字。

【休風】156 キウフウ　うるはしいならはし。立派な風習。美風。〔蜀志、楊戲傳〕述ニ休風一、動ニ于後聽一。〔潘岳、楊仲武誄〕載揚ニ休風一。

【休復】157 キウフク　易の復卦の休美の爻。六二の爻をいふ。〔易、復〕六二、休復、吉、象曰、休復之吉、以レ下レ仁也。

〖休復居〗158 キウフクキヨ　清、毛嶽生(**6－16772**‥262)の室名。

【休福】159 キウフク　さいはひ。幸福。〔後漢書、陰皇后紀〕異常之事、非ニ國休福一。

【休文】160 キウブン　字號。㊀南朝宋、吉翰(**2－3289**‥24)の字。㊁南朝宋、劉誕(**2－2224**‥486)の字。㊂梁、沈約(**6－17189**‥374)の字。㊃陳、孔奐(**3－6933**‥49)の字。㊄宋、楊至質(**6－15112**‥567)の字。㊅明、歸昌世(**6－16349**‥313)の字。

【休兵】161 キウヘイ　兵士を休めて力を養ふこと。又、其の兵。〔戰國、趙策〕強秦以ニ休兵一、承ニ趙之敝一。〔白虎通、誅伐〕冬至所ニ以休レ兵不レ擧レ事。

【休父】162 キウホ　古の諸侯の字。一說に、諸侯の名とする。程伯休父。休甫。〔詩、大雅、常武〕王謂ニ尹氏一、命ニ程伯休父一。〔傳〕程伯休父、始命爲ニ大司馬一。〔疏〕案、父宜ニ是字一、而昭以爲レ名、未レ能レ審之。〔國語、楚語下〕其在レ周、程伯休父其後也。〔注〕程國也、伯爵也、休父名也。

【休甫】163 キウホ　㊀古の諸侯の字。休父に同じ。〔史記、太史公自序〕其在レ周、程伯休甫其後也。〔注〕集解曰、應劭曰、封爲ニ程國伯一、休甫字也。㊁後漢、韋端(**12－43108**‥108)の字。

【休謨】164 キウボ　㊀宋、陳舜申(**11－41698**‥988)の字。㊁ヒユー　イギリスの哲學者。經驗論の代表者。David Hume

【休穆】165 キウボク　三國吳、朱桓(**6－14424**‥248)の字。

【休密】166 キウミツ　漢代、月氏から分れた國の名。〔後漢書、大月氏國傳〕月氏爲ニ匈奴所レ滅、遂遷ニ於大夏一、分ニ其國一爲ニ休密・雙靡・貴霜・肸頓・都密凡五部一。

【休民】167 キウミン　民をやすめる。人民の負擔を輕くし、力役を省いて樂にすること。〔左氏、襄、二十八〕楚不レ幾ニ十年一、未レ能レ恤ニ諸侯一也、吾乃休ニ吾民一矣。

【休務】168 キウム　つとめをやすむ。

【休名】169 キウメイ　よい名。立派な評判。美名。〔人物志、八觀〕是故骨直氣淸、則休名生焉。

【休命】170 キウメイ　大命。天の命令又は天子の大命についていふ。〔易、大有〕君子以遏レ惡揚レ善、順ニ天休命一。〔書、武成〕俟ニ天休命一。〔左氏、僖、二十八〕重耳敢再拜稽首、奉ニ揚天子之丕顯休命一。

〖對ニ揚休命一〗171 キウメイヲタイヤウス　君命に答へ、其の意を

民衆に向つて宣揚する。對は答へる意。〔書、說命下〕敢對二揚天子之休命一。

【休明】172キウメイ ❶立派であきらか。〔左氏、宣、三〕定王使三王孫滿勞二楚子一、楚子問二鼎之大小輕重一焉、對曰、德之休明、雖レ小重也。〔史記、秦始皇紀〕大義休明、垂二于後世一。〔潘岳、西征賦〕當二休明之盛世一兮。❷字號。㋑後漢、韋著(12－43108・・115)の字。㋺三國吳、皇象(8－22701・・103)の字。㋩晉、霍原(12－42321・・21)の字。㋥南朝宋、劉濬(2－2224・・367)の字。㋭南齊、蔡薈(9－31818・・133)の字。㋬梁、蘭欽(9－32519・・49)の字。㋣唐、于頎(1－252・・20)の字。㋠唐、長孫敞(11－41100・・594)の字。

〖休明之策〗173キウメイノサク 立派であきらかな策略。〔後漢書、班固傳上〕承二休明之策一、建二威靈之號一。

【休銘】174キウメイ 立派な碑銘。〔史記、秦始皇紀〕請刻二此石一、光二垂休銘一。

【休沐】175キウモク 官吏の休暇。此の日、休んで沐浴する。漢代は、五日毎に一日、唐代は、十日毎に一日を賜はつた。休浴。休澣。〔漢書、霍光傳〕光時休沐出、桀輒入代レ光決レ事。〔後漢書、宋均傳〕好二經書一、每二休沐日一、輒受二業博士一。〔海錄碎事、臣職、簿書〕漢律、五日一賜二休沐一、得二以歸休沐出謁一、世說、車武子爲二侍中一、每二休沐一、與二東亭諸人一期共游集。

【休默】176キウモク 南齊、王晏(7－20823・・4)の字。

【休問】177キウモン ❶よいたより。〔蜀志、許靖傳〕承二此休問一、且悲且憙。❷問ふを止めよ。〔李商隱、寄二令狐郎中一詩〕休レ問梁園舊賓客、茂陵秋雨病相如。

【休夜】178キウヤ よい夜。良夜。〔晁補之、歸來子名二緡城所居一記〕以二休夜烏倦レ飛而知レ還也。

【休野】179キウヤ 梁、庾華(4－9398・・39)の字。

【休揚】180キウヤウ 立派に揚がる。〔風俗通、十反〕名不二休揚一、又無二力援一。

【休養】181キウヤウ ❶民力・兵力などを休め養ふ。〔漢書、匈奴傳上〕於二漢邊一休二養士馬一、習二射獵一。〔吳志、陸瑁傳〕務二自休養一、以待二隣敵之闕一。❷休んで保養する。

【休裕】182キウユウ 安らかで豐なこと。〔權德輿、李國眞碑〕終身筮仕、動有二休裕一。〔李惲、五色卿雲賦〕叶二千年之休裕一、垂二五色之氤氳一。「字。

【休豫】183キウヨ 三國魏、蘇愉(9－32427・・193)の

【休譽】184キウヨ 立派な名譽。〔蜀志、郤正傳〕寧曳二尾于塗中一、穢二濁世之休譽一。〔劉攽、胡宗愈可二御史中丞一誥〕藻鑒多士、綽有二休譽一。

【休浴】185キウヨク 官吏の休暇。休沐(175)を見よ。〔宋史、太祖紀〕旬假爲二休浴一。

【休老】186キウラウ ❶老者を休め安んずる。〔禮、王制〕百官齊戒受レ質、然後休レ老勞レ農、成二歲事一、制二國用一。〔莊子、外物〕眥搣可二以休一レ老。❷老後を休養する。〔宋史、張宗誨傳〕昔賀祕監、以二道士服一、東歸二會稽一、明皇賜以二鑑湖一、以爲二休老之地一。

【休利】187キウリ 大いなる便利。〔漢書、鼂錯傳〕興二愚民之休利一、著二之於篇一。

【休流】188キウリウ 樂の名。〔廣雅、釋樂〕休流、樂名。

【休糧】189キウリヤウ 米穀を斷つ。穀食しない。〔抱朴子、仙藥〕朮餌、令二人肥健一、凶年可下以與二老小一休上レ糧、人不レ能レ別レ之、謂爲二米脯一也。

〖休糧僧〗190キウリヤウソウ 穀斷ちの僧。穀類を食しない木食僧をいふ。〔貫休、休糧僧詩〕不レ食更何憂、自由中自由。

【休龍】191キウリヨウ 南朝宋、孝武帝(3－6952・・269)の字。

【休力】192キウリヨク 力を休める。〔張衡、東京賦〕因休レ力以息レ勤、致二歡忻於春酒一。

【休令】193キウレイ 美はしく善い。〔朱浮、爲二幽州牧一與二彭寵一書〕惜乎、棄二休令之嘉名一。

【休曆】194キウレキ 太平の御世。曆は曆數。〔沈佺期、和二韋舍人早朝一詩〕千春奉二休曆一、分禁喜二趨陪一。

【休烈】195キウレツ ❶すぐれて立派ないさを。休光。〔史記、秦始皇紀〕皇帝休烈、平二一宇內一、德惠脩長。〔漢書、韋賢傳〕思二育休烈一、以章二祖宗之盛功一。〔司馬相如、難二蜀父老一文〕休烈顯二乎無窮一。〔後漢書、和帝紀〕薦レ功以章二休烈一。❷南齊、蘇侃(9－32427・・27)の字。

【休璉】196キウレン 三國魏、應璩(4－11330・・43)の字。

【休火山】197キウクワザン 一時噴火の止んでゐる火山。活火山と死火山との間のもの。熄火山。

【休取笑】198 hsiu¹ ch'ü³ hsiao⁴ 笑を取るを休めよ。ふざけるな。冗談言ふな。

【休聖緒】199キウセイシヨ 先聖の立派な業績。〔漢書、武帝紀〕庶幾成レ風、紹二休聖緒一。

【休怕他】200 hsiu¹ p'a⁴ t'a¹ 彼を恐れるな。

【休平陵】201キウヘイリヨウ 晉の安帝の陵名。江蘇省江寧縣の蔣山の西南。〔晉書、恭帝紀〕元熙元年春正月庚申、葬二安皇帝於休平陵一。〔明一統志〕晉十一帝陵、倶在二上元縣境一、惟安帝起レ墳、餘不レ可レ辨。〔江寧府志〕休平陵、在二鍾山一。

【休眠子】202キウミンシ 隱花植物が接合して出來た胞子が、すぐには發芽せず、紅褐色の小體となつて水底に沈み、時を待つて發生するもの。

【休倫湖】203ヒユーロンコ Huron 北米五大湖の一。米・加兩國にまたがる。

【休閒教育】204キウカンケウイク 休暇中に行はれる特殊の教育。被教育者の興味本位に、或は身心の鍛錬、學術の補充、技術の向上を目的に、特殊の教育を施すこと。

【休成之樂】205キウセイノガク 漢の樂名。叔孫通作。〔漢書、禮樂志〕登歌再終、下奏二休成之樂一。〔注〕服虔曰、叔孫通所二奏作一也。

【休樂老人】206キウラクラウジン 明、陳敬宗(11－41698・・789)の號。

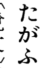
【休琅尼安紀】207キヒユーロニアン 地質時代の一。原生代の前半に屬する時代。

【休蘭尸逐侯鞮單于】208キウランシチクコウテイゼンウ 後漢の南匈奴の單于。名は屯屠何。章和二年、伊屠於閭鞮單于宣の後を繼いで南單于となる。時に北匈奴が衰弊の極にあつたので、朝廷に請ひ、共に北匈奴を討つて北庭を安んぜんことを上言す。よつて竇太后は永元元年耿秉を征西將軍とし、南匈奴の衆三萬を之に附して北匈奴を討たせた。翌年再び北匈奴を討つて、南匈奴の威大いに擧り、領戶三萬四千、口二十三萬七千三百、勝兵五萬一百七十にのぼつたといふ。〔後漢書、一百十九〕。

【伎】441 ブ 侮(1－630)の籒文。〔六書統〕籒文侮、从レ人从レ攴、戲以レ攴擊レ人、與レ伎別。

【㐌】442 シ 施(5－13629)の古字。〔正字通〕施、舊注、古文施字。

【伭】443 ケン ゲン 〔集韻〕胡涓切 [先]


小篆

たがふ。或は伭(1－463)に作る。〔說文〕伭、很也、从レ人弦省聲。〔廣韻〕伭、說文作レ伭、很也。

【伒】444 キン コン 〔集韻〕居欣切 [問]

たすける。〔集韻〕伒、相也。

【𠇗】445 ケイ 俓(1－685)に同じ。〔集韻〕俓、或作レ𠇗。

【伓】446 ㊀ハイ 〔集韻〕晡枚切 [灰] ㊁ヒ 〔集韻〕貧悲切 [支]

㊀山名。〔集韻〕伓、山名。㊁伾(1－487)に同じ。〔集韻〕伾、衆也、一曰、大力、或作レ伓。

【㐻】447 ダイ ナイ 〔集韻〕奴對切 [隊]

人名。〔集韻〕㐻、䦎、人名。

【伔】448 チン ヂン 〔中華大字典〕直深切 [侵]

腰を推擊する。〔淮南子、說林訓〕解レ捽者

不㆑在㆓於捌格㆒、在㆓於批伉㆒。〔注〕推㆓擊其要㆒也。

【併】449 シヨウ 〔中華大字典〕書蒸切 蒸
水中から出す。〔康熙字典〕併、揚子方言、出㆑水爲㆑併。
參考 方言は併を拼に作る。

【佇】450 カウ 岡(4—7962)の古字。〔集韻〕岡、古作㆑佇。

【伕】451 フ 〔篇海〕風無切 ㄈㄨ fu¹ 虞
㊀**娘のむこ。**〔篇海〕伕、女夫壻也。㊁現 夫役の夫に借り用ひる。人夫。

【伖】452 ド 帑(4—8838)に同じ。〔韻會〕伖、與㆑帑同。

【众】453 ギン ゴン 〔篇海類編〕魚琴切 侵
人が多く立つ。〔篇海類編〕众、衆立也。

【优】454 イウ ウ 〔篇海類編〕于求切 尤
五穀を精げて老人の髮のやうに白くすること。精白。〔篇海類編〕优、五穀精如㆓人髮白㆒也。

【今】455 タウ 本(3—5845)の譌字。〔康熙字典〕今、按、本字之譌。

【弁】456 タン 〔字彙補〕東敢切 感

石が水にあたる音。〔字彙補〕弁、石擊㆑水音、見㆓宋人俗書㆒。

【伙】457 クワ 〔中華大字典〕讀如㆑火。 ㄏㄨㄛˇ huo³
㊀火(7—18850)に同じ。〔辭源〕伙、與㆑火同。㊁傢伙は、家具。器物。俗に什物を稱して家伙といふ。〔中華大字典〕伙、俗字、今謂㆓器具㆒爲㆓傢伙㆒。〔辭源〕伙、俗亦稱㆓什物㆒曰㆓家伙㆒。
【伙食】¹ huo³ shih² 食物。食事。食料。
【伙食房】² huo³ shih² fang² 食物を置く部屋。
【伙伴】³ ハンクワ ㊀十人一組の兵隊。火伴(7—18850・・370)に同じ。〔辭源〕伙、火伴、俗作㆓伙伴㆒、如㆑言㆓合伙・散伙㆒。㊁huo³ pan⁴ なかま。組合員。
【伙夫】⁴ huo³ fu¹ 炊夫。コツク。

【佩】458 シヤウ 仉(1—357)に同じ。〔集韻〕仉、或从㆑爪。

【伹】459 コ 個(1—758)の略字。

【会】460 クワイ 會(5—14306)の略字。

【伛】461 ウ 傴(1—1020)の俗字。

【伜】462 サイ 倅(1—750)の俗字。

【伝】462′ デン 傳(1—1019)の略字。

五畫

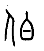
【伭】463 ㊀ケン ㊁セン ㊀伣(1—443)に同じ。〔廣韻〕伭、說文作㆑伣。㊁顓(12—43600)に同じ。伭頊を見よ。
【伭頊】¹ センギヨク 上古の帝王。顓頊(12—43600・・5)に同じ。〔續辭源〕伭頊、卽顓頊。〔劉允濟、天賦〕浹㆓庶品㆒以光被、樂㆓羣生於會昌㆒、軼㆓大庭㆒而包㆓太昊㆒、孕㆓伭頊㆒而掩㆓朱襄㆒。

【伮】464 ド 努(2—2314)に同じ。〔集韻〕努、勠㆑力也、或作㆑伮。

【㑁】465 チユツ チユチ 〔集韻〕竹律切 質
短いさま。〔集韻〕㑁、短皃。

【伯】466 ㊀ハク ヒヤク 〔集韻〕博陌切 ㄅㄛˊ po² 陌
㊁バク ミヤク 〔正韻〕莫白切 ㄅㄞˇ pai³ 陌
㊂ハ ヘ 〔正韻〕必駕切 ㄅㄚˋ pa⁴ 禡

小篆(說文)


小篆(段注本)

㊀㊀**をさ。かしら。**衆を率ゐる人。〔說文〕伯、長也、从㆑人白聲。〔爾雅、釋詁〕伯、長也。〔周禮、春官、大宗伯〕九命作㆑伯。〔注〕長㆓諸侯㆒爲㆓方伯㆒。〔禮、曲禮下〕五官之長曰㆑伯。〔漢書、五行志〕今單子爲㆓王官伯㆒。〔注〕師古曰、伯、長也。㊁**一藝に長ずる者の稱。**〔莊子、人閒世〕匠伯不㆑顧。㊂**あに。兄。長子。**〔詩、小雅、何人斯〕伯氏吹㆑壎、仲氏吹㆑篪。〔箋〕伯仲、喩㆓兄弟㆒也。〔白虎通、姓名〕伯者、長也、伯者、子最長、迫㆓近父㆒也。㊃**弟の婦が夫の兄をいふ語。**〔陔餘叢考、夫兄稱㆑伯〕雲谷臥餘云、爾雅稱㆓夫之弟㆒爲㆑叔、則夫之兄亦可㆑爲㆑伯也。㊄**妻が夫を呼ぶ稱。**〔詩、衛風、伯兮〕伯也執㆑殳。〔集傳〕伯、婦人目㆓其夫㆒之字也。㊅**をぢ。伯父。父の兄。**〔釋名、釋親屬〕父之兄曰㆓伯父㆒。㊆**爵の名。**五等の爵の第三位。〔公羊、隱、五〕小國稱㆓伯子男㆒。〔孟子、萬章下〕天子一位、公一位、侯一位、伯一位、子男同一位。㊇**馬の神。馬祖。天駟房星の神。又、其の祭。**〔爾雅、釋天〕既伯既禱、馬祭也。〔注〕伯、祭㆓馬祖㆒也、將㆑用㆓馬力㆒、必先祭㆓其先㆒。〔詩、小雅、吉日〕吉日維戊、既伯既禱。〔傳〕伯、馬祖也。㊈**せまる。**迫(11—38797)に通ず。〔說文通訓定聲〕伯、段借爲㆑迫。〔淮南子、人閒訓〕陽虎將㆓擧㆑劍而伯㆑頤。〔注〕伯、迫也。㊉栢(6—14714)に通ず。〔書、西伯戡黎、釋文〕伯、亦作㆑栢。⑪古は白(8—22678)に作る。〔集韻〕伯、古省。⑫**姓。**〔通志、氏族略、以㆑次爲㆑氏〕伯、晉大夫荀林父之後、林父爲㆓中行伯㆒、孫伯黶以㆓王父字㆒爲㆑氏、或言、嬴姓、伯益之後。〔姓氏辯證〕姜姓、伯夷之後。㊂㊀**みち。**田間の東西に通ずる道。陌(11—41617)に通ず。〔說文通訓定聲〕伯、段借爲㆑陌。〔管子、四時〕正㆓千伯㆒。〔纂詁〕尹知章云、千伯、卽阡陌。〔史記、酷吏、楊僕傳〕置㆓伯格長㆒。〔注〕索隱曰、伯音阡陌、格音村落、言㆓阡陌村落皆置㆑長也。〔漢書、食貨志〕開㆓仟伯㆒。〔注〕師古曰、仟伯、田閒之道也、南北曰㆑仟、東西曰㆑伯、伯、音莫白反。〔王先謙補注〕宋祁曰、仟佰、王本、伯作㆑陌。㊁**百。**百錢。佰(1—553)に通ず。〔說文通訓定聲〕伯、段借爲㆑佰、孟子、或相什伯、漢書食貨志、有㆓仟

伯之得二。〔漢書、食貨志〕有二仟佰之得一。〔注〕師古曰、仟、謂二千錢一、伯、謂二百錢一也、伯、音莫白反、今俗猶謂二百錢一爲二一伯一。㊂**はたがしら**。諸侯の盟主。後世、侯伯の伯と紛れるのを恐れ、霸の字を借りて之を別つ。〔正韻〕伯、同レ霸、五伯、齊桓・晉文・秦繆・宋襄・楚莊也、伯叔伯長之義、後人恐下與二侯伯字一溷上、故借二霸字一別レ之。〔左氏、成、二〕五伯之霸也、勤而撫レ之。〔荀子、仲尼〕五尺之豎子、言羞レ稱二乎五伯一。〔注〕伯、讀爲レ霸。邦**かみ**。神祇官の長官。

名乘　ノリ。

參考　佰（**1－553**）は別字。

【伯安】1 ハクアン　字號。❶後漢、劉虞（**2－2224**・・200）の字。❷宋、梁億（**6－14825**・・30）の字。❸明、于子仁（**1－252**・・112）の字。❹明、定定（**3－7109**・・210）の字。❺明、王守仁（**7－20823**・・1648）の字。

【伯夷】2 ハクイ　❶虞舜の世に禮を掌つた人。〔書、舜典〕帝曰、咨二四岳一、有三能典二朕三禮一、僉曰、伯夷、帝曰、兪、咨レ伯、汝作二秩宗一。〔傳〕伯夷、臣名、姜姓。❷伯夷叔齊を見よ。❸後漢、杜安（**6－14477**・・2）の字。

【伯夷父】3 ハクイホ　柏夷亮父（**6－14617**・・96）を見よ。

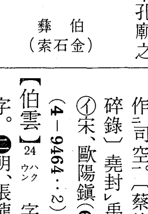
【伯夷之廉】4 ハクイノレン　伯夷の廉潔。〔孟子、萬章下〕故聞二伯夷之風一者、頑夫廉、懦夫有レ立レ志。〔史記、蘇秦傳〕今有下孝如二曾參一、廉如二伯夷一、信如中尾生上。〔漢書、貢禹傳〕朕以生有二伯夷之廉、史魚之直一、守レ經據レ古、不レ阿二當世一、孳二孳於民俗之所一レ寡。

【伯夷叔齊】5 ハクイシユクセイ　周の人。姓は墨胎氏。伯夷、名は元、字は公信。叔齊、名は致、字は公遠。孤竹君の二子。伯夷は、父に弟の叔齊を立てる志があるのを知り、父の歿後、國を叔齊に讓つて逃れ、叔齊も亦兄の伯夷に讓つて逃れた。後、周の武王が商を伐たうとした時、兄弟倶に其の臣道に非ざるを說き、馬を叩へて諫めたが聽かれなかつた。其の後、周が天下を一統するに及んで、周の祿を食むを恥ぢ、首陽山に隱れて餓死した。世に采薇の歌を傳へる。以上は史記の伯夷傳に述べられてゐる所であるが、清の梁玉繩の史記志疑には、其の經傳諸書と合せざる點數條を擧げて其の誤を指摘してゐる。其の他、扣馬餓死の二事に關して論證批評したものには、漢の東方朔の伯夷論（小窓別記、二）、宋の王安石の伯夷論、清の崔述の論（豐鎬考信錄）、長兪城の叩馬辨（兪寧世文集、卷一）、釋大我絕外の夷齊論（金鎔論、卷上）等がある。其の高風清節を稱贊したものには、先秦には孔子（論語、公冶長・述而・泰伯・季氏・微子）、孟子（公孫丑上・滕文公下・離婁上・萬章下・盡心下）があり、或は其の仁を稱し、或は其の節操の高潔を稱す。以後、其の風を欽慕するもの歷世絕えることなく、或は行實にあらはれ、或は詩文に託して之を述べてゐる。魏の阮瑀の弔二伯夷一文、晉の陶潛の夷齊の詩（讀史述）、唐の韓愈の伯夷頌、宋の文天祥の和夷齊西山歌竝序、鄭所南の夷齊西山圖の詩、元の宋无・錢惟善・盧摯等の詩、明の張居正の義命說、清の乾隆帝の夷齊廟詩等、皆是である。又、我が國の學者の詩文も頗る多く、其の影響の少くなかつたことを物語つてゐる。特に水戶義公は、常に伯夷叔齊の高義を慕ひ、其の大日本史を作つたのは史記伯夷傳を讀んで感起したことによるといふ。其の他、伯夷叔齊の名を借りて立論するもの頗る多く、試に後漢以前の諸書に散見するものを擧げれば、戰國策（燕策）・莊子（大宗師・駢拇・秋水・讓王）・列子（力命・楊朱）・韓非子（姦劫弑臣・安危・守道・用人・功名・外儲說左下・說疑）・管子（制分）・墨子（尙賢）・楚辭（離騷・九章橘頌）・新語（道墓・無爲）・淮南子（繆稱訓・齊俗訓・泰俗訓）・鹽鐵論（地廣・褒賢・申韓）・新序（雜事五）・說苑（君道・立節・尊賢・至公・雜言・辨物・修文）・法言（淵騫）・潛夫論（遏利・論榮・愼微・三式・釋難・交際・志氏姓）・申鑑（政體・雜言下）・論衡（感虛・禍虛・非韓・刺孟・講瑞・恢國・知實・定賢）などがある。〔史記、伯夷傳〕武王東伐レ紂、伯夷叔齊、叩レ馬而諫曰、父死不レ葬、爰及二干戈一、可レ謂レ孝乎、以レ臣弑レ君、可レ謂レ仁乎、左右欲レ兵レ之、太公曰、此義人也、扶而去レ之、武王已平二殷亂一、天下宗レ周、而伯夷叔齊恥レ之、義不レ食二周粟一、隱二於首陽山一、采レ薇而食レ之、云云、遂餓二死於首陽山一。〔梁玉繩、史記志疑、史記伯夷傳考辨〕案、史所レ載、俱非也、孟子謂、夷齊至レ周、在下文王爲二西伯一之年上、安得レ言レ歸二于文王卒後一、其不レ可レ信一已、書序謂二武王伐レ紂嗣レ位已十一年一、卽周紀亦有二九年祭レ畢之語一、畢乃文王墓地、安得レ言二父死不レ葬、其不レ可レ信二已、禮大傳、謂三武王克レ商、然後追二王三世一、安得レ言三徂征之時、便號二文王一、其不レ可レ信三已、東征之時、伯夷歸レ周已久、且與二太公一同處二岐豐一、未レ有下不レ知二其事一者上、何以不レ沮二於帷帳定レ計之初一、而從二諫於干戈既出之日一、其不レ可レ信四已、曰、左右欲レ兵レ之、曰、太公扶去レ之、武王之師、不レ應下無二紀律一若上レ是、萬或緩不レ及レ救、則彼殺二比干一、此殺二夷齊一、不三眞若二以レ暴易一レ暴乎。

伯夷（三才圖會）

【伯夷死二名於首陽之下一】6 ハクイナヲシユヤウノモトニシス　伯夷が名を重んじ命を輕んじて、首陽山に餓死した故事。伯夷叔齊を見よ。〔莊子、駢拇〕伯夷死二名於首陽之下一、盜跖死二利於東陵之上一。

【伯彝】7 ハクイ　孔子廟の祭器の一。〔積古齋鐘鼎彝器款識、伯彝〕右伯彝銘六字、欽頒曲阜孔廟之器、臣元據二搨本一、恭摹入レ錄、敬錄二御製考釋一、右高五寸、深四寸、口徑七寸二分、腹圍一尺九寸、重五十六兩、兩耳有レ珥、按、周禮六彝注、彝、亦尊也、以下其同是酒器、但盛二鬱鬯一、與レ酒不上レ同、故異二其名一、茲其銘曰、伯作、考二博古圖一、有二周伯英彝・叔彝一、皆以爲二名字一、茲器亦其類、顧二周制一、伯爲二五等之爵一、又爲二伯仲之次一、則亦未レ可二概定爲一レ名也。



伯彝（金石索）

【伯威】8 ハクヰ　字號。❶後漢、馬棱（**12－44572**・・631）の字。❷後漢、梁慬（**6－14825**・・57）の字。❸宋、處嚴（**9－32697**・・23′）の字。❹金、李師雄（**6－14459**・・1332）の字。❺元、張仲儀（**4－9812**・・1359）の字。❻元、武恪（**6－16273**・・50）の字。

【伯煒】9 ハクヰ　明、陳輝（**11－41698**・・131）の字。

【伯蔚】10 ハクヰ　晉、何綏（**1－511**・・123）の字。

【伯友】11 ハクイウ　字號。❶金、李成（**6－14459**・・496）の字。❷明、趙壎（**10－37171**・・148′）の字。

【伯有】12 ハクイウ　❶複姓。〔萬姓統譜〕伯有、姬姓、鄭穆公玄孫、良霄字伯有之後。❷字號。(イ)春秋鄭、良霄（**9－30597**・・168）の字。(ロ)金、郭俁（**11－39474**・・87）の字。

【伯游】13 ハクイウ　字號。❶春秋晉、荀偃（**9－30929**・・11）の字。❷後漢、唐羌（**2－3709**・・53）の字。

【伯猷】14 ハクイウ　南朝宋、劉勔（**2－2224**・・599）の字。

【伯一】15 ハクイツ　明、吳敬臣（**2－3365**・・527）の字。

【伯尹】16 ハクイン　宋、詹友端（**10－35458**・・37）の字。

【伯殷】17 ハクイン　明、梅殷（**6－14830**・・5）の字。

【伯寅】18 ハクイン　字號。❶明、穆相（**8－25251**・・25）の字。❷清、潘祖蔭（**7－18236**・・189）の字。

【伯筠】19 ハクヰン　宋、愼東美（**4－11024**・・104）の字。

【伯宇】20 ハクウ　明、邢寰（**11－39301**・・19）の字。

【伯羽】21 ハクウ　字號。❶明、畢翰（**7－21829**・・6）の字。❷明、李習（**6－14459**・・409）の字。

【伯雨】22 ハクウ　字號。❶元、湯霖（**7－17874**・・139）の字。❷元、張雨（**4－9812**・・42）の字。❸明、方時化（**5－13620**・・531）の字。

【伯禹】23 ハクウ　❶夏王禹をいふ。〔書、舜典〕伯禹作二司空一。〔蔡傳〕禹、似姓、崇伯鯀之子也。〔羣碎錄〕堯封レ禹爲二夏伯一、故謂二之伯禹一。❷字號。(イ)宋、歐陽鎭（**6－16185**・・87）の字。(ロ)宋、廖瑀（**4－9464**・・2）の字。

【伯雲】24 ハクウン　字號。❶宋、張靄（**4－9812**・・1）の字。❷明、張龍章（**4－9812**・・1582）の字。

【伯蘊】25 ハクウン　字號。❶清、改琦（**5－13114**・・20）の字。❷清、吳孟琦（**2－3365**・・873）の字。

【伯韞】26 ハクウン　宋、吳發（**2－3365**・・352）の字。

【伯永】27 ハクエイ　宋、饒延年（**12－44400**・・61）の字。

【伯英】28 ハクエイ　字號。❶後漢、張芝（**4－9812**・・349）の字。❷宋、張俊（**4－9812**・・396）の字。❸金、張

轂(4—9812··312)の字。❹元、李世英(6—14459··1539)の字。❺明、沈璟(6—17189··36)の字。

〖伯英草聖〗29 ハクエイサウセイ 蒙求の標題。後漢の張芝、字は伯英が草書を善くして、草聖と稱せられた故事。〔後漢書、張奐傳〕長子芝、字伯英、最知ㇾ名、芝及弟昶字文舒、並善ニ草書一至ㇾ今稱ニ傳之一。〔注〕王愔文志曰、芝少持ニ高操一以名ニ臣子一云云、尤好ニ草書一學ニ崔杜之法一云云、草書爲ニ世所ㇾ寶、寸紙不ㇾ遺、韋仲將謂ニ之草聖一也。

【伯裔】30 ハクエイ 明、吳之鯨(2—3365··605)の字。

【伯榮】31 ハクエイ 清、吳榮光(2—3365··440)の號。

【伯穎】32 ハクエイ 明、熊鼎(7—19294··94)の字。

【伯嬴】33 ハクエイ ❶春秋、楚の人。平王の夫人。昭王の母。秦の穆公の女。吳の軍隊が郢に攻入つた時、吳王闔閭は楚の昭王の後宮の婦人を悉く從はしめたが、伯嬴のみは刃を持して從はなかつた。〔列女傳、貞順、楚平伯嬴傳〕。❷春秋、楚の蔿賈(9—31895··2)の字。

【伯翳】34 ハクエイ 舜の時の人。伯益。皐陶の子。禹の治水を佐けて功が有り、禹が崩ずる時、天下を益に授けんとしたが、箕山の陽に避けて受けなかつた。史記秦紀には、柏翳に作る。〔詩、秦譜〕堯時、有ニ伯翳者一實皐陶之子、佐ㇾ禹治ㇾ水、水土既平、舜命作ニ虞官一賜ㇾ姓曰ㇾ嬴。〔疏〕正義曰、鄭語云、嬴、伯翳之後、地理志云、嬴、伯益之後、則伯翳·伯益、聲轉字異、猶ニ一人一也。〔國語、鄭語〕嬴、伯翳之後也、能議ニ百物一以佐ㇾ舜者也。〔陔餘叢考、伯益伯翳一人〕伯翳伯益之爲ニ一人一尤明白可ㇾ證、蓋翳與ㇾ益、聲相近之訛也。

【伯易】35 ハクエキ 宋、崔公度(4—8178··254)の字。

【伯益】36 ハクエキ ❶舜の時の人。伯翳(34)に同じ。〔書、舜典〕帝曰、兪、咨益、汝作ニ朕虞一。〔呂覽、勿躬〕伯益作ㇾ井。〔論衡、逢遇〕禹王ニ天下一伯益輔治。❷上古の人。化狄(2—2572··151)を見よ。❸樂府、晉の鼓吹曲の名。傅玄作。古の黃爵行。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、晉鼓吹曲、伯益〕古黃爵行、古今樂錄曰、伯益言、赤烏銜ㇾ書、有周以興、今聖皇受ㇾ命、神雀來也。〔傅玄、伯益〕伯益佐ニ舜禹一職掌ニ山與ㇾ川、德侔ニ十六相一思心入ニ無間一。❹字號。㋑宋、章友直(8—25761··176)の字。㋺宋、葉謙亨(9—31387··187)の字。㋩宋、潘好謙(7—18236··132)の字。㋥元、塗謙(3—5338··23)の字。㋭明、歐陽謙(6—16185··64)の字。㋬明、虞謙(9—32723··55)の字。

【伯悅】37 ハクエツ 隋、楊慶(6—15112··120)の字。

【伯淵】38 ハクエン 字號。❶後魏、崔浩(4—8178··29)の字。❷清、孫星衍(3—6987··459)の字。

【伯遠】39 ハクエン 字號。❶三國蜀、王化(7—20823··274)の字。❷晉、任熙(1—416··37)の字。❸南朝宋、羊崇(9—28425··96)の字。❹宋、牛皋(7—19922··20)の字。❺元、王彰(7—20823··533)の字。❻明、淩雲翰(上元の人)(2—1669··128)の字。

【伯應】40 ハクオウ 明、袁樞(10—34152··90)の字。

【伯翁】41 ハクヲウ 祖父の兄。伯祖。今、俗に伯公といふのは、此に本づく。〔龔大雅、義井題記〕。

【伯溫】42 ハクヲン 字號。❶宋、周恭先(2—3441··606)の字。❷宋、程珦(8—25081··34)の字。❸元、周伯琦(2—3441··822)の字。❹元、梁德珪(6—14825··308)の字。❺明、劉基(2—2224··144)の字。

【伯可】43 ハクカ 字號。❶宋、康與之(4—9376··199)の字。❷宋、呂午(2—3385··67)の字。

【伯河】44 ハクカ 清、馬負圖(12—44572··928)の字。

【伯夏】45 ハクカ ❶複姓。〔元和姓纂〕伯夏、畢公高之後。〔路史〕魏後有ニ伯夏氏一。❷後漢、梁商(6—14825··112)の字。

【伯瑕】46 ハクカ 春秋晉、士匄(3—5638··22)の字。

【伯牙】47 ハクガ ❶春秋の時の人。善く琴を鼓し、嘗て成連に學び、鍾子期と仲が善かつた。子期が死んでから、自分の琴の音を解してくれる者がなくなつたので、伯牙は復び琴を鼓さなかつた。伯牙絕絃を見よ。〔列子、湯問〕·〔荀子、勸學〕·〔淮南子、說山訓〕·〔說苑、尊賢〕。❷宋、郝戩(11—39430··4)の字。

〖伯牙琴〗48 ハクガキン 書名。一卷。宋、鄧牧撰。宋の君臣を咎めたもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

〖伯牙臺〗49 ハクガダイ 臺の名。❶浙江省海鹽縣の東門の外。臺址があり、臺の側に聞琴村と聞琴橋とがある。伯牙が琴を鼓した處と傳へる。❷湖北省漢陽縣の城北。高い岡で、東は大別山に對し、左は漢水と界を接し、月湖が外側を周る。伯牙が琴を鳴らし、鍾子期が之を聽いた處と傳へる。土地の人が館を其の上に建てた。

〖伯牙絕絃〗50 ハクガゼツゲン 蒙求の標題。知己の死を傷む意。伯牙の鼓する琴を鍾子期が善く聽いたが、鍾子期の死するや、伯牙は其の音を聽く者のなくなつたことを歎じ、琴を破つて終身復び鼓さなかつた故事。〔呂覽、本味〕伯牙鼓ㇾ琴、鍾子期聽ㇾ之、方ㇾ鼓ㇾ琴而志在ニ太山一鍾子期曰、善哉乎鼓ㇾ琴、巍巍乎若ニ太山一少選之閒而志在ニ流水一鍾子期又曰、善哉乎鼓ㇾ琴、湯湯乎若ニ流水一鍾子期死、伯牙破ㇾ琴絕ㇾ絃、終身不ニ復鼓ㇾ琴、以爲、世無下足ニ復爲鼓ㇾ琴者上。〔魏志、劉楨傳〕昔伯牙絕ニ絃於鍾期一。

〖伯牙鼓ㇾ琴而六馬仰秣〗51 ハクガキンヲコシテリクバアフイデマグサクフ 微妙な琴の音が動物を感動させる。伯牙が琴に巧みであつた形容。〔荀子、勸學〕伯牙鼓ㇾ琴、而六馬仰秣。〔注〕伯牙、古之善鼓ㇾ琴者、亦不ㇾ知ニ何代人一六馬、天子路車之馬也、云云、仰秣、仰ㇾ首而秣、聽ニ其聲一也。〔淮南子、說山訓〕伯牙鼓ㇾ琴、而駟馬仰秣。

〖伯牙善鼓ㇾ琴鍾子期善聽〗52 ハクガヨクキンヲコシシヨウシキヨクキク 伯牙が善く琴を鼓し、鍾子期がよく其の音を聽いた故事。〔列子、湯問〕伯牙善鼓ㇾ琴、鍾子期善聽、伯牙鼓ㇾ琴、志在ㇾ登ニ高山一鍾子期曰、善哉、峩峩兮若ニ泰山一志在ニ流水一鍾子期曰、善哉、洋洋兮若ニ江河一伯牙所ㇾ念、鍾子期必得ㇾ之、伯牙游ニ泰山之陰一卒逢ニ暴雨一止ニ於巖下一心悲、乃援ㇾ琴而鼓ㇾ之、初爲ニ霖雨之操一更造ニ崩山之音一曲每ㇾ奏、鍾子期輒窮ニ其趣一伯牙乃舍ㇾ琴而歎曰、善哉善哉、子之聽、夫志想象、猶ニ吾心一也、吾於ㇾ何逃ㇾ聲哉。

【伯雅】53 ハクガ ❶大杯をいふ。後漢の劉表の子弟が三つの杯を作り、大中小によつて伯·仲·季雅と名づけた故事。〔魏文帝、典論、酒誨〕荊州牧劉表、跨ニ有南土一子弟驕貴、竝好ㇾ酒爲ニ三爵一大曰ニ伯雅一次曰ニ中雅一小曰ニ季雅一伯雅受ニ七勝一中雅受ニ六勝一季雅受ニ五勝一。❷字號。㋑明、孫傳庭(3—6987··510)の字。㋺清、錢樹(11—40563··118)の字。

【伯海】54 ハクカイ 字號。❶三國吳、孫河(3—6987··25)の字。❷明、楊洲(6—15112··190)の字。

【伯喈】55 ハクカイ 字號。❶後漢、蔡邕(上虞の人)(9—31818··122)の字。❷後漢、蔡邕(圉の人)(9—31818··122)の字。

【伯開】56 ハクカイ 明、湯開遠(7—17874··154)の字。

【伯愷】57 ハクガイ 明、葉顒(9—31387··28)の字。

【伯行】58 ハクカウ 字號。❶春秋晉、狐突(7—20333··58)の字。❷後漢、滕延(7—18036··5)の字。❸明、錢逵(11—40563··41)の字。

【伯孝】59 ハクカウ 字號。❶後漢、郅壽(11—39380··7)の字。❷明、蔣以忠(9—31820··109)の字。❸明、鄭繼之(11—39647··358)の字。

【伯昂】60 ハクカウ 字號。❶明、陳修(11—41698··309)の字。❷明、鄧顒(11—39630··37)の字。❸清、姚元之(3—6202··157)の字。

【伯校】61 ハクカウ 將校。〔馬融、廣成頌〕郡師疊伍、伯校千重、山ニ常滿、房俎無ㇾ空。

【伯珩】62 ハクカウ 字號。❶明、胡瓚(永平の人)(9—29400··158)の字。❷明、宋璲(3—7078··144)の字。❸清、張瑃(4—9812··565)の字。

【伯皐】63 ハクカウ 宋、晁公邁(5—13889··17)の字。

【伯耕】64 ハクカウ 明、劉田(2—2224··525)の字。

【伯高】65 ハクカウ 字號。❶漢、唐尊(2—3709··247)の字。❷後漢、龍述(12—48818··317)の字。❸唐、張旭(4—9812··205)の字。❹唐、李嵒(6—14459··144)の字。❺宋、杜旟(6—14477··255)の字。❻宋、李義山(6—14459··1008)の字。❼宋、劉崧(2—2224··416)の字。❽元、韓鏞(12—43159··225)の字。❾元、張昇(平州の人)(4—9812··428)の字。❿明、蔣景高(9—31820··138)の字。⓫明、孫昇(建平の人)(3—6987··172)の字。⓬明、毛士龍(6—16772··278)の字。

〖伯高氏〗66 ハクカウシ 上古、黃帝の臣。帝を佐けて脈經を論ず。素問中に附載す。〔列子、黃帝〕·〔管子、地數〕。

【伯康】67 ハクカウ 字號。❶後漢、吳匡(2—3365··106)の字。❷宋、司馬旦(2—3257··288)の字。❸明、曹志(5—14297··102)の字。

【伯綱】68 明、梁廷振(6－14825‥301)の字。
【伯衡】69 字號。❶晉、楊平(6－15112‥344)の字。❷元、史權(2－3249‥60)の字。❸元、李鈞(6－14459‥219)の字。❹明、潘志伊(7－18236‥162)の字。❺清、周體觀(2－3441‥770)の字。
【伯剛】70 字號。❶宋、程公説(8－25081‥20)の字。❷明、顧存仁(12－43689‥313)の字。
【伯豪】71 後漢、左雄(4－8720‥411)の字。
【伯覺】72 清、雷鐸(12－42245‥100)の字。
【伯涵】73 清、曾國藩(5－14299‥192)の號。
【伯諫】74 ❶五諫の一。君國のため生命を忘れて諫める。〔白虎通、諫諍〕伯諫者義也、惻隱發二於中一、直言國之害一、勵レ志忘レ生、爲レ君不レ避レ喪身、義之性也。❷宋、李宗思(6－14459‥1625)の字。
【伯覲】75 清、李嘗之(6－14459‥1397)の字。
【伯韓】76 清、朱琦(6－14424‥103)の號。
【伯簡】77 清、劉熙載(2－2224‥784)の字。
【伯岸】78 清、汪後來(6－17154‥226)の字。
【伯顏】79 ❶元の人。蒙古八鄰武の人。謚は忠武。元初、世祖に仕へ、宋を伐つて功があり、官は、成宗の時の開府儀同三司・太傅。卒年五十九。大德中、淮南王に追封せられた。〔元史、一百二十七〕❷元の人。蔑爾吉斛氏。官は、武宗の時の吏部尚書。順帝の時、中書右丞相・大丞相となる。後、漸く專權自恣、姦謀が發覺して南恩州陽春縣に貶せられ、道に病を得て卒す。〔元史、一百二十八〕❸元の人。哈剌魯氏。一名、師聖。字は宗道。謚は文節。至正中、隱士から京師に召され、又、金史の編纂に與つた。後、河南の賊が河北に蔓延するに及んで戰死した。多くの著書は皆兵火のために傳はらない。〔元史、一百九十〕❹元、賀勝(10－36725‥55)の小字。
【伯顏子中】80 元の人。其の先祖は西域の人。東湖書院山長となる。贛州の守となり、陳友諒が贛に來寇した時、奇計を以て建昌を取りもどした功によつて吏部侍郎となる。後、致仕して江湖の間に遊行した。〔新元史、二百三十三〕〔明史、一百二十四〕

❷顏伯（三才圖會）

【伯顏不花】81 高麗末の政治家、奇轍の蒙古名。幸州の人。父は子敖。其の妹が元の順帝の後宮に入つて寵を受けたので、奇氏の位置は漸く重きを加へ、優遇を受けた。かくて元と高麗とから高爵を受け、專橫を極めた。後、恭愍王のため誅戮せらる。〔高麗史、三十七・三十八・三十九〕
【伯顏不花的斤】82 元の人。謚は桓敏。畏吾兒氏。字は蒼崖、又、蒼巖。音律に精し。至正中、衢州路達魯花赤を授けられ、後、陳友諒が信州に來寇した時、孤城を力守して戰死した。〔元史、百九十五〕
【伯巖】83 宋、胡巖起(9－29400‥425)の字。
【伯伎】84 伯耆(93)の❶の古字。〔古事記〕。
【伯希】85 清、盛昱(8－23005‥4)の字。
【伯希和】86 佛蘭西の東洋學者で、漢文に通ず。西暦一九〇六年から一九〇九年に涉つて、學士院・文部省・ハノイ極東學院の協力に成る調査隊の首班となつて、タリム盆地の諸遺蹟探査の後、スタイン收得後の燉煌遺物殘品中から特に貴重な古記錄古佛典類數千點を選出し、且其の岩窟を詳査して歸國した。其の蒐集品は記錄として、又、遺物自體にも貴重なものが多いので、特にペリオ・コレクションとしてルーブル博物館に藏す。其の著書論文は極めて多く、著書の主なものには、中央アジア及極東に於けるイランの影響・支那發見マニ教遺文考釋・敦煌圖錄・ペリオ探檢隊報告書等があり、論文には、書經と尚書釋文・六朝及び唐代の二三の藝術家に就て・マニとマニ教・支那皇帝の親征等がある。Pelliot, Paul の音譯。
【伯岐】87 三國蜀、張嶷(4－9812‥208)の字。
【伯其】88 清、吳湛(睢陽の人)(2－3365‥293)の字。
【伯奇】89 ❶夢を食ふといふ獸の名。獏。〔後漢書、禮儀志中〕攬諸食レ咎、伯奇食レ夢。❷王國の子。伯封の異母兄。後母に讒せられて放逐せらる。〔漢書、馮奉世傳贊〕哀哉、讒邪交亂、貞良被害、自レ古而然、故伯奇放流、孟子宮刑。〔注〕師古曰、說苑云、王國子、前母子伯奇、後母子伯封、兄弟相重、後母欲レ令二其子立爲一レ太子一、乃譖二伯奇一云、乃放二伯奇一也。❸字號。㋑後漢、寒朗(3－7239‥384)の字。㋺後漢、樂恢(6－15399‥70)の字。
【伯姬】90 春秋、魯の宣公の女。宋の恭公に嫁ぐ。恭公の死後は寡居し、其の家に火事が出た時、婦人は保傅の附添ひがなければ夜、堂を下らぬと言つて燒死した。〔列女傳、貞順、宋恭伯姬傳〕。
【伯姬引】91 琴曲の名。伯姬の保母の作で、伯姬の死を悲しんで彈じたものといふ。
【伯紀】92 字號。❶宋、湯漢(7－17874‥21)の字。❷宋、張雲卿(4－9812‥798)の字。❸宋、李綱(6－14459‥128)の字。
【伯耆】93 ❶宋、黃艾(12－47926‥112)の字。❷山陰道の國名。ははきは古稱。今の鳥取縣の西部。❸姓氏。〔姓名錄抄〕。
【伯起】94 字號。❶後漢、楊震(6－15112‥230)の字。❷北齊、魏收(12－45872‥67)の字。❸唐、韋岫(12－43108‥74)の字。❹唐、殷踐猷(6－16627‥175)の字。❺宋、李始(6－14459‥387)の字。❻宋、黃震(浦城の人)(12－47926‥523)の字。❼宋、程振(8－25081‥77)の字。❽宋、任希夷(1－416‥205)の字。❾元、張昇(順昌の人)(4－9812‥428)の字。❿明、吳復(2－3365‥368)の字。⓫明、張敔(4－9812‥202)の字。⓬明、張鳳翼(4－9812‥1518)の字。
【伯逵】95 宋、范如圭(9－30834‥205)の字。
【伯暉】96 金、韓道昭(12－43159‥350)の字。
【伯熙】97 字號。❶宋、李載(6－14459‥353)の字。❷元、劉融(2－2224‥626)の字。❸清、盛昱(8－23005‥4)の字。
【伯葵】98 清、查揆(6－14643‥12)の字。
【伯旗】99 晉、孫旂(3－6987‥54)の字。
【伯輝】100 元、曹文晦(5－14297‥306)の字。
【伯器】101 字號。❶元、趙璉(10－37171‥380)の字。❷明、周鼎(嘉善の人)(2－3441‥386)の字。
【伯機】102 元、鮮于樞(12－46133‥10)の字。
【伯璣】103 字號。❶清、黃玉衡(12－47926‥1044)の字。❷清、陳允衡(11－41698‥653)の字。
【伯禧】104 宋、蔡伯俙(9－31818‥230)の一名。
【伯夔】105 字號。❶元、蘇友龍(9－32427‥213)の字。❷清、楊夔生(6－15112‥469)の字。
【伯驥】106 明、王驥德(7－20823‥1296)の字。
【伯宜】107 清、羅萱(9－28397‥91)の字。
【伯義】108 清、盛昱(8－23005‥4)の字。
【伯曦】109 明、歐陽暉(6－16185‥53)の字。
【伯休】110 後漢、韓康(12－43159‥37)の字。
【伯求】111 字號。❶後漢、何顒(1－511‥52)の字。❷明、傅可知(1－939‥150)の字。❸清、馮敏昌(12－44579‥277)の字。
【伯玖】112 宋、趙璩(10－37171‥105)の初名。
【伯舅】113 ❶天子が異姓の諸侯を呼び、或は諸侯が異姓の大夫を呼ぶ尊稱。相手の諸侯、若しくは大夫が自分より年下であるか、又は其の國家が小弱である場合には、伯舅といはずに叔舅といふ。之に對して天子が同姓の諸侯を呼び、或は諸侯が同姓の大夫を呼ぶ場合には、舅といはずに父といふ。其の際には年の長幼、或は國家の大小などによつて伯父・叔父の別がある。〔儀禮、覲禮〕同姓大國則曰二伯父一、其異姓則曰二伯舅一、同姓小邦則曰二叔父一、其異姓小邦則曰二叔舅一。〔禮、曲禮下〕異姓謂二之伯舅一。〔左氏、僖、九〕使二孔賜一レ伯舅胙。❷母の兄をいふ。〔嚴維、奉二和劉祭酒傷一レ白馬一詩〕伯舅禮乃崇。〔元稹、答二姨兄胡靈之見一レ寄詩〕理レ家煩二伯舅一。〔稱謂錄、母之兄、伯舅〕留青集釋義、長曰二伯舅一、少曰二叔舅一。
【伯牛】114 春秋魯、冉耕(2－1514‥3)の字。
【伯牛之疾】115 立派な人が惡い病にかかるのをいふ。伯牛は孔子の弟子。癩病で死んだといふ。〔論語、雍也〕伯牛有レ疾、子問レ之、自牖執二其手一、曰、亡レ之、命矣夫、斯人也而有二斯疾一也、斯人也而有二斯疾一也。
【伯向】116 後漢、竇章(8－25695‥32)の字。

【伯況】117 ハクキョウ 字號。㊀後漢、周黨(2－3441‥356)の字。㊁後漢、蘇竟(9－32427‥37)の字。㊂後漢、劉方(2－2224‥540)の字。

【伯強】118 ハクキョウ ㊀惡魔。惡鬼。疫鬼。〔楚辭、天問〕伯強何處。惠氣安在。〔注〕伯強、大厲疫鬼也。㊁字號。㋑宋、焦千之(7－19119‥133)の字。㋺元、耶律有尚(9－29008‥41)の字。

【伯居】119 ハクキョ 明、盧宅仁(8－23050‥274)の字。

【伯擧】120 ハクキョ 字號。㊀後漢、盧觀(8－23050‥46)の字。㊁明、王元翰(7－20823‥1420)の字。

【伯魚】121 ハクギョ 字號。㊀孔子の子、孔鯉の字。孔子に先だつて卒す。〔史記、四十七〕㊁後漢、第五倫(8－25943‥52)の字。㊂南唐、孫魴(3－6987‥243)の字。

【伯邛】122 ハクキョウ 明、葉禹(9－31387‥31)の字。

【伯恭】123 ハクキョウ 字號。㊀三國蜀、張翼(4－9812‥711)の字。㊁後魏、高允(12－45313‥31)の字。㊂後周、張可復(4－9812‥843)の字。㊃宋、向子諲(2－3301‥102)の字。㊄宋、蔡謨(9－31818‥6)の字。㊅宋、潘夙(7－18236‥50)の字。㊆宋、呂祖謙(2－3386‥226)の字。㊇元、崔敬(4－8178‥66)の字。㊈明、龔之安(12－48837‥73)の字。㊉明、傅好禮(1－939‥153)の字。

【伯興】124 ハクキョウ 字號。㊀後漢、劉般(2－2224‥558)の字。㊁明、龔廷祥(12－48837‥84)の字。

【伯顯】125 ハクケン 字號。㊀明、任昂(1－416‥26)の字。㊁明、馬昂(12－44572‥61)の字。

【伯玉】126 ハクギョク 字號。㊀春秋衞、蘧瑗(9－32509‥6)の字。㊁後漢、田邑(7－21723‥7)の字。㊂晉、衞瓘(10－34074‥25)の字。㊃前涼、氾瑗(6－17101‥8ウ)の字。㊄南朝宋、檀珪(6－15632‥18)の字。㊅後魏、崔衡(4－8178‥30)の字。㊆陳、陸瓊(11－41708‥92)の字。㊇唐、韓瑗(12－43159‥22)の字。㊈唐、楮璆(10－34457‥12)の字。㊉唐、陳子昂(11－41698‥893)の字。㊊唐、王珣(7－20823‥580)の字。㊋後唐、房知溫(5－11714‥167)の字。㊌前蜀、徐瑤(4－10110‥14)の字。㊍南唐、李景(6－14459‥283)の字。㊎宋、唐璘(2－3709‥347)の字。㊏宋、張玘(4－9812‥158)の字。㊐宋、陳琰(11－41698‥40)の字。㊑宋、陳振孫(11－41698‥1018)の字。㊒宋、范仲淹(9－30834‥240)の字。㊓金、劉琉(2－2224‥356)の字。㊔明、金潤(11－40152‥593)の字。㊕明、胡瓚、桐城の人(9－29400‥158)の字。㊖明、曹璜(5－14297‥62)の字。㊗明、汪道昆(6－17154‥304)の字。

【伯鈺】127 ハクギョク 清、徐炎(4－10110‥21)の字。

【伯均】128 ハクキン 明、錢宰(11－40563‥95)の字。

【伯欽】129 ハクキン 明、顧大章(12－43689‥315)の字。

【伯勤】130 ハクキン 字號。㊀後魏、史崇(2－3249‥97)の字。㊁明、朱載堉(6－14424‥790)の字。

【伯禽】131 ハクキン ㊀周の人。周公の子。魯に封ぜらる。在位四十六年。〔史記、三十三〕㊁後漢、朱普(6－14424‥520)の字。

【伯瞿】132 ハクク 清、杜知耕(6－14477‥368)の號。

【伯愚】133 ハクグ 清、志銳(4－10331‥5)の字。

【伯虞】134 ハクグ 宋、曾機(5－14299‥27)の字。

【伯隅】136 ハクグウ 民國、王國維(7－20823‥1478)の字。

【伯和】137 ハクワ 字號。㊀後漢、董正(9－31433‥106)の字。㊁南朝宋、州詔(4－8678‥32)の字。㊂宋、歐陽發(6－16185‥94)の字。㊃宋、周塤(2－3441‥165)の字。㊄宋、趙希懌(10－37171‥451)の字。㊅宋、李大性(6－14459‥1661)の字。㊆宋、林鼐(6－14551‥176)の字。㊇明、沈應奎(6－17189‥435)の字。㊈明、檀凱(6－15632‥6)の字。㊉明、潘塤(7－18236‥28)の字。

【伯華】138 ハクカ 字號。㊀後魏、孫惠蔚(3－6987‥379)の字。㊁唐、岑羲(4－7937‥13)の字。㊂宋、宋煜(3－7078‥7)の字。㊃宋、宋文仲(3－7078‥406)の字。㊄明、郭實(11－39474‥110)の字。㊅明、蔡文範(9－31818‥237)の字。㊆明、鄭英(11－39647‥17)の字。㊇明、李開先(章丘の人)(6－14459‥927)の字。

【伯晦】139 ハクカイ 字號。㊀宋、尤焴(4－7543‥4)の字。㊁宋、朱景(6－14424‥258)の字。㊂宋、徐明叔(4－10110‥637)の字。㊃宋、王爚(7－20823‥1023)の字。

【伯槐】140 ハクカイ 三國魏、常林(4－8955‥367)の字。

【伯魁】141 ハクカイ 明、黃鍾(12－47926‥496)の字。

【伯懷】142 ハクカイ 明、王璞(7－20823‥889)の字。

【伯光】143 ハクコウ 字號。㊀明、馬應龍(12－44572‥704)の字。㊁明、劉曉(2－2224‥240)の字。㊂明、湯兆京(7－17874‥200)の字。㊃宋、郭溥(11－39474‥197)の字。㊄明、樊鐸(6－15414‥53)の字。

【伯寬】146 ハクカン 明、謝宇(10－35827‥12)の字。

【伯勳】147 ハククン 明、許世卿(10－35298‥329)の字。

【伯羣】148 ハクグン 晉、劉邁(2－2224‥615)の字。

【伯兮】149 ハクケイ 詩經、衞風の篇名。衞の宣公の時、役に從つて歸らぬ士を、其の家人が思つて作つたもの。〔詩、衞風、伯兮序〕伯兮、刺ㇾ時也、言ニ君子行役、爲ニ王前驅一、過ㇾ時不ㇾ反焉。

【伯兄】150 ハクケイ 第一番の兄。長兄。伯氏。〔書、呂刑〕伯父・伯兄・仲叔・季弟。〔傳〕皆王同姓、有ニ父兄弟子孫列一者、伯仲叔季、順ニ少長一也。〔孟子、告子上〕鄉人長ニ於伯兄一一歲、則誰敬。

【伯圭】151 ハクケイ 字號。㊀明、喬一琦(2－3990‥61)の字。㊁明、陳珪(11－41698‥204)の字。

【伯冏】152 ハクケイ 周の人。穆王の賢臣。官は太僕正。〔書、冏命序〕穆王命ニ伯冏一、爲ニ周太僕正一、作ニ冏命一。〔傳〕伯冏、臣名也、太僕長、太御中大夫。〔書、冏命〕王若曰、伯冏、惟予弗ㇾ克ニ于德一。

【伯京】153 ハクケイ 元、邊武(11－39216‥150)の字。

【伯珪】154 ハクケイ 字號。㊀後漢、公孫瓚(2－1452‥486)の字。㊁梁、范元琰(9－30834‥170)の字。㊂明、陳珪、常熟の人(11－41698‥204)の字。

【伯啓】155 ハクケイ 明、賴先(10－36861‥16)の字。

【伯卿】156 ハクケイ 後漢、任光(1－416‥51)の字。

【伯敬】157 ハクケイ 字號。㊀元、王伯顏(7－20823‥2030)の字。㊁明、鍾惺(11－40672‥74)の字。㊂明、宋纁(3－7078‥68)の字。㊃清、劉典(2－2224‥522)の字。

【伯經】158 ハクケイ 字號。㊀三國吳、劉纂(2－2224‥108)の字。㊁宋、喩侃(2－3979‥3)の字。

【伯協】159 ハクケイ 宋、劉恭(2－2224‥180)の字。

【伯業】160 ハクゲフ 字號。㊀後漢、袁遺(10－34152‥7)の字。㊁後魏、張纂(4－9812‥336)の字。㊂後魏、李孝(6－14459‥457)の字。㊃宋、蘇簡(9－32427‥30)の字。

【伯見】161 ハクケン 宋、蔣峴(9－31820‥40)の字。

【伯兼】162 ハクケン 明、浦南金(6－17475‥43)の字。

【伯虔】163 ハクケン 春秋、魯の人。字は子哲(子晳・子楷)。孔子の弟子。〔史記、六十七〕。

【伯堅】164 ハクケン 字號。㊀後漢、杜根(6－14477‥116)の字。㊁晉、蓬球(9－31720‥17)の字。㊂金、蔡松年(9－31818‥196)の字。

【伯儉】165 ハクケン 三國魏、閻溫(11－41379‥3)の字。

【伯謙】166 ハクケン 字號。㊀宋、徐道隆(4－10110‥560)の字。㊁明、楊巍(6－15112‥84)の字。

【伯獻】167 ハクケン 字號。㊀後漢、楊賜(6－15112‥183)の字。㊁明、余廷贇(1－515‥112)の字。

【伯權】168 ハクケン 元、虞執中(9－32723‥169)の字。

【伯元】169 ハクゲン 字號。㊀後漢、尹勳(4－7631‥20)の字。㊁明、湯昺(7－17874‥27)の字。㊂清、阮元(11－41569‥13)の字。㊃清、李寶嘉(6－14459‥1856)の字。

【伯言】170 ハクゲン 字號。㊀三國吳、陸遜(11－41708‥186)の字。㊁前秦、梁讜(6－14825‥143)の字。㊂宋、王宗稷(7－20823‥1845)の字。㊃元、鄧雅(11－39630‥22)の字。㊄清、梅曾亮(6－14830‥269)の字。

【伯彦】171 ハクゲン 字號。㊀後漢、韓揆(12－43159‥50)の字。㊁隋、潘徽(7－18236‥21)の字。㊂清、蔡士英(9－31818‥181)の字。

【伯原】172 ハクゲン 字號。㊀宋、朱長文(6－14424‥924)の字。㊁元、杜本(6－14477‥241)の字。㊂元、鮑深(12－46074‥46)の字。㊃明、馬理(12－44572‥614)の字。

【伯源】173 ハクゲン 字號。㊀後魏、盧淵(8－23050‥11)の字。㊁唐、韓滉(12－43159‥171)の字。㊂宋、向沿(2－3301‥22)の字。㊃明、姜清(3－6205‥64)の字。㊄明、徐浦(4－10110‥285)の字。㊅明、王淮(7－20823‥1105)の字。

【伯鉉】174 ハクゲン 明、蕭鼎(9－32012‥226)の字。

【伯嚴】175 ハクゲン 清、衞既齊(10－34074‥125)の字。

【伯固】176 ハクコ 字號。㊀宋、吳處厚(2－3365‥663)の字。㊁元、硯彌堅(8－24233‥60)の字。㊂明、黃鞏(12－47926‥208)の字。

【伯姑】177 ハクコ 父の姉妹をいふ。〔呂本中、寄ニ材

仲弟、詩」伯姑無恙時、令ニ我與レ子友」。

【伯虎】178 ❶上古、高辛氏の才子。八元の一人。舜が登用し、五教を四方に布かせた。〔潛夫論、五德志〕世有ニ才子八人一、伯奮・仲堪・叔獻・季仲・伯虎・仲雄・叔豹・季狸。❷字號。㋑後魏、韓秀(12－43159‥111)の字。㋺宋、向士虎(2－3301‥105)の字。㋩明、唐寅(2－3709‥7)の字。

【伯顧】179 清、成諟(5－11544‥137)の字。

【伯公】180 po² kung¹ 伯祖の意。又、伯翁。

【伯孔】181 明、周聖楷(2－3441‥745)の字。

【伯功】182 明、張繼孟(4－9812‥987)の字。

【伯侯】183 三國魏、杜畿(6－14477‥61)の字。

【伯厚】184 字號。❶後漢、朱震(6－14424‥403)の字。❷宋、賈子坤(10－36755‥170)の字。❸宋、王應麟(7－20823‥1223)の字。❹明、周忠(2－3441‥376)の字。

【伯恆】185 元、齊履謙(12－48560‥330)の字。

【伯洪】186 明、尹平(4－7631‥84)の字。

【伯鴻】187 字號。❶明、李時漸(6－14459‥1352)の字。❷明、劉子達(2－2224‥947)の字。❸清、莊達吉(9－31035‥159)の字。

【伯克】188 ❶新疆回部で回教徒を統治する大小の官吏。〔皇朝通志、職官略、新疆各官〕臣等謹按、伊犂本準噶爾部、在ニ天山之北一、以ニ平定之後一、移ニ回人于此一屯種一、故設ニ伯克一以總ニ理之一、伯克、本回部官名。〔清國行政法汎論、藩部、伯克及札薩克〕伯克 Bok'é, Beg 者、回民呼ニ其酋長一之號也。❷宋、蘇遲(9－32427‥144)の字。

【伯穀】189 明、王稺登(7－20823‥1905)の字。

【伯昏】190 複姓。伯昏無人を見よ。

【伯昏無人】191 楚の隱者。子產の師。又、伯昏瞀人に作る。〔莊子、德充符〕申屠嘉兀者也、而與ニ鄭子產一同師ニ於伯昏無人一。〔莊子、列御寇〕列御寇之ニ齊、中道而反、遇ニ伯昏瞀人一。〔疏〕伯昏楚之賢士、號曰ニ伯昏瞀人一、隱者之徒也。〔列子、黃帝〕列禦寇爲ニ伯昏瞀人一射。

【伯佐】192 清、匡輔之(2－2606‥93)の字。

【伯才】193 明、党國柱(1－1381‥7)の字。

【伯載】194 明、陳濟(11－41698‥394)の字。

【伯材】195 字號。❶隋、程松(8－25081‥74)の字。❷清、葛士達(9－31420‥123)の字。

【伯莊】196 元、余日強(1－515‥92)の字。

【伯蒼】197 唐、武元衡(6－16273‥427)の字。

【伯澡】198 宋、陳沂(11－41698‥139)の字。

【伯山】199 字號。❶後漢、耿純(9－29026‥29)の字。❷後漢、曹曾(5－14297‥136)の字。❸後漢、杜林(6－14477‥269)の字。❹晉、鄧嶽(11－39630‥28)の字。❺宋、郭江(11－39474‥28)の字。❻宋、趙子崧(10－37171‥600)の字。❼清、姚柬之(3－6202‥141)の號。❽清、劉毓崧(2－2224‥679)の字。

【伯子】200 字號。❶明、南元善（渭南の人）(2－2750‥824)の字。❷清、魏際瑞(12－45872‥208)の號。❸清、帥家相(4－8886‥34)の字。

【伯子論文】201 書名。一卷。清、魏際瑞撰。作文法に關する諸論を雜錄す。〔昭代叢書、第十九冊〕。

【伯氏】202 伯兄(150)に同じ。伯氏吹レ壎仲氏吹レ篪を見よ。

【伯氏吹レ壎仲氏吹レ篪】203 壎・篪は共に樂器。合吹すればよく調和する。兄弟の相愛する喩。〔詩、小雅、何人斯〕伯氏吹レ壎、仲氏吹レ篪。〔傳〕土曰レ壎、竹曰レ篪。〔箋〕伯仲、喩ニ兄弟一也。〔集傳〕言ニ其心相親愛一、而聲相應和一也。

【伯至】204 宋、蔡格(9－31818‥28)の字。

【伯志】205 後漢、宋意(3－7078‥4)の字。

【伯姊】206 一番上の姊。〔詩、邶風、泉水〕問ニ我諸姑一、遂及ニ伯姊一。〔傳〕女先生曰レ姊。

【伯始】207 字號。❶後漢、胡廣(9－29400‥100)の字。❷後漢、陳忠(11－41698‥467)の字。❸後魏、游肇(7－17792‥255)の字。❹宋、李孝基(6－14459‥941)の字。

【伯施】208 唐、虞世南(9－32723‥172)の字。

【伯師】209 字號。❶後漢、韓棱(12－43159‥233)の字。❷後漢、曹衆(5－14297‥110)の字。

【伯紫】210 清、紀映鍾(8－27234‥91)の字。

【伯斯】211 地名。オーストラリヤ聯邦、西オーストラリヤ州の首都。Perth の音譯。

【伯姒】212 po² ssu⁴ 兄嫁。あによめ。

【伯時】213 字號。❶後漢、史晨(2－3249‥95)の字。❷宋、沈義父(6－17189‥466)の字。❸宋、李公麟(6－14459‥1213)の字。❹元、魏中立(12－45872‥260)の字。❺明、韓宣可(12－43159‥261)の字。❻明、景暘(5－13983‥307)の字。❼明、毛昇(6－16772‥109)の字。❽明、楊宜(6－15112‥80)の字。

【伯州】214 複姓。〔姓源〕晉伯州犂奔レ楚、因爲ニ伯州氏一。

【伯州犂】215 春秋、楚の人。宗の子。官は康王の時の太宰。公子圍が郟敖を弑して自立した時、州犂を郟に殺す。〔左氏、成、十六年〕襄、二十六・二十七。昭、元年、定、四〕。

【伯周】216 字號。❶後漢、孟嘗(3－6960‥127)の字。❷宋、喬維岳(2－3990‥60)の字。

【伯修】217 字號。❶宋、宇文昌齡(3－7067‥81)の字。❷宋、韓晉卿(12－43159‥322)の字。❸宋、陳師錫(11－41698‥922)の字。❹宋、陳敏（無錫の人）(11－41698‥522)の字。❺元、蘇天爵(9－32427‥275)の字。❻明、袁宗道(10－34152‥228)の字。❼明、裴紹宗(10－34362‥147)の字。❽明、萬世德(9－31339‥604)の字。

【伯繡】218 明、劉麟(9－2224‥580)の字。

【伯式】219 後漢、折像(5－11800‥83)の字。

【伯車】220 後漢、梁冀(6－14825‥47)の字。

【伯者】221 霸者(12－42490‥25)に同じ。〔漢書、韋玄成傳〕錄ニ其功一以爲ニ伯首一。

【伯尙】222 字號。❶元、吳當(2－3365‥286)の字。❷明、毛節(6－16772‥131)の字。❸明、練高(8－27689‥7)の字。

【伯昌】223 ❶周の文王をいふ。〔楚辭、天問〕伯昌號衰、秉ニ鞭作一レ牧。〔注〕伯昌、謂ニ文王一也。❷宋、楊子謨(6－15112‥566)の字。

【伯相】224 周の召公。召公は西伯を以て相となつたからいふ。〔書、顧命〕越七日癸酉、伯相命ニ士須一レ材。

【伯將】225 字號。❶後魏、辛纂(10－38630‥33)の字。❷元、陳肅(11－41698‥341)の字。

【伯祥】226 字號。❶元、牛麟(7－19922‥296)の字。❷明、楊廷麟(6－15112‥710)の字。❸清、王繼統(7－20823‥1399)の字。

【伯章】227 明、楊俊民(6－15112‥614)の字。

【伯翔】228 字號。❶元、華翥(9－31214‥221)の字。❷明、張羽（南鄭の人）(4－9812‥41)の字。

【伯象】229 宋、郭象(11－39474‥163)の字。

【伯上】230 明、練高(8－27689‥7)の字。

【伯常】231 ❶複姓。〔莊子、則陽〕伯常騫曰、夫靈公有ニ妻三人一。❷字號。㋑元、郝經(11－39430‥11)の字。㋺元、王庸(7－20823‥1037)の字。㋩明、周經(2－3441‥145)の字。㋥明、張恆(4－9812‥310)の字。㋭明、陳經(11－41698‥210)の字。

【伯常騫】232 春秋の人。孔子と衛の靈公が靈たる所以を問答す。〔莊子、則陽〕・〔晏子、問下・雜下・重而異者・不合經術者〕。

【伯襄】233 明、李孫宸(6－14459‥1653)の字。「字。

【伯驥】234 清、陸ニ龍(11－41708‥343)の

【伯爵】235 五等爵中の第三位。字解□の㋑を見よ。〔史記、吳世家、注〕素隱曰、吳、本伯爵也。

【伯若】236 清、李暾(6－14459‥426)の字。

【伯主】237 諸侯のはたがしら。霸主。盟主。〔史記、十二諸侯年表序〕四國佚興、更爲ニ伯主一。

【伯首】238 霸者(12－42490‥25)に同じ。〔漢書、韋玄成傳〕錄ニ其功一以爲ニ伯首一。

【伯銖】239 元、陳鎰(11－41698‥17)の字。

【伯受】240 宋、姚祜(3－6202‥2)の字。

【伯壽】241 字號。❶宋、何鑄(1－511‥156)の字。❷宋、鄭璹(11－39647‥208)の字。❸宋、傅耆(1－939‥26)の字。❹宋、劉几(2－2224‥138)の字。❺宋、汪安行(6－17154‥155)の字。❻元、翟耆年(9－28727‥48)の字。

【伯儒】242 字號。❶三國魏、衛覬(10－34074‥18)の字。❷明、陳介夫(11－41698‥691)の字。❸明、劉士元(2－2224‥949)の字。

【伯充】243 字號。❶宋、趙叔盎(10－37171‥666)の字。❷元、呂璹(2－3386‥8)の字。

【伯叔】244 兄と弟。父の兄弟。〔書、旅獒〕分二寶玉于伯叔之國一。〔釋親考〕程子曰、伯叔、父之兄弟、伯是長、叔是少、今人乃呼二伯父一、叔父一爲二伯叔一、大無二義理一。

【伯叔兄弟】245 いとこ。従父昆弟(4－10152・179)に同じ。〔羅虞臣集、小宗辯〕三世之嫡、其從伯兄弟共宗之。

【伯叔祖父母】246 祖父の兄弟、及び其の妻。〔呂柟語錄、春官外署語〕初旦問二于材一言、祠堂之祭、可及二伯叔祖父母伯叔父母一否。

【伯俊】247 宋、簡世傑(8－26520・214)の字。

【伯春】248 字號。❶後漢、召馴(2－3241・30)の字。❷前趙、王育(7－20823・30)の字。

【伯雋】249 後魏、元叉(1－1340・219)の字。

【伯純】250 字號。❶宋、孫覺(3－6987・269)の字。❷宋、范雍(9－30834・123)の字。❸明、張鍊(4－9812・748)の字。

【伯淳】251 宋、程顥(8－25081・23)の字。

【伯循】252 字號。❶唐、趙匡(10－37171・104)の字。❷元、韓信同(12－43159・321)の字。❸明、孔環(3－6933・51)の字。

【伯順】253 字號。❶明、袁愷(10－34152・16)の字。❷明、馮裕(12－44579・146)の字。

【伯潤】254 字號。❶宋、鄭琚(11－39647・76)の字。❷清、鄭玟(11－39647・246)の字。

【伯醇】255 宋、劉庠(2－2224・277)の字。

【伯初】256 字號。❶後漢、耿秉(9－29026・44)の字。❷清、陳書(11－41698・352)の字。

【伯緒】257 字號。❶三國魏、桓階(6－14774・14)の字。❷後魏、宋維(3－7078・5)の字。❸梁、張纘(4－9812・338)の字。

【伯如】258 明、邵圭潔(11－39343・102)の字。

【伯序】259 字號。❶明、方宗秩(5－13620・571)の字。❷明、劉秩(2－2224・492)の字。

【伯徐】260 後漢、杭徐(6－14494・12)の字。

【伯舒】261 晉、趙胤(10－37171・16)の字。

【伯升】262 字號。❶後漢、譚賢(10－35979・14)の字。❷後漢、劉縯(2－2224・63)の字。❸宋、李京(6－14459・277)の字。❹宋、龔鼐(12－47625・26)の字。❺明、周階(2－3441・48)の字。

【伯承】263 字號。❶明、李先芳(6－14459・1603)の字。❷清、馮承輝(12－44579・243)の字。❸清、呂崇烈(2－3386・219)の字。

【伯松】264 漢、張竦(4－9812・431)の字。

【伯丞】265 後漢、李朝(6－14459・610)の字。

【伯繩】266 字號。❶清、曹鼎荀(5－14297・259)の字。❷清、劉汾(2－2224・298)の字。

【伯申】267 清、王引之(7－20823・1170)の字。

【伯忱】268 字號。❶宋、周孚先(2－3441・830)の字。❷明、鄭宗周(11－39647・491)の字。

【伯宸】269 明、徐御章(4－10110・376)の字。

【伯眞】270 後漢、陳球(11－41698・148)の字。

【伯深】271 南漢、劉濬(2－2224・367)の字。

【伯紳】272 明、周縉(2－3441・297)の字。

【伯進】273 字號。❶後漢、徐淑(4－10110・160)の字。❷明、項守禮(12－43343・71)の字。❸明、趙國忠(10－37171・567)の字。

【伯愼】274 後漢、張溫(4－9812・79)の字。

【伯審】275 隋、姚察(3－6202・57)の字。

【伯震】276 明、周東(2－3441・400)の字。

【伯仁】277 字號。❶後漢、張純(4－9812・407)の字。❷後漢、李尤(6－14459・21)の字。❸三國魏、夏侯尚(3－5720・104)の字。❹晉、周顗(2－3441・97)の字。❺隋、區澤(2－2691・35)の字。❻隋、董展(9－31433・135)の字。❼宋、陳世崇(11－41698・1034)の字。❽遼、蕭惠(9－32012・97)の字。❾金、皇覃(5－13983・229)の字。❿元、侯均(1－633・24)の字。⓫明、常遇春(4－8955・391)の字。⓬明、雷夢麟(12－42245・200)の字。

【伯垂】278 後唐、崔貽孫(4－8178・188)の字。

【伯瑞】279 字號。❶後魏、路特慶(10－37524・124)の字。❷明、衞一鳳(10－34074・123)の字。

【伯崇】280 宋、范念德(9－30834・253)の字。

【伯樞】281 明、徐環(4－10110・106)の字。

【伯正】282 宋、胡時(9－29400・166)の字。

【伯生】283 字號。❶元、虞集(9－32723・80)の字。❷明、惲厥初(4－10857・9)の字。❸明、李資坤(6－14459・1346)の字。❹清、蔣因培(9－31820・118)の字。

【伯成】284 ❶複姓。伯成子高を見よ。❷字號。❸宋、章綵(8－25761・79)の字。❹宋、張潤之(4－9812・1196)の字。❺元、牟應龍(7－19928・41)の字。❻明、石九奏(8－24024・910)の字。❼清、吳興祚(2－3365・561)の字。

【伯成子高】285 堯時代の人。堯が天下を治めた際に諸侯となつたが、堯が舜に讓り、舜が禹に讓つた時、諸侯を辭して野に下つた。禹がそのわけを尋ねると、子高は「子、賞罰して民且不仁なり。德、此より衰へ、刑、此より立ち、後世の亂此より始まる。」と答へ、耕して顧みなかつた。〔莊子、天地〕・〔列子、楊朱〕・〔淮南子、氾論訓〕。

【伯成辭耕】286 蒙求の標題。禹が天子の位につ た時、伯成子高が諸侯を辭して自ら耕した故事。〔莊子、天地〕堯治二天下一、伯成子高立爲二諸侯一、堯授レ舜、舜授レ禹、伯成子高辭レ爲二諸侯一而耕。

【伯政】287 宋、陸煥之(11－41708・302)の字。

【伯淸】288 字號。❶宋、郭澄(11－39474・168)の字。❷宋、田淸(7－21723・3)の字。❸明、何道旻(1－511・334)の字。❹明、朱廉(6－14424・614)の字。❺明、鄭淸(11－39647・9)の字。❻明、馮涇(12－44579・58)の字。

【伯盛】289 元、邊昌(11－39216・89)の字。

【伯誠】290 字號。❶唐、蕭存(9－32012・209)の字。❷宋、胡大正(9－29400・542)の字。❸宋、錢忱(11－40563・127)の字。❹宋、張潤之(4－9812・1196)の字。❺元、潘榮(7－18236・5)の字。❻明、蘇葵(9－32427・33)の字。

【伯靜】291 字號。❶宋、蔡淵(9－31818・13)の字。❷明、劉辰(2－2224・397)の字。

【伯濟】292 ❶後漢の時、弁辰中の一國。百濟をいふ。〔後漢書、東夷傳〕伯濟、是其一國焉。❷三國魏、郭淮(11－39474・226)の字。

【伯聲】293 字號。❶明、康鐸(4－9376・112)の字。❷明、樂大護(6－15399・313)の字。

【伯劭】294 清、史蟠(2－3249・139)の字。

【伯招】295 古代の人。帝嚳の師。〔新序、雜事五〕帝嚳學二伯招一。

【伯昭】296 字號。❶元、許晉孫(10－35298・322)の字。❷清、鄧瑤(11－39630・13)の字。

【伯照】297 字號。❶宋、王普(7－20823・928)の字。❷元、許晉孫(10－35298・322)の字。

【伯韶】298 宋、季鏞(3－6965・254)の字。

【伯蕭】299 後漢、費鳳(10－36717・70)の字。

【伯饒】300 後漢、張霸(4－9812・596)の字。

【伯石】301 春秋晉、楊食我(6－15112・408)の字。

【伯迹】302 霸業(12－42490・11)に同じ。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕索レ人求レ士者、必樹二伯迹一〔注〕良曰、擇レ人求レ士、必樹二霸王之迹一也。

【伯川】303 明、黃海(12－47926・109)の字。

【伯先】304 字號。❶後漢、劉植(2－2224・392)の字。❷三國吳、徐平(4－10110・280)の字。❸明、劉元珍(2－2224・890)の字。

【伯宣】305 元、劉宣(2－2224・447)の字。

【伯施】306 明、繆元吉(8－27855・60)の字。

【伯詹】307 明、蔡元偉(9－31818・162)の字。

【伯潛】308 明、穆孔暉(8－25251・80)の字。

【伯瞻】309 字號。❶明、華巒(9－31214・456)の字。❷明、潘惟嶽(7－18236・108)の字。❸明、陸顒(11－41708・64)の字。

【伯善】310 字號。❶元、石抹繼祖(8－24024・742)の字。❷元、王禎(7－20823・828)の字。

【伯然】311 三國魏、趙儼(10－37171・155)の字。

【伯祖】312 ❶祖父の兄。伯叔祖父母を見よ。❷字號。❸漢、鄧儒(11－39630・65)の字。❹後漢、劉祐(2－2224・14)の字。❺南唐、聶紹元(9－29179・33)の字。

【伯祖妣】313 父の從父兄弟の母をいふ。〔稱謂錄、父之世母叔母、伯祖妣〕柳宗元集、有二伯祖妣趙郡李夫人墓誌銘一。

【伯祚】314 南朝宋、傅隆(1－939・133)の字。

【伯楚】315 後漢、袁彭(10－34152・127)の字。

【伯楚阿那】316 地名。Bechuana の音譯。

❶南阿に於ける英國保護領。南阿聯邦の西北。❷南阿聯邦ケープ州の一地方。

【伯宗】317 ハクソウ ❶複姓。〔萬姓統譜〕伯宗、世本、晉孫伯起生二伯宗一因氏焉。❷春秋、晉の大夫。賢にして、好んで直辯を以て人を凌ぐ。毎朝、其の妻が、「盜は主人を憎み、民は其の上を惡む。子直言を好む、必ず難に及ばん。」と戒めたが、聽かず。竟に欒弗忌の難に及んで殺された。〔左氏、宣、十五。成、五・六・十五〕。❸字號。㋑後漢、夏勤(3－5720・・66)の字。㋺後漢、耿恭(9－29026・・19)の字。㋩後漢、王龔(7－20823・・250)の字。㋥後魏、崔劭(4－8178・・164)の字。㋭陳、廢帝(4－9492・・113)の名。㋬後晉、方太(5－13620・・328)の字。㋣元、李之紹(6－14459・・1299)の字。㋠元、李本(6－14459・・753)の字。㋡明、高岱(京山の人)(12－45313・・600)の字。㋢明、喬岳(2－3990・・8)の字。㋤清、吳紹先(2－3365・・714)の字。㋦清、劉城(2－2224・・344)の字。

【伯足】318 ソク 清、高心夔(12－45313・・1230)の字。

【伯存】319 ソン 唐、柳并(6－14662・・216)の字。

【伯孫】320 ソン 字號。❶後漢、梁松(6－14825・・122)の字。❷晉、范喬(9－30834・・30)の字。

【伯蓀】321 ソン 清、徐錫麟(4－10110・・478)の號。

【伯太】322 タイ ❶和泉國の地名。❷姓氏。〔新撰姓氏錄考證、二十一〕。

【伯大】323 ダイ 字號。❶宋、張淇(4－9812・・168)の字。❷宋、楊長孺(6－15112・・690)の字。❸明、孫洪(3－6987・・118)の字。

【伯台】324 タイ 明、許相卿(10－35298・・310)の字。

【伯臺】325 タイ 後漢、陳雅(11－41698・・62)の字。

【伯討】326 トウ 方伯が罪人を討伐すること。〔公羊、僖、四〕執者、曷爲或稱レ侯、或稱レ人、稱レ侯而執者、伯討也、稱レ人而執者、非二伯討一也。〔注〕言二有レ罪方伯所レ宜レ討。

【伯沿】327 ハクエン 清、吳沿(2－3365・・285)の字。

【伯道】328 ドウ ❶霸道(12－42490・・39)に同じ。〔漢書、五行志下之上〕伯道將レ廢。❷字號。㋑三國魏、郝昭(11－39430・・20)の字。㋺晉、鄧攸(11－39630・・5)の字。伯道無兒を見よ。㋩晉、司馬尙之(2－3257・・335)の字。㋥晉、刁逵(2－1846・・10)の字。

【伯道無兒】329 ムジ 蒙求の標題。晉の鄧攸が亂賊に遇つた時、我が一子を棄て、弟の子を存して義を立てたが、後、子供がなくて祀が絶えた故事。〔晉書、鄧攸傳〕石勒過二泗水一、攸乃斫二壞車一、以二牛馬一負二妻子一而逃、又遇二賊掠二其牛馬一、步走、擔二其兒及其弟子綏一、度レ不レ能二兩全一、乃謂二其妻一曰、吾弟早亡、唯有二一息一、理不レ可レ絕、止應二自棄一、我兒一有レ存、我後當レ有レ子、妻泣而從レ之、乃棄レ之、其子朝棄而暮及、明日、攸繫二之於樹一而去、云云、攸棄レ子之後、妻不二復孕一、過レ江納レ妾、甚寵レ之、訊二其家屬一、說、是北人遭レ亂、憶父母姓名、乃攸之甥、攸素有二德行一、聞レ之感恨、不二復畜一レ妾、卒以無レ嗣、時人義而哀レ之、爲レ之語曰、天道無レ知、使二鄧伯道無一レ兒。〔世說新語、賞譽〕謝太傅重二鄧僕射一、常言、天地無レ知、使二伯道無一レ兒。

【伯達】330 ❶周の成王の時の人。一說に、宣王の時の人。八士の一人。〔論語、微子〕周有二八士一、伯達・伯适・仲突・仲忽・叔夜・叔夏・季隨・季騧。❷宋。❸後漢、司馬朗(2－3257・・317)の字。㋺後漢、張禹(4－9812・・43)の字。㋩三國魏、任峻(1－416・・103)の字。㋣宋、蘇過(9－32427・・179)の字。㋭元、郭敏(11－39474・・193)の字。㋬明、姚舜聰(3－6202・・168)の字。

【伯尼】331 ハク 隋、蘇夔(9－32427・・34)の字。

【伯持】332 ハク 後漢、周暢(2－3441・・373)の字。

【伯疇】333 チュウ 明、倫文叙(1－793・・40)の字。

【伯長】334 チョウ 字號。❶宋、穆修(8－25251・・23)の字。❷明、傅藻(1－939・・54)の字。

【伯張】335 チョウ 漢、何丹(1－511・・151)の字。

【伯娘】336 ジョウ あねむすめ。〔舊唐書、列女、奉天縣竇氏二女傳〕伯娘仲娘、雖レ長二於村野一、而幼有二志操一。

【伯中】337 チュウ 元、解觀(10－35067・・62)の字。

【伯仲】338 チュウ ❶兄と弟。兄弟。〔禮、檀弓上〕幼名冠字、五十以二伯仲一。❷人物技倆等の相劣らぬこと。伯仲之間を見よ。❸宋、王舉正(7－20823・・1317)の字。

【伯仲之間】339 ハクチュウノカン 兩者の才能が相等しくて優劣のない事。相匹敵する。似たり寄ったり。伯仲は兄弟。難レ兄難レ弟(1－1343・・53)に同じ。〔魏文帝、典論、論文〕傳毅之於二班固一、伯仲之間耳。〔杜甫、詠二懷古跡一詩〕伯仲之間見二伊呂一。〔陸游、書慣詩〕出師一表眞名世、千載誰堪伯仲間。

【伯仲叔季】340 シュウキ 兄弟の順序。長を伯、次を仲、又次を叔、末を季と云ふ。〔左氏、文、十八〕高辛氏有二才子八人一、伯奮・仲堪・叔獻・季仲云云。〔論語、微子〕周有二八士一、伯達・伯适・仲突・仲忽・叔夜・叔夏・季隨・季騧。

【伯沖】341 チュウ 唐、陸質(11－41708・・138)の字。

【伯重】342 ジュウ 字號。❶後漢、扈累(5－11746・・24)の字。❷南朝宋、王鎭之(7－20823・・1931)の字。

【伯寵】343 チョウ 宋、劉襲(2－2224・・548)の字。

【伯直】344 チョク 字號。❶後漢、鄧盛(11－39630・・72)の字。❷宋、崔子方(4－8178・・265)の字。❸明、史弼(2－3249・・140)の字。

【伯珍】345 チン 字號。❶後漢、來歷(1－581・・268)の字。❷明、楊爵(6－15112・・199)の字。

【伯琛】346 チン 清、郭嵩燾(11－39474・・344)の字。

【伯鎭】347 チン 字號。❶宋、章岷(8－25761・・146)の字。❷宋、劉鼎孫(2－2224・・1217)の字。

【伯通】348 ツウ 字號。❶後漢、高恢(12－45313・・215)の字。❷後漢、彭寵(4－10003・・91)の字。❸晉、殷覬(6－16627・・25)の字。❹陳、章昭達(8－25761・・213)の字。❺隋、宇文述(3－7067・・55)の字。❻唐、第五泰(8－25943・・49)の字。❼宋、何執中(1－511・・290)の字。❽宋、許遂(10－35298・・137)の字。❾宋、陳蘭(11－41698・・420)の字。❿宋、熊本(7－19294・・119)の字。⓫明、顏渾(12－43591・・44)の字。⓬明、馮吉亨(12－44579・・193)の字。

【伯貞】349 テイ 字號。❶明、曹亨(6－14297・・26)の字。❷明、趙介(10－37171・・54)の字。❸明、劉仕貊(2－2224・・990)の字。❹明、梁伯興(6－14825・・311)の一名。

【伯鼎】350 テイ 元、李鉉(6－14459・・322)の字。

【伯趙】351 テウ ❶鳥の名。もず。伯勞(447)の異名。夏至に鳴き始め、冬至に鳴き止む。〔本草、伯勞〕釋名、伯鶪、博勞、伯趙、鵙、鴂。❷少皞氏の時の曆正の屬官。夏至・冬至を司る。〔左氏、昭、十七〕伯趙氏司レ至者也。〔注〕伯趙、伯勞也、以二夏至一鳴、冬至止。

【伯調】352 チョウ 清、徐緘(4－10110・・60)の字。

【伯條】353 ジョウ 後漢、荀昱(9－30929・・4)の字。

【伯迪】354 テキ 金、康公弼(4－9376・・178)の字。

【伯恬】355 テン 清、周儀暐(2－3441・・599)の字。

【伯甸】356 デン 伯爵の位を以て甸服に居ること。甸服は五服の一つで、畿内から千五百里を隔てたところ。五服(1－257・・977)を見よ。〔左氏、定、四〕曹爲二伯甸一、非レ尙二年也。〔注〕以二伯爵一居二甸服一言レ小。

【伯都】357 ハク ❶虎。〔方言、八〕虎、自レ關而西、謂二之伯都一。❷後漢、李翕(6－14459・・205)の字。

【伯都訶】358 トカ 廳の名。清、置く。今の滿洲吉林省扶餘縣。伯咄部(490)を見よ。〔清史稿、地理史、吉林、新城府、嘉慶十五年、置二伯都訶廳一〕

【伯圖】359 ト 霸者のはかりごと。霸圖(12－42490・・43)と同じ。

【伯度】360 ドク 字號。❶後漢、杜度(6－14477・・205)の字。❷後漢、竇憲(8－25695・・21)の字。❸後漢、李法(6－14459・・668)の字。❹後魏、游雅(7－17792・・27)の字。❺元、唐轅(2－3709・・18)の字。❻明、於敖(5－13628・・9)の字。

【伯東】361 トウ 字號。❶明、崔旦(4－8178・・127)の字。❷明、李開芳(6－14459・・928)の字。

【伯棟】362 トウ 明、彭汝楠(4－10003・・167)の字。

【伯同】363 ドウ 明、徐三重(4－10110・・434)の字。

【伯德】364 トク ❶複姓。〔遼金元姓譜〕金大定時、定二粟姓一爲五、曰姚里、曰伯德、曰奧里、曰梅智、曰揣、皆遼姓也。❷北齊、張亮(4－9812・・727)の字。

【伯德履信】365 ハクトクリシン 元、平定の人。字は順之。少くして聰慧人に過ぎ、志を篤くして學を好み、經史に博通す。大德の初、忻州の學事を領し、人皆之に化す。〔山西通志〕。

【伯德窓哥】366 ハクトクワカ 金、西南路咩糺奚の人。義軍を招集して元兵と戰ひ、定興の初、敵に圍ま

れて死す。〔金史、一百二十二〕。

【伯德特离補】367 ハクトクトクリホ　金の人。天會の初、京兆尹、後、崇義軍節度使となる。〔金史、八十一〕。

【伯德梅和尚】368 ハクトクバイワフシヤウ　金、泰州の人。性、鯁直にして氣節を尚ぶ。官は武勝軍節度使。後、鎭崇義軍に移る。臨潢に賊を攻め、流矢に中つて死す。〔金史、一百二十一〕。

【伯南】369 ハクナン　後漢、韓演(12－43159‥20)の字。

【伯南布哥】370 ペルナンブコ　地名。ブラジル東部の港市。大西洋岸の空港。Pernambuco の音譯。

【伯任】371 ハクニン　明、張棟(4－9812‥588)の字。

【伯寧】372 ハクネイ　字號。❶三國魏、滿寵(7－18099‥158)の字。❷明、周洎(2－3441‥384)の字。

【伯年】373 ハクネン　字號。❶北齊、韓軌(12－43159‥48)の字。❷清、任頤(1－416‥10)の字。

【伯念】374 ハクネン　明、董嗣成(9－31433‥216)の字。

【伯婆】375 ハクバ　父の伯母。〔龔大雅、義井題記〕。

【伯方】376 ハクハウ　字號。❶三國魏、茂涼の字。❷明、令狐泩(1－387‥53)の字。

【伯戛】377 ハクハウ　唐、薛收(9－32123‥67)の字。

【伯寶】378 ハクハウ　南齊、王慈(7－20823‥476)の字。

【伯防】379 ハクハウ　元、揭汯(5－12389‥12)の字。

【伯望】380 ハクバウ　字號。❶宋、周穎(2－3441‥24)の字。❷宋、章岵(8－25761‥68)の字。

【伯伯】381 ハクハク　伯父の俗稱。〔東京夢華錄〕東坡、立春日、簪幡勝過子由、諸子姪笑指曰、伯伯老人亦簪幡勝耶。

【伯伯壁】382 ハクハクペル　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【伯伯拉】383 ハクハクラル　地名。舊英領ソマリランドの首都。Berbera の音譯。

【伯八】384 ハクパ　元の人。姓は兒合丹氏。世祖の時、擢んでられて萬戶となり、至元中、親王昔列吉を討たうとし、未だ果さない中に賊に襲はれて卒す。〔元史、一百九十三〕。

【伯藩】385 ハクハン　清、李國翰(6－14459‥1240)の字。

【伯比】386 ハクヒ　複姓。〔萬姓統譜〕伯比、羊姓、楚若敖之後、伯比雖以鬬氏傳其家、而復以伯比爲氏。

【伯邳】387 ハクヒ　後漢、楊厥(6－15112‥127)の字。

【伯飛】388 ハクヒ　清、楊翰(6－15112‥65)の號。

【伯嚭】389 ハクヒ　春秋、楚の人。州犂の孫。吳に奔つて夫差の太宰となり、夫差が越を敗つた時、越の賂を受けて、句踐の和議を容れさせ、越が吳を滅ぼすや、其の不忠を詰られて殺された。〔史記、三十一〕。

【伯美】390 ハクビ　字號。❶明、張彥(4－9812‥288)の字。❷清、吳典(2－3365‥332)の字。

【伯微】391 ハクビ　宋、陸持之(11－41708‥386)の字。

【伯敫】392 ハクヒツ　宋、周弼(2－3441‥434)の字。

【伯萍】393 ハクヘイ　草の名。やぶそてつ。貫衆(10－36681‥43)の異名。〔本草、貫衆、釋名、時珍曰、別錄、一名伯萍、一名藥藻、皆字訛也。

【伯夫】394 ハクフ　複姓。〔萬姓統譜〕伯夫、見姓苑。

【伯父】395 ハクフ　❶父の兄。をぢ。〔釋名、釋親屬〕父之兄曰伯父。〔墨子、非儒下〕伯父・叔父。〔日知錄、雜論、伯父叔父〕古人於父之昆弟、必稱伯父叔父、未有但呼伯叔者、若不言父、而但曰伯叔、則是字之而已。❷天子が同姓の諸侯を、諸侯が同姓の大夫を尊稱する語。伯舅(113)の❶を見よ。〔書、康王之誥、今予一二伯父。〔儀禮、覲禮〕曰、伯父、女順命于王所、賜伯父舍。〔禮、曲禮下〕天子同姓、謂之伯父。

【伯孚】396 ハクフ　清、汪元爵(6－17154‥216)の字。

【伯扶】397 ハクフ　清、余鵬年(1－515‥124)の字。

【伯阜】398 ハクフ　清、李三畏(6－14459‥1262)の號。

【伯勇】399 ハクユウ　清、程鴻詔(8－25081‥203)の字。

【伯符】400 ハクフ　字號。❶三國吳、孫策(3－6987‥126)の字。❷隋、于壓(1－252‥57)の字。❸明、辛應乾(10－38630‥91)の字。❹明、陳泰來(平湖の人)(11－41698‥1110)の字。❺明、茅瑞徵(9－30836‥112)の字。

【伯敷】401 ハクフ　字號。❶元、陳繹曾(11－41698‥676)の字。❷清、程鴻詔(8－25081‥203)の字。

【伯武】402 ハクブ　字號。❶後漢、房植(5－11714‥78)の字。❷晉、胡威(9－29400‥5)の字。❸陳、甘戰(7－21643‥131)の字。❹陳、毛喜(6－16772‥31)の字。

【伯莆】403 ハクフ　清、壽富(3－5672‥139)の字。

【伯梵】404 ハクボン　春秋楚、鬬椒(12－45657‥76)の字。

【伯奮】405 ハクフン　❶上古、高辛氏の才子。八元の一人。舜が登用して五教を四方に布かせた。〔潛夫論、五德志〕世有才子八人、伯奮・仲堪・叔獻・季仲・伯虎・仲雄・叔豹・季貍。❷南齊、王秀之(7－20823‥1617)の字。

【伯文】406 ハクブン　字號。❶後漢、伏隆(1－438‥188)の字。❷後魏、劉芳(2－2224‥545)の字。❸明、萬國楨(9－31339‥580)の字。

【伯平】407 ハクヘイ　字號。❶後漢、沈直(6－17189‥297)の字。❷後漢、秦彭(8－24995‥139)の字。❸清、高均儒(12－45313‥1095)の字。

【伯屏】408 ハクヘイ　明、戚勳(5－11594‥15)の字。

【伯苗】409 ハクベウ　三國蜀、鄧芝(11－39630‥57)の字。

【伯甫】410 ハクホ　清、程宗(8－25081‥90)の字。

【伯輔】411 ハクホ　字號。❶明、孫居相(3－6987‥368)の字。

【伯母】412 ハクボ　をば。父母の姉。又、伯父の妻。〔禮、雜記下〕伯母・叔母、疏衰、踊不絕地。〔晉書、顧衆傳〕事伯母、以孝聞。

【伯姆】413 ハクボ　兄嫁。あによめ。〔和漢三才圖會、親屬、子婦〕婦稱夫之嫂曰伯姆。

【伯模】414 ハクボ　宋、陳貽範(11－41698‥631)の字。

【伯謨】415 ハクボ　宋、方士繇(5－13620‥525)の字。

【伯峯】416 ハクホウ　漢、熊喬(7－19294‥34)の字。

【伯逢】417 ハクホウ　宋、胡大原(9－29400‥540)の字。

【伯豐】418 ハクホウ　宋、吳必大(2－3365‥859)の字。

【伯本】419 ハクホン　明、滑壽(7－18032‥46)の字。

【伯明】420 ハクメイ　字號。❶宋、毛友誠(6－16772‥252)の字。❷明、溫純(7－17968‥143)の字。❸明、堅晟(3－5210‥78)の字。❹明、周倫(2－3441‥516)の字。❺明、陸南陽(11－41708‥405)の字。

【伯泊】421 ハクハク　宋、方鎔(5－13620‥446)の字。

【伯野】422 ハクヤ　宋、孫傳(3－6987‥258)の字。

【伯揚】423 ハクヤウ　字號。❶宋、李孝美(6－14459‥951)の字。❷金、完顏素蘭(3－7079‥100)の字。❸清、高宗元(12－45313‥1257)の字。

【伯陽】424 ハクヤウ　❶舜の七友の一人。〔呂覽、本味〕堯舜得伯陽・續耳、然後成德。〔墨子、所染〕舜染乎許由伯陽。〔小學紺珠、名臣類上、舜七友〕雄陶・方回・續牙・伯陽・東不訾・秦不虛・靈甫。❷老子。姓は李、名は耳、字は伯陽。或は云ふ、下引史記の伯陽諡曰の四字は衍文であつて、老子の字は伯陽に非ず、聃であると。〔史記、老莊申韓列傳〕老子者、云云、姓李氏、名耳、字伯陽、諡曰聃。〔魏武帝、秋胡行〕世言伯陽、殊不知老。〔唐書、宗室世系表上〕耳、字伯陽、一字聃、周平王時、爲太史。〔歐陽建、臨終詩〕伯陽適西戎。❸城の名。戰國、魏の邑。河南省安陽縣の西北の邯會の故城がこれである。〔史記、趙世家〕惠文王十七年、樂毅將趙師攻魏伯陽。❹谷の名。甘肅省清水縣の西南、刑馬山上。〔水經、渭水注〕渭水又東、伯陽谷水入焉、水出于刑馬山之伯陽谷。❺字號。㋑後漢、趙憙(10－37171‥97)の字。㋺三國吳、孫賁(3－6987‥261)の字。㋩前燕、李績(6－14459‥518)の字。㋥唐、令狐彰(1－387‥55)の字。㋭明、韓陽(12－43159‥218)の字。㋬明、吳景(2－3365‥144)の字。㋣清、方士穎(5－13620‥524)の字。㋠清、馮景夏(12－44579‥204)の字。

【伯暘】425 ハクヤウ　明、陸闇(11－41708‥34)の字。

【伯約】426 ハクヤク　三國蜀、姜維(3－6205‥1)の字。

【伯瀹】427 ハクヤク　清、張澍(4－9812‥388)の字。

【伯籲】428 ハクユ　清、雷士俊(12－42245‥185)の字。

【伯俞】429 ハクユ　宋、汪舜擧(6－17154‥258)の字。

【伯俞泣杖】430 ハクユキフヂヤウ　蒙求の標題。漢の韓伯俞が母に打たれて痛くなかつたので、母の老いて力の衰へたのを知り、之を痛んだ故事。〔說苑、建本〕伯俞有過、其母笞之、泣、其母曰、他日笞子、未嘗見泣、今泣何也、對曰、他日俞得罪、笞嘗痛、今母之力、不能使痛、是以泣。

【伯愉】431 ユユ　南朝宋、關康之(11－41470‥237)の字。

【伯瑜】432 ユユ　字號。❶周、老萊子(9－28842‥41)の字。❷三國蜀、杜瓊(6－14477‥91)の字。❸梁、沈瑀(6－17189‥28)の字。❹清、錢寶琛(11－40563‥418)の字。

【伯勇】433 ユユ　宋、李明復(6－14459‥1962)の字。

【伯雄】434 ユユ　清、舒赫德(9－30300‥99)の字。

【伯熊】435 ユユ　清、曹錫鑲(5－14297‥273)の字。

【伯融】436 明、孫炎（3―6987・・20）の字。

【伯余】437 黃帝の臣。〔淮南子、氾論訓〕伯余之初作レ衣也。〔注〕伯余、黃帝臣也。

【伯與】438 ❶舜の臣。〔書、舜典〕讓三于殳斨暨二伯與一。〔傳〕殳斨・伯與、二臣名。❷宋、林子立（6―14551・・336）の字。

【伯豫】439 後漢、劉愷（2―2224・・90）の字。

【伯輿】440 字號。❶三國魏、王基（7―20823・・190）の字。❷晉、衞權（10―34074・・35）の字。❸宋、饒魯（12―44400・・57）の字。

【伯容】441 字號。❶宋、曾紘（5―14299・・38）の字。❷明、黃希憲（金谿の人）（12―47926・・1024）の字。❸明、陳汝錡（11―41698・・1002）の字。❹清、觀保（10―34993・・191）の字。❺清、劉鳴珂（2―2224・・1334）の字。

【伯庸】442 ❶楚の屈原の父。〔楚辭、離騷〕帝高陽之苗裔兮、朕皇考曰二伯庸一。〔注〕伯庸、字也。❷字號。㋑宋、黃疇若（12―47926・・1240）の字。㋺宋、王堯臣（7―20823・・1403）の字。㋩元、馬祖常（12―44572・・862）の字。

【伯雝】443 明、蔣宮（9―31820・・24）の字。

【伯翼】444 明、韓夷（12―43159・・3）の字。

【伯郎】445 後漢、孟他（3―6960・・189）の字。

【伯朗】446 明、徐中台（4―10110・・578）の字。

【伯勞】447 ❶鳥の名。もず。鵙（12―46947）の異名。博勞鳥。伯趙。伯鷯。百舌。鴂。〔爾雅、釋鳥〕鵙、伯勞也。〔詩、豳風、七月〕七月鳴鵙。〔傳〕鵙、伯勞也。〔本草、伯勞〕釋名、伯鷯、博勞、伯趙、鵙、鴂。時珍曰、伯勞象二其聲一。〔禽經〕伯勞、似二鵙鴿一喙黑。〔曹植、令禽惡鳥論〕伯勞以二五月一而應二陰氣之動一、陰爲二賊害一、蓋賊害之鳥也、其聲鵙鵙然、故俗憎レ之。❷伯樂の❸に同じ。

【伯樂】448 ❶天馬を主るといふ星の名。〔星經〕伯樂、天星名、主二典天馬一。❷周代に善く馬を見分けた人。姓は孫、名は陽。孫陽（3―6987・・282）を見よ。〔莊子、馬蹄〕及レ至二伯樂一、曰、我善治レ馬。〔呂覽、贊能〕得二十良馬一、不レ若レ得二一伯樂一。〔淮南子、道應訓〕秦穆公請二伯樂一。〔韓愈、送三溫處士赴二河陽軍一序〕伯樂一過二冀北之野一、而馬羣遂空。❸馬の事に明るく、又、其の賣買周旋などを業とする者。轉じて、物と物とを交易すること。博勞。伯勞。〔鉏雨亭隨筆〕俗謂三互二市馬一曰二博勞一、伯樂、一作二博勞一、乃知、互市際能相レ馬者、或稱レ之曰二博勞一、後訛爲二互市之義一、又至二諸物交易一、總稱二博勞一、轉借失レ義甚矣。

【伯樂子】449 伯樂の子が不肖で、馬經を持って馬を求め、大きな蟾蜍を見て名馬の相と同じだといった故事。轉じて、愚な息子の意。〔琅琊代醉編、伯樂子〕伯樂相馬經、隆顙趺目、蹄如二累麴一、其子執二馬經一以求レ馬、出見二大蟾蜍一、謂二其父一曰、得二一馬一、略與レ相同、但蹄不レ如二累麴一爾、伯樂知二其子之愚一、但轉レ怒爲レ笑曰、此馬好跳、不レ堪レ御也、所謂按レ圖索レ駿。

【伯樂一顧】450 名馬が伯樂に遇つて其の價値を認められること。名君賢相の知遇を受ける喩。〔戰國、燕策〕蘇代曰、人有下賣二駿馬一者上、云云、往見二伯樂一曰、臣有二駿馬一、欲レ賣レ之、比二三旦一立二於市一、人莫二與言一、子還而視レ之、去而顧レ之、臣請獻二一朝之費一、伯樂乃還視レ之、去而顧レ之、一旦而馬價十倍。〔後漢書、隗囂傳〕數蒙二伯樂一顧之價一。〔書言故事、古今喩類〕辱二知遇伯樂一顧之重一。

〔伯樂既歿兮驥將焉程兮〕451 伯樂が死んでは、千里の馬も其の價値を認められない。賢人も明君賢相に遇はねば、其の智能を認められぬことの喩。〔楚辭、九章、懷沙〕懷レ質抱レ情兮、獨無レ匹兮、伯樂既歿兮、驥焉程兮。〔注〕伯樂、善相レ馬也、程、量也。

【伯瀾】452 明、黃觀（12―47926・・313）の字。

【伯鸞】453 字號。❶後漢、梁鴻（6―14825・・83）の字。❷宋、黃居宷（12―47926・・1040）の字。

〔伯鸞之竈〕454 後漢の梁鴻は幼少から孤兒で、獨居し、人と食を共にせず、嘗て隣家の者が先づ自家の米を炊いだ後、梁鴻に向つて、竈の熱い内に炊ぐべしといつたところが、鴻は人の熱に因つて炊がんやと言つて、其の火を消し、竈の冷めるのをまつて再び之を燃したといふ故事。〔世說新語補、德行上〕梁伯鸞少孤、嘗獨止、不二與レ人同食一、比舍先炊、已呼下伯鸞及二熱釜一炊上、伯鸞曰、童子鴻不下因二人熱一者上也、滅レ竈更燃レ之。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕昔歲孤生飄二搖風雨一、今茲親串崛二起雲霄一、思レ歸二尼父之轅一、恐レ近二伯鸞之竈一、且猶三吾大夫未二見二君子一、徘二徊渭川一以畢二餘年一足矣。

【伯利】455 地名。ハバロフスクの古名。黑龍江とウスリー江との會合點にある港市。

〔伯利恆〕456 地名。パレスチナの都市。キリストの生誕地。Bethlehem の音譯。「字。

【伯理】457 明、黃德溫（12―47926・・1274）の字。

【伯履】458 宋、范坦（9―30834・・89）の字。

【伯律】459 明、況鍾（6―17264・・12）の字。

【伯良】460 宋、秦懷忠（8―24995・・210）の字。

【伯亮】461 明、朱亮（6―14424・・602′）の字。

【伯梁】462 後漢、衞衡（10―34074・・12′）の字。

【伯量】463 宋、胡泳（建昌の人）（9―29400・・16）の字。

【伯隆】464 清、張兆棟（4―9812・・1394）の字。

【伯慮】465 國の名。柏慮。〔山海經、海內南經〕伯慮國在二鬱水南一、一曰二柏慮一。

【伯陵】466 漢、摯峻（5―12632・・7）の字。

【伯龍】467 字號。❶前秦、李威（6―14459・・9）の字。❷明、陳壽（11―41698・・337）の字。❸明、馬鳴起（12―44572・・948）の字。❹明、梁辰魚（6―14825・・279）の字。

【伯力】468 晉、辛勉（10―38630・・73）の字。

【伯林】469 ❶長子である君の意。晉の太子申生を指す。伯は長、林は君の義。〔楚辭、天問〕伯林雉經。〔注〕伯、長、林、君也、謂下晉太子申生、爲二後母驪姬所一レ譖、遂雉經而自殺上。❷ドイツの首府。伯靈。Berlin の音譯。

【伯倫】470 字號。❶晉、劉伶（2―2224・・657）の字。❷南朝宋、范泰（9―30834・・85）の字。❸南齊、江軻（6―17140・・36）の字。❹宋、蔡伯俙（9―31818・・230）の一名。❺宋、王時敍（7―20823・・1612）の字。❻明、韓肫仁（12―43159・・317）の字。❼清、王奐（7―20823・・305）の字。

【伯琳】471 後魏、陸琇（11―41708・・134）の字。

【伯鄰】472 明、黃臣（12―47926・・512）の字。

【伯麟】473 ❶清、滿洲正黃旗の人。諡は文愼。乾隆の擧人。嘉慶の間、雲貴總督に累擢せられて、邊外の猓夷を剿平す。官は協辦大學士・兵部尙書。〔清史稿、三百四十九〕・〔清史列傳、三十四〕・〔國朝耆獻類徵、三十四〕。❷字號。㋑明、藍瑞（9―32258・・50）の字。㋺清、鼇圖（12―48301・・14）の字。

【伯禮】474 字號。❶宋、留恭（7―21808・・35）の字。❷宋、王洽（7―20823・・162）の字。

【伯齡】475 明、劉志壽（2―2224・・993）の字。

【伯靈】476 ❶宋、陸霆龍（11―41708・・398）の字。❷ po^2 $ling^2$ 伯林（469）の❷に同じ。

【伯遼】477 晉、王遙（7―20823・・65）の字。

【伯鷯】478 鳥の名。もず。伯勞（447）の異名。〔本草、伯勞〕釋名、伯鷯。

【伯廉】479 明、陸簡（11―41708・・51）の字。

【伯魯】480 字號。❶明、歐陽汶（6―16185・・104）の字。❷明、徐師曾（4―10110・・458）の字。❸明、鄭若曾（11―39647・・434）の字。❹清、舒亹（9―30300・・57）の字。

【伯淮】481 後漢、姜肱（3―6205・・33）の字。

【伯邑考】482 周の文王の長子。商に人質となり、紂に烹られた。〔禮、檀弓上〕・〔淮南子、氾論訓〕。

【伯格長】483 村落の長。伯は阡陌、格は村落。伯落長。〔史記、酷吏、楊僕傳〕置二伯格長一、以牧二司姦盜賊一。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作レ落、古村落字、亦作レ格、街陌屯落、皆設二督長一也。

【伯岳吾】484 元の成宗の皇后。名は卜魯罕。脫里思の女。元貞元年、皇后に立ち、多病の帝に代つて政事を聽く。大德十年、帝の兄の子、愛育黎拔力八達を貶謫しようとして失敗し、後、東州に遷されて死を賜はる。〔元史、一百十四〕。

【伯爾腦】485 地名。エストニヤ西岸の港。Pernau の音譯。

【伯什戶】486 po^2 $shih^2$ hu^4 下級の官吏。俸祿を渡すことを司る。滿洲語。

【伯晨鼎】487 周の鼎の名。韓侯伯晨が周に朝して王の命令を聽いた時作つたものといふ。其の句は、詩經の大雅韓奕に、韓侯受レ命、王親命レ之、纘二戎祖考一、又王錫二韓侯一、とあるのに同

じ。故に同一の時のことかともいふ。

【伯紹拉】488 ペチョラ 河の名。ソヴイエト・ロシヤの河。北極海に注ぐ。Petchora の音譯。

【伯答沙】489 ハクタフシャ 元の人。官は、延祐の時の中書右丞相。時に天下よく治まり、極治と稱せらる。至順中、卒す。〔元史、一百二十四〕。

【伯咄部】490 ハクトツブ 勿吉國の七部の一。滿洲吉林省扶餘縣の境。五代史・太平寰宇記には、汨咄に作る。隋唐時代、北滿洲に據つた靺鞨の一部。〔隋書、靺鞨傳〕伯咄部、在二粟末之北一、勝兵七千。〔吉林通志〕今之伯都訥、與二金史之部渚濼一、皆伯咄之音轉、伯咄卽都訥矣。

【伯落長】491 ハクラクチヤウ 村落の長。伯格長(483)に同じ。〔漢書、酷吏、王溫舒傳〕置二伯落長一、以收二司姦一。〔注〕師古曰、伯、亦長帥之稱也、置二伯及邑落之長一、以收二捕司三察姦人一也。

【伯歌季舞】492 ハクカキブ 兄は歌ひ、弟は舞ふ。仲のよい兄弟を稱へる詞。〔易林〕伯歌季舞、燕樂以喜。

【伯壎仲篪】493 ハクケンチユウチ 兄弟仲のよいことにいふ。伯氏吹レ壎仲氏吹レ篪(203)を見よ。

【伯帖木兒】494 ポチムール 元、欽察の人。至元中、徹里帖木兒と共に哈丹を破つた。〔元史、三十二〕。

【伯剌西爾】495 ブラジル 國の名。南米の南東部にある共和國。南米の約二分の一の面積を占む。首府はブラジリア。珈琲の栽培が盛で、玉蜀黍・米・野生護謨・煙草・棉、及び金・鐵・金剛石等を産し、在留邦人は約十二萬である。Brazil の音譯。

【伯勒赫圖】496 ハクロクカクト 清、滿洲正白旗人。姓は納喇氏。諡は忠勇。屢〻戰功があり、爵は三等子。

【伯爾格來得】497 ベルグラード 地名。舊ユーゴースラヴイヤの首府。ドナウ河の港。商業・經濟の中心地。Belgrade の音譯。

【伯爾發斯特】498 ベルファスト 地名。北アイルランドの首府。Belfast の音譯。

【伯羅奔尼撒】499 ペロポネスス 半島の名。ギリシヤの南部にあり、古はスパルタ市の支配下にあつた。Peloponnesus の音譯。

【伯里克理斯】500 ペリクレス 古代ギリシヤ、アテネの大政治家。アテネの黃金時代を現出す。Pericles の音譯。

【伯里璽天德】501 プレジデント 大統領。議長。會長。社長。大學總長。President の音譯。

【估】467

コ ク 〔集韻〕果五切 ㄍㄨ ku¹·⁴ 麌

❶**市稅**。〔集韻〕估、市稅。〔唐書、陸長源傳〕高二鹽價一、賤二帛估一。❷**あたひ。ねぶみ**。價のみつもり。値ぶみする。値段を定める。價格査定。〔正韻〕估、論二物價一。〔五代史、王章傳〕百官俸廩、皆取二供レ軍之餘一、不レ堪者命二有司一、高估二其價一、估定又增、謂二之擡估一。❸**商人**。〔北史、邢巒傳〕商估交入。❹現㋑古い。㋺量る。推量する。

【估衣】1 イコ 古着。估衣鋪を見よ。

【估衣鋪】2 コイホ 古着屋。〔朝市叢載〕估衣鋪永聚號、在二前門外瓜子店路東一。

【估價】3 コカ 値踏みする。見積。概算。見積價格。〔白居易、策林、十九、息二游惰一〕但書二估價一、並免二稅錢一。〔通俗編、貨財、估價擡價〕五代史漢臣王章傳、俸廩不レ堪者、命二有司一高估二其價一、估定又增、謂二之擡估一。

【估價單】4 ku¹ chia⁴ tan¹ 概算書。見積書。

【估客】5 コカク 商人。〔世說新語、文學〕聞三江渚閒、估客船上、有二詠レ詩聲一、甚有二情致一。〔南史、扶南國傳〕國內不レ受二估客一、有二往者一亦殺レ啗之。〔盧綸、晚次二鄂州一詩〕估客晝眠知二浪靜一、舟人夜語覺二潮生一。

【估客樂】6 コカクガク 樂府、西曲歌の名。齊、武帝作。布衣の時、樊鄧に遊び、帝位に卽いた後、往事を憶うて作る。釋寶月・陳後主、唐の李白・元稹にも歌辭がある。〔樂府詩集、淸商曲辭、西曲歌、估客樂〕古今樂錄曰、估客樂者、齊武帝之所レ製也、帝布衣時、嘗遊二樊鄧一、登祚以後、追二憶往事一而作レ歌、使二樂府令劉瑤管弦被一レ之、敎習卒遂無レ成、有レ人、啓三釋寶月善解二音律一、帝使レ奏レ之、旬日之中、便就二諧合一。〔齊武帝、估客樂〕昔經二樊鄧役一、阻二潮梅根渚一、感憶追二往事一、意滿辭不レ敍。

【估核】7 ku¹ hê² 見積り計算する。

【估較】8 コカク 總括する。〔晉書、南蠻、林邑國傳〕徼外諸國嘗齎二寶物一、自二海路一來貿二貨賄一、而交州刺史・日南太守、云云、戢估二較太半一。

【估看】9 ku¹ k'an⁴ 見積る。量つて見る。

【估計】10 コケイ 價格、又は數量を見積る。見積る。計算する。〔舊唐書、憲宗紀下〕出二內庫羅綺犀玉金帶之具一、送二度支一、估計供レ軍。〔六部成語、工部、估計、注解〕估二計工程用款之數若干一也。

【估券】11 コケン 沽券(6－17258‥9)に同じ。❶地所の所有權を證明する手形。❷定價がき。うりね。❸ねうち。

【估衒】12 コゲン 技能をてらひ賣る。〔隋書、音樂志〕(開皇中、有二曹妙連等一、皆妙二絕管絃一)恃二其音技一、估二衒公王之閒一、擧レ時爭相慕尙。

【估贓】13 コザウ 贓物の價格を評定すること。〔明律、戶律、市廛〕其爲二罪人一估贓不レ實、致三罪有二輕重一者、以二故出入人罪一論。

【估冊】14 コサク 見積表。見積書。〔淸會典事例、工部、營建通例〕今本省估冊、合レ式者甚少。

【估稅】15 コゼイ 商品に課する稅。商品稅。〔晉書、甘卓傳〕卓外柔內剛、爲レ政簡惠、善二於綏撫一、估稅悉除、市無二二價一。

【估度】16 ku¹ tu⁴ 見つもる。

【估單】17 ku¹ tan¹ 見積書。

【估值】18 コチ ねだんを見つもる。〔福惠全書、刑名部、反叛、逆產變賣〕著二官牙一、估值發賣。

【估賣】19 コバイ うりひさぐ。〔楊維楨、小姑謠〕五丁一夜發二郿塢一、官籍黃金官估賣。

【估報】20 コハウ 見積り通知。〔淸會典事例、工部、營建通例〕各省估報案件、照二銷冊一一體造二具正副冊籍一。

【估撥】21 コハツ 官廳が物品購入の際、見積代金を支拂ふこと。〔淸會典、戶部〕凡動款、有二坐支一、有二給領一、有二協解一、有二估撥一、皆按二其實一而銷焉。

【估摸】22 ku¹ mo¹ 概略。想像する。推量する。

【估量】23 ku¹ liang ❶見積る。〔紅樓夢、二十四回〕估量叫著不著他們。❷想像する。推量する。

【估馬司】24 コバシ 馬の賣買に關する評價書類を掌る官署。宋代に置く。〔事物紀原、庫務職局部、估馬司〕宋朝會要曰、估馬司、咸平元年置、掌レ納二諸州所レ市馬估直驗記一、置二牧養一、今廢、陝西猶存二其局一也。

【佤】468

㊀クヮ ケ 〔集韻〕枯瓜切 麻
㊁クヮイ ケ 〔集韻〕空媧切 佳

㊀佤邪は、離絕のさま。或は萃(9－31664)に作る。〔集韻〕佤、佤邪、離絕皃、或作レ萃。㊁**正しくない**。菲(9－30960)に同じ。〔集韻〕菲、不レ正也、或作レ佤。

【佤拉姑】1 クヮラツコ 不正の婦。〔名義考〕佤拉、俗謂二一拉佤一、佤拉姑、猶レ言二不正之婦一也。

【俩】469

ハウ 仿(1－420)の籒文。〔正字通〕俩、籒文仿。

【伱】470

ヂ ❶你(1－471)の本字。〔正字通〕伱、汝也、俗作レ你、又作レ伲。❷伲(1－473)に同じ。〔字彙〕伲、同レ伱。

【你】471

ヂ ニ 〔集韻〕乃里切 ㄋㄧˇ ni³ 紙

なんぢ。もと伱(1－470)に作り、俗に你(1－472)に作る。〔集韻〕你、汝也。〔正字通〕伱、汝也、俗作レ你。〔陔餘叢考、你〕你字、惟詞曲用レ之、詩文未二嘗用一也。〔稱謂錄、泛稱、伱〕汝也、通雅、爾汝而若、乃一聲之轉、爾又爲レ尒、尒又作レ伱、俗書作レ你。

【你我】1 ni² wo³ 汝と我。お互に。

【你我之輩】2 ni² wo³ chih¹ pei⁴ 御同樣。御互同士。又、同等の人。

【你娘】3 ni³ niang² 婦人が他人に對して自ら

を尊大にいふ語。娘は母。男子が乃公といふに同じ。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕來拜你娘、張生、你喜也、姐姐、喒家去來。

【你納】4 ni^3 na^4 貴下。貴方樣。

【你儂】5 あなた。おまへ。汝。吳地方の方言。〔宋褧、江上歌〕我儂一日還到レ驛、你儂何日到二邕州一。

【你們】6 ni^3 men^2 汝等。君達。お前達。あなた方。

【你老】7 ni^2 lao^3 貴下。

〖你老子〗8 ni^2 lao^3 tzŭ 人を見下して「吾輩は」と傲語する語。〔還魂記、悵眺〕你老子用馬上得天下、何用詩書。

〖你老人家〗9 ni^2 lao^3 jen^2 chia あなた。貴下方。

【你龍】10 ni^3 lung^2 おまへたち。君等。浙江餘杭地方の方言。

【你這個人】11 ni^3 chê^4 kê jen^2 貴樣。こやつ。この野郞。

【你死我活】12 ni^2 ssŭ^2 wo^3 huo^2 命がけになる。汝が死ぬか俺が死ぬか。

【你來我去】13 ni^3 lai^2 wo^3 ch'ü^4 互に往來する。

【你】472

ヂ

伱(1－470)の俗字。〔正字通〕伱、汝也、俗作レ你。

【伲】473

ヂ

伱(1－470)に同じ。〔字彙〕伲、同レ伱。

【佌】474

セツ セチ 〔集韻〕私列切 屑

おごる。〔集韻〕佌、侈也。

【件】475

小篆

□一 ハン バン 〔集韻〕部滿切 ㄅㄢˋ pan^4 旱

□二 ハン 〔集韻〕普半切 翰

□一□二 ❶つれ。ともがら。〔集韻〕伴、一曰、侶也。〔楚辭、九章、惜誦〕又何以爲二此伴一也。〔注〕伴、侶也。〔蜀志、李嚴傳〕思レ得二良伴一。❷よる。〔廣韻〕伴、依也。❸はべる。したがふ。ともなふ。〔字彙〕伴、陪也。〔楚辭、九章、悲回風〕伴二張弛之信期一。〔注〕伴、俱也。〔北史、刑邵傳〕須二賓客自伴一。〔駱賓王、出レ縶寒夜詩〕空餘朝夕鳥、相伴夜啼寒。〔王建、宮詞〕密奏君王知レ入レ月、喚レ人相伴洗二裙裾一。❹大きいさま。〔說文〕伴、大皃、从レ人半聲。〔詩、大雅、卷阿〕伴奐爾游矣。〔傳〕伴奐、廣大有二文章一也。❺ゆつたりしてゐるさま。ひまのあるさま。〔詩、大雅、卷阿〕伴奐爾游矣、〔箋〕伴奐、自縱弛之意也。〔集傳〕伴奐・優游、閑暇之意。❻そむく。畔(7－21801)に通ず。〔楚辭、九章、悲回風〕伴二張弛之信期一。〔補注〕伴、讀若二背畔之畔一。

名乘 トモ。スケ。

【伴䪻】1 清、劉敏(2－2224··571)の字。

【伴仟】2 そむく。〔集韻〕伴、伴仟、相拒。〔駢雅、釋詁下〕伴仟、乖忤也。

【伴起】3 他のものにつれて生ずる。伴生(16)に同じ。

【伴偶】4 つれあふ。つれあひ。〔王褒、僮約〕不レ得二辰出夜入、交關伴偶一、舍後有レ樹、當二裁作レ船。

【伴奐】5 廣大で文彩があること。又、ゆつたりして樂しむ意。字解□一の❹❺を見よ。〔詩、大雅、卷阿〕伴奐爾游矣、優游爾休矣。〔傳〕伴奐、廣大有二文章一也。〔箋〕伴奐、自縱弛之意也。

【伴阮】6 字號。❶清、劉阮(2－2224··263)の字。❷清、劉源(2－2224··267)の字。

【伴護】7 警護。〔福惠全書、錢穀部、解給〕伴護有レ人、並不レ能二在レ路吞蝕一。

【伴造】8 古、我が國諸部の長として、其の部屬を管理した職名。〔日本書紀、雄略紀〕二年十月丙子、臣・連・伴造・國造。

【伴兒】9 pan^4 êrh とも。なかま。

【伴宿】10 ❶共に宿る。〔鄭谷、陸肱郞中辟二許裳先輩一爲二郡從事一因有二寄贈一詩〕夜淸僧伴宿、水月在二松梢一。❷pan^4 su^4 出棺する前夜の通夜。坐夜ともいふ。伴靈。

【伴緒】11 上古、すべて一群に長たる者をいふ。〔萬葉集、十八〕やそ等母能乎。

【伴食】12 しやうばん。正客と一緒に馳走にあづかる。轉じて、無能で官にある者を嘲つていふ。伴飯。伴接。〔胡詮、上二高宗一封事〕伴二食中書一、漫不レ可二否事一。

〖伴食宰相〗13 無能の宰相。唐の盧懷愼をいふ。伴食を見よ。〔舊唐書、盧懷愼傳〕開元三年、遷二黃門監一。懷愼與二紫微令姚崇一對二掌樞密一、懷愼自以爲、吏道不レ及レ崇、每レ事皆推二讓之一、時人謂二之伴食宰相一。

【伴人】14 pan^4 jen^2 仲間。

【伴隨】15 つきしたがふ。おともする。隨伴(11－41871··124)に同じ。

【伴生】16 他のものにつれて生ずる。伴起。

【伴接】17 お客をもてなす。又、そのこと。接伴。〔近古史談、織篇、稻葉一徹〕竊使下其臣三人、託二伴接一以圖上レ之。

【伴揃】18 供廻りを揃へ整へる。

【伴奏】19 音樂の演奏の際、歌聲または主要樂器の音樂的效果を助けるために、これに伴つて奏せられる演奏。

【伴送】20 隨行の者。又、附添うて送る。〔宣和遺事、後集〕聞三已差二伴送一。

【伴僧】21 伴の僧侶。葬式の列に加る僧。〔日本紀略、三〕村上天皇天曆元年五月十五日己亥、是日明達律師、率二伴僧一參二內裏一、始二御修法一。

【伴待】22 來客の從者などを待たせておく所。供待(1－605··50)に同じ。

【伴當】23 ❶安徽省徽州寧國等の地に居る賤民で、人に使役せられる者。轉じて、人夫、召使のこと。伴儅。伴檔。〔明會典〕家人伴當。❷pan^4 tang^4 わけ。所以。

【伴儅】24 賤民。人夫。伴當の❶に同じ。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕著二二三十箇伴儅一。〔淸國行政法汎論、官吏法、當レ爲二官吏一之資格、備考〕近聞、江南徽州府、則有二伴儅一。

【伴檔】25 伴當(23)の❶に同じ。

【伴黨】26 事件に加擔した黨類。一味徒黨。伴類。〔東鑑、一〕治承四年十月十八日、其伴黨生虜十八人。

【伴娘】27 pan^4 niang^2 こしもと。介添女。

【伴讀】28 ❶宋・遼・明代の官名。宗室の教育を司る。〔遼史、百官志三〕聖宗太平八年、長沙郡王宗允等、奏二選諸王伴讀一。〔元史、仁宗紀〕〔延祐二年〕八月壬寅、增二國子生百員一、歲貢二伴讀四員一。❷pan^4 tu^2 貴族、又は富豪の子弟の讀書の相手となること。又、其の役。〔紅樓夢、二回〕妙在一個女學生、並兩個伴讀丫環。

【伴飯】29 しやうばん。伴食(12)に同じ。〔燕翼貽謀錄〕五代日尋二干戈一、其於二軍卒一、尤先二激勵一、凡軍頭非レ有二戰功一者、皆號二伴飯指揮使一。

【伴部】30 舍人・史生・兵衞・使部などの總稱。〔式部省式、上〕諸司伴部。

【伴名】31 修辭學上、物の名を言はずに、その附屬又は隨伴の他のものを以て言ふこと。美人をさして蛾眉といふ如きは、其の例である。

【伴來】32 ともなひ來る。一緒につれて來る。〔鹽谷宕陰、中江藤樹傳〕原歸二近江一省レ母、欲二伴來一、母不レ欲三踰レ海如二他鄕一。

【伴領】33 ひきつれる。〔福惠全書、保甲部、選保、甲長〕伴二領新保長一。

【伴侶】34 ❶つれ。同伴者。〔韓愈、把レ酒詩〕我來無二伴侶一、把レ酒對二南山一。〔戴叔倫、越溪村居詩〕空林野寺經過少、落日深山伴侶稀。❷曲調の名。六朝、齊の音樂。〔唐書、禮樂志十一〕齊將レ亡也、有二伴侶曲一。

【伴類】35 事件に加擔した黨類。一味徒黨。伴黨。〔東鑑、一〕治承四年十月三日、伴類悉獲レ之。

【伴禮】36 禮物に添へて贈る物。〔還魂記、鬧殤〕生祠碑文到レ京、伴禮送レ人爲レ妙。

【伴靈】37 pan^4 ling^2 出棺する前夜の棺側の通夜。伴宿。

【伴蒿蹊】38 近江の人。名は資芳。通稱は庄右衞門。號は閑田子・閑田盧。京都に住居す。

詩文・國史に通じ、考證に精しく、天保三大人の一と稱せらる。文化三年歿す、年七十四。

【伴御奴】39 トモノミヤツコ 昔、主殿寮の下司で、禁裡の掃除などを司つた者。〔拾遺和歌集、雜春〕とのものみやつこ。

【伴月香】40 ハンゲツカウ 宋、徐鉉(**4－10110‥126**)の號。月明每に香を焚いて樂しんだことに因む。〔南州志〕徐鉉或遇二月夜一露二坐中庭一、但焚二香一炷一、其所レ親、私號二伴月香一。

【伴差法】41 ハンサハフ 共變法(**2－1458‥169**)を見よ。

【伴大夜】42 ハンタイヤ 喪家で出棺の前夜、客を招いて鼓樂して通夜することをいふ。暖喪(**5－14064‥27**)を見よ。〔咫聞錄〕吳中小民家、亦用二鼓樂一竟レ夜、親鄰畢集、謂二之伴大夜一。

【伴天連】43 バテレン 織田信長時代に渡來した耶蘇宣教師の稱。葡萄牙語 Padre (父の義)の訛。轉じて、切支丹、卽ちキリスト教をいふ。〔俳諧袋〕ばてれんの本尊。

【⿰亻戊】476 シユク スク 〔集韻〕初六切 屋

うれへる。〔集韻〕⿰亻戊、憂也。

【伵】477 キヨク 侐(**1－593**)に同じ。〔集韻〕侐、靜也、或作レ伵。

【伶】478
一 レイ リヤウ 〔集韻〕郎丁切 青 ㄌㄧㄥˊ ling²
二 レイ リヤウ 〔集韻〕郎定切 徑
三 レイ リヤウ 〔集韻〕離貞切 庚
四 レイ リヤウ 〔集韻〕力正切 敬

小篆 一二三四 ❶**仕へる人。小臣。**〔說文〕伶、弄也、从レ人令聲、益州有二建伶縣一。〔段注〕徐鍇曰、伶人者弄臣也、毛詩、寺人之令、釋文曰、令、韓詩作レ伶、云二使伶一。❷**こもの。こづかひ。**〔玉篇〕伶、使也。〔白居易、府齋感懷酬二夢得一詩〕府伶呼喚爭レ先到、家醞提攜動輒隨。❸**ひとり。ひとり行くさま。**伶俜(15)の❶を見よ。〔廣韻〕伶、獨也。❹**音樂師。わざをぎ。**黃帝の時、伶倫が樂官となつたからいふ。泠(**6－17306**)に通ず。〔左氏、成、九〕泠人也。〔注〕泠人、樂官也。〔釋文〕泠、依レ字作レ伶。〔國語、周語下〕問二之伶州鳩一。〔注〕伶、司樂官。〔後漢書、馬融傳上〕詠二歌於伶簫一。〔注〕伶、樂官也。〔唐書、禮樂志〕制二新曲一教二女伶一。❺**かしこい。**怜(**4－10461**)に通ず。伶俐(17)を見よ。❻**姓。**〔姓氏急就篇、上〕泠氏亦作レ伶、伶人、掌レ樂之官、因爲レ氏。

參考 伶(**1－401**)は別字。

【伶優】1 レイイウ わざをぎ。役者。俳優。〔蘇軾、九月次二定國韻一詩〕力盡病騏驥、伎窮老伶優。

【伶樂】2 レイガク 音樂。黃帝の時、伶倫が初めて樂を作つたからいふ。伶倫(18)を見よ。

【伶魁】3 レイクワイ 伶人の長。樂長。〔演繁露〕開元二年、云云、命二伶魁一爲二樂營將一。

【伶官】4 レイクワン 音樂を奏する役。樂官。黃帝の時、伶倫が樂官となり、其の後、伶氏が世々樂を掌つたからいふ。五代史に伶官傳がある。〔詩、邶風、簡兮序〕衞之賢者仕二於伶官一。〔箋〕伶氏、世掌二樂官一而善レ焉、故後世多號二樂官一爲二伶官一。〔宋史、文苑一、馮吉傳〕賜以二束帛一、吉置二於肩左一、抱二琵琶一按レ膝再拜、如二伶官狀一、了無二怍色一。

【伶官傳】5 レイクワンデン 俳優や伶人の事を記した傳記。宋の歐陽脩の五代史に始まる。〔五代史、伶官傳敍論〕嗚呼盛衰之理、雖レ曰二天命一、豈非二人事一哉、原下莊宗之所三以得二天下一、與中其所二以失一レ之者上、可二以知一レ之矣、世言、晉王之將レ終也、以二三矢一賜二莊宗一、而告レ之曰、梁吾仇也、燕王吾所レ立、契丹與レ吾約爲二兄弟一、而皆背レ晉以歸レ梁、此三者、吾遺恨也、與二爾三矢一、爾其無レ忘二乃父之志一、莊宗受而藏二之於廟一、其後用レ兵、則遣二從事一、以二一少牢一告レ廟、請二其矢一、盛以二錦囊一、負而前驅、乃凱旋而納レ之、方下其係二燕父子一以レ組、函中梁君臣之首上、入二於太廟一、還二矢先王一、而告以二成功一、其意氣之盛、可レ謂レ壯哉、及二仇讐已滅、天下已定一、一夫夜呼、亂者四應、蒼皇東出、未レ及レ見レ賊、而士卒離散、君臣相顧、不レ知レ所レ歸、至レ於誓レ天斷レ髮、泣下沾レ襟、何其衰也、豈得之難、而失之易歟、抑本二其成敗之迹一、而皆自二於人一歟、書曰、滿招レ損、謙得レ益、憂勞可二以興一レ國、逸豫可二以亡一レ身、自然之理也、故方二其盛一也、擧二天下之豪傑一、莫二能與一レ之爭一、及二其衰一也、數十伶人困レ之、而身死國滅、爲二天下笑一、夫禍患積二於忽微一、而智勇多困二於所一レ溺、豈獨伶人也哉、作二伶官傳一。

【伶玄】6 レイゲン 漢、潞水の人。字は子于。司空小吏から淮南相に歷官す。著に飛燕外傳がある。〔四庫提要〕には、後人の依託となつてゐる。〔四庫提要、一百四十三〕。

【伶工】7 レイコウ 樂人。伶人。〔唐書、百官志〕伶工、謂二夜警爲一レ嚴。

【伶使】8 レイシ 從僕。召使。使の者。

【伶州】9 レイシウ 複姓。〔萬姓統譜〕伶州、左傳、周伶州鳩之後。

【伶侏】10 レイシユ 樂人。〔事物異名錄、品術、樂工〕集韻、伶侏、樂人。

【伶人】11 レイジン ❶樂人。樂官。樂士。伶工。〔國語、周語下〕伶人告レ龢。〔注〕伶人、樂人也。〔國語、魯語下〕今伶簫咏歌、及二鹿鳴之三一。〔注〕伶、伶人、樂官也。〔郭璞、山海經序〕鈞天之庭、豈伶人之所レ躡。〔晉書、戴逵傳〕逵對二使者一破レ琴曰、戴安道不レ爲二王門伶人一。〔書言故事、人品類〕樂人曰二伶人一。❷ling² jen² 俳優。役者。

【伶丁】12 レイテイ 伶仃に同じ。

【伶仃】13 レイテイ ❶一人行くさま。孤獨なさま。志を失ふさま。零丁。伶丁。〔廣韻〕仃、伶仃、獨也。〔柳貫、初夏憶二京城鄰舍一詩〕萬里滄江雲一去、欲下將二孤影一寄中伶仃上。❷瘤の垂れてゐるさま。

【伶分】14 ling² fen¹ 敏捷。氣がきく。伶便。

【伶俜】15 レイヘイ ❶一人ぽつちのさま。さまよふさま。おちぶれるさま。〔古樂府、猛虎行〕少年惶且怖、伶俜到二他鄉一。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕伶俜縈二苦辛一。〔潘岳、寡婦賦〕少伶俜而偏孤兮。〔注〕銑曰、伶俜、單孑貌。〔張謂、代二北州老翁一答詩〕且復伶俜去二鄉土一。❷ling² p'ing² 召使の小者。

【伶便】16 ling² pien⁴ 簡便な。輕捷な。

【伶俐】17 レイリ さかしい。かしこい。伶利。〔正字通〕俐、俗字、今方言、謂二黠慧一曰二伶俐一。

【伶倫】18 レイリン 黃帝の臣の名。嶰谷の竹を取つて樂律を製した人。漢書には泠綸に作る。〔呂覽、古樂〕昔黃帝令三伶倫作二爲律一、伶倫自二大夏之西一、乃之二阮隃之陰一、取二竹於嶰谿之谷一、以下生二空竅一厚鈞者上、斷二兩節閒一、其長三寸九分、而吹レ之、以爲二黃鍾之宮一、吹曰二舍少一、次制二十二筒一、以之二阮隃之下一、聽二鳳皇之鳴一、以別二十二律一、其雄鳴爲レ六、雌鳴亦六、以レ比二黃鍾之宮一適合、黃鍾之宮、皆可二以生一レ之、故曰二黃鍾之宮、律呂之本一、黃帝又命二伶倫與二榮將一、鑄二十二鍾一、以和二五音一、以施二榮韶一、以二仲春之月、乙卯之日、日在レ奎、始奏レ之、命レ之曰二咸池一。〔說苑、脩文〕黃帝詔二伶倫一、作二爲音律一、伶倫自二大夏之西一、乃之二崑崙之陰一、取二竹於嶰谷一、以生レ竅厚薄均者、斷二兩節之閒一、其長九寸、而吹レ之、以爲二黃鍾之宮一、日含少次制二十二管一、以二崑崙之下聽二鳳之鳴一、以別二十二律一、其雄鳴爲レ六、雌鳴亦六、以比二黃鐘之宮一。

【伶牙俐齒】19 レイガリシ 言葉がてきぱきとして流暢なこと。〔通俗編、言笑、伶牙俐齒〕見二元人楊氏勸夫曲一。

【伷】479 チウ 冑(**9－29349**)に同じ。〔集韻〕冑、或作レ伷。

【⿰亻幼】480 アウ 拗(**5－12581**)に同じ。〔集韻〕⿰亻幼、很戾也、或作レ拗。

【伸】481
一 シン 〔集韻〕升人切 眞 ㄕㄣ shen¹
二 チン 〔集韻〕癡鄰切 眞

小篆

㊀❶**のびる。ひろがる。のばす。** 或は信(1−707)に作り、通じて申(7−21726)に作る。〔說文〕伸、屈伸也、从ㇾ人申聲。〔段注〕屈者無ㇾ尾也、伸之反也、屈伸、謠俗共知之語、故以爲ㇾ訓、云云、疑此字不ㇾ古、古但作二詘信一、或用ㇾ申爲ㇾ之、本無二伸字一、以二屈伸一訓二伸篆一、亦非二說解之體一、宋毛晃曰、古惟申字、後加二立人一以別ㇾ之。〔說文通訓定聲〕伸、不ㇾ屈也、从ㇾ人申聲。〔廣雅、釋詁三〕伸、展也。〔廣韻〕伸、舒也。〔集韻〕伸、經典作ㇾ信、通作ㇾ申。〔易、繫辭上〕引而伸ㇾ之。〔禮、儒行〕竟信二其志一、〔注〕信、讀如二屈伸之伸一、假借字也、信、或爲ㇾ申。〔列子、湯問〕鉤不ㇾ伸。〔淮南子、本經訓〕伸二曳四時一。❷**せのびする。**〔儀禮、士相見禮〕君子欠伸。〔注〕志倦則欠、體倦則伸也、古文、伸作ㇾ信。❸**のびのびする。はれやかになる。**〔杜甫、別二蔡著作一詩〕使三蜀見二知己一、別顏始一伸。❹**をさめる。**〔廣雅、釋詁二〕伸、理也。❺**なほくする。** 眞直にする。〔廣雅、釋詁三〕伸、直也。〔莊子、刻意〕吹呴呼吸、吐ㇾ故納ㇾ新、熊經鳥伸、爲ㇾ壽而已矣。❻身(10−38034)の誤字。〔說文通訓定聲〕伸、叚借爲ㇾ身、荀子儒效、是猶二傴伸而好ㇾ升ㇾ高也。〔荀子、儒效〕猶二傴伸而好ㇾ升ㇾ高。〔注〕伸、讀爲ㇾ身、字之誤也、傴身之人而強升ㇾ高。❼**姓。**〔萬姓統譜〕伸意、莆田人、政和進士。❽[現]述べる。〔例〕伸哀。㊁❶**のびる。**〔集韻〕伸、申也。❷**ひきもどす。**〔集韻〕伸、引戾也。㊂或は⿰伸攵(5−13222)・抻(5−11928)・搷(5−12526)に作る。〔集韻〕伸、或作二⿰伸攵・抻・搷一。[邦]**まうす。** 追伸。

[名乘] ノブ。

【伸威】1 シンヰ 威力をのべる。〔戰國、秦策〕王不ㇾ用ㇾ甲、不ㇾ伸ㇾ威、而出二百里之地一。

【伸傴】2 シンウ せむしを療治してまつすぐにする。〔枚乘、七發〕猶將三伸ㇾ傴起ㇾ躄、發ㇾ瞽披ㇾ聾而觀二望之一也。〔注〕善曰、廣雅曰、傴、曲也。

【伸曳】3 シンエイ ひきのばす。ひきのばして調和せしめる。〔淮南子、本經訓〕含二吐陰陽一、伸二曳四時一。〔注〕伸曳猶三伸引和二調之一也。

【伸腰】4 シンエウ ❶こしをのばす。〔古樂府、隴西行〕伸ㇾ腰再拜跪、問二客平安不一。❷やすむ。〔陸游、晝睡詩〕伸腰午飯餘。

【伸冤】5 シンエン 無實の罪をはらす。冤枉を明らかにする。申冤(7−21726・・5)に同じ。

【伸吭】7 シンカウ のどをのばす。ものを待つさま。〔柳宗元、上二門下李夷簡相公一書〕仰ㇾ首伸ㇾ吭、張ㇾ目而視曰、庶幾乎其有二異俗之心非常之力、當ㇾ路而垂ㇾ仁者一耶。

【伸頸】8 シンケイ くびを長くのばす。〔元結、峿臺銘〕伸ㇾ頸歌吟、以自暢達。〔宋史、江仲明傳〕伸ㇾ頸就ㇾ刃。

【伸欠】9 シンケン のびとあくび。欠伸。〔秦觀、遣二瘧鬼一文〕邗溝處士、秋得二痎瘧之疾一、發二以景中一、起二於毛端一、伸欠乃作。

【伸鉤】10 シンコウ 鐵のかぎを眞直にする。力の強いことをあらはすに用ひられる語。〔論衡、效力〕奡・育、古之多力者、身能負二荷千鈞一、手能決ㇾ角伸ㇾ鉤、使二之自擧一、不ㇾ能ㇾ離ㇾ地。〔周邦彥、汴都賦〕投ㇾ石超ㇾ距、索ㇾ鐵伸ㇾ鉤。

【伸之】11 シンシ 宋、林伸の字。

【伸志】12 シンシ 志をのばす。〔論衡、累害〕清正之仕、抗ㇾ行伸ㇾ志。

【伸手】13 shen^1 shou^3 手を伸ばす。「食。

【伸手將軍】14 shen^1 shou^3 chiang^4 chün^1 乞

【伸縮】15 シンシュク のびちぢみ。のびることとちぢむこと。のばすこととちぢめること。〔宋史、陳亮傳〕東通二吳會一、西連二巴蜀一、南極二湖湘一、北控二關洛一、左右伸縮、皆足三以爲二進取之機一。

【伸縮胞】16 シンシュクハウ 草履蟲等の體内にあり、時時伸縮して其の形をかへる一種の細胞。排泄・呼吸等の作用を營むものといはれる。收縮胞。

【伸縮限制法】17 シンシュクゲンセイハフ 兌換券發行準備制度の一種。法律規定の保證準備によつて最高額を發行し、猶若し非常時等によつて不足を生じた樣な場合には、必要に應じ、政府の認可を得て、一定の發行税を納めて制限外の發行をするをいふ。

【伸初】18 シンショ 清、吳士熹(2−3365・・588)の字。

【伸舒】19 シンジョ のびる。のばす。〔韻府引、柳貫、詩〕錦標玉軸隨伸舒。

【伸伸】20 シンシン ゆつたりとのびるさま。のびのびしたさま。〔漢書、敍傳下〕宜爾子孫、夭夭伸伸。〔注〕師古曰、論語稱、孔子燕居、伸伸如也、夭夭如也、謂二和舒之貌一。

【伸訴】21 shen^1 su^4 告訴する。

【伸腿】22 シンタイ 足をのばす。死ぬことをいふ。死人は足を伸ばしたなりで居るからいふ。〔紅樓夢、十三回〕如今伸腿去了。

【伸腿瞪眼】23 shen^1 t'uei^3 têng^4 yen^3 脚をのばし、眼を見張る。死ぬことをいふ。

【伸道】24 シンダウ ❶道をひろめのばす。〔孔叢子、抗志〕屈ㇾ己以伸ㇾ道乎、抗ㇾ志以貧賤乎。❷宋、吳時(2−3365・・204)の字。

【伸張】25 シンチヤウ のばす。のびる。

【伸直】26 シンチヨク のびて眞直ぐになる。

【伸臂】27 シンピ ひぢを長くのばす。〔名畫記〕魏晉以降、畫二山水一、附以二樹石一、映二帶其地一、列植之狀、則若二伸ㇾ臂布ㇾ指。

【伸眉】28 シンビ しかめたまゆをのばす。心配が消えてはればれとすることをいふ。〔漢書、薛宣傳〕可三復伸二眉於後一。

【伸符】29 シンプ 清、趙執信(10−37171・・652)の字。

【伸明】30 shen^1 ming^2 明白に說く。說き明かす。

【伸理】31 シンリ ❶理をのばす。條理を伸展させる。〔淮南子、主術訓〕數窮二於下一、則不ㇾ能ㇾ伸ㇾ理、行墮二於國一、則不ㇾ能ㇾ專ㇾ制。❷shen^1 li^3 理由を說明する。

【伸不開】32 shen^1 pu k'ai^1 指などを伸ばされない。伸びられない。

【伸不直】33 shen^1 pu chih^2 眞直ぐにならぬ。

【伸蒙子】34 シンモウシ 書名。三卷。唐、林愼思撰。上卷は槐・里・辨三篇で、彰變・辨治・喩民・演喩・較功・演聖・喩時・全明・遷善・明化・廣賢・較仁・持危・利用の十四章に分け、干祿先生・知道先生・求己先生の三人の問答體になつてをり、主として天・地・人三才のことを記す。中卷は澤・國・紀三篇で、辯刑・合天・去亂・鏡旨・鑑旨・演忠・明諫・辨惑・分賢・彰明の十章とし、宏文先生・如愚子・盧孔子の三人の問答體になつてをり、君・臣・民のことを記す。下卷は時・喩二篇で、明性・刺奢・顯防・伺難・治難・審類・遠化・譏惑・由天・警惑・辨功・愼名・指常・指公・諷失・書誤の十六章に分け、自己の說を述べて文武の事を論ず。〔四庫提要、子、儒家類〕。

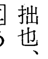
【伸大拇指】35 shen^1 ta^4 mu^2 chih^3 ❶親指を伸ばす。❷褒める。

【伸着脖子】36 shen^1 chê po^2 tzŭ 頸をのばす。

【伸頭縮頸】37 シントウシュクケイ あたまをのばし、又くびをちぢめる。樣子を窺ひ見るさま。〔通俗編、身體、伸頭縮頸〕許洞、嘲二林君復一詩、豪門送ㇾ物鵝伸ㇾ頸、好客臨ㇾ門鼈縮ㇾ頭。

【伸頭探腦】38 shen^1 t'ou^2 t'an^4 nao^3 首をのばして窺ひ探ること。

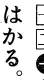
【伹】482


小篆

㊀ショ 〔集韻〕千余切 [魚]
㊁ソ 〔集韻〕總古切 [麌]

㊀**つたない。にぶい。**〔說文〕伹、拙也、从ㇾ人且聲。〔廣雅、釋詁三〕伹、純也。㊁**あさい。**〔集韻〕伹、淺也。

【伺】483


小篆

㊀シ 〔集韻〕相吏切 [寘]
㊁シ 〔集韻〕新茲切 [支] ㄘˋ tz'ŭ^4

㊀㊁❶**うかがふ。さぐる。おしはかる。**〔字彙〕伺、偵候也。〔一切經音義、二〕伺、察也。〔史記、伍子胥傳〕

使ニ人微伺レ之。〔漢書、文三王傳〕更相眄伺。〔蜀志、後主劉禪傳〕伺ニ上意所ニ趨而合レ之。❷ねらふ。まつ。〔說文新附〕伺、候望也、从レ人司聲。〔魏書、趙修傳〕密伺ニ其過。〔唐書、陸贄傳〕挾ニ兩端一、有レ所狙伺。❸みる。のぞく。〔方言、十〕伺、視也。〔集韻〕伺、奄闚也。〔水經、丹水注〕水出ニ丹魚一、先ニ夏至一十日、夜伺レ之、魚浮ニ水側一、赤光、上照如レ火。❹きく。〔顏延之、從軍行〕臥伺ニ金柝響一。❺訪ふ。たづねる。〔廣韻〕伺、伺候也。〔韓愈、送ニ李愿歸ニ盤谷一序〕伺ニ候於公卿之門一。❻或は覗(10－34839)に作る。〔集韻〕伺、或从レ見。❼或は司(2－3257)に作る。〔漢書、灌夫傳〕令ニ門下候司一。〔注〕司、伺也。邦うかがひ。下級官廳、又は人民が、上官政府などの指令を仰ぐこと。又、神佛の啓示を求めること。

名乘 ミ。

【伺應】1 シオウ うかがひこたへる。〔唐書、張薦傳〕周曾奮ニ發于外一、韋清伺ニ應于內一。

【伺間】2 シカン すきまをつけねらふ。伺隙。〔晉書、王彌傳論〕命レ儔嘯レ侶、伺ニ間候レ隙。

【伺窺】3 シキ ひそかに樣子を見る。〔柳宗元、憩蟪文〕蠖形決月、潛伺窺兌。

【伺隙】4 シゲキ 乘ずべきすきまをうかがふ。伺間。〔蜀志、法正傳〕觀釁伺レ隙。〔曹植、諫ニ伐ニ遼東一表〕西有ニ伺レ隙之蜀一。『伺隙之寇』5 シゲキノコウ すきをうかがつてゐる寇賊。〔魏志、杜恕傳〕外有ニ伺隙之寇一、內有ニ貧曠之民一。

【伺候】6 シコウ ❶參つて御機嫌をうかがふ。又、側に侍居する。奉仕する。〔後漢書、侯覽傳〕覽伺候遮截、章竟不レ上。〔韓愈、送ニ李愿歸ニ盤谷一序〕伺ニ候於公卿之門一。❷うかがひまつ。ねらひうかがふ。〔六韜、龍韜、農器〕雞犬其伺候也。〔吳志、全琮傳〕伺候不レ休。❸tz'ŭ⁴ hou⁴ 世話する。侍る。仕へる。奉公する。かしづく。

【伺查】7 tz'ŭ⁴ ch'a²² 調査する。取調べる。

【伺詐】8 シサ 罪せられることを伺ひはかつて言葉を詐る。〔荀子、富國〕掎絜伺詐。〔注〕伺ニ候其罪一、詐ニ僞其辭一。

【伺濟】9 シサイ 上司の決濟を得たこと。

【伺察】10 シサツ うかがひみる。探る。又、其の者。〔列子、說符〕吾君恃ニ伺察一而得レ盜、盜不レ盡矣。

【伺書】11 シショガキ 役所などで、上の指令を請ふ爲に差出す文書。

【伺辰】12 シシン 時を伺ふ。時を伺ひ知る。〔梁書、元帝紀〕簀莢伺レ辰、無レ勞ニ銀箭重一。

【伺晨】13 シシン ❶曉を伺ふ。曉を待つ。〔陶潛、閑情賦〕起攝レ帶以伺レ晨、繁霜粲ニ於素階一。〔梁書、元帝紀論〕鳳闕ニ伺晨之功一、火無ニ內照之美一。❷水星の別名。辰星。伺星。〔太平御覽、天、星下〕天官星占曰、辰星、北之位、黑帝之子、宰相之祥也、一名伺晨。

『伺晨鳥』14 シシンチョウ 夜のあけがたに鳴く鳥。卽ち鷄。〔陸機、擬古、擬今日良宴會詩〕譬彼伺晨鳥、揚レ聲當レ及レ旦。〔注〕善曰、尸子曰、使ニ鷄伺レ晨。

【伺星】15 シセイ 水星の別名。伺晨。〔事物異名錄、乾象、星〕張衡云、辰星、一曰、攴星、一曰、伺星。

【伺探】16 tz'ŭ⁴ t'an⁴ さぐる。窃かに伺ふ。

【伺知】17 チ うかがひ知る。〔漢書、陳咸傳〕石顯微伺ニ知之一。

【伺望】18 シボウ うかがひのぞむ。觀察する。〔後漢書、公孫瓚傳〕令ニ星工伺ニ望祥妖一。

【伺潮鷄】19 シチョウケイ 潮の漲る時に鳴く鳥。鷄の一種といふ。〔梁元帝、泛ニ蕪湖一詩〕鼓逐ニ伺潮鷄一。〔述異記〕伺潮鷄、潮水上則鳴。

【伺風鳥】20 シフウチョウ かざみ。風の方向を見る爲に、竿の先に附けた、刻んで作つた鳥。相風。相竿。〔古今注、輿服〕伺風鳥、夏禹所ニ作也一。〔宛委餘篇〕夏禹作ニ伺風鳥一、卽相竿也、見ニ古今注一。

【佯】 484

ハウ ヒヤウ 〔集韻〕悲萌切 庚 ㄏㄥˊ pêng²

❶つかふ。人を使ふ。又、使者。拼(5－1223 6)・抨(5－11905)に同じ。〔爾雅、釋詁〕抨、使也。〔注〕謂ニ使令一。〔釋文〕字又作レ佯、音同、使レ人也。〔集韻〕拼、或作ニ抨・佯一。〔書、洛誥〕公旣安レ宅、佯來來。〔鄭注〕佯來來者、使ニ二人也。❷したがふ。〔爾雅、釋詁〕抨、從也。〔釋文〕字又作レ佯、音同。❸せしめる。させる。〔書、立政〕乃俾ニ我有レ夏、式ニ商受命一、奄甸ニ萬姓一。〔傳〕使下周家王有ニ華夏一、得ニ用ニ商所レ受之命一、同ニ治ニ萬姓一。甲

名乘 スミ。トリ。スキ。

【佯當】1 ダウ しもじもの人。つかはれる人。奴隸。〔玉堂雜字〕佯當、奴隸之人。

【似】 485

シ ジ 〔集韻〕象齒切 紙 ㄕˇ shih⁴
ム ssŭ⁴
シ 〔正韻〕相吏切 寘

小篆

❶にる。にせる。まねする。かたどる。狀や類を同じくする。〔說文〕侶、像也、从レ人吕聲。〔爾雅、釋草〕綸似レ綸、組似レ組。〔廣雅、釋詁三〕似、類也。〔廣雅、釋詁四〕似、象也。〔易、繫辭上〕與ニ天地一相似、故不レ違。〔詩、小雅、小宛〕式レ穀似レ之。〔中庸〕射有レ似ニ乎君子一。〔孟子、告子上〕屨之相似、天下之足同也。〔南史、王筠傳〕非ニ惟額類ニ袁公一、風韻都欲ニ相似一。〔羅鄴、宮中詩〕鸚鵡飛來說似レ人。❷ごとし。らしく見える。〔廣雅、釋言〕似、若也。〔禮、檀弓下〕壹似ニ重有レ憂者一。〔世說新語、品藻〕吾似レ有ニ一日之長一。❸嗣ぐ。うける。嗣(2－4109)に通ず。〔說文通訓定聲〕似、叚借爲レ嗣也。〔詩、小雅、斯干〕似ニ續妣祖一。〔傳〕似、嗣也。〔詩、周頌、良耜〕以似以續。❹みせる。たてまつる。ささげる。贈る。〔賈島、劍客詩〕今日把似レ君、誰有ニ不平事一。❺あたへる。〔歐陽脩、紫石屛歌〕呼ニ工畫ニ石持寄似。❻もちひる。以(1－388)に通ず。〔說文通訓定聲〕似、叚借爲レ以。〔六書故〕似、說文、用也。❼あによめ。姒(3－6177)に通ず。〔說文通訓定聲〕似、釋名、釋親屬、少婦謂ニ長婦一曰レ似、言ニ其先來、己所レ當ニ法似一也。〔儀禮、特牲饋食禮、注、擧ニ觶於其似婦一、釋文〕似、本或作レ姒。❽侶(1－489)に同じ。〔集韻〕侶、或作レ似。❾姓〔通志、氏族略、以姓爲レ氏〕姒、亦改爲レ似、後魏渴侯氏、改爲ニ似氏一。

名乘 ノリ。アリ。ツネ。チカ。アエ。カタ。アレ。アユ。

【似鶴】1 ジカク 清、王含光(7－20823‥1275)の字。

【似顏】2 ガンホ 繪姿。肖像。〔塵塚談〕狂言の似顏。

【似矩】3 クシ 宋、李彌大(6－14459‥1878)の字。

【似繪】4 エニセ 似せて寫した繪。〔東籬、三十四〕仁治二年十一月二十七日、射手似繪。

【似乎】5 ssŭ⁴ hu 云云の如し。云云のやうだ。

【似乎類乎】6 ssŭ⁴ hu lei⁴ hu 優劣がない。似たり寄つたり。似類(21)を見よ。

【似虎】7 コ ❶表面は似てゐるが實際は異なつてゐる者の喩。犛牛の駁ブチが虎に似てゐること。似而非者。〔魏志、文帝紀注〕犛牛之駁似ニ虎、尨之幼似ニ禾、事有ニ似レ是而非者一。❷獸の名。ねこ。貓(10－36595)の異名。

【似之】8 ジ 字號。❶宋、石起宗(8－24024‥906)の字。❷明、包萬有(2－2506‥163)の字。

【似此】9 ssŭ⁴ t'zŭ³ かくの如き。此のやうな。

【似助】10 ジジョ たすける。資助。〔雲笈七籤〕宣ニ揚博利一、似ニ助洪鈞一。

【似鐘】11 ジショウ 明、鄆城の人。侶鐘(1－489‥1)に同じ。

【似先】12ジセン 複姓。〔通志、氏族略、諸方複姓〕似先氏、本高麗餘種也。
【似續】13ジゾク つぐ。ひきつぐ。あとをつぐ。〔詩、小雅、斯干〕似ニ續妣祖一、築ニ室百堵一。〔傳〕似、嗣也。〔詩、周頌、良耜〕以似以續、續ニ古之人一。
【似村】14ジソン 清、慶蘭(**4**―**11145**··138)の字。
【似的】15 shih⁴ tê 如し。のやうである。
【似貞】15′ジテイ 清、孔四貞(**3**―**6933**··312)の一名。
【似登】16ジトウ 明、張納陛(**4**―**9812**··1429)の字。
【似夫】17ジフ 宋、韓肖冑(**12**―**43159**··329)の字。
【似武】18ジブ 清、任陳晉(**1**―**416**··240)の字。
【似碧】19ジヘキ 明、朱慶聚(**6**―**14424**··738)の號。
【似摹】20ジボ にせて書き寫す。にせ筆。模寫。〔梁武帝、答ニ陶弘景一書〕似摹微得ニ鍾體一。
【似類】21ジルイ による。又、によつた事。類似。〔韓非子、內儲說下〕三曰、託ニ於似類一。〔呂覽、愼勢〕似類嫌疑之道遠矣。〔漢書、元后傳〕似ニ類白虎殿一。
【似和】22ジワ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕似和氏、開元左威衞大將軍赤水軍副使武威公似和舒。
【似雲亭】23ジウンテイ 內田楨の號。內田周齋(**1**―**1418**··627)を見よ。
【似我蜂】24ジガバチ ❶蜂の一種。體長八分ばかり。色黑く、腰が甚だ細い。人家に來て竹管などの中に巢を營む。こしぼそ。蠮螉。土蜂。蜾蠃。❷草の名。蘭科の多年生草本。日本全國の山中や陰地などに生じ、高さ四寸前後。葉は二枚根生し、夏、直立の花莖に綠紫色の花を疎らに開く。花形が似我蜂に似てゐるから名づけられた。
【似月堂】25ジゲツダウ 米谷寅の號。米谷金城(**8**―**26832**··125)を見よ。
【似而非】26ニテヒナリ 同じやうでちがつてゐる。外觀は同じやうで、內實は大いに違ふ。えせ。似虎(7)を見よ。〔詩、小雅、正月、侯薪侯蒸、傳〕薪蒸、言ニ似而非一。〔孟子、盡心下〕惡ニ似而非者一、惡レ莠、恐ニ其亂レ苗也。
〖似而非者〗27エセモノ 似て非なるもの。難の多いもの。いかがはしいもの。つまらぬもの。似而非を見よ。〔枕草子、一〕昔はえせものも。
【似順論】28ジジュンロン 呂氏春秋の篇名。六論の一。
【似是而非】29 ssŭ⁴ shih⁴ êrh² fei¹ 正しいやうに見えて實は正しくない。
【似漆如膠】30 ssŭ⁴ ch'i¹ ju² chiao¹ 交情の極めて親密なこと。非常に仲がよい。
【見レ似目瞿】31ニタルヲミテメヲノノク 類似のものを見てびつくりする。〔顏氏家訓、風操〕禮云、見レ似目瞿、聞レ名心瞿、有レ所ニ感觸一、惻ニ愴心眼一。

【伽】486

キャ ガ 慣カ 〔集韻〕求迦切 歌 ㄑㄧㄝ ch'ieh²

❶**梵語五十字母の一**。梵語のカ(ka, kha)又はガ(ga, gha)の音を表はす字。阿伽(水)・僧伽(佛教徒)・摩伽(異獸の名)・頻伽(鳥の名)など。〔文殊問經、字母品〕稱ニ伽字一時、是摧ニ稠密無明闇冥一聲。❷**なすび**。茄(**9**―**30835**)に通ず。〔揚雄、蜀都賦〕舊菜增伽。〔章樵注〕伽・茄、古字通。❸伽倍は國の名。〔集韻〕伽、伽倍、國名。邦**とぎ**。㋑人のつれづれを慰めること。又、其の人。陪件。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕伽、俗以ニ宿直伴人一曰レ伽。㋺病人のみとり。介抱。看病。

【伽子】1シカ 蔬菜の名。なす。茄子(**9**―**30835**··6)に同じ。〔酉陽雜俎、廣動植、草篇〕茄子茄字、本蓮莖名、革遐反、今呼レ伽、未レ知レ所レ自、成式因下就ニ節下食一、有中伽子數蔕上、偶問ニ工部員外郎張周封伽子故事一、張云、一名ニ落蘇一、事具ニ食療本草一。
【伽師】2シカ 縣名。清、置く。土名は牌素巴特。又、洋阿巴特に作る。今、新疆省疏勒縣の東北。漢の疏勒國の地。慧超の往五天竺國傳には伽師祇離と傳へ、慧琳の一切經音義には伽師佶黎と記す。今喀什噶爾に作る。共にkashgharの音譯。新唐書西域傳の疏勒の條には、略して迦師城と見ゆ。〔淸史稿、地理志〕新疆、疏勒府、領ニ縣二一、疏附・伽師。
【伽陀】3ガダ 佛❶gāthā の音譯。迦陀・伽佗・偈佗とも書き、略して偈ともいふ。佛や教を頌讚する韻文體の經文。一首四句が普通である。又、それを詠誦すること。〔楞嚴經〕阿難聞ニ佛無上慈誨祇夜伽陀一。〔法華玄贊〕梵云ニ伽陀一、此翻爲レ頌、頌者、美也、歌也、訛略云レ偈。〔范成大、北山堂開レ爐夜坐詩〕八萬四千安樂法、元無ニ祕密可ニ伽陀一。〔耶律楚材、再用レ韻贈ニ搏霄一詩〕伽陀誦罷爐薰冷、一鉢疏羹當ニ曉飡一。❷妙藥の名。阿伽陀(**11**―**41599**··25)の略。agada の音譯。〔華嚴經〕如ニ阿伽陀藥一、能滅ニ一切毒一。〔李華、潤州鶴林寺故徑山大師碑銘〕銷ニ大毒一者、伽陀妙藥。
〖伽陀羅〗4カダラ 木の名。南海の島にあつたといふ。〔夢溪筆談、樂律一〕吳僧智和有ニ一琴一、腹有ニ李陽冰篆數十字一、其略云、南溟島上得ニ一木一、名ニ伽陀羅一、紋如ニ銀屑一、其堅如レ石、命レ工斲爲ニ此琴一。
【伽茶】5カチヤ 雷の聲。〔法苑珠林〕一於ニ虛室中一、雲興雷作、伽茶伽茶、瞿厨等聲、或出ニ電光一、或有ニ風吹冷氣一、至ニ如レ是種種一、皆是雨相。
【伽那】6カナ ❶獸の名。ざう。象(**10**―**36372**)の異名。〔北戶錄、象鼻炙〕梁翔法師云、象亦名ニ伽那一。❷佛ナガ ghana の音譯。ぴつたりと合すること。〔大日經疏、七〕梵云ニ伽那一、是密合義。
【伽馬】7ガマ ポルトガルの航海家。印度航路を發見す。印度總督となる。Vasco da Gama
【伽耶】8カヤ ガヤ ❶獸の名。ざう。象(**10**―**36372**)の異名。〔本草、象〕釋名、伽耶。〔本行集經、十二〕伽耶、隋言ニ象王一、仙名也。❷山名。象頭山。〔翻譯名義集〕伽耶、山名、卽象頭山也。❸印度平原南部の都會の名。古の伽耶城の地。ファルガ河の左岸。ラック絹織物絨氈等を產し、カルカツタと取引がある。其の南方三里に佛陀成道の地なる佛陀伽耶(Buddha Gaya)がある。Gaya〔法華經、誦出品〕如來爲ニ太子一時、出ニ於釋宮一、去ニ伽耶城一不レ遠。〔大唐西域記、摩揭陀國上〕渡ニ尼連禪河一、至ニ伽耶城一、城甚險固少ニ居人一、唯婆羅門有ニ千餘家一。❹朝鮮にあつた國の名。今の慶尙南道固城の地。〔東國輿地勝覽、三十二〕。
〖伽耶琴〗9カヤキン 朝鮮の樂器。新羅伽耶國の嘉賓王が中國の箏に模して作つたもの。長さ五尺四寸、廣さ八寸五分、厚さ二寸二分。頭端に擔棵があつて絃を支ふ。絃は十二本。奈良朝の頃日本に渡り、新羅樂・百濟樂に用ひられた。後、李王職雅樂部に存續した。
〖伽耶迦葉〗10ガヤカセフ 梵語 Gayākāśyapa の音譯。古、印度摩竭提國に居た外道の名。仙道を學び、二百人の弟子を擁して國王臣民の尊崇を受け、兄の優樓頻螺迦葉・那提迦葉と共に三迦葉といはれる。〔過去現在因果經、四〕。
【伽羅】11キャラ ❶㋑梵語 tagara 多伽羅の略。印度、又は中國の南方に產する香木から取つた香。伽蘭香。奇楠香。黑沈香。〔玄應音義、一〕多伽羅香、此云ニ根香一。〔慧琳音義、三〕多揭羅、香名也、正云ニ蘖羅一、卽零凌香也。〔谷響集、七〕伽羅翻レ黑、經所謂黑沈香是矣。㋺禪家で用ひる袈裟の一種。掛絡。〔禪林象器箋、十七〕味者、字作ニ伽羅一、謂、以ニ羅紗一造。❷ラカ 國の名。朝鮮の古國、任那をいふ。又、弁韓をいふ。加羅。
〖伽羅油〗12キャラノアブラ 髷を結ぶに用ひる煉りあぶら。〔玉海集〕伽羅の油か花の露。
〖伽羅色〗13キャライロ 赤黑色。又は、濃い茶色。
〖伽羅節〗14キャラブシ 麗しい歌の節。
〖伽羅枕〗15キャラマクラ 引出しがあり、其の中で香を焚くやうになつてゐる枕。
〖伽羅木〗16キャラボク 水松イチヰ。庭園などに植ゑる常綠灌木。〔續王代一覽〕伽羅木を獻上す。「の。
〖伽羅蕗〗17キャラブキ ふきの莖を醬油で煮つめたもの。
〖伽羅御方〗18キャラノオンカタ 昔、本妻の異稱。〔貞女白無垢〕本妻をきやらのおんかたと異名し。
【伽藍】19ガラン 佛梵語 saṅghārāma の音譯なる僧伽藍の略。❶佛道修行所。寺。衆園。精舍。〔翻譯名義集〕僧伽藍、譯爲ニ衆園一、僧史略云、爲ニ衆人園圃一、園圃生植之所、佛弟子則生ニ植道芽聖果一。〔魏書、釋老志〕伽藍淨土。❷伽藍神の略。
〖伽藍神〗20ガランシン 佛伽藍を護衞する十八の神。〔釋氏要覽、上〕七佛經云、有ニ十八神一、護ニ伽藍一。
〖伽藍鳥〗21ガランテウ 水鳥の名。一名、ペリカン。嘴は甚だ大きく、下嘴には膜質の大嚢が有る。アフリカの海岸・湖沼等に羣棲してゐる。
【伽色尼】22ガスニ ❶地名。阿富汗の都會。❷國の

名。突厥族の建てた國の名。

【伽南香】23カナン 香の名。一名奇楠香。きやら。伽羅(11)の❶に同じ。

【伽利略】24ガリレオ イタリヤの天文學者、物理學者。屈折望遠鏡を發明し、物體落下の法則、地動說等を唱道した。Galileo, Galilei の音譯。

【伽利略實驗】25ガリレオノジッケン ガリレオが行つた落體の實驗。物體は其の重さの如何に拘らず、等速度で落下する事をピザの斜塔で實驗した。

伉 487

㊀ヒ 〔集韻〕攀悲切 支 タ一 p'i²

㊁ヒ 〔集韻〕部鄙切 紙

㊂ハイ 〔集韻〕晡枚切 灰

小篆 伉、有レ力也、从レ人丞聲。詩曰、以レ車伉伉。❷おほいさま。〔廣雅、釋訓〕伉伉、衆也。㊂或は伉(1－446)に作る。〔集韻〕伉、或作伀。㊃山の名。岥(4－799 5)に同じ。〔集韻〕伉、山名。〔書、禹貢〕大伉。〔釋文〕伉、本又作岥。㊄姓。〔路史〕仲虺之後、有二伉氏一。

㊀❶力のあるさま。〔詩、魯頌、駉〕有レ駜有レ駜、以レ車伉伉。〔傳〕伉伉、有レ力也。㊁群り行くさま。〔廣雅、釋訓〕伉伉、衆也。〔王念孫疏證〕伉伉、爲二羣行一之貌。

名乘 オホ。

【伉伉】1ヒヒ ❶力のあるさま。〔詩、魯頌、駉〕有レ駜有レ駜、以レ車伉伉。〔傳〕伉伉、有レ力也。㊁群り行くさま。〔廣雅、釋訓〕伉伉、衆也。〔王念孫疏證〕伉伉、爲二羣行一之貌。

伀 488

㊀シ 〔集韻〕支義切 眞

㊁イ 〔集韻〕以豉切 眞

小篆 ㊀㊁❶おこたる。〔說文〕伀、惰也、从レ人只聲。〔段注〕惰者不レ敬也。

侶 489

シ ジ 〔集韻〕象齒切 紙

小篆 ㊀㊁❶にる。或は似(1－485)・以(1－388)に作り、古は厽(2－1855)に作る。〔集韻〕侶、說文、象也、或作似、亦省、古作二厽一。㊁姓。〔萬姓統譜〕侶姓、官氏志、似亦改爲レ侶。

【侶鍾】1ジョウ 明、鄆城の人。字は大器。成化の進士。官は戸部尚書。〔明史、一百八十五〕・〔萬斯同明史、二百四十一〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【侶海清】2カイセイ 明の人。鍾の曾孫。字は永若。弱冠にして鄉に擧げられ、戸を閉ぢて著述す。著に玉樹館集がある。〔鄆城縣志〕。

佁 490

㊀アイ 〔集韻〕夷在切 隋 万 ai²

㊁イ 〔集韻〕養里切 紙 ㇀ i³

㊂チ 〔集韻〕丑吏切 眞

四シ 〔集韻〕象齒切 紙

五タイ

小篆 ㊀㊁❶おろかなさま。〔說文〕佁、癡貌、从レ人台聲、讀若レ騃。〔廣韻〕佁、癡也。㊂進まぬさま。とどこほるさま。〔集韻〕佁、佁儗不レ前也。〔字彙〕佁、佁儗、不レ前。〔正字通〕佁、固滯貌。四❶いたる。〔說文通訓定聲〕佁、段借爲レ紿、呂覽本生、出則以レ車、入則以レ輦、務以自佚、命レ之曰二佁儗之機一、七發作二躓癡之機一、云云、高注、至也。〔集韻〕佁、至也、呂氏春秋、佁儗之機、高誘讀。❷おもふ。諰(10－35731)に通ず。佁美(4)を見よ。〔說文通訓定聲〕佁、段借爲レ諰。五億(1－1223)に同じ。〔集韻〕億、或从レ台。

【佁儗】1ガイギ おろか。〔字詁〕佁癡、古或作レ騃、俗作レ佁、卽散字謬改、集韻、收入二佁韻一、疑毋二此書一、廣收二俗字一、甚足レ亂二後人耳目一也、俗又以呆爲レ佁、此卽取二疑字旁一、譌省而作二儗騃一也、與レ癡同、孫氏以レ佁爲二夷在切一、以レ儗爲二五溉切一、竝誤。

【佁儗】2ギチ ❶すすまぬさま。〔史記、司馬相如傳〕佁以佁儗兮。〔注〕集解曰、佁儗、不レ前也。㊁ゆるやかなさま。〔馬融、長笛賦〕佁儗寬容。〔注〕善曰、佁儗、寬容之貌、良曰、佁儗、閑緩貌。〔柳宗元、夢歸賦〕紛若レ喜而佁儗兮。

【佁躓】3ケツ 人があまりに逸樂して、血がとどこほり身體のしびれること。今の呂氏春秋、本生篇には佁を招に作る。〔枚乘、七發〕命曰二躓癡之機一。〔注〕善曰、呂氏春秋曰、出則以レ車、入則以レ輦、務以自佚、命曰二佁躓之機一。〔梁玉繩、呂子校補〕集韻、佁訓二固滯一、考佁借爲レ礙、佁躓猶言二人過逸則血滯骨癡、如二絲之斂勤一也。

【佁美】4ビ 深く心に思ふこと。〔管子、侈靡〕佁美、然后有レ輝。〔注〕佁美、深思貌。

征 491

セイ シャウ 〔集韻〕諸盈切 庚 ㄓㄥ zhēng¹

❶おそれあわてる。或は怔(4－10445)に作る。〔集韻〕征、方言、征伀、遑遽、或从レ心。㊁現ぼんやりする。

【征營】1セイイ 自ら安んじないこと。〔後漢書、鍾離意傳〕不勝二愚戇征營一、罪當二萬死一。〔注〕征營、不二自安一也。

【征伀】2シャウ ❶おそれあわてる。〔方言、十〕江湘之間、凡窘猝怖遽、或謂二之征伀一。〔廣雅、釋詁二〕征伀、懼也。㊁あわてゆくさま。〔廣韻〕征、征伀、遽行皃。

佃 492

㊀テン デン

㊁テン デン

〔集韻〕亭年切 ㄉㄧㄢˊ tién²

〔集韻〕堂練切 霰

小篆 ㊀㊁❶田をたがやす。〔集韻〕佃、治レ土也。〔漢書、韓安國傳〕方二佃作時一、請且罷レ屯。〔注〕佃、治レ田也。〔晉書、庾亮傳〕並佃並守。㊁人の田を作る農夫。小作人。〔正字通〕佃、代耕農也。〔宋史、食貨志〕訂二其主佃一。㊂かり。かりする。畋(7－21774)・田(7－21723)に通ず。〔正字通〕佃、亦作レ畋。〔易、繫辭下〕以佃以漁。〔釋文〕佃、本亦作レ田、馬云、取レ獸曰レ佃。〔詩、小雅、信南山、箋〕則又成王之所レ佃。〔釋文〕佃、本亦作田。四古の卿の車。一轅の車。甸(7－21732)に通ず。〔說文〕佃、中也、从レ人田聲、春秋傳曰、乘二中佃一、中佃、一轅車也。〔段注〕左傳哀公十七年、渾良夫乘二衷甸兩牡一、杜曰、衷甸、一轅卿車、許所レ據作二中佃一、引傳而釋レ之者、孔穎達曰、甸、乘也、云云、蓋四馬爲二上乘一、二馬爲二中乘一、容二許意同一、孔一曰二一轅兩牡一、則一轅在二兩牡之中一、是亦中也。五開墾した田。つくだ。つくりだ。〔廣韻〕佃、作田也。〔倭名類聚抄、天地部、田野類、佃〕唐韻云、佃、作田也、和名、豆久利太。

名乘 ツクダ(姓)。

【佃耕】1tién² kēng¹ 一定の契約の下に他人の土地を耕作する。小作。

【佃客】2デンカク 小作人。佃戸。〔宋史、劉師道傳〕以二小民役屬者一爲二佃客一、使之如二奴隸一。〔明律、兵律、郵驛〕若豪富之家、役二使佃客一、擅レ轎者、罪亦如レ之。

【佃器】3キデン 農具。田器。佃具。〔後漢書、羊續傳〕賦二與佃器一、使レ就二農業一。

【佃漁】4デンギョ 獵。禽獸に佃といひ、魚介に漁といふ。〔易、繫辭下〕作二結繩一爲二罔罟一、以佃以漁。〔疏〕作二結繩一而爲二罔罟一、以佃以漁者、用二此罟罔一、或陸畋以羅二鳥獸一、或水澤以罔二魚鱉一。

也。

【佃具】5 デング 農具。田器。佃器。〔唐書、李維簡傳〕市㆓耕牛佃具㆒給㆑農、歲增㆑墾數十萬畝。

【佃契】6 tien⁴ ch'i⁴ 小作請狀。小作契約證書。

【佃劵】7 tien⁴ ch'üan⁴ 小作請狀。小作契約證書。

【佃權】8 tien⁴ ch'üan² 法律用語。普通の小作權。永佃權（**6－17088**··197）の對。

【佃戶】9 デンコ 小作農。佃客。〔五代史、楚世家周行逢傳〕家田佃戶、以㆓公貴㆒頗不㆓力農㆒。〔六部成語、戶部、佃戶、注解〕本身無㆑田、租㆓富家之田㆒而耕、佃戶是也。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕民納㆑課收㆑蘆、謂㆓之佃戶㆒。

【佃作】10 デンサク 耕作する。小作農業に從事する。又、其の事。農事。〔史記、蘇秦傳〕民雖㆑不㆓佃作㆒、而足㆓於棗栗㆒矣。〔漢書、韓安國傳〕上言、方㆓佃作時㆒、請且罷㆑屯。〔注〕師古曰、佃、治㆑田也。

【佃字】11 tien⁴ tzŭ⁴ 小作契約證書。

【佃煮】12 ツクダニ 小鯊・小蝦・蛤のむきみ等を醬油で煮つめた食品。江戶時代に隅田川の佃島で創製したからいふ。

【佃種】13 デンシュ 植付けをする。又、耕作する。〔福惠全書、雜課部、蘆課〕人民佃種、州縣徵解。

【佃人】14 デンジン 小作人。耕作する人。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕租糧百石佃人供。

【佃租】15 デンソ 小作料。〔淸國行政法汎論、盛京五部、戶部〕據㆓每歲所得額㆒完㆓納佃租㆒。

【佃地】16 デンチ 田畑を耕作する。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕惟佃㆑地之人是問。

【佃丁】17 tien⁴ ting¹ 小作人。農家の耕夫。

【佃貼】18 tien⁴ t'ieh¹ 小作證書。小作契約書。

【佃田】19 tien⁴ t'ien² 小作して耕作する。

【佃農】20 tien⁴ nung² 小作農。

【佃批】21 tien⁴ p'i¹ 田畑を耕作する爲に土地を貸し、又は借りること。

【佃夫】22 tien⁴ fu¹ 小作人。耕作人。

【佃民】23 tien⁴ min² 小作人。佃人(14)に同じ。

【佄】493

カン　酣（**11－39825**）に同じ。〔集韻〕酣、亦作㆑佄。

【佅】494

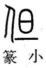
㈠バイ メ　〔集韻〕莫敗切　[卦]
㈡バツ マチ　〔後漢書注〕摩葛反　[曷]

㈠㈡**東夷の樂の名**。〔集韻〕佅、東夷樂名。〔班固、東都賦〕僸佅兜離、罔㆑不㆓具集㆒。〔注〕善曰、東夷之樂曰㆑佅。〔後漢書注〕佅、音、摩葛反、周禮、佅作㆑韎。

[參考] バツの音の場合は字形を佅に作るとの說もあるが、今姑く佅とする。〔正字通〕佅、韻譜本義、作㆑佅、附㆓入聲曷韻㆒、健肥貌、又西夷樂名、誤也。

【但】495

㈠タン ダン　〔集韻〕蕩旱切　[旱]
㈡タン ダン　〔集韻〕徒案切　ㄉㄢˋ tan⁴　[翰]
㈢タン ダン　〔集韻〕徒案切　[翰]
㈣エン　〔續字彙補〕於店切　[豔]
㈤タン　〔正字通〕音丹


小篆

㈠㈡㈢❶**ただ**。語助辭。〔正字通〕但、語辭、猶㆑言㆓特也、第也㆒。〔說文通訓定聲〕但、發聲之詞、說文鍇本、一曰徒、聲類、但、徒也、云云、按、與㆑用㆓徒・第・特等字㆒皆同。㋑ひとり。それのみ。單に。〔史記、劉敬傳〕匈奴匿㆓其壯士肥牛馬㆒、但見㆓老弱羸畜㆒。〔史記、扁鵲傳〕但服㆑湯二旬而復㆑故。〔劉廷芝、代㆘悲㆓白頭㆒翁㆖詩〕但看古來歌舞地。〔宋史、王安石傳〕人皆謂、卿但知㆓經術㆒、不㆑曉㆓世務㆒。㋺もっぱら。ひたすら。〔歐陽脩、朋黨論〕爲㆓人君㆒者、但當㆘退㆓小人之僞朋㆒、用㆗君子之眞朋㆖。❷**ただ。しかし。しかれども**。〔杜甫、丹靑引贈㆓曹將軍霸㆒〕學㆑書初學㆓衞夫人㆒、但恨無㆑過㆓王右軍㆒。❸**およそ。すべて**。〔正韻〕但、凡也。❹**いたづらに。むなしく**。〔漢書、食貨志〕民欲㆓祭祀喪紀㆒而無㆑用者、錢府以㆓所㆑入工商之貢㆒但賖㆑之。〔注〕但、空也、徒也。〔張若虛、春江花月夜〕不㆑知江月照㆓何人㆒、但見長江送㆓流水㆒。❺**かたぬぐ**。或は袒（**10－34184**）・襢（**10－34652**）・亶（**1－328**）に作る。〔說文〕但、裼也、从㆑人旦聲。〔段注〕衣部曰、裼者但也、云云、今經典凡但裼字、皆改爲㆓袒裼㆒矣。〔集韻〕但、或作㆓袒・襢㆒、亦省。❻**いつはる**。誕（**10－35516**）に通ず。〔說文通訓定聲〕但、段借爲㆑誕。〔正字通〕但、與㆑誕通。〔淮南子、說山訓〕媒㆑但者、非㆑學㆑謾也、但成而生㆓不信㆒。〔注〕但、猶㆑詐也。❼**ほしいまま**。澶（**7－18416**）に通ず。〔莊子、馬蹄〕澶漫爲㆑樂、〔釋文〕澶、崔本作㆑但。❽**たわむ**。彈（**4－9865**）に通ず。〔說文通訓定聲〕但、段借爲㆑彈、考工廬人、故書、句㆑兵欲㆑無㆑但。❾**姓**。〔通志、氏族略、平聲〕但氏、漢有㆓西域都護但欽、又濟陰太守但巴㆒。㈢**人名**。〔續字彙補〕但、古不㆑知㆑吹人。〔淮南子、說林訓〕使㆓但吹㆑竽。〔注〕但、古不㆑知㆑吹人、但、讀㆑燕、言㆓鉏同㆒也。㈣**姓**。〔正字通〕但、姓也、漢西域都尉但欽、濟陰大守但巴。[邦]ただし。但書。

【但已】1 タンイ ただやむ。空しくやめる。〔漢書、宣元六王、淮陽憲王欽傳〕諸侯王獲㆓罪京師㆒、罪惡輕重、縱不㆑伏㆑誅、必蒙㆓遷削貶黜之罪㆒、未㆑有㆓但已者㆒也。〔注〕師古曰、但、徒也、已、止也。

【但歌】2 タンカ 漢魏の頃の歌曲の名。〔晉書、樂志〕但歌四曲、出㆑自㆓漢世㆒、無㆓絃節㆒、作㆑伎、最先唱、一人唱、三人和、魏武帝尤好㆑之、時有㆓宋容華者㆒、淸徹好聲、善唱㆓此曲㆒、當時之特妙、自㆑晉以來不㆓復傳㆒。

【但割】3 タンカツ はだをぬいで料理する。袒割。〔墨子、耕柱〕維人但割而和㆑之。〔注〕維人、當㆑爲㆓饔人之誤㆒、但割、卽袒割。

【但空】4 タンクウ [佛]大小乘所見の空理に二種あり、小乘は諸法を分析して但だ空を見て不空を見ないから但空といふ。析空ともいふ。不但空（**1－19**··1171）に對す。〔法華玄義、一〕三藏二乘、明㆓但空㆒爲㆑極、譬頗梨珠一往似㆑眞、再研便僞。

【但係】5 tan⁴ hsi⁴ 倂しながら。但是に同じ。

【但是】6 tan⁴ shih⁴ ただ。然し。倂し乍ら。但係。

【但書】7 タダシガキ 但の文字を附して、其の前文の說明、又は例外、若しくは其の條件を記した文。

【但然】8 tan⁴ jan² 但し。然し。然し乍ら。

【但則】9 tan⁴ tsê² 但得。❶然し乍ら。❷云云さへすれば。但分。

【但澤】10 ダンチッヒ 地名。バルト海に面する軍事上・商業上の重要地。Danzig の音譯。現在のグダニスク。

【但丁】11 ダンテ イタリアの詩人。神曲・王政論を著す。丹第。Dante の音譯。

【但得】12 tan⁴ tê² 但則(9)に同じ。

【但馬】13 タバ ❶車につけずにおいて、他の馬に故障の起った際の備とする馬。散馬（**5－13265**··182）・誕馬（**10－35516**··38）に同じ。〔演繁露〕今外官儀從有㆓散馬㆒前行、名㆓坐馬㆒、卽但馬也。❷タジマ 國の名。

【但凡】14 tan⁴ fan² およそ。すべて。要するに。

【但分】15 tan⁴ fen¹ 云云さへすれば。但則。

【但基克】16 ダンキルク フランス北部の港市。ドーヴァー海峽に臨む。世界大戰中、聯合軍の要港となる。ダンケルク。Dankirk の音譯。

【但月齋】17 タンゲツサイ 淸、李世熊（**6－14459**··1553）の號。

【但存學】18 タンソンガク 明、蒲圻の人。字は宗儒。成化の擧人。官は重慶府推官。〔蒲圻縣志〕。

【但存㆓方寸地㆒留㆓與子孫㆒耕】19 タダハウスンノチヲソンシ リウヨシテシソンニタガヤサシム ただ僅かの土地を子孫に殘して耕させる。〔通俗編、地理、但存㆓方寸地㆒留㆓與子孫㆒耕〕王直方詩話、張嘉甫言、少見㆔人誦㆓此詩㆒、不㆑知㆓誰作㆒、後過㆓毘陵汪迪家㆒、出㆑所㆑藏晉水部

賀公手書一、乃知二此詩賀作一。

【但知レ行二好事一莫レ要レ問二前程一】20 只よい事を行ふだけを考へて、其の先がどうなるかは問題にしない。〔陔餘叢考、成語〕但知レ行二好事一、莫レ要レ問二前程一、馮道詩。

【但教三方寸無二諸惡一狼虎叢中也立レ身】21 胸中に邪心がなければ、狼虎がむらがり居る中にも身を置くことが出來る。〔陔餘叢考、成語〕但教三方寸無二諸惡一、狼虎叢中也立レ身、馮道詩。

【佇】496 小篆 チョ ヂョ 〔集韻〕丈呂切 ㄓㄨˋ 語 chu⁴

❶久しく立つ。たたずむ。〔説文新附〕佇、久立也、从レ人宁聲。〔詩、邶風、燕燕〕瞻望弗レ及、佇立以泣。〔傳〕佇立、久立也。〔楚辭、離騷〕結二幽蘭一以延佇。〔楚辭、王逸、九思、疾世〕佇立兮忉怛。〔注〕佇、停。❷久しい。〔爾雅、釋詁〕佇、久也。❸待つ。のぞみまつ。〔漢書、外戚傳上、注〕貯與レ佇同、佇、待也。〔陸贄、策問、博通二墳典一達二於教化一科一文〕虛レ襟以佇、側レ席以求。❹つむ。たくはへる。〔孫綽、遊二天台山一賦〕惠風佇二芳於陽林一。〔注〕善曰、佇、猶レ積也。❺或は竚(8―25744)に作る。〔集韻〕佇、或作レ竚。

【佇結】1 チョケツ 待ちこがれる。結は思ひの結ぼれること。〔資治通鑑、晉紀〕(穆帝、永和七年)願單出一相見、以寫二佇結之情一。〔注〕久立而待レ之曰レ佇、企望之情、鬱積而不レ散、曰レ結。

【佇見】2 チョケン たたずみ見る。〔李嶠、餞二薛大夫護レ邊詩〕佇見燕然上、抽レ毫頌二武功一。

【佇眷】3 チョケン 立ちどまつてかへりみる。〔王勃、九成宮頌〕指二皇輿一而佇眷。

【佇想】4 チョサウ 思をとどめる。又、たたずんで考へる。〔傅亮、爲二宋公一修二張良廟一教〕過二大梁一者、或佇二想于夷門一。

【佇眙】5 チョチ たたずみ見る。眙は見ること。〔楚辭、九章、思美人〕思二美人一兮、擥レ涕而竚眙。〔補注〕竚、直呂切、久立也、眙、直視也、丑吏切、文選注云、佇眙、立視也。〔左思、吳都賦〕士女佇眙、商賈駢坒。〔注〕劉曰、佇眙、立視也、今市聚人、謂二之立眙一。

【佇軸】6 チョヂク 待ちあぐんで物思にふけること。〔王融、爲二竟陵王一與二劉虬一書〕迴駕之念徒軫、式閭之禮無レ階、固已佇軸深衷、傾二筐遐路一者矣。〔梁簡文帝、修竹賦〕陳王歎舊、小堂佇軸、今餞二故人一、亦賦二修竹一。

【佇聽】7 chu⁴ tʻing¹ たたずんで聞く。立ちぎき。

【佇獨】8 チョドク 獨りたたずむ。〔梁昭明太子、講解將レ畢賦二三十韻一詩〕曠濟同二象園一、中乘如二佇獨一。

【佇念】9 チョネン 思案する。佇み思ふ。〔鮑照、觀漏賦〕望二天涯一而佇念、擢二雄劍一而長歎。

【佇望】10 チョバウ たたずみ望む。〔紅樓夢、一回〕老先生倚レ門佇望。

【佇盼】11 chu⁴ pʻan⁴ 希望する。切望する。

【佇眄】12 チョベン たちどまつて見る。たたずんで眺める。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕佇眄要二遐景一。

【佇立】13 チョリツ たたずむ。〔詩、邶風、燕燕〕瞻望弗レ及、佇立以泣。〔後漢書、王景傳〕莫レ不二眷然佇立西望一。〔陸機、贈二馮文羆一詩〕佇立望二朔塗一。

【佇石山人】14 チョセキサンジン 明、姜垓(3―6205‥9)の號。

【佈】497 ホ フ 〔集韻〕博故切 ㄅㄨˋ 遇 pu⁴

❶あまねし。古は尃(4―7433)に作る。〔集韻〕佈、偏也、古作レ尃。❷[現]知らせる。申送る。ならべる。

【佈臆】1 pu⁴ i⁴ 意中を述べる。

【佈景】2 pu⁴ ching³ 舞臺の背景。バック。

【佈告】3 pu⁴ kao⁴ ❶布告する。廣く知らせる。❷政府が一般民衆に對して事實を宣布し、又は勸諭する時に用ひる公文。

【佈散】4 pu⁴ san⁴ まきちらす。散布する。

【佈子】5 pu⁴ tzŭ³ 算木をならべる。

【佈施】6 シフ 奉加帳・寄付簿の類。〔紅樓夢、三十九回〕替レ爾化二些佈施一。

【佈謝】7 pu⁴ hsieh⁴ 謝意を述べる。書翰文用語。

【佈達】8 pu⁴ ta³ 通知する。御通知申上候。

【佈置】9 pu⁴ chih⁴ 配置する。準備する。手配する。

【佈陣】10 pu⁴ chen⁴ 戰陣を布く。陣立てする。

【佈復】11 pu⁴ fu⁴ 御返事申上げる。書翰文用語。

【佈覆】12 pu⁴ fu⁴ 答へる。返事を差上げる。書翰文用語。

【佈聞】13 pu⁴ wen² 通知する。

【佈滿】14 pu⁴ man³ あまねくみちる。あまねくゆきわたる。偶々まで撒きちらす。〔紅樓夢、九回〕詬誶謠諑、佈滿書房内外。

【㑄】498 ブ 侮(1―630)の古字。〔説文〕侮、㑄、古文从レ母。

【佉】499 ㊀キョ コ 〔正韻〕丘於切 ㄑㄩ 魚 chʻü¹ ㊁キャ カ 〔集韻〕去伽切 歌

㊀❶國の名。薄佉羅(9―32083‥207)を見よ。❷人名。佉樓の❶を見よ。❸祛(8―24670)に同じ。〔正韻〕佉、與レ祛同。㊁❶國の名。佉沙(3)を見よ。❷神の名。儴佉(1―1297‥1)を見よ。〔集韻〕佉、一曰、神名。❸姓。〔集韻〕佉、人姓。❹[佛]佛の名。佉佉(1)・佉呬(2)を見よ。

【佉佉】1 キャキャ [佛]佛の名。文珠の眷屬。〔陀羅尼經〕佉佉。〔注〕文殊眷屬。

【佉呬】2 キャシ [佛]佛の名。普賢の眷屬。〔陀羅尼經〕佉呬。〔注〕普賢眷屬。

【佉沙】3 キャシャ 唐代、西域の疏勒國の異名。〔唐書、西域上、疏勒傳〕疏勒、一曰二佉沙一。

【佉苴】4 キョショ なめしがはの帶。〔唐書、南蠻上、南詔傳〕王新兵曰二朱弩佉苴一、佉苴、韋帶也。

【佉路】5 キャロ 佉樓に同じ。

【佉樓】6 キャロ ❶仙人の名。佉盧・佉路にも作る。梵語 Kharaṣṭhi(佉盧佉吒)の省譯。文字を作つた人といふ。〔月藏經、七〕佉盧虱吒、驢神仙人、隋言二驢脣一、身體端正、唯脣似レ驢、是故爲二驢脣仙人一。❷佉樓の作つた文字。左から右に書く。佉盧を見よ。〔百論疏、上之下〕昔有二梵王一、在レ世説二七十二字一、以教二世間一、名二佉樓書一。

【佉盧】7 キャロ 佉樓に同じ。〔法苑珠林〕造レ書凡三人、長曰レ梵、其書右行、次曰二佉盧一、其書左行、少曰二蒼頡一、其書下行。

【佊】500 ㊀ヒ 〔集韻〕補靡切 紙 ㊁ヒ 〔集韻〕彼義切 寘

㊀㊁よこしま。〔集韻〕佊、埤倉、邪也。

【佋】501 小篆 ㊀セウ ゼウ 〔集韻〕時饒切 蕭 ㊁セウ ゼウ 〔集韻〕市沼切 篠 ㄕㄠˋ shao⁴

㊀❶昭穆の昭(5―13855)に通ず。昭穆(5―13855‥165)を見よ。〔説文〕佋、廟佋穆、父爲レ佋、南面、子爲レ穆、北面、从レ人召聲。〔説文通訓定聲〕佋、按、晉避二司馬昭諱一、別作二此字一、後人妄增二入説文一。❷或は卲(4―8752)に作る。〔集韻〕佋、或作レ卲。㊁たすける。とりつぐ。通じて紹(8―27361)に作る。〔集韻〕佋、介行也。〔正字通〕佋、通作レ紹。

【佋价】1 セウカイ 中に立つてひき合せる。紹介。价佋。〔廣韻〕价、又佋价也。

【佋穆】2 セウボク 昭穆(5―13855‥165)に同じ。〔廣韻〕佋、廟佋穆也、或作レ昭、父昭、子穆。

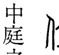
【佌】502 シ 〔集韻〕淺氏切 紙 ㄘˇ tzʻŭ3

❶小さいさま。〔爾雅、釋訓〕佌佌、小也。〔集韻〕佌、小也。〔詩、小雅、正月〕佌佌彼有レ屋。〔傳〕佌佌、小也。〔管子、輕重乙〕佌諸侯、度百里。❷並ぶさま。そろはぬさま。〔六書故〕佌、佌佌、猶レ言レ差、言二其鱗比之皃一。❸或は伵(1−567)・𢔆(4−9214)に作る。〔集韻〕佌、或作二伵・𢔆一。

【佌佌】1 シシ ❶小さいさま。字解の❶を見よ。❷並ぶさま。字解の❷を見よ。

【佌傂】2 チシ 長短の均しくないさま。參差(2−3098‥97)に同じ。〔廣韻〕傂、佌傂、參差也。

【位】503 ヰ 〔集韻〕于累切 寘 ㄨㄟˋ wei4


小篆

❶くらゐ。㋑中庭の左右。卽ち群臣の列するところ。〔爾雅、釋宮〕中庭之左右曰レ位。〔禮、燕義〕正二其位一。〔注〕位、朝位也。㋺坐立するところ。座席。〔周禮、夏官、大僕〕掌レ正二王之服位一。〔注〕位、立處也。〔儀禮、燕禮〕賓反レ位。〔注〕反レ位、反レ席也。〔左氏、成、十七〕矯以レ戈、殺二駒伯苦成叔于其位一。〔注〕位、所レ坐處也。㋩君王の地位。〔書、堯典〕朕在レ位七十載。〔易、繫辭下〕聖人之大寶曰レ位。〔史記、伯夷傳〕堯將三遜レ位讓二於虞舜一。㋥官職の等級。〔廣雅、釋言〕位、祿也。〔周禮、天官、序官〕惟王建レ國、辨レ方正レ位。〔注〕正二君臣之位一。〔周禮、天官、大宰〕四曰、祿位以馭二其士一。〔注〕位、爵次也。㋭地位。身分。分限。〔易、艮〕君子思不レ出二其位一。〔注〕范氏曰、物各得二其所一、而天下之理得矣。〔中庸〕君子素二其位一而行。㋬位置。順序。次第。〔後漢書、律曆志〕以定二月位一。〔論衡、難歲〕冬氣寒水也、水位在二北方一、夏氣熱火也、火位在二南方一。㋣方角。方向。〔史記、太史公自序〕四時八位十二度。㋠易の卦爻の位置。〔易、繫辭上〕列二貴賤一者、存二乎位一。〔注〕爻之所レ處曰レ位。〔易、繫辭下〕二與レ四、同レ功而異レ位。〔周易略例、明二爻通變一〕位者爻所レ處之象也。㋷壇位。〔說文通訓定聲〕位、成レ葬而祭レ墓爲レ位。〔周禮、春官、小宗伯〕成レ葬而祭レ墓爲レ位。〔注〕位、壇位也。❷くらゐす。中庭の左右（群臣の列すべき處）に列ぶ。正しい位置に居る。居るべきところに居る。〔說文〕位、列二中庭之左右一、謂二之位一。从二人立一。〔禮、中庸〕天地位焉。〔注〕位、猶レ正也。❸相似る。高麗人は相似ることを位と言つた。〔魏志、東夷傳〕句麗呼二相似一爲レ位、似二其祖一、故爲レ之爲二位宮一。❹たつ。立(8−25721)に通ず。〔左氏、昭、二十二〕子朝有二欲レ位之言一。〔釋文〕一本、位作レ立。❺畫(7−21859)に同じ。〔易、說卦〕易六位而成レ章。〔釋文〕位、本作レ畫。❻人の數を示す敬語。二人を兩位といふ類。〔桃花扇、先聲〕列位不レ知、從來塤詞名家、不レ著二姓氏一。❼姓。〔漢書、西域傳〕匈奴以二其弟位侍一爲二于寘王一、其後或有二以爲レ氏者一。邦くらゐ。㋑おもみ。品格。人格。㋺ばかり。ほど。㋩數のくらゐ。十倍毎に附する名稱。

名乘 タダ。ヒラ。ナリ。タカ。クラ。ツラ。ノリ。ヒコ。

解字 會意。人と立との合字。人が庭中にとどまりたつ意。それより群臣のたつところ、位の意。▽ （金文）象形。金文は立と同形で、人がある位置にたつさまに象る。

【位襖】1 ヰアウ 昔は位によつて其の襖の色を異にした。〔彈正臺式〕凡諸衞府五位以上、通二著朝服一、其著二胡簶一、幷立レ仗之日、著二位襖一、但參議已上、不レ在二此例一。

【位育】2 ヰイク 貴賤上下が皆其の位に安んじ、萬物が皆十分に生育すること。〔中庸〕致二中和一、天地位焉、萬物育焉。〔章句〕位者、安二其所一也、育者、遂二其生一也。

【位階】3 ヰカイ 位の階級。官位の等級。〔張說、讓二右丞相一表〕位階鴻漸。

【位高】4 ヰカウ 位の高いこと。〔唐書、蕭嵩傳〕不レ若二蕭郎位高年艾、擧門蕃熾一。

【位高金多親戚畏懼】5 クラヰタカクカネオホケレバシンセキモキクス 富貴な者に對しては、親戚も畏れて之に頭を下げる。位尊多金親戚畏懼ともいふ。貧窮則父母不レ子、或は貧賤則輕二易之一と對をなし、人情の輕薄なことをいふ語。〔戰國、秦策上〕蘇秦曰、嫂、何前倨而後卑也、嫂曰、以二季子位尊而多レ金、蘇秦曰、嗟乎、貧窮則父母不レ子、富貴則親戚畏懼、人生二世上一、勢位富厚、蓋可二以忽一乎哉。〔史記、蘇秦傳〕蘇秦笑謂二其嫂一曰、何前倨而後恭也、嫂委蛇蒲服、以レ面掩レ地而謝曰、見二季子位高金多一也、蘇秦喟然歎曰、此一人之身、富貴則親戚畏二懼之一、貧賤則輕二易之一、況衆人乎。

【位號】6 ヰガウ くらゐ。爵位と名號。〔漢書、高帝紀下〕位號比擬、亡二上下之分一。〔吳志、孫策傳、注〕策時年少、雖レ有二位號一、而士民皆呼爲二孫郞一。

【位記】7 ヰキ くらゐに敍する旨をしるした文書。〔獄令〕除名者、位記悉毀。〔續日本後紀、二〕天長十年三月乙卯、橘朝臣位記狀曰、地居二貴戚一、爵號既隆而加レ榮、德蘊二餘芳一、人雖レ謝而追遠、宜下申二朝典一式賁中泉扃上。

【位記返上】8 ヰキヘンジヤウ 位記を天皇にかへし奉る。位を有するものに、其の體面をけがす行爲があつた時、授與せられた位階を取り上げられること。

【位官】9 ヰクワン 位と官。官位(3−7107‥7)を見よ。

【位冠】10 ヰクワン 位階によつて定められた禮冠。〔國史略、文武天皇〕改二製官位名號一、停レ賜二位冠一、易以二位記一。〔注〕先レ是、凡敍レ位者、各賜以二本階之冠一。

【位業】11 ヰゴフ 因果。〔桃花扇、入道〕將二君臣位業一、指二示羣迷一。

【位齋】12 ヰサイ 清、封濬(4−7426‥107)の號。

【位三】13 ヰサン 字號。❶清、紀磊(8−27234‥83)の字。❷清、吳台碩(2−3365‥756)の字。

【位山】14 ヰサン ❶字號。㋑清、徐文靖(4−10110‥621)の字。㋺清、沈近思(6−17189‥474)の字。❷クラヰヤマ 位の高く上るを山に譬へていふ語。位階。〔落窪物語、三〕やそ坂を越えよと切れる杖なれば、つきてをのぼれ位山にも。

【位次】15 ヰジ くらゐの順序。位序。〔書、伊訓〕侯甸羣后咸在、〔傳〕在二位次一。〔禮、曲禮上〕班レ朝治レ軍、涖レ官、〔疏〕班、次也、朝、朝廷也、次謂三司士正二朝儀之位次一也。〔史記、陳丞相世家〕以二絳侯勃一爲二右丞相一、位次第一。〔孔叢子、論書〕其位次如何。

【位色】16 ヰシキ 昔、位階に應じて制定した服色。〔式部省式、上〕凡諸節會行列次第、云云、當色。五位已上、位色不レ同、雖二是下宮一、猶先二高色一。

【位取】17 クラヰドリ ❶數の位を讀み數へること。又、數の位。字解邦の㋩を見よ。❷轉じて、品位優劣の意。

【位術】18 ヰジユツ 位やはかりごと。〔鬼谷子、符言〕神明之位術正靜。

【位署】19 ヰシヨ 公文書に官位・姓名を連ねて書くこと。又、其の方式。署は、署名の義。署銜。位署書を見よ。〔徒然草〕行成カウゼイ、位署・名字・年號、さだかに見えはべりしかば。

【位署書】20 ヰシヨガキ 古、官と位とを連ねて公文書に書く方式。官と位とが相當すれば、官を上にして位を下にし、中納言從三位某と書く。官位が相當らなければ位を上にし、位が高くて官の卑いのは、行の字を加へ、正二位行大納言と書く。官が高くて位が卑いのは、守の字を加へ、從四位守治部卿と書く類。〔職原抄〕位署體、先レ官次レ位。

【位序】21 ヰジヨ くらゐの順序。位次(15)に同じ。

人部 〔五畫〕 佌位

〔左氏、襄、十〕以ニ位序一聽ニ政辟一。
【位辛】22 ヰシン 宋、熊禾(**7**－**19294**‥23)の字。
【位數】23 ヰスウ 數。かず。〔福惠全書、涖任部、親査閲〕火藥銃炮斤兩位數、登ニ記之一。
【位西】24 ヰセイ 清、邵懿辰(**11**－**39343**‥87)の字。
【位清】25 ヰセイ 清、李通理(**6**－**14459**‥1766)の字。
【位勢】26 ヰセイ 位と勢力。〔鄒陽、於レ獄上書自明書〕誘ニ於威重之權一、脅ニ於位勢之貴一。
【位存】27 ヰソン 字號。㊀清、史承謙(**2**－**3249**‥226)の字。㊁清、彭永思(**4**－**10003**‥134)の字。
【位倒】28 クラヰダフレ 位がいたづらに高くて、實利・實力の伴はぬこと。〔傾城酒呑童子、二〕ほんの位倒れぢや。
【位地】29 ヰチ くらゐ。地位。〔周書、王褒傳〕寵遇日隆、而褒愈自謙虛、不下以ニ位地一矜上レ人。
【位置】30 ヰチ ㊀在る場所。身を置く所。〔宣和畫譜〕其本末位置有レ序。㊁据ゑ置く。〔袁昂書評〕羊欣書、似ニ婢作ニ夫人一、不レ堪ニ位置一。㊂wei⁴ chih⁴ 人の爲に事を謀る。
【位秩】31 ヰチツ くらゐと扶持。官位と俸祿。〔北史、薛孝通傳〕致ニ疑忌一、不レ加ニ位秩一。
【位宁】32 ヰチヨ 位は群臣の位、宁は人君の政を見る處。位箸。〔爾雅、釋宮〕中庭之左右、謂ニ之位一、門屛之閒、謂ニ之宁一。〔疏〕位、羣臣之列位也、云云、門屛之閒、謂ニ之宁一者、謂、路門之外、屛樹之內、人君視レ朝宁立之處、因名爲レ宁。
【位箸】33 ヰチヨ 位宁に同じ。〔國語、周語上〕士大夫日恪ニ位箸一、以儆ニ其官一。〔注〕中廷之左右曰レ位、門屛之閒曰レ箸。
【位田】34 ヰデン ㊀昔、官位につけて賜はつた田地。親王は、一品八十町乃至四品四十町、臣下は、正一位八十町乃至從五位八町。〔田令〕凡位田、一品八十町、二品六十町、三品五十町、四品四十町、正一位八十町、從一位七十四町、正二位六十町、從二位五十四町、正三位四十町、從三位三十四町、正四位二十四町、從四位二十町、正五位十二町、從五位八町。㊁デイン 姓氏。〔和爾雅〕。
【位牌】35 ヰハイ 死者になぞらへて祭る牌。木主。位版。神主。〔朱子語類、禮七、祭〕堂置ニ位牌一。

【位牌堂】36 ヰハイダウ 位牌を安置する堂。〔新編相模國風土記稿、百三〕淸淨光寺位牌堂。
【位袍】37 ヰハウ 昔、朝臣が著た禮服のうはぎ。〔左經記〕長元九年六月六日、今日素服、公卿有レ議不レ脫ニ位袍一、其上著ニ素服一矣。
【位望】38 ヰバウ 地位と人望。〔晉書、劉寔傳〕及ニ位望通顯一、毎崇ニ儉素一。〔北史、王褒傳〕位望隆重、寵遇日甚。〔白易居、謝レ官狀〕位望雖レ小、俸料稍優。
【位貌】39 ヰバウ 官位や容貌。〔任昉、爲ニ蕭楊州一作レ薦レ士表〕不レ可三限以ニ位貌一、豈可下以ニ位卑兒陋一而不上用。
【位伯】40 ヰハク 清、方中通(**5**－**13620**‥587)の字。
【位版】41 ヰハン 位牌(35)に同じ。〔通典、禮典、吉、天子皇后及諸侯神主〕主之制、四方穿ニ中央一、達ニ四方一、天子長尺二寸、諸侯一尺、皆刻ニ謚於背一。
【位卑】42 ヰヒ 位がひくい。〔晉書、慕容廆載記〕廆輔ニ翼王室一、有ニ匡霸之功一、而位卑爵輕、九命未レ加。
【位卑高言】43 クラヰヒククゲンタカシ 其の位置にゐないのに、徒らに高言して人を批評する。位が卑いのに、身分不相應の言說をなして、大臣などの政治を批評する。〔孟子、萬章下〕位卑而言高、罪也、立ニ乎人之本朝一、而道不レ行、恥也。
【位封】44 ヰフ 昔、諸王及び三位以上の臣下に、位の階級に從つて賜はつた食封ジキ。大寶令の制。〔續日本紀、三〕慶雲三年二月庚寅、諸王臣位封。
【位服】45 ヰフク 位に應じた服。位を有する人の用ひる大禮服。
【位分】46 ヰブン 位階。階級。位地分限。〔資治通鑑、魏紀〕(文帝、黃初四年)陳平不三肯知ニ錢穀之數一、云、自有ニ主者一、彼誠達ニ於位分之數一也。
【位兩】47 ヰリヤウ 明、黃配元(**12**－**47926**‥1278)の字。
【位祿】48 ヰロク ㊀位と祿。祿位(**8**－**24741**‥1)に同じ。〔中庸〕大德必得ニ其位一、必得ニ其祿一、必得ニ其名一、必得ニ其壽一。㊁昔、四位以下の者に、官位の高下によつて賜はつた祿。〔續日本紀、三〕慶雲二年十一月庚辰、先レ是、五位有ニ食封一、至レ是代以ニ位祿一也。

【正レ位】49 クラヰヲタダス 正しい地位に居る。〔後漢書、皇后紀序〕后正ニ位宮闈一、同ニ體天王一。〔干寶、晉紀總論〕正レ位居レ體、重レ言愼レ法。
【成レ位】50 クラヰヲナス 位を定める。〔易、繫辭上〕成ニ位乎其中一矣。
【竊レ位】51 クラヰヲヌスム 其の職責を盡さないで、徒らに其の位に在ることをいふ。〔論語、衞靈公〕臧文仲其竊レ位者與。〔集解〕孔安國曰、知ニ其賢一而不レ擧、爲レ竊レ位。
【備レ位】52 クラヰニソナハル 官に列する。役人になる。〔漢書、魏相傳〕臣相幸得レ備レ位、不レ能下奉ニ明法一廣ニ教化一、理ニ四方一、以宣中聖德上。
【復レ位】53 クラヰニフクス ㊀坐位にかへる。〔儀禮、士冠禮〕乃冠、興復レ位。〔論語、鄕黨〕復ニ其位一、踧踖如也。〔班固、東都賦〕主人曰、復レ位。㊁もとの地位にかへる。〔史記、平原君傳〕三去レ相、三復レ位、封ニ於東武城一。
【位不退】54 ヰフタイ 佛 三不退の一。菩薩修行の道程で、一旦修得した修養の階梯から退墮し、又は修行を退廢して惡道に流轉することなきをいふ。〔觀經妙宗鈔、下〕若破ニ見思一、名ニ位不退一、則永不レ失ニ超凡假一。
【位面レ陽】55 クラヰヤウニメンス 位置が南向なことをいふ。〔李覯、袁州州學記〕厥土燥剛、厥位面レ陽。
【位有ニ五材一】56 クラヰニゴザイアリ 五行に木・火・土・金・水の五つの階級があることをいふ。〔淮南子、墜形訓〕音有ニ五聲一、宮其主也、色有ニ五章一、黃其主也、味有ニ五變一、甘其主也、位有ニ五材一、土其主也、云云、是故以レ水和レ土、以レ土和レ火、以レ火化レ金、以レ金治レ土、木復反レ土。
【位極ニ人臣一】57 クラヰジンシンヲキハム 臣としての最上の位につく。〔吳志、孫綝傳〕因ニ緣肺腑一、位極ニ人臣一。〔太平廣記、貢擧一〕縉紳雖三位極ニ人臣一、不レ由ニ進士一者、終不レ爲レ美。
【位不レ期驕】58 クラヰアレバキセズシテオゴル 貴い位に登ると、自然に驕慢の心が生ずること。〔書、周官〕位不レ期驕、祿不レ期侈、恭儉惟德、無レ載ニ爾僞一。〔傳〕貴不ニ與レ驕期一而驕自至、富不ニ與レ侈期一而侈自來、驕侈以行レ己、所ニ以速レ亡。
【不レ患レ無レ位】59 クラヰナキヲウレヘズ 君子は爵位のないことなどは意に介しない。〔論語、里仁〕子曰、不レ患レ無レ位、患三所ニ以立一。〔疏〕不レ患レ無レ位者、言不レ憂ニ爵位一也、患ニ所ニ以立一者、言四但憂ニ其無ニ立レ身之才學一耳。
【位竊ニ和羹重一】60 クラヰハワカウノオモキヲヌスム 其の任でないのに重い位を辱くする。和羹は宰相の任。恩寵を受けることの深い喩。〔張說、恩敕麗正殿書院賜レ宴應制得ニ林字一詩〕誦レ詩聞ニ國政一、講レ易見ニ天心一、位竊ニ和羹重一、恩叨ニ醉レ酒深一。〔唐詩選箋注〕和羹、謂ニ宰輔之任一也、故曰レ竊レ重。

【低】504 テイ タイ 〔集韻〕都黎切 ㄉㄧ ti¹ 齊

小篆

㊀**ひくい**。高くない。〔說文新附〕低、下也、从ニ人氐一、氐亦聲。〔爾雅、釋樂、謂ニ之柳一、疏〕羽者、宇也、物也、其聲低。〔字彙〕低、高之反也。〔梁簡文帝、採蓮曲〕香風起白日低。〔庾信、初晴詩〕濕花飛未レ遠、陰雲斂向レ低。〔白居易、題ニ集賢閣一詩〕下視諸司屋舍低。〔蘇軾、金橙徑詩〕金橙縱復里人知、不レ見鱸魚賈自低。㊁**ふす**。〔集韻〕低、俛也。㊂**たれる**。**さがる**。〔集韻〕低、垂也。〔詩、小雅、湛露、疏〕柯葉低垂。〔謝朓、詠風詩〕垂楊低復擧。〔談藪〕黍熟頭低、麥熟頭昂、黍麥倶有三所ニ以低昂一。㊃**たむろす**。**やどる**。〔廣雅、釋詁四〕低、舍也。〔楚辭、招魂〕軒輬旣低。〔注〕低、屯也。㊄或は氐(**6**－**17027**)に作る。〔正字通〕氐、同レ低。〔漢書、食貨志〕封君皆氐レ首仰レ給。㊅俗に伍(**1**－**419**)に作る。〔正字通〕伍、俗低字。
名乘 ヒラ。
【低壓】1 テイアツ ㊀低度の壓力。㊁低氣壓(79)の㊀の略。㊂低度の電壓。
【低幃】2 テイヰ 丈の低いたれ絹。〔晉書、輿服志〕乘レ車白帢低幃、出ニ入掖門一。

【低腰】3 ㄉㄧ ㄧㄠ 腰を低くしてさげる。下手に出る。人に屈する。〔白居易、酬二李小府曹長官舍見レ贈詩〕低レ腰復斂レ手、心體不レ遑レ安。〔李洞、題二尼大德院一詩〕世雄翻媿自低レ腰。

【低音】4 ㄉㄧ ㄧㄣ 通常の音律よりひくいもの。調子の低い音。

【低溫】5 ㄉㄧ ㄨㄣ 低い溫度。又、溫度の低いこと。

【低溫度】6 ㄉㄧ ㄨㄣ ㄉㄨˋ 低い溫度。

【低下】7 ㄉㄧ ㄒㄧㄚˋ ㊀位置が低い方へくだること。㊁程度、度合、狀態などがさがること。物價がやすくなること。下落。

【低價】8 ㄉㄧ ㄐㄧㄚˋ ㊀やすね。廉價。〔大學衍義補、制二國用一〕市糴之令〕馬氏曰、姦商黠賈、遂至二低價估レ貨、高價入レ粟。〔居家必用〕折爲二低價一。㊁値段を下げる。

【低卬】9 ㄉㄧ ㄤˊ 高いことと低いこと。或は高く或は低いこと。高低の定まらぬこと。低仰。低昂。高低。〔漢書、司馬相如傳上〕低卬夭蟜、裾以驕驁兮。〔漢書、楊惲傳〕奮レ袖低卬、頓レ足起舞。

【低仰】10 ㄉㄧ ㄧㄤˇ 低卬に同じ。〔潘岳、西征賦〕軌崎嶇以低仰。〔注〕翰曰、言二狹路崎嶇登頓、故使二車軌高低一。

【低昂】11 ㄉㄧ ㄤˊ 低卬(9)に同じ。〔論衡、變動〕穀價低昂。〔傅玄、雜詩〕北斗忽低昂。〔陶潛、擬古詩〕松柏爲レ人伐、高墳互低昂。〔蘇軾、書二鄢陵王主簿所畫折枝一詩〕低昂枝上雀、搖蕩花間雨。

【低額】12 ㄉㄧ ㄜˊ やすいねだん。やすね。少い金額。

【低顏】13 ㄉㄧ ㄧㄢˊ 謙遜するさま。〔劉兼、晩樓寓懷詩〕劉毅暫貧雖レ壯レ志、馮唐將老自低レ顏。

【低級】14 ㄉㄧ ㄐㄧˊ 低い階級、又は程度。低い位。又、下等。

【低吟】15 ㄉㄧ ㄧㄣˊ ひくく小さな聲でうたふ。低唱。微吟(4—10203‥45)に同じ。

【低銀】16 ㄉㄧ ㄧㄣˊ わるいかね。粗惡な貨幣。〔福惠全書、蒞任部、定買辦〕擅使二低銀一捎二短物價一。

【低空】17 ㄉㄧ ㄎㄨㄥ 低いそら。地上に近い空。そらの低いところ。〔杜甫、別二房太尉墓一詩〕近淚無二乾土一、低空有二斷雲一。

【低貨】18 ㄉㄧ ㄏㄨㄛˋ 安物。やすいもの。劣等品。低級品。下等品。

【低回】19 ㄉㄧ ㄏㄨㄟˊ ㊀さまよふ。立ちもとほる。首を垂れて行きつ戻りつする。低徊。低佪。〔史記、孔子世家贊〕余低回留レ之不レ能レ去。㊁まはりめぐる。うねりめぐる。〔漢書、揚雄傳下〕大語叫叫、大道低回。〔注〕師古曰、低回、紆衍也。

【低回顧望】20 ㄉㄧ ㄏㄨㄟˊ ㄍㄨˋ ㄨㄤˋ 行きつ戻りつ前後をふりかへる。方々を見まはす。〔日本外史、新田氏前記、楠氏論〕余於レ是、低回不レ能レ去、顧二望金剛山嶷一立雲際一、想二見公擧義之秋、其子孫據以扞二護王室一也。

【低佪】21 ㄉㄧ ㄏㄨㄟˊ 低回の㊀に同じ。〔楚辭、九章、抽思〕低佪夷猶、宿二北姑一兮、煩寃瞀容實沛徂兮。

【低徊】22 ㄉㄧ ㄏㄨㄟˊ 低回の㊀に同じ。〔漢書、司馬相如傳〕低二徊陰山一、翔以紆曲兮。〔注〕低徊、猶二徘徊一也。〔潘岳、寡婦賦〕翫二稚子于懷抱一兮、嗟低徊而不レ忍。

【低鬟】23 ㄉㄧ ㄏㄨㄢˊ 下げ髪。〔劉禹錫、傷秦姝行〕芳筵銀燭一相見、淺笑低鬟初目成。〔元稹、會眞詩〕低鬟蟬影動、廻步玉塵蒙。

【低言】24 ㄉㄧ ㄧㄢˊ 低い聲で物をいふ。ひそひそと話す。〔水滸傳、二回〕朱武附レ耳低言。

【低言悄語】25 ㄉㄧ ㄧㄢˊ ㄑㄧㄠˇ ㄩˇ 低い聲でささやく。

【低原】26 ㄉㄧ ㄩㄢˊ 海面に較べて稍〻高い平原。多くは大河の流域にある。

【低減】27 ㄉㄧ ㄐㄧㄢˇ 低くしへらす。價をやすくする。

【低語】28 ㄉㄧ ㄩˇ ささやく。〔曹松、夜飲詩〕青蛾低語指二東方一。

【低摧】29 ㄉㄧ ㄘㄨㄟ 減りくだける。〔柳宗元、閔生賦〕形低摧而自愍。〔唐彥謙、韋曲詩〕欲レ寫二愁腸一愧二不才一。多情練漉已低摧。

【低顙】30 ㄉㄧ ㄙㄤˇ 拜する。低首。叩顙。〔長生殿、舞盤〕重低顙、山呼二萬歲一拜二君王一。

【低幘】31 ㄉㄧ ㄗㄜˊ たけの低い冠。〔宋書、禮志五〕乘レ車白帢低幘、出入掖門一。

【低次】32 ㄉㄧ ㄘˋ ㊀數學用語。低い次數。低い冪指數。高次の對。㊁ㄉㄧ ㄗㄨˋ 粗惡な。劣等な。

【低濕】33 ㄉㄧ ㄕ 土地が低くてしめりけのあること。卑濕(2—2738‥48)に同じ。〔白居易、琵琶行〕住近二湓江一、地低濕、黃蘆苦竹繞レ宅生。

【低沙】34 ㄉㄧ ㄕㄚ 尼の異稱。〔稱謂錄、尼、低沙〕法苑珠林、世尊姑子名二低沙一。

【低唱】35 ㄉㄧ ㄔㄤˋ ひくい聲で歌ふ。低吟。〔蘇軾、趙成伯家有二麗人一僕忝二鄉人一不二肯開レ樽徒吟一春雪美句一次レ韻一笑詩〕試問高吟三十韻、何如二低唱兩三杯一。〔薩都剌、西湖詩〕水面夜涼銀燭小、越娘低唱月生レ眉。

【低唱淺斟】36 ㄉㄧ ㄔㄤˋ ㄑㄧㄢˇ ㄓㄣ 小聲で歌ひ、あつさりと酒を飲む。淺斟低唱。〔長編〕宋陶穀爲二學士一、得二党太尉家姬一、遇レ雪、陶取二雪水一烹レ茶、謂レ姬曰、党家有二此風味一否、對曰、彼粗人、安有レ此、但能于二銷金帳中一淺斟低唱、飲二羊羔兒酒一耳。

【低唱微吟】37 ㄉㄧ ㄔㄤˋ ㄨㄟ ㄧㄣˊ しんみりと低い聲で歌をうたひ、小ごゑで詩を吟ずること。微吟(4—10203‥45)を見よ。

【低手】38 ㄉㄧ ㄕㄡˇ 下手。未熟。技藝の拙いこと。

【低首】39 ㄉㄧ ㄕㄡˇ 頭をたれる。うなだれる。低頭。〔史記、平準書〕封君皆低レ首仰レ給。〔唐書、段秀實傳贊〕常低レ首拱手。

【低首下心】40 ㄉㄧ ㄕㄡˇ ㄒㄧㄚˋ ㄒㄧㄣ 頭をたれ心をおさへる。屈服することをいふ。首を垂れて非常に恐縮する。かしこまる。〔韓愈、鱷魚文〕刺史雖二駑弱一、亦安肯爲二鱷魚一低レ首下レ心、伈伈睍睍、爲二民吏羞一、以偸二活於此一邪。

【低色】41 ㄉㄧ ㄙㄜˋ わるい銀。粗惡な貨幣。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕其低色短少各封硃筆封好。

【低身】42 ㄉㄧ ㄕㄣ 身を低くする。〔蕭德言、詠舞詩〕低レ身繡二羅衣一。

【低垂】43 ㄉㄧ ㄔㄨㄟˊ 低くたれる。垂れさがる。〔詩、小雅、湛露、湛湛露斯、匪二陽不一晞、箋〕露之在レ物、湛湛然、使二物柯葉低垂一。〔論衡、書虛〕疾痛低垂、不レ能二仰視一。

【低聲】44 ㄉㄧ ㄕㄥ 低いこゑ。こごゑ。

【低聲啞氣】45 ㄉㄧ ㄕㄥ ㄧㄚˇ ㄑㄧˋ 息をつめて物を言ふ。

【低聲飲泣】46 ㄉㄧ ㄕㄥ ㄧㄣˇ ㄑㄧˋ 忍び泣き。

【低聲強笑】47 ㄉㄧ ㄕㄥ ㄑㄧㄤˊ ㄒㄧㄠˋ 聲をひそめて作りわらひする。

【低小】48 ㄉㄧ ㄒㄧㄠˇ ひくく小さい。〔杜甫、絕句漫興詩〕熟知茅齋絕低小、江上燕子故來頻。〔程俱、避二居儀眞一詩〕茅茨低小對二青山一、准擬餘年向二此閑一。〔文天祥、正氣歌序〕單扉低小、白閒短窄。

【低少】49 ㄉㄧ ㄕㄠˇ わるい錢。粗惡な貨幣。少は鈔。低錢。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕不レ許二攙一收低少一。

【低責】50 ㄉㄧ ㄗㄜˊ 低い聲で叱る。

【低折】51 ㄉㄧ ㄓㄜˊ 割引する。

【低錢】52 ㄉㄧ ㄑㄧㄢˊ 惡質の錢。〔桃花扇、眠香〕鄭(妥娘)接レ錢再數、換二低錢一諢下。

【低俗】53 ㄉㄧ ㄙㄨˊ ひくくいやしい。低級卑俗なこと。

【低地】54 ㄉㄧ ㄉㄧˋ ひくい土地。〔論衡、效力〕不レ得二廣戶低地一、不レ能二通流入一乎東海一。

【低低】55 ㄉㄧ ㄉㄧ しのびやかに。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕他那裏低低應。

【低潮】56 ㄉㄧ ㄔㄠˊ ㊀ひくい潮。ひきしほ。退潮。又、潮の低い。㊁質の粗惡な銀。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕有二低潮及短少者一。

【低調】57 ㄉㄧ ㄉㄧㄠˋ ひくい調子。ものごとの振はないことの形容にも用ひる。

【低天】58 ㄉㄧ ㄊㄧㄢ ひくく垂れた空。〔張耒、春望詩〕春樹接二低天一。

【低斗】59 ㄉㄧ ㄉㄡˇ ひくくまがる。〔福惠全書、庶政部、河隄歲修〕若岸址薄窄、河流衝淤、岸外地低斗者、則反レ是。

【低頭】60 ㄉㄧ ㄊㄡˊ ㊀頭を下げて敬禮する。〔禮、少儀、肅拜、注〕肅拜、拜低レ頭也。〔莊子、盜跖〕據レ軾低レ頭。㊁恐れて頭を下げる。頭を垂れて他に從ひ屈辱をうける。〔後漢書、梁鴻傳〕無二乃欲一レ低二頭就一レ之乎。〔晉書、天文志中〕又レ手低レ頭、欲レ降伏之象也。㊂かしらを下げる。うなだれる。〔韓偓、復偶見詩〕密跡未レ成當面笑、幾廻擡レ眼又低レ頭。〔李白、靜夜思詩〕牀前看二月光一、疑是地上霜、擧レ頭望二山月一、低レ頭思二故鄉一。

【低頭傾首】61 ㄉㄧ ㄊㄡˊ ㄑㄧㄥ ㄕㄡˇ 頭を下げる。うなだれる。謹愼のさま。首も頭の意。〔北史、薛嬪傳〕豈能五十年戴幘、低頭傾首、俯仰而向二人也。

【低頭平身】62 ㄉㄧ ㄊㄡˊ ㄆㄧㄥˊ ㄕㄣ 頭を下げ身を平かに伏せること。謝罪の樣子にいふ。平身低頭。

【低帽】63 テイバウ 低い帽子。〔白居易、東城晩歸詩〕晩入二東城一誰識レ我、短靴低帽白蕉衫。
【低眉】64 テイビ ㊀垂れさがつてゐるまゆ。地藏眉。〔語林〕菩薩低眉、所三以慈二悲六道一。㊁眉を低れる。伏目になる。〔白居易、琵琶行〕低レ眉信レ手續續彈、說盡心中無限事。
【低微】65 ti^{1} wei^{1} 下等。賤しい。又、下落する。
【低品】66 ti^{1} p'in^{3} 下位。下級。又、下等品。
【低伏】67 テイフク 低く伏す。〔論衡、龍虛〕物乃低伏、鬱湮不レ育。
【低密】68 テイミツ ㊀木の枝が低くこまやかに繁つてゐるさま。〔白居易、池上幽境詩〕平滑靑盤石、低密綠陰樹。㊁犀角(7－20045··4)の異名。〔本草、犀〕犀角、番名、低密。
【低迷】69 テイメイ ぼんやりして明かでないさま。又、頭をたれてさまよふさま。雲などの低くさまよふさま。〔嵇康、養生論〕低迷思レ寢。〔李商隱、七月二十八日夜與二王鄭二秀才一聽レ雨後夢作詩〕怳惚無レ倪明又暗、低迷不レ已斷還連。〔朱彝尊、喜レ雪詩〕雲氣低迷海氣昏、窮陰連日暗二孤村一。
【低嘿】70 テイモク 首を低れて物言はぬさま。〔論衡、程材〕低嘿不レ言者、率多二文吏一。
【低落】71 テイラク 價などの下落すること。
【低利】72 テイリ やすい利息。
【低率】73 テイリツ やすい利率。
【低廉】74 テイレン 價がひくいこと。やすいこと。
【低哢】75 テイロウ ひくい聲でさへづる。〔柴野栗山、雛鶯說示二塾生一〕越レ時始能動レ身、既而低哢、如二學レ之者一。
【低隴】76 テイロウ ひくいうね。〔虞騫、詩〕荒墳改二凍葉一、低隴變二年根一。
【低窪】77 テイワ 低くくぼんだ土地。〔鄭元祐、詩〕膏腴不レ論レ價、低窪寧望レ酬。
【低爲替】78 テイカハセ 自國の貨幣が、外國貨幣に對して換算率の低いこと。
【低氣壓】79 テイキアツ ㊀大氣の壓力の低いこと。又、其の所。大氣は高氣壓の所から低氣壓の所に向つて流動して風を生ずる。㊁或る社會の狀態が穩かでなく、紛亂の起らうとする有樣などにいふ。

【低光荷】80 テイクワウカ 漢の昭帝の時に淋池に植ゑた蓮の名。日に照らされると葉を低く垂れて根莖を覆ひ護るといふ。〔拾遺記、前漢下〕昭帝元始元年、穿二淋池一、廣千步、中植二分枝荷一、一莖四葉、狀如二駢蓋一、日照則葉低蔭二根莖一、若二葵之衞レ足、名曰二低光荷一。
【低羣島】81 テイグンタウ 地名。Low Archipelago の譯名。南太平洋にある。八十餘の環礁島からなり、殆ど全部海拔十米以下の島である。佛領。一名パウモツ諸島。Paumotu Isles 又、ツアモツ諸島。Tuamotu Isles
【低藝事】82 ti^{1} i^{4} shih^{4} いやしい仕事。いやしいつとめ。
【低出葉】83 テイシユツエフ 莖下または地表に近い莖の部分に生じて通常の葉と其の形を異にする葉。鱗片狀、或は包合して球狀をなす。玉葱の球根や百合の食用に供せられる鱗莖の部分の如きが其の例である。
【低能兒】84 テイノウジ 智能の劣つてゐる子。癡兒。
〔低能兒敎育〕85 テイノウジケウイク 低能兒に對する特殊な敎育。
【低三下四】86 ti^{1} san^{1} hsia^{4} ssŭ^{4} ㊀諂ふ。人の云ふ通りになる。平身低頭。〔桃花扇、聽稗〕只怕到那裏、低三下四還幹舊營生。㊁下等な。極めて下賤な。破廉恥な。
【低心下氣】87 ti^{1} hsin^{1} hsia^{4} ch'i^{4} 平身低頭。謙虛な氣持。
【低門小戶】88 ti^{1} men^{2} hsiao^{3} hu^{4} 門が低く戶の小さい家。貧家。
【低里搭拉】89 ti^{1} li^{3} ta^{1} la^{1} ぶらぶらと下がる。

【住】505

チユ　チユ　慣チユウ　〔集韻〕廚遇切　遇　ㄓㄨˋ chu^{4}

㊀すむ。居處を定めて居る。〔字彙〕住、居也。〔南齊書、張融傳〕融爲二中書郎一、未レ有二居止一、權牽二小船於岸上一住。〔崔顥、江南行〕君家何處住。㊁すまひ。〔劉長卿、洞山陽詩〕桐園幾家住、誰爲掃二荊扉一。〔許渾、洞庭詩〕猶有二漁人數家住一、不レ成二村落一夕陽邊。㊂すまふ人。住人。〔高啓、送二陳秀才歸レ吳詩〕君是故鄉人、同作二他鄉住一。㊃とどめる。とまる。とどまる。やむ。〔集韻〕住、止也。〔潘岳、射雉賦〕淸レ道而行、擇レ地而住。〔注〕良曰、擇二可レ止之地一而住。〔蕭愨、春日曲水詩〕舞餘香尙存、歌盡聲猶住。〔李白、早發二白帝城一詩〕兩岸猿聲啼不レ住。㊄たつ。たてる。柱(6－14660)に通ず。〔集韻〕住、立也。〔後漢書、鄧禹傳〕輒停レ車住レ節。〔注〕住、或作レ柱。㊅數(5－13363)の誤字。〔列子、黃帝〕漚鳥之至者、百住而不レ止。〔注〕住、當レ作レ數。㊆往(4－10073)に通ず。〔列子、楊朱〕日百住。〔釋文〕住、或作レ往。㊇姓。〔姓苑〕住、今江東有二此姓一。㊈現㋑碇泊する。㋺動作の歸着をあらはす助動詞。

名乘 スミ。モチ。ヨシ。

【住屋】1 チユウヲク すみか。住宅(27)に同じ。〔徐璣、題二半村堂一詩〕住屋半依レ村。
【住下】2 chu^{4} hsia^{4} 住居する。止まる。宿る。泊り込む。
【住家】3 チユウカ ㊀すみか。住宅。㊁chu^{4} chia^{1} ㋑住居する。㋺嫁が里方に歸る。
【住戒】4 チユウカイ 佛佛のいましめを心にとどめ守ること。〔佛遺敎經〕汝等比丘、已住戒。
【住學】5 chu^{4} hsüeh^{2} 寄宿する。
〔住學的〕6 chu^{4} hsüeh^{2} tê 寄宿生。
【住吉】7 スミヨシ スミノエ ㊀攝津國の地名。㊁姓氏。〔新撰姓氏錄考證、三〕
〔住吉物語〕8 スミヨシモノガタリ 書名。二卷。撰者未詳。中納言兼左衞門督の女が、繼母の虐待に遇つて攝津國住吉に落魄し、終に立身するといふ趣向に作つたもの。

【住居】9 チユウキヨ すみ居る。すむ。又、すみか。すまひ。住所。〔荊釵記、投水〕你在二那裏住居一。
【住果】10 チユウクワ 佛聲聞・緣覺の聖者が各〻自分の得た證果に安住して、更に勝れた道を求めないことをいふ。〔倶舍論、二十三〕位果者、乃至未レ起二勝果道一時、但名二住果一。
【住戶】11 chu^{4} hu^{4} ㊀住宅。㊁住民。住人。
【住口】12 chu^{4} k'ou^{3} 住嘴(16)に同じ。
【住劫】13 チユウコフ 佛四劫の一。この世界が存在する期間。其の間、二十劫を經るものといはれる。
【住止】14 チユウシ すまひ居る。〔陶弘景、許長史舊館壇碑〕於二館西一更築二隱居一住止。
【住址】15 チユウシ 住んでゐる所。住所。住處。〔政刑大觀〕盜犯總單查二考其年貌・住址一、最宜二詳注一。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕年貌・籍貫・住址、及着レ役日期。
【住嘴】16 chu^{4} tsuei^{3} 口を動かさぬこと。物を食ふことをやめる。又、言ふことをやめる。
【住手】17 chu^{4} shou^{3} 手を止める。仕事をやめる。中止する。
【住宿】18 chu^{4} su^{4} 宿泊する。とまる。
【住所】19 チユウシヨ ㊀居るところ。居所。住居。〔北史、袁翻傳〕那壞住所非レ所二經見一。㊁民法上、其の人の生活の本據たる場所をいふ。
〔住所不可侵權〕20 チユウシヨフカシンケン 法律に定める場合を除く外、他人から濫りに自己の住所に侵入せられない權利。
【住處】21 チユウシヨ 居るところ。住所(19)に同じ。〔論語、雍也、非二公事一未三嘗至二於偃之室一也、皇侃義疏〕不三嘗無レ事至二偃住處一也。〔王維、田家詩〕住處名二愚谷一、何煩問二是非一。
【住職】22 チユウシヨク 佛住持(29)の㊂に同じ。〔諸宗階級〕右寺院住職之儀。
【住衰】23 チユウスイ 老衰するのをとどめる。老人となることを防ぐ。〔水經、肥水注〕劉安養二方術之徒一、多二神仙祕法鴻寶之道一、忽有二八公一、皆鬚眉皓素、詣レ門希レ見、門者曰、吾王好二長生一、今先生無二住衰之術一、未二敢相聞一、八公咸變成レ童、王甚敬レ之。
【住船】24 chu^{4} ch'uan^{2} 碇泊する。

【住僧】25 其の寺に住む僧。〔近古史談、豐篇〕雲居和尚皆修業、各爲一庵住僧。

【住道】26 姓氏。〔姓名錄〕。

【住宅】27 すみか。すまひ。住家。住屋。〔運步色葉集〕住宅。

【住宅地】28 ❶住宅の集合してゐる地帶 ❷住宅に適する地帶。

【住持】29 [佛]❶世に安住して法を保持することをいふ。〔圓覺經〕一切如來、光嚴住持。〔毘婆沙論〕佛力住持、卽入大乘正定之聚。〔淨土論〕正覺阿彌陀、法王善住持。❷佛の滅後、よく三寶を住持する人。❸一寺の主僧。住職。もと禪門から起つた語。〔敕修百丈清規、住持章〕佛敎入中國、四百餘年而達磨至、又八傳而至百丈、唯以道相授受、或巖居穴居、或依律等、未有住持之名、百丈以禪宗寖盛、上而君相王公、下而儒老百氏、皆嚮風問道、有徒字蕃、非崇其位、則師法不嚴、始奉其師爲住持、而尊之曰長老、如天竺之稱舍利須菩提、以齒德俱尊也。〔禪苑清規、尊宿住持〕代佛揚化、表異知事、故云傳法、各處一方、續佛慧命、斯曰住持、初轉法輪、命爲出世、師承有據、乃號傳燈。

【住持三寶】30 [佛]佛の滅後に世間に住するもので、佛寶・法寶・僧寶をさす。所謂木佛・畫像は佛寶、三藏經典は法寶、剃髮染衣は僧寶である。〔義林章、六本〕。

【住持奉行】31 武家時代に於て、禪寺の住持に關する件を掌つた役の名。〔花營三代記〕住持奉行。

【住著】32 一所にとどまり居る。著は助字。〔鄭常、送頭陀上人赴廬山寺詩〕僧家無住著、早晚出東林。〔李頎、宿瑩公禪房聞梵詩〕始覺浮生無住著、頓令心地欲歸依。

【住店】33 chu⁴ tien⁴ 旅館に泊る。

【住人】34 其の土地に住んで居る人。土地の人。

【住房】35 chu⁴ fang² 住宅。住居。

【住房的】36 chu⁴ fang² tê 住居主。すまひぬし。

【住步】37 chu⁴ pu⁴ 立止まる。

【住俸】38 俸給の支拂ひを停止する。〔六部成語、吏部、住俸、注解〕官員或丁憂、或別項處分、則核計其開缺之日、爲止停給俸銀。〔清國行政法汎論、官吏法、懲戒方式〕特別懲戒、例如懲戒催徵官、有停陞住俸。

【住民】39 ❶或る土地に定住して居るたみ。❷土著の人民。

【住目】40 chu⁴ mu⁴ 眼をとめる。眼を据ゑる。目を注ぐ。

【住力】41 唐の高僧。陽翟の褚氏の子。隋の煬帝の時、揚州長樂寺に居る。隋末に道俗が流亡するや、身命を以て殿閣を守護し、遂に難を免れたが、武德中、輔公祏が叛して寺宇佛像を毀つに及んで、焚死した。〔續高僧傳、二十九〕。

【住込】42 ❶使用人が通勤せずに、使用者の家で起居すること。❷主家に住込んで居る使用人。

【住脚的】43 chu⁴ chiao³ tê 住所。

【住對月】44 chu⁴ tuei⁴ yüeh⁴ 河北地方の語。婚禮後の一箇月目に、新婦が里に歸つて一箇月逗留すること。

【住茶錢】45 chu⁴ ch'a² ch'ien² 借家人が前納する一箇月分の敷金。

【住娘家】46 chu⁴ niang² chia¹ 里方に歸る。又、其の事。卽ち、さとがへり。

【住忙日】47 chu⁴ mang² jih⁴ 回回敎徒の安息日(金曜日)。

【住血胞子蟲】48 マラリヤの病源菌。瘧蟲(7―22419··8)を見よ。

【住場好不如肚腸好墳地好不如心地好】49 住居のよいのは心のよいのに及ばず、墓地のよいのは精神のよいのに及ばない。人は外飾よりも精神の持ち方が大切であるといふ喩。〔通俗編、地理、住場好不如肚腸好、墳地好不如心地好〕癸辛雜識、倪文節與秀邸爲鄰、頗有侵越地界之爭、嘗爲之語云云。

【佐】506

㊀サ 〔集韻〕子賀切 [箇]　㊁サ 〔集韻〕子我切 [哿]　ㄗㄨㄛˇ tsuo³

㊀㊁❶たすける。〔廣雅、釋詁二〕佐、助也。〔集韻〕佐、輔也。〔周禮、天官、序官〕佐王均邦國。〔注〕佐、猶助也。〔國語、周語下〕四嶽佐之。〔注〕佐、助也。〔史記、孔子世家〕及正考父佐戴・武・宣公。❷たすけ。㋑助力。〔史記、魏世家〕雖得阿衡之佐、曷益乎。㋺たすけるもの。てつだひ。〔說苑、尊賢〕太公望、故老婦之出夫也、朝歌之屠佐也。〔史記、天官書〕五星者、天之五佐、見伏有時、盈縮有度。㋩すけ。次官。〔左氏、襄、三十〕有瑕伯以爲佐。㋥したやく。屬僚。〔晉書、顧榮傳〕功高元帥、賞卑下佐。㋭そへ。副車。〔集韻〕佐、貳也。〔周禮、夏官、田僕〕掌佐車之政。〔注〕佐、亦副。〔禮、少儀〕乘貳車則式、佐車則否。〔注〕貳車・佐車、皆副車也。❸すすめる。〔國語、晉語九〕召之使佐食。〔注〕佐、猶勸也。❹をさめる。〔大戴禮、衞將軍文子〕廉於其事上也、以佐其下。〔注〕佐、治也。❺うかがふ。〔廣雅、釋詁三〕佐、覗也。❻左(4―8720)に通ず。〔集韻〕左、或从人。〔釋名、釋言語〕佐、左也、在左右也。〔周禮、春官、大宗伯〕掌建邦之天神・人鬼・地示之禮、以佐王建保邦國。〔釋文〕佐、本或作左。❼姓。〔萬姓統譜〕佐皓、博興人、正德二年、登封縣丞。[國]すけ。次官。我が國の古昔の官制の一。四衞府及び檢非違使廳の次官は此の字を用ひた。

[名乘] スケ。

【佐佑】1 たすける。〔舊五代史、唐郭崇韜傳〕服勤盡節、佐佑王家。〔杜甫、惜別行送向卿進奉端午御衣之上都詩〕向公泣血灑行殿、佐佑卿相乾坤平。

【佐越】2 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【佐嘉】3 九州の地名。今、佐賀に作る。〔廣瀬淡窓、佐嘉道上詩〕村女采菱去、搖搖盤作船。

【佐介】4 姓氏。〔姓林全書〕。

【佐海】5 姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【佐給】6 たすけ給する。〔白虎通、崩薨〕贈賵者何謂也、贈者助也、所以相佐給不足也。

【佐棘】7 大理寺の次官。〔羅隱、寄大理寺徐中郎詩〕佐棘竟誰同、因思證聖中。

【佐官】8 陸海軍の大佐・中佐・少佐を總稱していふ。

【佐卿】9 宋、趙善佐(10―37171··747)の字。

【佐脇】10 ❶姓氏。〔和爾雅〕。❷姓氏。〔姓名錄抄〕。

【佐公】11 ❶梁、陸倕(11―41708··160)の字。❷兵衞佐源賴朝。佐殿(45)を見よ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕佐公有勇略、非一敗而死者。

【佐攻】12 たすけ攻める。〔史記、秦始皇紀〕據狼狐、蹈參伐、佐攻驅除。

【佐候】13 うかがふ。佐も覗ふ意。字解の❺を見よ。〔漢書、郊祀志上〕上乃遣望氣佐候其氣云。

【佐才】14 明、羅伏龍(9―28397··400)の字。

【佐策】15 君の謀を助ける。〔袁宏、三國名臣序贊〕子布佐策、致延譽之美。

【佐雜】16 清代、佐貳・首領・雜職の三者を倂稱していふ。〔清會典事例、吏部、漢員遴選〕朕敕部揀選引見、曾發知縣十人、佐雜二十人、酌量委用、今據該督奏稱。〔清國行政法汎論、正印官及佐貳雜職首領〕或總稱佐貳・首領・雜職三者曰佐雜。

【佐史】17 漢代の刺史の屬官。〔漢書、宣帝紀〕佐史以上二級。〔漢書、百官公卿表〕百石以下、有斗食佐史之秩。〔注〕佐史、月俸八斛也。〔後漢書、光武紀〕持節北渡河、鎭慰州郡、所到

郡縣、輒見二千石長吏二老官屬、下至二佐史一。〔注〕每刺史皆有二從事史假佐一、每縣各置二諸事曹史一也。

【佐事】18 サジ たすけつかへる。〔左氏、昭、七〕追レ命襄公一曰、叔父陟恪、在二我先王之左右一、以佐二事上帝一。

【佐時】19 サジ 後梁、韓建（12－43159‥86）の字。

【佐貳】20 サジ そへやく。すけ。〔唐書、食貨志四〕主以二郎官一、其佐貳皆御史。〔清國行政法汎論、正印官及佐貳雜職首領〕正印官爲二主任官之義一、佐貳・雜職、首領、皆補助官之名稱也。

【佐貳官】21 サジクワン 輔佐の官。〔明律、刑律、罵詈〕罵二佐貳官一首領官一者、又各遞一等一。〔福惠全書、澄任部、受印〕委二本州縣佐貳官一同二吏房一送至二公館一。〔六部成語、吏部、佐貳官、注解〕府州縣幫辦官之總名、卽佐・助・貳・副也。

【佐周】22 サシウ 清、李禎（6－14459‥608）の字。

【佐疾】23 サシツ 治療する。〔呂覽、仲秋〕天子乃儺禦二佐疾一、以通二秋氣一。〔注〕佐疾、謂レ療也。

【佐車】24 サシヤ ❶そへぐるま。副車。貳車。〔周禮、夏官、田僕〕掌二佐車之政一。〔注〕佐、亦副。〔禮、檀弓上〕公隊佐車授レ綏。〔禮、少儀〕乘二貳車一則式、佐車則否。〔左氏、成、二〕鄭周父御二佐車一。❷驅逆の車、卽ち、狩に、獸を驅り出す車と、獸を待ち受けて捕へる車とをいふ。〔禮、王制〕大夫殺則止二佐車一。〔注〕佐車、驅逆之車。〔疏〕按、大司馬云、乃設二驅逆之車一、注云、驅、驅二出禽獸一使レ趍二田者也一、逆要不レ得レ令レ走。

【佐相】25 サシヤウ たすける。〔曇子、貴義〕周公旦佐二相天子一、其脩至二於今一。

【佐酒】26 サシユ すすめて酒を飲ます。字解の❷を見よ。〔漢書、高帝紀〕召二故人父老子弟一佐レ酒。〔注〕應劭曰、助二行酒一。

【佐戎】27 サジユウ 君主・長官などを輔佐すること。又、その人。輔佐官。戎も、相ヌくの意。〔韓愈、祭二馬僕射一文〕將明將レ昌、實賴二初試一、佐戎滑臺。斥由二尹寺一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕是年、吾佐二戎徐州一。〔薛能、江上寄情詩〕未レ爲二時彥徒經一レ國、尚有二邊兵恥一佐戎一。

【佐餕】28 サシユン 父母の食を佐け食して殘餘なからしめること。〔禮、內則〕父母在、朝夕恆食、子婦佐餕、既食恆餕、父沒母存、冢子御レ食、羣子婦佐餕如レ初。〔注〕婦皆與二夫餕一也。〔疏〕佐餕者、食必須レ盡、以二父母食不レ能レ盡、故子婦佐助餕食之使レ盡、勿レ使レ有レ餘。

【佐初】29 サシヨ 東晉、元帝の時、趙の劉曜の年號。

【佐書】30 サシヨ 書體の名。隸書。秦代に隸人が字を書く佐けをしたので、隸書とも佐書ともいふ。佐隸。〔晉書、衞恆傳〕秦既用レ篆、奏事繁多、篆字難成、卽令二隸人佐一レ書、曰二隸字一、漢因行之一。〔魏書、江武傳〕亡新居攝時、有二六書一、四曰二佐書一、秦隸書也。

【佐助】31 サジヨ 助ける。〔詩、小雅、六月、以佐二天子一。箋〕以佐二助我天子之事一。〔後漢書、和帝紀〕皇帝以二幼年一孱弱在レ疚、朕且佐助聽レ政。

【佐助期】32 サジヨキ 書名。春秋緯の一。今、佚す。古微書に輯本が有る。

【佐證】33 サシヨウ 證據を佐ける。證據立てる。立證する。〔朱子語類、治道〕獄訟、面前分曉事易レ看、其情僞雖レ通、或旁無二佐證一、各執二兩說一、繫二人性命一處、須二吃緊思量一、猶恐レ有レ誤也。

【佐乘】34 サジヨウ そへの乘物。副乘。〔文心雕龍、指瑕〕蓋車貳二佐乘一、馬儷二驂服一。

【佐食】35 サジキ ❶尸に食を助け食はせる人。〔儀禮、士虞禮〕佐食、擧二肺脊一授レ尸。〔儀禮、特牲饋食禮〕佐食北面、立二於中庭一。〔注〕佐食、賓佐二尸食一者。❷食を勸める。〔國語、晉語九〕召レ之使二佐レ食。〔注〕佐、猶レ勸也。

【佐臣】36 サシン ❶輔佐の臣。〔後漢書、郎顗傳〕元精所レ生、王之佐臣、天之生レ固、必爲二聖漢一。❷清、毓賢（6－16739‥3）の號。

【佐生】37 サセイ 近江國の地名。

【佐聖】38 サセイ 聖天子をたすける。〔阮籍、通易論〕君子者何也、佐二聖扶レ命、翼レ教明レ法、觀レ時而行、有レ道而臣二人者也。

【佐膳】39 tsuo³ shan⁴ 副食物。小料理。

【佐代】40 サチ ❶姓氏。〔姓林全書〕。❷サデ 姓氏。〔和爾雅〕。

【佐治】41 サチ ❶政治をたすけ國を治める。佐理。〔史記、管蔡世家〕以佐二成王治一、皆有二令名於天下一。❷三國魏、辛毗（10－38630‥64）の字。❸姓氏。❹ジョー イギリス王の名。George の音譯。

【佐治亞】42 ジヂヤー Georgia の音譯。❶コーカシヤの西部に在る共和國。ソヴィエト聯邦の一。❷米國東南部の一州。❸カナダ西南の海峽。

【佐治員】43 tsuo³ chih⁴ yüan² 輔佐官。

【佐治藥言】44 サチヤクゲン 書名。一卷。清、汪輝祖撰。〔知不足齋叢書、九十六冊〕。〔汪龍莊先生遺書、一冊〕。

【佐殿】45 スケドノ 源賴朝をいふ。賴朝は兵衞佐であつたからいふ。佐公。

【佐伯】46 サヘキ ❶㋑安藝國の郡名。㋺伊豫國の地名。❷サキ 丹波國の地名。❸姓氏。〔新撰姓氏錄考證、九〕。

【佐幕】47 サバク ❶將軍の幕營の中に在つて之を輔佐する。〔周行先、爲二盧中丞一請二朝覲一表〕曩日佐レ幕獲レ在二湖南一。❷㋑幕府をたすける。㋺黨派の名。嘉永・安政以來、尊王攘夷の論の鬨しかつた時、幕府を助けることを主義とした一派。佐幕黨。

【佐分】48 サフリ ❶姓氏。〔姓名錄抄〕。❷サブリ 姓氏。〔和爾雅〕。

【佐平】49 サヘイ ❶百濟國の官名。左平。〔隋書、百濟傳〕官有二十六品一、長曰二左平一。〔日本書紀、欽明紀〕三年四月、遣二下部中佐平一云云等、赴二加羅一、會二于任那日本府一相盟。❷湯、來賀（7－17874‥212）の字。

【佐浦】50 サウラ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【佐輔】51 サホ たすけること。又、其の人。天子を助ける官。輔佐。〔白居易、除二張弘靖門下侍郎平章事一制〕登二爾于佐輔一、授二爾以二大政一。

【佐命】52 サメイ 天命を受けた君主をたすける。建國の大業をたすける。〔班固、西都賦〕佐二命則垂レ統、輔翼則成レ化。

【佐命勳】53 サメイクン 建國の大業を佐けた勳功。〔晉書、羊祜傳〕以二佐命之勳一、進二號中軍將軍一。

【佐命臣】54 サメイシン 天命を受けた君を助ける臣。〔魏志、齊王芳紀〕佐命臣二十一人。

【佐命之士】55 サメイシ 天命を受けた君主をたすける士。〔後漢書、朱祐等傳論〕咸能感二會風雲一、奮二其智勇一、稱爲二佐命一、亦各志能之士也。

【佐輿】56 サヨ 副車。〔新書、禮〕天子佐輿十乘。

【佐用】57 サヨ 姓氏。〔和爾雅〕。

【佐弋】58 サヨク ❶官名。秦代に弋射を掌つたもの。漢には侠飛と改めた。〔史記、秦始皇紀〕內史肆・佐弋竭。〔注〕秦時少府有二佐弋一、漢武帝改爲二侠飛一。掌二弋射一者。❷人名。衞の人。〔韓非子、外儲說左上〕衞人有二佐弋者一、鳥至、因先以二其袷一麾レ之、鳥驚而不レ射也。

【佐拉】59 ソラ フランスの小說家。Emile Zola

【佐吏】60 サリ すけやく。上官をたすける下級の吏。屬官。〔晉書、庾亮傳〕在二武昌一、諸佐吏殷浩之徒、乘二秋夜一往共登二南樓一。〔資治通鑑、晉紀〕（孝武帝、太元八年）沖對二佐吏一歎。〔注〕諸藩府參佐爲二佐吏一。

【佐理】61 サリ ❶助け理める。佐治。〔吳志、步騭傳〕夫賢人君子、所レ以興二隆大化一、佐理時務一者也。❷助けて處理する。〔例〕佐理員。❸藤原佐理（5－32340‥60）を見よ。

【佐良】62 サラキ 姓氏。〔拾芥抄〕。

【佐領】63 サリヤウ 官名。清代の八旗の官。初、旗人三百人毎に一人を置き、事務を統理せしめた。後に、佐領の數が增加するに隨つて、隸屬する旗人の數は減少したが、嘉慶會典では百五十人を定制とした。滿洲語で牛彔章京といふ。佐領に二種あり、父祖の功勞等に因つて得るものを世管佐領、揀選に出づるものを公中佐領といふ。〔清會典事例、兵部、職制〕八旗驍騎營參領佐領、有レ係二文職襲官一、離二原衙門一而在二武職行走一者、該都統將二職名一咨二行吏部一、遇二京堂員缺一、卽將二伊等對品職名一繕寫、與二應升人員職名一一併進呈、其應二行帶領引見一者、亦一併帶併引見。〔歷代職官表、八旗都統、國朝官制〕八旗佐領、滿洲六百八十一人、云云、八年制二管牛彔一者、卽爲二牛彔章京一、順治十七年定、牛彔章京、漢字稱爲二佐領一。

【佐隸】64 サレイ 書體の一。隸書（11－41932‥13）に同じ。佐書（30）を見よ。〔晉書、衞恆傳〕〔恆〕爲二隸勢一曰、鳥跡之變、乃惟佐隸、蠶二彼繁文一、崇二

此簡易。〔東觀餘論〕自ニ秦易レ篆爲ニ佐隸ニ至ニ漢世ニ去レ古未レ遠、當時正ニ隸體ニ尚有ニ篆籀意象ニ。

【佐僚】65（サリョウ）上官を輔佐する屬官。〔史記、禮書〕自ニ天子稱號ニ下至ニ佐僚及宮室官名ニ少レ所ニ變改ニ。

【佐佐生】66（ササムシ）❶越前國の地名。❷（ササウ）姓氏。〔姓名錄抄〕。

【佐和耳】67（ジョホール）馬來（マライ）半島の南端の國。Johore の音譯。

【佐國之謀】68（サコクノハカリゴト）國を助ける謀。〔後漢書、第五種傳〕拔ニ於囚虜之中ニ、信ニ其佐國之謀ニ。

【佐佐貴山】69（ササヤマ）姓氏。〔拾芥抄〕。

【佐佐十竹】70（ササジッチク）讃岐國の人。本姓は良岑、又、丹羽。名は宗淳。幼名は島之助。字は子朴。號は十竹齋。通稱は助三郎。僧號は祖淳。水戸藩儒・彰考館總裁。水戸光圀の命を領して楠氏建碑の事を掌る。元錄十一年歿す。年五十九。從四位を贈らる。著に南行雜錄・西行雜錄・轔軒小錄・十竹齋文集・十竹齋詩稿・足利將軍傳・求書權輿目錄・十竹齋遺稿・十竹齋雜錄・十竹齋手書・十竹齋筆記・松江復讎錄・續南行錄・立志論・六物輯釋がある。〔先哲叢談、續二〕・〔水戸文籍考〕。

【佐職統屬】71（サショクトウゾク）長官の下にある諸官吏。佐職は佐貳官。統屬は屬官。〔明律、刑律、罵詈〕佐職統屬罵ニ長官ニ。

【佐藤一齋】72（サトウイッサイ）江戸の人。名は坦。初名は信行。字は大道。號は一齋、又、愛日樓、又、百之寮・老吾軒。通稱は幾久藏、又、捨藏。岩村藩の家老信由の第二子。幕府儒官・昌平黌教官。經學は朱子學を奉じたが、實は陽明學を欽慕し、世に陽朱陰王の評がある。最も周易に精しく、詩文に長ず。安政六年歿す。年八十八。從四位を贈らる。著に哀敬論・愛日樓文詩・愛日樓全集・愛日樓姚帖・愛敬編・一齋詩鈔・一齋淨稿・孝經解意補義・學問所創置心得・海防策・磕子時器雜記・九卦廣義・僑居日記・近思錄欄外書・課業背誦・言志錄・言志後錄・言志耄錄・言志晚錄・校本四書訓點・古本大學旁釋補・改正音註五經訓點・吳草廬定論・吳子副詮・周易啓蒙欄外書・周易圖考・周易欄外書・四書欄外書・初學課業次第記・同續・書經欄外書・詩經欄外書・小學欄外書・自鳴鐘時刻考・濟敖略記・俗簡焚餘・孫子副詮・大學摘說・陟古日潛・追蘇遊錄・傳習錄欄外書・東潛夫論・禿氏聚葩・日光山行記・白鹿洞揭示問・白鹿洞揭示釋・辨道薙蕪がある。〔近代著述目錄後篇〕・〔續近世先哲叢談〕・〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【佐藤周軒】73（サトウシュウケン）江戸の人。名は廣義。號は周軒、又、塵也。小字は勘平。一齋の曾祖。岩村藩儒。經學は程朱を奉じ、篤く師說を信じた。寬保元年歿す。年七十七。著に四書參考・小學參考がある。〔先哲叢談、正、五〕。

【佐藤直方】74（サトウナホカタ）備後國の人。幼名は彦七。通稱は五郎左衞門、又、三郎左衞門。字・號は共に無い。福山藩儒。經學は程朱を宗とした。享保四年歿す。年七十。著に、をだまき・韞藏錄・學談雜錄・學海餘波・鬼神集說・講學鞭策錄・語錄・四書便講・しののめ・靜坐集說・大學全蒙釋言・道學標的・張書抄略・鶴の毛衣・排釋錄・孟子盡心口義・論語考がある。〔近代名家著述目錄〕〔慶長以來諸家著述目錄〕・〔先哲叢談、正、五〕。

【佐久間象山】75（サクマゾウザン）信濃松代の人。名は啓。字は子明。通稱は修理。號は象山。西洋の各國が交ゝ來て互市を乞ひ、天下騷然たるに因つて、心を海防に留め、銃砲造艦の諸技を講じ、また屢ゝ策を幕府に奉つたが容れられず、後、開港を主張し、元治元年七月十一日、刺客の爲に殺された。時に年五十四。著に浦賀日記・象山淨稿・象山先生詩鈔・喪禮私說・上書・女誡・迅發擊銃圖說・省侃錄・鞜野日記・礮學圖編・礮卦・橫濱陣中記がある。

【佐久間洞巖】76（サクマドウガン）仙臺の人。本姓は新井。名は義和。字は子巖。通稱は彦四郎。號は洞巖・容軒・太白山人。別稱は源洞巖。新井親重の子。初、藩の書員佐久間有德の養子となつて其の職を襲ぎ、遊佐木齋に學ぶ。經學は程朱を宗とし、仙臺藩儒となる。又、書畫に巧。元文元年二月十一日歿す。年八十四。著に奧羽觀跡聞老志・五十四郡考・鹽竈松島圖、附、紀事・太白山人文集・名取郡志・復讐紀事・容軒書畫譜がある。〔先哲叢談後編〕・〔近代名家著述目錄〕。

【佐佐木琴臺】77（ササキキンダイ）源琴臺（7－17926‥59）を見よ。

【佑】507

㊀イウ　〔集韻〕尤救切　有
㊁ウ　一又　yu⁴
㊂イウ　〔集韻〕云九切　有

㊀㊁❶**たすける**。〔廣雅、釋詁二〕佑、助也。〔書、湯誥〕上天孚ニ佑下民ニ。〔書、君奭〕純佑秉レ德。〔漢書、王商傳〕擁ニ佑太子ニ、頗有レ力焉。〔注〕佑、助也。❷**たすけ**。〔班固、高祖沛水亭碑銘〕靈威神佑、鴻溝是乘。❸右（2－3250）に通ず。〔正字通〕佑、古借ニ右、義同。〔詩、大雅、假樂〕保右命レ之。〔中庸〕保佑命レ之。❹祐（8－24652）に通ず。〔易、无妄〕天命不レ佑。〔釋文〕佑、本又作レ祐。

名乘　スケ。

【佑辰】1（イウ）清、兆勳（1－1347‥10）の字。

【佑遐】2（カウ）清、王鵬運（7－20823‥2107）の字。

【佑啓】3（ケイ）たすけて開き導く。〔孟子、滕文公下〕書曰、丕顯哉文王謨、丕承哉武王烈、佑ニ啓我後人ニ咸以正無缺。〔集注〕佑、助也、啓、開也。

【佑之】4（シ）字號。❶宋、郭昇信（11－39474‥3888）の字。❷元、郭昇（11－39474‥189）の字。❸清、姚東之（3－6202‥141）の字。❹清、慶保（4－11145‥110）の字。

【佑助】5（ジョ）たすける。たすけ。佐佑。輔佐。〔漢書、王莽傳中〕羣神社稷宗廟佑ニ助之ニ。〔風俗通、十反〕今變異屢臻、此天以佑ニ助漢室ニ覺ニ悟國家ニ也。

【佑父】6（ホ）宋、楊天惠（6－15112‥727）の字。

【佑甫】7（ホ）清、劉神山（2－2224‥1080）の字。

【佑民】8（ミン）❶清、陳寶箴（11－41698‥1192）の字。❷yu⁴ min² 民を保護する。

【佑命】9（メイ）❶天の助け。天佑。よいめぐりあはせ。〔書、多士〕我有周佑命。〔傳〕言ニ我有周、受ニ天佑助之命ニ、故得ニ奉ニ天明威ニ。❷王命を助ける。〔書、君奭〕天惟純佑レ命、則商實ニ百姓ニ。〔傳〕天惟大佑ニ助其王命ニ、使ニ商家百姓豐實ニ。

【佑王】10（ワウ）清、許從龍（10－35298‥314）の字。

【佑國軍】11（ウコクグン）唐の軍名。軍は行政區劃の名。龍紀の初に河南省洛陽縣治に置き、天佑の初に長安に移置す。今の陝西省長安縣。〔讀史方輿紀要、陝西〕西安府、禹貢雍州地、周爲ニ王畿ニ、東遷後屬レ秦、云云、唐初復曰ニ雍州ニ、天授初、亦曰ニ京兆郡ニ、是年、復故、開元二年、改曰ニ京兆府ニ、天祐初、廢爲ニ佑國軍ニ、五代梁改爲ニ大安府ニ、又改レ軍爲ニ永平軍ニ。

【佑聖教寺】12（ユウショウジ）寺の名。河北省通縣の舊城內の西北隅。十二層の塔があり、下に蓮花臺がある。唐の貞觀七年に創設し、五代・遼・金・元を經て、凡そ八代で完成した。塔の頂に一鐵矢があり、金の將、楊彥升が射たものと傳へる。

【佚】508

㊀アイ　〔集韻〕於郎切　陽
㊁ヤウ　〔集韻〕倚兩切　養
㊂アイウ

㊀㊁❶**佾佚は體の伸びないさま。かがまる**。〔集韻〕佚、僵佚、體不レ伸皃。❷**あふぐ。あふむけ**。央（3－5840）に通ず。〔莊子、列禦寇〕緣循偃佚。〔注〕偃佚、不レ能ニ俯執ニ者。〔釋文〕佚、本亦作レ央、同。❸**たのしむ**。〔詳校篇海〕佚、樂也。

【体】509

㊀ホン　〔集韻〕部本切　阮
㊁ボン
㊂タイ

㊀㊁❶**おとる**。〔集韻〕体、懦劣也。❷**あらい**。笨（8－25939）に同じ。〔正字通〕体、麤貌、別作笨、義同。㊁體（12－45291）の俗字。〔字彙〕体、俗作ニ肢體之體ニ、非。〔正字通〕体、俗書、四體之體、省作レ体、誤。

参考 体(1－440)は別字。

【体漢】1 pen⁴ han⁴ 山東の方言。うとくおろかな者。

【体夫】2 ㄅㄣˋ 柩をかつぐ人夫。〔資治通鑑、唐紀〕(懿宗、咸通十二年)葬二文懿公主一云云、賜二酒百斛、餅餚四十櫜駝一以飼二体夫一。〔稱謂錄、車、体夫〕逸雅、輔車之夫曰二体夫一、体與レ笨同、注、蒲本反、俗書、體有二作レ体者一誤也。

【佔】510

㊀テン 〔集韻〕丁兼切 鹽

㊁セン 〔集韻〕處占切 鹽 ㄓㄢ chan¹

㊂セン 〔集韻〕陟陷切 陷

㊀❶みる。〔禮、學記〕今之教者、呻二其佔畢一。〔注〕佔、視也。❷うかがふ。覘(10－34840)に同じ。〔集韻〕覘、闚也、或作レ佔。❸物のさま。佔侹(8)を見よ。㊁物のさま。餚(7－19412)に同じ。佔佔(7)を見よ。〔集韻〕餚、衣動皃、或作レ佔。㊂❶久しく立つ。〔集韻〕佔、久立也。❷現しめる。占(2－2780)に通ず。

【佔位】1 chan⁴ wei⁴ 場所を取る。占位。

【佔踞】2 chan⁴ chü⁴ 占領する。割據する。

【佔據】3 chan⁴ chü⁴ 占據する。割據する。

【佔股】4 chan⁴ ku³ ❶株を持つ。❷持ち株。

【佔守】5 chan⁴ shou³ 占領して守備する。

【佔先】6 chan⁴ hsien¹ 機先を制す。先鞭をつける。

【佔佔】7 センセン ささやくさま。一説に、衣裳の動くさま。沾沾。〔史記、匈奴傳、令二喋喋而佔佔一(注)集解曰、衣裳貌、索隱曰、鄧展曰、佔、囁耳語。

【佔侹】8 トウテン 垂れるさま。又、はなはだ疲れたさま。又、かろがろしいさま。〔玉篇〕佔、字書云、佔侹、輕薄也。〔廣韻〕佔、佔侹、輕薄也。〔集韻〕佔、佔侹、下垂也、一曰、疲劇。〔字彙〕佔、佔侹、輕薄也。

【佔畢】9 ヒツテン 經義を解せず、唯文字のみをうかがひ讀むこと。佔は見る。畢は簡、書物のこと。〔禮、學記〕今之教者、呻二其佔畢一、多二其訊一言及二于數一。〔注〕佔、視也、簡謂二之畢一。〔朱熹、寄二林擇之一詩〕勸我從容深燕養、莫レ將二佔畢一苦中沈埋上。〔書言故事、學問類〕視レ簡、佔畢。

【佔領】10 chan⁴ ling³ 占領。佔據。

【佔號聲】11 chan⁴ hao⁴ shêng¹ 電話のお話中のこと。「める。

【佔上風】12 chan⁴ shang⁴ fêng¹ 良い地位を占

【佔便宜】13 chan⁴ p'ien² i 利益を占める。自己の都合の宜いやうにする。

【何】511

㊀カ ガ 〔集韻〕寒歌切 歌 ㄏㄜˊ hê²

㊁カ ガ 〔集韻〕下可切 哿

何 小篆

㊀❶なに。いづれ。どれ。いづこ。どこ。いつ。不定の事物・場所・日時。〔論語、子罕〕吾何執、執レ御乎、執レ射乎。〔孔叢子、記問〕天下如レ一、欲二何之一。❷たれ。〔說文〕何、一曰、誰也。〔孟子、萬章上〕何事非レ君、何使非レ民。㊁なに。どんな。いかなる。〔詩、小雅、何人斯〕彼何人斯、其心甚艱。〔史記、孝武紀〕不レ知二何所人一。〔宋史、岳飛傳〕或問、天下何時太平。〔朱子語類、八〕精神一到、何事不レ成。❸なんぞ。いかん。いかんぞ。知らぬ事物を問ふ語。なにと。なにを。なぜ。どうして。〔廣雅、釋詁二〕何、問也。〔字彙〕何、曷也、奚也、胡也、孰也。〔經詞衍釋〕何、猶レ柰也、或言二何、或言一柰、皆柰何義也、又或言二何如一、或言二如何一、亦柰何義也。〔書、皐陶謨〕禹曰何。〔左氏、桓、六〕民其謂二我何一。〔論語、憲問〕夫子何爲。〔孟子、滕文公上〕許子何不レ爲二陶冶一。〔孟子、告子上〕心之所二同然一何也。❹なんぞ。いかんぞ。反語の辭。あに。豈。〔禮、學記〕今之教者、呻二其佔畢一、多二其訊一言及二于數一。〔注〕佔、視也、簡謂二之畢一。〔朱熹、寄二林擇之一詩〕勸我從容深燕養、莫レ將二佔畢一苦中沈埋上。〔書言故事、學問類〕視レ簡、佔畢。

【何領】10 chan⁴ ling³ 占領。佔據。

【何號聲】11 chan⁴ hao⁴ shêng¹ 電話のお話中のこと。

【佔上風】12 chan⁴ shang⁴ fêng¹ 良い地位を占

【佔便宜】13 chan⁴ p'ien² i 利益を占める。自己の都合の宜いやうにする。

【何】511

㊀カ ガ 〔集韻〕寒歌切 歌 ㄏㄜˊ hê²

㊁カ ガ 〔集韻〕下可切 哿

何 小篆

㊀❶なに。いづれ。どれ。いづこ。どこ。いつ。不定の事物・場所・日時。〔論語、子罕〕吾何執、執レ御乎、執レ射乎。〔孔叢子、記問〕天下如レ一、欲二何之一。❷たれ。〔說文〕何、一曰、誰也。〔孟子、萬章上〕何事非レ君、何使非レ民。㊁なに。どんな。いかなる。〔詩、小雅、何人斯〕彼何人斯、其心甚艱。〔史記、孝武紀〕不レ知二何所人一。〔宋史、岳飛傳〕或問、天下何時太平。〔朱子語類、八〕精神一到、何事不レ成。❸なんぞ。いかん。いかんぞ。知らぬ事物を問ふ語。なにと。なにを。なぜ。どうして。〔廣雅、釋詁二〕何、問也。〔字彙〕何、曷也、奚也、胡也、孰也。〔經詞衍釋〕何、猶レ柰也、或言二何、或言一柰、皆柰何義也、又或言二何如一、或言二如何一、亦柰何義也。〔書、皐陶謨〕禹曰何。〔左氏、桓、六〕民其謂二我何一。〔論語、憲問〕夫子何爲。〔孟子、滕文公上〕許子何不レ爲二陶冶一。〔孟子、告子上〕心之所二同然一何也。❹なんぞ。いかんぞ。反語の辭。あに。豈。〔經詞衍釋〕何、猶レ豈也、何・豈、互相二爲訓一。〔論語、里仁〕能以二禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有、若レ言レ不レ難也。〔論語、公冶長〕何敢望レ回。〔孝經、開宗明義章〕參不敏、何足レ知レ之。〔孟子、梁惠王上〕何必曰レ利。❺なんぞ。感歎の辭。〔論語、子罕〕何其多能也。〔漢書、東方朔傳〕歸遺二細君一、亦何仁也。❻なんとなれば。上を承けて理由を示す語。〔公羊、桓、二〕曰否、何者。〔注〕何者、將レ設二事類一之辭。〔蘇軾、留侯論〕千金之子、不レ死二於盜賊一、何者、其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也。❼なんぞ……ざる。盍(8－22980)に通ず。〔經詞衍釋〕何、猶レ豈也、何・豈、互相二爲訓一。〔論語、里仁〕能以二禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有、若レ言レ不レ難也。〔論語、公冶長〕何敢望レ回。〔孝經、開宗明義章〕參不敏、何足レ知レ之。〔孟子、梁惠王上〕何必曰レ利。❺なんぞ。感歎の辭。〔論語、子罕〕何其多能也。〔漢書、東方朔傳〕歸遺二細君一、亦何仁也。❻なんとなれば。上を承けて理由を示す語。〔公羊、桓、二〕曰否、何者。〔注〕何者、將レ設二事類一之辭。〔蘇軾、留侯論〕千金之子、不レ死二於盜賊一、何者、其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也。❼なんぞ……ざる。盍(8－22980)に通ず。〔經詞衍釋〕何、猶レ豈也、何・豈、互相二爲訓一。〔論語、里仁〕能以二禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有、若レ言レ不レ難也。〔論語、公冶長〕何敢望レ回。〔孝經、開宗明義章〕參不敏、何足レ知レ之。〔孟子、梁惠王上〕何必曰レ利。❺なんぞ。感歎の辭。〔論語、子罕〕何其多能也。〔漢書、東方朔傳〕歸遺二細君一、亦何仁也。❻なんとなれば。上を承けて理由を示す語。〔公羊、桓、二〕曰否、何者。〔注〕何者、將レ設二事類一之辭。〔蘇軾、留侯論〕千金之子、不レ死二於盜賊一、何者、其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也。❼なんぞ……ざる。盍(8－22980)に通ず。〔經詞衍釋〕何、猶レ豈也、何・豈、互相二爲訓一。〔論語、里仁〕能以二禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有、若レ言レ不レ難也。〔論語、公冶長〕何敢望レ回。〔孝經、開宗明義章〕參不敏、何足レ知レ之。〔孟子、梁惠王上〕何必曰レ利。❺なんぞ。感歎の辭。〔論語、子罕〕何其多能也。〔漢書、東方朔傳〕歸遺二細君一、亦何仁也。❻なんとなれば。上を承けて理由を示す語。〔公羊、桓、二〕曰否、何者。〔注〕何者、將レ設二事類一之辭。〔蘇軾、留侯論〕千金之子、不レ死二於盜賊一、何者、其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也。❼なんぞ……ざる。盍(8－22980)に通ず。

〔經詞衍釋〕何、猶レ豈也、何・豈、互相二爲訓一。〔論語、里仁〕能以二禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有、若レ言レ不レ難也。〔論語、公冶長〕何敢望レ回。〔孝經、開宗明義章〕參不敏、何足レ知レ之。〔孟子、梁惠王上〕何必曰レ利。❺なんぞ。感歎の辭。〔論語、子罕〕何其多能也。〔漢書、東方朔傳〕歸遺二細君一、亦何仁也。❻なんとなれば。上を承けて理由を示す語。〔公羊、桓、二〕曰否、何者。〔注〕何者、將レ設二事類一之辭。〔蘇軾、留侯論〕千金之子、不レ死二於盜賊一、何者、其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也。❼なんぞ……ざる。盍(8－22980)に通ず。〔經詞衍釋〕何、猶レ豈也、何・豈、互相二爲訓一。〔論語、里仁〕能以二禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有、若レ言レ不レ難也。〔論語、公冶長〕何敢望レ回。〔孝經、開宗明義章〕參不敏、何足レ知レ之。〔孟子、梁惠王上〕何必曰レ利。❺なんぞ。感歎の辭。〔論語、子罕〕何其多能也。〔漢書、東方朔傳〕歸遺二細君一、亦何仁也。❻なんとなれば。上を承けて理由を示す語。〔公羊、桓、二〕曰否、何者。〔注〕何者、將レ設二事類一之辭。〔蘇軾、留侯論〕千金之子、不レ死二於盜賊一、何者、其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也。❼なんぞ……ざる。

訓二何不一、則何字固應レ有二何不義一矣、魏策、君何下釋以二天下一圖中智氏上、釋、舍也、言五君何不四舍レ此令二天下圖一智氏一也。❾ほかの事。餘事。〔漢書、爰盎傳〕南方卑濕、絲能日飲無レ何、說レ王毋レ反而已。〔注〕師古曰、無レ何、言二更無一餘事一。❿いくばく。そこばく。幾何。若干。〔史記、曹相國世家〕居無レ何、使者果召レ參。⓫せめる。なじる。詞(10－35328)・呵(2－3459)に通ず。〔說文通訓定聲〕何、或曰、借爲レ訶。〔史記、秦始皇紀〕陳二利兵一而誰何。〔注〕索隱曰、何、或爲レ呵。〔漢書、賈誼傳〕大譴大何。〔注〕何、詰問也。⓬可(2－3245)に通ず。〔左氏、襄、十〕何謂レ正矣。〔釋文〕何、或作レ可。⓭蚵(10－32924)に通ず。〔爾雅、釋蟲〕蜎蠉、何。〔釋文〕何、本或作レ蚵。⓮西域の國の名。〔隋書、西域傳〕何國、都二那密木南數里一、舊是康居之地也、其王姓昭武、亦康國王之族類、字敦都城方二里、勝兵千人、其王坐二金羊座一、東去二曹國一百五十里、西去二小安國一三百里、東去二瓜州一六千七百五十里、大業中、遣レ使貢二方物一。⓯姓。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕何氏、姬姓、唐叔虞裔孫韓王安、爲二秦所一レ滅、子孫分二散江淮一、音訛、以レ韓爲二何氏一。㊁❶になふ。荷(9－31000)に同じ。〔說文〕何、儋也、从レ人可聲。〔段注〕何、俗爲レ荷。〔集韻〕荷、博雅、儋也、或作レ何。〔易、噬嗑〕何レ校滅レ耳。〔疏〕何、謂二擔何一。〔詩、曹風、候人〕何二戈與一レ殺。❷あたる。〔易、大畜〕何二天之衢一。〔虞注〕何、當也。❸かかげる。〔詩、小雅、無羊〕何レ蓑何レ笠。〔傳〕何、揭也。

名乘 カ（姓）。

【何晏】1 カアン 三國、魏の人。進の孫。字は平叔。魏の公主に尚す。官は侍中尚書。爵は列侯。夏侯玄等と清談をなし、一時の風氣を成した。後、曹爽等と事を謀つて司馬懿に殺さる。著に論語集解がある。〔三國志、九〕。

【何晏神伏】2 カアンシンプク 蒙求の標題。魏の王弼は好んで儒道を論じ、易及び老子に注したが、時の吏部尚書何晏が、甚だ弼を奇とし、古、仲尼が後生畏るべしといつてゐるのは、斯の如き人を指したのであらう、與に天人の際を語るべしとて、精神を傾けてこれに感服した故事。〔魏志、王弼傳〕弼好論二儒道一、辭才逸辯、注二易及老子一。〔注〕于レ時、何晏爲二吏部尚書一、甚奇レ弼、歎之曰、仲尼稱、後生可レ畏、若二斯人一者、可二與言一天人之際一乎。

【何以】3 ナニヲモツテ ❶何の故に。どうして。疑問の辭。又、反語の辭。〔詩、召南、行露〕誰謂雀無レ角、何以穿二我屋一。〔左氏、昭、二十九〕貴賤無レ序、何以爲レ國。〔公羊、隱、元〕何以不レ稱二夫人一。❷なにものをもつて。なにもので。〔論語、憲問〕或曰、以二德報一レ怨、何如、子曰、何以報レ德。〔孟子、梁惠王上〕大夫曰二何以利一レ吾家。

【何以過レ日】4 ナニヲモツテヒヲスゴサン どうして日を送らう

か。〔南史、陳後主紀〕監者又言、叔寶常耽酔、罕有ニ醒時一、隋文帝使レ節ニ其酒一、既而曰、任ニ其性一、不レ爾、何以過レ日。

【何異】5イ 宋、崇仁の人。字は同叔、號は三山小隱。紹興の進士。官は孝宗の時、工部尚書。著に月湖詩集がある。〔宋史、四百一〕・〔宋史新編、一百四十八〕・〔南宋書、四十二〕。

【何爲】6ナンゾ ㊀どうして。なぜ。〔孟子、離婁上〕先生何爲出ニ此言一也。〔史記、太史公自序〕孔子何爲而作ニ春秋一哉。〔蘇軾、赤壁賦〕蘇子愀然正襟、危坐而問レ客曰、何爲其然也。㊁ナニヲカナサン何をするか。疑問の辭。〔論語、憲問〕夫子何爲。㊂ナニヲカナサン何にならうか。何の役に立たうか。反語の辭。〔左氏、閔、二〕金玦不レ復、雖レ復何爲。〔何爲者〕7モナンゾル どういふものか。如何なる身分・職業の人か。〔莊子、外物〕鮒魚來、子何爲者邪。〔史記、項羽紀〕客何爲者。

【何煟】8キ 清、浙江省山陰の人。字は謙之。諡は恭惠。官は河南巡撫。河務を兼管し、尤も河道の機宜を諳知してゐた。〔清史稿、三百三十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十六〕・〔從政觀法錄、二十一〕・〔漢名臣傳、二十四〕。

【何瑋】9キ 元の人。伯祥の子。謚は文正。官は中書・參知政事・御史中丞。武宗の時、河南行省平章政事に至る。〔元史、一百五十〕。

【何有】10ナニカ 何の難いこともない。何の差支へもない。何有ニ於我一の㊁を見よ。〔論語、里仁〕子曰、能以ニ禮讓一爲レ國乎、何有。〔集解〕何有者、言レ不レ難レ之也。〔孟子、梁惠王下〕王如好レ貨、與ニ百姓一同レ之、於ニ王何有一。〔注〕於ニ王何有一不可一也。〔集注〕其於ニ王天下一也、何難之有。

【何有ニ於我一】11ナニカアラン ㊀とても自分には出來ない。〔論語、述而〕子曰、默而識レ之、學而不レ厭、誨レ人不レ倦、何有ニ於我一哉。〔集注〕何有ニ於我一言ニ何者能有ニ於我一也、三者已非ニ聖人之極至一而猶不ニ敢當一、則謙而又謙之辭也。㊁他人には無く自分にだけある。〔論語、述而、集解〕鄭曰、無ニ是行一於レ我我獨有レ之。〔劉寶楠正義〕注有ニ謁文一當レ以ニ行字一句絶、我字重衍、鄭謂、他人無ニ是行一、夫子乃獨有レ之。㊂自分に取つては何でもない容易なことだ。何有を見よ。〔論語、述而、豐島豐洲新注〕凡何有云者、謂レ不レ難也。㊃此以外は自分に何物もない。〔論語、述而、仁齋古義〕言ニ此三者之外、何德能有ニ於我一也。

【何胤】12イン 梁の人。點の弟。字は子季。沛國の劉瓛に師事して易及び禮記・毛詩を受け、又、鍾山の定林寺に入つて內典を聽く。官は齊の武帝の時、建安大守。後、會稽に隱れ、又、秦望山に遷る。著に百法論・十二門論・注周易・毛詩統集・毛詩隱義・禮記隱義・禮答問がある。〔全上古三代秦漢三國六朝文、全梁文、四十〕。

【何英】13エイ ㊀後漢、郫の人。經・緯の學に通じ、著に漢德春秋十五卷がある。〔尚友錄、七〕。㊁明、鄱陽の人。字は積中。王逢に從學す。著に四書釋要・詩經增釋・易經發明がある。〔本朝分省人物攷、五十九〕。

【何偃】14エン 南朝宋の人。尚之の子。字は仲弘。諡は靖。元嘉中、詔誥を掌る。莊子の逍遙遊篇に注した。官は光武帝の時、吏部尚書。〔宋書、五十九〕・〔南史、三十〕。

【何琬】15エン 宋、處州龍川の人。字は子溫。進士。官は龍圖閣學士。〔尚友錄、七〕。

【何遠】16エン ㊀梁、郯の人。字は義方。武帝の時、東陽の太守となつて善政が多く、後、征西鑑議參軍司馬となる。〔梁書、五十三〕・〔南史、七十〕。㊁清、江蘇華亭の人。字は履芳（履方）。詩に巧。母に事へて至孝。〔國朝書識、二〕。

【何遠】17エン 宋の人。去非の子。字は子遠。號は韓南老農。著に春渚紀聞がある。〔四庫提要、一百二十一〕。

【何何】18カ ㊀何尊師が其の氏族・年壽及び鄉里を問はれた時に答へた語。〔圖繪寶鑑〕何尊師不知ニ何許人一、人問ニ其氏族一、年壽一、但云ニ何何一、問ニ其鄉里一、亦曰ニ何何一、時人因號ニ何尊師一。㊁浙江地方で、芝麻を鬻ぐ時に呼ぶ語。芝麻（9－306 99：88）の異名。もと何姓の人が芝麻を賣つたからいふ。〔戒菴漫筆〕杭俗多ニ南渡遺風一、糴ニ芝麻一者叫ニ何何一、舊姓何者鬻ニ此故也。

【何楷】19カイ ㊀晉の人。吳郡の太守。〔尚友錄、七〕。㊁明、鎭海衞の人。字は元子。群書に博通し、尤も經學に精し。崇禎の間、工科給事中となる。著に古周易訂詁・詩經世本古義等がある。〔明史、二百七十六〕・〔萬斯同明史、三百六十二〕・〔明史稿、二百六十一〕。

【何庚】20カウ 宋の人。紹興の間、雷州に知となり、水利に循つて堤を築き、數千頃の田を膏腴の地とした。〔宋史、四百五十四〕。

【何校】21カウ 首械を荷なふ。何は荷。校は首かせ。〔易、噬嗑〕何ニ校滅一レ耳、凶。〔通解〕何、與ニ荷同。

【何浩】22カウ ㊀宋の人。花鳥畫を善くし、李迪を宗とした。〔圖繪寶鑑〕。㊁清の人。字は照公。畫に巧。著に宋人風致がある。

【何耕】23カウ 宋の人。字は道夫。紹興中、蜀の嘉州の守となつて惠政を施し、何逢原等と共に四循良と稱せられ、民に祀らる。〔宋史、四百四十九〕・〔宋史翼、二十一〕・〔南宋館閣續錄、七・九〕。

【何鎬】24カウ 宋の人。兌の子。字は叔京。朱熹に從學し、講辨精密。學者、臺溪先生と稱す。著に潭州善化令がある。〔宋元學案、四十九〕。

【何剛】25ガウ 明、上海の人。字は慤人。崇禎の間、鄉に擧げらる。濟世の志あり、天下の豪傑と交はる。史可法を佐けて揚州の守となり、事に坐して死す。書室を瑞竹居・斷書居といふ。〔明史、二百七十四〕・〔萬斯同明史、三百六十八〕・〔明史稿、二百五十四〕。

【何干】26 ho^2 kan^1 何の關係もない。關係のあらう筈がない。

【何戡】27カン 唐の長慶年間の人。歌を善くした。〔劉禹錫、與ニ歌者何戡一詩〕舊人唯有ニ何戡在一更與ニ慇懃唱一渭城一。

【何鑑】28カン 明、浙江新昌の人。字は世光。成化の進士。武宗の時、刑部尚書となつて群盜を蕩平したが、後、讒にあつて致仕す。〔明史、一百八十七〕・〔萬斯同明史、二百五十四〕・〔明史稿、一百七十一〕。

【何其】29ナンゾ どうして。㊀反語の辭。〔孟子、盡心下〕以ニ至仁一伐ニ至不仁一、而何其血之流レ杵也。㊁疑問の辭。〔劉琨、重贈ニ盧諶一詩〕吾衰久矣夫、何其不レ夢レ周。〔讀書作文譜、文中用字法〕接語辭、又一類、何其、反詰而令ニ其自思一之辭。

【何居】30ソナン 怪しみ問ふ辭。何故。居は助字。〔禮、檀弓上〕何居、我未ニ之前聞一也。〔注〕居、讀如ニ姬姓之姬一、蓋齊魯之間語辭助也。〔禮、郊特牲〕孔子曰、三日齊、一日用レ之、猶恐ニ不敬一二日伐レ鼓、何居。〔注〕何居、怪之也。〔莊子、齊物論〕何居乎、形固可レ使如ニ槁木一、而心固可レ使如ニ死灰一乎。〔釋文〕居如レ字、又音姬、司馬云、猶レ故也。〔文中子、事君〕子游ニ河間之渚一、河上丈人曰、何居乎、斯人也。〔注〕居、音姬、發語之端。

【何姬】31キ 三國、吳の句容の人。太子和の姬。皓を生む。和が廢せられ、孫亮が位に卽いて、孫峻が政を輔けるに及び、和に死を賜ひ、嫡妃も亦自ら罪したが、姬は獨り皓を拘育し、皓の卽位するや、皇太后となつた。〔三國志、五十〕。

【何基】32キ 宋、金華の人。字は子恭。世に北山先生といふ。諡は文定。伊洛の源を窮む。官は咸淳の初、史館校勘兼崇政殿說書。著に大學發揮・中庸發揮・易啓蒙發揮・近思錄發揮、及び文集二十卷がある。〔宋史、四百三十八〕・〔宋史新編、一百六十七〕・〔南宋書、四十四〕。

【何棄】33キ 宋、何盪（85）の後名。

【何琦】34キ 晉の人。充の從兄。字は萬倫。好古博學。母の死後、官途に就かず、三國評論を著し、撰錄百許篇に及んだ。〔晉書、八十八〕。

【何琪】35キ 清、錢塘の人。字は東甫。號は春渚、又、南灣漁叟ニ介居士・九峯遺黎。後、馬湘蘭の用ひた硯を得て湘硯生と號す。書室を小山居といふ。著に小山居稿がある。〔國朝書人輯略、六〕。

【何熙】36キ 後漢、陽夏の人。字は孟孫。體貌魁梧。官は和帝の時、大司農。〔後漢書、七十七〕。

【何機】37キ 晉の人。遵の子。官は鄒平の令。〔晉書、二十二〕。

【何夔】38キ 三國、魏の陽夏の人。字は叔龍。諡は靖。官は武帝の時、司空掾。海賊が樂安に寇した時、數月の間に悉く諸城を平定す。封は文帝の時、成陽亭侯。〔三國志、十二〕。

【何宜】39ギ 明、福清の人。字は行義。正統の進士。官は江西左布政使。〔明名人傳、十二〕・〔南

疆繹史、又、七十」。

【何祇】40 カギ 三國、蜀の人。字は君肅。諸葛亮の命によつて郫縣の令となり、尋いで汶山・廣漢等の太守に歷補す。〔三國志、四十一〕。

【何丘】41 カキウ 複姓。〔萬姓統譜〕何丘子、楚人。

【何休】42 カキウ 後漢、樊の人。字は邵公。六經を精研し、曆算を善くし、尤も公羊春秋に精し。官は議郎・諫議大夫。光和中、卒す。著に春秋公羊解詁・公羊墨守・左氏膏肓・穀梁癈疾等があり、世に何氏の學といふ。〔後漢書、一百九下〕。

【何休注訓論語述】43 カキウチユウクンロンゴジユツ 書名。一卷。清、劉恭冕撰。何休の著書に引用する論語の文を集めて考證したもの。〔皇清經解續編、第三百十五冊〕。

【何求】44 カキウ ❶南齊の人。偃の從子。字は子有。永明の間、太中大夫に拜せられたが就かなかつた。〔南齊書、五十四〕。❷橫田俊益の號。橫田何求（6－15594：310）を見よ。

【何求老人】45 カキウラウジン 清、呂留良（2－3386：2755）の號。

【何競】46 カキヤウ 明、蕭山の人。字は邦直。父の舜賓が時の縣令鄒魯に忤らつて害せられたので、之に復讎せんとしたが、事が聞えて殺された。〔明史、二百九十七〕・〔明史稿、二百七十八〕。

【何許】47 イツコ いづれのところ。どこ。〔晉書、山簡傳〕山公出二何許一。〔阮籍、詠懷詩〕良辰在二何許一、凝霜殞二衣襟一。〔高啓、師子林十二詠、間梅閣詩〕問春何處來、春來在二何許一。

【何許人】48 イヅコヒト どこの人。何れの處の人。〔後漢書、漢陰老父傳〕漢陰老父者、不レ知二何許人一也。〔陶潛、五柳先生傳〕先生、不レ知二何許人一也。

【何渠】49 ソヂ なんで。どうして。何遽。疑問の辭。又、反語の辭。〔史記、陸賈傳〕〔尉也曰〕使二我居一中國一何渠不レ若レ漢。

【何詎】50 ソヂ なんで。どうして。何遽。疑問の辭。又、反語の辭。〔漢書、敍傳上、注〕淮南子曰、北塞上之人、其馬無レ故亡入二胡中一、人皆弔レ之、其父曰、此何詎不レ爲レ福。

【何遽】51 ソヂ なんで。どうして。何詎。何渠。疑問の辭。〔史記、甘羅傳〕甘羅曰、夫項橐、生七歲、爲二孔子師一、今臣生十二歲於茲矣、君其試臣、何遽叱乎。❷反語の辭。〔漢書、陸賈傳〕使二我居一中國一、何遽不レ若レ漢。〔淮南子、人間訓〕近二塞上之人一、有二善術者一、馬無レ故亡而入レ胡、人皆弔レ之、其父曰、此何遽不レ爲レ福乎、居數月、其馬將二胡駿馬一而歸、人皆賀レ之、其父曰、此何遽不レ能レ爲レ禍乎。

【何顒】52 カギヨウ 後漢、襄陽の人。字は伯求。友人、虞偉高の爲に其の父の讎を報じた。陳蕃・李膺等と共に宦官に陷れられて、一時、汝南の閒に亡匿したが、後、司空に辟され、荀爽・王允等と共に董卓を謀り、却つて卓に繫がれ、憂憤して卒す。〔後漢書、九十七〕。

【何鈞】53 カキン 明、河南の人。字は仲衡。成化の進士。官は戶部侍郎。〔國朝獻徵錄、三十〕・〔國朝列卿記、三十八・九十四・一百二十二〕・〔蘭臺法鑒錄、十一〕・〔明名人傳、十一〕・〔本朝分省人物攷、九十〕。

【何苦】54 ナニヲクルシミテ 何を苦しんで。なぜわざわざ。苦しんで云云する必要はない。〔史記、黥布傳〕遙謂レ布曰、何苦而反、布曰、欲爲レ帝耳。〔海錄碎事、帝王、帝學〕唐文宗讀二施士匄春秋一曰、學者讀レ書如レ浚レ井、得二美水一足矣、何苦窮鑒。

【何泓】55 カクワウ 清、福清の人。字は郢生。畫に巧。

【何灌】56 カクワン 宋、祥符の人。字は仲源。靖康の初、金師が京城に寇した時陣歿した。〔宋史、三百五十七〕・〔宋史新編、一百二十四〕・〔東都事略、一百七〕。

【何觀】57 カクワン 明、晉江の人。草書を善くす。景帝の時、中書舍人となり、後、象山縣の長官となつたが、致仕して跡を古元山中に隱す。〔明史、一百六十二〕・〔萬斯同明史、二百十九〕・〔明史稿、一百四十七〕。

【何翬】59 カクン 宋、西充の人。字は通夫。慶曆中、石介に就いて大學に學んだ時、同舍の人は翬を目して白衣御史とした。嘉祐中、安逸處士の號を賜はる。〔宋史、四百五十七〕・〔宋史新編、一百七十七〕。

【何炯】60 カケイ 梁の人。胤の從弟。字は士光。白皙美容、五經の章句に通じ、秀才に擧げらる。官は治書御史。〔梁書、四十七〕・〔南史、三十〕。

【何卿】61 カケイ 明、成都の人。倭寇の際、浙江及び蘇松の防海を總理したが、御史に劾せられて罷めた。〔明史、二百十一〕・〔萬斯同明史、二百六十四〕・〔明史稿、一百九十五〕。

【何璟】62 カケイ 清、香山の人。字は小宋。道光の進士。御史に擢んでられ、英人が廣州を陷れるに及んで、洋務を抗論して前後八疏に及んだ。光緒の間、閩浙總督となつたが、後、職を奪はれた。〔清史稿、四百六十四〕・〔清史列傳、五十四〕。

【何薊】63 カケイ 宋の人。灌の子。閤門宣贊舍人となり、父に從つて戰ひ、箭に中つて死す。〔宋史、三百五十七〕。

【何絜】64 カケツ 清、丹徒の人。字は雍南。諸生である。書室を晴江閣といひ、著に晴江閣集がある。

【何建】65 カケン 五代後蜀、西域、回鶻の人。初、晉に仕へ、晉が亡びて後、秦・階・成三州を擧げて後主に降り、中書令となる。〔舊五代史、九十四〕。

【何焯】66 カケン 清、蕭山の人。原名は炳。字は允彪。號は寅士。嘉慶の進士。官は雲南按察使。〔續碑傳集、二十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百三〕。

【何憲】67 カケン 南齊、廬江の人。字は子思。博く群籍に通ず。官は武帝の時、國子博士。〔南史、四十九〕。

【何謙】68 カケン 晉、東海の人。字は恭子。謝玄に從つて苻堅を伐つ。〔晉書、七十九〕。

【何謙焚祠】69 カケンフンシ 蒙求の標題。晉の何謙が謝玄に從つて征伐し、驍果にして權略あり、神祠を畏れず、靈廟に遇へば皆之を焚いた故事。〔蒙求、下、何謙焚祠〕晉書、何謙、字恭子、東海人、從二謝玄一征伐、驍果多二權略一、舊注云、謙不レ畏二神祠一、遇レ有二靈廟一、皆焚レ之。

【何鍵】70 カケン 民國、湖南省醴陵縣の人。字は芸樵。保定陸軍々官學校を卒業し、夙に唐生智の麾下に在り、其の中堅として各地に轉戰す。又、武漢政府をしてクーデターを斷行せしめ、共產黨と絶緣せしめた。後、白崇禧に敗れたが、また之と妥協し、湖南省政府委員となり、次いで、廣西派の援助により、同政省府主席となつた。廣西派の失脚後、之と斷ち、蔣擁護を表明した。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【何源】71 カゲン ❶宋、大庾の人。字は清卿。諸經に通ず。長子衡亨は寶祐の進士。次子光龍は咸淳の進士。門人莫如德は淳祐の進士。父子師友、淵源の逃ぶべきものがあつた。〔萬姓統譜〕。❷明、吳江の人。初名は德源。字は幼澄。號は東吳遺老。洪武の間、乙榜の第一に中る。官は正統の初、江西布政使。〔萬斯同明史、二百九〕・〔明史稿、一百六十六〕。❸明の人。喬新の五世の孫。字は仲深。號は心泉。謚は靖惠。嘉靖の進士。官は吏部文選司主事を歷て刑部左侍郎となる。著に心泉集がある。〔明史、一百八十三〕・〔國朝獻徵錄、四十七〕。

【何故】72 ナンユエニ 何故に。〔左氏、昭、二十五〕何故以レ兵入二吾門一。〔公羊、昭、三十一〕何故死二吾天子一。〔屈原、漁父辭〕子非二三閭大夫一與、何故至於斯。

【何鼓】73 カコ 星の名。牽牛星。檐。〔爾雅、釋天〕何鼓、謂二之牽牛一。〔注〕今荊楚人、呼二牽牛星一爲二檐鼓一檐者、荷也。

【何后】74 カコウ ❶後漢、宛の人。謚は思。家はもと屠者であるが、選ばれて掖庭に入つて皇子辯を生み、光和中、立てられて皇后となる。王美人が皇子協を生むや、美人を酖殺す。靈帝が崩じ、辯が卽位するや、朝に臨む。董卓が洛陽に入り、辯を廢して協を立てるに及び、永安宮に遷されて酖殺せらる。〔後漢書、十、下〕。❷晉、穆帝の后。何準の子。名は法倪。哀帝卽位するや穆皇后といふ。〔晉書、三十二〕。❸唐、梓州の人。昭宗の華州に狩するに從ひ、冊立せられて皇后となる。光化中、帝と共に劉季述のために東宮に幽閉せらる。帝紱せられ、哀帝卽位するに及び、皇太后となつたが、朱全忠に縊殺せらる。世に積善后といふ。〔舊唐書、五十二〕・〔唐書、七十七〕。

【何厚】75 カコウ 明、江西新城の人。字は朝擧。弘治の進士。官は程番知府。著に易經諸解がある。〔萬斯同明史、三百八十四〕・〔本朝分省人物攷、

六十一〕。

【何洪】76 ㊀宋の人。慶元の間、新淦縣の長官となり、禮教を崇尚したので、民が畏服した。〔萬姓統譜〕。㊁明、全椒の人。憲宗の時、都督僉事に擢んでられ、後、征賊のことに從ひ、賊に圍まれ、力竭きて死す。〔明史、一百七十五〕。

【何國】77 國の名。六朝の頃に西域にあつた。もとの康居の地。〔北史、西域傳〕何國、都那密水南數里、舊是康居地也、東去二瓜州一六千七百五十里。〔東坡志林〕泗洲大聖僧伽傳云、和尚何國人也、又云、世莫レ知レ所二從來一云、不レ知二何國人一也、近讀二陌史西域傳一、乃有二何國一。

【何采】78 清の人。如龍の子。字は滌原（濮源）。號は南礪（南澗）、又、省齋・蘆莊。順治の進士。官は左中允。〔國朝書人輯略、二〕。

【何哉】79 如何なることか。如何なるわけか。〔論語、顏淵〕何哉、爾所レ謂達者。〔孟子、盡心下〕萬章曰、一鄉皆稱二原人一、云云、孔子以爲二德之賊一何哉。

【何在】80 どこに在るか。どこに居るか。〔韓愈、左遷至二藍關一示二姪孫湘一詩〕雪橫二秦嶺一家何在、雪擁二藍關一馬不レ前。

【何粲】81 宋の人。字は從玉。著に亢倉子注がある。〔四庫提要、一百四十六〕。

【何瓚】82 後唐、閩の人。唐末の進士。吏事に通ず。官は明宗の時、西川行軍司馬。初、孟知祥を用ひたため、後、知祥の反するに及び、司馬を免ぜられて私第に置かれ、之を恨んで卒す。〔五代史、二十八〕。

【何山】83 山名。浙江省吳興縣の南西。〔太平寰宇記〕何口山、昔曰二金蓋山一晉何楷居レ此修二儒業一、後爲二吳興太守一、改二金蓋一爲二何山一、今曰二何口山一。〔輿地紀勝〕山與二道場山一相接、最爲二吳興勝遊一、然道場之勝在二山巓一、何山之勝在二山下一、故蘇軾詩、有二道場山頂何山麓之句一。

【何思】84 明、關恩（11－41470・79）の字。

【何窻】85 宋、營道の人。後、名を棄と改む。政和の進士。官は朝請大夫。〔萬姓統譜〕。

【何事】86 どんなこと。〔先哲叢談、伊藤仁齋〕賊止二仁齋一曰、吾儕草竊爲二衣食一數年、未レ嘗見二擧止如レ客者一、抑客何爲者、曰、儒者也、曰、儒者爲二何事一。

〔何事非レ君〕87 どんな君に仕へても、事へる以上は君でないものはない。〔孟子、公孫丑上〕何事非レ君、何使非レ民。

〔何事不レ成〕88 どんなことでも出來ないことはない。〔朱子語類、八〕陽氣發處、金石亦透、精神一到、何事不レ成。

【何時】89 ㊀いつ。なんどき。〔左氏、襄、八〕歡以承レ命、何時之有。〔宋史、岳飛傳〕或問、天下何時太平。㊁宋、樂安の人。字は了翁。理宗の時の進士。文天祥と呼應して兵を起し、崇仁縣を復したが、元に破られ、削髮して僧となり、嶺南に隱れて堅白道人と號した。〔宋史、四百五十四〕・〔南宋書、六十一〕・〔宋季忠義錄、十一〕・〔文丞相督府忠義傳、十一〕。

【何洲】90 明、海州の人。宋和・郭節と交はり、もと忠義を以て聞えたが、靖難の亂後、相約して、官を棄てて卜者となり、後、異域に客死す。〔萬姓統譜〕。

【何琇】91 清、宛平の人。字は君琢。號は勵菴。雍正の進士。官は宗人府主事。著に樵香小記がある。〔大清畿輔先哲傳、二十一〕。

【何實】92 元、北京の人。字は誠卿。木華黎に從つて軍功があり、金虎符を賜はり、便宜元帥府の事を行ふ。〔元史、一百五十〕。

【何戡】93 南齊の人。偃の子。字は慧景。謚は懿子。初、宋に仕へて山陰公主に尚した。官は高帝の時、吏部尚書。容止美しく、褚淵の風を慕つたので、小褚公と稱せらる。〔南齊書、三十二〕・〔南史、三十〕。

【何者】94 いかんとなれば。なぜなれば。〔史記、轅固生傳〕何者、上下之分也。〔司馬遷、報二任少卿一書〕何者、積二威約之勢一也。〔讀書作文譜、文中用字法〕一曰、接語辭、何者、順二上文一而有レ所レ聞之辭。

【何祥】95 明、內江の人。字は克齋。嘉靖の擧人。趙貞吉と歐陽德とに師事した。著に識仁定性解がある。〔明儒學案、三十五〕。

【何敞】96 後漢の人。比干の六世の孫。字は文高。永元の間、五官中郎將となつたが、事に坐して罪せられ、家に卒す。〔後漢書、七十三〕。

【何常】97 宋、京兆の人。字は德固。官は秦州の長官。後、事に坐して昭化軍節度副使となり、右文殿修撰に終る。〔宋史、三百五十四〕・〔宋史新編、一百二十三〕。

〔何常之有〕98 一定のきまりはない。〔左氏、昭、元〕疆場之邑、一彼一此、何常之有。

〔何常師之有〕99 聖人には定まつた師がない。聖人無二常師一（9－29074・148）を見よ。〔論語、子張〕衞公孫朝問二於子貢一曰、仲尼焉學、子貢曰、文武之道、未レ墜二於地一、在レ人、賢者識二其大者一、不賢者識二其小者一、莫レ不レ有二文武之道一焉、夫子焉不レ學、而亦何常師之有。

【何焯】100 清、長洲の人。字は屺瞻（峙瞻）。號は茶仙、又、香案小吏・無勇・潤千・憩閒老人。先世が嘗て義を以て旌表せられたので、義門先生と呼ばれた。康熙中、擧人を賜はり、進士に擧げられ、官は武英殿修書に至つた。學は考訂に長じ、居所を賚硯齋と名づけ、又、語古小齋・承筐書塾といふ。著に義門讀書記がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝先正事略、三十三〕。

【何若】101 何如（112）に同じ。〔墨子、天志下〕所謂小物則知レ之者何若。〔資治通鑑、漢紀〕（高祖、三年）僕欲二北伐一レ燕、東伐レ齊、何若而有レ功。〔注〕何若、猶レ言二何如一也。〔柳宗元、桐葉封レ弟辯〕凡王者之德、在二行之何若一。

【何充】102 ㊀晉、灊の人。字は次道。謚は文穆。官は初、王敦の主簿。成帝の時、吏部尚書。永和の初、宰相となつて幼主を輔佐した。釋典を好み、佛寺の築修に盡力す。〔晉書、七十七〕。㊁宋、德陽の人。官は黎州通判。元兵の至るや、之に捕殺せらる。〔宋史、四百四十九〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔南宋書、五十九〕・〔昭忠錄〕・〔宋季忠義錄、四〕。

【何述】103 宋、浦城の人。字は明道。元豐の進士。官は徽猷閣待制・知永興軍。著に禮記解・事類領要・廬江集がある。〔尚友錄、七〕。

【何錞】104 明、常熟の人。字は子端。內典に通じ、小楷に巧、好んで古書を藏す。〔常熟縣志〕。

【何準】105 晉の人。充の弟。字は幼道。高尚寡欲で官に就かず、佛經を誦して世事を絕つた。女は穆皇后となる。〔晉書、九十三〕。

【何遵】106 ㊀晉の人。曾の子。字は思祖。散騎黃門郎から累遷して大鴻臚となり、太康の初、僕太卿となる。性質が奢怏で、專橫の行ひが多い。〔晉書、三十三〕。㊁明、江寧の人。字は孟循。追謚は忠節。正德の進士。上疏極言して帝の怒に觸れ、廷杖四十を加へられ、二日の後、遂に卒す。〔明史、一百八十九〕。

【何所】107 いづこ。どこ。〔史記、孝武紀〕李少君不レ治二產業一而饒給、又不レ知二其何所人一。〔韓愈、感レ春詩〕我所レ思兮在二何所一。〔梅堯臣、同二道損世則元輔游一西湖於卞氏一云云詩〕崇丘在二何所一。

〔何所底乎〕108 底止する所が無い。底は至。〔王守仁、教條示二龍場諸生一、立志〕漂蕩奔逸、終亦何所レ底乎。

〔何所不レ爲〕109 どんな事でもしないことはない。どんな惡事でもしかねない。〔南史、孔琇之傳〕有二小兒一、年十歲、偷二刈隣家稻一束、琇之付二獄案一罪、或諫レ之、琇之曰、十歲便能爲レ盜、長大何所レ不レ爲。

〔何所聞而來何所見而去〕110 何を聞いてやつて來、何を見て去つて行くのか。忽ちにして來り忽ちにして去るを怪しんで問うた語。晉の嵇康の故事。〔世說新語、簡傲〕鍾士季、精有二才理一、先不レ識二嵇康一、鍾要二于時賢儁之士一、俱往尋レ康、康方大樹下鍛、向子期爲レ佐鼓排、康揚レ槌不レ輟、傍若レ無レ人、移レ時不レ交二一言一、鍾起去、康曰、何所聞而來、何所見而去、鍾曰、聞レ所レ聞而來、見レ所レ見而去。

【何處】111 いづこ。どこ。〔韋應物、聞レ雁詩〕故園渺何處、歸思方悠哉。〔朱熹、四時讀書樂詩〕讀書之樂何處尋、數點梅花天地心。〔高啓、題梅閣詩〕問春何處來、春來在二何許一。

【何如】112 疑問の辭。又、くらべる語。いかに。どんなであるか。何若。〔論語、學而〕子貢問曰、貧而無レ諂、富而無レ驕、何如。〔孟子、梁惠王下〕不レ取必有二天殃一、取レ之何如。〔史記、平原君

傳〕予二秦地一、何二如毋レ予、孰吉。〔史記、趙奢傳〕王以爲三何二如其父一。〔史記、倉公傳〕其病之狀何如。〔宋玉、高唐賦序〕王曰、其何如矣。

【何栻】113 カショク 清、江陰の人。字は廉昉(蓮舫)。號は悔餘・南塘漁隱。道光の進士。官は吉安府の長官。詩や古文に巧で、又、書を善くす。著に悔餘菴全集がある。〔清畫家詩史、辛上〕。

【何申】114 カシン 明の人。官は建文の時、中書。蜀に使し、燕王の卽位を聞き、血を嘔き、疽を背に發して死す。〔明史、一百四十三〕・〔萬斯同明史、一百八十七〕・〔明名臣言行錄、十六〕。

【何眞】115 カシン 明、東莞の人。字は邦佐。諡は恭靖。書・劍及び儒術を好む。官は元の時、廣東行省右丞。明の太祖の時、湖廣布政使。頗る聲望があつた。封は東莞伯。〔明史、一百三十〕・〔萬斯同明史、一百三十〕・〔明史稿、一百十九〕。

【何秦】116 カシン 明、何廷仁(344)の初名。

【何進】117 カシン 後漢、宛の人。字は遂高。靈帝の朝に女弟を皇后とす。賊黨の奸を發いた功を以て、愼侯に封ぜらる。何太后の時に太傅となる。後、中官を誅せんとして反つて殺さる。〔後漢書、九十九〕。

【何斟】118 カシン 病の甚しいこと。〔方言、三〕斟、益也、云云、凡病少愈而加レ劇、亦謂二之不斟一、或謂二之何斟一。〔駢雅、釋訓下〕何斟、病甚也。

【何震】119 カシン 明、婺源の人。字は主臣、一字は長卿。號は雪漁。篆刻に巧で文彭と名を齊うし、時人は文・何と倂稱した。〔明畫錄、七〕。

【何人】120 ナンピト 如何なる人。どんな人。〔詩、小雅、何人斯〕彼何人斯、其心孔艱。〔論語、述而〕伯夷・叔齊、何人也、曰、古之賢人也。〔曹植、洛神賦〕彼何人斯、若レ此之艷也。

【何人斯】121 カジンシ 詩經、小雅、節南山之什の篇名。蘇公が暴公を刺つて作つたもの。〔詩、小雅、何人斯序〕何人斯、蘇公刺二暴公一也、暴公爲二王卿士一、而譖二蘇公一焉、故蘇公作二是詩一、以絶レ之。〔箋〕暴也、蘇也、皆畿內國名。

【何人更得二死前休一】122 ナンピトカサラニシゼンノキウヲエン 何人が死ぬ前に休息することが出來ようか。〔韓愈、和三歸工部送レ僧詩〕早知二皆是自拘囚一、不レ學因循到二白頭一、汝既出家還擾擾、何人更得二死前休一。

【何綏】123 カスイ 晉の人。遵の子。字は伯蔚。官は侍中尙書。奢侈が度に過ぎ、遂に誅せられた。〔晉書、三十三〕。

【何誰】124 カスイ たれ。たれぞ。何者ぞ。誰何。〔史記、吳王濞傳〕諭二吳王一、使二拜受レ詔、吳王聞二袁盎來一、亦知二其欲レ說レ己、笑而應曰、我已爲二東帝一、尙何誰拜、不二肯見レ盎、而留二之軍中一。〔吳越春秋、闔閭內傳〕子胥曰、其細人之謀レ事、而有二萬人之力一也、王曰、其爲二何誰一、子以言レ之、子胥曰、姓要、名離。〔晉書、劉寔傳〕其所レ擧必有レ當者、不三時有二擢用一、不レ知二何誰最賢一故也。〔郭璞、遊仙詩〕借問此何誰、云是鬼谷子。

【何嵩】125 カスウ 晉の人。遵の子。字は泰基。寬弘で士を愛し、博く墳籍を覽、尤も史漢に通じた。官は著作郞。〔晉書、三十三〕。

【何青】126 カセイ 清、錢汝霖(**11**－**40563**‥356)の本姓名。

【何淸】127 カセイ 明、許州の人。官は環縣訓導。母の喪に逢ひ、二千里を徒步して、徑ちに墓所に詣り、廬居すること三年。〔明史、二百九十六〕。

【何惺】128 カセイ 清、鍾祥の人。字は君慄。號は象山。明季の諸生。淸に入り、隱居して仕へず、晚年、岐黃の術に精通す。著に考槃居集・武備指南・本草歸一・針灸圖・保嬰摘要がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【何劭】129 カセウ 晉の人。曾の子。字は敬祖。諡は康。武帝と同年で、少時、總角の好しみがあり、帝の卽位するや、侍中尙書となり、惠帝の時、左僕射に進む。博學で善く文を屬し、近代の事を陳說すること、恰も掌に指すが如くであつた。〔晉書、三十三〕。

【何詔】130 カセウ 明、浙江山陰の人。字は廷綸。弘治の進士。官は南京工部尙書。〔國朝獻徵錄、五十二〕・〔國朝列卿記、五十七・六十三・一百十八〕・〔明名人傳、十一〕・〔本朝分省人物攷、五十〕。

【何涉】131 カセフ 宋、南充の人。字は濟川。六經より百家・山經・地志・醫卜の術に通ず。官は司封員外郞。著に治道中術・春秋本旨・廬江集がある。〔宋史、四百三十二〕・〔宋史新編、一百六十四〕。

【何燮】132 カセウ 明、晉江の人。字は中理。鄕に擧げらる。官は崇禎中、亳州の長官。後、李自成が河南を陷れるや、執へられたが屈せずして死す。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【何羨】133 カセン 晉の人。遵の子。官は離狐令。驕侈且つ吝である爲、鄕閭の者に讎の如くに疾まれた。〔晉書、三十三〕。

【何遷】134 カセン 明、安陸の人。字は益之。號は吉陽。永樂の進士。官は刑部侍郞。湛若水の門人で、其の學は王陽明・湛若水に出入し、其の詩は中唐の風がある。著に吉陽集・友問がある。〔明史、二百八十三〕・〔明史稿、二百八十六〕。

【何選】135 カセン 明、宛平の人。字は靖卿。萬曆の進士。官は御史。事に坐して斥けらる。〔明史、二百三十三〕・〔萬斯同明史、三百二十七〕・〔明史稿、二百五十〕。

【何宗】136 カソウ 三國、蜀の郫の人。字は彥英。廣漢の任安に師事して學問精博。先主が益州を定むるや從事祭酒となる。後、官は大鴻臚。

【何曾】137 カソウ ㊀人名。晉の人。夔の子。字は穎孝。諡は元。好學博聞、同郡の袁侃と其の名を齊しくす。魏に仕へて官は司徒、封は朗陵侯。武帝の時、太尉に進み、爵は公に至る。〔晉書、三十三〕。㊁ ho² ts'êng² どうして云云であらう。何嘗に同じ。

【何曾食萬】138 カソウショクマン 蒙求の標題。晉の何曾が豪奢華侈で、其の廚膳は王者に過ぎ、一日萬錢の食ではなほ箸を下さなかつた故事。〔晉書、何曾傳〕性奢豪、務在二華侈一、帷帳・車服、窮二極綺麗一、廚膳滋味、過二於王者一、每二燕見一、不レ食二太官所レ設、帝輒命取二其食一、蒸餠上不三拆作二十字一不レ食、食日萬錢、猶曰レ無二下レ箸處一。

【何則】139 ナントナレバ スナハチ 何となれば。といふわけは。〔墨子、尙賢中〕何則皆以下明二小物一而不上レ明二大物一也。〔讀書作文譜、文中用字法〕一曰、接語辭、何則、頓二住上文一作レ問、將レ欲レ答レ之之辭。

【何卒】140 ナニトゾ どうか。どうぞ。〔狂言記、箕潛〕何とぞ調ふやうにして下され。

【何遜】141 カソン 梁の人。承天の曾孫。字は仲言。文章を以て劉孝綽と並稱せられ、世に何劉といふ。官は尙書水部郞。著に何水部集がある。〔梁書、四十九〕。

【何兌】142 カダ 宋、邵武の人。字は泰和。宣和の進士。馬伸に中庸を受く。伸の謫死の後、其の敎を守り、終身變ぜず、鄕人に中庸何公と呼ばれた。諸經に通じ、尤も易に心を潛む。紹興中、秦檜の意に忤つて眞陽に竄せられ、自ら龜津と號した。〔宋史、四百五十五〕・〔宋元學案、三十〕・〔南宋書、十〕・〔宋史翼、二十三〕。

【何妥】143 カダ 隋の人。細胡の子。字は棲鳳。諡は肅。官は文帝の時、國子祭酒。尋いで龍州の刺史。著に周易講疏・孝經義疏集要及び文集等がある。〔隋書、七十五〕・〔北史、九十〕・〔琅琊代醉編、十三〕。

【何代】144 イヅレノダイ イヅレノヨ 何れの時代。どの御代。〔佐久間象山、題二那波利翁像一詩〕何國何代無二英雄一、平生欽慕波利翁。

【何代無二奇人一】145 イヅレノヨカキジンナカラン 何時の時代にも奇行を行ふものがある。〔魏書、裴粲傳〕會詣二淸河王懌一、下レ車始進、便屬二暴雨一、粲容步舒雅、不下以二霑濡一改上レ節、懌乃令二人持レ蓋覆レ之、歎謂二左右一曰、何代無二奇人一。

【何湯】146 カタウ 後漢、豫章の人。字は仲弓。桓榮の高弟。郞中となり、開陽門を守つてゐた時、光武帝が微行して夜還るや、門を閉ぢて入れず。明旦、光武帝は詔して太官に詣らしめて食を賜はつた。官は虎賁中郞。〔後漢書、桓榮傳、注〕。

【何瑭】147 カタウ 明、武陟の人。字は粹夫。號は柏齋。諡は文定。弘治の進士。初、翰林修撰となり、劉瑾に屈しなかつたため、出されて開州同知となつたが、後に工・戶・禮三部の侍郞を歷て晉南京右都御史となる。著に醫學管見・柏齋三書・柏齋集がある。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、二百八十七〕。

【何濤】148 カタウ 明の人。喬新の五世の孫。字は仲平。嘉靖中、鄕試第一に登第し、官は安慶府推官に至つた。書室を平山堂といふ。著に平山堂詩文集がある。〔明史稿、三〕・〔明外史〕。

【何鏜】149 カタウ 明、處州衞の人。字は振卿。號は

賓巖。嘉靖の進士。官は江西提擧僉事に至る。著に括蒼彙紀・古今遊名山記がある。〔四庫提要、七十四〕。

【何澤】150 カタク 後唐の人。鼎の子。少時、學を好み、歌詩に長じ、進士に擧げらる。官は洛陽の令。莊宗・明宗の時、數〻切諫直言したが、內心は邪佞であつた。〔五代史、五十六〕。

【何丹】151 カタン 漢、湞陽の人、字は伯張。鴻嘉中、茂才に擧げらる。官は中散大夫。讜言を以て王莽に忤ひ、出されて松滋令となる。〔廣東通志〕。

【何坦】152 カタン 宋、建昌軍廣昌の人。字は少平。諡は文定。淳熙の進士。官は廣東提刑。著に西疇常言・百川學海がある。〔尙友錄、七〕。

【何郯】153 カタン 宋、陵州の人。字は聖從。進士。仁宗の時、三院を遍歷し、鯁直を以て稱せらる。後、龍圖閣直學士となる。〔宋史、三百二十二〕・〔東都事略、七十五〕・〔北宋經撫年表、五十八〕。

【何澹】154 カタン 宋、處州龍泉の人。字は自然。乾道の進士。官は寧宗の時、樞密院知。〔宋史、三百九十四〕・〔宋史新編、一百四十六〕・〔南宋書、四十九〕。

【何稠】155 カチウ 隋の人。妥の從子。字は桂林。官は開皇中、太府丞。李光仕の亂の時、遼東の役に功があり、後、唐に歸して少府監を授けらる。〔隋書、六十八〕・〔北史、九十〕。

【何鑄】156 カチウ 宋、餘杭の人。字は伯壽。諡は恭敏。政和の進士。紹興中、岳飛の冤を述べて秦檜に竄せられんとしたが、帝の旨によつて免れた。資政殿學士となり金に使す。〔宋史、三百八十〕・〔宋史新編、一百三十六〕・〔南宋書、十五〕・〔南宋館閣錄、七〕。

【何中】157 カチユウ 元、樂安の人。字は太虛。宋末の進士。古學を以て自ら任ず。官は至順中、龍興學師。著に易類象・書傳補遺・通鑑綱目測海・知非堂集がある。〔元史、一百九十九〕。

【何忠】158 カチユウ 明、江陵の人。字は廷臣。諡は忠節。永樂の進士。陳洽・交阯を征して敗る。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、二百二〕・〔明史稿、一百三十六〕。

【何衷】159 カチユウ 明の人。字は惟孝。進士。官は南京大理丞。著に靜齋集がある。〔國朝列卿記、九十八〕・〔本朝分省人物攷、六十二〕。

【何澄】160 カチヨウ ㊀晉の人。準の孫。字は季玄。孝武帝に寵愛せられ、安帝の時、尙書左僕射に至る。〔晉書、九十三〕。㊁明、江陰の人。字は彥澤。號は竹鶴老人。畫に巧。正統中に卒す。年九十九。〔明史、二百八十一〕。

【何通】161 カツウ ㊀隋の人。稠の父。善く玉を斲る。〔隋書、六十八〕・〔北史、九十〕。㊁明、松江の人。字は不違。著に印史がある。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【何鼎】162 カテイ ㊀唐、番禺の人。大中の進士。官は營管經略使。洞賊梁宗煽の叛いた時、單車これに赴き、說いて賊を拜泣せしめた。星曆を善くし、朱全忠の覆滅と唐の復興とを豫言したといふ。〔五代史、五十六〕。㊁明、餘杭の人。一名、文鼎。性、忠直。官は弘治の初、長隨。後、壽寧侯張鶴齡の意に忤ひ、獄に下されて死す。〔明史、三百四〕・〔萬斯同明史、四百五〕・〔明史稿、二百八十三〕。㊂清、浙江山陰の人。字は晴山。康熙の擧人。官は長葛縣の長官。香草詞を作る。〔國朝耆獻類徵、二百二十〕。

【何禎】163 カテイ 晉、廬江の人。字は元幹。文學の器幹があり、容貌甚だ偉。官は魏に仕へて幽州刺史・廷尉を歷、晉に入つて尙書光祿大夫となる。〔晉書、二〕。

【何條】164 ナンデフ なんでふのあて字。なんといふのを約轉。〔沙石集、一下〕何條神といひて少しもゆるさず。

【何適】165 カテキ 明の人。眞の後裔。蘄州に徙り、又、常熟に居る。字は達生。號は天遊・白石道人、又、天台山人。畫・詩に巧。〔明畫錄、三〕。

【何點】166 カテン 梁の人。求の弟。字は子晳。群書に博通し、武帝と舊交があり、鹿皮巾を賜はり、侍中に拜せられたが、就かなかつた。〔梁書、五十一〕・〔南史、三十〕。

【何擔】167 カトウ 擔ふ。〔廣雅、釋詁一〕攍・旅・何・擔、擔也。

【何等】168 ナンラ ㊀なに。なにが。なにに。何といふ。〔漢書、武五子、昌邑哀王髆傳〕大王誦二詩三百五篇一、人事浹、王道備、王之所レ行、中二詩一篇何等一也。〔後漢書、東平王蒼傳〕何等最樂。㊁ hê² têng³ どんなに。どれ程。如何程。

【何等樣兒】169 hê² têng³ yang⁴ êrh 何といふ。どんなに。

【何德】170 カトク 明、光州の人。諡は莊毅。官は左都督僉事。〔國朝獻徵錄、一百八〕・〔皇明開國功臣類、十五〕・〔本朝分省人物攷、九十二〕・〔皇朝中州人物志、二〕。

【何曇】171 カドン 明、金陵史忠の妾。字は玉仙。號は白雲道人。詩や書畫に巧。〔明畫錄、五〕。

【何奈】172 イカン ㊀どんな。どんなか。どんなに。如何。〔韓愈、感レ春詩〕已矣知二何奈一。㊁イカンセン いかんともすることが出來ぬ。しやうがない。㊂カナ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕何奈氏、匈奴單于之裔、歸レ漢爲二何奈氏一。

【何寧】173 カネイ 字號。㊀遼、蕭特末（9－32012・・487）の字。㊁遼、蕭圖古辭（9－32012・・556）の字。

【何白】174 カハク 明、永嘉の人。或は樂清の人といふ。字は无咎。號は丹丘。少くして郡の小吏となり、盛名があつた。著に汲古閣集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十三〕・〔明詩紀事、庚、二十六〕。

【何攀】175 カハン 晉、郫の人。字は惠興。官は武帝の時、廷尉平。封は西城侯。後、兗州の刺史に除せられたが、固辭し、淸儉、ただ貧を濟ふを以て事とした。〔晉書、四十五〕。

【何蕃】176 カバン 唐、和州の人。太學生となり、學成り、行高く、諸生の並ぶ者がなかつた。朱泚の反した時、同舍中に之に附かうとする者があつたが、蕃の叱責によつて止まり、遂に汚名を受けるを免れた。〔唐書、一百九十四〕。

【何必】177 ナンゾカナラズシモ ㊀必ずしも其れだけには限らない。其れだけではない。〔禮、曾子問〕何必小功耳。㊁何で云云する必要があらうか。強ひて云云するには及ばぬ。〔左氏、昭、二十三〕烏存以レ力聞可矣、何必以レ弑レ君成レ名。〔論語、微子〕枉レ道而事レ人、何必去二父母之邦一。〔孟子、梁惠王上〕王亦曰二仁義一而已矣、何必曰レ利。〔讀書作文譜、文中用字法〕一曰、接語辭、何必、反折之辭。

〔何必豎レ籬插レ棘〕178 ナンゾカナラズシモマガキヲタテキヨクヲハサマンヤ 彼我の區別を嚴にするに及ばぬ。唐の呂太一が戶部と吏部との閒の籬を取り除き、事務を簡易にした故事。〔大唐新語〕呂太一遷二戶部員外一、戶部與二吏部一鄰レ司、吏部移二牒戶部一、令三墻宇悉豎レ棘而防二令史交通一、太一牒報曰、眷二彼吏部一、銓綜之司、當二須簡要淸通一、何必豎レ籬插レ棘、省中賞二其俊拔一。

【何不】179 ナンゾザル 何故に云云しないのか。云云したらよいではないか。云云した方がよいではないか。盍（8－22980）に同じ。〔詩、唐風、山有樞〕子有二酒食一、何不二日鼓瑟一。〔左氏、哀、二十七〕武伯曰、然何不レ召。〔孟子、告子上〕凡可二以得レ生者、何不レ用也。

〔何不二早言一〕180 ナンゾハヤクイハザル どうして早くいはないのか。〔說苑、反質〕侯生曰、臣聞、禹立二誹謗之木一、欲二以知レ過也、云云、臣恐陛下之十亡也、而曾不二一存一、始皇默然久之曰、汝何不二早言一。

〔何不レ食二肉糜一〕181 ナンゾニクビヲクラハザル 何で肉糜を食はないのか。肉糜を食ふがよい。民の餓ゑて食ふものもない實情を知らなかつた晉の惠帝の故事。肉糜は肉粥。〔晉書、惠帝紀〕帝又嘗在二華林園一、聞二蝦蟆聲一、謂二左右一曰、此鳴者、爲レ官乎、私乎、或對曰、在二官地一爲レ官、在二私地一爲レ私、及二天下荒亂一百姓餓死、帝曰、何不レ食二肉糜一、其蒙蔽、皆此類也。

〔何不レ秉レ燭遊〕182 ナンゾショクヲトツテアソバザル 人生ははかないものであるから、遊べる時に大いに遊び、夜もあかりをともして遊ぶべきである。人に遊樂を勸める語。〔古詩十九首〕生年不レ滿レ百、常懷二千歲憂一、晝短苦二夜長一、何不二秉レ燭遊一。〔魏文帝、與二吳質一書〕古人思二秉レ燭夜遊一、良有レ以也。〔注〕翰曰、乃思、少壯之時、眞可三努力以追二宴樂一、歲月一過而往、不レ可二攀援而駐一レ之、故秉レ燭夜遊、實有レ以也。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕古人秉レ燭夜遊、良有レ以也。

【何溥】183 カフ ㊀南唐の人。字は令通。著に靈城精義がある。〔四庫提要、一百九〕。㊁宋、永嘉の

人。字は通遠。官は婺州通判。秦檜の意に忤つて罷めたが、檜の死後、諫議大夫・龍圖閣學士となる。〔萬姓統譜〕・〔宋中興學士院題名錄〕。

【何武】184 漢、郫の人。字は君公。謚は刺。官は揚州刺史・大司空。哀帝の時、王莽に誣ひられて自殺す。〔前漢書、八十六〕。

【何武去思】185 蒙求の標題。漢の何武が、官に居る時には赫々の名は無かつたが、去つて後に常に慕はれた故事。〔漢書、何武傳〕武爲レ人仁厚、好進レ士、獎ニ稱人之善一云云、其所レ居亦無ニ赫赫名一、去後常見レ思。

【何復】186 明、平度の人。字は見元。崇禎の進士。官は保定府の長官。李自成の東犯にあひ、邵宗元と力を戮せて固守したが、賊の火箭に中つて焚死す。〔明史、二百九十五〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕。

【何福】187 明、鳳陽の人。洪武の初、戰功を立てたが、成祖の北征の時、數〻節度に違ひ、御史に劾せられて縊死す。〔明史、一百四十四〕・〔萬斯同明史、二百九十一〕・〔明史稿、一百三十五〕。

【何勿】188 何物に同じ。〔後漢書、文苑、禰衡傳〕衡更熟視曰、死公云ニ等道一。〔注〕死公、罵言、等道、猶ニ今言ニ何勿語一也、劉攽曰、按、注勿、當レ作レ物、又少ニ云字一、何物者、猶レ言ニ何物老嫗一、古語如レ此者多。

【何物】189 輕蔑する語。何勿。〔晉書、王衍傳〕既去、目而送レ之曰、何物老嫗、生ニ寧馨兒一、然誤ニ天下蒼生一者、未ニ必非ニ此人一也。

【何並】190 漢、平陵の人。字は子廉。官は長陵令・潁川太守。豪強を抑へ、善士を表彰し、善政の譽れがあつた。〔前漢書、七十七〕。

【何炳】191 清、何煊(66)の原名。

【何璧】192 明、福清の人。字は玉長。里黨の少年を聚めて陰かに部署をなし、事ある時には一呼して集まらせた。上官が聞いて之を捕へようとした時、城を踰えて逃げ、清流王若の家に匿れて、盡く其の藏書を讀んだ。後、新安に遊び、詩を以て邑の令なる張濤を撼かし、濤は璧を延いて上客とした。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十四〕・〔明詩紀事、庚、二十六〕。

【何鳳】193 宋の人。基の從子。字は天儀。號は遯山。許謙を助けて其の學を大成せしむ。〔宋元學案、八十二〕。

【何某】194 人をそれと明かに指定せずにいふ語。〔宇津保物語、樓上上〕多くある限りのなにがし。

【何蒙】195 宋、洪州の人。字は叔昭。少くして春秋左氏傳に精通す。官は眞宗の時、水部郎中。著に兵機要類十卷がある。〔宋史、二百七十七〕・〔宋史新編、七十九〕。

【何也】196 ❶何故であるか。〔賈誼、過秦論〕身死ニ人手一爲ニ天下笑一者、何也。❷何故かといへば。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕不レ能ニ自免一、卒就レ死耳、何也。〔讀書作文譜、文中用字法〕何也、順ニ上文一作レ問之辭、則字健、也字輕。

【何與】197 此の語の上下にある二者を比較して、其の中の何方が善いか惡いかを疑ひ問ふに用ひる語。下が主となるのを常とする。孰與。〔司馬相如、子虛賦〕楚王之獵、何ニ與寡人一乎。

【何羅】198 魚の名。頭が一つで體が十あるといふ。〔山海經、北山經〕譙明之山、譙水出焉、西流注ニ於河一、其中多ニ何羅之魚一、一首而十身。

【何郎】199 ❶魏の何晏をいふ。何郎粉を見よ。〔宋璟、梅花賦〕儼如レ傅レ粉、是謂ニ何郎一。❷梁の何遜(141)の稱。水部員外郎であつたからいふ。〔杜甫、和ニ裴迪登ニ蜀州東亭一送ニ客詩、注〕蘇曰、梁何遜、作ニ揚州法曹一、廨舍有ニ梅花一株一、花盛開、遜吟ニ詠其下一、後居レ洛、思ニ梅花一、再請ニ其往一從レ之、抵ニ揚州一、花方盛、遜對レ花彷徨終日。〔高啓、梅花詩〕自レ去ニ何郎一無ニ好詠一、東風愁寂幾回開。

【何郎粉】200 魏の何晏は、顏の色が白いので、白粉をつけてゐるかと疑はれたからいふ。又、常に白粉を離さず容姿を氣にしたともいふ。何郎の❶を見よ。〔魏志、何晏傳、注〕魏略曰、晏、性自喜ニ動靜一、粉白不レ去レ手、行步顧レ影。〔語林〕何平叔、美姿儀而絕白、魏明帝疑ニ其傅レ粉、夏日與ニ熱湯餠一、既啖、大汗隨出、以ニ朱衣一自拭、色轉皎然。〔西廂記、張君瑞鬧ニ道場一雜劇〕乍相逢厭レ見ニ何郎粉一。

【何洛】201 宋、義烏の人。字は茂恭。藏書萬餘卷。文に巧。紹興の進士。闕に詣つて萬言の書を上つたが、朝論と合はずして里に歸る。著に南湖集がある。

【何李】202 明の何景明と李夢陽との併稱。二人は弘治・正德間に、文は秦漢、詩は盛唐以上を以てすべしと唱へ、臺閣體を矯正した。透逸と雄健とを以て勝り、世人は二人を何李と稱した。〔明史、文苑二、何景明傳〕說者謂、景明之才、本遜ニ夢陽一、而其詩秀逸穩稱、視ニ夢陽一反爲レ過之、然天下語ニ詩文一必竝ニ稱何李一。

【何李王李】203 明の何景明・李夢陽・王世貞・李攀龍の併稱。何李を見よ。〔明史、文苑三、李攀龍傳〕攀龍、才思勁鷙、名最高、獨心重ニ世貞一、天下亦竝ニ稱王李一、又與ニ李夢陽・何景明一、竝ニ稱何李王李一。

【何離】204 草の名。芍藥(**9**—**30674**‥6)の異名。可離(**2**—**3245**‥126)に同じ。〔大觀本草、八〕芍藥、一名ニ何離一。

【何㮚】205 宋、仙井の人。字は文縝。政和の進士。欽宗の時、京城の陷るや、車駕に從つて金營に赴いて自殺す。〔宋史、三百五十三〕・〔宋史新編、一百二十二〕・〔東都事略、一百八〕。

【何林】206 清、紹興の人。金陵に寓す。號は春圃。畫に巧。

【何麟】207 明、沁水の人。官は布政司吏。事によつて武宗の怒に逢ひ、廷杖六十の刑に處せらる。〔明史、二百九十七〕。

【何樓】208 物の粗末なこと、又は虛僞の物をいふ。宋代、京師に何家樓があり、其の下に賣る物は虛僞の物が多かつたからいふ。〔書言故事、市肆類〕物不ニ精好一、曰ニ何樓一。〔中山詩話〕世語、虛僞爲ニ何樓一、蓋國初京師有ニ何家樓一、其下賣レ物、皆行レ濫者、非ニ沽レ濫稱一也。

【何鹿】209 丹波國の郡名。

【何論】210 いづれ・いかんといふやうな疑問辭で題を發した論文。〔老學庵筆記、一〕國初韻略、載ニ進士所レ習、有ニ何論一首一、施肩吾及第敕、亦列ニ其所レ習何論一首一、何論、蓋如ニ三傑佐レ漢孰優、四科取レ士何先之類一。

【無レ何】211 ❶まもなく。〔漢書、曹參傳〕無レ何、使者果召レ參。〔漢書、翟方進傳〕居無レ何。〔注〕師古曰、無レ何、猶レ言レ無レ幾、謂ニ少時一。❷他に何事も無い。〔漢書、爰盎傳〕絲能日飮無レ何。〔注〕師古曰、無レ何、言ニ更無ニ餘事一。

【何安泰】212 清、舒城の人。咸豐の間、洪秀全を攻めて浙江・江蘇に轉戰し、總兵となり、嘉興を攻めて戰死す。〔清史稿、四百二十二〕。

【何以尙】213 明、興業の人。世宗の時、上疏して海瑞を釋さんことを請ひ、錮獄せらる。官は南京鴻臚卿。〔明史、二百二十六〕・〔明史稿、二百十〕。

【何偉然】214 明、仁和の人。字は仙臞。書室を犂雲館といふ。著に快書・廣快書・四六霞肆がある。〔四庫提要、一百三十四〕。

【何維柏】215 明、南海の人。字は喬仲。謚は端恪。嘉靖の進士。嚴嵩を劾して廷杖除名せられ、家居すること二十餘年。官は萬曆の初、吏部左右侍郎。後、張居正の意に忤つて排斥せられた。書室を天山草堂といひ、著に天山草堂存稿がある。〔明史、二百十〕・〔萬斯同明史、三百六〕・〔明史稿、一百九十四〕。

【何友晏】216 清、奉賢の人。字は九陞。書畫や詩に巧、兼ねて醫に精し。著に南北遊草がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十四〕・〔國朝畫識、二十七〕。

【何有志】217 清、黟の人。咸豐の間、武生を以て塔齊布の征討に從ひ、武漢に克ち、沿江の諸壘を平げ、積功を以て都司に至る。九江を攻め、槍傷を受けて卒す。〔中興將帥列傳、六下〕。

【何喬雲】218 清、錢塘の人。字は令名。號は曾園。康熙の進士。官は吏部主事。山水畫に巧で、宋元の畫を宗とす。

【何宇新】219 明、博羅の人。字は子完。幼くして孤。母に事へて至孝。官は宗人府經歷。〔明史、二百九十六〕・〔萬斯同明史、三百九十二〕。

【何禹疏】220 明、盱眙の人。字は平九。畫に巧。

【何永紹】221 清、桐城の人。字は令遠。號は存齋。諸生である。書室を寶樹堂といひ、著

に寶樹堂稿がある。

【何榮祖】222 エイソ 元、太原の人。廣平に徙住す。字は繼先。謚は文憲。官は參知政事。專政者桑哥と合はないで致仕したが、桑哥が敗れるに及んで中書右丞となり、建白する所が多かった。著に大畜十集・學易記・載道集・觀物外篇がある。〔元史、一百六十八〕。

【何易于】223 エキウ 唐の人。益昌令となつて治績があり、後、羅江令に移る。〔唐書、一百九十七〕。

【何曰愈】224 エツユ 清、香山の人。字は雲陔(云畟)。官は會理州の長官。書室を存誠堂・存仁堂といふ。著に存誠堂文集がある。〔清史稿、四百八十五〕・〔清史列傳、七十六〕・〔碑傳集補、二十四〕。

【何應欽】225 オウキン 民國、貴州省興義の人。字は敬之。我が國の陸軍士官學校步兵科卒業。蔣介石の麾下となり、陳烱明の討伐、孫傳芳軍との戰鬪等に功を樹て、軍事委員・國民政府委員等となり、又、浙江省政府委員兼主席、次いで國民革命軍總司令部參謀長に擧げられ、後、國民政府軍政部長に至り、數次の共產軍討伐に活躍す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【何應龍】226 オウリョウ 明、南陵の人。字は子驤。元末、義兵を起し、功によつて民兵千戶を授けらる。子孫の同居する者九世。〔皇明開國功臣錄、二十九〕・〔本朝分省人物攷、三十八〕。

【何可綱】227 カカウ 明、遼東の人。天啓中、軍制を更定し、左都督に至る。後、清兵に殺さる。〔明史、二百七十一〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百三十四〕。

【何家駿】228 カシュン 清、惠安の人。字は曰千。畫・詩に巧。又、棋を善くす。

【何元宗】229 カウソウ 清、江寧の人。字は聿修。畫に巧。〔國朝畫識、七〕。

【何其偉】230 キヰ 清の人。其僕の弟。字は石民。號は我堂・鼎石山人。康熙の擧人。官は遂昌縣の長官。著に我堂詩古文集がある。

【何其僕】231 カキイ 清、石屏の人。字は天成。號は六谷、又、洞虛子。康熙の廩貢生。學問淵醇、詩文に巧。又、蘇書を善くす。書室を墨雨樓といふ。著に海江圖說・元師平滇道路考・西藏圖說・墨雨樓集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十〕。

【何其仁】232 キジン 清、海鹽の人。字は元長。號は樗菴。貢生である。官は崖州の長官。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、三〕。

【何其盛】233 カセイ 何柱芬(249)を見よ。

【何起門】234 キモン 唐、建德の人。親に至孝。父死して其の墓に廬し、大曆中、旌表せらる。〔唐書、一百九十五〕。

【何義門】235 ギモン 何焯(100)を見よ。

【何頡之】236 キツシ 宋、黃岡の人。字は斯舉。初名は頡。號は樗叟。蘇軾の黃岡に謫居するや、因りて教へを受く。〔萬姓統譜〕・〔尙友錄、七〕。

【何去非】237 キヨヒ 宋、浦城の人。字は正通。學問該博。官は武學教授。博士に擢んでらる。著に文集・司馬法講論・備論がある。〔宋史翼、二十六〕。

【何肇道】238 キヨウダウ 清、香山の人。字は皇圖。諸生である。明の滅亡後、徜徉自廢す。著に越巢稿がある。〔國朝詩人徵略初編、十四〕。

【何玉梁】239 ギヨクリヤウ 清、錢塘の人。字は韋江。號は樟亭。雍正の進士。官は編修。大清一統志の編修に參與す。著に齠齔吟・賢鑒堂詩存・南齋記聞・史論・柳浦集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十五〕。

【何鈺麟】240 ギヨクリン 清、長沙の人。字は梅閣。諸生である。著に吟梅閣文稿がある。

【何金蘭】241 カキンリン 清、鎭江の人。字は相如。康熙の進士。給事中となり、敢言を以て稱せらる。詩及び古文に巧。〔國朝耆獻類徵、一百三十四〕。

【何槐孫】242 クワイソン 元の人。天駿の子。字は德孚。號は龍岡。泰定の進士。官は慶元路總管府推官。著に善政指南書及び碑碣諸文がある。〔浦圻縣志〕。

【何光遠】243 カクワエン 五代、晉の東海の人。字は輝夫。官は普州軍事判官。著に廣政雜錄・鑑誡錄がある。〔十國春秋〕。

【何光裕】244 カクワウユウ 明、梓潼の人。字は思問。嘉靖の進士。官は兵科給事中。仇鸞が馬市を開いた時、之を諫めて殺さる。〔明史、二百九〕・〔萬斯同明史、二百九十七〕・〔明史稿、一百九十一〕。

【何君佐】245 カンサ 清、恩安の人。乾隆の間、黔楚教匪を攻めて戰功があり、嘉慶の間、陝西・四川に轉戰し、官は湖北提督に至る。〔國朝耆獻類徵、二百十八〕。

【何桂清】246 カケイセイ 清、昆明の人。字は根雲。咸豐の進士。江蘇の督學となり、洪楊の軍の起るに會ひ、疆吏を疏劾したが、其の語が頗る切直で、文宗に奇とせられ、浙撫に改められた。後、兩江を督し、餉事を主つたが、和春・張國樑が丹陽に戰死するや、常州を棄てて上海に遁れたので、職を奪はれて法に伏す。〔清史稿、四百三〕・〔清史列傳、四十九〕。

【何桂珍】247 カケイチン 清、師宗の人。字は丹畦。謚は文貞。道光の進士。李兆受に殺さる。〔清史稿、四百六〕・〔國朝先正事略、二十六〕・〔續碑傳集、五十八〕。

【何桂芳】248 カケイハウ 清、鄱陽の人。初名は國華。字は小亭。咸豐の進士。官は順天府丞。著に戶部漕運全書がある。

【何桂芬】249 カケイフン 清の人。字は茂垣。原名は其盛。字は新甫。道光の進士。陝安道に赴任す。著に自樂堂遺文がある。〔續碑傳集、十九〕。

【何景福】250 カケイフク 元、淳安の人。字は介夫。號は鐵牛子。著に鐵牛翁集がある。〔宋季忠義錄、十三〕・〔元詩紀事、二十二〕。

【何景明】251 カケイメイ 明、信陽の人。字は仲默。號は大復。弘治の進士。正德の間、李夢陽と共に詩文を以て知らる。著に大復集・大復論・雍大記がある。〔明史、二百八十六〕・〔皇明名臣言行錄、二十四〕。

【何敬洙】252 カケイシュ 南唐、廣陵の人。謚は威烈。官は右衞上將軍。封は芮國公。〔十國春秋〕。

【何敬容】253 カケイヨウ 梁の人。昌寓の子。字は國禮。齊の武帝の女、長城公主に尙し、駙馬都尉を拜し、天監中、尙書左僕射となる。侯景の反に殉難した。〔梁書、三十七〕・〔南史、三十〕。

【何慶元】254 カケイゲン 清、桂陽の人。字は積之。號は漱石。道光の進士。著に知新閣散體文がある。〔續碑傳集、十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十二〕。

【何繼筠】255 ケイキン 宋の人。福進の子。字は化龍。初、後唐に、後、周に仕へた。官は太祖の時、建武節度。前後、邊備に在ること二十年、士卒と甘苦を共にし、敵人が畏伏して敢へて侵さなかつた。〔宋史、二百七十三〕・〔宋史新編、七十七〕・〔東都事略、二十九〕・〔隆平集、十六〕。

【何繼高】256 ケイカウ 明、浙江山陰の人。字は汝登。萬曆の進士。官は江西布政使參政に至る。馮學易・閔遠慶と共に長蘆鹽法志を撰す。〔四庫提要、八十四〕。

【何喬遠】257 カケウエン 明、晉江の人。字は稚孝(稚孝)。號は匪我、又、自誓齋。謚は文肅。萬曆の進士。官は崇禎の間、南京工部右侍郎。嘗て明季十三朝遺事を編輯し、又、閩書百五十卷を纂す。〔明史、二百四十二〕・〔萬斯同明史、三百五十〕・〔明史稿、二百二十九〕。

【何喬新】258 カケウシン 明の人。文淵の子。字は廷秀。謚は文肅。景泰の進士。官は刑部侍郎。孝宗の時、剛正を以て聞ゆ。著に元史臆見・周禮集注・策府羣玉續篇・勳賢琬琰集・椒丘集がある。〔明史、一百八十三〕・〔萬斯同明史、二百三十九〕・〔明史稿、一百六十六〕。

【何喬福】259 カケウフク 明、廣昌の人。字は延錫(廷錫)。畫に巧。〔椒丘文集〕。

【何建鼇】260 カンゲウ 清、漢軍鑲紅旗人。謚は果毅。道光の武擧。咸豐年間、粵捻を攻めて功があつたが、同治年間に曹州に轉戰し、重創を被つて死す。〔清史稿、四百十〕。

【何顯周】261 カケンシウ 明、內黃の人。官は洪武の初、四輔官。〔明史、一百三十七〕・〔明史稿、一百二十五〕。

【何元英】262 カゲンエイ 清、秀水の人。字は薾音。順治の進士。官は通政使參議。書に巧。〔國朝書人輯略、二〕。

【何元卿】263 カゲンケイ 清、華陽の人。乾隆の間、金川を從征し、臺灣を攻め、黔楚苗等を擊ち、嘉慶の間、白蓮教を勦し、功を以て興漢鎭總兵に至る。尋いで力戰して陣歿す。〔清史稿、三百五十五〕・〔國朝耆獻類徵、三百五十九〕。

【何元錫】264 カゲンセキ 清、錢唐の人。字は夢華。又、敬祉。號は蜨隱/蝶隱)。官は主簿。簿錄の學に

精しく、家に善本が多い。書室を護經堂・秋神閣・蝶影園・三吾鴻景齋といひ、著に秋神閣詩鈔がある。

【何彦先】265 カゲンセン 唐、齊州の人。王義方の門人。義方の歿後、三年の喪に服して後去る。官は武后の時に、天官侍郎。〔唐書、一百十二〕。

【何吾趨】266 カゴスウ 明、香山の人。萬曆の進士。官は崇禎の間、禮部尚書。溫體仁と意見が合はず、官を罷め去つたが、唐王の時、召されて首輔となる。〔明史、二百五十三〕。

【何弘敬】267 カコウケイ 唐の人。進滔の子。本名は重順。後、弘敬と改む。懿宗の時、楚國公に封ぜらる。〔唐書、二百十〕。

【何弘仁】268 カコウジン 明、浙江山陰の人。字は仲淵。崇禎の進士。官は御史。後、削髮して苦行した。〔國朝先正事略、四十五〕・〔小腆紀年、十二〕。

【何弘中】269 カコウチユウ 宋、代州の人。字は定遠。官は河東北路統制接應使。詩文に長ず。著に成眞通理二集がある。〔山西通志〕。

【何國華】270 カコククワ 何桂芳（248）を見よ。

【何國材】271 カコクサイ 清、江西新城の人。字は維楚。著に虛谷遺書がある。〔四庫提要、九十八〕。

【何國宗】272 カコクソウ 清、大興の人。康熙の進士。雍正の初、黃運河道を巡閱し、北運河・減水壩を督修して並びに河に引く。算法に通じてゐたので、乾隆中、西洋人を率ゐて伊犁に往き、土地を測定した。官は禮部尚書。〔清史稿、二百八十九〕・〔國朝耆獻類徵、七十一〕。

【何蓑衣】273 カサイ 仙人の名。〔裡史〕姑蘇有二異人一、曰二何蓑衣一。

【何細胡】274 カサイコ 梁、西域の人。武陵王紀に事へて帛の事を掌り、巨富を致す。〔北史、九十〕。

【何在田】275 カザイテン 清、江西廣昌の人。字は鶴年。乾隆の擧人。詩に巧。蔣士銓と交はる。著に至耕堂詩集がある。〔國朝詩人徵略、初編三十六〕。

【何二傑】276 カサンケツ 明、定州の人。字は士律。號は憶巖居士。官は崇禎中、邵陽縣の長官。張獻忠が城を陷れるや、執へられて死す。〔崇禎忠節錄、十八〕・〔勝朝殉節諸臣錄、八〕。

【何士祁】277 カシキ 清、會稽の人。字は竹薗。嘉慶の進士。官は同知。藏書の多いことは、江浙地方に於て第一であつた。〔國朝書人輯略、九〕。

【何士晉】278 カシシン 明、宜興の人。字は武裁。萬曆の進士。官は天啓の初、兵部右侍郎。御史に誣ひられ、憤鬱して卒す。〔明史、二百二十五〕・〔萬斯同明史、三百四十九〕・〔明史稿、二百二十九〕。

【何士閥】279 カシバツ 清、南陵の人。一族中の士閥といふ者が祖母の塚を破つて親を葬つたので、官に訟へたが、相手が訟訴に巧な爲、判決が下らないので、墓碑に頭を打つて死んだ。〔清史稿、五百三〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十五〕・〔國朝先正事略、五十五〕。

【何子平】280 カシヘイ 南朝宋、灊の人。文帝の時、吳郡海虞の令となる。母に至孝。〔宋書、九十一〕・〔南史、七十三〕。

【何子朗】281 カシラウ 梁の人。字は世明。才思があり、官は員外散騎侍郎。年二十四で卒す。文集がある。〔梁書、五十〕・〔南史、七十二〕。

【何之元】282 カシゲン 陳、灊の人。學を好み、才思があつた。梁の司空となり、袁昂に重んぜらる。著に梁典三十卷がある。〔陳書、三十四〕・〔南史、七十二〕。

【何思澄】283 カシチヨウ 梁、郯の人。字は元靜。文辭に秀でた。官は武陵王の錄事參軍。著に文集十五卷がある。〔梁書、五十〕・〔南史、七十二〕。

【何思登】284 カシトウ 明、武昌の人。字は一擧。正德の進士。官は翰林院編修。著に翼正錄がある。〔四庫提要、八十九〕。

【何師韞】285 カシウン 宋、金谿の人。字は秀才。臨川の饒氏に嫁し、四十にして寡となる。所居に嬾愚樹があつたので、遂に室に榜して嬾愚といふ。詩集がある。

【何嗣焜】286 カシコン 清、武清の人。字は眉孫、又、定葊（定菴）。號は存悔齋。官は知府。嘗て上海南洋公學に總理となる。

【何自學】287 カジガク 明、金谿の人。字は思學。宣德の進士。官は陝西按察使。土木の難に死す。〔國朝名世類苑、九十四〕。

【何似生】288 hé² sì⁴ shēng¹ 如何であるか。

【何秋濤】289 カシウタウ 清、光澤の人。字は願船。室名は一鐙精舍。道光の進士。官は刑部主事。經・史・小學など究めないものはなく、尤も輿地に長じてゐた。著に朔方備乘・北徼彙編・一鐙精舍甲部稿がある。〔清史稿、四百九十〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、十・七十九〕。

【何執中】290 カシチユウ 宋、處州龍泉の人。字は伯通。謚は正獻。徽宗の時、封は榮國公、官は太傅に至る。〔宋史、三百五十一〕・〔宋史新編、一百二十一〕・〔東都事略、一百二〕・〔宋大臣年表、十六・十七〕・〔宋人軼事彙編、六百七十二〕。

【何尚之】291 カシヤウシ 南朝宋、灊の人。字は彦德。謚は簡穆。官は尚書令・左光祿・開府儀同三司。〔宋書、六十六〕・〔南史、三十〕。

【何昌寓】292 カシヤウグウ 南齊の人。佟之の子。字は儼望。謚は簡子。獨立不群で、交はる所は皆、當世の名士であつた。官は吏部尚書より侍中に至る。〔南齊書、四十三〕・〔南史、三十〕。

【何相劉】293 カシヤウリウ 明の人。官は崇禎の間、華亭訓導。賊の至るに會ひ、諸生を率ゐて共に守り、城陷つて死す。〔明史、二百九十四〕。

【何嘗行】294 カシヤウカウ 樂府、相和歌辭の名。〔古樂府、豔歌何嘗行〕飛來雙白鵠、乃從二西北一來、十十五五、羅列成レ行。〔魏文帝、豔歌何嘗行〕何嘗快獨無レ憂、但當下飲二醇酒一炙中肥牛上。

何首烏圖（今古書集成）

【何若瑤】295 カジヤクエウ 清、番禺の人。字は石卿。道光の進士。官は右春坊右贊善。著に公羊注疏質疑・兩漢攷證・海陀華館詩文集がある。〔續碑傳集、十八〕。

【何首烏】296 カシユウ 藥草の名。つるどくだみ。多年生蔓草。根の芋を藥用とする。何首烏といふ人が此の藥を服して百三十歲に至つても頭髮が猶黑かつたので、此の藥草に其の名をつけたといふ。唐の李翺に何首烏傳がある。九眞藤。〔本草、何首烏〕集解、頌曰、有二赤白二種一、赤者雄、白者雌、本名二交藤一、因二何首烏服一而得レ名也、唐元和七年、僧文象遇二茅山老人一、遂傳二此事一、李翺乃著二何首烏傳一。

【何壽朋】297 カジユホウ 明、金華の人。字は德齡。洪武の初、孝廉に擧げらる。世に歸全先生といふ。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、三百八十三〕・〔明史稿、二百六十三〕。

【何從義】298 カジユウギ 元、洛川の人。至孝を以て顯はる。〔元史、二百九十八〕。

【何如璋】299 カジヨシヤウ 清、大埔の人。字は子莪（子峨）。官は光緒の間、侍讀。我が國に使す。累官して少詹事・督辦福建船政となり、馬江の役に佛軍に船廠を燒かれたので職を奪はる。〔清史稿、四百五十〕・〔碑傳集補、十三〕。

【何如申】300 カジヨシン 明の人。如寵の兄。萬曆の進士。官は浙江省布政使。〔明史、二百五十一〕・〔明史稿、二百三十五〕。

【何如寵】301 カジヨチヨウ 明、桐城の人。字は康侯。號は芝岳居士。謚は文端。萬曆の進士。官は武英殿大學士。〔明史、二百五十一〕・〔萬斯同明史、三百五十六〕・〔明史稿、二百三十五〕。

【何汝霖】302 カジヨリン 清、江寧の人。字は雨人、又、潤之。謚は恪愼。道光の間、軍機處に直すること四十年。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十六〕・〔國朝先正事略、二十七〕・〔續碑傳集、十一〕。

【何承矩】303 カシヨウク 宋の人。繼筠の子。字は正則。官は眞宗の時、齊州團練使。〔宋史、二百七十三〕・〔宋史新編、七十七〕・〔東都事略、二十九〕・〔隆平集、十六〕・〔北宋經撫年表、一百十〕。

【何承光】304 カシヨウクワウ 明、鎭遠の人。萬曆の擧人。官は崇禎中、夔州同知。寇と戰つて殺さる。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十八〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【何承天】305 カシヨウテン 南朝宋、郯の人。性、剛愎。儒史百家に通ず。官は武帝の時、御史中丞。密旨を漏洩したことに坐して免ぜらる。文集がある。〔宋書、六十四〕・〔南史、三十三〕。

【何承裕】306 カシヨウユウ 宋の人。晉・天福末の進士。雋才があり、好んで歌詩を爲り、酒を嗜んで狂逸の行ひが多かつた。官は監察御史、忠・萬・商三州の長官。〔宋史、四百三十九〕。

【何進滔】307 カシンタウ 唐、靈武の人。謚は定。田弘

正に從つて李師道を討ち、功を以て侍御史・同中書門下平章事に至る。〔舊唐書、一百八十一〕・〔唐書、二百十〕。

【何新之】308 シンシ 宋、西安の人。官は樞密院編修官。唐宋の詩を採擇して詩林萬選を爲る。後、忠安軍のことを主り、節に死す。〔宋史、四百五十〕・〔宋史新編、一百七十四〕・〔宋史翼、三十一〕・〔宋季忠義錄、四〕。

【何人鶴】309 カジンカク 清、綿州の人。字は鳴九。諸生。父の仇を報じて爲に獄に投ぜられたが、赦されて歸る。詩に巧。著に臺山詩草がある。〔國朝耆獻類徵、三百九十一〕。

【何水部】310 カスイブ 梁の何遜(141)をいふ。

【何水部集】311 カスイブシフ 書名。一卷。梁、何遜撰。宋代に既に殘缺す。現在の本は明の張紘の刻したものである。〔四庫提要、集、別集類〕。

【何世璂】312 カセイキ 清、山東新城の人。字は澹菴。諡は端簡。康熙の進士。官は御史・兩淮轉運使・直隸總督。〔國朝耆獻類徵、七十〕。

【何世仁】313 カセイジン 清、青浦の人。字は元長。號は福泉山人。初、書畫篆刻を嗜み、後、醫術を研精す。著に斡山草堂集・福泉山房醫案・治病 要言がある。〔國朝耆獻類徵、四百八十三〕。

【何正臣】314 カセイシン 宋、新淦の人。字は君表。官は元豐中、宣州の長官。〔宋史、三百二十九〕・〔宋史新編、一百八〕・〔北宋經撫年表、九十二・一百二・一百十二〕。

【何成濬】315 カセイユン 民國、湖北省隨縣の人。字は雪竹。我が國の陸軍士官學校を卒業、日本滯在中同盟會に加盟す。吳祿貞の股肱であつたが、吳の死後、黃興の帷幕に參じ、第二革命後、福建の徐樹錚の建國軍に參加し、國民革命軍の北伐に協力して、革命軍總司令部總參議となる。以後、蔣介石を輔け、國民政府參軍長となり、湖北省政府主席等に就任す。後、第五期中央執行委員・軍事委員會委員長武漢行營主任に擧げらる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【何邵公】316 カセウコウ 後漢の何休(42)をいふ。邵公は其の字。

【何紹基】317 カセウキ 清の人。淩漢の子。字は子貞。號は東洲(東洲居士)、又、猿叟(蝯叟・猨宗)・惜道味齋。道光の進士。官は編修。群書を涉獵し、六經子史に關する著書多く、尤も小學に精通し、金石碑版文字を研究し、凡そ歷朝の掌故は皆、會得してゐた。又、書を善くし、上は周秦兩漢の古篆籀から、下は六朝南北の碑に至るまで、卓然一家を成し、就中、尤も草書に巧であつた。著に惜道味齋經說・說文段注駁正及び詩文集がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔清史列傳、七十三〕・〔續碑傳集、十八〕。

【何紹祺】318 カセウキ 清の人。紹業の弟。字は子敬。號は勗潛。道光の擧人。官は浙江道人。

【何紹京】319 カセウケイ 清の人。紹祺の弟。字は子愚。道光の擧人。書に巧。兄の紹基・紹業・紹祺と共に何氏四傑と稱せらる。〔清史稿、四百九十一〕。

【何紹業】320 カセウゲフ 清の人。紹基の弟。字は子毅。廩生である。畫に巧。亦、算學に精通す。〔國朝耆獻類徵、四百四十二〕。

【何紹正】321 カセウセイ 明、淳安の人。字は繼宗。弘治の進士。池州府の長官となり、銅陵五十餘圩を築き、旱潦に備へ宸濠を防いで功があつた。江西參政に遷る。〔明史、一百八十八〕・〔萬斯同明史、二百五十七〕・〔明史稿、一百七十三〕。

【何仙姑】322 カセンコ 仙女の名。〔東軒筆錄〕永州有二何氏女一、幼遇二異人一、與レ桃食レ之、遂不レ饑、自レ是、能逆二知禍福一、鄉人神レ之、爲構レ樓以居、世謂二之何仙姑一。

何仙姑(會圖オ三)

【何占鼇】323 カセンガウ 清、成都の人。諡は襄勤。乾隆の間、廓爾喀及び黔楚苗を征して功があり、嘉慶の間、屢〻教匪を討つて之を平ぐ。官は甘肅總督。〔國朝耆獻類徵、三百十六〕。

【何全暐】324 カゼンカウ 唐の人。弘敬の子。龐勛の反を平ぐ。年少より殺戮を好んだため、後、軍衆に叛かれて遂に殺さる。〔唐書、二百十〕。

【何宗韓】325 カカウカン 清、文縣の人。字は桐藩、又、對溪。雍正の進士。官は大理寺少卿。其の學は忠恕を以て主と爲す。弟子先後數百人。書室を敦仁堂といひ、著に敦仁堂集がある。〔國朝耆獻類徵、七十七〕。

【何宗彥】326 カソウゲン 明、隨州の人。字は君美。諡は文毅。萬曆の進士。官は天啓中、建極殿大學士。〔明史、二百四十〕・〔萬斯同明史、三百四十二〕・〔明史稿、二百二十四〕。

【何屬乾】327 カゾクケン 清、江西廣昌の人。字は不息。官は永新訓導。書室を玉尺堂といふ。著に又尚集がある。〔四庫提要、六十三〕。

【何乃滄】328 カダイサウ 吳の方言。何の行ぞや。那行。一說に、滄は冷、何ぞ冷かなるといふ意。〔正字通〕滄、何乃滄猶レ言二那行一云云、今俗形二容涼冷之狀一曰二洽滄一、通雅曰、此解非也。〔世說新語、排調〕劉眞長始見二王丞相一、時盛暑之月、丞相以レ腹熨二彈棊局一曰、何乃滄、劉既出、人問レ見二王公一云何、劉曰、未レ見二他異一、唯聞レ作二吳語一耳。〔注〕吳人以レ冷爲レ滄。

【何大猷】329 カダイイウ 宋、義烏の人。字は少嘉。陳亮に師事す。〔宋元學案、五十六〕。

【何大節】330 カダイセツ 宋の人。官は黃州の長官。金人が黃州を犯した時、江に投じて死んだ。〔宋史、四百四十九〕。

【何當行】331 カタウカウ 樂府、雜曲歌辭の名。晉、傅玄作。〔傅玄、何當行〕同聲自相應、同心自相知、外合不レ由レ中、雖レ固終必離、管鮑不二世出一、結交安可レ爲。

【何道柔】332 カダウウ 元、景州の人。號は全陽子。仙術を得た。〔新城縣志〕。

【何道生】333 カダウセイ 清、靈石の人。字は立之。號は蘭士・方雪齋。乾隆の進士。官は九江府の長官。詩と畫とに巧。著に方雪齋集がある。〔清史列傳、七十二〕・〔國朝先正事略、四十三〕。

【何道旻】334 カダウビン 明、泰寧の人。字は伯清。官は大理評事。後、永州府の長官。〔明名人傳、十一〕・〔本朝分省人物攷、七十四〕。

【何長敦】335 カチヤウトン 清、光澤の人。字は厚勉。號は禮堂、又、禮門。嘉慶の擧人。官は博野縣の長官。書室を愷樂堂といふ。著に愷樂堂經辨・雜著、及び駢文詩文集・棋譜等がある。〔續碑傳集、四十一〕。

【何中立】336 カチユウリツ 宋、長社の人。字は公南。官は樞密直學士。吏材があり、詩文に巧。〔宋史、三百二〕・〔宋史新編、九十五〕・〔隆平集、十四〕・〔北宋經撫年表、二十八・七十・七十一・八十一〕。

【何忠相】337 カチユウシヤウ 清、崇明の人。常熟に僑居した。號は二山。乾隆の副貢。文集がある。

【何忠駿】338 カチユウシユン 清、平江の人。咸豐の擧人。武功が多く、歿後、太僕寺卿を贈らる。〔續碑傳集、六十二〕・〔中興將帥列傳〕。

【何柱國】339 カチユウコク 民國、廣西省容縣の人。字は敬止。廣東陸軍小學・湖北第二豫備學校・保定軍官學校、我が國の陸軍士官學校騎兵科を卒業し、歸國後、東北陸軍講武堂教官・第三旅長・北平軍分會委員・第五十七軍長等に歷任す。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【何重順】340 カヂユウジユン 何弘敬(267)を見よ。

【何澄粹】341 カチヨウスイ 唐、池州の人。親が瘻を疾んだ時、自分の股肉をさいて進めた。〔唐書、一百九十五〕。

【何廷矩】342 カテイク 明、番禺の人。字は時振。陳獻章に師事す。〔明史、三百九十六〕・〔本朝分省人物攷、一百十一〕・〔明儒學案、六〕。

【何廷魁】343 カテイクワイ 明、威遠衞の人。字は汝謙。諡は忠愍。萬曆の進士。官は黎平府知。後、清兵と戰ひ敗死す。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百七十四〕。

【何廷仁】344 カテイジン 明、雩都の人。初名は秦。字を以て行はれ、後、性之と字す。王守仁に師事す。世に善山先生と稱せらる。官は南京工部主事。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、二百七十四〕・〔明史稿、一百八十五〕。

【何定江】345 カテイカウ 清、香山の人。乾隆の武進士。官は浙江提督。蔡牽を捕へ、閩から浙に至つて病歿す。〔國朝耆獻類徵、三百二〕。

【何兆瀛】346 カテウエイ 清の人。汝霖の子。字は通甫。號は青耜・老學後菴。道光の擧人。官は兩廣鹽運使。著に老學後菴文集・心盦詩存がある。

【何天衢】347 カテンク ❶明、阿迷の人。字は升宇。勇略有り。土酋、普名聲に招かれて頭目となり、崇禎の間、名聲の反した時、衆を率ゐて歸附し、副總兵に進み、後、焚死す。〔明史、二百九十〕。

㊁明、永州の人。字は道亨。弘治の進士。官は工部侍郎。〔永州府志〕。

【何天駿】348 カテンシュン　元、蒲圻の人。字は國正。經史を嗜む。官は皇慶中、湘鄉學正。〔蒲圻縣志〕。

【何佟之】349 カトウシ　梁、灊の人。字は士威。官は齊の建武中、鎭北記室參軍。當時、國家の吉凶の禮は皆決を此の人に取つた。梁に入つて尙書左丞となる。〔梁書、四十八〕・〔南史、七十一〕。

【何東序】350 カトウジョ　明、猗氏の人。字は崇敎。號は肖山。門人、文欽と私謚す。室名は九愚山房。嘉靖の進士。官は楡林巡撫。著に九愚山房詩集がある。〔萬斯同明史、三百十六〕・〔明詩紀事、己、十二〕。

【何棟如】351 カトウジョ　明、無錫の人。字は子極。萬曆の進士。事を以て獄に下され、崇禎の間、官に復したが、間もなく致仕した。著に明祖四大法がある。〔明史、二百三十七〕。

【何騰蛟】352 カトウカウ　㊀明、黎平衞の人。字は雲從。謚は文烈。官は武英殿大學士。難に殉ず。〔明史、二百八十〕・〔萬斯同明史、三百七十二〕・〔明稿史、二百六十〕。㊁清、惠安の人。字は雨生。諸生。山水畫に巧。

【何買呰】353 カバイサイ　呰の名。貴州省盤縣の南。〔貴州通志〕明洪武二十四年、傅友德等克㆓普安㆒、別將楊文拔㆓何買呰㆒。

【何邦彥】354 カハウゲン　清、永豐の人。字は司直。書室を寄迂草堂といふ。著に寄迂草堂文集がある。

【何伯祥】355 カハクシヤウ　元、易の人。謚は武昌。張柔に從ひ太祖に歸して功あり、世祖の南伐に軍功が多かつた。〔元史、一百五十〕。

【何伯璵】356 カハクヨ　南齊、廬江の人。兄の孤子を養ひ、家業を推して之に與へ、自分は貧に安んじた。〔南史、七十三〕。

【何法倪】357 カハフゲイ　晉の人。何后(74)の㊁を見よ。

【何比干】358 カヒカン　漢、平陵の人。字は少卿。法律に詳しかつた。官は武帝の時、丹陽の都尉。〔後漢書、七十三〕。

【何彬然】359 カヒンゼン　明、蘄州の人。字は文長、又、寧野。著に茶約がある。〔四庫提要、一百十六〕。

【何復漢】360 カフクカン　清、江西廣昌の人。字は楚玉。性、至孝。學を好む。著に古今粹言がある。〔清史稿、五百二〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十七〕。

【何福進】361 カフクシン　五代、後周の太原の人。官は唐の莊宗の宿衞軍校。郭從謙を禦ぎ、開運中、李筠等と力を併せて契丹を驅逐し、後、忠武軍節度使となる。〔舊五代史、一百二十四〕。

【何文淵】362 カブンエン　明、廣昌の人。字は巨川。永樂の進士。官は刑部侍郎・太子太保。景泰中、事に坐して縊死す。〔明史、一百八十三〕・〔萬斯同明史、二百十三〕。

【何文輝】363 カブンキ　明、滁の人。字は德明。元の同僉達里麻を降し、大都督府同知に至る。〔明史、一百三十四〕・〔萬斯同明史、一百八十〕・〔明史稿、一百三十〕。

【何文煌】364 カブンクワウ　清、海陽の人。字は昭夏。號は竹坡。查士標の弟子。書畫に巧で、又、詩を善くす。〔清畫家詩史、乙上〕・〔國朝畫識、七〕。

【何文著】365 カブンチョ　元の人。官は兵部郎中。忽必烈の命により、杜世忠と共に我が國に使して龍口に斬らる。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕元使者杜世忠・何文著等九輩、至㆓長門㆒、留不㆑去、欲㆔必得㆓我報㆒、時宗致㆓之鎌倉㆒、斬㆓于龍口㆒。「よ。

【何文鼎】366 カブンテイ　明の人。何鼎(162)の㊁を見よ。

【何逢禧】367 カホウキ　清、閩縣の人。字は敬儒。號は念修。乾隆の進士。官は戶部主事・吏部左侍郎。掌故に習熟し、詩に巧。〔國朝耆獻類徵、九十〕・〔碑傳集、三十二〕。

【何夢瑤】368 カボウエウ　清、南海の人。字は報之。號は西池。雍正の進士。官は奉天遼陽州。詩に巧。著に匊芳園詩文鈔・莊子故・皇極經世易知錄・賡和錄がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百三十〕。

【何夢桂】369 カボウケイ　宋、淳安の人。字は岩叟（巖叟）。號は潛齋。咸淳の進士。官は太常博士・監察御史。宋亡びて後は仕へず。易に精し。著に易衍・中庸致用・潛齋集がある。〔南宋書、六十三〕・〔宋史翼、三十四〕・〔宋季忠義錄、十三〕。

【何懋永】370 カボウエイ　清、浙江山陰の人。字は念修。著に讀古紀源がある。

【何孟春】371 カマウシユン　明、郴州の人。字は子元。謚は文簡。弘治の進士。李東陽に師事し、學問該博。官は雲南巡撫。十八寨の叛蠻を討平し、嘉靖の初、禮部侍郎となる。時に大禮の議起り、上疏して力爭し、俸を奪はる。著に何文簡疏議・餘冬序錄・何燕泉詩・家語注がある。〔明史、一百九十一〕・〔萬斯同明史、二百七十五〕・〔明史稿、一百八十一〕。

【何滿子】372 カマンシ　㊀詞曲の名。もと唐の開元中の滄州の歌者の姓名。刑に臨み、此の曲を進めて死を贖はんとしたが、遂に免かれるを得ず。後、歌曲の名となる。〔白居易、何滿子詩〕世傳滿子是人名、臨㆓就㆑刑時㆒曲始成、一曲四詞歌八疊、從㆑頭便是斷腸聲。〔自注〕開元中、滄州有㆓歌者何滿子㆒、臨㆑刑進㆓此曲㆒以贖㆑死、上竟不㆑免。〔元稹、何滿子歌〕何滿能歌能婉轉、天寶年中世稱㆑罕、嬰㆑刑繫在㆓囹圄間㆒、下調哀音歌㆓憤懣㆒。㊁舞曲の名。文宗の時、宮人沈阿翹が帝の爲に何滿子を歌つた。其の調辭・風態が皆婉暢であつたといふ。〔樂府詩集、近代曲辭、何滿子〕杜陽雜編曰、文宗時、宮人沈阿翹、爲㆑帝舞㆓何滿子㆒、調辭風態、率皆宛暢、然則亦舞曲也。

【何無忌】373 カムキ　晉、郯の人。謚は忠肅。少にして大志あり。官は廣武將軍。桓玄が簒位せんとした時、劉裕等と義兵を起して之を破り、功を以て安城郡開國公に封ぜらる。後、盧循と戰つて敗死す。〔晉書、八十五〕。

【何裕城】374 カユウジヤウ　清の人。熠の子。字は福天。號は惺菴。官は河東河道總督、後、安徽巡撫。〔清史稿、三百三十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十六〕・〔碑傳集、七十六〕。

【何洛會】375 カラククワイ　清、滿洲鑲白旗人。官は崇德の間、本旗滿洲都統。關に入つて李自成を破り、金聲桓・李成棟を討平す。爵は三等子。〔清史稿、二百五十二〕・〔清史列傳、四〕。

【何履旭】376 カリキヨク　清、福清の人。字は君章。母に事へて至孝。著に心鳴集がある。〔國朝先正事略、五十六〕・〔國朝耆獻類徵、三百七十五〕。

【何良俊】377 カリヤウシユン　明、松江華亭の人。字は元朗。號は淸溪漫叟・紫溪眞逸・四友齋・拓湖居士。弟、良傳と共に俊才の譽れ高し。篤學二十年樓を下らず、藏書四萬卷に及ぶ。室名は淸森閣。著に何氏語林・四友齋叢說・何翰林集がある。〔明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十八〕。

【何良臣】378 カリヤウシン　明、會稽の人。字は惟聖。官は薊鎭遊擊。著に陳紀・軍權の二書がある。〔四庫提要、一百〕。

【何良傅】379 カリヤウフ　明の人。良俊の弟。字は叔度。嘉靖の進士。官は南京禮部郎。〔明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十八〕。

【何凌漢】380 カリヨウカン　清、道州の人。字は雲門。謚は文安、又、仙槎。嘉慶の進士。官は光道の間、戶部尙書。卒して太子太保を追贈せらる。著に雲腴山房集がある。〔清史稿、三百八十〕・〔續碑傳集、九〕・〔國朝先正事略、二十四〕。

【何令通】381 カレイツウ　宋、宜春の人。號は紫霞。南唐の時、國師となる。堪輿に精し。〔尙友錄、七〕。

【何和里】382 カワリ　清、滿洲正紅旗人。姓は棟鄂氏。謚は溫順。太祖に事へて功あり。費英東・額亦都・扈爾漢・安費揚古と共に五大臣たり。爵は三等子に至る。里は、一に禮又は哩・理に作る。〔清史稿、二百三十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十二〕・〔碑傳集、三〕・〔滿洲名臣傳、一〕。

【何憂何懼】383 ナニヲカウレヘナニヲカオソレン　何を憂へ、何を恐れようか。心中、疚しからざれば俯仰天地に愧ぢぬ。〔論語、顏淵〕子曰、內省不㆑疚、夫何憂何懼。

【何見之晚】384 ナンゾミルコトノオソキ　見識の立たぬことを誹つた語。〔史記、李斯傳〕秋霜降者草花落、水搖動者萬物作、此必然之效也、君何見之晚。

【何興之暴】385 ナンゾオコルコトノスミヤカナル　英雄が勃興することのすみやかなるをいふ。〔史記、項羽紀贊〕太史公曰、吾聞㆓之周生㆒曰、舜目蓋重瞳子、又聞、項羽亦重瞳子、羽豈其苗裔邪、何興之暴也。

【何艸不黃】386 カサウフクワウ　詩經、小雅、魚藻之什の篇名。周の幽王の時、君子が征役の止まぬのを憂へて作る。〔詩、小雅、何艸不黃序〕何艸不黃、下國刺㆓幽王㆒也、四夷交侵㆓中國㆒、背叛、用㆑兵不㆑息、視㆑民如㆓禽獸㆒、君子憂㆑之、故作㆓是詩㆒也。

【何氏語林】387 カシゴリン　書名。三十卷。明、何良俊撰。晉の裴啓の語林の名に因つて名づけた。其の義例・門目は全く劉義慶の世說新語にもとづき、

宋齊以後の事蹟を雜へ載せてゐる。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【何氏三高】388 何氏の三人兄弟の高士。子晳・子香・子季。〔海錄碎事、人事、隱逸〕何子有二子晳・子香・子季先在二若耶山一、晩還レ吳、居二虎丘寺一、號二何氏三高一、亦曰二東山兄弟一焉。

【何足レ介レ意】389 何で氣にかける必要があらうか。何もくよくよするに及ばぬ。〔後漢書、度尙傳〕所レ亡少少、何足レ介レ意。〔蜀志、先主劉備傳〕北海相孔融、謂二先主一曰、袁公路、豈憂レ國忘レ家者邪、冢中枯骨、何足レ介レ意。

【何足掛齒】390 hê tsu² kua⁴ ch'ih³ 改めていふに足らぬ。氣にかけることはない。

【何彼襛矣】391 詩經、召南の篇名。王姬を美めて作る。襛は一に穠に作る。〔詩、召南、何彼穠矣序〕何彼穠矣、美二王姬一也。

【有二何面目一】392 人に合はせる顏が無い。恥かしいこと。〔史記、項羽紀〕縱江東父兄憐而王レ我、我何面目見レ之。〔史記、孟嘗君傳〕客見二文一日廢一、皆背レ文而去、莫二顧レ文者一、今賴二先生一得レ復二其位一、客亦有二何面目一復見レ文乎。〔後漢書、趙苞傳〕食レ祿而避レ難、非レ忠也、殺レ母以全レ義、非レ孝也。如レ是、有二何面目一、立二于天下一。

【出二何經典一】393 如何なる書に出てゐるか。出二何典記一。〔後漢書、孔融傳〕融乃與レ操書、稱下武王伐レ紂以二妲己一賜中周公上、操不レ悟、後問、出二何經典一。

【出二何典記一】394 如何なる書に出て居るか。〔後漢書、文苑上、邊韶傳〕邊韶、字孝先、云云、教二授數百人一、韶口辯、曾晝日假臥、弟子私謿レ之曰、邊孝先、腹便便、懶二讀書一、但欲レ眠、韶潛聞レ之、應レ時對曰、邊爲レ姓、孝爲レ字、腹便便、五經笥、但欲レ眠、思二經事一、寐與二周公一通レ夢、靜與二孔子一同レ意、師而可レ謿、出二何典記一。

【何博士備論】395 書名。一卷。宋、何去非撰。二十八篇。今、二篇を佚す。皆兵を論ずる語。〔四庫提要、子、兵家類〕。

【何文簡疏義】396 書名。十卷。明、何孟春撰。其の奏議の諸篇は、風骨凜然たるものがある。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【何止三致夫千金】397 hê² chih³ san¹ chih⁴ fu¹ ch'ien¹ chin¹ 富を致すこと陶朱公にも勝る意。昔、越の范蠡が、三度千金を儲け、老後、隱居して、自ら陶朱公といつた故事に基く。

【何足レ置二齒牙閒一哉】398 問題とするに足らない。〔漢書、朱建傳〕此特羣盜鼠竊狗盜、何足レ置二齒牙閒一哉。

【何官無私何水無魚】399 hê² kuan¹ wu² ssŭ¹ hê² shuei³ wu² yü² 私欲の無い官吏はなく、魚の住まぬ河は無い。水に魚はつきもののやうに、官吏の腐敗はつきものだ。

【何面目見二江東父老一】400 江東の父老にあはせる顏がない。〔通俗編、地理、何面目見二江東父老一〕史記項羽紀、縱江東父兄憐而王レ我、我何面目見レ之。

【何能臥二牀上一在二兒女子手中一邪】401 武人は屍を原野にさらすべきで、牀上に病臥して兒女子の看護を受くべきでない。後漢の馬援の故事。〔後漢書、馬援傳〕男兒要レ當下死二於邊野一、以二馬革一裹レ屍還葬上耳、何能臥二牀上一、在二兒女子手中一邪。

【何當下共翦二西牕燭一卻話中巴山夜雨一時上】402 何時になつたら閨の燈火の下で、此の淋しい巴山の夜雨に就いて、お前に語つて聞かせる時が來るであらうか。旅中に家鄕に居る妻に寄せた詩。西牕は妻の閨中の窻。〔李商隱、夜雨寄レ北詩〕君問二歸期一未レ有レ期、巴山夜雨漲二秋池一、何當下共翦二西牕燭一、卻話中巴山夜雨一時上。

【佖】512

ヒツ ビチ 〔集韻〕薄必切 ㄅㄧˋ pi⁴ 質

小篆

一 ただしい。威儀がある。一說に、醉うて威儀のないさまといふ。俗に怭(4－10489)に作る。〔說文〕佖、威儀也、从レ人必聲、詩曰、威儀佖佖。〔正字通〕佖爲レ正、怭爲レ俗也。〔詩、小雅、賓之初筵、傳〕怭怭、媟嫚也。二 滿ちる。〔揚雄、羽獵賦〕駢衍佖レ路。〔注〕善曰、佖、滿也。三 ならぶ。比(6－16743)に通ず。〔說文通訓定聲〕佖、叚借爲レ比。〔漢書、揚雄傳上〕駢衍佖レ路。〔注〕師古曰、佖、次比也。

【佗】513

一 タ 〔集韻〕湯何切 ㄊㄨㄛ t'uo¹ 歌
二 タ 〔韻會〕吐臥切 箇
三 ダ タ 〔集韻〕待可切 哿
四 イ 〔正韻〕延知切 支

小篆

一 一 ほか。他。或は他(1－370)に作り、通じて它(3－7057)に作る。〔儀禮、士虞禮記〕他用二剛日一。〔注〕今文、他爲レ它。〔呂覽、貴生〕況於二佗物一乎。〔注〕佗猶レ異也。〔漢書、高帝紀下、南海尉它、注〕它、古佗字。〔漢書、古今人表〕尹公之佗。〔注〕孟子、作二尹公之他一。二 やすらか。〔太玄經、玄攡〕夫地佗然、示二人明一矣。〔注〕佗、猶レ泰也。三 よこしま。〔法言、問道〕君子正而不レ佗。四 うるはしい。〔集韻〕佗、一曰、美也。五 負ふ。になふ。俗に駝(12－44681)・馱(12－44633)に作る。〔說文〕佗、負荷也、从レ人它聲。〔說文通訓定聲〕佗、俗字作レ駝、作レ馱。〔漢書、趙充國傳〕以二一馬一自佗二負三十日食一。〔注〕凡以二畜產一載二負物一者、皆爲レ佗。六 助字。〔王維、與二盧員外象一過二崔處士興宗林亭一詩〕科頭箕踞長松下、白眼看佗世上人。〔唐詩選箋注〕舊說、佗字爲二自佗之佗一、非也、俗語笑佗・憐佗之類。七 とどまる。たつ。八 姓。〔漢書、游俠傳〕東道佗羽公子。〔注〕師古曰、姓佗、名羽、字公子。二 くはへる。〔詩、小雅、小弁〕舍二彼有罪一、予之佗矣。〔傳〕佗、加也。三 一 ひく。拕(5－11960)に同じ。〔集韻〕拕、引也、或作二拖・扡・佗一。二 かうむる。〔集韻〕佗、被髮也。〔史記、龜策傳〕醮レ酒佗レ髮。四 物のさま。佗佗(3)を見よ。蛇(10－32964)に通ず。〔正字通〕委佗、雍容自得貌。〔後漢書、任光邳彤傳贊〕委佗還レ旅。〔詩、鄘風、君子偕老〕委委佗佗。〔太平御覽、服章部、闕翟〕詩曰、委委蛇蛇。邦 一 わびしい。憂へに沈む。心が樂しまぬ。侘の字の誤用。二 わびる。罪を謝する。三 わび。さび。

参考 熟語は他(1－370)を併せ見よ。

【佗羽】1 漢、東道の人。字は公子。游俠を以て知らる。〔前漢書、九十二〕。

【佗日】2 他日。一 過ぎた日。過日。〔史記、鄭世家〕子家子公將レ朝二靈公一、子公之食指動、謂二子家一曰、佗日指動、必食二異物一。二 いつか。ほかの日。のちの日。〔陸機、文賦序〕故作二文賦一、以述二先士之盛藻一、因論二作文之利害所一レ由、佗日殆可レ謂二曲盡二其妙一。

【佗佗】3 德、又は容子の、うるはしくゆつたりしたさま。〔爾雅、釋訓〕佗佗、美也。〔注〕佗佗、佳麗美艷之貌。〔詩、鄘風、君子偕老〕委委佗佗、如レ山如レ河。〔傳〕佗佗者、德平易也。〔釋文〕佗佗、德之美貌。〔疏〕行步之美。

【佗背】4 せむし。〔新方言、釋形體〕負レ物必曲レ背、故今謂二僂者一爲二佗背一。

【佗髮】5 髮を振り亂す。被髮。〔史記、龜策傳〕醮レ酒佗レ髮。〔注〕集解曰、徐廣曰、佗、一作レ被、索隱曰、佗、謂二被髮一也。

【佗負】6 背に荷なふ。〔漢書、趙充國傳〕以二一馬一自佗二負三十日食一。〔注〕凡以二畜產一載二負物一者、皆爲レ佗。

【佘】514 シヤ ジヤ 〔集韻〕時遮切 ㄕㄜˊ shê² 麻

❶山名。佘山(5)を見よ。❷姓。〔通志、氏族略、平聲〕佘氏、音蛇、從レ示、唐開元、有二太學士佘欽、南昌人。〔姓氏尋源〕古有レ余無レ佘、余轉韻爲二禪遮切、音蛇一。

參考 佘(1―515)は別字。

【佘耀】1 シヤエウ 明、莆田の人。字は叔炫。永樂の進士。官は進賢縣の長官。後、同知に遷る。〔本朝分省人物攷、七十四〕。

【佘丘】2 シヤキウ 複姓。〔路史〕齊後有二佘丘氏一。

【佘翹】3 シヤゲウ 明、銅陵の人。字は聿雲。應天鄕試に中り、屢〻春官に上つたが第せず、學圃を築いて其の中で著作に從事した。〔池州府志〕。

【佘湖】4 シヤコ 山名。湖南省寶慶縣の東南。唐の時、申泰芝を此の山に祀る。

【佘山】5 シヤザン 山名。❶江蘇省青浦縣の東南。佘姓の者が此の山に隱れたので名づけた。蘭の香のある筍を產するので、淸の聖祖が名を蘭筍山と賜ふ。山に天主教堂と中國有數の天文臺とがあり、山下に鎭がある。明の陳繼儒が隱れた所。〔讀史方輿紀要、江南、松江府、婁縣〕佘山、府北二十五里、相傳、有二佘姓者一隱レ此、故名。❷江蘇省吳淞口外、崇明縣の東北の海中に在る。もと蛇山に作る。茶山。長山。

【佘翔】6 シヤシヤウ 明、莆田の人。字は宗漢。號は鳳臺。嘉靖の擧人。官は全椒令。詩に巧。著に薛荔園詩稿がある。〔明詩紀事、己、十二〕。

【佘應桂】7 シヤオウケイ 明、雲南の人。字は夢徵。嘉靖の擧人。官は南康知府。〔雲南通志〕。

【佘應龍】8 シヤオウリヨウ 明、銅陵の人。典籍に沈酣す。著に泉山集がある。〔池州府志〕。

【佘觀國】9 シヤクワンコク 淸の人。一に國觀に作る。字は顒若。號は石癡、又、竹西。官は曲靖府屬巡檢。居る所が朱彝尊の故址であつたので、古籐書屋を以て其の詩集に名づけた。〔飛鴻堂印人傳、四〕・〔墨香居畫識、四〕。

【佘錫純】10 シヤセキジユン 淸、廣東順德の人。字は兼五。貢生。官は訓導。著に語山堂集がある。〔國朝詩人徵略初編、十四〕。

【佘大綱】11 シヤダイカウ 明、襄陽の人。字は邦憲。弘治の擧人。官は黔江縣の長官。〔襄陽府志〕。

【佘夢鯉】12 シヤボウリ 明、福淸の人。字は有徵。萬曆の進士。官は廣東參政。後、湖廣按察使。〔福淸縣志〕。

【佘鳴化】13 シヤメイクワ 明、沅陵の人。字は時擧。號は蓋庭。萬曆の進士。官は戶部郞中。〔辰州府志〕。

【余】515

一 ヨ 〔集韻〕羊諸切 魚
二 ヅ ト 〔集韻〕同都切 虞 ㄩˊ yü²
三 ヤ 〔康熙字典〕于遮切 麻
四 シヨ ジヨ 〔集韻〕詳余切 魚
五 ヨ 〔集韻〕羊茹切 御

小篆

一❶われ。予(1―231)に通ず。〔說文通訓定聲〕余、蓋自稱發聲之詞、云云、經傳亦多以レ予爲レ之。〔爾雅、釋詁〕余、我也。〔詩、邶風、谷風〕伊余來塈。〔爾雅、釋詁〕余、身也。〔左氏、僖、九〕小白、余、敢貪二天子之命一、無二下拜一。❷のびる。語のゆるやかなことを示す字。〔說文〕余、語之舒也、从レ八舍省聲。❸陰曆四月の稱。除(11―41669)に通ず。〔爾雅、釋天〕四月爲レ余。〔注〕四月、萬物皆生レ枝布レ葉、故曰レ余、余、舒也。〔詩、小雅、小明、箋〕四月爲レ除。❹あまり。餘(12―44185)に通ず。〔說文通訓定聲〕余、叚借爲レ餘。〔周禮、地官、委人〕凡其余、聚以待二頒賜一。〔注〕余當レ爲レ餘、聲之誤也。❺舒(9―30300)に通ず。〔爾雅、釋天、四月、釋文〕余、孫作レ舒。❻姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕余氏、風俗通云、由余之後、世居二歙州一、爲二新安大族一、望出二下邳吳興一。二 檮余は匈奴の山名。〔集韻〕余、檮余、匈奴山名。三 褒余は蜀の地名。一に褒斜に作る。〔康熙字典〕余、褒余、蜀地名、一作二褒斜一。〔漢陽厥碑〕褒余。四 余吾は水名。〔集韻〕余、余吾、水名、在二朔方一。五 豫(10―36425)に同じ。〔集韻〕豫、說文、象之大者、或作レ余。

【余祐】1 ヨイウ 明、鄱陽の人。字は子積。弘治の進士。事を以て劉瑾に忤らつて落職し、又、中官に扼せられて下獄し、獄中で性書三卷を撰す。著には他に文公先生經世大訓がある。〔明史、二百八十二〕・〔萬斯同明史、二百八十七〕・〔明史稿、二百六十三〕。

【余寅】2 ヨイン 明、鄞の人。字は君房。號は農丈人。晚年、僧杲と改む。萬曆の進士。官は太常寺少卿。著に乙未私志・同姓名錄・農丈人文集がある。〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十八〕。

【余穎】3 ヨエイ 淸、海陽の人。字は在川。畫に巧。

【余嘉】4 ヨカ 淸、吳蓮(2―3365・・413)の字。

【余玠】5 ヨカイ 宋、蘄州の人。字は義夫。少時、白鹿洞諸生となり、趙葵の幕に入る。官は淳祐の初、四川安撫制置使となり、後、資政殿學士となる。〔宋史、四百十六〕。

【余翺】6 ヨカウ 明、定遠の人。字は大振。正德の進士。官は歷城縣の長官。淸直にして治績あり。〔明史、一百九十二〕。

【余鎬】7 ヨカウ 唐、建陽の人。字は周京。咸通の進士。官は校書郞。黃巢が建州を陷れるや、壺山に隱耕して終る。

【余蘅】8 ヨカウ 淸、常熟の人。字は芳洲。號は藥亭。花鳥畫に巧で、潑墨に長ず。

【余鄂】9 ヨガク 淸、仁和の人。字は慈柏(茲伯)。號は起潛・志慈。梅を畫くに巧。

【余熙】10 ヨキ 淸、桐城の人。字は晉齋。著に八線測表圖說がある。

【余熺】11 ヨキ 明、崑山の人。字は茂本。少時より俊才あり。陳潛夫に從つて學び、春秋の傳を得た。官は洪武の初、吏部尙書。〔明史、一百三十八〕・〔萬斯同明史、一百七十四〕。

【余丘】12 ヨキウ 複姓。〔尙友錄〕余丘、齊公族、食二采余丘一、因氏。

【余恭】13 ヨキヨウ 明、順昌の人。字は克讓。天順中、來賓縣の長官となり、獞猺を內附せしめた。

【余欽】14 ヨキン 唐の人。開元中、修書學士となり、殷踐猷等と共に群書四錄二百卷を編纂す。後、官は集賢院學士。〔唐書、一百九十九〕。

【余懷】15 ヨクワイ 淸、莆田の人。字は澹心、又、無懷。號は曼翁、又、曼持老人(鬘持老人)。明末に生れ、江寧に僑居す。嘗て金陵懷古詩を賦して、王士禎に稱せらる。書室を味外軒といふ。著に板橋雜記・東山談苑・味外軒稿がある。〔淸史列傳、二十〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕。

【余光】16 ヨクワウ 明、江寧の人。官は御史・廣東巡按。〔明史、二百三〕。

【余煌】17 ヨクワウ ❶明、會稽の人。字は武貞。天啓中、進士第一に中り、修撰に至る。崇禎中、紹興の破れるや、水に赴いて死す。〔明史、二百七十六〕・〔明史稿、二百五十七〕。❷淸、婺源の人。字は漢卿。嘉慶の擧人。天文算術に精通す。著に春秋求古・夏小正星候考・二十八宿距度推步考要・句陳晷度・日星測時新表・歲實星名異同錄・天官考異・衍談錄・讀書度圜記・弧角簡法・句股三角八線纂要等がある。〔淸史列傳、七十三〕。

【余璜】18 ヨクワウ 淸の人。珣の弟。字は渭徵。畫を善くし、尤も人物畫に巧。

【余嶸】19 ヨクワウ 宋の人。端禮の幼子。字は景瞻。幼にして劉景に學ぶ。官は寶謨閣學士。〔宋史、三百九十八〕。

【余鑅】20 ヨクワウ 淸、龍游の人。字は金聲。號は菊區。畫に巧。〔淸畫家詩史、戊、上〕。

【余闕】21 ヨケツ 元、盧州の人。字は廷心。追諡は忠宣。唐兀氏。元統の進士。安慶の守となり、陳友諒の難に死す。意を經術に留め、五經に皆其の傳注がある。篆隸に巧。書室を青陽山房といふ。著に青陽集がある。〔元史、一百四十三〕。

【余月】22 ヨゲツ 陰曆四月の異名。字解一の❸を見よ。〔爾雅、釋天〕四月爲レ余。

【余吳】23 ヨゴ 近江國伊香郡の中部、賤嶽の北に在

る湖。周圍一里半餘。

【余吾】24ジョ ㊀湖水の名。故夏州北塞外に在る。〔集韻〕余、余吾、水名、在二朔方一。〔漢書、武帝紀〕馬生二余吾水中一。〔注〕應劭曰、在二朔方北一也。㊁縣名。漢置く。今の內蒙古烏喇特の境。

州名。唐、置く。今の山西省屯留縣の西北。〔漢書、地理志上〕上黨郡、縣十四、余吾。〔讀史方輿紀要、山西、潞安府、屯留縣〕余吾城、縣西北十八里、春秋晉余吾邑也、漢置二余吾縣一、屬二上黨郡一。

【余才】25ヨサイ 明、內江の人。正德の進士。官は禮部郎中。〔明史、一百九十一〕。

【余宋】26ヨサイ 清、浙江山陰の人。字は同野。著に塞程別紀がある。〔四庫提要、六十四〕。

【余濟】28ヨサイ 元の人。芑舒の子。字は心淵。號は谷雲。少時より家學を承く。著に谷雲集がある。〔宋季忠義錄、二十一〕・〔宋元學案、八十九〕。

【余爽】29ヨサウ 宋の人。卞の弟。字は荀龍。官は校書郎。元豐の初、詔に應じて便宜十五事を上る。元祐の末、太皇太后の政事を還さんことを極言して章惇の怒に觸れ、謗訕に坐して封州に竄せられ、崇寧中、黨籍に入る。〔宋史、二百三十三〕・〔宋史新編、一百十〕・〔宋元學案、九十六〕。

【余珊】30ヨサン 明、桐城の人。字は德輝。正德の進士。中官の奸を發いて安陸の通判に謫せらる。後、梅花峒の賊を討平して四川兵備副使に遷り、嘉靖中、十漸を陳べ、四川按察使に至る。〔明史、二百八〕・〔萬斯同明史、二百八十六〕・〔明史稿、一百九十二〕。

【余志】31ヨシ 明、建寧の人。字は志學。天順の進士。官は刑部主事・石阡府長官。著に橋門・秋臺などの集がある。〔本朝分省人物攷、七十四〕。

【余集】32ヨシフ 清、仁和の人。字は蓉裳。號は秋室、秋石)。乾隆の進士。官は侍講學士。畫に巧。著に秋室詩鈔がある。〔清史稿、五百九〕・〔清史列傳、七十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十〕。

【余車】33ヨシヤ てごし。輦。〔周禮、地官、鄉師、正二治其徒役與一其輦輦一、注〕司馬法曰、夏后氏、謂レ輦曰二余車一、殷曰二胡奴車一、周曰二輜輦一。〔海錄碎事、服用、車〕夏名レ輦曰二余車一、殷曰二胡奴車一、周曰二輜車一、不レ知何代去二其輪一。

【余爵】34ジャク 明、禹州の人。字は天有。崇禎の進士。丁啓睿に河南に從つて賊を鄧州に破つたが、後敗れて執へられ、賊を罵つて死す。〔明史、二百九十二〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕。

【余珣】35ジュン ㊀清、常熟の人。字は荀若。號は荊山。畫に巧。㊁清、余美英(118)の一名。

【余深】36シン 宋、羅源の人。元豐の進士。蔣京に諂附し、京の姦謀詭計は深に負ふ所が多い。〔宋史、三百五十二〕・〔宋史新編、一百二十一〕。

【余縉】37シン 清、諸暨の人。字は仲紳。號は浣公。順治の進士。官は河南道御史。書室を大觀堂といふ。著に大觀堂集がある。〔清史稿、二百八十八〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十三〕・〔碑傳集、五十三〕。

【余省】38ヨセイ 清の人。珣の子。字は曾三。號は魯亭。內庭に供奉し、畫に巧。〔清史稿、五百九〕・〔清畫家詩史、丙、下〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、九〕。

【余靖】39セイ 宋、曲江の人。字は安道。號は武溪。諡は襄。官は右正言に至り、范仲淹の謫官の事を論じて、伊洛・歐陽脩と共に貶せられ、却つて益〻名を知られ、歐陽脩・蔡襄・王素と共に、世に四諫と稱せらる。又、三たび契丹に使し、工部尚書となる。著に武溪集がある。〔宋史、三百二十〕・〔宋史新編、一百二〕・〔東都事略、七十五〕・〔隆平集、十四〕・〔名臣碑傳琬琰集、上、二十三〕・〔五朝名臣言行錄、九〕。

【余韶】40セウ 宋、龍溪の人。字は道夫。號は東湖居士。書室を棲靜堂といふ。隱居して仕へず。著に棲靜堂集がある。

【余詮】41セン 明、吉安の人。洪武の初、明經老成を以て薦められ、顧問を賜ひ、文華殿大學士に除せられたが、老疾を以て固辭した。〔明史、一百三十七〕。

【余泰】42タイ 明、將樂の人。成化の擧人。官は興寧縣の長官。著に春菴集がある。〔蘭臺法鑒錄、十〕。

【余穉】43チヨ 清の人。省の弟。字は南州。官は內庭供奉。畫に巧。

【余忠】44チユウ 宋、宜興の人。字は行老。熙寧中、進士第一。〔尙友錄、三〕。

【余庭】45テイ 明、蘄州の人。時と合はず、耕耨して自ら食ひ、常に田野の間に長歌し、自ら三槐山人と號す。〔蘄州志〕。

【余禎】46ヨテイ 明、奉新の人。字は興邦。嘉靖の初、兵部主事となり、闕に伏して大禮のことを爭ひ、廷杖せられて死す。穆宗卽位の後、光祿少卿を贈らる。〔明史、一百九十二〕・〔萬斯同明史、二百七十八〕・〔明史稿、一百八十九〕。

【余喆】47テツ 宋、龍溪の人。字は若蒙。淳熙の進士。官は通直郎。嘗て上書して韓侂胄の罪狀を論じ、又、邊事を極論して和議の非を力闢す。著に皇朝職志・高宗政範・古鑑錄・資時十論・天門類例・括象志・周禮解・禹貢攷・春秋地理增釋・五音姓譜がある。〔慶元黨禁〕・〔萬姓統譜〕。

【余瑱】48テン 明、合肥の人。謝貴と謀つて靖難の師を拒ぎ、貴の死後、居庸關に走り、兵を練つて北平を襲はんとしたが、成祖に執へられて節に死す。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十三〕。

【余田】49リク ㊀越前國の地名。㊁姓氏。〔姓林全書〕。

【余甸】50デン 清、福清の人。字は田生。康熙の進士。官は順天府丞。吏治に精通す。文章・書法は、當時隨一の名があつた。〔清史稿、三百六〕・〔國朝先正事略、十四〕。

【余輩】51ハイ われら。

【余旻】52ビン 清、上元の人。字は秋農。貢生。著に羣玉山房詞がある。

【余福】53フク 明、惠安の人。字は萬祥。永樂中、進士を以て行人の官となり、交州に使し、隆附を慰撫す。後、帝が北京に幸するや、南都を巡り、權要を劾して罪を得たが、帝に懇へて赦さる。〔泉州府志〕。

【余丙】54ヘイ ㊀元、遂安の人。孝子。幼時、母を喪ひ、泣血して疾を成す。父が死んで葬るに忍びず、廬を古山に結んだ。一夕、野火が殯廬に延燒せんとしたので、丙は其の子と共に、これを撲ち消さうとして火中に投じたが、會〻暴雨にあつて父子俱に全きを得た。〔元史、一百九十七〕。㊁清、禹州の人。字は敬捷。著に學宮輯略がある。

【余卞】55ベン 宋の人。良肱の子。字は洪範。平蠻の功を以て奉議郎となる。使を湖北に奉じ、五溪蠻の叛くに會ひ、死士を選んで、間道から賊の背後に出でて之を破る。〔宋史、三百三十三〕・〔宋史新編、一百十〕・〔宋元學案、九十六〕。

【余本】56ホン 明、鄞の人。字は子華。號は守愚子。正德の進士。官は廣東提學副使。後、南京通政。著に皇極釋義・禮記拾遺・周禮考誤・春秋傳義・孝經刊誤等がある。〔萬斯同明史、二百五十五〕・〔國朝獻徵錄、六十七〕・〔明名臣言行錄、五十一〕・〔國朝列卿記、八十三〕・〔本朝分省人物攷、四十八〕。

【余淼】57ホン 清、青神の人。字は生生。號は鈍菴。明末の貢生。明が亡びるや、兵を起し流賊を殺したが克たず、江南に逃る。鄞の西湖に寓居し、其の居を借鑑樓といふ。又、書室を增益軒といふ。著に增益軒詩草がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十九〕。

【余們】58 yü² men 我等。我們(5—11545‥59)に同じ。

【余棗】59リツ 宋、溧水の人。字は祇若。崇寧中、上舍を以て進士の第を賜はる。官は兵部尚書。後、流古殿學士を以て江寧府に知たり。一に兪棗に作る。〔宋史、三百五十四〕・〔宋史新編、一百十八〕。

【余濂】60レン 明、都昌の人。字は宗周。弘治の進士。官は御史・遼東巡按。事を以て雲南布政司に謫せられ、武宗の時、雲南副使となる。〔明史、一百八十〕・〔萬斯同明史、二百四十七〕・〔明史稿、一百六十九〕。

【告レ余】61ツゲニ 吾につげる。〔楚辭、離騷〕鸞皇爲レ余先戒兮、雷師告レ余以未具。〔陶潛、歸去來辭〕農人告レ余以二春及一、將レ有二事於西疇一。

【遯レ余】62ワレヲサク 吾を避けて遠ざかる。〔韓詩外傳、十〕齊桓公出游、遇二一丈夫一、裒衣應步、帶著二

桃殳一桓公怪而問レ之曰、是何名、何經所レ在、何篇所レ居、何以斥逐、何以避レ余。

【負レ余】63ソムク 我が意志にそむく。〔韓愈、藍田縣丞廳壁記〕丞哉丞哉、余不レ負レ丞、而丞負レ余。

【名レ余】64ナヅク 吾に名を附ける。〔楚辭、離騷〕名レ余曰二正則一兮、字レ余曰二靈均一。

【余安行】65アンカウ 宋、德興の人。字は勉仲。號は月石老人(石月老人)。紹興中、上書して事を言ひて斥けらる。讀書して道を樂しみ、春秋新傳を作りて其の意を寄す。李綱、之が序を爲る。〔尚友錄、二〕。

【余一元】66イチゲン 清、山海衞の人。字は占一。號は潛滄。順治の進士。官は禮部郎中。著に潛滄集がある。〔四庫提要、一百八十一〕。

【余允文】67インブン 宋、建安の人。字は隱之。正學を精研す。司馬光が疑孟を作り、李覯・鄭原が常語及び藝圃折衷を著して、皆、孟子を毀る詞があつたので、尊孟辯三十餘條を作つて之を闢く。〔尚友錄、二〕。

【余胤緒】68ヨインショ 明、應城の人。字は思孝。嘉靖の進士。官は吏部考功郎。後、戶部侍郎。聖賢の學に篤く、門人、愼修先生と私謚す。〔國朝獻徵錄、六十八〕・〔國朝列卿記、九十二・一百五十一・一百五十三〕・〔本朝分省人物攷、七十八〕。

【余曰德】69エツトク 明、南昌の人。初名は應擧。字は德甫。嘉靖の進士。官は福建按察副使。著に余德甫集がある。〔明史、二百八十七〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十八〕。

【余應桂】70ヨウケイ 明、都昌の人。字は二磯。萬曆の進士。官は御史。周延儒を劾して貶秩せられ、後、流賊の難に赴き、力戰して死す。〔明史、二百六十一〕・〔萬斯同明史、三百六十一〕・〔明史稿、二百四十一〕。

【余昂霄】71カウセウ 清、仁和の人。字は松巖。號は紹堂。乾隆の擧人。官は密縣の長官・歸安教諭。書を好み、吟詠に巧。〔清畫家詩史、丁、上〕・〔墨香居畫識、五〕。

【余覺華】72カククワ 元、建安の人。字は榮甫。著に修眞捷徑がある。〔四庫提要、一百四十七〕。

【余漢謀】73ヨカンボウ 民國、廣東省高要縣の人。字は握奇。行伍より出身して夙に廣東軍に入り、廣東の獨立を宣するや、第一集團軍第一軍長となり、南京・廣東兩政府妥協後、國民黨第四次中央執行委員に任ぜらる。民國二十五年、陸軍中將となり、第四路軍總司令として廣東に駐防し、次いで廣東綏靖主任となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【余芑舒】74キシヨ 宋の人。秀芳の子。號は息齋。朱熹の學を治め、每日讀書の餘暇には襟を正して端坐した。著に讀蔡書傳疑・書傳解・易解・讀孝經刊誤・息齋集がある。〔宋季忠義錄、十六〕・〔宋元學案、八十九〕。

【余季芳】75キハウ 宋、德興の人。字は子初。淳祐の進士。官は九江司法。朱子の學を昌明し、弟子、桃谷先生と稱す。著に桃谷尚書義・桃谷集がある。〔宋元學案、八十九〕。

【余化淳】76クワジユン 明、將樂の人。字は元卿。萬曆の擧人。官は澧州の長官。後、湖州に移る。〔延平府志〕。

【余光耿】77クワウカウ 清、婺源の人。字は觀文。書室を一漉堂といふ。父の懋衡が明末に黨禍に遭つたので、光耿は少くして孤苦し、往往塡詞に託して自ら遣る。著に一漉堂詩集・蓼花詞がある。〔四庫提要、一百八十三〕。

【余繼登】78ヨケイトウ 明、交河の人。字は世用。謚は文恪。號は雲衢。萬曆の進士。官は禮部侍郎。平居寡言であつたが、事に當つては侃々の正論を吐いた。著に典故紀聞・淡然軒集がある。〔明史、二百十六〕・〔萬斯同明史、三百十七〕・〔明史稿、二百三〕。

【余堯臣】79ゲウシン 明、永嘉の人。字は唐卿。元末、吳中に寓居し、高啓・王行等と共に十才子と稱せらる。初、張士誠の客となつたが、士誠の敗れるや濠梁に徙る。洪武の初、放還せられて新鄭丞を授けらる。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【余謙一】80ケンイツ 宋、莆田の人。字は子同。咸淳の進士。官は化州の知。元に入りて仕へず、著述甚だ多し。〔宋季忠義錄、十五〕。

【余元一】81ヨゲンイツ 宋、仙遊の人。字は景思。朱熹の門人。官は同安縣の長官・池州通判。〔宋元學案、四十八・四十九〕。

【余元甲】82ヨゲンカフ 清、江都の人。字は茁村、又、柏巖。號は葭白。雍正の諸生。乾隆の初、鴻博に薦められしも就かず。詩に巧。書室を濡雪堂といふ。著に濡雪堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十三〕。

【余元遴】83ゲンリン 清、婺源の人。字は秀書、又、藥齋。學を好む。家貧しく、縣學生に補せられ、汪紱に學ぶ。紱の沒するや、其の遺書數百卷を寫して、學使朱筠に上る。家居、教授して終はる。著に庸言、及び詩文集がある。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百九〕・〔碑傳集、一百二十九〕。

【余彥誠】84ヨゲンセイ 明、德興の人。官は洪武の時、安陸州の長官。徵稅の期を愆つて逮捕せられんとしたが、州の父老の乞ひに因つて免る。後、永州守・河東鹽運使となる。〔明史、二百八十一〕・〔萬斯同明史、三百八十九〕。

【余克濟】85ヨコクサイ 宋、安溪の人。字は叔濟。慶元の進士。官は梅州の長官。其の學、春秋に邃く、著に通解十五卷がある。〔尚友錄、三〕。

【余國柱】86ヨコクチユウ 清、大冶の人。順治の進士。官は康熙の間、武英殿大學士。黨を結んで賄を納れ、郭琇に劾せられて職を奪はる。〔清史稿、二百七十五〕・〔清史列傳、八〕。

【余國楨】87ヨコクテイ 清、遂安の人。字は瑞人。別號は劬菴。明、崇禎の進士。官は富順縣の長官。著に見聞記憶錄がある。〔四庫提要、一百二十八〕。

【余際昌】88ヨサイシヤウ 清、穀城の人。謚は威毅。咸豐の初、湖北・安徽に轉戰して屢〻戰功あり。同治の間、捻を河南に攻む。官は河北鎭總兵。伏に遇つて戰死す。〔清史稿、四百三十五〕・〔清史列傳、五十一〕。

【余士瑞】89ジシヤウ 明、黃岡の人。字は季美。崇禎の進士。官は九江府推官。左良玉の叛亂に死す。〔黃岡縣志〕。

【余子錦】90ヨシキン 清、辰谿の人。字は陶石。順治の貢生。米元偁・劉恂・劉澤長と共に辰谿の四才子と稱せらる。吟咏を好み、草書を善くし、古文に巧。書室を敬志堂といふ。著に敬志堂集がある。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕。

【余子俊】91ヨシシユン 明、青神の人。字は士英。謚は肅敏。景泰の進士。戶部に官し廉幹であつた。孝宗の時、兵部尚書となる。〔明史、一百七十八〕・〔萬斯同明史、二百二十九〕・〔明史稿、一百六十一〕。

【余日強】92ヨジツキヤウ 元の人。其の先は古田の人。後、崑山に居る。字は伯莊。號は淵默叟。著に尚書補注・淵默叟集がある。〔元詩選小傳〕。

【余日華】93ヨジツクワ 宋、仙遊の人。字は君實。嘉泰の進士。官は潮陽縣の長官。詩史を嗜み、文翰に巧。居所の擷英閣に藏書が萬卷あり、著に兒齋文集・凌江唱和集がある。

【余日新】94ヨジツシン 明、龍游の人。字は君又。崇禎の進士。官は太僕卿。〔浙江通志〕。

【余常安】95ジヤウアン 唐、衢州の人。父の叔皆が里人に殺されたので、憲宗の時、年十七で復仇した。〔唐書、一百九十五〕。

【余汝庸】96ジヨヨウ 清、德清の人。字は啓愚。官は戶部員外郎。後、道士となり、均州の武當山に遷去す。

【余崇龜】97スウキ 宋、仙遊の人。字は景望。淳熙の進士。官は兵部侍郎。〔僊遊縣志〕。

【余世本】98ヨセイホン 清、攸縣の人。字は立齋。乾隆の拔貢。宋儒の學を修めて倫理に篤かつた。所居を守事山房といふ。玉潭・三江・玉溪書院の講席を歷主し、學者、五雲先生と稱す。〔國朝耆獻類徵、四百十一〕。

【余正健】99セイケン 清、古田の人。字は乾行。康熙の進士。官は國子監祭酒。後、副都御史。

【余正元】100ヨセイゲン 清、睢陽衞の人。字は居環。號は雪厓老人、又、中山。明の崇禎の進士。官は直隸清河縣の長官。清になつてからは仕へなかつた。著に詩集がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十〕・〔國朝畫家筆錄、一〕・〔國朝畫識、一〕。

【余齊民】101セイミン 南朝宋、晉陵の人。孝子。〔宋書、九十一〕・〔南史、七十三〕。

【余紹祉】102セウシ 明、婺源の人。字は子疇。號は凝菴居士。書室を晩聞堂といふ。著に詩草・賦

草・山居瑣談・元丘素話・言道日錄等がある。

【余蕭客】103 ヨセウカク 清、長州の人。字は仲林。號は古農。年十五で九經に通じ、異書あるを聞けば必ずこれを鈔錄す。惠棟に就いて學ぶ。嘗て雅別鈔を輯注し、王應麟・顧炎武と共に其の學を稱せらる。乾隆の間、布衣を以て終はる。撰する所の古經解鉤沈は尤も有名である。其の外、著に文選雜題・文選音義・選音樓詩拾等がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔國朝耆獻類徵、四百十九〕・〔碑傳集、一百三十三〕・〔國朝先正事略、三十六〕。

【余祚徵】104 ヨソチヨウ 明、永豐の人。字は符之。號は文齋。諡は忠貞。崇禎中、會試の副榜となる。官は鳳陽府推官。應天府丞を贈らる。著に文齋文集がある。〔四庫提要、一百八十〕。

【余祖奭】105 ヨソセキ 宋、莆田の人。字は景召。元符の進士。官は南恩州の長官。秦檜に忤ひ、辭し歸る。〔莆田縣志〕。

【余增遠】106 ヨソウエン 清、會稽の人。字は謙貞、又、若水。明の崇禎の進士。官は寶應縣の長官。致仕して山中に遁逃し、高隱を以て終る。〔清史稿、五百六〕・〔國朝先正事略、四十五〕。

【余大雅】107 ヨタイガ 宋の人。良弼の子。朱熹に從學して名を成す。〔宋元學案、六十九・七十〕。

【余泰符】108 ヨタイフ 宋の人。字は慶會。官は都督府帥官。國變の後、家に終はる。〔萬姓統譜〕。

【余端禮】109 ヨタンレイ 宋、龍游の人。字は處恭。諡は忠肅。官は孝宗の時、同知樞密院事、寧宗の時、知樞密院事兼參知政事。〔宋史、三百九十八〕・〔宋史新編、一百十六〕・〔南宋書、四十〕。

【余仲敬】110 ヨチユウケイ 宋の人。芑舒の孫。號は靜學。朱熹の學を傳ふ。著に讀書目錄・靜學先生文集がある。〔宋元學案、八十九〕。

【余廷燦】111 ヨテイサン 清、長沙の人。字は卿雯。號は存吾。乾隆の進士。官は檢討・三通館纂修。天文・律曆・句股・六書の學に精通す。著に存吾文集がある。〔清史列傳、六十八〕・〔國朝先正事略、四十〕。

【余廷瓚】112 ヨテイサン 明、鄱陽の人。字は伯獻。諡は忠愍。正德の進士。官は行人副司。事に坐して下獄し、杖せられて死す。〔明史、一百八十九〕・〔萬斯同明史、二百六十二〕・〔明史稿、一百七十四〕。

【余天錫】113 ヨテンセキ 宋、昌國の人。字は純父。諡は忠惠。丞相史彌遠の命により、理宗を得て沂王の後を嗣がしむ。官は理宗の時、參知政事・觀文殿學士。〔宋史、四百十九〕・〔宋史新編、一百五十三〕・〔南宋書、四十九〕。

【余都姑】114 ヨトコ 遼、耶律余覩（**9－29008・・138**）の一名。

【余發林】115 ヨハツリン 宋、古田の人。字は希董。咸淳の進士。官は崇安縣尉。著に愛梅集がある。〔福建通志〕。

【余藩卿】116 ヨハンケイ 明の人。紹祉の子。字は翰臣。明の亡びるや、諸生を棄て、情を山水に寄せること三十年。書室を天經堂といふ。著に家居四禮・天經堂文集・頑石居詩集がある。

【余萬言】117 ヨバンゲン 清、江寧の道士。號は秋霞。蘭・菊などの畫に巧。

【余美英】118 ヨビエイ 清、錢塘の人。一名、珣。字は璈伯。著に遜代陽秋がある。〔四庫提要、五十四〕。

【余文植】119 ヨブンシヨク 清、吳縣の人。字は樹人。號は侶梅。鑒識を善くし、金石を嗜む。又、詩及び畫に巧。

【余文本】120 ヨブンホン 清、吳縣の人。字は仁山。號は友芝。畫に巧に、醫に精し。〔聖朝名畫評、十〕。

【余文龍】121 ヨブンリヨウ 明、古田の人。字は起潛。萬曆の進士。官は南京工部主事。著に史臠がある。〔四庫提要、六十五〕。

【余逢辰】122 ヨホウシン 明、宣城の人。字は彥章。官は燕王府伴讀。〔明史、一百四十二〕・〔萬斯同明史、一百八十四〕・〔明史稿、一百三十三〕。

【余鵬翀】123 ヨホウチユウ 清の人。鵬年の弟。字は少雲。號は息六齋。諸生。一統志の編修に參與して痛く勘訂を加へた。詩詞及び畫に巧。著に韓文公文集編年考・喪大禮考・息六齋文集・詞曲遺稿がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十六〕。

【余鵬年】124 ヨホウネン 清、懷寧の人。初名は鵬飛。字は伯扶。號は枳六軒。乾隆の擧人。弟の鵬翀と倶に才名があり、詩畫に巧。書室を夢牋書屋といふ。著に飲江光閣詩鈔・夢牋書屋詞がある。〔清畫家詩史、戊、上〕。

【余鵬飛】125 ヨホウヒ 余鵬年を見よ。

【余懋衡】126 ヨボウコウ 明、婺源の人。字は持國。萬曆の進士。官は南吏部尚書。著に語錄・經翼・關中集等がある。〔明史、二百三十二〕・〔萬斯同明史、二百三十六〕・〔明史稿、二百二十六〕。

【余懋學】127 ヨボウガク 明、婺源の人。字は行之。追諡は恭穆。隆慶の進士。官は萬曆の初年、給事中、張居正に忤つて斥けられたが、後、南戶部侍郎となり、天啓の節を以て稱せらる。著に說頤がある。〔明史、二百三十五〕・〔萬斯同明史、三百二十四〕・〔明史稿、二百十一〕。

【余懋杞】128 ヨボウキ 清、諸暨の人。字は瞿菴。康熙の擧人。官は內閣中書。書室を東武山房といふ。著に東武山房文集がある。

【余懋孳】129 ヨボウジ 明、婺源の人。字は舜仲。萬曆の進士。官は給事中。著に荑言がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

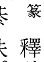
【余良肱】130 ヨリヤウコウ 宋、洪州の人。字は康臣。官は虔・明・潤・宣諸州の長官。治績江東第一と稱せらる。〔宋史、三百三十三〕。

【余良弼】131 ヨリヤウヒツ 宋、順昌の人。字は巖起。建炎の進士。官は直祕閣。藏書萬卷。著に龍山文集がある。〔延平府志〕。

【余聯沅】132 ヨレンゲン 清、孝感の人。字は搢珊。光緒の進士。官は蘇松太道・浙江巡撫。〔清史列傳、六十二〕。

【余髮種種】133 ヨハツシユジユ 老人が自らをいふ辭。〔書言故事、壽考類〕老人自稱曰㆓余髮種種㆒。

【佚】516


小篆

㊀イツ イチ 〔集韻〕弋質切 質。

㊁テツ デチ 〔韻會〕徒結切 屑。

㊀❶**やすんじたのしむ。**〔廣雅、釋詁一〕佚、樂也。〔荀子、王霸〕心欲㆑綦㆑佚。〔注〕佚、安樂也。〔荀子、性惡〕骨體膚理、好㆓愉佚㆒。〔注〕佚、猶㆑逸也。❷**うつくしい。なまめかしい。**眣（**8－23245**）に通ず。〔說文通訓定聲〕佚、叚借爲㆑眣。〔楚辭、離騷〕見㆓有娀之佚女㆒。〔注〕佚、美也。❸**みだら。**泆（**6－17271**）に通ず。〔方言、六〕佚、婬也。〔一切經音義、五〕蒼頡曰、佚、蕩也。〔說文通訓定聲〕佚、叚借爲㆑泆。〔漢書、刑法志〕男女淫佚。〔一切經音義、二十三〕佚、古文泆同。❹**世をのがれた人。**〔說文〕佚、佚民也、从㆑人失聲。〔說文通訓定聲〕按、佚民者、獨樂㆓其身㆒之民也。❺**かくれる。のがれる。**逸（**11－38951**）に通ず。〔說文通訓定聲〕佚、叚借爲㆑逸。〔正字通〕佚、隱遁也。〔公羊、成二〕佚㆑獲也。〔注〕已獲而逃亡也。〔荀子、宥坐〕身不㆑佚者志不㆑廣。〔注〕佚、與㆑逸同、逸、謂㆓奔竄㆒也。❻**ゆるがせにする。又、すてる。わすれる。**詄（**10－35352**）に通ず。〔說文〕佚、一曰、佚、忽也。〔說文通訓定聲〕佚、叚借爲㆑詄、云云、孟子遺佚而不㆑怨、按、忘也。〔孟子、公孫丑上〕遺佚而不㆑怨。〔集注〕遺佚、放棄也。❼**やりそこなひ。過失。**失（**3－5844**）に通ず。〔說文通訓定聲〕佚、叚借爲㆑失。〔書、盤庚上〕惟予一人、有㆓佚罰㆒。〔傳〕佚、失也、是己失㆑政之罰、罪㆑己之義。❽**失ふ。**〔書、君奭〕遏㆓佚前人光㆒。〔傳〕絕㆓失先王光大之道㆒。❾**ひく。**〔荀子、性惡〕佚㆑之以㆑繩。〔注〕佚猶㆑引也。❿**行列。**佾（**1－572**）に通ず。〔揚雄、蜀都賦〕其佚則接㆑芬錯㆑芳。〔注〕佚猶㆑佾、行列也。⓫軼（**10－38275**）に通ず。〔鮑照、蕪城賦〕佚㆓周令㆒。〔注〕佚、與㆑軼通。⓬妷（**3－6135**）に通ず。〔一切經音義、三〕古文佚、今作㆑妷。〔楚辭、離騷〕見㆓有娀之佚女㆒。〔集注〕佚、一作㆑妷。⓭**姓。**〔姓譜〕

周史佚之後。㊁㊀ゆるい。おほまか。〔方言、六〕佚、緩也。㊁たがひに。迭(11－38800)に通ず。〔說文通訓定聲〕佚、段借爲レ迭。〔方言、三〕佚、代也、齊曰レ佚。〔正字通〕佚、與レ迭通、更也、遞也。〔穀梁、文、十二〕佚二宕中國一。〔注〕佚、猶レ更也。〔史記、十二諸侯年表〕四國佚興。

【佚游】1 イツイウ 氣ままにあそぶこと。佚遊に同じ。〔漢書、杜欽傳〕防二奢泰一、去二佚游一。〔晉書、愍懷太子傳論〕躭二苑囿之佚游一。

【佚遊】2 イツイウ 氣ままにあそぶこと。漫遊。逸遊。佚游。〔論語、季氏〕樂二驕樂一、樂二佚遊一。〔集解〕王肅曰、佚遊、出入不レ節。〔集注〕佚遊、則惰慢、惡レ聞レ善。

【佚居】3 イツキヨ あそびくらすこと。のんきにくらすこと。逸居。〔弘道館記述義、下〕夫四民之在レ世、各任二其業一、服二其勤一、未レ有二佚居而素餐者一。

【佚獲】4 イツクワク 已にとらへられて逃亡すること。〔公羊、成、二〕佚レ獲也、其佚レ獲奈何。〔注〕佚レ獲者、已獲而逃亡也。

【佚忽】5 イツコツ なまけてゆるがせにする。〔論衡、別通〕不肖者、輕慢佚忽、無二原察之意一。

【佚政】6 イツセイ 安逸な政治。逸政。〔三略、下略〕佚政多二忠臣一。

【佚惰】7 イツダ なまけ怠る。逸惰。

【佚怠】8 イツタイ なまけ怠る。〔晏子、諫、下〕今君處二佚怠一、逆政害レ民、有レ日矣、而猶出二若言一、不二亦甚一乎。

【佚宕】9 テツタウ ㊀こもごも害をなす。佚は迭。宕は害。〔穀梁、文、十二〕弟兄三人、佚二宕中國一。〔注〕佚、猶レ更也。〔釋文〕佚宕、大結反、更也、害、本又作レ宕。㊁しまりがない。おほまか。跌宕。佚蕩。〔梁簡文帝、玄虛公子賦〕心溶二溶於玄境一、意飄二飄於白雲一、追二寂圃一而逍遙、任二文林一而佚宕。

【佚愓】11 テツタウ おほまか。佚蕩に同じ。〔方言、六〕佚愓、緩也。

【佚蕩】12 テツタウ おほまか。しまりがない。だらしがない。跌蕩。軼蕩。佚宕。佚婸。佚愓。〔莊子、天地〕數如二泆蕩一、釋文〕司馬本作二佚蕩一、亦言、其往來、數疾如二佚蕩一、佚蕩、唐佚也。〔漢書、揚雄傳上〕爲レ人簡易佚蕩。〔注〕晉灼曰、佚蕩、緩也。

【佚道】13 イツダウ 民をらくにさせるやり方。〔孟子、盡心上〕以二佚道一使レ民、雖レ勞不レ怨。〔集注〕程子曰、以二佚道一使レ民、謂二本欲レ佚レ之也。

【佚女】14 イツヂヨ ㊀美人。美女。〔楚辭、離騷〕望二瑤臺之偃蹇一兮、見二有娀之佚女一。〔注〕佚、美也。㊁婬奔な女。婬女。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕有二佚女・私倡一、令三方甲嚴行二驅逐一。

【佚亭】15 イツテイ 淸、嚴繩孫(2－4589・・291)の號。

【佚畋】16 イツデン あそび樂しんで狩をする。遊獵。〔楚辭、離騷〕羿淫遊以佚畋兮。〔注〕畋、獵也、一作レ田。

【佚特】17 イツトク 牡馬の血氣を安んぜしめ、時期には淫を通ずること。〔周禮、夏官、庾人〕庾人掌二十有二閑之政教一、以阜レ馬佚レ特、教レ駣攻レ駒。〔義疏〕鄭氏鍔曰、一特三牝、所二以阜一レ之也、安二其血氣一、以レ時通レ淫、所二以佚一レ之也。

【佚馬】18 イツバツ 勞を厭つて逃げる馬。〔韓詩外傳、二〕舜不レ窮二其民一、造父不レ極二其馬一、是以舜無二佚民一、造父無二佚馬一。〔孔子家語、顏回〕造父無二佚馬一。

【佚飽】19 イツパウ やすらかで食に飽く。〔司馬法、定爵〕馬牛車兵佚飽、力也。

【佚貌】20 イツバウ 衆にすぐれた容貌。〔長生殿、彈詞〕那娘娘、生得來、仙姿佚貌。

【佚罰】21 イツバツ 政治を取り失つた罰。佚は失。又、罰すべきものを罰しそこなふこと。〔書、盤庚上〕惟予一人、有二佚罰一。〔傳〕佚、失也、是己失レ政之罰、罪レ己之義。〔蔡傳〕惟我一人、失レ罰二其所一レ當レ罰也。

【佚文】22 イツブン ㊀脫文。逸文(11－38951・・125)に同じ。㊁論衡の篇名。

【佚民】23 イツミン 怠けてゐる民。又、世をのがれた人。隱者。逸民。〔韓詩外傳、二〕舜不レ窮二其民一、造父不レ極二其馬一、是以舜無二佚民一、造父無二佚馬一。〔漢書、梅福傳〕佚民不レ擧。〔注〕師古曰、佚、與レ逸同也。〔孔子家語、顏回〕無二佚民一。

【佚豫】24 イツヨ やすんじたのしむ。〔玉篇〕佚、佚豫也。〔漢書、杜欽傳〕誡不レ可下以二佚豫一爲上、不レ可下以二奢泰一持上也。〔王褒、洞簫賦〕佚豫以沸愲。

【佚欲】25 イツヨク みだらな欲望。〔管子、樞言〕人主好二佚欲一、亡二其身一、失二其國一者、殆。

【佚老】26 イツラウ ㊀世を遁れた老人。〔蘇軾、郭熙畫秋山平遠詩〕伊川佚老鬢如レ霜、臥看二秋山一思二洛陽一。〔周必大、次二楊廷秀一詩〕何如佚老及二平原一。㊁老人を安んじさせる。〔宋史、職官志十〕宋制、設二祠祿之官一、以佚レ老優レ賢。

〔佚老人〕27 イツラウジン 淸、顧大信(12－43689・・317)の號。

【佚樂】28 イツラク あそびたのしむ。逸樂。〔列子、說符〕有道者之妻子、皆得二佚樂一。〔韓非子、外儲說右下〕有二術以御一レ之、身處二佚樂之地一、又致二帝王之功一也。〔呂覽、長利〕名顯榮、實佚樂。〔管子、牧民〕民惡二憂勞一我佚二樂之一。〔史記、李將軍傳〕不識曰、李廣極簡易、然虜卒犯レ之、無二以禁一也、而其士卒亦佚樂、咸樂爲レ之死。

【佚亂】29 イツラン なまけみだれる。〔新語、道基〕檢二奸邪一、消二佚亂一。

【佚力】30 イツリヨク 休んで居つて蓄へた力。〔商子、兵守〕以二佚力一與二罷力一戰。

【以レ佚待レ勞】31 イツヲモツテラウヲマツ 安佚の狀態に居つて、敵の疲勞を待ち受ける。謀の上乘なるもの。佚力(30)を見よ。〔孫子、軍爭〕以レ近待レ遠、以レ佚待レ勞、以レ飽待レ飢、此治レ力者也。

【佛】517

小篆

㊀ フツ ブチ 〔集韻〕符勿切 ㄈㄛˊ fo² 物

㊁ ホツ ボチ 〔集韻〕薄沒切 ㄈㄨˊ fu² 月

㊂ ヒツ ビチ 〔集韻〕薄宓切 質

慣 ブツ

㊀㊀**ほのか。見て審かでない。**〔說文〕佛、見不レ審也。从レ人弗聲。〔正字通〕仿佛、亦作二彷彿一。〔揚雄、甘泉賦〕仿佛其若レ夢。㊁**もとる。たがふ。さからふ。**拂(**5－11936**)に通ず。〔說文通訓定聲〕佛、段借爲レ拂。〔集韻〕佛、或作レ拂。〔禮、學記〕其求レ之也佛。〔釋文〕佛、本又作レ拂。〔東方朔、非有先生論〕佛二於耳一。〔注〕善曰、字書曰、佛、違也。〔法言、寡見〕佛二乎正一。〔注〕佛、違也。㊂**ねぢる。もとらす。**〔禮、曲禮上〕獻レ鳥者、佛二其首一。〔注〕佛、戾也。㊃**やすからぬさま。**佛鬱(5)を見よ。㊄**おほきい。**〔集韻〕佛、大也。〔詩、周頌、敬之〕佛二時仔肩一、示二我顯德行一。〔傳〕佛、大也。〔釋文〕佛、符弗反。㊅古は㑂(**1－526**)・仏(**1－364**)に作る。〔正字通〕仏、古文佛。〔字彙補〕㑂、古文佛。㊆**姓。**〔姓氏尋源〕魯之茀肸、論語作二佛肸一、佛姓宜レ出レ是、又或出二佛圖氏一。㊇現フランスの貨幣の名。佛郞の略。佛郞(189)の㊁を見よ。㊈佛**ほとけ。**㋑梵語 Buddha の音譯。覺者の意。佛陀(126)の㊀をいふ。覺行圓滿な人格の稱。佛教の教祖釋迦牟尼の稱。〔後漢書、楚王英傳〕爲二浮屠齋戒祭祀一。〔注〕佛者、漢言レ覺也、將三以覺二悟羣生一也。〔後漢書、西域傳〕西方有レ神、名曰レ佛。〔韓愈、論二佛骨一表〕夫佛、本夷狄之人。㋺ほとけのみち。佛教。釋迦牟尼を教祖として、成佛得脫を說き、自覺覺他を理想とする教法。〔韓愈、論二佛骨一表〕佛者夷狄之一法耳。㋩ほとけの形。佛像。〔南史、張暢傳〕燒レ臂照レ佛。㊁慈悲深い人。〔呂氏家塾記〕宋余崇守二九江一、秋不レ雨、擧家蔬食、爲レ民禱祈而雨、遂有レ秋、民擧レ手加レ額、呼レ余爲レ佛。㋭柔和な人。お

人よし。佛處士(211)を見よ。㊁**顔色をかへる。けしきばむ。又、おこる。興起のさま。** 勃(9－2351)・艴(9－30606)に通ず。〔集韻〕艴、說文、色艴如也、或作ㇾ佛。〔荀子、非十二子〕佛然平世之俗起焉。〔注〕佛、讀爲ㇾ勃。㊂●**たすける。** 弼(4－9826)に通ず。〔集韻〕弼、說文、輔也、隸作ㇾ弼、通作ㇾ佛。〔詩、周頌、敬之〕佛ニ時仔肩一、示ニ我顯德行一。〔箋〕佛、輔也。〔釋文〕佛、鄭音弼。〔集傳〕佛、弼通。㊃●佛仡は勇壯のさま。〔集韻〕佛、佛仡、勇壯。㊄●死去した人。●佛蘭西國の略稱。

【佛菴】1ブツ 清、童鈺(8－25775‥71)の字。

【佛印】2イン ●㊀諸法實相は諸佛の大道で決定不變であるから、佛印と名づける。印は決定不變の義。〔止觀、二〕有ㇾ解ㇾ此者、成ニ大道一是名ニ佛印一。〔止觀、輔行〕既是實相、故名ニ佛印一。●佛心印の略。●宋の僧。了元(1－226‥20)を見よ。〔續傳燈錄〕。㊃イツ 佛領印度支那の略。

【佛院】3ブツイン 寺院の別稱。〔紅樓夢、五十回〕衣上猶沾ニ佛院苔一。

【佛宇】4ブツ 寺院。〔劇談錄、慈恩寺牡丹〕至ニ于佛宇道觀、遊覽者罕ㇾ不ニ經歷一。

【佛鬱】5ブツウツ うれへてふさがるさま。やすらかでないさま。弗鬱。〔潘岳、笙賦〕中佛鬱以怫憒。〔注〕善曰、字林曰、佛鬱、不ㇾ安貌。

【佛會】6ブツエ ㊀●淨土をいふ。〔般舟讚〕一念之間入ニ佛會一。●佛を禮する會。〔慕容垂、歌〕燒香兆ニ佛會一。

【佛慧】7ブツエ ㊀諸佛のすぐれた慧。無上正覺をいふ。〔法華經、方便品〕如來所ニ以出一爲ㇾ說ニ佛慧一故。〔無量壽經、下〕佛慧無ニ邊際一。

【佛影】8エイ 佛の姿。〔王勃、彭州九隴縣龍懷寺碑〕鶴林聖跡、龍泉佛影。〔裴說、兜率寺詩〕猶居跨ニ鳥道一、佛影照ニ漁潭一。

【佛影蔬】9ブツエイソ 笋(8－25873)の異名。〔廣韻〕藬羅迦羅國島名ㇾ笋曰ニ佛影蔬一。

【佛燄】10フツエン 植物學用語。肉穗花を包被する大形の苞。花萼ともいふ。天南星科・浮萍科等の花序にある。

【佛戒】11ブツカイ 佛道修業者の奉ずる戒律。いましめ。五戒・十戒・五百戒等がある。〔隋書、經籍志四〕依ニ佛戒一剃ㇾ髮爲ㇾ僧。〔梵網經、下〕一切意識色心、是情是心、皆入ニ佛性戒中一。

【佛界】12カイ ㊀十界の一。諸佛の世界。佛の境地。〔梵網經、上〕能轉ニ魔界一入ニ佛界一、佛界入ニ魔界一。〔黃庭堅、顯聖寺庭枸杞詩〕仙苗壽ニ日月一、佛界承ニ露雨一。

【佛海】13ブツカイ ●縣名。民國十八年に置く。雲南省に屬す。本名は猛海。蘇佛山があるから名づけた。●㊀ほとけのみち。佛道を海の廣いことに喩へる。法海。〔探玄記、三〕佛海者、能化之佛、非ㇾ一如ㇾ海。〔梁武帝、金剛般若懺文〕同歸ニ佛海一、得ニ金剛之妙寶一。

【佛海大師】14ブツカイダイシ 字號。●宋、慧遠(4－11116‥8)の號。●元、性澄(4－10478‥58)の號。

【佛崗】15カフツ 縣名。廣東省英德縣の東南。民國、置く。

【佛號】16ブツガウ 佛名會で一萬三千の佛の名號を唱へる聲。又、その佛の名號。〔景德傳燈錄、伽耶舍多〕彼聞ニ佛號一、心神竦然。

【佛閣】17ブツカク てら。浮屠。梵閣。佛刹。〔白居易、月夜登ㇾ閣避ㇾ暑詩〕行行都門外、佛閣正岩嵲。〔楊萬里、宣歙道中詩〕便是昨來ニ千佛閣一。

【佛學】18ブツガク 佛法の學問。〔石林詩話〕晉初爲ニ佛學一者、皆從ニ其師姓一。「に入り。

【佛閒】19ブツカン 佛をまつる室。〔孔常聲、一〕佛閒入ニ佛會一。

【佛鑑】20ブツカン 元、希陵(4－8813‥155)の賜號。

【佛鑑禪師】21ブツカンゼンジ 宋、師範(4－8916‥168)の號。

【佛龕】22ブツガン ●御廚子。其の中に佛像を安置しておくもの。又、佛像を入れる小さな石室。〔雞林志〕龜山有ニ佛龕一、林木益邃、傳云、漢羅三藏、行化至ㇾ此。●山名。佛巖を見よ。

【佛巖】23ブツガン 山名。四川省仁壽縣の東。一名、佛龍山。唐の歐陽詢書の磨崖碑がある。山に三石像があり、虛を背にし、巖に面す。俗に倒坐寺と呼ぶ。

【佛氣】24ギホトケ 慈悲深い心。又、佛性(98)に同じ。

【佛記】25ブツキ 佛の豫言を記した文。〔沈約、佛記序〕含靈萬品、既非ニ記牒所ㇾ窮。〔李嶠、爲ニ絳州刺史孔顗等ニ上獻ㇾ食表〕仰膺ニ佛記一。

【佛器】26ブツキ 佛事用の器具。佛具。

【佛義】27ギブツ 佛法の意義。〔南史、江紑傳〕好ニ莊老玄言一、尤善ニ佛義一。

【佛仡】28ヒツ 勇壯なさま。〔集韻〕佛、佛仡、勇壯。

【佛肹】29キツ ●大きなさま。〔正韻〕肹、佛肹、大貌。●春秋、魯の人。中牟の大夫。中牟によつて叛き、孔子を招いたことがある。〔論語、陽貨〕・〔墨子、非儒〕・〔說苑、立節〕・〔新序、義勇〕。

【佛經】30ブツキヤウ 佛教の經典。琅琊代酔編、卷三十一に見ゆ。〔吳志、劉繇傳、悉課讀ニ佛經一。〔事物紀原、道釋科教部、佛經〕漢明帝永平中、摩騰竺法蘭、以ニ白馬一馱ㇾ經至ニ東都一、即四十二章經、中國之有ニ佛經一、此蓋其始也、鄴城舊事云、永平十年、經像初來也。

【佛境】31ブツキヤウ ㊀佛の境界。佛界。〔華嚴經、二〕諸佛境界不思議、一切法界皆周遍。〔中阿含經、十三〕我今獲ニ此義一、得ㇾ入ニ佛境界一。〔魏書、釋老志〕乃可ㇾ登ニ佛境一矣。

【佛逆】32fo2 ni4 游尺(7－17792‥181)に同じ。

【佛曲】33ブツキヨク 佛家の音曲。〔西河詩話〕佛曲在ニ隋唐一有ㇾ之、不ㇾ始ニ金元一、如ニ唐樂府有ニ普光佛曲一。日光明佛曲等一、今吳門佛寺猶能作ニ梵樂一、每ㇾ唱ニ佛曲一、以ニ簫笛一逐ㇾ之、名ニ清樂一、即其遺意。〔怡情小品〕俚歌雜ニ佛曲一和ㇾ之。

【佛吼】34ブツ 佛の獅子吼。佛の說法。〔無量壽經、上〕佛吼面吼。

【佛供】35ブツ 佛前にそなへる食物。〔枕草紙、四〕ぶつぐのおろし。

【佛供養】36ホトケク 佛をまつること。〔宇治拾遺物語、三〕佛くやうしけり。

【佛具】37ブツ 佛事用の器具。佛器(26)に同じ。〔庭訓往來、七月〕佛具・如意・香爐。

【佛果】38ブツクワ ㊀ほとけに歸依して得るよい報。善い往生。成佛。〔隋煬帝、天台設齋願文〕下度ニ衆生一、上求ニ佛果一。

【佛畫】39ブツグワ 佛教の教理又は佛教史上の事を畫いた繪。

【佛光】40ブツクワウ ●山名。㋑河南省確山縣の東南にある。〔讀史方輿記要、河南、汝寧府、確山縣〕佛光山、在ニ縣東南五十里一、勢極高峻、常有ニ光燄一。〔汝寧府志〕春時天氣晴霽、常現ニ圓光一、初如ニ明鏡一、漸如ニ車輪一。㋺雲南省洱源縣に在る。●佛の光明をいふ。〔讀阿彌陀佛偈〕佛光照耀最第一。

【佛光袴】41ブツクワウコ 色々の色を横に合はせて作つた袴。〔清異錄、衣服、佛光袴〕潞王從ニ珂出馳獵一、從者皆輕零衫佛光袴、佛光者、以ニ雜色一橫合爲ㇾ袴。

【佛光峗】42ブツクワウサイ 峗の名。雲南省鄧川縣の北。洱源縣の佛光山と接す。〔滇志〕初孟獲、自ニ豪豬洞一被ㇾ擒、丞相亮復縱ㇾ之、獲走ニ佛光峗一、據ニ險堅守一、漢兵由ニ漾鼻江一而北、出ニ峗後一破、明初、傅友德等、既平ニ大理一、餘孽普顏篤復叛、據ニ佛光峗一、傅友德、自ニ七星關一回ニ軍大理一破ㇾ之。

【佛光大師】43ブツクワウダイシ 元、志德(4－10331‥90)の號。

【佛幌】44ブツクワウ 佛壇の戶帳。〔徐賁、題ニ泗州塔一詩〕烟籠ニ瑞閣一僧經靜、風打ニ虛窗一佛幌開。〔王道會、墨賦〕挹ニ清華之仙露一、摽ニ輕煤於佛幌一。

【佛月】45ブツゲツ ㊀●の佛の光明を月に譬へていふ。佛日(167)の●に同じ。〔大集經、五十八〕佛月滅度後、煩惱痴諍闇ニ世間一。●衆生の心が清ければ、佛が之に應現すること、水中の月の如くであるが故に、佛月といふ。〔金光明經、二〕佛眞法身、猶如ニ虛空一、應ㇾ物現ㇾ形、如ニ水中月一、無ㇾ有ニ障碍一、如ㇾ燄如ㇾ幻、是故、我今稽ニ首佛月一。

【佛家】46ブツ ㊀●佛の淨土。〔觀無量壽經〕當下坐ニ道場一、生ニ中諸佛家一。〔觀經散善義〕即入ニ諸佛之家一、即淨土是也。●初地以上のさとりの境地を佛家といふ。〔觀經慧遠疏〕不思議佛法、是佛住處、名爲ニ佛家一、初地已上、入ニ佛家中一、依ㇾ之趣ㇾ行、名ニ生佛家一。●佛教の寺院。又、佛教の僧侶。佛家奴を見よ。

【佛家奴】47ブツケド 僧を罵る語。〔施肩吾、寺宿爲ニ五通一所ㇾ撓作詩〕五通本是佛家奴、身著ニ青衣一足無。

【佛牙】48ブツ 釋尊が死んだとき、其の身を茶毘にしたところ壞れずに殘つてゐた齒。〔南史、陳武帝紀〕詔出二佛牙于杜姥宅一。〔五代史、趙鳳傳〕有レ僧、遊二西域一、得二佛牙一以獻、明宗以示二大臣一、趙鳳曰、世傳、佛牙、水火不レ能レ傷、請驗二其眞僞一、因以斧斫レ之、應レ手而碎。

【佛偈】49ブツ 佛家の詩。佛を讃美する詩。其の體は古來四句であるから、四句偈ともいふ。〔紅樓夢、七十一回〕兩個姑子、先念二了佛偈一。

【佛扃】50ブツケイ 寺。〔李紳、龜山詩〕舊深二崖谷一藏二仙島一、新結二樓臺一起二佛扃一。

【佛詣】51ホトケニマウデ 佛に詣でる。

【佛教】52ブッケウ 紀元前五世紀の頃、印度に於て、名門釋迦族の王子、悉達多の創めた宗教。當時の哲學・宗教に滿足せず、自ら新しい人生觀・世界觀を確立して、悟りを得、佛陀（さとれる人）となり、進んで其の教を說き、多くの人を導いた。卽ち人間及び一切の現象を構成する不變の實體といふものはなく、それらは常に行く川の如く刻々移り變りつつあるものである。故に執着すべき何物もない筈であり、而も其の間には相依相關の不可思議な法則があつて、一切は成立してゐるのである。この眞理に隨つて修行すれば苦を滅して涅槃安樂を得ると說く。後世發達した教理はすべて右の原理を源流としてゐる。其の教は東亞全域に流通し、其の學說は世界各國に於て研究せられてゐる。〔隋書、經籍志四〕末法已後、衆生愚鈍、無二復佛教一。〔高僧傳〕佛教未行。

【佛教徒】53トブッケウ 佛教を信奉する人。

【佛教傳來】54ブッケウデンライ ●佛教の中國傳來には下の數說がある。一、秦の始皇帝の時、佛僧東來說（漢書五行志、隋の費長房の三寶記）。二、漢の武帝の時、佛像獲得說（後魏書釋老志）。三、漢の哀帝の時、佛教傳來說（魏略西戎傳・後魏書釋老志）。四、後漢の明帝の時、傳來說（晉の袁宏の後漢紀・後漢書・高僧傳）等であるが、第四の後漢の明帝の時の傳來が通說である。當時、佛教は既に大月氏から土耳其斯坦地方に流傳してゐたので、明帝は蔡愔を西域に遣して之を求めしめた。愔等は大月氏に至り、佛經及び佛像を得、且つ迦葉摩騰・竺法蘭の二僧を伴つて歸つた。明帝は洛陽に白馬寺を建て、二僧に先づ四十二章經を漢譯させた。これが佛寺建立・佛經翻譯の始である。桓帝の時には、安息から安世高、印度から竺佛朔、大月氏から支婁迦讖、康居から康孟詳等が、相次いで中國に入りて譯經に從事した。安世高は建和二年頃洛陽に來り、佛經三十部三十七卷を譯したといはれ、支婁迦讖は般若・方等・華嚴等の諸經を譯出した。三國の世に、佛教は魏に盛行し、西域僧の來つて寺院を立て經文を譯すものも多く、就中、中印度の僧曇摩迦羅は、洛陽に居つて戒律を譯した。これが戒律を出した始である。而して、吳には居士、支謙あり、支婁迦讖の弟子支亮に學び、孫權の博士となり、大小乘經約三十部四十卷を譯した。晉初、法護は西域に遊學し、泰始二年に長安に來り、般若・法華・華嚴・涅槃・寶積・大集其の他多數の佛經を譯し、東晉の時、印度僧佛圖澄は、後趙に來り、石勒及び石虎に尊信せられ、常山の道安が之に師事し、其の門人慧遠は、廬山に入つて白蓮社を結んで專ら念佛を修めた。龜玆の僧鳩摩羅什の來るに及び、同人は多く大乘の經論を譯し、佛教學に幾多の生面を開拓した。又、後秦の法顯は姚興の命を奉じて陸路印度に入り、三十餘國を歷遊し、多く經律を得て歸り、佛國記を著した。これが中國僧の印度に關する記述の始である。南北朝以來、佛教は益〻盛になり、南朝の宋の時、迦濕彌羅の僧求那跋摩が來て、戒壇を立てて僧尼の爲に授戒した。これが中國の戒壇の始である。梁の武帝は深く佛を信じ、建康には七百の寺院があつて、莊嚴を極めたといふ。當時、南印度の僧菩提達磨が來航し、後魏に入つてから、嵩山の少林寺に留まり、中國禪宗の第一祖となつた。陳代には、眞諦三藏が多數の經典を譯した。北朝の後魏の太武帝は、道教を信じたので、佛を禁じたが、獻文帝の時、其の禁は解かれた。次で孝明帝の時には、宋雲・惠生等が北印度に赴き、經論一百七十部を得て還り、之を國內に流布した。かくて佛教の勢は益〻盛で、經典の數は四百十五部、寺院は三萬餘、僧尼は殆ど二百萬に達したといふ。北周の武帝の時、再び之を禁じたが、隋の文帝の時、解禁復興した。これより以前鳩摩羅什が來つて大乘經論を翻譯するに及び、漸く中國佛教の上に變化を起して、遂に分派を生ずるに至つた。かくて晉の世に三論、宋代に毗曇・律・成實・涅槃の諸宗、後魏に地論・淨土の二宗、梁代に禪、陳・隋に華嚴・天台・攝論の三宗が出で、碩學高僧には、天台の智顗、禪の慧可、三論の吉藏、華嚴の杜順、涅槃の慧遠等があつた。佛教の東漸は、思想・文藝・美術に大なる影響を及ぼし、建築・繪畫・彫刻の進歩を來し、佛教文學の勃興となり、詩人・文章家は爭つて佛語を用ひ、學者も交りを緇徒に結んで意氣投合を稱した。又、魏の孫炎の反切唱道以來、晉の竺法護の四十一字母說が出で、次いで十四字母說が起り、梁の沈約の四聲譜、周顒の四聲切韻等、聲韻論が盛に興つた。唐代には、太宗以後、歷代の尊崇によつて益〻隆盛を來し、太宗の時、玄奘は印度から歸つて大唐西域記十二卷を著し、弟子等と翻譯に從事し、前後七十四部一千三百三十八卷の新譯（玄奘以前の翻譯を舊譯といふ）を爲し、其の弟子慈恩は法相宗を開き、次いで義淨は其の旅行記に大唐西域求法高僧傳二卷・南海寄歸內法傳四卷がある。玄宗の時印度の僧、善無畏・金剛智・不空の所謂開元三大師が相次いで來り、密教を傳へた。時に慧日が印度から歸り、次いで慧超・悟空も又、印度に赴き、顏眞卿・王維等も亦佛を奉じたので、其の勢は甚だ盛になり、三年毎に僧尼の籍を作り、祠部の官から度牒を給することが茲に始まつた。然るに、武宗は大いに道教を信じたので、寺院の大部分を破壞し、僧尼を還俗せしめたため、佛教は是から頗る衰へ、後魏の武帝及び北周の武帝と共に、佛教の三武一宗の難といはれてゐる。宋に至り、太祖は大いに佛教を信じ、僧行勒等百餘人を印度に遣はして經論を求めさせ、又、大藏經を刊行したので、其の勢は再び盛になつた。當時は、禪宗が最も隆盛で、仁宗の時には、禪寺を汴京に設け、祖印・契嵩等の名僧がゐた。神宗・哲宗の世に、淨源が華嚴宗を中興し、慧龍が禪宗黃龍派を興した。加ふるに、搢紳・學士は、皆僧と交はり、禪書を讀んだのが、佛教の勢を助け、同時に儒學に影響して、理學の勃興を見るに至つた。然るに徽宗の時、道教を崇拜し、寺院を改めて宮觀とし、佛を大覺金仙とし、僧を德士とし、尼を女德士としたが、幾くもなく復舊した。南宋に至つては、頗る衰へたが、明の太祖は大いに佛教興隆を圖り、成祖の時には、西藏の僧哈立喇嘛に尊號を加へて天下の佛教を統領せしめ、又、南北兩京に詔して、各〻大藏經を印刻せしめた。清に至り、聖祖・高宗二帝は、頗る儒學を奬勵したが、佛教に對しては喇嘛教を保護した以外に力を盡さなかつた。然るに清の經學者中には佛典の研究を爲す者が多く、王夫之・彭紹升・羅有高・龔自珍・魏源・楊文會・譚嗣同・章炳麟等皆佛典を兼修した。譯經（10－3602 3・5）を見よ。〔正字通〕佛、世傳二漢明帝永平十年、佛法始入二中國一、非也、秦時、沙門室利房等至、始皇以爲レ異囚レ之、夜有二金人一破レ戶以出、武帝時、霍去病過二焉支山一、得二休屠王祭天金人一以歸、帝置二之甘泉宮一、金人者浮屠所レ祠、今佛像卽其遺法也、哀帝時、博士弟子秦景、使二伊存口一授二浮屠經一、中土未二之信一、迨二明帝一、夜夢二金人飛一行殿庭一、以問二于朝一、傅毅以二佛對一曰、天竺國有レ佛、卽神也、帝遣二郎中蔡愔及秦景一使二天竺一求レ之、得二經四十二章一、釋迦立像、併與二沙門攝摩騰・竺法蘭一東還、以レ是考レ之、秦・西漢知二有レ佛久矣、非レ自二明帝一始也。〔魏書、釋老志〕大人有レ作、司二牧生民一、結繩以往、書契所レ絕、故靡二得而知一焉、自二羲軒一已還、至二於三代一、其神言祕策、蘊二圖緯之文一、範二世率レ民、垂二墳典之迹一、秦肆二其毒一、滅二於灰燼一、漢採二遺籍一、復若二丘山一、司馬遷區二別異同一、有二陰陽儒墨名法道德六家之義一、劉歆著二七略一、班固志二藝文一、釋氏之學、所レ未二曾紀一、案、漢武元狩中、遣二霍去病一討二匈奴一、至二皐蘭一、過二居延一、斬首大獲、昆邪王殺二休屠王一、將二其衆五萬一來降、獲二其金人一、帝以爲二大

神一列二於甘泉宮一、金人率長丈餘、不二祭祀一、但燒香禮拜而已、此則佛道流通之漸也、及レ開二西域一、遣二張騫一使二大夏一還傳、其旁有二身毒國一、一名二天竺一始聞レ有二浮屠之教一、哀帝元壽元年、博士弟子秦景憲受二大月氏王使伊存口一授二浮屠經一、中土聞レ之未二之信了一也、後孝明帝、夜夢二金人一、頂有二白光一、飛二行殿庭一、乃訪二羣臣一、傅毅始以レ佛對、帝遣二郎中蔡愔・博士弟子秦景等一、使二於天竺一寫二浮屠遺範一、愔仍與二沙門攝摩騰・竺法蘭一、東還二洛陽一、中國有二沙門及跪拜之法一、自レ此始也、愔又得二佛經四十二章及釋迦立像一、明帝令二畫工一圖二佛像一、置二清涼臺及顯節陵上一、經緘二於蘭臺石室一、愔之還也、以二白馬一負レ經而至、漢、因立二白馬寺於洛城雍關西一、摩騰・法蘭咸卒二於此寺一、〔清國行政法、內務行政、宗教、佛教〕佛教流傳、不レ詳二其昉一、於何世一、傳者或云、周時已有二佛教一、如二翻譯名義集卷七一所レ云、周穆王時、文殊目連來化者、卽是也、或云、秦時始有二佛教一、僧史略稱、案、始皇時、有二沙門釋利房等十八賢者一、齎レ經來化、始皇不レ信、遂禁二錮之一、夜有二神人一、破レ獄出レ之、或云、佛法之傳、昉二於漢代一、僧史略引二釋老志一云、釋氏之學、開二於前漢一、武帝元狩年中、霍去病獲二昆耶王金神一、帝以爲二大神一、列二於甘泉宮一、燒香神拜、此佛法流傳之始也、此外傳說頗多、執信執妄、未レ易二遽斷一、凡事物之顯二於世一、必於二隱微之間一、多經二年所一、然後始著、耳目レ動二心思一者、比比皆是、卽如二佛教流傳之事一、安知二年代之舊一、不レ出二人意表一哉、但周秦已有レ之云者、則不レ能無レ疑已、按、印度佛教之流二出境外一、實起二於阿育王之世一、第三結集之末、分二遣教師各路一之時、自二西歷前百八十年間一、漸入二西北諸邦一、未レ幾、遂及二西域一、〔顧西域之通二支那一實自二漢時一始、則佛教流傳之始二於是時一、亦不レ難二想見一。❶佛教の日本傳來にも異說がある。一、繼體天皇御卽位十六年（522）說（扶桑略記・水鏡）。二、宣化天皇御卽位三年（538）說（三國佛法傳通緣起）。三、欽明天皇御卽位十三年（552）に、百濟王の聖明王が獻佛獻經したのを其の初傳とする說（日本書紀）。四、欽明天皇戊午の歲（538）說（上宮聖德法王帝說・元興寺緣起）。從來は第三說が通說であつたが、近年學者の研究によつて第四說が採用せられつつある。其の後、聖德太子は篤く佛教を信じ給ひ、法隆寺を建立し給ひ、又十七條憲法の中には「篤く二三寶を敬へ」と宣ひ、爾來佛教は皇室の御尊崇によつて榮え、一方名僧が輩出し、印度・中國に見ざる本邦獨自の展開をして今日に至る。

【佛橋】55（ブツケウ）北山皓の號。北山七僧（2－2574‥217）を見よ。

【佛見】56（ブツケン）〔梵〕佛の正知見。〔梵網經、上〕轉二一切見一、入二佛見一。

【佛現】57（ブツゲン）峨嵋山に居るといはれる鳥の名。この鳥が佛現と鳴くと、佛が顯現するといふ。〔月令廣義〕峨嵋山頂、普賢菩薩正殿補陀巖、普賢放レ光之所、每二日出一、有二白雲一、接レ山、有レ鳥、呼二佛現一、名二佛現鳥一、朦朧中佛像現焉。〔名山記〕陳文燭遊二峨山一記曰、步親二佛臺一、有レ鳥、如二鸜鵒一、依レ人而來、鳴曰二佛現一。

【佛眼】58（ブツゲン）〔梵〕佛教をさとり得た者の眼識。〔無量壽經、下〕佛眼具足、覺二了法性一。〔蘇軾、贈二杜介一詩〕何人識二此志一、佛眼自照瞭。〔晁補之、題跋〕惟有二佛眼一悉知悉見。「以て見る。

【佛眼相看】58 fo² yen³ hsiang¹ k'an⁴ 好意を以て見る。

【佛語】60（ブツゴ）❶佛陀のことば。佛陀の教訓。〔淨住子、在家懷善門〕若違二佛語一、必墮二惡道一。❷佛教で使用する言葉。佛教語。❸（ブツ）佛蘭西語の略稱。

【佛護】61（ブツゴ）北周、薛愼（9－321 23‥85）の字。

【佛工】62（ブツコウ）佛像を彫刻する者。佛師。〔和漢三才圖會、人倫、佛工〕今云二佛師一、敏達天皇六年、始自二百濟國一佛工寺匠等來一。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕宋佛工陳和卿、來在二大和一。

【佛國】63（ブツコク）❶ほとけのくに。佛の住む國土。佛土。〔維摩經嘉祥疏〕淨穢等土、無レ非二佛國一。❷（ブツコク）フランス。

【佛國記】64（ブツコクキ）書名。一卷。宋、釋法顯撰。佛國は印度をいふ。法顯は晉の義熙中に長安から天竺に遊び、三十餘國を經て歸り、是の書を成す。〔四庫提要、史、地理類〕

【佛國山人】65（ブツコクサンジン）清、黃樹穀（12－47926‥1141）の號。

【佛國詩偈】66（ブツコクシゲ）書名。六卷。僧高泉著。僧道淸、道發編。曇華道人激高泉の古詩・絕句・律詩等、各體の漢詩九百餘首を收め、貞享二年に刊行す。

【佛國記地理考證】67（ブツコクキチリカウシヨウ）書名。一卷。淸、丁謙撰。

【佛骨】68（ブツコツ）〔梵〕釋迦佛の骨。佛舍利。琅琊代醉編の卷二十二に見ゆ。〔法苑珠林〕舍利者、西域梵語、此云二骨身一、舍利有二三種一、一骨舍利、白色、二、髮舍利、色黑、三、肉舍利、色赤、若二佛舍利一、推打不レ破、若二弟子舍利一、推擊便破、案、佛骨卽舍利也、晉書樂志、後漢、正旦、天子臨二德陽殿一、受二朝賀一、舍利從二西方一來、梁武帝牙像詔、眞形舍利、降在二中署一、舍利又爲二鳥名一、是鳥眼似二舍利一、故名焉、阿彌陀經、白皓孔雀鸚鵡舍利。

【論二佛骨一表】69（ブツコツノヲモテ）文章の名。唐、韓愈作。憲宗皇帝の元和十三年十二月、佛骨を迎へて大內に入れ、王公・士庶が奔走して贊歎したので、明年、愈は此の表を上つて、佛は信奉するに足らぬと極諫した。憲宗は表を見て大いに怒り、韓愈を貶して潮州刺史とした。韓昌黎集卷二十九、唐宋八家文讀本卷二に載つてゐる。

【佛言】69（ブツゲン）佛の言葉。〔上宮維摩疏、中〕。

【佛座】70（ブツザ）❶佛像を安置する臺。〔白居易、香山寺新修經藏堂記〕堂中間、置二高廣佛座一。❷（ホトケザ）草名。かはらけな。春の七種の一。

【佛座鬚】71（ブツザス）蓮の花のしべ。〔本草、蓮藕、蓮蕊鬚〕釋名、佛座鬚、花開時、采取陰乾、亦可レ充二果食一。

【佛桑】72（ブツサウ）灌木の名。一名、朱槿。又、扶桑に作る。朝に開いて晚に萎む。〔本草、扶桑〕釋名、佛桑。〔閩書〕佛桑卽扶桑、東海日出處、有二扶桑一、此花光燄炤レ日、其葉似レ桑、因以比レ之、後人訛爲二佛桑一也。

【佛莊】73（ブツサウ）明、陳士京（11－41698‥685）の字。

【佛葬】74（ブツサウ）佛式による葬禮。神葬（8－24673‥219）の對。

【佛像】75（ブツザウ）ほとけのすがた。佛の像。琅琊代醉編、卷三十一に見ゆ。〔魏書、釋老志〕詔誅二長安沙門一、焚二破佛像一。〔事物紀原、道釋科教部、佛像〕漢書、霍去病過二焉耆山一、得二休屠王祭一レ天金人一、顏師古注云、作二金人一爲二天神之主一、今佛像、是其遺法、後漢明帝、夢二金人一、長大、頂有二日光一、傅毅曰、天竺有二其道一者、號曰レ佛、於レ是、遣二使天竺一圖二其形像一、此中國有二佛像一之始也、宋書云、漢世始有二佛像一也。

【毀二佛像一鑄レ錢】76（ブツザウヲコボチイル）五代、周の世宗の時、久しく錢を鑄なかつたところ、民が多く錢を銷して器皿及び佛像を作つたので、監を立てて民間の銅器及び佛像を毀つて錢を鑄させたこと。〔大學衍義補、制二國用一、銅楮之幣下〕五代周世宗、以二久不レ鑄レ錢、民多銷レ錢爲二器皿及佛像一、乃立二監鑄一錢、凡民間銅器・佛像、皆毀以鑄レ錢。

【佛筴】77（ブツサク）みくじ。筴は又、策に作る。〔柳宗元、文〕戲抽二佛筴一、前次二池隈一。

【佛山】78（ブツサン）❶鎭の名。廣東省治の西南。もと南海縣の地。廣三鐵道が通じてゐる。今、廣東省南海縣治。❷府名。淸、置く。今、滿洲黑龍江省、黑龍江の東部の地。〔淸史稿、地理志〕黑龍江、附志佛山府。❸縣名。滿洲黑龍江省烏雲縣の東北。もと蘿北縣の北境で、東は黑龍江に瀕す。此の地に觀音山があるので名づけた。❹村上剛の號。村上佛山（6－14464‥73）を見よ。

【佛參】79（ホトケマヰリ）寺まゐり。

【佛傘】80（ブツサン）天蓋。〔淸異錄、釋族、僧旂佛傘〕龍興寺檀越捨二幡蓋一、文云、僧旂交舞、丁當起二于風鈴一、佛傘高擎、焜燿生二乎日鑑一、其造語脫二落尋常軌轍一、而不レ書二誰人製撰一。

【佛子】81（ブツシ）❶〔梵〕佛戒を受けた衆生の稱。佛の弟子。佛教徒。〔法華經、譬喩品〕今日乃知、眞是佛子。〔錢起、題二震上人壁一詩〕仍聞七祖後、佛子繼調御。〔宋史、洪皓傳〕浙東綱米過二城下一、皓白守邀留レ之、曰、願以二一身一易二十萬人命一、人感二之切骨一、號二洪佛子一。❷蟲の名。しらみ。虱（10－32812）の異名。又、蚊（10－32849）の異名。〔事物異名錄、昆蟲、蟲〕傳信記、無畏飮酒食肉、律師不レ悅、嘗令レ宿二於戶外一、律師中夜捫レ蟲、無畏卽呼曰、撲二殺佛子一、律師異レ之、又蚊亦呼二佛

子一。㊂宋、袁韶の稱。韶が臨安府の尹となり、よく訟を理め、民俗が淳厚になつたので、民が慕つて佛子と呼んだ。〔宋史、袁韶傳〕爲二臨安府尹一幾十年、理レ訟精簡、道不レ拾レ遺、里巷爭呼爲二佛子一。㊃宋、朱伯陽(**6－14424**・・967)の稱。

【佛使】82 ブッシ [佛]如來の使者。〔法華經、法師品〕我滅度後、能竊爲二一人一說二法華經乃至一句一、當レ知、是人卽如來使、如來所レ遣、行二如來事一。

【佛師】83 ブッシ 佛像をきざむ彫刻師。佛工。繪畫の專門家を繪佛師といふに對して、木佛師ともいふ。〔初例抄、上〕木佛師定朝、大佛師康成子。

【佛祠】84 ブッシ 佛像を安置するほこら。てら。〔趙抃、戒珠寺詩〕況壓二山顚一是佛祠。

【佛寺】85 ブッジ 寺院。〔晉書、王恭傳〕尤信二佛道一、調二役百姓一、修二營佛寺一。〔韓愈、張中丞傳後序〕將レ出レ城、抽レ矢射二佛寺浮圖一。〔白居易、百花亭詩〕佛寺乘レ船入、人家枕レ水居。

【佛事】86 ブッジ ㊀佛に供養する行事。〔酉陽雜俎續集、金剛經鳩異〕摭二拾遺逸一、以備レ闕二佛事一。〔五代史、石昂傳〕禁二其家一不レ可下以二佛事一汚中吾先人上。〔元史、文宗紀三〕至順元年、中書省臣言、近歲、帑廩空虛、其費有レ五、曰、賞賜、曰、作二佛事一。㊁[佛]佛の教化。〔觀無量壽經〕於二肉髻上一有二一寶甁一、盛二諸光明一、普現二佛事一。

【佛式】87 ブッシキ 佛教の法式。葬儀、結婚式などの佛教による方式。

【佛室】88 ブッシツ ㊀佛閒。〔避暑錄〕趨二佛室一。㊁寺。

【佛舍】89 ブッシャ 佛堂。〔蘇軾、自レ雷適レ廉宿二於興廉村淨行院一詩〕荒涼海南北、佛舍如二雞栖一。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕高氏方張二宴于桂川西一、指二一佛舍一問二其名一。

【佛舍利】90 ブッシャリ [佛]釋迦の遺骨。舍利は梵語の Śarīra の譯。身骨・靈骨の意。〔魏書、釋老志〕阿育以二神力一分二佛舍利一。〔法苑珠林〕若二佛舍利一、推打不レ破。

【佛者】91 ブッシャ 釋迦。轉じて、佛道の修業者。僧侶。〔魏書、釋老志〕佛者本號釋迦。〔韓愈、原道〕佛者曰、孔子吾師之弟子也。

【佛妝】92 ブッシャウ 燕の地方に於て、冬、女子の面に苦蔞を塗り、肌の荒れるのを防ぐことをいふ。苦蔞は、きからすうり。〔雞肋編、上〕燕地、其家仕族女子、皆髡首、許嫁方留レ髮、冬月、以二苦蔞一塗レ面、謂二之佛妝一、但加傳而不レ洗、至二春暖一方滌去、久不レ爲二風日所一レ侵、故潔白如レ玉也。

【佛性】93 ブッシャウ [佛]本來ほとけたる性質。卽ち、眞如の妙理を指す。又、如來の本性。佛氣。〔佛性論、一〕空是佛性、佛性者、卽大涅槃。〔華嚴經、三十九〕佛性甚深、眞法性。〔北史、杜弼傳〕(魏帝曰)經中佛性法性、爲レ一爲レ異、弼曰、正是一理、又問曰、說者妄、皆言法性寬、佛性狹、如何、弼曰、在レ寬成レ寬、在レ狹成レ狹、若論二性體一、非レ狹非レ寬。

【佛性戒】94 ブッシャウカイ [佛]佛性を根本にして制した戒。又、佛性を顯現する戒。〔梵網經、下〕一切衆生、皆有二佛性一、一切意識色心、是情是心、皆入二佛性戒中一。

【佛餉】95 ブッシャウ 佛に供へる飯食。〔壒囊鈔、十〕佛餉、作二聖清一、非也。

【佛手】96 ブッシュ ㊀佛の手。〔司空圖、楊柳枝詩〕煩暑若レ和煙露裛、便同二佛手一灑清涼。㊁ fo² shou³ 佛手柑に同じ。〔紅樓夢、四十一回〕忽見板兒抱著個佛手。

【佛手崖】97 ブッシュガイ 名所。江西省星子縣の廬山に在る。一名、仙人洞。高さ二丈許、深さ廣さ各〻四・五丈。最も深い所に年中涸れない清洌な泉がある。

【佛手柑】98 ブッシュカン 熱帶產の果樹の一。ぶしゅかん。葉は木犀に似、高さ一丈餘となる。實は人の手の形を呈し、強い香氣を放つ。〔本草、枸櫞〕釋名、香櫞、佛手柑、集解、時珍曰、其實狀如二人手一有レ指、俗呼爲二佛手柑一。

【佛手蕉】99 ブッシュセウ 芭蕉の一種。〔本草、甘蕉〕集解、時珍曰、海南芭蕉、有二二種一、佛手蕉、小而味甜。

【佛種】100 ブッシュ [佛]成佛の種子。〔法華經、方便品〕佛種從レ緣起。〔梵網經〕佛告二諸弟子一言、有二十重波羅提木叉一、若受二菩薩戒一、不レ誦二此戒一者、非二菩薩一、非二佛種子一。〔沈約、述二僧設會一論〕佛種已離、則三寶墜二於地一矣。

【佛樹】101 ブッジュ 木の名。菩提樹(**9－31205**・・23)の異名。釋迦牟尼は此の樹下で正覺を得たといふ。〔無量壽經、上〕始在二佛樹一、力降レ魔。

【佛樹齋】102 ブッジュサイ 龜田長梓の號。龜田綾瀨(**12－48847**・・170)を見よ。

【佛書】103 ブッショ 佛教に關する書籍。佛典。佛籍。〔嚴維、贈二別至弘上人一詩〕年老從二僧律一、生知解二佛書一。

【佛助】104 ブッジョ 北齊、魏收(**12－45872**・・67)の小字。

【佛乘】105 ブッジョウ [佛]一切衆生悉く成佛すべき道を說いた教法。一佛乘ともいふ。〔法華經、方便品〕如來但以二一佛乘一故、爲二衆生一說レ法。

【佛心】106 ブッシン 如來の心。又、佛のやうなよい心。ほとけごころ。〔觀無量壽經〕佛心者、大慈悲是。〔司空圖、山中詩〕名應二不朽一輕二仙骨一、理到二忘機一近二佛心一。

【佛心印】107 ブッシンイン [佛]衆生本具の一心。卽ち、大覺の妙體。〔六祖壇經〕師曰、吾傳二佛心印一、安放違二於佛經一。〔碧巖錄、初則〕誌公曰、此是觀音大士傳二佛心印一。

【佛心宗】108 ブッシンシュウ [佛]禪宗の別名。直ちに佛心を覺悟するのを禪の體とするからいふ。故に直指人心、見性成佛といふ。人心の性は卽ち佛性である。この佛性を發見することが卽ち成佛することである。〔宗鏡錄、三〕達磨大師云、明二佛宗心一了無二差悞一、名レ之曰レ祖。

【佛心天子】109 ブッシンテンシ 梁、武帝(**6－14825**・・320)の德號。〔碧巖錄、第一則評唱〕武帝嘗披二袈裟一自講二放光般若一、人謂二佛心天子一。

【佛身】110 ブッシン 佛陀の身。〔李商隱、送二臻師一詩〕何當百億蓮花上、一一蓮花見二佛身一。

【佛神】111 ブッシン ほとけとかみ。かみほとけ。〔宇津保物語、忠乞〕佛神に大願を立て。

【佛人】112 ブッジン 佛蘭西人。〔國史略、聖武天皇〕亞剌伯人將下入二歐羅巴一、周布中回教上、率二大兵一臨二佛蘭西一、佛人甲列大破レ之。

【佛仁】113 ブッジン 北齊、婁叡(**3－6383**・・2)の字。

【佛照】114 ブッセウ 宋、德光(**4－10243**・・70)の號。

【佛跡】115 ブッセキ 釋迦の遺跡。〔觀佛三昧海經、六〕佛滅度後、造二好形像一、令二身相足一、亦造二無量化佛色像一、通身光、及畫二佛跡一。

【佛籍】116 ブッセキ 佛氏の書籍。佛家の經典。佛書。〔國史略、後陽成天皇〕元長能繼二家聲一、又好二讀書一、通二佛籍一。

【佛刹】117 ブッセツ ほとけの事を營む所。寺院。佛塔。佛閣。佛龕。僧刹。伽藍。〔法苑珠林〕游二諸佛刹一。〔李益、紅樓下聯句〕佛刹接二重城一。

【佛說】118 ブッセツ 佛の說いた教。〔梁武帝、斷二酒肉一文〕凡出家人、所三以異二於外道一者、正以信レ因信レ果、信二經所一レ明、信二是佛說一。

【佛前】119 ブッゼン 佛の前。〔杜甫、飮中八仙歌〕蘇晉長齋繡佛前、醉中往往愛二逃禪一。〔趙渢、晩宿二山寺一詩〕松門明月佛前燈、庵在二孤雲最上層一。

【佛然】120 ボツゼン 盛に興るさま。浡然。勃然。〔荀子、非十二子〕佛然平世之俗起焉。〔注〕佛、讀爲レ勃、勃然、興起貌。

【佛祖】121 ブッソ ㊀ほとけの道を開いた先祖。卽ち、釋迦牟尼。〔蘇軾、和二蔡景繁海州石室一詩〕今年洗レ心參二佛祖一。㊁大切なもの。〔紅樓夢、四十一回〕搖レ頭吐レ舌道、我的佛祖。

【佛祖通載】122 ブッソツウサイ 書名。二十二卷、或は三十六卷。元、釋念常撰。上は七佛から下は元の順帝の元統元年に至る間の佛教關係の事實を編年體に記したもの。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【佛祖統紀】123 ブッソトウキ 書名。五十四卷。宋、志磐撰。天台一家の正史。其の記する所は本宗を尙び別派を斥けて、公平でないといふ。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【佛祖歷代通載】124 ブッソレキダイツウサイ 佛祖通載に同じ。

【佛多】125 ブッタ 清明節に先祖の墓を祭掃し、五色の紙錢で幡蓋を作つて墓の左に陳ね、祭の後に子孫が之を墓門の外に焚くこと。〔燕京歲時記、清明〕清明卽寒食、又曰二禁烟節一、古人最重レ之、今人不レ爲レ節、但兒童戴レ柳、祭二掃墳塋一而已、世族之祭掃者、於二祭品之外一、以二五色紙錢一製二成幡蓋一、陳二於墓左一、祭畢、子孫親執二于墓門之外一而焚レ之、謂二之佛多一、民間無二用者一。

【佛陀】126 ブッダ ㊀[佛] Buddha の音譯。ほとけ。悟を開いてまことの道を得た者。覺者と譯す。佛陀。浮屠。部多。佛圖。〔宗輪論述記〕佛陀梵音、此云二覺者一、隨二舊略語一、但稱曰レ佛。〔魏書、釋老志四〕(釋迦)捨二太子位一云云、謂二之佛陀一、亦曰二浮圖一。㊁後魏の孝文帝の時の高僧。

【佛陀伽耶】127 Buddhagaya の音譯。印度ベンガル州にある地名。釋尊成道の聖地。爲に早くから四大聖地の隨一として巡拜せられた。佛陀伽耶大塔があり、阿育王の創建に係る。

【佛陀毱多】128 [佛] Buddhagupta の音譯。印度笈多王朝第九代の王。那爛陀の地に伽藍を建てた。〔大唐西域記、九〕。

【佛陀聖衆】129 [佛] 佛陀に從ふ多くの菩薩。

【佛陀扇多】130 Buddhasānta の音譯。北印度の人。北魏の宣武帝の永平元年、勅を奉じて、菩提流支・勒那摩提と共に、洛陽殿內に十地經論を譯し、扇多傳譯の任に當り、四年で完成した。東魏の元象二年には、十法經等凡て六部六卷を譯す。〔十地經論、序〕・〔歷代三寶紀、九〕・〔續高僧傳、二十一〕。

【佛陀多羅】131 Baddhatāra の音譯。唐、覺救(**10－34973**‥7)の本名。

【佛陀提婆】132 [佛] Buddhadeva の音譯。婆沙論四評家の一。〔俱舍光記、二十〕。

【佛陀波利】133 Buddhapālita の音譯。北印度罽賓國の人。儀鳳の初、五臺山に至つたが、後、國に返り、經を取り來つて佛頂尊勝陀羅尼經を譯す。〔宋高僧傳、二〕。

【佛陀耶舍】134 Buddhayāsas の音譯。北印度罽賓國の人。十三歲にて出家し、十九歲にて大小乘經數百萬言を持すといふ。長安に至つて羅什の譯した十住經の疑點を解決し、また阿含經を譯出す。後、再び罽賓に歸り、終る所を知らず。その髭が赤く、又、毘婆沙を善くするを以て赤髭毘婆沙といはる。一に佛駄耶舍に作る。〔長阿含經、序〕・〔四分律、序〕・〔梁高僧傳、二〕・〔蓮社高賢傳〕。

【佛陁】135 [佛] 佛陀(126)の㊀に同じ。〔大論〕秦言知者、知過去・未來・現在・衆生・非衆生・數有常・無常等一切諸法、菩提樹下了了覺知、故名佛陁。〔魏書、釋老志〕俘屠正號曰佛陁。

【佛退】136 蠶のぬけがら。蠶蛻(**10－33890**‥50)の異名。〔本草、蠶〕蠶蛻、釋名、馬明退、佛退、發明、時珍曰、馬明退、蠶連紙功用相同、亦如蟬蛻蛇蛻之義、但古方多用蠶紙者、因其易得耳。

【佛諦】137 佛教の眞理。佛法の妙諦。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕深造佛諦。

【佛堂】138 佛像を安置するところ。佛殿。佛舍。〔毘奈耶雜事、二十六〕名爲佛堂・佛殿者、斯乃不順西方之意也。〔釋氏要覽〕古靈云、好一佛堂、只是無佛。〔唐書、地理志四〕自振武云云、又經公主佛堂大非川。

【佛道】139 佛法の道。〔法華經、序品〕恆沙菩薩、種種因緣、而求佛道。〔後漢書、西域、天竺傳〕帝於是遣使天竺、問佛道法。〔南史、梁武帝紀下〕晚乃溺信佛道。

【佛塔】140 寺院の塔。〔南史、扶南國傳〕改造阿育王佛塔。

【佛壇】141 佛像や位牌を安置してまつる棚。〔沙石集、八上〕佛壇の上にのぼり。

【佛檀】142 [佛] 佛道のために行ふ布施。〔智度論、十二〕檀有二種、一者魔檀、二者佛檀。

【佛地】143 [佛] 菩薩の成道した位。〔心經注〕如在海中謂之此岸、則佛地謂之彼岸。

【佛地經】144 書名。一卷。唐、玄奘譯。

【佛智】145 ㊀[佛] ほとけのちゑ。根本智(先天性)と後得智(後天性)との二つあり。〔智度論、四十六〕佛智慧有二者。〔宗鏡錄、三十三〕佛智者、卽無障礙解脫智。㊁宋、端裕(**8－25806**‥194)の號。

【佛場】146 佛教の祭場。〔傳燈錄〕丹霞天然禪師、初習儒、將應擧、道遇一禪客、選官何如選佛、曰、選佛當往何所、曰、江西馬大師出世、此選佛場也。〔程俱、遊靈巖詩〕當時館娃地、今作選佛場。

【佛塵】147 清、唐才常(**2－3709**‥413)の號。

【佛泥】148 宋代に廣州の東南にあつた國の名。今のボルネオ島の一部。〔諸蕃風俗〕佛泥國、在廣州東南、宋濂有渤泥入貢記。

【佛敵】149 佛法又は佛法の弘布に仇するもの。〔太平記、十七、日吉神託事〕佛敵・神敵。

【佛天】150 佛者が佛を天として尊崇する稱。〔源氏物語、薄雲〕佛天の告げ。

【佛典】151 佛教の典籍。佛書(103)に同じ。

【佛田】152 [佛] 佛をいふ。佛は卽ち衆生の爲に福を生ずる田地であるといふ意。〔智度論、三十〕佛田者、一切三世諸佛、雖有種種福田、佛爲第一福田。

【佛殿】153 佛像を安置する所。本堂。佛堂。〔厚德錄〕佛殿未甚壞。

【佛圖】154 ㊀寺。浮圖。浮屠。〔魏書、釋老志〕凡宮塔制度、猶依天竺舊狀而重構之、從一級至三・五・七・九、世人相承謂之浮圖、或云佛圖。〔南史、齊武帝紀〕又於山累石、爲佛圖。〔世說新語、言語〕庾公嘗入佛圖、見臥佛、曰、此子疲於津梁、於時以爲名言。〔資治通鑑、宋紀〕(文帝、元嘉二十九年)於是、鄙所毀佛圖、率皆修復。〔注〕佛圖、卽浮屠、或曰佛圖、卽佛寺。㊁複姓。〔姓氏尋源〕習佛圖之教、因以爲氏、亦作佛屠・浮屠。

【佛圖關】155 關の名。今、四川省巴縣の西方。上に石佛があるから名づけた。

【佛圖戶】156 北魏時代に寺院の掃除人として使用した犯罪者。〔魏書、釋老志〕又請民犯重罪及官奴、以爲佛圖戶、以供諸寺掃洒。

【佛圖澄】157 晉の僧。天竺の人。本姓は帛。玄術に長じ、石勒の寵を得た。〔晉書、九十五〕・〔琅琊代醉編、三十一〕。

【佛土】158 [佛] 佛の住む國土。淨土。〔法華經、方便品〕十方佛土中、唯有一乘法。

【佛豆】159 豆の一種。そらまめ。〔通雅、穀蔬〕佛豆、卽蠶豆也。〔益部方物略記〕佛豆、秋種春斂、農不常蒔。

【佛燈】160 佛に供へる燈火。佛のみあかし。〔蘇軾、是日宿水陸寺、寄北山清順僧詩〕農事未休侵小雪、佛燈初上報黃昏。

【佛頭】161 佛の頭。〔傳燈錄〕鳥雀于佛頭上放糞。

【佛頭菊】162 草の名。だるまぎく。菊科の多年生草本。高さ約一尺七寸。葉は箆狀倒卵形で多毛を被る。秋、紫色の花を開く。達磨菊。濱菊。〔菊譜、佛頂菊〕佛頂菊、亦名佛頭菊、中黃心極大、四傍白花一層繞之、初秋先開白色。〔和漢三才圖會、濕草類、佛頭菊〕俗云達磨草、按、佛頭菊、直莖無枝椏、葉團有段刻、淺綠色厚柔而不潤、文理如皺異常、數十葉叢叢抱莖生、狀似濱菊、九十月開白花、單葉頗似菊。

【佛頭青】163 染料の名。ぐんじやう。扁青。〔本草、扁青〕集解、時珍曰、蘇恭言、卽綠青者、非也、今之石青、是矣、繪畫家用之、其色青翠不渝、俗呼爲大青、楚蜀諸處亦有之、而今貨石青者、有天青・大青・西夷回回青・佛頭青、種種不同、而回青尤貴、本草所載、扁青・層青・碧青・白青、皆其類耳。〔林逋、西湖詩〕春水淨於僧眼碧、晚山濃似佛頭青。

【佛頭石】164 石英の一種。玉髓。

【佛頭著糞】165 立派な著書に拙惡な序文を附ける。佛頭を見よ。〔典籍便覽〕歐公修五代史、或作序冠其上、王荊石曰、佛頭上豈可著糞乎。

【佛德】166 [佛] 如來の具へてゐる功德。〔俱舍論、二十七〕佛德者、諸有智者思惟如來三種圓德、深生愛敬、其三者何、一、因圓德、二、果圓德、三、恩圓德。

【佛日】167 ㊀[佛] 佛法の惠みのあまねく行き渡るにいふ。佛は能く衆生の痴闇を破るから日に喩へていふ。佛月(45)の㊀に同じ。〔涅槃經、十九〕佛日將沒大涅槃山。〔觀無量壽經〕唯願、佛日教我觀清淨業處。〔觀無量壽經天台疏〕佛能破壞衆生痴闇、如日除昏、故言佛日。〔隋書、李士謙傳〕客又問三教優劣、士謙曰、佛、日也、道、月也、儒、五星也。〔書言故事、釋教類〕李士謙、善論玄理、有客、問三教優劣、士謙曰、佛、日也、道、月也、儒、五星也、客不能難。㊁山名。浙江省杭縣の皐亭山の東北。吳越王の建てた佛日淨慧寺がある。

【佛鉢】168 佛の用ひた食鉢。〔水經、河水注〕佛鉢、青玉也、受三斗。〔魏書、釋老志〕赴京師、致佛鉢。〔佛國記〕佛鉢在樓沙國、昔月氏王、大興兵衆、來伐欲取佛鉢、置鉢象上、象伏地不前、更作四輪車載鉢、入象共牽、復不能進。

【佛鉢印】169 [佛] 釋迦の印相の一。〔大日經、密印品〕住瑜伽座、持鉢相應、以定慧手、俱在

臍間一、是名二釋迦牟尼大鉢印一。〔大日經、蜜印品疏〕左手執二袈裟兩角一、仰二臍前一、右手重二其上一。

【佛髮】170 ブツパツ 釋迦の頭髮。〔梁書、扶南國傳〕三年八月、高祖改二造阿育王寺塔一、出二舊塔下舍利及佛爪髮一、髮者紺色、衆僧以レ手伸レ之、隨レ手長短、放レ之、則旋屈爲二蠡形一。

【佛眉】171 ブツビ 淸、吳琪(**2**—3365‥87)の號。

【佛部】172 ブツブ 佛 ❶胎藏界曼陀羅の十三大院の中央の諸尊。卽ち、中臺八葉院・遍智院・持明院・釋迦院・文殊院・虛空藏院・蘇悉地院。❷胎藏界三部の一。理智具足し、覺道圓滿するもの。如來門。〔大日經疏〕大凡此第一重、上方是佛身衆德莊嚴、下方是佛持明侍者、皆名二如來部門一。〔四萬義〕蓮華部法身、金剛部般若、佛部解脫。❸金剛界五部の一。理智顯現し、覺道圓滿するもの。〔祕藏記私鈔、三〕。

【佛佛】173 ブツブツ 五胡夏、赫連勃勃(**10**—37010‥52)の一稱。

【佛坪】174 ブツヘイ ❶廳名。淸、置く。民國、改めて縣とす。❷を見よ。〔淸史稿、地理志〕陝西、漢中府、領二廳三州一縣八一、佛坪廳。❷縣名。民國、置く。陝西省洋縣の北。淸の佛坪廳の地。

【佛寶】175 ブツポウ 佛 佛及び佛陀に關係した一切のもの。例へば金檀圖像など。法寶・僧寶と合して三寶といふ。〔法苑珠林〕金檀銅素、漆紵丹青、圖像聖容、名爲二佛寶一、紙絹竹帛、書二寫玄言一、名爲二法寶一、剃髮染衣、執持應品、名爲二僧寶一。

【佛法】176 ブツポフ 釋迦の敎。〔正字通〕佛、世傳、漢明帝永平七年、佛法始入二中國一、非也、秦時、沙門室利房等至、始皇以爲レ異囚レ之、夜有二金人一、破レ戶以出、漢武帝時、霍去病過二焉支山一、得二休屠王祭レ天金人一以歸、帝置二之甘泉宮一、金人者、浮屠所レ祠、今佛像卽其遺法也、哀帝時、博士弟子秦景、使三伊存口二授浮屠經一、中土未二之信一、迨二明帝一、夜夢三金人飛二行殿庭一、以問二於朝一、傳毅以レ佛對曰、天竺國有レ佛、卽神也、帝遣下中郞蔡愔及秦景使二天竺一求上レ之、得二佛經二十四章・釋迦立像一、倂與二沙門攝騰竺法蘭一東還、以レ是考レ之、秦・西漢知レ有レ佛久矣、非二明帝始一也。〔勝鬘經〕一切佛法攝二八萬四千法門一。〔晉書、武帝紀〕帝初奉二佛法一、立二精舍於殿內一。

【佛法藏】177 ブツポフザウ 佛 如來藏。卽ち眞如の理體である。〔維摩經、法供養品〕能令三衆生入二佛法藏一、究二竟彼岸一。〔無量壽經淨影疏〕如來藏中、過恆沙法、名二佛法藏一。

【佛法僧】178 ブツポフソウ ❶佛 佛・法・僧を三寶といふ。三寶(**1**—**12**‥1456)を見よ。〔魏書、釋老志〕其始修レ心、則依二佛法僧一、謂二之三歸一。❷鳥の名。佛法僧目、佛法僧科に屬す。翼の長さ六寸內外、頭部は褐黑色、背は暗綠色、翼羽の外緣は暗蒼色で橫帶があり、下面は蒼綠色、嘴・脚は赤色。鳴聲が佛・法・僧と聞えるからこの和名を生じたのであるが、佛・法・僧と鳴くのは木葉木兎であることが判明し、俗に、眞の佛法僧を姿の佛法僧、木葉木兎を聲の佛法僧と稱するに至つた。東部西比利亞・滿洲・中國・ヒマラヤ地方及び東洋熱帶地方產、本邦では高野山、三河の鳳來寺に棲むといふ。〔躬恆集〕佛法僧といふ鳥のなきければ。

【佛魔】179 ブツマ 佛陀と惡魔。〔梵網經、上〕轉二魔界一入二佛界一、佛界入二魔界一。

【佛幔】180 ブツマン 佛龕の上などに垂れる帳。斗帳。〔韓維、西墅詩〕佛幔掩二餘香一。

【佛名】181 ブツミヤウ ❶ほとけの名。佛名經を見よ。〔琅琊代醉編、佛名〕釋氏稱二佛菩薩名號一、皆冠以二南無二字一。❷佛名會の略。古、陰曆十二月十九日から三日間、宮中の淸涼殿で行はれた行事。僧に佛名經を誦ませ、三世の諸佛の名號を唱へさせて、六根の罪障を滅する修法。

【佛名經】182 ブツミヤウキヤウ 佛 佛書の名。藏經中に數部ある。一は、元魏の菩提流支の譯、佛名經十二卷。一萬一千九十三尊を擧げてゐる。二は、譯者不明の佛名經三十卷。三は、隋の闍那崛多の譯、五千五百佛名神呪除障滅罪經八卷。四は、譯者不明の三劫三千諸佛名經三卷。五は、隋の那連提耶舍の譯、百佛名經一卷。此の中、第四の三劫三千諸佛名經を三千佛名經と略稱し、佛名會に之を誦する。然し本朝の古代には更に十六卷の佛名經があつて、一萬三千餘の佛名を列ねたといひ、玄鑑內供以前には、佛名會に之を修したといふ。

【佛民】183 ブツミン 淸、陸覲(**11**—41708‥77)の號。

【佛滅】184 ブツメツ ❶佛 佛の涅槃。入滅。〔法華經、序品〕佛此夜滅度、如二薪盡火滅一。❷佛滅日の略。陰陽家が萬事に凶であるといふ大惡日。卽ち、陰曆の正月・七月の四・十・十六・二十二・二十八日、二月・八月の三・九・十五・二十一・二十七日、三月・九月の二・八・十四・二十・二十六日、四月・十月の一・七・十三・十九・二十五日、五月・十一月の六・十二・十八・二十四・三十日、六月・十二月の五・十一・十七・二十三・二十九日。

【佛母】185 ブツモ 佛 ❶釋迦如來の母。摩耶夫人。淨飯王の妃。〔大愛道般泥洹經〕佛母壽終時、摩訶卑耶和題倶二曇彌一乳二養長三大佛一、佛言、云云、於レ我有二阜恩一、我母壽終時乳二養長三大我一。❷法をいふ。〔大方便佛報恩經、六〕佛以レ法爲レ師、佛從レ法生、法是佛母。❸般若波羅蜜をいふ。〔大品般若經、十六〕般若波羅蜜多能生諸佛、是諸佛母。❹明、唐賽兒(**2**—3709‥415)の號。

【佛門】186 ブツモン ほとけのみち。佛法界。釋門。桑門。佛道。

【佛爺】187 ブツヤ ❶釋迦牟尼佛。❷皇帝。〔淸國行政法汎論、皇室、敬稱〕俗又稱二皇帝一曰二佛爺一。

【佛老】188 ブツラウ 釋迦と老子。老佛。〔韓愈、進學解〕觝二排異端一、攘二斥佛老一。

【佛郞】189 フツラウ ❶西洋人。ヨーロッパ人。佛郞機の❶を見よ。〔剪燈餘話、至正妓人行〕欽察恩深答刺罕、已見二佛郞一呈二騕褭一。❷ fo² lang² 佛國貨幣の名。フラン。Franc の音譯。略稱は佛。

【佛郞嵌】190 フツラウカン 西域系の七寶をいふ。佛郞は西洋人をいふが、其の技術は、古くペルシヤ或はアラビア方面から唐宋に傳はり、明の景泰年中には、專門の職工が來て、一層優秀なものが出來た。大食窯・鬼國窯・景泰藍・琺瑯等の別名がある。〔淸藍浦、景德鎭陶錄〕。

【佛郞機】191 フツラウキ ❶ Franks の音譯。西曆五・六世紀頃強大であつたフランク族のアラビヤ化音フランギの譯で、歐洲人の稱呼に用ひられたが、葡萄牙人・西班人が多く東漸し來つた爲、此等の國人をいふ。〔續通典、邊防典〕佛郞機、近二美洛居一、又稱二干絲臘國一。❷銃砲。フランク族から轉じて、其の族の傳來した銃砲。佛狼機。〔名山藏〕世宗卽レ位、佛郞機、率二其屬踈世利等千餘人一、破二巴西國一入寇、新會縣海道副使汪鏜、遂得二其銃一以獻、名二佛郞機銃一。

【佛郞王】192 フツラウワウ 佛蘭西の王。ナポレオンをいふ。〔大槻盤溪、佛郞王詞〕半生威武遍二西洋一、靑史長留赫赫名。

【佛郞機礮】193 フツラウキハウ 葡萄牙人の傳へた大砲の稱。〔明史、兵志四〕至二嘉靖八年一、從二右都御史汪鋐言一、造二佛郞機礮一、謂二之大將軍一、發二諸邊鎭一、佛郞機者、國名也、正德末、其國舶至二廣東白沙一、巡檢何儒得二其制一、以レ銅爲レ之、長五六尺、大者重千餘斤、小者百五十斤、巨腹長頸、腹有二修孔一、以二子銃五枚一、貯レ藥置二腹中一、發及二百餘丈一。

【佛理】194 ブツリ 佛敎の敎理。〔白居易、代レ書詩一百韻寄二微之一詩〕儒風愛二敦質一、佛理尙二玄師一。

【佛貍】195 フツリ 後魏、太武帝(**3**—5834‥397)の小字。〔宋書、索虜傳〕嗣死、謚曰二明元皇帝一、子燾、字佛貍、代立。

【佛力】196 ブツリキ 佛の通力。〔梁武帝、以三李胤之得二牙像一敕詔〕宜下承二佛力一、弘中茲寬大上。

【佛律】197 フツリツ ❶輝いて鮮かなさま。〔黃香、九宮賦〕銀佛律以順遊。❷ブツリツ 佛門の戒律。〔隋書、經籍志四〕以下沙門多違二佛律一、群聚穢亂上云云。

【佛倫】198 ブツリン 淸、滿洲正白旗人。姓は舒穆祿氏。官は康熙の間、文淵閣大學士。〔淸史稿、二百七十五〕・〔國朝耆獻類徵、十二〕。

【佛菻】199 ブツリン 國の名。現在のイタリヤをいふ。拂菻。〔朱澤民、異域苑〕宋景祐間、有二佛菻國一來朝、自言レ當二日沒之處一。

【佛盧】200 ブツロ 佛寺。〔唐書、高麗傳〕佛盧以レ瓦。

【佞レ佛】201 ブツニオモネル 佛の冥護を蒙らうとして諂ひ拜する。〔王績、遊二北山一賦〕戒非二佞佛一。〔唐書、侯希逸傳〕佞レ佛興二廣祠廬一。

【佛甲草】202 ブツカフサウ 草の名。いはれんげ。ほとけのつめ。石上、又は瓦屋根等に生じ、夏の頃、黃色の花を著ける。佛指草。〔本草、佛甲草〕集解、頌

佛甲草(三才圖會)

曰、佛甲草生二筠州一、多附レ石、向レ陽而生、似二馬齒莧一而細小且長、有レ花、黃色不レ結レ實、四季皆有。

【佛袈裟】203 ブッケサ　えな。胞衣(9－29396‥1)の異名。〔本草、人胞〕釋名、胞衣、胎衣、紫河車、混沌衣、混元母、佛袈裟、仙人衣。

【佛五姓】204 ブツゴショウ　㊀出家前の釋尊の俗姓に五種あり、瞿曇・甘蔗・日種・舍夷・釋迦が之である。

【佛雙陸】205 ブツサウロク　すごろくの一種。〔事物異名錄、玩戲、雙陸〕譜雙、番禺雙陸名有レ五、曰下噴、曰三推、曰囉嬴、曰不打、曰佛雙陸、下噴・三推難、囉贏・不打易、佛雙陸、止擲兒爲レ之、凡闔閭皂隸輩、皆能二此戲一、士大夫則否。

【佛指甲】206 ブツシカフ　㊀草の名。いはれんげ。佛甲草(202)の異名。〔本草、佛甲草〕集解、時珍曰、二月生レ苗、成レ叢、高四五寸、脆莖細葉、柔澤如二馬齒莧一、尖長而小、夏開二黃花一、經二霜則枯一、人多栽二于石山瓦墻上一、呼爲二佛指甲一。㊁木の名。いてふ。銀杏(11－40355‥41)の異名。〔舊浙江通志〕銀杏、俗名佛指甲。

【佛耳草】207 ブツジサウ　草の名。ははこぐさ。鼠麴(12－48390‥15)の異名。〔本草、鼠麴草〕釋名、米麴、鼠耳、佛耳草、無心草、香茅、黃蒿、茸母、時珍曰、麴言二其花黃如一麴色一、又可レ和二米粉一食上也、鼠耳言二其葉形如一鼠耳一、又有二白毛一、蒙茸似レ之、故北人呼爲二茸母一、佛耳一則鼠耳之訛也。

【佛生會】208 ブッシャウヱ　㊀陰曆四月八日の釋迦降誕日に、其の立像に甘茶を灌ぎかける法會。灌佛會(7－18759‥65)に同じ。〔東寶記、六〕灌佛會亦號二佛生會一。

【佛生日】209 ブッシャウニチ　㊀釋迦の誕生日。卽ち、陰曆四月八日。此の日、灌佛會を行ふ。佛誕日。〔東京夢華錄〕四月八日佛生日、十大禪院有二浴佛齋會一、乃煎二香藥糠水一相遺、謂二之浴佛水一。

【佛掌薯】210 ブッシャウショ　草の名。つくねいも。つくいも。薯蕷に似、根が掌狀をしてゐる。佛頂薯。〔和漢三才圖會、柔滑菜、佛掌薯〕按、佛掌薯、葉比二薯蕷葉一團、頗似二黃獨葉一而略小、其根狀似二佛手柑一而肥大、如二擢搜者一、故名レ之、鎭江府志所謂佛掌薯、是也。

【佛處士】211 ブッショジ　おひとよし。好人物。極めて溫柔な人。〔空同集〕。

【佛逝城】212 ブツセイヂヤウ　占城（安南に在つた國）の舊都。〔讀史方輿紀要、廣東、附考、占城〕佛逝城、占城舊都也。

【佛足石】213 ブツソクセキ　㊀佛の足形を石上に印したもの。佛が入滅の時に摩揭陀國に足迹を留めた。我が國で有名なのは、奈良市外藥師寺の佛足跡で、元と百濟から傳來し、京都府の舊山科寺に在つたものである。因みに、藥師寺の如來は、此の佛足を基として丈六の像を鑄た。〔大唐西域記、八、摩揭陀國上〕率堵波側不遠精舍中有二大石一、如來所レ履雙迹猶存、其長尺有八寸、廣餘二六寸一矣、兩迹俱有二輪相一、十指皆帶二花文一、魚形暎起、光明時照、昔者、如來將レ取二寂滅一、北趣二拘尸那城一、南顧二摩揭陀國一、蹈二此石上一、告二阿難一曰、吾今最後留二此足跡一、將レ入二寂滅一、顧二摩揭陀一也。

【佛太子】214 ブツタイシ　後趙の時、侯子光が自ら稱した語。〔晉書、石季龍載記上〕安定人侯子光、弱冠美二姿儀一、自稱二佛太子一。

【佛誕日】215 ブツタンニチ　㊀佛生日に同じ。佛生日(209)を見よ。

【佛頂顏】216 ブツチヤウガホ　無愛想な顏。人相の惡い顏。佛頂尊の面相の威嚴があつて畏るべきに擬していふ。佛頂面。〔長町女腹切、中〕坊主のぶつちやうがほ。

【佛頂珠】217 ブツチヤウジユ　婢僕の慣れてずるくなつた者。手まめに働かぬ婢僕。〔輟耕錄、井珠〕婢僕初來時曰二擂盤珠一、言二不レ撥自動一、稍久曰二算盤珠一、言二撥之則動一、既久曰二佛頂珠一、言二終日凝然、雖レ撥亦不レ動、此雖二俗諺一實切二事情一。

【佛頂薯】218 ブツチヤウショ　草の名。つくねいも。佛掌薯(210)に同じ。〔典籍便覽〕。

【佛頂尊】219 ブツチヤウソン　㊀胎藏界第三院の釋迦如來が轉輪王三摩地に入り、四天下を統領する輪王の形を現して、佛智の最勝を標幟する尊形。頂は最勝の義、其の智は一切功德中に最勝であるから佛頂といふ。其の部類に五佛頂・三佛頂がある。五佛頂は釋尊の右方に在つて五智を表はし、三佛頂は釋尊の左方に在つて五智を表はし、二佛頂は釋尊の右方に在つて胎藏界の三部の衆德を表はす。八大佛頂は五佛頂と三佛頂とをいふ。〔大日經疏、五〕此八佛頂、皆周身有レ光、光極廣厚以二諸瓔珞一嚴レ身、由二如來本誓願力一、故悉能滿二足一切願一也。

【佛頂面】220 ブツチヤウメン　怒氣を含んだ顏つき。不愛嬌な顏色。佛頂顏(216)を見よ。〔曾我會稽山、三〕不承不承に佛頂づら。

【佛弟子】221 ブツデシ　ほとけの教を奉ずる者。佛教信者。三寶奴。僧侶。〔梁武帝、斷二酒肉一文、一〕外道執二斷常見一、無因無果、無施無報、今佛弟子酣酒嗜肉、不レ畏二罪因一、不レ畏二苦果一、卽是不レ信レ因、不レ信レ果、與二無施無報者一、復何以異。

【佛肚島】222 ブツトジマ　島の名。浙江省鎭海縣の東南の海中に在り、石質で、住民は無い。

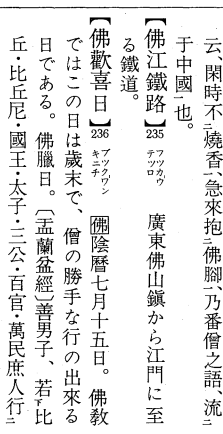
【佛尼埒】223 ブツニラツ　清、滿洲鑲紅旗人。姓は科奇理氏。謚は恭靖。官は康熙の間、西安副都統。王輔臣を討つて功あり、建威將軍を授けらる。〔清史稿、二百六十一・〔國朝耆獻類徵、二百七十三〕・〔國朝先正事略、八〕。

【佛布施】224 ブツフセ　㊀本尊に衣服等を奉ること。〔瞿醯經、中〕諸尊一一奉二施上妙新淨衣服一。

【佛面竹】225 ブツメンチク　竹の名。每節、佛面に似た紋樣を具有するから名づける。〔閩雜記〕佛面竹、長一二丈、粗及レ把、節甚疏、每節有二一佛面一、眉目口鼻皆具、可二以爲一杖、出二龍巖及永定武平等山一、俗謂二定光佛杖一。

【佛峪口】226 ブツヨクコウ　谷の名。河北省延慶縣の西。谷中に松柏が滿ちて天を蔽ひ、谷口十數步に大雄法王の像を鑿つた巨石があり、其の兩側を瀑布が分れ流れて龍潭に注ぐ。

【佛狼機】227 ブツラウキ　天文十年、葡萄牙人が傳へた大砲の名。ぶらん、ぽるとがる、ばらかん等と讀む。佛郎機(191)に同じ。〔三才圖會、器用、佛狼機式〕其銃以レ鐵爲レ之、長五六尺、巨腹長頸、腹有二長孔一、似二小銃一、五箇輪流、貯藥安二入腹中一放レ之、銃外又以二木包一、鐵箍以防二決裂一。〔林羅山、鐵炮書序〕長五尺餘、七尺餘、乃至一丈餘者、皆謂二之佛狼機一。



佛狼機 式機狼佛（三才圖會）

【佛臘日】228 ブツラフニチ　㊀陰曆七月十五日をいふ。佛教では一夏九旬を安居の日として、歲末とするからいふ。臘は歲末の祭の名。佛歡喜。〔僧史略〕所謂臘者、經律中、以二七月十六日一、是比丘五分法身生來之歲首一、則七月十五日、是臘除也。

【佛蘭科】229 フツランコ　アルバニヤの貨幣單位。一スイスフランに當る。Franco の音譯。

【佛蘭西】230 フツランス　歐羅巴洲の一獨立國。法蘭西。

【佛蘭西斯科派】231 フランシスコハ　中世時代のキリスト教の著名な教派。フランシスコに從つて禁慾と愛の生活を送らうとした弟子達によつて成立した教派。Franciscans

【佛里敦】232 フツリトン　地名。アフリカのシエラレオネの首府。Freetown の音譯。

【圖作レ佛】233 ブツトハカルヨト　佛になることをはかる。晉の玩裕が何充を稱した語。〔世說新語、排調〕何次道往二瓦官寺一、禮拜甚勤、阮思曠語之曰、卿志大二宇宙一、勇邁二終古一、何曰、卿今日何故忽見レ推、阮曰、我圖二數千戶郡一、尚不レ能レ得、卿乃圖レ作レ佛、不二亦大一乎。

【抱二佛腳一】234 ブツキヤクヲイダク　平素は信心もせず、ことがせまつて佛の脚にすがる。苦しい時の神頼み。〔通俗編、釋道、抱二佛腳一〕孟郊詩、垂老抱二佛腳一、教妻讀二黃庭一、張世南宦游紀聞、雲南之南、一番國專尚二釋教一、有レ犯二罪應一誅者一、捕之急趨往二寺中一、抱二佛腳一、悔過便貰、其罪一、今諺云、閑時不二燒香一、急來抱二佛腳一、乃番僧之語、流二于中國一也。

【佛江鐵路】235 フツカウテツロ　廣東佛山鎭から江門に至る鐵道。

【佛歡喜日】236 ブツクワンキニチ　㊀陰曆七月十五日。佛教ではこの日は歲末で、僧の勝手な行の出來る日である。佛臘日。〔盂蘭盆經〕善男子、若下比丘・比丘尼・國王・太子・二公・百官・萬民庶人行二

慈孝一者上皆應下先爲二所レ生現在父母、過去七代父母一於二七月十五日佛歡喜日、僧自恣日一以二百味飲食一安二盂蘭盆中一施中十方自恣僧上。

【佛縣髯史】237 清、嵆宗孟(4－8272・17)をいふ。

【佛成道日】238 [佛]佛の成道した日。臘八の佛事日。經論に數說あつて、二月八日、三月八日、三月十五日、四月八日等とする。現今、日本に於ては十二月八日說が一般に行はれてゐる。〔僧史略〕臘月乃周之二月也。

【佛陀耶舍】239 晉の僧。佛陀耶舍(134)に同じ。

【佛遺教經】240 佛垂般涅槃略說教誡經の略名。

【佛羅里達】241 地名。アメリカ東南部の一州。大西洋とメキシコ灣との間に半島形に突出す。Florida の音譯。

【佛羅稜薩】242 地名。イタリヤ西部、アペニン山地に接す。Florence の音譯。

【佛蘭克林】243 人名。又、法蘭克林に作る。Franklin の音譯。❶アメリカの政治家・科學者・文學者。避雷針の發明者。Benjamin Franklin ❷イギリスの探檢家。John Franklin

【成レ佛在レ後】244 南朝宋の孟顗が佛に事へたことを、謝靈運が輕蔑して述べた語。煩惱を脫して佛果を得るのは、我輩より後になるだらうといふ意。〔南史、謝靈運傳〕太守孟顗、事レ佛精懇、而爲二靈運所一レ輕、嘗謂レ顗曰、得道應須二慧業一、丈人生レ天當レ在二靈運前一、成レ佛必在二靈運後一。

【佛駄跋陀羅】245 Buddhabhadra の音譯。南朝宋の高僧。天竺國の人。晉の義熙中、姚秦の沙門智儼に隨つて長安に至る。後、江を渡つて廬山に入り、慧遠と交はる。廬山十八高賢の一人に數へらる。華嚴梵本六十卷及び觀佛三昧經・泥洹經・修行方便論・大僧祇律、凡そ十五部を譯す。〔蓮社高賢傳〕。

【佛面上刮レ金】246 穿鑿の度が過ぎて、全體の體裁を毀してしまふ。〔通俗編、釋道、佛面上刮レ金〕湧幢小品、諺云、佛面上刮レ金、陋レ之也、嘉靖初、用二工部侍郞趙璜奏一、沒二入正德末所レ造諸寺繪鑄佛像一、刮二取金一千三十餘兩一、正合二諺語一、可レ笑。

【佛羅勒斯島】247 島の名。マライ群島の小スンダ諸島の中の一島。チモル島の西方に在り。Flores Island

【無レ佛處作レ佛】248 無レ佛處稱レ尊に同じ。〔續燈錄〕石霜慈明禪師、至二京師一見二駙馬都尉李遵勖一、李問、師臨行一句作麼生、師曰、無レ佛處作レ佛。

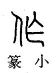
【無レ佛處稱レ尊】249 佛の無いところに佛を見ることをいふ。無レ佛處作レ佛。〔黃庭堅、題跋〕使二蘇子瞻見一レ之、應レ笑下我于二無レ佛處一稱上レ尊也。

【佛覺祐國大師】250 金、海慧(6－1750「3・・25」)の諡。

【作】518

㊀サク 〔集韻〕卽各切 藥
㊁サ 〔集韻〕子賀切 箇
㊂ソ 〔集韻〕宗祚切 遇
㊃ソ・ショ 〔集韻〕莊助切 御

ㄗㄨㄛ tsuo1・2・4


小篆

㊀❶つくる。いとなむ。まうける。〔書、說命下〕若作二酒醴一、爾惟麴糵。〔詩、鄭風、緇衣〕敝予又改作兮。〔箋〕作、爲也。〔詩、鄘風、定之方中〕作二于楚宮一。〔箋〕可三營二制宮室一。〔穀梁、文、二〕作二僖公主一。〔注〕作、爲也。〔中庸〕苟無二其德一、不三敢作二禮樂一焉。❷つくる。あらはす。詩文を作る。書などを著す。撰著。〔書、益稷〕帝庸作レ歌。〔詩、小雅、巷伯序〕故作二此詩一也。❸創作する。はじめる。〔禮、樂記〕作者之謂レ聖。〔論語、述而〕述而不レ作。〔集注〕作、則創始也。❹なす。おこなふ。〔爾雅、釋言〕作、爲也。〔書、五子之歌〕內作二色荒一。〔傳〕作、爲也。〔詩、大雅、常武〕王舒保作。〔箋〕作、行也。❺なる。〔書、舜典〕僉曰、伯禹作二司空一。❻いたす。成就する。〔書、說命中〕無二恥レ過作一レ非。〔傳〕遂成二大非一。〔書、益稷〕萬邦作レ乂。〔傳〕言三天下由レ此爲二治本一。〔詩、大雅、下武〕王配二鎬京一、世德作レ求。〔箋〕作、爲、求、終也、武王配二行三后之道於鎬京一者、以二其世世積德一、庶レ爲三終成二其大功一。❼おこる。おこす。あらはれる。〔說文〕作、起也、从レ人乍聲。〔易、乾〕聖人作而萬物睹。〔釋文〕作、鄭云、起也。〔易、繫辭下〕神農氏作。〔虞注〕作、起也。〔書、說命下〕昔先聖保衡作二我先王一。〔傳〕作、起也。〔書、康誥〕作二新民一。〔詩、大雅、皇矣〕帝作レ邦作レ對。〔老子、二〕萬物作焉而不レ辭。〔班固、兩都賦序〕王澤竭而詩不レ作。〔注〕善曰、作、興也。❽たつ。たてる。たちあがる。〔書、無逸〕作其卽レ位。〔注〕作、起也。〔周禮、夏官、大司馬〕羣吏作レ旗、車徒皆作。〔論語、子罕〕雖二少者一必作。〔集解〕包咸曰、作、起也。❾もちひる。つかふ。〔詩、大雅、旱麓〕遐不レ作レ人。〔周禮、夏官、羅氏〕蜡則作二羅襦一。〔注〕作、猶レ用也。❿かへる。顏色をかへる。化(2－2572)に通ず。〔說文通訓定聲〕作、叚借爲レ化、此形體之誤。〔禮、哀公問〕孔子愀然作レ色而對。〔注〕作、猶レ變也。〔史記、蘇秦傳〕韓王勃然作レ色。⓫はたらく。かせぐ。〔帝王世紀〕日出而作、日入而息。⓬たがやす。くさぎる。たつくる。柞(6－14636)に通ず。〔說文通訓定聲〕作、叚借爲レ柞。〔周禮、地官、稻人〕以涉揚二其芟一作レ田。〔注〕作、猶レ治也。〔逸周書、太子晉解〕士率レ衆時作、謂レ之曰レ作。〔注〕作謂二農功一。⓭きる。けづる。魚を料理する。斮(5－13562)に通ず。〔說文通訓定聲〕作、叚借爲レ斮。〔禮、內則〕魚曰レ作レ之。〔疏〕郭氏爾雅今本作レ斮レ之、注云、謂レ削レ鱗也。⓮うがつ。鑿(11－41088)に通ず。〔說文通訓定聲〕作、叚借爲レ鑿。〔周禮、春官、太卜〕眡レ高作レ龜。〔禮、郊特牲〕作二龜于禰宮一。⓯いつはる。詐(10－35373)に通ず。〔說文通訓定聲〕作、叚借爲レ詐。〔禮、月令〕毋レ或二作爲一。〔注〕作爲、今作二詐僞一。⓰しごと。しわざ。はたらき。〔書、堯典〕平二秩東作一。〔禮、緇衣〕毋下以二小謀一敗中大作上。〔鹽鐵論、園池〕國無二乏作之民一。⓱土木。工事。〔鹽鐵論、園池〕無用之官、不急之作。〔晉書、劉頌傳〕功作之勤。⓲はじめ。はじめて。〔廣雅、釋詁一〕作、始也。〔書、禹貢〕萊夷作牧。〔詩、魯頌、駉〕思二馬斯作一。〔傳〕作、始也。⓳せしめる。〔周禮、夏官、射人〕會同朝覲、作二大夫介一。〔疏〕作、使也。〔儀禮、燕禮〕小臣作二下大夫二人媵爵一。〔注〕作、使也。⓴光るさま。作作(71)を見よ。㉑もと佐(1－519)に作る。〔正字通〕作、本作レ佐。㉒或は乍(1－130)に作り、古は胙(9－29387)・作(4－10064)に作る。〔集韻〕作、古作二胙・作一、亦省。㉓姓。〔路史〕祭公後有二作氏一、一云、周公之子胙侯、子孫避レ地、改爲二作氏一。㊁㊂❶つくる。なす。做(1－861)に同じ。〔集韻〕作、造也。〔正字通〕今方音、作讀レ佐、俗用レ做。〔後漢書、廉范傳〕不レ禁レ火、民夜作。〔韓愈、方橋詩〕方橋如レ此作。❷たつ。〔集韻〕作、起也。㊃うらむ。詛(10－35390)に通ず。〔說文通訓定聲〕作、叚借爲レ詛。〔集韻〕詛、古作レ作。〔詩、大雅、蕩〕侯作侯祝。〔釋文〕作、本或作レ

詛。邦つくり。㈠穀菜類の出來ばえ。㈡かざりつけ。かまへ。化粧。㈢魚肉の刺身。

名乘 ナリ。トモ。アリ。ナホ。フカ。

【作啞】1サア おしのまねをする。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕只得粧ㇾ聾作ㇾ啞、任ㇾ其魚肉ㇾ。

【作惡】2アク ㊀もだえ苦しむ。〔晉書、王羲之傳〕謝安嘗謂ㇾ羲之ㇾ曰、中年以來、傷ㇾ於哀樂ㇾ與ㇾ親友ㇾ別、輒作ㇾ數日惡ㇾ。〔陸游、詩〕漸老情懷多ㇾ作ㇾ惡。㊁サク にくむことをなす。〔書、洪範〕無ㇾ有ㇾ作ㇾ好、遵ㇾ王之道ㇾ。無ㇾ有ㇾ作ㇾ惡、遵ㇾ王之路ㇾ。

【作押】3 tsuo⁴, ya¹ 擔保とする。抵當に入れる。

【作意】4イ ㊀著作した主意。〔詩、大序、疏〕曉ㇾ其作意ㇾ。知ㇾ基本情ㇾ。〔漢書、藝文志〕爲ㇾ之序ㇾ。言ㇾ其作意ㇾ。㊁心を用ひる。〔法苑珠林〕常須ㇾ作ㇾ意不ㇾ起ㇾ攀緣ㇾ。〔蘇軾、謝ㇾ都事惠ㇾ米詩〕俸薄身輕趙都事、也能作意向ㇾ詩人ㇾ。㊂㊀佛心を警めさとらしめるもの。〔俱舍論〕作意、謂ㇾ能令ㇾ心警覺ㇾ。

【作威】5サイ 威嚴をなす。刑罰征誅などを行ふこと。轉じて、權勢を恃んで橫暴する。又、威張る。〔書、洪範〕惟辟作ㇾ福、惟辟作ㇾ威、惟辟玉食。〔左氏、襄、三十一〕（子產曰）我聞ㇾ忠善以損ㇾ怨、不ㇾ聞ㇾ作ㇾ威以防ㇾ怨。

【作爲】6サイ ㊀つくる。拵へあげる。人意を加へる。〔戰國、燕策〕乃令ㇾ工人作ㇾ爲金斗ㇾ、長ㇾ其尾ㇾ、令ㇾ之可ㇾ以擊ㇾ人。〔莊子、天下〕作ㇾ爲華山之冠ㇾ。〔呂覽、季春〕無ㇾ或作ㇾ爲淫巧ㇾ、以蕩ㇾ上心ㇾ。〔墨子、節用中〕作ㇾ爲宮室ㇾ、而利。㊁法律上の效果を生ぜしめる行爲。㊂云云となす。

【作游】7イウ 宮室を作つてあそぶ。〔漢書、地理志下〕昔堯作ㇾ游成陽ㇾ。〔注〕如淳曰、作、起也、云云、師古曰、作游者、言ㇾ爲ㇾ宮室遊止之處ㇾ也。

【作揖】8イウ 揖禮する。會釋する。挨拶する。揖(5－12351)を見よ。

【作淫】9イン みだらな事をする。〔漢書、五行志中之上〕京房易傳曰、廢ㇾ正作ㇾ淫、大不明、國多ㇾ棄。

【作陰】10サク 陰氣を生ずる。〔張衡、西京賦〕孟冬作ㇾ陰、寒風肅殺。

【作院】11サク 工事場。作事場。〔宋史、職官志二〕紹興二年、詔ㇾ於行在、別置ㇾ作院造器、甲令工部長貳提點ㇾ。

【作英】12エイ 清、蒲華(9－31611・30)の字。

【作詠】13エイ 詩歌などを作りうたふこと。〔南史、范泰傳論〕夫令問令望、詩人所ㇾ以作詠ㇾ有ㇾ禮有ㇾ法、前哲由斯播ㇾ美。

【作家】14カ ㊀つくる人。文章・詩歌・小說・美術品などを創作する人。又、著作の名人。〔盧氏雜記〕王縉好與ㇾ人作ㇾ碑誌ㇾ。有ㇾ送ㇾ潤筆ㇾ者ㇾ誤叩ㇾ王維門ㇾ、維曰、大作家在ㇾ那邊ㇾ。㊁家を治める。又、財產を蓄へて立派な家業を立てる。〔晉書、食貨志〕桓帝不ㇾ能ㇾ作ㇾ家、曾無ㇾ私蓄ㇾ。〔通俗編、貨財、作家〕蜀志楊戲傳注引襄陽記、楊顒謂ㇾ諸葛亮ㇾ曰、爲ㇾ治有ㇾ體、請以作ㇾ家譬ㇾ之、按、作家本猶ㇾ治家ㇾ、而俗以ㇾ畜ㇾ積財產ㇾ言ㇾ之。㊂ケ 〔佛〕禪家の機要ある人。〔碧巖錄〕作家宗師。

【作嫁】15カ 他人のために嫁入衣裝を作る。轉じて、他人の仕事を爲して生活するものをいふ。作嫁衣裳の略。〔秦韜玉、貧女詩〕苦恨年年壓ㇾ金線ㇾ、爲ㇾ他人作ㇾ嫁衣裳ㇾ。

【作歌】16サク ㊀歌を作る。〔書、益稷〕帝庸作ㇾ歌曰、勅ㇾ天之命ㇾ、惟時惟幾。㊁和歌を作ること。又、其の歌。

【作價】17 tsuo⁴, chia⁴ 價をきめる。

【作巧】18サク 仕事をする。巧は工。〔漢書、食貨志上〕作ㇾ巧成ㇾ器曰ㇾ工、通ㇾ財鬻ㇾ貨曰ㇾ商。

【作好】19サク 私好をする。依估ひいきをする。〔書、洪範〕無ㇾ有ㇾ作ㇾ好、遵ㇾ王之道ㇾ。無ㇾ有ㇾ作ㇾ惡、遵ㇾ王之路ㇾ。

【作行】20 tsuo⁴, hang² 仕事場。工場。細工場。

【作耗】21 tsuo⁴, hao⁴ いたづらすること。〔紅樓夢、七十四回〕生事作耗。

【作梗】22サウ 邪魔する。妨害する。〔張衡、東京賦〕度朔作梗、守以ㇾ鬱壘ㇾ。神荼副焉、對操ㇾ索葦ㇾ。〔注〕善曰、毛詩傳曰、梗、病也、謂ㇾ爲ㇾ人作ㇾ梗病ㇾ者ㇾ也。〔北史、魏收傳〕羣氏作ㇾ梗、遂爲ㇾ邊患ㇾ。〔王勃、南郊頌〕憑ㇾ遐作ㇾ梗、恃ㇾ險忘ㇾ恭。〔楊萬里、題ㇾ張以道上舍寒綠軒ㇾ詩〕先生飢腸詩作ㇾ梗、小摘ㇾ珍芳ㇾ汲ㇾ永水ㇾ。

【作項】23 tsuo⁴, hsiang⁴ 金額をきめる。

【作鄂】24サク 酉の年。又、零落。作噩(27)に同じ。〔淮南子、天文訓〕作ㇾ鄂之歲、歲有ㇾ大兵、民疾、蠶不ㇾ登、菽麥不ㇾ爲、禾蟲、民食五升、酉在ㇾ辛、曰ㇾ重光ㇾ。〔注〕作鄂、零落也、萬物皆隕落。

【作樂】25ガク ㊀音樂を創作する。〔禮、明堂位〕周公制ㇾ禮作ㇾ樂。〔禮、樂記〕聖人作ㇾ樂以應ㇾ天、〔孔叢子、論書〕古之帝王、功成作ㇾ樂。〔白虎通、三正〕王者改ㇾ作樂、必得ㇾ天應ㇾ而後作。㊁音樂を奏する。奏樂。〔漢書、郊祀志下〕作ㇾ樂其上。㊂サクラン 名乘。

【作樂的】26 tsuo⁴, yüeh⁴ tê 音樂家。

【作噩】27ガク 酉年のこと。作鄂。〔爾雅、釋天〕太歲在ㇾ酉曰ㇾ作噩ㇾ。〔注〕作噩、皆物芒枝起之貌。〔史記、曆書〕昭陽作噩四年。

【作合】28ガフ 配合をなす。配偶をなす。〔詩、大雅、大明〕天作ㇾ之合。〔潘岳、南陽長公主誄〕肇自ㇾ弱笄、有ㇾ覿其芬ㇾ。言告言歸、作ㇾ合于荀ㇾ。

【作氣】29キ 元氣を振ひ起す。〔左氏、莊、十〕夫戰勇氣也、一鼓作ㇾ氣、再而衰、三而竭。

【作器】30キ 古い道に居る妖精。〔太平御覽、妖異部、精〕白澤圖曰、道之精、名ㇾ作器ㇾ狀如ㇾ丈夫ㇾ、善眩ㇾ人、以ㇾ其名ㇾ呼ㇾ之則去。

【作龜】31キ 龜の甲をうがち、灼いた時ひびができ易くする。占をすることをいふ。〔周禮、春官、太卜〕眡ㇾ高作ㇾ龜。〔注〕作ㇾ龜、謂ㇾ鑿ㇾ龜令可ㇾ爇也。〔禮、郊特牲〕卜ㇾ郊、受ㇾ命于祖廟ㇾ、作ㇾ龜于禰宮ㇾ、尊ㇾ祖親ㇾ考之義也。

【作僞】32ギ いつはること。〔國朝漢學師承記、江聲〕至ㇾ本朝閻惠兩徵君所ㇾ著之書、乃能發ㇾ其作僞之跡ㇾ。

【作儀】33ギ 儀容を制定する。〔史記、禮書序〕緣ㇾ人情ㇾ而制ㇾ禮、依ㇾ人性ㇾ而作ㇾ儀。

【作仇】34キウ あだをなす。〔書、泰誓中〕朋家作ㇾ仇。〔陳琳、神女賦〕荊野蠢而作ㇾ仇。

【作強】35キャウ 精力を奮ひ起すこと。又、精力。〔素問、靈蘭祕典論〕腎者作ㇾ強之官、伎巧出焉。〔敬齋古今黈〕作強、乃精力之謂。

【作響】36キャウ ひびきをおこす。ひびく。〔菊池三溪、鍛工助弘傳〕手試ㇾ運鎚法、丁丁作ㇾ響。

【作客】37キャク 客となる。旅の人となる。轉じて、遠慮することをいふ。〔神仙傳〕欲ㇾ教ㇾ授之、乃爲ㇾ作ㇾ客傭賃者ㇾ。〔杜甫、登高詩〕萬里悲秋常作ㇾ客、百年多病獨登ㇾ臺。

【作曲】38キョク 音樂の曲をつくる。〔南史、何思澄傳〕江夏費昶、善爲ㇾ樂府、又作ㇾ鼓吹曲ㇾ。〔宋史、樂志五〕高宗、從ㇾ其請、命ㇾ學士沈虛中、作ㇾ歌曲ㇾ、以薦ㇾ太廟ㇾ。

【作苦】39ク ㊀にがい味となる。〔書、洪範〕潤下作ㇾ鹹、炎上作ㇾ苦。㊁勞苦する。〔漢書、楊惲傳〕田家作ㇾ苦。〔杜甫、行官張望補ㇾ稻畦水歸詩〕終然添ㇾ旅食ㇾ作苦期ㇾ壯觀ㇾ。

【作具】40サク つくり具へる。〔荀子、禮論〕卒矣、然後作ㇾ具之ㇾ。〔注〕作ㇾ之具ㇾ之。

【作火】41サククワ 火をおこす。〔左氏、昭、六〕火未ㇾ出而作ㇾ火、以鑄ㇾ刑器ㇾ。

【作科】42 tsuo⁴, k'ê 俳優がしぐさの稽古をすること。

【作過】43 tsuo⁴, kuo⁴ なしたことがある。

【作怪】44 tsuo⁴, kuai⁴ ㊀奇怪不可思議な。奇怪な形をなす。㊁分に安んぜぬ。

【作怪人】45 tsuo⁴, kuai⁴, jen² ㊀騙りや。詐欺師。㊁奇怪な樣子をする人。

【作會】46クワイ より合ふこと。集會すること。〔禮、檀弓下〕殷人作ㇾ誓、而民始畔、周人作ㇾ會、而民始疑。〔疏〕以會爲ㇾ盟也。

【作誨】47クワイ 教へる。〔墨子、辭過〕作ㇾ誨婦人。

【作繪】48エツクリ 彩色繪のこと。〔源氏物語、若菜上〕春秋のつくりゑ。

【作荒】49クワウ 饑饉になる。〔鶴林玉露、人、氣之先見〕歲將ㇾ饑、小民餐必倍、俗謂ㇾ之作荒ㇾ。

【作活】50クワツ 仕事をして生計を謀る。仕事をする。〔魏書、北海王詳傳〕高云、自ㇾ今而後、不ㇾ願ㇾ富貴、但令ㇾ母子相保、共ㇾ汝掃ㇾ市作活也。〔張籍、移ㇾ居靜安房ㇾ詩〕作ㇾ活每常嫌ㇾ費ㇾ力。

【作闊】51 tsuo⁴, k'uo⁴ 贅澤する。奢る。

【作官】52クワクワン ㊀官吏となる。〔楊萬里、詩〕顧ㇾ我雪窮ㇾ行腳襪、羨ㇾ君身作ㇾ在家官ㇾ。㊁匠作の長官をいふ。〔六部成語、工部、作官、注解〕匠作之頭目也。

【作裙】53サククン 裙を作る。スカートを作る。〔魏

志、倉慈傳、注〕燉煌俗、婦人作レ裙。

【作嬌】54 サクケウ なまめかしい樣子をする。しなをつくる。〔古樂府、華山畿〕夜想思投壺不レ停レ箭、憶歡作嬌時。

【作孼】55 サクゲツ ㊀自ら禍をまねく。又、なした罪。なしたわざはひ。〔書、太甲中〕天作孼猶可レ違、自作孼不レ可レ逭。㊁ tsuo⁴ nieh⁴ 罪を犯す。

【作業】56 サゲフ しごと。〔管子、輕重丁〕舍二其作業一。〔史記、高祖紀〕不レ事二家人生產作業一。

〔作業教育〕57 サゲフケウイク 作業を實際に生徒兒童に課することによつて、其の心身を陶治しようとする教育。

【作見】58 サクケン あらはれ見える。〔白虎通、文質〕信莫レ著二于作レ見、故以レ珪爲レ信、而見二萬物之始一、莫レ不二自潔一。

【作臉】59 tsuo⁴ lien³ 面目を施す。顏を立てる。

【作繭】60 サクケン ㊀蠶が生長すれば繭を作つて蛹となることから、轉じて、入仕して官につく喩。〔朝野僉載〕王顯與二文皇帝一有レ舊、帝微時、嘗戲曰、顯抵レ老不レ得レ作レ繭、及二登極一而顯謁、因奏曰、臣今日得レ作レ繭邪、帝笑曰、未レ可レ知也、召二其三子一、皆授二五品官一、顯獨不レ及。〔通俗編、禽魚、作繭〕按、作繭、卽宋人以レ得レ仕、爲二結褁之說一。㊁しりぞきかくれる意。〔歐陽脩、鎭陽讀書詩〕有レ似二蠶作レ繭、縮レ身思二自藏一。

〔作繭自縛〕61 サクケンジバク 蠶が絲を吐いて自らしばること。自繩自縛の喩。〔傳燈錄〕志公坐禪、如二蠶吐レ絲自縛一。

【作言】62 サクゲン 詐りをいふ。作り言を用ひる。〔莊子、盜跖〕爾作言造語、妄稱二文武一。

【作古】63 tsuo⁴ ku³ 死ぬ。死亡する。

【作故】64 サクコ 故事先例を作る。〔張衡、西京賦〕自レ君作レ故、何禮之拘。〔注〕善曰、國語、魯侯曰、君作二故事一、韋昭曰、君所レ作則爲二故事一也。

【作工】65 tsuo⁴ kung¹ 仕事をする。作業する。勞働する。

〔作工夫〕66 tsuo⁴ kung¹ fu¹ 勞働する。働く。

【作興】67 サクコウ ㊀おこる。〔孟子、離婁上〕聞二文王作興一曰、盍レ歸乎來。㊁ひきおこす。振興。〔書、益稷〕率作二興事一、愼二乃憲一、欽哉。〔蔡傳〕人君當下總二率羣臣一、以起中事功上。㊂おごりたかぶらせる。〔屑玉集〕明崇禎帝田妃、恃レ寵失二禮於周后一、后訴レ之、帝麾以レ手、后仆、起而泣曰、帝猶憶下爲二信王一時、魏忠賢肆レ惡、夫婦終日憂危上耶、今日乃作二興他人一。

【作穀】68 サクコク 田畑に作られてゐる穀類。〔揚雄、上林苑令箴〕芃芃大田、芃芃作穀。

【作材】69 サクザイ 山澤の材木を作るをいふ。木づくりする。〔周禮、地官、大司徒〕三曰、作材。〔注〕作材、謂二虞衡作二山澤之材一。

【作巢】70 サクサウ 巢を作る。〔禮、禮運、疏〕鳥不レ畏レ人、作レ巢在レ下。〔博物志、異鳥〕穿二大樹一作レ巢。

【作作】71 サクサク 光のかどだつて輝くさま。〔史記、天官書〕作作有レ芒、國其昌、熟穀。

【作冊】72 サクサツ 官名。周禮の內史職にあたる。〔王國維、觀堂別集〕孫詒讓周禮正義、始以二洛誥作冊一爲二官名一、卽內史之異名、其說是也、案二古今文鼎卣等一、或稱二作冊某一、或稱二作冊內史某一、或稱二作命內史某一、皆一官也、內史之長、曰二內史尹一、或曰二作冊尹一、亦單稱二尹氏一、或稱二命尹一、皆見二金文一、作冊尹氏、皆周禮之內史之職、而尹氏爲二其長一、百官之長、皆曰レ尹、而內史尹・作冊尹、獨單稱二尹氏一者、位尊而地要也、尹氏之職、掌下書二王命一、及制レ祿命上レ官、與二太師一同秉二國政一、故詩曰、赫赫師尹、又曰、尹氏太師、惟周之氏、與二洪範・魯語之師尹一同。

【作酸】73 サクサン 酸い味となる。〔書、洪範〕潤下作レ鹹、炎上作レ苦、曲直作レ酸、從革作レ辛、稼穡作レ甘。〔蔡傳〕作、爲也。

【作士】74 サクシ 官名。王莽の時に置く。秦官の廷尉に當る。〔漢書、百官公卿表上〕廷尉秦官、王莽改曰二作士一。

【作死】75 サクシ ㊀死んだ者を蘇生させること。作死馬醫を見よ。㊁ tsuo² ssŭ³ 死をもとめる。

〔作死馬醫〕76 サクシバイ 見込の無いものを、尙ほ救はうとする喩。晉の郭璞の馬が死んだ時、其の下僕が林木を杖擊して猿狀の物を得、歸つて死馬に見せたら忽ち活き返つた故事からいふ。〔猗覺寮雜抄〕作死馬醫、自レ唐已有二此語一、其初出二郭璞傳一、有二主人良馬死者一、璞敎二令一人東行一、過二林木一、以レ杖擊レ之、得二一物如レ猿、持歸見二死馬一、卽吹二其鼻一、少頃活、故世俗於レ無レ可二奈何一、尙欲レ救レ之者、謂二之作死馬醫一。

【作詩】77 サクシ 詩を作ること。〔詩、小雅、巷伯序〕巷伯刺二幽王一也、寺人傷二於讒一、故作二此詩一也。

〔作詩的〕78 tsuo⁴ shih¹ tə 詩人。

〔作詩法〕79 サクシハフ 詩の作り方。漢詩を作るには一定の規則がある。卽ち、一、句數に定限のあること、二、一句の字數を整へること、三、句中の各字の平仄を調へること、四、句尾に押韻すること等の原則があり、これに本づいて古體・近體・五言・七言等の詩式がある。

(一)五言絕句。

五言絕句仄起式（正格）

起	◑	●	○	○	●	
承	◑	○	◑	●	○	韻
轉	◑	○	○	●	●	
結	◑	●	●	○	○	韻

五言絕句平起式（偏格）

起	◑	○	○	●	●	
承	◑	●	●	○	○	韻
轉	◑	●	○	○	●	
結	◑	○	◑	●	○	韻

（○は平字、●は仄字、◑は平字でも仄字でも宜しいもの）。

右の如く、第一句の二字目が平字であるか仄字であるかに依つて、或は平起りといひ、或は仄起りといふ。第二字目は平仄法の眼目である。韻を押むとは、第二句と第四句の第五字に、大抵、平聲の韻を押むことで、例へば第二句の第五字に七陽の韻の字を用ひた時は、第四句の五字目にも亦七陽の韻の字を用ひねばならぬ。次に、作詩にあたつて忌むべきことが數條ある。卽ち、一、孤平、仄字と仄字との間にただ一つの平字のあること。例へば、●○●の類。二、下三連、下三字に仄字又は平字が連ること。○○○又は●●●の類。三、四仄一平、五言の中何れの句でも平一字だけで他の四字は皆仄なのをいふ。例へば●○●●●・●●○●●・●●●○●の類。四、四平一仄、四字皆平で一字だけ仄なものをいふ。例へば○●○○○・○○●○○・○○○●○の類。以上は平仄排置の病弊であつて、啻に五言絕句に於てだけでなく、七言絕句・五言律・七言律に於ても皆忌むべき病弊である。五言絕句の平仄式を能く記憶するには、二四不同の四字を記憶すれば十分である。二四不同とは、何れの句に於ても、第二字と第四字とに、互に同聲の字を用ひぬことで、例へば○○●●の如く、第二字が平であれば、第四字は仄、第二字が仄であれば第四字は平であることをいふ。これは五言律も同樣である。次に、作詩に當つては、各句の脈絡が肝要である。古來、絕句の各句を夫々起・承・轉・結と言つてゐるが、之に依つて各句相互の脈絡の關係を知り得る。第一句、卽ち起句は、始めて說き起す句であり、第二句、卽ち承句は、起句に承接して之を暢言する句であり、第三句、卽ち轉句は、起・承の二句で述べて來た意を一轉して、下の結句の意味を引き起すもので、最も緊要である。第四句、卽ち結句は、上の三句の意味を結びまとめる句である。五・七言絕句に在つては、此の起・承・轉・結の四法に據らなければ、前後混亂して意味の次第が立たぬ。

(二)七言絕句。

七言絕句平起式（正格）

起	◑	○	◑	●	●	○	○	韻
承	◑	●	◑	○	◑	●	○	韻
轉	◑	●	◑	○	○	●	●	
結	◑	○	◑	●	●	○	○	韻

七言絕句仄起式（偏格）

起	◑	●	◑	○	◑	●	○	韻
承	◑	○	◑	●	●	○	○	韻
轉	◑	○	◑	●	◑	○	●	
結	◑	●	◑	○	◑	●	○	韻

此の式を記憶するには、二四不同二六對の七字を記憶すべきである。二四不同とは、第二と第四との二字に、互に同聲の字を用ひぬことをいひ、二六對とは、第二字と第六字とに、互に同聲

の字を相對して用ひることをいふ。例へば、第二字が平であれば第四字を仄とし、第六字は第二字に對して平とする。又、七言絶句には、挾聲格といふことがある。それは平起りの轉句の末が仄三連となるときに用ひる變法で、轉句の句尾が●●●となるとき、第六字の仄を平に換へ、●○●とすることをいふ。之を挾平ともいひ、孤平であつても忌まぬ。而して、七言絶句の作法も亦第三句を以て主とし、第三句で其の趣きを發するもので、其の法に虛接・實接・開合・順逆・正反等の法がある。轉句を以て起・承二句を虛接する法を虛接法といひ、これに反するのを實接法といふ。又、詩の形式には、前散後對式・前對後散式・四句對式・四句散式等がある。

(三)五言律。

五言律仄起式

破題　◑●○○●
　　　◑○◑●○韻
頷聯　◑○○●●
　　　◑●●○○韻
頸聯　◑●○○●
　　　◑○◑●○韻
結句　◑○○●●
　　　◑●●○○韻

五言律平起式

破題　◑○○●●
　　　◑●●○○韻
頷聯　◑●○○●
　　　◑○◑●○韻
頸聯　◑○○●●
　　　◑●●○○韻
結句　◑●○○●
　　　◑○◑●○韻

此の式は、仄起りは五言絶句の仄起式を二首合せ、平起りは五絶の平起式を二首合せたのと同じである。律詩では二句づつを合せて一聯とするが、其の構成は絶句と異ならない。故に、破題は起句、頷聯(前聯ともいふ)は承句、頸聯(後聯ともいふ)は轉句と考へて作るべきであり、七言律も亦同じである。律詩に於ては、聯句が重要である。聯とは對のことで、律詩を作るには、前後の二聯を必ず對句に作らねばならぬ。對は類と異なる。例へば、金銀と銅鐵とは同類であるが、金石と草木とは對である。而して、同類のものを板聯又は合掌對といつて、大いに忌むところである。律詩の作法は、破題の二句は、或は風景に對して興起し、或は他の物に比して起し、或は題のままを賦して起す。頷聯・頸聯の對四句は、或は二聯ともに景を寫し、或は二聯ともに情をいひ、或は情の中に景を寓し、景の中に情を含ませる。結の二句は、或は題に就いて結び、或は證據を引いて咏嘆する。對句法には、流水對・句中對・分裝對・倒裝對・反裝對・走馬對・折腰對・骨折對・背面對・假對等があり、字法には、虛眼・實眼・單眼・雙眼の法がある。又、詩の形式には、通首全實之法・通首全虛之法・四實之法・四虛之法・二實二虛之法・景疊意二之法・闊大半細法・對面生情法等がある。

(四)七言律。

七言律平起式

破題　◑○◑●●○○韻
　　　◑●◑○◐●○韻
頷聯　◑●◑○○●●
　　　◑○◑●●○○韻
頸聯　◑○◑●◑○●
　　　◑●◑○◑●○韻
結句　○●◑○○●●
　　　◑○◑●●○○韻

七言律仄起式

破題　◑●◑○○●○韻
　　　◑○◑●●○○韻
頷聯　◑○◑●○○●
　　　○●◑○◑●○韻
頸聯　◑●◑○○●●
　　　◑○◑●●○○韻
結句　◑○◑●◑○●
　　　◑●◑○◑●○韻

句法は五言律と大體同じく、折腰對・三折對・倒裝對・分裝對・流水對・錯綜對・走馬對・就句對・句中對等があり、又、言倒理順・上應下呼・上呼下應・上三下四・上四下三等の句法がある。字法も五言律と略〻同じく、虛眼・實眼・映帶・關鍵等があり、又、詩の形式には、運二用虛字一法・八句全對式・雙起單結式・單起雙收式・結語蘊蓄式・結語雄偉式等がある。

〔參考書〕一、作詩の法式に關するもの。作詩法講話(森槐南)・作詩術(宮崎來城)・作詩自在(柳井絅齋)・新作詩自在(井土靈山)・正續作詩活法(土居香居)・作詩關門(釋清潭)・漢詩講座。二、詩語・韻脚に關するもの。幼學便覽・詩語粹金・作詩便覽・詩韻珠璣・詩韻含英・韻府一隅・詩韻全璧・圓機活法・佩文韻府。三、律詩の對句を檢索するには韻偶大成・詩語對句自在・錦囊唾餘。四、平仄及び韻に關するもの。掌中伊呂波韻大成・初學檢韻・佩文韻府兩韻便覽・詩韻含英・掌中詩韻。五、熟語に關するもの。詩語群玉(澤熊山)・文章形容詞範(金井助作)・疊辭訓解(白雲居人)・物數稱謂(岡田挺之)・左國腴詞・太史華句・文選錦字錄・楚騷綺語。六、故事を知るに役立つもの。圓機活法・錦字箋・精注雅俗故事讀本・日記故事大全・故事成語考・淵鑑類函・五車韻瑞・事類統編。

【作詩志彀】80 サクシシコウ　書名。一卷。山本北山撰。北山は生涯、明の袁中郎の清新を唱へて李王七子の摸擬剽窃を排斥し、此の書及び作文志彀を作つて大いに其の所見を披瀝し、併せて物徂徠・服部南郭等の缺點を抉摘す。〔日本詩話叢書、第八卷〕・〔日本文庫、第七冊〕。

【作詩質的】81 サクシシツテキ　書名。一卷。冢田大峯撰。作詩の方法は、正法により、邪徑に陷るべからずとの主旨によつて詩法を論じ、且つ、餘話には和漢の詩を引いて批評・解釋を施す。〔日本詩話、第一卷〕。

【作字】82 ツクリジ　我が國で作つた漢字。

【作事】83 サクジ　㊀事をおこしなす。又、其のこと。〔易、訟〕君子以作ㇾ事謀ㇾ始。〔左氏、襄、三十一〕作事可ㇾ法、德行可ㇾ象。〔孝經、聖治章〕作事可ㇾ法。㊁仕事をする。㊂家を作る。普請する。〔宗長手記〕假屋作事。㊃ツクリゴト　事實無根の事。虛僞な事。〔源氏物語、夕顏〕つくりごとめきて取りなす人。

【作事方】84 サクジガタ　德川時代に、公の普請を請負つた人。

【作事不ㇾ時】85 サクジトキナラズ　仕事をするに適當な時を得てゐない。〔左氏、昭、八〕抑臣又聞ㇾ之、曰、作事不ㇾ時。

【作事奉行】86 サクジブギヤウ　武家時代の役の名。幕府または諸侯の普請の事を司る。作事方の長官。普請奉行。〔太平記、二十六、執事兄弟奢侈事〕山庄、云云、作事奉行。

【作辭】87 サクジ　㊀言葉をほめ稱へる。〔禮、哀公問〕君子過ㇾ言、則民作ㇾ辭。〔疏〕君子過ㇾ言、則民作ㇾ辭者、以ㇾ君爲㆓民表㆒、下之所ㇾ從、假令過誤出ㇾ言、民猶法ㇾ之、稱㆓作其辭㆒。㊁文章を作る。作ㇾ文。〔史記、太史公自序〕作ㇾ辭以諷諫、連ㇾ類以爭ㇾ義、離騷有ㇾ之。

【作舟】88 サクシウ　㊀舟を作る。〔周禮、考工記、總目〕作ㇾ車以行ㇾ陸、作ㇾ舟以行ㇾ水。〔世本〕其鼓貨狄作ㇾ舟。〔呂覽、勿躬〕虞姁作ㇾ舟。〔束晳、發蒙記〕伯益作ㇾ舟。㊁字號。㋑宋、汪若楫(6－17154‥253)の字。㋺淸、榮汝楫(6－15273‥182)の字。

【作脩】89 サクシウ　作りをさめる。〔史記、周紀〕甫侯言㆓於王㆒、作㆓脩刑辟㆒。

【作室】90 サクシツ　㊀居室を作る。住居を作る。〔書、大誥〕若考作ㇾ室、既底ㇾ法、厥子乃弗㆓肯堂㆒、矧肯構。㊁工作する室。作業場。〔漢書、王莽傳下〕城中少年朱弟張魚等、恐ㇾ見㆓鹵掠㆒、趨讙並和、燒㆓作室門㆒、斧㆓敬法闥㆒、譟曰、反虜王莽、何不㆓出降㆒。〔補注〕程大昌曰、未央宮西北織室・暴室之類、黃圖謂爲㆓尚方工作之所㆒者也。

【作疾】91 $tsuo^4$ chi^2　假病。

【作什】92 サクジフ　詩文をつくる。又、作つた詩文。〔陳後主、與㆓江總㆒書悼㆓陸瑜㆒〕作㆓雅篇艷什㆒、迭互鋒起。

「作ㇾ車以行ㇾ陸。

【作車】93 サクシヤ　車をつくる。〔周禮、考工記、總目〕

【作者】94 サクシヤ　㊀制度を創作する人。又、詩歌文章、或は狂言などを著作する人。著作者。撰者。作者謂ㇾ聖を見よ。〔碧巖錄〕作者知㆓機變㆒。㊁起ち去つて隱遁する者。〔論語、憲問〕作者七人矣。〔集注〕李氏曰、作、起也、起而隱去者、今七人

矣。㊂事を爲す者。〔論語、憲問、集解〕包氏曰、作、爲也、爲レ之者凡七人。

【作者謂レ聖】95 サクシヤイセイ 禮樂を創作するものを聖人といふ。禮樂を創作するには德と位とを兼ねなければならぬ。〔禮、樂記〕知二禮樂之情一者能作、識二禮樂之文一者能述、作者之謂レ聖、述者之謂レ明、明聖者、述作之謂也。〔疏〕作者之謂レ聖、聖者通二達物理一、故作者之謂レ聖、則堯舜禹湯、是也。

【作情】96 tsuo⁴ ch'ing² ㊀中に立つ。仲裁する。㊁仕事。㊂役者の舞臺での身振所作。㊃私情に溺れる。

【作手】97 サクシュ つくりて。著作する人。〔池北偶談〕實本朝一作手也。

【作主】98 サクシュ ㊀木主を造る。位牌を造る。〔左氏、僖、三十三〕凡君薨、卒哭而祔、祔而作レ主、特祀二於主一。〔注〕孝子思慕、故造二木主一。㊁自分の考でやる。さばきをつける。裁決する。〔紅樓夢、三十三回〕敢煩二老大人作一レ主。㊂主人となる。

【作取】99 ツクリ 年貢等を出さないで收穫の全部を我が有とすること。

【作輸】100 サクシュ 作つたり運んだりする。〔漢書、哀帝紀〕無二作輸一。〔注〕師古曰、謂未レ成者不レ作、已成者不レ輸耳。

【作鼎】101 サクテイ 宋、馮允中（12－44579‥165）の字。

【作述】102 サクジュツ 新に事物を創作することと、先人の業績言行等を受け繼いで更にそれを述べ行ふこと。又、書物などを著しのべること。〔禮、樂記〕作者謂二之聖一、述者謂二之明一。〔中庸〕父作之子述レ之。

【作書】103 サクショ ㊀字を書く。手紙を書く。〔古樂府、枯魚過河泣〕作書與二魴鯉一、相教愼二出入一。〔吳志、魯肅傳〕劉備求二都二督荊州一、惟肅勸レ權借レ之、共拒二曹公一、曹公聞レ權以二土地一業レ備、方レ作レ書、落二筆於地一。㊁文字を作る。〔世本、下〕沮誦・倉頡作レ書。

【作書的】104 tsuo⁴ shu¹ tê 著述家。編纂者。

【作誦】105 サクショウ 思ひうらむ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽二琴雜劇一〕乍教レ你無二人處一、把二妾身一作誦。

【作證】106 サクショウ ㊀證據とする。保證する。〔郝經、牽牛花詩〕女以二秋爲一期、郎將レ花作レ證。㊁抵當とする。

【作色】107 サクショク 色をなす。怒つて顏色をかへる。〔禮、哀公問〕孔子愀然作二色而對一。〔注〕作、猶レ變也。〔戰國、齊策〕王忿然作二色曰一、王者貴乎、士貴乎。〔莊子、天地〕爲レ圃者忿然作二色而笑一。〔管子、小匡〕公作レ色曰、此三者且可、則惡有二不可者一矣。〔史記、蘇秦傳〕韓王勃然作レ色。

【作新】108 サクシン 鼓舞しはげます。民を奮ひ起して道德的に立派なものにする。〔書、康誥〕亦惟助レ王、宅二天命一、作二新民一。〔蔡傳〕安二定天命一而作二新斯民一也。

【作箴】109 サクシン 戒めとなる辭をつくる。箴は文章の一體。〔後漢書、文苑下、高彪傳〕蔡邕等皆賦レ詩、彪乃獨作レ箴。

【作親】110 サクシン ㊀結婚する。親戚關係を結ぶ。㊁ツクリおや。かりおや。〔狹衣、一下〕心にまかせたるつくりおや。

【作人】111 サクジン ㊀惡人を化して人を新たにする。轉じて、人才を養成する。〔詩、大雅、棫樸〕周王壽考、遐不レ作レ人。〔集傳〕作レ人、謂二四變一化レ之。〔魏志、邴原傳、注〕德者作レ人。㊁田を耕作する人。〔冥祥記〕在レ田作レ人。㊂さくにん。工藝品などをつくる人。〔東京夢華錄〕有二諸手作人一、上レ市買二賣零碎作料一。

【作水】112 ツクリ 湯ざまし。

【作成】113 サクセイ ㊀つくりなす。こしらへあげる。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕經二緯天地一、作二成四時一。㊁世話する。〔紅樓夢、七回〕何不二速速的作成一。

【作制】114 サクセイ 制度を作る。法度を立てる。立法。〔晉書、文帝紀〕聖王作レ制、百代同レ風、襲レ德賞レ功、有二自來一矣。

【作聖】115 サクセイ ㊀聖となす。又、聖人となる。〔書、洪範〕聰作レ謀、睿作レ聖。〔顏延之、爲二張湘州一祭二虞帝一文〕惟哲化レ神、繼レ天作レ聖。〔梁元帝、卽位詔〕應レ天從レ民、惟睿作レ聖。㊁明、明睿（5－13805‥24）の字。

【作勢】116 サクセイ 勢を振ひ起す。〔晉書、王敦傳〕吾當二力行一、因作レ勢而起、困乏復臥。

【作誓】117 サクセイ 約束する。誓を立てる。〔禮、檀弓下〕殷人作レ誓、而民始畔、周人作レ會、而民始疑。〔疏、案、尚書、夏啓作二甘誓一、此言二殷人作一レ誓。

【作聲】118 サクセイ 聲を發すること。〔南齊書、王敬則傳〕防閤丁興懷曰、官秖應レ作耳、敬則不レ作レ聲。

【作韶】119 サクショウ 清、鍾獅（11－40672‥58）の字。

【作踐】120 サクジン ㊀粗末にする。ふみつける。輕蔑する。そこなひやぶる。作撻。〔蘇軾、申二三省一起二請開湖一六條狀〕又二工役既畢一、則房廊邸舍、作踐狼藉。㊁tsuo² chien⁴ 虐待する。ひどく扱はれる。嘲弄する。

【作戰】121 サクセン ㊀敵軍に對する軍隊の動作方法。舊陸軍に在つては、通常、戰略單位以上の兵團の對敵行動を總稱して作戰と言ひ、兵團の集中・機動・戰鬪・駐軍、及び必要なる交通・補給等を包含する。〔孫子、作戰〕孫子曰、凡用二兵之法一、馳車千駟。㊁孫子の篇名。

【作戰地】122 サクセンチ 作戰に關係ある地域。

【作戰計畫】123 サクセンケイクワク 敵とたたかふ前に豫め定めて置く所の、戰鬪の方法計略等。作戰の指導の目的を以て作成せられ計畫。もと統帥事務中の重要なものとして、參謀總長・軍令部長が之を立案し、親裁を以て定められた。

【作戰目標】124 サクセンモクヒヤウ 作戰上、軍隊の到達すべき目じるし。敵軍の主力・根據地・戰略要點の類をいふ。

【作善】125 サゼン ㊀善をなす。〔書、伊訓〕作二善降一之百祥。㊁佛事供養を營み、或は佛像の彫刻、又は經卷の書寫などをすること。〔無量壽經、下〕作二善得一善、爲レ道得レ道。

【作足】126 サクソク よく走る。〔易、說卦〕其於二馬也一、爲二善鳴一爲二驚足一爲二作足一。〔疏〕爲二作足一、取二其動而行健一也。

【作則】127 ソクソク 法則とする。〔禮、哀公問〕過レ動則民作レ則。〔注〕君之行雖レ過、民猶以爲レ法。

【作歹】128 tsuo⁴ tai³ 惡事を爲す。

【作對】129 サクタイ ㊀配偶者、卽ち相手をつくる。又、天が明君を生ずること。〔詩、大雅、皇矣〕帝作二邦作一レ對、自二大伯王季一。〔傳〕對、配也。〔箋〕作、爲也、天爲レ邦、謂レ興二周國一也、作二配、謂一爲生明君一也。〔蘇軾、答二孔毅父一詩〕天邊鴻鵠不レ易レ得、便令作二對隨一家雞一。㊁對抗する。たてつく。敵對する。〔新方言、釋言〕今人謂二相惡一曰二作對一、所レ疾曰二對頭一。

【作對手】130 tsuo⁴ tuei⁴ shou³ 相手になる。向ふをはる。

【作對頭】131 tsuo⁴ tuei⁴ t'ou² 作對の㊀に同じ。

【作態】132 サクタイ しなをつくる。〔後漢書、列女、曹世叔妻傳〕入則亂髮壞レ形、出則窈窕作レ態。

【作臺】133 tsuo⁴ t'ai² 裁板。たちいた。

【作鬧】134 サクダウ さわぐ。あばれる。〔舊唐書、武宗紀〕有二織人一言二宰相一作二赦書一、欲レ減二削禁軍衣糧馬草料一、仇士良怒曰、必若有レ此、軍人須下至二樓前一作レ鬧。〔通俗編、武功、作鬧〕蔣氏昌黎詩注、園林窮二勝事一、鍾鼓樂清時一、不二曾如一此作一レ鬧。

【作撻】135 サクタツ 無駄にする。そこなひやぶる。作踐。作蹋。〔楊廷秀、詩〕憐二惱遊人作一撻春一。

【作獵】136 サクリヨ 他人の漁場までおかす。侵漁する。〔南唐近事〕張崇帥二廬州一、素レ錢無レ厭、嘗因二燕會一、一伶人假爲レ死者、被二譴作一水族一、冥司判云、焦湖千里、一任二作獵一。〔通俗編、獸畜、作獵〕按、俗謂二侵漁一曰二作獵一、被二侵漁一曰二遭獵一。

【作蹋】137 サクタフ そこなひやぶる。作撻（135）に同じ。〔大雲山房雜記〕作蹋猶二作踐一、作藉一耳、俗謂二暴殄一曰二作蹋一。

【作男】138 サクナン 田畑の耕作に從事する男。

【作置】139 サクチ 作り置く。〔史記、蒙恬傳〕秦莊襄王元年、蒙驁爲二秦將一、伐レ韓取二城皐・滎陽一、作二置三川郡一。

【作竹】140 サクチク 竹細工をする。〔南史、沈麟士傳〕鄉里號爲二織簾先生一、嘗爲二人作竹一、誤傷レ手、便流淚而還曰、此本不レ痛。

【作場】141 サクバ ㊀工場。仕事場。普請場。〔古今祕苑〕作場內。㊁サクヂヤウ 耕作する處。田畑。

【作圖】142 ツクワ ㊀圖を畫くこと。〔世本、下〕史皇作レ圖。〔注〕宋衷曰、史皇、黃帝臣也、圖、謂二畫二物象一。〔舊唐書、呂才傳〕便能作二圖解釋一。㊁數學用語。幾何學に於て、與へられた條件に適する圖形を畫くこと。

【作圖題】143 サクヅ 數學用語。作圖を求める問題。

【作抵】144 tsuo⁴ ti³ 抵當とする。

【作輟】145 ツオツ ❶仕事を止めたり爲したりする。事をするに常のない意。〔法言、孝至〕有レ人則作レ之、無レ人則輟レ之、之謂レ僞、觀レ人者、審二其作輟一而已矣。❷中止する。

【作田】146 ツオツ ❶田を耕作する。〔周禮、地官、稻人〕以涉揚二其芟一作レ田。❷耕作する田。つくりだ。〔梁書、張纘傳〕益陽縣人作田二頃、皆異レ畝同レ穎。

【作徒】147 トツ 徒罪に坐して勞役するもの。〔資治通鑑、宋紀〕孝武帝、大明三年、赦二作徒・繫囚一。〔注〕作徒、坐二徒罪一居作者。

【作土】148 ドゥ 土を積む。〔墨子、雜守〕作土不レ休。

【作東】149 トウ 東道の主となる。轉じて、主人役をする。資本家となる。東道主(6－14499・465)を見よ。〔左氏、僖、三十〕若舍レ鄭以爲二東道主一、行李之往來、供二其乏困一、君亦無レ所レ害。〔會箋〕後世專以二主人一爲二東道一。

【作頭】150 トウ 大工の棟梁。勞働者の親方。〔清會典、工部、倉廠〕修二建倉廠一、各委官及作頭姓名、扁刻懸記。

【作動】151 ドウ 動作。〔列子、說符〕作動態度。

【作得】152 トク ❶作す。爲し得る。〔五代史、梁家人傳〕太祖將レ受レ禪、有司備二禮前殿一、全昱視レ之、顧二太祖一曰、朱二爾作得否一。❷作り方が云云である。❸田畑の收穫中から納稅した殘りの得分。又、地主の得る小作米。

【作難】153 ナン ❶難をおこす。事をかまへる。〔左氏、成、十七〕厲公將レ作レ難。〔史記、趙世家〕賈爲二司寇一將レ作レ難。〔賈誼、過秦論〕一夫作レ難、而七廟隳。❷tsuo⁴ nan² 人に難儀をかける。困らせる。

【作任】154 ニン 任務を遂行する。〔淮南子、要略〕所以因二作任一督責、使二群臣各盡一其能一也。

【作派】155 tsuo⁴ p'ai⁴ 役者の所作。作排(158)に同じ。

【作馬】156 バツ 三本の木を組合はせて上方に叉が出來るやうにしたもの。木工が細工を加へる材木を橫たへる臺にするもの。〔通俗編、居處、作馬〕天香樓偶得、木工以二三木一相攢、而岐二其首一橫二木於上一、以施二斧斤一、謂二之作馬一、此象レ形也。

【作配】157 パイ 配合をなす。配享する。〔書、呂刑〕今天相レ民、作レ配在レ下。〔張衡、東京賦〕宗二上帝於明堂一、推二光武一以作レ配。〔晉書、后妃傳序〕「所作。作二配皇極一、齊二體紫宸一。

【作排】158 tsuo⁴ p'ai² 役者の舞臺でする身振り

【作廢】159 tsuo⁴ fei⁴ 廢止する。廢棄する。無效とする。做廢。

【作梅】160 バイ 清、蔣攸銛(9－31820・83)の字。

【作陪】161 tsuo⁴ p'ei² 御伴する。相伴する。

【作方】162 ツクリカタ つくる手段。又、作つた體裁。つくつたやうす。

【作坊】163 バウ しごとば。作業場。〔五代史、史弘肇傳〕隱帝夜聞二作坊鍛甲聲一、以爲二兵至一。

【作房】164 バウ ❶へやを作る。〔爾雅翼、蠭〕今細腰蜂作レ房、在二小樹上一、及人家詹下一。❷tsuo⁴ fang² 細工場。仕事場。

【作房眼兒】165 tsuo⁴ fang² yen³ ərh 職工の長。作頭(150)に同じ。

【作房頭兒】166 tsuo⁴ fang² t'ou² ərh 作房眼兒に同じ。

【作白】167 ハク 俯罪を自白し、懺悔すること。羯磨。〔楞嚴經、注〕梵言二羯磨一、華言二作白一、言受戒三番、每月自二其所レ犯、作白者令二其自白一也。

【作幕】168 tsuo⁴ mu⁴ 幕賓となる。參謀となる。

【作伐】169 バツ 嫁娶のなかうどをする。媒酌する。伐柯の詩に因んでいふ。〔詩、豳風、伐柯〕伐レ柯如何、匪レ斧不レ克、取レ妻如何、匪媒不レ得。〔桃花扇、拒媒〕只要二你去作伐一。〔書言故事、媒妁類〕常談作二媒爲一執柯、又曰二作伐一。

【作法】170 ハフ ❶しかた。所作の方法。〔後漢書、東夷傳論〕老子曰、法令滋章、盜賊多有、若箕子之省レ簡文條、而用二信義一、其得二聖賢作法之原一矣。❷法律を定める。〔左氏、昭、四〕君子作二法於涼一、其敝猶貪、作二法於貪一、敝將二若之何一。❸バア たちゐふるまひ。

【作伴】171 バン 同伴者となる。〔宋之問、桂州三月三日詩〕作レ伴誰憐二合浦葉一。〔孟浩然、同二張明府碧谿贈答一詩〕仙鳧能作レ伴、羅襪共淩レ波。

【作範】172 ハン 手本を作る。〔蜀志、郤正傳〕創レ制作範、匪レ時不レ立。

【作病】173 ビヤウ 假病。〔晉書、顧榮傳〕但無二作病一何上耳。

【作品】174 ヒン つくつた品。製作物。

【作付】175 ツケ ❶取外しの出來ぬやうに作つたもの。〔小右記〕寬仁二年六月二十八日、作付高坏。❷サクフ 作物を植ゑ付ける。

【作武】176 ブ 武勇の行を爲す。〔揚雄、趙充國頌〕在二漢中興一、充國作レ武。

【作部】177 ブ 製作を掌る役所。〔晉書、陶璜傳〕言能作レ之、皓留二付作部一。

【作風】178 フウ 藝術家の製作にあらはれた手法・特徴。

【作服】179 フク ❶仕事をする。〔管子、乘馬〕令二農始作一服于公田一。❷衣服を作る。〔後漢書、輿服志下〕以二五采章一施二于五色一、作レ服。

【作佛】180 ブツ 佛像。〔枕草紙、五〕つくりぼとけのもく。

【作物】181 モツ ❶製作物。〔任昉、到二大司馬記室一牋〕神功無レ紀、作物何稱。❷名工の作つた刀劍・器物等。❸サク ㋑農作物。〔主計寮式、上、東海道〕伊賀國、云云、中男作物、紅花七斤八兩。㋺詩歌文章などの製作物。

【作物語】182 モノガタリ 作り話。

【作物所】183 トコロ 古、禁中の進物所の西方にあつた製造・彫刻・鍛冶等の細工場。〔續日本後紀、十八〕承和十五年三月甲子、作物所冶師。

【作文】184 ブン ❶文章をつくる。又、作つた文。〔漢書、師丹傳〕君子作レ文爲二賢者一。〔陸機、文賦序〕論二作文之利害所一由。〔鄭震、讀書愚見〕作文之法。❷サク 詩を作ること。又、作つた詩。〔大鏡、中〕御前の作文には文奉られしはとよ。

【作文法】185 ハフブン 文章の作り方。漢文の作法を論じたものは、三國、魏の文帝曹丕の典論が嚆矢とせられ、續いて梁の劉勰に文心雕龍十卷、梁の任昉の文章緣起があるが、後者は隋代に已に佚した。又、宋には陳鍔の文則二卷、李塗の文章精義一卷があり、元には陳繹曾の文章歐治一卷、王構の修詞論衡一卷があり、明には高琦の文章一貫二卷、朱荃宰の文通三十卷があり、清には魏禧の日錄論文一卷、唐彪の讀書作文譜十二卷、方以智の文章薪火一卷、薛福成の論文集要四卷がある。我が國では、藤原肅の文章達德錄綱領六卷、荻生徂徠の文變一卷、太宰春臺の文論一卷、山縣孝孺の作文初問一卷、伊藤長胤の作文眞訣一卷、山本信有の作文志彀一卷、作文率四卷、皆川淇園の淇園文訣二卷、齋藤拙堂の拙堂文話八卷、續文話八卷、海保漁村の漁村文話一卷・續一卷、石川鴻齋の文法詳論二卷・續二卷、土屋鳳洲の文家金丹二卷等がある。

【作文率】186 リツ 書名。四卷。附、文用例證、三卷。山本北山撰。作文上の法則標準を示す。卷一は太子申生讒死の記文を擧げ、左傳・國語・穀梁傳・呂氏春秋・禮記・史記・說苑の七書を引用して文の變化・機軸を示す。卷二は和文漢譯法。卷三は譯文例說。卷四は文章法。附刻の文用例證は、人の姓の書き方、姓名連書の例、自ら字を稱する例、文章の年號月日記載の例、自身の年齡を記す例、其の他種々の例を數十種擧げ、文字使用者の範を取るに便してゐる。而して、其の宗とするところは韓・柳にあり、大いに自家の文章上の見識を主張してゐる。

【作文三上】187 サンジヤウ 作文の工夫を凝らす最適の三つの場所。馬上・枕上・廁上。三上(1－12：829)を見よ。

【作文初問】188 ショモン 書名。一卷。山縣周南撰。漢作文上の法則・注意等を論述したもので、篇法・章法・句法等に分け、古說を假り舊例を引いて古文の文法を說き、以て初學者の標準とした。此の書は、徂徠の古文辭についてはは非難はせぬが、李・王の文については、其の摸擬と牽強とを斥けてゐる。〔長周叢書、第三冊〕。

【作文大體】189 サクモンタイケイ 書名。❶寫本一卷。中御門宗忠撰。初に源順の詩髓腦を載せ、本文は第一按題・第二五言・第三七言・第四句名・第五詩病・第六平對・第七調聲・第八翻音・第九用韻・第十俗訛を記し、次に雜筆文體・發句・漫句・壯句・緊句・長句・隔句・送句等の事を記し、各本朝名家の句を引用して作例を示してゐる。京都觀智院藏。❷撰者未詳。天慶二年己亥の序文

と、此抄記ニ菅江兩流之家説一、非ニ其家者一、輒勿レ及ニ披露一云云、の奥書とがある。詩文の作法・作例を示したもので、巻首に大江朝綱の作詩上の注意十條を擧げ、次に詩の六義、文章の十二對、雜筆大體等を記し、多くの作例について説明を加へてゐる。〔墓書類從、巻一百三十七〕。

【作文通弊】190 サクブンツウヘイ 書名。一巻。村田春海撰。もと時文摘疵といふ。作文上の用語の不當なものを諸家の文から實例を引いて指摘論評したもの。〔日用百科全書、十八〕。

【作柄】191 サクガラ 農作物のできばえ。

【作弊】192 サクヘイ 不正を爲す。職權を濫用して私利を圖る。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕內外通同、作弊侵漁。

【作甫】193 サクホ 清、陳墉(11－41698・577)の字。

【作保】194 サクホ 保證人となる。保證する。引受ける。作保見を見よ。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保立ニ契作レ保、方許ニ承攬一〕

【作保見】195 サクホケン 保證人となつて證據立てること。〔拾得詩〕爲ニ他作ニ保見一、替ニ他說ニ道理一。

【作保的】196 tsuo⁴ pao³ tê 保證人。引受人。

【作保租房】197 tsuo⁴ pao³ tsu¹ fang² 保證をたてて家を借りる。

【作夢】198 サクム 夢を見る。做夢。〔陸游、詩〕酒盌論レ交密、丹爐作レ夢新。〔宋伯仁、詩〕營レ巢鴉踩レ樹、作レ夢蝶眠レ花。

【作犯】199 サクボン 姦殺生・偸盜などの惡事をして、戒を犯すこと。〔行事鈔、中四〕犯由レ作成、故曰ニ作犯一、此對レ作ニ惡法一爲レ宗。

【作毛】200 サクマウ 稻の穗のみのり。〔甲陽軍鑑、一〕不レ刈ニ取作毛一。

【作民】201 サクミン 民を奮ひおこす。作新民の略。〔書、康誥〕宅ニ天命一、作ニ新民一。〔蔡傳〕安ニ定天命一、而作ニ新斯民一也。

【作務】202 サム 仕事をなす。又、仕事。〔墨子、非儒下〕惰於ニ作務一。

【作明】203 サクメイ 清、王紹舒(7－20823・1798)の字。

【作麼】204 モン 俗語で疑問の意をあらはす語。いかんぞ。どうして。怎麼。〔寒山詩〕皎然易レ解レ事、作麼無ニ精神一。〔楊廷秀、詩〕只今新暑已熇然、作麼禁當六月天。

【作麼生】205 ソモサン ❶いかんぞ。いかんか。どうして。作麼に同じ。什麼生。〔禪林句集〕作麼生猶ニ言如何一。〔傳燈錄〕天柱崇慧禪師、僧問、達摩未來時、還有ニ佛法一也無、師曰、未來且置、卽今事作麼生。❷どうする。どうした。どんな。

【作問】206 サクモン 疑問をたずねる。〔漢書、東方朔傳〕上以ニ朔口辯辭給一、好作ニ問之一。

【作用】207 サユウ ❶はたらき。動作。又、一つの物が他の物の上に及ぼす力の影響。〔景德傳燈錄、三、菩提達磨〕性在ニ何處一曰、在ニ作用一。❷努力する。〔白居易、贈ニ楊使君一、詩〕時令到來須ニ作用一。

【作用言】208 サユウゲン 動詞をいふ。

【作俑】209 サクヨウ 木偶人を作る。俑は木偶人。之を作つて葬に殉ぜしめ、屍と共に埋める。これが後世の殉死の階となつたので、轉じて、惡例をはじめる義に用ひられる。〔禮、檀弓下〕孔子謂下爲ニ芻靈一者善上謂ニ作俑者不仁一、不レ殆ニ於用レ人乎哉。〔集說〕中古爲ニ木偶人一、謂ニ之俑一、則有ニ面目機發一、而太似ニ人矣一、故孔子惡ニ其不仁一、知ニ末流必有ニ以ニ人殉一葬者一。〔孟子、梁惠王上〕仲尼曰、始作ニ俑者一、其無ニ後乎一、爲ニ其象一レ人而用レ之也。〔集注〕俑、從レ葬ニ木偶人一也、古之葬者、束ニ草爲一レ人、以爲ニ從衛一、謂ニ之芻靈一、略似ニ人形一而已、中古易レ之以レ俑、則有ニ面目機發一、而太似ニ人矣一。

【作勞】210 ラウ 農事の骨をり。〔書、盤庚上〕惰農自安、不レ昏ニ作勞一。〔蔡傳〕怠惰之農、不ニ強力爲一レ勞苦之事一。〔張衡、西京賦〕何必昏ニ於作勞一邪、贏優而足レ恃。〔晉書、石勒載記上〕毋曰、作勞耳鳴、非ニ不祥一也。

【作洛】211 ラク 洛陽に都を作る。作雒。〔書、多士〕今朕作ニ大邑于茲洛一。〔張衡、東京賦〕作レ洛之制、我則未レ暇。

【作雒】212 サクラク ❶作洛に同じ。❷作雒解を見よ。

【作雒解】213 サクラクカイ 逸周書の篇名。

【作亂】214 サランラン 亂をなす。〔論語、學而〕不レ好レ犯レ上而好レ作レ亂者、未ニ之有一也。〔史記、樂書〕有ニ淫佚作亂之事一。

【作立】215 サリツ ❶作り立てる。〔史紀、秦始皇紀〕視聽不レ怠、作ニ立大義一。❷農作用語。田畑に畦を起し作り地を整へること。畦立ウネタテ。

【作兩】216 サリヤウ 太子をいふ。易の離の卦は太子の卦で、象傳に明兩作、離、大人以繼レ明、照ニ于四方一とあるによる。明を繼ぐとは儲嗣のこと。〔梁元帝、皇太子講學碑〕洊レ雷種レ德、重レ離作レ兩。〔江總、玄圃石室銘〕天縱儲睿、生知作レ兩。

【作力】217 サリヨク 仕事につとめる。〔管子、八觀〕民非ニ作力一、毋ニ以致レ財。

【作霖】218 サリン ❶霖雨とする。又、霖雨となる。〔書、說命上〕若歲大旱、用レ汝作ニ霖雨一。〔唐玄宗、喜雨賦〕感ニ作霖於殷命一、諷ニ其滂於周雅一。〔杜牧、雲谿詩〕莫下隱ニ高唐一去上、枯苗待ニ作霖一。❷清、宏瑜(3－7086・78)の名。❸清、張雨森(4－9812・794)の字。

【作例】219 サクレイ 詩歌・文章などの手本として示すもの。

【作禮】220 サライ 禮拜する。〔梁簡文帝、六根懺文〕懺悔已竟、誠心作レ禮。〔西陽雜俎、廣動植、木篇〕菩提樹、出ニ摩伽陀國一、彼國人四時常焚ニ香散花一、繞ニ樹作レ禮。

【作儷】221 サレイ 夫婦になること。儷はならぶこと。伉儷(1－431・9)を見よ。〔晉書、孝武定王后傳〕逡巡作レ儷、而夏族以熙。

【作料】222 サクレウ ❶もとは材料の意。轉じて、藥味・醬油・鹽・味噌・山椒など、すべて料理を調味するに用ひる材料をいふ。調味料。〔東京夢華錄〕有ニ諸手作人一上レ市買ニ賣零碎作料一。❷手間賃。〔東鑑、十〕文治六年二月十日、材木・檜皮、幷作料已下、雜雜用途米等、任レ損也。

【作論】223 サクロン 論文を作る。議論を立てる。〔梁昭明太子、解ニ二諦義一文〕世人所レ知、生法爲レ體、出世人所レ知、不生爲レ體、依レ人作レ論、應レ如ニ是說一。〔李嶠、硯詩〕左思裁賦日、王充作レ論年。

【作話】224 サクワ 假に設けて作つた話。

【作不得】225 tsuo⁴ pu tê² ❶なし得ぬ。❷してはいけない。

【作不得主意】226 tsuo⁴ pu tê² chu³ i⁴ 了見がつかぬ。考がまとまらない。

【作腔作勢】227 tsuo⁴ ch'iang¹ tsuo⁴ shih⁴ 體裁をつくろふ。空威張りをする。

【作義要訣】228 サクギエウケツ 書名。一巻。元、倪士毅撰。科擧の試驗の經義を受驗する者のために作文の要領を述べたもので、後來、八股文の龜鑑といはれてゐる。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【作史三長】229 サクシサンチヤウ 史書を著作するに必要な三つの長所。才智・學問・識見。三長を見よ。

【作史年歲】230 サクシネンサイ 廿二史劉記の標題。漢の司馬遷の史記は、武帝の元封二年に着手して二十餘年を費し、唐の李延壽の南北史は十七年、宋の歐陽脩及び宋祁の新唐書も十七年、宋の司馬光の資治通鑑は十九年を要した。最も短いのは、元末に編修した遼・金二史の二年、明初に編修した元史の一年である。從つて後四史に於ては、草率荒謬を免れぬことを敍してゐる。〔廿二史劉記、司馬遷作史年歲〕司馬遷報ニ任安一書、謂下身遭ニ腐刑一、而隱忍苟活者、恐レ沒レ世而文采不レ表ニ於後世一也、論者遂謂、遷遭ニ李陵之禍一、始發レ憤作ニ史記一、而不レ知ニ非也、其自序謂、父談臨レ卒、屬レ遷論ニ著列代之史一、父卒三歲、遷爲ニ太史令一、卽紬ニ石室・金匱之書一、爲ニ太史令一五年、當ニ太初元年一、改ニ正朔一、正值ニ孔子春秋後五百年之期一、於レ是論ニ次其文一、會草創未レ就、而遭ニ李陵之禍一、惜ニ其不レ成、是以就レ刑而無レ怨、是遷爲ニ太史令一、卽編ニ纂史事一、五年爲ニ太初元年一、則初爲ニ太史令一時、乃元封二年也、元封二年至ニ天漢二年一、遭ニ李陵之禍一、已十年、又報ニ任安書內謂一、安抱ニ不測之罪一、將レ迫ニ季冬一、恐卒然不レ諱、則僕之意終不レ得レ達、故略陳レ之、安所レ抱不測之罪、緣レ戾太子以ニ巫蠱事一斬中江充上、使ニ安發ニ兵助戰一、安受ニ其節一、而不レ發ニ兵、武帝聞レ之、以爲レ懷ニ二心一、故詔棄市、此書正安坐ニ罪將死之時一、則征和二年閒事也、自ニ天漢二年一至ニ征和二年一、又閱ニ八年一、統ニ計遷作一、前後共十八年、況安死後、遷尙未レ亡、必更有ニ刪訂改削之功一、蓋書之成、凡二十餘年也、其自序謂、黃帝以來、至ニ太初一而訖、乃指ニ所述歷代之事一、止ニ於太初一、非謂ニ作史歲月至ニ太初一而訖一也 李延壽作ニ南北史一、凡十七年、歐陽脩・朱子京修ニ新唐書一、亦十七年、司馬溫公作ニ資治通鑑一、凡十九年、遷作レ史之歲月、更有レ過レ之、合ニ班固作レ史

之歲月一並觀レ之、可レ知下編二訂史事一、未上レ可二聊爾命レ筆矣、元末修二宋・遼・金三史一、不レ過二三年一、明初修二元史一、兩次設レ局、不レ過二一年一、毋レ怪三乎草率荒謬爲二史家最劣一也。

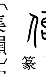
【作詞十法】231 サクシジツパウ　書名。元、周德清撰。詞曲の作法を述ぶ。〔中原音韻、下〕。

【作有レ則用有レ徵】232 ツクルニソクアリモチヒテチヨウアリ　古の尺度は正しい法則に從つて作つてあるから、實際に用ひて事實によく適合し役に立つ。〔晉書。贄虞傳〕將作大匠陳勰、掘レ地得二古尺一、尙書奏、今尺長二於古尺一、宜三以レ古爲レ正、潘岳以爲、習用已久、不レ宜二復改一、虞駁曰、昔聖人有三以見二天下之頤一、而擬二其形容一、象レ物制レ器、以存二時用一、故參レ天兩レ地、以正二筭數之紀一、依レ律計レ分、以定二長短之度一、其作レ之也有レ則、故用レ之也有レ徵。

【佐】519 サク

作（1－518）の本字。〔正字通〕作、本作レ佐。

【佝】520 ㊀コウ ク　〔集韻〕許候切 ㄎㄡˋ k'ou4 宥　㊁ク　〔集韻〕恭于切 虞


小篆

㊀❶おろか。怐（4－10435）に同じ。〔說文〕佝、佝瞀也、从レ人句聲。〔集韻〕怐、怐愗、愚也、或从レ人。〔字彙〕佝、又作レ怐。❷短くて醜いさま。せむし。僂佝。〔集韻〕僂、僂佝、短醜。❸佝𤸷コウシウは、つかれる。〔集韻〕𤸷、佝𤸷、羸也。㊁とどめる。おさへる。拘（5－11963）に通ず。〔集韻〕拘、說文、止也、或作レ佝。

【佝瞀】1 コウボウ　おろか。〔說文〕佝、佝瞀也。

【佝僂】2 クル　せむし。くぐせ。傴僂。痀瘻。佝僂承レ蜩を見よ。

【佝僂承レ蜩】3 クルセミヲウク　せむし病者が蟬を空に拋げて巧に之を承ける。〔列子、黃帝〕見二佝僂者承一レ蜩、猶レ掇レ之。

【佞】521 ネイ ニヤウ　〔集韻〕乃定切 ㄋㄧㄥˋ ning4 徑

小篆

❶はたらき。才能。かしこいこと。〔集韻〕佞、才也。〔左氏、成、十三〕寡人不佞。〔服注〕佞、才也。〔國語、晉語三〕夷吾不佞。〔注〕佞、才也。❷口才。辯才。〔廣雅、釋詁三〕佞、巧也。〔禮、曲禮上、注〕爲レ近二佞媚一也。〔釋文〕口才曰レ佞。〔論語、先進〕是故惡二夫佞者一。〔皇疏〕佞、口才也。❸へつらふ。おもねる。又、其の人。〔說文〕佞、巧讇高材也、从レ女仁聲。〔論語、公冶長〕子曰、焉用レ佞。〔論語、季子〕佞、諂也。〔韓詩外傳、四〕友二便佞一損矣。〔史記、佞幸傳〕嫣善二騎射一善佞。〔論衡、答佞〕惡レ中立レ功者、謂二之佞一。❹よこしま。邪を以て人を導く。〔鹽鐵論、刺議〕以レ邪導レ人、謂二之佞一。❺僞善。〔國語、晉語二〕佞之見レ佞。〔注〕僞善爲レ佞。❻或は詅（10－35368）に作る。❼年（4－9168）に通ず。〔春秋、襄、三十〕天王殺二其弟佞夫一。〔公羊、襄、三十〕天王殺二其弟年夫一。

解字　會意。女と信の省體との合字。女子の信はへつらふに近いと見られ、女と信とを合はせて其の意を表はす。一說に、女に从ひ仁の聲とし、形聲となす。〔說文繫傳〕佞、按、說文曰、從二信省一、徐鉉曰、女子之信近二於佞一也。〔說文、佞、段注〕小徐作二仁聲一、大徐作レ从二信省一、按、今音佞乃定切、故徐鉉・張次立、疑二仁非レ聲、攷下晉語佞之見レ佞、果喪二其田一、詐之見レ詐、果喪中其賂上、古音、佞與レ田韻、則仁聲是也。

【佞哀】1 ネイアイ　へつらつて共に哀しみ、君上の氣に入るやうに力める。新の王莽が南郊に哭した時、之に諂つて泣いた者は皆郞官に任ぜられた故事。〔潘岳、西征賦〕驅二吁嗟一而妖臨、搜二佞哀一以拜レ郞。〔注〕善曰、漢書曰、鄧曄干匡起二兵南鄕一、莽愈憂不レ知レ所レ出、崔發曰、周禮、國有二大災一、則哭以厭レ之、乃率二羣臣一至二南郊一、搏レ心大哭、諸生甚悲哀、及三能誦二策文一、除以爲レ郞也。

【佞惡】2 ネイアク　心がねぢけて性質の惡いもの。〔後漢書、朱穆傳〕廣求二賢能一、斥二遠佞惡一。

【佞兌】3 ネイエツ　佞悅に同じ。〔荀子、修身〕驍樂之事、則佞兌而不レ曲。〔注〕兌、悅也。

【佞悅】4 ネイエツ　へつらひ悅ばせる。又、其の者。佞兌。佞說。〔荀子、王制〕進二退貴賤一、則舉二佞悅一。

【佞說】5 ネイエツ　佞悅に同じ。〔荀子、臣道〕巧敏佞說、善取二寵於上一、是態臣者也。〔注〕說、音悅。

【佞巧】6 ネイカウ　人の氣に合ふやうに巧に言ひまはすこと。口まへがよいこと。佞給。〔史記、周紀〕爲レ人佞巧。〔漢書、嚴安傳〕上二篤厚一、下二佞巧一。

【佞幸】7 ネイカウ　口才を以て寵幸を得る。又、其の者。お氣に入り。佞倖。〔漢書、佞幸傳序〕佞幸寵臣。〔論衡、幸偶〕佞幸之徒。〔沈約、恩倖傳論〕漢書有二恩澤侯表一、又有二佞幸傳一。

【佞幸傳】8 ネイカウデン　佞幸者の傳記の稱。史記・漢書・宋史・金史・明史にある。

【佞倖】9 ネイカウ　口才を以て寵幸を得る。又、その人。佞幸（7）に同じ。〔後漢書、桓榮傳〕黜二佞倖一。〔南史、恩倖傳序〕胡母顥・阮佃夫之徒、專爲二佞倖一矣。

【佞客】10 ネイカク　花の名。含笑花（2－3350‥92）の異名。〔西溪叢語〕含笑爲二佞客一。

【佞姦】11 ネイカン　心のねぢけた惡者。佞奸。姦佞。〔晉書、王沈傳〕舉二遺逸於林藪一、黜二姦佞於州國一。

【佞給】12 ネイキフ　口まへよくへつらふ。〔論語、公冶長〕焉用レ佞也、禦レ人以二口給一、屢憎二於人一。〔列子、仲尼〕佞給而不レ中、漫衍而無レ家。〔注〕雖二才辯一而不レ合レ理也。

【佞猾】13 ネイクワツ　口まへがよくて惡がしこい。佞給狡猾。〔後漢書、宦者、侯覽傳〕以二佞猾一進。〔論衡、講瑞〕人有二佞猾而聚者一。

【佞慧】14 ネイケイ　口まへよくわるがしこい。〔蜀志、董允傳〕皓便僻佞慧、欲二自容入一。

【佞險】15 ネイケン　口まへがよくて腹が黑い。口先だけやさしく內心は陰險なこと。口蜜腹劍。〔後漢書、宦者傳序〕弘恭・石顯、以二佞險一自進。

【佞言】16 ネイゲン　こびへつらふ言葉。〔鬼谷子、權篇〕佞言者、諂而干レ忠。〔宋史、李伉傳〕佞言似レ忠、姦言似レ信。

【佞口】17 ネイコウ　おべつか。佞舌。〔徐夤、送三盧拾遺歸二華山一詩〕紫殿諫多防二佞口一。

【佞才】18 ネイサイ　口先が上手で、人に阿諛する才のあること。〔論語、公冶長、雍也仁而不佞、集注〕佞、口才也。

【佞史】19 ネイシ　曲筆して諂辭を弄した歷史、及び其の史家。〔宋史、陸佃傳〕以三修二撰神宗實錄一、徙二禮部一、數與二史官范祖禹・黃庭堅一爭辨、大要多是二安石一、爲レ之晦隱、庭堅曰、如二公言一、蓋佞史也、佃曰、盡用二君意一、豈非二謗書一乎。

【佞枝】20 ネイシ　草の名。黃帝の時、階に生じ、佞人が入朝すれば、屈して其の人を指したといふ。〔王融、三月三日曲水詩序〕佞枝植、歷草滋。〔注〕濟曰、黃帝有二屈軼草一出二於階一、若佞人入レ朝、則屈而指レ之、故曰二佞枝一。

【佞者】21 ネイシヤ　口才ある者。佞人（24）に同じ。〔論語、先進〕子路使三子羔爲二費宰一、子曰、賊二夫人之子一、子路曰、有二民人一焉、有二社稷一焉、何必讀レ書、然後爲レ學、子曰、是故惡二夫佞者一。〔集解〕疾下其以二口給一應、遂二己非一、而不レ知レ窮者上也。

【佞邪】22 ネイジヤ　へつらひよこしまなこと。邪佞。〔漢書、成帝紀〕萬年佞邪不忠。〔漢書、劉向傳〕今佞邪與二賢臣一、並在二交戟之內一。〔後漢書、吳良傳〕佞邪之人、欺諂無狀。

【佞臣】23 ネイシン　ねぢけた臣。〔三略、上略〕佞臣在レ上、一軍皆訟。〔白居易、和答詩十首、和二陽城驛一〕直諫從如レ流、佞臣惡如レ疵。

【佞人】24 ネイジン　口才ある者。佞者。〔公羊、莊、十七〕秋、鄭瞻自レ齊逃來、何以書、書二甚佞一也、曰、佞人來矣、佞人來矣。〔論語、衞靈公〕顏淵問レ爲レ邦、子曰、行二夏之時一、乘二殷之輅一、服二周之冕一、樂則韶舞、放二鄭聲一、遠二佞人一、鄭聲淫、佞人殆。〔莊子、在宥〕佞人之心翦翦者。〔管子、宙合〕言毋レ用二佞人一也。〔晏子、問、上〕佞人之事レ君如何。

【佞舌】25 おべつか。佞口(17)に同じ。〔陸龜蒙、登高文〕佞舌咿啞。〔王禹偁、詩〕笙簧佞舌鳴、藥石嘉言伏。

【佞妾】26 へつらふ妾。〔顏氏家訓、後娶〕自古、姦臣・佞妾、以一言陷人者衆矣。

【佞宋】27 好んで宋版の書を收藏すること。〔書林清話、藏書偏好宋元刻之癖〕以愛妾・美婢換書、事似風雅、實則近於殺風景、此則佞宋之癖、入於膏肓。

【佞宋居士】28 清、黃丕烈(12－47926‥1296)の號。

【佞道】29 へつらひの道。〔白虎通、誅伐〕孔子爲魯司寇、先誅少正卯、謂佞道已行、亂國政也。

【佞諂】30 おもねりへつらふ。佞讇に同じ。〔莊子、秋水〕不賤佞諂。〔王褒、四子講德論〕詐僞者進達、佞諂者容入。〔後漢書、仲長統傳〕佞諂容說之人。

【佞讇】31 おもねりへつらふ。佞諂。讇は諂の古字。〔漢書、劉向傳〕今二府奏佞讇、不當在位、歷年而不去。

【佞媚】32 こびへつらふ。又、其の者。〔後漢書、五行志五〕是時多用佞媚。〔顏氏家訓、文章〕馬季長、佞媚獲誚。

【佞夫】33 人名。公羊傳には年夫に作る。〔左氏、襄、三十〕儋括欲立王子佞夫。

【佞佛】34 冥福を得ようとして佛にこびへつらふ。〔五代史、皇后劉氏傳〕莊宗由此亦佞佛。

【佞辯】35 へつらひ口。佞口。〔後漢書、楊賜傳〕以便辟之性、佞辯之心、各受豐爵不次之寵。〔潘尼、乘輿箴〕不式故訓、而好此佞辯。

【佞諛】36 おもねりへつらふ。〔後漢書、杜喬傳〕興長佞諛。〔魏志、鮑勛傳〕佞諛不忠、阿順陛下過戲之言。

【佞譽】37 へつらひほめること。〔柳宗元、答韋中立論師道書〕非佞譽誣諛之徒。

【佞祿】38 へつらつて得た扶持。〔亢倉子、政道〕市無邪利、朝無佞祿。

【佞惑】39 おもねつて人を惑はす。〔漢書、王莽傳上〕佞惑之雄、朱博之疇。〔後漢書、來歙傳〕欲用佞惑之言、爲族滅之計乎。

【佟】522

トウ ヅ 〔集韻〕徒冬切 ㄊㄨㄥˊ 冬 t'ung2

姓。〔路史〕夏太史終古歸商、後有佟氏。〔燕錄〕有遼東佟萬、以文章有名。

【佟岱】1 清の人。養量の弟。官は湖廣總督。屢々戰功あり、浙閩總督に至る。康熙の初、卒す。〔清史稿、二百四十六〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟毓秀】2 清、襄平の人。旗籍に隸す。字は鍾山(錦山)。官は甘肅巡撫。山水畫に巧。〔清畫家詩史、乙下〕・〔國朝書畫家筆錄、一〕・〔國朝畫識、七〕。

【佟家江】3 河の名。源は滿洲遼寧省臨江縣の西北の三岔子に出で、下流は岔溝門に至つて鴨綠江に注ぐ。漢には鹽難水、又は沸流水といひ、元・明には大蟲江といつたが、明末に佟姓の者が聚り住み、佟家江と名づけた。今、渾河・混江・通吉雅吉とも稱し、一に佟佳江に作る。

【佟景文】4 清、遼東の人。字は敬堂、又、艾生。滇黔の地方官。道光中、卒す。其の學は修身を以て主とし、務めて覺悟空虛の說を排した。著に性理修身說・絅齋劄記等がある。〔續碑傳集、七十一〕。

【佟國維】5 清の人。圖賴の次子。諡は端純。康熙の間、噶爾丹の征討に從軍して功あり。〔清史稿、二百九十三〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟國印】6 清の人。養性の從孫。崇德の間、杏山等を攻めて功あり。官は順治の初、工部右侍郞。封は三等男。〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、四十二〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟國瑤】7 清の人。養性の孫。諡は忠愍。官は順治の間、副都統。康熙の時、吳三桂の叛に鄖陽提督を授けられて戰功あり、一等伯に封ぜらる。累官して福建將軍に至る。〔清史稿、二百三十七〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十二〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟國綱】8 清の人。圖賴の長子。諡は忠勇。康熙の間、一等公を襲封し、都統となる。後、噶爾丹征伐に軍務に參して陣中に歿す。〔清史稿、二百八十七〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟國器】9 清の人。養性の從孫。順治の間、浙江巡撫官にて卒す。〔國朝耆獻類徵、一百五十一〕。

【佟國佐】10 清、遼東の人。字は吉臣。官は康熙の間、安徽巡撫。歷官皆政績あり。〔國朝耆獻類徵、一百六十一〕。

【佟國正】11 清の人。養性の從孫。順治の拔貢生。官は康熙年間に、江西巡撫。吳三桂・耿精忠の叛に贛州を守つて功あり、兵部尙書銜を加へらる。〔清史稿、二百六十二〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十四〕。

【佟國瓏】12 清、遼東の人。字は信侯。文登縣・澤州などの長官に歷任す。〔國朝先正事略、五十一〕・〔清史稿、四百八十二〕・〔國朝耆獻類徵、二百三十四〕。

【佟世思】13 清の人。國正の次子。字は儼若、又、葭沚・退菴。官は康熙年間に、臨賀縣の長官。著に與梅堂遺集・附耳書・鮓話がある。〔國朝詩人徵略初編、十三〕。

【佟世晉】14 清、襄平の人。字は康侯。畫に巧。〔國朝書畫家筆錄、二〕・〔國朝畫識、二十〕。

【佟世男】15 佟世南(17)を見よ。

【佟世德】16 清の人。國印の子。官は康熙年間に、副都統。王輔臣に從つて平涼を破り、後、圖海規に從つて漢中・興安を復した。〔國朝先正事略、二〕。

【佟世南】17 清、遼陽の人。一に世男に作る。字は梅岑。書室を東白堂といふ。著に東白堂詞巽初集・篆字彙がある。〔四庫提要、二百〕。

【佟盛年】18 佟圖賴を見よ。

【佟圖賴】19 清の人。養正の季子。一名、盛年。諡は襄勤。天聰年間、太宗に從ひ大淩河を征して功あり。官は太子太保。卒して一等公を贈らる。〔清史稿、二百四十二〕・〔國朝耆獻類徵、四十二〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟賦偉】20 清、襄平の人。字は青士。官は寧國知府。著に二樓紀略がある。〔四庫提要、一百二十九〕。

【佟鳳彩】21 清の人。養性の從孫。字は高岡。諡は勤僖。官は香河縣の長官・河南巡撫。書室を棲友堂といふ。著に棲友堂集がある。〔清史稿、二百七十九〕・〔國朝耆獻類徵、一百五十〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟養甲】22 清の人。養性の從兄弟。字は陸海。官は順治年間に、內閣學士。博洛に從つて南征し、杭州を下し、福建を平げ、兩廣總督となる。後、李成陳に害せらる。〔清史列傳、四〕・〔碑傳集、一百十七〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟養正】23 清、遼東の人。先世は世々佟佳に居り、地を以て氏とす。諡は忠烈。天命年間、朝鮮の界の鎭江城を駐守して戰死す。封は一等公。〔清史列傳、四〕・〔國朝耆獻類徵、三百三十一〕・〔國朝先生事略、二〕。

【佟養性】24 清の人。養正の從弟。諡は勤惠。天聰年間、紅衣礮を掌り、大淩河城を攻めて之に克つ。〔清史稿、二百三十七〕・〔國朝耆獻類徵、二百六十二〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佟養量】25 清の人。養性の從弟。順治年間、江南等を攻めて功あり、官は宜大總督。〔國朝耆獻類徵、一百五十〕・〔國朝先正事略、二〕。

【佶】523

カウ 剛(2－2042)の古字。〔說文〕佶、古文剛如此。

【但】524

カウ 剛(2－2042)の古字。〔集韻〕剛、古作但。

【佮】525

カフ 甲(7－21725)の古字。〔說文〕佮、古文甲。

【伂】526

フツ 佛(1－517)の古字。〔字彙補〕伂、古文佛字。

【㐌】527

シ 施(5－13629)の古字。〔字彙補〕㐌、古文施字。

【休】528　キウ　休(1－440)に同じ。〔篇海〕休、同休。

【叺】529　ハツ　癶(7－22657)に同じ。〔集韻〕叺、隸作癶。

【㑡】530　シ　〔海篇〕音似　**頭の骨のあふところ。**〔海篇〕㑡、頭會也。

【侂】531　タク　侂(1－576)の俗字。〔字彙補〕侂、卽侂字。

【㑥】532　ケン　〔海篇〕音軒　**かるい。**〔海篇〕㑥、輕也。

【㑞】533　カイ　价(1－412)に同じ。〔字彙補〕㑞、與价同。

【休】534　ク　休(1－440)の誤字。〔字彙補〕休、音煦、和煦也、見玉篇。〔康煕字典〕按、和煦係休字義、从木、不从朮、玉篇無此字、字彙補誤引。

【侁】535　シツ　義未詳。〔海篇〕侁、音失。

【㑶】536　カン　義未詳。〔海篇〕㑶、音敢。

【㑲】537　キヨ　義未詳。〔篇韻〕㑲、音去。

【㑴】538　キヨ　〔中華大字典〕音擧　ㄐㄩˇ chü²　**かれ。**他を指して謂ふ。粵東の語。〔中華大字典〕㑴、俗字、粵東稱他爲㑴。

【佣】539　ヨウ　〔辭海〕讀如用。ㄩㄥˋ yung⁴　佣金は手數料。コンミツシヨン。〔辭海〕佣、佣金、俗稱中佣、代人介紹買賣、從中取得之酬金也、如牙行經紀之收入是。

六畫

【俸】540　ホン　体(1－509)の俗字。〔正字通〕体、从本俗書。

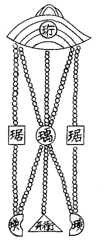
【伎】541　キ　伎(1－436)の俗字。

【俫】542　ハウ　保(1－702)の本字。〔集韻〕保、隸作保。〔正字通〕俫、俗作保。

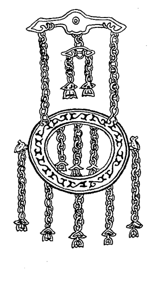
【佩】543　ハイ　バイ　〔集韻〕蒲昧切　ㄆㄟˋ p'ei⁴　隊

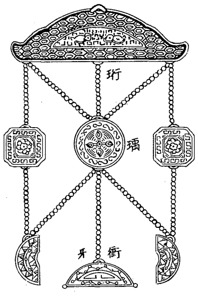
小篆

一大帶につける飾り玉。おびだま。德・誠の象徵として用ひる。〔說文〕佩、大帶佩也、从人凡巾、佩必有巾、故从巾、巾謂之飾。〔釋名、釋衣服〕佩、倍也、言其非一物、有倍貳也、有珠有玉、有容刀、有帨巾、有觿之屬也。〔詩、鄭風、女曰鷄鳴〕雜佩以贈之。〔傳〕雜佩者、珩・璜・琚・瑀・衝牙之類。〔集傳〕雜佩者、左右佩玉也、上橫曰珩、下繫三組、貫以蠙珠、中組之半、貫一大珠曰瑀、末懸一玉、兩端皆銳曰衝牙、兩旁組半、各懸一玉、長博而方曰琚、其末各懸一玉、如半璧而內向曰璜、又以兩組貫珠、上繫珩兩端、下交貫於瑀、而下繫於兩璜、行則衝牙觸璜而有聲也。〔左氏、閔、二〕佩、衷之旗也。〔注〕旗、表也、所以表明其中心。〔漢書、五行志中之上〕佩、衷之旗也。〔注〕師古曰、佩、所以表中心。**二おびる。**帶につける。腰につける。〔禮、玉藻〕古之君子、必佩玉。〔論語、鄕黨〕去喪無所不佩。〔漢書、五行志〕解帷組、結佩之。〔注〕師古曰、佩、帶之。〔晉書、張華傳〕當得寶劍佩之。**三めぐらす。**〔水經、鮑丘水注〕鮑丘水、北佩謙澤、眇望無垠也。**四もつ。たづさへる。**〔漢書、五行志〕傳書曰、母告百姓、佩此書者不死。〔白虎通、衣裳〕農夫佩耒耜、工匠佩斧。**五心にとどめる。**〔江淹、爲建平王謝玉環刀等啓〕垂光既深、銘佩更積。〔曾鞏、回人賀授舍人狀〕其爲感佩、曷罄敷陳。**六**或は珮(7－20977)に作る。〔說文通訓定聲〕佩、字亦作珮。**七**或は倍(1－760)に作る。〔荀子、大略〕蘭茝槀本、漸於蜜醴、一佩易之。〔注〕佩、或爲倍。**八姓。**〔萬姓統譜〕佩、見姓苑。



一　佩（圖器禮）


一　古玉工連環寶鈴全珮（古玉圖譜）



一　古白玉瑀文全珮（古玉圖譜）

解字　會意。人と凡と巾との合字。人の利用するところから人を、佩びない所のないことから凡（すべての意）を、小巾を飾とするところから巾を書き、以上三つの意味を合せて、大帶に佩びる玉とする。故に又、珮に作る。〔說文、佩、段注〕从人者、人所以利用也、从凡者、所謂無所不佩也、从巾者、其一耑也。〔說文通訓定聲〕佩、又作珮。

【佩阿】1 ハイア　筆の神をいふ。〔致虛閣雜俎〕筆神曰佩阿。

【佩韋】2 ハイキ　韋をおびる。韋はなめしがはで、柔かでゆつたりしたもの。西門豹が常に韋を携帶して性急な心を矯める誡とした故事。〔韓非子、觀行〕西門豹之性急、故佩韋以緩已、董安于之心緩、故佩弦以自急。

【佩韋齋】3 ハイキサイ　字號。一宋、俞德鄰(1－1437‥131)の號。二明、馬治(12－44572‥419)の號。

【佩韋齋輯聞】4 ハイキサイシフブン　書名。四卷。宋、俞德鄰撰。多く經史を考論し、間〻宋代の故實典籍藝文などを論ず。第四卷は四書のことについて新說が多い。〔四庫提要、子、雜家類〕

【佩韋齋文集】5 ハイキサイブンシフ　書名。十六卷。宋、俞德鄰撰。其の中、詩七卷、文九卷。詩は恬澹で自然深遠、文は簡潔で淸氣がある。〔四庫提要、集、別集類〕

【佩幃】6 ハイキ　香を盛つて佩びる囊。〔楚辭、離騷〕椒專佞以慢慆兮、榝又欲充夫佩幃。〔注〕幃、謂之幐、香囊也。

【佩珂】7 ハイカ　帶びた珂。佩飾。珮珂。〔蘇轍、詩〕少年微服天街闊、何處相逢解佩珂。〔葉適、題賈儼不忘室詩〕子質復粹美、藻火兼佩珂。

【佩嘉】8 ハイカ　淸、張琳(4－9812‥735)の字。

【佩猳】9 ハイカ　ゐのししの皮で飾つた佩刀を腰に帶びること。勇氣のあることの喩。〔史記、仲

尼弟子傳）子路、性鄙好レ勇、冠二雄雞一、佩二豭豚一。〔注〕集解曰、冠以二雄雞一、佩以二豭豚一、二物皆勇、子路好レ勇、故冠二帶之一。

【佩香】10 ハイカウ ❶身に著けるにほひ。匂袋。〔鐵圍山叢談〕今佩香、蓋因二古龍涎一始也。❷清、駱綺蘭（12－44734‥19）の字。

【佩蘅】11 ハイカウ 清、寶瑩（8－7376‥13）の字。

【佩龜】12 キイ 唐は國姓が李であり、李と鯉と相通ずるので、魚帶を佩びたが、則天武后に至つて龜に改めた。佩魚（15）を見よ。〔爾雅翼〕唐律、民間取レ鯉即放贖者、杖六十、號レ鯉爲二赤鱓公一、以二國氏李一諱二同音一也、佩用魚符、亦取二象鯉一、武后天授元年、改二佩龜一、以二元武一爲レ龜也、中宗神龍元年依二舊式一、佩二魚袋一。〔困學紀聞〕考史、唐書〕佩魚始二於唐永徽二年一、以レ李爲レ鯉也、武后天授元年、改二佩龜一、以二玄武一爲レ龜也。

【佩玖】13 ハイキウ ❶かざりにつける美石。〔詩、王風、丘中有麻〕彼留之子、貽二我佩玖一。〔傳〕玖、石次レ玉者、言二能遺一我美寶一。❷清、章紳（8－25761‥105）の字。

【佩仰】14 p'ei⁴ yang³ 感佩する。敬服する。

【佩魚】15 ハイギョ 唐代に五品以上の官人がおびた魚形の袋。魚袋。佩龜（12）を見よ。〔唐書、車服志〕天授二年、改二佩魚一、皆爲レ龜。

【佩玉】16 ハイギョク ❶大帶にかけて飾とした玉。天子は白玉、公侯は玄玉、大夫は蒼玉、世子は瑜玉、士は瑀玟を用ひ、位の高下によつて別がある。玉佩（7－20821‥731）を見よ。〔詩、秦風、終南〕佩玉將將、壽考不レ忘。〔周禮、天官、玉府〕共二王之服玉・佩玉・珠玉一。〔注〕佩玉者、王之所レ帶者。〔疏〕釋曰、佩玉者、王之所レ帶者、謂二佩於革帶之上一者レ也。〔禮、玉藻〕古之君子必佩二玉、云云、行則鳴二佩玉一云云、凡帶、必有二佩玉一、唯喪否、佩玉有二衝牙一、君子無レ故玉不レ去レ身、君子於レ玉比レ德焉、天子佩二白玉一而玄組綬、公侯佩二山玄玉一而朱組綬、大夫佩二水蒼玉一而純組綬、世子佩二瑜玉一而綦組綬、士佩二瑀玟一而緇組綬。〔漢書、五行志上〕行步有二佩玉之度一。〔注〕師古曰、玉佩、上有二雙衡一、下有二雙璜一、琚瑀以雜レ之、衡牙玭珠、以納二其間一、右徵角而左宮羽、進則掩レ之、退則揚レ之、然後鏘鳴焉、是爲二行步之節度一也。❷帶びた玉。〔大戴禮、保傅〕上車以二和鸞一爲レ節、下車以二佩玉一爲レ度。〔崔顥、盧姬篇〕君王日晩下レ朝歸、鳴環佩玉生二光輝一。〔王勃、滕王閣詩〕滕王高閣臨二江渚一、佩玉鳴鑾罷二歌舞一。〔白居易、醉後走筆酬二劉五主簿一詩〕蹇步何堪鳴二佩玉一、衰容不レ稱著二朝衣一。〔劉長卿、游二四窗一詩〕長笑天地寬、仙風吹二佩玉一。

【佩玉齋】17 ハイギョク 元、楊翮（6－15112‥58）の書名。十卷。元、楊翮撰。翮の父は大德中の耆宿であつたので、其の家學を記してゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【佩玉齋類稿】18 ハイギョクサイルイカウ

【佩巾】19 ハイキン 腰にさげる拭ひぎれ。〔儀禮、士昏禮、母施レ衿結レ帨、注〕帨、佩巾。〔朱熹、答來詩〕論レ詩劇飲無二他意一、未レ管殘紅落二佩巾一。

【佩金】20 オビガネ 緒を通すために刀につけた環。

【佩環】21 ハイクワン 佩玉の環。珮環。〔子華子、晏子問篇〕出則有二鸞和一、動則有二佩環一。〔王丘、詠史詩〕蘭路滋二香澤一、松風鳴二佩環一。〔白居易、將レ發二洛中一枉二令狐相公手札一詩〕八行落泊飛二雲雨一、五字鎗摧動二佩環一。

【佩兮】22 ハイケイ 清、馬曰璐（12－44572‥701）の字。

【佩經】23 p'ei⁴ ching¹ まじなひ。符呪。

【佩瓊】24 ハイケイ ❶瓊をおびる。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕懷二瑤象一而佩レ瓊兮、願陳列而無レ正。❷清、梁譽（6－14825‥2）の字。

【佩觿】25 ハイケイ ❶觿をおびる。觿は、結びを解く錐で、象骨で作る。〔詩、衞風、芄蘭〕芄蘭之支、童子佩レ觿。〔集傳〕觿、錐也、以二象骨一爲レ之、所二以解レ結一。❷書名。三卷。宋、郭忠恕撰。上卷には六書形聲を、中・下卷には字畫の似たものをとり、四聲を以て十段に分錄し、末に篇韻音義と異なるもの十五字を附し、又、舛誤を辨證する者一百九字を附す。〔四庫提要、經、小學〕。

【佩觿子】26 ハイケイシ 明、莫藏（9－31078‥24）の號。

【佩玦】27 ハイケツ 帶びた玦。又、玦を帶びる。珮玦。〔禮、內則〕右佩二玦・捍・管・遰・大觿・木燧一。〔莊子、田子方〕緩佩二玦者一、事至而斷。

【佩堅】28 ハイケン 清、顧廷琦（12－43689‥329）の字。

【佩劍】29 ハイケン 腰に帶びる劍。佩刀（60）に同じ。〔杜甫、人日詩〕佩劍衝レ星聊暫拔、匣琴流水自須レ彈。〔楊載、次二韻袁伯長一詩〕佩劍黃金環、咀二丹白玉盤一。

【佩弦】30 ハイゲン 弦を佩びる。弦を佩びるのは、緊張を意味し、心の緩かなのを矯めるためである。〔韓非子、觀行〕董安于之心緩、故佩レ弦以自急。

【佩弦園】31 ハイゲンエン 井上潛の號。井上四明（1－258‥61）を見よ。

【佩弦齋】32 ハイゲンサイ 字號。❶清、袁昶（10－34152‥112）の號。❷清、朱一新（6－14424‥664）の號。❸青山延光の號。青山佩弦齋（12－42564‥245）を見よ。

【佩公】33 ハイコウ 清、董劍錞（9－31433‥199）の字。

【佩悃】34 ハイコン 感佩の心。感謝の心。

【佩襲】35 ハイシフ 身につけてよそほふ色々のもの。〔列女傳、續列女傳、班婕妤傳〕申二佩襲一以自思。

【佩珊】36 ハイサン 清、歸懋儀（6－16349‥320）の字。

【佩士】37 ハイシ 清、謝蘭生（10－35827‥370）の字。

【佩之】38 ハイシ 清、嚴榖（2－4589‥35）の字。

【佩紫】39 ハイシ 紫の印授をおびる。轉じて高官に任ぜられることをいふ。〔晉書、夏侯湛傳〕被レ朱佩レ紫、耀二金帶一。白。

【佩纖】40 ハイセン 身につけた帶。帶。〔楚辭、離騷〕解二佩纖一以結二言兮一。〔注〕纖、佩帶也。

【佩授】41 ハイジュ 授けられて其の身におびる。〔墨子、號令〕守二佩授之印一。

【佩綬】42 ハイジュ 印のくみひもをおびる。其の任にあることをいふ。〔後漢書、李忠傳〕解二所レ佩綬一以帶レ忠。〔唐書、車服志〕六品以下、去二劍佩一綬。

【佩循】43 ハイユン 清、劉鐶之（2－2224‥848）の號。

【佩楯】44 ハイテン 鎧の裾の、腰から膝にかけて垂れるもの。膝甲ともいふ。〔和漢三才圖會、兵器、脛盾〕佩楯、波以太天、脛楯、所レ著膝脛者。

【佩飾】45 ハイショク 佩珂（7）に同じ。珮飾。〔宋玉、神女賦〕於レ是搖二佩飾一、鳴二玉鸞一。

【佩身】46 p'ei⁴ shen¹ 身體に付ける。身に佩びる。

【佩任】47 ハイジン 六朝の頃の孝女の名。〔南宋、孝義傳〕有二羊絹之女佩任者一、烏程人、隨レ母還二舅氏一、母亡、晝夜號哭、不二飲食一、三日而亡、鄉里號曰二女表一。

【佩衽】48 ハイジン 佩玉と衽。珮衽。〔楚辭、九章、悲回風〕撫二佩衽一以案レ志兮、超惘惘而遂行。

【佩翠】49 ハイスイ みどりの色を佩びる。〔李百藥、笙賦〕柳佩翠而辭レ寒、梅含二香而受一日。

【佩瑑】50 ハイスイ 瑞玉を以て作つた佩びもの。〔詩、小雅、大東〕鞙鞙佩瑑、不レ以二其長一。〔箋〕佩瑑者、以二瑞玉一爲レ佩。〔後漢書、輿服志、下〕九卿中二千石、二千石青綬、三采青白紅、淳青圭、長丈七尺、百二十首、自二青綬一以上縷、皆長二三尺二寸、與レ綬同レ采、而首半レ之、縷者、古佩瑑也、佩綬相迎受、故曰レ縷、紫綬以上、縷・綬之間、得レ施二玉環鏘一云。

【佩西】51 ハイセイ 清、時銘（5－13890‥402）の字。

【佩青】52 ハイセイ 清、費開綬（10－36717‥83）の字。

【佩聲】53 ハイセイ 佩玉の聲。珮聲。〔潘岳、西征賦〕想二佩聲之遺響一。〔王維、和下賈舍人早朝二大明宮一之作上詩〕朝罷須レ裁五色詔、佩聲歸向鳳池頭。

【佩韘】54 ハイセツ 象骨で作つたゆがけを佩びる。〔詩、衞風、芄蘭〕芄蘭之葉、童子佩レ韘。〔傳〕韘、玦也、所二以鉤一弦、決也一、以二象骨一爲レ之。〔集傳〕韘、決也、以二象骨一爲レ之。

【佩川】55 ハイセン 草場轍の號。草場佩川（9－30945‥198）を見よ。

【佩先】56 ハイセン 清、郁禮（11－39371‥34）の字。

【佩葱】57 ハイソウ 清、張嘉玲（4－9812‥851）の字。

【佩帶】58 ハイタイ おびる。帶にかける。

【佩帶兒】59 p'ei⁴ tai⁴ erh 裝飾として身邊にかけるもの。

【佩刀】60 ハイタウ 腰に帶びる刀。佩劍。琅琊代醉編、卷二十七に見ゆ。〔漢書、王遵傳〕願觀二相君佩刀一。〔任昉、王文憲集序〕呂虔歸二其佩刀一。〔唐書、張文瓘傳〕勣贈二二人佩刀・玉帶一。〔杜甫、送二陵州路使君赴レ任詩〕佩刀成二氣象一、行蓋出二風塵一。〔武備志、日本考〕刀大小長短不レ同、立名亦異、每レ人有二一長刀一、謂二之佩刀一、其刀上又補二一小刀一、以便二雜用一。

【佩廷】61 ハイテイ 清、李綬（6－14459‥430）の字。

【佩瑱】62 ハイテン 瑱をつける。瑱は玉の耳がね。〔韓詩外傳、一〕有二處子佩レ瑱而浣者一。

【佩犢】63 ハイトク 刀を佩びることを止めて子牛を畜

ふ。轉じて、武事を止めて殖産に從事するをいふ。〔漢書、循吏、龔遂傳〕民有下帶二持刀劍一者上、使三賣ㇾ劍買ㇾ牛、賣ㇾ刀買ㇾ犢曰、何爲帶ㇾ牛佩ㇾ犢、春夏不ㇾ得ㇾ不ㇾ趨二田畝一、秋冬課二收斂一、益畜二果實菱芡一、勞來循行、郡中皆有二畜積一。〔江總、梁故度支尚書陸君誄〕懸魚化ㇾ靜、佩犢去ㇾ思。

【佩豚】64 ハイトン ゐのししの皮の佩刀を帶びる。勇氣のある喩。佩猳(9)を見よ。〔論衡、率性〕戴ㇾ鷄佩ㇾ豚。

【佩囊】65 p'ei⁴ nang² 紙入。蝦蟇口。がまぐち。財布の類。

【佩服】66 ハイフク ❶身におびる。佩用。〔韓愈、送二區弘南歸一詩〕騰二蹋衆駿一事二鞍鞿一、佩二服上色一紫與ㇾ緋。〔歐陽脩、日本刀歌〕百金傳入好事手、佩服可三以禳二妖凶一。❷心にとめて忘れない。又、其のもの。服膺。〔杜甫、湘江宴餞三裴二端公赴二道州一詩〕鄙人奉二末眷一、佩服自二早年一。〔錢起、美二揚侍御清文見ㇾ示時一〕可三以爲二佩服一。❸感服する。

【佩紱】67 ハイフツ 印のひもをおびる。轉じて、官途に就くこと。紱は印のひも。〔蔡邕、胡廣黃瓊頌〕赫赫三事、七佩二其紱一。

【佩物】68 オビモノ 身におびるもの。

【佩甫】69 ハイホ 淸、楊伯潤(**6**-**15112**‥753)の字。

【佩浦】70 ハイホ 地名。湖南省境の澧水のほとりに在る。〔楚辭、九歌、相君〕捐二余玦兮江中一、遺二余佩兮醴浦一。〔補注〕澧・醴、古書通用、今澧州有二佩浦一、因二楚辭一爲ㇾ名也。

【佩用】71 ハイヨウ 身に著ける。おびもちひる。佩服。〔禮、內則〕左右佩用。

【佩蘭】72 ハイラン ❶蘭をおびる。我が身を美しくする喩。❷香草の名。薰蕙草。❸伏原宣條の號。伏原佩蘭(**1**-**438**‥212)を見よ。

【佩蘭子】73 ハイランシ 明、袁達(**10**-**34152**‥104)の號。

【佩履】74 ハイリ 帶をつけ、靴をはく。又、禮容を整へること。〔馬祖常、詩〕佩履侍二殿陛一、觚牘宴二館閣一。

【佩離】75 ハイリ 袿衣の帶をおびる。女子が人に嫁する時、女の父親が、女に之を佩びさせて戒める。離は袿衣の帶。〔漢書、外戚下、孝成班倢伃傳〕每二寤寐一而絫息兮、申二佩離一以自思。〔注〕師古曰、絫息、言二懼而喘息一也、離、袿衣之帶也、女子適ㇾ人、父親結二其離一而戒ㇾ之、故云二自思一也。

【佩綸】76 ハイリン 淸、王恩綬(**7**-**20823**‥1225)の號。

【佩璐】77 ハイロ うるはしいおび玉。〔范成大、送二子文一雜言詩〕腰金佩璐衆目好、汗簡沈碑千載癡。

【佩搭兒】78 p'ei⁴ ta¹ êrh 俗に附屬物のことをいふ。つけたり。こづけ。

【佩文韻府】79 ハイブンヰンプ 書名。一百六卷。補遺一百六卷。淸、聖祖康熙四十三年、翰林員張玉書・陳廷敬・李光地等以下七十六人奉敕撰。此の書は、韻府群玉・五車韻瑞の已に載せて居る所のものを前に列し、更に他の典籍から其の不備を補つたものを後に列し、其の配列は經・史・子・集の順としてゐる。詩家の用に供する主旨で作つたから、其の出典は、往々、原書に遡らないで、漢魏以來の詞人の隻句を摘錄したものもある。又、別に韻府拾遺百十二卷がある。拾遺の體裁は前篇と同じであるが、每韻・每字、補藻として漏軼した語を收め、補注として前篇に出た語の注解とすべきものを集めてゐる。每韻附屬の字數の通計は、汪葵田の韻府紀字に依ると、一萬二百五十七字あり、大槻如電は拾遺新加四十一字を併せて一萬二百九十三字としてゐる。〔四庫提要、子、類書類〕。〔參考書〕【韻府拾遺】一百十二卷 康熙五十五年御定。佩文韻府の拾遺をしたもの。〔四庫提要、子、類書類〕。【佩文韻府約編】淸、鄧愷編。【韻府一隅】十六卷 淸、顏懋功輯。【佩文韻府兩韻便覽】折本一帖。大窪詩佛編。佩文韻府の中から一字で平仄兩韻に使用せられるものを、韻別に排列して說明してゐる。

【佩文齋書畫譜】80 ハイブンサイショグワフ 書名。一百卷。淸、康熙帝御定。書畫に關する評論・傳記等を集めたもので、引用する所の書は、凡そ一千八百四十四種。此の種類の書としては最も完備したもの。其の目は、論書十卷・論畫八卷・歷代帝王書二卷・同上畫一卷・書家傳二十三卷・畫家傳十四卷・無名氏書六卷・同上畫二卷・御製書畫跋一卷・歷代帝王書跋一卷・同上畫跋一卷・歷代名人書跋十一卷・同上畫跋七卷・書辨證二卷・畫辨證二卷・歷代鑒藏十卷。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【佩文齋詠物詩選】81 ハイブンサイエイブツシセン 書名。四百八十六卷。淸、康熙帝敕撰。この書は古初から明代までの詩を集め、之を四百八十六の部類に分けたもので、別に、附見するものが四十九類ある。天・日・月・星・河漢・風・雷電(附雹)・雲・霞・雨・霧・露・霜・雪・冰・虹霓・瑞氣・晴・曉・夜・寒・暑・涼・春・立春・夏・立夏・秋・立秋・冬・立冬・冬至・元旦・人日・上元・花朝・社日・寒食・淸明・上巳・佛日・午日・七夕・中元・中秋・九日・臘日・除夕・山總類・泰山・華山・衡山・恆山・嵩山・西山・盤山・鍾山・金山(附焦山)・茅山・武夷山・廬山・九華山・小孤山・天台山・普陀山・羅浮山・惠山・虎丘山・巫山・太行山・王屋山・終南山・龍門山・峯・嶺・岩・洞・谷・島嶼・石・石壁・假山・衆山・水總類・海・江・曲江・淮水・河・漢水・洛水・湘水・湖・川・渚・浦・谿・澗・潭・洲・渡・潮・池(附沼)・溝・灘瀨・井・泉・溫泉・瀑布(附水簾)・衆水・宮殿・門闕・省掖・館閣・院・苑・臺榭・亭・樓・閣・莊(附山房)・園林・別業・城郭・橋梁・隄岸・舟・車・簡閱・狩獵・征伐・從軍・出塞・告捷・凱旋・行營・陣圖・射・弓・箭・刀・劍・旌旗・戰袍・彈・鞭・武備雜類・鹵簿・儀器・權衡度量・寶玉・珠・金(附銀)・錢・錦綺・布帛・苧葛・氈罽・印笏・冠簪・衣(附帕)・帶佩・履舄・屏障・簾幕・如意・塵拂・砧杵・書籍・五經・史・讀書・書法總類・御書・篆書・直書・草書・書札・碑・筆・墨・硯(附硯山)・紙・箋・畫・樂律・鐘・鼓・磬・簫・管・笙・笛・琴(附風琴)・琴石・瑟・箏・琵琶・箜篌・笳・角・觱篥・方響・雜樂器・鼎彝・爐(附火籠)・鏡・扇・棊(附彈棊)・投壺・杖・文具・玩具・飲具・釀具・茶具・食具・坐具・寢具・雜器・香・燈燭(附煙火)・火・煙・薪炭(附炭)・農圃・樵・漁・牧・織・女紅・佛寺・佛・僧・浮圖・僧家雜類・仙觀・仙・道士・步虛詞・道家雜類・食物總類・酒・茶・飯・粥・麫・糕・餅・饌・酥・乳・羹・湯・糖霜・食物雜類・穀・麥・蔬菜・雜蔬・瓜・豆花・蓴菜・菌(附石茸)・瓠・韭薤(附葱)・山藥・芋・蓴菜・芦菔・蕨・椒薑・薺・菱芡・總樹類・總花類・松・柏・檜・杉・榆・槐・梧桐・榕・椿・楠・桑・楸・楊柳・檉・烏桕・冬青・銀杏・木瓜・木槿・花・桃花・梅花(附紅梅・梅子)・李花・杏花・梨花・栗・棗・柰・柑・橘(附金橘)・橙・榴花・柹・楊梅・核桃・枇杷・櫻桃・林檎・荔枝・龍眼・橄欖・葡萄・海棠(附秋海棠)・桂花・玉蘭・丁香・夜合・紫薇・木蘭・蠟梅・山茶・梔子、辛夷・繡毬・棠梨・玉蕊花・山礬・楝花・木棉花(附橦花)・竹・筍・牡丹・芍藥・瑞香・木芙蓉・茉莉・夾竹桃・薔薇・月季・刺桐・荼蘼・凌霄・藤花・山丹・素馨・玉瓏鬆・瓊花(附瑤花・琪花)・蘭・蕙・芝・萱・菊・荷・葵・杜鵑花・水仙・金沙花・金錢花・罌粟・玉簪花・鳳仙・鷄冠・牽牛・杜若・菖蒲・芭蕉(附美人蕉)・石竹・葉・雜樹類・雜花類・藥類・人參・茯苓・黃精・山茱萸・檳榔・枳殼・枸杞・決明・藥名詩・雜藥類・芦草(附蒹葭葑)・荻花・荇花(附洪)・蓼花・蘋花・苔蘚・萍花・薜蘿・菰蒲草(附莎)・蕪・蓬・茅・蓍・蓂・莧葵・瓦松)・麟・騶虞・獅子・象・虎・豹・熊羆・駱駝・馬・驢(附騾)・牛(附犀牛)・羊・犬・豕・鹿・狐・猿(附獮猴)・狼・狸・兔・猫・鼠・猩々(附狒々)・雜獸・總禽鳥類・鳳(附鸞)・孔雀・鶴・錦雞・雁・鷹(附隼・海靑)・鶻・鵬・鶚・白翎弱・鳶・雉・鷓鴣・烏・鵲・鳩・鶯・燕・白鷗・鸚鵡・鸜鵒・雀(附黃雀)・畫眉・戴勝・布穀・提壺・啄木・鴛鴦・鸂鶒・鵁鶄・鷗・鷺・百舌・杜鵑・鶗鴃・白頭公・白鳥・翠鳥・鸕鷀・鶺鴒・天鵞・鳧・竹雞・鶩・鴨・雞・雜鳥・龍(附蛟虬)・魚(附蝦・海蜇)・蟹・龜・車螯・蚌蛤(附蠣・蠔・蚶・蟶)・蛙・總蟲類・蠶・蟬・蝶・蜂・蜻蜓・蜘蛛・螢・促織・蠹魚・蚊蠅・雜蟲。每門、詩は體を分つて錄し、凡て一萬四千六百九十首ある。〔四庫提要、集、總集類〕。

【佩】544 シュク・スク 〔集韻〕息六切 屋

伸びないこと。倐佩。〔玉篇〕佩、倐佩、不ㇾ伸。〔集韻〕佩、倐佩、不ㇾ伸也。

【佪】545 クワイ・ヱ 〔集韻〕胡隈切 灰

❶**さまよふ**。俳佪。或は徊(**4**-**10095**)に作り、通じて回(**3**-**4690**)に作る。〔集韻〕佪、

徘佪、不ㇾ進皃、或从ㇾ彳、通作ㇾ回。〔正字通〕俳、俳佪、亦作二徘佪一。〔漢書、高后紀〕俳佪往來。❷くらいこと。佪佪(一)を見よ。

【佪佪】1 クワイクワイ 明かでないさま。暗いさま。洄洄。〔玉篇〕佪、佪佪、惛也。

【佪翔】2 クワイシヤウ かけめぐる。廻翔(4−9575··47)に同じ。〔傅玄、鷹賦〕獨飛二峙於林野一兮、復佪二翔於天庭一。

【⿰亻臣】546 クワン 宦(3−7138)に同じ。〔集韻〕宦、或作ㇾ⿰亻臣、亦省作ㇾ⿰亻臣。

【佫】547 カク キヤク 〔集韻〕各頟切 藥

❶いたる。洛(4−10082)に同じ。〔集韻〕佫、至也、或作ㇾ洛。❷姓。〔廣韻〕佫、人姓、出二纂文一。〔萬姓統譜〕佫、見二姓苑一。

【佬】548 一レウ 〔玉篇〕力彫切 蕭 ㄌㄧㄠˊ liao²
二ロ 〔中華大字典〕讀若二魯去聲一。
三ラウ 〔中華大字典〕讀二勞上聲一。ㄌㄠ lao³

一大きいさま。〔玉篇〕佬、侼佬也、大皃。二三現男子を稱していふ。廣東地方の方言。

【佭】549 カウ ガウ 〔字彙〕胡江切 江

伏さないこと。㑮佭。〔字彙〕佭、㑮佭、不ㇾ伏也。

【攸】550 シウ シユ 〔集韻〕戸周切 尤

縣名。〔集韻〕攸、縣名、在二長沙一。

【佮】551 一カフ コフ 〔集韻〕葛合切 合
二タフ トフ 〔集韻〕託合切 合

小篆

一二❶合せる。合せ取る。〔說文〕佮、合也。〔正字通〕佮、合取也。❷姓。〔集韻〕佮、姓也。

【佯】552 一ヤウ 〔集韻〕余章切 陽 ㄧㄤˊ yang²
二シヤウ ザウ 〔集韻〕徐羊切 陽

一❶いつはる。あざむく。〔字彙〕佯、詐也。〔淮南子、兵略訓〕此善爲二詐佯一者也。〔史記、宋世家〕佯狂而爲ㇾ奴。❷あらは。うはべを裝ふ。通じて陽(11−41725)に作る。〔正字通〕佯、通作ㇾ陽、內不ㇾ然而外飾僞曰ㇾ陽。❸たちもとほる。さまよふ。〔宋玉、風賦〕然後倘二佯中庭一。〔注〕善曰、倘佯、猶二徘徊一也。❹詳(10−35446)に通ず。〔六書故〕佯、亦借用ㇾ詳。❺物のさま。佯佯(22)を見よ。二よわい。〔廣雅、釋詁一〕佯、弱也。

【佯啞】1 ヤウア わざと啞の振りをする。〔洛陽伽藍記、二〕佯啞不ㇾ語、不ㇾ預二世事一。

【佯喜】2 ヤウキ うれしさうなふりをする。いつはりよろこぶ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕競佯喜從ㇾ之。

【佯狂】3 ヤウキヤウ 氣ちがひのまねをする。にせ氣ちがひ。陽狂。〔荀子、堯問〕蒙二佯狂之色一。〔史記、宋世家〕〔箕子〕被ㇾ髮、佯狂而爲ㇾ奴。〔鄒陽、於ㇾ獄上書自明一首〕箕子佯狂、接輿避ㇾ世、恐ㇾ遭二此患一也。

【佯愚】4 ヤウグ いつはつて愚者のふりをする。〔楚辭、王逸、離騷後序〕詳愚而不ㇾ言。〔注〕詳與ㇾ佯同、詐也。〔荀悅、王商論〕甯武子佯愚。

【佯言】5 ヤウゲン いつはりいふ。いつはりのことば。詐言。佯語。佯話。〔韓非子、內儲說上〕坐而佯言曰、走出ㇾ門者、何白馬也。

【佯語】6 ヤウゴ いつはりいふ。佯言に同じ。佯話。

【佯做】7 yang² tsuo⁴ いつはる。欺く。

【佯死】8 ヤウシ 死んだふりをする。いつはりの死。〔史記、范雎傳〕折ㇾ脅摺ㇾ齒、雎佯死。〔史記、李將軍傳〕行十餘里、廣佯死。

【佯常】9 yang² ch'ang² すつとでて行くこと。〔紅樓夢、十二回〕佯常而去。

【佯稱】10 ヤウシヨウ いつはりいふ。いつはりの稱。〔冊府元龜〕德溫佯稱。

【佯睡】11 ヤウスイ ねたふりをする。たぬきねいり。佯眠。陽睡。〔郭璞、山海經圖、幽頞贊〕觸ㇾ物則笑、見ㇾ人佯睡。

【佯醉】12 ヤウスイ いつはり醉ふ。醉つたふりをする。〔盧綸、宴席賦得姚美人拍ㇾ箏歌〕已愁紅臉能佯醉、又恐朱門難二再過一。

【佯善】13 ヤウゼン いつはつて好しみを通ずる。〔呂覽、長攻〕佯善二蔡侯一、而與ㇾ之謀。

【佯走】14 ヤウソウ 負けたふりをして、わざと逃げる。〔史記、淮陰侯傳〕於ㇾ是信・張耳、佯弃二鼓旗一、走二水上軍一。

【佯尊】15 ヤウソン うはべだけ尊ぶ。〔史記、項羽紀〕項羽乃佯二尊懷王一爲二義帝一。

【佯篖】16 ヤウタウ 竹席の粗なるもの。〔廣雅、釋器〕佯篖・倚陽、笭篖也。

【佯遁】17 ヤウトン わざと逃げる。逃げる眞似をする。佯走。〔宋史、扈再興傳〕再興夜以二鐵蒺藜一密布ㇾ地、黎明佯遁、金人馳中二蒺藜一者、十踣二七八一。

【佯敗】18 ヤウハイ ことさらに敗れたふりをする。佯北。〔史記、白起傳〕秦軍佯敗而走。

【佯北】19 ヤウホク やぶれたふりをしてにげる。〔孫子、軍爭〕佯北勿ㇾ從。〔吳子、應變〕如ㇾ是佯北。〔史記、李牧傳〕佯北不ㇾ勝。

【佯病】19 ヤウビヤウ いつはりの病。けびやう。又、病氣といつはる。〔史記、伍子胥傳〕輟謝佯病不ㇾ行。

【佯北】20 ヤウホク やぶれたふりをしてにげる。〔孫子、軍爭〕佯北勿ㇾ從。〔吳子、應變〕如ㇾ是佯北。〔史記、李牧傳〕佯北不ㇾ勝。

【佯眠】21 ヤウミン ねたふりをする。そらねむり。佯睡。〔郭璞、山海經圖贊、犰狳〕犰狳之獸、見ㇾ人佯眠。

【佯佯】22 ヤウヤウ ❶あざやかなさま。〔韓偓、厭二花落一詩〕也曾同在二華堂宴一、佯佯攏鬢偸廻ㇾ面。❷奧深いさま。〔韓偓、不見詩〕動靜防ㇾ閑又怕疑、佯佯脈脈是深機。

【佯話】23 ヤウワ いつはりいふ。佯語(6)に同じ。

【佯不ㇾ知】24 イツハリテシラズトス 知らないふりをする。〔左氏、定、十二〕子僞不ㇾ知、注〕佯不ㇾ知。〔史記、封禪書〕文成爲二帛書一以飯ㇾ牛、佯不ㇾ知、言曰、此牛腹中有ㇾ奇。

【佰】553 バク ミヤク 〔集韻〕博陌切 陌 ㄅㄛˊ po²
慣ハク

小篆

❶百。もも。又、百倍。〔廣韻〕佰、一百爲二一佰一也。〔孟子、滕文公上〕或相什佰。❷百錢。〔漢書、食貨志上〕有二仟佰之得一。〔注〕師古曰、仟、謂二千錢一、佰、謂二百錢一。❸百人。百人のくみ。又、百人の長。をさ。〔說文〕佰、相什佰也、从二人百一。〔繫傳〕亦相保也、老子曰、有二什佰之器一、每什佰共用之器。〔集韻〕佰、百人之長。❹田の東西の界。陌(11−41617)に通ず。〔正字通〕佰、通作ㇾ陌。〔漢書、匡衡傳〕南以二閩佰一爲ㇾ界。〔注〕師古曰、佰者、田東西界。

解字 會意形聲。人と百との合字。百はまた聲。故に百人、百人の長をいふ。又百とし、百錢の意とし、又、陌に通じて界とす。〔說文通訓定聲〕佰、从二人百一、會意、按、百亦聲。

參考 伯(1−466)は別字。

【㑒】554 ハフ 法(6−17290)の古字。〔玉篇〕㑒、古文法。

【伯】555 クワイ 〔集韻〕虎猥切 賄

醜いさま。倠(1−782)に同じ。〔集韻〕倠、伯倠、醜皃、或从ㇾ臼。

【佫】556 メイ 酪（11－39846）に同じ。〔集韻〕酪、酪酊醉甚、或作二佫・佲一。

【佳】557 カイ ケ 慣カ 〔集韻〕居膎切 ㄐㄧㄚ chia¹ 佳

佳 小篆 ㊀よい。うつくしい。〔說文〕佳、善也、从レ人圭聲。〔廣雅、釋詁一〕佳、善也。〔廣雅、釋詁二〕佳、好也。〔淮南子、說林訓〕佳人不レ同レ體。〔揚雄、反離騷〕相レ態以二麗佳一、知二衆嫭之嫉妒一兮。㊁**大きい。**〔廣雅、釋詁一〕佳、大也。㊂**かざる。**〔老子、三十一〕夫佳レ兵者、不祥之器也。〔河上公注〕不レ當二修飾一也。㊃**嘉する。好む。**〔老子、三十一〕夫佳レ兵者、不祥之器也。〔吳澄注〕佳、猶レ云レ嘉レ之也。㊄**百六韻の一。上平第九。**㊅**姓。**〔沂州志〕明正統中、有二訓導佳正一、沂州人。

名乘 ヨシ。カ。

參考 佳（**11－41937**）は別字。〔康熙字典、辨字、二字相似〕隹、音追、鳥之短尾。佳、音加、美也。

【佳意】1 カイ よいこころ。善意。〔蘇軾、代レ書答二梁先一詩〕感二子佳意一能無レ酬、反將二木瓜一報二珍投一、學如二富貴一在二博收一、仰取俯拾無二遺籌一。

【佳友】2 カイウ ㊀良友。益友。よい友人。〔劉詵、詩〕百年少二曠懷一、四海幾佳友。㊁草の名。きく。菊（**9－31153**）の異名。〔事物異名錄、花卉、菊〕詞話、曾端伯以レ菊爲二佳友一。

【佳游】3 カイウ 佳遊に同じ。

【佳遊】4 カイウ よいあそび。佳游。〔李嶠、彈詩〕俠客持二蘇合一、佳遊滿二帝鄉一。

【佳胤】5 カイン 淸、龔佳育（**12－48837**‥58）の初名。

【佳雨】6 カウ よい雨。時を得た雨。〔韋應物、池上懷二王卿一詩〕幽居捐二世筆一、佳雨散二園芳一。

【佳鷂】7 カエウ よいはやぶさ。〔資治通鑑、唐紀〕太宗、貞觀二年、上嘗得二佳鷂一、自臂レ之、望二見徵來一、匿二懷中一。

【佳葉】8 chia¹ yeh⁴ よい煙草。佳烟。

【佳烟】9 chia¹ yen¹ よい煙草。佳葉。佳煙。

【佳園】11 カエン 美しい園。〔唐玄宗、春日出レ苑遊矚詩〕三陽麗景早芳辰、四序佳園物候新。

【佳音】12 カオン ㊀よい便り。よい返事。〔長生殿、得信〕問二因由一、佳人果有二佳音一否、莫二爲レ我淹煎一。㊁御消息。吉報。

【佳佳】13 chia¹ chia¹ 至つて結構なこと。

【佳好】14 カカウ よい。美しい。嘉好（**2－4176**‥26）に同じ。

【佳肴】15 カカウ よいさかな。嘉肴。好下物。〔張養浩、詩〕安得二佳肴錦鯉雙一。

【佳殽】16 カカウ よい料理。〔狄仁傑、歸省詩〕美味調レ羹呈二玉筍一、佳殽入レ饌膾二冰鱗一。

【佳稿】17 カカウ 立派な原稿。〔姜奇方、謝レ送二稿及剪刀一書〕佳稿如二和氏之璧一、不レ可二多獲一。

【佳客】18 カカク ㊀よい客人。嘉客。佳賓。〔杜甫、雨詩〕佳客適二萬里一、沈思情延佇。〔莫叔明、宿二佩上人房一詩〕釀レ酒醉二佳客一、燒レ燈對二靈山一。㊁瑞香の異名。十二客（**2－2695**‥347）を見よ。〔事物異名錄、花卉、瑞香〕花木考、張敏叔、以二瑞香一爲二佳客一。㊂華客。得意先。

【佳氣】19 キカ めでたい氣。吉祥の氣。〔白虎通、封禪〕佳氣時喜。〔後漢書、光武紀下〕望レ氣者至二南陽一、遙望見二春陵郭一、唶曰、氣佳哉、鬱鬱蔥蔥然。〔盧照鄰、長安古意〕弱柳青槐拂レ地垂、佳氣紅塵暗レ天起。〔儲光羲、洛陽道五首、獻二呂四郎中一詩〕大道直如レ髮、春日佳氣多。

【佳期】20 キカ ㊀よい時節。佳辰。佳節。〔謝莊、月賦〕佳期可二以還一。〔陸龜蒙、中秋待レ月詩〕轉缺霜輪上轉遲、好風偏似レ送二佳期一。㊁美人と會する期。轉じて、成婚の日。吉日。〔楚辭、九歌、湘夫人〕登二白薠一兮騁レ望、與二佳期一兮夕張。〔注〕佳、謂二湘夫人一也、不三敢指二斥尊者一、故言レ佳也。〔趙嘏、彩鳳逐帷低詩〕何年征戍客、傳語報二佳期一。

【佳器】21 キカ よいうつは。又、立派な人物。善良有用な人物。〔晉書、韋忠傳〕此子長大、必爲二佳器一。〔宋書、謝弘微傳〕此兒深中夙敏、方成二佳器一、有レ子如レ此足矣。

【佳妓】22 ギカ 美しい藝妓。美妓。〔陸龜蒙、襲美留二振文一宴龜蒙不レ赴詩〕繁絃似レ玉紛紛碎、佳妓如レ鴻一一驚。

【佳況】23 chia¹ k'uang⁴ 景氣がいい。

【佳貺】24 カキヤウ 結構な贈物。〔丁翰、謝レ惠二酒蟹一書〕承二佳貺一妙甚。

【佳境】25 カキヤウ ㊀よいところ。〔杜甫、自二瀼西荊扉一且移二居東屯茅屋一詩〕幽獨移二佳境一。㊁面白い所。妙所。〔周必大、陳宰有レ詩來迎次韻詩〕賞心到處窮二佳境一。〔儲巏、上元夕飲レ客詩〕開年共說逢二佳境一。㊂風味のよいところ。うまい部分。蔗境。〔晉書、顧愷之傳〕每レ食二甘蔗一、恒自レ尾至レ本、人或怪レ之、云、漸入二佳境一。〔世說新語、排調〕顧長康噉二甘蔗一、先食レ尾、人問二所以一、云、漸至二佳境一。

【佳謔】26 カギヤク 他人の害にならないじやうだん。善謔。好謔。〔世說新語補、排調下〕聞者以爲二佳謔一。

【佳興】27 カキヨウ よいおもむき。〔王維、崔濮陽兄季重前山興詩〕秋色有二佳興一。〔程顥、秋日偶成詩〕萬物靜觀皆自得、四時佳興與レ人同。

【佳句】28 カク よい文句。よい詩句。〔晉書、孫綽傳〕每レ至二佳句一、輒云、應是我輩語。〔李嘉祐、送二王正字山寺讀一レ書詩〕風流有二佳句一、不レ似二帶レ經鋤一。〔白居易、夢二行簡一詩〕池塘草綠無二佳句一、虛臥二春窗一夢二阿憐一。

【佳偶】29 カグウ よいつれあひ。似合の夫婦。嘉偶（**2－4176**‥58）に同じ。〔福惠全書、刑名部、雜犯、婚姻〕伉儷亦終非二佳偶一矣。

【佳果】30 カクワ よいくだもの。佳實。〔歐陽脩、答二劉原父舍人云云一詩〕虛堂來二淸風一、佳果薦二濁酒一。〔鄭果、餽二龍眼一書〕海南多二佳果一。

【佳花】31 カクワ 美しい花。〔陶潛、蜡日詩〕梅柳夾レ門植、一條有二佳花一。

【佳貨】32 chia¹ huo⁴ 極上品。優良品。

【佳快】33 カクワイ 佳人・快士。凡庸の輩に異なるもの。〔顏氏家訓、勉學〕人見三隣里親戚有二佳快者一。

【佳惠】34 カケイ よいたまもの。〔沈遼、德相惠二新茶一復次二前韻一奉レ謝詩〕佳惠致二新茗一、遠來自二閩笈一。

【佳景】35 カケイ よいけしき。絕景。勝景。美景。〔黃庚、題二吳實齋北山別業一詩〕北山佳景勝二南山一。〔元稹、寄二樂天一詩〕老逢二佳景一惟惆悵、兩地各傷二何限神一。

【佳憩】36 カケイ よい休み場所。〔水經、湘水注〕縣北有二吳芮冢一、廣踰二六十八丈一、登臨寫目、爲二廛郭之佳憩一也。

【佳教】37 chia¹ chiao⁴ 御教訓。御訓誨。

【佳俠】38 カケフ うるはしい。佳麗（142）に同じ。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕佳俠函光、隕二朱榮一兮。〔注〕孟康曰、佳俠猶二佳麗一。

【佳姸】39 カケン 美し過ぎる程美しいこと。〔梁武帝、閶闔篇〕西漢本佳姸、金馬望二甘泉一。

【佳言】40 カゲン よいことば。嘉言。善言。〔柳宗元、飲酒詩〕淸陰可二自庇一、竟夕聞二佳言一。

〔吐二佳言一如レ屑〕41 カゲンヲハクコトセツノゴトシ 言論の盡きないこと。其の言の流れ出るさまが、鋸で木を挽いて木屑が次から次へと出るやうな喩。〔世說新語、賞譽〕胡母彥國、吐二佳言一如レ屑。

【佳語】42 カゴ よい言葉。〔魏志、崔琰傳〕諺言生レ女耳耳、非二佳語一、會當レ有レ變、時意指不レ遜。

【佳口】43 カコウ 美しい女の召使。〔北史、尉遲綱傳〕綱兄迥伐レ蜀、從二周文一送二之於城西一、見二一走兔一、周文命レ綱射レ之、誓曰、若獲二此兔一、必當レ破レ蜀、俄而綱獲レ兔而返、周文喜曰、事平、當レ賞二汝佳口一。〔表異錄〕周文謂二尉遲綱一曰、事平、當レ賞二汝佳口一。

【佳後】44 chia¹ hou⁴ よい子孫。

【佳刻】45 カコク 立派なほりもの。〔徐成位、送二硯墨一書〕承レ惠二佳刻一。

【佳哉】46 カナルカナ よいかな。歎美の辭。〔後漢書、光武紀下〕氣佳哉、鬱鬱蔥蔥然。

【佳彩】47 カサイ 美しいいろどり。〔元稹、春六十韻詩〕仙仗搖二佳彩一、榮光答二聖衷一。

【佳作】48 カサク よく出來た作品。主として詩や文に就いていふ。〔北史、馮熙傳〕孝文頻登二北芒寺一親讀二碑文一、稱爲二佳作一。〔梁昭明太子、答二玄圃園講頌一令〕首尾可レ觀、殊成二佳作一。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕不レ有二佳作一、何伸二雅懷一。

【佳箑】49 chia¹ sha⁴ 美しい扇。

【佳飡】50 カサン よい食物。美食。〔耶律楚材、再用レ

韻紀二西遊事一詩一）常嘆不才還有レ幸、滯二留遐城一得二佳飡一。

【佳士】51シ ㊀立派なひと。品行端正な士。〔魏志、楊俊傳〕同郡審固、陳留衞恂、本皆出レ自二兵伍一、俊資拔奬致、咸作二佳士一。〔杜甫、丹青引贈二曹將軍霸一〕將軍善畫蓋有レ神、必逢二佳士一亦寫レ眞。〔李白、上二韓荊州一書〕一經二品題一、便作二佳士一。㊁清、周途（2－3441‥74）の號。

【佳士不レ屈】52カクシフクツ 立派な人は長く不遇の地位に屈してはゐない。〔魏書、李訢傳〕訢之廢也、平壽侯張讜見レ訴、與語奇レ之、謂レ人曰、此佳士也、終不二久屈一。

【佳史】53シ 良い史實。立派な歷史。〔宋書、王韶之傳〕韶之因レ此私二撰晉安帝陽秋一、既成、時人謂宜レ居二史職一、卽除二著作佐郎一、使レ續二後事一、訖二義熙九年一、善敍レ事、辭論可レ觀、爲二後代佳史一。

【佳思】54シ 美しい思ひ。〔范成大、詩〕江湖有二佳思一。

【佳師】55シ よい卜師をいふ。〔稱謂錄、卜、佳師〕顏氏家訓、卜筮聖人之業、但近世無二佳師一。

【佳詞】56シ 立派な詩文。嘉詞（2－4176‥111）・嘉辭（2－4176‥118）に同じ。

【佳詩】57シ 立派な詩。嘉詩（2－4176‥112）に同じ。〔嵇康、答二郭一書〕二子贈二嘉詩一、馥如二幽蘭馨一。

【佳事】58ジカ よいこと。善事。〔蜀志、諸葛瞻傳〕每二朝廷有一善政佳事一、雖レ非二瞻所一建倡一、百姓皆傳相告曰、葛侯之所爲也。

【佳兒】59ジカ よい子。よい兒。佳兒佳婦を見よ。〔宋史、曹琮傳〕幼時從二主入一禁中一、太宗置二膝上一、拊二其背一曰、曹氏有レ功二我家一、此亦佳兒也。

【佳兒佳婦】60カジカフ よい息子夫婦。〔資治通鑑、唐紀〕猴佳兒佳婦、今以付レ卿。〔郝經、天賜夫人詞〕八月十五雙星會、佳婦佳兒好昏對。

【佳時】61ジカ よい時。〔白居易、和二柳公權登二齊雲樓一詩一〕佳時莫レ起二興亡恨一、游樂今逢四海清。〔陸遊、山家暮春詩〕佳時幸無レ事、酒盡更須レ添。

【佳日】62ジカジツ 寒煖のほどよい天氣の晴れた日。〔陶潛、移居詩〕春秋多二佳日一、登高賦二新詩一。

【佳實】63カジツ よい果實。佳果。〔李白、送二薛九被一讓去レ魯詩〕梧桐生二蒺藜一、綠竹乏二佳實一。〔黃庭堅、上二蘇子瞻一詩〕江梅有二佳實一、托二根桃李場一。

【佳什】64カジフ 立派な詩文。嘉什（2－4176‥124）に同じ。〔歐陽脩、謝二石秀才一啓〕累日前伏承、惠然見レ過、仍以二嘉什一篇寵示。

【佳將】65カジヤウ よい大將。良將。〔吳志、賀齊傳〕皆有二令名一、爲二佳將一。

【佳章】66カシヤウ 御手紙。貴翰。

【佳城】67カジヤウ 佳い城といふ意より、轉じて人の墓地をいふ。〔博物志、異聞、漢滕公薨、求レ葬二東都門外一、公卿送レ喪、駟馬不レ行、踴レ地悲鳴、跑蹄下レ地、得二石有一銘、曰、佳城鬱鬱、三千年見二白日一、吁嗟滕公居二此室一、遂葬焉。〔西京雜記、四〕滕侯駕至二東都門一、馬鳴踴不二肯前一、以足跑レ地、久之、滕公使二士卒掘一、馬所二跑地一、入三尺所得二石槨一、有レ銘曰、佳城鬱鬱、三千年見二白日一、吁嗟滕公居二此室一、滕公曰、嗟乎天也、吾死、其卽安レ此乎、死遂葬焉。〔沈約、冬節後至丞相第詣二世子一車中作詩、謹當九原上、鬱鬱望二佳城一。〔注〕翰曰、佳城、墓之塋域也。〔書言故事、墳墓類〕稱二人墓地一曰二佳城一。

【佳酌】68シャク よい酒。佳酒。美酒。〔水經、河水注〕民有二姓劉名墮者一、宿擅二工釀一、採二挹河流一、醞二成芳酎一云云、蘭薰麝越、自成二馨逸一、方土之貢選、最佳酌矣。

【佳手】69シュ よいうでまへ。〔顏氏家訓、慕賢〕君王比賜二書翰及寫詩筆一、殊爲二佳手一。

【佳酒】70シュ よい酒。美酒。佳釀。〔陸龜蒙、襲美病中聞二余遊二顏家園一、見寄次韻酬レ之詩〕佳酒旋傾醽醁嫩、短船閒弄木蘭香。

【佳趣】71シュ よいおもむき。おもしろみ。〔張九齡、題レ畫山水障上詩〕對翫有二佳趣一、使二我心眇綿一。〔李白、與二從姪杭州刺史良一游二天竺寺一詩〕詩成傲二雲月一、佳趣滿二吳洲一。

【佳趣堂】72カシュ 清、陸燦（11－41708‥249）の室名。

【佳樹】73カジュ よい木。〔唐書、王義方傳〕此佳樹得レ無二欠償一乎。

【佳所】74カショ 佳處に同じ。

【佳處】75カショ よいところ。佳所。〔文同、拙詩六韻奉レ寄二興州分判誠之浦兄一詩一〕武興山水郡、左右有二佳處一。

【佳勝】76カショウ 名聲が一世に高い人。〔資治通鑑、晉紀〕〈安帝、隆安五年〉豈可レ云無二佳勝一直是不レ能レ信二之耳一。〔注〕江東人士、其名通二顯於時一者、率謂二之佳勝・名勝一。

【佳稱】77カショウ よい名。嘉稱。〔沈約、詠二山榴一詩〕靈園同二佳稱一、幽山有二奇質一。

【佳色】78カショク 美しい色。〔陶潛、飮酒詩〕秋菊有二佳色一、裛露掇二其英一。〔陸龜蒙、秋荷詩〕蒲芽承レ露有二佳色一、菱葉束煙如二効顰一。

【佳辰】79カシン よい日。吉日。よい時。吉辰。〔杜甫、九日詩〕佳辰對二羣盜一、愁絶更堪レ論。〔蘇軾、和二陶貧士一詩〕佳辰愛二重九一、芳菊起自尋。

【佳人】80カジン ㊀臣下が主君を指していふ。〔楚辭、九歌、湘夫人〕聞佳人兮召レ予。〔注〕予、屈原自謂也。〔楚辭、九章、悲回風〕惟佳人之永都兮、更二統世一以自睨。〔注〕佳人、謂二懷・襄王一也。㊁賢臣。良臣。〔漢武帝、秋風辭〕蘭有二秀兮菊有レ芳、攜二佳人一兮不レ能レ忘。〔注〕濟曰、佳人、謂二羣臣一也。㊂良友。〔宋之問、下山歌〕攜二佳人一兮步遲遲。〔注〕楚辭稱二佳人或美人一、多指二君子一、此指二良友一。㊃美しい女。美人。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕北方有二佳人一、絶世而獨立。〔淮南子、說林訓〕佳人不レ同レ體、美人不レ同レ面。〔曹植、洛神賦〕嗟佳人之信脩、羌習レ禮而明レ詩。〔鄭谷、鷓鴣詩〕遊子乍聞征袖濕、佳人纔唱翠眉低。〔曾鞏（一說に許彥國）、虞美人草詩〕三軍散盡旌旗倒、玉帳佳人座中老。㊄うたひめ。娼妓。〔杜甫、陪二諸貴公子一丈八溝攜レ妓納レ涼晚際遇レ雨詩〕公子調二冰水一、佳人雪二藕絲一。㊅美しい男。又、美行ある男。〔魏志、曹爽傳、注〕魏氏春秋曰、爽既罷レ兵、曰、我不レ失二作富家翁一、桓範哭曰、曹子丹佳人、生汝兄弟、犢耳。〔晉書、陶侃傳〕王貢復挑レ戰、侃遙謂レ之曰、杜弢爲二益州吏一、盜二用庫錢一、父死不レ奔喪、卿本佳人、何爲隨レ之也、天下寧有二白頭賊一乎。〔陔餘叢考、男子稱二佳人一〕漢尚書令陸閎、姿容如レ玉、光武嘆曰、南方多二佳人一。㊆妻が夫をいふ。〔唐武后、蘇氏織錦廻文記〕蘇氏織錦廻文題詩二千餘首、計八百餘言、名曰二璇璣圖一、然讀者不レ能二盡通一、蘇氏笑而謂レ人曰、徘徊宛轉、自成二文章一、非二我佳人莫二之能解一。〔陔餘叢考、男子稱二佳人一〕苻秦時、竇滔妻蘇惠、作二璇璣圖一、讀者不レ能二盡通一、秦氏嘆曰、非二我佳人一莫二之能解一。

【佳人薄命】81カジンハクメイ 美人は多くは不仕合せである。薄命は、命（天命・運命）に薄しの轉じて、俗に、短命の意に用ひる。〔漢書、外戚、孝成許皇后傳下〕妾薄命、端遇二竟寧前一。〔蘇軾、薄命佳人詩一首一〕古佳人多薄命、閉レ門春盡楊花落。〔洪希文、美人圖詩〕可レ憐前代汙二青史一薄命佳人類如レ此。

【佳人部爲】82ヲヘナ 女郎花（3－6036‥309）に同じ。

【佳人已屬二沙吒利一】83カジンスデニサダリニゾクス 唐の韓翃の妻柳氏が蕃將沙吒利に劫かされた故事。〔本事詩〕後、翃隨二侯希逸一入朝、尋訪不レ得、已爲二立功番將沙吒利所一レ劫、寵二之專房一、翃悵然不レ能レ割、會入二中書一、至二于城東南角一、逢二犢車一緩隨レ之、車中問曰、得レ非二青州韓員外一耶、曰、是、遂披レ簾曰、某柳氏也、失二身沙吒利一、無二從自脫一、明日尚此路還、願賓一來取別、韓深感レ之、明日如レ期而往、犢車尋至、車中投二一紅巾包小合子一、實以二香膏一、嗚咽言曰、終身永訣、車如二雷逝一、韓不レ勝レ情、爲レ之雪レ涕。

【佳政】84カセイ よい政治。善政。〔曹植、與二吳季重一書〕又聞、足下在レ彼、自有二佳政一。〔注〕良曰、佳、善也。

【佳倩】85カセイ よいむこ。佳壻に同じ。〔燕子箋、雙逅〕佳倩殊堪慰二暮年一。

【佳壻】86カセイ よいむこ。快壻。佳倩。〔唐書、獨孤郁傳〕憲宗歎二（權）德輿乃有二佳壻一。〔唐書、楊於陵傳〕節度使韓滉、剛嚴少二許可一、獨奇二於陵一、謂二妻柳一曰、吾求二佳壻一、無レ如二於陵賢一、因以妻レ之。

【佳晴】87カセイ よくはれること。佳霽に同じ。〔范成大、詩〕佳晴有二新課一。

【佳霽】88カセイ よく晴れること。よい天氣。〔元李川、泉上雨後作詩一〕風雨蕩繁暑、雷息佳霽初。

【佳饒】89カゼウ 地味がよくてゆたかなこと。〔水經、洛水注〕禪渚在二原上一、陂方十里、佳饒魚葦。

【佳夕】90 よいゆふべ。良夕。〔韋應物、澧上西齋寄二諸友一詩〕翫月愛二佳夕一、望レ山屬二清朝一。

【佳設】91 結構な御馳走。美味。佳肴。佳饌(93)に同じ。〔晉書、羊曼傳〕代二阮孚一爲二丹陽尹一、時朝士過レ江、初拜レ官、相二餙供饌一、曼拜二丹陽一、客來早者得二佳設一、日晏則漸罄、不二復及一レ精、隨二客早晚一、而不レ間二貴賤一。〔劉跂、題二牛隱堂一詩〕端居雅不レ煩二屏當一、佳設頗嘗成二咄嗟一。

【佳節】92 めでたい日。良辰。吉辰。〔王維、九月九日憶二山中兄弟一詩〕獨在二異鄉一爲二異客一、每レ逢二佳節一倍思レ親。〔韓愈、幽懷詩〕適與二佳節一會、士女競二光陰一。

【佳絕】93 極めてよい。絶佳。〔蘇軾、與二王郎昆仲及子邁一云云〕登二山亭一、晩入二飛英寺一、分韻得二月明星稀一詩、環レ城二十里一、處處皆佳絕。

【佳饌】94 立派な御馳走。美饌。玉饌。佳設。〔法書要錄〕設二佳饌一。

【佳蔬】95 よい蔬菜。嘉疏(2－4176‥195)に同じ。

【佳對】96 よく似合つたつれあひ。良匹。〔晉書、簡文宣鄭太后傳〕帝因從容謂二劉隗一曰、鄭氏二妹、卿可二爲求一佳對一。

【佳態】97 よい姿。〔新書、勸學〕佳態佻志。

【佳宅】98 よいすみか。〔唐書、馬周傳〕他日白、有二佳宅一、值二百萬。

【佳致】99 よいおもむき。風致。〔王羲之、華直帖〕僕近修二小園子一、殊佳致。〔南史、陸瓊傳〕援レ筆擬レ之、便有二佳致一。

【佳釀】100 よいさけ。佳酒。〔元好問、送二武誠之往二漢阪一詩〕兵廚佳釀惜二分攜一。

【佳珍】101 chia¹ chen¹ 佳品。珍品。結構な品。

【佳朕】102 chia¹ chen⁴ 良い兆候。良い前兆。

【佳兆】103 よい前じらせ。吉兆。〔李商隱、赴二職梓潼一留別畏之員外同年一詩〕佳兆聯翩遇二鳳凰一、雕文羽帳紫金床。

【佳笛】104 よいふえ。佳篴。〔甘澤謠〕雲封跪捧悲切、撫而視レ之曰、信是佳笛、但非二外祖所レ吹者一。

【佳適】105 心にかなふ。よいたのしみ。〔山家清供〕眞佳適也。

【佳篴】106 よいふえ。篴は笛。佳笛(104)に同じ。

【佳點】107 chia¹ tien³ うまい菓子。良菓。

【佳傳】108 人の美事を多く載せた傳記。〔北史、魏收傳〕無二以謝レ德、當二爲レ卿作一佳傳一。〔獨異誌〕當下爲二尊公一立中佳傳上。

【佳電】109 chia¹ tien⁴ 九日附の電報。佳は平水韻の第九に當るから、九日の義に用ひる。

【佳得】110 陰暦十月の異稱。〔眞臘風土記〕每用二中國十月一爲二正月一、是月也、名爲二佳得一。

【佳配】111 よいつれあひ。嘉配(2－4176‥23七)に同じ。

【佳寶】112 よいたから。〔南史、陶弘景傳〕天監中、獻二丹於武帝一、中大通初、又獻二二刀一、其一名二善勝一、一名二成勝一、並爲二佳寶一。

【佳美】113 よいこと。美しいこと。嘉美(2－4176‥233)に同じ。

【佳筆】114 chia¹ pi³ 能筆。能書。

【佳品】115 よい品。〔劉克莊、蔡端明帖題跋〕一種早荔名二火山一、亦有二佳品一。〔許有壬、未央宮瓦硯詩〕世傳銅雀亦佳品。

【佳賓】116 ❶よい客人。嘉賓。〔沈遼、甲辰年五月十五日夜澧陽觀月詩〕佳賓適所レ好、歡計成二金罍一。❷雀をいふ。〔中華古今注、下〕雀、一名佳賓、言下常棲二宿人家一、如中賓客上也。

【佳婦】117 よい妻。美しい妻。美婦。〔郝經、天賜夫人詞〕八月十五雙星會、佳婦佳兒好昏對。

【佳服】118 よいきもの。美服。〔鮑照、詠二採桑一詩〕是節最暄妍、佳服又新爛。

【佳文】119 よい文章。〔權德輿、臥病喜二惠上人李鍊師茅處士見レ訪因以贈詩〕支郎有二佳文一、新句凌二碧雲一。〔佳文席〕120 花筵・あんぺら等をいふ。〔和漢三才圖會、家飾具、筵〕佳文席、繪筵、遊仙屈所謂五綵龍鬢筵、是也。

【佳兵】121 ❶鋭利な武器。利兵。又、佳は唯、卽ち唯の誤といふ。〔老子、三十一〕夫佳兵者、不祥之器也。〔大田晴軒、全解〕佳兵、傳奕本作二美兵一、河上云、佳、飾也、云云、近世說者謂、佳、此唯字之訛、按本書曰二夫唯一者凡九條、云云、據レ此攷之、則佳爲二唯訛字一無レ疑也。❷兵を用ひることを好む。好戰。〔老子、三十一〕佳兵、吳澄注〕佳、猶レ云レ嘉レ之也。〔陳子昂、送下著作佐郎崔融等從二梁王一東征上詩〕王師非二樂レ戰、之子愼二佳兵一。

【佳篇】122 善い詩文。〔李白、答二族姪僧中孚贈二玉泉仙人掌茶一詩〕宗英乃禪伯、投贈有二佳篇一。

【佳朋】123 よい友。良朋。好友。〔韓愈、孟郊、納涼聯句〕幸茲得二佳朋一、於レ此蔭二華桷一。

【佳木】124 よい木。〔王粲、柳賦〕植二佳木于茲庭一。〔唐書、王涯傳〕別野有二佳木一。

【佳木斯】125 滿洲吉林省の略〻中央部にある都會の名。松花江の右岸にあり、樺川縣と依蘭縣との中間に位す。地味肥沃、小麥を産す。〔清史稿、地理志〕吉林、樺川縣、云云、宣統二年置二治佳木斯一。

【佳墨】126 よいすみ。〔舊唐書、裴行儉傳〕褚遂良非二精筆佳墨一、未レ嘗輒書。

【佳味】127 うまいもの。美味。〔李商隱雜纂、惱人〕遇二佳味一、脾家不レ和。〔南部煙火記〕所謂金鑾玉膾、東南佳味也。

【佳夢】128 よいゆめ。吉夢。〔杜牧、春思詩〕自是求二佳夢一、何須訝二書眠一。「の號。

【佳夢軒】129 清、張若靄(4－9812‥1167)

【佳名】130 よいほまれ。令名。〔李商隱、河清與二昆季一讌集得レ擬二杜工部一詩〕勝槩殊二江右一、佳名遍二渭川一。〔陸龜蒙、華陽巾詩〕蓮華峯下得二佳名一、雲褐相兼上二鶴翎一。

【佳茗】131 よい茶。嘉茗(2－4176‥255)に同じ。〔蘇軾、次二韻曹輔寄二壑源試焙新芽一詩一〕從來佳茗似二佳人一。〔錢文鷹、答二毛別駕惠レ茶書一〕承レ惠二天池佳茗一。

【佳妙】132 うるはしく、たへなること。美妙。〔千字文〕並皆佳妙。

【佳緜】133 よいわた。〔晉書、董京傳〕全帛、佳緜、則不レ肯レ受。

【佳冶】134 美しくなまめかしい。又、その人。〔戰國、秦策〕隨二俗雅化一佳冶窈窕趙女、不レ立於側一也。〔楚辭、九章、惜往日〕妒二佳冶之芳芬一兮、蔓母姣而自好。〔補注〕吳楚之間、謂レ好曰二佳冶一。〔李斯、上書諫二逐客一一首〕隨レ俗雅化佳冶窈窕趙女、不レ立於側一也。

【佳夜】135 よい夜。良夜。良宵。〔東坡志林〕良月佳夜。

【佳容】136 よいすがた。美容(9－28435‥267)に同じ。

【佳郎】137 chia¹ lang² 良い子弟。

【佳吏】138 よい役人。良吏。〔魏志、高柔傳〕咸爲二佳吏一。

【佳良】139 よい。上等な。

【佳例】140 よいしきたり。吉例。嘉例(2－4176‥278)に同じ。

【佳隸】141 よいしもべ。〔范成大、霜後紀二園中草木一詩〕門多如二佳隸一、長年護二堦除一。

【佳麗】142 ❶容貌、又は景色のうるはしいこと。佳俠。〔韓非子、解老〕所謂徑大也者、佳麗也。〔戰國、楚策〕簡二擇宮中佳麗好翫習レ音者一。〔史記、龜策傳〕或美好佳麗、而爲二衆人患一。❷美人。〔陸機、爲二顧彥先一贈レ婦詩〕佳麗良可レ美、衰賤焉足レ紀。〔白居易、長恨歌〕後宮佳麗三千人、三千寵愛在二一身一。

【佳麗城】143 地名。金陵(11－40152‥1111)の異名。〔梁元帝、劉生樂府〕結二交李都尉一、遠二遊佳麗城一。〔李白、贈昇州王使君忠臣一詩〕六代帝王國、三吳佳麗城。

【佳麗地】144 繁華な場所。さかりば。〔謝朓、入朝曲〕江南佳麗地、金陵帝王州。

【佳論】145 よい議論。立派な議論。名論。〔文同、謝二楊侍讀惠二端溪紫石硯一詩一〕延之吐二佳論一、出口無二雜聲一。

【佳話】146 世にもてはやされる善いはなし。嘉話。〔晁補之、卽事一首次韻祝二朝奉一詩〕翛然一室內、黃卷開二佳話一。〔文同、靜中吟一彈一之代二佳話一、俚耳誰知レ音。

【佳公子】147 品格の高い若殿。貴公子。〔史記、平原君傳贊〕平原君、翩翩濁世之佳公子也、然未レ睹二大體一。

【佳山水】148 よい景色。〔文同、還二李中舍杞奉使集一詩〕自憐吳蜀佳山水、一夜燈前得二遍遊一。

【佳山堂】149 清、馮溥(12－44579‥133)の

室名。

〔佳山堂集〕150 カザンダウシフ 書名。十卷。淸、馮溥撰。毛奇齡等はこの書に序して自らを門人と稱した。〔四庫提要、集、別集類存目〕。

【佳子弟】151 カシテイ よい年少者。〔晉書、王羲之傳〕敦嘗謂ニ羲之一曰、汝是吾家佳子弟、當レ不レ減ニ阮主簿一。

【佳蘇魚】152 chia¹ su¹ yü² 鰹。かつを。

【佳祉綏和】153 chia¹ chih³ suei¹ hê² 書翰文に用ひる句。御幸福にして御安泰をとの意。

【⿰亻西】558 シユク 夙(3－5755)の古字。〔說文〕夙、⿰亻西、古文。〔玉篇〕⿰亻西、古夙字。

【㑊】559 エキ ヤク 〔字彙〕夷益切 陌

解㑊は病名。〔素問、平人氣象論〕尺脈緩濇、謂ニ之解㑊一。

【佴】560
一ジ ニ 〔集韻〕仍吏切 儿 èrh⁴ 寘
二ダイ ナイ 〔集韻〕乃代切 隊

小篆 一❶たすけ。そひ。〔爾雅、釋言〕佴、貳也。❷ならぶ。つぐ。〔說文〕佴、佽也、从レ人耳聲。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕僕又佴ニ之蠶室一、重爲ニ天下觀笑一。〔注〕善曰、如淳曰、佴、次也。❸地名。〔續字彙補〕佴、地名、金陵志有ニ佴野村一。❹現㋑疾い。輕い。㋺疑ふ。㋩邪。二❶つぐ。〔集韻〕佴、次也。❷姓。〔通志、氏族略、去聲〕佴、晉山公集有ニ佴湛一。

【佴次】1 ジジ たすけ。そひ。〔爾雅、釋言、注〕佴次、爲ニ副貳一。

【併】561 ヘイ 倂(1－746)の俗字。〔字彙〕併、俗倂字。

【佶】562 キツ ゴチ 〔集韻〕極乙切 ㄐㄧ chi² 質

小篆 ❶ただしい。〔說文〕佶、正也、从レ人吉聲、詩曰、既佶且閑。❷すこやかなさま。〔詩、小雅、六月〕既佶且閑。〔箋〕佶、壯健之貌。❸詰(10－35440)に通ず。佶屈聱牙(2)を見よ。

【佶屈】1 キックツ とどこほつて、かたくるしい。佶倔。詰屈。佶屈聱牙を見よ。

【佶屈聱牙】2 キックツガウガ かたくるしくて耳に入り難いこと。難しくて讀み難い文章の形容。〔韓愈、進學解〕周誥・殷盤、佶屈聱牙。〔古文眞寶箋解〕佶倔、文選卷十一靈光殿賦云、詰屈、注、銑曰、詰、屈曲貌、聱牙、韻會云、謂ニ其不ニ相聽從一也、又言語不ニ平易一貌、韓文注云、佶屈聱牙、皆難澁貌。

【佶倔】3 キックツ 佶屈(1)に同じ。

【佶栗】4 キツリツ 寒さなどの厲しいこと。〔張翥、紫檀箏箜曲〕頓令ニ陽春變ニ秋色一、佶栗吳霜飛繞レ指。

【佶倫土州】5 キツリンドシウ 州名。元、置く。宋の佶倫峒。古名は那兜、民國には改めて鎭結縣とし、結安・都結・鎭遠の三土司を併す。今の廣西省鎭結縣治。〔淸史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、佶倫土州。

【佷】563
一コウ ゴウ 〔集韻〕胡登切 ㄏㄥ hêng² 蒸
二ギン 〔讀史方輿紀要〕音銀
三コン ゴン 〔玉篇〕戸懇切 阮

一二佷山は縣名。〔集韻〕佷、佷山、縣名、在ニ武陵一。三❶もとる。很(4－10093)に通ず。〔玉篇〕佷、戾也、本作レ很。〔後漢書、蔡邕傳〕然卓多自佷用。〔注〕劉攽曰、案レ文、多自佷用、不レ成ニ文理一、當レ云ニ卓佷多自用一。❷⿰彳皀(4－10132)に同じ。〔正字通〕佷、同レ⿰彳皀、云云、本作レ⿰亻皀、俗作ニ佷・狠一。

【佷山】1 コウザン ギンザン 縣名。漢、置く。唐は長陽と改む。今の湖北省長陽縣。縣の西北に佷山があり、蜀漢の昭烈帝が、佷山から武陵に通じ、五溪の蠻夷を招いたといふ。〔漢書、地理志上〕武陵郡、縣十三、佷山。〔注〕孟康曰、音恆。〔讀史方輿紀要、湖廣、荊州府、彝陵州、長楊縣〕佷山城、漢縣、佷、音銀、蜀漢章武二年、先主伐レ吳、自ニ佷山一通ニ道武陵一、使ニ馬良結ニ五溪諸蠻一、是也、晉太康元年、改曰ニ興山一、後復爲ニ佷山縣一、隋廢。

【佷子】2 コンシ 親のいひつけをきかない子。前漢に少時から父の語に從はない人があつた。父は死に臨み、心中山上に葬られたいと思つたが、子が其の命に從はないことを恐れて、磧上に葬れと遺命した。所が、佷子は前に父言に佷トモつたことを悔い、その語の如く石磧上に葬つたといふ。〔水經、沔水注〕自ニ少小ニ不レ從ニ父語一、父臨レ亡、意欲レ葬ニ山上一、恐ニ兒不レ從、故倒言、葬ニ我著渚中石磧上一、佷子曰、我由來不レ奉レ教、今從レ語、遂盡散ニ家財一作ニ石冢一、積レ土繞レ之成ニ一洲一。

【佷石】3 コウセキ 石の名。❶江蘇省固山の西南麓に在る。嘗て劉備と孫權とが此の石に坐つたと傳へる。很石(4－10093・・7)を見よ。❷陝西省臨潼縣の驪山の側に在り、唐の皇甫湜の銘がある。〔太平寰宇記〕始皇之葬、遠采ニ此石一、將レ致ニ之驪山一、至レ此不ニ復動一、石高一丈八尺、周廻十八步。

【佸】564 クワツ グワチ 〔集韻〕戸栝切 ㄏㄨㄛ huo² 曷

小篆 ❶あふ。あつまる。もと佸(1－657)に作る。〔正字通〕佸、本作レ佸。〔說文〕佸、會也、从レ人昏聲、詩曰、曷其有レ佸。❷つとめるさま。〔說文〕佸、一曰、佸佸、力皃。❸いたる。〔段注〕小徐本、無ニ此六字一、篇韻亦皆無。〔詩、王風、君子于役〕羊牛下佸。〔釋文〕佸、韓詩、至也。

【⿰亻曲】565 キユウ ク 〔集韻〕去仲切 ㄑㄩㄥ ch'iung³ 送

❶小さいさま。又、いやしとする。〔集韻〕⿰亻曲、小皃。〔張衡、思玄賦〕怨ニ高陽之相レ寓兮、⿰亻曲ニ顓頊而宅レ幽。〔注〕衡曰、⿰亻曲、小皃也。❷さむいさま。〔集韻〕⿰亻曲、一曰、寒皃。❸うらむ。〔張衡、思玄賦〕怨ニ高陽之相レ寓兮、⿰亻曲ニ顓頊而宅レ幽。〔注〕銑曰、怨ニ顓頊居ニ此小陋之地一。❹かがむ。〔集韻〕⿰亻曲、一曰、屈也。

【佹】566
一キ 〔集韻〕古委切 ㄍㄨㄟ kuei³ 紙
二キ 〔集韻〕倶爲切 支

一❶かさなる。〔集韻〕佹、重累也。〔司馬相如、上林賦〕連卷欐佹。〔注〕善曰、司馬彪曰、欐佹、支重累也。❷よる。〔集韻〕佹、一曰、依也。❸もとる。〔詩、大雅、皇矣、四方以無レ拂、箋〕拂、猶レ佹也。〔釋文〕佹、戾也。〔周禮、考工記、輪人、察ニ其菑一、注〕菑與レ爪不ニ相佹一。❹あやしい。奇異なこと。〔荀子、賦〕天下不レ治、請陳ニ佹詩一。〔注〕荀卿請、陳ニ佹異激切之詩一、言ニ天下不レ治之意一也。❺詭(10－35434)に通ず。〔春秋、僖、九〕晉侯佹諸卒。〔公羊、僖、九〕詭諸。❻或は攱(5－13190)に作る。〔集韻〕佹、或从レ支。❼現殆ど。二似るさま。〔集韻〕佹、佹、幾似皃。

【佹佹】1 キキ 殆んど然るさま。よく似たさま。〔列子、力命〕佹佹成者、俏ㇾ成也、初非ㇾ成也、佹佹敗者、俏ㇾ敗者也、初非ㇾ敗也、故迷二生於俏一、俏之際昧然。〔釋文〕佹佹、幾欲之貌。

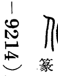
【佹詩】2 キシ 詩の名。戰國趙、荀卿作。荀卿は蘭陵の令となつたが、去つて春申君に此の詩を贈つた。大抵四言句を用ひ、又、五・七・九言の句を插み、附するに小歌を以てして、前旨を反覆敍説してゐる。佹異激切の詩。〔荀子、賦〕天下不ㇾ治、請陳二佹詩一。〔注〕荀卿請、陳二佹異激切之詩一、言二天下不ㇾ治之意一也。

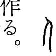
【佹獅】3 kuei³ shih¹ 幾度。屢〻。

【佹辯】4 キベン こじつけのことば。詭辯。〔淮南子、齊俗訓〕爭爲二佹辯一、久稽而不ㇾ決、無ㇾ益二於治一。

【佹得佹失】5 キトクキシツ 偶然に得て、偶然に失ふ。

【⿰亻囟】567 シ 〔集韻〕想氏切 紙


（小說文篆）


（小段注本篆）

小さいさま。或は佌(1−502)・傻(4−9214)に作る。〔說文〕⿰亻囟、小皃、从ㇾ人囟聲、詩曰、⿰亻囟⿰亻囟彼有ㇾ屋。〔段注〕小雅正月曰、佌佌彼有ㇾ屋、傳曰、佌佌、小也、許所ㇾ據作ㇾ⿰亻囟、或作ㇾ傻。〔集韻〕⿰亻囟、說文、小兒、引二詩⿰亻囟⿰亻囟彼有一ㇾ屋、或作二傻・佌一。

【佺】568 セン 〔集韻〕逡緣切 先

小篆

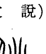
偓佺は仙人の名。〔說文〕佺、偓佺也、从ㇾ人全聲。〔集韻〕佺、說文、偓佺、仙人也。

【佺山】1 センザン 清の邢澍(11−39301‥32)の號。

【佻】569

㊀テウ デウ 〔集韻〕田聊切 ㄊㄧㄠˊ 蕭 t'iao¹·²
㊁テウ デウ 〔集韻〕徒了切 篠
㊂エウ 〔正字通〕餘韶切 ㄧㄠˊ 蕭 yao²

（小說文篆）


（小段注本篆）

㊀㊁❶かるい。かるがるしい。〔一切經音義、五〕字書曰、佻、輕也。〔楚辭、離騷〕余猶惡二其佻巧一。〔注〕佻、輕也。〔韓非子、詭使〕躁佻反覆、謂二之智一。❷かるくはやい。〔方言、十二〕佻、疾也。〔注〕佻疾、謂二輕疾一也。❸おろか。思慮が淺い。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕乃愚佻短略、輕進易退。❹人情がうすい。輕薄。〔說文〕佻、愉也、从ㇾ人兆聲、詩曰、視ㇾ民不ㇾ佻。〔爾雅、釋言〕佻、偸也。〔左氏、昭、十〕視ㇾ民不ㇾ佻。〔注〕佻、偸也。〔疏〕其視二下民一、不二偸薄苟且一也。〔晉書、宗室、范陽康王傳〕骨肉宜ㇾ敦而猜佻荐至。〔唐書、鄭覃傳〕文人多佻薄。❺ぬすむ。とる。いどむ。挑(5−12055)に通ず。〔國語、周語中〕姦仁爲ㇾ佻。〔注〕以二姦僞一行ㇾ仁、爲ㇾ偸ㇾ仁。〔國語、周語中〕郤至佻二天之功一、以爲二己力一。〔注〕佻、偸也。〔說文〕挑、撓也、从ㇾ手兆聲、一曰、摷也、國語曰、郤至挑ㇾ天。〔段注〕挑者、謂三撥二動之一、左傳云二挑戰一、是也、摷者、拘擊也、小徐、摷下有ㇾ爭、周語單襄公語、韋本作二佻天一、注云、佻、偸也、今按、佻二天之功一、以爲二己力一、與三左傳天實置ㇾ之、而二三子以爲二己力一、語意正同、然則許意爲二一曰摷爭一作ㇾ證。❻ひとり行くさま。往來のさま。嬥(3−6813)に通ず。〔集韻〕佻、獨行皃。〔詩、小雅、大東〕佻佻公子、行二彼周行一。〔傳〕佻佻、獨行貌。〔釋文〕佻、徒彫反、又徒了反、沈・徐又徒高反、韓詩作二嬥嬥一、往來貌。❼はじめ。肇(9−29228)に通ず。〔漢書、禮樂志〕佻正二嘉吉一、弘以昌。〔注〕如淳曰、佻、讀曰ㇾ肇。❽佻(4−10083)に同じ。〔集韻〕佻、或从ㇾ彳。❾國の名。〔河圖玉版〕佻人長三十丈五尺。❿姓。〔萬姓統譜〕佻、見二姓苑一。
㊂❶ゆるめる。傜(1−971)に通ず。〔正字通〕佻、緩也。〔荀子、王霸〕佻二其期日一、而利二其巧任一。〔注〕佻、與ㇾ傜同、緩也。❷かける。〔廣雅、釋詁四〕佻、縣也。〔方言、七〕趙魏之閒曰ㇾ佻、燕趙之郊、縣二物於臺之上一、謂二之佻一。

【佻巧】1 テウカウ うはべの上手。輕薄で利巧に立廻る。浮薄利巧。輕佻。〔楚辭、離騷〕雄鳩之鳴逝兮、余猶惡二其佻巧一。〔注〕佻、輕也、巧、利也。

【佻險】2 テウケン 輕薄で陰險なこと。〔唐書、鄭注傳〕注妻兄魏逢、尤佻險、贊ㇾ注爲ㇾ姦。

【佻志】3 テウシ 輕々しいこころざし。〔新書、觀學〕佳態佻志、從容爲ㇾ說焉。

【佻竊】4 テウセツ ぬすむ。〔抱朴子、疾謬〕或因二變故一、佻二竊榮貴一。〔抱朴子、刺驕〕佻二竊虛名一。

【佻戰】5 テウセン 戰をいどむ。挑戰(5−12055‥34)に同じ。〔墨子、備城門〕旁有二溝壘一、毋ㇾ可二踰越一而出佻且、〔閒詁〕王引之云、當ㇾ作二而出佻戰且北一、北、敗也、佻、與ㇾ挑同、言二出而挑戰、且佯敗以誘一ㇾ敵也。

【佻然】6 テウゼン 速かなさま。〔白居易、蘇州南禪院千佛堂轉輪經藏石記〕佻然巽風、一變至ㇾ道。

【佻達】7 テウタツ 互に往き來して會ふさま。又、輕薄放縱の意。挑達(5−12055‥41)に同じ。〔詩、鄭風、子衿〕挑兮達兮、在二城闕一兮、一日不ㇾ見、如二三月一兮。〔傳〕挑達、往來相見皃。〔會箋〕或曰、挑・佻・窕通、輕薄也、達、放縱也。

【佻⿰亻達】8 テウタツ 輕薄。浮氣者。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕有二佻⿰亻達游蕩子弟一、許下方甲率二同父兄一戒中飭務上ㇾ業。

【佻⿰亻達無行】9 t'iao¹ ta⁴ wu² hsing⁴ 輕薄で德行がない。浮氣者。輕薄者。

【佻脫】10 テウダツ 輕薄でどこかに拔目がある。〔語林〕若佻脫不ㇾ合、便損二十年所一ㇾ保。

【佻旦】11 テウタン 佻達(7)及び佻戰(5)を見よ。〔墨子、備城門、佻且、閒詁〕且、畢改ㇾ旦云、疑佻達字、旦・達、音之緩急。

【佻長】12 テウチャウ 身がるで長大なさま。〔淮南子、主術訓〕奇材佻長而干ㇾ次。

【佻佻】13 テウテウ ❶一人行くさま。往來のさま。嬥嬥(3−6813‥4)に同じ。字解㊀の❻を見よ。〔詩、小雅、大東〕佻佻公子、行二彼周行一。〔傳〕佻佻、獨行貌。❷輕薄で勞苦を察しないさま。〔詩、小雅、大東、集傳〕佻佻、輕薄不ㇾ奈二勞苦一之貌。❸憂苦の急切なさま。〔爾雅、釋訓〕佻佻・契契、愈遐急也。

【佻天】14 テウテン 天の功をぬすむ。〔國語、周語中〕郤至佻ㇾ天以爲二己力一。〔注〕佻、偸也、偸二天功一以爲二己力一。

【佻薄】15 テウハク 人情が薄い。輕薄。輕佻。〔唐書、鄭覃傳〕文人多佻薄。

【佼】570

㊀カウ ケウ 〔集韻〕吉巧切 ㄐㄧㄠˇ 巧 chiao³·¹
㊁カウ ケウ 〔集韻〕居肴切 肴

小篆

㊀❶よい。みめよい。姣(3−6214)に同じ。〔說文通訓定聲〕佼、按好也、與ㇾ姣同字。〔集韻〕姣、或从ㇾ人。〔詩、陳風、月出〕佼人僚兮。〔釋文〕佼、字又作ㇾ姣。〔禮、月令〕養二壯佼一。〔注〕佼、謂二形容佼好一。❷いつはる。狡(7−20365)に通ず。〔說文通訓定聲〕佼、叚借爲ㇾ狡。〔管子、七臣七主〕好二佼反一而行二私請一。〔注〕佼、謂二佷詐一也。❸ほこる。まさるとする。或は詨(10−35426)に作る。〔淮南子、覽冥訓〕草木不ㇾ搖、而燕雀佼ㇾ之。〔注〕燕雀自以爲三能佼二健於鳳凰一也、佼、或作ㇾ詨。❹みだす。みだれる。攪(5−13041)に通ず。〔說文通

訓定聲〕佼、叚借爲レ攪、淮南覽冥、草木不レ搖、而燕雀佼レ之。㊄姓。〔奇姓通〕佼彊、山陽人、横行將軍、後降二光武一。㊁㊀まじはる。交(1－291)に同じ。〔說文〕佼、交也、从レ人交聲。〔廣雅、釋言〕佼、交也。〔集韻〕佼、友也、通作レ交。〔管子、明法解〕羣臣皆忘レ主而趨二私佼一。㊁ならび。列。行(10－34029)に同じ。〔史記、趙世家〕齊之事レ王、宜レ爲二上佼一、而今乃抵レ辠。〔注〕索隱曰、佼、猶レ行也。

名乘 ヨシ。

【佼好】1 カウカウ 美しいこと。〔詩、衞風、碩人、庶姜孼孼、庶士有レ朅、箋〕齊地廣饒、士女佼好。〔論衡、骨相〕陳平、貧而飮食不レ足、貌體佼好、而衆人怪レ之曰、平何食而肥。

【佼佼】2 カウカウ すぐれたさま。又、みめよいさま。〔後漢書、劉盆子傳〕卿所謂鐵中錚錚、傭中佼佼者也。〔注〕言二佼佼一者、凡傭之人、稍爲レ勝也。

【佼黠】3 カウカツ わるがしこい。〔論衡、講瑞〕人有二佞猾而聚者一、鳥亦有二佼黠而從レ羣者一。

【佼人】4 カウジン みめよい人。姣人。美人。佳人。別嬪。〔詩、陳風、月出〕月出皎兮、佼人僚兮。〔箋〕喩二婦人有二美色之白皙一。〔集傳〕佼人、美人也。

【佼大】5 カウダイ 美しく大きい。〔詩、陳風、澤陂、有二蒲與一レ荷、箋〕芙蕖之莖曰レ荷、生而佼大。

【佼反】6 カウハン ㊀いつはりそむく。〔管子、七臣七主〕好二佼反一而行二私請一。〔注〕佼、謂二佷詐一也。㊁交友。佼は交、反は友の誤。〔管子、七臣七主、佼反、纂詁〕佼、古交字、劉績云、反、疑作レ友。

【佼麗】7 カウレイ みめよいこと。美しいこと。姣麗(3－6213‥12)を見よ。

【佼長生】8 カウチヤウセイ 南朝宋、廣平の人。膂力があるので、召されて府將となる。後、參軍となり、戰功により、陵縣侯に封ぜらる。〔宋書、八十三〕。

【佽】571 シ 〔集韻〕七四切 ㄘ tz'ŭ4 寘

小篆 ㊀すばしこい。輕くてはやい。〔說文〕佽、便利也、从レ人次聲、詩曰、決拾既佽。〔詩、小雅、車攻〕決拾既佽。〔傳〕佽、利也。㊁ならぶ。次(6－15992)に通ず。〔說文通訓定聲〕佽、叚借爲レ次。〔集韻〕佽、通作レ次。㊂たすける。〔集韻〕佽、助也。〔詩、唐風、杕杜〕人無二兄弟一、胡不レ佽焉。〔傳〕佽、助也。㊃かはるがはる。〔說文〕佽、一曰、遞也。〔廣雅、釋詁三〕佽、代也。㊄および。〔廣韻〕佽、及也。㊅次(6－15992)・茲(9－30911)に通ず。佽非(2)を見よ。㊆佽(1－402)に通ず。〔正字通〕佽、正韻、佽亦作レ佽。

【佽助】1 シジヨ たすける。〔雲笈七籤〕宣揚博利、佽助洪鈞。

【佽非】2 ヒシ 春秋、楚の劍士の名。嘗て江を渉る時、舟を襲つた二匹の蛟を殺したといふ。淮南子道應訓には佽非、呂氏春秋知分篇には次非、又、一に茲非、或は佽飛に作る。〔淮南子、道應訓〕荊有二佽非一、得二寶劍於干隊一、還反度レ江、至二於中流一、陽侯之波、兩蛟俠繞二其船一、佽非謂二枻船者一曰、嘗有二如レ此而得レ活者一乎、對曰、未二嘗見一也、於レ是、佽非瞋目、勃然攘レ臂拔レ劍曰、武士可下以二仁義之禮一說上也、不レ可二劫而奪一也、此江中之腐肉朽骨、棄レ劍而已、余有二奚愛一焉、赴レ江刺レ蛟、遂斷二其頭一、船中人盡活、風波畢除、荊爵爲二執圭一。

【佽飛】3 ヒシ ㊀人名。佽非に同じ。㊁官名。漢の少府の屬官で弋射を掌る。其の名は、楚の劍士の名に取るともいひ、飛ぶが如く敏捷である意に取るともいふ。〔廣韻〕佽、佽飛、漢武官名。〔漢書、宣帝紀〕佽飛射士、羽林孤兒。〔注〕服虔曰、周時度レ江、越人在二船下一負レ船、將レ覆レ之、佽飛入レ水殺レ之、漢因以二材力一名レ官、如淳曰、呂氏春秋、荊有二茲非一、得二寶劍於干將一、度レ江、中流、兩蛟繞レ舟、茲非拔二寶劍一、赴レ江刺二兩蛟一、殺レ之、荊王聞レ之、任以二執圭一、後世以爲二勇力之官一。

【佾】572 イツ イチ 〔集韻〕弋質切 一 i4 質

小篆 ㊀舞の列。周代の舞人の一列。一佾は凡て八人、八佾は六十四人、六佾は四十八人、四佾は三十二人、二佾は十六人。一說に、舞人の列は方形を成す故、行と列との人數は同じく、天子の舞人は八佾、卽ち六十四人、諸侯は六佾、卽ち三十六人、大夫は四佾、卽ち十六人、士は二佾、卽ち四人であるといふ。〔說文新附〕佾、舞行列也、从レ人肙聲。〔廣雅、釋詁一〕佾、列也。〔左氏、隱、五〕始用二六佾一也。〔論語、八佾〕八佾舞二於庭一。〔劉寶楠正義〕左隱五年傳、考二仲子之宮一、將レ萬焉、公問二羽數於衆仲一、衆仲對曰、天子用レ八、諸侯用レ六、大夫四、士二、夫舞所下以節二八音一而行中八風上也、故自レ八以下、公從レ之、公羊穀梁傳並謂、天子八佾、諸公六佾、諸侯四佾、魯侯國用二六佾一爲レ僭、穀梁又引下尸子說、天子諸侯皆八佾、魯用二六羽一爲中厲樂上、厲者減也、此禮家異說、服虔左傳解誼云、天子八八、諸侯六八、大夫四八、士二八、與二馬此注一同、八八爲二六十四人一、六八爲二四十八人一、四八爲二三十二人一、二八爲二十六人一、白虎通禮樂、高誘淮南齊俗訓注、並云、六六爲二行列一、杜預注二左傳一又謂、六佾三十六人、四佾十六人、二佾四人、宋書樂志載、傅隆議二譏杜氏一謂、舞所三以節二八音一八音克諧、然後成レ樂、故必以二八人一爲レ列、自二天子一至レ士、降殺以レ兩、兩者減二其二列一、預以爲、一列又減二二人一、至二士止有二四人一、豈復成レ樂。〔獨斷、上〕天子八佾、八八六十四人、八者象二八風一、所三以風二化天下一也、公之樂六佾、象二六律一也、侯之樂四佾、象二四時一也。〔太平御覽、樂部、舞〕月令章句曰、佾、列也、每佾八人。㊁古は佾(4－10160)に作る。〔集韻〕佾、古作レ佾。㊂やすい。やすんずる。逸(11－38951)に通ず。〔書、五子之歌、以二逸豫一滅二厥德一、釋文〕逸、本又作レ佾。

名乘 ツラ。

【佾生】1 イツセイ 清代に、文廟の佾舞を行ふ歌生・舞生をいふ。佾舞生の略。又、樂舞生ともいふ。各省府縣の佾舞生は三十六名、外に四名を加へ、俊秀の弟子を考選して充補した。樂舞生(6－15399‥248)を見よ。〔淸會典事例、禮部、中祀〕再奉天新補佾生、音節未レ嫺、令下該府丞酌中選精二通音律一者上、咨二送太常寺一肄習、俟二熟諳時一、咨二回本學一、令二其轉相傳授一。〔淸會典事例、禮部、學校、挑選佾舞〕乾隆五年奏准、各省府州縣學樂舞生、每學遵二用六佾一、卽照二樂舞之數一、額二設三十六名一、外加二四名一、以備二臨時更替之用一、令下各州縣會二同教官一、考中選本籍俊秀子弟、通二曉音律一嫺二習禮儀一者上、方准二充補一、遇レ有二缺出一、另行二考選一足レ數、造レ冊申二報學政一查覈、並免二其府縣兩試一、由二教官一冊二送府縣一、敍入二考案一之後、申送レ院考、憑二文錄一取。

【佾舞】2 イツブ 佾の舞をいふ。字解の㊀を見よ。〔文獻通考、樂考、歷代樂制〕代宗又令三女伎爲二佾舞一、雄健壯妙、號二孫武順聖樂一。〔淸會典事例、樂部、樂制、佾舞〕順治元年定、太常寺神樂觀樂舞生五百七十名、內分樂生一百八十名、文舞生一百五十名、武舞生一百五十名、執事樂舞生九十名、凡樂舞生缺出、卽於二觀內官員家道童內一選補。

【使】573 ㊀シ 〔集韻〕爽士切 ㄕ shih3 紙
㊁シ 〔集韻〕疏吏切 ㄕ shih4 寘

使 小篆 **る**。もと使(1－717)に作る。〔說文〕使、令也、从レ人吏聲。〔正字通〕使、本作レ使、篆作レ㠯、六書統、从レ人从レ事、令二人治一レ事也。〔易、兌〕悅以使レ民。〔論語、學而〕使レ民以レ時。〔管子、樞言〕天以レ時使、地以レ材使、人以レ德使、鬼神以レ祥使、禽獸以レ力使。〔兒女英雄傳、二十三回〕我這裏有二固主意一、姑老爺姑太太聽聽、使得使不レ得。**一** **しむ。せしむ。** ㋑使役の辭。〔論語、子罕〕子路使二門人爲一レ臣。㋺假定の語。〔論語、泰伯〕使二驕且吝一、其餘不レ足レ觀而已。〔史記、武安侯傳〕使二武安侯在一者族矣。**二** **したがふ。**〔爾雅、釋詁〕使、從也。**四** **あげる。**〔大戴禮、魏將軍文子〕有二眾使一也。〔注〕使、舉也。**五** **錢をつかふ。**〔元曲、曲江池〕你當初有レ錢、在二劉桃花家一使、須レ不二曾我家使一。**六** **ほしいままにふるまふ。**使氣(12)の一を見よ。**七** 古は叟(4－8134)・孛(8－6969)に作る。〔集韻〕使、古作レ叟。〔康熙字典〕使、古文孛。**二** **一** **つかひする。つかはす。**〔論語、子路〕使二于四方一。〔莊子、德充符〕嘗使二于楚一矣。〔史記、項羽紀〕使レ使、欲レ與レ連和俱西一。**二** **つかひ。**命を傳へる人。〔集韻〕使、將レ命者。〔周禮、秋官、小行人〕待二四方之使者一。〔注〕使者、諸侯之臣、使來者也。〔鬼谷子、抵巇〕聖人者天地之使也。〔史記、孔子世家〕吳使二使問一仲尼一。〔淮南子、天文訓〕四時者天之使也、日月者天之使也。**三** **めしつかひ。**〔續仙傳〕留二使女盧瓊一在レ家。**四** **朝廷から派遣せられて地方の事務をとる者。**節度使・觀察使・按察使の類。〔文獻通考、職官考、轉運使〕唐先天二年、李傑始爲二水陸發運使一、蓋使名之起、開元二十一年、裴耀卿以二侍中一充二江南淮南轉運使一、而崔希逸・蕭炅爲レ副、蓋副使始レ此。**五** **諡。**〔逸周書、謚法解〕治レ民克盡曰レ使、嚴篤無レ私曰レ使。**六** **姓。**〔萬姓統譜〕使、見二姓苑一。**七** **佛**衆生の心神を驅つて三界の生死に流轉させる煩惱。〔王僧孺、禮佛唱導發願文〕身口爲二十使所レ由。

【使院】1 シヰン 節度使の役所。〔資治通鑑、唐紀〕〔玄宗、天寶六載〕常清至二使院一。〔注〕使院、留後治レ事之所、節度使坐レ事、亦或就二使院一。

【使役】2 シエキ つかふ。つかはれる。又、其の事。〔周禮、天官、小宰、疏〕政謂二賦稅、役謂二使役一。〔管子、小匡〕遂使二役之官一。〔顏氏家訓、勉學〕所レ居卑末、使役苦辛。

【使役相】3 シエキサウ 文法上、他を使役して動作を起させる意をあらはす相。す・さす・しむ等の助動詞を用ひる。

【使驛】4 シエキ **一** 使者と通譯。使譯(14)の誤。〔後漢書、東夷傳序〕雖二時有一乖畔一、而使驛不レ絕。〔注〕劉放曰、使驛不レ絕、按、郵驛中國可レ有レ之、不レ可レ通二於四夷一、自二前書一皆言二使譯一使、卽使者、譯、則譯人、故合作二使譯一、此書內有レ自作二使驛一處、明是後人不レ曉、妄改レ之。**二** 宿場を經て書信を持つて來る使者。はゆまづかひ。驛使。〔後漢書、劉翊傳〕是時寇賊興起、道路隔絕、使驛稀有二達者一。

【使舸】5 カ 使者のふね。〔張翥、詩〕島夷迎二使舸一、瘴霧避二天香一。

【使價】6 shih³ chia⁴ 使ひ賃。駄賃。

【使牙】7 ガ 節度使の事務所。〔資治通鑑、唐紀〕〔文宗、大和四年〕掠二庫兵一、趨二使牙一。〔注〕節度使所レ居爲二使宅一、治レ事之所爲二使牙一。

【使介】8 カイ 使者。使丁。〔宋史、禮志十七〕卑レ詞厚レ禮、使介相望。

【使客】9 カク 使の客。〔漢書、夏侯嬰傳〕每レ送二使客一、還過二泗上亭一、與二高祖一語。

【使鶴】10 シカク 衞の懿公が鶴を好み、之を愛すること臣に過ぎた爲、戰に臨んで臣が鶴を使へと言つた故事。〔左氏、閔、二〕狄人伐レ衞、衞懿公好レ鶴、鶴有レ乘、軒者、將レ戰、國人受レ甲者皆曰、使レ鶴、鶴實有二祿位一、余焉能戰。

【使額】11 ガク 使用することに定めた分量。使用額。〔國史補〕貞元已後、方有二使額一也。

【使氣】12 キ **一** 血氣に任せてはやる。殊更に意氣込む。〔文心雕龍、才略〕嵇康師二心以遣一レ論、阮籍使氣以命レ詩。〔南史、劉瑀傳〕瑀性使氣尙レ人。**二** shih³ ch'i⁴ 怒る。

【使鳩】13 シキウ 通信に利用する鳩。傳書鳩。

【使驅】14 シク つかひかけさす。つかふこと。驅使。

【使華】15 クワ 使者。詩經、小雅の皇皇者華篇が、使者を遣はす詩であることから出た語。〔詩、小雅、皇皇者華、序〕皇皇者華、君遣二使臣一也、送之以二禮樂一、言二遠而有二光華一也。〔孔平仲、送狼馬朝請使二廣西一詩〕海水揚レ波今レ清、秋風千里使華行。

【使官】16 シクワン 任務を以て使する。役目で使する。〔魏武帝、善哉行〕仲尼之世、王國爲レ君、隨レ制飮レ酒、揚レ波使レ官。

【使喚】17 shih³ huan⁴ **一** 使用する。つかふ。**二** 遣はす。やる。雇ふ。

【使喚人】18 shih³ huan⁴ jen² 召使人。

【使喚的】19 shih³ huan⁴ tê 召使。

【使館】20 クワン **一** 驛舍をいふ。〔孔平仲、書二驛舍壁一詩〕魏魏使館開二華堂一。**二** 本陣。大官の宿處。〔福惠全書、典禮部、拜牌接詔〕獨負二詔書一、疾馳入二使館一。**三** shih² kuan³ 大・公使館の略稱。

【使君】21 クン **一** 天子の命を奉じて四方に使する者の尊稱。勅使。使命。〔後漢書、寇恂傳〕恂初爲二郡功曹一、太守耿況甚重レ之、王莽敗、更始立、使使者徇二郡國一曰、先降者復二爵位一、恂從二耿況一、迎二使者於界上一、況上二印綬一、使者納レ之、一宿無二還意一、恂勒レ兵、入見二使者一、就請レ之、使者不レ與曰、天王使者、功曹欲レ脅レ之邪、恂曰、非二敢脅一使君一、竊傷二計之不一レ詳也。**二** 漢代に、太守を府君といふに對して、刺史をいふ。又、刺史に準ずる地位の人をもいひ、後代も此等の稱を襲用した。〔漢書、爰盎傳〕然盎云云、徙爲二吳相一、云云、盎告歸、道逢二丞相申屠嘉一、云云、因跪曰、願請間、丞相曰、使君所レ言公事、之二曹與一レ議之。〔蜀志、先主傳〕先主敗走歸二曹公一、曹公厚遇レ之、以爲二豫州牧一、云云、先主未レ出時、云云、曹公從容謂二先主一曰、今天下英雄、惟使君與レ操耳。〔北史、申徽傳〕徽爲二襄州刺史一、及代、賦レ詩題二於清水亭一、長幼聞レ之競來就讀、遞相謂曰、此是申使君手迹。

【使君子】22 シクン 草の名。常綠の蔓草。閩や蜀の地方に多く栽培せられる。〔本草、使君子〕釋名、留求子、志曰、俗傳、潘州郭使君療二小兒一、多是獨用二此物一、後醫家、因號爲二使君子一也、集解、時珍曰、原出二海南交趾一、今閩之紹武、蜀之眉州、皆栽レ種之、亦易レ生、其藤如レ葛、纏レ樹而上、葉青如二五加葉一、〔三才圖會、艸木、使君子〕使君子生二交廣等州一、嶺南州郡皆有レ之、生二山野中及水岸一、其葉青如二兩指頭一、長二寸一、其莖作レ藤如二千脚一、三月生レ花、淡紅色、久乃深紅、有二五瓣一、七八月結レ子、如二拇指一、長一寸許、大類二梔子一、而有二五稜一、其殼青黑色、內有レ仁、白色、七月採レ實、味甘溫無レ毒。

使君子 (三才圖會)

【使君灘】23 シククワン 灘の名。**一** 湖北省宜昌縣の西大江の中。漢の劉璋が昭列帝を迎へて蜀に入る時に此處を通つたからいふ。**二** 四川省萬縣の東。〔水經、江水注〕〔江水〕東經二羊腸虎臂灘一、楊亮爲二益州一、至レ此舟覆、懲二其波瀾一、蜀人至レ今、猶名レ之爲二使君灘一。

【使檄】24 ゲキ 檄文を掌る役。〔柳宗元、唐故尙書戶部郎中魏府君墓誌〕始任二讐校一、篇籍有レ光、仍授二使檄一、許謨用揚。

【使拳】25 shih³ ch'üan² 拳術。柔術の一種。

【使乎】26 コ 使者をほめていふ語。論語の憲問篇に、蘧伯玉使二人於孔子一、孔子曰、使乎、使乎、とあるのに基づく。〔論語、憲問〕蘧伯玉使二人於孔子一、孔子與レ之坐而問焉、曰、夫子何爲、對曰、夫子欲レ寡二其過一而未レ能也、使者出、子曰、使乎、使乎。〔集解〕陳羣曰、再二言使乎一者、善レ之也、

言ニ使得ニ其人一。〔晉書、張駿傳〕遣ニ參軍王騭一聘ニ於劉曜一云云、曜顧謂ニ左右一曰、此涼州高士、使乎、得レ人。〔庾信、擬連珠〕是以子貢使乎、五都交亂。

【使差】27 shih³ ch'ai¹ つかひ。使者。

【使札】28 shih³ cha² 使者の手がた。

【使指】29 シシ 指をつかふ。轉じて、さしづする。〔漢書、賈誼傳〕如ニ身之使レ臂、臂之使レ指。

【使事】30 ジシ 使者として爲すべき用事。〔史記、魯仲連傳〕新垣衍曰、吾聞、魯仲連先生、齊國之高士也、衍、人臣也、使事有レ職、吾不レ願レ見ニ魯仲連先生一。

【使疾】31 シシツ 詐つて病氣の眞似をさせる。假病をつかはせる。〔左氏、哀、十四〕陳氏方睦、使レ疾而遺ニ之潘沐一。

【使車】32 シシヤ ㊀使者の乘る車。〔漢書、蕭望之傳〕拜レ育爲ニ南郡太守一、上以ニ育耆舊名臣一、乃以ニ三公使車一載レ育、入ニ殿中一受レ策。〔注〕孟康曰、使車、三公奉使之車。〔後漢書、輿服志上〕大使車・小使車・諸使車。〔孟浩然、送ニ盧少府使入一レ秦詩〕州縣勤ニ王事一、山河轉ニ使車一。㊁獵の時に獸をかり出す車。〔周禮、夏官、馭夫〕掌レ馭ニ貳車・從車・使車一。〔注〕使車、驅逆之車。

【使者】33 シシヤ 主命を帶びて外に使する者。使人。〔儀禮、聘禮〕遂命ニ使者一。〔周禮、秋官、小行人〕待ニ四方之使者一。〔注〕使者、諸侯之臣、使來者也。〔論語、憲問〕使者出、子曰、使乎、使乎。〔管子、立政〕憲既布、乃發ニ使者一。〔史記、白起王翦傳〕秦軍數卻、使者日至。

【使相】34 シシヤウ 官名。宋、置く。節度使を以て中書令、或は侍中・中書門下平章事を兼任する官。勳勞ある老人、及び前宰相を以て之に充てる。〔文獻通考、職官考、節度使〕唐制、以ニ節度使一兼ニ中書令或侍中・中書門下平章事一、皆謂ニ之使相一、以待ニ勳賢故老及宰相久次罷レ政者一。

【使主】35 シシユ ㊀節度使をいふ。〔資治通鑑、唐紀〕文宗、大和元年、晉公於ニ上前一、以ニ百口一保ニ爾使主一。〔注〕節度使爲ニ一道之主一、故對ニ其屬吏一稱レ之爲ニ使主一。㊁ミオ 昔、歸化人に賜はつたかばねの一。〔日本書紀、雄略紀〕根使主。

【使酒】36 シシユ 酒を使ふ。酒の勢をかつて氣ままにふるまふ。〔史記、灌夫傳〕灌夫爲レ人剛直、使レ酒不レ好ニ面諛一。〔漢書注〕師古曰、使レ酒、因レ酒而使レ氣也。〔宋書、孔覬傳〕爲レ人使レ酒仗レ氣、每レ醉輒彌レ日不レ醒。

【使署】37 shih² shu³ 公使館。大使館。

【使臣】38 シシン 君命を帶びて外國に使する臣。今の大使・公使の類。使節。〔左氏、成、二〕寡君之命ニ使臣一、則有レ辭矣。〔戰國、秦策〕欲ミ合レ齊而受ニ其地一、非ニ使臣之所一レ知也。〔管子、小匡〕使臣不レ能レ受レ命乎。

【使人】39 シジン 使者。つかひ。〔左氏、宣、十三〕使人不レ去。〔戰國、魏策〕今王之使人、入レ魏而不レ用、則王之使人、入レ魏無レ益也。

【使數】40 シスウ 使用人。〔西廂記、張君瑞慶ニ團欒一雜劇〕我則丫鬟、使數都斷覷。

【使星】41 シセイ 使者の稱。後漢の李郃が二人の使者を使星に喩へた故事に由る。〔後漢書、李郃傳〕二君發ニ京師一時、寧知ニ朝廷遣ニ二使一耶、問、何以知レ之、郃指レ星示云、有ニ二使星一向ニ益州分野一、故知レ之耳。〔杜甫、秦州雜詩〕喧呼閱ニ使星一。〔錢起、送ニ岑判官入一レ嶺詩〕極目煙霞外、孤舟一使星。

【使軺】42 シセウ 使者の乘る輕快な車。〔許月卿、題ニ楊朴移レ居圖一詩〕使軺將レ宿人將レ避、拗ニ折漁竿一趕入レ山。〔王惲、題ニ常仁卿運使西觀紀行一詩〕九萬鵬摶レ翼、孤忠駕ニ使軺一。

【使節】43 シセツ ㊀天子の使者が持ち歩いて證とする手形。節(**8－26243**)の字解を見よ。〔周禮、地官、掌節〕凡邦國之使節、山國用ニ虎節一。〔注〕使節、使ニ卿大夫聘ニ於天子諸侯一、行レ道所レ執之信也。㊁天子の使者。使臣。勅使。〔史記、淮南王安傳〕漢使節法冠。〔周必大、詩〕使節光華肯再登。

【使錢】44 shih³ ch'ien² ㊀錢を使ふ。㊁小使錢。費用。

〖使錢主〗45 shih³ ch'ien² chu³ 借主。借方。債務者。

【使嗾】46 シソウ けしかけてつかふ。指嗾の誤用。〔玉篇〕嗾、使レ犬曰レ嗾。

【使團】47 シダン shih³ t'uan² 公使團。外交團。

【使長】48 ツカヒノヲサ ㊀つかひざね。使者の中の頭だつ人。正使。㊁ことりづかひ。部領使。㋑命ぜられて、防人(サキモリ)を選び集め、之を引率して筑紫に行く國國の官人。㋺昔、七月の相撲の節の催されるに際し、國國の力士を召し集める爲に、朝廷から諸國に遣はされた使者。

【使廳】49 シチヤウ 昔の檢非違使の役所。〔保元物語、謀叛人各召捕〕使廳にて拷訊せられける。

【使女】50 シヂヨ 女中。使婢。〔列仙傳〕留ニ使女盧瓊一在レ家。〔稱謂錄、婢、使女〕客座新聞、常熟顧成章詠ニ人家不檢束使女一詩云、兩腳鑿糟拖ニ破鞵一、囉垂像甚細娘家、手中託レ飯沿レ街喫、背上馱拏著處捱。

【使丁】51 シテイ シチヤウ めしつかひの男。小使。仕丁(**1－368‥34**)を見よ。

【使程】52 シテイ つかひに行く道。〔程子、紫閣詩〕使程難ニ久駐一、回レ首羨ニ漁樵一。

【使典】53 シテン めしつかひ。胥吏。〔李商隱、行次ニ西郊一作詩〕使典作ニ尙書一、廝養爲ニ將軍一。〔大唐新語〕明皇欲下以ニ牛仙客一爲中尙書上、張九齡諫曰、牛仙客、本河湟一使典耳、拔ニ昇清流一、班ニ齒常伯一、此官邪也。

【使轉】54 シテン 草書の遶繞してゐる筆使ひをいふ。點畫の對。〔書譜〕眞以ニ點畫一爲ニ形質一、使轉爲ニ情性一、草以ニ點畫一爲ニ情性一、使轉爲ニ形質一。

【使徒】55 シト ㊀基督教で福音の使者及び教の證言をする人をいふ。㊁基督が己を代表する使者として選んだ十二人の弟子をいふ。十二使徒。

【使途】56 シト 金錢などのつかひみち。

【使得】57 シトク ㊀よろしい。差支ない。〔還魂記、肅苑〕丑、使得。㊁shih³ tə 使ひ得る。使ふことが出來る。よろしい。

【使能】58 シノウ 才能ある者を使ふ。〔周禮、天官、大宰〕三曰進レ賢、四曰使レ能。

【使馬】59 シバ ㊀馬を用ひる。〔韓詩外傳、二〕造父工ニ于使レ馬。㊁部族の名。使鹿部(96)を見よ。

【使幕】60 シバク 軍隊にあつて事を扱ふ者。〔韓愈、冬薦ニ官殷侑一狀〕久從ニ使幕一、亮直著レ名。

【使番】61 ツカヒバン ㊀織田・豐臣時代の職名。戰時に傳令使となり、又、軍中を巡察する。〔信長記、三、姉川合戰事〕使番の者。㊁江戸幕府の職名。若年寄の支配に屬し、戰陣では使命を傳へる職となり、平時には諸方に出張して、遠國の役人の能否を考察し、又、江戸市中に火災がある時は其の狀況を視察し、將軍の代替りの時、諸國を巡廻して大名の治績・動靜を視察すること等を掌る。〔吏徵、上〕布衣以上、御使番、云云、若年寄支配、菊間南御襖際、千石高。㊂江戸時代の將軍家の大奧の女中の職名。〔御老女衆記〕大奧女中分限、使番。㊃使をする人。使の任に當る人。つかひ人。使者。〔好色一代男、四〕使番の女。

【使婢】62 shih³ pei⁴ 下女。女中。

【使費】63 ヒシ 手數料。雜費。心附。〔福惠全書、刑名部、監禁〕開レ帳派ニ出使費一。

【使臂】64 ヒシ 臂を使ふ。自由自在に物を使ふ。使指(29)を見よ。

【使符】65 フシ 使者の持つて行く割符。〔漢書、文帝紀〕銅虎符・竹使符。〔注〕應劭曰、銅虎符、第一至ニ第五一、國家當レ發レ兵、遣ニ使者一至レ郡合レ符、符合、乃聽受レ之、竹使符、皆以ニ竹箭五枚長五寸一、鐫ニ刻篆書一、第一至ニ第五一、張晏曰、符、以レ代ニ古之圭璋一、從ニ簡易一也、師古曰、與ニ郡守一爲レ符者、謂下各分ニ其半一、右留ニ京師一、左以與上レ之。

【使部】66 ブシ ㊀古、官衙にて雜事に使はれた小役人。今の小使の類。つかはれべ。〔式部省式、上〕諸司使部。㊁明治の初、各官署で公文の授受などに從事した判任官。後、等外吏となる。

【使拂】67 ツカヒバラヒ 仕拂ひ。又、費用。

【使物】68 ブシツ 使者を通じ、器物を交易する。〔史記、南越尉佗傳〕佗曰、高帝立レ我通ニ使物一、今高后聽ニ讒臣一、別ニ異蠻夷一、隔ニ絕器物一、此必長沙王計也。

【使聘】69 ヘシイ つかひを遣はして訪ふこと。使を以て禮物を贈ること。聘問。〔後漢書、東夷傳〕濊・貊・倭・韓、萬里朝獻、故章和已後、使聘流通。

【使幣】70 ヘシイ 使者と禮物。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕託ニ姻戚一、數通ニ使幣一。

【使表】71 ヘシウ 使者として最も優れた代表的なも

の。使首。〔漢書、馮奉世傳〕奉世圖レ難忘レ死、信二命殊俗一、威功白著、爲二世使表一。〔注〕師古曰、表、猶レ首。

【使命】72 シメイ ❶つかひのやくめ。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕下官奉二使命一、言談大有レ緣。〔北史、魏收傳〕南北初和、李諧・盧元明、首通二使命一。❷君から遣はされるつかひ。お使の者。使者。〔顏氏家訓、涉務〕五則使命之臣。〔宋史、田景咸傳〕景咸性鄙吝、務二聚斂一、每二使命至一、惟設二肉一器一。

【使藥】73 シヤク 藥を用ひる。〔後漢書、郭玉傳〕其爲レ療也、有二四難一焉、自用レ意而不レ任レ臣、一難也、將レ身不レ謹、二難也、骨節不レ彊、不レ能レ使レ藥、三難也、好レ逸惡レ勞、四難也。

【使譯】74 シヤク 使者と通譯。又、通辯。譯使。をさ。使驛(4)を見よ。〔漢書、傅介子傳〕使譯謂曰、漢使者持二黃金錦繡一、行賜二諸國一、王不二來受一、我去之二西國一矣、卽出二金幣一以示レ譯、譯還報レ王。〔後漢書、和帝紀〕徼外夷遣二使譯一、獻二犀牛大象一。〔魏志、東夷傳〕今使譯所レ通三十國。

【使用】75 シヨウ つかふ。もちひる。〔管子、輕重丁〕使用若二河海終則有レ始。

【使用權】76 シヨウケン 物を使ひ得る權利。

【使用費】77 シヨウヒ 使用料に同じ。

【使用料】78 シヨウレウ 法律上、國家又は公共團體が、特定人の爲に、其の營造物を使用させることを報償として徵する金錢をいふ。一般には、或るものを使用するためにする報酬。

〔使用貸借〕79 シヨウタイシヤク 契約の一。法律上、當事者の一方が、相手方から或る物を受取り、無償で使用し收益した後に返還する、といふ契約。

【使吏】80 シリ 使はれてゐる役人。〔荀子、王霸〕尺寸尋丈、莫レ得レ不レ循二乎制度數量一然後行、則是官人・使吏之事也。〔注〕使吏、所二使役一之吏。

【使領】81 シリヤウ 大使・公使・領事。外交官。

【使令】82 シレイ ❶使ふ。命令する。〔孟子、梁惠王上〕便嬖不レ足三使二令於前一與。〔管子、正世〕竭二民財一急二使令一。〔漢書、鄒陽傳〕臣非レ爲二長君一無三使二令於前一。❷使役人。召使ひ。〔商子、墾令〕均二出餘子之使令一。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕離二鄉井一、棄二妻子一、以供二使令一乎。❸云云せしむ。

【使伶】83 シレイ 使役せられる人。〔稱謂錄、使、使伶〕字典、使也、厮役、謂二之使伶一。

【使料】84 シレウ 用ひるしろ。つかひ料。〔唐書、崔渙傳〕吏用二下直一、爲二使料一。

【使鬼兄】85 シキケイ 錢をいふ。錢が有れば鬼をも使ふことが出來るとていふ。使鬼錢を見よ。〔事物異名錄、布帛、錢〕劉克莊詩、垂槖何須二使鬼兄一、按、魯褒論、有レ錢可レ使レ鬼、而況人乎。

【使鬼錢】86 シキセン 財力の極めて大きいこと。其の力は鬼をも使ふことが出來る義。〔魯褒、錢神論〕諺曰、錢無レ耳可レ使レ鬼。〔黃庭堅、再和答二爲之一詩〕既無二使鬼錢一、又無二封侯骨一。

【使犬部】87 シケンブ 部族の名。赫哲部ともいふ。松花江・黑龍江・烏蘇里江、及び其等の合流した混同江流域から樺太にかけて住し、未だ滿洲化しない赫哲(Golde)族を指す、明・淸時代の名稱。此の部族が交通や狩獵に犬を使ふので斯く名づけた。尤も、使犬の習俗は西伯利亞一帶にある。使鹿部(96)を見よ。〔皇朝文獻通考、輿地考、盛京〕自二寧古塔一東七百餘里、外沿二松花江・大烏拉江一、直至二海處兩岸一、爲二赫哲費雅哈部所一レ居、其俗、不レ知二耕種一、以二捕魚一爲レ生、其來往行獵、幷皆以レ犬、卽所謂使犬部也。

【使宅魚】88 シタクギヨ 魚を釣らせてくれた家へ、其の代として出す魚。貸網料のやうなもの。〔漁隱叢話〕錢氏有レ國、西湖漁者、日納二魚數斤一、謂二之使宅魚一。

【使濁勁】89 shih³ chuo² ching⁴ 不正の方面に力を用ひる。惡い事に努力する。

【使持節】90 シジセツ 晉代、總督の稱。〔通典、職官典、州郡上、都督〕晉受二魏禪一、云云、使持節爲レ上、持節次レ之、假節爲レ下。〔稱謂錄、總督、使持節〕通典、晉受レ禪、使持節爲レ上、持節次レ之、假節爲レ下、案、使持節如二今之總督一、持節如二今之巡撫一、假節則今之署督・署撫也。

【使脾氣】91 shih³ p'i² ch'i 怒る。立腹する。

【使不上】92 shih³ pu shang⁴ 使へない。用ひられない。

【使不通】93 shih³ pu t'ung¹ 通用しない。使ひものにならない。

【使不得】94 shih³ pu tê² ❶使へない。❷使つては惡い。❸いけません。

【使不了】95 shih³ pu liao³ 使ひきれない。

【使鹿部】96 シロクブ 部族の名。一名、奇勒爾部。馴鹿を駕馭・運搬の用に使つたツングース族に對する明・淸時代の稱呼。犬を主要家畜として使用した諸部族を使犬部(87)と呼んだのと同じく、必ずしも特定の一部族を指してゐるのではないが、主として、ゼーヤ山脈からスタノヴオイ山脈一帶を住地とする鄂倫春(Orochon)人に比定される。〔皇朝文獻通考、輿地考、盛京〕索倫達呼爾、爲二東北最遠之部一、散二處山林一、以二捕貂一爲レ業、亦稱二土中人一、至二於鄂倫春、一名奇勒爾一、其所レ居益爲二遼遠一、使馬鄂倫春、在二諸部之外一、使鹿鄂倫春、又在二使馬之外一、距二齊齊哈爾城一、復千有餘里。

【使西域記】97 シセイイキキ 書名。一卷。明、陳誠撰。永樂八・九年の頃、西域諸國に使し、哈烈・撒馬兒罕・別矢八里・俺都淮・八答商・失迭里迷・沙鹿海牙・寒藍・渴石・馬哈麻・火州・柳城・土魯蕃・鹽澤・哈密・達矢千・卜花兒罕等の十七國の山川・風俗・物產等に就いて記す。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

【使不出去】98 shih³ pu ch'u¹ ch'ü 使用することが出來ない。用ひられない。

【使不辱命】99 ツカヒシテメイヲハヅカシメズ 使二於四方一不レ辱二君命一(3－4682・649)に同じ。

【使琉球記】100 シリウキウキ 書名。一卷。清、張學禮撰。清朝から琉球に使した記事。〔四庫提要、史、傳記類存目〕。

【侀】574 ケイ ギヤウ 〔集韻〕乎經切 ㄒㄧㄥˊ hsing² 青

❶**なる**。〔集韻〕侀、成也。〔禮、王制〕刑者侀也、侀者成也。❷**物を鑄る器**。いがた。型(3－5030)に同じ。〔說文通訓定聲〕侀、卽型字之或體。❸形(4－9969)に通ず。〔字彙〕侀、卽形字。

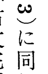
【侁】575 シン 〔集韻〕疏臻切 ㄕㄣ shen¹ 眞

小篆

❶**ゆくさま**。或は𢓜(4－10092)・𢓭(4－10107)に作る。〔說文〕侁、行皃、从レ人先聲。〔集韻〕侁、或作二𢓜・𢓭一。❷**馬が群行して先を爭ふさま**。駪(12－44718)に通ず。〔正字通〕侁、與レ駪通。❸**物のさま**。侁侁(1)を見よ。❹**殷の世の侯國の名**。〔路史、國名記〕侁、商世侯國名。❺**姓**。莘(9－31056)に通ず。〔呂覽、本味〕有侁氏。〔注〕侁、讀曰レ莘。❻現つかひ。

【侁侁】1 シンシン 衆多のさま。一說に、行くさまともいひ、走る時の聲の形容ともいふ。〔廣韻〕侁、行皃、詩云、侁侁征夫。〔楚辭、招魂〕豺狼從目、往來侁侁些。〔注〕侁侁、行聲也、詩云、侁侁征夫、言天上有二豺狼之獸一、其目皆從、奔走往來、其聲侁侁、爭欲レ啗レ人。〔集注〕侁、一作レ莘、侁侁、衆貌。

【侂】576 タク 〔集韻〕闥各切 ㄊㄨㄛ t'uo¹ 藥


小篆

❶**よせる**。**たのむ**。託(10－35243)に同じ。〔說文〕侂、寄也、从レ人庑聲、庑、古文宅。〔段注〕此與レ託、音義皆同。❷或は仛(1－376)・㑥(1－882)に作る。〔集韻〕侂、謂二依止一也、或作二仛・㑥一。

【侃】577 ㈠カン 〔集韻〕可旱切 ㄎㄢˇ k'an³ 旱 ㈡カン 〔集韻〕墟旰切 翰

小篆

㈠㈡❶**つよくただしい**。〔說文〕侃、剛直也、从レ㐰、㐰、古文信也、

从レ巛、取二其不レ舍二晝夜一、論語曰、子路侃侃如也。〔論語、鄉黨、集注〕侃、剛直也。㊀和ぎ樂しむ。衍(10－34034)に通ず。〔說文通訓定聲〕侃、段借爲レ衍。㊁或は偘(1－858)に作る。〔集韻〕侃、或作レ偘。

名乘 タダ。ヤス。ナホ。アキラ。

解字 會意。仜と川との合字。仜は古の信の字、川は、川水の流れて晝夜を舍かざる意。川水の晝夜休まず流れる如く、常に信を守つて變らぬ義から、剛直のさまとし、假借して衍（和樂のさま）とする。

【侃諤】1 カンガク 侃侃諤諤(3)を見よ。

【侃侃】2 カンカン 和樂のさま。一說に、剛直のさま。〔說文〕侃、剛直也。〔段注〕孔傳、侃侃、和樂貌也、蓋謂、卽衍衍之段借字。〔論語、鄉黨〕朝與二下大夫一言、侃侃如也、與二上大夫一言、闇闇如也。〔集解〕孔安國曰、侃侃、和樂貌也。〔集注〕侃侃、剛直也。〔論語、先進〕冉有・子貢、侃侃如也。〔鹽鐵論、雜論〕辯者陳二其詞一、闇闇焉、侃侃焉。〔成公綏、延賓賦〕闇闇侃侃、娛レ心肆レ情。

【侃侃諤諤】3 カンカンガクガク 剛直で言を曲げないさま。忌憚なく直言するさま。侃侃を見よ。〔史記、商君傳〕趙良曰、千羊之皮、不レ如二一狐之掖一、千人之諾諾、不レ如二一士之諤諤一、武王諤諤以昌、殷紂墨墨以亡。

【侃侃排二瞿曇一】4 カンカンハイシテクドンヲ 忌憚なく直言して佛教を排擊する。瞿曇は釋迦の姓。物部守屋の故事。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕乃參二大連議一、侃侃排二瞿曇一。

【侃爾】5 カンジ 和樂のさま。〔漢書、韋賢傳〕我徒侃爾、樂亦在而。〔注〕師古曰、侃爾、和樂貌。

【侃然】6 カンゼン ㊀つよいさま。剛直のさま。〔後漢書、向栩傳〕侃然正色。〔魏志、楊阜傳〕阜常侃然、以二天下一爲二己任一。〔北史、李子雄傳〕子雄當レ官正直、侃然有二不可犯色一。㊁和樂のさま。〔吳志、虞翻傳、注、傍聽二鐘鼓侃然之樂一。

【侃直】7 カンチョク つよくただしい。剛毅正直のさま。〔國朝漢學師承記、朱筠河〕先生持レ論侃直、不二稍下一金壇一。

【侃甫】8 カンボ 清、屈軼(4－7669・2)の字。

侷 578

カン 侃、同レ侃。

侃(1－577)に同じ。〔正字通〕

侄 579

㊀シツ 〔集韻〕職日切 質 chih²
㊁シチ 〔集韻〕卑吉切
㊂テツ

㊀㊀㊀かたい。〔廣雅、釋詁一〕侄、堅也。㊁おろか。〔正字通〕侄、侄仡、不レ前也。㊂獸の名。侄獸(2)を見よ。㊃姪(3－6226)の俗字。〔字彙、醒誤〕姪、陳入聲、兄弟之子、俗誤作レ侄、侄、音質、堅也、又、癡也。〔正字通〕俗誤以レ侄爲二姪字一。

【侄仡】1 シツキツ 前進しないさま。〔正字通〕侄、侄仡、不レ前也。

【侄獸】2 シツジウ 獸の名。虎の一種。酋耳。〔事物異名錄、獸畜、虎〕天中記、酋耳若レ虎、尾參二於身一、食二虎豹一、大傳謂二之侄獸一。

侅 580

㊀カイ 〔集韻〕柯開切 灰 ka¹
㊁カイ 〔集韻〕下改切 賄

㊀㊁㊀常でないこと。奇侅。〔說文〕侅、奇侅非レ常也、从レ人亥聲。㊁兼ねる。胲(9－29433)・賅(10－36746)・賅(10－36747)に通ず。〔集韻〕侅、通作レ賅。〔正字通〕侅、又與二胲・賅・賅一通、皆以二兼該一立義。㊂むせぶ。〔莊子、盜跖〕侅二溺於馮氣一。〔釋文〕飮食至レ咽曰レ侅。

來 581

小篆

㊀ライ 〔集韻〕郎才切 灰 lai²
㊁ライ 〔集韻〕洛代切 隊 lai⁴
㊂リョク リキ 〔集韻〕六直切 職

㊀㊀㊀きたる。くる。〔詩、邶風、終風〕莫レ往莫レ來、悠悠我思。〔史記、孔子世家〕衞靈公聞二孔子來一、喜郊迎。㊁いたる。〔爾雅、釋詁〕來、至也。〔詩、小雅、采薇〕我行不レ來。〔傳〕來、至也。㊂かへる。〔易、雜卦〕升不レ來也。〔注〕來、還也。〔左氏、文、七〕其誰來レ之。〔注〕來、猶レ歸也。〔戰國、秦策〕使者未レ來。〔注〕來、猶レ還也。㊃將來。未來。〔論語、微子〕來者猶可レ追。〔皇疏〕來者、謂二未レ至之事一也。〔漢書、五行志〕擧レ往以明レ來。㊄つとめる。勅(2－2380)に通ず。〔爾雅、釋詁〕來、勤也。〔釋文〕來、本亦作レ勅。〔詩、小雅、大東〕職勞不レ來。〔傳〕來、勤也。㊅まねく。いたす。よぶ。〔周禮、春官、樂師〕詔レ來レ瞽皐舞。〔中庸〕來二百工一、則財用足。〔呂覽、不侵〕不レ足二以來一レ士矣。〔注〕來、猶レ致也。㊆このかた。から。より。〔孟子、盡心下〕由二孔子一而來、至二於今一、百有餘歲。〔韓愈、與二孟尚書一書〕入レ秋來、眠食何似。㊇大きい。立派。〔呂覽、辨士〕故不レ能爲レ來。〔注〕來、丕成也。㊈曾孫の孫を來孫といふ。倓(1－755)に同じ。〔爾雅、釋親〕玄孫之子爲二來孫一。〔注〕言レ有二往來之親一。〔郝懿行義疏〕釋名云、此在二無服之外一、其意疏遠、呼レ之乃來也、此說二來字一、似二望文生義一、來之言、離也、離、亦遠也。〔集韻〕倓、玄孫之子爲二倓孫一、通作レ來。㊉これ。語勢を強める助辭。〔經傳釋詞、七〕來、詞之是也、詩谷風曰、不レ念レ昔者、伊予來墍、伊、惟也、來、猶レ是也、云云、言下君子不レ念二昔日之情一、而惟我是怒上也。㊊助辭。語勢を強める爲に句中また句末に添へる助辭。〔經傳釋詞、七〕來、句中語助也、莊子大宗師篇、子桑戶死、孟子反・子琴張、相和而歌曰、嗟來桑戶乎、嗟來、猶二嗟乎一也、云云、來、句末語助也、孟子離婁篇曰、盍レ歸乎來、莊子人間世篇曰、嘗以語レ我來、云云、來、皆語助。〔孟子、離婁上〕盍レ歸乎來。〔史記、孟嘗君傳〕長鋏歸乎來。〔陶潛、歸去來辭〕歸去來兮、田園將レ蕪、胡不レ歸。〔范成大、四時田園雜興詩〕知是兒孫鬬草來。㊋ばかり。ほど。〔水滸傳、五十四回〕李逵看二那鐵鎚一時、約有二三十來斤一。㊌こむぎ。稞(8－25109)に通ず。〔說文〕來、周所レ受瑞麥、來麰也、一麥二夆一、象二其芒朿之形一、天所レ來也、故爲二行來之來一、詩曰、詒二我來麰一。〔詩、周頌、思文〕貽二我來牟一。〔陳奐傳疏〕說文云、來、云云、稞、齊謂二麥稞一也、案、稞卽來。㊍或は徠(4－10155)・逨(11－38922)・賚(10－37205)に作る。〔集韻〕來、或从レ彳、从レ走、从レ走。〔爾雅、釋訓、不俟不來也、釋文〕來、本或作二倓・逨一。㊎姓。〔史記、殷紀贊〕太史公曰、余以頌次二契之事一、自二成湯一以來、采二於書詩一、契爲二子姓一、其後分封以國爲レ姓、有二殷氏・來氏・宋氏・空桐氏・稚氏・北殷氏・目夷氏一。〔唐書、宰相世系表〕來氏出レ自二子姓一、商之支孫、食二采於郲一、因以爲レ氏、其後避レ難去レ邑、秦徙二新野一。㊏現(イ)なす。做す。(ロ)動詞の前に置いて動作の趨勢を表はす。㊁ねぎらふ。勅

(2−2380)・徠(4−10155)に同じ。〔說文、勑、勞也、段注〕此勞依二今法一讀二去聲一、孟子、放勳曰、勞レ之來レ之、詩序曰、萬民離散、不レ安二其居一、宣王能勞來、還定安集之來、皆勑之省、俗作レ徠。〔集韻〕勑、說文、勞也、或从レイ、亦作レ來。〔孟子、滕文公上〕放勳曰、勞レ之來レ之。〔集注〕勞・來、皆去聲。三 ❶こむぎ。〔集韻〕來、來牟、麥也。❷或は秾(8−25109)・麳(12−47808)・𪎊(12−47880)に作る。〔集韻〕來、或作二秾・麳・𪎊一。

名乘 キ。クル。ナ。キタル。

解字 象形。从とホとにかたどる。从は一稃の中に米粒が二つある形、ホは芒(ほさき)にかたどる。周が天から受けた瑞麥(來麰)をいふ。來麰は天から來たもの故、轉じて行來の來とし、假借して勑(勞ふ、勤む)とす。〔說文、來、段注〕其字以レ从象二二麥一、以レホ象二一芒一、故云、象二其芒朿之形一云云、自レ天而降之麥、謂二之來麰一、亦單謂二之來一、因而凡物之至者、皆謂二之來一。

【來鞅】1 ライアウ 馬に乘つて來り訪ふ。鞅は馬のむながひ。又、單に來り訪ふ意。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕玄黃初分闢二靈壤一、峭壁穹崖絕二來鞅一。

【來安】2 ライアン ❶川の名。源は安徽省來安縣。末は清流河に入る。〔讀史方輿紀要、江南、滁州、來安縣〕來安水、在二縣東一、源出二縣北九十里之馬嶺山一、東南流二縣治東一、有二龍尾河一、流入焉、又東南入二州界一、合二於清流河一。❷縣名。五代南唐、置く。唐の永陽縣。今、安徽省滁縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南、滁州〕來安縣、本清流縣地、唐景龍中、析二置永陽縣一、屬二滁州一、南唐改曰二來安一。〔清史稿、地理志〕安徽、滁州直隸州、縣二、來安。❸路名。元、置く。今の廣西恩隆縣の地。〔讀史方輿紀要、廣西、田州〕廢來安路、在二州西一、元置二來安路軍民總管府於此一。

【來意】3 ライイ 先方から來た者の意中。又、自分が其處へ來た心持及び意味。〔後漢書、方術、公沙穆傳〕來意厚矣、夫富貴在レ天、得レ之有レ命。

【來位】4 フキシ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【來威】5 ライキ 畏れて來り服する。〔詩、小雅、采芑〕征二伐玁狁一、蠻荊來威。〔集傳〕皆使三來二服於宣王之威一。

【來唯】6 ライキ 縣名。漢、置く、後漢、廢す。故治は雲南省文山縣の西。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、來唯。

【來圍】7 ライキ 來りかこむ。〔日本政記、正親町天皇〕天正十年、賊兵來圍、信忠力戰自殺。

【來由】8 ライイウ ライユ おこり。いはれ。原因。由來。來歷。次第。〔白居易、春生詩〕續教三啼鳥說二來由一。〔滄浪詩話〕用レ事、不三必拘二來由一。

【來游】9 ライイウ 來りあそぶ。來遊に同じ。〔漢書、董仲舒傳〕鳳凰來集、麒麟來游。

【來遊】10 ライイウ 來りあそぶ。來游。〔詩、大雅、卷阿〕豈弟君子、來遊來歌。〔潘岳、寡婦賦〕夢二良人兮來遊一。

【來因】11 ライイン 河の名。歐洲中部の大河。Rhineの音譯。

〔來因同盟〕12 ラインドウメイ ドイツ西部の諸侯が墺國の勢力挽回を妨害するために、スウエーデンと盟を結び、佛國の援助下にドイツ皇帝オーストリヤ公に當つた。これをライン同盟といふ。

【來胤】13 ライイン 子孫。來裔。〔晉書、樂志上〕播二來胤一、垂二後昆一。

【來宇】14 ライウ 來て居る。宇は居る意。〔詩、大雅、緜〕爰及二姜女一、聿來胥宇。〔傳〕宇、居也。

【來裔】15 ライエイ 子孫。來胤(13)に同じ。〔魏志、鍾會傳〕福同二古人一、慶流二來裔一。

【來銳】16 ライエイ 攻め來る銳い鋒先、又、軍勢。〔日本外史、德川氏前記、織田氏上〕宜下避二其來銳一、據二本城一待上レ之。

【來衞】17 ライエイ 來りまもる。〔日本政記、後醍醐天皇〕延元元年、楠正行與二其族和田正朝等一來衞。

【來曜】18 ライエウ 唐、永壽の人。行間から起り、官は右領軍大將軍に至る。〔唐書、一百四十四〕。

【來役】19 ライエキ 使にきた役人。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕量二賞來役一。

【來謁】20 ライエツ 來てまみえる。〔史記、留侯世家〕張良從レ外來謁。〔徐陵、東陽雙林寺傳大士碑〕來二謁宸闈一、亟論二經典一。

【來葉】21 ライエフ 後の世。來世。〔晉書、江逌傳〕著二稱來葉一。〔陸機、文賦〕俯貽二則於來葉一、仰觀二象於古人一。

【來緣】22 ライエン 來世に生れる因緣。他生の緣。〔梁高僧傳〕永結二來緣一。〔白居易、華嚴經社石記〕但敍二見願一、集二來緣一而已。

【來豔】23 ライエン 後漢の人。歷の子。字は季德。官は靈帝の時、司空。〔後漢書、四十五〕。

【來援】24 ライエン 來りすくふ。〔國朝漢學師承記、王蘭泉〕金川賊、由二格六古一來援。〔日本外史、足利氏後記、毛利氏〕秀吉與二村重一合二兵四萬一來援。

【來園】25 ライエン 字號。❶清、鄧士錦(11−39630‥150)の號。❷清、李昌祚(6−14459‥1388)の號。

【來轅】26 ライエン 來訪の車乘。〔孔稚珪、北山移文〕截二來轅於谷口一、杜二妄轡於郊端一。〔注〕濟曰、來轅・妄轡、謂二周顒之車乘一也。

【來嫁】27 ライカ 來り嫁する。〔詩、大雅、大明〕來嫁二于周一、曰嬪二于京一。

【來歌】28 ライカ 來り歌ふ。〔詩、大雅、卷阿〕豈弟君子、來游來歌、以矢二其音一。

【來賀】29 ライガ 來てよろこびを述べる。〔詩、大雅、下武〕受二天之祜一、四方來賀。〔左氏、昭、三〕今茲吾又將二來賀一。〔漢書、高惠高后文功臣表〕周封八百、重レ譯來賀。

【來駕】30 ライガ のりものが來る。人が訪ひ來る敬語。來車。枉駕。〔本朝若風俗、五〕御來駕を待つ事なれ。

【來价】31 lai^2 chieh^4 お使ひの方。又、來た使の者。使に來た小者。

【來海】32 クルミ ❶姓氏。〔日用重寶記〕。❷キマチ 姓氏。〔諸家姓氏元祖錄〕。

【來向】33 ライカウ 先方から向ひ來る。〔順正理論〕來向下時。

【來孝】34 ライカウ 孝行につとめる。〔詩、大雅、文王有聲〕匪レ棘二其欲一、遹二追來孝一。〔箋〕來、勤也、云云、此非下以二急成一從二己之欲一、欲上廣二都邑一、乃述二追王季勤孝之行一、進二其業一也。

【來降】35 ライカウ 來り降る。〔漢書、宣帝紀〕將二衆五萬餘人一、來降歸レ義。

【來航】36 ライカウ 外國から船で來る。

【來港】37 ライカウ 船が港に入つてくる。入港。

【來客】38 ライカク ライキヤク お客として來る。又、其の人。來賓(234)の❶に同じ。〔元結、漫歌、小回中詩〕來客去客船、皆向二此中一泊。〔劉長卿、送三朱山人賊退後歸二山陰別業一詩〕南渡無二來客一。

【來格】39 ライカク きたりいたる。❶格は至るの意。祭に鬼神の來り臨むこと。來莅。〔書、益稷〕祖考來格。❷人、又は物の來ること。〔禮、月令〕暴風來格。

【來假】40 ライカク 來り至る。〔詩、商頌、烈祖〕來假來饗。〔後漢書、章帝紀〕祖考來假。

【來學】41 ライガク ❶來て學ぶ。〔禮、曲禮上〕禮聞二來學一、不レ聞二往敎一。〔漢書、孫寶傳〕禮有二來學一、而義無二往敎一。〔歐陽脩、吉州學記〕來學者、常三百餘人。❷後世の學者。後學。〔朱熹、中庸章句序〕所下以繼二往聖一、開中來學上、其功反有下賢二於堯舜一者上。❸明、開濟(11−41233‥154)の字。

【來函】42 lai^2 han^2 來た手紙。又、手紙をよこす。來翰。來簡。來書。來信。來狀。來墨。

〔來函詢問〕43 lai^2 han^2 hsün^2 wen^4 手紙を以てお問合せを乞ふ。

〔來函接洽〕44 lai^2 han^2 chieh^1 hsia^2 書面を以て相談せられよ。

【來感】45 ライカン 來り感ずる。〔白居易、畫二西方幀一記〕白毫大光、應レ念來感。

【來漢】46 ライカン 漢、新野の人。武帝に事へて光祿大夫となり、楊僕に從つて南越・朝鮮を擊破す。〔後漢書、四十五〕。

【來翰】47 ライカン 人から來た手紙。來札(115)に同じ。來簡。來書。來信。來狀。來墨。〔宋書、吳喜傳〕前驅之人、忽獲二來翰一、披尋狂惑、良深悵駭。〔葉適、贈二徐靈淵一詩〕今日觀二來翰一、如三親見二古人一。

【來簡】48 ライカン 來た手紙。又、手紙をよこす。來函。來翰。來書。來狀。來墨。〔柳宗元、答二貢士元公瑾一論二仕進一書〕辱致二來簡一、受レ賜無量。

【來鴈】49 ライガン 北方から移つて來る鴈。歸鴈に對する語。〔張喬、江上送二友人南遊一詩〕瀟湘見二來鴈一、應レ念獨邊遊。

【來其】50 ライキ 豆腐(10−36245‥69)の異名。〔虞

集、豆腐贊序〕郷語、謂二豆腐一爲二來其一。

【來紀】51 ライキ 來るべき年月。〔曹毘、詠レ冬詩〕今載忽已暮、來紀奄復仍。

【來氣】52 ライキ 何者かが來る氣はひ。〔墨子、迎敵祠〕有二往氣一、有二來氣一。

【來期】53 ライキ 來るべき期限。〔李商隱、碧城詩〕七夕來時先有レ期、洞房簾箔至レ今垂。

【來歸】54 ライキ ❶歸つて來る。〔詩、小雅、六月〕來二歸自レ鎬、我行永久。❷來り屬する。來り集まる。〔白虎通、封禪〕望二祭山川一、百神來歸。❸離婚せられて實家へ歸る。出もどりとなる。〔左氏、莊、二十七〕凡諸侯之女、歸寧曰レ來、出曰二來歸一。〔疏〕嫁謂二之歸一、而寧謂二之來一、見レ絶而出、則以二來歸一爲レ辭、來而不レ反也。〔穀梁、隱、二〕禮、婦人謂レ嫁曰レ歸、反曰二來歸一。

【來儀】55 ライギ ❶鳳凰などが音樂や德に感じてやつて來て儀容を正してゐることをいふ。〔書、益稷〕簫韶九成、鳳凰來儀。〔傳〕儀、有二容儀一。〔列子、黃帝〕鳳皇來儀。〔左思、魏都賦〕三趾而來儀。❷明、臨朐の人。字は爻先。崇禎の進士。官は蘭陵の令。李自成の亂に死す。著に幽憤集・一斗集・山房小錄がある。〔臨朐縣志〕。❸字號。㋑明、張羽〈滯陽の人〉(4－9812・41)の字。㋺明、杜桐(6－14477・206)の字。

【來儀堂】56 ライギ 明、陳繼儒(11－41698・800)の室名。

【來儀之鳥】57 ライギノ 鳳凰をいふ。來儀の❶を見よ。〔揚雄、劇秦美新〕來儀之鳥、肉角之獸、狙獷而不レ臻。〔注〕善曰、來儀、鳳也、肉角、麟也。

【來疑】58 ギ 梁、廣陵の人。侯景が臺城を陷れた時、廣陵の太守の祖皓に說いて兵を起し、襲つて、景の黨の董紹先を殺す。後、皓が敗れるや、疑並に其の兄弟子姪の死するもの十六人に及んだ。〔南史、七十二〕。

【來擬】59 ギ 同じ態度を以てやつてくる。同じやり方をあてはめようとする。〔日本政記、後宇多天皇論〕弘安四年、以下其所二以滅一趙宋一者上來擬二於我一。〔賴山陽、蒙古來詩〕持二此來擬男子國一、相模太郎膽如レ甕。

【來求】60 キウ 先方から尋ね來て求める。〔詩、小雅、桑扈〕彼交匪レ敖、萬福來求。

【來救】61 ライキウ 來りすくふ。救援に來る。〔日本政記、正親町天皇〕天正十年夏五月、羽柴秀吉入二備中一、圍二高松城一、毛利輝元、大擧來救。

【來鳩】62 ライキウ 鷽鳥の名。爽鳩。來は一に鵃に作る。〔爾雅、釋鳥、鷹鵃鳩、疏〕樊光曰、來鳩、爽鳩也、春秋曰、爽鳩氏司寇、鷹鷙故爲二司寇一。

【來歙】63 キフ 漢、南陽新野の人。字は君叔。謚は節。光武の時、中郎將となり、隗囂を平げ、公孫述を擊つて刺客に殺さる。征羌侯を贈らる。〔後漢書、四十五〕。

【來臣】64 ライシン 來り朝覲する。來觀。古文苑には來臣に作る。〔揚雄、雍州牧箴〕自二彼氏羌一、莫二敢不一來庭一、莫二敢不一來臣一。

【來享】65 ライキヤウ 諸侯が來朝して物を獻ずる。〔詩、商頌、殷武〕莫二敢不一來享一。〔箋〕享、獻也。〔史記、司馬相如傳〕康居西域、重譯請朝、稽首來享。

【來貶】66 ライヘン 嘉言、又は佳品を以て來り賜ふといふ意から、他人の來信、又は來訪を尊敬していふ。貶は一に況に作る。友達の手紙の尊稱。〔司馬相如、子虛賦〕足下不レ遠二千里一、來二貶齊國一。〔注〕濟曰、貶、惠賜也、言、足下不レ以二千里一爲レ遠、而來惠二貶齊國一也。〔後漢書、趙壹傳〕壹報書曰、云云、遠辱二手筆一、追レ路相尋、輒誦二來貶一、永以自慰。〔陶潛、答二龐參軍一序〕三復二來貶一、欲レ罷不レ能。

【來饗】67 キヤウ 來つて供物をうける。〔詩、商頌、烈祖〕來假來饗。〔張衡、東京賦〕來顧來饗。

【來去】68 ❶來ると行くと。去來。〔孟浩然、夜歸鹿門山歌〕惟有二幽人一夜來去一。〔白居易、登二商山最高頂一詩〕乘者及二負者一、來去何云云。〔杜牧、漁父詩〕來去且無レ機。❷くり返す。〔鮑摩羅什、十喩詩〕若能映二斯照一、萬象無二來去一。

【來許】69 キヨ 行を勤めて善道に進む。來は勤、許は進の意。一說に、後世・來世の義ともいふ。〔詩、大雅、下武〕昭二茲來許一、繩二其祖武一。〔傳〕許、進。〔箋〕來、勤也、武王能明二此勤行一、進二於善道一。〔集傳〕來、後世也、許、猶レ所也、云云、言、武王之道、昭明如レ此、來世能繼二其迹一、則久荷二天祿一、而不レ替矣。

【來御】70 ギヨ 來り迎へる。〔楚辭、離騷〕帥二雲霓一而來御。〔注〕御、迎也。

【來極】71 ライキク 來朝して、中正の政教を受けること。〔詩、大雅、江漢〕匪レ疚匪レ棘、王國來極。〔箋〕極、中也、云云、使下來二於王國一、受中政教之中正上而已。

【來歙】72 ライキフ きたりうける。〔福惠全書、澄任部、到衙門〕神其聽レ之、來格來歙。

【來禽】73 ライキン 林檎。〔通雅〕來禽、卽林檎也。〔本草、林檎〕釋名、來禽。〔廣志〕林檎似二赤奈子一、一名黑禽、亦名二來禽一。

【來禽館】74 ライキンクワン 明、邢侗(11－39301・46)の室名。

【來禽堂】75 ライキンダウ 澤田鱗の號。澤田東江(7－18383・58)を見よ。

【來禽館集】76 ライキンクワンシフ 書名。二十九卷。明、邢侗撰。二十四卷。詩五卷。詩は和平雅秀といはれる。〔四庫提要、集、別集類存目〕。

【來觀】77 キクワン 來つて謁見すること。來臣。〔周禮、春官、大宗伯、秋見曰レ覲、疏〕秋、西方六服、當二覲之歲一、盡來覲。

【來和】78 ワ 隋、長安の人。字は弘順。相術を善くし、文帝を微なりし時に識る。開皇の末、開府の位に進む。著に相經がある。〔隋書、七十八〕・〔北史、八十九〕。

【來貨】79 lai² huo⁴ 到着した商品。貨物の到着。着荷。

【來回】80 lai² huei² 往復。往復する。一送兒(1－1・2434)の對。

【來回票】81 lai² huei² p'iao⁴ 往復切符。

【來回郵片】82 lai² huei² yu² p'ien⁴ 往復葉書。

【來回明信片】83 lai² huei² ming² hsin⁴ p'ien⁴ 往復葉書。

【來會】84 クワイ 來り集まる。〔左氏、昭、十二〕能來會二吾喪一。〔史記、陳涉世家〕號令召二三老、豪傑與皆來會計レ事。

【來皇】85 クワウ 明、吳麟徵(2－3365・899)の字。

【來欵】86 lai² k'uan³ 御送付の金。

【來還】87 クワン かへり來る。〔應璩、與二從弟君胄一書〕來二還京都一、塊然獨處。

【來觀】88 クワン きたりみる。〔詩、大雅、文王有聲〕自レ西自レ東自レ南自レ北、〔箋〕自二四方一來觀者。〔漢書、武帝紀〕三百里內皆來觀。

【來詣】89 ケイ きたる。〔稽神錄〕有二男子年可二十一來詣一。

【來迎】90 ゲイ ❶來り迎へる。〔韓愈、過二襄城一詩〕已去二蔡州三百里一、家人不レ用二遠來迎一。❷㒵佛の靈が現はれて來り迎へる。〔觀無量壽經〕化二作五百化佛一、來二迎此人一。❸朝日の昇天をいふ。〔笈埃隨筆、二、富士山〕八合の上に至らざれば、あくる曉天の來迎といふを見難し。

【來迎三尊】91 サンゾン 㒵衆生を救ふために來迎する彌陀・觀音・勢至の三尊。

【來擊】92 ゲキ 來り擊つ。〔日本政記、後村上天皇〕正平二年、足利尊氏、令下高師直師泰將二兵八萬一來擊上。

【來月】93 ゲツ 翌月。くるつき。〔法書要錄〕來月日有レ竟者、當二遣送一也。

【來脅】94 ケフ 來りおびやかす。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕彼以二兵來脅一、剪二屠我邊疆一。

【來見】95 ケン 來つてまみえる。〔白虎通、文質〕大小國諸侯、皆來見。

【來獻】96 ケン 來朝して物を獻上する。〔詩、魯頌、泮水〕憬彼淮夷、來獻二其琛一。

【來現】97 ゲン 來りあらはれる。〔王季友、鑒止水賦〕忽形來而影現、類聲往而響答。

【來源】98 lai² yüan² 商品の原產地からの出廻り。商品の供給。

【來古】99 コ 古來。〔史記、太史公自序〕比二樂書一、以述二來古一。〔注〕素隱曰、來古、卽古來也。

【來滬】100 lai² hu⁴ 上海へ來る。

【來顧】101 コ 來り顧みる。〔張衡、東京賦〕來顧來饗。〔王起、東郊迎春賦〕青帝克禋、必來顧而來享、玄穹廣覆、何自レ西而自レ東。〔宋志、樂志〕風馬雲車、翩翩來顧。

【來攻】102 コウ ❶來りをさめつくる。攻は作る意。〔詩、大雅、靈臺〕庶民攻レ之、不レ日成レ之、經始勿レ亟、庶民子來。〔傳〕攻、作也。〔箋〕衆民、各以二子成一父事一、而來攻レ之。❷來りせめる。〔日本外史、源氏前記、平氏〕源氏軍充二塞海陸一、兵艦

三千、四面來攻。

【來貢】103 ライコウ 他國、又は屬國から來て貢を獻ずる。來聘。〔史記、五帝紀〕各以二其職一來貢。〔史記、孔子世家〕使各以二其方一賄二來貢一。上

【來寇】104 ライコウ 來りあだする。〔北史、廣川公測傳〕每歲河水合後、突厥卽來寇掠。〔杜甫、早發詩〕側聞二夜來寇一、幸喜襄中淨。〔蘇洵、審敵〕匈奴掃レ境來寇、兵不レ血レ刃、而京師不レ守、天下被二其禍一、匈奴自レ是始有二輕二中原一之心一。上

【來鴻】105 ライコウ 飛び來るおほとり。〔謝瞻、九日從二宋公戲馬臺集一送二孔令一詩〕遵渚有二來鴻一。

【來告】106 ライコク 來り告げる。〔左氏、哀、十四〕迹人來告。〔史記、項羽紀〕今事有レ急、故幸來告レ良。

【來今】107 ライコン 今より後。今來。〔鶡冠子、世兵〕往古來今、事孰無レ郵。〔漢書、張湯傳〕來今則吉凶同。〔張協、雜詩〕此理著二來今一。

【來鯤】108 ライコン 明、朱謀㙔（6－14424‥995）の變姓名。

【來差】109 lai² ch'ai¹ 他から來る使者。御使者。

【來歲】110 ライサイ 今年の次に來るべき年。翌年。來年。〔禮、月令〕制二百縣一爲二來歲受一朔日與レ諸侯所レ稅二於民一、輕重之法、貢職之數。上

【來摧】111 ライサイ 來りくだく。〔張衡、東京賦〕五精帥而來摧。

【來齋】112 ライサイ 清、林侗（6－14551‥198）の號。

【來齋金石考】113 ライサイキンセキカウ 書名。三卷。清、林侗撰。古刻二百二十碑をあつめ、顧炎武の金石文字記によつて辨證し、其の意見も典據ありといはれる。〔四庫提要、史、目錄類〕

【來巢】114 ライサウ 來つて巢を作る。〔後漢書、何敞傳〕鸛鵲來巢、昭公有二乾侯之厄一。

【來札】115 ライサツ 外から來る書翰。來書。〔杜甫、冬晚送二長孫漸舍人歸一州詩〕會面思二來札一。〔書言故事、書翰類〕來札所レ諭。

【來雜】116 ライザツ 來りあつまる。來集。〔呂覽、仲秋〕四方來雜。〔注〕雜、會也。

【來子】117 ライシ ❶來子錢を見よ。❷檄欖をいふ。〔郝經、檄欖詩〕半青來子味難レ諗。

【來之】119 ライシ 清、閔嗣同（11－41251‥52）の字。

【來之坎坎】120 キタルモユクモカンカンタリ 進むにも退くにも共に險難な喩。〔易、坎〕來之坎坎、險且枕。

【來仕】121 ライシ 來り仕へる。〔梁書、沈約傳〕或辭レ祿而反耕、或彈レ冠而來仕。

【來示】122 ライシ 來り示す。轉じて、來書をいふ。來旨。御申越の趣。御手紙。〔南史、宋武帝紀〕來示云、處レ懷期レ物。

【來旨】123 ライシ 來示の趣旨。〔徐陵、在二北齊一與二楊僕射一書〕若鄙言爲レ戮、來旨必通。

【來至】124 ライシ きたる。かへる。〔詩、王風、君子于役〕曷其至哉、箋〕君子于二往行役一、我不レ知二其反期一、何時當二來至一哉。〔亢倉子、農道〕不レ知レ時者、來至而逆レ之。〔論衡、講瑞〕太平之際、見二來至一也。

【來使】125 ライシ 來り使する。又、來る使者。〔韓愈、別知賦〕遇二夫人之來使一、闢二公館一而羅レ羞。〔羅隱、送二秦州從事一詩〕若到二邊庭一有二來使一、試批二書尾一話二梁州一。〔錢惟演、春雪賦〕隔二瑤水之來使一、沒二騷人之行轂一。

【來咨】126 ライシ 來りはかる。來諮。〔詩、周頌、臣工〕王釐二爾成一、來咨來茹。〔箋〕咨、謀、茹、度也。

【來思】127 ライシ ❶來る。又、歸る。思は助辭。〔詩、小雅、采薇〕今我來思、雨雪霏霏。〔箋〕我來成止、而謂二始反時一也。〔詩、小雅、出車〕今我來思、雨レ雪載塗。〔集傳〕采薇之所謂來、成畢時也、此詩之所謂來、歸而在レ道時也。❷詩經、小雅、出車篇を指す。❶を見よ。〔謝惠連、雪賦〕岐昌發二詠於來思一。

【來徙】128 ライシ 來りうつる。〔禮、王制〕自二諸侯一來徙、家、期不レ從レ政。

【來事】129 ライジ 將來の事。〔管子、版法解〕來事未レ起。〔鬼谷子、內揵〕揣二策來事一。〔史記、龜策傳〕各信二其神一、以知二來事一。

【來事可レ追】130 ライジハオフベシ 將來の事は改善の餘地がある。來者可レ追。〔說苑、談叢〕來事可レ追也、往事不レ可レ及。

【來侍】131 ライジ 來て側にはべる。〔漢書、鄒陽傳〕無二使レ令於前一、故來侍也。

【來茲】133 ライジ 來年。〔呂覽、任地〕今茲美禾、來茲美麥。〔古詩十九首〕生年不レ滿レ百、常懷二千歲憂一、晝短苦二夜長一、何不二秉レ燭遊一、爲レ樂當レ及レ時、何能待二來茲一。

【來辭】133 ライジ ❶來つて陳べる。又、そのことば。〔左氏、襄、二〕其將二來辭一、何辱二命焉一。❷來た書面の文句。〔福惠全書、涖任部、酬答書札〕係二來辭聽允一、有レ關二錢糧戶上一、須下昭二會管理幕友一、以使中留意上。

【來秋】134 ライシウ 來年の秋。くる秋。〔後漢書、龐參傳〕搏レ手困窮、無レ望二來秋一。

【來日】135 ライジツ ❶あす。明日。翌日。〔朱熹、勸學文〕勿レ謂今日不レ學而有二來日一、勿レ謂今年不レ學而有二來年一、日月逝矣、歲不レ我延一、嗚呼老矣、是誰之愆。❷將來の日。將來。後日。〔禮、曲禮上〕生與二來日一、死與二往日一。〔陸機、短歌行〕來日苦レ短、去日苦レ長。〔韓愈、除レ官赴レ闕至二江州一寄二鄂岳李夫人一詩〕年皆過二半白一、來日苦レ無レ多。

【來日裏】136 ライジツリ 後日。〔燕子箋、駝泄〕來日裏、金榜當レ頭。

【來日大難】137 ライジツノタイナン 將來の大難。〔古樂府、善哉行〕來日大難、口燥脣乾。今日相樂、皆當二喜歡一。〔曹植、當二來日大難一〕日苦短、樂有レ餘、乃置二玉樽一、辨二東廚一。

【來集】138 ライシフ 來り集まる。來襍。〔禮、月令〕仲秋之月、四方來集。〔東方朔、非有先生論〕鳳皇來集、麒麟在レ郊。

【來襲】139 ライシフ 來りおそふ。攻め寄せる。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕備二景勝、昌幸來襲一。

【來車】140 ライシャ 車が來る。車で來る。人の來ることをいふ敬語。來駕。

【來舍】141 ライシャ 來り止まる。來りやどる。〔莊子、知北遊〕攝二汝知一、一汝度一、神將二來舍一。〔疏〕汝之精神、自來舍止。

【來者】142 ライシャ ❶今から後のこと。今後の事。未來。將來。前途。來者可レ追を見よ。❷我になついてくる者。歸順する者。〔左氏、宣、十七〕吾若善逆彼、以懷二來者一。〔公羊、隱、二〕春公會二戎于潛一〔注〕來者勿レ拒、去者勿レ追。❸我より後に生れる者。後生。後進。後輩。〔論語、子罕〕焉知二來者之不レ如レ今也。

【來者可レ追】143 ライシャハオフベシ 將來のことは改善の餘地がある。來事可レ追(130)に同じ。〔論語、微子〕楚狂接輿、歌而過二孔子一曰、鳳兮鳳兮、何德之衰、往者不レ可レ諫、來者猶可レ追。〔陶潛、歸去來辭〕悟二已往之不レ諫、知二來者之可レ追一。

【來者信也】144 キタルモノハマコトナリ 易で日月の往來を陰陽の屈伸にたとへていふ。信は伸に同じ。〔易、繫辭下〕往者屈也、來者信也。〔疏〕來是施用、故爲レ信也。

【來者勿レ禁】145 ライシャヤハキンズルコトナカレ 來る者は禁じてはならない。〔莊子、山木〕來者勿レ禁、往者勿レ止。

【來者不レ可レ待】146 ライシャヤハマツベカラズ 未來の事は期待することが出來ない。〔呂覽、聽言〕往者不レ可レ及、來者不レ可レ待。

【來者不レ可レ知】147 ライシャヤハシルベカラズ 未來の事は知ることが出來ない。〔墨子、魯問〕往者可レ知、來者不レ可レ知。

【來者不レ拒去者不レ追】148 キタルモノハコバズサルモノハオハズ 來るも去るも、人の自由に任せる。〔公羊、隱、二〕春公會二戎于潛一〔注〕王者不レ治二夷狄一錄レ戎者、來者勿レ拒、去者勿レ追。〔孟子、盡心下〕夫子之設レ科也、往者不レ追、來者不レ拒。

【來者不レ善善者不レ來】149 ライシャヤゼンゼンシャヤキタラズ 來るものは善くなく、善いものはこない。〔陔餘叢考、成語〕來者不レ善、善者不レ來、亦本二老子善者不レ辨、辨者不レ善句一。

【來章】150 ライシャウ 贈られた詩文。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕猶復惠二來章一、祇足レ攪二余思一。

【來狀】151 ライジャウ 先方から送つて來た書狀。來書。

【來情】152 ライジャウ 將來の事情をいふ。〔後漢書、馮衍傳論〕夫然、義直所レ以見レ屈二於既往一、守レ節、故以彌阻二於來情一、嗚呼。〔注〕衍爲二更始一擧レ哀、既降、執レ義守レ直、既往之於已、光武屈而不レ用、故言、義直所レ以見レ屈二于既往一也、則守レ節之人、見二衍被一黜、彌阻二難於將來一。

【來讓】153 ライジャウ 來り責める。〔左氏、襄、二十八〕既而齊人來讓、奔レ吳。

【來手】154 lai² shou³ 來た人。使の者。

【來茹】155 ライジョ 來りはかる。相談に來る。來咨(125)を見よ。〔詩、周頌、臣工〕王釐二爾成一、來咨來茹。〔箋〕茹、度也。

【來需】156 ジュ 川の名。〔山海經、中山經〕半石之山、來需之水、出二于其陽一、而西流注二於伊水一。

【來從】157 ジュウ 來り從ふ。〔管子、問〕外人之來從、而未レ有二田宅一者、幾何家。

【來春】158 シュン 來年の春。明春。くる春。〔玉海、藝文、政要寶訓〕寶元二年十二月二十日、詔二侍讀學士李淑、就二資善堂一、刪二整二朝寶訓一、以備二來春進讀一。〔白居易、四十五詩〕或擬廬山下、來春結二草堂一。

【來濬】159 シュン 明、關中の人。字は梅岑。著に金石備考がある。〔四庫提要、八十七〕。

【來旬】160 ジュン 來つてあまねく事を治める。一說に、來は勤の意、旬は營に作るべく、勤めいとなむの義ともいふ。〔詩、大雅、江漢〕王命二召虎一、來旬來宣。〔傳〕旬、徧也。〔箋〕來、勤也、旬、當レ作レ營。〔集傳〕旬、徧、宣、布也、自二江漢之詩一言レ之、故曰レ來、云云、又言、王命二召虎一、來二此江漢一之詩一、徧治二其事一、以布二王命一。

【來初】161 ショ 明、江復(6－17140‥396)の字。

【來書】162 ショ 來た手紙。來札。來翰。來信。來命。〔杜甫、別二常徵君一詩〕各逐レ萍流轉、來書細作行。

【來處】163 ショ 出處。でどころ。〔野客叢書〕須レ有二來處一。

【來處來去處去】164 ライショライキョキョ 來るところから來り、去るところから去る。〔通俗編、交際、來處來去處去〕藝文類聚、李紳鎭二江東一、用レ法嚴明、有二龜山寺僧黠而辨一、欲レ以二因果一勸諭上、儼然造謁、紳問、阿師從レ何來、答曰、貧僧從二來處一來、紳卽予以レ杖而逐レ之曰、任下汝從二去處一去上。

【來署】165 ショ ❶官署に來る。❷書類を本署に送付せよ。

【來如】166 ジョ 來る。如は助辭。〔易、離〕九四、突如其來如、焚如、死如、棄如。

【來助】167 ジョ 來りたすける。〔鄭符、奇松聯句〕一株風正好、來助碧雲吟。

【來食】168 ショク 鬼神が來て祭を享ける。〔左氏、襄二十一〕猶有二鬼神一、吾有レ餒而已、不二來食一矣。

【來侵】169 シン 來りをかす。〔法言、重黎〕是以四疆之內、各以二其力一來侵。〔北史、達奚武傳〕齊神武與二竇泰高敖曹一、三道來侵。

【來信】170 シン ❶知らせ。他人のおとづれ。てがみ。來書。〔皮日休、奉和二魯望謝レ惠二巨魚之半一詩〕釣公來信自二松江一、三尺春魚撥二刺霜一。❷申し出で。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕自可レ斷二來信一。

【來晨】170' シン 來り會する時。〔謝瞻、王撫軍庾西陽集別作詩〕來晨無二定端一、別晷有二成速一。〔注〕向曰、晨、時。

【來軫】171 シン 後から來る車。轉じて、後から來る者をいふ。〔後漢書、左雄等傳論〕往車雖レ折、來軫方遒、所以傾而未レ顚、決而未レ潰。〔程俱、借二居毘陵東門一詩〕前車接二來軫一。

【來瑱】171' ライテン 唐の人。曜の子。安祿山の反に潁州を守り、功を以て潁國公に封ぜらる。官は各地の節度使となり、代宗の時、同中書門下平章事となる。後、程元振の譖により、播川の尉に貶せられて死を賜はる。〔舊唐書、一百十四〕・〔唐書、一百四十四〕。

【來臻】172 シン 來り至る。〔李白、對二雪奉一餞二任城六父秩滿歸一レ京詩〕竇公敞二華筵一、墨客盡來臻。

【來人】173 ジン 來る人。使者。〔謝靈運、登二石門最高頂一詩〕來人忘二新術一。

【來訊】174 ジン ❶きたりたづねる。きたり訪れる。來探。來訪。〔曹植、與二吳季重一書〕得レ所二來訊一、文采委曲。〔謝瞻、於二安城一答二靈運一詩〕寫レ誠酬二來訊一。❷lai² hsün⁴ 報知。たより。

【來吹】175 キスイ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【來崧】176 スイ 來萃に同じ。〔漢書、賈誼傳〕異物來崧。〔注〕孟康曰、崧、音萃、聚集也。

【來萃】177 スイ 來り集まる。來崧。〔賈誼、鵩鳥賦〕異物來萃兮。〔注〕善曰、萃、集也。

【來綏】178 スイ 來りおちつく。綏は、安らかなさま。〔馮衍、刀陰銘〕福祿來綏。〔裴秀、大錯表〕四方來綏。

【來世】179 セイ ❶後の世。來葉。〔書、仲虺之誥〕予恐二來世以二台爲一口實一。〔列子、仲尼〕將下以治二天下一遺中來世上。〔管子、國准〕來世之王者、可二得而聞一乎。❷セイ 〔佩死後に生れ出る世。未來の世。後世。後生。〔法華經、佛告二舍利弗一、汝於二來世一、當レ得二作レ佛、號曰二花光王一。〔來世不レ可レ待〕180 ライセイカタズ 將來の事は期待することが出來ない。〔莊子、人間世〕來世不レ可レ待、往世不レ可レ追也。

【來生】181 セイ 死後の世。〔蘇軾、子以レ事繫二御史臺獄一、獄吏稍見レ侵、自度不レ能レ堪レ死、獄中二不レ得二一別子由一故作二二詩一、授二獄卒梁成一、以遺二子由一詩〕與君世世爲二兄弟一、又結來生未了因。

【來生債】182 セイサイ 戲曲の名。元人撰。唐、龐蘊の事を書いたもの。

【來青】183 セイ 字號。❶明、杜松(6－14477‥156)の字。❷清、葉敷(9－31387‥124)の字。「名。

【來青閣】184 ライセイカク 清、平翰(4－9167‥109)の室の室名。❶岡長祐の號。岡長洲(4－7962‥34)を見よ。

【來整】186 ライセイ 隋の人。護兒の子。驍勇にして善く戰ひ、群盜を擊つて向ふ所必ず勝つ。官は虎賁郎將、光祿大夫。宇文化の反するに及んで殺さる。〔隋書、六十四〕。

【來濟】187 ライセイ 唐の人。護兒の次子。進士。官は中書令。高宗が武氏を后とすることを諫めて后の銜む所となり、後、褚遂良の事に坐して庭州に貶せらる。突厥の入寇の時、介冑を被らずして馳せ赴いて戰死す。〔舊唐書、八十〕・〔唐書、一百五〕。

【來籍】188 セキ 將來の史籍。〔陸機、豪士賦序〕洋洋之風、俯冠二來籍一。〔注〕良曰、俯冠二來籍一、謂レ爲二將來史籍之首一。

【來接】189 セツ 迎へに來る。〔王獻之、桃葉歌〕但渡無二所苦一、我自來迎接。

【來宣】190 セン 來つてあまねく事を治める。來旬(160)を見よ。一說に、きたり布く。〔詩、大雅、江漢〕王命二召虎一、來旬來宣。〔箋〕宣、徧也。

【來戰】191 セン 來り戰ふ。〔日本政記、後醍醐天皇〕延元二年、義治得レ兵來戰。

【來遷】192 セン 來りうつる。〔張衡、南都賦〕夫南陽者、眞所謂漢之舊都也、遠世、則劉后廿二厥龍醢一、視魯縣一而來遷。

【來蘇】193 ソ ❶仁者が來り、人民が其の德に賴つて再生の思ひをすること。〔書、仲虺之誥〕葛伯仇レ餉、初征自レ葛、東征西夷怨、南征北狄怨、曰、爰獨後レ予、攸徂之民、室家相慶曰、徯二予后一、后來其蘇、民之戴レ商、厥惟舊哉。〔謝靈運、述二祖德一詩〕秦趙欣二來蘇一、燕魏遲二文軌一。〔注〕善曰、尚書曰、徯二予后一、后來其蘇、銑曰、言下皆欣二其蘇息一、以待中文軌同也。❷草の名。〔張纘、離別賦〕猶二合歡之蠲レ忿、如二來蘇之釋レ勞。

【來蘇之后】194 ライソノコウ 民の待ちまうけてゐる仁君。后は君。來蘇の❶を見よ。〔長孫無忌、進二律疏一表〕殷憂徯二來蘇之后一。

【來屬】195 ソク 來り屬する。〔日本外史、源氏前記、平氏〕且爲徇二四國一、諭以順逆一、多二來屬者一。

【來孫】196 ソン 玄孫の子。耳孫。〔爾雅、釋親〕玄孫之子爲二來孫一。〔釋名、釋親屬〕玄孫之子曰二來孫一、此在二無服之外一、其意疎遠、呼レ之乃來也。〔駢雅、釋名稱〕孫之子、一世爲二曾孫一、二世爲二玄孫一、三世爲二來孫一、一曰耳孫。

【來兌】197 ダ 來り悅ぶ。〔易、兌〕六三、來兌凶。〔注〕以二陰柔之質一、履二非二其位一、來求レ說者也、非レ正而求レ說、邪佞者也。

【來體】198 タイ ❶弓の內側に沿つたところ。弓の張つた時の形をいふ。往體(4－10073‥86)を見よ。〔周禮、考工記、弓人〕往體多、來體寡。❷子孫。〔後漢書、宦者傳論〕肌膚莫レ傳二於來體一。

【來乃】199 ダイ 勝つた勢。〔唐書、南蠻下、驃傳〕昔有二人、見二兩羊鬬一海岸、彊者則見、弱者入レ山、時人謂二之來乃一、來乃者、勝勢也。

【來到】200 トウ lai² tao⁴ 到着する。來る。

【來島】201 シマル 姓氏。〔和爾雅〕。

【來討】202 トウ 來り討つ。〔左氏、襄、八〕楚人來討。

【來單】203 タン lai² tan¹ ❶來た書付。送つて來た書類や書付。❷勤定書が來る。

【來談】204 ダン 訪ひ來て話をする。〔宋書、張暢傳〕若辭以通、可レ如二來談一。

【來致】205 チ 來らせる。呼びよせる。〔荀子、王制〕我今將レ來二致之幷一、閱之砥礪之於之朝廷。

【來聽】206 チョウ 來つて聽く。〔韓愈、盆池詩〕從レ今有レ雨君須レ記、來聽蕭蕭打二葉聲一。〔宋史、樂志十一〕于以奠二之、庶幾來聽。

【來着】207 チャク 來著に同じ。

【來著】208 ㊀きたりつく。到着。〔和漢三才圖會、兵器、鐵砲〕今日來二著江州一。㊁ lai² chê 云云してゐた。云云して居つた。

【來忠】209 三國、蜀の人。敏の子。經學に精進し、向充等と倶に大將軍姜維を贊け、維は之を德として忠を參軍とした。〔三國志、四十二〕。

【來住】210 ㊀來り住む。來宇（14）に同じ。㊁ ㋑播磨國の地名。〔大日本地名辭書〕。㋺伊豫國の地名。

【來寵】211 新しく寵を受けた者。〔後漢書、鄧隲傳論〕來寵方授、地既害レ之。〔注〕後來寵者、方欲レ授二之要職一也、而先代權臣、見居二其地一、必須二除レ舊方得一レ授レ新、是地既害レ之也。

【來抵】212 來り至る。〔漢書、天文志〕辰星來二抵太白一。

【來庭】213 諸侯が朝廷に來て天子に謁見する。歸順する。〔詩、大雅、常武〕四方既平、徐方來庭。〔傳〕來二王庭一也。〔漢書、敍傳下〕龍荒幕朔、莫レ不二來庭一。〔何晏、景福殿賦〕彰二天瑞之休顯一、昭二遠戎之來庭一。

【來朝】214 ㊀諸侯が天子の朝廷に來る。入朝。〔詩、小雅、采菽〕君子來朝、何錫二予之一。〔春秋、襄二十一〕曹伯來朝。〔史記、司馬相如傳〕是時梁孝王來朝。〔漢書、河間獻王德傳〕武帝時、獻王來朝。㊁百川があつまつて海にそそぐこと。〔沈佺期、龍池篇〕爲報寰中百川水、來二朝此地一莫二東歸一。

【來哲】215 後來の智者。〔潘岳、西征賦〕如二其禮樂一、以俟二來哲一。〔注〕向曰、至レ如二禮樂化一人、非二我能及一、以待二將來之智者一矣。〔宋書、謝靈運傳論〕請待二來哲一。

【來同】216 來つて同盟する。來て一緒になる。〔詩、魯頌、閟宮〕淮夷來同、莫レ不二率從一。〔箋〕來同、來同盟也。〔干寶、晉紀總論〕江湘來同。

【來特】217 アメリカ飛行界の先驅者。弟と共に飛行機の研究をして、其の完成に努力した。Wright の音譯。

【來頓】218 ヨーロツパ西部の都邑。交通上の要點。來丁。Leiden の音譯。

【來頓瓶】219 實驗用蓄電器の一種。放電には放電叉を使用する。

【來入】220 來臨（286）に同じ。〔十輪經〕諸來入者、悉燒然。

【來年】221 次にきたるべき歲。あくるとし。次年。翌年。來歲。來茲。〔禮、月令〕天子乃祈二來年于天宗一。〔孟子、滕文公下〕何待二來年一。〔戰國、趙策〕王又以二其力之所一レ不レ能レ攻以資レ之、是助二秦自攻一也、來年秦復攻レ王、王無二以救一矣。〔莊子、則陽〕予來年變レ齊。〔朱熹、勸學文〕勿レ謂今年不レ學有二來年一。

【來派】222 lai² p'ai⁴ 前兆。前からの表示。

【來拜】223 來り拜する。〔梁書、沈約傳〕范雲等二十餘人、咸來致拜。

【來苺】224 藥草の名。〔本草、津草〕釋名、勒草、葛勒蔓、來苺草、時珍曰、此草莖有二細刺一、善勒二人膚一、故名二勒草一、訛爲二津草一、又訛爲二來苺一。

【來芳】225 將來のほまれ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕來芳可レ述、往駕弗レ援、嗚呼哀哉。〔注〕濟曰、芳塵將來、有レ足二紀述一、靈駕既往、不レ可二攀援一也。

【來保】226 清、滿洲正白旗人。姓は喜塔臘氏。字は學圃。謚は文端。眉目秀麗で、騎射弋獵を善くす。〔清史稿、三百八〕・〔清史列傳、十五〕・〔國朝耆獻類徵、十四〕。

【來訪】227 來りおとづれる。來訊。〔白居易、張常侍相訪詩〕忽聞車馬客、來訪蓬蒿門。〔張喬、再題二敬亭清越上人山房一詩〕重來訪二惠休一。

【來報】228 ㊀來り知らせる。〔異苑〕故來謁報、三載勿レ言、富貴至極。㊁來世のむくい。〔沈約、郊居賦〕豈期二心於來報一。

【來泊】229 來り碇泊する。〔國史略、應神天皇〕會有二新羅貢使來泊一焉、一旦失レ火、延二燒所レ作船五百艘一。

【來犯】230 來り犯す。〔賴山陽、下二筑後河一過二菊池正觀公戰處一感而有レ作詩〕大擧來犯彼何人、誓剪二滅之一報二天子一。

【來蕃】231 清、蕭山の人。字は成夫、又、北沙。詩古文詞を善くし、六書に精通す。〔國朝耆獻類徵、四百七十二〕・〔國朝書人輯略、一〕。

【來尾】232 石見國の地名。

【來稟】233 申越しの書きつけ。〔福惠全書、筮仕部、待接役〕不レ必拆二其來稟一。

【來賓】234 ㊀お客として來る。又、其の人。來客。〔禮、月令〕鴻鴈來賓。〔管子、宙合〕王施而無レ私、則海內來賓矣。〔墨子、非攻下〕泰顚來賓。〔班固、東都賦〕奔走而來賓。㊁縣名。㋑唐、置く。漢の潭中縣の地。今、廣西省馬平縣の南。〔清史稿、地理志〕廣西、柳州府、縣七、來賓。㋺明の僧。豐城の遼、置く。故治は滿洲遼寧省綏中縣の北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、廣寧前屯衞〕來遠廢縣、今衞治、唐史、貞觀十年、以二烏突汗部落一置二威州於營州境一、後改二瑞州一、又置二來遠縣一、爲二州治一、後廢、契丹改置二來賓縣一。

【來使】235 人から寄せて來た音信。來信。〔運步色葉集〕來使。

【來敏】236 蜀漢の人。豔の子。字は敬達。亂を避けて蜀に入り、劉璋の賓客となる。左氏春秋に通じ、尤も倉雅訓詁に精しい。後、光祿大夫となつたが、言動節なきを以て屢〻貶せらる。〔三國志、四十二〕。

【來附】237 來り屬する。歸順する。〔王褒、四子講德論〕懽忻來附。〔孔子家語、王言解〕近者悅服、遠者來附、政之致也。

【來赴】238 來り告げる。赴は死を告げること。〔左氏、襄、二十八〕癸巳、天王崩、未二來赴一、亦未レ書、禮也。〔注〕嫌二時已聞一レ喪當レ書、故發二例也。

【來婦】239 よめ。嫁。〔儀禮、士昏禮〕婦執二笲棗一、祇帥二婦以入祇告一、稱二婦之姓一、曰二某氏來婦一。〔禮、曾子問〕三月而廟見、稱二來婦一也。〔疏〕舅姑亡者、婦入三月之後、而於二廟中一、以レ禮見二於舅姑一、其祇辭告二神稱一レ來婦一、〔韓詩外傳、二〕三月而廟見、稱二來婦一也。

【來富】240 富を齎らす。又、その人。祝誦の語。商家の召使など、名として屢〻用ひられた。〔通俗編、祝誦、來富〕北史、宇之護母、作二書與一レ護、有下汝叔遣二奴來富一迎上汝之語上、按、今商賈家僮僕、每有二此等名號一、流風已久遠矣、宋書言、宰相蒼頭呼二宜祿一、類レ此。

【來服】241 來り服從する。〔左氏、襄、二十七〕夫諸侯望二信於楚一也、是以來服。〔國語、齊語〕荊州諸侯、莫レ不二來服一。〔戰國、齊策〕東西南北、莫二敢不一來服一。

【來復】242 ㊀きたりかへる。かへり來る。〔易、復〕復亨。云云、出入无レ疾、朋來无レ咎、反二復其道一、七日來復。㊁明、三原の人。字は陽仲（陽伯）。萬曆の進士。官は江西右布政使。書畫に巧。著に逃存詩集がある。〔續表忠記、六〕・〔明畫錄、四〕・〔列朝詩集小傳、丁下〕。㊂明の僧。豐城の人。字は見心。號は蒲菴。少くして出家し、內典に明通す。又、儒術に通じ、詩文を善くし、元の時、虞集・歐陽玄諸人と交游す。明初、高僧を以て召されて京に至り、宗泐と名を齊しくす。著に蒲菴集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十〕・〔明書、一百六十〕・〔列朝詩集小傳、閏〕。

【來復鎗】243 lai² fu⁴ ch'iang¹ 銃腔內に螺旋のある銃。モーゼル銃などはこの例である。

【來復線】244 lai² fu⁴ hsien⁴ 銃や砲の腔內の螺旋をいふ。

【來復堂】245 明、曾維綸（5—14299‥159）の室名。

【來復鋪】246 地名。四川省慶符縣の西北。來附の廢縣をいふ。〔慶符縣志〕來附廢縣、在二西北十五里一、今爲二來復鋪一、謂レ附爲レ復也。

【來物】247 未來のものごと。〔後漢書、方術傳序〕幽二贊於神明一、遂知二來物一。

【來文】248 ㊀來る時の證明書。連二來文一を見よ。㊁外國から送つて來た表文をいふ。〔華夷譯語〕。㊂lai² wen² 來狀（151）に同じ。

【來文處】249 lai² wen² ch'u⁴ 受付所。

【連二來文一】250 關所通行者が往復とも證明書を必要とすること。還る時は來たときの證明書を提出して、還る時の證明を請ふ。之を連二來文一といふ。〔關市令、義解〕其過所、官司檢勘聽レ過、其欲レ還者、連二來文一。〔注〕謂レ連二來文一者、假有下行人更欲レ還二京國一者上、皆將二來時過所一而請二還時過所一、故云レ連二來文一也。

【來聘】251 ㊀來り聘問する。來享。〔春秋、隱七〕齊侯使二其弟年來聘一。〔杜注〕諸聘皆使下卿執二玉帛一以相存問上。㊁禮を厚くして人を招く。〔史記、孔子世家〕今楚大國也、來聘二孔子一、孔子用二

於楚一則陳蔡用レ事大夫危矣。

【來辟】252 ライヘキ 來王(271)に同じ。辟はきみ。〔詩、商頌、殷武〕歲事來辟、勿レ予二禍適一。〔傳〕辟、君。〔箋〕來辟、猶二來王一也、云云、以二歲時一來、朝二覲於我殷王一者、勿三罪過與二之禍適一。〔後漢書、張衡傳〕論二六經一以俟二來辟一。

【來暮】253 ライボ 後漢の廉范の德をたたへた語。此の人がもつと早く來てくれればよかつた、來ることがおそいとの意。〔後漢書、廉范傳〕遷二蜀郡太守一。舊制禁二民夜作一以防二火災一、范毀二削先令一、但嚴使レ儲レ水而已、百姓爲レ便、歌レ之曰、廉叔度、來何暮、不レ禁レ火、民安作、平生無レ襦、今五絝。

【來峯】254 ライホウ 明、道泰(**11**－**39010**‥300)の字。

【來鳳】255 ライホウ ㊀縣名。㋑唐、置く。故治は四川省富順縣の東。㋺清、置く。もとの蠻地。清初に、散毛土司とした。今、湖北省咸豐縣の東南。〔清史稿、地理志〕湖北、施南府、縣六、來鳳。㊁字號。㋑明、崔桐(**4**－**8178**‥142)の字。㋺明、章儀(**8**－**25761**‥30)の字。

【來牟】256 ライボウ 來と牟。來は小麥。牟は大麥。來麰。〔詩、周頌、思文〕貽二我來牟一、帝命率育。〔傳〕牟、麥。〔集傳〕來、小麥、牟、大麥也。

【來麰】257 ライボウ 來牟に同じ。〔說文〕來、周所レ受瑞麥、麥麰也。〔段注〕詩正義、此句作三周受二來牟一也。〔徐鉉、進雪詩〕潤逐二麳麰一鋪二綠野一、暖隨二杯酒一上二朱顏一。

【來奔】258 ライホン 逃げて來る。奔とは、故國を出奔すること。來とは、其の當事國(春秋では魯)へ來ること。來犇。〔春秋、襄、六〕夏、宋華弱來奔。〔國語、魯語上〕以二其寶一來奔。〔注〕來奔、奔レ魯也。〔國語、晉語八〕秦后子來奔。

【來犇】259 ライホン 逃げて來る。來奔に同じ。〔史記、吳太伯世家〕自レ齊來二犇吳一。

【來命】260 ライメイ 來り命ずる。又、來書(162)に同じ。〔魏志、臧洪傳〕重獲二來命一。〔應璩、與二滿公琰一書〕適欲レ遣レ書、會レ承二來命一。

【來問】261 ライモン 來りたづねる。〔杜甫、陪二鄭廣文一遊二何將軍山林一詩〕詞賦工無レ益、山林跡未レ賒、盡捻二書籍一賣、來問二爾東家一。

【來喩】262 ライユ 來りさとす。〔劉孝綽、酬二陸長史倕一詩〕來喩勖二雕金一。

【來羅】263 ライラ 樂府倚歌の名。其の句中の語から取つて名づけた。〔樂府詩集、淸商曲辭、西曲歌、來羅〕古今樂錄曰、倚歌也。〔無名氏、來羅〕故人何怨レ新、切レ少必來レ多、此事何足レ道、聽二我歌二來羅一。

【來莅】264 ライリ 鬼神が來り臨む。神靈が天くだる。降臨。來格。〔宋史、樂志七、寧宗郊祀樂章〕穆穆來莅、洋洋如レ在。

【來龍】265 ライリョウ 方術家の語。山形の起伏の中心となる山。龍脈の起る所であるからいふ。〔管氏地理指蒙、逾宮越分〕來龍出二四勢之中一、來龍夾雜、則爲二妬忌一。〔通俗編、藝術、來龍〕賓退錄、朱文公言、雲中諸山、冀州來龍也。

【來臨】266 ライリン ㊀他人が自分の所に來ることに對する敬稱。來駕。來入。〔宋史、樂志八〕肅然來臨。㊁姓氏。〔日用重寶記〕。

【來臨川】267 コロモガハ 陸中國衣川の別字。

【來歷】268 ライレキ ㊀過ぎこし方の道すぢ。閱歷。經歷。〔滄浪詩話、詩辯〕用レ字必有二來歷一。〔福惠全書、筮仕部、募家丁〕載二明籍貫人氏並來歷一。㊁後漢の人。歆の孫。字は伯珍。官は安帝の時、太僕。皇太子が廢せられて濟陰王となるや、鴻都門に詣つて其の過無きを證し、帝の怒に觸れて免官せらる。順帝が卽位するに及んで、車騎將軍大鴻臚となる。〔後漢書、四十五〕。

【來路】269 lai² lu⁴ ㊀來歷。㊁收入。㊂商品の仕入先。

【來路貨】270 lai² lu⁴ huo⁴ 他の土地から來た品。舶來品。上等品。

【來王】271 ライワウ 四方の夷國の王が新に位に立つ每に、中國に來て天子に見えること。又、夷狄が朝廷になつき來る。來辟。〔書、大禹謨〕無レ怠無レ荒、四夷來王。〔傳〕四夷歸二往之一。〔蔡傳〕四夷之遠、莫レ不二歸往一。〔詩、商頌、殷武〕莫三敢不二來王一。〔箋〕世見曰二來王一。〔國語、周語上〕犬戎氏以二其職一來王。〔注〕以二其職一、謂下其嗣子以二其貴珤一來見上王也。〔曹植、責レ躬詩〕荒服來王。

【來往】272 ライワウ ㊀行つたりきたり。ゆきき。往來。往復。往還。又、行く者と來る者。〔宋玉、神女賦〕精交接、以來往兮。〔潘岳、西征賦〕垂レ餌出入、挺レ叉來往。〔劉長卿、喜下鮑禪師自二龍山一至上詩〕杖錫閑來往、無心到處禪。〔裴迪、孟城坳詩〕古城非二疇昔一、今人自來往。〔儲光羲、寄二孫山人一詩〕借問故園隱君子、時時來往住二人閒一。㊁lai² wang³ ㋑交際。㋺取引き。

【來往使喚】273 ライワウシクワン 使ひあるきをする。〔紅樓夢、三回〕來往使喚的小丫頭。

【來雨軒】274 ライウケン 清、莫晉(**9**－**31078**‥42)の室名。

【來雨樓】275 ライウロウ 清、周厚堉(**2**－**3441**‥658)の室名。

【來遠堂】276 ライヱンダウ 清、卞永吉(**2**－**2778**‥28)の室名。

【來遠鎭】277 ライヱンチン 鎭の名。㊀安徽省壽縣の西南。〔資治通鑑、後周紀〕(世宗、顯德三年)李穀攻二壽州一、久不レ克、唐劉彥貞引レ兵救レ之、至二來遠鎭一、距二壽州一二百里。〔注〕九域志、壽州安豐縣有二來遠鎭一。㊁金、置く。今、河北省冀縣の境。

【來鶴堂】278 ライカクダウ 室名。㊀清、于宗瑛(**1**－**252**‥127)の室名。㊁清、費錫章(**10**－**36717**‥96)の室名。

【來鶴亭】279 ライカクテイ 元、呂誠(**2**－**3386**‥101)の室名。

【來鶴亭詩】280 ライカクテイシ 書名。八卷。補遺一卷。元、呂誠撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【來鶴樓】281 ライカクロウ 明、陳所蘊(**11**－**41698**‥993)の室名。

【來化鎭】282 ライクワチン 鎭の名。陝西省渭南縣の東北。東は大荔に連なり、北は蒲城に接する。舊名は素化鎭。

【來賢堂】283 ライケンダウ 清、顧錫祉(**12**－**43689**‥304)の室名。

【來儼然】283' ライゲンゼン 明、三原の人。字は望之。萬曆の進士。官は兵部主事。著に自愉堂集がある。〔四庫提要、一百七十九〕。

【來護兒】284 ライゴジ 隋、江都の人。字は崇善。賀若弼と交はる。楊素に從つて高智慧を浙江に平げ、後、師を帥ゐて高麗を破る。官は左翊衞大將軍。封は榮國公。江都の難に宇文化に殺さる。〔隋書、六十四〕・〔北史、七十六〕。

【來子珣】285 ライシジユン 唐、萬年の人。永昌の初、左臺監察御史となる。武后の寵を得て、姓を武、字を家臣と賜はり、游擊將軍となつたが、後、愛州に流謫せられて卒す。〔舊唐書、一百八十六〕・〔唐書、二百九〕。

【來之邵】286 ライシセウ 宋、咸平の人。字は祖德。官は哲宗の時、殿中侍御史。資性奸譎。後、蔡州の長官となつて卒す。〔宋史、三百五十五〕・〔宋史新編、一百十九〕・〔東都事略、九十九〕・〔宋元學案、九十六〕。

【來斯行】287 ライシカウ 明、蕭山の人。字は道之。萬曆の進士。白蓮教の反を鎭めて功あり。官は福建右布政使。著に經史典奧がある。〔明史、二百五十六〕。

【來集之】288 ライシフシ 明、浙江蕭山の人。字は元成。號は倘湖樵人。崇禎の進士。安徽の推官に除せられ、兵部主事に遷る。作る所の雜劇六種の中、碧紗籠・女紅紗・挑燈劇は今に存してゐる。〔明詩紀事、辛、二十二〕。

【來相如】289 ライシヤウジヨ 明、朱多炡(**6**－**14424**‥904)の變姓名。

【來嚼鐵】290 ライシヤクテツ 唐の來瑱の綽名。嚼鐵は鐵をもかみくだく意で、武勇の勝れた者の形容。〔唐書、來瑱傳〕安祿山反、云云、賊使二降將畢思琛招一レ之、父故將也、拜二城下一泣且弔、瑱不レ應、前後俘殺甚衆、賊懼、目爲二來嚼鐵一。

【來俊臣】291 ライシユンシン 唐、萬年の人。官は天授中、御史中丞。後、謀反して誅せられた。〔舊唐書、一百八十六上〕・〔唐書、二百九〕。

【來初眞】292 ライシヨシン 後魏、代の人。道武帝に從つて、叱候山に避難し、創業に功あり。後、後將軍武原侯となつた。〔魏書、三十〕・〔北史、二十五〕。

【來汝賢】292' ライジヨケン 明、蕭山の人。字は子禹。嘉靖の進士。官は禮部主事に至る。著に菲泉存稾がある。〔國朝獻徵錄、三十五〕・〔本朝分省人物攷、五十一〕。

【來諗居】293 ライシンキヨ 清、蔡蓁春(**9**－**31818**‥197)の室名。

【來宗道】294 ライソウダウ 明、蕭山の人。萬曆の進士。

官は太子太保、兼內閣大學士。機務に預つたが、後、事に坐し、免ぜられて庶民となる。〔明史、三百六〕・〔萬斯同明史、三百五十四〕・〔明史稿、二百二十五〕。

【來大千】295 ライダイセン 後魏の人。初眞の子。謚は莊。騎射を善くす。官は永興中、內幢將。太武帝の時、常侍。屢〻戰功を立て、盧陵公の爵を賜はる。後、吐京胡の反に都將として之を討平す。〔魏書、三十〕・〔北史、二十五〕。

【來知德】296 ライチトク 明、梁山の人。字は矣鮮。嘉靖年間、鄉に擧げられ、萬曆年間に、翰林待詔を授けられたが就かず。學は致知を以て本とし、尤も易に深い。著に周易集注・省覺錄・省事錄・瞿塘日錄・理學辨疑等がある。〔明史、二百八十三〕・〔萬斯同明史、三百八十五〕・〔明史稿、二百六十五〕。

【來南錄】297 ライナンロク 書名。一卷。唐、李翺撰。李翺の南中國紀行文で、中國紀行文集の嚆矢といふ。〔五朝小說、第十二冊〕。

【來比錫】298 ライプチヒ 地名。ドイツ伯林の西南にあり、ライプチヒ大學の所在地。印刷業が盛である。Leipzig の音譯。

【來不及】299 lai² pu chi² 間に合はない。時機を失つて役に立たない。

【來秉衡】300 ライヘイカウ 明、洛陽の人。萬曆の擧人。李自成の叛亂に際し、賊將劉宗敏に執へられて殺さる。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【來夢兒】301 ライボウジ 隋の煬帝の侍兒、韓俊娥の綽名。俊娥が按摩すれば帝は必ずよく眠れたことからいふ。〔南部烟花記〕隋煬帝侍兒韓俊娥、帝每レ就レ枕、令四韓搖二動振三聳支節一、乃得二甘寢一、因呼爲二來夢兒一。

【來喀古士】303 リコルゴス 西紀前八〇〇年頃のスパルタの立法者で、且つ政治家。尙武的教育法を主唱した。Lycurgus の音譯。

【來鶴山房】304 ライカクサンバウ 清、樊鎭(**6－15414**··58)の室名。

【來比利亞】305 リベリヤ 國の名。西アフリカ、ニグロ共和國。米國の黑人奴隸解放によつて建設せられた國。首府はモンロヴイヤ。Liberia の音譯。

【來不レ知レ去】306 ライハキヨヲシラズ 來るときは去るときのことを知らない。物の半面は知り得ないこと。〔列子、天瑞〕故生不レ知レ死、死不レ知レ生、來不レ知レ去、去不レ知レ來。壞與二不壞一吾何容レ心哉。〔注〕生之不レ知レ死、猶二死之不一レ知レ生、故當二其成一也、莫レ知二其毀一、及二其毀一也、亦何知二其成一、此去來之見驗、成敗之明徵、而我皆卽二之情一無二彼此一、何處容二其心一乎。

【來布尼茲】307 ライプニツツ ドイツの哲學・數學の學者で、而も政治家。單子論を說き、微分積分學を創始した。Leibniz の音譯。

【來來往往】308 lai² lai² wang² wang³ 始終交際すること。

「の室名。

【來鷺草堂】309 ライロサウダウ 清、吳滔(**2－3365**··285)

【來和天尊】310 ライワテンソン 宋の楊礪が夢に見たといふ仙人の名。〔宋史、楊礪傳〕初廣順中、周世宗節二制澶州一、礪贄レ文見レ之、館接數日、世宗入朝、礪處二僧舍一、夢二古衣冠者一曰、汝能從乎、礪隨往覲二宮衞一、若レ非二人間一、殿上王者秉レ珪南向、總三十餘、礪升謁レ之、最上者、前有レ按、置レ簿錄二人姓名一、礪見二己名居一レ首、因請レ示二休咎一、王者曰、我非二汝師一、指二一人一曰、此來和天尊、異日汝主也、當レ問レ之、其人笑曰、此去二四十年一、汝功成、予名亦顯矣、礪再拜寤而志レ之、礪初名勵、以二籍作一レ礪、遂改レ之、至レ是受レ命、謁二見藩府一、歸謂レ子曰、吾今見二襄王一、儀貌卽所レ夢來和天尊也。

【知レ來者逆】311 ライヲシルモノハギヤクナリ 未來を知ることは逆なことである。〔易、說卦〕數レ往者順、知レ來者逆、是故易逆數也。

【來遲飮三杯】312 キタルコトオソキハノムコトサンバイ 末席に居て酒の來ることが遲い者には續けて三杯を飮ませる。〔通俗編、飮食、來遲飮三杯〕石林燕語、酒律謂、酒巡一匝、末座者連飮三杯、爲二藍尾一、蓋末座遠、酒行常到遲、故連飮以慰レ之、按、此是酒來遲、非レ謂二人之來遲一也。

【欲レ知レ來者察レ往】313 ライヲシラントホツセバワウヲサツセヨ 未來の事を知るには過去の事に考へよ。古きをたづねて新しきを知る。〔荀子、非相〕欲レ觀二千歲一、則數二今日一、欲レ知二億萬一、則審二一二一。〔鶡冠子、近迭〕欲レ知レ來者察レ往、欲レ知レ古者察レ今。

【侇】582 〔集韻〕延知切 イ 一 i² 支

❶**ひとしい**。〔正字通〕侇、儕也、等也。❷**つらねる**。ならべる。〔集韻〕侇、尸也。〔字彙〕侇、尸也。〔儀禮、士喪禮〕士擧、男女奉レ尸侇二于堂一。〔注〕侇之言、尸也、云云、今文、侇作レ夷。〔胡培翬正義〕鄭君注レ禮、侇與レ夷皆爲二尸陳之義一。❸**うつる**。〔集韻〕侇、侇之言、移也。❹夷(**3－5852**)に通ず。〔正字通〕侇、與レ夷通。

【侇牀】1 イシヤウ 尸を置く牀をいふ。〔儀禮、既夕禮記〕侇牀饌二于階間一。〔注〕侇之言、尸也。

【侈】583

㊀シ 〔集韻〕敞尒切 イ ch'ih³ 紙

㊁イ 〔字彙補〕以支切 支

㊂シヤ セ 〔字彙補〕昌者切 馬

小篆

㊀❶**おごる**。㋑他をあなどり、自ら尊大にする。〔說文〕侈、掩脅也、从レ人多聲、一曰、奢泰也。〔段注〕掩者、掩二蓋其上一、脅者、脅二制其旁一、凡自多以陵レ人曰レ侈、此侈之本義也、云云、奢者、張也、泰者、滑也、凡傳云二汰侈一者、卽許書之泰字、云云、此與二上義一別、今上義廢、而此義獨行矣、三禮皆假レ移爲レ侈。〔左氏、宣、元〕於レ是晉侯侈。〔新書、道術〕反レ儉爲レ侈。㋺度をこえる。分に過ぎる。㋑を見よ。〔左氏、哀、二十七〕公患二三桓之侈一也、欲下以二諸侯一去上レ之。〔莊子、駢拇〕駢拇枝指、出二乎性一哉、而侈二於德一。〔釋文〕侈、過也。❷**おごり**。〔班固、西都賦〕窮レ泰而極レ侈。〔注〕銑曰、至三窮二極奢侈一。❸**ほしいまま。みだら**。〔左氏、莊、二十四〕侈、惡之大也。〔孟子、梁惠王上〕放辟邪侈。〔荀子、正論〕然而暴國獨侈、安能誅レ之。〔注〕侈、謂二奢汰放縱一。〔呂覽、侈樂〕故樂愈侈、而民愈鬱。〔注〕侈、淫。❹**大きい。ひろい**。㢊(**4－9368**)に通ず。〔說文通訓定聲〕侈、叚借爲レ㢊。〔集韻〕侈、一曰、大也。〔公羊、成、十〕婦人以二衆多一爲レ侈也。〔注〕侈、猶レ大也。〔國語、吳語〕已侈大哉。〔注〕侈、猶レ廣也。〔淮南子、本經訓〕侈二苑囿之大一。〔注〕侈、廣也。❺**おほい**。多(**3－5756**)に通ず。〔爾雅、釋言〕庶、侈也。〔注〕侈、多也。〔書、周官〕祿不レ期レ侈。〔國語、楚語上〕不レ陳二庶侈一。〔注〕侈、猶レ多也。❻**多く費す**。〔韓非子、解老〕多費謂二之侈一。❼**はる。はりひろげる**。移(**10－34235**)に通ず。〔說文通訓定聲〕侈、叚借爲レ移。〔詩、小雅、巷伯〕哆兮侈兮。〔疏〕侈者、因レ物而大レ之名。❽**鐘の口の廣く開くこと**。又、其の鐘から出る聲。餘韻のない音。侈聲(19)を見よ。〔周禮、考工記、梟氏〕侈則柞。〔疏〕由二鐘口侈弇一、所レ興之聲、亦有レ柞有レ鬱。〔禮、少儀、工依二於法一游二於說一注〕侈弇之所二由興一有レ說。〔疏〕侈謂二鐘口寬大一。❾**はなれる**。誃(**10－35470**)に通ず。〔荀子、王霸〕四方之國、有二侈離之德一。〔集解〕王念孫曰、侈亦離也、爾雅曰、誃、離也、說文曰、誃離、別也、作レ侈者、借字耳。❿或は奓(**3－5920**)に作る。〔集韻〕侈、或作レ奓。〔張衡、西京賦、心奓體忲、注〕善曰、聲類曰、奓、侈字也。⓫古は[illegible](**1－615**)に作る。

人部〔六畫〕來侇侈

〔集韻〕侈、古作レ侶。㊁はる。移(8－25045)に通ず。〔儀禮、少牢饋食禮〕主婦被錫、衣侈袂。〔釋文〕侈、本又作レ移。㊂大きい。〔公羊、僖、二十六〕其言至嶲、弗レ及何、侈也。〔注〕侈、猶レ大也。

解字 形聲會意。人に從ひ、多は聲、又多は自ら多とする意にとく。形聲で會意を含む。人自ら多として人を陵ぐの意。一に奢泰の意とする。

【侈遊】1 おごり遊ぶ。〔晏子、諫、下〕豐樂侈遊、兼傲ニ生死一。

【侈弇】2 ㊀侈と弇。侈は鐘の口の廣く開くこと、弇は其の口の小さいこと。〔周禮、考工記、鳧氏〕侈弇之所ニ由興一、有レ說。〔禮、少儀、工依ニ於法一游ニ於說一、注〕侈弇之所ニ由興一、有レ說。〔疏〕侈、謂ニ鐘口寬大一、弇、謂ニ鐘口內小一。㊁增減。多少。〔管子、輕重甲〕不レ得レ爲ニ侈弇一焉。〔纂詁〕侈、多也、弇、猶レ少也。

【侈家】3 おごつて居る大夫。家は卿大夫をいふ。〔左氏、襄、三十一〕又與ニ季孫一語ニ晉故一、季孫不レ從、及ニ趙文子卒一、晉公室卑、政在ニ侈家一、韓宣子爲レ政、不レ能レ圖ニ諸侯一。

【侈傲】4 おごる。おごり。〔史記、周紀〕王行ニ暴虐侈傲一、國人謗レ王。

【侈僞】5 外見を飾りつくろふこと。〔周禮、地官、大司徒、以ニ五禮一防ニ萬民之僞一、注〕禮所下以節ニ止民之侈僞一、使中其行得上レ中。〔徐積、詩〕君不レ見老莊有ニ深意一、萬物之中有ニ侈僞一。

【侈虐】6 大いにしへたげる。〔後漢書、孫程傳〕扇ニ動內外一、競爲ニ侈虐一。

【侈闊】7 大きくひろい。〔劉歆、遂初賦〕惟太階之侈闊兮、機衡爲レ之難レ運。

【侈卿】8 權力の大きい卿。〔國語、周語中〕今郤至在ニ七人之下一、而欲レ上レ之、是求レ蓋ニ七人一也、其亦有ニ七怨一、怨在ニ小醜一、猶不レ可レ堪、而況在ニ侈卿一乎、其何以待レ之。

【侈驕】9 おごる。〔國語、鄭語〕其冢君侈驕。

【侈儉】10 奢侈と儉約。〔韓非子、難三〕然而能爲ニ五霸冠一者、知ニ侈儉之地一也。〔韓非子、顯學〕今孝戾侈儉、俱在ニ儒墨一、而上兼レ禮之。〔管子、乘馬〕辨ニ於黃金之理一、則知ニ侈儉一。

【侈言】11 大言壯語。〔左思、三都賦序〕侈言無レ驗、雖レ麗非レ經。〔注〕濟曰、侈、大也。

【侈口】12 おほくち。大きい口。〔漢書、王莽傳中〕莽爲レ人侈口。

【侈國】13 おごつて居る國。〔管子、八觀〕本資少末用多者、侈國之俗也。〔說苑、反質〕諸侯侈國之不レ服者十有二。

【侈侈】14 盛なさま。〔左思、蜀都賦〕侈侈隆富、卓鄭埒レ名。〔注〕濟曰、侈侈、盛貌。

【侈哆】15 立派なさま。〔路史〕龍顏侈哆、四目靈光。

【侈奢】16 おごる。おごり。奢侈。〔南史、齊高帝紀〕以下長ニ侈奢一之源上、命打ニ破之一。

【侈飾】17 おごりかざること。奢侈のよそほひ。〔後漢書、馬融傳〕居宇器服、多存ニ侈飾一。

【侈心】18 おごる心。〔班固、東都賦〕懼四其侈心之將三萌而怠二於東作一。

【侈聲】19 せまりつまつた聲。餘韻のない音。〔周禮、春官、典同〕凡聲、高聲硍、正聲緩、下聲肆、陂聲散、險聲斂、達聲贏、微聲韽、回聲衍、侈聲筰、弇聲鬱、薄聲甄、厚聲石。〔注〕杜子春、讀硍爲ニ鏗鎗之鏗一、云云、筰、讀爲ニ行扈唶唶之唶一、玄謂、云云、侈、謂ニ中央約一也、侈則聲迫筰、出去疾也。〔疏〕云下侈謂ニ中央約一也上者、此非ニ偏侈一、謂、鐘口揔寬、則聲迫筰、出去疾、由ニ口寬一故也。

【侈墮】20 おごりなまける。〔韓非子、顯學〕今上徵ニ斂於富人一、以布ニ施於貧家一、是奪ニ力儉一而與ニ侈墮一也。

【侈忲】21 おごる。侈泰(23)に同じ。〔晉書、何曾傳〕劉毅等數劾ニ奏曾侈忲無一レ度。

【侈汰】22 侈泰に同じ。〔李德裕、丹扆六箴〕魏叡侈汰、淩霄作レ宮。

【侈泰】23 おごる。おごり。侈忲。侈汰。〔韓非子、六反〕夫富家之愛子、財貨足レ用、財貨足レ用則輕用、輕用則侈泰。〔管子、八觀〕儉ニ財用一、禁ニ侈泰一。

【侈大】24 ゆたかなさま。廣大。〔國語、吳語〕伯父秉レ德、已侈大哉。〔漢書、霍光傳〕太夫人顯改ニ光時所レ造塋制一、而侈ニ大之一。

【侈端】25 おごりのはじめ。〔唐書、姜行本傳〕恐ニ寖啓ニ侈端一、勸レ帝斥レ之。

【侈長】26 奢侈でむだが多い。大げさにする。〔後漢書、宋均傳〕禁ニ人喪葬一、不レ得ニ侈長一。

【侈鬪】27 大いにたたかふ。〔唐書、盧簡方傳〕大開ニ屯田一、練レ兵侈鬪、沙陀畏附。

【侈放】28 おごつて我がままなこと。〔孟子、滕文公上〕放辟邪侈、無レ不レ爲已。

【侈費】29 ch'in³ fei⁴ 無駄費ひ。浪費。おごり。

【侈靡】30 ㊀身分に過ぎたおごり。〔戰國、楚策〕莊辛謂ニ楚襄王一曰、君王左ニ州侯一、右ニ夏侯一、輦從ニ鄢陵君與ニ壽陵君一、專ニ淫逸侈靡一、不レ顧ニ國政一、郢都必危矣。〔管子、侈靡〕問曰、興ニ時化一、若何、莫レ善ニ於侈靡一。〔晏子、雜、下〕恐ニ其侈靡而不レ顧ニ其行一也。〔史記、司馬相如傳〕言ニ淫樂一而顯ニ侈靡一。〔說苑、反質〕秦始皇既兼ニ天下一、大侈靡。〔張衡、西京賦〕侈靡踰ニ乎至尊一。㊁管子の篇名。

【侈富】31 大いにし富ます。〔周書、武帝紀上〕豈惟尊ニ貴其身一、侈ニ富其位一。

【侈服】32 華美な服飾。〔書、泰誓上〕陂池侈服。〔傳〕侈、謂ニ服飾過一レ制。

【侈物】33 華美な物。贅澤品。〔說苑、脩文〕其民雖レ有ニ餘財侈物一、而無ニ仁義功德一。

【侈袂】34 廣いたもと。又、袂を廣くする。侈は又、移に作り、音は移。〔儀禮、少牢饋食禮〕主婦被錫、衣侈袂、薦レ自ニ東房一。〔注〕亦衣ニ綃衣一而侈ニ其袂一耳、侈者、蓋半ニ士妻之袂一以益レ之、衣三尺三寸、袪尺八寸。〔校勘記〕移、唐石經・嚴本・要義・楊氏、俱作レ移、與ニ單疏疏文一合、徐本・釋文・集釋・通解・敖氏・毛本、俱作レ侈、下同、陸氏曰、侈、本又作レ移、魏氏曰、移、本又作レ侈、段玉裁云、釋文當レ云ニ移袂、本又作レ侈、後人倒レ之耳、張忠甫依ニ釋文一改レ移爲レ侈、非也、作レ移者、自是相傳古本、羣經音辨曰、移、廣也、音侈、禮、主婦人衣移レ袂、此賈昌朝本作レ移也、葉抄釋文、移袂、從レ衣、殆非也、臧庸云、移字當レ作レ袳、說文、袳、衣張也。〔禮、雜記下〕凡弁経、其衰侈袂。〔注〕侈、猶レ大也、袂之小者、二尺二寸、大者、半而益レ之、則侈袂三尺三寸。

【侈樂】35 ㊀度を過ぎてたのしむ。淫樂。〔呂覽、侈樂〕夏桀殷紂、作ニ爲侈樂一。〔管子、侈靡〕今吾君戰、則請行ニ民之所レ重、飲食者也、侈樂者也、民之所レ願也。㊁呂覽、仲夏紀の篇名。

【侈離】36 おごりはなれる。侈は誃に通ず。一說に、そむき離れる。はなれる。〔荀子、王霸〕四方之國、有ニ侈離之德一則必滅。〔注〕侈、奢侈、離、乖離、皆謂レ不レ遵ニ法度一。〔集解〕王念孫曰、侈亦離也、爾雅曰、誃、離也、說文曰、誃、離別也、作レ侈者、借字耳。

【侈麗】37 大きくうるはしい。〔漢書、藝文志〕枚乘・司馬相如、下及ニ揚子雲一、競爲ニ侈麗閎衍之詞一。〔邵長蘅、夜遊ニ孤山一記〕妖冶歌舞、亭榭之侈麗。

【侈論】38 贅論。餘計な議論。〔柳宗元、答ニ劉禹錫天論一書〕無ニ羨言侈論一、以益ニ其枝葉一。

【侈衣美食】39 華美な着物と美味の食物。〔呂覽、精通〕今夫攻者、砥ニ厲五兵一、侈衣美食、發且レ有レ日矣。

【⿰亻尫】584

ワウ 〔字彙〕烏光切 陽

あしなへ。不具者。尪(4－7557)・尫(2－2606)に同じ。〔正字通〕⿰亻尫、與レ尪同。〔荀子、正論〕是猶ニ傴巫跛尫一、大自以爲レ有レ知也。〔注〕尫、讀爲レ尪、癈疾之人、〔荀子、王霸〕賤レ之如レ⿰亻尫、與ニ此尫一同。〔注〕字書無ニ⿰亻尫字一、蓋當レ爲レ尪。

【侉】585

小篆

㊀クワ 〔集韻〕枯瓜切 ㄎㄨㄚ k'ua¹ 麻

㊁ケ

㊂ア 〔集韻〕安賀切 箇

㊀❶おごる。ほこる。夸(3－5854)・誇(10－35474)に同じ。〔字彙〕侉、與レ誇同。〔正字通〕侉、同レ夸。〔書、畢命〕驕淫矜侉。〔傳〕言、殷衆士、驕恣過レ

制、矜ニ其所一レ能、以自侉大。〔蔡傳〕徒以ニ服飾之美一、侉ニ之於人一。❷つかれた時の詞。〔說文〕侉、備詞也。从レ人亏聲。〔說文通訓定聲〕侉、謂ニ疲憊一之詞也。❸現河北淮南では山東人を侉子といふ。㈡苦しい時の聲。〔集韻〕侉、痛呼也。

【侉子】1 k'ua¹ tzŭ　河北及び淮南地方で山東人をいふ。

【侉大】2 クワダイ　おごりほこる。〔書、畢命、驕淫矜侉、傳〕矜ニ其所一レ能、以自侉大。

【侊】586

㈠クワウ　〔集韻〕姑黃切　陽　ㄍㄨㄤ Kuang¹

㈡クワウ　〔集韻〕姑橫切　庚

小篆

㈠㈡大きいさま。盛なさま。〔說文〕侊、小皃、从レ人光聲、國語曰、侊飯不レ及ニ壺飧一。〔段注〕小、當レ作レ大、字之誤也。〔廣韻〕侊、盛皃。〔集韻〕侊、大也。

【侊飯】1 クワウハン　盛な御馳走。字解及び䬘飯(10－35069・・9)を見よ。

【例】587

㈠レイ　〔集韻〕力制切　霽　ㄌㄧˋ li⁴

㈡レツ レチ　〔集韻〕力櫱切　屑

小篆

㈠❶たぐひ。ためし。或は例(1－819)に作る。〔集韻〕例、或作レ例。〔說文〕例、比也、从レ人㓹聲。〔史記、禮書〕臣子一例。〔晉書、刑法志〕故集ニ罪例一、以爲ニ刑名一。❷しきたり。引用典故。〔杜預、春秋左氏傳序〕發レ凡以言レ例。〔晉書、杜預傳〕法者、蓋繩墨之斷例。❸おほむね。大部分。みな。〔廣韻〕例、皆也。〔正字通〕例、類也、槩也。〔南史、劉苞傳〕家有ニ舊書一、例皆殘蠹。❹或は列(2－1901)に作る。〔集韻〕例、亦省。❺姓。〔萬姓統譜〕例、見ニ姓苑一。㈡さへぎる。列(2－1901)・迾(11－38837)に通ず。〔說文通訓定聲〕例、叚借爲レ迾。〔集韻〕迾、說文、遮也、或作レ例。〔周禮、秋官、司隸、厲禁、注〕厲、遮例也。〔釋文〕例、本又作レ列。邦たとへば。

名乘　ツネ。タダ。ミチ。トモ。

【例案】1 レイアン　法令。法案。案例。〔淸國行政法汎論、官吏法、文官仕途種類、備考〕宜下乘ニ此好機一、廢中棄現未ニ必要一之例案上。

【例益】2 レイエキ　王朝時代の制度で、小子が中男に、中男が正丁に進む等の如き、通例の事項によつて調庸の益すこと。〔主計寮式、下〕依レ例所レ進、以爲ニ例益一、中男進ニ正丁一、小子進ニ中男一、隱首括出之類。

【例假】3 li⁴ chia⁴　規則による休暇、卽ち日曜日及び政府により規定された休日。

【例價】4 レイカ　淸代、會計の便宜上、物の價格を豫定する事。〔淸會典、戶部〕凡折漕省分、均按ニ向徵何項本色一、遵照ニ例價一、刊ニ示曉諭一、照レ數徵收。

【例監】5 レイカン　例監生に同じ。〔明史、選擧志二〕入ニ國學一者、通謂ニ之監生一、擧人曰ニ擧監一、生員曰ニ貢監一、品官子弟曰ニ蔭監一、捐貲曰ニ例監一。

【例監生】6 レイカンセイ　國子監に入つて修學する人人をいふ。例貢生(13)に同じ。〔淸會典、國子監〕例監生、廩增附生及俊秀、援レ例入レ監者。〔淸會典事例、國子監〕例監、與ニ例貢一同、凡貢監生、赴レ監考到考驗後、應ニ大課一事一補レ班。

【例規】7 レイキ　例となつてゐる規則。例法。例典。

【例禁】8 レイキン　禁止法律。禁制。禁制品。〔淸會典、戶部、井田科〕凡旗地、禁ニ其私典私賣者一。〔注〕其有下隱匿不レ報者、及例禁以後典賣者、或贖後復行ニ典賣一者上、俱將ニ地畝一徹出入レ官。

【例外】9 レイグワイ　規定によらぬこと。とりのけ。破格。格外。律外。

【例月】10 レイゲツ　つきなみ。つきづき。毎月。

【例言】11 レイゲン　書物の首につけるあらましの注意書。概言。凡例。

【例貢】12 レイコウ　❶例貢生を見よ。❷邊陲駐在官、又は一定の土司等から、毎年定數の馬匹等を貢進すること。〔三代實錄、二十九〕貞觀十八年十月十三日、年中例貢、馬四疋、牛十二頭。

【例貢生】13 レイコウセイ　淸代の六堂課試の一。廩生・增生・附生、及び監生の俊秀なもので、銀米を捐納して貢生に准ぜられる者をいふ。例監生。貢生(10－36665・・37)を見よ。〔淸會典、國子監〕凡貢生之別六、曰恩貢生、曰拔貢生、曰副貢生、曰歲貢生、曰優貢生、曰例貢生。〔注〕例貢生、廩增附生及監生援レ例入レ貢者。〔淸會典事例、國子監〕曰例貢、由ニ廩增附生報捐者一、取ニ本籍文或同鄕京官結送一、由ニ俊秀監生報捐者一、取ニ本籍文結送一。

【例刻】14 レイコク　いつもどほりの時間。例時。

【例祭】15 レイサイ　月々、又は年々きめて行ふ祭。大祭、又は臨時祭に對していふ。

【例祀】16 レイシ　定例のまつり。例年の祭祀。〔國史略、欽明天皇〕帝嘗以ニ四月吉日一、祭ニ賀茂皇祖廟一、已而五穀豐穰、遂爲ニ例祀一云。

【例時】17 レイジ　❶たとへば。前に此の例ありの意。〔皇朝文獻通考、刑考〕例時、廣東駐防鑲紅旗前鋒克什布之妻。❷常の定めの時間。〔榮華物語、玉臺〕御堂の例時。

【例式】18 レイシキ　いつもの法式。〔運步色葉集〕例式。

【例日】19 レイジツ レイニチ　きまりの日。〔鎌倉年中行事〕同二十一日、依レ爲ニ例日一。

【例授】20 レイジユ　規定に從ひ封典を授けること。淸朝の制で、封爵を本人に賜はることを授といひ、曾祖父母・祖父母・父母及び妻の生存する者には封といひ、死歿したものには贈といひ、五品以上の官には誥命を以て授ける、之を誥授・誥封・誥贈といひ、六品以下には敕命を以て授ける、之を敕授・敕封・敕贈といひ、各〻定例がある。之を例授・例封・例贈といふ。〔淸會典、吏部、驗封淸吏司〕凡覃恩予封者、辨ニ其官之任與ニ其級一、列ニ其應レ封者之名氏一、存レ故而題焉(本身爲レ授、曾祖父母・祖父母・父母・及妻存者爲レ封、歿者爲レ贈)、得レ旨則給以ニ誥敕一(五品以上官授ニ誥命一、六品以下官授ニ敕命一)、凡官九品而上、予以ニ其身之階一(八品・九品官、給ニ敕命一軸一)、七品以上、逮ニ其父母及其妻一(四品・五品官、給ニ誥命二軸一、六品・七品官、給ニ敕命二軸一)、三品而上、逮ニ其祖父母一(二品・三品官、給ニ誥命三軸一)、一品、逮ニ其曾祖父母一(一品官給ニ誥命四軸一)。

【例出】21 レイシユツ　犯罪のため、他人と同列で中央政府の役人をやめさせられて地方官に轉出すること。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕例出爲ニ刺史一。

【例如】22 li⁴ ju²　例へば云云の如し。

【例證】23 レイシヨウ　例を擧げて證明すること。又、證據となる前例。〔運步色葉集〕例證。

【例進】24 レイシン　邊陲の駐在官又は土司などから毎年定數の馬匹などを貢進すること。例貢(12)の❷に同じ。〔民部省式、下〕凡五畿丹波等國、例進雜器幷榭、十月以前充進。

【例贈】25 レイソウ　例授(20)を見よ。

【例則】26 レイソク　例となつた規則。則例(2－1994・・42)に同じ。〔皇朝文獻通考、刑考〕奏載ニ入例則一。

【例損】27 レイソン　❶古、貢賦を納めるとき、定例として毎年損分を免ずることをいふ。〔北山抄、異損〕國內田爲ニ十分一、以レ得ニ七分以上一爲レ定、仍三分損是例也、若過ニ此損一、申レ官聽レ裁。❷死亡・篤疾・癈疾の調庸を全免し、老丁の調庸を共に半減し、正丁殘の調を半減し、服侍逃亡を半輸とするやうに、通例の事項によつて調庸を減損することをいふ。〔主計寮式、下〕依レ例所レ損、以爲ニ例損一。

【例損戶】28 レイソンコ　例損をなした田の戶。例損を見よ。〔主計寮式、下〕凡諸國申ニ損田一、年損戶得戶課丁、彼此同率、例損戶亦準レ之。

【例題】29 レイダイ　例として出す問題。

【例條】30 li⁴ t'iao²　條例(6－14859・・85)に同じ。

【例年】31 レイネン　としどし。いつもの年。比年。〔運步色葉集〕例年。

【例馬】32 レイバ　規定に從ひ綠營の武官に給する馬匹。〔淸會典、兵部〕綠營在レ官者、有ニ例馬一。

【例文】33 レイブン　例として揭げる文章。

【例幣】34 レイヘイ　朝廷から毎年常例として神に奉ずる幣帛。〔西宮記、九月〕十一日奉ニ幣於神祇官一、發ニ例幣一。

【例幣使】35 レイヘイシ 例幣のために差遣される勅使。〔宣順卿記〕承應二年四月四日、日光宮爲二例幣使一、油小路宰相下向。

【例封】36 レイホウ 例授(20)を見よ。

【例話】37 レイワ 例としてはなす話。たとへ話。

【例直禁簡】38 レイチヨクキンカン 法例や禁令が簡單で明かなこと。〔晉書、杜預傳〕例直易レ見、禁簡難レ犯。

【依レ例關請】39 レイニヨツテクワンセイス 一定の成例に依り、要點を書いて俸給の下賜を請求すること。〔明律、吏律、職制〕絶レ嗣無下可二承襲一者上、亦令下本人妻小依レ例關二請俸給一、養贍終上レ身。

【依レ例貼斷】40 レイニヨツテテフダンス 裁判が輕罪に失した時、後から成例に照らして補正し、其の罪を重くすること。〔明律、刑律、斷獄〕處レ重爲レ輕、其常赦所レ不レ免者、依レ例貼斷。

【昭レ例銓注】41 レイニテラシテセンチユウス 定例に照らして官吏を銓衡し名簿に記注する。〔元典章、吏部、選格〕諸犯レ贓經斷、應レ敍人員、昭レ例銓注。

【侌】588 イン 黔(12－42330)・陰(11－41691)の古字。〔說文〕黔、侌、古黔省。〔玉篇〕侌、古文陰。

【侍】589 シ ジ 〔集韻〕時吏切 ㄕˋ shih⁴ 寘 小篆

❶はべる。さぶらふ。目上の人の側近くに居る。〔六書故〕侍、陪側也。〔論語、先進〕閔子侍レ側。〔皇疏〕卑者在二尊者之側一曰レ侍也。〔孝經、開宗明誼章〕曾子侍。〔注〕侍、謂二侍坐一。〔疏〕案、古文云、曾子侍坐、故知三侍謂二侍坐一也、卑者在二尊側一曰レ侍。〔禮、曲禮上〕侍二坐于先生一。〔孔子家語、王言解〕孔子閒居、曾參侍。❷さむらひ。そばづき。めかけ。目上の人の側近く奉仕する人。〔唐書、李珏傳〕早喪レ妻、不レ置二妾侍一。❸うける。〔說文〕侍、承也、从レ人寺聲。〔廣雅、釋言〕侍、承也。❹つかふ。〔廣雅、釋詁一〕侍、使也。〔華嚴經音義、下〕侍、從也。❺したがふ。❻ちかづく。〔廣雅、釋詁三〕侍、近也。❼やしなふ。〔呂覽、異用〕以養レ疾侍レ老也。〔注〕侍、亦養也。❽臨みしらべる。司(2－3257)に通ず。〔說文通訓定聲〕侍、叚借爲二司察之司一。〔禮、喪大記〕大夫之喪、大胥侍レ之。〔注〕侍、猶レ臨也。〔疏〕侍者、臨二檢之一也。❾すすめる。〔正字通〕侍、公仲連進二牛畜・荀欣・徐越一、畜侍以二仁義一、欣侍以レ舉レ賢使レ能、越侍以レ節レ財儉レ用。注、侍、猶レ言レ勸也。❿侍生の略稱。侍生(58)を見よ。⓫まつ。待(4－10085)に通ず。〔儀禮、士昏禮〕媵侍二于戶外一。〔注〕今文、侍作レ待。⓬たのむ。恃(4－10521)に通ず。〔說文通訓定聲〕侍、叚借爲レ恃、老子河上本、爲而不レ侍。⓭寺(4－7414)に通ず。〔左氏、昭二十五〕使二侍人僚柤告一レ公。〔釋文〕侍人、本亦作二寺人一。⓮姓。〔萬姓統譜〕侍錦、清河人、正德中、福寧州訓道。[邦]❶さむらひ。北面の五位、又は六位の官人。諸司の官人。又、武士の稱。❷はべり。丁寧の意を表はす補助動詞。

[名乘] ヒト。

【侍醫】1 イジ ❶天子・王侯のおかかへ醫者。〔戰國、燕策〕侍醫夏無且、以二其所レ奉藥囊一、提二荊軻一。〔史記、倉公傳〕除爲二齊王侍醫一。〔漢書、宣帝紀〕使三女侍醫淳于衍、進レ藥殺二共哀后一。❷典藥寮の屬官。天皇御不豫の時、御脈を診驗し、醫藥を供奉することを掌る。唐名は、侍御醫。〔職原抄〕典藥寮、侍醫、唐名、侍御醫。❸宮內省の屬官。明治八年一月に置く。診候・醫藥及び宮中衞生の事を掌る勅奏任官。同十九年二月、侍醫局が設けられ、其の職員となる。〔宮內省官制、第五十三條〕侍醫。

【侍醫局】2 ジイキヨク 宮中の診候・醫藥・衞生等を掌る部局。宮內省の一局。

【侍飮】3 ジイン 目うへの人につき從つて酒をのむ。陪飮。〔禮、曲禮上〕侍二飮于長者一。

【侍衞】4 ジエイ ❶側にゐて護衞する。又、その人。〔史記、仲尼弟子傳〕自二吾得一レ由惡言不レ聞二於耳一。〔注〕集解曰、王肅曰、子路爲二孔子侍衞一、故侮慢之人、不三敢有二惡言一。〔晉書、嵆紹傳〕百官及侍衞、莫レ不二散潰一。❷官名。宋に侍衞司があり、馬・步の二軍に分れて、天子の禁兵を掌つた。清に至り、侍衞の官を置き、王公勳舊の子弟及び武進士を以て之に任じ、宿衞扈從を掌らしめた。御前侍衞・乾清門侍衞及び一二三等侍衞の諸官があり、領侍衞大臣が之を統率した。〔文獻通考、職官考、侍衞馬軍司〕馬軍都指揮使一人、以二節度使一充、副都指揮・都虞候、皆無二定員一、副都指揮使、以二觀察使以上一充、都虞候、以二防禦使以上一充、掌二騎兵之名籍及訓練之政令一。〔文獻通考、職官考、侍衞步軍司〕掌二步軍之政令一、凡出入扈衞守宿、以奉レ上、開收閱習轉補、以勵レ下、所レ設官置屬、及所レ領步軍、自二神衞一而下、左右四廂、如二馬軍司一。〔清會典事例、兵部、官制、侍衞處〕侍衞處、侍衞處三旗領侍衞內大臣六人、內大臣六人、散秩大臣無二定員一。

【侍衞處】5 ジエイシヨ 清代、侍衞に關する事務を掌つた官署。侍衞の❷を見よ。

【侍衞之官】6 ジエイノクワン 律令用語。宮中側近の官、並に皇宮警衞の官をいふ。〔令集解、選敍令〕侍衞之官、謂二侍從以上及內舍人、中務判官以上、內記、竝兵衞之類一。

【侍宴】7 ジエン 宴飮に侍る。又、宴息の時に侍る。侍燕。〔楚辭、王逸、九思、悼亂〕督萬兮侍レ宴、周邵兮負レ芻。〔漢書、董賢傳〕後不レ得二復侍一レ宴。〔吳志、孫和傳〕羣寮侍レ宴。

【侍燕】8 ジエン 侍宴に同じ。〔漢書、元帝紀〕嘗侍レ燕、從容言、陛下持レ刑太深、宜レ用二儒生一。

【侍講】9 ジカウ ❶天子、又は東宮の御前で書物を講義すること。又、其の人。侍讀。〔後漢書、和帝紀〕侍二講禁中一。〔魏志、齊王芳紀〕太傅・大將軍、及侍講者、各有レ差。〔北史、高允傳〕允曰、殿下以二臣侍講日久一、哀レ臣乞レ命耳。❷官名。㋑漢代に既にこの號はあつたが、唐に至つて始めて侍講學士を置き、宋は兼ねて侍講を置いた。元明以來、翰林院に侍講學士がある。侍講學士を見よ。㋺南北朝及び唐宋時代には諸王府にも此の官を置いた。侍讀(70)の❷を見よ。〔翰苑新書〕元和册二太子一敕文曰、侍講承レ華、師範磐石、可レ充二諸王太子侍講一。

【侍講學士】10 ジカウガクシ 官名。唐以後歷代之を置く。天子の御前で書物の講義をする役。〔文獻通考、職官考、翰林侍講學士〕漢顯宗時、張酺數侍二講於御前一、張酺侍二靈帝一、以三楊賜有二重名一、舉レ賜侍二講於華光殿中一、雖レ有二侍講之號一、而未三以名レ官、至二唐開元十三年一、始置、宋咸平二年、爲二侍講學士一、其後又有三馬宗元爲二侍講一、不レ加二別名一、但供レ職而已。〔清會典、翰林院〕侍講學士、滿州二人、漢三人。

【侍閒】11 ジカン 天子の御政務のひまな時にお側に侍る。〔漢書、季布傳〕侍レ閒、果言如二朱家指一。〔注〕師古曰、侍、侍二於天子一、閒、謂二事務之隙一。

【侍其】12 ジキ 複姓。〔萬姓統譜〕侍其、漢廣野酈食其曾孫、賜以二食其一爲レ氏、玄孫武、平帝時、爲二侍中一、改爲二侍其氏一。

【侍其曙】13 ジキシヨ 宋の人。字は累昇。眞宗の時、登州の長官となる。貧民を賑はし善政を布く。〔宋史、三百二十六〕・〔宋史新編、一百五〕。

【侍其沔】14 ジキベン 宋の人。字は國紀。經傳に精通し、人との交際は一見淡薄ではあつたが、友の危急に遇へば勇を奮つて往き艱難を避けず。累舉せられたが遂に不遇で、退いて鄉先生となる。〔尙友錄、二十二〕。

【侍姬】15 ジキ こしもと。お側女中。〔唐書、盧杞傳〕初、尙父郭子儀病甚、百官造省、不レ屏二姬侍一、及二杞至一、則屏レ之、隱レ几而侍。

【侍御】16 ジギヨ ❶官名。㋑天子のお側に仕へる人。侍從。又、侍は左右に給侍するもの、御は車御の官。〔書、冏命〕其侍御僕從、罔レ匪二正人一。〔傳〕雖二給侍進御、僕役從官一、侍、給二侍左右一

者、御、車御之官。〔公羊、僖、二〕其諸侍御、有ニ不レ在ニ側者一與。〔列子、周穆王〕侍御猶ニ嚮者之人一。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕青翰侍御。㊁清代では、御史の通稱。侍御史を見よ。㊂米の極めてよいもの。單に御ともいふ。〔詩、大雅、召旻、彼疏斯粺、疏〕言ニ米之率一、糲十、粺九、鑿八、侍御七一者、其術在ニ九章粟米之法一彼云、粟率五十、糲米三十、粺二十七、鑿二十四、御二十一、言ニ粟五升爲一ニ糲米三升一、以下則米漸細、故數益少、四種之米、皆以ニ三約レ之、得ニ此數一也。

【侍御醫】17 ジギョイ　侍醫の唐名。〔職原抄〕侍醫、唐名、侍御醫。

【侍御史】18 ジギョシ　㊀官名。周代の柱下史。秦は改めて侍御史といひ、漢代は之により、殿中に給事することを掌る。其の後分れて、治書侍御史(6－17256‥100)・殿中侍御史(6－16651‥7)・監察侍御史となる。各條及び御史(4－10157‥125)を見よ。〔通典、職官典、侍御史〕侍御史、於ニ周爲ニ柱下史一、老聃嘗爲レ之、秦時、張蒼爲ニ御史一、主ニ柱下方書一、亦其任也、又云、蒼爲ニ柱下御史一、云云、一名ニ柱後史一、謂、冠以ニ鐵爲一レ柱、言ニ其審固不撓一也、亦爲ニ侍御史一、漢因レ之、凡十五員、云云、侍御史之職有ニ四、謂ニ推ニ彈ニ公廨ニ雜事一。〔文獻通考、職官考、侍御史〕故事、御史臺不レ受ニ訟、有ニ訴可ニ聞者一、略ニ其姓名一、託以ニ風聞一、其後御史疾惡者少、通狀壅絶、開元十四年、乃定ニ授事御史一人、知ニ其日劾狀一、題ニ告ニ事人姓名一、其後宰相、以ニ御史權重一、建議彈奏、先白ニ中丞大夫一、復通ニ狀中書門下一、然後得レ奏、自レ是、御史之任輕矣、建中元年、以ニ侍御史一分ニ掌公廨推彈一、自レ是、雜端之議輕矣、云云、宋仍ニ唐制一、侍御史貳ニ中丞一、隸ニ臺院一、天禧中、置ニ言事御史一、後久不レ除、慶曆五年復置、今御史臺中丞廳、蓋御史得レ兼ニ諫職一也。〔事物紀原、持憲儲闈部、侍御〕周爲ニ柱下史一、秦時、張蒼爲ニ御史一、主ニ柱下方書一、是也、亦爲ニ侍御史一、是則侍御之官、始ニ於柱下一也、漢始有ニ侍御史一、又有ニ繡衣侍御史一、蓋自ニ武帝一置也、後漢亦有レ之、隋直曰ニ侍御史一、漢書、朝議以ニ范丹一爲ニ侍御史一、是也、韓朗以ニ侍御史一、與ニ三府掾一治ニ楚獄一、是也。〔續文獻通考、職官考〕遼會同元年、置ニ侍御史・金侍御史二員一。〔事文類聚〕元置ニ侍御史二人一、位ニ御史中丞之下一。㊁彈正忠の唐名。〔職原抄〕彈正臺、忠、唐名、侍御史。

【侍御師】19 ジギョシ　官名。後魏の時、門下省に尚藥局侍御師を置く。天子側近の侍醫官。〔資治通鑑、梁紀〕〔武帝、天監七年〕侍御師王顯、失ニ於療治一。〔注〕醫師侍ニ御左右一、因以名レ官、後魏之制、太醫令屬ニ太常醫藥一、而門下省別有ニ尚藥局侍御師一、蓋今之御醫也。

【侍禁】20 ジキン　官名。宋、置く。文官と武官とがあり、文官は入內內侍省に隸屬し、禁中に通侍して褻近なことに服役する。此には左侍禁・右侍禁があつたが、元豐の官制改正によつて、左侍禁は內西頭供奉官、右侍禁は內侍殿頭と改められた。又、武官は宋初からあつたが、元豐中、左侍禁を中訓郎、右侍禁を中翊郎と改め、又、政和二年、殿頭を右侍禁、內西頭供奉官を左侍禁と改めた。〔宋史、職官志六〕宋初有ニ內班院一、淳化五年、改爲ニ黃門一、九月又改ニ內侍省一、入ニ內內侍省一、與ニ內侍省一、號爲ニ前後省一、而入內省尤爲ニ親近一、通ニ侍禁中一、役服ニ褻近一者、隸ニ入內內侍省一、拱ニ侍殿中一、備ニ酒掃之職一、役ニ使雜品一者、隸ニ內侍省一、云云、凡內侍、初補曰ニ小黃門一、經ニ恩遷補一、則爲ニ內侍黃門一、元豐議改ニ官制一、張誠一欲レ易ニ都知押班之名一、置ニ殿中監一、以易ニ內侍省一、既而宰執進呈、神宗曰、祖宗爲ニ此名一、有ニ深意一、豈可ニ輕議一、政和二年、始遂改焉、以ニ通侍大夫一、易ニ內客省使一、正侍大夫易ニ延福宮使一、中侍大夫易ニ景福殿使一、中亮大夫易ニ宣慶使一、中衞大夫易ニ宣政使一、拱衞大夫易ニ昭宣使一、供奉官易ニ內東頭供奉官一、左侍禁易ニ內西頭供奉官一、右侍禁易ニ內侍頭殿一、左班殿直易ニ內侍高品一、右班殿直易ニ內侍高班一、而黃門之名如故。〔宋史、職官志九〕武臣二班借職至ニ節度使一、敍遷之制、三班借職轉ニ三班奉職一、云云、左班殿直轉ニ右侍禁一、右侍禁轉ニ左侍禁一、左侍禁轉ニ西頭供奉官一。

【侍官】21 ジクワン　㊀侍中常侍の官で貂禪冠を服するものをいふ。〔南史、陸澄傳〕魏晉以來、不レ欲レ令ニ臣下服ニ衮冕一、故位公者、加ニ侍官一。㊁唐代、交番に宿衞するものの通稱。〔唐書、兵志〕故時、府人目ニ番上宿衞者一曰ニ侍官一、言ニ侍ニ衞天子一、至レ是、衞佐悉以ニ假人一爲ニ童奴一、京師人恥之、至ニ相罵辱一、必曰ニ侍官一。

【侍喬】22 ジケウ　清、張裕棄(4－9812‥1557)の字。

【侍見】23 ジケン　貴人に近づき見える。〔晉書、王濟傳〕每ニ侍見一、未レ嘗不ニ諮ニ論人物及萬機得失一。

【侍言】24 ジゲン　㊀人主に侍して忠言を申し上げること。〔後漢書、袁張韓周傳贊〕孟侯經博、侍ニ言帝幄一。㊁太子の言を傳へる官。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕侍言稱辭。〔注〕銑曰、侍言稱レ辭、傳ニ太子言語一之官也。

【侍坐】25 ジザ　貴人の側にはべりすわる。〔禮、曲禮上〕侍ニ坐于先生一。〔禮、少儀〕侍坐、弗レ使不レ執ニ琴瑟一。〔疏〕侍坐、弗レ使不レ執ニ琴瑟一者、卑侍ニ尊者一之法也。〔孝經、開宗明義章、曾子侍、注〕侍、謂ニ侍坐一也。〔戰國、魏策〕王鍾侍坐曰、此晉國之所ニ以強一也。〔史記、南越尉佗傳〕相嘉大臣、皆西鄉侍坐飲。〔莊子、田子方〕田子方侍ニ坐於魏文侯一。〔韓非子、外儲說右上〕齊景公之ニ晉、從ニ平公一飲、師曠侍坐。

【侍曹】26 ジサウ　在朝の群吏諸官の事務を朝廷に傳へる者。〔周禮、天官、宰夫、胥掌ニ官敍一以治レ敍、注〕如ニ今侍曹伍伯傳ニ吏朝一也。〔疏〕云ニ如ニ今侍曹伍伯傳ニ吏朝一也者、漢時、五人爲ニ伍、伯、長也、是五人之長、言ニ傳ニ吏朝一者、傳ニ在朝羣吏諸官事務於朝一也、胥爲ニ什長一、亦然、故擧ニ漢法一況レ之也。

【侍子】27 ジシ　㊀子を人質として天子に侍せしめること。質子(10－36833‥38)に同じ。〔後漢書、光武紀上〕鄯善王・車師王等十六國、皆遣ニ子入侍奉獻一、願ニ請都護一、帝以ニ中國初定一、未レ遑ニ外事一、乃還ニ其侍子一。㊁侍奉する子。〔張籍、寄衣曲〕高堂姑老無ニ侍子一。

【侍史】28 ジシ　㊀漢代の官女の名。左右に侍從して賤役に從ふ。こもの。〔周禮、天官、序官、酒人、奚三百人、注〕古者、從坐男女、沒入ニ縣官一爲レ奴、其少才知以爲レ奚、今之侍史官婢、或曰ニ奚宦女一。㊁左右に侍して文書を掌る者。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君侍レ客坐語、而屛風後、常有ニ侍史一、主レ記ニ君所ニ與レ客語一。〔翰墨全書〕省中之官、左右從者曰ニ侍史一。㊂㊀より轉じて、書翰の宛名の下に添へる敬語。直接本人の覽に供せず、侍史の閣を乞ふ意。

【侍史香】29 ジシカウ　香の名。〔海錄碎事、飮食、香〕塵暗神妃幟、衣殘侍史香、楊文公詩。

【侍使】30 ジシ　宮女をいふ。〔後漢書、荀爽傳〕後宮采女五六千人、從官侍使、復在ニ其外一。

【侍祀】31 ジシ　侍して王の祭を助けること。侍祠及び侍祀侯を見よ。

【侍祀侯】32 コウジシ　祀に侍るのみで、朝位のないものをいふ。〔海錄碎事、臣職、封爵〕侍祀侯者、但侍レ祠、而無ニ朝位一。

【侍祠】33 ジシ　漢代、諸王侯の使者や天子の群臣が、天子の祭に侍つて之を助けたこと。侍祭。〔漢書、景帝紀〕諸侯王列侯使者、侍ニ祠天子所ニ獻祖宗之廟一。〔注〕張晏曰、王及列侯、歲時遣レ使詣ニ京師一、侍祠助祭、如淳曰、凡臨レ祭ニ宗廟一、皆爲ニ侍祭一。〔後漢書、祭祀志下〕羣臣侍祠。

【侍兒】34 ジジ　坐右に召し使ふ小間使。腰元。侍女。〔史記、袁盎傳〕嘗盜愛ニ盎侍兒一。〔漢書、爰盎傳、從史盜私盎侍兒一。〔注〕文穎曰、婢也。〔范曄、宦者傳論〕嬪嫉侍兒。〔白居易、長恨歌〕侍兒扶起嬌無力、始是新承ニ恩澤一時。

【侍執】35 ジシフ　物を持つて側に居る。侍執ニ巾櫛一を見よ。〔後漢書、明德馬皇后紀〕每於ニ侍執之際一、輒言ニ及政事一、多ニ所ニ毗補一。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕使ニ諸弟更侍執一焉。

【侍執ニ巾櫛一】36 ジシフキンシツ　妻が夫の左右に侍して、手拭や櫛を執つて容儀を整へさせること。妻が夫に事へることにいふ。〔左氏、僖、二十二〕寡君之使ニ婢子侍執ニ巾櫛一、以固レ于也。

【侍者】37 ジシヤ　㊀貴人の側近く仕へる者。〔左氏、襄、二十五〕侍者曰、不可。〔國語、魯語上〕展禽曰、夏父弗忌必有レ殃、云云、侍者曰、若有レ殃、焉在。〔史記、萬石君傳〕竊聞ニ侍者一。㊁㊀の長老の左右に侍して其の給仕に任ずる者。〔觀無量壽經〕一一化佛、亦有ニ衆多無數化菩薩一、以爲ニ侍者一。

【侍者御中】38 ジシヤオンチユウ　書簡用語。手紙の宛名の脇書に用ひる語。〔庭訓往來、九月〕進上、侍者

御中、沙彌。

【侍射】39ジヤ　弓を射る場所に侍る。〔禮、少儀〕侍レ射則約レ矢、侍レ投則擁レ矢。〔疏〕若卑者侍レ射、則不二敢更拾進取一。

【侍妹】40ジマイ　側にはべる美女。〔唐書、李光顏傳〕使者以二侍妹一至。

【侍酒】41ジシュ　酒を飲む者の側に侍る。〔史記、淳于髡傳〕侍二酒於前一。

【侍豎】42ジジュ　貴人の側近く仕へる童子。侍僮。こしやう。〔近古史談、豐臣篇、韓國多レ虎〕一夜有レ虎、來噬二侍豎上月左膝一。

【侍從】43ジジウ　❶貴人の側にはべり仕へる。又、其の官。〔漢書、外戚上、孝宣霍皇后傳〕皇后輦駕、侍從甚盛。〔新書、輔佐〕侍從不レ諫、則調訊之任也。〔沈佺期、再入二道場一紀レ事應制詩〕自喜恩深陪二侍從一。❷古、至尊に常侍して規諫の事を掌つた官。中務省に屬す。多くは大・中納言若しくは參議の兼任。後には少納言が兼ねた。〔職員令〕中務省、侍從八人。❸侍從職の職員。側近の事を分掌する奏任官。〔宮内省官制、第二十四條、三號〕。❹薫物の名。沈香・丁子香・甲香・甘松香・熟鬱金香、又は麝香等を煉り合せて作る。〔源氏物語、初音〕侍從を薫かして。

【侍從所】44ジジウショ　侍從の詰所で、朝儀・賜宴などを行ふ所。侍從局。南所。食所。南廚。〔續日本後紀、十九〕嘉祥二年閏十二月庚午、公卿已下、於二侍從所一宴飲歌舞。

【侍從職】45ジジウショク　宮内省の一部局。天皇の御側近の事を掌るもの。侍從長・侍從職幹事・侍從・次侍從の職員を置く。

【侍從長】46チジウ　明治四年七月二十四日、宮内省に置かれた職員。天皇に常侍規諫し、兼ねて侍從を監督する勅任官。同十年、一旦廢止したが、同十一年、復活し、同十七年三月二十一日、改めて侍從職の長官とした。後、また官制職掌の改定があり、天皇に常時奉仕し、侍從職を統轄して、便宜事を奏し、旨を宣することを掌つた。勅任官又は親任官。

【侍從武官】47ブジジウ　侍從の職にある武官。

【侍從武官長】48ブジジウブクワンチヤウ　侍從武官府の長官。陸海軍大・中將を以てこれに親補し、天皇に常侍奉仕し、軍事に關する奏上・奉答及び命令の傳達に任じ、觀兵・演習・行幸、其の他祭儀・禮典・宴會・謁見等に陪侍扈從した。

【侍從武官府】49ブジジウブクワンフ　侍從武官長及び侍從武官を以て組織せられた官府。軍事に關する天皇の常侍奉仕機關。

【侍宿】50ジシュク　君側に宿直する。侍直。〔漢書、地理志下〕賓客相過、以レ婦侍宿。

【侍所】51サムラヒドコロ　❶親王・攝關家などで、侍の詰めて居る所。別當・職事等の職を置く。〔拾芥抄〕關白家、侍所。❷鎌倉幕府の役所の名。將士を進止し、非違を檢察し、罪人を決罰し、宿衞・扈從の武士の選擧を掌り、戰時には機務に參する等の重職。其の長を別當といひ、所司・開闔・寄人・小舍人・下部等の職員を置いた。❸室町幕府の役所の名。將士を管轄し、幕府の警衞、市街の巡察、盜賊の防禦を掌る。長官を所司といひ、應永中より山名・一色・赤松・京極四氏をかはるがはるこれに補し、これを四職といつた。

【侍書】52ジショ　官名。天子に侍して文字を記す官。宋明には翰林侍書があつたが、常設の官ではない。〔後漢書、蔡邕傳〕補二侍御史一、又轉二侍書御史一。〔墨池編〕王著習二義獻草隸一、擢爲二翰林侍書一。

【侍食】53ジショク　目上の人につき從つて食事をする。陪食。〔禮、曲禮上〕侍二食於長者一、主人親饋、則拜而食。〔論語、鄉黨〕侍二食於君一、君祭先飯。

【侍臣】54ジシン　そばづとめの臣。〔李衞公問對、上〕太宗顧二侍臣一。〔李商隱、漢宮詞〕侍臣最有二相如渴一、不レ賜金莖露一杯。

【侍辰】55ジシン　道教で天帝に侍する八人の侍中。辰は天帝の居。〔眞誥〕侍二帝辰一有二八人一、如二世之侍中一。王子喬・郭世幹皆爲レ之。〔陸龜蒙、上元日道室焚修寄二襲美一詩〕執蓋冒花香寂歷、侍辰交珮響闌珊。〔自注〕執蓋・侍辰、皆仙之貴侶矣。

【侍親】56ジシン　親の側に在つて世話する。〔白居易、送二唐州崔使君侍レ親赴レ任詩、自注〕崔郎中、從二殿中一連二典四郡一、皆侍二親赴一任。

【侍人】57ジジン　貴人の側にさぶらふ人。おそばづかへ。〔左氏、襄、二十五〕公韓二侍人賈擧一而又近レ之。〔孟子、萬章上〕於レ齊、主二侍人瘠環一。〔匡謬正俗、四〕侍人者、謂二當レ時侍二衞於君一、不レ限二內外一、猶レ言二侍者一耳。

【侍生】58ジセイ　後輩が先輩に對する自稱。又、同輩の者又は婦人に對して用ひる自稱。翰林の舊規によると、館に入るに七科後れたものは晩生、二科後れたものは侍生と稱した。侍教生。〔甌不甌錄〕正德中、巡撫敕諭、尚云二重則參題、輕則發遣一、巡按御史及三司處、洎其後、漸不レ復然、御史于二巡撫一、尚猶レ投レ刺稱二晚生侍坐一也、辛卯以後、則僉坐矣、尋稱二晚侍生正坐一矣、又稱二侍教生一矣、已而與二巡按一彼此俱稱二侍教生一矣、已而與二撫巡一俱稱二侍生一矣、蓋由二南北多レ警、遷擢既驟、巡撫不二必耆宿一、御史多有二與レ之同台者一、又功罪勘報、其權往往屬二之御史一、積漸凌替、故非二一朝一也。〔雙槐歲鈔〕清翰院亦沿二明制一、而於二達官一、則無二敢用二侍生一者一、惟對二於同輩或婦人一用レ之。

【侍妾】59ジセフ　そばめ。めかけ。側室。〔孟子、盡心下〕食前方丈、侍妾數百人、我得二志弗一レ爲也。

【侍膳】60ジゼン　目上の人につき從つて食事をする。侍食(53)に同じ。〔舊唐書、蕭宗紀〕上至二靈武一、裴冕杜鴻漸等、從容進、曰、云云、上曰、俟レ平二寇逆一、奉二迎鑾輿一、從容儲闈、侍二膳左右一、豈不レ樂哉、公等何急也。〔劉禹錫、送二太常蕭博士棄レ官歸養赴二東都一詩〕侍膳曾調レ鼎、循陔更握レ蘭。

【侍側】61ジソク　側にはべる。〔論語、先進〕閔子侍側、誾誾如也、〔後漢書、寇恂傳〕得二帶レ劍侍レ側。

【侍長】62チヤウ　主人。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕侍長請起。

【侍中】63チユウ　官名。秦、置く。もと丞相の史で殿內東廂を往來して事を奏することを掌る。漢代には加官と爲し、乘輿服物を分掌し、中官と共に禁中に止つた。魏晉以後は門下省の長官となる。〔史記、平準書〕弘羊、雒陽賈人子、以心計、年十三侍中。〔漢書、王莽傳中〕侍中諫議。〔傅咸、贈二何劭王濟一詩序〕何公既登二侍中一、武子俄而亦作。〔通典、職官典、侍中〕侍中者、周公戒二成王一立政之篇所一云、常伯任以爲二左右一、卽其任也、秦爲二侍中一、本丞相史也、使五人、往二來殿內東廂一奏レ事、故謂二之侍中一、漢侍中爲二加官一、凡侍中・左右曹・諸吏・散騎中常侍、皆爲二加官一、所二加或列侯・將軍・卿大夫・將・都尉・尚書・太醫・太官令至二郎中一云云、魏晉以來、置二四人一、別加官者、則非レ數。〔事物紀原、三省綱轄部、侍中〕環濟要略曰、古官也、風后爲二黃帝侍中一、周有二常伯一、見二尚書立政一、秦漢爲二侍中一、徐堅初學記曰、秦取二古官制一、本丞相史也、丞相使史五人、來往殿中一奏レ事、故謂二之侍中一、後魏始爲二樞密之任一、梁又以爲二宰相職事一、唐侍中與二中書・尚書二令一、並爲二眞宰相一矣。

【侍女】64ジジョ　貴人のそばにはべる女。腰元。侍兒。〔李頎、寄二司勳盧員外一詩〕歸鴻欲レ度千門雪、侍女新添五夜香。〔白居易、聞二楊十二新拜二省郎一遙以レ詩賀一詩〕曉日雞人傳二漏箭一、春風侍女護二朝衣一。

【侍童】65ジドウ　君側に宿直する。侍宿。〔南史、宋文帝諸子、劉劭傳〕出坐二東堂一、蕭斌執レ刀侍直。

【侍丁】66ジテイ　夫役に徵集せられず、留まつて父母に侍する壯丁。〔唐書、食貨志一〕詔十丁以上免二一丁一、五丁以上免二一丁一、侍丁孝者、免二徭役一。

【侍弟】67ジテイ　同官の者に對する自己の謙稱。〔春曹儀式〕凡本衙門往來拜帖、不レ論二新舊同僚一俱稱二侍弟一、不レ稱レ寅。

【侍投】68ジトウ　投壺の場所に侍る。侍射(39)を見よ。

【侍童】69ジドウ　貴人の側に仕へる童。小姓。侍豎。〔後漢書、王符傳〕驕奴侍童、夾レ轂竝引。

【侍讀】70ジドク　官名。❶唐代、侍讀學士と侍讀直學士とを置き、宋代は翰林侍讀學士及び翰林侍讀を置く。元明は之により、清代は翰林院及び內閣に夫々侍讀學士及び侍讀を置いた。翰林院(9－28780：49)を見よ。〔唐書、百官志四上〕東宮官、侍讀無員、掌二講導經學一。〔文獻通考、職官考、翰林侍讀學士〕唐玄宗開元二年、始命二馬懷素・褚無量一、更日侍讀、十三年、置二集賢院侍讀學士一、侍讀直學士、宋太宗、始用二著作佐郎呂文仲一爲二侍讀一、眞宗咸平二年、以二楊徽之一、夏侍讀、官號比擬、稱謂相紊、詔二諸王府侍讀改爲贊讀、侍講

改爲二直講一、又云、梁陶弘景、爲二諸王侍讀一、雖レ在二朱門一、閉影不レ交二外務一、惟以二披閲一爲レ事。〔山堂肆考〕唐徐岱充二皇太子及舒王侍讀一、承二兩宮恩顧一、時無二與比一。〔續文獻通考、職官考、學士院〕元翰林兼二國史院一、承旨六人、學士二人、侍讀學士・侍講學士・直學士、各二人、云云、明翰林院、翰林學士一人、侍讀學士・侍講學士・侍讀・侍講各二人。〔淸會典、翰林院〕侍讀學士、滿洲人二人、漢人二人。㊁南北朝並に唐宋時代には諸王府にも此の官を置く。明は之を伴教授と改めた。侍講。〔記纂淵海〕徽宗、政和七年、張大亨奏、竊見二講讀之官一、在二天子一、謂二之侍講侍讀一、而在二諸王府一者、亦有二侍講一、侯嶠並爲二翰林侍讀學士一、始建二學士之職一、其後馮元爲二翰林侍讀一、不レ帶二學士一、元豐官制、廢二翰林侍讀侍講學士一不レ置、但以爲二兼官一、然必侍從以上、乃得レ兼レ之、元祐七年、復增二學士之號一、元符元年、省去。

〖侍讀學士〗71 ジドクガクシ 侍讀を見よ。

〖侍讀博士〗72 ジドクハカセ 諸王に經書を講ずる人。侍讀を見よ。〔資治通鑑、宋紀〕(孝武帝、大明五年) 侍讀博士荀詵諫。〔注〕侍讀博士、授二諸王經一者也。

【侍婢】73 ジヒ こしもと。〔漢書、游俠、陳遵傳〕暮因留宿、爲二侍婢一扶臥。〔魏志、呂布傳〕布與二卓侍婢一私通。〔于鵠、送二唐中丞入一レ道詩〕侍婢休レ梳宮樣髻、閹童新改道家名。

【侍服】74 ジフク 側に從ふ。〔魏書、侯剛傳〕朕屬當二監國一、弗レ獲二隨侍而左右服事一。

【侍奉】75 ジホウ 侍して命を奉ずる。又、侍して食物や物品を奉じ進める。〔唐書、百官志四上〕文學三人、正六品下、分二知經籍一、侍二奉文章一。〔李白、贈二歷陽褚司馬一詩〕北堂千萬壽、侍奉有二光輝一。

〖侍奉趨承〗76 shih⁴ fêng⁴ ch'ü¹ ch'êng² 氣に入らうとして迎合する。

【侍面】77 ジメン 側に侍して面接する。〔陸雲、與二陸典一書〕想、今來得レ行、有レ緣侍面耳。

【侍夜】78 ジヤ 夜のとぎをすること。〔禮、內則〕妾雖レ老、年未レ滿二五十一、必與二五日之御一。〔注〕五十始衰、不レ能レ孕也、妾閉レ房不二復御一矣、此御、謂二侍レ夜勸一レ息也。〔白居易、長恨歌〕金屋粧成嬌侍レ夜、玉樓宴罷醉和レ春。

【侍養】79 ジヤウ 側にはべつて養ふ。〔墨子、兼愛下〕是以老而無二妻子一者、有レ所二侍養一以終二其壽一。〔史記、汲鄭傳〕發二良民一侍養。

【侍擁】80 ジヨウ はべりたすけること。〔楊維楨、楊妃圖詩〕小蓮侍擁扶不レ起。

【侍郎】81 ジラウ 官名。㊀秦漢時代、郎中令の屬官に議郎・中郎・侍郎・郎中の四等があつて、議郎以外の郎官は、代る代る戟をとつて諸殿門を宿衞し、天子の出駕には車騎となつた。任用の範圍は、掾曹博士から任用されるもの、貲財を以て任用されるもの、或は劇縣に出任したものがある。魏晉時代には、議郎以外は廢止せられた。郎中令(**11－39431**・45)を見よ。㊁漢代、郎官の始めて臺に上るものを尙書郎中といひ、一年で尙書郎、三年で侍郎といひ、五年で大縣に遷るか、又は二千石に補せられた。後漢には尙書六曹侍郎三十六人があり、魏晉以來は單に郎といひ、隋は侍郎と稱した。又、員外郎を置き、曹の籍帳を掌らしめ、煬帝は六部に各〻侍郎一人を置き、尙書を輔佐せしめ、又、侍郎を夫〻郎と稱せしめた。唐は、また郎を郎中といひ、員外郎を郎中の次に位せしめた。淸末に至り、侍郎を副大臣と改めた。尙書(**4－7493**・85)・郎中令(**11－39431**・45)・六曹(**2－1453**・240)・六部(**2－1453**・523)の各條を見よ。㊂秦漢時代には黃門侍郎、又給事黃門侍郎、又單に黃門郎といふ。左右に侍從して內外を通じた。日暮に靑瑣門に入り奉對したので、夕郎ともいつた。魏晉以後、其の位が尊くなり、唐代に至り、門下侍郎といつて侍中に次ぎ、宰相の職となつた。元以後は此の官はなくなつた。黃門侍郎(**12－47926**・869)・門下(**11－41208**・17)の各條を見よ。㊃漢晉時代、始めて散騎侍郎を置き、黃門侍郎と共に侍從となる。散騎省(**5－13265**・28)を見よ。㊄魏時代、中書省に通事郎を置き、黃門郎に次いで、詔草を掌らしめた。卽ち漢の尙書郎の位で、單に中書郎ともいふ。晉以來、其の權力愈〻大となり、唐代には、宰相の職となり、中書令に次いだ。元以後は置かず。中書省(**1－73**・454)を見よ。㊅晉時代、諸王國に皆侍郎があり、大國四人、小國二人を制とし、威儀を相けて教令を傳へることを掌る。〔通典、職官典、歷代王侯封爵〕東晉元帝大興元年、云云、其後、省二相及僕一、省二郎中一、置二侍郎二人一、公侯以下國官屬遞減。

〖侍郎左選〗82 ジラウサセン 官名。宋、置く。京師文武官の選授・勳封・考課の政令を掌る次官。〔文獻通考、職官考、吏部尙書〕宋朝典選之職、自分爲レ四、文選二、曰審官東院、曰流內銓、武選二、曰審官西院、曰三班院、元豐定制、以二審官東院一爲二尙書左選一、審官西院爲二尙書右選一、流內銓爲二侍郎左選一、三班院爲二侍郎右選一、掌二文武官選授勳封考課之政令一。

【侍立】83 ジリツ 君側に侍り立つ。〔蜀志、關羽傳〕稠人廣坐、侍立終日、隨二先主周旋一、不レ避二艱險一。〔杜甫、與二李十二白一同尋二范十隱居一詩〕入レ門高興發、侍立小童淸。

【侍臨】84 ジリン 喪禮の時に君主について其の場に臨むこと。〔通典、禮典、凶、喪制之三、小斂奠〕內外侍臨者、代哭不レ絕レ聲。

【侍蓮】85 ジレン 淸の女道士。無錫の人。字は脩梅。號は薸香、又、滸華道人。所居は、城南に在つて、薲香水榭（蘋香小榭）といふ。蘭を畫くに巧。〔淸畫家詩史、癸下〕・〔國朝書人輯略、十二〕。

【侍儀司】86 ジギシ 官名。元、置く。朝會・卽位・冊后・建儲・尊號奉上及び外國朝覲の禮を掌る。〔元史、百官志〕侍儀司、掌下凡朝會・卽位・冊后・建儲、奉二上尊號一、及外國朝覲之禮上。

【侍漁者】87 ジギョシャ 魚者を監督して稅を徵集する役人。〔左氏、襄、二十五〕申蒯侍漁者。〔注〕侍漁、監レ取二魚之官。〔會箋〕侍漁之官、蓋監二收魚稅一者。

【侍教生】88 ジケウセイ 侍生(58)に同じ。

【侍芝郎】89 ジシラウ 工人の黃耇が吳の孫皓に芝草を獻じたことから、耇を侍芝郞と呼んだ。〔吳志、孫皓傳〕有二鬼目菜一、生二工人黃耇家一、依二緣棗樹一、長丈餘、莖廣四寸、厚三分、又有二買菜一、生二工人吳平家一、高四尺、厚三分、如二枇杷形一、上廣尺八寸、下莖廣五寸、兩邊生葉綠色、東觀案圖、名二鬼目一作二芝草一、買菜作二平慮草一、遂以レ耇爲二侍芝郞一、平爲二平慮郞一。

【侍香金童】90 ジカウキンドウ 詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では黃鐘宮正曲に入る。〔詞譜〕開天遺事云、王元寶、常於二寢帳牀前一、雕二矮童二人一、捧二七寶博山鑪一、自レ暝焚レ香徹レ曉、調名取レ此、樂府雅詞無名氏詞、卽詠二其事一也。

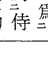
【佪】590

ダ ナ 〔字彙〕奴下切 馬

皮がのびる。〔字彙〕佪、皮寬也。

【佅】591

ビ ミ 〔集韻〕母婢切 紙


小篆

撫でいつくしむ。安んずる。敉(**5－13191**)に同じ。〔說文〕敉、撫也、云云、佅、敉或从レ人。〔集韻〕敉、說文、撫也、云云、一曰、愛也、安也、或从レ人。

【侏】592

㊀シュ 〔集韻〕鐘輸切 虞 chu¹ ㄓㄨ
㊁チュ 〔集韻〕追輸切 虞
㊂チウ チュ 〔集韻〕張流切 尤

㊀❶**みじかい。**侏儒(2)を見よ。〔廣雅、釋詁二〕侏、短也。❷**無道をいふ。**〔太玄經、經斷〕勇侏之[亻尌]。〔注〕無道爲レ侏。❸**あざむく。**侜(**1－606**)に通ず。〔說文通訓定聲〕侜、爾雅釋訓、侜張、誑也、釋文、或作レ倜、云云、揚雄、國三老箴、姦宄侏張、作二侏張・朱張一、亦皆同。❹**おろか。**侏侏(1)を見よ。❺**くも。**侏儒(2)の❹を見よ。❻朱(**6－14424**)に通ず。〔左氏、襄、四、朱儒是使、釋文〕朱、本或作レ侏。❼**姓。**〔路史〕小邾子後有二侏氏一。㊁**大きい。さかんな。**〔集韻〕侏、大也。㊂**そむく。**倜(**1－778**)に同じ。

〔集韻〕倜、菲也、或作レ侏。

【侏侏】1 シュシュ 幼くて何も知らないこと。おろか。〔太玄經、童〕次七、脩侏侏、比ニ于侏儒一。〔注〕侏侏、無レ所レ知也、朱儒、未成人也、七雖ニ長大一、而不レ學レ道、侏侏然若ニ未成之人一也。

【侏儒】2 シュジュ 又、朱儒に作る。❶短小な人。一寸法師。〔廣韻〕侏、侏儒、短人。〔禮、王制〕瘖聾・跛躃・斷者・侏儒・百工、各以ニ其器一食レ之。〔注〕侏儒、短人也。〔左氏、襄、四〕臧紇救レ鄫侵レ邾、敗ニ於狐駘一、國人誦レ之曰、云云、我君小子、朱儒是使、朱儒朱儒、使ニ我敗ニ於邾一。〔注〕臧紇短小、故曰ニ朱儒一。〔國語、晉語四〕侏儒不レ可レ使レ援。〔注〕侏儒、短者。❷俳優。わざをぎ。〔戰國、齊策〕鍾鼓竽瑟之音不レ絶、地可レ廣、而欲可レ成、和樂倡優侏儒之笑不レ乏、諸侯可ニ同レ日而致一也。〔管子、小匡〕倡優侏儒在レ前。〔荀子、王霸〕俳優侏儒婦女之請謁、以悖レ之。〔注〕侏儒、短人、可ニ戲弄一者。〔史記、孔子世家〕優倡侏儒爲レ戲而前。❸梁上の短柱。うだち。〔禮、明堂位、山レ節藻レ梲、注〕藻レ梲、畫ニ侏儒柱一、爲ニ藻文一也。〔淮南子、主術訓〕短者以爲ニ朱儒枅櫨一。〔韓愈、進學解〕欂櫨侏儒。〔注〕侏儒、短椽之屬。❹くも。蜘蛛。〔方言、十一〕鼅鼄、鼄蝥也、自レ關而西、秦晉之間、謂ニ之鼄蝥一、自レ關而東、趙魏之郊、謂ニ之鼅鼄一、或謂ニ之蠾蝓一、蠾蝓者、侏儒語之轉也、北燕朝鮮洌水之閒、謂ニ之蝳蜍一。

【侏儒樂】3 シュジュノガク 一寸法師の奏する歌舞音曲。〔公羊、定、十、夏公會ニ齊侯于頰谷一、注〕頰谷之會、齊侯作ニ侏儒之樂一、欲ニ以執ニ定公一。〔後漢書、陳禪傳〕齊作ニ侏儒之樂一。

【侏儒國】4 シュジュコク 漢代の東夷中の國名。其の人が皆短小であつたから名づける。小人國。〔後漢書、東夷傳、倭〕自ニ女王國一南四千餘里、至ニ侏儒國一、人長三四尺。〔魏志、東夷、倭人傳〕女王國東渡レ海千餘里、復有レ國、皆倭種、又有ニ侏儒國一、在ニ其南一、人長三四尺、去ニ女王一四千餘里。

【侏儒導】5 シュジュダウ 舞人自ら唱ふ歌。〔稱謂錄、歌、侏儒導〕樂府解題、人俳歌、一曰ニ侏儒導一、齊書樂志曰、侏儒導、舞人自歌レ之。

【侏大】6 チュダイ 肥大。漢代の語。〔周禮、春官、甸祝、禂牲禂馬、注〕玄謂、禂、讀如ニ伏レ誅之誅一、今侏大字也、爲ニ牲祭一、求ニ肥充一、爲ニ馬祭一、求ニ肥健一。〔疏〕今漢時、人傍侏、是侏大之字。

【侏張】7 シュチャウ ❶欺き誇張する。〔通雅、釋詁類〕譸張、一作ニ侜張一、一作ニ侏張一。〔晉書、慕容垂載記〕侏ニ張幽顯一。〔宋書、蓋吳傳〕玁狁侏張。❷チュチャウ 力が強く勢の盛なさま。〔揚雄、國三老箴〕負乘覆餗、姦宄侏張。

【侏離】8 シュリ ❶西戎の音樂。〔周禮、春官、鞮鞻氏、掌ニ四夷之樂一、注〕四夷之樂、西方曰ニ侏離一。〔獨斷、上〕王者必作ニ四夷之樂一、以定ニ天下之歡心一、祭ニ神明一、和而歌レ之、以ニ管樂一爲ニ之聲一、云云、西方曰ニ侏離一。❷轉じて、夷の言語をいふ。言語を解し難い外國語を賤しめていふ語。〔後漢書、南蠻傳〕衣裳班蘭、語言侏離。〔韓愈、與ニ孟尚書一書〕向無ニ孟氏一、則皆服左衽、而言侏離矣。

【侏羅岩】9 シュラガン 珠羅岩とも書く。地層の中生界は三疊系・侏羅系・白堊系に分れ、侏羅系は、主に石灰岩・砂岩・粘板岩から成り、化石を藏することが極めて多い。

【侐】593

小篆

㊀キョク ケキ 〔集韻〕忽域切 ㄒㄩˋ hsü⁴ 職
㊁キ 〔集韻〕火季切 寘

㊀㊁❶しづか。さびしい。〔說文〕侐、靜也、从レ人血聲、詩曰、閟宮有レ侐。〔字彙〕侐、寂也。〔詩、魯頌、閟宮〕閟宮有レ侐。〔傳〕侐、淸靜也。❷或は〓(11-41299)に作る。〔集韻〕侐、或从レ門。❸或は四(1-477)に作る。〔集韻〕侐、或作レ四。

【侑】594

小篆

イウ ウ 〔集韻〕尤救切 ㄧㄡˋ yu⁴ 宥

❶たすける。すすめる。〔正字通〕侑、佐也、相也。〔詩、小雅、楚茨〕以妥以侑。〔傳〕侑、勸也。〔周禮、天官、膳夫〕以レ樂侑レ食。〔注〕侑、猶レ勸也。❷ならぶ。ともにはたらく。姷(3-6243)に同じ。〔集韻〕姷、說文、耦也、或从レ人。〔說文〕姷、耦也、从レ女有聲、讀若レ祐、侑、姷或从レ人。〔廣雅、釋詁四〕侑、耦也。❸むくいる。〔爾雅、釋詁〕醻・酢・侑、報也。〔注〕此通謂ニ相報答一、不レ主ニ於飲食一。〔宋史、樂志〕民有ニ報侑一。❹ゆるやか。ゆるす。〔管子、法法〕文有ニ三侑一、武無ニ一赦一。〔注〕侑、寬也。❺いたむこゑ。ああ。倄(1-749)に通ず。〔蒼頡訓詁〕倄、痛而謼也。〔通俗文〕痛聲曰レ侑。❻囿(3-4756)に通ず。〔禮、禮器〕詔ニ侑武方一。〔注〕詔侑、或爲ニ詔囿一。❼宥(3-7137)に通ず。〔儀禮、聘禮〕朝服致レ之以ニ侑幣一。〔注〕古文、侑、皆作レ宥。

名乘 ユキ。

【侑飲】1 イウイン 酒をすすめる。侑觴(8)に同じ。〔宋史、王拱辰傳〕親鼓ニ琵琶一、以侑レ飲。

【侑宴】2 イウエン 饗應の酒宴。ごちそう。〔唐書、李訓傳〕侑宴示ニ優寵一。

【侑歡】3 イウクワン よろこびをたすける。〔唐書、讓皇帝憲傳〕賜レ詩燕嬉、賜ニ金帛一侑レ歡。

【侑卮】4 イウシ 盃の一種。座右において鑑戒とする具。敧器(5-13086・・7)を見よ。〔文子、上、守弱〕三皇五帝、有ニ戒之器一、命曰ニ侑卮一、其沖卽正、其盈卽覆。

【侑祠】5 イウシ あはせてまつる。〔吳郡圖經續記〕泰伯廟、漢桓帝時、大守麋約所レ建、延陵季子侑祠焉。

【侑酬】6 イウシウ 酒などをすすめ、又返盃する。〔儀禮、有司徹〕升ニ長賓一、侑ニ酬之一。

【侑赦】7 イウシャ ゆるす。〔管子、法法〕文有ニ三侑一、武毋ニ一赦一。

【侑觴】8 イウシヤウ さかづきをすすめる。酒を勸める。侑酒。〔齊東野語〕名姬十輩、皆衣レ白、凡首飾衣領皆牡丹、首帶ニ昭殿紅一枝一、執レ板奏レ歌侑レ觴。

【侑酒】9 イウシユ 酒をすすめる。侑觴。〔張耒、詩〕清眸侑レ酒醉百盞、肯咀ニ貧虀一寒虀酸。

【侑食】10 イウショク ❶君に侍って共に食ひ、君に食をすすめる。陪食。〔禮、玉藻〕侑食不レ盡レ食、食ニ於人一不レ飽。〔疏〕此一節、以ニ上文明レ侍ニ君之食一、因明ニ凡人相敵爲レ食之禮一、凡侑食不レ盡レ食者、此明下勸ニ食於尊者一之法上。❷飲食をすすめる。〔周禮、天官、膳夫〕以レ樂侑レ食。

【侑石】11 イウセキ 淸、蔣曰豫(9-31820・・123)の字。

【侑報】12 イウハウ 神に物を供へ、報祭をすること。

【侑賓】13 イウヒン 賓客に酒食をすすめる。〔詩、小雅、鹿鳴、承レ筐是將、集傳〕飲則以酬レ賓送レ酒、食則以侑レ賓勸レ飽也。

【侑幣】14 イウヘイ 飲食に興を添へる引出物。〔詩、小雅、鹿鳴序、箋〕食レ之而有レ幣、侑幣也。〔疏〕食有ニ侑レ賓勸レ飽之幣一。

【侒】595

小篆

アン 〔集韻〕於寒切 寒

やすらか。宴。〔說文〕侒、宴也、从レ人安聲。〔段注〕侒、與レ安音義同。

【侓】596

ロツ ロチ 〔集韻〕勒沒切 月

大きいさま。〔集韻〕侓、侓魁、大皃。

【侔】597

小篆

ボウ ム 〔集韻〕迷浮切 ㄇㄡˊ mou² 尤

❶ひとしい。そろふ。〔說文〕侔、齊等也、从レ人牟聲。〔廣雅、釋詁四〕侔、齊也。〔周禮、考工記、輪人〕凡爲レ輪、行レ澤者欲レ杼、行レ山者欲レ侔。〔注〕侔、上下等也。〔周禮、考工記、弓人〕疏數必侔。〔注〕侔、猶レ均也。❷したがふ。〔莊

子、大宗師〕畸二於人一而侔二於天一。〔釋文〕侔、音謀、司馬云、等也、亦從也。㊂つとめる。勉強する。侔莫(5)を見よ。㊃とる。はかる。牟(7－19928)に通ず。〔說文通訓定聲〕侔、段借爲レ牟、或曰、借爲レ謀、謀・侔雙聲。〔管子、宙合〕靜默以侔レ免。〔注〕侔、取也。㊄虫の名。苗を食害する。蟊(10－3354 9)・蝥(10－32986)に同じ。〔玉篇〕侔、又食レ苗蟲也。與二蟊・蝥一同。見二漢海廟碑一。㊅牟(7－19928)・梷(6－14784)に通ず。〔周禮、考工記、弓人〕角與レ幹權、筋三侔。〔釋文〕侔、本又作レ牟、亦作レ梷、同莫侯反、侔、等也。㊆或は件(1－410)に作る。〔集韻〕侔、或省。㊇姓。〔路史〕小邾子後有二侔氏一。

【侔訾】1ボウシ 財産を等しくする。〔國朝漢學師承記、一〕富既與レ地乎侔レ訾、貴乃與レ天乎比レ崇。

【侔迹】2ボウセキ あとを等しうする。先人と同じ行をする。〔蜀志、楊戲傳〕侔二迹韓・耿一、齊レ聲雙レ德。

【侔尊】3ボウソン 尊さを等しうする。〔張俊、爲二吳令謝詢一求レ爲二諸孫一置守冢人上表〕位嘗侔レ尊、力嘗均レ勢。〔注〕銑曰、侔、齊也。

【侔德】4ボウトク 德を等しうする。〔漢書、宣帝紀贊〕可レ謂二中興侔一德殷宗周宣一矣。

【侔莫】5ボウバク 努力する。勉強する。〔方言、七〕侔莫、強也、北燕之外郊、凡勞而相勉、若レ謂二努力一者、謂二之侔莫一。

【侔利】6ボウリ 利益を取る。〔鹽鐵論、本議〕商賈侔レ利自市。

侖 598

ジン 〔集韻〕人之切 㐌

多いさま。〔集韻〕侖、衆多皃。

侖 599

日ロン 〔集韻〕盧昆切 元

日リン 〔集韻〕龍春切 眞

侏 600

ライ 〔集韻〕盧對切 隊

つぐ。つぎ。〔玉篇〕侏、亞也。〔集韻〕侏、倕也。

侗 601

日トウ ツ 〔集韻〕他東切 東

日トウ ツ 〔集韻〕吐孔切 董

日トウ ツ 〔集韻〕徒弄切 送

慣ドウ

日㊀大きいさま。〔說文〕侗、大皃、从レ人同聲。〔段注〕此義未レ見二其證一、然同義近レ大、則侗得レ爲二大皃一矣、論語、侗而不レ愿、孔注曰、侗、未レ成レ器之人、按、此大義之引伸、猶レ言二渾沌未一鑿也。㊁おろか。幼稚。詞(10－35453)・僮(1－1132)に通ず。〔說文通訓定聲〕侗、段借爲レ僮。〔集韻〕侗、一曰、未レ成レ器之人。〔書、顧命〕在レ後之侗。〔傳〕在二文武後一之侗稚、成王自斥。〔蔡傳〕侗、愚也、成王自稱。〔釋文〕馬本作レ詷。〔論語、泰伯〕侗而不レ愿。〔集解〕孔安國曰、侗、未レ成レ器之人。〔集注〕侗、無知皃。〔法言、學行〕倥侗顓蒙。㊂いたむ。恫(4－10594)に通ず。〔說文〕侗、詩曰、神罔二時侗一。〔段注〕大雅思齊文、今本作レ恫、傳曰、恫、痛也、按、痛者侗之本義、許所レ據本作レ侗、倆レ之以見二毛詩假侗爲レ恫也。㊃姓。〔萬姓統譜〕侗、見二韻會一。㊄㊀かたち。〔方言、十二〕侗、狀也。㊁なほい。〔廣韻〕侗、直也。〔集韻〕侗、侗胴、直皃。㊂長く大きい。〔廣韻〕侗、一曰、長大。㊂まことにつつしむ。侗然(8)を見よ。〔集韻〕侗、誠慤皃。

名乘 ナヲ。

【侗庵】1トウアン 字號。㊀明、錢澗徵(11－40563‥353)の字。㊁安東守直の號。安東侗菴(8－7072‥381)を見よ。㊂古賀煜の號。古賀侗菴(2－3233‥588)を見よ。

【侗翁】2トウオウ 小野巻の號。小野湖山(4－7473‥1208)を見よ。

【侗孩】3トウガイ 清、張惟赤(4－9812‥775)の字。

【侗窩】4トウカ 倉石子緝の號。倉石侗窩(1－756‥112)を見よ。

【侗軒】5トウケン 明、祝顯(8－24672‥22)の號。

【侗乎】6トウコ 無知のさま。〔莊子、山木〕侗乎其無レ識。〔釋文〕侗乎、無知皃。

【侗齋】7トウサイ 小出敬迓の號。小出侗齋(4－7473‥1560)を見よ。

【侗然】8トウゼン 誠あるさま。一に侗然に作る。〔集韻〕侗、誠慤皃。〔莊子、庚桑楚〕能侗然乎、能侗然乎。〔釋文〕侗、本又作レ侗、云云、三蒼云、慤直皃。

【侗長】9トウチャウ 大きく長い。〔論衡、氣壽〕太平之時、人民侗長。

侹 602

日タ 〔集韻〕丑亞切 禡

日タ 〔集韻〕抽加切 麻

日㊀ほうる。詫(10－35431)に同じ。〔集韻〕詫、誇也、通作侹。〔史記、韓長孺傳〕卽欲以侹二鄙縣一。〔注〕集解曰、侹、誇也。㊁志を失ふさま。立ちもとほるさま。侹傺(1)を見よ。㊂現㋑他(1－370)・它(8－7057)・邪(11－39319)に同じ。㊃負ふ。被る。加へる。㊄わびる。心苦しく思ふ。又、閑居する。

【侹傺】1タイ 志を失ふさま。又、志を失つて恨めしげに立ちもとほるさま。〔集韻〕侹、侹傺、失レ志皃。〔楚辭、離騷〕忳鬱邑余侹傺兮。〔注〕侹傺、失二志貌一。侹、猶二堂堂一立貌也、傺、猶レ住也。〔楚辭、九章、惜誦〕心鬱邑余侹傺兮。〔注〕侹、猶二堂堂一立貌也、傺、住也、楚人謂レ失二志悵然住立一爲二侹傺一也。〔潘尼、惡道賦〕馬侹二傺于險塗一。

伐 603

篆 チヨク チキ 〔集韻〕畜力切 職

㊀おそれる。〔說文〕伐、惕也、从レ人式聲。春秋國語曰、於二其心一伐然、是也。〔段注〕吳語、申胥曰、夫越王之不レ忘二敗一吳於其心一也、戚然服レ士、以司二吾閒一、韋注曰、戚、猶レ惕也、按、韋本蓋亦作レ伐、轉寫譌レ之耳、許云レ惕、韋云レ猶レ惕者、韋擬二此字本義一不レ訓レ惕也。㊁心動

く。〔廣雅、釋言〕伭、愪也。㊂或は忯(4－10570)に作る。〔集韻〕伭、或从レ心。

【侚】604
㊀シユン 〔集韻〕徐閏切 震 ㄒㄩㄣˋ hsün⁴
㊁ジユン 〔集韻〕松倫切 眞
小篆

㊀㊀すみやか。〔說文〕侚、疾也、从レ人旬聲。〔段注〕五帝本紀、黃帝幼而侚齊、裴駰曰、侚、疾、齊、速也。〔素問、上古天眞論〕黃帝幼而侚齊。〔注〕侚、疾也。㊁しめす。となへる。〔漢書、五行志〕車裂以侚。〔注〕侚、行示也。㊂徇(4－10091)に誤り通ず。〔說文、侚、段注〕按、侚、今本譌作レ侚。㊃ふかい。濬(7－18524)に通ず。〔說文通訓定聲〕侚、叚借爲レ濬、史記五帝紀、黃帝幼而侚齊、集解、疾也、失レ之、墨子年踰二五十一、則聰明思慮不二侚通一矣、皆誤作レ侚。㊄殉(6－16448)に通ず。〔正字通〕侚、與レ殉通、書、伊訓、侚二于貨色一、石經用レ殉。㊅或は俘(1－846)に作る。〔集韻〕侚、或作レ俘。㊁㊀つかふ。〔集韻〕侚、使也。㊁徧く示す。〔集韻〕侚、徧示也。

名乘 トシ。

【供】605
㊀キヨウ ク 〔集韻〕居容切 冬 ㄍㄨㄥ kung¹
㊁キヨウ ク 〔集韻〕居用切 宋 ㄍㄨㄥˋ kung⁴
小篆

㊀㊁㊀まうける。供給する。そなへる。又、其のもの。〔說文〕供、設也、从レ人共聲、一曰、供給。〔爾雅、釋詁〕供、具也。〔書、無逸〕文王不二敢盤二于遊田一、以二庶邦惟正之供一。〔左氏、僖、元〕敢不二供給一。〔晉書、何會傳〕一日之供、以二錢二萬一爲レ限。㊁すすめる。〔廣雅、釋詁二〕供、進也。㊂まつる。〔玉篇〕供、祭也。㊃やしなふ。龔(12－48837)に通ず。〔說文通訓定聲〕供、叚借爲レ龔。〔廣雅、釋言〕供、養也。㊄大いに。大きい。洪(6－17402)に通ず。〔說文通訓定聲〕供、叚借爲レ洪、尙書大傳、維時供祀二六沴一、注、謂レ大也。㊅うやうやしい。恭(4－10596)に通ず。〔說文通訓定聲〕供、叚借爲レ恭、家語、入官、富而能供。〔莊子、天地〕至無而供二其求一。〔釋文〕供、本作レ恭。㊆或は共(2－1458)に作る。〔詩、周南、關雎、箋〕將レ共二荇菜之俎一、〔釋文〕共、本或作レ供。〔漢書、昭帝紀〕共二養省中一、〔注〕共、讀曰レ供。㊇申立。訊問せられて事情を述べたもの。供狀(28)・供招(40)を見よ。㊈姓。〔奇姓通〕供、明有二供仲序一。

邦㋑とも。從者。㋺ども。複數を表はす接尾語。

【供應】1 キヨウオウ ㊀必要の物品。〔六部成語、戶部、供應不レ敷銀、注解〕買二辨官府供應之物一、所レ發之款少不レ敷也。㊁もてなし。〔福惠全書、蒞任部、革陋規〕如二衝劇之區一、供應浩繁。㊂需用に應ずる。供給する。

【供億】2 キヨウオク 貧乏者を賑はして安心させる。億は安んずる意。〔左氏、隱、十一〕寡人唯是一二父兄、不レ能二供億一。〔注〕父兄、同姓羣臣也、供、給、億、安也。〔白居易、除二程執恭檢校右僕射一制〕供億出二於二郡一。

【供冀】3 キヨウキ 恭しいこと。一說に、言行を愼しむ。又一說に、手を張り望む。〔荀子、修身〕行而供冀、非二漬淖一也。〔注〕供、恭也、冀、當レ爲レ翼、凡行自當二恭敬一、云云、或曰、李巡注二爾雅冀州一曰、冀、近也、恭近、謂レ不二敢放誕一也。〔集解〕盧文弨曰、供、疑是張拱之義、郝懿行曰、供與レ拱、冀與レ覬、俱音同字通、其義則冀覬俱訓レ望也、此言二行而張拱顧望、乃是恭敬審諦、非レ恐二漸二漬于泥淖一也、先謙案、楊前說是、釋名、恭、拱也、自拱持也、是供訓爲レ恭、而拱義卽在二其中一、釋詁、翼、敬也。

【供求】4 kung¹ ch'iu² 供給と需要。

【供給】5 キヨウキフ ㊀供へものをする。〔禮、曲禮上〕供二給鬼神一。㊁需用に應じて、そなへあてがふ。〔管子、地圖〕供二給軍之求索一。〔史記、封禪書〕使者存問供給、相二屬於道一。〔魏志、鍾繇傳〕供二給資費一。

【供給力】6 キヨウキフリヨク 生產物を市場に供給し得る力。

【供給契約】7 キヨウキフケイヤク 現品を所有しない賣主と物品買入れを取りきめる約束。

【供給之人】8 キヨウキフノヒト ともまはりの人。〔韓愈、送二李愿歸二盤谷一序〕供給之人、各執二其物一。

【供御】9 キヨウギヨ ㊀天子に物をそなへ奉る。主上の用に充てる。〔宋書、彭城王義康傳〕皆以二上品一薦二義康一、而以二次者一供二御上一。㊁ゴク 天子のめされる御膳等をいふ。〔日本紀略、後篇、一〕醍醐天皇、延喜十七年十二月十九日、御井水枯盡、仍以二造酒司外酒殿水一宛二供御一。

【供御之地】10 クゴノチ 朝廷に年貢を上るべき所。所謂、天領又は公領をいふ。供御之邑。〔日本外史、德川氏正記、德川氏四〕奏加二供御之地及廷臣食邑一。

【供具】11 キヨウグ ㊀供張の具。宴會の用具。〔史記、封禪書〕張二羽旗一、設二供具一、以禮二神君一。〔蘇洵、御將〕供具飮食如二王者一。〔資治通鑑、漢紀〕(桓帝、元嘉二年)敬貪立二功名一、前到二于竇一、設二供具一、請建而陰圖レ之。〔注〕供具、宴饗之具也。㊁kung⁴ chü⁴ 惠みあたへる。㊂佛 グク 佛・菩薩に供養する物。香華・燈明・樂器・幡蓋の類。〔大寶積經、三十四〕齎二持微妙供具一。

【供過】12 キヨウクワ くちがきする。供述する。〔福惠全書、刑名部、問擬、釋二供狀一〕問官將二供過起處一硃レ丶、盡處硃レ乚、判レ日入レ卷。

【供廻】13 トモマハリ 供人の一群。〔大織冠、一〕御供廻はりかろがろと。

【供膾】14 キヨウクワイ なますを供へる。〔後漢書、列女、姜詩妻傳〕夫婦常力作、供レ膾。

【供花】15 ゲク 佛 ㊀花を佛に供へること。㊁佛に奉る盛物の臺。筍足。

【供花會】16 クゲエ 佛 每年陰曆三月法華八講を修し、終つて、詩歌を詠ずることをいふ。〔慶法胤、勸學會序〕暮春三月、百花爭開、別修二四日八講一、號二結緣供花會一。

【供獻】17 kung⁴ hsien⁴ 獻上する。供へる。貢獻する。

【供貢】18 キヨウコウ 貢物。租稅。〔漢書、敍傳下〕割二制廬井一、定二爾土田一、什二一供貢一、下富上尊。

【供講】19 クコウ 佛 法華經等を書寫して後、供養講讚すること。〔性靈集、十〕聊設二法筵一、供講事畢。

【供祭】20 キヨウサイ まつりの用にあてる。〔漢書、霍光傳〕減二宗廟羔菟鼃一、〔注〕師古曰、羔菟鼃、所二以供一レ祭也。〔京氏易傳〕新供祭明矣。

【供濟】21 キヨウサイ 與へて救ふ。〔吳志、華覈傳〕冗食之衆、仰二官供濟一。

【供支】22 kung¹ chih¹ 支給する。供給する。

【供詞】23 kung¹ tz'ŭ² 申立てのことば。口書。

【供詞單】24 kung¹ tz'ŭ² tan¹ 罪人の口供書。

【供事】25 キヨウジ ㊀仕事をする。〔漢書、韋賢傳〕供事靡レ惰。㊁清代の制で、書記・通譯等の事務を掌る官、卽ち京師の宗人府・內閣・上諭館・文淵閣・翰林院・詹事府・中書科・內廷三館及び修書各館・各衙門則例館に出仕した官吏。〔清會典、吏部、驗封淸吏司〕凡在官之人、以レ治二其房科之事一曰レ吏、凡京吏之別三、一曰供事。〔注〕宗人府・內閣・上諭館・文淵閣・翰林院・詹事府・中書科・內廷三館、及修書各館・各衙門則例館、皆曰二供事一。

【供侍】26 キヨウジ 側近くつかへる。〔神仙傳、薊子訓〕灑二掃供一侍左右一數百日。

【供牀】27 キヨウシヤウ 持佛堂の供物机。〔水滸傳、四十二回〕供牀上、蜘蛛結レ網。

【供狀】28 キヨウジヤウ 申立ての詞。〔劉克莊、書考詩〕世上升沈姑付レ酒、考中供狀是吟レ詩。〔福惠全書、刑名部、問擬、釋二供狀一〕供者、具也、鞫審之際、兩造以レ口具白二事之始末一也。

【供酒】29 キヨウシユ ㊀笑ひ草にする。〔紅樓夢、一回〕也有二幾首歪詩熟詞一、可三以噴飯供二酒。㊁ソナヘザケ 神前などに供へる酒。

【供需】30 キョウジュ 物貨の供給と需用。需給。〔史璟卿、諫ニ伯嵩之一書〕東南民力、困ニ于供需一。

【供宿】31 クシュク 佛 德尊く年長けたものを供養すること。〔性靈集、十〕禮著ニ鄕飲一、經稱ニ供宿一。

【供出】32 キョウシュツ ㊀白狀する。申し立てる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕其餘未レ經ニ供出一。㊁政府の命令によつて出荷すること。

【供述】33 キョウジュツ 法律上、證據材料を裁判官にあたへる爲に事實を陳べ立てる。又、其の行爲。

【供春】34 キョウシュン 明、吳頤山の家僮。又、龔春に作る。宜興陶工の著名な者。

【供承】35 キョウショウ そなへささげる。〔詩、小雅、大東、有ニ饛簋飧一有ニ捄棘匕一疏〕客始至、主人以レ簋盛レ飧、以レ匕載レ肉、而待レ之、是主人供承之惠、於ニ賓客一厚也。

【供稱】36 キョウショウ 申し立てる。〔福惠全書、刑名部、問擬〕曰ニ一名某人一者、犯人之供稱也。

【供職】37 キョウショク ㊀職務をつつしむ。〔荀悅、單于朝位編〕若不レ供レ職、則有ニ辭讓一。〔潘岳、九品議〕卑位下役、非レ爲ニ鄙愚一所ニ以供一レ職。㊁清代に於ける官吏の成績の第三等。卽ち守謹・才平・政平をいひ、或は才長・政勤・守平をいふ。〔清會典、吏部、考功淸吏司〕凡京察堂官、察ニ其屬之職一而注考焉、一等曰ニ稱職一、二等曰ニ勤職一、三等曰ニ供職一。〔注〕守謹・才平・政平、或才長・政勤・守平、爲ニ供職一、列爲ニ三等一。㊂kung⁴ chih² 職に就く。奉職する。

【供進】38 キョウシン 天子に獻上する。〔北史、王世充傳〕後令ニ以レ船送ニ東京一、而道路賊起、使者苦ニ役於淮泗中一、沈レ船溺ニ殺之一者、前後十數、或有ニ發露一、世充爲祕レ之、又遽簡閱以供進。

【供人】39 トモビト お供をする人。

【供招】40 キョウセウ 白狀する。申立てる。供述する。供認。〔水滸傳、三回〕如若供招明白、擬罪已定。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕汝從レ實供招、免レ受ニ刑罰一。

【供設】41 キョウセツ そなへ設ける。〔南齊書、武帝紀〕竝可ニ擬ニ則公朝方標供設一。〔北史、尒朱文暢傳〕供設奢麗、各有ニ贈賄一。

【供薦】42 キョウセン そなへすすめる。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕凡供ニ薦新味一、多非ニ其節一。

【供餞】43 キョウセン 送別の宴を張ること。〔任昉、爲ニ昭明太子一答ニ何胤一書〕雖ニ朝旨慇懃一、而輕棹已遠、供餞莫レ申。

【供贍】44 キョウセン 財物を施し與へて、すくひ助ける。〔南史、朱脩之傳〕姉在ニ鄕里一、饑寒不レ立、脩之貴爲ニ刺史一、未ニ曾供贍一。

【供饌】45 キョウセン 膳をそなへる。食事をまかなふ。〔後漢書、祭祀志下、注〕明德皇后宜下配ニ孝明皇帝於世祖廟一、同席而供饌上。〔晉書、王濟傳〕帝嘗幸ニ其宅一、供饌甚豐、悉貯ニ琉璃器中一。

【供膳】46 キョウゼン ㊀食膳に供へる。〔北史、陸通傳〕後宅側忽有ニ泉出一而有レ魚、遂得ニ以供一レ膳。㊁カシハデ 古、食膳を掌つた人。膳夫。〔日本書紀、繼體紀、白髮部、注〕白髮部、供膳。

【供送】47 キョウソウ そなへ送る。〔唐書、食貨志二〕小人因ニ宮市一爲レ姦、眞僞難レ辨、宜下下ニ府縣一供送上。

〖供送人〗48 kung¹ sung⁴ jen² 荷物の主。荷物を送つた人。送り人。

【供僧】49 クソウ 佛 本尊に供奉し給仕する僧。勅願寺では、僧綱以下人數を定めて官から資給するので、定額僧といふ。

【供待】50 トモマチ 來者の從者・車夫などを待たせ置く所。伴待。「十九」。

【供臺】51 クダイ 佛 供物を置く大卓。〔禪林象器箋、

【供卓】52 kung⁴ chuo¹ 供物を置く臺。

【供託】53 キョウタク 提供寄託の義で、法律上、主として辨濟の目的物を供託所に託して、其の保管に附する行爲。

〖供託局〗54 キョウタクキョク 供託事務を掌る官廳。司法大臣の管轄に屬する。

〖供託金〗55 キョウタクキン ㊀提供して其の保管を委託する金。㊁法令の定める所により供託所に寄託する金。

〖供託所〗56 キョウタクショ 法律上、供託物を保管する所。

〖供託法〗57 キョウタクハフ 供託物の保管・供託の手續等、供託に關する事項を規定した法律。

【供單】58 キョウタン 供述の調書。くちがき。〔政刑大觀〕供單上、注ニ明某日捉獲、某日審鞫一。

【供茶】59 キョウチャ お茶をそなへる。〔王士熙、竹枝詞〕土屋青帘留買レ酒、石泉老衲喚供レ茶。

【供帳】60 キョウチャウ ㊀宴席・休息所などに當てるために帷幕を張ること。又、其の張つた帷幕。供張。供頓。〔後漢書、班固傳〕乃盛ニ禮樂供帳一。〔注〕供帳、供ニ設帷帳一也。〔班固、東都賦〕爾乃盛レ禮興レ樂、供帳置ニ乎雲龍之庭一。〔張衡、西京賦〕門衞供帳、官以レ物辨。〔注〕良曰、牀帳之物、皆以レ官辨。〔唐書、濮恭王泰傳〕衞尉供帳、光祿給食。㊁かざりつけ。〔宋史、眞宗紀〕詔除ニ乘輿供帳一。㊂クチャウ 官に奉る僧籍の帳簿。〔佛祖統紀〕唐開元十七年、敕ニ天下僧尼一、令ニ三歲一造レ籍、供帳始レ此。

【供張】61 キョウチャウ 供帳の㊀に同じ。〔漢書、疏廣傳〕設ニ祖道一、供ニ張東都門外一。〔漢書、王尊傳〕後上行ニ幸雍一過レ虢、尊供張如レ法而辨。〔韓愈、送ニ楊少尹一序〕於レ時公卿設ニ供張一、祖ニ道都門外一。

【供頭】62 クヂュウ 佛 供頭行者の略。

〖供頭行者〗63 クヂュウアンジャ 佛 禪宗の僧堂で粥飯の時、飯羹・茶菓などを配り、又、堂內の點燈・裝香・打鐘等を掌る役。供頭。〔禪林象器箋、職位門〕粥飯時、行ニ益飯羹茶菓等一者、或稱ニ供頭一。

【供吐】64 キョウト 白狀する。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕俟ニ其供吐一、以爲ニ駁詰一。

【供頓】65 キョウトン ㊀酒を出して客を饗すること。頓はとどめ宿す意。〔顏氏家訓、風操〕其日皆爲ニ供頓一。㊁供帳(60)の㊀に同じ。〔唐書、高宗紀〕詔所レ過供頓、免ニ今歲租賦之半一。㊂元代、驛傳の一。〔王圻、續文獻通考〕元驛傳之制、有ニ府寺一、有ニ符節一、有ニ次舍一、有ニ供頓一。〔注〕供頓、馬車牛驢狗轎。〔謝翺望、蓬萊詩〕千官此地珮宛宛、舟發ニ黃門一止ニ供頓一。

【供認】66 キョウニン 白狀する。自白する。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕皆供認不レ諱。

〖供認過〗67 キョウニンクワ 白狀ずみ。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕把ニ供認過賊一帶來問。

【供報】68 キョウハウ 口書きを出す。〔福惠全書、編審部、立局親審〕俱不ニ供報一。

【供攀】69 kung¹ p'an¹ 同犯者を供述する。

【供備】70 キョウビ 供へ準備する。〔商子、畫策〕官無ニ供ニ備之一。

〖供備菜〗71 kung⁴ pei⁴ ts'ai⁴ 佛に供へるもの。

【供佛】72 クブツ ㊀佛前に物を供へる。〔南史、晉安王子懋傳〕有下獻ニ蓮華一供レ佛者上。㊁kung⁴ fo² 佛を祭る。

【供餠】73 キョウベイ ㊀御馳走として出した餠。〔唐書、高元裕傳〕中人責ニ峽名驛吏供餠惡一、鞭レ之。㊁ソナヘモチ 神前などにそなへる餠。鏡餠。おそなへ。

【供奉】74 キョウホウ ㊀供給する。兵力・食糧などを供給して助力する。又、供給して生活に不自由のないやうにする。奉は、與へる・助ける。〔漢書、王莽傳中〕秦爲ニ無道一、厚ニ賦稅一以自供奉、罷ニ民力一以極レ欲。〔蜀志、劉璋傳〕璋、云云、勅ニ在所一供ニ奉先主一、先主入レ境如レ歸。㊁天子や貴人などに侍して御用をつとめる。〔白居易、春憶ニ二林寺舊遊一因寄ニ郞・滿・晦三上人一詩〕頭陀會裏爲ニ逋客一、供奉班中作ニ老臣一。㊂官名。唐、置く。一材一藝あるものは內廷に供奉したので、從官の異稱となつた。故に唐代に翰林供奉の名があり、宋代に東西頭供奉官がある。侍禁(**1**－**589**・・20)を見よ。〔文獻通考、職官考、學士院〕元宗初、以ニ中書務劇、文書多ニ壅滯一、乃選ニ文學之士一、號ニ翰林供奉一、與ニ集賢院學士一分ニ掌制詔書敕一。開元二十六年、又改ニ翰林供奉一爲ニ學士一、別置ニ學士院一、專ニ掌內命一。〔夢溪筆談、故事一〕東西頭供奉官、本唐從官之名、自ニ永徽一以後、人主多居ニ大明宮一、別置ニ從官一、謂ニ之東頭奉官一、西內具員不レ廢、則謂ニ之西頭供奉官一。㊃グブ 行幸などの時に御供をすること。又、その人。おとも。

〖供奉馬〗75 キョウホウバ 天子の輦をひく馬。〔鄭嵎、津陽門詩〕幽州曉進供奉馬、玉珂寶勒黃金羈。

【供米】76 クマイ ㊀神佛に供へる米。㊁キョウマイ 供出する米。

【供命】77 キョウメイ 命令に服す。〔孔子家語、王言解〕四海之內、供レ命而已矣。

【供明】78 キョウメイ 白狀ずみ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕與ニ供明某人一俱免レ擬。

【供物】79 クモツ 佛にそなへるもの。〔古今著聞集、二〕涅槃會、云云、五十二種の供物。

【供養】80 キョウヤウ ㊀父母・祖父母などを養ふこと。

〔戰國、韓策〕可下且夕得二甘脆一以養レ親、親供養備。〔李密、陳情表〕臣以二供養無一レ主、辭不レ赴。㊁祖先の廟に食物を供へること。〔漢書、文帝紀〕今乃幸以二天年一、得二復供一養于高廟一。㊂飲食物を以て自らを養ふこと。〔禮、月令〕收二祿秩之不一レ當、供養之不レ宜者一。〔疏〕供養不レ宜、謂二非レ常之膳、求不レ可レ得者一也。〔韓非子、亡徵〕父兄大臣、祿秩過レ功、章服侵レ等、宮室供養大侈。㊃欲望を滿足させるやうにすること。〔淮南子、主術訓〕人主租二斂於民一也、必先計レ歲而收、量二民積聚一、知二饑饉有餘不足之數一、然後取二車輿衣服一、供二養其欲一。㊄德を養成すること。〔左氏、昭、十二〕供二養三德一爲レ善。〔會箋〕能養二成黃裳之德一。㊅佛ヤウ 佛又は死者の靈に物を供へて回向すること。〔法華經、授記品〕供養恭敬、尊重讚嘆。

【供養米】81 クヤウマイ 佛 佛にそなへる米。供米。〔釋迦如來誕生會、四〕年内の供養米。

【供禮】82 キョウレイ 膳部。〔福惠全書、教養部、禮者德〕公進二供禮一、亦如レ之。

【供料】83 クレウ 僧に供給する米。〔沙石集、二上〕檀那、云云、供料など寄進してけり。

【供官詩】84 キョウクヮンシ 官吏にささげる詩。〔周紫芝、太倉稊米集〕東坡嘗言、古今語未レ有二無レ對者一、琴家謂三琴聲能娛二俗耳一者、爲二設客曲一、頃時有乙作下送二太守一詩上者甲、僕嘗問レ之、其人曰、此供官詩不レ足レ觀、於レ是設客曲乃始有レ對、戲作二俳體詩一云、設客元無二琴裏曲一、供官尙有二篋中詩一。

【供月兒】85 kung⁴ yüeh⁴ êrh 陰曆八月十五日に月を祭ること。

【供丁銀】86 キョウテイギン 民丁の力役に服すべき者が力役に服する代りに納める銀。〔六部成語、戶部、供丁銀、注解〕民丁應レ供二官役一者、納レ銀以代レ之、曰二供丁錢一。

【供不敷求】87 kung¹ pu⁴ fu¹ ch'iu² 供給が需用に足らぬ。供給不足。

【俦】606

チウ チユ 〔集韻〕張流切 ㄓㄡ chou¹ 尤

小篆 ㊀おほひかくす。いつはる。〔說文〕俦、有二廱蔽一也、从レ人舟聲、詩曰、誰俦二予美一。〔詩、陳風、防有鵲巢〕誰俦二予美一。〔傳〕俦、張誑也。㊁譸(10－36050)に通ず。〔正字通〕俦、與レ譸同。㊂侏(1－592)に通ず。〔說文通訓定聲〕俦、爾雅釋訓、俦張、誑也、云云、作二侏張・朱張一、亦皆同。㊃或は倜(1－778)に作る。〔說文通訓定聲〕俦、字亦作レ倜。

【俦倭】1 チウヰ 黍神の名。俦佞。〔春秋佐助期〕黍神、名俦倭蘭郝。

【俦張】2 チウチヤウ あざむく。たぶらかす。欺誑。〔爾雅、釋訓〕俦張、誑也。〔注〕書曰、無二或俦張爲一レ幻。〔詩、陳風、防有鵲巢、誰俦二予美一、箋〕誰俦二張誑一欺我所レ美之人一乎。〔後漢書、五行志五、注〕君行不レ由レ常、俦張無レ度。

【俦佞】3 チウネイ 神の名。俦倭(1)に同じ。〔太平御覽、百穀部、黍類〕春秋佐助期曰、黍神、名俦佞蘭郝。

【依】607

㊀ エイ 〔集韻〕於希切 一 i¹ 微
㊁ エイ 〔集韻〕隱豈切 尾

小篆 ㊀㊀よる。もたれる。〔說文〕依、倚也、从レ人衣聲。〔詩、小雅、采薇〕君子所レ依。〔論語、述而〕依二於仁一。〔集解〕依、倚也。㊁たのむ。たよる。〔廣雅、釋詁三〕依、恃也。〔書、無逸〕知二小人之依一。〔傳〕知二小人之依怙一。〔蔡傳〕小民所二恃以爲一レ生也。〔左氏、僖、五〕輔車相依。〔史記、司馬相如傳〕其人材足レ依也。㊂たもつ。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕余生終而無レ所レ依。〔注〕依、保也。㊃たすける。〔玉篇〕依、助也。〔漢書、禮樂志〕聲依レ詠、律和レ聲。〔注〕依、助也。㊄いつくしむ。めでる。〔詩、周頌、載芟〕有レ依二其士一。〔箋〕依之言、愛也。㊅なぞらへる。〔後漢書、竇憲傳〕乃拜二憲車騎將軍一、金印紫綬、官屬依二司空一。〔注〕依、準也。㊆祿。〔方言、十三〕依、祿也。㊇木の茂つたさま。鬱(12－45671)に通ず。〔說文通訓定聲〕依、叚借爲レ鬱。〔詩、小雅、車舝〕依彼平林。〔傳〕依、茂木貌。㊈物のさま。依然(71)・依韋(8)・依依(6)・依稀(24)を見よ。㊉從ふ。〔元曲、竇娥冤〕有二一事肯依一、竇娥便死而無レ怨。⑪姓。〔國語、晉語四〕其得レ姓者十四人、爲二十二姓一、姬・酉・祁・己・滕・箴・任・荀・僖・姞・儇・依、是也。⑫現承知する。よろこぶ。㊁㊀やすい。やすんずる。〔詩、大雅、公劉〕于レ京斯依。〔集傳〕依、安也。㊁弓のつるまき。つるまとひ。〔儀禮、既夕禮記〕設二依撻一焉。〔注〕依、纏レ絃也、撻、弣側矢道也、皆以レ韋爲レ之。〔疏〕依、以レ韋依二纏其絃一、卽今時弓彄也。㊂堂上の戶と牖との間、又、天子の御座の後に立てる屛風。扆(5－11742)に通ず。〔說文通訓定聲〕依、叚借爲レ扆。〔儀禮、士虞禮〕出レ戶負レ依南面。〔注〕戶牖之間、謂二之依一。〔儀禮、覲禮〕天子設二斧依于戶牖之間一。〔注〕依、如二今綈素屛風一也、有二繡斧文一、所二以示一レ威也。〔禮、曲禮下〕天子當レ依而立。〔釋文〕依、本又作レ扆。〔荀子、正論〕負レ依而坐。〔注〕戶牖之間、謂二之依一、亦作レ扆、扆・依音同。㊃たとへる。さとす。或は衣(10－34091)に作る。〔集韻〕依、譬喩也。〔禮、學記〕不レ學二博依一。〔注〕博依、廣二譬喩一也、依、或爲レ衣。

【依亞】1 i¹ ya³ 英米の尺度の名。ヤード。

【依阿】2 イア 媚びへつらふ。阿り從ふ。〔干寶、晉紀總論〕依二阿無心一者、皆名重二海內一。〔注〕銑曰、依二阿無心一、謂二曲從不一レ察。

【依阿兩可】3 イアリヤウカ 人の思惑のみを考へて、特に己の說を立てず、可否の論をしないこと。〔資治通鑑、唐紀〕(憲宗、元和四年)苟求レ便レ身、率爲二依阿兩可之言一。〔注〕史炤曰、依阿、謂下不三特立二其說一、常附中順人言上、兩可、謂レ無レ所二可否一。

【依安】4 イアン 縣名。もと拜泉・林田二縣の地。滿洲黑龍江省齊哈爾市の東方。土名は龍泉鎭。

【依按】5 イアン 或ることに依つて他のことを考へ察すること。〔南史、王僧孺傳〕位宦高卑、皆可二依按一。

【依依】6 イイ ㊀枝のしなやかなさま。一說に、盛に茂るさま。〔詩、小雅、采薇〕昔吾往矣、楊柳依依。〔袁枚、雨中送レ春詩〕東風吹レ雨洒二雕輪一、楊柳依依欲レ斷レ魂。㊁離れるに忍びない意。思ひ慕ふさま。〔韓詩外傳、二〕其民依依、其行遲遲。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕志戀戀兮依依。〔蜀志、費詩傳〕依依東望。〔陸機、漢高祖功臣頌〕依依哲母、既明且慈。〔潘岳、寡婦賦〕猶依依以憑附。〔注〕善曰、依依、思戀之貌。〔岑參、早秋與二諸子一登二虢州西亭一觀眺詩〕唯有二鄉園處一、依依望不レ迷。㊂おどおどしたさま。〔史記、孝武紀〕依依震二於怪物一。㊃遠くてぼんやりしたさま。〔陶潛、歸二園田居一詩〕曖曖遠人村、依依墟里煙。〔李嘉祐、自二蘇臺一至二望亭驛一人家盡空詩〕遠樹依依如レ送レ客、平田渺渺獨傷レ春。㊄心が惹かれる。未練がある。〔例〕依依不レ捨。

【依倚】7 イイ よりかかる。もたれかかる。賴る。倚賴。依賴。依歸。〔詩、鄘風、定之方中、以望レ楚矣、箋〕審三其高下所二依倚一、乃後建レ國焉。〔漢書、宣元六王傳〕上少依二倚許氏一。〔鹽鐵論、復古〕依二倚大家一。〔論衡、佚文〕依二倚事類一。〔馮衍、與二婦弟任武達一書〕依二倚鄭令一、如レ居二天上一。〔魏志、和洽傳〕民弱易二依倚一也。〔韓偓、玩二水禽一詩〕依二倚雕梁一輕二社燕一、抑二揚金距一笑二晨雞一。〔李頻、送三友人喩坦之歸二睦州一詩〕彼此無二依倚一、東西又別離。

【依韋】8 イヰ 音律の諧ひ和すること。〔漢書、禮樂志〕五音六律、依韋饗昭。〔注〕師古曰、依韋、諧

和不二相乖離一也。

【依違】9 ヰイ 或は依り或は違ガタふ。❶どつちつかずのさま。何れとも決せぬさま。ぐづぐづしてゐること。躊躇。〔漢書、律歷志上〕書缺樂弛、朕甚難レ之、依違以惟、未レ能二修明一。〔注〕師古曰、依違、不レ決之意也。〔漢書、谷永傳〕展レ意無レ所二依違一。〔後漢書、第五倫傳〕倫奉レ公盡レ節、言事無レ所二依違一。〔魏志、田疇傳〕太祖重二其事一、依違者久レ之。❷專斷でないこと。謙遜な態度をいふ。〔漢書、劉歆傳〕猶依違謙讓。〔注〕師古曰、依違、言レ不二專決一也。❸曖昧なこと。はつきりしないこと。〔論衡、問孔〕孔子之言、解レ情而無二依違之意一。❹徘徊する。うろつく。樂音が暫く搖曳することをいふ。〔曹植、七啓〕飛聲激レ塵、依違厲レ響。〔注〕善曰、依違、猶二徘徊一也。

〔依違顧忌〕10 イヰコキ 態度を定めない。どちらつかずに、人の思惑を顧慮する。依違の❶・顧忌(**12**－43689‥44)を見よ。

〔依違鶻突〕11 イヰコツトツ どちらに附くべきか判然と決しない。鶻突(**12**－47198‥10)を見よ。

【依允】12 イイン したがふ。承知する。許諾する。〔福惠全書、刑名部、問擬〕各不レ合二依允一。

【依因】13 イイン たよる。よりもとづく。又、其のこと。〔喬彝立、走馬賦〕寧有レ力二於依因一。

【依隱】14 イイン ❶孰れにもつかず、朝に在つても隱退の心あること。隱は朝隱。〔漢書、東方朔傳贊〕依隱玩レ世、詭レ時不レ逢。〔注〕如淳曰、依違朝隱、樂二玩其身於一世一也。❷よる。〔大戴禮、文王官人〕征レ利而依二隱於物一、曰二貪鄙者一也。〔注〕隱、據也。

【依韻】15 イヰン 和韻の一種。一に同韻ともいふ。原作と同一の韻中にある文字を用ひるもので、必ずしも原作に用ひられた文字に拘らない。和韻(**2**－3490‥13)を見よ。〔文體明辯、和韻〕按、和韻詩有二三體一、一曰二依韻一、謂丁同在二一韻中一、而不丙必用乙其字甲也。

【依烏】16 ウイ ❶星の名。〔晉書、天文志上〕郎位十五星、在二帝座東北一、一曰二依烏一、郎府也。❷唐代、諸部郎の異稱。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二它名一標二牓官稱一、云云、諸部郎、通曰二哀烏・依烏一。

【依緣】17 エイン たよりまとふ。〔詩、衞風、芄蘭、芄蘭之支、箋〕芄蘭柔弱、恒蔓二延於地一、有レ所二依緣一則起。〔詩、大雅、旱麓、莫莫葛藟、箋〕喩下子孫依二緣先人之功一而起上。〔漢書、韋玄成傳〕無レ所二依緣一。

【依於】18 オイ 相依る。論語、述而篇の依二於仁一から出來た語。〔元好問、詩〕南榮坐二諸郎一、課誦所二依於一。〔張養浩、牡丹詩〕明窗淨几相依於。

【依價】19 カイ 適當の價格によること。〔南史、師子國傳〕鬼神不レ見二其形一、但出二珍寶一、顯二其所レ堪價一、商人依レ價取レ之。

【依靠】20 イカウ 賴みにする。依賴する。又、賴るべきもの。〔紅樓夢、三十三回〕倒底在二陰司裡一、得二個依靠一。

【依奇】21 キイ 奇策に依る。又、依り用ひる奇策。一說に、奇を倚に作る。依倚は、依り賴むべきもの、與國をいふ。〔管子、幼官〕定二依奇一勝。〔注〕所レ依奇策、能審定者勝。

【依俙】22 キイ まぎらはしい程よく似てゐる。又、明かでないさま。髣髴。依稀。〔集韻〕俙、依俙、猶レ言二髣髴一也。〔古音駢字〕依俙、言二疑似一也、

【依期】23 i¹ ch'i² 約束の期限。〔一云、不明貌。

【依稀】24 キイ さながら。彷彿たり。さも似たり。あたかも。依俙。髣髴。〔韓愈、送二區弘南歸一詩〕我遷二于南一日周圍、來見者衆莫二依稀一。〔劉禹錫、荆門道懷古詩〕南國江山舊帝畿、宋臺梁館尙依稀。〔趙嘏、江樓舊感詩〕同來翫レ月人何處、風景依稀似二去年一。〔郭良、早行詩〕漸至二重門外一、依稀見二洛城一。

【依歸】25 キイ ❶よる。よりすがる。倚賴。〔書、金縢〕我先王、亦永有二依歸一。〔蔡傳〕庶先王之祀、亦永有レ所二賴以存一也。〔晏子、問、下〕不二用有レ所二依歸一。〔史記、魯世家〕我先王、亦永有レ所二依歸一。〔後漢書、鄧禹傳〕長安吏人、遑遑無レ所二依歸一。❷投降する。❸佛キエ 一心に心を向ける。深く信仰する。〔楞伽經〕一切修行者之所二依歸一。

【依議】26 ギイ 上奏の通りに取り計らはせること。清代、上奏に對し、天子が許可の意を示すこと。其の時は、只、爪で一本の筋を畫する丈で、文字は書かないといふ。〔皇朝政治學問答〕在京各衙門遞上、摺字、皇上看二其事可一レ行、卽依レ所レ議、依レ議摺字、不三來摺二面上一、直畫二一道一。

【依舊】27 キウ 舊による。昔のまま。依還。依然。〔舊唐書、中宗紀〕二月甲寅、復二國號一、依レ舊爲レ唐。〔許棠、寄二薛能一時〕時聞迎二隱者一、依レ舊著二山衣一。

〔依舊草堂〕28 イキウサウダウ 淸、費丹旭(**10**－**36717**‥100)の室名。

【依據】29 キヨ ❶よる。根據とする。又、よりどころ。憑證。證據。〔許沖、上二說文一書〕蓋聖人不二空作一、皆有二依據一。〔顏氏家訓、歸心〕若レ所二測量一、寧足二依據一。〔魏書、劉芳傳〕臣以二庸蔽一、謬忝二今職一、考二括墳籍一、博二採羣議一、既無二異端一、謂三粗可二依據一。❷よつて。從つて。云云によれば。

【依近】30 i¹ chin⁴ 近くに接近する。

【依果】31 エクワ 佛 有情の果報二種の一。有情の心身を總べて正果・正報といひ、有情のよりどころ、所有物、卽ち山川・居家・衣服・飲食等を名づけて依報・依果といふ。これらのものは正報・正果の依處であるからいふ。依報。〔讚彌陀偈〕無漏依果難二思議一。

【依科】32 イクワ 法規にもとづく。〔後漢書、獻帝紀〕今耆儒年踰二六十一、去二離本土一、結童入レ學、白首空歸、朕甚愍焉、其依レ科罷者、聽レ爲二太子舍人一。

【依懷】33 イクワイ 思を寄せる。〔國語、周語上〕民神怨痛、無レ所二依懷一。〔注〕懷、歸也。

【依還】34 i¹ huan² もとのまま。昔のとほり。依舊。依然。〔元曲、楚昭公〕只道他暮景蕭蕭、依還的雄威赳赳。

【依險】35 イケン 險阻な所に依る。〔列子、黃帝〕避レ平依レ險、違レ寒就レ溫。

【依言】36 i¹ yen² いふところによると。話によると。

【依限】37 i¹ hsien⁴ 期限通り。

【依怙】38 コイ ❶たよる。賴るべきもの。〔魏明帝、櫂歌行〕哀哉王士民、瞻仰靡二依怙一。〔宋史、樂志七〕欽二惟歲事一、民所二依怙一。❷佛コエ 賴りにするもの。〔法華經、普門品〕觀世音淨聖、於二苦惱死厄一、能爲作二依怙一。❸かたておち。偏頗。不公平。〔國性爺後日合戰〕我が夫の國性爺殿ただ一人助けては依怙となり。

〔依怙地〕39 エコヂ 片意地。頑固。

〔依怙贔屓〕40 エコヒイキ 一方にのみ力を入れてやること。かたびいき。

【依谷】41 イコク 谷に依る。〔孫子、行軍〕絕レ山依レ谷、視二生處高一。

【依之】42 シイ 淸、許祖京(**10**－**35298**‥341)の字。

【依止】43 シイ ❶よりどころとしてとどまる。〔周禮、春官、肆師、祭二兵于山川一、注〕山川、蓋軍之所二依止一。〔杜甫、岳麓山道林二寺行詩〕依二止老宿一亦未レ晚、富貴功名焉足レ圖。❷佛ジエ よりどころとすること。〔法華經、方便品〕若有若無等、依二止此諸見一。

〔依止師〕44 エジシ 佛 ❶五種阿闍梨の一。依止阿闍梨に同じ。〔元亨釋書、二十四〕或居二本寺一、請二依止師一、細學二律相一。❷禪宗で受學參禪の師をいふ。〔禪林象器箋〕。

〔依止阿闍梨〕45 エジアジャリ 佛 五種阿闍梨の一。僧が度せられて、依りたよつて監督を受ける所の先輩の僧をいふ。依止師。〔四分律、三十四〕。

【依次】46 ジイ 順序による。順次に。〔後漢書、楊脩傳〕乃逆爲二答記一、敕二守舍兒一、若有二令出一、依レ次通レ之。〔北齊書、文宣帝紀〕蔡邕石經五十二枚、卽宜下移二置學館一、依レ次修立上。

【依事】47 ジイ 事にかこつける。〔南史、王思遠傳〕臨海太守沈昭略二贓私一、思遠依レ事劾奏。

【依恃】48 ジイ よりたのむ。〔詩、小雅、小弁、靡二依匪レ母、箋〕無乙不下依二恃其母一、以長大上者甲。〔蜀志、譙周傳〕今以二窮迫一、欲二往依恃一。

【依就】49 イシウ たよつて身を寄せること。〔吳志、魯肅傳〕近鄭寶者、今在二巢湖一、擁二衆萬餘一、處地肥饒、廬江閒人、多依二就之一、況吾徒乎。

【依實】50 i¹ shih² ありのまま。鄭重な。遠慮しない。

【依藉】51 イシヤ よりたのむ。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕依二藉羣梟一。

【依正】52 エシヤウ 佛 依報と正報。過去の業に由つて受けた我が心身を正報といひ、其の心身の依止となる一切世間の事物を依報といふ。〔三藏法數、二十七〕依、謂二依報一、卽五陰身也、正、由二業力一感二報此身一、故名二正報一、既有二能依之身一、卽

有二所依之土一故國土亦名レ報也。

【依正二報】53 ニエシヤウ 佛 正報と依報。共に前業に應ずる果報であるから、二果とも二報ともいふ。依果(31)を見よ。

【依城】54 イジヤウ 河の名。河北省の大清河の支流。安新縣の城北、唐河の下流。東流して豬龍河に會す。それより瀦聚して西淀となり、更に東流して大清河となる。

【依守】55 イシユ よりあひたすける。〔福惠全書、涖任部、詳文贅說〕曰與二三鳩形鵠面之小民一相二爲依守一。

【依從】56 ニ ts'ung² したがふ。承引する。

【依宿】57 イシユク たよりやどる。〔後漢書、范冉傳〕或寓二息客廬一或依二宿樹蔭一。

【依準】58 イジユン より則る。準據。〔左氏、昭、六、先王議レ事以制、疏〕雖二依準舊條一而斷有二出入一。〔後漢書、華佗傳〕依二準佗療一多所二全濟一。〔吳志、韋曜傳〕依二準古義一。

【依乘】59 イジヨウ たより乘ずる。〔唐書、李敬業傳〕遂能依二乘風雲一勒二功帝籍一。

【依囑】60 イシヨク たのむ。たよる。

【依身】61 エシン 佛 人身。眼耳等の依る處であるからいふ。〔翻譯名義集、六、瑜伽云、諸根所二隨周遍積集一故名爲レ身、是積集義、及依止義。

【依斟】62 イシン 斟氏にたよる。古、夏帝相が、羿に逐はれた時、同姓の諸侯斟灌・斟尋に依賴した故事。〔後漢書、桓帝紀論〕雖レ願二依斟流一而靡、亦不レ可レ得已。〔注〕帝王紀曰、夏帝相爲二羿所一レ逐、相乃都二商丘一依二同姓諸侯斟灌・斟尋氏一。

【依人】63 イジン 人をたよりにする。〔唐書、長孫無忌傳〕竭レ誠親二於朕一、若二飛鳥依一レ人、自加二憐愛一。

【依仁】64 イジン 仁を守つて違はない。〔論語、述而〕志二於道一、據二於德一、依二於仁一、游二於藝一。〔集注〕依者、不レ違之謂。〔杜甫、寄二張十二山人彪一詩〕此邦今尚レ武、何處且依レ仁。

【依世】65 イセイ 世俗に從ふ。〔孔子家語、賢君〕從レ上依レ世則道廢、違レ上離レ俗則身危。

【依政】66 イセイ 縣名。西魏、置く。故城は四川省邛崍縣の東南。〔讀史方輿紀要、四川、邛州〕依政廢縣、州東七十里、漢臨邛縣地、西魏置二依政縣一、改置二邛州於此一。

【依勢】67 イセイ 勢位に乘ずる。權勢をたのむ。〔書、君陳〕無二依レ勢作レ威、無二倚レ法以削一。〔傳〕無下乘二勢位一作中威人上。

【依照】68 ニ chao⁴ 云云通りに。云云の如くに。

【依夕】69 イセキ 夕方に近づく。夕方。夕刻。〔水經、江水注〕孫權常獵二於山下一、依夕見二一姥一、間レ權、獵何所レ得。

【依前】70 イゼン もとのまま。依舊。〔舊唐書、德宗紀上〕陵廟所レ須、依レ前勿レ闕。〔韓愈、月蝕詩、效二玉川子作一〕依レ前使下兎操二杵臼一、玉階桂樹鬧婆娑上。

【依然】71 イゼン ㊀もとのまま。古を繼ひしたふさま。〔南史、沈文季傳〕其郡依然猶有二故情一。〔江淹、別賦〕惟世間兮重レ別、謝二主人一兮依然。〔韓翃、送二齊山人歸二長白山一詩〕柴門流水依然在、一路寒山萬木中。〔張喬、送二友人進士許棠一詩〕離レ鄉積二歲年一、歸路遠依然。㊁樹木の盛に茂るさま。〔詩、小雅、車舝、依彼平林、傳、依茂木貌、疏〕依然而茂盛者、彼平林之木。

【依阻】72 イソ 險阻な要所として、よりたのむ。〔漢書、王莽傳下〕依二阻山澤一、以二漁采一爲レ業。〔蔡邕、答二災異問一〕依二阻城社一、大爲二姦禍一。

【依訴】73 イソ たより訴へる。〔後漢書、馮異傳〕元元塗炭、無レ所二依訴一。

【依則】74 イソク 依りのつとる。〔漢書、外戚下、班倢伃傳〕每二進見一、上疏依二則古禮一。

【依屬】75 イゾク よりそふ。つき從ふ。〔詩、小雅、鹿鳴、我勞如何、箋〕在國依二屬於卿大夫之仁者一。

【依存】76 イソン それに賴つて存在すること。

【依他】77 エタ 佛 三性の一。單獨に存在することではなくて、他の因緣に依つて起ること。又、依他起性といふ。〔成唯識論、八〕由二斯理趣一、衆緣所生、心心所體、及相見分有漏無漏、皆依他起、依二他衆緣一而得レ起故。

【依他十喩】78 エタノジフユ 佛 依他法には實體のないことをあらはす十種の喩。聚沫・泡・陽燄・芭蕉・幻・夢・影・響・浮雲・電。〔維摩經、方便品〕是身如二聚沫一、不レ可二撮摩一、是身如レ泡、不レ得二久立一、是身如レ炎、從二渴愛一生、是身如二芭蕉一、中無レ有レ堅、是身如レ幻、從二顚倒一生、是身如レ夢、爲二虛妄一見、是身如レ影、從二業緣一現、是身如レ響、屬二諸因緣一、是身如二浮雲一、須臾滅、是身如レ電、念念不レ住。

【依耐】79 イタイ 漢代の西域の國名。〔漢書、西域上、依耐國傳〕王治去二長安一萬一百五十里。

【依戴】80 イタイ たよりいただく。〔後漢書、馮異傳〕百姓失レ望、無レ所二依戴一。

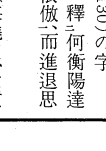
【依道】81 イダウ 道に從ふ。〔淮南子、原道訓〕依レ道廢レ智、與レ民同出二于公一。〔阮籍、通老論〕三皇依レ道、五帝仗レ德。

【依托】82 イタク 依託に同じ。

【依託】83 イタク ㊀よせる。よりかこつける。依托。〔六韜、龍韜、王翼〕術士二人、主下爲二譎詐一、依二託鬼神一、以惑中衆心上。〔漢書、眭兩夏侯京翼李傳贊〕假レ經設レ讖、依二託象類一。㊁よる。たよる。〔後漢書、光武紀下〕被レ略爲二奴婢一者、皆一切免爲二庶民一、或依託爲二人下妻一、欲レ去者恣聽之。〔吳志、陳武傳〕陳武仁厚好施、鄉里遠方、多依二託之一。〔唐書、陽城傳〕有下狂二惑小生一、依二託門下一上。㊂ゆだね預ける。

【依託所】84 イタクショ ゆだね預ける所。

【依撻】85 イタツ ゆがけと弭ツユカの側の矢をあてがふ箇所とを、幸でまとひ締めたもの。〔儀禮、既夕禮記〕設二依撻一焉。〔注〕依、纏絃也、撻、弭側矢道也、皆以レ韋爲レ之。


依（體）
撻（圖器）

【依知】86 エチ 相模國の地名。

【依馳】87 ニ chi² 夢中になる。心が馳せる。戀ひ慕ふことにいふ。

【依墀】88 イチ 清、馬緯雲(12－44572：685)の字。

【依遲】89 イチ ぐづぐづと徐行する。〔王維、別二輞川別業一詩〕依遲動二車馬一、惆悵出二松羅一。〔韓愈、諫迎佛骨表〕伏願依遲。

【依聽】90 イチヤウ 承知する。〔福惠全書、刑名部、問擬、釋二招狀一〕各不合依聽在レ心。

【依杖】91 イヂヤウ よる。〔吳志、顧雍傳〕依二杖素業一。

【依著】93 イヂヤク ㊀たよる。たのみにする。〔紅樓夢、一回〕少不レ得二依二著他父母一。㊁佛 ヱヂヤク 執着すること。〔往生要集、上〕能如レ實知二一切法相一、而不二依著一、故名二摩訶薩一。

【依通】94 ツウ 佛 五通の一。通力の一種で、藥力・呪術等に依憑して神通の作用を現はすもの。〔宗鏡錄、十五〕・〔三藏法數、二十一〕。

【依天】95 テン 天による。天までとどく。〔後漢書、班超傳〕聞二其城郭小大一、皆言、倚レ漢與レ依レ天等。〔北史、鄭道昭傳〕戴レ日依レ天、淸二六合一。

【依田】96 デン ㊀信濃の地名。㊁姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【依田川】97 ヨダガハ 信濃國の川。

【依田學海】98 ヨダガクカイ 下總の佐倉の人。名は朝宗。字は百川。通稱は七郎・又右衞門・二郎。號は學海。天保四年十一月二十日に生れ、明治四十二年に歿す、年七十七。著に芳野拾遺名歌譽・俠美人・譚海・談叢がある。

【依投】99 トウ たよる。すがる。依託。〔韓愈、枯樹詩〕寄託惟朝菌、依投絕二暮禽一。

【依匿】100 トク 依りかくれる。〔墨子、備城門〕若也可二依匿一者、盡除二去之城下州道內一。

【依南】101 ナン 清、薛鎔(9－32123：130)の字。

【依倣】102 ハウ よりならふ。〔顏延之、釋二何衡陽達性論一書〕吾恠二於庭斷一、故務求二依倣一、而進退思索、未レ獲二所レ安一。

【依傍】103 バウ たよる。依賴する。〔梅堯臣、汝墳貧女詩〕勤勤囑二四鄰一、幸願二相依傍一。〔紅樓夢、三回〕今依二傍外祖母及舅氏姊妹一。

【依泊】104 ハク とまる。碇泊。〔張衡、週天大象賦〕歷二玉漢一、以汪洋、淪二七星一而依泊。

【依庇】105 ヒ たより寄る。〔後漢書、淸河孝王慶傳〕魂靈有レ所二依庇一。

【依棲】106 ヒ 雲の、あやがあつて美はしいさま。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕霧露濛濛其晨降兮、雲依棲而承レ宇。

【依霏】107 ヒ 雲のたなびくさま。〔摯虞、思遊賦〕華雲依霏而翼衡兮、日月炫晃而暎蓋。

【依微】108 ビ ぼんやりしたさま。〔韋應物、自鞏洛二舟行入一黃河一卽事寄二府縣寮友一詩〕寒樹依微遠天外、夕陽明滅亂流中。

【依憑】109 ヒヨウ よりたのむ。依賴。依馮。〔後漢

書、陽球傳〕斗筲小人、依ニ憑世戚一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕豈非下神明依憑支持、以保ニ漢室一者上也。

【依附】110 イフ より附く。よりすがる。〔詩、小雅、鴻鴈、哀ニ此鰥寡一箋〕其孤獨者、收ニ斂之一、使レ有レ所ニ依附一。〔蜀志、呂凱傳〕將ニ何所依附一。〔北史、袁翻傳〕甚相依附。

【依屛】111 イヘイ ついたて。〔許渾、山雞詩〕月圓疑ニ望鏡一、花暖似ニ依屛一。

【依蒲】112 イホ 魚が水草による。人が明王にしたがひ依るに喩へる。〔詩、小雅、魚藻、魚在在レ藻、傳〕魚以レ依ニ蒲藻一、爲レ得ニ其性一。〔箋〕魚之依ニ水草一、猶ニ人之依ニ明王一。

【依報】113 エホウ 佛 心身の依止すべき身外の諸物。世界・國土・家屋・衣食など。〔瓔珞本業經、上〕凡夫衆生、住ニ五陰中一、爲ニ正報之土一、山林大地共有、名ニ依報之土一。

【依約】114 イヤク ㊀よりむすぶ。むすびつける。〔禮、表記、詩云莫莫葛藟、疏〕文王之興、依ニ約先祖一。㊁かすかなさま。さも似たり。依稀。〔白居易、答ニ蘇庶子一詩〕蓬山閑ニ氣味一、依約似ニ龍樓一。〔溫庭筠、江南曲詩〕連娟眉繞レ山、依約腰如レ杵。

【依羅】115 ヨサミ ㊀攝津國の地名。㊁姓氏。〔日用重寶記〕。㊂ ヨサラ 姓氏。〔姓林全書〕。

【依賴】116 イライ ㊀たよる。依倚(7)に同じ。〔曾鞏、齊州到レ任謁ニ舜廟一文〕庶使ニ遺民永有ニ依賴一。㊁託する。請ふ。又、たのみ。

【依蘭】117 イラン 縣名。明の和屯衞の地。康熙の時、三姓城を置いて協領防守を設け、光緒の時、改めて依蘭府を設く。滿洲語で、三は依蘭、姓は喀喇、上の二音を取つて縣名とした。今、滿洲吉林省松花江下流の最大都會。光緒三十二年、日支條約によつて長春・濱江等とともに開放して商埠とした。〔淸史稿、地理志〕吉林、依蘭府、淸初稱ニ依蘭喀喇一、光緒三十一年改置、隸ニ東北路道一。

【依蘭道】118 イランダウ 道名。滿洲吉林省内の依蘭・同江・密山・虎林・綏遠・樺川・富錦・饒河・方正・穆稜の十縣を統轄す。

【依劉】119 イリウ 魏の王粲が亂を避けて劉表によつた故事。〔魏志、王粲傳〕除ニ黄門侍郎一、以ニ西京擾亂一、皆不レ就、乃之ニ荊州一依ニ劉表一。〔許渾、酬ニ和杜侍御一詩〕因過ニ石城一先訪レ戴、欲レ朝ニ金闕一暫依レ劉。〔敬齋古今黈〕詩人多用ニ王粲依レ劉事一、按ニ傳記所レ載、粲避レ亂依ニ荊州牧劉表一、表以ニ貌寢一不ニ甚禮一焉、是其於ニ賓主一、俱不レ得レ爲ニ美事一也、然後人承用不レ改。

【依律】120 イリツ ㊀戒律に依る。〔指月錄〕有ニ二比丘一、犯レ律、便卻往問ニ優波一、依レ律說レ罪。㊁音樂の律による。〔晉書、摯虞傳〕參レ天兩レ地、以正ニ算數之紀一、依レ律計レ分、以定ニ長短之度一。〔阮籍、樂論〕操レ磬鳴レ琴、以レ聲依レ律、述ニ先考之跡一、故祖考之神來格也。㊂ i¹ lü⁴ 法律に從ふ。

【依類】121 イルイ ㊀物の類により從ふ。〔許愼、說文敍〕倉頡之初作レ書、蓋依レ類象レ形、謂ニ之文一。㊁似てゐる。〔論衡、說日〕與ニ易之言ニ日中見レ斗、相依類也。

【爲レ依】122 イヲナス 人にたよる。〔易、益〕六四、中行告レ公從、利ニ用爲レ依遷レ國。〔疏〕用ニ此道一、以依レ人而遷レ國者、人无レ不レ納。

【倍レ依】123 イヲウシロニス 天子の位置に立つ。依は扆で、天子の御座の後に立てる斧文の屛風。字解[三]の㊁を見よ。〔史記、魯世家〕南面倍レ依。〔注〕集解曰、禮記曰、周公朝ニ諸侯于明堂之位一、天子負ニ斧依一、南面而立、云云、負之言、倍也、斧依、爲ニ斧文屛風於戶牖之閒一、周公於レ前立也。

【依學宗】124 エガクノシユウ 佛 信心修行する宗でなく、他の宗に屬して、單に學問として學ばれる宗。八宗の中の倶舍（法相宗に屬す）・成實（三論宗に屬す）のやうな類。

【依克度】125 i¹ k'ê⁴ tu⁴ 藥品の名。赤褐色の液體で、打撲傷などに用ひる。イヒチオール。

【依你說】126 i¹ ni³ shuo¹ 御意次第。あなたの仰せの通り。

【依綠園】127 イリヨクエン 淸、張鴻烈（**4－9812**・・1047）の室名。

【依願免官】128 イグワンメンクワン 本人の願出によつて其の官職を免ずること。

【依克明安】129 イクミンアン 滿洲黑龍江省拜泉縣の北、固山貝子の地。通肯河の八道溝から北、九道溝に至る小地域で、もと準噶爾部の額魯特部落の一部。首領は乾隆年間、阿拉善額魯特阿穆薩拉部の叛亂に淸軍の嚮導となつた功により依克明安輔國公に封ぜられた。〔淸史稿、地理志〕黑龍江、海倫府、拜泉縣。〔注〕有ニ額魯特依克明安公府一。

【依草附葉】130 イサウフエフ 依草附木に同じ。〔臨濟錄〕十年五歲、並無ニ一人一、皆是依草附葉。

【依草附木】131 イサウフボク ㊀たのむところあること。〔王周、巫廟詩〕依レ草與レ附レ木、誣詭殊不經。〔國朝漢學師承記、王昶〕是時、依草附木之輩、聞ニ予言一大怒。㊁ 佛 エサウフボク 精靈の草木に依附したもの。人の精靈に對していふ。依草附葉。〔無門關〕祖關不レ透、心路不レ絕、盡是依草附木靈精。

【依士企摩】132 エスキモー アメリカ極北部に住む人種。グリーンランドからアラスカの地方に分布し、蒙古人種の特徵が見られる。Eskimos の音譯。

【依慈父母】133 i¹ tz'ŭ² fu⁴ mu³ 慈悲深い父母。

【依竹山房】134 イチクサンバウ 淸、沈可培（**6－17189**・・441）の室名。

【依樣葫蘆】135 i¹ yang⁴ hu² lu 手本の通りに瓢を畫く。何等の創意なく人眞似する喩。依レ樣畫ニ葫蘆一（**6－15457**・・26）を見よ。

【依利薩伯】136 エリザベス イギリスの女王の名。Elizabeth の音譯。

【依利薩伯式建築】137 エリザベスシキケンチク イギリス女王エリザベスの時代の建築樣式。

【依流平進】138 イリウヘイシン 順序を追つて次第に出世する。〔南史、王騫傳〕嘗從容謂ニ諸子一曰、吾家本素族、自可ニ依レ流平進一、不レ須ニ苟求一也。

【㑬】608 ダウ ノウ 〔集韻〕乃老切 [晧]

姓。〔集韻〕㑬、姓也。

【㑭】609 ジユウ ニユ 〔廣韻〕如融切 [東]

えびす。西方の戎。戎（**5－11539**）に同じ。〔正字通〕㑭、西戎、其類有レ六、僥夷・戎夷・老白・耆羌・鼻息・天剛、云云、本作レ戎、改作レ㑭非。〔廣韻〕㑭、㑭人身有ニ三角一也。

【伽】610 [一] ジヨ ニヨ 〔集韻〕人余切 [魚] [二] ジヨ ニヨ 〔轉注古音〕如庶切 [御]

[一][二] ㊀**ひとしい**。〔集韻〕伽、均也。㊁**したがへならす**。〔詩、大雅、民勞、柔レ遠能レ邇、箋〕能、猶レ伽也。〔釋文〕伽、檢ニ字書一、未レ見レ所レ出、廣雅云、伽、若也、均也、義音相似、而字則異、舊音如庶反。

【㐺】611 グ 虞（**9－32723**）の古字。〔六書故〕㐺、古文虞字、騶虞也、象ニ白虎黑文一。

【伫】612 チヨ 佇（**1－496**）の譌字。〔字彙〕伫、佇字之譌。

【俻】613 ビ 備（**1－967**）の古字。〔正字通〕俻、古文備。

【侟】614 セン 薦（**9－32143**）に通ず。〔正字通〕侟、薦・荐並同。

【佀】615 シ 侈（**1－583**）の古字。〔集韻〕侈、古作レ佀。

【㑒】616 ケン 僉（**1－1190**）の古字。〔集韻〕僉、古作レ㑒。

【伷】617 シン 伸（**1－481**）の譌字。〔淮南子、繆稱訓〕容貌顏色、詘伷倨佝。〔集解〕劉績云、後有ニ倨句詘伸一、見ニ兵略訓一、疑此作ニ詘伸倨句一、王念孫云、劉說是也、伸、誤爲レ伷。

【兖】618 クヮウ　光（**1－1350**）の古字。〔字彙補〕兖、古文光字。

【佚】619 ヨウ　佾（**1－693**）の俗字。〔正字通〕佾、俗作ㇾ佚。

【侏】620 シュク　〔篇海類編〕式竹切　屋。**人名。**〔篇海類編〕侏、人名。

【侄】621 ガウ　〔海篇〕音囂　**おごる。**〔海篇〕侄、驕也。

【伂】622 チ　傂（**1－931**）の譌字。〔康熙字典〕伂、按、傂字之譌。

【作】623 サク　作（**1－518**）に同じ。〔字彙補〕作、同ㇾ作、出ニ道教一。

【俊】624 音義未詳　〔字彙補〕俊、見ニ毘陵志漢司農劉夫人碑一、音義未詳。

【侠】625 ケフ　俠（**1－706**）の俗字。〔中華大字典〕侠、俗俠字。

【俟】626 ヨウ　佾（**1－693**）に同じ。〔中華大字典〕佾、或作ニ俟・佚一。

【伇】627 エキ　役（**4－10057**）の古字。〔集韻〕役、古作ㇾ伇。

【伯】628 tsan¹　喒（**2－3936**）に同じ。我々。お互共。

【伯家】¹ tsan¹ chia⁴　私共。我々。

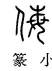
【価】628′ カ　價（**1－1163**）に同じ。

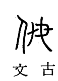
【侢】629 タイ　戴（**5－11685**）の略字。

【侮】629′ ブ　侮（**1－630**）に同じ。

七　畫

【侮】630 ブ ム　〔集韻〕罔甫切　麌　ㄨˇ wu³


小篆


古文

❶**あなどる。あなどり。かろんずる。**〔說文〕侮、傷也、从ㇾ人每聲。〔廣雅、釋詁三〕侮、輕也。〔書、大禹謨〕侮慢自賢。〔疏〕侮、謂ㇾ輕ニ人身一。〔書、盤庚上〕汝無ㇾ侮ニ老成人一。〔書、說命中〕無ニ啓ㇾ寵納ㇾ侮。〔史記、淮陰侯傳〕淮陰少年有ニ侮ㇾ信者一。❷**しのぐ。**〔左氏、昭、元〕不ㇾ侮ニ鰥寡一。〔注〕侮、陵也。❸**病む。**〔淮南子、說林訓〕故侮ニ人之鬼一者。〔注〕侮、猶ㇾ病也。❹**賤者の稱。**〔方言、三〕臧・甬・侮・獲・奴・婢、賤稱也、云云、秦晉之間、罵ニ奴婢一曰ㇾ侮。〔廣雅、釋詁四〕侮、婢也。❺或は務（**2－2394**）に作る。〔集韻〕侮、或作ㇾ務。〔詩、小雅、常棣〕外禦ニ其務一。〔箋〕務、侮也。❻晦（**5－13960**）の誤字。〔說文通訓定聲〕侮、叚借爲ㇾ晦、王元長、曲水詩序、侮食來王、注、周書曰、東越侮食、按、晦食者、正食以ㇾ夜也。〔王融、三月三日曲水詩序〕侮食來王。〔注〕善曰、古本作ニ晦食一。❼古は㑄（**1－498**）・伇（**1－395**）・㑄（**4－1044 2**）に作る。〔說文〕侮、㑄、古文从ㇾ母。〔集韻〕侮、古作ニ伇・㑄・㑄一。❽或は娒（**3－6296**）に作る。〔集韻〕侮、或作ㇾ娒。

【侮易】1 ブイ　あなどりかろんずる。〔魏志、倉慈傳〕欺詐侮易、多不ㇾ得ニ分明一。

【侮狎】2 ブカフ　あなどりなれる。狎侮。〔書、泰誓下〕今商王受、狎ニ侮五常一。〔傳〕輕ニ狎五常之教一。

【侮謔】3 ブギャク　あなどりたはむれる。ひやかす。〔禮、曲禮上〕不ニ侵侮一、不ニ好狎一。〔桂苑叢談、崔張自稱ㇾ俠〕常嗜ㇾ酒、侮ニ謔時輩一。

【侮獲】4 ブクヮク　奴婢の賤稱。獲はしもべ。〔方言、三〕侮獲、奴婢賤稱也。

【侮翫】5 ブグヮン　あなどりもてあそぶ。狎翫（**7－20329・・10**）に同じ。〔歐陽脩、論ニ元昊不ㇾ可ㇾ稱ニ吾祖一札子〕此蕃賊撰ニ此名號一之時、故欲ニ侮ニ翫中國一而已。

【侮食】6 ブショク　夷狄の國。〔王融、三月三日曲水詩序〕侮食來王、左言入侍。〔注〕善曰、漢書匈奴傳曰、壯者食ニ肥美一、老者食ニ其餘一、貴ニ壯健一賤ニ老弱一也、古本作ニ晦食一、周書曰、東越侮食。

【侮辱】7 ブジョク　あなどりはづかしめる。〔荀子、樂論〕邪音起者、危削侮辱之本也。〔後漢書、張敏傳〕侮ニ辱人父一。

【侮娠】8 ブシン　奴婢の賤稱。〔事物異名錄、倫屬、奴婢〕山堂肆考、秦晉之閒、罵ㇾ奴曰ㇾ侮、燕齊之閒、養馬及奴婢女厮、皆謂ニ之娠一。

【侮人】9 ブジン　あなどり輕んぜられる人。〔法言、五百〕動而見ㇾ侮、曰ニ侮人一。

【侮笑】10 ブセウ　あなどりわらふ。せせらわらひ。冷笑。〔韓愈、送ニ進士劉師服東歸一詩〕低ㇾ頭受ニ侮笑一。「子、離婁上〕侮ニ奪人一之君、惟恐ㇾ不ㇾ順焉。

【侮奪】11 ブダツ　あなどつて人のものを奪ふ。〔孟

【侮典】12 ブテン　おきてをばかにする。〔福惠全書、錢穀部、總論〕欺ㇾ官侮ㇾ典。

【侮罵】13 ブバ　あなどりののしる。笑嘲。〔魏書、高涼王弧傳〕見ニ侮罵一、遂卽去ㇾ之。

【侮文】14 ブブン　ほしいままに法律の文を玩び變ずる。舞文（**9－30342・・80**）に同じ。〔梁書、武帝紀下〕侮ㇾ文弄ㇾ法、因ㇾ事生ㇾ姦。

【侮蔑】15 ブベツ　あなどりさげすむ。輕蔑。〔史記、周紀〕殄ニ廢先王明德一、侮ニ蔑神祇一、不ㇾ祀。

【侮慢】16 ブマン　人をあなどり、自らおごりたかぶる。〔書、大禹謨〕侮慢自賢、反ㇾ道敗ㇾ德。〔詩、小雅、正月、召ニ彼故老一訊ニ之占夢一、箋〕君臣在ㇾ朝、侮ニ慢元老一。〔孟子、離婁上、恭者不ㇾ侮ㇾ人、注〕爲ニ恭敬一者、不ニ侮ニ慢人一。〔孫楚、爲ニ石仲容一與ニ孫皓一書〕侮慢不ㇾ式ニ王命一。

【侮淩】17 wu³ ling²　淩辱する。はづかしめる。

【侮弄】18 ブロウ　あなどりもてあそぶ。〔魏志、牽招傳〕侮ニ弄神器一。

【納ㇾ侮】19 アナドリヲイル　あなどられる。自ら人のあなどりをまねく。〔書言故事、評論類〕自招ニ人玩一、曰ㇾ納ㇾ侮。

【侚】631 シン　〔集韻〕升人切　眞

小篆

❶**神の名。**〔說文〕侚、神也、从ㇾ人身聲。❷**はらむ。**〔玉篇〕侚、妊身也。〔說文、侚、神也、段注〕神、當ㇾ作ㇾ身、聲之誤也。❸**姓。**〔集韻〕侚、姓也。

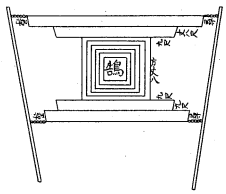
【侔】632 ラウ ロウ　〔集韻〕郎刀切　豪　**大きい。あらい。**或は僗（**1－1096**）に作る。〔方言、一二、陳宋之閒曰ㇾ僇、注〕僇侔、麤大貌。〔集韻〕侔、膠侔、麤大皃、或从ㇾ勞。

【侯】633 コウ グ　〔集韻〕胡溝切　尤　ㄏㄡˊ hou²

小篆

❶**射のまと。的。**矦（**8－23937**）に同じ。〔正字通〕矦、同ㇾ侯。〔說文〕矦、春饗所ㇾ射侯也、从ㇾ人从ㇾ厂、象ニ張ㇾ布矢在ニ其下一、天子射熊虎豹、服ㇾ猛也、諸侯射熊虎、大夫射麋、麋惑也、士射鹿豕、爲ㇾ田

除レ害也、其祝曰、毋ニ若不寧一、侯不レ朝ニ于王所一、故伉而射レ汝也。〔說文通訓定聲〕厎、經傳皆以レ矦爲レ之、云云、大射之侯、用ニ虎熊豹麋之皮一、飾ニ其側一、而中又制レ皮以爲ニ鵠、賓射之侯、亦虎熊豹麋之皮、飾ニ其側一、而中畫ニ五采一、以爲レ正、燕射之侯、則畫ニ熊麋虎豹鹿豕之形一、以象ニ鵠、所謂獸侯也。〔小爾雅、廣器〕射有ニ張布一、謂ニ之侯一。〔周禮、天官、司裘〕王大射、則共ニ虎侯・熊侯・豹侯一。〔注〕鄭司農云、方十尺曰レ侯、四尺曰レ鵠、二尺曰レ正、四寸曰レ質。〔周禮、考工記、梓人、上兩个與ニ其身一三、注〕侯制上廣下狹、蓋取ニ象於人一也、張レ臂八尺、張レ足六尺、是取レ象率焉。〔儀禮、鄉射禮記〕凡侯、天子熊侯白質、諸侯麋侯白質、大夫布侯、畫以ニ虎豹一、士布侯、畫以ニ鹿豕一。〔儀禮、鄉射禮記、下舌半ニ上舌一、注〕侯、人之形類也、上个象レ臂、下个象レ足、中人張レ臂八尺、張レ足六尺、五八四十、五六三十、以此爲レ衰也。㊀きみ。一封土の君。〔爾雅、釋詁〕侯、君也。〔易、屯〕利レ建レ侯。〔詩、大雅、抑〕謹ニ爾侯度一。〔箋〕侯、君也。㊁五等爵の第二。〔正字通〕侯、五等爵之次曰レ侯。〔公羊、隱、五〕其餘大國稱レ侯。〔孟子、萬章下〕公一位、侯一位。㊂諸侯。易の震卦は諸侯に當る。〔易、蠱〕不レ事ニ王侯一。〔虞注〕震爲レ侯。〔易、繫辭下〕能研ニ諸侯之慮一。〔注〕震、爲ニ諸侯一。〔周禮、天官、司裘〕諸侯則共ニ熊



侯㊀（禮器圖）

侯・豹侯一。〔注〕諸侯、謂下三公及王子弟、封ニ于畿內一者上。禮、射義〕射侯者、射爲ニ諸侯一也、射中則得レ爲ニ諸侯一。〔左氏、僖、元〕凡侯伯救レ患分レ災。〔注〕侯伯、州長也。㊃爵位ある人の敬稱。〔韓愈、送ニ殷員外一序〕由レ是、殷侯侑自ニ太常博士一、遷ニ尚書虞部員外郎一。㊄王城を去る五百里の地域。侯服。〔書、禹貢〕五百里侯服。〔周禮、夏官、職方氏〕方千里曰ニ王畿一、其外方五百里曰ニ侯服一。〔注〕侯、爲ニ王者斥候一也。㊅うつくしい。〔詩、鄭風、羔裘〕洵直且侯。〔釋文〕韓詩云、侯、美也。㊆すなはち。〔爾雅、釋訓〕侯、乃也。〔經傳釋詞、四〕矦、乃也、詩文王曰、商之孫子、其麗不レ億、上帝既命、矦于ニ周服一、言、商之子孫甚衆、而上帝既命ニ文王之後一、乃臣ニ服于周一也。㊇これ。ここに。惟（4－10820）・維（8－27568）・伊（1－432）に通ず。發語の辭。〔爾雅、釋詁〕伊・維、侯也。〔詩、小雅、六月〕侯誰在矣。〔傳〕侯、維也。〔漢書、禮樂志〕蕩侯休德。〔注〕服虔曰、侯、惟也。㊈疑問の辭。なんぞ。何（1－511）に通ず。〔呂覽、觀表〕今侯漯過而弗レ辭。〔注〕侯、何也。〔漢書、司馬相如傳下〕君兮君兮、侯不レ邁哉。〔注〕師古曰、侯、何也。㊉助辭。兮（2－1455）に通ず。〔史記、樂書〕高祖過レ沛詩、有ニ三侯之章一。〔注〕索隱曰、沛詩有ニ三兮一、故曰ニ三侯詩一、卽大風歌、兮・侯、古韻通。㊊うかがふ。候（1－775）に通ず。〔說文通訓定聲〕侯、叚借爲レ候。〔周禮、春官、小祝〕將レ事ニ侯禳禱祠之祝號一。〔注〕侯之言、候也。〔孝經、孝治章〕公侯伯子男。〔鄭注〕侯者、候伺。㊋古は厎（2－2928）に作る。〔集韻〕矦、古作レ厎。㊌或は帿（4－8981）に作る。〔集韻〕矦、或从レ巾。㊍諡。〔逸周書、謚法解〕執ニ應八方一曰レ侯。㊎姓。〔唐書、宰相世系表〕侯氏出ニ姒姓一、夏后氏裔封ニ於侯一、子孫因以爲レ氏、一云、本出ニ姬姓一、晉侯緡爲ニ曲沃武公所一レ滅、子孫適ニ於他國一、以レ侯爲レ氏、鄭有ニ侯宣多一、生レ晉、漢末徙ニ上谷一、裔孫恕、爲ニ北地太守一、因家ニ北地山水一、四世孫楨、從ニ魏孝武一西遷、賜ニ姓侯伏氏一、又賜ニ姓賀吐一、其後復レ舊。

名乘　キミ。ヨシ。

解字　會意。人・厂（厓）・矢の合字。人は父子君臣が各〻其の地位に應じた鵠を作る意を示す。一說に、侯のかたちは人の臂を張り足を開いてゐる上廣下狹の姿にかたどるといふ。侯に張つた布が崖狀をなすことから厂、矢が之に集まることから、矢を加へて、的（まと）の意とする。古は王諸侯大夫士に皆各〻身分に應じた侯があつて、天子諸侯は春秋に大射の禮を行つて老を養つた。故に轉じて君とし、諸侯（公侯伯子男）とし、又其の第二位とする。假借して候（うかがふ）とし、又發聲之辭として、乃・惟・何等に用ひる。〔說文、侯、段注〕春饗所ニ射侯一、謂下天子諸侯養ニ老、先行ニ大射禮一之侯上也、云云、爲ニ人父子君臣一者、各以爲ニ父子君臣之鵠一、故其字从ニ人、鄭云、侯制、上廣下狹、蓋取ニ象於人張一レ臂八尺、張レ足六尺一云云、侯之張布、如ニ厓巖之狀一、故从ニ厂一。▽ （甲骨文） （金文）象形。的をうかがひ矢を放つさまに象る。

【侯亞】1 諸侯の二男三男。〔詩、周頌、載芟〕侯主侯伯、侯亞侯旅。〔傳〕亞、仲叔也。

【侯意】2 人の心をさぐりうかがふこと。〔北齊書、陳元康傳〕元康便辟善事ニ人、希レ顏侯レ意、多有ニ進擧一。

【侯位】3 侯爵の位。〔孟子、萬章下〕公一位、侯一位。

【侯印】4 諸侯の印。〔漢書、陳餘傳〕以ニ侯印一封ニ范陽令一。

（索石金）印侯內關

【侯覺】5 宋、太原の人。初、三門發運使たること三十年、開寶中、揚徐二州の知を拜命し、尋いで太宗の時、靈州に知となり、部內大いに治まる。後、左衞に遷り、朔方に在ること凡そ十餘年。〔宋史、二百七十四〕。

【侯英】6 明、蘭州の人。字は世傑。天順の進士。弟、侃と俱に孝を以て稱せられ、後、江西按察使を拜命す。〔明史、二百九十六〕〔萬斯同明史、三百九十二〕。

【侯嬴】7 戰國、魏の隱士。年七十にして夷門の監者となり、後、信陵君の客となる。秦に邯鄲の都を攻められた趙が魏に救援を求めた時、魏王は兩端を持し、救援に赴いた將軍晉鄙をして軍を鄴に留まらしめた。趙の平原君に嫁してゐる姉から救援の催促を屢〻受けた信陵君は、遂に侯嬴の計に從つて晉鄙を殺し、其の軍を奪つて邯鄲の圍を救つた。信陵君が都を出る時、侯嬴は、自分は年老いて從つて行けないから、公子（信陵君）が晉鄙の軍に到着すると思はれる日に、自刎して公子を送らうと言ひ、果して其の言の如く自殺した。〔史記、七十七〕。

【侯嬴重二一言一】8 戰國、魏の隱士侯嬴が、公子無忌（信陵君）に約した一言を重んじて、自刎して死んだ故事。侯嬴を見よ。〔魏徵、述懷詩〕季布無ニ二諾一、侯嬴重ニ一言一。

【侯衞】9 ㊀侯圻と衞圻。圻は五百里の地域。王畿の外圍を五つに分けた一つ。五服（1－257：977）を見よ。〔荀子、正論〕侯衞賓服。〔注〕韋昭注ニ國語一曰、侯、侯圻、衞、衞圻、自ニ侯圻一至ニ衞圻一、其間五圻、圻五百里、五五二千五百里、中國之界也、謂ニ之賓服一、常以ニ服貢一賓ニ見於王一、五圻者、侯圻之外曰ニ甸圻一、甸圻之外曰ニ男圻一、男圻之外曰ニ采圻一、采圻之外曰ニ衞圻一、康誥曰、侯甸男采衞、是也、此據ニ周官職方氏一、與ニ禹貢一異制。㊁要服と荒服。〔揚雄、劇秦美新〕侯衞厲揭。〔注〕良曰、侯衞、要・荒遠服也。

【侯益】10 宋、平遙の人。唐と晉とに仕へて戰功あり。少帝の時、河中尹護國軍節度を拜命し、契丹が汴に入るや、鳳翔節度を授けらる。周の廣順の間、齊國に封ぜられて致仕す。宋の

太祖の時また起用せられ、乾德の初に卒す。〔宋史、二百五十四〕・〔宋史新編、六十七〕。

【侯鉞】11 コウエツ 明、東河の人。字は義甫。嘉靖の進士。官は僉都御史・大同巡撫。人物畫に巧。〔國朝獻徵錄、六十三〕・〔本朝分省人物攷、九十五〕。

【侯可】12 コウカ 宋、盂縣の人。字は無可。華陰に寓居し、倜儻不羈にして氣節があつた。孫沔が穠智高を征伐した時、從つて功をたて、化城縣の知より殿中丞に至つて卒す。性命の學に精通し、陝より以西、學者之を宗とした。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十九〕。

【侯岡】13 コウカウ 複姓。〔路史、禪通紀〕倉帝史皇氏、名頡、姓侯岡。〔萬姓統譜〕侯岡、地記、蒼頡姓侯岡氏、居ニ馮翊一。

【侯康】14 コウカウ 清、番禺の人。原名は廷楷。字は君模。道光の擧人。督學阮元に重んぜられた。後、注疏を研精し、尤も史學に深い。後漢書・三國志の藝文志を補ひ、其の他、後漢書補注續・三國志補注・春秋古經說・穀梁疏證等を著はした。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕・〔續碑傳集、七十七〕。

【侯剛】15 コウガウ 後魏、洛陽の人。字は乾之。鼎俎のことを善くし、嘗食典御となり、宣武帝、名を剛と賜ひ、熙平の初、左衞將軍を拜命す。尋いで冀州の刺史となつたが、後、征虜將軍に貶せらる。〔魏書、九十三〕・〔北史、九十二〕。

【侯恪】16 コウカク 明の人。執蒲の次子。字は若木、又、若樸。兄の恂と同じく萬曆の進士。編修に敍せられ、神宗光宗二朝實錄を編修す。三案の議が起るや、事に據つて直書し、少しも假借せず。魏忠賢に忤ひ、削籍せられて歸つたが、忠賢の誅せられるや、中允に起用せられ、庶子典起居注に遷る。後、溫體仁に忤つて歸る。〔明人小傳、四〕・〔東林列傳、二十〕・〔明詩綜、六十一〕。

【侯葛】17 hou² kê² 四川省產の綿織物の一種。長さ七八丈、幅一尺一寸のもの。

【侯涵】18 コウカン 清、嘉定の人。初名は泓。字は研德。號は掌亭。明の諸生。清に入り、事を以て捕へられたが、後に釋さる。經史・百家・天文・地理・醫藥・卜筮・浮圖・老子の書に博通す。著に掌亭集・玉臺金鏡文がある。〔國朝耆獻類徵、四百六十六〕・〔碑傳集、一百二十三〕。

【侯喜】19 コウキ 唐、上谷の人。字は叔退。貞元の進士。家貧なれど力め學び、古文を能くし、詩に巧。韓愈の弟子となる。官は國子主簿。〔尚友錄、十三〕。

【侯畿】20 コウキ 侯服に屬する方五百里の地をいふ。五畿(**1**－**257**··167)・五服(**1**－**257**··977)を見よ。〔周禮、夏官、大司馬〕方千里曰ニ國畿一、其外方五百里曰ニ侯畿一。

【侯龜】21 コウキ 上等の龜の甲。大きさ七寸のもの。〔漢書、食貨志下〕侯龜七寸以上、直三百。

【侯義】22 コウギ 宋、楚丘の人。家が貧しく、傭を以て母に事へ孝行をつくした。〔宋史、四百五十六〕・〔宋史新編、一百七十六〕。

【侯弓】23 コウキユウ 侯トマを射るに用ひる弓。〔周禮、考工記、弓人〕覆レ之而幹至、謂ニ之侯弓一。〔注〕射レ侯之弓也、幹又善、則矢疾而遠。

【侯均】24 コウキン 元、奉元の人。字は伯仁。繼母に事へながら積學四十年、群經百氏に通じてゐたので、薦を以て太常博士となつたが、後、上疏して時の宰相に忤つて歸休す。〔元史、一百八十九〕。

【侯瑾】25 コウキン 後漢、敦煌の人。字は子瑜。一房に獨處し、矯世論を作つて當時を刺る。西河の人は皆、其の才を敬して侯君と稱す。〔後漢書、一百十下〕。

【侯回】26 コウクワイ 西王母(**10**－**34763**··641)の姓名。

【侯官】27 コウクワン ㊀縣名。後漢、置く。侯官とも書く。故治は福建省閩侯縣の治山の北。〔讀史方輿紀要、福建、福州府〕閩縣、漢置ニ治縣一、屬ニ會稽郡一、後漢時廢、建安初置ニ侯官縣一、三國吳屬ニ建安郡一、晉太康三年、析ニ置原豐縣一、爲ニ晉安郡治一。〔清史稿、地理志〕福建、福州府、縣十、侯官。㊁後漢、置く。今、闕く。甘肅省の境に當る。㊂後漢、置く。今、闕く。陝西省の境に當る。

【侯景】28 コウケイ 梁、朔方の人。一說に、雁門の人。字は萬景。膂力あり、騎射を善くす。初、北鎭の戍兵となる。魏の明帝が崩じて後、胡氏が朝に臨んだが、爾朱榮が、胡氏を弑して後、擢んでられて定州刺史を拜命す。後、齊の神武が爾朱氏を誅するや、衆を率ゐて之に降服す。武帝の時、河南王に封ぜられたが、後に反して建康を圍み、臺城を陷れて簡文を擁立し、尋いで之を弑し、自立して漢帝と稱したが、幾くもなく王僧辨等に敗らる。〔梁書、五十六〕・〔南史、八十〕。

【侯顯】29 コウケン 明の人。永樂の時、司禮少監となる。帝の命を奉じ、烏思藏の僧の道術ある者を迎へて還り、太監に拔擢せらる。絕域に使すること五度に及ぶ。〔明史、三百四〕・〔明史稿、二百八十三〕。

【侯固】30 コウコ 唐、閩縣の人。字は子重。官は鄜坊靈武節度使同平章事。〔福州府志〕。

【侯公】31 コウコウ ㊀秦の時の方士。始皇帝の命によつて仙人の不死の藥を求めた人。〔史記、六〕。㊁漢の人。高祖を助けて功があり、平國公に封ぜらる。〔尚友錄、十三〕。

【侯鵠】32 コウコク 弓のまと。射る所の十尺四方の皮を侯といひ、其の中の四尺四方のものを鵠といふ。字解の㊀を見よ。〔周禮、天官、司裘〕王大射、則共ニ虎侯・熊侯・豹侯一、設ニ其鵠一。〔注〕侯者、其所レ射也、以ニ虎熊豹麋之皮一飾ニ其側一、又方制レ之以爲レ𩊚、謂ニ之鵠一、著ニ于侯中一、所謂皮侯、王之大射、虎侯、王所ニ自射一也、云云、鄭司農云、鵠、鵠毛也、方十尺曰レ侯、四尺曰レ鵠。

【侯莎】33 コウサ 草の名。はますげ。かやつり草科に屬する宿根草。塊根は藥用になる。〔爾雅、釋草〕薃、侯莎、其實媞。

【侯祭】34 コウサイ 弓のまとの祭。侯は十尺四方の的。古代、鄉射禮で、侯の中央の鵠を射あてたものが、侯に向つて祭をした。〔儀禮、鄉射禮〕取レ肺坐祭、遂祭レ酒。〔注〕爲ニ侯祭一也。〔疏〕此正爲レ侯、故獲者南面、鄉レ侯祭。

【侯騷】35 コウサウ 樹の名。〔酉陽雜俎、廣動植、木篇〕侯騷、蔓生、子如ニ雞卵一。

【侯氏】36 コウシ 諸侯をいふ。〔儀禮、覲禮〕侯氏亦皮弁。〔注〕不レ言ニ諸侯一、言ニ侯氏一者、明ニ國殊舍異、禮不レ凡レ之也。〔疏〕云下不レ言ニ諸侯一、言ニ侯氏一者、明ニ國殊舍異、禮不レ凡レ之也上者、言ニ諸侯一則凡レ之摠稱、言ニ侯氏一則指ニ一身一、不レ凡レ之也、而所レ勞之處、或非ニ一國一、舍處不レ同、故不ニ摠ニ言諸侯一、而云ニ侯氏一也。

【侯史】37 コウシ 複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕侯史氏、風俗通、董孤爲ニ晉侯史官一、因氏焉。

【侯史光】38 コウシクワウ 晉、掖の人。字は孝明。孝廉に擧げられ、泰始の初、中郞將より散騎常侍を拜命し、後、少府に轉任す。〔晉書、四十五〕。

【侯摯】39 コウシ 金、東阿の人。字は莘卿。明昌の進士。尚書右丞となり、紅襖賊の亂起るや、本路兵馬都總管を兼ね、賊を討平す。天興の初、平章政事に陞進し、蕭國公に封ぜらる。致仕して汴に居り、元兵に殺さる。〔金史、一百八〕。

【侯寘】40 コウシ 宋、東武の人。字は彥周。官は建康の長官。著に孏窟詞がある。〔四庫提要、一百九十八〕。

【侯社】41 コウシヤ 諸侯自身の爲に建てた土神のやしろ。〔禮、祭法〕諸侯自爲立レ社、曰ニ侯社一。〔疏〕侯社、在ニ藉田一。

【侯章】42 コウシヤウ 宋、楡次の人。後唐に仕へ、馬步軍都指揮使を拜命し、乾祐の間、邠州鎭に轉任す。後、周に入り、武勝軍節度となり、建隆の初、太子太師を授けられ、楚國公に封ぜらる。〔宋史、二百五十二〕。

【侯詳】43 コウシヤウ 後魏の人。剛の子。官は驃騎將軍・殷州の刺史。〔魏書、九十三〕。

【侯禳】44 コウジヤウ 善祥を迎へ、殃氣をはらひ去る祭。〔周禮、春官、肆師〕與レ祝侯ニ禳于畺及郊一。〔注〕侯禳、小祝職也。〔疏〕釋曰、侯者、侯ニ迎善祥一、禳者、禳ニ去殃氣一、故肆師與ニ小祝一、爲ニ此侯禳二事于畺及郊一、凡侯禳、從レ內向レ外。

【侯爵】45 コウシヤク ㊀五等爵の第二位。〔禮、王制〕王者制ニ祿爵一、公侯伯子男、凡五等。㊁華族の等級、公爵の次。〔華族令〕。

【侯恂】46 コウジユン 明の人。執蒲の長子。字は若谷。萬曆の進士。崇禎中、御史となる。溫體仁に惡まれて兵部侍郞に遷る。明が亡び、脫れ歸り、城市に入らざること十餘年にして卒す。〔國朝列卿記、八十・一百二十二・一百二十五〕・〔小腆紀年、四〕。

【侯升】47 コウシヨウ 明、鄭明選(**11**－**39647**··563)の字。

【侯身】48 コウシン 魏の明帝の時、毛后の父、嘉が博平

鄉侯に封ぜられ、得意になつて侯身と自稱した故事。〔魏志、毛皇后傳〕魏明帝毛后父嘉、封二博平鄉侯一、嘉本典二虞車工卒一、暴富貴、明帝令下朝臣會二其家一、飲宴上、其容止擧動甚蚩鄙、語輒自謂二侯身一、時人以爲レ笑。

【侯深】49 後魏の人。官は莊帝に仕へて燕州刺史。叛賊韓樓を討つて功があり、爵を賜はり、侯となる。〔北史、四十九〕。

【侯塡】50 陳の人。弘遠の子。謚は壯肅。戰陣に必ず先鋒となり、蜀賊を殲し、侯景を破り、南豫州刺史に遷る。文帝の時、湘・桂等六州の諸軍事を都督し、湘州刺史を兼任す。〔陳書、九〕・〔南史、六十六〕。

【侯瑾】51 明、澤州の人。字は廷玉。宣德の進士。行人として嘗て交阯に使す。後、兵部主事に遷り、正統の初年、麓川平討の功によつて禮部右侍郎・兵部尚書に累遷す。景泰の初、卒す。〔明史、一百七十二〕・〔萬斯同明史、二百十三〕・〔明史稿、一百五十六〕。

【侯生】52 ❶戰國の人。侯嬴(ウ)を見よ。〔史記、信陵君傳〕公子從二車騎一、虛レ左、自迎二夷門侯生一。❷秦の人。〔史記、秦始皇紀〕侯生盧生相與謀。

【侯鯖】53 珍味をいふ。五侯鯖(1－257‥359)を見よ。

【侯鯖錄】54 書名。八卷。宋、趙令畤撰。故事詩話を採錄す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【侯鯖詩話】55 書名。大阪の浪華文會主、日柳政愬撰。明治十六年創刊。月刊。此の書は天文・地理・器材・動植・人事の五項に分ち、詩に關する故事を收錄し、特に人事の條には詩林の奇聞・詩人の逸事・古今の詩話をも記載する。

【侯樵】56 宋、方儀(5－13620‥86)の號。

【侯赤】57 清、趙熊詔(10－37171‥913)の字。

【侯籍】58 諸侯の名簿。〔漢書、高惠高后文功臣表〕以昭二元功之侯籍一。〔注〕師古曰、籍、謂二名錄一也、高紀所レ云、通侯籍也。

【侯涉】59 宋、長山の人。建隆の初、冤句令を拜命し、清幹を以て聞え、御史中丞に陞進す。史姓韻編は侯陟に作る。〔宋史、二百七十〕。

【侯宣】60 宋、衡山の人。好みて名士と交はり、室を築いて遊學者を招くこと二十餘年。遠近來り學ぶ者多く、館を侯家書院と呼び、宣を松林居士といふ。〔萬姓統譜〕。

【侯泰】61 明、南和の人。字は順懷。洪武の末、禮部員外郎より刑部右侍郎に超擢され、建文中、尚書に陞進す。〔明史、一百四十二〕。

【侯桃】62 ❶桃の一種。〔淵鑑類函、果部、桃〕晉宮闕名曰、華林園桃七百三十八枝、白桃三株、侯桃三株。❷木の名。こぶし。辛夷(10－38630‥二)の異名。〔本草、辛夷〕釋名、辛雉、侯桃、房木、木筆、迎春、藏器曰、辛夷花未レ發時、苞如二小桃子一、有レ毛、故名二侯桃一。〔事物異名錄、花卉、辛夷〕格物總論、辛夷、紫苞紅焰、一名侯桃。

【侯植】63 北周、上谷の人。字は仁幹。謚は節。魏に仕へ、義州刺史を拜命して治績があり、後、孝武に從つて西遷し、姓を侯伏と賜ひ、沙苑を破り、大都督・涼州刺史に陞進す。肥城縣公に封ぜられ、郡公に進爵す。〔周書、二十九〕・〔北史、六十六〕。

【侯楨】64 清、金匱の人。字は子勤。道光の擧人。書室を古柽秋館といふ。著に禹貢古今注通釋・古柽秋館遺稿などがある。〔碑傳集補、五十一〕。

【侯甸】65 ❶侯服と甸服。王城の外五百里を甸服といひ、其の外五百里を侯服といふ。又、王畿の外五百里を侯甸の服といふ。五服(1－257‥977)を見よ。〔書、伊訓〕伊尹祠二于先王一、奉二嗣王一、祗見厥祖一、侯甸羣后咸在。〔蔡傳〕侯服甸服之羣后咸在。〔書、周官〕惟周王撫二萬邦一、巡二侯甸一。〔傳〕卽レ政、撫二萬國一、巡二行天下侯服甸服一。〔南史、齊高帝紀〕紀二綱侯甸一、率二由舊則一。〔牛弘、宴二羣臣一登歌〕顯顯卿士、昂昂侯甸。〔駱賓王、帝京篇〕皇居帝里崤函谷、鶉野龍山侯甸服。〔唐詩選箋注〕地之延袤厎二連侯服甸服一。禮記王制曰、千里之內曰二甸服一、禹貢云、五百里甸服、五百里侯服、注曰、王城外四面皆五百里、供二田賦事一、故曰二甸服一、五百里侯服、甸服外四面、又各五百里、爲二侯甸之服一。❷明、汾西の人。字は田臣。廩生。李自成が河を渡り、遠近風を望んで迎へ降るや、孔廟に大哭し、衣冠を焚きて還り、門を杜ぢて堅臥し、農夫となつて終る。〔山西通志〕。

【侯奴】66 複姓。〔路史注〕魏之侯奴氏、亦爲二侯氏一。

【侯度】67 ❶邦君諸侯の守るべき法度。〔詩、大雅、抑〕謹二爾侯度一、用戒二不虞一。〔箋〕侯、君也、云云、愼二女爲レ君之法度一。❷明、東阿の人。字は憲甫。嘉靖の進士。河南・湖廣に按撫使となる。中官に忤ひ、闕下に杖せられて卒す。〔國朝獻徵錄、六十五〕・〔東阿縣志〕。❸清の人。康の弟。字は子琴。原名は廷椿。號は斷指生。道光の擧人。經學を治め、禮に長じ、又、算學に精通す。著書は多く散佚す。〔清史稿、四百八十八〕・〔清史列傳、六十九〕・〔續碑傳集、七十七〕。

【侯臾】68 衣服の一種。短袖の襦。侯頭。褕褕。〔史記、萬石君傳、廁臾、注〕索隱曰、晉灼曰、今世謂二反開小袖衫一爲二侯臾一。〔事物異名錄、服飾、近身衣〕庶物異名疏、漢石建取二親中幣廁臾一身自浣滌、晉灼云、今世謂二反閉小袖衫一爲二侯臾一。此最近厠近身之衣也、釋名、反閉、襦之小者也、卻向着レ之領反於二背後一閉二其襟一也、又、侯臾、類篇作二褕褕一。

【侯頭】69 衣服の一種。侯臾に同じ。〔釋名、釋衣服〕齊人謂二如レ衫而小袖一曰二侯頭一、侯頭、猶レ言二解瀆一、臂直通之言也。

【侯波】70 大きな波。陽侯之波。〔枚乘、七發〕侯波奮振、合二戰於藉藉之口一。〔注〕善曰、楚辭曰、陵二陽侯之氾濫一兮、王逸曰、陽侯、大波也、云云、濟曰、侯波、陽侯之波也。

【侯芭】71 漢、鉅鹿の人。揚雄の弟子。太玄經・法言を受け、雄が卒して心喪すること三年。〔前漢書、八十七下〕。

【侯霸】72 後漢、密の人。字は君房。謚は哀。穀梁春秋を治め、進平大尹を拜命し、光武の初、尚書令に轉任す。故事を明習し、前世の善政法度の益あるものは奏して之を施行し、大司徒に陞進す。關內侯に封ぜらる。〔後漢書、五十六〕。

【侯霸臥轍】73 蒙求の標題。後漢の侯霸が、善政を布き、王莽の敗れた時、一郡をよく保持したので、やがて召されるに及んで、百姓老弱相携へて號哭し、使者の車の轍に臥して其の進行を遮り慕つた故事。〔後漢書、侯霸傳〕及二王莽之敗一、霸保固自守、卒全二一郡一、更始元年、遣レ使徵レ霸、百姓老弱、相攜號哭、遮二使者車一、或當レ道而臥、皆曰、願乞二侯君一、復留期年。

【侯白】74 ❶隋、臨漳の人。字は君素。性、滑稽にして辯舌に秀でた。秀才に擧げられ、儒林郎を拜命す。好んで俳諧雜說を爲し、文帝の時、祕書に於て國史を修む。後、五品食を賜はり、月餘にして卒す。著に旌異記がある。〔隋書、五十八〕。❷役者のおどけ役。白敏中が、侯氏の兒を壻とせんとした故事による。〔玉泉子〕白敏中爲レ相、嘗欲下以二前進士侯過一爲中子壻上、其妻盧氏曰、既已姓白、又以二侯氏兒一爲レ壻、必爲二人呼作一侯白一爾、敏中爲レ之止焉。〔林逋、深居雜興詩〕佮倫近日無二侯白一、奴僕當時有二衞靑一。

【侯伯】75 ❶侯爵と伯爵。大名たち。諸侯大名。〔周禮、春官、典命〕上公九命爲レ伯、其國家宮室車旗衣服禮儀、皆以九爲レ節、侯伯七命、其國家宮室車旗衣服禮儀、皆以七爲レ節、子男五命。〔注〕上公、謂二王之二王一有德者、加命爲二二伯一、二王之後、亦爲二上公一。〔疏〕云二二王之後亦爲二上公一者、案、孝經緯援神契云、二王之後稱レ公、大國稱レ侯、故知也、若然、宋公爲二殷之後一稱レ公、春秋之代、杞爲二夏後一或稱レ侯、或稱レ伯、或稱レ子者、杞君無道、或用二夷禮一、故貶レ之而不レ稱レ公也、云云、自外雖二是周之同族有一出封一、惟稱二侯伯一而已、是以魯晉鄭衞等、皆稱二侯伯一。❷五國の長。諸侯の旗頭。伯は長。〔書、周官〕外有二州牧侯伯一。〔傳〕內置二百揆四岳一、象二天之有一五行一、外置二州牧十二及五國之長一。〔疏〕外有二州牧侯伯一、牧、一州之長、侯伯、五國之長、云云、侯伯、謂二諸侯之長一、益稷篇、禹言二治水時事一云、外薄二四海一、咸建二五長一、知二侯伯是五國之長一也。〔左氏、僖、元〕凡侯伯、救二患分一災討一罪一、禮也。〔注〕侯伯、州長也。❸黃金の精。〔事物異名錄、神鬼、金神〕白澤圖、黃金之精名二石嚫一、狀如レ豚、又絕水有レ金者、精名二侯伯一、狀如レ人、按、石嚫、正字通作二倉唐魔王一。

【侯伏】76コウフク 複姓。侯植が魏の孝武に從ひ西遷して賜はつた姓。〔北史、侯植傳〕植從二魏孝武一西遷、賜二姓侯伏侯氏一、賜二姓賀屯氏一。

【侯伏侯】77コウフクコウ 三字姓。〔周書、寇洛傳〕賀拔岳西征、洛從レ岳、破二侯伏侯元進于百里細川一。

【侯服】78コウフク ㊀禹貢の五服の第二。又、周禮の九服の第二。王城の周圍を去る五百里から一千里に至るの地。侯は候に通じ、天子の斥候となつて服事する義。五服(1−257・・977)・九服(1−167・・576)を見よ。〔書、禹貢〕五百里、甸服、云云、五百里、侯服。〔傳〕規二方千里之內一謂二之甸服一、爲二天子一服二治田一、去二王城一面五百里內、甸服外之五百里、侯、候也、斥候而服レ事。〔周禮、夏官、職方氏〕乃辨二九服之邦國一、方千里曰二王畿一、其外方五百里曰二侯服一。〔注〕服、服二事天子一也。〔疏〕言レ侯者、侯之言、候、爲二王斥候一。㊁明、張名振(4−9812・・1538)の字。

【侯服玉食】79コウフクギョクショク 諸侯の衣服を着、珍美の食を食ふ。豪奢な生活をいふ。〔漢書、敍傳下〕侯服玉食、敗レ俗傷レ化。〔晉書、夏侯湛傳〕湛族爲二盛門一、性頗豪侈、侯服玉食。

【侯畐】80コウフク 宋、樂清の人。字は道子。謚は節毅。武擧を以て合浦尉を拜命し、寶祐中、海州通判に轉任す。李松壽が漣泗に寇した時、城下に戰死す。著に霜厓集がある。〔宋史、四百五十四〕。

【侯馥】81コウフク 晉、牂牁の人。字は世明。李雄が成都に據るや、馥、江陽太守となり、執へられたが屈せず、雄、義として之を釋す。〔貴州通志〕。

【侯文】82コウブン 漢の人。京兆尹孫寶の故吏(屬官)。剛直の士にして、東部督郵に陞遷す。〔前漢書、七十七〕。

【侯保】83コウホ 明、贊皇の人。國子生を以て知縣を拜命して善政を行ひ、交阯右參政に陞進す。黃江の賊黎利が反するや、民兵を率ゐ、堡を築いて之を禦ぎ戰死す。〔明史、一百五十四〕・〔萬斯同明史、一百三十六・二百二〕。

【侯封】84コウホウ 漢の人。高祖の時の酷吏。〔史記、一百二十二〕。

【侯牧】85コウボク 諸國の君を帥ゐて伯に見える諸侯。方伯。又、諸侯の意。〔左氏、哀、十三〕王合二諸侯一、則伯帥二侯牧一、以見二於王一、伯合二諸侯一、則侯帥二子男一、以見二於伯一。〔注〕侯牧、方伯也。〔疏〕九州之長、入二天子之國一曰レ牧、於レ外曰レ侯、職方者、二伯各主二一方一、州長者、州牧各主二一州一、周禮所謂八命作レ牧、九命作レ伯、是也、王合二諸侯一、則伯帥二侯牧一、當レ如下康王之誥、太保帥二西方之諸侯一、畢公帥二東方之諸侯一、以見中於王上也、計當二盡帥二諸侯一、獨言レ帥二侯牧一者、擧レ尊而言、其實盡帥レ之也、伯合二諸侯一、則侯帥二子男一、侯、謂レ牧也、牧帥二諸國之君一、見二於伯一也、亦當二盡帥在レ會、諸侯獨云二子男一、擧レ小爲レ言、其實亦見二在レ會者、盡帥以見レ伯也。〔會箋〕侯牧謂二諸侯一諸侯牧レ民者、故通稱焉。

【侯蒙】86コウモウ 宋、高密の人。字は元功。謚は文穆。進士に擧げられ、殿中侍御史から中書侍郎に陞進したが、蔡京と協はず、地方官となる。〔宋史、三百五十一〕・〔宋史新編、一百二十一〕・〔東都事略、一百三〕。

【侯門】87コウモン 貴人の家。〔薛能、春早選二寓長安一詩〕春非二閑客事一、花在二五侯門一。

【侯門如レ海】88コウモンウミノゴトシ 貴人の邸は海の如く奧深くて、一度入れば容易に出られない。〔崔郊、贈二去婢一詩〕公子王孫逐二後塵一、綠珠垂淚滴二羅巾一、侯門一入深如レ海、從レ此蕭郎是路人。〔全唐詩注〕雲溪友議云、郊寓二居漢上一、其姑有レ婢端麗、郊有二阮咸之惑一、姑鬻二之連帥于公頔一、郊思慕無レ已、其婢因二寒食一偶出値レ郊、郊贈レ詩、云云、或寫二之座一、公覩レ詩令レ召二崔生一、及レ見レ郊、握レ手曰、蕭郎是路人、是公作耶、何不二早相示一也、遂命レ婢同歸。〔杜荀鶴、與二友人一對レ酒吟〕客路如レ天遠、侯門似レ海深。

【侯爺】89 hou² yeh² 侯爵を授けられた人。

【侯庸】90コウヨウ 明、平度の人。字は景中。洪武の進士。官は吏部侍郎。〔國朝列卿記、二十八〕・〔本朝分省人物攷〕。

【侯翼】91コウヨク 宋、安定の人。字は子沖。畫に巧。〔圖畫見聞志〕・〔宣和畫譜〕。

【侯覽】92コウラン 後漢、防東の人。性は佞猾。桓帝の初、中常侍となる。高鄉侯に封ぜらる。建寧の初、張儉が其の佞を劾せんとした時、其の上奏を遮截し、却つて誣ひて鉤黨として之を夷滅す。熹平の時、有司の彈劾に遇ひ自殺す。〔後漢書、一百八〕。

【侯麗】93コウレイ 地名。陝西省涇陽縣の境。春秋の時、晉の厲公が秦を伐ち、侯麗に及んだ。〔左氏、成、十三〕師遂濟レ涇、及二侯麗一而還。

【侯王】94コウワウ 諸大名。〔老子、三十七〕侯王若能守、萬物將二自化一。〔史記、項羽紀〕立二諸將一爲二侯王一。〔漢書、敍傳下〕雲起龍襄、化爲二侯王一。

【侯王將相寧有レ種乎】95コウワウシャウシャウイヅクンゾシュアランヤ 何人でも自分の勉強努力次第で、王侯にも將相にもなり得る。史記には王侯將相寧有レ種乎に作る。〔漢書、陳勝傳〕勝廣素愛レ人、士卒多爲レ用、將尉醉、廣故數言レ欲レ亡忿レ尉、令レ辱レ之、以激二怒其衆一、尉果笞レ廣、尉劍挺、廣起奪而殺レ尉、勝佐レ之、幷殺二兩尉一、召二令徒屬一曰、公等遇レ雨、皆已失レ期、當レ斬、藉第令レ毋レ斬、而戍死者、固什六七、且壯士不レ死則已、死則擧二大名一耳、侯王將相、寧有レ種乎、徒屬皆曰、敬受レ令、乃詐稱二公子扶蘇項燕一、從二民望一。

【侯安都】96コウアント 陳、曲江の人。字は成師。隸書に巧で、兼ねて鼓琴を能くし、又、五言詩を以て名がある。〔陳書、八〕・〔南史、六十六〕。

【侯偉時】97コウキジ 明、公安の人。字は異度。崇禎の進士。陽江縣知を拜命して惠政を行ひ、工部吏部主事に陞遷す。後、清兵に執へられたが屈せずして死す。〔明史、二百七十九〕・〔萬斯同明史、二百三十二〕・〔明史稿、二百六十〕。

【侯友彰】98コウイウシャウ 宋、衡山の人。字は夢符。皇祐の進士。官は臨武尉。官に居ること十年、布衣蔬食、寒士に異ならなかつた。

【侯一元】99コウイツゲン 明の人。廷訓の子。字は舜擧。嘉靖の進士。年十三の時、父の廷訓、罪を得るや、闕に伏し其の冤を訟へて釋された。官は江西布政使。著に二谷讀書記及び詩文集がある。〔明史、一百九十二〕。

【侯于趙】100コウウテウ 明、杞縣の人。字は宗度。嘉靖の進士。官は工科給事中。後、山西巡撫。〔國朝獻徵錄、六十三〕・〔本朝分省人物攷、八十七〕。

【侯延廣】101コウエンクワウ 宋の人。仁矩の子。李繼遷が夏臺を擾した時、靈州の長官として之を討平し、尋いで寧州團練使を拜命す。〔宋史、二百五十四〕・〔宋史新編、六十七〕・〔隆平集、十七〕。

【侯應爵】102コウオウシャク 明、江夏の人。字は天錫。嘉靖の擧人。官は羅定道僉事。後、貴州參議。〔江夏縣志〕。

【侯行果】103コウカウクワ 唐、上谷の人。玄宗の時、國子司業を拜命し、皇太子の侍讀となる。〔唐書、二百〕。

【侯希逸】104コウキイツ 唐、營州の人。肅宗の時、平盧淄青節度使を拜命し、史朝義を討平して功あり。大曆の末に淮陽郡王となる。〔舊唐書、一百二十四〕・〔唐書、一百四十四〕。

【侯拱極】105コウキョウキョク 明の人。世祿の子。父と一緒に李自成の難に死す。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕。

【侯拱辰】106コウキョウシン 明、大興の人。謚は榮康。壽陽長公主に尙す。宗人府の事を掌る。〔明史、一百二十一〕・〔明史稿、一百十二〕。

【侯君集】107コウクンシフ 唐、三水の人。才雄を以て稱せられ、太宗に從つて戰功を立て、吐谷渾を破り、高昌を平げて、吏部尙書を拜命す。潞國公に封ぜらる。後、功を恃んで專橫。皇太子承乾が、數〻過ちがあつたので、廢せられんことを慮つて君集に計を問ひ、事が發覺して捕へられ獄に斬らる。〔舊唐書、六十九〕・〔唐書、九十四〕。

【侯君擢】108コウクンテキ 明、成安の人。字は際明。鄉より擧げられ、陳州知を拜命す。李自成が來つて城を圍むや、挺身奮戰し、遂に縛せられて死す。〔明史、二百九十三〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百七十四〕。

【侯繼國】109コウケイコク 明、金山衞の人。號は龍泉。指揮使を世襲す。著に兩浙兵制がある。〔四庫提要、一百〕。

【侯堯封】110コウゲウホウ 明、嘉定の人。監察御史となつたが、張居正に忤つて地方に遷され、福建右參政に至る。廉直を以て名が有り、書室を皃藻堂といふ。〔明史、二百四十六〕。

【侯元善】111コウゲンゼン 明、全椒の人。太祖に從つて江を渡り、簿書文字を掌り、勤勞十餘年、參知政

事となる。〔明史、一百三十五〕。

【侯弘遠】112 梁、西充の人。代々西蜀の酋豪。蜀の張文尊が白崖山に據つて反するや、郡陽王蕭範の命を受けて之を討ち、戰死す。〔陳書、九〕。

【侯弘文】113 明の人。崇禎の末、高平縣の長官を拜命し、襄陽に僑居す。家財を散じて軍を募り、盧象昇に隨つて賊を討つ。〔明史、二百六十一〕。

【侯克中】114 元、眞定の人。字は正卿。號は艮齋。幼にして失明し、羣兒の誦書を聞いて悉く記憶し、遂に易に精通す。著に大易通義・艮齋詩集がある。〔四庫提要、一百六十七〕。

【侯史光】115 晉、掖の人。字は孝明。孝廉に擧げらる。官は中郎將より、散騎常侍に至り、後、少府に累遷す。〔晉書、四十五〕。

【侯思止】116 唐、醴泉の人。初、渤海高元禮の奴となり、恆州刺史裴貞の謀反を誣告し、游擊將軍に拔擢せらる。天授中、左臺侍御史に遷り、後、宰相李昭德に殺さる。〔舊唐書、一百八十六上〕・〔唐書、二百九〕。

【侯思炳】117 清、樂清の人。字は嗣宗。詩畫書法、一時に秀出す。漁村に築いて居り、自ら漁村小隱と號す。遺詩がある。〔國朝耆獻類徵、四百七十四〕・〔國朝畫識、五〕。

【侯七乘】118 清、汾西の人。字は仲輅。順治の進士。官は廣信同知。書室を孝思堂といふ。著に孝思堂集がある。〔鶴徵錄、五〕・〔己未詞科錄、七〕。

【侯執蒲】119 明、商丘の人。字は碧塘。萬曆の進士。官は御史。後、太常卿に擢んでらる。魏忠賢、政を竊むや、執蒲を指して東林倔強老者といふ。〔蘭臺法鑒錄、二十〕。

【侯叔獻】120 宋、宜黃の人。字は景仁。慶曆の進士。官は兩浙常平使者兼都水監・提擧游田司・南北水陸轉運判都水監。治水の功績があつた。〔尚友錄、十三〕。

【侯承恩】121 ㊀明、齊河の人。父の仲擧、通渭縣典史となり、賊に擒はる。承恩、後より至り奮鬪して父を救つたが自ら賊に陷る。〔勝朝殉節諸臣錄、九〕。㊁清、嘉定の人。字は孝儀。詞に巧。著に益山詞鈔がある。〔清代閨閣詩人徵略、四〕。

【侯承祖】122 明、上海の人。字は懷玉。明末、衞指揮を拜命す。後、參將となり、清兵至るに及んで兵を率ゐて禦ぎ、城が破れ、長子世祿と俱に屈せずして死す。〔明史、二百七十七〕。

【侯晉升】123 宋、曲江の人。字は德昭。元豐の進士。官は南恩州の長官。〔廣東通志〕。

【侯進忠】124 明、鳳陽の人。字は丹一。千戶を世襲し、游擊に陞る。畫に巧で、草書を善くし、尤も射に精し。

【侯震暘】125 明、嘉定の人。字は得一。萬曆の進士。天啓中、給事中となる。魏忠賢の意に忤ひ謫せらる。〔明史、二百四十六〕。

【侯仁矩】126 宋の人。益の子。父に從つて潞・徐・秦の三鎭を歷、漢初に隴州の刺史を拜命し、滯訟を決し一日に繫囚を釋くこと百餘に至る。後、周に仕へ、宋に入つて祁・雄二州の刺史を拜命す。史姓韻編は侯仁架に作る。〔宋史、二百五十四〕・〔宋史新編、六十七〕。

【侯仁寶】127 宋の人。仁矩の弟。邕州知を拜命し、在任九年。太平興國中、交州を取る策を上言し、交州水陸計度轉運使となつて軍を進めたが、賊の勢が盛で殺された。〔宋史、二百五十四〕・〔宋史新編、六十七〕。

【侯世祿】128 明、榆林の人。勇敢精悍。熊廷弼に知られて宣武總兵となつたが、事に坐して邊疆に戍となる。李自成が榆林を圍むや、之を固守し、城陷つて殉難す。〔明史、二百六十九〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、二百四十九〕。

【侯小叔】129 金、河東の人。もと河津の船頭。貞祐の初、鎭威軍に入り、功によつて官に補せられ、元光中、河東南路安撫使を拜命す。家財を以て戰士を賞し、昭毅大將軍に陞進す。後、元軍と戰つて死す。〔金史、一百二十二〕。

【侯道華】130 唐、芮城の仙人。中條の道靖觀に到り、道を周悟仙に學ぶ。平生の行業、狂人に類し、嶮岨を疾走すること平地の如く、經書及び歷史を愛讀す。仙化して、道靖觀の屋根の瓦の間から昇天す。〔全唐詩、二十一〕。

【侯知道】131 唐、靈武の人。孝養を以て名がある。〔唐書、一百九十五〕。

【侯仲莊】132 唐、蔚州の人。李光弼の先鋒となり、忠武將軍・冠軍將軍・防禦招討使を歷任し、奉天に鎭たること幾ど二十年に及ぶ。〔唐書、一百二十六〕。

【侯仲良】133 宋の人。可の子。字は師聖、又、希聖に作る。初、程頤に從つて學び、後、周敦頤を訪ねて大いに得る所があり、荊門に游んで胡安國に重んぜらる。著に論語說・侯子雅言がある。〔皇朝道學名臣言行外錄、九〕・〔伊洛淵源錄、十二〕・〔宋元學案、十三・十四・三十〕。

【侯廷楷】134 清の人。侯康(14)を見よ。

【侯廷訓】135 明、樂清の人。正德の進士。南京禮部主事となつたが、後、事を以て獄に下され、其の子が冤を訟へて免れ、漳南僉事を拜命した。後、貪虐を以て劾せられて庶民となる。〔明史、一百九十一〕。

【侯廷椿】136 清の人。侯度(67)を見よ。

【侯兆川】137 地名。侯趙川に同じ。〔宋史、岳飛傳〕翌日戰二侯兆川一、身被二十餘創一、士皆死戰、又敗レ之。

【侯趙川】138 地名。河南省輝縣の西北。一名、侯兆川。關あり、天然の要害をなす。〔讀史方輿紀要、河南、衛輝府、輝縣〕侯趙川、在二縣西北三十里一、接二彰德府湯陰縣界一、四面皆山、中甚平曠、卽蘇門之北麓、本無二川也一。

【侯天錫】139 明の人。良柱の子。官は指揮。父の死後、游擊の官を授けられ、楊嗣昌の軍に赴いて功を立てたので、莊烈帝は之を嘉して一秩を加增した。〔明史、二百六十九〕。

【侯峒曾】140 明の人。震暘の子。字は豫瞻。天啓の進士。崇禎の間、江西提學參議を拜命す。福王の時、黃淳耀等と義兵を起して鄉里を守つたが、清兵が至つて城陷り、二人の子と共に水に投じて死す。〔明史、三百七十七〕・〔明史稿、二百五十八〕。

【侯方域】141 清の人。恂の子。字は朝宗。明末、父に從つて京師に居り、桐城の方以智等と共に四公子と稱せらる。初、意を聲伎に用ひ、李香君との艷を傳へられたが、後、發憤して古文・詩を學び、法を韓・歐に取つて名を成す。卒年三十七。書室を壯悔堂・四憶堂といふ。著に壯悔堂文集・四憶堂詩集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕・〔國朝先正事略、三十六〕。

【侯莫陳】142 三字姓。〔通志、氏族略、代北三字姓〕侯莫陳氏、其先後魏別部、居二庫斛眞水一、周書云、武川人、世爲二渠帥一、隨レ魏南遷、號二侯莫陳氏一。

【侯莫陳穎】143 隋の人。崇の子。字は遵道。謚は定。魏の大統の末、父の軍功により廣平侯を賜はり、開府儀同三司を拜命す。隋の高祖の時、昇平郡公に進爵し、瀛州刺史を拜命したが、後、秦王俊と交り、免ぜらる。幾ばくもなく刑州刺史となり、桂州總管に遷り、南海大守となる。〔隋書、五十五〕。

【侯莫陳悅】144 後魏、代の人。爾朱榮に歸し、爾朱天光の右廂大都督を拜命す。永熙の末、賀拔岳と共に靈州を討つたが、岳を誘つて斬つた爲、岳の所部、宇文泰に追はれて縊死す。〔魏書、八十〕・〔北史、四十九〕。

【侯莫陳慶】145 隋の人。字は重構。山水畫に巧。〔歷代名畫記〕。

【侯莫陳凱】146 周の人。瓊の弟。字は敬樂。性は剛直、經史を好む。大統の初、文帝に從つて竇泰を擒にし、沙苑を擊破し、孝閔帝の時、工部中大夫を拜命す。明帝の時、陵州・丹州刺史として所在治績を擧げ、司會中、大夫に終る。〔周書、十六〕・〔北史、六十〕。

【侯莫陳瓊】147 北周の人。崇の弟。字は世樂。八歲、父を喪ひ、母に事へて至孝。建德の初、軍功を以て大宗伯となり、秦州總管を拜命す。武威郡公に封ぜらる。大象の間に卒す。〔周書、十六〕・〔北史、六十〕。

【侯莫陳相】148 北齊、代の人。七歲、父を喪ふ。號慕、人に過ぐ。長じて神武に從つて兵を起し、戰功を以て白水郡公に封ぜられ、天

保の初、司空を拜命し、王に進爵す。後、太傅・朔州刺史を歷任す。〔北齊書、十九〕・〔北史、五十三〕。

【侯莫陳順】149 北周、武川の人。初、爾朱榮に仕へて、武泰の初、葛榮を討ち、邢杲を平げ、韓婁を征して功あり。周の文帝と同里の友たるを以て彭城郡公に進爵す。孝閔帝の時、少師を拜命し、柱國に陞進す。〔周書、十九〕・〔北史、六十〕。

【侯莫陳崇】150 北周の人。順の弟。字は尚樂。諡は躁、後、莊閔と改諡す。戰功によつて臨涇縣侯に封ぜられ、沙苑を破り河橋に戰ひ、柱國大將軍を拜命し、孝閔帝の時、梁國公に進爵す。保定中、晉公護に逼られて自殺す。〔周書、十六〕・〔北史、六十〕。

【侯莫陳亮】151 北周の人。劉亮(2―2224・648)を見よ。

【侯莫陳利用】152 宋、成都の人。幼時より變幻の術を體得し、太平興國の初、京師に賣藥して、黃白の事を以て人を惑はし、太宗に用ひられて鄭州團練使を拜命す。後、專横の事が多かつたので商州に禁錮せられ、尋いで斃殺せらる。〔宋史、四百七十〕・〔宋史新編、一百八十五〕。

【侯必登】153 明、江州の人。字は頤眞。嘉靖の進士。官は潮州知府。

【侯文和】154 後漢の人。孝文帝の時、青州刺史を拜命し、尋いで樂陵・濟南二郡の太守に轉任す。滑稽多智、尤も淺俗委巷の語を善くす。〔魏書、九十一〕。

【侯懋功】155 明、吳縣の人。字は延賞。號は夷門。畫に巧。〔明畫錄、四〕。

【侯來保】156 明の人。陳迪の蒼頭。迪が成祖に殺されるや、其の骸を拾つて歸葬す。〔明史、一百四十一〕。

【侯良柱】157 明、永寧衞の人。字は朝石。天啓中、四川總兵官を拜命し、奢崇明を討つて西南奇捷の稱あり。後、李自成と緜州に戰つて陣歿す。〔明史、二百六十九〕・〔明史稿、二百五十〕。

【侯龍恩】158 北周の人。植の從兄。孝閔帝が即位するや、晉公護の執政となつて厚遇を受けたが、護が誅せられて禍に遭ふ。〔周書、二十九〕・〔北史、六十六〕。

【利レ建レ侯】159 諸侯を建てて民を寧んずるによい。〔易、屯〕屯、元亨利貞、勿レ用レ有レ攸レ往、利レ建レ侯。〔疏〕其物未レ寧、故宜二利建レ侯以寧一レ之。

【封レ侯諡レ公】160 國家創業の元勳、又は之に準ずる大功勳ある者は、在世中に侯に封じ、死後、公の諡を賜ふ。〔明律、吏律、職制、文官不レ許レ封二公侯一〕其生前、出將入相、能除二大患一、盡レ忠報レ國者、同二開國功勳一、封レ侯諡レ公、不レ拘二此律一。

【矦】634 コウ 侯(1―633)の本字。〔字彙〕矦、古侯字。

【⿰亻君】635 キン 窘(8―25519)・僒(1―1089)に同じ。〔集韻〕僒、或省。〔正字通〕⿰亻君、同窘、亦作レ僒。

【⿱人足】636 キ 企(1―422)の古字。〔說文〕企、⿱人足、古文企、从レ足。

【侱】637 一 テイ チヤウ 〔集韻〕丑郢切 梗 二 テイ チヤウ 〔集韻〕他頂切 迥

一 つとめる。〔集韻〕侱、役也。二 こみち。徑(4―10105)に同じ。〔集韻〕侱、徑也、或作レ侱。〔字彙〕侱、徑也。

【⿰亻戒】638 カイ 价(1―412)に同じ。〔集韻〕价、或作レ⿰亻戒。

【⿰亻反】639 ヘイ 兵(2―1462)の古字。〔集韻〕兵、古作レ⿰亻反。

【併】640 ヘイ 兵(2―1462)の古字。〔說文〕兵、併、古文兵、从二人廾干一。

【侲】641 一 シン 〔集韻〕之刃切 震 二 シン 〔集韻〕之人切 眞

小篆

一二 ❶ **わらべ。よいわらべ。**〔說文新附〕侲、僮子也。从レ人辰聲。〔集韻〕侲、童子也。〔張衡、西京賦〕侲僮逞レ材。〔注〕綜曰、侲之言、善也、善童、幼子也。〔張衡、東京賦〕侲子萬童。〔注〕綜曰、侲子、童男童女也。❷ **うまかひ。**〔方言、三〕燕齊之閒、養レ馬者、謂二之侲一。〔後漢書、杜篤傳〕虜二傲侲一。〔注〕侲、養レ馬人也。❸ **はしため。女婢。**〔方言、三〕官婢女廝、謂二之侲一。

名乘 ヨシ。

【侲子】1 善い童。幼子。侲僮。侲は善。古、之を疫病拂ひに用ひた。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕減二逐疫侲子之半一。〔注〕侲子、逐レ疫之人也。〔後漢書、禮儀志中〕先レ臘一日、大儺、選二中黃門子弟、十歲以上十二以下、百二十人一、爲二侲子一。〔注〕侲之言、善、善童、幼子也。〔張衡、東京賦〕侲子萬童。

【侲僮】2 侲子に同じ。字解の❶を見よ。

【⿰亻延】642 一 タン ダン 〔字彙〕杜晏切 諫 二 タン ダン 〔字彙〕徒亶切 旱

一二 **大きい。**〔字彙〕⿰亻延、大也。

【⿰亻沙】643 サ 〔集韻〕桑何切 歌

❶ **ゆく。**〔廣韻〕⿰亻沙、行也。❷ **舞つて止まない。**〔廣韻〕⿰亻沙、舞不レ止。❸ **醉つて舞ふさま。** 傞(1―973)に同じ。〔集韻〕傞、說文、醉舞皃、或从レ沙。

【侳】644 一 サ 〔集韻〕祖臥切 箇 二 サ 〔集韻〕臧戈切 歌

小篆 小篆(通訓定聲)

一二 ❶ **はづかしめる。**〔淮南子、說山訓〕君子不レ入レ市、爲二其侳一レ廉也。〔注〕侳、辱也。❷ **やすらか。** もと⿰亻⿱亞土(1―980)に作る。〔正字通〕侳、篆作レ⿰亻⿱亞土。〔說文〕⿰亻⿱亞土、安也、从レ人坐聲。❸ **ある。**〔廣韻〕侳、有也。

【⿱人⿰丑刂】645 チウ ⿰丑攵(3―6097)の變體。〔正字通〕⿱人⿰丑刂、即⿰丑攵字變體。

【侵】646 一 シン 〔集韻〕千尋切 侵 ㄑㄧㄣ ch'in1 二 シン 〔正韻〕七稔切 寑 ㄑㄧㄣˇ ch'in3

小篆

一 ❶ **次第に入りこむ。** もと㑴(1―932)に作る。〔正字通〕侵、說文作レ㑴。〔說文〕㑴、漸進也、从二人又持一レ帚、若二埽之進一、又、手也。❷ **をかす。しのぐ。けづる。** 他の領分に入る。〔廣雅、釋言〕侵、凌也。〔周禮、夏官、大司馬〕負レ固不レ服、則侵レ之。〔穀梁、隱、五〕苞二人民一、敺二牛馬一、曰レ侵。〔國語、楚語下〕無二相侵瀆一。〔注〕侵、犯也。〔吳志、鍾離牧傳〕邊境見レ侵。❸ **春秋の筆法で、兵を潛めて鐘鼓を用ひずに不意に敵を襲ふのをいふ。**〔左氏、莊、十五〕鄭人閒レ之、而侵レ宋。〔左氏、莊、二十九〕凡師有二鐘鼓一曰レ伐、無曰レ侵。❹ **そこなふ。**〔穀梁、襄、二十四、注〕侵、傷。〔北齊書、邢邵傳〕加以二風雨所一レ侵、漸至二虧墜一。❺

法を枉げる。やめる。寑(3−7238)に通ず。〔說文通訓定聲〕侵、叚借爲レ寑。〔管子、明法〕下情上而道止、謂ニ之侵一。〔管子、七臣七主〕侵臣事ニ小察一、以折ニ法令一。〔注〕枉レ法行レ事、謂ニ之侵一。六五穀がみのらぬ。わざはひ。祲(8−24713)に通ず。〔說文通訓定聲〕侵、叚借爲レ祲。〔廣雅、釋天〕五穀不レ升、曰ニ大侵一。〔穀梁、襄、二十四〕五穀不レ升、謂ニ之大侵一。〔墨子、七患〕五穀不レ熟、謂ニ之大侵一。七浸(6−17505)に通ず。〔史記、武帝紀〕侵ニ尋於泰山一。〔史記、封禪書〕浸ニ尋於泰山一。八百六韻の一。下平第十二。九姓。〔字彙〕侵、姓、三輔決錄、有ニ侵恭一。

二たけが低い。容貌が見すぼらしい。〔漢書、田蚡傳〕蚡爲レ人貌侵、生貴甚。〔注〕服虔曰、侵、短小也。

解字 會意。人・又(手)・帚(はうき)の合字。人が帚をもつて掃き進むこと。それより次第に入りこむ・をかす・不意に敵を襲ふの意となる。假借して、祲(わざはひ)・寑(止める)の意に用ひる。

【侵軋】1 シンアツ をかし爭ふ。〔唐書、王處存傳〕處存善修レ鄰驩レ內、撫レ民有レ恩、痛折レ節下レ賢、協ニ穆太原一以自助、遠近同レ心、歲時講レ兵、與ニ諸鎭一抗、無ニ能侵軋者一。

【侵易】2 シンイ をかしあなどる。〔史記、大宛傳〕數爲ニ漢使所ニ侵易一。

【侵佚】3 シンイツ をかす。侵軼。〔後漢書、南匈奴傳論〕乘レ閒侵佚、害流ニ傍境一。

【侵淫】4 シンイン 次第に進みをかす。又、風の吹き流れるさま。〔宋玉、風賦〕侵ニ淫谿谷一。〔注〕善曰、侵淫、漸進也、良曰、侵淫、風之流散皃。〔司馬相如、上林賦〕侵淫促レ節。〔注〕善曰、侵淫、漸進之貌。〔枚乘、七發〕陽氣見ニ眉宇之閒一、侵淫而上。〔注〕良曰、侵淫、漸進之貌。〔北史、李崇傳〕賊勢侵淫、寇連ニ恆朔一。

【侵隱】5 シンイン かくれてわるいことをする。〔福惠全書、錢穀部、解給〕自不ニ敢在レ家侵隱一。

【侵液】6 シンエキ ひたしうるほす。又、うるほふこと。〔潘尼、石榴賦〕滋味侵液、馨香流溢。

【侵越】7 シンエツ をかしこえる。〔明律、戶律、田宅、纂注〕侵占、侵ニ越界限一、占爲ニ己業一也。

【侵怨】8 シンエン しのがれたことに對する怨み。〔後漢書、寇恂傳〕大丈夫、豈有ト懷ニ侵怨一而不レ決レ之者上乎。

【侵冤】9 シンエン 無實の罪で虐げる。〔漢書、中山靖王勝傳〕多ニ自以侵冤一。〔新序、雜事一〕百姓侵冤。

【侵加】10 シンカ 病などが侵し加はる。又、次第にひどくなる。〔韓愈、答ニ竇秀才一書〕愁憂無聊、瘴癘侵加。

【侵害】11 シンガイ をかしそこなふ。侵殘。〔韓非子、難三〕必借レ人成レ勢、而勿ニ侵ニ害己一、可レ謂ニ一難一也。〔漢書、匈奴傳上〕無ニ侵ニ害邊境一。

【侵駭】12 シンガイ をかしおどろかす。〔任昉、奏ニ彈曹景宗一文〕疆場侵駭、職是之由、不レ有ニ嚴刑一、誅賞安寘。〔注〕濟曰、駭、驚。

【侵降】13 シンカウ をかしくだす。〔史記、朝鮮傳〕侵ニ降其旁小邑一。

【侵耗】14 シンカウ をかしへらす。〔顏氏家訓、治家〕狎ニ侮賓客一、侵ニ耗鄕黨一。

【侵割】15 シンカツ をかしかすめる。侵掠。〔晉書、石季龍載記上〕公卿已下、出レ穀以助ニ振給一、姦吏因レ之、侵割無レ已。

【侵欺】16 シンキ をかしあざむく。〔韓非子、解老〕人君無道、則內暴ニ虐其民一、而外侵ニ欺其鄰國一。〔明律、戶律、倉庫〕凡倉庫務場局院、庫秤斗級、若雇役之人、侵欺借貸、移ニ易係官錢糧一、並以ニ監守自盜一論、若雇主同レ情分ニ受贓物一者、罪亦如レ之。〔六部成語、戶部、侵欺、注解〕借レ事、侵ニ呑官項一、以欺ニ朝廷一也。

【侵毀】17 シンキ をかしやぶる。〔後漢書、循吏、王景傳〕建武十年、陽武令張汜上言、河決積レ久、日月侵毀、濟渠所レ漂、數十許縣。

【侵吃】18 シンキツ 食ひこむ。侵喫。〔琵琶記、義倉賑濟〕你侵ニ吃了倉糧一。

【侵境】19 シンキヤウ 國境を侵す。國土を侵す。侵疆に同じ。侵土。〔金史、張行信傳〕會宋兵侵レ境。

【侵疆】20 シンキヤウ 國境の地をかしとる。又、をかしとつた地。侵境。〔書、泰誓中〕我武惟揚、侵ニ于之疆一。〔法言、寡見〕孔子用ニ於魯一、齊人章章、歸ニ其侵疆一。

【侵虐】21 シンギヤク をかししひたげる。〔後漢書、酷吏傳序〕閹人親婭、侵ニ虐天下一。

【侵據】22 シンキヨ をかしとつて其の所による。〔宋史、周湛傳〕湛知ニ襄州一、襄人不レ善ニ陶瓦一、率爲ニ竹屋一、歲久侵ニ據官道一。

【侵漁】23 シンギヨ 漁師が他人の漁場で魚を捕へるやうに、次第に他人の物をかしとる。〔韓非子、孤憤〕上與レ之欺レ主、下與レ之收レ利侵漁。〔史記、張湯傳〕姦吏並侵漁。〔漢書、宣帝紀〕皆勤レ事、而奉祿薄、欲レ毋ニ侵ニ漁百姓一、難矣。〔淮南子、主術訓〕貪主暴君、撓ニ於其下一、侵ニ漁其民一、以適ニ無窮之欲一。〔六部成語、戶部、侵漁、注解〕亦侵取之意、如ニ漁人之取レ魚也。

【侵銀】24 ch'in¹ yin² ひそかに他人の財産を横領する。

【侵毆】25 シンク 侵驅に同じ。〔漢書、主父偃傳〕夫匈奴行盜侵毆、所ニ以爲レ業、天性固然。〔注〕師古曰、來侵ニ邊境一、而毆ニ略人畜一也、毆、與レ驅同。

【侵驅】26 シンク をかしてはせる。侵毆。〔史記、主父偃傳〕行盜侵驅、所ニ以爲レ業也。

【侵官】27 シンクワン 他の官吏の職分を侵す。〔左氏、成、十六〕且侵レ官冒也、失レ官慢也。

【侵曉】28 シンゲウ あけがた。〔北史、崔暹傳〕侵曉、則與ニ兄弟一跪、問ニ母之起居一。

【侵擊】29 シンゲキ 侵入して擊つ。敵地にをかし入つて攻擊する。

【侵齧】30 シンケツ 水が岸の土砂をかしかむ。轉じて、物を破壞し去る 浸齧。〔水經、濟水注〕謂ニ之爲ニ滎口石門一也、云云、有ニ故碑一云、云云、往太河衝塞、侵ニ齧金堤一。

【侵舷】31 シンゲン 水が船ばたに打ちかかる。〔韋莊、和ト侯秀才同ニ友生一泛ニ舟溪中一相招之作上詩〕晚風侵レ浪水侵レ舷。

【侵減】32 シンゲン をかしへらす。〔列子、湯問〕帝憑怒、侵ニ減龍伯之國一使レ阨、侵ニ小龍伯之民一使レ短、至ニ伏羲・神農時一、其國人猶數十丈。

【侵扣】33 シンコウ かすめとる。橫領する。〔福惠全書、錢穀部、解給〕彼從レ中侵扣。

【侵攻】34 シンコウ をかしせめる。せめとる。

【侵寇】35 シンコウ をかしあだする。攻め入る。〔後漢書、竇融傳〕稀復侵寇。〔晉書、謝玄傳〕邊境數被ニ侵寇一。

【侵揹】36 シンコウ 無理矢理に錢をとる。〔福惠全書、刑名部、監禁〕不レ許ニ借レ端侵揹一。

【侵刻】37 シンコク をかし苦しめる。殘忍。むごい。〔詩、曹風、下泉序〕曹人疾ト共公侵ニ刻其下民一、不上レ得ニ其所一。〔漢書、鼂錯傳〕勿ニ侵刻一。〔後漢書、劉般傳〕侵ニ刻百姓一。

【侵尅】38 シンコク をかしへらす。盜み減らす。着服する。つかひこむ。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革ニ官銀匠一〕侵ニ尅銀水一、刻ニ看成色一。〔六部成語、戶部、侵尅、注解〕侵呑尅減也。

【侵獄】39 シンゴク をかしせまる。〔蘇軾、剛毅近レ仁說〕奏ニ麟侵獄事一。

【侵早】40 シンサウ 朝早く。早朝。清早。破曉。侵朝。〔詩、齊風、東方未明、顚ニ倒衣裳一疏〕顚倒著ニ衣裳一而朝レ君、此則失ニ於侵早一。〔杜甫、贈ニ崔評事公輔一詩〕天子朝ニ侵早一、雲臺仗ニ數移一。〔方干、採蓮詩〕隔レ夜相期侵早發。〔賈島、新居詩〕門長侵早開。〔王建、宮詞〕爲報諸王侵早入、隔レ門催進打毬名。〔通俗編、時序、侵早〕按、侵早、卽淩晨之謂、作ニ清早一者、非。

【侵爭】41 シンサウ をかしあらそふ。あらそひ。〔管子、七臣七主〕朝無ニ姦臣一、下無ニ侵爭一。

【侵削】42 シンサク をかしけづる。襲つて人の領地を割き取る。強迫して搾取する。〔詩、魏風、葛屨序、注〕是其所ニ以見ニ侵削一。〔荀子、正論〕諸侯侵ニ削之一。〔漢書、元帝紀〕侵ニ削細民一。

【侵雜】43 シンザツ 分限をかしみだす。〔尹文子、大道上〕先正ニ名分一、使レ不ニ相侵雜一。

【侵殘】44 シンザン をかしそこなふ。侵害。〔陳書、文帝紀〕零ニ落山丘一、變ニ移陵谷一、或皆剪伐、莫レ不ニ侵殘一。

【侵恣】45 シンシ 他人の權利をかし、わがままなこと。〔晉書、石季龍載記上〕豪戚侵恣。

【侵愁】46 シンシウ をかしうれへしめる。〔後漢書、和帝紀〕競爲ニ苛暴一、侵ニ愁小民一。

【侵車】47 シンシャ　敵地に攻め入る戦車。〔穀梁、成、二〕侵車東至レ海。〔注〕侵車、侵伐之車。

【侵攫】48 シンカク　無理にをかしぬすむこと。むりにをかしとること。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕申二禁地頭侵攫一。

【侵主】49 シンシュ　我意を通して國勢を弱める主。〔管子、明法解〕忠臣之欲二謀諫一者、不レ得レ進、如レ此者、侵主之道也。

【侵取】50 シンシュ　をかしとる。せめとる。〔左氏、僖、二十八〕自二河南一濟、侵二曹伐一レ衞、正月戊申、取二五鹿一。〔魏書、李平傳〕前來臺使頗好二侵取一、平乃盡下履二虎尾一、踐二薄冰一於客館上、注〕頗其下、以示レ誠焉。

【侵戎】51 シンジュウ　戎狄にをかされる。〔書、文侯之命〕殄二資澤于下民一、侵レ戎我國家純。

【侵乘】53 シンジョウ　しのぐこと。〔韻府引、漢書、五行志〕依レ公結レ私、侵二乘君子一。

【侵蝕】54 シンショク　❶をかし蟲ばむ。蟲が木の葉などを段々食ひ盡すやうに、次第に人の領分にくひこむこと。蠶食。❷ひそかに費消する。使ひ込む。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕侵二蝕錢糧一、凌二虐良儒一。〔六部成語、戶部、侵蝕、注解〕將二官項一吞用入レ己也。

【侵辱】55 シンジョク　をかしはづかしめる。〔史記、酷吏傳〕侵二辱功臣一。〔漢書、吳王濞傳〕以侵二辱之一。

【侵臣】56 シンシン　私を行ひ法をまげる惡臣。〔管子、七臣七主〕侵臣事二小察一、以折二法令一、好二佼反一而行二私請一。〔尹知章注〕枉二法行一事、謂二之侵一。

【侵晨】57 シンシン　朝早く。早朝。侵早。侵朝。〔李商隱、清河詩〕燕來從及レ社、蝶舞太侵レ晨。

【侵尋】58 シンジン　次第に進み到る。次第に廣がる。侵潯。〔史記、武帝紀〕天子始巡二郡縣一、侵二尋於泰山一矣。〔注〕索隱曰、侵尋卽浸淫也、故晉灼云、遂往之意也、小顏云、侵淫、漸染之義、蓋尋・淫聲相近、假借用耳。〔蘇軾、代二張方平一諫用二兵書一〕使二侵尋及二於諸國一。

【侵潯】59 シンジン　進み到る。侵尋に同じ。〔史記、司馬相如傳〕嫰侵潯而高縱兮、紛鴻涌而上厲。

【侵抄】60 シンショウ　をかしかすめる。〔隋書、北狄總論〕侵抄爲レ資。

【侵攘】61 シンジョウ　をかしみだす。侵撓。〔史記、匈奴傳〕侵二攘朔方一。〔漢書、食貨志下〕匈奴絕二和親一、侵二攘北邊一。

【侵竊】62 シンセツ　ひそかにをかし盜む。〔魏收、爲二侯景叛一移二梁朝一文〕蟻攢蚳集、侵二竊邊鄙一。

【侵占】63 シンセン　をかし取る。横取りする。侵佔。〔元史、河渠志二〕不レ許二侵占一。〔明律、戶律、田宅、侵二占他人田宅一者、纂注〕侵占、侵二越界限一、占爲二己業一也。〔福惠全書、刑名部、雜犯、家產〕假代理爲レ名、暗行二侵占一。

〔侵占罪〕64 シンセンザイ　横領罪（6－15594・276）に同じ。侵占を見よ。

【侵佔】65 シンセン　横領する。人の物を横取りする。

【侵略】66 シンリャク　侵害する。侵占(63)に同じ。

【侵踐】66 シンセン　妄りにをかしてふみにじる。〔北史、隋煬帝紀〕其自二古以來一、賢人君子、云二云墳壟之處一、不レ得二侵踐一。

【侵損】67 シンソン　物を盜み人をそこなふ。〔唐律、名例〕侵二損於人一者、以二凡人首從一論。

【侵挪】68 シンダ　❶自由に他の目的に流用する。〔清會典事例、內務府、庫藏〕於二錢糧出入一、如有二侵挪等弊一、該撫卽可二隨レ時糾查一。❷横領して流用する。〔例〕侵佔挪用。

【侵盜】69 シントウ　をかしぬすむ。ぬすむ。〔史記、匈奴傳〕侵盜暴二虐中國一。〔新書、匈奴〕歲言二侵盜一、屢欲二元禮妨一害帝義一。〔明律、戶律、倉庫〕此外若有二侵盜者一、方照レ律問レ罪。

【侵撓】70 シンドウ　をかしみだす。〔宋史、范純祐傳〕懼二扼二其衝一、侵撓其役一。

【侵奪】71 シンダツ　をかしうばふ。横領する。侵掠する。〔荀子、王制〕好取侵奪。〔史記、吳王濞傳〕侵二奪諸侯之地一。

【侵地】72 シンチ　攻め取つた土地。横領または奪掠した所。〔公羊、僖、三十一〕晉侯執二曹伯一、班二其所レ取侵地于諸侯一也。〔史記、楚世家〕復與二楚之侵地一。

【侵軼】73 シンイツ　をかしつきやぶる。をかす。侵佚。〔左氏、隱、九〕北戎侵レ鄭、鄭伯禦レ之、患二戎師一。曰、彼徒我車、懼二其侵一軼我一也。〔注〕軼、突也。〔釋文〕軼、直結反、又音逸。〔晉書、石季龍載記論〕限以二塞垣一、猶懼二侵軼一。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕獫狁侵軼、虔二擾疆陲一。

【侵田】74 シンデン　をかしとつた田地。〔左氏、襄、十六〕虞丘書爲二乘馬御一、改レ服脩レ官、忝二于曲沃一。警守而下、會于溴梁一、命歸二侵田一。〔注〕諸侯相侵取之田也。

【侵偷】75 シントウ　ぬすみとる。〔福惠全書、錢穀部、漕項、倉蠹侵偷。

【侵匿】76 シントク　かくす。〔福惠全書、錢穀部、解給〕批廻最易二侵匿一。

【侵瀆】77 シントク　をかしけがす。侵黷。〔國語、楚語下〕使下復二舊常一、無中相侵瀆上。〔史記、歷書〕無二相侵瀆一。

【侵闊】78 シンカツ　へづりとる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕其餘無着卽係二侵闊一。

【侵黷】79 シントク　をかしけがす。侵瀆(77)に同じ。〔漢書、郊祀志上〕使下復二舊常一、亡中相侵黷上。

【侵毒】80 シンドク　をかしそこなふ。〔翊聖眞君傳〕侵二毒黎庶一。

【侵呑】81 シンドン　官吏が公金等を瞞着して着服する。私消する。つかひこむ。又、有產者が貧農に高利にて金を貸し、苛酷な方法を以て土地其の他を奪取すること。〔福惠全書、蒞任部、詳文貪說〕擧二其侵呑逋抗之奸一。〔六部成語、戶部、侵漏、注解〕侵二呑偷漏官項一也。

【侵那】82 シンナ　公金を掠めたり、流用したりする。侵挪。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕可二以任二意侵那一。

【侵入】83 シンニュウ　をかし入る。攻め入る。〔書、泰誓中、侵二于之疆一、傳〕侵二入紂郊疆一伐レ之。〔史記、匈奴傳〕匈奴亦不二侵二入邊一。

【侵敗】84 シンパイ　をかしやぶる。〔左氏、成、二〕兄弟甥舅、侵二敗王略一。

【侵冒】85 シンボウ　侵し占有する。横取する。侵す。侵犯。〔謝朓、忝二役湘州一與二宣城吏民一別詩〕四時從二偃息一、三省無二侵冒一。

【侵暴】86 シンボウ　をかしあらす。〔莊子、盜跖〕侵二暴諸侯一。〔史記、高祖紀〕今誠得二長者往一、毋二侵暴一。

【侵迫】87 シンパク　をかしせまる。〔韻府引、歐陽脩、詩〕風埃共侵迫。

【侵伐】88 シンバツ　をかしうつ。〔易、謙〕利レ用二侵伐一。〔春秋、桓、十、齊侯・衞侯・鄭伯來戰二于郎一、杜注〕改二侵伐一、而書二來戰一。〔疏〕侵伐者、師旅討二罪之名也一。〔春秋、莊、十、夏六月、注〕不レ言二侵伐一。〔疏〕侵伐者、責レ罪之文也。

【侵犯】89 シンパン　侵す。襲ふ。他の國土、又は財產ををかす。〔史記、三王世家〕侵犯寇盜。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕侵二犯邊境一。

【侵叛】90 シンパン　叛き侵す。〔魏收、禪位冊文〕內勦二凶權一、外摧二侵叛一、遐邇肅晏、功格上玄。〔韓愈、黃家賊事宜狀〕用下威信諳二嶺南事一者上、爲二經畧使一、處理得レ宜、自然永無二侵叛之事一。

【侵畔】91 シンパン　あぜををかす。他人の田畑を侵して横領する。〔韓非子、難一〕歷山之農者侵レ畔、舜往耕焉、期年而甽畝正。

【侵肥】92 シンピ　自己の腹を肥やす。頭をはねる。〔福惠全書、錢穀部、比較、摘拿頑戶〕所下以非二懶憊成レ玩、卽包收侵肥上。〔六部成語、戶部、侵肥、注解〕侵二吞官項一、以肥二己橐一也。

【侵偪】93 シンピョク　侵逼に同じ。〔管子、君臣上〕其大者、有二侵偪殺一上之禍一。

【侵逼】94 シンピョク　をかしせまる。侵偪。〔後漢書、董卓傳〕入寇二三輔一、侵二逼園陵一。

【侵侮】95 シンブ　をかしあなどる。〔詩、小雅、正月、是以有レ侮、箋〕用レ是見二侵侮一也。〔禮、曲禮上〕不二侵侮一、不二好狎一。〔釋文〕侮、輕慢也。〔漢書、杜鄴傳〕無二侵侮之羞一。

【侵誣】96 シンブ　をかしいつはる。〔應璩、百一詩〕名高不二宿著一、易二用受一侵誣一。

【侵分】97 シンブン　圍棋用語。敵地に侵入して、其の有する所を分けること。通常、終局に近づいた時、領界の未決定の所に於て行はれるのをいふ。

【侵紊】98 シンビン　をかしみだす。〔宋史、高宗紀四〕竝遵二舊制一、毋二相侵紊一。

【侵敝】99 シンペイ　をかしおほふ。〔漢書、孔光傳〕侵二蔽陽明一、則日蝕應レ之。

【侵牟】100 シンボウ　犯しむさぼる。牟は苗根を食ふ蟲。〔史記、大宛傳〕不レ愛二士卒一、侵二牟之一。〔漢書、景帝紀〕漁二奪百姓一、侵二牟萬民一。〔注〕李奇曰、牟、食二苗根一蟲也、侵牟、食レ民比二之蝗賊一也。

〔淮南子、時則訓〕孟冬之月、乃命二水虞漁師一、收二水泉池澤之賦一、毋レ或二侵牟一。

【侵罔】101 マウ 大權をかしないがしろにする。〔漢書、王嘉傳〕臣驕侵罔、陰陽失レ節。

【侵滅】102 メツ をかしほろぼす。〔後漢書、東夷傳序〕陵二暴諸夏一、侵二滅小邦一。

【侵欲】103 ヨク 情欲をほしいままにする。〔左氏、文、十八〕貪二于飲食一、冒二于貨賄一、侵欲崇侈、不レ可二盈厭一。

【侵掠】104 リャク 侵略に同じ。〔左氏、襄、十一〕禁二侵掠一。〔戰國、趙策〕侵二掠吾地一。

【侵掠如レ火不動如レ山】105 シンリャクノゴトクフドウヤマノゴトク 敵地に侵入する勢は猛火の向ひ近づくことが出來ないやうに猛烈であり、守備は山の動かざるが如く、敵の攻撃に對してびくともしない。〔孫子、軍爭〕其疾如レ風、其徐如レ林、侵掠如レ火、不動如レ山。

【侵略】106 リャク をかしとる。侵掠。〔史記、五帝紀、歷山之人皆讓レ畔、注〕正義曰、韓非子、歷山之農相侵略、舜往耕、春年耕者讓レ畔也。〔後漢書、孔融傳〕婦子多見二侵略一。

【侵略主義】107 シンリャクシュギ 武力又は財力を以て他國を侵略して其の領域を擴張せんとする政策。

【侵凌】108 リョウ 他人ををかし辱める。侵陵。〔墨子、天志下〕侵凌攻伐兼幷。〔史記、游俠傳序〕豪暴侵二凌孤弱一。

【侵陵】109 リョウ をかし辱める。侵凌に同じ。〔禮、聘義〕諸侯相接以レ敬讓、則不二相侵陵一。〔韓非子、外儲說右上〕晏子不レ使二其君禁一侵陵之臣一。

【侵漏】110 ロウ ぬすみとる。〔六部成語、戶部、侵漏、注解〕侵二吞倫一漏二官項一也。

【侵街錢】111 シンガイセン 道傍に舍を作るに對して課する稅。〔宋史、李稷傳〕遂爲二陝西轉運使一云云、秦民作二舍道旁一者、創使レ納二侵街錢一。

【侵欺挪移】112 シンギダイ 州縣の官が所管する倉庫錢粮を規則以外に使用すること。私に銀兩を掠めるのを侵といひ、支出すべき銀兩を吝んで故意に遲延して支出せぬのを欺といひ、甲の經費を擅に改めて乙又は丙の用に流用するのを挪移といふ。欺を或は捱に作るは誤。〔六部成語、吏部、侵欺挪移、注解〕州縣官所管之倉庫錢粮、皆有二一定之用處一、不レ得二擅自隨一便用レ之、如在二用項之中一、自己私留二銀兩一曰レ侵、如應レ辦之事、而吝二惜錢財一、故意遲延一不レ辦者曰レ欺、如レ此項、應レ作二某項使用一、而擅自改爲二別項之用一、則曰二挪移一。

【侵權行爲】113 シンケンコウヰ 故意又は過失によつて他人の權利を侵害する不法行爲。

【侶】647

リョ 〔集韻〕兩擧切 語 lǚ

小篆

❶とも。ともがら。〔說文新附〕侶、徒侶也、从レ人呂聲。〔集韻〕侶、儷也。〔字彙〕侶、伴也、朋也。〔王褒、四子講德論〕相與結レ侶、攜二手俱游一、求二賢索レ友、歷二于西州一。❷ともとする。共に遊ぶ。〔蘇軾、赤壁賦〕侶二魚蝦一而友二麋鹿一。

名乘 トモ。カヌ。カネ。

【侶行】1 カウ いつしよに行く。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、下、麟之趾〕麕、不レ履二生蟲一、不レ踐二生草一、羣居不二侶行一、不レ入二陷阱一、不レ罹二羅網一。

【侶蒼】2 サウ 清、徐琮〔蘄州の人〕(4－10110‥1948)の字。

【侶薪】3 シン 清、王愈融(7－20823‥21142)の字。

【侶仙】4 セン 清、馬維翰(18－44572‥682)の號。

【侶儔】5 チウ つれ。ともだち。儔侶。〔宋史、樂志十四〕鹿鳴呦呦、命二侶與一レ儔、宴樂嘉賓、旣獻且酬。

【侶亭】6 テイ 清、莫友芝(9－31078‥94)の號。

【侶梅】7 バイ 清、余文植(1－515‥119)の號。

【侶伴】8 ハン ともに。みちづれ。伴侶(1－475‥34)に同じ。

【侷】647

キョク 〔集韻〕衢六切 沃 gǔ

ゴク 𠂤

❶たけがひくい。侷促。〔廣韻〕侷、侷促、短小。❷せまる。局(4－7653)・跼(10－7548)に通ず。〔正字通〕侷、與二局・跼一並通。❸現(イ)せせこましい。窮屈。〔例〕侷促不安。(ロ)せまる。差迫る。〔例〕時間侷促。

【侹】649

テイ 〔集韻〕待鼎切 迥 tǐng

チョウ 𠂤

テイ 〔集韻〕他定切 徑

チヤウ

小篆

(一)(二)長いさま。〔說文〕侹、長皃、从レ人廷聲。(三)地に著く。〔說文〕侹、一曰、箸地。(三)代はる。〔說文〕侹、一曰、代也。〔方言、三〕侹、代也、江淮陳楚之間、曰レ侹。(四)をとこぎ。〔廣雅、釋詁二〕侹、俠也。(五)平か。なほい。侹侹(一)を見よ。〔一切經音義、十一〕平直曰レ侹。〔廣雅、釋詁三〕侹、直也。(六)つつしむ。〔廣韻〕侹、敬也。

【侹侹】1 テイテイ 平か。〔韓愈、答二張徹一詩〕石梁平侹侹、沙水光泠泠。

【俀】651

テフ 〔集韻〕的協切 葉

❶倭俀は小人のさま。〔正字通〕俀、倭俀、小人貌。❷俀儷は輕佻のさま。〔集韻〕俀、俀儷、輕佻皃。

【侫】652

シン ジン 〔集韻〕時鴆切 沁

❶頭が前に向ふこと。臨侫。〔廣韻〕侫、臨侫、頭向レ前也。❷類(12－43500)に同じ。〔集韻〕類、或作レ侫。

【侻】653

タツ 〔集韻〕他括切 曷 tuō

タチ 𠂤

タイ 〔集韻〕吐外切 泰

(一)(一)合ふ。かなふ。よい。〔廣雅、釋詁三〕侻、可也。〔法言、君子〕或曰、孫卿非二數家之書一侻也。〔注〕彈二駁數家一、侻二合於教一。(二)てがる。たやすい。〔淮南子、本經訓〕其行侻而順レ情。〔注〕侻、簡易也。(三)かるい。〔集韻〕侻、一曰、輕也。〔魏志、王粲傳〕劉表以二粲體弱通侻一、不二甚重一也。(四)ずるい。〔集韻〕侻、狡也。(五)脫する。脫(9－29539)に通ず。〔正字通〕侻、與レ脫通。〔蜀志、彭羕傳〕羕於二獄中一、與二諸葛亮書一曰、云云、頗以レ被レ酒、侻二失老語一。(六)みにくい。侻陋(3)を見よ。(三)(一)ゆるやかなさま。〔集韻〕侻、舒緩皃。(二)かろがろしい。〔集韻〕侻、輕率也。(三)よい。娩(8－6333)に同じ。〔宋玉、神女賦〕侻二薄裝一。〔注〕善曰、侻、好也、與レ娩同、又侻、可也。

【侻失】1 シツ 脫し忘れる。又、輕々しく過つこと。〔蜀志、彭羕傳〕頗以レ被レ酒、侻二失老語一。

【侻順】2 ジュン 輕くてすなほ。〔晏子、諫、下〕動作侻順而不レ逆、可二以奉一レ生。

【侻陋】3 ロウ みにくい。風采の引立たぬこと。

〔唐書、陸羽傳〕貌侻陋、口吃而辯。

【侼】654 ホツ ボチ 〔集韻〕薄沒切 月。❶つよい。〔方言、十二〕侼、強也。❷うらむ。〔方言、十二〕侼、懟也。❸もとる。〔廣雅、釋詁四〕侼、很也。

【侽】655 ダン 男(7−21730)の俗字。〔字彙〕侽、卽男字、見㆓釋典㆒。

【㑚】656 ダ 那(11−39305)の俗字。〔字彙〕㑚、音那、見㆓釋典㆒。〔正字通〕㑚、俗字。

【佸】657 クヮツ 佸(1−564)の本字。〔正字通〕佸、佸本字。

【侾】658 カウ ケウ 〔集韻〕虛交切 肴 大なるさま。侾佬。〔集韻〕侾、侾佬、大皃。

【便】659 ㊀ヘン ベン 〔集韻〕毗面切 霰 ㄅㄧㄢˋ pien⁴ ㊁ヒン ビン 〔正字通〕音頻 ㊂ヘン ベン 〔集韻〕毗連切 先 ㄆㄧㄢˊ p'ien²·¹

小篆

㊀㊁❶都合がよい。便利。もと㑋(1−878)に作る。〔正字通〕便、說文从ㇾ㪅从ㇾ人。〔說文〕㑋、安也、人有㆓不便㆒㪅ㇾ之、故从㆓人㪅㆒。〔戰國、秦策〕或謂救ㇾ之便㆒。〔注〕便、利也。〔荀子、議兵〕汝所謂便者、不ㇾ便之便也。〔史記、秦始皇紀〕因ㇾ利乘ㇾ便。〔淮南子、本經訓〕行快而便㆓於物㆒。〔注〕便、利也。〔後漢書、廉范傳〕范毀㆓削先令㆒、云云、百姓爲ㇾ便。❷おとづれ。又、つて。たより。覓便。趁便。音信。〔陸雲、與㆓載李甫㆒書〕道路悠遠、不ㇾ値㆓信便㆒。❸やすらか。くつろぐ。〔廣雅、釋詁一〕便、安也。〔漢書、武帝紀〕便殿火。〔注〕師古曰、凡言㆓便殿・便室・便坐㆒者、皆非㆓正大之處㆒、所㆔以就㆓便安㆒也。〔漢書、馮野王傳〕賜ㇾ告養ㇾ病、而私自便。❹なす。〔呂覽、忠廉〕以便ㇾ事也。〔注〕便、猶ㇾ成也。❺ならふ。〔禮、表記〕故自謂㆓便人㆒。〔釋文〕便、謂㆓便習㆒也。〔大戴禮、子張問入官〕則謹㆓其所ㇾ便。〔注〕便、所㆓便習㆒。❻いばり。ゆばり。又、くそ。屎。〔字彙〕便、溲也。〔漢書、張安世傳〕郎有㆘醉便㆓殿上㆒者㆖、安世曰、何知ㇾ非反㆓水漿㆒耶。〔輟耕錄、陰符辯詞〕就㆓床褥㆒作㆓一糞㆒、任㆓其便溺㆒。❼すなはち。すぐ。たやすく。〔正字通〕便、卽也、輒也。〔莊子、達生〕則未㆓嘗見ㇾ舟、而便操ㇾ之也。㊂❶口さき巧にいふ。諞(10−35703)に通ず。〔說文通訓定聲〕便、叚借爲ㇾ諞。〔論語、季子〕友㆓便佞㆒。〔皇疏〕便佞、謂㆓辯而巧㆒也。❷へつらふ。便辟(117)を見よ。❸物のさま。便嬛(35)の❶・便娟(34)・便旋(70)の❶❸・便蕃(102)・便便(118)を見よ。❹わかつ。平(4−9167)・辨(10−38657)・辯(10−38677)に通ず。〔書、堯典〕平㆓章百姓㆒。〔史記、五帝紀〕便㆓章百姓㆒。〔注〕集解曰、徐廣曰、下云、便㆓程東作㆒、然則訓ㇾ平爲ㇾ便也。駰案、尚書竝作㆓平字㆒、索隱曰、古文尚書作ㇾ平、此文蓋讀ㇾ平爲㆓浦耕反㆒、平既訓ㇾ便、因作㆓便章㆒、其今文作㆓辯章㆒、古平字亦作ㇾ便、音婢緣反、便則訓ㇾ辯、遂爲㆓辯章㆒、鄒生本亦同也。〔書、洪範〕無ㇾ偏無ㇾ黨、王道蕩蕩、無ㇾ黨無ㇾ偏、王道平平。〔傳〕言㆓辨治㆒。〔史記、張釋之馮唐傳贊〕書曰、不ㇾ偏不ㇾ黨、王道蕩蕩、不ㇾ黨不ㇾ偏、王道便便。〔注〕集解曰、徐廣曰、便、一作ㇾ辨。❺やすらか。〔廣韻〕便、安也。❻姓。〔萬姓統譜〕便、平聲、望出㆓魯國㆒。

名乘 ヤス。

解字 會意。人と更との合字。人、不便なることあれば之を更めて便利にすること。それより安んずの意とする。又事を更めなすことから成の意とする。假借して辯・諞とする。

【便愛】1 ベンアイ 便利として愛する。〔史記、鄭世家〕封三十三歲、百姓皆便㆓愛之㆒。

【便惡】2 ベンアク 尿と屎。大小便。しばしば。溲惡。惡は大便。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕越王因拜、請㆘嘗㆓大王之溲㆒、以決㆗吉凶㆖、卽以ㇾ手取㆓其便與ㇾ惡而嘗ㇾ之。

【便安】3 ベンアン おだやかにおちつく。安らかで便利がよい。〔漢書、文帝紀〕民所ㇾ不㆓便安㆒。〔後漢書、韋彪傳〕爲㆔吏民所㆓便安㆒。

【便衣】4 ベンイ ❶短くて袖を小さくした便利な衣服。便服。〔漢書、李陵傳〕陵便衣獨步出ㇾ營。〔注〕師古曰、便衣、謂ㇾ著㆓短衣小袖㆒也。❷平常服。略服。私服。便章。便服。便裝。背廣。

【便衣隊】5 ベンイタイ 平服を着用し、後方陣地の攪亂、閒諜、味方への內應、宣傳等の祕密潛行工作に從事する部隊。

【便衣偵探】6 pien⁴ i¹ chen¹ t'an⁴ 私服刑事。

【便易】7 ベンイ 便利で容易な。便宜。〔急就篇、裳韋不借爲㆓牧人㆒、注〕言、著㆓韋裳及不借㆒者、卑賤之服、便㆓易於事㆒、宜㆔以牧㆓牛羊㆒也。

【便游】8 ベンイウ あそぶに便利な地。〔說苑、正諫〕便游赭盡、而峻㆓城闕㆒。

【便益】9 ベンエキ 便利で利益があること。〔謝承、後漢書〕數陳㆓便益㆒、譏㆓判時政㆒。

【便液】10 ベンエキ 小便。便溺。便液汙ㇾ地を見よ。〔唐書、酷吏、郭弘霸傳〕(弘霸)視㆓便液㆒、卽染ㇾ指嘗、驗㆓疾輕重㆒。

【便液汙ㇾ地】11 ベンエキチヲケガス 小便して地をけがす。〔資治通鑑、唐紀〕德宗、建中四年、見㆓希烈恐懼、便液汙ㇾ地。〔注〕便液、謂㆓尿溺㆒也。

【便悁】12 ベンエン うれへいかる。申旦。悁悒。〔楚辭、東方朔、七諫、謬諫〕獨便悁而懷ㇾ毒兮、愁鬱鬱之焉極。〔注〕言㆓憂愁之無ㇾ窮也、便悁、一作㆓申旦㆒。〔補注〕悁、忿也、音淵。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕獨便悁而煩毒兮、焉發ㇾ憤而抒ㇾ情。〔注〕言、己懷㆓忠直之志㆒、獨悁悒煩毒、無ㇾ所㆘發㆓我憤懣㆒、泄㆗己忠心㆖也。〔集注〕便悁、一作㆓悁悒㆒。

【便蜎】13 ベンエン 戰國、楚の人。釣の名人。〔枚乘、七發〕若㆓莊周・魏牟・楊朱・墨翟・便蜎・詹何之倫㆒。〔注〕善曰、高誘曰、蜎蠉、白公時人、宋玉與㆓登徒子㆒、偕受㆓釣於玄淵㆒、七略曰、蜎子、名淵、楚人也、然三文雖ㇾ殊、其一人也。

【便可】14 ベンカ スナハチカ それでよい。それでよろしい。〔南史、周文育傳〕足ㇾ錢便可、誰望㆓公侯㆒。

【便家】15 ベンカ ❶自分の利益をはかる。〔韓非子、孤憤〕虧ㇾ法以利ㇾ私、耗ㇾ國以便ㇾ家。❷pien⁴ chia 富豪。金滿家。

【便巧】16 ベンカウ ❶たくみにへつらふ。〔新語、輔政〕便巧者近ㇾ亡。❷便利で巧なこと。〔漢書、食貨志上〕其耕耘下種田器皆有㆓便巧㆒。〔陳書、傅縡傳〕是以聖人云云、故殷勤教示、備㆓諸便巧㆒。❸すばやい。〔說苑、君道〕體力便巧。〔王應麟、漢制攷〕擇㆓郡國便巧之吏㆒。

【便幸】17 ベンカウ 左右の近侍。御氣に入り。

【便器】18 ベンキ 大小便をとる器。おかは。おまる。便壺。虎子。〔西京雜記、四〕漢朝以ㇾ玉爲㆓虎子㆒、以爲㆓便器㆒。〔晉書、徐嵩載記〕方成三斬ㇾ嵩、漆㆓其首㆒爲㆓便器㆒。〔世說新語、簡傲〕謝萬在㆓兄前㆒、欲㆔起索㆓便器㆒、于ㇾ時阮思曠在ㇾ坐、曰、新出㆓門戶㆒、篤而無ㇾ禮。

【便宜】19 ベンギ ビンギ ❶便利がよい。勝手がよい。轉じて、適宜の處分。便利。便易。便益。まうけ。〔史記、酷吏、郅都傳〕孝景帝乃使㆘使持ㇾ節拜ㇾ都爲㆓雁門太守㆒、而便道之ㇾ官、得㆘以㆓便宜㆒從㆖事。〔漢書、婁敬傳〕臣願見ㇾ上言㆓便宜㆒。〔論衡、佚文〕上書陳㆓便宜㆒。〔南齊書、顧憲之傳〕愚又以㆓便宜㆒者、蓋謂㆘便㆓於公㆒、宜㆗於民㆖也。❷利益の

ため。都合上。〔史記、李牧傳〕以二便宜一置レ吏、市租皆輸入。㊀p'ien² i ㋑利益。格安。㊁値びきする。

〔討二便宜一〕20 タウベンギヲ　自己の都合のみをはかる。工合の好い方法をさがす。〔寒山、詩〕凡事莫二容易一、盡愛討二便宜一。

〔便宜行レ事〕21 ベンギコトヲオコナフ　便宜施行を見よ。〔漢書、魏相傳〕數條二漢興已來、國家便宜行レ事、及賢臣賈誼・鼂錯・董仲舒等所レ言。

〔便宜施行〕22 ベンギシカウ　其の時の見はからひで都合よいやうに事を行ふ。情勢を見て處置する。又、在外の使臣に自由に處置せしめる。〔史記、蕭相國世家〕何守二關中一、侍二太子一治二櫟陽一、爲二法令約束一、立二宗廟社稷宮室縣邑一、輒奏上可、許以從レ事、卽不レ及二奏上一、輒以二便宜一施行、上來以聞。

〔便宜主義〕23 ベンギシュギ　㊀犯罪者の年齢・境遇其の他の情狀に依り、必ずしも起訴しない主義。㊁一定の主義がなく、其の場合の都合を見計つて事を行ふやりかた。

〔便宜處分〕24 ベンギショブン　法規の範圍内で、便宜に從ひ、自由に裁量し得る行政處分。

〔便宜輒行〕25 ベンギテフカウコナフ　其の時の都合で任意に取捌く。便宜施行に同じ。

〔便居〕26 ベンキョ　便利な所にやどる。〔呂覽、安死〕又視二名丘大墓葬之厚者一、求レ舍便居。

〔便官〕27 ベンクワン　其の人に適當した官職。又、忙しくない官職。閑職。〔唐書、裴潾傳〕父琰之、永徽中、爲二同州司戶參軍一、年甚少、不レ主二曹務一、刺史李崇義、內輕レ之、鐫諭曰、同二輔吏事繁、子盍レ求二便官一、毋レ留レ此。

〔便換〕28 ベンクワン　唐代の兌換券。爲替手形の一種。〔舊唐書、食貨志上〕不レ許二商人便換一。

〔便計〕29 ベンケイ　都合のよいはかりごと。便利な謀。〔戰國、齊策〕公子無忌、爲二天下一循二便計一。〔韓非子、存韓〕斯之來使、以奉二秦王一歡心、願レ效二便計一。〔史記、滑稽傳〕此所謂奇策便計也。

〔便橋〕30 ベンケウ　橋の名。陝西省咸陽縣の西。長安城西門の便門に對するからいふ。渭橋の一名。唐の時、突厥が入寇して此の橋に至つたので、太宗は之と盟つて還らしめた。又、咸陽橋ともいふ。〔三輔決錄〕長安城西門曰二便門一、門北與レ橋對、因號二便橋一。〔杜甫、兵車行〕耶孃妻子走相送、塵埃不レ見咸陽橋。

〔便轎〕31 ベンケウ　やまかご。〔遵生八牋〕便轎入レ山用レ之。

〔便孼〕32 ベンゲツ　辯才はあるが心の邪な人。〔後漢書、鄧皇后紀論〕遂乃名賢戮辱、便孼黨進。〔注〕帝寵二用乳母王聖、及其女伯榮一、出二入宮掖一、通二傳姦賂一、大尉楊震及鄧隲等、皆被二中官譖訴一也。

〔便妍〕33 ベンケン　美しい容姿。身輕でうるはしい。〔張翰、周小史詩〕轉側綺靡、顧眄便妍。

〔便娟〕34 ベンエン　㊀美しくなまめかしいさま。嫋娟。〔楚辭、大招〕豐肉微骨、體便娟只。〔注〕便娟、好貌也。〔張衡、南都賦〕優紹便娟。㊁舞のさま。〔廣韻〕娟、便娟、舞貌。㊂雪が輕く飛ぶさま。〔謝惠連、雪賦〕初便二娟於墀廡一、末縈二盈於帷席一。〔注〕善曰、便娟、縈盈、雪廻委之貌。

〔便嬛〕35 ベンケン　㊀身輕でみやびやかなさま。〔司馬相如、上林賦〕靚粧刻飾、便嬛綽約。〔注〕善曰、便嬛、輕利也。㊁戰國、楚の人。釣の名人。便蜎(13)に同じ。〔應璩、與二從弟君苗君胄一書〕弋下二高雲之鳥一、餌出二深淵之魚一。便嬛稱レ妙、何其樂哉。〔注〕翰曰、便嬛、古之善レ釣者。

〔便縣〕36 ベンケン　縣名。漢、置く。故治は湖南省永興縣。〔漢書、地理志上〕桂陽郡、縣十一、便。

〔便言〕37 ベンゲン　口まへがよい。辯舌がよい。雄辯。便口。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作詩〕便言多二令才一。

〔便戶〕38 ベンコ　勝手口。〔剪燈餘話、長安夜行錄〕少頃蒼頭自二便戶一出、問二客何來一。

〔便壺〕39 pien⁴ hu² 屎尿。おまる。

〔便口〕40 ベンコウ　口の達者なこと。口先がうまい。便言。

〔便鴻〕41 pien⁴ hung² 序でに書を寄せる。序でのたより。鴻とは漢の蘇武が雁の足に帛書を繫いだ故事による語。

〔便坐〕42 ベンザ　㊀正室でない傍の小座敷に坐すること。又、くつろいで休む別の部屋。便座。〔史記、萬石君傳〕子孫有二過失一、不二譴讓一、爲便坐、對レ案不レ食。〔注〕索隱曰、蓋謂レ爲レ之不レ處二正室一、別坐他處一、故曰二便坐一、坐音如レ字、便坐、非二正坐處一也、故王者所居、有二便殿・便房一、義亦然也。〔漢書、張禹傳〕禹見二之於便坐一。〔注〕師古曰、便坐、謂下非二正寢一、在二於旁側一可上以延二賓者一也。〔漢書、循吏、文翁傳〕常選二學官僮子一、使在二便坐一受レ事。〔注〕師古曰、便坐、別坐、可レ以視レ事、非二正廷一也。〔漢書、萬石君傳〕子孫有二過失一、不二誚讓一、爲便坐、對レ案不レ食。〔注〕師古曰、便坐、於二便側之處一、非二正室一也。〔後漢書、魯恭傳〕是歲嘉禾生、恭便二坐廷中一。〔注〕便坐、於二便側之處一、非二正室一也。㊂打ちくつろいで腰をかける。くつろいで坐る。

〔便座〕43 ベンザ　便坐の㊀に同じ。

〔便姍〕44 ベンサン　衣の裾の舞ひあがるさま。行步の安らかなことにいふ。嫣姍。蹁躚。〔司馬相如、上林賦〕便姍嫳屑、與レ俗殊レ服。〔注〕善曰、郭璞曰、衣服婆娑貌。

〔便士〕45 ベンス　英國の補助貨幣の名。磅の二百四十分の一。pence の音譯。

〔便私〕46 ベンシ　自分に都合のよいことをはかる。利己。〔韓非子、孤憤〕朋黨比周以弊レ主、言レ曲而便二私者一、必信二於重人一矣。

〔便思〕47 ベンシ　便利として思ひしたふ。〔史記、鄭世家〕河雒之間、人便二思之一。

〔便是〕48 pien⁴ shih⁴ ㊀それでよい。㊁たとへ云云であらうとも。よしんば。㊂云云だけでも。㊃卽ち。とりも直さず。

〔便事〕49 ベンジ　物事に便利を與へる。又、便利な事。〔墨子、號令〕諸可二以便一事者、亟以疏傳二言守一。〔史記、酈生陸賈傳〕願得二望見口畫一天下便事一。

〔便時〕50 ベンジ　都合よい時。〔後漢書、魯丕傳〕趙王商嘗欲レ避二疾、便時移二住學官一、丕止不レ聽。

〔便辭〕51 ベンジ　言葉たくみに說く。方便のために說く。又、巧みな言葉。方便のための言說。〔韓非子、難二〕晏子之貴踴、非二其誠一也、欲二便辭以止一多刑一也。〔漢書、藝文志〕後世經傳、既已乖離、博學者又不レ思二多聞闕レ疑之義一、而務二碎義逃レ難、便辭巧說、破二壞形體一、說二五字一之文、至二於二三萬言一。〔注〕師古曰、苟爲二僻碎之義一、以避二佗人之攻難一者、故爲二便辭巧說一、以析二破文字之形體一也。

〔便就〕52 ベンジュ　㊀すぐに出來る。〔梁書、范雲傳〕雲風姿應對、傍若レ無レ人、琰令レ賦レ詩、操筆便就、坐者歎焉。㊁pien⁴ chiu⁴ すぐに。直ちに。

〔便室〕53 ベンシツ　くつろいで休む室。別席。茶の間。居間。便坐。便房。便殿(88)に同じ。〔漢書、武帝紀、便殿火、注〕師古曰、凡言二便殿・便室・便坐一者、皆非二正大之處一、所以就二便安一也。〔後漢書、彭寵傳〕獨在二便室一。〔注〕便坐之室、非二正室一也。

〔便疾〕54 ベンシツ　便利ではやい。〔周禮、天官、內豎、注〕使下童豎通二王內外之命一、給中小事上者、以下其無二與爲レ禮、出入便一疾上。

〔便習〕55 ベンシフ　なれる。〔戰國、楚策〕願王召二所レ便習一而觴レ之。〔後漢書、孔奮傳〕郡多二氏人一、便習二山谷一。

〔便機〕56 ベンキ　便利なかぢ。〔韓非子、姦劫弑臣〕治レ國之有二法術賞罰一、猶若下陸行之有二犀車良馬一也、水行之有中輕舟便機上也。

〔便蔪〕57 pien⁴ shang¹ 相談に便にする。

〔便章〕58 ベンシャウ　㊀其の才能によつて別ちあきらかにする。平章(4－9167・289)に同じ。〔史記、五帝紀〕九族既睦、便二章百姓一。〔注〕索隱曰、古文尚書作レ平、此文蓋讀レ平爲二浦耕反一、平既訓レ便、因作二便章一、其今文作二辯章一。㊁pien⁴ chang¹ 平服。略服。便服。平常服。

〔便狀〕59 ビンジャウ　たよりの書狀。手紙。便書。〔運步色葉集〕便狀。

〔便酌〕60 pien⁴ chuo² 手輕な料理で酒を飮む。小宴。非公式の宴會。簡素な酒宴。粗酒。

〔便處〕61 ビンジョ　便利なところ。〔史記、南越王尉佗傳〕建德嘉皆城守、樓船自擇二便處一。

〔便所〕62 ベンジョ　かはや。てうづば。雪隱。〔北山抄、七、都省雜事、着座、注〕上臈若入二小便所一者、次人暫留二西軒砌上一、待二上臈出一。

〔便乘〕63 ビンジョウ　ついでに乘る。都合よく乘る。

〔便人〕64 ベンジン　㊀俗事に慣れた人。聖賢を以て自ら居らぬ謙辭。〔禮、表記〕唯欲二行之浮一于名一也、故自謂二便人一。〔疏〕自謂下便二於稼穡一之人上、

不ニ自謂ニ己之仁聖一也。㊁人に便利を與へる。〔宋玉、風賦〕發ニ明耳目一寧レ體便レ人。㊂pien⁴ jen²　序でに物を運んでくれる人。

【便水】65ピンスイ　よく水になれる。游泳などの巧なこと。〔隋書、郭榮傳〕督ニ便レ水者一引取ニ其筏一。

【便勢】66ピンセイ　都合のよい地位。〔史記、日者傳〕以求ニ便勢尊位一。〔淮南子、主術訓〕有ニ野心一者、不レ可レ借ニ便勢一。

【便說】67ピンセツ　便宜によつて說を立てること。〔淮南子、泰族訓〕五子之言、所ニ以便說掇取一也。

【便捷】68ピンセフ　すばやい。すばしこい。便捷に同じ。〔方言、一〕虔儇、慧也、宋楚之間、謂ニ之便捷一。〔注〕言ニ便健一也。

【便捷】69ピンセフ　すばやい。便敏。便健。〔詩、齊風、還、子之還兮、傳〕還、便捷之貌。〔荀子、君道〕齊給便捷而不レ惑。〔淮南子、兵略訓〕虎豹便捷、熊羆多レ力。〔阮籍、獼猴賦〕姿便捷而好レ技兮、超騰ニ躍乎岑嵎一。〔符載、荊州與ニ楊衡一說ニ舊因一送レ遊ニ南越一序〕苟有ニ便捷一、躍登ニ青冥一。

【便旋】70ピンセン　㊀ゆばりする。小便する。〔韓愈、石鼎聯句詩序〕道士起出レ門、若レ將ニ便旋一然。㊁さまよひめぐる。たちもとほる。徘徊。〔廣雅、釋訓〕徘徊、便旋也。〔左思、蜀都賦〕便旋閭閻。㊂短小のさま。〔方言、十三、朦短也、注〕便旋、庫小貌也。

【便船】71ビンセン　都合のよい船。幸便の船。〔曾南豐集〕候ニ有ニ便船一、郤歸ニ本國一。

【便箋】72ビンセン　書翰用紙。

【便錢】73ベンセン　宋代に行はれた政府發行の爲替手形の一種。借錢。〔表異錄〕俗謂ニ借錢一爲ニ便錢一。『便錢務』74ベンセンム　官署の名。宋の太祖の時に置く。此處に錢を納めた商人に拂込金額を明記した證券を交付し、商人はそれを携帶して任意の地で、即日に、其の券と引換へに現金の支拂を受け得る。〔宋史、食貨志下二〕開寶二年、置ニ便錢務一、令下商人入レ錢詣ニ務陳一牒、即輦致中左藏庫上給以券。

【便奏】75ベンソウ　令制で、小事に關して太政官から上る奏狀。少納言が、奉勅依奏の四字を注し、奏に依らないものは勅處分云云と注して、下に其の位・姓名を注記する。〔公式令、便奏式〕右請ニ進鈴印一、及賜ニ衣服鹽酒菓食一、幷給ニ醫藥一、如レ此小事之類、竝爲ニ便奏一。

【便體】76ベンタイ　身體に便利なこと。又、身體の輕やかなこと。〔漢書、劉向傳〕誠便ニ於體一也。〔韓愈、送ニ李愿歸ニ盤谷一序〕曲眉豐頰、清聲而便體。〔古文眞寶後集箋解〕句解云、清聲善歌、便體善舞、文選注云、歌唱則其聲淵亮、擧動則其身輕便。

【便當】77pien⁴ tang¹　㊀必ず。云云すべし。㊁pien⁴ tang　都合がよい。便利な。重寶な。

【不ニ便當一】78ベンタウズ　不都合な。不當な。勝手がわるい。〔通俗編、境遇、不ニ便當一〕元典章、額外令下試驗人員、在ニ地方一待上闕、侵ニ官曠一レ民、實于ニ公私一兩不ニ便當一。

【便道】79ベンダウ　ちか路。便利のよい道路。順路。便路。〔史記、酷吏、郅都傳〕孝景帝乃使下使持節、拜ニ都爲一雁門太守一、而便道之レ官、得中以ニ便宜一從事。

【便地】80ベンチ　便利のよい土地。地形のよい地。〔史記、淮陰侯傳〕趙已先據ニ便地一爲レ壁。

【便隧】81ベンスイ　便利のよい土地。便地に同じ。隧は地の古字。〔漢書、匈奴傳下〕使下韓安國將ニ三十萬衆一徼ニ於便隧一上。〔注〕師古曰、隧、古地字。

【便廳】82ベンチャウ　役所内の休息所。〔談錄〕移ニ于便廳一。

【便中】83pien⁴ chung¹　御都合で。ついでの時に。御序での節。幸便。

【便通】84ベンツウ　大小便の通ずること。

【便丁】85ベンテイ　人夫に都合のよいやうにする。〔福惠全書、錢穀部、總論〕便丁而杜ニ幫中之揩柄一。

【便程】86ベンテイ　作業の程度を程よく課する。平秩。〔史記、五帝紀〕敬道ニ日出一、便程東作。〔注〕集解曰、孔安國曰、敬道ニ出日一、平ニ均次ニ序東作之事一、以務レ農也、索隱曰、劉伯莊傳、皆依ニ古史一作ニ平秩音一、然尚書大傳曰、辯ニ秩東作一、則是訓ニ秩爲レ程、言、便ニ課其作程一者也。

【便條】87pien⁴ t'iao²　㊀大通地方に流行する約束手形の一種。㊁簡單な要件を名刺、又は便箋に認めて用を濟すもの。口上書。略式書狀。

【便殿】88ベンデン　正殿に對して別殿をいふ。休息の爲に設けられた御殿。天子の休息せられる所。便室。便坐。便室(63)を見よ。〔漢書、武帝紀〕四月壬子、高園便殿火。〔注〕師古曰、凡言ニ便殿一便室一便坐一者、皆非ニ正大之處一、所ニ以就一便安一也。〔後漢書、章帝紀〕遂藏ニ主於光烈皇后更衣別室一、注、園中有レ寢、有ニ便殿一寢者、陵上正殿、便殿、寢側之別殿、即更衣也。〔蘇軾、諫ニ買浙燈狀一〕召ニ對便殿一。

【便毒】89ベンドク　病の名。よこね。橫痃。〔瘡瘍全書、左右便毒〕夫便毒者、生ニ於小腹兩腿合縫之間一、或行路遠涉辛苦、或上或下、低閃肭氣、或房事所レ傷、或男女大慾、不レ得ニ直遂一其志一故敗精滯血、留聚中途一、或夢寐之間而不レ洩、或妄想不レ能ニ忘ニ情息一レ念、故結ニ成毒一。

【便佞】90ベンネイ　口さきばかり巧で實のないもの。〔論語、季氏〕益者三友、損者三友、友レ直、友レ諒、友ニ多聞一、益矣、友ニ便辟一、友ニ善柔一、友ニ便佞一、損矣。〔集解〕鄭曰、便、辯也、謂ニ佞而辯一。〔集注〕便佞、謂下習ニ於口語一而無中聞見之實上。

【便佞舌】91ベンネイタ　口さきばかり良い加減のことをいふ。おもねる。おべつかを使ふ。〔陸龜蒙、水鳥歌〕婦女衣襟便佞舌、始得金籠日提挈。

【便寧】92ベンネイ　やすらか。安寧。〔墨子、天志中〕便寧無ニ憂。

【便溺】93ベンデキ　大便小便。〔輟耕錄、陰符辯詞〕就ニ床褥一作ニ二竅一任ニ其便溺一。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕糞門突出、便溺汙レ衣。

【便馬】94ベンバ　馬を走らせるに役立つこと。〔爾雅、翼〕西山經曰、杜衡可ニ以走一レ馬、食ニ之已瘻一、郭氏曰、帶ニ之令一ニ人便一レ馬、九歌仙鬼章曰、被ニ石蘭一兮帶ニ杜衡一、杜衡之帶、亦以ニ其便一レ馬、不ニ特香一ニ人衣體一而已、或曰、馬得ニ之而健走。

【便房】95ベンバウ　くつろいでやすむ部屋。休憩室。便坐。便室。〔漢書、董賢傳〕內爲ニ便房一、剛柏題湊。〔潘尼、桑樹賦〕憩ニ便房一以偃息。〔張載、七哀詩〕便房啓ニ幽戶一。

【便帽】96pien⁴ mao⁴　㊀民間で一般にかぶる普通の帽子。官帽に對していふ。小帽。㊁鳥打帽。

【便法】97ベンポウ　都合のよい仕方。簡易な方法。

【便煩】98ベンパン　しばしばわづらはす。頻煩。便番。便蕃(102)を見よ。〔晉書、庾炎傳〕階緣戚屬一、累ニ非服一隨ニ牒展轉一、便ニ煩顯任一。〔盧思道、北齊興亡論〕便ニ煩左右一、莫レ匪ニ刀鋸之餘一。

【便飯】99pien⁴ fan⁴　御手輕料理。日常の料理。惣菜料理。

【便繁】100ベンハン　せはしい。頻繁。〔隋太僕卿元公墓誌〕禁內清切、王事便繁。

【便番】101ベンバン　しばしばする。又、順奉の意。便蕃を見よ。〔王禹偁、酬ニ种放徵君一詩〕便番朱紫綬。

【便蕃】102ベンバン　しばしばする。一說に、順奉の意。又、平平に通じ、辨治の意。便煩。頻煩。便番を見よ。〔左氏、襄、十一〕樂只君子、福祿攸ニ同、便蕃左右、亦是帥從。〔注〕便蕃、數也、言ニ遠人相帥來服從一、便蕃然在ニ左右一。〔疏〕雖ニ復疏遠之人一便蕃然、數來、在ニ其左右一。〔雕題〕便蕃、順奉之意。〔會箋〕然則便蕃卽平平之通字、宜下從ニ毛傳一爲中辨治之義上。〔晉書、外戚傳論〕繼ニ總恩私一、便ニ蕃任遇一。〔北史、恩幸、齊諸宦者傳〕閹官猶以ニ宮掖驅馳一、便ニ蕃左右一、漸因ニ狎昵一、以至ニ大官一。

【便祕】103ベンピ　ふんづまり。大便が祕結する。便閉。便結。

【便嬖】104ベンペイ　便辟(115)の㊀に同じ。〔墨子、尚同中〕今王公大人之爲ニ刑政一、則反ニ此、政以爲ニ便嬖一、宗族、父兄、故舊、以爲ニ左右一、置以爲ニ正長一。〔閒詁〕畢云、嬖、讀如ニ僻、洪云、論語季氏、友ニ便辟一、馬鄭皆讀ニ辟爲レ嬖、謂下巧爲ニ嬖諛一、以求中容媚上、義卽本ニ此。

【便美】105ベンビ　便利で美はしい。〔史記、匈奴傳〕得ニ漢食一皆去之、以示ニ不レ如ニ漢酪之便美一也。【便媚】106ベンビ　㊀美しいさま。〔柳宗元、弔ニ屈原文〕便媚鞠悪兮、美愈ニ西施一。㊁舞ひのさま。〔淮南子、脩務訓〕今鼓舞者、動容轉曲、便媚擬レ神。

【便敏】107ビンビン　さとい。すばやい。便捷。〔荀子、性惡〕齊給便敏而無ニ類一。〔注〕便、謂ニ輕巧一、敏、速也。〔韓愈、毛穎傳〕穎爲ニ人強記而便敏一。

【便附】108ビンフ　たより從ふ。〔史記、東越傳〕曰、閩君搖功多、其民便附、乃立搖、爲ニ東海王一。

【便風】109ビンプウ　㊀おひて。順風。〔楊炯、梅花落詩〕影隨ニ朝日一遠、香逐ニ便風一來。㊁たより。〔山谷

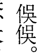
刀筆〕餘須二它日便風一也。
【便服】110 ベンプク ㊀ふだんぎ。略裝。くつろいで休む時に著るきもの。便衣。〔唐庚、令弟既到有レ作詩〕匪二躬老一矣惟心在、便服依然但髮稀。㊁官吏の通常服。〔朱子全書、禮〕隋煬帝時、始令二百官戎服一、唐人謂二之便服一、又謂二之從省服一、乃今之公服也。
【便腹】111 ベンプク 便便たる腹。肥え太つた腹。〔蘇軾、寶山晝睡詩〕十圍便腹貯二天眞一。
【便文】112 ベンブン ㊀便利な法文。〔曾鞏、越州趙公救菑記〕事有下非二便文一者上。㊁文章を己に都合よくする。〔漢書、趙充國傳〕諸君但欲二便文自營一。〔注〕師古曰、苟取二文墨之便一而自營衞。
【便閉】113 pien⁴ pi⁴ 便祕(103)に同じ。
【便嬖】114 ベンペイ そば近く侍つて愛される者。お氣に入りの者。〔說文〕嬖、便嬖、愛也。〔孟子、梁惠王上〕便嬖不レ足三使二令於前一與。〔集注〕便嬖、近習嬖幸之人也。〔荀子、富國〕觀二其便嬖一、則其信者不レ愨。〔漢書、蕭望之傳贊〕卒爲二便嬖宦豎所一レ圖、哀哉。〔後漢書、五行志一〕寵二用便嬖子弟一。
【便辟】115 ベンペキ ベンペイ ㊀威儀をよくして心が正しくないこと。一說に、人の意を迎へて媚び諂ふ。便は人の欲する所に順ふ。辟は避で、人の惡む所を避ける意。便僻。便譬。〔書、冏命〕便辟側媚。〔傳〕便辟、足恭。〔蔡傳〕便者、順二人之所一レ欲、辟者、避二人之所一レ惡。〔論語、季氏〕孔子曰、益者三友、損者三友、友レ直、友レ諒、友二多聞一、益矣、友二便辟一、友二善柔一、友二便佞一、損矣。〔集解〕馬曰、便辟、巧辟二人之所一レ忌、以求二容媚一。〔集注〕便、習熟也、便辟、謂下習二於威儀一而不上レ直。〔集說〕辟字、馬融讀レ避。〔列子、力命〕媥斫便辟。〔釋文〕便辟、恭敬太過也。〔劉峻、廣絕交論〕脂韋便辟導二其誠一。〔注〕翰曰、便辟、曲諂皃。㊁お氣にいりのもの。おもひもの。辟は嬖。便嬖に同じ。〔說文通訓定聲〕辟、假借爲レ嬖、論語友二便辟一。〔論語、季氏、劉寶楠正義〕此又讀二便辟一爲二便嬖一。〔荀子、儒效〕隨二其長子一、事二其便辟一。〔注〕便辟、謂二左右小臣親信者一也、便、婢延反、辟、讀爲レ嬖。〔管子、七法〕便辟左右、大族尊貴大臣、不レ得レ增二其功一焉。
【便僻】116 ベンペキ ㊀便辟に同じ。〔荀子、王霸〕唯便僻左右、親二比己一者之用、如レ是者危削。〔韓非子、八姦〕便僻好色。〔管子、君臣下〕明君在レ上、便僻不レ能レ食二其意一、刑罰亟レ近也。〔商子、君臣〕或事二便僻一而請レ之。〔孔子家語、入官〕邇臣便僻者、羣僕之倫也。㊁スナハチサク 僻は、辟または避の誤。〔晏子、重而異者〕再拜便僻。
【便僻佞慧】117 ベンペキネイケイ 身の立廻りを巧にし、よく人にへつらつてわるがしこいこと。〔蜀志、董允傳〕愛二宦人黃皓一、皓便僻佞慧。
【便便】118 ベンベン ㊀肥滿したさま。〔後漢書、邊韶傳〕邊韶字孝先、云云、教二授數百人一、韶口辯、曾晝日假臥、弟子私嘲レ之曰、邊孝先腹便便、嬾レ讀レ書、但欲レ眠、韶潛聞レ之、應レ時對曰、邊爲レ姓、孝爲レ字、腹便便、五經笥。㊁明かに辨ずるさま。言葉のはつきりしたさま。〔爾雅、釋訓〕便便、辯也。〔論語、鄕黨〕其在二宗廟朝廷一、便便言、唯謹爾。〔集解〕便便、言辨貌。〔集注〕便便、辯也。〔新語、道基〕朝廷以レ義便便。㊂みやびなさま。〔詩、小雅、采菽、平平左右、釋文〕韓詩作レ便云、閑雅之貌。㊃よく治まるさま。又、均しいさま。平平。辨辨。〔史記、張釋之馮唐傳贊〕不レ黨不レ偏、王道便便。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作レ辨。
【便步】119 pien⁴ pu⁴ 體操教練の步法の一。正しい步調をとらず、隨意に行步すること。みち足。
【便民】120 ベンミン 人民に都合よくする。〔福惠全書、錢穀部、總論〕惟收レ之便レ民、而塞二倉中之漏卮一。
【便民房】121 ベンミンバウ 訴訟する人の爲に設けた控室。〔福惠全書、刑名部、詞訟、設二便民房一〕便民房者、乃爲二訟レ事之人一而設也。
【便民倉鎭】122 ベンミンサウチン 鎭の名。安徽省宿松縣の東南。長江に臨み、小孤と相連なり、東は江縣の吉水鎭と相望み、商旅の往來が多い。
【便面】123 ベンメン 古、人に見られるのが厭な時、面を蔽ふに用ひたもの。扇の類。摺扇。後世は、專ら扇をいふ。〔漢書、張敞傳〕使二御史驅一、自以二便面一拊レ馬。〔注〕師古曰、便面、所三以障レ面、蓋扇之類也、不レ欲レ見レ人、以レ此自障レ面、則得二其便一、故曰二便面一、亦曰二屛面一、今之沙門所レ持竹扇、上袤平而下圜、卽古之便面也。〔書言故事、器物類、扇〕扇曰二便面一。〔劉元卿、賢奕編〕便面卽團扇、可二以遮一レ面、故又謂二之便面一、觀二前人題詠及圖畫中一可レ見矣。
【便蒙】124 ベンモウ 初學者にわかり易く書いた書物。童蒙に便する意。淸の沈存本の易經遵注行文便蒙の類。
【便蒙類編】125 ベンモウルイヘン 書名。二卷。明、曾梅軒撰。奇聯警句を類集してゐる。
【便門】126 ベンモン ㊀かつてぐち。うらもん。通用門。くぐり戶。〔六部成語、吏部、另開便門、注解〕外省官、在二其衙署旁邊一、另作二小門一、放二其私人出入一作レ弊。㊁橋の名。〔漢書、武帝紀〕三年、初作二便門橋一。〔潘岳、西征賦〕津二便門一以右轉。
【便賴】127 ベンライ たのむ。依賴する。〔唐書、馮宿傳〕涪水屢壞二民廬舍一、宿脩二利防庸一、一方便賴。
【便覽】128 ベンラン 一覽するに便利な本。ちよつと見て早わかりのする重寶な書物。戚參軍八音便覽の類。
【便利】129 ベンリ ㊀すばやい。便捷。〔荀子、脩身〕齊給便利、則節レ之以二動止一。〔注〕齊給・便利、皆捷速也。〔史記、范雎傳〕手足便利、耳目聰明。㊁都合がよい。便宜。〔墨子、尙同中〕萬民之所二便利一、而能彊從レ事焉。〔漢書、元后傳〕乘二便利時一、奪二取其國一。〔通俗編、貨財、便利〕按、或云、便利、猶レ言二便易一、錢神論、市井便易不レ患二耗折一、是也、今以二其下文一繹レ之、似レ未レ然、唐宋人有レ云二便宜一者、蓋卽此言耳。㊂大小便をたれながす。〔漢書、韋玄成傳〕陽爲二病狂一、臥便利。〔注〕師古曰、便利、大小便。
【便利屋】130 ベンリヤ 雜用・代辨・配達等の諸用件を簡便に引受ける業務。
【便了】131 ベンレウ ㊀漢の王褒の奴僕の名。轉じて、しもべ。〔王褒、僮約〕蜀郡王子淵、以レ事到レ湔、止二寡婦楊惠舍一、惠有二夫時奴一、名二便了一、子淵倩レ奴行酤レ酒、便了提二大杖一、上二夫冢嶺一曰、大夫買二便了一時、但要レ守レ家、不レ要下爲二他家男子一酤上酒、子淵大怒曰、奴寧欲レ賣耶、云云、奴復曰、欲レ使皆上レ券、不レ上レ券、便了不レ能レ爲也、子淵曰、諾。〔蜀志、楊儀傳〕斯須二便了一。〔書言故事、妓女類〕僕曰二便了一、蜀四川王子淵、從二成都楊惠一買レ夫、時戶下有二一髯奴一、名二便了一、決レ賣二萬五千一、與立二券約一、從二百役使一。〔程俱、覽二壁座間舊詩一次韻詩〕主人眞賞レ奇、灌植勤二便了一。㊁云云してもよい。云云しても構はぬ。〔元曲、陳州糶米〕若有二差遲一、連二著小官一坐レ罪便了。
【便路】132 ベンロ 近路。順路。便道(79)に同じ。〔徐陵、宛轉歌〕偏愁便路擣レ衣聲。〔金史、禮志四〕后御輿取二便路一還レ內。
【便鑪】133 ベンロ 寒い時、骨董羹を作つて客をもてなすこと。骨董羹とは雜煮した食物。〔韻府引雜記〕冬至之日、或遇二風寒一、多具二骨董羹一以待レ客、謂二之便鑪一。
【便牽牛】134 ベンケンギウ 牛蒡の實。惡實(4－10824・・8こ)の異名。〔本草、惡實〕釋名、時珍曰、其實狀惡、而多二刺鉤一、故名、其根葉皆可レ食、人呼爲二牛菜一、術人隱レ之、呼爲二大力一也、俚人謂二之便牽牛一、河南人、呼爲二夜叉頭一。

【俀】660 タイ ツイ 〔集韻〕吐猥切 賄

よわい。〔集韻〕俀、弱也。

【㑡】661 ヘキ 辟(10－38642)の古字。〔玉篇〕㑡、古文辟字。

【俁】662 グ 〔集韻〕五矩切 ㄩˇ yü² 麌

 小篆

おほきい。容貌の大きいさま。俁俁。或は偊(1－1050)に作る。〔說文〕俁、大也、从レ人吳聲、詩曰、碩人俁俁。〔集韻〕俁、或作レ偊。〔詩、邶風、簡兮〕碩人俁俁、公庭萬舞。〔傳〕俁俁、容貌大也。

【係】663

㊀ケイ 〔集韻〕吉詣切 ㄒㄧˋ hsi⁴ 霽

㊁キ 〔集韻〕吉棄切 寘

係 小篆 一❶**かかる。つぐ。つなぐ。**繼(8－27997)・繫(8－27940)に通ず。〔爾雅、釋詁〕係、繼也。〔疏〕係者、繫屬之繼。〔一切經音義、一〕係、古文作二繫・繼二形一。〔易、隨〕係二小子一、失二丈夫一。❷**しばる。むすぶ。くくる。**〔說文〕係、絜束也、从レ人系聲。〔段注〕絜束者、圍而束レ之也、俗通用レ繫。〔左氏、僖、二十五〕秦人過レ析隈入而係二輿人一。〔注〕係、縛也。〔左氏、襄、十八〕以二朱絲一係二玉二瑴一。❸**かける。ひく。**〔莊子、山木〕係レ履而過二魏王一。❹**姓。**〔萬姓統譜〕係、見二姓苑一、河南省穀城縣、有二係氏一。❺現云云である。爲(7－19686)・屬(4－7821)・是(5－13859)に同じ。二**しばる。**〔集韻〕係、縛也。邦**かかり。**❶或る事務に關係する職員。❷文語文法における係辭。

名乘 タヘ。

解字 會意形聲。人と系との合字。系は又聲。系はつらねること。故に人が物をつなぎ結ぶ意とする。又、縛るとし、假借して系とし、繼の意とする。〔說文通訓定聲〕係、絜束也、从レ人从レ系、會意、系亦聲、與レ結略同、云云、叚借爲レ系。

【係引】1 ケイイン つないでつれて行く。〔新書、階級〕上弗レ使二執縛係引而行一也。

【係羈】2 ケイキ つなぐ。つなぎとめる。〔莊子、馬蹄〕禽獸可二係羈而遊一。〔淮南子、俶眞訓〕使三我可二係羈一者、必其有レ命在二於外一也。

【係仰】3 ケイギャウ 心ひかれて仰ぎ慕ふ。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕豈由二愛顧之隆一、使二係仰之情深一耶。

【係獲】4 ケイクワク 捕へる。〔漢書、匈奴傳下〕邊民死亡係獲。〔鹽鐵論、本議〕先帝哀二邊人之久患苦、爲二虜所一係獲一也。〔曾鞏、福州上二執政一書〕爲二士吏之所一係獲一。

【係頸】5 ケイケイ 頸に繩をかける。❶罪を待つ意。〔新書、過秦上〕俛レ首係レ頸。❷自殺する意。〔漢書、高帝紀上〕秦王子嬰、素車白馬、係レ頸以レ組。〔資治通鑑、漢紀〕(高祖、元年)子嬰素車白馬、係レ頸以レ組。〔注〕係レ頸、言レ欲二自殺一也。

【係故】6 hsi⁴ ku⁴ 舊知。舊友。

【係瑣】7 ケイサ くさりで繫ぐ。〔資治通鑑、漢紀〕(宣帝、甘露元年)因收二和意昌一係瑣。〔注〕係瑣、卽今云二鎖索一也。

【係爭】8 ケイサウ 法律上、訴訟の當事者間で爭ふこと。〔民事訴訟法(明治二十三年)六百三十六條〕異議に附き裁判を爲す判決には配當額の係爭部分を如何なる債權者に如何なる數額を以て支拂ふ可きやを定む可し。

『係爭物』9 ケイサウブツ 法律上、當事者間のあらそひとなつてゐる物件。卽ち訴訟の目的物。

【係嗣】10 ケイシ 家をつぐ血すぢ。あとつぎ。〔後漢書、姜肱傳〕以二係嗣當一レ立、乃遁往就レ室。

【係踵】11 ケイショウ 次々と續いて起る。踵を接して起る。〔吳志、虞翻傳、注〕海嶽精液、善生二俊異一、是以忠臣係レ踵、孝子連レ閭、下及二賢女一、靡レ不レ育焉。

【係心】12 ケイシン 心をかける。心をよせる。たのみとする。〔漢書、成帝紀〕至レ今未レ有二繼嗣一、天下無レ所レ係レ心。

【係親】13 hsi⁴ ch'in¹ 親類すぢ。

【係璲】14 ケイスイ 佩びてゐる瑞玉。〔後漢書、輿服志下〕解二去韍佩一、留二其係璲一。

【係數】15 ケイスウ ❶代數で、數個の量の積に於て、ある量に重點をおいて考へるとき、他の因子を此の量の係數といふ。❷ある量の單位に對する大いさをいふ。膨脹係數の類。

【係紲】16 ケイセツ 繩でつなぐ。係緤。〔新書、階級〕束二縛之一、係二紲之一。

【係屬】17 hsi⁴ shu³ 云云である。云云に關係する。

【係蹄】18 ケイテイ わなの一種。繩で獸の蹄を引きかけるもの。〔戰國、趙策〕人有下置二係蹄一者上、而得レ虎、虎怒決レ蹯而去。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕係蹄在レ足、則猛虎絕二其蹯一。

【係縛】19 ケイバク しばる。しばられる。〔新書、階級〕是以係縛榜笞、髡刖鯨劓之罪、不レ及二士大夫一。

【係臂】20 ケイヒ ❶手をかける。〔急就篇、三〕係二臂琅玕虎魄龍一。❷海中の動物。〔酉陽雜俎、廣動植、鱗介篇〕係臂如レ龜、入レ海捕レ之。

【係風】21 ケイフウ 風を繫ぎとめる。係風捕景を見よ。

『係風捕景』22 ケイフウホエイ 風をつなぎ、影を捕へる。出來ないこと・不可能なことの喩。雲を摑むやうなこと。とりとめのない話。繫風捕影。捕風捉影。〔漢書、郊祀志下〕谷永說レ上曰、言下世有二僊人一、服二食不終之藥一上、云云、聽二其言一、洋洋滿レ耳、若二將可一レ遇、求レ之盪盪、如二係風捕景一、終不レ可レ得、是以明王距而不レ聽。

【係履】23 ケイリ 履をはく。〔莊子、山木〕莊子衣二大布一而補レ之、正レ緳係レ履、而過二魏王一。〔釋文〕李云、履穿、故係。

【係虜】24 ケイリョ つなぎとらへる。又、捕虜。〔戰國、秦策〕係虜相二隨於路一、鬼神狐祥無レ所レ食。〔韓非子、姦劫弑臣〕父子相保、而無二死亡係虜之患一。〔史記、項羽紀〕係二虜其老弱婦女一。〔漢書、食貨志下〕緣邊四夷所二係虜一陷レ罪。〔說苑、貴德〕見二天下強陵レ弱暴レ寡、幼孤羸露、死傷係虜一。

【係累】25 ケイルイ ❶つなぐ。しばる。しばられる。係纍。〔孟子、梁惠王下〕殺二其父兄一、係二累其子弟一。〔注〕係累、猶二縛結一也。〔戰國、趙策〕先時、中山負二齊之強兵一、侵二掠吾地一、係二累吾民一。〔史記、趙世家〕係二累吾民一。〔揚雄、長楊賦〕係二累老弱一。❷妻子眷族。足手まとひ。ほだし。家累。

【係縲】26 ケイルイ しばりつなぐ。とらへる。又、なはめ。係壘。係纍。〔漢紀、孝武帝紀二〕沖幼奴虜、係縲嘷泣。〔說苑、尊賢〕親擧二五羖大夫於係縲之中一、與レ之語三日、而授二之政一。〔韓愈、祭二穆員外一文〕祭二我于獄一、相從係縲。

【係壘】27 ケイルイ しばりつなぐ。とらへる。係累に同じ。〔荀子、大略〕氐羌之虜也、不レ憂二其係壘一也、而憂二其不一レ焚也。〔注〕壘、讀爲レ纍。

【係纍】28 ケイルイ 係縲(26)に同じ。〔呂覽、義賞〕氐羌之民、其虜也、不レ憂二其係纍一也、而憂二其死不一レ焚也。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕詘二辱兮係纍一。

【係戀】29 hsi⁴ lien⁴ 熱烈な戀。灼熱の戀。

【促】664

一ショク ソク 〔集韻〕趨玉切 沃。ㄘㄨˋ ts'u⁴
二サク 〔集韻〕測角切 覺。

促 小篆 一二❶**せまる。**〔說文〕促、迫也、从レ人足聲。〔莊子、庚桑楚〕不レ可二繁而捉一、〔釋文〕捉、崔作レ促、云二迫促一也。❷**ちかづく。**〔廣雅、釋詁三〕促、近也。〔廣韻〕促、近也。〔集韻〕促、近也。❸**いたる。**〔廣韻〕促、至也。❹**短い。**〔字彙〕促、短也。〔唐書、柳宗元傳〕長來覺二日月益促一。❺**せはしい。いそがしい。きびしい。**〔鹽鐵論、國病〕民年急而歲促。〔南史、謝裕傳〕靈寶性促。❻**はやい。すみやか。**〔廣韻〕促、速也。〔字彙〕促、速也。〔漢書、欒布傳、趣亨レ之、注〕師古曰、趣、讀曰レ促、促、急也。❼**うながす。せきたてる。**催促する。趣(10－37207)に通ず。〔字彙〕促、催也。〔史記、陳涉世家〕趣二趙兵一、亟入レ關。〔注〕索隱曰、趣、音促、謂二催促一也。〔漢書、高帝紀〕因趣二丞相一、急定行レ封。〔注〕師古曰、趣、讀曰レ促。❽**つつしむさま。**〔儀禮、士相見禮、容彌蹙、注〕蹙、猶レ促也。促、恭慤貌也。❾趨(10－37258)に通ず。〔禮、祭義、趨以數、注〕趨、讀如レ促。❿趗(10－37153)に通ず。〔爾雅、釋蟲、促促、釋文〕促字、亦作レ趗。⓫或は戚(5－11594)に作る。⓬齪(12－48669)に同じ。〔集韻〕齪、或作レ促。

名乘 ユキ。チカ。

【促韻】1 ソクヰン さしせまつたひびき。つまつた韻。〔方干、登二龍瑞觀北巖一詩〕促韻寒鐘催二落照一、斜行白鳥入二遙空一。

【促音】2 ソクオン つまる音。促聲(26)に同じ。

【促界】3 ソクカイ せはしい現世。〔陶潛、感二士不遇一賦〕悼二賈傅之秀朗一、紆二遠轡於促界一。

【促機】4 ソクキ はたおり蟲。促はいそぐ。促織(21)に同じ。〔古今注、魚蟲〕促織、一曰二促機一。

【促救】5ソクキウ すみやかに助ける。〔魏志、趙儼傳〕諸將呵二責晃一促救。

【促急】6ソクキフ ㊀嚴しくせき立てる。催促。〔新語、輔改〕懷二促急一者、必有レ所レ虧。〔後漢書、周澤傳〕後復仕爲二左馮翊一、坐二御レ下促急一、司隸校尉擧奏免レ官。㊁せつかち。氣短か。性急。〔論衡、言毒〕太陽之地、人民促急、促急之人、口舌爲レ毒、故楚越之人、促急捷疾、與レ人談言、口唾射レ人、則人脤胎腫而爲レ創。

【促遽】7ソクキヨ いそぐ。あわてる。〔詩、齊風、東方未明、顚二倒衣裳一、箋〕羣臣促遽、顚二倒衣裳一。

【促曲】8ソクキヨク 酒食をすすめる樂曲。〔資暇集〕三臺三十拍促曲、名二三臺一何、或曰、昔鄴中有二三臺一、石季龍常爲二宴遊一之地、樂工倦怠、造レ此以促レ飲也。

【促衿】9ソクキン 窮屈なえり。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕攬レ帶緩二促衿一。

【促窘】10ソクキン せまりくるしむ。 窘促(**8−25519**・・17)に同じ。

【促管】11ソククワン 笛をいふ。其の聲がせまつて高いからいふ。急管。〔謝靈運、道路憶二山中一詩〕殷勤訴二危柱一、慷慨命二促管一。〔注〕善曰、促管、謂レ笛也。阮籍樂論曰、琵琶箏笛、閒促而聲高也。

【促狹】12ソクケフ ㊀せまくて行きつまること。〔後漢書、酈炎傳〕大道夷且長、窘路狹且促。㊁ts'u⁴ hsia² 陰險。暗に人を陷れて其の不利を圖ること。度量のせまいこと。嫉妬する。侮辱する。

〔促狹嘴〕13 ts'u⁴ hsia² tsuei³ 人の不利となるやうな惡口をいふ。

【促坐】14ソクザ 窮屈にこみあつてすわる。〔史記、淳于髡傳〕日暮酒闌、合レ尊促坐、男女同レ席、履舃交錯、杯盤狼藉、堂上燭滅。〔孫楚、登樓賦〕百僚雲集、促二坐華臺一。

【促裝】15ソクサウ 旅の支度を急ぐ。〔晉書、郭璞傳〕璞將二促裝去一レ之。〔謝靈運、初去レ郡詩〕恭承二古人意一、促裝返二柴荆一。〔孔稚珪、北山移文〕促二裝下邑一。

【促數】16ソクサク 禮儀の繁多なこと。〔柳宗元、序レ飲〕有下以二促數糺逖一而爲レ密者上。

【促刺】17ソクシ やすらかでないこと。〔王建、促刺詞〕促刺復促刺、水中無レ魚山無レ石。

【促膝】18ソクシツ 膝をつき合はせて窮屈に坐る。轉じて、非常に親密な意。〔抱朴子、疾謬〕促膝之狹坐、交二杯觴於咫尺一。〔梁昭明太子、答二晉安王一書〕省覽周環、慰同促膝。〔呂巖、與二潭州智度寺慧覺一詩引〕促膝靜坐。

〔促膝談心〕19ソクシツダンシン 膝をつき合はせて親密に心を打ちとけて語る。

【促杵】20ソクシヨ きねをせはしげにつく。又、せはしげにつくきね。〔徐鉉、賦得二擣衣一詩〕拂レ砧知二露滴一、促レ杵恐二霜飛一。

【促織】21ソクシヨク 蟲の名。はたおり蟲。蟋蟀(**10−33550**・・2)の一名。冬が來るから、はたおりを急げと鳴く蟲の意。促機。〔爾雅、釋蟲、蟋蟀蛬、注〕今促織也。〔古詩十九首〕促織鳴二東壁一。〔詩緯紀歷樞〕立秋促織鳴、女工急促之候也。〔徐陵、宛轉歌〕不レ怨前堦促織鳴。〔杜甫、促織詩〕促織甚微細、哀音何動レ人。

【促浸】22ソクシン 地名。金川をいふ。促浸は番語で、大河のほとりの意。〔淸高宗、平二定金川一勒二銘美諾一碑〕以救二儧拉一、而有二促浸之征一。〔金川瑣記〕金川、原名促浸、噶拉依爲二其巢穴一。

【促進】23ソクシン うながしすすめる。

【促成】24ソクセイ うながして早く成就させる。

〔促成栽培〕25ソクセイサイバイ 溫室等を用ひ、蔬菜に人工的溫熱を與へて時節よりも早く作ること。

【促聲】26ソクセイ 促音。音と音との閒に挾まつてつまる聲。例へば、「らつぱ」の「つ」など。

【促席】27ソクセキ 坐席を近くする。〔左思、蜀都賦〕合レ樽促レ席、引レ滿相發。〔注〕銑曰、酒將レ闌、故合二幷其樽一、促二近其席一。〔陶潛、停雲詩〕安得三促レ席、說二彼平生一。

【促節】28ソクセツ せまつた調子。〔陸機、擬古、擬二東城一何高一詩〕長歌赴二促節一、哀響逐二高徽一。

〔促節竹〕29 ts'u⁴ chieh² chu² 節の閒の短い竹。

【促促】30ソクソク ㊀短いさま。さしせまるさま。〔魏文帝、曹蒼舒誄〕惟人之生、忽若二朝露一、促促百年、亹亹行暮。〔陸機、豫章行〕促促薄暮景、亹亹鮮二克禁一。〔注〕良曰、促促、短皃。㊁心にゆとりのないさま。こせつくさま。一所懸命につとめるさま。齷齪。一說に、廉謹なさま。きちんとしてゐるさま。娖娖。齷齪。〔韓愈、進學解〕踵二常途之促促一、窺二陳編一以盜竊。〔注〕促、音齪、公張署墓誌、仰レ首促促就レ食、與レ此同、史記、申屠嘉、娖娖廉謹、娖、與レ促音義通。

【促掐】31ソクタウ せつかちな。〔水滸傳、四十一回〕在二背後一罵說道、又做二這等短命促掐的事一、於レ儞無レ干、何故定要レ害レ他。

【促中】32ソクチユウ 褊狹な心。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕以二促中小心之性一、統二此九患一。〔注〕向曰、言下我以二褊狹之心一、理中此數患上。

【促柱】33ソクチユウ 絃の調子の早いこと。柱は琴ぢ。〔左思、蜀都賦〕起二西音於促柱一。〔注〕向曰、促柱、急絃也。

【促調】34ソクテウ 早い調子。急調。〔張協、七命〕器擧樂奏、促調高張。

【促拍】35ソクハク 酒食をすすめる音樂の調子。促曲(8)を見よ。〔孫蕡、驪山老妓行〕促拍未レ終南内曲、新腔忽過小梁州。〔珊瑚鉤詩話〕樂部中、有二促拍催酒一、謂二之三臺一。

〔促拍滿路花〕36ソクハクマンロクワ 詞牌の名。〔詞譜〕此調有二平韻仄韻二體一、平韻者、始レ自二柳永一、樂章集注二仙呂調一、仄韻者、始レ自二秦觀一、或名二滿路花一、無二促拍二字一、秦觀詞、一名二滿園花一、周邦彥詞、名二歸去難一、袁去華詞、名二一枝花一、牛眞人詞、名二喝馬一枝花一、太平樂府、注二南呂調一。

【促迫】37ソクハク ㊀きびしい。〔漢書、五行志中之下〕政促迫、故其罰常寒也。㊁うながしせまる。

【促發】38ソクハツ 催促して出させる。又、うながして出發させる。〔老學庵筆記、九〕亦笑顧二書吏一、促二發奏一。

【促轡】39ソクヒ 手綱をかいくつて馬を早める。〔晉書、皇甫謐傳〕羲和促レ轡、大火西頹。

【促病】40 ts'u⁴ ping⁴ 急病。俄か病氣。

【促步】41ソクホ せはしくあるく。〔齊民要術、種穀〕令三促步以レ足躡二壠底一。

【促密】42ソクミツ 調子のつまること。〔柳宗元、唐故萬年令裴府君墓碣〕謠舞擊レ噐、纖屑促密、皆曲中二節度一。

【促鱗】43ソクリン 小魚。促鱗短羽を見よ。

〔促鱗短羽〕44ソクリンタンウ 小さい魚と、小さい鳥。〔張協、七命〕何異下促鱗之游二汀濘一、短羽之棲中翳薈上。〔注〕翰曰、促鱗、小魚也、汀濘、淺水也、小鳥之棲二於蒿草一。

【促令】45ソクレイ 促し命令する。〔宋史、潘美傳〕李煜危甚、遣二徐炫一來乞レ緩レ師、上不二之省一、仍詔二諸將一促二令歸附一。

【促路】46ソクロ 行きづまりの路。生命が窮まり盡きる喩。〔陸機、弔二魏武帝一文〕長筭屈二於短日一、遠跡頓二於促路一。〔注〕向曰、長筭遠跡、謂三平生謀二長遠之事一也、短日促路、生命窮盡也。

【促寒娘】47ソクカンヂヤウ 絡緯クツワムシの異名。〔事物異名錄、昆蟲下、絡緯〕古今注、絡緯、一名促寒娘。

【促世珠】48ソクセイシユ 時を計る具。〔陳陶、將進酒〕瑟瑟盤傾促世珠、黃泥局瀉流年箭。

【俄】665

ガ 〔集韻〕牛河切 ㄜ́ ê²・⁴ 歌

小篆

㊀**にはか。ほどなく。たちまち。**〔說文〕俄、頃也、从レ人我聲、詩曰、仄弁之俄。〔段注〕玉篇曰、俄頃、須臾也、廣韻曰、俄頃、速也、此今義也、尋二今義之所一レ由、以三俄頃皆偏側之意、小有二偏側一、爲二時幾何一、故因謂二倏忽一爲二俄頃一。〔廣韻〕俄、俄頃、速也。〔公羊、桓、二〕俄而可三以爲二其有一矣。〔注〕俄者、謂二須臾之閒、創得之頃一也。〔關尹子、八籌〕鳥獸俄旬旬、俄逃逃。〔列子、力命〕俄而季梁之疾自瘳。㊁**かたむくさま。**頠(**12−43482**)に通ず。〔說文通訓定聲〕俄、字亦作レ頠。〔廣雅、釋詁二〕俄、衺也。〔詩、小雅、賓之初筵〕側弁之俄。〔箋〕俄、傾貌。〔張衡、歸田賦〕曜靈俄景。〔注〕善曰、俄、斜也。㊂**たかい。たかくする。**卬(**2−2841**)に通ず。〔揚雄、羽獵賦〕俄二軒冕一、雜二衣裳一。〔注〕善曰、韋昭曰、俄、卬也。㊃或は蛾(**10−33082**)に作る。〔漢

書、外戚、孝成班倢伃傳、蛾而大幸、注〕師古曰、蛾、與レ俄同、古字通用。㊄**ロシヤの略稱**。俄羅斯(26)を見よ。㊊**にはか**。仁和賀。俄狂言。茶番。

【俄雨】1 ニハカアメ 俄かに降出すあめ。

【俄艦】2 ガカン 露西亞の軍艦。〔岡鹿門、尊攘記事補遺〕會俄艦入二長崎一。

【俄境】3 ガキヤウ 俄羅斯境の略。露西亞の國土。〔皇朝通典、邊防典〕挈二全部三萬餘衆一、由二俄羅斯境一展轉萬餘里。

【俄官】4 ガクワン 露西亞國の官吏。〔謝彬、新疆遊記〕俄官亦造レ冊咨送。

【俄頃】5 ガケイ しばらく。瞬時。またたくま。しばし。暫時。字解の㊁を見よ。〔孔子家語、六本〕俄頃左右報。〔郭璞、江賦〕倏忽數百、千里俄頃。〔晉書、王戎傳〕阮籍與レ渾友、籍每レ適レ渾、渾俄頃輒去、過二視戎一、良久然後出。〔謝靈運、入二華子崗一是麻源第三谷詩〕恆充二俄頃用一。

【俄僑】6 ê⁴ ch'iao² 露國居留民。露西亞國の在外居留民。

【俄刻】7 ガコク にはかに。俄爾(13)に同じ。〔南齊竟陵王子良、請レ停二臺使檢課一表〕絳縹寸紙、一日數至、徵レ村切レ里、俄刻十催。

【俄國】8 ガコク 露西亞。〔淸會典、總理各國事務衙門〕俄國股、掌二俄羅斯・日本兩國交涉往來之事一。

【俄國革命】9 ê⁴ kuo² kê² ming⁴ 世界大戰中、西曆一九一七年三月と十月とに起つたロシヤの革命。三月、帝政を廢止し、十月、更にレーニンによつて社會主義の國家が成立した。現在のソヴイエト聯邦である。

【俄鶻】10 ガコツ すばやいはやぶさ。敏捷なものの喩。〔隋書、列女、劉昶女傳〕黨與三百人、其趫捷者、號二俄鶻隊一、武力者、號爲二蓬轉隊一。

【俄使】11 ê⁴ shih³ 露西亞國の公使。

【俄思】12 ガシ ふと心に浮かぶ思。〔鮑照、還レ都道中作詩〕倏悲坐還合、俄思甚二兼秋一。〔注〕翰曰、倏忽俄頃之際、悲思已合二於心一、若レ經二三秋一也。

【俄爾】13 ガジ にはかに。たちまち。俄刻。〔晉書、五行志〕石季龍在レ鄴、有二一馬一、尾有二燒狀一、入二其中陽門一、出二顯陽門一云云、俄爾不レ見。

【俄人】14 ガジン 露西亞人。〔淸國行政法汎論、藩部、內外蒙古、行政機關〕恰克圖置二辦事司員一人一、受二庫倫大臣之節制一、監二理俄人貿易事務一。

【俄旋】15 ガセン 暫く延引する。〔還魂記、幽媾〕再得二俄旋一試認レ他。

【俄然】16 ガゼン 急に。にはかに。卒然。突然。〔莊子、齊物論〕俄然覺、則蘧蘧然周也。〔魏志、田疇傳〕四海俄然、莫レ有二固志一。〔晉書、八王傳〕我然楚兵登レ牆而歎。〔陸機、辨亡論上〕險阻之利、俄然未レ改。

【俄風】17 ニハカカゼ 俄かに吹く風。

【俄踊】18 ニハカヲドリ 座興などの爲にする滑稽な踊。

【俄亥俄】19 オハイオ 地名。亞米利加合衆國の東北部の一州。Ohio の音譯。

【俄狂言】20 ニハカキヤウゲン 座興の爲に俄かに行ふ滑稽な狂言。特に遊廓で催す茶番狂言。

【俄芝居】21 ニハカシバヰ 座興の爲にする滑稽芝居。

【俄日和】22 ニハカビヨリ 雨天が急に晴天となること。

【俄道心】23 ニハカダウシン 急に思ひたつて出家した人。

【俄長者】24 ニハカチヤウジヤ 俄かに富有になつた者。俄分限。〔好色二代男、四〕此の者俄長者となりぬ。

【俄分限】25 ニハカブゲン 僅かの間に富裕の身となつた者。俄長者。成金。

【俄羅斯】26 オロシヤ 露西亞國。〔淸會典、總理各國事務衙門〕凡有レ約之國十有六、曰、俄羅斯。〔龍沙紀異〕俄羅斯、古大食國、歷レ今一千七百一十餘年、元太祖與二其弟一分收、其弟滅二俄羅斯一、卽以封レ之、曰二察罕汗一。

【俄勒岡】27 オレゴン 地名。アメリカ西北部の一州。Oregon の音譯。

【俄斯坦德】28 オスタンド 地名。ベルギーの西部、北海に臨む港市。Ostend の音譯。

【俄土戰爭】29 ê⁴ t'u³ chan⁴ chêng¹ 西曆一八七六年に起つたロシヤとトルコとの戰爭。

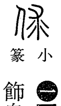
【俄特蘭陀】30 オトラント 地名。Otranto の音譯。㊀アドリヤ海イタリヤ東南部。又、其の都市名。㊁アドリヤ海の南口。イタリヤ東南部と對岸のアルバニヤとの閒の海峽。

【侳】666 チ 癡(7－22591)の俗字。〔玉篇〕侳、俗癡字。

【侼】667 ㊀バウ マウ 〔集韻〕母項切 講 ㊁バウ マウ 〔集韻〕莫江切 江

㊀㊁**媚びない**。侼傋。〔集韻〕侼、侼傋、不レ媚也。

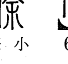
【俅】668 キウ グ 〔集韻〕渠尤切 尤 ㄑㄧㄡˊ ch'iu²


小篆

㊀**冠の飾のさま**。〔說文〕俅、冠飾皃、从レ人求聲、詩曰、戴弁俅俅。㊁**いただく**。服する。絿(8－27477)に通ず。〔爾雅、釋言〕俅、戴也。〔爾雅、釋訓〕俅俅、服也。〔釋文〕俅、本亦作レ絿、同。㊂俅俅は、うやうやしいさま。〔詩、周頌、絲衣〕載弁俅俅。〔傳〕俅俅、恭順貌。㊃或は頬(12－43479)に作る。〔集韻〕俅、或从レ頁。

【俅俅】1 キウキウ ㊀恭順のさま。〔詩、周頌、絲衣〕絲衣其紑、載弁俅俅。㊁服する。戴く。〔爾雅、釋訓〕俅俅、服也。〔注〕謂レ戴二弁服一也。

【俆】669 シヨ ジヨ 〔集韻〕詳余切 魚


小篆

㊀**ゆるやか**。**おそい**。或は邪(11－39319)に作り、通じて徐(4－10110)に作る。〔說文〕俆、緩也、从レ人余聲。〔段注〕俆、與レ徐義略同、齊世家、田常執二簡公於徐州一、索隱曰、徐廣音舒、其字从レ人、左氏作レ舒、說文作レ郐、按、魯世家、作レ徐。〔廣雅、釋詁四〕俆、遲也。〔玉篇〕俆、同レ徐。〔集韻〕俆、或作レ邪、通作レ徐。㊁**地名**。俆州は古の薛の國。故城は山東省滕縣。通じて舒(9－30300)に作る。〔集韻〕俆、俆州、地名、在レ齊、通作レ舒。〔大事記〕俆、音舒、亦作レ徐、按、今山東滕縣、有二薛縣故城一、卽古薛國、戰國時曰二徐州一、越王句踐會二諸侯於此一。㊂**姓**。〔集韻〕俆、亦姓。

【俇】670 ㊀キヤウ グワウ 〔集韻〕求往切 養 ㄎㄨㄤˇ k'uang³ ㊁キヤウ クワウ 〔集韻〕古況切 漾 ㄎㄨㄤˋ k'uang⁴

小篆

㊀**あわただしいさま**。〔廣雅、釋訓〕俇攘、惶劇也。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕魂俇俇而南行兮。〔注〕俇俇、遑遽之貌。㊁**遠く行く**。〔說文〕俇、遠行也、从レ人狂聲。

【俇俇】1 キヤウキヤウ ㊀あわただしいさま。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕魂俇俇而南行兮。〔注〕俇俇、惶遽之貌。㊁k'uang² k'uang³ 遊ぶ。〔紅樓夢、六回〕白來俇俇呢便罷。

【俇攘】2 キヤウジヤウ あわて亂れる。又、憂懼のさま。〔楚辭、九辯〕逢二此世之俇攘一。〔注〕卒遇二俇攘一、而遽惶也、五臣云、俇攘、憂懼貌、一作二劻勷一、一作二趪攘一。

【俇攘】3 キヤウジヤウ あわて亂れる。俇攘に同じ。〔廣雅、釋訓〕俇攘、惶劇也。

【俇蕩】4 k'uang³ tang⁴ あわただしく、あそびまはる。〔紅樓夢、三十七回〕每日在園中、任意縱性的俇蕩。

【俈】671 ㊀ソク 〔集韻〕蘇谷切 屋 ㊁シヨク ソク 〔集韻〕輸玉切 沃

㊀㊁**動くさま**。**又、短小で醜いさま**。俈俈。

獨倢。〔廣韻〕倢、獨倢。〔集韻〕倢、獨倢、動也、一曰、短皃。

【倍】672 コク 譽(2－4586)に同じ。〔集韻〕譽、或作レ倍。〔管子、侈靡〕倍堯之時。〔注〕倍、帝倍也。

【倍】673 ゴ 〔集韻〕五故切 遇

むかへる。又、あふ。遻(11－39136)に同じ。〔集韻〕遻、遇也、亦書作レ倍。〔史記、天官書〕其人逢二倍化一言。〔注〕索隱曰、倍、迎也。

【俊】674 シュン 〔集韻〕祖峻切 震 ㄐㄩㄣˋ chün⁴

篆文 俊

㊀才智が千人にすぐれた者。〔說文〕俊、材過二千人一也、从レ人夋聲。〔書、皋陶謨〕俊乂在レ官。〔鄭注〕才德過二千人一爲レ俊。〔淮南子、泰俗訓〕智過二萬人一者、謂二之英一、千人者、謂二之俊一、百人者、謂二之豪一、十人者、謂二之傑一。㊁二十人にすぐれた者。〔禮、月令〕贊二傑俊一。〔疏〕蔡氏辨名記曰、十人曰レ選、倍レ選曰レ俊、萬人曰レ傑。㊂百人にすぐれた者。〔白虎通、聖人〕禮別名記曰、百人曰レ俊。㊃萬人にすぐれた者。〔鶡冠子、能天〕德萬人者、謂二之俊一。〔北史、蘇綽傳〕萬人之秀曰レ俊。㊄おほきい。たかい。陖(11－41645)に通ず。〔說文通訓定聲〕俊、假借爲レ陖。〔大戴禮、夏小正〕時有二俊風一、俊者、大也。㊅舜(9－30339)に通ず。〔山海經、大荒東經〕帝俊生二中容一。〔注〕俊、亦舜字、假二借音一也。㊆或は儁(1－1175)・雋(11－41996)に作る。〔集韻〕俊、或从レ雋。〔左氏、莊、十一〕得レ儁曰レ克。〔釋文〕儁、本或作レ俊。〔晉書音義、上〕雋、與レ俊同。㊇或は峻(7－21865)に作る。〔書、太甲上〕旁求二俊彦一。〔釋文〕俊、本亦作レ峻。㊈或は馴(12－44595)に作る。〔書、堯典〕克明二俊德一。〔史記、五帝紀〕能明二馴德一。㊉或は峻(4－8116)に作る。〔書、堯典〕克明二俊德一。〔鄭注〕俊、一作レ峻。㊊駿(12－44775)に通ず。〔爾雅、釋詁、釋文〕駿、本作レ俊。〔史記、屈原傳〕誹レ駿疑レ傑兮。㊋娗(2－3113)・逡(11－38899)に通ず。〔戰國、齊策、東郭逡者海內之狡兎也、注〕逡、後章作レ俊、逡・俊・娗通用、狡兎名也。㊌姓。〔萬姓統譜〕俊見二姓苑一。

名乘 トシ。スグル。

参考 熟語は雋(11－41996)を併せ見よ。

【俊異】1 イシュン 衆人にひいでる。すぐれて凡人とことなる。又、其の人。俊秀。卓異。雋異。〔唐書、選擧志上〕以二庶人之俊異者一爲レ之。〔韓愈、歸二彭城一詩〕屢陪二高車一馳、周行多二俊異一。

【俊偉】2 キュン すぐれてえらい人。〔魏志、王朗傳評〕誠皆一時之俊偉也。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕故九江太守邊讓、英才俊偉、天下知レ名、直言正色、論不二阿諂一。

【俊游】3 シュン すぐれた友。〔陸游、詩〕紹興人物嗟誰在、空記當年接二俊游一。

【俊逸】4 イツ すぐれてひいでる。又、其の人。秀逸。卓逸。俊秀。俊出。〔魏志、袁紹傳、注〕魏氏春秋、載下紹檄二州郡一文曰、故九江太守邊讓、英才俊逸、天下知レ名。〔杜甫、春日憶二李白一詩〕清新庾開府、俊逸鮑參軍。

【俊英】5 エイ 衆人にすぐれた人。〔白虎通、聖人〕禮別名記曰、五人曰レ茂、十人曰レ選、百人曰レ俊、千人曰レ英。〔魏文帝、曹蒼舒誄〕如何昊天、彫二斯俊英一。

【俊穎】6 エイ すぐれぬきんでる。〔宋史、姚鉉傳〕鉉幼子稱二俊穎美秀一。

【俊音】7 オン すぐれた音樂。〔陸機、七徵〕於レ是登二漸臺一理二俊音一、鏡二玄沚一、望二長林一。

【俊雅】8 ガ ㊀すぐれてみやびやかなこと。㊁樂曲の名。衆官の出入の時に奏す。〔梁三朝雅樂歌〕衆官出入奏二俊雅一、取下禮記司徒論二選士之秀者一、升二之學一、曰二俊士一也。

【俊乂】9 ガイ すぐれて賢い人。雋乂。賢才。〔書、皋陶謨〕俊乂在レ官。〔傳〕俊德治官之士、並在レ官。〔鄭注〕才德過二千人一爲レ俊、百人爲レ乂。〔書、說命下〕旁招二俊乂一。〔曹植、王仲宣誄〕我王建レ國、百官俊乂。〔潘岳、閑居賦序〕方今俊乂在レ官。

【俊乂】10 ガイ すぐれて賢い人。俊乂に同じ。〔漢書、王褒傳〕世平主聖、俊乂將二自至一。〔漢書、孔光傳〕今二俊乂者久失二其位一。〔注〕師古曰、艾、讀曰レ乂。

【俊羔】11 カコウ 大きい羊。〔大戴禮、夏小正〕初俊羔助二厥母粥一、俊也者、大也、粥也者、養也、言大羔能食二草木一而不レ食二其母一也。

【俊豪】12 ガゴウ 才德のすぐれた人。俊傑(22)に同じ。〔鶡冠子、博選〕德萬人者、謂二之雋一、德千人者、謂二之豪一。

【俊眼】13 シュンガン きりつとした眼。〔紅樓夢、三回〕俊眼脩眉、顧盼神飛。

【俊器】14 キュン 特にすぐれた器量ある人。雋器。〔晉書、光逸傳〕胡母輔之與二荀邃一共詣二令家一、望二見逸一、謂二邃曰、彼似二奇才一、便呼上車、與談良久、果俊器。

【俊狗】15 クシュン うさぎといぬ。字解の㊀を見よ。〔戰國、齊策〕世無二東郭俊、盧氏之狗一。

【俊科】16 クワ すぐれた成績で科擧の試驗に合格すること。〔蘇軾、西掖告詞〕策二名俊科一、典二我近輔一。

【俊快】17 クワイ すぐれてこころよい。〔東軒筆錄〕草書尤俊快。

【俊兄】18 シュンケイ 已の兄を呼ぶ尊稱。〔漢書、韋玄成傳〕惟我俊兄、是讓是形。

【俊卿】19 シュンケイ 字號。㊀宋、章如愚(8－25761・・2)の字。㊁宋、詹應陳(10－35458・・38)の字。㊂明、陳邦科(11－41698・・1182)の字。

【俊慧】20 シュンケイ すぐれて賢い。又、其の人。秀慧。俊賢。〔陳深、內人臂白鸚鵡圖詩〕空拂二畫圖一憐二俊慧一。

【俊桀】21 シュンケツ 才德がすぐれた人。俊傑。〔史記、張耳陳餘傳〕其賓客厮役、莫レ非二天下俊桀一。

【俊傑】22 才德がすぐれた人。俊桀。俊豪。俊傑。〔孟子、公孫丑上〕尊レ賢使レ能、俊傑在レ位。〔淮南子、泰族訓〕知過二萬人者一、謂二之英一、千人者、謂二之俊一、百人者、謂二之豪一、十人者、謂二之傑一。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕德操曰、儒生俗士、豈識二時務一、識二時務一者、在二乎俊傑一。

【俊健】23 シュンケン すぐれてつよい。すぐれてすこやかな。〔元稹、遣興詩〕人生負二俊健一、天意與二光華一。〔張憲、走馬歌〕生猿俊健雙臂長、左腳蹋鐙右蹴韁。〔耦耕錄、文章宗旨〕西漢之文、渾厚典雅、賈誼之俊健、司馬之雄放、爲二大家一。

【俊賢】24 シュンケン すぐれてかしこい。又、其の人。俊慧。〔任昉、到二大司馬記室一牋〕俊賢翹レ首。〔晉書、阮籍傳〕英豪翹レ首、俊賢抗レ足。

【俊臉】25 chün⁴ lien³ すぐれた顏。〔琵琶記、牛氏規奴〕一箇沒包彈的俊臉。

【俊彦】26 シュンゲン 才智のすぐれた人。彦は男子の美稱。〔書、太甲上〕旁求二俊彦一啓二迪後人一。〔傳〕美士曰レ彦。〔後漢書、班固傳上〕清廟之光暉、當世之俊彦也。

【俊悟】27 ゴ すぐれてかしこい。又、其の人。〔顏氏家訓、書證〕劉緩幼子民譽、年始數歲、俊悟善體レ物。

【俊語】28 ゴ 立派なことば。〔朱熹、游二畫寒一以二茂林脩竹清流激湍一分韻賦レ詩得二竹字一詩〕俊語非二碌碌一。

【俊公】29 シュンコウ 清、唐英(2－3709・・13)の字。

【俊功】30 シュンコウ 大きな功。大功(3－5831・・771)に同じ。〔曹成王碑、武薦〕俊功一。

【俊鶻】31 シュンコツ つよい鶻。鶻は鷹の屬。〔杜甫、朝詩〕俊鶻無二聲過一、飢烏下二食貪一。〔袁枚、送二曾編修同王繼學一聯句〕奇鶴摹二南雲一、俊鶻欣二北雪一。

【俊才】32 シュンサイ すぐれた才藝。又、すぐれてはたらきのある人。儁才。〔左氏、宣、十五〕鄧舒有二三儁才一。〔注〕儁、絶異也、言レ有二才藝勝レ人者三。〔疏〕辨名記云、倍レ人曰レ茂、十人曰レ選、倍レ選曰レ俊、千人曰レ英、倍レ英曰レ賢、萬人曰レ桀、倍レ桀曰レ聖、是俊爲二絶異之稱一也、有二俊才一知二其有二才藝勝レ人者三事一耳、不レ知二三者何事一也。〔後漢書、楊脩傳〕好學有二俊才一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕非二夫通神之俊才一、誰能剋成乎。

【俊材】33 シュンザイ 材能のすぐれた人。儁材。〔管子、立政〕凡孝悌・忠信・賢良・儁材、若在二長家子弟臣妾屬役賓客一、則什伍以復二于游宗一。〔漢書、劉向傳〕招二選名儒俊材一。〔漢書、王褒傳〕聞二王褒有二俊材一、請與相見。

【俊爽】34 シュンソウ 衆人にすぐれて人品が高い。又、氣のすぐれてさはやかなこと。〔晉書、裴楷傳〕楷、風神高邁、容儀俊爽。〔蘇軾、巫山詩〕仰觀八九頂、俊爽凌二浩氣一。

【俊造】35 シュンゾウ すぐれた士人。俊士と造士。造は就、造士とは學問の成就した人をいふ。〔魏志、武帝紀〕置二校官一、選二其鄉之俊造一、而教二學之一。〔晉書、潘尼傳〕冠乃俊造。〔白居易、得吏部選レ入入レ試請二繼レ燭以盡一精思一判一〕旁求二俊造一、迨レ將レ筮仕、歷二試文辭一、俾レ從レ卜レ夜。

【俊士】36 シュンシ ❶周代の學制で、庶人の子弟中から三年に一回選抜して大學に入れた道徳の秀でた者。〔禮、王制〕司徒論二選士之秀者一而升二之學一、曰二俊士一。❷才智のすぐれた人。俊人。〔荀子、大略〕天下國有二俊士一。〔後漢書、桓譚傳〕俊士充レ朝、而理合二世務一。〔顏氏家訓、勉學〕有二一俊士一、自許二史學名價甚高一。

【俊之】37 シュンシ 清、吳焯(海門の人)(2－3365・21 9)の字。

【俊秀】38 シュンシュウ ❶才智のすぐれた人。俊拔。俊逸。俊邁。〔後漢書、黨錮傳序〕天下俊秀王叔茂。〔吳志、孫權傳〕招二延俊秀一、聘二求名士一。❷明の太宗は民衆に郎官・俊秀の等級をつけ、俊秀は國子監に入って學ぶことが出來た。民生ともいふ。又、清代に、漢人で入仕の途なき者をもいふ。〔明史、選舉志二〕庶民亦得下援二生員之例一以入も監、謂二之民生一、亦謂二之俊秀一。〔清會典、吏部、文選清吏司〕凡官之出身有レ八、云云、無二出身一者、滿洲蒙古漢軍曰二閒散一、漢曰二俊秀一。❸すぐれて美しい。(例)丰姿俊秀。

【俊秀科】39 シュンシュウカ 官吏登用試驗の一。非常にすぐれた秀才の受けるもの。〔摭言〕永徽以前、俊秀二科、猶與二進士一竝列、咸亨レ之、後凡由二文學一、一擧二于有司一者、競集二于進士一矣、由レ是趙保等、刪二去俊秀一、故目レ之曰二進士登科記一。

【俊賞】40 シュンショウ すぐれてゐる。〔詩品、近彭城劉士章、俊賞之士。〕(王勃、晩秋游二武擔山寺一序)鷄林俊賞、蕭蕭鶚嶺之居。

【俊上】41 シュンジョウ すぐれてゐる。又、其の人。〔梁書、鍾嶸傳〕郭景純用二俊上之才一、創變二其體一。

【俊出】42 シュンシュツ すぐれ秀でる。衆にぬきんでる。俊逸。俊邁。儁出。〔北史、韓顯宗傳〕若有二高明卓爾、才具儁出者一、朕亦不レ拘二此例一。

【俊升】43 シュンショウ 字號。❶清、黃登(12－47926・70 8)の字。❶清、蘇李秀(9－32427・304)の字。

【俊乘】44 シュンジョウ よい馬。駿馬。雋乘。〔張協、七命〕斯蓋天下之雋乘、子豈從レ我而御レ之乎。〔注〕銑曰、此馬天下雋乘也。

【俊臣】45 シュンシン 字號。❶後梁、寇彥卿(3－7209・6 ニ)の字。❶宋、趙善俊(10－37171・749)の字。❸清、陳士杰(11－41698・887)の字。

【俊人】46 シュンジン すぐれた人。俊士。〔文中子、天地〕或問二蘇綽・子曰、俊人也。〔邵氏聞見後錄〕研端石如二德人一歙石如二俊人一。

【俊聖】47 シュンセイ 智德がすぐれてゐる。又、其の人。大聖。〔王筠、開善寺碑〕軒轅俊聖、堯曰欽明一。

【俊聲】48 シュンセイ すぐれたほまれ。〔彥周詩話〕黃嗣徽、少年時、讀二書有一レ俊聲一。

【俊劭】49 シュンショウ すぐれて高い。儁劭。〔晉書、張寔傳〕維爾儁劭英毅、宜二世表一西海一。

【俊俏】50 シュンショウ 容貌が美しい。俏は美好のさま。眉目秀麗。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕來往向二人前一賣二弄俊俏一。

【俊選】51 シュンセン 衆人の中からすぐりえらばれた者。〔孫逖、授二劉繹虞部員外郎一制〕宜レ膺二俊選一。

【俊達】52 シュンタツ 性質が秀でて事理に通達する。〔杜牧、與二池州李使君一書〕足下性俊達堅明、心正而氣和。

【俊智】53 シュンチ すぐれた智。叡智。〔尸子、治天下〕父母之所レ畜二子者一、非二堅強一也、非二聰明一也、非二俊智一也、愛レ之憂レ之、欲二其賢一已也。

【俊仲】54 シュンチュウ 元、席夾(4－8926・2)の字。

【俊弟】55 シュンテイ すぐれた弟。〔陸機、與二弟清河雲一詩〕伊我俊弟、咨爾士龍。

【俊鳥】56 シュンチョウ すぐれた鳥。よい鳥。〔漢書、揚雄傳上、鸞皇騰而不レ屬兮、注〕應劭曰、鸞皇、俊鳥也。〔孫楚、鷹賦〕有二金剛之俊鳥一、生二井陘之巖阻一。

【俊哲】57 シュンテツ すぐれてさとい。又、其の人。英哲。俊彥。俊喆。雋哲。〔法言、孝至〕俊哲洪秀。〔陸雲、與二陸典一書〕雲再拜、國士之邦、實鍾二俊哲一。〔杜甫、同二元使君春陵行一〕觀乎春陵作、欵見二俊哲情一。

【俊喆】58 シュンテツ すぐれてさとい。又、其の人。俊哲に同じ。〔魏志、文帝紀、注〕孫盛曰、夫經國營治、必憑二俊喆之輔一。

【俊童】59 シュンドウ すぐれてさといわらべ。仙童。神童(8－24673・421)に同じ。

【俊德】60 シュントク すぐれて立派な德。又、其の人。雋德。大德。〔書、堯典〕克明二俊德一、以親二九族一。〔蔡傳〕俊、大也。〔論衡、程材〕堯以二俊德一致二黎民雍一。

【俊馬】61 シュンバ すぐれた馬。駿馬。俊乘。〔新序、雜事五〕驊騮綠驥、天下之俊馬也。

【俊望】62 シュンボウ すぐれたほまれ。俊聲。俊譽。〔晉書、王忱傳〕卿風流俊望、眞後來之秀。

【俊髦】63 シュンボウ 衆にひいでた士。雋髦。〔爾雅、釋言、髦俊也、注〕士中之俊、猶如二毛中之髦一。

【俊拔】64 シュンバツ すぐれてひいでる。英俊。雋拔。俊秀。〔宋史、陳宜中傳〕少甚貧、而性特俊拔。

【俊法】65 シュンポウ 法律をきびしくする。きびしい法律。嚴法。峻法。〔公羊、僖、十九、其自亡奈何、魚爛而亡也、注〕梁君隆刑俊法。

【俊美】66 chün⁴ mei³ 容姿が麗はしい。秀麗。

【俊靡】67 シュンビ 縣名。漢、置く。故城は河北省遵化縣の西北。〔漢書、地理志下〕右北平郡、縣十六、俊靡。

【俊弼】68 シュンヒツ すぐれた輔弼の臣。立派な補佐。〔陸雲、逸民箴〕朝有二俊弼一、野有二逸民一。

【俊品】69 シュンピン 上等の人物。〔桃花扇、開樹〕相親、風流俊品。

【俊敏】70 シュンビン 才智がすぐれて敏捷なこと。雋敏(11－41996・20)に同じ。

【俊風】71 シュンプウ 大風。南風。〔大戴禮、夏小正〕時有二俊風一。〔注〕俊者、大也、大風、南風也。

【俊辯】72 シュンベン すぐれてさとい辯舌。〔晉書、羊祜傳〕辭甚俊辯。〔南史、陳新安王伯固傳〕俊辯善二言論一。

【俊甫】73 シュンポ 宋、鄒斌(11－39562・46)の字。

【俊茂】74 シュンボウ 才智や學問が人にすぐれてゐる。又、其の人。雋茂。〔漢書、武帝紀贊〕孝武初立、卓然罷二黜百家一、表二章六經一、遂疇二咨海內一、擧二其俊茂一、與レ之立レ功。〔吳志、朱據傳評〕才藻俊茂、而智防未レ備。〔晉書、庾峻傳〕君兄弟復俊茂。〔陸機、辨亡論上〕疇二咨俊茂一。

【俊邁】75 シュンマイ すぐれ秀でる。俊出。才識卓越せる。俊秀(38)の❶に同じ。〔晉書、陸喜傳〕神情俊邁。〔世說新語、任誕〕陳郡袁毓、俊邁多能。〔宋史、蕭貫傳〕俊邁能文、尙二氣概一。〔宋史、王祐傳〕辭氣俊邁。

【俊味】76 シュンミ よいあじ。美味。〔陸雲、答二車茂安一書〕眞東海之俊味、肴膳之至妙也。

【俊民】77 シュンミン ❶すぐれた民。在野のすぐれた人。畯民。〔書、洪範〕俊民用章、家用平康。〔書、君奭〕汝克敬德、明二我俊民一。〔戰國、趙策〕俗辟而民易、是吳越無二俊民一也。〔陸厥、奉二答內兄希叔一詩〕自古多二俊民一。〔任昉、王文憲集序〕豈非二希世之俊民、瑚璉之宏器一。〔注〕善曰、汝南先賢傳曰、許劭年十八時、有二歎息曰一、此希世之偉人也。❷宋、陳亨運(11－41698・695)の字。

【俊明】78 シュンメイ 字號。❶宋、胡唐老(9－29400・54 6)の字。❶宋、李昂英(6－14459・1859)の字。

【俊雄】79 シュンユウ すぐれてつよいもの。〔鶡冠子、道端〕有道之君、任二用俊雄一、動明白。〔史記、

淮陰侯傳〕俊雄豪傑、連號壹呼。

【俊譽】80 シュンヨ すぐれたほまれ。俊才のほまれ。俊望。雋譽。〔吳澂、熊君佐墓誌銘〕先生幼敏悟、長治ニ進士一、蘋馳ニ俊譽一。

【俊朗】81 シュンラウ 才能がすぐれて心がほがらかなこと。〔梁書、元帝紀〕世祖聰悟俊朗、天才英發。

【俊良】82 シュンリヤウ 才能がすぐれてゐること。又、其の人・馬などをいふ。儁良。〔後漢書、馬融傳〕誓ニ六師一、搜ニ儁良一。〔注〕儁良、馬之善者。〔唐書、陳子昂傳〕誠能信ニ任俊良一。〔韓愈、請レ上ニ尊號一表〕左右前後、莫レ匪ニ俊良一。

【俊林】83 シュンリン 三國魏、夏侯儒（**3－5720‥106**）の字。

【俊烈】84 シュンレツ 才德が人にすぐれ、氣象のはげしいこと。〔王安石、答ニ韶州張殿丞一書〕雖ニ雄奇俊烈、道德滿衍一、不幸不レ爲ニ朝廷所一レ稱。

【得レ俊】85 シュンヲウ ㊀すぐれたものを得る。敵の雄俊の將士を虜にする。〔左氏、莊、十一〕得レ儁曰レ克。〔釋文〕儁、本作レ俊。〔會箋〕得レ儁、言ニ戰而獲ニ雄儁將士一也。㊁試驗に及第するをいふ。〔元稹、和下王侍郎酬中廣宣上人觀ニ放牓一後相賀上詩〕競ニ走墻前一稀レ得レ俊、高ニ懸日下一表レ無レ私。

【俋】675 ㊀チフ ㊁ヂフ 〔集韻〕直立切 緝 ㊂イフ 〔莊子釋文〕於十切 ㄧˋ i4

㊀㊁**耕すさま。耕人の行くさま。又、勇壯なさま。**俋俋。〔集韻〕俋、俋俋、耕人行皃。〔莊子、天地〕俋俋乎耕而不レ顧。〔釋文〕俋、徐、於執反、又、直立反、李云、耕貌、一云、耕人行貌、又、音秩、又、於十反、字林云、勇壯貌。

【㑌】676 ギフ ゴフ 〔集韻〕逆及切 緝

人の多いさま。〔集韻〕㑌、㑌㑌、人衆皃。

【俌】677 フ 〔集韻〕匪父切 麌

小篆 **たすけ。**輔（**10－38342**）に同じ。〔說文〕俌、輔也、从レ人甫聲、讀若レ撫。〔段注〕謂ニ人之俌、猶ニ車之輔一也、俌、見ニ爾雅釋詁一、弼・棐・輔・比、俌也、郭注云、俌、猶レ輔也、廣韻曰、俌、出ニ埤蒼一、今則輔專行、而俌廢矣。

【俍】678 ㊀リヤウ 〔集韻〕呂張切 陽 ㄌㄧㄤˊ liang2 ㊁ラウ 〔集韻〕郎宕切 漾 ㊂ラウ 〔集韻〕里黨切 養

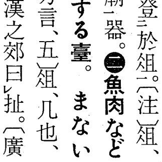
㊀㊁㊀**良い。巧み。良工。**〔集韻〕俍、良工也。〔莊子、庚桑楚〕工ニ乎天一而俍ニ乎人一者、惟全人能レ之。〔釋文〕俍、音良、崔云、良工也、又音浪。〔疏〕良、善也。㊁**さまよふ。**浪（**6－17482**）に通ず。俍倡（1）・俍傍（2）を見よ。㊂㊀**長いさま。**俍傷。〔廣韻〕俍、俍傷、長皃。㊁**平らでないさま。**儣俍。〔集韻〕俍、儣俍、不レ平。

【俍倡】1 リヤウシヤウ 迷ふ。梁昌。梁倡。〔楚辭、九辯〕然潢洋而不レ遇兮、注〕俍倡後レ時、無レ所レ遇也。

【俍傍】2 リヤウバウ さまよふ。踉傍。踉蹡。〔王延壽、夢賦〕爾乃三三四四、相隨俍傍而歷僻。〔古文苑注〕俍、音浪、俍傍、行不レ正貌。

【俎】679 シヨ ソ 〔集韻〕壯所切 語 ㄗㄨˇ tsu3

小篆 ㊀**祭祀・燕饗に牲を載せる器。**〔說文〕俎、禮俎也、从ニ半肉在ニ且上一。〔一切經音義、五〕字書曰、俎、亦四腳小盤也。〔詩、小雅、楚茨〕爲レ俎孔碩。〔禮、明堂位〕俎、有虞氏以レ梡、夏后氏以レ嶡、殷以レ椇、周以ニ房俎一。〔左氏、隱、五〕鳥獸之肉、不レ登ニ於俎一。〔注〕俎、祭ニ宗廟一器。㊁**魚肉などを料理する臺。まないた。**〔方言、五〕俎、几也、西南蜀漢之郊曰レ杫。〔廣雅、釋器〕俎、几也。〔史記、項羽紀〕樊噲曰、如今人方爲ニ刀俎一、我爲ニ魚肉一。㊂**高い臺。**〔史記、項羽紀〕爲ニ高俎一、置ニ太公其上一。〔注〕集解曰、如淳曰、高俎、几之上也、李奇曰、軍中巢櫓、謂ニ之俎一。㊃或は柤（**6－14642**）・爼（**7－19768**）に作る。〔集韻〕俎、或从レ木、从レ爿。㊄**姓。**〔奇姓通〕俎有用、慶都人、宣德中、任ニ五臺知縣一。



俎 ㊀（禮器圖）

解字 會意。仌と且との合字。仌は牲の半體の肉（全體を供へるに對する語）、且は祭臺。故に半體の肉が祭臺の上にあること。それより供物などを載せる臺の意。轉じて、まないたの意に用ひる。〔說文、俎、段注〕仌爲ニ半肉字一、如下酉谷有ニ半水一字上、會意字也、魯頌傳曰、大房、半體之俎也。

【俎行】1 ソカウ 淸、陳樽（海鹽の人）（**11－41698‥40**）の字。

【俎簋】2 ソキ 俎は牲を載せる器、簋は黍稷を盛る器。共に祭器。又、俎に載せた犧牲と簋に盛つた黍稷。〔周禮、春官、小史〕史以レ書、敍ニ昭穆之俎簋一。〔注〕玄謂、俎簋、牲與ニ黍稷一。

【俎距】3 ソキヨ 俎の中央の足の橫木。〔儀禮、少牢饋食禮〕長皆及ニ俎拒一。〔注〕拒、讀爲ニ介距之距一、俎距、脛中當レ橫節也。〔禮、明堂位〕俎、有虞氏以レ梡、夏后氏以レ嶡、殷以レ椇、周以ニ房俎一。〔注〕梡、斷レ木爲ニ四足一而已、嶡之言、蹷也、謂ニ中足一爲ニ橫距之象一、周禮謂ニ之距一。

【俎壺】4 ソコ 俎と壺。壺は酒器。共に祭器。〔左氏、襄、二十八〕以ニ俎壺一投、殺レ人而後死。〔會箋〕俎・壺、皆祭器。

【俎胾】5 ソシ 祭祀に用ひる肉。〔張栻、後杞菊賦〕淸酒百壺、鼎臑俎胾。

【俎實】6 ソジツ 俎に盛つた供物。〔周禮、夏官、量人〕掌ニ喪祭奠竁之俎實一。〔注〕竁、亦有ニ俎實一、謂ニ所レ包遣奠一。〔公羊、定、十四〕脤者何、俎實也。〔注〕實レ俎肉也。〔疏〕解云、謂ニ以レ肉塡ニ實於俎上一、故注云、實レ俎肉也、猶レ言ニ實レ俎之肉一也。〔史記、禮書、俎上ニ腥魚一注〕集解曰、鄭玄曰、大饗祫ニ祭先王一、以ニ腥魚一爲ニ俎實一。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕俎實非レ馨。〔注〕翰曰、俎、謂ニ祭器一也、實、謂ニ祭物一也。

【俎尊】7 ソソン 俎と樽。尊は樽。〔儀禮、公食大夫禮、注〕不レ言ニ繽錯俎尊一。

【俎豆】8 ソトウ ㊀祭祀に供物を盛る器。俎と豆。豆は高つき。禮器。且豆。〔禮、樂記〕簠簋俎豆、制度文章、禮之器也。〔管子、事語〕俎豆之禮、不レ致レ牲。〔史記、孔子世家〕常陳ニ俎豆一、設ニ禮容一。〔班固、東都賦〕獻酬交錯、俎豆莘莘。〔注〕銑曰、俎豆、禮器也。㊁まつりあげる。〔莊子、庚桑楚〕欲ニ俎ニ豆予于賢人之閒一。〔疏〕俎、切レ肉之几、豆、盛レ脯之具、皆禮器也、云云、方欲ニ禮レ我爲レ賢、尊レ我爲レ主。

【俎豆之事】9 ソトウノコト 禮文・儀式のこと。〔論語、衞靈公〕俎豆之事、則嘗聞レ之矣。〔疏〕對曰、俎豆行禮之事、則嘗聞レ之。

【俎味】10 ソミ 俎に載せる供物。〔張華、鷦鷯賦〕肉不レ登ニ乎俎味一。〔注〕向曰、肉不レ爲ニ俎豆之實一。

【俎上肉】11 ソジヤウノニク まないたの上にある肉。運命を人に支配されてゐる喩。袋の鼠。釜中之魚。〔史記、項羽紀〕如今人方爲ニ刀俎一、我爲ニ魚肉一。〔晉書、孔坦傳〕今由ニ俎上肉、任ニ人膾截一耳。

【越レ俎代レ庖】12 ソヲコエハウニカハル 尸祝が料理人に代つて料理する。我が分を踰えて他人の職權を犯す喩。〔莊子、逍遙遊〕庖人雖レ不レ治レ庖、尸祝不下越ニ樽俎一而代上レ之矣。

【俏】680 ㊀セウ 〔集韻〕七肖切 嘯 ㄑㄧㄠˋ ch'iao4 ㊁セウ 〔集韻〕思邀切 蕭

㊀㊀**にる。かたどる。**〔列子、力命〕佹佹

成者、俏ㇾ成也。〔注〕俏、似也。㊁みめよいさま。〔集韻〕俏、好皃。㊂肖(9－29263)に通ず。〔列子、楊朱〕人俏ニ天地之類一。〔釋文〕俏、本或作ㇾ肖。㊃現めざましい。流行向き。相場の上向。[二]㊀琴を反す聲。俏然。〔集韻〕俏、俏然、反ㇾ琴聲。〔莊子、讓王〕孔子俏然、反ㇾ琴而絃歌。〔釋文〕俏、如ㇾ字、李云、反ㇾ琴聲、亦作ㇾ梢、音消。〔盧文弨攷證〕宋本、梢作ㇾ俏。㊁或は削(2－2000)に作る。〔集韻〕俏、或作ㇾ削。

【俏貨】1 ch'iao^4 huo^4 掘り出しもの。

【俏爭】2 ch'iao^4 chêng^1 秀麗。美しい。

【俏時】3 ch'iao^4 shih^2 流行の。新式の。俏式。

【俏式】4 ch'iao^4 shih^4 流行の。新式の。俏時に同じ。

【俏生】5 ch'iao^4 shêng^1 生き生きとした。肖像などの生きたやうな感じのするもの。

〖俏生生的〗6 ch'iao^4 shêng^1 shêng tê 生き生きとした。かがやいた。

【俏然】7 セウゼン 琴を反す聲。字解[二]の㊀を見よ。〔集韻〕俏、俏然、反ㇾ琴聲。

【俏措】8 セウソ みめよいさま。〔廣韻〕俏、俏措、好皃。

【俏皮】9 ch'iao^4 p'i^2 ㊀粋な。意氣な。すつきりとした。㊁人をじらす。人を皮肉る。

〖俏皮話〗10 ch'iao^4 p'i^2 hua^4 諷刺を含んだ話。皮肉な話。氣の利いた話。しやれ言葉。俏僻話。歇後語(6－16141··15)に同じ。

【俏俐】11 ch'iao^4 li^4 風采の立派な。容貌の美しい。秀麗な。

【俏寃家】12 セウヱンカ 豚の頭の肉。一名、馬面。〔潘雅奏、小樓詩〕小樓燕子滾楊花、要ㇾ吃ニ梅酸一齲齒牙、三日懨懨愁病裏、堆盤怕見俏寃家。〔注〕俏寃家、卽豬頭肉、吳門陸稿薦家所ㇾ製甚佳、一名ニ馬面一。

【俏佳人】13 ch'iao^4 chia^1 jen^2 美人。

【俏僻話】14 ch'iao^4 p'i^4 hua^4 輕い諧謔を織り込んだ話。俏皮話(10)に同じ。

【俏門庭】15 ch'iao^4 men^2 t'ing^2 立派な官吏となるべき路。好門路。〔琵琶記、牛氏規奴〕兀的是少年子弟俏門庭、似寶粧行徑。

【俏樣子】16 ch'iao^4 yang^4 tzŭ 美しい姿。〔還魂記、鬧殤〕俏樣子等閑拋送。

【俏成俏敗】17 セウセイセウハイ 偶然の得失。俏は似る意。〔列子、力命〕佹佹成者、俏ㇾ成也、初非ㇾ成也、佹敗也、俏ㇾ敗也者、初非ㇾ敗也、故迷生ニ於俏一。

【俾】681

ヒ

俾(1－740)の俗字。〔字彙〕俾、俗俾字。

【俐】682

リ 〔字彙〕力至切 ㄌㄧˋ li^4 寘

さかしい。小りこう。〔字彙〕俐、伶俐。

【俐羅】1 li^4 luo^2 輕快。綺麗。

【俑】683

小篆

[一]ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 ㄩㄥˇ yung^3 腫
[二]トウ ツウ 〔集韻〕他東切 東

[一][二]㊀ひとがた。土葬の際死者と共に埋めるもの。偶人。〔集韻〕俑、一曰、偶人也。〔禮、檀弓下〕孔子謂下爲ニ芻靈一者善上、謂下爲ㇾ俑者不仁、不ㇾ殆ニ於用ㇾ人乎哉上。〔注〕俑、偶人也、有ニ面目機發一、有ㇾ似ニ於生人一。〔孟子、梁惠王上〕始作ㇾ俑者、其無ㇾ後乎、爲ニ其象ㇾ人而用ㇾ之也。〔注〕俑、偶人也。〔謝惠連、祭ニ古冢一文〕撫ㇾ俑增ㇾ哀。〔注〕善曰、埤蒼曰、俑、木送ㇾ葬也、餘腫切。〔通典、禮典、凶、喪制之四、薦ニ車馬明器一及飾棺〕傳曰、俑、偶人也、有ニ面目機發一、似ニ於生人一。㊁いたむ。いたみ。〔說文〕俑、痛也、从ㇾ人甬聲。

【作ㇾ俑】1 ヨウヲツクル ヨウヲナス よからぬ例を作る。古は葬るとき、草を束ねた人形を死者と共に埋めたが、中古に及んで、木偶人を以て草人に代へた。然るに其の形が、甚だ人に似てゐたので、後世の殉死の端を開いた。故に不善のことを首唱する意に用ひる。俑は木偶人。〔禮、檀弓下〕孔子謂下爲ニ芻靈一者善上、謂下爲ㇾ俑者不仁、不ㇾ殆ニ於用ㇾ人乎哉上。〔陳澔集說〕束ㇾ草爲ニ人形一、以爲ニ死者之從衞一、謂ニ之芻靈一、略似ニ人形一而已、亦明器之類也、中古爲ニ木偶人一、謂ニ之俑一、則有ニ面目機發一、而太似ㇾ人矣、故孔子惡ニ其不仁一、知ニ末流必有ニ以ㇾ人殉ㇾ葬者一。〔孟子、梁惠王上〕仲尼曰、始作ㇾ俑者、其無ㇾ後乎、爲ニ其象ㇾ人而用ㇾ之也。〔注〕俑、偶人也、用ㇾ之送ㇾ死、仲尼重ニ人類一、謂秦穆公時、以ニ三良一殉葬、本由ㇾ有ニ作ㇾ俑者一也、惡ニ其始造一、故曰、此人其無ニ後嗣一乎。〔疏〕埤蒼云、木人送ㇾ葬、設ㇾ機而能踊跳、故名ㇾ之曰ㇾ俑。〔書言故事、評論類〕倡ニ端不善一、謂ㇾ作ㇾ俑。

【倇】684

小篆

コン ゴン 〔集韻〕胡困切 願
慣クヮン

㊀まつたし。〔說文〕倇、完也、云、从ㇾ人从ㇾ完。㊁けがす。はづかしめる。慁(4－11035)に通ず。〔說文〕倇、逸周書曰、朕實不明、㠯倇ニ伯父一。〔段注〕倇、當ㇾ爲ニ溷字之假借一、經史亦作ㇾ慁、儒行曰、不ㇾ倇ニ君王一、注、倇、猶ㇾ辱也、云、此引ㇾ經說ニ叚借一之例。〔說文通訓定聲〕倇、叚借爲ㇾ慁。

解字 會意形聲。人と完との合字。完は又聲。完と同義で全き意。假借して慁(けがす)とす。〔說文通訓定聲〕倇、完也、从ㇾ人从ㇾ完、會意、完亦聲。

【俓】685

[一]ガウ ギヤウ 〔集韻〕魚莖切 庚
[二]ゲン 〔集韻〕輕煙切 先
[三]ケイ キヤウ 〔集韻〕古定切 ㄐㄧㄥˋ ching^4 徑
[四]ケイ キヤウ 〔集韻〕堅正切 敬

[一][二]㊀いそぐ。〔廣韻〕俓、急也。㊁わざ。〔集韻〕俓、伎也。㊂或は倂(1－445)に作る。〔集韻〕俓、或作ㇾ倂。[三]㊀なほい。〔集韻〕俓、直也。㊁かたい。〔集韻〕俓、堅也。㊂とほり過ぎる。〔廣雅、釋詁三〕俓、過也。〔釋名、釋道〕俓、經也。〔史記、司馬相如傳〕俓ㇾ峻赴ㇾ險。㊃まつすぐな波。徑(4－10118)に通ず。〔爾雅、釋水〕直波爲ㇾ俓。〔釋文〕俓、字或作ㇾ徑。[四]わざ。〔集韻〕俓、伎也。

【俓侹】1 ケイテイ 直い。〔廣韻〕侹、俓侹、直也。

【俔】686

小篆

[一]ケン 〔集韻〕輕甸切 ㄑㄧㄢˋ ch'ien^4 霰
[二]ケン ゲン 〔集韻〕胡典切 ㄒㄧㄢˇ hsien^4 銑

[一]㊀たとへ。たとへる。〔說文〕俔、諭也、从ㇾ人从ㇾ見、詩曰、俔ニ天之妹一。〔詩、大雅、大明〕俔ニ天之妹一。〔傳〕俔、磬也。〔釋文〕磬、譬也。㊁うかがひ見る。〔說文〕俔、一曰、閒見。㊂或は悓(4－10658)に作る。〔集韻〕俔、或从ㇾ心。[二]㊀たとへ。〔集韻〕俔、譬喩也。㊁閒諜。まはしもの。〔爾雅、釋言〕閒、俔也。〔注〕左傳謂ニ之諜一、卽今之細作也。〔字彙〕俔、諜也、卽今之細作也。㊂かざみ。船上の候風羽。綄(8－27486)に通ず。〔說文通訓定聲〕俔、段借爲ㇾ綄。〔淮南子、齊俗訓〕辟若ニ俔之

見レ風也、無二須臾之閒定一矣。〔注〕俔、候レ風者也、世之所謂五兩者也。❹**うかがひ視るさま。一に、恐懼のさま。**睍（8−23392）に通ず。〔韓吏部集、潮州祭二鱷魚一文〕刺史雖二駑弱一、亦安肯爲二鱷魚一、低レ首下レ心、伈伈俔俔、爲二吏民羞一、以偸二活於此一邪。〔朱文公校昌黎先生集、鱷魚文〕伈伈睍睍。〔注〕恐懼貌、睍、小目貌、今按、睍、俔也。

名乘 ミ。

【俔俔】1 ケンケン 恐懼のさま。字解［二］の❹を見よ。

【俔天】2 ケンテン 立派な人。天帝の妹にも譬ふべき美しい人。詩經大明の俔二天之妹一の略。〔詩、大雅、大明〕大邦有レ子、俔二天之妹一。〔傳〕俔、磬也。〔箋〕又知二大姒之賢一、尊レ之如三天之有二女弟一。〔後漢書、胡廣傳〕俔天必有二異表一。〔注〕設文曰、俔、譬諭也、詩云、文王嘉止、俔二天之妹一、文王聞二大姒之賢一、則美レ之、言、大邦有二子女一、譬三天之有二女弟一、故求爲二之配一焉。〔南史、后妃傳論〕宋氏因二晉之舊典一、聘納有レ方、俔天作レ儷、必四岳之後。

【⿰亻析】687 ［一］テイ 〔集韻〕丑制切 ［霽］ ［二］エイ 〔玉篇〕夷世切 ［霽］ ［三］セツ セチ 〔集韻〕之列切 ［屑］

［一］［二］❶**つぎあはせる。**或は箯（8−25974）に作る。〔玉篇〕⿰亻析、亦作レ箯、所三以合二版際一也。❷**きざむ。**〔集韻〕⿰亻析、刻也。［三］**きざむ。**〔集韻〕⿰亻析、刻也、謂二相難折一也。

【⿰亻忒】688 トク 〔字彙〕胎德切 ［職］

おろか。むさぼる。〔字彙〕⿰亻忒、僋⿰亻忒也。

【⿰亻攵】689 イウ ユ 〔集韻〕夷由切 ［尤］

❶攸（5−13113）に同じ。〔集韻〕攸、或作レ⿰亻攵。❷**姓。**〔字彙〕⿰亻攵、姓也。

【⿰亻坒】690 ヘイ バイ 〔集韻〕部禮切 ［薺］

脚を開いて歩む。偕㒈。〔廣韻〕偕、偕㒈、開レ脚行也。

【⿰亻杀】691 ［一］サン 〔集韻〕蘇紺切 ［勘］ ［二］サン 〔集韻〕桑感切 ［感］

［一］❶**老いぼれる。**老いて役に立たない。僋⿰亻杀。〔玉篇〕僋、僋⿰亻杀、老無二宜適一也。❷**おろかなさま。**僋⿰亻杀。〔廣韻〕僋、僋⿰亻杀、癡貌。❸**清くないさま。**僋⿰亻杀。〔廣韻〕僋、僋⿰亻杀、不レ淨也。［二］**無作法。**僋⿰亻杀。〔集韻〕僋、僋⿰亻杀、無レ儀。

【⿰亻弄】692 ロウ ル 〔集韻〕盧貢切 ［送］

❶**おろか。**〔字彙〕⿰亻弄、戇愚也。❷⿰忄弄（4−10628）の譌字。〔集韻〕⿰忄弄、或从レ人。〔康熙字典〕⿰亻弄、按、⿰亻弄字、諸書無レ據、當二卽⿰忄弄字之譌一。

【⿰亻⿱火廾】693 ヨウ 〔集韻〕以證切 ［徑］ 小篆

❶**おくる。又、つきびと。**或は媵（3−6575）・侯（1−626）・佚（1−619）・⿰亻⿱关女（1−885）に作る。〔說文〕⿰亻⿱火廾、送也、从レ人弁聲、呂不韋曰、有侁氏以二伊尹一侯レ女。〔段注〕侯、今之媵字、釋言曰、媵・將、送也、云云、送爲二媵之本義一、以二姪娣一送レ女、乃其一耑耳、公羊傳曰、媵者何、諸侯娶二一國一、則二國往媵レ之、以二姪娣一從、是也、今義則一耑行、而全者廢矣、今形从レ女者、由二一耑之義獨行一故也。〔集韻〕⿰亻⿱火廾、或作二媵・⿰亻⿱关女一。〔中華大字典〕⿰亻⿱火廾、或作二侯・佚一。❷古は訓の字に假り用ひる。一說に、揚（5−12355）に通じ、あげる義といふ。〔說文〕⿰亻⿱火廾、古文以爲二訓字一。〔段注〕訓當レ作レ揚、由レ揚譌レ詠、由レ詠復譌レ訓、始則聲誤、終則字誤耳。〔說文通訓定聲〕⿰亻⿱火廾、叚借爲レ訓、說文曰、古文以爲二訓字一。

解字 形聲。人に從ひ、弁は聲。六書正譌は會意とす。人と火と廾との合字。火は炊事に必要なもの。廾は奉承の意。⿰亻⿱火廾は炊事に從事し、人の命令を奉承するものであるから、人・火・廾の三つを合せて其の意を示す。〔六書正譌〕⿰亻⿱火廾、从レ人从レ火者、食飮所レ先、从レ廾者、奉承之義、此⿰亻⿱火廾之事也、會意。

【⿰亻否】694 ハイ 〔集韻〕普罪切 ［賄］

❶**承諾しない。**〔廣韻〕⿰亻否、不レ肯也。〔集韻〕⿰亻否、不可也。❷倍（1−820）の譌字。〔正字通〕⿰亻否、倍字之譌、六書故、倍作レ⿰亻否、舊本譌作レ⿰亻否、不可也。

【俗】695 ショク ゾク 〔集韻〕松玉切 ［沃］ ムメ su² 小篆

❶**ならひ。ならはし。風俗。**〔說文〕俗、習也、从レ人谷聲。〔玉篇〕俗、風俗也。〔周禮、地官、大司徒〕六曰、以レ俗教レ安。〔注〕俗、謂二土地所レ生習一也。〔禮、曲禮上〕入レ國而問レ俗。〔注〕俗、謂二常所レ行與レ所レ惡也。〔淮南子、氾論訓〕循レ俗、未レ足レ多也。❷**のぞみ。**〔釋名、釋言語〕俗、欲也、俗人所レ欲也。〔荀子、解蔽〕由レ俗謂二之道一、盡レ嗛矣。❸**つぐ。**〔周禮、地官、土均〕禮俗喪紀祭祀。〔注〕禮俗、邦國都鄙、民之所レ行先王舊禮也。〔疏〕俗者、續也、續レ代不レ易、是知二先王舊禮一。❹**世のつね。なみ。**凡庸。〔呂覽、情欲〕俗主虧レ情。〔注〕俗主、凡君也。❺**いやしい。ひくい。**雅（11−41973）の對。〔後漢書、班彪傳〕然多二鄙俗一。〔范甯、穀梁傳序〕公羊辯而裁、其失也俗。❻**世の中。世の人。**〔漢書、鄒陽傳〕係二於俗一、牽二於世一。〔吳志、虞翻傳〕性不レ協レ俗、多見二謗毀一。❼**出家しない人。**僧（1−1117）の對。〔宋書、徐湛之傳〕世祖命使レ還レ俗。❽古は⿱仌土（3−4891）に作る。〔集韻〕俗、古作レ⿱仌土。

名乘 ヨ。ミチ。

【俗埃】1 ゾクアイ 世の中のちり。俗事。〔劉道昌、龜市告別詩〕還丹功滿氣成レ胎、九百年來混二俗埃一。

【俗惡】2 ゾクアク ❶風俗が惡い。〔南史、虞玩之傳〕投二皁莢於地一曰、卿鄉俗惡、虞玩之至レ死煩レ人。❷いやしく醜い。俗陋。

【俗意】3 ゾクイ 世俗の心。〔滄浪詩話〕學レ詩、先除二五俗一、云云、二曰、俗意。

【俗醫】4 ゾクイ 凡俗な醫者。〔陸游、詩〕病去俗醫疎。

【俗音】5 su² yin¹ なまつた音。訛音。

【俗院】6 ゾクヰン 俗人を宿泊させる寺中の房。〔高啓、夜投二西寺一詩〕鐘度二行廊一盡、燈留二浴院一微。

【俗韻】7 ゾクヰン 野卑な調子。卑しい音。〔白居易、鄧魴張徹落第詩〕古琴無二俗韻一、奏罷無二人聽一。〔滄浪詩話〕學レ詩先除二五俗一、五曰、俗韻。

【俗謠】8 ゾクエウ ❶地方の歌。〔杜甫、朝享二太廟一賦〕采二龐俗之謠一、稽二正統之類一。❷一般民閒に行はれる歌曲。通俗の謠ひ物。古くは催馬樂・風俗歌・今樣・早歌の類、近くは小唄・箏歌・長唄・端唄の類の總稱。謠諺（10−35832・・8）・童謠（8−25775・・4）・民謠（6−17028・・12）を見よ。

【俗易】9 ゾクエキ 風俗がかはること。〔元田永孚、幼

學綱要序〕風移俗易、民唯務ニ於知識才藝一、棄レ本趨レ末、遂將レ至レ不レ知三仁義忠孝之爲二何物一。

【俗緣】10ゾクエン ❶世の中のゆかり。塵緣。〔傳燈錄〕俗緣未レ盡、愼勿ニ相近一。〔蘇軾、寄ニ劉孝叔一詩〕逝將ニ棄レ官往卒一レ業、俗緣未レ盡那得レ覩。❷佛僧とならない時の緣族。〔續高僧傳、二十九〕釋智興、俗緣宋氏。

【俗歌】11ゾクカ ひなびたうた。はやりうた。民謠。俚歌。俗曲。〔陸機、晉平西將軍孝侯周處碑〕俗歌揆レ日、人謠何暮。

【俗我】12ゾクガ 佛肉體と精神とから成る所謂人閒をいふ。佛教では絕對不變の我ガ（實我）を排斥するから、吾人を指すのに單に我といはないで、假我ケ・俗我といふ。

【俗界】13ゾクカイ 凡俗の世界。俗境。俗世閒。

【俗解】14ゾクカイ 通俗な解釋。〔國朝漢學承記、汪光爔〕以レ稗爲レ秕者、乃俗解非ニ古訓一也。

【俗好】15ゾクカウ 俗人のこのみ。〔吳志、魯肅傳、注〕內外節儉、不レ務ニ俗好一。〔歐陽脩、希眞堂東手種ニ菊花一十月始開詩〕鬬レ紫誇レ紅隨ニ俗好一。

【俗客】16ゾクカク ❶風流文雅の道を解しない客。無學不風流の人。俗人。平凡な客。俗賓。〔杜甫、將レ赴ニ成都草堂一云云寄ニ嚴鄭公一詩〕休レ怪兒童延ニ俗客一。❷すももの花の異名。李花。〔三柳軒雜識〕李花爲ニ俗客一。❸棣棠の花の異名。三十客（1－12・・733）を見よ。〔西溪叢話〕棣棠爲ニ俗客一。

【俗樂】17ゾクガク 雅純でない音樂。俗世閒に行はれる音樂。主として三絃樂・箏曲・俗謠等の稱。〔文獻通考、樂考、俗樂部〕乃更置ニ左右教坊一以教ニ俗樂一。

【俗學】18ゾクガク 高尙でない學問。いやしい世俗閒の學問。〔莊子、繕性〕繕ニ性於俗學一、以求レ復ニ其初一。〔注〕已已治ニ性於俗一矣、而欲下以ニ俗學一復中性命之本上、所ニ以求一者、愈非ニ其道一也。〔北史、江式傳〕俗學鄙習。

【俗閒】19ゾクカン よのなか。世閒。〔漢書、游俠、陳遵傳〕浮ニ湛俗閒一。〔顏氏家訓、勉學〕俗閒儒士。

【俗漢】20ゾクカン 俗人（79）に同じ。

【俗眼】21ゾクガン 俗人のまなこ。平凡な見かた。いやしい見識。俗目。〔集異記〕俗眼不レ識ニ神仙一。〔杜甫、丹青引贈ニ曹將軍霸一〕途窮反遭ニ俗眼白一、世上未レ有ニ如レ公貧一。

【俗忌】22ゾクキ 世俗の忌む事柄。〔宋書、王鎭惡傳〕父休爲ニ河東太守一、鎭惡以ニ五月五日一生、家人以ニ俗忌一、欲レ令三出ニ繼疎宗一、猛見奇レ之曰、此非ニ常兒一、昔孟嘗君、惡月生而相レ齊、是兒亦將レ興ニ吾門一矣、故名レ之爲ニ鎭惡一。

【俗氣】23 su² ch'i⁴ ❶賤しい氣分。野鄙な感じ。俗臭。俗氛。❷煩雜。邪魔。

【俗議】24ゾクギ 卑俗な議論。俗論。〔史記、李斯傳〕察ニ其本一、乃與ニ俗議一之異。

【俗境】25ゾクキャウ ❶俗世閒。世の中。俗人の境涯。俗界。❷無風流な場所。

【俗形】25′ゾクギャウ 僧侶でない、一般の人の姿。

【俗曲】26ゾクキョク 世俗に行はれる歌。卑しい歌曲。

【俗襟】27ゾクキン 世俗の塵のついた襟。〔文同、入谷馬上詩〕愛ニ此喦泉好一、臨レ流浣ニ俗襟一。

【俗句】28ゾクク 通俗な句。〔滄浪詩話〕學レ詩、先除ニ五俗一、云云、三曰、俗句。

【俗化】29ゾククワ ❶風俗教化の略。〔漢書、宣帝紀〕然而俗化闕焉。〔何晏、景福殿賦〕察ニ俗化之誠僞一。〔李覯、袁州州學記〕俗化之厚、延ニ于靈獻一。❷世俗の風に感化されること。惡い風俗に感化して行くこと。

【俗畫】30ゾクグワ つまらぬいやしい繪。俗人のよろこぶ繪。〔名畫記〕不レ可下以ニ俗畫一傳中其意旨上。

【俗懷】31ゾククワイ いやしい心。俗情。俗念（99）に同じ。

【俗官】32ゾククワン 出家以外の者の任ぜられる官職。〔神皇正統記〕法師の官に任ずることは、唐より始まりて、云云、出家の本意に非ざるべし、況んや俗官に任ずることあるべからぬ事にこそ。

【俗寰】33ゾククワン 俗世界。塵寰（3－5388・・49）に同じ。

【俗家】34ゾクケ 佛僧侶に對して、普通の人の家をいふ。在家（3－4881・・13）に同じ。

【俗計】35ゾクケイ 世俗の生計。〔顏氏家訓、歸心〕汝曹若顧ニ俗計一、樹ニ立門戶一、不レ棄ニ妻子一、未レ能ニ出家一、但當下兼ニ修戒行一、留ニ心誦讀一、以爲中來世津梁上、人身難レ得、勿ニ虛過一也。

【俗教】36ゾクケウ 一般民衆の教。〔管子、七法〕百匿傷ニ上威一、姦吏傷ニ官法一、姦民傷ニ俗教一、賊盜傷ニ國衆一、威傷則重在レ下、法傷則貨上流、教傷則從レ令者不レ輯、衆傷則百姓不レ安ニ其居一。

【俗激】37ゾクゲキ 新書の篇名。

【俗見】38ゾクケン ❶禮容を具へないで面會する。〔韓詩外傳、八〕越王句踐、使ニ廉稽獻ニ民於荊王一、荊王使者曰、越、夷狄之國也、臣請、欺ニ其使者一、荊王曰、越王賢人也、其使者亦賢、子其愼レ之、使者出、見ニ廉稽一曰、冠則得ニ以俗見一、不レ冠不レ得レ見、廉稽曰、夫越、亦周室之列封也、不レ得レ處ニ於大國一、而處ニ江海之陂一、與ニ魭鱣魚鼈一爲レ伍、文身翦髮、而後處焉、今來至ニ上國一、必曰下冠得ニ俗見一、不レ冠不上レ得レ見、如レ此、則上國使適レ越、亦將ニ劓墨文身翦髮、而後得ニ以俗見一可乎、荊王聞レ之、披レ衣出謝、孔子曰、使ニ於四方一、不レ辱ニ君命一、可レ謂ニ士矣。❷俗の見識。つまらぬ見解。

【俗喧】39ゾクケン 世の中のさわがしいこと。〔林逋、山中冬日詩〕殘雪照ニ籬落一、空山無ニ俗喧一。

【俗嫌】40ゾクケン 中鑒の篇名。

【俗言】41ゾクゲン ❶俗世閒に使用する言葉。俗語。諺。雅言（11－41973・・46）の對。〔左氏、隱、十一、周諺有レ之曰、注〕諺、俗言也。〔蘇轍、謝レ除ニ中書舍人一表〕孰知ニ悟俗之言一、特被ニ愛君之詔一。〔冷齋夜話〕老杜八仙詩、序ニ李白一曰、天子呼來不レ上レ船、方俗言也。❷世人のとりさた。世閒のうはさ。

【俗諺】42ゾクゲン 民閒に行はれることわざ。俚諺。下世話セワ。〔魏書、邢巒傳〕且俗諺云、耕則問ニ田奴一、絹則問ニ織婢一。〔顏氏家訓、敎子〕吾見ニ世閒無レ教而有レ愛、每不レ能レ然、飮食運爲、恣ニ其所レ慾、宜レ誡翻獎、應レ訶反笑、至レ有ニ識知一謂ニ法當一耳、驕慢已習、方復制レ之、捶撻至レ死而無レ威、忿怒日隆而增レ怨、逮ニ于成長一、終爲ニ敗德一、孔子云、少成若ニ天性一、習慣如ニ自然一、是也、俗諺曰、敎レ婦初來、敎レ兒嬰孩、誠哉斯語。

【俗語】43ゾクゴ いやしいことば。野卑な詞。日常民閒で用ひることば。又、俗世閒に行はれてゐることわざ。諺。雅語（11－41973・・50）の對。俗語の詩歌文章に見えたものとしては、古くは說苑善說篇に、戰國時代の楚の大夫莊辛の引いた越の舟人歌の如きものがあるが、これは全く越の地方の俗語を用ひたもので、其の意は解しがたく、莊辛は聽者の爲に更に通譯によつて之を楚語に譯してゐる。降つて六朝の晉宋の頃の子夜四時歌の中には、儂ワレ・歡（情人をさす）・郎（女が情夫をさす）・底ニナ・那ゾナン・覓モトム・轉ウタタ・許カクノゴトキ・奈イカニセン・阿那・唐突の類があり、唐人の詩にも生憎・好取・祇今・還將・妬殺・無那等の語がある。〔大學、諺有レ之、章句〕諺、俗語也。〔後漢書、蔡邕傳〕諸生競レ利、作者鼎沸、其高者、頗引ニ經訓風喩之言一、下則連ニ偶俗語一、有レ類ニ俳優一。

〔參考書〕【俗語難字】一卷、李少通撰（唐書藝文志）・【釋俗語】八卷 劉齊撰（唐書、藝文志）・【俗言】一卷 明、楊愼撰（函海、第六十冊）・【南詞敍錄】一卷 明、徐渭撰（誦芬室叢刊、第二編、第七十三冊）・【恆言錄】六卷 清、錢大昕撰・【方言藻】二卷 清、李調元撰・【直語補證】一卷 清、梁同書撰・【廣東俗語考】民國、孔仲南撰・【俗語典】民國、胡韞玉撰。

【俗語解】44ゾクゴカイ 書名。寫本。八冊。澤田一齋撰。一名、俗話解、又、淸語譯解といふ。小說傳奇の俗語をいろは順に配列して注解し、閒〻唐音を附し、注解には夫々引用書目を記し、又、編者の說を加へて說明が精詳である。附錄に、雜劇名色・娼妓名色（附、嫖客名色・男風名色）・金陵六院市語・閨門名色・顏色差別の五類を載す。

【俗語譯義】45ゾクゴヤクギ 書名。寫本二卷。留守希齋撰。此の書は語錄解義・唐話纂要・字海便覽等を主とし、中國の語錄・野史・方言・俚語の難解な語句を解說す。

【俗講】46ゾクコウ 佛說教の席で教義を說かずに、一般向きの講演をすること。〔資治通鑑、唐紀〕（敬宗、寶曆二年）觀ニ沙門文淑俗講一。〔注〕釋氏講說、類談ニ空有一、而俗講者、又不レ能レ演ニ空有之義一、徒以悅レ俗邀ニ布施一而已。

【俗骨】47ゾクコツ いやしい氣質。凡骨。仙骨（1－374・・82）の對。〔王貞白、寄ニ天台葉尊師一詩〕念予

無ニ俗骨一、頻與ニ鶴書一招。〔蘇軾、辨道歌〕一丹休レ別内外砂、長修久餌須ニ升遐一、腸中澄結無ニ餘相一、俗骨變換顏如レ葩。

【俗才】48 ゾクサイ 世の中の事がらに長けたはたらき。處世の才。世才。

【俗煞】49 ゾクサイ 俗つぽくなる。煞は助字。俗殺。俗了。〔張問陶、詩〕俗煞汾陽軟脚筵。

【俗材】50 ゾクザイ 凡庸な人物。世間なみのつまらぬ人間。〔唐書、閻立本傳〕既輔レ政、但以應レ務、俗材無ニ宰相器一。

【俗草】51 ゾクサウ つまらないくさ。雜草。〔海錄碎事、草木、草〕枝下無ニ俗草一、所レ植唯蘭孫。

【俗操】52 ゾクサウ 俗世間的虛飾的な操行。〔晉書、王接傳〕(接)性簡率、不レ修ニ俗操一。

【俗雜】53 ゾクザツ 卑俗で雜駁なこと。〔史記、貨殖傳〕俗雜好レ事、業多レ賈。

【俗士】54 ゾクシ 見識の低いつまらぬ人。〔後漢書、劉梁傳〕常疾下世多ニ利交一、以ニ邪曲一相黨上、乃著ニ破羣論一、時之覽者以爲、仲尼作ニ春秋一、亂臣知レ懼、今此論之作、俗士豈不レ愧レ心。〔蜀志、諸葛亮傳、注〕儒生俗士、豈識ニ時務一。〔沈約、恩倖傳論〕都正俗士、斟ニ酌時宜一、品目少多、隨レ事俛仰。

〔俗士駕〕55 ゾクシノガ 俗士の乘るのりもの。〔孔稚珪、北山移文〕請回ニ俗士駕一、爲レ君謝ニ逋客一。

【俗子】56 ゾクシ 卑俗な人。俗物。俗人。〔蘇軾、重寄詩〕好詩衝レ口誰能擇、俗子疑レ人未ニ遣聞一。〔陸游、春殘詩〕庸醫司ニ性命一、俗子議ニ文章一。

【俗思】58 ゾクシ 利欲の念。又、世間的な考。〔莊子、繕性〕滑ニ欲於俗思一、以求レ致ニ其明一。

【俗師】59 ゾクシ 學識の低いつまらぬ先生。〔漢書、藝文志〕倉頡多ニ古字一、俗師失ニ其讀一。

【俗字】60 ゾクジ ❶漢字本來の正字に對して、一般に通用する俗體の文字をいふ。雄(雄)・臺(臺)・囬(回)・耻(恥)・吊(弔)・胆(膽)・却(卻)・竒(奇)の類。〔干祿字書、序〕書以ニ平上去入四聲一爲レ次、具言ニ俗通正三體一、偏旁同者、不ニ復廣出一、字有ニ相亂一、因而附焉、所謂俗者、例皆淺近、唯籍帳・文案・劵契・藥方、非レ涉ニ雅言一、用亦無レ爽、儻能改革、善不レ可レ加、所謂通者、相承久遠、可ニ以施ニ表奏・牋啓・尺牘・判狀一、固免ニ詆訶一、所謂正者、並有ニ憑據一、可ニ以施ニ著述・文章・對策・碑碣一、將レ爲ニ允當一。〔顏氏家訓、雜藝〕晉宋以來、多ニ能書者一、故其時俗、遞相染尙、所レ有部帙、楷正可レ觀、不レ無ニ俗字一、非レ爲ニ大損一、至ニ梁天監之閒一、斯風未レ變、大同之末、訛替滋生、蕭子雲改ニ易字體一、邵陵王頗行ニ僞字一、前上爲レ草、能傍作レ長之類、是也、朝野翕然以爲ニ楷式一、畫レ虎不レ成、多レ所ニ傷敗一。❷風雅でない文字。〔滄浪詩話〕學レ詩、先除ニ五俗一、云云、四曰、俗字。

【俗耳】61 ゾクジ 卑俗な耳。俗人の耳。〔韓愈、懸齋讀書詩〕哀狖醒ニ俗耳一、清泉潔ニ塵襟一。

〔俗耳針砭〕62 ゾクジノシンペン 俗人の耳を治療して風雅にするもの。俗人が聞いて自ら戒め省みるべきもの。針砭は醫療のはり。南朝宋の戴顒が黃鸝の聲を愛して述べた語。〔世說新語補、言語下〕戴仲若、春日攜ニ雙柑斗酒一、人問ニ何之一、答曰、往聽ニ黃鸝聲一、此俗耳針砭、詩腸鼓吹。

【俗事】63 ゾクジ 世の中のうるさいことがら。世間の雜事。俗用。〔晉書、王獻之傳〕多言ニ俗事一。〔神仙傳〕欒巴少而好レ道、不レ修ニ俗事一。〔包佶、秋日過ニ徐氏圓林一詩〕屢入ニ忘レ歸地一、長嗟ニ俗事牽一。

【俗辭】64 su² tz'ŭ² 世俗の言辭。

【俗臭】65 ゾクシウ 世俗のにほひ。野卑なおもむき。俗氣。俗氛(109)に同じ。

〔俗臭紛紛〕66 ゾクシウフンプン 甚しく下卑なこと。

【俗習】67 ゾクシフ 世俗の風習。世のならはし。轉じて、野卑なしきたり。

【俗尙】68 ゾクシヤウ 世俗の好み。〔文同、讀ニ楊山人詩一詩〕俗尙正淫靡。

【俗狀】69 ゾクジヤウ 世俗のありさま。〔孔稚珪、北山移文〕焚ニ芰製一而裂ニ荷衣一、抗ニ塵容一而走ニ俗狀一。

【俗情】70 ゾクジヤウ 俗人の心。名利などにあこがれる心。又、野卑な風情。〔陶潛、辛丑歲七月赴レ假還ニ江陵一夜行ニ塗口一作詩〕詩書敦ニ夙好一、園林無ニ俗情一。

【俗主】71 ゾクシユ 平凡な君主。〔呂覽、務本〕俗主之佐、其欲ニ名實一也。

【俗儒】72 ゾクジユ 見識の無いつまらぬ儒者。〔韓詩外傳、五〕有ニ俗儒者一、有ニ雅儒者一。〔荀子、儒效〕有ニ俗人者一、有ニ俗儒者一、有ニ雅儒者一、有ニ大儒者一。〔後漢書、桓譚傳〕憙非ニ毀俗儒一、由レ是多見ニ排詆一。〔李白、登ニ廣武古戰場一懷古詩〕撥亂屬ニ豪聖一、俗儒安可レ通。

〔俗儒不レ達ニ時宜一〕73 ゾクジユハジギニタツセズ 俗儒は時勢に暗い。〔漢書、元帝紀〕且俗儒不レ達ニ時宜一、好是レ古非レ今、使ニ人眩ニ於名實一、不レ知レ所レ守、何足ニ委任一。〔資治通鑑、漢紀、宣帝甘露元年、注〕風俗通曰、儒者、區也、言、其區ニ別古今一、居則翫ニ聖哲之辭一、動則行ニ典籍之道一、稽ニ先生之制一、立ニ當時之事一、此通儒也、若能納而不レ能レ出、能言而不レ能レ行、講誦而已、無ニ能往來一、此俗儒也。

【俗書】74 ゾクシヨ ❶風雅でない筆蹟。高尙でない書風。〔韓愈、石鼓歌〕羲之俗書趁ニ姿媚一、數紙尙可レ博ニ白鵝一。❷世俗に行はれる書籍。つまらぬ書。俗書刊誤を見よ。

〔俗書刊誤〕75 ゾクシヨカンゴ 書名。十二卷。明、焦竑撰。譌字を正し、字義を考へ、音義を辨じて僻論がなく、頗る詳明である。〔四庫提要、經、小學類〕。

【俗稱】76 ゾクシヨウ 世の人の言ひなれたよび名。とほり名。又、法名(**6**―**17290**・・318)の對。俗名。

【俗宂】77 ゾクジヨウ 世俗の雜務。俗務。〔王惲、詩〕我久汨ニ俗宂一、對レ之心暫閑。

【俗心】78 ゾクシン さとりの開けない心。名譽利益にひかれる心。〔庾信、擬ニ詠懷一詩〕索索無ニ眞氣一、昏昏有ニ俗心一。

【俗人】79 ゾクジン ❶凡庸の人。俗漢。俗子。〔老子、二十〕俗人昭昭。〔荀子、儒效〕有ニ俗人者一、有ニ俗儒者一、云云、不ニ學問一、無ニ正義一、以ニ富利一爲レ隆、是俗人者也。〔漢書、王莽傳下〕今俗人議者、率多レ若レ此。〔陸游、雜興詩〕正自一時偶爾、俗人平地生レ疑。❷佛ゾクニン 僧侶に對し、出家せぬ人をいふ。

【俗世】80 ゾクセイ 此の世の中。〔拾遺記、周靈王〕孔子生ニ於魯襄公之世一、云云、天帝下奏ニ鈞天之樂一、列ニ於顏氏之房一、空中有レ聲、言、天感レ生ニ聖子一、故降以ニ和樂笙鏞之音一、異ニ于俗世一也。

〔俗世閒〕81 ゾクセケン 俗人の世。人の世。出世閒(**2**―**1811**・・210)に對していふ。

【俗姓】82 ゾクセイ 僧とならぬ時の姓。〔續高僧傳、二十〕釋志超、俗姓田。

【俗性】83 ゾクセイ 俗でいやしい性質。

【俗聖】84 ゾクセイ 俗人で聖人めいた者。〔揚雄、太玄賦〕皦皦著ニ乎日月一兮、何俗聖之暗燭。

【俗說】85 ゾクセツ 俗人の論說。くだらぬ論說。〔漢書、刑法志〕因ニ俗說一而論レ之。〔風俗通、正失〕乃傳ニ俗說一。

【俗僧】86 ゾクソウ 品格の低い僧侶。つまらぬ僧侶。なまぐさ坊主。〔顏氏家訓、歸心〕俗僧之學ニ經律一、何異ニ士人之學ニ詩禮一。

【俗態】87 ゾクタイ いやしい姿。〔神仙傳〕晚學俗態未レ除。〔唐彥謙、緋桃詩〕敢同ニ俗態一期ニ青眼一、似レ有ニ微詞動ニ絳脣一。

【俗諦】88 ゾクタイ 佛俗世の道理。又、世俗の知つてゐる道理。眞諦の對。〔大乘義章、一〕俗、謂ニ世俗一、世俗所レ知、故名ニ俗諦一。

【俗體】89 ゾクタイ ❶風雅でない詩體。〔滄浪詩話〕學レ詩、先除ニ五俗一、云云、一曰、俗體。❷世俗に用ひられる正しくない字體。〔周伯琦、六書正譌敍〕雖ニ或辨ニ其舛戾一、而猶淆以ニ俗體一。❸風流でないさま。❹僧でない人の風體。在俗の人の身なり。

【俗套】90 su² t'ao⁴ ❶しきたり。世俗の禮。世俗のならはし。俗習。❷いやしいこと。〔紅樓夢、二回〕何得賈府亦落此俗套。❸古くさい。

【俗談】91 ゾクダン 世間ばなし。

【俗智】92 ゾクチ ❶世上の事に關する智慧。❷佛世閒の道理を知る智。眞智(**8**―**23235**・・229)に對す。〔佛性論〕般若有ニ二一、一無分別眞智、二有分別俗智。

【俗腸】93 ゾクチヤウ いやしい心。卑俗な心腸。〔朱熹、積雪取レ食詩〕平生願レ學ニ程夫子一、恍憶當年洗ニ俗腸一。

【俗塵】94 ゾクヂン うきよのちり。世のわづらはしさ。世累。〔續高僧傳、道傑〕宿植ニ德本一、情厭ニ俗塵一。〔唐太宗、謁ニ幷州大興國寺一詩〕對レ此留ニ餘想一、超然離ニ俗塵一。〔李嶠、奉ニ和幸ニ韋嗣立山莊一應制詩〕雲霞仙路近、琴酒俗塵疎。

【俗調】95 ゾクテウ いやしい調子。〔陶潛、答ニ龐參軍一詩〕談諧無ニ俗調一、所レ說聖人篇。

【俗傳】96 ゾクデン 世の中のいひつたへ。世間のいひならはし。〔李衞公問對、中〕牝牡之法、出ニ於俗傳一、其實陰陽二義而已。

【俗讀】97 ゾクドク 正しい讀み方でなく、世間通俗の讀み方。ぞくよみ。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕所レ讀之字、亦不レ能レ疏、輒曰、從二俗讀一。

【俗佞】98 ゾクネイ 宋の薛昂の綽號。昂は學術がなかつたのでかくいはれた。〔宋史、薛昂傳〕昂給事中兼二大司成一、昂寡二學術一、士子有レ用二史記西漢語一、輒黜レ之、在二哲宗時一、常請レ罷二史學一、哲宗斥爲二俗佞一。

【俗念】99 ゾクネン 世俗の觀念。うき世の下らぬ考。俗情。俗懷。〔白居易、翫二松竹一詩〕幽懷一以合、俗念隨レ緣息。

【俗罵】100 ゾクバ 世俗ののしり。俗人の惡口。〔宋濂、簡二吳山長一詩〕官卑遭二俗罵一、家破坐二詩窮一。

【俗輩】101 ゾクハイ 平凡なともがら。くだらぬ人々。俗流。〔韻府引、戴復古、詩〕俗輩衆多吾輩少、素交零落利二交與一。

【俗鄙】102 ゾクヒ いやしい。いやしさ。〔陳後主、春色禊辰盡當二曲宴一各賦二十韻一詩〕坐客聽二一言一、隨レ吾祛二俗鄙一。

【俗筆】103 ゾクヒツ 拙い筆跡。又、俗臭のある筆跡。〔山谷題跋〕病三子草書多二俗筆一。

【俗賓】104 ゾクヒン 風流文雅の道を解しない客。俗客(16)の一を見よ。〔尹廷高、詩〕竟夕相歡無二俗賓一。

【俗夫】105 ゾクフ つまらぬ男。凡夫。〔白居易、早春聞二提壺鳥一因題二隣家一詩〕變作騰騰一俗夫。

【俗父】106 ゾクフ 佛 佛弟子が己の實父をいふ。〔後村題跋〕學レ佛者、以レ師爲レ父、以レ父爲二俗父一。

【俗物】107 ゾクブツ 平凡無趣味の人物。心ざまのいやしい奴(俗人を罵る語)。凡人。俗人。俗子。〔晉書、王戎傳〕戎每與レ籍爲二竹林游一、戎嘗後至、籍曰、俗物已復來、敗二人意一。

【俗扮】108 ゾクフン 世俗のよそほひをする。〔剪燈餘話、聽經猿記〕但使三心向二禪宗一、何妨二俗扮一。

【俗氛】109 ゾクフン 俗氣。世塵。俗塵。〔冷齋夜話〕黃山潘大臨工レ詩、謝無逸以レ書問下有二新作一否上、潘答書曰、秋來景物、件件是佳句、恨爲三俗氛所二蔽翳一。〔盧照鄰、赤谷安禪士塔詩〕獨坐二巖之曲一、悠然無二俗氛一。

【俗紛】110 ゾクフン 世俗のうるさいこと。〔蕭穎士、蒙山作詩〕子尚損二俗紛一、季隨躡二遐軌一。

【俗文】111 ゾクブン 通俗の體に書いた文。くだらない文章。漢の服虔に通俗文の著がある。

【俗本】112 ゾクホン 世間通俗に行はれてゐる正雅でない本。〔顏氏家訓、書證〕太公六韜、有二天陳・地陳・人陳・雲鳥之陳一、論語曰、衞靈公問二陳於孔子一、左傳爲二魚麗之陳一、俗本多作二阜傍車乘之車一。〔東坡題跋、陶淵明飮酒詩後〕悠然見二南山一、云云、此句最有二妙處一、近歲俗本、皆作レ望二南山一。

【俗名】113 ゾクミヤウ 佛 出家後の法名に對して、出家前の名をいふ。在家の時の氏名。俗稱。

【俗務】114 ゾクム 世の中のつとめ。塵務。〔杜甫、詠懷詩〕瑣細隘二俗務一。〔常袞、授二裴遵慶吏部尚書一制〕不三嬰二拂於俗務一。

【俗目】115 ゾクモク 俗人のまなこ。俗眼(21)に同じ。〔韓琦、龍興寺芍藥詩〕只供二俗目一陪二妖姹一。

【俗樣】116 ゾクヤウ 世俗一般の樣式。卑俗なかたち。〔池北偶談〕不二惟俗樣一。

【俗用】117 ゾクヨウ 一俗世間で用ひる。又、其のこと。〔白居易、雙石詩〕俗用無レ所レ堪、時人嫌不レ取。〔四庫提要、經、小學類、俗書刊誤〕第十一卷、考二俗用雜字一、若二山岐曰レ岔、水岐曰レ汊、是也。二俗事。世間の煩はしい用事。

【俗吏】118 ゾクリ つまらぬ俗務に從ふ役人。教養の無い役人。又、官吏を卑しめていふ言葉。〔漢書、禮樂志〕類非三俗吏之所二能爲一也。〔漢書、王吉傳〕俗吏所二以牧レ民者、非レ有二禮儀一。〔新書、俗激〕類非三俗吏之所二能爲一也。〔魏志、高堂隆傳〕固非二俗吏之所レ能也。

【俗流】119 ゾクリウ 凡俗なながま。くだらぬ人々。俗輩。〔韓愈、薦レ士詩〕俗流知者誰、指注競二嘲慠一。

【俗慮】120 ゾクリヨ 俗人の考。世俗の觀念。〔文同、將レ至二隴城縣一詩〕今朝出二谷口一、已覺二俗慮起一。

【俗累】121 ゾクルイ 日常世俗の事。世事の繁雜。世累。俗煩。〔沈約、東武吟行〕俗累從レ此休。〔白居易、思レ往喜レ今詩〕雖レ在二簪裾一從二俗累一。

【俗禮】122 ゾクレイ 世俗の禮儀。〔文同、奉レ送三少訥還二青神一詩〕敢用二俗禮一費二烹殺一。

【俗了】123 ゾクレウ 俗化させてしまふ。俗人化する。〔方岳、雪梅詩〕有レ梅無レ雪不二精神一、有レ雪無レ詩俗二了人一。

【俗陋】124 ゾクロウ 俗でいやしい。俗惡。

【俗籠】125 ゾクロウ 俗世間の域內。〔方干、題二睦州烏龍山禪居一詩〕伴師長住應レ難レ住、歸去仍須レ入二俗籠一。

【俗論】126 ゾクロン 世間一般のくだらない議論。俗議。〔後漢書、黃瓊傳〕是故俗論皆言三處士純盜二虛聲一。

【俗話】127 ゾクワ 一世間話。世間のげびた話。又、ことわざ。〔杜荀鶴、題二仇處士郊居一詩〕洞裏客來無二俗話一、廓中人到有二公情一。〔紅樓夢、四十回〕詩詞・歌賦・成語・俗話。二 su² hua⁴ 俗語。口語體。文話(5－13450‥941)の對。

【易レ俗】128 ゾクヲカフ 惡い風俗をなほし變へる。〔禮、樂記〕移レ風易レ俗。〔孝經、廣要道章〕移レ風易レ俗、莫レ善二於樂一。

【儕レ俗】129 ゾクニヒトシウス 世俗とひとしくする。世俗に媚びる。迎合する。〔史記、游俠傳序〕豈若三卑論儕レ俗、與レ世沈浮、而取二榮名一哉。

【殊レ俗】130 ゾクヲコトニス 風俗がちがふ。〔晏子、問、上〕古者百里而異レ習、千里而殊レ俗。

【成レ俗】131 ゾクヲナス 風俗を作り上げる。風俗となる。〔張衡、西京賦〕兆民承二上教一以成レ俗。

【篤レ俗】132 ゾクヲアツクス 風俗を立派にする。〔桓溫、薦二譙元彥一表〕篤レ俗訓レ民。

【俗中人】133 ゾクチユウノヒト 俗世間に住んでゐる人。俗人。〔世說新語、任誕〕阮步兵喪レ母、裴令公往弔レ之、阮方醉、散レ髮坐レ牀、箕踞不レ哭、裴至、下レ席於レ地哭、弔唁畢便去、或問レ裴、凡弔、主人哭、客乃爲レ禮、阮既不レ哭、君何爲レ哭。裴曰、阮方外人、故不レ崇二禮制一、我輩俗中人、故以二儀軌一自居、時人歎爲三兩得二其中一。

【適レ俗韻】134 ゾクニテキスルヰン 世俗に投合する素質。〔陶潛、歸二園田居一詩〕少無二適レ俗韻一、性本愛二丘山一。

【與レ俗違】135 ゾクトタガフ 俗人とあはぬ。〔王貞白、憶二張處士一詩〕古樂知レ音少、名言與レ俗違。

【俗之所レ排】136 ゾクノハイスルトコロ 俗人のしりぞけることがら。〔揚雄、連珠〕明君取レ士、貴レ拔二衆之所レ遺、忠臣薦レ善、不レ廢二俗之所レ排。

【俗手伶工】137 ゾクシユレイコウ 下手な音樂師。〔長生殿、製譜〕但恐俗手伶工、未レ諳二其妙一。

【俗不レ可レ醫】138 ゾクハイスベカラズ 俗氣ある人は濟度することが出來ない。〔蘇軾、於二潛僧綠筠軒一詩〕可レ使二食無レ肉、不レ可レ使二居無レ竹、無レ肉令二人瘦一、無レ竹令二人俗一、人瘦尙可レ肥、士俗不レ可レ醫。

【垢レ俗疵レ物】139 ゾクヲケガラハシトシモノヲキズトス 世俗の事物をけがらはしい嫌なものと考へる。〔後漢書、逸民傳序〕或垢レ俗以動二其槩一、或疵レ物以激二其淸一。

【俗之所レ欲因而予レ之】140 ゾクノホツスルトコロヨリテコレヲアタフ 衆俗の欲することは、之を授け與へてやる。〔史記、管仲傳〕俗之所レ欲、因而予レ之、俗之所レ否、因而去レ之。

【俗】696

ケキ 㑊(1－982)に同じ。〔集韻〕㑊、或作レ俗。

【俘】697

フ 〔集韻〕芳無切 ㄈㄨ fu² 虞

小篆

一とりこ。いけどり。〔說文〕俘、軍所レ獲也、从レ人孚聲、春秋傳曰、以爲二俘聝一。〔爾雅、釋詁、李注〕因敵曰レ俘。〔春秋、莊、六〕冬、齊人來歸二衞俘一。〔注〕俘、囚也。〔左氏、莊、三十一〕諸侯不三相二遺俘一。二いけどる。〔左氏、宣、十二〕俘二諸江南一。三とる。〔爾雅、釋詁〕俘、取也。〔書經、湯誓〕俘二厥寶玉一。〔傳〕俘、取也。四ばつ。〔小爾雅、廣言〕俘、罰也。〔說文通訓定聲〕俘、叚借爲レ罰、云云、禮記投壺、若レ是者浮、作レ浮、亦同。

【俘邑】1 フイフ 攻略したむら。〔左氏、昭、十八〕鄭曰、余俘邑也。

【俘鬱】2 フウツ 蟲の名。ねむりむし。こぼこぼ。沙俘(6－17212‥205)・砂俘(8－24046‥40)に同じ。今本本草、砂挼に作る。〔韻府引、本草〕砂俘、蜀人號曰二俘鬱一、旋二乾土一爲レ孔、常睡不レ動、取置二枕中一、令二夫婦相悅一。

【俘級】3 フキフ 俘虜と首級。いけどりと討ち取つた首。俘馘。〔南史、宋武帝紀〕番禺之功、俘級萬數、左里之捷、鳥散魚潰。
【俘擒】4 フキン とりこ。いけどり。〔徐陵、爲二陳主一與二周冢宰宇文護一論二邊境事一書〕彼軍人恃レ勇、遂致二俘擒一。
【俘獲】5 フクワク 敵を生きながら囚へる。又、いけどり。生擒。〔唐書、李光弼傳〕抱玉出二奇兵一夾擊、俘獲過當、賊師周摯引卻。
【俘馘】6 フクワク 俘と馘。俘はとりこ。馘は敵を殺して斬り取つた耳。〔左氏、僖、二十二〕楚子使三師縉示二之俘馘一。〔注〕俘、所レ得囚也、馘、所レ截耳也。〔會箋〕俘、生獲也、詩毛傳、殺而獻二其耳一曰レ馘、說文作二俘聝一云、軍戰斷耳也、从レ耳或聲、或从レ首、鄭箋、馘所レ格者之左耳、本作レ聝、今文作レ馘、據レ此、聝・馘只是古今字、字林云、截レ耳則从二耳旁一、獻レ首則作二首旁一、恐杜撰。〔呂覽、古樂〕歸乃薦二俘馘于京太室一。
【俘殺】7 フサツ いけどりにして殺す。〔五代史、梁臣、徐懷玉傳〕以二輕騎一連擊破レ之、俘二殺五千餘人一。
【俘斬】8 フザン いけどりにすることと、斬り殺すこと。擒斬。〔宋史、太宗紀二〕又破二于合州西方溪一、俘斬甚衆。
【俘囚】9 フシウ いけどり。とりこ。俘虜。〔唐書、儀衞志下〕引二俘馘一入獻、及レ稱レ賀、俘囚出乃退。〔韓愈・李正封、晚秋郾城夜會聯句〕且待レ獻二俘囚一、終當レ返二耕穫一。
【俘醜】10 フシウ とりこたち。醜は衆。
【俘翦】11 フセン いけどり、きり殺す。〔左氏、成、十三〕俘二我王官一、翦二我羈馬一、我是以有二河曲之戰一。
【俘賊】12 フゾク とりこで叛いたもの。又、其の叛徒の歸服したもの。〔續日本紀、九〕神龜二年三月庚子、常陸國百姓、被二俘賊燒損一、失二財物一。
【俘女】13 フヂヨ 捕虜の女。〔國語、晉語一〕今晉寡德而安二俘女一。
【俘虜】14 フリヨ とりこ。俘囚。浮擄。〔晉書、祖逖傳〕嘗置酒大會二耆老一、中坐流レ涕曰、吾等老矣、更得二父母一、死將何恨、乃歌曰、幸哉遺黎免二俘虜一、三辰既朗遇二慈父一。〔白居易、漢將李陵論〕屈二身於夷狄一、束レ手爲二俘虜一、不レ可二以言一レ勇。
【俘擄】15 フリヨ とりこ。俘虜に同じ。〔舊五代史、唐莊宗紀五〕百姓婦女、曾經二俘擄一、他處爲二婢妾一者、一任二骨肉識認一。
【俘纍】16 フルイ とりこにする。いけどり、しばる。〔蘇軾、代二張方平一諫レ用レ兵書〕俘二纍老弱一。
【俘隸】17 フレイ とりこになつて奴隸とされたもの。〔北史、周宗室、劭護傳〕子爲二公侯一、母爲二俘隸一、熱不レ見二母熱一、寒不レ見二母寒一。
【反レ俘】18 フヲカヘス とりこを本國にかへす。〔宋史、方信孺傳〕信孺曰、反レ俘歸レ幣可也。
【俘不レ干レ盟】19 フメイヲヲカサズ とりこは同盟をさまたげてはならない。〔左氏、定、十〕裔不レ謀レ夏、夷不レ亂レ華、俘不レ干レ盟、兵不レ偪レ好。〔孔子家語、相魯〕夷不レ亂レ華、俘不レ干レ盟。

【俙】698

㊀キ ケ 〔集韻〕香依切 ㄒㄧ hsi¹ 微
㊁カイ 〔集韻〕休皆切 佳
㊂キ ケ 〔集韻〕許豈切 尾

小篆 ㊀㊁㊂ ㊀うつたへる。〔說文〕俙、訟面相是也、从レ人希聲。〔長箋〕當二是漢語一、人自以爲レ直也。㊁こびへつらふ。〔說文、俙、段注〕謂二內爭而外順一也、臯陶謨所謂面從。㊂感動のさま。俙然(1)を見よ。㊃解く。〔玉篇〕俙、解也。㊄ほのか。〔集韻〕俙、依俙、猶レ言二髣髴一也。〔集韻〕俙、僾俙、仿佛也。
【俙然】1 キゼン カイゼン 感動するさま。〔司馬相如、封禪文〕於レ是天子俙然改レ容。〔注〕善曰、張揖曰、俙、感動之意也、許皆切、俙、或爲レ沛。

【俚】699

リ 〔集韻〕兩耳切 ㄌㄧˇ li³ 紙

小篆 ㊀たのみ。たのむ。〔說文〕俚、賴也、从レ人里聲。〔廣雅、釋言〕俚、賴也。〔漢書、季布傳贊〕其畫無レ俚之至耳。〔注〕晉灼曰、計畫無レ所二聊賴一。㊁いやしい。ひなびてゐる。〔漢書、司馬遷傳〕質而不レ俚。〔注〕司馬貞曰、俚、卽鄙也。㊂いやしいうた。俗歌。〔孟浩然、和三張明府登二鹿門山一詩〕謬承三巴俚和一、非三敢應二同聲一。㊃國の下邑。ゐなか。〔一切經音義、二十三〕蒼頡曰、國之下邑曰レ俚。㊄蠻族の名。南蠻。〔集韻〕俚、或曰、南夷種名。〔後漢書、南蠻、西南夷傳、蠻里張游注〕里、蠻之別號、今呼爲二俚人一。〔博物志、異俗〕交州夷名曰二俚子一。㊅里(11－40131)に通ず。〔說文通訓定聲〕俚、叚借爲レ里。〔詩、大雅、雲漢、云如二何里一、集傳〕里、憂也、與二漢書無レ俚之俚一同、聊賴之意也。㊆現かれ。彼。
【俚醫】1 リイ 藪醫者。へたな醫者。庸醫。〔陸游、游昭牛圖詩〕日落飲レ牛水滿レ塘、夜半飯レ牛天雨レ霜、俚醫灌レ藥美二水草一、老巫訶禁祓二不祥一。
【俚韻】2 リヰン ひなびた言葉。又、ひな歌。〔福惠全書、稟啓附、賀二上臺元宵一〕敬陳二俚韻一、肅侑二清歡一。
【俚謠】3 リエウ ひなうた。俗謠。俚歌。〔韓維、次韻和下平甫同二介甫・當世一過飲見上レ招詩〕卻嘆我儕多二假日一、俚謠暴謔何其哤。
【俚歌】4 リカ 俗世間のはやりうた。はやりうた。俗歌。民謠。〔蘇軾、和二王勝之一詩〕要レ知三太守怜二孤客一、不レ惜陽春和二俚歌一。
【俚稼】5 リカ ヰナカカセギ 田舍稼ぎ。都の者が田舍に行つてかせぐこと。
【俚曲】6 li² ch'ü³ 田舍節。ゐなかぶし。
【俚近】7 リキン 通俗。卑近。〔唐書、高駢傳〕或望レ空顧揖再拜、語言俚近。
【俚言】8 リゲン 民間に行はれてゐることば。俗言。俚語。〔左思、魏都賦〕非二鄙俚之言所一レ能具一。〔唐書、韋綬傳〕穆宗爲二太子一、綬入侍讀、方二太子幼一、綬數爲二俚言一、以悅二太子一。
【俚諺】9 リゲン 通俗なことわざ。げせわ。俗諺。〔韓琦、書錦堂詩〕事累載二方冊一、令三復著二俚諺一。
【俚語】10 リゴ 民間に行はれてゐることば。俗語。俚辭。俚言。〔五代史、王彥章傳〕彥章武人不レ知レ書、常爲二俚語一、謂レ人曰、豹死留レ皮、人死留レ名。
【俚子】11 リシ 蠻族の名。南蠻。今の黎人。俚人(15)の㊁に同じ。〔博物志、異俗〕交州夷名曰二俚子一。
【俚耳】12 リジ 俗人の耳。聽いても趣味を解せぬ耳。里耳。〔莊子、天地〕大聲不レ入二於俚耳一。〔鄭希、稷燻賦〕大希之音、見レ遺二俚耳一。〔歐陽脩、謝二石秀才一啓〕奏レ磬俚耳難矣。
【俚辭】13 リジ ゐなかことば。俚語。又、ひなうた。俚謠。〔舊唐書、劉禹錫傳〕淫祠鼓舞、必歌二俚辭一。
【俚室】14 リシツ ゐなか家。〔唐書、蔣乂傳〕俚室窮人子、旁無二至親一、乃有二借レ吉以嫁一、不レ聞二男冐レ凶而娶一。
【俚人】15 リジン ㊀いやしい者。田舍者。〔王褒、四子講德論〕俚人不レ識、寡見尠聞。〔注〕善曰、劉德漢書注曰、俚、鄙也。㊁蠻族の名。南蠻。今の黎人。俚子。〔後漢書、南蠻傳〕九眞徼外蠻里張游。〔注〕里、蠻之別號、今呼爲二俚人一。
【俚齣】16 li³ ch'ü¹ ゐなかうた。
【俚淺】17 リセン 通俗で深みが無い。〔宋史、禮志二十八〕禮院及刑法司外州、執二守服制一、詞旨俚淺。
【俚俗】18 リゾク ㊀ひなびて俗である。下品な。鄙俗。野卑。〔五代史、敬翔傳〕翔所レ作、皆俚俗語。㊁世俗のならはし。〔蘇轍、和二子瞻新居欲レ成詩〕伏臘便應レ隨二俚俗一。
【俚島】19 リタウ 島の名。山東省榮成縣の東南の海濱。又、裏島に作る。その北を裏島海灣、又、裏島澳とも裏島口ともいひ、商貨の出入が多く、帆船が多く集まる。
【俚洞】20 リドウ 黎人の住んでゐる山。黎峒。今の廣東省瓊州島に在る。〔陳書、胡穎傳〕出二番禺一、征二討俚洞一。
【俚鄙】21 ヒリ ひなびていやしいこと。鄙俚(11－39597‥62)に同じ。
【俚婦】22 フリ 田舍の女。いやしい婦人。里婦(11－

40131・・70)に同じ。
【俚篇】23 li³ p'ien¹ 卑俗な詩歌。
【俚閭】24 リリョ ざいしょ。在所。里閭。閭里(11−41334・・53)に同じ。

【俛】700

小篆

㈠フ 〔集韻〕匪父切 ㄈㄨˇ fu³ 麌
㈡ベン メン 〔集韻〕美辨切 ㄇㄧㄢˇ mien³ 銑

㈠ふす。かがむ。頫(12−43463)・俯(1−722)に同じ。〔說文〕頫、低ㇾ頭也、俛、頫、或从二人免一。〔集韻〕俛、俯也。〔正字通〕俛、俯・頫同。〔周禮、考工記、矢人〕前弱則俛。〔注〕俛、低也。〔漢書、鼂錯傳〕在二俛卬之閒一耳。〔注〕師古曰、俛、亦俯字。〔漢書、夏侯勝傳〕經術茍明、其取二青紫一、猶二俛拾二地芥一耳。〔陸機、文賦〕在二有無一而僶俛。〔注〕良曰、僶、仰ㇾ首也、俛、俯ㇾ首也。㈡㊀ふす。㈠に同じ。〔玉篇〕俛、低ㇾ頭。㊁つとめる。勤勞のさま。〔禮、表記〕俛焉日有二孳孳一。〔注〕俛焉、勤勞之貌。

参考 熟語は俯(1−722)を併せ見よ。

【俛焉】1 ベンエン つとめいそしむ。勤勞のさま。〔禮、表記〕俛焉日有二孳孳一。〔注〕俛焉、勤勞之貌。
【俛起】2 ベンキ ふしたりおきたり。轉じて、生活する意。〔賈誼、過秦論〕躡二足行伍之閒一、俛二起阡陌之中一。〔注〕善曰、音義曰、俛音免、如淳曰、時皆卑屈在二阡陌之中一。
【俛泣】3 フキフ ふして泣く。俯泣。〔新序、雜事四〕莊王俛泣而起拜。
【俛卬】4 フギヤウ ふすこととあふぐこと。俛仰。俛仰之閒を見よ。〔漢書、鼂錯傳〕以ㇾ大爲ㇾ小、以ㇾ彊爲ㇾ弱、在二俛卬之閒一耳。
【俛仰】5 フギヤウ ㊀ふすこととあふぐこと。身のこなし方。起居動作。俯仰。俛卬。〔莊子、在宥〕其疾俛仰之閒。〔史記、倉公傳〕君要脅痛、不ㇾ可二俛仰一。㊁或は昇り或は降る。升降。盛衰。〔淮南子、原道訓〕與二陰陽一俛仰兮。〔注〕俛仰、猶二升降一也。
【俛仰之閒】6 フギヤウノカン ふしたりあふいだりする、わづかの閒。〔淮南子、道應訓〕俛仰之閒、而撫二四海之外一。
【俛詘】7 フクツ ふしかがむ。冤屈。〔史記、屈原傳〕撫ㇾ情效ㇾ志兮、俛詘以自抑。
【俛視】8 フシ 俯して見る。俯視。〔新書、解縣〕俛二視中國一、仰二望四夷一。
【俛就】9 フシウ ㊀降つて下につく。人に教へる爲に程度を下げる。俯就。〔晏子、雜、下〕俛就則傷ㇾ要。㊁承知する。〔福惠全書、刑名部、姦情、刁姦〕未ㇾ有下不ㇾ爲二俛就一者上。㊂上官が下僚の意見を採用する。
【俛拾】10 フシフ 身を屈めてひろふ。俯拾。俛拾二地芥一を見よ。
【俛拾仰取】11 フシフギヤウシュ ふしては地上の物を拾ひ、仰いでは頭上の物を取る。何事にもただでは動かぬ喩。〔史記、貨殖傳〕家自二父兄子孫一約、俛有ㇾ拾、仰有ㇾ取。
【俛拾二地芥一】12 フシテチカイヲヒロフ ふして地上のあくたを拾ふ如く、物事の得易い喩。〔漢書、夏侯勝傳〕勝每二講授一、常謂二諸生一曰、士病ㇾ不ㇾ明二經術一、經術茍明、其取二青紫一、如三俛拾二地芥一耳。
【俛首】13 フシュ 頭を下げる。俯首。〔戰國、趙策〕馮忌接ㇾ手俛ㇾ首。〔列子、湯問〕俛ㇾ首而聽ㇾ之。〔史記、秦始皇紀〕俛ㇾ首係ㇾ頸、委二命下吏一。〔後漢書、劉玄傳〕俛ㇾ首刮ㇾ席、不二敢視一。〔陸機、謝二平原內史一表〕俛ㇾ首頓ㇾ膝。
【俛首帖耳】14 フシュテフジ 首を垂れ耳をたれて馴れ伏す。憐を乞ふさま。〔韓愈、應二科目一時與ㇾ人書〕若二俛ㇾ首帖ㇾ耳搖ㇾ尾而乞ㇾ憐者、非二我之志一也。
【俛然】15 フゼン ふし近づくさま。〔荀子、正名〕俛然而類。〔注〕俛然、俯就貌、俛然而類、謂二俯近於人一。
【俛啄】16 フタク うつむいてついばむ。〔戰國、楚策〕王獨不ㇾ見二夫蜻蛉一乎、六足四翼飛二翔乎天地之閒一、俛啄二蚉蝱一而食ㇾ之、仰承二甘露一而飮ㇾ之。〔漢書、東方朔傳〕尻益高者、鶴俛啄也。〔注〕師古曰、俛、卽俯字也、俯、低也、啄、鳥觜也。
【俛眉】17 フビ 眉を下げ顏色をよくして媚びへつらふ。〔揚雄、解嘲〕羣卿不ㇾ揖ㇾ客、將相不ㇾ俛ㇾ眉。〔注〕良曰、不三低ㇾ眉下ㇾ色、以求二賢人一也。
【俛伏】18 フフク うつむきふす。俯伏。〔江淹、從二冠軍建平王一登二廬山香爐峯一詩〕中坐瞰二蚖虹一、俛伏視二流星一。
【俛勉】19 ベンベン つとめる。黽勉。僶俛。〔新書、道術〕俛勉就ㇾ善、謂二之愼一。
【俛眄】20 フベン うつむいてみる。〔秦觀、春日雜興詩〕俛眄區中人、飛埃集二毛鋒一。
【俛容】21 フヨウ 顏を下向きにする。謙遜の態度。〔墨子、非儒下、機服勉容、閒詁〕盧云、晏子作下異二于服一、勉中于容上、詒讓案、大戴禮記本命篇、盧注云、機、危也、危服、蓋猶ㇾ言二危冠一、勉、俛之借字、考工記矢人、前弱則俛、唐石經、俛作ㇾ勉、是其證也、機服勉容、言二其冠高而容俛一也。
【俛僂】22 フル 俯僂(1−722・・39)に同じ。㊀せぐくまる。〔漢書、蔡義傳〕短少無二須眉一、貌似二老嫗一、行步俛僂。〔注〕師古曰、俛、卽俯字也、僂、曲ㇾ背也。〔南史、齊高帝諸子下、河東王鉉傳〕鞠躬俛僂、不二敢正行直視一。㊁せむし。脊骨の彎曲する病。〔唐書、吉頊傳〕懿宗、陋短俛僂。
【俛有ㇾ拾】23 フセバヒロフアレ 地に俯すときは必ず物を拾ふがよい。ころんでもただは起きるな。〔史記、貨殖傳〕家自二父兄子孫一約、俛有ㇾ拾、仰有ㇾ取。

【俜】701

小篆

㈠ヘイ ビヤウ 〔集韻〕傍丁切 ㄆㄧㄥˊ p'ing² 靑
㈡ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕匹正切 敬

㈠㈡㊀つかふ。〔說文〕俜、使也、从ㇾ人甹聲。㊁をとこだて。〔廣雅、釋詁二〕俜、俠也。㊂伶俜は、さまよふ。嫎(8−25814)に通ず。〔廣韻〕俜、竛嫎、行不ㇾ正、亦作二伶俜一。〔字彙〕俜、同ㇾ嫎。㊃物のさま。俜停倭妥(1)を見よ。

参考 說文の俜、使也は、說文繫傳には、俜、俠也に作る。

【俜停倭妥】1 p'ing² t'ing² wei¹ t'uo³ 優美の意。〔還魂記、玩眞〕畫的這俜停倭妥。

【保】702

小篆　古文　古文

ハウ ホウ 慣ホ 〔集韻〕補抱切 ㄅㄠˇ pao³ 晧

㊀たもつ。守る。〔詩、大雅、崧高〕南土是保。〔箋〕保、守也、安也。〔周禮、春官、序官〕保章氏。〔注〕保、守也。〔左氏、哀、二十七〕乃先保二南里一。〔注〕保、守也。〔淮南子、主術訓〕獨身不ㇾ能ㇾ保。〔注〕保、猶ㇾ守也。㊁やすんずる。たすける。〔詩、唐風、山有樞〕他人是保。〔傳〕保、安也。〔詩、小雅、天保〕天保二定爾一、亦孔之固。〔箋〕保、安也。〔書、召誥〕天迪格保。〔蔡傳〕格二正夏命一、而保二佑之一。〔周禮、天官、大宰〕以二八統一詔ㇾ王馭二萬民一、云云、五曰、保庸。〔注〕保庸、安ㇾ有ㇾ功者一。㊂やしなふ。保(1−542)に同じ。〔集韻〕保、隸作ㇾ保。〔說文〕保、養也、从ㇾ人𤓽省聲、𤓽、古文孚。〔孟子、滕文公上〕古之人、若ㇾ保二赤子一。〔國語、周語上〕事ㇾ神保ㇾ民。〔注〕保、養也。㊃うけあふ。うけあひ。任ずる。その責に任ずる。保證。中保。〔周禮、地官、大司徒〕令二五家爲ㇾ比、使二之相保一。〔注〕保、猶ㇾ任也。〔未信編〕使二原差押出取ㇾ保。㊄居る。〔詩、大雅、思齊〕無ㇾ射亦保。〔箋〕保、猶ㇾ居也。㊅さだめる。〔廣雅、釋詁四〕保、定也。㊆つきそふ。かしづきまもる。〔禮、文王世子〕保也者、愼二其身一、以輔二翼之一、而歸二諸道一者也。〔疏〕保、是護也。〔呂覽、孟春〕

措二之參于保介之御間一。〔注〕保、介副也。（八）もり役。**太保**。〔增韻〕保、抱也。〔書、君奭序〕召公爲レ保。〔釋文〕保、太保也。〔書、周官〕立二太師・太傅・太保一。〔禮、文王世子〕入則有レ保、出則有レ師。（九）**附く**。〔莊子、列禦寇〕人將レ保レ汝矣。〔釋文〕保、附也。（十）**恃む**。〔左氏、僖、二十三〕保二君父之命一。〔注〕保、猶レ恃也。〔漢書、廣陵厲王胥傳〕揚州保レ彊。〔注〕李奇曰、保、恃也。（十一）**知る**。〔楚辭、九章、惜誦〕羌不レ可レ保。〔注〕保、知也。（十二）**つかふ**。〔廣雅、釋詁一〕保、使也。（十三）**おほきい**。おほきくする。褒（10−34552）に通ず。〔說文通訓定聲〕保、叚借爲レ褒。〔易、漸〕象曰、順相保也。〔虞注〕保、大也。（十四）**やとはれ人**。〔史記、欒布傳〕窮困賃二傭於齊一、爲二酒人保一。〔注〕集解曰、漢書音義曰、酒家作二保傭一也、可二保信一、故謂二之保一。（十五）**くみあひ**。周禮、大司徒の比閭の法に始まり、管子、商鞅に什伍の法があり、隋を經て宋の王安石に至り保甲法となる。〔隋書、食貨志〕五家爲レ保、保有レ長、保五爲レ閭、閭四爲レ族、云云、以相檢察焉。（十六）**宋代の義勇兵**。〔正字通〕甲、又鄉兵、宋元豐以二諸路義勇一改爲二保甲一、云云、孝宗乾道元年、漕臣馮忠嘉言三敎二閱保甲一皆義勇民兵也。（十七）**とりで**。小城。都邑の城。堡（3−5254）に通ず。〔禮、檀弓下〕遇二負レ杖入レ保者息一。〔注〕保、縣邑小城。〔禮、月令〕四鄙入レ保。〔注〕小城曰レ保。（十八）**むつき**。褓（10−34438）・緥（8−27659）に通ず。〔正字通〕保、與二褓・緥一通。〔禮、月令〕保介之御間。〔注〕保、猶レ衣也。〔疏〕保、卽襁褓、保、謂四小被所三以衣二覆小兒一。〔後漢書、桓郁傳〕越在二襁保一。〔注〕保、小兒被也、保、當レ作レ緥、古字通也。（十九）寶（3−7376）に通ず。〔說文通訓定聲〕保、叚借爲レ寶、史記周紀、九鼎保玉。〔易、繫辭下〕聖人之大寶曰レ位。〔釋文〕孟作レ保。（二十）或は呆（2−3395）に作り、古は⿱子木（6−14445）・⿱⺈示（7−19681）・係（1−981）に作る。〔集韻〕保、古作二⿱子木・⿱⺈示・係一、隸作二保・呆一。（廿一）**姓**。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕保氏、周禮保章氏、因レ官爲レ氏、呂氏春秋、楚有二保申一。

名乘 ヤス。モリ。ヨリ。

解字 會意形聲。人と⿱⺈示の省略體との合字。⿱⺈示は又聲。⿱⺈示は孚に同じ。子がつとめて父母をやしなふこと。故に養ふの意。轉じて、安んず、守る、介副等の意となり、假借して褒・堡・褓・寶等に用ひる。〔說文通訓定聲〕保、从レ人从二⿱⺈示省一、會意、⿱⺈示、古文孚、按、孚亦聲。▽（甲骨文）會意。人と子とを合はせ、人が子を負ひ又は抱く意を表はす。

【保阿】1 アホ 召使の女子。〔漢書、李尋傳〕保阿乳母。〔列女傳、貞順、齊孝孟姬傳〕下レ堂、則從二傅母保阿一。

【保媼】2 pao² ao³ 保姆。

【保安】3 ホアン （一）やすんずる。社會の公益を保ち安寧秩序を維持する。〔漢書、王莽傳上〕保二安孝平皇帝之幼嗣一。〔吳志、董襲傳〕問下江東可二保安一否上。〔晉書、王坦之傳〕保二安社稷一。（二）縣名。㋑唐、置く。廣東省電白縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東高州府、電白縣〕保定廢縣、本高涼縣地、梁置二連江縣一、爲二連江郡治一、隋平レ陳、郡廢縣屬二高州一、唐初改曰二保安縣一、仍屬二高州一。㋺金、置く。隋の膚施縣の地。宋、保安軍を置く。今の陝西省安塞縣の西。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕保安縣、本名、栲栳城、以三旁有二栲栳谷一而名、唐咸亨間、嘗置二禁軍於此一、貞元中、改爲二永康鎭一、宋升爲二保安軍一、金改レ軍爲レ縣、復置二州治一焉。〔清史稿、地理志〕陝西、延安府、縣十、保安。㋩民國、置く。後、涿鹿縣と改む。元の保安州。（三）の㋑を見よ。（三）州名。㋑元、置く。遼の奉聖州。察哈爾省涿鹿縣の西南。〔讀史方輿紀要、直隸、保安州〕永興廢縣、本漢之涿鹿縣地、屬二上谷郡一、云云、元復曰二永興一、爲二保安州治一。〔清史稿、地理志〕直隸、宣化府、州三、保安州。㋺金、置く。（二）の㋺を見よ。（四）鎭の名。㋑保店街（275）をいふ。㋺河南省葉縣の南。㋩金、置く。河南省水城縣の東北。㊁湖北省鄂城縣の東南、保安湖のほとり。（五）年號。㋑北宋、仁宗の時、南詔の世宗、段思廉（興宗孝德皇帝）の時。（1044−1074）㋺ホウアン 第七十四代鳥羽天皇の御代。（1120−1124）

【保安隊】4 ホアンタイ 地方の治安維持に當る武裝警備隊。

【保安林】5 ホアンリン 公益上その保存を圖る目的で伐採を禁じ、又は制限した山林。

【保安處分】6 ホアンショブン 一般の權利を全くし、損失のないやうにする處分。

【保安刀片】7 pao³ an¹ tao¹ p'ien⁴ 安全剃刀。

【保安條例】8 ホアンデウレイ 社會の安寧秩序をたもつ爲に發布された規則。

【保案】9 ホアン 戰時に功績ある者、又は特別の技能ある者を選擧して官吏とする案件。保擧（45）を見よ。〔淸會典事例、兵部、職制〕又題准、藍翎侍衞請三注二銷保案一、仍歸二本班一、應三比二照損班注銷之例一、准下其將二保案一注銷上。

【保右】10 ホイウ まもりたすける。保佑。〔詩、大雅、假樂〕保右命レ之、自レ天申レ之。〔詩、大雅、大明〕保右命レ爾、燮二伐大商一。〔漢書、谷永傳〕此天保二右漢家一、使二臣敢直言一也。

【保有】11 ホイウ たもちもつ。領有する。〔詩、周頌、桓〕保二有厥士一。〔晉書、樂志上〕撫二寧四海一、保二有康年一。

【保佑】12 ホイウ まもりたすける。保祚。保右（10）に同じ。〔書、召誥、天迪從レ子保、蔡傳〕天固啓二迪之一、又從二其子一而保二佑之一。〔中庸〕保佑命レ之、自レ天申レ之。

【保宥】13 ホイウ やすんじゆるす。〔後漢書、朱浮傳〕保二宥生人一、使レ得二蘇息一。

【保祐】14 ホイウ まもりたすける。保佑（12）に同じ。〔漢書、王莽傳中〕所三以保二祐新室一者深矣。〔魏志、滿寵傳、注〕楊公積德之門、身爲二名臣一、縱有二愆負一、猶宜二保祐一。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕方憑二保祐一、永翼二雍熙一。

【保育】15 ホイク 安んじ育てる。撫育。又、かしづき敎へる。傅育（1−939··5）に同じ。

【保育行政】16 ホイクギヤウセイ 社會文化を開發增進させる行政作用。

【保胤】17 ホイン 後蜀、孟知祥（3−6960··324）の字。

【保衞】18 ホヱイ （一）たもちまもる。〔東萊博義、四、楚人滅レ江〕不レ知三幾人之力、幾人之功、扶持保衞、而至二於斯一也。（二）pao³ wei⁴ 保護防衞。

【保衞團】19 pao³ wei⁴ t'uan² 自警團。

【保役】20 ホエキ 保證を備へて使役せられる。〔後漢書、桓譚傳〕中家子弟、爲レ之保役。〔注〕保役、可二保信一也。

【保延】21 ホエン （一）たもちのばす。〔後漢書、譙玄傳〕臣聞、王者承レ天、繼レ宗統レ極、保レ業延レ祚、莫レ急二胤嗣一。〔王延壽、魯靈光殿賦〕永安寧以祉福、長與二大漢一而久存、實至尊所レ御、保二延壽一而宜二子孫一。〔宋書、樂志二〕保二萬壽一延二億齡一。（二）第七十五代崇德天皇の年號。（1135−1141）

【保溫】22 ホヲン 溫度を保持すること。

【保溫瓶】23 ホヲンビン 冷たい液、又は熱い液を其の冷・熱のままに保存し得る器。魔法瓶。

【保家】24 ホカ （一）家を保つ。〔左氏、襄、二十七〕善哉、保レ家之主也。〔左氏、昭、二〕非二保レ家之主一也。〔南史、傅亮傳〕卿小兒、才名位宦、當三遠踰二于兄一、然保レ家終在二大者一。（二）pao³ chia¹ 保證人。身元引受人。

【保介】25 ホカイ （一）農事を世話する官。農業保護の官。〔詩、周頌、臣工〕嗟嗟保介、維莫之春、亦又何求、如二何新畬一。〔集傳〕保介、見二月令呂覽一、其說不レ同、然皆爲二籍田一而言、蓋農官之副也。（二）武器を執って兵車の右にある武士。車右。〔詩、周頌、臣工、嗟嗟保介、箋〕保介、車右也、云云、介、甲也、車右、勇力之士、被レ甲執レ兵也。〔禮、月令〕天子親載二耒耜一、措二之于參保介之御間一。〔注〕保介、車右也、置下耒耜於車右與二御者一之間上、云云、保、猶レ衣也、介、甲也。（三）介添。傍で幫ける人。〔呂覽、孟春〕天子親載二耒耜一、措二之參于保介之御間一。〔注〕保介、副也。

【保界】26 ホカイ 境界を保つ。まもる。〔班固、東都賦〕矜二夸館室一、保二界河山一。

【保乂】27 ホガイ やすんじをさめる。〔書、多士〕保二乂有殷一。〔傳〕安二治於殷一。〔書、康王之誥〕保二乂王家一。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕左右小子、用保二乂皇家一。

【保艾】28 ホガイ やすんじ養ふ。安養。〔詩、小雅、南山有臺〕樂只君子、保二艾爾後一。〔傳〕艾、養、保、安也。〔史記、三王世家〕保レ國艾レ民。

【保康】29 ホカウ ㊀縣名。明、置く。漢の房陵縣の地。西魏、東境を分つて大洪縣を置き、北周、改めて永淸といひ、宋に至つて房陵縣へ入る。明、また保康縣を析置す。今、湖北省襄陽縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府〕保康縣、本房陵縣地、宏治十一年、析二縣之宜陽等鄕一、置二今縣一、治二潭頭坪一、以下宋嘗升二房州一爲中保康軍上、因以名レ縣。〔淸史稿、地理志〕湖北、鄖陽府、縣六、保康。㊁明、朱顯槐(6－14424・・753)の謚。

【保衡】30 ホカウ ㊀殷の伊尹をいふ。宰相の稱。衡は平、天下此の人に倚つて平を取る意。阿衡。〔書、說命下〕昔先正保衡、作二我先王一。〔傳〕保衡、伊尹也。〔疏〕保衡・阿衡、俱伊尹也、君奭傳曰、伊尹爲二保衡一、言、天下所レ取レ安、所レ取レ平也、鄭箋云、阿、倚、衡、平也、伊尹、湯所二依倚而取一レ平也、故以爲二官名一、又云、太甲時曰二保衡一、鄭不レ見二古文太甲云一レ不レ惠二于阿衡一、故爲二此解一、孔所レ不レ用、計二此阿衡・保衡一、非二常人之官名一、蓋當時特以二此名一號二伊尹一也。㊁唐、盧坦(8－23050・・124)の字。

【保甲】31 ホカフ ㊀宋の王安石が創めた自治制度で、地方自衞組合といふべきもの。十家を保とし、保に保長があり、五十家を大保とし、大保に大保長があり、十大保を都保とし、都保に都保正・副があつて夫々の管轄を治め、保丁は弓箭を蓄へて武藝を習練した。〔宋史、王安石傳〕保甲之法、籍二鄕村之民一、二丁取レ一、十家爲レ保、保丁皆授以二弓弩一、教二之戰陣一。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕保甲保馬。〔蘇轍、陳州爲二張安道一論二時事一書〕保甲殺閱。〔文獻通考、兵考、兵制〕熙寧三年十二月、詔行二保甲法一、畿內之民、十家爲二一保一、選下主戶有二幹力一者一人上爲二保長一、五十家爲二一大保一、選二一人一爲二大保長一、十大保爲二一都保一、選下爲二衆所一レ服者上爲二都保正一。㊁淸代は、十家を牌とし、十牌を甲とし、十甲を保とし、保甲分局・保甲總局の段階があり、各〻長を置く。保甲分局は賭博・姦淫・私鑄・私烟・風俗等を取締つた。〔皇朝文獻通考、職役考、一〕國家定鼎之初、卽擧而行レ之、其後屢經二中飭一、爲レ法甚詳且備、此蓋其權輿也、考二十七年令一、民間設二立里社一、則有二里長社長之名一、惟八旗莊屯以設二領催一、不三更設二里長一、南省地方、以レ圖名者有二圖長一、以レ保名者有二保長一、其甲長又曰二牌頭一、以三其爲二十家牌之首一也、十牌卽爲二甲頭一、十甲卽爲二保長一、又曰二保正一、是皆民之各治二其鄕之事一、而以職二役於官一、沿二諸古法一、變而通レ之、與レ民宜レ之、各直省名稱不レ同、其役一也。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例〕三十六年覆准、八旗內務府佐領下人、有下在二近京地方一開レ窯者上、亦令三地方官編二立保甲一、令二甲長不時稽察一、如在二地方一生レ事、卽解二送刑部一治レ罪。

【保甲局】32 pao² chia³ chü² 鄕邑に在つて地方自治團體の事務を取扱ふ役所。

【保甲冊】33 ホカフサツ 保甲管轄區內の戶籍簿。保甲の㊁を見よ。〔淸會典事例、兵部、綠營處分例〕道光十六年諭、保甲一法、云云、其領二牌繳冊及丁役規禮一、槪行二革除一、違者從レ重究辦。

【保合】34 ホガフ ㊀安んじ合はせる。〔易、乾〕彖曰、保二合大和一、乃利レ貞。〔疏〕此句釋レ利レ貞也、純陽剛暴、若无二和順一、則物不レ得レ利、又失二其正一、以下能保二安合三會大利一之道上、乃能利レ貞二於萬物一、言二萬物得レ利而貞正一也。㊁ハウガフ 唐の穆宗の時、南詔の昭成帝、晟豐祐の年號。保和の一稱。(824－859)

【保姦】35 ホカン 罪人を隱匿する。〔左氏、襄、十一〕載書曰、凡我同盟、毋レ蘊レ年、毋レ壅レ利、毋レ保レ姦、毋レ留レ慝。〔注〕藏二罪人一。

【保勘】36 ホカン 免職官吏の行跡を調査して、不正の事實が無いことを保證すること。〔淸律、吏律、職制〕不レ係二貪汙一、規避而罷閒者、有司保勘明白、亦得二擧用一。

【保其】37 キホ 淸、鍾懷(11－40672・・28)の字。

【保歸】38 キホ やすんじて歸服する。〔史記、周紀〕百姓懷レ之、多徙而保歸焉。

【保儀】39 ギホ 武官の名。左右班殿直を改めたもの。〔雞肋編〕金人南牧、上皇遜レ位、虜將及二都城一、乃與二蔡攸一二近侍一、微服乘二花綱小舟一東下、人皆莫レ知、至二泗上一、徒步至二市中一買レ魚、酬價未レ諧、估人呼爲二保儀一、上皇顧レ攸、笑曰、這漢毒也。

【保享】40 キヤウ 安んじうける。保安享有する。〔書、多方〕惟夏之恭多士、大不レ克三明保二享于民一。〔傳〕惟桀之所謂恭人衆士、大不レ能三明安二享于民一。〔疏〕夏桀之所謂恭人衆士者、大不レ能下用二明道一安存享中於衆民上。

【保境】41 キヤウ 境內を保護防衞する。境は國をいふ。境界サカヒの意に非ず。〔南史、齊高帝紀〕宋帝策曰、保レ境全レ人、江陽卽序、此又公之功也。〔北史、杜杲傳〕論二保レ境息レ人之意一。〔陸贄、敕二吐蕃將相一書〕安レ人保レ境、垂二美無窮一。〔宋史、許翰傳〕修レ邊保レ境、與レ民休息。

【保彊】42 キヤウ つよきをたのむ。〔漢書、武五子傳〕其人輕心、揚州保レ彊。〔注〕李奇曰、保、恃也。

【保宮】43 キユウ 官名。少府の屬官。もとの名は居室。轉じて、獄の名となる。保官。〔漢書、百官公卿表〕少府秦官、掌二山海池澤之稅一、以給二共養一、有二六丞一、屬官有二尚書符節・大醫・太官・湯官・導官・樂府・若盧・考工室・左弋居室・甘泉居室、云云一、云云、武帝太初元年、更二名考工室一爲二考工一、云云、居室爲二保宮一。〔漢書、蘇武傳〕加以三老母繫二保宮一。〔注〕師古曰、百官公卿表云、少府屬官有二居室一、武帝太初元年、更二名保宮一。〔漢書、儒林、瑕丘江公傳〕廼徵二周慶・丁姓一、待二詔保宮一。〔注〕師古曰、保宮、少府之屬官也、本名二居室一。

【保據】44 キヨ たてこもる。〔蜀志、楊戲傳〕首二事三秦一、保二據河潼一。

【保擧】45 キヨ ㊀特旨を以て人材を登庸すること。特別の技能・學識、又は功績ある者を、其の上官から奏請して、好職に任命すること。卽ち、科擧の例外としての、特別任用の手續をいふ。淸代では、特旨を以て三品、或は四品以上の科道、若しくは督撫・學政・布政使・按察使に命じ、人材を登庸させ官を授けるをいふ。保題。保任。〔宋史、選擧志三〕保下擧堪二將領一者上、或文官轉運判官以上、各奏二擧一人一。〔淸會典事例、吏部、滿洲銓選〕先將二保擧一、無レ論二題選咨留一、補二用一員一、再遇二缺出一、於二應レ升人員內一、酌量揀選。〔日知錄、政事、保擧〕宋史、元祐初、司馬光爲レ相、奏曰、爲レ政得レ人則治、然人之才、或長二於此一而短二於彼一、雖二皐夔稷契一、各守二一官一、中人安可レ求レ備、故孔門以二四科一取レ士、漢室以二數路一得レ人、若指レ瑕掩レ善、則朝無二可レ用之人一、苟隨レ器授レ任、則世無二可レ棄之士一、臣備二位宰相一、職當二選官一、而識短見狹、士有下怙二退滯淹一、或孤寒遺逸上、豈能周知、若專引二知識一、則嫌二於私一、若止循二資序一、未二必皆才一、莫レ若レ使三有位達官、各擧レ所レ知、然後克叶二至公一、野無二遺賢一矣、欲レ乞下朝廷設二十科一取ヒ士、一曰、行儀純固、可レ爲二師表一科、二曰、節操方正、可レ備二獻納一科、三曰、智勇過レ人、可レ備二將帥一科、四曰、公正聰明、可レ備二監司一科、五曰、經術精通、可レ備二講讀一科、六曰、學問該博、可レ備二顧問一科、七曰、文章典麗、可レ備二著述一科、八曰、善聽二獄訟一、盡レ公得レ實科、九曰、善治二財賦一、公私俱便科、十曰、練二習法令一、能斷二請讞一科、應レ職事官、自二尚書一至二給舍諫議寄祿官一、自二開府儀同三司一至二大中大夫職一、自二觀文殿學士一至二待制一、每歲須下於二十科內一擧中三人上、仍具レ狀、保二任中書一、置レ籍記レ之、異時有レ事須レ材、卽執政案レ籍、視二其所レ嘗、被レ擧科格、隨レ事試レ之、有レ勞又著二之籍一、內外官闕、取二嘗三試有レ效者一、隨レ科授レ職、所レ賜誥命、仍備二所レ擧姓名一、其人任レ官無レ狀、坐以二謬擧之罪一、所レ貴人人重愼、所レ擧得レ才、光又言、朝廷執政惟八九人、若非二交舊一、無三以知二其行能一、不三惟涉二循私之嫌一、兼所レ取至狹、天下之賢才豈足二以盡一、若採二訪毀譽一、則情僞萬端、與三其聽二游談之言一、曷四若使三之結二罪保擧一、故臣奏下設二十科一以擧ヒ士、其公正聰明、可レ備二監司一、誠知二請屬挾一レ私、所レ不レ能レ無、但有レ不レ如レ所レ擧、譴責無レ所二寬宥一、則不二敢妄擧一矣。〔六部成語、吏部、保擧、注解〕此人有レ功、上官奏二請酌加一。㊁上級官吏が其の屬官を保證

推薦すること。

【保擧連坐法】46（ホキヨレンザハフ）宋以後、凡て保擧を經て推擧された人が、他日不正があつたり、擧狀とちがふ所があれば、擧主も連坐する法。保證人が被保證人に不正行爲があつた時は、其の罪に連坐する規定。〔唐律、職制上〕諸貢擧非二其人一及應二貢擧一而不二貢擧一者、一人徒一年、二人加二一等一、罪止二徒二年一。〔注〕非二其人一謂下德行乖僻、不レ如二擧狀一者上。若試不二及第一減二二等一、率五分得二三分一及第一者、不レ坐。〔清會典事例、吏部處分例、京官保擧〕康熙五十二年議准、九卿保擧官員內、除二因二公詿誤一外、如有二貪婪事發一、將二原保擧官一、照二督撫濫擧例一、降二二級一調用。

【保興】47（ホキヨ）北周、宇文盛（3－7067‥58）の字。

【保極】48（ホキヨク）安らかにして道に適つた善。又は中道をたもち守る。〔書、洪範〕惟時厥庶民、于汝極、錫二汝保極一。〔傳〕衆民於二君取一中、與レ君以二安中之善一、言レ從レ化。〔蔡傳〕當時之民、亦皆於二君之極一、與レ之保守、不二敢失墜一。

【保玉】49（ハウギヨク）寶玉。〔史記、周紀〕命二南宮括史佚一展二九鼎保玉一。〔注〕集解曰、徐廣曰、保、一作レ寶。「する。

【保外】50 pao³ wai⁴ 保證する。保證により釋放

【保光】51（ホクワウ）維持し擴大する。〔吳志、賀邵傳〕誠非下所二以保一光洪緒一、熙上隆道化一也。

【保完】52（ホクワン）完きをたもつ。保全。〔魏志、傅嘏傳、注〕雖レ不レ能二終自保完一、猶足二以延一期挺一命於深江之表一。

【保官】53（ホクワン）官名。少府の屬官。保宮（43）に同じ。〔蜀志、姜維傳、注〕魏略曰、以二維本無一去意一故不レ沒二其家一。但繫二保官一以延レ之。

【保管】54（ホクワン）保護管理の約語。規定、又は契約により、他の物を預り保存する。

【保管林】55（ホクワンリン）社寺などに連接し、其の社寺の管理する官林。

【保管料】56（ホクワンレウ）保管の報酬として支拂ふ金。

【保君】57（ホクン）唐、烏重胤（7－18998‥449）の字。

【保訓】58（ホクン）かしづき教へる。保育訓導する。〔後漢書、班彪傳〕以二文章儒學一、保二訓東宮一以下一〔注〕宣帝使下王褒・劉向・張子僑等之二太子宮一娛二侍太子一、朝夕讀誦。上

【保惠】59（ホケイ）やすんじしたがへる。〔書、無逸〕爰知二小人之依一、能保二惠于庶民一。〔傳〕於レ是知二小人之所レ依依二仁政一、故能安二順於衆民一。

【保惠司】60（ホケイシ）官名。清、置く。商務部に屬し、商業及び專用權を保護し、商業教育を施設する事等を掌る。〔清國行政法汎論、商務部〕保惠司、專掌下保二護商業及專用權一、施二設商業教育一、招二聘外人一幷任二免進一退本部員一之事務上。

【保教】61（ホケウ）教をたもつ。教を守る。〔國語、越語下〕撫レ民保レ教、以須レ之。〔注〕保、守也。〔阮籍、通易論〕后者何也、成レ君定レ位、據レ業修レ制、保レ教守レ法、畜レ履治レ安者也。

【保結】62（ホケツ）人を保證する。又、人を保證する保證書。官吏が初めて官職に就く時に提出する同鄉の官吏の保證した身元保證書。〔清會典事例、吏部、處分例、官員文結〕若下督撫地方官、將二假冒頂替一者、不レ行二查出一、即出二保結一。〔清國行政法汎論、官吏法、俸給、清國官吏腐敗〕又官吏初受二吏部選敍一也、必得二同鄉京官保結一、爲二其保結一者、未二必有一平生交情一、生面之人、尙致二謝儀一、以其多少一、承二諾保結一、故有二保結一回、動費二數百金一者有レ之。

【保歇】63（ホケツ）請合宿。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕先力除二保歇一、盡革二圖差一。

【保健】64（ホケン）健康を保つ。

【保縣】65（ホケン）縣名。明、置く。唐の薛城縣、宋の保寧縣。四川省理番縣の治。土人は舊保と呼ぶ。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、威州〕保縣、本薛城縣地、宋保寧縣地、元威州地、明洪武六年、分二置今縣一、十一年、環以二石城一、正德以後、屢經二修置一。

【保險】66（ホケン）㊀險要の地をたもつ。要害の地にたてこもる。〔魏志、鄭渾傳〕保二險自守一、此示レ弱也。〔隋書、劉元進傳〕其餘黨、往往保レ險爲レ盜。㊁不意の危險によつて生ずる損害を償ふことを保證する意。火難・海難・盜難・傷害・死亡等を償ふ保證制度。被保險者は保險者に一定の料金を拂ひ、若し災難に遭遇した場合には保險者が被保險者に賠償金を拂ふ約束を結ぶもの。〔周禮政要、保商〕察二各國貨物鎖售水陸轉運銀行保險出入稅一。㊂ pao² hsien³ 銃の用心金。

【保險行】67 pao² hsien³ hang² 保險會社。

【保險箱】68 pao² hsien³ hsiang¹ 金庫。保險櫃。銀箱。

【保險信】69 pao² hsien³ hsin⁴ 價格表記郵便。

【保險單】70 pao² hsien³ tan¹ 保險契約書。

【保險法】71（ハケンハフ）保險に關する法規。健康保險法（大正十一年、法律第七十號）・勞働者災害扶助責任保險法（昭和十六年、法律第五十五號）・國民健康保險法（昭和十三年、法律第六十號）・勞働者年金保險法（昭和十六年、法律第六十號）等がある。

【保險費】72（ホケンヒ）保險料に同じ。

【保險料】73（ホケンレウ）被保險者が保險者に支拂ふ一定の金額。保險費。

【保險會社】74（ホケンクワイシヤ）保險業を營む會社。

【保險活門】75 pao² hsien³ huo² men² 汽罐の壓力が上昇したとき蒸氣を逸出せしめて汽罐の破裂を防ぐ裝置。安全瓣。

【保險契約】76（ホケンケイヤク）保險者（會社）と被保險者との間の保險に關する契約。

【保險公司】77 pao² hsien³ kung¹ ssŭ 保險會社。

【保險佣金】78 pao² hsien³ yung⁴ chin¹ 保險勸誘員が保險會社から受取る手數料（歩合）。

【保元】79（ホゲン）㊀人民を安んずる。〔漢書、賈捐之傳〕非下所二以救一助飢饉一、保二全元元一也。㊁幸を保つ。〔顏氏家訓、文章〕諷刺之禍、速二乎風塵一、深宜二防慮一以保二元吉一。㊂字號。㋑晉、孟昶（3－6960‥198）の字。㊃明、謝兆申（10－35827‥333）の字。㊄（ハウ）第七十七代後白河天皇の年號。（1156－1159）

【保元物語】80（ハウゲンモノガタリ）書名。三卷。作者未詳。保元の亂の顚末を記した假名書きの軍記物語。

【保固】81（ホコ）㊀要害の地を守る。又、保ち固めた所。とりで。〔荀子、富國〕境內之聚也、保固視レ可。〔注〕保二其險固一、視二其可レ進、謂二觀レ釁而動一也。〔六韜、犬韜、戰騎〕敵人無二險阻保固一。㊁堅固なることを保證する。請負工事の保證。〔清會典事例、工部、河工、考成保固〕順治初年定、黃運兩河隄岸修築不レ堅、一年內衝決者、管河同知通判州縣等官、降二三級一調用。

【保固限】82（ホコゲン）保證の期限。請負者は、其の保證期限內に萬一破損等の事故があれば、修理することを保證すること。陪修保年限。〔清會典事例、工部、河工、考成保固〕運河工未レ至二三年一、修築官於二保固限內一去任。

【保辜】83（ホコ）傷害罪の場合、其の被傷害者の傷の輕重の定まるまで、傷害者を留置すること。後には大體の期日を定めて留置した。〔急就篇、四〕瘡痏保辜謥呼號。〔注〕保辜者、各隨二其狀輕重一、令下毆者以二日數一保中之、限內致レ死、則坐二重辜一也。〔唐律、鬪訟〕諸保辜者、手足毆二傷人一限二十日一、以二他物一毆二傷人一者二十日、以二刃及湯火一傷レ人者二十日、折二跌支體一、及破二骨者五十日一。〔六部成語、刑部、保辜、注解〕被二人毆傷者一、由二官驗一其輕重一、定以二期限一、限內死者、應レ抵二其命一、限外死者、罪應レ減レ等、曰二保辜一。

【保辜限】84（ホコゲン）保辜の期限をいふ。保辜を見よ。〔閑微草堂筆記〕刑曹案牘多、被毆後以二傷風一死者、在二保辜期內一、於レ律不レ能レ不二擬抵一。

【保伍】85（ホゴ）爲政者が命じて作らせた近隣數家の組合。組合內の事は專ら其の部內に於て處理させる。〔宋史、食貨志一〕營二造室居一、使レ立二保伍一。

【保護】86（ホゴ）かばひまもる。目をかける。庇護。守護。保庇。護衞。〔書、畢命、成二周郊一、傳、成二定東周郊境一、使レ有二保護一。〕魏志、王基傳、自保護耳。〔蜀志、先主甘后傳〕賴二趙雲保護一、得レ免二於難一。〔蜀志、趙雲傳〕雲身抱二弱子一、卽二後主一也、保二護甘夫人一、卽後主母也。

【保護金】87（ホゴキン）產業等の發達を奬勵する爲に國家の與へる金。

【保護國】88（ホゴコク）國力弱少の爲、強大なる他國の保護によつて存立する國。

【保護者】89（ホゴシヤ）保護の任に當る者。

【保護色】90（ホゴショク）動物は敵の目をのがれ身を保護する爲に、多く其の常に棲む所の周圍の草木地面等の色に類似した體色を有するもので、

其の色澤を保護色といふ。

【保護稅】91 ゼイ 自國の產業を保護する爲に、同種の外國輸入品に對して課する稅。

【保護鳥】92 チョウ 其の種の滅亡を防ぐ爲、又は其の鳥が害蟲を捕食して產業上有益である爲、行政權を以て其の捕獲を禁止せられてゐる鳥類をいふ。

【保護預】93 アズカリ 相當の手數料を出して、貴金屬・證書等を銀行、又は信託會社に預けて、其の保管を託すること。

【保護貿易】94 ボウエキ 國內產業保護の政策による貿易。外國輸入品には重稅を課し、國內からの輸出品には稅を課さない。

【保工】95 pao³ kung¹ 仕事を保證する。

【保恆】96 コウ 清、滿州正藍旗人。姓は博爾濟吉特氏。諡は桓靖。咸豐の初、直隸提督に任ぜられ、同治の間に烏魯木齊領隊大臣となる。〔續碑傳集、六十八〕

【保國】97 コク 國を安んずる。保邦。〔史記、三王世家〕保レ國艾レ民、可レ不レ敬與。

【保國會】98 クワイ 清末、康有爲・梁啓超等の作つた會。國土・政權を保全し、富強を圖ることを目的とした。

【保佐】99 サ 他人の仕事を助ける。

【保佐人】100 ニン ❶保佐する人。❷法律上、準禁治產者を輔けて、其の重要な法律行爲に同意を與へて完全な效力を生ぜしめる者をいふ。

【保砦】101 サイ とりでを守る。又、とりで。保塞。

【保塞】102 サイ とりでをまもる。又、とりで。保砦。〔漢書、元帝紀〕復修二朝賀之禮一、願二保レ塞傳一之無窮一。〔漢書、匈奴傳上〕保塞蠻夷、令レ不レ得レ居二其故一。

【保塞軍】103 グン 軍の名。❶唐の中和中、保塞軍節度を置き、治を延州に定め、兼ねて丹州をも領す。今、陝西省膚施縣の治。〔讀史方輿紀要、陝西〕延安府、禹貢、雍州地、春秋時、白翟所レ居、云云、唐復爲二延州一、天寶初、亦曰二延安郡一、乾元初、復爲二延州一、中和三年、置二保塞軍節度一、光化初、改曰二寧塞軍一。❷宋、置く。後、保州とす。河北省清苑縣。〔讀史方輿紀要、直隸〕保定府、禹貢冀州地、戰國時屬レ趙、云云、宋建隆初、置二保塞軍一、太平興國六年、改爲二保州一。

【保藏】104 ザウ 保護しをさめる。〔漢書、五行志中之上〕孕二毓根核一、保二藏蟄蟲一。

【保作】105 サク やすんじてなす。又、落着いて行く。〔詩、大雅、常武〕王舒保作、匪レ紹匪レ遊。〔傳〕保、安也。〔集傳〕王舒保作、未レ詳二其義一、或曰、舒、徐、保、安、作、行也、言二王師舒徐而安行一也。

【保山】106 ザン ❶縣名。明、置く。漢の不韋縣。今の雲南省鎭康縣の北。〔讀史方輿紀要、雲南、永昌民府〕保山縣、附郭、漢不韋縣地、云云、明嘉靖元年始改置二今縣一、取二大保山一爲レ名。〔清史稿、地理志〕雲南、永昌府、縣二、保山。❷pao³ shan¹ 保證人。山のやうに賴りになる意。〔紅樓夢、一百十九回〕況且還有舅舅做保山。

【保殘】107 ザン そこなはれたものをたもつ。〔漢書、劉歆傳〕歆移二書太常博士一曰、云云、信二口說一而背二傳記一、是二末師一而非二往古一、云云、猶欲二保殘守レ缺、挾二恐レ見レ破之私意一、而無二從レ善服レ義之公心一。

【保子】108 シ 嬰兒。赤子。〔大戴禮、主言〕上之親レ下也、如二腹心一、則下之親レ上也、如二保子之見一二慈母一也。

【保之】109 ホシ 清、王壽康(7－20823‥1652)の字。

【保氏】110 シ 周官の名。地官の屬。王の惡を諫めて國子を教育することを掌る。〔周禮、地官、保氏〕掌下諫二王惡一而養二國子一以レ道。〔注〕保也者、愼二其身一、以輔二翼之一而歸二諸道一者也。

【保誌】111 シ 梁、寶誌(8－7376‥143)の名。

【保兒】112 ジ ❶給仕。〔桃花扇、訪翠〕保兒燙レ酒來。❷字號。㋑明、平安(4－9167‥5)の字。㋺明、李文忠(6－14459‥1916)の小字。

【保州】113 シウ 州名。❶唐、置く。故治は四川省理番縣の新保關の西北。❷宋、置く。河北省清苑縣。金の時、順天軍とした。〔讀史方輿紀要、直隸〕保定府、禹貢冀州地、戰國時屬レ趙、云云、宋太平興國六年、改爲二保州一、金仍曰二保州一。❸遼、置く。故治は朝鮮平壤の西北。〔讀史方輿紀要、山東、外國附考、朝鮮、平安道〕保州城、在二平壤西北百餘里一、遼志、高麗置二治來遠縣一、契丹開泰三年、以二高麗王詢擅立、問レ罪不レ服、取二其保定二州一、仍置二保州一、治二來遠縣一、亦曰二宣義軍一、金初以二高麗臣附一、割二保州一與レ之、卽今安州也。

【保修】114 シウ 修工の官員が保證を出し、其の年限內に損壞した時に賠補すること。〔六部成語、工部〕保修、注解、修工之員、出二具保結一、保二其年限一、限內損壞、應レ由二承修之官一賠補上。

【保就】115 シウ たもちをさめる。〔漢書、西南夷傳〕稍令二鍵爲自保就一。

【保社】116 シヤ 相互に保護しあふ組合。〔元好問、劉光甫內卿新居詩〕父老漸來同二保社一、兒童入已愛二文章一。

【保者】117 シヤ 城邑を守る者。〔左氏、成、二〕遂自二徐關一入、齊侯見二保者一曰、勉レ之、齊師敗矣。〔注〕所二過城邑一、皆勉二勵其守者一。〔左氏、哀、十一〕公叔務人、見二保者一而泣。〔注〕保二守城一者。

【保相】118 シヤウ 太子の師保をいふ。〔晉書、齊王攸傳〕授二太子太傅一、獻二箴於太子一曰、云云、夫親二仁者一功成、邇二佞者一國傾、故保相之材、必擇二賢明一。

【保商】119 ホショウ ❶商業を保護する。〔周禮、政要、保商、精二練護一商兵船一、使レ出レ洋、華商不レ爲二異族所一レ凌侮一。❷pao³ shang¹ たしかな商人。

【保奬】120 pao² chiang³ 推擧する。保證して推擧する。官吏の年功を經た者を、長官が保證擧薦して待遇をすすめること。

【保鄣】121 ショウ ❶とりで。要塞。保障の❶に同じ。〔史記、孔子世家〕且成孟氏之保障無レ成。❷租稅を輕くして民を安んずる政治。〔國語、晉語九〕趙簡子使二尹鐸一爲二晉陽一、請曰、以爲二繭絲乎、抑爲二保鄣一乎、簡子曰、保鄣哉、尹鐸損二其戶數一。〔注〕繭絲、賦稅、保鄣、蔽扞也、小城曰レ保。

【保障】122 ショウ ❶とりで。保は堡。障は塞上の要險の處に築いたとりで。保鄣。〔左氏、定、十二〕且成孟氏之保障也、無レ成是無二孟氏一也。〔魏志、郭淮傳〕爲二民保障一。〔唐書、張巡傳〕睢陽、江淮保障也。❷法律上、障害せられぬといふ保證。

【保賞】123 シヤウ 賞與。褒賞。〔商子、說民〕保賞不レ可レ倍也。

【保狀】124 ジヤウ ❶保證書。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕取二其糧房總書保狀一。❷pao³ chuang⁴ 特に北京に店をもつものが、時々其の店內の人員を官廳に報告する報告書。

【保城】125 ジヤウ ❶小さい城。こじろ。〔左氏、成、十三〕扞二絕我好一、伐二我保城一。〔會箋〕保、小城也。又、都邑之城、謂二之保一。❷縣名。㋑後魏、置く。故城は河南省正陽縣の西南。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、眞陽縣、新陽城〕保城廢縣、在二縣西南一、劉宋孝建二年、置二寶城縣一、屬二義陽郡一、後魏改爲二保城縣一、屬二汝南郡一、唐齊因之、隋省。㋺南齊、置く。今は闕く。湖北省の舊黃州府の境。㋩唐、置く。故治は廣西省賓陽縣の東。〔讀史方輿紀要、廣西、柳州府、賓州〕保城縣、在二州東南一、本領方縣地、云云、唐至德二載、改曰二保城縣一、宋關寶五年廢。

【保釋】126 シヤク 刑事未決囚が保證金、又は他の保證を提出して一時歸宅を請ふ時に、豫審判事或は裁判所が之を許可する處分。〔福惠全書、蒞任部、親二查閱一〕應二保釋一者、卽與二保釋一。

【保釋金】127 キン 保釋のため裁判所で預かる金錢。

【保守】128 シュ ❶たもちまもる。〔戰國、齊策〕燕將懼レ誅、遂保二守聊城一。〔史記、魯仲連傳〕因保二守聊城一。〔漢書、五行志上〕非レ能保二守宗廟一、終二其天年一者也。〔漢書、劉向傳〕保二守社稷一、安二固後嗣一。❷舊習傳統をたもち守る。

【保守的】129 テキ 保守の傾向がある事。保守の。

【保守主義】130 シュギ 舊來の傳統を尊重し、急激な革新に反對する主義。

【保受】131 ジュ たもちて失はぬ。受けて拒まぬ。〔書、召誥〕保二受王威命明德一。

【保壽】132 ジュ 壽命をたもつ。いきながらへる。〔盧肇、漢隄詩〕貽二于襄人一、願保二其壽一。

【保壽樂】133 ホジュラク 詞牌の名。〔詞譜〕周密天基聖節樂次、再坐第六盞、鷲築獨吹、商角調、筵前保壽樂、此調僅見二松隱集一。

【保壽章程】134 pao³ shou⁴ chang¹ ch'êng² 生命保險規程。

【保聚】135 ホシュウ 集まり守る。衆を聚めてたもち守る。〔左氏、僖、二十六〕我敝邑用レ是不二敢保聚一。〔注〕用二此舊盟一、故不二敢聚一衆保守一也。〔史記・黥布傳〕保二聚彭城一。〔韓愈、元和聖德詩〕復敗二枝拔一不二敢保聚一。

【保恤】136 ホジュツ やすんじめぐむこと。保卹。〔春秋、胡氏傳〕不レ能レ以レ禮安二靖鄰國一、保二恤寡小一。

【保卹】137 ホジュツ 保恤に同じ。

【保緒】138 ホショ 清、周濟（2－3441・206）の字。

【保升】139 pao³ shēng 保證推薦して其の位官をのぼす。人材を推擧して官職を授ける。

【保証】140 ホショウ 保證に同じ。

【保證】141 ホショウ あかしを立てる。引受ける。〔張元晏、謝二僕射一啓〕孜孜保證、吃吃維持。

【保證金】142 ホショウキン 法律上、違約、其の他事務上から生ずる萬一の損害を償ふ可き擔保として差出し置く金錢をいふ。身元金。

【保證書】143 ホショウショ 他人の行爲、或は資力に對して其の責任を負ふ證據の書。

【保證人】144 ホショウニン ● 人が爲した約束の行爲にまちがひの無いことを請けあふ人。● 一般に第三者に對し責任を以て人の身の上などを引受ける人。うけにん。

【保證契約】145 ホショウケイヤク 保證する契約。

【保證債務】146 ホショウサイム 法律上、主たる債務者が其の債務を履行しない時、其の履行の責任を負ふべき債務をいふ。

【保證責任】147 ホショウセキニン 保證の責任。うけあった責任。

【保殖】148 ホショク ふやす。ふえる。〔後漢書、杜篤傳〕沃野千里、原隰彌望、保二殖五穀一、桑麻條暢、濱據二南山一、帶以二涇渭一、號曰二陸海一、蠢二生萬類一。

【保身】150 ホシン 身をたもつ。身を安全にする。〔詩、大雅、烝民〕既明且哲、以保二其身一。〔莊子、養生主〕可二以保一レ身、可二以全一レ生。

【保信】151 ホシン 宋、雷孚（12－42245・129）の字。

【保眞】152 ホシン ● 天賦の眞性をたもつて失はぬ。葆眞。〔楚辭、卜居〕寧超然高擧、以保二眞乎一。〔漢書、敍傳〕若二夫嚴子一者、絶レ聖棄レ智、修二生保一レ眞、清虛澹泊、歸二之自然一。〔淮南子、氾論訓〕全レ性保レ眞、不二以レ物累一レ形、楊子之所レ立也、而孟子非レ之。〔淮南子、要略〕尊レ天而保レ眞。● 清、劉可毅（2－2224・732）の字。

【保神】153 ホシン 精神を安らかに保つ。〔莊子、天地〕形體保レ神、各有二儀則一、謂二之性一。

【保人】154 ホジン ● 保證人。〔未信編〕保候之犯、即令二原差抑出取一レ保、保人、須下有二身家一、保收使中堂上親遞上。● pao³ jen² 人を保證する。

【保綏】155 ホスイ やすんずる。〔張衡、南都賦〕聖皇之所二逍遙一、靈祇之所二保綏一。〔魏志、文帝紀〕惟清二區夏一、以保二綏我宗廟一。

【保世】156 ホセイ 世をたもつ。〔左氏、昭、元〕子與二子家一持レ之、皆保世之主也。〔國語、周語上〕保レ世以滋大。

【保正】157 ホセイ 民の組合がしら。保の長。保甲（3こ）を見よ。〔剪燈新話、金鳳釵記〕家甚殷富、見爲二本村保正一。

【保生】158 ホセイ 保護して生命をたもつ。〔王融、三月三日曲水詩序〕革レ宋受レ天、保二生萬國一。

【保生叢】159 ホセイソウ 藥草の名。ささはそらし。藥本（6－15299・29）の異名。〔清異錄、藥〕侯寧極藥譜、保生藂、藥本。

【保棲】160 ホセイ やすんじすむ。〔越絶書、越絶請糴內傳〕保二棲於會稽山上一。

【保靖】161 ホセイ 縣名。清、置く。湖南省沅陵縣の西北。〔清史稿、地理志〕湖南、永順府、縣四、保靖。

【保靜】162 ホセイ 縣名。隋の弘靜縣。唐、安靜と改め、又、保靜と改む。故城は甘肅省寧夏縣の東南、靈武縣の界。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎭、寧夏右屯衞〕安靜城、在二鎭西南八十里一黃河北岸、亦漢富平縣地、云云、唐神龍初、改爲二安靜縣一、至德初、又改爲二保靜縣一。

【保赤】163 ホセキ 赤子を安んずる。幼兒を撫育する。〔書、康誥〕若保二赤子一、惟民其康乂。〔傳〕愛二養人一如レ安二孩兒赤子一、不レ失二其欲一。〔大學〕康誥曰、如保二赤子一、心誠求レ之、雖レ不レ中不レ遠矣。

【保妾】164 ホセフ 乳母。〔後漢書、李固傳〕若有二皇子一、母自乳養、無下委二保妾醫巫一、以致中飛燕之禍上。

【保捷】165 ホセフ 宋代の近衞兵。〔事物紀原、軍伍名額部、保捷〕咸平四年九月、詔二陝西緣邊州軍兵士先選中者一、並陞爲二禁軍一、名二保捷一。

【保線】166 ホセン 線路を保全する。

【保薦】167 ホセン 人物を保證の上で推薦する。〔五代史、王峻傳〕峻心忌レ之、自下破二慕容彥超一還上、即求解二樞密一、以探二上意一。太祖慰二勞之一、峻多發二書諸鎭一、求レ爲二保薦一。居數日、諸鎭皆馳レ騎上二峻書一、太祖大駭。

【保全】168 ホゼン たもち全うする。完全に維持する。保醬。〔六韜、龍韜、王翼〕保二全民命一。〔漢書、賈捐之傳〕保二全元元一也。〔漢書、孝成許皇后傳〕視二后妾一、無二能懷任保全者一。〔後漢書、龐公傳〕夫保二全一身一、孰二若保二全天下一乎。

【保祚】169 ホソ さいはひを守り保つ。王室の繁榮を保つ。〔晉書、蔡謨傳〕盜賊奔突、王都隳敗、而此堂塊然獨存、斯誠神靈保祚之徵。

【保奏】170 ホソウ 推薦上奏する。〔清會典事例、吏部、滿洲銓選〕並知二照各該科道一、以便稽查、其保奏人員、亦應レ定二於次月截限以前一、即行二保奏一、如二所レ題之人一。〔還魂記、圍釋〕杜寶久已保二奏大宋一。

【保送】171 ホソウ 保證し推薦する。〔清會典事例、吏部、滿洲銓選〕京察爲レ激二揚大典一、各部院堂官、保二送一等筆帖式一、自必將二平日當差勤愼繙譯通順者一、遴選保送。

【保息】172 ホソク ● 安んじて繁殖させる。〔周禮、地官、大司徒〕以二保息六一養二萬民一。一曰慈幼、二曰養生、三曰振窮、四曰恤貧、五曰寬疾、六曰安富。〔注〕保息、謂下安二之使一蕃息上也。● pao³ hsi² 國家が特定の產業を發達させる爲に、其の利息の支拂を保證すること。利息保證。

【保族】173 ホゾク 一族を大切に保つ。〔左氏、襄、三十一〕故能守二其官職一、保二族宜一家。

【保卒】174 ホソツ たもちをへる。〔李密、陳情表〕庶劉僥倖、保二卒餘年一。〔注〕尚曰、保、安、卒、終也。

【保存】175 ホゾン 失はぬやうに大切にたもつ。

【保存林】176 ホゾンリン 風致を存し、或は水害を防ぐ等の必要上、行政權を以て其の伐採を禁止、又は制限してある森林。

【保存行爲】177 ホゾンコウイ 法律上、凡て物を毀損せず、增加せず、ただ其の元來の狀態を維持すること。

【保存期限】178 ホゾンキゲン 或る物件を保存すべき期間。

【保泰】179 ホタイ 清初、聖祖仁皇帝（玄燁）の時、越の裕宗和皇帝（黎維禧）の年號。（1720－1729）

【保大】180 ホダイ ● 君位を保ち安んずる。〔魏志、陳留王奐紀〕濟レ世保レ大。〔陸機、漢高祖功臣頌〕元凶既夷、寵祿來假、保レ大全レ祚。〔注〕濟曰、安二於大位一而能全レ福者、非レ德不可也。● 年號。㋑五代、南唐の元宗（李璟）の時。（943－957）㋺遼の天祚帝（耶律延禧）の時。（1121－1125）

【保大軍】181 ホダイグン 行政區劃の名。唐の乾元中、邠寧節度を分けて渭北節度使を置き、關內道に屬して、坊州に治を定め、建中の初、鄜州に徙した。今の陝西省鄜縣の地。鄜・坊・丹・延の四州、卽ち今の陝西省の中部、鄜・膚施・宜川等の縣の地を領した。一名、昇坊節度使。中和中に保大軍の號を賜はる。宋・金も亦保大軍節度を置く。〔讀史方輿紀要、陝西、延安府〕鄜州、春秋時白翟地。秦屬二上郡一。云云、元中和二年、改爲二保大軍一。

【保大帖】182 ホダイテフ 法帖の名。南唐の時、帖に二種があり、一を鄜元といひ、二を澄清といひ、二を保大といふ。〔輿地碑目〕保大中敕書石刻、在二安慶府一。祖乾元寺一。

【保題】183 ホダイ 清代、官吏特別任用に關する手續をいふ。保擧（45）に同じ。〔清會典事例、吏部、滿洲銓選〕嘉慶六年議准、刑部司員各缺、仍照二舊例一、如有二缺一二吝一、吏部銓選二一留一本部保題一。〔六部成語、吏部、保題、注解〕奏二請保擧一。

【保題官】184 ホダイカン 清代、保題のことを取扱ふもの。〔清會典事例、兵部、職制〕植曦未レ能二精熟一者、將二該員一咨二回原處一、照二蒙混具呈例議處一、其原驗之咨、留二保題官一、亦照二例議處一。

【保堂】185 ホダウ 清、葉廷甲（9－31387・237）の字。

【保導】186 ホダウ 保護し指導すること。

【保單】187 pao³ tan¹ 保證書。保證人を立てた場合の債權關係に於て、債權者に對して交附する保證書（引受書）。

【保暖】188 pao² nuan³ 保溫。

【保治】189 ホヂ 治めたもつ。〔國語、齊語〕桓公曰、

各保二治爾所一無レ或二淫怠而不レ聽レ治者一。〔漢書、元帝紀〕用者陰陽不レ調、黎民饑寒、無二以保一治一。

【保持】190 ホヂ たもちもつ。維持。〔嵇康、與二山巨源一絶交書〕幸賴二大將軍保二持之一耳。〔袁宏、三國名臣序贊〕保二持名節一。

【保長】191 ホチヤウ ❶民の組合がしら。保甲の長。〔宋史、兵志六〕選ヲ主戶有二幹力一者一人ヲ爲二保長一。❷鳳が書鳴くことをいふ。〔廣雅、釋鳥〕鳳皇書鳴曰二保長一。〔說苑、辨物〕鳳書鳴曰二保長一。

【保重】192 ホチウ 自重する。自愛する。身を大切にする。〔西廂記、草橋店夢二鶯鶯一雜劇〕鞍馬上保重者。〔琵琶記、散髮歸林〕爹爹善自保重。〔通俗編、境遇、保重〕歐陽脩、與二梅聖兪一簡、春寒保重、又夏熱千萬保重、又千萬冬冷保重。

【保丁】193 ホテイ 保甲の丁男。〔宋史、兵志六〕兩丁以上、選二一人一爲二保丁一。

【保定】194 ホテイ ❶やすんじさだめる。無事安泰。〔詩、小雅、天保〕天保二定爾一、亦孔之固。〔陸機、贈二馮文羆一遷二斥丘令一詩〕天保二定子一。❷府名。明置く。宋の保塞軍、元の保定路。清は直隸省治とし、祁・安の二州及び清苑・滿城・安肅・定興・新城・唐・博野・望都・容城・完・蠡・雄・束鹿・高陽の十四縣を領す。故治は河北省清苑縣。〔讀史方輿紀要、直隸〕保定府、禹貢冀州地、云云、宋建隆初、置二保塞軍一、太平興國六年、改爲二保州一、金仍曰二保州一、天會七年、亦曰二順天軍一、初屬二河間路一云云、明初爲二保定府一、屬二北平布政司一。〔清史稿、地理志〕直隸、保定府、領二州二縣十四一、清苑・滿城・安肅・定興・新城・唐・博野・望都・容城・完・蠡・雄・祁州・束鹿・安州・高陽。❸縣名。㋑唐、置く。漢の安定縣。故治は甘肅省涇川縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、涇州〕涇川廢縣、卽州治、漢置二安定縣一、屬二安定郡一云云、唐天寶末、改レ縣爲二保定縣一、宋因レ之。㋺宋、置く。民國、新鎭縣と改む。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、霸州〕保定縣、州南四十里、本涿州新鎭地、宋太平興國六年、置二平戎軍一、景德初、改二保定軍一、宣和七年、降爲二保定縣一、屬二莫州一。〔清史稿、地理志〕直隸、順天府、縣十九、保定。❹年號。㋑北周の武帝の時、宇文邕の年號。(561－565)

北宋の神宗の時、南詔の保定帝（段正明）の年號、保立の一稱。(1082－1098)

【保定道】195 ホテイダウ 道名。民國、置く。河北省に屬す。治は清苑縣。清苑・滿城・徐水・定興・新城・唐・博野・望都・容城・完・蠡・雄・安國・安新・束鹿・高陽・正定・獲鹿・井陘・阜平・欒城・行唐・靈壽・平山・元氏・贊皇・晉・無極・藁城・新樂・易・淶水・淶源・定・曲陽・深澤・深・武強・饒陽・安平の四十縣を管轄す。

【保貞】196 ホテイ ❶五代十國の一つ、吳越の太祖（錢鏐）の年號、寶正の一稱。一に寶貞にも作る。(926－931) ❷五代蜀、韓保正(12－43159‥373)の一名。

【保天】197 ホテン 北宋の徽宗の時、後理（南詔）の憲宗宣仁帝（段正嚴、一に段和譽）の時の私年號。年次不明。〔歷代紀元編、上〕。

【保度】198 ホド 程度をたもつ。〔白虎通、壽命〕命有二三科一以記驗、有二壽命一以度、有二遭命一以遇レ暴、有二隨命一以應二行習一。

【保德】199 ホトク ❶州名。金、置く。初、保德縣を置き、後、州に改む。清、直隸州とし、河曲縣を領す。民國、縣に改む。今の縣は山西省河曲縣の南。〔讀史方輿紀要、山西、太原府〕保德州、春秋時晉地、云云、金大定二十二年、升爲レ州。〔清史稿、地理志〕山西、保德直隸州、領二縣一、河曲。❷縣名。金、置く。❶を見よ。〔讀史方輿紀要、山西、太原府、保德州〕保德廢縣、今州治、自レ昔未レ有二城邑一、云云、金大定十一年、於二軍城內一、置二附郭縣一、仍曰二保德一。❸北宋の仁宗の時、南詔の世宗（段思廉）の私年號。年次不明。〔歷代紀元編、上〕。

【保任】200 ホニン ❶引受けて保ち守る。〔左氏、襄二十一〕其子屬不レ能二保二任其父之勞一。〔會鞏〕保任者、保守負任也。❷うけあふ。保證する。〔唐書、薛登傳〕漢法所レ擧之主、終身保任。〔李衛公問對、下〕勳二忠義一、臣可二保任一也。〔王安石、上二仁宗皇帝一言レ事書〕父兄不レ保二任其行義一。❸罪人を保護監視する。〔周禮、秋官、大司寇、疏〕云レ使二州里任一之者、仍恐習二前爲一非而不レ改、故使二州長里宰保任一。〔唐律、詐僞律〕諸保任、不レ如レ所レ任、減二所レ保罪一等。❹子供を人質とすること。〔晉書、元經傳〕自二蘇峻反一後、諸將多以二子爲一質、謂二之保任一。❺官吏を推擧する保證人。〔大學衍義補、正二百官一、崇二推薦之道一〕宜令擧二主於初擧之時、明具二保任連坐之狀一。❻特別任用の法。保擧(45)に同じ。〔宋史、選擧志、一〕四曰補蔭、五曰保任。

【保寧】201 ホネイ ❶たもちやすんずる。〔逸周書、嘗麥解〕保二寧爾國一。〔李吉甫、賀赦表〕保二寧社稷一、光二宅區宇一。❷遼の景宗（耶律賢）の年號。(969－979) ❸府名。元、置く。清、四川省に屬し、巴・劍の二州及び閬中・蒼溪・南部・廣元・昭化・通江・南江の七縣を領す。〔清史稿、地理志〕四川、保寧府、領二州二縣七、閬中・蒼溪・南部・廣元・昭化・巴州・通江・南江・劍州。❹縣名。㋑唐、置く。隋の連江縣。故治は廣東省電白縣の東北。〔讀史方輿紀要、廣東、高州府、電白縣〕保定廢縣、在二舊縣東一二百五十里一、本高涼縣地、云云、唐開元五年、改曰二保寧一。㋺唐、置く。明初、威州の治を保寧に移す。故治は四川省理番縣の東南の新保關。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、威州〕薛城廢縣、舊維州治也、云云、唐明德初、改レ縣曰二保寧一、宋因之。㋩宋、置く、四川省汶川縣の地。❺堡の名。陝西省榆林縣の西。舊名は古梁城。明の嘉靖四十三年に巡撫の胡志夔が增建した。❻清、蒙古正白旗人。姓は圖伯特氏。諡は文端。乾隆中、三等公を襲封す。金川に從征し、甘肅・石峯堡の回匪を勦蕩し、四川總督に累擢せられ、大學士に至り、太子太保を加へらる。〔清史稿、三百四十八〕。〔國朝耆獻類徵、三十一〕。「字。

【保年】202 ホネン 北齊、破六韓常(8－24124‥200)の「字。

【保馬】203 ホバ 民に組合を設けさせ、馬を養はんとする保丁に對しては官馬を給し、年々その發育程度、死・病等を檢し、五等に分けて辨償させる法。王安石の新法富國強兵策の一つ。〔宋史、王安石傳〕保馬之法、凡五路義保願二養馬一者、戶一匹、以二監牧見馬一給レ之、或官與二其直一使二自市一、歲一閱二其肥瘠・死病者補償一。〔蘇軾、司馬溫公神道碑〕保甲保馬。〔文獻通考、兵考、馬政〕按、熙寧五年所レ行者、戶馬也、元豐七年所レ行者、保馬也、皆是以二官馬一責二之於民一、令二其字養一、戶馬則是蠲二其科賦一、保馬則是蠲二其征役一。

【保馬法】204 ハバ 宋、王安石の定めた新法富國強兵策の一。保馬をみよ。

【保邦】205 ホハウ くにを安んずる。保國(97)に同じ。〔書、周官〕制二治于未一亂、保二邦于未一危。〔傳〕制レ治安レ國。

【保抱】206 ハウ やすめ養ふ。なでいだく。〔書、召誥〕夫知二保抱攜二持厥婦子一、以哀二籲天一。

【保八】207 ハウチ 元の色目人。洛陽に居る。字は普菴。官は大中大夫黃州路總管。著に易原奧義・周易原旨がある。〔新元史、二百三十五〕。

【保庇】208 ピホ かばふ。目をかける。〔宋史、楊延昭傳〕朕力爲二保庇一、以及二於此一。

【保費】209 pao³ fei⁴ 保險料。

【保拂】210 ヒホツ やすんじ助ける。拂は弼(4－9826)と同じ。〔漢書、王莽傳中〕京兆尹王嘉爲二保拂一。〔注〕師古曰、拂、讀曰レ弼。

【保付】211 pao³ fu⁴ 手形類の支拂保證。

【保付支票】212 pao³ fu⁴ chih¹ p'iao⁴ 支拂保證小切手。

【保傅】213 フホ ❶女のもりやく。女のかしづき。〔戰國、秦策〕居二深宮之中一、不レ離二保傅之手一。〔白虎通、諫諍〕禮、保傅大夫進レ謀。❷大戴禮の篇名。❸新書の篇名。

【保鏢】214 pao³ piao¹ ❶中國內地の交通不便、又は匪賊等の危險多い地方への旅行、又は現金・貴重品輸送に對する安全保護を業とする一種の會社（鏢局）。❷鏢局で旅人の安全を保護する用心棒。鑣局。保鑣に同じ。

【保鑣】215 pao³ piao¹ 保鏢の❶に同じ。

【保壁】216 ホヘキ とりで。堡壁(8－5254‥19)に同じ。〔後漢書、馬成傳〕皆築二保壁一、起二烽燧一、十里一候。〔後漢書、陳俊傳〕俊將二輕騎一、馳出賊前一、視二人保壁堅完者一、敕令二固守一。

【保保】217 ホホ ❶子供をいたはつて呼ぶ稱。保抱護恤の意。又、幼時の字。〔留青日札〕今人呼二其子一曰二保保一、或曰二阿保一、有二保抱護恤之意一。〔草木子〕明李文忠、亦稱二李保保一。明太祖函諭、李文忠稱爲二保兒一。❷元、攽鄒帖木兒(5－12885‥8)

の小字。〔明史、擴廓帖木兒傳〕擴廓帖木兒、沈丘人、本王姓、小字保保。

【保母】218 ホボ ㊀小兒を世話する婦人。又、女のもりやく。女師。保姆。保傅。〔禮、內則〕異爲二孺子室於宮中一、擇二於諸母與一可者一、必求二其寬裕慈惠、溫良恭敬、愼而寡レ言者一、使レ爲二子師一、其次爲二慈母一、其次爲二保母一。〔注〕子師、教二示以一善道一者、慈母、知二其嗜欲一者、保母、安二其居處一者、士妻食二乳之一而已。〔穀梁、襄、三十〕婦人之義、保母不レ在、宵不レ下レ堂。〔枚乘、七發〕內有二保母一、外有二傅父一。〔注〕翰曰、傅・保、謂二傅訓保養者一。㊁保姆の㊀に同じ。

【保母傳志】219 ホボデンシ 碑の名。晉の王獻之の書いた、其の保母李意如の墓志。宋の永嘉二年、山陰の農人が掘り出したもので、碑文は行書といふ。

【保姆】220 ホボ ㊀保母。傅姆（1－939‥120）に同じ。〔唐書、禮樂志八〕師姆在レ右、保姆在レ左。㊁幼稚園の女教師。

【保姆學校】221 ホボガクカウ 保姆を養成する學校。

【保本】222 ホホン ㊀位を保つ。〔國語、周語中〕劉康公云云、寬所二以保一レ本也、肅所二以濟一レ時也。〔注〕本、位也、寬則得レ衆、故可二以守一レ位。㊁pao² pen³ 引受狀。保證書。

【保民】223 ホミン ㊀たみをやすんずる。〔書、梓材〕欲下至二于萬年一、惟王、子子孫孫、永保二民一上。〔左氏、昭、十八〕寶以保二民也一。㊁民を養ふ。〔國語、周語上〕事レ神保レ民。〔注〕保、養也。〔漢書、匡衡傳〕保レ民者、陳レ之以二德義一、示レ之以二好惡一。〔注〕師古曰、保、養也。

【保名】224 ホメイ 保證して署名する。〔宣和遺事、後集〕選擇一人有二名望賢德一者上、倘及合朝大臣一保名。

【保命】225 ホメイ ㊀上の命令を恃む。〔左氏、僖、二十三〕保二君父之命一、而享二其生祿一。〔注〕保、猶レ恃也。㊁生命を永くたもつ。保命方を見よ。

【保命方】226 ホメイノ 生命を永くたもつ方法。長壽の方。〔海錄碎事、道釋、養生〕世人誰不レ愛レ年長一、所レ欲皆非二保命方一。

【保明】227 ホメイ 尊び安んずる。〔詩、周頌、訪落〕休矣皇考、以保二明其身一。〔箋〕美矣、我君考武王、能以二此道一、尊二安其身一。〔魏志、鮮卑傳〕將軍當二保二明我於天子一。

【保夜】228 ホヤ 被嚢類の動物。我が國東北の海に產す。〔主計寮式〕保夜交鮨。

【保陽】229 ホヤウ 地名。保定府の別名。

【保養】230 ホヤウ 身體を健かにたもち養ふ。又、其のこと。養生。〔漢書、食貨志下〕皆保二養軍馬一。〔後漢書、楊震傳〕安帝乳母王聖、因二保養之勤一、緣恩放恣。

【保用】231 ホヨウ たもち用ひる。寶用。〔後漢書、竇憲傳〕南單于於二漠北一、遺二憲古鼎一、容二五斗一、其傍銘曰、仲山甫鼎、其萬年、子子孫孫永保用。

【保庸】232 ホヨウ ㊀功ある者を安んずる。〔周禮、天官、大宰〕以二八統一詔二王馭一二萬民一、云云、五曰保庸。〔注〕安レ有レ功者。㊁やとひにん。雇人。保傭。〔方言、二〕自レ關而東、陳魏宋楚之間、保庸謂二之甬一。〔史記、司馬相如傳〕相如身自著二犢鼻褌一、與二保庸一雜作。

【保傭】233 ホヨウ やとひにん。雇庸人。保庸。〔史記、欒布傳〕窮困、賃二傭於齊一、爲二酒人保一。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、酒家作二保傭一也、可レ保信一、故謂二之保一。

【保埔】234 ホホ かきね。〔竹書紀年、上〕帝發元年、諸夷賓二于王門一、再保埔會二于上池一。

【保膚】235 ホフ たもちうける。持つ。〔後漢書、傅毅傳〕保二膺淑懿一、纘二脩其道一。

【保羅】236 パウロ キリストの弟子の名。ポール。paul の音譯。

【保鑾】237 ホラン 天子の親兵。鑾輿、即ち天子の御車を保護する義。鑾、或は鸞に作る、車の上に附ける鈴で、鸞鳥の聲に象る。〔新五代史、王彥章傳〕京師祇有二保鑾五百騎一。〔歐陽脩、王彥章畫像記〕公得二保鑾五百人一、之二鄆州一。

【保釐】238 ホリ ㊀やすんじをさめる。〔書、畢命〕命二畢公一、保二釐東郊一。〔蔡傳〕保、安、釐、理也。〔王維、送二韋大夫東京留守一詩〕名器苟不レ假、保釐固其任。㊁清、凌樹屏（2－1669‥139）の字。

【保留】239 ホリウ ㊀我が主張を全然放棄したり、又は撤回せぬ意思を表示し置くこと。㊁條件つき。文句つき。いはくつき。

【保留公呈】240 ホリウコウテイ 留任を請ふ請願書。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕據二士民保留公呈一。

【保立】241 パウリツ 北宋の神宗の時、南詔の保定帝（段正明）の年號。一に保定に作る。（1082－1098）

【保領】242 ホリヤウ 請合つてつれだす。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、審盜〕我等情願保領、便著。

【保林】243 ホリン 漢代、女官の名。〔漢書、外戚傳序〕無消・共和・娛靈・保林・良使・夜者、皆視二百石一。〔注〕師古曰、保、安也、保林、言二其可レ安レ衆如レ林也。

【保廩】244 ホリン 清代、科擧の廩生（府縣學から廩米六斗を受ける官費生）の保證人をいふ。〔清會典事例、禮部、貢擧、錄送鄉試〕如有二頂冒情弊一、除將二頂冒暨借一給執照之人一治レ罪外、並將二出結之生員一照二認保廩生・認保槍替例一斥革。

【保列】245 ホレツ 同僚。仲間。〔清會典事例、吏部、保擧選用〕朕曾通二諭各督撫鹽政等一、概不レ准下將二幕友保列一、以杜中冒濫上。

【保侶】246 ホロ 五幅許りの布帛を嚢狀に作り、鎧の背に負ひ矢を禦ぐに用ひた具。後世、指物の類と化し、鯨の鬚を串として請筒（ウケ）に插し、之に布をかけ母衣籠の上を覆ひ、背負うたもの。母衣とも書く。〔三代實錄、十七〕貞觀十二年三月十六日、介胄雖レ薄、助以二保侶一、望請以二調布一縫二造保侶衣千領一、以備二不虞一。

【保祿】247 ホロク 明、徐光啓（4－10110‥383）の字。

【保和】248 ホワ ㊀志を他に馳せない。〔魏書、崔浩傳〕恬神保和、納二御喜福一。〔舊唐書、陳玄成美傳〕溫文和雅、謹敬保和。㊁唐の穆宗（李恆）の時、南詔の昭成帝（晟豐祐）の年號。（824－859）㊂清、金簫（11－40152‥812）の字。

【保和庵】249 ホワアン 南齊、謝朓の故宅の名。安徽省當塗縣の東南の青山。〔陸游、入蜀記〕青山山南小市、有二謝玄暉故宅基一、環レ宅皆流泉奇石、青林文篠、眞佳處也。

【保和會】250 pao³ he² hueɪ⁴ 平和會議。

【保和齋】251 ホワサイ 明、朱胤栘（6－14424‥668）の室名。

【保和殿】252 ホワデン 宮殿の名。北京の舊紫禁城内の中和殿の後。明は建極殿、又、謹身殿といふ。清朝の時、除夕に外藩を饗し、又は進士の朝貢を受けた所。〔清會典事例、工部、宮殿〕中和殿、縱廣各三間、方檐滲金圖頂、金扉瑣窗各二十四、南北陛各三出、左右陛各二成、東西出、其後爲二保和殿一、深廣九楹、前陛三出南嚮、後陛二出北嚮、自二太和殿一至二保和殿一兩廡丹楹相接、四隅各有二崇樓一、中路甬道相屬。

【保和殿大學士】253 ホワデンダイガクシ 清朝の內閣の官名。百僚を率ゐて機務を總理す。大學士（3－5831‥320）を見よ。

【保押費】254 pao³ ya¹ fei⁴ 保證金。敷金。

【保彝齋】255 ホイ 清、甘福（7－21643‥181）の號。

【保嬰局】256 ホエイキョク 保嬰會に同じ。

【保嬰會】257 ホエイクワイ 子女養育に苦しむ貧民に對し、養育料を與へて保育せしめる清時代の慈善事業團體。地方官吏及び民間有志の義捐に依る。一名、保嬰局。〔清國行政法、內務行政、賑恤、賑恤棄嬰、保嬰會〕保嬰會、一名保嬰局、地方官紳協力營辦、貧民生子、艱二於撫育一者、給二予養資一、以救二棄二殺兒女一之弊上、此其宗旨也、蓋育嬰堂者、將二嬰孩一收二入堂內一、而保嬰局則不レ行二收養一、只將二養資一給二與父母一、令二自行一撫育一、此其所レ不二相同一也。

【保越錄】258 ホエツロク 書名。一卷。選者未詳。元の順帝の至正十九年、胡大海が紹興の張士誠を攻めたことを記す。〔四庫提要、史、傳記類〕

【保開解】259 ホカイ 逸周書の篇名。

【保希賢】260 ホキケン 清、江蘇通州の人。字は蘭馨。號は杏橋。貢生。親を養つて仕へず。書畫を嗜み鑒別を善くす。書は顏眞卿を法とし、尤も小楷に巧。〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕

【保義軍】261 ホギグン 軍の名。㊀唐、置く。唐の開元中、隴右節度使を置き、鄯州を治として十二州を統轄した。今の陝西省麟游縣の西北。元和の初、保義軍の名を賜ふ。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、唐〕隴右、元和初、賜二名保義軍一、大中四年、復二秦成二州一、置二防禦使一。㊁唐、置く。陝州を治とす。今の河南省陝縣の治。龍紀の初、軍號を保義と賜ふ。光化の初、朱全忠に併合せらる。

〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕陜州、周爲周公召公分陜之所、云云、唐天祐初、升爲唐興府、尋又爲保義軍。

【保菌者】262 ホキンシヤ 體內に傳染病の病原菌を有する人。

【保稞人】263 pao³ k'ê¹ jen² 小作契約の時の仲介者。

【保皇會】264 ホクワウクワイ 保皇黨に同じ。

【保皇黨】265 ホクワウタウ 淸末、康有爲・梁啓超等が組織した政治團體。光緒帝を擁して君主立憲制を施行することを主張した。

【保乾圖】266 ホケント 書名。春秋緯の一。今、佚し、古微書に輯本を收む。

【保章氏】267 ホシヤウシ 周官の名。春官の屬。天文を掌る。星辰日月の變動を記し、天下の變遷を觀て吉凶を辨ず。〔周禮、春官、保章氏〕掌天星、以志星辰日月之變動、以觀天下之遷、辨其吉凶。

【保章正】268 ホシヤウセイ 官名。唐、置く。天文を掌る官。保章氏を見よ。〔事物紀原、九寺卿少部、保章正〕唐乾元元年改監、其小吏有保章正、則是唐改周官保章氏爲正也。

【保俶塔】269 ホシユクタフ 塔の名。浙江省杭縣の寶石山の上にあり、宋の咸平中、僧永保の建てたもの。一に、保叔塔に作り、又更に寶所塔ともいふ。〔西湖志引徐一夔重建寶石山崇壽院記〕又有浮石大經數百圍、號落星石、吳越錢氏有國時、封山爲寶石山、有吳延爽者、往東陽、請善導和尙舍利、建浮屠九級、附以僧坊、人稱寶塔院、宋咸平中、僧永保有目眚、化緣修塔、市人咸以師叔稱之、因呼爲保叔塔、湧幢小品謂、當作保俶塔、因俶入朝恐其被留、作此保之、霏雪錄謂、本作寶所塔。

【保食神】270 ウケモチノカミ 豐受神。〔日本書紀、神代紀上〕保食神、此云宇氣母知能加微。

【保親的】271 ハウシンテキ 婚姻の保證人。〔還魂記、圓駕〕保親的是母喪門。

【保素堂】272 ホソダウ 淸、錢金甫（**11－40563**··278）の室名。

【保中人】273 pao³ chung¹ jen² 保證人。

【保條子】274 pao³ t'iao² tzŭ 保證狀。引受證。保單。

【保店街】275 ホテンガイ 地名。河北省寧津縣の西南。一名、保安鎭。又、包頭店。

【保不定】276 pao³ pu ting⁴ 確かでない。保證せられぬ。保つ見込がない。

【保票人】277 pao³ p'iao⁴ jen² 保證人（144）に同じ。

【保甓齋】278 ホヘキサイ 淸、趙坦（**10－37171**··276）の號。

【保逢泰】279 ホホウタイ 淸の人。希賢の從子。字は極蟠。號は僊岩、仙巖。諸生。畫・篆刻・詩に巧。著に僊岩詩草がある。

【保豐市】280 ホホウシ 地名。湖北省竹山縣の西。もと鎭があつた。又、寶豐とも寶峯とも書く。陜西省四川省に通ずる要路。〔九域志〕竹山縣有寶豐鎭。

【保加利亞】281 ブルガリヤ ヨーロッパの國の名。布加利亞。Bulgaria の音譯。

〖保加利亞細菌〗282 ブルガリヤサイキン 乳酸菌の一種。ブルガリヤ地方で食用に供するヨーグルト中に發見せられたもの。糖類から乳酸を生ずる作用がある。

【保稅倉庫】283 ホゼイサウコ 輸入手續未濟の貨物を藏置する倉庫。

【保忠信卿】284 ホチユウシンケイ 關棧。漢の王莽の時、河南大尹を更めた官名。〔漢書、王莽傳中〕更名河南大尹曰保忠信卿。

【保納舍藏】285 ハウナフシヤザウ 入れかくまつてたもつ。〔後漢書、孔融傳〕融曰、保納舍藏者融也、當坐之。

【保甓居士】286 ホヘキコジ 淸、趙坦（**10－37171**··276）の號。

【俞】703

ユ 〔集韻〕容朱切 ㄩˊ yü² 虞

㊀**うつぼぶね**。〔玉篇〕俞、空木爲舟也。㊁兪（**1－1437**）の俗字。〔正字通〕俞、俗兪字。㊂**姓**。〔玉篇〕俞、姓也。

【俖】704

ハウ ヒヤウ 〔集韻〕百猛切 梗

いつはる。〔廣韻〕俖、詐僞人也。〔集韻〕俖、詐僞也。

【俟】705

㊀シ 〔集韻〕牀史切 ㄙˋ ssŭ⁴ 紙
㊁ギキ 〔集韻〕渠之切 ㄑㄧˊ ch'i² 支
㊂ゲキ 〔集韻〕渠希切 微

小篆

㊀㊀**大きい**。〔說文〕俟、大也、从人矣聲、詩曰、伾伾俟俟。〔段注〕此俟之本義也、自經傳假爲竢字、而俟之本義廢矣。㊁**まつ。あてにする**。竢（**8－25770**）・𥏓（**8－24006**）・迉（**8－25727**）に通ず。〔說文通訓定聲〕俟、段借爲竢。〔一切經音義、四〕俟、古文竢・𥏓・迉三形。〔詩、邶風、靜女〕俟我於城隅。〔傳〕俟、待也。〔儀禮、士昏禮〕先俟於門外。〔注〕俟、待也。〔禮、玉藻〕在官不俟屨、在外不俟車。〔中庸〕君子居易以俟命。㊂**多勢が徐行するさま**。〔詩、小雅、吉日〕儦儦俟俟、或羣或友。〔傳〕趨則儦儦、行則俟俟、獸三曰羣、二曰友。〔疏〕視彼中原之野、其諸禽獸大而甚有、謂形大而多也、故儦儦然有趨者、俟俟然有行者、其趨行、或三三爲羣、或二二爲友。㊃**姓**。〔通志、氏族略、上聲〕俟氏、風俗通、俟子著書、六國時人。〔萬姓統譜〕後魏獻帝、以次第爲俟氏。㊁㊀万俟は複姓。〔古今姓氏書辨證〕上音墨、下音其、其先魏文帝大統七年、万俟醜、自稱天子。㊁意俟奢は高麗の第四等の官名。〔周書、異域傳〕大官有大對盧、次有太大兄・大兄・小兄・意俟奢。㊂㊁の㊀に同じ。

【俟菴】1 シアン 元、李存（**6－14459**··542）の號。

〖俟菴集〗2 シアンシフ 書名。三十卷。元、李存撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【俟幾】3 キシ 複姓。〔魏書、官氏志〕俟幾氏、後改爲幾氏。

【俟居】4 シキヨ 明、孫如法（**3－6987**··445）の號。

【俟斤】5 シキン 突厥で大臣をいふ。後、氏となる。〔唐書、突厥傳下〕有五俟斤、曰、阿悉結闕俟斤・哥舒闕俟斤・拔塞幹暾沙鉢俟斤・阿悉結泥孰俟斤・哥舒處半俟斤。

【俟元】6 シゲン 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕俟元氏、改爲元氏。

【俟候】7 シコウ 待つ。待ち受ける。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕門子二名、至宅門俟候。

【俟齋】8 シサイ 淸、徐枋（**4－10110**··251）の號。

〖俟齋先生〗9 シサイセンセイ 淸、顧培（**12－43689**··158）の尊稱。

【俟俟】10 シシ 多勢が徐行するさま。字解㊀の㊃を見よ。〔詩、小雅、吉日〕儦儦俟俟、或羣或友。

【俟嗣】11 シシ 位を嗣ぐことを待つ。〔國語、晉語一〕公作二軍、公將上軍、太子（申生）將下軍、以伐霍、師未出、士蔿言於諸大夫曰、夫太子君之貳也、恭以俟嗣、何官之有。

【俟次】12 シジ 順序の來るのをまつ。〔傅玄、朝會賦〕相者從容俟次而入。

【俟時】13 シジ 時機の來るのをまつ。適當な時に於ての意。〔袁宏、三國名臣序贊〕孔明盤桓、俟時而動。

【俟堂】14 シダウ 堂にまつ。〔儀禮、鄕射禮〕三耦俟於堂西、南面東上。

【俟奴】15 ドシ 複姓。〔魏書、官氏志〕俟奴氏、後改爲俟氏。

【俟豆】16 シトウ 複姓。〔路史〕俟汾氏、後有俟豆氏。

【俟望】17 シバウ まちのぞむ。〔潘岳、爲賈謐作贈陸機詩〕發言爲詩、俟望好音。

【俟伏】18 シフク 複姓。〔路史〕侯植從魏孝武西遷、賜姓俟伏氏。

〖俟伏斤〗19 シフクキン 複姓。〔萬姓統譜〕俟伏斤、改爲伏氏。

【俟汾】20 シフン 複姓。〔姓譜〕神農爲黃帝所滅、

子孫遁ニ居北方一、鮮卑俗呼レ草爲ニ俟汾一、以ニ神農號有ニ嘗レ草之功一、因自號爲ニ俟汾氏一、其後音訛、遂爲ニ宇文氏一。〔魏書、高車傳〕高車之族、又有ニ十二姓一、九曰ニ俟汾氏一。

【俟命】21 シメイ 天命をまつ。又、命令をまつ。〔中庸〕故君子居レ易以俟レ命、小人行レ險以徼レ幸。〔孟子、盡心下〕君子行レ法、以俟レ命而已矣。〔國語、晉語二〕吾將ニ伏以俟レ命。〔孔子家語、弟子行〕易レ行以俟ニ天命一、居レ下不レ援ニ其上一。

【俟門】22 シモン 門にまつ。〔儀禮、士昏禮〕壻乘ニ其車一、先俟ニ於門外一。〔唐書、禮樂志四〕列俟ニ於太常寺門一。

【俟利】23 シリ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕俟利氏、後魏疋孤之後、猶ニ中國方伯一也。

【俟力】24 シリヨク 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕俟力氏、改爲ニ鮑氏一。

【俟力代】25 シリヨクダイ 複姓。〔萬姓統譜〕俟力代、改爲ニ代氏一。

【俟呂陵】26 シリヨリヨウ 複姓。〔萬姓統譜〕俟呂陵、改爲ニ呂氏一、周賜ニ韓夏姓俟呂陵一。

【俟訪續誌】27 ssŭ⁴ fang³ hsü⁴ chih⁴ 後報を俟つて續載しよう。新聞紙などの慣用語。

【俟毗可汗】28 シビカカン 唐、西突厥の王。咄陸可汗泥孰の父。名は莫賀設。統葉護に屬し、貞觀中、之を仆して、代つて俟毗可汗と號したが、衆從はず内紛を起す。〔舊唐書、一百九十四〕。

【俟利弗設】29 シリフツセツ 唐、處羅可汗(**9**−32697‥108)の❷の名。

【俠】706

㊀ ケフ ゲフ 〔集韻〕檄頰切 葉 ㄒㄧㄚˊ hsia²

㊁ カフ ケフ 〔集韻〕古洽切 洽

小篆

㊀❶**をとこだて**。**をとこぎ**。〔說文〕俠、俜也、从レ人夾聲。〔史記、游俠、郭解傳〕然其自喜爲レ俠益甚。〔漢書、季布傳〕爲ニ任俠一有レ名。〔注〕師古曰、俠之言、挾也、以ニ權力一俠ニ輔人一也。❷**かるい**。〔淮南子、說山訓〕喜レ武非レ俠也。〔注〕俠、輕也。❸**わかい**。〔呂覽、音律〕安レ壯養レ俠。〔注〕俠、少也。❹**やぶれる**。〔廣雅、釋詁三〕俠、敗也。❺**ほしいまま**。**わがまま**。〔韓非子、八說〕人臣肆レ意陳レ欲、曰レ俠。❻**美人**。〔說文通訓定聲〕俠、美人之稱、謂ニ借爲レ婡。〔漢書、禮樂志〕俠嘉夜。〔注〕如淳曰、嘉・俠、皆美人之稱也。❼**こころよい**。愜(**4**−**10948**)に通ず。〔說文通訓定聲〕俠、叚借爲レ愜、漢書禮樂志、俠ニ嘉夜一、按、快也。❽**さしはさむ**。**もつ**。**たもつ**。挾(**5**−**12118**)に通ず。〔漢書、叔孫通傳〕殿下郎中俠レ陛。〔注〕師古曰、俠、與レ挾同、挾ニ其兩旁一。〔法言、淵騫〕滕懽樊酈曰ニ俠介一。❾**つぐ**。椄(**6**−**15008**)に通ず。〔說文通訓定聲〕俠、叚借爲レ椄。〔左思、吳都賦〕俠ニ棟陽路一。〔注〕善曰、俠棟、棟相俠也。❿**あまねし**。**達する**。帀(**4**−**8773**)に通ず。〔說文通訓定聲〕俠、叚借爲レ帀、韓詩使レ不レ俠ニ四方一、毛作レ挾、傳、挾、達也。⓫**姓**。〔史記、韓世家〕聶政殺ニ韓相俠累一。〔路史〕漢鴆侯國、後有ニ俠氏一。⓬〔現〕近づく。㊁**かたはら**。**ならぶ**。**そふ**。夾(**3**−**5867**)に通ず。〔集韻〕俠、傍也。〔字彙〕俠、竝也。〔正字通〕俠、傍也、竝也、與レ夾通。〔周禮、考工記、鳧氏、枚謂ニ之景一、注〕今時鍾乳、俠ニ鼓與レ舞。〔儀禮、士喪禮〕婦人俠レ牀東面。〔疏〕言レ俠レ牀者、男子牀東、婦人牀西、以レ近而言也。
〔邦〕**はすつぱ**。**いさみ**。**おきやん**。

【俠游】1 ケフイウ 後漢、耿況(**9**−**29026**‥18)の字。

【俠河】2 ケフカ 河の名。俠活河をいふ。俠活(11)を見よ。

【俠介】3 ケフカイ さしはさみたすける。夾介(**3**−**5867**‥5)に同じ。〔法言、淵騫〕或問ニ蕭曹一曰、蕭也規、曹也隨、滕灌樊酈、曰ニ俠介一。〔注〕四人前後輔ニ夾高帝一。

【俠行】4 ケフカウ をとこぎあるおこなひ。〔唐書、劉叉傳〕少放肆、爲ニ俠行一。

【俠豪】5 ケフガウ をとこ氣ある豪傑。豪俠。〔漢書、趙廣漢傳〕建素豪俠、賓客爲ニ姦利一。

【俠客】6 ケフカク をとこ氣のある者。をとこだて。俠者。〔列子、黃帝〕子華使下其俠客以ニ智鄙一相攻、彊弱相淩上。〔史記、游俠傳序〕俠客之義、又曷可レ少哉。〔魏志、許褚傳〕諸從レ褚俠客、皆以爲ニ虎士一。〔駱賓王、帝京篇〕俠客珠彈垂楊道、倡婦銀鉤采薪路。

【俠氣】7 ケフキ をとこぎ。俠骨。〔後漢書、袁術傳〕少以ニ俠氣一聞。〔蘇軾、答ニ范祖禹一詩〕而今太守老且寒、俠氣不レ洗儒生酸。〔徐禎卿、游俠篇〕四牡飭ニ朱軒一、俠氣何翩翩。

【俠義】8 hsia² i⁴ 義俠。をとこぎ。

【俠傀】9 ケフクワイ 俠累(29)を見よ。

【俠魁】10 ケフクワイ 俠客のかしら。〔漢書、游俠傳序〕閭里之俠、原涉爲レ魁。

【俠活】11 ケフクワツ 河の名。源は河北省房山縣、東流して琅璃河に入る。俠河。〔水經、聖水注〕俠河、世謂ニ之俠活河一。

【俠君】12 ケフクン 淸、顧嗣立(**12**−**43689**‥277)の字。

【俠骨】13 ケフコツ をとこだての氣まへ。をとこぎ。俠氣。俠風。〔張華、博陵王宮俠曲〕生從ニ命子一遊、死聞ニ俠骨香一。〔李賀、馬詩〕長文俠骨香。〔王維、少年行〕孰知不下向ニ邊庭一苦上、縱死猶聞ニ俠骨香一。

【俠叉】14 ケフサ さすまた。〔九州春秋〕持ニ長戟俠叉一。

【俠士】15 ケフシ をとこぎのある人。〔晉書、馮素弗載記〕當世俠士、莫レ不レ歸レ之。〔李白、少年行〕驕矜自言不レ可レ有、俠士堂中養來久。〔元史、任速哥傳〕疏レ財而尙レ氣、有ニ古俠士風一。

【俠斯】16 ケフシ 敗れる。挾斯。〔廣雅、釋詁〕俠斯、敗也。

【俠侍】17 ケフジ 傍近くはべる、又、其の人。夾侍。〔陳書、韋翽傳〕臨軒則升レ殿俠侍。

【俠者】18 ケフシヤ をとこ氣のある人。俠客。〔史記、韓非子傳〕儒者用レ文亂レ法、而俠者以レ武犯レ禁。

【俠牀】19 ケフシヤウ 牀をさしはさむ。牀を中にする。俠は夾。〔儀禮、士喪禮〕婦人俠レ牀東面。〔疏〕言レ俠レ牀者、男子牀東、婦人牀西、以レ近而言也。

【俠少】20 ケフセウ をとこ氣のある少年。〔陳後主、洛陽道詩〕黃金彈ニ俠少一、朱輪盛ニ徹侯一。〔唐書、郭子儀傳〕將軍王甫結ニ俠少一、夜鼓ニ朱雀街一、呼曰、王師至、吐蕃夜潰。

【俠繞】21 ケフゼウ さしはさみめぐる。夾繞(**3**−**5867**‥64)に同じ。〔淮南子、道應訓〕還反度レ江、至ニ於中流一、陽侯之波、兩蛟俠ニ繞其船一。

【俠節】22 ケフセツ をとこぎ。〔唐書、竇建德傳〕材力絕レ人、少重ニ然許一、喜ニ俠節一。

【俠任】23 ケフニン をとこだて。をとこぎ。任俠(**1**−**416**‥64)に同じ。

【俠拜】24 ケフハイ 男子の一拜に對し、婦人が兩拜すること。又、婦人が男子に對する拜をいふ。〔儀禮、士昏禮、舅坐撫レ之興答拜婦還又拜、注〕還又拜者、還ニ於先拜處一拜、婦人與ニ丈夫一爲レ禮、則俠拜。〔疏〕云下婦人與ニ丈夫一爲レ禮則俠拜上者、謂レ若下士冠、冠者見レ母、母拜受ニ子拜一送、母又拜上、母於レ子尙俠拜、則不ニ徒此婦於レ舅而已一、故廣言下婦人與ニ丈夫一爲レ禮則俠拜上。〔江鄰幾雜志〕君實說、俠拜、今陝府村野婦人皆如レ此、男子一拜、婦人兩拜。〔朱子全書、禮〕古者婦人與ニ男子一爲レ禮、皆俠拜、每拜以レ二爲レ禮、昏禮、婦先二拜、夫答一拜、婦又二拜、夫又答一拜、冠禮、雖レ見レ母、母亦俠拜。

【俠甒】25 ケフブ 兩甒。甒はもたひ、酒器。〔禮、祭義〕見閒以ニ俠甒一。〔注〕見及見閒、皆當レ爲レ覸、字之誤也、云云、覸以ニ俠甒一、謂レ雜ニ之兩甒醴酒一也。

【俠陛】26 ケフヘイ 殿階をさしはさむ。夾陛。〔漢書、叔孫通傳〕殿下郎中俠レ陛、陛數百人。〔注〕師古曰、俠與レ挾同、挾ニ其兩旁一、每陛皆數百人也。

【俠輔】27 ケフホ をとこ氣を以て人を助ける。〔漢書、希布傳、爲ニ任俠一有レ名、注〕師古曰、俠之言、挾也、以ニ權力一俠ニ輔人一也。

【俠勇】28 ケフユウ をとこ氣。勇俠(**2**−**2360**‥31)に同じ。〔魏武帝、碣石篇〕士隱者貧、勇俠輕非。

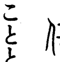
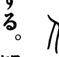
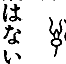
【俠累】29 ケフルイ 戰國、韓の人。名は傀。韓の哀公の相。嚴仲子と相惡み、其の刺客、聶政に刺殺せらる。〔史記、聶政傳〕濮陽嚴仲子、事二韓哀侯一、與二韓相俠累一有レ郤、嚴仲子恐レ誅、亡去游、求下人可三以報二俠累一者上、至レ齊、齊人或言、聶政勇敢士也、避レ仇隱二於屠者之閒一、嚴仲子至レ門、請數反、云云、政將下爲二知レ己者一用上、乃遂西至二濮陽一、見二嚴仲子一曰、云云、請得レ從レ事焉、云云、聶政直入上レ階、刺二殺俠累一。

【俠烈】30 ケフレツ をとこぎに富んだはげしい氣象。〔袁淑、俲二曹子建樂府白馬篇一〕俠烈良有レ聞、古來共知レ然。

【俠輅】31 ケフロ 輅をさしはさむ。俠は夾。輅は轅の縛。〔儀禮、既夕禮記〕滅レ燎執レ燭、俠レ輅北面。

【信】707

㊀シン 〔集韻〕思晉切 ㄒㄧㄣˋ hsin⁴ 震
㊁シン 〔集韻〕升人切 眞


小篆

古文

古文

㊀❶まこと。まことに。まこととする。疑はない。〔說文〕信、誠也、从二人言一。〔易、繫辭上〕人之所レ助者信也。〔周禮、地官、司市〕以二質劑一結レ信而止レ訟。〔疏〕釋曰、質劑、謂二券書一、恐三民失レ信有二所違負一、故爲二券書一結レ之、使レ有レ信也、民之獄訟、本由レ無レ信、既結レ信則無レ訟、故云レ止レ訟也。〔左氏、僖、七〕守レ命共レ時、之謂レ信。〔論語、學而〕與二朋友一交而不レ信乎。〔疏〕與二朋友一結レ交、而得レ無レ不二誠信一乎。〔論語、泰伯〕悾悾而不レ信。〔孟子、盡心下〕盡信レ書、則不レ如レ無レ書。〔史紀、夏紀〕百獸率舞、百官信諧。❷あきらかにする。つまびらかにする。〔左氏、昭、二十五〕信二罪之有無一。〔注〕信、猶レ明也。〔國語、周語下〕言以信レ名。〔注〕信、審也。〔呂覽、禁塞〕以信二其事一。〔注〕信、明也。❸しる。〔淮南子、氾論訓〕乃始信二於異レ衆。〔注〕信、知也。❹しるし。あかし。〔老子、二十一〕其中有レ信。〔王注〕信、信驗也。❺わりふ。符契。〔法言、修身〕信、符也。〔漢書、平帝紀〕駕二一封軺傳一。〔注〕如淳曰、律、諸當二乘レ傳及發レ駕置レ傳者、皆持二尺五寸之傳信一、封以二御史大夫印章一。〔後漢書、竇武傳〕取二棨信一閉二諸禁門一。❻したがふ。〔呂覽、勸學〕師尊則言信矣。〔注〕信、從也。❼うやまふ。〔廣雅、釋詁一〕信、敬也。❽たもつ。〔戰國、秦策〕慈母不レ能レ信也。〔注〕信、猶レ保也。❾まかせる。〔荀子、哀公〕明主任レ計、不レ信レ怒、闇主信レ怒、不レ任レ計。〔注〕信、亦任也。❿二晩とまる。再宿。〔說文通訓定聲〕信、按、謂二之申一者、重宿之義。〔詩、周頌、有客〕有レ客信信。〔傳〕再宿曰レ信。〔左氏、莊、三〕凡師、一宿爲レ舍、再宿爲レ信。⓫海水の定時の滿干。うしほ。〔名山記〕一月之閒、生明生魄潮、亦再盛焉、生明之潮、自二前月二十六一長レ水、謂二之起信一、歷二晦朔一至二月初三一、謂二之大起信一、初四潮勢漸殺、謂二之落信一、歷二上弦一至二月十日一、謂二之小信一、生魄之潮、則自二十一一始長、歷レ望至二十八一而盛、自二十九一始殺、歷二下弦二十五而衰、其起落大小之信、亦如レ之。⓬つかひ。使者。訊(10－35224)に通ず。〔正字通〕信、古人謂二使者一曰レ信、與レ訊通。〔史記、韓世家〕發二信臣一、多二其車一、重二其幣一。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕遣二信使一、曉二諭百姓一。〔世說、文學〕司空鄭沖、馳遣レ信、就二阮籍一求レ文。〔丹鉛總錄〕古者謂二使者一曰レ信、虞永興帖云、事以二信人口一具、凡言レ信者、皆謂二使者一也、今之流俗、遂以レ遺レ書饋レ物爲レ信、故謂二之書信一。⓭たより。おとづれ。〔沈約、白銅鞮歌〕若欲レ寄二音信一、漢水向レ東流。〔劇談錄〕以爲二登科之信一。⓮五音の宮をいふ。〔漢書、律歷志〕宮爲レ信。⓯五行で土をいふ。〔春秋、哀、十四、西狩獲レ麟、服注〕土爲レ信。〔孟子、公孫丑上、四端、集注〕愚按、四端之信、猶二五行之土一、無二定位一、無二成名一、無二專氣一、而水火金木、無下不二待レ是以生一者上、故土於二四行一無レ不レ在、於二四時一則寄王焉、其理亦猶レ是也。〔漢書、魏相傳、中央之神黃帝、注〕土爲レ信。⓰五行で水神をいふ。〔禮、中庸、天命之謂レ性、注〕水神則信。⓱古は㐰(1－369)・訫(10－35291)・訃(10－35227)に作る。〔說文〕信、㐰、古文信省也、訫、古文信。〔玉篇〕訃、古文信。〔集韻〕信、古作レ訫。⓲姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕信氏、風俗通、魏公子信陵君之後。⓳現㋑合圖。㋺砒石。⓴佛 一切の理・非理を辨別し、三寶の淨德を樂願し、一切の善事を希望して、其の心の淸淨なこと。〔唯識論、六〕云何爲レ信、於二實德能一深忍樂欲、心淨爲レ性、對二治不信一、樂レ善爲レ業。

㊁❶のびる。のばす。ゆるくする。伸(1－481)に通ず。〔說文通訓定聲〕信、叚借爲レ伸。〔易、繫辭下〕往者屈也、來者信也。〔詩、邶風、擊鼓〕不二我信一兮。〔釋文〕信、卽古伸字也。❷申(7－21726)に通ず。〔說文通訓定聲〕信、叚借爲レ申。㋑のべる。のばす。〔穀梁、隱、元〕春秋貴レ義而不レ貴レ惠、信レ道而不レ信レ邪。〔注〕信・申字、古今所二共用一。㋺ゆるくする。〔韓非子、十過〕不穀之國雖レ小、卒已悉起、願大國之信二意於秦一也。〔注〕戰國策、作三願大國遂肆二志於秦一、小爾雅云、肆、緩也、廣雅云、信也、猶レ云二展放一也、言レ緩二與レ秦和之事一也、信、申也、申亦緩意。❸身(10－38034)に同じ。信圭(58)の❶を見よ。〔周禮、春官、大宗伯〕侯執二信圭一。〔注〕信、當レ爲レ身、聲之誤也、身圭・躬圭、蓋皆象以二人形一、爲二瑑飾一、文有二麤縟一耳。

名乘 ノブ。トキ。サネ。トシ。タダ。アキ。コト。サダ。チカ。ミチ。アキラ。マコト。

解字 會意。人と言との合字。人言は人の心中を表白するもので、僞なきもの。故に信はまことを意味し、從つて信ずるの意となる。又、古文に㐰に作るのも同じ意である。故に說文は誠と訓む。假借して伸(のびる)・身・申・敶(あきらか)等の意とする。〔說文、信、段注〕人言則無二不レ信者一、故从二人言一。

【信愛】1 シンアイ 信じいつくしむ。〔荀子、仲尼〕主信二愛之一、則謹愼而嗛。〔韓非子、孤憤〕凡當レ塗者之於二人主一也、希レ不二信愛一也。〔漢書、王莽傳〕太后所二信愛一也。

【信安】2 シンアン ❶江の名。衢江(10－34090··3)を見よ。❷縣名。㋑晉、置く。後漢の新安縣。唐は西安といふ。浙江省衢縣の境。東晉の殷安が廢せられ、庶人となつて遷つた所。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府〕西安縣、附郭、秦會稽郡大末縣地、云云、晉大康元年、改曰二信安一、仍屬二東陽郡一。㋺南朝梁、置く。隋の時、改めて麻城といふ。湖北省麻城縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府〕麻城縣、府西北百八十里、漢郝縣地、梁置二信安縣一。㋩唐、置く。信寧(192)の❶を見よ。㋥金、置く。今の信安鎭。河北省霸縣の東。〔讀史方輿紀要、直隸、順天府、霸州〕信安城、州東五十里、唐置二游口關一、云云、宋景德二年、改二信安軍一、金大定七年、降爲二信安縣一屬二霸州一。㋭宋、常山縣を改め置く。元、復、常山といふ。浙江省常山縣治。〔讀史方輿紀要、浙江、衢州府、常山縣、定

陽城）縣東南招賢鄉、有二信安廢縣一、相傳、晉時置二縣於此一。㊀宋、義寧縣を改め置く。故治は廣東省開平縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東、肇慶府、恩平縣〕信安廢縣、縣東北百里、與二廣州新會縣一接界、卽廢義寧縣也。

【信菴】3 アンシン 宋、趙葵（10－37171‥95）の號。

【信倚】4 イシン 信賴してたよる。

【信意】5 イシン 意をゆるくする。考を捨てる。字解㊀の㊁を見よ。

【信委】6 キシン 信用してまかせる。〔北史、申徽傳〕周文察二徽沈密有二度量一、每事信二委之一。

【信威】7 キシン 威武をのべる。申威。〔後漢書、文苑上、杜篤傳〕信二威於征伐一、展二武乎荒裔一。

【信印】8 インシン いつはりの無い證據にする印。まことのしるし。〔史記、封禪書〕使二各佩一其信印一、乃可レ使レ通二言於神人一。

【信音】9 インシン 消息。手紙。〔徐璣、詩〕四海爲二儒者一相逢問二信音一。

【信衣】10 シンネ 佛家傳授の法衣。〔五燈會元〕二十五祖曰、師子尊者難未レ起時、密授二我信衣法偈一、以顯二師承一。

【信慧】11 エシン 佛二十二根中の信根と慧根。信は邪見を破り、慧は無明を斷ずる。〔無量壽經、下〕壽命甚難レ得、佛世復難レ値、人有二信慧難一。

【信悅】12 シンエツ 信じて悅び服する。〔唐書、柏耆傳〕穆宗遣レ耆諭二天子意一、衆乃信悅。

【信越】13 シンエツ 信濃と越前・越中・越後地方。

【信鷗】14 オウ 水鳥の名。我が國の千鳥の類。〔海物異名記〕鷗之別類、羣鳥喈喈隨レ潮、謂二之信鷗一。

【信可】15 シンカ 宋、鄒定（11－39562‥37）の字。

【信戒】16 シンカイ 佛 信心と戒律。四種證淨、卽ち二寶證淨と聖戒證淨とのこと。前者は信を體とし、後者は戒を體とするからいふ。〔俱舍論、二十五〕由二所信別一、故名有レ四、應レ知、實事唯有レ二、謂、於二佛等三寶證淨一、以二信爲一レ體、聖戒證淨、以二戒爲一レ體、故唯有レ二。〔俱舍光記、二十五〕所信不レ同、故名有レ四、實事唯二、信戒爲レ體。〔藥師經、壞二君臣法一、毀二於信戒一。〕

【信海】17 カイ 佛 信心の實德が廣大無邊なことを海に喩へていふ。〔教行信證、三本〕眞如一實之信海。

【信諧】18 シンカイ まことにやはらぐ。〔史記、夏紀〕百獸率舞、百官信諧。

【信交】19 シンカウ まことある交り。信義ある交際。〔新序、節士〕君子曰、程嬰・公孫杵臼、可レ謂二信交厚士一矣。

【信仰】20 シンカウ 神佛にたのみすがる。信向。歸依。信崇。〔唐華嚴經、十四〕人天等類同信仰。

【信向】21 シンカウ ㊀ 信じてそれに歸向する。信じ從ふ。〔漢書、韓延壽傳〕歷レ召郡中長老、爲二鄉里所一信向一者數十人上。〔後漢書、皇甫嵩傳〕百姓信二向之一。〔後漢書、寇恂傳〕恂與二門下椽閔業一共說レ況曰、邯鄲拔起、難レ可二信向一。㊁ 佛教を信じて疑はない。信仰。〔隨願往生經〕信向者少、邪習者多。

【信江】22 シンカウ 河の名。一名、上饒江。源は江西省玉山縣。南流して玉琊溪・下干溪を合せ、上饒縣の南に至つて上饒江と呼ばれ、下流は弋陽江となつて鄱陽湖に入る。

【信行】23 シンカウ ㊀ 信實ある行ひ。〔後漢書、高翊傳〕以二信行清操一知レ名。〔袁淑、傚二曹子建樂府白馬篇一〕信行直如レ弦。㊁ ギャウ 隋の高僧。三階教の開祖。魂郡王氏の子。初、相州の法藏寺に住し、親ら勞役に服す。開皇の初、召されて京に入り、眞寂寺に住す。著に對根起行法・三階集錄・三階佛法、及び衆事諸法など四十餘卷ある。〔續高僧傳、十六〕㊂ 佛 他から聞いた教を信じて行ふこと。法行（6－17290‥38）の對。〔玄義、十〕教門爲二信行人一。〔魏書、釋老志〕帝以二清淨無爲有一仙化之證一、遂信二行其術一。

【信幸】24 シンカウ 信じ可愛がる。〔韓非子、姦劫弑臣〕此人臣之所レ以信幸二之道也一。〔漢書、韓信傳〕公、陛下之信幸臣也。

【信香】25 カウ 佛 ㊀ たよりを知らせる香。神祕的な感得。〔指月錄、三〕時鶴鶴勒那、爲二彼國王寶印一、說二修多羅偈一、忽覩二異香成一レ穢、王曰、是何祥也、曰、西印土摩掲羅尊者將レ至、此信香也。㊁ 香。心の澄んだ信心を香に喩へていふ。〔性靈集、六〕焚二信香於法界爐一。㊂ 禪宗で、禪僧が一寺に住持となり、初めて說法をすることを開堂、又は出世開堂といふが、此の時、香を師匠に贈つて嗣法の信を通ずることを信香といふ。〔禪林象器箋、十一〕。

【信稿】26 hsin⁴ kao³ 手紙の草稿。書簡の下書。

【信號】27 ガウ あひづのしるし。合圖。

【信號旗】28 キ 軍隊・艦船等に於て信號に用ひる旗。

【信號標】29 ヘウ 信號に用ひるしるし。

【信號喇叭】30 ラッパ 信號の爲に吹く喇叭。

【信懟】31 カク うやまひつつしむ。まことがある。〔韓詩外傳、四〕士信懟而後求レ知焉。〔荀子、哀公〕信懟而後求二知能一焉。

【信覺】32 カク まことの現實。信夢（232）の對。〔列子、周穆王〕信覺不レ語、信夢不レ達。

【信鴿】33 カフ 傳書鳩。轉じて、書信をいふ。〔海錄碎事、人事、書問〕送二新羅僧一詩、欲レ整二扶桑棹一、先教二信鴿廻一。

【信函】34 hsin⁴ han² 手紙。書翰。

【信旗】35 キ 信號の旗。〔資治通鑑、唐紀〕〔武宗、會昌四年〕每戰監使自有二信旗一。〔注〕信旗者、別爲二一旗一、軍中視レ之、以爲二進退一。

【信櫃】36 hsin⁴ kuei⁴ 私書函。郵便局備へつけの私書函。

【信宜】37 ギ 縣名。宋、置く。漢の瑞溪縣の地。今、廣東省茂名縣の北。〔讀史方輿紀要、廣東、高州府〕信宜縣、漢蒼梧郡端溪縣地、梁爲二梁德縣地一、隋爲二懷德縣地一、唐武德四年、析置信義縣、爲二南扶州治一、貞觀六年、爲二竇州治一、宋太平興國初、改縣曰二信宜一、仍爲二竇州治一。〔清史稿、地理志〕廣東、高州府、縣五、信宜。

【信欺】38 ギ まことといつはり。〔潛夫論、本政〕信欺在レ性、不レ在二親疏一。

【信義】39 ギ まことでただしい。〔孔叢子、陳士義〕非二信義君子、明識一、窮達則不可。〔後漢書、東夷傳論〕用二信義一。〔吳志、太史慈傳、注〕太史子義、青州名士以二信義一爲レ先。〔南史、周敷傳〕聞二敷信義一、皆往依レ之。

【信義港】40 カウ 河の名。源は福建省邵武縣界。北流してゞ陽江に注ぐ。〔讀史方輿紀要、廣信府、ゞ陽縣、明溪〕信義港、在二縣東二十里一、源出二福建邵武縣境一、引流而東北至二縣界一、下流入二於葛溪一、港旁土地高沃、人多二信義一、故名。

【信疑】41 ギ 信ずることと疑ふこと。又、信ずべきことと疑はしいこと。〔荀子、非十二子〕〔信〕信也、疑、疑亦信也。

【信疑忠謗】42 チュウバウ 誠心をもつてゐるのに疑はれそしられる。忠も信と同意。〔史記、屈原傳〕信而見レ疑、忠而被レ謗。

【信鄉】43 キャウ ㊀ 信じて歸向する。信じて從ふ。鄉はむかふ。信向。信嚮。〔漢書、辛慶忌傳〕徵入歷二位、朝廷莫レ不二信鄉一。㊁ 縣名。漢、置く。故域は山東省夏津縣の西。〔漢書、地理志上〕清河郡、縣十四、信鄉。

【信彊】44 キャウ まことがあつて善につよい。〔國語、晉語七〕知二鐸遏寇之恭敬而信彊一也。

【信嚮】45 キャウ 信じて從ふ。信鄉（43）の㊀に同じ。〔論衡、量知〕夫胸中不レ學、猶二手中無一レ錢也、欲下人君任二使之一、百姓信而嚮之上、奈何也。

【信宮】46 キュウ 長信宮（11－41100‥465）に同じ。秦の始皇が渭南に作つた宮殿で、故址は陝西省咸陽縣の境。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、咸陽縣、德陽宮〕一統志、縣境渭水南、有二長信宮一、秦始皇、初居二長信宮一、祈レ年、宮卽此。

【信據】47 キョ 信ずべき證據。信じて依據する。

【信局】48 hsin⁴ chü² 民間經營の遞送機關。又は內國爲替取扱機關。

【信王】49 ワウ 明、林圭（6－14551‥83）の字。

【信禽】50 キン 鳥の名。雁（11－41960）の異名。〔郝經、鴈媒詩〕信禽法二天運一、斷不爲二炎涼一。

【信謹】51 キン まことがありつつしみ深い。〔史記、項羽紀〕素信謹、稱爲二長者一。

【信遇】52 グウ 宋、吳達老（2－3365‥768）の字。

【信貨】53 クワ 世人が立派なものであると信ずるから。〔戰國、西周策〕君何不レ買二信貨一哉。

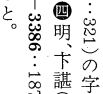
【信滙】54 シンワイ 書信を以てする國內送金爲替。

【信寬】55 シンクワン まことがあつて心のひろいこと。〔國語、周語下〕其中也、恭儉信寬、帥歸二於寧一。

【信君】56 シンクン まことある君。立派な君。〔左氏、昭、二十〕其所二以蕃祉老壽一者、爲二信君一使也。

【信解】57ケシン 㑹佛を信仰して其の教を理解すること。〔法華經、序品〕種種信解、種種相貌。

【信圭】58ケイシン ❶周代、諸侯の執る瑞玉の名。人の形を琢飾とする故名づく。信は身。〔周禮、春官、大宗伯〕侯執二信圭一。〔注〕信當レ爲レ身、聲之誤也、身圭・躬圭、蓋皆象以二人形一爲二瑑飾一。〔周禮、秋官、大行人〕諸侯之禮、執二信圭七寸一。❷明、求琰(6－17105‥9)の字。


信三
圭禮
❶圖

【信卿】59ケイシン 字號。❶北齊、羊烈(9－28425‥183)の字。❷宋、夏尚忠(3－5720‥321)の字。❸金、高永(12－45313‥36)の字。❹明、呂光洵(2－3386‥187)の字。

【信教】60シンケウ 宗教を信ずること。

【信教自由】61シンケウノ ジイウ 宗教を信ずることの自由。我が國では、國民は安寧秩序を妨げず、國民たる義務に背かざる限りに於て信教の自由が許されてゐる。

【信樂】62シンギョウ ❶㑹法に信順し、之を愛樂すること。淨土眞宗で、彌陀十八願に至心信樂欲生我國とある。〔教行信證、信卷〕私關三心字訓二三心一、卽合レ一、其意何者、至者、卽是眞也、實也、誠也、心者、卽是種也、實也、言二信樂一者、信者、卽是眞也、實也、誠也、滿也、驗也、宣也、忠也、樂者、卽是欲也、願也、愛也、悅也、歡也、喜也、賀也、慶也、言レ欲レ生者、欲者、卽是願也、樂也、覺也、知也、生者、卽是成也、作也、爲也、興也、明智至心、卽是眞實誠種之心、故疑蓋無レ雜也、信樂卽是眞實誠滿之心、欲願愛悅之心、歡喜賀慶之心、故疑蓋無レ雜也、欲生卽是願樂覺知之心、成作爲樂之心、故疑蓋無レ雜也、今案二三心字訓一、眞實心而虛僞無レ雜、正直心而邪僞無レ雜、眞知疑蓋無二間雜一、故是名二信樂一、信心卽是一心也、一心卽是眞實信心也、是故論主建言二一心一也。❷ギョウ 地名。㋑信濃國にある。㋺近江國にある。❸姓氏。〔日用重寶記、二〕。

【信樂燒】63シガラキ 近江國信樂地方産の陶器。〔萬寶全書、七〕信樂燒物。

【信樂茶】64シガラキチャ 近江國信樂地方産の茶。

【信結】65シンケツ まことを以て人心をむすびつける。〔陸雲、晉胡散騎常侍陸府君誄〕恩懷二士心一、信結二民情一。

【信讞】66シンゲン 法律上の取調べに任せて、それを信用すること。〔周禮、政要、獄訟〕據レ律辨レ駁、以成二信讞一。

【信件】67hsin⁴ chien⁴ 手紙。郵便物。

【信險】68シンケン まことに險岨であること。〔左思、魏都賦〕與二先代一而常然、雖二信險一而勤絕。

【信驗】69シンケン しるし。きき め。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕予二淮陽王一以爲二信驗一。

【信言】70シンゲン まことのことば。眞實の言。信言不レ美を見よ。

【信言之瑞】71シンゲンノ ズイ 信は言葉に對して恰も符節の如きものである。前日の言が後日の事に合することをいふ。〔左氏、襄、九〕信者、言之瑞也、善之主也。〔注〕瑞、符也。

【信言不レ美】72シンゲンフビ まことのこもつた言葉は外面を飾らぬ。〔老子、八十一〕信言不レ美、美言不レ信。

【信古】73シンコ ❶古を信ずる。〔論語、述而〕子曰、述而不レ作、信而好レ古。〔弘道館記述義、上〕中世以降、信レ古不レ篤、妄以二私智一測二神代一。❷明、徐述(4－10110‥161)の字。

【信古堂】74シンコドウ 清、王士禛(7－20823‥1516)の室名。

【信鼓】75シンコ ❶合圖の太鼓。〔崔曙、宿二大通和尚塔一詩〕然燈見二栖鴿一、作レ禮聞二信鼓一。❷㑹信心を起させる太鼓。信仰を得る方便となるものである。〔呂覽、爲欲〕信國之寶也、得レ原失寶。

【信差】88シンサ 飛脚。郵便配達人。郵差(11－3948 5‥13)に同じ。〔郵政章程〕。

【信哉】89マコトナルカナ 眞なるかな。本當であるわい。〔史記、周紀〕武王自稱二太子發一、言奉二文王一以伐、不レ敢自專、乃告二司馬司徒司空諸節一、齊栗信哉、予無レ知、以先祖有德、臣小子受二先功一。〔蘇軾、次韻王夷仲茶磨二詩一〕計盡功極至二于磨一、信哉智者能創レ物。

【信齋】90シンサイ 大鄕良則の號。大鄕信齋(8－5831‥2564)を見よ。

【信齋居士】91シンサイコジ 宋、葛郯(9－31420‥68)の號。

【信齋先生】92シンサイセンセイ 宋、楊復(6－15112‥340)の尊稱。

【信箱】93hsin⁴ hsiang¹ 郵便箱。ポスト。

【信藏】94ザンシン 㑹信心の中に一切の功德が含まれてゐること。〔華嚴經、一〕信藏解脫門。

【信讒】95ザンシン 讒言を信ずること。〔漢書、杜欽傳〕成王有二獨見之明一、無二信讒之聽一。

【信士】96シンシ ❶まことがあつて正しい人。信義の士。信人。〔荀子、王霸〕以二夫千歲之法一、持者、是乃千歲之信士矣。〔管子、乘馬〕非二信士一、〔淮南子、詮言訓〕天下非レ無二信士一也。〔說苑、立節〕信士不レ惰レ行。〔後漢書、來歙傳論〕世稱、來君叔、天下信士。❷金を寄附した人。〔通俗編、釋道、信士〕金石文字記、漢曹全碑陰、義士某干、義士某五百、義士、蓋但出レ財之人、今人出レ財布施、皆曰二信士一、宋太宗朝、避二御名一、凡義字、皆改爲レ信、今之信士、卽漢碑所レ稱義士也。❸㑹シン ㋑出家しないで佛門に入つた男子の稱。優婆塞。女子は信女。〔梵摩喩經〕爲二清信士一守レ仁不レ殺、知レ足不レ盜。㋺葬る男子の法名の下に添へて呼ぶ稱。

【信士山】97マツチヤマ 山名。❶大和國にある。❷下總國にある。〔一話一言〕。

【信子】98hsin⁴ tzŭ 郵便函。ポスト。信箱。

【信之】99シンシ 字號。❶前蜀、馮涓(12－44579‥62)の字。❷宋、郭成(11－39474‥142)の字。❸宋、鄭性之(11－39647‥472)の字。❹金、張大節(4－9812‥132 5)の字。❺元、麻革(12－47887‥13)の字。❻明、蔡中孚(9－318 18‥218)の字。❼明、蒲宗瑞(9－31611‥187)の字。❽清、周中孚(2－3441‥785)の字。

【信史】100シンシ たしかな史籍。信用ある史籍。〔韓偓、余臥二疾深村一云云成二此篇一詩〕莫レ負二美書名一信史、清風掃地更無レ遺。〔林希、尚書省謝二臨幸一表〕信史備書、流二美談于萬世一。

【信志】101シンシ 心をまことにする。〔易、兌〕孚兌

之吉、信レ志也。
【信使】102 シンシ つかひ。使者。〔司馬相如、喩二巴蜀一檄〕遣二信使一、曉二諭百姓一。〔杜甫、送二王十五判官扶侍還二黔中一詩〕黔陽信使應二稀少一、莫レ怪頻頻勸二酒盃一。〔稱謂錄、欽差、信使〕書敍指南、相如使二異國一曰二信使一。
【信紙】103 hsin⁴ chih³ 便箋。レターペーパー。書翰用紙。信箋。
【信資】104 hsin⁴ tzŭ¹ 郵稅。郵便料金。郵資。
【信次】105 シンジ 三日以上の宿泊。日數の多いとまり。信は再宿。次は再宿以上。〔左氏、莊、三〕凡師出、一宿爲レ舍、再宿爲レ信、過レ信爲レ次。〔會箋〕舍者、軍行一日止而舍息也、信者、住經二再宿一、得二相信問一也。〔謝靈運、作二離合一詩〕古人怨二信次一、十日眇未レ央。
【信恃】107 シンジ 信じたのむ。〔戰國、秦策〕齊與二大國一救レ魏而倍レ約、不レ可二信恃一。
【信璽】108 シンジ しるしとして押す印璽。〔漢書、霍光傳〕始至謁見、立爲二皇太子一、常私買二雞豚一以食、受二皇帝信璽一、行二璽大行前一。〔注〕孟康曰、漢初有二三璽一、天子之璽自佩行レ璽、信璽、在二符節臺一、大行前、昭帝柩前也。
【信州】109 シンシウ 州名。㊀梁、南齊の巴州を改め置く。唐、復、信州といひ、又、夔州と改む。故治は四川省奉節縣の東。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府〕奉節縣、附郭、秦置二魚復縣一屬二巴郡一、云云、晉太康初、復曰二魚復一、宋齊因レ之、皆爲二巴東郡治一、梁幷二置信州治此一。㊁唐、置く。故治は江西省上饒縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、夔州府、上饒縣〕信州城、今府城、唐所レ置也。㊂唐、置く。羈縻州。今、闕く。四川省舊敍州府の境。㊃唐、置く。羈縻州。今、闕く。安南省の境。㊄遼、信州彰聖軍を置く。もとの越喜の地。故城は滿洲遼寧省鐵嶺縣の東北。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、安東衞〕廢信州、在二衞東北四百里一、遼志云、本粤喜故城、渤海置二懷遠府治懷福縣一、遼改置二信州彰聖軍一、又改置二武昌縣一、爲二州治一、金因レ之、元州縣俱廢。㊅國の名。信濃の略稱。今の長野縣。
【信脩】110 シンシウ まことで心の修まること。〔曹植、洛神賦〕嗟佳人之信脩、羌習レ禮而明レ詩。
【信質】111 シンシツ まこと。又、まことにする。まことを表はす。〔白虎通、文質〕璜以徵召、璧以聘問、璋以發レ兵、珪以信質、琮以起二土功之事一也。
【信實】112 シンジツ 僞りのないこと。まこと。眞實(8−23235‥143)に同じ。
【信者】113 シンジャ 宗教を信仰する者。教徒。信徒。〔梁高僧傳〕時有二信者一。
【信賞】114 シンシヤウ 功のある者は必ず賞する。〔韓非子、內儲說上〕二曰、必罰明レ威、三曰、信賞盡レ能。
〔信賞錢〕115 シンシヤウセン 褒美の金。〔水滸傳、十一回〕出二三千貫信賞錢一、捉二拿正犯林冲一。
〔信賞必罰〕116 シンシヤウヒツバツ 賞すべきは必ず賞し、罰すべきは必ず罰す。賞罰を明かにする。〔韓非子、外儲說右上〕狐子對曰、信賞必罰、其足二以戰一。
【信讓】117 シンジヤウ 誠と謙讓。〔禮、坊記〕君子信讓以涖二百姓一。
【信借】118 hsin⁴ chieh⁴ 信用貸借。信用して貸す。
【信手】119 シンシユ ㊀手の動くにまかせてすること。手を自由自在に動かすこと。〔白居易、琵琶行〕低レ眉信レ手續續彈。㊁佛信心は手の如きものである。手を以て寶を得るが如く、信心によつて佛道を得るからいふ。〔智度論、一〕經中說、信爲レ手、如下人有レ手入二寶山中一、自在能取上、若無レ手不レ能レ有レ所レ取。
【信首】120 シンシユ 佛佛法をいふ。信仰を第一とするからいふ。〔釋門歸敬儀、上〕宜レ敬設レ儀、開二其信首之法一。
【信種】121 シンシユ 佛信心を心の中に種ゑ具へてゐるもの。〔元亨釋書、榮西傳〕照二憐異域之信種一。
【信受】122 シンジユ 信用し受け入れる。〔參同契、注〕苟有二一句懵懂含糊一、便難二信受一。
〔信受奉行〕123 シンジユブギヤウ 佛信奉して行ふ。佛經の文尾に用ひる。〔仁王經、末〕一切大衆聞二佛所レ說、皆大歡喜、信受奉行。
【信珠】124 シンジユ 信といふ珠。信は能く人心を清澄にさせるから、珠に譬へていふ。〔成實論、四〕得二信珠一、則心池清。
【信從】125 シンジユウ 信じ從ふ。信仰する。〔國史略、垂仁天皇〕西教始祖黑西亞、生二於猶大國伯利恆一、黑西亞又號二耶蘇基督一、天資聰敏、深修二教法一、多二信從者一。
【信叔】126 シンシユク 字號。㊀宋、鄔克誠(11−39570‥8)の字。㊁宋、程節(8−25081−85)の字。㊂宋、劉錡(2−2224‥161)の字。
【信宿】127 シンシユク 二泊。再宿。〔詩、豳風、九罭〕公歸不レ復、於レ女信宿。〔左氏、莊、三〕凡師、一宿爲レ舍、再宿爲レ信、過レ信爲レ次。〔後漢書、蔡邕傳論〕信宿三遷。
【信順】128 シンジユン ㊀信じ從ふ。又、まごころからしたがふ。〔韓非子、解老〕今有道之士、雖二中外信順一、不三以誹二謗窮墮一。〔柳宗元、零陵郡復二乳穴一記〕信順休洽。㊁佛聞いた法を信受して之に順ふ。〔無量壽經、下〕應二當信順如レ法修行一。
【信初】129 シンショ 清、王遵訓(7−20823‥1680)の號。
【信書】130 シンショ ㊀てがみ。書狀。書札。書簡。〔舊唐書、宣宗紀〕泊二參信書一、亦引二親昵一。㊁特定の人が特定の人に其の意思を傳達する文書。
【信處】131 シンショ やどりをる。とまる。宿泊する。〔詩、豳風、九罭〕公歸無レ所、於レ女信處。
【信臣】132 シンシン ㊀君命を守り行ふ臣。まごころを以て君に仕へる臣。〔左氏、宣、十五〕寡君有二信臣一、下臣獲レ考死、又何求。〔賈誼、過秦論〕信臣精卒。〔吳志、賀邵傳〕忠良排墜、信臣被レ害。㊁使者として遣す臣。使者。字解の⑫を見よ。〔韓非子、十過〕王其趣發二信臣一、多二其車一、重二其幣一。〔史記、韓世家〕發二信臣一。㊂字號。㋑唐、王潮(7−20823‥833)の字。㋺宋、安守忠(3−7072‥544)の字。㋩宋、郭廷謂(11−39474‥384)の字。㋥宋、張去華(4−9812‥923)の字。㋭宋、李濤(6−14459‥559)の字。㋬金、呂中孚(2−3386‥239)の字。㋣清、許乃釗(10−35298‥352)の號。
【信信】133 シンシン ㊀信ずべきことを信ずる。〔荀子、非十二子〕信レ信、信也、疑レ疑、亦信也。㊁四泊。〔詩、周頌、有客〕有レ客信信。〔傳〕一宿曰レ宿、再宿曰レ信。〔疏〕有レ客信信、四宿也。㊂のびのびするさま。ゆつくりするさま。信信如を見よ。
〔信信如〕134 シンシンジヨ ゆつくりするさま。信は伸。〔說苑、辨物〕寧則信信如也、動則著矣。
【信人】135 シンジン ㊀誠があつて欺かぬ人。信士。〔孟子、盡心下〕浩生不害問曰、樂正子何人也、孟子曰、善人也、信人也、何謂レ善、何謂レ信、曰、可レ欲之謂レ善、有二諸己一之謂レ信。〔史記、李斯傳〕信人而奮士。㊁使者。字解の⑫を見よ。㊂マコトニヒトナリ 人間と少しもかはらぬ。〔列子、湯問〕偃師謁二見王一、王薦レ之曰、若與偕來者何人邪、對曰、臣之所レ造能倡者、穆王驚視レ之、趨步俯仰、信人也。
【信心】136 シンジン 佛に歸依して之を信仰する心。〔觀佛三昧經〕諸子邪見、都無二信心一。
〔信心齋〕137 シンシンサイ 清、李贊元(6−14459‥1268)の號。
【信水】138 シンスイ ㊀黃河の水が一定の時によつて增減することをいふ。〔宋史、河渠志〕黃河隨レ時漲落、故舉二物候一爲二水勢之名一、自二立春一之後、東風解凍、河邊人、候レ水初至凡一寸、則夏秋當レ至二一尺一、頗爲二信驗一、故謂二之信水一。㊁佛信心といふ水。信心の澄淨を清水に譬へていふ。又、信心が能く疑念の垢を洗除することともいふ。〔演密鈔、三〕若先習垢深、則不レ染二諸法界之法一、若以二信水一澣二令潔白一、則堪レ受レ染。㊂hsin⁴ shui³ 婦人の經水。月經。
【信瑞】139 シンズイ しるしのたま。〔白虎通、文質〕琮、信瑞也。
【信崇】140 シンスウ たふとびあがめる。信仰。〔洛陽伽藍記、二〕士庶二千餘戶、信二崇三寶一。
【信施】141 シンセ 佛信者が佛・法・僧の三寶に捧げる施物。〔觀佛經、五〕虛食二信施一、以二此因緣一、食二諸鐵丸一。
【信成】142 シンセイ ㊀縣名。漢、置く。故城は河北省清河縣。〔漢書、地理志上〕淸河郡、縣十四、信成。〔讀史方輿紀要、直隸、廣平縣、淸河縣〕信成城、縣西北十二里、漢縣屬二西河郡一、後漢省。㊁後唐、康義誠(4−9376‥169)の字。
【信星】143 シンセイ 土星。〔史記、封禪書〕淵耀光明、信星昭見。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕景星顯見、信星彪列。〔注〕如淳曰、鎭星爲二信星一。
【信誓】144 シンセイ 誠を以て誓ふ。又、誠心からの誓。

〔詩、衞風、氓〕信誓旦旦、不レ思二其反一。〔箋〕我其以レ信、相誓旦旦耳、言二其懇惻疑誠一。〔楚辭、賈誼、惜誓、章句〕古者君臣將二共爲一レ治、必以二信誓一相約、然後言乃從、而身以親也。〔魏志、杜恕傳〕布衣之交、猶有下務二信誓一而蹈二水火一、感二知己一而披二肝膽一、徇二聲名一而立二節義一者上。〔王粲、贈二蔡子篤一詩〕君子信誓、不レ遷二于時一。〔白居易、與二吐蕃宰相鉢闡布一敕書〕必欲二復修一信誓。

【信誠】145 シンセイ ❶まこと。いつはりがない。〔逸周書、官人解〕鄉黨之間、觀二其信誠一。〔袁宏、三國名臣序贊〕不下以二信誠一率上衆。❷隋、柳雄亮(6－14662‥294)の字。

【信石】146 シンセキ ❶砒石。砒。江西省信州を主産地とする。又、砒霜、礬石ともいふ。神鑛。〔本草、砒石〕釋名、信石、人言、生者名二砒黃、鍊者名一砒霜、時珍曰、砒、性猛如レ貔、故名、惟出二信州一、故人呼爲二信石一而又隱二信字一爲二人言一。❷山名。廣西省鬱林縣の東南。一名牢石墩。〔舊唐書、地理志四〕貞觀十一年、改二智州一爲二牢州一、以二牢石一爲レ名。牢石高四十丈、周二十里、在二州界一也。〔讀史方輿紀要、廣西、梧州府、鬱林州〕信石山、州東南一里、一名牢石坡、舊唐書、牢石高四十丈、周二十里、牢州以レ此名。

【信節】148 シンセツ 天子の使者の持つ證據のわりふ。〔史記、朝鮮傳〕右渠見二使者一、頓首謝願レ降、恐二兩將詐殺一臣、今見二信節一、請服降。

【信船】149 hsin⁴ ch'uan² 郵便船。

【信箋】150 hsin⁴ chien¹ 書翰箋。

【信籤】151 シンセン しるし。わりふ。〔福惠全書、保甲部、調集、符信〕書二某字號合同信籤官押一。

【信全】152 シンゼン まことがそなはる。〔荀子、王霸〕與二端誠信全之士一爲レ之、則霸。

【信息】153 シンソク 消息。たより。〔剪燈餘話、至正妓人行〕蕩子江湖信息稀、疲兵關塞肌膚裂。

【信太】154 シンタ ❶駿河國の郡名。❷シンダ 和泉國の地名。❸シンダ 姓氏。〔日用重寶記〕。

【信袋】155 シンタイ ❶符信を入れた袋。〔金史、世宗紀下〕命二範銅一爲二禮信之寶一、凡賜二外方禮物一、給二信袋一、則用レ之。❷hsin⁴ tai⁴ 郵便局で信書を入れる袋。

【信乃】156 シンナ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【信道】157 シンダウ ❶道を信ずる。〔孔子家語、五儀解〕篤レ行信レ道、自強不レ息。❷字號。㋑宋、周孚(2－3441‥440)の字。㋺宋、舒直(9－30300‥60)の字。㋩宋、馮正符(12－44579‥251)の字。

【信託】158 シンタク 財產權の移轉、其の他の處分管理を他人に委託すること。〔信託法〕。

【信託會社】159 シンタククワイシヤ 信託の引受け、其の他、依頼を受けて財產の管理をする會社。

【信託公司】160 hsin⁴ t'o¹ kung¹ ssu¹ 信託會社に同じ。

【信託事業】161 シンタクジゲフ 信託によつて、個人の財產、又は遺產などを管理する事業。

【信託存款】162 hsin⁴ t'o¹ ts'un² k'uan³ 信託預金。

【信達】163 シンタツ 宋、羅善同(9－28397‥379)の字。

【信單】164 hsin⁴ tan¹ 保證狀。

【信仗】165 シンヂヤウ 信用してたよる。信用する。〔南史、建平宣簡王宏傳〕明二達政事一、上甚信二仗之一。

【信中】166 シンチウ 宋、朱道誠(6－14424‥915)の字。

【信仲】167 シンチウ 宋、楊恂(6－15112‥214)の字。

【信重】168 シンヂウ 信じ重んずる。〔曹冏、六代論〕信二重親戚一、任二用賢能一。

【信寵】169 シンチウ 信用と寵愛。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕景時終二賴朝世一、信寵不レ衰。

【信通】170 シンツウ 五代閩、王審知(7－20823‥1733)の字。

【信鳥】171 シンテウ かもめ。信鷗。〔禽經〕鷗、信鳥也、潮而翔、迎レ浪蔽レ日、曰二信鷗一、鷗之別類、羣鳴喈喈優優、隨二大小潮來一也、食二小魚蝦蠏之屬一、雖二潮至一則翔、水濶以爲レ信、反爲二鷙鳥所一レ擊、是知レ信而不レ知二所一レ以自害一也。

【信潮】172 シンテウ 一定の時期に干滿する潮。〔蕭穎士、越江秋曙詩〕瀲灩信潮上、蒼茫孤嶼分。〔嚴維、贈二別劉長卿一詩〕萬里趍二公府一、孤帆限二信潮一。〔崔道融、江夕詩〕江心秋月白、起二柁信潮一行。

【信條】173 シンデウ 信仰の箇條。

【信牒】174 シンテフ 唐代、未だ告身辭令書の給せられぬ者に與へる證明書。〔資治通鑑、唐紀〕肅宗、至德二載、其後又聽以二信牒一、授二人官爵一。〔注〕信牒者、未レ有二告身一、先給レ牒以爲レ信也。

【信天】175 シンテン 明、梅之煥(6－14830‥256)の號。

【信天翁】176 シンテンオウ ❶鳥の名。あほうどり。性は鈍で魚を捕へることが出來ないので、口を開いて魚鷹の墜した魚を拾ひ食ふから信天と名づけたといふ。信天公。〔正字通、翁〕信天翁、鳥名、不レ捕レ魚、俟二魚鷹所一レ得偶墜一者上。〔琅邪代醉編、信天緣〕余按、信天緣、一名信天翁、國朝蘭廷瑞有レ詩、荷錢荇帶綠江空、唼レ鯉含レ鯊淺草中、波上魚鷹貪未レ飽、何曾餓死信天翁、此說可レ以諷一詩載二羣談採餘一。❷字號。㋑清、傅王露(1－939‥213)の號。㋺龜井魯の號。龜井南溟(12－48847‥94)を見よ。

【信天公】177 シンテンコウ 信天翁に同じ。〔攻媿記〕水禽名信天公、嘗開レ口待。

【信天巢】178 シンテンサウ 宋、高翥(12－45313‥469)の室名。

【信天書屋】179 シンテンシヨヲク 清、傅王露(1－939‥213)の室名。

【信天巢遺稿】180 シンテンサウヰカウ 書名。一卷。附、通常林湖遺稿一卷・江村遺稿一卷・疎寮小集一卷。宋、高翥撰。原本は散佚し、現存のは其の裔孫、士奇が重編したものである。〔四庫提要、集、別集類〕。

【信田】181 シタ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【信徒】182 シント 信者。

【信都】183 シント ❶郡名。漢、置く。もと廣川國。河北省冀縣治の東北。故城は其の舊治。秦末、趙王歇が此に都す。〔讀史方輿紀要、州域形勢、漢〕信都國、本趙地、景二年、析爲二廣川國一、甘露二年、國廢爲二信都郡一。❷廳名。清、置く。今、廣西省信都縣。❸の㋑を見よ。〔清史稿、地理志〕廣西、平樂府、領二廳一州一縣七一、信都廳。❸縣名。㋑漢、置く。信都國の治。河北省冀縣治。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、冀州〕信都廢縣、今州治、漢置レ縣、爲二信都國治一。㋺南宋、置く。今、闕く。安徽省の境に當る。㋩民國、置く。漢の封陽縣の地。今、廣西省蒼梧縣の北。❹を見よ。❹複姓。〔尚友錄〕信都、風俗通云、張敖尚二漢魯元公主一、封二於信都一、因氏焉。〔路史〕秦萬後、有二信都氏一。

【信都芳】184 シントホウ 北齊、河閒の人。字は玉琳。算術に精通す。〔魏書、九十一〕・〔北齊書、四十九〕・〔北史、八十九〕。

【信度】185 シンド 印度のインダス河流域に在つた國の名。後、印度全體の稱にも用ひられるに至つた。〔大唐西域記、十一、信度國〕周七千餘里、國大都城號二毗苔婆補羅一。

【信納】186 シンナフ 信じて用ひる。〔吳志、周魴傳〕魴遠在二邊隅一、遙隔二所懷一、懼下以二大義一未上見二信納一。〔晉書、裴秀傳〕軍國之政、多見二信納一。

【信女】187 シンヂヨ ❶出家しないで佛門に入つた婦人。❷葬る婦人の法名の下につける稱。

【信任】188 シンニン 信じてまかせる。〔史記、蒙恬傳〕信任賢之。〔漢書、劉向傳〕大見二信任一。

【信任狀】189 シンニンジヤウ 一國の主權者が新たに派遣する大使・公使に對して、任命派遣の意を記した書。使節は其の駐劄國の國主に此の書を呈して、始めて其の職務を行ふことが出來る。

【信任投票】190 シンニントウヘウ 當局者の信否如何を議會などで投票すること。

【信認】191 シンニン 信じて疑はぬ。

【信寧】192 シンネイ ❶縣名。唐、置く。隋の信安縣の地。故治は四川省彭水縣の西北。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府、涪州、武隆縣〕信寧廢縣、縣西百里、云云、唐、武德二年、改曰二信寧一、屬二義州一。❷遼、耶律魯不古(9－29008‥175)の字。

【信念】193 シンネン 信仰するまごころ。しかと認めて疑はぬ心。

【信馬】194 シンバ 馬の意に任せる。馬の意に任せて行かせる。〔韓愈、嘲二少年一詩〕祇知閑信レ馬、不レ覺誤隨レ車。

【信馬遊韁】195 hsin⁴ ma³ yu² chiang¹ 馬の意に任せて行かせ、手綱を馬の首に置くこと。

【信牌】196 シンパイ しるしのふだ。❶官吏が地方廳を巡回する時、携帶する證牌。〔日知錄、考證、信〕古人所謂信者、云云、乃符驗之別名、周禮掌節注、節、猶レ信也、行者所レ執之信、如下今人言二印信信牌一之信上。〔明律、吏律、公式〕凡府州縣置二

立信牌、拘ニ提人犯一、催ニ督公事一。❶郵便物發送の時、土地の遠近を按じて、其の發着の日時を證する鑑札。遞傳物件に對する各驛發着の際の符牌。〔宋史、輿服志六〕康定元年、又別造ニ傳信朱漆木牌一給ニ軍中往來一之處上。

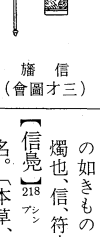
【信芳】197 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄤ 清、劉鐵之（2－2224‥848）の字。

【信芳閣】198 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄤ 清、王相（7－20823‥524）の室名。

【信芳館】199 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄤ 清、錢繹（11－40563‥16）の室名。

【信保】200 hsin⁴ pao³ 信用を以て保證する。

【信礮】201 ㄒㄧㄣˋ ㄆㄠˋ 合圖の大砲。清代、夜明を知らせる砲。後の午砲の如きもの。又、非常を知らせるにも用ひる。號砲。〔皇朝通典、兵典、八旗兵制下、白塔信礮官〕總管一人、司信礮官、漢軍八旗每旗各一人、礮手八人、領催四名、步軍十六名、信礮之制、順治十年定、於ニ白塔山內九門一各設ニ礮十座一、外七門各設ニ礮五座一、門各竪ニ旗杆五一、遇レ有ニ警急一、聲ニ礮爲レ號、杆上畫則懸レ旗、夜則懸レ燈。


信礮（清會典圖）

【信望】202 ㄒㄧㄣˋ ㄨㄤˋ 世人の信用し望む所。其の人に對して世人が信賴し尊敬する意を表はすこと。

【信伯】203 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄛˊ 宋、王蘋（7－20823‥918）の字。

【信幡】204 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄢ ❶信旛に同じ。〔古今注、輿服〕信幡、古之徽號也、題ニ表官號一、以爲ニ符信一、宋書曰、孝武詔、信旛非ニ省臺官一悉用レ絳、古今注又曰、信旛用ニ鳥書一、取ニ飛動輕疾一、一曰、以ニ鴻雁燕一、以レ有ニ去來之信一、舊用ニ顓字一、宋景祐五年改、制、麾旛易以ニ小篆一、錯采爲ニ信旛字一、承以ニ雙龍一、餘同ニ傳教旛一、元制、下繪ニ雙鳳一、今制與レ宋同、但下繪ニ金雙龍一。

【信皮】206 hsin⁴ p'i² 封筒。

【信否】207 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄡˇ まことかそうでないか、然らざるかの意。〔左氏、定、四〕聞ニ諸道路一、不レ知ニ信否一。

【信眉】208 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄟˊ 眉を揚げる。伸眉。〔漢書、司馬遷傳〕印レ首信レ眉、論ニ列是非一。

【信美】209 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄟˇ まことに美しい。眞美。〔楚辭、離騷〕雖ニ信美一而無レ禮兮、來違棄而改求。

【信必】210 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄧˋ 必ずする。〔管子、八觀〕賞慶信必、則有ニ功者勸一。

【信筆】211 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄧˇ 筆にまかせて書く。〔瑯嬛記〕信筆塗抹、自有ニ天然之致一。

【信憑】212 ㄒㄧㄣˋ ㄆㄧㄥˊ 信用してたよる。憑信。信賴。

【信便】213 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄧㄢˋ たより。おとづれ。書信。〔陸雲、與ニ戴季甫一書〕道路悠遠、不レ値ニ信便一。

【信夫】214 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨ ❶字號。㋑唐、陸明允（11－41708‥427）の字。㋺清、孔繼涑（3－6933‥288）の字。❶hsin⁴ fu¹ 郵便配達人。❷ㄒㄧㄣˋ ㋑岩代及び磐城の地名。㋺姓氏。〔日用重寶記〕。

【信夫恕軒】215 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨ ㄕㄨˋ ㄒㄩㄢ 因州の人。名は粲。字は文則。號は恕軒、後、天倪。三重縣中學校教諭・東京大學講師。博學にして、易及び詩に精し。明治四十三年歿す。年七十六。著に恕軒文鈔・同二編・同三編・恕軒詩鈔・恕軒漫筆・漢譯文則・赤穗誠忠錄がある。

【信孚】216 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨ まこと。信用のある。〔左氏、莊十〕小信未レ孚、神弗レ福也。〔注〕孚、大信也。

【信符】217 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨˊ ❶手形。わりふ。〔墨子、旗幟〕非有ニ信符一勿レ行。❷ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨˊ ㄏㄤˊ 人にとつて、信は割符の如きものである。〔法言、脩身〕禮、服也、智、燭也、信、符也。

【信鳧】218 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨˊ 鳥の名。千鳥（2－2697‥308）の異名。〔本草、鷗〕釋名、鷺、水鴨、時珍曰、海中一種隨ニ潮往來一、謂ニ之信鳧一。

【信部】219 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄨˋ 姓氏。〔姓林全書〕。

【信封】220 hsin⁴ fêng¹ 封筒。狀袋。

【信風】221 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄥ ❶東北風。〔國史補〕東北風謂ニ之信風一。〔李白、翫ニ月達天門一詩〕川長信風來、日出宿霧歇。❷季節風。

【信伏】222 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨˊ 佛法や僧を信じて之に服從する。〔楞嚴經、四〕恐汝誠心未ニ信伏一。

【信服】223 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨˊ 信用して服從する。〔後漢書、孔融傳〕海內英俊、皆信ニ服之一。〔北史、楊乾運傳〕少雄武、爲ニ鄉閭信服一。

【信票】224 ㄒㄧㄣˋ ㄆㄧㄠˋ ❶清制の郵便切手。〔郵政章程〕。❷hsin⁴ p'iao⁴ 約束手形。北滿洲の語。

【信片】225 hsin⁴ p'ien⁴ はがき。

【信步】226 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄨˋ 足にまかせて。足の行くままに。〔蘇軾、連日與ニ王忠玉張全翁一游ニ西湖一云云忠玉有レ詩次韻答レ之詩〕與レ君皆無レ心、信レ步行看レ竹。〔何中、詩〕手持ニ綠玉一信步行。

【信甫】227 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄨˇ 字號。❶金、張行信（4－9812‥865）の字。❷金、張中孚（4－9812‥1357）の字。❸元、尉遲德誠（4－7440‥33）の字。❹元、張好古（4－9812‥862）の字。❺清、王應孚（7－20823‥121 8）の字。

【信豐】228 ㄒㄧㄣˋ ㄈㄥ 縣名。唐、置く。漢の南埜縣の地。人情に信があり物質が豐かなので名づけた。江西省贛縣の南。〔讀史方輿紀要、江西、贛州府〕信豐縣、府東南百七十五里、漢豫章郡南埜縣地、云云、唐天寶初、改ニ今名一、舊有ニ土城一。〔清史稿、地理志〕江西、贛州府、縣八、信豐。

【信本】229 ㄒㄧㄣˋ ㄅㄣˇ 唐、歐陽詢（6－16185‥72）の字。

【信密】230 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄧˋ まことであまねく行きわたる。〔管子、法法〕號令必著明、賞罰必信密。

【信民】231 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄧㄣˊ 字號。❶宋、龔程（12－48837‥47）の字。❷宋、汪革（6－17154‥26）の字。

【信夢】232 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄥˋ まことの夢。信覺（32）の對。〔列子、周穆王〕信覺不レ語、信夢不レ達。

【信命】233 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄧㄥˋ ❶使者に持たせてやる命令、又は音信。たより。〔魏志、公孫瓚傳〕道路隔塞、信命不レ得レ至。〔顏氏家訓、治家〕唯以ニ信命一贈遺致ニ殷勤一焉。❷君命を伸張する。〔漢書、馮奉世傳〕奉世圖ニ難忌一死、信ニ命殊俗一。〔注〕師古曰、信、讀曰レ伸。

【信明】234 ㄒㄧㄣˋ ㄇㄧㄥˊ まことであきらか。

【信陽】235 ㄒㄧㄣˋ ㄧㄤˊ ❶州名。元、置く。民國、縣に改む。〔清史稿、地理志〕河南、汝寧府、州一、信陽州。❷縣名。㋑宋、置く。故城は河南省信陽縣の南。京漢鐵路が通つてゐる。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、信陽州〕義陽城、在ニ州南四十里一、漢南陽郡平民縣之義陽鄉也、云云、宋改ニ縣曰ニ信陽一、爲ニ信陽軍治一。㋺河南省に屬す。❶を見よ。

【信陽場】236 ㄒㄧㄣˋ ㄧㄤˊ ㄔㄤˇ 地名。山東省諸城縣の南。〔金史、地理志中〕諸城二、普度。信陽・草橋。〔諸城縣志〕信陽場、係在ニ縣南百二十里一大莊村一、南去レ海一里、明洪武初、設ニ巡司一、管ニ宋家・崔家二海口一、又設ニ鹽司一、清置ニ鹽大使一、道光時、併入ニ濤雒場一。

【信約】237 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄝ 約束。ちかひ。約信（8－27242‥51）に同じ。

【信諭】238 ㄒㄧㄣˋ ㄩˋ まことを以てさとす。〔新書、脩政語上〕不ニ自言一其信、而信諭矣。

【信用】239 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ❶信じて用ひる。氣をゆるす。〔左氏、宣、十二〕王曰、其君能下レ人、必能信ニ用其民一矣、庸可レ幾乎。〔史記、陳涉世家〕陳王信ニ用之一。〔漢書、張良傳〕留侯善畫計、上信ニ用之一。〔漢書、張禹傳〕新學小生、亂道誤ニ人、宜下無ニ信用一、以ニ經術一斷上之。〔孔叢子、公儀〕無ニ信用之意一。〔後漢書、楊彪傳〕石包室識妖邪之書、豈可ニ信用一。〔論衡、書虛〕短書不レ可ニ信用一。❷㋑人望があること。評判の良いこと。㋺將來に於て必ず義務を履行するだらうと信認すること。

【信用券】240 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄑㄩㄢˋ 信用證券に同じ。

【信用貸】241 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄉㄞˋ 人物を信用して無抵當で金錢を貸すこと。

【信用機關】242 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄐㄧ ㄍㄨㄢ 銀行・信用組合の如く、信用を利用して金錢の融通を圖る機關。

【信用匯兌】243 hsin⁴ yung⁴ hui⁴ tui⁴ 貨物引換書・保險證書等を擔保とせず、全く信用による爲替手形。

【信用取引】244 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄑㄩˇ ㄧㄣˇ 卽時現金の授受をなさず信用を基礎としてする取引き。

【信用證券】245 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄓㄥˋ ㄑㄩㄢˋ 信用取引きに使用する一種の證書。爲替手形・約束手形の類。

【信用組合】246 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄗㄨˇ ㄏㄜˊ 產業組合法により、小額の金錢を醵出して組織する信用機關。

【信用貸金】247 ㄒㄧㄣˋ ㄩㄥˋ ㄉㄞˋ ㄐㄧㄣ 信用貸にした金。

【信用放款】248 hsin^4 yung^4 fang^4 k'uan^3 信用貸付。

【信用合作社】249 人民銀行ともいふ。一般民衆を信用の基礎とする共同組合の經濟互助團體。我が信用組合に當る。

【信用經濟時代】250 貨幣經濟時代のやうに貨幣を使用せず、經濟事業が專ら信用によつて營まれる時代。

【信賴】251 信用してたよる。信憑。

【信理】252 道理を信ずる。〔陸雲、與二陸典一書〕往來信レ理、自更繼レ情。

【信力】253 信仰の力。信心力。〔江總、攝山棲霞寺碑〕慧心開發、信力明悟。

【信陵】254 地名。戰國、魏の地。河南省寧陵縣に故城がある。戰國、魏の安釐王が弟無忌を封じて信陵君とした所。〔讀史方輿紀要、河南、歸德府、寧陵縣〕寧城、在二縣城西一、春秋時、宋之寧邑也、戰國時、魏公子無忌、封二信陵君一、而食二邑於寧一、秦楚之際、周市欲下立二故魏公子寧陵君咎一爲上レ王卽此。

【信陵君】255 戰國、魏の昭王の少子。名は無忌。信陵君は其の封號。食客三千人あり、諸侯は其の賢を聞いて敢へて魏を攻めなかつた。此の如く其の賢は諸侯に顯れたが、後、魏王が讒を信じて用ひぬ爲、賓客と飮酒し、つひに酒に病んで卒す。〔史記、七十七〕

【信籠】256 進物かご。〔水滸傳、三十九回〕安二排兩箇信籠一、打二點了金珠寶貝玩好之物一。

【守レ信】257 まことをまもる。〔史記、貨殖傳〕賢人深謀二於廊廟一、論二議朝廷一、守レ信死レ節。

【取レ信】258 自分を信用させる。人から信用を受ける。〔漢書、劉向傳〕上内重レ堪、又患二衆口之寖潤一、無レ所レ取レ信。

【傳レ信】259 信ずべき事を現在・未來の人に傳へ示す。〔穀梁、桓、五〕春秋之義、信以傳レ信、疑以傳レ疑。〔史記、三代世表〕信以傳レ信、疑以傳レ疑、故兩言レ之。

【信願行】260 佛 信仰・發願・修行の三者をいふ。

【信嘴罵】261 hsin^4 tsuei^3 ma^4 口から出任せに罵る。

【信世昌】262 宋、東平の人。字は雲甫。號は中隱。山水畫に巧。〔奇姓通〕。

【信南山】263 詩經、小雅、谷風之什の篇名。周の幽王が成王の業を修めて天下を彊理することの出來ぬのを、譏つて作る。〔詩、小雅、信南山序〕信南山刺二幽王一也、不レ能下修二成王之業一、彊二理天下一、以奉中禹功上、故君子思レ古焉。〔集傳〕此詩大指、與二楚茨一略同。

【信濃太】264 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【信不得】265 hsin^4 pu tê^2 信じてはいけない。

【信武侯】266 漢、靳歙(**12－42728**··6)の封號。

【信簿子】267 hsin^4 pu^4 tzŭ 書信受付簿。

【信以爲レ本】268 信を根本とする。〔左氏、昭、元〕武將二信以爲レ本、循而行レ之。

【信以守レ器】269 誠を以て廟堂の器を守る。〔左氏、成、二〕信以守レ器、器以藏レ禮。

【信好老人】270 淸、彭瓏(**4－10003**··128)の號。

【信及二豚魚一】271 豚の性は躁、魚は頑冥、皆物に感じ難い者。然るに信義が深ければ信の力が之にも及ぶをいふ。〔易、中孚〕彖曰、豚魚吉、信及二豚魚一也。〔注〕魚者、蟲之隱者也、豚者、獸之微賤者也、爭競之道不レ興、中信之德淳著、則雖二微隱之物一、信皆及レ之。

【信外輕毛】272 佛 信心が動搖して決定しない事、恰も輕い毛の如くである。〔觀經玄義分〕況我信外輕毛、敢知二旨趣一。

【信德之固】273 信は德の堅固なものである。〔左氏、文、元〕忠、德之正也、信、德之固也。

【信文之孚】274 信は僞なくして人を感ぜしめる、卽ちまことの德である。文は德の總稱、孚はまこと。〔國語、周語下〕信、文之孚也、仁、文之愛也。

【信禮之本】275 信は禮の根本である。〔禮、禮器〕忠信、禮之本也、義理、禮之文也。

【信露貴川】276 越前國の川の名。〔學藝志林〕。

【考二信六藝一】277 古事の信否を六藝に照して視る。六藝は六經。〔史記、伯夷傳〕夫學者、載籍極博、猶考二信於六藝一、詩書雖レ缺、然虞夏之文可レ知也。

【講レ信修レ睦】278 お互にまことを示し合つて仲よくする。〔禮、禮運〕選二賢與レ能、講レ信修レ睦、謂二之人利一。

【多レ信者顯】279 まことの多いものは自ら世間にあらはれる。〔莊子、盜跖〕無レ恥者富、多レ信者顯。

【信仁以爲レ親】280 信を守り仁を行つて、人から親しまれるやうにする。〔國語、晉語二〕亡人無レ親、信仁以爲レ親。〔注〕亡人無レ親者、被二不孝之名一、棄レ親而亡也、當下信行二仁道一然後有上レ親。

【不レ信湖名尙莫愁】281 湖の名は今も莫愁、卽ち愁が無いといふが、それは僞で、湖には今は愁が滿ちてゐる。〔王士禎、秦淮雜詩〕潮落秦淮春復秋、莫愁好作二石城遊一、年來愁與二春潮一滿、不レ信湖名尙莫愁。

【信立則虛言可二以賞一】282 信が世に行はれると、虛言する者が珍しくなつて、賞すべきやうになる。〔呂覽、貴信〕故信之爲レ功大矣、信立則虛言可二以賞一矣。

【信知生レ男惡反是生レ女好】283 男子は兵役に驅使せられて草野に埋沒し、女子は比隣に嫁して時々相見ることが出來るからいふ。唐の杜甫が戰亂の多きを慨いた句。〔杜甫、兵車行〕信知生レ男惡、反是生レ女好、生レ女猶得レ嫁二比鄰一、生レ男埋沒隨二百草一。

【俲】708 シュン 順(**12－43349**)の古字。〔集韻〕順、古作レ俲。

【𠆶】709 イ 伊(**1－432**)の古字。〔說文〕伊、𠆶、古文伊、从二古文死一。〔字彙補〕𠆶、古文伊字。

【伞】710 サイ 宰(**3－7160**)の古字。〔集韻〕宰、古作レ伞。

【伇】711 エキ 役(**4－10057**)の古字。〔韻會〕伇、古文役字。

參考 集韻は伇(**1－627**)に作る。

【𠈌】712 チョク 陟(**11－41659**)に同じ。〔集韻〕陟、或从レ人。

【𠈉】713 シ 〔字彙補〕息里切 紙

たる。〔字彙補〕𠈉、足。

【𠈏】714 ボウ 侔(**1－597**)に同じ。〔海篇〕𠈏、同レ侔。

【𠈁】715 ヒツ 佖(**1－512**)の譌字。〔康熙字典〕𠈁、按、卽佖字之譌。

【修】716 シウ 修(**1－721**)の古字。〔集韻〕修、古省。

【使】717 シ 使(**1－573**)の本字。〔正字通〕使、本作レ使。

【俣】718 國字 また。わかれまた。

【俣野】1 姓氏。〔和爾雅〕。

【俣野箭】2 鏃の一種。かりまた。〔東鑑、十〕建久元年九月十八日、俣野箭一腰進上。

【俤】719 國字 おもかげ。容貌。弟は兄の面影があるからいふ。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕俤、爲二面影之訓一。

【俤影】1 おもかげ。

【俥】720 國字 くるま。人力車。

八畫

【修】721 シウ シユ 慣ス 〔集韻〕思留切 ㄒㄧㄡ hsiu¹ 尤

小篆

㊀をさめる。をさまる。ととのへる。ととのふ。〔廣雅、釋詁三〕修、治也。〔禮、祭義〕宮室已修。〔禮、中庸〕修レ道之謂レ教。〔注〕修、治也。〔呂覽、孟春紀〕修二封疆一。〔注〕修、治也。㊁つくろふ。なほす。掃除する。〔禮、檀弓上〕古不レ修レ墓。〔注〕修、猶レ治也。〔禮、中庸〕修二其祖廟一。〔注〕修、謂二掃糞一也。〔左氏、襄、三十一〕庫廏膳修。〔漢書、食貨志〕修二繕故宮一。〔張衡、西京賦〕要紹修レ態。〔注〕綜曰、修、爲也。㊂かざる。〔說文〕修、飾也、从レ彡攸聲。〔論語、憲問〕行人子羽修二飾之一。〔楚辭、九歌、湘君〕美要眇兮宜レ修。〔注〕修、飾也。㊃おこなふ。をさめ行ふ。〔禮、月令〕孟春之月、乃修二祭典一。〔禮、鄕飲酒義〕修レ爵無數。〔疏〕熊氏云、謂二行レ爵無數一。〔左氏、哀、元〕吳侵レ陳、修二舊怨一也。㊄習ふ。復習する。〔禮、學記〕藏焉修焉。〔注〕修、習也。〔禮、大學〕自修也。〔疏〕初習謂二之學一、重習謂二之修一。㊅まうける。そなへる。〔國語、周語中〕修二其簠簋一。〔注〕修、備也。〔呂覽、先己〕鐘鼓不レ修。〔注〕修、設也。㊆書く。書物をつくる。〔杜預、春秋左氏傳序〕非二聖人一孰能脩レ之。〔疏〕脩者、治レ舊之名。〔唐書、百官志〕修二國史一。㊇ながい。たかい。ながさ。たかさ。〔爾雅、釋宮〕陝而修曲曰レ樓。〔注〕修、長也。〔校勘記〕毛本同、唐石經・單疏本・雪牕本・元本・閩本・監本、修作レ脩。〔廣雅、釋詁二〕修、長也。〔戰國、齊策〕鄒忌、修八尺有餘。〔注〕修、長也。㊈すぐれる。立派。すぐれた人。〔楚辭、離騷〕又重レ之以二修能一。〔注〕修、遠也、又重有二絕遠之能與レ衆異一也。〔楚辭、離騷〕謇吾法二夫前修一兮。〔後漢書、劉愷傳〕景二仰前修一、有二伯夷之節一。〔注〕前修、前賢也。㊉よい。〔張衡、思玄賦〕伊中情之信修兮。〔注〕衡曰、修、善也。⑪うやまふ。〔國語、魯語下〕吾冀二而朝夕修レ我。〔注〕修、儆也。⑫月が丙にある時。〔爾雅、釋天〕月在レ丙曰レ修。〔釋文〕修、本亦作レ脩。⑬他の樂器と合はせずに鐘だけを鼓すること。〔爾雅、釋樂〕徒鼓レ鐘、謂二之修一。⑭通じて脩(9－29535)に作る。〔集韻〕修、或通作レ脩。〔周禮、天官、宮人〕掌二王之六寢之脩一。〔釋文〕脩、本亦作レ修。⑮古は攸(1－716)に作る。〔集韻〕修、古省。⑯姓。〔英賢傳〕修、出レ自二少昊氏子修一、爲二帝嚳玄冥師一、掌レ水官、其後氏レ焉。

名乘 ノブ。サネ。ナガ。ナホ。モロ。ヲサ。

參考 ㊀元來、脩(9－29535)は別字であるが、通用する。ほしにくの意には必ず脩を用ひる。〔字彙、辨似、二字相似〕修・脩、二字同音同義、修・脩通用、惟脩脯之脩、从レ肉。〔康熙字典、辨似、二字相似〕修、修理。脩、束脩。㊁熟語は脩(9－29535)をも併せ見よ。

【修哀】1 シウアイ 喪禮の哭哀を十分に行ふ。〔晏子、諫、下〕廣レ愛以傷レ行、修レ哀以害レ性、君之失矣。

【修惡】2 シウアク 惡い事をならひをさめる。〔法言、修身〕修二其善一則爲二善人一、修二其惡一則爲二惡人一。

【修衣】3 シウイ 着物を繕ふ。衣類を修繕する。〔說苑、立節〕曾子衣二敝衣一以耕、魯君使二人往致レ邑焉、曰、請以レ此修レ衣。

【修偉】4 シウヰ 身長が高くて立派なこと。〔南史、袁昂傳〕昂容質修偉、冠二絕人倫一。

【修爲】5 シウヰ をさめる。修養する。〔荀子、禮論〕非二順孰修爲之君子一、莫二之能知一也。

【修筠】6 シウヰン たけの長い竹。修竹。〔朱熹、次二秀野韻一詩〕史君簾閣對二修筠一、起看名園雨後春。

【修慧】7 シユヱ 佛 三慧(聞・思・修)の一。惑を斷じ、理を證する智。〔成實論、二十〕。「3)を見よ。

【修盈】8 シウエイ 長く滿ちて居る。脩盈(9－29535・・

【修營】9 シウエイ ㊀古琴の名。〔廣雅、釋樂〕鳴廉・修營・藍脅・號鐘・宮中・自鳴・焦尾、琴名。〔淮南子、脩務訓〕鼓レ琴者、期二於鳴廉修營一、而不レ期二於濫脇號鐘一。㊁修めいとなむ。〔虞羲、詠二霍將軍北伐一詩〕尹第始修營。

【修剡】10 シウエン 名刺をつくる。〔書言故事、謁見類〕嘗修レ剡謁見、申屠蟠傳、作二門狀一曰二修剡一。

【修掞】11 シウエン 長く舒べる。脩掞(9－29535・・7)を見よ。

【修怨】12 シウエン 怨を行ふ。怨にむくいる。怨をはらす。〔左氏、哀、元〕吳侵レ陳、修二舊怨一也。

【修媛】13 シウエン 女官の官名。或は北齊に始まるといひ、或は隋唐に始まるといふ。〔事物紀原、嬪御命婦部、修媛〕唐百官志注曰、唐因二隋制一有二修媛一、按、隋志無レ之、而北史后妃傳、北齊文宣河淸中、置二修媛一爲二御女一、唐以爲レ嬪、疑唐采二齊制一也。

【修園】14 シウエン 字號。㊀明、唐泰(普荷)(2－3709・・250)の號。㊁淸、陳念祖(11－41698・・1176)の字。

【修遠】15 シウエン ㊀はるかに遠い。脩遠(9－29535・・8)を見よ。〔莊子、天地〕時騁而要二其宿一、大小長短修遠。〔列子、楊朱〕山川阻險、塗逕修遠。㊁明、顧宸(12－43689・・110)の字。

【修下】16 シウカ ㊀書をつくる。〔紅樓夢、三回〕已修二下薦書一封一。㊁身體の下部が長い。脩下(9－29535・・9)に同じ。

【修可】17 シウカ 宋、黃願(12－47926・・315)の字。

【修家】18 シウカ ㊀家を修める。〔國語、齊語〕軌退而修レ伍、伍退而修レ家。㊁家に於て修める。〔老子、五十四〕修二之于家一、其德有レ餘。

【修改】19 シウカイ 修復する。改築する。改訂する。訂正する。〔書、堯典、蔡傳〕古曆簡易、未レ立二差法一、但隨レ時占候修改、以與レ天合。〔晉書、苻生載記〕健將レ殺レ之、雄止レ之曰、兒長成自當二修改一、何至二便可レ如レ此。

【修蓋】20 hsiu¹ kai⁴ 修築する。建築する。

【修槩】21 シウガイ 修め平かにする。〔管子、五行〕修二槩水上一、以待レ天。〔纂詁〕楊愼云、上當レ作レ土、以待二乎天一爲レ句、是也、云云、槩、平也、汨二陳五行一者、莫レ大二於水土一、故欲レ立二五行一、先修二平水土一、以待二天氣之所一レ定也。

【修交】22 シウカウ 交りを結ぶ。國と國とがよしみを通ずる。國際を圓滿にする。修好。修睦(280)に同じ。

【修好】23 シウカウ よしみをさめる。國と國とのよしみを通ずる。修交。修睦。〔左氏、成、九〕請二修レ好結レ成。〔孔叢子、陳士義〕魏王使二相國修二好鄰國一。

【修好結援】24 シウカウケツエン よしみをさめて援助をもとめる。〔左氏、文、元〕凡君卽レ位、卿出並聘、踐二修舊好一、要二結外援一。

【修好得好】25 hsiu¹ hao³ tê² hao³ 善行を積んで置けば必ず良い結果が得られる。

【修江】26 シウカウ 河の名。廣西省修仁縣の南。源は二つあり、一は大猺山、一は蒙山縣の滴水猺の界。

【修行】27 シウカウ 脩行(9－29535・・10)に同じ。㊀行ひを修める。行ひを立派にする。〔淮南子、詮言訓〕君子修レ行而使二善無レ名、布施而使二仁無レ章。㊁修まり齊つた行ひ。〔呂覽、贊能〕修行不レ聞。〔說苑、善說〕大王選下良富家子有二修行一者上。〔論衡、程材〕一郡修行之能、堪二州從事一。㊂習ひ修めて行ふ。〔史記、宋世家〕修二行仁義一、欲レ爲二盟主一。〔漢書、嚴彭祖傳〕彭祖曰、凡通二經術一、固當三修二行先王之道一。㊃シユギヤウ 佛道を修め行ふ。〔通俗編、釋道、修行〕按、修行、本士君子所二共務一、自下晉書謂中鳩摩羅什不レ拘二小檢一、修行者頗疑上之、後人遂專以爲二釋氏言一。〔法華經、藥草喩品〕漸漸修行、皆得二道果一。㊄一般に、學問技藝を修め習ふことをいふ。修業。

【修行位】28 シユギヤウヰ 僧職。三綱に次ぎ、修行の僧徒に懈怠・過失のある時、僧綱に告げて濫行

を正すことを掌る。淳仁天皇の天平寶字四年に設定す。〔續日本紀、二十二〕天平寶字四年七月、修行位、誦持位准用二一色一、不レ爲二數名一。

『修行者』[29]シュギャウジャ　佛法を修行する者。又、道を修行する者。〔晉書、鳩摩羅什傳〕修行者頗共疑レ之。

『修行住』[30]シュギャウヂュウ　㊀菩薩位の十住の第三。一切の法に於て空を觀じて、何等執着すべきものがないことを知る位。〔華嚴經、十住品〕諸佛子、菩薩摩訶薩十住行、去來現在諸佛所說、何等爲レ十、云云、二名二修行一云云、諸佛子、何等是菩薩摩訶薩修行住、此菩薩、十種觀二一切法一、何等爲レ十、所謂觀二一切法一、無常、苦、空、無我、不自在、一切法不レ可レ樂、一切法無二集散一、一切法無二堅固一、一切法虛妄、一切法無二精勤和合堅固一、是爲レ十。

【修降】[31]シュカウ　遙かに降る。脩降(9—29535‥11)に同じ。

【修毫】[32]シュガウ　㊀長い毛。修、一に脩に作る。〔爾雅、釋獸〕貔修毫。〔疏〕言二貔獸體多長毛一。〔傅玄、筆賦〕簡二修毫之奇兔一、選二珍皮之上翰一。㊁良犬の名。〔西京雜記、四〕茂陵少年李亨、好馳二駿狗一、逐二狡獸一、或以二鷹鷂一逐二雉兔一、狗則有二修毫・蠶睫・白望・青曹之名一。

【修恪】[33]シュカク　宋、李瑾(6—14459‥15)の諡。

【修革】[34]シュカク　あらためただすこと。〔後漢書、列女、程文矩妻傳〕郡守表二異其母一、蠲二除家徭一、遣レ散二四子一、許以二修革一。〔唐書、韋叔夏傳〕詔三五禮儀物司禮博士一有レ所二修革一。

【修隔】[35]シュカク　遠くかけへだたる。〔蔡邕、巴郡太守謝表〕巴土長遠、山川修隔。

【修學】[36]シュガク　をさめまなぶ。習ひおぼえる。學問をする。〔漢書、敍傳下〕兒生亹亹、束髮修學。

『修學旅行』[37]シュガクリョカウ　學校が事物を見聞して知識を博める目的で學生に行はせる團體旅行。

【修額】[38]シュガク　長いひたひ。脩額(9—29535‥12)に同じ。

【修罕】[39]シュカン　長くて節の少い枝。〔劉琨、答盧諶詩〕綠葉繁縟、柔條修罕。〔注〕善曰、宋玉笛賦曰、罕節簡枝。

【修函】[40]hsiu¹ han²　手紙を書く。書翰を認める。

【修竿】[41]シュカン　長い竿。脩竿(9—29535‥14)に同じ。

【修幹】[42]シュカン　長い幹。脩幹(9—29535‥15)に同じ。

【修岸】[43]シュガン　長い岸。〔阮修、上巳會詩〕修岸迭迤、長川相過。

【修奇】[44]シュキ　後魏、陳奇(11—41698‥115)の字。

【修起】[45]シュキ　修め起す。〔史記、儒林傳序〕論二次詩書一、修二起禮樂一。

【修旗】[46]シュキ　長い旗。〔王沈、餞行賦〕曳二招搖之修旗一、若二蜿虹之垂一天。

【修鰭】[47]シュキ　長いひれ。〔郝經、詩〕北風吹二海氛一、雄鯨偃二修鰭一。

【修義】[48]シュギ　北齊、薛循義(9—32123‥203)の一名。

【修儀】[49]シュギ　女官の官名。魏の明帝、置く。隋の煬帝は九嬪の一とす。〔文獻通考、帝系考〕魏因二漢法一、母后之號皆如二舊制一、自二夫人一以下、世有二增損一、文帝增二貴嬪・淑媛・修容・順成・良人一、明帝增二淑妃・昭華・修儀一。〔事物紀原、嬪御命婦部、修儀〕魏明帝所レ置、修儀、隋煬帝以爲二九嬪一。

【修久】[50]シュキュウ　長く久しい。脩久(9—29535‥18)に同じ。

【修舊】[51]シュキュウ　舊いものを修繕する。〔公羊、莊二十九〕新二延廐一者何、修レ舊也。

【修吉】[52]シュキチ　清、曾廷枚(5—14299‥219)の字。

【修況】[53]シュキャウ　古琴の名。〔廣韻〕況、修況、琴名。〔初學記、樂部〕梁元帝纂要曰、古琴名、有二清角・鳴廉・修況・籃脅・號鐘一。〔太平御覽、樂部、琴下〕大周正樂曰、鳴廉・修況・籃脅・自鳴・空中・號鐘、齊桓公琴。

【修鄉】[54]シュキャウ　鄉里に於て修める。〔老子、五十四〕修二之于鄉一、其德乃長。

【修渠】[55]シュキョ　長いみぞ。〔鄭虞、槐賦〕上拂二華宇一、下臨二修渠一。

【修裾】[56]シュキョ　長い裾。脩裾(9—29535‥20)に同じ。

【修擧】[57]シュキョ　をさまりあがる。立派になる。〔張次宗、薦二陸暢一狀〕職事修擧。

【修御】[58]シュギョ　物事ををさめあつかふ。〔雲笈七籤〕修二御靈圖一、遂感二神眞一。

【修魚】[59]シュギョ　㊀地名。脩魚。修澤(205)を見よ。〔史記、秦記〕〔惠文王後七年〕韓趙魏燕齊帥二匈奴一、共攻レ秦、秦、秦使二庶長疾與一戰二修魚一。複姓。

【修近】[60]シュキン　身近な事ををさめる。〔管子、版法解〕如レ此則近者親レ之、遠者歸レ之、故曰、召レ遠在二修近一。

【修金】[61]hsiu¹ chin¹　教師又は家庭教師に出す報酬。

【修禁】[62]シュキン　をさめ禁ずる。〔管子、四時〕其事號令、修二禁徙民一、令二靜止一。

【修謹】[63]シュキン　身を修めてつつしみ深いこと。〔漢書、酷吏、周陽由傳〕武帝卽レ位、吏治尙二修謹一。

【修隅】[64]シュグウ　清、蔣知廉(9—31820‥191)の字。

【修婷】[65]シュウテイ　道を修めて美しいさま。脩婷(9—29535‥24)に同じ。

【修外】[66]シュグワイ　外面ををさめる。外面を飾る。〔孔子家語、賢君〕不レ修二其中一而修二外者一、不二亦反一乎。

【修廣】[67]シュウクワウ　長大なさま。脩廣(9—29535‥25)に同じ。

【修篁】[68]シュウクワウ　長い竹。脩篁(9—29535‥26)に同じ。

【修完】[69]シュウクワン　修めて完全なものにする。〔左氏、昭、五〕若早修完。〔後漢書、袁紹傳〕修完補輯。

【修官】[70]シュクワン　賢能の士を選んで官に任ずること。脩官(9—29535‥27)に同じ。

【修換】[71]シュクワン　修繕して取り換へる。〔宋史、李燾傳〕乃成上之、詔藏二祕閣一云云、依二熙寧修二三經一例、損二益修二換四千四百餘事一。〔歐陽脩、論二罷一修二奉先寺等一狀〕近年以來、不レ住二修換一。

【修刑】[72]シュケイ　刑罰を修め行ふ。〔國語、周語上〕序成而有レ不レ至、則修レ刑。

【修坰】[73]シュケイ　廣い野。脩坰(9—29535‥28)に同じ。

【修迥】[74]シュケイ　遙かに遠い。脩迥(9—29535‥29)に同じ。

【修莖】[75]シュケイ　長い莖。脩莖(9—29535‥31)に同じ。

【修逕】[76]シュケイ　長い小みち。〔王僧儒、侍宴詩〕交枝隱二修逕一、廻流影二遙阜一。

【修景】[77]シュケイ　長い日影。脩景(9—29535‥4)に「同じ。

【修敬】[78]シュケイ　㊀敬を修める。つつしみを修養する。〔晏子、諫、下〕首服足二以修一レ敬而不レ重也。㊁をさめつつしむ。〔吳志、呂範傳〕修敬虔肅。

『修敬先生』[79]シュケイセンセイ　明、秦旭(8—24995‥51)の號。

【修禊】[80]シュケイ　みそぎを行ふ。禊は、三月上巳の節句に水邊で行ふ祭事。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕暮春之初、會二於會稽山陰之蘭亭一、修二禊事一也。

【修頸】[81]シュケイ　長い頸。脩頸(9—29535‥32)に同じ。

【修藝】[82]シュゲイ　藝を修める。學藝を習ふ。〔晉書、束晳傳〕耽レ道修レ藝、疑然山峙、潛朗通レ微、洽覽深識。

【修鯢】[83]シュゲイ　長い雌くぢら。脩鯢(9—29535‥33)に同じ。

【修教】[84]シュケウ　教ををさめととのへる。〔穀梁、桓、六〕修二教明論一、國道也。〔注〕修二先王之教一、以明二達於民一治一國之道。

【修激】[85]シュゲキ　行ひがよく修まつて言語の激切なこと。〔說苑、立節〕非二良篤修激之君子一、其誰能行レ之哉。

【修鷁】[86]シュゲキ　鷁をいふ。鷁は水鳥の名。鷺に似て大きいから修の字を冠して修鷁ともいふ。〔沈約、郊居賦〕其水禽則大鴻・小雁・天狗・澤虞・秋鷺・寒鶿・修鷁・短鳧。

【修絜】[87]シュケツ　修まつてきよい。又、修め清める。修潔。〔史記、汲鄭傳〕內行修絜、好二直諫一。〔史記、秦始皇紀〕黔首修絜、人樂二同則一。

【修潔】[88]シュケツ　修絜に同じ。〔國語、周語下〕修二潔百物一。〔荀子、賦、修潔之爲レ親。〔漢書、汲黯傳〕好二游俠一、任二氣節一、行修潔。

【修月】[89]シュゲツ　㊀月が丙にある時をいふ。〔爾雅、釋天〕月在二丙曰一レ修。㊁月ををさめつくる。〔西陽雜俎、天咫〕太和中、鄭仁本遊二嵩山一、見二人布二樸物一、呼レ之云云、曰、君知二月乃七寶合成一乎、常有二八萬二千戶一修レ之、因開樸、有二斧鑿數事一。〔元好問、蟾池詩〕下界新增養蟾戶、玉斧誰憐修月苦。

【修業】[90]シュゲフ　㊀書籍ををさめる。讀書講學する。

業は版・篇巻をいふ。〔管子、宙合〕退レ身不レ舍レ端、修レ業不レ息レ版。〔注〕版、牘也。〔戴望校正〕宋云、曲禮、請レ業則起、鄭注曰、業、謂二篇巻一也、此言二修レ業不レ息レ版、古人寫レ書用二方版一爾雅曰、大版謂二之業一、故書版亦謂二之業一、鄭訓レ業爲二篇巻一、以レ今證レ古也。❶學問技藝を習ひをさめる。〔後漢書、蔡邕傳〕修レ業思レ眞、棄二此焉如一、靜以俟レ命不レ歎不レ渝、百歳之後歸二乎其居一。❷功業を修め營む。〔易、乾、文言〕子曰、君子進レ德修レ業、忠信所二以進レ德也一、修レ辭立二其誠一、所二以居レ業也一。〔疏〕德謂二德行一、業謂二功業一、云云、欲レ進二益道德一、修中營功業上云云、辭謂二文教一、誠謂二誠實一也、外則修二理文教一、內則立二其誠實一、內外相成、則有二功業一可レ居、故云居レ業也。❸家業を治め營む。〔史記、貨殖傳〕十九年之中、三致二千金一、再分散與二貧交疏昆弟一、此所謂富好行二其德一者也、後年衰老而聽二子孫一、子孫修レ業而息レ之、遂至二巨萬一。❹字號。㋑後魏、節閔帝（8－2624‥200）の字。㋺宋、劉保勳（2－2224‥1318）の字。

【修業證書】91 シュウゲフショウ 學校で一學年の學科を完全にをさめたことを證明するために、學年の終に及第者に授ける證書。

【修劍】92 シュウケン 長いつるぎ。長劍。〔戰國、齊策〕田單攻レ狄、云云、齊嬰兒諺曰、大冠若レ箕、修劍拄レ頤、攻レ狄不レ能レ下二壘於枯丘一。〔後漢書、張衡傳〕振二余袂一而就レ車兮、修劍揭以低昂。〔注〕修、長也。

【修賢】93 シュウケン 字號。❶後魏、高謜（12－45313‥941）の字。❷後魏、畢祖彥（7－21829‥106）の字。

【修謇】94 シュウケン 修まつてまことあること。謇は直。〔柳宗元、懲咎賦〕曩余志之修謇兮。

【修權】95 シュウケン 商子の篇名。

【修言】96 シュウゲン 號令を修め善くする。〔國語、周語上〕有レ不レ祀則修レ言。〔注〕言、號令也。

【修原】97 シュウゲン ❶長い原。〔北史、蕭大圜傳〕面二修原一而帶二流水一、倚二郊甸一而枕二平皐一。❷清、戴均元（5－11685‥161）の字。

【修驗】98 シュウゲン 修驗道、又は修驗者の略。〔源平盛衰記〕三、法皇熊野山那智山御參詣事〕三井の流の修驗の人。

【修驗家】99 シュウゲンカ 修驗者に同じ。〔本朝高僧傳、五十一、江州延曆寺沙門增譽傳贊〕今修驗家、攀二三山一者。

【修驗者】100 シュウゲンジャ 修驗道ををさめ行ふ者。總髮で篠懸・袈裟・頭巾を着け、大刀を佩び、金剛杖をつき、法螺を吹いて加持祈禱をする。山野に露宿して修行するから山伏ともいふ。

【修驗道】101 シュウゲンダウ 修驗宗ともいふ。佛教の一派であるが、獨立しては居ない。教理を研究せず、山岳に起伏して修業することを目的とする。修驗は修實行驗法成の義で、開祖は役小角。胎藏界・金剛界の兩部を旨とし、加持祈禱をなし、本地垂跡の說を以て神に事へるから兩部神道ともいふ。〔修驗道日用見聞抄〕問曰、山伏道宗儀如何、答曰、修驗道者、役優婆塞仰二遺風一、一乘菩提胎金部峯修行、十界一如覺二悟正理一、兩凡聖一致無差平等住二心地一、利二益一切衆生一。

【修己】102 シュウコ ❶我が身を修める。自己を修養する。〔左氏、閔、二〕修二己而不レ責レ人、則免二於難一。〔論語、憲問〕修レ己以敬。❷夏の禹王の母。〔帝王世紀〕鯀妻修己、吞二神珠薏苡一、胸拆而生レ禹。〔宋書、符瑞志上〕帝禹有夏氏、母曰二修己一、背剖而生レ禹於石紐。❸字號。㋑宋、高防（12－45313‥769）の字。㋺宋、晤恩（5－13956‥1）の字。㋩宋、李允正（6－14459‥860）の字。㋥清、唐心柏（2－3709‥451）の字。㋭清、張成（4－9812‥459）の字。

【修己安人】103 シュウコアンジン 我が身を修め、人を安んずる。修は一に脩にも作る。〔論語、憲問〕子路問二君子一、子曰、脩レ己以敬、曰如レ斯而已乎、曰脩レ己以安レ人。

【修己治人】104 シュウコチジン 我が身を修め、人を教化することをいふ。〔朱熹、大學章句序〕然於二國家化レ民成レ俗之意一、學者修二己治レ人之方一、則未二必無一小補一云。

【修古】105 シュウコ ❶上古をいふ。〔韓非子、五蠹〕聖人不レ期二修古一、不レ法二常行一。❷古ををさめる。脩古（9－29535‥37）に同じ。〔漢書、禮樂志〕河閒區區、小國藩臣、以二好レ學修レ古、能有レ所レ存。

【修股】106 シュウコ 國の名。脩股（9－29535‥38）に同じ。

【修祜】107 シュウコ 幸福を修め求める。〔千字文〕指新家、攀二三山一者。

【修扈】108 シュウコ たけ高く太つてゐること。〔蔡邕、太傅胡廣碑〕路車雕駿、四牡修扈。

【修嫮】109 シュウコ 美しいさま。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕美連娟以修嫮兮。〔注〕師古曰、嫮、美也。〔閑鴻、芙蓉賦〕乃其陽文修嫮、傾城之色。〔張協、七命〕西施之徒、姿容修嫮。

【修功】110 シュウコウ 手柄を立てた者に賞をやる。〔史記、田敬仲完世家〕修レ功行レ賞、親二於百姓一。

【修肱】111 シュウコウ 長いひぢ。脩肱（9－29535‥39）を見よ。

【修構】112 シュウコウ 修めつくる。〔晉書、石勒載記下〕修二構三臺一、遷二其家室一。

【修采】113 シュウサイ をさめとる。〔魏志、傅嘏傳〕大魏繼二百王之末一、承二秦漢之烈一、制度之流、靡レ所二修采一。

【修齋】114 シュウサイ ❶齋を行ふ。物いみして祈つて福を求める。〔冊府元龜〕永泰元年九月、云云、並於二西明寺一行レ香、修齋奏樂、竟日而罷、云云、大曆八年五月、云云、命二有司一修二四千僧齋於服成寺一。〔杜荀鶴、登二靈山水閣一貽二釣者一詩〕修齋補納日勞レ身。❷明、全椄（1－1424‥116）の字。

【修齋追薦】115 シュウサイツイセン 追善の供養をする。〔桃花扇、入道〕今乃乙酉年七月十五日、廣延二道衆一、大建二經壇一、要下與二先帝一修齋追薦上。

【修鍛】116 シュウタン 長いつるぎ。脩鍛（9－29535‥40）に同じ。

【修造】117 シュウザウ 修め造る。〔後漢書、郎顗傳〕陵園至重、聖神攸憑、云云、尋二宮殿官府一、近始二永平一、歳時未レ積、便更修造。

【修纂】119 シュウサン をさめあつめる。〔曾鞏、英宗實錄院申請劄子〕照二證修纂一。

【修士】120 シュウシ 操行の純潔な人。上士をいふ。〔荀子、君道〕使二修士行レ之、則與二汙邪之人一疑レ之。〔荀子、禮論〕諸侯之喪、動二通國一屬二大夫一、大夫之喪、動二一國一屬二修士一、修士之喪、動二一鄉一屬二朋友一、庶人之喪、合二族黨一動二州里一。〔注〕修士、士之進修者、謂二上士一也。〔韓非子、孤憤〕人臣之欲レ得レ官者、其修士且以精絜一固レ身。

【修之】121 シュウシ 宋、楊備（6－15112‥327）の字。

【修史】122 シュウシ 歷史を編修する。〔唐書、百官志二〕史館修撰四人、掌レ修二國史一。〔司空圖、山居記〕擬綸之左、其亭曰二修史一、勘二其所レ職也。

【修史館】123 シュウシクワン 歷史を編修するところ。德川時代に水戸藩に置かれたもの。

【修市】124 シュウシ 縣名。漢、置く。故治は河北省景縣の西北。〔漢書、地理志上〕勃海郡、縣二十六、修市。

【修刺】125 シュウシ 名刺を差しだすこと。〔吳志、步騭傳〕修レ刺奉レ瓜、以獻二征羌一。

【修祀】126 シュウシ 禮をととのへて祭る。修祠。〔漢書、郊祀志下〕天子尊二事天地一、修二祀山川一、古今通禮也。

【修芝】127 シュウシ 隋、梁彥光（6－14825‥239）の字。

【修祠】128 シュウシ 修祀（126）に同じ。〔史記、封禪書〕修二祠太一一若有レ象二景光一。「じ。

【修趾】129 シュウシ 長い足。脩趾（9－29535‥43）に同じ。

【修邇】130 シュウジ 近い所を治める。〔孔子家語、六本〕反レ本修レ邇、君子之道也。

【修辭】131 シュウジ ❶文教を修め行ふ。〔易、乾、文言〕修レ辭立二其誠一、所二以居レ業也一。〔疏〕業謂二功業一、云云、辭謂二文教一、誠謂二誠實一也、外則修二理文教一、內則立二其誠實一、內外相成、則有二功業一可レ居。❷文辭を修飾して美しくすること。〔日知錄、藝文、修辭〕典謨爻象、此二帝三王之言也、論語孝經、此夫子之言也、文章在レ是、性與二天道一亦不レ外乎、是故曰、有レ德者必有レ言、善乎、游定夫之言曰、不レ能二文章一、而欲レ聞二性與一天道一、譬猶二數仞之牆一、而浮二埃聚一沫以爲レ基、無二是理一矣、後之君子、於二下學之初一、卽談二性道一、乃以二文章一爲二小技一、而不二必用一力、然則夫子不レ曰二其旨遠一、其辭文乎、不レ曰言之無レ文、行而不レ遠乎、曾子曰、出二辭氣一、斯遠二鄙倍一矣、嘗見下今講學先生、從二語錄一入レ門者上、多不レ善二於修辭一、或乃反二子貢之言一、以譏レ之曰、夫子之言二性與一天道一、可二得而聞一、夫子之文章、不レ可二得而聞一也。

【修辭學】132 ガクジュ 修辭に關する法則を研究する學問。美辭學。

【修辭通】133 ツウジュ 書名。一卷。帆足萬里撰。作文修辭の原則を論じ、其の方法注意等を說き、更に其の文例を示す。

【修辭法】134 ホフジュ 修辭に關する法則。修辭の方法。

【修修】135 シウシウ ❶風雨の音の形容。〔白居易、舟中雨夜詩〕江雲暗悠悠、江風冷修修。❷長く美しいさま。〔杜甫、晦日尋崔戢・李封二詩〕舊竹頗修修。

【修修利】136 シュシュリ 囫消災呪の語。災を除く呪文。〔元好問、題二山谷小艷一詩〕法秀無二端會一熱謾、笑談眞作二勸淫一看、只消一句修修利、李下何妨也整レ冠。

【修袖】137 シウシウ 長い袖。脩袖（9－29535‥46）に同じ。

【修執】138 シウシフ 修めて執る。〔楚辭、遠遊章句〕乃深惟二元一、修二執恬漠一、思二欲濟一世。

【修日】139 シウジツ 永い日。脩日（9－29535‥48）に同じ。

【修實】140 シウジツ 內容を立派にする。〔孔叢子、抗志〕橋子良修レ實而不レ修レ名。

【修習】141 シウシフ 修め習ふ。〔漢書、趙充國傳贊〕民俗修二習戰備一、高二上勇力一。

【修葺】142 シウシフ 屋根・壁などをつくろひなほす。補葺。〔南史、吳平侯景傳〕修二葺城壘一。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕窩舖倒壞、修二葺之一。

【修城】143 シウジヤウ ❶城をつくろふ。城普請。〔左氏、宣、十二〕鄭人修レ城。❷縣名。隋、置く。陝西省略陽縣の西北。〔讀史方輿紀要、陝西、漢中府、寧羌州、略陽縣、仇池城〕修城廢縣、在二縣西境一、後魏太和中、置二郡治平洛縣一云云、隋仁壽初、改爲二修城縣一、隋末廢。

【修爵】144 シヤクシ 盃をさす。酒をくむ。脩爵。〔禮、鄉飲酒義〕降脫レ屨升坐、修レ爵無數。〔疏〕熊氏云、謂二行レ爵無數一矣。

【修樹】145 シウジユ 植木の手入れをすること。〔孟浩然、襄陽公宅飮詩〕北林積二修樹一、南池生二別島一。

【修熟】146 シウジユク 學藝をきはめて上手になる。

【修浚】147 シウシユン 河や堀をさらふ。修濬。〔福惠全書、蒞任部、戒躁怒二奉レ文修一浚莊村墻濠一。

【修濬】148 シウシユン 泥沙で淺くなつた河道をさらふこと。河ざらへ。〔六部成語、工部、修濬、注解〕河道淤淺、挑二除泥沙一、濬而道レ之也。

【修潤】149 シウジユン 修めかざる。修め榮えさせる。立派にする。〔鹽鐵論、復古〕公卿宜レ思レ所下以安二集百姓一、致上利除レ害、輔二明主一、以二仁義一、修二潤洪業一之道。甲

【修書】150 シウショ 手紙を認める。〔虞集、詩〕坐深閑看レ奕、燭冷靜修レ書。

【修書使】151 シウショシ 書院の教職をいふ。〔稱謂錄、書院掌教、修書使〕合壁事類、唐張說、洛陽人、上置二洛陽書院一、聚二文學之士一、或修レ書、或侍講、以レ說爲二修書使一、案、此亦山長類也。

【修渚】152 シウシヨ 長く續いてゐる水涯。〔謝惠連、七月七日夜詠二牛女一詩〕雲漢有二靈匹一、彌レ年闕二相從一、遐川阻二暉愛一、修渚曠二清容一。

【修序】153 シウジヨ 順序を正す。〔史記、太史公自序〕扁鵲言レ醫、爲二方者宗一、守二數精明、後世修序、弗レ能レ易也。

【修證】154 シウショウ 囫佛行を修し、法理を證する。〔像法決疑經〕一切衆生本是佛、今亦修證還成佛。

【修飾】155 シウショク ❶言語を增損すること。〔論語、憲問〕行人子羽修二飾之一。〔集注〕修飾、謂二增レ損之一。❷繕ひ治める。修繕する。〔漢書、嚴安傳〕車馬衣裳宮室、皆競修飾。〔後漢書、順帝紀〕修二飾宮殿一。〔梁書、武帝紀下〕修二飾國學一、增二廣生員一。❸つくらふ。又、おしやれをする。裝飾。〔楚辭、九辯〕今修飾而窺レ鏡兮。〔後漢書、馬援傳〕修二飾邊幅一、如二偶人形一。〔蜀志、蔣琬傳〕其爲レ政、以二安民一爲レ本、下レ以二修飾一爲レ先。〔韓愈、示兒詩〕嗟我不二修飾一、事與二庸人一俱。❹行ををさめつつしむ。修敕（222）に同じ。〔荀子、君道〕其爲レ身也、謹二修飾一而不レ危。〔集解〕盧文弨曰、修飾、元刻作二修勅一。〔漢書、翟方進傳〕身既富貴、而後母尚在、方進內行修飾、供養甚篤。〔注〕師古曰、飾、謹也。〔袁宏、三國名臣序贊〕行不二修飾一、名跡無レ愆。

【修職】156 シウシヨク 職務を忠實に行ふ。〔後漢書、光武紀下〕有司修レ職、務遵二法度一。

【修職郎】157 シウシヨクラウ 官名。明、置く。文職正八品の封階にあたる。〔明志、職官志一〕正八品、初授二迪功郎一、陞授二修職郎一、從八品、初授二迪功佐郎一、陞授二修職佐郎一。

【修心】158 シウシン 心を修める。精神を修養する。〔莊子、田子方〕孔子曰、夫子德配二天地一、而猶假二至言一以修レ心。〔魏書、釋老志〕其始修レ心、則依二佛法僧一。

【修身】159 シウシン ❶身ををさめる。自己の行を正しくする。古の大學の八條目の一。〔易、復、象曰、不レ遠之復、以修レ身也。〔禮、曲禮上〕修レ身踐レ言。〔大學〕自二天子一以至二於庶人一、壹是以レ修レ身爲レ本。〔孝經、感應章〕修レ身愼レ行。〔孟子、盡心上〕殀壽不レ貳、修レ身以俟レ之、所二以立一命也。〔莊子、在宥〕我修レ身千二百歲矣。〔呂覽、務本〕修レ身會計則可レ恥。〔史記、樂書〕修レ身及レ家。❷荀子の篇名。❸揚子法言の篇名。

【修眞】160 シウシン 道教の眞理を修業する。道教の信者となる。又、眞理を修める。〔天隱子〕易有二漸卦一、道有二漸門一、人之修レ眞達レ性、不レ能二頓悟一、必須レ漸而進レ之、安而行レ之、故設二漸門一。

【修眞道人】161 シウシンダウジン 原公逸の號。原狂齋（2－2973‥247）を見よ。

【修眞養性】162 シウシンヤウセイ 眞理を修めて自己の品性をやしなふ。養性（12－44144‥104）を見よ。

【修愼】163 シウシン 身を修めつつしむ。〔魏志、徐邈傳〕性修愼、偶醉言耳。

【修人】164 シウジン 清、嚴允肇（2－4589‥266）の字。

【修仁】165 シウジン ❶仁を修める。〔孔叢子、陳士義〕修レ仁尚レ義。❷縣名。唐、置く。漢の荔浦縣の地。廣東省荔浦縣の西南。縣に修仁山があるので名づける。〔讀史方輿紀要、廣西、平樂府〕修仁縣、府西八十五里、漢荔浦縣地、云云、唐長慶三年、改曰二修仁一。〔清史稿、地理志〕廣西、平樂府、縣七、修仁。❸字號。㋑後魏、孟信（3－6960‥154）の字。㋺梁、徐勉（4－10110‥283）の字。

【修水】166 シウスイ ❶河の名。㋑于延水（1－252‥10）をいふ。㋺一名、建昌水。源は江西省修水縣の西境の幕阜山。東流し、縣南に至つて武寧水と會す。〔讀史方輿紀要、江西、南昌府、寧州〕修水、州西六十里、源出二幕阜山一、分二東西二流一、西流入二湖廣通城縣界一、合二黃水一、東流、屈曲六百三十八里、出二建昌城一、又一百二十里、入二於彭蠡一、以其流長而達二章江一、故曰二修水一。❷縣名。民國、清の義寧州を改め置く。江西省武寧縣の西。縣內に修水があるので名づける。

【修水子】167 シウスイシ 清、王大經（7－20823‥1873）の號。

【修綏】168 シウズイ 蟬の長いくちばし。〔陸雲、寒蟬賦〕爾乃振二修綏一、以表首、舒二輕翅一、以迅翰。

【修正】169 シウセイ ❶なほし正す。〔儀禮、鄉射禮、興退〕少立、注〕少立、自修正愼二其位一也。〔晉書、樂志上〕既以二新律一、造二一舞一、次更修二正鐘聲一。❷身がをさまつて行が正しい。〔荀子、修身〕修正爲レ笑、至忠爲レ賊。〔漢書、賈山傳〕求二修正之士一、使二直諫一。〔注〕師古曰、修正、謂二修身正行者一。〔漢書、辛慶忌傳〕行義修正、柔毅敦厚。❸正道を修める。〔漢書、五行志下之下〕成王立二金縢一、改レ過修レ正、立レ信布レ德。

【修正案】170 シウセイアン 修正した議案。

【修正主義】171 シウセイシュギ 社會主義の一派。マルクスの資本論と社會革命論とに反對し、議會が中心となつて漸次に社會を改善せんとする主義。ドイツのベルンシュタインが主唱した。

【修生】172 シウセイ 生命を長くする。又、長生。脩生（9－29535‥59）に同じ。〔漢書、敍傳上〕絕二聖棄レ智、修レ生保レ眞。〔魏書、裴衍傳〕修レ生救レ疾。

【修成】173 シウセイ をさめなす。作成。〔後漢書、皇后紀序〕述二宣陰化一、修二成內則一。

【修性】174 シウセイ 性情ををさめる。〔法言、學行〕學者、所二以修一レ性也、視聽言貌思、性所レ有也。

【修政】175 シウセイ 政を修める。〔儀禮、鄉飲酒禮、工歌二鹿鳴四牡皇皇者華一、注〕鹿鳴、君與二臣下及四方之賓一、燕、講二道修一レ政之樂歌一也。〔漢書、五行志下之下〕人君能修二政一、〔論衡、異虛〕修二政改一行。

【修省】176 シウセイ をさめかへりみる。脩省（9－29535‥60）に同じ。

【修整】177 シウセイ をさめととのへる。〔列女傳、母儀、齊女傅母傳〕不レ可レ不二自修整一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕諸姬貴人、競自修整也。〔後漢書、張湛傳〕居處幽室、必自修整。

【修紹】178 シウセウ をさめうけ繼ぐこと。〔國朝漢學師承記、朱筠河〕顧氏炎武、修二紹絕業一、學者所二宗。

【修設】179 セツ をさめ設ける。掃除し塗飾する。〔後漢書、仇覽傳〕天子修二設太學一、豈但使二人游一談其中一。

【修仙】180 シセン 仙術を修める。〔宋史、藝文志四〕陶植修仙要訣一卷。

【修先】181 シセン 先祖の祭ををさめる。〔論衡、祭意〕凡祭祀之義有二一一曰二報功一二曰修先一報レ功以勉レ力、修レ先以崇レ恩。

【修旆】182 シハイ 長い旗。〔張衡、西京賦〕乃建二歲車一樹二修旆一。〔注〕翰曰、修長也、旆、謂レ幢。〔張華、遊獵篇〕武騎列二重圍一前驅抗二修旆一。

【修船】183 シセン 船の修繕をする。〔晉書、劉毅傳〕吾往與二妖賊一戰、曉二其變態一、今修レ船垂レ畢、將二居レ前撲レ之。

【修撰】184 シセン ❶文書をつくる。編纂。編修。修譔。〔北史、序傳〕始末修撰、凡十六載。❷官名。唐は史官を設けて史館修撰を置き、國史の編修を司らしめた。宋は史官に修國史・修撰・編修官・檢討等の官を置く。元に至り、初めて翰林院に修撰を置き、明・清は之に因つた。明の後、專ら狀元を以て之に充てたから、狀元を殿撰とも稱した。〔唐書、百官志二〕史館修撰四人、掌レ修二國史一。〔文獻通考、職官考、史官〕宋制、監修國史一人、以二宰相一爲レ之、修撰・直館檢討、無二常員一、修撰以二朝官一充、直館檢討、以二京官以上一充、掌下修二日歷一及典二司圖籍一之事上。〔元史、百官志三〕國初、集賢與二翰林國史院一、同一官署一、至元二十二年、分二置兩院一云云、修撰一員、從六品。

【修纖】185 シセン 長くて細い。脩纖(9－29535‥65)に同じ。

【修善】186 シゼン 善を修める。〔史記、李斯傳〕絜行修レ善。〔法言、修身〕修二其善一、則爲二善人一。

【修禪】187 シゼン 佛法を修める。〔徐陵、東陽雙林寺傳大士碑〕修二禪遠壑一、絕レ粒長齋。

【修繕】188 シゼン つくろひなほす。修復。〔漢書、食貨志下〕群國皆豫治レ道、修二繕故宮一。

【修阻】189 シソ 遠くへだたる。隔絕する。〔錢起、淮上別二范大一詩〕遊宦且未レ達、前途各修阻。

【修綜】190 シソウ 修めすべる。〔晉書、阮裕傳〕終日靜默、無レ所二修綜一、而物自宗焉。〔魏書、律歷志上〕修二綜歷事一。

【修臂】191 シヒ 長い綱。〔王濟、詩〕修臂麗鱗、大庖妙饌。

【修增】192 シゾウ をさめ增す。〔管子、度地〕歲修增而無レ已、時修增而無レ已。

【修則】193 シソク 隋、獨孤楷(7－20725‥79)の字。

【修婕】194 シショク をさめととのへる。〔通俗編、居處、修婕〕唐書、中和二年、修二婕部伍一、按、婕、音捷、俗謂二整葺一爲二修婕一。

【修多】195 シュタ 〔梵〕經をいふ。修多羅の略。〔法苑珠林〕釋迦生二於天竺一修多出レ自二西番一。〔庾信、陝西弘農郡五張寺經藏碑〕生生世界、豈直優波提舍・祇夜修多而已哉。

【修多羅】196 シュタラ 〔梵語 sūtra の音譯。❶絲をいふ。印度では典籍を幾枚も重ねて絲で綴つたから、轉じて典籍・經典の意味となる。修單羅。修妒路。修多蘭。修多蘭多。〔法華玄義、八〕修多羅、或云二修單蘭多一、或云二修妒路一、彼方楚夏、此土飜譯不レ同、或言二無翻一、或云二有翻一。❷七條袈裟に用ひる組紐。

【修樢】197 シタ 長いくだ。脩樢(9－29535‥68)に同じ。

【修蛇】198 シジャ 大蛇。長蛇。脩蛇。〔漢書、揚雄傳上〕履二殷首一帶二修蛇一。〔淮南子、本經訓〕斷二修蛇於洞庭一、擒二封豨於桑林一。〔李白、荊州賊平臨二洞庭一言レ懷作詩〕修蛇橫二洞庭一、吞レ象臨二江島一。

【修態】199 シタイ 美しい姿。又、姿を美しくする。嬌態を爲す。しなをつくる。〔楚辭、招魂〕姱容修態、〔張衡、西京賦〕要紹修レ態、麗服颺レ菁。〔注〕綜曰、修、爲也、態、嬌媚意也。

【修蕩】200 シトウ かざり動かす。飾つてまちがはせる。〔荀子、解蔽〕多能非以修二蕩是一、則謂二之知一。〔注〕修、飾也、蕩、動也、多能知非、修飾蕩動而爲レ是、則謂二之知一、言二智者能變一非爲レ是也。

【修道】201 シドウ ❶學問・藝術・道德、其の他を修めること。〔中庸〕修レ道之謂レ教。〔荀子、天論〕脩レ道而不レ貳。〔晏子、問、上〕明王修レ道、一民同レ俗。〔孫子、軍形〕修二道而保一レ法。〔論衡、道虛〕夫修レ道求レ仙、與二憂レ職勤レ事不一同。❷道路を手入れする。〔周禮、地官、大司徒〕大賓客、令二野修一、道委積。〔疏〕大司徒令下遺人於二野路之上一、修二治道塗一及委積芻薪米禾之等一、以待二賓客一上。❸佛道を修める。

【修道院】202 シュウドウイン 天主教に於て、修道士が共同生活を爲す建物。

【修道館】203 シュウドウカン 江戸時代に於ける藩の學校の名。❶安藝國廣島藩の學校。❷出雲國松江藩の學校。舊稱、文明館・明教館・文武館。❸三河國西尾藩の學校。❹美作國津山藩の學校。❺下野國宇都宮藩の學校。❻大和國小泉藩の學校。❼越後國高田藩の學校。❽陵奧國白河藩の學校。

【修拓】204 シュウタク 修理しひろげる。〔宅經〕修二拓西方一名二抵路一。

【修澤】205 シュウタク 地名。春秋、鄭の地。河南省原武縣。又、修魚ともいふ。〔左氏、成、十〕鄭子然盟二于修澤一。〔注〕葵陽卷縣東、有二修武亭一。

【修擢】206 シュウテキ 舞衣の、後に曲るさま。〔淮南子、脩務訓〕被レ衣修擢、〔注〕修擢、舞爲二後曲一也。

【修達】207 シュウタツ ❶修め達する。のびとほる。〔文子、上仁〕百官修達、羣臣輻輳。❷地名。アフリカ西北部、スペイン領モロツコの地名。Ceuta の音譯。

【修短】208 シュウタン 長短。脩短(9－29535‥72)に同じ。

【修壇】209 シュウダン 壇ををさめ造る。〔論衡、明雩〕修レ壇設レ位、敬恭祈求。

【修治】210 シュウチ をさめる。〔韓詩外傳、二〕修二治心術一。〔韓非子、五蠹〕其商工之民、修二治苦窳之器一、聚二沸靡之財一。〔六韜、虎韜、軍用〕修二治攻具一。〔漢書、宣帝紀〕郡國宮館、勿二復修治一。

【修持】211 シュウジ 修行する。〔長生殿、私祭〕儘可二修持一。

【修書】212 シュウショ 長い日中。〔李亢、詩〕修書興永念、遙夜獨悲吟。

【修竹】213 シュウチク ❶長い竹。修筠。脩竹(9－29535‥73)に同じ。〔王維、沈十四拾遺新竹生讀經處〕同二諸公之作一詩〕閒居日清靜、修竹自檀欒。❷字號。㋑宋、王英孫(7－20823‥1184)の號。㋺清、王志熙(7－20823‥1570)の號。

【修竹吾廬】214 シュウチクゴロ 清、楊文蓀(6－15112‥780)の室名。

【修築】215 シュウチク をさめきづく。〔舊唐書、韋景駿傳〕雖二修築不一レ息、而漂流相繼。〔宋史、樊知古傳〕有下修二築河隄一之役上。〔六部成語、工部、修築、注解〕修、建也。

【修長】216 シュウチョウ 長い。とほい。脩長(9－29535‥74)に同じ。「に同じ。

【修帳】217 シュウチョウ 長いとばり。脩帳(9－29535‥75)に同じ。

【修張】218 シュウチョウ 長く大きい。〔詩、大雅、韓奕〕四牡奕奕、孔修且張。〔傳〕修、長、張、大。

【修注】219 シュウチュウ 唐代、起居郎及び舍人の別名。〔容齋四筆、官稱別名〕唐人好以二它名一標二牓官稱一、今漫二疏於此一、以示下子姪之未レ能二盡知一者上、云云、起居郎爲二左螭、舍人爲二右螭一、又並爲二修注一。

【修楮】220 シュウチョ hsiu ch'u 手紙を認める。

【修除】221 シュウジョ ❶をさめはらふ。手入れをし掃除する。〔周禮、地官、山虞〕修除且蹕。〔注〕修除、治二道路場壇一。〔管子、四時〕修二除神位一。〔淮南子、時則訓〕修二除祠位一。❷長いきざはし。〔班固、西都賦〕羣路經營、修除飛閣。〔注〕善曰、除、樓陛也、翰曰、修、長也。

【修敕】222 シュウチョク をさめつつしむ。修飭。脩敕(9－29535‥78)に同じ。

【修飭】223 シュウチョク 身ををさめいましめる。修敕。〔荀子、君道〕修飭端正、尊二法敬一レ分。〔史記、秦始皇紀〕作レ制明レ法、臣下修飭。〔漢書、劉向傳〕以行二修飭一、擢爲二諫大夫一。〔列女傳、母儀、契母簡狄傳〕逐自修飭、教以二事理一。

【修通】224 シュウツウ ❶をさまり通ずる。〔韓非子、難一〕大臣不レ因二左右一而見、百官修通、羣臣輻輳。〔管子、幼官〕坦氣修通。❷長く通ずる。脩通(9－29535‥80)に同じ。

【修定】225 シュウテイ 誤つてゐる點をなほして、正しいものに定める。〔唐書、于志寧傳〕修二定本草幷圖合五十四篇一。

【修訂】226 シュウテイ 誤りを正す。〔朱熹、答二滕德章一文〕熹舊所レ爲書、近加二修訂一、稍有二條理一。

【修訂法律館】227 シュウテイホウリツカン 清末に立憲準備の爲、法典調査の目的で新設した役所。一九二八年國民政府樹立に伴ふ組織改正と共に自然消滅した。

【修程】228 シウテイ 長い道。修塗。脩程(9－29535・81)に同じ。

【修典】229 シウテン ❶儀式を行ふ。〔禮、月令〕孟春之月、乃修ニ祭典一。〔班固、匈奴和親議〕建武之世、復修ニ舊典一。❷法律・書物などを修め定める。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕玩ニ習古義一、修ニ明經典一。〔北史、王劭傳論〕既撰ニ齊書一、兼修ニ隋典一。

【修椽】230 シウテン 長いたるき。〔杜甫、陳拾遺故宅詩〕拾遺平昔居、大屋尚ニ修椽一。

【修涂】231 シウト ❶宮から廟に至る間の道を修め掃除する。涂は塗の義。一說に、涂は除で、廟中を掃除する義ともいふ。〔荀子、禮論〕修涂几筵、饋薦告ニ祝一。〔注〕修涂、謂レ修ニ自レ宮至レ廟之道塗一也。〔集解〕王念孫曰、涂、讀爲レ除、周官典祀、若以レ時祭祀、則帥ニ其屬一而脩除、鄭注曰、脩除、芟ニ埽之一、脩除二字、專指ニ廟中一而言、作ニ涂者、借レ字耳、非謂レ修ニ自レ宮至レ廟之道涂一也。❷をさめ塗る。脩涂(9－29535・88)に同じ。

【修都】232 シウト 縣名。漢、置く。今、闕く。綏遠省鄂爾多斯の境。〔漢書、地理志下〕朔方郡、縣十、修都。

【修塗】233 シウト 長い道。修程。脩塗(9－29535・84)に同じ。

【修怒】234 シウド 大いに怒る。脩怒(9－29535・85)に同じ。

【修冬】235 シウトウ 長い冬。冬の長いこと。〔裴子野、寒夜賦〕何四序之平分、處ニ修冬一而多レ慮。

【修棟】236 シウトウ 長いむな木。〔曾鞏、路中對レ月詩〕想知吾在レ廬、皎皎上ニ修棟一。

【修鬪】237 シウトウ 戰術を修める。〔荀子、仲尼〕畜積修鬪、而能顯ニ倒其敵一者也。

【修得】238 シウトク ❶道を修行する。〔謝枋得、武夷山中詩〕天地寂寥山雨歇、幾生修得到ニ梅花一。❷後天的に修行學習に依つて得ること。性得に對し、又、人功得ともいふ。〔佛性論、一〕則一切衆生、無レ有ニ性得佛性一、但有ニ修得佛性一。

【修德】239 シウトク ❶德を修める。〔易、蹇〕山上有レ水蹇、君子以反レ身修レ德。〔詩、齊風、甫田序〕不レ修レ德而求ニ諸侯一。〔詩、大雅、文王〕聿修ニ厥德一。〔禮、燕義〕使ニ之修レ德學レ道。〔左氏、襄、九〕修レ德息レ師而來。〔國語、周語上〕有レ不レ王則修レ德。〔史記、五帝紀〕修ニ德振レ兵。❷佛シュトク性德に對して修習によつて得た功德。

【修牘】240 hsiu tu 手紙を書く。書翰を認める。

【修能】241 シウノウ すぐれた才能。〔楚辭、離騷〕紛吾既有ニ此內美一兮、又重ニ之以ニ修能一。〔注〕修、遠也、又重有ニ絕遠之能與レ衆異一也。

【修波】242 シウハ 大波。修は長く大きい意。〔拾遺記、夏禹〕化爲ニ玄魚一、時揚レ鬚振レ鱗、橫ニ修波之上一、見者謂爲ニ河精一。

【修廢】243 シウハイ すたれたものを修理する。〔漢書、五行志下之下〕存レ亡繼レ絕、修レ廢擧レ逸。

【修梅】244 シウバイ 字號。❶清、倪濤(1－792・23)の號。❷清、侍蓮(1－589・85)の字。

【修方】245 シウハウ 法術を修める。方法を修め習ふ。〔左氏、昭、二十九〕夫物、物有ニ其官一、官修ニ其方一。〔注〕方、法術。

【修蜌】246 シウハウ うはばみ。をろち。蜌は長大であるから修の字を冠して呼ぶ。〔蘇軾、中隱堂詩〕徑轉如ニ修蜌一、坡垂似ニ伏鼈一。

【修白】247 シウハク 明、楊所修(6－15112・618)の字。

【修伯】248 シウハク 清、朱學勤(6－14424・697)の字。

【修費】249 hsiu fei 修繕費。建造費。

【修尾】250 シウビ 長い尾。〔鐘會、孔雀賦〕裁ニ修尾之翹翹一、若ニ順レ風而揚レ麾。

【修眉】251 シウビ 長い眉毛。〔元史、察罕帖木兒傳〕身長七尺、修眉覆レ目、左頰有ニ三毫一、或怒則毫皆直指。

【修備】252 シウビ 修め備へる。又、修まり備はる。〔後漢書、馬皇后紀〕禮則修備、上下安レ之。〔魏志、王基傳〕是其修備設レ慮之時也。

【修靡】253 シウビ 漢、廣川王の夫人の名。繒帛を掌つた。〔漢書、廣川王越傳〕幸姬陶望卿、爲ニ修靡夫人一、主ニ繒帛一。〔梁元帝、爲ニ妾弘夜姝一謝ニ東宮賚ニ合心花釵一啓〕修靡夫人、本分ニ章華之裏一。

【修稟】254 シウヒン 書面を認める。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕申ニ詳本道一、且修稟謝レ罪。

【修敏】255 シウビン ❶をさまつてさとい。〔魏書、高祖孝文帝紀下〕經行修敏、文思遒逸。❷末、鄭僅(11－39647・83)の諡。

【修賦】256 シウフ 兵賦ををさめる。〔左氏、襄、二十五〕量レ入修レ賦、賦レ車籍レ馬。

【修譜】257 シウフ 音譜を修める。歌曲を歌ふ。〔王惲、桃花菊詩〕騷客賦レ詩憐ニ晚節一、野人修レ譜是頭花。

【修武】258 シウブ ❶武德を修める。〔莊子、天道、三軍五兵之運、疏〕夫聖明之世、則偃レ武修レ文、逮ニ德下衰一、則偃レ文修レ武。❷地名。㋑殷の寧邑。周の武王の時、修武と改む。秦、之に依り、漢、縣を置く。後魏の時、北修武を山陽に置いて南修武と名づけた。河南省獲嘉縣治。〔韓詩外傳、三〕周武王伐レ紂、勒ニ兵於寧一、名ニ修武一。〔韓非子、初見秦〕〔秦昭王去ニ邯鄲一〕西攻ニ修武一。〔漢書、地理志上〕河內郡、縣十八、修武。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府〕修武縣、在ニ府東一百二十里一、商爲ニ寧邑一、周爲ニ修武一、秦因レ之、漢高祖封ニ功臣魏遫一爲ニ寧侯一、尋置ニ修武縣一、屬ニ河內郡一。㋺春秋、晉の南陽邑。漢の山陽縣。東魏、西修武縣を置き、隋の時、北齊の西修武を改めて修武といふ。今、河南省獲嘉縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、懷慶府、修武縣〕山陽城、縣西北六十里、戰國時魏邑、漢置レ縣屬ニ河內郡一。〔云云、晉山陽縣、仍屬ニ河內郡一、後魏屬ニ汲郡一、孝昌中置ニ山陽郡一。尋罷、北齊廢ニ山陽入ニ修武縣一。〔清史稿、地理志〕河南、懷慶府、縣八、修武。

【修武校尉】259 官名。武散官。金・元共に置く。〔元史、百官志七〕武散官二十四階、修武校尉。

【修廡】260 シウブ 長いひさし。長廡。〔夏侯湛、秋夕哀ニ尋修廡之飛檐一覽ニ明月之流光一。

【修復】261 シウフク ❶つくろひなほす。修繕(188)に同じ。〔後漢書、光武紀上〕詔修ニ復西京園陵一。〔魏志、荀彧傳〕修ニ復舊京一。〔晉書、孔愉傳〕修ニ復故堰一、溉ニ田二百餘頃一。❷hsiu fu 修覆に同じ。

【修覆】262 hsiu fu 手紙で返事する。返書する。

【修文】263 シウブン ❶文德ををさめる。〔書、武成〕偃武修レ文。❷文人の死。修文郎(265)を見よ。〔書言故事、祭奠類、修文〕挽ニ文人死一、言レ修ニ文地下一。❸典法卽ち法律を治める。〔國語、周語上〕有ニ不享一、則修レ文。〔注〕文、典法也。❹說苑の篇名。❺縣名。清、置く。元の落邦佐長官司。明の劉佐長官司。今、貴州省貴陽縣の西北。〔清史稿、地理志〕貴州、貴陽府、縣四、修文。❻浦阪圓の號。浦坂青莊(9－31611・125)を見よ。

【修文館】264 シウブンクワン ❶唐代、門下省に隸屬した宮廷の圖書館。武德四年に始めて置かれ、九年に弘文館と改め、神龍元年に昭文館と改め、同二年に修文館と改めた。宋代は昭文館といふ。〔通典、職官典、宰相、侍中、弘文館校書郎〕唐武德初置ニ修文館一、後改ニ名弘文館一、神龍初、改爲ニ昭文一、二年、又改爲ニ修文一、尋又爲ニ昭文一、開元七年、又稱ニ弘文一焉。儀鳳中、以下館中多ニ圖籍一未詳正上、委ニ學士一校理、自ニ垂拱一以來、多ニ大臣兼領館中有ニ四部書一、自ニ貞觀初褚亮檢ニ校館務一學士、號爲ニ館主一、因爲ニ故事一、每令ニ給事中一人判館事、校書二人、學士三十人。〔資治通鑑、唐紀〕〔中宗、景龍二年〕置ニ修文館大學士四員一。〔注〕武德四年、置ニ修文館于門下省一、九年、改曰ニ弘文館一、五品已上曰ニ學士一、六品已上曰ニ直學士一、又有ニ文學直館一、皆他官領レ之、武后垂拱後、以ニ宰相一兼ニ領館事一、號曰ニ館主一、神龍元年、避ニ孝敬皇帝諱一、改曰ニ昭文館一、二年、改曰ニ修文館一、上官昭容、勸レ帝置ニ大學士四人一、以象ニ四時一、直學士八人、以象ニ八節一、學士十二人、以象ニ十二時一。〔文獻通考、職官考、門下省、弘文館〕宋改爲ニ昭文館一、大學士一人、以ニ宰相一充、學士直學士不ニ常置一、直館以ニ京朝官一充、掌ニ經史子集四庫圖籍、修寫校讐之事一、判官一人、以ニ兩省五品以上一充。❷文久元年、德川幕府が橫濱に設けた學校。

【修文郎】265 假定の官。死後、冥土で文章を掌るといふ。〔三十國春秋、蘇紹卒、後從弟節書見ニ紹節因問ニ幽冥事一、紹曰、顏回卜商、爲ニ地下修文郎一。

【修文殿御覽】266 シウブンデンギョラン 類書の名。三百六十卷。北齊、祖孝徵等撰。宋の太平御覽の祖本。隋書經籍志・唐書藝文志の類書類に載錄せられ、又、夙に我が國にも渡來して、日本國現在目錄には雜家の部に著錄せられ、又、具平親王の弘決外典鈔には御覽三百六十卷、有ニ乾坤萬物部一、北齊尚書左僕射祖孝徵等所レ撰と注し、且之を引用してゐるが、彼我共に佚亡した。然るに、

近年ペリオの敦煌蒐集中に、類書の佚本が數種あり、其の第二五二六號は本書の殘卷と證定せられ、大いに珍重せられるに至つた。劉申叔は國粹學報第七年の敦煌新出唐寫本提要の中に其の詳細な研究を發表し、羅振玉は國學叢刊第二冊に佚籍叢殘十八として移錄し、次いで鳴沙石室佚書中に其の影印本を編入し、新たに長跋を附して之が考證を爲し、曹君直も亦跋尾一篇を草して宋御覽の中に齊御覽の具存することを指摘してゐる。

【修平】267 ❶平和にする。〔周禮、夏官、職方氏〕各修ㇾ平乃守、攷ニ乃職事一。〔左氏、襄、六〕聘且修ㇾ平。❷清、陸繼輅(11－41708‥313)の字。

【修柄】268 長い柄。〔傅玄、琵琶賦〕控ニ修柄一以布ㇾ柱、轉ニ四時一而發ㇾ機。

【修廟】269 寺廟を修治する。〔中庸〕春秋修ニ其祖廟一。

【修辟】270 魚の名。〔山海經、中山經〕(橐山)橐水出焉、而北流注ニ於河一、其中多ニ修辟之魚一、狀如ㇾ黿而白喙、其音如ㇾ鴟、食ㇾ之已ニ白癬一。

【修闢】271 をさまり開ける。修理し開墾する。〔晉書、苻堅載記上〕田疇修闢、帑藏充盈。

【修甫】272 明、陳祖念(11－41698‥1078)の字。

【修保】273 をさめたもつ。

【修補】274 つくろひおぎなふ。〔後漢書、曹褒傳論〕修ニ補舊文一。

【修輔】275 臣下が己の職分ををさめ守つて君主を輔佐する。〔書、胤征〕臣人克有ニ常憲一、百官修ニ輔厥君一、惟明明。〔傳〕修ㇾ職輔ニ君、君臣俱明。

【修墓】276 ❶墓を修理する。墓を作る。〔禮記、檀弓上〕古不ㇾ修ㇾ墓。〔晉書、陸雲傳〕修ㇾ墓立ㇾ碑、四時祠祭。❷墓參する。修墓暇を見よ。

【修墓暇】277 墓參のため歸省するに給する休暇。〔晉書、陸曄傳〕咸和中、求ニ歸ニ鄉里一拜ニ墳墓一、有司奏、舊制假ニ六十日一、侍中顏含・黃門侍郎馮懷・駁曰、曄內蘊ニ至德一、清ニ一其心一、受ニ託付之重一、居ニ台司之位一、既蒙ニ詔許一ニ歸省一墳塋一、大臣之義、本在ニ忘ニ己一、豈容ニ有ㇾ期而反、無ㇾ期必違一、愚謂、宜ㇾ還自還、不ㇾ須ㇾ制ㇾ日、帝從ニ之一。

【修奉】278 をさめもつ。ととのへもつ。〔晉書、禮志上〕宜ニ於ㇾ此修奉一。

【修俸】279 俸祿。〔福惠全書、庶政部、條ニ陳興革一〕幕友之修俸、意外之補苴。

【修睦】280 よしみををさめる。修好。修交。〔禮、禮運〕講ㇾ信修ㇾ睦、謂ニ之人利一。

【修穆】281 後魏、李昌(6－14459‥776)の字。

【修本】282 中論の篇名。

【修本堂】282 清、林伯桐(6－14551‥416)の室名。

【修蔓】283 長い蔓。又、蔓のやうに長く延びること。〔劉禹錫、蒲萄歌〕分岐浩繁纓、修蔓蟠詰曲。

【修名】284 ❶立派な名。又、長く後世に殘る名。〔楚辭、離騷〕恐ニ修名之不ㇾ立一。〔集注〕修名、長名、或曰、修潔之名也。〔梁書、王僧孺傳〕修名既立、老至何遽。❷名分を正す。〔國語、周語上〕有ㇾ不ㇾ貢則修ㇾ名。〔注〕名、謂ニ尊卑職貢之名號一、晉語曰、信ニ於名一、則上下不ㇾ干。❸外聞を立派にする。名は實〔實質・內容〕に對していふ。〔孔叢子、抗志〕橋子良修ニ實而不ㇾ修ニ名一。

【修明】285 ❶修めあきらかにする。又、修まり明かになる。立派になる。立派である。〔韓詩外傳、五〕禮儀修明、則君子懷ㇾ之。〔史記、老莊申韓傳〕修ニ明其法制一。〔漢書、律歷志上〕修ニ明舊典一。〔孔叢子、獨治〕願先生修ニ明其事一。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕玩ニ習古義一、修ニ明經典一。〔陳琳、檄ニ吳將校部曲一文〕當世儁彥、德行修明。❷越の美女の名。一名、鄭旦。〔拾遺記、周靈王〕越又有ニ美女二人一、一名ニ夷光一、二名ニ修明一、以貢ニ於吳一、吳處以ニ椒華之房一。〔注〕卽西施・鄭旦之別名。

【修面】286 hsiu mien⁴ 顏を剃る。

【修羊】287 謝禮金。月謝。脩羊(9－29535‥110)に同じ。

【修羊公】288 漢代の仙人の名。魏の人。〔列仙傳〕修羊公、魏人也、在ニ華陽山上石室中一、有ニ懸ニ石榻一臥ニ其上一、後以ニ道干ニ景帝一、使ニ止王邸中一數歲、道不ㇾ可ㇾ得、語未ㇾ訖、牀上化爲ニ白羊一、題ニ其脇一曰、修羊公謝ニ天子一、後置ニ石羊於靈臺上一、後復去不ㇾ知ㇾ所ㇾ在。

【修養】289 もと道家の養生法。轉じて、道を修め德をやしなふこと。〔近思錄、爲學〕修養之所ニ以引ㇾ年、國祚之所ニ以祈ニ天永命一、常人之至ニ於聖賢一、皆工夫到ニ這裏一、則有ニ此應一。〔張養浩、壽ㇾ子詩〕由ㇾ弗ニ修養一、道乃違叛。

【修容】290 ❶容儀をととのへつつしむ。〔周武王、帶銘〕火滅修容、愼戒必恭。〔尉繚子、攻權〕異口虛言、將無ニ修容一。❷逍遙する。優游自適する。〔漢書、司馬相如傳上〕修ニ容乎禮園一、翔ニ翰乎書圃一。❸女官の名。魏の文帝、置く。其の後、宋の孝武帝は、昭儀・昭容・昭華を置いて修華・修儀・修容に代へ、隋の文帝は、修容を九嬪に列した。〔魏志、后妃傳序〕文帝增ニ貴嬪・淑媛・修容・順成・良人一。〔事物紀原、嬪御命婦部、修容〕魏文帝始置ニ修容一、隋煬帝參ニ詳典故一、復置ニ之也。

【修羅】291 ㊀阿修羅(asura の音譯)の略。六道の一で、須彌山の北、大海の底、或は海岸、或は四州の山間に在りといふ。其の王は剛力で能く梵天帝釋と戰つた。故に慘憺たる光景を形容して修羅場また修羅巷といふ。修羅道。阿修羅道。〔大藏法數〕宮殿嚴飾、懷ニ猜忌心一、常好ニ鬪戰一、是名ニ阿修羅道一。

【修羅界】292 ㊀阿修羅法界に同じ。天台宗では塵沙の事相を差別する爲に十法界を立て、其の第七法界がこれに當る。下品の衆生が、十善を行じて通力自在を得る非人の境界をいふ。

【修羅巷】293 戰鬪・爭亂などの場。〔北條五代記、七、於ニ駿河海一船軍事一〕鬨聲矢さけびの音のみ、やん事なく、修羅のちまたとなれり。

【修羅窟】294 ㊀阿修羅王の住する石窟。深山幽谷に在る。〔大唐西域記、十〕。

【修羅車】295 大石・大木等を引くに用ひる車。修羅が帝釋〔大石〕を動かすといふ意。

【修羅道】296 ❶㊀六道の一。阿修羅道。多く瞋・慢・疑の三因によつて此處に落ち、鬪爭を事とする。〔法苑珠林、五〕。❷修羅巷を見よ。

【修羅場】297 ❶戰亂の場。たたかひには。〔北條五代記、二、北條氏綱上杉朝定合戰事〕幸なる修羅場なり。❷㊀芝居のはげしい戰鬪を演ずる場面。

【修羅妄執】298 執着の念の強いこと。怨み。ねたみ。怒。

【修來】299 清、顏光敏(12－43591‥146)の字。

【修廊】300 長い廊下。〔西京雜記、三〕茂陵富人袁廣漢、藏鐵百萬、家僮千九百人、於ニ北邙山下一築ニ園、云云、皆徘徊連屬、重閣修廊、行ㇾ之移ㇾ晷、不ㇾ能ニ偏也一。

【修利】301 修理の❶に同じ。〔淮南子、時則訓〕修ニ利隄防一、導ニ通溝瀆一。

【修理】302 ❶つくろひなほす。修治。修繕。修利。〔漢書、丙吉傳贊〕衆職修理。〔楚辭、東方朔、七諫、沈江〕明ニ法令一而修理兮。〔後漢書、光武紀下〕修ニ理長安高廟一。〔許沖、上ニ說文解字一書〕修理舊文、殊ㇾ藝異ㇾ術、王教一崇、苟有ㇾ可ニ以加一於國一者、靡ㇾ不ニ悉集一。〔白居易、傳法堂碑〕本無ニ損傷一、云何要ニ修理一。❷修理職の略。

【修理職】303 古、宮城の破壞を修繕することを掌る職。其の長官は修理大夫。唐名は匠作。〔日本紀略、五〕安和元年十月八日、先ㇾ是、仰ニ修理職一、令ニ替ニ改板敷一。〔職原抄〕修理職、唐名、匠作。

【修理進】304 修理職の屬官。大少がある。唐名は匠作丞。〔職原抄〕修理職、進、大少、唐名、匠作丞。

【修理屬】305 修理職の屬官。大少がある。唐名は匠作錄事。〔職原抄〕修理職、屬、大少、唐名、匠作錄事。

【修理亮】306 修理職の屬官。唐名は匠作少尹。〔職原抄〕修理職、亮、唐名、匠作少尹。

【修理算師】307 修理職の屬官。唐名は匠作計史。〔職原抄〕修理職、算師、唐名、匠作計史。

【修理大夫】308 修理職の長官。唐名は匠作大尹。〔職原抄〕修理職、大夫一人、唐名、匠作大尹。

【修理宮城使】309 古の令外の官名。宮城の外廓、左右の坊城を修理することを掌る。左右がある。坊城使。〔職原抄〕修理宮城使、左右。

【修理權大夫】310 修理大夫の權官。〔職原抄〕修理職、權大夫一人。

【修六】311 清、陳瑄(11－41698‥412)の號。

【修立】312 修め立てる。〔後漢書、皇甫嵩傳〕須營幔修立、然後就舍帳。〔吳志、周魴傳〕修立邸閣。〔南史、張卲傳〕築長圍、修立堤堰、創田數千頃、公私充給。
【修領】313 修めすべる。循領。〔荀子、成相〕五聽修領。〔注〕修領、謂修之使得綱領。〔集解〕盧文弨曰、修領、宋本作循領、王念孫曰、領猶治也、理也。
【修陵】314 南朝梁の武帝の陵の名。江蘇省丹陽縣の東に在る。〔梁書、武帝紀下〕(太淸三年冬十一月)乙卯、葬于修陵。〔武進縣志〕修陵、在南蘭陵皇業寺前、唐貞觀十一年、詔令百步禁樵採。〔鎭江府志〕修陵、在丹陽縣東二十五里皇業寺前。
【修林】315 淸、李筠嘉(**6**－**14459**・・865)の字。
【修綸】316 長い釣絲。〔孫承、嘉遯賦〕揮修綸於洄瀾。
【修令】317 下すべき命令ををさめ考へる。〔左氏、昭、元〕晝以訪問、夕以修令。〔注〕念所施也。〔會箋〕修後日之命令。
【修厲】318 修めはげむ。〔魏書、崔亮傳〕天下士子、誰復修厲名行哉。
【修禮】319 禮儀ををさめる。〔孔叢子、刑論〕修禮以待之。〔王融、永明十一年策秀才文〕布德修禮。
【修齡】320 字號。㊀晉、王胡之(**7**－**20823**・・1452)の字。㊁明、楊鶴(**6**－**15112**・・59)の字。㊂淸、吳喬(**2**－**3365**・・151)の字。㊃淸、汪喬年(**6**－**17154**・・214)の字。
【修了】321 學校で規定の學科をさめ終へること。
【修列】322 立派に出來上る。〔司馬遷、報任少卿書〕孫子臏脚、兵法修列。〔注〕濟曰、修、作、列、美也。
【修廉】323 德が修まり行の潔いこと。〔韓非子、孤憤〕賢士者修廉、而羞與姦臣欺其主。
【修煉】324 ㊀學んでよくねる。修錬。㊁煉丹金液の術を修める。修錬。〔眞德秀、跋陳北山序黃春伯本末〕不俟修煉、而得神仙。
【修鍊】325 ㊀學んでよくねる。修煉。〔鬼谷子、本經陰符〕內修鍊而知之。㊁道家の錬丹の術。修煉。〔琅琊代醉編、修鍊〕神仙修鍊之術、非親涉其門者、不得了見。
【修路】326 ㊀長い道。脩路(**9**－**29535**・・122)に同じ。〔張衡、西京賦〕襄岸夷塗、修路峻險。〔注〕向曰、塗路甚平而長。㊁道路を修繕する。
【修路機】327 hsiu^1 lu^4 chi^1 道路を修築する機械。
【修顱】328 長いあたま。〔沈約、郊居賦〕碧鱗朱尾、修顱偃額。
【修和】329 政を治め天下を和げる。〔書、君奭〕惟文王尙克修和我有夏。〔傳〕文王庶幾能修政化、以和我所有諸夏。
【修惑】330 佛三乘の聖人が修道位に於て斷ずる貪・瞋・痴等の惑をいふ。
【修伽陀】331 佛梵語 sugata の音譯。又、修伽度。好去・好說・善逝と譯す。如來十號の一。人が生死の迷を脫却して涅槃に歸する時、之を好去・善逝といひ、又、大乘では好く生死卽涅槃の法を說くから之を好說といふ。〔智度論、二〕修伽陀、修、秦言好、伽陀、或言去、或言說、是名好去好說、好去者、佛一切智爲大車、八正道行入涅槃、是名好去、好說者、如諸法實相說、不著法愛說。〔玄應音義、四〕修伽陀、或云修伽度、慧印三時經譯云善逝、此如來德之一號也。
【修覺山】332 山名。四川省新津縣の東南。本名は寶華山。修覺寺がある。僧の神秀が廬を結んだ所。唐の明皇が駐蹕して修覺山の三字を題したといふ。〔讀史方輿紀要、四川、成都府、崇慶州、斯津縣〕修覺山、縣東南五里、有修覺寺、唐玄宗嘗幸此。
【修脚的】333 hsiu^1 chiao^3 tê 浴場で客の足の爪を切つたり、胼胝を取つたりして足の手入れをする者。
【修宮錢】334 官職を買ふ爲に出す錢。後漢に始まる。〔後漢書、劉陶傳〕當出修宮錢直千萬。〔後漢書、張讓傳〕修宮錢、大郡至二三千萬、餘各有差。
【修靜庵】335 蒲生秀實の號。蒲生修靜(**9**－**31611**・・91)を見よ。
【修簫譜】336 傳奇の名。淸、舒位撰。瓶笙館修簫譜の略。合計四折から成り、徐渭の四聲猿體の例に倣つて作る。
【修內司】337 南宋の官名。將作監の屬。宮中の財政、並に宮禁營繕のことを掌る。〔宋史、職官志五〕將作監、修內司、掌宮城太廟繕修之事。〔曹士冕、法帖譜系〕淳化閣帖、有淳熙修內司本、淳熙閒、奉旨刻石禁中、卷帙規模、悉同淳化閣本、而卷尾乃楷書、題云、淳熙十二年乙巳歲二月十五日、修內司恭奉聖旨模勒上石。
【修臂民】338 海外三十六國の一。〔淮南子、墜形訓〕自西南至東南方、有結胸民、云云、三頭民・修臂民。
【修詞鑑衡】339 書名。二卷。元、王構編。上卷は詩を論じ、下卷は文を論ずる。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【俯】722 フ 〔集韻〕匪父切 麌 ㄈㄨˇ fu^3

㊀**ふす。うつむく。かがむ。**頫(**12**－**43463**)・俛(**1**－**700**)に同じ。〔集韻〕頫、說文、低頭也、或作俛・俯。〔韻會小補〕古音流變、字亦隨異、如俯仰之俯、本作頫、或作俛、今皆作俯、而頫音兆、俛音免、不復音俯矣。〔易、繫辭上〕仰以觀於天文、俯以察於地理。〔禮、曲禮上〕俯而納屨。〔注〕俯、俛也。〔禮、樂記〕進俯退俯。〔注〕俯、猶曲也、言不齊一也。〔公羊、宣、六〕俯而窺其戶。〔注〕俯、俛頭。㊁**とぢこもる。かくれる。潛伏する。**〔禮、月令〕季秋之月、蟄蟲咸俯在內。〔呂覽、季秋〕蟄蟲咸俯。〔注〕俯、伏。㊂**ねる。**〔荀子、賦〕三俯三起。〔注〕俯、謂臥而不食。㊃**物に就くさま。**府(**4**－**9283**)に通ず。〔荀子、非相〕府然若渠堰檃栝之於己也。〔注〕府、與俯同、就物之貌、或讀爲附。

參考 熟語は俛(**1**－**700**)を併せ見よ。

【俯允】1 fu^2 yün^3 ㊀申請を許可する。㊁御承諾。御快諾。書翰用語。
【俯傴】2 ふしかがむ。お辭儀する。〔王禹偁、謫居感事詩〕趁朝空俯傴、退食自逶迤。
【俯映】3 さかしまにうつる。〔儲光羲、同諸公秋霽曲江俯見南山詩〕天靜終南高、俯映江水明。
【俯泳】4 平泳。ブレストストローク。
【俯項】5 うなだれる。うつむく。項はうなじ。〔荀子、修身〕行而俯項、非擊戾也。
【俯角】6 仰角に對する語。仰角(**1**－**400**・・9)を見よ。
【俯瞰】7 高い處から見おろす。下瞰(**1**－**14**・・68)に同じ。
【俯鑒】8 ㊀俯して視る。俯觀。〔成公綏、天地賦〕坤厚德以載物、乾資始而至大、俯盡鑒于有形、仰蔽視于所蓋。〔蘇軾、歸來引〕亂清淮而俯鑒兮、驚昔容之是非。㊁fu^3 chien^4 ㋑御高覽。㋺御推察。
【俯窺】9 うつむいてうかがひ見る。〔文中子、王道〕烏鵲之巢、可俯而窺也。
【俯畜】10 妻子をやしなふ。〔孟子、梁惠王上〕仰不足以事父母、俯不足以畜妻子。
【俯泣】11 うなだれて泣く。俛泣。〔韓詩外傳、十〕齊景公遊于牛山之上、而北望齊曰、美哉國乎、鬱鬱泰山、使古而無死者、則寡人將去此而何之、俯而泣沾襟、國子高子曰、然、臣賴君之賜、疏食惡肉、可得而食也、駑馬柴車、可得而乘也、且猶不欲死、況君乎、俯泣。
【俯仰】12 ㊀下を見、上を見る。見まはす。俛仰。〔墨子、魯問〕大王俯仰而思之。㊁身のこなし方。起居動作。〔禮、樂記〕習其俯仰詘伸。〔左氏、定、十五〕左右周旋、進退俯仰。〔列子、湯問〕趨步俯仰、信人也。〔管子、弟子職〕俯仰磬折。〔新書、傳職〕視瞻俯仰、周旋無節。〔南史、褚彦回傳〕俯仰進退、咸有風則。

【俯仰異レ體】13 フギヤウタイヲコトニス 起居振舞の異なること。〔魏志、王烈傳〕出處殊レ塗、俯仰異レ體。

【俯仰之間】14 フギヤウノカン 少しの時間。僅かの間。〔王羲之、三月三日蘭亭詩序〕俯仰之間、已爲二陳迹一。

〔俯仰不レ愧二天地一〕15 フギヤウテンチニハヂズ 天地の神に對しても恥かしい所がない。心にやましい所がないことをいふ。〔孟子、盡心上〕仰不レ愧二於天一、俯不レ怍二於人一、二樂也。

【俯恭】16 フキヨウ 清、陳梓(**11－41698**··295)の字。

【俯觀】17 フクワン うつむいて觀る。俯鑒。〔劉伶、酒德頌〕俯二觀萬物擾擾一焉、如三江漢之載二浮萍一。

【俯刑】18 fu³ hsing² 去勢の刑。腐刑。

【俯憲】19 フケン 俯して則る。下は云云にのつとる。〔蜀志、郤正傳〕俯憲二坤典一、仰式二乾文一。

【俯戸】20 フコ 隙間を土でふさぐ。又、戸をとぢてかくれる。〔呂覽、仲秋〕蟄蟲俯レ戸。〔注〕將レ蟄之蟲、俯二近其所一レ蟄之戸一。

【俯查】21 フサ 御賢察。〔例〕惟希二俯查一。

【俯察】22 フサツ ❶うつむいてよく見る。〔後漢書、襄楷傳論〕仰瞻俯察。〔張衡、西京賦〕俯二察百隧一。❷fu³ ch'a² 御推察。御諒察。書翰用語。

【俯思】23 フシ 俯して思案する。下は云云を思ふ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕俯思二舊恩一、仰察二五緯一、脫跡違難、披榛來洎。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕仰悲二先意一、俯思二身愆一。

【俯視】24 フシ うつむいて見る。俛視。〔宋玉、高唐賦〕俯視二崝嶸一、窐寥窈冥。

【俯就】25 フシウ ❶己を屈してそれにつくこと。〔禮、檀弓上〕先王之制レ禮也、過レ之者、俯而就レ之、不レ至焉者、跂而及レ之。〔後漢書、陳蕃傳〕聖人制レ禮、賢者俯就、不肖企及。〔風俗通、愆禮〕賢者俯就、不肖跂及。❷師長たる人が、子弟を導く爲に、己を屈して親み易くすること。〔論語、子罕、我叩二其兩端一、集注〕程子曰、聖人之教レ人、俯就レ之若レ此。❸下の意見に從ふ。又、己を屈して人に從ふこと。〔元史、李孟傳〕帝愕然曰、李道復乃肯俯二就集賢一耶。❹身を屈して卑職につく。〔吳志、虞翻傳、注〕徵士餘姚嚴遵、王莽數聘、抗節不レ行、光武中興、然後俯就。❺あやまる。〔紅樓夢、五回〕前去俯就。

【俯拾】26 フシフ 下を向いて拾ふ。拾ひ上げる。〔宋書、傅隆傳贊〕漢世登レ士、閭黨爲レ先、崇レ本務レ學、不レ尙二浮詭一、然後可下以俯二拾靑組一、顧中蔑嬴金上。〔周書、文帝紀上〕歡違二負天地一、毒被二人鬼一、乘レ此掃蕩、易同二俯拾一。

【俯首】27 フシユ 頭を垂れる。俛首。〔史記、太史公自序〕俯レ首流レ涕。〔新書、過秦上〕百粤之君、俯レ首係レ頸、委二命下吏一。

〔俯首帖耳〕28 フシユテフジ 首を垂れ耳を垂れる。卑しくへつらふ。〔韓愈、應二科目一時與レ人書〕若二俛レ首帖レ耳、搖レ尾而乞レ憐者、非二我之志一也。

【俯准】29 fu² chun³ 御許可。

【俯順】30 フジユン 俯して從ふ。下は云云に從ふ。〔陸雲、喜レ霽賦〕俯順二習坎一、仰熾二重離一。

【俯蹐】31 フセキ 下を向き足をかがめて行く。〔楊若虛、應下知合二孫吳一運レ籌決レ勝科上對策〕俯二蹐玉陛一、咫二尺天休一。

【俯聽】32 フチヤウ ふしてきく。頭を垂れて聞く。謹んで聞く。俯聆。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕觀者俯聽。〔岑參、與二高適薛據一同登二慈恩寺浮圖一詩〕下窺指二高鳥一、俯聽聞二驚風一。

【俯念】33 フネン ❶俯して思ふ。敬んで思ふ。〔韋應物、答二劉西曹一詩〕千齡事雖レ邈、俯念忽已周。❷先方の人が顧念する。先樣が憐れに思ひ同情する。〔例〕俯二念曲體一。

【俯拜】34 フハイ ふしをがむ。ぬかづく。〔姚合、和二端公早朝詩一詩〕仰聞二天語近一、俯拜二珮聲連一。

【俯伏】35 フフク うつむきふす。平身低頭。俛伏。〔六韜、文韜、發啓〕弭レ耳俯伏。〔史記、蘇秦傳〕俯伏侍取レ食。〔漢書、萬石君傳〕稽首俯伏而食。〔新書、階級〕吏民嘗俯伏、以敬二畏之一矣。〔風俗通、愆禮〕俯二伏墳墓一。

【俯擗】36 フヘキ 俯して胸をなでて哭する。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕俯二擗天倫一、踊二絕于地一。〔注〕濟曰、擗、撫レ心哭也。

【俯步】37 フホ うつむいてあゆむ。謹むさま。〔庾闡、遊仙詩〕俯步朝二廣廷一。

【俯臨】38 フリン ふして見下す。〔陸倕、石闕銘〕周二望原隰一、俯二臨烟雨一。〔李中、廬山詩〕靖節門遙對、庾公樓俯臨。

【俯僂】39 フル 身を屈する。俛僂。〔潘尼、贈三陸機出爲二吳王郎中令一詩〕俯僂從レ命、奚恤奚喜。

【俯聆】40 フレイ ふしてきく。俯聽。〔劉基、詩〕仰觀二河漢流一、俯聆二鶗鴂吟一。

【俯窠軒】41 フクワケン 宋、張鎡(**4－9812**··361)の室名。

【俰】723 クワ ワ 〔集韻〕胡臥切 箇

やはらぐ。〔廣雅、釋言〕俰、和也。

【倶】724 ク 〔集韻〕恭于切 ㄐㄩ 虞 chü¹·⁴ 慣グ

小篆

❶**みな。ともに。すべて。**〔說文〕倶、皆也、从レ人具聲。〔孟子、盡心上〕父母倶存。❷**ともにする。つれだつ。ともなふ。**〔莊子、天運〕道可二載而與一レ之倶一也。〔戰國、齊策〕儀與レ之倶。〔注〕倶、偕也。❸**そなはる。**〔集韻〕倶、一曰、具也。❹**同じい。ひとしい。**〔素問、三部九候論〕所謂後者、應レ不レ倶也。〔注〕倶、猶二同也一。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕年往志不レ倶。〔注〕善曰、倶、亦齊同之意也。❺**あまねし。**〔左氏、襄、二一、降福孔偕、疏〕偕、訓爲レ倶、倶、亦偏之意也。❻**姓。**〔萬姓統譜〕倶、潁川。〔晉書、苻丕載記〕丕僭位置二百官一、以二倶石子一爲二衞將軍濮陽公一。

名乘 トモ。ヒロ。モロ。

【倶一】1 グイツ 幾箇かの物が一つの名を共有する。〔墨子、經、下〕說在二倶一惟是一。〔閒詁〕案、倶一爲レ合、惟是爲レ分。

【倶居】2 グキヨ ともに居る。つれだち居る。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕政子出奔、匿二伊豆山一、與二賴朝一倶居焉。

【倶空】3 クグウ 明、契斌(**3－5917**··56)の字。

【倶雜】4 グザフ ともにめぐる。倶帀。〔墨子、備穴〕左右倶雜相如也。〔閒詁〕雜、猶レ帀也。

【倶尸】5 クシ 城の名。倶尸那の略。〔文句記、四下〕熙連河、近二倶尸城一。

〔倶尸那〕6 クシナ 城の名。梵語 kuśi nagara の音譯なる倶尸那揭羅の略。又、拘尸那竭・拘夷那竭・拘尸那・瞿師羅・倶尸・究施なども書き、角城・上茅城・香茅城・草城と譯す。釋迦入滅の處。今のカシアの邊。〔玄應音義、二十一〕拘尸那、舊經中、或作二拘夷那竭一、又作二究施城一、那者、以梵語那迦囉、此云レ城也、譯言二上茅一者、多有二好茅一故也。

〔倶尸羅〕7 クシラ 鳥の名。拘尸羅(**5－11963**··119)に同じ。

【倶是】8 chü¹ shih⁴ 共に。凡て云云である。

【倶收】9 グシウ 總べて受取る。倶收並蓄を見よ。

〔倶收並蓄〕10 トモニヲサメナラビニタクハフ 凡ての物を收めたくはへる。〔韓愈、進學解〕牛溲馬勃、敗鼓之皮、倶收並蓄、待レ用無レ遺者、醫師之良也。

【倶舍】11 クシヤ 佛 梵語 kośa の音譯。❶包み藏める意。佛教の諸義を集め攝する意。〔玄應音義、十七〕倶舍、此譯云レ藏、則庫藏之總名也。❷倶舍宗・倶舍論の略。

〔倶舍宗〕12 クシヤシユウ 佛 日本八宗の一。又、南都六宗の一。天親菩薩(世親)の倶舍論を依用する學派。獨立した宗派ではなく、法相宗に屬して倶舍論の研究を事とした宗。

〔倶舍論〕13 クシヤロン 佛 梵語 Abhidharma-kośa(-śāstra)の音譯なる阿毘達磨倶舍論の略稱。世親著、唐、玄奘譯。三十卷。世親以前に行はれた佛教上の諸問題を批判的に要說したもので、古來我が國では佛教の基礎學とせられてゐる。書中、有漏無漏の諸法を擧說し、最末の一卷に無我を說いてゐる。倶舍宗の依り用ひる論書である。又、陳の眞諦の譯本があり、二十二卷で、倶舍釋論といふ。〔倶舍論、一〕攝二彼勝義一依二彼故一、此立二對法倶舍名一。

【倶唱】14 グシヤウ 共に歌ふ。一緒にとなへる。〔北史、孟業傳〕謹上二微禮一、便與二人吏一倶唱二萬歲一。

導引前入、帝大嘉レ之。

【倶酒】15 グシユ 戰國、晉の靜公の名。

【倶生】16 グセイ ㊀ともに生ずる。〔晏子、問、上〕任レ之以二一種一、責二其倶生一。㊁佛 クシヤウ 倶生起の略。吾が生(身)と倶に起きるといふ義。人の惑の起るのに、分別起と倶生起の二種がある。分別起は邪師・邪教・邪思惟の三つに依つて起るものであり、此の三つを假りないで自然に起るものが倶生起である。前者は惑は強いけれども、却つて斷じ易いので、見道に於て頓に其の惑を斷ずる。後者は弱いが、反つて斷じにくいので、修道に於て漸々に其の惑を斷ずる。〔唯識論、二〕無始時來、虚妄熏習、内因力故、恆與レ身倶、不レ待二邪教及邪分別一、任運而轉、故名二倶生一。

【倶生起】17 クシヤウキ 佛 吾が生と倶に起る義で、人の惑心の、環境に對して自然に起るものをいふ。倶生の㊁を見よ。

【倶生神】18 クシヤウジン 佛 一切の人の出生と倶に生じ、其の左右の肩の上に在つて、行爲の善惡を監視するといふ神。右は女神で惡業を書錄し、左は男神で善業を書きとめる。女神は同生、男神は同名といふ。一說に、阿賴耶識をいひ、身と倶に生ずるからいふ。〔藥師本願經〕諸有情有二倶生神一、隨二其所作一、若罪若福、皆具書レ之、盡持授二與琰魔法王一。

【倶生惑】19 クシヤウワク 佛 倶生起の諸惑、倶生の我執・法執・煩惱障・所知障など。

【倶全】20 グゼン 總べて揃つてゐる。完備してゐる。〔雲笈七籤〕善養レ性者不二但餌レ藥餐レ霞、在二于五常倶全、百行周備一。

【倶存】21 グソン 皆存してゐる。皆そろつてゐる。〔孟子、盡心上〕父母倶存、兄弟無レ故、一樂也。

【倶胝】22 チク ㊀佛 倶致(24)に同じ。㊁唐の僧。婺州金華山に住む。常に倶胝佛母陀羅尼を誦したから倶胝和尚といふ。天龍の一指禪によつて悟りを開いた。一指禪(**1**−**1**··774)を見よ。〔五燈會元〕。

【倶胝呪】23 クチジユ 佛 佛家の呪語。〔段成式、題二約公院一詩〕七倶胝呪、四阿含經。

【倶致】24 チク 佛 ㊀梵語 koṭi の音譯。數の名。千萬、或は億をいふ。倶胝。拘致。〔玄應音義、五〕倶致、或言二倶胝一、此言二千萬一、或言レ億、而甚不レ同、故存レ本耳。㊁毘倶致 bhṛkuṭī の略。蹙頞の意。毘倶致觀音・七倶胝佛母尊をいふことがある。〔不空羂索心呪王經、下〕毘倶致天女、毘倶胝周言二瞋目一。〔七倶胝佛母所說准提陀羅尼經〕愍二念未來薄福惡業衆生一故、卽入二准提三摩地一、說二過去七倶胝佛所說陀羅尼一。

【倶都】25 chü¹ tou¹ 總べて。皆。皆共に。

【倶發】26 グハツ ㊀一緒に出發する。㊁同時に事を起す。又、同時に起る。㊂同一人で種々の犯罪が同時に成立すること。〔明律、刑律、賊盜、白晝搶奪〕雖レ係二初犯一、若節次搶奪、及再犯累犯笞杖以上者、倶發原二搶奪地方一、伽號一箇月、照レ前發遣。㊃すべて支出する。

【倶密】27 クミツ 佛 眞如實相の圓理を理密といひ、印契・禁呪・觀想の三密を事密といひ、此の二者をともに有するものを事理倶密といふ。〔蘇悉地經疏、一〕諸三乘教是爲レ顯、云云、未レ說二事理倶密一故也、云云、世俗勝義、圓融不レ二、是爲二理密一、若二三世如來身語意密一、是爲二事密一、云云、如二華嚴維摩般若法華等諸大乘經一、皆是密教也、云云、彼華嚴等經、雖二倶爲レ密、而未レ盡二如來祕密之旨一、故與二今所レ立眞言教一別也、今所レ立毘盧遮那金剛頂等經、咸皆究二盡如來事理倶密之意一、是故爲レ別也。

【倶攞】28 ラク 佛 梵語 kūla の音譯。骨を納める小塔。墓。〔寄歸傳、二〕或有下收二其設利羅一爲二亡人一作上レ塔、名爲二倶攞一、形如二小塔一、上無二輪蓋一。

【倶藍】29 クラン 南印度の國名。キーロン(Quilon)の一名なるクラム(Kaulam)の音譯。〔元史、馬八兒等國傳〕海外諸蕃國、惟馬八兒與二倶藍一、足二以綱二領諸國一、自二泉州一至二其國一、約十萬里。

【倶利】30 リグ ㊀後魏、置く。河南省汲縣治。㊁東魏、置く。故治は河南省澠池縣の西。〔水經、穀水注〕穀水東逕二秦趙二城南一、云云、世謂二之倶利城一、耆彥曰、昔秦趙之會、各據二一城一、秦王使二趙王鼓レ瑟、藺相如令二秦王擊レ缶處也。

【倶利伽羅】31 クリカラ 佛 龍の名。譯語に二說ある。㊀梵語 kulika の音譯。同一種族の意。卽ち不動明王の化身とせらる。又、倶梨迦羅・古力迦羅・倶哩迦・古力迦・倶哩劍・律迦とも書く。㊁梵語 kālika の音譯。黑色の意。卽ち黑色の龍をいふ。又、加梨加・迦羅迦とも書く。この龍が劍に纏ふ形によつて不動明王の三昧耶形を表はしてゐる。〔倶利迦羅龍王經〕時不動明王智火大劍、變成二倶利迦羅大龍一有二四支一。〔玄應音義、三〕迦梨迦龍、又云二迦羅迦羅一、此譯云二黑龍一也。

【倶利伽羅紋紋】32 クリカラモンモン 博徒などの背部に刺青した倶利伽羅などの圖。轉じて、身體に施したことごとしい刺青。

【倶利伽羅不動明王】33 クリカラフドウミヤウワウ 佛 劍に黑龍の圍繞せる像を本尊としたもの。これは不動明王の三昧耶形であるから、其の本體を標して不動明王と稱す。〔倶利伽羅王經〕。

【倶往】34 グワウ 連れ立つて行く。〔杜甫、故著作郎貶二台州司戶一詩〕昔獻二書畫圖一、新詩亦倶往。

【倶有因】35 クウイン 佛 六因の一。多くのものは互に因となり、果となつて存するのであるが、其の因の方面をかくいふ。譬へば、萬物を構成する地・水・火・風の四大の中、地大を因として他の三大は果として存し、他の三大を因として地大は果として存する如く、同時に因となり果となるから、この道理を倶有因といふ。之に對して、果から見れば、互位果ともいふことが出來る。〔倶舍論、六〕若法更互爲二士用果一、彼法互爲二倶有因一、其相云何、如三四大種更互相望爲二倶有因一。

【倶緣果】36 クエンクワ 果物の名。梵名 mātuluṅga 枸櫞花とも書き、微布羅迦果・子滿果ともいふ。レモンの一種といはれ、木瓜に似て居る。准提觀音が手に持つてゐる。〔不空譯準提陀羅尼〕第五手掌、倶緣果。〔大孔雀明王畫像壇場儀軌〕倶緣果、其狀如二木瓜一、金剛智所レ譯準提陀羅尼經之準提畫像法、作二微布羅迦果一、漢言二子滿果一、此閒無、西國有。

【倶睒彌】37 クセンミ 國の名。Kosambī, Kauśambī の音譯。憍賞彌・拘剡彌とも書く。中印度にあり、周圍六千餘里。土地沃穰、氣序炎熱。都城の中に大精舍があり、高さ六十餘尺、内に優顚王の作つた刻檀の佛像があつた。諸國の君王がここに來て之を他に移さうとしたが出來ず、遂に圖つて供養し倶に眞を得たといふ。城東近くに、世親菩薩が唯識論を著した故塼室があり、又、其の東の菴沒羅林の中に、無着菩薩が顯揚論を著した故基があり、其の東北七百餘里の殑伽河の邊に、護法菩薩が外道を降伏したといふ迦奢富羅城がある。〔大唐西域記、五、鉢邏耶伽國〕行五百餘里至二憍賞彌國一。〔注〕舊曰二拘睒彌國一、訛也。〔慧琳音義、二十六〕拘剡彌、此云二不靜一、亦云二藏有一也。

【倶蘇摩】38 クソマ 梵語 kusuma の音譯。花の意。又、拘蘇摩に作る。〔玄應音義、一〕。

【倶蘇摩補羅】39 クソマフラ 城の名。梵語 kusumapura の音譯。華宮・香華宮城と譯す。王宮に花が多くあるから名づける。二箇所にあり、一は羯若鞠闍國に在つて曲女城の一名。一は摩揭陀國に在つて波吒釐城の一名。〔大唐西域記、八〕拘蘇摩補羅城、唐言二香花宮城一、王宮多レ花、故以名焉。

【倶遜婆】40 クソンバ 花の名。梵語 kusumbha の音譯。紅藍花をいふ。橙紅色複花で、線を染めるに用ひる。〔蘇悉地羯羅供養法、中、別本下〕令二童女搓合一、以二倶遜婆一染(此云紅藍花)、或鬱金染。

【倶絺羅】41 クチラ 佛 羅漢の名。摩訶拘瑟恥羅 mahākau-ṣṭhila の略稱。大膝の意。又、倶祉羅・拘絺羅と書く。〔慧林音義、五十六〕拘瑟祉羅、梵語、羅漢名也、古曰二倶絺羅一、經作レ祉、非也。〔增一阿含、第三〕得二四辯才一、觸レ難答對、所謂摩訶拘絺羅比丘是。

【倶珍那】42 クチンナ 城の名。梵語 Kuṇḍina の音譯。一に倶陳那に作る。釋尊の最初の弟子 Ājñāta-Kauṇḍinya の出身地。又、數論學說に通じた Vindhyavāsin の居所。中印度南部。倶陳 Kuṇḍi は壺・盆の意。〔慧苑音義、下〕倶珍那城、或言二倶陳那耶一、言二倶陳一者是名、此云二大盆一、那、法律也、昔此城未レ立之時、有二一五通仙一、名二倶陳一、而於二此地一置二一大盆一、畜レ水若レ池、恆在二盆側一、修二仙法律一、亦常爲レ人說二護淨經及養

生法一於レ後、學徒皆以二師名及法一爲二其姓氏一、人衆漸廣、卽於二此邊一、建二立城郭一、故此擧國人、今皆姓二倶陳那一、城亦因レ之立レ號耳。

【倶那異】43 グナイ 倶那衞に同じ。〔曾師建、閩中記〕南方花有二北地所レ無者一、闍提茉莉・倶那異、皆出二西域一、盛傳二閩中一。

【倶那衞】44 グナエ 樹の名。夾竹桃。〔酉陽雜俎續集、支植上〕倶那衞、葉如レ竹、三莖一層、莖端分レ條如二貞桐花一、小類二木槲一、出二桂州一。

【倶毘羅】45 クビラ 梵語 kumbhira の音譯。㊀蛟。又、鳩鞞羅・倶尾羅・金毘羅・倶吠羅・宮毘羅とも書く。〔玄應音義、五〕蛟龍、梵云二宮毘羅一、有レ鱗曰二蛟龍一。㊁佛㋑毘沙門天王の別名。〔毘沙門天王經〕若見二毘沙門倶尾羅一財施、獲二得大智慧一。㋺比丘の名。〔本經集經、七十〕長老宮毘羅、隋言二蛟龍一。

【倶吠羅】46 クベイラ 佛天神の名。梵語。kumbhira 又は Kubera の音譯。倶吠濫とも書く。〔大日經、一〕日天・月天・龍尊等、及倶吠濫。

【倶樂部】47 クラブ 英語 club のあて字。一定の規則によつて組織せられた社交團體。又、其の集會娯樂の場所。

【倶倫泊】48 クロンハ 今の呼倫池をいふ。倶輪泊・倶倫沲とも書く。呼倫(**2－3471**··82)を見よ。〔唐書、室韋傳〕最西有二烏素固部一、與二回紇一接、當二倶倫泊之西南一、大室韋瀕二於室建河一、河出二倶倫沲一而東、河南有二蒙瓦部一。

【倶盧舍】49 クルシャ 里程の名。梵語 krośa の音譯。又、拘盧舍・拘婁舍・拘婁奢・句盧舍・拘樓賖に作る。牛叉は鼓の聲の聞き得る最大距離。五百弓、又は五里。〔玄應音義、十八〕拘婁、或作二句盧一、今或云二拘樓賖一、此云二五百弓一、應レ言二倶嚧舍一、謂二大牛鳴音聲聞二五里一。〔倶舍論光記、十二〕一弓有二六尺四寸一、五百弓爲二一倶盧舍一、計五百弓有二三千二百尺一。

【倶盧洲】50 クロシウ 須彌山の四方に在る四大洲の中、北方の大洲の名。〔玄應音義、二十四〕倶盧洲、此云二上勝一、亦云二勝生一。

【倶會一處】51 クヱイツショ 佛佛も衆生も共に淨土に生れ會ふこと。〔阿彌陀經〕衆生聞者、應當二發願一願レ生二彼國一、所以者何、得下與二如レ是諸上善人一倶會中一處上。

【倶蘇洛迦】52 クソラカ 佛梵語 kusūla の音譯。舊稱は祇修羅・瞿修羅・厥修羅・厥修洛迦。比丘尼の着る下裙で、竹筒のやうに縫ひ合せて兩頭がない。其の形に象つて篅衣と譯す。〔寄歸傳、二〕梵云二倶蘇洛迦一、譯爲二篅衣一、以二其兩頭縫合形如二小篅一也、長四肘、寬二肘、上可レ蓋レ臍、下至二踝上一四指。

【倶毘陀羅】53 クビダラ 樹の名。梵語 Kovidāra の音譯。拘鞞陀羅。黑檀の一種。〔嘉祥法華疏、十一〕拘鞞陀羅、此云二大遊戲地地破一也。〔慧琳音義、二十五〕倶毘陀羅樹花、此云二破他一。

【倶縛婆羅門】54 クバクバラモン 佛婆羅門の名。百罪を犯して地獄に墮ちたが、隨求陀羅尼の功德によつて、其の地獄は淨土となり、遂に三十二相、八十種好を具へた佛になつたといふ說話中の人物。倶博婆羅門。救婆倶婆羅門。〔觀經玄義分記、二〕倶縛婆羅門、入二阿鼻獄一、後只由二隨求陀羅尼力一、不レ圖脫レ苦、風僅傳二文字一、而觸二其屍一、猶光照二阿鼻一、速免二劇苦一。〔隨求陀羅尼儀軌〕昔摩竭陀國有二一婆羅門一、名二倶博婆羅門一、云云、是人罪不レ可レ量、算數不レ可レ數、云云、速阿鼻地獄可二送遣一、則獄卒請レ事投入、爾時、地獄忽然爲二蓮花池一、彌二滿八功德水一、云云、朽卒覩波眞言墮二落地上一、其文一字隨レ風、彼倶博繫二骸上一、云云、爾時、倶博幷諸罪人、皆共具二三十二相一、圓二滿八十種好一、一時蓮花臺藏世界成二諸佛菩薩一、上方世界之無垢佛、是倶博也。〔本朝文粹、十三、江匡衡、供二養率都婆一願文〕功能出二於般若一、饒益出二於倶縛一。

【㑺】725 カウ 傚(**1－969**)の俗字。〔正字通〕㑺、俗傚字。

【俳】726 ㊀ハイ バイ 〔集韻〕蒲皆切 佳 ㄆㄞ pʻai² ㊁ハイ バイ 〔集韻〕蒲枚切 灰

小篆 ㊀㊀**たはむれ**。**おどけ**。〔說文〕俳、戲也、从レ人非聲。〔一切經音義、十〕蒼頡曰、俳、戲也。㊁**わざをぎ**。俳優。〔急就篇、三〕倡優俳笑觀倚レ庭。〔注〕俳、謂二優之褻狎者一也。〔荀子、王霸〕俳優侏儒婦女之請謁。〔注〕俳優、倡優。〔史記、李斯傳〕穀抵優俳之觀。〔司馬相如、上林賦〕俳優侏儒。〔注〕善曰、三蒼曰、俳、倡也。㊂**うそぶく**。〔一切經音義、二十二〕三蒼曰、俳、嘯也。㊃**すたれる**。廢(**4－9492**)に通ず。〔素問、脈解篇〕爲二瘖俳一。〔注〕俳、廢也。㊄**姓**。〔池北偶談〕山東新城有二俳姓一。㊁**たちもとほる**。或は徘(**4－10141**)に作る。〔廣雅、釋訓〕徘徊、便旋也。〔集韻〕俳、或从レ彳。〔淮南子、本經訓〕坐俳而歌謠。邦㋑**ざれ歌**。俳諧歌。㋺**俳諧連歌**。又、其の發句。俳句。

参考 元來、徘(**4－10141**)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕俳、音排、俳優雜戲。徘、音裵、徘徊。

【俳友】1 ハイイウ 俳句など作るなかま。

【俳優】2 ハイイウ ㊀たはむれ。おどけ。演戲。〔漢書、霍光傳〕擊鼓歌吹作二俳倡一。〔注〕師古曰、俳優諧戲也。〔五代史、伶官傳〕莊宗既好二俳優一。㊁戲伎を演ずる藝人。巫覡に始まるといふ。わざをぎ。俳倡(20)に同じ。〔荀子、王霸〕俳優侏儒婦女之請謁。〔韓非子、難、三〕俳優侏儒、固人主之所二與燕一也。〔管子、四稱〕進二其俳優一、繁二其鐘鼓一。〔漢書、揚雄傳下〕頗以二俳優淳于髡優孟之徒一。

【俳優體】3 ハイイウタイ 樂府の一體。明の寧王權の定めた樂府五體の一。詼諧の辭が多い。〔太和正音譜〕俳優體、詭喩淫虐、卽淫詞。

【俳歌】4 ハイカ 散樂の名。〔樂府詩集、舞曲歌辭、散樂、俳歌辭〕一曰、侏儒導、自レ古有レ之、蓋倡優戲也、云云、南齊書樂志曰、侏儒導、舞人自歌レ之、古辭俳歌八曲、前一篇二十二句、今侏儒所レ歌、擿二取之一也、古今樂錄曰、梁三朝樂、第十六設二俳技一、云云、隋書樂志曰、魏晉故事有二侏儒導引一、隋文帝以レ非二正典一罷レ之。

【俳諧】5 ハイカイ ㊀おもしろみや、をかしみのある言詞。俳優のせりふの類。〔北史、李文博傳〕好爲二俳諧雜說一、人多愛二狎之一。〔唐書、鄭綮傳〕綮本善レ詩、語多二俳諧一。㊁㋑をかしみのある和歌或は狂體の和歌。ざれうた。俳諧歌。〔古今和歌集〕俳諧。㋺連歌の發句を一首とした歌。五七五の三句十七字から成る。俳句。發句。

【俳諧體】6 ハイカイタイ 詩の一體。俳諧詼謔を主とした體。俳體。〔文體明辯、詼諧詩〕按、詩衞風淇奧篇云、善戲謔兮、不レ爲レ虐兮、此謂二言語之間一耳、後人因レ此演而爲レ詩、故有二俳諧體一。

【俳諧文】7 ハイカイブン 俳諧を主とした遊戲の文。〔避暑錄話〕韓退之作二毛穎傳一、此本二南朝俳諧文驢九錫雞九錫之類一、而小變レ之耳、俳諧文、雖レ出二於戲一、實以譏二切當世封爵之濫一。

【俳諧連歌】8 ハイカイレンガ 滑稽な詞づかひでよむ連歌。

【俳戲】9 ハイギ たはむれる。〔說文〕俳、戲也。

【俳謔】10 ハイギャク ざれごと。戲言。〔少室山房筆叢、四部正訛下〕子瞻生平善二俳謔一。

【俳句】11 ハイク 五七五の十七字から成る國文の詩。もと俳諧連歌の發句の獨立したもの。發句。

【俳畫】12 ハイグワ 俳人によつて畫かれる俳味豐かな日本畫。

【俳佪】13 ハイクワイ さまよふ。たちもとほる。徘徊。〔廣雅、釋訓〕俳佪、便旋也。〔漢書、高后紀〕俳佪往來。〔注〕師古曰、俳佪、猶二傍偟一、不レ進之意也。〔漢書、李陵傳〕俳佪觀レ虜、卽亡レ所レ見。

【俳詼】14 ハイクワイ たはむれ。〔歐陽脩、和二劉原父澄心紙詩一詩〕如下棄二正論一求中俳詼上。

【俳語】15 ハイゴ 對語。對句。〔蘇轍、滕王閣詩〕俳語終倉猝。〔自注〕歐陽文忠嘗云、王勃記レ文似レ俳、而唐人貴レ之如レ此何也。

【俳諢】16 ハイコン おどけ。たはむれごと。〔錢大昕、與二友人一論レ文書〕傳奇之演繹、優伶之俳諢。

【俳士】17 ハイシ 俳人(21)に同じ。

【俳兒】18 ハイジ 倡優の輩。人を笑はせることを業とする者。わざをぎ。俳優。俳倡。〔唐書、郭處

俊傳〕彼俳兒優子、言辭無レ度。

【俳辭】19 ハイジ 漢代、俳優が滑稽な擧動を演じつつ唱つた辭。

【俳倡】20 ハイシヤウ ❶わざをぎ。役者。藝人。俳優。〔漢書、枚乘傳〕詼笑類二俳倡一。〔注〕師古曰、俳、雜戲也、倡、樂人也。❷滑稽な動作。俳優のやる動作。〔漢書、霍光傳〕擊鼓歌吹作二俳倡一。

【俳人】21 ハイジン 俳句などを作る人。俳士。

【俳笑】22 ハイセウ 戲れ笑ふ。俳は戲。〔史記、黥布傳〕人有二聞者一、共俳二笑之一。〔注〕索隱曰、謂下衆共以二俳優輩一笑上レ之。〔學海蠡測〕史記黥布傳、聞者共俳二笑之一、解謂、衆共以二俳優輩一笑レ之、未レ是、此句、班書作三共戲二笑之一、按、俳、卽戲也、史游急就篇云、倡優俳笑。

【俳體】23 ハイタイ 詩文の、遊戲に近いもの。俳優の談話に似たもの。俳諧體(6)を見よ。

【俳談】24 ハイダン ❶滑稽ばなし。❷俳句に關する談話。

【俳壇】25 ハイダン 俳人の仲間。俳人の社會。

【俳賦】26 ハイフ 六朝時代に行はれた賦の一體。專ら文辭の彫琢を主とし、故を去つて新に就き、奇を搜り艷を摘んで、字句の巧を求め、對偶聲律を重んずるもの。陸機の文賦、鮑照の蕪城賦の類は之に屬す。〔文體明辯粹抄、賦〕三國兩晉以及二六朝一、再變而爲レ俳、唐人又再變而爲レ律、宋人又再變而爲レ文、夫俳賦尙レ辭而失二於情一、故讀レ之者無二興起之妙趣一、不レ可二以言一レ則矣。

【俳風】27 ハイフウ 俳諧の風。俳諧の流儀。〔俳諧家譜〕師父の俳風を好まず。

【俳文】28 ハイブン 德川時代に起つた俳優趣味のある洒落な文。〔和漢文操、三、連俳互照序〕儒には莊門の俳文をやはらげ。

【俳味】29 ハイミ 俳句・俳諧の有してゐるやうなおもむき。

【俳名】30 ハイメイ ❶俳句を作る時に用ひる名。俳號。〔麥慰舍隨筆〕俳名に何翁・何叟などと自ら書くものあり。❷俳人としての名聲。〔俳諧水許傳〕桃青の俳名、日日に高かりしかば。

【俴】727

㊀セン 〔集韻〕在演切 銑
㊁ゼン くーㄢˇ ch'ien³
㊂セン 〔集韻〕子淺切 銑

小篆

㊀❶あさい。〔說文〕俴、淺也、从レ人戔聲。〔爾雅、釋言〕俴、淺也。〔詩、秦風、小戎〕俴駟孔羣。〔箋〕俴、淺也。〔集傳〕俴駟、四馬皆以二淺薄之金一爲レ甲。❷はだか。甲をつけないこと。俴者(3)を見よ。㊁あさい。譾(10－36080)に同じ。〔集韻〕譾、淺也、史記、能薄而材譾、或作レ俴。

【俴駟】1 センシ 薄い鐵の鎧などを被て、輕快に武裝した四頭の馬。〔詩、秦風、小戎〕俴駟孔羣。〔集傳〕俴駟、四馬皆以二淺薄之金一爲レ甲、欲三其輕而易二於馬之旋習一也。

【俴收】2 センシウ 兵車の軫。俴は淺。收は軫。乘車では軫の深さが八尺であるが、兵車では四尺四寸だから俴といふ。〔詩、秦風、小戎〕小戎俴收。〔傳〕俴、淺、收、軫也。〔集傳〕凡車之制、廣皆六尺六寸、其平地任載者爲二大車一、則軫深八尺、兵車則軫深四尺四寸、故曰二小戎俴收一也。

【俴者】3 センシヤ 甲を著けない裸體の者。はだかむしや。〔管子、參患〕甲不二堅密一、與二俴者一同レ實。〔注〕俴、謂二無レ甲單衣者一。〔纂詁〕俴・淺同、猶レ裸也。

【⿰亻昏】728

㊀コン 〔集韻〕呼昆切 元
㊁コン 〔集韻〕呼困切 願

㊀くらい。昏(5－13806)に通ず。〔集韻〕⿰亻昏、闇也。〔正字通〕⿰亻昏、昏・惛並通。〔太玄經、玄圖〕闡二諸幽⿰亻昏一。㊁老いて物忘れする。惛(4－10812)に通ず。〔集韻〕⿰亻昏、耄忘也。〔正字通〕⿰亻昏、昏・惛並通。

【㑣】729

ラン 〔集韻〕盧含切 覃

おろかなさま。㑣⿰亻臺。〔集韻〕㑣、㑣⿰亻臺、駑鈍皃。

【俵】730

ヘウ 〔集韻〕彼廟切 嘯 ㄅーㄠˇ piao³

❶ちる。〔玉篇〕俵、散也。❷分ち與へる。〔集韻〕俵、分與也。〔六書故〕俵、分畀也。❸⿰扌表(5－12187)に同じ。〔集韻〕俵、或从レ手。〔邦〕たはら。又、其の數を數へるに用ひる。

【俵散】1 ヘウサン 衆人に分ち與へる。〔福惠全書、錢穀部、解給〕一次俵散。

【俵子】2 ヘウシ ❶葬齋等の施しに衆に與へる引換券。〔幽懷錄〕張居士、一日設二齋百分一、先レ期散二俵子一、至レ日、齎レ此赴レ齋。❷なまこの異稱。其の形が俵に似てゐるからいふ。

【俵分】3 ヘウブン 平均に分配する。山わけにする。〔六部成語、刑部、俵分而散、注解〕盜二劫人財一、按レ數均分、而後散去也。

【俵養】4 ヘウヤウ 手わけして養ふ。〔福惠全書、雜課部、牧地〕有二民間俵養之制一。

【⿰亻易】731

㊀イ 〔集韻〕以豉切 寘
㊁シ ジ 〔集韻〕是義切 寘

小篆

㊀㊁❶かろんずる。あなどる。〔說文〕⿰亻易、輕也、从レ人易聲。〔蒼頡篇〕⿰亻易、慢也。〔廣韻〕⿰亻易、相輕慢也。❷かへる。易(5－13814)に通ず。〔說文〕⿰亻易、一曰、交⿰亻易。〔段注〕周易繫辭曰、交易而退、經傳亦止作レ易。〔集韻〕⿰亻易、說文、輕也、一曰、交易、或省。

【俶】732

㊀シユク 〔集韻〕昌六切 屋 ㄔㄨˋ ch'u⁴
㊁テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 錫 ㄊー t'i⁴

小篆

㊀❶よい。淑(7－17634)に同じ。〔說文〕俶、善也、从レ人叔聲、詩曰、令レ終有レ俶。〔說文通訓定聲〕俶、經傳皆以レ淑爲レ之。❷はじめ。はじめる。〔說文〕俶、一曰、始也。〔爾雅、釋詁〕俶、始也。〔書、胤征〕俶擾二天紀一。〔傳〕俶、始。〔詩、小雅、大田〕俶二載南畝一。〔釋文〕俶、始也。〔儀禮、聘禮〕燕與レ羞、俶獻無二常數一。〔注〕俶、始也、始獻、四時新物。❸あつい。〔詩、大雅、旣醉〕令レ終有レ俶。〔箋〕俶、猶レ厚也。❹おこす。なす。〔爾雅、釋詁〕俶、作也。〔詩、大雅、崧高〕有レ俶二其城一。〔傳〕俶、作也。❺ととのへる。〔正字通〕俶、整也。〔張衡、思玄賦〕簡二元辰一而俶レ裝。〔後漢書注〕俶、整也。❻うごく。〔方言、十二〕俶、動也。❼或は叔(2－3154)に作る。〔集韻〕俶、或作レ叔。㊁すぐれる。卓異。或は倜(1－778)に作る。〔集韻〕俶、俶儻、卓異也、或作レ倜。

名乘 ヨシ。ヒデ。

【俶詭】1 テキキ 奇異。諔詭(10－35655··1)に同じ。〔呂覽、侈樂〕俶詭殊瑰、耳所レ未二嘗聞一、目所レ未二嘗見一。〔蕭統、銅博山香爐賦〕方二夏鼎之瑰異一、類二山經之俶詭一。

【俶玉】2 テキギヨク 淸、陳書(11－41698··352)の字。

【俶獻】3 シユクケン 始めて獻ずるもの。四時の珍らしい新物をいふ。〔儀禮、聘禮〕燕與レ羞、俶獻無二常數一。〔注〕俶、始也、始獻、四時新物。〔儀禮〕禽羞俶獻比。〔注〕俶獻、四時珍美新物也、俶、始也、言二其始可一レ獻也、聘義、謂二之時賜一。

【俶載】4 シユクサイ はじめて事を始める。鄭玄は熾菑と讀み、耜を以て荒地をほり起す意とす。〔詩、小雅、大田〕旣備乃事、以二我覃耜一、俶二載南畝一。〔箋〕俶、讀爲レ熾、載、讀爲二菑栗之菑一、時至、民以二其利耜一熾菑、發二所レ受之地一、趨二農急一也。〔集傳〕取二其利耜一而始二事於南畝一。

【俶裝】5 シユクサウ 身じたくを始める。又、身じたくする。〔張衡、思玄賦〕簡二元辰一而俶レ裝。〔注〕衡曰、俶、始也。〔後漢書注〕俶、整也。〔謝靈運、撰征

賦〕夕飲餞以レ俶レ裝、旦出レ宿而言レ辭。

【俶始】6 シュクシ はじめ。はじめて。

【俶爾】7 シュクジ 動くさま。〔柳宗元、至二小丘西小石潭一記〕俶爾遠逝、往來翕忽。

【俶祚】8 シュクジン 始めてしとねを敷く。〔管子、弟子職〕俶祚則請。〔纂詁〕尹知章云、俶、始也、變二其祚席一、則當レ問二其所一レ趾。

【俶擾】9 シュクゼウ 始めてみだす。〔書、胤征〕俶二擾天紀一。〔傳〕俶、始、擾、亂。

【俶然】10 シュクゼン 謹み敬ふさま。〔釋名、釋親屬〕俶、叔也、見レ嫂、俶然卻退也。

【俶儻】11 テキタウ 才氣が高くすぐれる。倜儻。卓異。字解の三を見よ。〔史記、魯仲連傳〕好二奇偉俶儻之畫策一。〔漢書、司馬遷傳〕俶儻不レ令二已失レ時。〔司馬相如、封禪文〕俶儻窮レ變。〔司馬相如、子虛賦〕俶儻瑰瑋。〔注〕善曰、郭璞曰、俶儻、猶二非常一也。〔後漢書、賈逵傳〕俶儻有二大節一。〔注〕俶儻、卓異也。〔論衡、超奇〕非二俶儻之才一、不レ能レ任也。〔晉書、袁耽傳〕少有二才氣一、俶儻不羈。

【俶寶】12 テキハウ 宋、宋琪(**3**—**7078**‥48)の字。

【俶眞訓】13 シュクシンクン 淮南子の篇名。

【俷】733

ヒ ビ 〔集韻〕父沸切 [未]

❶**やぶれる。やぶる**。❷を見よ。❷**そむく**。〔集韻〕俷、背也。〔史記、三王世家〕毋レ作レ怨、毋レ俷レ德。〔注〕集解曰、徐廣曰、俷、一作レ菲、索隱曰、蘇林云、棐、廢也、本亦作レ俷、俷、敗也、孔文祥云、菲、薄也、漢書作レ棐。

【俸】734

一 ホウ ブ 〔集韻〕房用切 [宋] ㄈㄥˋ fêng4
二 ホウ フ 〔集韻〕補孔切 [董]
三 ホウ フ 〔集韻〕撫勇切 [腫]

一❶**ふち。たまもの。秩祿**。或は奉(**3**—**5894**)に作る。〔集韻〕俸、秩祿也、或作レ奉。〔正字通〕俸、古借レ奉、義通。〔史記、蕭相國世家〕吏皆送二奉錢三一。〔注〕索隱曰、奉、謂三資二俸之一。〔漢書、公孫弘傳〕奉祿甚多。〔後漢書、光武紀〕詔增二百官俸一。❷**姓**。〔姓氏尋源〕奉姓、後加レ人。二三**小さいさま**。こまやかでみえないさま。併俸。〔玉篇〕俸、併俸、小皃。〔集韻〕俸、併俸、小皃、一曰、密不レ見。

【俸季】1 ホウキ 官吏に俸祿を支給する季節。清朝では每年春秋二回に分け、春季俸は陰曆二月一日、秋季俸は八月一日に支給した。〔清會典事例、戶部、俸餉〕其應レ得之俸、仍由二原衙門一按レ季支領。

【俸給】2 ホウキフ 職務に對する給料。俸金。俸貲。〔宋史、趙卨傳〕歲賜以爲二俸給一。

【俸金】3 fêng4 chin1 俸給に同じ。

【俸銀】4 ホウギン 給金。俸給。給料。俸錢(21)に同じ。〔清會典事例、戶部、俸餉〕親王、歲給二俸銀一萬兩一、世子、六千兩。

【俸券】5 ホウケン 俸給證書。〔清波雜志〕嘗聞、富鄭公辭レ疾歸レ第、以二俸券一還レ府、府受レ之、程正叔曰、受レ之固無レ足レ議、還者亦未レ爲レ得、留レ之無レ請可也。

【俸絹】6 ホウケン 俸祿として賜はる絹。〔北史、韓麒麟傳〕麒麟臨終之日、唯有二俸絹數十疋一、其清貧如レ此。

【俸工】7 ホウコウ 手當。給料。〔福惠全書、涖任部、看須知〕本縣官役俸工額支若干。

〔俸工銀兩〕8 ホウコウギンリヤウ 官吏に支給するのを俸といひ、官役に支給するのを工といひ、この二つを合して俸工銀兩といふ。〔六部成語、戶部、俸工銀兩、注解〕官員俸祿、官役工食二項、總曰二俸工銀兩一。

【俸齋】9 ホウサイ 俸給と官宅。〔清會典事例、戶部、俸餉〕各省挑二選擧人一、委二署教職一、如遇レ無二員之缺一、所レ有俸齋、一律全支。

【俸冊】10 ホウサツ 俸給を書いた書面冊子。〔清會典事例、戶部、俸餉〕雖三事在二截俸日期以後一、原冊俸祿、仍行二裁除一、儻俸冊有二不レ依レ限送レ部、及有二事故應レ扣不レ扣、經二吏兵二部查出一、即行二查議一。

【俸貲】11 ホウシ 俸給。〔福惠全書、雜課部、學租〕皆官紳捐二俸貲一所レ購。

【俸次】12 fêng4 tʻzŭ4 在官年限の多少による順次。

【俸日】13 ホウジツ 俸給を出す日。俸給日。俸季(1)・俸冊(10)を見よ。

【俸餉】14 ホウシヤウ 俸祿・俸給をいふ。俸餉銀兩を見よ。

〔俸餉處〕15 ホウシヤウショ 俸給を支拂ふ局課。會計課。〔清會典、戶部、八旗俸餉處〕掌レ覈三八旗之俸餉、與二其賞卹一。

〔俸餉銀兩〕16 ホウシヤウギンリヤウ 報酬として支給する銀。〔清會典事例、戶部、俸餉〕所レ需俸餉銀兩、暫由レ部撥、防二餉內動用一。

【俸恤】17 ホウジュツ 官吏の親に給恤する俸給。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、天監十年)以二本官俸恤一領二里尉之任一。〔注〕魏官既給レ俸、又給二恤親之祿一、故謂二之俸恤一。

【俸深】18 ホウシン 俸給及び年功の最も多い官吏。資格の最も高い者。俸深郎中を見よ。

〔俸深郎中〕19 ホウシンラウチユウ 郎中內で資格の最も高い者。〔嘉慶會典、附例〕餘省以二編修檢討十人、進士出身之俸深郎中一人一、開列請簡。

【俸薪】20 ホウシン 官吏が每年受ける常祿を俸といひ、別に每月炊事料として給はるものを薪水といふ。轉じて、俸給・月俸・給料をいふ。〔清會典事例、戶部、俸餉〕照二所レ保官階一、支二食半俸薪銀一云云、仍不レ准三給二予俸薪一。〔六部成語、戶部、俸薪銀、注解〕官員每年所レ受之祿曰レ俸、此外另有二月給一曰二薪水一。

【俸錢】21 ホウセン 給金。俸銀。奉錢。〔韓愈、進學解〕月費二俸錢一、歲靡二廩粟一。〔韓愈、寄二盧仝一詩〕俸錢供給公私餘、時致二薄少一助二祭祀一。

〔俸錢六萬〕22 ホウセンロクマン 給金が六萬錢。漢の丞相の月俸。〔海錄碎事、臣職、宰相〕漢丞相月俸錢六萬。

【俸糖】23 fêng4 tʻang2 中秋の名月に供へる砂糖漬。

【俸緞】24 ホウタン 俸祿として與へる緞子。〔清會典事例、戶部、俸餉〕按二所レ得俸銀一、給二予米石一、毋レ庸三給二予俸緞一。

【俸秩】25 ホウチツ 職務に對する報酬の米、又は錢。ふち。俸祿。〔晉書、山濤傳〕祿賜俸秩、散二之親故一。

【俸微】26 ホウビ 俸祿の少いこと。〔蒲生褧亭、近世偉人傳、渡邊登傳〕登、俸微、不レ能三奉二養父母一。

【俸米】27 ホウベイ 扶持米。俸廩(30)に同じ。〔六部成語、戶部、俸米、注解〕官員歲祿之米也。

【俸滿】28 ホウマン 清の制度で、五年又は六年の地方官の任期が滿了すること。秩滿。〔皇朝文獻通考、職官考、官制〕雍正元年、嗣後翰林院滿洲侍讀・侍講・諭德・洗馬・國子監司業缺出、將二各部俸滿應レ陞之人一、補二授一員一、翰林院編修檢討、補二授一員一。

【俸餘】29 ホウヨ 俸給の殘り。〔唐書、馮元淑傳〕斥二俸餘一以給二貧窮一。

【俸廩】30 ホウリン 扶持として役人にあてがふ米穀。扶持米。俸米。〔避暑錄話、上〕俸廩非レ不レ足。

【俸廉】31 ホウレン 俸祿と養廉。養廉は、官吏の廉恥心を養ふ目的で、通常の俸給以外に加俸するもの。〔清會典事例、戶部、俸餉〕其俸廉均就レ近、按レ款留支。

【俸祿】32 ホウロク ふち。俸秩。〔後漢書、左雄傳〕有二志操一者、加二其俸祿一。〔吳志、朱桓傳〕俸祿產業、皆與共分。〔孔子家語、子路初見〕俸祿少、饘粥不レ及二親戚一。〔顏氏家訓、涉務〕保二俸祿之資一。〔日知錄、政事、俸祿〕今日貪取之風、所下以膠二固於人心一而不上レ可レ去者、以四俸給之薄、而無三以贍二其家一也。

【俹】735

一 ア 〔集韻〕衣駕切 [禡]
二 ア 〔集韻〕於加切 [麻]

一**よる。かたよる**。〔玉篇〕俹、倚也。二**おごる**。〔集韻〕俹、傲也。

【俺】736

一 エン 〔集韻〕於贍切 [豔] ㄢˇ an3
二 エン 〔廣韻〕於劍切 [陷]
三 エフ 〔集韻〕又業切 [葉]

俺 小篆 ㊀㊁㊂ ❶おほきい。〔說文〕俺、大也、从レ人奄聲。❷われ。おのれ。〔元曲、東坡夢〕小官屢次移レ書諫阻、因レ此王安石與レ俺爲レ讐。❸おろか。俺伒(1)を見よ。

【俺伒】1 エンケン おろか。〔集韻〕伒、俺伒、癡也。

【俺答】2 アルタン 明代の韃靼の酋長。一に阿勒坦に作る。嘉靖中、大いに兵を放つて明の邊境を侵したが、後、屢〻使を遣はして明に通好を求め、隆慶五年には明帝から順義王に封ぜられ、居城を賜はつて歸化城といひ、市を開いて互に交通した。〔明史、三百二十七〕。

【俺拔】3 エンバツ 梨に似た果物。〔庶物異名疏〕俺拔、如二消梨一稍長、香冽、去二其皮一可レ食、出二蘇門答剌國一。

【俺們】4 an³ men おれたち。われわれ。自分等。〔正字通〕今塡詞家、我們俺們讀二平聲一。〔老殘遊記、十三回〕俺們是鄉下沒見過世面的孩子。

【俺巴孩】5 アンバガイ 元の末年の、蒙古の部長。想昆必勒格の子。泰亦赤兀氏の長。合不勒に次いで部長となる。後、金廷に拉致せられ、廢帝亮のため木馬に釘づけにして殺さる。〔成吉思汗實錄、一〕。

【俺女孩兒】6 an² nü³ hai² êrh 女の自稱。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕則怕俺女孩兒折了氣分。

【俻】737 ビ

備(1－967)の俗字。〔正字通〕俻、俗備字。

【⿰亻育】738 キク

鬻(12－45721)の俗字。〔正字通〕⿰亻育、俗鬻字。

【俽】739 キン コン 〔集韻〕許斤切 文

❶よろこぶ。欣(6－16008)に同じ。〔集韻〕欣、笑喜也、或作レ俽。❷州名。隋、置く。漢の陽曲縣の地。今、山西省忻縣の境。〔正字通〕俽、州名、本漢陽曲縣地名、隋置二俽州一、因二欣口一爲レ名、又作レ欣。

【俾】740

㊀ヒ 〔集韻〕補弭切 紙 pi⁴
㊁ヒ 〔集韻〕賓彌切 支
㊂ヒ ビ 〔集韻〕毗至切 寘
㊃ヘイ ハイ 〔集韻〕匹計切 霽 pei¹

小篆 ㊀❶しむ。せしむ。〔爾雅、釋詁〕俾、使也。〔詩、魯頌、閟宮〕俾二爾昌而熾一。〔箋〕俾、使。〔書、大禹謨〕俾二予從レ欲以治一。❷したがふ。〔爾雅、釋詁〕俾、從也。〔字彙〕俾、從也。〔書、武成〕罔レ不二率俾一。❸つかさどる。〔爾雅、釋言〕俾、職也。〔注〕使レ供レ職。〔字彙〕俾、職也。❹ます。裨(10－34338)に通ず。〔說文〕俾、益也、从レ人卑聲。〔段注〕俾、與二埤・鵯・裨一音義皆同、今裨行而埤・鵯・俾皆廢矣。❺しもべ。〔說文〕俾、一曰、俾門侍人。❻比(6－16743)に通ず。〔說文通訓定聲〕俾、段借爲レ比。〔禮、樂記〕克順克俾。〔注〕俾、當レ爲レ比、聲之誤也。❼卑(2－2738)に通ず。〔詩、小雅、菀柳〕俾二予靖レ之。〔釋文〕俾、本作レ卑。㊁縣名。漢の安定郡安俾縣。〔集韻〕俾、安俾、縣名、在二安定郡一。〔地理志韻編今闕〕當レ在二甘肅平涼府境一。㊂ちかい。比(6－16743)に同じ。〔集韻〕比、近也、或作レ俾。㊃にらむ。俾倪。又、城上のひめがき。又、車上の蓋を支へるさを。睥(8－23459)・埤(3－5167)に通ず。俾倪(2)を見よ。〔集韻〕睥、睥睨、視也、或作レ俾。

名乘 マサ。ヤス。

【俾益】1 ヒエキ ます。たすける。裨益(10－34338‥2)に同じ。

【俾倪】2 ヘイゲイ ❶横目でにらむ。しり目に見る。睥睨。睥睨(8－23458‥1)を見よ。〔字彙〕俾、俾倪、衺視貌、通作二睥睨一。〔史記、信陵君傳〕侯生下見二其客朱亥一、俾倪、故久立與二其客一語。〔注〕正義曰、俾倪、不二正視一也。❷ひめがき。姬牆。女牆。埤堄。〔廣雅、釋宮、疏證〕埤堄、字或作二俾倪一。〔左氏、宣、十二〕守レ陴者皆哭、注〕陴、城上俾倪。〔疏〕陴、城上小牆、俾倪者、看視之名、云云、陴堞・俾倪・短牆・短垣・女牆、皆一物也、說文云、堞、城上女垣也、廣雅云、陴倪、女牆也、釋名云、城上垣曰レ陴、於二其孔中一俾二倪非常一、亦言、陴、益也、助二城之高一也、或曰二女牆一、言、其卑小比二之於城一、如三女之於二丈夫一也。〔墨子、備城門〕俾倪廣三尺。❸車の上の蓋を支へるさを。〔急就篇、三〕蓋轑俾倪枙縛棠。〔注〕俾倪、持レ蓋之杠、在二軾中央一、環爲レ之、所三以止二蓋弓之前卻一也。

【俾使】3 pi⁴ shih³ せしむ。使役形の助字。俾の一字、又は使の一字に同じ。

【俾頭】4 ヒトウ しもべ。下僕。〔新方言、釋親屬〕浙東或謂レ僕爲二俾頭一、或曰二俾子一。

【俾得】5 pi⁴ tê² 云云せしむ。

【俾免】6 pi⁴ mien³ 云云を免れしむ。

【俾斯麥】7 ビスマルク Bismarck の音譯。❶ドイツの政治家。ドイツ帝國を完成し、其の第一代の宰相となる。❷島の名。ニユーギニー島東南の諸島。

【俾路芝】8 ベルチ 地名。イラン地方の東南部。一部は印度の一州、又一部はケラツト、ラスベラ等の酋長國から成る。ベルチスタン。又、同地の民族の名。Baluchistan

【俿】741

㊀チ ヂ 〔字彙〕直離切 支
㊁チ ヂ 〔字彙〕池爾切 紙

㊀㊁❶傂(1－931)の譌字。〔正字通〕俿、傂字之譌。❷車輪。〔字彙補〕俿、又車輪也。〔太玄經、止〕車纍二其俿一、馬攖二其蹄一、貞止。〔注〕俿、輪也、云云、輪纍蹄攖、不レ可二乘行一、云云、故止貞也。

【倀】742

㊀チヤウ 〔集韻〕抽良切 陽 ch'ang¹
㊁タウ ヂヤウ 〔集韻〕除庚切 庚
㊂タウ チヤウ 〔集韻〕豬孟切 敬

小篆 ㊀❶くるふ。狂行する。〔說文〕倀、狌也、从レ人長聲。〔廣雅、釋詁四〕倀、狂也。❷道に迷ふさま。〔玉篇〕倀、失レ道皃。❸たふれる。〔說文〕倀、一曰、仆也。❹鬼の名。倀鬼(2)を見よ。〔正字通〕倀、世傳、虎齧レ人死、魂不二敢他適一、輒隸二事虎一、名レ倀、虎行求レ食、倀必與倶、爲レ虎前導、遇二途有二暗機伏穽一、則迂レ道以往、呼レ虎曰二將軍一、死則哭レ之、云云、此說誕不レ足レ信。㊁獨立のさま。〔集韻〕倀、獨立皃。㊂❶道に迷ふ。〔廣韻〕倀、崩倀、失レ道。❷あらい。倀悙(1)を見よ。❸或は誂(10－35583)に作る。〔集韻〕倀、或从レ言。

【倀悙】1 タウカウ あらい。〔集韻〕倀、倀悙、疎率。

【倀鬼】2 チヤウキ 虎に齧まれて死んだ人の靈魂。人が虎に齧まれて死ねば、其の靈魂は虎に附いて惡事をするといふ。〔聽雨記談〕人遇レ虎、衣帶自解、皆倀所レ爲、相傳、虎齧レ人死、魂不二敢他適一、輒隸二事虎一、名曰二倀鬼一。〔事物異名錄、神鬼、虎傷鬼〕山堂肆考、人或罹二虎口一、其神魂被二虎所レ役、往往爲レ之前導、俗謂二之倀鬼一。

【倀倀】3 チヤウチヤウ 手引きの人を失つて途に迷ふさま。行く所を知らないさま。〔禮、仲尼燕居〕治レ國而無レ禮、譬猶二瞽之無レ相與、倀倀乎其何之。

〔釋文〕倀、敕良反、無レ見貌。〔荀子、成相〕人主無レ賢、如ニ瞽無一レ相、何倀倀。〔注〕倀倀、無レ所レ往貌。〔白居易、江上對レ酒詩〕倀倀任レ運行。

【倀倀焉】4 チヤウチヤウエン 倀倀然に同じ。〔蘇軾、策略五〕倀倀焉抱ニ其空器一。

【倀倀乎】5 チヤウチヤウコ 倀倀然に同じ。〔禮、仲尼燕居〕倀倀乎其何之。〔孫希旦集解〕倀倀、狂行不レ知レ所レ如也。

【倀倀然】6 チヤウチヤウゼン 迷つて行く所を知らないさま。ぼんやりして手の下しやうのないさま。倀倀焉。〔荀子、修身〕人無レ法則倀倀然。〔注〕倀倀、無レ所レ適貌也、言レ不レ知レ所ニ措履一。

【倁】743

チ ヂ 〔字彙〕陳知切 支

行く。〔字彙〕倁、行也。

【⿰亻沓】744

タフ ドフ 〔集韻〕達合切 合

事に任へない。傝⿰亻沓。〔集韻〕⿰亻沓、傝⿰亻沓、不レ任レ事也。

【⿰亻胤】745

イン

胤(9-29405)の俗字。〔正字通〕𠊾、俗胤字。

【併】746

小篆

㊀ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕卑正切 敬 ㄅㄧㄥˇˋ ping3·4

㊁ヘイ ビヤウ 〔集韻〕部迥切 迥 ㄅㄧㄣˋ pin4

㊂ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕必郢切 梗

㊀㊁㊂ ❶ならぶ。ならびに。つらなる。竝(8-25752)に同じ。〔說文〕併、竝也、从レ人并聲。〔爾雅、釋言〕舫、舟也、〔注〕併ニ兩船一。〔釋文〕併、字又作レ竝。〔廣雅、釋詁一〕併、列也。〔禮、祭義〕行肩而不レ併。〔注〕謂ニ老幼竝行一、言ニ肩臂不一レ得ニ併行一。❷あつめる。あはせる。あはせて。并(4-9175)に同じ。〔一切經音義、十二〕併、說文、聚也。〔廣韻〕併、併合、和也。〔荀子、王制〕無ニ兼并之心一。〔注〕并、讀爲レ併。〔趙岐、孟子題辭解〕後爲ニ晉所一レ併。❸ひとしくする。〔後漢書、鄭玄傳〕比レ牒併レ名、早爲ニ宰相一。〔注〕併レ名、謂レ齊レ名也。❹きそふ。〔正字通〕併、競也。〔賈誼、治安策〕高皇帝與ニ諸侯一併起。❺すてる。屛(4-7734)に通ず。〔荀子、彊國〕併ニ己之私一、欲ニ必以レ道。〔注〕併、讀曰レ屛。❻のぞく。姘(3-6366)に通ず。〔說文通訓定聲〕併、段借爲レ姘。〔管子、霸形〕併ニ歌舞之樂一。〔注〕併、除也。❼ともに。みな。⿰亻並(1-826)に同じ。〔廣韻〕⿰亻並、倶也、或作レ併。邦しかし。しかしながら。

【併有】1 ヘイイウ あはせたもつ。併呑。并有(4-9175・・2)に同じ。

【併行】2 ヘイカウ ならび行く。

【併合】3 ヘイガフ あはせて一つにする。合併。并合(4-9175・・8)に同じ。

【併合罪】4 ヘイガフザイ 同一の犯人が犯した確定裁判を經ない數罪。〔刑法、第九章〕。

【併氣】5 ヘイキ 氣を合せる。心を一つにする。〔孫子、九地〕謹レ養而勿レ勞、併レ氣積レ力、運レ兵計レ謀、爲レ不レ可レ測。

【併起】6 ヘイキ ならびおこる。競ひ立つ。蜂起。〔賈誼、上疏陳ニ政事一〕高皇帝與ニ諸侯一併起。

【併居】7 ヘイキヨ ならび居る。對立する。竝居(8-25752・・18)に同じ。

【併据】8 ヘイキヨ ❶ならびすわる。併踞に同じ。〔漢書、賈誼傳〕抱ニ哺其子一、與レ公併据、婦姑不ニ相說一、則反脣而相稽。❷ping4 chü4 反對する。對立する。對抗する。反抗する。

【併踞】9 ヘイキヨ ならびすわる。併居。〔新書、時變〕抱ニ哺其子一、與レ公併踞。

【併驅】10 ヘイク ならびかける。併馳。竝驅(8-25752・・21)に同じ。

【併科】11 ping4 k'ê1 徒刑と罰金刑とを併せ科すること。

【併肩】12 ヘイケン かたをならべる。比肩。〔漢書、田儋傳〕吾亨ニ人之兄一、與ニ其弟一併レ肩而事レ主。〔後漢書、馬援傳〕併レ肩側ニ身於怨家之朝一乎。

【併骨】13 ping4 ku3 夫婦同穴に屍を葬る。

【併催】14 ヘイサイ 一時に督促する。〔蘇軾、論ニ積欠一狀〕有司以謂、有レ旨倚閣者、方得レ依ニ十科指揮一、餘皆併催。

【併載】15 ヘイサイ 一處にのせる。併せのせる。竝載(8-25752・・28)に同じ。

【併殺】16 ヘイサツ ならべころす。野球のダブルプレイの譯。

【併宿】17 ping4 su4 續け番。宿直を續ける。

【併稱】18 ヘイシヨウ あはせ稱する。竝稱(8-25752・・38)に同じ。

【併進】19 ヘイシン ならびすすむ。一緒にすすむ。竝進(8-25752・・39)に同じ。

【併選】20 ヘイセン 清代、官吏の任期が滿ちた場合、地方各省に在る同職官を、在京の同職官の班內に併入して、一律に俸を論じ升轉すること。〔清會典、吏部、文選清吏司〕凡選有ニ卽選一、云云、有ニ併選一。〔注〕盛京吉林將軍衙門管檔主事・黑龍江將軍衙門管檔主事・銀庫主事・理刑主事、五年期滿者、併ニ入在京主事官班內一、一體論レ俸升轉。

【併當】21 ヘイタウ 財物を合せ收拾する。拼擋。屛當。〔世說新語、德行〕丞相還レ臺、及レ未レ行、嘗不レ送、至ニ車後一、恆與ニ曹夫人一、併ニ當厢篋一。

【併置】22 ヘイチ 同時にあはせおく。竝置(8-25752・・48)に同じ。

【併馳】23 ヘイチ ならびかける。併驅。竝馳(8-25752・・49)に同じ。

【併呑】24 ヘイドン あはせのむ。悉くあはせる。併有。并呑(4-9175・・24)に同じ。

【併發】25 ヘイハツ ❶一緒におこる。重なり生ずる。❷共に發する。同時に支給する。

【併目】26 ヘイモク 目を見合せる。〔孔叢子、論勢〕秦所ニ以不ニ敢圖レ并ニ趙魏一者、徒以ニ二國併目周旋一者也。

【併用】27 ヘイヨウ はたらきを共にする。又、あはせ用ひる。〔崔瑗、草書勢〕兼レ功併レ用。

【併糧】28 ヘイリヤウ 二人の食をあはせて一人用とする。〔烈士傳〕羊角哀與ニ左伯桃一爲レ友、倶往仕レ楚、至ニ梁山一、逢レ雪糧盡、度レ不ニ兩全一、遂併レ糧與レ哀。

【併力】29 ヘイリヨク 力を合せる。協力。〔孫子、行軍〕足ニ併レ力料レ敵取一レ人而已。

【併論】30 ping4 luen4 同一に論ずる。一樣に見る。

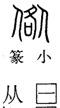
【併案查明】31 ping4 an4 ch'a2 ming2 事件を一括して調査する。

【併頌近安】32 ping4 sung1 chin4 an1 書翰文の常用語。末筆ながら昨今の御機嫌を御伺ひ申上げます。

【倃】747

㊀キウ グ 〔集韻〕巨九切 有

㊁カウ コウ 〔廣韻〕古勞切 豪


小篆

㊀㊁❶そしる。〔說文〕倃、毀也。从レ人咎聲。❷或は⿰言咎(10-35603)に作る。〔集韻〕倃、或从レ言。

【⿰亻西】748

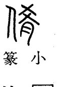
シユク

夙(3-5755)の古字。〔說文〕夙、⿰亻西、古文。〔正字通〕⿰亻西、同レ夙、古文。

【倄】749

㊀カウ ゲウ 〔集韻〕何交切 肴

㊁クワイ グワイ 〔集韻〕戸賄切 賄


小篆

㊀㊁❶もとる。〔說文〕倄、刺也、从レ人肴聲。〔段注〕刺者、戾也。❷そこなふ。毒する。一說に、痛み呼ぶ聲。〔說文〕倄、一曰、毒レ之。〔段注〕鍇曰、謂ニ疾害一、顏氏家訓曰、蒼頡篇有ニ倄字一、訓

詁云、痛而諱也、云云、顔氏家訓之倩、當是侑之誤、不ㇾ必與二說文一牽合、大徐說文、改ㇾ毒ㇾ之爲二痛聲一、恐是竊取二黃門語一。〔集韻〕倩、痛聲。

【倅】750

日サイ スイ 〔集韻〕取内切 隊 ㄘㄨㄟˋ ts'uei⁴
日ソツ ソチ 〔集韻〕臧沒切 月

倅 小篆

日❶そへ。副。〔說文新附〕倅、副也、从ㇾ人卒聲。〔周禮、夏官、戎僕〕戎僕、掌二王倅車之政一。〔注〕倅、副也。〔周禮、夏官、射人〕乘二王之倅車一。〔注〕倅車、戎車之副。〔禮、文王世子、庶子之正二於公族一者、注〕掌二國子之倅一。〔疏〕倅、副也。〔漢書、趙充國傳〕倅馬什二。〔注〕師古曰、倅、副也。❷みちる。〔廣雅、釋詁一〕倅、盈也。㊂萃(9－31251)に通ず。〔集韻〕倅、或作ㇾ萃。〔正字通〕倅、與ㇾ萃通。㊃或は卒(2－2740)に作る。〔集韻〕倅、亦省。〔周禮、夏官、諸子〕掌二國子之倅一。〔注〕故書、倅爲ㇾ卒、鄭司農云、卒、讀如ㇾ物有二副倅一之倅一。〔禮、燕義〕庶子官職二諸侯卿大夫士之庶子之卒一。〔注〕卒、讀爲ㇾ倅。〔疏〕若二旁置一人者、是副倅之倅、若ㇾ不ㇾ置ㇾ人者、則百人爲ㇾ卒之卒。日百人の稱。通じて卒(2－2740)に作る。〔廣韻〕倅、百人爲ㇾ倅。周禮、作ㇾ卒。〔集韻〕倅、兵百人曰ㇾ倅、通作ㇾ卒。㊐せがれ。悴(4－10726)に同じ。❶己の子の謙稱。❷小兒をいやしむ語。㊂陰莖。

【倅貳】1シイ 輔佐の官。佐貳の官。〔宋史、刑法志二〕每歲冬夏、詔二提刑一行ㇾ郡決ㇾ囚、提刑憚行、悉委二倅貳一倅貳不ㇾ行、復委二幕屬一。

【倅車】2シイ そへぐるま。副車。〔周禮、夏官、戎僕〕掌二王倅車之政一。〔注〕倅、副也。

【倅然】3ゼンツ にはかに。〔墨子、魯問〕子墨子見二齊大王一、曰、今有ㇾ刀於此、試二之人頭一、倅然斷之、可ㇾ謂ㇾ利乎。〔注〕卒字、異文作ㇾ倅、讀如二倉猝一。

【倅樽】4ソツ 副樽をいふ。〔韓詩外傳、八〕范昭趨曰、願君之倅樽以爲ㇾ壽。

【倅馬】5ソツ そへうま。副馬。〔漢書、趙充國傳〕發二郡騎及屬國胡騎伉健各千、倅馬什二、就ㇾ草爲二田者遊兵一。〔注〕師古曰、倅、副也。

【倅毛】6ソツ 純色の毛をいふ。粹毛。〔墨子、明鬼下〕必擇二六畜之勝腯肥倅毛一、以爲二犧牲一。〔閒詁〕畢讀二倅毛一爲ㇾ句、云、粹字假音、作ㇾ倅異文也。

【倆】751

日リヤウ 〔字彙〕力仗切 漾
日リヤウ 〔集韻〕里養切 養 ㄌㄧㄤˇ liang³
ㄌㄧㄚˇ lia³

日日❶わざ。たくみ。才能。伎倆。〔集韻〕倆、伎倆、巧也。〔舊唐書、司空圖傳〕伎倆雖ㇾ多、性靈惡。❷二つ。二人。牡と牝。車・靴・夫婦二人など。兩(1－1436)に同じ。〔正字通〕倆、音兩。

【倆月】1 lia³ yüeh⁴ ❶二箇月。❷三箇月。

【倆三】2リヤウサン 二つ三つ。〔後漢書、東夷、倭傳〕國多二女子一、大人皆有二四五妻一、其餘或倆或三。

【倆人】3 lia³ jen² 二人。兩人。

【倆時辰】4 lia³ shih² ch'en² ❶二時間。❷二三時間。

【倆錢兒】5 lia³ ch'ien² êrh 僅かの錢。少しばかりの金。

【倆大錢】6 lia³ ta⁴ ch'ien² 倆錢兒に同じ。

【倆官板兒】7 lia³ kuan¹ pan³ êrh 少しばかりの錢。二三文のはした錢。

【倀】752

日シュ ス 〔集韻〕遵遇切 遇
日サ 〔玉篇〕子何切 歌

【倒】753

ケフ 倒、與ㇾ刼同、見二釋典一。

刼(2－1927)に同じ。〔玉篇〕

【倇】754

エン ヲン 〔集韻〕委遠切 阮

❶たのしむ。よろこぶ。〔方言、十二〕倇、歡也。❷すすめる。〔字彙〕倇、勸也。❸深く思ひに沈むさま。倇孌。婉(3－6396)に通ず。〔陸機、於二承明一作與二士龍一詩〕倇孌居人思。〔注〕善曰、倇、與ㇾ婉同、古字通、良曰、婉孌、深思皃。

【倏】755

ライ 徠(4－10155)に同じ。〔集韻〕徠、或作ㇾ倏。

【倉】756

日サウ 〔集韻〕千剛切 陽 ㄘㄤ ts'ang¹
日シヤウ 〔集韻〕楚亮切 漾

倉 小篆 倉 古文 仓 奇字

❶くら。穀物を入れるくら。方形のくら。轉じて、物を入れおく處。〔說文〕倉、穀藏也、蒼黃取而藏ㇾ之、故曰二之倉一、从二食省一、口象二倉形一。〔釋名、釋宮室〕倉、藏也、藏二穀物一也。〔詩、小雅、甫田〕乃求二千斯倉一。〔國語、越語下〕府倉實。〔注〕米粟曰ㇾ倉。〔戰國、秦策〕困倉虛。〔注〕圓曰ㇾ困、方曰ㇾ倉。❷ひとや。罪人をとらへておく處。〔未信編〕罪有二輕重之分一、則禁有二監倉之別一。❸はらわた。臧(9－30083)・藏(9－32264)・臟(9－30046)に通ず。〔正字通〕倉、藏・臧並與ㇾ倉通、通俗加ㇾ肉作ㇾ臟。〔朱震亨、倒倉法論〕腸胃爲二積穀之室一、故謂之倉。❹にはか。あわてる。倉卒(60)・倉皇(24)・倉黃(26)を見よ。❺蒼(9－3162 7)に通ず。〔說文通訓定聲〕倉、假借爲ㇾ蒼。〔荀子、解蔽〕倉頡。〔韓非子、五蠹〕蒼頡。❻あをい。青色。〔禮、月令〕駕二倉龍一。〔周禮、夏官、廋人、馬八尺以上爲ㇾ龍、注〕鄭司農云、以月令曰、駕二蒼龍一。〔漢書、蕭望之傳〕倉頭盧兒。〔漢書、揚雄傳〕東燭二倉海一。㊀東方の神。歲星。〔太玄經、戾〕倉靈之雌。〔注〕倉者、東方靈神、神爲二歲星一也。❼滄(7－18007)に通ず。〔漢書、揚雄傳上〕東燭二倉海一。〔揚雄、甘泉賦〕東燭二滄海一。❽桑(6－14772)に通ず。〔列子、仲尼〕老聃之弟子、有二亢倉子者一。〔注〕亢倉、音庚桑、名楚、史記作二亢桑子一。〔考〕按二韻鏡一、亢・庚上下往來、倉・桑左右往來、並通音、非二同音一也。❾鳥の名。倉庚(13)を見よ。❿古は合(1－415)・峉(4－7983)に作る。〔說文〕倉、仓、奇字倉。〔玉篇〕峉、古文倉字。⓫姓。〔通志、氏族略、以ㇾ名爲ㇾ氏〕倉氏、黃帝史官倉頡之後、或言、古有二世掌二倉庾一者、以爲ㇾ氏、春秋時、周有二倉葛一、魏有二倉煌太守倉慈一、望出二武陵一。日うしなふ。かなしむ。いたむ。愴(4－11008)に通ず。〔集韻〕倉、喪也。〔詩、大雅、桑柔〕不ㇾ殄二心憂一、倉

❶倉
(會圖オ三)

兄塡兮。〔傳〕倉、喪也。〔集傳〕倉兄、與二愴怳一同、悲閔之意也。

解字 會意象形。食の省形と口の合字。口は倉（方形のくら）のかたち、穀物は人が皆食ふから食に從ふ。故に穀物を入れる方形のくらをいふ。▽（金文）象形。穀物ぐらに象る。

【倉案】1 サウアン 諸々の宴會・祭祀・朝貢・進物等に關する仕事、及び樂人等に衣帶を給することを掌る事項をいふ。〔宋史、職官志二〕宣徽南院使・北院使、云云、其吏史則有二都句押官・句押官各一人一、前行三人、後行十二人、分二掌四案一、一曰兵案、二曰騎案、三曰倉案、四曰冑案。〔注〕掌二春秋及聖節大宴、節度使迎授恩賜、上元張燈、四時祠祭、及契丹朝貢、內廷學士赴レ上、並督二其供帳一、內外進奉視二其名物一、教坊伶人、歲給二衣帶一、專二其奏覆一。

【倉坨】2 サウイ 政府が鹽場附近に建てた倉庫で鹽を蓄へるに用ふ。

【倉員】3 クラカズ 姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【倉英】4 サウエイ 青い色。〔墨子、旗幟〕死士爲二倉英之旗一。〔閒詁〕兪云、倉英之旗、乃青色旗。

【倉盈】5 サウエイ 倉が一杯になる。〔潘岳、楊荊州誄〕倉盈庾億、國富兵強。〔注〕良曰、盈、滿也。

【倉垣】6 サウエン 城の名。河南省開封縣の西北。晉の永嘉三年、將軍王堪等が詔を受けて石勒を討ち、後、退いて守つた處。〔水經、汳水注〕汳水東逕二倉垣城南一、卽浚儀縣之倉垣亭也。〔魏書、器翊傳〕劉裕以爲、廣成將軍陳留太守戍二倉垣一。

【倉荷】7 クラニ 倉に入れて置く荷物。

『倉荷證券』8 クラニシヨウケン 倉庫營業者が寄託物品に對して差出す證券。倉荷證書。倉庫證書。〔商法、第六百二十七條〕。

【倉鳭】9 サウカ 鳥の名。がん。鴈(**12**―**46734**)の異名。〔廣雅、釋鳥〕倉鳭、鴈也。〔疏證〕鴈、與レ鴈同、或作レ雁。

【倉雅】10 サウガ 字書の名。三倉と爾雅。訓詁の書。三倉(**1**―**12**‥596)・爾雅(**7**―**19750**‥8)を見よ。〔魏書、袁式傳〕至二於詁訓倉雅一、偏所二留懷一。

【倉海】11 サウカイ あをうなばら。大海。滄海。〔漢書、揚雄傳上〕東燭二倉海一、西燿二流沙一。

『倉海君』12 サウカイクン 東夷の君長。〔史記、留侯世家〕東見二倉海君一、得二力士一。〔注〕集解曰、如淳曰、秦郡縣無二倉海一、或曰、東夷君長。

【倉庚】13 サウカウ 鳥の名。うぐひす。鶯(**12**―**47169**)の異名。〔爾雅、釋鳥〕倉庚、黧黃也。〔詩、豳風、七月〕春日載陽、有二鳴倉庚一。〔禮、月令〕仲春之月、桃始華、倉庚鳴。〔本草、鸎〕釋名、倉庚。〔陸機、悲哉行〕嘴嘴倉庚吟、幽蘭盈二通谷一。

【倉窌】14 サウカウ 米倉。窌は穴ぐら。〔呂覽、季春〕發二倉窌一賜二貧窮一。〔注〕方者曰レ倉、穿レ地曰レ窌。

【倉敖】15 サウガウ 米穀を儲へる庫。倉厫。〔文獻通考、國用考、漕運〕徽宗大觀三年、尙書省言、六路上二供斛斗一、已令二直達一、而奉行之吏因循、止將二歲貢額斛一、於二眞揚楚泗倉敖一、爲二卸納摺運之地一。〔甕牖閑評〕敖乃地名、秦以二敖地一爲二倉所一、在故爾、今竟謂レ倉爲レ敖、蓋循習之誤。

【倉厫】16 サウガウ 倉敖に同じ。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕毋レ得下容二留倉厫左近一、窺探生上レ奸。

【倉葛】17 サウカツ 周、陽樊の人。襄王は陽樊の溫原欑茅の田を晉に與へんとしたが、陽樊が服しなかつたので、晉の軍が之を圍んだ。時に倉葛は、德以て中國を柔げ、刑以て四夷を威す、宜なり吾の敢て服せざるや、此れ誰か王の親姻に非ざらん、其れ之を俘にせんとするやと叫んで、其の民を出した。淸の阮元校刊の左氏傳は倉を蒼に作るが、石經・宋本・淳本・岳本には並に倉に作る。〔左氏、僖、二十五〕。

【倉螘】18 サウギ 蟲の名。とんぼう。蜻蛉(**10**―**33203**‥10)の異名。〔廣雅、釋蟲〕蜻蛉、蛁蛉、倉螘也。

【倉廏】19 サウキウ 官名。漢、置く。皇后宮の事を掌る。〔漢書、百官公卿表上〕中長秋・私府・永巷・倉廏。〔注〕師古曰、自レ此以上、皆皇后之官。

【倉兄】20 シヤウキヤウ 悲しみあはれむさま。愴怳。〔詩、大雅、桑柔〕倉兄塡兮。〔集傳〕倉兄、與二愴怳一同、悲閔之意也。

【倉囷】21 サウキン 米ぐら。穀ぐら。倉庾。倉は方形。囷は圓形の穀倉。〔韓非子、難二〕因發二倉囷一賜二貧窮一。〔白居易、初除二戶曹一詩〕廩祿二百石、歲可レ盈二倉囷一。

【倉廥】22 サウクワイ くら。米倉とまぐさ倉。廥はまぐさぐら。〔史記、平準書〕虛二郡國倉廥一。〔唐書、盧從愿傳〕發二倉廥一賑二飢民一。

【倉光】23 サウクワウ 水中の獸の稱。〔論衡、是應〕號二其衆一曰二倉光一、倉光者、水中之獸也、善覆二人船一。

【倉皇】24 サウクワウ あわてる。にはか。蒼黃。蒼惶。倉卒。〔蘇軾、傳堯兪濟源草堂詩〕栽種成レ陰十年事、倉皇求レ買百金無。

【倉惶】25 サウクワウ あわてる。倉皇に同じ。〔獨孤綬、運斤賦〕利器見レ投、尙倉二惶於麾下一。〔杜甫、送二鄭十八虔貶二台州司戶一詩〕倉惶已就二長途一往。

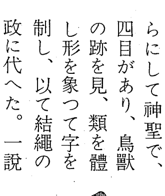
【倉黃】26 サウクワウ いそぐ。あわてる。倉皇(24)に同じ。〔說文〕倉、穀藏也、蒼黃取而臧レ之、故謂二之倉一。〔段注〕蒼、舊作レ倉、今正二蒼黃一者、匆遽之意、刈穫貴レ速也。〔風土記〕大雪被二南越一、犬皆倉黃吠噬。

【倉官】27 サウクワン 倉庫係の官吏。〔明律、戶律、倉庫〕若倉官斗級、不レ令二納レ戶行レ槩、踢レ斛淋尖、多收二斛面一者杖六十。

『倉官誕辰』28 サウクワンタンシン 河北省順天地方で正月二十五日をいふ。塡倉(**3**―**5355**‥33)を見よ。

【倉歇】29 サウケツ 倉係りの宿屋。歇は休息の義。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕此倉歇之爲レ害也。

【倉頡】30 サウケツ ❶上古、黃帝の時の左史。生れながらにして神聖で、四目があり、鳥獸の跡を見、類を體し形を象つて字を制し、以て結繩の政に代へた。一說に、倉は創、頡は結で、初めて文字を制作した人に名づけたものといふ。漢書藝文志は蒼頡に作る。〔荀子、解蔽〕好レ書者衆矣、而倉頡獨傳者壹也。〔許愼、說文序〕黃帝之史倉頡、見二鳥獸蹏迒之迹一、知二分理之可二相別異一也、初造二書契一。❷複姓。〔元和姓纂〕倉頡之後。



❶倉頡
（三才圖會）

『倉頡篇』31 サウケツヘン 古の字書の名。一篇。秦、李斯撰。史籀の大篆を取つて省改し、所謂小篆を以て記す。漢に及んで、閭里の書師が倉頡・爰歷・博學の三篇を合せ、六十字每に一章として凡そ五十五章とし、之を倉頡篇と稱した。是れは李斯の原本と異なる。〔漢書、藝文志〕漢興、閭里書師、合二蒼頡・爰歷・博學三篇一、斷二六十字一以爲二一章一、凡五十五章、幷爲二蒼頡篇一。

〔參考書〕【蒼頡訓詁】一卷 漢、杜林撰。〔玉函山房輯佚書、第七十五冊〕・【蒼頡篇校證】三卷 淸、梁章鉅撰。

【倉庫】32 サウコ 倉は米ぐら。庫は器械ぐら。〔三略、上略〕視二其倉庫一、度二其粮食一。〔史記、萬石君傳〕城郭倉庫空虛。〔漢書、賈捐之傳〕關東大困、倉庫空虛。〔魏志、徐邈傳〕倉庫盈溢。

『倉庫營業』33 サウコエイゲフ 商法上、他人の爲に物品を倉庫に保管するのを業とすることをいふ。

【倉吾】34 サウゴ 地名。蒼梧(**9**―**31627**‥51)に同じ。〔逸周書、王會解〕倉吾翡翠。〔注〕倉吾、亦蠻也。〔集訓校釋〕王曰、禮記注云、蒼梧于二周南越之地一、楚吳起レ南、幷二蠻越一、遂有二蒼梧一。

【倉公】35 サウコウ 漢代の名醫。姓は淳于、名は意。官が太倉長であつたから、倉公といふ。〔史記、一百五〕。

【倉狗】36 サウコウ サウク 青色の狗。〔漢書、五行志中之上〕還過二枳道一見二物如二倉狗一、橶二高后掖一、忽而不レ見。

【倉斛】37 サウコク 官倉の出入に用ひる枡。〔六部成語、戶部、倉斛、注解〕官倉出入所レ用之斛。

【倉黑】38 サウコク あをぐろい。倉は蒼に同じ。〔漢書、天文志〕枉矢狀類二大流星一、蚖行而倉黑、望如レ有二毛目一然。

【倉穀】39 サウコク くらに貯へた穀物。倉米。〔後漢書、翟酺傳〕倉穀腐而不レ可レ食、錢貫朽而不レ可レ校。〔魏志、王昶傳〕廣農墾殖、倉穀盈積。

【倉獄】40 サウゴク 倉庫と獄舍。〔後漢書、郎顗傳〕堅二倉獄一、備二守衞一。

【倉差】41 ts'ang^1 ch'ai^1 米倉のことを司る役。

【倉倉】42 サウサウ ❶音律の響きのさま。〔宋史、律曆志四〕開レ口吐レ聲謂二之商一、其音將將倉倉然。❷ts'ang^1 ts'ang^1 くらまいとり。扶持米取り。

【倉曹】43 サウサウ 官名。倉穀を掌る。後漢の時、太尉に屬し、唐になつて左右衞、王府の官屬、各府尹、各都督府、都護府、各州刺史の下に倉曹參軍事、或は司倉參軍事を置く。〔後漢書、百官志一〕

倉曹、主二倉穀事一。〔宋書、百官志上〕太尉府置二掾屬二十四人一、云云、倉曹主二倉穀事一。〔唐書、李守素傳〕召署二天策府倉曹參軍一、通二氏姓學一、號二肉譜一、許敬宗曰、倉曹此名、豈雅目耶。

【倉子】44 サウシ ts'ang¹ tzŭ 倉庫の番人。

【倉史】45 サウシ 黃帝の史官、倉頡をいふ。〔庾肩吾、書品序〕書名起二于玄洛一、字勢發二于倉史一。

【倉司】46 サウシ 宋代の官名。米價調節の爲の米倉の收支、年度の收穫成績等を察し、政令を明かにするを司る。

【倉慈】47 サウジ 三國、魏の淮南の人。字は孝仁。官は燉煌の太守。卒後、吏民は祠を立てて其の靈を祀つた。〔三國志、十六〕。

【倉收】48 サウシウ 官倉へ現穀で稅を納めた際支給する領收證書。〔六部成語、戶部、倉收、注解〕官倉收二納米石一、發給之憑票也。

【倉箱】49 サウシヤウ 倉と車。豐年で租稅の多いことにいふ語。〔詩、小雅、甫田〕乃求二千斯倉一、乃求二萬斯箱一。〔箋〕成王見二禾穀之稅、委積之多一、於レ是、求二千倉一以處レ之、萬車以載レ之、是言二年豐收入踰レ前也。〔集傳〕箱、車箱也。〔權德輿、賀レ雨表〕蓑笠就レ緒、倉箱可レ期。

【倉城】50 サウジヤウ 倉と城。〔周禮、孝工記、匠人〕囷窌倉城、逆牆六分。〔疏〕地上爲レ之、方曰レ倉、圜曰レ囷、穿レ地曰レ窌。

【倉胥】51 サウシヨ 倉庫の番人。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕衙蠹倉胥、恣レ意侵蝕。

【倉書】52 サウシヨ 倉庫係。くらばん。〔福惠全書、蒞任部、看須知〕倉書收役花戶等册。

【倉舒】53 サウジヨ 三國魏、曹沖(**5**－**14297**・・147)の字。

〖倉舒稱象〗54 サウジヨシヨウザウ 蒙求の標題。三國、魏の曹沖、字は倉舒が、五六歲にして成人の智があり、象を船に載せて其の重さをはかつた故事。〔魏志、鄧哀王沖傳〕鄧哀王沖、字倉舒、少聰察岐嶷、生五六歲、知意所レ及、有レ若二成人之智一、時孫權曾致二巨象一、太祖欲レ知二其斤重一、訪二之羣下一、咸莫二能出一其理一、沖曰、置二象大船之上一、而刻二其水痕所レ至、稱レ物以載レ之、則校可レ知矣、太祖大悅、卽施行焉。

【倉神】55 サウシン 糧食店で祭る神。〔燕京歲時記、塡倉〕每レ至二二十五日一、糧商米販、致レ祭二倉神一。

【倉人】56 サウジン 周官の名。周禮地官の屬。穀倉を掌る。〔周禮、地官、倉人〕掌二粟入之藏一、辨二九穀之物一以待二邦用一。

【倉水】57 サウスイ 河の名。源は河南省淇縣の西南。一名、蒼河。

【倉總】58 サウソウ くらがかり。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕必點二一人一以爲二倉總一。

【倉粟】59 サウゾク くらの中の穀物。〔史記、高祖紀〕倉粟多非レ乏。〔說苑、復恩〕晏子使下人分二倉粟府金一而遺上レ之。〔白居易、南賓郡齋卽事寄二楊萬州一詩〕倉粟餧二家人一、黃絲裹二妻子一。

【倉卒】60 サウソツ にはか。急に。急遽。倉皇。倉猝。〔李陵、答二蘇武一書〕前書倉卒、未レ盡二所懷一。〔漢書、劉歆傳〕遭二巫蠱倉卒之難一。〔論衡、偶會〕聖主龍二興於倉卒一。〔魏志、陳留王奐紀〕倉卒之際莫レ不レ驚。

〖倉卒客〗61 サウソツノカク 案内なしに突然來た客。おしかけ客。倉卒主人を見よ。

〖倉卒主人〗62 サウソツノシユジン 立ちどころに客のもてなしの用意をする主人。〔西京雜記、四〕曹元理明二算術一、陳廣漢爲レ之取二酒鹿脯數片一、云云、元理曰、此資業之廣、何供饋之偏耶、廣漢慙曰、有二倉卒客一、無二倉卒主人一。

【倉猝】63 サウソツ あわただしい。にはか。倉卒。〔玉篇〕猝、倉猝、暴疾也。〔論衡、逢遇〕倉猝之業、須臾之名。〔顏氏家訓、涉務〕坐二死倉猝一者、往往而然。

【倉代】64 クラシロ 倉敷料。

【倉唐】65 サウタウ 工具の名。のこぎり。鋸(**11**－**40505**)の異名。〔事物異名錄、耕織、匠具〕說文、倉唐、鋸也、或作二搶搪一。

【倉單】66 ts'ang¹ tan¹ 倉庫證券。俗に棧單といふ。

【倉池】67 サウチ 池の名。陝西省の長安故城の內。池中に漸臺がある。漢の王莽の死んだ處。〔水經、渭水注〕倉池在二未央宮西一、池中有二漸臺一、漢兵起、王莽死二于此臺一。

【倉場】68 サウヂヤウ 糧米を收納する官の糧米收納所。〔宋史、職官志三〕若內外倉場帳籍、供申愆レ期、則以レ法究治。

〖倉場衙門〗69 サウヂヤウガモン 官署の名。清、置く。倉庫を管理する所。〔清會典、戶部、戶部倉場衙門〕侍郎、滿洲一人、漢一人、掌二京倉通倉之政令一、凡北河之運務掌焉。

〖倉場監督〗70 サウヂヤウカントク 官名。清、置く。倉場を監督する者。侍郎を以て之に任ずる。〔清會典、戶部、倉場衙門〕祿米倉監督、滿洲二人、漢一人。

〖倉場侍郎〗71 サウヂヤウジラウ 倉場衙門にて倉場事務を司る官名。倉場監督に同じ。侍郎が司るからいふ。倉場衙門を見よ。〔清會典、戶部、倉場衙門〕倉場侍郎督同坐。

【倉儲】72 サウチヨ 米倉に貯蓄する糧米。〔宋書、劉懷肅傳〕衞二倉儲一、以候二王師一。〔六部成語、戶部、倉儲、注解〕米倉中所レ儲之粮也。

〖倉儲巴〗73 サウチヨハ 西藏の官名。總理庫務商卓特巴のこと。錢糧・倉庫を管理する職。〔清會典事例、理藩院、設官〕總理庫務商卓特巴二人。

【倉渡】74 クラワタシ 倉庫に寄託した商品を賣買するに當り其の受渡を倉庫に於てすること。

【倉蠹】75 サウト 倉係の惡人。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕串二通管兌經承倉蠹一。

【倉帑】76 サウド 米倉と金倉。倉府。〔後漢書、何敞傳〕賞賜過レ制、倉帑爲レ虛。

【倉頭】77 サウトウ ㊀めしつかひ。はした者。小使など。昔、賤者は青い布を頭にまとつたからいふ。蒼頭。〔漢書、蕭望之傳〕倉頭廬兒。〔漢書、王嘉傳〕賜及二倉頭奴婢一。㊁米ぐらにはたらく者。〔晉書、石崇傳〕水碓三十餘區、倉頭八百餘人。

【倉忙】78 サウバウ あわただしい。〔剪燈餘話、賈雲華還魂記〕生倉忙趨出。〔福惠全書、刑名部、問擬〕黑夜倉忙、卽以二白棉單一裹レ首。

【倉房】79 ts'ang¹ fang² 穀物倉。

【倉迫】80 サウハク 極めていそがしいこと。〔杜楊雜編〕擧止倉迫。

【倉跋】81 サウバツ 後魏、京縣の人。孝子。母を喪ひ、水漿も口に入らず、血數升を吐き、憂に居て毀瘠し、其の孝を州里に稱せられた。〔魏書、八十六〕・〔北史、八十四〕。

【倉府】82 サウフ 米ぐらと錢ぐら。倉帑。〔尉繚子、戰威〕亡國富二倉府一。〔商子、去彊〕國好レ生二金於境內一、則金粟兩死、倉府兩虛、國弱、國好レ生二粟於境內一、則金粟兩生、倉府兩實。〔史記、天官書〕倉府廄庫。

【倉埠】83 サウフ 鎭の名。湖北省黃岡縣の北。

【倉敷】84 クラシキ ㊀他人の倉庫をかりて物品を置く爲に支拂ふ料金。㊁地名。

〖倉敷料〗85 クラシキレウ 倉庫業者が貨物の保管に因つて受ける保管料。

【倉部】86 サウブ ㊀官名。倉廩のことを掌る。魏の時、尙書に倉部郎を置き、歷朝之に因る。唐は倉部郎中・員外郎を置き、戶部の屬司となる。元以後、廢された。〔晉書、職官志〕魏尙書郎有二云云倉部一。〔唐書、百官志一〕倉部郎中・員外郎、各一人。㊁㋑內藏寮の唐名。〔職原抄〕內藏寮、唐名倉部、又云二少府一。㋺主稅寮の唐名。〔職原抄〕主稅寮、唐名倉部、又云二屯田一。

〖倉部丞〗87 サウブジヨウ 內藏允の唐名。〔職原抄〕內藏寮、允、大少、或無二大少一、唐名、倉部丞・少府丞。

〖倉部郎〗88 サウブラウ 內藏頭の唐名。〔職原抄〕內藏寮、頭一人、唐名、倉部郎、又少府監、或尙衣奉御、又藏帑令。

〖倉部主事〗89 サウブシユジ 內藏屬の唐名。〔職原抄〕內藏寮、屬、大少、唐名、倉部主事。

〖倉部員外郎〗90 サウブヰングワイラウ 內藏助の唐名。〔職原抄〕內藏寮、助、唐名、倉部員外郎。

【倉米】91 サウベイ 倉中の米。くらまい。〔晉書、庾翼傳〕倉米一百萬斛。〔宋書、孝武帝紀〕可下出二倉米一付中建康秣陵二縣上。〔南史、明山賓傳〕出二倉米一、以振二百姓一。

【倉扁】92 サウヘン 倉公と扁鵲。共に古代の名醫。轉じて、名醫の稱。〔史記、扁鵲倉公傳〕扁鵲者勃海郡鄭人也、云云、太倉公者、齊太倉長、臨菑人也。〔何夢桂、贈二術士邵易菴一詩〕得レ醫爲二倉扁一。

【倉簿】93 サウボ あがりやちやう。倉庫に入る品物の帖簿。〔福惠全書、刑名部、監禁〕須レ有二倉簿一。

【倉門】94 サウモン ㊀門の名。春秋、鄭の東南の門が石倉城に面してゐたからいふ。〔左氏、襄、十〕焚二書於倉門之外一。〔會箋〕倉門、鄭之東南門、以レ面二石倉城一而得レ名、石倉城在二陳留西南七十里一。

㊀山名。河北省沙河縣の西。大小二山あり。一名、倉口。唐初、劉黑闥を河北に擊つて、此處に倉を置いたから名づけた。

【倉庾】95 ソウユ　米倉。倉困。〔史記、文帝紀〕發二倉庾一以振二貧民一。〔注〕集解曰、應劭曰、水漕倉曰レ庾、胡公曰、在レ邑曰レ倉、在レ野曰レ庾、索隱曰、郭璞注二三蒼一云、庾倉無レ屋也。〔魏志、杜襲傳〕野荒民困、倉庾空虛。

【倉鷹】96 ソウヨウ　たか。〔戰國、魏策〕要離之刺二慶忌一也、倉鷹擊二於殿上一。〔校注〕補曰、倉卽蒼。

【倉琅】97 ソウラウ　青色。綠色。倉は蒼。倉琅根を見よ。

【倉琅根】98 ソウラウコン　門の鋪首と銅鐶のこと。〔漢書、五行志中之上〕成帝時、童謠曰、云云、木門倉琅根、謂二宮門銅鍰一言レ將二尊貴一也。〔注〕師古曰、門之鋪首及銅鍰也、銅色青、故曰二倉琅一、鋪首銜レ環、故謂二之根一。

【倉吏】99 ソウリ　穀倉の役人。くらやくにん。〔史記、貨殖、任氏傳〕宣曲任氏之先、爲二督道倉吏一。

【倉龍】100 ソウリョウ　㊀たけ八尺以上の馬。蒼龍。〔禮、月令〕乘二鸞路一、駕二倉龍一。〔注〕馬八尺以上爲レ龍。㊁木星が東方に位置するをいふ。蒼龍（9—31627‥153）に同じ。〔漢書、王莽傳中〕倉龍癸酉、德在二中宮一。〔注〕服虔曰、倉龍、太歲也、張晏曰、太歲起二於甲寅一爲レ龍、東方倉。

【倉林】101 ソウリン　黃帝の子。〔國語、晉語四〕唯青陽與二倉林氏一同二于黃帝一、故皆爲二姬姓一。〔注〕二十五宗、唯青陽與二倉林一、德及二黃帝一、同姓爲レ姬也。

【倉廩】102 ソウリン　㊀穀物を藏するくら。〔禮、月令〕命二有司一發二倉廩一、賜二貧窮一、振二乏絕一。〔孟子、梁惠王下〕君之倉廩實、府庫充。〔史記、五帝紀〕築二倉廩一。〔荀子、王制〕實二倉廩一便二備用一。〔墨子、節葬下〕辟二草木實一、倉廩。㊁脾、胃。〔素問、脉要精微論〕倉廩不レ藏。〔注〕倉廩、謂二脾胃一。

【倉廩實而囹圄空】103 ソウリンミチテレイゴムナシ　人民の生計が豐かになれば、自然に罪を犯す者がなくなるから、從つて獄舍は空になる。〔管子、五輔〕倉廩實則知二禮節一、衣食足則知二榮辱一。〔史記、管晏傳〕故其稱曰、倉廩實而知二禮節一、衣食足而知二榮辱一。〔史記、貨殖傳〕故曰、倉廩實而知二禮節一、衣食足而知二榮辱一。

【倉靈】105 レイ　木の精。歲星をいふ。〔太玄經、戾〕倉靈之雌、不レ同レ宿而離失、則歲之功乖。〔注〕倉者、東方靈神、神爲二木之精一、歲星也。

【倉腳夫】106 ts'ang¹ chiao³ fu¹　仲仕。倉庫番。

【倉梧丙】107 ソウゴヘイ　人名。妻を兄に讓らうとした人。淮南子氾論訓には倉吾繞に作る。〔中論、貴言〕昔倉梧丙娶レ妻美、而以與二其兄一、欲二以爲一レ讓也、則不レ如レ無レ讓焉。

【倉鼠皮】108 ts'ang¹ shu³ p'i²　灰色白根毛皮の一種。灰鼠皮。

【倉大使】109 ソウダイシ　官名。明代、布政使の屬官。〔明史、職官志四〕承宣布政使司、倉大使一人、副使一人。

【倉稻魂】110 ウケノミタマ　食物の神。稻の神。

【倉山舊主】111 サウザンキウシュ　清、袁祖志（10—34152‥22）の號。

【倉石侗窩】112 クライトウクワ　越後高田の人。字は子絹。通稱は典太。號は侗窩。高田藩儒。明治九年に歿す。年六十二。著に春秋左氏傳集說・大學集說がある。〔慶長以來諸家著述目錄、漢學家之部〕。

【倉腐寄頓】113 サウフキトン　倉の中に腐敗したものがたくさん積みかさなつてゐること。〔文天祥、正氣歌序〕倉腐寄頓、陳陳逼レ人時、則爲二米氣一。

【倓】757

ソウ　〔字彙〕子弄切　送

苦しむさま。〔字彙〕倓、困貌。

【個】758

カ　〔集韻〕居賀切　箇　ㄍㄜˋ　kê⁴

圓コ

㊀かたかた。〔玉篇〕個、偏也。**㊁ひとり。ひとつ。**个（1—70）・箇（8—26116）に同じ。〔集韻〕箇、通作レ個。〔正字通〕個、與二个・箇一並同。〔儀禮、士虞禮〕俎釋二三个一。〔注〕个猶レ枚也、今俗或名レ枚曰レ個、音相近。〔疏〕人旁著レ固、字雖レ不レ同、音聲相近、同是一个之義。**㊂副詞の意味を強める語。**〔韓愈、盆池詩〕老翁眞個似二兒童一。**㊃此の。**指示の語。〔辭海〕個、有レ所レ指之詞、猶二此也一、這也。**㊄**現㊀一寸。少しでも。㊅まるまる。完全。凡そ。大概。

【個我】1 コガ　個人としての自我。

【個個】2 ココ　いづれも。ひとつびとつ。それぞれ。箇箇（8—26116‥1）に同じ。

【個個逐搜】3 kê⁴ kê⁴ chu² sou³　ひとつびとつ順繰りに搜す。

【個山】4 ザン　清、朱倉（6—14424‥446）の號。

【個兒】5 kê⁴ érh　㊀大きめ。嵩。㊁個數。

【個人】6 ジン　一人。社會、又は公衆人に對して一人をいふ。

【個人權】7 コジンケン　廣い意味の人格權。個人の自由活動を保持する權利。

【個人榮】8 kê⁴ jen² ts'ai⁴　韮ニ（12—43237）の異名。

【個人企業】9 コジンキギヤウ　一人で法律又は經濟上の責任を負つて生産に從事すること。

【個人經濟】10 コジンケイザイ　個人の行ふ經濟。國家經濟（3—4798‥40）の對。

【個人財產】11 コジンザイサン　個人が各個に所有する私有財產。

【個人主義】12 コジンシュギ　㊀自分だけの利益を圖つて他を顧みない主義。㊁倫理學上の一派。個人の獨立自由を重んじ、個人を基礎として一切の行動を規定せんとする主義。㊂教育學上の一派。個性の發展を以て教育の目的とするもの。

【個人制度】13 コジンセイド　個人を法律上の權利義務の主體とする制度。

【個人快樂說】14 コジンクワイラクセツ　個人の快樂が道德の價值標準をなすといふ倫理學說。

【個人放任主義】15 コジンハウニンシュギ　個人隨意の行動は經濟上最も有效であるから、國家は出來るだけ個人の行動を自由に放任すべきであるといふ主義。

【個數】16 スウ　かず。物のかず。箇數（8—26116‥6）に同じ。

【個性】17 セイ　個々の人の特殊の性質。又、個體の性質。

【個性觀察】18 コセイクワンサツ　教師が生徒の個性を見て、教育に資すること。

【個性心理學】19 コセイシンリガク　一般心理學に對して、個人の性質、天才、及び種々の特殊方面を研究對象とする心理學。個人心理學。

【個體】20 コタイ　㊀個個獨立した存在を保つ物體。㊁個個別別に生活を營む生物。

【個中】21 kê⁴ chung¹　這間の。この裡。箇中（8—26116‥7）に同じ。

【個條】22 デウ　取り立てていふべきかど。條目。箇條（8—26116‥9）に同じ。

【個換個】23 kê⁴ huan⁴ kê⁴　一個づつ取換へる。

【個兒大】24 kê⁴ érh ta⁴　がらが大きい。

【個半月】25 kê⁴ pan⁴ yüeh⁴　一箇月半。

【個半時辰】26 kê⁴ pan⁴ shih² ch'en²　一時間半。

【個別教育】27 コベツケウイク　教育學上、生徒の各自について教授を施行する教育。

【個碧鐵路】28 コヘキテツロ　鐵道の名。雲南省個舊縣から碧色寨に至る。

【倌】759

小篆

㊀クワン　〔集韻〕古患切　諫　ㄍㄨㄢˋ　kuan⁴

㊁クワン　〔集韻〕古丸切　寒

㊀㊁㊀とねり。小臣。駕を掌る人。倌人（一）を見よ。〔說文〕倌、小臣也、从レ人官聲。詩曰、命二彼倌人一。〔廣韻〕倌、倌人、主二駕官一也。**㊁**官（8—7107）に通ず。〔集韻〕官、或作レ倌。**㊂**現㊀店肆・料理屋のボーイ。㊁妓女。

【倌人】1 クワンジン　㊀車駕を掌る役人。とねり。〔詩、鄘風、定之方中〕靈雨既零、命二彼倌人一。〔傳〕倌人、主レ駕者。㊁kuan¹ jen²　妓女をいふ。蘇

州地方の方言。

【倍】760

㊀ハイ バイ 〔集韻〕簿亥切 ㄅㄟˋ pei⁴ 賄
㊁ハイ バイ 〔集韻〕蒲枚切 灰
㊂ハイ 〔集韻〕補妹切 隊
慣べ

小篆

㊀❶そむく。もとる。離れる。或は偝(1－865)に作る。〔說文〕倍、反也、从レ人音聲。〔段注〕此倍之本義、中庸、爲レ下不レ倍、緇衣、信以結レ之、則民不レ倍、是也、云云、俗人鈲析、乃謂レ此專爲二加倍字一、而本義廢矣。〔正字通〕倍、俗亦作二背・偝一。〔禮、大學〕上恤レ孤而民不レ倍。〔注〕民不レ倍、不二相倍棄一也、倍、或作レ偝。〔孟子、滕文公上〕師死而遂倍レ之。〔荀子、五輔〕長幼無レ等則倍。〔注〕倍、乖戾也。〔淮南子、人閒訓〕倍レ世離レ俗。❷そらよみ。暗誦。〔周禮、春官、大司樂、注〕倍レ文曰レ諷。〔韓愈、韓滂墓誌銘〕讀レ書倍レ文。〔注〕倍レ文、謂二背一本暗記一也。❸多くする。益す。〔左氏、僖、三十〕焉用二亡レ鄭以倍レ鄰。〔注〕倍、益也。❹二ばい。倍まし。〔正字通〕倍、物財人事、加レ等曰レ倍。〔易、說卦〕巽爲二近レ利市三倍一。〔詩、大雅、瞻卬〕如二賈三倍一、君子是識。〔禮、學記〕善學者、師逸而功倍。〔墨子、經上〕倍、爲レ二也。❺ますます。いよいよ。〔王維、九月九日憶二山中兄弟一詩〕每レ逢二佳節一倍思レ親。〔溫庭筠、經二李處士杜城別業一詩〕憶昔幾游集、今來倍歎傷。❻陪(11－41680)に通ず。〔左氏、定、四〕土田倍敦。〔注〕倍、增也。〔釋文〕倍、本作レ陪。❼日のかさ。太陽の周圍の氣。〔呂覽、明理〕有二倍僪一。〔注〕倍、日旁之危氣也、在二兩旁一反出爲レ倍。㊁❶河神の名。又、山名。倍尾(48)を見よ。或は負(10－36661)に作る。〔集韻〕倍、河神名、一曰、倍尾、山名、或作レ負。❷ます。二倍。㊀の❸❹に同じ。〔正字通〕倍、又灰韻、音裴。〔新書、容經〕君子重襲、小人無レ由入、正人十倍、邪僻無レ由レ來。㊂ます。二倍。㊀の❸❹に同じ。〔集韻〕倍、加也。〔莊子、養生主〕是遯レ天倍レ情。〔釋文〕倍、音裴、又布對反、倍加也。

名乘 マス。

【倍阿】1 バイア 神の名。家の東北に當る墻下に居る鬼。〔莊子、達生〕東北方之下者、倍阿鮭蠪躍レ之。〔釋文〕司馬云、倍阿、神名也。〔疏〕人宅中、東北牆下有レ鬼、名二倍阿一。

【倍依】2 バイイ 屛風を後にする。依は扆。〔史記、魯世家〕南面倍レ依、以朝二諸侯一。〔注〕集解曰、禮記曰、周公朝二諸侯于明堂之位一、天子負二斧依一、南向而立、鄭玄曰、周公攝二王位一、以二明堂之禮儀一朝二諸侯一也、不レ於二宗廟一、避レ王也、天子、周公也、負之言、倍也、斧依爲二斧文屛風於戶牖之閒一、周公於レ前立也。

【倍屋】3 マスヤ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【倍加】4 バイカ ❶ばいまし。〔蘇軾、是日至二下馬磧一憩二於北山僧舍一有レ閣曰二懷賢一南直二斜谷一西臨二五丈原諸葛孔明所二從出レ師也詩〕公才與二曹丕一、豈止十倍加。❷ますます云云を加へる。益〻。〔北齊書、神武帝紀上〕將レ出二滏口一、倍二加約束一。

【倍價】5 バイカ 價が倍になること。倍直。〔劉峻、廣絕交論〕顧眄增二其倍價一、翦拂使二其長鳴一。

【倍奸】6 バイカン そむきをかす。〔左氏、昭、二十六〕慢二棄刑法一、倍二奸齊盟一。〔會箋〕王室自有二齊盟一、而背レ之也。

【倍氣】7 バイキ 勇氣を增す。〔後漢書、吳漢傳〕於レ「是軍士激怒、人倍二其氣一。

【倍義】8 バイギ 正道にそむく。〔史記、淮陰侯傳〕吾豈可二以レ鄉レ利倍レ義乎。

【倍給】9 バイキフ 二倍給與する。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕倍二給火錢一。

【倍還】10 バイクワン 倍にして戾す。倍償(22)に同じ。〔福惠全書、刑名部、債負〕律有二遠年倍還之條一。

【倍僪】11 バイケツ 太陽の附近の氣。傍に在るものを倍といひ、上に在るものを僪といふ。倍譎。〔呂覽、明理〕其日有二鬬蝕一、有二倍僪一、有二暈珥一。〔注〕倍僪、暈珥、皆日旁之危氣也、在二兩旁一反出爲レ倍、在レ上反出爲レ僪。

【倍譎】12 バイケツ ❶そむきたがふ。〔莊子、天下〕俱誦二墨經一而倍譎不レ同。〔疏〕譎、異也、俱誦二墨經一而更相倍異、相呼爲二別墨一。❷太陽の附近に現れる氣。倍僪に同じ。〔文子、精誠〕君臣乖心、倍譎見二乎天一。

【倍言】13 バイゲン 言葉にそむく。約束にそむく。〔史記、趙世家〕午許諾、歸而其父兄不レ聽、倍レ言。

【倍草】14 バイサウ 黃倍草。〔漢書、宣元六王、東平思王宇傳〕立レ石東二倍草一、并祠レ之。〔注〕師古曰、倍草、黃倍草也。

【倍差】15 バイシ 一倍半。〔書、呂刑〕剕辟疑赦、其罰倍差。〔傳〕倍差、謂二倍之又半一。〔蔡傳〕倍差、倍而又差。

【倍蓰】16 バイシ 數倍の意。倍は二倍。蓰は五倍。倍蓰。〔孟子、滕文公上〕或相倍蓰、或相什百、或相千萬。〔集注〕倍、一倍也、蓰、五倍也。〔墨子、貴義〕市賈倍蓰。

【倍灑】17 バイシ 倍蓰に同じ。〔史記、周紀〕其罰倍灑。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作レ蓰、五倍曰レ蓰。

【倍時】18 バイジ 時にそむく。〔戰國、齊策〕智者不二倍レ時而棄レ利。〔注〕倍・背同。

【倍貳】19 バイジ そへ。副。〔釋名、釋衣服〕佩、倍也、言下其非二一物一有中倍貳上也。

【倍日】20 バイジツ 二日分を一日にする。倍日幷行を見よ。

〔倍日幷行〕21 バイジツヘイカウ 晝夜兼行の意。〔史記、孫子傳〕倍レ日幷レ行逐レ之。〔資治通鑑、周紀〕〔顯王、二十八年〕倍レ日幷レ行逐レ之。〔注〕倍レ日、一日行二兩日之程一、亦兼レ程也。

【倍償】22 バイシヤウ 倍にして返す。倍して償ふ。倍還。〔墨子、號令〕事已、皆各以二其賈一倍二償之一。〔漢書、烏氏嬴傳〕戎王十二倍其償一。

【倍常】23 バイジヤウ 三丈二尺。常は一丈六尺で、其の二倍をいふ。〔柳宗元、柳州山水記〕倍常而上。

【倍情】24 バイジヤウ 人情にそむく。一說、世俗の情を加へる。〔莊子、養生主〕遯レ天倍レ情、忘二其所レ受。〔釋文〕倍情、音裴、加也、又布對反、本又作レ背。〔疏〕倍、加也、云云、加二添流俗之情一。

【倍受】25 バイジユ 大いに受ける。ますますうける。

【倍書】26 バイシヨ そらよみ。倍文。〔通俗編、文學、倍書〕周禮大司樂注、倍文曰レ諷、疏謂、不レ開讀レ之、按、古字倍與レ背通。

【倍處】27 バイシヨ 倍の罪にあてる。〔福惠全書、保甲部、功罪、賞罰〕逃レ罪者仍拿倍處。

【倍稱】28 バイシヨウ 元金の二倍。非常な高利。又、元金に相當する高い利息。倍息。倍稱息を見よ。

〔倍稱息〕29 バイシヨウソク 元金の二倍の利息。〔漢書、食貨志上〕當二具有一者、半レ賈而賣、亡者收二倍稱之息一。〔注〕如淳曰、取レ一償レ二爲二倍償一、師古曰、稱、擧也、今俗所謂擧錢者也。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕倍稱之息、由レ此而得。

【倍心】30 バイシン はなれそむく心。離反する心。〔韓非子、難三〕或曰、仲尼之對、亡國之言也、恐民有二倍心一、而說二之悅レ近而來レ遠。

【倍數】31 バイスウ 數學用語。甲の數が乙の數で割りきれる時、甲を乙の倍數といふ。

【倍招】32 バイセウ 反對の行爲をして招き寄せること。〔管子、七法〕猶二倍招而必拘レ之。〔注〕物有二倍叛而招レ之者一、必有二以慰二悅之一、令二其感服一、令三反拘二留之一、則彼逾叛矣。

【倍切】33 バイセツ 益〻切なる。

【倍羨】34 バイセン あまり。剩餘。餘衍。〔新書、銅布〕以調二盈虛一、以收二倍羨一、則官必富、而末民困矣。

【倍戰】35 バイセン 力戰すること。〔史記、趙世家〕鼂二食上乘倍戰者一。〔注〕正義曰、倍戰、力攻也。

【倍膳】36 ヲモノ 近江國膳所の古稱。

【倍息】37 バイソク 倍の利息。倍稱(28)を見よ。

【倍貸】38 バイタイ 倍の價で貸す。〔管子、治國〕上徵暴急無レ時、則民倍貸、以給二上之徵一矣。〔注〕倍貸、謂二貸レ一還レ二也。

【倍道】39 バイダウ ㊀倍の道のりを行く。〔孫子、軍爭〕日夜不レ處、倍レ道兼行。㊁道理にそむく。〔孔子家語、辨政〕中行文子倍レ道失レ義、以亡二其國一。

【倍直】40 バイチ 倍價。倍ね。二倍の價。〔唐書、崔衍傳〕舊貢金錫凡十八品、皆倍直市二于州一、民匱多逃去。

【倍摘】41 バイテキ そむき摘出する。〔文心雕龍、正緯〕僞既倍摘、則義異自明。

【倍德】42 バイトク 恩德に背くこと。めぐみにそむく。又、德行に背馳すること。〔史記、項羽紀〕願伯具言三臣之不二敢倍レ德也。

【倍反】43 バイハン 天子にそむく。君國に手向ふ。道理にそむく。背反。倍叛。倍畔。〔荀子、王制〕諸侯倍反、則天王非二其人一也。〔呂覽、知士〕若レ是者倍反。〔注〕倍反、不レ循二道理一也。〔鬼谷子、捭闔〕益損、去就、倍反。

【倍半】44 バイハン 一倍半。〔晉書、蔡謨傳〕方二之於前一、倍半之覺也。

【倍叛】45 バイハン そむく。倍反(43)に同じ。〔荀子、禮論〕姦人之道、而倍叛之心也。〔史記、秦始皇紀〕諸侯倍叛、法令不レ行。

【倍畔】46 バイハン そむく。倍反(43)に同じ。〔墨子、尙賢中〕使レ治二官府一則盜竊、守レ城則倍畔。〔史記、蒙恬傳〕其勢足二以倍畔一。〔史記、吳王濞傳〕諸侯皆有二倍畔之意一。〔新序、善謀上〕羣臣倍二畔於上一。

【倍畔侵陵】47 バイハンシンリョウ 倍畔は、天子にそむくこと。侵陵は、隣國を侵すこと。〔禮、經解〕諸侯之行惡、而倍畔侵陵之敗起矣。〔疏〕倍畔、謂三據倍二天子一也、侵陵、侵二陵鄰國一也。

【倍尾】48 ビイ 山名。山東省泗水縣の東南。〔集韻〕倍、倍尾、山名。〔漢書、地理志序〕至二于倍尾一。〔注〕師古曰、倍尾、在二安陸東北一、云云、倍、讀曰レ陪。

【倍文】49 バイブン そらよみ。書籍の面に倍いて其の文句を誦するからいふ。倍書。背文。背書。〔周禮、春官、大司樂〕以二樂語一教二國子興道諷誦言語一。〔注〕倍文曰レ諷。〔疏〕諷者、謂二不レ開而讀一レ之。

【倍俸】50 バイホウ 俸給を二倍にする。〔唐書、孔戣傳〕乃倍二其俸一、約不レ得二貪暴一。

【倍本】51 バイホン 本にそむく。〔史記、太史公自序〕民倍レ本多レ巧、姦レ軌弄レ法、善人不レ能レ化。

【倍萬】52 バイマン 萬倍。〔白居易、臘日謝二恩賜口蠟一狀〕感躍之誠、倍二萬恆品一。

【倍陽】53 バイヤウ 漢の宮殿の名。陝西省鄠縣。〔漢書、東方朔傳〕投二宿諸宮一、長楊・五柞・倍陽・宣曲、尤幸。〔注〕師古曰、倍陽、卽萯陽也、其音同耳、宮名、在二鄠縣一也。

【倍約】54 バイヤク 約束にそむく。違約。背約。〔史記、酈食其傳〕項王有下倍レ約之名、殺二義帝一之負上。

【倍利】55 バイリ 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕倍利氏、斛律部別帥倍利奔、後魏封二孟都公一。

【倍理】56 バイリ 道理にそむく。背理。〔新書、數寧〕倍レ理而傷レ道。

【倍律】57 バイリツ 十二律の倍律をいふ。仲呂から上は聲抑へて啞で、用ひることが出來ない。ただ蕤賓・林鐘・夷則・南呂・無射・應鐘の六倍律を用ひて樂聲に入れることが出來る。〔律呂精義、二〕倍律通長・倍律外周・倍律內周・倍律外徑・倍律內徑。〔淸會典、樂部〕凡律、有二正律一、有二倍律一、有二半律一、倍律半律迆二高下於正律一而佐レ之、已下則喑、已高則噍、故倍律半律止二於六一。

【倍率】58 バイリツ 顯微鏡に於て像が明視の距離に生ずるとき、其の長さを實物の長さに比べた比の値をいふ。

【倍祿】59 バイロク 祿を倍にする。〔禮、樂記〕庶民弛レ政、庶士倍レ祿。

【倍論】60 バイロン 贓罪を犯すこと數回、其の種類及び贓物の多寡が異なり、罪法が等しくないときは、重贓と輕贓とを併合し、其の總數を二分した數に依つて罪を論ずること。〔唐律、名例〕若罪法不レ等者、卽以二重贓一併二滿輕贓一、各倍論。

【倍級數】61 バイキフスウ 或る一項と次の項との比が常に一定せる級數。等比級數。

【倍羅麼】62 ヘラマ 鳥類の脇の下の毛。ほろば。〔倭名類聚抄、羽族部、鳥體、倍羅麼〕日本私記云、倍羅麼、師說、鳥乃和岐乃之多乃介乎爲二倍羅麼一也、云云、今謂二保呂羽一、訛化。

【倍比定律】63 バイヒテイリツ 化學上の基礎的法則。甲物質と乙物質とが種々の比で化合するとき、甲の一定量と化合する種々の量とは互に簡單な整數比をなすといふ法則。倍數比例定律。

【倍諾斯愛勒】64 ブエノスアイレス 地名。アルゼンチンの首府。Buenos Aires の音譯。

【倎】761

テン 〔集韻〕他典切 銑

あつい。或は⿰土典(3－5165)に作り、通じて腆(9－29602)に作る。〔集韻〕倎、厚也、或从レ土、通作レ腆。

【倏】762

シユク 〔集韻〕式竹切 屋 ㄕㄨˋ shu⁴

小篆 ㊀犬の疾走するさま。〔說文〕倏、犬走疾也、从レ犬攸聲、讀若レ叔。㊁すみやか。たちまち。にはか。極めて短い時間。〔字彙〕倏、忽。〔漢書、敍傳〕辰倏忽其不レ再。〔注〕師古曰、倏忽、疾也。〔後漢書、張衡傳、倏眩眃兮、注〕倏、忽也。〔吳志、薛綜傳〕倏忽之閒。㊂ひかる。ひかり。倏倏(7)を見よ。

【倏焉】1 シユクエン たちまち。短い時間をいふ。〔北魏書、崔挺傳〕別レ卿以來、倏焉二載。

【倏經】2 shu⁴ ching¹ 忽ちにして云云を經過する。

【倏夐】3 シユクケイ にはかに。倏忽に同じ。〔司馬相如、上林賦〕倏夐遠去。〔注〕翰曰、倏夐、謂二倏忽一也。

【倏忽】4 シユクコツ はやく。たちまち。にはかに。すみやか。倏夐。倏爾。轉じて、僅かの時間。極めて短い時間。〔戰國、楚策〕倏忽之閒、墜二於公子之手一。〔班固、東都賦〕指顧倏忽、獲車已實。〔注〕善曰、倏忽、疾也。〔吳志、薛綜傳〕倏忽之閒、人船異レ勢。〔駱賓王、帝京篇〕倏忽摶レ風生二羽翼一。〔張華、遊獵篇〕倏忽似二回飈一、絡繹若二浮烟一。

【倏爾】5 シユクジ たちまち。倏然。〔福惠全書、刑名部、姦情、鞫姦〕房中倏爾喊叫。

【倏爍】6 シユクシヤク 光の定まらないさま。〔摯虞、思遊賦〕俯二游光逸景一、倏爍徽霍兮。〔謝靈運、維摩經贊、電〕倏爍驚電過、可レ見不レ可レ逐。

【倏倏】7 シユクシユク 光る。又、ひかり。儵儵。〔廣雅、釋訓〕倏倏、光也。

【倏瞬】8 シユクシユン 短い時間。一瞬時。〔謝莊、舞馬賦應レ詔〕尋二瓊宮於倏瞬一。

【倏眒】9 シユクシン はやいさま。奔逐のさま。〔司馬相如、子虛賦〕倏眒倩浰。〔注〕善曰、張揖曰、皆疾貌也。〔左思、蜀都賦〕鷹犬倏眒。〔注〕劉曰、倏眒、疾速也。

【倏閃】10 シユクセン たちまちひらめく。〔元稹、秋夕詩〕蕭條簾外雨、倏閃案前燈。〔張鼎、霹靂賦〕輝光之所二倏閃一。

【倏然】11 シユクゼン すばやいさま。すばやく。たちまち。倏爾。

【倏逾】12 shu⁴ yü² たちまちにして云云を越ゆ。

【倐】763

シユク 倏(1－762)の俗字。〔正字通〕倐、俗倏字。

【⿰亻戾】764

レイ ライ 〔集韻〕郎計切 霽

㊀いかる。〔集韻〕⿰亻戾、怒也。㊁もとる。戾(5－11712)に通ず。〔集韻〕⿰亻戾、通作レ戾。〔正字通〕戾、俗作レ⿰亻戾。

【⿰亻毒】765

トク ドク 〔集韻〕徒沃切 沃

うごく。妯(3－6125)に同じ。〔集韻〕妯、動也、或作レ⿰亻毒。

【們】766

㊀ボン モン 〔集韻〕莫困切 願

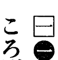
㊁ボン モン 〔康熙字典〕莫奔切 元 ㄇㄣˊ men²

㊁肥滿のさま。們渾。〔方言、二〕渾、盛也。〔注〕們渾、肥滿也。〔錢繹箋疏〕們、卽懣之俗字、們渾猶二懣渾一、亦盛滿之義耳。〔集韻〕們、們渾、肥滿皃。㊂ともがら。儕輩。人稱の複數を表はすのに用ひる接尾詞。〔正字通〕們、今塡詞家、我們・俺們、讀二平聲一。〔通俗編、語辭〕們、朱子語錄、他們都不三去攷二那牘刑一、式古堂書考、載二文丞相遺墨一云、省劄印紙他們收得何用、按、們、本音悶、集韻、們渾、肥滿貌、今俗讀若レ門云、他們・你們・我們、于レ義無レ所レ取、愛日齋叢鈔云、樓大防在二敕局一時、見下元豐中獲レ盜推二賞刑部一例上、皆卽元案不レ改、俗語有レ云、我部領二你懣一、又云、我隨二你懣一去、懣、本音悶、俗音門、猶レ言レ輩也、知三此本無二正音正字一、北宋時、先借二懣字一用レ之、南宋別借爲レ們、而元時則又借爲レ每、元典章詔令中云二他每一甚多、餘如二省官每・官人每・令史每・秀才每・伴當每・軍人每・百姓每一、凡其每字、悉們音之轉也、元雜劇亦皆用レ每。

【倒】767

㊀ タウ トウ 〔集韻〕覩老切 ㄉㄠˇ 晧 tao^3

㊁ タウ トウ 〔集韻〕刀号切 ㄉㄠˋ 號 tao^4



小篆

㊀❶たふれる。たふす。ころぶ。ころばす。〔說文新附〕倒、仆也、从レ人到聲。〔詩、小雅、小弁、伐木掎矣、疏〕是畏二木倒一而掎レ之。〔南史、宜都王鏗傳〕屛風倒壓二其背一。〔唐書、楊嗣復傳〕今日壓二倒元白一矣。❷死ぬ。〔漢書、司馬相如傳上〕應レ聲而倒。〔南史、柳元景傳〕無レ不二應レ刃而倒一。❸殺す。〔呂覽、用氏〕倒而投二之鸂水一。〔注〕倒、殺。㊁❶さかさま。さかさまにする。〔集韻〕倒、顚倒也。〔禮、曲禮下〕倒二筴側三龜於君前一、有レ誅。〔注〕倒、顚倒也。〔禮、喪大記〕祭服不レ倒。❷さからふ。〔呂覽、明理〕知交相倒。〔注〕倒、逆。〔韓非子、難言〕至言忤二於耳一、而倒二於心一。❸現㋑店舖を讓る。㋺續く。㋩換へる。倒車(80)を見よ。㋥却つて。けれども。㋭結局。

【倒陰】1 tao^3 yin^1 うつむけに倒れる。

【倒暈】2 タウウン ❶婦人の眉の畫き方の一。〔粧臺記〕婦人畫眉、有二倒暈粧一。〔蘇軾、常潤道中有レ懷二錢塘一、寄二述古一詩〕剩看新翻眉倒レ暈、未レ應二泣レ別臉消一レ紅。❷牡丹の一種。〔王建、同二于汝錫一賞二白牡丹一詩〕統心黃倒暈、側莖紫重稜。〔洛陽牡丹記〕倒暈檀心者、多葉紅花、凡花近レ蕚色深、至二其末一漸淺、此花自二外深色一、近レ蕚反淺白、而深檀點二其心一、此尤可レ愛。

【倒運】3 tao^3 yün^4 運が惡い。運が惡い方に向ふ。ふしあはせ。失敗する。倒造。「な。不運な。

【倒運倒霉】4 tao^3 yün^4 tao^3 mei^2 不仕合せ。

【倒曳】5 タウエイ さかしまにひく。〔北史、趙仲卿傳〕或解レ衣倒二曳于荆棘中一。

【倒景】6 タウエイ ❶日月が下から照り返すやうな天上至高の所をいふ。〔漢書、郊祀志下〕登二遐倒景一。〔揚雄、甘泉賦〕歷二倒景一而絕二飛梁一兮。〔注〕善曰、張揖曰、陵陽子明經曰、倒影氣去レ地四千里、如淳郊祀志注曰、在二日月之上一、日月返從レ下照、故其景皆倒在レ下、向曰、倒景、上照也。〔張衡、思玄賦〕貫二倒景一而高厲。〔蘇軾、韓文公廟碑〕滅沒倒景不レ可レ望。❷日光が西から照りかへす。夕日。倒影。〔司馬相如、大人賦〕貫二列缺之倒景一。〔元好問、遊二天壇一雜詩十三首〕僊壇倒景鳳麟洲。❸さかさまに映るかげ。さかさかげ。

【倒影】7 タウエイ ❶夕日。下から上へ返照するからいふ。倒景。❷かげをさかさまにする。又、さかさまにうつるかげ。〔溫庭筠、陪三河中節度使遊二河亭一詩〕人過二橋邊一倒影來。〔杜甫、萬丈潭詩〕削成根二虛無一、倒影垂二澹瀩一。〔高駢、山亭夏日詩〕綠樹陰濃夏日長、樓臺倒レ影入二池塘一。

【倒纓】8 tao^4 ying^1 演劇用冠物の一種。頂部は圓く後部に幌があり、赤色の纓を着ける。

【倒架】9 tao^4 chia^4 商店で損失すること。

【倒茄】10 タウカ さかさまにした蓮の莖。茄は蓮莖。〔張衡、西京賦〕蔕二倒茄於藻井一、披二紅葩之狎獵一。〔注〕綜曰、茄、藕莖也、以二其莖一倒殖二於藻井一。

【倒價】11 tao^3 chia^4 店舖の讓渡値段。

【倒牙】12 tao^3 ya^2 俗に齒が浮くといふ意。

【倒薤】13 タウカイ 書體の名。殷の務光が倒薤篆の文字を作つたといふ。〔南史、周顒傳〕何胤以二倒薤書一求、就レ顒換レ之。〔事物紀原、經籍藝文部、文字〕商務光作二倒薤篆一、今日二薤葉一。

【倒好】14 tao^4 hao^3 ❶役者が唄を間違へた場合、皮肉に罵つていふ。❷云云の方が却つて良い。寧ろ其の方がよい。

【倒行】15 タウカウ ❶普通の道理にさからつて事をする。倒行逆施を見よ。❷さか立ちして手であくこと。倒舞伎(191)を見よ。❸ tao^3 hang^2 商店が破産する。

【倒行逆施】16 タウカウギヤクシ さかさまに行ひ、さかさまに爲す。正道に逆つて事を爲しとげる。橫紙を破る。橫車を押す。〔史記、伍子胥傳〕吾日暮途遠、吾故倒行而逆二施之一。〔注〕索隱曰、譬如二人行前途尙遠、而日勢已莫一、其在二顚倒疾行、逆レ理施一レ事、何得レ責二吾順一レ理乎。〔漢書、主父偃傳〕吾日暮、故倒行逆二施之一。

【倒行狗子】17 タウカウコウシ 蟲の名。ありぢごく。砂挼子(8-24046・57)の異名。〔本草、砂挼子〕釋名、倒行狗子、睡蟲、集解、藏器曰、是處有レ之、生二砂石中一作二旋孔一、大如二大豆一、背有レ刺、能倒行、性好レ睡、亦呼爲二睡蟲一。

【倒號】18 tao^3 hao^4 商店が破產すること。

【倒閣】19 タウカク 政府の反對派が內閣を倒すこと。

【倒閘】20 tao^4 ch'a^2 運河に由る航運の際、水門に至るごとに船荷を積み換へること。

【倒陷】21 tao^3 hsien^4 病氣などが內攻する。

【倒氣】22 tao^3 ch'i^4 ❶息が切れる。❷不意に驚いて氣が顚倒する。

【倒窺】23 タウキ さかしまにのぞく。〔林逋、梅花詩〕湖水倒窺疎影遶。

【倒櫃】24 タウキ ひつをかたむける。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕彼爲レ宰者、畏三其勢如二狼虎一、不レ得レ已而拆レ封、倒レ櫃遺レ發起レ程。

【倒許】25 tao^4 hsü^3 云云かも知れない。也許(1-171・9)に同じ。

【倒囷】26 タウキン 倉の米を盡く出す。〔宋史、趙良醇傳〕人人皆倒囷以應レ之。

【倒句】27 タウク 普通の用字法の位置をさかさまにした句。〔兪樾、古書疑義擧例、倒句例〕。

【倒句法】28 タウクハフ 修辭法の一。倒句を使つて文勢を強めること。

【倒戈】29 タウクワ 戈をさかさまにする。味方に背き敵に通ずる。變節する。寢返る。〔書、武成〕前徒倒レ戈、攻二于後一以北。〔蔡傳〕紂之前徒倒レ戈、反攻二其在レ後之衆一以走。〔吳志、孫皓傳、注〕江表傳曰、孫皓載二其母妻子及後宮數千人一、從二牛渚一陸道西上、云云、入二洛陽一、行遇二大雪一、道塗陷壞、兵士被レ甲持レ杖、百人共引二一車一、寒凍殆死、兵人不レ堪、皆曰、若遇レ敵、便當レ倒レ戈耳。

【倒臥】30 タウグワ ❶倒れふす。〔李賀、江南弄〕鱸魚千頭酒百斛、酒中倒臥南山綠。❷ tao^3 wo^4 ゆきだふれ。

【倒回】31 タウクワイ 退却する。〔桃花扇、修禮〕仍倒二回八百里外一。

【倒回谷】32 タウクワイコク 地名。陝西省藍田縣の七盤山。唐の貞元中、刺史李西華が七盤山の險峻をめぐつて新道七百里を開いたので倒回といふ。

【倒掛】33 タウクワイ 小鳥の名。廣西に產し、紅嘴・綠毛、鸚鵡に似てゐる。倒挂。〔蘇軾、十一月二十六日松風亭下梅花盛開詩〕蓬萊宮中花鳥使、綠衣倒挂扶桑暾。

【倒掛龍】34 タウクワイリユウ 地を相する際の用語。〔陸游、廬山東林記〕東林太平興國寺、正對二香爐峯一、分二一支一東行、自レ北而西、環合四抱、有レ如二城郭一、東林在二其中一、相レ地者謂二之倒掛龍格一。

【倒滙】35 tao^4 huei^4 逆爲替。退滙。逆滙。

【倒壞】36 タウクワイ たふれこはれる。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕屋舍盡皆倒壞。

【倒換】37 tao^4 huan^4 交換する。かはるがはる。

【倒還】38 タウクワン 返還する。〔國史補〕李相泌以二虛

誕ニ自任、有レ人、遺ニ美酒一榼、會有レ客至、乃曰、麻姑送ニ酒來、與レ君同傾、傾レ之未レ畢、闔者云、某侍郎取ニ榼子一、泌命倒還、略無ニ怍色一。

【倒關】39 tao³ kuan¹ 商家が破産して閉店する。商店の破産。

【倒灌】40 逆さに流れ込む。〔六部成語、工部、倒灌、注解〕水逆流而上也。

【倒君】41 理にもとつた君。〔管子、君臣下〕君有レ過而不レ改、謂ニ之倒一、臣當レ罪而不レ誅、謂ニ之亂一、君爲ニ倒君一、臣爲ニ亂臣一、國家之衰也。

【倒挈】42 とんぼがへり。〔新書、匈奴〕倒挈面者更進。

【倒缺】43 斃死して數がかけること。〔福惠全書、涖任部、馭衙役〕兩驛馬匹久經ニ倒缺一。

【倒篋】44 ふみばこの底をはたく。〔福惠全書、涖任部、謹操守〕彼則傾レ囊倒レ篋而呑ニ之。

【倒欠】45 tao³ ch'ien⁴ 商家が破産をすること。破産して負債が出來る。

【倒見】46 さかさまに見える。〔西京雜記、三〕有ニ方鏡一、廣四尺、高五尺九寸、表裏皆レ明、人直來照レ之、影則倒見。

【倒巻】47 逆さに捲く。〔蘇軾、起ニ伏龍一行〕赤龍白虎戰ニ明日一、倒巻ニ黃河一作飛雨一。

【倒圈】48 tao³ ch'üan¹ ❶家畜小屋。❷北方の語で、羊が傳染病で群死すること。

【倒縣】49 ❶さかさまにかかる。倒懸の❶に同じ。〔漢書、賈誼傳〕天下之勢方倒縣。❷鳥の名。鵯鳴。倒懸。〔廣雅、釋鳥〕倒縣、鵯鳴也。

【倒懸】50 ❶さかさまにかかる。縛つて逆につるす。非常な苦しみをいふ。〔孟子、公孫丑上〕民之悅レ之、猶ニ解一ニ倒懸一也。〔集注〕倒懸、喩ニ困苦一也。〔孔融、論ニ盛孝章一書〕倒懸而王不レ解。❷鳥の名。さよつきどり。鵯鳴。〔方言、八〕鵯鳴、云云、或謂ニ之倒懸一。

【倒懸之急】51 非常の場合。〔後漢書、臧洪傳〕北鄙將告ニ倒懸之急一。〔魏志、臧洪傳〕北鄙將告ニ倒懸之急一。

【倒懸之苦】52 極點に達した困苦。倒懸の❶を見よ。

【倒言】53 反對のことをいふ。譽めるべき所を毀り、毀るべき所を譽める類。〔韓非子、內儲說上〕七日、倒ニ言反一事。〔翼奉〕倒ニ言、毀レ所レ可レ譽、譽レ所レ可レ毀也。

【倒虎】54 山名。陝西省渭南縣の東南。藍田縣の界に接す。法苑珠林には倒豹谷、元和志には倒獸山に作る。〔十六國春秋〕王嘉隱ニ於東陽谷一、石虎亂、遷ニ於倒虎山一。

【倒語】55 文法上、文勢を強める爲にさかさまに言葉を連ねる綴り方。顚倒法（12－43628‥30）・反訓（2－3127‥60）・倒裝（65）の各條を見よ。

【倒斛】56 悉く斛中の米を出す。〔六部成語、戶部、倒斛、注解〕傾ニ出斛中之米一也。

【倒座】57 tao⁴ tsuo⁴ 正房に向ひ合つた北向きの家。〔紅樓夢、三回〕南邊是倒座。

【倒彩】58 tao⁴ ts'ai³ 喝采すべからざる場合に、反對に喝采を浴せかけること。倒好（14）の❶を見よ。

【倒載】59 さかさにのせる。〔禮、樂記〕倒ニ載干戈一、包ニ之以ニ虎皮一。〔晉書、山簡傳〕日夕倒載歸、酩酊無レ所レ知。〔段成式、和ニ襄陽徐副使一詩〕莫レ辭倒載吟歸去、看ニ欲東山一又吐レ茵。

【倒倉】60 聲樂家が聲音を失ふこと。音聲を出し盡すこと。倒嗓。〔梨園佳話〕梨園之愛ニ護其嗓一、甚ニ於美人之愛一護其色一、童時知識初闢、爲ニ之師一者、防範甚嚴、少有レ不レ愼、一近ニ色慾一、便將ニ倒倉一、倒倉云者、謂ニ聲所一レ蓄而出レ之、猶ニ醫家之倒倉法一也、佳喉善唱、一經ニ倒倉一便啞。

【倒倉法】61 舊式の醫療法の一種。壯黃牛の肉を煮熟して滓を取り去り、空き腹に之を飮むもの。若し病氣が上にあれば吐き、下にあれば瀉り、中にあれば吐き且つ瀉るといふ。倒倉を見よ。〔本草、牛〕發明、朱震亨倒倉論曰、腸胃爲ニ積穀之室一、故謂ニ之倒倉一者、推レ陳以致レ新也。

【倒草】62 tao⁴ ts'ao³ 反芻する。倒嚼（84）に同じ。

【倒嗓】63 聲樂家が聲音を失ふこと。倒倉（60）に同じ。

【倒想】64 道にたがつた考。〔梁武帝、淨業賦〕狂心迷惑、倒想自欺。

【倒裝】65 修辭上、文章が平弱になるのを避ける爲、語句の排列を顚倒して語氣を雄健にする法式をいふ。倒語。其の法に三種ある。❶句讀上、下に在るべきものを上にし、順序上、上に在るべきものを下にしたもの。書經牧誓の遂矣西土之人、論語の鮮矣仁、甚矣吾衰也、久矣吾不ニ復夢一レ見ニ周公一、何乎爾所謂達者、禮記の誰與哭者の類。❷上に在るべき動詞を下に移置したもので、左傳の室於怒、市於色、唐の韓愈の衣食於奔走の類で、於の字を用ひて「ニ」と訓讀するもの。❸殆ど❷と同じく、ただ於の代りに之、又は是を用ひて「ヲ」と訓讀するもので、論語の古者言之不レ出、恥ニ躬之不レ逮也、左傳の非ニ子之求一而蒲之愛、君レ人者將ニ禍是務去一、韓愈の惟怪之欲レ聞、惟兄嫂是依の類。史記には又、之若しくは是を略して倒裝したものあり、項羽紀の天之亡レ我、我何渡爲・如今人方爲ニ刀俎一、我爲ニ魚肉一、何辭爲の類。

【倒裝法】66 修辭學上、文章又は文章中の語の順序を故意に顚倒して文勢を強めるやりかた。倒裝を見よ。

【倒竈】67 家運の傾くこと。〔通俗編、居處、倒竈〕太玄經、竈滅其火一、惟家之禍、按、此卽俗語所本。

【倒像】68 tao³ hsiang⁴ ❶寫眞のレンズに映つた逆像。❷想像外。意料の外に出る。

【倒錯】69 上下顚倒して入りまじる。〔列子、周穆王〕水火寒暑、無レ不ニ倒錯一者焉。〔晉書、劉毅傳〕才德有ニ優劣一、倫輩有ニ首尾一、乃使ニ優劣易レ地、首尾倒錯一。

【倒插】70 tao⁴ ch'a¹ 詩文に先に敍ぶべきことを後に插入して補ふこと。

【倒産】71 ❶逆さ兒。逆產。〔婦人良方、楊子建十產論〕七曰倒產、產母胎氣不レ足、關鍵不レ牢、用レ力太早、致レ令ニ兒子不一レ能ニ迴轉一、便直下先露ニ其足一、當レ令ニ產母仰臥一、令ニ看生之人推一其足一、入不レ可レ令ニ產母用一ニ分毫力一、亦不レ可ニ驚恐一、使ニ兒自順一。❷財產を使ひはたす。破產。

【倒蘸】72 影をさかさまに水面にうつす。蘸はひたす意で、水に影をうつすこと。〔齋藤拙堂、梅溪游記〕兩山之花、倒ニ蘸其上一、隱約可レ見。

【倒刺】73 山名。河北省蔚縣の東。〔魏書、靈徵志〕神嘉三年、白鹿見ニ於代郡倒刺山一。〔元和志〕倒刺山、亦號ニ雪山一、俗傳靈仙レ居、與ニ五臺山一略等。

【倒是】74 tao⁴ shih⁴ 結局。揚句の果て。

【倒屣】75 あわてて履物をさかさまにはいて人を迎へる。心から人を歡迎するにいふ。倒屨。〔魏志、王粲傳〕時邕才學顯著、貴ニ重朝廷一、常車騎填レ巷、賓客盈レ坐、聞ニ粲在一レ門、倒レ屣迎レ之、曰、此王公孫也、有ニ異才一、吾不レ如也。〔舊唐書、劉鄴傳〕父ニ三復、幼善屬レ文、李德裕拜ニ浙西觀察使一、三復以ニ德裕禁密大臣一、以ニ所レ業文一詣ニ郡于一レ謁、德裕閱ニ其文一、倒レ屣迎レ之、乃辟爲ニ從事管記室一。〔書言故事、延接類〕謝ニ人迎接一、云ニ重屨倒屣一。

【倒字】76 ❶字をさかさまにする。さかさ文字。〔陸釐、石室賦〕副黑抱レ珠、白象倒レ字。❷tao³ tzu⁴ 劇調上、唄の字音を誤り讀むこと。

【倒字叶韻】77 古詩の押韻に、成語を倒用して韻を協へたものをいふ。詩經小雅天保の禴祠烝嘗（祠禴嘗烝、卽ち春夏秋冬の祭名の倒用）・斯干の似續ニ妣祖一（祖妣の倒用）・甫田の以我齊明（齊は粢、明齊の倒用）、又は韓退之の詩に參差を差參とし、玲瓏を瓏玲と倒用する類。倒押韻。〔藝苑雌黃〕。

【倒戰】78 さかさまにしてをさめる。〔漢紀、高祖紀二〕倒ニ戰干戈一、示レ不ニ復用一。〔晉書、華譚傳〕倒ニ戰干戈一、苞ニ以ニ獸皮一。「體裁を飾る。

【倒扯】79 tao³ ch'ê¹ 修繕して新しくしたもの。

【倒車】80 tao³ ch'ê¹ ❶車を乘り換へる。❷tao⁴ ch'ê¹ バックする。

【倒舍】81 家を倒す。家屋を倒す。〔國史略、清和天皇〕肥後大風雨、拔レ樹倒レ舍。

【倒床】82 床の上に寢る。床へ這入る。床へ轉げ込んで寢る。〔韓愈、鄭羣贈ニ簟詩一〕倒床甘寢百疾愈、卻願天日恆炎曦。〔蘇軾、初別ニ子由一詩〕明日無ニ晨炊一、倒床作ニ雷鳴一。

【倒牆】83 たふれた垣。〔薛能、題ニ逃戶一詩〕雨水淹ニ殘臼一、葵花壓ニ倒牆一。

【倒嚼】84 tao⁴ chiao⁴ 反芻する。食ひ戻す。
【倒手】85 tao² shou³ ❶手を持ちかへる。❷手數がかかる。❸實際に入りにはいる。
【倒壽】86 古代、西方に居たといふ獸。人面虎足といふ。〔神異經、西荒經〕西荒中有レ獸、如レ虎、豪長二尺、人面虎足、口牙一丈八尺、人或食レ之、獸鬪、終不二退卻一、唯死而已、荒中人張捕レ之、復黠逆知、一名倒壽一。
【倒出】87 tao³ ch'u¹ ch'ü こぼす。あける。
【倒出去】88 tao³ ch'u¹ ch'ü 家屋・店鋪などを賣物として出すこと。
【倒食】90 星命家の語。我を生かすものをいふ。偏印。〔三命通會、論驛馬〕帶二倒食祿鬼一者、一生慳吝。
【倒食蔗】91 漸次おいしいものを食ふ。轉じて、次第に佳味の境に入ること。晉の顧愷之が蔗を食つた故事。〔晉書、文苑、顧愷之傳〕每食二甘蔗一、恆自尾至レ本、人或怪レ之云、漸入二佳境一。
【倒水】92 ❶河の名。一名、西歸水。源は河南省光山縣白沙關。江に注ぐ。〔清會典圖〕。❷tao⁴ shui³ 水をこぼす。水をあける。
【倒垂】93 さかさまにたれる。〔庾信、北園新齋成應二趙王教一詩〕月懸唯返照、蓮開長倒垂。〔柳宗元、陪二永州崔使君一遊二讌南池一序〕連山倒垂、萬象在レ下。
【倒垂蓮】94 鳥の名。形は鷦鷯に似、羽毛は殊に孔雀に類してゐる。〔籌雲樓雜說〕閩中有レ鳥、名二倒垂蓮一、形似二鷦鷯一、其羽毛殊類二孔雀一、因二睡必倒挂一、故名。❷花の名。卷丹（2－2860‥54）に同じ。
【倒笯】95 tao⁴ ch'i² u² 反芻する。又噛みする。
【倒數】96 tao⁴ shu⁴ ❶尻から算へる。逆に數へる。❷一つの分數の分母分子を反對に置き換へた分數、例へば 2/3 の倒數は 3/2 の如し。
【倒井】97 井をさかさまにする。降雨の甚しい喩。〔李白、玉眞公主別館苦雨贈二衞尉張卿一詩〕秋霖劇倒レ井、昏霧橫二絕巘一。
【倒生】98 草木をいふ。草木は、地に首をつけて逆に生ずるからいふ。〔淮南子、原道訓〕倒生逆長。〔注〕草木首レ地而生、故曰二倒生一。
【倒手】85 tao² shou³ ❶手を持ちかへる。❷實際に入りにはいる。
【倒壽】86 古代、西方に居たといふ獸。人面虎足といふ。〔神異經、西荒經〕西荒中有レ獸、如レ虎、豪長二尺、人面虎足、口牙一丈八尺、人或食レ之、獸鬪、終不二退卻一、唯死而已、荒中人張捕レ之、復黠逆知、一名倒壽一。
【倒出】87 tao³ ch'u¹ ch'ü こぼす。あける。
【倒出去】88 tao³ ch'u¹ ch'ü 家屋・店鋪などを賣物として出すこと。
【倒食】90 星命家の語。我を生かすものをいふ。偏印。〔三命通會、論驛馬〕帶二倒食祿鬼一者、一生慳吝。
【倒食蔗】91 漸次おいしいものを食ふ。轉じて、次第に佳味の境に入ること。晉の顧愷之が蔗を食つた故事。〔晉書、文苑、顧愷之傳〕每食二甘蔗一、恆自尾至レ本、人或怪レ之云、漸入二佳境一。
【倒水】92 ❶河の名。一名、西歸水。源は河南省光山縣白沙關。江に注ぐ。〔清會典圖〕。❷tao⁴ shui³ 水をこぼす。水をあける。
【倒垂】93 さかさまにたれる。〔庾信、北園新齋成應二趙王教一詩〕月懸唯返照、蓮開長倒垂。〔柳宗元、陪二永州崔使君一遊二讌南池一序〕連山倒垂、萬象在レ下。
【倒垂蓮】94 鳥の名。形は鷦鷯に似、羽毛は殊に孔雀に類してゐる。〔籌雲樓雜說〕閩中有レ鳥、名二倒垂蓮一、形似二鷦鷯一、其羽毛殊類二孔雀一、因二睡必倒挂一、故名。❷花の名。卷丹（2－2860‥54）に同じ。
【倒笯】95 tao⁴ ch'i² u² 反芻する。又噛みする。
【倒數】96 tao⁴ shu⁴ ❶尻から算へる。逆に數へる。❷一つの分數の分母分子を反對に置き換へた分數、例へば 2/3 の倒數は 3/2 の如し。
【倒井】97 井をさかさまにする。降雨の甚しい喩。〔李白、玉眞公主別館苦雨贈二衞尉張卿一詩〕秋霖劇倒レ井、昏霧橫二絕巘一。
【倒生】98 草木をいふ。草木は、地に首をつけて逆に生ずるからいふ。〔淮南子、原道訓〕倒生逆長。〔注〕草木首レ地而生、故曰二倒生一。
【倒生根】99 榕樹の根のもり上つてゐるもの。〔桂海虞衡志、草木〕榕易レ生之木、又易二高大一、可レ覆二數畝一者甚多、根出二半身一、附レ幹而下以入レ土、故有二榕木倒生根之語一。
【倒生木】100 樹の名。根が上にある木。東海に產するといふ。〔酉陽雜俎續集、支植下〕倒生木、此木依レ山生、根在レ上、有二人觸一則葉翕、人去則葉舒、出二東海一。
【倒照】101 さかさまにてらす。〔荻生徂徠、峽中紀行〕右手垂レ炬倒照、從レ旁下瞰。
【倒睫】102 さかまつげ。〔證治準繩〕倒睫拳毛、眼睫毛倒入二眼中央一、是也。
【倒屣】103 喜んで人を出迎へること。急いで人を迎へようとして、履物を逆にはいてゆくとからいふ。倒屣。〔皮日休、初夏卽事寄二魯望一詩〕敲門若我訪、倒レ屣欣逢迎。
【倒仙】104 草の名。ゆり。百合（8－22679‥44）の異名。〔事物異名錄、蔬部、百合〕八閩志、強瞿百合也、俗呼二倒仙一、又名二玉手爐一。
【倒綠】105 tao³ hsien⁴ 絲をまく。
【倒溯】106 tao⁴ su⁴ 倒退（110）に同じ。
【倒蹲】107 tao³ tuen¹ 尻餅をつく。
【倒打】108 tao⁴ ta³ 手の甲で打つ。
【倒打一耙】109 tao⁴ ta³ i¹ p'a² さかねぢを食はす。自分の失策を他人になすりつける。
【倒退】110 tao⁴ t'ui⁴ ❶遡る。❷後退する。退く。
【倒替】111 tao³ t'i⁴ 代る代る。互に。
【倒道】112 道理にもとる。悖理。〔莊子、天道〕倒レ道而言、注一道而說者、人之所レ治也。〔疏〕顚二倒道理一、注一逆物情一。
【倒卓】113 さかさまに立つ。〔宋史、蘇紳傳〕紳與レ梁適同在二兩禁一、人以爲二險詖一、故語曰、草頭木脚、陷レ人倒卓。〔侯冊、醉中詩〕爛醉歸來驢失脚、破靴指天冠倒卓。
【倒橐】114 ふくろをさかさまにする。ありたけの財產をさらけ出す。〔陸游、客思詩〕還レ家誰道無二餘俸一、倒レ橐猶堪レ買二釣舟一。
【倒塌】115 倒れる。くづれる。崩壞する。〔還魂記、駭變〕敢是狐兔穿レ空倒塌來。
【倒坍】116 tao³ t'an¹ 壁・塀・家屋などが倒れる。
【倒斷】117 tao³ tuan⁴ 斷絕する。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇、楔子〕因姐姐玉精神、花模樣、無倒斷曉夜思量。
【倒植】118 倒さまに立てる。位置の顚倒をいふ。〔新書、威不信〕是反居レ上、首顧居レ下、是倒植之勢也。〔賈誼、弔二屈原一文〕賢聖逆曳兮、方正倒植。〔後漢書、五行志一〕賢愚倒植。
【倒置】119 さかさまにおく。顚置する。まちがへる。〔莊子、繕性〕喪二己於物一、失二性於俗一者、謂二之倒置之民一。〔史記、留侯世家〕倒二置干戈一、覆以二虎皮一、以下示二天下一不レ復用レ兵。
【倒置勢】120 tao⁴ chih⁴ shih⁴ 宙返りする。
【倒躓】121 倒れつまづく。〔盧思道、勞生論〕淪二此風波一、溺二于倒躓一。
【倒持】122 倒さまにもつ。〔漢書、梅福傳〕倒二持泰阿一、授二楚以柄一。〔後漢書、何進傳〕所謂倒二持干戈一、授二人以柄一。〔魏志、劉楨傳〕倒二持干戈一、授レ人以レ柄。
【倒茶】123 tao⁴ ch'a² 茶碗に茶を注ぐ。
【倒帳】124 tao³ chang⁴ 掛倒れ。
【倒賬】125 tao³ chang⁴ ❶かし倒れ。かけだふれ。商店の破產。❷附け掛けする。❸借金を踏み倒す。
【倒杖】126 ❶杖を倒さまにする。〔韓非子、喩老〕白公勝慮レ亂、罷レ朝倒レ杖而策、銳貫レ頤、血流至二于地一而不レ知。❷地を相する人が、穴を作り、棺をおく法。〔楊筠松、葬法倒杖〕。
【倒著】127 衣服などを倒さまに著る。〔仇遠、泛レ湖詩〕倒二著烏巾一且醉眠。
【倒提】128 さかさまにひつさげる。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕此被二人倒提入レ水搕死者也。
【倒貼】129 tao³ t'ieh¹ 女が男に金を入れる。戀男に金を注ぎ込む。
【倒貼色】130 tao³ t'ieh¹ sê⁴ 內國爲替で、兩地銀量の平準相場に對する割引を示す言葉。
【倒店】131 tao³ tien⁴ 店を讓渡すること。
【倒顚】132 逆にする。顚倒。〔歐陽脩、送二榮陽魏主簿一詩〕子足未レ及レ閾、我衣驚二倒顚一。
【倒騰】133 tao³ t'êng² ひつくりかへす。まぜかへす。
【倒洞】134 tao⁴ tung⁴ 鼠などが穴を穿けること。
【倒頓】135 大袴をいふ。〔方言、四〕大袴謂二之倒頓一。〔急就篇、二、襜褕紿複褶袴褌、注〕袴謂二脛衣一也、大者謂二之倒頓一、小者謂二之絞紇一。〔事物異名錄、服飾、袴〕急就篇注、脛衣大者曰二倒頓一、小者曰二絞紇一、又大唐新語、漁服總曰二絞紇一。
【倒把】136 tao² pa³ 空取引をする。
【倒罷】137 tao³ pa⁴ 商店が破產すること。
【倒痎】138 tao³ mei² 不運。不仕合せに遭ふ。倒霉（140）に同じ。
【倒賠】139 tao⁴ p'ei² 他の債務を賠償する。
【倒霉】140 tao³ mei²' 不運。失敗する。倒痎。
【倒包】141 tao⁴ pao¹ 甲を以て乙に引當てる。人よりの贈物を又他人に贈る。
【倒剌】142 tao⁴ la⁴ 逆剌ぎ。さかくれ。
【倒幕】143 幕府を倒して王政を復古しようとすること。
【倒拔】144 たふれ離れる。〔南史、何胤傳〕山發二洪水一、樹石皆倒拔。
【倒反】145 tao² fan³ たふれる。のけぞりかへる。反倒（2－3127‥186）を見よ。
【倒盤】146 tao³ p'an² 破產する。財產を失ふ。
【倒披】147 さかさまにひらく。〔左思、魏都賦〕華蓮重レ葩而倒披。〔注〕翰曰、井中皆畫蓮花、自レ下見レ上、故曰二倒披一。
【倒楣】148 明代、科擧の試驗に及第しない者が、門前にたてた棋杆を取り去つたこと。轉じて、事の成らぬ者をいふ。〔消夏閒記〕明季、科擧甚難レ得、取者門首豎二棋杆一根一、不レ中則撤去、謂二之倒楣一、今吳俗譏二事不レ成者一爲二倒楣一、想卽本レ此。
【倒風】149 tao⁴ fêng¹ 風向が變る。
【倒淤】150 さかさまにめぐり流れること。逆流すること。〔錢起、夜宿二靈臺寺一寄二郎士元一詩〕石潭倒淤蓮花水、塔院空聞松柏風。
【倒閉】151 tao³ pi⁴ 商店や銀行が破產する。閉店する。
【倒斃】152 路上に斃れて死ぬ。〔福惠全書、蒞

任部、詳文贅說）致二倒斃不レ堪。

【倒鋪】153 tao³ p'u⁴ 店鋪を譲り渡し又は譲り受ける。

【倒也】154 tao⁴ yeh³ 結局云云も亦の意。

『倒也罷了』155 tao⁴ yeh³ pa⁴ la それはさうとして置かう。まあまあそれが良からう。

【倒喇】156 ラウ 金元時代の戯劇の名。

【倒瀾】157 ラン 倒れた波。くづれた波。〔釋五岳、熊本城詩〕城兵驀地出撃レ賊、賊軍崩去似二倒瀾一。

【倒流】158 リウ さかさまに流れる。逆流。〔後漢書、西南夷傳〕水源深廣、而末更淺狹、有レ似二倒流一。〔木華、海賦〕吹レ澒則百川倒流。〔范成大、代二聖集一贈レ別詩〕一曲悲歌水倒流、尊前何計緩二千憂一。

『倒流刺』159 tao⁴ liu² tz'ŭ⁴ 指先のさゝくれ。

【倒立】160 リツ さかだち。〔後漢書、董卓傳〕卓所レ得義兵士卒、皆以布纏裹、倒立二於地一。

【倒了】161 tao³ la 倒れた。ひつくりかへつた。

【倒惑】162 ワク 身がさかさまになる程惑ふ。大いに惑ふこと。〔法苑珠林〕凡夫倒惑。

【倒押韻】163 アフヰン 詩中、習用の文字を顚倒して韻を合せること。唐の韓愈が多く用ひてゐる。倒字叶韻(77)に同じ。〔詩評〕倒押韻、如二韓愈、碧流滴瓏玲、光景何鮮新、杏花兩株能白紅、及用二慨慷・莽鹵一之類一甚多。

【倒捻氣】164 ネンキ 小兒の吹く笛。明の劉侗の帝京景物略に見え、今、不登といふ。〔倚晴閣雜鈔〕

【倒於心】165 yü² hsin¹ 氣に入らない。心に叶はない。

【倒跌蟲】166 チエツチユウ ぼうふら。〔淮南子、說林訓、子爲レ蟲、注〕倒跌蟲也。

【倒騎レ牛】167 ツウキニウ うしろ向きになつて牛に乗る。〔王元之、昇平詞〕牧童歸去倒騎レ牛。〔王秋江、牧童詩〕短笛横吹牛倒騎。

【倒騎驢】168 tao⁴ ch'i² lü² 驢馬に逆乗りする。

【倒過來】169 tao³ kuo⁴ lai ㊀引つくりかへす。㊁賣物に出た店鋪などを買取る。㊂やりくりがつく。

【倒挂鳥】170 tao⁴ kua⁴ niao³ さとうてう。一名、倒掛。廣西に産する。

【倒湖鎮】171 チン 地名。江西省、浮梁縣の東北、昌江の北岸に在り、安徽省祁門縣に接する要衝の地。

【倒扣針】172 tao⁴ k'ou⁴ chen¹ 縫止める。

【倒栽葱】173 tao⁴ tsai¹ ts'ung¹ もんどり打つて倒れる。頭を地につけて倒れる。

【倒扎虎】174 tao⁴ cha¹ hu³ 武劇で、後部に向つてとんぼ返りする身ぶりをいふ。

【倒枝藻】175 タウシ 藻の名。枝が水中に横倒しに張つて網のやうになり、水鳥がこの中に入れば出ることが出來ないといふ。一名、水網。〔洞冥記〕倒枝藻者、枝横二倒水中一、長九尺餘、如二結網一、有二野鴨秋鳧及鷗鷺來翔一水上一、入二此草中一、皆不レ得レ出、如二繒網一、亦名二水網一。

【倒柘菜】176 tao⁴ chê⁴ ts'ai⁴ あちやら漬け。

【倒鬚鉤】177 tao⁴ hsü kou¹ 魚を釣る針で、逆に刺のあるもの。

【倒佟死】178 tao⁴ ch'in⁴ ssŭ³ 逆さに吊り下つて死ぬ。吊り下つて自殺する。

【倒精忠】179 タウセイチユウ 戯曲の篇名。明、張大復作。一名、如是觀。又、翻精忠ともいふ。宋の岳飛が大功を成し、秦檜が誅戮を受けることを演ず。〔曲海提要、十一〕。

【倒倒情】180 tao⁴ tao⁴ ch'ing² 親切に報いる。

【倒脫靴】181 tao⁴ tu'o¹ hsüeh¹ 碁の打方の一手。敵の死命を制する手。

【倒鈕頭】182 tao⁴ niu³ t'ou 桂庵(奉公人を世話する人)の一旦定めた約束が取消されることをいふ。

【倒頭經】183 tao³ t'ou² ching¹ 枕經(ちんきやう)。

【倒捻子】184 タウネンシ 果物の名。〔猗覺寮雜記〕嶺南有二果名二撚子一、三月開レ花如二芍藥一、七八月實成可レ食、結二腸胃一、小兒多食、則大便難、東坡改名二海漆一、言二搗二其葉一、可二代一柿漆一用上嶺表錄異云、倒捻子、窠叢生、葉如二苦李一、花似二蜀葵一、小而深紫、南方婦女、多以染レ色、子如二軟柿蔕一、食者必捻二其蔕一、故稱二倒捻子一、或呼爲二都捻子一、語訛也、其子外紫內赤無レ核、食レ之甜軟、暖二臟益一肌肉一、古訛レ捻爲レ念、今又訛レ念爲レ撚、大業拾遺記、南海溪都念子樹一百株、付二西苑十六院種一、即此花也。

【倒馬關】185 タウバクワン 關の名。㊀河北省唐縣の西北。漢の常山關。二城あつて、明の時、相繼いで增修した。(元和志)倒馬關、山路險峻、馬爲レ之倒、因名。〔讀史方輿紀要、直隸、重險〕倒馬關、在二眞定府定州西北一二百五十里、山西廣昌縣南七十里、卽戰國時鴻之塞也、云云、漢時亦名二常山關一、云云、二關攷、倒馬關有二二城一、稍北者爲二上城一、南者爲二下城一、相去二里許。㊁明初に置く。四川省納谿縣の南。〔讀史方輿紀要、四川、瀘州、納谿縣〕倒馬關、縣南一百三十里、明初置、路通二雲南交趾一、因二倒馬坎一爲レ名。㊂貴州省銅仁縣の北。〔讀史方輿紀要、貴州、銅仁府、銅仁縣、龍勢關〕倒馬關、在二府北一。

【倒馬坡】186 タウバ 地名。鷄陵關の南。廣西省鎭南關の南。明の柳升が安南の黎利を征し、伏兵に遇つて敗死した所。

【倒不開】187 tao³ pu k'ai¹ やりくりが附かない。融通がつきかねる。

『倒不開手』188 tao³ pu k'ai¹ shou³ 手離しかねること。

【倒不如】189 tao⁴ pu⁴ ju² 却つて云云の方が宜しい。寧ろ云云に如くはない。

【倒不了】190 tao⁴ pu liao³ 倒れない。倒されない。逆さまに出來ない。

【倒舞伎】191 タウギ 西域の舞樂の名。逆立ちをして足で舞ひ、又、色々輕業のやうな技を演ずるもの。(舊唐書、音樂志二)苻堅嘗得二西域倒舞伎一、睿宗時、婆羅門獻二樂舞一、人倒行而以レ足舞二於極銛刀鋒一、倒二植於地一、低目就レ刃、以歷二瞼中一、又植二於背下一、吹二簫簓一者立二其腹上一、終レ曲而亦無レ傷、又伏二伸其手一、兩人躡レ之、旋レ身繞レ手、百轉無レ已。

【倒木溝】192 コウボク 地名。㊀滿洲遼寧省寬甸縣の北。㊁濱江省虎林縣の西南。

【倒用印】193 タウヨウイン 印を倒用する。〔唐書、段秀實傳〕秀實以爲、宗社之危不レ容レ喘、乃遣二人諭二大吏岐靈岳一、竊二取令言印一、不レ獲、乃倒二用司農印一、追二其兵一。〔五代史、李崧傳〕崧乃召二書吏一、三四人、登レ樓去レ梯、夜以二黃紙一作二詔書一、倒二用都統印一、明旦告二諭諸軍一、人心乃定。

【倒拉刺】194 tao⁴ la¹ t'zŭ⁴ 指頭のさかむけ。

【倒柳刺】195 tao⁴ liu³ t'zŭ⁴ 倒拉刺に同じ。

【倒龍佩】196 タウリユウハイ 佩玉の名。晉の石崇が妾に佩ばしめたもの。〔海錄碎事、聖賢人事、妾〕石崇妓姜千餘人、擇二數十人一、裝飾一處等、使レ忽視レ之、不二相分別一、刻二玉爲二倒龍佩一、瑩二金爲二鳳釵一、有レ所レ召者、不レ呼二姓名一、悉聽二佩聲一視二釵色一、玉聲輕者居レ前、釵色艷者居レ後、以爲二行次一而進。

【倒鱗魚】197 tao⁴ lin² yü² 魚の名。滿洲吉林省五常縣北方の燒大戶山頂の溜池に產する。鱗が逆さであるからいふ。

【倒一步兒】198 tao³ i² pu⁴ êrh 一時の融通をつける。やりくりする。

【倒海翻江】199 タウカイフアンカウ 水勢の盛なさま。〔陸游、詩〕五更顚風吹二急雨一、倒海翻江洗二殘暑一。

【倒裳索領】200 タウシヤウサクリン 下にはく裳をさかさにして領(えり)を求める。道理にもとつた事をして事を求める喩。〔鄧析子、斯逆〕理而求レ之、猶二倒レ裳而索レ領。

【倒身下拜】201 tao³ shen¹ hsia⁴ pai⁴ 平身低頭する。平伏する。

【倒倒險險】202 tao⁴ tao⁴ hsien³ hsien³ 危險な。不安な。

【倒地葫蘆】203 tao⁴ ti⁴ hu² lu² 地にころがつてゐるふくべ。ぐでんぐでんに醉ひつぶれる。

【倒抽涼氣】204 tao⁴ ch'ou¹ liang² ch'i⁴ 思ひがけぬ刺戟を受けて、びつくりして息を吸ひ込むこと。

【倒塡年月】205 tao⁴ t'ien² nien² yüeh⁴ 實際の年月日よりも先の日附を、小切手又は手形などに書込むこと。

【倒背錢筒】206 tao⁴ pei⁴ ch'ien² t'ung² 全部無くなる。すつからかんになる。

【倒綳孩兒】207 タウホウガイル 子供をさかさまに背負ふこと。熟習してゐることは却つて疏略にする喩。又、意外な事に失敗する喩。〔倦游錄〕宋苗振召二試館職一、晏殊曰、君久從レ仕、必疏二筆硯一、

宜㆓少溫習㆒振曰、豈有㆘三十年老娘、而倒㆓繃孩兒㆒者㆖乎、既而試不㆑中㆑選、晏曰、苗君倒㆓繃孩兒㆒矣。〔書言故事、不捷類〕戲㆓老作不㆑中曰㆔倒㆓繃孩兒㆒。

【倒毛跟頭】208 tao^4 mao^2 ken^1 t'ou^2 眞逆さまに轉ぶ。ひつくりかへる。

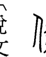
【倒溜坡兒】209 tao^4 liu^1 p'o^1 êrh だんだら坂。凹凸のある坂。

【倒抽一口氣】210 tao^4 ch'ou^1 i^4 k'ou^3 ch'i^4 不意の出來事にびつくり仰天する形容。

【倒倒廟對斜斜神】211 tao^4 tao^4 miao^4 tuei^4 hsieh^2 hsieh^2 shen^2 倒れた廟に傾いた神像がある。俗に割れ鍋に綴ぢ蓋、似た者夫婦といふ類の諺。

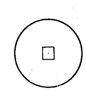
【倓】768

㊀タン ダン 〔集韻〕徒甘切 覃 ㄊㄢˊ t'an^2
㊁タン 〔集韻〕吐敢切 感
㊂タン 〔集韻〕吐濫切 勘


小篆

或體

㊀㊁やすい。しづか。或は⿰亻剡(1−938)に作る。〔說文〕倓、安也、从㆑人炎聲、讀若㆑談、⿰亻剡、倓或从㆑剡。〔玉篇〕倓、靜也、恬也。〔一切經音義、九〕蒼頡曰、倓、恬也。〔荀子、仲尼〕倓然見㆓管仲之能足㆒以託㆑國也。〔注〕倓、安也。㊂❶財を以て罪をつぐなふ。又、其の貨。賧(10−36830)に同じ。〔集韻〕賧、夷人以㆑財贖㆑罪也、或作㆑倓。〔後漢書、南蠻傳〕殺㆑人者、得㆘以㆓倓錢㆒贖㆖㆑死。〔注〕何承天纂文云、倓、蠻夷贖罪貨也。❷動く。おそれる。憺(4−11305)に同じ。〔集韻〕憺、動也、或从㆑炎从㆑人。❸やすい。しづか。又、澹(7−18421)に作る。〔廣韻〕倓、安也、靜也、恬也、亦作㆑澹。


倓錢❶(三才圖會)

【倔】769

クツ グチ 〔集韻〕渠勿切 物 ㄐㄩㄝˊ chüeh^2

❶つよいさま。こはいさま。もとる。かがむ。或は詘(10−35590)・⿰革屈(12−42886)に作る。〔集韻〕倔、倔強、梗戾也、或从㆑言、从㆑革。❷起り立つさま。倔起(3)を見よ。

【倔佹】1 クツキ かさなつて屋をおほふさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕倔佹雲起、嶔崟離摟。〔注〕銑曰、倔佹雲起、覆㆑屋貌。

【倔氣】2 chüeh^2 ch'i^4 粗暴な。意地が惡い。倔喪。

【倔起】3 クツキ おこりたつ。匹夫から身をおこす。〔史記、秦始皇紀贊〕倔㆓起什伯之中㆒。〔班彪、王命論〕未㆘見㆔運世無㆑本、功德不㆑紀、而得㆓倔起在㆒此位㆒者㆖也。〔注〕善曰、埤蒼曰、崛、特起也、與㆑倔同、濟曰、倔起、謂㆔平㆓起於匹夫㆒也。

【倔強】4 クツキヤウ 剛情で屈しない。倔彊。〔鹽鐵論、論功〕倔強倨敖。〔隋書、何稠傳〕初猛力倔㆓強山洞㆒、欲㆓圖爲㆑逆。〔宋史、趙鼎傳〕此老倔強猶㆑昔。

『倔強漢子』5 chüeh^2 ch'iang^2 han^4 tzŭ 強い男。

【倔彊】6 クツキヤウ 剛情で屈しない。倔強に同じ。〔左思、魏都賦〕假㆓倔彊㆒而攘㆑臂。〔注〕翰曰、倔彊、夷狄惡性梗戾。

【倔喪】7 chüeh^2 sang^4 言語粗暴な。野鄙な。倔氣。

【倔信】8 クツシン かがむこととのびること。屈伸(4−7669··76)の❶に同じ。

【倔⿱叕兌】9 クツセツ 短いさま。〔字彙補〕⿱叕兌、倔⿱叕兌、短貌。

【倔脾氣】10 chüeh^2 p'i^2 ch'i 頑固な氣質。剛情な氣質。

【倔騾子】11 chüeh^2 luo^2 tzŭ 旋毛曲り。ひねくれ者。

【倕】770

㊀スイ ズイ 〔集韻〕是爲切 支 ㄔㄨㄟˊ ch'uei^2
㊁ツイ ヅイ 〔集韻〕馳僞切 寘

㊀❶おもい。〔玉篇〕倕、重也。❷古の人名。垂(3−5012)に通ず。〔廣韻〕倕、黃帝時巧人。〔集韻〕倕、黃帝時巧人名。〔字彙〕倕、唐虞共工名、書、作㆑垂。〔莊子、盜跖〕攦㆓工倕之指㆒。〔注〕堯時巧者。〔淮南子、說山訓〕人不㆑愛㆓倕之手㆒、而愛㆓己之指㆒。〔書、舜典〕僉曰、垂哉。❸或は侳(1−1081)に作る。〔集韻〕倕、或作㆑侳。㊁しづめる。硾(8−24257)に同じ。〔集韻〕硾、鎭也、或作㆑倕。

【倖】771

カウ ギヤウ 〔集韻〕下耿切 梗 ㄒㄧㄥˋ hsing^4

❶さいはひ。こぼれざいはひ。〔集韻〕倖、徼倖也。〔獨斷、上〕幸者宜㆑幸也、世俗謂㆓幸爲㆒僥倖㆒、車駕所㆑至、民臣被㆓其德澤㆒以爲㆓僥倖㆒、故曰㆑幸也。〔班固、奕旨〕劣者有㆓僥倖㆒。〔後漢書、黃香傳〕識者譏㆓過其倖㆒。❷へつらふ。したしむ。又、佞臣。〔集韻〕倖、一曰、親也。〔後漢書、桓帝紀贊〕政移㆓五倖㆒。〔注〕倖、佞也、五倖、上五邪也。〔後漢書、呂強傳〕素餐私倖、必加㆓榮擢㆒。❸引く。〔班固、思玄賦〕毋㆓緜攣以倖㆑己兮。〔注〕衡曰、倖、引也。❹或は婞(3−6423)に作り、通じて幸(4−9176)に作る。〔集韻〕倖、或从㆑女、通作㆑幸。

【倖恩】1 カウオン 僥倖に恩を受ける。恩倖(4−10591··32)に同じ。〔長生殿、倖恩〕瑤池陪從、何意承㆓新寵㆒。

【倖曲】2 カウキヨク へつらひよこしまなこと。〔後漢書、明帝紀論〕日晏坐㆑朝、幽枉必達、內外無㆓倖曲之私㆒、在㆑上無㆓矜大之色㆒。

【倖心】3 カウシン へつらふ心。〔白居易、論㆓孫璹張奉國㆒狀〕恐同類之內、皆生㆓倖心㆒。

【倖臣】4 カウシン 氣に入りの家來。〔後漢書、蓋勳傳〕靈帝召見問、天下何苦而反亂如㆑此、勳曰、倖臣子弟擾㆑之。

『倖臣傳』5 カウシンデン 倖臣の傳記。南齊書にある。

【倖進】6 カウシン 僥倖に陞進する。立身をのぞむ。〔福惠全書、淸丈部、淸丈餘論〕倖進之徒、遂有㆓按㆑畝勒加指㆑荒揑報㆒。

【倖脫】7 カウダツ にげる。にげだす。〔福惠全書、刑名部、監禁〕恐㆓其倖脫㆒、而立取㆓病呈㆒。

【倖馳】8 カウチ 彼此反對になる。背馳。〔墨子、天志上〕言非㆑此、行反㆑此、猶㆓倖馳㆒也。〔閒詁〕畢云、倖、一本作㆑偝、詒讓案、倖、疑偝之誤、玉篇人部云、淮南子分流僢馳、僢、相背也、與㆑舛同、今淮南子說山訓作㆑舛、又氾論訓高注云、舛、乖也、偝、與㆑背同、見㆓坊記投壺及荀子㆒、與㆑僢義亦同。

【倖偸】9 カウトウ 僥倖を願ふ。〔韓非子、詭使〕行㆓姦軌㆒以倖㆓偸世㆒者、數御。

【倖免】10 カウメン さいはひに免れる。〔福惠全書、蒞任部、戒躁怒〕受㆑賄而思㆓倖免㆒也。

【倖門】11 カウモン まぐれざいはひの門。官吏となる僥倖の手づる。〔舊唐書、柳仲郢傳〕武宗有㆑詔減㆓冗官㆒、倖門頓塞。

【倖濫】12 カウラン 萬一のさいはひをこひねがつて、常法によらないこと。〔宋史、范仲淹傳〕仲淹以㆓天下㆒爲㆓己任㆒、裁㆓削倖濫㆒、考㆓覆官吏㆒。

【倖祿】13 カウロク さいはひ。〔曹植、玄暢賦〕僥㆓余生之倖祿㆒、遘㆓九二之嘉祥㆒。

【倗】772

㊀ホウ ボウ 〔集韻〕蒲登切 蒸
㊁ホウ ボウ 〔集韻〕步鄧切 徑
㊂ホウ 〔集韻〕普等切 迥

小篆

㊀㊁❶たすける。〔說文〕倗、輔也、从㆑人朋聲、讀若㆓陪位㆒。❷ゆだねる。よせる。〔六書統〕倗、委也、託也。❸よる。厚い。滿ちる。憑(4−11210)に同じ。〔集韻〕憑、依也、厚也、滿也、或作㆑倗。❹姓。〔萬姓統譜〕倗、姓也。㊂がへんじない。承諾しない。〔廣韻〕倗、不㆑肯也。〔集韻〕倗、博雅、不也。

【倈】773 エフ 偞(1－867)に同じ。〔正字通〕倈、同ㇾ偞。

【倘】774 ㊀シヤウ 〔集韻〕齒兩切 養 去尢ˇ t'ang³ ㊁タウ 〔集韻〕他郎切 陽 ㊂シヤウ ジヤウ 〔辭海〕匙陽切 陽

㊀㊁❶**忽ちやむさま。又、自失のさま。**〔集韻〕倘、倘然、止皃。〔莊子、在宥〕雲將見ㇾ之、倘然止。〔釋文〕倘、尺掌反、一音吐郎反、李吐黨反、司馬云、欲ㇾ止貌、李云、自失貌。❷**もし。**儻(**1－1323**)に同じ。〔正字通〕倘、同ㇾ儻。㊂**たちもとほる。**倘佯(5)を見よ。

【倘其】1 t'ang³ c'hi² もし。

【倘使】2 t'ang² shih³ もしも。

【倘若】3 t'ang³ juo⁴ もし。

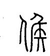
【倘如】4 t'ang³ ju² もし。

【倘佯】5 シヤウヤウ たちもとほる。倘徉(**4－10149**・・1)・徘徊(**4－10141**・・1)に同じ。〔宋玉、風賦〕倘二佯中庭一。〔注〕善曰、倘佯、猶二徘徊一也。〔左思、呉都賦〕徘徊倘佯、寓二目幽蔚一。

【倘令】6 t'ang³ ling⁴ もし。

【倘湖樵人】7 シヤウコセウジン 淸、來集之(**1－581**・・288)の號。

【候】775 コウ グ 〔集韻〕下遘切 宥 厂ヌˋ hou⁴


小篆

❶**うかがふ。**〔說文〕候、伺望也、从ㇾ人矦聲。❷**さぶらふ。**高貴な人又は客に奉仕する。又、其の人。候人(49)の❶を見よ。〔詩、曹風、候人〕彼候人兮。〔傳〕候人、道路迎二送賓客一者。〔左氏、襄、二十一〕使三候出二諸轘轅一。〔注〕候、送二迎賓客一之官。〔國語、周語中〕候不ㇾ在ㇾ疆。〔注〕候、候人、掌三送二迎賓客一者。〔後漢書、龐幺傳〕劉表、數延請不ㇾ能ㇾ屈、乃就候ㇾ之。❸**まつ。迎へる。**〔後漢書、鍾離意傳〕闕二候風雲一。〔陶潛、歸去來辭〕稚子候ㇾ門。❹**のぞみ見る。**〔廣雅、釋詁一〕候、望也。〔國語、晉語八〕候遮扞衞不ㇾ行。〔注〕候、候望。〔漢書、張禹傳〕上臨二候禹一。❺**さぐる。**探偵する。〔廣雅、釋詁三〕候、覗也。〔呂覽、貴因〕武王使二人候ㇾ殷。〔注〕候、視也。〔呂覽、壅塞〕宋王使三人候二齊寇之所ㇾ至。〔宋書、柳元景傳〕賊遣二兵二千餘人一覘候。❻**ものみ。**㋑斥候。敵の狀況などをさぐる役。〔史記、項羽紀〕陰使二候始正一。〔注〕集解曰、候、軍候也。〔後漢書、任延傳〕罷二偵候戍卒一。〔魏志、董昭傳〕得二賊羅候一。〔呉志、呂蒙傳〕江邊屯候、盡收縛ㇾ之。〔孫奕、示兒篇〕斥候、謂下檢二行險阻一、伺中候盜賊上。㋺警戒のため敵狀などを展望する場所。俗に堠(**3－5253**)に作る。〔正字通〕候、俗作ㇾ堠。〔後漢書、光武紀〕築二亭候一、修二烽燧一。〔後漢書、西域傳〕置二戊部候一。❼**うらなふ。**考へる。占考する。測候する。〔列子、周穆王〕夢者六候。〔注〕候、占也。〔史記、封禪書〕上乃遣二望ㇾ氣者一、佐候二其氣一。〔後漢書、郎顗傳〕父宗能望ㇾ氣占二候吉凶一。〔宋書、曆志〕測候不ㇾ精。❽**診察する。みる。**〔物理論〕名醫達ㇾ脈者、求二之寸口三候之間一、則得ㇾ之矣。〔北齊書、方伎傳〕爲ㇾ人診候。〔唐書、杜如晦傳〕醫候之使、路相屬。❾**まもる。**〔釋名、釋言語〕候、護也、可ㇾ護二諸事一也。❿氣候の上で、時氣に小變動のある一期間。卽ち一年を七十二候に區分した一。五日。三候を一節氣といふ。節候。物候。〔素問、六節藏象論〕五日謂二之候一。〔晉書、天文志〕分二陰陽一而配二節候一。〔魏書、律歷志〕五日一候。⓫**とき。をり。**時期。〔王羲之、問慰諸帖〕雪候既不ㇾ已、寒甚盛。〔宋史、禮志〕欲ㇾ知二農桑之候一。⓬**きざし。しるし。樣子。**〔晉書、天文志〕凡游氣蔽ㇾ天、日月失ㇾ色、皆是風雨之候也。〔韓愈、南山詩〕明昏無二停態一、頃刻作二狀候一。⓭**ほど。**加減。程度。〔太平寰宇記〕瓊州潮候不ㇾ同。〔蕢泉小品〕人但知二湯候一、不ㇾ知二火候一。⓮**姓。**〔通志、氏族略、以ㇾ官爲ㇾ氏〕周禮候人氏、子孫因氏焉。邦 **さうらふ。**有り・居りの敬語。書簡文用語。

名乘 トキ。

參考 侯(**1－633**)は別字。

【候意】1 コウイ 人の心をさぐる。〔北齊書、陳元康傳〕希ㇾ顏候ㇾ意、多有二進擧一。

【候驛】2 コウエキ 見張りをする宿場。〔後漢書、西羌傳〕繕二城郭一、置二候驛一。

【候奄】3 コウエン 斥候を司る官。候正。〔左氏、成、十八〕張老爲二候奄一。〔會箋〕晉語稱二元候一、韋云、中軍候奄、正義云、元、大也、中軍、尊、故稱ㇾ大也、奄亦是大義、成二年、晉有二候正一、受三一命之服一、知二其官同一也、候奄之名、蓋卽悼公所ㇾ定。〔國語、晉語七〕使三范獻子爲二候奄一。〔注〕候奄、元候也。

【候賀】4 コウガ 節日などに機嫌をうかがひお祝ひを言ふこと。〔福惠全書、筮仕部、四六啓式〕有下候二賀上臺一啓數首上。

【候駕】5 コウガ 駕を待つ。天子の乘物を迎へまつ。〔魏書、李遐傳〕遐爲二河内太守一、介朱榮稱ㇾ兵向ㇾ洛、次二其郡境一、莊帝潛濟二河北一相會、遐旣聞三榮推二奉莊帝一、遂開ㇾ門謁候、仍從ㇾ駕南渡、及二河陰一爲二亂兵所ㇾ害、時年四十二、事寧、以二候駕之功一、封二盧鄕縣開國伯一。

【候核】6 コウカク 詮議や調査を待つ。

【候函】7 コウカン ❶手紙。〔福惠全書、筮仕部、郵稟帖〕前任候函一通、令二胥役投送一。❷手紙を待つ。

【候雁】8 コウガン 候鴈に同じ。

【候鴈】9 コウガン かり。時候に應じて來去するからいふ。候雁。〔呂覽、孟春紀〕候鴈北。〔注〕候ㇾ時之鴈、從二彭蠡一來、北過至二北極之沙漠一也。〔淮南子、時則訓〕仲秋之月、云云、涼風至、候鴈來。〔左思、呉都賦〕候鴈造ㇾ江。〔注〕善曰、鴈應ㇾ候、而南來。〔格物論〕鴈、陽鳥也、能知二氣候一、故曰二候鴈一。

【候氣】10 コウキ ❶氣の吉凶、及び時氣の變化等を伺ひ知ること。望氣(**5－14368**・・35)に同じ。〔史記、封禪書〕上乃遣ㇾ望ㇾ氣、左候二其氣一。〔司馬彪、續漢書〕候氣之法、爲ㇾ室三重、塗ㇾ釁周密、布二緹幔室中一、以ㇾ木爲ㇾ按、每ㇾ律各一、內庳外高、從二其方位一加二律上一、以二葭灰一抑二其內端一、案ㇾ歷而候ㇾ之、氣所ㇾ動者、其灰斯散、人及風所ㇾ動者、其灰聚。〔五代史、司天考〕測二圭箭一以候ㇾ氣。❷官名。漢、置く。氣を占候することを掌る。〔後漢書、百官志、太史令、注〕漢官曰、靈臺待詔四十二人、云云、十二人候氣。

【候騎】11 コウキ もの見の騎馬兵。偵騎。〔史記、匈奴傳〕候騎至二雍甘泉一。〔何遜、見二征人分別一詩〕候騎出二蕭關一、追兵赴二馬邑一。〔王維、使至二塞上一詩〕蕭關逢二候騎一、都護在二燕然一。

【候儀】12 コウギ ❶天象を描いた天文圖。渾天儀。〔舊唐書、天文志上〕靈臺候儀、是後魏遺範。❷時候見舞ひの品物。

【候火】13 コウクワ ❶のろし。〔杜甫、秦州雜詩〕候火雲峯峻、懸軍幕井乾。❷客を出迎へる火。〔白居易、送二劉谷一詩〕郵亭已送二征車發一、山館誰將二候火一迎。

【候光】14 hou⁴ kuang¹ 御光臨待上候。御來駕の程御待申上候。

【候官】15 コウクワン ❶官名。㋑賓客を送迎する官。〔左氏、襄、二十一、使三候出二諸轘轅一、注〕候、送二迎賓客一之官也。㋺斥候のことを掌る官。軍候の類。〔淮南子、兵略訓〕前後知二險易一、見ㇾ敵知二難易一、發斥不ㇾ忘ㇾ遺、此候之官也。〔注〕軍候、候望者也。㋩日月星氣などを觀察して吉凶を占ふことを掌る。占官(**2－2780**・・19)に同じ。候星(5

3）の㊂・候日(35)・候風(77)・候氣(10)・候晷景(96)・候鐘律(100)などの官がある。各條を見よ。㊃城の名。甘肅省張掖縣の北。〔後漢書、郡國志五〕上郡、候官。㊄縣名。㋑後漢、置く。福建省閩侯縣の北。一に侯官に作る。侯官(1－634‥2ン)の㊀を見よ。㋺唐、置く。福建省閩侯縣。〔唐書、地理志五〕福州、候官縣。㊅邑の名。福建省福州に在る。〔海錄碎事、地、州縣〕候官邑名、今在二福州一。〔漢置二尉候一之官一。

【候館】16 ㊀物見のやかた。〔周禮、地官、遺人〕市有二候館一。〔注〕候館、樓可二以觀望一者也。㊁驛舍の傳送文書をおく所。〔大學衍義補、備二規制一、郵傳之置〕候館樓、卽所謂驛舍之郵亭也。

【候詗】17 軍中の斥候。〔唐書、李憕傳〕祿山度レ河、號令嚴密、候詗不レ能レ知。

【候敬】18 hou⁴ ching⁴ 時候見舞ひの品物。

【候迎】19 出迎へ。御機嫌伺ひ。〔華陽國志〕候迎盈レ門。

【候教】20 hou⁴ chiao⁴ ㊀御教示を待つ。御高話拜聽。㊁御來駕待上候。

【候徼】21 國境の斥候。〔荀子、富國〕其候徼支繚、其竟關之政盡察。〔注〕候、斥候、徼、巡也。

【候缺】22 官吏たる資格を有して官職の缺員を待つこと。又、その人。候選(57)に同じ。〔六部成語、吏部、候缺、注解〕同上而等二候補缺一、亦可レ云二候缺一。

【候驗】23 hou⁴ yen⁴ 試驗の結果を待つ。驗べの終るのを待ち受ける。

【候晤】24 hou⁴ wu⁴ 御面晤を御待ち申すの意。

【候札】25 hou⁴ cha² 御機嫌伺ひの手紙。〔桃花扇、阻奸〕是鳳撫衙門來的有馬老爺候札。

【候司】26 うかがふ。候伺。〔漢書、灌夫傳〕太后亦已使二人候司一。

【候示】27 hou⁴ shih⁴ 通知を待つ。御返事を待つ。御指圖をまつ。

『候示辦理』28 hou⁴ shih⁴ pan⁴ li³ 何分の御回答を待つて處理する。

【候旨】29 勅旨を待つ。仰せを待つ。〔清國行政法汎論、皇族、宗室覺羅之刑罰〕若罪大、則奏聞以候レ旨。

【候伺】30 機嫌を伺ふ。候視。候司。候問(88)に同じ。〔史記、高祖紀〕盧綰與二數千騎一、居二塞下一、候伺。〔史記、淮南衡山傳〕王使二人候二伺漢公卿一。〔漢書、朱博傳〕博去レ吏、閒歩至二廷尉中一、候二伺咸事一。

【候視】31 見まふ。候伺・候問(88)に同じ。〔後漢書、朱暉傳〕暉聞二其妻子貧困一、乃自往候視、厚賑二贍之一。

【候覩】32 様子をみる。うかがふ。

【候時】33 時をうかがふ。時機を見はからふ。〔史記、越世家〕於レ是自謂二陶朱公一、復約要、父子耕畜、廢居候レ時轉レ物、逐二什一之利一。居無レ何、則致二貲累巨萬一。

【候質】34 hou⁴ chih² 喚問を待つ。

【候日】35 ㊀日の運行を伺ふ。〔顏延之、赭白馬賦〕后唐膺レ籙、赤文候レ日。〔注〕善曰、赤文候レ日、卽至二于日稷一也、稷、側也。㊁官名。漢、置く。日を占候することを掌る。〔後漢書、百官志二、太史令、注〕漢官曰、靈臺待詔四十二人、云云、二人候日。

『候日蟲』36 漢代、勒華國から貢獻したといふ蟲。この蟲はよく日時を知つたといふ。〔洞冥記〕元封五年、勒華國貢二細鳥一、以二方尺玉籠一、盛二數百頭一、形如二大蠅一、狀似二鸚鵡一、聲聞二數里之間一、如二黃鵠之音一也、國人常以二此鳥一候レ時、亦故名曰二候日蟲一。

【候車】37 車にさぶらふ。又、車を待つ。〔商子、兵守〕三軍之多、分以二客之候車之數一。

『候車房』38 hou⁴ ch'ê² fang² 停車場の待合室。

【候舍】39 候吏(斥候をつとめる役人)のつめてゐる舍。〔後漢書、李部傳〕使者二人、當レ到二益部一、投二部候舍一。

【候者】40 物見のもの。〔史記、天官書〕春夏則發、秋冬則藏、故候者無レ不レ司レ之。

【候遮】41 敵の樣子をうかがひ、味方の模樣をさへぎる人。〔國語、晉語八〕候遮扞衞不レ行。〔注〕候、候望、遮、遮罔也、晝則候遮、夜則扞衞、云云、又二十人爲二曹輩一、去二壘三百歩一、畜二犬其中一、或視二前後一、或視二左右一、謂二之狗附一、皆昏而設、明而罷、候遮二十人、居二狗附處一、以視聽候望、明而設、昏而罷。

【候謝】42 時候の見舞。〔福惠全書、筮仕部、拜客宴會〕致二函候謝一、方見二精神周倒、聲氣流通一。

【候城】43 縣名。漢、置く。故治は滿洲遼寧省瀋陽縣の北。〔漢書、地理志下〕遼東都、縣十八、候城。

【候雀】44 わたりすずめ。〔易林〕鷹棲二茂樹一、候雀往來。

【候敍】45 hou⁴ hsü⁴ 御話に御出で下さることを待つ。御來談の程待入申候。

【候鐘】46 時計。〔帝京景物略〕候鐘應レ時、自擊有レ節。

【候乘】47 hou⁴ ch'êng² 車をお召し下さい。客を門まで見送つて車に乘ることを促す言葉。

【候審】48 取りしらべを待つ。〔福惠全書、編審部、開報冊單〕然後發出候レ審。

『候審房』48 hou⁴ shen³ fang² 裁判所の控所。

【候人】49 ㊀周の官名。周禮夏官の屬。道路で賓客を送迎する官。〔詩、曹風、候人〕彼候人兮、何二戈與一レ殺。〔傳〕候人、道路送二迎賓客一者。〔周禮、夏官、候人〕各掌二其方之道治與二其禁令一。㊁伺候して敵を望む者。斥候。〔左氏、宣、十二〕寡君使二羣臣一、二諸鄭一、豈敢辱二候人一。〔注〕候人、謂二伺候望一レ敵者一。〔管子、侈靡〕候人不レ可レ重也。〔纂詁〕候人、斥候也。㊂詩經曹風の篇名。共公が君子を遠ざけ、小人を近づけたのを刺つた詩。〔詩、曹風、候人序〕候人、刺レ近二小人一也、共公遠二君子一、而好レ近二小人一焉。

【候訊】50 hou⁴ hsün⁴ 裁判の訊問を待つ。

【候井】51 縣名。漢、置く。河北省東光縣の西。〔漢書、地理志下〕河閒國、縣四、候井。〔太平寰宇記〕郡國縣道記云、蓋在二今弓高縣西北二十五里一房將池側近一舊傳、此池每日再增減、不レ失二時候一、又池形窄小似レ井、因二於池側置一レ縣、謂二之候井一。

【候正】52 斥候を司る官。候奄。〔左氏、成、二〕候正亞旅。〔注〕候正、主二斥候一。

【候星】53 ㊀星の名。〔晉書、天文志上〕候一星在二帝座東北一、主レ伺二陰陽一也。㊁星を測候する。〔漢書、天文志〕元光中、天星盡搖、上以問二候星者一、對曰、星搖者、民勞也。〔淮南子、兵略訓〕明二於奇賚陰陽、刑德五行、望氣候星、龜策禨祥一、此善爲二天道一者也。㊂官名。星を占候することを掌る。〔後漢書、百官志、太史令、注〕漢官曰、靈臺待詔四十二人、云云、其十四人候星。

【候接】54 侍りもてなす。〔宋史、宋孝明王皇后傳〕后年十七、性柔順好レ禮、每二帝覩一レ朝、退常具二冠帔一、候接佐二御饌一。

【候占】55 うらなひ見る。〔漢書、天文志〕秦之疆、候二太白一占二狼弧、吳楚之疆、候二熒惑一占二烏衞一。

【候船】56 ものみの船。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五奪二敵候船數十艘一。

【候選】57 官吏たる資格を有し、任用を待つこと。候補(82)に同じ。但、京師に在つて任命を待ち、吏部で銓衡して、上奏引見の上で任命せられる。候缺。〔清會典事例、吏部、漢員銓選、候選文結〕又議准、候選官若途中遺二失赴選文一、取二具該地方官印結一、投二部查對一、與二該有咨報本官起程日期一相符者一、准二取一京官印結一候選。〔六部成語、吏部、候選、注解〕等二候選缺一的官、此乃總名。〔清國行政法汎論、官吏法、文官任命形式〕其既備二官吏資格一、期二待部選一者、謂二之候選一。

【候走】58 hou⁴ tsou³ お靜かに。客の歸るを見送る挨拶。

【候送】59 見送る。旅立を見送る。〔福惠全書、筮仕部、起程〕親友差二人候送一者。

【候卒】60 番兵。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕晞不レ解レ衣、戒二候卒一擊レ柝衞二太尉一。

【候待】61 hou⁴ tai⁴ 待つ。待受ける。

【候對】62 まつ。〔白居易、早朝賀レ雪寄二陳山人一詩〕待瀾五門外、候對二殿裏一。

【候道】63 ものみの置いてある道。〔資治通鑑、宋紀〕(文帝、元嘉二十年)僧達乃自二候道一南奔。〔注〕候道、伺二候邊上一、警急之道也、今沿路列二置烽臺一者、卽候道。

【候奪】64 呈文を差出して審査決定を待つ。呈候核奪の意。

【候聽】65 うかがひ聽く。〔後漢書、郎顗傳〕神在二天門一、出入候聽。

【候蟲】66コウチュウ 季節のむし。春の蝶、秋の蟋蟀などの類。〔柳宗元、酬下婁秀才寓ニ居開元寺一早秋月夜病中見上寄詩〕壁空殘月曙、門掩候蟲秋。〔蘇軾、答ニ李端叔一書〕候蟲時鳥。〔汪淥、宿ニ鄭侯鎭一詩〕微涼初破候蟲秋、露草螢光已不レ流。

【候蹄】67コウテイ 足なみをそろへること。前蹄を候つて相應ずるのをいふ。〔穀梁、昭、八〕車軌塵、馬候蹄。〔注〕發足相應、遲疾相投。

【候鳥】68コウチョウ 時候につれて來たり歸つたりする鳥。わたり鳥。〔陸雲、谷風詩〕潛介淵躍、候鳥雲翔。

【候潮】69コウチョウ 潮をうかがふ。潮時を見る。〔李嘉祐、送ニ冷朝陽及第東歸ニ江寧一詩〕長安帶レ酒別、建業候レ潮歸。〔浙江潮候圖〕杭之爲レ郡、枕ニ帶江海一、行止之淹速、無下不ニ畢聽ニ於潮汐一者上、余承ニ乏茲郡一、雖ニ期會紛紜、邊陲驚急一、必告レ之曰、謹候レ潮、汝毋ニ躁進以自危一。

【候敵】70コウテキ 敵の様子をうかがふ。〔張衡、週天大象賦〕招搖候レ敵、泛ニ舟尤池一。

【候望】71コウボウ ❶うかがひのぞむ。〔墨子、備穴〕城內爲ニ高樓一、以謹候ニ望適人一。〔漢書、匈奴傳下〕逢火候望。❷人から信用せられるのを待つこと。〔管子、明法解〕上則相爲候ニ望於主一、下則買ニ譽於民一。

【候帽】72 hou⁴ mao⁴ 演劇用冠物の一種。形は方形で、香爐に似てゐる。

【候榜】73 hou⁴ pang³ 試驗の發表を待つ。

【候撥】74 hou⁴ po¹ 金の引出しをまつ。支出を待つ。何時でも拂渡す。

【候病】75コウヘイ・コウビョウ 病を見舞ふ。〔唐寅、候病書〕足下患レ病。

【候府】76コウフ 宿衞の官。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕候府寄レ隆、儲端任顯。〔注〕翰曰、候府、宿衞之官也。

【候風】77コウフウ ❶風の吹く方向を伺ふ。候風羽を見よ。❷官名。漢、置く。風を占候することを掌る。〔後漢書、百官志二、太史令、注〕漢官曰、靈臺待詔四十二人、云云、三人候風。

〔候風羽〕78コウフウウ かざみ。風の吹く方向を伺ふ具。〔觀象玩占、候風之法〕凡候レ風、必於ニ高平遠暢之地一、立ニ五丈竿一、以ニ雞羽八兩一爲レ葆、屬ニ竿上一、候ニ風吹一、葆平直則占。〔廣韻〕綄、船上候風羽、楚謂ニ之五兩一。〔淮南子、齊俗訓〕若ニ俔之見レ風也、注〕俔、候レ風者也、世所謂五兩者也。〔集解〕道藏本・朱本注、竝作ニ俔候風雨也一、雨乃羽字之譌。

〔候風地動儀〕79コウフウチドウギ 地震を探知し、震源の方角を見る機械。後漢の張衡が考案創作した地震計。〔後漢書、順帝紀〕秋七月、史官始作ニ候風地動銅儀一。〔後漢書、張衡傳〕陽嘉元年、(衡)復造ニ候風地動儀一、以ニ精銅一鑄成、員徑八尺、合蓋隆起、形似ニ酒尊一、中有ニ都柱一、傍行ニ八道一、施レ關發レ機、外有ニ八龍一、首銜ニ銅丸一、下有ニ蟾蜍一、張レ口承レ之、其牙機巧制、皆隱在ニ尊中一、如有ニ地動一、尊則振レ龍、機發吐レ丸、而蟾蜍銜レ之、振聲激揚、伺者因レ此覺知、雖ニ一龍發レ機、而七首不レ動、尋ニ其方面一、乃知ニ震之所レ在、驗レ之以レ事、合レ契若レ神。

【候文】80サフラフブン 手紙に用ひる文體。候といふ語を用ひるからいふ。書翰文用語。

【候兵】81コウヘイ ❶兵亂を伺ふ。〔晉書、天文志上〕北落師門一星、主ニ非常一以候レ兵。❷ものみの兵士。斥候兵。〔張衡、週天大象賦〕北落置ニ候兵之門一。

【候補】82コウホ ❶官吏が自分の任補を待つこと。候選。〔清會典事例、吏部、漢員銓選、候補文結〕候補官員、止將ニ候補之文一投レ部。〔六部成語、吏部、候補、注解〕在ニ京城一各衙門、或外省專候補、用ニ本地應レ得之缺一。〔清國行政法汎論、官吏法、文官任命形式〕凡地方官候補人員、分爲ニ二種一、曰ニ即用一、曰ニ候補一。❷一般に、條件の成就、又は期限の到來によつて、將來或る地位身分を得べき資格のあること。又、其の人。

〔候補者〕83コウホシャ 候補となる人。

〔候補生〕84コウホセイ 將來將校となる爲に、軍隊教育を受けて居る者。もと、陸軍では士官候補生、海軍では少尉候補生といふ。

【候脈】85コウミャク 血液の流通をうかがふ。診察する。〔搜神記、一〕旬日醫至察ニ其客一、候ニ其脈一。

【候夢】86コウム ゆめうら。夢を占つて吉凶を知る。占夢。〔列子、周穆王〕夢者六候。〔注〕候、占也。

【候門】87コウモン 門まで出てうかがひ待つ。〔陶潛、歸去來辭〕僮僕歡迎、稚子候レ門。〔韓愈、與ニ陳給事一書〕伺ニ候於門牆一。〔袁中郎、請ニ夜陰一書〕毋レ勞ニ穉子候レ門也。

【候問】88コウモン きげんをうかがふ。見まふ。伺候。候視。候伺。訪問。〔漢書、蒯通傳〕使ニ人候ニ問其死生一。〔後漢書、黃琬傳〕時司空盛允有レ疾、瓊遣レ琬候問。〔唐書、房玄齡傳〕帝命鑿ニ苑垣一、以便ニ候問一。

【候夜】89コウヤ よまはりをする。〔淮南子、墜形訓〕有ニ神二人一、連レ臂爲レ帝候レ夜。

【候邏】90コウラ めぐり見る。見はりする。候巡。〔唐書、李謹行傳〕候邏不レ知。

【候來】91コウライ うかがひ來る。〔張衡、西京賦〕鳥則鷫鷞鴰鴇、駕鵞鴻鶤、上春候來。

【候吏】92コウリ ❶斥候をつとめる役人。〔後漢書、李部傳〕幕門候吏。〔後漢書、王霸傳〕候吏還白。❷道路に賓客を送迎する官。〔韓非子、外儲說左下〕臣居レ齊薦ニ三人一、一人得レ近レ王、一人爲ニ縣令一、一人爲ニ候吏一。〔解詁〕周語注、候人、掌ニ送ニ迎賓客一者。

【候遴】93 hou⁴ lin² 選拔を待つこと。

【候樓】94コウロウ もの見やぐら。候館。〔周禮、地官、司市、注〕次、市中候樓也。〔墨子、備城門〕三十步置ニ坐候樓一。

【候佳音】95 hou⁴ chia¹ yin¹ 御返事奉待上候。

【候晷景】96コウキケイ 官名。晷景を占候することを掌る。〔後漢書、百官志二、太史令、注〕漢官曰、靈臺待詔四十二人、云云、三人候晷景。

【候許久】97 hou⁴ hsü² chiu³ 永く待つ。久しく待つ。

【候月竿】98コウゲツカン 上元の夜、月影をはかつて年の豐凶を占ふ一丈の竿。〔玉堂閒話〕上元夜、豎ニ一丈竿於庭中一、候ニ月午一、其影至ニ七尺一大稔、六尺八尺小稔、九尺一丈有レ水、五尺歲旱、三尺大旱。

【候窗監】99コウソウカン 南漢の劉晟が、明窓を望んで曉になるのを見させた宮人をいふ。〔清異錄、君道、候窗監〕南漢劉晟、殿側置ニ宮人一、望ニ明窗一以候レ曉、宮人謂ニ之候窗監一。

【候鐘律】100コウショウリツ 官名。漢、置く。占候のことを掌る。〔後漢書、百官志二、太史令、注〕漢官曰、靈臺待詔四十二人、云云、七人候鐘律。

【候大娘】101 hou⁴ ta⁴ niang² 元宵節に演ずる茶番役の稱。江蘇省儀徵地方の方言。

【候馬亭】102コウバテイ 地名。甘肅省平番縣の西南。〔水經、河水注〕城之西南二十許里、水西有ニ馬蹏谷一、漢武帝聞ニ大宛有ニ天馬一、遣ニ李廣利伐レ之、始得ニ此馬一、有レ角爲レ奇、故漢武帝天馬之歌曰、天馬來兮歷レ無レ草、逕ニ千里一兮循ニ東道一、胡馬感ニ北風之思一、遂頓羈絕絆、驤レ首而馳、晨發ニ京城一、夕至ニ燉煌北塞外一、長鳴而去、因名ニ其處一、曰ニ候馬亭一。

【候冷喫】103 hou⁴ lêng³ ch'ih¹ 冷して食ふ。さまして食ふ。冷えてから食べる。

【候案辦結】104 hou⁴ an⁴ pan⁴ chieh² 裁判の結審を待つ。

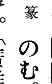
【候票發錢】105 hou⁴ p'iao⁴ fa¹ ch'ien² 早く手形の取付を希望し、現金の支拂をなすべしとの意で、手形發行錢莊が破産するか、又は閉店する時に此の廣告を出し、發行手形の回收を行ふものである。

【倚】776

㊀イ 〔集韻〕隱綺切 〔紙〕 i³

㊁イ 〔集韻〕於義切 〔寘〕

㊂キ 〔集韻〕居宜切 〔支〕


小篆

㊀㊁❶**よる。よせる。たよる。たのむ。附く。**〔說文〕倚、依也、从レ人奇聲。〔廣雅、釋詁四〕倚、依也。〔正字通〕倚、恃也。〔易、說卦〕參レ天兩レ地而倚レ數。〔釋文〕倚、依也。〔楚辭、招魂〕彷徉無レ所レ倚。〔史記、淮陰侯傳〕百姓罷極怨望、容容無レ所レ倚。〔漢書、鄒陽傳、秦倚ニ曲臺之宮一、注〕師古曰、倚、恃也。〔漢書、西域傳下〕親倚ニ都護一。〔注〕倚、依附也。❷**もたれる。よりかかる。**〔禮、禮器〕有司跛倚以臨レ祭。〔注〕依レ物爲レ倚。〔左氏、昭、五〕遠

啓彊曰、設レ机而不レ倚、爵盈而不レ飮。〔論語、衞靈公〕在レ輿則見三其倚二於衡一也。〔皇疏〕倚、猶二憑依一也。❸**原因する。因縁する。**〔廣雅、釋詁四〕倚、因也。〔老子、五十八〕禍兮福之所レ倚。〔注〕倚、因也。❹**調子を合せる。**〔漢書、張釋之傳〕使二愼夫人鼓一レ瑟、上自倚レ瑟而歌。〔注〕師古曰、倚瑟、卽今之以レ歌合レ曲。❺**ちかづく。**〔呂覽、先識〕男女切倚。〔注〕倚、近也。❻**かたよる。偏する。**〔六書故〕倚、偏頗。〔中庸〕中立而不レ倚。〔章句〕倚、偏著也。〔荀子、解蔽〕倚二其所一レ私、以觀二異術一。〔注〕倚、偏倚也。〔荀子、性惡〕倚而觀二天下民人之相與一也。❼**よこしまにする。邪辟。**〔書、盤庚中〕恐人倚二乃身一、迂二乃心一。〔傳〕倚、曲。〔楚辭、大招〕曾頰倚耳。〔注〕倚、辟也。❽**おす。**擠。〔管子、度地〕杜レ曲激則躍、躍則倚。〔注〕倚、排也。❾**立てる。**〔廣雅、釋詁四〕倚、立也。〔易、說卦〕參レ天兩レ地而倚レ數。〔虞注〕倚、立也。❿**まかせる。**〔荀子、解蔽〕倚二其所一レ私。〔注〕倚、任也。⓫**車の箱の横側の板。** 輢(**10－38386**)に通ず。〔漢書、成帝紀贊〕不二內顧一、〔注〕前視不レ過二衡軛一、旁視不レ過二輢較一。〔後漢書、輿服志上〕金薄繆龍、爲二輿倚較一。⓬**姓。**〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕倚氏、楚左史倚相之後也。〔萬姓統譜〕陝西西安府有二倚氏一。⓭現もつ。㊂❶**めづらしい。**奇(**3－5892**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倚、叚借爲レ奇。〔荀子、脩身〕倚魁之行。〔注〕倚、奇也、云云、倚魁、皆謂二偏僻狂怪之行一。❷**かたは。**不具。踦(**10－37655**)・畸(**7－21893**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倚、叚借爲レ踦。〔方言、二〕倚、奇也、自レ關而西、秦晉之閒、凡全物而體不レ具、謂二之倚一。〔莊子、天下〕有二倚人一焉。〔釋文〕倚、本或作レ畸。㊂**ひとつ。**一。奇(**3－5892**)に同じ。又、通じて觭(**10－35105**)に作る。〔集韻〕奇、不レ耦也、或作レ倚、通作レ觭。〔穀梁、僖、三十三〕匹馬倚輪。〔注〕倚輪、一隻之輪。

名乘 カヌ。カネ。ヨリ。モチ。

參考 俗に倚に作る。

【倚愛】1 イアイ たよりいつくしむ。〔後漢書、吳漢傳論〕終二始倚愛之親一。〔注〕差二彊人意一、是倚レ之也、遂見二親信一、是愛レ之也。〔舊五代史、周太祖紀一〕前後將臣、無レ不二倚愛一。

【倚安】2 イアン たより安堵する。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕方今大亂初平、關東倚二安帥府一。

【倚依】3 イイ たよりにする。

【倚移】4 イイ 風に隨ふさま。なびく。倚委。〔說文〕移、禾相倚移也。〔周禮、考工記、總目〕既建而迆、〔注〕鄭司農云、迆、讀爲二倚移從一レ風之移一。

【倚委】5 イヰ 風に隨ふさま。倚移に同じ。

【倚歌】6 イカ ❶歌にあはせる。〔續齊諧記〕繫二箜篌腰一、叩レ之以倚レ歌。〔蘇軾、赤壁賦〕倚レ歌而和レ之。❷樂曲の名。〔古今樂錄〕青陽度、倚歌、凡倚歌悉用二鈴鼓一、無レ弦有レ吹。

【倚蓋】7 イガイ 蓋を傾けてさす。〔晉書、天文志上〕天之居如レ倚レ蓋、故極在二人北一、云云、極在二天之中一、而今在二人北一、所三以知二天之形如一レ倚レ蓋也。

【倚靠】8 i^3 $k'ao^4$ ❶よる。もたれかかる。❷たよりにする。依賴する。

【倚衡】9 イカウ 車の衡によりかかる。史記袁盎傳には騎衡に作る。〔水經、渭水注〕袁盎曰、臣聞、千金之子、坐不レ垂レ堂、百金之子、立不レ倚レ衡。

【倚較】10 イカク 倚は輢に同じ。車旁をいふ。較は車の箱。輢較。〔史記、禮書、彌龍、注〕集解曰、徐廣曰、乘輿車、金薄璆龍爲二輿倚較一。〔後漢書、輿服志上〕金薄繆龍、爲二輿倚較一。〔注〕通俗文曰、車箱爲レ較。

【倚閣】11 イカク 其のままさしおく。〔蘇軾、論二積欠一狀〕有レ旨倚閣者、方得レ依二十科指揮一。

【倚岸】12 イガン 河、又は海の岸により沿ふ。岸に近く在ること。〔白居易、東澗種柳詩〕倚レ岸埋二大幹一、臨レ流插二小枝一。

【倚几】13 イキ ❶机によりかかる。〔國語、楚語上〕左史倚相曰、云云、倚几有二誦訓之諫一。〔注〕誦訓、工師所レ誦之諫、書二之於几一也。❷よりかかる臺。おしまづき。けふそく。椅几。〔張華、倚几銘〕倚几之設、設而不レ倚、作二器於此一、成二禮於彼一。

【倚己】14 i^2 chi^3 自己の力を賴みとする。自分の力を恃む。

【倚巇】15 イキ 山の險しいさま。〔王褒、洞簫賦〕嶇嶔巋崎、倚巇迤孋。〔注〕善曰、皆山險峻之貌。

【倚強】16 i^3 $ch'iang^2$ やさしい感じがしない。

【倚笻】17 イキヨウ 杖による。〔黃庭堅、庚寅乙未猶泊二大雷口一詩〕倚レ笻蒹葭灣、垂楊欲レ生レ肘。

【倚曲】18 イキヨク 歌曲に調子を合せる。〔松窗錄〕帝命二李白一、作二淸平調辭三章一、令下梨園弟子撫二絲竹一以促歌上、帝自調二玉笛一以倚レ曲。

【倚玉】19 イギヨク 倚二玉樹一の畧。立派なものによりかかる。美しい姿。〔世說新語、容止〕魏明帝使下毛曾與二夏侯玄一共坐上、時人謂三蒹葭倚二玉樹一。〔韓愈、和二席八一十二韻詩〕倚玉難レ藏レ拙、吹レ竽久混レ眞。

【倚玉之榮】20 イギヨクノエイ 婚姻を結ぶのをいふ。〔書言故事、婚姻類〕得レ爲二親姻一、言レ諧二倚レ玉之榮一。

【倚魁】21 イクワイ 奇怪。〔荀子、脩身〕倚魁之行、非レ不レ難也、然而君子不レ行、止レ之也。〔注〕倚、奇也、奇讀爲二奇偶之奇一、方言云、秦晉之閒、凡物體全而不レ具、謂二之倚一、魁、大也、倚魁、皆謂二偏僻狂怪之行一。

【倚勸】22 イクワン 生紗をかぶりものとしたもの。〔南史、齊廢帝海陵王紀〕時多以二生紗一爲レ帽、半二其裙一而析レ之、號曰二倚勸一、先レ是、人閒語好云、擾攘建武、至レ是朝士勸進、實爲二忽遽一、倚勸擾攘之言、於レ是驗矣。

【倚傾】23 イケイ かたよりかたぶく。ととのはないさま。〔司馬相如、上林賦〕磐石振レ崖、嶔巖倚傾。〔注〕翰曰、嶔巖倚傾、不レ齊貌。〔曹植、九愁賦〕顧二南郢之邦壞一、咸蕪穢而倚傾。

【倚輗】24 イゲイ 輗によりかかる。輗は、ながえの端。〔王褒、四子講德論〕倚レ輗而聽レ之。〔注〕善曰、包咸論語注曰、輗者、轅端橫木、以縛レ軛也。

【倚劍】25 イケン 劍にすがる。〔呂覽、壹行〕倚レ劍而寢二其下一。〔李白、發二白馬一詩〕倚レ劍登二燕然一、邊烽列二嵯峨一。

【倚子】26 イシ 腰を掛ける具。椅子(**6－15009・・5**)に同じ。〔老學庵筆記、一〕更敢用二檀香一作二倚子一耶。〔侯鯖錄〕廳事有二倚子一隻一。

【倚簁】27 イシ 人の細かく技巧の多いこと。簁は箕で、細かいのを貴ぶ。〔釋名、釋姿容〕倚簁、倚伎也、簁作二淸簁一也、言下人多二技巧一、尙二輕細一如上レ簁也。

【倚事】28 イジ 怪異なこと。不思議なこと。〔荀子、榮辱〕飾二邪說一、文二姦言一、爲二倚事一。〔注〕倚事、怪異之事。

【倚恃】29 イジ よりたのむ。〔後漢書、蓋勳傳〕倚二恃權勢一、恣行二貪橫一。〔孟郊、黃雀吟〕黃雀舞二承塵一、倚恃主人仁。

【倚瑟】30 イシツ 瑟に調子を合はす。〔漢書、張釋之傳〕使二愼夫人鼓一レ瑟、上自倚レ瑟而歌。〔注〕師古曰、倚レ瑟、卽今之以レ歌合レ曲也。〔西京雜記、一〕高帝戚夫人、善鼓レ瑟擊レ筑、帝常擁二夫人一、倚レ瑟而絃歌、泣下流漣。

【倚瑟行】31 イシツカウ 新樂府辭の曲名。唐、鮑溶作。漢の文帝が霸陵に走り、愼夫人に瑟を鼓せしめ、帝自ら瑟に合はせて歌つたのを詠じたもの。〔樂府詩集、新樂府辭、樂府雜題、倚瑟行〕漢書曰、文帝至二霸陵一、愼夫人從二帝指一視二新豐道一曰、此走二邯鄲一道也、使二愼夫人鼓一レ瑟、帝自倚レ瑟而歌、意悽愴悲懷、李奇曰、聲氣依二倚瑟一也、顏師古曰、愼夫人邯鄲人、倚瑟卽今之以レ歌合レ曲也。〔鮑溶、倚瑟行〕金輿傳レ警灞水涯、龍旗參レ天行殿巍、左二文皇帝一右二愼姬一、北面侍臣張釋之、因レ高知レ處邯鄲道、壽陵已見生二秋草一、萬世何人不二此歸一、一言出レ口堪二生老一、高歌倚レ瑟揚二淸悲一、樂餘哀生知レ爲レ誰、臣驚謠歎不レ可レ放、願賜二一言一釋二名妄一、明珠爲レ日紅亭亭、水銀爲レ河玉爲レ星、泉宮一閉秦國喪、牧童弄レ火驪山上、生死與レ世無レ情在二速貧一、棄二屍於野一由レ斯葬、生死茫茫不レ可レ知、是不二一姓一君莫レ悲、始皇有レ訓

二世誓、君獨何人至ニ於斯一、灞陵一代無ニ發毀一、儉風本是張廷尉。

【倚者】32 イシャ　よりかかつて保つてゐるもの。〔淮南子、說林訓〕傾者易レ覆也、倚者易レ軵也、幾易レ助也、濕易レ雨也。

【倚藉】33 イシャ　たのむ。よりたよる。〔福惠全書、庶政部、禁ニ造ニ假銀一〕倚ニ藉勢豪一、勾ニ連市棍一。

【倚邪】34 イシャ　❶かたよりよこしまなこと。〔管子、版法〕植固不レ動、倚邪乃恐。〔纂詁〕倚、讀爲レ掎、掎、曲也、書曰、恐人倚ニ乃身一、言、君心堅固、不レ爲ニ物所レ動、則掎曲邪枉之人乃恐、不ニ敢爲一レ非。❷よこしまな行を正しいものにする。〔淮南子、人間訓〕立ニ私於公一、倚ニ邪於正一、而以勝レ惑ニ人之心一者也。

【倚相】35 イシャウ　❶春秋、楚の左史。能く三墳・五典・八索・九丘の書を讀んだといふ。〔左氏、昭、十二〕。❷複姓。楚の倚相の子孫の姓。〔元和姓纂〕倚相氏、楚左史倚相之後。

【倚商】36 イシャウ　蔓草の名。あけび。山女。丁翁。〔爾雅、釋草〕倚商、活脫。〔注〕卽離南也。〔本草、通脫木〕釋名、頌曰、爾雅、離南活莧、卽通草也、山海經、名ニ寇脫一、又名ニ倚商一、集解、藏器曰、俗名ニ通草一。

【倚墻】37 イシャウ　他物によりかかつた危險な垣根。〔淮南子、說山訓〕故沮舍之下、不レ可ニ以坐一、倚墻之傍、不レ可ニ以立一。

【倚酒】38 イシュ　他人の家によつて酒を飲むこと。〔海錄碎事、鬼神道釋、仙〕太霄經云、朱仲嘗於ニ會稽一賣ニ珠、漢高后時人、仲以ニ素書一倚ニ酒於女几家一、几盜寫ニ學其術一、女几、陳市上酒婦也。〔倚酒三分醉〕39 i²chiu³ san¹ fen¹ tsui⁴ 酒の勢を借りる。酒に醉つたふりする。

【倚乘】40 イジョウ　車に立つたまま乘つてゐること。倚は立つて軾によること。〔禮、曲禮上〕婦人不ニ立乘一。〔疏〕婦人不ニ立乘一者、立、倚也、婦人質弱、不ニ倚乘一、異ニ男子一也、男子倚乘、婦人坐乘、所ニ以異一也。

【倚信】41 イシン　信用してたよる。頼みとし信任する。〔十八史略、宋、太祖皇帝〕趙普薦ニ人、遇ニ上於滁州一云云、卽位後、專與ニ謀議一、倚ニ信之一。

【倚人】42 イジン　かたはもの。不具者。畸人。〔莊子、天下〕南方有ニ倚人一焉。〔釋文〕本或作ニ畸一、同、紀宜反、李云、異也。〔集釋〕楊注、畸、謂ニ不齊一也、不齊、卽異之義也。

【倚任】43 i³ jen⁴　信頼して任せ使ふ。

【倚翠】44 イスイ　❶あひよつてゐる二つの翡翠色のもの。轉じて、美人の眉をいふ。〔高適、秋胡行〕妾本邯鄲未レ嫁時、容華倚翠人未レ知。❷樓閣の名。松の翠に倚つて蔽はれてゐることからいふ。〔揮麈後錄〕西牟山閒樓曰ニ倚翠一、青松蔽密布于前後一、號ニ萬松一。

【倚生】45 イセイ　明、沈周（6－17189‥195）の號。

【倚數】46 スウ　數を立てる。〔易、說卦〕參レ天兩レ地而倚レ數。〔疏〕正義曰、倚、立也。

【倚勢】47 セイ　勢力を恃む。〔宋史、李光傳〕朱勔父沖、倚レ勢暴横。

【倚勢陵人】48 i³ shih⁴ ling² jen² 勢力・權勢を笠に着て人を苦しめる。

【倚聲】49 セイ　詞調の聲律によつて字句を塡入し、音節を本調と相合せしめること。塡詞（3－5355‥37）に同じ。塡詞とは、多く前人の調に依つて作るからいふ。〔文體明辯、詩餘〕按、詩餘者、古樂府之流別、而後世歌曲之濫觴也、蓋自ニ樂府散亡、聲律乖闕一、唐李白氏始作ニ清平調一、憶秦娥菩薩蠻諸詞、時因效レ之、厥後行衞尉小卿趙崇祚、輯爲ニ花間集一、凡五百闋、此近代倚聲塡詞之祖也。

【倚石】50 セキ　よりあつてゐる石。くつついた石。〔幽明錄〕有ニ倚石一、如ニ二人像一、攘袂相對。

【倚席】51 セキ　席によりかかる。〔後漢書、儒林傳序〕自ニ安帝覽一レ政、薄ニ於藝文一、博士倚レ席不レ講。

【倚蓮】52 セン　瑞草の名。倚扇に同じ。〔太平御覽、休徵部、草、蓮莆〕孫氏瑞應圖曰、蓮莆、一名倚扇、一名實聞、一名倚蓮。

【倚扇】53 セン　帝舜の時の瑞草。倚蓮。一名、蓮莆。〔宋書、符瑞志下〕江夏王義恭上表曰、嘉禾甘露頌云云、其頌曰、昔在放勳、曆莢數朝、降及ニ重華一、倚扇清レ庖、鑠矣皇慶、比物競昭。〔宋書、符瑞志下〕蓮莆、一名倚扇、狀如レ蓬、大枝葉、小根、根如レ絲、轉而成レ風、殺レ蠅、堯時生ニ於廚一。

【倚待】54 タイ　立つてまつ。〔海錄碎事、文學、文章〕荊州信云、倚ニ待謝朓一、執レ筆便成、文無ニ加點一、倚待如レ立俟也。

【倚刀】55 i³ tao¹　立刀。漢字の部首。

【倚棹】56 タウ　舟に乘る。〔盧照鄰、葭川獨泛詩〕倚レ棹春江上、橫レ舟石岸前。

【倚卓】57 タク　椅子と卓子。〔楊億、談苑〕景德中、主家造ニ檀香倚卓一。

【倚託】58 タク　よりたのむ。たよる。依託（1－607‥88）に同じ。

【倚檐】59 タン　よりかかること。倚は依、檐は擔に同じ。〔雲笈七籤、鄭南海紫邏任叟傳〕有ニ樵叟一、倚ニ檐於壁一、亦坐焉。

【倚聽】60 チャウ　たちぎき。ぬすみぎき。〔南史、顧歡傳〕鄉中有ニ學舍一、歡貧無ニ以受一レ業、於ニ舍壁一後ニ倚聽一。

【倚仗】61 ヂャウ　よる。頼る。たのむ。依頼する。倚杖。〔魏志、王肅傳〕進士之志勸、各展ニ才力一、莫ニ相倚杖一。〔北史、魏收傳〕虛ニ心倚仗一。〔世說新語、品藻〕龐士元曰、論ニ王霸之餘策一、覽ニ倚仗之要害一、吾似レ有ニ一日之長一。

【倚杖】62 ヂャウ　❶たのむ。倚仗に同じ。〔晉書、桓謙傳〕兄弟顯列、〔桓玄〕甚倚ニ杖之一。〔干寶、晉紀總論〕倚ニ杖虛曠一、依ニ阿無心一。❷ヨウヂャウ　杖による。杖をつく。〔杜甫、春歸詩〕倚レ杖看ニ孤石一、傾レ壺就ニ淺沙一。

【倚注】63 チュウ　心をよせる。〔魏志、陳思王植傳評、注〕魚豢曰、至ニ於植一者、乃令下楊脩以ニ倚注一、遇レ害、丁儀以ニ希意一、族滅上哀夫。〔舊五代史、梁末帝紀上〕徧諭ニ羣情一、勿レ興ニ浮議一、倚注之意、卿宜レ體レ之。〔白居易、杜佑致仕制〕方深倚注、久未レ得レ謝。

【倚柱】64 チュウ　柱によりかかる。〔戰國、齊策〕齊人有ニ馮諼者一云云、居有レ頃、倚レ柱彈ニ其劍一、歌曰、長鋏歸來乎、食無レ魚。

【倚重】65 チョウ　たのみとして重んずる。〔唐書、杜讓能傳〕值ニ機無一レ所ニ遺算一、帝倚ニ重之一。

【倚頓】66 トン　戰國時代の富豪。猗頓（7－20493‥13）を見よ。〔韓非子、解老〕雖下上有ニ天子諸侯之勢尊一、而下有中倚頓陶朱卜祝之富上、猶失ニ其民一而亡ニ其財一也。〔法言、學行〕倚頓之富以爲レ孝。

【倚馬】67 バ　文を作るに敏捷なこと。倚馬七紙を見よ。〔李白、與ニ韓荊州一書〕請日試ニ萬言一、倚レ馬可レ待。〔書言故事、文章類、倚馬可レ待〕作文敏捷、倚馬可レ待、唐李白、嘗曰、請試ニ萬言一、倚レ馬可レ待。

【倚馬才】68 サイバノ　卓絶せる文才。倚馬七紙を見よ。〔吳融、靈池縣見ニ早梅一詩〕棲身未レ識登龍地、落筆元非ニ倚馬才一。

【倚馬七紙】69 シチシ　文才の敏捷なこと。馬前で立ちどころに、七枚の紙に書く程の長文を草した晉の袁虎の故事。〔世說新語、文學〕桓宣武北征、袁虎時從、被レ責免レ官、會須ニ露布文一、喚レ袁倚ニ馬前一、令レ作、手不レ輟レ筆、俄得ニ七紙一、殊可レ觀。

【倚拜】70 キハイ　一方の膝を屈して拜すること。又、物によつて拜する。〔周禮、春官、大祝〕辨ニ九拜一、七曰、奇拜。〔注〕奇、讀爲ニ奇偶之奇一、謂ニ先屈ニ一膝一、今雅拜、是也、或云、奇、讀曰レ倚、倚拜、謂ニ持レ節持レ戟拜一、身倚レ之以拜。

【倚倍】71 イバイ　よることとそむくこと。〔墨子、經說下〕倚倍拒堅。〔閒詁〕言、相依倚、相倍負。

【倚邦】72 ハウ　山名。雲南省思茅縣の東南。

【倚望】73 バウ　❶門に憑つて子の歸りを待ち望む。倚門望。〔白居易、李懇贈ニ太尉一制〕方深倚望、奄忽淪謝。❷有毒蟹の一種。〔臨海水土記〕倚望常起、顧ニ視西東一、其形如ニ螯蝑一大、行ニ途上四五進、輒擧ニ兩螯八足一起望、入ニ穴中一乃止。〔楊愼、異魚圖贊〕蟹有ニ倚望一、常起顧睨。

【倚傍】74 バウ　たのみにする。先例に則る。祖法を遵奉する。〔晉書、王彪之傳〕謂ニ（桓）溫一曰、公阿ニ衡皇家一、便當ニ倚ニ傍先代一耳。

【倚薄】75 バク　よりつく。身に迫る。〔謝靈運、過ニ始寧墅一詩〕拙疾相倚薄、還得ニ靜者便一。〔注〕善曰、薄、謂ニ相附一也。

【倚畀】76 i³ pi⁴　依頼。委任。

【倚靡】77 ビ　決しないさま。態度のはつきりしないさま。〔晉書、嵇康傳、將ニ卑儒委隨一、承旨倚靡一、爲ニ面從一乎。

【倚附】78 フイ　より從ふ。〔書、君陳、無ニ倚レ法以削一

疏〕無レ得丁倚二附法制一、以行丙刻乙削百姓甲。

【倚伏】79 禍と福とは、互に相因つて生じ相潛まり伏する。〔老子、五十八〕禍兮福之所レ倚、福兮禍之所レ伏。〔漢書、敍傳上〕北叟頗識二其倚伏一。〔後漢書、張衡傳〕吉凶倚伏、幽微難レ明。〔駱賓王、帝京篇〕古來榮利如二浮雲一、人生倚伏信難レ分。

【倚物】80 奇怪な物。字解㊂の❶❷を見よ。〔荀子、儒效〕倚物怪變、所レ未二嘗聞一也。〔注〕倚、奇也、韓詩外傳作二奇物怪變一。

【倚偏】81 かたよる。〔中庸、中立而不レ倚、章句〕倚、偏著也。

【倚門】82 ❶家の門によつて、子の歸りを望む。倚門望を見よ。❷市の門の傍で賣淫する。又、其の者。淫賣婦。〔史記、貨殖傳〕刺二繡文一、不レ如レ倚二市門一、此言二末業・貧者之資一也。

【倚門訓】83 母のなさけある教訓。〔晉書、潘岳傳論〕蔑二棄倚門之訓一、乾二沒不逞之間一。

【倚門情】84 母が子を思ふなさけ。倚門望。倚閭望。〔張說、岳州別三姚司馬紹之制許二歸侍一詩〕天從二扇枕願一、人遂二倚門情一。

【倚門親】85 他鄕に在る子の歸るのを待ちわびる親。〔步元擧、下第過二楡次一詩〕意氣敢論題柱客、晨昏多負倚門親。

【倚門望】86 家の門によりかかつて望むこと。父母が其の子の歸を待つことの切なのをいふ。戰國、齊の王孫賈の母の故事。〔戰國、齊策〕王孫賈年十五、事二閔王一、王出走、失二王之處一、其母曰、女朝出而晚來、則吾倚レ門而望、女暮出而不レ還、則吾倚レ閭而望。〔王維、送二友人南歸一詩〕懸知倚門望。〔劉長卿、客舍贈下別韋九建赴二任河南一云云便觀省上詩〕且副二倚門望一。〔書言故事、父母類〕處レ外者有二母在一、曰レ有二倚門之望一。

【倚門之愁】87 人を慕ひ待つこと。倚門望を見よ。

【倚門傍戶】88 奴僕をいふ。〔五燈會元〕僧問二紙衣和尙一、如何是賓中賓、曰、倚門傍戶。〔五燈會元〕智賢小參偈曰、倚二他門戶一傍二他牆一、剛被二時人喚二作郞一。

【倚佯】89 あじろ。竹でアンペラのやうに編んだもの。倚陽。〔方言、五〕笷篖、自レ關而東、周洛楚魏之閒、謂二之倚佯一。

【倚陽】90 あじろ。倚佯に同じ。〔廣雅、釋器〕佯篖・倚陽、笷篖也。

【倚來】91 よりかかる。來は助辭。〔張籍、酬二藤杖一詩〕倚來自覺身生レ力、每向二旁人一說得時。

【倚賴】92 たよる。依賴。〔顏氏家訓、誡兵〕讒有二氣幹一、便倚二賴之一。〔晉書、東海王越傳〕朝廷社稷、倚二賴於公一。

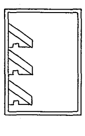
【倚欄】93 欄干にもたれる。〔趙嘏、宿二靈巖寺一詩〕倚レ欄香徑晚、移レ石太湖秋。

【倚閭】94 ❶里門によりかかつて、子の歸りをまつ。閭は里門。倚門望(86)を見よ。❷父母の喪中に住む假のいほり。倚廬(97)に同じ。〔書言故事、死喪類〕親喪、居二倚閭一。

【倚閭望】95 里門によりかかつて子の歸りを待つこと。倚門望(86)を見よ。

【倚輪】96 一つの車輪。倚は奇。〔穀梁、僖、三十三〕匹馬倚輪無二反者一。〔注〕倚輪、一隻之輪。

【倚廬】97 父母の喪中に住む假のいほり。中門外の片隅に差掛けて作る。〔周禮、天官、宮正、大喪則授二廬舍一、注〕廬、倚廬也。〔儀禮、喪服傳〕居二倚廬一、寢レ苫枕レ塊。〔禮、喪服大記〕父母之喪、居二倚廬一不レ塗。〔疏〕居二倚廬一者、謂下於二中門之外、東牆之下一、倚レ木爲中廬。〔左氏、襄、十七〕居二倚廬一、寢レ苫枕レ草。〔會箋〕倚廬、倚レ木爲レ廬也、在二中門外東牆下一、起レ廬、先以二一木一橫二於牆下一、去レ牆五尺、臥二於地一爲レ楣、卽立二五椽於上一、斜倚二東墻上一、以二草苫一蓋レ之、其南北面、亦以レ艸屛レ之、向レ北開レ戶、既葬起レ楣、支以二短柱一令二稍高一、而下可レ作レ戶、改二北戶一而西向、塗二廬內一、翦屛、既練舍外寢、外寢在二中門之外一。〔荀子、禮論〕屬茨倚廬。〔注〕倚廬、鄭云、倚レ木爲レ廬、謂下一邊著レ地、如二倚レ物者一、既葬、柱楣塗廬上也。〔墨子、節葬下〕處二倚廬一、寢レ苫枕レ凷。


倚廬（三禮圖）

【倚樓】98 ❶たかどのによる。〔杜甫、江上詩〕勳業頻看レ鏡、行藏獨倚レ樓。〔李山甫、柳詩〕傍二他門戶一倚二他樓一。❷清、趙植庭(10−37171··702)の號。

【倚雲閣】99 室名。❶清、顧琮（鎭洋の人）(12−43689··133)の室名。❷清、汪灝(6−17154··24)の室名。

【倚翅兒】100 i³ ch'ih⁴ êrh 椅子のもたれ。

【倚樹閣】101 清、安箕(3−7072··77)の室名。

【倚書床】102 i³ shu¹ ch'uang² 見臺。書籍を凭せかける臺。

【倚晴閣】103 清、魏坤(12−45872··60)の室名。

【倚晴樓】104 清、黃燮淸（12−47926··1198）の室名。

【倚晴樓七種】105 淸代の戲曲の書名。黃憲淸撰。茂陵絃・帝女花・脊令原・鴛鴦鏡・凌波影・桃谿雪・居官鑑の七種。就中、茂陵絃・帝女花・桃谿雪の三篇が最も著る。

【倚天劍】106 天に突き立つた利劍。〔李白、大獵賦〕於レ是擢二倚天之劍一、彎二落月之弓一。

【倚倚嚱嚱】107 聲の形容。〔宋史、律歷志四〕齒合而脣啟、謂二之徵一、倚倚嚱嚱然。

【倚楹之戚】108 魯の漆室の女が柱によりかかつて國を憂へ、人を傷んで吟嘯したといふ故事。〔後漢書、盧植傳〕嫠有二不レ恤レ緯之事一、漆室有二倚楹之戚一。〔注〕琴操曰、魯漆室女、倚レ柱悲吟而嘯、鄰人見二其心之不一レ樂也、進而問レ之曰、有二淫心欲一レ嫁之念一耶、何吟之悲、漆室女曰、嗟乎、子無レ志、不レ知レ人之甚也、昔者楚人得二罪於其君一、走逃二吾東家一、馬逸蹈二吾園葵一、使二吾終年不一レ厭レ菜、吾西鄰人失レ羊不レ還、請二吾兄追一レ之、霧濁水出、使二吾兄溺死一、終身無レ兄、政之所レ致也、吾憂レ國傷レ人、心悲而嘯、豈欲レ嫁哉、自傷懷結、而爲二人所一レ疑、於レ是褰レ裳入二山林之中一、見二女貞之木一、喟然歎息、援レ琴而絃歌以二女貞之辭一、自經而死。

【倚官仗勢】109 i³ kuan¹ chang⁴ shih⁴ 官威を笠に著る。官吏が職權を楯に人民をいぢめる。

【倚嬌倚痴】110 i³ chiao¹ i³ ch'ih² 婦人が男子に媚態を示して倚りかかる形容。

【倚財仗勢】111 i³ t'sai² chang⁴ shih⁴ 金權を笠に著る。財產勢力を笠に著る。

【倚主仗勢】112 i² chu³ chang⁴ shih⁴ 惡僕・惡召使などが、主人の威光を笠に著る。

【倚松道人】113 宋、饒節(12−44400··33)の號。

【倚松老人】114 字號。❶宋、如璧(3−6060··113)の號。❷宋、饒節(12−44400··33)の號。

【倚松老人集】115 書名。三卷。宋、饒節撰。節は僧となり、北宋詩僧中の第一と稱せらる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【倚辯之才】116 辯舌にたくみな才能。〔白居易、除二裴武太府卿一制〕有二通敏之識一、有二倚辯之才一。

【倚墻墻崩倚壁壁倒】117 i³ ch'iang² ch'iang² pêng¹ i³ pi⁴ pi⁴ tao³ 墻に倚れば墻が崩れ、壁に倚れば壁が倒れる。賴む木蔭に雨が漏る。

【倛】777

㊀キ 〔集韻〕丘其切 支　くー ch'i¹
㊁キ 〔集韻〕去吏切 寘

㊀❶**あざむく**。欺(6−16097)に同じ。〔集韻〕欺、說文、詐欺也、或作レ倛。❷**鬼やらひにかぶる面**。四目あるのを方相、兩目あるのを倛といふ。頬(12−43544)・僛(1−1295)に通ず。〔正字通〕倛、與二頬・僛一通。〔荀子、非相〕仲尼之狀、面如二蒙倛一。〔注〕韓侍郎云、四目爲二方相一、兩目爲レ倛。❸淮南地方で雨を祈る土偶人。〔集韻〕倛、淮南、祈レ雨土偶人曰レ倛。㊁倛儗は、行き進まぬこと。〔集韻〕倛、倛儗、不レ前。

【倛醜】1 雨乞ひの土偶人。淮南子、精神訓に頬醜に作る。欺醜。〔應璩、與二廣川長岑文瑜一書、注〕淮南子曰、西施毛嬙、猶二倛醜一也、高誘曰、倛醜、請レ雨土人也。

【倜】778 ㊀テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 錫 ㄊㄧˋ t'i4 ㊁テウ 〔集韻〕多嘯切 嘯 ㊂チウ チユ 〔集韻〕張流切 尤

小篆

㊀❶拘束せられないさま。倜儻。〔說文新附〕倜、倜儻、不羈也、从レ人从レ周、未レ詳。〔廣韻〕倜、倜儻、不羈。❷物のさま。倜然(3)を見よ。❸張る。〔太玄經、去〕物咸倜倡。〔注〕倜、張也。❹すぐれる。俶(1―732)に同じ。〔集韻〕俶、俶儻、卓異也、或作レ倜。㊁おろか。〔集韻〕倜、倜傺、癡皃。㊂❶そむく。もとる。或は侏(1―592)に作る。〔集韻〕倜、菲也、太玄、物咸倜倡、或作レ侏。❷侜(1―606)に同じ。〔正字通〕侜、又作レ倜。

參考 ㊂の集韻の菲也の二字は集韻に菲也に作れるを集韻考正に從つて改めた。篇海は華也に作る。これに從へば、はなやかの義となる。〔篇海〕倜、華也、太玄、物咸倜倡。

【倜傺】1 テウゲウ おろかなさま。〔集韻〕倜、倜傺、癡皃。

【倜倡】2 テキシヤウ さかんなさま。〔太玄經、去〕物咸倜倡。〔注〕倜、張也、倡、盛也。

【倜然】3 テキゼン ❶遙かに遠いさま。又、高く遠いさま。倜倜然。〔荀子、君道〕倜然乃擧二太公於州人一而用レ之。〔集解〕郝懿行曰、按、倜、超遠也。〔荀子、彊國〕倜然莫レ不三明通而公二也。〔注〕倜然、高遠貌。❷高く擧がるさま。〔荀子、彊國〕俄而天下倜然擧、去二桀紂一、而犇二湯武一。〔注〕倜然、高擧之貌。❸疏遠なさま。〔荀子、非十二子〕倜然無レ所二歸宿一。〔注〕倜然、疏遠貌。

【倜儻】4 テキタウ 他物に拘束せられないさま。又、衆人とかけ離れて優れてゐること。俶儻。〔司馬遷、報二任少卿一書〕唯倜儻非常之人稱焉。〔注〕善曰、廣雅曰、倜儻、卓異也。翰曰、唯奇才高遠之人、乃稱レ之也。〔漢書、朱雲傳〕好二倜儻大節一、當世以レ是高レ之。〔論衡、自紀〕屈奇之士見、倜儻之辭生。〔魏志、杜恕傳〕倜儻任意、而思不レ防レ患。〔李白、贈二宣城宇文太守一兼呈二崔侍御一詩〕岧嶤廣成子、倜儻魯仲連。

【倜倜然】5 テキテキゼン 高く遠いさま。倜然(3)の❶を見よ。〔荀子、彊國〕倜倜然其不レ及遠矣。

【倝】779 カン 〔集韻〕居案切 翰

小篆 籀文

❶日が出て光のかがやくこと。〔說文〕倝、日始出、光倝倝也、从レ旦㫃聲。❷もちひる。〔玉篇〕倝、用也。❸籀文は𠦝(1―1290)に作る。〔說文〕倝、𠦝、闕且。〔段注〕闕且二字、當レ作二籀文二字一。

【倞】780 ㊀ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠映切 敬 ㊁リヤウ 〔集韻〕力讓切 漾 ㄌㄧㄤˋ liang4

小篆

㊀❶つよい。〔說文〕倞、彊也、从レ人京聲。〔廣雅、釋詁一〕倞、強也。❷或は傹(1―1032)に作る。〔集韻〕倞、或作レ傹。㊁❶あきらか。或は亮(1―304)に作る。〔說文通訓定聲〕倞、明也、从レ人京聲、字亦作レ亮、錢辛楣師曰、漢分・隸、往往以レ亮爲レ倞、蓋隸變移二人旁于京下一、又省二京中一一、遂爲二亮形一、按、此說是也。❷とほい。〔集韻〕倞、遠也。❸もとめる。或は諒(10―35653)に作る。〔禮、郊特牲〕祊之爲レ言、倞也。〔注〕倞、猶レ索也、倞、或作レ諒。❹きそふ。競(8―25831)に通ず。〔開元石經、詩、大雅、桑柔〕秉レ心無レ倞。〔詩、大雅、桑柔〕秉レ心無レ競。

【借】781 ㊀シヤ 〔集韻〕子夜切 禡 ㄐㄧㄝˋ chieh4 ㊁セキ シヤク 〔集韻〕資昔切 陌

小篆

㊀㊁❶かりる。かり。〔說文〕借、假也、从レ人昔聲。〔段注〕按、小徐本無二此字一、張次立乃依二大徐一增レ之。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕外戚賓客、假二借威權一。〔注〕借、假也。〔晉書、阮裕傳〕吾有レ車、而使三人不二敢借一。〔宋之問、爲二皇甫懷州一讓レ官表〕雖レ勉二三歲之勤一、何補二一年之借一。❷かす。助ける。〔正字通〕借、貸也、助也、推奬也。〔論語、衞靈公〕有レ馬者借レ人乘レ之。〔漢書、朱雲傳〕借レ客報レ仇。〔注〕師古曰、借、助也。❸かりに。たとひ。假設の助辭。藉(9―32242)に通ず。〔說文、借、段注〕古多用レ藉爲レ借、如レ言二藉令一、卽假令也。〔正字通〕借、設辭。〔詩、大雅、抑〕借曰レ未レ知。〔傳〕借、假也。〔漢書、霍光傳〕詩云、藉曰レ未レ知。〔注〕師古曰、藉、假也。❹現たよる。寄せる。よせつける。

【借意】1 chieh4 i4 比喩。譬言。

【借一】2 シヤクイツ 一戰を試みることをいふ。〔左氏、成、二〕請收二合餘燼一、背レ城借レ一。〔注〕欲下於二城下一復借中一戰上也。

【借印】3 chieh4 yin4 任地を離れた官吏が、公文書に捺印する時は、其の所在地の官廳で、自己の官職に相當する者の官印を借用すること。

【借韻】4 シヤクヰン 五七言近體の詩の第一句に、旁韻を借用すること。〔滄浪詩話〕有二借韻一、如下押二七之韻一、可上借二八微或十二齊韻一、是也。

【借閱】5 シヤクエツ かりて讀むこと。借讀。〔國朝漢學師承記、汪中〕及レ長、鬻二書於市一、與二書賈一處、得レ借二閱經史百家一。

【借屋】6 シヤクヲク シヤクヤ 賃錢を拂つて家を借りる。又、其の家。借家に同じ。〔劉克莊、再和二實之一詩〕借二屋城中一又一春、桃符萬口說二淸新一。〔汪元量、隆州詩〕湯城借レ屋偏栽レ柳、市井人家卻種レ桑。

【借家】7 シヤクカ 賃錢を拂つてかりて住む家。借宅。借屋。

【借家法】8 シヤクカハフ 建物の賃貸借に關して規定した法律。

【借假】9 シヤクカ かりる。〔晉書、刑法志〕借二假不廉一、淫侈踰レ制。

【借解】10 シヤクカイ 借金して稅金を出す。又、其の金。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕借解不レ准二議蠲一、仍行二追補一。

【借項】11 chieh4 hsiang4 簿記用語。借方。

【借鑑】12 シヤクカン 鏡を借りて明かにてらす。轉じて、他人の事を以て自分の戒とすること。借鏡。〔淮南子、主術訓〕夫據除而窺二井底一、雖二達視一、猶不レ能レ見二其睛一、借二明於鑑一以照レ之、則寸分可二得而察一也。〔注〕鑑、鏡也。

【借鑑樓】13 シヤクカンロウ 淸、余杰(1―515・・57)の室名。

【借吉】14 シヤクキツ 喪中に結婚する時、他から吉を借りて來ること。唐代の風習。〔舊唐書、蔣乂傳〕臣聞、里俗有下不三甚知二禮法一者上、或女居二父母服内一、家既貧匱、旁無二至親一、卽有二借レ吉以就レ禮者一、男子借レ吉而娶、臣未二嘗聞一レ之。

【借給】15 chieh4 kei3 ❶貸し與へる。❷云云に貸してくれ。

【借鏡】16 シヤクキヤウ ❶鏡を借りてうつしてらす。轉じて、かんがみる。模範とする。他人の言行を以て自分の戒とする。借鑑。〔新論、貴言〕人目短二于自見一、故借レ鏡以觀レ形。❷chieh4 ching4 參考。參照。

【借據】17 chieh4 chü4 借用證書。

【借金】18 シヤクキン 金を借りる。借りた金。債財。借債。〔御定書百箇條〕質地・借金等に取りやり仕り候者。

【借銀】19 シヤクギン かりた金。借金に同じ。〔狂言、胸突〕借銀を負ひ。

【借狗】20 シヤクク 狗を借りる。〔唐書、高祖二十二子、滕王元嬰傳〕從レ民借レ狗求レ罝、所レ過爲レ害。

【借區】21 シヤクク 借りてゐる區域。

【借光】22 シャククワウ ㊀お蔭を蒙る。〔桃花扇、眠香〕今日借光。〔燕子箋、辨奸〕老夫借光不レ淺。㊁chieh⁴ kuang¹ ㋑有難う。㋺御免なさい、一寸御伺ひ申します等の挨拶語。㋩もしもし。

【借換】23 シャククワン 書法の一種。一つの文字に就いて其の偏旁等の位置を適宜に取り換へること。〔歐陽詢、三十六法〕借換、如下醴泉銘祕字、就二示字右點一、作中必字左點上、此借換也、黃庭經庭字㲲字、亦借換也、又如二靈字一、法帖中或作レ罡、或作レ小、亦借換也、又如二蘇之爲一レ蘓、秋之爲レ烁、鵝之爲レ鵞爲レ䳘之類一、爲二其字難一レ結レ體、故互換如レ此、亦借換也、所謂東映西帶、是也。

【借款】24 シャククワン 負債を起す。借金する。〔清史稿、食貨志二〕時各省藩庫、因三州縣有二急需一、往往行二借款一。

【借觀】26 シャククワン かりてみる。〔南史、王僧祐傳〕僧祐獻二講武賦一、王儉借觀不レ與。〔東都事略〕僦二居其側一、便二于借觀一。

【借訓】27 シャククン 訓をかりる。訓を援用する。他から轉用して附した訓。〔國朝漢學師承記、閻若璩〕如二水部沛字一、本遼東水名、附訓爲レ澤、借訓爲レ大爲レ仆。

【借契】28 シャクケイ 借用證書。〔六部成語、戶部、借契、注解〕借契所レ立之劵也。

【借劵】29 chieh⁴ ch'üan⁴ 借用證書。

【借寇】30 シャクコウ 地方官の留任を切望する。後漢の寇恂が善政を施したので、民が寇君を借りたいと願つた故事。〔後漢書、寇恂傳〕恂從至二潁川一、盜賊悉降、而竟不レ拜レ郡、百姓遮レ道曰、願從二陛下一、復借二寇君一一年。

【借債】31 シャクサイ 他からかりたかね。借金。借財。借錢。負債。

【借財】32 シャクザイ 他から借りてゐる金錢や財物。又、それを借りること。借金。負債。〔春色袖の梅、二〕廓の娼家に客を送りし借金多分ありしが、此節一同に催促せられ、其外舊き借財。

【借山】33 シャクザン 字號。㊀清、元璟(**1**—**1340**‥45)の字。㊁清、陳景(**11**—**41698**‥207)の號。

〔借山亭〕34 シャクザンテイ 明、陳柏(**11**—**41698**‥509)の室名。

【借使】35 ヒタト 假設の辭。もし。かりに。たとひ。借如。〔魏志、荀攸傳〕借使二子和睦、以守二其成業一、則天下之難未レ息也。

【借紫】36 シャクシ 官位が三品に及ばないのに紫服をつけること。唐の貞觀の制では、三品以上に限り紫服を許した。〔通典、禮典、嘉、天子諸侯玉佩劍綬璽印、注〕天授二年八月、左羽林大將軍建昌王攸寧、借二紫衫金帶一、九月二十六日除二納言一、依レ舊著レ紫帶二金龜一、借レ紫自レ此始。〔事物紀原、治理政體部、借紫〕通典曰、唐武后天授二年八月、右羽林大將軍建昌王攸寧、借二紫衫金帶一、九月二十六日、除二納言一、依レ舊著レ紫帶二金龜一、則借レ紫之制、自二則天時武攸寧一始也。〔宋史、輿服志五〕衣二緋綠一者、竝借レ紫。

【借貲】37 シャクシ もとでをかりること。藉貲。〔史記、韓非子傳〕論二其所一レ愛、則以爲二借貲一。〔注〕正義曰、說二人主愛行一、人主以爲レ借二己之資籍一也。

【借商】38 シャクシヤウ 金を富商から借入れる。〔唐書、食貨志一〕鑄錢・括苗・榷利・借商。

【借狀】39 シャクジヤウ 借用證書。〔信玄家法、上、借錢法度〕借狀至二無レ紛者一。

【借手】40 テカリ ㊀人から物を借りた人。㊁chieh⁴ shou³ 手を借りる。云云の手により。

【借主】41 カリヌシ 借りた本人。借手。

【借取】42 シャクシユ かりる。〔蘇軾、送春詩〕憑レ君借二取法界觀一、一洗人間萬事非。

【借壽】43 シャクジユ 自分の年を人に與へて、其の人を長生させようと祈ること。〔樓鑰、跋下劉師文昆仲乞レ增二母壽一疏藁上文〕劉氏兄弟、以二母暴得レ病欲レ絕、各乞下減二算三年一、增中母之壽上、而母後六年乃卒。

【借春】44 シャクシユン 冬至に、百官に辛盤を賜はること。辛盤(**10**—**38630**‥63)を見よ。〔秦中歲時記〕冬至賜二百官辛盤一、謂二之借春一。

〔借春對〕45 シャクシユンツイ 律詩の第一・第二句を對偶とし、第三・第四句を散句にしたものをいふ。偸春體(**1**—**901**‥105)に同じ。

【借書】46 シャクシヨ ㊀書籍を借りる。〔漢書、景十三王傳〕河間獻王、從二民閒一借レ書、必爲好寫之、留二其眞本一、加二金帛一、賜以報レ之。〔晉書、齊王攸傳〕攸就レ人借レ書、必手刊二其謬一、然後反レ之。㊁借用證書。〔建武以來追加〕一、諸人借書事、無レ理之輩、誘取二他人之借書一、令三讁二責負人一之條。

〔借書園〕47 シャクシヨエン 清、周永年(**2**—**3441**‥546)の室名。

〔借書一癡〕48 シャクシヨイツチ 書籍を借りて還すとき瓶酒一箇を謝禮とすること。一癡は一瓻の訛つたもの。〔聞見錄〕俗語、借レ書與レ人爲二一癡一、還レ書爲二一癡一、嘗疑、借レ書還レ書、理也、何癡レ之云、後見二王樂道書一、古語、借レ書一瓻、還レ書一瓻、乃知、今人訛以レ瓻爲レ癡也。〔藝苑雌黃〕李濟翁云、借書一癡、惜書二癡、索書三癡、還書四癡。

【借如】49 ヒタト 假設の辭。もし、借使。假如。〔盧照鄰、秋霖賦〕借如尼父去レ魯、圍レ陳畏レ匡。

【借助】50 シャクジヨ たすけをかりる。他の力を借りて己の助とする。〔左氏、襄、四〕寡君是以願レ借レ助焉。

【借職】51 シャクシヨク 假に職を授ける。〔宋史、選擧志三〕宗學廢置無レ常、凡諸王屬尊者、立二小學于其宮一、其子孫、自二八歲一至二十四歲一、皆入レ學、云云、崇寧初、疏屬年二十五、試二經義律義一、合格、附二進士榜一、與二三班奉職一、文優者奏裁、其不レ能レ試及試而黜者、讀二律於禮部一、推レ恩與二三班借職一。

【借切】52 カリキリ 殘らず一手に借りること。〔浮世風呂、大意〕借りきりの戶棚。

【借錢】53 シャクセン ㊀借りた金錢。借財。借金。〔甲陽軍鑑、一〕以二連判一就三于致二借錢一者。㊁chien⁴ ch'ien² 金を借りる。

〔借錢局〕54 chieh⁴ ch'ien² chü² 貧困の人に小口資金を貸付けその代償として勞役に服せしめる一種の慈善事業の取扱所。因利局。

【借貸】56 シャクタイ 借りる。官物を借りる。又、かす。〔杜甫、寒雨朝行視二園樹一詩〕愛日恩光蒙二借貸一、淸霜殺氣得二憂虞一。〔唐律、名例、借貸、釋文〕謂三監臨主守、自假二官物一。

【借對】57 シャクタイ 古人の詩賦に於て、同音の字を借りて對句とする法。杜甫の哭二李常侍嶧一詩の次第尋二書札一、呼レ兒檢二頌詩一で、第の字を借りて弟の字と爲して兒の字に對してゐるのや、劉禹錫の陋室銘の談笑有二鴻儒一、往來無二白丁一で、鴻の字を借りて紅の字と爲し、白の字に對してゐる類。假對。〔陔餘叢考、借對法〕古人詩賦、多有レ用二字音借對之法一。〔詩法詳論、律詩〕有二借對一、又謂二之假對一。

【借題】58 chieh⁴ t'i² 他の事にかこつける。方便とする。

〔借題發揮〕59 chieh⁴ t'i² fa¹ huei¹ 他の事にかこつけて不平や怨事を云ひ出す。

【借宕】60 chieh⁴ tang⁴ 他に流用する。

【借道】61 シャクダウ 人手をかりる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕買二通駐防兵弁一、謂二之借道一。

【借宅】62 シャクタク 借家。借屋。借廬。〔范成大、種レ竹了題二愛山亭一詩〕莫レ忘今年借宅人。〔段克己、贈二封仲堅一詩〕借宅便高臥。

【借單】63 chieh⁴ tan¹ 借用證書。

【借端】64 chieh⁴ tuan¹ 口實を設ける。藉端。

〔借端訛詐〕65 chieh⁴ tuan¹ ê² cha⁴ 一寸した事を口實にして金錢を強請する。

【借地】66 シャクチ 土地を借りる。借りた土地。

〔借地權〕67 シャクチケン 建物の所有を目的とする土地の賃借權及び地上權。

〔借地不拆屋〕68 chieh⁴ ti⁴ pu⁴ ch'ai¹ wu¹ 借地に建てた家屋は土地返還の際、地主に引渡すこと。

【借着】69 ギカリ 人の衣類をかりて着る。

【借住】70 シャクヂユウ 借りて住む。〔司空圖、借居詩〕借二住郊園一久、仍逢二夏景新一。

【借重】71 シャクヂユウ ㊀有名な人の名を借りる。他人の力量や名望をかりる。〔王銍、跋二范仲淹墓誌文一〕魏泰作二碧雲騢一、假二名梅聖兪一、毀二范文正一、文正與二梅公一立レ朝、同レ心輔レ政、詎有二異論一、特聖兪子孫不レ耀、故挾レ之借レ重以欺レ世。㊁たよる。依賴する。〔桃花扇、訪翠〕都是大淸客、借二重他們一、陪陪罷。

【借箸】72 シャクチヨ 箸ハシを借りる。箸を借り、それを以て指畫すること。藉箸。借筯。〔漢書、張良傳〕臣請借二前箸一、以籌レ之。〔注〕張晏曰、求レ借二所レ食之箸一、用指畫也。〔蘇軾、贈二狄崇班季子一詩〕踞レ牀咤得雋、借レ箸數禽入。

【借賃】73 シャクチン ㊀賃錢を支拂つて借りること。〔通典、食貨典、賦稅中〕孝昌二年冬、稅二京師一田

租、畝五升、借二貸公田一者、畝一斗。❶カリ物を借りた對價として與へるもの。借料。

【借帖】74 chieh⁴ t'ieh³ 借用證書。

【借店】75 チエンヂ 借りみせ。店を借りる。他人の店を借りて營業すること。

【借貸】76 シヤクタイ 官物を貸す。〔唐律、名例、借貸、釋文〕下音特、謂下監臨主守、將二官物一與レ人也。

【借讀】77 シヤクドク 書物などを借りて讀むこと。借覽。借閱。〔國朝漢學師承記、惠周惕〕得二善本一、傾レ囊弗レ惜、或借讀手抄。

【借馬】78 シヤクバ 馬を借りる。〔白居易、贈二夢得一詩〕尋花借レ馬煩二川守一、弄レ水偸レ船惱二令公一。

【借方】79 カリカタ ❶他物を借りる方法。❷借りる方の人。❸簿記用語。帳簿に受入れた方の稱。

【借方勘定】80 カリカタカンヂヤウ 簿記及び會計上、借方に表はれた勘定。貸方勘定の對。貸方（10－367 09‥22）の❷を見よ。

【借方財産】81 カリカタザイサン 事業會計上、資産に屬する財産。貸借對照表の上に於て、資産の部に屬する財産。

【借放】82 chieh⁴ fang⁴ 貸しつける。貸し出す。

【借撥】83 chieh⁴ po¹ 金を借り出す。

【借批】84 chieh⁴ p'i¹ 借用證書。

【借緋】85 シヤクヒ 官位が五品に及ばないで、緋の衣を著ること。唐の制度では、品官の服飾は、四品は深緋、五品は淺緋である。緋は赤色の帛。〔通典、禮典、嘉、天子諸侯玉佩劍綬璽印〕開元八年二月、敕都督刺史品卑者、借二緋及魚袋一。〔事物紀原、治理政體部、借緋〕通典曰、開元八年二月、敕二都督刺史卑品者一、借二緋及魚袋一。唐會要曰、二月二十日也、又曰、舊制、凡授二都督刺史一、階未レ及二五品一、並聽二着レ緋佩魚一、離任則停、則借レ緋之制、自二唐明皇一始也、宋朝賜レ緋者、亦借レ紫而相承、不レ佩レ魚。

【借物】86 カリモノ 借りたもの。〔狂言記、八句連歌〕かりものをゆるさるる。

【借兵】87 シヤクヘイ 兵をかりる。藉兵。〔史記、淮陰侯傳、漢王借レ兵而東下。〕〔漢書、陳湯傳〕郅支數借レ兵擊二烏孫一。

【借票】88 chieh⁴ p'iao⁴ ❶金錢借用證書。❷貸借の際、借主から發行する記名式利附手形。

【借補】89 シヤクホ 官廳の或る地位に缺員の無い場合に、暫く其の官品より低い官品に補すること。借品調補（121）の略。〔六部成語、吏部、借補、注解〕原係二候二補大臣一、而暫以二小官之缺一補用。

【借本】90 chieh⁴ pen³ 資本を借りる。

【借本處】91 chieh⁴ pen³ ch'u⁴ 小資本の商人。小金額を融通する庶民金融機關。僅かな元手で小商をする者。又は、貧農に小額の金を融通する機關。本は資本の意。

【借名】92 chieh⁴ ming² 他人の名義を借りる。

【借問】93 シヤクモン 藉問。❶人にたづねる。問ふ。〔宋書、王微傳〕是以每レ見二世人文賦書論一、無レ所レ是非一、不レ解處、卽日借問、此其本心也。❷かりに問ふ。試みに問ふ。敢へて問ふ。〔陶潛、悲二從弟仲德一詩〕借問爲レ誰悲、懷レ人在二九冥一。〔盧照鄰、長安古意〕借問吹レ簫向二紫煙一、曾經學レ舞度二芳年一。〔杜甫、後出塞詩〕借問大將誰、恐是霍嫖姚。

【借約】94 シヤクヤク 借用の約束。〔福惠全書、刑名部、雜犯、債負〕假立二借約一、轉會取レ討。

【借約舊券】95 シヤクヤクキウケン 古い借用證書。古證文。〔近古史談、豐篇、岡野左內〕借約舊券、則幷二其櫃一燒レ之。

【借與】96 シヤヨ 貸し與へる。〔蘇軾、病中遊二祖塔院一詩〕道人不レ惜階前水、借二與匏樽一自在嘗。〔黃庭堅、鄒松滋寄二苦竹泉・橙麴・蓮子湯一詩〕天將二金關眞黃色一、借二與洞庭霜後橙一。

【借用】97 シヤクヨウ かりる。かりて使ふ。〔史記、文帝紀〕羣臣如二袁盎等一、稱說雖レ切、常假借用レ之。

【借用證書】98 シヤクヨウショウショ 借用したことを證明するための證書。

【借用電話】99 シヤクヨウデンワ 取次ぎ電話。呼出し電話。

【借覽】100 シヤクラン 書籍などを借りて見る。借閱。

【借料】101 シヤクレウ かりちん。

【借廬】102 シヤクロ 借家。借宅。

【借奄子】103 シヤクアンツ 淸、童鈺（8－25775‥23）の號。

【借景亭】104 シヤクケイテイ 亭の名。四川省靑神縣治。〔明一統志〕舊有レ亭、下二瞰史家園一、園多二佳景一、宋黃庭堅、嘗遊レ此、扁曰二借景一。

【借根方】105 chieh⁴ ken¹ fang¹ 根數、方數を借りて實數を求める算術。今の代數學に似てゐる。

【借舌日】106 シヤクゼツジツ 萬事に凶といふ日。陰陽家の語。赤舌日（10－36993‥417）に同じ。

【借代法】107 シヤクダイホフ 數學用語。代數式を解する時、補助未知數を用ひ、原式の形を變じて解く法。

【借賴著】108 チヨクライ たよる。〔紅樓夢、六回〕不レ過借二賴著一作二個窮官兒一。

【借園主人】109 シヤクエンシユジン 淸、李方膺（6－14459‥18 44）の號。

【借香能山】110 カスガノヤマ 大和國奈良市春日山。〔一話一言〕。

【借客報仇】111 シヤクカクハウキウ 人に力を借して其の人の仇を報いてやること。〔漢書、朱雲傳〕〔雲〕少時通二輕俠一、借レ客報レ仇。〔注〕師古曰、借、助也、音子夜反。

【借閒小築】112 シヤクカンセウチク 淸、汪遠孫（6－17154‥17 3）の室名。

【借閒漫士】113 シヤクカンマンシ 淸、汪遠孫（6－17154‥17 3）の號。

【借花獻佛】114 シヤククワケンブツ 佩花を借りて佛に獻ずる。他人の牛蒡で法事をする。人の褌で相撲をとる。他人の物を以て人へ贈物とする。又、無理算段をして目先ばかり胡魔化しても、佛は之を受けぬことにいふ。〔過現因果經〕瞿夷寄二花于善慧仙人一以獻佛。〔通俗編、釋道、借花獻佛〕按、元雜劇有二借花獻佛語一、借、當二是寄之訛一。

【借景生情】115 chieh⁴ ching³ sheng¹ ch'ing² 寸した事柄を理由として問題を起す。

【借月山房】116 シヤクゲツサンバウ 淸、張海鵬（4－9812‥858）の齋名。

【借月山房彙鈔】117 シヤクゲツサンバウキシヤウ 叢書の名。淸、張海鵬編。

【第一集】易例二卷（淸、惠棟）・尚書地理今釋一卷（淸、蔣廷錫）・詩說三卷（淸、惠周惕）・詩說一卷（淸、陶正靖）・周禮序官考一卷（淸、陳大庚）・考定檀弓三卷（淸、程穆衡）・深衣考一卷（淸、黃宗羲）・左傳杜解補正三卷（淸、顧炎武）・春秋說一卷（淸、陶正靖）・春秋日食質疑一卷（淸、吳守一）・孝經述注一卷（明、項霧）。【第二集】駢雅七卷（明、朱謀瑋）・惠氏讀說文記十五卷（淸、惠棟）・席氏讀說文集十五卷（淸、席世昌）。【第三集】韻補正一卷（淸、顧炎武）・音學辨微一卷（淸、江永）・九經誤字一卷（淸、顧炎武）・石經考一卷（淸、顧炎武）・金石文字攷六卷（淸、顧炎武）・千字文華七卷（淸、張海鵬）。【第四集】炎徼紀聞四卷（明、田汝誠）・庚申記事一卷（明、張潑）・徐海本末一卷（明、茅坤）・東江始末一卷（淸、柏起宗）・復社紀事一卷（淸、吳偉業）・存是錄一卷（明、姚宗典）・三藩紀事本末四卷（淸、陽陸榮）。【第五集】平蜀記一卷（明、失名）・平吳記二卷（明、吳寬）・平漢記一卷（明、童承敍）・平夏記一卷（失名）・洪武聖政記一卷（明、宋濂）・國初事蹟一卷（明、劉辰）・北征事蹟一卷（明、袁彬）・革除遺事六卷（明、黃佐）・思陵典禮紀四卷（淸、孫承澤）・烈皇勒政記一卷（淸、孫承澤）・平定交南錄一卷（明、邱濬）・廣右戰功錄一卷（明、唐順之）・先撥志始二卷（明、文秉）。【第六集】兩垣奏議一卷（明、逯中立）・條奏疏稿二卷（淸、蔣廷錫）・首輔傳八卷（明、王世貞）・備遺錄一卷（明、張芹）・詔獄慘言一卷附天變邸抄（明、燕客）・烟艇永懷三卷（明、龔本立）・端岩公年譜一卷（明、張文麟）・陳張事略一卷（明、吳國倫）・汪直傳一卷（失名）・雲林遺事一卷（淸、顧元慶）・維揚殉節紀略一卷（明、史得威）・金姬傳二卷（明、楊儀）。【第七集】劉豫事蹟一卷（淸、曹溶）・于公德政記一卷（淸、戴祚）・寧海將軍山貝子功蹟錄一卷・從征緬甸日記一卷（淸、朱裕）・翁錢庵年譜一卷（淸、翁叔元）・蜀碧四卷（明、彭遵泗）。【第八集】海道經一卷（明、失名）・三吳水利論一卷（明、伍餘福）・歷代山陵考二卷（明、王在晉）・閩部疏一卷（明、王世懋）・西洋朝貢典錄三卷（明、黃省曾）・星槎勝覽四卷（明、費信）・譎觚二卷（淸、顧炎武）・虞鄉雜記三卷（明、毛晉）。【第九集】崑崙河源攷一卷（淸、萬斯同）・異域錄二卷（淸、圖理琛）・龍沙紀略一卷（淸、方式濟）・塞雜外識一卷（淸、馮一鵬）・出塞紀略一卷（淸、錢良擇）・西湖紀遊一卷（淸、張仁美）・西湖手鏡一卷（淸、季熙）。【第十集】明內廷規制考三卷（無名）・內閣志一卷（淸、席吳鑾）・帝王紀年一卷

(明、黃諫)・海運編一卷(明、崔旦伯)・捕蝗攷一卷(清、陳芳生)・伐蛟說一卷(清、魏廷珍)・救荒野譜一卷(明、姚可成)・兩漢解疑二卷(明、唐順之)・兩晉解疑一卷(明、唐順之)・新舊唐書雜論一卷(明、李東陽)・明事斷略一卷(失名)。【第十一集】松牕寤言一卷(明、崔銑)・楓山語錄一卷(明、章懋)・荊園小語一卷(清、申涵光)・荊園進語一卷(清、申涵光)・蔣氏家訓一卷(清、蔣伊)・海寇議一卷(明、萬表)・救命書二卷(明、呂坤)・手臂錄五卷(清、吳殳)・尤氏喉科一卷附方一卷(清、吳殳)・種痘心法一卷(清、朱奕梁)・種痘指掌一卷(失名)。【第十二集】水龍經五卷(清、蔣大鴻)・葬經箋注一卷(清、吳元音)・陽宅撮要二卷(清、吳鼒)・小山畫譜二卷(清、鄒一桂)・傳神祕要一卷(清、蔣驥)・題畫詩一卷(清、惲格)・畫跋一卷(清、惲格)・續三十五擧一卷(清、桂馥)・紫泥法一卷(清、汪鎬京)・說硯一卷(清、朱彝尊)・硯錄一卷(清、曹溶)・觀石錄一卷(清、高兆)・石譜一卷(清、諸九鼎)・缾史一卷(明、袁宏道)・參譜一卷(清、黃叔燦)・蔬食譜一卷(晉、陳達叟)。【第十三集】震澤紀聞二卷(明、王鏊)・震澤長語二卷(明、王鏊)・戲瑕三卷(明、錢希言)・筆記一卷(明、彭時)・鈍吟雜錄十卷(清、馮班)・漱華隨筆四卷(清、嚴有禧)。【第十四集】名疑四卷(明、陳士元)・元史備忘錄一卷(明、王光魯)・汝南遺事二卷(明、李本固)・列國盛事一卷(明、王世貞)・觚不觚錄一卷(明、王世貞)・玉堂薈記二卷(清、楊士聰)。【第十五集】花當閣叢談八卷(清、徐復祚)・柳南隨筆六卷(清、王應奎)・柳南續筆四卷(清、王應奎)。【第十六集】燼餘集四卷(周、順昌)・椒山遺囑一卷(明、楊繼盛)・盧公書牘一卷(明、盧象昇)・浩氣吟一卷(明、瞿式耜)・烏魯木齋詩一卷(清、紀昀)・宮詞小纂三卷(清、張海鵬)・圍爐詩話六卷(清、張海鵬)・西崑發微三卷(清、張海鵬)・金石要例一卷(清、黃宗羲)。〔增訂叢書擧要、近代叢書部〕。

【借公濟私】117′ chieh⁴ kung¹ chi⁴ ssŭ¹ 職權を濫用して私腹を肥やす。

【借秋山居】118 シヤクシウサンキヨ 清、汪大經(**6−17154**‥295)の室名。

【借水行舟】119 chieh⁴ shuei³ hsing² chou¹ 水を借りて舟を動かす。借金して間に合せる。

【借刀殺人】120 chieh⁴ tao¹ sha¹ jen² 刀を借りて人を殺す。陰險な手段をいふ。

【借品調補】121 シヤクホンテウホ 或る官で、其の官品を有する人が多くて缺員の少い場合、其の品を以て、暫く其の官品より少し低い官品に補すこと。借補(89)を見よ。〔六部成語、吏部、借品調補、注解〕員本係二五品一、暫以二六品之缺一調補、後日仍以二五品一補用。

【借風使船】122 chieh⁴ fêng¹ shih³ ch'uan² 風を借りて船を行る。借金して間に合せる。

【借腹生子】123 chieh⁴ fu⁴ shêng¹ tzŭ³ 女中兼帶の妾。

【倠】782

キ 〔集韻〕呼維切 支

小篆 **容貌がみにくい。**仳倠。或は伯(**1−555**)に作る。〔說文〕倠、仳倠、醜面、从レ人隹聲。〔集韻〕倠、或从レ白。

【倡】783

㊀シヤウ 〔集韻〕蚩良切 陽 ch'ang¹

㊁シヤウ 〔集韻〕尺亮切 漾 ch'ang⁴

小篆 ㊀❶**わざをぎ。俳優。**〔說文〕倡、樂也、从レ人昌聲。〔說文、俳、段注〕以二其戲一言レ之、謂二之俳一、以二其樂一言レ之、謂二之倡一、或謂二之優一、其實一物也。〔一切經音義、十〕倡、俳也。〔一切經音義、二十二〕倡優、樂也。〔漢書、廣川惠王越傳〕令三倡俳贏戲二坐中一。〔注〕師古曰、倡、樂人也。〔後漢書、桓譚傳〕性嗜二倡樂一。〔注〕倡、俳優也。❷**あそびめ。遊女。**娼(**3−6376**)に同じ。〔正字通〕娼、俗倡字。〔北里志〕多遊有二情者一、於二三曲中一、爲三諸倡所二眷養一、號爲二廟客一。❸**くるふ。**或は猖(**7−20490**)に作る。〔正字通〕倡、亦作レ猖。〔莊子、山木〕倡狂妄行。❹倀(**1−742**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倡、叚借爲レ倀。〔樊敏碑〕不レ顧二倡蹶一。㊁❶**となへる。いざなふ。**首唱。先達。唱(**2−3765**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倡、叚借爲レ唱。〔集韻〕唱、亦作レ倡。〔禮、樂記〕壹倡而三歎。〔注〕倡、發二歌句一也。〔國語、吳語〕越大夫種乃倡レ謀。〔注〕發レ始爲レ倡。〔史記、陳涉世家〕爲二天下倡一。〔注〕索隱曰、倡、謂レ先也。❷**さかん。のびる。**昌(**5−13803**)・鶡(**9−32253**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倡、叚借爲レ昌、爲レ鶡。〔太玄經、去〕物皆倜倡。〔注〕倡、盛也。❸**よくする。**〔一切經音義、二十一〕倡、能也。

【倡優】1 シヤウイウ わざをぎ。役者。俳優。娼優。〔戰國、齊策〕鐘鼓竽瑟之音不レ絕、地可レ廣、而欲可レ成、和樂倡優侏儒之笑不レ乏、諸侯可二同日而致一也。〔注〕倡優、倡樂也。〔管子、小匡〕倡優侏儒在レ前、而賢大夫在レ後。〔史記、范雎傳〕楚之鐵劍利、而倡優拙。

【倡飮】2 シヤウイン 妓樂を奏し酒を飮む。〔後漢書、郭皇后紀〕會二諸郭一朝見、上レ壽引入、倡飮甚歡。〔注〕說文曰、倡、樂也、聲類曰レ俳。

【倡家】3 シヤウカ 倡婦の家。妓樓。妓院。娼家。〔古詩〕昔爲二倡家女一、今爲二蕩子婦一。〔蜀志、許慈傳〕使下倡家假爲二二子之容一、傚中其訟鬩之狀上。〔盧照鄰、長安古意〕倡家日暮紫羅裙、淸歌一轉口氛氳。

【倡樂】4 シヤウガク みだらな音樂。淫樂。〔史記、呂不韋傳〕時縱二倡樂一。〔新書、匈奴〕上使三樂府幸假二之倡樂一。

【倡起】5 ch'ang⁴ ch'i³ 發起する。首唱する。

【倡伎】6 シヤウギ 音曲歌舞を以て酒席の興を助ける女。うたひめ。倡妓。娼妓。〔後漢書、梁冀傳〕游二觀第內一、多從二倡伎一。〔舊唐書、天竺國傳〕百姓殷樂、家有二奇樂倡伎一。〔白居易、與二元九一書〕欲レ聘二倡伎一。

【倡義】7 シヤウギ 義を唱へる。義兵を起す。唱義(**2−3765**‥11)に同じ。

【倡狂】8 シヤウキヤウ ひどくくるふ。猖狂。〔莊子、山木〕倡狂妄行、乃蹈二乎大方一。

【倡儈】9 シヤウクワイ 妓女を養ふ家。〔朱熹、滕君希尹墓誌銘〕有三士族女未レ亂落二倡家一、君謀レ贖レ之、倡儈知二君貧一、立二僞劵一高二其直一以難レ之。

【倡言】10 シヤウゲン 唱へ言ふ。主張する。提言する。唱言(**2−3765**‥17)に同じ。〔魏志、陳思王植傳〕臣獨倡言者、竊不レ願下於二聖世一使上レ有二不レ蒙レ施之物一。

【倡后】11 シヤウコウ 戰國、趙の悼襄王の后。もと邯鄲の倡であつたからいふ。〔列女傳、孽嬖傳〕。

【倡子】12 シヤウシ わざをぎ。〔唐書、馬周傳〕騶豎倡子、鳴レ玉曳レ履、臣竊恥レ之。

【倡始】13 シヤウシ となへはじめる。先んじて行ふ。唱始(**2−3765**‥22)に同じ。〔漢書、王莽傳上〕殫二盡舊業一、爲レ衆倡始。

【倡倡】14 シヤウシヤウ 色彩の盛なさま。〔陳陶、蜀葵詠〕綠衣宛地紅倡倡。

【倡首】15 シヤウシユ 首唱者。唱者。〔董逌、磨崖碑跋〕結以二古學一、爲二天下倡首一。

【倡隨】16 シヤウズイ 夫が唱へ婦が從ふ。夫婦なかのよいこと。家庭圓滿なこと。夫倡婦隨。〔關尹子、三極〕夫者倡、婦者隨、牡者馳、牝者逐。

【倡設】17 ch'ang⁴ shê⁴ 創設する。創立する。

【倡率】18 シヤウソツ 先に立つてとなへる。〔福惠全書、教養部、講學〕使三司牧諸君、倡率鼓舞一。

【倡道】19 シヤウダウ 先だつてとなへ言ふ。率先して言ひ出す。唱道。〔禮、郊特牲〕男子親迎男先二於女一。〔注〕先、謂二倡道一也。

【倡導】20 シヤウダウ 唱へ導く。唱導(**2−3765**‥39)に同じ。〔風俗通、衍禮〕當下綱二紀人倫一、爲中之節文上、而首倡導、犯レ禮違レ制。〔漢書、王莽傳中〕倡二導在位一、褒二揚功德一。

【倡諾】21 シヤウダク 人に應ずる辭。はい。唯。唱喏。〔宋書、恩倖、戴明寶傳〕前廢帝嘗戲云、顯度刻虐、爲二百姓所一レ疾、此當レ除レ之、左右因倡諾、卽

日宣旨殺焉。

【倡女】22 シャウヂョ 音曲歌舞を以て酒席の興を助ける女。うたひ女。妓女。倡伎。〔梁元帝、看レ摘二薔薇一詩〕倡女倦二春閨一、迎レ風戲二玉除一。〔劉遵、應令詠レ舞詩〕倡女多二豔色一、入レ選盡華年。

【倡俳】23 シャウハイ 藝人。俳優。〔漢書、廣川惠王越傳〕令三倡俳贏戲二坐中一。〔注〕師古曰、倡、樂人也、俳、雜戲者也。〔傳玄、啄木詩〕專爲二萬物一作二倡俳一。

【倡被】24 シャウヒ 衣を著て帶をしめないさま。猖披(7－20490‥6)に同じ。〔楚辭、離騷〕何桀紂之猖被兮。〔注〕猖、釋文、作レ倡。

【倡婦】25 シャウフ ❶うかれめ。うたひめ。〔梁元帝、蕩婦秋思賦〕蕩子之別十年、倡婦之居自憐。〔盧照鄰、長安古意〕妖童寶馬鐵連錢、倡婦盤龍金屈膝。❷ch'ang¹ fu⁴ 婦人を罵る語。

【倡辨】26 シャウベン 能辯。倡辯に同じ。〔風俗通、正失〕朔口諧倡辨、不レ能二持論一。

【倡辯】27 シャウベン 能辯。倡辨。〔漢書、東方朔傳贊〕朔口諧倡辯、不レ能二持論一、喜爲二庸人一誦說。

【倡母】28 シャウボ 妓樓に在つて妓女の世話周旋を行ふ女をいふ。やりて。鴇母。老鴇。〔庶物異名疏〕陸佃云、鴇性最淫、逢レ鳥則與レ之交、今俗呼レ妓曰二鴇兒一、呼二倡母一曰二老鴇一、本レ此。

【倡明】29 ch'ang⁴ ming² 言明する。

【倡門】30 シャウモン 妓樓。倡家。〔儲光羲、長安道詩〕鳴鞭過二酒肆一、袨服遊二倡門一。〔唐詩選箋注〕鳴鞭・袨服、都人狀態、或過二酒肆一、或遊二倡家一。

【倡佯】31 シャウヤウ さまよふ。徘徊。徜徉。〔魏、郭遐周、贈二嵇康一詩〕歸二我北山阿一、逍遙以倡佯。

【倡踊】32 シャウヨウ 喪の時、先づ哭して踊ること。〔禮、檀弓上〕子思之哭レ嫂也爲レ位、婦人倡踊、申祥之哭二言思一也亦然。〔注〕倡、先也。

【倡樓】33 シャウロウ 妓樓。倡門。〔梁簡文帝、東飛伯勞歌〕西飛迷雀東羈雉、倡樓秦女乍相値。〔于鄴、揚州夢記〕倡樓之上、常有二絳紗燈萬數一。

【倡和】34 シャウワ 或る者が先だつて倡へ、他の者がそれに和すること。唱和。〔詩、鄭風、蘀兮〕叔兮伯兮、倡レ予和レ女。〔詩、鄭風、蘀兮、序〕蘀兮、刺レ忽也、君弱臣強、不二倡而和一也。〔箋〕不二倡而和一、君臣各失二其禮一、不二相倡和一。〔禮、樂記〕倡和有レ應、回邪曲直、各歸二其分一。〔左氏、昭、十二〕外內倡和爲レ忠。〔史記、樂書〕小大相成、終始相生、倡和清濁、代相爲レ經。

【倡園花】35 シャウヱンクワ 楊柳の花をいふ。〔江總、折楊柳〕不レ悟倡園花、遙同羌嶺雪。

【倡而不レ和】36 トナフレドモワセズ 先に立つて唱へ導かうとしても、多くの者が之について來ないこと。〔淮南子、繆稱訓〕倡而不レ和、意而不レ戴。〔李覯、袁州州學記〕倡而不レ和、教尼不レ行。

【倡條冶葉】37 シャウデウヤエフ 若やかな枝と新しく美しい葉。やはらかな枝葉。〔歐陽脩、玉樓春、二十五〕倡條冶葉恣二留連一、飄蕩輕二於花上絮一。

【倢】784

セフ 〔集韻〕卽涉切 ㄐㄧㄝˊ chieh² 葉

小篆

❶さとい。身がる。〔說文〕倢、佽也、从レ人疌聲。〔方言、一〕虔・儇、慧也、宋楚之閒、謂二之倢一。〔注〕倢、言二便倢一也。〔正字通〕倢、利也、便也。❷すこやか。〔廣雅、釋詁一〕倢、健也。❸はやい。〔廣雅、釋詁二〕倢、疾也。❹つぐ。〔廣雅、釋詁三〕倢、次也。❺ななめに出る。〔廣韻〕倢、斜出也。❻捷(5－12216)に通ず。〔正字通〕倢、與レ捷通。〔後漢書、方術、任文公傳〕負レ糧倢步。〔注〕捷、健也。❼婕(3－6412)に通ず。〔廣韻〕婕、婕妤、亦作二倢伃一。❽そしる。捷(5－12216)に同じ。〔集韻〕捷、捷捷、譖言、或从レ人。❾たのしむ。樂しい事。〔玉篇〕倢、樂事。❿倢(1－1063)に同じ。〔集韻〕倢、博雅、疾也、云云、或省。

【倢倢】1 セフセフ そしる言葉。〔集韻〕捷、捷捷、譖言、或从レ人。

【倢伃】2 セフヨ 漢の女官の名。武帝、置く。位は上卿に比し、爵は列侯に比す。婕妤(3－6412‥1)を見よ。〔玉篇〕伃、倢伃、婦官也。〔漢書、外戚傳序〕至二武帝一、制二倢伃・娙娥・傛華・充依一、各有二爵位一、云云、倢伃視二上卿一、比二列侯一。〔注〕師古曰、倢、言三接二幸於上一也、伃、美稱也。

【倣】785

ハウ 〔集韻〕甫兩切 ㄈㄤˇ fang³ 養

❶ならふ。まねする。よる。〔廣韻〕倣、學也。〔正字通〕倣、傚也、依也。〔韓愈、論二佛骨一表〕轉相倣傚、惟恐レ後レ時。〔宣和書譜〕學者率模倣焉。❷或は方(5－13620)・放(5－13133)・仿(1－420)・俩(1－469)に作る。〔集韻〕放、効也、或从レ人、亦作二方・俩一。〔正字通〕倣、通作レ仿、亦作レ放。

名乘 ヨリ。

【倣依】1 ハウイ たよりにする。〔淮南子、要略〕終而復始、轉二於無極一、因循倣依、以知二禍福一、操舍開塞、各有二龍忌一。

【倣效】2 ハウカウ 模倣する。習ふ。仿效。倣傚。倣斆。〔魏志、徐邈傳〕天下奢靡、轉相倣效。〔舊唐書、輿服志〕遞相倣效、浸成二風俗一。

【倣傚】3 ハウカウ 模倣する。倣效に同じ。〔鹽鐵論、未通〕上公之事、民相倣傚。〔韓愈、論二佛骨一表〕自レ朝至レ暮、轉相倣傚。

【倣斆】4 ハウカウ 模倣する。倣效(2)に同じ。〔舊五代史、世襲、錢鏐傳〕所在英雄、遞相倣斆。

【倣格】5 fang³ kê² 四角の格子罫のある習字用紙。倣紙。

【倣圈】6 fang³ ch'üan¹ 文鎭。

【倣古】7 ハウコ 古人に眞似る。昔の物を眞似る。仿古。〔唐書、王績傳〕兄通、聚二徒河汾閒一、倣レ古作二六經一、又爲二中說一、以擬二論語一。

【倣造】8 fang³ tsao⁴ 模造する。

【倣紙】9 fang² chih³ 習字用紙。倣格(5)に同じ。

【倣照】10 fang³ chao⁴ かたどる。似る。倣ふ。

【倣顰】11 fang³ p'in² もの眞似する。ひそみにならふ。

【倣樣】12 fang³ yang⁴ まねる。

【値】786

㊀チ ヂ 〔集韻〕直吏切 ㄓˋ chih²·⁴ 寘
㊁チョク ヂキ 〔集韻〕逐力切 職

小篆

㊀㊁❶もつ。〔說文〕値、持也、从レ人直聲。〔段注〕持、各本作レ措、措者、置也、非二其義一、今依二韻會一正、韻會雖レ譌レ待、然轉刻之失耳、引伸爲レ當也、凡彼此相遇相當曰レ値、亦持之意也、史・漢多用レ直爲レ之、價値亦是相當意。〔詩、陳風、宛丘〕値二其鷺羽一。〔傳〕値、持也。❷あたる。〔儀禮、喪服記、大功八升、注〕欲二其文相値一。〔疏〕値者、當也。〔顏延之、皇太子釋奠會詩〕規周矩値。〔注〕善曰、値、當也。❸あふ。〔說文〕値、一曰、逢遇也。〔史記、義縱傳〕無レ値二寧成之怒一。❹おく。置(9－28298)に通ず。〔說文繫傳〕値、措也、从レ人直聲。〔說文通訓定聲〕値、經傳皆以レ置爲レ之。〔廣韻〕値、措也。〔集韻〕値、措置也。❺たてる。植(6－15023)に通ず。〔說文通訓定聲〕値、漢書地理志、陳地注、立レ之、則謂二借爲レ植。〔漢書、地理志下〕陳詩曰、云云、値二其鷺羽一。〔注〕師古曰、値、立也。❻すてる。〔廣韻〕値、捨也。❼あたひ。〔正字通〕値、物價曰レ値。❽直(8－23136)に通ず。〔說文通訓定聲〕値、叚借爲レ直。〔正字通〕値、或作レ直。〔史記、匈奴傳、直二上谷一、注〕索隱曰、案、姚氏云、古字例、以レ直爲レ値。❾ただ。〔說文通訓定聲〕値、叚借、又發聲之詞、張平子碑、豈値取二足于身中一、與レ用レ直用レ特同。❿現 あたひ。數學用語。數値の略。式中の文字の代表する數を、その文字の値といひ、その數を式中の文字に入れ換へて計算した結果を、その式の値と

いふ。

名乘 アフ。アキ。アキラ。

【値賀】1 ガチ ㊀肥前國の地名。㊁カチ 姓氏。〔和爾雅〕。

【値合】2 アヒ 前に賣買約定した時の値段と、後に轉賣又は買戻した時の値段との差額。前の値段と後の値段との差。

【値遇】3 グウ ㊀であふ。あふ。遭遇。〔爾雅、釋言、遇偶也、注〕偶爾相値遇。〔韓愈、秋懷詩〕運窮兩値遇、婉孌死相保。㊁人に知られて重く用ひられること。

【値頃】4 ネゴロ ねだんと物品の價値と相應じて居ること。

【値月】5 ゲチ ㊀月に出あふ。〔袁翻、思歸賦〕月逢霞而未皎、霞値月而成陰。㊁chih⁴ yüeh⁴ 月番。

【値事】6 chih² shih⁴ 當番。會長。世話役。

【値日】7 ジチ ㊀當番の日。宿直の日。〔六部成語、兵部、値日、注解〕輪流按日應差之人。〔福惠全書、刑名部、監禁〕値日提監刑書、立刻稟報以憑嚴究。㊁chih⁴ jih⁴ 日直。日中の當直。

【値宿】8 シチク 宿直する。〔長生殿、刺逆〕外廂値宿軍士快來。〔六部成語、兵部、値宿、注解〕輪流按日住レ夜之人。

【値錢】9 chih² ch'ien² 値打がある。

【値當】10 chih² tang ねうちする。當る。相當する。

【値堂】11 ダウ ㊀清代の官名。裁判所の通譯。〔清國行政法、司法行政、審判衙門、通常審判衙門〕再州縣等衙門所設吏胥人役、曰招房、曰經承、曰値堂、云云。値堂、通譯之吏、云云。再値堂之設、所以通二官民語話一也。㊁當番。〔福惠全書、蒞任部、到衙門〕値堂皂隸、請レ書レ案。

【値段】12 ネダン あたひ。代價。〔好色二代男、一〕古き硯箱のねだん。

【値得】13 chih² tê あたる。價値がある。「る。

【値年】14 chih² nien² 一年交代で仕事を擔任する。

【値年旗衙門】15 チネンキガモン 清の制度で、八旗驍騎衙にある役所の名。八旗の司令本部をいふ。値年旗大臣を見よ。

【値年旗大臣】16 チネンキダイジン 清の制度で、八旗驍騎營の司令本部長官をいふ。〔清國行政法、軍務行政、軍制、禁旅八旗、驍騎營、備考〕再本營有二値年旗衙門一、是屬二旗軍總匯之府一、以二各旗都統一人一爲二値年旗大臣一。

【値班】17 チハン 當番、又は宿直の番にあたる。

【値班帳】18 チハンチャウ 當番帳。宿直の番に當つた人の名前を記す帳簿。〔清會典圖、武備圖、駐蹕大營〕南門左右、爲二王大臣値班帳一。

【値不値】19 chih² pu⁴ chih² 價値があるか。

【値理人】20 chih² li³ jen² 支配人。

【値百抽五】21 chih² pai³ ch'ou¹ wu³ 從價五分の課稅。

【倥】787

㊀ コウ（集韻）枯公切 東 ㄎㄨㄥ k'ung¹

㊁ コウ（集韻）苦動切 董 ㄎㄨㄥˇ k'ung³

㊂ コウ（集韻）苦貢切 送 ㄎㄨㄥˋ

㊀**おろか**。倥侗。〔集韻〕倥、倥侗、童蒙也。〔法言、學行序〕倥侗顓蒙。〔注〕倥侗、無知也。㊁**いそがしい**。**せはしい**。倥傯。〔廣韻〕倥、倥傯、事多。〔劉基、病瘡詩〕頗怪天地氣、去來何倥傯。㊂**くるしい**。**くるしむ**。〔玉篇〕倥、倥傯、窮困也。〔集韻〕倥、倥傯、困也。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕愁倥傯於山陸。〔注〕倥傯、猶二困苦一也。**翹ぬかる**。**しそんじる**。

【倥傯】1 ソウ ㊀いそがしいさま。字解の㊂を見よ。〔廣韻〕倥、倥傯、事多。〔孔稚珪、北山移文〕牒訴倥傯裝二其懷一。〔注〕向曰、倥傯、繁倡。㊁困しいさま。又、くるしむ。くるしめる。字解の㊂を見よ。〔後漢書、張衡傳〕所謂將レ隆二大位一、必先倥傯之一也。〔注〕倥傯、窮困也。〔後漢書、西羌傳論〕衞にある役所の名。八旗の司令本部をいふ。値其內屬者、或倥二傯於豪右之手一、或屈二折於奴僕之勤。〔司馬彪、贈二山濤一詩〕今者絶二世用一、倥傯見二迫束一。〔注〕善曰、王逸曰、倥傯、困苦也。〔資治通鑑、梁紀〕武帝、大同十一年、所レ陳之事、與レ卿不レ異、每苦二倥傯一。〔注〕倥傯、困苦也、不レ暇レ給也。

【倥侗】2 トウ おろか。無知なさま。〔法言、學行序〕天降二生民一、倥侗顓蒙。〔注〕倥侗、無知也。

【倥侗子】3 トウトウシ 元、練魯（8－27689‥83）の號。

【倥侗生】4 トウトウセイ 明、沈愚（6－17189‥114）の號。

【傯】788

ケン ゲン（集韻）逵眷切 霰 ㄐㄩㄢˋ chüan⁴

小篆 ㊀**うむ**。あきる。おこたる。なまける。〔廣韻〕傯、厭也、懈也。〔易、繫辭上〕通二其變一、使二民不一レ倦。〔國語、晉語七〕徧而不レ傯。〔注〕傯、懈也。㊁**つかれる**。〔說文繫傳〕傯、罷也、臣鍇曰、罷、疲字也。〔廣韻〕傯、疲也。〔呂覽、下賢〕立傯而不二敢息一。〔注〕傯、罷。〔漢書、司馬相如傳上〕長卿故傯レ游。〔注〕文穎曰、傯、疲也。〔潘岳、西征賦〕傯二狹路之迫隘一。〔注〕善曰、傯、極也。㊂**やすむ**。〔說文〕傯、罷也、从レ人卷聲。〔段注〕罷者、遣二有罪一也、引伸爲二休息之偁一、傯與二力部券一義少別。㊃**うづくまる**。蹲踞。〔淮南子、道應訓〕方傯二龜殼一、而食二蛤梨一。〔注〕楚人謂レ倨爲レ傯。㊄勸（2－2366）に通ず。〔晉書音義、中〕勸、與レ傯同。㊅券（2－2330）に通ず。〔集韻〕傯、通作レ券。〔周禮、考工記、輈人、終日馳騁左不レ棰、注、棰、或作レ券、玄謂、券、今倦字也。〔論語、顏淵〕居レ之無レ倦。〔釋文〕倦、亦作レ券。㊆或は勸（2－2366）・惓（4－10795）・倦（1－805）に作る。〔說文通訓定聲〕倦、字亦作レ惓。〔廣韻〕倦、或作二惓・傯一。

【傯游】1 イウ 游學に倦み疲れる。仕官に倦む。

【傯遊】〔史記、司馬相如傳〕長卿故傯レ游。〔注〕集解曰、郭璞曰、厭二游宦一也。〔陸機、長安有狹邪行〕余本傯游客、豪彥多二舊親一。〔注〕善曰、漢書曰、司馬長卿故傯レ游。〔袁淑、傯レ游詩〕詳二此傯游士一。

【傯游菴】2 アンイウ 清、周悅讓（2－3441‥549）の室名。

【傯厭】3 エン あきていやになる。

【傯翁】4 ヲウ 字號。㊀宋、岳珂（4－8001‥5）の號。㊁清、包世臣（2－2506‥157）の號。

【傯客】5 カク 旅に疲れた客。〔鮑照、東門行〕傷禽惡二弦驚一、傯客惡二離聲一。〔蘇軾、書二普慈長老壁一詩〕傯客再遊行老矣、高僧一笑故依然。

【傯極】6 キヨク 疲れきる。〔史記、屈原傳〕勞苦傯極、未二嘗不一レ呼二天也。

【傯勤】7 キン 勤勞することにうむ。仕事にあきる。〔書、大禹謨〕朕宅二帝位一、三十有三載、耄期傯二于勤一。〔傳〕言二己年老、厭二倦萬機一。

【傯苦】8 ク うみくるしむ。〔南史、劉穆之傳〕彌レ日亙レ時、未二嘗傯苦一。

【傯臥】9 ガ つかれて横になる。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕東軍皆傯臥。

【傯憩】10 ケイ つかれていこふ。〔陸游、詩〕傯憩二石腰鼓一、好攜二銅博山一。〔楊載、暮春遊二西湖北山一詩〕傯憩客猶勤訪二寺。

【傯乱】11 ケン 疲れる。又、傯飢、傯飢に作る。〔司馬相如、上林賦〕窮極傯乱、驚憚聾伏。〔注〕善曰、郭璞曰、窮極傯乱、疲癃者也。

【傯旽】12 ジン あきてゐねむりする。〔福惠全書、錢穀部、拆貯〕本官傯旽、且證下易二于作弊一。

【傯政】13 セイ 政治にあきて怠る。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕覩二汝近狀、傯政忘レ民。

【傯惰】14 ダ あきて怠る。勤惰（2－2366‥3）を見よ。

【傯怠】15 タイ うみおこたる。いやきがさす。〔禮、禮器〕雖レ有二強力之容、肅敬之心一、皆傯怠矣。〔南齊書、虞玩之傳〕爲レ性不二懶惰一、而傯怠頓來。

【傯程】16 テイ 遠い道にうむ。〔李商隱、賜詩〕傯レ

程山向背、望レ國闕嵯峨。

【倦敗】17 あきて身をもちくづす。〔獨異志〕吾寧自倦敗、不レ可ニ以レ機爲レ用、有レ傷ニ眞性一。

【倦僊】18 うみつかれる。倦罷。倦弊。倦勞。

【倦飛】19 飛ぶのにあきる。〔陶潛、歸去來辭〕雲無心而出レ岫、鳥倦レ飛而知レ還。

【倦罷】20 うみつかれる。倦僊。

【倦筆】21 心の進まないのに執る筆。いやいや執る筆。〔陸游、秋雨初霽試レ筆詩〕墨入ニ紅絲一點漆濃、閑將ニ倦筆一寫ニ秋容一。

【倦弊】22 倦みつかれる。倦僊。〔史記、淮陰侯傳〕今將軍欲下擧ニ倦弊之兵一、頓中之燕堅城之下上。

【倦圃】23 清、曹溶(5－14297・・187)の號。

【倦圃老人】24 清、曹溶(5－14297・・187)の號。

【倦目】25 目をつからす。又、つかれた目。〔潘岳、射雉賦〕甘レ疲ニ心于企想一、分ニ倦レ目以寓レ視。

【倦悶】26 疲れはて憂ひくるしむ。〔劉秉、從弟惠レ茶詩〕老丞倦悶偏宜矣、舊客過從別有レ之。

【倦勞】27 うみつかれる。倦僊。倦罷。〔司馬法、嚴位〕避ニ其強靜一、擊ニ其倦勞一。

【倦略】28 事に倦んで粗略にする。〔禮、樂記、禮粗則偏、注〕禮人所レ勤也、害在ニ倦略一。〔疏〕一獻之禮、賓主百拜、是所レ勤也、勞而不レ堪、有司跛倚、是害在ニ倦略一也。

【倦令】29 不當な命令。〔漢書、公孫弘傳〕夫使下邪吏行ニ弊政一、用ニ倦令一、治中薄民上。

【無レ倦】30 始終勤め行つてうみ怠ることなかれと戒める辭。〔論語、子路〕子路問レ政、子曰、先レ之勞レ之、請レ益、曰、無レ倦。

【倦繡圖】31 唐の白居易の倦ニ倚繡牀一愁不レ動といふ詩句を圖にしたもの。〔江行雜錄〕白居易詩云、倦ニ倚繡牀一愁不レ動、緩垂綠帶髻鬟低、遼陽春盡無ニ消息一、夜合花前日又西、好事者畫爲ニ倦繡圖一。

【倦書圖】32 讀書にうみ疲れたさまを畫いた圖。〔畫品〕六朝人有ニ倦書圖一。

【倦尋芳慢】33 詞牌の名。又、曲牌の名。南曲では中呂宮正曲に入る。〔捫蝨新語〕王元澤、一生不レ作ニ小詞一、或者笑レ之、元澤遂作ニ倦尋芳慢一首一、時服ニ其工一、今人多能誦レ之、然元澤自レ此亦不ニ復作一。

【倦舫老人】34 清、洪頤煊(6－17402・・219)の號。

【倧】789

ソウ ス 〔集韻〕祖賨切 冬

上古の神人。〔廣韻〕倧、上古神人。

【倨】790

キョ コ 〔集韻〕居御切 ㄐㄩˋ chü⁴ 御

小篆

❶**おごる。あなどる**。〔說文〕倨、不遜也、从レ人居聲。〔左氏、襄、二十九〕直而不レ倨。〔注〕倨、傲。〔大戴禮、曾子立事〕與ニ其倨一也寧句。〔注〕倨、猶レ慢也。〔呂覽、下賢〕貴爲ニ天子一而不ニ驕倨一。〔注〕倨、傲也。〔漢書、汲黯傳〕爲レ人、性倨少レ禮。〔注〕師古曰、倨、簡傲也。❷**さしがね**。曲尺の長い方の一邊をいふ。倨句(12)の❶を見よ。〔正字通〕倨、矩之直者爲レ倨、折而衡者爲レ句、磬有ニ倨句一、戈亦有ニ倨句一。〔禮、樂記〕倨中レ矩、句中レ鉤。❸**うづくまる。あぐらをかく**。踞(10－37642)に通ず。〔說文通訓定聲〕倨、叚借爲レ踞。〔正字通〕倨、箕坐也、通作レ踞。〔莊子、天運〕老聃方將倨レ堂。〔釋文〕倨、踞也。❹**のこぎり**。鋸(11－40505)に通ず。倨牙(1)を見よ。❺**思慮しないさま**。倨倨(9)の❶を見よ。

【倨牙】1 鋸のやうな牙。踞牙。〔說文〕駮、獸、如レ馬、倨牙食ニ虎豹一。〔爾雅、釋畜〕駮、如レ馬、倨牙、食ニ虎豹一。〔易、說卦、乾爲ニ駁馬一、疏〕此馬有レ牙、如三倨能食ニ虎豹一。〔後漢書、馬融傳〕鷙・獸・毅蟲、倨牙黔口。

【倨敖】2 たかぶりあなどる。倨傲に同じ。〔管子、四稱〕倨敖不恭、不レ友ニ善士一。〔漢書、尹翁歸傳〕功曹以爲、此史倨敖不遜。

【倨傲】3 たかぶりあなどる。倨鷔。倨敖。倨慠。〔莊子、漁父〕夫子猶有ニ倨傲之容一。〔荀子、不苟〕小人能、則倨傲僻違、以驕ニ溢人一。〔史記、孔子世家〕晏嬰進曰、夫儒者、滑稽而不レ可レ軌法、倨傲自順、不レ可ニ以爲レ下。〔魏志、陳羣傳〕孔融高才倨傲。

【倨傲鮮腆】4 尊大にかまへて愛嬌がない。〔蘇軾、留侯論〕是故倨傲鮮腆、而深折レ之。

【倨慠】5 たかぶりあなどる。倨傲に同じ。傲倨。〔後漢書、黃憲傳〕同郡戴良、才高倨傲。

【倨鷔】6 たかぶりあなどる。倨傲(3)に同じ。〔漢書、匈奴傳上〕倨ニ鷔其辭一。〔注〕師古曰、倨、慢也、鷔、與レ傲同。

【倨氣】7 おごつた氣ぶん。〔唐書、忠義、吳漵傳〕漵循循有ニ禮讓一、無ニ倨氣矜色一、見レ重ニ朝廷一。

【倨貴】8 おごりたかぶる。〔潘岳、西征賦〕重ニ條侯之倨貴一。〔注〕善曰、漢書曰、丞相條侯至貴倨也、杜預左氏傳注曰、倨、敖也。

【倨倨】9 ❶ものを考へないさま。智をはたらかせないさま。〔淮南子、覽冥訓〕臥倨倨、興眄眄。〔注〕倨倨、臥無ニ思慮一也。❷おごり高ぶる。服の盛なさま。〔孔子家語、三恕〕是倨倨者何也。

【倨曲】10 まがる。〔爾雅、釋畜、倨牙食ニ虎豹一、疏〕其牙倨曲、而食ニ虎豹一也。

【倨固】11 傲慢でかたくな。〔荀子、脩身〕體恭敬而心忠信、云云、體倨固而心執詐。〔注〕倨、傲也、固、鄙回。

【倨句】12 ❶矩(さしがね)の長い方の一邊を倨といひ、直角に折れ曲つた短い方の一邊を句といふ。〔正字通〕倨、矩之直者爲レ倨、折而衡者爲レ句、磬有ニ倨句一、戈亦有ニ倨句一。〔周禮、考工記、韗人〕倨句磬折。❷まつすぐとまがると。直曲。❶を見よ。〔管子、弟子職〕倨句如レ矩。〔纂詁〕倨、直也、句、曲也、古人言ニ曲直之度一、必以ニ倨句磬折一狀レ之。〔淮南子、兵略訓〕動作周還、倨句詘伸。❸曲る度の少いのと甚しく曲れると。戈の横に出てゐる刃の角度に就いていふ。〔周禮、考工記、冶氏〕已倨則不レ入、已句則不レ決。❹不遜なるとへりくだると。〔大戴禮、曾子立事〕與ニ其倨一也、寧句。〔注〕倨、猶レ慢也、句、以喩レ敬。

【倨佝】13 のびるとかがむと。直曲。倨句。〔淮南子、繆稱訓〕容貌顏色、詘伸倨佝、知ニ情僞一矣。〔集解〕王念孫云、倨佝、猶ニ曲直一也。

【倨忽】14 おごり怠る。〔黃自思、跋ニ員谷別集後一〕自レ幼同處、恨ニ其倨忽一。

【倨視】15 おごりたかぶつて人を輕視する。〔金史、蕭肄傳〕憑ニ恃恩倖一、倨ニ視同列一。

【倨肆】16 おごり高ぶる。我儘。〔法言、五百〕夷俟倨肆、羈角之哺レ果而啗レ之。

【倨牀】17 牀によりかかる。踞牀(10－37642・・7)に同じ。〔史記、酈生傳〕酈生至入謁、沛公方倨レ牀、使ニ兩女子洗レ足。〔注〕索隱曰、案、樂彥云、邊レ牀曰レ倨。

【倨色】18 おごりたかぶつた顏色。〔唐書、苗晉卿傳〕厲言倨色。〔方孝孺、贛窩記〕漢汲長孺・吳張子布輩、皆負レ氣自高、昌言倨色、不ニ少屈仰以取レ合ニ當世一。

【倨身】19 曲つた身體。〔晏子、諫、上〕湯質皙、而長顏以髯、兌上豐下、倨身而揚聲。

【倨侮】20 たかぶつて人をあなどる。〔韓非子、說難〕慮レ事廣肆、則曰ニ草野而倨侮一。

【倨嫚】21 おごりあなどる。倨慢。〔漢書、王尊傳〕暴虐不レ改、外爲ニ大言一、倨嫚姍レ上。

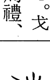
【倨慢】22 おごりあなどる。倨嫚に同じ。〔漢書、王尊傳〕尊爲レ相、倨慢不臣。〔後漢書、鄧禹傳〕嘉相李寶、倨慢無レ禮。

【倨立】23 片足で立つ。びつこで立つ。〔大戴禮、投壺〕無ニ倨立一。〔注〕倨、跛倚也。

【倩】791

㊀セン 〔集韻〕倉甸切 ㄑㄧㄢˋ ch'ien⁴ 霰

㊁セイ シャウ 〔集韻〕七正切 ㄑㄧㄥˋ ch'ing⁴ 敬


小篆

㊀❶**男子の字**(アザナ)**にそへる美稱**。〔說文〕倩、人美字也、从レ人青聲。〔段注〕倩、猶レ甫也、男子之字、有ニ稱レ甫

者一、儀甫・嘉甫、是、有ニ稱レ倩者一、蕭長倩・東方曼倩、是。〔漢書、循吏、朱邑傳〕須ニ魏倩一而後進。〔注〕師古曰、倩、士之美稱。❷**うるはしい。笑ふさま。口許のよいさま。**䪨(**12－43539**)・彭(**12－42565**)・婧(**3－6433**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倩、叚借爲レ䪨、或爲レ彭、爲レ婧。〔詩、衞風、碩人〕好笑倩兮。〔傳〕倩、好ニ口輔一。〔論語、八佾〕好笑倩兮。〔集解〕馬融曰、倩、笑貌。〔晉書音義、中〕倩、美也。❸**はやい。**〔廣韻〕倩、倩利。❹**むこ。**〔說文〕倩、東齊、壻謂ニ之倩一。〔方言、三〕東齊之閒、壻謂ニ之倩一。〔史記、倉公傳〕黃氏諸倩。〔注〕集解曰、徐廣曰、倩者、女壻也。❺**かどがない。**〔集韻〕倩、一曰、無ニ廉隅一。〔二〕❶**かりる。こふ。**請(**10－35640**)・靚(**12－42575**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倩、叚借爲レ請、又爲レ靚。〔方言、十二〕倩、借也。❷**やとふ。やとひ人。**〔正字通〕倩、凡假代及暫雇使令、亦曰レ倩。〔黃堅庭、卽席詩〕不レ當レ愛ニ一醉一、倒倩ニ路人一扶。〔国〕**つらつら。**〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕倩、如レ謂ニ倩以・倩案一之類、與レ熟義同、蓋倩、音千、人美字也、蕭望之、字長倩、東方朔、字曼倩、皆美也、又美笑貌、但望ニ其美容一、熟不ニ目離一之謂、而終以爲ニ此訓一乎、未レ詳。

名乘 ツラ。ヨシ。

【倩影】1 センエイ きれいな月かげ。〔紅樓夢、三十七回〕倩影三更月有レ痕。

【倩兮】2 センケイ 口もとの愛らしいさま。好い口もと。字解〔一〕の❷を見よ。〔詩、衞風、碩人〕巧笑倩兮、美目盼兮。〔傳〕倩、好口輔。

【倩僱】3 セイコ やとはれる。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕倩僱之人、計レ日算レ工。

【倩妝】4 センシャウ 麗しいよそほひ。〔吳融、還俗尼詩〕柳眉梅額倩妝新、笑脫ニ袈裟一得ニ舊身一。

【倩人】5 セイジン 人を雇ふ。〔陳琳、爲ニ曹洪一與ニ魏文帝一書〕怪乃輕ニ其家丘一、謂レ爲レ倩レ人。〔注〕銑曰、謂ニ我文辭皆倩レ人所レ作。

【倩倩】6 センセン 美好なさま。〔杜甫、風疾舟中伏レ枕書レ懷詩〕披顏爭ニ倩倩一、逸足競ニ駸駸一。

【倩代】7 ch'ing⁴ tai⁴ 雇ひかへる。

【倩荼】8 セイト 借りる。〔方言、十二〕倩荼、借也。

【倩盼】9 センペン 愛らしい口もとと美しい目もと。美人の形容。〔詩、衞風、碩人〕巧笑倩兮、美目盼兮。〔傳〕倩、好ニ口輔一、盼、黑白分。〔張耒、次ニ韻秦觀一詩〕嬋娟守ニ重闈一、倚レ市爭ニ倩盼一。

【倩浰】10 センレン 奔り逐ふさま。〔司馬相如、子虛賦〕倏眒倩浰。〔注〕濟曰、倏眒倩浰、奔逐之貌。

【倩女離魂】11 センヂョリコン 元代の雜劇の名。元曲選の一。鄭德輝作。唐の陳玄祐の離魂記に本づいて作る。離魂記によれば、唐の淸河の張鎰の季女倩は、幼時、王宙の許嫁であつたが、父がこれを他に嫁せしめんとしたので、宙は倩女と共に蜀に逃れて二子を生んだ。後五年、衡州に歸つて父張鎰に面會したところ、先きの蜀に逃れた倩女は魂で、眞の倩女は病臥してゐた。かくて其の身と魂とが忽ち一つになり、もと通りの倩女となつたといふ。後世、少女の死を倩女離魂といふのは之に本づく。〔陳元祐、離魂記〕天授三年、淸河張鎰、因レ官家ニ於衡州一。云云、幼女倩娘、端妍絕倫、外甥太原王宙、幼聰悟、美ニ容範一、鎰常器重、每曰、當下以ニ倩娘一妻上レ之、後各長成、宙與ニ倩娘一常私感ニ想於寤寐一、家人莫レ知ニ其狀一、後有ニ賓寮之選者一求レ之、鎰許焉、女聞而鬱抑、云云、宙陰恨悲慟、訣別上レ船、云云、夜半聞ニ岸上人行聲一、問レ之乃倩娘、宙驚喜、匿ニ倩娘於船一至レ蜀、五年生ニ兩子一、其妻常思ニ父母一、宙與俱歸ニ衡州一、先至ニ鎰家一、首謝ニ其事一、鎰曰、倩娘病在ニ閨中一數年、何詭說也、宙曰、見ニ在舟中一、鎰促使ニ人驗レ之、果見ニ倩娘一、疾走報レ鎰、室中女聞而起、飾粧更レ衣、笑而不レ語、出與相迎、翕然合爲ニ一體一、其衣服皆重、其家以ニ事不正一祕レ之。

【倪】792

〔一〕ゲイ 〔集韻〕研奚切 ㄋㄧˊ ni² 齊
〔二〕ガイ ゲ 〔集韻〕宜佳切 佳
〔三〕ゲツ

小篆

〔一〕❶**ます。**〔說文〕倪、俾也、从レ人兒聲。〔段注〕然則倪亦訓レ益也。❷**おごる。**〔管子、正世〕力罷則不レ能レ毋ニ墮倪一。〔注〕倪、傲也。❸**きは。かぎり。分際。**題(**12－43584**)・兒(**1－1365**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倪、叚借爲レ題、實亦爲レ兒、莊子大宗師、不レ知ニ端倪一、按、耑者、草之微始、兒者、人之微始也、齊物論天倪、亦同。〔莊子、齊物論〕何謂ニ和レ之以ニ天倪一。〔釋文〕倪、分也。❹**をさないもの。かよわいもの。**婗(**3－6414**)・兒(**1－1365**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倪、叚借爲レ婗、實爲レ兒。〔孟子、梁惠王下〕反ニ其旄倪一。〔注〕倪、弱小緊倪者也。❺**ながしめ。よこめ。**睨(**8－23464**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倪、叚借爲レ睨。〔爾雅、釋魚〕左倪不レ類、右倪不レ若。〔釋文〕倪、本作レ睨。〔廣雅、釋詁二〕倪、衺也。❻**城上のひめがき。**堄(**3－5209**)に通ず。〔說文通訓定聲〕倪、疊韻連語、城上垣曰ニ俾倪一、墨子備城門篇、四尺曰レ倪、字亦作レ堄。❼齯(**12－48702**)に通ず。倪齒(15)を見よ。❽**姓。**〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕倪氏、卽郳氏也、避レ讎改爲レ倪、漢有ニ揚州刺史倪謬一、唐有ニ刑部郎中倪若水一、中山藁城人。〔尙友錄〕倪、千乘宮音、鄭武公封ニ次子于倪一、因氏、又、郳黎來之後、亦爲ニ兒氏一、避レ讎改爲レ倪。❾〔現〕吳の地方の俗語では、自己を稱して倪といふ。自稱。〔二〕**はて。**涀(**7－17664**)に通ず。〔集韻〕倪、極際也、或作レ涀。〔莊子、大宗師〕不レ知ニ端倪一。〔釋文〕倪、本或作レ涀。〔三〕臲(**9－30130**)に通ず。〔易、困〕困ニ于臲卼一。〔古文易〕困ニ于倪仉一。

参考 俾(**1－740**)を併せ見よ。

【倪迂】1 ゲイウ 倪瓚(12)を見よ。

【倪淵】2 ゲイエン 元、烏程の人。字は仲深。敖繼公に學び、禮經易數の學に明通し、薦められて湖州教授となり、後、當塗縣主簿に至る。著に易集說・圖說・序例がある。〔尙友錄、三〕。

【倪岳】3 ゲイガク 明の人。謙の子。字は舜咨。號は淸谿。謚は文毅。天順の進士。官は禮部尙書・吏部尙書。書室を世翰堂といふ。著に淸谿漫稿がある。〔明吏、一百八十三〕・〔萬斯同明史、二百三十八〕・〔明史稿、一百六十六〕。

【倪含】4 ゲイガン 淸、嘉善の人。字は幼含。畫に巧。

【倪璣】5 ゲイキ 明、陝西咸寧の人。字は公在。弘治の進士。給事中を歷、正德中、佐嘉善に謫せられ、義塚及び社學書院を置き、甚だ治政の譽があつた。後、定州の長官に遷る。〔尙友錄、三〕。

【倪光】6 ゲイクワウ 明、鄞の人。字は應金。易に精通す。著に味易詩集がある。〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十三〕・〔明詩紀事、辛、十八〕。

【倪皇】7 ゲイクワウ 舜の妃。娥皇(**3－6331··7**)に同じ。倪は儀の誤。〔大戴禮、五帝德〕宰我曰、請ニ問帝舜一、孔子曰、蟜牛之孫、瞽叟之子也、云云、承ニ受大命一、依ニ于倪皇一。〔補注〕倪、字誤、當レ作レ儀、儀皇卽舜妃娥皇。

【倪黃】8 ゲイクワウ 元の倪瓚と黃公望。二人共に畫家で、王蒙・吳仲圭と倶に、元末の四大家といはれる。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕槎牙瘦古、皆倪黃筆法。〔齋藤拙堂、下ニ岐蘇川一記〕非ニ荆關之筆、倪黃之手一、不レ能レ狀也。

【倪敬】9 ゲイケイ 明の人。峻の孫。字は汝敬。正統の進士。景泰の末に、敬天修德等の六事を陳じて宜山典史に謫せられ、天順の初、督府都事に遷り、安遠侯柳溥に從つて西寇を征討す。〔明史、一百六十二〕・〔萬斯同明史、二百十九〕・〔明史稿、一百四十七〕。

【倪謙】10 ゲイケン 明、上元の人。字は克讓。號は經鋤

後人。諡は文僖。正統の進士。朝鮮に使して功あり。憲宗の時、官は南禮部尚書。書室を靜存軒といふ。著に朝鮮紀事・倪文僖集がある。〔明史、一百八十三〕・〔明史稿、一百六十六〕。

【倪燦】11 ザイ 清、錢塘の人。字は闇公。號は雁園、又、研石鋤夫・研田山人。康熙の舉人。鴻博に舉げられ、檢討を授けられ、明史の編修に與る。詩・書に長ず。著に雁園集がある。〔清史稿、四百八十九〕・〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百十七〕・〔國朝先正事略、三十九〕。

【倪瓚】12 サンイ 元、無錫の人。字は元鎭（元映）。一に倪斑といふ。號は雲林居士・雲林散人。又、嬾瓚倪迂・滄浪漫士・淨因菴主・荊蠻民・朱陽館主・曲全叟・如幻居士・奚玄朗（奚元朗）・幻霞子・東海瓚といふ。山水を畫くに巧で、兼ねて詩を善くす。初、董源を師としたが、晩年、古法を一變し、四方の名士多く其の門に至る。居を清閟閣といひ、法書名畫祕籍を多く藏す。明の太祖が吳を平げた時、瓚は黃冠野服して吳に編せられ、年七十四で卒す。書室を蝸牛廬・淨名菴・蕭閒館・望湖閣といふ。著に清祕閣集がある。〔明史、二百九十八〕・〔萬斯同明史、二百三十六〕・〔明史稿、二百七十九〕。

【倪思】13 シイ 宋の人。稱の子。字は正甫。諡は文節。乾道の進士。官は光宗の時、禮部尚書。史彌遠に忤らひ、鎭江府の長官となる。著に齊山甲乙稿・兼山集・經鉏堂雜志がある。〔宋史、三百九十八〕・〔宋史新編、一百四十九〕・〔南宋書、四十二〕・〔宋元學案、四十〕。

【倪賜】14 シイ 清、常熟の人。字は三錫。號は閒谷。畫・詩に巧。著に香祖居詩草がある。

【倪齒】15 シイ 一度脫落して更に生えた老人の齒。齔齒。齔（12－4870②）の字解を見よ。〔列女傳、母儀、魯季敬姜傳〕黃耄倪齒也。

【倪峻】16 ジュン 明、無錫の人。字は克明。洪武の擧人。官は都給事中。〔無錫縣志〕。

【倪曙】17 ショ 南漢、侯官の人。字は孟曦。太學博士となり、嶺表に游んで劉隱の幕客となる。襲の卽位するや、工部侍郎となり、後、尚書左丞同平章事に至る。著に賦一卷がある。〔十國春秋〕。

【倪稱】18 ショウ 宋、歸安の人。字は文擧。號は綺川。業を張九成に受く。紹興中の進士。官は太常寺主簿。著に綺川集がある。〔宋元學案、四十〕・〔尚友錄、三〕。

【倪嵩】19 スウ 明、當塗の人。字は仲卿。嘉靖の進士。官は御史から戶部侍郎に遷る。〔國朝列卿記、九十四〕・〔蘭臺法鑒錄、二十一〕。

【倪正】20 セイ 清、宣城の人。字は方公。文章家・書法家で、且天文曆算をよくする。

【倪閃】21 セン 宋、沙縣の人。字は泰夫。官は寧國府教授。後、廣東提幹。〔尚友錄、三〕。

【倪塘】22 タウ 塘の名。江蘇省江寧縣の東南。一に兒塘に作る。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕倪塘、在二上元縣東南二十五里一。

【倪濤】23 タウ ㊀宋、廣德の人。字は巨濟。號は玉溪。幼い時からよく文を作り、又、博聞強記で、年十五の時に太學の試に第一に居る。大觀の進士。左司員外郎から貶せられて朝城縣の酒稅を監し、再び茶陵船場に徙さる。善く草蟲を畫き、詩に巧。著に雲陽集・玉溪集がある。〔宋史、四百四十四〕・〔宋史新編、一百七十一〕・〔東都事略、一百十六〕。㊁清、錢塘の人。字は崐渠。號は修梅。學を嗜み、終生著述をやめず。著に周易蛾術・六藝之一錄・文德翼・傭吹錄注がある。〔四庫提要、十〕。

【倪端】24 タン ㊀明の人。字は仲正。畫に巧。〔明畫錄、一〕。㊁清、嘉興の人。字は文初。畫に巧。〔國朝畫識、三〕。

【倪登】25 トウ 宋、福清の人。字は彥及。元符の進士。官は朝請大夫。著に論語解がある。〔尚友錄、三〕。

【倪萌】26 ハウ 漢、臨淄の人。字は子明。歲饑ゑ、兵革並び起つて、人民相啖ふや、兄と俱に城を出でて蔬を採り、赤眉に捕へられ、兄が啖はれようとした時、兄は老いて瘠せ、萌の肥健なるに如かずといつて兄に代らんと願ふ。賊、義として殺さず。〔東觀漢記〕。

【倪復】27 フク 明、鄞の人。字は汝新。號は畏菴。程朱の學を主とし、鍾律に深い。著に易繫辭解・中庸解・正蒙發微・皇極經世書通解・鍾律通考・閒居漫記・東巢雜著・壺齋問答・救災集議・禘祫議・瀋湖議・見聞欄楯・觀古錄・畏菴存稿がある。〔萬斯同明史、二百八十四〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、二十六〕。

【倪璠】28 ハン 清、錢塘の人。字は魯玉。康熙の擧人。官は內閣中書。著に神州古史考・方輿通俗文・庾子山集注がある。〔清史列傳、七十一〕。

【倪輔】29 ホ 明、平湖の人。字は良弼。天順の進士。官は湖廣左參政。詩文に巧。著に類劇藏稿がある。〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、四十四〕・〔明詩綜、二十二〕。

【倪模】30 ボ 清、望江の人。字は迂村。號は韭瓶。嘉慶の進士。安徽地方第一の藏書家で、其の藏書の處を江上雲林閣といふ。又、書室を經鋤堂・二水山房といふ。平生古錢を嗜む。著に古今泉略がある。〔碑傳集補、二十七〕。

【倪模】31 ボ 宋、浦江の人。字は文卿。號は石陵。用兵攻守の術を究悉し、尤も地理に精しく、學者、石陵先生といふ。著に輿地會元・鑒轍錄あれど傳はらず、ただ倪石陵書のみ存する。〔四庫提要、一百五十九〕。

【倪以孚】32 イフ 明、婺源の人。官は進賢縣教諭。其の室に題して思誠といふ。〔萬姓統譜〕。

【倪維德】33 イトク 明、吳縣の人。字は仲賢。醫を業とす。內經を以て宗とし、劉完素・張從正・李杲、三家の說を參酌す。著に玄機啓微がある。〔明史、二百九十九〕・〔萬斯同明史、三百九十八〕・〔明史稿、二百八十一〕。

【倪一麐】34 イツヨウ 清、浦江の人。字は服顏。號は松樓。書畫に巧。音律に曉通す。著に編年詩がある。

【倪印心】35 インシン 元、績溪の人。號は古洲。湖廣儒學副提擧。後、玉山縣尹。〔尚友錄、三〕。

【倪雲林】36 ウンリン 倪瓚（12）を見よ。

【倪應眷】37 オウケン 明、桐城の人。字は申之。萬曆の進士。官は熹宗の時、太僕少卿。黨禍の起るや、職を奪はれて歸る。崇禎の初、南太僕卿に至る。〔安慶府志〕。

【倪可大】38 カダイ 明、儀眞の人。字は簡白。歲貢を以て霍丘訓導を授けらる。崇禎の間、流寇の東下した時、民兵を督して逆へ戰ひ、城陷つて死す。〔明史、二百九十二〕・〔明史稿、二百七十二〕。

【倪嘉慶】39 カケイ 明、江寧の人。字は篤之。號は靈潭。天啓の進士。官は戶科給事中。詩に巧。著に靈潭集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十六〕・〔小腆紀傳、五十六〕・〔明詩紀事、辛、十八〕。

【倪嘉善】40 カゼン 明の人。應眷の子。號は瓊圃。天啓の進士。庶吉士に改められる。官は崇禎中、國子司業。著に媚筆泉集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十六〕。

【倪起蛟】41 キカウ 清、鎭海の人。字は安瀾、又は翔雲。乾隆の武擧人。嘉慶の間に、千總を以て李長庚に從ひ、蔡牽を勦して屢〻戰功あり、官は海壇鎭總兵に至る。〔國朝耆獻類徵、三百十五〕・〔續碑傳集、四十九〕。

【倪會鼎】42 クワイテイ 清の人。元潞の子。字は子新。晩年、無功と號す。私諡は孝靖先生。明の諸生。官は唐王の時、職方郎中。黃道周に從學し、治格會通・明儒源流錄を著し、能く道周の學を傳ふ。康熙中、卒す、年八十七。〔國朝耆獻類徵、四百六〕。

【倪繼宗】43 ケイソウ 清、餘姚の人。字は復野。著に續姚江逸詩がある。〔四庫提要、一百九十四〕。

【倪元璐】44 ゲンロ 明、上虞の人。字は玉汝（汝玉）。號は鴻寶。諡は文正。清代、文貞と諡す。天啓の進士。崇禎の初、魏忠賢の遺黨を擊ち、國子祭酒を拜したが、後、溫體仁の忌む所となつて落職し、又、兵部侍郎に除せられたが、母が老いてゐるので固辭し、尋いで戶部尚書となる。李自成が京師を陷れた時、縊死す。行草書及び山水竹石の畫に巧。著に兒易內外儀・倪文貞集がある。〔明史、一百六十五〕・〔萬斯同明史、三百八十二〕・〔明史稿、二百五十二〕。

【倪幻霞】45 ゲンカ 元、倪瓚（12）をいふ。幻霞はその號。〔妮古錄〕倪雲林、又嘗號二倪幻霞一。

【倪公晦】46 コウワイ 宋、金華の人。字は孟陽。兄公度・公武と共に業を何基に受け、箕谷の三倪と稱せらる。官は轉運司幹辦公事。清廉介直の士。著に周易管窺がある。〔宋元學案、八十二〕。

【倪國璉】47 コクレン 清、錢塘の人。字は穗疇（稼

疇〕、又、子珍。號は西崑。雍正の進士。官は給事中。能く琴を彈じ、山水畫に巧。〔淸畫家詩史、丙、上〕・〔國朝畫識、十二〕。

【倪士毅】48 ゲイシキ　元、休寧の人。字は仲弘。陳櫟に學ぶ。祈門山に隱居して心を講學に潛む。學者、道川先生と稱す。著に重訂四書輯釋・作要要訣がある。〔宋元學案、七十〕・〔尚友錄、三〕。

【倪志遠】49 ゲイシエン　淸、宣城の人。字は澄可。山水畫に巧。晩年、右手を折り、左腕で畫を描いたが、一層妙であつた。

【倪思輝】50 ゲイシキ　明、祁門の人。天啓の初、給事中となつたが、帝の恚に觸れて貶せらる。皇子が生誕したので故官に復し、崇禎中、南京督儲尚書となる。〔明史、二百四十六〕・〔萬斯同明史、三百五十三〕・〔明史稿、二百三十〕。

【倪尚忠】51 ゲイシヤウチユウ　明、浦江の人。字は世卿。萬曆の進士。官は順德縣の長官から、吉安同知に遷る。著に居雲・鳴籟・醉吟等の集がある。〔明詩紀事、庚、十九〕。

【倪象占】52 ゲイシヤウセン　淸、象山の人。初名は承天。後、字を以て行はれ、更に韭山と字す。優貢生。官は嘉善訓導。著に青櫺館集がある。〔墨香居畫識、六〕。

【倪若水】53 ゲイジヤクスイ　唐、藁城の人。字は子泉。進士。尚書右丞から、出でて汴州の刺史となり、風化大いに行はる。玄宗が使者を南方に遣はして珍禽異獸を捕へしめたのを諫止す。後、官は戶部侍郞・右丞。〔舊唐書、一百八十五〕・〔唐書、一百二十八〕。

【倪朱謨】54 ゲイシユボ　明、浙江の人。字は純宇。醫治に精通し、本草彙言の著がある。〔浙江通志〕。

【倪承天】55 ゲイシヨウテン　淸の人。倪象占(52)を見よ。

【倪承茂】56 ゲイシヨウモ　淸、吳縣の人。字は稼咸。號は岫塘。乾隆の擧人。里中に教授して終はる。著錄甚だ盛で、沈德潛と名を齊しくし、著に岫塘詩稿がある。〔鶴徵錄、七〕。

【倪千里】57 ゲイセンリ　宋、東陽の人。字は起萬。陳傅良に就いて學び、其の春秋の學を傳ふ。淳熙中、進士となり、尋いで監察御史から右正言に遷つたが、大臣の意に忤つて起居舍人に除せられ、侍講に至つて卒す。〔南宋館閣續錄、九〕・〔宋元學案、五十三〕。

【倪祚善】58 ゲイソゼン　明、桐城の人。字は永錫。官は金華同知に至る。許都の亂を平げ、功により處州知府に擢んでらる。〔安慶府志〕。

【倪祖常】59 ゲイソジヤウ　宋、雩川の人。字は子武。官は大理寺正。嘉定中、徽州の守。〔萬姓統譜〕。

【倪宗嶽】60 ゲイソウガク　明、濮州の人。字は鎭卿。正德の進士。嘉靖の初年、御史に擢んでられたが、大禮を諫めて廷杖を受け、尋いで眞定等の府に按撫となつた。〔明史、一百九十二〕。

【倪宗正】61 ゲイソウセイ　明、餘姚の人。字は本端。號は小野。謚は文忠。弘治の進士。官は兵部武選司員外郞。後、南雄知府。著に突兀稿・觀海集・太倉稿・倪小野集がある。〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、五十一〕・〔明詩綜、二十八〕。

【倪稻孫】62 ゲイタウソン　淸、仁和の人。字は米樓。號は穀民。又、鶴林道人・夢隱子。貢生。篆隸書に精しく、金石を嗜む。著に海漚日記がある。〔淸畫家詩史、戊、下〕・〔國朝書人輯略、九〕。

【倪道源】63 ゲイダウゲン　元、安仁の人。字は太初。詩文に巧。山川を游覽し、至る所詠す。後、都下に歿す。朝廷重禮を以て葬り、江南吟士之墓といふ。著に太初集がある。〔江西通志〕。

【倪天隱】64 ゲイテンイン　宋、桐廬の人。號は茅岡。博學能文、嘉祐中に主講に除せらる。〔宋史翼、二十三〕・〔宋元學案、一〕。

【倪天淵】65 ゲイテンエン　元、鄞の人。字は震亨。家富み、施與を樂しむ。四十餘年間、江南の白粲の漕役を督し、高年耆德の門として旌表せらる。〔尚友錄、三〕。

【倪文一】66 ゲイブンイツ　宋、福安の人。字は元芳。咸淳の進士。官は淸流縣の長官。〔尚友錄、三〕。

【倪文蔚】67 ゲイブンウツ　淸、望江の人。字は豹臣（豹岑）。號は翰臣。又、兩疆勉齋（兩勉彊齋）。咸豐の進士。主事を以て曾國藩の軍幕に參し、官は河南巡撫・學問淹推。今文尚書を治む。書室を小桐陰閣といふ。著に禹貢說・兩疆勉齋詩文集がある。〔淸史列傳、五十九〕。

【倪文煥】68 ゲイブンクワン　明、江都の人。天啓中、進士を以て御史を授けられ、魏忠賢の幕に入り、後、太常卿となる。〔明史、三百六〕・〔明史稿、二百八十七〕。

【倪文徵】69 ゲイブンチヨウ　明、浙江山陰の人。字は舜平。醫術に通ず。國亡ぶるや、酒肴を購つて市中に飮み、里中の少年に飮ませ、ともに墓所に至り、少年をして坎を掘り瘞めしめて卒す。〔明末忠烈紀實、十八〕・〔南疆繹史摭遺、十二〕・〔小腆紀年、十二〕・〔勝朝殉節諸臣錄、十〕・〔小腆紀傳、四十二〕。

【倪木癡】70 ゲイボクチ　淸、金山の人。其の名は詳かでない。號は木癡。詩に巧。書室を息耕軒といふ。著に琴淸堂詩文集がある。

【倪孟賢】71 ゲイマウケン　明、南昌の人。官は洪武の間、麗水縣の長官。〔明史、一百四十〕・〔萬斯同明史、一百八十二〕・〔明史稿、一百三十二〕。

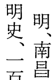
【倪石陵書】72 ゲイセキリヨウシヨ　書名。一卷。宋、倪樸の文集。明、毛鳳韶編。〔四庫提要、集、別集類〕。

【倪文僖集】73 ゲイブンキシフ　書名。三十二卷。明、倪謙撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【倪文貞集】74 ゲイブンテイシフ　書名。十七卷。明、倪元璐撰。又、續編三卷、奏疏十二卷、講編四卷、詩集四卷を附してある。〔四庫提要、集、別集類〕。

【倫】793

リン　〔集韻〕龍春切　ㄌㄨㄣˊ　luen²　眞


小篆

❶ともがら。なかま。たぐひ。〔說文〕倫、輩也、从ㇾ人侖聲。〔禮、曲禮下〕儗ㇾ人必於二其倫一。〔注〕倫、猶ㇾ類也。〔國語、晉語四〕臣之倫。〔注〕倫、伍也。〔戰國、宋策〕內臨二其倫一。〔注〕倫、等也。〔呂覽、誣徒〕身狀出ㇾ倫。〔注〕倫、匹。❷しな。ならび。順序。〔禮、文王世子〕如二其倫之喪一。〔注〕倫、謂二親疏之比一也。〔禮、中庸〕毛猶有ㇾ倫。〔注〕倫、猶ㇾ比也。❸みち。人の道。守るべき秩序。すぢみち。道理。條理。〔說文〕倫、一曰、道也。〔詩、小雅、正月〕有ㇾ倫有ㇾ脊。〔傳〕倫、道。〔禮、樂記〕樂教之大倫也。〔注〕倫、理也。〔禮、樂記〕樂行而倫清。〔注〕倫、謂二人道一也。〔禮、祭統〕夫祭有二十倫一焉。〔注〕倫、義也。〔禮、禮器〕禮之大倫。〔疏〕倫、猶ㇾ例也。〔禮、禮器〕禮、時爲ㇾ大、順次ㇾ之、云云、父子之道、君臣之義、倫也。〔注〕倫之言、順也。〔孟子、離婁下〕察二於人倫一。〔注〕倫、序。〔淮南子、精神訓〕莫ㇾ得二其倫一。〔注〕倫、理也、道也。〔漢書、禮樂志〕立二人倫一。〔注〕師古曰、倫、理也。〔太玄經、昆〕同二一倫一也。〔注〕倫、正也。〔孔子家語、入官〕羣僕之倫也。〔注〕倫、紀也。❹きめ。木理。〔周禮、考工記、弓人〕析ㇾ幹必倫。〔注〕倫、順二其理一也。❺つかれる。惀(4−10749)に通ず。〔說文通訓定聲〕倫、叚借爲ㇾ惀。〔爾雅、釋詁〕倫、勞也。❻えらぶ。掄(5−12238)に通ず。〔說文通訓定聲〕倫、叚借爲ㇾ掄。〔儀禮、少牢饋食禮〕雍人倫膚九。〔注〕倫、擇也。❼論(10−35658)に通ず。〔莊子、齊物論〕有ㇾ倫有ㇾ義。〔釋文〕倫、崔本作ㇾ論。❽綸(8−27583)・淪(7−17675)に通ず。〔呂覽、古樂〕伶倫氏。〔漢書、律歷志〕伶綸氏。〔漢書、古今人表〕冷淪。❾姓。〔通志、氏族略、以ㇾ名爲ㇾ氏〕倫氏、風俗通云、黃帝樂人伶倫氏之後、今密州多二此姓一、唐監察御史倫元慶、京兆人。〔萬姓統譜〕倫望出二京兆一、今嶺南多二此姓一。

名乘　ノリ。トモ。ツグ。シナ。ツネ。

【倫彝】1 リンイ　人の道。彝倫。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕倫彝盡喪。

【倫河】2 ローヌガハ　河の名。スヰス南部、アルプスに源を發し、フランスを流れ、地中海に入る。La

Rhône

【倫好】3 カリン 親友。〔趙至、與ニ嵇茂齊ニ書〕背ニ榮宴ニ辭ニ倫好ニ。

【倫鑒】4 カリン 人倫のかがみ。〔吳融、閿鄉寓居十首、蛙聲詩〕稱珪倫鑒未ニ精通ニ、只把蛙聲皷吹同。

【倫紀】5 キリン 人の踏むべき道。孟子、滕文公上の教ニ人倫ニと、書伊訓の先王肇修ニ人紀ニを合せ稱したもの。人道。人倫。〔新書、服疑〕謹守ニ倫紀ニ、則亂無ニ由生ニ。〔元史、仁宗后阿納失失里紀〕下以敍ニ倫紀之常ニ。

【倫擬】6 ギリン 類する。似てゐる。〔唐書、劉洎傳〕帝王之與ニ臣庶ニ、聖哲之與ニ庸愚ニ、等級邈絶、勢不ニ倫擬ニ。

【倫許】7 キリョ 後魏、胡叟(9－29400‥231)の字。

【倫琴】8 レンキン 獨逸の物理學者。X線の發見者。Röntgen の音譯。

【倫經】9 ケリン すぢみち。〔莊子、天運〕四時迭起、萬物循生、一盛一衰、文武倫經。〔疏〕循、順、倫、理、經、常也。〔司馬法、天子之義〕必立ニ貴賤之倫經ニ。

【倫侯】10 コリン 秦代の位。列侯よりは卑くて、封邑のないもの。〔史記、秦始皇紀〕倫侯建成侯趙亥。〔注〕索隱曰、爵卑ニ於列侯ニ、無ニ封邑ニ者、倫、類也、亦列侯之類。

【倫紙】11 シリン 蔡倫の紙。紙は後漢の蔡倫が發明したといはれる。〔千字文〕恬筆倫紙。

【倫次】12 ジリン 順序次第。秩序。分限。〔白居易、與ニ濟法師ニ書〕其於ニ倫次轉遷ニ、合ニ同條實ニ。〔范仲淹、睢陽戚寺丞尺牘〕庠序之會、漸有ニ倫次ニ見レ講ニ春秋ニ、聽衆四十人。

【倫常】13 リンジョウ 人倫の道。五倫(1－257‥1099)・五常(1－257‥550)を見よ。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、有司決囚等第四〕此於ニ法紀倫常風化ニ所レ繫甚重。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕風俗倫常繫焉。

【倫叔】14 シリュク 晉、皇甫重(8－22701‥236)の字。

【倫序】15 リンジョ ついで。次第。順序。〔班固、爲ニ第五倫ニ薦ニ謝夷吾ニ表〕方ニ之古賢、實有ニ倫序ニ。

【倫敍】16 リンジョ 順序をつける。順序立つ。〔吳志、陸抗傳〕庶政所ニ以倫敍ニ、四門所ニ以穆清ニ也。

【倫色】17 リンショク 適合した色々の色。〔新書、輔佐〕步驟徐疾之節、春夏秋冬馬之倫色。

【倫清】18 セイリン 人道の清く立派なこと。〔禮、樂記〕樂行而倫清、耳目聰明、血氣和平、移レ風易レ俗、天下皆寧。〔注〕言ニ樂用則正ニ人理ニ、和ニ陰陽ニ也、倫、謂ニ人道ニ也。〔疏〕樂行而倫清者、倫、類也、以ニ其正樂如ニ上所レ爲、故其樂施行而倫類清美矣。

【倫脊】19 セキリン 道理。〔詩、小雅、正月〕維號ニ斯言ニ、有レ倫有レ脊。〔傳〕倫、道、脊、理也。〔箋〕維民號呼而發ニ此言ニ、皆有ニ道理ニ、所ニ以至レ然者ニ、非ニ徒苟妄爲ニ誣辭ニ。

【倫黨】20 クリン ともがら。朋黨。倫儔。〔趙至、與ニ嵇茂齊ニ書〕翱ニ翔倫黨之閒ニ、弄ニ姿帷房之裏ニ。〔注〕銑曰、倫黨、朋黨也。

【倫堂】21 クリン 明、顧慶恩(12－43689‥255)の號。

【倫儔】22 luen² ch'ou² ともがら。なかま。倫匹。

【倫徒】23 トリン ともがら。倫儔。〔商子、壹言〕上爵尊、而倫徒擧。

【倫等】24 トウリン 順序。階級。又、ともがら。仲間。〔六韜、犬韜、武騎士〕超ニ絶倫等ニ。〔管子、君臣下〕倫等不レ踰。

【倫敦】25 ロンドン 英國の首府。London の音譯。

【倫輩】26 バイリン 同じなかま。たぐひ。倫匹。〔禮、文王世子、疏〕如ニ其親疏倫輩之喪ニ。〔魏志、夏侯玄傳〕考ニ行倫輩ニ。〔李華、韓國公張仁愿廟碑銘〕鳥獸草木、出ニ其倫輩ニ、猶或利害憑焉。

【倫比】27 ビリン ❶むれ。なかま。比倫。〔揚雄、劇秦美新〕數蒙ニ渥恩ニ、拔ニ擢倫比ニ。〔魏志、夏侯玄傳〕據ニ官長能否之第ニ、參ニ以鄉閭德行之次ニ、擬ニ其倫比ニ。❷同等。〔韓愈、論ニ佛骨ニ表〕數千百年已來、未レ有ニ倫比ニ。

【倫匹】28 リンヒツ ❶なかま。同輩。倫輩。〔法華經〕其兩足聖尊最勝、无ニ倫匹ニ。〔大唐西域記、六〕太子伎藝多能、獨拔ニ倫匹ニ。❷配偶者。妻をいふ。〔蘇蕙、璇璣圖詩〕倫匹飄離浮ニ江湘ニ。

【倫膚】29 プリン 筋目の正しい柔かな肉。一說に、倫は擇で、雍人の擇ぶ肉といふ。〔儀禮、公食大夫禮〕倫膚七。〔注〕倫、理也、謂ニ精理滑膩者ニ。〔儀禮、少牢饋食禮〕雍人倫膚九、實ニ于一鼎ニ。〔注〕倫、擇也、膚脅革肉、擇ニ之取レ美者。

【倫表】30 リンピョウ 清、王大經(7－20823‥1873)の字。

【倫理】31 リンリ 物の筋目正しいこと。轉じて、事物倫類の道理。人倫道德の原理。其の學を倫理學・道義學といふ。〔禮、樂記〕樂者通ニ倫理ニ者也。〔淮南子、要略〕經ニ古今之道ニ、治ニ倫理之序ニ。〔新書、時變〕違ニ禮義ニ棄ニ倫理ニ。〔朱子語類〕讀レ史當ニ觀ニ大倫理ニ・大機會ニ・大治亂之得失ニ。

【倫理學】32 ガクリ 英語の Ethics 獨逸語の Ethik の譯。行爲の善惡・正不正を判定する標準を研究し、道德的性格を完全に發達させる方法を研究する科學。

【倫類】33 ルイリン ❶人倫の種類。〔荀子、勸學〕倫類不レ通、仁義不一、不レ足ニ謂ニ善學ニ。〔注〕通ニ倫類ニ謂ニ雖ニ禮法所レ未レ該、以ニ其等倫比類ニ而通レ之ニ謂ニ一以貫レ之、觸類而長ニ也。❷同じ類。同類。〔方干、偶作詩〕若於ニ巖洞ニ求ニ倫類ニ、今古疎愚似レ我多。

【倫列】34 レツリン 順序を立てて列べる。〔墨子、大取〕義可レ厚厚レ之、義可レ薄薄レ之、謂ニ倫ニ列德行ニ。

【邁レ倫】35 スリンニ 等輩よりすぐれる。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕雄節邁レ倫、高氣蓋レ世。

【倫以訓】36 イクン 明の人。以諒の弟。字は彥式。武德年間、進士第一に及第す。官は南京國子監祭酒。〔明史稿、一百六十八〕・〔國朝列卿記、一百六十〕・〔本朝分省人物攷、一百十一〕・〔明詩紀事、戊、十三〕。

【倫以詵】37 リンイセン 明の人。以訓の弟。字は彥羣。正德の進士。官は儀制司主事。後、南京兵部郎中。〔尚友錄、四〕。

【倫以諒】38 リンイリョウ 明の人。文敍の子。字は彥周。官は御史。後、通政使參議。〔明史稿、一百六十八〕・〔蘭臺法鑒錄、十五〕・〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、一百十一〕・〔明詩紀事、戊、十四〕。

【倫巴底】39 ロンバルディヤ イタリヤ北部の地名。Lombardy の音譯。

【倫文敍】40 ブンジョ 明、南海の人。字は伯疇。弘治中、會試・殿試とも皆第一。修撰を授けられ、諡德に進む。〔萬斯同明史、二百八十四〕・〔明史稿、一百六十八〕・〔國朝獻徵錄、十九〕・〔皇朝詞林人物考、四〕・〔本朝分省人物攷、一百十一〕。

【有レ倫有レ要】41 リンアリユウアリ 刑罰は時勢の必要に應じて輕重其の宜しきを制すべきであるが、又、法制には根本的原理と要則とがあり、輕々に變更するわけにゆかぬといふこと。〔書、呂刑〕刑罰、世輕世重、惟齊非レ齊、有レ倫有レ要。〔蔡傳〕惟齊非レ齊者、法之權也、有レ倫有レ要者、法之經也。

【倬】794

タク 〔集韻〕竹角切 覺 ㄓㄨㄛˊ chuo²

篆 小 ❶大きい。〔說文〕倬、箸大也、从レ人卓聲、詩曰、倬彼雲漢。〔說文通訓定聲〕倬、按、當訓レ大也、箸明者、焯字之訓。❷あきらか。いちじるしい。焯(7－19139)に通ず。〔說文通訓定聲〕倬、段借爲レ焯、說文引ニ詩棫樸、倬彼雲漢ニ、箋、倬然天河水氣、是也、傳、大也、失レ之。❸たかい。卓(2－2741)に通ず。〔說文通訓定聲〕倬、段借爲レ卓、詩桑柔、倬彼昊天、箋、明大貌、失レ之。❹ととのえる。超絶する。他に勝れる。趠(10－37192)に通ず。〔說文通訓定聲〕趠、段借爲レ倬、詩韓奕、有ニ倬其道ニ、釋文、明皃、失レ之。〔左思、魏都賦〕山川之倬詭。〔注〕善曰、廣雅曰、倬、絶也。

名乘 アキラ。ツナ。

【倬雲】タクウン 字號。❶清、吳騫(2－3365‥262)の字。❷清、史紹登(2－3249‥236)の字。❸清、周爲漢(2－3441‥535)の字。❹清、成書(5－11544‥160)の字。❺清、汪繼燻(6－17154‥212)の字。

【倬詭】タクキ 他に勝れて異彩がある。卓詭。〔左思、魏都賦〕至ニ於山川之倬詭、物產之魁殊ニ、或名奇而見レ稱、或實異而可レ書。〔注〕善曰、廣雅曰、倬、絶也、薛綜西京賦注曰、詭、異也。

【倬湖】3 タクコ 清、徐其相(4－10110‥367)の字。

【倬章】4 タクショウ 清、劉如漢(2－2224‥1064)の字。

【倬甫】5 タクホ 清、王宗涑(7－20823‥1847)の字。

【侹】795 キヤウ 侹(1−670)に同じ。〔字彙〕侹、同レ侹。〔正字通〕侹、侹字之譌。

【倭】796

㊀ヰ 〔集韻〕邕危切 ㄨㄟ wei¹ 支

㊁クワ ワ 〔集韻〕烏禾切 ㄨㄛ wo¹ 歌

㊂クワ ワ 〔集韻〕鄔果切 哿

小篆

㊀❶したがふさま。〔說文〕倭、順皃、从レ人委聲、詩曰、周道倭遲。❷廻つて遠いさま。倭遲(26)を見よ。❸逶(11−38949)・委(3−6181)・[辶+爲](11−39138)・威(3−6259)に通ず。〔正字通〕倭、詩、小雅、周道倭遲、與二逶迤・[辶+爲]地・委蛇・威遲・委移一竝通。❹みにくい。仳(1−404)に通ず。倭傀(5)を見よ。〔說文通訓定聲〕倭、淮南書、嫫母倭傀、醜面也、與二仳倠一同。㊁やまと。古、中國人が日本を呼んだ稱。〔廣韻〕倭、東海中國。〔漢書、地理志下〕夫樂浪海中有二倭人一、分爲二百餘國一。〔注〕師古曰、魏略云、倭、在二帶方東南大海中一、依二山島一爲レ國、度レ海千里、復有レ國、皆倭種。㊂きりさげがみのさま。倭墮(23)を見よ。

名乘 マサ。カズ。シヅ。

參考 やまとと讀んで本邦を指す場合、後世、和を用ひる。和(2−3490)を見よ。

【倭夷】1 イワ 古、中國人が我が國人を稱していふ。倭人。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕倭夷登レ岸。

【倭迤】2 イヰ 遠廻り。廻り遠い。逶迤(11−38949··3)に同じ。

【倭彝】3 イワ 日本のえびす。和寇。彝は夷に通ず。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕海上倭彝七人、衝二殺江南州縣千餘里一。

【倭漢】4 ワカン 日本と中國。和漢(2−3490··58)を見よ。

【倭傀】5 ヰキ 容姿の醜い女。仳倠。〔王褒、四子講德論〕嫫姆倭傀、善譽者不レ能レ掩二其醜一。〔注〕濟曰、嫫姆・倭傀、皆醜婦人也。

【倭瓜】6 クワクワ まくはうりの一種。倭瓜瓤を見よ。

【倭瓜瓤】7 ワクワジヤウ 北京甜瓜の一種。〔燕京歲時記、甜瓜〕五月下旬、則甜瓜已熟、沿街吆賣、有二旱金墜・青皮脆・羊角蜜・哈蜜酥・倭瓜瓤・老頭兒樂各種一。

【倭患】8 ワクワン 倭寇の患。〔明史、日本傳〕界連二福建・福興・漳泉諸郡一、有二倭患一。

【倭研】9 ワケン 我が國に產する硯。〔方遜志〕倭研銘、產二平夷一、成二平琢一、宜二文謨一、佐二帷幄一、矧伊人可レ不レ學。

【倭肯】10 ワカン 河の名。一名、海倫河。又、倭和江。又、倭坑河。源を滿洲吉林省寶清縣の七星摺子に發し、西北流して樺川縣を經、依蘭縣城の北に至つて松花江に注ぐ。江を隔てて巴蘭河と對し、十字形を爲す。

【倭寇】11 ワコウ 我が國の吉野朝時代から足利時代にかけて、邊民の一黨が中國・朝鮮の沿海を掠奪したものの稱。其の船に八幡大菩薩の旗をおし樹ててゐたゆゑ、亦、八幡船ともいふ。倭賊。〔明史、日本傳〕有下捕二倭寇數十人一至レ京者上。〔東國通鑑、高麗〕忠昭王二十八年、王上表以二征東一立レ省、本爲三鎭二遏倭寇一。

【倭國】12 ワコク 古、中國人が我が國を稱していふ。〔後漢書、東夷傳〕倭國王師升等、獻二生口百六十人一。〔魏志、齊王芳紀〕倭國女王。

【倭字】13 ワジ 我が國の文字。假名。又、我が國で作つた漢字體の文字。和字(2−3490··159)を見よ。〔和漢三才圖會、藝才、倭字〕按、普通所レ用和字若干、多比吉備公所レ作、又武具名目本字未レ詳者、楠正成多用二和字一矣、惜哉、無二其全書一、以二管見一解二字義一、恐有二齟齬一也。

【倭種】14 ワシユ 倭人の種族。〔魏志、東夷傳〕女王國、東渡レ海千餘里、復有レ國、皆倭種。

【倭人】15 ワジン 古、中國人が日本人を稱していふ。〔魏志、東夷傳〕倭人在二帶方東南大海之中一。

【倭人國】16 ワジンコク 古、中國人が我が國を稱していふ。〔漢書、地理志下〕東夷、天性柔順、異二於三方之外一、故孔子悼二道不レ行、設二桴於海一、欲レ居二九夷一、有レ以也、夫樂浪海中有二倭人一、分爲二百餘國一、以二歲時一來獻見云。

【倭仁】17 ワジン 清、蒙古正紅旗人。姓は烏齊格里氏。字は艮齋。號は艮峯。諡は文端。道光の進士。文華殿大學士となり、義理の學を精研して宋儒の說を好み、曾國藩と友であつた。〔清史稿、三百九十七〕・〔清史列傳、四十六〕・〔續碑傳集、七〕。

【倭赤】18 ヰセキ 地名。新疆省烏什縣の地の蕃名。〔西域水道記〕烏什城、據二瑚赤山東南面一、山係二小石山一、高聳孤立、回語謂、山石突出爲二倭赤一、卽烏什也、城以レ山得レ名。

【倭扇】19 ワセン 高麗國から獻じた扇の名。〔圖畫見聞誌〕高麗國使人至二中國一、每用二摺疊扇一爲二私覿物一、其扇用二鵶青紙一爲レ之、謂二之倭扇一。

【倭船】20 ワセン 日本國の船。〔治平略〕倭船自レ浙趨レ閩。

【倭俗】21 ワゾク 日本の風俗。〔雍州府志、古蹟門〕倭俗、葬場謂二三昧一。

【倭賊】22 ワゾク 中國・朝鮮に航して掠奪を行つた我が西國の邊民の一黨の稱。倭寇(11)に同じ。〔籌海圖編〕倭賊出二沒海島中一。

【倭墮】23 ワダ きりさげがみ。矮墮。委墮。鬟鬌。〔廣韻〕墮、倭墮、髻也。〔韻府引李商隱、詩〕破鬟倭墮淩朝寒、白玉燕釵黃金蟬。

【倭墮髻】24 ワダケイ きりさげ髮。〔古樂府、陌上桑〕頭上倭墮髻、耳中明月珠。

【倭刀】25 ワタウ ❶青狐(黃黑色の狐)をいふ。〔清一統志、奉天府〕青狐亦名二倭刀一。❷wo¹ tao¹ 日本刀。

【倭遲】26 ヰチ 回つて遠いさま。倭迤。倭蛇。〔詩、小雅、四牡〕四牡騑騑、周道倭遲。〔傳〕倭遲、歷遠之貌。〔集傳〕倭遲、回遠之貌。

【倭奴】27 ワド 古、中國人が日本國人を賤しめていつた語。〔後漢書、光武紀下〕東夷倭奴國王。〔元史、外夷一、日本傳〕日本國在二東海之東一、古稱二倭奴國一、或云、惡二其舊名一、故改二名日本一、以三其國近二日所一レ出也。

【倭舞】28 ヤマトマヒ 大嘗會、又は諸社の祭禮の時に舞ふ舞樂。應神天皇の御代、大和國吉野郡の民の始めたもの。〔三代實錄、三〕貞觀元年十一月十六日、大嘗祭、云云、內舍人倭舞。

【倭文】29 シツ シドリ ❶古の織物の名。穀・麻などで縞を織り出したもの。あやぬの。しづおり。(約して、しどり)。〔萬葉集、十七〕照る鏡之都に取りそへ。❷地名。㋑因幡國の地名。㋺美作國の地名。㋩淡路島の地名。❸姓氏。〔和爾雅〕。

【倭文機】30 シツハタ 古の織物の名。倭文に同じ。〔日本書紀、武烈紀〕御帶の之都波梅結び垂れ。

【倭文布】31 シツヌノ シドリ 古の織物の名。倭文に同じ。

【倭文苧環】32 シツヲダマキ 倭文を織るに用ひる麻絲を、手毬のやうに圓く卷いたもの。〔伊勢物語〕しづのをだまき繰りかへし。

【倭木】33 ワボク 日本に產する杉をいふ。〔本草、杉集解〕時珍曰、出二倭國一者、謂二之倭木一。

【倭名】34 ワミヤウ 日本でいふ名。日本名。和名。〔運步色葉集〕倭名。

【倭名抄】35 ワミヤウセウ 倭名類聚抄の略。

【倭名類聚抄】36 ワミヤウルイジユウセウ 書名。和名類聚鈔(2−3490··374)を見よ。

【倭王】37 ワワウ 日本の王。〔魏志、東夷、倭傳〕今以レ汝爲二親魏倭王一。

【倭玉篇】38 ワギヨクヘン 和玉篇(2−3490··94)を見よ。

【倭爾加】39 ヴオルガ 河の名。東歐の大河。Volgaの音譯。

【倭星額】40 ワセイガク 清、漢軍正黃旗人。字は厚畬。姓は蔣氏。乾隆の間、三等侍衞から雲南沅江營參將となり、嘉慶に白蓮教の匪を攻めて戰功を立て、官は涼州鎭總兵に至る。〔國朝耆獻類徵、二百九十八〕・〔續碑傳集、四十八〕。

【倭西們卡倫】41 ヲシメンカリン 卡倫の名。滿洲黑龍江省呼瑪縣の北、黑龍江の右岸。清の光緒の末に置く。倭西們河があつて黑龍江に注いでゐる。倭西們とも書く。

【倮】797 ㊀ラ 〔集韻〕魯果切 (哿) カメㄛ luo³ ㊁クワ 〔字彙〕古火切 (哿) ㊂クワ ゲ 〔集韻〕戸瓦切 (馬)

㊀❶はだか。裸(10−34371)・嬴(10−34648)に同じ。〔正字通〕倮、裸・嬴竝同。〔禮、月令〕中央土、云云、其蟲倮。〔注〕象ニ物露見不ニ隱藏ー、虎豹之屬、恆淺毛。❷國の名。〔淮南子、說林訓〕西方之倮國、鳥獸弗レ辟。㊁せまい。〔字彙〕倮、耋倮、狹隘也。㊂かたぬぐ。すはだ。〔集韻〕倮、肉袒也。

【倮國】1 ラコク 古、中國の西方にあつた國の名。國人皆裸體であつたからいふ。〔淮南子、說林訓〕西方之倮國、鳥獸弗レ辟、與爲レ一也。

【倮葬】2 ラサウ 禮によらないで葬る。薄葬をいふ。〔說苑、反質〕吾是以欲ニ倮葬以矯レ之也。

【倮獸】3 ラジウ 淺毛の獸で、虎豹の屬をいふ。〔管子、幼官〕以ニ倮獸之火ー爨。〔纂詁〕伊知章云、倮獸、謂ニ淺毛之獸ー、虎豹之屬。

【倮身】4 ラシン はだか。裸身(10−34371・・17)に同じ。〔晉書、五行志上〕貴游子弟、相與爲ニ散髮倮身之飮ー。

【倮體】5 ラタイ はだか。裸體。躶體。〔吳志、薛綜傳〕日南郡男女、倮體不ニ以爲レ羞。

【倮蟲】6 ラチユウ 羽毛や鱗介のない動物。即ち、人類や鼃や蚯蚓の類。蟲は動物の意。〔禮、月令、中央土其蟲倮、孫希旦集解〕凡物無ニ羽毛鱗介ー、若ニ鼃螾之屬ー、皆倮蟲也、而人則倮蟲之最靈者。〔論衡、龍虛〕人爲ニ倮蟲之長ー。〔孔子家語、執轡〕倮蟲三百有六十、而人爲ニ之長ー。

【倮裎】7 ラテイ はだか。裸裎(10−34371・・28)に同じ。〔儀禮、士喪禮、主人皆出ニ戸外ー北面、注〕象ニ平生沐浴倮裎ー。

【倮麥】8 ラバク はだかむぎ。裸麥。〔齊民要術、大小麥、註〕大麥爲ニ五穀長ー、卽今倮麥也。

【倯】798 シヨウ シユ 〔集韻〕思恭切 (冬)

❶おこたる。〔方言、三〕庸、謂ニ之倯ー。〔注〕倯、猶ニ保倯ー也、今隴右人名レ孏爲レ倯。〔集韻〕倯、嬾也。❷ののしる。〔廣雅、釋詁三〕倯、罵也。❸或は倯(4−10154)に作る。〔集韻〕倯、或从レイ。

【倰】799 ㊀リヨウ 〔集韻〕閭承切 (蒸) ㊁ロウ 〔集韻〕盧登切 (蒸) ㊂ロウ 〔集韻〕郎鄧切 (徑)

㊀❶をかす。或は勍(2−2369)・敹(6−16102)に作る。〔集韻〕倰、侵尙也、或从レ力、亦作レ敹。❷こえる。〔正字通〕倰、越也。❸あざむく。〔正字通〕倰、欺倰也。❹琴の音の形容。倰僜(1)の❶を見よ。❺夌(3−5714)に通ず。〔正字通〕倰、與レ夌通。㊁ながい。〔集韻〕倰、博雅、長也。㊂❶ながい。〔集韻〕倰、長也。❷事に親しまない。又、歩いて疲れる。倰僜(1)の❷❸を見よ。〔類篇〕倰、不レ親レ事也。❸倰蹬は、行くさま。〔廣韻〕倰、倰蹬、行皃。

【倰僜】1 リヨウトウ ❶琴の音の形容。〔吳融、箇人三十韻詩〕管咽參差韻、絃嘈倰僜聲。❷トウ 歩いて疲れる。〔集韻〕倰、長也、一曰、倰僜、行疲。❸事に親しまない。〔集韻〕倰、倰僜、不レ親レ事。

【倰儯】2 トウ 長いさま。〔廣韻〕儯、倰儯、長皃。

【倱】800 コン ゴン 〔集韻〕戸袞切 (阮)

❶開け通らないさま。倱伅。おろか。通じて混(7−17694)・渾(7−17800)に作る。〔集韻〕倱、倱伅、不慧也、通作レ渾。〔正字通〕倱、倱伅、不ニ開通ー貌、通作ニ混沌・渾敦ー。❷倱伅は人名。四凶の一。〔玉篇〕倱、帝鴻氏有ニ不才子ー、天下之民、謂ニ之倱伅ー。〔廣韻〕倱、倱伅、四凶之一、春秋作ニ混沌ー。

【倲】801 ㊀トウ ツ 〔集韻〕都籠切 (東) ㊁トウ ツ 〔集韻〕多貢切 (送)

㊀❶おろかなさま。儱倲。或は倲(1−1064)に作る。〔集韻〕倲、儱倲、劣也、或作レ倲。❷姓。〔篇海〕倲、又姓。㊁おろかなさま。戇(4−11525)に同じ。〔集韻〕戇、悷倲。戇、愚皃、或作レ倲。

【倳】802 シ 〔集韻〕側吏切 (寘) ㄗ tzŭ⁴

❶置く。〔玉篇〕倳、置也。❷立てる。〔釋名、釋言語〕倳、立也、靑徐人、言レ立曰レ倳。〔周禮、天官、大宰、以任ニ百官ー、注〕任、猶レ倳也。〔釋文〕倳、猶レ立也。❸さす。さしこむ。事(1−241)・剚(2−2041)・菑(9−31166)に同じ。〔廣韻〕事、事レ刃、又作ニ剚・倳ー。〔集韻〕菑、或作レ倳。〔正字通〕倳、東方人、以レ物插レ地、皆爲レ剚。〔漢書、蒯通傳〕不ニ敢事ニ刃於公腹ー。〔注〕李奇曰、東方人、以レ臿ニ物地中ー爲レ事、師古曰、事、字本作レ倳。

【倳戟】1 シゲキ 敵を刺すほこ。〔管子、輕重甲〕桓公問ニ於管子ー曰、今倳戟十萬、薪菜之靡、日虛ニ十里之衍ー。

【倳刃】2 シジン 刃を突き刺す。〔史記、陳餘傳〕然而慈父孝子、莫ニ敢倳ニ刃公之腹中ー者、畏ニ秦法ー耳、今天下大亂、秦法不レ施、然則慈父孝子、且下倳ニ刃公之腹中ー以成上其名上、此臣之所ニ以弔レ公也。〔注〕集解曰、李奇曰、東方人、以レ物插レ地、皆爲レ倳。

【俨】803 ㊀ガン 〔集韻〕五敢切 (感) ㊁ゲン ゴン 〔集韻〕魚檢切 (琰)

㊀❶仰ぐさま。〔集韻〕俨、仰首皃。❷美しいさま。〔集韻〕俨、好皃。㊁伒(1−396)に同じ。〔集韻〕伒、或作レ俨。

【㕣】804 タウ 盜(8−23006)の古字。〔字彙補〕㕣、古盜字。

【㒄】805 ケン 倦(1−788)に同じ。〔方言、十二〕豫・倦、㒄也。〔字彙補〕㒄、與レ倦同。

【倴】806 ホン 〔字彙補〕博昆切 (元)

元の武將の名に用ひられてゐる字。〔字彙補〕倴、那顏倴盞、元將名。

【倵】807 ブ ム 〔字彙補〕音武

三國時代の人の名。〔字彙補〕倵、微補切、音武、三國人名。

【㑲】808 アン 〔字彙補〕於幔切 (翰)

やすらか。〔字彙補〕㑲、寧也。

【㑷】809 シウ シユ 〔海篇〕側求切 (尤)

はらむ。〔海篇〕㑷、任身也。

【俟】810 チ 〔字彙補〕澄士切 (紙)

あたる。〔字彙補〕俟、値也。

【㑣】811 シヨウ 〔海篇〕音種
水の流れるさま。〔海篇〕㑣、水流貌。

【𠈌】812 ダウ ノウ 〔海篇〕乃惱切 [皓]
姓。〔海篇〕𠈌、姓也。

【儍】813 ケン
傻(1－945)の譌字。〔康熙字典〕儍、按、卽傻字之譌。

【㷋】814 セン
謭(10－35402)に同じ。〔海篇〕㷋、同レ謭。

【㑸】815 キ
悸(4－10733)の譌字。〔康熙字典〕㑸、按、悸字之譌。

【㑏】816 ギョ
義未詳。〔海篇〕㑏、音御。

【倒】817 ギョ
御(4－10157)に同じ。〔字彙補〕倒、同レ御。

【倷】818 ダイ ナイ 〔中華大字典〕音奈
❶なんぢ。你(1－472)の俗字。〔中華大字典〕倷、俗稱レ你曰レ倷。❷或は耐(9－28879)に作る。〔辭海〕倷、吳語稱レ你曰レ倷、一作レ耐。

【㑪】819 レイ
例(1－587)に同じ。〔集韻〕㑪、或作レ例。

【㑨】820 バイ
倍(1－760)の古字。〔正字通〕倍、六書故作レ㑨。

【丧】821 サウ
喪(2－3985)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕喪、列女傳作レ丧。

【倸】822 サイ
❶睬(8－23470)に同じ。〔辭海〕倸、同レ睬。❷採(5－12274)の俗字。不倸(1－19・・365)を見よ。

【俭】823 ケン
儉(1－1190)の略字。

【俣】824 [國字]
また。俁(1－718)に同じ。

九畫

【㑤】825 バウ
媌(3－6488)に同じ。〔正字通〕㑤、同レ媌。

【𠊧】826 ハウ ビヤウ 〔集韻〕蒲幸切 [梗]
❶ともに。並(1－54)に同じ。〔玉篇〕𠊧、俱也。〔集韻〕𠊧、皆也、或省。❷ならべつらねる。或は併(1－746)に作る。〔廣韻〕𠊧、羅列也、或作レ併。

【偀】827 エイ
英(9－30808)の俗字。〔正字通〕偀、俗英字。

【偁】828 シヨウ 〔集韻〕蚩承切 [蒸] ㄔㄥ ch'êng¹
偁 小篆
❶あげる。〔說文〕偁、揚也、从レ人再聲。〔爾雅、釋言〕偁、擧也。〔廣韻〕偁、宣二揚美事一也、云云、揚也、擧也。❷いふ。〔廣韻〕偁、又言也。❸このむ。〔廣韻〕偁、好也。❹たる。〔廣韻〕偁、足也。❺稱(8－25180)の本字。〔正字通〕偁、稱本字。

【偁東餓夫】1 シヨウトウ ガフ 明、章正宸(8－25761・・210)の號。

【偂】829 [一]セン 〔篇海〕則前切 [先] [二]セン 〔篇海〕子淺切 [銑]
[一][二]❶すすむ。〔篇海〕偂、進也。❷歬(6－16291)・前(2－2011)に同じ。〔正字通〕偂、同レ歬、通作レ前。

【偃】830 [一]エン オン 〔集韻〕隱幰切 [阮] ㄧㄢˇ yen³ [二]エン 〔集韻〕於殄切 [銑]
偃 小篆
[一][二]❶ふす。たふれる。たふす。仰むけに倒れる。ねる。〔說文〕偃、僵也、从レ人匽聲。〔段注〕凡仰仆曰レ偃。〔正字通〕偃、臥也。〔儀禮、鄉射禮〕東面偃レ旌。〔注〕偃、猶レ仆也。❷仰むく。〔說文、偃、僵也、段注〕凡仰仆曰レ偃、引申爲二凡仰之稱一。〔廣雅、釋言〕偃、仰也。❸ひくい。たれさがる。〔西山題跋〕涼風一秋、萬頃雲偃。❹やめる。とめる。〔廣韻〕偃、息也。〔莊子、徐無鬼〕爲レ義偃レ兵。〔釋文〕偃、息也。〔呂覽、應言〕說二燕昭王一以偃レ兵。〔注〕偃、止也。〔太玄經、止〕終不レ偃。〔注〕偃、止也。❺かくす。かくれる。匽(2－2684)に通ず。〔說文通訓定聲〕偃、叚借爲レ匽。〔國語、吳語〕兩君偃レ兵接レ好。〔注〕偃、匿也。〔徐陵、歐陽頠德政碑〕盜賊皆偃、工賈競臻。❻くるしむ。失望する。〔正字通〕偃、偃蹇困頓、失レ志貌。❼かはや。〔莊子、庚桑楚〕觀二室者、周二于寢廟一、又適二其偃一焉。〔釋文〕偃、屛廁也。❽やすらか。安(3－7072)・晏(3－6099)に通ず。〔說文通訓定聲〕偃、叚借爲レ安、爲レ晏。〔釋名、釋容姿〕偃、安也。❾したがふ。なびく。㫃(5－13621)に通ず。〔說文通訓定聲〕偃、叚借爲レ㫃、左襄十三年傳、晉荀偃字伯游、廿六年傳、鄭公子偃字子游。〔正字通〕偃、服也、靡也。〔論語、顏淵〕草上二之風一必偃。❿をかす。干(4－9165)に通ず。〔說文通訓定聲〕偃、叚借爲レ干、左僖九年傳、晉狐偃字子犯。⓫せき。堰(3－5274)に通ず。〔說文通訓定聲〕偃、沈約詩、東出二千金堰一、作レ堰。〔周禮、天官、䱷人、注〕梁、水偃也。〔左氏、襄、二十五〕規二偃豬一。⓬古は匽(2－2684)に作る。〔漢書、禮樂志〕海內安寧、興レ文匽レ武。〔注〕師古曰、匽、古偃字。⓭物のさま。偃蹇(25)を見よ。⓮地名。今の山東省費縣の南。〔左氏、僖、元〕公敗二邾師於偃一。⓯姓。〔通志、氏族略、以レ姓爲レ氏〕偃氏有二二、有二偃氏之國一、後爲二偃氏一、又皐陶之後、姓偃、亦以レ姓爲レ氏。

【偃亞】1 アエン ふして壓する。木の枝などの茂り垂れさがつてゐるさま。〔白居易、司馬廳獨宿詩〕荒涼滿庭草、偃亞侵簷竹。〔王闢之、澠水燕談錄〕亳州法相禪院、矮檜高纔數尺、偃亞蟠屈、枝葉繁茂、不レ可レ圖レ狀。

【偃佒】2 エンアウ 俯して物を執ることの出來ない者。佒は身體が伸びないこと。〔莊子、列禦寇〕緣循偃佒、困畏不レ若レ人。〔注〕偃佒、不レ能二俯執一者也。

【偃液】3 エンエキ しもごえ。糞尿の肥料。〔孫楚、雪賦〕膏澤偃液、普潤二中田一。「曳、絺索恍惚。

【偃衍】4 エンエン 混雜する。〔揚雄、蜀都賦〕偃衍撇子二歌〕

【偃蓋】5 エンガイ ふせた笠。又、ふせた笠の形をした松。偃松。笠松カサマツ。〔杜甫、題二李尊師松樹障子一歌〕陰崖卻承霜雪幹、偃蓋反走虬龍形。〔張說、遙同二蔡起居偃松篇一詩〕懸レ池滴滴停二華露一、偃蓋重重拂二瑞雲一。

【偃蓋山】6 エンガイザン 木の名。松(6－14516)の異名。〔事物異名錄、樹木、松〕金陵記、有三一使者牽二一白犬一、問レ居二何地一、曰、居二偃蓋山一、至二古松下一而沒、松形如レ蓋、使者松精、犬乃茯苓耳、又白犬、

雲仙雜記作二白羊一。

【偃卬】7 ふしたり仰いだり。偃仰に同じ。〔漢書、王褒傳〕偃卬詘信、若二彭祖一。

【偃仰】8 ❶ふしたり仰いだり。ねたり起きたり。轉じて、浮沈すること。〔荀子、非相〕與二時遷徙一、與二世偃仰一。〔淮南子、要略〕傾二側偃一仰世俗之間一。〔顏氏家訓、止足〕偃二仰私庭一。❷ふしていこふ。無事閒暇なことをいふ。偃息。〔詩、小雅、北山〕或棲遲偃仰、或王事鞅掌。〔集傳〕深居安逸、不レ聞二人聲一也。

【偃傲】9 おごりたかぶる。又、氣ままに遊ぶ。偃蹇。〔權德輿、竹逕偶然作詩〕琴觴恣二偃傲一、蘭蕙相芬薰。

【偃革】10 武器をかくす。又、武器を用ひることをやめる。革はかぶと・よろひの類。偃甲。偃武。〔史記、留侯世家〕殷事已畢、偃二革爲一レ軒。〔張九齡、奉和聖製送二尚書燕國公說赴一朔方軍一詩〕朔南方偃二革一、河陽暫揚レ旌。

【偃甲】11 偃革に同じ。〔晉書、苻堅載記上〕偃二甲息一レ兵、與二境內一休息。

【偃旗】12 旗をふせる。敵に對し兵を伏せるにいふ。軍隊が其の防備を撤退する。停戰する。〔蜀志、趙雲傳、注〕雲陷レ敵、云云、更大開レ門、偃二旗息一レ鼓、公軍疑二雲有一レ伏兵一、引去。〔梁書、王僧辯傳〕僧辯乃分命二衆軍一、乘レ城固守、偃二旗臥一レ鼓、安若レ無二人一。

【偃休】13 寢る。やすむ。〔歐陽脩、畫舫齋記〕凡偃二休於吾齋一者、又如二偃一休乎舟中一。

【偃卻】14 たかいさま。偃蹇(25)の❶に同じ。〔荀子、非相〕足二以爲一奇偉偃卻之屬一。〔注〕偃卻、猶二偃仰一、卽偃蹇也。

【偃戈】15 武器をかくす。又、武器を用ひることをやめる。戰爭をやめる。休戰する。偃革。偃甲。偃武。〔北史、周太祖紀〕皆偃二戈於蔑廬中一、聞二鼓聲一而起。〔陳彭年、大寶箴〕導レ之以レ德、民免二嬰羅一、不レ懈二于位一、俗乃偃レ戈。

【偃臥】16 ねる。〔列子、湯問〕偃二臥其妻之機下一。〔孫子、九地〕偃臥者涕交レ頤。〔後漢書、嚴光傳〕因共偃臥。〔謝靈運、道路憶二山中一詩〕追尋二栖息時一、偃臥任二縱誕一。〔王維、納涼詩〕偃臥盤石上、翻濤沃二微躬一。

【偃憩】17 臥しいこふ。〔李白、感レ時留二別從兄徐王延年從弟延陵一詩〕北宅聊偃憩、歡愉恤二惸煢一。

【偃月】18 ❶ゆみはりづき。弦月。〔易飛候〕正月有二偃月一、必有二嘉王一。❷骨相術で、女の額にあらはれた高貴の相をいふ。〔戰國、中山策〕若乃其眉目、淮頷權衡、犀角偃月、彼乃帝王之后、非二諸侯之姬一也。〔後漢書、順烈梁皇后紀〕此所謂日角偃月、相之極貴。❸陣形の名。中央が凹み兩翼が張り出た陣形。〔梁簡文帝、祠二伍員廟一詩〕偃月交二吳鑑一、魚麗入二楚營一。〔資治通鑑、唐紀、文宗、大和七年、一則曰、必爲二偃月一、一則曰、必爲二魚麗一。〔注〕偃月・魚麗、皆陳名。偃月陳、中軍偃居其中、張二兩角一向レ前、左傳爲二魚麗之陳一、先レ偏後レ伍、伍承彌縫。

【偃月營】19 三日月形に造つた營壘。偃月の❸を見よ。〔魏志、楊阜傳〕于二城上一作二偃月營一。「室名。

【偃月齋】20 元、曾勉(5—14299‥143)の

【偃月刀】21 薙刀。弦月形をなすから名づける。關刀。〔武備志、刀〕茅子曰、刀見二於武經一者、惟八種、今所レ用惟四種、曰、偃月刀、以レ之操習レ雄、實不レ可レ施二於陣一也。

偃武
刀月備
(志

【偃月堂】22 唐、李林甫の堂名。〔唐書、李林甫傳〕李林甫有レ堂、如二偃月一、號二偃月堂一。

【偃月陣】23 三日月形に造つた營壘。偃月の❸を見よ。〔玉海、兵制、陳法、晉卻月陳〕宋朝、康定元年、郭逵與二趙元昊一、皆爲二偃月陣一。

【偃月壘】24 營の名。偃月形を爲してゐるから名づける。〔水經、江水注〕沔左有二卻月城一、亦曰二偃月壘一。

【偃蹇】25 ❶高いさま。高く聳えるさま。偃卻。〔楚辭、離騷〕望二瑤臺之偃蹇一兮。〔注〕偃蹇、高貌也。〔史記、司馬相如傳〕掉指橋以偃蹇兮。〔注〕索隱曰、偃蹇、高貌。〔漢書、禮樂志、郊祀歌〕靈輿位偃蹇驤。〔注〕師古曰、偃蹇、高驤也。〔班固、西都賦〕遂偃蹇而上躋。❷おごり高ぶる。〔左氏、哀、六〕彼皆偃蹇、將レ棄二子之命一。〔注〕偃蹇、驕敖。〔後漢書、趙壹傳〕偃蹇反レ俗、立致二貧殘一。〔注〕偃蹇、驕傲也。〔列女傳、續列女傳、梁鴻妻傳〕妾亦已偃二蹇數夫一。❸衆く盛なさま。〔楚辭、離騷〕何瓊佩之偃蹇兮。〔注〕偃蹇、衆盛貌。〔張衡、週天大象賦〕偃蹇列二於四衡一。❹舞ふさま。〔楚辭、九歌、東皇太一〕靈偃蹇兮姣服。〔注〕偃蹇、舞貌也。❺危怪な岩石の形容。〔柳宗元、鈷鉧潭西小丘記〕其石之突怒偃蹇、負レ土而出。❻體が不具で仕事の出來ない者。〔釋名、釋容姿〕偃、偃息而臥不レ執レ事也、蹇、跛蹇也、病不レ能レ作レ事。❼委しく事を盡すさま。〔漢書、司馬相如傳〕掉指橋以偃蹇兮。〔注〕張揖曰、委曲貌。❽飛びあがる。〔廣雅、釋訓〕偃蹇、天撟也。〔韓愈、豐陵行〕偃蹇旃旄卷以舒。❾苦しむ。〔正字通〕偃、偃蹇困頓、失二志貌一。

【偃僊】26 驕りあなどる。偃蹇の❸に同じ。〔集韻〕僊、偃僊、傲慢也。

【偃虹】27 隄の名。橫たはつてゐるにじの如く美しいといふ意に取つて名づける。〔歐陽脩、偃虹隄記〕自二岳陽門一西距二金雞之右一、其外隱然隆高以長者、曰二偃虹隄一。

【偃骨】28 胸にある骨。入星骨。〔皮日休、寄二題涵象尊師所レ居詩〕子細捫心無二偃骨一、欲レ隨二師去一肯相容。〔注〕偃骨、在レ胸者、名二入星骨一。

【偃草】29 ❶草をなびき伏せる。〔晉書、索靖傳〕又似二乎和風吹レ林、偃二草扇レ樹一。❷人民を教化すること。草を風が靡き伏させるのに似てゐるからいふ。〔論語、顏淵〕君子之德風也、小人之德草也、草上二之風一必偃。〔晉書、潘尼傳〕學猶レ蒔レ苗、化若レ偃レ草。

【偃師】30 ❶周の穆王に傀儡を獻上した人。轉じて、人形つかひ。〔列子、湯問〕未レ及二中國一、道有レ獻二工人一名偃師一、穆王厲レ之。❷縣名。漢、置く。殷の西亳の地。武王が紂を討つ時、此に城を築いて戎師を偃息させたので名づけた。今、河南省洛陽縣の東。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、偃師。〔清史稿、地理志〕河南、河南府、縣十三、偃師。❸複姓。〔通志、氏族略、以名爲レ氏〕偃師氏、嫣姓、陳太子偃師之後。

【偃師舞木】31 蒙求の標題。周の穆王の時、偃師といふ細工人が木で人形を作り、能く歌舞せしめたといふ故事。〔列子、湯問〕周穆王西巡狩、云云、道有レ獻二工人一、名偃師、穆王薦レ之、問曰、若有二何能一、偃師曰、臣唯命所レ試、然臣已有レ所レ造、願王先觀レ之、穆王曰、日以俱來、吾與レ若俱觀レ之、翌日偃師謁二見王一、王薦レ之曰、若與偕來者何人邪、對曰、臣之所レ造能倡者、穆王驚視之、趨步俯仰、信人也、巧夫、顧二其頤一、則歌合レ律、捧二其手一、則舞應レ節、千變萬化、惟意所レ適、王以爲二實人一也、與二盛姬內御一、並觀レ之、技將レ終、倡者瞬二其目一、而招二王之左右侍妾一、王大怒、立欲レ誅二偃師一、偃師大懾、立剖二散倡者一、以示レ王、皆傅二會革木一、膠漆白黑丹青之所レ爲。

【偃州】32 複姓。〔左氏、昭、二十一〕獲二其二帥公子苦雉一、偃州員一。

【偃溲】33 かはや。便所。又、大小便をする。〔莊子、庚桑楚〕適二其偃焉一。〔注〕寢廟則以饗燕、屏厠則以偃溲、當二其偃溲一、則寢廟之是移二於屏厠一矣。〔柳宗元、天說〕穴爲二偃溲一、築爲二牆垣一。

【偃城】34 城の名。湖北省襄陽縣の北。〔魏志、徐晃傳〕遣レ晃助二曹仁一討二關羽一、晃得二偃城一。

【偃朱】35 城の名。山東省濮縣の東。本名は朱家阜。〔孟子、萬章上〕舜避二堯之子於南河之南一、〔括地志〕偃朱故城、在二鄄城縣西北十五里一、卽舜避二丹朱一處。

【偃松】36 臥した松。偃蓋(5)を見よ。

【偃植】37 ふすと立つと。〔范成大、青青礪上松送二致遠入官詩〕偃植雖レ不レ同、臭味乃相得。

【偃寢】38 臥しねる。

【偃人】39 鳩むねの人。鳩のやうに胸の突き出た人。〔國語、晉語四、籧篨不レ可レ使、注〕籧篨、偃人。

【偃旌】40 旌を伏せる。〔儀禮、大射儀〕擧二旌以宮一、偃旌以商。

【偃蹠】41 岩の形の形容。又、山石が倒れて路を塞ぐこと。〔宋玉、高唐賦〕陬互橫牾、背穴偃蹠。〔注〕善曰、偃蹠、言二山石之形一、背穴偃蹇、如レ有レ所レ蹈也、良曰、偃蹠塞二人徑一也。

【偃然】42 エンゼン 安らかなさま。又、ふし憩ふさま。〔莊子、至樂〕偃然寢二於巨室一。〔荀子、儒效〕偃然如二固有一レ之。〔注〕偃然、猶二安然一。〔蘇軾、和二陶形贈一レ影詩〕夢時我方寂、偃然無レ所レ思。
【偃鼠】43 エンソ もぐらもち。もぐら。偃鼠飮レ河不レ過二滿腹一を見よ。
【偃鼠飮レ河不レ過二滿腹一】44 エンソカハニノムモマンプクニスギズ もぐらは河水を飲んでも、腹一ぱいになればやめる。人は各〻其の分に應じて足るを知るがよいとの喩。〔莊子、逍遙遊〕鷦鷯巢二於深林一、不レ過二一枝一、偃鼠飮レ河、不レ過二滿腹一。〔釋文〕偃鼠、李云、鼷鼠也。〔呂覽、求人〕啁噍巢二於林一、不レ過二一枝一、偃鼠飮二於河一、不レ過二滿腹一。
【偃息】45 エンソク ❶ねころんで休む。安らひ憩ふ。〔呂覽、順說〕若二夫偃息之義一、則未二之識一也。〔後漢書、李膺傳〕偃二息衡門一。〔魏志、王烈傳〕偃二息窮巷一。〔潘岳、秋興賦〕偃息不レ過二茅屋茂林之下一。〔資治通鑑、魏紀〕(文帝、黃初四年)遂各偃息養高。〔注〕偃息、言二偃臥以自安一也。〔故事成語考、身體〕臥曰二偃息一。❷やむ。かくれ止む。〔拾遺記、前漢上〕天下太平、干戈偃息。
【偃息自由】46 エンソクジイウ 官吏が安逸を貪り勝手な振舞をして公事を怠り誤ること。〔六部成語、吏部、偃息自由、注解〕爲レ官者、只圖二安逸一、任レ意曠二悞公事一、則曰二偃息自由一。
【偃側】47 エンソク よりかかつてふす。又、伏せ横たはる。〔管子、勢〕一偃一側、不レ然不レ得。〔枚乘、七發〕魚鼈失レ勢、巓倒偃側。
【偃柝】48 エンタク 柏子木をしまつて用ひない。世の中が靜まつて盜賊の警戒を要しないこと。〔鮑照、河清頌序〕農商野廬、邊城偃レ柝。
【偃豬】49 エンチヨ ゐぜき。用水をせきとめた所。用水池。一說に、下濕の地。偃瀦。〔周禮、地官、稻人〕以レ豬畜レ水、〔注〕玄謂、偃豬者、畜二流水一之陂也。〔左氏、襄、二十五〕規二偃豬一。〔注〕偃豬、下濕之地。〔會箋〕偃豬、渟水也。
【偃瀦】50 エンチヨ ゐぜき。用水をせきとめた所。用水池。偃豬に同じ。
【偃轉】51 エンテン ふしまろぶ。〔後漢書、董卓傳〕未レ及レ得レ死、偃二轉杯案閒一。

【偃囊】52 エンナウ 印などの、凹入してゐる字。陰識(11－41691··136)に同じ。〔洞天淸祿集〕三代用二陰識一、謂二之偃囊一、其字凹入也。
【偃波】53 エンパ 書體の名。版書をいふ。形が連紋に似てゐるからいふ。古、鵠頭書と共に詔板に用ひた。〔酉陽雜俎、廣知〕詔レ下用二偃波書一、謝章詔板用二蝌蚪書一。
【偃波虎爪】54 エンパコサウ 書體の名。偃波と虎爪。偃波及び虎爪(9－32675··61)を見よ。〔墨藪〕偃波書卽版書、狀如二連文一、謂二之偃波一、摯虞決疑要曰、尙書徵召用二虎爪書一、告レ下用二偃波書一、以防二矯作一。
【偃伯】55 エンパク 戰爭をやめること。伯は將軍が任命せられたしるしとして天子から賜はる割符。〔後漢書、馬融傳〕昔命二師於鞬櫜一、偃二伯於靈臺一。〔注〕偃、休也。伯、謂二師節一也。〔上官儀、奉三和過二舊宅一應制詩〕偃レ伯歌二元化一、護レ蹕頌二王遊一。
【偃薄】56 エンパク ふせせまる。〔漢紀、孝昭紀〕初賀之在レ國也、好二遊獵一無二節度一、王吉上疏諫曰、云云、夏則爲三大暑之所二曝炙一、冬則爲三風雪之所二偃薄一。
【偃曝】57 エンバク 身をふせて日にさらす。〔王僧達、答二顏延年一詩〕寒榮共偃曝、春醞特獻斟。
【偃筆】58 エンピツ 文字を書く時、一つの畫クワが下の畫を覆ふやうに書く筆法。〔廣川書跋、八、唐經生字〕至二波勢一、則偃筆從レ字。
【偃仆】59 エンプ たふれふす。〔魏書、韓茂傳〕時有レ風、諸軍旌旗皆偃仆。
【偃斧】60 エンプ 伏せた斧。〔孔子家語、終記解〕封「爲二偃斧之形一。
【偃俛】61 エンベン 寢ころぶ。〔蔡希寂、登二福先寺一詩〕晩來恣偃俛、茶果仍留歡。
【偃武】62 エンブ いくさ道具をかたづけて用ひない。戰爭をやめる。天下が太平になること。偃戈。偃革。偃甲。〔書、武成〕王來レ自レ商、至二于豐一、乃偃レ武修レ文。〔史記、留侯世家〕陛下能偃レ武行レ文。〔王褒、四子講德論〕偃レ武興レ文之應也。〔魏志、陳思王植傳〕偃レ武行レ文之美。
【偃伏】63 エンプク はらばふ。ねころがる。又、ふしかくれる。又、親しく交はる。〔漢書、杜欽傳〕穰侯、昭王之舅也、云云、有二旦莫偃伏之愛一。〔注〕師古曰、言四昭王幼小、旦夕偃二伏戲三弄于舅之旁側一、人之奇者、云云、及二其知一レ之、非二卒見暫聞、而輒名レ之爲一レ聖也、與レ之偃伏、從レ文受レ學、然後知レ之。
【偃腹】64 エンプク はらばひになる。ねころがる。〔戴叔倫、宿二靈巖寺一詩〕偃腹虛簷外、林空鳥恣啼。
【偃兵】65 エンペイ 武器をかくす。又、武器を用ひることをやめる。戰をやめる。〔國語、吳語〕兩君偃レ兵接レ好。〔注〕偃、匿也。〔莊子、徐無鬼〕吾欲二愛レ民而爲レ義偃レ兵。〔釋文〕偃、息也。〔疏〕偃二息兵戈一。〔呂覽、聽言〕公孫龍之說二燕昭王一、以レ偃レ兵。〔淮南子、天文訓〕天下偃レ兵。〔漢書、高帝紀下〕偃レ兵息レ民、天下大安。
【偃閉】66 エンペイ ふさぎおほふ。やめとぢる。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕偃二閉武術一、闡二揚文令一。
【偃盆】67 エンボン ふせた盆。〔東海十洲記〕上有二三角一、方廣萬里、形似二偃盆一、下狹上廣。
【偃額白魚】68 エンガクハクギヨ 魚の名。なまづ。鮎(12－46070)の異名。〔事物異名錄、水族、鮎〕埤雅、鰋、今偃額白魚也、一名鮎、身圓性偃、按、爾雅分二鰋・鮎一爲二二魚一、孫炎曰、鰋、一名鮎、埤雅從二其說一、今合爲レ一。
【起レ偃爲レ豎】69 エンヲオコシテジユトナス たふれたのを起して眞直ぐに立てる。減刑の恩の深い喩。〔魏志、鍾繇傳〕司徒王朗議以爲、繇欲下輕二減大辟之條一、以增中益刖刑之數上、此卽起レ偃爲レ豎、化レ屍爲レ人矣。〔海錄碎事、政事、赦宥〕起レ偃爲レ豎、化レ屍爲レ人、言二減レ刑之恩如一レ此。

【偄】 831

小篆

㊀ダン ナン 〔集韻〕奴亂切 翰 ㄋㄨㄢˋ nuan4
㊁ド 〔說文通訓定聲〕今轉讀如レ砮。
㊂ダ ナ 〔集韻〕奴臥切 箇
㊃ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑

㊀㊁㊂㊃ ❶よわい。〔說文〕偄、弱也、从レ人从レ耎。❷あざむく。偄劣を見よ。❸うやまふ。〔廣韻〕偄、敬也。❹或は愞(4－10951)・需(12－42275)・懦(4－11390)・燸(7－19507)・耎(9－28877)に作る。〔集韻〕偄、或从レ心、亦作二需・儒・燸・耎一。

解字 會意形聲。人と耎との合字。耎は又聲。耎は弱い意。故に人と合して、人の弱い意を表はす。〔說文、偄、从レ人从レ耎、段注〕此擧二會意一包二形聲一也、介部耎、讀若二畏偄一二字、義近音同。
【偄弱】1 ダンジヤク ナンジヤク 弱い。〔荀子、大略〕偄弱易レ奪、似レ仁而非。
【偄劣】2 ダンレツ 欺謾する。〔事物異名錄、人事、欺謾〕方言、楚郢謂二欺謾一爲二眠娗一、一曰二偄劣一。

【偅】 832

㊀シヨウ シユ 〔集韻〕朱用切 宋
㊁シヨウ
㊂トウ

㊀❶不遇のさま。儱偅。〔正字通〕偅、儱偅、不遇貌、云云、與二龍鍾・隴種・蹱踵一通、皆狀二其潦倒一。❷踵(10－37686)に同じ。〔集韻〕踵、或从レ人。㊁憧(4－11242)に通ず。〔字彙〕偅、與レ憧同。㊂こども。僮(1－1132)に通ず。〔康熙字典〕偅、與レ僮同。〔漢張公神道碑〕駿二白鹿一兮從二仙偅一。

【偆】 833

小篆

㊀シユン 〔集韻〕尺尹切 軫
㊁チユン 〔廣韻〕癡準切 軫

㊀㊁ ❶富む。〓(1－1145)に同じ。〔正字通〕偆、說文作レ〓。〔說文〕〓、富也、从レ人萅聲。❷あつい。〔廣韻〕偆、厚也。❸賰(10－36855)に同じ。〔字彙〕偆、同レ賰。❹喜び樂しむさま。〔集韻〕偆、喜樂兒。〔春秋繁露、陽尊陰卑〕偆偆者、喜樂之兒。

貌也。❺うごめく。〔白虎通、五行〕春之爲レ言、偆、偆、動也。

【僎】834 セン 僎(1—1083)の本字。〔正字通〕僎、僎本字。

【假】835

㈠カ ケ 〔集韻〕舉下切 ㄐㄧㄚˇ 馬 chia³
㈡カ ケ 〔集韻〕何加切 ㄐㄧㄚˋ 麻 chia⁴
㈢カ ケ 〔集韻〕居迓切 ㄐㄧㄚˋ 禡 chia⁴
㈣カク キャク 〔集韻〕各頟切 陌

小篆

㈠❶かり。かりの。かりに。㋑いつはり。〔說文〕假、非レ眞也、从レ人叚聲、虞書曰、假二于上下一。〔廣雅、釋詁二〕假、借也。㋺かりに云云とすれば。〔墨子、小取〕假者、今不レ然也。㋩かはりに。かはりの。〔呂覽、審分〕假乃理レ事。〔注〕假、攝也。〔史記、項羽紀〕爲二假上將軍一。〔注〕正義曰、假、攝也。㊁しばらく。一時。〔廣韻〕假、且也。〔後漢書、竇融傳〕假歷二將帥一。〔注〕假、猶レ濫也。❷かりる。㋑かりうける。〔儀禮、少牢饋食禮〕假二爾大筮有一レ常。〔注〕假、借也。㋺よる。〔莊子、大宗師〕假二於異物一。〔注〕假、因也。㋩やとふ。〔漢書、韓延壽傳〕私假二繇使吏一。〔注〕師古曰、假、謂二顧賃一也。❸かす。㋑かしあたへる。〔後漢書、張禹傳〕入二三歲租稅一、以助二郡國稟假一。〔注〕稟、給也、假、貸也。㋺給與する。〔漢書、循吏、龔遂傳〕遂迺開二倉廩一假二貧民一。〔注〕師古曰、假、謂二給與一。❹ゆるす。ゆるくする。〔後漢書、安帝紀〕今方盛夏、且復假貸、以觀二厥後一。〔注〕假貸、猶二寬容一也、盛夏不レ可三卽加二刑罰一、故且寬容。❺こふ。〔呂覽、士容〕其鄰假以買二取レ鼠之狗一。〔注〕假、請也。❻たとひ。もしも。〔列子、楊朱〕楊子曰、世固非二一毛之所一レ濟、禽子曰、假濟、爲レ之乎。❼かたい。〔詩、大雅、文王〕假哉天命。〔傳〕假、固也。❽おほきい。〔爾雅、釋詁〕假、大也。〔方言、一〕凡物之壯大者而愛二偉之一、謂二之夏一、周鄭之閒、謂二之假一。❾さいはひ。嘏(2—4190)に通ず。〔禮、曾子問〕不レ旅不レ假。〔注〕假、讀爲レ嘏、不レ嘏、不レ嘏二主人一也。❿姓。〔通志、氏族略、上聲〕假氏、望出二陳留一、漢有二假倉一、治二尙書一、陳留人。㈡❶やむ。をはる。死ぬ。〔爾雅、釋詁〕假、已也。〔詩、大雅、下武〕三后在レ天、〔箋〕旣沒登假。〔釋文〕假、已也。❷つかれる。なやむ。瘕(7—22354)に通ず。〔說文通訓定聲〕假、叚借爲レ瘕。〔詩、大雅、思齊〕烈假不レ遐。〔箋〕假、病也。❸のぼる。〔詩、大雅、雲漢〕昭假無レ贏。〔箋〕假、升也。〔淮南子、齊俗訓〕不レ能二乘レ雲升假一。〔注〕假、上也。〔漢書、王莽傳〕未二嘗遭一レ時不レ行、陷假離レ朝。〔注〕師古曰、假、升也。❹はるか。遐(11—39005)・霞(12—42365)に通ず。〔說文通訓定聲〕假、叚借爲レ遐。〔列子、周穆王〕世以爲二登假一。〔注〕假、當レ爲レ遐。〔楚辭、遠遊〕載二營魄一而登霞。〔注〕霞、與レ假同。㈢❶かす。〔集韻〕假、以レ物貸レ人也。〔後漢書、張禹傳〕假二與種糧一。❷かへる。賈(10—36755)に通ず。〔說文通訓定聲〕假、叚借爲レ賈。〔廣雅、釋詁三〕假、敡也。〔公羊、桓、元〕其言二以レ璧假一レ之何、易レ之也。❸ひま。いとま。休日。暇(5—14036)に通ず。〔說文通訓定聲〕假、叚借爲レ暇。〔集韻〕假、一曰、休告也。〔正字通〕假、休沐也。〔詩、大雅、皇矣、箋〕天須二假此二國一。〔釋文〕假、本又作レ暇。〔詩、商頌、長發〕昭假遲遲。〔箋〕假、暇也。❹よい。嘉(2—4176)に通ず。〔說文通訓定聲〕假、叚借爲レ嘉。〔爾雅、釋詁〕假、嘉也。〔詩、大雅、假樂〕假樂君子。〔傳〕假、嘉也。〔中庸〕嘉樂君子。❺乘る。車馬に乘る。駕(12—44667)に通ず。〔說文通訓定聲〕假、叚借爲レ駕。〔淮南子、主術訓〕假二輿馬一者、足不レ勞而至二千里一。〔注〕假、或作レ駕。❻或は叚(2—3165)・下(1—14)に作る。〔集韻〕假、以レ物貸レ人也、或省、亦作レ下。㈣いたる。佫(4—10082)に同じ。〔說文繫傳〕假、一曰、至也。〔方言、一〕假、至也。〔集韻〕佫、至也、或作レ假。〔禮、祭統〕公假二于大廟一。〔注〕假、至也。〔後漢書、鄧皇后紀〕無二咸熙假天之美一。〔注〕假、音格、至也。

【假菴】1 カアン 明、歸昌世(6—16349・・313)の號。

【假易】2 カイ 物事をあなどりかろんずる人に力を假す。〔左氏、桓、十三〕夫固謂下君訓レ衆而好鎭二撫之一、召二諸司一而勸レ之以二令德一、見二莫敖一而告中諸天之不上レ假レ易也。〔注〕言四天不三借二貸慢易之人一也。

【假意】3 カイ ❶かりの考。しばらくの考。〔潛夫論、志氏姓〕班二族類之祖一、言二氏姓之出一、序二此假意一二篇一、以貽二後賢一也。❷chia³ i⁴ ㋑僞の心。〔紅樓夢、二十九回〕將眞心眞意瞞了起來、只用假意。㋺わざと。態といつはつて。故意に。

【假印】5 カイン にせはん。僞せの印章。又、朝廷から假りに給する官印。〔晉書、輿服志〕其但假印不二假綬一者、不レ得レ佩レ綬。

【假隱】6 カイン 隱者の名をかりる。いつはつて隱者のふりをする。又、其の人。かりの隱者。いつはりの隱者。〔唐書、隱逸傳序〕放利之徒、假レ隱自名、以詭二祿仕一。〔談賓錄〕盧藏用與二陳伯玉・趙貞固一友善、隱居之日、頗以三貞白自衍、往二來於少室・終南二山一、時人稱爲二假隱一。

【假有】7 ケウ 佛 一切の存在は、瞬時も止ることなく變化するものであるが、而も不斷に相續いてゐることは川の流の如くである。この相續(流としての存在)を假有といふ。〔梁簡文帝、菩提樹頌序〕竊以因緣假有、衆生之滯根。

【假瘞】8 カエイ 假りに埋める。かり埋葬。假葬。假埋。〔南史、劉苞傳〕初苞父母及兩兄相繼亡歿、悉假瘞焉。

【假葉】9 カエフ 植物の枝の、扁平で葉の如き狀をなし、葉と同樣の作用をするもの。

【假葉樹】10 カエフジユ 灌木の名。なぎいかだ。百合科に屬す。葉腋から葉狀枝を生じ、その中央に夏日帶白色の小花をつける。

【假屋】11 カリヤ 假りに作つた小屋。神輿の御旅所。〔大嘗祭式〕作二假屋一、蹔收二御稻一。

【假我】12 ケガ 佛 俗我(1—695・・12)に同じ。實我に對す。

【假號】13 カガウ かりの名號。かり盜んだ名號。又、名目を假りる。名目を假りて事を爲す人。〔漢書、敍傳〕假號雲合、咸稱二劉氏一。〔漢書、原涉傳〕王莽末、云云、拜二鎭戎大尹天水太守一、涉至レ官無レ幾、長安敗、郡縣諸假號起レ兵、攻二殺二千石長吏一、以應レ漢、諸假號素聞二涉名一、爭問二原尹何在一、拜二謁之一。

【假翮】14 カカク つばさをかりる。力をかりる。〔袁宏、三國名臣序贊〕疇昔不造、假二翮鄰國一。

【假甲】15 カカフ 琴のつめ。ことづめ。

【假合】16 カガフ ❶かりにあつまる。かりにあわさる。〔陸雲、答二張士然一詩〕歡レ舊難二假合一。〔李白、與二元丹丘一方城寺談レ玄作詩〕騰二轉風火一來、假合作二容貌一。〔正易心法〕悉是假合、無レ有二定實一。❷こじつけ。〔字彙〕彊、牽彊、假合也。

【假期】17 カキ ❶年月を費す。〔陸雲、請二吳王觀一レ書啓〕孔子假レ期玩レ年、至二於韋編三絕一。❷chia⁴ ch'i¹ 休暇の期限。休暇の期日。

【假器】18 カキ 器物を人に貸す。〔左氏、昭、七〕雖レ

有ニ挈缾之知一、守不レ假レ器、禮也。

【假僞】19 ギ にせ。〔韻府引、玄眞子〕非ニ彼貪レ功爲レ己、卽此假僞爲レ眞。

【假休】20 キウ 休み。休暇。〔宋史、仁宗紀三〕慶曆三年詔、執政大臣、非ニ假休一、不レ許ニ私第受一レ謁。

【假求】21 キウ 借り求める。借してくれと頼む。〔魏志、曹洪傳〕文帝少時、假求不レ稱、常恨レ之。

【假給】22 chia² chi³ 給與する。供給する。

【假宮】23 カリノミヤ ❶かりに作つた御殿。〔古事記、下〕作ニ假宮一。❷行在所。❸神輿の御旅所。

【假居】24 キョ かりずまひする。又、かりずまひ。假寓。〔國朝漢學師承記、凌廷堪〕假ニ居僧寺一、輯錄以歸。

【假金】25 キン 黄金でない金屬。假金只用ニ眞金一鍍を見よ。

【假金方用ニ眞金一鍍】26 カキンハマサニシンキンヲモチヒテヤス 黄金でない金屬は、眞の黄金を用ひて鍍金する。本質のよくないものが表面を飾る喩。〔李紳、答ニ章孝標一詩〕假金方用ニ眞金一鍍、若是眞金不レ鍍レ金。〔注〕來詩有ニ金湯鍍了之句一。

【假銀】27 ギン ❶にせがね。僞銀。〔福惠全書、庶政部、禁造ニ假銀一〕專造ニ假銀一、欺ニ騙愚民一。❷chia³ yin² ニツケル。洋銀の類。

【假寓】28 グウ かりずまひ。寓居。

【假果】29 クワ ❶果物の形に擬して作つたもの。假花を見よ。❷植物が受精して、子房以外の花の部分が、子房と共に發育して果實を形成したもの。苹の類。

【假花】30 クワ つくりばな。造花。〔封氏聞見記、道祭〕玄宗朝、海内殷贍、送葬者、或衢設レ祭、張ニ施帷幙一有ニ假花・假果・粉人・麪糗之屬一。〔宋史、眞宗紀二〕繒帛爲ニ假花一者。

【假貨】31 chia³ huo⁴ 模造品。僞造品。

【假臥】32 グワ かりねする。假寐。〔後漢書、文苑上、邊韶傳〕韶口辯、曾晝日假臥。〔注〕左傳、趙盾坐而假寐、杜注云、不レ脫ニ衣冠一而睡也。

【假官】33 クワン 代理に事務をとる官。假版官〔169〕に同じ。

【假官戲】34 ギクワン 戲劇の名。參軍戲(2—3098‥58)に同じ。

【假館】35 クワン 宿舍をかりて滯在する。〔孟子、告子下〕交得ニ見於鄒君一、可レ以假レ館、願留而受ニ業於門一。

【假君】36 クン かりの君。〔越絕書、越絕外傳記吳地傳〕使ニ其子爲ニ假君一。

【假契】37 ケイ 僞證文。僞造文書。〔福惠全書、編審部、定推收〕或寫ニ假契一冒ニ立推收者。

【假契約】38 ケイヤク 商業上、賣買者相互に假りに結んだ契約。

【假紛】40 ケイ かづら。假髻(42)に同じ。〔詩、鄘風、君子偕老、副笄六珈、疏〕言ニ編若ニ今假紛一者、編ニ列他髮一爲レ之、假作ニ紛形一、加ニ於首上一。〔周禮、天官、追師、爲ニ副編次追衡笄一、注〕編、編ニ列髮一爲レ之、其遺象、若ニ今假紛一矣。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕假紛・帛巾各一。

【假憩】41 ケイ かりにいこふ。一寸やすむ。又、かりのいこひ。一寸した休息。假息。〔摯虞、思游賦〕揖ニ太昊一以假憩兮、聽賦政于三春一。

【假髻】42 ケイ 婦人の頭の飾に用ひる毛。かづら。假頭。假結。假紛。〔晉書、五行志上〕婦女緩レ鬢傾レ髻、以爲ニ盛飾一、用髮既多、不レ可レ恆戴、乃先于ニ木及籠上一裝レ之、名曰ニ假髻一、或名ニ假頭一。

【假繼】43 ケイ 繼母。まま母。後母。〔顏氏家訓、後娶〕其後、假繼慘ニ虐孤遺一、離ニ間骨肉一、傷ニ心斷腸者一、何可レ勝レ數。

【假橋】44 カキョウ 閒に合せにかけた橋。〔心中重井筒下〕假りのうつつの假橋。

【假結】45 ケツ ❶かりに結ぶ。〔後漢書、輿服志下〕皇后謁ニ廟服一、云云、隱ニ領袖緣一、以レ絛假結。❷かづら。假髻(42)に同じ。〔廣雅、釋器〕假結、謂ニ之髻一。

【假譎】46 ケツ 世說新語の篇名。

【假言】47 ゲン ❶うそ。虛言。〔顏氏家訓、勉學〕假言而訐露。❷意味の深いことば。遐言。〔漢書、揚雄傳下〕假言周ニ于天地一、贊ニ于神明一。〔注〕師古曰、假、至也。

【假公】48 コウ 公事を利用する。公事にかこつける。〔福惠全書、蒞任部、謁廟行香〕假レ公濟レ私、希ニ圖報復一者多。

【假構】49 コウ 無いことをかりに拵へる。

【假根】50 コン 莖の下部に生ずる毛狀物で、維管束がないもの。すぎごけ・ぜにごけ等にある。

【假佐】51 サ 漢の官名。郡の書記官。〔漢書、王尊傳〕司隸遣ニ假佐放一奉ニ詔書一白レ尊、發レ吏捕レ人。〔注〕蘇林曰、胡公漢官、假佐、取ニ內郡善ニ史書一、佐ニ給諸府一也。

【假座】52 chia³ tsuo⁴ 座をかりる。會場を設ける。席をしつらへる。

【假戛】53 カカツ かたいかな。堅固なのをほめる語。假は固の意。〔詩、大雅、文王〕假哉天命。〔傳〕假、固也。〔陳奐傳疏〕假、讀與ニ固同一、此假借也、廣雅、賈、固也、假・賈同聲竝近、假之讀爲レ固、猶賈之讀爲レ固矣。

【假相】54 サウ 實在でない物象。

【假倉】55 サウ 漢、陳留の人。字は子驕。平陵の張山拊に從つて尙書を受く。官は膠東相。〔前漢書、八十八〕。

【假想】56 サウ かりに考へる。

【假葬】57 サウ 假埋葬。かりに葬むる。假瘞。〔日知錄、禮制、假葬〕晉武帝太康中、前太子洗馬郤詵、寄ニ止衞國文學講堂一十餘年、母亡不レ致ニ喪歸一、便於ニ堂北壁外一下レ棺、謂ニ之假葬一。〔陔餘叢考、假葬〕世俗有ニ攢ニ柩於所レ居之室一、遂以爲ニ葬所一者、古人謂ニ之假葬一。

【假裝】58 サウ 假りに其の形をよそほふ。又、其のもの。云云の振りをする。假扮。僞裝。〔南史、顧琛傳〕俄有ニ二假裝至一、事力甚寡。

【假裝會】59 カサウクワイ 思ひ思ひの身なりを作つて姿を變へ、相集まつて興じ遊ぶ會。

【假裝行列】60 ギサウギャウレツ 假裝して竝び歩くこと。運動會其の他の餘興などに行ふ。

【假裝舞蹈】61 カサウブタウ 各自、思ひ思ひのいでたちをして行ふ舞蹈。

【假裝巡洋艦】62 カサウジュンヤウカン 商船を假裝して造つた巡洋艦。

【假嘈】63 chia³ tsao⁴ 大袈裟にほめそやす。〔水滸傳、二十四回〕那婆子只顧誇奬西門慶、口裏假嘈。

【假造】64 ザウ にせてつくる。かりにつくる。僞造する。〔劉知幾、孝經老子注易傳議〕按ニ漢書藝文志一、注ニ老子一者有ニ三家一、河上所ニ擇無レ聞焉、豈非ニ注者欲レ神ニ其事一、故假ニ造其說一也。

【假作】65 chia³ tsuo⁴ かりにつくる。無いものを有るやうにこしらへる。假做。

【假山】66 ザン つきやま。築山。〔皮日休、秋晚訪ニ李處士所居詩〕藥草須レ教上ニ假山一。〔張芸叟、詩〕散ニ與人家一作ニ假山一。〔五雜組、地部一〕宋時巨室、治ニ園作一假山一、多用ニ雄黃焰硝一、和ニ土築レ之、蓋雄黃能辟ニ虺蛇一、焰硝能生ニ烟霧一、每ニ陰雨之候一、雲氣淳鬱、如ニ眞山一矣、假山之戲、當ニ在江北無一山之所一云云、假山須ニ用ニ山石一、大小高下、隨レ宜布置、不レ可ニ斧鑿一。

【假山水】66 カサンスイ 庭園の築山と泉水。〔尺素往來〕假山水者、河樣・河樣云云、枯山水樣。

【假士】67 シ かりの役人。〔漢書、鼂錯傳〕十長一里、里有ニ假士一。

【假子】68 シ ❶かりの子。やしなひ子。養子。又、まま子。〔漢書、王尊傳〕美陽女子、告ニ假子不孝一。〔王先謙補注、沈欽韓曰、前妻之子也。〔列女傳、母儀、魏芒慈母傳〕獨於ニ假子一而不レ爲。〔唐書、王世充傳〕乃請レ事ニ侗母劉太后一爲ニ假子一。❷母のつれ子。〔獻帝春秋〕隨ニ母男曰ニ假子一。

【假死】69 シ 一時死んだやうになること。〔拾遺記、前漢上〕或託ニ形假死一、獲ニ反者一、四五人。

【假使】70 シ 假設の辭。たとひ。よし。假令(204)に同じ。〔史記、范雎傳〕假使臣得ニ同ニ行於箕子一。〔漢書、外戚下、孝成許皇后傳〕假使太后在ニ彼時一、不如ニ職、今見ニ親厚一、又惡可ニ以踰一乎。〔法華經〕假使滿世界如ニ舍利弗一。

【假賜】71 chia³ tz'u⁴ 一時拝借。

【假字】72 ナ 我が國の音標文字。かんな。かりな。假名。排列にいろは順・五十音順の二種があり、字體に平假字・片假字・萬葉假字の三種がある。

【假而】73 ジ たとひ。假令(204)に同じ。〔柳宗元、答ニ韋中立論ニ師道一書〕假而以ニ僕年先ニ吾子一、聞ニ道著一書之日不レ後、云云。

【假事】74 chia³ shih⁴ うそ事。

【假辭】75 ジ つくりごと。うそ。

【假修】76 シウ かりに修める。修めたふりをする。〔莊子、天地〕彼假ニ修渾沌氏之術一者也。

【假漆】77 chia³ ch'i¹ 樹のやにで製した塗料。ワ

ニス。ニス。

【假日】78 ひまな日。暇日。〔楚辭、離騷〕聊假日以娯樂。〔注〕假、一作レ暇。〔王粲、登樓賦〕聊假日以消レ憂。〔白居易、春寢詩〕是時正月晦、假日無二公事一。

【假借】79 ❶他のたすけをかりる。人の物をかりる。假藉。〔韓非子、定法〕今知而弗レ言、則人主尚安假借矣。〔南史、袁峻傳〕家貧無レ書、毎從二人假借一、必皆抄寫。❷ゆるす。見のがす。大目に見る。寛容。用捨。〔戰國、燕策〕願大王少假二借之一、使得レ畢二使於前一。〔漢書、文帝紀贊〕羣臣袁盎等、諫說雖レ切、常假借納用焉。〔蜀志、魏延傳〕惟楊儀不二假借一。❸六書の一。他の字の音義を借りて充用するもの。卽ち令は號令といふのが本義で、其から號令する民の長官を令といふ類。一說に、右は寧ろ轉注に屬するといひ、そして假借とは同一の發音をかりて來て、其の意味を持たしめるのだといふ。燕は宴と音通だから共にタノシムとなり、不律は筆と同音だからフデとなり、盍は何不と同音だからナンゾ云云セザルとなる類といふ。六書（2－1453：33二）を見よ。〔漢書、藝文志〕周官保氏、掌二養一國子一教中之六書一、謂二象形・象事・象意・象聲・轉注・假借一。造字之本也。〔注〕師古曰、假借、謂下本無二其字一、依レ聲託レ事。〔許愼、說文解字敍〕假借者、本無二其字一、依レ聲託レ事、令長、是也。〔六書故、序〕古人謂二令長一爲二假借一、蓋已不レ知二假借之本義矣一。云云、所謂假借者、義無二所因一、特借二其聲一、然後謂二之假借一。〔通志、六書略、假借〕序曰、六書之難レ明者、爲二假借之難一明也、六書無レ傳、惟藉二說文一、然許氏惟得二象形・諧聲二書一、以成レ書、牽二於會意一、復爲二假借所一レ擾、故所レ得者亦不レ能レ守焉、學者之患、在下於識二有義之義一、而不レ識二無義之義一、假借者、無義之義也、假借者、本非二己有一、因二他所一レ授、故於二己爲一レ無レ義、然就二假借一而言レ之、有二有義之假借一、有二無義之假借一、不レ可レ不レ別也、曰、同音借義、曰、協音借義、曰、因義借音、曰、因借而借、此爲二有義之假借一、曰、借同音不借義、曰、借協音不借義、曰、語辭之借、曰、五音之借、曰、三詩之借、曰、十日之借、曰、十二辰之借、曰、方言之借、此爲二無義之假借一。先儒所二以顚沛淪二於經籍之中一、如下汎二一葦於溟渤一、靡レ所二底止一、皆爲二假借之所一レ魅也、嗚呼、六書明、則六經如レ指二諸掌一、假借明、則六書如レ指二諸掌一。

【假借不レ還】80 借りた物を期限がきても返さない。〔唐律、廐庫、假二借官物一不レ還〕諸假二請官物一、事訖過二十日一不レ還者、笞三十、十日加二一等一、罪止二杖一百一。私服用者加二一等一。

【假藉】81 かりる。名目などを借りる。假借（79）の❶に同じ。〔墨子、尚賢中〕此非二中實愛一レ我也、假藉而用レ我也、夫假藉之民、將豈能親二其上一哉。〔閒詁〕畢云、古無二借字一、只用レ藉。

【假床】82 さじき。棧敷。見物のため一段高く構へたところ。〔倭名類聚抄、居處部、屋宅類〕假床、類聚國史云、假床、此間云二佐受伎一、今案、假構屋內二床之名也。

【假晶】83 或る鑛物が其のもの特有の形をなさずに、他の鑛物の結晶形に似た形狀に結晶すること。

【假粧】84 紅・白粉などで顏をよそふ。化粧。

【假粧坂】85 相模國鎌倉に在る坂。

【假象】86 ❶かりのつとる。〔成公綏、嘯賦〕假二象金革一、擬則陶匏。〔注〕善曰、孔安國尚書傳曰、象、法也。❷變態精神作用によつて眼にあらはれるありもせぬものの姿。

【假象牙】87 chia³ hsiang⁴ ya² セルロイド。象牙に似てゐるからいふ。人造象牙。賽璐珞。

【假傷】88 にせきず。〔福惠全書、刑名部、人命中、圖賴〕有下一種買二他屍一、造二假傷一圖上賴人者上。

【假城】89 かりの城。〔荀子、彊國〕齊必斷而爲二四三一國若一假城一耳。

【假情】90 chia³ ch'ing² てくだ。手管。〔紅樓夢、二十九回〕也毎用假情試探。

【假釋】91 假出獄。

【假若】92 假設の辭。たとひ。よし。もし。よしんば。假設。假令。假如。

【假手】93 手を借りる。力を借りる。人を煩はす。〔書、伊訓〕皇天降レ災、假二手于我有命一。〔左氏、隱、十一〕天禍二許國一、鬼神實不レ逞二于許君一、而假二手于我寡人一。

【假守】94 かりの太守。かりの國守。又、かりに守る。〔史記、南越尉佗傳〕因稍以レ法誅二秦所一レ置長吏一、以其黨一爲二假守一。

【假株】95 假株券の略。株式會社が株主に對し假に渡す株券。

【假授】96 かりに授ける。〔晉書、宣帝紀〕輒承二制刻印一、多レ所二假授一。

【假儒】97 にせの儒者。眞儒（8－23235：166）の對。〔書言故事、不學類〕假儒、假二儒衣書一服而讀レ之、三月不レ歸、孰曰レ非儒也。

【假充】98 ❶かりに當てる。〔魏志、文德郭皇后傳、注〕誠不レ足下以假二充女君之盛位一、處中饋之重任上。❷chia³ ch'ung¹ 似せる。眞似る。云云の振りをする。

【假充招牌】99 chia³ ch'ung¹ chao¹ p'ai² 商標

【假宿】100 ❶一時の住居。又、旅の宿。〔堀河太郎百首、春〕かりの宿にもとまる心ぞ。❷無常な現世。〔新古今和歌集、羇旅〕かりの宿に心とむなと思ふばかりぞ。

【假初】101 ちよつと。まにあはせ。おろそか。〔古今和歌集、哀傷〕かりそめの往きかひ路。

【假初臥】102 かりね。うたたね。〔後撰和歌集、戀四〕秋の田のかりそめぶし。

【假署】103 かりの役所。〔資治通鑑、晉紀〕〔孝武帝、太元十年〕參佐在二趙北一者、悉假署遣歸。〔注〕假署者、權時以二假板署一置二其官一。

【假如】104 假設の辭。よし。たとひ。假設。假令。假若。〔韓愈、論二佛骨一表〕假如其身至レ今尚在、奉二其國命一、來二朝京師一、陛下容而接レ之。

【假助】105 たすけをかす。たすけること。力を貸して助ける。〔左氏、昭、十一〕天之假二助不善一、非レ祚レ之也、厚二其凶惡一、而降二之罰一也。

【假稱】106 ❶かりに稱す。僞つて稱す。〔魏書、孝文帝紀上〕又諸巫覡、假稱二神鬼一、妄說二吉凶一、及委巷諸卜、非二墳典所一レ載者、嚴加二禁斷一。❷かりの名。

【假縱】107 ゆるす。おほめに見る。〔魏書、道武七王、法僧傳〕法僧皆召爲二卒伍一、無レ所二假縱一。

【假色】108 ❶天然でない色。又、僞りの美人。〔白居易、古塚狐詩〕假色迷二人猶若一レ是、眞色迷レ人應レ過レ此。❷有色の水晶の色の如く、鑛物が含有する不純物質によつて呈する種々の色彩をいふ。

【假食】109 寄食する。〔列子、說符〕從二馬醫一作レ役而假レ食。〔拾遺記、秦始皇〕二人每假二食於路一、剝二樹皮一、編以爲二書帙一。〔張泌、尸媚傳〕項家貧、假二食於郡內郭西堰一。

【假飾】110 いつはりかざる。〔陶潛、五孝、庶人孝傳贊〕義在二愛敬一、榮不二假飾一。

【假眞】111 本當らしく見せかける。〔法言、重黎〕夫欲レ雠レ僞者、必假レ眞。

【假寢】112 うたたね。假寐。〔說苑、立節〕宣子盛服將レ朝、尚早、坐而假寢。〔吳志、孫權傳〕夙夜兢兢、不レ遑二假寢一。

【假賑】113 大いに賑はす。〔後漢書、虞詡傳〕招二還流亡一、假二賑貧人一。

【假親】114 養ひ親。繼父母。〔夕霧阿波鳴渡、中〕誠の親とかり親。

【假人】115 至人。秀れた人。偉大な人。〔史記、殷紀〕假人元龜。〔注〕集解曰、馬融曰、元龜、大龜也、長尺二寸、孔安國曰、至人以二人事一觀レ殷、大龜以二神靈一考レ之。

【假醉】116 醉つた振りをすること。〔水滸傳、二十九回〕這武松假醉佯顚、斜二著眼一看了。

【假數】117 數學用語。對數の小數部分をいふ。

【假制】118 かりに制定する。〔後漢書、隗囂傳論〕隗囂援レ旗紀レ族、假二制明神一。〔注〕謂下立二高祖孝文等廟一而祭上之也。

【假請】119 請ひ借りる。かりる。假借不レ還（80）を見よ。

【假稅】120 借りる。使用稅。〔後漢書、和殤帝紀〕其官有二陂池一、令レ得二采取一、勿レ收二假稅一。二歲。〔注〕假、猶二租賃一。

【假設】121 ❶かりにまうける。又、まにあはせに造る。〔公羊、隱、元、且如桓立、注〕且如、假設之辭。〔蘇軾、秦少游夢發殯云云以詩賀レ之劉涇亦作因次二其韻一詩〕塗車芻靈皆假設、着眼細看君勿レ誤。❷たとひ。よし。縱令。假令。假如。

假若。〔新書、宗首〕假設陛下居二齊桓之處一、將レ不下合二諸侯一匡中天下上乎。㊂數學用語。假りに設けた條件。終結に對す。

〔假設敵〕122 カセツテキ 演習教練のとき、攻擊練習の對象として假りに設けた敵。

【假說】123 カセツ 實際の證明によらず、假りに想像を交へて立てた說。〔蘇軾、葉濤致遠見レ和二二詩一復次二其韻一詩〕煩レ公爲二假說一、反復相指似。

【假節】124 カセツ 節を持して使すること。節は使臣の證として朝廷から與へられる割符。〔漢書、平帝紀〕假節分二行天下一、覽二觀風俗一。

【假節侯】125 カセツコウ 草の名。蘆(**9—32425**)の異名。〔清異錄、草、蕭寒郡假節侯〕蘆之爲レ物、大類二此君一、但霜雪侵陵、改レ素爲レ黃、故好事君子、號レ蘆爲二蕭寒郡假節侯一。

【假攝】126 カセツ かりに他の人に代つて職務をつとめる。〔荀子、儒效〕天子也者、不レ可下以二少當一也、不レ可上以二假攝一爲上也。〔晉書、張茂傳〕假二攝此州一、以全二性命一。

【假倩】127 カセン かりる。假借。〔史記、滑稽傳〕某所レ有公田、願得三假二倩之一。

【假錢】128 カセン 唐の王璵の造つた紙錢。焚いて神に事へるに用ひる。〔大學衍義補、制二國用一、銅楮之幣、下〕唐王璵、乃用爲二假錢一、焚以事レ神。

【假喘】129 カゼン 死に瀕する者の氣息。絕え絕えの氣息。〔張說、讓三起復二黃門侍郎一第二表〕假喘殘生、悲懼轉集。

【假蘇】130 カソ 草の名。のえ。鼠の草。〔本草、假蘇〕釋名、薑芥、荊芥、鼠蓂、藏器曰、荊芥、一名二析蓂一、誤矣。

假蘇
(三才圖會)

【假息】131 カソク しばらく息ふ。暫時息ふ。假憩。〔後漢書、謝夷吾傳〕長當レ死、近三十日、遠不レ過二六十日一、遊魂假息、非二刑所一レ加、故不レ收レ之。〔拾遺記、秦始皇〕嘗息二大樹之下一、假息而寐。

【假續】132 カゾク 他の力をかりることによつて事を續けること。〔徐陵、爲二王儀同一致仕表〕尺波歸レ海、恆歎レ不レ居、爝火爲レ薪、猶悲二假續一。

【假卒】133 カソツ よい兵卒。嘉卒。〔吳志、諸葛融傳〕秋冬則射獵講レ武、春夏則延二賓高會一、休吏假卒、或不レ遠二千里一而造焉。

【假貸】134 カタイ ㊀かす。かりる。〔國語、晉語八〕假貸居レ賄。〔晏子、問、下〕富無二金藏一、貧不二假貸一。〔史記、主父偃傳〕家貧、假貸無レ所レ得。㊁ゆるす。寬容。〔後漢書、安帝紀〕且復假貸、以觀二厥後一。〔注〕假貸、猶二寬容一也。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕親屬犯レ罪、無レ所二假貸一。

【假對】135 カタイ 詩賦の對句に、字音を假借して對せしめたもの。例へば、杜甫の詩の次第尋二書禮一、呼レ兒檢二頌詩一は、第の字を借りて弟の字と作して兒と對せしめ、劉禹錫の談笑有二鴻儒一、往來無二白丁一は、鴻の字を借りて紅の字として白の字に對せしめ、李白の水舂雲母碓、風掃石楠花の楠は、男と同聲で上句の母に對し、杜甫の信宿漁人猶泛泛、清秋燕子故飛飛の漁は、魚と同聲で下句の燕に對する類。一名、借對、又は聲對といふ。借對(**1—781・57**)を見よ。〔古今詩話〕廚人具二雞黍一、稚子摘二楊梅一、謂二之假對一。〔詩法詳論、律詩〕有二借對一、又謂二之假對一。

〔假對律〕136 カタイリツ 假對を用ひて作つた律詩。〔聞見後錄〕詩家有二假對律一、曰、牀頭兩甕地黃酒、架上一封天子書、又三人鐺腳坐、一夜掉頭吟、又鬢欲レ雪二青女一、官猶佐二子男一等句、是也。

【假大】137 カダイ 大きいこと。〔漢書、律歷志上〕大陽者、南方、南、任也、陽氣任レ養レ物、於レ時爲レ夏、夏、假也、物假大乃宣平。

【假代】138 カダイ 世話人がかはる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕假代爲二揭借一、重利立レ券。

【假道】139 カダウ ㊀道を他の國に借りる。他國の道を通して貰ふ。〔左氏、僖、五〕假二道於虞一、以伐レ虢。〔孟子、萬章上〕晉人以三垂棘之璧、與二屈產之乘一、假二道於虞一、以伐レ虢。㊁方法を一時借り用ひる。方便のために用ひる。〔莊子、天運〕古之至人、假二道於仁一、託二宿於義一、以遊二逍遙之虛一。㊂寬大に許して人を導く。道は、導。〔荀子、王制〕凡聽、威嚴猛厲、而不レ好三假二道人一、則下畏恐而不レ親。〔注〕假道、謂下以二寬和假借一道中引人上也。

【假托】140 カタク かこつける。假託。

〔假托鬼名〕141 カタクキメイ うその名を拵へ作る。

【假託】142 カタク ㊀かこつける。ことよせる。假托。〔宋史、寧宗紀一〕假二託聲勢一、竊二弄威福一。㊁かかる。つく。〔前定錄〕當レ有三妖怪假二託人事一。

【假寵】143 カチヨウ 寵愛にたよる。〔左氏、昭、四〕願假レ寵以請二於諸侯一。

【假枕】144 カリマクラ ㊀たびね。外泊。〔續古今和歌集、羇旅〕野の原の假枕。㊁うたたね。かりね。

【假賃】145 カチン 借賃を拂つて借りること。〔北史、鹿悆傳〕悆雖レ任二居通顯一、云云、自無二居宅一、常假賃居止、布衣糲食、寒暑不レ變。

【假定】146 カテイ かりにさだめる。

〔假定欵〕147 カリテイクワン 會社等で假りに定めた箇條で、まだ株主總會の決議を經ないもの。

【假綴】148 カリトヂ 書物などの綴ぢ方の名。かりに一寸綴ぢること。本綴に對す。

【假的】149 chia³ tê ㊀僞物。㊁僞りの。

【假捏】150 カデツ 捏造する。僞造する。〔清國行政法汎論、官吏分限、守制〕或假二捏丁憂承重事故一、申二報上司一者、革レ職。

【假典】151 カテン 重い位。假は大。〔司馬相如、封禪文〕舜在二假典一、顧二省闕遺一。〔注〕濟曰、假、大也、大典、謂二重位一也。

【假貼】152 カリバリ ㊀間に合はせに貼ること。又、その貼つたもの。㊁畫工・表具師などが、紙や絹などに皺の寄るのを防ぐ爲、其を水貼するに用ひる道具。框格子の骨に紙を厚く貼り、柿澁を塗つて作つた、襖のやうなもの。

【假殿】153 カリドノ かりの御殿。〔中務內侍日記〕春日、云云、かり殿。

【假電】154 chia³ tien⁴ 僞せ電報。僞電。

【假涂】155 カト 他國に途を假りる。假途に同じ。〔戰國、趙策〕將レ之レ薛、假二涂於鄒一。

【假途】156 カト 他國に途を假りる。他國の道を通して貰ふこと。假塗。假涂。假道。〔史記、魯仲連傳〕將レ之レ薛、假二途於鄒一。〔白虎通、誅伐〕行不レ假レ途。

【假塗】157 カト 他國に途を假りる。假途に同じ。〔公羊、僖、四〕桓公假二塗於陳一而伐レ楚。〔公羊、桓、六、化レ我也、注〕諸侯相過、至レ竟必假レ塗、入レ都必朝、所下以崇二禮讓一、絕二慢易一、戒中不虞上也。

【假頭】158 カトウ ㊀かづら。假髻(42)を見よ。㊁面具。假りに作つた面形。おもがた。〔留青日札〕張衡西京賦、戲豹舞熊、白虎蒼龍、注曰、皆假頭也、假作二其形一、卽今鬼面兒。

〔假頭髮〕159 chia³ t'ou² fa かつら。かもじ。

【假童】160 カリワラハ 野武士。山伏。修驗者。〔祕藏抄、中〕かりわらはとは山臥をいふなり。

【假貣】161 カトク 借りる。〔漢書、朱建傳〕及二建母死一、貧未レ有二以發レ喪、方假二貣服具一。〔漢書、司馬相如傳〕從二昆弟一假貣、猶足二以爲レ生。

【假寧】162 カニヤウ 昔、官人に賜はつた休假。假は暇の意。寧は歸寧。〔假寧令、義解〕假者、休暇、卽每二六日一並給二休假一日一之類、是也、歸寧、卽三年一給二定省假一、是也。

【假馬】163 カバ 田獵して獲た禽を數へる籌。〔周禮、夏官、大司馬、遂圍禁、注〕爭レ禽而不レ審者、罰以二假馬一。

【假報】164 chia³ pao⁴ 誤報。虛報。

【假冒】165 カバウ ㊀名をかたる。名を侵す。僞稱する。〔北史、韓顯宗傳〕今州郡貢察、徒有二秀孝之名一、而無二秀孝之實一、而朝廷但檢二其門望一、不二復彈坐一、如レ此則可レ令下別貢二門望一、以敍中士人上、何假二冒秀孝之名一也。㊁chia³ mao⁴ にせる。又、にせもの。

【假謗】166 カバウ ないことをあるやうにいつて人をそしること。誣謗。〔謝靈運、詣レ闕自理表〕今影迹無レ端、假謗空設、終古之酷、未二之或一レ有。

【假泊】167 カハク 軍艦、又は諸船舶が、風波を避ける爲、或は一時の用を足す爲に、かりに立ち寄つてとまること。一時の碇泊。

【假版】168 カハン 假版官の略。次條を見よ。

〔假版官〕169 カハンクワン 攝官。他に代つて事務を掌る官。假官。〔唐律、名例二〕其假版官、犯二流罪以下一、聽二以レ贖論一、疏議曰、假版授レ官、不レ著二令式一。

【假比】170 chia² pi³ たとへば。かりに。

【假皮】171 chia³ p'i² 模造紙。

【假皮層】172 カヒソウ 單子葉植物の莖幹に於て、維管束が外緣部に多く密集して堅牢な皮層狀をなす部分をいふ。

【假譬】173 ヒカ たとへをかりる。〔淮南子、要略〕假レ

譬取レ象、異レ類殊レ形。

【假備】174 カビ かりて備へる。〔左氏、襄、九〕請及二兄弟之國一、而假備焉。

【假媚】175 chia^{3} mei^{4} 僞つて媚びる。

【假寐】176 カビ 晝着る衣を著けたままで眠る。うたたね。假寢。假臥。〔詩、小雅、小弁〕假寐永歎、維憂用老。〔箋〕不レ脫二冠衣一而寐、曰二假寐一。〔左氏、宣、二〕〔趙宣子〕盛服將レ朝、尚早、坐而假寐。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕朕用夙興假寐。〔吳志、周魴傳〕假寐忘レ寢。

【假病】177 ケビヤウ つくりやまひ。うそのやまひ。にせの病氣。

【假父】178 カフ かりの父親。❶養父。義父。〔史記、秦始皇紀、注〕正義曰、陸下車二裂假父一。〔說苑、正諫〕吾乃皇帝假父也。❷他人を父と見なしていふ。〔唐書、李錡傳〕號二番落健兒一、皆李錡心腹、云云、稱レ錡爲二假父一。

【假佛】179 カブツ かりのほとけ。〔曹松、送二德光禪師一詩〕有爲嫌二假佛一、無境是眞機。

【假物】180 カブツ ❶借り物。〔列子、湯問〕王諦二料之一、內則肝膽心肺、脾腎腸胃、外則筋骨支節、皮毛齒髮、皆假物也。❷まがひもの。

【假扮】181 chia^{3} pan^{4} 假裝する。

【假文】182 カブン 中古、官吏が休暇を請ふ文書。〔二中歷、十二、書體〕假文、請レ暇若干箇日、牒、依二某事一所レ請如レ件、謹牒。

【假幣】183 カヘイ 貸した貨幣。〔管子、山國軌〕貲家假幣。〔纂詁〕令曰、貲家所二假貸一之幣。

【假票】184 chia^{3} p'iao^{4} 僞造手形。贋造紙幣。

【假母】185 カボ ❶のちのはは。繼母。又、父の妾。〔史記、衡山王賜傳〕人有下賊二傷王后假母一者上。〔漢書、衡山王傳〕元朔四年、中人有下賊二傷后假母一者上。〔注〕師古曰、繼母也、一曰、父之旁妻。〔越絕書、越絕吳內傳〕舜親父假母。❷養母。〔北里志〕妓之母、多假母也。

【假縫】186 カリヌヒ 本仕立ての前に、着工合などを見る爲に、かりに縫ふこと。

【假埋】187 カマイ かりにうづめる。假瘞。假葬。〔後漢書、東夷傳〕新死者先假埋レ之、令二皮肉盡一。

【假滿】188 カマン 休暇の期が滿ちる。〔賈島、賀二龐少尹除二太常少卿一詩〕太白山前終日見、十旬假滿擬二秋尋一。

【假名】189 カメイ ❶かりの名。又、名號をかりる。〔後漢書、邳彤傳〕卜者王郎、假レ名因レ勢、驅二集烏合之衆一。❷佛 ケミヤウ 通俗の概念の意。佛教では、一切の事物は實體なく、假有としての存在と考へてゐる。一方、正智を得てゐない吾人の思考を以てしては、到底眞理を詮表することができぬ。卽ちかかる事物に對する名稱は、もとより實體を指してゐるのではなく、吾人の假設した名に過ぎない。〔大乘起信論〕一切言說、假名無レ實。〔大乘義章〕諸法無レ名、假與二施名一、故曰二假名一。〔十住毘婆娑論〕貪二著假名一。❸俗名。通稱。歷史上の事實を小說脚本に組み立てる時、實名を避けて、かりに呼ぶ名。〔平家物語、二、卒都婆流し〕假名・實名。❹カナ 我が國で工夫した寫音文字。漢字の全部、又は一部をかりて其の音訓を利用したもの。片假名と平假名と萬葉假名とがある。假字(72)を見よ。〔宇津保物語、國讓、中〕卯の花につけたるはかな。

【假名草紙】190 カナザウシ 江戶時代初期に出た、主として假名を用ひて書かれた小說・雜著の稱。可笑記・二人比丘尼・御伽婢子等が其の代表的なもので、教訓的なものが多い。

【假面】191 カメン 顏に被る木製の面。お面。〔漢書、禮樂志、常從象人四人、注〕韋昭曰、著二假面一者也。〔隋唐嘉話〕高齊蘭陵王長恭、面類二美婦人一、乃著二假面一以對レ敵、與二周師一戰二於金墉下一、勇冠二三軍一、齊人壯レ之、乃爲レ舞以效二其指麾擊刺之容一、今人面是。〔白居易、西涼伎〕西涼伎假面、胡人假獅子、刻レ木爲レ頭絲作レ尾、金鍍二眼睛一銀帖レ齒。〔陔餘叢考、假面〕假面蓋起二於周禮方相氏、黃金四目以逐レ鬼。

【假面劇】192 カメンゲキ 十四世紀から十六世紀に亙つて西洋諸國に流行した一種の戲劇。單純な劇で、神話や教訓を主とし、後世の歌劇の先驅となつた。

【假面狀花冠】193 カメンジヤウクワクワン 植物學用語。不整齊合瓣花冠の一。下脣が延長して瓣咽を閉ざし、一部分前方に突出して、恰も假面を被つてゐるやうに見えるもの。きんぎよさうの花等。

【假役】194 カリヤク かりに任ずる役。

【假喩】195 カユ 譬を引いてさとす。〔傅玄、連珠序〕不三指二說事情一、必假喩以達二其意一。

【假予】196 カヨ 貸し與へる。假與に同じ。〔史記、平準書〕假二予產業一。

【假與】197 カヨ 貸し與へる。假予。〔史記、孟嘗君傳〕有二賢者一、竊假二與之一。〔漢書、宣帝紀〕假二與貧民一。

【假容】198 カヨウ 外貌をまねる。〔孔稚珪、北山移文〕雖三假二容於江皐一、乃纓二情於好爵一。

【假翼】199 カヨク 翼をかりる。〔蜀志、許靖傳〕雖下仰二瞻光靈一、延レ頸企レ踵、何由假レ翼自致哉。

【假樂】200 カラク ❶嘉したのしむ。〔詩、大雅、假樂〕假樂君子。〔傳〕假、嘉也。〔疏〕言四上天嘉三美而愛二樂此君子成王一也。❷詩經、大雅の篇名。周の成王の盛德を嘉して作る。〔詩、大雅、假樂序〕假樂、嘉二成王一也。

【假吏】201 カリ 甲職の者が、假りに乙職を兼ねること。〔漢書、蘇武傳〕武與二副中郎將張勝、及假吏常惠等一、募レ士斥候、百餘人俱。〔注〕師古曰、假吏猶レ言二兼吏一也。

【假兩】202 カリヤウ 六朝時代の齊の服裝で、胸に著けた四角な帛布をいふ。〔南史、齊和帝紀〕百姓及朝士、皆以二方帛一塡レ胸、名曰二假兩一。

【假龍】203 カリヨウ 官名。直龍圖閣の異稱。〔稱謂錄、內閣各官古稱、假龍〕方勺泊宅編、舊制、直龍圖閣、謂二之假龍一、龍圖閣待制、謂二之小龍一、龍圖閣直學士、謂二之大龍一、龍圖閣學士、謂二之老龍一。

【假令】204 タトヒ もしも。かりに。よしや。假而。假使。〔史記、張釋之傳〕有レ如三萬分之一、假令愚民取二長陵一抔土一、陛下何以加二其法一乎。〔漢書、匈奴傳下〕假令單于初立、欲レ委二身中國一、未レ知二利害一。〔說苑、奉使〕假令大國之使、時過二敝邑一。〔羊祜、讓二開府一表〕假令有レ遺二德於版築之下一。

【假廬】205 カリホ・カリイホ かり住居。假庵。〔萬葉集、十五〕初尾花可里保に葺きて。

【假樓】206 カロウ にせやぐら。〔吳志、徐盛傳〕從二建業一築レ圍、作二薄落圍一、上設二假樓一。

【假話】207 chia^{3} hua^{4} 虛言。うそ。

【假王】208 カワウ かりの王。〔史記、淮陰侯傳〕願爲二假王一便。〔史記、陳涉世家〕乃以二吳叔一爲二假王一。〔漢書、高帝紀上〕不レ爲二假王一、恐不レ能レ安レ齊。

【假皇帝】209 カクワウテイ 王莽は攝位して謀逆を圖り、太后に奏して自ら假皇帝と稱することにした。〔漢書、王莽傳上〕孔子曰、畏二天命一、畏二大人一、畏二聖人之言一、臣莽敢不二承用一、臣請、共事二神祇宗廟一、奏二言太皇太后・孝平皇后一、皆稱二假皇帝一。

【假關白】210 カリノクワンパク 假りに設けた關白。一條天皇の御代、藤原伊周がこの官となつた。〔國史略、一條天皇〕關白道隆薨、以二其子伊周一爲二假關白一。

【假扣押】211 chia^{3} k'ou^{4} ya^{1} 假差押へ。

【假差押】212 カリサシオサヘ 法律用語。金錢の債權又は金錢の債權に換へ得る財產權上の請求權に本づき、債務者の財產に對する將來の強制執行を保全する爲、其の財產を差押へて處分を禁ずる裁判所の處分。

【假廝兒】213 カシジ 金代、男子の衣冠を着せて召し使つた宮女。〔金史、后妃傳〕凡諸妃位皆以二侍女一服二男子衣冠一、號二假廝兒一。

【假執行】214 カリシツカウ ❶假りに或る事を行ふ。❷法律用語。假執行の宣言に本づき、判決確定前になす強制執行。

【假橡皮】215 chia^{3} hsiang^{4} p'i^{2} 人造護謨。

【假種皮】216 カシユヒ 植物學用語。珠柄の一部又は胎座の部が發達した被膜。眞皮の外面を被ふ。

【假出獄】217 カリシユツゴク よく獄則を守つて改悛の狀あるとき、假りに獄から出すこと。

【假處分】218 カリシヨブン ❶假りに或る事を處分すること。❷法律用語。金錢債權以外の特定給付を目的とする請求權の執行を保全する爲、又は爭ある權利關係につき假りの地位を定めるための特別訴訟手續。

【假證券】219 カリシヨウケン 公債又は社債を發行するとき、正式證券を交付する前に、應募者に與へる臨時の證券。

【假惺惺】220 カセイセイ わざと。假意。〔元曲、金錢記〕想當日楚屈原、假惺惺醉倒二步兵廚一。

【假太陽】221 カタイヤウ 天文學で、黃道上を等速度で運行するものと假定した太陽。

【假奶油】222 chia^{2} nai^{3} yu^{2} 人造バター。

【假着子】223 chia^{3} chao^{1} tzŭ いつはり。うはべだ

けで誠實のないこと。

【假豬螺】224 カチヨラ 貝の名。法螺貝。海蠃(6－17503‥558)の異名。〔本草、海蠃〕釋名、流螺、假豬螺、蟨名二甲香一。

【假珍珠】225 chia³ chên¹ chu¹ 一名、草珠。廣東に產する細工品で、婦女の裝飾に用ひる。

【假條約】226 カリデウヤク まだ其の國の主權者の批准裁可を經ない條約。

【假圖章】227 chia³ tʻu² chang 僞印。にせばん。

【假婦戲】228 カフキ 俳優が婦女の服を着けて種々の戲を演ずること。歌舞伎。〔文獻通考、樂考、散樂百戲〕假婦戲、唐太中以來、孫乾飯・劉璃瓶・郭外春・孫有態、善爲二此戲一。

【假婦人】229 カフジン 支那劇の女形をいふ。〔樂府雜錄〕咸通以來、卽有三范傳康・上官唐卿・呂敬僊等三人、弄二假婦人一。〔通俗編、俳優、生旦淨末〕樂府雜錄稱、范傳康等、弄二假婦人一、則唐末有二旦名一。

【假分數】230 カブンスウ 數學用語。分子と分母とが等しいか、或は分子が分母より大きい分數。

【假撇清】231 カヘイセイ 或る事實に關係し、辭を飾つて自分の立場を辯ずる。〔通俗編、婦女、假撇清〕見二李文蔚、同樂院搏魚曲一。

【假辮子】232 chia³ pien⁴ tzŭ にせの辮髮。

【假雕書印】233 カテウショイン 僞造の印。〔還魂記、硬拷〕定有二假雕書印併藏一。

【假天假地】234 カテンカチ 假天と假地。假天はあかりをとる天窓。假地は空間を利用したかりの牀。貧家のさまをいふ。〔清異錄、居室、假天〕貧者以三室不二露明一、上安二油瓦一、以竊二微光一、又或四鄰局塞、則半空架二版疊一、垜二箱筥一、分二寢兒女一、故有二假天假地之稱一。

【假譽馳聲】235 カヨチセイ 才がないのに、お互に譽め合つて名聲をあげること。〔舊唐書、薛登傳〕比來擧薦、多不レ以レ才、假譽馳聲、互相推奬。

【假梨帝母】236 カリテイモ 迦梨帝母。訶利帝母。呵利帝母。鬼子母神の別名。〔佛〕Hārītī の意譯。〔寄歸傳、一〕安食一盤、以供二呵利帝母一、云云、西方諸寺、每於二門屋處一、或在二食廚邊一、塑二畫母形抱二一兒子一、於二其膝下一、或五或三、以表二其像一、每日、於レ前盛二陳供食一、其母卽是四天王衆、大豐勢力、其有二疾病一無二兒息一者、饗食薦レ之、咸皆遂レ願、神州先有レ名二鬼子母一焉。

【弄レ假成レ眞】237 カヲロウシテシントナス 僞物を眞物のやうに見せかける。〔元曲、隔江鬭智〕那一個掌親的怎知二道弄レ假成レ眞。〔瑣綴錄〕羅倫誚二吳與弼一詩、如今弄レ假卻成レ眞、轉見巖巖不レ可レ親。

【賣レ假不レ賣レ眞】238 カヲウルモシンヲウラズ 僞物は賣つても眞物は賣らない。〔通俗編、貨財、賣レ假不レ賣レ眞〕元稹估客樂、火伴相勒縛、賣レ假莫レ賣レ誠、交レ關但交レ假、交レ假本生レ輕、許棐馬塍種花翁詩、年少傳二語翁一、同業勿二相妒一、賣レ假不レ賣レ眞、何獨是花樹。

【偈】836

［一］ケツ ゲチ 〔集韻〕巨列切 ㄐㄧㄝˊ chieh² 屑
［二］ケイ ゲイ 〔集韻〕其例切 ㄐㄧˋ chi⁴ 霽
〔慣〕ゲ

［一］㊀たけしいさま。〔集韻〕偈、武皃。㊁すこやか。〔廣雅、釋詁二〕偈、健也。〔太玄經、鬭〕其人暉且偈。㊂はやい。〔集韻〕偈、疾也。〔詩、檜風、匪風〕匪風發兮、匪車偈兮。〔傳〕偈偈、疾驅。㊃力を用ひるさま。〔莊子、天道〕偈偈乎揭二仁義一。〔釋文〕偈偈、或云、用レ力之貌。㊄褐(10－34435)・羯(9－28537)に通ず。〔公羊、襄、二十四〕仲孫偈。〔釋文〕偈、本又作レ褐、亦作レ羯。同。［二］㊀いこふ。憩(4－11247)に通ず。〔漢書、揚雄傳上〕度二三巒一兮偈二棠梨一。〔注〕師古曰、偈、讀曰レ憩。〔揚雄、甘泉賦〕度二三巒一兮偈二棠梨一。〔注〕善曰、韋昭曰、偈、息也。㊁たけしいさま。［一］の㊀に同じ。〔集韻〕偈、武皃。㊂〔佛〕げ。偈佗 gāthā の略。印度文學又は佛典中の聖歌又は韻文。五字又は七字を一句とし、多くは四句を以て一偈とする。頌の意。〔翻譯名義集、四、十二分教篇〕伽陀、此云二孤起一、妙玄云、不二重頌一名二孤起一、亦曰二諷訟一、西域記云、舊曰レ偈、梵本略也、或曰二偈他一、梵音訛也、今從二正音一、宜レ云二伽陀一。

【偈㑅】1 ゲエイ 〔佛〕偈句に同じ。字解［二］の㊂を見よ。

【偈句】2 ゲク 〔佛〕偈の句。字解［二］の㊂を見よ。〔南山戒疏、一上〕彼葉一偈三十二字、唯此方言多少無レ準、或三四字、或五六七、節以二聲言一、用爲二偈句一。〔賈島、投二孟郊一詩〕我知二雪山子一、謁レ彼偈句空。

【偈偈】3 ケツケツ ㊀力を用ひるさま。〔莊子、天道〕又何偈偈乎揭二仁義一。〔釋文〕偈偈、或云、用レ力之貌。㊁車の疾く走るさま。〔詩、檜風、匪風〕匪車偈兮、〔傳〕偈偈疾驅、非二有道之車一。

【偈頌】4 ゲジュ 〔佛〕梵語、Gâtha の音譯。佛の功德をたたへる歌。三字乃至八字を以て一句とし、四句を以て一偈とする。頌德歌。讚美歌。梵唄。〔晉書、鳩摩羅什傳〕經中偈頌皆其式也。

【偈前】5 ゲベチ 〔佛〕佛家でいふ詩と文。佛家で詩を偈といひ、文を前といふ。

【偈菴老人】6 ゲアンラウジン 明、程嘉燧(8－25081‥165)の號。

【偉】837

小篆 偉

［一］ヰ 〔集韻〕羽鬼切 ㄨㄟˇ wei³ 尾
［二］ヰ 〔集韻〕于貴切 未

［一］［二］㊀すぐれる。〔說文〕偉、奇也、从レ人韋聲。〔段注〕人才傀偉也。㊁おほきい。〔廣韻〕偉、大也。〔集韻〕偉、大也。〔華嚴經音義、上〕偉、大也。〔漢書、武帝紀〕猗歟偉歟。〔注〕師古曰、偉、大也。㊂うるはしい。〔集韻〕偉、美也。〔莊子、大宗師〕偉哉造物者。〔釋文〕偉、美也。㊃さかん。〔史記、荊燕世家〕不レ爲レ偉乎。〔注〕索隱曰、偉、盛也。㊄大なりとする。異とする。〔張衡、思玄賦〕偉二關睢之戒一レ女。〔注〕衡曰、偉、異也。㊅或は㒰(4－9936)に作る。〔集韻〕偉、或作レ㒰。㊆姓。〔萬姓統譜〕偉、見二姓苑一、漢偉璋光祿勳。〔邦〕えらい。地位・身分などが高い。

〔名乘〕ヨリ。

【偉康】1 ヰカウ 晉、張茂(4－9812‥690)の字。

【偉幹】2 ヰカン すぐれて大きい體軀。〔海錄碎事、人事、形相〕詠之常見二桓玄一、玄鄙二其精神不一レ儁、謂二坐客一曰、庸神而宅二偉幹一、不レ成二令器一。

【偉岸】3 ヰガン 容貌の壯大なさま。〔唐書、襄邑恭王神符傳〕從晦姿質偉岸、所レ至以二風力一聞。〔宋史、韓世忠傳〕風骨偉岸、目瞬如レ電。

【偉奇】4 ヰキ すぐれてめづらしい。奇偉。〔蘇軾、故李誠之待制六丈挽詞〕公如二松與一レ驥、少小稱二偉奇一。

【偉器】5 ヰキ すぐれた器量のある人。偉才。〔後漢書、黃允傳〕林宗見而謂曰、卿有二絕レ人之才一、足レ成二偉器一。〔後漢書、孔融傳〕膺大笑曰、高明必爲二偉器一。

【偉擧】6 ヰキョ すぐれた行爲。りつぱなわざ。

【偉恭】7 ヰキョウ 字號。㊀三國吳、李肅(6－14459‥437)の字。㊁明、黃淵耀(12－47926‥997)の字。

【偉觀】8 ヰクワン 見ごと。すぐれたながめ。雄觀。大觀。壯觀。〔陸游、龍挂詩〕未レ言爲レ人作二年豐一、偉觀一洗芥蔕胸。〔蒲道源、和三耶律奉二使鎭南樓一詩〕陰闔陽開增二偉觀一。

【偉君】9 ヰクン 字號。㊀漢、吳章(2－3365‥214)の字。㊁後漢、許楊(10－35298‥214)の字。㊂後漢、邳彤(11－39340‥4)の字。㊃清、曹元俊(5－14297‥222)の字。

【偉勳】10 ヰクン すぐれたいさを。偉烈。偉績。

【偉卿】11 ヰケイ ㊀すぐれた人。卿は敬稱。〔白居易、哭二諸故人一因寄二元九一詩〕偉卿既長往、質夫亦幽淪。㊁字號。㋑後漢、鄧晨(11－39630‥70)の字。㋺清、吳廷鈞(2－3365‥792)の字。

【偉藝】12 ヰゲイ すぐれたわざ。立派な技能。〔晉書、天文志上〕高才偉藝、與レ神合レ契。

【偉業】13 ヰゲフ 大きな事業。大業。丕業。

【偉元】14 ヰゲン 晉、王裒(7－20823‥975)の字。

【偉彥】15 ヰゲン すぐれた男子。〔蜀志、郤正傳〕濟

濟偉彥、元凱之倫也。
【偉公】16 キコウ 字號。❶後漢、周防(2―3441‥417)の字。❷清、張克嶷(4―9812‥1048)の字。
【偉功】17 キコウ 大きないさを。偉烈。
【偉才】18 キサイ ❶すぐれた才能のある人。偉器。秀才。〔謝朓、酬德賦序〕右衛沈侯以₂冠世偉才₁、眷レ予以₂國子₁。❷南齊、袁彖(10―34152‥120)の字。
【偉哉】19 キカナ 勝れてえらいことを歎美する辭。偉與。〔莊子、大宗師〕偉哉造化、又將奚以レ汝爲。〔淮南子、精神訓〕偉哉造化者。〔注〕偉哉、猶₂美哉₁也。
【偉齋】20 キサイ 清、衞齊(10―34074‥79)の號。
【偉壯】21 キサウ 體格などの大きくて立派なこと。〔後漢書、馮勤傳〕曾祖父揚、宣帝時、爲₂弘農太守₁、有₂八子₁、兄弟形皆偉壯。
【偉士】22 シキ すぐれた人。偉人。偉仕。〔蜀志、許靖傳〕許文休、英才偉士、智略足₂以計₁レ事。
【偉仕】23 シキ 偉士に同じ。〔鹽鐵論、鹽鐵鍼石〕縣官所₂招擧₁、賢良文學、而及₂親民偉仕₁。
【偉姿】24 シキ すぐれた容姿。〔陳琳、柳賦〕偉姿逸態、英豔妙奇。
【偉辭】26 ジキ すぐれたことば。〔文心雕龍、辯騷〕觀₂其骨鯁所₁レ樹、肌膚所レ附、雖₃取₂鎔經意₁、亦自鑄₂偉辭₁。
【偉秀】27 シウ すぐれひいでる。傀偉。秀偉。〔唐書、蕭嵩傳〕貌偉秀、美須髯。
【偉質】28 シツ すぐれた性質。〔法書要錄〕荀₂小王之偉質₁、錯₂明帝之高蹤₁。
【偉章】29 キシヤウ 三國魏、趙昂(10―37171‥65)の字。
【偉狀】30 キジヤウ 見なれないさま。變つた樣子。偉は奇に同じ。〔唐書、武元衡傳〕京師大恐、城門加レ兵、誰₂何其偉狀異服₁。
【偉壽】31 キジユ 宋、馮艾子(12―44579‥180)の字。
【偉如】32 キジヨ 清、潘霨(7―18236‥4)の字。
【偉人】33 キジン ❶すぐれた人。偉士。〔魏志、鍾繇傳〕此三公者、乃一代之偉人也。〔蘇軾、觀レ開₂西湖₁次₂吳左丞韻₁詩〕偉人謀議不レ求レ多、事定紛紛自唯阿。❷字號。㋑清、馮偉(12―44579‥8)の字。㋺清、王杰(7―20823‥341)の字。
【偉仁】34 キジン 南朝宋、顧覬之(12―43689‥238)の字。

【偉世】35 セイ 世にすぐれて立派なこと。〔魏志、荀彧傳、注〕雅度弘毅、偉世之器也。
【偉齊】36 セイ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は瓜爾佳氏。費英東の第九弟。謚は端勤。瑚爾哈部を征して功があり、天聰の間、明を攻め、遵化を略取す。官は盛京八門提督。兩朝に歷事し、忠誠を以て著はる。〔清史列傳、四〕
【偉績】37 セキ すぐれたいさを。偉烈。偉蹟。〔唐書、韓愈傳〕揚₂厲無前之偉績₁。〔吳師道、觀₂南陽王誥詞₁詩〕至仁惟不レ殺、偉績更無レ前。
【偉蹟】38 セキ すぐれた事蹟。又、すぐれたいさを。偉績。〔韓愈、潮州刺史謝上表〕鋪₂張對天之閎休₁、揚₂厲無前之偉蹟₁。
【偉節】39 セツ ❶すぐれたみさを。節は節義。〔蘇軾、龍尾石硏寄₂猶子遠₁詩〕偉節何須レ怒、寬饒要₂少和₁。❷字號。㋑後漢、賈彪(10―36755‥117)の字。㋺北齊、馮偉(12―44579‥8)の字。㋩宋、陳韋(11―41698‥457)の字。
【偉餞】40 セン 盛大な別れの宴。〔王勃、滕王閣序〕臨レ別贈レ言、幸承₂恩于偉餞₁。
【偉然】41 ゼン 盛大なさま。〔歐陽脩、江鄰幾文集序〕意氣偉然。
【偉祖】42 ソ 前涼、索襲(8―27306‥37)の字。
【偉奏】43 ソウ 明、王績燦(7―20823‥1808)の字。
【偉則】44 ソク 三國吳、胡綜(9―29400‥236)の字。
【偉俗】45 ゾク 一般の世俗からぬきんでて立派なこと。〔南史、劉祥傳〕希世之寶、違レ時必賤、偉俗之器、無レ聖則淪。
【偉體】46 タイ すぐれて大きい身體。〔後漢書、耿秉傳〕秉字伯初、有₂偉體₁、腰帶八圍。
【偉大】47 ダイ すぐれて大きいこと。又、すぐれて立派なこと。
【偉臺】48 ダイ 三國魏、王觀(7―20823‥312)の字。
【偉濤】49 タウ 清、楊溥(6―15112‥336)の字。
【偉堂】50 ダウ 字號。❶清、丘聯恩(1―33‥175)の字。❷清、趙師(10―37171‥242)の號。
【偉跱】51 ヂ 南朝宋、丘傑(1―33‥34)の字。
【偉長】52 チヤウ 字號。❶三國魏、徐幹(4―10110‥59)の字。❷晉、司馬勳(2―3257‥252)の字。❸宋、杜杞(6―14477‥56)の字。❹清、施男(5―13629‥83)の字。
【偉兆】53 テウ 大いに示す。〔左思、魏都賦〕蓋亦明靈之所₂酬酢₁、休徵之所₂偉兆₁。〔注〕銑曰、偉、大、兆、示也。
【偉鳥】54 テウ すぐれた德のある鳥。〔鍾會、孔雀賦〕有₂炎方之偉鳥₁、感₂靈和₁而來儀。
【偉度】55 ド 大きな度量。大度。〔法書要錄〕越石偉度、粃₂糠翰墨₁。
【偉德】56 トク ❶すぐれた德。〔後漢書、方術傳序〕其徒亦有₂雅才偉德₁、未₃必體₂極蓺能₁。❷晉、司馬紘(2―3257‥250)の字。
【偉寶】57 ハウ すぐれたたから。〔崔伯易、珠賦〕天下之偉寶、不レ妄₂其所₁レ託。
【偉房】58 バウ その器量が大きく、衆藝を具備すること。〔急就篇、二〕蘭偉房。〔注〕偉房、言₂其器大、衆藝所₁レ聚也。
【偉望】59 バウ 清、陳起鳳(11―41698‥735)の字。
【偉伯】60 ハク 後漢、馮勤(12―44579‥50)の字。
【偉夫】61 フ 宋、孫之宏(3―6987‥413)の字。
【偉服】62 フク ❶立派な服裝。〔戰國、秦策〕辨言偉服、戰攻不レ息。〔注〕林西仲曰、偉服、儒者盛服。❷奇異な服裝。〔韓非子、說疑〕有下務奉₂下直曲₁、怪言偉服瑰稱、以眩₂民之耳目₁者上。〔管子、任法〕無₂偉服₁、無₂奇行₁。
【偉平】63 ヘイ 三國吳、謝承(10―35827‥122)の字。
【偉木】64 ボク 大きい木。見事な大木。〔魏文帝、柳賦〕伊中域之偉木兮、瑰姿妙其可レ珍。
【偉明】65 メイ 字號。❶後漢、符融(8―25935‥81)の字。❷宋、劉弇(2―2224‥55)の字。
【偉茂】66 モ 大きくさかん。〔魏志、董卓傳、注〕陳留王協、聖德偉茂、規矩邈然。
【偉雄】67 ユウ 勢の盛なこと。
【偉與】68 カナ 勝れてえらいのを歎美する辭。偉哉(19)に同じ。〔漢書、武帝紀〕猗與偉與、何行而可₃以章₂先帝之洪業休德₁。
【偉容】69 ヨウ ❶大きなさま。又、立派な樣子。❷晉、華表(9―31214‥390)の字。
【偉量】70 リヤウ すぐれた器量。〔晉書、慕容廆載記論〕慕容廆英姿偉量、是曰₂邊豪₁。
【偉略】71 リヤク すぐれたはかりごと。〔弘道館記述義、上〕以₂帝之英武、鎌子之偉略₁、遽升₂天位₁、直列₂大臣₁。
【偉麗】72 レイ すぐれてうるはしい。〔後漢書、楊璇傳〕兄喬爲₂尚書₁、容儀偉麗。
【偉烈】73 レツ 大きないさを。偉功。偉績。偉勳。
【偉鑒門】74 キカンモン 平安京大內裏の十二門の一つ。〔有職抄、二、禁中殿門〕偉鑒門。
【偉男子】75 ダンシ すぐれて立派な男子。偉丈夫。〔齋藤拙堂、間宮窮₂滿洲₁〕經₂兩歲之久₁、飢渴窘困、苦楚萬狀、未₂嘗少動₁レ心、亦偉男子也。
【偉丈夫】76 チヤウフ 身體、又は性格のすぐれた男。〔宋史、范祖禹傳〕母夢下一偉丈夫被₂金甲₁入中寢室上。

【偊】838

㊀ウ 〔集韻〕王矩切 ㄩˇ yü3 麌
㊁ク 〔韻會〕俱禹切 麌

㊀㊁ ❶獨り行くさま。偊偊。〔集韻〕偊、偊偊、行兒。〔正字通〕偊、偊偊、獨行貌。〔列子、力命〕偊偊而步。❷くぐまるさま。偊旅。〔漢書、東方朔傳〕行步偊旅。〔注〕師古曰、偊旅、曲躬貌。❸つつしむさま。〔列子、楊朱〕偊偊爾、愼₂耳目之觀聽₁。❹踽(10―37713)に通ず。〔列子、力命〕偊偊而步。〔釋文〕偊、本作レ踽。

【偋】839

ヘイ 偋(1―1053)に同じ。〔正字通〕偋、同レ偋。

【偌】840

ジヤ 〔集韻〕人夜切 ニヤ ㄖㄨㄛˋ juo4 禡

❶このやうな。このやうに。〔中華大字典〕偌、猶レ言レ如レ此也。❷姓。〔玉篇〕偌、姓也。
【偌大】1 juo4 ta4 このやうに大きい。〔元人曲〕偌大個宅堂。

【偍】841 テイ ダイ 〔字彙〕杜兮切 齊

ゆるやか。提(5-12344)・媞(3-6522)に通ず。〔荀子、脩身〕難進曰偍。〔注〕與提・媞皆同、謂緩也。

【⿰亻軍】842 コン ゴン 〔集韻〕胡昆切 元

小篆

姓。又、女の字。〔説文〕⿰亻軍、人姓、从人軍聲。〔廣韻〕⿰亻軍、女字、又姓、出纂文。

【偎】843 ワイ 〔集韻〕烏回切 灰 ㄨㄟ wei¹

❶ほのか。〔列子、黃帝〕不偎不愛。〔注〕不偎不愛、謂或隱或見、字林云、偎、仿佛見不審也。❷なじむ。したしむ。〔集韻〕偎、愛也。〔正韻〕偎、昵近也。〔羅隱、詠柳詩〕相偎相倚不勝春。❸よる。ちかよる。よりあふ。〔溫庭筠、南湖詩〕野船著岸偎春草。❹國の名。〔廣韻〕偎、國名也。〔集韻〕偎、北海之隅有國、曰偎人。

【偎愛】1 ワイアイ ❶親しみ愛する。〔列子、黃帝〕不偎不愛、仙聖爲之臣。〔注〕偎、亦愛也。〔山海經、海內經〕其人水居、偎人愛人。〔注〕偎、亦愛也。❷隱れたり見えたりするさま。〔列子、黃帝、注〕不偎不愛、謂或隱或見。

【偎倚】2 ワイイ なれしたしむ。又、ふざける。〔宣和遺事、前集下〕吳偉兩箇、正在偎倚。

【偎親】3 ワイシン たよりあふ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕那堝兒裏人急偎親。

【偎人】4 ワイジン 昵近の人。〔顏氏家訓、風操〕田里偎人、方有此言耳。

【偎體】5 ワイタイ からだをくつつけあふこと。〔福惠全書、刑名部、姦情、強姦〕偎體交唇、而亦不得捕獲乎。「暫與相偎傍。

【偎傍】6 ワイバウ 親しみ交はる。〔燕子箋、僞絹〕青樓

【偎紅倚翠】7 ワイコウイスイ 妓女になれ親しむをいふ。〔清異錄、釋族〕李煜微行娼家、遇一僧張席、酒令謳吟吹彈、莫不高了、煜乘醉大書右壁曰、淺斟低唱、偎紅倚翠、大師鴛鴦寺主、傳持風流教法。

【⿰亻孨】844 ㊀サン ㊁セン

㊀孱(1-1103)の本字。〔正字通〕⿰亻孨、孱本字、說文、作⿰亻孨。㊁僎(1-1083)に同じ。〔集韻〕僎、或作⿰亻孨。

【⿰亻壴】845 シュ ジュ 〔集韻〕殊遇切 遇

たつ。侸(1-649)・樹(6-15496)・尌(4-7448)に同じ。〔玉篇〕⿰亻壴、說文、作侸、立也、今作樹。〔集韻〕尌、立也、或作⿰亻壴。

【⿰亻孚】846 ㊀ケイ ギヤウ 〔篇海〕渠營切 庚 ㊁シュン ジュン 〔集韻〕徐閏切 震

㊀みなしごのさま。よるべのないさま。〔篇海〕⿰亻孚、孤子貌。㊁すみやか。はやい。侚(1-604)に同じ。〔集韻〕侚、說文、疾也、或作⿰亻孚。

【⿰亻卻】847 ㊀キヤク ガク 〔集韻〕極虐切 藥 ㊁ケキ ギヤク 〔集韻〕竭戟切 陌

小篆

㊀❶うむ。つかれる。〔說文〕⿰亻卻、徼⿰亻卻受屈也、从人卻聲。❷しばらく。〔廣韻〕⿰亻卻、須臾。㊁❶つかれる。⿰亻谻(1-982)・⿲彳谷卩(4-10874)・谻(10-36195)に同じ。〔說文、⿰亻卻、段注〕子虛賦曰、徼谻受詘、郭璞曰、谻、疲極也、司馬彪云、谻、倦也、方言曰、⿰亻卻、倦也、谻同⿰亻卻、倦同倦、心部、⿰忄卻者、勞也、與⿰亻卻音義同。〔廣雅、釋詁一〕⿰亻卻、勞也、極也。〔集韻〕⿰亻谻、或作⿰亻卻。❷わらふ。大いにわらふ。〔廣雅、釋詁一〕⿰亻卻、笑也。〔廣韻〕⿰亻卻、又大笑。

【偏】848 ヘン ベン 〔集韻〕紕延切 先 ㄆㄧㄢ p'ien¹

小篆

❶かたよる。〔說文〕偏、頗也、从人扁聲。❷かたかた。半分。〔左氏、閔、二〕衣身之偏。〔注〕偏、半也。❸はし。かたはし。かたはら。〔廣雅、釋詁四〕偏、方也。〔正字通〕偏、中之兩旁曰偏。❹へん。文字の左の部分。諧聲文字では、主として字義をあらはす部分。偏旁(156)を見よ。〔摭言〕未識偏旁。❺かたよつた。ゐなかの。遠い。〔國語、晉語一〕今晉國之方、偏侯也。〔注〕偏、偏方也。〔列子、楊朱〕殊方偏國。〔注〕偏、邊也。〔後漢書、東夷傳贊〕眇眇偏譯。〔注〕偏、遠也。❻半身不隨。偏枯。〔荀子、非相〕禹跳湯偏。〔注〕鄭注尙書大傳云、湯半體枯。❼ひとつ。一人。扁(5-11724)に通ず。〔荀子、禮論〕三者偏亡焉、無安人。〔注〕偏亡、謂闕一也。〔後漢書、隗囂傳〕乘偏舟於五湖。〔注〕偏舟、猶特舟也、劉攽曰、偏舟、按史傳、皆作扁舟、扁、特也、不當用偏字。〔陸機、五等諸侯論〕曠不可以偏制。❽すくない。〔書、秦誓、惟截截善諞言、釋文〕諞、馬本作偏、云少也。❾よこしま。〔廣雅、釋詁二〕偏、衺也。〔鬼谷子、決篇〕終無惑偏。〔注〕不正曰偏。❿たひらでない。〔書、洪範〕無偏無陂。〔傳〕偏、不平也。⓫そなはらぬ。不完全。〔禮、樂記〕禮粗則偏。〔疏〕偏、不周備也。⓬たぐひ。ともがら。〔小爾雅、廣言〕偏、屬也。〔左氏、襄、三〕擧其偏、不爲黨。〔注〕偏、屬也。⓭くみ。㋑五十人の一組。〔左氏、宣、十四〕卒偏之兩。〔注〕五十人曰偏。㋺二十五人の一組。〔左氏、桓、五〕先偏後伍。〔注〕車戰、二十五人爲偏。㋩兵車二十五乘。〔左氏、昭、元〕偏爲前拒。〔注〕二十五乘爲偏。㋥車九乘。〔左氏、成、七〕偏兩之一焉。〔注〕車九乘、又、十五乘。〔左氏、成、十五〕十五乘爲大偏。⓮たすけ。〔左氏、襄、三十〕司馬令尹之偏。〔注〕偏、佐也。⓯ひとへに。いちづに。ひたすら。〔史記、張儀傳〕偏守新城、存民苦矣。⓰思ひもかけず。不意に。〔劉方平、夜月詩〕今夜偏知春氣暖。⓱あまねし。徧(4-10174)に通ず。〔說文通訓定聲〕偏、叚借爲偏。〔集韻〕偏、亦作偏。⓲盡きない。〔左氏、成、十五〕桓氏雖亡、必偏。〔注〕偏、不盡也。〔會箋〕偏、言猶有餘族也。⓳ひるがへる。翩(9-28762)に通ず。〔詩、大雅、桑柔〕旟旐有偏。〔釋文〕偏、本亦作翩。⓴いつはる。かたる。諞(10-35703)に通ず。〔莊子、人閒世〕巧言偏辭。〔釋文〕偏、崔本作諞。㉑姓。〔通志、氏族略、以官爲氏〕偏氏、古偏將軍之後、急就章、漢有偏呂張。〔路史〕周公族之後。㉒現 あひにく。折惡しく。

名乘 トモ。ツラ。

【偏阿】1 ヘンアン かたよつて正しくない。偏頗。〔後漢書、馬嚴傳〕司察偏阿、取與自レ己、同則擧爲二尤異一、異則中以二刑法一。

【偏愛】2 ヘンアイ ㊀かたよつて愛する。又、かたよつたいつくしみ。えこひいき。偏幸。偏寵。〔後漢書、中山簡王焉傳〕郭太后偏愛、特加二恩寵一。〔王襃、謝レ賚レ馬啓〕偏二愛權奇一。㊁ひたすら愛する。〔杜荀鶴、登二山寺一詩〕就中偏愛レ石、獨上最高層。

【偏拗】3 p'ien¹ niu³ ねぢけた。つむじ曲りな。

【偏安】4 ヘンアン 一地方に割據して、それに安んじてゐること。又、一地方に割據して全國統治の權力がないこと。〔諸葛亮、後出師表〕先帝慮下漢賊不二兩立一、王業不中偏安上。

【偏衣】5 ヘンイ 左右其の色を異にした服。其の半分は君侯の服に似た色を用ひて作る。偏裻。〔左氏、閔、二〕大子帥レ師、公衣二之偏衣一。〔注〕偏衣、左右異レ色、其半似二公服一也。〔國語、晉語一〕君賜二我偏衣金玦一。

【偏依】6 ヘンイ かたよる。偏倚に同じ。

【偏倚】7 ヘンイ かたよる。偏依。

【偏異】8 ヘンイ かたより異にする。えこひいきをする。〔漢書、鼂錯傳〕燭以二光明一亡二偏異一也。

【偏威】9 ヘンヰ 威力が一方にかたよる。君の威が衰へて臣の威が盛になる。〔韓非子、愛臣〕社稷將レ危、國家偏威。〔翼毳〕舊說、君威散、臣威成、故曰二偏威一。

【偏邑】10 ヘンイフ 邊鄙の村。偏阪。

【偏印】11 ヘンイン 星命家が五行の生剋に本づいて十干の配合關係についていふ語。印綬の兩干が配合せぬものをいふ。卽ち甲が癸に遇へば正印といひ、甲が壬に遇へば偏印といふ類。印綬(**2**－**2848**・・91)を見よ。〔三命通會、論戊己〕若偏正印多無二財行一、北亦吉。

【偏要】12 p'ien¹ yao⁴ 片一方にばかり云云しようとする。

【偏擪】13 ヘンエフ ひとへにおさへつける。〔沈遼、論レ書詩〕淵妙欲二飛動一、拙惡愧二偏擪一。

【偏園】14 ヘンエン 淸、儲研璘(**1**－**1284**・・81)の號。

【偏屋】15 ヘンヲク かたびさし。

【偏恩】16 ヘンオン かたよつた恩愛。〔後漢書、循吏傳序〕宮房無二私愛一、左右無二偏恩一。

【偏駕】17 ヘンガ 供の者の乘物。〔儀禮、覲禮〕偏駕不レ入二王門一。〔注〕在レ旁與レ己同曰レ偏。〔疏〕此五路者、天子所レ乘、爲レ正、四路者、諸侯乘レ之、爲レ偏。

【偏介】18 ヘンカイ へんくつ。性質のかたよつて頑固なこと。〔南齊書、袁彖傳〕此偏介之行、不レ可二長レ風移一レ俗。〔南史、隱逸傳論〕夫獨往之人、皆稟二偏介之性一。

【偏巧】19 p'ien¹ ch'iao³ 折り惡しく。生憎。

【偏向】20 ヘンカウ 一方に傾くこと。偏頗なこと。不公平。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕平生正直無二偏向一。

【偏好】21 ヘンカウ 偏頗な嗜好。又、耽溺する。〔李建勳、雪詩〕漸繁二偏好一去二簾櫳一。

【偏行】22 ヘンカウ ㊀かたよつて行はれる。〔莊子、繕性〕禮樂偏行、則天下亂矣。㊁かたよつた行ひ。又、一つの行ひ。〔後漢書、獨行傳序〕中世、偏行一介之夫、能成レ名立レ方者、蓋亦衆矣。

【偏幸】23 ヘンカウ かたよつて愛する。偏愛。

【偏角】24 ヘンカク 物理學用語。地球の子午線と磁石の方向とのなす角。方位角。

【偏格】25 ヘンカク 偏體の格。五言絶句・五言律では平起式を偏格とし、七言絶句・七言律では仄起式を偏格とする。作詩法(**1**－**518**・・79)を見よ。〔夢溪筆談、藝文二〕詩第二字側入、謂二之正格一、如二鳳曆軒轅紀、龍飛四十春之類一、第二字平入、謂二之偏格一、如二四更山吐レ月、殘夜水明樓之類一。

【偏甲】26 ヘンカフ 小具足。本式の甲冑を着けないで、小手・すね當・陣羽織などをつけた略裝。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕諸將皆偏甲、以レ次而前。

【偏慳】27 ヘンカン ひとへにやぶさかなこと。非常に吝い。〔韓愈、雪後寄二崔二十六丞公一詩〕乾坤施レ惠萬物遂、獨於二數子一懷二偏慳一。

【偏岸】28 ヘンガン 斜の岸。〔廣庾、野望詩〕水裁二偏岸一直、雲截二亂山一平。

【偏奇】30 ヘンキ 普通とは異なつてゐて一風あること。變則。〔南史、蕭惠開傳〕以二偏奇一相尙。

【偏氣】31 ヘンキ 中和を得ない氣。〔淮南子、天文訓〕吐レ氣者施、含レ氣者化、是故陽施陰化、天之偏氣、怒者爲レ風、天地之含氣、和者爲レ雨。

【偏記】32 ヘンキ 史筆の流派の一。陸賈の楚漢春秋、樂資の山陽公載記等の類。〔史通、雜述〕史氏流別、其流有レ十焉、一曰偏記、若二陸賈楚漢春秋・樂資山陽公載記・王韶晉安陸紀・姚梁後略一、此之謂二偏記一者也。

【偏棄】33 ヘンキ 一方をすてる。〔墨子、經、下〕麗與夫與レ履、一偏二棄之一。〔顏氏家訓、文章〕並須二兩存一、不レ可二偏棄一也。

【偏諱】34 ヘンキ 二字名の中の一方を忌みさける。又、二字名の一方の文字。〔禮、曲禮上〕二名不二偏諱一。〔注〕偏、謂二二名不二一一諱一也、孔子之母名徵在、言レ在不レ言レ徵、言レ徵不レ言レ在。〔南史、王騫傳〕騫字思寂、本字玄成、與二齊高帝一偏諱同、故改焉。〔韓愈、諱辯〕孔子不レ偏二諱二名一。〔古文眞寶注〕若下曰二宋不一レ足レ徵、又曰中某在上レ斯。

【偏急】35 ヘンキフ 度量が狹く性急なこと。きみじか。褊急。〔運歩色葉集〕偏急。

【偏鄕】36 ヘンキヤウ 片ゐなか。偏境。

【偏境】37 ヘンキヤウ 片ゐなか。中央から遠く離れた土地。

【偏躬】38 ヘンキユウ 偏衣を着せること。公の身を分け與へる意。偏衣(5)を見よ。〔左氏、閔、二〕子其勉レ之、偏躬無レ慝、兵要遠レ災。〔注〕分レ身衣二之半一、非二惡意一也。

【偏據】39 ヘンキヨ 一隅にかたより據る。〔張衡、東京賦〕彼偏據而規レ小、豈如二宅レ中而圖一レ大。

【偏擧】40 ヘンキヨ 依怙贔屓をして、氣に入つた者を擧げ用ひる。〔荀子、王霸〕人主則外レ賢而偏擧、人臣則爭レ職而妒レ賢、是其所二以不一レ合之故也。〔注〕偏擧、偏黨而擧レ所レ愛也。

【偏曲】41 ヘンキヨク かたよりまがる。〔荀子、正論〕上周密則下疑玄矣、上幽險則下漸詐矣、上偏曲則下比周矣。

【偏空】42 ヘンクウ 佛 小乘佛教の空理。有にも空にも偏しないのが中道であるが、有への執着は離れたが、未だ空に執着してゐること。但空・惡取空ともいふ。

【偏隅】43 ヘングウ かたすみ。かたよつた土地。〔資治通鑑、晉紀〕(孝武帝、太元元年)承二祖父之資一、藉二百年之業一、擅二命河右一、叛換二偏隅一。

【偏屈】44 ヘンクツ 心のねぢけてゐること。かたくな。偏固。偏窟。

【偏光】45 ヘンクワウ 物理學用語。光波の振動が、其の進む方向に垂直な平面内に於て或る一定の方向に限られる光。偏極化光。

【偏光鏡】46 ヘンクワウキヤウ 偏光を檢査する鏡。硝子の平面鏡二個を用ひて檢するネルレンベルヒの偏光器など。偏極光鏡。

【偏官】47 ヘンクワン 星命家が五行の生剋に本づいて十干の配合關係についていふ語。正官(**6**－**16255**・・121)の對。官煞の兩干が相配合しないものをいふ。例へば、甲と辛とは正官になるが、甲と庚とは偏官となるといふ類。官殺(**3**－**7107**・・124)を見よ。〔三命通會、論二十干坐支一〕兼得二月時及行運吉凶一、六丙日用二庚辛一爲レ財、癸正官、壬偏官。

【偏關】48 ヘンクワン 縣名。淸、置く。五代の北漢の時、偏頭砦を置き、元は改めて關とし、明は偏關所とし、淸に至つて始めて偏關縣とした。今、山西省河曲縣の東北。〔淸史稿、地理志〕山西、甯武府、縣四、偏關。

【偏觀】49 ヘンクワン あまねく見る。偏は徧に通ず。〔史記、蘇秦傳〕出二其書一偏觀レ之。〔漢書、張騫傳〕令三外國客偏二觀各倉庫府藏之積一。

【偏軍】50 ヘングン 全軍に對して、一軍をいふ。〔史記、燕世家〕自將二偏軍一隨レ之。

【偏橋】51 ヘンケウ ㊀地名。貴州省施秉縣の東。石を斷ち木を架して道路を通じ、雲南から貴陽を經て湖南に至る要道に當る。㊁長官司の名。貴州省施秉縣の東、偏橋の北。元、偏橋中呰蠻夷長官司を置き、明、偏橋長官司と改む。〔讀史方輿紀要、貴州、鎭遠府〕偏橋長官司、府西六十里、元至元二十年、置二偏橋中呰蠻夷軍民長官司一屬二思州安撫司一、明朝洪武五年、改置二今司一。

【偏狹】52 ヘンケフ 心が片よつてせまい。へんくつ。かたいぢ。偏執。褊狹。

【偏見】53 ㄆㄧㄢ かたよって、公平でない見方。かたよった意見。僻見。〔漢書、杜鄴傳〕獨偏見疑ㇾ內。〔陳書、傅縡傳〕除ニ內學之偏見ニ。〔宋名臣言行錄〕好執ニ偏見ニ不ㇾ通ニ物情ニ。

【偏險】54 ㄆㄧㄢ ㄒㄧㄢˇ かたよって陰險なこと。〔荀子、性惡〕今人無ニ師法ニ則偏險而不ㇾ正。

【偏沉】55 ㄆㄧㄢ ㄔㄣˊ 巡撫の名。明の時、苗族を撫する爲に置く。半年は沅州に駐し、半年は偏橋關に駐す。清の時、偏沅巡撫を廢して湖南巡撫を長沙に設く。〔滇行記程〕明制、萬曆中設ニ偏沅衙門ニ以撫ニ苗、半年駐ニ沅州ニ半年駐ニ偏橋關ニ爲ニ黔楚重鎭ニ近爲ニ言路建議ニ割ニ湖南七府幷郴靖二州ニ設ニ湖南巡撫ニ駐ニ長沙ニ置ニ藩臬ニ而偏沅遂廢。

【偏言】56 ㄆㄧㄢ 其の內容が中正でないことば。〔唐書、郭后傳〕勿ㇾ納ニ偏言ニ。

【偏絃】57 ㄆㄧㄢ 一本の絃。〔陸機、文賦〕譬ㇾ偏絃之獨張、含ニ清唱ニ而靡ㇾ應。

【偏固】58 ㄆㄧㄢ ㄍㄨˋ かたよってゐること。かたくな。偏屈。〔嵇康、聲無ニ哀樂ニ論〕資ニ偏固之音ニ、含ニ一致之聲ニ。

【偏孤】59 ㄆㄧㄢ ㄍㄨ 父を喪つてたよりのない幼者をいふ。〔潘岳、寡婦賦〕少伶俜而偏孤兮、痛忉怛以摧ㇾ心。〔注〕善曰、偏孤、謂ㇾ喪ニ父也ニ。

【偏枯】60 ㄆㄧㄢ ㄎㄨ ❶半身がしびれて自由でないこと。半身不隨。偏風。〔列子、楊朱〕一體偏枯。〔荀子、非相、禹跳湯偏、注〕偏枯之病、云云、鄭注尚書大傳、湯半體枯。〔呂覽、別類〕我固能治ニ偏枯ニ。〔管子、入國〕跛躄偏枯。〔淮南子、覽冥訓〕倍ニ偏枯之藥ニ。❷恩澤が一方に偏して他方に及ばないこと。〔蜀志、孟光傳〕夫赦者、偏枯之物、非ニ明世所宜有ニ也。〔六部成語、戶部、無ニ偏枯之嘆ニ、注解〕偏枯、不ㇾ均也、言ニ查災放賑、辨理公平、民人無ニ此多彼少之恨ニ。❸用筆の法。二字或は三字を合して一字を成す場合、楷と草とを交混し得ないこと。〔王氏法書苑、張懷瓘論用筆之法〕眞草偏枯、謂ニ兩字或三字不ㇾ得ニ眞草合成ニ一字ニ、謂ニ之偏枯ニ。

【偏鼓】61 ㄆㄧㄢ ㄍㄨˇ 獨り鼓する。〔潘岳、西征賦〕恥ニ東瑟之偏鼓ニ、提ニ西缶ニ而接ㇾ歡。

【偏伍】62 ㄆㄧㄢ ㄨˇ 士卒の隊。偏は五十人一組、伍は五人一組。字解の❶❷❸❹を見よ。〔左氏、桓五〕先ㇾ偏後ㇾ伍。〔注〕司馬法、車戰二十五乘爲ㇾ偏、云云、五人爲ㇾ伍。〔晉書、慕容皝載記〕使ニ偏伍有ㇾ常ニ。〔宋史、蔡挺傳〕偏伍鉦鼓之法甚備。

【偏護】63 ㄆㄧㄢ ㄏㄨˋ 依怙贔屓。〔桃花扇、移防〕本帥也不ㇾ能ニ偏護ニ了。

【偏口】64 p'ien¹ k'ou³ 片一方だけの言ひ分。

【偏口魚】65 p'ien¹ k'ou³ yü² 魚の名。かれひ。

【偏侯】66 ㄆㄧㄢ ㄏㄡˊ かたよつた地にゐる諸侯。小さな諸侯。〔國語、晉語一〕今晉國之方、偏侯也。〔注〕偏、偏方也、乃甸內偏方小侯也。

【偏國】67 ㄆㄧㄢ ㄍㄨㄛˊ 中央から遠く離れてゐる國。かたゐなか。僻地。偏土。又、小國。〔列子、楊朱〕殊方偏國。〔史記、扁鵲傳〕偏國寡臣幸甚。

【偏佐】68 ㄆㄧㄢ ㄗㄨㄛˇ 輔佐の人。副官。

【偏廈】69 p'ien¹ sha⁴ 側面の室。

【偏坐】70 ㄆㄧㄢ ㄗㄨㄛˋ ひとへの坐席。〔杜甫、陪ニ李金吾花下飮ニ詩ニ〕細草稱ニ偏坐ニ香醪懶ニ再沽ニ。

【偏災】71 p'ien¹ tsai¹ 大水・旱魃などの不慮の災難。變災。

【偏載】72 ㄆㄧㄢ ㄗㄞˇ 依怙贔屓して或る物だけを載せる。〔史記、匈奴傳〕天不ニ頗覆ニ地不ニ偏載ニ。

【偏在】73 ㄆㄧㄢ ㄗㄞˋ かたよつた所にあること。かたよつて存在すること。

【偏財】74 ㄆㄧㄢ ㄘㄞˊ 星命家が五行の生剋に本づいて十干の配合關係についていふ語。正財(6－16255：179)の對。妻財の兩干の配合しないもの。例へば、甲と己は正財、甲と戊は偏財といふ類。妻財(3－6140：8)を見よ。〔三命通會、論ニ十干坐支、兼得ニ月時及行運吉凶ニ〕寅中ニ甲丙ニ生旺、身坐ニ偏官偏財ニ胎生ニ元命喜ニ身旺化ㇾ鬼爲ㇾ官。

【偏喪】75 ㄆㄧㄢ ㄙㄤˋ 片一方を失ふ。夫婦の何れか一方がなくなること。〔詩、小雅、鴻鴈、哀ニ此鰥寡ニ、傳〕老無ニ妻曰ニ鰥、偏喪曰ニ寡ニ。〔漢書、五行志中之上〕偏喪有ㇾ咎、既喪則國從ㇾ之。

【偏察】76 ㄆㄧㄢ ㄔㄚˊ ひたすら觀察・推察をすること。〔宋史、佞幸傳序〕任ㇾ明好ニ偏察ニ。

【偏衫】77 ㄆㄧㄢ ㄕㄢ 僧袈裟に類した法衣。右肩から左腋へ纏ふ衣と左肩から右腋にかけて纏ふ衣とを合せたもの。北魏の時に始まる。〔六物圖〕此方往古並服ニ祇支ニ、至ニ後魏時ニ、始加ニ右袖ニ、兩邊合謂ニ之偏衫ニ、裁ニ領開ㇾ裾、猶存ニ本相ニ、故知偏衫左肩卽本祇支、右邊卽覆肩也。〔僧史略〕後魏宮人見ニ僧自恣偏ニ袒右肩ニ、乃一施ニ肩衣ニ、號曰ニ偏衫ニ。〔釋氏要覽〕偏衫、古僧依ニ律制ニ只有ニ僧祇支ニ、此長覆ニ左膊ニ及掩ニ右腋ニ、蓋襯ニ三衣ニ、故卽天竺之儀也、竺道祖魏錄云、魏宮人見ニ僧袒ニ一肘ニ、不ニ以爲ㇾ善、乃作ニ偏袒ニ、縫ニ於僧祇支上ニ相從、因名ニ偏衫ニ、今開脊接ㇾ領者、蓋遺ニ魏制ニ也。

【偏死】78 ㄆㄧㄢ ㄙˇ 半身不隨。偏枯。〔莊子、齊物論〕吾嘗試問ニ乎女ニ、民溼寢則腰疾偏死、鰌然乎哉。

【偏至】79 ㄆㄧㄢ ㄓˋ かたよる。〔後漢書、獨行傳序〕此蓋失ニ於周全之道ニ、而取ニ諸偏至之端ニ者也。

【偏私】80 ㄆㄧㄢ ㄙ えこひいき。不公平。偏頗。〔後漢書、史弼傳〕恃ニ偏私之愛ニ。〔諸葛亮、前出師表〕不ㇾ宜ニ偏私使ニ內外異ㇾ法也。

【偏指】81 ㄆㄧㄢ ㄓˇ かたよつた考へ。指は旨。〔史記、匈奴傳〕務謳納ニ其說ニ、以便ニ偏指ニ。

【偏施】82 ㄆㄧㄢ ㄕ 不公平な恩惠。〔唐書、盧懷慎傳〕明主之於ニ萬物ニ、平分而無ニ偏施ニ。

【偏師】83 ㄆㄧㄢ ㄕ 一部の軍隊。一組の軍隊。軍戰ならば二十五乘、士卒ならば五十人をいふ。〔左氏、宣、十二〕韓獻子謂ニ桓子ニ曰、彘子以ニ偏師ニ陷ニ子罪大矣ニ。〔潘岳、關中詩〕偏師作ㇾ援。

【偏視】84 ㄆㄧㄢ ㄕˋ ちよつと視る。ちよつと目をかける。〔列子、黃帝〕目所ニ偏視ニ、晉國爵之。

【偏次】85 ㄆㄧㄢ ㄘˋ 文法用語。二つの名詞が連用せられる場合、其の中の上位の名詞をいふ。君行ニ周公之事ニの如き場合、事を正次とし、周公を偏次とす。天時地利の天地も亦同じ。〔馬氏文通、正名〕凡數名連用而意有ニ偏正ニ者、則正者後置、謂ニ之正次ニ、而偏者先置、謂ニ之偏次ニ。

【偏侍】86 ㄆㄧㄢ ㄕˋ 父母の中、一方が死亡し、一方が存すること。〔撫言〕舉ニ進士ニ宴名有ニ九、一曰ニ大相識ニ、主司有ニ具慶ニ者、二曰ニ次相識ニ、主司有ニ偏侍ニ者。

【偏視】87 ㄆㄧㄢ ㄕˋ 專ら一事のみをたのみにする。〔嵇康、養生論〕偏恃者、以ㇾ不ㇾ兼無ㇾ功。〔注〕良曰、人有ㇾ偏恃ニ一事ニ者。

【偏辭】88 ㄆㄧㄢ ㄘˊ 中正を得てゐないことば。〔易、益〕莫ㇾ益ㇾ之、偏辭也。〔莊子、人間生〕巧言偏辭。〔漢書、文三王傳〕獨以ニ偏辭ニ成ㇾ辜斷ㇾ獄。

【偏舟】89 ㄆㄧㄢ ㄓㄡ ❶一部の軍隊。水戰についていふ。偏師(83)に同じ。〔曹植、求ニ自試ニ表〕若東屬ニ大司馬ニ、統ニ偏舟之任ニ。〔注〕良曰、偏舟、亦偏師也、吳水戰、故云ニ偏舟ニ。❷一艘の舟。扁舟。〔後漢書、隗囂傳〕范蠡收ニ責句踐ニ、乘ニ偏舟於五湖ニ。〔注〕偏舟、特舟也。〔集解〕劉攽曰、偏舟、案ニ史傳ニ、皆作ニ扁舟ニ、扁、特也、不ㇾ當ㇾ用ニ偏字ニ。

【偏識】90 ㄆㄧㄢ ㄕˋ 偏頗な知識。かたよつた知識。〔任昉、爲ニ齊明皇帝ニ作ㇾ相讓ニ宣城郡公ニ第一表〕愚夫一至、偏識量ニ已ニ。

【偏失】91 ㄆㄧㄢ ㄕ かたよつて正當を缺くこと。

【偏疾】92 ㄆㄧㄢ ㄐㄧˊ 一方のみ急速なこと。〔陸機、文賦〕象ニ下管之偏疾ニ、故雖ㇾ應而不ㇾ和。

【偏執】93 ㄆㄧㄢ ㄓˊ 或る一方のことを固執すること。偏屈。片意地。〔廣百論釋〕偏ニ執如來相空教ニ。

【偏執狂】94 ㄆㄧㄢ ㄓˊ ㄎㄨㄤˊ 誇大妄想狂の如く、精神機能全體の障害によつて、或る甚しい妄想のみが固著し、それが他に比して甚しくあらはれてくるもの。

【偏斜】95 p'ien¹ hsieh² 斜な。傾いてゐる。

【偏將】96 ㄆㄧㄢ ㄐㄧㄤ 副將。又、全軍に對しての一軍の將。將佐。偏裨。〔漢書、天文志〕有ニ偏將之戰ニ。〔陳琳、檄ニ吳將校部曲ニ文〕偏將涉ニ隴、則建約梟ニ夷ニ。〔唐書、張孝忠傳〕安祿山奏爲ニ偏將ニ。

【偏將軍】97 ㄆㄧㄢ ㄐㄧㄤ ㄐㄩㄣ 一方の將。又、副將軍。(老子、三十一)偏將軍處ニ左ニ。〔漢書、王莽傳下〕偏將軍百二十五人。〔歷代職官表、總兵副將〕偏將軍者、則正如ニ今副將之比ニ也。

【偏諸】98 ㄆㄧㄢ ㄓㄨ かざりに用ひる組紐。〔急就篇、三、承塵戶幰條繢總、注〕條、一名偏諸、織ニ絲縷ニ爲ㇾ之。〔漢書、賈誼傳〕今民賣ニ僮者、爲ニ之繡衣絲履偏諸緣ニ。

【偏蝕】99 ㄆㄧㄢ ㄕˊ 天文學用語。部分蝕をいふ。

【偏心】100 p'ien¹ hsin¹ ❶偏頗な心。偏執。偏見的。不公平。褊心(10－34420：14)に同じ。❷正しい中心をはづれた所にある中心。

【偏心輪】101 ㄆㄧㄢ ㄒㄧㄣ ㄌㄨㄣˊ 中心を外れた所に廻轉の軸があつて、旋廻運動から往復運動を誘起する裝

置。蒸汽機關の滑瓣などに用ひる。

『偏心輪桿』102 偏心輪についてゐて、氣筒に蒸氣の出入する口を通塞する瓣を動かす搖棒。

【偏信】103 ㄆㄧㄢ ㄒㄧㄣˋ 一方のみを信ずる。〔北史、李諶傳〕遂著二明堂制度論一曰、貴レ合二雅夷一、不二苟偏信一。

【偏人】104 ㄆㄧㄢ ㄖㄣˊ ㊀文才が甚しく人にすぐれてゐる者。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩八首、劉楨〕卓犖偏人、而文最有レ氣。〔注〕翰曰、偏人、謂二文才偏美一於人一。㊁偏屈な人。變人。

【偏帥】105 ㄆㄧㄢ ㄕㄨㄞˋ ㊀一部を率ゐる將軍。〔後漢書、袁紹傳〕被以二虎文一、授以二偏帥一。㊁副將。〔稱謂錄、副將、偏帥〕方以智通雅、今之勳將、古之戎右也、或稱二戎副一、或曰二偏帥一、或曰二軍倅一。㊂p'ien¹ shuai⁴ 海軍少將。

【偏陂】106 ㄆㄧㄢ ㄅㄟ かたすみ。邊鄙な村。偏邑。

【偏生】107 ㄆㄧㄢ ㄕㄥ ㊀相對して生じないこと。對生（4—7457‥129）の對。偏精（111）を見よ。㊁p'ien¹ shēng¹ あいにく。あやにく。〔紅樓夢、二十九回〕偏生遇見了這麼兩個不省事的小冤家。

【偏制】108 ㄆㄧㄢ ㄓˋ 一人で制御する。〔陸機、五等諸侯論〕夫先王知二帝業至重、天下至曠一、曠不レ可二以偏制一、重不レ可二以獨任一、任レ重必於借レ力、制レ曠終乎因レ人、故設二官分職一、所二以輕一其任一也、並建二五長一、所二以弘一其制一也。

【偏性】109 p'ien¹ hsing⁴ 片意地な。意固地な。

【偏棲】110 ㄆㄧㄢ ㄒㄧ 獨りですむ。ひとりずまひ。獨居。雙棲（11—42116‥156）の對。〔陸機、擬古詩〕偏棲獨斐斐、雙飛來去、後忽孤飛、女感二其偏棲一。

【偏精】111 ㄆㄧㄢ ㄐㄧㄥ 草の名。なるこゆり。おほゑみ。やまゑみ。百合の一種。葉が偏生するから名づける。黃精。〔本草、黃精〕集解、藏器曰、黃精、葉偏生不レ對者、名二偏精一。

【偏照】112 ㄆㄧㄢ ㄓㄠˋ 專ら或るものをてらす。又、甚だしく照らす。〔陰鏗、侯司空安詠レ妓詩〕翠柳將レ斜日、偏照晚妝鮮。〔唐、無名氏、伊州歌〕可レ憐閨裏月、偏照二漢家營一。

【偏裼】113 ㄆㄧㄢ ㄒㄧˊ かたはだをぬぐ。偏袒。〔新序、雜事一〕趙簡子上二羊腸之阪一、羣臣皆偏裼推レ車。

【偏說】114 ㄆㄧㄢ ㄕㄨㄛ かたよつた說。中正を得てゐない說。〔曹冏、六代論〕始皇聽二李斯偏說一。

【偏絕】115 ㄆㄧㄢ ㄐㄩㄝˊ 一方だけを廢絕する。〔漢書、楚元王傳〕豈可二偏絕一哉。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一文〕今此數家之言、所二以兼一包大小之義一、豈可二偏絕一哉。

【偏淺】116 ㄆㄧㄢ ㄑㄧㄢˇ 甚だあさい。〔水經、沔水注〕沔水又東、偏淺、冬月可レ涉。

【偏戰】117 ㄆㄧㄢ ㄓㄢˋ 戰爭の時、豫め日を約し地を定め、各〻一面に居り、鼓を鳴らして戰ひ、相詐らぬこと。〔公羊、桓、十三年十有二月丙午、齊侯衞侯鄭伯來戰于郎一云云、此偏戰也。〔注〕偏、一面也、結レ日定レ地、各居二一面一、鳴レ鼓而戰、不二相詐一。

【偏憎】118 ㄆㄧㄢ ㄗㄥ ひとへににくむ。一途ににくむ。又、一方だけを憎む。〔張正見、賦二得佳期竟不レ歸詩一〕時分年移竟不レ歸、偏憎寒急一夜縫レ衣。

【偏側】119 ㄆㄧㄢ ㄘㄜˋ かたよりかたむく。傾斜する。偏僻。〔謝靈運、山居賦〕勢有二偏側一、地闕二周員一。

【偏卒】120 ㄆㄧㄢ ㄗㄨˊ 戰車と兵卒。偏は車數、卒は人數。字解の㊂を見よ。〔管子、君臣下〕雖レ有二偏卒一之大夫、不二敢有一幸心一、則上無レ危矣。〔纂詁〕司馬法、二十五乘爲レ偏、周禮小司徒、四兩爲レ卒、卒、百人也。

【偏大】121 ㄆㄧㄢ ㄉㄚˋ 片方ばかりが大きいこと。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕用人勿偏、偏則國危、云云、枝偏大則蹶二其根一。

【偏宕】122 ㄆㄧㄢ ㄉㄤˋ 中正を得ず、ほしいままなること。〔後漢書、孔融傳〕發レ辭偏宕、多致二乖忤一。〔注〕偏邪跌宕、不レ拘二正理一。

【偏桃】123 ㄆㄧㄢ ㄊㄠˊ 木の名。はたんきやうの一種。扁桃。匾桃。叭嘘杏。〔西陽雜俎、廣動植、木篇〕偏桃、出二波斯國一、波斯呼爲二婆淡一、樹長五六丈、圍四五尺、葉似レ桃而闊大、三月開レ花白色、花落結レ實、狀如二桃子一而形偏、故謂二之偏桃一、其肉苦澀不レ可レ噉、核中仁甘甜、西域諸國幷珍レ之。

【偏黨】124 ㄆㄧㄢ ㄉㄤˇ ㊀かたよる。偏側。無レ偏無レ黨（210）を見よ。〔荀子、王制〕偏黨而無レ經。〔前秦錄〕教無二偏黨一。㊁偏頗な黨派。〔韓非子、亡徵〕大臣甚貴、偏黨衆強。

【偏袒】125 ㄆㄧㄢ ㄊㄢˇ ㊀片はだぬぐ。力を出すにいふ。奮起。偏裼。〔史記、主父偃傳〕偏袒大呼。㊁片ひいき。〔韜惠全書、刑名部、問擬〕要証不レ出、定有二偏袒受囑之故一。㊂㑹 ㄆㄧㄢ 右肩を肌脫ぐこと。師を敬ふとき及び作事するときは、かくの如くし、外出するときは兩肩を覆ふ。〔彌勒成佛經〕齊二整衣服一、偏二袒右肩一。

【偏短】126 ㄆㄧㄢ ㄉㄨㄢˇ 偏頗で不完全なこと。短所。缺點。〔魏志、武帝紀〕士有二偏短一、庸可レ廢乎。

【偏斷】127 ㄆㄧㄢ ㄉㄨㄢˋ 公平でない取りきめ。不公平な斷定。〔宋書、蔡廓傳論〕豈不レ知二選錄同レ體、義無二偏斷一乎。

【偏値】128 p'ien¹ chih² あやにく

【偏智】129 ㄆㄧㄢ ㄓˋ 才智を隱して表はさないこと。轉じて、世の中から隱れて住むこと。〔王康琚、反招隱詩〕周才信二衆人一、偏智任二諸己一。〔注〕善曰、以二出仕一爲二周才一、隱居爲二偏智一。

【偏重】130 ㄆㄧㄢ ㄓㄨㄥˋ 一方のみを重んずる。〔左氏、哀、十六〕偏重必離。

【偏重靠損之弊】131 ㄆㄧㄢ ㄓㄨㄥˋ ㄎㄠˋ ㄙㄨㄣˇ ㄓ ㄅㄧˋ 一方ばかり損になる弊害。〔元典章、兵部、起馬置歷挨次〕較之在レ前未レ置二文簿一之前上者、數減レ半、咸得二其半一、而偏重靠損之弊、又恐不レ實再行二差官一應問上。

【偏寵】132 ㄆㄧㄢ ㄔㄨㄥˇ かたより愛する。偏愛。〔顏氏家訓、教子〕有二偏寵一者、雖レ欲二以厚一レ之、更所二以禍一レ之、共叔之死、母實爲レ之。

【偏墜】133 ㄆㄧㄢ ㄓㄨㄟˋ 病名。一方の睾丸が炎腫を發して大きくなり下墜する病氣。疝病の一種。

【偏定】134 ㄆㄧㄢ ㄉㄧㄥˋ 一方に定める。或る一方が正善であると斷定する。〔漢書、韋玄成傳論〕古今異レ制、各爲二一家一、未レ易可二偏定一也。

【偏提】135 ㄆㄧㄢ ㄊㄧˊ 酒を入れる器。銚子。〔韓偓、從獵詩〕忽聞仙樂動、賜酒玉偏提。〔事始〕若レ瓶而小、目レ之曰二偏提一。〔事物異名錄、器用、壺〕山家淸事、偏提猶二今酒鰲一、和靖翁送二李山人一有二馬前常帶古偏提之句一。

偏提（會圖）（三才）

【偏程】136 p'ien¹ ch'eng² 數學用語。不等式をいふ。不等式（1—19‥819）を見よ。

【偏聽】137 ㄆㄧㄢ ㄊㄧㄥ 一方の言のみを聞いて信ずる。〔史記、鄒陽傳〕偏聽生レ姦、獨任成レ亂。

【偏圖】138 ㄆㄧㄢ ㄊㄨˊ 淸、漢軍正白旗人。本姓は李。諡は襄敏。官は鑲白旗漢軍都統。

【偏土】139 ㄆㄧㄢ ㄊㄨˇ 中央から離れてゐる土地。偏國。僻地。〔淮南子、墜形訓〕偏土之氣、御二乎淸天一。

【偏度】140 p'ien¹ tu⁴ 經度。

【偏疼】141 p'ien¹ t'eng² かたびいきする。

【偏特】142 ㄆㄧㄢ ㄊㄜˋ ひとり。つれがないこと。相手がないこと。〔曹植、離繳鴈賦〕憐二孤鴈之偏特一、情惆悵而內傷。

【偏得】143 ㄆㄧㄢ ㄉㄜˊ 最もよく得る。〔莊子、庚桑楚〕偏二得老聃之道一。〔疏〕老君大聖、弟子極多、門人之中、庚桑楚最勝、故稱二偏得一也。

【偏袂】144 ㄆㄧㄢ ㄇㄟˋ 左右、色を異にした衣。片身がはり。偏衣。袂は背縫ひ。〔國語、晉語一〕是故使二申生伐二東山一、衣二之偏袂之衣一、〔史記、趙世家〕〔孝成〕王夢衣二偏袂之衣一、乘二飛龍一上レ天、云云、王召二筮史敢一占レ之、曰、夢レ衣二偏袂之衣一、殘也。〔注〕正義曰、杜預云、偏、左右異レ色、袂在レ中、左右異、故曰レ偏、按、袂、衣背縫也。〔左思、魏都賦〕銛レ戈襲二偏袂一以讀列。

【偏突】145 ㄆㄧㄢ ㄊㄨˊ 一種の遊戲。偏繼ぎの意。漢字の旁を出だして種々の偏をつがせ、順次に續けて行つて、續け得ない者、又はついだ文字を讀み得ない者を負けとする。又、一說に、詩句などの文字の偏を隱し、旁を見せて、何偏であるかをあてさせる遊び。〔源氏物語、葵〕碁打ちへんつぎなど。

【偏跛】146 ㄆㄧㄢ ㄅㄛˇ かた足なえる。ちんば。びつこ。〔晉書、紀瞻傳〕創既不レ差、足復偏跛。

【偏頗】147 ㄆㄧㄢ ㄆㄛ かたよつて公平でない。偏陂。偏阿。偏私。〔書、洪範〕無レ偏無陂、釋文〕陂、音祕、舊本作レ頗、音普多反。〔魏志、夏侯玄傳〕勿レ使二偏頗一。〔晉書、熊遠傳〕無二偏頗之失一。

【偏霸】148 ㄆㄧㄢ ㄅㄚˋ 一方の旗がしら。〔南越志〕秦二世、五星會二於南斗牛一、南海尉任囂、知二其偏霸之氣一、遂有二志焉一。

【偏背】149 ㄆㄧㄢ ㄅㄟˋ かくす。內密に着服する。〔桃花扇、

拒媒〕賺二了錢一、不レ可二偏背一。

【偏廢】150 ヘンパイ ㊀一方のみを棄てる。又、一方が廢れる。〔陸機、策二問秀才紀瞻等一文〕一氣偏廢、則萬物不レ得二獨成一。㊁p'ien¹ fei⁴ 不具。かたは。

【偏方】151 ヘンパウ 一方にかたよること。〔唐書、高儉傳〕齊據二河北一、梁陳在二江南一、雖レ有二人物一、偏方下國、無レ可レ貴者一。

〔偏方兒〕152 p'ien¹ fang¹ êrh 不正の處方書。

【偏邦】153 p'ien¹ pang¹ 小國。

【偏亡】154 ヘンバウ 一方を缺く。又、一方が缺ける。〔荀子、禮論〕三者偏亡焉、無二安人一。〔注〕偏亡、謂レ闕レ一也。〔新書、禮容語下〕偏亡者有レ咎。

【偏房】155 ヘンバウ めかけ。側室。〔列女傳、賢明、晉趙衰妻傳〕身雖二尊貴一、不レ妒二偏房一。

【偏旁】156 ヘンバウ 文字のへんとつくり。偏傍。偏旁冠脚を見よ。〔摭言〕未レ識二偏旁一。〔蘇軾、石彭歌〕強尋二偏旁一推二點畫一。

〔偏旁冠脚〕157 ヘンバウクワンキャク 漢字の部首の總稱。漢字の體の左方に在るものを偏(扁)、右方に在るものを旁リツク(傍・作・右文)、頭に在るものを冠、下に在るものを脚といふ。其の他、文字の外郭となるものを構カマヘ、文字の外に在つて垂れる部分を垂タレ、文字の外を繞るものを繞ネウといふ。此等の名稱は中國の名稱とは必ずしも一致しない。山崎美成の海錄の卷九によると、音釋五侯鯖字海の卷首篆隸字傍の條に、人字傍(人偏)・雙人傍(行人偏)・堅心傍(堅は豎の誤り、立心偏)・挑手傍(手偏)・耳字傍・目字傍・絲傍などの名稱があり、又、荀子の修身篇の如二惕悍一而不レ順の注に韓侍郎云、惕與レ蕩同、字作二心邊一、易謂二放蕩兇悍一也とあり、五雜組十六に有二御史席平一、因降二詔獄一畢上レ殿、仁宗問二其事一、平曰、已從二車邊斤一矣、時謂二之車斤御史一といひ、西廂記の三の著稱跳二東墻一、女字邊干、拆二白奸字一とある等の例を擧げてゐる。我が國の稱呼の主なものを擧げれば、次の如くである。

乙(オツネウ)　亠(ケイサン・ケイサンカンムリ・ナベブタ)　人(亻)(ニンベン)
儿(ニンネウ)　入(イリガシラ)　八(ハチガシラ)　冂(マキガマヘ・ケイガマヘ)
冖(ワカンムリ・ヒラカンムリ・ベキカンムリ)　冫(ニスイ)　几(ツクエ・キネウ)
凵(カンネウ・カンガマヘ)　刀(刂)(リツタウ・リタウ)　力(チカラ・リキヅクリ)
勹(ツツミガマヘ・ハウガマヘ)　匚(ハコガマヘ)　匸(カクシガマヘ)
卩(㔾)(フシヅクリ・セツヅクリ)　厂(ガンダレ)　口(クチヘン)
囗(クニガマヘ)　土(ツチヘン・ドヘン)　夂(スイネウ)　夕(ユフベ)
大(ダイカンムリ)　女(ヲンナヘン)　子(コヘン)　宀(ウカンムリ)
寸(スンヅクリ)　小(セウカンムリ)　尸(シカバネ・シカバネダレ)
山(ヤマヘン)　工(タクミヘン)　巾(ハバヘン・キンベン)　幺(イトケナシ)
广(マダレ)　廴(エンネウ)　弋(イグルミ)　弓(ユミヘン)
彐(彑・彑)(ケイガシラ)　彡(サンヅクリ・ケカザリ)　彳(ギヤウニンベン)
心(⺗)(シタゴコロ)　忄(心)(リツシンベン)　戈(ホコ)
戸(トダレ・トカンムリ)　手(扌)(テヘン)　支(シネウ・エダネウ)　攴(攵)(ボクヅクリ・ボクネウ)
文(ブンネウ)　斗(トマス・マスヅクリ)　斤(ヲノヅクリ)　方(カタヘン・ハウヘン)
日(ヒヘン・ニチヘン)　曰(イハク・ヒラビ)　月(ツキヘン)　木(キヘン)
欠(アクビ・ケンヅクリ)　止(トメヘン)　歹(歺)(カバネヘン・ガツヘン)
殳(ホコヅクリ・ツハモノヅクリ・ルマタ)　毛(ケ)　气(キガマヘ)
水(氺)(シタミズ)　氵(水)(サンズイ)　火(ヒヘン)　灬(火)(レンガ・レツクワ)
爪(爫)(サウネウ・ツメカンムリ・ツメガシラ)　爿(シヤウヘン)　片(カタヘン)
牙(キバヘン)　牛(牜)(ウシヘン)　犬(犭)(ケモノヘン・イヌヘン・イヌヅクリ)
玉(王)(タマヘン)　瓜(ウリ)　瓦(カハラヅクリ)　田(タヘン)
疒(ヤマヒダレ)　癶(ハツガシラ)　白(ハクヘン)　皮(ケガハ・カハヅクリ)
皿(サラ)　目(メヘン)　矛(ホコヘン)　矢(ヤヘン)
石(イシヘン)　示(礻)(シメスヘン)　禾(ノギヘン)　穴(アナカンムリ)
立(タツヘン)　竹(タケカンムリ)　米(コメヘン・ヨネヘン)　糸(イトヘン)
网(罒罓⺳四)(アミガシラ)　羊(ヒツジヘン)　羽(ハネヅクリ)
老(耂)(オイカンムリ)　耒(スキヘン・ライスキ)　耳(ミミヘン)
聿(フデヅクリ)　肉(月)(ニクヅキ)　舌(シタヘン)　舟(フネヘン)
艸(艹)(サウカウ・クサカンムリ)　虍(トラカンムリ・トラガシラ)　虫(ムシヘン)
行(ユキガマヘ・ギヤウガマヘ)　衣(衤)(コロモヘン)
襾(アガシラ)　角(ツノヘン)　言(ゴンベン)　豆(マメヘン)
豕(ヰノコヘン)　豸(ムジナヘン)　貝(コガヒヘン・カヒヘン)　走(ソウネウ)
足(アシヘン)　身(ミヘン)　車(クルマヘン)　辛(カラシ)
辵(⻌)(シンネウ)　邑(阝)(オホザト)　酉(トリヘン・ヒヨミノトリ・コヨミノトリ)
釆(ノゴメヘン)　里(サトヘン)　金(カネヘン)　門(モンガマヘ・カドガマヘ)
阜(阝)(コザトヘン)　隹(フルトリ)　雨(アメカンムリ)　革(カハヘン・ツクリガハ)
韋(ナメシガハ)　頁(オホガヒ)　食(ショクヘン)　馬(ウマヘン)
骨(ホネヘン)　髟(カミカンムリ・カミガシラ)　鬥(タタカヒガマヘ・トウガマヘ)
鬲(カナヘ)　鬼(オニネウ・キネウ)　魚(ウヲヘン)　鳥(トリヘン・トリヅクリ)
麥(バクネウ・ムギヘン)　麻(アサカンムリ)　鼻(ハナヘン)　齒(ハヘン)
龜(カメヅクリ)

【偏傍】158 ヘンバウ へんとつくり。偏旁(156)に同じ。〔顏氏家訓、風操〕偏傍之書、死有二歸煞一。

【偏駁】159 ヘンバク かたよつて純一でない。〔說苑、至公〕偏駁自私。〔論衡、書虛〕何天恩之偏駁也。

【偏駮】159' ヘンバク 偏駁に同じ。〔漢書、谷永傳〕抗二湛溺之意一、解二偏駮之愛一。

【偏罰】160 ヘンバツ 兩親の中何れか一方を失ふこと。〔駱賓王、靈泉頌序〕幼丁二偏罰一、早喪二慈親一。

【偏反】161 ヘンパン ゆれ動く。又、飜るさま。〔論語、子罕〕唐棣之華、偏其反而。〔集注〕偏、晉書作レ翩。然則反亦當二與レ翩同一、反、言二華之搖動一也。

【偏肥】162 ヘンピ ちよつとそしる。〔列子、黃帝〕口所二偏肥一、晉國黜レ之。〔注〕肥、音鄙、薄也。

【偏陂】163 ヘンピ かたよつて公平でない。えこ。不公平。偏頗。〔書、洪範〕無レ偏無レ陂、遵二王之義一。〔蔡傳〕偏、不レ中也、陂、不レ平也。

【偏扉】164 ヘンピ かたとびら。かたなびき。〔日本外史、足利氏正記、足利氏中〕基綱獨開二院門偏扉一、以レ身當レ敵。

【偏裨】165 ヘンピ 一方の將。小將。偏將。〔漢書、馮奉世傳〕韓昌爲二偏裨一。〔魏志、張楊傳〕徵二天下豪傑一、以爲二偏裨一。〔任昉、奏二彈曹景宗一文〕偏裨將帥。〔注〕銑曰、偏裨、皆小將也。〔稱謂錄、兵頭、偏裨〕李光弼、專任之將曰二裨將一、又曰二偏裨一。

【偏謬】166 ヘンビウ 不公平。〔吳志、張紘傳〕上無二偏謬之援一。

【偏柎】167 ヘンプ 棺中の牀をいふ。翩柎。〔晏子、重而異者〕偏柎寄二于路寢一。

【偏祔】168 ヘンプ 父、又は母の柩。又は祔祭した木主。兩親の中の一方であるから偏の字を用ひる。〔晏子、重而異者〕問二其偏祔何所在一。

【偏風】169 ヘンプウ 半身不隨の疾。中風。〔周書、柳昂傳〕昂爲二大宗伯一、拜日遂得二偏風一、不レ能レ視レ事。

【偏物】170 ヘンブツ 心のかたよつた人。偏人。變物。

【偏病】171 p'ien¹ ping⁴ 惡癖。つむじ曲り。

【偏嬖】172 ヘンペイ かたより寵愛する。

【偏癖】173 ヘンペキ くせ。又、かたよつた性質。

【偏偏】174 ヘンペン ㊀ひるがへるさま。うらがへるさま。翩翩。又、翩翩(**9—28762··7**)に同じ。㊁p'ien¹ p'ien¹ たしかに。必ず。

〔偏偏兒的〕175 p'ien¹ p'ien¹ êrh tê 思ふやうにならずに。己の志と違つて。生憎。

【偏褊】176 ヘンペン 甚しく急なこと。褊は急。〔韓非子、亡徵〕偏褊而心急、輕疾而易レ動。〔翼毳〕偏、頗也、褊、急也。

【偏鋒】177 ヘンボウ 筆鋒の偏側で勢を取るもの。中鋒(**1—73··761**)の對。書畫及び言論・文章に皆、此の語を用ひる。

【偏盲】178 ヘンマウ ㊀一部分が暗くなる。〔呂覽、明理〕其日有二薄蝕一、有二暉珥一、有二偏盲一。㊁かためくら。めつかち。〔漢書、杜欽傳〕少好二經書一、家富而目偏盲。〔注〕師古曰、偏盲者、患二一目一也。

【偏名】179 ヘンメイ 二字の名前のうちの一字。片名カタナ。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕自取二其偏名一、名曰二秀忠一。

【偏目】180 p'ien¹ mu⁴ 片目。獨眼。目つかち。

【偏門】181 ヘンモン くぐりもん。傍門。〔陸游、將レ入レ閩夜行之二雲門一詩〕東鶩並二偏門一、籃輿兀睡昏。

【偏譯】182 ヘンヤク 遠い外國。偏は遠。譯は其の言葉を飜譯しないと判らないからいふ。〔後漢書、東夷傳贊〕眇眇偏譯、或從或畔。〔注〕偏、遠也。

【偏勞】183 ヘンラウ ㊀或る者だけが難儀する。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕戶頭亦不レ致二偏勞重困一。㊁p'ien¹ lao² 御苦勞樣。

【偏理】184 ヘンリ ㊀理窟にかたよること。㊁p'ien¹ li³ かたよつた理窟。又、一方の證據。

〔偏理主義〕185 ヘンリシユギ 一切の行爲を全く合理的に解釋しようとする主義。合理主義。

【偏輪】186 ヘンリン ひとつの車輪。

【偏累】187 ヘンルイ 廣く行き渡らず、一方にだけ澤山累積してゐること。〔福惠全書、編審部、編審餘

論〕使下糧無二偏累一、丁有中均齊上。
【偏令】188 ヘンレイ 中庸を得てゐない命令。〔莊子、田子方〕偏令無レ出。
【偏列】189 ヘンレツ 古の兵車の制。列は五偏。字解の⑬を見よ。〔尉繚子、制談〕古者士有二什伍一、車有二偏列一。
【偏憐】190 ヘンレン 盲目的にいつくしむ。ひたすらにいとほしむ。〔元稹、遣二悲懷一詩〕謝公最小偏憐レ女、自嫁二黔婁一百事乖。〔遼史、章肅皇帝傳〕諺云、偏憐之子不レ保レ業、難レ得之婦不レ主レ家。
【偏露】191 ヘンロ 保護者を失ふこと。孤露。〔孟浩然、送下莫氏甥兼諸昆弟從二韓司馬一入中西軍上詩〕平生早偏露、萬里更飄零。
【偏陋】192 ヘンロウ ㊀いやしくて偏屈なこと。㊁廣くないこと。褊陋。
【偏漏】193 ヘンロウ ㊀かたよつて弘く行きわたらない。〔沈約、究竟慈悲論〕仁被二羣生一、理無二偏漏一。㊁p'ien1 lou4 痔瘻。
【偏王】194 ヘンワウ 一地方の王となる。〔皇甫謐、三都賦序〕險阻瓌琦、可二以偏王一。
【偏過啦】195 p'ien1 kuo4 la 食事が終はつた。お先にいただきました。日常の挨拶語。
【偏箱車】196 ヘンサウシヤ 古代の兵車の名。〔晉書、馬隆傳〕隆依二八陣圖一作二偏箱車一、地廣則鹿角車營、路狹則爲二木屋一施二於車上一。〔李衞公問對、上〕依二八陣圖一作二偏箱車一。
【偏朱蹄】197 ヘンシュテイ 蹄の片方だけ赤色のもの。〔莊子、田子方〕乘二駁馬而偏朱蹄一。〔疏〕乘二駁馬而蹄偏赤一、號二令我一云。
【偏態性】198 ヘンタイセイ 統計學用語。數量の分配が其の平均を失ふをいふ。
【偏凍雨】199 ヘントウウ 夏の暴風雨をいふ。〔新方言、釋天〕今陝西四川、皆謂二夏月暴雨一爲二偏凍雨一。
【偏頭關】200 ヘントウクワン 關の名。今の山西省偏關縣をいふ。古の武州塞の地。元、置く。山西三關の一。〔天下郡國利病書〕偏頭關、東連二丁角山一、西通二黃河一、與二河套一僅隔二一水一、其地東仰西伏、故名、堡凡十有八。
【偏頭痛】201 ヘンヅツウ 病名。頭の偏側のみ痛む病氣。女子に多い。

【偏您飯】202 p'ien1 nin2 fan4 御免蒙つて御飯をいただきます。日常の挨拶語。
【偏涼汀】203 ヘンリヤウテイ 潭の名。河北省灤縣の北。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、灤州、橫山〕灤河、石立水激、有レ潭極深、號二偏涼汀一、正德十三年、車駕東巡、觀二漁於此一、志云、偏涼汀、舊漕運泊舟處也。
【偏燐酸】204 ヘンリンサン 酸の一種。無色透明で潮解性の固體。正燐酸を強熱して製す。二縮原燐酸。氷燐酸。メタ燐酸。
【偏極化光】205 ヘンキヨククワクワウ 光線の一種。偏光(45)を見よ。
【偏極光鏡】206 ヘンキヨククワウキヤウ 偏光を檢査する鏡。偏光鏡(46)を見よ。
【偏平之地】207 ヘンペイノチ 平らな土地。〔魏志、董昭傳〕處二偏平之地一、依二德義之主一。
【偏用聲塵】208 ヘンヨウシヤウヂン 佛 六根中、耳根の鋭敏な人が、耳を偏用するをいふ。〔鴉鷺合戰物語、九〕此の土は耳根利故、偏用聲塵と釋して、六根の中には耳根をもて本とす。
【先レ偏後レ伍】209 ヘンヲサキニシゴヲノチニス 軍旅の制。車騎を先にして、卒伍をして之に次がしめること。偏車は二十五乘。〔左氏、桓、五〕先レ偏後レ伍、伍承彌縫。〔注〕司馬法、車戰、廿五乘爲レ偏、以レ車居レ前、以レ伍次レ之。
【無レ偏無レ黨】210 ヘンナクタウナシ 一方にかたよらず中正にして公平なこと。黨も、片寄る意。〔書、洪範〕無レ偏無レ黨、王道蕩蕩、無レ黨無レ偏、王道平平。〔蔡傳〕偏、不レ中也、黨、不レ公也。

【⿰亻咸】849

カン ケン 〔集韻〕口減切 豏

心がおだやかでない。 ⿰忄咸(4－10952)に同じ。〔集韻〕⿰忄咸、意不レ安也、或从レ人。

【偐】850

ガン ゲン 〔集韻〕魚澗切 諫

にせもの。 贋(10－36972)に同じ。〔集韻〕贋、僞物也、或作レ偐。

【偑】851

フウ フ 〔集韻〕方馮切 東

㊀**地名。**〔廣韻〕偑、地名。㊁**姓。**〔何氏纂文〕偑、伏羲之後。

【偒】852

タウ 〔集韻〕坦朗切 養

㊀**まつすぐ。**〔玉篇〕偒、直也。㊁**長いさま。**〔廣韻〕偒、長皃。㊂蕩(9－32002)に通ず。〔法言、淵騫〕魯仲連偒而不レ剬、藺相如剬而不レ偒。〔注〕偒、古蕩字。

名乘 ナヲ。

【偓】853

アク 〔集韻〕乙角切 覺 ㄨㄛˋ wo4

小篆

㊀**かかはるさま。** 偓促(2)を見よ。㊁**姓。**〔說文〕偓、偓佺、古仙人名也、从レ人屋聲。〔通志、氏族略、入聲〕偓氏、列仙傳有二偓佺一。〔奇姓通〕偓佺、槐山採レ藥父也。

【偓佺】1 アクセン 仙人の名。陶唐氏の時、槐山に藥を採り、好んで松實を食ひ、體に毛が生じ、能く飛行したといふ。〔史記、司馬相如傳〕偓佺之倫、暴二於南榮一。〔揚雄、甘泉賦〕雖レ方三征僑與二偓佺一兮、猶彷彿其若レ夢。〔注〕良曰、征僑・偓佺、皆古仙人名。〔列仙傳〕偓佺者、槐山採レ藥人也、好食二松實一、形體生レ毛長數寸、能飛行。
【偓促】2 アクソク 心せはしくて物に捉はれるさま。齷齪。局促。〔玉篇〕偓、偓促、拘皃。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕偓促談二於廊廟一兮。〔注〕偓促、拘愚之貌。

【偔】854

ガク 〔集韻〕逆各切 藥

㊀**おほい。**〔廣韻〕偔、多也。㊁愕(4－10939)の譌字。〔正字通〕偔、愕字之譌。

【偕】855

カイ 〔集韻〕居諧切 佳 ㄐㄧㄝ chieh1 ㄒㄧㄝˊ hsieh2

小篆

㊀**つよい。**〔說文〕偕、彊也、从レ人皆聲、詩曰、偕偕士子。〔詩、小雅、北山〕偕偕士子。〔傳〕偕偕、強壯貌。㊁**ともに。ともども。**〔說文〕偕、一曰、俱也。〔詩、邶風、擊鼓〕與レ子偕老。〔傳〕偕、俱也。〔孟子、梁惠王上〕與レ民偕樂。㊂**ともにする。ともに居る。**〔孟子、公孫丑上〕由由然與レ之偕。〔集注〕偕、竝處也。〔管子、版法〕習故能偕。〔注〕偕、謂二同爲一レ事。㊃**ととのふ。かなふ。あふ。**〔賈島、贈レ友詩〕五言詩成レ卷、清新少レ得レ偕。㊄**ひとしい。ひとしくする。**〔荀子、大略〕唯其偕矣。〔注〕偕、齊等也。〔管子、版法〕偕二度量一。〔注〕偕、同也。㊅**あまねし。**〔左氏、襄、二〕降レ福孔偕。〔注〕偕、徧也。㊆或は皆(8－22699)に作る。〔正字通〕皆、咸也、俱也、與レ偕通。

名乘 トモ。

【偕隱】1 カイイン ともにかくれる。〔左氏、僖、二十四〕能如レ是乎、與レ女偕隱、遂隱而死。
【偕隱堂】2 カイインダウ 清、陳長孺(11－41698··1130)の室名。
【偕緣】3 カイエン ともによる。〔蜀志、後主劉禪傳〕偕緣二蜀土一、斗二絕一隅一。
【偕偕】4 カイカイ 強く壯んなさま。〔詩、小雅、北山〕偕偕士子、朝夕從レ事。〔傳〕偕偕、強壯貌。
【偕行】5 カイカウ ㊀云云につれて行はれる。〔易、益〕

凡益之道、與レ時偕行。㊁一緒に行ふ。〔莊子、則陽〕與レ世偕行而不レ替。㊂人と共に行く。〔詩、秦風、無衣〕王于興レ師、脩二我甲兵一、與レ子偕行。㊃同伴する。帶同する。
〔偕行社〕6 カイカウシャ 師團所在地に設けられた陸軍將校の集會所。
【偕俱】7 カイグ ともに。字解の㊁を見よ。
【偕偶】8 カイグウ つれあひ。配偶。又、つれそふ。〔易林〕安樂富有、二人偕偶。
【偕作】9 カイサク ㊀ともにたつ。〔詩、秦風、無衣〕與レ子偕作。〔傳〕作、起也。㊁ともにつくる。〔李覯、袁州州學記〕竝レ手偕作、工善吏勤。
【偕仁】10 カイジン 宋、張洎(4－9812‥163)の字。
【偕適】11 カイテキ かなふ。〔沈約、千佛讚〕道有二偕適一、理無二二歸一。
【偕老】12 カイラウ ㊀ともに老いる。夫婦ともしらがになる。〔詩、邶風、擊鼓〕執二子之手一、與レ子偕老。〔傳〕偕、俱也。〔詩、鄭風、女曰雞鳴〕宜言飮レ酒、與レ子偕老。㊁老子の如く長生きをする。〔班固、幽通賦〕若胤レ彭而偕レ老兮、訢二來哲一而通レ情。〔注〕善曰、言、人若欲下胤二彭祖之年一、偕中老聃之壽上、當下訢二之來哲一、與レ之通上レ情、非二己所一レ慕也。
〔偕老魚〕13 カイラウギョ 動物の名。えび。蝦(10－33299)の異名。
〔偕老同穴〕14 カイラウドウケツ ㊀生きては共に老い、死んでは一つ穴に葬られる。夫婦のちぎり。比翼連理の契り。〔詩、邶風、擊鼓〕執二子之手一、與レ子偕老。〔詩、王風、大車〕穀則異レ室、死則同レ穴。㊁蟲の名。海綿類に屬する筒形網狀の海蟲。うみのへちま。うみわた。
【偕樂】15 カイラク 衆人と共に樂しむ。〔孟子、梁惠王上〕古之人、與レ民偕樂、故能樂也。
〔偕樂園〕16 カイラクエン 水戶市にある常磐公園の別稱。天保年間、水戶藩主德川齊昭が士民と偕に樂しむ意を以て營んだもの。〔德川齊昭、偕樂園記〕。
【偕柳】17 カイリウ 淸、程元愈(8－25081‥198)の字。
【偕生之疾】18 カイセイノシツ 一生のやまひ。終身なほらぬ病氣。〔列子、湯問〕今有二偕生之疾一、與レ體偕長。

【偖】856 シャ 撦(5－12728)の譌字。〔正字通〕偖、撦字之譌。邦 **さて**。發語のことば。扠。

【偗】857 セイ シャウ 〔集韻〕所景切 梗 **直いさま。まつすぐなさま。**〔集韻〕偗、直皃。

【偘】858 カン 侃(1－577)に同じ。〔玉篇〕偘、同レ侃。
参考 熟語は侃(1－577)を見よ。

【偩】859 ボウ モ 〔集韻〕莫候切 宥 **をしむ。いやしい。**嗇霿。霿(12－42508)に同じ。〔集韻〕霿、嗇霿、鄙吝也、或作レ偩。

【偙】860 テイ タイ 〔集韻〕丁計切 霽 ㊀**苦しみ弱るさま。**偙僀。或は僀(1－1042)に作る。〔集韻〕偙、偙僀、困劣皃、或作レ僀。㊁**すぐれる。**〔字彙〕偙、儁也。

【做】861 サ 〔字彙〕子賀切 箇 ㄗㄨㄛˋ tsuo4 **なる。なす。**作(1－518)の俗字。〔正字通〕做、俗作字。
【做爲】1 tsuo4 wei2 ㊀まねする。ふりする。㊁云云と爲す。
【做下】2 tsuo4 hsia4 なすこと。〔紅樓夢、七回〕一勢除了根、纔是小小的年紀、到做下個病根兒。
【做客】3 tsuo4 k'ê4 ㊀遠慮する。㊁他鄉にさまよふ。
【做九】4 tsuo4 chiu3 盜むことの隱語。
【做仇】5 tsuo4 ch'ou2 仇になる。作仇(1－518‥34)に同じ。
【做訖】6 tsuo4 ch'i3 なし終る。爲てしまふ。
【做火】7 tsuo4 huo3 火をおこす。火をもやす。作火(1－518‥41)に同じ。
【做活】8 tsuo4 huo2 仕事をする。作活(1－518‥50)に同じ。
【做闊】9 tsuo4 k'uo4 豪遊する。贅澤する。大盡風をふかす。
【做官】10 サクワン 役人になる。官吏となる。〔淸國行政法汎論、官吏法、俸給、淸國官吏腐敗〕諺云、做レ官三年、可三以養二三代子孫一也。
【做臉】11 tsuo4 lien3 面目を施す。顏を立てる。
【做工】12 tsuo4 kung1 ㊀仕事をする。㊁職工となる。㊂役者の舞台上の所作。しぐさ。身振。做派(26)に同じ。
【做菜】13 tsuo4 ts'ai4 料理をつくる。菜拵へする。
【做齋】14 tsuo4 chai1 迷信的頽廢的祈禱。
【做事】15 tsuo4 shih4 仕事をする。
【做主】16 tsuo4 chu3 指圖する。かしらとなる。主人となる。自分で處理するの意。
【做親】17 tsuo4 ch'in1 結婚する。緣組する。
【做人】18 tsuo4 jen2 人たる行ひをする。人間らしくする。〔西廂記、張君瑞害二相思一雜劇〕禁不得你甜話兒熱趲、好著我兩下裏做人難。
〔做人情〕19 tsuo4 jen2 ch'ing2 よい所を人にやること。世間の義理交際。
【做成】20 tsuo4 ch'êng2 しあげる。できあがる。完成する。云云となす。
【做齊】21 tsuo4 ch'i2 全部出來上る。
【做聲】22 tsuo4 shêng1 話をする。聲をかける。
【做節】23 サセツ 冬至三日のうち、店肆が皆、市をやめ、簾を垂れて酒を飮み、賭博すること。〔乾淳歲時記〕冬至三日之內、店肆皆罷レ市、垂レ簾飮博、謂二之做節一。
【做得】24 tsuo4 tê 造り方。こしらへ方。やりかた。
〔做得來〕25 tsuo4 tê lai2 云云することができる。
【做派】26 tsuo4 p'ai4 役者の舞臺上の所作。做工。作派(1－518‥155)・作排(1－518‥158)に同じ。
【做廢】27 tsuo4 fei4 止める。廢止する。無效とする。作廢(1－518‥159)に同じ。
【做白】28 tsuo4 pai2 役者の身振とせりふ。
【做法】29 tsuo4 fa3 ㊀しかた。作り方。製法。㊁策を施す。方策をめぐらす。
【做夢】30 tsuo4 mêng4 夢を見る。夢を結ぶ。作夢(1－518‥198)に同じ。
〔做夢不知〕31 tsuo4 mêng4 pu4 chih1 夢にも知らぬ。
【做弄】32 サロウ もてあそぶ。翻弄する。〔完顏璹、詩〕綠荷風底飛來雨、做弄今年甲子秋。
【做圈套】33 tsuo4 ch'üan1 t'ao4 計略で人を陷れる。
【做公的】34 tsuo4 kung1 tê 公事を扱ふもの。目あかし・諜者・捕吏の類をいふ。〔水滸傳、十七回〕何濤領了台旨、下廳前來、到使臣房裏、會集許多做公的。
【做雙九】35 tsuo4 shuang1 chiu3 婚禮後九十八日目に、女家の親戚が壻の家に祝ひに行くこと。河北地方の用語。
【做不倒】36 tsuo4 pu tao4 完全には作れない。
【做不知】37 tsuo4 pu chih1 知らぬふりする。
【做不得】38 tsuo4 pu tê2 ㊀してはならない。㊁することが出來ない。
【做門市】39 tsou4 men2 shih4 小賣商賣をする。
【做下手的】40 tsuo4 hsia4 shou3 tê 手傳ひをする者。

【傁】862 ソウ 叟(1－929)・叜(2－3167)に同じ。〔說文〕叜、或从レ人。〔正字通〕傁、叟・叜並同。

【偛】863 サフ セフ 〔集韻〕側洽切 洽 ㊀**小人。**偛㑇(2)を見よ。㊁**わるがしこい。**㊂**皮のしわ。**〔集韻〕偛、皮皺。

【偛傁】1 サフシュ わるがしこい。一に偛慅に作る。〔玉篇〕偛、一曰、偛傁、鬼黠也。

【偛㑳】2 サフス 小人。つまらぬ人。〔玉篇〕偛、偛㑳、小人。

【偛𢘃】3 サフセフ わるがしこい。狡猾。偛傁。〔方言、十、央亡・嚜尿・姡獪也云云或謂之𦭿、注〕偛𢘃多智也。〔疏證〕注内偛𢘃、各本譌作恐恒、玉篇云、偛𢘃、鬼黠也、今據以訂正。

【停】864

テイ
ヂヤウ
慣チヤウ

〔集韻〕唐丁切 靑 去一ㄥ t'ing²

小篆

㊀とまる。とどまる。〔說文新附〕停、止也、从人亭聲。〔正字通〕停、中止也。㊁さだまる。固定する。〔釋名、釋言語〕停、定也、定於所在也。㊂とどこほる。〔梁書、武帝紀〕主者淹停不時施行者、精加訊辨、依事議奏。㊃やすむ。いこふ。〔廣韻〕停、息也。〔晉書、鄭攸傳〕攸乃小停、夜中發去。㊄やめる。やむ。〔何景明、長春宮詩〕夜宿仙人館、晨聞風吹停。㊅とめる。とどめる。〔北史、長孫幼傳〕卿疹源如此、朕欲相停。〔李白、將進酒〕將進酒君莫停。〔宋史、蘇轍傳論〕不主調停。㊆宿場。宿舍。亭(1—303)に通ず。〔復古編〕停、本作亭、後人別作停。〔正字通〕停、居停、客寓也。〔謝靈運、初去郡詩〕止監流歸停。〔注〕善曰、停、與亭同、古字通。㊇現 割りあひ。

【停育】1 テイイク そだてやしなふ。亭育(1—303··3)に同じ。〔劉孝綽、謝給藥啓〕一物之微、遂留停育、名醫上藥、爰自城府。

【停陰】2 テイイン とどこほつて霽れない雲。あまぐも。〔陸機、贈尚書郎顧彥先詩〕停陰結不解。〔注〕向曰、結不解、言雲不開也。

【停匀】3 テイキン よくそろへる。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕要擺列停匀。

【停雲】4 テイウン ㊀とどまつて居る雲。移動せぬ雲。〔陶潛、停雲詩〕靄靄停雲、濛濛時雨。㊁陶潛の詩題。後世、親友を思ふにいふ。〔陶潛、停雲詩序〕停雲、思親友也。㊂歌ふ聲の美はしい形容。遏雲(11—39004··3)に同じ。

【停雲館】5 テイウンクワン 明、文徵明(5—13450··1022)の室名。

【停雲子】6 テイウンシ 元、孫道明(3—6987··492)の「號。

【停雲館帖】7 テイウンクワンデフ 法帖の名。十二册。明の文徵明父子が二十年の歲月を費して刻したもの。原拓は十帖本であつたが、淸人が補刻して十二帖とす。第一卷、晉唐の小楷。第二卷、萬歲通天進帖及び晉の嵇康の絕交書。第三卷、孫過庭の書譜。第四卷、懷素の千金帖、其の他の唐の書。第五—七卷、宋朝。第八・九卷、元朝。第十卷、明朝。第十一卷、祝允明の書。第十二卷、文徵明の書。〔周行仁、閣帖源流考〕。

【停雲落月】8 テイウンラクゲツ 思慕の意をあらはす語。晉の陶潛の停雲詩及び唐の杜甫の夢李白詩に本づく。〔陶潛、停雲詩序〕停雲、思親友也、罇湛新醪、園列初榮、願言不從、歎息彌襟。〔杜甫、夢李白詩〕落月滿屋梁、猶疑照顏色。

【停雲讀書樓】9 テイウンドクシヨロウ 淸、沈烜(6—17189··144)の室名。

【停軺】10 テイエウ 車をとどめる。〔宋之問、度大庾嶺詩〕度嶺方辭國、停軺一望家。

【停穩】11 テイヲン おちつく。〔福惠全書、郵政部、相良馬、寶金篇〕鶖鼻曲直須停穩。

【停家】12 テイカ 退官した者をいふ。〔唐律、捕亡、疏議〕非見任文武官、即停家職資。〔注〕釋曰、停家職資、謂前職前官。

【停駕】13 テイガ 車馬をとどめる。〔向秀、思舊賦〕停駕言將邁兮。

【停開】14 t'ing² k'ai¹ ㊀出發・發車を見合せる。㊁仕事を見合せる。或る事を始めない。

【停靠】15 t'ing² k'ao⁴ 停車する。停泊する。

【停講】16 テイカウ 書物の講義を止める。〔南史、梁元帝紀〕承聖三年九月辛卯、帝於龍光殿述老子義、十月丁卯、停講、丙子、續讀。

【停閣】17 テイカク ㊀止める。停擱。〔續資治通鑑長編〕王介甫召常秩直史館、介甫不好春秋、秩遂諱其學、熙寧中詔、青苗本錢、權行停閣、王介甫戲秩曰、公春秋亦權停閣乎。〔福惠全書、錢穀部、漕項〕停閣倉收、此倉蠹之爲害也。㊁t'ing² kê² ひまどる。てまどる。停擱。

【停樂】18 テイガク 音樂を奏することを止める。〔周書、武帝紀上〕宜依是日省事停樂、庶知爲君之難、爲臣不易。

【停學】19 テイガク 學校で生徒の不謹愼などを戒める爲に、一時登校を差止めること。

【停柩】20 テイキウ 棺をとどめる。後漢の范式の友、張劭が死んだ時、劭の母が其の柩の進まぬのを見て、式の必ず到るべきを知り、柩を止めて式を待つた故事。〔後漢書、獨行、范式傳〕范式、字巨卿、山陽金鄉人也、云云、與汝南張劭爲友、劭、字元伯、云云、元伯臨盡歎曰、恨不見吾死友、子徵曰、吾與君章盡心於子、是非死友、復欲誰求、元伯曰、若二子者、吾生友耳、山陽范巨卿、所謂死友也、尋而卒、式忽夢見元伯、玄冕垂纓、屣履而呼曰、巨卿、吾以某日死、當以爾時葬、永歸黃泉、子未我忘、豈能相及、式怳然覺寤、云云、式便服朋友之服、投其葬日、馳往赴之、式未及到、而喪已發引、既至壙將窆、而柩不肯進、其母撫之曰、元伯豈有望邪、遂停柩移時、乃見有素車白馬、號哭而來、其母望之曰、是必范巨卿也、巨卿既至、叩喪言曰、行矣元伯、死生路異、永從此辭、云云、式因執紼而引柩、於是乃前。

【停脚】21 t'ing² chiao³ 足をとどめる。

【停課】22 t'ing² k'ê⁴ 授業を休む。

【停回】23 t'ing² hui² おつつけ其の內に。やがての間に。

【停滙】24 テイクワイ 水の止まりたまること。〔王履、始入葉山至西峯記〕泉淙淙然、如琴如筑如佩、環不少休、其停滙處、澄澈如鏡。

【停會】25 テイクワイ ㊀會議を一時停止すること。㊁議會の會期中、一定の期間を限り議事を停止すること。

【停緩】26 テイクワン 滯つて遲れること。〔隋書、牛弘傳〕弘在吏部、其選擧、先德行而後文才、務在審愼、雖致停緩、所有進用、並多稱職。

【停刑】27 テイケイ 刑罰の執行をとどめる。〔淸會典、刑部、刑部尙書〕凡恤刑之典、曰停刑、曰減刑、曰停遣。〔皇朝文獻通考、刑考、赦宥〕凡省刑停刑諸條、有關於矜恤、庶獄者得敬謹特書、以昭曠典云。〔六部成語、刑部、停刑日期、注解〕凡國家大慶大祭及新年令節、均應停刑。

【停歇】28 t'ing² hsieh¹ 一寸休む。休業する。

【停午】29 テイゴ 正午。亭午(1—303··20)に同じ。〔水經、江水注〕自三峽七百里中、兩岸連山、略無闕處、重巖疊嶂、隱天蔽日、自非停午夜分、不見曦月。〔沈約、千僧會願文〕持鉢安行、出彼祇樹、不逾停午、以福衆生。

【停工】30 t'ing² kung¹ 仕事を息める。仕事を休む。作業を止める。

【停公】31 t'ing² kung¹ 公務を執らない。執務しない。

【停婚】32 テイコン 婚姻を止める。結婚を延期する。〔唐書、魏徵傳〕停叔玉婚、而仆所爲碑額。

【停妻】33 テイサイ 正式の手續を經ずに妻を離婚する。停妻再娶を見よ。

【停妻再娶】34 テイサイサイシユ 妻と正式に離婚せずに、他人と結婚するをいふ。〔荆釵記傳奇〕停妻再娶誰承望、又何苦恁相央。

【停喪】35 テイサウ 喪に服することを停めて官事に從ふこと。〔日知錄、禮制、停喪〕停喪之事、自古所無、自建安離析、永嘉播竄、於是有不得已而停者、常煒言、魏晉之制、祖父未葬者、不聽服官。

【停驂】36 テイサン そへ馬をとどめる。〔李白、北上行〕歎此北上苦、停驂爲之傷。〔杜甫、奉贈蕭十二使君詩〕停驂雙闕早、廻雁五湖春。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕捨著命、提刀仗劍、更怕甚勒馬停驂。

【停止】37 テイシ ㊀とどまる。留まつてゐる。〔周禮、天官、掌舍、無宮則共人門、疏〕是暫駐之事、非久停止。㊁事を中途で止める。〔唐書、令狐楚傳〕所宜停止。㊂チヤウジ 皇室などに凶事のあつた時、鳴物をさしとめること。

【停止公權】38 テイシコウケン 一定の公權を行ふことを一定の期間停止することを內容とする刑罰。名譽刑の一種として舊刑法上認められて居たが、現行刑法は之を認めない。

【停止條件】39 テイシジョウケン 民法上、其の成就するまで法律行爲の効力の發生を停止する條件をいふ。

【停思】40 テイシ 心を止めて考へる。ゆつくり考へる。〔唐書、柳公權傳〕詔令二再賦一、復無二停思一。

【停駛】41 t'ing² shih³ 航行を中止する。運轉を中止する。

【停舟】42 シテイシュウ 船をとどめる。停船。〔儲光羲、夜到二洛口一入二黃河一詩〕客愁惜二朝暮一、枉渚暫停レ舟。〔石召、送二人歸一山詩〕歸路分二殘雨一停レ舟別二故人一。

【停售】43 t'ing² shou⁴ 發賣を中止する。賣るのを見合せる。

【停車】44 ❶車をとどめる。停軫。〔後漢書、趙岐傳〕自匿二姓名一、賣二餅北海市中一、時安丘孫嵩年二十餘一、遊二市見レ岐、察レ非二常人一、停レ車呼與共載。〔杜牧、山行詩〕停レ車坐愛楓林晚、霜葉紅於二二月花一。❷t'ing² ch'ê¹ 作業を休止する。〔停車園〕45 テイシャエン 小出孝承の號。小出愼齋〔4—7473‥1559〕を見よ。

【停車場】46 テイシャジョウ 汽車・電車・乘合馬車等が客を昇降させる爲に車を止める一定の場所。ていしやば。ステーション。

【停牀】47 t'ing² ch'uang² 死者を納棺するまで安置する寢臺。

【停手】48 テイシュ 手をとめる。やめる。〔韓愈、贈二鄭兵曹一詩〕盃行到レ君莫レ停手、破除萬事一無レ過酒。

【停趣】49 テイシュ 趣を留める。又、留まつてゐる趣。〔鮑照、舞鶴賦〕態有二遺妍一、貌無二停趣一。〔注〕濟曰、皃之移轉、亦不レ停二其趣向一。

【停陛】50 テイヘイ 官吏の官等の陞敍を止める處分。〔六部成語、吏部、停陞、注解〕此官若犯二小罪一則記レ過、停二其陞轉一三箇月。〔清國行政法汎論、官吏法、懲戒種類〕懲二戒催徵官一有二停陞住俸一。

【停蹤】51 テイショウ 足を止めて進まない。〔傳玄、天行篇〕天行一何健、日月無二停蹤一。

【停食】52 t'ing² shih² 飽食して食もたれする。消化不良。

【停職】53 テイショク 官吏に失態の所爲があつた時、或る期間內、其の職務を取上げる懲戒處分。〔三命通會、論二十干祿一〕貴人停レ職剝レ官。

【停矚】54 テイショク 足をとどめて眺める。〔王弘、開二廣陵前浦一表〕鸞響鳳儀、可二停矚而須一矣。

【停身】55 t'ing² shên¹ 布帛のはば。

【停軫】56 テイシン 車をとどめる。停車。〔魏書、高閭傳〕自二大軍停軫一、庶事咸豐。

【停水】57 スイテイ 流れずに止つてゐる水。止水。〔左氏、隱、三、潢汙行潦之水、注〕潢汙、停水、行潦、流潦。〔水經、沔水注〕州東岸西有二洄湖一、停水數十畝。

【停省】58 テイセイ 止めはぶく。〔後漢書、韋彪傳〕今者務簡可二皆停省一。

【停絕】59 テイゼツ とどめる。やめる。〔任昉、爲二楮諮議薦一讓代兄襲封表〕陛下察二其丹款一、特賜二停絕一、不レ然投二身草澤一、若遂二愚誠一爾。

【停船】60 テイセン 船をとどめる。停舟。〔崔顥、長干行〕君家何處住、妾住在二橫塘一、停レ船暫借問、或恐是同鄉。

【停戰】61 テイセン 戰鬪を中止する。相敵對する兩軍の間に、軍事上の必要に依つて一時的且つ一部分的に行はれる休戰。〔清史稿、張之洞傳〕我軍不レ知二法願一停戰、廷議許レ焉。

【停息】62 テイソク とどまりやすむ。〔梁武帝、孝思賦序〕因レ爾驅馳、不レ獲二停息一。

【停兌】63 t'ing² tui⁴ 兌換停止。

【停安】64 ❶おちついてしづかなこと。寧靜。停當(67)の❶に同じ。〔長生殿、春睡〕低蹴二半彎淩波一停安。❷t'ing² tuo³ うまく出來上る。成就する。

【停待】65 テイタイ とどまりまつ。〔晉書、愍懷太子傳〕須臾有二一小婢一、持二封箱一來云、詔使レ寫二此文書一、鄙便驚起視レ之、有二一白紙一青紙一、催促云、陛下停待。

【停滯】66 テイタイ はかどらぬ。とどこほる。遲滯。〔晉書、虞預傳〕王塗未レ夷、所在停滯。〔北史、韓麒麟傳〕麒麟停滯多年。

【停當】67 タイトウ ❶おちついてしづかなこと。寧靜。停安。〔朱子語錄〕喜怒哀樂未レ發、此心停停當當、恰在二中間一。❷物事の滯りなく取運ぶこと。都合よくゆく。〔桃花扇、草檄〕今夜謄寫停當、明日飛レ遞投送。

【停場】68 テイジョウ 海商が貨物を內密に沿港の間屋等に預けること。〔明律、戶律、課程〕若停二場沿港土商牙儈之家一、不レ報者、杖一百。

【停蓄】69 テイチク とどまりあつまる。〔韓愈、柳子厚墓誌銘〕汎濫停蓄。〔王安石、祭二歐陽文忠公一文〕其積二於中一者、浩如二江河之停蓄一。

【停著】70 テイチャク とどまる。〔世說新語、言語中〕謝中郎經二曲阿後湖一、問二左右一、此是何水、答曰、曲阿湖、謝曰、故當二淵注停著一、納而不レ流。

【停駐】71 テイチュウ とどまる。停住に同じ。〔魏志、王基傳〕議者咸以、儉欽慓悍、難二與爭一鋒、詔レ基停駐。

【停住】72 テイジュウ とどまる。とまりやむ。停駐。〔魏志、劉曄傳〕大駕停住。〔楞嚴經、二〕沈思諦觀、刹那刹那、念念之間、不レ得二停住一。

【停停】73 テイテイ ❶止まつて動かぬさま。成長の止つたさま。〔關尹子、八籌〕草木俄茁茁、俄停停。〔注〕停停、樸遬不レ長也。❷未だ發動しないで靜止の狀態にあるさま。〔朱子語錄〕喜怒哀樂之未レ發、此心停停當當、恰在二中間一。❸高いさま。〔梁高望、雲居寺石浮屠銘〕停停淨域、峩峩給園。❹美好のさま。〔蔡邕、靑衣賦〕停停溝側、皦皦靑衣。

【停綴】74 テイテツ とどまりやめる。〔禰衡、鸚鵡賦序〕筆不二停綴一、文不レ加點。

【停電】75 テイデン 電流の輸送をとどめる。又、故障によつて電氣の流通がとまること。

【停僮】76 テイドウ うすぐらいさま。かげのさま。〔潘岳、射雉賦〕停僮葱翠、綠栢參差。〔注〕爰曰、停僮翳兒也、翰曰、停僮葱翠、翳形皃。

【停頓】77 テイトン 頓挫する。中止する。

【停年】78 テイネン 官吏の任免・昇進などを、一定の年限または年齡によつて斷ずる制。停年法。〔魏書、辛雄傳〕後地先才、不レ得二拘以一停年一。

【停年格】79 テイネンカク 在官の年歲・功績によつて其の資格を認め、昇進登用すること。後魏の崔亮に始まる。〔魏書、崔亮傳〕亮乃奏爲二格制一、不レ問二士之賢愚一、專以二停解日月一爲レ斷、云云、亮外甥司空諮議劉景安書規レ亮曰、云云、如レ之何反爲二停年格一以限二之一、天下士子、誰復修二厲名行一哉。〔北史、薛琡傳〕吏部尚書崔亮、奏立二停年格一、不レ簡二人才一、專問二勞舊一。〔日知錄、政事、停年格〕今之言二停年格一者、皆言レ起二於後魏崔亮一。

【停年制】80 テイネンセイ 官吏等が一定の年齡に達すると其の官職から退かせる制度。

【停杯】81 テイハイ さかづきをとどめる。酒を飮む手を暫くとどめる。〔楊素、贈二薛內史一詩〕橫レ琴還獨坐、停レ杯遂待レ君。〔白居易、風雨中尋二李十一一因題二船上一詩〕停レ杯看二柳色一、各憶二故園春一。

【停廢】82 テイハイ やめる。廢止する。〔北史、張彝傳〕遂無二所得一、見二代還一洛、猶停廢數年。

【停放】83 t'ing² fang⁴ とどめおく。屍を牀の上に安置する。

【停舫】84 テイハイ 船をとどめる。又、とどまつてゐる船。〔韋應物、夕次二盱眙縣一詩〕落レ帆逗二淮鎭一、停レ舫臨二孤驛一。

【停忙】85 テイボウ 徵稅を停める時期。陰曆五月をいふ。上忙(1—13‥649)、下忙(1—14‥475)を見よ。〔淸國行政法、財務行政、收入、賦稅〕徵二收地丁一、通二設期限一、徵二收地丁一、分爲二夏秋兩限一、云云、五月則停レ徵、謂二之停忙一。

【停泊】86 テイハク ❶とどまる。やどる。停留。宿泊。〔白居易、山路偶興詩〕提レ籠復携レ榼、遇レ勝時停泊。❷船舶などが港にとどまること。碇泊。

【停撥】87 テイハツ 撥チをとめる。絃器を彈ずる手を止める。〔徐賁、聞二鄰家琵琶一詩〕促絃知レ改レ調、停レ撥似レ要レ人。

【停版】88 t'ing² pan³ 出版を中止する。休刊する。

【停班】89 t'ing² pan¹ 汽船航路の一時停止。

【停比】90 テイヒ ひき合せることをやめる。〔福惠全書、錢穀部、比較〕宜二弛徵停レ比之日一。

【停罷】91 テイヒ さしとめる。やめる。〔北史、齊後主紀〕土木營造金銅鐵諸雜作工、一切停罷。

【停筆】92 テイヒツ 筆をとめる。書くことをやめる。〔南史、朱异傳〕縱橫敏贍、不二暫停筆一。〔謝靈運、

山居賦〕權ニ近慮一以停レ筆。〔唐書、王維傳〕書ニ數幅一停筆而化。

【停付】93 t'ing² fu⁴　支拂ひを停止する。

【停辦】94 t'ing² pan⁴　物事の進行や處理の停止。執務を中止する。

【停辦付銀】95 t'ing² pan⁴ fu⁴ yin²　支拂ひ中止。

【停鞭】96 テイベン　むちうつことを止める。馬歩をとどめる。〔高適、別ニ孫訢一詩〕屈レ指論ニ前事一、停レ鞭惜ニ舊遊一。

【停俸】97 テイホウ　俸給の給與を止める。〔六部成語、吏部、停俸、注解〕官員或因レ病或丁レ憂開缺、則將ニ其所レ得之俸一停止。

【停眠】98 t'ing² mien²　宿泊する。〔西廂記、草橋店夢鶯鶯雜劇〕誰著你停眠整宿。

【停免】99 テイメン　とどめゆるす。中止して免除する。〔宋史、徽宗紀二〕停ニ免兩浙水災州郡夏稅一。

【停目】100 テイモク　視ることを止める。〔謝靈運、初發入ニ南城一詩〕弄レ波不レ輟レ手、玩レ景豈停レ目。

【停落】101 テイラク　とどまりあつまる。〔鹽鐵論、授時〕田疇赤地、而停落成レ市。

【停留】102 テイリウ　とどまる。〔禮、曲禮上、君言不レ宿ニ於家一、疏〕受ニ君言一、宜ニ急去一、不レ得ニ停留宿ニ於家一也。〔韓愈、岳陽樓別ニ竇司直一詩〕盃行無ニ停留一、高柱送ニ清唱一。

【停留場】103 テイリウヂヤウ　乘合馬車・電車等が、客を昇降させる爲に停車する一定の場所。

【停留長智】104 t'ing² liu² ch'ang² chih⁴　思案する間のあること。

【停立】105 テイリツ　立ちどまる。〔吳志、華覈傳〕敕作ニ「草文一、停立待レ之。

【停旅】106 テイリヨ　旅行をとめる。〔謝惠連、西陵遇レ風獻ニ康樂一詩〕曲汜薄停レ旅、通川絕ニ行舟一。

【停輪】107 t'ing² luen²　停泊する。

【停靈】108 t'ing² ling²　出棺後、埋葬前に、或る期間、棺を寺に安置する。〔紅樓夢、十三回〕停靈七七四十九日。

【停辛佇苦】109 テイシンチヨク　辛棒強くたたずむ。艱苦に耐へる。〔李商隱、河內詩〕梔子交加香蓼繁、停辛佇苦留待レ君。

【停利歸本】110 t'ing² li⁴ kuei¹ pen³　利子を免じて元金だけを返濟させる。

【偝】865　ハイ バイ　〔集韻〕蒲昧切　隊

❶すてる。〔集韻〕偝、棄也。❷そむく。背（9−29363）・倍（1−760）に通ず。〔集韻〕背、或从レ人。〔正字通〕偝、背・倍、竝同。〔禮、坊記〕利祿先ニ死者一而後ニ生者一、則民不レ偝。〔禮、投壺〕毋ニ偝立一。〔注〕偝立、不ニ正鄕レ前也。〔禮、明堂位、天子負ニ斧依一、注〕負之言、偝也。〔釋文〕偝、本又作レ背。

【偽】866　クワ ケ　〔集韻〕古瓦切　馬

ゆくさま。倘偽。〔廣韻〕偽、倘偽、行兒。

【偞】867　㊀エフ　〔集韻〕弋涉切　葉　㊁ケフ　〔集韻〕虛涉切　ㄒㄧㄝˋ hsieh⁴　葉　㊂テフ デフ　〔集韻〕直涉切　葉

㊀❶かるい。〔集韻〕偞、輕也、一曰、疾不レ甚兒。❷みめよいさま。僷（1−1160）に同じ。〔集韻〕偞、美容兒。〔說文、偞、段注〕偞、亦作レ僷。❸或は倸（1−773）に作る。〔康熙字典〕偞、亦作レ倸。㊁❶いやしい。〔字彙〕偞、卑也。❷おす。おさへつける。〔廣韻〕偞、偞卑。〔禮、玉藻〕唯水漿不レ祭、若祭爲ニ已偞卑一。〔釋文〕偞、厭也。〔疏〕已、大也、偞、厭也、云云、若祭ニ水漿一、爲ニ大厭降卑微一、有レ所ニ畏迫一也。❸うつくしい。〔集韻〕偞、一曰、美容。❹倸（1−773）に同じ。〔正字通〕偞、與レ倸同。㊂病氣がかるいさま。〔集韻〕偞、疾不レ甚兒。

【偟】868　クワウ ワウ　〔集韻〕胡光切　ㄏㄨㄤˊ huang²　陽

❶たたずむ。さまよふ。たちもとほる。〔史記、荊軻傳〕傍偟不レ能レ去。❷いとま。遑（11−39006）・皇（8−22701）に通ず。〔爾雅、釋言〕偟、暇也。〔注〕不レ遑ニ啓處一。〔釋文〕遑、或作レ偟、通作レ皇。〔法言、君子〕忠臣孝子、偟乎不レ偟。〔注〕言ニ忠孝之人、不レ暇レ問ニ仙人無益之事一也。

【偠】869　エウ　〔集韻〕伊鳥切　ㄧㄠˇ yao³　篠

❶しなやか。たをやか。偠紹（1）・偠𠐋（2）を見よ。❷或は婹（3−6460）・㚁（3−6124）・嬈（3−6734）に作る。〔集韻〕偠、或从レ女、从レ幼、从レ堯。

【偠紹】1 エウセウ　たをやかで容姿がよい。〔集韻〕偠、偠紹、徐緩兒。〔張衡、南都賦〕偠紹便娟。〔注〕向曰、偠紹便娟、多ニ容姿一也。

【偠𠐋】2 エウデウ　樣子の美しいさま。又、體のしなやかなさま。又、腰の細いさま。蜂腰。〔玉篇〕偠、偠𠐋、細腰也。〔玉篇〕𠐋、偠𠐋、舞者𠐋レ身若レ環也。〔廣韻〕偠、偠𠐋、好兒。〔集韻〕偠、偠𠐋、美兒。

【偡】870　タン デン　〔集韻〕丈減切　豏

❶そろつてすすむ。〔集韻〕偡、齊進、謂ニ之偡一。❷ととのつたさま。偡偡。〔集韻〕偡、一曰、偡偡、齊整也。

【偢】871　セウ　〔集韻〕七肖切　ㄑㄧㄡ ch'iu¹　嘯

❶いつくしまない。傻偢。〔集韻〕偢、傻偢、不仁。❷うれへるさま。僽（1−1169）に同じ。〔篇海〕偢、與レ僽同。❸視る。とりあふ。〔西廂記、張君瑞鬧ニ道場一雜劇〕今夜凄涼有ニ四星一、他不レ偢レ人待怎生。

【偢倸】1 セウサイ　とりあふ。偢睬。〔長生殿、疑讖〕撑ニ著這醒眼兒一誰偢倸。

【偢睬】2 セウサイ　とりあふ。偢倸に同じ。〔桃花扇、閒話〕竟沒ニ人偢睬一。

【偢問】3 セウモン　見舞ふ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕衆家眷誰偢問。

【𠋫】872　コウ

候（1−775）の本字。〔正字通〕𠋫、候本字。

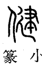
【偣】873　㊀エン　〔字彙〕衣炎切　鹽　㊁アン

㊀きよい。〔字彙〕偣、淨也。㊁婄（3−6520）に同じ。〔正字通〕偣、舊注、音淹、淨也、按、女部、婄、女志不レ淨、偣・婄、義同、訓レ淨非。

【偤】874　イウ ユ　〔集韻〕夷周切　尤

はべる。〔集韻〕偤、侍也。〔字彙〕偤、侍也、出ニ文字辨疑一。

【健】875　㊀ケン ゴン　〔集韻〕渠建切　ㄐㄧㄢˋ chien⁴　願　㊁ケン ゲン　〔字彙〕巨展切　銑


小篆

㊀❶すこやか。たけしい。つよい。〔說文〕健、伉也、从レ人建聲。〔釋名、釋言語〕健、建也、有レ所ニ能建爲一也。〔易、乾〕天行健。〔疏〕健者、強壯之名。〔易、同人〕文明以健。〔何安講疏〕健、爲ニ剛健一。〔戰國、秦策〕使者多健。〔注〕健、強

也。㊁おごる。〔韓詩外傳、四〕健、驕也。㊂むさぼる。羨(9－28503)に通ず。〔說文通訓定聲〕健、叚借爲レ羨。〔荀子、哀公〕健、貪也。㊃よく。したたか。非常に。〔白居易、偶作寄二朗之一詩〕老來多健忘、惟不レ忘二相思一。〔金史、崔立傳〕安國健啖。㊄兵士。健兒(23)の㊀を見よ。〔正字通〕健、官健。〔唐書、德宗紀〕官健虛二費衣糧一無レ所レ事。〔注〕州兵給二衣糧一者、爲二官健一。㊅姓。〔正字通〕健、姓、宋遺民健武、邯鄲人。㊀㊁かたんずる。〔字彙〕健、難也。㊂あげる。〔字彙〕健、舉也。

名乘　タケ。キヨ。タル。

【健菴】1 ケンアン　字號。㊀清、柯崙(6－14658‥37)の字。㊁清、徐乾學(4－10110‥406)の號。

【健胃】2 ケンイ　胃を健康にすること。又、胃の健康なこと。

【健胃劑】3 ケンイザイ　胃を健康にする藥劑。

【健行】4 ケンカウ　清、王恆(7－20823‥397)の字。

【健康】5 ケンカウ　すこやか。すこやかさ。今一般に身體の具合の意味にも轉用せられてゐる。

【健康診斷】6 ケンカウシンダン　からだに故障が有るか無いかを檢査する診察。

【健康保險法】7 ケンカウホケンハフ　一定の事業の被傭者の傷病・死亡・分娩に備へるための保險制度を規定した法律。

【健剛】8 ケンガウ　つよくすこやかなこと。健強。剛健(2－2042‥44)に同じ。

【健毫】9 ケンガウ　つよい筆。又、筆づかひの達者なこと。毫は筆をいふ。健筆。〔羅隱、投二宣武鄭尚書一詩〕健毫驚二綵鳳一高步出二冥鴻一。

【健黠】10 ケンカツ　すなほでなくずるい。非常にわるがしこい。〔唐書、張建封傳〕至二健黠一亦未二嘗曲一レ法假レ之。

【健氣】11 ケンキ　かひがひしいさま。殊勝。神妙。〔古今著聞集、十七〕けなげなる男。

【健彊】12 ケンキャウ　すこやか。健剛。〔蘇軾、贈張刁二老一詩〕兩邦山水未二淒涼一、二老風流總健彊。

【健腳】13 ケンキャク　長途の歩行に堪へる達者な足。

【健魚】14 ケンギョ　たけくつよい魚。〔埤雅〕鯉、神農書曰、鯉最爲二魚之主一、今人以二盤水一養レ之、雖レ困鱗不レ反白、蓋健魚也。

【健俠】15 ケンケフ　をとこ氣の多いこと。〔後漢書、董卓傳〕以二健俠一知レ名。

【健劍】16 ケンケン　銳利な劍。切味のよい劍。利劍。〔溫庭筠、懊惱曲〕莫レ言自レ古皆如レ此、健劍剸二鐘鉛繞一レ指。

【健侯】17 ケンコウ　清、喬松年(2－3990‥76)の字。

【健齋】18 ケンサイ　字號。㊀清、晉登額(12－43265‥9 1)の字。㊁清、甘京(7－21643‥39)の字。㊂清、強嶽立(4－9815‥225)の字。㊃清、白準泰(8－22678‥1333)の字。㊄井部潛の號。井部健齋(1－258‥154)を見よ。㊅津輕貞正の號。津輕儼淵(6－17396‥69)を見よ。

【健在】19 ケンザイ　ぢやうぶである。〔黃庭堅、鷓鴣夫詞〕身健在且加餐。

【健壯】20 ケンザウ　すこやかでつよい。壯健。〔韓愈、岳陽樓別二竇司直一詩〕巍峩拔二高華一、騰踔較健壯。

【健爽】21 ケンサウ　たけくて元氣なこと。又、すこやかでさわやかなこと。〔唐書、李華傳〕華文辭綿麗、少二宏傑氣一、穎士健爽自肆、時謂レ不レ及二穎士一而華自疑過レ之。

【健士】22 ケンシ　勇ましい男子。たけくつよい男子。〔越絕書、越絕請糴內傳〕天下之健士也。

【健兒】23 ケンジ　㊀元氣の壯んな男子。又、壯士。隨侍の軍卒の名。〔正字通〕健、健兒、天寶十四載、京師召二募十萬一號二天寶健兒一。〔折楊柳歌辭〕健兒須二快馬一、快馬須二健兒一。〔南史、蕭昭胄傳〕募二健兒百餘人一。〔洛陽伽藍記、四〕河間王琛、有二竝朝雲一、能二團扇歌壘上之聲一、琛爲二秦州刺史一、諸羌外叛、屢討レ之不レ降、琛、令二朝雲一假爲二貧嫗一、吹レ篪而乞、諸羌聞レ之、皆流涕、云云、秦民語曰、快馬健兒、不レ如二老嫗吹一レ篪。〔杜甫、將適二吳楚一留別章使君一詩〕健兒驅二紅旗一、此樂幾難朽。〔白居易、放二旅鴈一詩〕健兒飢餓射汝喫、拔二汝翅翎一爲二箭羽一。〔楊維楨、大健兒詩〕燉煌有二力士一、自稱二大健兒一。㊁④古、兵部省に屬し、諸國の兵庫・國府などを守衞した兵士。こんでい。〔續日本紀、十一〕天平六年四月甲寅、免二諸道健兒・儲士・選士田租幷雜徭之半一。㊆武家時代、仲間・足輕などの稱。こんでいわらは。

【健兒社】24 ケンジヤシ　健兒の團體。〔賴山陽、前兵兒謠〕人觸斬レ人、馬觸斬レ馬、十八結二交健兒社一。

【健兒所】25 ケンヂイコロ　昔、健兒の居つた所。〔太平記、十三、龍馬進奏〕在廳官人・檢非違使・健兒所等、過分の勢を高うせり。

【健疾】26 ケンシツ　すこやかですばやい。〔吳子、料敵〕材力健疾、志在レ吞レ敵者、必加二其爵列一、可二以決一レ勝。

【健者】27 ケンジャ　つよい人。〔後漢書、袁紹傳〕卓復言、劉氏種不レ足二復遺一、紹勃然曰、天下健者、豈惟董公、橫刀長揖徑出。〔杜甫、寄二薛三郎中璩一詩〕余病不レ能レ起、健者勿二邊巡一。

【健將】28 ケンシャウ　強い大將。〔唐書、李愬傳〕祐賊健將也。〔李覯、袁州州學記〕劉氏一呼而關門不レ守、而武夫健將、賣レ降恐レ後。

【健訟】29 ケンショウ　妄に訴訟をすること。裁判がすきなこと。訴訟ずき。訴訟氣狂。〔易、訟〕彖曰、訟、上剛下險、險而健訟者。〔疏〕訟、上剛下險、險而健訟者、上剛卽乾也、下險卽坎也、猶二人意懷二險惡性一、又剛健、以二訟一也。〔書言故事、獄訟類〕言二人好一レ訟、曰二健訟一。

【健勝】30 ケンショウ　すこやかで氣分がすぐれる。

【健人】31 ケンジン　つよい人。〔南史、焦度傳〕左右見二度形狀一、謂二師伯一曰、此眞健人也。

【健捷】32 ケンセフ　つよくてすばやい。〔金史、烏延蒲盧渾傳〕卿年老、尙能馳逐擊獸、健捷如レ此。

【健羨】33 ケンセン　むさぼる。他のものを羨むこと。健も羨も貪る意。欲望を逞しくすること。〔史記、太史公自序〕至二於大道之要一、去二健羨一、絀二聰明一。〔注〕集解曰、如淳曰、知レ雄守レ雌、是去レ健也、不レ見レ可レ欲、使二心不一レ亂、是去レ羨也。

【健戰】34 ケンセン　勇ましくたたかふ。〔阮籍、通易論〕健戰將升、季陰幼昧、衰而不レ勝、故兌爲二少女一。

【健全】35 ケンゼン　すこやかで、惡い所が無い。身體についても精神についてもいふ。

【健糝】36 ケンサン　夏至の日にちまきの草を足に繫いで健康を祈る行事。江蘇省吳縣の風習。〔吳郡志〕夏至復作二角黍一以祭、以二夏之草一繫二於足一而祝之、名二健糝一、云令二人健壯一。

【健卒】37 ケンソツ　壯健な兵士。つよい兵士。精兵。

【健存】38 ケンソン　丈夫である。

【健啖】39 ケンタン　よくくらふ。したたか食ふ。大食。

【健飯】40 ケンパン　〔世說新語補、輕詆上〕人問二禰正平一、荀令君・趙儉寇、皆足レ蓋二當世一乎、禰答曰、文若可二借一面弔一喪、稚長可レ使二監一廚請客、其意以二荀但有一レ貌、趙健二啖肉一也。〔癸辛雜識〕聞二卿健啖、朕欲レ作二小點心一相請一レ之。〔金史、崔立傳〕安國健啖、日飽之以レ魚。

【健談】40 chien⁴ t'an²　話好き。雄辯家。

【健男】41 ケンダン　㊀清、陸錫熊(11－41708‥358)の字。㊁マスラヲ　たけく雄々しい男子。

【健中】42 ケンチウ　清、荊道乾(9－30940‥120)の字。

【健沖】43 ケンチウ　明、張鳳翮(4－9812‥1514)の字。

【健跳】44 ケンテウ　地名。浙江省海寧縣の東南、海門衞の東北。明の洪武の時、千戶所を建て、清は戍守を置く。〔讀史方輿紀要、浙江、台州府、附見〕健跳千戶所、衞東北百十里、洪武二十年、建築城、周二里。

【健鬪】45 ケントウ　よくたたかふ。立派にたたかふ。〔後漢書、馮異傳〕諸將非レ不二健鬪一。〔唐書、王士眞傳〕趙萬敵者、故武俊將、以二健鬪一聞。〔顧瑛、釣月軒詩〕羣口誇二詩如一レ健鬪一。

【健犢】46 ケントク　すこやかな子牛。〔李賀、章和二年中詩〕健犢春耕土膏黑、菖蒲叢叢沿二水脈一。〔溫庭筠、碌碌詞〕野草自根肥、羸牛生二健犢一。

【健馬】47 ケンバ　すこやかな馬。よく走る馬。〔唐書、杜牧傳〕山東產二健馬一、下者日馳二三百里一、所以兵常當二天下一。〔蘇洵、送二石昌言爲一レ北使一引〕壯士健馬、皆匿不レ見。

【健忘】48 ケンバウ　よく物を忘れる。〔本草、百病主治藥下、健忘〕補虛、甘草、安二魂魄一、瀉レ火養二血主一健忘、云云、淫羊藿、益レ氣強レ志、老人昏耄、中年健忘、山藥、鎭二心神一、安二魂魄一、主二健忘一。〔白居易、偶作寄二朗之一詩〕老來多健忘、惟不レ忘二相思一。〔范成大、早衰詩〕僚舊姓名多健忘、家人長短總佯聾。

【健忘症】49 ケンバウシヤウ ㊀物忘れをする病氣。忘れぽいこと。㊁或る期間内の經驗を全く思ひ出せない症候。

【健飯】50 ケンパン よくくらふ。健啖(39)に同じ。〔宋史、兵志一、注〕五代以來、軍校立レ功、無レ可二門署一者、第令下與二諸校一同中其飲膳上、名二健飯都指揮使一、後惟被レ譴者居レ此。

【健否】51 ケンピ 健在なりやいなや。〔太平廣記〕王仙客至二長安一、驛令塞鴻烹レ茶、簾外無雙見レ之曰、郎健否。〔黄庭堅、次下韻仲車因二妻行父一見レ寄之詩上詩〕投レ荒萬里歸、煩レ公問二健否一。〔通俗編、境遇、健否〕許渾詩、有レ藥身常健、按、俗以三身卻二疾病一爲レ健、相問訊亦曰二健否一。

【健筆】52 ケンピツ 文字や文章の達者なこと。又、其の才能。逕筆。健毫。〔岑參、送三魏升卿擢レ第歸二東都一詩〕雄詞健筆皆如レ飛。〔杜牧、池州送二孟遲先輩一詩〕子提二健筆一來、勢若二夸父渴一。〔方干、題二盛令新亭一詩〕春物誘レ才歸二健筆一。〔元好問、密公寶章小集詩〕十三執レ經侍二帝傍一、十八健筆凌二阿房一。

【健夫】53 ケンプ ㊀強壯な男子。〔晉書、郭璞傳〕得二健夫二三十人一。㊁清、張必剛(**4**−**9812**‥1464)の字。

【健婦】54 ケンプ 強健な女。又、氣の強い女。〔古樂府、隴西行〕健婦持二門戶一、亦勝二一丈夫一。〔北史、裴延儁傳〕妻鉅鹿魏氏、恩好甚隆、不レ能二暫相離一、澤每レ從レ駕、其妻不レ宿亦至、性強立、時人以爲、健婦夫半。〔杜甫、兵車行〕縱有三健婦把二鋤犂一、禾生二隴畝一無二東西一。

〔健婦勝二丈夫一〕55 ケンプハヂヤウフニマサル 氣のつよい女は男にまさる。〔古樂府、隴西行〕健婦持二門戶一、亦勝二一丈夫一。

【健武】56 ケンブ たけくつよい。毅武。剛武。〔宋史、李光傳〕擇二其健武者一、統以二土豪一。

【健舞】57 ケンブ 唐時の舞の名。拂林・大渭州・達摩支等の類。輭(軟)舞(**10**−**38412**‥60)の對。〔文獻通考、樂考、樂舞、健舞〕唐教坊樂、垂手・羅廻・陂樂・蘭陵王・春鶯囀・半社渠・借席・烏夜啼之屬、謂二之軟舞一、遼枯枝・黄章・拂林・大渭州・達摩支之屬、謂二之健舞一、故健舞曲、有二大杆・阿連・柘枝・劍氣・胡旋・胡勝一、軟舞有二阿州・蘇合・香拙・枝團・亂旋・甘州一焉。

【健兵】58 ケンペイ 強い兵士。〔吳志、張溫傳〕夫宿惡之民、放二逸山險一、則爲二勁寇一、將置二平土一、則爲二健兵一、故溫念在レ欲下取二宿惡一以除二勁寇之害一、而增中健兵之銳上也。

【健步】59 ケンポ 步くことの達者なこと。健脚。又、飛脚をいふ。〔魏志、田豫傳、注〕魏略曰、豫罷レ官歸、居二魏縣一、會汝南遣二健步一詣二征北一、感二豫宿恩一、過拜レ之。〔韓偓、離レ家第二日卻寄二諸兄弟一詩〕千行淚激二傍人一感、一點心隨二健步一歸。

【健僕】60 ケンボク 健康で良く働く下男。達者な僕。〔司空圖、退棲詩〕得レ劍乍如レ添二健僕一、亡レ書久似レ失二良朋一。〔范成大、爆竹行〕節間汗流火力透、健僕取レ將仍疾走。

【健名】61 ケンメイ 立派な名。高い譽れ。令名。〔後漢書、烏桓傳〕祠下天地・日月・星辰・山川、及先大人有二健名一者上、祠用二牛羊一。

【健勇】62 ケンユウ すこやかで勇氣があること。〔荀子、王制〕材伎股肱健勇爪牙之士、彼將日日挫三頓竭之於仇敵一。

【健餘】63 ケンヨ 清、尹會一(**4**−**7631**‥105)の號。

〔健餘老人〕64 ケンヨラウジン 清、陳瑚(**11**−**41698**‥239)の號。

【健朗】65 ケンラウ 達者。〔紅樓夢、三十九回〕還這麼健朗、比レ我大好幾歲呢。

【健吏】66 ケンリ 手腕のある役人。〔晉書、張載傳〕設使下秦・莽修二三王之法一、時致中隆平上、則漢祖泗上之健吏、光武舂陵俠客耳。〔唐書、崔日知傳〕以二健吏一稱。〔蘇轍、北京謝二韓丞相一啓〕健吏厲精竭レ力。〔周邦彥、汴都賦〕置三舂陵之俠客與二泗上之健吏一。

【健鯉】67 ケンリ いきほひのつよい鯉。〔余靖、觀レ釣詩〕健鯉吞二香釣一、錦文紅鱍鱍。

【健令】68 ケンレイ 強い縣令。勇敢な縣令。〔後漢書、馮魴傳〕帝按二行鬬處一、知二魴力戰一、乃嘉レ之曰、此健令也。

【健銳營】69 ケンエイエイ 清代の近衛軍の名。〔清會典、健銳營〕健銳營、掌印總統大臣一人、總統大臣掌二左右翼健銳營之政命一。

【健修堂】70 ケンシウダウ 清、邊浴禮(**11**−**39216**‥204)の室名。

【健松齋】71 ケンシヨウサイ 清、方象瑛(**5**−**13620**‥543)の號。

【健身房】72 chien⁴ shen¹ fang² 體育室。

【健陀羅】73 ケンダラ 國の名。健馱羅(75)を見よ。

〔健陀羅藝術〕74 ケンダラゲイジユツ 印度佛教藝術の一つ。インダス河流域からガンダーラに亙つて西紀一世紀から三世紀の間に盛に流行す。ギリシヤ藝術の影響を受けて發達したといはれる。

【健馱羅】75 ケンダラ 國の名。Gandhāra の音譯。又、犍馱邏・健陀羅・乾陀羅・乾陀衞・乾陀とも譯す。今の印度ガンダーラ地方に在つた。〔大唐西域記、二〕健馱邏國、東西千餘里、南北八百餘里、東臨二信河一、國大都城號二布路沙布羅一。

【健馱梨】76 ケンダリ 佛 呪の名。梵語 Gandhārikā の音譯。之を持すれば能く空中に飛ぶことが出來るといふ。〔俱舍論、二十七〕有二呪術一、名二健馱梨一、持レ此便能騰レ空自在。

【健牟羅】77 ケンボウラ 城。新羅の語。〔南史、夷貊下、新羅傳〕其俗、呼レ城曰二健牟羅一。

【健林倉】78 ケンリンサウ 山の名。雲南省摩芻縣の東。〔元史、地理志四〕山嶺稠疊、內一峯竦秀、林麓四周、其頂有レ泉、昔黑爨蠻祖瓦晟吳、立レ柵居二其上一。〔讀史方輿紀要、雲南、楚雄府、南安州〕健林蒼山、州東五里、今訛爲二阿姑娘山一、山半有レ泉、昔黑爨祖瓦晟吳、立レ柵居二其上一、子孫漸盛不レ屬二他部一、至三大理時、高氏封二成楚一、始隸焉、蓋蠻酋據レ險處也。

【健御雷神】79 タケミカツチノカミ 武甕槌命。常陸國鹿島神社に祭る。

【健陀俱知】80 ケンダクチ 佛 gandha-kūṭi の音譯。健陀は香、俱知は堂。卽ち香室堂の意。轉じて、寺廟の意に用ひられる。〔毘奈耶雜事、二十六〕西方名二佛所レ住堂一爲二健陀俱知一、健陀、是香、俱知、是堂、此是香室・香臺・香殿之義。

【偀】876 トツ トチ 〔正字通〕吐骨切 月。

おごる。倨偀。〔篇海〕偀、倨偀、不遜。〔正字通〕偀、倨偀、不遜也、本借二唐突一。

【偵】877 シユ 〔玉篇〕思主切 麌。

姓。〔玉篇〕偵、姓也。

【偠】878 ベン 便(**1**−**659**)の本字。〔正字通〕偠、本字。

【偦】879 ㊀シヨ 〔集韻〕寫與切 語 ㊁シヨ 〔集韻〕新於切 魚

㊀㊀**十人のをさ。かしこいもの**。胥(**9**−**29406**)に同じ。〔集韻〕胥、什長也、有二才知一者、或从レ人。㊁**盜賊を探し捕へる**。〔周禮、秋官、士師、追胥、注〕胥、讀如二宿偦之偦一、偦謂三司二搏盜賊一也。㊂**とほる**。**とほす**。通じて揟(**5**−**12362**)に作る。〔集韻〕偦、疏也、通作レ揟。

【像】880 カイ 豫(**6**−**16525**)・瘃(**7**−**22331**)の譌字。〔字彙〕像、古無二此字一、楊升庵集中見レ之、義與レ豫同。〔正字通〕像、楊集、本作レ豫、瘃・豫、音義同、譌作レ像、非。

【偺】881 タ チヤ 〔篇海〕陟加切 麻

㊀**はる**。〔篇海〕偺、張也。㊁奓(**3**−**5920**)の俗字。〔正字通〕偺、俗奓字。

【偨】882 タク 〔集韻〕闥各切 藥

よる。侂(**1**−**576**)に同じ。〔集韻〕侂、說文、寄也、謂二依止一也、或作レ偨。

【偨】883 シ 〔正字通〕尺矢切 紙

そろはない。偨傂。〔正字通〕偨、偨傂、不レ齊也。

【偨池】1 チシ ひとしくないさま。不揃ひのさま。偨傂。柴虒。柴池。差池(**4－8732・72**)に同じ。〔司馬相如、上林賦〕偨池茈虒、旋二還乎後宮一。〔注〕善曰、張揖曰、偨池、參差也。

【偨傂】2 チシ ひとしくないさま。偨池に同じ。〔揚雄、甘泉賦〕偨傂參差、魚頡而鳥昕。〔注〕銑曰、偨傂參差、不二齊整一貌。

【傪】884 タ 〔集韻〕當何切 歌

姓。袳(**9－31198**)に同じ。〔集韻〕袳、姓也、或从レ乇。

【傞】885 ヨウ 〔集韻〕以證切 徑

㊀**にぶい**。〔玉篇〕傞、鈍也。㊁**おくる**。**つき人**。**こしもと**。倂(**1－693**)・媵(**3－6575**)に同じ。〔集韻〕倂、說文、送也、字或作二媵・傞一。

【偩】886 フウ ブ 〔集韻〕扶缶切 有 ㄈㄨˋ fu⁴

㊀**よる**。**よりかたどる**。〔禮、樂記〕禮樂偩二天地之情一。〔注〕偩、猶二依象一也。㊁**たのむ**。〔淮南子、詮言訓〕自偩而辭レ助。〔注〕自偩、自恃也。

【偩貴】1 キフ 身分の貴いことを自負する。身分の貴いことを恃みとする。〔史記、太史公自序〕栗姬偩レ貴、王氏乃遂。

【偪】887 ㊀ヒヨク ヒキ 〔集韻〕筆力切 職 ㄅㄧ pi¹ ㊁フク 〔集韻〕方六切 屋 慣フク

㊀㊀**せまる**。逼(**11－38973**)に同じ。〔集韻〕逼、迫也、或作レ偪。〔禮、雜記下〕君子上不レ僭レ上、下不レ偪レ下。㊁**腹が一杯になる**。〔方言、六〕偪、滿也、腹滿曰レ偪。㊂**むかばき**。行縢。〔禮、內則〕偪屨著レ綦。〔注〕偪、行縢。㊃**姓**。〔路史〕偪、姞姓之後、晉襄公母偪氏。㊁**國の名**。偪陽(11)の㊀を見よ。

【偪介】1 フクカイ 近くに介在して外物を隔てる。〔左氏、昭、二十〕偪介之關、暴二征其私一。〔注〕介、隔也、迫二近國都一之關。〔疏〕迫二近國都一爲レ關、以隔二邊鄙之人一。

【偪匱】2 フクキ 窮迫して乏しい。〔周禮、地官、鄉師〕凡邦事令レ作二秩敍一〔注〕事有二常次一、則不二偪匱一。〔疏〕民不レ爲二偪迫一、又不二匱乏一。

【偪近】3 フクキン 近づきせまる。〔管子、任法〕近者以二偪近親愛一、有レ求二其主一。

【偪屨】4 フクク むかばきとくつ。一說に、履物の紐を足に結びつけて行步に便すること。足ごしらへをすること。〔禮、內則〕偪屨著レ綦。〔注〕偪、行縢。〔疏〕皇氏云、屨頭施レ繫、以爲二行戒一、未レ知二然否一、或可レ著レ屨之時、屨上自有レ繫、以結二於足一也、故鄭注二士冠禮、黑屨青絇一云、絇之言、拘也、以爲二行戒一。

【偪窄】5 フクサク せまい。〔福惠全書、刑名部、問擬〕土屋數椽、偪窄倒敝。

【偪邇】6 フクジ そばに近づいてゐる。又、其の人。〔晏子、問、下〕左右偪邇、皆同二于君之心一者也。

【偪臣】7 フクシン 權力の強い臣。君にせまる佞臣。〔墨子、親士〕偪臣傷レ君。〔閒詁〕國語周語韋昭注云、偪、迫也、偪臣、謂二貴臣權重迫レ君。

【偪仄】8 フクソク せまる。又、せまりかたむく。偪側。〔張衡、西京賦〕駢田偪仄。〔杜甫、偪仄行〕偪仄何偪仄、我居二巷南一子巷北。〔蘇轍、和三子瞻二遊二南山一九首、玉女洞詩〕洞門蒼蘚合、偪仄不レ容レ身。〔楊萬里、宿潭石步詩〕垂レ頭縮レ腳正偪仄。〔范成大、望海亭賦〕悵二百年之偪仄一。

【偪促】9 フクソク せまりうながす。〔魏志、阮瑀傳、注〕太祖雅聞二瑀名一、辟レ之不レ應、連見二偪促一、乃逃入二山中一。

【偪側】10 フクソク せまる。偪仄(8)に同じ。〔司馬相如、上林賦〕澤弗宓汨、偪側泌瀄。〔注〕善曰、偪側、相逼也。

【偪陽】11 フクヤウ ㊀國の名。周の妘姓の國。故城は山東省嶧縣の南。穀梁傳は傅陽に作る。漢は此に傅陽縣を置いた。〔春秋、襄、十〕夏五月甲午、遂滅二偪陽一。〔杜注〕偪陽、妘姓之國、今彭城傅陽縣也。㊁複姓。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕偪陽氏、妘姓、祝融之孫、陸終第四子求言之後、爲二晉所レ滅、今沂州承縣有二偪陽城一。

【偫】888 チ ヂ 〔集韻〕丈里切 紙

小篆

㊀**まつ**。**支度してまつ**。〔說文〕偫、待也、从二人待一。〔段注〕謂二儲レ物以待レ用也。〔揚雄、羽獵賦〕甲車戎馬、器械儲偫。〔注〕善曰、說文曰、儲偫、待也。㊁**そなへる**。**そなはる**。〔國語、周語中〕偫二而畚挶一。〔注〕偫、具也。〔揚雄、羽獵賦〕儲積共偫。〔注〕善曰、郭舍人爾雅注曰、共、具レ物也、偫、具レ事也。㊂庤(**4－9310**)・時(**7－21837**)・畤(**7－21916**)に同じ。〔一切經音義、十二〕偫、古文庤・時・畤、三形同。㊃或は跱(**10－37529**)に作る。〔說文、偫、段注〕偫、經典或作レ跱、或作レ庤、云云、俗乃改レ从レ止爲レ从レ山、作レ峙、訓云二山立一、以附二合之一矣、釋詁云、供峙、供具也、峙在二說文一爲レ偫。〔正字通〕偫、別作二峙・跱一。

解字 會意形聲。人と待との合字。待は叉聲。人が物をたくはへて置いて使用を待つ意。故にまつ・そなへるの意とする。〔說文、偫、段注〕謂二儲レ物以待レ用、偫、經典或作レ峙、或作レ庤、云云、此舉二會意一包二形聲一也。

【偬】889 ㊀ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董 ㄗㄨㄥˇ tsung³ ㊁ソウ ス 〔集韻〕作弄切 送 ㊂ソウ ス 〔集韻〕麤叢切 東

㊀㊁㊀**くるしむ**。倥偬。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕愁倥二偬於山陸一。〔注〕倥偬、猶二困苦一也。㊁**せはしい**。**あわただしい**。倥偬。〔廣韻〕偬、倥偬。〔增韻〕偬、倥偬、不二暇給一也。㊂或は揔(**5－12349**)に作る。㊃傯(**1－1011**)の俗字。〔集韻〕偬、或从レ手。〔正字通〕偬、俗傯字。㊂**志が多い**。**思ひがみだれる**。〔集韻〕偬、志眾也。

【偭】890 ㊀ベン メン 〔集韻〕彌葥切 霰 ㄇㄧㄢˇ mien³ ㊁ベン メン 〔集韻〕彌袞切 銑

小篆

㊀㊁㊀**むかふ**。〔說文〕偭、鄉也、从レ人面聲、禮少儀曰、尊壺者偭二其鼻一。㊁**そむく**。〔正字通〕偭、背也。〔楚辭、離騷〕偭二規矩一而改錯。㊂**かなふ**。〔廣韻〕偭、一曰、偕也。㊃面(**12－42618**)に通ず。〔正字通〕偭、與レ面通。

【偭規越矩】1 メンキエツク 規矩に反する。禮法にそむく。字解㊁を見よ。

【偮】891 シフ 〔集韻〕側立切 緝

㊀人が多いさま。〔集韻〕偰、人衆皃。㊁或は偰(4－10182)に作る。〔正字通〕偰、人衆貌、亦作ㇾ偰。

【偯】892

イ　〔集韻〕隱豈切　尾
エ　ㇾ　i3

㊀なげく。なげく聲の餘音。〔廣韻〕偯、哭餘聲。〔禮、雜記下〕童子哭不ㇾ偯。〔禮、閒傳〕大功之哭、三曲而偯。〔注〕偯、聲餘從容者也。㊁痛む聲。悾(4－10773)に同じ。〔集韻〕悾、說文、痛聲也、或作ㇾ偯。〔正字通〕偯、說文作ㇾ悾、痛聲也。

【偰】893

セツ　〔集韻〕私列切　屑
セチ　ㇾ　hsieh2

小篆

淨也。㊁人名。高辛氏の子。或は契(3－5917)に作り、古は禼(8－24891)・禼(8－24890)に作る。〔說文〕偰、高辛氏之子、爲ㇾ堯司徒、殷之先也、从ㇾ人契聲。〔段注〕經傳多作ㇾ契、古亦假ㇾ禼爲ㇾ之。〔集韻〕偰、說文、高辛氏之子、堯司徒、殷之先、或省、古通作ㇾ禼、禼。㊂姓。〔萬姓統譜〕偰、見ㇾ姓苑。元偰僕斯、崑山縣尹、爲ㇾ政平恕。

【偰家】1カ　㊀池の名。江西省新建縣の西北、偰家樓の下。明の姜曰廣が殉節した所。㊁樓の名。偰家樓は、元末に、偰列簏が門を閉ぢて難に死んだので、其の樓を西北の城角に移して忠烈をあらはしたもの。明の萬曆の間、更に夕佳樓と名づけた。㊀を見よ。

【偰循】2セツジュン　朝鮮李朝、慶州の人。官は吏曹參議。著に三綱行實圖がある。〔圖書解題〕。「守ㇾ

【偰伯】3セツパク　複姓。〔單縣志〕偰伯賽選任ㇾ單州

【偰列簏】4レツチ　元、回鶻の人。字は世德。兄弟五人、俱に進士に登る。紅巾の亂起るや、妻子一門共に難に死す。偰家(二)を見よ。〔新元史、一百三十六〕。

【偱】894

シュン　〔正字通〕須倫切　眞

のべる。〔正字通〕偱、述也。

【偲】895

㊀シ　〔集韻〕新茲切　支
ム　ssu1
㊁サイ　〔集韻〕倉來切　灰

小說篆文

小篆本注

人思聲、詩曰、其人美且偲。㊁かしこい。才能がある。〔廣韻〕偲、多ㇾ才能也。〔詩、齊風、盧令〕其人美且偲。〔傳〕偲、才也。㊂ひげの多いさま。〔詩、齊風、盧令〕其人美且偲。〔集傳〕偲、多鬚之貌。㊃善を責めあふ。〔論語、子路〕朋友切切偲偲。〔集解〕馬融曰、切切偲偲、相切責之貌。㊄悴(4－10959)に同じ。〔集韻〕偲、或作ㇾ悴。㊅しのぶ。思慕する。

【偲菴】1アシ　明、楊旦(6－15112‥272)の號。

【側】897

ショク　〔集韻〕札色切　職
シキ　ㇾ　chai1
ㇾ　ts'e4
ソク

小篆

也、从ㇾ人則聲。〔廣雅、釋言〕側、旁也。〔論語、先進〕閔子侍ㇾ側。㊁かたよった。〔書、顧命〕立ㇾ于側階。㊂がは。へり。まはり。岸。〔詩、魏風、伐檀〕寘ㇾ之河之側兮。〔傳〕側、猶ㇾ厓也。〔史記、平準書〕鑄ㇾ鐘官赤側。〔注〕韋昭曰、側、邊也。㊃かたむく。〔詩、小雅、賓之初筵〕側弁之俄。〔箋〕側、傾也。㊄そばだてる。〔史記、周昌傳〕呂后側ㇾ耳于東廂ㇾ聽。㊅永字八法の一。卽ち永字の第一筆。筆鋒、右を顧みて其の勢を審かにし、險にしてそばだてるのを法とする。永字八法(6－17088‥293)を見よ。㊆ふす。〔淮南子、原道訓〕側ㇾ谿谷之間。〔注〕側、伏也。㊇ほのかに。かすかに。〔史記、賈生傳〕側聞屈原兮、自沈ㇾ汨羅。〔韓愈、修ㇾ滕王閣ㇾ記〕側聞、江南多ㇾ游觀之美。㊈ひとり。ひとつ。特(7－20013)に通ず。〔正字通〕側、與ㇾ特通。〔儀禮、聘禮〕公側襲。〔注〕側、猶ㇾ獨也。〔儀禮、士冠禮〕側尊一甒醴。〔注〕側、猶ㇾ特也、無ㇾ偶曰ㇾ側。㊉そばめる。〔詩、大雅、雲漢序〕側ㇾ身修ㇾ行。〔疏〕側者、不正之言、謂ㇾ反側ㇾ也、憂自不ㇾ安、故處ㇾ身反側。〔史記、蘇秦傳〕側ㇾ目不ㇾ敢仰視。㊊中正を失ふこと。禮に悖る行。〔莊子、列禦寇〕醉之以ㇾ酒、而觀ㇾ其側。〔釋文〕側、不正也。㊋いやしい。ひくい。〔正字通〕側、卑隘也。〔書、堯典〕明ㇾ明揚ㇾ側陋。㊌ちぢむ。〔廣雅、釋詁三〕側、縮也。㊍はかる。〔廣雅、釋詁一〕側、度也。㊎せまる。せまり滿ちる。〔釋名、釋姿容〕側、偪也。〔荀子、解蔽〕其榮滿側。〔注〕側、謂ㇾ迫側、亦充滿之義。㊏いたむ。惻(4－10869)に通ず。〔說文通訓定聲〕惻、叚借爲ㇾ側。〔楚辭、九歌、湘君〕隱ㇾ思君ㇾ兮陫側。〔平輿令薛君碑〕側ㇾ爾酸辛。㊐仄(1－352)に同じ。〔說文通訓定聲〕側、叚借爲ㇾ仄。〔正字通〕側、同ㇾ仄。㊑昃(5－13785)に通ず。〔儀禮、既夕禮記〕日側。〔注〕側、昳也、謂ㇾ將ㇾ過ㇾ中之時、與ㇾ昃同。〔後漢書、光武帝紀〕日側迺罷。㊒則(2－1994)に通ず。〔莊子、列禦寇〕醉之以ㇾ酒而觀ㇾ其側。〔釋文〕側、或作ㇾ則。㊓姓。〔路史〕楚公族有ㇾ側氏。

【側壓】1アツ　側面の壓力。

【側豔】2エン　すらりとしてうるはしい。側麗。〔舊唐書、溫庭筠傳〕逐ㇾ弦吹之音、爲ㇾ側豔之詞。

【側屋】3オク　別の家。側の建物。〔陶弘景、授ㇾ陸敬游十賚ㇾ文〕賚爾四靈飛軒、廂廊側屋、可ㇾ以安身靜臥、顯ㇾ祇遐福。

【側階】4カイ　傍階。又、北側の階段。側は特。堂の北側には、ただ東方にだけ一つあるからいふ。〔書、顧命〕立ㇾ于側階。〔蔡傳〕側階、北陛之階上也。〔禮、雜記下〕升ㇾ自ㇾ側階、君在ㇾ阼。〔孫希旦集解〕側階、北階也、側、特也、堂南東西有ㇾ階、其北惟東方有ㇾ之、故曰ㇾ側階、升ㇾ自ㇾ側階、自ㇾ東房ㇾ而出ㇾ於堂也。〔任昉、王文憲集序〕望ㇾ側階ㇾ而容ㇾ賢。

【側行】5カウ　側に避けて行くこと。謙遜の意、又は敬意を表はす。斜行。仄行。〔史記、孟子傳〕平原君側行撇席。〔注〕索隱曰、謂ㇾ側行而衣撇ㇾ席爲ㇾ敬、不ㇾ敢正坐當ㇾ賓主之禮也。

【側亨】6カウ　犧牲の片身をうけること。〔儀禮、士虞禮〕側ㇾ亨于廟門外之右ㇾ東面。〔注〕側亨、亨ㇾ一胖ㇾ也。

【側寒】7カン　うすら寒い。淺寒。〔呂聖求、詞〕側寒斜雨微燈薄霧、匆匆過了元宵。

【側巾】8キン　粗末な巾。〔說苑、敬愼〕見ㇾ道側巾幣布、擁蒙而衣ㇾ裘。

【側近】9キンク　㊀ちかい所。附近。〔舊唐書、睿宗

紀)取二側近三十戶一。〔李商隱、河陽詩〕百尺相風插二重屋一、側近嫣紅伴二柔綠一。㊁ちかづきの人。そば近くにゐる人。

【側臥】10 ㊀體を横に向けて寝ること。〔韓偓、懶起詩〕海棠花在否、側臥卷レ簾看。〔雲笈七籤〕凡人睡欲レ得、屈レ膝側臥、益二人氣力一。㊁傍にねる。

【側挂】11 ㊀かたはらにかける。〔李白、襄陽歌〕車傍側挂二壺酒一、鳳笙龍管行相催。㊁やまどりの異名。〔韻府引古今注〕鷸旦、夜鳴求レ旦之鳥、似レ雞、又名二側挂一。

【側徑】12 わき路。枝路。又、細い坂道。徑は、こみち。〔謝靈運、於二南山一往二北山一徑二湖中一瞻眺詩〕側徑既窈窕。〔岑參、赴二犍爲一經二龍閣道一詩〕側徑搏二青壁一。〔梅堯臣、鄭戩及第東歸後赴二洋州幕一詩〕亂山雲木古、側徑野泉通。

【側傾】13 かたむく。〔魏文帝、彈棊賦〕或窮困側傾、或接黨連輿。〔傅玄、鷹賦〕左看若レ側、右視如レ傾。〔張耒、和二邵事一詩〕啅雀踏レ枝飛尚梟、仰荷承レ雨側還傾。

【側穴】14 わきにある穴。〔方干、山井詩〕不レ知二側穴通一潮信一。

【側肩】15 肩をそばだてる。又、肩をすぼめる。〔史記、孟嘗君傳〕側レ肩爭レ門而入。〔韓愈、祭二河南張員外一文〕側レ肩帖レ耳、有レ舌如レ刀。

【側臉】16 ts'è³ lien³ ㊀横顔。㊁側面。

【側言】17 中正を得てゐない言説。〔書、蔡仲之命〕詳乃視聽、罔下以二側言一改中厥度上。〔蔡傳〕側言、一偏之言也。

【側戶】18 横側の戸。〔左氏、襄、二十五〕與二崔子一、自二側戶一出。

【側根】19 植物學用語。主根から不規則に側出する根。副根。支根。

【側妻】20 妾。側室。そばめ。

【側載】21 片方だけを載せる。〔儀禮、士昏禮〕特豚合升側載。〔注〕側載者、右胖載二之髀俎一、左胖載二之姑俎一、異二尊卑一。

【側殺】22 一頭の犧牲の牛を殺すこと。〔儀禮、特牲饋食禮〕立二於門外東方一、南面視二側殺一。〔注〕側殺、殺二一牲一也。

【側子】23 とりかぶとの花。烏頭に附いて上出するもの。〔本草、附子〕集解、時珍曰、宋人楊天惠著二附子記一云、云云、其初種之、小者爲二烏頭一、附二烏頭一而旁生者爲二附子一、又左右附而偶生者爲二商子一、附而長者爲二天雄一、附而尖者爲二天錐一、附而上出者爲二側子一、附而散生者爲二漏藍子一、皆脈絡連貫如二子附一母、而附子以レ貴、故專二附名一也。

【側仕】24 貴人の側近く仕へること。近侍。

【側視】25 ㊀わき見をする。あちこちを見る。〔莊子、山木〕危行側視。㊁眼をそばだてて見る。まともに見ない。

【側耳】26 耳をそばだてて聽く。〔史記、周昌傳〕呂后側二耳於東箱一聽。〔淮南子、主術訓〕側レ耳而聽。〔李陵、答二蘇武一書〕側レ耳遠聽、胡笳互動、牧馬悲鳴。

【側侍】27 ts'è³ shih⁴ 側近くにはべる。

【側楸】28 楸木で作つた碁盤。〔事始〕自レ古有レ碁、卽有二碁局一、惟側楸之制、出二齊武陵王晛一、始令下破二楸木一爲上片、從橫側排、以爲中碁局之面上。〔李洞、對棊詩〕側楸敲醒レ睡。

【側室】29 ㊀正室でない部屋。わきの室。側房。〔禮、檀弓下〕聞二遠兄弟之喪一、哭二于側室一。〔禮、內則〕妻將レ生レ子、及二月辰一居二側室一。㊁そばめ。めかけ。妾。仄室。〔漢書、南粵傳〕朕高皇帝側室之子。〔注〕師古曰、言レ非二正嫡所レ生也。〔黃憲、繼立〕寡人有レ母、結二髮于先君一、而生二寡人一。先君之側室、生二寡人伯兄一。先君曰、側室之子、雖レ長非レ嫡也。㊂嫡子に對して庶子をいふ。正室(適子)の側に在る意。仄室。眾子(8—23321‥8a)に同じ。〔左氏、桓、二〕卿置二側室一。〔注〕側室、眾子也。〔疏〕鄭玄云、正室、適子也、正室是適子、故知二側室是眾子一、言其在二適子之旁側一也。〔左氏、文、十二〕趙有二側室一、曰穿、晉君之壻也。〔注〕側室、支子也、穿、趙夙庶孫也。〔疏〕文王世子云、公若有二出疆之政一、庶子守二公宮一、正室守二大廟一、鄭玄云、正室、適子也、正室是適子、知二側室是支子一、言在二適子之側一也。〔韓非子、亡徵〕君不肖而側室賢。〔淮南子、脩務訓〕側室爭鼓レ之。〔新書、親疏危亂〕側室之勢。

【媚二側室一】30 妾にこびへつらふ。〔宋書、陸厥傳〕染二鬚髮一、欲レ以媚二側室一。〔南史、謝靈運傳〕陸展染二白髮一、欲レ以媚二側室一、青青不レ解レ久、星星還行復出。

【側廂】31 ts'è³ hsiang¹ 正面の建物を中心として、其の傍に建てた廂房。

【側酌】32 ひとりで酒を酌んで飲む。獨酌。一說、側は特で一つの飲物を飲む。卽ち醴のみで玄酒無きをいふ。側尊。〔儀禮、士冠禮〕贊者洗二于房一、側二酌醴一加二柶覆レ之、面レ葉。〔注〕側酌者、言レ無二爲レ之薦者一。〔胡培翬正義〕言レ無二爲レ之薦者一、謂レ無二人爲レ之薦一、脯醢也、鄭意以二贊者自酌自薦一爲レ側、吳氏疑義云、側、卽上文側尊側字、彼注以レ側爲レ特、謂レ無二玄酒一也、此經言二側二酌醴一、亦謂下特二酌醴一而無中玄酒上、其義甚明。

【側衆】33 ㊀天皇の側近のもの。貞享三年、議奏と改稱せらる。〔議奏歷〕貞享三年十二月八日、可レ稱二議奏一被二仰下一、是役年來年寄衆或御側衆與稱レ之。㊁武家において小姓・近習番等の近侍の臣をいふ。傍衆。㊂江戶幕府の職制の一。將軍に侍し、交番に殿中に宿直す。〔東職紀聞、一〕側衆、五人或六人、掌二扈從衆小納戶衆之事一、頗爲二昵近職一也。

【側出】34 ㊀旁に出る。又、側から出る。〔後漢書、馬融傳〕神泉側出。㊁妾腹の子。〔顏氏家訓、後娶〕河北鄙二於側出一。〔唐書、王鉷傳〕中書舍人璡、側出子也。

【側縱】35 畫の筆法の皴法の一。運筆が自由で鋒鉅氣力のあること。

【側臣】36 左右に近侍する家來。〔管子、度地〕爲二寡人一教二側臣一。

【側身】37 身をそばめ、ちぢめる。おそれ愼んで安んぜぬ樣子にいふ。〔詩、大雅、雲漢序〕遇二災而懼一、側身修レ行、欲レ鎭二去之一。〔後漢書、馬援傳〕側二身於怨家之朝一乎。〔杜篤、論都賦〕躬履二節儉一、側レ身行レ仁。〔張衡、四愁詩〕側、身東望涕霑レ翰。〔晉書、孫惠傳〕側二身昏讒之俗一、跼二蹐凶諂之間一。〔李白、蜀道難〕側レ身西望長咨嗟。〔杜甫、朱鳳行〕側レ身長顧求二其群一。

【側生】38 果物の名。荔枝。其の實が橫に派生するからいふ。〔左思、蜀都賦〕旁挺二龍目一、側生荔枝。〔丹鉛總錄〕左思蜀都賦、旁挺龍目、側生荔枝、故張九齡賦二荔枝一云、雖レ觀二上國之光一、而被二側生之誚一。〔事物異名錄、果蓏、荔枝〕黃庭堅題二貴妃齒痛圖一、豈非下多食二側生一、動中搖其左車上乎、按、側生謂二荔枝一、左思蜀都賦、荔枝側生。

【側聲】39 ㊀せまつた聲。清聲(7—17695‥4B)の對。〔陳暘樂書、琴勢論〕凡一弄之內、清側殊レ途、一句之中、莫レ不レ有二陰陽派潤一、至如下楚明光白雪寄清調中、彈二楚清聲一、易水鳳歸林寄清調中、彈二楚側聲一、登隴望秦寄胡笳調中、彈二楚側聲一、竹吟風哀松露寄胡笳中、彈二楚清聲一、若レ此之類非一一可レ謂レ妙矣。㊁ts'è³ sheng¹ 聲をかける。聲をたてる。

【側石】40 傾いた石。又、石を傾ける。〔李白、下二溧縣陵陽溪一至二澁灘一詩〕白波若レ卷レ雪、側レ石不レ容レ舡。〔釋智炫、詩〕側石傾二斜澗一。

【側席】41 ㊀一つの坐席。又、席を一つだけ設ける。喪に在る者は人と面接しないから、他の人の爲の席を設けず、己の席だけを設ける。〔禮、曲禮上〕有レ憂者側席而坐。〔注〕側、猶レ特也、憂不レ在二接人一、不レ布二他面席一。〔國語、吳語〕闔二左閭一一墳之以レ土、去レ舁側席而坐、不レ埽。〔注〕側、猶レ特也、禮、憂者側席而坐。〔漢書、原涉傳〕側席而坐。〔注〕師古曰、禮、有レ憂者、側席而坐。㊁かたより坐る。己の席を虛しくして賢者を待遇する。仄席。〔說苑、尊賢〕文公爲レ之側席而坐。〔後漢書、章帝紀〕朕思二遲直士一、側二席異聞一。〔注〕側席、謂レ不二正坐一、所レ以待二賢良一也。〔後漢書、逸民傳序〕光武側二席幽人一、求レ之若レ不レ及。〔羊祜、讓二開府一表〕側席求レ賢、不レ遺二幽賤一。

【側線】42 動物學用語。魚體の兩側の中央の各鱗にある小孔の連續して線をなすもの。水溫・波動等を感ずる。

【側足】43 足をそばだてる。㊀懼れて正しく立たないこと。〔莊子、外物〕然則厠足而墊レ之致二黃泉一、注若使二側レ足之外一、掘至二黃泉一、人則戰慄不レ得二行動一。〔後漢書、杜喬傳〕羣臣側レ足而

立。〔南史、郭祖深傳〕遠近側レ足、莫三敢縱恣一。㊀鳥獸の多いことを形容していふ。〔班固、西都賦〕毛羣內闐、飛羽上覆、接レ翼側レ足、集二禁林一而屯聚。〔注〕向曰、接レ翼側レ足、言レ多也。

【側息】44 ソクソク ㊀ひといき。須臾の間。瞬間。側は特、特は一の意。〔孔叢子、論勢〕今秦有レ兼二呑天下之志一、日夜伺レ閒、不レ忘二於側息一。㊁息をそばめる。呼吸をみだす。又、せつない息づかひ。〔晉書、李密傳〕劉氏有レ疾、則涕泣側レ息、未三嘗解レ衣。

【側側】45 ソクソク ㊀いたむさま。〔古樂歌〕側側力力、念レ君無レ極。㊁身にしみて感ずるさま。〔韓偓、寒食夜詩〕側側輕寒翦翦風。

【側尊】46 ソクソン 一つの樽。一つの樽に入れた醴だけあつて玄酒の無いことをいふ。側は特。〔儀禮、士冠禮〕側尊一甒醴、在二服北一。〔注〕側、猶レ特也、無レ偶曰レ側、置二酒曰レ尊、側者無二玄酒一。〔儀禮、士昏禮〕側尊甒醴于房中。〔注〕側尊、亦言レ無二玄酒一。〔疏〕云二側尊亦言一無二玄酒一者、醴糟例無二玄酒一、配レ之以二其醴一象二大古質一。〔禮、玉藻〕士側尊用レ禁。

【側堂】47 ダンダウ かたはらの堂。〔何晏、景福殿賦〕坐二高門之側堂一。〔注〕翰曰、坐二於門側堂上一。

【側闥】48 ソクタツ 側面にある小門。〔後漢書、何進傳〕持レ兵臨二側闥一入、伏二省中一。

【側軸】49 ダンヂク 數學用語。主軸と交る他の一つの軸。副軸。例へばグラフの横軸を主軸、縦軸を副軸または側軸といふ。

【側杖】50 ソクヂヤウ 人の喧嘩の杖に當ること。轉じて、不慮の禍にあふこと。〔傾城酒呑童子、三〕棒のそば杖。

【側注】51 ソクチウ ㊀かたはらに注ぐ。〔水經、渭水注〕吳山、古文以爲二汧山一也、山下石穴、廣四尺高七尺、水溢二石空一懸波側注。㊁本文のかたはらに書きそへた解釋。傍注。〔東觀餘論〕本皆側注。㊂ソククワン 冠の名。一に高山冠といふ。形がそばだつて先が下に垂れた冠。仄注冠。〔史記、朱建傳〕衣二儒衣一冠二側注一。〔注〕集解曰、側注冠、一名二高山冠一、齊王所レ服、以賜二謁者一。〔漢書、五行志中之上〕側注冠以賜二大臣一。〔晉書、輿服志〕高山冠、一名二側注一。〔宋書、禮志五〕謁者高山冠、本齊服也、一名二側注冠一。〔秦滅レ齊、以二其君冠一賜二謁者一。

【側重】52 ts'e⁴ chung⁴ 片一方だけを重んずる。偏重。一方面に偏重する。

【側聽】53 ダンチヤウ ㊀耳をそばだてて聽く。㋑注意してきく。〔北史、齊上洛王子元海傳〕童謠云、中興寺內白鳧翁、四方側聽聲雍雍。㋺立聞きする。〔禮、曲禮上〕毋二側聽一。〔注〕嫌二探二人之私一也、側聽、耳屬二於垣一。〔後漢書、馬嚴傳〕有下側二聽嚴言一者上。㊁傍で聞く。㊂ほのかに聞く。

【側跌】54 ソクテツ たふれる。〔易林〕踉蹌側跌、申酉爲レ祟。

【側頭】55 ソクトウ 頭をそばだてる。又、頭をかたむける。〔杜牧、郡齋獨酌詩〕三千宮女側二頭看一、相排踏碎雙明璫。〔張耒、早作詩〕老鷄睡起足攣拳、側二頭端如一聞二九天一。

【側匿】56 ソクトク ㊀おそくて進まぬさま。朝日に東方に月の見えることをいひ、君が嚴急で臣が恐懼する象とする。轉じて、おそれる、恐懼する、惡い事をして隱藏すること、陰姦のこと等の意に用ひられる。縮朒。縮縮。側慝。仄匿。〔廣雅、釋詁〕側匿、縮也。〔疏證〕說文、朔而月見二東方一、謂二之縮朒一、漢書五行志、縮朒作二仄慝一、尚書大傳、作二側匿一。〔周禮、春官、保章氏、注〕月有二盈虧朓側匿之變一。〔尚書大傳、洪範〕朔而月見二東方一、謂二之側匿一。〔注〕側匿、猶二縮縮一、行遲貌。〔漢書、五行志下之下〕劉向以爲、朓者疾也、君舒緩則臣驕慢、故日行遲而月行疾也、仄慝者、不レ進之意、君肅急則臣恐懼、故日行疾而月行遲、不二敢迫二近君一也。〔後漢書、蔡邕傳〕侯王肅、則月側匿。〔晉書、律曆志下〕著レ朓與二側匿一之說。上〔阮籍、元父賦〕其人民、側匿頗僻、隱蔽不レ公。〔宋書、天文志序〕朔而月見二東方一、謂二之側匿一、側匿、遲不二敢進一也。㊁陰險なこと。〔阮籍、元父賦〕故其人側匿頗僻。

【側慝】57 トツ 側匿に同じ。〔漢書、孔光傳〕時則有二日月亂行一、謂、朓側慝甚則薄蝕、是也。

【側入】58 ニフ ㊀旁から入る。又、側に入る。〔北史、陽固傳〕番番緝緝、讒言側入、君子好レ讒、如二或弗一レ及。㊁身をかがめてはひる。〔管子、法禁〕側入迎遠。

【側房】59 ソクバウ ㊀側室。横手のへや。わきべや。㊁ts'e⁴ fang² 妾。めかけ。偏房。

【側傍】60 ソクバウ かたはら。〔雲笈七籤〕如二戶當二側傍一。

【側帽】61 ソクバウ 帽子をかたむける。〔北史、獨孤信傳〕信在二秦州一、嘗因レ獵日暮、馳馬入レ城、其帽微側、詰旦而吏人有二戴レ帽者一、咸慕レ信而側レ帽焉、其爲二隣境及士庶所一レ重如レ此。〔范成大、清明日狸渡道中詩〕灑灑沾レ巾雨、披披側レ帽風。〔陸游、早行詩〕憑レ鞍尋二斷夢一、側レ帽受二微涼一。

【側柏】62 ソクハク 樹の名。このてがしは。檜の一種。汁柏。〔埤雅〕柏有二數種一、入レ藥惟取二葉扁而側生者一、故曰二側柏一。〔本草、柏〕釋名、槐、側柏。『側柏葉』63 ソクハクヨウ このてがしはの葉。藥用となる。側柏を見よ。

【側犯】64 ソクハン 詞牌の名。〔詞譜〕。

【側媚】65 ソクビ よこしまな事をしてへつらふ。〔書、冏命〕無レ以二巧言令色、便辟側媚一。〔疏〕側媚者、爲二僻側之事一、以求二媚於君一、媚、愛也。〔南史、孔範傳〕瑗・儀、並琅邪人、瑗刻薄貪鄙、忌二害才能一、儀候二意承一レ顏、傾巧側媚。〔唐書、張仲方傳〕吉甫雖二多才多藝一、而側媚取レ容。

【側微】66 ソクビ 低くいやしい。又、いやしい身分。側陋(85)の㊀に同じ。〔書、舜典序〕虞舜側微、堯聞二之聰明一。〔傳〕爲二庶人一、故微賤。〔史記、太史公自序〕尚父側微、卒歸二西伯一。

【側筆】67 ソクヒツ 筆を少し斜にして書く。〔山谷題跋〕側レ筆取レ妍、往往工左、尚病右。

【側腹】68 ソクフク ㊀わきばら。横腹。〔太平記、七、吉野城軍事〕左の脇より右のそば腹まで。㊁妾腹。妾の子。

【側聞】69 ソクブン ㊀傍できく。〔列子、天瑞〕夫子嘗語二伯昏瞀人一、吾側聞之。㊁うはさにきく。ほのかにきく。仄聞。〔丘遲、答二徐侍中爲一人贈レ婦詩〕側聞洛陽客、金蓋翼二高車一。〔韓愈、與二于襄陽一書〕側聞、閣下抱二不世出之才一。

【側僻】70 ソクヘキ ㊀いやしい。〔陸龜蒙、陋巷銘〕鄙委側僻、樞レ桑覆レ茨。㊁正直でないこと。まがりひがむこと。〔石介、慶曆聖德詩〕惟正直毋レ作二側僻一。

【側邊】71 ソクヘン 近傍。かたはら。へり。

【側弁】72 ソクベン 冠を傾ける。禮を失ふことをいふ。〔詩、小雅、賓之初筵〕側レ弁之俄、屢舞傞傞。〔箋〕側、傾也。〔疏〕傾二其弁一、使二之俄然一、數起舞一、傞然又不レ能レ止。〔中鑒、雜言上〕君子有二三鑒一、世人鏡鑒、前惟順、人惟賢、鏡惟明、夏商之衰、不レ鑒二于禹湯一也、周秦之弊、不レ鑒二于民下一也、側レ弁垢レ顏、不レ鑒二于明鏡一也、故君子惟鑒之務、若二夫側景之鏡一、匕鑒矣。〔耿湋、題二清蘿翁雙泉一詩〕側レ弁向二清漪一、門中夕照移。

【側脈】73 ミヤク 植物學用語。葉の主脈から分派した脈。支脈。

【側面】74 ソクメン ㊀よこがほ。〔王建、同二于汝錫一賞二白牡丹一詩〕側面紫重稜。㊁面を横に向ける。〔宋史、劉筠傳〕殊側面而過、不二敢揖一。

【側面觀】75 ソクメンクワン 側面からの觀察。

【側面攻擊】76 ソクメンコウゲキ 側面から攻めること。

【側目】77 ソクモク ㊀めをそばだてる。㋑伏目になつて正視せぬこと。畏れ或は痛みなどして、まともに見ないこと。〔史記、蘇秦傳〕側レ目不二敢仰視一。〔魏書、劉潔傳〕阿附者登進、忤恨者黜免、內外憚レ之、側レ目而見。〔宋史、顧臨傳〕側レ目畏憚、忽去二朝廷一。㋺にくみ視る。にくんで横目で見る。又、ねたみ視る。ねたんで横目で見る。嫉視。〔漢書、劉向傳〕侍中諸曹、皆側レ目於二望之等一。〔歷代名畫記〕見二姪夫妬婦一、莫レ不二側目一。㊁ソクバ 傍に居つて見ること。

【側門】78 モン くぐり門。小門。〔資治通鑑、唐紀〕〔中宗、神龍二年〕屬履出二側門一。〔注〕側門、非二正出之門一。程大昌曰、唐大明宮朝堂外左、右金吾仗之側、有下曰二側門一者上、以二其在一端門旁側一也、以二長安大明宮之側門一推レ之、則洛陽宮之側門、從可レ知也。

【側理】79 リ 紙の一種。海苔をすいたもの。其のすぢ目が縦横斜側にあるから名づける。〔拾遺記、晉時事〕側理紙萬番、此南越所レ獻、後人言二陟里一、與二側理一相亂、南人以二海苔一爲レ紙、其理縱橫邪側、因以爲レ名。〔太平廣記、器玩、張華〕晉張華撰二博物志一、秦二武帝一云云、側理紙萬番、

南越所レ獻也、漢言二陟釐一、南人以二海苔一爲レ紙、其理縱横斜側、因爲レ名焉。

【側立】80 ソクリツ 傍に立つ。又、尊敬・謙遜の意を示す爲に端によつて立つこと。〔魏書、房景先傳〕側立移レ時。〔北史、楊愔傳〕太皇太后臨二昭陽殿一、太后及レ帝側立。〔宋史、孝宗紀一〕側立不レ坐。

【側笠】81 ソクリフ かさをかたむける。〔清珙、詩〕自耕復自種、側レ笠披二青蓑一。

【側稜】82 ソクレイ chai¹ lêng ❶傾斜。❷側面のかど。

【側聆】83 ソクレイ ひそかにきくこと。〔溫庭筠、謝二存問一啓〕前日某官、委訪二窮居一、曲傳二芳訊一、側聆二尊旨一、跪聽二玉音一。

【側麗】84 ソクレイ すらりとして美しい。側豔。〔南史、袁彖傳〕爲二文惠太子一作二楊畔歌一、辭甚側麗。

【側陋】85 ソクロウ ❶身分がいやしい。又、微賤の人。側微。仄陋。〔書、堯典〕明レ明揚二側陋一。〔傳〕明擧下明人在二側陋一者上、廣求レ賢也。〔蔡傳〕側陋、微賤之人也。〔漢書、元帝紀〕招二顯側陋一。〔淮南子、泰族訓〕令三四岳揚二側陋一。〔張衡、東京賦〕招二有道於側陋一。❷かたよりせまい。又、其の所。〔晉書、左貴嬪傳〕生二蓬戶之側陋一矣。

【側金盤】86 ソクキンバン 草の名。秋葵(8－24940・・73)の異名。〔羣芳譜〕秋葵、一名側金盤。

【側頗僻】87 ソクハヘキ 公平正直でないこと。側は不直、頗は不平、僻は不公。〔書、洪範〕人用側頗僻。〔蔡傳〕頗、不平也、僻、不公也。

【側用人】88 ソバヨウニン 德川幕府の職名。將軍に侍して、老中の言を取次ぎ、可否を言上する役。〔日本外史、德川氏正記、德川氏五〕忠勝自二扈從一爲二側用人一。

【側輪車】89 ソクリンシヤ 車輪の間のせまい車。〔竇鞏、悼二妓東東一詩〕惟有二側輪車一上レ驛、耳邊常似レ叫二東東一。

【側金盞花】90 ソクキンサンクワ 草の名。ふくじゆさう。黃蜀葵(12－47926・・1169)の異名。〔桂海虞衡志、志花〕側金盞花、如二小黃葵一、葉似レ槿、歲暮開、與レ梅同レ時。

【偵】898

㊀テイ チヤウ 〔集韻〕癡貞切 ㄓㄣ chen¹ 庚
㊁テイ チヤウ 〔集韻〕丑正切 敬
㊂タウ チヤウ 〔集韻〕豬孟切 敬

小篆

㊀㊁㊂❶とふ。〔說文新附〕偵、問也、从レ人貞聲。❷さぐりうかがふ。〔廣韻〕偵、偵候。〔正字通〕偵、探伺也。〔後漢書、淸河孝王傳〕內使三御者偵二伺得失一。❸まはしもの。閒諜。〔正字通〕偵、杜預左傳注、諜者曰二游偵一、亦謂二之閒諜一。❹俚(1－1200)に通ず。〔鶡冠子、王鐵〕俚諜足二以相止一。〔注〕俚、偵同。❺貞(10－36658)に同じ。〔集韻〕貞、說文、卜問也、一曰、正也、或作レ偵。

【偵騎】1 テイキ 敵情をさぐりうかがふ騎兵。斥候の騎兵。候騎。

【偵候】2 テイコウ 様子をさぐる。又、其の人。偵諜。偵伺。斥候。〔後漢書、任延傳〕止二罷偵候戍卒一。〔郭璞、南郊賦〕矯二陵鳥一以偵候兮。

【偵査】3 テイサ 法律用語。犯罪事實を偵察調査して證據を收集し、起訴すべきか否かを斷定すること。

【偵察】4 テイサツ 様子を探り見る。又、其の人。斥候。〔後漢書、烏桓傳〕因徙二烏桓於上谷・漁陽・右北平・遼西・遼東五郡塞外一、爲レ漢偵二察匈奴動靜一。

【偵察機】5 テイサツキ 偵察用軍用飛行機。

【偵伺】6 テイシ うかがひさぐる。探偵。偵候。〔後漢書、淸河孝王傳〕外令三兄弟求二其纖過一、內使三御者偵二伺得失一。

【偵視】7 テイシ うかがひみる。〔後漢書、鮮卑傳〕前道險阻、賊勢難レ量、宜四且結レ營、先令三輕騎偵二視之一。〔吳志、太史慈傳〕使三慈偵二視輕重一。

【偵人】8 テイジン ❶閒者。諜者。まはしもの。❷斥候。見張番。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕問二偵人一曰、敵安レ之。

【偵探】9 テイタン ❶うかがひさぐる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、緝捕〕預爲二偵探一。❷chen¹ t'an⁴ ㋑斥候。㋺探偵。諜者。スパイ。

【偵探小說】10 テイタンセウセツ 神祕迷惘の事項を探査することを題材とした物語。探偵小說。

【偵知】11 テイチ 探り知る。伺ひ知る。〔六部成語、刑部、偵知、注解〕探訪而知也。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏中〕三成偵知以告。

【偵諜】12 テイテフ 様子をさぐる。又、其の人。斥候。偵候。偵邏。〔晉書、石勒載記下〕晝夜不レ絕二偵諜一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕偵諜不二敢東窺一。

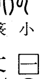
【偵羅】13 テイラ 巡察する。又、其の人。偵邏に同じ。〔後漢書、南匈奴傳〕爲二郡縣偵羅耳目一。〔注〕猶三今言二探候偵羅一也。

【偵邏】14 テイラ 見まはつて様子をさぐる。巡察する。又、其の人。偵羅。偵諜。〔晉書、戴洋傳〕宜二遠偵邏一。

【偵吏】15 テイリ 探偵を職とする役人。めあかし。

【偶】899

㊀ゴウ グ 〔集韻〕語口切 ㄡˇ ou³ 有
㊁ゴウ グ 〔集韻〕牛遘切 宥
㊂グウ 慣


小篆

㊀❶ひとがた。でく。人形。〔說文〕偶、桐人也、从レ人禺聲。〔史記、孟嘗君傳〕見三木偶人與二土偶人一。❷ちやう。二でわりきれる數。偶數。〔正字通〕偶、凡數雙曰レ偶、隻曰レ奇。〔禮、郊特牲〕鼎俎奇、而籩豆偶、陰陽之義也。❸ならぶ。そろふ。耦(9－28952)に通ず。〔說文通訓定聲〕偶、假借爲レ耦。〔集韻〕偶、一曰、儷也、通作レ耦。〔禮、曲禮上〕偶坐不レ辭。〔釋文〕偶、配也。❹たぐひ。㋑ともがら。なかま。〔正字通〕偶、儕輩亦曰レ偶。〔漢書、黥布傳〕率二其曹偶一、亡之二江中一。〔注〕索隱曰、偶、類也。㋺つま。つれあひ。夫妻。〔字彙〕偶、伉儷也。〔北史、劉延明傳〕始選二良偶一。❺あふ。あはせる。〔爾雅、釋詁〕偶、合也。❻かなふ。〔列子、力命〕多偶。〔釋文〕偶、諧也。❼たまたま。たまさか。思ひもよらず。たまたま出あふ。遇(11－38991)に通ず。〔說文通訓定聲〕偶、叚借爲レ遇、與二山巨源一絕レ交書、偶與二足下一相知耳、注、謂三偶然非二本志一也。〔列子、楊朱〕鄭國之治、偶耳、非二子之功一也。❽あまねし。周(2－3441)に通ず。〔淮南子、說林訓〕聖人之偶レ物也。〔注〕偶、猶レ周也。❾姓。〔正字通〕偶、姓。〔蘇州府志〕偶桓、字武孟、太倉州人、嘗以レ詩謁二倪瓚一、倪瓚稱レ之。㊂たまたまあふ。㊀の❼に同じ。〔集韻〕偶、不レ期會也。

名乘 マス。

【偶詠】1 グウエイ ふと詠んだ詩や歌。偶吟。

【偶影】2 グウエイ 影とならぶ。獨居するをいふ。孤獨。〔陸機、演連珠〕臣聞、遁世之士、非レ受二匏瓜之性一、幽居之女、非レ無二懷レ春之情一、是以名勝レ欲、故偶レ影之操矜、窮愈レ達、故凌レ霄之節厲。〔注〕翰曰、此章明下遁世不レ仕、非レ樂二幽隱一、貞烈女豈樂二獨居一、知二時不一レ可レ仕、知中欲不上レ勝レ名也、言、隱者豈性如二匏瓜一、繫在二一處一、貞女豈不レ知レ懷レ春而好レ偶レ影、以二時不一レ可レ動、故厲レ節、不レ可レ違、故執レ操也。〔北史、盧思道傳〕鍛二翮牆陰一、偶レ影獨立。〔陶潛、時運詩序〕春服既成、景物斯和、偶レ影獨游、欣慨交レ心。

【偶園】3 グウエン 字號。❶清、金安清(11－40152・・1182)の號。❷清、熊方受(7－19294・・168)の號。

【偶翁】4 グウヲウ 清、費丹旭(10－36717・・100)の號。

【偶合】5 グウガフ ❶ふと合ふ。偶然に出合ふ。又、偶然に一致する。〔史記、范雎・蔡澤傳贊〕士亦有二偶合一。〔論衡、逢遇〕人臣所レ進無レ豫、遇合爲レ是。❷ou³ ho² 結びつく。對が出來る。結婚が成立する。

【偶感】6 グウカン ふと起つたかんがへ。偶然に發した感想。〔西鄉南洲、偶感詩〕幾歷辛酸志始堅、丈夫玉碎恥甎全。

【偶鰭】7 グウキ 魚類の相對してゐる鰭。胸鰭・腹鰭などの類。

【偶戲】8 ou³ hsi⁴ 人形芝居。傀儡。

【偶吟】9 グウギン ふと出來た詩歌。偶成の詩歌。偶詠。偶作。

【偶遇】10 グウグウ ふと出遇ふ。〔陸游、春日雜興詩〕今朝偶遇村夫子、借得齊民一卷書。

【偶會】11 グウクワイ ㊀たまたまあふ。偶然に出會ふ。〔論衡、遭虎〕天道偶會。㊁論衡の篇名。

【偶桓】12 グウクワン 明、太倉の人。字は武孟。號は海翁。一目の眇なるに因り、又自ら瞎牛と號す。洪武中、荊門州吏目となる。書室を江雨軒といふ。著に乾坤清氣集がある。〔皇明詞林人物考、三〕・〔明人小傳、一〕・〔續吳先賢讚、九〕・〔明詩綜、十九上〕・〔明詩紀事、乙、十四〕。

【偶憩】13 グウケイ たまたまやすむ。〔劉孝綽、酬陸長史倕詩〕時過馬鳴院、偶憩鹿園閣。

【偶見】14 グウケン 偶然に見る。たまたま眼にふれる。〔蘇軾、巫山詩〕老人那解讀、偶見不能記。

【偶語】15 グウゴ むかひ合つてかたる。話し合ふ。對語。〔史記、秦始皇紀〕有敢偶語詩書者棄市。〔史記、高祖紀〕誹謗者族、偶語者棄市。〔漢書、張良傳〕往往數人偶語。

【偶婚】16 グウコン 古代社會に行はれた一種の一夫一婦制の結婚形式。法律的又は道德的の根據なく、放肆不安定で持續性がない。 對偶婚。

【偶𥈭】17 グウサ 相見る。他人と交はり相見る。〔淮南子、原道訓〕所謂人者、偶𥈭智故、曲巧僞詐、所以俛仰於世人而與俗交者也。

【偶坐】18 グウザ むかひ合つてすわる。耦坐。對坐。又、さしむかひに坐る相手の人。〔禮、曲禮上〕御同於長者、雖貳不辭、偶坐不辭。〔顏延之、夏夜呈從兄散騎車長沙詩〕獨靜闕偶坐、臨堂對星分。〔賀知章、題袁氏別業詩〕主人不相識、偶坐爲林泉。

【偶像】19 グウザウ ㊀木石や金屬などで作つた像。〔太平御覽、人事部〕偶像。㊁信仰、または盲信の對象となつてゐるもの。

【偶像教】20 グウザウケウ 偶像を宗教的主體として崇拜する宗教。

【偶像土器】21 グウザウドキ 古、殉死禁止後、墓邊に埋めた土製の人形。埴輪。

【偶像破壞】22 グウザウハクワイ Iconoclasm の譯。啓蒙時代以後に特に盛になつた傾向で、一般に偶像乃至傳統を批判し破壞すること。

【偶作】23 グウサク 偶然に作る。又、其の作品。詩などにいふ。偶吟。偶詠。〔方干、偶作詩〕若於巖洞求倫類、今古疎愚似我多。

【偶刺】24 グウシ さしちがへる。耦刺(9－28952・・10)に同じ。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕其二人、偶刺殺之。

【偶視】25 グウシ さしむかひでみる。互に目を見合せる。〔荀子、脩身〕偶視而先俯、非恐懼也。〔孔叢子、論勢〕偶視而俱走也。

【偶爾】26 グウジ ㊀偶然に。たまたま。だしぬけに。忽ち。〔爾雅、釋言、遇偶也、注〕偶爾相值遇。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕夫妻偶爾角口、與妯娌街鄰爭詈。㊁たまに。

【偶失】27 グウシツ 偶然の過失。

【偶日】28 グウジツ 偶數の日。丁の日。奇日(3－5892・・155)の對。

【偶處】29 グウショ 一緒に居る。そろつてをる。同棲する。〔春秋繁露、求雨〕使吏民夫婦皆偶處。

【偶人】30 グウジン 土や木で造つた人形。偶人形。でく。〔六韜、虎韜、壘虛〕必知敵詐而爲偶人也。〔史記、殷紀〕爲偶人謂之天神。〔漢書、江充傳〕充將胡巫掘地求偶人。〔淮南子、謬稱訓〕魯以偶人葬、而孔子歎。〔論衡、自然〕偶人千萬、不名爲人者何也。

【偶人形】31 グウニンギヤウ でく。偶人に同じ。〔後漢書、馬援傳〕修飾邊幅、如偶人形。

【偶人劇】32 グウジンゲキ 人形芝居。あやつり人形。

【偶數】33 グウスウ 二でわりきれる數。丁の數。奇數(3－5892・・181)の對。〔白虎通、嫁娶〕陽數奇、陰數偶。〔九天元女青囊海角經、偶數〕二四六八十爲陰、地數六倍、十二地支。

【偶成】34 グウセイ 思ひがけなく出來る。偶然に成る。又、其の作品。偶作。〔魏王別錄〕韓魏公曰、某生平仗孤忠、每遇大事、以死自處、幸而不死、事皆偶成、實天扶持、非人能也。〔倪瓚、偶成詩〕紫燕低飛不動塵、黃鸝嬌小未勝春。

【偶性】35 グウセイ 本來有るものでなくて、偶然に生じた性狀。

【偶然】36 グウゼン たまたま。思ひもよらず。ゆくりなく。ふと。〔列子、黃帝〕范氏之黨、以爲偶然。〔後漢書、劉昆傳〕對曰、偶然耳。〔論衡、寒溫〕其實偶然。〔王維、終南別業詩〕偶然值林叟、談笑滯還期。〔鄭谷、江際詩〕那堪流落逢搖落、可得潸然是偶然。

【偶然論】37 グウゼンロン 哲學上、世界の生成も發展もすべて偶然に行はれるものであると言ふ說。

【偶然變異】38 グウゼンヘンイ 生物學用語。親及び祖先になかつた形質が、子孫に突然現はれる現象。突然變異。

【偶然發生說】39 グウゼンハツセイセツ 生物學上の幼稚な時代の謬見で、無生物から生物が生じ、甲生物から乙生物が變生するといふ說。

【偶僧】40 グウソウ 清、沈雄(6－17189・・379)の字。

【偶對】41 グウタイ ㊀對句。排隅。對隅。〔顏氏家訓、文章〕章句偶對。〔舊唐書、韓愈傳〕自魏晉已還、爲文者、多拘偶對。㊁たまたま相對す。偶然に同坐する。〔蘇軾、和孔君亮郎中見贈詩〕偶對先生盡一樽、醉看萬物洶崩奔。

【偶題】42 グウダイ たまたま題する。偶然に作る。詩などにいふ。題は書きつける意。偶作(23)・偶成(34)に同じ。〔秦觀、春日偶題呈上尚書丈夫詩〕三年京國鬢如絲、又見新花發枯枝。

【偶值】43 グウチ 丁度云云に會ふ。〔例〕偶值他出。

【偶適】44 グウテキ 偶然に適合する。〔論衡、幸偶〕蒸穀爲飯、釀飯爲酒、酒之成也、甘苦異味、飯之熟也、剛柔殊和、非庖廚酒人有意異也、手指之調、有偶適也。

【偶拈】45 ou³ nien² 氣の向くままに書く。偶筆(51)に同じ。

【偶配】46 グウハイ つれあひ。匹耦。配偶(11－39771・・16)に同じ。

【偶舫】47 グウバウ 二艘對の舟。もやひ舟。〔唐書、東夷、高麗傳〕越州都督、治大艎偶舫以待。

【偶發】48 グウハツ ふとおこる。偶然に發生する。

【偶汎】49 グウハン たまたま浮ぶ。偶然に舟に乘る。〔薛能、海棠詩〕偶汎因沈硯、閑飄欲亂碁。

【偶匹】50 グウヒツ つれあひ。夫婦。配偶。

【偶筆】51 グウヒツ 氣の向くままに筆を執つて綴つた文。隨筆。〔陳維崧、筠廊偶筆序〕今觀宋子是書、綴萬物之源流、貫三才之同異、稱名邇而寄意遠、是書也、而詎偶然乎、嗛爲偶筆、其猶宋子之謙辭也。

【偶物】52 グウブツ 萬物にあまねく行き渡る。〔淮南子、說林訓〕聖人之偶物也、若以鏡視形。〔注〕偶、猶周也。

【偶力】53 グウリヨク 物理學用語。大きさが等しく、作用の方向が平行で、方向が相反する二つの力。物體を二本の指にはさんで轉回を與へようとする時に、我々が物體に及ぼす力の如きもの。

【偶或】54 ou³ huo⁴ 或は。事によると。

【偶更堂】55 グウカウダウ 清、徐作肅(4－10110・・431)の室名。

【偶蹄類】56 グウテイルイ 動物學用語。四肢ともに中央の二蹄は發達してゐるが、兩側のものは小さくて地に接せぬか、或は全く之を缺いてゐるもの。牛・鹿の類。

【偶儡子】57 ou² lei³ tzŭ 偶像。人形。

【偶諧道人】58 グウカイダウジン 清、王時敏(7－20823・・1614)の號。

【偶存草堂】59 グウソンサウダウ 清、林之蒨(6－14551・・338)の室名。

【求偶鳴兮】60 グウヲモトメテナク つれあひを探し求めて鳴く。〔馬融、長笛賦〕山鷄晨羣、野雉朝雊、求偶鳴兮、悲號長嘯。

【[亻致]】900

チ 〔集韻〕陟利切 寘

あはせる。**あつめる**。〔方言、一〕抵・[亻致]、會也、雍梁之閒曰抵、秦晉亦曰抵、凡會物謂之[亻致]。〔玉篇〕[亻致]、會物也。

【偸】901

トウ 〔集韻〕他侯切 尤 ㄊㄡ t'ou¹

ツ

慣チユウ

❶かりそめ。なほざり。或は愉(4－10905)に作る。〔集韻〕偷、苟且也、或从レ心。〔禮、表記〕安肆日偷。〔注〕偷、苟且也。❷うすい。かるい。まじめでない。〔爾雅、釋言〕偷、佻也。〔論語、泰伯〕故舊不レ遺、則民不レ偷。〔皇疏〕偷、薄也。❸ぬすむ。ぬすみ。〔廣韻〕偷、盜也。〔管子、形勢〕偷二得利一而後有レ害。〔淮南子、道應訓〕有二善爲一レ偷者一。〔後漢書、陳元傳〕操二國柄一、以偷二天下一。〔注〕偷、竊也。❹とる。〔淮南子、說林訓〕偷二肥其體一。〔注〕偷、取也。❺ならぶ。たぐひ。〔老子、四十一〕建レ德若レ偷。〔注〕偷、匹也。❻𪜈(3－6469)に同じ。〔說文〕𪜈、巧黠也。〔段注〕按、偷盜字、當レ作二此𪜈一。❼閑一時の安樂を貪る。

【偷安】1 ㄊㄡ ㄢ 一時のやすきを盜む。一時のがれをする。姑息の安樂を貪る。〔史記、秦始皇紀〕偷二安日月一。〔新書、數寧〕夫抱レ火措二之積薪之下一而寢二其上一、火未レ及レ燃、因謂二之安一、偷安者也。〔張衡、東京賦〕偷二安天位一。〔魏志、傅嘏傳〕偷二安新惠一。〔鍾會、移レ蜀檄〕偷二安旦夕一、迷而不レ反。〔六部成語、吏部、偷安、注解〕只求二安閒一、不レ理二公事一曰二偷安一。

【偷案】2 tʻou¹ an⁴ 竊盜事件。

【偷壹】3 ㄊㄡ ㄧˊ 本心からでなく、かりそめに一致する。〔管子、權修〕使二民偷壹一、則百姓疾怨。〔纂詁〕偷、苟也、壹、與二下文一不レ能レ壹民之壹一同、合也、偷壹、謂レ使二苟合於己一、言レ不二心服一。

【偷運】4 tʻou¹ yün⁴ そつと運ぶ。密輸出入する。

【偷榮】5 ㄊㄡ ㄖㄨㄥˊ 榮譽をぬすむ。〔吳志、張昭傳〕若乃變レ心易レ慮、以偷二榮取一レ容、此臣所レ不レ能也。〔陳琳、爲二袁紹一上二漢帝一書〕滑二泥揚一波、偷二榮求一レ利。〔庾亮、讓二中書令一表〕偷二榮味一レ進、日爾一日。〔注〕向曰、言我竊冒二榮祿一、日復一日。

【偷營】6 ㄊㄡ ㄧㄥˊ ❶いとなみをなほざりにする。生計を營むことを怠る。〔商子、農戰〕作レ壹則民不二偷營一。❷tʻou¹ yingˊ 不意に敵の陣地を襲撃する。

【偷巧】7 ㄊㄡ ㄑㄧㄠˇ いつはり飾る。〔元稹、戒二勵風俗一詔〕末俗偷巧、內荏外剛。

【偷幸】8 ㄊㄡ ㄒㄧㄥˋ 一時の幸福をむさぼる。〔韓非子、難二一〕夫賞無レ功、則民偷幸而望二於上一、不レ誅レ過、則民不レ懲而易レ爲レ非、此亂之本也、安可二以雪一恥哉。〔管子、權修〕有二無レ積而徒食者一、則民偷幸。

【偷香】9 ㄊㄡ ㄒㄧㄤ ❶香をぬすむ。男女の私通をいふ。晉の賈充の女が香を盜み韓壽に贈つて情を通じた故事。〔晉書、賈充傳〕謐、字長深、母賈午、充少女也、父韓壽、字德眞、南陽堵陽人、魏司徒暨曾孫、美二姿貌一善二容止一、賈充辟爲二司空掾一、充每レ讌二賓寮一、其女輒於二青璅中一窺レ之、見レ壽而悅焉。間下其左右識二此人一不上、有二一婢一、說二壽姓字一云、是故主人、女大感、想發二於寤寐一、婢後往二壽家一、具說二女意一、并言二其女光麗豔逸、端美絕倫一、壽聞而心動、便令二爲通一殷勤、婢以白レ女、女遂潛修二音好一、厚相贈結、呼レ壽夕入、壽勁捷過レ人、踰二垣而至一、家中莫レ知、惟充覺二其女悅暢一、異二於常日一、時西域有二貢一奇香一、一著レ人則經レ月不レ歇、帝甚貴レ之、惟以賜二充及大司馬陳騫一、其女密盜以遺レ壽、充寮屬與二壽燕處一、聞二其芬馥一、稱二之於充一、自レ是充意知二女與一壽通一、而其門閤嚴峻、不レ知二所一由得レ入、乃夜中踰レ牆以觀二其變一、左右白曰、無二餘異一、惟東北角如二狐狸行處一、充乃考二問女之左右一、具以レ狀對、充祕レ之、遂以二女妻一壽。〔楊億、無題詩〕應知韓掾偷二香夜一。❷ひそかにかほりをかぐ。僧の嚴律を守る者は、池を過ぎて荷の香を嗅いだだけでも偷戒を犯したものとしたといふ。〔指月錄〕掩レ鼻偷二香、空招二罪犯一。

【偷香手】10 ㄊㄡ ㄒㄧㄤ ㄕㄡˇ 女を得る手だて。〔燕子箋、拾箋〕春閨刻レ日青錢選、把二偷香手一好生磨鍊。

【偷香竊玉】11 tʻou¹ hsiang¹ chʻieh⁴ yü⁴ 女を手に入れることをいふ。偷香を見よ。〔紅樓夢、一回〕不過偷香竊玉、暗約私奔而已。

【偷學】12 tou¹ hsüehˊ 學校をずるけること。さぼる。

【偷合】13 ㄊㄡ ㄏㄜˊ 迎合する。ばつをあはせる。〔楚辭、賈誼、惜誓〕俗流從而不レ止兮、衆枉聚而矯レ直、或偷合而苟進兮、或隱居而深藏。

【偷合苟同】14 ㄊㄡ ㄏㄜˊ ㄍㄡˇ ㄊㄨㄥˊ 他人に迎合する。〔韓詩外傳、四〕不レ恤二乎公道之達義一、偷合苟同、以持二祿養一交者、是謂二國賊一也。

【偷合苟容】15 ㄊㄡ ㄏㄜˊ ㄍㄡˇ ㄖㄨㄥˊ 他人に迎合して、一時、人に容れ用ひられること。〔荀子、臣道〕不レ卹二君之榮辱一、不レ卹二國之臧否一、偷合苟容、以持二祿養一交而已耳、謂二之國賊一。

【偷合取容】16 ㄊㄡ ㄏㄜˊ ㄑㄩˇ ㄖㄨㄥˊ 他人に迎合して身の容れられんことを求める。〔史記、白起王翦傳論〕王翦爲二秦將一、夷二六國一、當二是時一、翦爲二宿將一、始皇師レ之、然不能二輔レ秦建レ德、固二其根本一、偷合取レ容、以至二坳身一。

【偷看】17 ㄊㄡ ㄎㄢˋ ぬすみみる。〔蘇軾、張無盡過二黃州一、徐君猷爲レ守云云乃闇姬也最爲二徐所レ寵因書二絕句一云云詩〕玉筍纖纖揭二繡簾一、一心偷看綠蘿光。

【偷閑】18 ㄊㄡ ㄒㄧㄢˊ ❶閑をぬすむ。偷閒に同じ。❷ㄙㄚˋㄎㄢˋ かりそめに。ついちよつと。

【偷閒】19 ㄊㄡ ㄒㄧㄢˊ ひまをぬすむ。又、なまける。偷閑。〔白居易、歲假內命レ酒贈二周判官蕭協律一詩〕聞レ健此時相勸レ醉、偷閒何處共尋レ春。〔蘇軾、次韻答二李端叔一詩〕西省鄰居時邂逅、相逢有レ味是偷閒。

【偷閒度日】20 tou¹ hsien² tuˊ jih⁴ 徒らに日を送る。むだに日を過す。

【偷漢】21 tou¹ hanˋ ❶ぬすびと。❷まをとこ。

【偷漢子】22 tʻou¹ hanˋ tzŭ 姦夫。まをとこ。

【偷眼】23 ㄊㄡ ㄧㄢˇ 人目をぬすむ。又、人を避けて覗る。ぬすみ見をする。〔杜甫、數陪二李梓州一泛二江云云詩〕競將二明媚色一、偷眼豔陽天。〔林逋、山園小梅詩〕霜禽欲レ下先偷眼。

【偷吃】24 tʻou¹ chʻih¹ 盜食ひする。〔桃花扇、鬧丁〕不要叫贊禮們偷吃、尋我們的悔氣呀。

【偷去】25 ㄊㄡ ㄑㄩˋ 盜み取る。〔吳融、高侍御話及皮博士池中白蓮二云云詩〕看來應是雲中墮、偷去須從二月下一移。〔楊奐、汴梁宮人詩〕殿前輪直罷、偷去賭二金釵一。

【偷曲】26 ㄊㄡ ㄑㄩˇ 歌曲を盜む。〔元稹、連昌宮詞、李謩擘二笛傍一宮牆一偷二得新翻數般曲一、注〕玄宗嘗於二上陽宮一夜後按二新翻一曲一屬二明夕正月十五日一、潛游二燈下一、忽聞二酒樓上有レ笛、奏二前夕新曲一、大駭之、明日、密遣二捕笛者一詰二驗之一、自云、其夕竊於二天津橋一玩レ月、聞二宮中度曲一、遂於二橋柱上一插二譜記之一、臣卽長安少年善笛者、李謩也、玄宗異而遣レ之。

【偷狗】27 ㄊㄡ ㄍㄡˇ 犬をぬすむ。〔通俗編、獸畜、偷狗〕宋書後廢帝紀、往二青園尼寺一偷レ狗、就二曇度道人一、煑レ之飲レ酒、此偷レ狗事見二正史一者。

【偷狗戲鷄】28 tʻou¹ kouˇ hsiˋ chi¹ だらしがないことをいふ。〔紅樓夢、七回〕每日家偷狗戲雞。

【偷空】29 tʻou¹ kʻung¹ ❶時間を繰合せる。❷暇な時間を利用する。

【偷快】30 ㄊㄡ ㄎㄨㄞˋ こころよいことをむさぼる。〔魏志、田疇傳〕輕薄之徒、自相侵侮、偷二快一時一、無二深計遠慮一。

【偷活】31 ㄊㄡ ㄏㄨㄛˊ 生命をぬすむ。いたづらに生を貪る。偷生(57)に同じ。〔劉向、戰國策書錄〕苟以詐僞一、偷二活取レ容、自上爲レ之、何以率レ下。〔元稹、誨二姪等一書〕抱レ孺終レ身、偷二活今日一。

【偷卷】32 ㄊㄡ ㄐㄩㄢˋ 書物を抜き讀みする。又、讀書してゐるふりをする。〔高啓、隔レ簾聞レ歌詩〕誰能偷卷看、認是小叢非。

【偷換】33 tʻou¹ huanˋ すりかへる。

【偷穴】34 ㄊㄡ ㄒㄩㄝˊ 壁にあなを穿つて盜みをする。又、其の人。こそどろ。狗盜。〔漢書、王莽傳下〕大者羣盜、小者偷穴、不レ過二二科一。

【偷工】35 tʻou¹ kung¹ 細工手間・仕事手間をごまかす。手を抜く。

【偷工減料】36 tʻou¹ kung¹ chien³ liaoˋ 工賃と材料とをごまかす。仕事の手をぬく。

【偷刻】37 ㄊㄡ ㄎㄜˋ かろがろしくて刻薄なこと。〔王守仁、教條示二龍城諸生一〕有下薄二於孝友之道一、陷二於狡詐偷刻之習一者乎。

【偷查】38 tʻou¹ chʻa² ひそかに取調べる。

【偷做】39 tʻou¹ tsuoˋ 密かにする。こつそりとやる。

【偷弛】40 ㄊㄡ ㄕˇ しまりなくなる。不規律になる。

〔唐書、陸長源傳〕晉有レ所ニ偸弛一、長源輒裁正。

【偸私】41 t'ou¹ ssŭ¹ ❶脱税する。偸税。❷私かに通ずる。不義をする。密通。

【偸覗】42 トウシ ぬすみ見する。覗き見する。

【偸觜】43 t'ou¹ tsuei³ 盗み食ひする。〔桃花扇、鬨丁〕豈有ニ盗觜之理一。

【偸嗜】44 トウシ ぬすびとで慾の深いこと。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕邪人偸嗜暴惡者。

【偸兒】45 トウジ ぬすびと。こそどろ。竊盜。〔世說新語補、雅量下〕王子敬、夜齋中臥、有ニ羣偸入ニ其室一、盗レ物都盡、王徐曰、偸兒、青氈、是我家舊物、可ニ特置一レ之。〔韓偓、荔支詩〕漢武碧桃爭比得、枉令ニ方朔號ニ偸兒一。〔蘇軾、約ニ公擇一飲詩〕偸兒夜探赤白丸、奮レ髯忽逢朱子元。

【偸賞】46 トウシヤウ 偸を賞する。赦罰（10－36999‥21）を見よ。

【偸情】47 t'ou¹ ch'ing² 密通する。情を通ずる。

【偸取】48 トウシユ かりそめにとる。〔荀子、富國〕偸ニ取少頃之譽一焉。〔韓非子、難一〕雍季對曰、焚レ林而田、偸ニ取多獸一、後必無レ獸、以レ詐遇レ民、偸ニ取一時一、後必無レ復。〔史記、蘇秦傳〕偸ニ取一時之功一。

【偸酒】49 トウシユ 酒を盗んで飲む。〔世說新語、言語〕鍾毓兄弟小時、値ニ父紆晝寢一、因共偸ニ服藥酒一、其父時覺、且託レ寐以觀レ之、毓拜而後飲、會飲而不レ拜、既而問レ毓、何以拜、毓曰、酒以成レ禮、不ニ敢不一レ拜、又問レ會、何以不レ拜、會曰、偸本非レ禮、所ニ以不一レ拜。〔蘇軾、白鶴峯新居欲レ成夜過ニ西鄰翟秀才一詩〕甕間畢卓防ニ偸酒一。

【偸種】50 t'ou¹ chung⁴ 內密に種ゑ、又は蒔く。

【偸儒】51 トウジユ 安きをぬすんで懦弱なこと。勞苦を避けて怠ること。偸懦。〔荀子、脩身〕勞苦之事、則偸儒轉脱、云云、偸儒憚レ事、無ニ廉恥一而嗜ニ乎飲食一、則可レ謂ニ惡少者一矣。〔注〕偸、謂ニ苟避ニ於事一、儒、亦謂ニ懦弱畏レ事、皆怠惰之義。〔荀子、非十二子〕偸儒而罔、無ニ廉恥一。〔注〕偸儒、謂ニ苟避ニ事之勞苦一也。

【偸樹】52 トウジユ 樹をぬすむ。〔桃花扇、鬨丁〕丑、乾柴只靠ニ一把鋸一、副淨、偸樹。

【偸筍】53 トウジユン たけのこをぬすむ。〔海錄碎事、草木、竹〕偸筍、閭閻人、隔レ籬、必埋ニ貍於家墻下一、明年筍自迸出、一本作レ埋レ猫、沙門贊寧筍譜。

【偸處】54 トウシヨ あそび怠る。〔管子、八觀〕民偸處而不レ事ニ積聚一。

【偸食】55 トウシヨク 徒食すること。又、徒食する賤しい人。〔詩、鄘風、相鼠、人而無レ儀、箋〕雖レ處ニ高顯之處一、偸食苟得、不レ知ニ廉恥一。〔左氏、昭、元〕吾儕ニ偸食一、朝不レ謀レ夕、何其長也。〔疏〕儕、等也、言ニ吾等ニ於彼卑賤苟且飲食之人一也。

【偸食猫兒改不得】56 t'ou¹ shih² mao¹ êrh kai³ pu tê² ぬすみ食ひする猫の性質は改めることが出來ない。〔通俗編、獸畜、偸食猫兒改不得〕雜纂二續、改不得十三事、此其一。

【偸生】57 トウセイ 生命をぬすむ。苟活。偸活。死ぬ可き時に死なないで、徒らに生を貪る。〔國語、晉語八〕畜ニ其心一、而知ニ其欲惡一、民孰偸生。〔荀子、榮辱〕偸生淺知之屬。〔漢書、五行志〕呰窳偸生而亡ニ積聚一。〔淮南子、齊俗訓〕樂ニ家室一、安ニ妻子一、以偸レ生。〔李陵、答ニ蘇武一書〕豈偸レ生之士、而惜レ死之人哉。

【偸生鬼】58 t'ou¹ shêng¹ kuei³ 無益に生きながらへる人。ごくつぶし。

【偸聲】59 トウセイ 絶句を歌ふ時、抑揚緩急の調子を節する爲に和聲・散聲・偸聲の諸法を用ひるが、偸聲とは一句の中の一字を偸んで詰めたもので、例へば唐の張志和の漁歌子の第三句の「青箬笠、綠蓑衣」劉禹錫の瀟湘神の第一句の「斑竹枝、斑竹枝」の如く、七字句の中の一字を偸み、之を割いて三字づつの二句とした類をいふ。

【偸稅】60 t'ou¹ shuei⁴ 脱税する。

【偸錫】61 t'ou¹ hsi² 人の息子の妻を盗む。錫は媳に通ず。

【偸折】62 トウセツ ぬすみひらく。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕用ニ印鈴一、以防ニ偸折一。

【偸說】63 トウセツ こつそりとうまく說きつける。〔管子、形勢解〕適ニ主意一而偸說。

【偸竊】64 トウセツ こぬすびと。竊盜。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、遴捕役〕毋下縱ニ眞盜一、以ニ偸竊一充中其數上。

【偸走】65 t'ou¹ tsou³ 逃げ去る。

【偸存】66 トウソン 能がなくて生きること。〔江淹、爲ニ蕭領軍一讓ニ司空一啓〕無レ德而貴、豈敢偸存。〔隋書、河間王弘傳〕偸存晷漏、詎能支久。

【偸惰】67 トウダ 安きをぬすんで怠る。偸墮。〔韓愈、答ニ劉秀才一論ニ史官一書〕此尚非ニ淺陋偸惰者所ニ能就一。

【偸墮】68 トウダ 安きをぬすんで怠る。偸惰に同じ。〔大戴禮、盛德〕無ニ度量一則小者偸墮。〔注〕解墮也、墮、一作レ惰。〔王安石、祭ニ范潁州一文〕百治具修、偸墮勉強。

【偸懦】69 トウダ 安きをぬすんで懦弱なこと。偸儒（51）に同じ。〔荀子、禮論〕苟怠惰偸懦之爲レ安、若者必危。〔注〕懦、讀爲レ儒、言、苟以ニ怠惰一爲ニ安居一、不レ能ニ恭敬辭讓一、若レ此者必危也。

【偸怠】70 トウタイ 怠る。〔韓非子、外儲說右下〕田嬰復謂曰、羣臣所ニ終歲日夜不ニ敢偸怠一之事也、王以ニ一夕一聽レ之、則羣臣有ニ爲勸勉一矣。

【偸桃】71 トウタウ 漢の東方朔が天國にある不老長生の桃を盗んで仙人となつた故事。〔漢武故事〕東都獻ニ短人一、呼ニ方朔一曰、王母種レ桃、三千歲一結レ子、此兒不レ良、已三偸レ之矣。〔柳宗元、摘ニ櫻桃一贈ニ元居士一時在ニ望仙亭南樓一與ニ朱道士一同處詩〕蓬萊羽客如相訪、不ニ是偸桃一小兒一。

〔偸桃捉住東方朔〕72 トウタウソクチユウトウバウサク 戲曲の名。清、楊潮觀作。吟風閣雜劇の一。漢の東方朔が瑤池の蟠桃を偸み食べて、西王母に勘問せられた事を演ず。滑稽を主とし、賓白の妙を以て勝る。

【偸盜】73 トウタウ ❶ぬすむ。ぬすびと。〔漢書、張敞傳〕長安市偸盜尤多。〔後漢書、虞詡傳〕其攻劫者爲レ上、傷レ人偸盜者次レ之。〔孔子家語、五刑解〕無レ度則小者偸盜。❷佛 チユウタウ ぬすむこと。十惡業、五惡業の第二に數へられる。〔法界次第、上之上〕盜ニ取他財物一、故名爲ニ偸盜一。

【偸道】74 トウダウ 一時の安樂をぬすむやりかた。一時のがれのやりかた。〔荀子、富國〕以偸ニ取少頃之譽一焉、是偸道也。

【偸託】75 トウタク 其の場をつくろひ人に託す。〔曾鞏、與ニ孫司封一書〕苟且偸託。

【偸褫】76 トウチ ぬすみ奪ふ。〔王惲、題ニ趙宣撫樊川山中雜詠一詩〕畢竟名高難ニ久臥一、野猿偸褫芰荷衣。

【偸長】77 トウチヤウ 竊盜のかしら。〔漢書、張敞傳〕偸長曰、今一旦召詣レ府、恐諸偸驚駭、願一切受レ署。〔稱謂錄、盜賊、偸長〕表異錄、賊魁曰ニ偸長一、出ニ張敞傳一。

【偸着】78 t'ou¹ chê ひそかに。こつそりと。

【偸啼】79 トウテイ 人に知れぬやうに泣く。忍び泣き。〔陳後主、三婦艷詞〕大婦怨ニ空閨一、中婦夜偸啼。

【偸典】80 t'ou¹ tien³ 密かに質に入れる。

【偸匿】81 トウトク ぬすみかくす。〔福惠全書、郵政部、喂養〕不レ得ニ偸匿短少一。

【偸得】82 トウトク ぬすむ。〔管子、形勢解〕偸ニ得利一而後有レ害。〔元稹、連昌宮詞〕李謩壓レ笛傍ニ宮牆一、偸得新飜數般曲。〔韓琦、和ニ春卿學士柳枝詞二〕樓前輕雪未ニ全銷一、偸ニ得春光一入ニ嫩條一。

【偸嫩】83 トウドン わかづくり。裝つて若く見せる。〔施肩吾、金吾詞〕染レ鬚偸嫩無ニ人覺一、唯有ニ平康小婦知一。

【偸入】84 トウニフ 密かに忍び入る。〔韓愈、讀ニ東方朔雜事一詩〕偸入ニ雷電室一、輷輘掉ニ狂車一。〔元稹、酬下樂天登ニ樂遊園一見上レ憶詩〕誇遊丞相第、偸入常侍門。

【偸忍】85 トウニン ぬすみかすめる。〔後漢書、杜篤傳〕偸ニ忍淵囿一、篡レ器慢違。〔注〕偸忍猶ニ盜竊一也。

【偸婆】86 チユウバ 佛 stūpa の音譯。塔婆。卒塔婆。〔法苑珠林〕能起ニ偸婆一者、是初受ニ梵天之福一。〔注〕偸婆、塔是也。

【偸賣】87 t'ou¹ mai⁴ 二度賣りする。〔紅樓夢、四回〕偸賣與薛家。「夜逃げする。

【偸跑】88 t'ou¹ p'ao³ 人の知らぬ間に逃走する。

【偸薄】89 トウハク ❶人情がうすい。薄情。媮薄。〔後漢書、廉范傳〕其俗尚ニ文辯一、好相ニ持短長一、范每厲以ニ淳厚一、不レ受ニ偸薄之說一。〔桓溫、薦ニ譙元彥一表〕遺黎偸薄、義聲弗レ聞。〔注〕銑曰、偸薄、澆競也。❷ t'ou¹ pao² 不義密通する。

【偸拔】90 トウバツ 人の心を見拔いて之に佞する。〔莊子、漁父〕偸ニ拔其所レ欲、謂ニ之險一。

【偸偏】91 トウヘン かりそめにかたよる。〔荀子、富國〕是又不レ可ニ偸偏一者也。〔注〕言、亦不レ可ニ苟且

偏爲二此勞レ民事一也。

【偸慢】92 トウマン なまけあなどる。〔說苑、建本〕然莫二能爲一者、偸慢懈墮、多二暇日一之故也。

【偸眠】93 トウミン ひまをぬすんでねむる。〔白居易、家園三絶詩〕籬下先生時得レ醉、甕閒吏部暫偸眠。

【偸盟】94 トウメイ 野合。〔紅樓夢、一回〕一味淫邀艷約、私討二偸盟一之可レ比。

【偸免】95 トウメン ひまをぬすみ手をぬく。なまけてのがれる。苟免。〔唐書、蕭復傳〕依阿偸免。

【偸窳】96 トウユ 物事をかりそめにして怠る。〔晏子、雜、上〕擧二儉力孝弟一、罰二偸窳一。

【偸諛】97 トウユ へつらふ。諂諛(10－35616‥25)に同じ。〔史記、龜策傳〕左右恐レ死、偸二諛於傍一。

【偸樂】98 トウラク なまけてたのしむ。ひまをぬすんでたのしむ。〔韓非子、六反〕故法之爲レ道、前苦而長利、仁之爲レ道、偸樂而後窮。〔晏子、雜、上〕聖賢之君、皆有二益友一、無二偸樂之臣一。〔楚辭、離騷〕惟黨人之偸樂兮、路幽昧以險隘。

【偸懶】99 トウラン 安逸を貪る。なまける。〔福惠全書、郵政部、喂養〕毎有二馬夫偸レ懶貪一レ眠。

【偸利】100 トウリ 利をぬすむ。又、正義によらずに得た利益。〔淮南子、泰族訓〕偸利不レ可二以爲一レ行。〔說苑、權謀〕詐猶可二以偸利一、而後無レ報。

【偸漏】101 t'ou¹ lou⁴ 脱税する。

【偸猥】102 トウワイ 一時の安樂を求める。偸安。〔新書、制不定〕偸猥之數。〔注〕偸猥、猶レ言二偸安一。

【偸江東】103 トウカウトウ 唐の羅紹威が江東の羅隱と結び、系譜昭穆を通じて、因て己の詩集を偸江東集と名づけた故事。〔唐書、羅紹威傳〕江東羅隱工レ爲レ詩、紹威厚レ幣結レ之、通二譜系昭穆一、因目二己所レ爲詩一、爲二偸江東集一。

【偸火蟲】104 トウクワチユウ ひとりむし。螻蛄(10－33515‥12)の異名。〔事物異名錄、昆蟲下、螻蛄〕本草、螻蛄夜求レ食、能含二燈火一而走、俗呼爲二偸火蟲一。

【偸春體】105 トウシユンタイ 律詩の第一・第二句を對偶とし、第三・第四句を散句としたものをいふ。一名、借春體。此の體は蜂腰體と共に、多く五言律に用ひられて、七言律に用ひられることは殆ど稀である。杜甫の寒食夜對レ月、李白の送二友人一詩等は其の好例である。〔詩人玉屑〕頷聯雖レ不レ拘二對偶一、破題已的對矣、謂二之偸春體一、言レ如下梅花偸二春色一而先開上。〔文體明辯、雜體詩〕凡起聯相對、而次聯不レ對者、謂二之偸春體一、言レ如下梅花偸二春色一而先開上也、唐杜甫寒食夜對レ月詩曰、無レ家對二寒食一、有レ涙如二金波一、斫二卻月中桂一、清光應二更多一、仳離放二紅蘂一、想像嚬二青蛾一、牛女漫愁思、秋期猶渡レ河、是也。

【偸寒送暖】106 トウカンソウダン 祕かに寒暑を案じる。轉じて、互に目をかけて相愛すること。〔通俗編、時序、偸寒送暖〕見二白仁甫、牆頭馬上曲一。

【偸雞摸狗】107 t'ou¹ chi¹ mo¹ kou³ 不正な行爲をする。

【偸椿回家】108 t'ou¹ chuang¹ huei² chia¹ 小漁舟の錨に代用する木製椿を、毎年正月、人知れず盗み取れば兒を孕み得るといふ迷信。江蘇興化地方の習俗。

【偸偸兒的】109 t'ou¹ t'ou¹ êrh tê 密かに。「そり。人知れず。

【偸偸摸摸】110 t'ou¹ t'ou mo¹ mo ひそかに。こつそりと。人をごまかす。

【偸蜜珊瑚】111 トウミツサンゴ 草の名。甘草(7－21643‥57)の異名。〔清異錄、藥〕侯寧極藥譜、偸蜜珊瑚、甘草也。

【僋】902 ヘキ 辟(10－38642)の古字。〔玉篇〕僋、古文辟字。

【倣】903 テキ 𥈞(8－23656)の古字。〔集韻〕𥈞、古作レ倣。

【衾】904 イン 陰(11－41691)の古字。〔字彙補〕衾、古文陰字。

【倸】905 ハウ 保(1－702)の古字。〔康熙字典〕倸、說文、古文保。

【恒】906 キヤ 〔集韻〕去伽切 歌。
おろかなさま。恒䞍。〔集韻〕恒、恒䞍、癡兒。〔篇海〕恒、䞍恒、癡貌。

【倪】907 シ 〔海篇〕音肆
似る。相似る。〔海篇〕倪、相似也。

【復】908 フク 〔廣韻〕方六切 屋。
のぞく。通じて復(4－10183)に作る。〔字義總略〕復、除也、史復二今年田租之半一、今通作レ復。

【倌】909 クワン 宦(3－7138)に同じ。〔集韻〕宦、或作レ倌。

【候】910 コウ 候(1－775)に同じ。〔正字通〕候、通作レ候。

【倶】911 ケキ・キヤク 〔廣韻〕古鶪切 錫。
わるがしこい。〔廣韻〕倶、倶黠。

【倸】912 セウ 𤝖(10－36589)に同じ。〔字彙補〕倸、同レ𤝖。

【倉】913 シ 〔海篇〕音寺
やしなふ。〔海篇〕倉、食也。

【偭】914 ア 義未詳。〔海篇〕偭、音鴉。

【信】915 クワ・シン 義未詳。〔海篇〕信、音過、又音信。

【倁】916 ケイ 義未詳。〔海篇〕倁、音經。

【侽】917 メイ 命(2－3473)に同じ。〔字彙補〕侽、同レ命。

【儉】918 サン 傘(1－966)の譌字。〔康熙字典〕儉、按、傘字之譌。

【侳】919 チ 義未詳。〔字彙補〕侳、音地。

【侺】920 キ 侯(1－937)に同じ。〔中華大字典〕侺、同レ侯、見二玉篇一。

【倸】921 キヨウ 倸(1－958)の俗字。〔康熙字典〕倸、一作レ倸。

【偺】922 ビ 備(1－967)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕備、目連記作レ偺。

【偺】923 サン ㄗㄚˊ tsa² ㄗㄢˊ tsan²
一 咱(2－3936)に同じ。助辭。多偺は何時。那偺は其の時。〔辭海〕偺、同レ咱。二 偺們は私共。御互ども。

【偻】924 ロウ 僂(1－1045)の略字。〔宋元以來俗字譜〕僂、目連記作レ偻。

【偼】925 セフ 倢(1－784)に同じ。

【偸】926 ヤク 龠(12－48882)の略字。

【僋】927 サン 儳(1－1296)の略字。

【偽】927′ ギ 僞(1－1105)の略字。

十畫

【傀】928

［一］クヮイ　〔集韻〕姑回切　［灰］　ㄍㄨㄟ kuei¹
［二］キ　〔集韻〕古委切　［紙］
［三］クヮイ　〔集韻〕苦猥切　［賄］　ㄎㄨㄟˇ k'uei³
［四］クヮイ ケ　〔集韻〕呼乖切　［佳］

小篆　瓌 或體

［一］［二］❶**大きいさま。偉大なさま。**〔說文〕傀、偉也、从人鬼聲、周禮曰、大傀異災。〔廣韻〕傀、大皃、偉也。〔荀子、性惡〕傀然獨立天地之閒而不畏。〔注〕傀、偉大貌也。❷**さかん。**〔廣雅、釋詁二〕傀、盛也。❸**よい。うるはしい。**〔一切經音義、十〕傀、美也。❹**わざはひ。もののけ。怪しいもの。**怪(4−10483)に通ず。〔說文通訓定聲〕傀、叚借爲怪。〔集韻〕傀、恠異也。〔周禮、春官、大司樂〕大傀異烖去樂。〔注〕傀、猶怪也。❺**獨居のさま。**塊(3−5319)に通ず。〔荀子、性惡〕傀然獨立天地之閒。〔注〕或曰、傀、與塊同、獨居之貌。❻或は儴(1−1276)・儴(1−1282)・傀(1−1181)に作る。〔集韻〕傀、或作儴・儴・傀。❼或は瓌(7−21342)に作る。〔說文〕瓌、傀、或从玉褢聲。❽通じて瓌(7−21336)に作る。〔集韻〕傀、通作瓌。❾**姓。**〔元和姓纂〕傀、出自隗傀氏。［三］**あやつり人形。**傀儡(4)を見よ。［四］**大きい。又、大悟のさま。**〔集韻〕傀、大也。〔莊子、列禦寇〕達生之情者傀。〔注〕傀然、大悟解之貌。

【傀俄】1 クヮイガ　山の崩れかかるさま。傀は偉、俄は傾。〔世說新語、容止〕山公曰、嵇叔夜之爲人也、巖巖若孤松之獨立、其醉也、傀俄若玉山之將崩。

【傀奇】2 クヮイキ　あやしく不思議。又、その物。〔郭璞、江賦〕傀奇之所窟宅。〔注〕善曰、說文曰、傀、偉也、又曰、奇、異也。

【傀然】3 クヮイゼン　❶偉大なさま。又、獨居のさま。〔荀子、性惡〕傀然獨立天地之閒而不畏。〔注〕傀、偉傀、大貌也、或曰、傀、與塊同、獨居之貌也。❷大悟のさま。〔莊子、列禦寇、達生之情者傀、注〕傀然、大悟解之貌。

【傀儡】4 クヮイライ　からくり人形。あやつり人形。轉じて、人の手先になつて使はれるもの。〔廣韻〕儡、傀儡、戲也。〔集韻〕傀、傀儡、木偶戲。〔朱子全書、學、爲學之方〕今於古人所以下學之序、則以爲近於傀儡而鄙厭之。

【傀儡戲】5 クヮイライギ　くぐつのあそび。傀儡子を見よ。〔涪翁雜說〕傀儡戲、木偶人也。

【傀儡子】6 クヮイライシ　人形つかひ。でくまはし。轉じて、他人をそそのかして種々の行爲をさせる者。〔顏氏家訓、書證〕或問、俗名傀儡子爲郭禿、有故實乎、答曰、風俗通云、諸郭皆諱禿、當是前代人有姓郭而病禿者、滑稽戲調、故後人爲其象、呼爲郭禿。〔雞肋編〕窟礧子亦云魁礨子、作偶人以戲嬉舞歌、本喪家樂也、漢末始用之於嘉會、齊後主高緯尤所好、高麗亦有之、今字作傀儡、涪翁雜說謂、象古魁礨之士、故名。〔樂府雜錄、傀儡子〕自昔傳云、起於漢祖在平城爲冒頓所圍、其城一面、卽冒頓妻閼氏兵、強於三面、陳平訪知閼氏妒忌、卽造木偶人、運機關舞於陴閒、閼氏望見、謂是生人、慮其城冒頓必納妓女、遂退軍、後樂家翻爲戲具。〔故事成語考、技藝〕陳平作傀儡、解漢高白登之圍。

【傀儡節】7 クヮイライセツ　中國で我が國の雛祭を指していふ。

【傁】929

ソウ ス　〔集韻〕蘇后切　［有］

❶**おきな。**老人の敬稱。〔左氏、宣、十二〕趙傁在後、怒之使下。〔注〕傁、老稱。❷叟(2−3176)に同じ。〔正字通〕傁、同叟。❸叜(2−3167)に同じ。〔集韻〕叜、說文、老也、或作傁。❹或は傻(1−862)に作る。〔正字通〕傁、亦作傻。

【㑳】930

［一］シウ シユ　〔集韻〕側救切　［宥］
［二］ス シユ　〔集韻〕莊倶切　［虞］
［三］ダフ ノフ　〔集韻〕昵洽切　［洽］

［一］❶**はらむ。**傻(1−862)に同じ。〔集韻〕㑳、娠也、或从叜。❷**やとはれる。**〔焦竑、俗用雜字〕任身傭作、曰㑳。❸通じて媰(3−6566)に作る。〔集韻〕㑳、通作媰。〔正字通〕㑳、同媰。［二］［三］**小人のさま。**偛㑳。〔集韻〕㑳、偛㑳、小人皃。

【傂】931

［一］チ ヂ　〔集韻〕丈尒切　［紙］
［二］チ ヂ　〔集韻〕陳知切　［支］
［三］シ　〔集韻〕相支切　［支］

［一］［二］❶**かたがひ。ひとしくない。**仳傂。〔集韻〕傂、仳傂、參差皃。❷虒(9−32682)に同じ。〔廣韻〕傂、本亦作虒。［三］輪の類。⿰車虒(10−38533)に同じ。〔集韻〕⿰車虒、輪之類、太玄作傂。

【⿰亻𠬶】932

シン

侵(1−646)の本字。〔正字通〕⿰亻𠬶、侵本字。

【傃】933

ソ　〔集韻〕蘇故切　［遇］　ㄙㄨˋ su⁴

❶**むかふ。**〔集韻〕傃、鄉也。〔字彙〕傃、向也。〔顏延之、陶徵士誄〕傃幽告終、懷和長畢。〔注〕善曰、傃、向也。〔蘇軾、放鶴亭記〕縱其所如、暮則傃東山而歸。❷**まもる。**分を守る。〔字彙〕傃、循其常分曰傃。

【傃仁】1 ソジン　唐、裴向(10−34362・・25)の字。

【傃風驚月】2 ソフウキヤウゲツ　傃風・驚月ともに烏鵲の類。〔琅琊代醉編、傃風驚月〕傃、向也、二者烏鵲之類、駱丞詩、傃風啼迴日、驚月達疏枝。

【傄】934

カツ ケチ　〔集韻〕呼八切　［黠］

❶**すこやかなさま。**傛傄。〔廣韻〕傄、傛傄、健也。❷**憚らないさま。**傛傄。〔集韻〕傄、傛傄、無憚。〔正字通〕傄、傛傄、又無憚也。

【⿰亻屑】935

セツ

偰(1−1044)の俗字。〔正字通〕⿰亻屑、俗偰字。

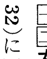
【⿰亻索】936

サク シヤク　〔集韻〕色窄切　［陌］

にくむ。わるい。倚⿰亻索。〔集韻〕⿰亻索、倚⿰亻索、惡也。

【⿰亻癸】937

［一］キ ギ　〔集韻〕其季切　［寘］
［二］キ ギ　〔集韻〕渠惟切　［支］

 小篆

［一］［二］**左右を見まはす。**睽(8−23532)に同じ。或は⿰亻癸(1−920)に作る。〔說文〕⿰亻癸、⿰亻癸、左右兩視、从人癸聲。〔段注〕此複擧字之未刪僅存者、⿰亻癸、卽睽之或字耳。

【⿰亻剡】938

タン

倓(1−768)に同じ。〔說文〕倓、⿰亻剡、倓、或从剡。

【傅】939

［一］フ ブ　〔集韻〕符遇切　［遇］　ㄈㄨˋ fu⁴
［二］フ　〔正韻〕芳無切　［虞］

傅 小篆

㊀❶もり。かしづき。もり役。左右に奉侍して養育する職。〔説文〕傅、相也、从レ人尃聲。〔廣雅、釋言〕傅、相也。〔正字通〕傅、師傅、官名。❷そへ。ひかへ。かはり。副(2-2097)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ副、詩、崧高、王命ニ傅御一、箋、貳レ王治レ事、謂ニ冢宰一也、史記衞將軍驃騎傳、傅校獲レ王、漢書灌嬰傳、臣願得ニ大王之左右善騎者一傅レ之。❸つく。附(11-41606)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ附。〔集韻〕傅、著也。㋑ちかづく。〔小爾雅、廣言〕傅、近也。〔周禮、考工記、廬人〕重欲レ傅レ人。〔注〕傅、近也。㋺よる。著く。〔左氏、僖、十四〕毛將安傅。〔左氏、襄、六〕環レ城傅ニ于堞一。〔淮南子、兵略訓〕傅レ堞而守。㋩くつつく。附著する。〔正字通〕傅、又麗著也。〔史記、佞幸傳〕傅ニ脂粉一。㊁かしづく。つきそふ。たすける。〔左氏、僖、二十八〕鄭伯傅レ王。〔注〕傅、相也。❹つける。〔史記、匈奴傳〕持レ滿傅レ矢。〔注〕傅、音附。❺かきつける。登錄する。〔正字通〕傅、著ニ名籍一、給ニ公家徭役一也。〔漢書、高帝紀〕蕭何發ニ關中老弱未レ傅者一。❻いたる。駙(12-44677)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ駙。〔詩、大雅、卷阿〕亦傅ニ於天一。〔箋〕傅、猶レ戾也。❼わたす。付(1-373)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ付、考工匠人、爲ニ溝洫一里爲レ式、然後可レ傅ニ衆力一。❽てがた。わりふ。符(8-25935)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ符、周禮小宰、聽ニ稱責一以ニ傅別一、司農注、謂ニ券書一也、傅、傅ニ著約束于文書一、別別爲レ兩、兩家各得レ一、按、鄭大夫讀爲レ符、是也。❾いきふく。欨(6-16028)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ欨、莊子天運、魚傅レ沫。❿甫(7-21706)に通ず。〔史記、鄭世家〕甫瑕。〔左氏、莊、十四〕傅瑕。⓫蟲の名。〔爾雅、釋蟲〕傅、負版。⓬草の名。〔爾雅、釋草〕傅、橫目。〔疏〕一名、橫木草、蔓延生。⓭姓。〔正字通〕傅、又姓。〔唐書、宰相世系表〕傅氏、出レ自ニ姫姓一、黃帝裔孫大由封ニ於傅邑一、因以爲レ氏。〔通志、氏族略、以レ地爲レ氏〕傅氏、商相傅說之後、築ニ於傅巖一、因以爲レ氏。㊂しく。ならべる。敷(5-13359)に通ず。〔説文通訓定聲〕傅、叚借爲レ敷。〔集韻〕敷、一曰、陳也、散也、或作レ傅。〔漢書、文帝紀〕傅納以レ言。〔注〕師古曰、傅、讀曰レ敷、敷ニ陳其言一而納ニ用之一。

名乘 スケ。

參考 傳(1-1019)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、傅、音赴、相也、師也、从レ甫从レ寸。傳、音椽、授也、續也、布也、从レ專。

【傅愛】1 フアイ かしづき愛する。〔顏延之、又釋ニ何衡陽達性論一〕阿保傅愛、愼及ニ涸腴一。

【傅安】2 フアン 明、太康の人。字は志道。官は洪武中、禮科給事中。〔萬斯同明史、一百八十二〕・〔明史稿、一百二十八〕・〔國朝獻徵錄、八十〕・〔昭代明良錄、十九〕・〔本朝分省人物攷、八十四〕。

【傅扆】3 フイ 明、山東新城の人。字は蘭生、又、彤臣。別號は麗農。順治の進士。官は江西道監察御史となつたが、性、至孝、親の老を以て歸養す。著に奏疏・詩文集・詩話等の書がある。〔清史列傳、七十〕・〔國朝耆獻類徵、一百三十三〕。

【傅油】4 fu^4 yu^2 油をひく。油をつける。

【傅育】5 フイク ❶まもりそだてる。かしづき育てる。保育。❷後漢、北地の人。臨羌の長となり、捕虜將軍馬武に從つて羌を擊ち、其の勇、諸軍に冠絕す。後、官は武威大守。名聲、匈奴に振ふ。〔後漢書、一百十七〕。

【傅育官】6 フイククワン 皇子を傅育する官。

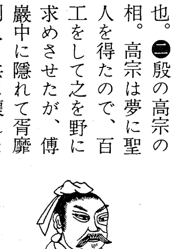
【傅寅】7 フイン 宋、義烏の人。字は同叔。唐仲友に從學し天文・地理・封建・井田・學校・律曆等を精研す。隱居して仕へず。黨禍の起るに及んで門を杜ぢて出でず。世に杏溪先生と稱す。著に禹貢說斷がある。〔宋史翼、二十四〕・〔宋元學案、六十〕。

【傅永】8 フエイ 後魏、淸河の人。字は脩期。年二十餘、初めて發憤して經史を涉獵す。晚年、仕へて王肅の下に豫州の長史となり、淸河男に封ぜらる。屢〻齊師を拒いで功を立て、年八十で兗州の刺史となり、尋いで平東將軍・光祿大夫に歷任す。〔魏書、七十〕・〔北史、四十五〕。

【傅映】9 フエイ 梁の人。昭の弟。字は徽遠。三歲の時、孤となり、兄弟親睦し、兄の昭が卒するや、之を喪すること父に等しかつた。官は太中大夫。〔梁書、二十六〕・〔南史、六十〕。

【傅奕】10 フエキ 唐、鄴の人。武德中、太史令となり、上疏して佛法を詆り、貞觀中に卒す。數を善くす。老子に注し、又、魏晉以來の佛教駁議に關するものを集めて高識篇を作る。〔舊唐書、七十九〕・〔唐書、一百七〕。

【傅說】11 フエツ ❶星の名。後宮にて子を求めるときに祀る。〔星經、下、尾宿〕傅說一星、在ニ尾第二星東二寸一、小者是、其星明則輔臣忠レ政、暗則陪臣亂レ國。〔天皇會通〕傅說、後宮女巫也、鄭夾漈曰、傅說一星、主ニ後宮求レ子之事一、謂ニ傅母喜レ之也。❷殷の高宗の相。高宗は夢に聖人を得たので、百工をして之を野に求めさせたが、傅巖中に隱れて胥靡刑人と共に壞れた道を修築してゐた說を得た。既にして說は高宗に見えて相となり、命により傅を以て氏とした。說命三篇を作る。〔史記、三〕。


傅說❷（三才圖會）

【傅說比ニ列星一】12 フエツレツセイニヒス 殷の傅說は死んで天に上り星となつたといふ。〔莊子、大宗師〕傅說得レ之、以相ニ武丁一、奄ニ有天下一、乘ニ東維一、騎ニ箕尾一、而比ニ於列星一。

【傅琰】13 フエン 南齊の人。僧祐の子。字は季珪。宋に仕へ武康・山陰二縣の令となつて傅聖の名を得た。後、益州の刺史・盧陵王安西の長史・南郡內史・行荊州事となる。〔南齊書、五十三〕・〔南史、七十〕。

【傅瑗】14 フエン 晉の人。咸の子。學業を以て名を知らる。官は安成太守。〔宋書、四十三〕。

【傅瑕】15 フカ 春秋、鄭の大夫。鄭の厲公が櫟から鄭を侵して大陵に及んだ際、執へられ、我を赦せば公を納れんと盟つて赦され、鄭の子儀を殺して厲公を納れたが、又、厲公に殺さる。〔左氏、莊、十四〕。

【傅嘏】16 フカ 三國、魏の泥陽の人。介子の後。字は蘭石。諡は元。弱冠にして名を知られ、司空の陳群に召されて其の掾となり、正始の初、尚書郎に除せられたが、曹爽・何晏等と協はずして免官せらる。爽が誅せられるに及んで再び尚書に遷り、毌丘儉・文欽を敗るに功があつた。封は陽鄉侯。〔三國志、二十一〕。

【傅海】17 フカイ 明、威縣の人。正統の間、父歿して墓に廬すること三年。祠宇を立て、父母の畫像を奉じて朝夕奉奠す。〔明史、二百九十六〕。

【傅康】18 フカウ 宋の人。雍の弟。字は仲良。官は司農少卿、兼左司諫。後、知袁州・直徽猷閣。〔尙友錄、十八〕。

【傅咸】19 フカン 晉の人。玄の子。字は長虞。諡は貞。文名あり。惠帝の時、官は御史中丞。母の憂で官を去つて後、議郎長となり司隸校尉を兼ぬ。〔晉書、四十七〕。

【傅涵】20 フカン 淸、臨川の人。字は聖涯。廩生。學問に深く、乾隆中、鴻博に擧げられ、試に與かつたが、遂に用ひられず。著に新橋集がある。〔鶴徵後錄、十二〕。

【傅幹】21 フカン 後漢の人、燮の子。字は彥林。小字は別成。父が漢陽の守であつた時、年十三で父を諫めて、今天下已に叛き、兵は自ら守るに足らざれば、徐ろに鄉里に至り義徒を率厲し、有道を見て之を輔佐するがよいといつたが、父は之に從はずして遂に難に逢ふ。幹は後、扶風の

太守となる。〔後漢書、八十八〕。

【傅瀚】22(フカン) 明、新喩の人。字は曰川。諡は文穆。天順の進士。詩文に巧。官は弘治中禮部尚書。〔明史、一百八十四〕・〔萬斯同明史、二百四十一〕・〔明史稿、一百六十八〕。

【傅巖】23(フガン) ㊀地名。傅説が版築した處。山西省平陸縣の東。一名、傅險。今名は隱賢社。〔書、説命上〕説築二傅巖之野一。〔傳〕傅氏之巖、在二虞虢之界一。〔墨子、尚賢中〕傅二築乎傅巖一。〔史記、殷紀〕得二説於傅險中一。是時、説爲二胥靡一、築二於傅險一。㊁明、義烏の人。字は野清。崇禎の進士。官は監察御史。著に事物考がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十八〕・〔小腆紀年、十二〕。㊂清、兪永弼(1-1437：81)の號。

【傅岐】24(フキ) 梁の人。劇の子。字は景平。初、新建康の令となり、太僕司農卿に至り、中書通事舍人を兼ねたが、侯景の亂に死す。〔梁書、四十二〕・〔南史、七十〕。

【傅其】25(フキ) 複姓。〔萬姓統譜〕傅其義、漢人。

【傅耆】26(フキ) 宋、遂寧の人。字は伯成、又、伯壽。皇祐の進士。周敦頤が合州の判であった時、其の賢を聞き書を以て通訊し、又就いて學んだ。官は漢州の長官。〔宋元學案、十二〕。

【傅淇】27(フキ) 宋の人。佇の子。字は元瞻。紹興の進士。官は太府少卿。後、宗正少卿・直龍圖閣。卒して莆田開國縣男を贈らる。〔尚友錄、十八〕。

【傅喜】28(フキ) 漢、溫の人。字は稚游。諡は貞。哀帝の祖母定陶傅太后の從父弟。官は哀帝の時、大司馬。封は高武侯。傅太后が尊號を稱せんとした時、正義を執り順はずして免ぜられたが、平帝の時召還せらる。〔前漢書、八十二〕。

【傅毅】29(フキ) 後漢、茂陵の人。字は武仲。博學能文。明帝に、賢を求めるの意なく、士の隱處する者が多い爲、嘗て七激を作つて之を諷した。章帝の時、蘭臺の令史となり郎中を拜し、班固・賈逵と共に校書を司り、永元の初、竇憲に請はれて主記室となり、憲が大將軍となるに及んで司馬を拜す。〔後漢書、一百十上〕。

【傅璣】30(フキ) 角のある玉。耳の飾玉。〔史記、李斯傳〕宛珠之簪、傅璣之珥。〔注〕索隱曰、傅璣者、以レ璣傅二著於珥一珥者、瑱也。

【傅求】31(フキュウ) 宋、考城の人。字は命之。進士甲科に中り、梓州路轉運使となり、累遷して龍圖閣學士となる。後、事に坐して袞州の長官となつて卒す。〔宋史、三百三十〕・〔宋史新編、一百八〕。

【傅翕】32(フキュウ) 陳、傅大士(192)の姓名。

【傅御】34(フギョ) 王に附きそふ臣。冢宰をいふ。一説に家臣の長。〔詩、大雅、崧高〕王命二傅御一、遷二其私人一。〔傳〕御、治レ事之官也。〔箋〕傅御者、貳レ王治レ事、謂二冢宰一也。〔集傳〕傅御、申伯家臣之長也。

【傅近】35(フキン) ちかづく。俗に附近に作る。〔仲長統、昌言下〕宦豎者、傳言給使之臣也、拚埽是爲、超走是供、傅二近房臥之內一、交二錯婦人之間一。〔通俗編、地理、傅近〕按、今俗訛作二附近一。

【傅瑾】36(フキン) 宋、汝陰の人。字は公寶。官は蔡州助教。力學強記、字學を深究す。又、篤行にして施與を好む。著に字林補遺・音韻管見・聞見錄がある。〔尚友錄、十八〕。

【傅匯】37(フクイ) 明、金谿の人。字は原宗。官は洪武中、本縣訓導。後、召されて祕閣に入る。〔江西通志〕。

【傅會】38(フクイ) ㊀ばつを合はせる。こじつける。附會。〔史記、袁盎傳贊〕雖レ不レ好レ學、亦善傳會。〔風俗通、正失〕言過二其實一、及二傳會一。㊁文章の首尾が關聯して善くまとまる。〔後漢書、張衡傳〕作二二京賦一、因以諷諫、精思傳會、十年乃成。㊂つけ合せる。つなぎ合せる。〔列子、湯問〕皆傳二會草木膠漆、白黑丹青之所一爲。

【傅光】39(フクウ) 宋の人。雱の弟。字は子溫。官は諸王宮教授。

【傅郭】40(フクク) 郊外の部落。負郭。〔新書、審微〕傅郭者、歸可二以益一食。〔孔子家語、屈節解〕穫二傅郭之麥一。

【傅冠】41(フクン) 明、進賢の人。字は元甫。天啓の進士。官は尚書兼東閣大學士。唐王の時、汀州の難に死す。書室を寶綸樓といふ。著に寶綸樓集がある。〔明史、二百六十四〕・〔萬斯同明史、三百八十一〕・〔明史稿、一百五十一〕。

【傅寬】42(フクワン) 漢の人。諡は景。初、沛公に從つて舍人となり、趙賁を攻め楊熊を擊つ。沛公の漢王となるに及んで、從つて漢中に入り、右騎將となり、三秦及び齊地を定め、陽陵侯に封ぜられ、齊相國となり、丞相となつた。〔史記、九十八〕・〔前漢書、四十一〕。

【傅君】43(フクン) もりやく。保傅。〔吳志、程秉傳〕拜二太子太傅一、從容進説。登曰、願太子尊二禮敎於閨房一、存二周南之所レ詠、則道化隆二於上一、頌聲作二於下一矣、登笑曰、將二順其美一、匡二救其惡一、誠所レ賴二於傅君一也。

【傅訓】44(フクン) もり役の教訓。〔千字文〕外受二傅訓一、入奉二母儀一。

【傅珪】45(フケイ) 明、清苑の人。字は邦瑞。追諡は文毅。成化の進士。編修を授けられて會典及び孝宗實錄の編修に與る。禮部尚書に遷つたが、權倖に忤つて致仕す。〔明史、一百八十四〕・〔萬斯同明史、三百七十二〕・〔明史稿、一百六十八〕。

【傅啓】46(フケイ) 明、仙遊の人。字は思明。官は實鈔提擧。〔尚友錄、十八〕。

【傅劇】47(フケイ) 梁の人。琰の子。吳・山陰・建康の令となつて名あり。官は驃騎諮議。〔南齊書、五十三〕・〔南史、七十〕。

【傅險】48(フケン) 殷の傅説が隱居版築した巖窟。傅巖。〔史記、殷紀〕武丁夜夢得二聖人一、名曰レ説、云云、得二説於傅險中一。是時、説爲二胥靡一、築二於傅險一。〔史記、游俠傳序〕傳説匿二於傅險一。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、解州、平陸縣〕傅巖、縣東三十五里、卽殷相傅説隱處、云云、史記亦作二傅險一。

【傅玄】49(フゲン) 晉の人。幹の子。字は休奕。諡は剛。孤貧博學、善く文を作り、音律を解す。州の秀才に擧げられ、郎中に除せられ、弘農の太守となり、鶉觚男に封ぜらる。武帝の時、司隸校尉となる。性、剛直峻急、人を容れず。顯貴に至つても著述を廢せず、傳子數十萬言を著す。又、樂府歌章を作り、晉代の宗廟朝廷の樂章、多くは其の手に成つた。年六十二にて卒す。〔晉書、四十七〕。

【傅肱】50(フコウ) 宋、會稽の人。字は自翼。著に蟹譜がある。〔四庫提要、一百十五〕。

【傅恆】51(フコウ) 清、滿州鑲黃旗人。姓は富察。號は春和。諡は文忠。乾隆の時、兩金川を定め、緬甸を征す。官は大學士。封は一等忠勇公。〔清史稿、三百七〕・〔清史列傳、二十〕・〔國朝耆獻類徵、二十九〕・〔國朝先正事略、十八〕。

【傅彩】52(フサイ) 彩色を施す。つやをつける。著色する。〔茅亭客話〕南齊謝赫論畫有二六法一、一曰、氣韻生動、二曰、骨法用レ筆、三曰、應二物像一レ形、四曰、隨レ類傳レ彩、五曰、經二營位置一、六曰、傳移模寫。〔宣和畫譜〕曹仲元、初學二吳道元一、不レ成、棄二其法一、別作二細密一、以自名レ家、尤工二傳レ彩一、有二一種風格一。

【傅綽】53(フサイ) 陳、靈州の人。字は宜事。七歲の時、古詩賦十萬餘言を誦す。祕書監右衞將軍兼中書通事舍人となり、詔誥を掌る。其の文は典麗、筆を下せば輒ち成り、起草したことがない。性木彊で、才を負み氣を使つた爲、怨者に譖せられて獄に死す。集あり。〔陳書、三十一〕・〔南史、六十九〕。

【傅藻】54(フサウ) 明、義烏の人。字は伯長。黃溍に從學す。經史に博通し、詞章を善くす。官は翼林院編修・監察御史。後、河南按察使。〔本朝分省人物攷、五十二〕。

【傅察】55(フサツ) 宋の人。堯兪の從孫。字は公晦。諡は忠肅。大觀の進士。吏部員外郎を以て金使を接伴して韓城鎭に行つた時、金は約にそむいて察を擁し去つた。察は道に金の太子幹離不に逢ふも、屈せずして死す。著に忠肅集がある。〔宋史、四百四十六〕・〔宋史新編、一百七十二〕・〔東都事略、一百十一〕・〔皇朝名臣言行續錄、三〕。

【傅山】56(フザン) 清、陽曲の人。初名は鼎臣。後、山と改名す。字は青竹、又、青主・仁仲。別に公之它と署し、又、公他に作る。亦、朱衣道人ともいひ、又、嗇廬と字す。この外、別號甚だ多く、石道人(石老人)・隨厲・六持・丹崖・丹崖翁・丹崖子・濁堂老人・青羊菴主・不夜菴・不夜菴老人・傅僑山・傅道子・僑黃山・僑黃老人(僑黃眞人・僑黃之人)・酒道人・酒肉道人・松莊・樂飢齋といふ。苦酒を喜んで老蘗禪といひ、道法を龍池還陽眞人に受けて、眞山と名づけ、或は僑黃眞山と署し、又、五峰道人・龍池道人・龍池閒道下士・觀化

翁、觀花翁。大笑下士。西北之西北老人といふ。明末國變の時、朱衣を衣、土穴に居り、朱衣道人といひ、母を養ひ、天下定まつて後、黃冠に隱れたが、康熙中、年七十で鴻博に擧げらる。後、中書舍人となり、老病を以て辭し、山水墨竹を畫き、詩文及び金石篆刻に巧で、又、醫に精しく、家傳の禁方を以て自活した。書室を霜紅龕といふ。著に霜紅龕集がある。〔清史稿、五百六十一〕〔清史列傳、七十一〕〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕〔國朝先正事略、四十六〕。

【傅子】57シ 書名。一卷。晉、傅玄撰。もと一百二十卷。宋に至つて僅かに二十三篇を存するのみとなり、其の後、更に散佚したが、清の乾隆帝の時、永樂大典によつて重輯して、正心・仁論・義信・通志・舉賢・重爵祿・禮樂・貴教・檢商賈・校工・戒言・假言の十二篇を得た。又、文義全からざるもの閒政以下十二篇あり、其の他諸書に引く所のもの四十餘を集めて附錄とした。卽ち百子全書に收むるものである。清の紀昀は此の書論ずる所、皆治道に關切、儒風を闡啓し、精意名言、往々あり、寶貴すべきものといつて居る。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【傅芷】58シ 宋、義烏の人。字は升可。號は南園。淳熙の進士。經史の學に精通し、傅寅の上弟子となる。仕へずして卒す。著に南園詩文集・南園講錄がある。〔宋元學案、六十〕。

【傅祇】59シ 晉の人。嘏の子。字は子莊。楊駿を討つた功により靈川縣公に封ぜられ、右僕射より中書監に遷る。國體に明達し、朝廷の制度等、經綜する所が多い。洛陽の陷るや、司徒持節大都督諸軍事を以て、檄を四方に傳へて義兵を徵したが、急に疾んで卒す。〔晉書、四十七〕。

【傅師】60シ 唐の人。字は子言。春秋を治め、楷書に巧。進士。權德輿に門生中の顏子といはる。官は翰林學士。後、尚書右丞。〔尚友錄、十八〕。

【傅舟】61シウ 明、傅汝舟(175)の本名。

【傅楫】62シフ 宋、仙遊の人。字は元通。孫覺・陳襄に從學す。治平中、進士に登り、曾布に薦められて太常博士となる。官は徽宗の時、中書舍人、龍圖閣待制を以て博州の長官となる。〔宋史、三百四十八〕・〔宋史新編、一百十八〕・〔宋元學案、五〕。

【傅樾】63シフ 明の人。浚の子。字は定濟。年二十で進士に登り、弘治中、行人を授けらる。繼母が下僕と通じて父を殺すや、其の讎を報じ、繼母が死ぬまで、郊墟の閒に野宿して歸らなかつた。〔明史、二百九十七〕。

【傅柔】64ジウ 漢、浦江の人。浦陽人物記には隋以後の人といふ。字は仲席。官は鄂州刺史。〔東陽志〕。

【傅昌】65シヤウ 後漢の人。俊の子。無湖侯に封ぜられたが、章帝の時、貶せられて關內侯となる。〔後漢書、五十二〕。

【傅相】66シヤウ もりやく。つきそひ。〔越絕書、越絕吳內傳〕武王封二周公一、使二傅二相成王一。〔漢書、景帝紀〕封二故楚趙傅相內史、前死レ事者四人子一、皆爲二列侯一。〔漢書、賈誼傳〕漢之所レ置傅相、方握二其事一。

【傅常】67ジヤウ 元、鉛山の人。字は仲常。進士。官は餘姚判官。〔尚友錄、十八〕。

【傅壽】68ジユ 清、金陵の妓。字は靈脩。絃索を能くし、好んで場に登つて演劇した。

【傅叔】69シユク 宋、鮑宗巖(12—46074‥105)の字。

【傅俊】70シユン 後漢、襄城の人。字は子衞。謚は威後。縣の亭長を以て光武の軍を迎へ、征伐に從つて功あり、積弩將軍を拜命す。封は昆陽侯。雲臺二十八將の一人。〔前漢書、五十二〕。

【傅浚】71シユン 明、南安の人。字は汝源。弘治の進士。官は工部郎中。正德中、遵化鐵廠を督し、鐵冶志の著がある。〔明史、二百九十七〕。

【傅淮】72ワイ 梁、北地の人。謚は敬康。詞賦を善くす。西中郎參軍を以て岳陽王詧に隨つて襄陽を鎭む。官は度支尙書。文集あり。〔周書、四十八〕。

【傅淳】73ジユン 明、慈谿の人。字は伯厚。家世〻儒を業とし、父の時伯、道學を以て鄕に名あり。淳は能く其の家學を傳へ、鄕人は退密先生と稱す。著に洪範敷言・性理叢說・大學補略・視志稿がある。〔本朝分省人物攷、四十八〕。

【傅詢】74ジユン 唐の人。字は誠之。人となり精粹にして端美、文を能くす。會昌初年の進士。官は昭義軍節度使。〔尚友錄、十八〕。

【傅恕】75ジユ 明、鄞の人。字は如心。學は經史に通じ、洪武の初、治道十二策を陳べるや、太祖は之を嘉納し、命じて元史を編修せしめ、事竣つて博野知縣を授けらる。後、事に坐して死す。〔明史、二百八十五〕・〔萬斯同明史、三百八十六〕・〔明史稿、二百六十八〕。

【傅陞】76シヨウ 清、滿洲正白旗人。姓は郎佳氏。乾隆中、廓爾喀の征討に從つて功あり、二等侍衞を授けらる。嘉慶中、川楚の教匪を攻め、至る所功を立つ。官は公中佐領。〔國朝耆獻類徵、三百八〕。

【傅丞】77ジヨウ 官名。新の王莽の時置いた太子保導の官。〔漢書、王莽傳中〕大司徒馬宮爲二師疑、故少府宗伯鳳爲二傅丞一、博士袁聖爲二阿輔一、京兆尹王嘉爲二保拂一是爲二四師一。

【傅職】78シヨク 新書の篇名。

【傅清】79セイ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は富察。謚は襄烈。藍翎侍衞から副都統に擢んでられ、雍正の閒、駐藏大臣に充てられ、乾隆中、周原提督となる。珠爾默特那木札勒が謀叛するに及んで之を誅したが、其の餘黨の爲に殺さる。〔清史稿、三百十八〕・〔清史列傳、十九〕・〔國朝耆獻類徵、三百四十八〕・〔國朝先正事略、十九〕。

【傅誠】80セイ 宋の人。淇の孫。字は至叔。朱熹に從學し、淳熙中、登第す。嘉定の初、國子博士に除せられ、太常に遷り、國勢の不振を憂へて寧宗に治功奮起を勸む。司封郎中となり、一日登對し、忽ち殿下に卒す。〔宋元學案、六十九〕・〔萬姓統譜〕。

【傅昭】81ヤウ 梁、靈州の人。字は茂遠。謚は貞。幼時、袁覬に稱せられ、丹陽尹、袁粲に召されて郡の主簿となり、齊に仕へて尙書左丞に至り、梁に入つて散騎常侍・金紫光祿大夫となる。〔梁書、二十六〕・〔南史、六十〕。

【傅燮】82フセフ 後漢、靈州の人。字は幼起。後、南容と改む。謚は壯節。護軍司馬となり、黃巾の賊を討つて功があつたが、宦者趙忠に譖せられて封ぜられず。後、議郎を拜したが、權貴に疾まれて漢陽の太守となり、金城の賊が漢陽を圍むに及んで戰死す。〔後漢書、八十八〕。

【傅宣】83セン 晉の人。祗の子。字は世弘。性至孝。趙王倫に擧げられて相國掾となり、尋いで驃騎從事中郎に進み、懷帝の時、御史中丞に至つて卒す。〔晉書、四十七〕。

【傅潛】84セン 宋、衡水の人。太宗の時、范陽に從軍し、功によつて內殿直都虞侯に拔擢せられ、咸平中、鎭定高陽關三路行營都部署を拜し、契丹を防いだが、怯れて進まなかつた爲房州に流さる。後、汝州團練使となる。〔宋史、二百七十九〕・〔宋史新編、八十一〕・〔東都事略、四十二〕。

【傅奏】85ソウ 陳べ奏する。敷奏。〔漢書、宣帝紀〕自二丞相一以下、各奉レ職奏レ事、以傳二奏其言一。〔注〕傳、讀曰レ敷。〔後漢書、梁統傳〕謹表二其尤害一、於體二者一傳二奏於左一。

【傅巽】86ソン 三國、魏の人。嘏の從父。字は公悌。人を知る鑒識あり、公府に辟されて尙書郎を拜命す。後、荊州に客となり、劉琮を說いた功によつて、關內侯となり、文帝の時、侍中となる。荊州に在る時、龐統を半英雄といひ、魏に仕へて魏諷の必ず反するを豫言した。〔後漢書、一百四下〕。

【傅遜】87ソン 明、太倉の人。字は士凱。少くして歸有光に從學す。官は建昌訓導。著に左傳屬事・春秋注解辯誤がある。〔梅花草堂集、九〕・〔四庫提要、二十八〕。

【傅鼐】88ダイ ● 清、滿洲鑲白旗人。姓は富察氏。字は閣峯、國峯。雍正中、準噶爾と和議して阿爾泰山を以て界とす。官は刑部尙書に至つたが、事に坐して免ぜらる。〔清史稿、二百九十七〕・〔清史列傳、十五〕・〔國朝耆獻類徵、七十六〕。● 清、浙江山陰の人。字は重菴。軍功を以て寧洱知縣に擢んでられ、嘉慶の初、鳳凰廳同知となり、大小百戰必ず克ち、湖南按察使となる。苗疆に在ること十餘年に及ぶ。〔清史稿、三百六十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百九十四〕・〔國朝先正事略、二十三〕。

【傅道】89ダウ 明、錢塘の人。字は士行。官は德化縣丞。〔尚友錄、十八〕。

【傳道子】90 フダウシ 傳山(56)を見よ。

【傳致】91 チフ つけそへる。又、無理にこじつける。〔新語、道基〕傳二致膠漆丹青、玄黄琦瑋之色一。〔漢書、文三王傳〕傳二致難一レ明之事一。〔漢書、王莽傳〕莽皆傳二致其罪一。〔注〕師古曰、傳、讀曰レ附、附益而引致レ之、令レ入レ罪。

【傳疇】92 フチウ 河の名。山東省日昭縣の西南。源は縣の西北の駝兒山。

【傳暢】93 フチヤウ 晉の人。祗の次子。字は世道。少くして令名あり。東宮に侍講し祕書丞となり、武鄕亭侯に封ぜらる。後、石勒の下に大將軍右司馬となる。著に晉諸公敍讚・公卿故事がある。〔晉書、四十七〕。

【傳著】94 フチヤク ㊀つく。つける。附著(11－41606··87)に同じ。〔漢書、息夫躬傳〕或妄以レ意傳二著星歷一。㊁明、長州の人。字は則明。號は味梅齋。洪武の初、元史を編修し、常熟教諭となり、尋いで潞州の知となる。著に味梅齋集がある。〔明史、二百八十五〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【傳中】95 フチユウ 明、臨川の人。字は景華。少くして儒術を學び、太極數學に通ず。陳友諒の征討に從ひ、奇策の的中するものが多かつた。人となり狷介、人と語ること寡し。嘗て鐵冠を戴いてゐたので、時人は鐵冠道人と呼んだ。〔萬姓統譜〕。

【傳佇】96 フチヨ 宋、仙遊の人。字は凝遠。宣和の進士。官は茶司幹辦公事。〔萬姓統譜〕。

【傳陳】97 フヂン 陣をしく。布陣。〔漢書、陳湯傳〕離レ城三里、止營傳レ陳。〔注〕師古曰、傳、讀曰レ敷、布也。

【傳定】98 フテイ 宋の人。寅の兄の子。字は敬子。朱熹の門人。〔宋史翼、二十四〕。

【傳迪】99 フテキ 南朝宋の人。瑗の長子。字は長猷。右丞となる。廣く讀書するも、其の義を解しなかつたので、劉柳に書簏と謂はる。官は宋初に五兵尚書。〔宋書、四十三〕。

【傳堞】100 フテフ ひめがき。〔墨子、備城門〕城內有二傳壤一、因以二內壤一爲レ外。〔閒詁〕蓋爲二再重堞一、蘇云、兩壤字、皆堞字之誤、案、蘇說近レ是。

【傳桐】101 フドウ 清、泗州の人。字は味琴。號は梧生。道光の拔貢。駢體文に巧。著に梧生駢體文鈔がある。

【傳納】102 フナフ 言を敷きのべて君の心に受け入れさせる。敷納。〔漢書、文帝紀〕傳納以レ言。〔注〕師古曰、傳、讀曰レ敷、敷二陳其言一而納用レ之。

【傳梅】103 フバイ 明、邢臺の人。字は元鼎。萬曆の擧人。事を以て鄭國泰に疾まる。後、順德の知府吉孔嘉を佐けて兵を募り城を守つたが、破れて節に死す。著に嵩書がある。〔明史、二百四十二〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【傳雱】104 フハウ 宋、浦江の人。官は工部侍郎。著に建炎通問錄がある。〔南宋書、二十九〕。

【傳翻】105 フハン 漢の人。字は君成。官は諫議大夫。

【傳婢】106 フヒ つきそひの女。こしもと。侍女。〔漢書、王吉傳〕爲二傳婢所一レ毒。〔注〕師古曰、凡言二傳婢一者、謂三傳二相其衣服衽席之事一、一說、傳曰レ附、謂二近幸一也。〔後漢書、呂布傳〕卓又使三布守二中閤一、而私與二傳婢一情通、益不二自安一。〔顏氏家訓、序致〕師友之誡、不レ如二傳婢之指揮一。

【傳眉】107 フビ 清の人。山の子。字は壽毛(壽髦)、一字は須男、又、竹嶺。別號は糵道人・我道人。七歲にして能く小詩・小賦を作る。書畫に巧で、能く父の書を仿ふ。各地を偏歷したが行く所悉く合はず、歸つて藥を太原市に賣りて終る。〔清史稿、五百六〕・〔國朝耆獻類徵、四百七十三〕。

【傳敏】108 フビン 清、福敏(8－24768··121)の一名。

【傳父】109 フフ もりやくの男。傳母(119)の對。〔漢書、張騫傳〕子昆莫新生、傳父布就翎侯、抱亡置二草中一。〔注〕服虔曰、傳父、如二傳母一也。〔枚乘、七發〕今夫貴人之子、必宮居而閨處、內有二保母一、外有二傳父一、欲レ交無レ所。〔注〕善曰、禮記曰、孔子曰、古者男子外有二傳父一、內有二慈母一、翰曰、傳、保、謂二傳訓保養者一。〔孔子家語、曲禮子夏問〕古者、男子外有二傳父一。

【傳敷】110 フフ 晉の人。咸の子。字は穎根。太子舍人に除せらる。永嘉の亂を會稽に避け、元帝の時、鎭東從事中郎となる。〔晉書、四十七〕。

【傳伏】111 フフク 北齊、太安の人。戰功を以て官は開府に至り、武平中、東雍州の刺史に除せられ、後、周の武帝に仕へて岷州の刺史となる。〔北齊書、四十一〕・〔北史、五十三〕。

【傳粉】112 フフン 白粉をつける。〔漢書、景十三王、長沙王發傳〕卿祖裼傳二粉其傍一。〔顏氏家訓、勉學〕傳レ粉施レ朱。

【傳粉郎】113 フフンラウ 白粉を附けたやうに色の白い男。三國、魏の何晏をいふ。〔世說新語、容止〕何平叔美二姿儀一、面至白、魏明帝疑二其傳一レ粉、正夏月、與二熱湯餠一、既噉、大汗出、以二朱衣一自拭、色轉皎然。

【傳粉何郎】114 フフンカラウ 蟲の名。てふ。蝶(10－33333)の異名。又、美男子をいふ。傳粉郎を見よ。〔事物異名錄、昆蟲上、蝶〕唐人咏レ蝶詩、傳粉何郎全縞素。

【傳粉施朱】115 フフンシシユ 紅白粉をつける。化粧する。〔舊唐書、張易之傳〕由レ是兄弟俱侍二宮中一、皆傳レ粉施レ朱、衣二錦繡一服、俱承二辟陽之寵一。

【傳粉綠衣郎】116 フフンリヨクイラウ 酒の名。酴醾(11－39867··4)の異名。〔清異錄、花、慈恩傳粉綠衣郎〕陶子召二客于西宅一、爲二酴醾一開レ樽、無二以侑一レ飲、請二座人一各撰二小名一、得下有二思致一者七上、是日十一客、費二麴生八斗一、夜三二鼓而罷、家慈有二酴醾酒肉一、如二吾十二人之樂一、後世不レ可レ得、賽白、蔓君、四字天花、花聖人、慈恩傳粉綠衣郎、獨步春、沉香密友。

【傳汶】117 フブン 宋の人。佇の子。字は元魯。官は朝議大夫。〔尙友錄、十八〕。

【傳別】118 フベツ 貸借等の約束文を記した證書。別つて二とし、兩家各〻其の一を藏する。傳は著で、文書に書きつけること。券書。〔周禮、天官、小宰〕聽二稱責一以二傳別一。〔注〕鄭司農云、傳別、謂二券書一也、聽二訟責一者、以二券書一決レ之、傳、傳二著約束於文書一、別、別爲レ兩、兩家各得レ一也、云云、玄謂、云云、傳別、謂下爲二大手書於一札一、中字別上レ之。〔疏〕謂下於二券背上一、大作二一手書字一、札中央破レ之、爲二二段一別上レ之。

【傳母】119 フボ 人の子をもりたて育てる女。又、女子を傳育するもの。保母。保姆。傳姆。〔穀梁、襄、三十〕伯姬曰、婦人之義、傳母不レ在、宵不レ下レ堂。〔釋文〕母、本作レ姆。〔列女傳、母儀、齊女傳母傳〕傳母者、齊女之傳母也。

【傳姆】120 フボ もり。保姆。傳母に同じ。〔杜牧、杜秋娘詩〕晝堂受二傳姆一、天人親捧持。

【傳面】121 フメン 米粉を顏につけて化粧する。又、米粉を物の外面につける。〔說文〕粉、傳レ面者。〔繫傳〕古傳レ面、亦用二米粉一、故齊民要術、有二傳面粉英一。〔段注〕按、據二賈氏說一、粉英僅堪三妝二摩身體一耳、傳二人面一者、固胡粉也、許所レ云傳レ面者、凡外曰レ面、周禮傳二於餌餈之上一者、是也。

【傳野】122 フヤ 宋、義烏の人。字は景文。博學にして文辭に巧。咸淳中、詩を以て名聲あり。

【傳陽】123 フヤウ 縣名。㊀漢、置く。昔の偪陽國。故城は山東省嶧縣の南。偪陽(1－887··11)を見よ。〔漢書、地理志下〕楚國、縣七、傳陽。〔注〕故偪陽國。㊁南宋、置く。今、闕く。江蘇省の境。

【傳鑰】124 フヤク 明、廣寧の人。字は希準。正德の進士。官は嘉靖中、山西按察使。後、河南巡撫。〔國朝獻徵錄、六十二〕・〔國朝列卿記、一百二十〕・〔本朝分省人物攷、九十八〕。

【傳融】125 フユウ 後魏、淸河の人。性、豪爽。三人の子、靈慶・靈根・靈越は並に才力があつた。〔魏書、七十〕。

【傳予】126 フヨ 古の美人の名。〔枚乘、七發〕先施・徵舒・陽文・段干・吳娃・閭娵・傳予之徒。〔注〕善曰、皆美女。

【傳餘】127 フヨ 複姓。〔通志、氏族略、以レ族爲レ氏〕傳餘氏、姓氏英賢傳云、傳說爲レ相、子孫留二傳巖一者、號二傳餘氏一。

【傳壅】128 フヨウ 宋の人。伯成の子。字は仲珍。慶元中、登第し、宣教郎を以て崇安縣の長官と爲つて治績あり。漳州・撫州を歷、都官を以て召されたが、未だ至らずして卒す。〔萬姓統譜〕・〔宋元學案、七十〕。

【傳翼】129 フヨク 翼をつける。爲レ虎傳レ翼(9－32675··265)を見よ。〔韓詩外傳、四〕爲レ虎傳レ翼也。〔逸周書、寤儆解〕無二爲レ虎傳一レ翼、將二飛入一レ宮、擇レ人而食。

【傳羅】130 フラ 縣名。漢、置く。今の廣東省博羅縣。〔後漢書、郡國志五、博羅、注〕有二羅浮山一、自二會稽一浮往二博羅山一、故置二博羅縣一。〔王先謙集解〕惠

棟曰、沈約云、博羅、二漢皆作二傅字一。（宋書、州郡志四）南海太守博羅男相、漢舊縣、二漢皆作二傅字一、晉太康地志、始作レ博。

【傅立】131 元、德興の人。字は權甫。識は文懿。官は集賢院大學士。學者呼んで初菴先生といふ。（萬姓統譜）。

【傅亮】132 南朝宋の人。瑗の次子。字は季友。博く經史に涉り、尤も文辭を善くす。義熙中、官は中書黄門侍郎。武帝の時、佐命の功を以て建成縣公に封ぜらる。中書省に入つて專ら詔命を典り、尚書僕射に轉じ、少帝を廢する主謀となる。文帝の時、爵は始興郡公。散騎常侍・開府儀同三司を加へられ、元嘉の初、誅せらる。（宋書、四十三）・（南史、十五）。

【傅隆】133 南朝宋、靈州の人。字は伯祚。元嘉の初、御史中丞となり、出でて義興の太守に遷り、太常に徵さる。博學多通、尤も三禮に精しく、老に至つても學を廢しなかつた。（宋書、五十五）・（南史、十五）。

【傅禮】134 清の人。字は公緒。畫に巧で、鄭春・鄭堂と筆法を同じくした。（明畫錄、六）。

【傅烈】135 宋、晉江の人。字は承仲。易學を以て名聲あり。慶元の進士。官は惠州教授。後、循州の知。（尚友錄、十八）。

【傅濂】136 清、臨海の人。字は歡生。諸生。詩に巧。山水畫を善くす。定海の厲駭谷・鎭海の姚梅伯と共に浙東の三海と稱せらる。

【傅以漸】137 清、聊城の人。字は于磐。號は星巖・貞固齋。順治の間、進士第一。官は祕書院大學士。學者呼んで星巖先生と稱す。著に貞固齋詩集がある。（清史稿、二百四十四）・（清史列傳、五）・（國朝耆獻類徵、三）。

【傅惟肖】138 宋、南海の人。字は應求。官は清江知縣。（尚友錄、十八）。

【傅爲詡】139 清、建水の人。字は嘉言。號は謹齋。別號は巖溪。雍正の進士。乾隆中、檢討より御史を授けらる。官は副都御史。著に明儒四家纂・斯文易簡錄・讀漢書論・藏密文鈔詩鈔がある。（碑傳集、三十三）。

【傅維檉】140 清の人。維鱗の弟。字は培公。號は霄影・植齋。著に燕川漁唱詩・植齋文集がある。（四庫提要、一百八十一）。

【傅維楨】141 傅維鱗を見よ。

【傅維鱗】142 清の人。永淳の子。初名は維楨。字は掌雷、又の字は歡齋。順治の進士。編修から出でて東昌兵備道となり、治行第一であつた。左副都御史となる。勸學疏を上り、其の語は剴切を極めた。工部尚書に累進し、太子太保を加へらる。書室を四思堂といふ。著に明書三百卷・歡齋說書・四思堂文集がある。（國朝耆獻類徵、四十六）・（碑傳集、九）。

【傅友德】143 明、宿州の人。諡は武靖。徙つて碭山に家居す。太祖に降つて武功を立て、潁川侯に封ぜらる。蜀を伐つて論功第一に居り、鬱地平定後、公爵を賜はり、穎國公に封ぜられ、太子太師を加へらる。後、事に坐して死を賜はつたが、福王の時、麗江王に追封せらる。（明史、一百二十九）・（萬斯同明史、一百六十三）・（明史稿、一百十八）。

【傅游藝】144 唐、汲の人。初、左補闕となり、武后の時、上書して符瑞を詭り說いて、給事中に擢んでられ、鸞臺侍郎を拜命し、一歲の中に袍を賜ふこと靑から紫に及んだので、時人は四時仕宦と呼んだ。後、其の謀反を告げられ、獄に自殺した。（舊唐書、一百八十六）・（唐書、二百二十三）。

【傅雲龍】145 清、德清の人。官は直隸候補道。著に實學文導・續彙刻書目・纂喜廬叢書がある。

【傅永淳】146 清、靈壽の人。天啓の進士。崇禎中、河南道御史となり、賊を平らげて功あり。後、官は史部尚書。

【傅延年】147 草の名。きく。菊（9－31153）の異名。（本草、菊）釋名、節華、女節、女華、女莖、日精、更生、傅延年、金蕊、陰成。

【傅應禎】148 明、安福の人。字は公善。隆慶の進士。零陵縣の長官となつて盜を平定す。萬曆の初、御史となり、三事を疏陳して張居正に指斥せられ、謫戍に坐したが、尋いで大理丞に起用せらる。（明史、二百二十九）・（萬斯同明史、二百二十四）・（明史稿、二百十三）。

【傅應兆】149 明、臨朐の人。字は文聘。私諡は清毅先生。嘉靖の進士。官は平涼訓導。良知主敬主靜の說を皆空言にして徵なしとし、獨り義を主として士行の準繩とす。

【傅可知】150 明、黄陂の人。字は伯求。崇禎中、賊のために殺さる。（明史、二百九十四）・（萬斯同明史、二百八十）・（明史稿、二百七十五）。

【傅家甸】151 地名。滿洲吉林省濱江縣治の西。もとは一荒村に過ぎなかつたが、今は哈爾賓全市中で最も繁盛の區となつた。

【傅介子】152 漢、義渠の人。昭帝の時、駿馬監として大宛に使し、元鳳中、樓蘭王を斬つて歸り、義陽侯に封ぜらる。（前漢書、七十）。

【傅好禮】153 明、周安の人。字は伯恭。萬曆の進士。光祿少卿から太常となつたが、後、帝の怒に觸れ、大同廣昌典史に貶謫せらる。（明史、二百三十七）・（萬斯同明史、三百二十九）・（明史稿、二百十八）。

【傅希摯】154 明、衡水の人。右僉都御史となり、山東を巡撫し、河道を治めて功あり。後、南京兵部尚書となつたが、彈劾せられて致仕す。（明史、二百二十三）。

【傅希龍】155 宋の人。楫の從子。官は漳浦の令。楫に吾が學に負かずと稱せらる。（宋元學案、五）。

【傅起巖】156 元、汾西の人。識は文獻。官は中書左丞。（尚友錄、十八）。

【傅景星】157 清、登封の人。明の崇禎の進士。官は山東道監察御史。李自成が京師を陷れるや、賊に從つて僞兵政府侍郎を受く。順治の初、原官に復し、工部右侍郎に累擢せらる。（清史列傳、七十九）。

【傅僑山】158 傅山（56）を見よ。

【傅堯俞】159 宋、須城の人。字は欽之。識は獻簡。徙つて濟源に家居す。監察御史に擢んでらる。重厚寡言、人に接して城府を設けず、司馬光、其の人となりを稱す。官は元祐中、中書侍郎。書室を濟源草堂といふ。（宋史、三百四十一）・（宋史新編、一百十五）・（東都事略、九十）・（三朝名臣言行錄、十）・（宋元學案、八）。

【傅元順】160 明、臨川の人。字は信吾。隆慶の進士。官は大理寺評事・御史。（蘭臺法鑒錄、十九）。

【傅弘之】161 南朝宋の人。暢の曾孫。字は仲度。少くして大志あり。晉に仕へて太尉行參軍に至り、武帝の北伐に從つて功あり。（宋書、四十八）・（南史、十六）。

【傅弘烈】162 清、進賢の人。字は仲謀。號は竹君。識は忠毅。父の應期が、明末に粵西の令となつた時、隨つて任所に行く。清師が兩廣を定めるや、人才を以て應募し、慶陽知府に累擢せらる。吳三桂の陰謀不軌を疏陳し、梧州を戍らしめらる。三桂が反するや、陽に之に附し、僞つて將軍の職を受け、密かに尚可喜と恢復を圖る。廣西巡撫を授けられ、桂林梧潯の地千餘里を克復す。後、賊に執へられたが、屈せずして死す。（清史稿、二百五十八）・（清史列傳、六）・（國朝耆獻類徵、三百四十四）・（國朝先正事略、八）。

【傅作義】163 民國、山西省孝義縣の人。字は宜生。保定陸軍軍官學校卒業。晉奉戰に際して山西軍第四師長として勇名を馳せ、綏遠省政府委員兼主席となり、東北政務委員會委員を經て國民黨第五期中央執行委員に擧げらる。（現代中華民國滿洲帝國人名鑑）。

【傅作楫】164 清、奉節の人。字は濟菴。號は雪堂。康熙の擧人。官は良鄉の令。御史と爲つて頗る廉直の聲譽あり、左都御史に至る。詩は少陵を宗とし、雪堂・燕山・西征・南征等の集がある。（國朝耆獻類徵、六十二）。

【傅作霖】165 明、武陵の人。鄉擧より、唐王に仕へて職方主事となり、永明王の時兵部尚書に擢んでられ、武岡に從軍し、城陷つて死す。（明史、二百八十）・（萬斯同明史、三百七十二）・（明史稿、二百六十）。

【傅山人】166 明、傅汝舟（175）をいふ。

【傅子雲】167 宋、金谿の人。字は季魯。號は琴山。陸九淵の門人で、九淵が出でて荊門の守となつた時、子雲を象山精舍に居らしめたが、

從游する者が頗る多かつた。著に易傳・論語集傳・學庸解・孟子指義・離騷經解等がある。〔江西通志〕・〔宋元學案、七十七〕・〔宋史翼、三十六〕。

【傅思讓】168 ジシジョウ　宋、信都の人。勇力あり、騎射を善くし、太宗の時、官は平州刺史。契丹の兵を唐興口に破り、四遷して容州の觀察使となり、隴州の長官となる。〔宋史、二百七十五〕・〔宋史新編、七十八〕。

【傅斯年】169 フシネン　民國、山東省聊城縣の人。字は孟眞。獨逸伯林大學及び英國倫敦大學卒業後、國立廣州中山大學文史科主任教授を經て、國立中央研究院歷史言語研究所專任研究員兼所長・國立北京大學講師となる。著は歷史に關するものが多い。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【傅自修】170 フジシウ　宋の人。察の次子。字は勤道。官は直寶文閣。〔萬姓統譜〕。

【傅自得】171 フジトク　宋の人。察の子。字は安道。號は至樂齋。官は知興化軍・漳州太守。著に至樂齋文集がある。〔宋史翼、十二〕。

【傅爾丹】172 フジタン　清、滿洲鑲黃旗人。費英東の曾孫。謚は溫慤。康熙中、三等公を襲封し、振武將軍を以て準噶爾を擊つ。雍正中、噶爾を討ち、輕々しく進んで潰敗し、斬に擬せられたが、乾隆中、釋されて護軍統領となり、黑龍江將軍に至る。〔清史稿、三百三〕・〔清史列傳、十七〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十五〕。

【傅尙文】173 フシャウブン　明、華容の人。字は元質。正德の進士。大理評事に任ぜられ、武宗の南巡を諫めて廷杖せられ、戶部照磨に左遷せらる。嘉靖の初、舊職に還り、江西副使に累遷す。〔明史、一百八十九〕。

【傅若金】174 フジャクキン　元、新喩の人。初の字は汝礪、後に與礪と改む。詩に巧。著に傅與礪詩文集がある。〔萬姓統譜〕。

【傅豎眼】175 フジュガン　後魏の人。靈越の子。靈越は宋に殺されたので、魏に奔つて、參軍から益州の刺史となる。梁師が蜀を攻めた時、西征都督を加へられて梁師を敗り、梁州の刺史に轉ず。〔魏書、七十〕・〔北史、四十五〕。

【傅汝爲】176 フジョキ　明、江陵の人。字は于宣。崇禎の進士。汝寧の知府を授けられ、李自成の亂に國に殉ず。〔明史、二百六十二〕・〔萬斯同明史、三百七十九〕・〔明史稿、二百四十四〕。

【傅汝舟】177 フジョシウ　明、侯官の人。本名は舟。字は虛木。號は丁戊山人、又、磊老・前丘生。養生術を善くし、晚年、仙家服食の術を慕ふ。著に傅山人集がある。〔萬斯同明史、三百九十六〕・〔明人小傳、二〕・〔明詩綜、三十八〕。

【傅振商】178 フシンシャウ　明、汝陽の人。字は君雨。謚は莊毅。萬曆の進士。官は崇禎の時、兵部尙書。書室を冰玉堂といふ。著に杜詩分類・古論元著・綱玉錄・蜀漠幽勝集・四家詩選がある。〔蘭臺法鑒錄、二十〕。

【傅振邦】179 フシンバウ　清、昌邑の人。謚は剛勇。道光の武進士。咸豐中、洪秀全を江南に攻め、捻匪を徐豫の間に勦蕩し、到る所皆克ち、功により湖北提督に至る。〔清史稿、四百三十四〕・〔清史列傳、五十六〕。

【傅愼微】180 フシンビ　金の人。もと秦州沙溪の人。長安に居住す。字は幾先。宋の進士。河東路經制使となつたが、兵敗れ、執へられて歸化し、陝西經略使より、陝西諸路轉運使に擢んでられ、大定の初、禮部尙書に至る。〔金史、一百二十八〕。

【傅新德】181 フシントク　明、定襄の人。字は元明、又、商盤。謚は文恪。萬曆の進士。官は國子監祭酒。著に南雍議勘淺言がある。〔明人小傳、三〕・〔明詩綜、五十五〕。

【傅仁均】182 フジンキン　唐、白馬の人。曆學に精通す。官は太史令。〔唐書、二百四〕。

【傅崧卿】183 フスウケイ　宋の人。墨卿の從父弟。字は子駿。官は考功員外郎。後、直龍圖閣。書室を樵風溪堂といふ。著に溪風集・西掖制誥・夏小正傳がある。〔宋史翼、二十七〕・〔南宋館閣錄、七・八〕・〔南宋制撫年表、七・十二〕。

【傅世濟】184 フセイセイ　明、嵩縣の人。兄世舟と俱に土寇に執へられ自剄す。〔明史、二百九十二〕。

【傅正夫】185 フセイフ　宋の人。夢泉の從子。楊簡の門人。兄の道夫と名を齊しくした。〔宋元學案、七十四〕。

【傅燮詷】186 フセフトウ　清の人。維鱗の子。字は去異、又、繩菴。官は汀州知府。著に史異纂・明異叢・繩菴詩稿・琴臺遺響等がある。〔四庫提要、一百四十四〕。

【傅燮雝】187 フセフヨウ　清の人。燮詷の弟。字は鷺來、又、笠亭。貢生。著に笠亭集がある。

【傅占衡】188 フセンカウ　清、臨川の人。字は平叔。明の諸生。明の亡びるや、父を奉じて山中に隱れ、一切を謝絶した。著に漢書摭言・編年國策・臨川記・湘帆堂集がある。〔明史紀事、辛、十四〕。

【傅宗龍】189 フソウリョウ　明、昆明の人。字は仲綸。謚は忠壯。萬曆の進士。御史を授けられ、天啓の初、詔に應じ兵を募つて安邦彥を伐たんとして果さず。崇禎中、貴州巡按・四川巡撫・保定總督に歷任して皆功あり。入つて兵部尙書となり、楊嗣昌の後を承け、抗直を以て旨に忤ひ獄に下されたが、復、陝西總督に起用せられ、兵を率るて李自成を新寨に擊つて死す。〔明史、二百六十二〕・〔萬斯同明史、三百六十六〕・〔明史稿、二百四十四〕。

【傅僧祐】190 フソウイウ　南朝宋の人。官は安東錄事參軍。吏才あり、嘗て山陰の令となつて名あり。後、劉劭に殺さる。〔宋書、九十二〕。

【傅增湘】191 フゾウシャウ　民國、四川省江安縣の人。字は元叔。清の進士。清時代には袁世凱の祕書・直隸提學使等に任じ、民國成立後、王士珍內閣の教育總長となる。後、徐世昌大總統の顧問・故宮博物館長等に歷任す。中國著名の學者にして藏書が多い。著に著園羣書題記がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【傅大士】192 フダイシ　齊、東陽郡烏傷縣の人。本名は傅翕。字は玄風。陳の太建元年入寂、年七十三。二十四歲にして梵僧嵩頭陀に遇つて佛道に入り、轉輪藏の創始者として名あり。自ら當來解脫善慧大士と稱し、世に東陽大士・烏傷大士と稱せらる。〔釋門正統塔廟志〕。

【傅大聲】193 フダイセイ　宋、仙遊の人。字は仲廣。淳熙の進士。官は通判道州。百姓、傅父と稱す。〔宋史翼、二十一〕。

【傅澤洪】194 フタクコウ　清、漢軍鑲紅旗人。字は育菴、又、穉君(稚君)。號は怡園。官は江南淮揚道按察司副使。著に行水金鑑がある。〔清史稿、四百八十九〕。

【傅澤鴻】195 フタクコウ　清、湘鄉の人。字は少卿。咸豐の拔貢生。軍功を以て官は浙江知府に至る。著に史漢發明がある。

【傅達禮】196 フタツレイ　清、滿洲正黃旗人。姓は吳雅氏。康熙中、員外郎から禮部侍郎に累官す。命ぜられて滿語を以て漢文字に照し、彙集して書を成し、清文鑑と名づく。尋いで雲南に往き、撤藩の事を經理せんとして、吳三桂の反に遭ひ、留められる。還るに及び、聖祖は其の不屈を嘉して、原官に復した。〔清史列傳、六〕・〔國朝耆獻類徵、一百十六〕。

【傅中王】197 フチュウワウ　清、海寧の人。常熟に居る。字は昆岡。書・詩に巧。

【傅廷標】198 フテイヒョウ　㊀清、仁和の人。字は因其(因是)。號は半村。康熙の諸生。書・詩・古文に巧。〔清畫家詩史、丙、上〕。㊁清、晉江の人。乾隆中、臺灣の林爽文を征して功あり。嘉慶中、川楚の教匪を勦蕩す。官は高州鎭總兵に至る。〔國朝耆獻類徵初編、三百十六〕。

【傅定保】199 フテイホ　元、晉江の人。六歲にして大學を解す。母に事へて至孝。官は大德の初、漳州學正。首として太極圖西銘を講ず。古直先生と號す。〔萬姓統譜〕。

【傅鼎銓】200 フテイセン　明、臨川の人。字は維新。崇禎の進士。官は翰林檢討。兵を擧げて金聲桓に應じ、聲桓が敗れるや、執へられて死す。〔明史、二百七十八〕・〔宋史新編、三百六十七〕・〔東都事略、二百五十七〕。

【傅朝佑】201 フテウイウ　明、臨川の人。字は右君。竹石を畫くに巧。天啓の進士。中書舍人を授けられ、崇禎中、給事中となり、兵科に補せられ、刑科都給事中に進んだが、後、帝の怒に觸れて廷杖せられ、創重くして卒す。著に英巨集がある。〔明史、二百五十八〕・〔萬斯同明史、三百七十〕・〔明史稿、二百四十八〕。

【傅伯成】202 フハクセイ　宋の人。自得の子。字は景初。號は竹隱(竹隱居士)。謚は忠簡。少くして朱熹に從學す。隆興の初の進士から漳州の長官

となり、律己愛民を以て本とし、惠民局を創設して民病を濟ひ、左諫議大夫となる。理宗の時に、寶謨閣直學士を以て致仕す。著に竹隱居士集・奏議・老至志がある。〔宋史、四百十五〕・宋史新編、一百五十五〕・〔南宋書、五十四〕・〔宋元學案、六十九〕。

【傅汎濟】203 フフル タドル 葡萄牙の耶蘇會士フルタドの漢名。明の熹宗の天啓元年、來支して杭州に布教す。清の世祖の順治十年、澳門にて卒す。年六十七。著に寰有銓・名理探・天主教要がある。Furtado, Francisco

【傅米石】204 フベイセキ 清、鉅野の人。字は立元。號は練溪。康熙の擧人。古文に巧。著に練溪集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【傅鳳翔】205 フホウシャウ 明、應山の人。字は德輝。性、豁達にして、才、通敏。嘉靖の進士。官は兵部右侍郎。〔國朝獻徵錄、四十一〕・〔國朝列卿記、一百二十七・一百三十〕・〔蘭臺法鑒錄、十五〕・〔本朝分省人物攷、七十八〕。

【傅夢泉】206 フボウセン 宋、南城の人。字は子淵。號は若水。陸九淵の高弟。淳熙の進士。衡陽に教授し、清江の判に遷つて卒す。嘗て學を曾潭の訟に講じたので、學者は曾潭先生と稱す。〔宋元學案、七十七〕。

【傅墨卿】207 フボクケイ 宋、山陰の人。字は國華。宣和中、禮部尚書を以て高麗王楷を冊立して功あり。凡そ三度高麗に使し、高麗人に廟祀せらる。〔尚友錄、十八〕。

【傅臘塔】208 フラフタ 清、滿洲鑲黃旗人。姓は伊爾根覺羅氏。謚は清端。康熙中、內閣中書を授けられ兩江總督に至る。〔清史稿、一百八十一〕・〔清史列傳、九〕・〔國朝耆獻類徵、一百六十一〕・〔國朝先正事略、七〕。

【傅良弼】209 フリヤウヒツ 唐、清河の人。字は安道。射に於て軍中其の右に出る者がなかつた。王廷湊の叛に樂壽を固守すること累年、忻州の刺史に擢んでらる。寶曆の初、夏綏銀節度使となり、尋いで橫海節度使となる。〔唐書、一百四十八〕。

【傅靈越】210 フレイエツ 後魏の人。靈根の弟。靈根と共に河北に奔り、文成に用ひられて靑州の刺史となり、後、宋の孝武に用ひられて兗州の司馬から太原太守に進む。孝武の子、子勛が反した時、其の前軍將軍となつたが、兵敗れて明帝の將王廣の軍に執へられて殺さる。〔魏書、七十〕。

【傅靈慶】211 フレイケイ 後魏の人。融の子。宋の將蕭斌・王玄謨が懸瓠に寇した時、強ひて靈慶を引いて軍主とした。後、事を詐つて斌に殺さる。〔魏書、七十〕。

【傅靈根】212 フレイコン 後魏の人。靈慶の弟。靈慶の誅せられるに及んで、弟の靈越と河北に奔つて臨齊の副將と爲つたが、靈越が母を思つて南走せんとするに從ひ、期に違ひて渡られず、臨齊の人に殺さる。〔魏書、七十〕・〔北史、四十五〕。

【傅王露】213 フワウロ 清、會稽の人。字は良木。號は玉笥、又、閩林。晩年、信天翁と號す。康熙の進士。雍正中、鴻博に薦められたが、部駁に遇つて試に與らず。平生、好學倦まず、林下に優游し、著述を以て自ら娛しむ。書室を信天書屋・玉笥山房といふ。著に玉笥山房集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十一〕。

【傅汝礪妻】214 フジョレイ 孫蕙蘭(3—6987‥388)を見よ。

【傅與礪詩文集】215 フヨレイシブン 書名。二十卷。元、傅若金撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【傅】940

小篆

㊀ゲン 〔集韻〕虞怨切 願
㊁クワン 〔集韻〕五患切 諫

㊀❶こざかしい。さかしい。〔說文〕原、黠也、从レ人原聲。❷つつしみ深くすなほ。〔正字通〕原、按、原有二謹愿義一。㊁串(1—80)に同じ。〔集韻〕串、爾雅、習也、或作原。

【僎】941

ジョウ ニュ 〔集韻〕乳勇切 腫

❶おほい。〔玉篇〕僎、衆也。❷通じて莘(9—30918)に作る。〔正字通〕僎、通作レ莘。

【倮】942

リツ リチ 〔字彙〕力質切 質

❶廟に祀つた位牌。又、廟域に植ゑる栗。〔字彙〕倮、廟主也。〔正字通〕倮、古廟主木用レ栗、未レ有下稱レ倮爲二廟主一者上。❷もと栗(6—14695)に作る。〔篇海〕倮、本作レ栗。

【傻】943

ヂョク ノク 〔集韻〕奴沃切 沃

❶うれへる。〔集韻〕傻、愁惋也。❷庫傻官は二字姓。〔正字通〕傻、二字姓、有二庫傻官氏一。

【倶】944

キン 〔字彙〕于敏切 軫

まさる。ゆたか。〔字彙〕倶、優也。

【傻】945

ケン コン 〔集韻〕去偃切 阮

およぶ。おひつく。健傻。〔集韻〕傻、健傻、相从也。

【傭】946

㊀カウ 〔集韻〕虎項切 講
㊁コウ 〔集韻〕居候切 宥
ク 又 kou⁴

㊀媚びない。へつらはぬ。傭傻。〔玉篇〕傭、傭傻、不レ媚也。㊁❶おろか。無知のさま。〔正字通〕傭、無知貌。❷戇(8—23565)に同じ。〔集韻〕戇、或作レ傭。

【傭傻】1 バウ 媚びぬ。諂はぬ。〔玉篇〕傭、傭傻、不レ媚也。

【傭聾】2 ボウ おろか。無知なさま。傭聾に同じ。〔漢書、五行志中之上〕不敬而傭聾之所レ致也。

【傌】947

バ メ 〔集韻〕莫駕切 禡

❶ののしる。罵(9—28333)の本字。〔正字通〕傌、罵本字。〔漢書、賈誼傳〕而今與二衆庶一同二黥劓髡刖笞傌棄市之法一。〔注〕蘇林曰、傌、音罵。❷姓。〔章丘志〕洪武初、翰林編修吳沈、奉レ旨撰二千家姓一、得二姓一千九百六十八一、而此邑如レ朮如レ傌、尚未二之錄一。

【傍】948

小篆

㊀ハウ バウ 〔集韻〕蒲光切 陽
㊁ハウ 〔集韻〕補朗切 養
㊂ハウ バウ 〔集韻〕蒲浪切 漾
四ハウ ビヤウ 〔集韻〕蒲庚切 庚

❶かたはら。てぢか。そば。〔說文〕傍、近也、从レ人旁聲。〔廣韻〕傍、側也。〔禮、中庸、洋洋乎如レ在二其上一、注〕洋洋、人想二思其傍儗一之貌。〔釋文〕傍、謂二左右一也。❷つくり。字畫の右の部分。〔顏氏家訓、風操〕偏傍之書、死有二歸煞一。❸物のさま。傍儗(1)を見よ。❹或は徬(4—10200)に作る。〔集韻〕傍、或从レ彳。❺通じて旁(5—13637)に作る。〔正字通〕傍、通作レ旁。❻姓。〔通志、氏族略、夷大姓〕傍氏平聲、西羌姓也。㊁左右につき從ふ。侍る。〔集韻〕傍、左右也。〔新書、保傅〕仁者養レ

之、孝者強レ之、四聖傍レ之。三ちかづく。よる。たよりつく。或は並(1－54)・徬(11－41771)に作る。〔集韻〕傍、近也、或作二並・徬一。〔正韻〕傍、倚也。〔晉書、王彪之傳〕便當三倚二傍先代一耳。四❶已むを得ないさま。傍傍(51)を見よ。❷車の聲。䡙(10－38456)に同じ。〔集韻〕䡙、車聲也、或作レ傍。

名乘 カタ。

【傍優】1 バウイウ ぼんやりなさま。〔爾雅、釋訓、洋洋、疏〕鄭玄云、洋洋、人想二思其傍優一之貌。〔中庸、洋洋乎如レ在二其上一、注〕洋洋、人想二思其傍優一之貌。

【傍倚】2 バウイ そひよる。〔呂溫、成皋銘〕洪河在レ下、太室傍倚。

【傍訝】3 バウガ はたで噂をする。〔長生殿、傍訝〕歡遊罷、駕歸來。

【傍氣】4 バウキ 氣によりそふ。〔拾遺記、周穆王〕傍レ氣乘レ風、起二朝陽之岳一、自レ明及レ晦。

【傍朞】5 バウキ 傍系の親族で期の喪に服すべきものをいふ。〔喪葬令〕天皇爲二本服二等以上新喪一、服二錫紵一。〔義解〕謂、凡人君卽位、服絕二傍朞一、唯有二心喪一、故云二本服一。〔三代實錄、三十〕元慶元年二月十四日、天子絕二傍朞一、但未レ審二太上天皇以應レ絕否一。

【傍境】6 バウキヤウ ❶かたはらの土地。〔後漢書、南匈奴傳論〕乘レ閒侵佚、害流二傍境一。❷邊土の國境。旁境(5－13637‥29)に同じ。

【傍居】7 ソバヰ 近よりゐること。又、近い所。〔源平盛衰記、三十二、福原管絃講事〕傍居にかかる楫の音。

【傍近】8 バウキン そば。近所。近傍。〔宋史、李光傳〕調二發傍近鄕兵一、協力守禦。〔楊載、吳山晚眺詩〕傍近江湖天廣大。

【傍具】9 バウグ 拷問の道具。罪人を吟味するに用ひる道具。〔唐書、敬羽傳〕乃悉召二支黨一、環以二傍具一、囚惶怖。

【傍偟】10 バウクワウ さまよふ。うろつく。俳徊する。彷徨。彷徨。〔史記、刺客、荊軻傳〕傍偟不レ能レ去。〔後漢書、劉陶傳〕傍偟不レ能二監寐一。

【傍官】11 バウクワン どうやく。同役。同僚。〔源平盛衰記、三十九、時賴橫笛事〕傍官同僚。

【傍觀】12 バウクワン かたはらでみる。其の事に關係しない。〔顏氏家訓、風操〕有識傍觀、猶欲レ掩レ耳。〔唐書、元行沖傳〕當レ局稱レ迷、傍觀必審。

【傍觀者】13 バウクワンシヤ そばに居て見る人。また局外者として見る人。

〖傍觀者審〗14 バウクワンシヤハツマビラカナリ をかめ八もく。〔唐書、元行沖傳〕當レ局稱レ迷、傍觀必審。

【傍訓】15 バウクン ❶經文の傍の小注。旁訓(5－13637‥39)に同じ。❷ふりがな。漢字の橫に假名でよみ方を記したもの。

【傍系】16 バウケイ えだ葉の血すぢ。支系。旁系。親子の關係を以て續く血統を直系といふに對し、直系から分岐した血統をいふ。兄弟・をぢ・をひの類。傍親(30)を見よ。

【傍擊】17 バウゲキ 側面から攻擊すること。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕秀次縱レ騎傍擊。

【傍言】18 バウゲン 口ぞへ。かたはらの人のことば。傍語。旁言(5－13637‥53)に同じ。

【傍午】19 バウゴ ❶端午の節句に近い時。〔張憲、端午詩〕五色靈錢傍午燒、綵勝金花貼二鼓腰一。❷交錯する。❸pang¹ wu³ 正午に近い頃。小晝時。

【傍語】20 バウゴ 口ぞへ。傍言(18)に同じ。

【傍黑】21 pang¹ hei¹ 日の暮れ方。傍晚。

【傍妻】22 バウサイ めかけ。側室。傍室。旁妻。〔漢書、元后傳〕禁有二大志一、不レ修二廉隅一、好二酒色一、多取二傍妻一。

【傍像】23 p'ang² hsiang⁴ かたはらから差出口する。傍人の言。

【傍施】24 バウシ あまねく施す。旁施(5－13637‥73)に同じ。〔北史、蘇綽傳〕大誥曰、下綏二我蒼生一、傍施二於九土一。

【傍視】25 バウシ わきみ。傍を見る。旁視。〔傅玄、鬭雞賦〕前看如レ倒、傍視如レ傾。

【傍室】26 バウシツ わきに附屬して設けた部屋。旁室(5－13637‥81)に同じ。

【傍射】27 バウシヤ 側によつて射る。側面から射る。〔日本外史、新田氏正記、新田氏〕兵艦列二其南一、以備二傍射一。

【傍出】28 バウシユツ 橫に出る。わきから出る。旁出(5－13637‥89)に同じ。

【傍心】29 バウシン 數學用語。傍接圓の中心をいふ。

【傍親】30 バウシン 傍系の親族。〔晉書、河閒平王洪傳〕義不レ得下替二其本宗一、而先中後傍親上。〔三代實錄、三十〕元慶元年二月十四日、期之喪達二於大夫一者、謂下傍親所レ降在二大功一者上也。

【傍人】31 バウジン かたはらの人。又、他人。〔後漢書、隗囂傳〕自レ今以後、手書相聞、勿レ用二傍人解構之言一。〔顏氏家訓、兄弟〕唯友悌深至、不レ爲二傍人之所一レ移者免夫。〔梁簡文帝、妾薄命篇〕妾心徒自苦、傍人會見レ嗤。〔崔顥、孟門行〕成レ陰結レ實君自取、若問二傍人一那得レ知。〔杜甫、九日藍田崔氏莊詩〕羞將二短髮一還吹レ帽、笑倩二傍人一爲正レ冠。

【傍訊】32 バウジン あれこれと考へ求める。〔陸機、文賦〕其始也、皆收レ視反レ聽、耽思傍訊。〔注〕善曰、耽思傍訊、靜レ思而求レ之也。

【傍生】33 バウセイ ❶側より生ずる。〔癸辛雜識〕甘蔗種レ之則傍生。❷佛 バウシヤウ 畜生。三惡道、五道、六道の一。鳥獸等の畜生。〔玄應音義、二十一〕傍生、梵言二吉利藥住尼一、又云二帝利耶瞿揄泥伽一、此云二傍行一、舊翻爲二畜生一、或言二禽獸一者分得、仍未二總該一也。

【傍招】34 バウセウ あまねくまねく。旁招(5－13637‥106)に同じ。

【傍絕】35 バウゼツ 絕句の詩から、對句一聯を取放つたもの。〔庭訓往來、二月〕忘二序・表・賦・題・傍絕韻聲之質一。

【傍瞻】36 バウセン かたはらで見る。旁瞻。〔梁簡文帝、鏡象詩〕廻望疑二垂月一、傍瞻譬二璧璫一。

【傍搜】37 バウソウ あまねくさがす。旁搜(5－13637‥114)を見よ。

【傍綜】38 バウソウ あまねくすべ括る。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕進思二才淑一、傍二綜圖史一。〔注〕向曰、綜、理也。

【傍側】39 バウソク そば近く居る人。〔漢書、鮑宣傳〕罷二退外親及傍側素餐之人一。

【傍尊】40 バウソン 近い親戚。旁尊(5－13637‥119)を見よ。

【傍題】41 バウダイ 和歌で、主となるべき題の事物が客となつて、外のものが主となること。〔八雲御抄、一、正義〕歌合子細、侵二傍題一。

【傍達】42 バウタツ 近づき至る。〔後漢書、蘇不韋傳〕經レ月遂得下傍二達暠之寢室一、出中其牀下上。

【傍紐】43 バウチウ 詩の八病の一。傍紐の字を一句中に用ひること。傍紐とは、互に雙聲の關係にあつて韻を異にする字をいふ。晉の沈約の唱へたもの。一に旁紐に作る。八病(2－1450‥487)を見よ。

【傍聽】44 バウチヤウ かたはらで聞く。〔日本外史、德川氏正記、德川氏三〕諸將傍聽者、皆悅服。

【傍著】45 pang⁴ chê 近寄つて。傍に近づく。

【傍通】46 バウツウ ゆきわたる。〔管子、兵法〕一氣專定、則傍通而不レ疑。

【傍統】47 バウトウ 本家から別れ出た血すぢ。しんや。別家。支統。〔任昉、爲二褚諮議蓁一讓二代レ兄襲封表〕大宗絕レ緒、命レ臣出纂二傍統一。

【傍排】48 バウハイ 武器の名。楯。〔事物紀原、戎容兵械部、傍排〕實錄曰、傍排、自二夷牟一始也、或曰、傍排、近世兵杖中、有二鏢牌一、蓋出二溪洞之蠻一、熙寧中、王師征二交趾一、其法乃盛傳二於中國一、至二神宗一、設二於行陣一、令二諸軍習一レ之也、宋朝會要曰、太宗聞下南方以二標槍傍排一爲上レ兵、令下蕭延皓取二廣德軍一習上レ之、軍士之用二標牌一、此其始也。

【傍牌】49 バウハイ ❶楯。旁牌。〔兼明書〕干、一名楯、一名櫓、漢書曰、血流漂レ櫓、櫓卽干、俗呼爲二傍牌一、或作二旁排一、逸雅又曰二彭排一。❷木を束ねて陣營の兩傍を防ぐもの。〔六部成語、兵部、鹿角傍牌、注解〕傍牌紮レ木爲レ之、每用護二于營陣兩傍一以防二敵騎之橫衝一。

【傍輩】50 p'ang² pei⁴ 友人。仲閒。朋輩。

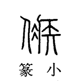
【傍傍】51 ハウハウ 已め避けることを得ないさま。〔詩、小雅、北山〕四牡彭彭、王事傍傍。〔傳〕傍傍然不レ得レ已。

【傍薄】52 バウハク 滿ちふさがる。混淆する。磅礴(8－24386‥10)に同じ。〔宋書、謝靈運傳〕崿崩二飛於東峭一、槃傍二薄於西阡一。

【傍晚】53 pang¹ wan³ 夕方。日暮近い頃。たそ

がれ時。
【傍費】54バウヒ 餘計な費用。〔宋書、顏延之傳〕無ニ急傍費、以息ニ流議一。
【傍夫】55 p'ang² fu¹ ㊀男妾。をとこめかけ。㊁姦夫。まをとこ。密夫。
【傍婦】56バウフ 妾。そばめ。てかけ。傍妻。旁婦(5－13637··156)に同じ。
【傍邊】57バウヘン そば。あたり。附近。旁邊。〔劉言史、山寺看ニ櫻桃花一題ニ僧壁一詩〕老僧不レ語傍邊坐、花發人來總不レ知。〔王建、宮詞〕千牛仗下放朝初、玉案傍邊立ニ起居一。〔皮日休、奉レ和ニ魯望樵人一十詠、樵火詩〕傍邊煖ニ白酒一、不レ覺瀑冰垂。
〔傍邊說便宜話〕58 p'ang² pien shuo¹ p'ien² i² hua⁴ 無關係の人は無責任に勝手な言を弄する。傍人はなんでもなささうに言ふ。
【傍明】59 pang¹ ming² 夜明け方。あかつき。
【傍陽】60ソヘヒ 信濃國の地名。
【傍喩】61バウユ 他のたとへ。〔白居易、和ニ夢遊春詩一一百韻詩、早春〕歡榮刹那促、覺悟因ニ傍喩一。
【傍覽】62バウラン あまねくみる。〔沈約、與ニ徐勉一書〕牽策行止、努力祗事、外觀傍覽、尙ニ以全レ人。
【傍流】63バウリウ あふれ流れる。〔魏志、王烈傳〕潛化傍流、暢ニ于殊俗一。
【傍鄰】64バウリン となり近所。四鄰。〔魏書、閻元明傳〕每ニ忌日一、悲ニ慟傍鄰一。〔沈約、貞女引〕貞女信無レ矯、傍鄰也見レ疑。
【傍例】65バウレイ 定式以外の法例。〔庭訓往來、七月〕傍例・納法・律令。
【傍廬】66バウロ 服喪中に居るいほり。〔孔子家語、曲禮子夏問〕食レ粥居ニ傍廬一、寢レ苫枕レ草。「並。
【傍州例】67 p'ang² chou¹ li⁴ 同樣の風俗。世間
【傍秋亭】68バウシウテイ 明、顧淸(12－43689··121)の室名。
【傍牆花】69 p'ang² ch'iang² hua¹ 草の名。のうぜんかづら。
【傍水崖】70バウスイガイ 崖の名。河北省臨榆縣の西北にある。明の隆慶の初、黃台吉が邊を犯した時、威繼光が伏兵を設けて邀擊した所。
【傍接圓】71バウセツエン 數學用語。三角形の一邊と、他の二邊の延長とに接し、且全く其の三角形の外にある圓。
【傍鮮鮮】72バウセンセン 小魚の名。〔尤錦生、菱湖即事詩〕越溪綾子放ニ吳艑一、郎入ニ甜鄉一妾未レ眠、幾度蹴レ郎郎不レ醒、融湖打過傍鮮鮮。〔注〕傍鮮鮮、細魚名、冬天黎明、漁船棒レ鼓、聲聲不レ絕、言傍ニ此鮮鮮一、趁早來買、故有ニ此名一。
【傍帳兒】73 p'ang² chang⁴ êrh 車の日覆ひ。
【傍不肯】74バウフコウ 穀物の害蟲を殺す蟲。〔夢溪筆談、雜誌一〕元豐中、慶州界生ニ子方蟲一、爲ニ秋田之害一、忽有ニ一蟲生一、如ニ土中狗蝎一、其喙有レ鉗、千萬蔽レ地、遇ニ子方蟲一、則以レ鉗搏レ之、悉爲ニ兩段一、旬日子方皆盡、歲以大穰、其蟲舊曾有レ之、土人謂ニ之傍不肯一。
【傍林鮮】75バウリンセン 筍の生える時、其の周圍に葉をかき集めていぶして、其の味をよくすることをいふ。〔山家淸供〕夏初竹筍盛時、掃レ葉就ニ竹邊一煨熟、其味甚鮮、名曰ニ傍林鮮一。
【傍花隨柳】76バウクワズイリウ 春の遊樂をいふ。花や柳のかたはらを過ぎゆく意。〔程顥、春日偶成詩〕雲淡風輕近ニ午天一、傍レ花隨レ柳過ニ前川一。
〔傍花隨柳堂〕77バウクワズイリウダウ 林恕の號。林鵞峰(6－14551··277)を見よ。
【傍枝傍葉】78 p'ang² chih¹ p'ang² yeh⁴ ㊀えだみち。枝葉。㊁餘計な。
【傍若無人】79バウジヤクブジン 人前をも憚らず、氣儘に振舞ふ。傍に人なきが如し。旁若無人。〔後漢書、延篤傳〕雖ニ漸離擊レ筑、傍若レ無レ人。〔晉書、謝尙傳〕尙便著ニ衣幘一而舞、云云、傍若レ無レ人。〔晉書、王敦傳〕武帝嘗召ニ時賢一、共言ニ伎藝之事一、人人皆有レ所レ說、惟敦都無レ所レ關、意色殊惡、自言知ニ擊鼓一、因振レ袖揚レ枹、音節諧韻、神氣自得、傍若レ無レ人、擧坐歎ニ其雄爽一。
【若ニ傍無レ人】80カタハラニヒトナキゴトシ 人前をも憚らず、氣儘に振舞ふ。傍若無人に同じ。〔左思、詠史詩〕荊軻飮ニ燕市一、酒酣氣益震、哀歌和ニ漸離一、謂若ニ傍無レ人。
【傍僧不敬僧】81 pang⁴ sêng¹ pu² ching⁴ sêng¹ 僧に接近すれば僧を敬はなくなる。接近すれば缺點が見える。

【⿰亻疾】949 シツ ジチ 〔集韻〕昨悉切 質


小篆

㊀**ねたむ。毒する**。或は嫉(3－6611)に作る。〔說文〕⿰亻疾、妒妎也、从レ人疾聲、一曰、毒也、嫉、⿰亻疾、或从レ女。㊁疾(7－22112)に通ず。〔正字通〕⿰亻疾、與レ疾通。

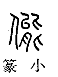
【⿰亻氣】950 キ ケ 〔集韻〕許旣切 未

㊀**いかる**。〔玉篇〕⿰亻氣、怒⿰亻氣也。〔集韻〕⿰亻氣、怒也。㊁愾(4－11029)の俗字。〔正字通〕⿰亻氣、俗愾字。
【⿰亻氣恨】1キコン いかりうらむ。〔陸雲、薦ニ張瞻一書〕考レ槃下レ位、歲聿屢遷、縉紳之士、具懷ニ⿰亻氣恨一。

【傎】951 テン 〔集韻〕多年切 先 ㄉㄧㄢ tien¹

㊀**さかさま。くるふ**。〔穀梁、僖、二十八〕晉文公之行レ事、爲ニ已傎一矣。〔注〕以レ臣召レ君、傎ニ倒上下一。㊁顚(12－43628)に同じ。〔正字通〕傎、同レ顚。㊂⿰亻顛(1－1316)に同じ。〔玉篇〕傎、同レ⿰亻顛、殞也。
【傎倒】1テンタウ さかさまにする。顚倒(12－43628··28)に同じ。〔儀禮、士喪禮、祭服不レ倒、注〕或傎ニ倒衣裳一。〔釋文〕本又作レ顚。

【⿰亻能】952 タイ 〔集韻〕他代切 隊


小篆

さま。かたち。態(4－11052)に同じ。〔說文〕態、⿰亻能、或从レ人。〔正字通〕⿰亻能、同レ態。
【⿰亻能狀】1タイジヤウ 狀態。〔墨子、備城門〕視ニ其⿰亻能狀一與ニ其進退所レ移處一。〔閒詁〕畢云、⿰亻能、卽態字也。

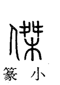
【傏】953 タウ ダウ 〔集韻〕徒郎切 陽

㊀**おごる**。傏⿰亻突。或は盪(8－23062)に作る。〔篇海〕⿰亻突、傏⿰亻突、不遜。〔韻會〕傏、或作レ盪。㊁**觸れる**。通じて唐(2－3709)・塘(3－5340)に作る。〔集韻〕傏、揬也、通作ニ唐・塘一。

【傐】954 カウ ゴウ 〔篇海〕乎老切 皓

北方の地名。〔篇海〕傐、北方地名。

【傑】955 ケツ ゲチ 〔集韻〕巨列切 屑 ㄐㄧㄝ chieh²


小篆

㊀**すぐれる。ぬきんでる**。〔說文〕傑、埶也、材過ニ萬人一也、从レ人桀聲。〔段注〕以ニ疊韻一爲レ訓、埶、本種埶字、引伸爲ニ勢力字一、傑者、言ニ其勢傑然一也、衞風毛傳曰、桀、特立也。㊁**すぐれた人**。智德の衆人にすぐれた人。〔孟子、公孫丑上〕俊傑在レ位。〔注〕萬人者稱レ傑。〔淮南子、泰族訓〕十人者謂ニ之傑一。〔春秋繁露、爵國〕百人者曰レ傑。〔戰國、齊策〕小國英傑之士。〔注〕才出ニ萬人一曰レ英、千人曰レ傑。〔白虎通、聖人〕萬人曰レ傑。〔漢書、高祖紀〕子房・蕭何・韓信三者、皆人傑也。㊂**苗などが秀でてぬきんでる**。〔詩、周頌、載芟〕有ニ厭其傑一。〔傳〕言ニ傑苗厭然特美一也。〔箋〕傑、先長者。〔集傳〕傑、先長者也。㊃**大きい**。傑大(23)を見よ。㊄**爵祿を賤しみ上に屈せぬ者**。〔韓非子、詭使〕賤ニ爵祿一、不レ撓上者、謂ニ之傑一。
【傑殷】1ケツイン 清、滿洲正紅旗人。康熙の間、王輔

臣・吳之茂を征するに隨ひ、陝西・甘肅・四川省等に轉戰し、官は護軍統領に至る。〔清史稿、二百六十四〕・〔國朝耆獻類徵、二百七十二〕。

【傑屋】2 chieh² wu¹ 大家屋。大廈。

【傑驁】3 ケツガウ あばれもの。桀驁（6－14753‥4）に同じ。

【傑閣】4 ケツカク 大きな高どの。〔韓愈、記夢詩〕隆樓傑閣磊嵬高、天風飄飄吹レ我過。

【傑黠】5 ケツカツ わる智慧のあること。桀黠（6－14753‥5）に同じ。〔北史、韓褒傳〕悉召下傑黠少年、素爲二鄉里患一者上、署爲二主帥一。

【傑起】6 ケツキ 立ちあがりぬきんでる。〔蜀志、楊戲〕順レ期挺生、傑起龍驤。

【傑句】7 ケツク すぐれた句。〔蘇軾、太虛以二黃樓賦一見レ寄作レ詩爲謝詩〕我詩無二傑句一、萬景驕莫レ隨。〔陸游、夜讀二岑嘉州詩集一詩〕零落財百篇、崔嵬多二傑句一。

【傑魁】8 ケツクワイ すぐれて大きい。又、偉大な人物。〔韓愈、殿中少監馬君墓誌銘〕見二王於北亭一、猶二高山深林鉅谷龍虎變化不レ測、傑魁人也。

【傑觀】9 ケツクワン 高大なたかどの。觀は、うてな。〔艮嶽記〕飛樓傑觀。〔陳師道、和三寇十一晩登二白門一詩〕重門傑觀屹相望、表裏山河自一方。

【傑語】10 ケツゴ すぐれた言葉。〔范成大、詩〕詩無二傑語一慚二風物一。

【傑濟】11 ケツサイ すぐれてさかん。〔吳志、孫策傳評〕英氣傑濟、猛銳冠レ世。

【傑操】12 ケツサウ すぐれた節操。〔潘岳、夏侯常侍誄〕傑操明達、困而彌亮。

【傑作】13 ケツサク 上出來の詩文・美術品などをいふ。名作。〔陸游、遊二三井觀一詩〕太古實傑作、筆落九天上。

【傑士】14 ケツシ すぐれた人。

【傑出】15 ケツシユツ すぐれる。他に拔んでる。傑特。傑出。〔後漢書、徐穉傳〕爰自二江南卑薄之域一、而角立傑出。〔晉書、摯虞傳〕方外遐裔、豈或有下命世傑出、而未レ蒙二膏澤一者上乎。〔王昌齡、望二太華一詩〕削成元氣中、傑出天漢上。

【傑俊】16 ケツシユン すぐれた人物。俊傑。傑儁。〔淮南子、時則訓〕〔孟夏之時〕命二太尉一贊二傑俊一。

【傑儁】17 ケツシユン すぐれた人物。傑俊に同じ。〔呂覽、孟夏〕命二太尉一贊二傑儁一。〔注〕千人爲レ儁、萬人爲レ傑。

【傑書】18 ケツシヨ 清の人。太祖の第二子の代善の孫。諡は良。封は多羅郡王。賜號は康。耿精忠の反するや、師を率ゐて之を平定す。還り、命ぜられて政を議し、後、歸化城に駐防す。〔清史稿、二百二十二〕・〔碑傳集、二〕。

【傑臣】19 ケツシン すぐれた臣。傑出した家來。〔詩、小雅、正月、有二菀其特一傳〕言三朝廷曾無二傑臣一也。

【傑性】20 chieh² hsing⁴ 豪傑風の氣性。秀でた性質。えらい氣性。

【傑跡】21 ケツセキ すぐれた事跡。〔韋瓘、南陵縣大農陂記〕大農傑跡、功符天作。

【傑然】22 ケツゼン 衆にぬきんでるさま。秀でるさま。〔莊子、天運〕又奚傑然若下負二建鼓一、而求二亡子一者上耶。〔後漢書、第五種傳〕第五種傑然自建、在二鄉曲一、無二苞苴之嫌一。

【傑大】23 ケツダイ 大きい。〔爾雅、釋丘、天下有二名丘五一注〕殆自別更有二魁梧傑大者五一。

【傑特】24 ケツトク ひとりぬき出る。傑出。〔秦觀、國論〕始皇之英偉傑特、又非二武帝之可一レ比也。

【傑夫】25 ケツプ 清、莫與儔（9－31078‥135）の字。

【傑物】26 ケツブツ ㊀すぐれた人物。人傑。㊁すぐれた物。逸物。

【傑木】27 ケツボク 大きな木。〔沈亞之、上二冢官一書〕伏念、傑木之生、大長越レ倫。

【傑邁】28 ケツマイ すぐれまさる。〔北史、張袞傳〕天資傑邁。

【傑立】29 ケツリツ ぬきんで立つ。〔宋史、夏侯嘉正傳〕所謂洞庭者、傑立而孤、廓然如レ無。〔陸游、詩〕三峯傑立插二雲間一。

【傑敖不馴】30 chieh² ao⁴ pu⁴ hsün² 純正でない人。

【⿰亻冥】956 メイ ミヤウ 〔集韻〕母迥切 迥

ゑふ。酩（11－39846）に同じ。〔集韻〕酩、大醉也、或作レ⿰亻冥。

【傗】957 テン 〔集韻〕丑展切 銑

たけが高いさま。〔集韻〕傗、人形長皃。

【⿰亻朵】958 キヨウ グ 〔集韻〕渠容切 冬

ののしる。俗に⿰亻⿱冖木（1－921）に作る。〔廣雅、釋詁三〕⿰亻朵、罵也。〔康熙字典〕⿰亻朵、一作レ⿰亻⿱冖木。

【⿰亻朵倯】1 キヨウシヨウ ののしる。〔方言、七〕⿰亻朵倯、罵也、燕之北郊、曰二⿰亻朵倯一。〔注〕羸小可レ憎之名也。

【傒】959 ㊀ケイ ゲイ 〔集韻〕弦雞切 齊 Tー hsi¹ ㊁ケイ ゲイ 〔集韻〕戶禮切 薺

㊀㊀あやふい。〔廣雅、釋詁二〕傒、危也。㊁東北の夷の名。〔廣韻〕傒、東北夷名。㊂江西の人をいふ。傒語（1）を見よ。㊃つなぐ。繫（8－27940）に通ず。〔淮南子、本經訓〕傒二人之子女一。〔注〕傒、與二囚繫之繫一同。㊄奚（3－5930）に通ず。〔孟子、萬章上〕百里奚自鬻二於秦養レ牲者五羊之皮一。〔史記、秦紀〕臣媵臣百里傒在焉、請以二五羖羊皮一贖レ之。㊅姓。〔萬姓統譜〕傒、齊卿高傒之後。

㊁まつ。もと徯（4－10204）に作り、僁（10－35522）に同じ。〔玉篇〕傒、待也、本作レ徯。〔集韻〕僁、或作レ傒。

【傒語】1 ケイゴ 江西地方の俗語。傒は元來、東北の夷をいふが、假りて江西の鄙俗の語を形容した。南齊の胡諧之の家人は傒音を發して言葉が正しくない爲、帝が宮人をして家中の子女に正音を教へしめた所、却つて宮人が傒語に化せられた故事に本づく。〔南史、胡諧之傳〕以二諧之家人語、傒音不レ正、乃遣二宮內四五人一、往二諧之家一、教二子女語一、二年後、帝問曰、卿家人語音已正未、諧之答曰、宮人少、臣家人多、非二唯不レ能レ得二正音一、遂使三宮人頓成二傒語一、帝大笑。

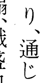
【傒狗】2 ケイコウ 江西人を罵る詞。傒語を見よ。〔南史、胡諧之傳〕諧之就二梁州刺史范柏年一求二佳馬一、柏年患レ之、謂レ使曰、馬非二狗子一、那可レ得爲レ應二無極之求一、接二使人一薄、使人致レ恨歸、謂二諧之一曰、柏年云、胡諧之是何傒狗、無レ厭之求。

【傒囊】3 ケイナウ 妖怪の名。〔太平御覽、妖異部、精類〕搜神記曰、諸葛恪爲二丹陽太守一、出獵、兩山之間、有レ物如二小兒一、伸レ手引レ人、恪令三曳去二故地一、死、參佐問レ之、恪曰、此事在二白澤圖一曰、兩山之閒、有レ精如二小兒一、名曰二傒囊一。

【傒龍】4 ケイリヨウ 室の精。〔太平御覽、妖異部、精類〕白澤圖曰、室之精名二傒龍一、如二小兒一、長一尺四寸、衣二黑衣一、赤幘大冠、帶レ劍持レ戟、以二其名一呼レ之、卽去。

【⿰亻⿹勹目】960 ジユン 侚（1－604）・徇（4－10091）の俗字。〔正字通〕⿰亻⿹勹目、侚・徇通、俗作レ⿰亻⿹勹目。

【傓】961 セン 〔集韻〕式戰切 霰


小篆

さかん。或は煽（7－19272）に作り、通じて扇（5－11743）に作る。〔說文〕傓、熾盛也、从レ人扇聲、詩曰、豔妻傓方處。〔段注〕詩本作レ傓、後人以二訓レ熾之故一、肊造二煽字一耳、古通作レ扇。〔集韻〕傓、說文、熾盛也、云云、或从レ火。〔正字通〕傓、說文、熾盛也、引二詩、小雅、豔妻煽方處一、作レ傓、从レ煽爲レ正、通作レ扇。

【傔】962 ケン 〔集韻〕詰念切 豔 くーㄢ ch'ien⁴

小篆

㊀したがふ。はべる。つかへる。〔說文新附〕傔、從也、从レ人兼聲。㊁從者。おそばづき。〔集韻〕傔、侍從也。

〔正字通〕傔、卽今承差也。㊂たりる。あきたらせる。〔呂覽、知士〕苟可㆔以傔㆓劑貌辨者㆒。〔注〕傔、足也。㊃通じて慊（2－1483）に作る。〔說文新附攷〕傔、通作㆑慊。

【傔從】1 ケンジュウ　おそばづきの家來。從者。侍者。〔唐書、封常淸傳〕傔從三十餘人、衣構鮮明。

【傔人】2 ケンジン　ともびと。使者の召使人。後世の承差（5－11852・・79）に同じ。〔通雅、官制〕傔人、倅也、唐制、大使副使、皆有㆓傔人別奏㆒。〔正字通〕傔、通雅曰、唐制、大使副使、皆有㆓傔人㆒。〔稱謂錄、書吏、傔人〕表異錄、河西節度使崔希逸傔人、入奏㆑事、注、傔、從也。

【傔卒】3 ケンソツ　つき從ふ兵卒。衞兵。〔唐書、魏謩傳〕荊南監軍呂令琛、縱㆓傔卒㆒辱㆓江陵令㆒。

【傔仗】4 ケンヂャウ　中古、鎭守府將軍・按察使・太宰帥・大貳等に給して、其の外出の際、兵仗を帶して、護衞せしめた武官。〔續日本紀、四〕和銅元年三月乙卯、敕㆓太宰府帥・大貳、竝三關及尾張守等㆒、始給㆓傔仗㆒。

【傕】963　カク　〔集韻〕訖岳切　ㄐㄩㄝˊ chüeh²　覺

姓。又、人名。〔玉篇〕傕、姓也。〔集韻〕傕、人名、漢有㆓李傕㆒。

【倉】964　㈠サウ ジャウ　〔集韻〕鋤庚切　ㄘㄤ ts'ang¹　庚　㈡サウ　〔集韻〕千剛切　陽

㈠㊀いやしい。いやしいもの。ゐなかもの。〔正字通〕倉、鄙賤之稱也。〔晉書、王獻之傳〕慠㆓主人㆒、非㆑禮也、以㆑貴驕㆑士、非㆑道也、失㆓此二㆒者、不㆑足㆑齒之倉耳。㊁北方中州の人。吳國の人が中國の人を呼ぶ稱。〔晉陽秋〕吳人謂㆓中州人㆒謂㆑倉、陸機呼㆓左思㆒爲㆓倉父㆒、宋孝武比㆓擬羣臣㆒、目㆓王玄謨㆒爲㆓老倉㆒。〔南史、王彥德傳〕彥德獨無㆑受㆓老倉之目㆒。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕無㆑端逐㆓饑倉㆒。㊂現 無賴者。道樂者。㈡亂れるさま。倉囊（8）を見よ。

【倉鬼】1 サウキ　北方の鬼。〔晉書、陸玩傳〕玩嘗詣㆓王導㆒食㆑酪、因而得㆑疾、與㆓導牋㆒曰、僕雖㆓吳人㆒、幾爲㆓倉鬼㆒。〔皮日休、吳中書㆑事寄㆓漢南裴尙書㆒詩〕唯望舊知憐㆓此意㆒、得㆘爲㆓倉鬼㆒也逍遙㆖。

【倉荒】2 サウクワウ　北方の人を呼ぶ語。其の人は卑しく、其の地は遠い意。〔歐陽脩、謝㆓國學解元㆒啓〕入㆑梁茲久、敢期㆓英俊之並遊㆒、論㆑都未㆑成、以㆓倉荒㆒而見㆑隔。

【倉雞】3 ts'ang¹ chi¹　軍雞。シヤモ。

【倉人】4 サウジン　いやしいもの。又、吳の人が中州の人を呼ぶ稱。〔新方言、釋言〕一切經音義引㆓晉陽秋㆒曰、吳人謂㆓中州人㆒爲㆓倉人㆒、俗又謂㆓江淮閒雜楚㆒爲㆓倉人㆒、尋㆓方言㆒、壯將皆訓㆑大、將倉聲通、倉人、猶㆑言㆓壯夫㆒耳。

【倉囁】5 サウセフ　いやしく細かい。〔駢雅、釋詁上〕倉囁、猥瑣也。〔黃香、責㆓髯奴㆒辭〕倉囁穰穠、與㆑塵爲㆑侶。

【倉楚】6 サウソ　中部中國人を賤しめていふ稱。〔南齊書、王融傳〕招㆓集江西倉楚數百人㆒、竝有㆓幹用㆒。〔南史、鍾嶸傳〕僑雜倉楚、應㆑在㆓綏撫㆒。

【倉儜】7 サウダウ　蠻地の下品な音の形容。〔唐書、劉禹錫傳〕斥㆓朗州司馬㆒、州接㆓夜郞諸夷㆒、俗喜㆓巫鬼㆒、每㆑祠歌㆓竹枝㆒、鼓吹裴回、其聲倉儜。

【倉囊】8 サウダウ　亂れるさま。搶攘。〔集韻〕倉、倉囊、亂皃。

【倉重】9 サウチユウ　粗雜で重い。頓重。〔陳書、周鐵虎傳〕周鐵虎不㆑知㆓何許人㆒也、梁世南渡、語音倉重、膂力過㆑人。

【倉奴】10 サウド　下男。下働きの僕。〔晉書、劉惔傳〕郄愔有㆓倉奴㆒、善知㆓文章㆒。

【倉父】11 サウフ　いやしいもの。人を賤しんでいふ語。ゐなかもの。一說に、吳人が北方中州の人を呼ぶ稱。〔晉書、左思傳〕（陸機）與㆓弟雲書㆒曰、此閒有㆓倉父㆒、欲㆑作㆓三都賦㆒、須㆓其成㆒、當㆔以覆㆓酒甕㆒耳、及㆓思賦出㆒、機歎伏、以爲㆑不㆑能㆑加也。〔世說新語、雅量〕吏云、昨有㆓一倉父㆒、來寄㆓亭中㆒、有㆓尊貴客㆒、權移㆑之、令有㆓酒色㆒、因遙問、倉父欲㆑食㆑餅不、姓何等、可㆓共語㆒。〔老學庵筆記、九〕南朝謂㆓北人㆒曰㆓倉父㆒、或謂㆓之虜父㆒。〔海錄碎事、地、風俗〕倉、仕衡反、廣韻云、楚人別種也、晉陽秋云、吳人謂㆓中國人㆒爲㆑倉、皮日休詩云、古來倉父愛㆓吳鄕㆒。

【傗】965　チク　〔集韻〕敕六切　屋

㊀のびない。かがまる。傗佩。〔集韻〕傗、傗佩、不㆑舒也。㊁怒つて顏色の動くさま。〔集韻〕傗、色僨起皃。㊂畜（7－21814）に同じ。〔康熙字典〕傗、與㆑畜同。〔古三墳、歸藏易〕育㆓敎傗㆒。〔注〕聖人以敎㆓養六傗㆒。

【傘】966　サン　〔集韻〕顙旱切　ㄙㄢˇ san³　旱

㊀からかさ。あまがさ。さしがさ。〔集韻〕傘、蓋也。〔正字通〕傘、禦㆑雨蔽㆑日、可㆓以卷舒㆒者。〔魏書、裴延儁傳〕持㆓白傘白幡㆒。㊁繖（8－27896）に同じ。〔集韻〕繖、通作㆑傘。㊂地名。〔遼史、太宗紀〕駐㆓蹕於傘淀㆒。

参考　熟語は繖（8－27896）を見よ。

【傘下】1 サンカ　からかさの下。轉じて、或る中心人物の配下又は同志となる場合に用ひる。配下。部下。

【傘榦】2 サンカン　傘の柄。〔茅亭客語、辟雷〕雷霹㆓傘榦㆒。

【傘骨】3 san² ku³　傘の骨。

【傘子】4 サンシ　からかさもち。〔金史、百官志二〕衞尉司、云云、常侍官、護衞三十人、奉引八十人、傘子四人、執旂二人。

【傘子鹽】5 サンシエン　鹽の名。其の形が傘に似て居るからいふ。〔本草、食鹽〕集解、時珍曰、傘子鹽、生㆓于井㆒。〔水經、江水注〕（朐忍）縣翼鹽帶井一百所、巴川資以自給、粒大者方寸、中央隆起、形如㆑張㆑傘、故因名㆑之曰㆓傘子鹽㆒。〔酉陽雜俎、物異〕鹽朐䏰縣鹽井有㆓鹽方寸㆒、中央隆起如㆑張㆑傘、名曰㆓傘子鹽㆒。

【傘松】6 カラカサマツ　傘を開いたやうな形の松。

【傘扇】7 サンセン　傘と扇。共に日をよけるもの。〔桃花扇、逮社〕坐㆑轎雜持㆓傘扇㆒。〔福惠全書、蒞任部、發到任示票〕鋪兵吹手傘扇夫皀幷執事各役。

【傘隊】8 san³ tuei⁴　落下傘部隊。

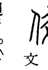
【傘柄】9 サンペイ　からかさの柄。〔耶律楚材、西城河中十詠詩〕傘柄學㆓鑽笛㆒。

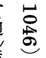
【傘鋒】10 カサボコ　㊀祭禮などに用ひる飾物。傘をひろげたやうに飾つた鋒。㊁紙製の小さい風船。

【傘蓋呪】11 サンガイジユ　祈禱の語。〔元史、釋老傳〕若㆓歲時祝釐禱祠之常號㆒、有㆑曰㆓覩思哥兒㆒、華言曰㆓傘蓋呪㆒也。

【傘形木】12 サンケイボク　傘松のやうに、傘の形をしてひろがつた木。

【備】967　ヒ ビ　〔集韻〕平祕切　ㄅㄟˋ pei⁴　寘


小篆


古文

㊀そなへる。もと備（1－1046）に作り、又、葡（7－21716）に通ず。〔說文通訓定聲〕備、本作㆑備。〔正字通〕備、叚借爲㆑葡。㋑ととのへる。しつらへる。〔廣雅、釋詁三〕備、具也。〔國語、周語下〕財以備㆑器。〔注〕備、具也。㋺まうける。用意する。〔華嚴經音義、下〕備、謂㆓預早爲㆑之也。〔國語、吳語〕備㆓刑戮㆒、以辱㆓其不㆑厲者㆒。〔注〕備、具也。㋩あてる。加へる。數に入れる。〔史記、儒林傳序〕文學掌故、補㆓郡屬㆒備㆑員。㋥をさめる。しまひこむ。〔國語、周語中〕草木節解而備藏。〔注〕備、收藏也。㋭もつ。たもつ。具有する。〔唐書、祖尙傳〕才備㆓文武㆒。㊁そ

なはる。㋑缺けたところがない。完全に具はる。〔儀禮、特牲饋食禮〕宗人擧二獸尾一告レ備。〔注〕備、具也。〔胡培翬正義〕謂三完具無二殘闕一也。㋺足りる。みちる。〔荀子、禮論〕故雖二備家一、必踰レ日然後能殯。〔注〕備、豐足也。〔國語、楚語上〕四封不レ備二一同一。〔注〕備、滿也。㋩なる。〔廣雅、釋詁三〕備、成也。㋥きはまる。〔廣雅、釋詁四〕備、究也。㋭居る。地位にあたる。〔漢書、翟方進傳〕身備二漢相一。㊂そなへ。㋑したく。用意。まうけ。てはず。〔書、說命中〕有レ備無レ患。〔大戴禮、小辨〕事戒二不虞一、曰レ知レ備。㋺道具。〔淮南子、脩務訓〕遂爲二天下備一。〔注〕備、猶レ用也。〔漢書、終軍傳〕當三先具二其備一。〔注〕備者、猶三今言二調度一。㋩警戒。防禦。ふせぎ手。〔左氏、成、十二〕狄人閒二宋之盟一以侵レ晉、而不レ設レ備。〔左氏、哀、十四〕家備盡往。㋥長い武器。〔正字通〕備、長兵曰レ備。〔左氏、昭、二十一〕用レ少莫レ如二齊致レ死、齊致レ死、莫レ如レ去レ備。〔注〕備、長兵也。㊃みな。ことごとく。すべて。つぶさに。〔方言、十二〕備、咸也。〔華嚴經音義、下〕備、畢盡也。〔禮、月令〕農事備收。〔注〕備、猶レ盡也。㊄つつしむ。〔說文〕備、愼也、从レ人葡聲。〔段注〕用部曰、葡、具也、此今之備字、備行而葡廢矣、葡廢而備訓レ具、毖下知二其古訓一愼者上。㊅かく。かきとる。又、つめ。掊(**5—12244**)に通ず。〔說文通訓定聲〕備、叚借爲レ掊、周禮冥氏、則獻二其皮革齒須備一、司農注、謂レ搔也、按、爪也。〔周禮、秋官、冥氏〕獻二其皮革齒須備一。〔注〕鄭司農云、備、謂レ搔也。㊆そへる。副(**2—2097**)に通ず。〔說文通訓定聲〕備、叚借爲レ副、左、哀十五傳、寡君使二蓋備レ使、注、猶レ副。〔左氏、哀、十五〕寡君使三蓋備二使、弔二君之下吏一。〔注〕備、猶レ副也。㊇きもの。服(**5—14345**)に通ず。〔說文通訓定聲〕備、叚借爲レ服、定四傳、備物典策、王氏引之云、卽服物也。㊈かき。土の垣。培(**3—5195**)に通ず。〔說文通訓定聲〕備、叚借爲レ培、淮南齊俗、抽箕踰備之姦、注、後垣也。〔淮南子、齊俗訓〕必有二穿窬拊楗、抽箕踰備之姦一。〔注〕備、後垣。㊉つかれる。なやむ。憊(**4—11085**)に通ず。〔說文通訓定聲〕備、叚借爲レ憊、易、既濟、陸績本、三年克レ之備也、遯、荀本有二疾備一也。⑪古は俻(**1—613**)に作る。〔集韻〕備、古作レ俻。⑫姓。〔廣韻〕備、又姓、風俗通云、宋封人備之後。

[名乘] ナリ。ナガ。ヨ。トモ。ヨシ。ノブ。クル。マサ。ヨリ。

【備案】 1 pei⁴ an⁴ 成案として備へ置く。事件の參考として記錄する。受理する。各機關或は民間團體が辨理の事を主管官署に報告して登記し置くこと。

【備位】 2 ビヰ 其の地位にそなはる。官職に在るといふ謙辭。充位。〔漢書、魏相傳〕臣相、幸得レ備レ位。〔漢書、蕭望之傳〕望之印レ天歎曰、吾嘗備二位將相一、年踰二六十一矣。〔後漢書、陳蕃傳〕臣蒙二恩聖朝一、備二位九列一。

【備由】 3 pei⁴ yu² 理由を具へる。

【備有】 4 ビイウ ㊀不足なくそなはる。〔書、益稷〕以二五采一彰二施于五色一作レ服、疏〕鄭云レ作レ服者此十二章、爲二五服一、天子備有焉。〔詩、大雅、韓奕〕有レ熊有レ羆、箋〕川澤寬大、衆魚禽獸備有。㊁用意がしてある。〔例〕備有詳章。

【備員】 5 ビヰン 數の中に加はる。員數に入れる。〔史記、秦始皇紀〕博士雖二七十人一、特備レ員弗レ用。〔史記、平原君傳〕毛遂曰、願君卽以レ遂備レ員行矣。〔漢書、申屠嘉傳〕爲二丞相一備レ員而已。〔蜀志、董允傳〕性素和順、備レ員而已。

【備衞】 6 ビヱイ 不虞にそなへて衞ること。不虞のそなへ。〔晉書、王濬傳〕王渾詣レ濬、濬嚴設二備衞一、然後見レ之、其相猜防如レ此。

【備閱】 7 ビエツ 參考とする。閱覽に備へる。〔淸高宗、乾隆三十七年諭〕有下堪二備閱一者上、再開單行知レ取レ進。

【備家】 8 ビカ 豐かな家。富家。〔荀子、禮論〕故雖二備家一、必踰レ日然後能殯。〔注〕備、豐足也。〔集解〕郝懿行曰、備、具也、皆也、物皆饒多夙具、故謂二富家一爲二備家一。

【備戒】 9 ビカイ そなへいましめる。鼓を擊つて戒める。〔禮、樂記〕夫武之備二戒之一已久、何也。〔注〕備戒、擊レ鼓警レ衆。

【備皆】 10 ビカイ 淸、帥我(**4—8886**··5)の字。

【備該】 11 ビガイ そなはる。そろふ。〔畫錄〕備該妙絕。

【備考】 12 ビカウ 考察の參考にそなへる。附記して本文の說明を補ひ、考究の便に供する。

【備號】 13 ビガウ よく備はつた名稱。〔荀子、解蔽〕目視二備色一、耳聽二備聲一、口食二備味一、形居二備宮一、名受二備號一。

【備恪】 14 ビカク 前代の王朝の後嗣に爵位を賜ふこと。〔淸會典、吏部、驗封淸吏司〕五曰備恪、以卹二勝國一。〔注〕雍正二年、詔訪二明代後嗣一、得二鑲白旗漢軍知府朱之連一、爲二一等侯一世襲、以奉二明陵春秋祭饗一。

【備樂】 15 ビガク 文の樂をいふ。善美を盡した音樂。〔禮、樂記〕干戚之舞、非二備樂一也。〔注〕樂以二文德一爲レ備、若二咸池一者、孔子曰、韶盡レ美矣、又盡レ善也、謂レ武、盡レ美矣、未レ盡レ善也。〔左氏、成、十二〕重レ之以二備樂一。

【備函】 16 pei⁴ han² 手紙を書く。書面を記す。

【備擬】 17 ビギ そなへあてがふ。〔舊唐書、王晙傳〕多屯二士卒一、廣爲二備擬一。

【備九】 18 ビキウ 淸、顧鎭(**12—43689**··149)の字。

【備救】 19 ビキウ あらかじめそなへて救ひ助ける。〔左氏、成、十二〕同恤二菑厄一、備救二凶患一。

【備急】 20 ビキフ 危急の際にそなへる。〔和漢三才圖會、兵器、砲石〕仕掛大銃、放レ之百發百中、戰陣備レ急之重器也。

【備宮】 21 ビキユウ 設備の完全な宮殿。〔荀子、解蔽〕口食二備味一、形居二備宮一。

【備擧】 22 ビキヨ ことごとく擧がる。つぶさに擧げる。つぶさに擧げ示す。又、凡ての樂器が樂を奏することにいふ。〔詩、周頌、有瞽〕既備乃奏、簫管備擧。〔禮、樂記〕備擧二其道一、不レ私二其欲一。〔馬融、長笛賦〕簫管備擧、金石並隆。

【備御】 23 ビギヨ そなへふせぐ。御は禦に同じ。備禦。〔左氏、昭、三十〕以三敝邑居二大國之閒一、共二其職貢一、與三其備二御不虞之患一、豈忘レ共レ命。〔會箋〕御、與レ禦通、備二禦不虞一、謂二軍旅之備、邊境之防一。〔楚辭、九章、惜誦〕俾二山川以備御一兮。〔吳志、呂蒙傳〕所二以備御甚精一。

【備禦】 24 ビギヨ そなへふせぐ。防備。備御。〔左氏、昭、七〕君其備二禦三鄰一。〔國語、周語下〕將二災是備禦一而召レ之。〔後漢書、史弼傳〕職典禁兵、備二禦非常一。〔吳志、薛綜傳〕今遼東戎貊小國、無二城池之固、備禦之術一。〔梁書、陸襄傳〕修二城隍一爲二備禦一。〔白居易、除二閻巨源一充二邠寧節度使一制〕有三引レ弓犯レ塞之虞一、寄二深於備禦一。

【備具】 25 ビグ そなはり足る。揃ひ整ふ。用意する。具備。備悉。完備。〔左氏、襄、十〕昔平王東遷、吾七姓從レ王、牲用備具。〔戰國、齊策〕東西南北、莫三敢不二來服一、萬物無レ不二備具一、而百姓無レ不二親附一。〔韓非子、十過〕寡人行二城郭及五官之藏一、皆不二備具一、吾將二何以應レ敵。〔管子、立政〕瓜瓠葷菜百果不二備具一、國之貧也。〔史記、司馬相如傳〕百官備具。

【備具匣】 26 pei⁴ chü⁴ hsia² 手文庫。手廻り品を入れる小箱。「物。

【備貨】 27 ビクワ 在庫品。ストック。備へつけの品。

【備荒】 28 ビクワウ 凶年、又は變災のために備へる。萬一の時の用意。〔焦竑、備荒弭盜議〕備レ荒尤爲レ急。

【備荒米】 29 ビクワウマイ 凶年などの用意にたくはへて置く米。手當米。救助米。

【備荒植物】 30 ビクワウシヨクブツ 凶年の時、飢を凌ぐ爲に食ふ植物。主として山野に自生する草木の果

實・種子・地下莖・嫩葉等で、此の用に供せられ得るものは六百種程ある。救荒植物。

【備荒貯蓄】31 ビコウチョチク 凶年の用意に、平常勤倹して金穀をたくはへ置くこと。

【備卿】32 ビケイ 清、斌良(5－13468‥4)の字。

【備警】33 ビケイ そなへいましめる。〔吳志、孫韶傳〕皆乘レ城傳レ檄備警。

【備穴】34 ビケツ 墨子の篇名。

【備闕】35 ビケツ ❶備はることと缺けること。〔尉繚子、兵教下〕兵有二備闕一、糧食有レ餘不足。一❷缺けた所に備へる。〔五代史、晉家人傳論〕然粗存二其見者一、以備二其闕一云。

【備言】36 ビゲン つぶさに言ふ。〔漢書、杜欽傳〕萬事之是非、何足二備言一。〔杜預、春秋左氏傳序〕必廣記而備言レ之。

【備胡】37 ビコ 鹽鐵論の篇名。

【備五】38 ビゴ 清、李福(6－14459‥708)の字。

【備厚】39 ビコウ 十分に手厚い。〔漢書、高惠高后文功臣表〕憂敬飭盡、命賜備厚。

【備考】40 pei⁴ ch'a² 參考とする。調査に資する。備考の意。

【備災】41 ビサイ 災害にそなへる。〔余靖、乞寬二租賦一防二盜疏一有二備災之術一也。

【備載】42 ビサイ つぶさに載せる。〔晏子、重而異者〕晏子歸備載。〔晉書、裴秀傳〕惟有二漢氏輿地、及括地諸雜圖一、各不レ設二分率一、又不レ考レ正、準望亦不二備載一。

【備倉】43 ビソウ 災害などの用にあてるものを平常から用意して收めて置く倉。〔杜衍、詳二定常平制度一疏〕添二備倉本一。

【備藏】44 ビゾウ とりをさめる。そなへをさめる。〔國語、周語中〕草木節解而備藏。〔注〕備、收藏也。

【備札】45 pei⁴ cha² 文書を作製する。

【備至】46 ビシ 十分に行きとどくこと。〔顏氏家訓、序教〕慈兄鞠養、苦辛備至。

【備使】47 ビシ 使者につきそふ。又、使臣の數に備はる。〔左氏、哀、十五〕寡君使二蓋備レ使、弔二君之下吏一。〔注〕備、猶レ副也。〔會箋〕備、具也、言レ備二使臣之數一而已、杜云二備猶レ副、拘矣、下備レ使奉レ尸將レ命、若爲二副使一、則與二上文一不レ應。

【備施】48 ビシ あまねく施す。〔管子、幼官〕兩者備施、動靜有レ功。

【備試】49 pei⁴ shih⁴ 試驗の準備をする。

【備悉】50 ビシツ ❶十分にそなはる。十分にそなへる。備具。具備。完備。〔魏志、陳思王植傳〕王援レ古喩レ義、備悉矣。❷くはしく知る。委細承知。備は、つぶさにの意。〔隋書、蘇威傳〕備二悉國章一。

【備質】51 pei⁴ chih² 質疑の準備をする。

【備舍】52 ビシャ 悉くやどる。〔國語、楚語下〕百嘉備舍、羣神頻行。

【備笠】53 ビシツ 清、周鑣(2－3441‥496)の字。

【備償】54 ビショウ 賠償する。〔唐律、名例〕於レ物不レ可レ備償一。〔備償如レ法〕55 ビショウノゴトシ 官吏が官物を亡失した時、法に從つて、原物と同樣の物を備へて賠償すること。〔唐律、廐庫〕若亡二失所一假者、自言二所司一、備償如レ法。

【備情】56 pei⁴ ch'ing² 事情を具す。

【備錫】57 ビシャク ❶たまものをそなへ用意する。〔魏志、武帝紀、注〕陛下乃發二盛意一、開レ國備レ錫、以貶二愚臣一。❷つぶさに賜ふ。〔鄭餘慶、祭二杜太保一文〕崇秩屢增、湛恩備錫。

【備守】58 ビシュ そなへ守る。守備。〔戰國、趙策〕號令已定、備守已具。〔史記、淮陰侯傳〕漢王奪二兩人軍一、卽令二張耳備一守趙地一。

【備取】59 ビシュ 試驗の及第者の外に豫備として取る人。補缺。正取(6－16255‥229)の對。〔清科場條例〕、〔清國行政法、內務行政、教育、會試、試後規制〕其試卷、內簾甄別、爲二正取・備取一、不中三【備取生】60 ビシュセイ 補缺の學生。【類】

【備承】61 ビショウ つぶさにうく。もれなくうける。多く蒙る。

【備色】62 ビショク 美しく備はつた色。〔荀子、解蔽〕目視二備色一、耳聽二備聲一。

【備飾】63 ビショク つぶさに飾る。〔荀子、正論〕械用備飾、不レ可レ不レ異也。〔商子、立本〕恃二其備飾一者、謂二之巧一。

【備身】64 ビシン 官名。供御・侍從・宿衞等を掌る。此の名は後漢に始まる。〔通典、職官典、武官上、左右千牛衞〕千牛、刀名、後漢有二千牛備身一、掌レ執二御刀一、因以名レ職、北齊千牛備身、屬二左右將軍一、隋有二左右領左右府一、大將軍二人、將軍二人、掌下侍二衞左右一、供中御兵仗上、領千牛備身十二人、掌レ執二千牛刀一、備身左右十二人、掌二供御刀箭一、備身十六人、掌二宿衞侍從一。〔備身弩〕65 ビシンド 芫花(9－30727‥二)の異名。〔清異錄、藥〕侯寧極藥譜、備身弩、芫花。

【備身府】66 ビシンフ 官署の名。隋、左右備身府を置き、煬帝、左右驍衞府と改む。領する所の兵士を豹騎といふ。〔通典、職官典、武官上、左右驍衞〕隋開皇十八年、置二備身府一、煬帝卽位、改二左右備身府一、爲二左右驍衞府一、所レ領軍士、名曰二豹騎一、其備身府又別置焉。

【備祲】67 ビシン 災害に備へる。〔清會典、戶部、戶部尚書〕凡荒政十有二、一曰備祲。

【備賑】68 ビシン 飢饉の時の救恤にそなへる。〔福惠全書、刑名部、問擬、罰二穀二石一備賑。

【備水】69 ビスイ ❶豫め水害に備へる。〔易林、方〕船備レ水、傍レ河然レ火。❷墨子の篇名。

【備數】70 ビスウ 員數を備へる。員數に備はる。〔儀禮、士昏禮〕吾子有レ命、且以備二數而擇一之。〔論衡、程材〕其置二文吏一也、備二數滿一員。〔馬融、長笛賦序〕追二慕王子淵・枚乘・劉伯康・傅武仲等簫琴笙頌一、唯笛獨無、故聊復備レ數、作二長笛頌一。〔注〕翰曰、備レ數、謂レ備二古人之數一也。

【備成】71 ビセイ 清、黃孝錫(12－47926‥1012)の字。

【備姓】72 ビセイ 女子を宮中に納れること。備百姓の略。〔禮、曲禮下〕納二女於天子一、曰レ備二百姓一、於二國君一、曰レ備二酒漿一、於二大夫一、曰レ備二掃灑一。

【備聲】73 ビセイ 調子のよく備はつた音樂。〔荀子、解蔽〕目視二備色一、耳聽二備聲一。〔蘇軾、既醉備二五福一論〕耳聽二天下之備聲一。

【備設】74 ビセツ 備へ設ける。〔禮衡、鸚鵡賦〕雖二綱維之備設一、終一目之所加。〔宋史、樂志三〕於二壇之北一、備二設宮架一。

【備全】75 pei⁴ ch'üan² 完全に準備する。準備が全く整ふ。

【備善】76 ビゼン 善を盡くす。充分に備はる。〔漢書、匈奴傳上〕且所レ給備善則已。〔魏文帝、典論、論文〕夫人善二于自見一、而文非二一體一、鮮二能備レ善。

【備送】77 pei⁴ sung⁴ 調製して送致する。

【備足】78 ビソク 十分に備はる。具足。〔書、洪範、五者來備、疏〕五者於レ是來皆備足。〔後漢書、寇恂傳〕文武備足。

【備待】79 ビタイ 豫め備へて待つ。〔管子、七臣七主〕不二備待一而得レ和、則民反レ素也。

【備當】80 ビトウ つぶさにあたる。十分に法度にかなふ。〔禮、月令〕五者備當、上帝其饗。〔呂覽、仲秋〕五者備當。

【備道】81 ビドウ 道を備へる。〔宋史、寧宗紀一〕寧宗法レ天備レ道、純レ德茂レ功。

【備知】82 ビチ ❶つぶさにしる。〔謝惠連、雪賦〕固展轉而無レ窮、嗟難得而備知。❷鶡冠子の篇名。

【備置】83 ビチ そなへおく。〔班彪、上二言選一置東宮及諸王國官屬一〕東宮及諸王國、備二置官屬一。

【備長】84 ビチョウ 紀州から產する最上の木炭。

【備追】85 ビツイ 卒を置いて追捕するに備へる。〔管子、禁藏〕吏無二備追之憂一。〔纂詁〕備追、置レ卒以備二追捕一也。

【備呈】86 pei⁴ ch'eng² 作製して差出す。

【備抵】87 pei⁴ ti² 純益金中の一部を以て或る損失項目の補塡に充てる。

【備梯】88 ビテイ 墨子の篇名。

【備帖】89 pei⁴ t'ieh³ 名刺を用意する。帖を準備する。又、控簿の類を備へる。

【備得】90 ビトク 悉く得る。〔管子、宙合〕減溜大成、是唯時德之節、云云、減、盡也、溜、發也、言二備環畢莫一、不二備得一、故曰二減溜大成一。

【備突】91 ビトツ 墨子の篇名。

【備腯】92 ビトツ 十分に肥えふとる。又、備はり充ちること。〔左氏、桓、六〕謂二其備腯咸有一也。〔會箋〕曲禮、豚曰二腯肥一、疏云、腯、充滿貌。

【備內】93 ビナイ 韓非子の篇名。

【備馬】94 ビバ 馬を用意する。馬に鞍をおく。〔宋史、吳昌裔傳〕治兵足レ食之方、修車備レ馬之事、乃缺略不レ講。〔通俗編、武功、備馬〕南渡錄、康王南奔、倦二息崔府君廟一、夢神曰、追騎已至、宜二速去一、已備二馬矣、天祿志餘、今北京方言、將レ出則令二人備一レ馬本レ此。

【備忘】95 ビバウ 忘れた時の用意。

【備忘集】96 ビバウシフ 書名。十卷。明、海瑞撰。瑞は文章家ではないが、資性剛直で、侃侃の論が多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【備忘錄】97 ビバウロク 忘れた時の用意に書きつけておく手帖。おぼえがき。

【備榜】98 ビバウ 鄕試の副榜(2－2097‥60)をいふ。〔元史、選擧志一〕擧人下第者、悉授以二路府學正及書院山長一、又增二取鄕試備榜一、亦授以二郡學錄及縣教諭一。〔稱謂錄、副榜、備榜〕案、此謂二鄕試備榜一、卽今之副榜、是也。

【備萬】99 ビバン 明、朱善(6－14424‥431)の字。

【備品】100 ビヒン ㊀しなをそなへる。〔漢書、王莽傳中〕太官膳羞、備二其品一矣。㊁そなへつけのしなもの。又、消費する物品を消耗品といふに對し、永久に保存すべき性質の物品をいふ。設備品。

【備附】101 ソナヘツケ 其の場所にしつらへ置くこと。又、其の物。

【備物】102 ビブツ ㊀物を備へる。又、備はつた物。〔易、繫辭上〕備レ物致レ用、立二成器一。〔禮、檀弓下〕備レ物而不レ可レ用也。〔國語、楚語下〕夫神以二精明一臨レ民者也、故求二備物一、不レ求二豐大一。㊁國君の威儀を示す物、卽ち車輅・旂章・弓矢・斧鉞など。又、それを備へること。備物典策を見よ。〔漢書、藝文志〕魯周公之國、禮文備物、史官有レ法。〔白虎通、三軍〕備レ物成レ功。〔任昉、王文憲集序〕朝章國紀、典彝備物。〔注〕向曰、備物、朝廷威儀也。

【備物之饗】103 ビブツノキヤウ 物を備へた饗禮。〔左氏、僖、三十〕有二備物之饗一、以象二其德一。〔會箋〕文武備矣、故備物饗レ之。

【備物之錫】104 ビブツノシヤク 祭器等のたまはりもの。〔干寶、晉紀總論〕始當二非常之禮一、終受二備物之錫一。〔注〕銑曰、備物、謂二祭器之物一。

【備物典策】105 ビブツテンサク 備物と典策。朝廷の威儀を示す物と史官の書策。〔左氏、定、四〕備物典策、官司彝器。〔注〕典策、春秋之制。〔疏〕服虔云、備物、國之職物之備也、當レ謂二國君威儀之物一、若二今繖扇之屬一、備二賜魯一也、杜不レ解二備物一、則與二典策一爲レ一也、備物典策、謂二史官書策之典一。〔資治通鑑、晉紀〕〔成帝、咸康七年〕備物典策、皆從二殊禮一。〔注〕師古曰、既有二備物一、而加二之策一也、杜預云、典策、春秋之制也、余謂、車輅旂章、弓矢斧鉞、皆可三以言二備物一、周成王分二魯公一、以二大路・大旂・封父之繁弱・夏后氏璜一備レ物、典策、典者、典法也、策者、策書也。

【備文】106 ビブン ㊀文飾を具備する。〔後漢書、輿服志〕乘輿備レ文、日月星辰十二章、三公諸侯、用二山龍九章一、九卿以下、用二華蟲七章一、皆備二五采一。㊁pei⁴ wên² 文書を作製する。書類を調製する。

【備聞】107 ビブン つぶさに聞く。〔鍾會、移レ蜀檄〕諸賢所二備聞一也。〔隋書、高祖文帝紀上〕民閒情僞、咸欲二備聞一。

【備兵】108 pei⁴ ping¹ 軍隊の準備をする。

【備辦】109 ビベン ㊀準備する。支度する。〔福惠全書、蒞任部、發到任示票〕備辦迎接。㊁pei⁴ pan⁴ 控へ役。豫備。

【備味】110 ビミ 備はつた味。美味。旨い御馳走。〔荀子、解蔽〕口食二備味一、形居二備宮一。〔漢書、王莽傳上〕今誠未レ皇二于輕靡而備味一。

【備豫】111 ヨビ あらかじめ用心する、又、用意する。豫備。〔禮、儒行〕其備豫有二如レ此者一。〔左氏、文、六〕文子曰、備二豫不虞一、古之善教也。〔會箋〕晉語、戒莫レ如レ豫、韋注、豫、備也、是備豫同義、成九年傳亦曰、備二豫不虞一。〔魏志、辛毗傳〕備二豫不虞一、古之善政。

【備用】112 ヨビヨウ ㊀入用だけの用意。〔荀子、儒效〕設二規矩一、陳二繩墨一、便二備用一。㊁用に備へる。使用する爲に用意する。〔漢書、食貨志下〕錢布銅冶、通二行有無一、備二民用一也。

【備亂】113 pei⁴ luan⁴ 叛亂に備へる。

【備覽】114 ビラン 閲覽に備へる。〔淸會典事例、翰林院、典禮、日講〕採二擇前史事蹟一、纂輯成レ書、進呈備レ覽。

【備利】115 ビリ ㊀訓練周到で、武器の鋭利なこと。〔管子、兵法〕教器備利。〔纂詁〕教習備、器械利。㊁鋭い武器を備へる。〔史記、越世家〕繕飾備レ利、呉必懼。

【備聆】116 pei⁴ ling² つぶさに聽く。書翰文用語。

『備聆一切』117 pei⁴ ling² i² ch'ieh⁴ 委細承知仕候。

【備領】118 pei⁴ ling³ つぶさに聽く。

【備禮】119 ビレイ 禮を備へる。〔詩、小雅、魚麗序〕美二萬物盛多、能備レ禮也。〔蔡邕、郭泰碑序〕州郡聞レ德、虛レ己備レ禮。〔晉書、桓沖傳〕辟二處士長沙鄧粲一爲二別駕一、備レ禮盡レ恭、粲感二其好レ賢、乃起應レ命。

【備錄】120 ビロク つぶさに記錄する。〔蘇洵、議レ修二禮書一狀〕欲レ乞二備錄聞奏一。

【備論】121 ビロン つぶさに論ずる。〔史記、三皇紀〕不レ可二備論一。〔杜預、春秋左氏傳序〕其有二疑錯一、則備論而闕レ之、以俟二後賢一。〔夏侯湛、東方朔畫贊序〕此又奇怪惚恍、不レ可二備論一者也。

【備安庫】122 ビアンコ 平時に米穀を貯蓄して、荒凶の年に備へる倉庫。〔宋史、辛棄疾傳〕辛棄疾知二福州一、積鏹至二五十萬緡一、牓曰二備安庫一、謂、閩中土狹民稠、歲儉則糴二於廣一、今幸連稔、米出卽糴レ之、候二秋價賤一、以二備安錢一糴二二萬石一、則有レ備無レ患矣。

【備鞍子】123 pei⁴ an¹ tzŭ 鞍を支度する。馬の支度をする。

【備高臨】124 ビカウリン 墨子の篇名。

【備蟻傳】125 ビギデン 墨子の篇名。

【備子庫】126 pei⁴ tzŭ³ k'u⁴ 彈倉。

【備城門】127 ビジヤウモン 墨子の篇名。

【備身刀】128 ビシンタウ 護身刀。〔南史、韓子高傳〕性恭謹、恆執二備身刀及傳酒炙一。

【備補的】129 pei⁴ pu³ tê 候補者。

【備失匕箸】130 ビシツヒチヨ 蒙求の標題。蜀の劉備が魏の曹操と語つた時、匕箸をとり落した故事。〔蜀志、先主劉備傳〕曹公從容謂二先主一曰、今天下英雄、唯使君與レ操耳、本初之徒、不レ足レ數也、先主方食、失二匕箸一。〔注〕華陽國志云、于レ時正當二雷震一、備因謂レ操曰、聖人云、迅雷風烈必變、良有レ以也、一震之威、乃何至二於此一也。

【備多力分】131 ソナヘオホクチカラワカル 防備するところが多い爲、勢力が分散する。〔史記、高祖紀〕如レ此、則楚所レ備者多力分、漢得レ休、復與レ之戰、破レ楚必矣。

【有レ備無レ患】132 ソナヘアレバウレヘナシ 豫め備があれば禍患がない。〔書、說命中〕惟事レ事、乃其有レ備、有レ備無レ患。〔左氏、襄、十一〕書曰、居レ安思レ危、思則有レ備、有レ備無レ患。

【無レ求二備於一人一】133 ソナハランコトヲイチニンニモトムルナカレ 人は完全であり得ぬから、一人に完全を望んではならぬ。〔論語、微子〕無レ求二備於一人一。〔淮南子、氾論訓〕君子不レ責二備於一人一。

【傜】968

サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 豪

おごる。〔說文〕傜、驕也、从レ人蚤聲。

【傚】969

カウ ゲウ 〔集韻〕後教切 效 ㄒㄧㄠ hsiao⁴

㊀ならふ。〔正字通〕傚、倣也。〔詩、小雅、角弓〕民胥傚矣。㊁まなぶ。〔玉篇〕傚、學傚也。㊂かたどる。〔類篇〕傚、象也。㊃のつとる。〔正字通〕傚、法也。㊄をしへる。〔廣韻〕傚、教也。㊅效(5－13186)に同じ。〔集韻〕效、或从レ人。〔正字通〕傚、通作レ效。㊆詨(10－35426)に通ず。〔儀禮、大射儀、乃歌二鹿鳴一三終、注〕可二則詨一也。〔釋文〕詨、亦作レ傚。

名乘 ノリ。

【傚古】1 カウコ 古にならふ。〔盧照鄰、長安古意、唐詩選箋注〕物徂徠云、齊梁題樣、與二擬古・傚古一同。

【傚慕】2 カウボ 眞似する。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕他植者、雖二窺伺傚慕一、莫二能如一也。

【傛】970

㊀ヨウ ユ 〔集韻〕餘封切 冬

㊁ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

傛 小篆 ㊀㊁❶**安んじない**。不安。〔説文〕傛、不レ安也、从レ人容聲。❷**女官の名**。傛華。〔説文〕傛、一曰、華。〔段注〕按、華上當三本有二傛字一、淺者刪レ之、傛華亦婦官。〔集韻〕傛、漢制、傛華、婦官名。❸**なれてゐるさま**。傛傛(2)の❷を見よ。❹[現] 身を曲げる。くぐまる。

【傛華】1 ヨウクワ 漢の女官の名。武帝、置く。容華。〔漢書、外戚傳序〕至二武帝一制二倢伃・娙娥・傛華・充依一、各有二爵位一。

【傛傛】2 ヨウヨウ ❶疾病で安からぬさま。〔正字通〕傛、疾病不レ安曰二傛傛一。❷よく物事に馴れたさま。〔集韻〕傛、一曰、傛傛、便習意。〔漢書、外戚傳、傛華、注〕傛傛、猶レ言二奕奕一也、便習之意也。

【傜】971 エウ 〔集韻〕餘招切 [蕭]

❶**ふぞろひ**。不純。或は傜(1-1025)に作る。〔方言、六〕傜、衺也、自レ山而西、凡物細大不レ純者、謂二之傜一。〔戴震疏證〕傜、亦作レ僭。❷**えだち**。**つかひ**。**つとめる**。或は徭(4-10201)・䚻(10-35851)に作り、通じて、繇(8-27856)に作る。〔集韻〕傜、使也、通作レ繇。〔六書故〕傜、役也、亦作レ徭、又作レ繇。〔漢書、蕭何傳〕高祖以レ吏繇二咸陽一。〔注〕師古曰、繇、讀曰レ傜、役也。❸**ゆるやか**。**ゆるめる**。或は佻(1-569)に作る。〔荀子、王霸〕佻二其期日一。〔注〕佻、同レ傜、緩也、謂レ不二迫速一也。❹**姓**。〔正字通〕傜、姓、漢更始將傜偉。

【傜役】1 エウエキ ぶやく。えだち。徭役(4-10201::)に同じ。〔漢紀、孝宣紀四〕取二官錢帛一、私假二傜役吏民一。

【傜賦】2 エウフ 軍役。〔韓非子、詭使〕士卒逃レ事、伏二匿附三託有威之門一、以避二傜賦一。

【傝】972 ㊀タン トン 〔集韻〕他紺切 [勘] ㊁タフ 〔集韻〕託盍切 [合] ㄊㄚˋ t'a4

㊀**自ら安んじない**。**不安**。**又、恥を知らない**。〔集韻〕傝、傝㒌、不二自安一、一曰、無レ恥也。㊁❶**惡いこと**。**又、謹まないさま**。傝⿰亻⿺辶垂(2)を見よ。❷**おろか**。傝傉(3)を見よ。

【傝㒌】1 タンガン 自ら安んじない。〔廣韻〕傝、傝㒌、不二自安一。

【傝⿰亻⿺辶垂】2 タフサフ わるいこと。又、だらしのないこと。謹まないさま。〔玉篇〕傝、傝⿰亻⿺辶垂、惡也、一曰、不レ謹貌。〔長生殿、驛備〕我做二驛丞一沒二傝⿰亻⿺辶垂一。

【傝傉】3 タフジョウ おろか。劣ること。闒茸。〔集韻〕傝、不肖也、一曰、傝傉、劣也。

【傞】973 サ 〔集韻〕桑何切 [歌] ㄙㄨㄛ suo1

小篆 **酔うて舞ふさま**。**舞つてやまないさま**。或は⿰亻沙(1-643)に作る。〔説文〕傞、醉舞皃、从レ人差聲、詩曰、屢舞傞傞。〔廣韻〕傞、舞不レ止皃。〔集韻〕傞、或从レ沙。

【傞傞】1 ササ 醉うて舞ふさま。舞の姿の亂れてゐるさま。度を越えて舞ひ續けるさま。〔説文〕傞、醉舞皃、从レ人差聲、詩曰、屢舞傞傞。〔増韻〕傞、傞傞、舞不レ正。〔詩、小雅、賓之初筵〕側弁之俄、屢舞傞傞。〔傳〕傞傞、不レ止也。〔説苑、反質〕屢舞傞傞、言レ失レ容也。

【傟】974 アウ 〔集韻〕鄔項切 [講]

❶**もとる**。〔正字通〕傟、戾也。❷慃(4-11041)に同じ。〔集韻〕慃、慃⿰忄冓、佷戾、或从レ人。

【傻】975 シヨク シキ 〔集韻〕節力切 [職]

ちひさい。**すこし**。〔集韻〕傻、小也。

【傠】976 ㊀ハツ ボチ 〔集韻〕房越切 [月] ㊁クワ

㊀❶**そむく**。義にそむく。〔太玄經、斷〕勇侏之傠、盜蒙決夬。〔注〕反レ義爲レ傠。❷**うつ**。伐(1-439)に同じ。〔集韻〕伐、説文、擊也、或作レ傠。㊁禍(8-24766)に同じ。〔正字通〕傠、同レ禍。

【個】977 グ

俁(1-662)に同じ。〔正字通〕個、同レ俁。

【⿰亻逹】978 タツ

㒓(1-1179)の譌字。〔方言、十三〕困胎㒓、逃也。〔戴震疏證〕案、㒓卽㒓、各本訛作レ⿰亻逹。

【⿰亻寚】979 ハウ

寶(3-7376)の古字。〔集韻〕寶、古作レ⿰亻寚。

【⿰亻𡋯】980 サ

侳(1-644)の本字。〔正字通〕侳、篆作レ⿰亻𡋯。

【⿰亻杀】981 ハウ

保(1-702)の古字。〔集韻〕保、古作二杀・𥝌・⿰亻杀一、隸作二保・呆一。

[參考] 字形、一に係(1-905)に作る。

【⿰亻⿰卩几】982 ケキ ギヤク 〔集韻〕蝎戟切 [陌]

うむ。**あきる**。或は御(1-847)・俗(1-695)・㑮(4-10874)・汎(10-36185)に作る。〔方言、十二〕殤⿰亻⿰卩几、傍也。〔集韻〕⿰亻⿰卩几、或作二御・俗・㑮・汎一。

【⿰亻並】983 ヘイ

並(1-54)に同じ。〔篇海類編〕⿰亻並、同レ並。

【⿰亻凭】984 ヒヨウ

凭(2-1766)に同じ。〔篇海類編〕⿰亻凭、與レ凭同。

【⿰亻徍】985 キヤウ

徍(4-10114)に同じ。〔篇海類編〕⿰亻徍、同レ徍。

【⿰亻⿱咅口】986 ハイ

倍(1-760)に同じ。〔字彙補〕⿰亻⿱咅口、同レ倍。

【⿰亻寿】987 シウ

壽(3-5672)に同じ。〔海篇〕⿰亻寿、同レ壽。

【⿰亻𦣻】988 ヒツ ビチ 〔字彙補〕苙密切 [質]

河水の漫漫として大きいこと。〔樊宗師、絳守園記〕⿰亻𦣻池豪渠。

【⿱亼⿱口冊】989 ロン

侖(1-599)の籀文。説文には侖(1-1157)に作る。〔字彙補〕⿱亼⿱口冊、侖籀文。

【傶】990 セキ 〔海篇〕音戚

うれへる。〔海篇〕傶、憂懼也。

【⿰亻夏】991 カ

夏(3-5720)に同じ。〔字彙補〕⿰亻夏、同レ夏。

【傢】992 カ

〔中華大字典〕讀如レ家。 ㄐㄧㄚ chia1

家具・器物・什器の類。

【傢器】1 chia¹ ch'i⁴ 家具。器具。

【傢具】2 chia¹ chü⁴ 家具。器具。

【傢伙】3 chia¹ huo ❶器具。家具。日用家具。〔紅樓夢、三十五回〕先忙著要乾淨傢伙來。〔杭俗遺風〕大書一人獨說、不用傢伙、惟有醒目一塊、紙扇一杷。❷刑具。❸樂器。

【侄】993 エウ 傜（1－971）の譌字。〔康熙字典〕侄、按、卽傜字之譌。

【⿰亻貣】994 トク 蟘（10－33654）に同じ。〔字彙補〕⿰亻貣、同蟘、見楚相孫君碑。

【⿱从小】995 キヨウ 義未詳。〔篇海大成〕⿱从小、音共。

【⿰亻吉】996 ケイ 傒（4－10204）に同じ。〔海篇〕⿰亻吉、同傒。

【⿰亻送】997 ソウ 遳（11－38944）に同じ。〔康熙字典〕⿰亻送、按、字形本作遳。

【倚】998 エウ 義未詳。〔海篇〕倚、音姚。

【偁】999 ロウ 義未詳。〔海篇〕偁、音弄。

【傁】1000 ソウ 義未詳。〔字彙補〕傁、音叟。

【⿰亻內】1001 パ ㄅㄚ pa¹ 二人が初めて相會ふ意を表はす。

十一畫

【傪】1002 ㊀サン 〔集韻〕倉含切 覃 ㊁サン 〔集韻〕七感切 感 ㊂サン 〔集韻〕七紺切 勘

小篆

㊀㊁よい。よいさま。〔說文〕傪、好皃、从人參聲。㊂參（2－3098）に同じ。〔集韻〕參、鼓曲也、或从人。

【⿰亻累】1003 ㊀ライ 〔集韻〕盧對切 隊 ㊁ルイ

㊀❶たれるさま。儽（1－1328）に同じ。〔集韻〕儽、垂皃、或作傫。❷姓。〔萬姓統譜〕傫、見直音。㊁儽（1－1153）に同じ。〔集韻〕儽、或作傫。

【⿰亻畢】1004 ヒツ 蹕（10－37783）に同じ。〔字彙〕⿰亻畢、同蹕。

【催】1005 サイ スイ 〔集韻〕倉回切 灰 ㄘㄨㄟ ts'uei¹

小篆

❶もよほす。㋑うながす。〔集韻〕催、促期。〔正字通〕催、促也。〔梁簡文帝、從軍行〕將軍號令密、天子璽書催。㋺せまる。〔說文〕催、相擣也、从人崔聲。〔段注〕猶相迫也、邶風北門曰、室人交徧摧我、傳曰、摧、沮也、音義曰、摧、或作催、云云、毛釋爲摧之假借、許則釋其本義也。〔廣韻〕催、迫也。〔正字通〕催、迫也。㋩きざす。おこる。發する。〔孟浩然、泝江至武昌詩〕歲時歸思催。❷はばむ。摧（5－12609）に通ず。〔正字通〕催、說文、催、相擣也、引詩室人交徧催我、按、詩邶風、本作摧。〔詩、邶風、北門〕室人交徧摧我。〔傳〕摧、沮也。〔釋文〕摧、或作催。❸もと皺（2－3213）に作る。〔正字通〕催、本作皺。

邦❶もよほし。おこす。開く。設ける。張る。行事。❷もよひ。接尾語。雨催ひ。

名乘 トキ。

【催解】1 送附方を督促する。〔例〕催解欠欵。

【催歸】2 鳥の名。ほととぎす。子規。杜鵑（6－14477··99）の異名。〔本草、杜鵑〕釋名、催歸、時珍曰、鵑與子嶲・子規・鶗鴂・催歸諸名、皆因其聲似、各隨方音呼之而已。〔韓愈、贈同遊詩〕喚起窗全曙、催歸日未西。〔自注〕喚起・催歸、二鳥名。〔海錄碎事、鳥獸、子規〕退之詩、喚起窗全曙、催歸日未西、無心花裏鳥、更與有情啼、催歸、子規也、喚起、聲如絡絲、員轉清亮、偏於春晚鳴、江南云春喚、山谷云。

【催驅】3 年貢を催促するために驅け巡る。〔蘇軾、上神宗皇帝書〕無里正催驅之勞。

【催化】4 接觸作用。

【催化劑】5 化學反應を促進せしめたり妨害したりする物質で、其の化學反應の前後に於て化學的に增減しないもの。

【催花】6 早く咲けと花をせきたてる。〔白居易、歎春風詩〕樹根雪盡催花發、池岸冰銷放草生。〔李中、春日詩〕催花鳥語頻。

【催花雨】7 春のあめ。はるさめ。〔華幼武、曲林春雪詩〕夜深錯認催花雨。

【催花鼓】8 花を開かせようとして打つつづみ。唐の玄宗の上苑游の故事。〔開元天寶遺事〕明皇、二月旦游上苑、呼高力士、取羯鼓臨軒縱擊、奏一曲名春光好、回顧柳杏、皆已發坼、笑謂妃子曰、得不喚我作天公乎。〔馬祖常、宮詞〕催花羯鼓變新聲。

【催科】9 租稅の上納をうながす。納稅を督促する。催租。〔宋史、職官志三〕獄訟無冤、催科不擾、爲治事之最。〔張孝祥、野牧園詩〕秋晚稻生孫、催科不到門。〔福惠全書、錢穀部、比較〕催科之法、無餘事矣。

【催快】10 ts'uei¹ k'uai⁴ 氣持をよくさせる。興奮させる。

【催快粉】10′ ts'uei¹ k'uai⁴ fen³ ほれぐすり。

【催完】11 督促しをはる。〔福惠全書、陞遷部、清錢糧〕催完補孔。

【催喚】12 よびたてる。〔黃庭堅、淸人怨戲效徐庾慢體詩〕主人敬愛客、催喚出房籠。〔陸游、復雨詩〕催喚兒童掃綠苔、長歌清嘯興悠哉。

【催款】13 ts'uei¹ k'uan³ 代金の支拂方を催促する。

【催欠】14 ts'uei¹ ch'ien⁴ 借金を督促する。滯納を催促する。不足金を督促する。

【催呼】15 よびたてる。〔陸游、林亭書事詩〕約束蠻僮收藥富、催呼稚子曬書忙。

【催拘】16 とらへる。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕承票催拘、或累月未繳。

【催告】17 民法上、面談・書面・使者・執達吏・配達證明郵便・公示等を以て、催促の意を義務者に告げ知らせる通知法をいふ。

【催妝】18 嫁入りする。唐人は成婚の夕、催妝の詩を作る。催粧（28）を見よ。〔東京夢華錄〕娶婦、凡先一日、下催妝冠帔花粉。

【催索】19 ts'uei¹ suo³ 督促する。

【催產】20 催生藥を用ひて胎兒の出產を促進することをいふ。〔萬病回春〕臨產日久、產母困倦、宜服催生藥、以助血氣、令兒速生。

【催償】21 とりたてせつく。催促。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕平時催償、逢限稽查。

【催趲】22 ❶精進してやまない。〔朱子文集〕著力催趲功夫、則渠已行有日矣。〔通俗編、行事、催趲〕按、朱子與鄭子上、又有趲得課程語、一本作催趲、訛。❷清の漕運の舊制。各省から北京に送る漕糧船を停滯させないで、早く目的地につかせるやうにすること。〔清會典事例、戶部、漕運〕催趲、康熙元年題准、淮北淮南沿河鎭道將領等官、均有趲重催空之責、漕船入境、各按汛地、立卽驅行、毋使停滯、如催趲不嚴、以致糧船停泊、及縱軍登岸生事、聽所在督撫題叅。

【催子】23 ts'uei¹ tzŭ 農夫が地代の延滯、又は不拂の時、地主から差向ける集金人。一に催甲ともいふ。

【催收】24 サイシウ 督促して回收する。

〔催收款項〕25 ts'uei¹ shou¹ k'uan³ hsiang⁴ 期限滿了後の未收勘定並に手形。

【催秋】26 サイシウ 秋の氣分を起させる。〔陸游、詩〕莎根蟋蟀催秋早。

【催愁】27 サイシウ 人に哀愁を起させる。〔劉長卿、杪秋洞庭中懷亡道士謝太虛詩〕青楓亦何意、此夜催人愁。

【催粧】28 サイシヤウ 嫁入りする。催妝(18)に同じ。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕忽內間傳命、索催粧詩甚急、云云、信美卽代爲之詩曰、玉鏡臺前彈綠鬢、象牙梳滑墜床閒、寶釵金鳳都簪遍、早出紅羅綉幔看、十八鬟多氣力嬌、粧成不覺夜迢迢、風流自有張生筆、留取雙眉見後描。

【催餉】29 ts'uei¹ hsiang³ 軍費を催促する。

【催取】30 サイシュ 催促してとる。〔福惠全書、蒞任部、發到任示票〕催取到任應用夫馬等項。

【催首】31 サイシュ 納税を催促する人夫。〔琵琶記、義倉賑濟〕點催首、放富差貧。

【催春】32 サイシュン 春の氣分を起させる。〔梅堯臣、詩〕燈光暖熱夜催春。

【催贖】33 ts'uei¹ shu² 抵當物件の受出しを催促すること。

【催人】34 サイジン 人をせきたてる。人をせかせる。〔黃庭堅、戲和答禽語詩〕田中啼鳥自四時、催人脫袴著新衣。

【催生】35 ts'uei¹ shêng¹ 安産を祈る贈物。出産を促す意。催生禮を見よ。

〔催生石〕36 ts'uei¹ shêng¹ shih² 貴重石の一種。

〔催生符〕37 サイセイフ 産氣を催させるための護符。〔閩雜記〕。

〔催生藥〕38 サイセイヤク 出産の際に陣痛を促進させる藥。はやめぐすり。〔產科發蒙、三〕臨產、子頭近入門、以壅尿道、雖力息纔來、未免期、而反多與催生湯藥、膀胱爲之努脹而壓胎、因致不分娩。

〔催生禮〕39 サイセイレイ 妊娠十箇月目に近づいた時、里方から贈る安産を祈る贈物。〔夢粱錄、育子〕杭城人家育子、如孕婦入月、期將屆、外舅姑家、以銀盆或綵盆、盛粟稈一束、上以錦或紙蓋之、上簇花朵通草、貼套五男二女意思、及眠羊臥鹿、併以綵畫鴨蛋一百二十枚、膳食羊生、棗栗果、及孩兒繡棚綵衣、送至壻家、名催生禮。

【催征】40 ts'uei¹ chêng¹ 税金を督促する。

【催青】41 サイセイ 蠶の種紙を暖めて孵化を早める法。〔吳蠶錄〕滃種未全出、微火烘之、謂之催青。

【催請】42 ts'uei¹ ch'ing³ 招宴の日、定刻になっても來ない客に使者を出して出席を促すこと。

【催稅】43 サイゼイ 税を督促する。催科。催租。〔范成大、詩〕小婦連宵上絹機、大脅催稅急於飛。

【催錢】44 サイセン 税金を督促する。催稅。〔蘇軾、陳季常所畜朱陳村嫁娶圖詩〕而今風物那堪畫、縣吏催錢夜打門。

〔催錢糧〕45 ts'uei¹ ch'ien² liang² 江蘇省蘇州地方で、土地祠の春祭の時に、若者等が鑼を鳴らしつつ各戸に制錢(銅錢の名)の獻納を促し廻ること。

【催租】46 サイソ ㊀租税の督促。催科。㊁小作料催告。催科。催稅。催租人を見よ。

〔催租人〕47 サイソジン 租税又は賃貸借の料金等の督促をする人。〔冷齋夜話〕黃州潘大臨工詩、答謝無逸書曰、秋來景物件件是佳句、昨日閒臥、聞攪林風雨聲、欣然起題壁、曰、滿城風雨近重陽、忽催租人至、遂敗意、止此一句奉寄。

【催促】48 サイソク ㊀うながしせまる。催儹。〔後漢書、楊倫傳〕催促發遣。〔古蒿里辭〕鬼伯一何催促、人命不得少踟蹰。〔晉書、桓溫傳〕累相催促。㊁追ひかけて相せまる。〔白居易、閒居春盡詩〕冬裘夏葛相催促、垂老光陰速似飛。

【催替】49 サイタイ 兵役に出づべき丁年者が、軟弱殘疾等の場合に、其の家に催促して適當の代人を出させること。〔元典章、兵部〕單丁殘疾催替。

【催賑】50 ts'uei¹ chang⁴ 勘定を催促する。

【催徵】51 サイチョウ 年貢の催促をする。〔福惠全書、錢穀部、總論〕催徵・比較・拆貯・解給。

【催呈】52 ts'uei¹ ch'êng² 前に差出した請願書に對し、早く解決を願ふため後から再び差出す催促の願書。

【催提】53 サイテイ 人を捕へに來る役人。とりて。捕吏。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革保歇圖差〕包攬上司催提承舍有費。

【催頭】54 サイトウ さいそくがしら。〔福惠全書、蒞任部、忍性氣〕僉劣姓爲催頭。

【催督】55 サイトク せきたて監督する。催促してただす。督促。〔蜀志、李嚴傳〕九年春、亮軍祁山、平催督運事。

【催迫】56 サイハク うながす。せきたてる。窮迫。催逼。〔陶潛、雜詩〕日月不肯遲、四時相催迫。

【催撥】57 ts'uei¹ po¹ 支拂の催促。

【催比】58 サイヒ 日を限つてのひきあひ。とりたてひきあふ。〔福惠全書、蒞位部、馭衙役〕催比無人、郵使往來如織。

【催逼】59 ts'uei¹ pi¹ 督促する。催促して逼まる。催迫。

【催辦】60 サイベン ㊀租税の上納を催促辦理すること。〔明律、戶役〕輪年應役、催辦錢糧。㊁事務の處理を督促すること。〔清律、職制〕若府州縣官、遇有催辦事務。

【催眠】61 サイミン ねむりをもよほす。ねむくなる。

〔催眠術〕62 サイミンジュツ 催眠狀態を人爲的に誘起する方法。

〔催眠藥〕63 サイミンヤク ねむりぐすり。睡眠劑。

【催理】64 サイリ 催促し取立てる。〔蘇軾、論積欠狀〕權住催理、聽候指揮。

【催粮】65 ts'uei¹ liang² 納税を催促する。

【催糧】66 サイリヤウ 年貢をとりたてること。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕催糧排里、必老成殷實。

【催令】67 ts'uei¹ ling⁴ 主張する。言ひ張る。

【催綱司】68 サイカウシ 官名。唐、置く。舟綱(船十隻を一綱と稱し、主要な貨物の運送を行つた制度)を催漕することを掌る。〔文獻通考、國用考、漕運〕唐代宗時、劉晏爲江淮轉運使、始於揚州造轉運船、每船載一千石、十船爲一綱。

【催甲費】69 ts'uei¹ chia³ fei⁴ 小作料以外に、小作人が地主の意を迎へる爲に贈與する金。

【催官篇】70 サイクワンヘン 書名。二卷。宋、賴文俊撰。龍・穴・砂・水の四篇に分れ、能く吉凶禍福のおこるところを記す。〔四庫提要、子、術數類〕。

【催工鳥】71 サイコウテウ 鳥の名。〔山堂肆考〕泰山上每興工後、有鳥似鳥、味趾皆赤、役人稍息、則飛鳴作聲、人目爲催工鳥。

【催馬樂】72 サイバラ 古代の歌曲の名。神樂歌の類。もとは馬を牽くとき歌つた俗歌。〔三代實錄、三〕貞觀元年十月二十三日、廣井女王、云云、善催馬樂。

【催命符】73 ts'uei¹ ming⁴ fu² 死の命令符。

【催明鳥】74 サイメイテウ 鳥の名。鵯鶋(**12**−**47010**・・4)の異名。夏雞(**3**−**5720**・・76)を見よ。〔事物異名錄、禽鳥、鵯鶋〕丹鉛總錄、批鶋卽鵯鶋、催明之鳥也、俗名、隔隥雞。

【催缺早補】75 サイケツサウホ 清朝の制度で、候補者が政府に願ひ出でて、早く本官に取り立てられることを請ふこと。

【催命判官】76 ts'uei¹ ming⁴ pan⁴ kuan¹ 人を地獄に呼びとるあの世の役人。〔水滸傳、三十六回〕揭嶺殺人魔祟、酆都催命判官。

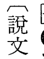
【催工莫催食】77 ts'uei¹ kung¹ mo⁴ ts'uei¹ shih² 仕事は急がせてもよいが、食事を急がせてはならない。

【偓】1006

チ 徲(**4**−**10219**)に同じ。〔字彙〕偓、同徲。

【傭】1007

㊀チヨウ・チユ 〔集韻〕癡凶切 冬
㊁ヨウ・ユ 〔集韻〕餘封切 冬 ㄩㄥ yung¹


小篆

㊀㊀**ひとしい**。公平でただしい。〔說文〕傭、均也、直也。〔段注〕均之義有未盡、故更言直也、直謂無枉曲也。〔正字通〕傭、齊等也。〔詩、小雅、節南山〕昊天不傭。〔傳〕傭、均也。㊁**もちひる**。**作る**。〔荀子、正名〕色不及傭、而可以養羽。〔注〕傭、作也、用也。㊂或は膧(**9**−**29827**)に作る。〔集韻〕傭、或从

肉。［三］❶やとひ人。賃錢を給して勞作させる人。〔一切經音義、六〕傭、役也、謂㆓役力受㆑直曰㆑傭。〔韻會小補〕傭、一曰、雇作謂㆓之傭㆒。〔後漢書、夏馥傳〕爲㆓冶家傭㆒。❷やとはれる。やとふ。〔史記、陳涉世家〕嘗與㆑人傭耕。〔注〕索隱曰、廣雅云、傭、役也。〔後漢書、班超傳〕爲㆑官傭書。❸勞作の賃錢。あたひ。〔正字通〕傭、雇㆓役于人㆒受直也。〔李翺、江州南湖隄銘〕厚㆓其錢傭㆒以餉㆓饑人㆒。❹庸(4−9378)に通ず。〔詩、小雅、節南山〕昊天不㆑傭、釋文〕傭、韓詩作㆑庸。

【傭媼】1 yung^1 ao^3 雇ひ婆。

【傭隱】2 yung^1 yin^3 雇ひいんじや。眞の隱者でない者を譏る語。

【傭員】3 ヨウヰン やとひの事務員又は勞務員。

【傭役】4 ヨウエキ やとつて使ふ。又、やとひ使はれる。奉公。〔漢書、張耳陳餘傳〕其賓客厮役、皆天下俊傑。

【傭丐】5 ヨウカイ 乞食。〔柳宗元、寄㆓許京兆孟容㆒書〕皁隸傭丐、皆得㆑上㆓父母丘墓㆒。

【傭耕】6 ヨウカウ 人にやとはれてたがやす。〔史記、陳涉世家〕陳涉少時嘗與㆑人傭耕、輟㆑耕之㆓壟上㆒。〔注〕索隱曰、傭、役也。〔後漢書、第五訪傳〕少孤貧、常傭耕、以養㆓兄嫂㆒。

【傭客】7 ヨウカク やとはれ人。傭徒。〔韓非子、外儲說左上〕傭客致㆑力而疾耘、耕者盡㆑巧、而正㆓畦陌疇時㆒者、非㆑愛㆓主人㆒也。

【傭銀】8 yung^1 yin^2 やとひちん。傭錢。

【傭雇】9 ヨウコ やとひ入れる。雇傭。〔元好問、詩〕官給資財半傭雇。

【傭僱】10 yung^1 ku^4 雇ふ。又、雇人。

【傭工】11 ヨウコウ ❶やとはれた職工。〔劉禹錫、唐秀才贈㆓端州紫石硯㆒以㆑詩答㆑之詩〕此日傭工記㆓名姓㆒、因㆑君數到墨池前。〔元稹、江邊四十韻詩〕庭草傭工薙、園蔬稚子培。❷人を傭つて仕事をさせる。

【傭作】12 ヨウサク 雇はれてはたらく。雇人となつて稼ぐ。庸作。〔史記、匡衡傳〕家貧、衡傭作以給㆓食飮㆒。〔後漢書、侯瑾傳〕恆傭作而爲㆑資。

［傭作借㆑書］13 ヨウサクシテショヲカル 雇はれてはたらき、其の報酬として書物を借りる。〔西京雜記、二〕匡衡、字稚圭、勤㆑學而無㆑燭、隣舍有㆑燭而不㆑逮、衡乃穿㆑壁引㆓其光㆒、以㆑書映㆑光而讀㆑之、邑人大姓、文不識、家富多㆑書、衡乃與㆑其傭作而不㆑求㆑償、主人怪問㆑衡、衡曰、願待㆓主人書㆒遍讀㆑之、主人感嘆、資給以㆑書、遂成㆓大學㆒。

【傭肆】14 ヨウシ 奴隸賣買の市場。〔說苑、善說〕鮒魚曰、今吾命在㆓盆甕之中㆒耳、乃爲㆑我見㆓楚王㆒、決㆓江淮㆒以漑㆑我、汝則求㆓我枯魚之肆㆒矣、今周以㆑貧故來貸㆑粟、而曰、須㆓我邑粟來㆒也、而賜㆑臣、卽來亦求㆓臣傭肆㆒矣、文侯於㆑是乃發㆓粟百鍾㆒、送㆓之莊周之室㆒。

【傭者】15 ヨウシャ やとはれ人。傭人。傭夫。〔史記、陳涉世家〕陳涉悵恨久之曰、苟富貴、無㆓相忘㆒、傭者笑而應曰、若爲㆓傭耕㆒、何富貴也。

【傭寫】16 ヨウシャ やとはれて文書を書き寫すこと。筆耕。〔北史、劉芳傳〕芳至㆓京師㆒、常爲㆓諸僧㆒傭寫㆓經論㆒。

【傭書】17 ヨウショ やとはれて寫しものをする。雇はれて筆耕する。又、筆工。寫字生。〔後漢書、班超傳〕家貧、常爲㆑官傭書。〔任昉、爲㆓蕭揚州㆒作㆑薦士表〕既筆耕爲㆑養、亦傭書成㆑學。〔竇羣、初入㆓諫司㆒喜㆓家室至㆒詩〕不㆑知筆硯緣㆓封事㆒、猶問傭書日幾行。〔畫墁錄〕有㆓傭書陳逵者㆒。

［傭書自資］18 ヨウショミヅカラシス 筆耕して自活する。〔魏書、劉芳傳〕晝則傭書以自資給、夜則讀誦、終夕不㆑寢。

【傭食】19 ヨウショク やとはれて口をすごす。やとはれ人となつて生活する。〔五代史、梁太祖紀〕與㆓其母㆒、傭㆓食蕭縣人劉崇家㆒。

【傭人】20 ヨウジン やとひ人。〔後漢書、申屠蟠傳〕因㆑樹爲㆑屋、自同㆓傭人㆒。

【傭錢】21 ヨウセン やとひちん。賃錢。〔舊唐書、食貨志下〕率兩斛計㆓傭錢千㆒。〔呂本中、官箴〕當㆑官取㆓傭錢船家錢㆒之類、多爲㆓之程㆒。

【傭俗】22 ヨウゾク つまらない風俗。庸俗。〔荀子、非相〕是以終身不㆑免㆓埤汙傭俗㆒。

【傭築】24 ヨウチク 人に雇はれて土普請をする。〔墨子、尚賢中〕傳說被㆑褐帶㆑索、傭㆓築於傅巖㆒。

【傭賃】25 ヨウチン やとはれてちん錢を得る。又、其の錢。〔史記、范雎傳〕范雎曰、臣爲㆑人傭賃。〔史記、兒寬傳〕傭賃以給㆓衣食㆒。〔陶潛、五孝、庶人孝傳〕江革負㆑母而逃、竭㆑力傭賃、以致㆓甘暖㆒。

【傭佃】26 ヨウデン やとはれて田を作る。〔福惠全書、敎養部、修水利〕四境之農夫、如㆓己之傭佃㆒。

【傭徒】27 ヨウト やとはれびと。傭夫。傭客。〔荀子、議兵〕干㆑賞蹈㆑利之兵也、傭徒鬻賣之道也。

【傭奴】28 ヨウド やとひのしもべ。〔蘇軾、書㆓林逋詩後㆒詩〕不㆑論世外隱君子、傭奴販婦皆冰玉。

【傭婆】29 ヨウバ 雇ひ女。傭婦(31)に同じ。

【傭夫】30 ヨウフ てまとり。傭人。〔源平盛衰記、二十八、仙童琵琶事〕南山の傭夫。

【傭婦】31 ヨウフ 下女。雇ひ女。傭婆。

【傭兵】32 ヨウヘイ やとひ兵。

［傭兵制度］33 ヨウヘイセイド 志願者に俸給を與へて兵役に服させる制度。

【傭聘】34 ヨウヘイ 禮を厚くしてやとひ入れる。むかへやとふこと。

【傭保】35 ヨウホ やとはれびと。又、やとはれること。保は信用を保つ。保證人を立てて雇はれる意。庸保(4−9378‥103)を見よ。〔後漢書、張酺傳〕盜徒皆飢寒傭保、何足㆑窮㆓其法㆒乎。〔稱謂錄、長工、傭保〕白帖、傭保、人之可㆓保傭㆒者也。

【傭僕】36 ヨウボク やとはれたしもべ。〔開天傳信記〕于㆓馬廐中㆒、與㆓傭僕㆒雜作。

【傭販兒】37 ヨウハンジ やとはれもの。〔五代史、周德威傳〕德威勉㆓其衆㆒曰、此汴宋傭販兒。

【傭中佼佼】38 ヨウチユウノカウカウ 凡庸の人の中で稍〻すぐれてゐるものをいふ。庸中佼佼。鐵中錚錚。〔後漢書、劉盆子傳〕卿所謂鐵中錚錚、傭中佼佼者也。〔注〕佼、好貌也、云云、言㆓佼佼㆒者、凡傭之人稍爲㆑勝也。

【傮】1008
［一］サウ ザウ 〔集韻〕臧曹切 豪
［二］シウ ジユ 〔集韻〕字秋切 尤

小篆

［一］［二］❶をはる。〔說文〕傮、終也、从㆑人曹聲。❷人力を盡すさま。傮然(2)を見よ。❸めぐる。俗に遭(11−39082)に作る。〔正字通〕傮、方言、一周曰㆓一傮㆒、俗通㆓用遭㆒。❹かまびすしい。嘈(2−4175)に通ず。傮響(1)を見よ。❺或は殰(6−16558)に作る。〔集韻〕傮、或作㆑殰。❻もと傮(1−1326)に作る。〔正字通〕傮、本作㆑傮。

【傮響】1 サウキヤウ かまびすしい音。〔左思、魏都賦〕傮響起、疑㆓震霆㆒、天宇駭、地廬驚。〔注〕善曰、傮、與㆑嘈古字通。

【傮然】2 サウゼン 人力を盡すさま。〔荀子、富國〕傮然要㆑時務㆑民。〔注〕傮然、盡㆓人力㆒貌。

【傄】1009
バツ マチ 〔集韻〕莫八切 黠

すこやかなさま。又、憚るところないのこと。傄僁。〔玉篇〕傄、傄僁、健皃。〔集韻〕傄、傄僁、無㆑憚。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕塡隍傶傄僁。

【倅】1010
シユツ

⿰彳卒(4−10216)に同じ。〔廣韻〕倅、同㆑⿰彳卒。

【傯】1011
ソウ

偬(1−889)に同じ。〔集韻〕偬、或作㆑傯。

【傰】1012
［一］ホウ ボウ 〔集韻〕蒲登切 蒸
［二］ホウ 〔集韻〕逋鄧切 徑

［一］❶とも。ともがら。〔管子、幼官〕練㆑之以散㆑羣傰署。〔注〕傰、猶㆑曹也。❷おもねりくみする。〔集韻〕傰、阿黨也。❸朋(5−14340)に同じ。〔周禮、秋官、士師〕七

曰、爲二邦朋一。〔注〕故書、朋作レ倗。㊃倗(1－772)に同じ。〔正字通〕倗、同レ倗。㊄姓。〔集韻〕倗、姓也、前漢有二南山盜倗宗一。〔漢書、王尊傳〕會南山羣盜倗宗等數百人、爲二吏民害一。㊁㊀おもねりくみする。〔集韻〕倗、阿黨也。㊁人名。〔漢書、王子侯表〕成煬侯倗。

【傯】1013

㊀ショウ〔集韻〕笥勇切 腫
㊁ソウ〔漢書注〕音總

㊀㊁㊀はやいさま。〔正字通〕傯、疾貌。〔揚雄、甘泉賦〕風傯傯而扶レ轄兮。〔注〕善曰、傯傯、疾貌。㊁走るさま。傯傯(一)の㊀を見よ。〔正字通〕傯、走貌。㊂衆いさま。傯傯(1)の㊂を見よ。㊃傯(4－10190)に同じ。〔集韻〕傯、傯傯、疾皃、或从レ人。

【傯傯】1ショウショウ ㊀疾く進むさま。〔玉篇〕傯、傯傯、走皃。〔漢書、揚雄傳〕風傯傯而扶レ轄兮。〔注〕師古曰、傯傯、前進之意也。〔揚雄、甘泉賦〕風傯傯而扶レ轄兮。〔注〕善曰、傯傯、疾貌。㊁衆いさま。〔漢書、禮樂志〕神之行旌容容、騎沓沓般傯傯。〔注〕孟康曰、傯音總、師古曰、傯傯、衆也。

【傯勇】2ショウヨウ 誘ひすすめる。慫慂(4－11127・・)に同じ。〔漢書、禮樂志、郊祀歌、騎沓沓般傯傯、注〕晉灼曰、音人相傯勇作レ惡。

【傶】1014

シャ〔集韻〕之奢切 麻

強健で德がない。 傶儸。〔玉篇〕傶、傶儸、健而不レ德也。

【傲】1015

ガウ ゴウ〔集韻〕魚到切 號

㊀㊁㊀おごる。ほこる。おごり。ほこる心。〔說文〕傲、倨也、从レ人敖聲。〔廣韻〕傲、慢也、倨也。〔正韻〕傲、慢也、倨也。〔正字通〕傲、曲禮、傲不レ可レ長。㊁かろんずる。あなどる。褭(8－6681)に通ず。〔說文通訓定聲〕傲、段借爲レ褭。〔廣雅、釋詁三〕傲、傷也。〔呂覽、士容〕傲二小物一而志屬二於大一。〔注〕傲、輕。㊂みだり。〔廣雅、釋言〕傲、妄也。㊃ほしいまま。わがまま。〔新書、道術〕反レ悌爲レ傲、云云、反レ戒爲レ傲。㊄かまびすしい。さわがしい。謷(10－35896)に通ず。〔說文通訓定聲〕傲、段借爲レ謷。〔荀子、勸學〕不レ問而告、謂二之傲一。〔注〕傲、喧噪也。㊅敖(5－13226)に通ず。〔集韻〕傲、亦作レ敖。〔正字通〕傲、與レ敖通。㊆㚔(3－5962)に通ず。〔說文通訓定聲〕傲、段借爲レ㚔、虞書、無レ若二丹朱傲一。㊇或は慖(4－11107)・慠(4－11106)に作る。〔說文通訓定聲〕傲、字亦作レ慖、作レ慠。〔集韻〕傲、或从レ心、亦書作レ慖。㊈通じて驁(12－47262)に作る。〔集韻〕傲、通作レ驁。

【傲易】1ガウイ おごつて人を輕んずる。〔關尹子、九藥〕勿下以二傲易一曰中道之高上當レ樂二和同一。

【傲逸】2ガウイツ おごりたかぶつて氣ままなこと。〔魏志、荀彧傳、注〕恃レ才傲逸。〔晉書、夏統傳〕放二傲逸之情一。

【傲客】3ガウカク 箕宿の星の異名。〔楊炯、渾天賦、箕爲二傲客一、房爲二駟馬一。

【傲狎】4ガウカフ おごつて人をかろんずる。〔人物志、八觀〕雖傲狎二不レ離、助レ善著明。

【傲悍】5ガウカン おごつて氣が強く荒い。又、其の者。〔淮南子、時則訓〕(孟秋之月)朝二于總章左个一、以出二秋令一、求二不孝不悌一、戮二暴傲悍一而罰レ之、以助二損氣一。

【傲岸】6ガウガン たかぶつてかどかどしい。人にへり下らない。傲兀。〔晉書、郭璞傳〕傲二岸榮悴之際一、頡二龍魚之間一。〔李白、呈二崔侍御一詩〕崔生何傲岸、縱レ酒復談レ玄。

【傲岸不遜】7ガウガンフソン 傲慢でへりくだらない。〔晉書、五行志上〕王敦內懷二不臣一、傲很陵レ上。

【傲很】22ゴウコン ㊀おごりもとる。傲很。傲很。〔風俗通、衍禮〕傲狠自遂。〔魏志、王朗傳〕設其傲狠殊無二入志一。㊁凶獸の名。檮杌。〔神異經、西荒經〕西方荒中有二獸焉一、其狀如レ虎而犬毛、長二尺一、人面虎足、猪口牙、尾長一丈八尺、攪二亂荒中一、名二檮杌一、一名傲狠、一名難訓。

【傲霜】23ガウサウ 霜の寒さにも屈しない。菊の形容。〔蘇軾、贈二劉景文一詩〕荷盡已無二擎一雨蓋一、菊殘猶有二傲霜枝一。

【傲霜窟】24ガウサウクツ 安部嚴丸の號。安武雁連舍(3－7072・・431)を見よ。

【傲散】25ガウサン 氣まま。〔嵇康、與二山巨源一絕交書〕情意傲散、簡與、禮相背、嬾與、慢相成。〔注〕向曰、傲、謂二不恭一、言性簡略與二禮相違背一。〔梅堯臣、詩〕傲散喜二端居一。

【傲囋】26ガウサン おしやべり。多言。傲讚。〔荀子、勸學〕不レ問而告、謂二之傲一、問一而告二、謂二之囋一、傲非也、囋非也。〔注〕傲、喧噪也、言與二戲傲一無レ異、或曰、讀爲レ噉、口噉噉然也、噉、與傲通、囋卽讚字也、謂二以言強讚一助之一。

【傲侈】27ガウシ たかぶりおごる。侈傲。奢傲。〔北史、崔浩傳〕恭儉福之輿、傲侈禍之機。

【傲視】28ガウシ おごつて人を見さげる。〔舊唐書、音樂志二〕始皇一統、傲二視百王一。

【傲爾】29ガウジ おごりたかぶるさま。〔李白、北山獨酌寄二韋六一詩〕念二君風塵游一、傲爾令二自哂一。

【傲爾布】30ガウアルフ 卒伍の名。〔清國行政法汎論、武官、行伍〕馬甲、滿語 Ukeśēn 猶二我一等卒一、又傲爾布、滿語 Orbo 猶二我二等卒一。

【傲上】31ガウジャウ 上にあつておごる。〔晏子、問、下〕有レ智不レ足二補レ君、有レ能不レ足二以勞レ民、爺身徒處、謂二之傲上一。

【傲縱】32ガウジュウ おごつてわがままなこと。傲慢。〔晉書、胡母輔之傳〕謙之字子光、才學不レ及レ父、而傲縱過レ之。

〔抱朴子、酒誡〕闌茸之性露、而傲很之態出。

【傲很】21ガウコン おごりもとる。たかぶりさからふ。傲狠。傲佷。〔左氏、文、十八〕傲二很明德一、以亂二天常一。〔左氏、昭、二十六〕傲二很威儀一、矯二誣先王一。〔晉書、五行志上〕王敦內懷二不臣一、傲很陵レ上。

【傲世】33ガウセイ 世におごつて高くとまる。〔魏志、崔琰傳〕傲レ世怨謗。〔夏侯諶、東方朔畫贊〕頡頏以傲レ世。

【傲性】34 ao^4 hsing^4 高慢な性質。

【傲然】35ガウゼン おごり高ぶるさま。おごつて人を見下げるさま。〔晏子、諫、下〕南面而立傲然。

【傲達】36ガウタツ たかぶつて物にかかはらないこと。〔晉書、王徽之傳〕獻之賞二井丹高潔一、徽之曰、未レ若二長卿慢レ世也、其傲達如レ此。

【傲誕】37ガウタン 大言壯語する。〔蘇洵、養才〕疎雋傲誕、不レ事二繩檢一。

【傲童】38ガウドウ さわがしい子供。〔新書、春秋〕屠者罷列而歸、傲童不二謳歌一。

【傲悖】39ガウハイ おごりもとる。傲佷。〔魏志、張既傳〕外假二國威一、內生二傲悖一。

【傲暴】40ガウバウ おごつてあらあらしい。傲虐。〔管子、白心〕驕倨傲暴之人、不レ可二與交一。〔纂詁〕尹知章云、交二於驕暴一、則危亡及レ已也。

【傲婦】41ガウフ おごりたかぶつてゐる婦人。〔顏氏家訓、治家〕或猥壻在レ門、或傲婦擅レ室、貪レ榮求レ利、反招二羞耻一。

【傲侮】42ガウブ おごつて他をあなどる。〔癸辛雜志〕跌宕不羈、傲二侮一世一。

【傲物】43ガウブツ おごり高ぶる。慠物。〔唐書、文藝上、張昌齡傳〕昔禰衡潘岳、矜レ己傲レ物、不レ得レ死。

【傲邁】44ガウマイ おごりたかぶつて勝氣なこと。〔晉書、王恬傳〕神氣傲邁、竟無二賓主之禮一。

【傲慢】45ガウマン おごりあなどる。傲謾。傲縱。〔論衡、譴告〕子弟傲慢、父兄教以二謹敬一。〔南史、顏延之傳〕驕佷傲慢、禍之始也。

【傲謾】46ガウマン おごりあなどる。傲慢に同じ。

【傲容】47ガウヨウ 傲慢な顏つき。高慢ちきな樣子。〔莊子、漁父〕萬乘之主、千乘之君、見二夫子一、未三嘗不二分レ庭伉禮一、夫子猶有二倨傲之容一。

【傲來】48ガウライ 山名。山東省泰安縣の泰山の一峯。嶽頂の西南に在る。前に雞籠峯・招軍嶺があり、麓に東西百丈崖がある。

【傲吏】49ガウリ おごつてゐる役人。〔郭璞、遊仙詩〕漆園有二傲吏一、萊氏有二逸妻一。

【傲弄】50ガウロウ おごつて他をなぶる。〔蜀志、揚戲傳〕維酒後言笑、每有二傲弄之辭一。

【傲不レ可レ長】51オゴリハチヤウズベカラズ 自らほこり、人を侮ることは抑へるがよい。〔禮、曲禮上〕傲不レ可レ長、欲不レ可レ縱、志不レ可レ滿、樂不レ可レ極。

【㒧】1016

レイ

儷(**1−1311**)に同じ。〔集韻〕儷、或作レ㒧。

【㑼】1017

リャク 〔玉篇〕力卻切 藥

神の名。〔玉篇〕㑼、神名。

【㒅】1018

カイ 〔集韻〕居代切 隊

假りの主。〔玉篇〕㒅、假主也。〔集韻〕㒅、主也。

【傳】1019

㊀テン デン 〔集韻〕重緣切 ㄔㄨㄢˊ ch'uan^2 先
㊁テン デン 〔集韻〕柱戀切 霰
㊂テン 〔集韻〕株戀切 ㄓㄨㄢˋ chuan^4 霰

小篆

㊀❶**つたへる。つたはる**。㋑さづける。ゆづる。〔呂覽、不屈〕願得レ傳レ國。〔注〕傳、授。〔淮南子、精神訓〕故舉二天下一而傳二之於舜一。〔注〕傳、禪也。㋺つぐ。つづく。〔正韻〕傳、續也。〔莊子、養生主〕指窮二於爲レ薪、火傳也、不レ知二其盡一也。〔釋文〕傳者、相傳繼續也。〔漢書、竇嬰傳〕父子相傳、漢之約也。㋩のこす。のこる。〔韓非子、說林〕欲レ傳二惡聲于子一。〔宋書、樂志〕芳風永傳。㋥ひろめる。ひろがる。〔正韻〕傳、布也。〔素問、陰陽離合論〕積傳爲二一周一。〔注〕傳、謂二陰陽之氣流傳一也。㋭いひつたへる。言ひつぐ。語りつぐ。きこえる。知られる。〔周禮、夏官、訓方氏〕誦二西方之傳道一。〔注〕傳道、世世所二傳說一往古之事也。〔荀子、非相〕而況於二千世之傳一也。〔注〕傳、傳聞也。〔劉禹錫、王思道碑堂下作詩〕蒼蒼宰樹起二寒煙一、尚有二威名海內傳一。〔楊炯、夜送二趙縱一詩〕趙氏連城璧、由來天下傳。〔衛操、桓帝功德頌碑〕毫毛不レ犯、百姓稱傳。㋬のびる。〔莊子、養生主、火傳、釋文〕傳、延也。❷**のべる。傳述**。〔禮、祭統、注〕傳二著於鐘鼎一。〔釋文〕傳、謂二傳述一。〔禮、樂記〕有司失二其傳一也。〔注〕傳、猶レ說也。❸**おくる**。〔呂覽、上德〕傳二鉅子於田襄子一。〔注〕傳、迭也。❹**うつす。うつる。かはる**。〔集韻〕傳、一曰、轉也。〔禮、內則〕枕几不レ傳。〔注〕傳、移也。〔孟子、滕文公下〕以傳二食於諸侯一。〔釋文〕傳食、謂二轉食一也。〔呂覽、必己〕人倫之傳、則不レ然。〔注〕傳、猶レ轉也。〔史記、衛將軍驃騎傳〕傳戰獲レ王。〔注〕索隱曰、傳、猶レ轉也。❺**とりつぐ。通ずる**。〔後漢書、朱穆傳〕傳二發書奏一。〔注〕傳、通也。❻**ひく**。〔漢書、武五子傳〕傳二得天人之祐助一云。〔注〕傳、引也。❼**とる**。〔孟子、萬章下〕庶人不二傳レ質爲レ臣。〔注〕傳、執也。❽**とらへる**。〔漢書、劉屈氂傳〕以レ姦傳二朱安世一。〔注〕傳、逮捕也。❾**いたり**。〔呂覽、順民〕人事之傳也。〔注〕傳、至。❿**たてばしら**。〔爾雅、釋宮〕植、謂二之傳一。⓫**姓**。〔萬姓統譜〕傳、見二姓苑一。㊁❶**はやおひ。宿つぎの車馬**。〔說文〕傳、遽也、从レ人專聲。〔禮、玉藻〕士曰二傳遽之臣一。〔注〕傳遽、以二車馬一給使者也。〔左氏、成、五〕晉侯以レ傳召二伯宗一。〔注〕傳、驛。❷**宿驛のやどり。はたごや**。〔釋名、釋宮室〕傳、傳也、人所二止息而去一、後人復來、轉轉相傳、無二常主一也。〔後漢書、范滂傳〕閉二傳舍一。〔注〕傳、驛舍也。〔後漢書、史弼傳〕坐レ傳。〔注〕傳、客舍也。❸**ついで。次第**。〔史記、秦始皇紀〕推二終始五德之傳一。〔注〕索隱曰、傳、次也。❹**わりふ。てがた**。〔漢書、酷吏、甯成傳〕詐刻レ傳出レ關歸レ家。〔注〕傳、所二以出レ關之符也。〔漢書、王莽傳上〕有レ事府第皆用レ傳。〔注〕傳、符也。❺**經書の說きあかし**。經書の義を解說したもの。賢人の書。〔集韻〕傳、釋名、傳、傳也、所三以傳二示人一。〔廣熙字典〕傳、賢人書曰レ傳。〔馬瑞辰、毛詩傳箋通釋〕詁訓、第就二經文所レ言者一而詮二釋之一、傳則並二經文所レ未レ言者一而引二伸之一、此詁訓與レ傳之別也。〔公羊、定、元〕主人習二其讀一、而問二其傳一。〔注〕傳、謂二訓詁一。〔漢書、古今人表〕傳曰、如二堯舜禹稷卨一。〔注〕師古曰、傳、謂下解二說經義一者上也。〔論衡、正說〕聖人作二其經一、賢者作二其傳一。〔歐陽脩、春秋論〕傳所二以述レ經也。❻**かきつたへ。古書**。〔孟子、梁惠王下〕於レ傳有レ之。〔注〕於二傳文一有レ之矣。❼**一代記。生涯の記錄**。〔韻會〕傳、又史氏紀二載事迹一、以傳二于世一、亦曰レ傳、諸史列傳、是也。〔文體明辯、傳〕紀二載事迹一、以傳二於後世一也、自下漢司馬遷作二史記一、創爲二列傳一、以紀中一人之始終上、而後世史家、卒莫二能易一、嗣レ是山林里巷、或有二隱德一而弗レ彰、或有二細人一而可レ法、則皆爲レ之作レ傳、以傳二其事一、寓二其意一、而馳二騁文墨一者、閒以二滑稽之術一雜焉、皆傳體也、故今辨而列レ之、其品有レ四、一曰史傳、有二正變二體一、二曰家傳、三曰托傳、

四曰假傳、使二作者有レ考焉。三二の㊀に同じ。〔集韻〕傳、驛遽也。邦㊀つて。㋑ことづて。ひとづて。㋺てづる。たより。㊁デン 姓。

名乘 タダ。

參考 傳(1—939)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕傳、音赴、相也、師也、从レ甫从レ寸。傳、音椽、授也、續也、布也、从レ專。

【傳意】1 デンイ わが心を他につたへる。〔莊子、天道、世因レ貴レ言傳レ書、疏〕夫書以載レ言、言以傳レ意。〔敬括、蒲蘆賦〕咽咽傳レ意。〔溫庭筠、蔣侯神歌〕巫娥傳レ意托二悲絲一、鐸語琅琅理二雙鬟一。

【傳懿】3 デンイ 五代吳越、錢元懿(11—40563‥293)の初名。

【傳位】4 デンヰ 位をつたへる。〔杜甫、哀王孫詩〕竊聞天子已傳レ位、聖德北服南單于。

【傳郵】5 デンイウ うまつぎ。宿場。驛站。〔譚用之、秋日圃田送二人隨レ計詩〕僕射陂前是傳郵。

【傳一】6 デンイツ 淸、李開先(6—14459‥927)の字。

【傳胤】7 デンイン 系統を傳へうける。〔後漢書、孝明八王傳贊〕孝明傳レ胤、維城二八國一。

【傳衣】8 デンエ 佛禪宗で佛師が弟子に統をつたへる時、僧迦梨衣、卽ち金襴の袈裟を讓ること。衣鉢を傳へる。〔李商隱、謝書詩〕自レ蒙二半夜傳衣一後、不レ羨王祥得二佩刀一。

【傳衣軒】9 デンイケン 宋、張鎡(4—9812‥361)の室名。

【傳詠】10 デンエイ つたへ詠ずる。〔北史、祖珽傳〕大爲二時人傳詠一。

【傳驛】11 デンエキ うまつぎ。しゆくば。宿驛。驛次。〔唐書、百官志一〕駕部郎中・員外郎各一人、掌二輿輦車乘傳驛・廄牧馬牛雜畜之籍一。

【傳驛子】12 デンエキシ 傳子と驛子。王朝時代、傳戶から徵した課丁と、驛戶から徵した課丁。傳戶(68)及び驛戶(12—45030‥9)を見よ。〔續日本紀、二十二〕天平寶字二年八月庚子、諸國兵士、鎭兵・傳驛子等、今年田租免賜久止宣。

【傳葉】13 デンエフ 子孫に傳へる。〔朱浮、爲二幽州牧一與二彭寵一書〕捐二傳葉之慶祚一。

【傳下】14 デンカ ふれを出すこと。〔紅樓夢、十三回〕賈珍喜レ之不レ盡、卽時傳下。

【傳家】15 デンカ ㊀家業を子に傳へる。〔後漢書、鄭玄傳〕玄後嘗疾篤、自慮以書、戒二子益恩一曰、云云、案二之禮典一、便合レ傳レ家、今我告レ爾以レ老、歸レ爾以レ事。〔注〕傳家、謂三家事任二子孫一也、曲禮曰、七十老而傳。〔禮、曲禮上、注〕傳二家事一、任二子孫一。㊁家に傳へる。又、代々家に傳はる。

【傳家疾】16 ch'uan^{2} chia^{1} chi^{2} 血筋を引く病。遺傳病。

【傳家集】17 デンカシフ 書名。八十卷。宋、司馬光撰。其の文は詞章を以て立つものではないが、氣宇宏大で諸家の風を包括し、一代に凌駕して居る。明の萬曆十五年版の目は、古賦一卷、古詩四卷、律詩十卷、制誥一卷、表一卷、章奏四十卷、書・啓共六卷、論一卷、議・辯・銘・箴・頌・贊共一卷、評・原・說・述・贈・諭・訓共一卷、序三卷、記一卷、傳一卷、題跋・疑孟・史剡共一卷、迂書一卷、格・策問・樂詞共一卷、誌三卷、碑・行狀・墓表・哀辭共一卷、祭文一卷に分れ、又、崇禎元年、劉餘祐の刻本の目は、制詔一卷、表一卷、章奏四十卷、賦一卷、古詩四卷、五言律詩四卷、七言律詩三卷、五言絕句一卷、七言絕句一卷、春帖子詞・樂詞共一卷、挽詩一卷、銘・箴・頌・贊共一卷、論二卷、議辯一卷、評・原・說・述・贈・諭・訓共一卷、策問・疑孟・史剡共一卷、迂書・格共一卷、序三卷、記一卷、傳一卷、題跋一卷、書・啓共六卷、銘三卷、碑・行狀・墓表・哀辭共一卷、祭文一卷となつてゐる。〔四庫提要、集、別集類〕。

【傳家寶】18 デンカハウ 書名。三十二卷。淸、石成金撰。凡そ十六集。平生、各種の雜著から處生教訓に關するものを抽出して、之を編次したもの。

【傳家寶刀】19 デンカノハウタウ 家に代々つたはる寶刀。轉じて、祕して妄りに用ひぬもの。〔日本外史、足利氏正記、足利氏下〕出二傳家寶刀十餘口一、更取出鬪。

【傳歌】20 デンカ 歌を稽古する。〔桃花扇、傳歌〕深畫レ眉不下把二紅樓一閉上、云云、將二箏絃一緊繫、把二笙囊一巧製。

【傳戒】21 デンカイ 新たに出家した僧に戒を授ける。〔程曉、嘲熱客詩〕傳二戒諸高明一、熱行宜レ見レ呵。

【傳概】22 デンガイ 梗概を述べる。〔長生殿、傳概〕今古情場、問誰個眞心到底。

【傳考】23 デンカウ 捕へて吟味する。〔後漢書、陳禪傳〕禪當二傳考一。〔注〕傳、謂二逮捕而考一レ之也。

【傳香】24 デンカウ ㊀燒香をする。行香。〔庾肩吾、和二太子重雲殿受戒一詩〕傳香引二上德一、列伎進二名臣一。㊁法を傳へる。傳法(212)の㊀に同じ。〔馬戴、送二宗密上人一詩〕一自レ傳レ香後、名山願レ卜レ鄰。

【傳香寺】25 デンカウジ 律宗の佛寺。奈良市小川町にある。寶龜年中、鑑眞の弟子思託の開創したもので、初は實圓寺と稱す。天正年中、筒井氏が再興し、其の本堂並に木造地藏菩薩像は國寶である。

【傳柑】26 デンカン 上元(正月十五日)の夜、黃柑を互に贈りあふこと。〔蘇軾、上元侍二飮樓上一呈二同列一詩〕歸來一醆殘燈在、猶有三傳柑遺二細君一。〔注〕侍二飮樓上一、則貴戚爭以二黃柑一遺二近臣一、謂二之傳柑一。〔荊楚歲時記〕上元夜、貴戚例以二黃柑一相遺、謂二之傳柑一。

【傳看】27 デンカン 人から人に送りつたへて見る。回覽。〔歐陽脩、詩〕新詩何惜爲二傳看一。〔蘇軾、次下韻和中劉貢父登二黃樓一見上レ寄竝寄二子由一詩〕傳看一座聳、勸著尺書呼。

【傳奇】28 デンキ ㊀傳記を潤色附會して作つた小說的記錄。もと唐代の小說の稱。後世、轉じて、諸宮調のことに用ひられ、又、雜劇を傳奇と呼んだが、南曲が出てから、戲曲の長いものを一般に傳奇といつて雜劇と區別するやうになつた。宋・金の諸宮調、及び元明の戲曲は多く材料を唐の傳奇に取つてゐるからである。桃花扇傳奇・長生殿傳奇・紅樓夢傳奇の類がこれである。〔后山詩話〕此傳奇體耳、傳奇者、唐裴鉶所レ著小說也。〔輟耕錄、雜劇曲名〕稗官廢而傳奇作、傳奇作而戲曲繼、金季國初樂府、猶二宋詞之流一、傳奇猶二宋戲曲之變一、世傳謂二之雜劇一。〔兩般秋雨菴隨筆〕小說起二乎宋仁宗時一、太平已久、國家閒暇、日進二一奇怪事一以娛レ之、名曰二小說一、而今之小說則紀載矣、傳奇者、裴鉶著二小說一、多三奇異可二以傳示一、故號二傳奇一、而今之傳奇則曲本矣。〔莊嶽委談〕唐爲二傳奇一、宋爲二戲諢一、元爲二雜劇一、非也、唐所謂傳奇、自是書名、雖下事二藻繢一而氣體俳弱上、然其中絕無二歌曲一、若二今所謂戲劇者一、何得三以爲二唐名一、或以二中事跡相類一、後人取爲二戲劇張本一、因展轉爲二此種一、不レ可レ知耳。㊁西洋文學中、冒險談又は驚奇の事を書いたもの。

【傳奇品】29 デンキヒン 書名。一卷。淸、高奕撰。傳奇の曲目及び評論を錄す。

【傳奇彙考】30 デンキヰカウ 書名。八卷。淸、撰者未詳。傳奇の解題考證をなす。

【傳奇院本】31 ch'uan^{2} ch'i^{2} yüan^{4} pen^{3} 演劇の脚本。

【傳奇八種】32 デンキハツシユ 書名。淸、李漁編。其の目は、萬全記・十醋記・補天記・雙瑞記・偸甲記・四元記・雙錘記・魚籃記。

【傳奇四十種】33 デンキシジツシユ 書名。凡て八十本。明曲四十種を輯む。宮內廳書陵部藏本。德山藩舊毛利家の獻納本で、寶曆十一年、新見雅宴編の御文庫唐板書籍考に著錄せられ、又、松澤老泉の彙刻書目外集第五冊に見えてゐるのも恐らくは是であらう。本書收載の書は六十種曲本中の三十三種の外、新曲十種本三種、粲花齋本一種、其の他明版三種であつて、元來六十種曲本の二十七種を失つて缺本となつてゐたのを、狡獪な中國の書賈が故らに其の順序を亂し、有合せの傳奇七種を混合して體裁を具へ、妄りに四十種の名を冠したものであらう。併し、其の中に中國に湮滅した西遊記等が存してゐるのは、幸といふべきである。

【傳記】34 デンキ ㊀人間一代の事がらを記した記錄。一代記。〔漢書、劉向傳〕采二傳記行事一、著二新序說苑凡五十篇一。㊁賢人の書いた書物を傳といひ、事實を記錄したものを記といふ。〔漢書、元后傳〕五經傳記、師所二誦說一。

【傳龜】35 デンキ 印綬の名。〔海錄碎事、衣冠服用、印綬〕漢贊樊陰苗胤傳二龜紫一、應劭漢官儀云、公侯皆紫綬傳龜。

【傳騎】36 デンキ 指揮官の號令を取り次いで傳へる騎馬兵。〔唐書、吐蕃傳下〕飛鳥、猶二傳騎一也。

【傳疑】37 デンギ 古事の疑はしい者は其の儘にして傳へる。〔穀梁、桓、五〕信以傳レ信、疑以傳レ疑。

【傳戲】38 ch'uan^{2} hsi^{4} 宮廷內に劇人を召して

演じさせること。內廷傳戲。

【傳究】39 ch'uan² chiu¹ 拘引して訊問する。傳訊。傳審。

【傳遽】40 デンキョ しゅくつき。はやおひ。傳遽之臣を見よ。

【傳遽之臣】41 デンキョノシン しゅくばで輸送に從ふ忙しい小役人。士が自分をいふ謙稱。〔禮、玉藻〕凡自稱、云云、士曰二傳遽之臣一。〔注〕傳遽、以レ車馬一給二使者一也。

【傳供】42 ch'uan² kung¹ 口供。くちがき。

【傳火】43 デンクワ 火を燃やすことをいふ。〔戴叔倫、和四河南轉主簿送二校書兄歸一江南一詩〕古戍陰傳レ火、寒蕪曉帶レ霜。〔秦觀、遊二龍洞一詩〕葦蕭傳レ火度二冥冥一。

【傳花】44 デンクワ 宴會の時の一種のあそび。蓮花を盆に盛り、一葉づつ取つて廻し、其の盡きたところで酒を飲む雅遊。〔拾遺錄〕歐陽脩在二揚州一會レ客、取二荷花千朶一插二畫盆中一、圍遶坐席、命レ客傳レ花、人摘二一葉一、盡處飲酒。

【傳訛】45 デンカ 誤り傳へる。訛傳。〔吳師道、詩〕瑤池漢殿語茫昧、遂使二世俗猶傳訛一。

【傳喚】46 デンクワン 召喚する。傳換狀を見よ。

【傳喚狀】47 デンクワンジャウ 召喚狀。〔周禮政要、獄訟〕凡原被告人自用、及傳喚狀堂判所レ用罫紙。

【傳館】48 デンクワン 客舍。〔柳宗元、興州江運記〕傳館是飾、旅忘二其歸一。

【傳瓘】49 デンクワン 五代吳越、錢元瓘（11－40563‥2 97）の初名。

【傳觀】50 デンクワン 順次に傳へてみる。回覽。傳看。〔左氏、定、八〕皆取而傳二觀之一。

【傳觀播弄】51 デンクワンハロウ 次々に手から手へ傳へて弄ぶこと。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕委二之敵人一傳觀播弄、將貽二羞萬世一矣。

【傳玩】52 デンクワン 相傳へてもてあそぶ。〔晉書、明帝紀〕五騎傳玩、稽留遂久。

【傳經】53 デンケイ ㊀經學を人に授ける。〔元史、李好文傳〕傳經期二於明道一。㊁醫家の說。一日太陽、二日陽明、三日少陽、四日太陰、五日少陰、六日厥陰と移り變り、七日になると病氣が治愈するのをいふ。〔傷寒論、辨脈法〕傷寒之病、一日太陽、二日陽明、三日少陽、四日太陰、五日少陰、六日厥陰、至二六日一爲二傳經一、盡二七日一當レ愈。

【傳經堂】54 デンケイダウ 室名。㊀清、張廷玉（4－9812：1377）の室名。㊁清、洪頤煊（6－17402‥219）の室名。㊂清、卓天寅（2－2741‥83）の室名。

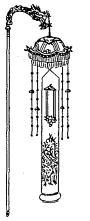
【傳經表】55 デンケイヘウ 書名。一卷。清、畢沅撰。兩漢經學の授受淵源を明かにし、末に通經表一卷を附し、師承の不詳なものを記す。此の書は、實は洪亮吉が沅の幕中にあつた時、畢沅の爲に撰したものである。故に光緒五年、亮吉の曾孫用懃が洪北江遺書を重刻した時、之を其の中に收めた。後、汪大鈞が補正十三卷を作り、末に經傳建立博士表一卷を附したが、補正といつても實は新たに改作したもので、內容は傳經・通經二表を全く包攝し、體例が大いに異なる外、往往洪の書に見えぬ有益な考證があり、又、誤謬を改正した所も多い。〔式訓堂集、第二冊〕。

【傳繼】56 デンケイ 前人のものを傳へつぐこと。〔禮、學記、善教者使二人繼一其志一、疏〕如二今人傳一繼周孔一是也。

【傳警】57 デンケイ つたへいましめる。〔漢書、叔孫通傳〕於レ是皇帝輦出レ房、百官執レ戟傳警。〔注〕師古曰、傳聲而唱警。

【傳教】58 デンケウ ㊀政教を傳へる。〔古三墳、太古河圖代姓紀〕有二傳教之臺一、有二結繩之政一。㊁佛道を承けついで人に教へる。傳道する。〔皇甫冉、贈二普門上人一詩〕惠力堪二傳教一、禪功久伏レ魔。

【傳教旛】59 デンケウバン 進行中、傳令する時に立てるはた。〔唐書、儀衛志下〕親王鹵簿、告止旛四、傳教旛四。


傳教旛（會三才圖）

【傳教大師】60 デンケウダイシ 天台宗の祖、延曆寺の開祖最澄。〔和漢三才圖會、日本近江、比叡山延曆寺〕傳教大師、初名、最澄、姓二三津氏一。

【傳檄】61 デンゲキ 檄文をつたへる。〔史記、張耳・陳餘傳〕使二嗣通見一武信君一曰、云云、誠聽二臣之計一、可二不攻而降一城、不レ戰而略レ地、傳レ檄而千里定一。〔史記、淮陰侯傳〕三秦可二傳レ檄而定一也。

【傳訣】62 デンケツ 口傳の祕訣。又、祕訣を傳授する。〔蘇頲、幸二白鹿觀一應制詩〕受レ符邀二羽使一、傳レ訣註二香童一。〔蘇軾、贈二仲素寺丞致仕歸一隱潛山一詩〕丹書細字口傳訣、願我沈迷眞棄耳。

【傳業】63 デンゲフ 業を傳へる。家業を子孫に傳へる。〔弘道館記述義、上〕足利尊氏又作二禍亂一、敢抗二至尊一、屢害二皇子一、而亦終二其天年一、傳二業十餘世一、此皆變故之大者。

【傳見】64 デンケン 取次ぐ。面會する。〔福惠全書、蒞任部、出堂規〕把二門人一先行二稟明一、以便二傳見一。

【傳賢】65 デンケン 賢人に官を傳へる。傳子（88）の㊀を見よ。

【傳言】66 デンゲン ㊀言葉を出す。言ふ。〔儀禮、士相見禮〕凡言非レ對也、妄而後傳レ言。〔注〕傳レ言、猶レ出レ言也。㊁言葉を傳へる。命令を傳へる。又、ことづてする。傳語。〔史記、絳侯世家〕亞夫乃傳レ言開二壁門一、天子乃按レ轡徐行。㊂傳はつた言葉。言ひ傳へ。〔墨子、非命中〕諸侯之傳言流語、〔韓非子、備內〕上古之傳言、春秋所レ記。〔論衡、書虛〕世俗傳言。

【傳言玉女】67 デンゲンギョクヂョ 詞牌の名。〔詞譜〕高拭詞注、黃鍾宮、按、漢武內傳、帝聞二居承華殿一、忽見二一女子一、曰、我墉宮玉女王子登也、至二七月七日一、王母暫來、言訖、不レ知二所レ在、世所謂傳言玉女也。

【傳戶】68 デンコ 中古、諸道の各驛に附屬し、傳馬を飼養して旅行者の用に供した家。〔令義解、廐牧令〕至二於傳戶一、唯免二雜徭一、古必取二富者一也。

【傳呼】69 デンコ 聲をつたへて呼ぶ。ふれ廻はる。〔漢書、蕭望之傳〕下レ車趨レ門、傳呼甚寵。〔注〕師古曰、傳聲而呼二侍從者一、甚有二尊寵一也。〔陸倕、新漏刻銘〕衢宏載二傳呼之節一。

【傳鼓】70 デンコ 合圖の鼓を鳴らす。又、取次ぎを乞ふこと。〔桃花扇、投轅〕老哥在二此等候一、待二我傳鼓一。〔通俗編、儀節、傳鼓〕按、今弔客至二喪家一、傳鼓爲レ信、蓋晉已來有レ之矣。

【傳語】71 デンゴ 言葉を傳へる。ことづてする。ことづて。寄語。傳言。〔國語、周語上〕百工諫、庶人傳語。〔石崇、王明君辭〕傳語後世人。〔岑參、逢入レ京使二詩〕馬上相逢無二紙筆一、憑レ君傳語報二平安一。

【傳後】73 デンコウ 後世に傳へる。〔班固、將軍信武靳歙銘〕金龜章レ德、建號傳レ後。〔魏文帝、又與二吳質一書〕辭義典雅、足レ傳二于後一。

【傳紅】74 ch'uan² hung² 南京地方で、合婚の後、女家から嫁の年庚を泥金の金紅箋に書き込んだものを、媒妁人の手を經て男家に送ること。

【傳鉤】75 デンコウ 長安の張氏が鳩を捕へて一金鉤を得、後、子孫が富み榮えた故事。〔搜神記、九〕長安有二張氏一、獨處一室、有レ鳩、自レ外入レ於牀一、張氏祝曰、鳩來、爲レ我禍一也、飛上二承塵一、爲レ我福一也、卽入レ我懷一、鳩飛入レ懷、以レ手探レ之、則不レ知二鳩之所一レ在、而得二一金鉤一、遂寶レ之、自レ是子孫漸富、資財萬倍、云云、故關西稱二張氏傳鉤一云。

【傳告】76 デンコク 人から人に傳へ告げる。〔詩、秦風、東鄰、寺人之令、箋〕欲レ見二國君一者、必先令二寺人一、使二傳レ告之一。

【傳國】77 デンコク ㊀國に傳はる。傳國璽を見よ。㊁國を傳へる。〔東方朔、非有先生論〕傳二國子孫一、名顯二後世一。

【傳國璽】78 デンコクジ 歷代の天子が寶とした印。秦の始皇の時、卞和の璧又は藍田の玉を取つて刻したといふ。其の文に「受二命於天一、既壽永昌」とあり、漢の高祖は之を收めて六璽の外とし、世に之を傳國璽といふ。恐らくは王莽の時にひたのであらう。隋には受命璽といつたが、唐は承天大寶と改めた。而して唐初には景命璽を作り、宋初には承天受命・恭膺天命の諸璽を作つて傳國璽とした。元・明・清も亦別に國璽を制定してゐる。傳國寶。〔漢書、元后傳〕初漢高祖入二咸陽一、至二霸上一、秦王子嬰降二於軹道一、奉二上始皇璽一、及高祖誅二項籍一、卽二天子位一、因御二服其璽一、世世傳受、號二漢傳國璽一。〔宋書、禮志五〕虞喜志林曰、傳國璽、自在二六璽之外一、天子凡七璽也。〔太平御覽、儀式部、璽〕傳國璽、是秦始皇所レ刻、其玉出二藍田山一、是丞相李斯所レ書、其文曰、受二命于天一、既壽永昌、漢高祖定二三秦一、秦王子嬰獻二此璽一、及漢高卽レ位、仍佩レ之、因以相傳、故號曰二傳國璽一。〔太平御覽、儀式部、璽〕漢舊儀曰、皇帝六璽、皆白玉螭虎鈕、文曰、皇帝

行璽・皇帝之璽・皇帝信璽・天子行璽・天子之璽・天子信璽、凡六璽、皇帝行璽、賜二諸侯王一書、信璽、發レ兵徵二大臣一、天子行璽、外國事、天子之璽、事二天地鬼神一、皆以二武都紫泥一封。〔昌谷集、玉璽本末〕始皇作二傳國璽一、使二丞相斯書一レ之、其文曰、受二命於天一、既壽永昌。〔事類全書〕舊制乘輿六璽、唐改爲レ寶、唐末喪亂、或多亡失、周廣順中、詔造二寶一、曰、皇帝承レ天受レ命之寶、皇帝神寶、宋祖受レ命、傳二其二寶一、至二太宗一、又別制二承天受命之寶一、嘉祐八年、英宗卽レ位、作二受命寶一、命二歐陽脩一篆二其文一曰、皇帝恭膺二天命一之寶。〔輟耕錄、傳國璽〕御史中丞崔彧進二傳國璽一。

【傳國寶】79 傳國璽を見よ。〔元稹、諭寶詩〕刻爲二傳國寶一、神器人不レ侵。〔五代史、馮道傳〕得二一玉杯一、有レ文、曰二傳國寶一。〔金史、禮志四〕白玉蓋螭紐傳國寶一。

【傳差】80 ch'uan² ch'ai 一 宮中に俳優を召すこと。一 罪人の拘引召喚を掌る役人。

【傳座】81 新年に、互に相招いて酒を飲むこと。傳坐。〔傳生酒(274)〕を見よ。〔雲仙雜記〕長安風俗、元日以後、遞飲食相徵號二傳座一。

【傳宰】82 驛丞をいふ。〔稱謂錄、驛丞、傳宰〕叩鉢齋官職考、一稱二郵官一、亦稱二傳宰一。

【傳催】83 催促する。〔長生殿、復召〕後宮傳催、排膳伺候。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕宜三一人傳二催衆戶一。

【傳冊】84 ch'uan² ts'e² 私塾の先生。句讀の師。

【傳餐】85 食事をせよと命令を傳へる。まにあはせの食事をしておけと傳へる。餐は、僅かな食事。傳飡。〔漢書、韓信傳〕今二其裨將傳レ餐、曰、今日破二趙會一食。〔注〕服虔曰、立駐傳二餐食一也、如淳曰、小飯曰レ餐、破レ趙後、乃當二共飽食一也、師古曰、餐、古飡字、音千安反。

【傳燦】86 清、曾燦(5－14299‥61)の原名。

【傳贊】87 史家が傳記を以て各人の事實を記載した後に附する評論をいふ。其の例は漢書に始まり、其の後、史家多く之に因る。亦、論贊ともいふ。〔晉書、郭文傳〕葛洪庾闡並爲作二傳贊一、頌二其美一云。

【傳子】88 一 子に傳へる。〔漢書、蓋寬饒傳〕五帝官二天下一、三王家二天下一、家以傳レ子、官以傳レ賢。二 王朝時代、傳戶から徵した課丁の稱。傳馬子。〔三代實錄、九〕貞觀六年十二月十日、總差二點丁驛夫四百人一、傳子六十人一。

【傳尸】89 一 ころげ斃れてゐる屍。〔逸周書、大聚解〕生無二乏用一、死無二傳尸一。〔注〕傳尸、猶二轉尸一也。二 病名。肺病。死尸の勞蟲(肺病を傳染すると考へられた微生物)によつて旁人に傳染するからいふ。傳尸勞。傳屍。

【傳尸勞】90 病名。傳尸の二に同じ。

【傳之】91 字號。一 宋、時檄(5－13390‥136)の字。二 宋、程先(8－25081‥87)の字。

【傳旨】92 勅旨を傳へる。〔皇朝政治學問答〕傳二旨嘉獎一。

【傳使】93 王朝時代、太政官の傳符を持し、傳馬に乘つて官物の供給を受ける使。〔東大寺正倉院書、四十二、天平八年薩摩國正稅張〕往乘傳使、合頭肆拾貳人。

【傳屍】94 肺病。傳尸(89)の一に同じ。

【傳指】95 傳へ教へられる旨。〔史記、十二諸侯年表〕七十子之徒、口受二其傳指一。

【傳師】96 宋、孫覿(3－6987‥292)の字。

【傳誌】97 經史に對して、個人的な記文。例へば、墓表・墓誌銘・行狀等の類。

【傳質】98 贄を執る。贄を差し出す。〔孟子、萬章下〕庶人不二傳質一爲レ臣、不二敢見二於諸侯一。

【傳示】99 傳へ示す。〔顏氏家訓、風操〕聊記錄以傳二示子孫一。〔韓愈、詠二雪贈一張籍一詩〕莫レ煩相屬和、傳示及二提孩一。

【傳習】100 師から教へられならふ。論語學而篇の「傳不習乎」に就いては二說がある。一說は、傳レ不レ習乎と讀んで、習熟しないことを他人に傳へはせぬかと解し、一說は、傳不レ習乎と讀んで、師から傳へられて復習せぬことはないかと解する。〔論語、學而〕吾日三省二吾身一、云云、傳不レ習乎。〔集解〕言、凡所レ傳之事、得無レ素不二講習一而傳レ之乎。〔集注〕傳、謂レ受二之於師一、習、謂熟二之於己一。〔梁武帝、撰二孔子正言一竟述懷詩〕志レ學恥二傳習一、弱冠闕二師友一。〔舊唐書、馮伉傳〕每レ鄉給二一卷一、俾二其傳習一。

【傳習錄】101 書名。三卷。明、王守仁撰。王守仁の語錄を門人徐愛等が編纂したもの。論語學而篇の曾子の語、「傳不習乎」を取つて書名とした。上卷は、徐愛所錄十四條・陸澄所錄八十條・薛侃所錄二十五條、合して百二十九條。中卷は、答二人論一レ學書・答二周道通一書・答二陸原靜一書、答二歐陽崇一書・答二羅整菴一小宰一書・答二聶文蔚一書・示二弟立一志說・訓蒙大意・教約の九篇。下卷は、陳九川所錄十五條・黃以方所錄十一條・黃修易所錄十一條・黃省曾所錄十七條・錢德洪所錄五十一條、合して百十五條。補遺は凡て二十八條。此の外、晚年定論を添ふ。附錄に、大學問・示二徐曰仁一・應試・諭俗四條・坐客私祝・略年譜を載す。〔四庫提要、集、別集類存目〕。〔參考書〕【傳習錄論述參】一卷 明、王應昌編。【陽明先生集要】明、施邦曜重編。【傳習錄略】一卷 編者不明。【標注傳習錄】三卷 三輪希賢撰。【傳習錄欄外書】三卷 佐藤坦撰。

【傳集】102 令を傳へ喚び集める。〔福惠全書、編審部、嚴飭里胥〕先傳二集各圖里書及胥役等一。

【傳車】103 宿つぎの車。驛傳の車。〔史記、游俠、朱家傳〕條侯爲二太尉一、乘二傳車一將レ至二河南一。〔淮南子、道應訓〕具二傳車一、置二邊吏一。〔文天祥、正氣歌〕楚囚纓二其冠一、傳車送二窮北一。

【傳舍】104 一 やどや。宿驛の旅館。〔戰國、魏策〕今鼻之入、秦之傳舍、舍不レ足二以舍レ之。〔史記、鄒生傳〕沛公至二高陽傳舍一。〔漢書、韓信傳〕至宿二傳舍一。〔魏志、陳羣傳〕至二白水一多作二傳舍一。二 戰國時代に食客をおいた第三等の宿舍。〔史記、孟嘗君傳〕置二傳舍一十日。〔注〕索隱曰、按、傳舍幸舍及代舍、並當二上中下三等之客所レ舍之名一耳。三 星の名。〔星經〕傳舍九星、在二革蓋奚仲北一、近二天河一、主二賓客之館一。

【如二傳舍一】105 富貴といふものは、宿驛の旅舍に人が去來する如く、變化の烈しいものである。〔海錄碎事、地、屋宅〕漢の蓋寬饒の語。〔後漢書、西域傳論〕精文善法導平恩許伯入第、蓋寬饒賀之、酒酣、仰二屋而歎曰、美哉、富貴無レ常、忽則易レ人、此如二傳舍一、所レ閱多矣、惟謹愼爲二能久一。

【傳者】106 傳へるもの。傳者久則論略を見よ。

【傳者久則論略】107 傳へることが久しくなれば、其の論說がだんだん粗略になる。〔荀子、非相〕傳者久則論略、近則論詳、略則擧大、詳則擧小。

【傳寫】108 傳へ寫す。人々めいめいに書きとる。〔漢書、師丹傳〕令二吏民傳寫流二聞四方一。〔晉書、左思傳〕三都賦成、競相傳寫、洛陽爲レ之紙貴。

【傳唱】109 つたへとなへる。〔張祜、孟才人歎〕偶因二歌態詠一、嬌囀傳唱宮中十二春。

【傳觴】110 杯をとりつぐ。杯を傳へる。傳盃。傳杯(200)に同じ。〔張衡、南都賦〕儇才齊敏、受二爵傳一レ觴。〔李白、南奔書一レ懷詩〕侍筆黃金臺、傳レ觴靑玉案。

【傳狀】111 傳記や行狀。〔重野成齋、橋本景岳墓表〕手記二書牘一傳狀。

【傳情】112 心持を傳へる。〔嵇康、聲無二哀樂一論〕凡此八者、生民所二以接一レ物傳一情、區別有レ屬而不可レ溢者也。

【傳受】113 傳へ受ける。〔漢書、儒林傳〕故傳受者不レ絕。〔後漢書、陳元傳〕固執二虛言一傳受之辭一、以非二親見實事之道一。〔何晏、論語集解敍〕前世傳二受師說一。

【傳授】114 つたへさづける。つたへ教へる。〔漢書、劉向傳〕轉相是非、傳授增加。〔孔安國、尚書序〕口以傳授。

【傳授心法】115 師弟間に傳授し來つた心法。〔朱熹、中庸章句〕子程子曰、不レ偏之謂レ中、不レ易之謂レ庸、中者天下之正道、庸者天下之定理、此篇乃孔門傳授心法、子思恐二其久而差一也、故筆二之於書一、以授二孟子一。

【傳祝】116 神が語を祝ハフに傳へること。〔宋玉、高唐賦〕傳祝已具、言辭已畢。〔注〕善曰、傳祝已具、神之語已具、言辭已畢也。

【傳述】117 つたへのべる。〔漢書、百官公卿表〕傳二述其官一。〔後漢書、西域傳論〕精文善法導達之功、靡レ所二傳述一。

【傳詢】118 召喚して取調べる。

【傳書】119 文書を傳へる。〔莊子、天道〕世因レ貴言二傳書一、世雖レ貴レ之、我猶不レ足レ貴也。〔李白、訪二道安陵一遇二蓋還一爲余造二眞籙一臨レ別留

贈詩學道北海仙、傳書藥珠宮。

【傳書鳩】120 ヂンショバト　鳩の一種。舊舍に飛び歸る特性を利用して軍事、其の他の通信の用に供する鳩。軍用鴿。傳書鴿。

【傳承】121 ヂンショウ　❶つたへうけること。人づてに聞くこと。❷社會の進化過程に於て、前代の文化的遺産を譲り承けること。

【傳稱】122 ヂンショウ　つたへたたへる。くちぐちに賞める。〔魏武帝、短歌行〕正而不レ譎、其德傳稱。

【傳誦】123 ヂンショウ　人々相つたへてとなへる。傳諷。傳唱。〔論衡、正説〕緑寫以傳誦。〔宋史、范質傳〕時人傳誦、以爲二勸戒一。

【傳乘】124 ヂンジョウ　❶別のしゆくつぎの車に乘る。乘り移る。乘りかへる。〔左氏、莊、九〕公傳乘而歸。〔注〕傳乘、乘二他車一。❷驛に置いてある車。〔晉書、輿服志〕追鋒車、去二小平蓋一、加二通幰一、如二軺車一、云云、施二於戎陣之間一、是爲二傳乘一。

【傳食】125 ヂンショク　處々に寄食する。〔孟子、滕文公下〕從者數百人、以傳二食於諸侯一、不二以泰一乎。

【傳心】126 ヂンシン　心から心に傳へる。〔唐詩紀事、裴休〕僧希運曰、上乘之印、惟是一心、更無二別法一、心體一空、萬緣俱寂、云云、裴休錄レ之、爲二傳心要法一。

【傳心殿】127 ヂンシンデン　清の宮殿の名。文華殿の東にあり、伏羲・神農・堯・舜・禹・湯・文武・周公・孔子等を祭る。〔清會典、工部、宮殿〕由二本仁殿一折而東爲二傳心殿一、殿廣五楹。〔注〕祀二皇師帝師王師及先聖先師位一。

【傳信】128 ヂンシン　❶古事の信實なる者は其の儘之を傳へることゝ。〔史記、三代世表〕信以傳レ信、疑以傳レ疑、故兩言レ之。❷漢代、其の身分の正確なことを保證する爲に携へた一尺五寸の木。傳瑞。〔大學衍義補、備二規制一、郵傳之置〕如淳曰、律、諸當二乘レ傳及發二駕置傳一者、皆持二尺五寸木一傳レ信、封以二御史大夫印章一。

【傳信鳥】129 ヂンシンテウ　鳥の名。〔事物異名錄、禽鳥、鶯〕六帖、處士元藏機有二一鳥一、類二黃鸝一、每呼レ之卽至、或令レ投レ人、謂二之傳信鳥一。

【傳信牌】130 ヂンシンハイ　軍中にて文件を傳遞するに用ひる牌。中は池槽をなし、筆・墨・紙を藏し得る。〔宋史、兵志十〕傳信牌、中爲二池槽一、藏二筆墨紙一、令二主將掌レ之、每二臨陣傳レ命、書紙納二牌中一、持二報兵官一、復書二事宜一、內二牌中一、而還二主將一、密以レ字爲二號驗一、毋レ得二漏二洩軍中事一。

【傳信適用方】131 ヂンシンテキヨウハウ　書名。二卷。宋、吳彥夔撰。醫書。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傳眞】132 ヂンシン　肖像を畫く。肖像畫。〔杜荀鶴、八駿圖詩〕丹腹傳眞未レ得レ眞、那知筋骨與二精神一。

【傳眞追影】133 ch'uan² chen¹ chui¹ ying³　子供などが肖像を描くことをいふ。

【傳眞方賣假藥】134 ch'uan² chen¹ fang¹ mai⁴ chia³ yao⁴　眞實の處法を傳へて僞藥を賣る。看板に僞がある。

【傳神】135 ヂンシン　精神を傳へる。神髓を寫し出す。例へば、人の像を畫いて其の畫が眞に迫る類。〔晉書、顧愷之傳〕愷之每レ畫レ人、成或數年不レ點二目精一、人問二其故一、答曰、傳神寫照、正在二阿堵中一。〔詩話總龜〕少陵落月滿二屋梁一之句、爲二太白傳神一。

【傳神家】136 ch'uan² shen² chia¹　肖像畫家。

【傳神祕要】137 ヂンシンヒエウ　書名。一卷。清、蔣驥撰。二十七目に分れ、畫に關する一切の布局・取勢・運筆・設色等について論じてゐる。〔四庫提要、子、藝術類〕。

【傳進】138 ヂンシン　取次ぐ。〔桃花扇、投轅〕待二我替レ他傳進一。〔福惠全書、蒞任部、酬答書札〕陰陽生不レ得二傳進一。

【傳審】139 ch'uan² shen³　法廷に召喚して審理を行ふことをいふ。喚問する。傳究。

【傳薪】140 ヂンシン　火が薪にもえ傳はる。師弟相傳へる喩。〔筆乘〕佛典言、火傳二于薪一、猶二神傳一於形一、火之傳二異薪一、猶二神之傳一異形一、言、其源同、而其流則不レ同也。〔莊子、養生主〕指窮二於爲一薪、火傳也不レ知二其盡一也。

【傳人】141 ヂンジン　❶世に傳へるべき人。〔歐北詩話〕然則先生具二壽者相一、得レ天獨厚、爲二一代傳人一、豈偶然哉。❷人を呼び出す。召喚する。〔紅樓夢、一回〕傳二人問話一。

【傳人票】142 ch'uan² jen² p'iao⁴　召喚令狀。喚出狀・拘引狀の類。

【傳訊】143 ヂンジン　召喚して取調べる。傳究。〔清國行政法汎論、軍機處、職權〕蓋審二理大獄一之時、特命二軍機處一管轄之一、則軍機處傳訊。

【傳水】144 ヂンスイ　水時計の水が傳はる。卽ち時刻のたつこと。〔白居易、待レ漏入レ閣書レ事奉二贈元九學士閣老一詩〕閣漏猶傳レ水、明河漸下レ山。

【傳瑞】145 ヂンスイ　傳信（128）の❶に同じ。〔范雲、贈二張徐州謖一詩〕軒蓋照二墟落一、傳瑞生二光輝一。〔注〕善曰、風俗通曰、諸侯及使者有二傳信一。

【傳世】146 ヂンセイ　❶後世に傳へる。〔荀子、君道〕修飾端正、尊二法敬一分、而無二傾備之心一、守レ職循レ業、不二敢益損一、可レ傳レ世也。❷子孫代々相繼ぐ。〔傳世古〕147 ヂンセイコ　世間に流傳して、未だ水土に埋もれたことのない古銅器。〔洞天清祿集〕傳世古、則不二曾入水土一、惟流二傳人間一、色紫褐而有二朱砂斑一、甚者其斑凸起如二上等辰砂一、入レ釜以二沸湯一煑レ之、良久斑愈見、僞者以二漆調朱一爲レ之、易レ辨也。

【傳世酒】148 ヂンセイシユ　新年に互に招きあつて酒を飲むこと。傳生酒（274）に同じ。

【傳正】149 ヂンセイ　宋、蒲宗孟（9－31611‥188）の字。

【傳政】150 ヂンセイ　政を後世に傳へる。〔韓詩外傳、三〕五帝之中、無レ傳レ政、非レ無二善政一、久故也。

【傳聲】151 ヂンセイ　言葉を傳へる。又、傳はり響く聲。〔漢書、叔孫通傳、百官執レ戟傳警、注〕師古曰、傳聲而唱警。〔梁元帝、詠歌詩〕傳聲入二鐘磬一、餘囀雜二簫篌一。

【傳抄】152 ヂンセウ　順次にたへ寫すこと。〔陸游、晚眺詩〕箇中詩思來無レ盡、手傳抄畏不レ供。

【傳席】153 ヂンセキ　婚禮に、新婦が壻の家の門を入る時、土を履ませないために敷く敷物。傳代（171）に同じ。〔輟耕錄、傳席〕今人家娶婦、輿轎迎至二大門一、則傳席以入、弗令レ履レ地、然唐人已爾、樂天、春深娶婦家詩云、表衣轉二氈褥一、錦繡一條斜。

【傳籍】154 ヂンセキ　昔から傳はつて居る圖籍。〔淮南子、泰族訓〕非レ謂下其履二勢位一受二傳籍一、稱中尊號上也。

【傳說】155 ヂンセツ　❶俗書や一般世人によつて古くから言ひ傳へられてゐる話。いひつたへ。口碑。又、うはさ。ふうぶん。〔漢書、藝文志〕下及二諸子傳說、皆充二祕府一。〔白居易、奏二所聞狀一〕向外傳說。〔轅軒語、語學、通經〕御纂七經、乃蒼二萃歷代傳說一裁定。❷ch'uan² shuo¹　㋑承ければ。㋺いひふらす。

【傳舌】156 ch'uan² she²　しやべりまはる。

【傳宣】157 ヂンセン　❶旨を傳へ宣べる。〔後漢書、公孫瓚傳〕聲使レ聞二數百步一、以傳宣。〔周必大、賜レ茶詩〕敕使傳宣坐賜レ茶。❷號令を傳へる官。〔六部成語、兵部、傳宣、注解〕軍事傳二號令一之官。

【傳染】158 ヂンセン　❶うつしそめる。墨つき。〔夏文彥、論畫〕筆墨超凡、傳染得レ宜、意趣有レ餘者、謂二之妙品一。❷病氣が人から人にうつる。感染。

【傳染病】159 ヂンセンビヤウ　虎列剌・赤痢・腸窒扶斯などのやうに病菌が他にうつる病氣。

【傳箋】160 ヂンセン　詩經を注解した毛公の傳と鄭玄の箋。清の馬瑞辰に毛詩傳箋通釋がある。

【傳禪】161 ヂンゼン　位をつたへゆづる。讓位。〔許山、箕山歌〕謂子欽功、傳レ禪易レ祖。

【傳祖】162 ヂンソ　傳へつたへる。祖は法る意。〔後漢書、儒林傳論〕皆專相傳祖、莫二或訛雜一。

【傳祚】163 ヂンソ　❶さいはひを後世につたへる。〔晉書、段灼傳〕當下書二之竹帛一、傳中祚萬世上。❷天子の位を傳へる。〔舊唐書、劉仁軌傳〕享レ國彌久、傳祚無レ疆。

【傳疏】164 ヂンソ　傳と疏。例へば詩經では、毛公の注を傳といひ、注に解釋を加へたものを疏といふ。清の陳奐の著に、毛詩傳疏三十卷がある。

【傳奏】165 ヂンソウ　❶取次いで言上する。〔大戴禮記、衞將軍文子〕傳二奏其勇一。❷ヂンソウ　親王・攝家・諸社寺及び武家等の奏請を、天皇・上皇に傳へ奏上することを掌る役。〔建武年間記〕賢者がほなる傳奏。

【傳奏所】166 ヂンソウショ　慶長年間の町奉行所の稱。

【傳奏屋敷】167 ヂンソウヤシキ　德川時代、江戸に設けた勅使の旅館。〔光臺一覽、一〕勅使各關東御下著之處は、傳奏屋敷とて。

【傳送】168 ヂンソウ　❶つぎつぎに送る。〔史記、大宛傳〕國國傳二送食一、不二敢留苦一。〔漢書、爰盎傳〕檻車傳送。❷叢辰の名。十二月將の一。日と月が四

月に申宮で相會するをいふ。月將（5－14330‥1651）及び十二月將（2－2695‥420）を見よ。

【傳飧】169 ㊀ソン　小食をして飢をしのぐべき號令を發すること。〔史記、淮陰侯傳〕令二其裨將傳レ飧曰、今日破二趙會食一。〔注〕索隱曰、如淳曰、小飯曰レ飧、謂、立駐傳飧、待レ破レ趙乃大食也。

【傳袋】170 ㊀デンタイ　傳代に同じ。

【傳代】171 ㊀デンダイ　㊀婚禮に、新婦が壻の家の門を入る時、地を履ませないために敷く袋。傳袋。傳席。〔知新錄〕今人娶二新婦一入レ門、不レ令二足履一地、以二袋遞相傳一、令二新婦步一レ袋上一、謂二之傳代一。代・袋同音也。白樂天、題二娶婦家一詩云、青衣轉二氈褥一、錦繡一條斜、古人以二氈褥一者、富貴家重二其名一也、今則不レ用二氈褥一而用レ袋者、重二其名一也。㊁世々代々に傳へる。

【傳代接宗】172 ch'uan² tai⁴ chieh¹ tsung¹ 系統を絶やさない。

【傳壽】173 ㊀タンジュ　五代吳越、錢元懿（11－40563‥293）の初名。

【傳道】174 ㊀デンダウ　㊀古來の傳說。傳へいふ所。〔周禮、夏官、訓方氏〕誦二四方之傳道一。〔注〕傳道、世世所二傳說一往古之事也。㊁古聖賢の教を說いて世につたへる。〔韓愈、師說〕師者所二以傳一レ道授レ業解レ惑也。㊂宗教を世に弘める。㊃字號。㋑宋、韓宗師（12－43159‥340）の字。㋺元、曾貫（5－14299‥41）の字。

【傳道師】175 ㊀シンダウシ　基督教の教義を衆人につたへ弘める者。布教者。宣教師。牧師。〔清國行政法汎論、外務部、職權〕保二護傳道師及外國人之漫遊一。

【傳道船】176 ㊀デンダウセン　和船の一種。二三十石から五六十石積みの荷船。過書船と同形で稍〻小さい。天道船。天舫舟。澱登船。

【傳道圖】177 ㊀デンダウト　古以來の儒道を傳へた人々を描いた畫圖。〔元史、趙復傳〕元趙復原、羲農堯舜所二以繼一レ天立レ極、孔子顏孟所二以垂一レ世立一レ教、周程張朱所二以發明紹續一者、作二傳道圖一。

【傳導】178 ㊀デンダウ　㊀傳へみちびく。〔遼史、道宗紀四〕牌印君耶律固、傳二導燕國王延禧一。㊁熱又は電氣を、物體の一部から他部に導き傳はらせる。

【傳達】179 ㊀デンタツ　送り屆ける。つたへる。〔春渚紀聞〕傳二達其言一。

【傳達式】180 ㊀シンキク　「げる儀式。おくり屆ける儀式。傳へ告

【傳揭】181 ㊀タツ　つたへ倣ふ。〔寶泉、述書賦序〕世所二傳揭一者不レ敢憑一。

【傳單】182 ㊀タン　宣傳びら。ちらし。又、呼び出し狀。令狀。〔桃花扇、辭院〕都有二傳單一只得二早到一。

【傳知】183 ch'uan² chih¹ 傳達する。それからそれへと觸れ知らす。

【傳致】184 ch'uan² chih⁴ 屆ける。傳言する。

【傳致膠】185 ㊀デンチカウ　膠の一種。阿膠（11－41599‥40）の別名。〔本草、阿膠〕釋名、傳致膠、弘景曰、出二東阿一、名二阿膠一。

【傳置】186 ㊀デンチ　うまつぎば。しゆくば。遞驛。〔漢書、文帝紀〕餘皆以給二傳置一。〔宋史、禮志七〕出二廐馬一、增二傳置一。

【傳持】187 ㊀デンヂ　㊁他から法を受け傳へて吾が身に保持することをいふ。〔法華文句、一〕傳二持如來無礙智慧一。

【傳注】188 ㊀デンチュウ　書籍の注釋。詩經の毛傳・書經の孔傳・三禮の鄭注の類。〔韻會〕注、解也、識也、〔儀禮、胡培翬正義〕言レ注者注二義於經下一、如二水注レ物。〔唐書、藝文志序〕傳注箋解義疏之流、轉相講述。〔邢昺、爾雅注疏序〕傳注之濫觴。

【傳重】189 ㊀デンチョウ　家督を嫡子孫に傳へる。又、其の傳へられた人。〔儀禮、喪服〕傳曰、何以二不也、正二體於上一、又乃將レ所レ傳レ重也。〔孫詒讓正義〕云レ重二其當一先祖之正體一、又以二其將一レ代已爲一宗廟主一也一者、兩其字、指二長子一言、爲二宗廟主一是重也。〔何承天、答二江氏問一次孫持重一〕大兒無レ子、小兒有レ子、疑二於傳重一。

【傳呈】190 ch'uan² ch'eng² 人民が官廳で指定する期日以外に告訴狀を呈出すること。

【傳遞】191 ㊀デンテイ　㊁つたへわたす。物のやりとり。〔宋史、選擧志〕擧人之弊凡五、云云、寶慶二年、左諫議大夫朱端常、奏二防戢之策一、謂、試院監二大門中門一官、乃一院襟喉切要、乞差二有一レ風力一者一、入試日、一切不レ許二傳遞一、門禁既嚴、則數弊自清。〔六部成語、禮部傳遞、注解〕求二友代作文字一、暗中傳送遞交、以爲二己做一。〔福惠全書、典禮部、賓興試考〕毋許二衙役水夫傳遞一。㊂男女間で手紙等のやりとりをする。〔紅樓夢、三十四回〕再想令二人私相傳遞一、於レ我可レ懼。㊃次き次ぎと傳へて行く。

【傳帖】192 ㊀デンテフ　㊀まはしぶみ。回狀。〔勝蓮社約〕會首出二傳帖一。㊁ch'uan² t'ieh² 令狀。召喚狀。

【傳點】193 ㊀デンテン　雲板を擊つて執事を召集すること。〔唐書、儀衞志上〕平明傳點畢、內門開、監察御史入二夾階一。〔李商隱、深宮詩〕玉壺傳點咽二銅龍一。

【傳傳】194 ㊀デンデン　休まず傳はる。〔白虎通、情性〕魂魄者何謂、魂猶レ傳レ傳也、行不レ休二於外一也。

【傳統】195 ㊀デントウ　系統をつたへる。しきたり。又、傳はつた血すぢ。〔後漢書、東夷傳〕世世傳レ統。〔沈約、立太子赦詔〕守レ器傳レ統、於レ斯爲レ重。

【傳燈】196 ㊀デントウ　㊁佛家で法を傳へること。燈は暗を破る意で、法をいふ。〔釋氏要覽、肇云、自行化レ彼、則功德彌增、法光不レ絕、亦名二無盡燈一。〔杜甫、望二牛頭寺一詩〕傳燈無二白日一、布地有二黃金一。〔書言故事、釋教類〕僧傳二度小師一、謂二傳燈一。㊁明の高僧。衢州の人。字は有門。號は無盡。天臺高明寺に出家す。臺教中興の始祖といはれる。著に天臺山方外志・幽溪別志・楞嚴圓通疏・維摩無我疏がある。㊂清、曾畹（5－14299‥15）の原名。

【傳燈錄】197 ㊀デントウロク　㊀書名。三十卷。宋、沙門道原撰。釋迦以來の祖祖の法脈を系統づけ、法語を錄したもの。後、之に倣つて種々の燈錄がある。㊁戲曲の篇名。歸元鏡（6－16349‥307）を見よ。

【傳燈住位】198 ㊀デントウジュウヰ　僧位の一。傳燈滿位に次ぐ。〔職原抄〕僧官位、傳燈住位。〔類聚國史、一百八十五〕傳燈住位明遠。

【傳燈入位】199 ㊀デントウニフヰ　僧位の一。傳燈住位に次ぐ。〔職原抄〕僧官位、傳燈入位。〔類聚國史、一百八十五〕授二圓講傳燈入位一。

【傳燈滿位】200 ㊀デントウマンヰ　僧位の一。傳燈法師位に次ぐ。〔職原抄〕僧官位、傳燈滿位。

【傳燈法師位】201 ㊀デントウホフシヰ　僧位の一。傳燈大法師位に次ぐ。〔職原抄〕僧官位、傳燈法師位。〔類聚國史、一百八十五〕大安寺僧傳燈法師位行修賜二封五十戶一。

【傳燈大法師位】202 ㊀デントウダイホフシヰ　僧位の一。桓武天皇の延曆十七年に制定せられた僧位五階の首位。〔職原抄〕僧官位、傳燈大法師位。〔類聚國史、一百八十〕勅、元慶寺置二傳法阿闍梨・傳燈大法師位惟首一。傳燈大法師位安然一。

【傳熱】203 ㊀デンネツ　熱を傳へる。又、熱が、溫度の高い物體から低い物體に移ること。

【傳芭】204 ㊀デンバ　芭を交換する。古代の楚の風俗で、神を祀る時、巫が芭を手にして舞ひ、一度舞終つて互に芭を交換して舞ふ。芭は、香草、一說に、芭蕉。〔傳巴〕〔楚辭、九歌、禮魂〕成レ禮兮會レ鼓、傳芭兮代舞。〔注〕芭、巫所二持香草一名也、云云、巫持レ芭而舞、訖以復傳二與他人一、更用レ之、芭、一作レ巴。〔補注〕芭、云云、一名巴蕉。

【傳播】205 ㊀デンパン　それからそれへとつたはり布く。四方へひろがる。流布。〔宋史、文苑五、賀鑄傳〕所レ爲詞章、往往傳播在二人口一。〔蘇軾、爲二兄軾下一獄上書〕其舊詩已自傳播。

【傳杯】206 ㊀デンパイ　杯をとりつぐ。杯を傳へる。傳觴。〔杜甫、九日詩〕舊日重陽日、傳杯不レ放レ杯。〔上官昭容、九日登二慈恩寺一應制詩〕獻レ壽菊傳レ杯。

【傳拜】207 ㊀デンパイ　人をして拜禮を傳へさせること。〔夢溪筆談、雜誌二〕唐風俗、人在二遠或闈門一、則使二人傳拜一以爲レ敬、本朝兩浙仍有二此俗一、客至欲レ致二敬于闈闥一、則立使二人而拜一之、使二人入見一所レ禮、乃再拜、致レ命、若有二中外一、則答拜、使二人出復拜一客、客與レ之爲レ禮如二賓主一。

【傳賣】208 ㊀デンバイ　賣りあるく。〔戰國、秦策〕百里奚處之乞人、傳賣以二五羊之皮一、穆公相レ之、而朝二西戎一。〔文子、自然〕百里奚傳賣。〔注〕傳賣、謂二轉傳賣一之也。

【傳芳】209 ㊀デンパウ　美名を後世にのこす。流芳。〔晉書、元帝紀論〕傳二芳於南頓一。〔北史、戾豹傳〕方當レ書二名竹帛一、傳二芳萬古一。

【傳報】210 ch'uan² pao⁴ 通報する。報知する。

【傳發】211 ㊀デンパツ　命を傳へて出發させる。〔史記、淮陰侯傳〕夜半傳發。〔注〕集解曰、漢書音義曰、傳令軍中一使レ發。〔後漢書、朱穆傳〕傳二發書奏一。

【傳法】212 ㊀法を傳へる。方法を傳授する。傳香。又、祕傳の法。〔張籍、隱者詩〕問年長不レ定、傳法又非レ眞。㊁舊法を遵守する。傳法沙門護法善神を見よ。㊂僧ボ法脈を承け傳へる。〔五燈會元〕六祖彌遮迦尊者既傳レ法、已逝至二北天竺一國。㊃見世物・劇場などに入場料を拂はないで押入り見物すること。轉じて、わるずれして粗暴な言動をすること。昔、江戸淺草傳法院の奴僕が、寺の威を藉りて亂暴を働き、境内の見物場に押入つたことに本づく。〔浮世風呂、四編下〕江戸でてんぽふ云云といふあばずれ。

【傳法院】213 佛典飜譯所の名。宋代に設く。〔宋會要〕太平興國五年、詔於二太平興國寺大殿西一度レ地作二譯經院一、中設二譯經堂一、八年、改爲二傳法院一。〔事物紀原、眞壇淨社部、傳法院〕隋有二翻經館一、唐初亦有二翻譯之事一、元和後廢、然則太宗之置二茲院一、亦隋翻經館也。

【傳法肌】214 ㊀粗暴な氣風。女の豪快な性質。又、其の人。傳法の㊃を見よ。㊁勇み肌。俠客のやうな氣風。又、さういふふりをする人。氣概を衒ふ人。

【傳法沙門護法善神】215 官吏の徒が、前官の成規に盲從するにいふ。呂惠卿・韓絳の二人が、宋の王安石の法を固く守つたことを時人が譏つた語。〔宋史、王安石傳〕呂惠卿服闋、安石朝夕汲二引之一、至レ是白爲二參知政事一、又乞召二韓絳一代レ己、二人守二其成模一、不二少失一、時號レ絳爲二傳法沙門一、惠卿爲二護法善神一。

【傳番】216 命令をいふ。〔長生殿、合圍〕裝二摺著輪鑼一、聽候傳番。

【傳筆】217 手紙で申し送る。

【傳蹕】218 先拂ひの聲をかける。〔漢書、文三王傳、入言レ趨、注〕師古曰、出レ殿則傳レ蹕、止レ人清レ道也。〔吳寬、午朝詩〕朱門傳レ蹕靜如レ空。

【傳稟】219 書類などを取次いで差上げる。傳へて申上げる。〔福惠全書、澄任部、待游客〕寫二報單一傳稟。

【傳布】220 傳へ布く。傳へひろめる。〔唐書、楊敬之傳〕敬之嘗爲二華山賦一示二韓愈一、愈稱レ之、士林一時傳布。〔傳法正宗記〕鳩摩大士謂二闍夜多一曰、此是妙音如來見性情淨之句、汝宜傳二布後學一。

【傳佈】221 傳播する。

【傳符】222 荷物・貨物等の通關手形。〔職員令〕太政官、小納言二人、請二進鈴印・傳符一。

【傳諷】223 人々が相傳へて讀む。傳誦。〔唐書、李嶠傳〕嶠富二才思一、有レ所レ屬綴一、人多傳諷。〔唐書、令狐楚傳〕楚爲レ文、于二牋奏制令一尤善、每二一篇成一、人皆傳諷。

【傳服】224 衣服を傳へる。兄の着た衣服を弟が傳へて着る。〔顏氏家訓、兄弟〕食則同レ案、衣則傳レ服。

【傳福】225 さいはひを傳へる。〔後漢書、郅壽傳〕天人竝應、傳レ福無レ窮。

【傳覆】226 刑事被告人の自白を筆記して證據とし、更に再び訊問して前言の實否を確めること。〔史記、張湯傳、傳爰書訊鞫論報、注〕集解曰、張晏曰、傳、考二證驗一也、爰書、自證レ不レ如二此言一、反受二其罪一、訊考三日復問之、知與二前辭一同不レ也。

【傳聞】227 うはさにきく。つたへきく。噂。〔史記、大宛傳〕傳二聞其菊大國五六一。〔漢書、劉歆傳〕傳二聞之一與二親見之一其詳略不レ同。〔風俗通、正失、封二泰山一禪二梁父一〕春秋以爲、傳聞不レ如二親見一。〔李嶠、奉二和初春幸二太平公主南莊一應制詩〕傳聞銀漢支機石、復見金輿出二紫微一。

【傳聞異辭】228 孔子が修めた春秋について公羊家が言つた語で、傳述の辭の異なることをいふ。春秋十二公の中、隱・桓・莊・閔・僖の五公の時代は孔子の高祖・曾祖の時代のことであるから、之を傳聞之世とし、文・宣・成・襄の四公の時代は祖父の時代のことであるから、之を所聞之世とし、昭・定・哀の三公の時代は父と孔子との時代のことであるから、之を所見之世とし、傳聞する所は、所聞・所見とは傳述の辭を異にし、恩に厚薄あり、義に深淺あるをいふ。〔公羊、隱、元〕所レ見異レ辭、所レ聞異レ辭、所二傳聞一異レ辭。〔注〕所レ見者、謂二昭定哀一、己與レ父時事也、所聞者、謂二文宣成襄一、王父時事也、所二傳聞一者、謂二隱桓莊閔僖一、高祖曾祖時事也、異レ辭者、見レ恩有二厚薄一、義有二深淺一。

【傳聞何可二盡信一】229 聞き傳へた事は盡くは信じ難い。〔歐陽脩、春秋論下〕然則所レ傳者、皆不レ可レ信乎、曰、傳聞何可二盡信一。

【傳聞不レ許二言告一】230 風說に止まつて證據のない事は、官に告發することを許さない。〔元典章、刑部、禁例〕今後諸取二受己之錢物一者、許二以實訴一、其傳聞取二他人物一者、不レ許二言告一、欽此。

【傳聞不レ如二親見一】231 傳へ聞く事はあてにならないから、親しく見ることの確かなのに及ばない。百聞は一見に如かず。〔荀子、儒效〕聞レ之不レ若レ見レ之。〔後漢書、馬援傳〕傳聞不レ如二親見一、視景不レ如レ察形。

【傳平】232 明、李卑（6－14459‥679）の字。

【傳票】233 ㊀軍隊等で金錢の代用として發行するてがた。軍票。㊁會計事務上、金品支出の請求事項を書き出すふだ。㊂召喚狀。呼出し狀。

【傳癖】234 晉の杜預が左氏傳を好んだ癖。左傳癖。〔晉書、杜預傳〕杜預、字元凱、既立レ功之後、從容無事、乃耽二思經籍一、爲二春秋左氏經傳集解一、又參二考衆家譜第一、謂二之釋例一、又作二盟會圖春秋長歷一、備二成一家之學一、比レ老乃成、又撰二女記讚一、當時論者謂、預、文義質直、世人未二之重一、唯祕書監摯虞賞レ之曰、左丘明本爲二傳設一、而所二發傳一、而左傳遂自孤行、釋例本爲レ傳設、而所二發明一、何但左傳、故亦孤行、時王濟解二相馬一、又甚愛レ之、而和嶠頗聚斂、預嘗稱、濟有二馬癖一、嶠有二財癖一、武帝聞レ之謂レ預曰、卿有二何癖一、對曰、臣有二左傳癖一。

【傳摹】235 つたへうつす。〔東觀餘論〕雖レ經二傳摹一、意象高古。

【傳奉】236 內臣の緣故によつて官に任ぜられること。〔傳習錄、上〕如二今仕者、有レ由レ科、有レ由レ貢、有レ由二傳奉一。

【傳烽】237 あひづののろしをあげる。〔虞集、詩〕稱使不二傳烽一。

【傳本】238 世に傳はつた書物。〔顏氏家訓、書證〕世間傳本、多以レ掖爲レ疥。〔東觀餘論〕今世傳本、是也。

【傳馬】239 驛馬。宿つぎの馬。〔漢書、昭帝紀〕頗省二乘輿馬及苑馬一、以補二邊郡三輔傳馬一。

【傳馬子】240 古、傳戶から徵した課丁。傳子（88）の㊀に同じ。〔雜令〕凡蕃使往還、當二大路近側一云云、不レ得レ充二傳馬子及援夫等一。

【傳馬船】241 荷物の運送に用ひるはしけぶね。陸上のはやうまに相當する疾い舟の意。

【傳名】242 名を後世に傳へのこす。〔禮、仲尼燕居〕夫夔達二于樂一而不レ達二於禮一、是以傳二于此名一也。〔捫蝨新話〕當年春榜首傳レ名。

【傳命】243 命令を傳へる。ふれを出す。〔禮、聘義〕三讓而后傳レ命。〔孟子、公孫丑上〕德之流行、速二於置郵而傳一レ命。

【傳問】244 人づてに問ふ。〔漢書、劉歆傳〕傳二問民間一、則有二魯國桓公・趙國貫公・膠東庸生之遺一。

【傳夜】245 夜警が互に傳呼すること。〔唐書、李憕傳〕憕入レ蔡、云云、殺二門者一發レ關、留持レ柝、傳夜自如。

【傳揚】246 ch'uan²，yang² 廣く稱揚する。宣揚する。

【傳譯】247 傳へ譯す。〔隋書、經籍志四〕西域沙門、竺佛經、至者甚衆、永平中、法蘭譯二十住經一、其餘傳譯、多未レ能レ通。

【傳諭】248 勅諭を傳へる。〔宋史、洪适傳〕宜多遣二密詔一傳二諭。

【傳與】249 つたへ與へる。〔史記、扁鵲傳〕我有二禁方一、年老欲レ傳二與公一。〔後漢書、鄭玄傳〕所好羣書、率皆腐敝、不レ得レ於二禮堂一寫定、傳二與其人一。上

【傳用】250 つたへ用ひる。ひろめ用ひる。〔明律、刑律、賊盜〕凡造二讖諱妖書妖言一及傳用惑二衆者一、皆斬。

【傳來】251 ㊀傳はつてくる。渡來。輸入。㊁傳へて來ること。

【傳來取得】252 他人が取得した財產權を取得すること。受繼取得。繼承取得。

【傳吏】253 傳舍の役人。〔後漢書、光武紀上〕光武自稱二邯鄲使者一、入二傳舍一、傳吏方進レ食、從者

飢爭ニ奪之一、傳吏疑ニ其僞一、乃椎鼓數十通。

【傳利】254 デンリ 利を傳へる。〔閻丘均、益州父老請レ留ニ博陵王一表〕因レ之傳レ利、期以ニ政成一。

【傳流】255 デンリウ つたへ。又、つたはる。傳來する。〔墨子、非命中〕自ニ昔三代一有ニ若言一、以傳流矣。

【傳留】256 ch'uan² liu² 後世永久に殘し傳へる。後世に留める。

【傳令】257 デンレイ 命令をつたへる。つたへた命令。又、傳令使の略。〔事物紀原、戰陣攻守部、傳令〕書大禹謨、有苗弗レ率、禹乃會ニ羣后一誓ニ於師一曰、咸聽ニ朕命一、此軍中傳レ令之始也、以ニ夏后氏一爲ニ之始一。

【傳令使】258 デンレイシ 本陣の命令を諸軍に傳へる使者。

【傳璙】259 デンレウ 五代吳越、錢元璙（**11－40563**··302）の初名。

【傳臚】260 デンロ ❶言葉を上から下に傳へること。臚傳。〔史記、叔孫通傳〕大行設ニ九賓臚傳一。〔注〕索隱曰、蘇林云、上傳レ語告レ下爲レ臚、下傳レ語告レ上爲レ句、臚猶ニ行者一矣、韋昭云、大行人掌ニ賓客之禮一云云、漢依レ此以爲ニ臚傳一、依レ次傳令レ上也。〔玉海、禮儀、上壽、慶元重明節上壽〕貂蟬駿䮂、驪聲傳臚。❷科擧の時、殿試の後、進士の名を一々唱へること。〔文獻通考、選擧考、擧士〕雍熙二年、親試ニ擧人一、初唱レ名賜レ第。〔文獻通考、選擧考、擧士〕王氏揮塵錄曰、黃道夫榜ニ傳臚一、至ニ第四甲黨鑄卷子一。❸科擧の優等及第者である二三甲の第一名をいふ。〔明史、選擧志二〕會試第一爲ニ會元一、二三甲第一爲ニ傳臚一。〔稱謂錄、探花、傳臚〕國朝會典、新進士宣制、獨以ニ傳臚一稱、可レ謂ニ名實相稱一、以ニ二甲第一一稱ニ傳臚一、是三甲第一亦可レ稱矣。

【傳臚祇候】261 デンロシコウ 殿試の後、進士謁見の時に、其の名を唱へる宦官。〔還魂記、耽試〕黃道日、傳臚祇候、衆多官在ニ殿頭一。

【傳漏】262 デンロウ 時刻をしらせる。又、その人。〔漢書、董賢傳〕傳漏在ニ殿下一。〔注〕師古曰、傳漏、奏ニ時刻一也。

【傳漏之音】263 デンロウノオト 時刻を報ずる音。〔陸倕、新漏刻銘〕屬ニ傳漏之音一、聽ニ雞人之響一。

【傳話】264 ch'uan² hua⁴ いひ付ける。いひ傳へる。上からの命令を傳へる。

【不レ傳】265 ツタヘズ 移さない。〔禮、內則〕父母舅姑之衣衾簟蓆枕几不レ傳。〔注〕傳、移也。

【傳雅堂】266 デンガダウ 清、劉壽曾（**2－2224**··1046）の室名。

【傳劍論】267 デンケンロン 兵書の名。〔史記、太史公自序〕在レ趙者、以ニ傳劍論一顯。〔評林〕傳劍論、兵書也。

【傳古堂】268 デンコダウ 宋、田偉（**7－21723**··2）の室名。

【傳是齋】269 デンシサイ 清、毛奇齡（**6－16772**··264）の號。

【傳是樓】270 デンシロウ 清初、江蘇省崑山の徐乾學の藏書樓の名。徐乾學は多く宋・元刊本を藏してゐたが、後、怡親王の有となつた。傳是樓宋元本書目は現存する。

【傳是樓經解】271 デンシロウケイカイ 書名。通志堂經解（**11－38892**··183）に同じ。

【傳事人】272 ch'uan² shih⁴ jen² 仲介者。中に立つて取計ふ人。又、取次する人。

【傳出去】273 ch'uan² ch'u¹ ch'ü⁴ 言觸らす。觸れまはる。宣傳する。

【傳生酒】274 デンセイシュ 新年に互に招きあつて酒を飲むこと。傳座。傳世酒。〔法苑珠林〕唐長安風俗、元日以後、遞相邀飲賀レ節、謂ニ之傳生酒一又錢希白ニ南部新書、謂ニ之傳座一。

【傳壻硯】275 デンセイケン 硯の名。宋の王氏が代々壻に傳へたからいふ。〔揮塵錄〕晏元獻夫人王氏、樞密使德用之妹、元獻壻富鄭公、鄭公壻馮文簡、文簡孫壻蔡彥清・朱聖予、聖予女適ニ滕子濟一、俱爲ニ執政一、元獻有ニ古硯一、奇甚、王氏舊物也、諸女相授、號ニ傳壻硯一、今藏ニ滕氏一。

【傳詔童】276 デンセウドウ 宦官をいふ。〔酉陽雜俎、禮異〕梁主常遣ニ傳詔童一賜ニ羣臣歲旦酒一。〔稱謂錄、太監古稱、傳詔童〕酉陽雜俎、梁主常遣ニ傳詔童一賜ニ羣臣歲旦酒一、當ニ是小黃門之類一。

【傳忠堂】277 デンチュウダウ 清、周星譽（**2－3441**··740）の室名。

【傳通記】278 デンツウキ 佛佛書の名。十五卷。僧、長忠撰。慶安四年刊。善導和尚の觀經疏の注釋書。別稱は、觀經疏傳通記・觀無量壽經四帖疏傳通記・觀經四帖疏傳通記。

【傳擲簾】279 ch'uan² chih⁴ lien² 河南地方で正月十五日の燈節に各家が放つ爆竹の一種。

【傳貽先生】280 デンイセンセイ 宋、輔廣（**10－38342**··11）の尊稱。

【傳音快字】281 デンオンクワイジ 書名。清、蔡錫勇撰。音表の速記用文字を書いたもの。

【傳開謠言】282 ch'uan² k'ai¹ yao² yen² 流言を世間にまき散らす。

【傳齊候審】283 ch'uan² ch'i² hou⁴ shen³ 關係者一同を呼び集めて取調を待たせること。

【傳消遞息】284 ch'uan² hsiao¹ ti⁴ hsi² 消息を取次する。次から次へと消息を傳へる。

【傳密居士】285 デンミツコジ 宋、晁公邁（**5－13889**··17）の號。

【傳明大師】286 デンメイタイシ 唐、如會（**3－6060**··38）の謚。

【傴】1020 ウ 〔集韻〕委羽切 ㄩˇ yü³ 麌

傴 小篆 ❶**かがむ**。腰をまげる。背をまげる。〔說文〕傴、僂也、从レ人區聲。〔廣雅、釋詁一〕傴、曲也。〔左氏、昭、七〕一命而僂、再命而傴、三命而俯、循レ牆而走。❷**つつしむ**。恭しく敬む。傴僂(13)の❷を見よ。〔說文、傴、段注〕傴、引伸爲ニ鞠窮恭敬之意一。❸**せむし**。傴者(2)を見よ。❹**あはれむ**。傴拊(10)を見よ。

【傴疾】1 yü³ chi² 背の曲る病。せむし。くぐせ。

【傴者】2 ウシヤ せむし。〔新書、春秋〕剖ニ傴者之脊一。

【傴者不レ袒】3 ウシヤハタンセズ せむしの人は肌を脫がぬ。何人も自己の短所を現はすのは好まない喩。〔禮、問喪〕傴者不レ袒。〔注〕傴、背曲也。

【傴侏】4 ウシュ 背の曲つた人と丈の短い人。〔論衡、齊世〕語稱、上世使レ民以レ宜、傴者抱レ關、侏儒俳優、如皆侗長佼好、安得ニ傴侏之人一乎。

【傴身】5 ウシン 體をかがめる。又、せむし。〔荀子、儒效〕猶ニ傴身而好レ升レ高也。〔注〕傴、傴僂也。

【傴人】6 ウジン せむし。〔呂覽、盡數〕苦水所、多ニ尫與ニ傴人一。〔注〕傴、傴脊疾也。

【傴背】7 ウハイ せむし。佝僂。僂瘻。傴僂。〔淮南子、說山訓〕鮑申傴背、以成ニ楚國之治一。〔舊唐書、史思明傳〕姿瘦少ニ鬚髮一、鳶肩傴背。

【傴巫】8 ウフ せむしのみこ。傴巫跛覡を見よ。

【傴巫跛覡】9 ウフハゲキ せむしのみことびつこのかんなぎ。古は、癈疾の人を以て卜筮・巫祝の事を掌らしめたからいふ。〔荀子、王制〕知ニ其吉凶妖祥一、傴巫跛擊之事也。〔注〕擊、讀爲レ覡、男巫也、古者以ニ癈疾之人一主ニ卜筮巫祝之事一、故曰ニ傴巫跛覡一。

【傴拊】10 ウフ 憐み愛する。一說に、嘔咰（**2－4200**··12′）に同じ。養ふ。〔莊子、人閒世〕以レ下傴ニ拊人之民一。〔釋文〕傴拊、謂ニ憐ニ愛之一也、崔云、猶ニ嘔咰一、謂レ養也。

【傴伏】11 ウフク かがまりふせる。おほふ。〔新論、貪愛〕傴ニ伏其子一、百日而長。〔論衡、論死〕良雌傴伏。

【傴翼】12 ウヨク 身をかがめて翼で被ふ。〔列女傳、母儀、棄母姜嫄傳〕廼取置ニ寒冰之上一、飛鳥傴ニ翼之一。

【傴僂】13 ウロウ ❶せぐくまる。又、せむし。僂傴。〔一切經音義、二〕廣雅、僂、曲也、通俗文、曲脊、謂ニ之傴僂一。〔淮南子、精神訓〕子求行年五十有四、而病ニ傴僂一。〔歐陽脩、醉翁亭記〕傴僂提攜、往來而不レ絕。〔白居易、賀レ雨詩〕奔騰道路人、傴僂田野翁。❷恭敬のさま。〔新書、官人〕柔レ色傴僂。〔後漢書、張酺傳〕公其傴僂、勿レ露レ所レ敕。〔注〕傴僂、言ニ恭敬從レ命也、左氏傳曰、一命而僂、再命而傴、三命而俯。〔韓愈、謁ニ衡嶽廟一詩〕升レ堦傴僂薦ニ脯酒一。

【傴尫】14 ウワウ せむしと鳩胸。〔呂覽、明理〕盲禿傴尫。〔注〕尫、僂俯者也、尫、短仰者也。〔呂覽、明理〕盲禿傴尫。〔注〕禿、無レ髮、傴、僂俯者也、尫、短仰者也。

【因レ傴爲レ恭】15 ウニヨツテキヨウヲナス 腰をかがめてうやうやしい様子をする。〔海錄碎事、人事、恭敬〕因レ傴爲レ恭、出ニ世說一。

【倠】1021 スイ 〔篇海〕息維切 支
かたよる。〔篇海〕倠、偏也。

【債】1022 ㊀サイ 〔集韻〕側賣切 卦 ㄓㄞˋ chai^{4} ㊁シヤ ㊂サク シヤク 〔集韻〕側革切 陌

小篆 ㊀㊁❶かり。おひめ。〔說文新附〕債、負也、从㆓人責㆒、責亦聲。❷かりる。〔穆天子傳、三〕債ㇾ車受ㇾ載。〔注〕債、猶ㇾ借也。❸かけ。かし。〔史記、孟嘗君傳〕收㆓債於薛㆒。〔漢書、高帝紀下〕歲竟、兩家常折ㇾ券棄ㇾ債。❹或は責（10－36682）に作る。〔集韻〕債、或省。〔左氏、昭、二十〕薄ㇾ斂已ㇾ責。〔釋文〕責、本或作ㇾ債。

解字 會意形聲。人と責との合字。責は又聲。責は求める、又、求められることを意味し、從つて、債は人に求めるもの、又は人から求められるもの、卽ち貸したもの、又は借りたものを意味する。古、責に作る。

【債家】1 サイカ ❶かしぬし。債權者。債主。〔吳志、潘璋傳〕債家至ㇾ門。〔東晳、貧家賦〕債家至而相敦、乃取ㇾ東而償ㇾ西。❷かりて。債務者。
【債項】2 chai^{4} hsiang^{4} 負債。借財。借款。
【債鬼】3 サイキ 借金とり。
【債券】4 サイケン ❶借金の證文。借用證書。❷政府・公共團體・銀行・會社等が資金を民間から募集した時、其の債務を證明する爲に發行する有價證券。國庫債券・社債券の類。
【債權】5 サイケン 法律上、特定人に對して特定の給付を要求し得る權利をいふ。
【債權者】6 サイケンシヤ 債權を有する人。貸主。
【債權移轉】7 サイケンイテン 法律上、債權を第三者に讓り渡すことをいふ。債權讓渡。
【債權代位】8 サイケンダイヰ 法律上、債務者に代つて債務を債權者に支拂ひ、其の債權者の地位を代つて取得すること。
【債權擔保】9 サイケンタンポ 債權の辨濟を確保する爲「の擔保。
【債戶】10 chai^{4} hu^{4} 債務者。借り方。
【債車】11 サイシヤ 車をかりる。かりぐるま。〔穆天子傳、三〕收ㇾ皮效ㇾ物、債ㇾ車受ㇾ載、天子於ㇾ是載㆓羽百車㆒。〔注〕債、猶ㇾ借也。
【債主】12 サイシユ かしぬし。債權者。債家。〔晉書、袁耽傳〕隨ㇾ溫與㆓債主㆒戲。〔李商隱雜纂、惱人〕出ㇾ門逢㆓債主㆒。
【債證】13 サイシヨウ 借用證文。借用證。
【債食】14 サイシヨク 借金して生活する。〔管子、問〕問、邑之貧人、債而食者幾何家。〔纂詁〕尹知章云、債而食、謂㆘從㆓富者㆒出ㇾ息以供㆖ㇾ食。
【債人】15 サイジン かり手。借主。負債者。債務者。〔淮南子、繆稱訓〕其在㆓債人㆒、則生㆓爭鬭㆒。
【債帥】16 サイスイ 債權者の總帥。〔唐書、高瑀傳〕自㆓大曆㆒後、擇ㇾ帥悉出㆓宦人中尉㆒、所ㇾ輸貨至㆓鉅萬㆒、貧者假㆓貸富人㆒、既得ㇾ所ㇾ欲、則椎㆓斲膏血㆒、倍以酬ㇾ息、十常六七、及㆓瑀有ㇾ命、士相告曰、韋裴作ㇾ相、天下無㆓債帥㆒。
【債責】17 chai^{4} tsê^{2} おひめ。負債。借金。借錢。
【債錢】18 サイセン かした金。〔公孫瓚、表㆓袁紹罪狀㆒文〕割㆓剝富室㆒、收㆓考債錢㆒。
【債臺】19 サイダイ 負債の多いものが逃れる場所。周の赧王の故事による。古、債を責に作る。〔漢書、諸侯王表序〕有㆓逃ㇾ責之臺㆒。〔注〕服虔曰、周赧王負ㇾ債、無㆓以歸ㇾ之、主迫責急、乃逃㆓於此臺㆒、後人因以名ㇾ之。
【債負】20 サイフ かしかり。貸借。〔福惠全書、刑名部、雜犯、債負〕債負必以㆓券約㆒爲ㇾ憑。
【債票】21 chai^{4} p'iao^{4} 公債。債券。
【債務】22 サイム 債權に對する給付義務。金錢などを借りた人の返濟すべき責務をいふ。
【債務者】23 サイムシヤ 債務を負擔する人。借主。
【債務承擔】24 サイムシヨウタン 法律上、第三者が債務者の債務をひきうけることを目標として、債務者又は債權者と訂立する契約。債務引受。
【債目】25 chai^{4} mu^{4} 負債額。
【債利】26 サイリ 借金又は貸金の利子。〔盧仝、寄㆓男抱孫㆒詩〕宅錢都未ㇾ還、債利日日厚。
【債累】27 chai^{4} lei^{4} 負債。借財。
【債多不ㇾ愁】28 サイオホキモウレヘズ 負債が多くても心配しない。〔通俗編、貨財、債多不ㇾ愁〕李流芳詩、人言債多不ㇾ愁、我因爲作㆓終夜憂㆒。

【[亻堂]】1023 タウ 傏（1－953）に同じ。〔正字通〕[亻堂]、同ㇾ傏。

【傶】1024 ㊀ソク 〔集韻〕租毒切 沃 ㊁セキ シヤク 〔集韻〕倉歷切 錫
㊀❶邑の名。〔玉篇〕傶、邑名。❷姓。〔萬姓統譜〕傶、邑名、見㆓直音㆒。㊁ちかい。〔廣雅、釋詁三〕傶、近也。

【傜】1025 エウ 〔集韻〕餘招切 蕭
小篆 ❶よろこぶ。〔說文〕傜、喜也、从ㇾ人䚻聲。❷えだち。〔說文通訓定聲〕傜、按、役也。❸ひとしくない。或は傜（1－971）に作る。〔說文〕傜、自ㇾ關已西、物大小不ㇾ同、謂㆓之傜㆒。〔方言、六〕自ㇾ山以西、物細大不ㇾ純者、謂㆓之傜㆒。〔說文通訓定聲〕傜、字亦作ㇾ傜。❹くらべる。〔說文長箋〕傜、彼此詆惑、曰㆓兩邊傜㆒。❺燿（7－19520）に通ず。〔說文長箋〕傜、轉用ㇾ燿。

【[亻斬]】1026 セン 〔篇海〕側嚴切 鹽
立つてはべる。侍立する。〔篇海〕[亻斬]、立侍也。

【[亻閡]】1027 キヤ ガ [疒閡]（7－22464）に同じ。〔篇海〕[亻閡]、同ㇾ[疒閡]。

【[亻夅]】1028 タウ 〔集韻〕陟降切 絳
立つさま。〔集韻〕[亻夅]、立皃。

【傷】1029 ㊀シヤウ 〔集韻〕尸羊切 陽 ㄕㄤ shang^{1} ㊁シヤウ 〔廣韻〕式亮切 漾
小篆 ❶きず。きずつける。きずつく。〔說文〕傷、創也、从ㇾ人煬省聲。〔禮、月令〕命ㇾ理瞻ㇾ傷。〔注〕創之淺者曰ㇾ傷。❷さす。〔廣雅、釋詁二〕傷、箴也。❸ふれる。をかす。〔素問、刺志論〕氣盛身寒、得㆓之傷寒㆒。〔注〕傷、謂㆓愍缺㆒也、觸冒也。❹かける。〔左氏、文、十二、注、愍缺也、疏〕傷、卽缺也。❺やむ。なやます。〔呂覽、侈樂〕其生必傷。〔注〕傷、病也。〔呂覽、分職〕天寒起ㇾ役、恐傷ㇾ民。〔注〕傷、病也。❻やぶれる。やぶる。〔呂覽、分職〕此功名之所㆓以傷㆒。〔注〕傷、敗。〔呂覽、順民〕不ㇾ足㆓以傷ㇾ吳。〔注〕傷、敗也。❼そこなふ。害する。〔戰國、秦策〕家有㆓不ㇾ宜之財㆒、則傷。〔注〕傷、害也。❽そしる。うつたへる。〔廣雅、釋詁二〕傷、毀也。〔呂覽、擧難〕人傷ㇾ堯以㆓不慈之名㆒。〔注〕傷、毀也。〔呂覽、察微〕傷㆓之於昭公㆒。〔注〕傷、猶ㇾ譖也。❾おもふ。うれへる。慯（4－11133）に通ず。〔說文通訓定聲〕傷、叚借爲ㇾ慯。〔爾雅、釋詁〕傷、思也。〔釋文〕傷、字書、作ㇾ慯。❿いたむ。〔法言、孝至〕故習治則傷㆓始亂㆒也。〔注〕傷、悼也。⓫あはれむ。〔戰國、秦策〕天下莫ㇾ不ㇾ傷。〔注〕傷、愍也。⓬とむらふ。〔公羊、昭、二十五〕唁㆓公于野井㆒、注〕弔㆓喪主㆒曰ㇾ傷。⓭喪祭。〔管子、君臣〕明君飾㆓飮食弔傷之禮㆒。〔注〕傷、謂㆓喪祭㆒也。⓮瘍（7－22327）に通ず。〔左氏、襄、十七〕以ㇾ杙

抉二其傷一。〔釋文〕傷、一本作レ瘍。㊥諡。〔逸周書、謚法解〕未レ家短折曰レ傷。㊦姓。〔奇姓通〕傷省、宋國人。㊐わかじに。或は殤（6－16557）に作る。〔廣韻〕傷、未レ成レ人死、或作レ殤。

【傷哀】1 アイヤウ いたみあはれむ。〔漢書、外戚下、孝平王皇后傳〕莽敬憚傷哀、欲レ嫁レ之、乃更レ號爲二黃皇室主一。

【傷夷】2 イヤウ きずつく。夷もきずつく。傷痍。〔漢書、婁敬傳〕傷夷者未レ起。〔注〕師古曰、夷、創也、音痍。〔新序、善謀下〕傷夷者未レ起。〔後漢書、袁紹傳〕輕進易退、傷夷折衂。

【傷易】3 イヤウ 易きにやぶる。言葉が輕卒すぎる。〔程頤、言箴〕傷レ易則誕、傷レ煩則支。〔古文眞寶後集注〕言語輕易、則流二於虛誕一。〔古文眞寶後集箋解〕論語大全、慶源輔氏曰、易則心不二管攝一、故必至二於妄誕一。

【傷痍】4 イヤウ きずつく。又、きず。けが。傷夷。〔史記、劉敬傳〕傷痍者未レ起。〔後漢書、岑彭傳〕帥二傷痍吏民一、決レ圍得レ出、死喪略盡、而無二反背者一。

【傷痍軍人】5 シヤウイグンジン 戰場で負傷し、又は病氣に罹つた軍人。

【傷萎】6 シヤウヰ きずつきしぼむ。〔李白、寓言詩〕天風拔二大木一、禾黍咸傷萎。

【傷憂】7 シヤウイウ いたみうれへる。〔張載、擬二四愁一詩〕我之懷矣、心傷憂。

【傷稼】8 シヤウカ 禾穀をそこなひやぶる。傷穀。〔荀子、天論〕楛耕傷レ稼、耘耨失レ歲、〔後漢書、和帝紀〕比年雨多傷レ稼。

【傷雅】9 shang1 ya3 不作法。無禮な。

【傷害】10 シヤウガイ そこなひ害する。〔詩、小雅、正月、正月繁レ霜、篾〕傷二害萬物一。〔韓非子、五蠹〕民食二果蓏蜂蛤、腥臊惡臭、而傷二害腸胃一、民多二疾病一。〔漢書、丙吉傳〕此時氣失レ節、恐有レ所二傷害一也。〔論衡、非韓〕治レ身之人、任二傷害一也。〔任昉、奏二彈劉整一文〕傷害侵奪。

【傷害罪】11 シヤウガイザイ 刑法上、人をそこなひきずつけた罪をいふ。人にけがさせた罪。

【傷害保險】12 シヤウガイホケン 人身の傷害せられた場合を目標とした人身保險。

【傷関】13 シヤウイン そこなひへだてる。〔列子、黃帝〕和者大二同於物一、物無レ得二傷関一者上。

【傷礙】14 shang1 ai4 傷害する。傷関。

【傷耗】15 シヤウマウ 消耗する。缺損する。〔漢書、公孫賀傳〕重馬傷耗、武備衰減。

【傷旱】16 シヤウカン ひでりをいたむ。又、ひでりにいたむ。〔後漢書、明帝紀〕自レ春以來、時雨不レ降、宿麥傷レ旱。〔論衡、藝增〕詩人傷二旱之甚一、民被二其害一。

【傷陷】17 シヤウカン そこなひおとしいれる。〔後漢書、蔡邕傳〕如臣父子欲二相傷陷一、當明言二臺閣一、具申陳恨狀所レ緣。

【傷寒】18 シヤウカン 病氣の名。寒さの爲に起る重い熱病。寒さあたり。今は腸チブスにいふ。〔素問、熱論〕今夫熱病者、皆傷寒之類也。〔濟生方、傷寒總論〕夫人生二天地之間一、以二氣血一爲レ其眞一、是故天無二一歲不一レ寒暑一、人無二一日不一レ憂苦一、故有二傷寒天行瘟疫之病一焉。

【傷寒論】19 ロン 書名。十卷。漢、張機撰。專ら傷寒の病を論ずる。金匱要略と共に漢法醫の重んずる所。〔四庫提要、子、醫家類一〕。

【傷寒桿菌】20 シヤウカンカンキン チブス菌。傷寒症の病源菌。

【傷寒舌鑑】21 シヤウカンゼツカン 書名。一卷。清、張登撰。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒微旨】22 シヤウカンビシ 書名。二卷。宋、韓祇和撰。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒類方】23 シヤウカンルイハウ 書名。一卷。清、徐大椿撰。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒論注】24 シヤウカンロンチウ 書名。十卷。晉、王叔和編。金、成無己注。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒總病論】25 シヤウカンソウビヤウロン 書名。九卷。宋、龐安時撰。音訓一卷・修治藥法一卷を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒直格方】26 シヤウカンチヨクカクハウ 書名。三卷。金、劉完素撰。傷寒標本心法類萃二卷を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒論條辨】27 シヤウカンロンデウベン 書名。八卷。明、方有執撰。本草鈔一卷・或問一卷・痙書一卷を附す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷寒兼證析義】28 シヤウカンケンセウセキギ 書名。一卷。清、張倬撰。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【傷幹】29 シヤウカン 骨をそこなふ。〔淮南子、脩務訓〕夫佚夫操二利劍一、擊則不レ能レ斷、刺則不レ能レ入、及至二勇武攘捲一擣、則摺レ脇傷レ幹。

【傷感】30 シヤウカン 心をなやます。悲しむ。〔紅樓夢、三回〕不レ免二賈母又傷感起來一。

【傷感嘆息】31 シヤウカンタンソク 悲しんでためいきをつく。〔紅樓夢、二回〕那太爺到、傷感嘆息了一回。

【傷氣】32 シヤウキ 氣をやぶる。人の心をいたみ悲しませる。〔宋玉、高唐賦〕感レ心動レ耳、廻レ腸傷レ氣。〔注〕善曰、言下上諸聲能廻二轉人腸一、傷中斷人氣上。翰曰、音聲感二傷人之心一。

【傷義】33 シヤウギ 義をやぶる。〔孔叢子、抗志〕吾知二其不一辜、而適觸二吾忿一、故戮レ之、以爲レ不レ足レ傷レ義也。

【傷泣】34 シヤウキフ かなしみなく。傷涕。〔史記、文帝紀〕其小女緹縈自傷泣、乃隨二其父一至二長安一。

【傷禽】35 シヤウキン きずついた鳥。傷弓之鳥。〔鮑照、代東門行〕傷禽惡二弦驚一、倦客惡二離聲一。

【傷苦】36 シヤウク いたみ苦しむ。〔晏子、問、上〕用レ力者不レ偷レ業、用レ力者不二傷苦一。

【傷懼】37 シヤウク いたみおそれる。〔後漢書、黃瓊傳〕賢愚切痛、海內傷懼。

【傷化】38 シヤウクワ 教化をやぶること。〔詩、鄘風、相鼠、人而無レ儀不レ死何爲、箋〕人以レ有二威儀一爲レ貴、今反無レ之、傷化敗俗、不レ如レ死無所レ害也。〔漢書、平帝紀〕搆怨傷レ化、百姓苦レ之。

【傷花】39 シヤウクワ 落花をいたみ嘆く。〔元稹、和二樂天劉家花一詩〕閑坊靜曲同二消日一、淚草傷レ花不レ爲レ春。

【傷科】40 シヤウクワ 醫科の一つ。傷に關するもの。外科。外傷の治療科。〔古今醫統、古醫十四科〕其一爲二風科一、次傷寒科、次大方脈科、次小方脈科、次婦人胎產科、次鍼灸科、次眼科、次咽喉口齒科、次瘡瘍科、次正骨科、次金鏃科、次養生科、次祝由科。

【傷悔】41 シヤウクワイ いたみくやむ。〔漢書、韓延壽傳〕延壽痛自刻責、云云、吏聞者自傷悔。

【傷槐】42 シヤウクワイ ゑんじゅの樹をきずつける。傷槐女を見よ。〔列女傳、辯通、齊傷槐女傳〕景公有二所レ愛槐一、使二人守一レ之。植レ木懸レ之、下レ令曰、犯レ槐者刑、傷レ槐者死。

【傷槐女】43 シヤウクワイヂヨ 春秋、齊の女。名は婧。齊の景公は槐樹を愛し、槐を傷つけた者は死罪に處すと令を降した。遇〻婧の父衍が醉つて槐を傷つけるや、公は吏に命じ、之を捕へて罪を加へようとした。婧は懼れ、晏子に見えて、「君、樹を愛して人を賤しむ」と訴へた。よつて晏子は景公に告げて婧の父の罪を許した。〔列女傳、辯通、齊傷槐女傳〕。

【傷懷】44 シヤウクワイ いたみかなしむ。かなしみおもふ。〔詩、小雅、白華〕嚮歌傷懷、念二彼碩人一。〔集傳〕傷懷而念之也。〔史記、高祖紀〕慷慨傷懷。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕志浩蕩而傷懷。〔注〕浩蕩罔然、愁思念二楚國一也。

【傷君】45 シヤウクン 君をきずつける。〔風俗通、正失〕盜賊之矢若傷レ君、是絕二民望一也。

【傷形】46 シヤウケイ 身體をそこなふ。〔呂覽、當染〕傷レ形費レ神、愁レ心勞二耳目一。

【傷惠】47 シヤウケイ 惠といふ德をそこなふ。〔孟子、離婁下〕可二以與一レ可二以無一レ與、與傷レ惠。

【傷躓】48 シヤウチ 傷つきつまづく。〔晉書、庾亮傳〕及レ後傷躓、貴踰二先功一。

【傷脅】49 シヤウケフ わき骨を傷つける。〔晉書、禿髮烏孤載記〕禿髮烏孤、因レ酒墜レ馬傷レ脅。「する。

【傷臉】50 shang1 lien3 面目を失ふ。名譽を毀損

【傷枯】51 シヤウコ きずつき枯れる。〔後漢書、襄楷傳〕竹栢之葉、有二傷枯者一。

【傷國】52 シヤウコク 國をやぶる。〔荀子、王霸〕傷國者何也、曰、以二小人一尚レ民而威、以レ非所取二於民一而巧、是傷レ國之大災也。

【傷穀】53 シヤウコク 穀類をそこなひやぶる。傷禾。傷稼。〔禮、月令〕仲夏行二冬令一、則雹凍傷レ穀。

【傷痕】54 シヤウコン きずのあと。きずあと。傷瘢。〔六部成語、刑部、傷痕、注解〕受傷之痕跡也。

【傷魂】55 シヤウコン 心をいためる。又、悲しみ。斷魂。傷神。〔呂覽、禁塞〕單唇乾肺、費レ神傷レ魂。〔顏眞

卿、登二峴山一觀二李左相石樽一聯句）別離益二傷魂一。

【傷嗟】56 シャウサ いたみなげく。かなしみなげく。傷悲。悲歎。痛歎。（徐陵、報二尹義尚一書）懷二此殊才一、實可二傷嗟一。（白居易、酬二微之一詩）吟翫獨當明月夜、傷嗟同是白頭時。

【傷挫】57 シャウザ きずつきくじける。又、そのこと。（宋書、沈慶之傳）脫有二傷挫一、爲レ損不レ少。

【傷摧】58 シャウサイ 甚しくいたみかなしむ。（潘岳、寡婦賦）顧レ影兮傷摧、聽二響兮增一レ哀。

【傷財】59 シャウザイ 貨財を浪費する。金を無駄に使ふ。（易、節）節以二制度一、不レ傷レ財不レ害レ民。（孔子家語、致思）不レ傷レ財、不レ害レ民。（愼思錄、勤儉）儉用者、不二奢侈以傷一レ財。

【傷創】60 シャウサウ きず。けが。傷痍。（後漢書、賈復傳）又北與二五校一戰、於眞定一、大破レ之、復傷創甚。

【傷瘡】61 シャウサウ きず。きりきず。傷創に同じ。

【傷殺】62 シャウサツ そこなひころす。（管子、度地）五害之屬、傷殺之類。

【傷慘】63 シャウサン うれへいたむ。（蘇蕙、璇璣圖詩）傷慘懷慕增二憂心一。

【傷殘】64 シャウザン きずつく。つかれいたむ。（蘇軾、咏二怪石一詩）傷殘破碎爲二世役一、雖レ有二小用一烏足レ賢。（福惠全書、蒞任部、稟帖贅說）肢體傷殘、甚二于賠累一。

【傷讒】65 シャウサン 新論の篇名。

【傷子】66 シャウシ 傷ついた女子。（呂覽、察微）軍梁人操二其傷子一、以讓二吳人一。

【傷刺】67 シャウシ きずつける。（國史補）裴晉公爲二盜所一レ傷刺一。

【傷秋】68 シャウシウ 秋をかなしむ。（李白、登二新平樓一詩）去國登二茲樓一、懷レ歸傷二暮秋一。（韓愈、秋字詩）淮南悲二木落一、而我亦傷レ秋。

【傷疾】69 シャウシツ 傷から起つた病。疾病。（左氏、昭二二）秋、鄭公孫黑將レ作レ亂、欲レ去二游氏一而代二其位一、傷疾作而不レ果。

【傷者】70 シャウシャ 傷ついた者。負傷者。（戰國、秦策）趙人之死者不レ得レ收、傷者不レ得レ療。

【傷情】71 シャウジャウ 心を傷める。悲しむ。心痛する。（張衡、南都賦）坐者悽愁、蕩レ魂傷レ情。

【傷酒】72 シャウシュ 酒にあたる。二日醉する。酒あたり。一日醉。（證治要訣、傷酒）傷酒、惡心嘔逆、吐二出宿酒一、昏冒眩運、頭痛如レ破。

【傷沮】73 シャウソ いたみ衰へる。（顏氏家訓、風操）精神傷沮、不レ能二飮食一。

【傷暑】74 シャウショ 暑氣にあてられる。暑氣あたり。中暑。（易林）蹄牛傷レ暑、不レ能レ成レ畝。

【傷食】75 シャウショク 食あたり。食傷。急性胃加答兒の類。（證治要訣、傷食）傷食之證、胃膈痞塞、吐二逆嘔酸一、噫二敗卵臭一、食頭痛、發熱惡寒、病似二傷寒一、但身不レ痛耳。

【傷囑】76 シャウショク 感情を傷ふこと。

【傷心】77 シャウシン ㊀心を痛める。又、傷ついた心。心中の悲しみ。心配事。傷神。傷魂。（史記、傅靳劒成傳）此有二傷レ心者一。（司馬遷、報二任少卿一書）悲莫レ痛二於傷レ心一。（李華、弔二古戰場一文）往往鬼哭、天陰則聞、傷レ心哉。（劉長卿、重送二裴郎中貶一吉州一詩）猿啼客散暮江頭、人自傷レ心水自流。（高蟾、金陵晚眺詩）世間無二限丹青手一、一段傷心畫不レ成。㊁樹のしんをきずつける。（史記、范雎傳）木實繁者披二其枝一、披二其枝一者傷二其心一。〔心樹〕78 シンジュ 春なやましさに堪へ難い氣持ちを起させる樹。楊柳をいふ。（劉廷芝、公子行）可レ憐楊柳傷レ心樹、可レ憐桃李斷二腸花一。（唐詩選箋注）梁簡文帝詩、桃含二可憐紫一、柳發二斷腸青一、言、楊柳翠綠、桃李濃艷、使下人搖二蕩春心一、又可中傷レ情感レ心以惱殺上也。

【傷身】79 シャウシン 身體をそこなふ。（嵇康、養生論）一哀不レ足二以傷一レ身。

【傷神】80 シャウシン 心をいためる。心に悲しむ。傷心(77)に同じ。（蘇軾、子以レ事繫二御史臺獄一府吏稍見レ侵自度不レ能レ堪死二獄中一不レ得二一一別子由一故作二二詩一授二獄卒梁成一以遺二子由一詩）是處青山可レ藏レ骨、它年夜雨獨傷レ神。

【傷人】81 シャウジン 人をきずつける。（周禮、秋官、禁殺戮）凡傷二人見一レ血、而不二以告一者。（老子、六十）非二其鬼不一レ神、其神不レ傷レ人。

【傷水】82 shang1 shuei3 水にあたる。水を飮みすぎる。水あたり。

【傷悴】83 シャウスイ いたみなやむ。（後漢書、李固傳）固獨胡粉飾レ貌、搔頭弄レ姿、槃旋偃仰、從容冶步、曾無二慘怛傷悴之心一。

【傷世】84 シャウセイ 世俗をそこなふ。（史記、樂書）教者民之寒暑也、教不レ時、則傷レ世。（注）正義曰、樂教不レ時、則傷二世俗之化一也。

【傷生】85 シャウセイ ㊀生命をそこなふ。（莊子、讓王）君固愁レ身傷レ生。（新論、防慾）將レ攻二情欲一、先斂中五關上、曰目、曰耳、曰口、曰鼻、曰體、此五者、所二以養一レ生、亦以傷レ生。㊁生きてゐる人をそこなふ。（文中子、天地）古者不二以死傷一レ生、不二以厚爲一レ禮。

【傷逝】86 シャウセイ ㊀死んだ人をいたみ念ふ。（庾信、周趙國公夫人紇豆陵氏墓誌銘）孫子荊之傷逝、怨起二秋風一、潘安仁之悼亡、悲深二長簟一。㊁世說新語の篇名。

【傷惜】87 シャウセキ いたみをしむ。（後漢書、种暠傳）匈奴聞二暠卒一、擧レ國傷惜。

【傷善】88 シャウゼン 善をきずつける。（詩、大序）哀二窈窕一思二賢才一、而無二傷レ善之心一焉。

【傷足】89 シャウソク 足を傷つける。（禮、祭義）樂正子春下レ堂、而傷二其足一。

【傷惻】90 シャウソク いたみかなしむ。傷悲。傷痛。（梁武帝、埋二枯骨一詔）言愍二沈枯一、彌勞二傷惻一。

【傷俗】91 シャウゾク 風俗をそこなふ。（南史、何遜傳）頃觀二文人一、質則過レ儒、麗則傷レ俗。

【傷損】92 シャウソン やぶりそこなふ。又、そこなはれる。（後漢書、李固傳）兆人傷損。（杜甫、又觀二打魚一詩）大魚傷損皆垂レ頭。

【傷憊】93 シャウダイ そこなひおとす。墮胎する。（漢書、外戚下、孝成趙皇后傳）掖庭中御幸生レ子者輒死、又飮二藥傷憊者無レ數。

【傷悼】94 シャウタウ なげきいたむ。歎悼。（史記、賈誼傳）自以爲壽不レ得レ長、傷二悼之一。（漢書、外戚下、孝成班倢伃傳）作賦自傷悼。（蜀志、劉理傳）朕用傷悼。

【傷盜】95 シャウタウ 人に傷を負はせ、又、物を盜むこと。（梁簡文帝、臨雍州草二貪惰一教）傷盜抵レ罪。

【傷單】97 シャウタン きずの書きつけ。（福惠全書、刑名部、人命上、印官親驗）本官看明判レ日、仝二親記傷單一、親帶回レ衙。

【傷歎】98 シャウタン いたみなげく。傷悲。悲歎。（隋煬帝、答二智顗一）蔣州事書、僧衆無レ依、實可二傷歎一。

【傷軸】99 シャウヂク 中心を失ふ。（易林）蹄牛失レ角、下山傷レ軸。

【傷墜】100 シャウツイ やぶれおちる。零落する。又、やぶりおとす。（韋少翁、戒二子孫一詩）顧二我傷墜一、爵復二我舊一。

【傷痛】101 シャウツウ いたみ悲しむ。傷嗟。（列子、黃帝）斫撻無レ傷痛一。（史記、律書）朕常爲二動心傷痛一。（後漢書、和熹鄧后紀）內外傷痛不レ絕。

【傷涕】102 シャウテイ かなしみなく。傷泣。（張衡、髑髏賦）爲レ之傷涕、酬二于路濱一。

【傷詆】103 シャウテイ そこなひそしる。（漢書、敍傳上）家有二貴寵一者、莫レ不二被レ文傷詆一。

【傷鳥】104 シャウテウ 傷ついた鳥。（白居易、得二微之到レ官後書一備知二通州之事一悵然有レ感因成二四章一詩）傷鳥有レ弦驚不レ定、臥龍無レ水動應レ難。

【傷沴】105 シャウレイ そこなひ亂す。（夢溪筆談、象數一）歲運有二主氣一、有二客氣一、云云、逆二主之氣一爲レ害暴、逆二客之氣一爲レ害徐、調二其主客一、無レ使二傷沴一、此治氣之法也。

【傷慟】106 シャウドウ いたみなげく。（北史、權會傳）臨送者、爲二其傷慟一。

【傷農】107 シャウノウ 農民をそこなふ。（漢書、食貨志）又曰、糴貴傷レ民、甚賤傷レ農。

【傷破】108 シャウハ そこなひ破る。（列子、黃帝）雖二傷レ破於前一、不レ用レ介レ意。

【傷敗】109 シャウハイ 傷つき敗れる。（管子、任法）雖レ有二傷敗一、無レ罰。（史記、楚世家）見二吳王兵傷敗一。（顏氏家訓、雜藝）多レ所二傷敗一。

【傷亡】110 シャウバウ ㊀負傷して死亡する。（清國行政法汎論、官吏權利、卹金、遺族扶助料）綠營兵士、陣亡、傷亡。㊁死傷者。

【傷剝】111 シャウハク 甚しくいたみうれへる。（後漢書、譙玄傳）臣聞之、怛然痛レ心傷剝。

【傷伐】112 シャウバツ そこなふ。（管子、七臣七主）傷二伐五藏一。

【傷煩】113 シャウハン ㊀心をいためなやます。傷心煩悶。煩傷。（張載、四愁詩）我之懷矣心傷煩。㊁言語が煩多すぎる。おしやべりすること。（程

頤、言箴〕傷レ易則誕、傷レ煩則支。〔注〕言語太多、則支離不レ可レ曉。
【傷瘢】114 シヤウハン きずあと。けが。傷痕。〔齊諧記〕一黄雀爲ニ鴟梟所ニ搏逐一、傷瘢甚多。
【傷悲】115 シヤウヒ いたみかなしむ。悲傷。傷惻。傷嗟。〔詩、召南、艸蟲〕未レ見ニ君子一、我心傷悲。〔詩、檜風、素冠〕庶見ニ素衣一兮、我心傷悲兮。〔潘岳、關中詩〕徒愍ニ斯民一、我心傷悲。
【傷靡】116 シヤウビ きずついた靡。靡は、鹿の一種。〔墨子、經說下〕若ニ傷靡之無一レ脾也。
【傷病】117 シヤウビヤウ きずつけやましめる。又、きずつきやんでゐる者。〔漢書、五行志中之上〕傷ニ病民人一。〔司馬法、仁本〕哀ニ憐傷病一。
〔傷病兵〕118 シヤウビヤウヘイ 戰に傷つき、又は病にかかつた兵士。
【傷愍】119 シヤウビン いたみあはれむ。傷憫。〔後漢書、杜篤傳〕傷ニ愍舊京一。
【傷憫】120 シヤウビン いたみあはれむ。傷愍。〔崔融、皇太子請レ給ニ庶人衣服一表〕有レ懷ニ傷憫一。
【傷風】121 シヤウフウ ❶良風俗を害する。傷風敗俗を見よ。❷病名。風邪。感冒。〔六書、傷風表證〕夫傷風之證、頭痛項強、肢節煩疼、或目疼肌熱、乾嘔鼻塞、手足溫自汗出、惡ニ風寒一、其脈陽浮而緩、陰浮而弱、此爲ニ邪熱一。
〔傷風敗俗〕122 シヤウフウハイゾク 風俗を害する。〔琵琶記、幾言諫父〕怎說ニ著傷風敗俗、非理的言語一。
【傷吻】123 シヤウフン 口のあたりをきずつける。〔王褒、聖主得ニ賢臣一頌〕庸人之御ニ駑馬一、亦傷レ吻弊レ筴、而不レ進ニ於行一。
【傷憤】124 シヤウフン いたみいきどほる。〔吳志、張紘傳、注〕昱後爲ニ笮融所一レ殺、紘甚傷憤、而力不レ能レ討、昱門戶絕滅。
【傷兵】125 シヤウヘイ 戰爭に出てきずついた兵士。
【傷暮】126 シヤウボ 年老いたのをなげく。暮年をいたむ。〔南史、范縝傳〕年二十九、髮白皤然、乃作ニ傷暮詩・白髮詠一、以自嗟。
【傷本】127 シヤウホン 根本をきずつける。〔孔子家語、大婚解〕傷ニ其親一、是傷レ本也。
【傷民】128 シヤウミン 人民をそこなふ。〔呂覽、分職〕天寒起レ役、恐傷レ民。〔風俗通、聲音〕亂レ政傷レ民。
【傷名】129 shang¹ ming² 名譽を毀損する。
【傷命】130 shang¹ ming⁴ 殺す。殺害する。
【傷目】131 シヤウモク 目をいたましめる。見るにつけてあはれを催す。〔王僧孺、從子永寧令誄〕痛レ心傷レ目、豈伊一事。
【傷勇】132 シヤウユウ 眞の勇といふ德をそこなふ。〔孟子、離婁下〕可ニ以死一、可ニ以無一レ死、死傷レ勇。
【傷翼】133 シヤウヨク 翼をきずつける。〔鹽鐵論、西域〕匈奴困ニ於漢兵一、折レ翅傷レ翼。
【傷亂】134 シヤウラン やぶりみだす。〔漢書、五行志下之上〕此殆爵土過レ制、傷ニ亂土氣一之祥也。
【傷鱗】135 シヤウリン きずついたうろこ。きずついた魚。〔皮日休、奉ニ和魯望漁具一十五詠、射魚詩〕驚羽決ニ凝碧一、傷鱗浮ニ殷紅一。〔陸龜蒙、乂魚詩〕傷鱗跳ニ密藻一。〔宋史、外國、日本國傳〕日本國東大寺大朝法濟大師、賜レ紫、沙門奝然啓、傷鱗入レ夢、不レ忘ニ漢主之恩一、枯骨合歡、猶亢ニ魏氏之敵一。
【傷廉】136 シヤウレン 廉潔の德をそこなふ。〔孟子、離婁下〕可ニ以取一、可ニ以無一レ取、取傷レ廉。
【傷和】137 シヤウワ 調和を害する。〔後漢書、質帝紀〕怨氣傷レ和、以致ニ災眚一。
【傷殷操】138 シヤウインサウ 琴曲の名。殷をいたんだ琴曲。微子が殷の故墟を過ぎ、殷の滅亡をいたんだ歌。麥秀之歌(12－47717・・42)に同じ。〔尙書大傳、殷傳〕微子將ニ往朝一レ周、過ニ殷之故墟一、見ニ麥秀之蔪蔪一、曰、此父母之國、宗廟社稷之所レ立也、志動心悲、欲レ哭則爲レ朝レ周、欲レ泣則近ニ婦人一、推而廣レ之、作ニ雅聲一、歌曰、麥秀蔪蔪兮、黍禾⿰日黽⿰日黽、彼狡童兮、不ニ我好一兮。〔樂府詩集、琴曲歌辭〕琴集曰、傷殷操、微子所レ作也、云云、亦謂ニ之麥秀歌一。〔微子、傷殷操〕麥秀漸漸兮、禾黍油油、彼狡童兮、不ニ我好仇一。
【傷荷藕】139 シヤウカグウ 蘇州產の蓮根の最上なもの。〔唐國史補〕蘇州進レ藕、其最上者、名曰ニ傷荷藕一、或云、葉甘爲ニ蟲所一レ傷、又云、欲レ長ニ其根一、則故傷ニ其葉一。
【傷歌行】140 シヤウカカウ 樂府雜曲の歌辭。年老いて知友に絕離するを傷んで作つた歌。唐の李白の悲歌行も亦此の體である。〔樂府詩集、雜曲歌辭、傷歌行〕傷歌行、側調曲也、古辭傷下日月代謝、年命遒盡、絕中離知友上、傷而作レ歌也。〔古辭、傷歌行〕昭昭素明月、輝光燭ニ我牀一、憂人不レ能レ寐、耿耿夜何長、微風吹ニ閨闥一、羅帷自飄揚、攬レ衣曳ニ長帶一、屣履下ニ高堂一、東西安所レ之、徘徊以彷徨、春鳥翻南飛、翩翩獨翱翔、悲聲命ニ儔匹一、哀鳴傷ニ我腸一、感レ物懷ニ所思一、泣涕忽霑レ裳、停立吐ニ高吟一、舒レ憤訴ニ穹蒼一。
【傷快閣】141 シヤウクワイカク 清、奚濤(3－5930・・33)の室名。
【傷春詞】142 シヤウシユンシ 詞曲の名。宋、蘇軾作。妻を失つたのを傷む詞曲。〔海錄碎事、人事、夫婦〕呂文甫喪レ妻、東坡爲作ニ傷春詞一。
【傷冷毒】143 シヤウレイドク 病名。リウマチスに類した病。
【傷弓之鳥】144 シヤウキユウノトリ 一度矢傷を負うた鳥。おぢけのついた者。前事に懲りて後事を警戒する喩。傷禽。〔晉書、苻生載記〕傷弓之鳥、落ニ于虛發一。
【傷天害理】145 shang¹ t'ien¹ hai⁴ li³ 天理に戾る。天理を害ふ。

【⿰亻鳥】1030
デウ
褭(10－34509)の俗字。或は⿰亻褭(1－1271)に作る。〔正字通〕⿰亻鳥、俗褭字、亦作レ⿰亻褭。

【傸】1031
サウ シヤウ 〔集韻〕楚兩切 養
わるい。〔集韻〕傸、惡也。

【傹】1032
㊀キヤウ ガウ 〔集韻〕其亮切 漾
㊁ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠映切 敬
㊂キヤウ カウ 〔篇海〕居良切 陽
㊀つよい。倞(1－780)に同じ。〔集韻〕倞、說文、彊也、或从レ竟。〔篇海〕傹、強也。㊁❶つよい。倞(1－780)に同じ。〔集韻〕倞、說文、彊也、或从レ竟。❷きそふ。競(8－25831)に同じ。〔周禮、春官、鍾師、注〕繁遏執傹也。〔釋文〕傹音競、詩作レ競。㊂たふす。僵(1－1158)に同じ。〔荀子、仲尼〕可ニ吹而傹一也。〔注〕傹、當レ爲レ僵、言レ可ニ以レ氣吹レ之僵一。

【傺】1033
テイ 〔集韻〕丑例切 霽 ㄔˋ ch'ih⁴
❶とまる。とどまる。〔方言、七〕傺、逗也、南楚謂ニ之傺一。〔楚辭、離騷〕忳鬱邑余侘傺兮。〔注〕傺、猶レ住也。〔楚辭、九辯〕然坎傺而沈藏。〔注〕楚人名レ住曰レ傺。❷侘傺は志を失ふさま。〔楚辭、離騷、余侘傺兮、集注〕侘傺、失レ志貌。

【傻】1034
㊀サ セ 〔集韻〕數瓦切 馬 ㄕㄚˇ sha³
㊁サ セ 〔集韻〕數化切 禡
㊀㊁❶こざかしい。〔集韻〕傻、輕慧皃。❷思ひやりがない。傻俙。傻俏。〔集韻〕傻、傻俙、不仁。〔韻會〕傻、傻俏、不仁。❸現おろか。
【傻角】1 サカク おろか者。〔徐渭南自敍錄〕。
【傻氣】2 sha³ ch'i⁴ 愚かなさま。
【傻子】3 sha³ tzŭ 白痴。愚者。馬鹿者。
【傻人】4 sha³ jen² 白痴。愚者。うすのろ。
【傻笑】5 sha³ hsiao⁴ 馬鹿笑をする。
【傻說】6 sha³ shuo¹ 馬鹿話をする。
【傻蛋】7 sha³ tan⁴ 馬鹿者。愚人。
【傻癡】8 sha³ ch'ih² 愚鈍。馬鹿。
【傻話】9 sha³ hua⁴ たはごと。無駄話。
【傻花子】10 sha³ hua¹ tzŭ 人を罵る語。まぬけ野郎。
【傻造花】11 sha³ tsao⁴ hua⁴ 馬鹿者の幸福。
【傻小子】12 sha² hsiao³ tzŭ 愚かな子供。
【傻吃傻喝】13 sha³ ch'ih¹ sha³ hê¹ 無分別に飲み食ひする。

【僕】1035 カン〔集韻〕虚旰切 翰

姓。〔玉篇〕僕、姓也。

【嫠】1036 クワ 花(9－30734)・華(9－31214)の本字。〔正字通〕嫠、隸作レ華、俗作レ花。

【僮】1037 シヤウ〔集韻〕諸良切 陽 ㄓㄤ chang¹

㊀夫の兄。嫜(8－6649)に同じ。〔集韻〕嫜、夫之兄曰二兄嫜一或从レ人。㊁驚き恐れるさま。僮惶。〔正字通〕僮、僮惶、驚恐貌。㊂章(8－25761)に通ず。〔楚辭、九思、逢尤〕遽僮遑兮驅二林澤一。〔集注〕僮、一作レ章。

【僮惶】1 クシャウクワウ 驚き恐れるさま。慌てる。〔吳越春秋、夫差内傳〕公孫聖曰、臣聞、章者、戰不レ勝、敗走僮遑也。

【僮遑】2 クシャウクワウ 行くことの正しからぬさま。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕遽僮遑兮驅二林澤一步屏營兮行二丘阿一。〔補注〕集韻、僮徨、行不レ正。

【傾】1038 ケイ キヤウ〔集韻〕窺營切 庚 くㄧㄥ ch'ing¹·²

小篆

㊀かたむく。かたむける。ななめ。〔說文〕傾、仄也、从二人頃一頃亦聲。〔廣雅、釋詁二〕傾、衰也。〔淮南子、說山訓〕重鈞則衡不レ傾。〔注〕傾、邪也。㊁くつがへる。〔詩、大雅、蕩〕大命以傾。〔集傳〕是以大命傾覆、而不レ可レ救也。〔淮南子、原道訓〕持レ盈而不レ傾。〔注〕傾、覆也。㊂よこになる。ふす。〔華嚴經音義、下〕傾、謂二偃臥一也。㊃ひくい。さがる。〔淮南子、原道訓〕使二地東南傾一。〔注〕傾、猶レ下也。㊄たかい。あがる。〔淮南子、天文訓〕天傾二西北一。〔注〕傾、高也。㊅心をかたむける。したがふ。〔漢書、司馬相如傳上〕一坐盡傾。㊆そばだてる。〔漢書、王褒傳〕傾レ耳而聽。㊇さしかはす。〔後漢書、朱穆傳〕紓衣傾蓋。〔注〕傾蓋、謂二駐車交一レ蓋也。㊈あやふい。あやふくする。〔荀子、儒效〕齊二天下一而莫二能傾一。〔注〕傾、危也。〔國語、晉語二〕大命其傾。〔注〕傾、危也。㊉きずつく。やぶれる。〔國語、吳語〕體有レ所レ傾。〔注〕傾、傷也。㊊おしのける。しのぐ。〔漢書、田蚡傳〕欲二以傾二諸將相一。〔注〕傾、謂二踰越而勝レ之也。㊋とかす。まじへる。ふきなほす。傾成(79)・傾銷(80)を見よ。〔福惠全書、錢穀部、革官銀匠〕不二必更傾成一錠。㊌きそふ。傾奪(97)を見よ。㊍つくす。つきる。〔孫楚、征西官屬送二於陟陽候一作詩〕傾レ城遠追送。〔注〕善曰、傾、猶レ盡也。㊎頃(12－43338)に通ず。〔說文通訓定聲〕傾、叚借爲レ頃、淮南墜形、傾宮旋室、注、宮滿二一頃一。

解字 會意形聲。人と頃との合字。頃はまた聲。頃は首がかたむいて正しくないこと。故に人と合して仄(かたむく・ななめ)の意とし、轉じて覆・危・傷・踰越(おしのく)の意に用ひ、聲(つく)・頃の意に假借す。〔說文通訓定聲〕傾、仄也、从人从レ頃、會意、頃亦聲。

【傾軋】1 ch'ing¹, ya⁴ 嫉妬の爲に策を廻らして人を陷れる。

【傾倚】2 ケイ もたれかかる。たよる。〔後漢書、楊震傳〕傾二倚枝柱一而已。〔李尤、讀書枕銘〕傾倚偃息、隨體興居。〔蜀志、簡雍傳〕箕踞傾倚。〔阮籍、首陽山賦〕樹叢茂以傾倚兮。〔蔡襄、祀二南郊一詩〕皇帝寬仁、四國傾倚。

【傾移】3 ケイ 人をかたむけうつす。〔漢書、劉向傳〕數設二危險之言一、欲二以傾二移主上一。

【傾意】4 ケイ 心を傾ける。傾心(73)に同じ。〔漢書、佞幸傳贊〕柔曼之傾意、非二獨女德一蓋亦有二男色一焉。

【傾殞】5 ケイサン 生命をなくす。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕性命有レ不二傾殞一哉。

【傾雲】6 ケイウン 垂れてゐる雲。〔陸機、挽歌詩〕悲風徽行軌、傾雲結二流謌一。

【傾搖】7 ケイエウ かたむけゆるがす。〔後漢書、楊震傳〕更相扇動、傾二搖朝廷一。

【傾搖懈弛】8 ケイエウカイシ 心を動搖させて、己のつとめを怠る。〔曾鞏、送二李材叔知二柳州一序〕傾搖懈弛無二憂且勤之心一。

【傾偃】9 ケイエン かたむき倒れる。〔晉書、桓玄傳〕逆風迅激、旌旗儀飾皆傾偃。

【傾河】10 ケイカ ❶河をかたむける。河の水を呑み盡す。〔陶潛、讀二山海經一詩〕神力既殊妙、傾レ河焉足レ有。❷天の河のこと。天漢。又、夜明方になつて西に傾いた天河。曉をいふ。〔謝惠連、七月夜詠二牛女一詩〕傾河易二迴斡一、款情難二久悰一。〔注〕善曰、傾河、天漢也、向曰、傾、邪也、天河將レ斜、易レ爲二迴轉一、謂レ向レ晩也。

【傾家】11 ケイカ 家産を蕩盡する。財産を費ひへらす。身代限りをする。破産。〔後漢書、童恢傳〕傾レ家賑二卹九族一。〔蜀志、董和傳〕傾レ家竭レ產。

【傾蓋】12 ケイガイ 遇〻途で出逢ひ、互に車蓋を接近させて相語る。一見して相親しむこと。孔子と程子との故事。〔鄒陽、於二獄中一上書自明〕語曰、白頭如レ新、傾レ蓋如レ故。〔注〕善曰、文穎曰、傾レ蓋、猶二交レ蓋駐一車也、銑曰、情若相得、傾レ蓋之間、有レ同二故交一也。〔孔叢子、雜訓〕遇二程子於塗一、傾レ蓋而語。〔後漢書、朱穆傳論〕紓衣傾蓋。〔注〕傾蓋、謂二駐車交一レ蓋也。〔孔子家語、致思〕孔子之レ郯、遭二程子於塗一、傾レ蓋而語、終日甚相親、顧謂二子路一曰、取二束帛一以贈二先生一。〔盧諶、答二魏子悌詩一〕傾蓋雖二終朝一、大分邁二疇昔一。

【傾駭】13 ケイガイ おどろく。おどろかす。〔史記、大宛傳〕見二漢之廣大一傾レ駭レ之。〔漢書、張騫傳〕欲レ以見二漢廣大一傾中駭之上。〔宋史、王安石傳〕不レ至二於傾二駭天下之耳目一。

【傾巧】14 ケイカウ 心がねぢけ、巧にへつらふこと。〔漢書、劉向傳〕興者傾巧士。

【傾向】15 ケイカウ 事の進行する成りゆき。かたむき。いきほひ。趨勢。

【傾向藝術】16 ケイカウゲイジュツ 藝術自體を直接の目的とはせず、寧ろ藝術を手段とし、之を通じて、作者自身が抱懷してゐる理想・主義・目的を實現し宣傳しやうとする藝術。

【傾角】18 ケイカク ❶重心を支へてある磁針が、其の地點に於ける地球の切線となす角。伏角。磁傾角。❷基準とする平面或は直線に對して、他の平面又は直線のなす角。

【傾角計】19 ケイカクケイ 磁傾角をはかる器具。

【傾陷】20 ケイカン 人をかたむけおとしいれる。傾覆して陷溺させる。〔宋史、蘇轍傳〕呂惠卿始諂二事王安石一、倡二行虐政一、以害二天下一、及二勢鈞力敵一、則傾二陷安石一、甚於仇讎。

【傾岸】21 ケイガン そばだち傾いた岸。〔宋玉、高唐賦〕傾岸洋洋、立而熊經、久而不レ去、足盡汗出。

【傾危】22 ケイキ ❶危い。危くなる。〔漢書、劉向傳〕懼二其傾危一。〔吳志、魯肅傳〕今漢室傾危。〔曹冏、六代論〕傾危而莫レ救。〔顏氏家訓、止足〕足レ以免二恥辱一、無中傾危上也。❷そばだつ。〔李成、山水訣〕崖岸傾危、隱約雲林深暗。

【傾危之士】23 ケイキノシ 詭辯を弄して國家を傾け危くする人物。〔史記、張儀傳贊〕太史公曰、張儀之行事、甚二於蘇秦一、然世惡二蘇秦一者、以下其先死、而儀振二暴其短一、以扶二其說一、成中其衡道上要之、此兩人眞傾危之士哉。

【傾崎】24 ケイキ そばだつてけはしい。〔宋玉、高唐賦〕磐石險峻、傾崎崖隕、巖嶇參差、縱橫相追。

【傾欹】25 ケイキ かたむく。〔荀子、宥坐、有二欹器一焉注〕欹器、傾欹易レ覆之器。

【傾棄】26 ケイキ 死ぬこと。〔琵琶記、蔡母嗟レ兒〕我每不レ久須二傾棄一。

【傾毀】27 ケイキ かたむきくづれる。〔唐書、五行志〕武德九年三月、順天門樓東柱、已傾毀而自起。

【傾葵】28 ケイキ 日に向つて傾く向日葵。傾陽葵。深く心を傾けて慕ふ喩。〔曹植、求レ通二親親一表〕若二葵藿之傾レ葉、太陽雖レ不二爲レ之回レ光、終向レ之者、誠也。

【傾虧】29キイ かたむき缺ける。〔謝靈運、山居賦〕棧道傾虧、蹬閣連卷。

【傾羲】30ギ かたむく日。羲は羲和、日をいふ。いりひ。落日。落暉。〔謝惠連、秋懷詩〕頹魄不再圓、傾羲無兩旦。〔注〕善曰、羲、羲和、謂日也。

【傾僵】31キョウ かたむきたふれる。〔易林〕千柱百梁、終不二傾僵一。

【傾宮】32キュウ 玉で飾つた宮室。傾は瓊。一說に、一頃の田程ある廣い室。〔列子、楊朱〕肆情於傾宮、縱二欲於長夜一。〔淮南子、墜形訓〕傾宮旋室。〔注〕傾宮、宮滿二一頃田中一也。〔後漢書、桓帝紀贊〕傾宮雖積、皇身靡レ續。〔左思、吳都賦〕思比二屋於傾宮一畢結レ瑤而構レ瓊。〔注〕劉曰、汲郡地中古文冊書曰、桀築二傾宮一飾二瑤臺一、紂作二瓊室一立二玉門一、言二其奢麗一。

【傾困】33キン 貯へた物を悉く出す。困は、物を貯へる庫。〔韓愈、答二竇秀才一詩〕猶レ將二倒レ廩傾一レ困、羅列而進一也。

【傾襟】34キン まごころを盡す。襟は誠心。傾衿。〔北史、魏獻文六王傳〕彭城王勰之定二壽春一、獲二齊汝陰太守王果・豫州中從事庾稷等數人一、勰傾レ衿禮レ之、常參二坐席一。

【傾銀】35ギン ㊀銀杯を傾けて酒を飲む。〔杜甫、少年行〕傾レ銀注レ瓦驚二人眼一、共醉終同臥二竹根一。〔王安石、詩〕守歲夜傾レ銀。㊁銀のふきかへをする。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革官銀匠〕求二其一侵二尅傾レ銀納戶一得乎。

【傾銀匠】36 ch'ing¹ yin² chiang⁴ かねふき。金銀を鑄造する職工。 いふ。

【傾銀鋪】37 ch'ing¹ yin² p'u⁴ 錢屋。兩替店を稱する。

【傾化】38 ch'ing¹ hua⁴ 錢を鎔解して檢査する。

【傾花】39クヮ 花をかたむける。〔李白、對酒詩〕桃李如二舊識一傾レ花向レ我開。

【傾臥】40ガ 横になつて臥す。横臥。〔風俗通、過譽〕已因二傾臥一厥形悉表露。

【傾回】41クヮイ かたむきめぐる。〔後漢書、董卓傳贊〕區服傾回、人神波蕩。

【傾懷】42クヮイ 思のすべてを吐露する。〔蘇軾、詩〕高人兩無レ事、相對輒傾レ懷。〔葉夢得、送二沈傳曜一詩〕邂逅此相遇、傾レ懷得二徐論一。

【傾竭】43ケツ かたむけ盡す。〔魏志、傅嘏傳〕傾レ根竭レ本。〔吳志、華覈傳〕傾二竭府藏一。〔南史、梁豐城侯泰傳〕傾二竭財產一。

【傾月】44ゲツ かたむく月。入りかかる月。落月。〔謝惠連、雪賦〕房櫳引二傾月一、步檐結二春風一。

【傾險】45ケン よこしま。危くなる。〔漢書、息夫躬傳〕夫讒レ政者、苦二諛諛傾險一、辯慧深刻也、諛諛則主德毀、傾險則下怨恨。

【傾壺】46ケイ 壺を傾ける。酒を飲む。傾杯(113)の㊀に同じ。〔陶潛、詠二貧士一詩〕傾レ壺絕二餘瀝一、闚レ竈不レ見レ烟。〔庾信、詠二畫屛風一詩〕度レ橋猶徙倚、坐レ石未レ傾レ壺。

【傾酤】47ケイ 酒を飲む。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集一詩、阮瑀〕傾レ酤係二芳醑一、鈞言豈終始。〔注〕濟曰、酤・醑、皆酒也。

【傾國】48ケイコク ㊀國を危くする。國運を衰亡させる。〔史記、項羽紀〕天下辯士、所居傾レ國。〔論衡、非韓〕民無二禮義一、傾レ國危レ主。㊁妖美な女。傾城(66)の㊁から出て、後世單に美人の意に用ひられる。〔李白、清平調〕名花傾國兩相歡、常得二君王帶一レ笑看。〔白居易、長恨歌〕漢皇重レ色思二傾國一、御宇多年求不レ得。㊂全國力を擧げる。國人を悉く徵發する。〔齋藤拙堂、海外異傳〕六昆王憤甚、傾レ國來寇。

【傾國傾城】49ケイコクケイセイ 男をして國や城を亡ぼして顧みぬまでに心醉させるほどの妖艷な女。漢の武帝の李夫人の故事から出た語。傾城傾國(68)を見よ。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕北方有二佳人一、云云、一顧傾二人城一、再顧傾二人國一。〔劉廷芝、公子行〕傾レ國傾レ城漢武帝、爲二雲爲一雨楚襄王。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽二琴雜劇一〕似二傾國傾城的太眞一。

【傾魂】50コン 魂を傾ける。魂を打ちこむ。傾心。〔江淹、爲二蕭相國一讓二進レ爵爲レ王第二表一〕傾魂仰視、九天彌阻。

【傾想】51ソウ 心をかたむけて思ふ。〔晉書、謝尚傳〕一坐傾想。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕傾想遲二嘉音一。

【傾卮】52シ 「傾杯。傾盃。さかづきをかたむける。酒を飲む。全資本を投ずる。傾資に同じ。〔唐書、張巡傳〕傾貲振護無二吝。〔韓愈、鄭羣贈レ簟詩〕有二賣直欲レ傾二家貲一。

【傾資】54シ 資本の全部を投ずる。傾貲。〔後漢書、陳敬王羨傳〕後傾資賑贍、並得二全活一。

【傾耳】55ジ 耳をかたむける。注意してよく聽く。側耳。傾聽。〔禮、孔子閒居〕傾レ耳而聽之、不レ可二得而聞一也。〔漢書、韓信傳〕傾レ耳以待レ命者。〔賈誼、過秦論〕天下之士、傾レ耳而聽。〔魏志、陳思王植傳〕傾レ耳注レ目。

【傾時】56 ch'ing¹ shih² 容易に。ちよつと。すぐ。

【傾室】57シツ 玉で飾つた宮室。傾は瓊。傾宮(32)を見よ。〔晏子、諫、下〕其王紂作二爲傾室靈臺一。

【傾膝】58シツ ひざをくづす。〔晉書、劉輿傳〕傾膝酬接、卽以爲二左長史一。

【傾者】59シャ 傾いてゐるもの。〔淮南子、說林訓〕傾者易レ覆也、倚者易レ軵也。

【傾斜】60シャ なめになる。かたむきゆがむ。又、かたむき。〔梁簡文帝、大法頌序〕坤軸傾斜。〔韓愈、雉帶箭詩〕紅翎白鏃相傾斜。

【傾斜面】61メンシャ なめにかたむいてゐる面。水平面と垂直面との中間の面。斜面。

【傾寫】62シャ かたむけそそぐ。さらけ出す。傾瀉。〔世說新語、賞譽〕已之府奧、蚤已傾寫。

【傾瀉】63シャ かたむけそそぐ。傾寫に同じ。〔蘇軾、次韻和二王鞏一詩〕歸來千首詩、傾瀉五石樽。〔蘇軾、和二趙德麟送一陳傳道一詩〕五君從レ我遊、傾瀉出二怪珍一。〔錢譔石、出二東林一六七里望二廬山一詩〕雲中屈曲明如レ玉、都是天池傾瀉來。

【傾邪】64ジャ かたよつて正しくない。よこしま。〔漢書、孔光傳〕在二左右一尤傾邪。〔後漢書、馮衍傳〕事君無二傾邪之謀一。〔歐陽脩、論二臺諫官唐介等宜早牽復一劄子〕其言涉二傾邪一。

【傾觴】65ショウ ㊀さかづきをかたむける。酒を飲む。傾杯(113)の㊀に同じ。〔曩據、遊覽詩〕傾レ觴挹二涌波一。㊁さかづきをかたむけて、酒をささげる。〔李華、弔二古戰場一文〕布レ奠傾レ觴、哭望二天涯一。

【傾城】66ケイセイ ㊀色香を以て男の心を惑亂し、城をかたむけ亡ぼす。又、其のやうな妖艷な女をいふ。傾城傾國を見よ。〔詩、大雅、瞻卬〕哲夫成レ城、哲婦傾レ城。〔張衡、西京賦〕一顧傾レ城。㊁城全體をこぞる。一城全部。〔孫楚、征西官屬送二於陟陽侯一作詩〕傾レ城遠追送。〔宋之問、桂州二月二日詩〕始安繁華舊風俗、帳飲傾レ城沸江曲。〔杜甫、高都護驄馬行〕長安壯兒不二敢騎一、走過掣電傾レ城知。㊂遊女の稱。おいらん。〔和漢三才圖會、人倫類、傾城、傾國、娼婦、娼妓、遊女、和名、宇加禮女、或云二太波禮女一、蓋戲女之略乎。

【傾城町】67マチ 遊女まち。〔和漢三才圖會、人倫類、傾城〕接待來客、共遊宴賣婬者曰二遊女一、今總爲二傾城一、其所在謂二傾城町一。

【傾城傾國】68ケイセイケイコク 男子が心醉して、城も國も顧みないほどの絕世の美女。傾國傾城(49)に同じ。〔漢書、外戚上、孝武李夫人傳〕北方有二佳人一、絕世而獨立、一顧傾二人城一、再顧傾二人國一、寧不レ知二傾城與二傾國一、佳人難二再得一。〔越絕書、越絕外傳計倪〕傾城傾國。

【傾取】69シュ かたむけとる。〔韓非子、守道〕人主甘二服於玉堂之中一、而無二瞋目切齒、傾取之患一。

【傾首】70シュ 首を傾ける。頭を傾ける。㊀傾聽するにいふ。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕觀者駭視而拭目、聽者傾レ首而竦レ耳。㊁慕ひ望むにいふ。〔劉琨、勸進表〕上以慰二宗廟乃顧之懷一、下以釋二溥天傾首之望一。

【傾酒】71シュ 酒をのむ。〔宋之問、答二李司戶一詩〕弄琴宜レ在レ夜、傾レ酒貴二逢レ春。〔李白、贈二崔秋浦一詩〕見レ客但傾レ酒、爲レ官不レ愛レ錢。

【傾昃】72ショク かたむく。傾仄(86)に同じ。〔馬融、長笛賦〕尤婁忘鬻、傾昃倚伏。

【傾心】73シン 心を傾ける。心を打ちこむ。心を寄せる。傾意。傾魂。〔後漢書、竇皇后紀〕后性敏給、傾レ心承接。〔後漢書、袁紹傳〕傾レ心折レ節、莫レ不二爭赴一其庭一。

【傾身】74シン ㊀身を傾ける。㊁身を亡ぼす。〔後漢書、齊武王縯傳〕不レ事二家人居業一、傾レ身破レ產。㊂出來るだけ盡くす。〔漢書、張湯傳〕嘗繫二長安一、湯傾レ身事レ之。〔後漢書、隗囂傳〕囂素謙恭愛レ士、傾レ身引接。

【傾身營救】75ケイシンエイキュウ 全力を盡くして救恤に力める。〔後漢書、郭太傳〕鄉里有二憂患者一、淑輒傾レ

身營救、爲二州閭所一レ稱。

【傾人】76 ch'ing¹ jen² 人を害する。

【傾盡】77 ケイジン かたむけつくす。有らん限りを出す。〔蘇軾、奉レ和二陳賢良一詩〕望二窮海表一天還遠、傾二盡葵心一日愈高。〔伊藤博文、偶成詩〕高樓傾二盡三杯酒一、天下英雄在二眼中一。

【傾水】78 ケイスイ 水を注ぐ。〔北史、薛憕傳〕一仙人又持二金鉼一以臨二器上一傾レ水。

【傾成】79 ケイセイ ❶鎔かして云云を作る。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革官銀匠〕若紋銀不レ上二一錢一、不三必更傾二成錠一。❷兩換する。

【傾銷】80 ケイセウ ❶鎔解する。ふきなほす。〔六部成語、戶部、傾銷、注解〕以二碎銀一、銷鎔傾鑄成レ錠曰二傾銷一。〔福惠全書、錢穀部、催徵、革官銀匠〕官銀匠之設、大端有レ二、一爲戊花戶完レ糧、欲丁其傾二銷紋足一、以杜丙封乙納低潮甲、一爲戊起二解藩庫一、欲丁傾二銷大錠一、以防丙駁乙換責成甲。❷纏めて賣る。❸ch'ing¹ hsiao¹ 投賣。ダンピングする。又は生產業獨占團體が、販賣擴張のためか、又は生產過剩を調和するために、生產品の一部を外國に廉賣し、國內の供給を少くして價格の上昇をはかること。

〔傾銷稅〕81 ch'ing¹ hsiao¹ shuei⁴ 外國の投賣貨物に對して課する稅。

【傾折】82 ケイセツ かたむきをれる。〔杜弼、檄レ梁文〕椅梓于レ焉傾折、竹箭以レ此摧殘。

【傾絕】83 ケイゼツ 身を傾け命を絕つ。〔荀子、大略〕民語曰、欲レ富乎、忍レ恥矣、傾絕矣、絕二故舊一矣。〔注〕傾絕、謂二傾レ身絕レ命而求一也。

【傾然】84 ケイゼン ❶苦しむさま。〔淮南子、兵略訓〕天下敖然若二焦熱一、傾然若二苦烈一。❷空しいさま。〔琵琶記、義倉賑濟〕囊篋已傾然。

【傾宗】85 ケイソウ 宗家をかたむける。宗族全部。〔魏志、劉廙傳〕罪應レ傾レ宗。〔顏氏家訓、教子〕傾レ宗覆レ族。

【傾仄】86 ケイソク 橫にかたむく。よこしま。傾昃。〔漢書、王嘉傳〕傾仄不レ正。〔漢書、蕭望之傳〕傾仄見レ詘。〔注〕師古曰、言、其不レ能レ持レ正、故議二論大事一見レ詘二於天子一也、仄、古側字。〔漢書、鼂錯傳〕險道傾仄。

【傾側】87 ケイソク ❶かたむける。かたむく。傾仄。〔荀子、非十二子〕不二爲レ物傾側一。〔韓非子、外儲說左下〕然方二公之欲レ治レ臣也、公傾二側法令一。❷世間の片隅に居る。〔淮南子、要略〕誠喩二至意一、則有四以傾二側偃三仰世俗之間一、而无下傷二乎讒賊螫毒一者上也。❸かたむけせまる。壓迫する。〔南史、宋彭城王義康傳〕以二傾側一自入。

【傾損】88 ケイソン 傾き損ずる。〔鬼谷子、符言〕虛心平意、以待二傾損一。

【傾陁】89 ケイダ かたむきやぶれる。陁は壞。〔張衡、西京賦〕既定且寧、焉知二傾陁一。〔注〕向曰、言、今見レ安、焉知二後之傾壞一、陁、壞也。

【傾墮】90 ケイダ かたむきおちる。傾落(131)に同じ。〔陳樵、石溪歌〕小龍挾向二雲間一過、水滑瓢欹誤傾墮。

【傾頹】91 ケイタイ かたむきくづれる。〔蜀志、諸葛亮傳〕漢室傾頹。〔諸葛亮、出師表〕親二小人一遠二賢臣一、此後漢所二以傾頹一也。

【傾倒】92 ケイタウ ❶深く心を寄せる。思ひつめる。傾到。〔杜甫、奉レ贈二射洪李四丈一詩〕志士懷二感傷一、心胸已傾倒。❷大いに酒を酌む。傾瀉。〔杜甫、雨過二蘇端一詩〕蘇侯得二數過一、歡喜每傾倒。❸かたむきたふれる。傾跌。〔魏書、韓茂傳〕馬上持レ幢不二傾倒一。〔南史、江湛傳〕太子劭推排、殆二於傾倒一。〔李白、白頭吟〕隨レ風任二傾倒一。〔白居易、南湖晚秋詩〕旦夕北風多、衰荷半傾倒。❹殘す所なく言ふ。〔宋史、李浩傳〕李浩指二論近臣一、倂及二宰執一、反覆數千言、傾倒罄竭。

〔傾倒之歲〕93 ケイタウノトシ 老いた年齡。頹齡。〔白居易、得景嫁レ殤鄰人告レ違レ禁不レ伏判〕縱近二傾倒之歲一、且未レ從レ人。

【傾蕩】94 ケイタウ かたむきゆらぐ。〔魏志、管寧傳〕中平之際、黃巾陸梁、華夏傾蕩、王綱弛頓。

【傾掉】95 ケイタウ かたむき動く。〔潘岳、射雉賦〕瞻二挺穟之傾掉一。〔注〕翰曰、掉、動。

【傾脫】96 ケイダツ かたむきぬげる。〔晉書、謝萬傳〕系推レ萬落レ牀、冠帽傾脫。

【傾奪】97 ケイダツ はせ競ふ。〔史記、春申君傳〕招二致賓客一、以相傾奪、輔レ國持レ權。〔傳毅、舞賦〕馬材不レ同、各相傾奪。〔注〕善曰、傾奪、謂二馳競一也。

【傾塌】98 ケイタフ かたむきたふれる。傾倒。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕百姓屋宇、傾塌殆盡。

【傾遲】99 ケイチ 深く心を寄せ、期待してまつ。〔晉書、賀循傳〕望必屈レ駕、以副二傾遲一。

【傾輈】100 ケイチウ 車がくつがへる。輈は轅。〔後漢書、皇后紀序〕湮滅連レ踵、傾輈繼レ路。〔注〕輈、車轅也。

【傾聽】101 ケイチヤウ 頭をかたむけて聽き入る。熱心にきく。傾耳。〔禮、曲禮上〕立必正方、不二傾聽一。〔疏〕立宜三正嚮二一方一、不レ得三傾レ頭屬二聽左右一。〔漢書、賈山傳〕傾レ耳而聽。〔陸龜蒙、村夜詩〕明發成二浩歌一、誰能少二傾聽一。

【傾注】102 ケイチユウ ❶いきほひ強く流れ込む。〔宋史、河渠志四〕汴口復成、則免二廣武傾注一、以長爲二京師之安一。❷水を覆し注ぐやうに盛に雨がふる。〔酒賢、龍門詩〕暴雨忽傾注。❸液汁を器物にうつし入れる。うつす。傾瀉。〔郝經、葡萄詩〕一派瑪瑙漿、傾注百千瓮。❹一つの事に心を向ける。一心不亂になる。〔徐陵、代二陳司空一答書〕載披二來旨一、實深傾注。

【傾墜】103 ケイツイ 傾きおちる。〔白居易、大水詩〕閭閻半飄蕩、城堞多傾墜。

【傾低】104 ケイテイ 傾きひくい。〔謝惠連、祭二古冢一文〕几筵糜腐、俎豆傾低、盤或二梅李一、盎或二醢醢一。

【傾跌】105 ケイテツ ❶傾き倒れる。〔李德裕、欹器賦〕如二君子之中庸一、滿則傾跌。❷相場が下落する。

【傾顛】106 ケイテン かたむきたふれる。かたむけたふす。〔梅堯臣、送三畢甥之二臨卭主簿一雜言詩〕鳥悲猿嚎馬蹄脫、苔梯雨棧愁二傾顛一。

【傾吐】107 ケイト 意見を腹藏なく發表する。〔韓維、和二平甫一詩〕高文大論日傾吐。

【傾頭】108 ケイトウ かうべをかたむけ物を考へる。傾首。〔白居易、早行二林下一詩〕閑倚二小橋一立、傾レ頭時一吟。

【傾動】109 ケイドウ くつがへし動かす。かたむきうごく。〔史記、蕭相國世家〕上所レ爲二數問レ君者、畏三君傾二動關中一。〔曹冏、六代論〕天下所三以不二傾動一、百姓所二以不レ易レ心。

【傾頓】110 ケイトン 橫ざまに倒れる。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕蘭茝傾頓、桂林移植。

【傾囊】111 ケイナウ ふくろの中のものを出しつくす。財布の底をはたく。〔雲笈七籤〕雲篆寶書、傾囊相付。

【傾佩】112 ch'ing¹ p'ei⁴ 心から感服する。

【傾杯】113 ケイハイ ❶杯をかたむける。酒を飲む。傾壺。傾觴。傾盃。〔陳後主、臨二高臺一詩〕臨レ窓已響吹、極レ眺且傾レ杯。〔蘇軾、出レ局偶書詩〕傾レ杯不レ能レ飲、留待二卯君來一。❷唐代の舞曲の名。〔唐書、禮樂志十二〕施二三重榻一、舞二傾杯數十曲一。

【傾排】114 ケイハイ おしたふす。かたむけおしのける。おしのけあふ。〔日本外史、源氏前記、平氏〕延爲二爪牙一、以相傾排而已。

【傾敗】115 ケイハイ やぶれる。おとろへ亡びる。崩壞する。〔李衞公問對、中〕或憑レ間以傾敗。

【傾望】116 ケイバウ 望をかける。したひのぞむ。〔任昉、爲二蕭揚州一作レ薦二士表〕庠序公朝、萬夫傾レ望。〔注〕銑曰、萬人皆傾レ首而欽慕。

【傾圮】117 ケイヒ 破れかたむく。又、傾きくつがへる。〔王廷陳、詩〕巍構積二傾圮一。〔福惠全書、蒞任部、親查閱〕雉堞樓櫓傾圮者、補二築之一。〔六部成語、工部、傾圮、注解〕河堤傾倒也。

【傾詖】118 ケイヒ ねぢけてよこしまなこと。〔宋史、張商英傳論〕以二傾詖之行一、竊二忠直之名一。

【傾仆】119 ケイフ たふれる。〔新語、輔政〕以二趙高李斯一爲レ杖、故有二傾仆缺傷之禍一。

【傾覆】120 ケイフク くつがへる。くつがへす。轉倒。轉覆。〔左氏、昭、二十六〕後人之迷敗傾覆。〔荀子、不苟〕不レ能則妬嫉怨誹、以傾二覆人一。〔墨子、尚賢中〕傾二覆其社稷一。〔漢書、刑法志〕作二爲權詐一、以相傾覆。〔後漢書、明德馬后紀〕傾覆之禍。〔羊祜、讓二開府一表〕傾覆亦尋而至。〔諸葛亮、出師表〕後値二傾覆一、受二任於敗軍之際一。

【傾壁】121 ケイヘキ 傾いてゐる壁。〔沈約、早發二定山一詩〕傾壁忽斜豎、絕頂復孤圓。

【傾慕】122 ケイボ 心を寄せてしたふ。思慕の情を寄せる。〔漢書、司馬相如傳上、一坐盡傾、注〕師古曰、皆傾二慕其風采一也。〔鮑照、擬古詩〕賓僕遠傾慕。〔北史、蕭歸傳〕天子矚目、百僚傾慕。

【傾蹦】123 ch'ing¹ pêng⁴ かたる。だます。

【傾蹐】124 ケイホク かたむきたふれる。〔宋書、王玄謨傳〕欲ニ其瞻謝傾蹐、以爲ニ歡笑一。

【傾沒】125 ケイボツ かたむき沈む。くつがへす。〔後漢書、靈思何后紀〕遂因ニ何氏一、傾ニ沒漢祚一焉。〔吳志、吾粲傳〕恐船傾沒。

【傾翻】126 ケイホン くつがへす。〔姚合、採ニ松華一詩〕今朝試上ニ高枝一採、不レ覺傾ニ翻仙鶴巢一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕將ニ銀確一傾翻。

【傾盆】127 ケイボン ❶盆をかたむける。〔劉基、村樂圖詩〕傾レ盆倒レ榼混ニ醯醬一。❷水鉢を覆す。雨の烈しく降る形容。覆盆。〔蘇軾、介亭餞ニ楊傑次公一詩〕前朝欲レ上已蠟屐、黑雲白雨如レ傾レ盆。

【傾陽】128 ケイヤウ かたむく太陽。〔杜甫、夔府書懷四十韻詩〕賞レ月延ニ秋桂一、傾陽逐ニ露葵一。

〖傾陽葵〗129 ケイヤウキ ひまはり。向日葵。花が日のある方に向くからいふ。轉じて、心を寄せて戀ひ慕ふ意。傾葵。〔張以寧、詩〕願將ニ一寸草一、化作ニ傾陽葵一。

【傾鎔】130 ch'ing¹ jung² 鎔解する。人民が納めた碎銀を溶解して、其の減り分を再徵收すること。字解の⓬を見よ。

【傾落】131 ケイラク かたむきおちる。傾墮。〔夏侯諶、東方朔畫贊〕榱棟傾落。〔晉書、刑法志〕大風之後、廟闕屋瓦、有ニ數枚傾落一。

【傾亂】132 ケイラン 傾けみだす。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕傾ニ亂聖朝一。〔後漢書、李通傳〕王莽篡レ漢、傾ニ亂天下一。〔吳志、陸凱傳〕傾ニ亂國政一。

【傾離】133 ケイリ はなればなれになる。〔陸機、弔ニ魏武帝一文〕居ニ常安之勢一、而終嬰ニ傾離之患一。

【傾淪】134 ケイリン かたむきしづむ。傾沒。〔蕭穎士、與ニ崔中書圓一書〕京邑傾淪、主上遷播。

【傾弄】135 ケイロウ かたむけもてあそぶ。〔晉書、刑法志〕孝武時、會稽王道子、傾ニ弄朝權一。

【傾惑】136 ケイワク 惑亂する。まどふ。〔漢書、外戚下、孝成趙皇后傳〕傾惑之過。〔易林〕佞幸傾惑。

【傾筐倒庋】137 ケイキヤウタウキ 有るものを悉く出すこと。款待の厚きをいふ。庋は食物を藏する棚。〔世說新語、賢媛〕王右軍郗夫人謂ニ二弟司空中郎一曰、王家見ニ二謝一、傾レ筐倒レ庋、見ニ汝輩來一、平平爾、汝可レ無レ煩ニ復往一。

【傾筐倒篋】138 ケイキヤウタウケフ 箱や籠の中のものをかたむけつくす。傾筐倒庋に同じ。

【傿】1039

一 エン オン 〔集韻〕於建切 願

二 エン エン 〔集韻〕於虔切 先

三 イン オン 〔集韻〕於靳切 問

小篆

一❶かけねをする。〔說文〕傿、引爲レ賈也、从レ人焉聲。〔段注〕引、猶ニ張ニ大之一、賈、今之價字、引爲レ賈、所謂豫價也。❷䁃(10－36856)に同じ。〔廣韻〕䁃、引爲レ價、傿、上同。二❶縣名。鄢(11－39614)に同じ。今の河內省柘城縣にあたる。〔集韻〕鄢、或从レ人。〔正字通〕傿、縣名、與レ鄢同。❷國の名。今、湖北省宜城縣の地。〔路史、國名記、高陽氏後〕傿、邔姓、今襄之宜域、楚之鄢都、一曰レ郢。❸姓。〔集韻〕傿、姓也。三よる。或は㥼(4－11092)・僊(1－1222)に作る。〔集韻〕傿、依止也、或作ニ㥼・僊一。

【傿縣】1 エンケン 縣名。漢、置く。故城は河南省柘城縣の北。傿は又鄢に作り、通じて鄢に作る。〔漢書、地理志上〕陳留郡、縣十七、傿。〔注〕應劭曰、鄭伯克ニ段於鄢一、是也。〔清一統志〕穎川有ニ鄢陵一、故屬ニ鄭地一、在ニ今開封鄢陵縣西北一、此陳留之傿、非也、應劭說誤。

【傿陵】2 エンリヨウ 縣名。漢、置く。故城は河南省鄢陵縣の西北。〔漢書、地理志上〕穎川郡、縣二十、傿陵。

〖傿陵侯〗3 エンリヨウコウ 漢、朱濞(6－14424‥510)の「封號。

【僌】1040

シフ 執(3－5193)の俗字。〔正字通〕僌、俗執字。

【僕】1041

サウ ゼウ 〔集韻〕士絞切 巧

長いさま。僕僕。〔集韻〕僕、長皃。

【僀】1042

テイ 偙(1－860)に同じ。〔集韻〕偙、或作レ僀。

【僃】1042′

ビ 備(1－967)の本字。

【僑】1043

一 タク チヤク 〔集韻〕陟革切 陌

二 タ チヤ 〔集韻〕展賈切 馬

一❶はばからない。〔集韻〕僑、無レ憚也。❷わるい。僑索。〔集韻〕僑、僑索、惡也。二ゆくさま。偒僑。〔集韻〕僑、偒僑、行皃。

【僁】1044

一 セツ セチ 〔集韻〕先結切 屑

二 シツ シチ 〔集韻〕息七切 質

小篆

一二❶こゑ。小ごゑ。〔說文〕僁、聲也、从レ人悉聲、讀若レ屑。〔爾雅、釋言〕僁、聲也。〔玉篇〕僁、小聲也。❷うめく。僁僁。〔玉篇〕僁、僁僁、呻吟也。❸僁(1－935)に同じ。〔集韻〕僁、或从レ屑。

【僂】1045

一 ロウ ル 〔集韻〕郎侯切 尤 ㄌㄡˊ lou²

二 ロウ ル 〔集韻〕郎豆切 宥

三 ル 〔集韻〕隴主切 麌

四 ル 〔集韻〕龍遇切 遇

五 リウ ル 〔辭海〕里有切 有

小篆

一二三四❶せむし。〔說文〕僂、尫也、从レ人婁聲、周公韤僂、或言背僂。〔莊子、達生〕見ニ痀僂者一。❷まげる。かがめる。〔廣雅、釋詁二〕僂、曲也。〔荀子、儒效〕雖レ有ニ聖人之知一、未レ能レ僂レ指也。〔注〕僂、屈也。❸つつしむさま。〔左氏、昭、七〕一命而僂。〔史記、孔子世家〕故鼎銘云、一命而僂、再命而傴、三命而俯。〔注〕集解曰、服虔曰、僂・傴・俯、皆恭敬之貌。❹いそぐ。はやい。數(5－13363)・速(11－38897)に通ず。〔說文通訓定聲〕僂、假借爲レ數、實爲レ速。〔公羊、莊、二十四〕夫人不レ僂、不レ可レ使レ入。〔注〕僂、疾也。❺すばしつこく働く。僂儸(11)を見よ。❻姓。婁(3－6384)に同じ。〔正字通〕僂、姓也、左傳、齊勇士僂堙。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕婁氏、亦作レ僂、風俗通云、邾婁之國、子孫或以レ婁爲レ氏。五ひつぎのおほひ。柳(6－14662)・霤(12－42396)に通ず。〔說文通訓定聲〕僂、假借爲レ柳、實爲レ霤。〔呂覽、節喪〕僂翣以督レ之。〔注〕僂、蓋也。

【僂傴】1 ロウウ 背を曲げる。せぐくまる。跼蹐。傴僂(1－1020‥13)に同じ。〔左氏、昭、七〕一命而僂、再命而傴、三命而俯、循レ牆而走、亦莫ニ余敢侮一。

【僂寠】2 ロウクウ 背が曲つて見すぼらしい。〔蔡邕、短人賦序〕其餘尫幺、劣厥僂寠。

【僂科】3 ロウクワ すばしこく働く。僂儸(11)を見よ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕沒查沒利謊僂科。

【僂句】4 ロウコウ 地名。寶龜を産する。一說に、龜の名。〔左氏、昭、二十五〕臧會竊ニ其寶龜僂句一。〔注〕僂句、龜所レ出地名。〔會箋〕僂句、只是龜名、古書中未レ見ニ地名ニ僂句一者上。「僂句、短醜。

【僂佝】5 ロウコウ 短小で醜いさま。僂垢。〔集韻〕僂、

【僂垢】6 ロウコウ 短小で醜いさま。僂佝に同じ。〔晉書、文苑、王沈傳〕脢胎者、以ニ無檢一爲ニ弘曠一、僂垢者、以ニ守意一爲ニ堅貞一。

【僂翣】7 リウサフ 棺のおほひとかざり。〔呂覽、節

喪〕世俗之行レ喪、載レ之以二大輴一、羽旄旌旗如レ雲、僂翣以督レ之、珠玉以備レ之、黼黻文章以飾レ之。〔注〕僂、蓋也、翣、棺飾也。

【僂指】8 ロウシ 速かにゆびをりかぞへる。速かに指す。屈指。僂は疾、又、曲げる。〔荀子、儒效〕雖レ有二聖人之知一、未レ能レ僂レ指也。〔注〕僂、疾也、言下雖二聖人一亦不上レ可二疾速指陳一。〔敬齋古今黈〕僂、曲也、未レ能レ僂レ指、言、未レ能下曲レ指以二一二一數上也。

【僂售】9 ロウシウ はやく賣る。僂は疾。〔荀子、儒效〕今有レ人二於此一、屑然藏二千溢之寶一、云云、食レ之不レ可レ食也、賣レ之不レ可二僂售一也。

【僂身】10 ロウシン 身をかがめる。せぐくまる。〔晏子、諫、上〕僂レ身而下レ聲。〔後漢書、和熹鄧后紀〕若竝レ時進見、則不二敢正坐離立一、同行則僂レ身自卑。

【僂儸】11 ロウラ ❶すばしつこく立ち働くこと。ずるくてすばしこいこと。〔五代史、劉銖傳〕銖謂二李業等一曰、諸君可レ謂二僂儸兒一矣。〔事物異名錄、品術、能事人〕按、僂儸、幹辨能事之稱。〔稱謂錄、兵、僂儸兒〕七修類藁、俗云、僂儸、演義謂、幹辦集事之稱、海篇訓二儸字一曰二健而不一レ德、據レ是、二說皆狡猾能レ事意也。❷盜賊の部下をいふ。〔西廂記、諸宮調、二〕遂喚二幾個小僂儸一。

【僂僂】12 ロウロウ 勉強しないさま。〔荀子、非十二子〕勞二苦事業之中一、則僂僂然、離離然。〔注〕僂僂、不二勉強一之貌。

【僂廝質斯】13 リウマチス 體の關節の痛む病氣。風疾。「リヨウマチ。

【備】1046 ビ 備（1－967）の本字。〔正字通〕備、備本字。

【僄】1047 ㊀ヘウ 〔集韻〕匹妙切 ㄆㄧㄠˋ p'iao4 嘯 ㊁ヘウ 〔集韻〕紕招切 蕭

小篆 ㊀㊁❶かるい。かろんずる。もと僄（1－1307）に作る。〔正字通〕僄、本作レ僄。〔說文〕僄、輕也、从レ人票聲。〔方言、十〕佻・僄、輕也、楚、凡相輕薄、謂二之相佻一、或謂二之僄一。❷すばやい。〔廣韻〕僄、僄狡、輕迅。〔漢書、谷永傳、僄輕、注〕師古曰、僄、疾也。❸つよい。剽（2－2160）・嫖（3－6637）に通ず。〔說文、僄、段注〕按、古或假レ剽爲レ之、僄、亦作レ嫖、霍嫖姚、是也。❹かるがるしく粗暴なこと。〔新方言、釋言〕今謂二人性情輕暴一爲レ僄。❺姿の輕妙なこと。〔新方言、釋言〕姿容輕妙、亦爲レ僄。

名乘 トシ。

【僄佼】1 ヘウカウ 身がるでつよい。〔後漢書、馬融傳〕僄佼課レ才、勁勇程レ氣。

【僄狡】2 ヘウカウ 輕くすばやい。輕くたけしい。〔後漢書、班固傳〕雖三輕迅與二僄狡一、猶愕眙而不二敢階一。〔注〕方言曰、僄、輕也、鄭玄注二禮記一曰、狡、疾也。〔班固、西都賦〕掎二僄狡一、扼二猛噬一。〔注〕翰曰、僄狡、捷獸猛而噬レ人。

【僄悍】3 ヘウカン すばやくあらあらしい。剽悍。〔史記、高祖紀〕項羽爲レ人、僄悍猾賊。

【僄弃】4 ヘウキ 自らかろんじすてる。〔荀子、脩身〕怠慢僄弃、則炤レ之以二禍災一。〔注〕僄、輕也、謂三自輕二其身一也。

【僄輕】5 ヘウケイ すばやくて身輕なこと。〔漢書、谷永傳〕崇二聚僄輕無レ義小人一、以爲二私客一。〔注〕僄、疾也。

【僄遫】6 ヘウソク すばやい。遫は速いこと。〔荀子、議兵〕輕利僄遫、卒如二飄風一。〔注〕言二楚人之趫捷一也、僄、亦輕也、遫與レ速同。

【僄勇】7 ヘウユウ 身輕で勇氣がある。〔史記、淮南衡山傳贊〕夫荆楚僄勇輕悍、好作レ亂。

【僅】1048 キン ギン 〔集韻〕渠吝切 ㄐㄧㄣˇ chin3 震

小篆 ❶わづか。わづかに。㋑わづかによくする。からうじて。やつと。〔說文〕僅、材能也、从レ人堇聲。〔段注〕材、今俗用之纔字也。〔呂覽、遇合〕僅至二於魯司寇一。〔注〕僅、猶レ裁。〔舊唐書、僖宗紀〕克用踰レ垣僅免。㋺すこし。〔廣韻〕僅、少也。〔集韻〕僅、劣也。〔公羊、桓、三〕僅有レ年也。〔注〕僅、猶レ劣也。〔戰國、秦策〕僅以救二亡者一。〔注〕僅、猶レ裁。㋩ほとんど。なんなんとする。ちかい。〔說文、僅、段注〕唐人文字、僅、多訓二庶幾之幾一。〔杜甫、泊二岳陽樓下一詩〕山城僅百層。❷あまり。のこり。〔廣韻〕僅、餘也。❸或は堇（3－5212）・勤（4－9504）に作る。〔集韻〕僅、或作レ勤、亦省。〔漢書、地理志下〕豫章出二黃金一、然堇堇。〔注〕堇堇、少也、堇、讀曰レ僅。❹古は勤（4－7530）・廑（4－9456）に作る。〔一切經音義、一〕僅、古文勤・廑、二形同。

名乘 ヨシ。

【僅可】1 chin2 k'ê3 やつと云云することが出來る。ただ云云することが出來る。

【僅僅】2 キンキン 漸く。辛うじて。云云だけ。僅かに。堇堇。〔漢書、地理志下、豫章出二黃金一然堇堇、注〕師古曰、堇堇、少也、堇、讀曰レ僅。

【僅夠】3 chin3 kou4 辛うじて足る。

【僅少】4 キンセウ すこし。わづか。

【僅存】5 キンソン わづかに存する。やつと存する。からうじて存續する。〔荀子、彊國〕僅存之國、危而後戚レ之。〔史記、張儀傳〕四戰之後、趙之亡卒數十萬、邯鄲僅存。〔管子、輕重己〕宜レ芸而不レ芸、百艸皆存、民以僅存。〔春秋繁露、滅國上〕隱代レ桓立、所謂僅存耳。

【僅容旋馬】6 ワヅカニウマヲメグラスベシ 辛うじて馬を曳きかへすことが出來る。甚だ隘いことをいふ。〔宋史、李沆傳〕治二第封邱一、門內廳事前、僅容レ旋レ馬。

【僆】1049 ㊀レン 〔集韻〕力展切 銑 ㊁レン 〔集韻〕陵延切 先 ㊂レン 〔集韻〕連彥切 霰

㊀ふたご。雙生子。〔廣雅、釋詁三〕僆、孿也。㊁㊂❶およぶ。おひつく。僆僂。〔集韻〕僆、僆僂、行相及也。❷鷄のひな。〔爾雅、釋畜〕未レ成レ雞、僆。〔疏〕雛之稍長、未レ成レ雞者、名レ僆。

【僆子】1 レンシ 雙生の兒。ふたご。〔方言、三〕陳楚之間、凡人嘼乳而雙產、謂二之釐孳一、秦晉之間、謂二之僆子一。〔字彙〕僆、僆子、雙生子也。

【𠐊】1050 グ 〔集韻〕五矩切 麌

❶いたむさま。〔集韻〕𠐊、傷皃。❷勇があつて禮にかけたさま。𠐊𠐊。〔太玄經、遇〕𠐊𠐊兒人遇レ雨。〔注〕𠐊𠐊、勇而無レ禮貌。❸大きい。俁（1－662）に同じ。〔集韻〕俁、大也、或作レ𠐊。

【僇】1051 ㊀リク ロク 〔集韻〕力竹切 ㄌㄨˋ lu4 屋 ㊁リウ ル 〔集韻〕力救切 宥

小篆 ㊀❶はぢ。はづかしめる。〔史記、楚世家〕僇二越大夫常壽過一。〔注〕索隱曰、僇、辱也。❷ころす。戮（5－11655）に同じ。〔集韻〕戮、說文、殺也、古作レ僇。〔大學〕辟則爲二天下僇一矣。〔荀子、非相〕爲二天下大僇一。〔注〕僇、與レ戮同。❸行動のゆるやかなさま。〔廣韻〕僇、癡行。㊁❶やまひ。又、やむ。一說に、行動の遲くゆるやかなさま。〔說文〕僇、癡行僇僇也、从レ人翏聲、讀若レ雡。〔桂注〕僇、通作レ戮、釋詁、戮、病也、馥謂、癡亦病也。〔徐灝箋〕行動遲緩、蓋卽癡行僇僇之義。❷いささか。し

ばらく。〔説文〕僇、一曰、且也。〔段注〕卽今所レ用聊字、聊者耳鳴、僇其正字、聊其假借字也。

参考 熟語は戮(5－11655)を併せ見よ。

【僇尸】1 リクシ 刑戮を蒙つた屍。戮尸。僇胔。〔晏子、諫、下〕朽而不レ斂、謂二之僇尸一。

【僇死】2 リクシ 刑罰によつて殺す。戮死。〔管子、君臣上〕有レ過者、罰レ之以二廢亡之辱、僇死之刑一。

【僇胔】3 リクシ 刑罰を蒙つた屍。僇尸に同じ。〔晏子、諫、下〕内二嬖妾於僇胔一。

【僇辱】4 リクジョク 罰し辱かしめる。戮辱。〔史記、蔡澤傳〕天下以二其君父一爲二僇辱一。〔論衡、順鼓〕笞擊僇辱、以滅二其變一。

【僇辱之人】5 リクジョクノヒト 刑餘の人。僇人。〔韓非子、八經〕僇辱之人近習曰二狎賊一。

【僇人】6 リクジン 罪人。戮人。僇辱之人に同じ。〔柳宗元、始得二西山一宴遊記〕自下余爲二僇人一居中是州上、恆惴慄。

【僇笑】7 リクセウ はづかしめ笑ふ。〔史記、魯仲連傳〕以二萬乘之國一被レ圍二於趙一、壞削主困、爲二天下僇笑一。

【僇僇】8 リウリウ 病むさま。一説に、行動の遲くゆるやかなさま。〔説文〕僇、癡行僇僇也。〔桂注〕僇、通作レ戮、釋詁、戮、病也、馥謂、癡亦病也。〔徐灝箋〕行動遲緩、蓋卽癡行僇僇之義。

【僇力】9 リクリョク 力を合せる。戮力。〔淮南子、人閒訓〕請與レ公僇レ力一レ志、悉率二徒屬一而必以滅二其家一。〔史記、商君傳〕僇二力本業一、耕織致二粟帛一多者、復二其身一。

【僈】1052 バン マン 〔集韻〕莫晏切 諫 ㄇㄢˋ man4

一ゆるい。〔集韻〕僈、舒遲也。二かろんずる。あなどる。〔荀子、非十二子〕上二功用一大二儉約一而僈二差等一。〔注〕僈、輕也。三おこたる。或は慢(4－11110)に作る。〔集韻〕僈、説文、惰也、或作レ慢。〔荀子、不苟〕君子寛而不レ僈。〔注〕僈、與レ慢同、怠惰也。四をかす。みだす。けがす。漫(7－18166)に通ず。〔荀子、榮辱〕汗僈突盜、常危之術也。〔注〕僈、當レ爲レ漫、水冒レ物、謂二之漫一。五嫚(3－6644)に通ず。〔正字通〕僈、與レ嫚通。六古は㬎(5－14320)に作る。〔五音集韻〕㬎、古文僈。

【僈楛】1 マンコ みだら。〔荀子、富國〕其禮儀節奏也、芒軔僈楛、是辱レ國已。〔注〕僈、與レ慢同、楛、不二堅固一也。

【偋】1053 一ヘイ ビヤウ 〔集韻〕毗正切 敬 二ヘイ ヒヤウ 〔集韻〕必郢切 梗

小篆

一一いやしいすまひ。〔説文〕偋、僻寠也、从レ人屛聲。〔段注〕寠者、無レ禮之居也。二人のゐない所。又、かはや。〔廣韻〕偋、隱僻也、無レ人處、字統云、廁也。二一しりぞける。屛(4－7734)に通ず。〔荀子、榮辱〕恭儉者偋二五兵一也。〔注〕偋、當レ爲レ屛、卻也。二こまかなさま。〔集韻〕偋、偋倖、密皃。

【僉】1054 セン 〔集韻〕千廉切 鹽 ㄑㄧㄢ ch'ien1

小篆

一みな。ことごとく。ともに。多く。〔説文〕僉、皆也、从レ亼从レ吅从レ从、虞書曰、僉曰、伯夷。〔爾雅、釋詁〕僉、皆也。〔方言、七〕僉、皆也、自レ山而東、五國之郊、曰レ僉。〔方言、十二〕僉、夥也。〔小爾雅、廣言〕僉、同也。〔廣雅、釋詁二〕僉、多也。〔楚辭、天問〕僉曰何憂、何不レ課行レ之。〔注〕僉、衆也。二多くの人が共にいふ。多くの人が意見を出して相談する。〔正字通〕僉、衆共言レ之也。三えらぶ。僉派(13)を見よ。四いひすぎる。〔廣雅、釋言〕僉、過也。〔方言、一〕自レ關而西、秦晉之閒、凡人語而過、謂二之遍一、或曰レ僉。五はげしい。〔方言、十二〕僉、劇也。六からさを。刈つた穀物の穗を打つ具。〔方言、五〕僉、宋魏之閒、謂二之欇殳一。〔注〕僉、今連架、所二以打一レ穀者。七官名。簽(8－26614)に通ず。僉院(2)を見よ。八古は⿱僉⿰僉僉(1－1335)に作る。〔康熙字典〕僉、古文⿱僉⿰僉僉。九姓。〔萬姓統譜〕僉、見二姓苑一、僉陽、汝陽人、成化閒、邢臺縣教諭。

解字 會意。亼・吅・从の合字。亼は、相集まるさま、吅は、驚嘑(おどろき叫ぶ)、从は、相ゆるす。人集り相さけんでしたがふこと。故に皆の意とす。又多いとし、假借して欇殳(からさを)・過(言ひすぎる)の意とす。〔説文、僉、段注〕釋詁曰、僉咸胥、皆也、吅驚嘑也、从相聽也。

【僉押】1 センアフ 連名で花押する。〔通俗編、政治、僉押〕南史、故事府州部論レ事、皆籤前直敍二所レ論之事一、後云二謹籤具日一、下又云二某官籤一、按、籤卽僉押之僉、古今字變耳。

【僉院】2 センヰン 官名。僉は簽・籤に通ずる。宋に簽書樞密院事・同簽書樞密院事の官があつたが、元は之に因つて宣政院・宣徽院・大常禮儀院・太醫院等に皆僉院・同僉の官を置いた。僉院は卽ち宋の簽書院事、同僉は卽ち宋の同簽書院事にあたる。明代には、また都察院僉都御史を以て僉院とした。金には簽三司事及び簽大宗政府事等の官があるが、僉府僉司の名がない。ただ元の羣玉內司に僉事があつた。簽院(8－26614・4)を見よ。〔續文獻通考、職官考、樞密院〕金樞密院、掌二凡武備機密之事一、使副使簽書院事、同簽院事各一人、元樞密院、掌二天下兵甲機密之務一、凡宮禁宿衞、邊庭軍翼、征討戍守、簡閱差遣、舉功轉官、節制調度、無レ不レ由二之官一、有二知院六人、同知四人、副樞僉院、同僉院、判參議各二人一。

【僉運】3 センウン 僉派せられた漕運の各員をいふ。〔六部成語、戶部、僉運、注解〕僉派漕運各員也。

【僉解】4 センカイ 書きつけをつけて送る。〔福惠全書、錢穀部、解給〕須下選二擇殷實老成胥役一僉解上。

【僉議】5 センギ 一皆の者が相談する。一同で評議する。衆議。僉謀。〔南史、蔡凝傳〕格以二僉議一。〔胡銓、上二高宗一封事〕令三臺諫從臣、僉二議可否一。二ただす。しらべる。さぐる。調査。審問。探偵。

【僉載】6 ch'ien1 tsai4 雜報。取混ぜて登載する。

【僉事】7 センジ 官名。一に簽事に作る。宋には簽書といひ、官署の公事を判斷することを掌る。金には按察司僉事を置き、僉事の名、此より始まる。以後、按察使の屬官として、檢察事務を掌る。清代に至つて廢す。民國では、中央各部局の官。參事の下に位する。舊制各部の郎中員外郎の如きものである。〔續文獻通考、職官考、按察司〕元提刑按察司、國初立、後改爲二肅政廉訪司一、凡二十二道、毎道使副使各二人、僉事四人、明提刑按察使司、按察使一人、副使・僉事無二定員一、云云、布政司、副使・僉事、分レ道巡二察其兵備一。

【僉取】8 センシュ えらびとる。〔六部成語、兵部、僉取兵夫、注解〕服二役兵丁一之人夫、係下由二帶兵官一行二文地方官一僉派取用上。

【僉授】9 センジュ ことごとく授ける。〔江淹、爲二蕭太傅一讓二劍履殊禮一表〕哲后所二以僉授一、貞臣所二以愼荷一。

【僉屬】10 センショク 多くの人が望を寄せる。〔白居易、除二韓皐東都留守一制〕不レ足下允二僉屬一而副中重寄上也。

【僉套】11 センタウ 用向の書附をいれた袋。〔福惠全書、蒞任部、發各告示〕吏書傳二送僉套、或緊急文稿一。

【僉同】12 センドウ みなおなじ。衆人が贊同する。〔書、大禹謨〕朕志先定、詢謀僉同。

【僉派】13 センパ えらんで派遣する。〔六部成語、兵部、僉派、注解〕挑選著派レ兵之意。

【僉望】14 センバウ 衆人の期待。〔白居易、除二裴垍中書侍郎同平章事一制〕宜下登二中樞一以副中僉望上。

【僉撥】15 センパツ そろへてだす。〔福惠全書、筮仕部、

待接役〕本治吏書頭役、公議僉撥。

【僉判】16 センパン 官名。簽判(8－26614・・24)に同じ。〔剪燈餘話、秋千會記〕奄都刺爲二僉判一。

【僉票】17 センペウ 奉行の方へとつておく願書。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕僉票必伊心腹。

【僉簿】18 センボ 名簿。〔福惠全書、蒞任部、謹僉押〕有二牌票一、不レ登二僉簿一者、此卽欲三騙レ硃偸レ印、私行二嚇詐一者也。

【僉謀】19 センボウ 多くの人が相談する。又、多くの人の相談。僉議。〔賈公彥、儀禮正義序〕僉謀已定、庶レ可レ施矣。

【僉名】20 センメイ 連名。〔福惠全書、雜課部、當稅〕僉名領レ批。

【僊】1055

セン 〔集韻〕相然切 ㄒㄧㄢ hsien¹ [先]

小篆

❶やまびと。仙人。もと僊(1－1314)に作る。〔正字通〕僊、本作レ僊。〔說文〕僊、長生僊去、从二人䙴一、䙴亦聲。〔段注〕僊去、疑當レ爲二䙴去一、升レ高也、長生者䙴去、故从二人䙴一、會意。❷まふさま。僊(3)の❶を見よ。❸輕くしたがふさま。〔管子、宙合〕適善、備也、僊也。〔注〕僊、輕順貌。❹仙(1－374)に同じ。〔正字通〕僊、同レ仙。❺姓。〔萬姓統譜〕僊、見二姓苑一。

解字 會意形聲。人と䙴との合字。䙴はまた聲。䙴は高く升る意。故に長生して高く天に升る人、卽ち仙人をいふ。字解の❶を見よ。

參考 熟語は仙(1－374)を併せ見よ。

【僊海】1 センカイ 青海の古名。仙海。〔漢書、地理志下〕金城郡臨羌、西北至二塞外一、有二西王母石室僊海鹽池一。

【僊掌】2 センシャウ 峯の名。仙人掌(1－374・・178)の❻に同じ。〔皇甫曾、晚至二華陰一詩〕雲霞僊掌出、松柏古祠深。

【僊僊】3 センセン ❶舞をまふさま。仙仙。〔廣雅、釋訓〕僊僊、舞也。〔正字通〕僊、僊僊、舞貌。〔詩、小雅、賓之初筵〕屢舞僊僊。〔傳〕僊僊、舞也。❷起つたり坐つたりするさま。〔莊子、在宥〕僊僊乎歸矣。〔注〕僊僊、坐起之貌。

【僊蟾】4 センセン 動物の名。あをとかげ。蛤蚧(10－33023・・1)の別名。〔本草、蛤蟹〕釋名、蛤蠏、僊蟾、時珍曰、蛤蚧、因レ聲而名、僊蟾、因レ形而名。

【僊陀】5 センダ 佛寺をいふ。仙陀。〔藝林伐山〕佛寺曰二僊陀一、又曰二仁祠一、又曰二寶坊一、又曰二香阜一、又曰二柰園一。

【僊人】6 センニン 仙人。羽客。〔史記、封禪書〕公孫卿候二神河南一、言レ見二僊人跡緱氏城上一。〔李白、送三王屋山人魏萬還二王屋一詩〕僊人東方生、浩蕩弄二雲海一。〔和漢三才圖會、人倫類、僊人〕僊人、釋名云、老而不レ死曰レ僊、遷入レ山、故其字傍作二遷省一、又作レ山。

〔僊人掌〕7 センニンシャウ 仙人が掌を以て盤をささげてゐる形に象り、甘露を受けるやうに作つた器物。仙人掌。〔漢書、郊祀志上〕作二柏梁・銅柱・承露・仙人掌之屬一矣。〔注〕蘇林曰、僊人以二手掌一擎レ盤承二甘露一。

【僊風】8 センプウ 仙人の起す風。〔沈約、擬風賦〕此蓋羽客之僊風。

【僊音燭】9 センオンショク 火をつけると響を出す燭。〔清異錄、器具〕同昌公主薨、帝以二僊音燭一賜二安國寺一、冀レ追二冥福一、其狀如二高層露臺一、雜レ寶爲レ之、花鳥皆玲瓏、臺上安レ燭、旣燃點、則玲瓏者皆動、丁當清妙、燭盡絕レ響。

【僋】1056

[一] タン トン 〔集韻〕郎紺切 [勘]

[二] タン トン 〔集韻〕他含切 [覃]

[三] タン トン 〔集韻〕他感切 [感]

[四] ラン 〔集韻〕郎紺切 [勘]

[一]❶のびるさま。〔廣韻〕僋、僋伸皃。❷淨くない。又、老いて役にたたない。僋侏(1)の❶❷を見よ。❸おろかなさま。〔集韻〕僋、一曰、癡皃。[二]おろかなさま。僋傪(2)を見よ。[三]しまりがない。〔集韻〕僋、無レ檢。[四]❶[一]の❶❷に同じ。〔廣韻〕僋、僋伸皃、又僋侏、不レ淨。❷[一]の❸に同じ。〔集韻〕僋、僋侏、癡皃。

【僋侏】1 タンサン ランサン ❶老いて役にたたない者。〔玉篇〕僋、僋侏、老無二宜適一也。❷淨くない。〔廣韻〕僋、僋侏、不レ淨。❸おろかなさま。〔集韻〕僋、僋侏、癡皃。

【僋傪】2 タンサン おろか。〔集韻〕僋、癡謂二之僋傪一。

【〓】1057

チョク 陟(11－41659)の古字。〔說文〕陟、〓、古文陟。〔玉篇〕〓、古文陟。

【〓】1058

スイ 衰(10－34127)の古字。〔集韻〕衰、古作レ〓。

【〓】1059

ケイ ❶〓(1－1184)の譌字。〔正字通〕〓、俗作レ〓、加レ人作レ〓、非。❷熒(7－19217)に同じ。〔康熙字典〕〓、與レ熒同。

【〓】1060

ヨウ 〔集韻〕余陵切 [蒸]

をさめる。〔集韻〕〓、理也。

【〓】1061

ヨク 安らかなさま。億(1－1279)の誤字。〔荀子、儒效〕〓然若二終身之虜一、而不三敢有二他志一、是俗儒者也。〔注〕〓、字書無レ所レ見、蓋環繞囚拘之貌、莊子曰、皖然在二纏繳之中一矣。〔集解〕王念孫曰、〓、蓋億字之誤、說文、億、安也、從レ人意聲、左傳・國語通作レ億、億行而億廢矣、億然、安然也、言、俗儒居二人國中一、苟二圖衣食一、安然若四將レ終レ身而不三敢有二他志一也。

【〓】1062

ギ 義(9－28504)の古字。〔字彙補〕〓、古文義字、白〓、八駿名。

【〓】1063

セフ 偼(1－784)に同じ。〔集韻〕偼、或作レ〓。

【〓】1064

トウ 倲(1－801)に同じ。〔字彙補〕〓、同レ倲。

【〓】1065

ビ ミ 〔玉篇〕母彼切 [紙]

ない。〔玉篇〕〓、無也。

【〓】1066

ゲウ 〔集韻〕倪弔切 [嘯]

おろかなさま。倜〓。〔集韻〕〓、倜〓、癡皃。〔篇海〕〓、倜〓、癡貌。

【〓】1067

チ 〔字彙補〕東基切 [支]

おもいさま。〔字彙補〕〓、重貌。

【〓】1068

イ 〔字彙補〕余時切 [支]

あらはれる。〔字彙補〕〓、彰也。

【〓】1069

タク 倬(1－794)の本字。〔正字通〕倬、本作レ〓。

【〓】1070

ケン 義未詳。〔字彙補〕〓、音蹇。

【〓】1071

エン 義未詳。〔字彙補〕〓、音偃。

【〓】1072

音義未詳 〔字彙補〕〓、音無レ考、見二穆天子傳一。

【〓】1073

カ 可(2－3245)に同じ。〔字彙補〕〓、同レ可。

【侖】1074 クヮイ 義未詳。〔海篇〕侖、音會。

【僟】1075 キ 義未詳。〔海篇〕僟、音饑。

【僧】1076 ソウ 僧(1－1117)の俗字。〔正字通〕僧、俗作ㇾ僧、非。

【傘】1077 サン 傘(1－966)の俗字。

【傪】1078 ザン 傪(1－1296)の略字。

【働】1079 ドウ 〔中華大字典〕讀ㇾ之若ㇾ動。 ㄉㄨㄥˋ tung⁴

はたらく。はたらき。㊀つとめる。せいだす。かせぐ。行ふ。㊁つとめぶり。㊂かせぎ。㊃手腕。技術。てがら。㊄他物を動かし、又は變性させる力。作用。

參考 本、國字であるが、中國でも一時用ひた。〔中華大字典〕働、日本字、吾國人通讀ㇾ之若ㇾ動。

【働者】1 ハタラキモノ よく稼ぐ人。

【働振】2 ハタラキブリ 仕事のしぶり。

【働蜂】3 ハタラキバチ 蜜蜂の一種。巢を造ることや蜜集めなどする蜂。

【傍】1080 ボウ 傚(1－859)に同じ。〔字彙補〕傍、與ㇾ傚同。

十二畫

【侳】1081 スイ 倕(1－770)の本字。〔正字通〕侳、倕本字。

【傲】1082 ヘツ ベチ 〔集韻〕蒲結切 屑

衣服のひらめくさま。傲僁。〔集韻〕傲、傲僁、衣服婆娑皃。

【僎】1083 ㊀セン ゼン 〔集韻〕鶵免切 ㄓㄨㄢˋ chuan⁴ 銑 ㊁セン ゼン 〔集韻〕雛戀切 霰 ㊂シュン 〔廣韻〕將倫切 眞

小篆 ㊀㊁㊀**そなへる。**もと僎(1－834)に作る。〔正字通〕僎、本作ㇾ僎。〔說文〕僎、具也、从ㇾ人𢁘聲。〔段注〕具者、共置也。㊁**かず。かぞへる。**〔增韻〕僎、數也。㊂**ととのへる。**〔增韻〕僎、整也。㊃**よい。えらぶ。**詮(10－35435)に通ず。〔論語、先進〕異㆓乎三子者之撰㆒。〔釋文〕撰、鄭作ㇾ僎、讀曰ㇾ詮、詮之言、善也。㊄通じて撰(5－12753)に作る。〔集韻〕僎、通作ㇾ撰。㊅或は僔(1－844)に作る。〔集韻〕僎、或作ㇾ僔。㊂**鄕飮酒の際、大夫の身分となつた鄕人が、主人を助けて禮を行ふ者。**遵(11－39118)に通ず。〔禮、少儀〕介爵・酢爵・僎爵、皆居ㇾ右。〔注〕古文禮、僎作ㇾ遵、遵、謂㆘鄕人爲㆓卿大夫㆒、來觀ㇾ禮者㆖。

【像】1084 ㊀シャウ ザウ 〔集韻〕似兩切 ㄒㄧㄤˋ hsiang⁴ 養 ㊁ヤウ 〔集韻〕弋亮切 漾

小篆 ㊀㊀**にる。にせる。かたどる。**〔說文〕像、侶也、从ㇾ人象聲、讀若㆓養字之養㆒。〔易、繫辭下〕象者像也。〔釋文〕像、擬也。〔增韻〕像、摹效也。㊁**かたち。やうす。**〔曹植、洛神賦〕骨像應ㇾ圖。㊂**似すがた。ゑすがた。**〔南史、阮孝緒傳〕供㆓養石像㆒。〔高適、信安王幕府詩〕帝思㆓麟閣像㆒、臣獻㆓栢梁篇㆒。㊃**したがふ。**〔淮南子、覽冥訓〕驕ㇾ主而像㆓其意㆒。〔注〕像、隨也。㊄**のり。**〔楚辭、九章、橘頌〕置以爲ㇾ像。〔注〕像、法也。㊅象(10－36372)に通ず。〔易、繫辭下〕象者像也。〔釋文〕像、孟・京・虞・董・姚作ㇾ象。㊁**うつす。**〔集韻〕像、寫也。

名乘 カタ。ノリ。スヱ。ミ。

解字 會意形聲。人と象との合字。象はまた聲。象と同じく、象は之を意想してその形象を考へ得るから、かたち、又かたどるとし、更に似る、似せる意とする。段注本說文は从ㇾ人象聲に作り形聲字とする。〔說文、像、从ㇾ人象聲、段注〕鉉本云、从ㇾ人从ㇾ象、象亦聲、此蓋用㆓韓非語㆒竄改也、今依㆓韵會所ㇾ據小徐本㆒。〔說文通訓定聲〕像、象也、从ㇾ人从ㇾ象、象亦聲、云云、或曰、此實象之別字。

參考 康熙字典は像に作る。

【像意】1 ザウイ 思ふ存分。〔燕子箋、誤畫〕剛剛喫得像意。〔李漁、玉搔頭傳奇〕纔得㆓像意㆒。

【像經】2 ザウキヤウ 佛 佛像と經典。〔順權方便經、下〕所在土地、逮㆓得聽服如ㇾ是像經㆒。

【像化】3 ザウケ 佛 像法一千年間の敎化をいふ。〔大唐西域記、序〕像化之跡東歸。

【像形】4 ザウケイ 形をかたどる。似たかたち。かた。象形。〔紅樓夢、十七回〕皆像形奪ㇾ名。

【像型】5 ザウケイ 鑄造のかた。像の模型。

【像敎】6 ザウケウ 偶像を崇拜する宗敎。偶像敎。佛敎をいふ。〔渚宮遺事〕長沙寺有㆓阿育王像㆒、每㆓南朝大事有㆒㆓災役㆒、必先流ㇾ汗數日、自㆓像敎㆒以來、最爲㆓靈應㆒。

【像姑】7 ザウコ 少年俳優。相公(8－23151··94)に同じ。〔朝市叢載〕詠㆓像姑車㆒詩曰、斜街曲巷趁㆓香車㆒、隱約雛伶貌似ㇾ花、應ㇾ怕路人爭看殺、簾垂一幅子兒紗。

【像贊】8 ザウサン 畫像の上の題讚。像讚。〔後漢書、應劭傳〕各上㆓前人像贊㆒。〔梁昭明太子、文選序〕美ㇾ終則誄發、圖ㇾ像則贊興。

【像讚】9 ザウサン 像贊に同じ。

【像始】10 ザウシ 佛 像法の始。像法の㊀を見よ。〔讚阿彌陀偈〕本師龍樹摩訶薩、誕㆓形像始㆒、理㆓頹綱㆒。

【像似】11 ザウジ 似る。似せる。〔歷代名畫記〕衆皆謹㆓于像似㆒、我則脫㆓落其凡俗㆒。

【像事】12 hsiang⁴ shih⁴ ふさはしい。適當な。

【像生】13 ザウセイ ㊀造花。像生花を見よ。㊁說唱を藝とする婦女。〔西湖繁勝錄〕選㆘像生有㆓顏色㆒者三四十人㆖、戴㆓冠子花朶㆒、着㆓豔色衫子㆒。

【像生花】14 ザウセイクワ 錦などで造つた花。造花の一種。〔夢粱錄、四司六局筵會假賃〕果子局、掌㆓裝簇飣盤看果・時新水果・南北京果・海腊肥脯臠切・像生花果・勸酒品件㆒。

【像生兒】15 ザウセイジ 人まねをすること。〔紅樓夢、三十五回〕不ㇾ用ㇾ做㆓這些像生兒㆒。

【像皃】16 hsiang⁴ mao⁴ 容貌。顏容。

【像皮】17 hsiang⁴ pʻi² ゴム。橡皮(6－15564··8)に同じ。

【像片】18 hsiang⁴ pʻien⁴ 寫眞。

【像法】19 ザウボフ 佛 ㊀正像末三時の一つ。像は似。其の時期の區分には異說があるが、普通、佛滅後五百年の後、一千年の間に行はれる正法に似た佛法の行はれる間をいふ。〔嘉祥法華義疏、四〕三佛去ㇾ世久、道化訛替、謂㆓像法時㆒。㊁像敎の法。卽ち佛法。〔舊唐書、高祖紀〕自㆓覺王遷謝㆒、像法流行。〔宋書、謝靈運傳〕析㆓曠劫之微言㆒、說㆓像法之遺旨㆒。㊂佛像と經典。像經。〔唐書、高麗國傳〕以㆓像法㆒往。

【像法轉時】20 ザウボフテンジ 正法から像法に移る時機。〔藥師經〕令㆓諸聞者業障消除㆒、爲ㇾ欲㆔利㆓樂像法轉時諸有情㆒故。〔太平記、十八、比叡山開闢事〕像法轉時、利㆓益衆生㆒。

【像樣】21 hsiang⁴ yang⁴ 型の通り。見本のやうに。

【像類】22 シヤウルイ かたどる。〔論衡、非韓〕作㆓爲操止㆒、像㆓類賢行㆒。

【像甚麼】23 hsiang⁴ shen² mê 云云のやうなもの。云云の如きもの。

【像篇兒】24 hsiang⁴ pʻien¹ êrh 寫眞。寫眞帖。

【像象管見】25 シヤウシヤウクワンケン 書名。九卷。明、錢一本撰。京・焦・管・郭の說、又、陳摶・李子才の義をとらず、專ら卦爻について象を求め、象につ

いて人事を明かにしたもの。篤實の說が多い。〔四庫提要、經、易類〕。

【像殺有个事】26 hsiang^4 sha^1 yü^3 kê shih^4 無價値の物を高貴なものと佯ることをいふ。上海・蘇州地方の語。

【⿰亻貳】1085 ジ

貳（10－36703）の俗字。〔正字通〕⿰亻貳、同レ貳、俗加レ人、非。

【⿰亻時】1086 チ

偫（1－888）に同じ。〔集韻〕偫、或作レ⿰亻時。

【僐】1087
一 セン ゼン 〔集韻〕上演切 銑
二 セン ゼン 〔集韻〕時戰切 霰

小篆（說文）

小篆（段注本）

小篆（通訓定聲）

一二 姿を作る。おつくりする。もと⿰亻譱（1－1329）に作る。〔正字通〕⿰亻譱、僐本字。〔說文〕⿰亻譱、作レ姿也、从レ人譱聲。〔段注〕隸作レ僐。〔說文通訓定聲〕僐、作二姿態一也、从レ人善聲。〔廣雅、釋言〕僐、態也。

【僑】1088
一 ケウ ゲウ 〔集韻〕渠嬌切 蕭 ㄑㄧㄠˊ ch'iao^2
二 ケウ 〔集韻〕擧夭切 篠

小篆

一 ❶高い。〔說文〕僑、高也、从レ人喬聲。〔段注〕與レ喬義略同、喬者、高而曲也、自三用爲二喬寓字一、而僑之本義廢矣。❷たび。旅中。出稼。出稼人。或は喬（3－7318）に作る。〔說文通訓定聲〕僑、字亦作レ喬。〔正字通〕僑、旅寓曰レ僑。〔小學問答〕問曰、說文、僑、高也、韓非子亡徵云、羇旅僑士、廣雅變作レ寄、不レ解二客寄何以稱レ僑、答曰、僑、耤爲二屐屩之屩一、地理巡行、非レ著レ屩、不レ可三涉二歷險阻一、故遊者亦蹻レ屩、引申卽名レ客曰レ屩矣。❸かりずまひ。たびやどりする。〔魏書、杜銓傳〕何緣復僑二居趙郡一。❹趫（10－37303）に通ず。僑蹻（5）を見よ。〔說文通訓定聲〕僑、叚借爲レ趫。❺姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕僑氏、風俗通、黃帝孫僑極之後。二 のびない。〔集韻〕僑、伕僑、不レ伸。

名乘 タカ。

【僑菴】1 ケウアン 明、李禎（廬陵の人）（6－14459・・607）の室名。

【僑客】2 ケウカク 遊歷の士。〔蜀志、法正傳〕爲二其州邑俱僑客者一所レ謗無レ行。

【僑肸】3 ケウキツ 春秋時代の鄭の子產と晉の叔向との二人。子產は公孫僑の字、叔向は羊舌肸の字。共に一代の賢才である。〔諸葛亮、與二兄瑾一書〕殷德嗣秀才、今之僑肸者也。

【僑居】4 ケウキヨ かりずまひ。寄寓。僑寓。〔魏書、杜銓傳〕何緣復僑二居趙郡一。〔韋應物、歲日寄二京師諸季端武等一詩〕獻歲抱二深惻一、僑居念二歸緣一。〔薛能、閒題詩〕八年藩翰似二僑居一。

【僑蹻】5 ケウキヨ ふるまふ。動作する。〔太玄經、玄告〕天僵健而僑蹻。〔注〕僑蹻、謂二動作一也。

【僑極】6 ケウキヨク 黃帝の孫。或は蟜極に作る。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕僑氏、風俗通、黃帝孫僑極之後。

【僑寓】7 ケウグウ かりずまひ。旅寓。僑居。〔唐語林、豪爽〕李元將評事及弟仲將、嘗僑二寓江都一。

【僑寓日人】8 ch'iao^2 yü^4 jih^4 jen^2 外國に居留してゐる日本人。

【僑軍】9 ケウグン 他の地方から來た客兵。遠征軍。〔宋書、武帝紀上〕彼僑軍無レ資、求レ戰不レ得。

【僑工】10 ch'iao^2 kung^1 海外に出稼する勞働者。

【僑裝】11 ch'iao^2 chuang^1 旅裝。旅仕度。僑裝撰行を見よ。

【僑裝撰行】12 ケウサウセンカウ たびじたくをして出掛ける。〔海錄碎事、人事、逆旅〕僑裝撰行、去レ國遐陟、李白文。

【僑札】13 ケウサツ 春秋時代の鄭の子產と吳の季札とをいふ。僑は子產の名。季札が鄭に聘し、子產と相見え、一見、舊相識の如くであつた故事。縞紵（8－27777・・18）を見よ。〔吳志、魯肅傳〕周瑜爲二居巢長一、將二數百人一、故過二候肅一、幷求二資糧一、肅家有二兩囷米一、各三千斛、肅乃指二一囷一與二周瑜一、瑜益知二其奇一也、遂相親結、定二僑札之分一。

【僑士】14 ケウシ 遊歷の人。〔韓非子、亡徵〕羇旅僑士、重帑在レ外。〔唐書、錢徽傳〕穀城令王郢、善接二僑士遊客一。

【僑商】15 ch'iao^2 shang^1 海外居留の商人。在留民。

【僑松】16 ケウシヨウ 王僑と赤松子。共に仙人。〔漢書、王褒傳〕呴噓呼吸如二僑松一。〔注〕師古曰、僑、王僑、松、赤松子、皆仙人也。

【僑人】17 ケウジン ❶他鄉に住居する人。他の地方に寄寓する人。寄寓者。僑士。〔隋書、食貨志〕晉元帝寓二居江左一、百姓之自拔南奔者、並謂二之僑人一。〔資治通鑑、梁紀〕廣陵僑人朱盛等。❷高い竿に足を繫いで跳舞する人。たかあし。〔列子、說符〕昔有下異二技于寡人一者上。〔注〕謂二先僑人一。〔桂馥、說文義證〕案、北伎人、足繫二高竿之上一、跳舞作二八僊狀一、呼爲二高橇一、當レ作二此僑一、亦作レ喬、山海經長股國郭注、或曰、有二喬國一、今伎家喬人、蓋象二此身一。

【僑置】18 ケウチ 甲地の地名を乙地に移すこと。〔晉書、地理志上〕元帝僑二置兗州一、寄二居京口一。〔南齊書、高帝紀上〕淮陰令整、字公齊、過レ江居二晉陵武進縣之東城里一、寓二居江左一者、皆僑二置本土一、加以二南名一、于レ是爲二南蘭陵人一也。

【僑胞】19 ch'iao^2 pao^1 外國に在留する同胞。

【僑民】20 ch'iao^2 min^2 海外居留民。居留民。海外出稼人。

【僑流】21 ケウリウ 移り流れる。〔宋書、謝晦傳〕義熙八年、土斷僑二流郡縣一。

【僑廬】22 ケウリヨ 假住居のいほり。〔張說、贈二趙侍御一詩〕險式壓二西湖一、僑廬對二南峴一。

【僑吳集】23 ケウゴシフ 書名。十二卷。元、鄭元祐撰。元祐は平江に四十年も流寓してゐたので、僑吳を以て集に名づけた。〔四庫提要、集、別集類〕。

【僑黃之人】25 ケウクワウシジン 清、傅山（1－939・・56）の號。

【僑黃眞人】26 ケウクワウシンジン 清、傅山（1－939・・56）の號。

【僑黃老人】27 ケウクワウラウジン 清、傅山（1－939・・56）の號。

【僑吳老人】28 ケウゴラウジン 清、段玉裁（6－16619・・75）の號。

【僑終蹇謝】29 ケウヲハリケンサル 僑は、鄭の子產。蹇は、秦の蹇叔。共に其の死を惜しまれた。名士の死を惜しむにいふ。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕豈唯僑終蹇謝、興レ謠輟レ相而已哉。〔注〕濟曰、僑、謂二子產一也、蹇、謂二蹇叔一也、終・謝、皆死也、子產死、鄭人興レ歌曰、我有二子弟一、子產誨レ之、我有二田疇一、子產殖レ之、子產而死、誰其嗣レ之、此則興レ謠也、秦相蹇叔死、秦人皆輟レ舂、而思二憶之一、相、送杵聲也。

【僑務委員會】30 ケウムヰヰンクワイ 民國十八年、國民政府が置いたもので、海外居留民の移殖保育等を掌理する委員會。

【僒】1089 キン ギン 〔集韻〕巨隕切 軫

❶とらはれのさま。くるしむ。〔賈誼、鵩鳥賦〕僒若二囚拘一。〔注〕善曰、僒、困拘之貌、良曰、僒、困也。❷まがる。せむし。或は⿰亻君（1－635）に作る。〔集韻〕僒、傴也、或省。❸せまる。さしせまる。窘（8－25519）に同じ。〔廣韻〕窘、急迫也、僒、上同。

【僓】1090
一 タイ ヅイ 〔集韻〕徒回切 灰
二 クワイ ケ 〔集韻〕呼乖切 佳
三 クワイ グワイ 〔集韻〕戶賄切 賄
四 タイ ツイ 〔集韻〕吐猥切 賄
五 クワイ グワイ 〔集韻〕胡對切 隊

小篆 一二三四五 ❶ならふ。みやびやか。〔説文〕僓、嫺也、从レ人貴聲。❷長いさま。〔説文〕僓、一曰、長皃。❸したがふ。すなほ。〔莊子、外物〕於レ是乎有二僓然而道盡一。〔注〕僓然無レ矜、遺レ形自得、道乃盡也。

【⿰亻集】1091 シフ 集（11－41974）に同じ。〔正字通〕⿰亻集、與レ集同。

【⿰亻渠】1092 キヨ ゴ 〔集韻〕求於切 魚 かれ。渠（7－17764）に同じ。〔集韻〕⿰亻渠、呉人呼レ彼之稱、通作レ渠。

【僔】1093 ソン 〔集韻〕祖本切 阮
小篆 ❶あつまる。〔説文〕僔、聚也、詩曰、僔沓背憎。❷おほい。〔廣韻〕僔、衆也。❸うやうやしい。つつしむ。〔玉篇〕僔、恭敬。〔荀子、仲尼〕主尊二貴之一、則恭敬而僔。❹うづくまる。蹲（10－37874）に通ず。僔夷（1）を見よ。❺噂（2－4286）に通ず。〔正字通〕僔、詩本作レ噂、噂・僔義通。

【僔夷】1 ソンイ うづくまる。蹲夷（10－37874・・2）に同じ。「也。

【僔僔】2 ソンソン おほいさま。〔廣雅、釋訓〕僔僔、衆也。

【僔沓】3 ソンタフ 集まつて色々のことを語る。僔は集まる。沓は言葉の多いさま。詩經、小雅、十月之交には、噂沓に作る。〔左氏、僖、十五〕詩曰、僔沓背憎、職競由レ人。〔注〕僔沓、面語。〔會箋〕僔、詩作レ噂、僔・噂古字同、聚語也、噂、亦作レ譐、沓、作レ喈、亦作レ諮、其字從レ口、或從レ言、其義一也。

【僕】1094
一 ホク ボク 〔集韻〕蒲沃切 ㄆㄨˊ p'u² 沃
二 ホク ボク 〔集韻〕歩木切 屋
三 ホク 〔集韻〕普木切 屋

小篆 古文 一二 ❶しもべ。めしつかひ。從者。〔説文〕僕、給レ事者、从二人業一、業亦聲。〔廣雅、釋詁一〕僕、使也。〔詩、小雅、正月〕幷二其臣僕一。〔箋〕人之尊卑有二十等一、僕第九、臺第十。〔禮、禮運〕仕二於家一曰レ僕。〔左氏、昭、七〕天有二十日一、人有二十等一、下所二以事レ上、上所二以共レ神也、故王臣公、公臣大夫、大夫臣士、士臣皁、皁臣輿、輿臣隸、隸臣僚、僚臣僕、僕臣臺。〔公羊、襄、二十七〕則是臣僕庶孽之事也。〔注〕僕、從者也。❷車の御者。〔詩、小雅、正月〕屢顧二爾僕一。〔箋〕僕、將レ車者也。〔國語、晉語七〕魏絳斬二其僕一。〔注〕僕、御也。❸ともがら。なかま。〔莊子、則陽〕是聖人僕也。〔注〕猶レ言二聖人之徒一也。❹やつがれ。ぼく。自己の卑稱。〔漢書、司馬遷傳〕僕非二敢如レ此也。〔司馬相如、子虛賦〕欲三夸レ僕以二車騎之衆一。〔注〕善曰、廣雅曰、僕、謂三附二著於人一、然自卑之稱也。❺つく。〔詩、大雅、既醉〕景命有レ僕。〔傳〕僕、附也。〔管子、地員〕累然如二僕累一。〔注〕僕、附也。❻つかさどる。〔史記、秦始皇紀〕僕射。〔注〕集解曰、僕、主也。❼かくす。〔左氏、昭、七〕作二僕區之法一。〔釋文〕僕、隱也、區、匿也、爲下隱二匿亡人一之法上也。❽うるさいさま。業（9－31164）に通ず。〔説文通訓定聲〕僕、叚借爲レ業。〔正字通〕僕、僕僕、煩猥貌。❾古は䑑（9－30090）に作る。〔説文〕僕、䑑、古文从レ臣。❿姓。〔萬姓統譜〕僕、周禮僕人之後、望出二河南一、又河南官氏志、僕蘭氏、改爲二僕氏一。三むらがり飛ぶさま。〔集韻〕僕、羣飛皃、莊子、蚉宝僕緣。

解字 會意形聲。人と業との合字。業は煩猥（わづらはしい）のさま、故に人の煩辱な事に從ふ者を僕とする。卽ち人に附いて其の役に從ふの、尊者に侍御する者等をいふ。臣僕・童僕皆この意。又假借して業（煩はしいさま）とする。▽（甲骨文）會意。入墨用の辛と、汚物を載せた其（箕）と、繫れた人との合字で、奴僕の意を表はす。

【僕右】1 ボクイウ 僕は王の車を御する御者、右はその車の右側にあつて非常に備へる勇力の士。〔周禮、秋官、條狼氏〕誓二僕右一曰レ殺。〔疏〕僕、大僕、與レ王同レ車、故大僕職云、軍旅贊二王鼓一、注云、佐レ擊二其餘面一、通三右與二馭及王四乘一也、右、謂下勇力之士在二車右一、備中非常上。

【僕役】2 ボクエキ しもべ。下男。〔後漢書、西南夷、板楯夷傳〕僕役箠楚、過二於奴虜一。

【僕緣】3 ボクエン つきよる。又、群りつく。〔莊子、人間世〕蚉宝僕緣。〔釋文〕向云、僕僕然蚉宝緣レ馬稠概之貌。〔集解〕王念孫云、僕、附也、言三蚉宝附二緣於馬體一也。

【僕歐】4 p'u² ou¹ 給仕。ボーイ。boy の音譯。

【僕圉】5 ボクギョ しもべ。うまかひ。べつたう。〔墨子、天志下〕丈夫以爲二僕圉胥靡一。

【僕御】6 ボクギョ しもべ。馭者。〔列子、湯問〕見二孔周一、執二僕御之禮一。〔史記、管晏傳〕今子長八尺、乃爲二人僕御一。〔石崇、王明君辭〕僕御涕流離、轅馬爲悲鳴。

【僕區】7 ボクク ❶亡命者をかくまふ。一説に、其の刑書の名。僕は隱、區は匿。僕區之法を見よ。❷p'u² ch'ü¹ 私。拙者。

【僕區之法】8 ボククノハフ 贓物の隱匿者を罰する法。〔左氏、昭、七〕芉尹無宇曰、吾先君文王、作二僕區之法一、曰、盜所レ隱レ器、與レ盜同レ罪。〔注〕僕區、刑書名也。〔會箋〕僕、當レ訓レ附、大雅既醉、景命有レ僕、傳云、僕、附也、是也、區、説文、藏隱也、从三品在二匸中一、品、衆也、僕區、謂下盜所二附藏一贓物上、卽下文盜所レ隱レ器、與レ盜同レ罪、是也、僕區、是刑書中之一法、非二刑書名一、故云二僕區之法一、後世謂二之盜窠一、止レ盜之法、在レ嚴二窠禁一。

【僕固】9 ボクコ ❶複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕僕固氏九姓、僕固部爲二金州都督一、或號二僕固一、廣德中、中書令、朔方節度、大寧郡王僕固懷恩叛逆、與二子瑒一並誅死。❷部落の名。鐵勒部落の一。今の甘肅省の西北。一名、僕骨。唐、金微都督府を置く。〔讀史方輿紀要、山西、外夷附考、蒙古〕金微山、在二陝西甘肅鎭東北一、云云、唐貞觀中、以二僕固部一置二金微都督府一、蓋以レ山名。

【僕固懷恩】10 ボクコクワイオン 唐の人。鐵勒部の人。都督を世襲し、戎情に通ず。安祿山の亂に郭子儀に從つて賊を討ち、兩京を復し、史朝儀を討平す。官は尙書左僕射、兼中書令、河北副元帥。封は太寧郡王。後、怨望を以て諸蕃を誘合して入寇し、鳴沙に至つて病を發し、靈武に還つて卒す。〔舊唐書、一百二十一〕・〔唐書、二百二十四上〕。

【僕姑】11 ボクコ 矢の名。又、鏷鍏に作る。〔左氏、莊、十一〕乘丘之役、公以二金僕姑一射二南宮長萬一。〔注〕金僕姑、矢名也。〔瑯嬛記〕因以二金僕姑一命レ之、自後魯之良矢、皆以レ此名。

【僕谷】12 ボクコク 晉の劉曜の僭號。〔晉書、劉曜載記〕北苑市三老孫機上レ禮求レ見レ曜、勒許レ之、機進二酒於曜一曰、僕谷王、關右稱二帝皇一。〔晉書、佛圖澄傳〕僕谷劬二禿當一、僕谷、劉曜胡位也。

【僕骨】13 ボクコツ 唐代の鐵勒部落の名。僕固。〔舊唐書、北狄傳〕至二武德初一、有二云云僕骨一。

【僕散】14 ボクサン 複姓。〔金史、國語解、姓氏〕僕散曰レ林。〔金史、僕散渾坦傳〕僕散渾坦、蒲與路挾懣人也。

【僕散揆】15 ボクサンキ 金の人。忠義の子。諡は武肅。官は西北路副招討・西南路招討・平章政事。封は濟國公。泰和中、宋人が來侵した時、右副元帥として之を禦ぎ、又大軍を總帥して南征し蔡を降す。〔金史、九十三〕。

【僕散端】16 ボクサンタン 金、猛安の人。諡は忠正。至孝。官は章宗の時、平章政事。貞祐中、南京留守。宣宗が南京に難を避けた時、左丞相兼都元帥となつた。〔金史、一百一〕。

【僕散安貞】17 金の人。揆の子。討賊の功を以て樞密副使となり、興定中、宋を伐つて之を破る。宋の壯士を獲るごとに釋して殺さなかつたので謀反を疑はれ、其の二子と共に殺さる。〔金史、一百二〕

【僕散渾坦】18 金、蒲與路挾懣の人。騎射を善くす。官は利涉軍節度使。移剌窩斡が反した時、行軍都統として之を長濼に破り、金紫光祿大夫を以て致仕す。〔金史、八十二〕

【僕散師恭】19 金、老海達葛の人。渾坦の弟。本名は忽土。官は宿衞長。海陵に內應して熙宗を弑し、海陵卽位の後、左副檢點・太子少師となる。寧德太后と異謀ありと疑はれて族滅せらる。〔金史、一百三十二〕

【僕散忠義】20 金、拔盧古河の人。諡は武莊。大略あり、好んで兵を談ず。官は皇統中、博州防禦使。女眞字及び古算法に精通す。世宗の時、尙書右丞となり、移剌窩斡の反軍を破り、尙書左丞に遷る。封は沂國公。尋いで左丞相兼都元帥に至る。〔金史、八十七〕

【僕使】21 しもべ。こづかひ。仕丁。〔易林〕陰陽失レ志、爲二人僕使一。

【僕廝】22 しもべ。こもの。〔福惠全書、庶政部、禁三淩二錮僕婢一〕若是買來僕廝、一言不レ合レ意便罵、一事不レ順レ心便打。

【僕車】23 しもべの車。〔史記、司馬穰苴傳〕斬二其僕車之左駙、馬之左驂一。

【僕豎】24 しもべ。〔晉書、郗超傳〕畜二僕豎一。

【僕從】25 しもべ。下男。從者。〔書、冏命〕其侍御僕從、罔レ匪二正人一。〔後漢書、單超傳〕其僕從皆乘二牛車一而從。

【僕臣】26 ㊀下臣。〔書、冏命〕僕臣正、厥后克正、僕臣諛、厥后自聖。㊁太僕(**3－5834**‥472)をいふ。僕人師。〔揚雄、太僕箴〕僕臣司駕、敢告二執皁一。

【僕人】27 ㊀貴人の側に侍して禮式を掌る者。〔儀禮、大射儀〕僕人正徒相二大師一。㊁しもべ。〔論衡、書解〕人無レ文、則爲二僕人一。〔柳宗元、始得二西山一宴游記〕遂命レ僕、(注、一本更有二人字一)過二湘江一緣二染溪一。

【僕人師】28 太僕(**3－5834**‥472)をいふ。僕臣。〔稱謂錄、太僕寺、僕人師〕禮記檀弓、卜人師扶レ右、鄭注云、卜、當レ爲レ僕、聲之悞也、釋文曰、卜、依レ注音僕、師、長也、謂二太僕一也。

【僕妾】29 下男と下女。僕婢。〔禮、雜記上〕君不レ撫二僕妾一。〔戰國、秦策〕賣二僕妾一售二乎閭巷一者、良僕妾也、出婦嫁二鄕曲一者、良婦也。〔史記、張儀傳〕坐二之堂下一、賜二僕妾之食一。

【僕妾之役】30 僕婢のする賤しい仕事。〔蘇軾、留侯論〕卒然相二遇於草野之閒一、而命以二僕妾之役一。

【僕妾爲二雀鼠一】31 雀と鼠とが互にあはれみ合はないやうに、下男と下女とは互にあはれみ合はない。〔顏氏家訓、兄弟〕僕妾之爲二雀鼠一、妻子之爲二風雨一、甚哉。

【僕遬】32 凡庸で才氣の乏しいさま。凡庸短才。凡才。小さい人物。樸遬(**6－15495**‥36)に同じ。〔漢書、息夫躬傳〕諸曹以下、僕遬不レ足レ數。〔注〕師古曰、僕遬、凡短之貌也。〔王先謙補注〕僕遬與二樸樕一、字異而義同、謂二其材小弱不一レ任レ用。

【僕賃】33 しもべとなつて給金をもらふ。又、其の給金。〔左氏、襄、二十七〕崔氏之亂、申鮮虞來奔、僕二賃於野一。〔韓愈、與二于襄陽一書〕朝夕芻米僕賃之資是急。

【僕程】34 火の神。祝融の輔佐神。〔越絕書、越絕計倪內經〕僕程佐レ之使レ主レ火。

【僕奴】35 いやしいもの。下男。〔陳與義、和二張規臣水墨梅一詩〕桃李依然是僕奴。

【僕僮】36 年少のしもべ。こもの。〔黃庭堅、衝レ雨向二萬載道中一得二逍遙觀一遂託宿戲題詩〕僕僮侍傴仄、涇渭淸濁混。〔方回、詩〕浪二費薪蔬一頑僕僮。〔柳貫、過二大野澤一詩〕組麗連二僕僮一。

【僕馬】37 しもべと馬。お供の衆をいふ。〔後漢書、宋意傳〕婚姻之盛、過二於本朝僕馬之衆一、充二塞城郭一。〔白居易、山路偶興詩〕筋力未二全衰一、僕馬不二至弱一。

【僕輩】38 われら。吾が輩。

【僕婢】39 下男と下女。僕妾。〔國史略、天智天皇〕事出二倉卒一、妃及二子一女、臣僕侍婢三十餘人從焉。

【僕夫】40 ㊀しもべ。車を御する者。〔詩、小雅、出車〕召二彼僕夫一、謂二之載一矣。〔傳〕僕夫、御夫也。〔左氏、襄、四〕獸臣司レ原、敢告二僕夫一。〔曹植、上二責レ躬應レ詔詩一表〕僕夫誓策。㊁馬を御する官。〔周禮、夏官、校人〕廄一僕夫。

【僕婦】41 p'u^2 fu^4 下女。下婢。

【僕僕】42 煩はしいさま。うるさいさま。僕僕爾。〔孟子、萬章下〕子思以爲、鼎肉使二己僕僕爾亟拜一也。〔集注〕僕僕、煩猥貌。「奔走する。

【僕僕道途】43 p'u^2 p'u^2 tao^4 t'u^2 風塵の中を

【僕僕風塵】44 p'u^2 p'u^2 fêng^1 ch'en^2 風塵の中を奔走する。又、旅行の煩はしさ。

【僕射】45 ㊀官名。秦に始まる。漢以後、之に仍る。古、射を重んじたので、射を善くする者を之に充てたから名づける。尙書僕射の類の如く領する所の事によつて號としたもの。其の後、尙書に左右僕射を分置し、委任漸く重く、唐宋には宰相の任として、天子を佐けて大政を議した。〔史記、秦始皇紀〕縛二衞令僕射一。〔漢書、百官公卿表上〕有二僕射一、秩比千石。〔文獻通考、職官考、僕射〕武太后改二僕射一爲二文昌左右相一、進レ階爲二從二品一、尋復二本階一、神龍初、復爲二左右僕射一、開元元年、改爲二左右丞相一、從二品、統二理衆務一、擧二持綱目一、總二判省事一。〔事物紀原、三省綱轄部、僕射〕秦官、史記始皇本紀有二僕射周靑臣一、是也、古者重レ武、以二善レ射者一掌レ事、故曰二僕射一、僕射者、僕二役於射一也、一云、僕、主也、古有二主レ射以督レ課、漢因二秦事一、自二侍中謁者博士將軍屯永巷一洎二尙書一、皆有レ之、成帝建始元年初、置二尙書五人一、一人爲二僕射一、此蓋其始也、獻帝建安四年、以二邵榮一爲二左僕射一、衞臻爲二右僕射一、置二左右一之始也。㊁山名。江蘇省無錫縣の西南。閶江口の內。漢の僕射、劉昌の墓があるから名づけた。一名、胥山。子胥が兵を屯した處といふ。又、子胥の廟があつたので廟渚ともいふ。今は訛つて白石山といふ。白石(**8－22678**‥644)を見よ。

【僕射陂】46 池の名。河南省鄭縣の東南。今、城湖といふ。〔唐書、地理志二〕管城有二僕射陂一、後魏孝文帝、賜二僕射李沖一、因以爲レ名、天寶六載、更二名廣仁池一、禁二漁採一。

【僕射山樵】47 淸、錢伯坰(**11－40563**‥421)の號。

【僕蘭】48 複姓。〔魏書、官氏志〕僕蘭氏、後改爲二僕氏一。

【僕旅】49 おともの者。〔陸雲、答二兄平原一書〕夕秣二乘馬一、朝整二僕旅一。

【僕虜】50 捕はれて召し使はれてゐる者。〔列子、周穆王〕吾晝爲二僕虜一。〔漢書、貨殖傳序〕雖レ爲二僕虜一、猶亡二慍色一。〔說苑、尊賢〕任三庖人釣屠與二仇讐僕虜一、非レ阿レ之也。

【僕累】51 蝸牛。僕纍(53)に同じ。一說に、土地が附着して重なりあつてゐるさま。〔管子、地員〕五埴之狀、累然如二僕累一。〔注〕僕、附也、言二其地附著而重累一也。〔纂詁〕僕累、蝸牛也。

【僕壘】52 草の名。やぶらん。麥門冬(**12－47717**‥113)の一名。〔本草、麥門冬〕釋名、時珍曰、麥鬚曰レ虋、此草根似レ麥而有レ鬚、其葉如レ韭、凌レ冬不レ凋、故謂二之麥門冬一、及有二諸韮忍冬諸名一、俗作二門冬一、便二于字一也、可二以服食斷一レ穀、故又有二餘糧不死之稱一、吳普本草、一名僕壘、一名隨脂。

【僕纍】53 蟲の名。かたつむり。蝸牛(**10－33338**‥6)の異名。僕累。〔山海經、中山經〕南望二墠渚禹父之所一レ化、是多二僕纍蒲盧一。〔注〕僕纍、蝸牛也。

【僕隸】54 しもべ。めしつかひ。〔列子、仲尼〕御二妻子一制二僕隸一。〔魏志、陳思王植傳〕左右惟僕隸。

【僕公罌】55 草の名。たんぽぽ。蒲公英(**9－31611**‥169)の異名。〔本草、蒲公英〕釋名、時珍曰、孫思邈千金方作二鳧公英一、蘇頌圖經作二僕公罌一、庚辛玉冊作二鵓鴣英一、俗呼二蒲公丁一、又呼二黃花地丁一、淮人謂二之白鼓釘一、蜀人謂二之耳瘢草一、關中謂二之狗乳草一、案、土宿本草云、金簪草、一名地丁花、如二金簪頭一、獨腳如レ丁、故以名レ之。

【僕大夫】56 太僕(**3－5834**‥472)をいふ。〔左氏、成、六〕韓獻子將二新中軍一、且爲二僕大夫一。〔注〕兼二大僕一也。

【更レ僕未レ可レ終】57 主客の應對が長くて何度下僕を交代しても足らない。僕は

太僕で、傳命・擯相を掌る。〔禮、儒行〕哀公曰、敢問二儒行一、孔子對曰、遽數レ之、不レ能レ終二其物一、悉數レ之、乃留更レ僕、未レ可レ終也。〔注〕僕、大僕也、君燕朝、則正レ位掌二擯相一、更レ之者、爲二久將レ倦、使二之相代一。

【僖】1095 キ 〔集韻〕虛其切 ㄒㄧ hsi^1 支

小篆

❶たのしむ。〔說文〕僖、樂也、从レ人喜聲。❷諡。〔逸周書、諡法解〕小心畏忌曰レ僖、有レ過爲レ僖。❸姓。〔國語、晉語四〕凡黃帝之子、二十五宗、其得レ姓者十四人、爲二十二姓一、姬・酉・祁・己・滕・葴・任・荀・僖・姞・儇・依、是也。〔通志、氏族略、以レ諡爲レ氏〕僖氏、姬姓、僖、或作レ釐、姓苑云、魯僖公之後、今彭城人、左傳僖負羈、今望出二彭城一。

名乘 ヨシ。ヤス。

【僖恪】1 キカク 諡號。❶清、阿喇納(11―41599‥454)の諡。❷清、庫禮(4―9330‥70)の諡。❸清、費雅思哈(10―36717‥113)の諡。

【僖簡】2 キカン 諡號。❶宋、趙允寧(10―37171‥413)の諡。❷元、許扆(10―35298‥3)の諡。

【僖子】3 キシ 春秋齊、陳乞(11―41698‥149)の諡。

【僖質】4 キシツ 宋、趙稹(10―37171‥239)の諡。

【僖叔】5 キシユク 春秋魯、叔牙(2―3154‥34)をいふ。

【僖順】6 キジユン 明、蔣信(蒙古の人)(9―31820‥62)の諡。

【僖靖】7 キセイ 諡號。❶宋、藍繼宗(9―32258‥99)の諡。❷明、廖紀(4―9464‥8)の諡。❸清、祝世昌(8―24672‥138)の諡。❹清、徐起元(4―10110‥368)の諡。

【僖節】8 キセツ 宋、趙宗楚(10―37171‥762)の諡。

【僖宗】9 キソウ 唐、十八代の王。李儇(6―14459‥313)を見よ。

【僖伯】10 キハク ❶春秋魯、臧彄(9―30083‥26)の諡。❷後魏、鄭道昭(11―39647‥501)の字。

【僖敏】11 キビン 諡號。❶明、吳克勤(2―3365‥564)の諡。❷明、湯世隆(7―17874‥184)の諡。❸明、陳鎰(11―41698‥17)の諡。

【僖武】12 キブ 明、任禮(1―416‥198)の諡。

【僖王】13 キワウ ❶周、十七代の王。周釐王。姬胡齊(3―6230‥106)を見よ。❷渤海國、第八代の王。大言義(3―5831‥2457)を見よ。

【僖康王】14 キカウワウ 新羅、第四十三代の王。元聖大王孫伊湌憲貞(一に草奴)の子。諱は悌隆、一に悌順。興德王が薨じた時、其の從弟均貞と王位を爭ひ、侍中金明が均貞を殺害した事により金明に奉ぜられて卽位す。其の後金明は三年正月に又々兵亂を起して王の左右を殺害したので、王は己の運命を知り、宮中に縊死して蘇山に葬らる。當時の新羅王室は秩序が紊亂の極に達してゐた。〔三國史記、十〕。

【僖負羈】15 キフキ 春秋、曹の大夫。晉の公子の重耳が曹を過ぎる時、曹君が重耳の駢脅なるを觀んとすることを諫めたが聽かれなかつた。又、其の妻に重耳を厚遇するやうに勸められ、夕食を盤に盛つて贈るに託し、璧を食物の中に藏して贈つた。後、晉の文公(重耳)が卽位するに及んで、曹伯を執へて僖負羈を用ひなかつた罪を責め、令して僖負羈の家財を鹵掠することなからしめたといふ。〔左氏、僖、二十三・二十八〕。

【僗】1096 ラウ

❶勞(2―2410)に同じ。〔集韻〕勞、或作レ僗。❷侔(1―632)に同じ。〔集韻〕侔、或从レ勞。❸人を罵る語に添へる。〔辭海〕僗、北方罵レ人、多帶二僗字一、如レ云二囚僗・饞僗一之類。

【僘】1097 シヤウ 〔集韻〕齒兩切 養

ひろい。通じて敞(5―13246)に作る。〔集韻〕僘、寬也。〔正字通〕僘、通作レ敞。

【僙】1098 クワウ 〔集韻〕姑黃切 陽

たけだけしいさま。或は恍(4―10546)に作り、通じて光(1―1350)に作る。〔集韻〕僙、武也、或作レ恍、通作レ光。

【㒄】1099 ㊀ゼン ネン 〔集韻〕忍善切 銑 ㊁セン 〔集韻〕矢善切 銑

小篆

㊀㊁❶氣がよわい。〔說文〕㒄、意膬也、从レ人然聲。〔段注〕謂下有二此意一而不上レ堅。❷おそれる。〔集韻〕㒄、一曰、意急而懼、一曰、戁也。❸おだやか。〔六書故〕㒄、和易無レ他也。❹驚く聲。〔一切經音義、二〕驚聲曰レ㒄。❺或は燃(4―11255)に作る。〔集韻〕㒄、或从レ心。

【僚】1100 ㊀レウ 〔集韻〕憐蕭切 ㄌㄧㄠˊ liao^2 蕭 ㊁レウ 〔集韻〕朗鳥切 篠

小篆

㊀❶つかさ。役人。〔書、皐陶謨〕百僚師師、百工惟時。〔傳〕僚・工、皆官也。❷あひやく。同役。同じ官にあるもの。〔儀禮、士冠禮〕主人之僚友。〔疏〕同官爲レ僚。❸下役。〔左氏、昭、七〕隸臣僚、僚臣僕。❹寮(3―7325)に通ず。〔正字通〕僚、通作レ寮。〔左氏、文、七〕同官爲レ寮。〔釋文〕寮、本又作レ僚。❺或は遼(11―39137)に作る。〔說文通訓定聲〕僚、高彪碑、遼黨感慟、李翊碑、顯二名遼疇一、以レ遼爲レ之。〔楊統碑〕百遼歎傷。❻もと僚(1―1211)に作る。〔正字通〕僚、本作レ僚。❼姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕僚氏、姓苑、宜僚之後。㊁❶みめよいさま。〔說文〕僚、好貌、从レ人尞聲。〔詩、陳風、月出〕佼人僚兮。〔傳〕僚、好貌。❷たはむれる。〔集韻〕僚、一曰、戲也。❸或は嫽(3―6717)に作る。〔集韻〕僚、或作レ嫽。❹とも。ともがら。なかま。〔廣韻〕僚、朋也。

名乘 トモ。アキラ。

【僚友】1 レウイウ 同役のとも。同僚。僚輩。〔禮、曲禮上〕僚友稱二其弟一也。〔注〕僚友、官同者。〔後漢書、鄭玄傳〕顯譽成二於僚友一。

【僚艦】2 レウカン つれの軍艦。仲間の軍艦。「人」。

【僚官】3 レウクワン ❶屬官。したやく。❷同僚の役

【僚故】4 レウコ なかま。同役。〔何遜、爲二孔道一辭二建安王一牋〕永言二僚故一、載レ懷罔レ已。

【僚佐】5 レウサ たすけの役。下役。寮佐。〔南史、張融傳〕四月八日建齋幷灌佛、僚佐儭者多、至二一萬一。〔歐陽脩、尙書都官員外郎歐陽公墓誌銘〕府吏持レ帖、強二僚佐一署。

【僚宷】6 レウサイ 同僚の官吏。あひやく。〔剪燈餘話、胡媚娘傳〕僚宷之閒、亦信二其爲二賢婦人一也。

【僚職】7 レウシヨク 同僚の職。〔漢書、敍傳下〕犓擧二僚職一、並列二其人一。

【僚壻】8 レウセイ あひむこ。兩壻。姊妹の夫が相呼んでいふ語。〔爾雅、釋親、兩壻相謂爲レ亞、注〕今江東人呼二同門一爲二僚壻一。〔唐書、蕭嵩傳〕娶二會稽賀晦女一、僚壻陸象、先宰相子。〔唐書、蘇良嗣傳〕坐二僚壻累一。

【僚屬】9 レウゾク したやく。屬官。〔後漢書、袁紹傳〕紹以二包白事一、示二軍府僚屬一、議者以、包妖妄、宜レ誅。〔宋史、仁宗紀四〕詔二武臣知州軍一、須下與二僚屬一參議上、公事毋二專決一。

【僚黨】10 レウタウ ともだち。なかま。〔後漢書、儒林、魏應傳〕建武初、詣二博士一受レ業、習二魯詩一、閉レ門誦習、不レ交二僚黨一。

【僚伴】11 liao^2 pan^4 なかま。同僚。

【僚朋】12 レウホウ ともだち。〔後漢書、鄭太孔融荀彧傳贊〕權二詭時偪一、揮二金僚朋一。

【僚吏】13 レウリ したやく。〔周書、齊煬王憲傳論〕文武僚吏、其後亦多至二臺牧一。

【僚侶】14 リョウ なかま。〔宋江、夏王義恭詩〕興言集二僚侶一。
【僚列】15 レツ 同役のもの。〔李清臣、免レ加二光祿一

【傲】1101

キ 〔集韻〕丘其切 支

小 篆

酔うて舞ふさま。或は傽（1－129 5）に作る。〔說文〕傲、醉舞貌、从レ人欺聲、詩曰、屢舞傲傲。〔集韻〕傲、或作レ傽。〔詩、小雅、賓之初筵〕亂二我籩豆一屢舞傲傲。〔傳〕傲傲、舞不レ能二自止一也。

【僭】1102

㊀トウ 〔集韻〕唐亙切 徑
㊁ショウ 〔集韻〕諸應切 徑
㊂チョウ 〔集韻〕五升切 蒸
㊃トウ 〔集韻〕都騰切 蒸

㊀事に親しまない。倰僭。〔廣韻〕僭、倰僭、不レ著レ事也。〔集韻〕僭、倰僭、不レ親レ事。**㊁行くに力が無い。**〔集韻〕僭、倰僭、行無レ力。**㊂㊀醉うて行くさま。**〔廣韻〕僭、醉行皃。**㊁病んで行くさま。**〔集韻〕僭、倰僭、病行皃。**㊃あがる。のぼる。**登（7－2268）に同じ。〔集韻〕登、說文、上レ車也、或从レ人。

【僿】1103

㊀サン 〔廣韻〕昨閑切 刪
ゼン イヲ ch'an²
㊁セン 〔集韻〕子充切 銑
㊂セン 〔廣韻〕士戀切 霰
ゼン

小 篆

㊀㊁㊂**㊀そなへる。**僿（1－844）に同じ。〔集韻〕僿、具也、或省。〔正字通〕僿、說文作レ僿。〔說文〕僿、具也、从レ人丗聲、讀若二汝南淯水一虞書曰、旁救僿レ功。**㊁ののしる。**〔集韻〕僿、僿僿、詈也。

【僭】1104

エキ

小 篆

㊀嗌（2－4063）の籀文。〔說文〕嗌、噎、籀文嗌、上象レ口、下象二頸脈理一也。**㊁益**（8－22972）に通ず。〔說文、噎、段注〕漢百官公卿表曰、噎作二昳虞一云云、按、此假二借籀文嗌一爲レ益。〔漢書、百官公卿表〕噎作二昳虞一。〔注〕噎、古益字。

【僞】1105

㊀キ 〔集韻〕居僞切 眞
ㄨㄟˋ wei⁴
㊁グワ 〔集韻〕吾禾切 歌
㊂ギ 〔集韻〕虞爲切 支
㊃キ 〔禮記釋文〕位悲切

小 篆

㊀㊁㊂㊃**㊀いつはる。あざむく。**〔說文〕僞、詐也、从レ人爲聲。〔廣雅、釋詁二〕僞、欺也。〔孟子、萬章上〕舜僞喜者與。〔注〕僞、詐也。**㊁ためる。つくる。人爲。**〔廣雅、釋詁三〕僞、爲也。〔荀子、性惡〕人之性惡、其善者僞也。〔注〕僞、爲也、矯也、矯二其本性一也、凡非二天性一而人作二爲之一者、皆謂二之僞一。**㊂たくむ。見せかける。**〔呂覽、離謂〕辨而不レ當レ理、則僞。〔注〕僞、巧也。**㊃うそ。まことでない。むなしい。**〔太玄經、玄攡〕必著二乎爲一。〔注〕僞、虛也。〔淮南子、俶眞訓〕德湯者其行僞。〔注〕僞、不レ誠也。**㊄かり。にせ。**〔禮、曾子問〕作二僞主一以行。〔注〕僞、猶レ假也。**㊅ならひ。後天の性。**〔荀子、正名〕慮積焉、能習焉、而後成、謂二之僞一。**㊆爲**（7－1986）に通ず。〔禮、月令〕毋レ或下作二爲淫功一、以蕩中上心上。〔注〕作爲、爲二詐僞一。**㊇嬀**（3－6720）に同じ。〔集韻〕嬀、或从レ人。**㊈贗**（10－36925）に通ず。僞材（32）を見よ。**㊉うづく。**吪（2－3348）に同じ。〔集韻〕吪、說文、動也、或作レ僞。**㊊かはる。かへる。**訛（10－35256）に通ず。〔楚辭、劉向、九歎、離世〕若二青蠅之僞一質兮。〔注〕僞、猶レ變也。〔漢書、王莽傳〕以勸二南僞一。〔注〕師古曰、僞、讀曰レ訛、訛、化也。**㊋かり。**〔集韻〕僞、假也。**㊌㊀とばり。**帷（4－8954）に通ず。〔說文通訓定聲〕僞、叚借爲レ帷。〔禮、喪大記〕素錦褚加二僞荒一。〔注〕僞、當レ爲レ帷。**㊍于**（1－252）の誤。〔禮、喪大記〕加二僞荒一。〔注〕僞、或作レ于、聲之誤也。

【僞哀】1 アイ いつはり悲しむ。〔墨子、非儒下〕繁飾禮樂以淫二人、久喪僞哀以謾レ親。〔考〕雖レ爲二孝子一、三年不レ能二續而哀一、是僞哀也。
【僞意】2 イギ いつはりの心。〔新序、節士〕挾二僞意一以御二天下一、懷二賊心一以事レ君。
【僞位】3 キイ 名ばかりで其の實のない位。有名無實の位。虛位。又、いつはりの位。
【僞引】4 イン をびきだす。
【僞印】5 イン にせいん。僞判。〔唐律、詐僞〕即以二僞印一印二文書一施行。
【僞瘖】6 イン 僞つておしのまねをする。又、にせのおし。〔元稹、與二史館韓侍郎一書〕乃僞瘖二其口一、復隱二青巖一。
【僞恩】7 オン いつはりのなさけ。〔謝靈運、撰征賦〕借二兄弟一以二僞恩一、相二魏武一以譎狂一。
【僞假】8 コ にせ。いつはり。〔禮、曾子問〕作二僞主一以行、注〕僞、猶レ假也。
【僞行】9 カウ いつはりの行をする。〔墨子、非儒下〕贏飽則僞行、以自飾レ邪。
【僞降】10 カウ 僞つて降服する。〔國史略、景行天皇〕虜乃僞降、誘二皇子一令レ獵、焚二原圍一攻之一。
【僞號】11 ガウ いつはりの名號。〔後漢書、安帝紀〕先零羌滇零死、子零昌復襲レ僞號一。
【僞客】12 キカク 詐僞を爲す食客。〔論衡、逢遇〕竊簪之臣、親二于子反一、雞鳴之客、幸二于孟嘗一、子反好二偸臣一、孟嘗愛二僞客一也。
【僞學】13 ガクガク 正しくない學問。宋の寧宗の時、韓侂胄が政をとり、自分と異なつた意見を有つ者を除く爲、道學を僞學とした。卽ち貪黷放肆は人の眞情で、廉潔好修は皆僞であるとし、僞學の黨を用ひることを禁じ、朱熹の官を削り、蔡元定を貶して、朝廷の正士は空しくなつたといふ。〔宋史、寧宗紀一〕慶元二年春正月庚寅、以余端禮一爲左丞相一、京鐘爲右丞相一、云云、庚子、趙汝愚卒于永州一、甲辰、右諫議大夫劉德秀、劾二留正引一用僞學之黨一、詔落二正觀文殿大學士一、罷二宮觀一云云、戊戌、以二韓侂胄一爲二開府儀同三司一、萬壽觀使一、云云、丙辰、以二太常少卿胡紘一、請權住進擬二僞學之黨一、云云、十二月辛未、金遣二完顏崇道一、來二賀明年正旦一、是月監察御史沈繼祖劾二朱熹一、詔落二熹祕閣修撰一、罷二宮觀一、竄二處士蔡元定于道州一。〔宋史、胡紘傳〕紹熙五年、云云、祕書郎韓侂胄用レ事、逐二朱熹一、趙汝愚一、意猶未レ決、遂擢二紘監察御史一、云云、及是劾二趙汝愚一、且詆二其引一用朱熹一爲二僞學一、罪一首汝愚一、遂謫二永州一、汝愚初抵レ罪去レ國、搢紳大夫與二夫學校之士一、皆憤悒不レ平、疏論甚衆、侂胄患レ之、以二汝愚之門及朱熹之徒多一知名士一、不レ便二於己一、欲レ盡去レ之、謂不レ可二一一誣以レ罪、則設二爲僞學之目一以擯レ

之、用二何澹・劉德秀一爲レ言、官專擊二僞學一、然未レ有二誦レ言攻レ熹者一。

【僞贋】14 ガンにせ。まがひ。僞物。

【僞器】15 キ ㊀かりの三種の神器。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕八月、義詮立二崇光太弟一、初光明之立也、後醍醐天皇、以二僞器一授レ之。㊁ wei4 chi4 かたどつて造つた品。模造品。

【僞欺】16 ギ いつはりあざむく。〔廣雅、釋詁二〕僞、欺也。

【僞議】17 ギ いつはり議する。〔商子、農戰〕高言僞議、舍レ農游食、而以言相高也。「ちがひ。

【僞狂】18 キャウ 狂人のふりをすること。にせきをする。〔南史、宋武帝紀〕毅至二西稱一疾篤、表求二從弟兗州刺史藩以爲二副貳一、帝僞許焉。

【僞銀】20 ギン にせの銀貨。銀貨を僞造する。〔日知錄、政事、僞銀〕今僞銀之罪、不レ下二於僞黃金一。

【僞宮】21 グウ にせの宮殿。〔日本外史、源氏前記、平氏〕乃建二僞宮於下總猿島一。

【僞官】22 wei4 kuan1 いつはりの役人。〔桃花扇、閒話〕還有進朝稱賀、做闖賊僞官的。

【僞契】23 ケイ にせの手がた。僞券。〔癸辛雜識〕蓋其腹中之墨可レ寫、僞契券宛然如レ新。

【僞計】24 ケイ いつはりの計略。

【僞經】25 ケイ ㊀僞作の經書。清代の今文學者は漢末に出た古文經を劉歆の竄僞したものとして之を排斥する。康有爲に新學僞經考の著がある。㊁倒 後人（特に中國に於て）が、佛陀の所説に假托して、佛教以外の要素を取り入れて作つた經典。

【僞券】26 ケン にせの手形。僞契。僞單。〔宋史、元絳傳〕尾印而撰二僞券一續レ之耳。

【僞言】27 ゲン いつはりいふ。又、うそ。虚言。〔國語、晉語三〕僞言誤二衆死一。〔易林、无妄之屯〕僞言妄語、轉相詿誤。〔柳宗元、送二妻圖南秀才遊一淮南一將レ入レ道序〕矯笑而僞言。

【僞哭】28 コク いつはつて泣く。泣くまねをする。〔唐書、王重榮傳〕過二重榮墓一、僞哭而祭。

【僞國】29 コク 僭僞の國。〔五代史、南漢劉巖世家〕〔趙〕光胤自以二唐甲族一、恥レ事二僞國一、常怏怏思レ歸。

【僞詐】30 サ いつはりあざむく。又、其のこと。〔韓非子、姦劫弑臣〕是以左右近習之臣、知二僞詐之不レ可二以得一レ安也。〔呂覽、知度〕貪得僞詐之曹遠矣。〔管子、君臣下〕躁作姦邪僞詐之人、不二敢試一也。〔史記、淮陰侯傳〕齊僞詐多レ變。

【僞采】31 サイ いつはりかざる。僞飾。〔漢書、嚴安傳〕故養失而泰、樂失而淫、禮失而采、教失而僞、僞采淫泰、非二所一以範一レ民之道一也。〔注〕如淳曰、采、飾也、師古曰、采者、文過二其實一也。

【僞材】32 ザイ 貨幣や財物。貨財（10－36678‥15）に同じ。僞は騙で、貨の古字。〔墨子、公孟〕廣辟二上地一、著稅二僞材一。〔閒詁〕僞、疑當レ爲レ騙、說文云、此古貨字、讀若レ貴。

【僞裝】33 ソウ ㊀いつはりよそほふ。敵の目を欺いて味方の設備・兵器をかくすために施す色々の方法。camouflageの譯語。㊁假裝（1－835‥58）に同じ。

【僞造】34 ゾウ にせてつくる。僞作。〔唐律、詐僞〕諸僞二造皇帝八寶一者斬。

【僞造貨幣罪】35 ザイ 法律用語。行使する目的で貨幣を僞造し、又はこれを人に交付したことによつて成立する罪。

【僞造文書罪】36 ブンショザイ 法律用語。作成權のない者が他人の名義にて文書を作成することによつて成立する罪。

【僞作】37 サク ㊀にせてつくる。僞造。〔後漢書、隗囂傳〕僞二作符書一。㊁法律用語。著作權法に於て、原作を剽竊し、改竄し、變更して著作物を編著する行爲をいふ。

【僞札】38 サツ にせてがた。〔福惠全書、刑名部、反叛、拿審〕出二其僞札一爲レ證。

【僞劄】39 サツ にせの書きつけ。にせの教令。〔福惠全書、刑名部、反叛、拿審〕散二給僞劄一。

【僞旨】40 wei4 zhi3 にせの命令。又、僞朝の命令。〔桃花扇、閒話〕禮部奉二僞旨一。「僞師畏逼。

【僞師】41 シ 賊軍。〔潘岳、楊荊州誄〕吳夷凶侈、僞壘之御壘。僞造の御壘。

【僞壘】42 ルイ 僞造の國壘。

【僞辭】43 ジ いつはりのことば。〔史記、淮南王安傳〕還爲二僞辭一。〔漢書、律歷志上〕刪二其僞辭一、取二正義一著二于篇一。〔魏志、衞臻傳〕此必畏二怖僞辭一耳。

【僞寫】44 シャ 公文書及び印章を僞作すること。〔唐律、詐僞〕諸僞二寫官文書印一者、流二千里一、餘印徒一年。〔注〕寫、謂倣效而作一。

【僞情】45 ジャウ いつはりの情。〔顏氏家訓、名實〕一有二僞情一、觸塗難レ繼。

【僞讓】46 ジャウ いつはりゆづる。上べばかりへりくだる。〔鮑照、轉二常侍一上疏〕欣喜感悅、不二敢僞讓一。「（1－835‥98）に同じ。

【僞充】47 wei4 chong1 眞似る。粧ふ。僞る。假充

【僞書】48 ショ ㊀にせの書。にせの書きもの。〔史記、封禪書〕天子識二其手書一、問二其人一、果是僞書。〔淮南子、泰族訓〕爲二姦刻僞書一。㊁書類を僞造する。〔史記、貨殖傳〕刻二章僞一レ書。㊂古今書籍の僞作のもの、又は眞僞の相雜はるものをいふ。僞本。漢代には往々僞經を造作して其の説を售るものがあり、張霸の尚書一百兩篇を作つた如きは其の類である。宋代、學術の勃興と共に漸く古書の眞僞を疑ふものが出で、歐陽脩は易の十翼を疑ひ、程子は書の今文を疑ひ、朱子は詩序を斥け、蘇轍は周禮を疑ひ、孟子は司馬光に怪しまれ、孝經・大學は朱子に改竄せられた。清朝考證學の發達に伴ひ、其の説が愈〻精確となり、姚際恆の古今僞書考は經類十九書・史類十二書、子類三十八書について、一書毎に前人の辯論の精確なものを載せ、終りに自説をあげて斷案を下し、又、近時は、顧實が更に重考古今僞書考を著はした。

【僞稱】49 ショウ いつはりとなへる。又、いつはりの名稱。僞名。〔後漢書、彭寵傳〕僞二稱寵命教一。

【僞證】50 ショウ ㊀證人・鑑定人等が法廷で虚僞の證明をすること。㊁僞證文の略。

【僞證罪】51 ショウザイ 法律用語。裁判所に喚問せられた證人が、被告人をかばひ、又は陷れようとして、故意に不實の證言をした罪。

【僞證文】52 ショウモン にせ證文。

【僞飾】53 ショク いつはりかざる。僞采。〔周禮、地官、司市〕凡市僞飾之禁、在レ民者十有二。〔論衡、超奇〕虚妄之言、僞飾之辭、莫レ不二證定一。

【僞臣】54 シン 賊臣。〔王褒、四子講德論〕僞臣虚稱者殆也。〔李衞公問對、中〕諸將皆欲レ籍二僞臣家一以賞二士卒一。

【僞眞】55 シン いつはりとまこと。眞僞。〔柳宗元、閔生賦〕重華幽而野死兮、世莫レ得二其僞眞一。

【僞新】56 シン 王莽の建てた新朝をいふ。〔潘岳、西征賦〕由二僞新之九廟一。〔注〕善曰、漢書、王莽下書曰、定二有天下一、號曰レ新。

【僞人】57 ジン 誠實でない人。〔六韜、文韜、上賢〕語二無爲一以求レ名、言二無欲一以求レ利、此僞人也。

【僞醉】58 スイ 醉つたふりをする。又、にせゑひ。〔晉書、溫嶠傳〕嶠因僞醉、以二手板一擊レ鳳。

【僞製】59 セイ にせて作る。僞造。

【僞迹】60 セキ いつはりのあと。似て非なる行爲。〔任昉、奏二彈劉整一文〕未レ見二孟嘗之深心一、唯倣二文通之僞迹一。

【僞說】61 セツ いつはりとく。〔論衡、非韓〕以二儒名一而俗行、以二實學一而僞說。

【僞撰】62 セン 文章書物を僞作する。〔舊唐書、則天皇后紀〕有二沙門十人一、僞二撰大雲經一。

【僞錢】63 セン にせのぜに。僞造錢。〔漢書、食貨志下〕僞錢不レ蕃、民不二相疑一。〔新書、銅布〕銅布於レ下、僞錢無レ止。

【僞善】64 ゼン うはべばかりの善。詐善。〔中論、考僞〕人徒知二名之爲一レ善、不レ知二僞善者爲一不善一。

【僞善家】65 ゼンカ 心中はさほど善ではなく、うはべばかり善く見せかける者。僞君子。

【僞善的】66 テキ 表面を飾つて善事を行ふやうに見せかける。又、其のさま。

【僞宋】67 ソウ 南宋をいふ。金人が南渡後の宋を稱した語。〔輟耕錄、正統辯〕好黨君子、遂斥二紹興一爲二僞宋一、吁吾不レ忍レ道矣。

【僞走】68 ソウ 僞つてにげる。わざとにげる。〔左氏、桓、九、鄧人逐之、注〕楚師僞走、鄧師逐レ之。

【僞增】69 ゾウ うはべをかざる。僞飾。〔福惠全書、雜課部、新墾〕弗レ效二僞增之謬一相。

【僞孫】70 ソン 吳の孫皓をいふ。權の孫。僭號して王と稱したから僞といふ。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕僞孫銜レ璧、奉レ土歸レ疆。〔注〕善曰、僞孫、謂レ皓也。

【僞態】71ギタイ いつはりの態度。〔戰國、秦策〕科條既備、民多ニ僞態ヲ一、書策稠濁、百姓不レ足。

【僞體】72ギタイ 雅正でなくて一家を成すに足らない詩。〔杜甫、戲爲ニ六絶ヲ一詩〕別裁ニ僞體ヲ一親ニ風雅ヲ一、轉益多師是汝師。〔杜詩鏡詮〕風騷有ニ眞風騷ヲ一、漢魏有ニ眞漢魏ヲ一、下而至ニ於齊梁初唐ヲ一、莫レ不レ有ニ眞面目ヲ一焉、循レ流溯レ源、以上追ニ三百篇之旨ヲ一、則皆吾師也、苟徒放言高論、而不レ能ニ虛心以集益ヲ一、亦終不レ離ニ於僞體ヲ一而已矣。

【僞道】73ギドウ いつはりの道。巫蠱の道をいふ。〔後漢書、五行志二〕明年、會得ニ陰后挾ニ僞道ヲ一事。上

【僞託】74ギタク いつはり託する。〔後漢書、襄楷傳〕假ニ借星宿ヲ一、僞ニ託神靈ヲ一。

【僞單】75wei4 tan1 にせの手形。僞券。

【僞聽】76ギチョウ いつはつてきく。いつはつて從ふ。〔漢書、王陵傳〕呂太后多立ニ諸呂ヲ一爲レ王、〔陳〕平僞ニ聽之ヲ一。

【僞寵】77ギチョウ 僞朝の寵愛。〔後漢書、崔駰傳〕豪自以ニ宗門受ニ莽僞寵ヲ一、慚ニ愧漢朝ヲ一、遂辭歸不レ仕。

【僞敕】78ギチョク にせのみことのり。〔北史、隋房陵王勇傳〕僞敕賜ニ庶人死ヲ一。

【僞定】79ギテイ かりにさだめる。暫く平定する。〔諸葛亮、後出師表〕幾敗ニ伯山ヲ一、殆死ニ潼關ヲ一、然後僞ニ定一時ヲ一耳。〔古文眞寶後集注〕時暫平定。

【僞庭】80ギテイ にせの朝廷。僞朝に同じ。〔桓溫、薦ニ譙元彥ヲ一表〕杜ニ門絕ヲ一跡、不レ面ニ僞庭ヲ一。〔注〕良曰、僞庭、李雄朝也。

【僞朝】81ギチョウ にせの朝廷。當代の朝廷に對して、僭僞の國をいふ。僞庭。〔李密、陳情表〕臣少仕ニ僞朝ヲ一。〔丹鉛總錄、訂訛類〕嘗見ニ佛書引ニ此文ヲ一、僞朝作ニ荒朝ヲ一、蓋密之初文也、僞朝之字、蓋晉改之以入ニ史耳ヲ一。

【僞遁】82ギトン まけたふりをしてにげる。〔左氏、僖二十八〕欒枝使ニ輿曳ヲ一柴而僞遁ニ〔宋史、眞宗紀一〕益州王均開ニ城僞遁ヲ一。

【僞敗】83ギハイ 敗れたふりをする。〔國史略、桓武天皇〕賊豫設ニ二覆ヲ一、僞敗而走。

【僞方】84ギホウ 正しくない手だて。〔六韜、文韜、上賢〕僞方異伎、巫蠱左道、不祥之言。

【僞妄】85ギボウ いつはる。又、いつはり。不實。〔詩、大雅、桑柔、朋友已譖、疏〕讒譖、是僞妄之言。

【僞冒】86ギボウ いつはる。僞稱する。詐稱する。又、其のこと。〔揮麈後錄〕防ニ僞冒ヲ一。

【僞貌】87ギボウ うはべをかざること。〔漢書、循吏、黃霸傳〕澆ヲ一淳散ヲ一樸、並行ニ僞貌ヲ一。

【僞薄】88ギハク 僞りの言動をし且人情の薄いこと。又、うはべを飾つて輕薄なこと。〔漢書、王吉傳〕退ニ僞薄之物ヲ一。〔漢書、匡衡傳〕今之僞薄忮害不讓極矣。〔晉書、禮志中〕開ニ僞薄之風ヲ一。

【僞判】89ギハン にせはん。僞印。

【僞板】90ギハン 僞版に同じ。

【僞版】91ギハン 僞造した出版。

【僞諺】92ギゲン あやまり。〔孫奭、孟子正義序〕丁氏則稍識ニ指歸ヲ一、僞諺時有。

【僞筆】93ギヒツ 他人の書きぶりを似せて書いた文字。にせふで。

【僞服】94ギフク 其の資格がないのに、分に過ぎた官職に居ること。官服を僞り着る意。〔後漢書、左雄周擧黃瓊傳論〕中興以後、復增ニ敦朴・有道・賢能・直言・獨行・高節・質直・清白・敦厚之屬ヲ一、榮路既廣、觖望難レ裁、自レ是竊レ名僞レ服、浸以流競、權門貴仕、請謁繁興。

【僞物】95ギブツ にせもの。僞贋。〔漢書、韓延壽傳〕僞物者棄ニ之市道ヲ一。〔魏書、釋老志〕此歷代之僞物。

【僞文】96ギブン にせぶみ。

【僞幣】97ギヘイ にせの貨幣。

【僞表】98ギヒョウ いつはつて申しあげる。にせの上表。〔唐書、高宗皇后武氏傳〕時天下旱、后僞表求レ避レ位不レ許。

【僞辯】99ギベン 理非をまぎらす辯舌。詭辯（10－5434‥58）に同じ。〔文子、上義〕士爲ニ僞辯ヲ一、久稽而不レ決、無益ニ於治ヲ一。〔注〕僞、一本作レ詭。

【僞朋】100ギホウ 利害關係を以て結ばれてゐる朋黨。〔歐陽脩、朋黨論〕嘗退ニ小人之僞朋ヲ一、用ニ君子之眞朋ヲ一。上

【僞封】101ギホウ いつはり封ずる。又、叛亂者が勝手に與へた封。〔殷仲文、解ニ尚書ヲ一表〕叨ニ昧僞封ヲ一。

【僞烽】102ギホウ 僞つて擧げるのろし。〔潘岳、西征賦〕擧ニ僞烽ヲ一以阻レ衆、淫ニ斐襲ヲ一以縱レ慝。

【僞墨】103ギボク にせの書きもの。

【僞本】104ギホン にせほん。古人の名を借り、又は古書の體に似せて作つた書物。僞書。〔圖書見聞誌〕今所レ存者、多是僞本。〔書林清話、十〕宋元刻僞本、始ニ於前明ヲ一。

【僞奔】105ホン 競馬で騎乘者が或る目的の爲に其の馬の實力を出させず、故意に遲く走らせること。速度をかくして走らせること。足をかくす。

【僞民】106ギミン 不誠實の民。〔墨子、非命中〕雖ニ昔也ニ三代之僞民ヲ一、亦猶レ此也。

【僞名】107ギメイ ㊀いつはりの名。うその姓名。〔徐氏筆精〕公福本姓連、名文鳳、吾閶人、字伯正、號應山、僞名羅公福、集中皆不レ著ニ的名ヲ一。㊁うその評判。無根のうはさ。〔楚辭、九章、哀郢〕被以ニ不慈之僞名ヲ一。

【僞命】108メイ にせの命令。正當の君主でないものから出る僭越の任命。〔宣和遺事、後集〕五議ニ僞命ヲ一。

【僞問】109モン 悶えるふりをする。〔南史、王志傳〕志歎曰、冠雖レ弊可レ加ニ足乎ヲ一、因取ニ庭樹葉ヲ一、挼ニ服之ヲ一僞悶不レ署名。

【僞廉】110レン 廉潔をよそほふ。僞りよそほつた廉潔。〔晏子、問、上〕以ニ僞廉ヲ一求ニ上采聽ヲ一。

【僞論】111ロン 論理學用語。論理の不正確な論。

【僞和】112ワ いつはつて和睦する。僞りの和睦。〔晉書、劉琨傳〕受ニ其僞和ヲ一、爲ニ勒所虜ヲ一。

【僞金錢】113キンセン にせがね。にせの貨幣。〔漢書、王莽傳中〕鑄ニ僞金錢ヲ一者、妨ニ寶貨之道ヲ一也。

【僞君子】114クンシ 君子の風をよそほつて內實の伴はぬ人。えせ君子。〔丹鉛總錄〕蓋眞小人、其名不レ美、其肆レ惡有レ限、僞君子則既竊ニ美名ヲ一、而其流レ惡無ニ窮矣ヲ一。

【僞古文】115コブン 尚書正義に採錄せられて居る梅賾（或は王肅の僞作ともいひ、僞作者については數說あるが、要するに魏晉の頃の僞作である）の僞作した古文尚書。孔穎達は書經の序の中に、此の僞古文を立義宏雅と賞讚してゐるが、清初に閻若璩が尚書古文疏證を著はして其の僞作であることを證してから學界の論は定まつて、此の書の僞なる事は疑ふ餘地がなくなつた。尚書（4－7493‥85）僞孔傳（118）を見よ。〔國朝經師經義目錄、書〕國朝閻氏出、而僞古文寖微、馬鄭之學、復顯ニ於世ヲ一矣。

〔僞古文尚書〕116ギコブンショウショ 僞古文僞孔傳（118）に同じ。

【僞工事】117ギコウジ 軍用語。陣地・兵力・配備等を祕匿或は誤認せめる爲になす、いつはりの工事をいふ。

【僞孔傳】118ギコウデン 東晉の元帝の時、豫章の內史梅賾が、孔安國の傳として上つた尚書をいふ。此の書は、舜典を缺いてゐたので、王注本の堯典の愼徽五典以下を分ち採つて其の闕を補つた。其の後、一百八十年、蕭齊の明帝の建武四年に、吳興の人、姚方興が孔氏傳を大航頭に得、古文舜典、曰若稽古以下二十八字ありと僞つて之を上つたが、未だ施行せられなかつた。其の後、八十四年、隋の文帝の開皇四年に、此の僞舜典を得、採つて先に梅賾の上つた孔傳古文尚書の中に編入し、茲に僞孔傳は完成し、唐の孔穎達は之に據つて尚書正義を作つた。凡て五十八篇の內、僞作は凡て二十五篇で、其の目は、虞書（大禹謨、皐陶謨、益稷）夏書（五子之歌、胤征）商書（仲虺之誥、湯誥、伊訓、太甲上・太甲中・太甲下・咸有一德・說命上・說命中・說命下）周書（泰誓上・泰誓中・泰誓下・武成・旅獒・微子之命・蔡仲之命・周官・君陳・畢命・君牙・冏命。宋の吳棫・朱熹を始め、元の吳澄・趙孟頫、明の歸有光・郝敬などは皆其の僞古を疑つたが、清の閻若璩に至つて殊に考證精核を極めた。一時、毛奇齡は之に反駁を加へたが、錢大昕は惠棟・江聲等の後を承け、王鳴盛等と相俟つて其の論餘蘊なく、遂に僞古文の僞作であることを證して世に認められるに至つた。東晉古文（6－14499‥410）を見よ。〔國朝經師經義目錄、書〕江左中興元帝時、豫章內史梅賾、奏ニ上孔傳古文尚書、自云、晉太保公鄭沖、以ニ古文書ヲ一授ニ扶風蘇愉ヲ一、愉授ニ天水梁柳ヲ一、柳授ニ城陽臧曹ヲ一、曹授ニ汝南賾ヲ一、賾所ニ上之書、增ニ多古文二十五篇ヲ一、一大禹謨、二五子之歌、三允征、四仲虺之誥、五湯誥、六伊訓、七太甲上、八太甲中、九太甲下、十咸有一德、十一說命上、十

二説命中、十三説命下、十四泰誓上、十五泰誓中、十六泰誓下、十七武成、十八旅獒、十九微子之命、二十蔡仲之命、二十一周官、二十二君陳、二十三畢命、二十四君牙、二十五冏命、是爲僞古文尚書僞孔傳、齊建武中、呉姚方興於大航市中得舜典一篇奏上、比馬鄭注多曰若稽古帝舜曰重華協于帝濬哲文明溫恭允塞元德升聞、乃命以位二十八字、乃分堯典之半爲舜典、此又僞中之僞也、時梁武爲博士、駁之、遂不行、至唐孔穎達爲正義、取僞孔書、又取此説、反斥鄭氏所述之二十四篇爲張霸僞造、霸僞造者乃百兩篇、成帝時、劉向以古文校之非是、遂黜其書、漢書儒林傳、先述孔壁逸書、後敍百兩篇、則逸書非百兩明矣、且逸書及百兩篇、劉向父子領校祕書時、皆得見之、豈有向明知其僞、而撰別錄、仍取霸書乎、歆撰三統歷、述伊訓・武成・畢命諸篇、悉孔壁古文、豈有歆亦知其僞、而反取其説乎、沖遠之説、可謂游淡無根矣、自此以後、正義大行、而馬鄭之注皆亡、至宋、呉棫・朱子、始疑其僞、繼之者、呉草廬・郝京山・梅鷟也、然皆未能抉其奧探其蘊、逮國朝閻氏惠氏出、而僞古文寖微、馬鄭之學、復顯於世矣。〔皮錫瑞、經學通論〕宋儒疑書序與僞孔傳同出、孔傳僞、則書序亦僞、朱氏已辨之矣。

【僞足類】119 ギソクルイ　動物分類上の一部門。原生動物中の一綱。大部分は浮游生活を營み、虛足（運動又は食餌攝取の用をなす原形質突起）を有し、球形或はこれに近き體形を有す。又、匍匐型のものは多く扁平で、美麗なる殼・骨骼を有す。虛足類。

【僞遊雲夢】120 イツハリテウンボウニアソブ　漢の高祖が韓信の謀反を知り、雲夢の遊にことよせ諸侯を陳に會して韓信を捕へた故事。〔史記、高祖紀〕人有上變事、告楚王信謀反、上問左右、左右爭欲擊之、用陳平計、乃僞游雲夢、會諸侯於陳、楚王信迎、卽因執之。

【以僞亂眞】121 ギヲモツテシンヲミダス　にせものが本物をみだすこと。〔顏氏家訓、勉學〕紫色䵷聲、餘分閏位、謂以僞亂眞爾。

【作僞心勞日拙】122 ギヲナセバココロラウシヒニツタナシ　虛僞を行ふときは、心が苦勞し、其の爲すことは其の爲に日々拙くなる。〔書、周官〕作德心逸日休、作僞心勞日拙。

【僟】1106

キ　ゲ　〔集韻〕渠希切　［微］

小篆

❶よくつつしむ。〔説文〕僟、精謹也、从人幾聲。明堂月令、數將僟終。❷ちかい。〔字彙〕僟、近也。

【僠】1107

ハン

番（7－21858）に同じ。〔字彙〕僠、同番。

【僡】1108

ケイ

惠（4－10822）の俗字。〔正字通〕僡、俗惠字。

【〓】1109

ケイ　〔集韻〕遣禮切　［霽］

❶衣を開く。或は移（10－34235）に作る。〔集韻〕〓、開衣也、或作移。❷脚をひろげてあるく。佳〓。〔集韻〕佳、佳〓、行張足也。

【僢】1110

［一］セン　〔集韻〕尺兗切　［銑］
［二］セン　〔集韻〕樞絹切　［霰］
［三］シュン　〔集韻〕尺尹切　［軫］

［一］［二］❶そむく。舛（9－30338）に同じ。〔玉篇〕僢、相背也、與舛同。〔淮南子、説山訓〕分流僢馳。❷むかひあふ。〔禮、王制、雕題交趾、注〕交趾、足相鄉然、浴則同川、臥則僢。〔疏〕首在外而足相嚮也。［三］❶そむく。〔廣韻〕僢、相背。❷まじる。踳（10－37683）に同じ。〔集韻〕踳、雜也、或作僢。

【僢僢】1 センセン　たぐふ。ならぶ。〔疊雅〕僢僢、蓋取相對意、猶言與堯比美也、卽重華協帝之義。〔白虎通、號〕謂之舜者何、舜猶僢僢也、言能推信堯道而行之。

【僣】1111

［一］テツ　テチ　〔集韻〕他結切　［屑］
［二］セン

［一］わるがしこい。僣俔。〔廣韻〕僣、僣俔、狡猾。〔集韻〕僣、狡也。［二］僭（1－1128）の俗字。〔佩觿〕俗以僣俔之僣爲踰僭之僭、非是。

参考　僭（1－1128）は本來別字。俗に誤って通用する。〔字彙、醒誤〕僭、音薦、僭竊、今誤作僣。僣、音鐵、狡猾也。

【僤】1112

［一］タン　ダン　〔集韻〕徒案切　［翰］
［二］タン　ダン　〔集韻〕唐干切　［寒］
［三］タン　〔集韻〕儻旱切　［旱］
［四］セン　〔集韻〕稱延切　［先］
［五］セン　〔集韻〕齒善切　［銑］
［六］セン　ゼン　〔集韻〕上演切　［銑］
［七］タツ　タチ　〔集韻〕當割切　［曷］

小篆

［一］［二］❶はやい。〔説文〕僤、疾也、从人單聲、周禮曰、句兵欲無僤。❷あつい。〔詩、大雅、桑柔〕逢天僤怒。〔傳〕僤、厚也。❸あきらか。闡（11－41489）に通ず。〔説文通訓定聲〕僤、叚借爲闡。〔集韻〕僤、明也。❹ゆるぐ。彈（4－9865）に通ず。〔説文〕僤、周禮曰、句兵欲無僤。〔段注〕考工記廬人文、今本作欲無彈、注曰、故書、彈或作但、鄭司農云、但、讀爲彈丸之彈、謂掉也。［三］❶すみやか。〔集韻〕僤、速也。❷うごく。〔集韻〕僤、動也。❸やうす。さま。亶（1－1177）に同じ。〔集韻〕亶、態也、或作僤。［四］［五］地名。今の山東省寧陽縣の地。或は〓（11－41852）に作り、通じて闡（11－41489）に作る。〔集韻〕僤、地名、在魯、或作〓、通作闡。〔公羊、哀、八〕齊人取讙及僤。［六］行くさま。動くさま。婉僤。〔集韻〕僤、行動皃。〔司馬相如、上林賦〕象輿婉僤於西淸。〔注〕善曰、婉僤、動貌。［七］おどろく。〔集韻〕僤、傍驚也。

名乘　トン。アツ。

【僥】1113

［一］ケウ　〔集韻〕吉了切　［篠］　ㄐㄧㄠˇ　chiao3
［二］ケウ　〔集韻〕堅堯切　［蕭］
［三］ゲウ　〔集韻〕倪幺切　［蕭］　ㄧㄠˊ　yao2
慣　ゲウ

小篆

［一］❶ねがふ。もとめる。徼（4－11316）に通ず。〔説文通訓定聲〕僥、叚借爲徼。〔集韻〕僥、僥倖、求利不止皃。〔後漢書、呉漢傳〕上智不處危以僥倖。〔注〕僥、猶求也。❷長いさま。僥僥（6）を見よ。❸姓。〔萬姓統譜〕僥、見姓苑。［二］いつはる。或は憢（4－11236）・儌（1－1196）に作る。〔集韻〕僥、僞也、或从心、从敫。［三］焦僥はたけのひくい人種の住む西南夷の國名。〔説文〕僥、南方有焦僥、人長三尺、短之極也、从人堯聲。

【僥倖】1 ゲウカウ ❶慾深いさま。僥幸。徼幸。〔集韻〕僥、僥倖、求レ利不レ止皃。❷思ひもかけぬしあはせ。もつけの幸。又、それを求めること。〔莊子、在宥〕此以二人之國一僥倖也、幾何僥倖而不レ喪二人之國一乎。〔後漢書、吳漢傳〕蓋聞上智不レ處レ危以僥レ倖。〔班固、奕旨〕優者有二不遇一、劣者有二僥倖一。〔阮瑀、爲二曹公一作レ書與二孫權一文〕忽二至誠一以處二僥倖一。〔蘇軾、留侯論〕僥二倖於不レ死。❸車駕の至る所をいふ。天子が行幸する地は、臣民が其の恩澤を被つて幸であるからいふ。〔書言故事、朝制類〕車駕所レ至地曰二僥倖一。〔蔡邕獨斷曰、天子所レ至曰レ幸者、宜レ幸也、世俗謂レ幸爲二僥倖一、車駕所レ至、臣民被二其德澤一以僥倖、故曰レ幸。

【僥冀】2 ゲウキ こひねがふ。〔歐陽脩、論二修河一第三狀〕爲下小人僥二冀恩賞一之資上也。

【僥覬】3 ゲウキ 分外の望。おほけなき望。〔蘇軾、乞二常州居住一表〕更生二僥覬之心一。

【僥競】4 ゲウキヤウ 僥倖を互に競ふこと。〔湘山野錄〕晏元獻〔公奏、官吏不レ務二至公一、以二差遣一徇二僥競一者極衆。

【僥人】5 ゲウジン うそつき。〔漢書、王尊傳〕今一旦無レ辜、制二於僥人之手一。〔注〕宋祁曰、一作二仇人之手一。

【僥僺】6 ゲウセウ 長いさま。〔集韻〕僺、僥僺、長皃。

【僥濫】7 ゲウラン 利を求め慾ばつてみだらなこと。〔揮塵後錄〕僥濫渠魁。

【傓】1114 キフ 翕(**9-28691**)に同じ。〔集韻〕翕、或从レ人。

【僦】1115 シウ シユ 〔集韻〕卽就切 ㄐㄧㄡˋ 宥 chiu⁴ 小篆

❶**錢を出してやとふ**。又、**かりる**。〔說文新附〕僦、賃也、从二人就一、就亦聲。〔漢書、食貨志下〕不レ償二其僦費一。〔注〕師古曰、僦、顧也、言二所レ輸賦物、不レ足レ償二其餘顧庸之費一也。〔後漢書、虞詡傳〕僦レ五致レ一。〔注〕廣雅曰、僦、賃也。❷**おくる**。**車を雇つておくる**。〔一切經音義、十五〕雇レ車載曰レ僦。〔漢書、王莽傳中〕僦載煩費。〔注〕師古曰、僦、送也。❸**あつまる**。〔唐書、賢妃徐惠傳〕工力和僦、不レ謂レ無レ煩。❹就(**4-7599**)に通ず。〔正字通〕僦、古用レ就轉二僦音一、後加レ人从二人就一。

【僦運】1 シウウン 僦勾客運の略語。賃金を取つて租稅・課物を運送すること。僦は賃。〔唐律、廐庫〕諸監臨主守之官、皆不レ得下於二所部一僦中運租稅課物上。

【僦屋】2 シウヲク 家をかりうける。借家ずまひ。僦居。僦舍。借家。〔王安石、京東提點刑獄陸君墓誌〕州人僦レ屋。〔楊維楨、奉二謝玉山假僦屋一詩〕乞與二山人僦屋金一。〔貢師泰、閒止齋詩〕僦レ屋西溪上。

【僦櫃】3 シウキ 動産を債務の擔保とし、之を保證として債權者が利息をとること。今の質屋の利息。就櫃質錢を見よ。〔蔡襄、論二財用一劄子〕唐德宗朝、盧杞輩等爲二刻剝一、稅椽僦櫃、別斂促迫。

【僦櫃質錢】4 シウキチセン 質屋の利息。〔資治通鑑、唐紀〕德宗、建中三年、又括二僦櫃質錢一。〔注〕民間以レ物質レ錢、異レ時贖出、於二母錢之外一、復還二子錢一、謂二之僦櫃一。

【僦居】5 シウキヨ 家をかりうける。借家ずまひ。僦屋。僦舍。〔廣輿記〕唐元結僦二居瑞昌之瀼溪上一。

【僦勾】6 シウコウ 律令の用語。賃金を得て輸送すること。〔賦役令〕其運腳均出二庸調之家一、皆司領送、不レ得二僦勾隨レ便糴輸一。〔令抄〕僦勾、取二百姓功直一、國郡司已私運送者。

【僦載】7 シウサイ 車をやとつて物を載せる。又、送る。〔漢書、王莽傳中〕實貨云云、皆輕則僦載煩費。〔注〕師古曰、僦、送也。一曰、賃也。〔淮南子、氾論訓〕今夫僦載者、救二一車之任一、極二一牛之力一。

【僦舍】8 シウシヤ 家をかりうける。借家ずまひ。又、かりた家。僦居。僦屋。〔宋史、崔遵度傳〕所レ僦舍甚湫隘。〔杜陽雜編、中〕至二京師一、索レ米僦レ舍。〔幕府燕閒錄〕擧二僦舍一建二隆觀一。〔蘇舜欽、滄浪亭記〕扁舟南遊、旅二於吳中一、始僦舍以處。

【僦舍錢】9 シウシヤセン 家賃のこと。僦錢。房錢。房䞨。

【僦人】10 シウジン 雇人。〔史記、鄭當時傳〕莊任二人賓客一、爲二大農僦人一。

【僦船】11 シウセン 賃錢を出して舟を借りる。僦、古は就を用ひる。〔異苑、九〕扶南國、治レ生、皆用二黃金一、僦レ船。

【僦費】12 シウヒ 運送賃。〔史記、平準書〕天下賦輸、或不レ償二其僦費一。〔注〕索隱曰、服虔云、雇載云レ僦、言二所レ輸物、不レ足レ償二其雇載之費一也。〔漢書、食貨志下〕不レ償二其僦費一。

【僦貸季】13 シウタイキ 上古、神農の時の人。岐伯祖の師。醫家の祖。〔素問、移精變氣論〕・〔琅琊代醉編、二十〕。

【⿰亻無】1116 ブ

憮(**4-11259**)に同じ。〔正字通〕⿰亻無、同レ憮、从レ憮爲レ正。

【僧】1117 ㊀ソウ 〔集韻〕思登切 ㄙㄥ sêng¹ 蒸 ㊁シヨウ ゾウ 〔集韻〕慈陵切 蒸 小篆

㊀❶**梵語の僧伽**(Saṅgha)**の略**。**和・衆等の意**。佛道に入つて道を修めるものの稱。本來は三人乃至四人以上の比丘をいふ。後、一人にもいふ。〔說文新附〕僧、浮屠道人也、从レ人曾聲。〔廣韻〕僧、沙門也、梵音云二僧伽一。〔正字通〕僧、從二浮屠教一者、或稱二上人一、梵語僧伽邪三合音、今俗取二一字一、名曰レ僧。〔僧史略、下、對二王者稱謂一〕若單曰レ僧、則四人已上、方得レ稱レ之、今謂二分稱一爲レ僧、理亦無レ爽。❷**姓**。〔尚友錄〕僧、太原、角音。㊁**心やすからざるさま**。僧倰。〔集韻〕僧、僧倰、不レ寧也。

【僧庵】1 ソウアン 僧の住むいほり。僧廬。〔陸龜蒙、殘雪詩〕何溪背レ林處、猶覆二定僧庵一。

【僧衣】2 ソウイ 僧の着る衣。袈裟。〔五燈會元〕世尊告二迦葉一、吾將二金縷僧伽梨衣一、傳付二于汝一、轉投二補處一、至二慈氏佛出一レ世、勿レ令二朽壞一。〔綦毋潛、過二融上人蘭若一詩〕山頭禪室挂二僧衣一、窓外無レ人溪鳥飛。

僧衣(三才圖會)

【僧位】3 ソウヰ 僧徒の位。法印・法眼・法橋・和尚・上人等がある。〔類聚三代格、三〕・〔二中歷、四〕・〔壒囊鈔、十四〕・〔元亨釋書、二十三〕。

【僧祐】4 ソウイウ 梁の僧。下邳の兪氏の子。揚都の建初寺で出家し、武帝の時、鍾山の定林寺に居た。著に出三藏記集・弘明集等がある。〔高僧傳、十一〕・〔宋高僧傳、道宣傳〕。

【僧院】5 ソウヰン 寺。寺院。僧宇。僧館。〔白居易、新秋喜レ涼因寄二兵部楊侍郎一詩〕蹇レ簾對二池竹一、幽寂如二僧院一。〔陸游、詩〕僧院疎鐘出二林岫一。

【僧院教育】6 ソウヰンケウイク 歐洲中世紀に於ける僧院をもつて中心とした教育をいふ。

【僧宇】7 ソウウ てら。寺院。僧院。〔蘇軾、上巳日與二二三子一攜レ酒出游隨レ所レ見輒作二數句一明日集レ之爲レ詩〕更隨二落景一盡二餘樽一、卻傍二孤城一得二僧宇一。〔陳造、詩〕松篁路窮得二僧宇一。〔朱熹、晨登二雲際閣一詩〕聊欲レ托二僧宇一、歲晏結二蓬茅一。

【僧英】8 ソウエイ ❶英僧。俊英な僧。〔沈約、爲二齊竟陵王一解講疏〕棲二情正業一、肅萃二僧英一。〔李白、贈二僧崖公一詩〕江濱遇二同聲一、道崖乃僧英。❷元の僧。錢塘の人。字は實存。號は白雲。閩海江淮燕汴を歷游し、一日徑山に登り、鐘聲を聞いて感ずる所あり、官を棄てて浮屠となり、茅を天目山中に結ぶ。著に白雲集がある。〔四庫提要、一百六十六〕。

【僧叡】9 ソウエイ 晉の僧。冀州の人。博く經論に通じ、天竺諸國を巡歷し、還つて關中に至り、鳩摩羅什に從つて學び、後、京師の烏衣寺に止まり、元嘉中、疾無くて逝く。著に法華經・中論・百論・成實論の序及び十四音訓梵等がある。〔高僧傳、六〕・〔蓮社高賢傳〕。

【僧瑗】10 ソウエン 後周の僧。昌邑の郁氏の子。字は辯空。虎丘山寺に住し、永昌中、入寂す。著に武丘名僧苑・郁子注・文集がある。

【僧屋】11 ソウヲク ❶僧の住む家。寺院。僧家。❷律家で厠をいふ。〔下學集〕僧厠、律家呼二東司一云二僧屋一也。

【僧伽】12 ソウカ ソウギャ ❶唐時代の西域の高僧。姓は何氏。初、泗州の普光王寺に居り、後、薦福寺に遷り、景龍の末、寂滅す。乾符中、證聖大師と謚せらる。〔宋高僧傳、十八〕。❷佛㋑Sangha の音譯。衆多の僧。轉じて、一人の僧をもいふ。〔大乘義章、十〕所レ言僧者外國正音、名曰二僧伽一。〔琅琊代醉編、僧伽〕僧伽、唐言二衆僧一、史略云、凡四人以上名レ僧、今一人亦稱レ僧、蓋從二衆之名一也。㋺獸の名。しし。師子(**4**−**8916**・・70)の異名。〔孔雀王咒經、上〕僧伽、梁言二師子一。

【僧伽鵄】13 ソウギャシ 佛僧衣の名。僧祇支(Saṅkakṣikā)とも書く。〔事物異名錄、佛釋、僧衣〕說略、褊衫、梵言僧祇支、西域記云、正名僧伽鵄、此云二覆腋衣一。

【僧伽多】14 ソウギャタ 佛❶僧伽羅の轉訛。❷Saṅghāta の音譯。僧伽吒とも書く。㋑集會、又は法門。〔僧伽吒經、一〕有二法門一、名二僧伽吒一。㋺大風をいふ。〔大寶積經、三十七〕風災起、更有二大風一、名二僧伽多一。

【僧伽帽】15 ソウギャバウ 佛僧侶の帽。〔蘇軾、成伯家宴造レ坐無レ由輒欲レ效レ顰而酒已盡入レ夜不レ欲二煩擾一戲作二小詩一〕道士令嚴難レ繼レ和、僧伽帽小卻空廻。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕不レ念二法華經一、不レ禮二梁皇懺一、颩二了僧伽帽一、袒二下我這褊紅衫一。

【僧伽彼】16 ソウギャヒ 梵語で獅子をいふ。〔本草、獅〕釋名、時珍曰、獅爲二百獸長一、云云、梵書、謂二之僧伽彼一。

【僧伽羅】17 ソウギャラ 佛Simhala の音譯。執師子と譯す。❶釋迦が過去世に於て大商主であった時の名。〔大唐西域記、十一〕昔有二大商主一、云二僧伽一、其子名二僧伽羅一、率二五百商人一、入レ海採レ寶。❷印度錫崙島の古名。〔大唐西域記、一一〕僧伽羅國、周七千餘里、國大都城、四十餘里。

【僧伽梨】18 ソウギャリ 佛袈裟の一種。比丘三衣の一。大衣。僧伽胝(Saṅghāṭa)の舊稱。〔大唐西域記、二〕僧伽胝、舊曰二僧伽梨一、訛也。〔翻譯名義集〕西域記云、僧伽胝、舊訛云二僧伽梨一、唐言二重複衣一。〔山堂肆考〕漢魏之世、出家者多著二赤布僧迦梨一、按、僧伽梨、僧大衣也。

【僧伽四衆】19 ソウギャノシシュ 佛佛弟子に四種あること。❶比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の四種をいふ。❷比丘・比丘尼・沙彌・沙彌尼の四種をいふ。〔法華文句、二〕有二僧伽四衆一。

【僧伽大師】20 ソウギャダイシ 唐時代の西域の僧。姓は何氏。僧伽の❶を見よ。〔太平廣記〕龍朔中、南遊二江淮一、於二泗州一建レ寺、中宗親書レ額爲二普光王寺一賜レ之、世稱爲二觀音大士化身一。

【僧伽提婆】21 ソウギャダイバ Saṅghadeva の音譯。晉の僧。太元中、阿毘曇心論・阿含經等を譯出す。〔梁高僧傳、一〕。

【僧伽婆羅】22 ソウギャバラ 梁の高僧。扶南國の人。一名、僧養。又、僧鎧。數箇國の言語を解し、天監中、武帝に厚遇せらる。譯に阿育王經・解脫道論等がある。〔續高僧傳、一〕。

【僧伽藍摩】23 ソウギャランマ 佛Saṅghārāma の音譯。衆僧の住する園林。卽ち寺院のこと。衆園。僧舍。又、僧伽羅磨。略して僧伽藍・伽藍といふ。〔玄應音義、一〕僧伽藍、舊譯云レ村、此應レ訛也、正言二僧伽羅磨一、此云二衆園一也。

【僧哥】24 ソウカ 宋の歐陽脩の子の小名。子供に賤名をつければ、其の子の生長が早いといふので、己の賤しんでゐる佛に因んだ名をつけた。〔道山清話〕一長老在二歐陽公座上一、見二公家小兒一、有二小名僧哥者一、戲謂レ公曰、公不レ重レ佛、安得二此名一、公笑曰、人家小兒、要レ易二長育一、往往以二賤名一爲二小名一、如二牛羊狗馬之類一、聞者莫レ不レ服二公之捷對一。

【僧訶】25 ソウカ 梵語 Simha の音譯。獸の名。師子。獅子。〔大孔雀咒王經、中〕僧訶、師子、鄔波僧訶、小師子。

【僧蓋】26 ソウガイ 南齊の女僧。趙國の田氏の女。幼時出家して、彭城の華林寺に住し、永明中、禪基寺に移居す。〔比丘尼傳〕。

【僧鎧】27 ソウガイ 梁、僧伽婆羅(Saṅghavarman)(22)の名。

【僧杲】28 ソウカウ 明、余寅(**1**−**515**・・2)の字。

【僧綱】29 ソウカウ ❶清代、府に於ける僧官の長。〔清會典、禮部、祠祭清吏司、凡僧官道官皆註二於籍一、注〕直省僧官、府曰二僧綱一、州曰二僧正一、縣曰二僧會一。❷僧官の高級の者。僧侶を支配するものの意。卽ち僧正・僧都・律師の三官。後には法師・法眼・法橋の僧位をもいふ。〔續日本紀、九〕養老六年七月己卯、比來僧綱等、既罕二都座一。

【僧綱所】30 ソウガウショ 僧綱の事務を執る所。綱所。〔太政官式〕凡任二僧綱一者、云云、共向二僧綱所一。〔玄蕃寮式〕凡僧綱所者、當時修理。

【僧講】31 ソウカウ 僧侶の講義。〔事物紀原、道釋科教部、僧講〕僧史略曰、僧講、自三朱士行魏代講二道行經一始也。

【僧號】32 ソウガウ 出家後、俗名の外につける名。法號。

【僧眼】33 ソウガン 明、王與慧(**7**−**20823**・・2147)の字。

【僧旂】34 ソウキ 僧の持つはた。〔清異錄、釋族〕龍興寺檀越捨旛蓋文曰、僧旂交舞、丁當起二于風鈴一、佛傘高擎、焜燿生二乎日一。

【僧貴】35 ソウキ 後魏、辛琛(**10**−**38630**・・55)の字。

【僧祇】36 ソウギ 佛阿僧祇耶(Asaṅkhya)の略。大多數の意。無數。無量。〔翻譯名義集〕梵語、阿僧祇、無數也、僧祇、大衆也。〔祖庭事苑〕梵云二僧祇一、此言二無量一。〔舊唐書、憲宗紀下〕訶陵國、遣レ使獻二僧祇僮及五色鸚鵡、頻伽鳥幷異香名寶一。

【僧祇戶】37 ソウギコ 北魏の制で、穀物を僧曹に輸納する者。〔魏書、釋老志〕曇曜奏、平齊戶及諸民有下能歲輸二穀六十斛一、入二僧曹一者上、卽爲二僧祇戶一、粟爲二僧祇粟一。

【僧祇支】38 ソウギシ 佛Saṅkakṣhā の音譯。長方形の衣片で、袈裟の下掛。僧伽鵄。〔大唐西域記、二〕僧卻崎、唐書二掩腋一、舊曰二僧祇支一、訛也、覆二左肩一、掩二兩腋一、左開右合、長裁過レ腰。〔行事鈔、下一〕僧祇支法、此是中國梵音、此翻云二上狹下廣衣一。

【僧祇粟】39 ソウギゾク 北魏の制で、僧祇戶の輸納する粟。僧祇戶(37)を見よ。

【僧祇物】40 ソウギモツ 佛比丘・比丘尼の大衆の共有に係る物。〔觀無量壽經〕如レ此愚人、偸二僧祇物一、盜二現前僧物一。〔往生十因〕僧祇物者、龍興師云、此云二大衆物一、大衆共有二此物用一故。

【僧祇律】41 ソウギリツ 佛書名。摩訶僧祇律の略稱。五部律の一。大衆部の編纂した律藏をいふ。〔魏書、釋老志〕沙門法顯、慨二律藏不レ具、自二長安一遊二天竺一、歷二三十餘國一、隨下有二經律一之處上、學二其書語一、譯而寫レ之、其所レ得律、通譯未レ能レ盡正、至二江南一、更與二天竺禪師跋陀羅一、辯二定之一、謂二之僧祇律一。

【僧形】42 ソウギャウ 僧の姿。剃髮して袈裟を被った樣。又、僧をいふ。〔源平盛衰記、十、有王渡二硫黃島一事〕僧形として生魚を取りたる。

【僧巾】43 ソウキン 出家のかぶる頭巾。〔蘇軾、紙帳詩〕潔似二僧巾白氎布一、煖二於蠻帳紫茸氈一。

【僧供】44 ソウグ 僧侶に供養するもの。〔蘇轍、次二煙字韻一答二黃庭堅一詩〕比聞蔬茹隨二僧供一。

【僧會】45 ソウクワイ 清代、一縣に於ける僧官の長。僧綱(29)の❶を見よ。〔清會典、禮部、祠祭清吏司、凡僧官道官皆註二於籍一、注〕直省僧官、府曰二僧綱一、州曰二僧正一、縣曰二僧會一。

【僧官】46 ソウクワン ❶僧錄司の如く僧侶の事を掌る官。僧錄司(123)を見よ。〔清會典、禮部、祠祭清吏司〕凡僧官・道官、皆註二於籍一。〔注〕京師僧官曰二僧錄司一。❷朝廷から賜はる僧侶の官。僧正・僧都・律師の總稱。〔釋家官班記、下〕僧官採擇故實事。

【僧館】47 ソウクワン 寺。僧院。僧房。〔王安石、飯二祈澤寺一詩〕午飯投二僧館一。〔王紱、竹茶爐詩〕僧館高閒事事幽。

【僧願】48 ソウグワン 清、張雋(**4**−**9812**・・400)の名。

【僧家】49 ソウケ ❶出家した者。僧侶。〔舊唐書、姚崇傳〕無識者慕二僧家之有一レ利。❷僧院。僧侶の家。〔韓愈、題二秀禪師房一詩〕竹林莞席到二僧家一。

【僧敬】50 ソウケイ 後魏、胡虔(**9**−**29400**・・119)の字。

【僧慶】51 ソウケイ 字號。❶北周、趙剛(**10**−**37171**・・70)の字。❷後魏、趙善(**10**−**37171**・・264)の字。

【僧傑】52 ソウケツ 隋の僧、敬脫をいふ。傑れた僧侶の意。〔海錄碎事、文學、書札〕隋僧敬脫、善作二方丈大字一、號二僧傑一、法書苑。〔續高僧傳、敬脫〕敬脫不レ詳二姓氏一、汲郡人也、云云、又善二聲韻一、兼通二字體一、蒼雅林統、識二其科蹤一、文章篇什、頗預二倫伍一、同住二房院一、罕レ見二餘談一、手不レ輟レ卷、專師廣贍、威儀修整、未二曾反顧一、身極長大、充滿圓成、時共目レ之、以爲二僧傑一。

【僧戶】53 ソウコ 僧房。〔孫覿、妙光菴詩〕鐘魚寂無レ

聲、白日掩ㇾ僧戶。

【僧相】54 僧の形相。〔宋高僧傳、七〕一行所ㇾ作通ㇾ神、定僧相之法王、人形之菩薩。

【僧窗】55 寺のまど。又、僧牕にも作る。〔張耒、夜聞ニ風雨一有ㇾ感詩〕何當下粗息ニ飄萍恨一、卻誦中僧窗聽雨詩上。〔陸游、長歌行〕成都古寺臥ニ秋晚一、落日偏傍ニ僧牕一明。

【僧刹】56 寺。寺院。〔許渾、僧院影堂詩〕香銷雲凝舊僧家、僧刹殘燈壁半斜。〔宋史、危稹傳〕往往棲ニ寄僧刹一。

【僧粲】57 隋の高僧。一に僧璨に作る。徐州の人。太湖縣の司空山に往來して法を道信に傳へ、江上を徧游し、羅浮諸山を巡つて舒州の皖公山に還り、衆の爲に說法し、合掌して寂す。唐の玄宗の時、諡を鑑智禪師と賜ふ。禪宗ニ祖の一人。著に信心銘六百言がある。〔續高僧傳、九〕〔琅琊代醉編、三十一〕。

【僧璨】58 僧粲を見よ。

【僧殘】59 僧律中の罪科の名。波羅夷に次ぐ重罪。之を犯せば必ず僧衆の面前で懺悔法を行ひ、辛うじて僧團に留り得る。十三僧殘（2－2695：162）を見よ。〔行事鈔、中一〕。「託僧寺一てら。佛寺。〔魏書、盧景裕傳〕寓ニ

【僧寺】60

【僧社】61 寺。僧房。〔白居易、春憶ニ二林寺舊遊一因寄ニ郎滿晦三上人一詩〕最憶僧社題ㇾ橋處、十八人名空二人一。

【僧舍】62 ❶寺。〔雲仙雜記、暖香滿ㇾ室如ㇾ春〕寶雲漢有ニ僧舍一。〔許渾、郊居春日有ㇾ懷ニ府中諸公幷東王兵曹一詩〕僧舍覆ㇾ碁消ニ白日一、市樓賒ㇾ酒過ニ青春一。〔眞山民、曉行ニ山閒一詩〕僧舍在ニ何許一、隔ㇾ林鐘磬清。❷人名。〔竹坡詩話〕僧舍者、酒酣誦ニ前人詩一。

【僧正】63 ❶僧官の名。僧綱の一。己を正し、他をも正し、克く政令を敷いて僧侶の非行を正すことを掌る。我が國では、推古天皇の三十二年初めて置き、僧都・律師の二官を加へて僧綱と稱したが、僧正は後に大・正・權の三級に分たれ、大僧正は大納言、正僧正は中納言、權僧正は參議に準じた。〔山堂肆考〕參玄語錄、後秦姚萇、立ニ道安一爲ニ僧正一、秩同ニ侍郎一。〔釋氏要覽〕蓋以ㇾ比丘無ㇾ法、若ニ馬無ニ轡勒一、漸染ニ俗風一、將ㇾ乖ニ雅則一、故擇ㇾ有ニ德望一者、以ㇾ法而繩ㇾ之、令ㇾ歸ニ乎正一、故云ニ僧正一、此以ニ僞秦僧老一爲ㇾ始也。〔僧史略、中〕僧正者何、正、政也、自正ニ人、克敷ニ政令一、故曰也。蓋以ニ比丘無ㇾ法、如ニ馬無ニ轡勒一、牛無下貫繩上、漸染ニ俗風一、將ㇾ乖ニ雅則一、故設下有ニ德望一者上、以ㇾ法而繩ㇾ之、令ㇾ歸ニ乎正一、故云ニ僧正一也。❷清代、州の僧官の長をいふ。僧綱（29）の❶を見よ。〔清會典、禮部、祠祭清吏司、凡僧官道官皆註ニ於籍一注〕直省僧官、府曰ニ僧綱一、州曰ニ僧正一。

【僧麈】64 僧のもつ拂子（ホッス）。蠅・蚊などをはらふに用ひる。麈は大鹿で、其の尾毛を束ねて作るからいふ。麈尾。〔蘇轍、次韻答ニ王鞏一詩〕清談對ニ僧麈一。

【僧衆】65 多くの僧徒。僧徒の團體。〔宋書、蕭惠開傳〕自宜ニ悉供ニ僧衆一。〔翻譯名義集、七〕普集ニ僧衆一。

【僧宿】66 寺。庵。〔劉滄、題ニ龍門僧房一詩〕僧宿石龕殘雪在、雁歸ニ沙渚一夕陽空。

【僧儁】67 北周、冀儁（2－1500‥11）の字。

【僧人】68 seng jen²　僧侶。出家。

【僧雛】69 小僧。雛僧。〔黃庭堅、詩〕僧雛手ニ金鑰一。

【僧生】70 後魏、柳崇（6－14662‥149）の字。

【僧籍】71 僧尼の名籍。之を官に置いて濫非を防ぐ。〔仁王經、囑累品〕國王大臣太子王子、自恃ニ高貴一、滅ニ破吾法一、明作ニ制法一、立ニ統官一制ニ衆、安ニ籍記一僧、當ㇾ知ニ爾時正法將ㇾ滅不ㇾ久。〔劉禹錫、送ニ僧仲訓東遊一兼寄ニ呈靈澈上人一詩〕西遊ニ長安一隸ニ僧籍一、本寺門前曲江碧。

【僧涉】72 前秦時代の西域の人。一に涉公といふ。苻堅の時、長安に入る。將來の事を豫言して、多く驗あり。祕呪を以て雨を祈る。〔晉書、九十五〕。

【僧前】73 僧侶に與ふべき物。〔小右記〕八月二十四日癸酉、今日院御息所七七法事、於ㇾ院被ㇾ行、調ニ備僧前一前一。

【僧俗】74 僧侶と俗人。出家と在家。緇素。〔藝苑雌黃〕僧俗創見。〔蘇軾、初入ニ廬山一詩注〕已而見ニ山中僧俗一、皆云、蘇子瞻來矣。

【僧堂】75 ❶僧侶の住む堂。寺。〔許渾、晨自ニ竹徑一至ニ龍興寺崇隱上人院一詩佛寺通ニ南徑一〕僧堂倚ニ北坡一。❷僧の坐禪する所。禪堂。雲堂。〔智度論、二〕阿難如ㇾ是入ニ金剛定一、破ニ一切諸煩惱山一得ニ三明六神通共解脫一、作ニ大力阿羅漢一、即夜到ニ僧堂門一、敲ニ門而喚。

【僧道】76 ❶僧侶と道士。〔宋史、禮志〕宰臣宋琪、率ニ文武官僧道耆壽一、三上ㇾ表。〔宋史、朱熹傳〕禁ニ女婦之爲一ニ僧道一者上。❷關の名。陝西省山陽縣の東南。〔陝西通志〕南蠻王以ニ僧道兵一、拒ニ楊文廣一處。

【僧達】77 ❶北齊の高僧。上谷の李氏の子。梁の武帝、勅して同泰寺に居らしめ、北魏の廢帝、亦召して鄴に入れて菩薩戒を受け、文宣帝亦重んじて爲に洪谷寺を建て、神武廟を寄捨し、定寇寺を作つて之に居らしむ。年八十二を以て入寂す。〔續高僧傳、十六〕。❷梁、蕭憺（9－32012‥214）の字。

【僧納】78 僧となつて衲衣（僧衣）を著けること。納は衲。〔金石綜例〕金京兆府重修府學記、僧納四十六、王氏祝曰、納卽衲字、不ㇾ云ニ僧服一而云ニ僧納一、謂ニ其著ニ衲衣一四十六年一也。

【僧智】79 字號。❶北周、魏玄（12－45872‥52）の字。❷後魏、高聰（12－45313‥588）の字。

【僧稠】80 北齊の高僧。鉅鹿の孫氏の子。經史に通じ、太學博士となる。後、出家して禪定を得、天保中、雲門寺に居り、乾明の初、端坐して入寂す。〔續高僧傳、十六〕。

【僧聰】81 私年號の名。其の始年は宣化天皇元年に相當し、凡そ五年間に亙る。

【僧廚】82 寺の臺所。庫裡。〔崔珏、道林寺詩〕松風千里擺不ㇾ斷、竹泉瀉入ニ于僧廚一。

【僧都】83 僧官の第二位、僧正に次ぐ。大僧都・權大僧都・僧都・少僧都・權僧都の五階に分つ。僧衆を取りしまる職。都は統の意。〔僧史略、中〕。〔日本書紀、推古紀〕自今已後、任ニ僧正僧都一、仍應ニ撿ニ挍僧尼一。〔職原抄〕僧官位、僧都、大・正・權・少・權。

【僧肇】84 晉の僧。子史を博觀し、尤も莊老に精通す。年二十で出家し、年三十二を以て入寂す。著に般若無知論・物不遷等がある。〔高僧傳、六〕。

【僧徹】85 唐の高僧。大安國寺に住し、知玄の高弟となる。詩文・內外の學に精通し、懿宗の時、淨光大師の號を賜はる。廣明中、黃巢が闕を犯した時、扈從して岷峨に入り、終はる所を知らず。〔宋高僧傳、六〕。

【僧徒】86 僧のともがら。多くの僧侶。僧衆。又、師の僧に對して、弟子をいふ。〔大唐西域記、一〕伽藍百餘所、僧徒五千餘人。〔白居易、留ニ題天竺靈隱兩寺一詩〕僧徒多悵望。

【僧統】87 僧官の名。後魏の時、佛教を統べさせたもの。〔傳燈錄〕曇曜名行俱崇、遂爲ニ僧統一。

【僧尼】88 男の出家と女の出家。比丘と比丘尼。〔李商隱雜纂、失本體〕不ニ早晚禮拜一、失ニ僧尼體一。

【僧念】89 梁の女僧。南城の羊氏の女。十歲の時出家して太后寺に住し、齊の永明中、禪林寺に移居して、天監中、入寂す。〔比丘尼傳〕。

【僧婆】90 梵書で、入きい鴈をいふ。〔本草、鴈〕釋名、時珍曰、鴻・鵠、並音鴈。冬則適ニ南集一于水干、故字從ニ干、春則擧ニ北集一于山岸、故字從ニ岸、小者曰ニ鴈、大者曰ニ鴻一、鴻、大也、多集ニ江渚一、故從ニ江、梵書謂ニ之僧婆一。

【僧袍】91 seng¹ p'ao²　ころも。僧衣（2）に同じ。

【僧寶】92 南齊、垣崇祖（3－5060‥48）の字。

【『僧寶傳』】93 書名。三十卷。附、補傳一卷、臨濟宗旨一卷。宋、釋惠洪撰。五宗を總括し、禪門の宿望凡そ八十一人の事蹟始末を述べ、傳贊を作る。〔四庫提要、子、釋家類〕。

【僧坊】94 僧の居所。僧房に同じ。〔晉書、鳩摩羅什傳〕不ニ住ニ僧坊一、法華經〕起ニ塔寺一及造ニ僧坊一。〔觀佛三昧經、二〕來請僧坊、供ニ養衆僧一。

【僧房】95 僧の居所。僧館。僧戶。僧寮。梵館。〔謝靈運、山居賦〕臨ニ浚流一列ニ僧房一。〔張籍、逢ニ賈島一詩〕僧房逢著款冬花、出ニ寺行吟日已斜一。〔孫紬、甘露寺詩〕最愛僧房好、波光滿ニ戶庭一。

【僧帽】96 僧侶の冠る帽。〔三才圖會、衣服、僧帽〕自ニ釋迦一以ニ金縷僧伽黎衣一相傳、故其衣有ニ

無垢忍辱之名㆒、其帽末㆓之前聞㆒、諒亦與㆓僧衣㆒同流耳。

【僧帽筋】97 ソウバウキン 生理學用語。背部の皮下にある三角形の大筋。肩胛帶の運動を司る。

僧帽（三才圖會）

【僧帽瓣】98 ソウバウベン 生理學用語。心臟の瓣膜。

【僧髮】99 ソウハツ 僧侶の頭髮。〔海錄碎事、百工醫技、技能〕蜀李台瑕常云、韓昭凡事如㆓僧剃㆑髮、無㆑有㆓寸長㆒。

【僧範】100 ソウハン 北齊の高僧。平鄉の李氏の子。儒書・天文・筮術に通じ、出家して鄴東の大覺寺に住す。〔續高僧傳、八〕。

【僧彌】101 ソウビ 字號。㊀晉、王珉(**7－20823**··920)の小字。㊁清、邵彌(**11－39343**··62)の字。

【僧旻】102 ソウビン 梁の僧。富春の孫氏の子。白馬寺に住居し、後、揚都の莊嚴寺に移る。齊より梁に至るまで二十年間、登座講說し、大通中、入寂。著に論疏雜集・四聲指歸・詩譜決疑がある。〔續高僧傳、五〕。

【僧趺】103 ソウフ 禪宗の僧侶の行ふ靜坐法。足をくんですわること。結跏趺坐。〔蘇軾、將㆑往㆓終南㆒和㆓子由見㆑寄詩〕終朝危坐學㆓僧趺㆒、閉㆑門不㆑出閑㆓履鳧㆒。

【僧服】104 ソウフク ころも。僧衣。〔日本外史、德川氏前記、織田氏〕皆被㆓僧服㆒、來謝㆓其罪㆒。

【僧兵】105 ソウヘイ 昔、寺院で自衞の爲に蓄へた僧侶の兵士。〔日本外史、源氏正記、源氏〕南都僧兵攻㆓叡山㆒。

【僧辯】106 ソウベン 唐の僧。南陽の張氏の子。年七歲にして日に千言を誦す。出家の後、經論に專念す。隋の大業の初、召されて大禪定道場に入り、貞觀中、召されて宏福寺に住居す。名、天下に高し。〔續高僧傳、十五〕。

【僧鳳】107 ソウホウ 唐の高僧。隋の開皇中、僧粲に從つて出家し、貞觀中、定水寺に居り、年七十七で入寂す。著に法華經疏及び遺文百餘首がある。〔續高僧傳〕。

【僧猛】108 ソウマウ 隋の高僧。涇陽の段氏の子。文帝に召されて京に至り、興善寺に住し、隋國大統三藏法師を授けられ、開皇中、雲華寺に入寂す。〔續高僧傳、二十三〕。

【僧盟】109 ソウメイ 僧侶會盟。〔白居易、如信大師功德幢記〕主㆓僧盟㆒者二十二年。

【僧門】110 ソウモン 僧家(49)に同じ。〔張又新、東林寺碑記〕予僧門一士也、一杖一履、足㆔以歷㆓岨嶮㆒、一鉢一衲、足㆔以了㆓朝夕㆒。

【僧養】111 ソウヤウ 梁、僧伽婆羅(22)の一名。

【僧裕】112 ソウユウ 後魏、高綽(**12－45313**··450)の字。

【僧朗】113 ソウラウ 前秦の高僧。京兆の人。佛圖澄に事へ、碩學淵通。符堅は師禮をとつて之を崇敬す。〔魏書、一百二十四〕・〔續高僧傳、二十五上〕。

【僧臘】114 ソウラフ 僧侶の歲。僧壽。臘は僧の得度以後の年數。〔元稹、許劉總出家制〕賜㆓法號大覺㆒、仍賜㆓僧臘五十㆒。〔皇甫曾、贈㆓鑒上人㆒詩〕律儀傳教誘、僧臘老烟霄。〔太平廣記〕齊君房至㆓靈隱寺㆒、剪㆑髮具戒、法名鏡空、語㆓李玫㆒曰、我生五十有七矣、僧臘方十二、持鉢乞食九年、在㆓捨世之日㆒、佛法其衰乎、詰㆑之、默然不㆑答。〔尊勝經〕僧壽曰㆓僧臘㆒。

【僧律】115 ソウリツ 僧尼の守るべきおきて。〔白居易、二月一日作贈㆓韋七庶子㆒詩〕今春入㆓道場㆒、清淨依㆓僧律㆒。〔嚴維、別㆓至弘上人㆒詩〕年老從㆓僧律㆒、生知解㆓佛書㆒。

【僧䂮】116 ソウリヤク 後秦の僧。六經及び三藏に通じ、律行清謹、能く佛法を振興す。姚萇に用ひられて僧正となり綱紀を正す。弘始の末年、長安の大寺に入寂す。〔梁高僧傳、六〕。

【僧侶】117 ソウリヨ 僧のともがら。轉じて、單に僧をいふ。僧徒。釋侶。〔法苑珠林〕法輪則柰國初轉、僧侶則憍陳始度。〔蘇軾、會㆓客有美堂㆒詩〕僧侶且㆑陪香火社、詩壇欲㆑斂鸛鵞軍。

【僧林】118 ソウリン 僧の多く居ることを形容した語。叢林(**2－3220**··94)を見よ。

【僧寮】119 ソウレウ 僧侶の宿舍。僧房。〔陸游、貧居詩〕囊空如㆓客路㆒、屋窄似㆓僧寮㆒。

【僧廬】120 ソウロ 僧侶の住むいほり。僧庵。僧房。〔朱熹、奉㆑陪㆓判院丈充父平父兄㆒宿㆓回向㆒用㆓知郡丈壁閒舊題之韻㆒詩〕暮雨停㆑驂處、僧廬古道邊。〔鄧文原、三月晦遊㆓道場山㆒宿㆓清公房㆒與㆓成文㆒同行詩〕涼立㆓松風㆒觀㆓石榴㆒、晚尋㆓樵徑㆒扣㆓僧廬㆒。

【僧爐】121 ソウロ 僧房のいろり。〔白居易、宿㆓東林寺㆒詩〕經窗燈焰短、僧爐火氣深。

【僧錄】122 ソウロク 寺院を取締る官。唐の文宗の開成中、始めて左右僧錄を置く。僧錄司を見よ。〔參玄語錄〕元魏以㆓沙門僧顯㆒爲㆓京師統㆒、隋分置㆓十統㆒、唐罷㆑統立㆓兩錄司於京邑㆒、謂㆓之僧錄㆒。〔六一詩話〕吳僧贊寧、初爲㆓僧錄㆒。

【僧錄司】123 ソウロクシ ㊀寺院を取締る官。唐代に始まる。明の洪武十五年、僧錄司を立て、左右善正・左右闡教・左右講經・左右覺義等の官を置き、佛教に關する事務を掌らせた。清朝は禮部に此の司を置く。〔明史、職官志三〕僧錄司、左右善世二人、左右闡教二人、左右講經二人、左右覺義二人。〔清會典、禮部、祠祭清吏司、注〕京師僧官曰㆓僧錄司㆒、正印一人、副印一人、左右善世二人、闡教二人、講經二人、覺義二人。㊂天下の寺院を總管する職。足利義滿の時に起り、江戶時代、社寺奉行を置くに及んで廢された。

【僧鞋菊】124 ソウアイギク 草の名。一名、鸚哥菊。西番蓮の類。色は鸚哥に似、狀は僧鞋に似て居るからいふ。一說に、附子の別名といふ。〔陳淏子花鏡〕。

【僧格宗】125 ソウカクソウ 地名。四川省懋功縣の西、小金川の北。清の乾隆の時、阿桂が金川を征して攻めた所。

【僧史略】126 ソウシリヤク 書名。三卷。宋、贊寧撰。佛家の事物の紀原を記載する。

【僧格林沁】127 ソンコリンチン 清の蒙古科爾沁親王。姓は博爾濟吉特氏。謚は忠。號は僧王。咸豐の時、林鳳翔を擒にす。英佛聯合軍と大沽に力戰したが利を失ふ。髮捻を勦除し、直隸・山東・河南・安徽・湖北等の省に轉戰して功績あり。同治の初、捻を曹南に追ひ、伏兵に遇つて陣歿す。〔清史稿、四百十〕・〔清史列傳、四十五〕。

【僧自恣日】128 ソウジシニチ 佛陰曆七月十五日をいふ。安居九十日の修道を卒へ、自恣といふ作法を行ふ日。佛歡喜日。〔盂蘭盆經〕善男子、若比丘比丘尼、國王太子三公百官萬民庶人、行㆓慈孝㆒者、皆應㆘先爲㆓所生現在父母過去七代父母㆒、於㆓七月十五日佛歡喜日僧自恣日㆒、以㆓百味飲食㆒安㆗盂蘭盆中㆒、施㆗十方自恣僧㆖。

【僧體盤飧】129 ソウタイバンソン 僧侶の御馳走。〔海錄碎事、草木、竹〕僧體盤飧惟筍味、魏野詩。

【僧中鸞鳳】130 ソウチユウノランポウ 僧侶中の英俊。〔海錄碎事、道釋、僧〕僧中鸞鳳、光統律師、流支三藏。

【誘㆑僧焚㆑身】131 ソウヲイザナヒテミヲヤカシム 僧をだまし、身を燒かせて軍資を得た故事。〔琅琊代醉編、誘㆑僧焚㆑身〕李抱眞鎭㆓潞洲㆒、軍資匱乏、有㆑僧爲㆓衆所㆑信、公謂曰、假㆓和尚之道㆒以濟㆓吾軍㆒、如何、僧曰、無㆓不可者㆒、公曰、但言請㆘於㆓毬場㆒焚㆖身、某當㆘自使㆗宅穿㆓一地道㆒通連㆖火作卽潛入、僧喜從㆑之、遂陳㆑狀積㆑薪貯㆑油、因爲㆓七日道場㆒、晝夜香燈梵唄、公率㆓監軍僚吏㆒膜拜、以㆑俸入㆑檀、施㆓堆于其傍㆒、由㆑是士女駢闐、捨㆑財億計、七日遂擊㆑鍾擧㆑火、已塞㆓地道㆒矣、須臾灰燼、明日藉㆑所㆑施、得㆓數十萬軍資㆒取足、別求㆓所謂舍利者㆒、選㆑地造㆑塔葬焉、出㆓尚書故實㆒。

【僧敲月下門】132 ソウハゲツカノモンタタク 月夜に僧が寺門をたたく。唐の賈島の詩の句。推敲(**5－12284**··2)を見よ。〔賈島、題㆓李凝幽居㆒詩〕鳥宿池邊樹、僧敲月下門。

【僧格喀巴普】133 ソンコココパプ 山名。西藏の阿里境內の岡底斯山の東北。獅泉河の源。西藏語で僧格喀は獅子の口、巴普は食を盛る木盒の意。山の形が似てゐるから名づけた。

【儆】1118

カン 〔集韻〕許鑑切 陷

㊀**高く危いさま。**覽儆。〔集韻〕儆、覽儆、高危也。㊁**たくましいさま。**〔字彙〕儆、逞貌。

【僨】1119

㊀フン 〔集韻〕方問切 問 ㄈㄣˋ fen4

㊁ホン 〔集韻〕逋昆切 元

（小篆）㊀❶たふれる。或は焚（7−19100）に作る。〔說文〕僨、僵也、从レ人賁聲。〔爾雅、釋言〕僨、僵也。〔集韻〕僨、或作レ焚。〔左氏、昭、十三〕牛雖レ瘠、僨ニ於豚上一、其畏不レ死。〔注〕僨、仆也。〔呂覽、順民〕接レ頸交レ臂而僨。〔注〕僨、僵也。〔漢書、韓王信傳〕此伍子胥所ニ以僨ニ於吳世一也。〔注〕孟康曰、僨猶レ斃也。❷おちる。〔國語、周語下〕高位寔疾僨。〔注〕僨、隕也。❸やぶる。やぶれる。〔禮、大學〕此謂ニ一言僨レ事。〔注〕僨、猶ニ覆敗一也。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕輕出ニ一言一而僨ニ乃公事一。❹うごく。奮（3−6012）に通ず。〔說文通訓定聲〕僨、叚借爲レ奮。〔左氏、僖、十五〕張脈僨興。〔注〕僨、動也。❺或は賁（10−36737）に作る。〔禮、射義、賁レ軍之將、注〕賁、讀爲レ僨、僨、猶ニ覆敗一也。㊁たかぶつた勢。僨驕（1）を見よ。〔集韻〕僨、僨驕、不レ可レ禁之勢。

【僨驕】1 フンケウ たかぶつた勢。〔莊子、在宥〕僨驕而不レ可レ係者、其唯人心乎。〔注〕僨驕者、不レ可レ禁之勢也。

【僨興】2 フンコウ うごきおこる。〔左氏、僖、十五〕亂氣狡憤、陰血周作、張脈僨興、外彊中乾。〔注〕僨、動也。

【僨事】3 フンジ 物事を覆し敗る。〔大學〕此謂ニ一言僨レ事。〔鄭注〕僨、猶ニ覆敗一也。

【僨仆】4 フンプ たふれる。〔新書、春秋〕其僨仆也、不ニ亦宜一乎。

【⿰亻愆】1120 ケン 愆（4−10900）の俗字。〔廣韻〕⿰亻愆、俗愆字。〔漢武帝、立ニ齊王一策文〕厥有レ⿰亻愆不レ臧。〔注〕⿰亻愆、與レ愆同。

【⿰亻羕】1121 ヤウ 〔集韻〕弋亮切 漾

たち動くさま。〔集韻〕⿰亻羕、立動皃。

【僩】1122

（小篆）
㊀カン ゲン 〔集韻〕下赧切 ㄒㄧㄢˋ hsien⁴ 潸
㊁カン ケン 〔集韻〕賈限切 潸

㊀㊁❶たけだけしいさま。〔說文〕僩、武皃、从レ人閒聲、詩曰、瑟兮僩兮。❷おそれつつしむ。きちんとする。〔爾雅、釋訓〕瑟兮僩兮、恂慄也。〔注〕恂慄戰竦。〔疏〕云ニ瑟兮僩兮一者、詩文也、恂慄也者、釋レ之也、謂ニ嚴恂戰栗一也、故郭云、恂戰竦。❸ひろく大きい。〔集韻〕僩、一曰、寬大皃。〔詩、衛風、淇奧〕瑟兮僩兮。〔傳〕僩、寬大也。❹うつくしいさま。〔詩、衛風、淇奧、釋文〕僩、美貌也。❺ならふ。みやびやか。嫻（3−6711）に通ず。〔新書、傳職〕明ニ僩雅一、以道ニ之文一。〔注〕僩、與レ嫻同。❻いかるさま。僩然（2）を見よ。❼撊（5−12682）・憪（4−11251）・閑（11−41247）に通ず。〔荀子、榮辱〕陋者俄且僩也。〔注〕僩、與レ撊同、猛也、方言云、晉魏之閒、謂レ猛爲レ撊、陋者俄且撊、言ニ鄙陋之人、俄且矜莊有ニ威儀一也、詩曰、瑟兮僩兮、毛云、僩、寬大也。〔王先謙集解〕盧文弨曰、注撊字、字本作レ憪、云云、案、此注說頗岐出、竊疑、僩當レ爲ニ嫻雅之義一、賈誼書傳職篇云、明ニ僩雅一、以道ニ之文一、又道術篇云、容レ志審レ道謂ニ之僩一、反レ僩爲レ野、此以ニ僩與一レ陋相對、義亦合、又曰、注陋者俄且僩之上、當ニ本有ニ或曰二字一、郝懿行曰、注前說謬、後說引ニ詩瑟兮僩兮、鄭云、僩、寬大也一、是說是矣、盧疑、僩當レ爲ニ嫻雅之義一、引ニ賈誼書傳職篇一、文義亦相近、而非ニ本義一、今詳ト賈子之僩爲ニ假借一、荀子之僩爲中本義上、何以明レ之、陋爲ニ陝隘一、僩爲ニ寬大一、故以ニ僩陋一相儷、證以ニ修身篇一云、多聞曰レ博、少聞曰レ淺、多見曰レ閑、少見曰レ陋、又以ニ閑陋一相儷、閑亦僩之叚借、閑謂ニ寬閑一、即僩訓ニ寬大之義一、楊注訓爲ニ閑習一、亦非、王念孫曰、盧說是也、修身篇、多見曰レ閑、少見曰レ陋、閑與レ陋對文、是其證、僩・閑古字同耳、楊後說以レ僩爲ニ寬大一、近レ之。

名乘 ヒロ。

【僩雅】1 カンガ 威儀にならふ。みやびやか。〔新書、傳職〕明ニ僩雅一、以道ニ之文一。〔注〕僩、與レ嫻同。

【僩然】2 カンゼン 怒るさま。〔唐書、王叔文傳〕僩然以謂ニ天下無レ人。〔資治通鑑、唐紀〕〔順宗、永貞元年〕僩然自得。〔注〕僩然、勁忿貌。

【僪】1123

㊀キツ ギチ 〔集韻〕其述切 質
㊁イツ イチ 〔集韻〕允律切 質
㊂ケツ ケチ 〔集韻〕古穴切 屑

㊀❶くるふ。くるひ。狂人。屈（4−7669）に同じ。〔集韻〕屈、狂屈倂張、似レ人而非也、李頤說、或作レ僪。〔字彙〕僪、狂也。❷狂鬼。或は⿺鬼矞（12−45919）に作る。〔集韻〕僪、狂鬼、或从レ鬼。❸奇怪なさま。僪佹。〔楚辭、天問、章句〕圖ニ畫天地・山川・神靈・琦瑋・僪佹、及古聖賢怪物行事一。❹獝（7−20684）に通ず。〔玉篇〕僪、抶ニ僪狂一。〔漢書、揚雄傳上〕捎ニ夔魖一而抶ニ獝狂一。㊁㊂日のかさ。通じて矞（8−23863）に作る。〔集韻〕僪、日傍氣也、呂不韋說、通作レ矞。〔呂覽、明理〕其日有ニ鬭蝕一、有ニ倍僪一、有ニ暈珥一。〔注〕日旁之危氣也、在レ上反出爲レ僪。

【儁】1124 ジユ 儒（1−1220）の俗字。〔正字通〕儁、俗儒字。

【⿰亻棠】1125 シヤウ 惝（4−10815）に同じ。〔集韻〕惝、或作レ⿰亻棠。

【僫】1126 アク 惡（4−10824）の俗字。〔集韻〕惡、俗作レ僫。

【僬】1127

㊀セウ ゼウ 〔集韻〕慈焦切 ㄐㄧㄠ chiao¹ 蕭
㊁セウ 〔集韻〕子肖切 嘯
㊂セウ 〔集韻〕子小切 篠

㊀❶明察のさま。僬僬（4）の❷を見よ。❷國の名。僬僥（1）を見よ。㊁はしる。趨走して容止を整へぬさま。僬僬（4）の❶を見よ。〔集韻〕僬、行皃。㊂驚き恐れる。僬仯（3）を見よ。

【僬僥】1 セウゲウ 國の名。短人の國。僬僚。焦僥。〔廣韻〕僥、僬僥、國名、人長一尺五寸、一云、三尺。〔國語、晉語四〕僬僥不レ可レ使レ舉。〔注〕僬僥、長三尺。〔列子、湯問〕從ニ中州一以東四十萬里、得ニ僬僥國一、人長一尺五寸。

【僬僥氏】2 セウゲウシ 短人の族。僬僥を見よ。〔國語、魯語下〕僬僥氏長三尺、短之至也。〔史記、孔子世家〕僬僥氏三尺、短之至也。〔注〕集解曰、韋昭曰、僬僥、西南蠻之別名也。

【僬仯】3 セウセウ 驚き恐れる。〔集韻〕僬、僬仯、驚悚。

【僬僬】4 セウセウ ❶趨走して容止を整へぬさま。〔集韻〕僬、行皃。〔禮、曲禮下〕天子穆穆、諸侯皇皇、大夫濟濟、士蹌蹌、庶人僬僬。〔注〕皆行容止之貌也、云云、凡行容、尊者體盤、卑者體蹙。〔疏〕庶人僬僬者、卑盡之貌也、庶人卑賤、都無ニ容儀一、並自直行而已。❷明察のさま。〔荀子、不苟〕其誰能以ニ己之潐潐一、受ニ人之掝掝一者哉。〔注〕潐潐、明察貌。〔增注〕潐潐、舊作ニ僬僬一。

【僬僚】5 セウレウ 國の名。短人の國。僬僥（1）に同じ。〔古微書、詩含神霧〕從ニ中州一以東四十萬里、得ニ

僬僥國一、人長尺五寸也。

【僭】1128　㊀セン〔集韻〕子念切 豔 ㄐㄧㄢˋ chien⁴　㊁シン〔集韻〕咨林切 侵　㊂シン〔集韻〕側禁切 沁

小篆

㊀❶なぞらへる。分限を越えてなぞらへる。かりる。〔說文〕僭、儗也、从レ人朁聲。〔段注〕各本作二假也一、今依二玉篇所一レ引正。〔玉篇〕僭、儗也。〔公羊、隱、五〕譏三始僭二諸侯一也。〔注〕僭、齊也、下傚レ上之辭。❷をかす。〔穀梁、隱、五〕始僭レ樂矣。〔注〕下犯レ上、謂二之僭一。〔漢書、五行志中之上〕庶位踰レ節、茲謂レ僭。❸たがふ。〔廣韻〕僭、差也。〔書、湯誥〕天命弗レ僭。〔釋文〕僭、忒也。〔左氏、哀、五〕不レ僭不レ濫。〔注〕僭、差也。❹かざりおごる。〔論衡、言毒〕僭者、奢麗也。❺まことがない。不信。〔詩、小雅、巧言〕僭始既涵。〔箋〕僭、不信也。㊁❶をかす。〔集韻〕僭、侵越也。❷みだれる。〔詩、小雅、鼓鐘〕以雅以南、以籥不レ僭。〔集傳〕僭、亂也。㊂❶せめる。譛(10－35972)に通ず。〔說文通訓定聲〕譛、叚借爲レ僭。〔集韻〕僭、數也。〔詩、小雅、巧言〕僭始既涵。〔傳〕僭、數也。〔詩、大雅、抑〕不レ譛不レ賊、〔釋文〕譛、本亦作レ僭。❷まことがない。不信。〔詩、小雅、巧言〕僭始既涵、〔集傳〕僭、音譛、云云、僭始、不信之端也。

参考　僭(1－1111)は別字。今、僣を僭に誤り用ひる。〔字彙、醒誤〕僭、音薦、僭竊、今誤作レ僣。僣、音鐵、狡猾也。

【僭位】1 センヰ　君主の位を犯すこと。

【僭逸】2 センイツ　分を越してわがままなこと。〔北史、李彪傳〕矜勢高亢、公行僭逸。

【僭溢】3 センイツ　分にすぎること。〔後漢書、梁商傳〕賞不二僭溢一、刑不二淫濫一。

【僭越】4 センエツ　己の分限をのり越える。己の身分を顧みぬ。又、其のこと。〔漢書、賈誼傳〕諸侯王僭越。〔北史、魏清河王懌傳〕杜レ漸防レ萌、無二相僭越一。〔韓愈、上二襄陽于相公一書〕其贊二王公之能一、而稱二大君子之美一、不レ爲二僭越一也。

【僭傲】5 センガウ　分を越えておごりたかぶる。〔後漢書、史弼傳〕素行險辟、僭傲多二不法一。

【僭號】6 センガウ　身分を越えた名號。王號又は帝號を犯し稱する。僭稱。〔漢書、師丹傳〕定陶太后造二稱僭號一、甚悖二義理一。〔風俗通、五霸〕莊王僭號。〔蜀志、呂凱傳〕夫差僭號。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕南吳伊何、僭號稱レ王。

【僭客】7 センカク　わうばい。迎春花(11－38748‥45)の異名。〔三柳軒雜識〕迎春花爲二僭客一。

【僭樂】8 センガク　身分を越えた音樂を奏す。〔穀梁、隱、五〕穀梁子曰、舞レ夏、天子八佾、諸公六佾、諸侯四佾、初獻二六羽一、始僭レ樂矣。

【僭僞】9 センギ　分をこえて其の地位に居る。又、その者。〔南史、宋武帝紀〕姦宄具殲、僭僞亦滅。

【僭僞傳】10 センギデン　僭僞した者の傳。舊五代史に此の目がある。

【僭儗】11 センギ　身分を越えて上のものにまねる。僭擬。〔漢書、賈誼傳〕諸侯王僭儗、地過二古制一。

【僭擬】12 センギ　僭儗に同じ。〔史記、太史公自序〕僭擬之事、稍衰貶矣。〔魏志、張範傳〕若苟僭擬、于レ時而動、衆之所レ棄、誰能興レ之。〔唐書、溫造傳〕擅自尊大、忽二僭擬之嫌一。

【僭狂】13 センキャウ　上を犯し氣狂ひじみた行爲をする。〔漢書、敍傳下〕淮南僭狂、二子受レ殃。

【僭逆】14 センギャク　上を犯して逆らふ。〔後漢書、五行志一〕是時天下僭逆者、未二盡誅一。〔潘勖、册二魏公九錫一文〕袁術僭逆。〔魏志、杜恕傳〕二方僭逆、北虜未レ賓。

【僭君】15 センクン　禮を犯す君主。〔禮、禮運〕醆斝及二尸君一、非レ禮也、是謂二僭君一也。〔注〕僭禮之君也、醆斝、先王之爵也、唯魯與二王者之後一、得レ用レ之耳、其餘諸侯、用二時王之器一而已。

【僭傔】16 センケン　さからふ。〔駢雅、釋訓上〕僭傔、抗竦也。〔王延壽、王孫賦〕姿僭傔而捴贛。

【僭差】17 センサ　身分をこえ分限にたがふ。〔史記、禮書〕奢溢僭差者、謂二之顯榮一。〔漢書、刑法志〕然其禮已頗僭差。〔白虎通、爵〕爲二衰弱一、僭差生二篡弒一。〔魏志、明帝紀〕僭差無レ度。

【僭詐】18 センサ　をかしいつはる。〔後漢書、王劉張李彭盧傳贊〕昌芳僭詐、梁齊連レ鋒。

【僭坐】19 chien⁴ tsuo⁴　上座へ就く時、御免を蒙りますといふ謙語。

【僭雜】20 センザツ　下の者が上を犯して入りまじはる。〔後漢書、趙咨傳〕法度衰毀、上下僭雜。

【僭侈】21 センシ　分を越えたおごり。僭奢。〔鹽鐵論、授時〕民饒則僭侈、富則驕奢。〔後漢書、章帝紀〕嫁娶送終、尤爲二僭侈一。

【僭師】22 センシ　其の内容をもたないのに自ら師と稱すること。〔李覯、袁州州學記〕有三假レ宮借レ師、苟具二文書一。

【僭恣】23 センシ　分限を越えわがままに振舞ふ。〔漢書、敍傳下〕丁傅僭恣。

【僭奢】24 センシャ　身分に過ぎた贅澤。僭侈(21)に同じ。〔後漢書、劉虞傳〕遠近豪俊、夙僭奢者、莫レ不二改操而歸一レ心焉。

【僭賞】25 センシャウ　度を越えてみだりに賞す。分不相應な恩賞。過賞(11－39002‥120)に同じ。〔唐書、郭子儀傳〕用レ兵以來、僭賞者多。〔令狐楚、爲レ人謝二端午賜物等一狀〕終無レ補二於成功一、空有レ慚二於僭賞一。

【僭賞濫刑】26 センシャウランケイ　みだりに賞し、みだりに罰す。やたらに賞罰を行ふこと。〔左氏、襄、二十六〕善爲レ國者、賞不レ僭、而刑不レ濫。

【僭上】27 センジャウ　身分をこえて長上を犯す。身分に相應せぬ。分に過ぎる。〔漢書、地理志下〕列侯貴人、車服僭レ上。〔孔叢子、巡狩〕民淫僭レ上、爲二無法一。

【僭主】28 センシュ　❶僭してなつた君主。力を以て簒奪して君位に就いた者。❷古代希臘の執政專權者をいふ。

【僭主政治】29 センシュセイヂ　非合法的に君主の地位を占め、暴虐な政治を行ふことをいふ。

【僭稱】30 センショウ　身分を越えた名號。又、身分を越えた名號を稱する。僭號(6)に同じ。

【僭縱】31 センショウ　分を越えてほしいままにふるまふ。〔後漢書、皇后紀序〕諸侯僭縱、軌制無レ章。

【僭盛】32 センセイ　分を越えて盛なこと。〔漢書、劉向傳〕大將軍秉レ事用レ權、五侯驕奢僭盛。

【僭跡】33 センセキ　分を越えてふるまつたあと。〔揚雄、劇秦美新〕因二襄文宣靈之僭跡一、立二基孝公一。

【僭竊】34 センセツ　分にすぎて高位高官を貪りぬすむ。〔埤雅〕唯謹杜二滅僭竊之萌一。〔唐書、藝文志序〕至二於云云、僭竊僞亂一、史官備矣。

【僭盜】35 センタウ　をかしぬすむ。〔丘遲、與二陳伯之一書〕北虜僭二盜中原一。

【僭忝】36 センテン　をかしはづかしめる。〔齊映、爲二蕭復一讓二宰相一表〕涓涘莫レ效、僭忝實多。〔王禹偁、酬二种放徵君一詩〕便蕃朱紫綬、僭忝絲綸閣。

【僭度】37 センド　度を越える。〔前漢紀、孝武紀〕奔走馳騁、越レ職僭レ度。

【僭忒】38 セントク　分を越え道にたがふ。〔書、洪範〕人用側頗僻、民用僭忒。〔傳〕下民僭差。〔蔡傳〕潛、踰、忒、過也、臣而僭二上之權一、則大夫必害二于而家一、云云、小民者、亦僭忒而踰二越其常一。

【僭慝】39 セントク　不信でよこしまなこと。〔漢書、王嘉傳〕人用側頗辟、民用僭慝。〔注〕師古曰、僭、不信也、慝、惡也。

【僭妄】40 センバウ　分を越えてみだらなこと。僭越非「禮。

【僭冒】41 センバウ　己の分を越えて他を犯す。又、其のこと。〔宋史、樂志九〕風移二僭冒一。

【僭偪】42 センヒョク　分を越えて上に逼ること。〔後漢書、何敞傳〕虐二用百姓一、奢侈僭偪、誅二戮無罪一、肆レ心自快。

【僭嫚】43 センマン　犯しあなどる。卑者が尊者をあなどる。僭慢。〔左、昭、二十〕其言僭二嫚於鬼神一。

【僭慢】44 センマン　犯しあなどる。僭嫚に同じ。〔後漢書、史弼傳〕失二奉レ上之節一、有二僭慢之心一。

【僭逾】45 センユ　分を越えること。分限または身分に過ぎること。又、其の行爲。僭踰。

【僭踰】46 センユ　分を越えること。僭逾。〔日本外史、源氏正記、源氏〕不二敢僭踰一、恭二順其跡一。

【僭用】47 センヨウ　❶身分を越えて用ひる。〔南齊書、高帝紀論〕太祖基命之初、武功僭用、泰始開運、

大拯二時艱一。㊁一定の者の使用すべき物權を然らざる者が不法に使用すること。

【僭亂】48 センラン 犯しみだす。〔書、呂刑〕上下比レ罪、無二僭亂辭一。〔後漢書、袁術傳〕劉表僭二亂於南荊一。

【僭濫】49 センラン 犯しみだす。たがひあやまる。〔詩、商頌、殷武〕不レ僭不レ濫、不二敢怠遑一。

【僭離】50 センリ たがひはなれる。〔史記、孔子世家〕魯自二大夫一以下、皆僭二離於正道一。

【僭令】51 センレイ 上をさしおいて號令する。〔左氏、昭、二十〕內寵之妾、肆奪二于市一、外寵之臣、僭令二于鄙一。

【僭禮】52 センレイ 禮を犯す。又、身分不相應な禮。〔禮、郊特牲〕舞二大武一、乘二大路一、諸侯之僭禮也。〔論衡、感類〕譏二管仲之僭禮一。

【⿰亻棘】1129 ホク 僰（1－1134）に同じ。〔集韻〕僰、縣名、或从レ人。

【儩】1130 シ 斯（2－3026）・廝（4－9487）に同じ。〔正字通〕斯、廝本字、或作レ儩。

【⿰亻衆】1131 シユウ 衆（8－23321）の俗字。〔正字通〕⿰亻衆、俗衆字。

【僮】1132 トウ ヅ 慣ドウ 〔集韻〕徒東切 ㄊㄨㄥˊ tʻung² 東

小篆 ㊀**わかもの**。こども。元服まへの年少者。或は偅（1－832）に作る。〔說文〕僮、未レ冠也、从レ人童聲。〔說文通訓定聲〕僮、字亦作レ偅。〔廣雅、釋言〕僮、稚也。㊁**おろかもの**。又、**おろか**。**くらい**。瞳（8－23707）に通ず。〔說文通訓定聲〕僮、字亦作レ瞳。〔廣雅、釋詁三〕僮、癡也。〔國語、晉語四〕僮昏不レ可レ使レ謀。〔注〕僮、無知也。㊂**めしつかひ**。**しもべ**。**こもの**。〔史記、貨殖傳〕僮手指千。〔注〕集解曰、僮、奴婢也。〔漢書、賈誼傳〕今民賣レ僮。〔注〕如淳曰、僮、謂二隷妾一也。㊃**いやしい**。身分の低い。〔後漢書、馮衍傳〕匹夫僮婦。〔注〕僮、猶レ賤也。㊄童（8－25775）に通ず。〔說文通訓定聲〕僮、叚借爲レ童。〔易、蒙〕童蒙。〔釋文〕童、字書作レ僮。㊅**おそれつつしむさま**。僮僮（15）を見よ。㊆**姓**。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕僮氏、卽童也、或從レ人以別二其族一。〔萬姓統譜〕僮、山陽、卽童也。

名乘 カブル（姓）。

【僮謠】1 ドウエウ 子供の歌ふうた。童謠。〔論衡、偶會〕僮謠之語當レ驗、鸜鵒之變適生。

【僮幹】2 ドウカン こもの。門番などをいふ。〔宋書、張暢傳〕若諸佐不レ可レ遣、亦可レ使二僮幹來一。

【僮御】3 ドウギョ しもべ。僮僕。〔後漢書、馬皇后紀〕幹二理家事一、敕二制僮御一。〔注〕廣雅曰、僮、御、皆使者也。

【僮縣】4 ドウケン 縣名。㊀秦、置く。後漢の時、侯國とす。故城は安徽省泗縣の東北。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九、僮。〔讀史方輿紀要、江南、鳳陽府、虹縣〕僮城、在二縣西北七十里一、漢縣、屬二臨淮郡一、後漢下邳國、明帝封二獻王子嘉一爲二封邑一、晉亦曰二僮縣一云云、梁普通五年、徐州刺史成景嶲、拔二魏僮城一、是也、後周廢。㊁南宋、置く。故城は江蘇省江蘇省の境に當る。㊂南齊、置く。故城は江蘇省沭陽縣の南。㊃後魏、置く。江蘇省邳縣の地。

【僮昏】5 ドウコン おろか。又、おろかもの。僮惛。〔國語、晉語四〕僮昏不レ可レ使レ謀。〔注〕僮、無知、昏、闇亂也。

【僮惛】6 ドウコン おろか。おろかもの。僮昏。〔廣雅、釋詁三〕僮惛、癡也。

【僮子】7 ドウシ わらべ。子供。童子。僮兒。〔國語、魯語下〕使二僮子備一レ官。〔注〕僮、僮蒙不レ達也。〔史記、循吏、子產傳〕斑白不レ提挈一、僮子不レ犂レ畔。〔漢書、循吏、文翁傳〕常選二學官僮子一、使下在二便坐一受上レ事。〔論衡、非韓〕僮子操レ刃與二孟賁一戰、僮子必不レ勝、力不レ如也。

【僮使】8 ドウシ めしつかひ。〔漢書、王莽傳上〕迎レ之、衣不レ曳レ地、布蔽レ膝、見レ之者以爲二僮使一。〔崔浩、食經序〕雖レ有二功力一、不レ任二僮使一。

【僮兒】9 ドウジ わらべ。小供。僮子。〔風俗通、正失〕行二於衆僮兒牧豎一、莫レ不二眩耀一。〔漢書、禮樂志〕沛中僮兒百二十人、習而歌レ之。〔後漢書、皇甫嵩傳〕雖二僮兒一、可レ使二奮レ拳以致一レ力。

【僮豎】10 ドウジュ しもべわらは。主の後に從つて仕へるわらべ。僮豎。〔晉書、鄭默傳〕雖二僮豎廝養一、不レ加二聲色一。〔日本書紀、安閑紀〕元年十二月、廼以二其子鳥樹一、獻二大連一爲二僮豎一焉。

【僮然】11 ドウゼン おろかなさま。〔太玄經、童〕陽氣始窺レ物、僮然咸未レ有レ知。

【僮种】12 ドウチュウ 後漢、童恢（8－25775・・27）の一名。

【僮女】13 ドウヂョ 少女。〔越絕書、越絕外傳記吳地傳〕僮女三百人、去レ縣二里、南達レ江。

【僮奴】14 ドウド しもべ。僮僕（18）に同じ。〔漢書、史丹傳〕賞賜累二千金一、僮奴以レ百數。

【僮僮】15 ドウドウ おそれつつしむさま。〔詩、召南、采蘩〕被之僮僮、夙夜在レ公。〔傳〕僮僮、竦敬也。

【僮夫】16 ドウフ いやしい男。しもべ。下男。〔後漢書、儒林上、楊倫傳〕聖王所三以聽二僮夫匹婦之言一者、猶下塵加二嵩岱一、霧集中淮海上。

【僮婦】17 ドウフ 身分のいやしい婦人。〔後漢書、馮衍傳上〕匹夫僮婦、咸懷二怨怒一。

【僮僕】18 ドウボク しもべ。めしつかい。僮奴。僮隷。〔史記、萬石君傳〕僮僕訢訢如也。〔漢書、貨殖、白圭傳〕僮僕同二苦樂一。〔陶潛、歸去來辭〕僮僕歡迎、稚子候レ門。〔顏氏家訓、治家〕僮僕減損。〔韓愈・孟郊、秋雨聯句〕吾人猶在レ陳、僮僕誠自レ鄙。

【僮蒙】19 ドウモウ おろかでくらい。童蒙。〔國語、魯語下、使二僮子備一レ官、注〕僮、僮蒙不レ達也。

【僮約】20 ドウヤク 文章の名。漢、王褒作。奴隷の契約を述ぶ。古文苑卷十七に載す。〔海錄碎事、人事、奴婢〕王褒作二買レ奴券文一也、云、王子淵從二成都女子楊惠一、買二夫時髯奴便了一、決レ賣二萬五千一、奴從二百役使一、不レ得レ有二二言一、但當レ飮レ水、不レ得レ嗜レ酒、欲レ飮二美酒一、唯得二染レ脣漬一レ口、不レ得二傾レ盂覆一レ斗、事訖欲レ休、當レ舂二一石一、夜半無レ事、浣レ衣當レ白、奴不レ聽レ教、當二笞一百一、讀二券文一遍、奴兩手自搏、目淚下落、鼻涕長一尺、如二王大夫言一、不レ如下早歸二黃土陌一蚯蚓鑽上レ額、古文苑。

【僮隷】21 ドウレイ しもべ。めしつかひ。僮僕。〔北史、高謙之傳〕居家僮隷對二其兒一、不レ撻二其父母一。

【僯】1133 リン 〔集韻〕里忍切 軫

はぢる。通じて⿰貝粦（12－43693）に作る。〔集韻〕僯、慚恥也、通作レ⿰貝粦。

【僯伍】1 リンゴ 明、詹天顏（10－35458・・61）の號。

【僰】1134 ホク ボク 〔集韻〕鼻墨切 職

小篆 ㊀僰道の邊、卽ち今の雲南・貴州・四川に亙る地方に住んでゐた蠻族。或は⿰亻棘（1－1129）に作る。〔說文〕僰、犍爲蠻夷也、从レ人棘聲。〔段注〕犍爲郡有二僰道縣一、卽今四川敍州府治也、其人民曰レ僰、王制、屛二之遠方一、西方曰レ僰、東方曰レ寄。〔集韻〕僰、縣名、或从レ人。〔史記、西南夷傳〕取二其筰馬僰僮髦牛一。〔注〕正義曰、今益州南戎州北臨二大江一、古僰國。㊁**血氣盛なさま**。〔廣韻〕僰、又丁壯皃。㊂**みにくい**。〔廣韻〕僰、亦醜也。㊃**姓**。〔姓苑〕一云、僰、侯國、今戎州之僰道、宜レ音レ迫、蓋以レ地爲レ氏。

【僰道】1 ボクダウ 縣名。漢、置く。北周は外江、宋は宜賓といつた。故城は三つある。一は漢址で、四川省宜賓縣の西南。一は唐の太宗の移したもの、今の宜賓縣治。一は唐の會昌中に移したもの、江北の舊州城。〔漢書、地理志上〕犍爲郡、縣十二、僰道。〔注〕應劭曰、故僰侯國也。〔地理風俗記〕僰、於二夷中一最仁、有二仁道一、故字從レ人。〔讀史方輿紀要、四川、敍州府、宜賓縣〕僰道城、圖經、故城址有レ三、漢武帝時治二中方鄉一、在二今府西南一、接二慶符縣界一、卽元光五年、發二巴卒一治レ道處、唐太宗時、徙二於蜀江之右三江口一、卽今治也。

【僰治】2 ボクチ 地名。僰道に同じ。〔水經、江水注〕漢武帝感二相如之言一、使三縣令南通二僰道一、費レ功無レ成、唐蒙云云、乃鑿レ石開レ閣、以通二南中一、云

云、王莽更曰二僰治一也。

【僰僮】3 ボク ドウ 僰地の奴婢。〔史記、西南夷傳〕巴蜀民或竊出商賈、取二其筰馬僰僮髦牛一。

【偺】1135 タフ テフ 〔集韻〕竹洽切 洽。

❶忽ち人に觸れる。〔集韻〕偺、偺㑿、忽觸レ人也。❷くひちがひ。又、理に循はぬ。〔集韻〕偺、偺㑿、抵牾也、一曰、不レ循レ理。

【僒】1136 ケイ 㓋（7－19097）の古字。〔玉篇〕僒、古㓋字。

【僌】1137 カ 夏（3－5720）の古字。〔說文〕夏、僌、古文夏。

【僑】1138 チウ 儔（1－1224）の古字。〔集韻〕儔、古作レ僑。

【僂】1139 アイ 僾（1－1170）の本字。〔正字通〕僾、俗作レ僂。

【僘】1140 音義未詳 〔字彙補〕僘、音義未詳。

【僦】1141 ケツ 〔字彙補〕居月切 月。

稻が倒れる。〔字彙補〕僦、禾稼仆也。

【偒】1142 タウ 蕩（9－32002）・偒（1－852）に同じ。〔字彙補〕偒、任臣按、法言本作レ偒、从レ昜不レ从レ湯、豈古本或有レ異邪、存以俟レ考。〔琅琊代醉編、刊字〕楊子法言、魯仲連偒而不レ剬、藺相如剬而不レ偒、注、偒、古蕩字。

【僽】1143 セキ 慼（4－11158）に同じ。戚（5－11594）に通ず。〔字彙補〕僽、與レ慼同。〔漢郭君碑〕貴僽肅承、莫レ不二畏憚一。

【僽】1144 ケン 㦛（1－1120）に同じ。〔字彙補〕僽、與レ㦛同。〔崔駰、司徒箴〕國度斯僽。

【僭】1145 シユン 偆（1－833）の本字。〔說文長箋〕僭、偆本字。

【僗】1146 ヨ 〔集韻〕羊諸切 魚。

小篆

❶のびる。余（1－515）に同じ。〔說文〕僗、二余也、讀與レ余同。〔玉篇〕僗、同レ余。〔集韻〕僗、說文、余也。〔正字通〕余、又从二二余一作レ僗。❷餘（12－44185）に同じ。〔篇海類編〕僗、與レ餘同。

解字 會意。余を二つ合せた字。余（本義はのびる意）と同意。

【僜】1147 トウ 侸（1－649）に同じ。〔集韻〕侸、或作レ僜。

【僦】1148 シウ 僦（1－1115）の譌字。〔康熙字典〕僦、按、卽僦字之譌。

【僩】1149 ベン 偭（1－890）に同じ。〔海篇〕偭、與レ偭同。

【僛】1150 キ 僛（1－1295）の譌字。〔康熙字典〕僛、按、僛字之譌。

【僡】1151 キヨウ 興（9－30226）に同じ。〔字彙補〕僡、老君碑興字。

【僢】1152 エウ 〔海篇〕音遙

つかふ。又、よろこぶ。〔海篇〕僢、使也、又喜也。

【傫】1153 ルイ 〔集韻〕倫追切 支。

❶つかれる。〔廣雅、釋詁二〕傫、勞也。〔廣雅、釋訓〕傫傫、疲也。❷やぶれる。又、あざむく。〔集韻〕傫、一曰、敗也、欺也。❸或は儽（1－1328）・㒍（1－1003）に作る。〔集韻〕傫、或作二儽・㒍一。

【僱】1154 コ ㄍㄨˋ ku⁴ やとふ。賃金を拂つて人を使ふ。雇（11－41976）の俗字。〔中華大字典〕僱、俗雇字。

【僱子】1 コシ 小作人。蘇州地方の俗語。〔稱謂錄、農、僱子〕庸閒齋筆記、卽管二田庄一人、蘇俗呼爲二僱子一。

【僱寫】2 コシヤ かりる。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、失事〕或自己牲口、或僱寫騾頭。

【僱倩】3 コセイ やとはれる。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕僱倩匿名之人、一併究懲。

【僱替】4 コタイ やとはれた本人以外の人がかはりに仕事にゆくこと。〔福惠全書、莅任部、堂規式〕聽差各役、俱要二正身伺候一、毋レ許二僱替頂名一。

【僱覓】5 コベキ やとひもとめる。やとひいれる。探し求める。〔福惠全書、莅任部、稟帖贅說〕僱二覓盧世標一、爲二本行管事一。

【傘】1155 サン 傘（1－966）の俗字。〔中華大字典〕傘、傘俗字。

【僠】1156 サフ 〔集韻〕悉盍切 合。

わるい。僠倈。或は僠（1－1162）・㒁（12－42598）に作る。〔集韻〕僠、博雅、僠倈、惡也、或作レ僠、亦省。

【侖】1157 ロン 侖（1－599）の籒文。〔說文〕侖、侖、籒文侖。

十三畫

【僵】1158 キヤウ カウ 〔集韻〕居良切 ㄐㄧㄤ chiang¹ 陽。

小篆

❶たふれる。たふす。〔說文〕僵、偃也、从レ人畺聲。〔呂覽、貴卒〕伶悝僵。〔注〕僵、斃也。〔史記、蘇秦傳〕佯僵而棄レ酒。〔注〕索隱曰、僵、仆也。〔漢書、武五子傳贊〕僵尸數萬。〔注〕師古曰、僵、偃也。❷こはばる。かたくなる。殭（6－16588）に通ず。〔說文、僵、段注〕僵、謂二仰倒一、云云、今人語言、乃謂二不動不朽一爲レ僵、廣韻作レ殭。❸通じて僥（1－1032）に作る。〔正字通〕僵、通作レ僥。

【僵偃】1 キヤウエン たふれふす。〔唐書、儒學、陸元朗傳〕德明恥レ之、服二巴豆劑一僵偃。

【僵燕】2 キヤウエン たふれてゐる燕。〔李紳、趨二翰苑一遭二誣構一詩〕涸魚思二雨潤一、僵燕望二雷蘇一。

【僵踞】3 キヤウキヨ たふれうづくまる。〔宣和遺事、後集〕上皇則僵踞死矣。

【僵局】4 chiang¹ chü² 困難な時局。難局。

【僵臥】5 キヤウグワ 臥したまま動かない。たふれふす。偃臥。〔新書、淮難〕僵臥以發二詔書一。〔汝南先賢傳〕令二人除レ雪、入レ戶見二安僵臥一。

【僵蹶】6 キヤウケツ つまづきたふれる。〔沈亞之、萬勝岡新城記〕緩則步、安有下擇二塗陸一而避中僵蹶上哉。

【僵燥】7 キヤウサウ たふれかわく。ミイラとなる。〔魏志、常林傳、注〕壙穴之內、錮以二紵絮一、藉以二蜃炭一、千載僵燥、託類二神仙一。

【僵尸】8 キヤウシ たふれた屍。死骸。僵屍。〔史記、淮南衡山傳〕僵尸千里、流血頃畝。〔漢書、五行志中之下〕僵尸流血。〔漢書、武五子傳贊〕僵尸數萬。〔繆襲、克二官渡一詩〕克二紹官渡一、由二白馬一、僵尸流血被二原野一。

『僵尸蔽レ地』9 キヤウシチヲオホフ たふれた屍が地一面を覆ふ。〔魏志、田豫傳〕追討二十餘里、僵尸蔽地。

【僵尸】10 キヤウシ たふれた屍。僵尸に同じ。〔吳子、紀錄〕僵屍而哀之、無逮於仁矣。〔後漢書、公孫瓚傳〕僵屍蔽地。

【僵屍】11 キヤウシ たふれた屍。屍は、腐つた肉。〔唐書、黃巢傳〕賊敗執レ俘數萬、僵屍二十里。

【僵樹】12 キヤウジユ たふれた木。僵木。〔日本外史、源氏正記、源氏〕見二其立一僵樹上一。

【僵磔】13 キヤウタク 横にしてはりつけにする。〔後漢書、陽球傳〕乃僵二磔甫屍於夏城門一。

【僵拔】14 キヤウバツ 木がたふれて根がぬける。〔晉書、石勒載記下〕巨松僵拔、浮二于潭池一。

【僵仆】15 キヤウフ たふれる。又、たふれた屍。〔戰國、秦策〕頭顱僵仆、相二望於境一。〔漢書、趙廣漢傳〕咸願レ爲用、僵仆無レ所レ避也。〔論衡、無形〕人生能行、死則僵仆。

『僵仆煩憒』16 キヤウフハンクワイ 身はたふれ、心はみだれる。〔柳宗元、答二韋中立一論二師道一書〕豈可レ使下呶呶者、早暮咈二吾耳一、騷中吾心上、則固僵仆煩憒、愈不レ可レ過矣。

「僵覆。

【僵覆】17 キヤウフク たふれくつがへる。〔易林〕身頓【僵斃】18 キヤウヘイ たふれ死ぬ。〔魏志、臧洪傳〕輒僵二斃麾下一、不レ蒙二虧除一。

【僵木】19 キヤウボク たふれた木。僵樹。〔蘇舜欽、地動聯句〕僵木無二靜枝一。

【僵踣】20 キヤウボク たふれる。又、たふれた屍。〔張協、七命〕殞嵴挂レ山、僵踣掩レ澤。〔注〕濟曰、僵踣、斃也。

【僵落】21 キヤウラク たふれおちる。〔漢書、匈奴傳下〕或因二山巖石、木柴僵落、谿谷水門一。〔注〕師古曰、僵落、謂二山上樹木摧折、或立死、枯僵墮落者一。

【僵立】22 キヤウリツ こはばり立つ。直立不動。又、或はたふれ、或は立つ。〔宋史、楊存中傳〕餘黨萬人、僵立失レ措。〔蘇軾、登二玲瓏山一詩〕何年僵立兩蒼龍、瘦脊盤盤尙倚レ空。

【僶】1159

ビン ミン 〔集韻〕弭盡切 軫

→僶俛

【僕】1160

エフ 〔集韻〕弋涉切 葉

篆 小

❶みめうるはしい。容貌が美しい。或は僕（1－867）に作る。〔說文〕僕、宋衞之間、謂二華僕僕一、从レ人葉聲。〔段注〕華、容華也、僕僕、好兒、云云、按、僕亦作レ僕。〔方言、二〕奕・僕、容也、自レ關而西、凡美容謂二之奕一、或謂二之僕一、宋衞曰レ僕、陳楚汝潁之間、謂二之奕一。〔廣雅、釋訓〕僕僕、容也。❷つとめる。まがる。〔廣雅、釋詁四〕僕、詘也。❸のびないさま。攝僕。〔玉篇〕僕、攝僕、不二舒展一皃。

【僭】1161

㊀キン コン 〔集韻〕居蔭切 沁
㊁ギン ゴン 〔集韻〕牛錦切 寢

㊀❶北夷の音樂の名。一說に、西夷の樂。通じて禁（8－24743）に作る。〔字彙〕僭、北夷樂名。〔班固、東都賦〕僭侏儒罷、罔レ不二具集一。〔注〕善曰、北夷之樂曰レ僭。〔正字通〕僭、北夷樂名、云云、通作レ禁。〔公羊、昭、二十五、以舞二大夏一、注〕西夷之樂曰レ禁。〔白虎通、禮樂〕北夷之樂曰レ禁。❷あふぐ。〔字彙〕僭、仰也。〔漢書、司馬相如傳下〕僭侵尋而高縱兮。〔注〕張揖曰、僭、卬也。❸伶（1－401）に通ず。〔後漢書、班固傳、伶侏、注〕北方曰レ禁、禁、字書作レ伶。〔班固、東都賦〕僭侏。㊁あふぐ。頭をあげる。或は儉（3－6764）に作る。〔集韻〕僭、仰レ頭也、或作レ儉。

【僭僭】1 キンキン 仰ぐさま。〔摯虞、思遊賦〕後僭僭而方馳。

【僭侏】2 キンバイツ 北夷と東夷の音樂。又、伶侏に作る。僭侏兜離及び字解の❸を見よ。

『僭侏兜離』3 キンバイトウリ 四夷の音樂の名。僭は北夷、侏は東夷、兜は南夷、離は西夷の樂。〔班固、東都賦〕僭侏兜離、罔レ不二具集一。〔注〕善曰、孝經鉤命決曰、東夷之樂曰レ侏、南夷之樂曰レ任、西夷之樂曰二朴離一、北夷之樂曰レ僭、良曰、僭侏兜離、四夷樂名。

【僬】1162

サフ 〔集韻〕悉盍切 合。

❶わるい。僬（1－1156）に同じ。〔集韻〕僬、博雅、僬僥、惡也、或作レ僬。❷つつしまぬさま。傲僬。〔玉篇〕傲、傲僬、不レ謹皃。

【價】1163

カ 〔集韻〕居迓切 禡

ㄐㄧㄚˋ chia⁴

篆 小

新附〕價、物直也、从二人賈一、賈亦聲。❶あたひ。ねだん。相場。〔說文解字〕會意形聲。人と賈との合字。賈はまた聲。賈は賣買の稱、故に人が物を賣買するときのあたひをいふ。字解を見よ。❷市價の、他の財貨と交換し得る割合。ねだん。ねうち。〔清國行政法汎論、皇室財產、莊田〕皆按二價格一換二銀納上。❸價格經濟 4 ケカクケイザイ 凡て物の價格が基礎となり、標準となつて營まれる經濟。❹價格統制 5 カカクトウセイ 商品に對して支拂はれる貨幣額を全體的立場から統一すること。❺あたひ。ねだん。〔川田甕江、岩倉公所レ藏正宗鍛刀記〕命二工人一辨二眞贋一、記二價額一、以定二品位一。❻貴 7 chia⁴ kuei⁴ 價格が高い。賣貴（10－3755‥26）に同じ。❼金 8 カキン 物を買ふに要する料金。ねだんに相當する金。〔國史略、正親町天皇〕之綱使二日吉買ヒ之、托以二價金一。❽銀 9 chia⁴ yin² 代金。❾科 10 カクア 値段の額。〔晉書、刑法志〕呈二黃金一爲二價科一。❿估 11 カコ ねうち。ねだん。〔五代史、王章傳〕其價估定又增、謂二之擡估一。⓫沽 12 コカ 善い値で賣る。〔論語、子罕〕求二善賈一而沽諸。〔白斤、園亭晚坐詩〕句向二閑時一得、名慙二待レ價沽一。⓬實 13 chia⁴ shih² 掛値がない。價に掛引きがない。⓭賤 14 chia⁴ chien⁴ 價格低廉。安價。⓮錢 15 カセン ねだん。價値（18）に同じ。〔唐書、食貨志〕人閒擅二加價錢一爲二虛錢一。⓯單 16 chia⁴ tan¹ 定價表。⓰直 17 カチ ❶あたひ。物價。價値。〔漢書、王莽傳、君嫌二其賈一邪、注〕師古曰、賈、讀曰レ價、言二其所レ有價直一也。〔北史、盧昌衡傳〕牛主陳謝、之心、成片價從二面前一過。❺賈（10－3755）に同じ。〔集韻〕賈、售直也、或从レ人。賈はまた聲。

求レ還二價直一。〔白居易、偶以二拙詩數首一寄二呈裴少尹侍郎一詩〕數篇價直一束芻、報レ我之章何璀璨。❸價値の❷に同じ。

【價値】18 ❶ねうち。ねだん。價直の❶に同じ。價錢。❷財貨が人の欲望を充すに適する程度。主觀價値・客觀價値等の區別がある。

【價値論】19 ❶價値・價値判斷・評價作用等に就いての理論。❷價値の實體に關する議論。

【價値學說】20 經濟學に於て價値の實體の究明に關する學說。

【價漲】21 chia^4 chang^3 價格騰貴。値が上がる。

【價重】22 價格が高い。高價。價重二連城一を見よ。〔李白、陳レ情贈二友人一詩〕延陵有二寶劍一、價重二千黄金一。

〔價重二連城一〕23 甚しく高價なことをいふ。〔魏文帝、又與二鍾繇一書〕不レ損二連城之價一。〔庾信、刀銘〕價重二十城一、名高二千馬一。

【價跌】24 chia^4 tieh^1 値段が下がる。

【價軟】25 chia^4 juan^3 價格の不確實なこと。

【價標】26 化學用語。諸元素の原子價の相結合する狀態を表はす記號をいふ。

【價目】27 chia^4 mu^4 ❶價格。値段。❷最高價格。

〔價目單〕28 chia^4 mu^4 tan^1 値段表。價格表。

【價領】29 うけとり。〔福惠全書、涖任部、定買辦〕本役具二價領一、硃二封紋銀若干一。

【待レ價】30 よい値の出るのを待つ。轉じて、時節を待つ。待賈(**4－10085‥5**)に同じ。待レ價而沽を見よ。

〔待レ價而沽〕31 時節を待つて行動する。時節の到來を待つ。〔論語、子罕〕子曰、沽レ之哉、沽レ之哉、我待レ賈者也。〔書言故事、金寶類〕待レ時而動、曰二待レ價而沽一。

【不レ二レ價】32 値段のかけひきをしない。掛値なし。無レ二レ價。〔後漢書、韓康傳〕常采二藥名山一、賣二於長安市一、口不レ二レ價、三十餘年。

【不レ儲レ價】33 かけねを言はない。商賣のかけひきをしない。〔孔子家語、相魯〕及二孔子之爲レ政也、云云、三月則鬻二牛馬一者、不レ儲レ價。

【無レ二レ價】34 買手によつて値段のかけひきをしない。不レ二レ價に同じ。〔漢書、王莽傳〕奏爲二市無レ二レ價之制一、犯者象刑。

【價增二一顧一】35 伯樂が一度顧みて、駿馬の價が十倍した故事。〔戰國、燕策〕蘇代爲レ燕說レ齊、未レ見二齊王一、先說二淳于髡一曰、人有下賣二駿馬一者上、比三旦立レ市、人莫二之知一、往見二伯樂一曰、臣有二駿馬一、欲レ賣レ之、比三旦立二於市一、人莫二與言一、子還而視レ之、去而顧レ之、臣請獻二一朝之費賈一、伯樂乃還而視レ之、去而顧レ之、一旦而馬價十倍、今臣欲下以二駿馬一見中於王上、莫下爲二臣先後一者上、足下有レ意レ爲二臣伯樂一乎、臣請、獻二白璧一雙、黄金千鎰一、以爲二馬食一。〔春秋後語〕蘇代欲レ見二齊王一、王不レ見、代說二淳于髡一曰、人有下賣二駿馬一者上、三立二于市一、人莫二與言一、及レ見二伯樂一、還而視レ之、去而顧レ之、一旦價增二十倍一、足下有レ意レ爲二臣伯樂一乎。

【價增二十倍一】36 價が十倍になる。價增二一顧一を見よ。

【價廉工省】37 價がやすく造作が容易なこと。〔王禹偁、黄州竹樓記〕以二其價廉而工省一也。

【價廉物美】38 價が安くて品物がよい。

【變レ價入レ官】39 現物を公賣し、其の代金を沒收して、公費に充當する。〔淸會典事例、刑部、名例律、給沒贓物〕楊際春・陳祥生主僕二人、均被二車夫吳洛全等謀害一、云云、所レ有吳洛全車輛馬匹、卽應下一併給二予事主家屬一領回上、何必按レ例變レ價入レ官、該督原請下將二車輛馬匹一入上官之處、辨理亦覺二鄙吝一。

【[亻匯]】1164 クヮイ ヱ 〔集韻〕戸賄切 賄

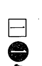
❶**かひね**。物を買ひいれる價。〔集韻〕[亻匯]、貿レ物價。❷**長大のさま**。[亻匯]僓。〔集韻〕僓、[亻匯]僓、長大皃。

【僳】1165 セウ 〔集韻〕七肖切 嘯

ながいさま。たけの高いさま。僥僳。〔集韻〕僳、僥僳、長皃。

【僻】1166

㈠ヘキ ビャク 〔集韻〕毗亦切 陌 ㄆㄧˋ p'i^4 ㄅㄟˋ pei^4
㈡ヘキ ヒャク 〔集韻〕匹歷切 錫
㈢ヘイ バイ 〔集韻〕蒲計切 霽
㈣ヒ 〔字彙〕匹智切 寘


小篆

㈠❶**さける**。〔說文〕僻、辟也、从レ人辟聲、詩曰、宛如二左僻一、一曰、從レ旁牽也。〔段注〕辟、大徐本作レ避、非、是、辟者、法也、引伸爲二辟レ人之辟一、辟レ人而人避レ之亦曰レ辟、自二屛レ之者一言、若二孟子、行辟レ人可也一之類是、自二退者一言、若二曲禮、則客還辟、辟拜一之類是、辟之言、邊也、屛二於一邊一也、僻之本義如レ是。❷**とほい**。〔呂覽、愼行〕晉之霸也、近二於諸夏一、而荊僻也。〔注〕僻、遠也。❸**かたほとり**。〔楚辭、九章、涉江〕雖二僻遠一其何傷。〔注〕僻、左也、言、我惟行二正直之心一、雖レ在二遠僻之域一、猶有二善稱一、無二惡疾一也。❹**かくれる**。〔漢書、蕭何傳〕必居二窮辟處一、〔注〕師古曰、辟、讀曰レ僻、僻、隱也。❺**かたよる**。〔增韻〕僻、側也。❻**いやしい**。〔增韻〕僻、陋也。❼**あやまる**。〔廣韻〕僻、誤也。❽**よこしま**。〔正字通〕僻、邪僻。〔詩、大雅、板〕民之多レ僻。〔傳〕僻、邪也。❾**かざる**。**あやまちを飾る**。〔論語、先進〕師也僻。〔皇疏〕僻、飾二過差一也。❿**かるがるしい**。〔集韻〕僻、便僻、擧止輕傷也。⓫辟(**10－38642**)に通ず。〔莊子、駢拇〕淫二僻于仁義之行一。〔釋文〕僻、本作レ辟。㈡❶**さける**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕僻、說文、避也。❷**ただしあばく**。法にひきあてる。〔集韻〕辟、糾二擿邪辟一也、或从レ人。❸或は辟(**10－38642**)に作る。〔集韻〕僻、或省。㈢❶**さける**。㈠の❶に同じ。〔集韻〕僻、辟也。❷**ひめがき**。㈣の❶に同じ。〔中華大字典〕僻、城上女牆、俾倪也。㈣❶**ひめがき**。女牆。陴(**11－41702**)・俾(**1－740**)・埤(**3－5167**)に通ず。〔字彙〕僻、僻倪、卽埤堄、城上女牆也。〔左氏、宣、十二〕守レ陴者皆哭、注、陴、城上俾倪、校勘記、陴、城上僻倪、宋本、僻作レ俾、是也、案、說文云、陴、城上女牆、俾倪也、釋名作二睥睨一、言、於二其孔中一、睥二睨非常一也、廣雅、作二埤堄一、云二女牆一也。❷**さける**。避(**11－39163**)に通ず。〔正字通〕僻、借作レ避、詩、宛然左僻、是也。

【僻違】1 そむきたがふ。〔荀子、非十二子〕甚僻違而無レ類。〔注〕謂二乖僻違戾、而不レ知二善類一也。〔春秋繁露、必仁且知〕輔二其邪狂之心一、而贊二其僻違之行一。

【僻幽】2 遠くかたよつた淋しい地。〔王昌齡、送二任五之二桂林一詩〕霸讁同二繪綸一、僻幽聞二虎豹一。

【僻淫】3 かたよつてみだらなこと。〔鬼谷子、中經〕言必詩書、行不二僻淫一。

【僻易】4 しりごみする。たじろぐ。辟易(**10－38642‥11**)に同じ。

【僻遠】5 土地が片よつて遠い。へんぴ。片田舍。遐僻。〔史記、蘇秦傳〕寡人不敏、僻遠守レ海。〔呂覽、謹聽〕山谷之中、僻遠幽閒之所。〔楚辭、九章、涉江〕苟余心之端直兮、雖二僻遠一其何傷。

【僻介】6 遠く片よつた所に孤立する。〔柳宗元、邕州馬退山茅亭記〕是亭也、僻二介閩嶺一。

【僻界】7 とほく片よつてゐる。〔班固、東都賦〕且夫僻二界西戎一。

【僻好】8 かたよつた好み。

【僻行】9 よこしまな行。〔韓非子、八說〕然而弱子有二僻行一、使二之隨レ師。

【僻巷】10 ヘキカウ へんぴなちまた。邊鄙な町。〔張祜、題二程氏書齋一詩〕僻巷難レ通レ馬。〔于鵠、題二鄰居一詩〕僻巷鄰家少、茅簷喜二並居一。〔陸游、東軒詩〕僻巷地無レ喧、閑人慮不レ煩。
【僻境】11 ヘキキヤウ かたゐなか。片田舍。僻陬。
【僻怪】12 ヘキクワイ 異樣なこと。なみはづれなこと。〔墨子、辭過〕聖王作二爲宮室一云云、便二於身一不三以爲二僻怪一也。
【僻郡】13 ヘキグン かたよつた郡。かたゐなか。〔韓琦、壬辰重九卽席詩〕退求二僻郡一疑レ邀レ寵、甘老二窮邊一似レ好レ權。
【僻徑】14 ヘキケイ へんぴな小みち。〔福惠全書、刑名部、姦情、鞫姦〕荒原僻徑、方可レ下レ手。
【僻倪】15 ヘイゲイ・ヒゲイ ひめがき。女牆。俾倪。陴堞。短牆。短垣。字解三の二及び四の一を見よ。〔正韻〕僻、僻倪、與二埤堄一同。〔左氏、宣、十二〕守レ陴者皆哭、〔注〕陴、城上僻倪。
【僻業】16 ヒガワザ 正しくないこと。僻事(24)の一に同じ。〔源氏物語、東屋〕ひがわざしまじうを。
【僻見】17 ヘキケン かたよつた見かた。ひがみ。偏見。〔唐順之、與二王遵岩參政一書〕近來有二一僻見一。
【僻縣】18 ヘキケン 邊境にある縣。邊縣に同じ。〔韋莊、過二內黃縣一詩〕僻縣不レ容レ投二刺客一、野陂時遇二射鵰郎一。
【僻言】19 ヘキゲン かたよつた言葉。無理な言葉。
【僻左】20 ヘキサ かたよつた遠い土地。手足は右を便とし、左は使ひにくいからいふ。〔增韻〕左、手足便レ右、以レ左爲レ僻、故凡幽猥皆曰二僻左一。〔魏文帝、與二梁朝歌令吳質一書〕足下所レ理僻左、書問致レ簡。〔注〕良曰、質所レ理朝歌、僻左遠路。
【僻在】21 ヘキザイ かたよつた遠い所にある。邊隅に居る。〔王褒、聖主得二賢臣一頌〕今臣僻二在西蜀一。
【僻志】22 ヘキシ ひがんだ心。〔申鑒、雜言上〕是故僻志萌、則僻事作。
【僻寺】23 ヘキジ 片田舍にある寺。〔韓愈、早赴二街西一行香贈二盧李二中舍人一詩〕老僧情不レ薄、僻寺境還幽。〔賈島、寄二無可上人一詩〕僻寺多二高樹一、凉天憶二重遊一。
【僻事】24 ヘキジ ❶正しくないこと。ひがごと。曲事。僻志(22)を見よ。❷故實を知らないもの。又、故實にはづれた事。〔彥周詩話〕嘗聞、李邯鄲公與二小宋一飲酒、擧二一物一隸二僻事一、以二多者一勝。〔誠齋雜記〕唐末有二喬子曠者一、能レ詩、喜用二僻事一、時人謂二之狐穴詩人一。
【僻者】25 ヘキシヤ 志のかたよつたもの。〔郭璞、爾雅序、誠九流之津、疏〕僻者又隨レ時抑揚。
【僻邪】26 ヘキジヤ よこしま。〔賈誼新書、先醒〕乃退二僻邪一而進二忠正一。
【僻淨】27 ヘキジヤウ ひなびて靜かなこと。かたよつてゐて靜かなこと。〔水滸傳、二十回〕宋江便和二那漢一入二一條僻淨小巷一、那漢道、這箇酒店裏好二說話一兩箇上到二酒樓一。
【僻壤】28 ヘキジヤウ 片田舍の土地。〔李時勉、北京賦〕窮陬僻壤、無二一物之不一レ遂。
【僻儒】29 ヘキジユ つまらない儒者。〔郭璞、爾雅序、誠九流之津、疏〕五經乖析、儒學寖衰、此僻儒之患也。〔宋書、王微傳〕必蒙二僻儒之養一。
【僻書】30 ヘキシヨ ひがごとを記したつまらない書。〔世說新語補、黜免〕事出二南華經一、非二僻書一也。
【僻處】31 ヘキシヨ ❶かたよつた處。又、僻地に居る。又、ゐなかずまひ。〔戰國、燕策〕寡人蠻夷僻處。〔說苑、奉使〕寡人得レ寄二僻處蠻夷之鄕一。❷かたよつてをる。〔曹植、上レ責レ躬應レ詔詩一表〕僻二處西館一。
【僻陬】32 ヘキスウ かたよつて遠い土地。かたゐなか。「僻土。僻地。僻境。
【僻姓】33 ヘキセイ めづらしい姓氏。〔琅琊代醉編、異姓〕偶得二近時人僻姓一錄レ之。
【僻性】34 ヘキセイ かたよつた性質。くせ。〔姚合、拾二得古硯一詩〕僻性愛二古物一、終歲求不レ獲。
【僻靜】35 ヘキセイ かたよつてひつそりした。へんぴで閑却な。片田舍。〔福惠全書、刑名部、人命上、審鞫〕伺レ至二僻靜處一、將二某物一于二某人某處一一下、當時殞レ命。
【僻小】36 ヘキセウ へんぴでせまい地方。〔福惠全書、涖任部、考經承〕僻小省分、荒涼州縣。
【僻說】37 ヘキセツ かたよつた議論。まがつた說。〔唐書、黎幹傳〕難下以疑文僻說一定上レ之。
【僻村】38 ヘキソン 片田舍。邊鄙な村。
【僻道】39 p'i⁴ tao⁴ 閒道。
【僻脫】40 ヘキダツ みがるですばやい。〔何晏、景福殿賦〕僻脫承レ便。〔注〕濟曰、言、蹴鞠之徒、便僻輕脫、承二敵人之便一、以求二其勝一。
【僻地】41 ヘキチ かたゐなか。僻土。僻陬。〔張說、馮君墓志銘〕遠居二僻地一、代爲二右族一。
【僻土】42 ヘキド かたゐなか。僻地に同じ。
【僻讀】43 ヒガヨミ 誤つた讀み方。〔宇津保物語、藏開中〕ひがよみを多くすべきを。
【僻目】44 ヒガメ ❶誤つた見方。見違ひ。〔平治物語、待賢門軍事〕信賴卿と見奉るは僻目か。❷ひとみの正しくないもの。すがめ。
【僻林】45 ヘキリン へんぴの地に在るはやし。人里はなれた林。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕荒郊曠野、深山僻林。
【僻戾】46 ヘキレイ ひがみもとる。ひねくれる。〔唐書、陸贄傳〕贄言、延齡僻戾躁妄、不レ可レ用。
【僻路】47 ヘキロ ゐなかの路。〔杜甫、聶耒陽以二僕阻レ水書致二酒肉一云云時屬二江漲一泊二于方田一詩〕孤舟增鬱鬱、僻路殊悄悄。
【僻陋】48 ヘキロウ かたよつていやしい。〔左氏、昭、十九〕邇二於諸夏一、而楚僻陋。〔戰國、齊策〕齊僻陋隱居。〔莊子、知北遊〕天知二予僻陋慢訑一。〔荀子、王霸〕雖レ在二僻陋之國一、威動二天下一。〔韓非子、十過〕戎王之居、僻陋而道遠。
【僻論】49 ヘキロン かたよつて公正を缺く議論。

【㒊】1167 ショク
嗇(2－4313)に同じ。〔正字通〕㒊、同レ嗇

【僼】1168 ホウ
豐(1－1305)の俗字。〔正字通〕僼、俗豐字。

【僽】1169
㊀シウ・シユ〔集韻〕甾尤切 尤
㊁シウ・ジユ〔集韻〕鉏救切 ㄓㄡˋ chou⁴ 宥
㊀**うれへるさま**。偢(1－871)に同じ。㊁**ののしる**。僝僽。或は諮(10－36063)に作る。〔集韻〕僽、僝僽、詈也、或作レ諮。

【僾】1170
㊀アイ〔集韻〕於代切 隊 ㄞˋ ai⁴
㊁アイ〔集韻〕隱豈切 尾

小篆
㊀❶**ほのか。かすかに見える。髣髴**。僾(1－1139)の俗字。〔正字通〕僾、俗作レ僾。〔說文〕僾、仿佛也、从レ人愛聲、詩曰、僾而不レ見。〔禮、祭義〕祭之日入レ室、僾然必有レ見二乎其位一。〔疏〕僾、髣髴見也。❷**かくれる**。薆(8－26615)に通ず。〔說文通訓定聲〕僾、叚借爲レ薆、詩、靜女、僾而不レ見。❸**むせぶ。かなしむ**。旡(5－13717)に通ず。〔說文通訓定聲〕僾、叚借爲レ旡。〔爾雅、釋言〕僾、唈也。〔注〕嗚僾短氣也。〔詩、大雅、桑柔〕亦孔之僾。〔傳〕僾、唈。〔荀子、禮論〕憚詭唈僾、而不レ能レ無二時至一焉。❹僾逮は凸光鏡。❺古は㤅(4－10648)に作る。〔字彙〕㤅、古僾字。㊁僾俙はかすかなさま。〔集韻〕僾俙、仿佛也。
【僾俙】1 アイキ あきらかでないさま。〔古書駢字、三〕依俙、不レ明貌、僾俙同レ上。
【僾霼】2 アイキ 明かでないさま。ほのか。髣髴。〔李登、聲類〕僾霼、一作二鑀霼一、僾霼、不レ明莫レ如レ雲。
【僾然】3 アイゼン ほのかに見えるさま。字解の❶を見よ。〔說苑、脩文〕僾然若レ有レ見二乎其容一。〔會澤正志齋新論、國體上〕肅然僾然、見二當初儀容於今日一。
【僾逮】4 アイタイ 凸光鏡。小物を照して大きく見せる眼鏡。〔丘陵學山〕僾逮、玻璨類也、能照二小物一爲二大物一。〔事物異名錄、器用、眼鏡〕庶物異名疏、靉靆、今俗謂二之眼鏡一、又方洲雜言作二僾逮一。〔事物異名錄、布帛、玻璨〕字典、僾逮、玻璨類也、能照二小物一爲二大物一、見二邱陵學山一、按、眼鏡亦名二僾逮一、蓋用二玻璨之類一爲レ之。

【僿】1171
㊀シ〔集韻〕相吏切 寘
㊁サイ〔集韻〕先代切 隊

□□❶うすい。まことがない。〔集韻〕儳、無二悃誠一也。〔史記、高帝紀〕小人以レ儳。〔注〕索隱曰、儳、猶二薄之義一也。❷こまかにくだく。〔集韻〕儳、一曰、細碎。❸ふさぐ。〔大戴禮、曾子立事〕儉而好レ儳者、君子不レ與也。〔注〕儳、塞也、太逼二塞於下一也。

【儀】1172

ギ 〔集韻〕魚羈切 支 一 12

儀 小篆

❶やうす。立派な様子。**威儀**。〔集韻〕儀、容也。〔詩、邶風、柏舟〕威儀棣棣。〔詩、鄘風、相鼠〕人而無レ儀。〔箋〕儀、威儀也。❷ぎやうぎ。**禮儀**。〔詩、鄘風、相鼠〕人而無レ儀。〔傳〕無二禮儀一者。❸ならはし。てぶり。〔荀子、正論〕諸夏之國、同服同儀。〔注〕儀、謂二風俗一也。❹のり。のつとる。かたどる。〔說文〕儀、度也、从レ人義聲。〔正字通〕儀、效法。〔管子、禁藏〕法者天下之儀也。〔注〕儀、謂レ表也。〔國語、周語下〕度二之於軌儀一。〔注〕儀、法也。〔國語、周語下〕儀二之於民一。〔注〕儀、準也。〔張衡、東京賦〕儀二姬伯之渭陽一。〔注〕綜曰、儀、則也。〔潘岳、西征賦〕儀二景星於天漢一。〔注〕善曰、儀、謂二法象之一也。❺はかる。〔正字通〕儀、擬度、大雅、我儀二圖之一。〔詩、大雅、烝民〕我儀二圖之一。〔集傳〕儀、度、圖、謀也。❻よい。よく。ただしく。宜(8－7111)に通ず。〔說文通訓定聲〕儀、段借爲レ宜。〔爾雅、釋詁〕儀、善也。〔釋名、釋典藝〕儀、宜也、得二事宜一也。〔詩、衞風、斯干〕無レ非無レ儀。〔箋〕儀、善也。〔詩、大雅、烝民〕我儀圖レ之。〔傳〕儀、宜也。〔詩、周頌、我將〕儀式二刑文王之典一。〔傳〕儀、善也。〔太玄經、玄圖〕儀用二一九一。〔注〕儀、正也。❼ならぶ。たぐひ。たぐへる。儷(1－1311)に通ず。〔說文通訓定聲〕儀、段借爲レ儷。〔爾雅、釋詁〕儀、匹也。〔詩、鄘風、柏舟〕實維我儀。〔傳〕儀、匹也。〔詩、大雅、烝民〕我儀二圖之一。〔箋〕儀、匹也。〔國語、周語上〕丹朱馮レ身以儀レ之。〔注〕儀、匹也。❽もと。みき。おほね。檥(6－15690)に通ず。〔說文通訓定聲〕儀、段借爲レ檥。〔爾雅、釋詁〕儀、榦也。〔注〕儀、表、亦體榦也。❾かしこい。賢(10－36822)に通ず。〔說文通訓定聲〕儀、段借爲レ賢、儀・賢雙聲。〔廣雅、釋言〕儀、賢也。❿こと。ことば。〔逸周書、寶典解〕是謂二四儀一。〔注〕儀、言也。⓫みる。觀(10－34996)に通ず。〔說文通訓定聲〕儀、段借爲レ觀。〔廣雅、釋詁二〕儀、見也。⓬むかふ。〔漢書、外戚、孝宣許皇后傳〕皆心儀二霍將軍女一。〔注〕晉灼曰、儀、向也、師古曰、晉說是也、謂二附向之一。⓭のぞむ。〔呂覽、處方〕射儀毫而失レ牆。〔注〕儀、望也。⓮われ。〔詩、小雅、角弓、如食宜レ饇、釋文〕宜、如レ字、本作レ儀、韓詩云、儀、我也。⓯くる。〔方言、二〕儀、來也、陳潁之閒曰レ儀。⓰うつは。儀器。〔春秋文耀鉤〕義和立二渾儀一。〔後漢書、張衡傳〕作二渾天儀一。⓱禮を示す贈物。禮物。〔晉書、輿服志〕奉レ常獻レ儀。⓲語勢を助ける助辭。〔經傳釋詞、五〕儀、詩烝民曰、人亦有レ言、德輶如レ毛、民鮮二克擧一之、我儀圖レ之、維仲山甫擧レ之、儀、助語詞、儀圖レ之、圖レ之也、傳訓、儀爲レ宜、文義未レ安。⓳或は壩(8－25827)に作る。〔集韻〕儀、或从レ立。⓴義(9－28504)に通ず。〔詩、曹風、鳲鳩〕其儀一兮。〔箋〕儀、義也。〔周禮、春官、小宗伯〕肆儀爲レ位。〔注〕古書、儀爲レ義。㉑擬(5－12870)に通ず。〔漢書、外戚、孝宣許皇后傳〕皆心儀二霍將軍女一。〔注〕服虔曰、儀、音蟻。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、服音蟻者、韻會四紙、儀、語擬切、擬也、引二此傳文一、宋玉高唐賦、惟高唐之大體兮、殊無二物類之儀比一、是以儀爲レ擬之證。㉒州名。〔集韻〕儀、又州名。㉓姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕衞大夫儀封人之後、望出二晉陽一。

名乘 ノリ。ヨシ。

儀羽 1 ウ 飾となる羽。轉じて、模範となるべき立派な姿。〔易、漸〕上九、鴻漸于陸、其羽可二用爲一レ儀、吉。〔注〕其羽毛可二用以爲一儀飾一。

儀鋭 2 エイ 明、濮州の人。字は宗敏。平生、質に任じ義を好み、取舍をいやしくもせず。〔尚友錄一〕。

儀衞 3 エイ 儀仗の兵士。儀式に參列して護衞に任ずる兵。〔唐書、儀衞志上〕朝會之仗、三衞番上、分爲二五仗一。〔宋史、儀衞志序〕文謂二之儀一、武謂二之衞一。〔續日本紀、慶雲三年正月丙子〕朝延儀衞、有レ異二於常一。

儀衞軒 4 ケン 清、方東樹(5－13620・・598)の「室名。

儀衞堂 5 ダウ 清、方東樹(5－13620・・598)の室名。

儀衞老人 6 ラウジン 清、方東樹(5－13620・・598)の「(8)の號。

儀衞軒文集 7 ブンシフ 清、方東樹(5－13620・・59)書名。十二卷。遺詩五卷。清、方東樹撰。其の目は、卷一・二論、卷三・四雜著、卷五序、卷六書後題跋、卷七書、卷八贈序・壽序、卷九記、卷十傳、卷十一墓誌銘・祭文、卷十二譜・序・傳・誌・哀辭・終制。外集一卷、附錄一卷、詩集五卷を附す。清史稿、藝文志に著錄せらる。

儀可 8 カギ 元、趙文(10－37171・・331)の字。

儀迓 9 ガギ 威儀を具へて迎へる。〔宋書、庾登之傳〕豫章與二臨川一接レ境、郡又華大儀迓光赫、士人竝驚歎焉。

儀號 10 ガウ 儀式と名號。〔史記、叔孫通傳〕叔孫通就二其儀號一。

儀岳 11 ガク 清、彭坊(4－10003・・103)の字。

儀漢 12 カン 清、吳韋(2－3365・・3)の字。

儀軌 13 キ ❶のり。てほん。〔蜀志、諸葛亮傳評〕諸葛亮之爲二相國一也、撫二百姓一、示二儀軌一。❷圃密教で念誦・供養の儀式の規則をいふ。〔玄義、二下〕戒定慧、此二是出世梯橙、佛法軌儀。

儀規 14 キ 圃しかた。〔五教章、上〕。

儀器 15 キ ❶天體を測定する器。天體儀・經緯儀等の類。〔清會典事例、欽天監、職掌〕十二年、新製儀器告成、一爲二天體儀一、一爲二黃道經緯儀一、一爲二赤道經緯儀一、一爲二地平經儀一、一爲二地平緯儀一、一爲二紀限儀一、安設觀象臺上、舊儀移置二臺下別室一。❷12 Ch14 科學の實驗觀測などに用ひる器具の汎稱。

儀儀 15 ギ 儀容の整つて德あるさま。〔法言、孝至〕麟之儀儀、鳳之師師。〔注〕儀儀・師師、皆和整尚德之貌。

儀九 16 キウ 清、孫鳳臺(3－6987・・539)の字。

儀吉 17 キツ 字號。❶清、許之漸(10－35298・・295)の字。❷清、陸鴻(11－41708・・107)の字。

儀佶 18 キツ 清、趙棻(10－37171・・330)の字。

儀姞 19 キツ 清、趙棻(10－37171・・330)の字。

儀渠 20 キヨ 古の國の名。義渠。〔列子、湯問〕秦之西有二儀渠之國者一。〔墨子、節葬下〕秦之西有二儀渠之國者一。

儀禁 21 キン 禮儀法度をいふ。〔荀悅、昌邑王論〕出二入游俠一、不レ拘二儀禁一。

儀禽 22 キン 靈鳥の名。鳳凰(12－46671・・211)の異稱。〔張率、河南國獻二舞馬一賦應詔〕均二儀禽于唐庭一、同二舞獸於虞廷一。〔事物異名錄、禽鳥、鳳凰〕按、儀禽、謂レ鳳也。

儀矩 23 クギ 禮のさだめ。のり。てほん。禮式。儀法。儀範。〔史記、秦始皇紀〕請刻二此石一、垂二著儀矩一。〔北史、高遵傳〕爲二俯仰二之節一、粗合二儀矩一。

儀具 24 グ 禮式に用ひる器具。〔矩〕。

儀戈 25 クワ 古、儀式の時に用ひた平頭の矛。〔令義解、儀制〕凡儀戈者、謂二平頭戟一也、用二之威儀一、故曰二儀戈一也、卽是不レ可二獨用一、必於二用レ蓋之時一、乃竝用耳。

【儀皇】26 舜の妃。娥皇（3－6331‥7）に同じ。〔大戴禮、五帝德、依于倪皇、補注〕倪、字誤、當レ作レ儀、儀皇即舜妃娥皇。

【儀鍠】27 唐代、儀仗の具。木を刻んで作つた斧形。儀斧。鍠はもと鉞の屬。秦漢からあつたが、唐は儀仗に用ひた。〔唐書、儀衞志上〕黃麾仗、左右廂各十二部十二行、第二行、儀鍠五色幡。〔元史、輿服志二〕儀鍠斧、制如レ斧、刻レ木爲レ之、柄以レ朱、上綴二小錦旛五色帶一。〔事物異名錄、武器、斧〕開元儀禮、乘輿之前、刻レ木爲レ斧、謂二之儀鍠一。〔三才圖會、儀鍠鉞（三才圖會）

【儀鍠】28 威儀。威儀あること。〔曾鞏、張文叔文集序〕儀觀甚偉、文辭甚工。

【儀訓】29 正しいをしへ。善い教誡。〔後漢書、列女、周郁妻傳〕少習二儀訓一、閑二於婦道一。

【儀刑】30 儀式刑法の略。のつとる。模範とする。又、法則。法式。儀形。儀型。〔詩、大雅、文王〕儀二刑文王一、萬邦作レ孚。〔傳〕刑、法。〔左氏、昭、六〕詩曰、儀二式刑文王之德一、日靖二四方一、又曰、儀二刑文王一萬邦作レ孚。〔注〕詩頌、言、文王以レ德爲二儀式一、故能日有レ安、靖二四方一之功上、刑、法也。〔疏〕周頌我將之篇、祀二文王一之樂歌也、杜言、文王以レ德爲二儀式刑法一也、則儀式刑三者、皆爲レ法也、服虔云、儀、善也、刑、法也、善用レ法者文王也、言、文王善用二其法一、故能爲二萬國所一レ信也、亦便二於杜一。

【儀形】31 のつとる。又、のり。威儀ある姿。儀刑。〔漢書、王莽傳〕敬畏上天之戒、儀二形虞周之盛一。〔注〕師古曰、儀形、謂二則而象一レ之。〔王儉、褚淵碑文〕儀形長遞。〔注〕善曰、儀形、容儀形體也。〔潘岳、藉田賦〕儀形孚二于萬國一、愛敬盡二于祖考一。〔北史、崔瞻傳〕卿儀形風德、人之師表。

【儀型】32 のり。てほん。〔朱熹、詩〕褰旟前頭翠作レ屏、晚來相對靜二儀型一。〔福惠全書、典禮部、修理文廟一非一所謂斯文領袖、多士之儀型一耶。

【儀卿】33 字號。❶宋、嚴羽（2－4589‥8）の字。❷明、申嘉（7－21726‥82）の字。❸清、李光型（6－14459‥1055）の字。

【儀橋】34 ❶橋の名。㋑四川省遂寧縣。古法に則つて、男は右、女は左、車は中央を通るように作つてあるからいふ。〔寰退錄〕古者道路、男子由レ右、婦人由レ左、車從二中央一、今遂寧府譙門之外、有レ橋曰二儀橋一、不レ知二何時所一レ創、上加二欄楯一、道分爲二三、尚彷二彿古人之意一、謂二之儀一者、猶二儀門一也。㋺❶を見よ。❷鎭の名。江蘇省太倉縣の北。楊林塘に儀橋がかかつてゐる。

【儀檢】35 禮式作法。又、禮儀作法によつて身を愼むこと。〔晉書、祖逖傳〕逖性豁蕩、不レ修二儀檢一。〔唐書、忠義下、龐堅傳〕玉魁梧有レ力、明二軍法一、久宿衞、習二知朝廷制度一、帝顧二諸將多不一レ閑二儀檢一、故授二玉領軍武衞二大將軍一、使二衆觀一以爲二模獲一。

【儀坤】36 皇后の廟所の名。〔舊唐書、禮儀志五、追二尊昭成肅明二皇后於親仁里一、別置二儀坤廟一。〔金史、樂志上〕昭德皇后廟曰二儀坤一。

【儀曹】37 官名。禮部の前身で、後魏の時、儀曹尚書を設けたのに始まる。後、禮部と稱したが、隋は一時、儀曹と改めた。唐が六部の制を立てるに及び、儀曹は常に禮部に屬した。禮部（8－24844‥192）を見よ。〔通典、職官典、尚書下、禮部尚書〕後魏爲二儀曹尚書一。

【儀操】38 すがたとみさを。儀容と節操。〔後漢書、邊讓傳〕美二儀操之姣麗一兮。〔傳毅、舞賦〕脩二儀操一以顯二志兮一。〔注〕翰曰、脩二整儀容一、端二理節操一。

【儀纁】39 儀仗に用ひる絹傘。〔南史、齊始安王遙光傳〕遙光行還入レ城、風飄二儀纁一。

【儀之】40 宋、馮椅（12－44579‥5）の字。

【儀止】41 たちゐふるまひ。容止。行儀。〔唐書、張嘉貞傳〕嘉貞儀止秀偉。

【儀氏】42 夏の時、初めて酒を造つた儀狄をいふ。〔張協、七命〕儀氏進二其法一。〔注〕善曰、戰國策、魯君曰、昔帝女儀狄作レ酒而美、進二之禹一、禹飲レ之而甘、遂疏二儀狄一、絕二旨酒一、曰、後世必有二以レ酒亡レ國者一。

【儀式】51 ❶のつとる。のり。おきて。〔詩、周頌、我將〕儀二式刑文王之典一。〔集傳〕儀式刑、皆法也。❷禮儀のしかた。作法。〔後漢書、律曆志中〕儀式備立、司候有レ準。〔唐書、百官志一〕典直四人、正九品、掌下宮內儀式、導引・通傳・勞問、糾二劾非違一、察中出納上。❸式典。

【儀飾】52 儀式の裝飾品の名。〔晉書、禮志〕康帝建元元年、納二皇后褚氏一、詔曰、法服儀飾粗令擧、其餘兼副雜器停レ之。〔西清古鑑、儀飾〕右高三寸、重十兩、下作二龜形一、上一鳥、如二相風烏一。

【儀秦】53 戰國時代の縱橫家、張儀と蘇秦。〔法言、淵騫〕儀秦學二乎鬼谷術一、而習二乎縱橫言一。

【儀世】54 世の手本となる。〔晏子、不合經術者、傳學不可以儀レ世。

【儀制】55 儀式に關するおきて。禮儀制度。〔漢書、郊祀志下、漢興之初、儀制未レ及レ定。〔宋史、曹評傳〕預修二儀制一、多所二增損一。

【儀制清吏司】56 清の制度で、禮部四司の一。嘉禮・軍禮・學校・科舉の禮を掌る。〔清會典、禮部、儀制清吏司〕郎中滿洲二人、漢一人、員外郎滿洲三人、漢一人、主事滿洲一人、漢一人、掌二朝廷府署鄉國之禮、稽二天下之學校一、凡科擧掌二其政令一。

【儀韶】57 舜の韶樂をいふ。鳳韶。〔張衡、顧仲瑛玉山詩〕儀韶下二鳳凰一。

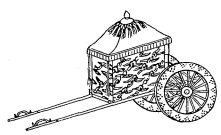
【儀節】58 のり。てほん。一說に、のつとり節する。音樂の節に則して行爲を適正にする。〔左氏、昭、元〕君子之近二琴瑟一、以儀節也、非二以愔心也一。〔注〕爲二心之節儀一、使二動不レ過度一。〔會箋〕禮記、君子無レ故、不レ徹二琴瑟一、琴瑟在レ御、所二以儀一其節一也、宜二其音節一、以節二德度一、故曰二儀節一。

【儀叟】59 清、李鴻章（6－14459‥1228）の號。

【儀則】60 のり。てほん。法則。〔莊子、天地〕形體保レ神、各有二儀則一、謂二之性一。〔史記、秦始皇紀〕永爲二儀則一、大矣哉。〔班彪、北征賦〕達人從レ事有二儀則一兮。

【儀隊】61 政府の主席及び將官が衞戍の地に來去する時、之を送迎する隊。

【儀態】62 禮にかなつたかたち。禮儀ある態


（圖典會清）車儀

（鑑古清西）飾儀

度。儀容。〔張衡、同聲歌〕素女爲二我師一、儀態盈二萬方一。

【儀體】63 ギタイ 禮儀の法式。儀式(51)の❶に同じ。〔漢書、郊祀志上〕封禪用希曠絶、莫レ知二其儀體一。〔風俗通、正失、孝文帝〕開二習朝廷儀體一。

【儀臺】64 ギダイ 臺の名。河南省虞城縣の西南。又、義臺に作る。〔史記、魏世家〕〔魏惠王〕六年、伐取二宋儀臺一。〔注〕集解曰、徐廣曰、一作二義臺一、索隱曰、按、年表作二義臺一。

【儀刀】65 ギタウ 儀式に用ひる飾り刀。〔唐書、儀衞志上〕左右衞將軍二人、分二左右一、領二班劍儀刀一。〔元史、輿服志二〕儀刀、制以レ銀飾、紫絲帖鐙。〔事物紀原、旗旐采章部、儀刀〕二儀實錄曰、儀刀、自二東晉多レ虞、遂以レ木代レ之、以備二威儀一、即衞刀也、宋朝會要曰、銀飾、王公亦給。

儀刀（會圖オ三）

【儀堂】66 ギダウ 官名。鴻臚寺(12－46874‥181)の名。〔事物異名錄、宮室、官廨〕引典、鴻臚寺爲二儀堂一。

【儀導】67 ギダウ 儀仗行列の先驅。〔晉書、五行志下〕元興二年、永安皇后、至レ自二巴陵一、將下設二儀導一入上レ宮、天雷震、人馬各一俱殪焉。

【儀智】68 ギチ 明、高密の人。字は居眞。諡は文簡。洪武の末、耆儒に擧げられ布政使に歷官す。後、楊士奇等の薦により皇太孫を輔導し、年八十にして致仕す。〔明史、一百五十二〕・〔萬斯同明史、二百〕・〔明史稿、一百四十〕。

【儀仗】69 ギヂャウ ❶儀式に用ひる武器。仗は劍戟の總名。〔晉書、五行志上〕元帝太興四年、王敦在二武昌一、鈴下儀仗生レ華如二蓮華一。〔唐書、百官志一〕掌二戈器鹵簿儀仗一。❷天子の殿下で護衞する兵。〔唐書、儀衞志上〕朝會之仗、三衞番上、分爲二五仗一、皆帶レ刀捉レ仗、列二於東西廊下一、每日以二四十六人一、立二內廊閤外一、號曰二內仗一、朝罷放仗、天子出、則有二細仗・黃麾仗一。

【儀仗軍】70 ギヂャウ 儀式用の武器を帶びて、天子の行幸の時先驅する兵隊。〔經世大典〕皇帝祀二郊廟一、幸二佛寺一、蹕レ街清レ道曰二儀仗軍一。

【儀仗兵】71 ギヂャウ 儀仗を帶びて、天皇の出入、其の他國家の儀式に參列する兵隊。

【儀仲】72 ギチウ 宋、丘泰(1－33‥66)の字。

【儀注】73 ギチウ ❶天文の事を記した書物。〔後漢書、律曆志〕〔張〕衡・〔周〕興、參二案儀注一、考二往校一レ今、以爲二九道法最密一。❷禮節をいふ。禮式。儀適。〔隋書、經籍志二〕儀注之興、其所二由來一久矣、自二君臣父子六親九族一、各有二上下親疏之別一、養レ生送レ死、弔恤賀慶、則有二進止威儀之數一、唐虞已上、分レ之爲レ三、在二周因而爲一レ五、周官宗伯所レ掌吉凶賓軍嘉、以佐二王安一邦國一、親二萬民一、而大史執レ書以協レ事之類、是也、是時典章皆具、可二履而行一、周衰、諸侯削二除其籍一、至レ秦、又焚而去レ之、漢興、叔孫通定二朝儀一、武帝時、始祀二汾陰后土一、成帝時、初定二南北之郊一、節文漸具、後漢又使二曹褒定一レ漢儀一、是後相承、世有二制作一、然猶以二舊章殘缺一、各遵二所レ見、彼此紛爭一、盈二篇滿レ牘一、而後世多レ故、事在二通變一、或一時之制、非二長久之道一、載筆之士、刪二其大綱一、編二于史志一、而或傷二於淺近一、或失二於未達一、不レ能レ盡二其旨要一、遺文餘事、亦多散亡、今聚二其見存一、以爲二儀注篇一。〔隋書、牛弘傳〕王公以下、不レ能レ定二其儀注一。❸吉凶の行事儀法の記錄。しだいがき。或は典章といひ、又、儀典・禮注ともいふ。四庫提要には、之を政書類典禮の部に屬し、著錄凡て二十四部、一千五百十一卷ある。漢官舊儀に始まり、清の萬斯同の廟制圖考に至る。〔四庫提要、史、政書類〕。

【儀注學】74 ギチウガク 吉凶・行事・故事などに關する學問。〔梁書、許懋傳〕懋十四、入二太學一、授二毛詩一、旦領二師說一、晚而覆講、座下聽者、常數十百人、尤曉二故事一、稱爲二儀注之學一。

【儀徵】75 ギチウ 縣名。清、置く。漢の廣陵・江都二縣の地。宣統の間、揚子と改め、民國また儀徵とす。今の江蘇省江都縣の西南。〔清史稿、地理志、江蘇、揚州府、揚子縣、明爲二儀眞一、雍正二年、改レ眞爲レ徵。

【儀狄】76 ギテキ 夏の時、初めて酒を造つた人。轉じて、酒の異名。〔戰國、魏策〕昔者帝女令二儀狄作一レ酒而美、進二之禹一、禹飲而甘レ之、遂疏二儀狄一、絕二旨酒一、曰、後世必有レ以レ酒亡二其國一者。〔唐書、王績傳〕采二杜康儀狄以來善レ酒者一爲レ譜。〔陸龜蒙、酒城詩〕必若據而爭、先登二儀狄氏一。

【儀狄之酒】77 ギテキノサケ 美酒をいふ。儀狄の釀した酒の意。儀狄を見よ。

【儀的】78 ギテキ まと。標的。轉じて、めあて。目標。〔韓非子、用人〕釋二儀的一而妄發、雖レ中而不レ巧。〔韓非子、外儲說左上〕夫新砥二礪殺矢一、彀レ弩而射、雖二冥而妄發一、其端未レ嘗不レ中二秋毫一也、然而莫レ能復二其處一、不レ可レ謂二善射一、無二常儀的一也、設二五寸之的一、引二十步之遠一、非二羿逢蒙一不レ能必全一者、有二常儀的一也。

【儀適】79 ギテキ 禮儀。禮節。儀注。〔後漢書、竇融傳〕融先遣二從事問一レ會見儀適一。〔注〕猶レ言二儀注一也。

【儀綴】80 ギテツ のり。手本。〔大戴禮、千乘〕才武總慧、治レ衆長レ卒、所レ以爲二儀綴於國一。

【儀典】81 ギテン 儀式。儀法。〔宋書、蔡廓傳〕朝廷儀典、皆取二定於亮一、每諮レ廓然後施行。

【儀典堂】82 ギテンダウ 清、汪瑮(6－17154‥84)の室名。

【儀圖】83 ギト よろしくはかる。よいはかりごと。又、仲間と倶にはかる。〔詩、大雅、烝民〕我儀圖之。〔傳〕儀、宜也。〔箋〕儀、匹也、云云、我與二倫匹一圖レ之。〔集傳〕儀、度、圖、謀也。

【儀度】84 ギド 渾天儀の度數。度は日月星辰の行度をいふ。〔後漢書、明帝紀〕見二史官正一儀度一。

【儀同】85 ギドウ 官名。儀同三司の略。儀同三司の❶を見よ。

【儀同三司】86 ギドウサンシ ❶元勳者を優待して賜はつた、職事の無い高官。儀が三司に同じの意。開府儀同三司(11－41233‥343)を見よ。〔後漢書、鄧隲傳〕延平元年、拜二〔鄧〕隲車騎將軍儀同三司一。❷我が國では、昔大臣の祿を受けて內大臣の下に列した官。准大臣(2－1661‥26)に同じ。〔拾芥抄、中末〕儀同三司、寬弘年月日以前、內大臣藤原伊周敍レ之、列二大臣下大納言上一。❸藤原伊周の異稱。❶を見よ。

【儀同大將軍】87 ギドウダイシャウグン 北周、儀同三司の改稱。儀同三司の❶を見よ。〔北史、周高祖紀〕改二開府儀同三司一、爲二開府儀同大將軍一。

【儀馬】88 ギバ ❶儀仗にそなへる馬。〔事物紀原、輿駕羽衞部、儀馬〕今導駕有二御馬一、分二左右一、按、自レ漢有レ之、西京雜記、漢朝輿駕、祀二甘泉汾陰一、羣臣左右及節十六、後乃有二御馬三匹一、則儀馬之設、自レ漢始也。❷廟中の偶馬をいふ。〔李商隱、送二千牛李將軍赴一レ闕詩〕靈衣沾二魏汗一、儀馬困二陰兵一。

【儀方】89 ハウ 端午の節に楹に倒貼して蛇虺を防ぐ呪語。〔西湖遊覽志〕端午爲二天中節一、或硃二書五月五日天中、赤口白舌盡消滅之句一、揭二之楹間一、或採二百草一、製二藥品一、覓二蝦蟆一、取以蠟酥一、書二儀方二字一、倒二貼檯楹一、以避二蛇虺一。

【儀貌】90 ギバウ しなかたち。儀容。〔詩、秦風、終南〕其君也哉、箋、其君也哉、儀貌尊嚴也。〔漢書、董賢傳〕爲人美麗自喜、哀帝望見、說二其儀貌一。〔列女傳、母儀、齊女傳母傳〕儀貌壯麗。〔論衡、書虛〕儀貌之壯、語言之野也。

【儀伯】91 ハク 字號。❶元、王結(7－20823‥343)の字。❷明、周鳳翔(2－3441‥859)の字。

【儀法】92 ハフ のり。禮儀法度。〔管子、七法〕制二儀法一、出二號令一。〔晏子、問、上〕立二于儀法一、不レ犯レ之以レ邪。〔墨子、天志下〕子墨子置二立天志一、以爲二儀法一。〔史記、叔孫通傳〕徙爲二太常一、定二宗廟儀法一。〔漢書、禮樂志〕遂定二儀法一。

【儀範】93 ハン 禮儀のかた。行爲の手本。法則。模範。〔晉書、謝安傳〕常以二儀範一訓二子弟一。〔白居易、唐河南元府君夫人滎陽鄭氏墓誌銘序〕內外六姻、仰爲二儀範一。

【儀比】94 ヒ なぞらえくらべる。〔宋玉、高唐賦〕惟高唐之大體兮、無二物類之可一レ儀比一。

【儀品】95 ヒン 禮儀品節。〔漢書、梅福傳〕叔孫通秦歸レ漢、制二作儀品一。

【儀賓】96 ヒン 明・清時代、親王・郡王の女壻をいふ。禮儀に明習し國王の賓たるに適する意。〔續通典、禮典、公主下降儀〕明年又更定二公主郡主封號婚儀、及駙馬儀賓品秩一。〔續文獻通考、王禮考、君臣冠冕服章〕儀賓冠服。

【儀服】97 ギフク 儀式に用ひる服裝。式服。〔後漢書、皇后紀贊〕漢制、皇女皆封二縣公主一、儀服同二列侯一。〔晉書、孝武文李太后傳〕儀服一同二太后一。

【儀物】98 ギブツ 禮儀に備へる物品。〔宋史、宋綬傳〕初郊祀、綬攝二太僕卿一、帝問二儀物典故一、占對辨治、因上二所レ撰鹵簿圖十卷一。

【儀文】99 ギブン ❶公用文。又、儀式ばつた文。〔福惠全書、蒞任部、承事上司〕每有下僚外飾二貧儉一、自炫二孤高一、一切儀文出中之淡薄上。❷淸、祝新(8－24672··72)の字。❸祭祀・饗宴等の儀式の作法や法度。〔國史略、高野天皇〕先レ是、文武帝始行二釋奠之禮一、而儀文器制未レ備、眞備嘗西遊、親觀二唐家典禮一、於レ是斟二酌古今一、以定二儀制一。

【儀表】100 ギヘウ ❶のり。てほん。龜鑑。〔韓非子、安危〕使下天下皆極二智能於儀表一、盡中力於權衡上。〔管子、形勢解〕萬民之儀表也。〔史記、太史公自序〕人主天下之儀表也。〔漢書、哀帝紀〕詔曰、河間王良、喪二太后一三年、爲二宗室儀表一。〔漢書、司馬遷傳〕人主天下之儀表也。〔淮南子、主術訓〕行爲二儀表於天下一。❷儀容。外見。見かけ。〔宋史、楊承信傳〕承信身長八尺、美二儀表一。

【儀父】101 ギホ 字號。❶宋、陳象祖(11－41698··955)の字。❷宋、方儀(5－13620··86)の字。❸宋、李仲容(6－14459··1741)の字。

【儀甫】102 ギホ ❶明、夏義甫(3－5720··294)の一名。❷字號。㋑宋、蘇紳(9－32427··108)の字。㋺元、項冠(12－43343··11)の字。㋩明、羅頎(9－28397··51)の字。㋥淸、薛鳳祚(9－32123··250)の字。

【儀封】103 ギホウ 縣名。元、置く。河南省蘭封縣の東北六十五里。明の時、黃河に毀られ、治を日樓村に移した。蘭封縣の東北三十里。淸は儀封鄕と改む。春秋時代の衞の儀邑は蘭封縣の北にある。〔論語、八佾〕儀封人請レ見。〔鄭注〕儀、蓋衞邑也。〔四書釋地續〕儀邑城乃衞西南境、距二其國一五百餘里。〔讀史方輿紀要、河南、開封府〕儀封縣、府東北百五十里、春秋時衞邑、漢爲二東昏縣地一、云云、元置二今縣一屬二睢州一、明初改二今屬一。

【儀鳳】104 ギホウ ❶威儀ある、おほとり。鳳凰(12－46671··211)の異稱。〔楊萬里、題二望韶亭一詩〕儀鳳舞獸掃無レ迹、獨留二一狻一守二其側一。❷唐の高宗(李治)の年號。(676－679)

【儀鳳曆】105 ギホウレキ 持統天皇の御代に用ひられた曆。唐の麟德曆の別名。〔日本書紀、持統紀〕四年十一月甲申、奉レ勅始行二元嘉曆與二儀鳳曆一。

【儀民】106 ギミン 民を善くする。〔國語、魯語上〕堯能單均二刑法一以儀レ民。〔注〕儀、善也。

【儀銘】107 ギメイ 明の人。智の子。字は子新。諡は忠襄。景泰中、兵部尙書となる。〔明史、一百五十二〕・〔萬斯同明史、二百〕・〔明史稿、一百四十〕。

【儀門】108 ギモン 官衙の門の名。明、淸時代の官衙には皆儀門があり、淸末、諱を避けて宜門と改む。或は旁門といふ。儀橋(34)を見よ。〔明會典〕凡新官到レ任之日、至二儀門前一下レ馬。〔江寧府志〕府署、明初徙二錦繡坊一、大門之內爲二儀門一、儀門內爲二蒞事堂一。〔在閣知新錄〕今府縣衙門有二正門一、有二旁門一、旁門卽諺門、世俗作二儀門一、訛。

【儀容】109 ギヨウ 禮にかなつたかたち。みじまひ。儀貌。儀態。禮容。〔後漢書、河間孝王開傳〕奇翼美二儀容一。〔潘岳、悼亡詩〕儀容永潛翳。

【儀鸞】110 ギラン 儀鸞司の略。〔黃庭堅、觀二伯時畫馬一禮部院作詩〕儀鸞供帳饕蝨行、翰林濕薪爆竹聲。

【儀鸞司】111 ギランシ 供奉に隨ふ職の名。供帳を掌る。隋の大業中、鸞鳥が供帳庫に集つたから名づけたといふ。〔江鄰幾雜識〕陳執中館二伴虜使一、問二隨行儀鸞司緣レ何有二此名一、不レ能レ對、或云、隋大業中、鸞集二于供帳庫一、遂名レ此。

【儀鸞殿】112 ギランデン 宮殿の名。❶洛陽皇宮の西北洛城門內に在る宮殿。〔唐六典、尙書工部〕洛陽皇宮西北出曰二洛城門一、其內曰二德昌殿一、北曰二儀鸞殿一。❷北京、頤和園內に在る淸朝の宮殿。〔淸會典事例、工部、宮殿〕正殿南嚮爲二儀鸞殿一。

【儀鸞門】113 ギランモン 大內裏豐樂院十九門の一。豐樂院の內門。豐樂門と相對す。

【儀禮】114 ギレイ ❶禮式。〔史記、禮書〕欲レ定二儀禮一。〔史記、封禪書〕自得二寶鼎一、上與二公卿議生一議二封禪一、封禪用希、曠絕莫レ知二其儀禮一。❷ギライ 書名。次を見よ。

《儀禮》 經書の一。儀禮は周代に於ける禮の實際を明記した典籍であつて、今日當年の禮の實際を知らうとすれば此の書の外には之に代るべき典籍は無い。漢書藝文志には禮古經と出て居り、また士冠禮・士昏禮・士喪禮・士相見禮等、士に關する禮の多いところから、士禮ともいふ。始は只禮と呼んだらしく、之を稱して儀禮と呼んだのは、儀節に關する記述が多いからで、其の時代は後代である。明の黃以周は其の著、經說略の中に於て、儀禮の名の見えたのは晉の元帝以後だと云つてゐる。作者に就ては、梁の崔靈恩はじめ周公の作なりとする人が多いが、其は只周公が禮を制したといふ記錄が、左傳の文公十八年、尙書大傳の洛誥、禮記の明堂位などに有るからの附會であらう。孔子の述刪が、禮に及んだかどうかは疑問であるが、禮經と稱すべきものが、若干は孔子以前にあつたかも知れぬ。而して其等禮經の文を先秦時代に何人かが蒐錄したものであらう。淸朝に至ると、毛奇齡の經問などを始とし、儀禮の作を戰國以後とせんとする論者も出たが、論語や孟子より後のものとは考へられぬ點が多あり、さりとて周初のものとも考へられぬ點も多いから、大體は春秋の初期のものであらう。兔に角漢初に至り、魯の高堂生が禮十七篇を傳へた。其の後、景帝の時、魯の恭王は孔子の舊宅を壞つて亡儀禮五十六篇を得たが、其の書體は皆古文字であつたから之を古文といひ、高堂生の傳へたものを今文といふ。十七篇の目は、士冠禮・士昏禮・士相見禮・鄕飮酒禮・鄕射禮・燕禮・大射禮・聘禮・公食大夫禮・覲禮・喪服・士喪禮・旣夕禮・士虞禮・特牲饋食禮・少牢饋食禮・有司徹である。〔四庫提要、經、禮類〕。

〔參考書〕【儀禮注疏】十七卷 漢、鄭玄注。唐、賈公彥疏。三禮は鄭氏を以て宗としてゐるが、儀禮は特に鄭氏以後絕學となつたので、儀禮を講ずる者は最も此の書を尊ぶ。注は少しむつかしいが、疏によつて意味は明かになつてゐる。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮識誤】三卷 宋、張淳撰。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮集釋】三十卷 宋、李如圭撰。所載の鄭注は、皆當時の善本を用ひた。據つて以て今本の訛を校することが出來る。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮釋宮】一卷 宋、李如圭撰。古人宮室の制を考論したもの。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮圖】❶十七卷 宋、楊復撰。儀禮十七篇を以て各〻其の陳設の方位を詳かにし、圖二百有五、儀禮旁通圖一卷を附す。此の附卷は宮廟門・弁冕門・牲鼎禮器門の三種に分ち、圖二十五を作る。〔四庫提要、經、禮類〕。❷六卷 淸、張惠言撰。宮室・衣服等の圖は頗る詳細である。〔皇淸經解續編、七十五冊－七十八冊〕。【儀禮經傳通解】三十七卷 宋、朱熹撰。續二十九卷。宋、黃幹撰。儀禮を以て經とし、禮記及び諸書に載せる所を採り、類を以て之に附して傳としたもの。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮要義】五十卷 宋、魏了翁撰。鄭注賈疏を掇つて條目を爲り分類したもの。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮集說】十七卷 元、敖繼公撰。鄭注を取捨してゐるが、攻擊するところはない。鄭注の字句隱奧なものは爬扶詮釋、賈疏に較べて頗る分明である。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮逸經傳】二卷 元、吳澄撰。儀禮はもと殘缺の書であるから、逸禮の他書にあらはれたものを採掇す。經八篇、傳十篇。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮節解】十七卷 明、郝敬撰。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮義疏】欽定儀禮義疏(6－16104··75)を見よ。【儀禮鄭注句讀】十七卷、附、監本正誤一卷、石經正誤一卷 淸、張爾岐撰。儀禮鄭注を全錄し、賈疏を摘錄し、己の意を以て之を發明したもの。儀禮研究家は善本として居る。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮正義】四十卷 淸、胡培翬撰。前人の注したものを集めて作る。考證綿密、偏見なく極めて善本である。〔皇淸經解續編、百五十七冊－百七十冊〕。【儀禮注疏詳校】十七卷 淸、盧文弨撰。【儀禮小疏】一卷 淸、沈彤撰。儀禮士冠禮・士昏禮・公食大夫禮・喪服・士喪禮の五篇をとつて之が疏箋を作ること各〻數十條、每篇後に各〻監本刊誤を作り、卷末に左右異尙攷一篇を附す。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮述注】十七卷 淸、李光坡撰。大旨は陳澔の集說が鄭・孔を掊擊するを以て非としてゐる。義例は作る所の周禮述注と同じ。〔四庫提要、經、禮類〕。【儀禮繹解】八卷 皆川愿撰。

【儀漏】115 ギロウ 標準となる水時計。〔南齊書、祖沖

之傳〕親量圭尺、躬察儀漏、目盡毫釐、心窮籌筴。

【儀隴】116 ギロウ ㊀縣名。南朝梁、置く。故城は今の四川省儀隴縣より北。清末に改めて宜隴とし、民國、舊名に復す。〔清史稿、地理志〕四川、順慶府、縣六、儀隴。㊁山名。四川省儀隴縣の西。一名、大儀山。〔太平寰宇記〕山頂有石、鐫儀隴二字、俗謂之赤葛山、流江之水出焉。

【儀行父】117 ギカウホ 春秋、陳の大夫。徵舒が靈公を殺すや、孔寧と楚に出奔す。〔左氏、宣、九・十・十一〕。

【儀顧堂】118 ギコダウ 清、陸心源(11－41708‥366)の室名。

【儀宋堂】119 ギソウダウ 室名。㊀清、黃丕烈(12－47926‥1296)の室名。㊁清、吳嘉淦(2－3365‥465)の室名。

【儀長儒】120 ギチヤウジユ 漢、西河の人。馬を相する法を河子與に受く。〔後漢書、五十四〕。

【儀鄭堂】121 ギテイダウ ㊀清、孔廣森(3－6933‥278)の書齋の名。鄭玄に私淑して名づけたといふ。〔阮元、孔廣森傳〕又喜屬文、著儀鄭堂駢麗文三卷。㊁清、曹堉(5－14297‥6)の室名。

〔儀鄭堂駢儷文〕122 ギテイダウベンレイブン 書名。三卷。清、孔廣森撰。儀鄭堂の㊀を見よ。

【儀靜體閒】123 ギセイタイカン 態度容貌の優雅なこと。〔曹植、洛神賦〕瓌姿艷逸、儀靜體閑。〔注〕翰曰、威儀體德、皆閑雅也。

【儀徵太傅】124 ギチヨウノタイフ 清、阮元(11－41569‥13)をいふ。

【儀令色】125 ギヲヨクシイロヲヨクス 容儀と顏色とを立派にする。儀は容儀、色は顏色。〔詩、大雅、烝民〕令儀令色、小心翼翼。

【僕】1173 ボク ㊀僕(1－1094)の本字。〔字彙〕僕、僕本字。㊁姓。〔正字通〕姓、漢有僕朋、封渾渠侯。

【儲】1174 チヤク 〔集韻〕陟略切 藥

姓。〔集韻〕儲、姓也。

【儁】1175 シユン 〔集韻〕祖峻切 震 ㄐㄩㄣˋ chün4

㊀すぐれる。又、その人。俊(1－674)に同じ。〔廣韻〕儁、智過千人曰儁。〔集韻〕俊、說文、才千人也、或从儁。〔左氏、莊、十一〕得儁曰克。〔疏〕戰勝其師、獲得其雄儁者。〔釋文〕儁、本或作俊。〔左氏、昭、十二〕壺何爲焉其以中儁也。〔世說新語、識鑒〕神鋒太儁。㊁雋(11－41996)に誤り通ず。〔正字通〕儁、誤通作雋。〔漢書、禮樂志〕進用英雋。㊂姓。〔廣韻〕儁、又羌複姓有儁蒙氏。

參考 熟語は俊(1－674)を併せ見よ。

【儁乂】1 シユンガイ 三國魏、張郃(4－9812‥138)の字。

【儁興】2 シユンコウ 後魏、元略(1－1340‥603)の字。

【儁堂】3 シユンダウ 清、巴慰祖(4－8745‥109)の字。

【儂】1176 ドウ ヌ 慣ノウ 〔集韻〕奴冬切 冬 ㄋㄨㄥˊ nung2

㊀われ。わし。吳の方言。〔廣韻〕儂、我也。〔集韻〕儂、我也、吳語。〔通俗篇、稱謂〕隋書、五行志云、煬帝宮中、喜效吳音、多有儂語。㊁あなた。きみ。〔楊維楨、西湖竹枝詞〕勸郎莫上南高峯、勸儂莫上北高峯。㊂かれ。なにがし。〔正字通〕儂、他也。〔六書故〕儂、吳人謂人儂、按、此卽人聲之轉、甌人呼若能。〔潯陽樂〕雞亭故儂去、九里新儂還。〔韓愈、瀧吏詩〕比聞此州囚、亦有生還儂。㊃おきな。〔李商隱、畫松詩〕近說稽山儂。〔注〕晉法潛隱會稽剡山、或問其勝友爲誰、指松曰、此蒼髯八叟也。㊄民族の名。儂人(2)を見よ。㊅姓。〔通志、氏族略、平聲〕儂氏、邕州賊儂智高、元豐登科、有儂奭、青州人。

【儂家】1 ドウカ ㊀我が家。〔司空圖、力疾山下吳邨看杏花詩〕儂家自有麒麟閣、第一功名只賞詩。㊁nung2 chia1 ㋑わし。我。〔寒山詩〕儂家暫下山、入到城隍裏。㋺女子の自稱。奴家。

【儂人】2 ドウジン 今の雲南の苗族。僰人・沙人の種族。〔滇南雜志〕儂人、其種在廣南、習俗大略與僰夷同、其長爲儂智高裔、部夷因號爲儂、樓居無椅凳、席地而坐、脫履梯下而後登、甘犬嗜鼠。

【儂智高】3 ドウチカウ 宋、廣源州の蠻人。皇祐中反して自立し、國を南天國と號し、自ら仁惠皇帝と稱す。仁宗は狄青等を遣はして之を滅ぼした。〔宋史、四百九十五〕。

【儃】1177
㊀セン ゼン 〔集韻〕時連切 先 ㄔㄢˇ ch'an3
㊁タン ダン 〔集韻〕唐干切 寒
㊂タン ダン 〔集韻〕儻旱切 旱 ㄊㄢˇ t'an3
㊃タン ダン 〔集韻〕徒案切 翰
㊄セン ゼン 〔集韻〕時戰切 霰 ㄕㄢˋ shan4

小篆

㊀㊁㊀たたずむ。たちもとほる。めぐる。〔說文〕儃、儃何也、从人亶聲。〔段注〕儃何、或當作儃回、九章曰、欲儃佪以干傺、又曰、入漵浦余儃佪、王逸曰、儃佪、猶低佪也、洪興祖曰、儃、知然切。㊁やうす。すがた。或は僤(1－1112)に作る。〔集韻〕儃、態也、或从單。㊂澶(11－39175)に同じ。〔說文通訓定聲〕儃、按、儃、與澶同字。㊂靜かなさま。儃儃(3)を見よ。㊃㊀ほしいまま。儃漫(5)を見よ。㊁ただ。ただに。いたづらに。或は但(1－495)・亶(1－328)に作る。〔正字通〕儃、徒也、語辭、亦作但・亶。㊄つたへる。ゆづる。通じて禪(8－24835)・嬗(3－6771)に作る。〔集韻〕儃、讓也、通作禪・嬗。〔法言、問明〕允哲堯儃舜之重。〔注〕儃、與禪同。

名乘 トシ。

【儃回】1 センクワイ めぐる。〔楚辭、賈誼、惜誓〕固儃回而不息。〔注〕儃回、運轉也。〔集注〕儃、一作澶。

【儃佪】2 センクワイ 足が進まないでたたずむさま。たちもとほるさま。低佪。徘徊。〔楚辭、九章、涉江〕入漵浦余儃佪兮。〔集注〕儃佪、一作澶廻。〔楚辭、九章、思美人〕吾且儃佪以娛憂兮。〔注〕儃佪、一作徘徊。

【儃儃】3 タンタン 靜かなさま。しづしづ。ゆつたり。悠然。〔莊子、田子方〕有一史後至者、儃儃然不趨。〔注〕內足者神閒而意定。〔釋文〕儃儃、李云、舒閒之貌。

【儃僈】4 タンマン ほしいままでしまりがない。澶漫。〔新書、勸學〕舜僶勉而加志、我儃僈而弗省耳。

【儃漫】5 タンマン ほしいままでしまりがない。儃僈に同じ。〔莊子、馬蹄〕澶漫爲樂。〔釋文〕澶、本又作儃、徒旦反、云云、李云、澶漫、猶縱逸也。

【億】1178 ヨク オク 〔集韻〕乙力切 職

小篆

㊀數の一單位。昔は十萬、後には萬萬をいふ。又、時に百萬・千萬をいふ。〔詩、大雅、假樂〕子孫千億。〔箋〕十萬曰億。〔詩、魏風、伐檀〕三百億兮。〔傳〕萬萬曰億。〔禮、內則〕降德于衆兆民。〔疏〕算法、億之數有大小二法、小數以

十爲レ等、十萬爲レ億、大數以レ萬爲レ等、萬萬爲レ億也。〔國語、楚語下〕官有二十醜一、爲二億醜一。〔注〕十萬曰レ億、古數也、今人乃以二萬萬一爲レ億。〔瑜伽略纂〕西方有二四種億一、一、十萬爲レ億、二、百萬爲レ億、三、千萬爲レ億、四、萬萬爲レ億、今瑜伽顯揚、百萬爲レ億、華嚴、千萬爲レ億、智度論、十萬爲レ億。❷**やすらか**。やすんずる。もと億(**1－1279**)に作る。〔正字通〕億、說文作レ億。〔說文〕億、安也、从レ人意聲。〔左氏、昭、二十一〕心億則樂。〔注〕億、安也。〔國語、晉語四〕億二寧百神一。〔注〕億、安也。❸**はかる**。おしはかる。おもんぱかる。おしきはめる。意(**4－10921**)に通ず。〔說文通訓定聲〕億、叚借爲レ意。〔左氏、襄、二十五〕不レ可二億逞一。〔注〕億、度也。〔論語、憲問〕不レ億不レ信。〔皇疏〕億、億必也。〔論語、先進〕億則屢中。〔集注〕億、意度也。〔漢書、貨殖傳〕意則屢中。〔注〕師古曰、意、讀曰レ億。❹**かけごと**。〔後漢書、梁冀傳〕意錢之戲。〔注〕何承天纂文曰、詭億、一曰二射意一、一曰二射數一、卽攤錢也。❺**ああ**。噫(**2－4381**)に通ず。〔說文通訓定聲〕億、叚借爲レ噫、實發聲之詞。〔易、震〕億喪貝。〔注〕億、辭也。〔干注〕億、歎辭也。〔釋文〕億、本又作レ噫。❻**をしむ**。〔易、震〕億二喪貝一。〔虞注〕億、惜。❼**みちる**。意(**4－11257**)に通ず。〔說文通訓定聲〕億、叚借爲レ意、左襄廿五傳、不レ可二億逞一、按、億逞、猶二滿盈一也、注、訓レ度、失レ之。❽抑(**5－11883**)に通ず。〔荀子、賦〕暴至二殺傷一、而不二億忌一者與。〔注〕億、或曰、與レ抑同。❾臆(**9－29951**)に通ず。〔漢平都侯相碑〕餘悲馮レ億。〔王褒、四子講德論〕執二分寸一而罔二億度一。〔蘇軾、上二皇帝一書〕固非三小臣所二能臆度而周知一。❿**姓**。〔萬姓統譜〕億、見二姓苑一。

名乘 ヤス。

【億盈】1 オクエイ みちあふれる。極めて多いさま。〔漢巴郡大守樊敏碑〕持レ滿億盈。

【億億】2 オクオク 數の多いこと。〔崔駰、七依〕荊山之獸、億億而屯。

【億忌】3 オクキ おしはかりいむ。〔荀子、賦〕暴至二殺傷一而不二億忌一者與。〔注〕億、謂二以レ意度一レ之。

【億計】4 オクケイ ❶億を以て數へる。極めて其の數の多いことにいふ。〔史記、平準書〕其費以レ億計。〔北史、宇文莫槐傳〕入二其國城一、收二資財億計一。❷ケオ 第二十四代、仁賢天皇の御別稱。〔日本書紀、仁賢紀〕億計天皇、仁賢天皇。

【億劫】5 オクゴフ ❶佛 一劫の萬萬倍。劫は時の稱。轉じて、數へきれない長い時間。無限の時。〔拾遺記、員嶠山〕飧二九天之正氣一、死而復生二於億劫之內一。❷オクコフ 爲すにものうく思ふ。たいぎ。おつくう。

【億恨】6 オクコン 多くのうらみ。〔吳均、吳城賦〕僕本蓄レ怨、千悲億恨。

【億載】7 オクサイ 一億年。久しい後の世まで。載は年。〔班固、西都賦〕圖二皇基於億載一。〔魏志、文帝紀〕億載之師表。〔韓愈、元和聖德詩〕億載萬年、敢有二違者一。

〖規二億載一〗8 オクサイヲキス 長久の道を謀る。〔揚雄、長楊賦〕規二億載一、恢二帝業一。〔注〕翰曰、規、謀也、千萬曰レ億、恢、大也、謀二長久之道一、以大二帝業一。

【億事】9 オクジ 數多くの事。〔國語、鄭語〕計二億事一、材二兆物一。

【億庶】10 オクショ 多くの人民。億兆。〔蘇頲、爲二政事一請二公除一狀〕顒顒億庶、仰二望天光一。

【億仞】11 オクジン 一仞の億倍。一仞は八尺。〔潘尼、琉璃椀賦〕據二重巒之億仞一、臨二洪溪之萬尋一。

【億千】12 オクセン 數の多いこと。〔易林、大過之解〕高山之嶺、去レ地億千。〔白居易、遊二悟眞寺一詩〕誦二此蓮花偈一、數滿二百億千一。

【億選】13 オクセン 極めて多い數。億萬(30)に同じ。選と萬とは古音通ず。〔山海經、海外東經〕五億十選九千八百步。〔注〕選、萬也。

【億測】14 オクソク おしはかる。おもひはかる。推量。億度。〔後漢書、李通傳論〕況乃億二測微隱一、猖二狂無妄之福一、汗二滅親宗一、以觖二一切之功一乎。

【億孫】15 オクソン 淸、趙懷玉(**10－37171**··477)の字。

【億度】16 オクタク おしはかる。億測(14)に同じ。〔儀禮、士昏禮、惟是三族之不虞、注〕虞、度也、不二億度一、謂二卒有二死喪一。〔王褒、四子講德論〕今子執二分寸一、而罔二億度一。〔注〕善曰、億二度之一、言レ無レ限也、韓子曰、有二尺寸一無二億度一、又曰、前識無レ緣而妄億度也。〔唐書、江夏王道宗傳〕不レ宜三輕億度、使二自猜危一。

【億斷】17 オクダン 己の心で推し計り、決斷する。億は一に臆に作る。臆斷(**9－29951**··13)に同じ。

【億丈】18 オクヂヤウ 非常に高いさま。〔韓愈、南山詩〕新曦照二危峩一、億丈亙二高袤一。

〖億丈之城〗19 オクヂヤウノシロ 極めて高い城。〔賈誼、過秦論〕據二億丈之城一、臨二不測之谿一、以爲レ固。

【億中】20 オクチユウ 心に計り考へたことが的中する。〔論語、先進〕賜不レ受レ命而貨殖焉、億則屢中。〔集注〕億、意度也。〔論語、憲問、有レ德者必有レ言、注〕德不レ可二以億中一、故必有レ言。

【億逞】21 オクテイ はかりつくす。はかりきはめる。〔左氏、襄、二十五〕馮二陵我敝邑一、不レ可二億逞一。〔注〕億、度也、逞、盡也。

【億兆】22 オクテウ ❶極めて多くの數。〔書、泰誓中〕受有二億兆夷人一。〔左氏、昭、二十四〕紂有二億兆夷人一。〔戰國、楚策〕相去遠矣、有二億兆之數一、大王何居焉。❷萬民。國民の數が多いことからいふ。億庶。〔後漢書、西南夷傳贊〕往化既孚、改レ襟輸レ寶、俾レ建二永昌一、同編二億兆一。〔晉書、周嵩傳〕下收二億兆元元之命一。

〖億兆慶〗23 オクテウノヨロコビ 多くの人々のよろこび。〔韓愈、東都遇レ春詩〕我獨胡爲哉、坐與億兆慶。

〖億兆人〗24 オクテウノヒト 極めて多くの人をいふ。〔左氏、昭、二十〕豈能勝二億兆人之詛一。

〖億兆一レ心〗25 オクテウココロヲイツニス 萬民心を一にする。〔會澤正志齋新論、國體上〕億兆一レ心、皆親二其上一、而不レ忍レ離之實、誠可レ恃也。

【億寧】26 オクネイ 安んずる。〔國語、晉語四〕億二寧百神一、而柔二和萬民一。〔注〕億、安也。

【億年】27 オクネン 一億年。極めて久しい年をいふ。〔漢書、禮樂志〕益二億年一美始興。〔班固、兩都賦、寶鼎詩〕昭二靈德一兮彌二億年一。

【億負】28 オクフ 安んじ恃む。〔國語、吳語〕億二負晉衆庶一。〔注〕億、安也、負、恃也。

【億變】29 オクヘン 限りなく變化する。千變萬化。〔史記、賈生傳〕大人不曲兮、億變齊同。

【億萬】30 オクマン 極めて多い數。億選。〔管子、法禁〕紂有二臣億萬人一。〔尉繚子、武議〕紂之陳億萬。〔韓愈、過二鴻溝一詩〕龍疲虎困割二川原一、億萬蒼生性命存。

〖億萬之衆〗31 オクマンノシユウ 極めて多くの人民。〔史記、建元以來侯者年表序〕明天子在レ上、兼二文武一席二卷四海一、內輯二億萬之衆一。

〖億萬之心〗32 オクマンノココロ 億萬の人民が各〻自己の心を心とする。心を一にして國に盡さうとしないことをいふ。〔書、泰誓上〕受有二臣億萬一、惟億萬心、予有二臣三千一、惟一心。

〖億萬斯年〗33 オクマンシネン 無限に長い年月。〔宋史、樂志七〕嘉壇並侑、億萬斯年。

〖億萬贖レ帝〗34 オクマンテイヲアガナフ 群臣が億萬錢を以て皇帝の身をあがなふ。梁の武帝が篤く佛道を信じた故事。〔梁書、武帝紀下〕(中大通元年)輿駕幸二同泰寺一、設二四部無遮大會一、因捨身、公卿以下、以二錢一億萬一奉贖。〔海錄碎事、人事、奉二佛仙一〕梁武帝大通元年、幸二同泰寺一釋二御服一披二法衣一、行二淸淨大捨一、以二便省一爲レ房、羣臣以二錢億萬一奉二贖皇帝一、奉レ表請三還臨二宸極一、三請乃許、帝答書稱二稽首一。

〖億萬長者〗35 オクマンチヤウジヤ 大金持。大富豪。

【億率】36 オクリツ 億を以て數へる。極めて其の數の多いことにいふ。〔墨子、非儒下〕伏尸以二言術一數。〔閒詁〕或云、當レ作二以レ意術數一、意言篆文相近、卽億之省、術率通、詳二明鬼下篇一、廣雅釋言云、率、計校也、猶レ言下以二十萬一計上、亦通。

【億法明門】37 オクホフミヤウモン 佛 法門の數。卽ち一億の法門をいふ。〔仁王經、上〕菩薩摩訶薩、住二億佛剎一、作二覩史多天王一、修二億法明門一、行二菩提分法一、

化二一切衆生一。

【㒓】1179 タツ タチ 〔集韻〕他達切 曷

❶のがれる。〔集韻〕㒓、逃也。❷行つても遇はない。〔集韻〕㒓、一曰、行不二相遇一。❸肥えたさま。休㒓。〔廣韻〕休、休㒓、肥皃。❹或は㒓(4－10256)・達(11－39011)・达(11－38717)に作る。〔集韻〕㒓、或作二㒓・達・达一。

【儅】1180 ㊀タウ 〔集韻〕他浪切 漾 ㊁タウ 〔集韻〕都郎切 陽

㊀❶をはる。〔集韻〕儅、一曰、了也。❷とまる。〔廣韻〕儅、止也。❸あたりまへでない。佇儅。〔玉篇〕儅、佇儅、不レ常也。❹當(7－21890)の俗字。〔正字通〕儅、俗當字。㊁あたらない。〔廣韻〕儅、不レ中。〔集韻〕儅、佇儅、不レ當也。

【傀】1181 クヮイ 傀(1－928)に同じ。〔集韻〕傀、或作レ傀。

【僜】1182 トン 遁(11－38982)に通ず。〔正字通〕僜、與レ遁通。

【側】1183 ヘウ 僄(1－1307)の俗字。〔正字通〕側、俗僄字。

【儝】1184 ケイ 嬛(3－6782)・惸(4－10865)に同じ。〔集韻〕嬛、或作レ儝。〔正字通〕儝、俗惸字。

【𠏂】1185 ㊀トク ドク 〔集韻〕徒谷切 屋 ㊁シヨク ゾク 〔集韻〕殊玉切 沃

㊀❶短小で醜いさま。𠏂俥。〔廣韻〕𠏂、𠏂俥、短醜皃。❷安らかでない。〔集韻〕𠏂、𠏂俥、不レ寧。㊁❶うごくさま。〔廣韻〕𠏂、𠏂俥、動皃。❷頭をふり動かすさま。〔玉篇〕𠏂、動レ頭皃。

【倦】1186 ケン 倦(1－1292)の俗字。〔正字通〕倦、俗倦字。

【儆】1187 ㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕擧影切 ㄐㄧㄥˇ ching³ 梗 ㊁ケイ ギヤウ 〔集韻〕渠映切 敬

小篆

㊀㊁❶いましめる。〔説文〕儆、戒也、从レ人敬聲、春秋傳曰、儆宮。〔孔子家語、五儀解〕所三以儆二人臣一也。〔注〕儆、戒也。❷危急な事。急(4－10475)・絅(8－27375)に通ず。〔説文通訓定聲〕儆、叚借爲レ絅。〔後漢書、郭伋傳〕有二盧芳之儆一。〔注〕儆、急也。❸憼(4－11308)に通ず。〔荀子、賦、憼革貳兵、注〕憼、與レ儆同。❹警(10－36009)に通ず。〔正字通〕儆、與レ警通。❺或は擏(5－12809)に作る。〔集韻〕儆、或作レ擏。

【儆哀】1 ケイ アイ 元、全普庵撒里(1－1424・・242)の謚。

【儆戒】2 ケイ カイ いましめる。いましめ。警戒。〔書、大禹謨〕吁、戒哉、儆二戒無虞一。〔蔡傳〕儆、與レ警同。〔墨子、天志上〕親戚兄弟所二知識一、共相儆戒。〔吳志、孫權傳〕儆戒未レ然也。

【儆季】3 ケイ キ 清、黃以周(12－47926・・980)の號。

【儆季雜著】4 ケイキ ザツチヨ 書名。清、黃以周編。其の目は禮説六巻・羣經説四巻・史説略四巻・子敍不分巻・文鈔六巻・尙書講義・嬩藝室雜著三巻・愛經居雜著四巻。

【儆急】5 ケイ キフ 危急な大事。〔後漢書、光武紀下〕自二隴蜀平一後、非二儆急一、未三嘗復言二軍旅一。

【儆懼】6 ケイ ク いましめおそれる。〔福惠全書、蒞任部、清號件〕使下彼有レ所二儆懼一、而不中敢怠玩上。

【儆儆】7 ケイ ケイ いましめつつしむさま。又、不安なさま。〔詩、邶風、柏舟、耿耿不レ寐、傳〕耿耿、猶二儆儆一也。〔疏〕仁人既與二小人一並列、恐三其害二於己一、故儆儆然不レ能レ寐。

【儆教】8 ching³ chiao⁴ 戒める。

【儆弦】9 ケイ ゲン 清、史貽直(2－3249・・169)の字。

【儆齋】10 ケイ サイ 宋、黃義明(12－47926・・1032)の號。

【儆戢】11 ケイ シフ いましめ改まる。〔福惠全書、庶政部、訪二拏蠹棍一〕奸惡無レ所二儆戢一。

【儆省】12 ケイ セイ いましめかへりみる。反省する。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕所下以興二其儆省之念一、知二其所レ惡而勿上レ爲。

【儆導】13 ケイ ダウ いましめみちびく。〔白居易、動靜交相養賦序〕因述三其所二以然一、用自儆導。

【儆動】14 ching³ tung⁴ 驚かす。

【儆備】15 ケイ ビ いましめそなへる。警戒。〔左氏、成、十六〕公待二于壞隤一、申二宮儆備一、設レ守而後行。〔注〕申二敕宮備一。〔後漢書、南蠻傳〕蠻夷見三郡無二儆備一、故敢乘レ間而進。

【儆効尤】16 ching³ hsiao⁴ yu² 悪事をまねることを戒める。罪になることを戒める。

【儇】1188 ケン 〔集韻〕隳緣切 ㄒㄩㄢ hsüan¹ 先

小篆 小篆(通訓定聲)

❶かしこい。さとい。もと儇(1－1269)に作る。〔正字通〕儇、本作レ儇。〔説文〕儇、慧也、从レ人睘聲。❷口まへがよい。譞(10－35994)に通ず。〔説文通訓定聲〕儇、叚借爲レ譞。〔楚辭、九章、惜誦〕忘二儇媚一以背レ衆兮。〔注〕儇、佞也。❸あざむく。〔方言、十二〕儇、謾也。❹とい。はやい。すばしこい。さかしい。趯(10－37316)・翾(9－28824)に通ず。〔説文通訓定聲〕儇、叚借爲レ趯。〔集韻〕儇、利也。〔詩、齊風、還〕揖レ我謂二我儇一兮。〔傳〕儇、利也。〔荀子、榮辱〕靡レ之儇レ之。〔注〕儇、疾也。〔荀子、非相〕鄕曲之儇子。〔注〕儇、與レ翾義同、輕薄巧慧之子也。❺まとふ。還(11－39174)に通ず。〔説文通訓定聲〕儇、叚借爲レ還。〔荀子、禮論〕設二掩面儇目一、鬠而不二冠笄一矣。〔注〕儇、與レ還同、繞也。❻みめよい。嬛(3－6415)に通ず。〔詩、齊風、還〕揖レ我謂二我儇一兮。〔集韻〕儇、一曰、舞皃。❼舞ふさま。〔釋文〕儇、韓詩作レ嬛。❽國の名。〔路史〕黃帝之宗有二儇國一。❾姓。〔路史〕黃帝之後有二儇氏一。

【儇兮】1 ケン ケイ 輕捷なさま。〔詩、齊風、還〕揖レ我謂二我儇一兮。〔傳〕儇、利也。

【儇詗】2 ケン ケイ かしこくさとい。〔韓非子、忠孝〕今民儇詗知慧、欲二自用不レ聽レ上。

【儇慧】3 ケン ケイ わるがしこい。〔方言、一〕虔、儇慧也、秦謂二之謾一。

【儇虔】4 ケン ケン わるがしこい。又、あざむく。〔駢雅、釋訓上〕儇虔、欺謾也。〔注〕謂二慧黠一也。

【儇儇】5 ケン ケン 鳥の鳴き聲。〔陳子龍、詩〕韓憑飛惻惻、秦吉語儇儇。

【儇胡】6 ケン コ 清、陸繁弨(11－41708・・414)の號。

【儇才】7 ケン サイ きびきびして才智あること。〔張衡、南都賦〕儇才齊敏、受レ爵傳レ觴。

【儇子】8 ケン シ 輕薄で小ざかしい者。小才の利く者。小才子。〔荀子、非相〕鄕曲之儇子。〔注〕輕薄巧慧之子也。

【儇佻】9 ケン テウ すばやい。〔左思、吳都賦〕儇佻坌並、銜レ枚無レ聲。〔注〕良曰、方言曰、儇佻・坌並、疾走皃。

【僊娟】10 ケンビ 口かしこくへつらふ。才智があつて言葉の巧なこと。〔楚辭、九章、惜誦〕忘二僊娟一以背レ衆兮。〔注〕僊、佞也、娟、愛也。

【僊目】11 ケンモク 目を覆ふ巾。僊は還。〔荀子、禮論〕設二掩面僊目一、鬠而不二冠笄一矣。〔注〕士喪禮、掩用二練帛一、廣終幅、長五尺、僊與レ還同、繞也、士喪禮、幎レ目用レ緇、方尺二寸、經裏著二組繫一、幎讀如レ縈、縈、與レ還義同。

【僊利】12 ケンリ すばやい。〔詩、齊風、還、揖レ我謂二我僊一兮、疏〕子又揖二耦我一、謂二我甚僊利一兮。

【儈】1189

クヮイ　ケ　〔集韻〕古外切　ㄎㄨㄞˋ　泰　k'uai⁴

小篆 ❶なかがひ。仲買人。仲買する。〔說文新附〕儈、合市也、从二人會一、會亦聲。〔一切經音義、六〕儈、合市人也。〔漢書、貨殖傳〕節二駔儈一。〔注〕師古曰、儈者、合二會二家交易一者也。〔後漢書、逸民、逢萌傳〕儈レ牛自隱。〔注〕儈、謂三平二會兩家賣買之價一。❷あきうど。商人。〔唐書、叛臣、高駢傳〕世爲二商儈一、往二來廣陵一。❸會（5－14306）に通ず。〔正字通〕儈、古借レ用會。〔史記、貨殖傳〕節二駔會一。〔注〕集解曰、會、亦是儈也。❹姓。〔路史〕陸終第六子會人之後、有二儈氏・鄶氏一。

解字 會意形聲。人と會との合字。會は又聲。市人を會合せしめて賣買の周旋をする人をいふ。字解の❶を見よ。

【儈牛】1 クヮイギウ 牛の仲買をする。又、其の事。〔後漢書、逸民、逢萌傳〕君公遭レ亂獨不レ去、儈レ牛自隱。〔注〕儈、謂三平二會兩家賣買之價一。〔陸游、詩〕老翁自笑無二他事一、欲下隱二墻東一學中儈牛上。

【儈駔】2 k'uai⁴ tsang³ 口入屋。桂庵。

【儈佞】3 クヮイネイ 小人。〔宣和遺事、後集〕陷二害忠良一、進二用儈佞一。

【儈婆】4 kuei⁴ p'o² 口入れ婆。桂庵婆。

【儈夫】5 スアヒ 物品賣買の仲介をなす商人。すわひともいふ。男に儈夫・牙人等の字をあて、女には儈婆・牙婆等の字をあてる。〔和漢三才圖會、人倫、牙儈〕按、京師絹布及諸董器賣買、多有二儈婆一、長崎堺大坂藥種、亦多有二儈夫一、呼同二須和比一。

【儈子手】6 クヮイシシュ 死刑を執行する役人。〔福惠全書、刑名部、監禁〕毋レ令三此輩作二儈子手一、可也。

【儉】1190

㊀ケン　㊁ゲン　〔集韻〕巨險切　ㄐㄧㄢˇ　琰　chien³
㊂ケン　〔正韻〕詰念切　豔

小篆 ㊀㊁❶つづまやか。ひかへる。ひきしめる。〔說文〕儉、約也、从レ人僉聲。〔段注〕約者、纏束也、儉者、不二敢放侈一之意。〔禮、樂記〕恭儉而好レ禮。〔疏〕儉、謂二以レ約自處一。〔國語、周語下〕宮室不レ崇、器無二彤鏤一、儉也。❷すくない。とぼしい。粗末な。〔廣雅、釋詁三〕儉、少也。〔南史、謝弘微傳〕弘微家素貧儉。❸ききん。凶作。穀物が不作なこと。〔晉書、武帝紀〕比歲荒儉。〔北史、韓麒麟傳〕年豐多積、歲儉出振。❹けはしい。險（11－41874）に通ず。〔說文通訓定聲〕儉、叚借爲レ險。劉修碑、動二平儉中一。〔集韻〕儉、或作レ險。❺わるがしこい。憸（4－11299）に通ず。〔說文通訓定聲〕儉、叚借爲レ憸。❻古は㑒（1－616）に作る。〔集韻〕儉、古作レ㑒。❼姓。〔正字通〕儉、姓也。

【儉易】1 ケンイ つづまやかで簡易なこと。〔韓雲卿、崔太師家廟碑〕爰立二寢廟一、不レ忘二儉易一。

【儉恪】2 ケンカク 身をつつしみひきしめる。〔蔣伸、授二張允伸一充二節度一制〕節度既換、儉恪彌勤。

【儉簡】3 ケンカン つづまやか。質素。〔唐書、董晉傳〕晉謙愿儉簡、事多循仍、故軍粗安。

【儉居】4 ケンキョ 質素な住居。〔武元衡、酬二李十一尙書西亭暇日書懷見レ寄十二韻之作一詩〕高德聞二鄭履一、儉居稱二晏裘一。

【儉勤】5 ケンキン つづまやかでよくつとめる。〔韓愈、元和聖德詩〕皇帝儉勤、盥二濯陶瓦一。

【儉苦】6 ケンク 貧困のくるしみ。貧苦。〔宋書、隱逸、劉凝之傳〕妻亦能不レ慕二榮華一、與二凝之一共安二儉苦一。

【儉卿】7 ケンケイ 字號。❶清、景廉（5－13983‥330）の字。❷清、丁晏（1－2‥2）の字。❸成島良讓の字。成島筑山（5－11544‥371）を見よ。

【儉月】8 ケンゲツ 穀物の未だ成熟しない時。〔宋書、孝義、徐耕傳〕溫富之家、各有二財寶一、謂、此等並宜二助レ官、得レ過二儉月一、所レ損至輕、所レ濟甚重。

【儉言】9 ケンゲン 言葉を少くする。〔譚子化書〕儉二于言一、可二以養一レ氣。

【儉剋】10 ケンコク 吝嗇で苛刻。〔宋書、朱修之傳〕性儉剋、少二恩情一。

【儉觳】11 ケンコク 儉約質素なこと。儉薄（35）に同じ。〔唐書、令孤峘傳〕奉二君親一皆以二儉觳一。

【儉歲】12 ケンサイ 五穀の實らない年。飢饉どし。〔水經、潕水注〕隨レ年變レ種、境無二儉歲一。〔劉峻、稱二族子訂歆一書〕儉歲之粱稷、寒年之纖纊。

【儉齋】13 ケンサイ 清、宋宓（3－7078‥186）の字。

【儉葬】14 ケンサウ 手輕にはうむる。薄葬。〔魏志、常林傳、注〕戒二其子一以二儉葬一。

【儉奢】15 ケンシャ 儉約と奢侈。〔唐書、陸贄傳〕等二其儉奢一。

【儉色】16 ケンショク 儉約のやうす。〔蔣士銓、鳴機夜課圖記〕盤壘閒未三嘗有二儉色一。

【儉嗇】17 ケンショク ❶つづまやかでをしむ。出しぎたない。けち。儉吝。〔詩、魏風、葛屨序〕其君儉嗇褊急、而無二德以將一レ之。〔史記、貨殖傳〕魯人俗儉嗇。〔漢書、貨殖傳〕魯人俗儉嗇。〔孔子家語、致思〕魯有二儉嗇者一。❷世說新語の篇名。

【儉政】18 ケンセイ つづまやかな政治。儉約を旨とする政治。〔沈約、八詠、被レ褐守二山東一詩〕淸心矯二世濁一、儉政革二民侈一。

【儉省】19 ケンセイ つづまやかにして費用を省く。儉約する。儉約。〔宋史、禮志二十六〕園陵制度、務遵二儉省一。

【儉靜】20 ケンセイ つづまやかで靜かなこと。〔五代史、漢臣、楊邠傳〕邠爲レ人頗儉靜。

【儉少】21 chien² shao³ 節儉する。節約する。

【儉設】22 ケンセツ つづまやかな供へ物。質素な供へ物。〔魏書、釋老志〕純陁儉設、足レ薦二於雙樹一。

【儉節】23 ケンセツ つづまやかで差しひかへる。〔墨子、辭過〕儉節則昌、淫佚則亡。〔呂覽、節喪〕儉節者以爲レ陋。〔史記、平津傳〕人臣病レ不二儉節一。

【儉然】24 ケンゼン へりくだるさま。〔荀子、非十二子〕儉然侈然。〔注〕儉然、自卑謙之貌。

【儉素】25 ケンソ つづまやかで飾らない。ぢみ。質素。儉朴。〔後漢書、劉虞傳〕初虞以二儉素一爲レ操。〔晉書、華恆傳〕淸恪儉素。

【儉側】26 ケンソク 官名。三韓時代の辰韓、置く。〔後漢書、東夷、三韓傳〕諸小別邑、各有二渠帥一、大者名二臣智一、次有二儉側一、次有二樊秖一、次有二殺奚一、次有二邑借一。〔注〕皆其官名。

【儉堂】27 ケンダウ 清、查禮（6－14643‥79）の字。

【儉糴】28 ケンテウ 豐年でない時に米を賣出すこと。〔晉書、食貨志〕豐則糴、儉則糶。

【儉電】29 chien³ tien⁴ 二十八日附の電報。中國では、電報の日附は韻字で表はし、二十八日は上聲儉韻をあてる。

【儉德】30 ケントク 儉（つづまやか）の德。〔易、否〕君子以二儉德一辟レ難。〔疏〕言、君子於二此否塞之時一、以二節儉一爲レ德、辟二其危難一。〔書、太甲上〕愼二乃儉德一、惟懷二永圖一。〔傳〕言、當三以レ儉爲レ德、思二長世之謀一。〔孔叢子、記義〕於二蟋蟀一見二陶唐儉德之大一也。

【儉德堂】31 ケントクダウ 清、劉庠（2－2224‥336）の室名。

【儉德之共】32 ケントクノキョウナリ 節儉を守ることは、德をつつしむことである。共は恭。〔左氏、莊、二十四〕儉、德之共也、侈、惡之大也。〔校勘記〕案、宏明集引作二儉者德之恭一。

【儉年】33 ケンネン 作物の稔らない年。不作の年。凶年。〔魏書、釋老志〕儉年出貸、豐則收入。

【儉貌】34 ケンバウ へりくだる態度。〔大戴禮、文王官

人〕沈靜而寡言、多稽而儉貌、質靜者也。
【儉薄】35 ケンパク つづまやか。儉約質素なこと。質素。儉穀。〔後漢書、周磐傳〕居レ貧養レ母、儉薄不レ充。〔南史、何子平傳〕人疑二其儉薄一。
【儉腹】36 chien³ fu⁴ 知識が缺乏してゐること。
【儉朴】37 ケンボク つづまやかで飾らぬ。儉約質朴。儉素。〔白居易、策林十一、黄老術〕夫欲レ使二人情儉朴、時俗淸和一、莫レ先三於體二黄老之道一也。
【儉約】38 ケンヤク つづまやか。約儉。節約。〔書、太甲上〕愼二乃儉德一。〔蔡傳〕謹二其儉約之德一。〔荀子、非十二子〕上二功用一大二儉約一、而僈二差等一。〔管子、禁藏〕儉約恭敬。〔史記、蔡澤傳〕不下居二卑退一處上中儉約上之患也。〔漢書、公孫弘傳〕身行二儉約一。
【儉用】39 ケンヨウ 儉約して用ひる。又、費用を節約する。〔韓非子、解老〕智士儉二用其財一。〔魏志、高柔傳〕儉レ用爲レ資。〔白居易、與二微之一書〕量レ入儉レ用。
【儉力】40 ケンリョク 儉約し努力する。〔管子、正世〕反レ本而儉力。〔纂詁〕儉力、儉且勤也。
【儉吝】41 ケンリン つづまやかで物をしみする。やぶさか。儉嗇。〔顏氏家訓、治家〕性殊儉吝。
【儉陋】42 ケンロウ 儉約に過ぎて心がいやしい。〔漢書、地理志下〕君子深思、小人儉陋。
【儉娛室】43 ケンゴシツ 明、沈嗣選(6−17189・・520)の室名。
【儉故能廣】44 ケンナリユヱニヨクヒロシ 平素儉約にしてゐるから、寧ろ窮屈でない。〔老子、六十七〕慈故能勇、儉故能廣。
【儉存奢失】45 ケンハソンシシャハシッス 儉約な者は榮え、奢侈な者は亡びる。〔白居易、杏爲梁詩〕儉存奢失今在レ目、安用三高牆圍二大屋一。
【儉鈍蕎麥】46 ケンドンソバ そばきりの一種。儉飩。〔俳諧芝肴〕けんどん蕎麥や山の井の水。
【儉不レ中レ禮】47 ケンニシテレイニアタラズ 儉約に過ぎて禮にはづれる。〔詩、唐風、蟋蟀序〕蟋蟀、刺二晉僖公一也、儉不レ中レ禮、故作二是詩一以閔レ之。〔申培詩說〕葛屨、魏之內子、儉不レ中レ禮。〔唐書、王珪傳〕獨不レ作二家廟一、世以二儉不レ中レ禮少一レ之。
【儉可二以助一レ廉】48 ケンモツテレンヲタスクベシ 節儉は廉潔の心を助け養ふことが出來る。〔宋史、范純仁傳〕親族有二請レ教者一、純仁曰、惟儉可二以助一レ廉。
【儉者心嘗富】49 ケンナルモノハココロツネニトム つつましい人は足ることを知つてゐる故、心が常に富んでゐる。〔譚子化書〕奢者心嘗貧、儉者心嘗富。
【儉者省約爲レ禮】50 ケントハセイヤクニシテレイヲナスナリ 儉といふことは、つづまやかで禮にかなふことをいふ。〔顏氏家訓、治家〕儉者、省約爲レ禮之謂也、吝者、窮急不レ卹之謂也。

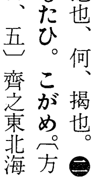
【儱】1191 アウ 〔玉篇〕烏江切 江
伏さない。儱倸。〔玉篇〕儱、儱倸、不レ伏也。〔正字通〕儱、俗字、舊註、音央、儱倸、不レ伏、誤。

【解】1192 カイ ケ 〔集韻〕擧蟹切 蟹
つよいさま。儁解。獬(7−20734)に同じ。〔集韻〕獬、鵝獬、豪強皃、或从レ人。〔字彙〕解、儁解、豪強貌。

【儊】1193 シヨ ソ 〔集韻〕創據切 御
㊀しぶる。とどこほる。〔廣韻〕儊、不レ滑也。〔集韻〕儊、不レ滑也。㊁濋(7−18455)の譌字。〔正字通〕儊、濋字之譌。

【過】1194 クワ 〔集韻〕苦禾切 歌
美しいさま。薖(9−32116)に同じ。〔集韻〕過、美皃。〔詩、衞風、考槃、碩人之薖、釋文〕韓詩、作レ過、過、美貌。

【儋】1195 ㊀タン 〔集韻〕都甘切 覃 ㄉㄢ tan¹ ㊁セン ゼン 〔集韻〕時豔切 豔
小篆
㊀㊀になふ。〔說文〕儋、何也、从レ人詹聲。〔漢書、揚雄傳下〕儋二人之爵一。〔注〕師古曰、儋、荷負也。〔國語、齊語〕負任儋何。〔注〕背曰レ負、肩曰レ儋、任、抱也、何、揭也。㊁もたひ。こがめ。〔方言、五〕齊之東北海岱之閒、罃謂二之儋一。㊂二石。二つのかめに容るだけのますめ。〔漢書、貨殖傳〕醯醬千㼚、漿千儋。〔注〕孟康曰、儋、罌也、師古曰、儋、人儋レ之也、一儋兩罌。〔漢書、蒯通傳〕守二儋石之祿一者。〔注〕應劭曰、齊人名二小罌一爲レ儋、受二二斛一、師古曰、或曰、儋者、一人之所二負儋一也。㊃或は擔(5−12828)に作る。〔集韻〕儋、或从レ手。㊄姓。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕儋氏、周大夫儋翩之後、吳志有二九眞太守儋萌一、或云、儋耳國人。〔姓考〕周簡王少子曰二儋季一、以レ字爲レ氏。〔路史〕老子之後、有二儋氏一。㊅現㋑重量の一單位。百斤、又は百五十斤。ピクル。㋺錢二萬枚。㊁たす。たすける。贍(10−36945)に同じ。〔集韻〕贍、賙也、或从レ人。


㊁儋(農政全書)

【儋縣】1 タンケン 縣名。民國、置く。唐の儋州の地。宋は南寧軍と改め、明は儋州となし、廣東省瓊州府に屬せしめた。廣東省臨高縣の西南。
【儋耳】2 タンジ ㊀北極の國。〔山海經、大荒北經〕有二儋耳之國一、食二穀北海之渚中一。〔注〕其人耳大下儋、垂在二肩上一。〔呂覽、任數〕北懷二儋耳一。㊁南蠻の八種の一。〔史記、貨殖傳〕九疑蒼梧以南、至二儋耳一者、與二江南一大同レ俗。〔後漢書、明帝紀〕西南夷哀牢・儋耳・僬僥。〔注〕楊浮異物志曰、儋耳、南方夷、生則鏤二其頰皮一、連二耳匡一、分爲二數支一、狀如二雞腸一、纍纍下垂至レ肩。〔論衡、藝增〕穿二胷儋耳一。㊂郡名。漢、置く。今の廣東省儋縣の西。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕儋州、古百越地、漢置二儋耳郡一。
【儋耳龍】3 タンジリョウ 唐の玄宗が蜀に幸した時、父老が德宗を稱した語。〔海錄碎事、帝王部、帝王〕明皇幸レ蜀、德宗年十五、有二父老一曰、有二儋耳龍在一、寧縮縮畏レ賊乎、鄴侯家傳。
【儋州】4 タンシウ 州名。唐、置く。今、廣東省儋縣。〔讀史方輿紀要、廣東、瓊州府〕儋州、古百越地、漢置二儋耳郡一云云、唐武德五年、置二儋州一、天寶初、曰二昌化郡一、乾元初、復曰二儋州一、南漢因レ之、宋復爲二儋州一。〔淸史稿、地理志〕廣東、瓊州府、州一、儋州。
【儋人】5 タンジン 儋州の人。儋州は今の廣東省儋縣。〔路史〕山海經儋人任姓、今儋州。
【儋石】6 タンセキ ㊀二石や一石のたか。僅かの分量。少額。儋は二石。石は一石。〔史記、貨殖傳、漿千甔、注〕索隱曰、漢書作レ儋、孟康曰、儋、石罌、石罌受二一石一、故云二儋石一。〔陶潛、勸農詩〕儋石不レ儲。㊁淸、計芬(10−35220・・74)の號。
【儋石儲】7 タンセキノタクハヘ 少しのたくはへ。〔漢書、揚雄傳上〕家產不レ過二十金一、乏無二儋石之儲一、晏如也。〔晉書、何無忌傳〕劉毅家無二儋石之儲一。
【儋石祿】8 タンセキノロク 僅かばかりの扶持。少祿。〔史記、淮陰侯傳〕守二儋石之祿一者。〔漢書、蒯通傳〕守二儋石之祿一者。「927」を見よ。
【儋叟】9 タンソウ 淸田絢の號。淸田儋叟(7−17695・・

【儌】1196 ㊀ケウ 〔廣韻〕古了切 篠 ㄐㄧㄠˇ chiao³ ㊁ケウ 〔集韻〕堅堯切 蕭
㊀㊁㊀ゆく。〔玉篇〕儌、行也。㊁うかがふ。もとめる。〔字彙〕儌、儌倖、覬二非望一也。〔莊子、盜跖〕儌二倖於封侯富貴一。㊂いつはる。僥(1−1113)に同じ。〔集韻〕僥、僞也、或从レ敫。㊃徼(4−10261)に誤り通ず。

〔正字通〕傲、按、正韻、傲福亦作レ徼、邊徼亦作レ傲。〔字彙、醒誤〕傲、音驕、傲倖、今誤作レ徼、又誤作レ僥、徼音教、邊塞也。

【傀】1197 クヮ 化(2-2572)の古字。〔字彙補〕傀、古文化字。

【僜】1198 チ 地(3-4890)の古字。〔字彙補〕僜、古文地字。

【餓】1199 ア 〔集韻〕於靴切 [歌] おろかなさま。恒餓。〔廣韻〕餓、恒餓、癡皃。〔集韻〕餓、恒餓、癡皃。

【聖】1200 テイ 偵(1-898)に同じ。〔字彙補〕聖、同レ偵。

【儍】1201 サ ㄕㄚˇ sha³ 傻(1-1034)に同じ。〔字彙補〕儍、同レ傻。

【儍角】1 サカク ばかもの。人を罵る言葉。〔西廂記、張君瑞鬧二道場一雜劇〕世上有二這等儍角一。

【畚】1202 カン ケン 〔海篇〕古限切 [潸] 小さいふだ。〔海篇〕畚、小束也。

【零】1203 レイ 零(12-42242)に同じ。〔字彙補〕零、與レ零同。

【亂】1204 ラ 〔集韻〕盧臥切 [箇] よわい。〔廣韻〕亂、弱也。

【御】1205 キョ 籞(8-26750)に同じ。〔康熙字典〕御、集韻、同レ籞。

【養】1206 キャウ クヮウ 〔篇海類編〕㫗往切 [養] 物を載せるうつは。〔篇海類編〕養、載器也。

【萬】1207 ゴウ 藕(9-32298)に同じ。〔字彙補〕萬、同レ藕。

【傍】1208 キョ 義未詳。〔字彙補〕傍、求于切、音渠。

【傶】1209 シュク 蹙(10-37790)に同じ。〔字彙補〕傶、同レ蹙。

【儎】1210 サイ ㄗㄞˇ˙ tsai³˙⁴ 載(10-38309)に同じ。俗に舟車で運ぶ物を儎といふ。貨物。〔中華大字典〕儎、同レ載、俗以二舟車一所レ運之物曰レ儎。

【儎字】1 tsai⁴ tzŭ⁴ インボイス。送状。仕切書。invoiceの譯。

【僚】1211 レウ 僚(1-1100)の本字。〔正字通〕僚、本作レ僚。

【儮】1212 レイ 儷(1-1311)の略字。

十四畫

【㒊】1213 シフ 〔玉篇〕師入切 [緝] ❶及ばぬ。〔玉篇〕㒊、不レ及也。❷㒊譶は、しゃべりたてる。また、早口にいふ。〔廣韻〕譶、㒊譶、言不レ止也。〔嵇康、琴賦〕紛㒊譶以流漫。〔注〕善曰、㒊譶、疾貌。（㒊は、六臣注文選、㒊に作る。）

【儐】1214 小篆 [一]ヒン 〔集韻〕必刃切 [震] ㄅㄧㄣˋ pin⁴ [二]ヒン 〔集韻〕卑民切 [眞]

[一]❶主人をたすけて賓客を案内する人。〔說文〕儐、導也、从レ人賓聲。〔莊子、列禦寇〕儐者以告二列子一。〔釋文〕儐、謂二通レ客之人一。〔管子、小問〕桓公令二儐者延而上一。〔注〕儐、謂下贊二引賓客一者上也。❷すすめる。みちびきすすめる。〔周禮、春官、大宗伯〕王命二諸侯一則儐。〔注〕儐、進レ之也。❸うやまふ。〔釋文〕儐、敬也。〔禮、禮運〕山川所三以儐二鬼神一也。❹あいさつ。對等の者の禮。〔周禮、秋官、司儀、賓亦如レ之、注〕賓當レ爲レ儐、謂下以二鬱鬯一禮上賓也、上於レ下曰レ禮、敵者曰レ儐。❺つらねる。〔詩、小雅、常棣〕儐二爾籩豆一。〔傳〕儐、陳。❻すてる。のぞく。はらふ。姘(3-6366)に通ず。〔說文通訓定聲〕儐、叚借爲レ姘。❼賓(10-36788)に通ず。〔正字通〕儐、曲禮儐二于天子一、石經、从レ手作レ擯、亦省作レ賓。❽或は擯(5-12880)に作る。〔說文〕儐、擯、儐或从レ手。〔禮、文王世子〕退儐二于東序一。〔釋文〕儐、本亦作レ擯。[二]❶むくいる。〔周禮、秋官、司儀、賓繼二主君一、注〕儐二主君一也。〔疏〕儐者、報也。❷うやまふ。〔集韻〕儐、敬也。〔禮、禮運〕山川所三以儐二鬼神一也。〔釋文〕儐、皇音賓、敬也。❸眉をひそめる。顰(12-43737)に同じ。〔康熙字典〕儐、同レ顰。〔枚乘、梁王菟園賦〕儐笑連便。〔古文苑注〕儐、與レ顰同。

[解字] 會意形聲。人と賓との合字。賓はまた聲。本義は賓客を誘導する者をいふ。故に賓に從ふ。轉じて、陳(つらねる)の意とし、假借して賓・姘とする。〔說文通訓定聲〕儐、从レ人从レ賓、會意、賓亦聲。

【儐者】1 ヒンシャ 主人をたすけて賓客を案内する人。〔管子、小問〕桓公令二儐者延而上一。〔魏志、高貴鄉公傳〕將三答二拜儐者一。

【儐相】2 ヒンシャウ 賓客を導いて主人をたすける人。〔蘇轍、齊州閔子祠堂記〕籩豆有レ列、儐相有レ位。

【儐從】3 ヒンジュウ 前後に侍り從ふ。儐は儐者で前に侍り、從は從者で後に侍る。〔左思、吳都賦〕締交翩翩、儐從奕奕。〔注〕向曰、儐者、所三以道二引於前一也、從者、侍二從於後一。

【儐笑】4 ヒンセウ 眉をひそめたり笑ったりするさま。儐は顰。〔枚乘、梁王菟園賦〕儐笑連便。〔古文苑注〕儐、與レ顰同、眉小蹙也、或儐或笑。

【儐畔】5 ヒンパン しりぞけそむく。〔戰國、趙策〕竊爲二大王一計、莫レ如下一二韓魏齊楚燕趙一、六國從親、以儐中畔秦上。

【儐孺堂】6 ヒンジュダウ 明、王志長(7-20823・1573)の室名。

【綿】1215 ベン メン 〔集韻〕彌延切 [先] ひくいさま。綿綿。〔集韻〕綿、綿綿、低皃。

【縣】1216 [一]ガン ゴン 〔集韻〕五紺切 [勘] [二]ガン ゴン 〔集韻〕吾含切 [覃] [三]ガフ ゴフ 〔集韻〕鄂合切 [合] [四]ガフ 〔廣韻〕五盍切 [合]

[一]おちつかない。傝縣。〔集韻〕縣、傝縣、不二自安一也。[二]❶おろか。譺(10-36041)に同じ。〔集韻〕譺、不慧也、或作レ縣。〔荀子、不苟〕窮則棄而縣。〔集解〕郝懿行曰、玉篇、縣、五甘切、不慧也。❷たはれごと。〔字彙〕縣、謔言也。[三]しまりがない。傝縣。〔集

人部〔十三—十四畫〕傀 僜 餓 聖 儍 畚 零 亂 御 養 萬 傍 傶 儎 僚 儮 㒊 儐 綿 縣

九四九

韻〕儑、傝儑、無二儀檢一也。四事に親しまない。傝儑。〔廣韻〕儑、傝儑、不レ著レ事也。

【傯】1217 サウ 〔集韻〕初講切 講

そろふ。ととのふ。〔集韻〕傯、衆齊也。

【〓】1218 ギ 〔集韻〕魚其切 支

狐狸のこゑ。〓〓。〔集韻〕〓、〓〓、狐狸聲。〔正字通〕〓、俗字、舊註音俟、〓〓、狐狸聲、誤。

【〓】1219 カイ

儈(1−1278)の俗字。〔正字通〕〓、俗儈字。

【儒】1220 ジュ ニュ 〔集韻〕汝朱切 虞 ju²

小篆

㊀やはらか。やさしい。おだやか。〔說文〕儒、柔也、从レ人需聲。〔北史、王憲傳〕儒緩不斷、終日昏睡。㊁うるほす。濡(7−18504)に通ず。〔說文、儒、段注〕鄭目錄云、儒者、濡也、以二先王之道一能濡二其身一。〔論語、雍也〕女爲二君子儒一。〔皇疏〕儒、濡也。㊂學者。溫和な態度で人を諭しみちびく者。〔說文〕儒、術士之稱。〔字彙〕儒、學者之稱。〔禮、儒行、釋文〕儒之言、優也、和也、言二能安レ人、能服ヲ人也。㊃周の制度で、六藝に通じて鄉里に師たる者。〔周禮、天官、大宰〕四曰儒、以レ道得レ民。〔注〕儒、諸侯保氏、有二六藝一以教レ民者。〔周禮、地官、大司徒〕四曰、聯二師儒一。〔注〕師儒、鄉里教以二六藝一者。㊄孔子を宗師とする學派。又、其の學。〔莊子、齊物論〕故有二儒墨之是非一。〔韓非子、顯學〕孔墨之後、儒分爲レ八。〔淮南子、俶眞訓〕儒墨乃始列レ道而議。〔注〕儒、孔子道也。〔論衡、超奇〕能說二一經一者爲二儒生一。㊅天地人に通じた學德のすぐれた人。〔法言、君子〕通二天地人一曰レ儒。㊆したがふ。〔素問、皮論〕名曰二樞儒一。〔注〕儒、順也。㊇よわい。わかい。懦(4−11390)に通ず。〔說文通訓定聲〕儒、叚借爲レ懦。〔荀子、脩身〕偸儒轉脫。〔注〕儒、謂二儒弱畏一レ事也。㊈おろか。〔廣雅、釋詁一〕儒、愚也。㊉みじかい。侏儒(1−592‥2)を見よ。〔廣雅、釋詁二〕儒、短也。⑪偄(1−831)に通ず。〔正字通〕儒、隸釋、魯峻孟郁碑、儒作レ偄。⑫物のさま。儒兒(30)を見よ。⑬或は儁(1−1124)に作る。〔集韻〕儒、或作レ儁。⑭姓。〔萬姓統譜〕儒、見二韻會一、儒光、漢人。

名乘 ヤス。ヒト。ミチ。ハカ。ヨシ。

參考 儒は周初、鄉塾にあつて六藝を民に教へたものの汎稱で、鄉先生の意。轉じて、學者の意となり、論語、雍也篇に君子儒・小人儒とあるのも其の意である。後、孔子の學徒繁衍し、課目も六經を以てし、楊墨百家の叢生するに及んで、專ら孔子の門徒を稱するやうになつた。

【儒衣】1 ジュイ 學者の衣服。〔後漢書、蔡玄傳論〕其服二儒衣一稱二先生一。〔注〕儒服、爲二章甫之冠、縫掖之衣一也。〔後漢書、桓榮傳〕被二服儒衣一。

〔儒衣冠〕2 ジュノイクワン 儒者の衣冠。〔漢書、匡張孔馬傳贊〕服二儒衣冠一、傳二先王語一。

【儒醫】3 ジュイ 儒者で醫を業とする者。〔夷堅志〕有二蘄人謝與權一、世爲二儒醫一。

【儒囿】4 ジュイウ 儒者の仲間。儒者の社會。〔梁簡文帝、何徵君墓銘〕括二羽儒囿一、舟輿席珍。

【儒胤】5 ジュイン 儒者の後胤。儒者の血筋。〔平治物語、信賴信西不快事〕儒胤を受けて儒業を傳へずと雖も。

【儒員】6 ジュヰン 儒學を以て官に仕へる僧形の學者。〔弘道館記述義、下〕初藤原肅之徒、以レ儒爲レ業、見レ聘二於幕府一、然皆剔レ髮髡レ首、受二法印官一、習以爲レ風、公深非レ之、使二儒臣皆蓄レ髮、自レ是不三復置二儒員一。

【儒家】7 ジュカ 儒教學派。九流の一。儒門。儒家者流を見よ。又、儒者(53)に同じ。〔後漢書、崔駰傳論〕崔氏世有二美才一、兼以沈二淪典籍一、遂爲二儒家文林一。

〔儒家者流〕8 ジュカシャリウ 儒教學派。儒者の學派。儒家。儒流。儒學(16)を見よ。〔漢書、藝文志〕儒家者流、游二文於六經之中一、留二意於仁義之際一、祖二述堯舜一、憲二章文武一、宗二師仲尼一、以重二其言一、於レ道最爲レ高。

〔儒家傳系〕9 ジュカノデンケイ 古來、儒家の傳系を記した書には、明の章如愚の山堂先生羣書考索、明の朱檉睦の授經圖、淸の洪亮吉の傳經表・通經表、汪大鈞の傳經表補正・附刻・經傳建立博士表、熊賜履の學統、萬斯同の儒林宗派、焦袁熹の儒林譜、江聲の尙書經師系表等がある。

【儒雅】10 ジュガ ㊀正しい儒學。立派な儒者。〔漢書、公孫弘傳贊〕儒雅則公孫弘・董仲舒。〔孔安國、尙書序〕旁求二儒雅一。〔論衡、難歲〕是以儒雅服從。㊁儒者の仲間で、文雅なのをいふ。〔太平記、一、資朝俊基關東下向事〕身、儒雅の下より出で。

【儒行】11 ジュカウ ㊀儒者の行ひ。〔禮、儒行〕哀公曰、敢問二儒行一。〔孔子家語、儒行解〕公曰、敢問二儒行一。〔後漢書、荀淑傳論〕俱以二儒行一爲二處士一。〔劉峻、辨命論〕服二膺儒行一。㊁禮記の篇名。道德ある者の行を記す。〔禮、儒行、疏〕鄭目錄云、名曰二儒行一者、以下其記中有二道德一者所上レ行也、儒之言、優也、柔也、能安レ人、能服レ人、又儒者、濡也、以二先王之道一、能濡二其身一、此於二別錄一屬二通論一。

〔儒行解〕12 ジュカウカイ 孔子家語の篇名。

〔賜二儒行一〕13 ジュカウヲタマフ 儒行は禮記の篇名。宋代、儒者の品性を奬勵するために之を印刷して特殊の者に賜はつた。〔事物紀原、學校貢擧部、賜二儒行一〕宋朝會要曰、淳化三年三月詔、以二新印儒行一賜二近臣一、先レ是御二試進士一日、以二儒行篇一爲二論題一、帝欲下激二勸士流一敦中儒行上、故特令二雕印一、至レ是、首賜二新及第擧人孫何一、聖旨諭令二依レ此修レ身爲レ治、天聖五年四月、賜二新及第進士王堯臣以下禮記中庸各一本一、八年四月、王拱辰以下、又賜二大學篇一也。

〔儒行集傳〕14 ジュカウシフデン 書名。二卷。明、黃道周撰。禮記解五篇の第五に當り、十七章に分つ。其の集める所の傳は歷代の史傳を雜引し、其の人を擧げて批評し、人を用ひる法を明かにす。〔四庫提要、經、禮類〕。

【儒效】15 ジュカウ ㊀儒學教育の效果。〔李覯、袁州學記〕大懼四人材放失、儒效闊疎、亡三以稱二上旨一。㊁荀子の篇名。

【儒學】16 ジュガク 中國における傳統的思想の大宗たる孔子の言說を祖述し、傍ら子思・孟子の敷衍する所に本づく教學。卽ち堯舜を祖述し、文武周公を憲章すると共に、五倫五常を主として、人閒の日常行爲につき其の實踐的道義の完成に努め、仁を以て諸德を一貫し、修身齊家より治國平天下を致すを本旨とする。約言すれば修己・治人の二を目的とし、六經を遵奉する。儒教(31)を見よ。〔史記、五宗世家〕河閒獻王德好二儒學一。〔後漢書、伏湛傳〕累世儒學、素持二名信一、經明行修、通二達國政一。〔南史、儒林、顧越傳〕由レ是顧氏多二儒學一焉。〔北史、沈重傳〕里專二心儒學一、從レ師不レ遠二千里一。〔五代史、雜、王師範傳〕五師範頗好二儒學一、聚レ書萬卷。

【儒學傳】17 ジュガクデン 儒者の傳記をいふ。儒林傳(95)を見よ。

【儒學警悟】18 ジュガクケイゴ 叢書の名。四十卷。宋の嘉泰年閒、兪鼎・兪經の共揖したもの。最古の叢書で、石林燕語辨・演繁露・懶眞子・考古編・捫蝨新話・螢雪集說の六を收め、宋史、藝文志に著錄せられてゐる。

【儒學提擧司】19 ジュガクテイキョシ 官名。元、置く。各路府州縣の學校の事を掌る。〔元史、百官志七〕儒學提擧司、秩從五品、各處行省所レ署之地、皆置二一司一、統二諸路府州縣學校祭祀教養錢糧之事、及考校進呈著述文字一。

【儒巾】20 頭巾の一種。明代擧人の未だ及第せぬ者のかぶつたもの。〔三才圖會、衣服、儒巾〕古者、士衣二逢掖之衣一、冠二章甫之冠一、此今之士冠也、凡擧人未第者、皆服レ之。〔林景熙、元日得二家書一詩〕爆竹聲殘事事新、獨憐臨レ鏡尚二儒巾一。

儒巾（三才圖會）

【儒化】21 儒道の行はれること。儒道の教化。〔後漢書、劉梁傳〕自往勸誡、身執二經卷一、試策二殿最一、儒化大行。〔石崇、答二曹嘉一詩〕敦二道訓一、胄子、儒化渙以融。

【儒官】22 儒學を以て仕へる官。儒員。〔漢書、翼奉傳〕子及孫皆以二學在一レ官。〔魏志、明帝紀〕尊レ儒貴レ學、王教之本也、自頃儒官或非二其人一、將何以宣二明聖道一。

【儒冠】23 儒者の冠。章甫冠の類。〔禮、儒行〕魯哀公問二於孔子一曰、夫子之服、其儒服與、孔子對曰、云云、長居レ宋、冠二章甫之冠一。〔史記、酈食其傳〕諸客冠二儒冠一來者、沛公輒解二其冠一溲二溺其中一。〔韓愈、奉二和庫部盧四兄曹長元日朝廻一詩〕戎服上趨承二北極一、儒冠列侍映二東曹一。

【儒緩】24 おろかでのろい。遲鈍で迂緩。〔北齊書、王晞傳〕晞爲二司馬一、每夜載入、晝則不二與語一、以晞儒緩一、恐レ不レ允二武將之意一。〔唐書、高仙芝傳〕以二其儒緩一憂レ之。

【儒館】25 儒官が居るやかた。〔後漢書、章帝紀贊〕儒館獻レ歌、戎亭虛候。

【儒關】26 儒學の入りくち。儒學の初步。〔黃庭堅、平陰張澄居士隱處仁亭詩〕張侯大雅質、結レ髮闖二儒關一。

【儒訓】27 儒教のをしへ。〔魏志、劉馥傳〕上疏陳二儒訓之本一。

【儒卿】28 字號。㊀後漢、牛邯(12－44572・474)の字。

【儒經】29 儒學の書物。儒者の經典。〔楊衡、經二趙處士居一詩〕雲居避二世客一、髮白習二儒經一。

【儒兒】30 強ひて笑ふさま。又、曲從のさま。嚅唲。〔楚辭、卜居〕喔咿儒兒、以事二婦人一乎。〔注〕一作二嚅唲一。〔補注〕喔音握、咿音伊、嚅音儒、唲音兒、皆強笑之貌。一云、喔咿、強顏貌、唲、曲從貌。

【儒教】31 孔子を宗とする學派のをしへ。儒學。儒教は修己・治人を以て目的と爲し、之が實現の方式として修養・正名・經綸の三綱を立ててゐる德教の名である。此の德教は孔子を宗師とはするが、孔子は自らは「述べて作らず、信じて古を好む」といつて、開拓者を以て自ら任ぜず、只堯舜を祖述し、文武周公を憲章して之を集大成した。孔子の歿後、其の門人は分れて子張氏・子思氏・顏氏・孟氏・漆雕氏・仲弓氏・公孫氏・樂正氏の八家と、子夏・子游の二學派と爲つた。中にも孟子は仁義の說を立て、性善養氣を說いて仁政の必要を唱へ、荀子は禮を主張して性惡を說き、勸學の要を述べた。戰國の末、其の學大いに衰へ、秦の始皇の時には其の勢力殆ど地を掃ふに至つたが、漢に入り、武帝が文教を奬勸するに及んで、儒教は復興の氣運に向ひ、遂に國學と爲つた。又、言語にも轉訛を來して、古文は益〻讀み難くなつたため、學者は各自其の見るところに從つて說を立て、統一することが出來ず、是に於て訓詁の學の興起を見たが、一面又當時盛行した五行・災異の學を其の中に採入れた。唐代は、隋末大亂の後を受けて學術復興し、鴻儒も出でたが、又訓詁に墮した。宋に至り、前代の訓詁章句の埒から脫して、性理の學が起り、儒教の眞面目に向ひ、其の學は朱熹によつて集大成せられた。次いで明に至つて、王守仁が出て陸子に本づいて知行合一の說を立てたが、元・明を通じて多くは朱子を宗とした。清に入つては、宋・明の反動として新たに所謂樸學が起り、實事求是を主とする考證學の崛起を見、經書に就いて聖賢の本意を探り、漢代の訓詁を採用して空疏の風を排し、進んでは文字・聲韻・金石・甲骨文の討究に向つたが、儒教本來の目的からは遠ざかつた。〔史記、朱家傳〕魯人皆以レ儒教一、而朱家用レ俠聞。〔晉書、傅玄傳〕政體存二重儒教一。〔梁武帝、弘二經術一詔〕魏晉浮蕩、儒教渝歇。〔李邕、兗州曲阜縣孔子廟碑〕國家儒教浹二宇宙一、戾天。〔王維、和二僕射晉公扈二從溫湯一詩〕王禮尊二儒教一、天兵小二戰功一。

【儒教破壞論】32 民國の吳虞・陳獨秀等の唱へた說。政治學上から出發して、孔子の道は現代生活に合はぬことを論じたもの。民國元年十一月、康有爲が孔教會を起して尊孔運動に著手し、尊孔論を提議するや、陳獨秀は奮然興起し、新青年に猛烈な駁論を揭げて、康有爲を反駁し、四川成都の吳虞も亦、書を陳獨秀に寄せて之に共鳴した。但し、陳獨秀は政治的見解に加へるに、西洋の倫理宗教を根據として論じ、吳虞は中國古來の文獻に徵し、主として法制上の立場から、儒教の新社會に適せぬことを論じた。

【儒業】33 儒者の學業。〔潘岳、夏侯常侍誄〕思レ弘二儒業一。〔南史、王承傳〕咸以二文學一相尚、罕下以二經術一爲上業、唯承獨好二儒業一。

【儒賢】34 賢い儒者。賢儒。〔三略、上略〕親二其萌一、主聘二儒賢一。

【儒玄】35 儒家と老莊。〔梁書、武帝紀下〕洞二達儒玄一。〔白居易、除二鄭餘慶太子少傅一制〕況動中二禮法一、學綜二儒玄一。

【儒言】36 書名。一卷。宋、晁說之撰。王安石の新學を攻めるために作つたもので、持論は深く儒理に合して居る。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【儒戶】37 儒者の戶籍。儒人戶(69)を見よ。

【儒語】38 儒家の言葉。〔四庫提要、子、儒家類存目〕心印正說、三十四卷、國朝吳台硯撰、云云、其曰二心印當取一心相印之義一、然二字乃佛語、非二儒語一也。

【儒艮】39 ju² ken⁴ Halicore dugong の音譯。人魚をいふ。哺乳動物で、草を食として海中に棲息する。形は海牛に似て居る。

【儒才】40 儒道に長じた人。〔孫元晏、詠史詩〕傳聞天子重二儒才一、特爲二皇華一綺宴開。

【儒祭】41 儒禮を以て祖先等をまつる祭。德川時代の儒者の間に行はれたもので、宋の朱熹の家禮に本づき、我が國の風習を折衷して定めたもの。季節は春夏秋冬の四仲月、又は春秋の二期。

【儒葬】42 儒教の儀式による葬儀。我が國、德川時代の儒者が宋の朱熹の家禮等によつて行つた。

【儒裝】43 學者の服裝。武裝(6－16273・159)の對。〔項斯、邊遊詩〕塞館皆無レ事、儒裝亦有レ弓。

【儒藏】44 儒家諸書の總稱。佛家の藏經、道家の道藏に對して名づけたもの。〔明史、文苑、曹學佺傳〕嘗謂二氏有レ藏、吾儒何獨無、欲レ修二儒藏一與二鼎立一、采二摭四庫書一、因レ類分輯、十有餘年、功未レ及レ竣。

【儒酸】45 讀書人の貧乏なことをいふ。〔蘇軾、約二公擇一飮是日大風詩〕要當レ唉二公八百里一、豪氣一二洗儒生酸。

【儒士】46 ㊀儒學を信奉する學者。儒者。〔莊子、田子方〕魯多二儒士一。〔墨子、非儒下〕儒士則可二以疑一矣。〔漢書、薛宣傳〕恥二辱儒士一。〔魏志、高堂隆傳〕尊二儒士一、擧二逸民一。〔舊唐書、日本國傳〕請二儒士一授レ經。㊁清代の京吏の一。〔清會典、吏部、驗封清吏司〕凡京吏之別三、一曰供事、二曰儒士、三曰經承。〔注〕禮部於二經承之外一、復有二儒士一。

【儒士成林】47 儒者の多い形容。〔後漢書、張衡傳〕縉紳如レ雲、儒士成レ林。

【儒史】48 儒學と史學。〔江淹、宋故銀青光祿大夫孫夐墓銘〕幼柄二器譽一、夙耀二才名一、體兼二遷雲、學備二儒史一。

【儒師】49 元明時代、府州縣學の教官をいふ。儒。〔續文獻通考、學校考、郡國鄉黨之學〕時各道儒師、悉以二曠官一罷、浙西道儒學提擧葉李、召至二京師一。

【儒州】50 州名。㊀唐、置く。甘肅省の舊慶陽府の境。今、闕く。㊁唐末、置く。故治は察哈爾省延慶縣治。〔讀史方輿紀要、直隸〕延慶州、禹貢冀州地、云云、唐末又折置二儒州於此一、五代晉初、契丹得二其地一、亦曰二儒州一。㊂宋、置く。貴州省の境。今、闕く。

【儒秀】51 儒者中で秀でた者。秀ですぐれた學者。〔魏書、郭祚傳〕郭祚憂勞、庶事獨不レ歎レ我、崔光溫良博物、朝之儒秀、不レ勸二此兩人一、當レ勸レ誰也。「字。

【儒修】52 明、陳錫爵(11－41698・1067)の

【儒者】53 孔孟の學を修め、其の教義を奉ずる學者。儒は元來學者の汎稱であつたが、諸子百家の學が起るに及んで、專ら孔門の學徒を稱することとなつた。儒士。儒人。字解の五儒生(70)・儒家(71)・儒學(16)・儒教(31)を見よ。〔孟子、滕文公上〕夷子曰、儒者之道、古之人若レ保二赤子一、此言何謂也。〔荀子、儒效〕儒者在二本朝一則美レ政。〔墨子、非儒下〕儒者曰、親レ親有レ殺。〔史記、淮陰侯傳〕成安君儒者也。

【儒者捨場】54 東京都文京區護國寺の東北に在る大塚先儒墓所をいふ。德川時代に儒者の儒葬せられた所で、室鳩巢・古賀精里・柴野栗山・尾藤二洲等の墓がある。この俗稱は、當時の江戸人士の目に、寺もない野邊に送られて行くさまが、異樣に映つたので起つたもの。

【儒者博而寡要】55 儒者は知識が博いだけで餘り役立たぬ。〔史記、太史公自序〕儒者博而寡レ要、勞而少レ功。〔漢書、司馬遷傳〕儒者博而寡要、勞而少レ功。

【儒者一レ師而俗異】56 儒者は同一の師から出た教を學んでゐるにもかかはらず、各人の習俗は夫々に異なる。〔史記、趙世家〕儒者一レ師而俗異、中國同レ禮而教離。

【儒庠】57 儒學の學校。〔韓愈・孟郊、納涼聯句〕儒庠恣二游息一、聖籍飽二商搉一。

【儒將】58 武人で儒者の風ある者。〔薛能、清河汎舟詩〕儒將不レ須二誇三郤穀一、未レ聞詩句解二風流一。〔蘇軾、葉待制求二先墳永慕亭詩一〕聯翩出二儒將一、豈惟十朱輪。

【儒釋】59 儒教と佛教。儒佛。〔盧綸、敬顏魯公送挺賛歸翠微寺一詩〕挺賛惠學該二儒釋一。

【儒釋道】60 儒・佛・道の三教。〔輟耕錄、三教一源圖〕儒・釋・道。

【儒弱】61 よわいこと。儒弱(4－11390‥10)に同じ。〔魏書、良吏傳序〕搏擊爲レ侯、起不レ旋踵、儒弱貽レ咎、錄用無レ時。

【儒輸】62 おろか。〔方言、十二〕儒輸、愚也。〔注〕猶二儒撰一也。

【儒儒】63 果斷でないさま。ぐづぐづ。〔楊奐、東遊記〕其與二終身拘一拘儒一者于百里之內一者、不二亦異一乎。

【儒術】64 儒道。儒家のやり方。〔荀子、富國〕儒術誠行、則天下大而富。〔墨子、非儒下〕用二儒術一、令二士卒一。〔史記、禮書〕今上卽レ位、招二致儒術之士一、令二共定一レ儀。〔漢書、陳餘傳〕好二儒術一、遊二趙苦經一。〔漢書、公孫弘傳〕習二文法吏事一、緣飾以二儒術一。〔新語、本行〕表二定六藝一、以重二儒術一。

【儒書】65 儒家の書籍。〔左氏、哀、二十一〕唯其儒書、以爲二國憂一。〔晉陽秋〕桓溫謂レ人曰、君三十年讀二儒書一、不レ如二一詣習一主簿。

【儒職】66 儒者の職分。又、儒者の職に就いて居る者。〔後漢書、儒林傳序〕儒職多非二其人一。〔顏延之、爲二竟陵王世子一臨二會稽郡一表〕可下推二擇明經一、式寄中儒職上。

【儒臣】67 儒學を以て仕へる臣。〔揚雄、博士箴〕儒臣司典。〔劉因、張燕公讀書堂詩〕濟濟唐開元、儒臣相伯仲。

【儒人】68 儒者。〔史記、朱建傳〕我方以二天下一爲レ事、未レ暇見二儒人一、使者出謝、酈生叱曰、吾高陽酒徒也、非二儒人一也。

【儒人戶】69 元初、儒學を重んぜず、儒家の戶籍は儒人戶と稱して他の雜戶と同じく取りあつかひ、普通人士と區別した。〔元典章、籍冊、戶口條畫、一儒戶〕中統四年、不二經分一揀附籍瀰籍、儒人或本是儒人、王子年別作二名色一附籍、並戶頭身故、子弟讀書、又高智收拾到駈儒仰、從實分揀、能通二文學一者、依レ例免レ差、不レ通二文學一者、收二係一例一當レ差。

【儒生】70 儒學を修める學者。儒者。〔列子、周穆王〕魯有二儒生一、自媒能治レ之。〔史記、秦始皇紀〕與二魯諸儒生一議。〔史記、叔孫通傳〕諸弟子儒生、隨レ臣久矣。〔漢書、元帝紀贊〕徵二用儒生一、委レ之以レ政。〔論衡、超奇〕夫能說二一經一者爲二儒生一、博覽古今一者爲二通人一。〔鮑照、擬古詩〕南國有二儒生一。〔劉長卿、別二嚴士元一詩〕東道若逢二相識問一、青袍今已誤二儒生一。

【儒先】71 學者中の年長者。〔史記、匈奴傳〕其儒先、以爲レ欲レ說、折二其辯一。〔注〕集解曰、先、先生也、漢書作二儒生一也。

【儒素】72 儒者の操行。儒者の平素の行。〔晉書、王隱傳〕隱以二儒素一自守、不レ交二聲援一。〔北史、李諤傳〕指二儒素一爲二古拙一、用二詞賦一爲二君子一。〔北史、常爽常景傳論〕爽以二儒素一著稱。

【儒宗】73 一儒者の宗師。學者の領袖。〔史記、叔孫通傳〕卒爲二漢家儒宗一。〔漢書、劉向傳〕仲舒爲二世儒宗一。〔晉書、賀循傳〕朝廷疑滯皆諮二之於循一、循輒依二經禮一而對、爲二當世儒宗一。二晉、唐彬(2－3709‥304)の字。

【儒宗學府】74 儒學の宗府。大學者。宗は本宗、府は物の聚まる所。〔北史、盧誕傳〕周文帝、又以二誕儒宗學府一、爲二當世所レ推、乃拜二國子祭酒一、進車騎大將軍儀同三司一。

【儒懊】75 やさしくてよわいこと。儒懦。〔北齊書、儒林、權會傳〕權會性甚儒懊、似レ不レ能レ言。〔曾鞏、齊州謝二到任一表〕豈伊儒懊之資、可レ副二浩繁之用一。

【儒道】76 一儒者の道。〔荀子、子道〕言以二類接一、則儒道畢矣。〔魏志、鍾會傳〕好論二儒道一、辭才逸辨。〔杜荀鶴、將歸二山逢一友人一詩〕儒爲二君子儒一、儒道不レ妨レ孤。二儒教と道教とをいふ。

【儒仲】77 後漢、王霸(廣武の人)(7－2082 3‥872)の字。

【儒珍】78 字號。一清、印廷寶(2－2848‥1905)の號。

【儒哲】79 學問があつてすぐれた人。〔魏書、樂志〕尚書令高肇云云、且二漢魏晉、歷二諸儒哲一、未レ聞二器度一依二經而聲調差謬。

【儒法】80 儒教の法式。儒家の制度。〔弘道館記述義、下〕威公之薨、新相二兆域於瑞龍山一、葬儀一用二儒法一。

【儒傅】81 學問を以て輔佐する者。〔高澹然、陳壽祺行狀〕始去レ農爲二儒傅一。

【儒風】82 儒者の風習。〔孟浩然、書レ懷貽二京邑故人一詩〕惟先自二鄒魯一、家世重二儒風一。〔白孔六帖〕草二偃儒風一。

【儒服】83 一儒者の著る服裝をいふ。大體、章甫の冠を被り、だぶだぶとした逢掖の衣を著、幅の廣い帶をしめ、笏を搢み、玉玦を腰に帶び、方屨を穿いて居つたやうである。禮記、儒行篇に孔子が章甫の冠を被り、逢掖の衣を著て魯の哀公に見えた時、哀公は「夫子の服は其れ儒服か」と問ひ、又、荀子、哀公篇に哀公が孔子に向つて「かの章甫絢屨、紳して笏を搢む者は皆賢か」と問うてゐるが、恐らく儒服を指すものであり、又、莊子、田子方篇に儒者は圓冠を被り、句履を穿ち、玉玦を腰に帶びてゐるといひ、墨子、公孟篇には曾子の門人の公孟子が章甫の冠を戴き、笏を搢み、儒服して子墨子に見えたとあり、孔叢子、儒服篇には子高が長裾を曳き褒袖を振ひ方屨にて平原君に見えた時、平原君は「吾子も亦儒服するか」と言ひ、又、漢書、禹不疑傳に、禹不疑が環玦を佩び、褒衣博帶して暴勝之に上謁したとあるが、蓋し儒服を指すものと思はれる。〔禮、儒行〕魯哀公問二於孔子一曰、夫子之服、其儒服與。〔莊子、田子方〕擧二魯國一而儒服。〔墨子、公孟〕搢レ笏儒服。〔史記、叔孫通傳〕叔孫通儒服、漢王憎レ之。二孔叢子の篇名。

【儒佛】84 儒教と佛教。儒釋。〔學蔀通辯、心圖心說〕儒佛不レ同二樞要一、只此愚管究而論レ之。

【儒扮】85 學者風の服裝。〔桃花扇、聽稗〕侯方域儒扮上。

【儒墨】86 儒者と墨者との道。又、それを修める者。〔莊子、齊物論〕道隱二於小成一、言隱二於榮華一、故有二儒墨之是非一。〔韓非子、顯學〕世之顯學、儒墨也。〔史記、平津侯主父偃傳贊〕招二後父一、以廣二儒墨一。〔淮南子、俶眞訓〕儒墨乃始列レ道而議。

【儒墨之是非】87 儒者流と墨者流とが互に是とし非として攻擊辯難し合ふこと。〔莊子、齊物論〕道隱二於小成一、言隱二於榮華一、故有二儒墨之是非一、以是二其所レ非、而非二其所レ是。

【儒名】88 儒者としての名。儒者のほまれ。〔國史略、鳥羽天皇〕其祖擧周、其父成衡、世有二儒名一。

【儒名而墨行】89 名は儒者と稱するが、其の實際の行は墨子の道に合すること。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕人固有二儒名而墨行者一、問二其名一則是、校二其行一則非、可二以與レ之游一乎、如有二墨名而儒行者一、問二其名一則非、校二其行一則是、可二以與レ之游一乎。

【儒門】90 儒者の家がら。儒家。〔後漢書、鄭范

陳賈張傳贊〕中世儒門、賈鄭名學。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕國尙ニ師位一、家崇ニ儒門一。〔張說、謝ニ脩史一表〕服ニ道儒門一、策ニ名昌運一。〔蘇頲、揚州大都督長史王公神道碑〕黌塾不レ倦、有ニ北海之儒門一。

【儒門事親】91 ジュモンジシン　書名。十五卷。金、張從正撰。醫書。儒者が能く親に事へる爲には當に醫術を知る可しとの意から名づけたもの。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【儒吏】92 ジュリ　儒者で役人となる者。〔漢書、朱博傳〕文學儒吏、時有ニ奏記一。

【儒流】93 ジュリウ　儒者の仲間。儒家者流。〔劉得仁、上ニ翰林丁學士一詩〕時輩何偏羨、儒流此最榮。〔杜甫、贈ニ虞十五司馬一詩〕交態知ニ浮俗一、儒流不レ異レ門。

【儒林】94 ジュリン　儒學者のなかま。〔史記、太史公自序〕自ニ孔子卒一、京師莫レ崇ニ庠序一、唯建元元狩之閒、文辭粲如也、作ニ儒林列傳一第六十一。〔漢書、劉歆傳〕典ニ儒林史卜之官一。〔孔叢子、執節〕自ニ正考父一以來、儒林相繼。〔魏志、高柔傳〕使ニ儒林之羣、幽隱而不レ顯。〔潘岳、西征賦〕儒林填ニ于坑穽一、詩書煬而爲レ煙。〔任昉、王文憲集序〕蔡公儒林之亞。

【儒林傳】95 ジュリンデン　儒者の傳記。二十四史の內、史記・漢書・後漢書・晉書・梁書・陳書・魏書・北齊書・南齊書・隋書・唐書・舊唐書(儒學傳)・宋史・元史(儒學傳)・明史等に載錄する。猶、淸の阮元に國朝儒林傳四卷がある。

【儒林郞】96 ジュリンラウ　散官の名。隋、置く。其の名は、蓋し前史儒林傳の義に取つたもの。歷代之に因り、元・明・淸は六品封階を儒林郞とした。〔隋書、百官志下〕置ニ儒林郞十人一、掌ニ明經待問一。〔文獻通考、職官志、文散官、朝議郞以下〕儒林郞、隋置、散官、蓋取ニ前史儒林傳之義一、唐因レ之。〔續通典、職官典、文散官、光祿大夫以下〕元、正六品曰ニ承德郞一、曰ニ承直郞一、從六品曰ニ儒林郞一、曰ニ承務郞一、明、從六品初授ニ承務郞一、陞授ニ儒林郞一、吏材幹授ニ宣德郞一。

【儒林外史】97 ジュリングワイシ　淸代の小說。凡て五十五回。淸、吳敬梓作。大正九年前後に錢玄同・胡適等によつて水滸傳・紅樓夢と比肩すべきものとして評價せられたもので、內容は當時の科學の制度を諷刺し、官吏儒者の醜惡を指摘し、人閒性と社會制度との矛盾を描く。此の書には、後人が一回を附加して五十六回としたものと、四回を附して六十回としたものとある。〔錢靜芳、小說叢攷下、儒林外史考〕・〔魯迅、中國小說史略、儒林外史〕。

【儒林公議】98 ジュリンコウギ　書名。二卷。宋、田況撰。建隆から慶歷までの朝廷の政事、及び士大夫の言行を記す。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【儒林祭酒】99 ジュリンサイシュ　官名。國子監祭酒の前身。晉の武帝の置いたもの。〔文獻通考、職官考、國子監〕晉武帝咸寧四年、初立ニ國子學一、置ニ國子祭酒一人一。〔注〕永嘉中、又置ニ儒林祭酒一、以ニ杜夷一爲レ之。

【儒林參軍】100 ジュリンサングン　❶五代の時、教授をいふ。〔稱謂錄、教職、儒林參軍〕五代稱ニ教授一曰ニ儒林祭酒一、又曰ニ文學祭酒一、又曰ニ儒林參軍一、蜀稱曰ニ典學從事一。❷幕僚の職をいふ。〔稱謂錄、幕、儒林參軍〕南史齊豫章文獻王嶷傳、開レ館立レ學、置ニ儒林參軍一人、文學祭酒一人、勸學從事二人一、又晉書江統子惇傳、征西將軍庾亮、請爲ニ儒林參軍一、案、正是外僚幕職也。

【儒林四傑】101 ジュリンノシケツ　元の儒者である柳貫・黃溍・虞集・揭傒斯の四人。〔元史、柳貫傳〕柳貫與ニ黃溍、及臨川虞集・豫章揭傒期一齊レ名、人號爲ニ儒林四傑一。

【儒林先生】102 ジュリンセンセイ　儒學を修める先生。後魏の常爽をいふ。〔魏書、常爽傳〕常爽不レ事ニ王侯一、獨守ニ閑靜一、講ニ肄經典一二十餘年、時人號爲ニ儒林先生一。

【儒林宗派】103 ジュリンソウハ　書名。十六卷。淸、萬斯同撰。孔子以下明末に至るまでの、諸儒授受の源流を各時代順に記す。上に師承無く下に弟子のない者は別に之を著し、持論頗る公平である。〔四庫提要、史、傳記類〕。

【儒林丈人】104 ジュリンチヤウジン　學者の尊稱。晉の裴秀を尊んでいふ。〔晉書、王沈傳〕少好レ學、善屬レ文、高貴鄕公、亦好レ學有ニ文才一、數引ニ沈及裴秀一、數於ニ東堂一講讌屬レ文、號レ沈爲ニ文籍先生一、秀爲ニ儒林丈人一。

【儒志編】105 ジュシヘン　書名。一卷。宋、王開祖撰。其の講學の語を記す。當時儒志先生の稱あるによつて題す。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【儒洞墟】106 ジュドウキヨ　地名。廣東省陽江縣の西南儒洞河のほとり。電白縣の界に接す。「名。

【儒聞堂】107 ジュブンダウ　宋、張鎡(**4**－**9812**・・361)の室

【儒志先生】108 ジュシセンセイ　宋、王開祖(**7**－**20823**・・1244)の尊稱。

【儒童菩薩】109 ジュドウボサツ　佛者から孔子を指していふ稱。〔辯正論〕大昊、本應聲大士、仲尼、卽儒童菩薩、先遊ニ茲土一、權行漸化、愍ニ濟五濁一、宣ニ布五常一。

【儒分爲レ八】110 ジュワカレテハチトナル　孔子の後、儒道が分れて八派となつたこと。卽ち、子張・子思・顏氏・孟氏・漆雕氏・仲良氏・孫氏・樂正氏。八儒(**2**－**1450**・・275)を見よ。〔韓非子、顯學〕自ニ孔子之死一也、有ニ子張之儒一、有ニ子思之儒一、有ニ顏氏之儒一、有ニ孟氏之儒一、有ニ漆雕氏之儒一、有ニ仲良氏之儒一、有ニ孫氏之儒一、有ニ樂正氏之儒一、云云、儒分爲レ八。

【儒以レ文亂レ法】111 ジュハブンヲモツテハフヲミダス　儒者は兎角古代の禮文を引いて今の世法を擾す弊がある。〔韓非子、五蠹〕儒以レ文亂レ法、俠以レ武犯レ禁。

【儒理尼師今】112 ジュリニシキン　新羅の王。南海次次雄の子。父王に繼いで卽位す。高句麗が樂浪を陷れた時、樂浪・帶方の人來り投ずるに及んで、之を六部に分つ。在位三十三年。

【儒禮尼師今】113 ジュレイニシキン　新羅の王。助賁尼師今の長子。味鄒尼師今の後を繼いで卽位す。在位十四年。

【以レ儒相詬病】114 ジュヲモツテアヒコウヘイス　儒者に對して彼は儒であるといつて、皆がののしり賤しむ。〔禮、儒行〕今衆人之命レ儒也妄、常以レ儒相詬病、孔子至レ舍、哀公館レ之、聞ニ此言一也、言加レ信行加レ義、終ニ沒吾世一、不ニ敢以レ儒爲一レ戲。

【儖】1221

タウ　チヤウ　〔集韻〕張梗切　梗

いさましい。〔集韻〕儖、海岱之人、謂ニ勇敢一曰レ儖。

【𠐊】1222

㊀イン　オン　〔集韻〕於靳切　問

㊁ヲン　〔集韻〕鄔本切　阮

㊀**人による。よりとどまる。** 偃(**1**－**1039**)に同じ。〔廣韻〕偃、依レ人也。〔集韻〕偃、依止也、或作レ𠐊。㊁**やすらか。** 或は隱(**10**－**37954**)に作り、通じて穩(**8**－**25344**)に作る。〔集韻〕𠐊、安也、或从レ足、通作レ穩。

【儓】1223

㊀タイ　〔集韻〕湯來切　灰　tʻai²

㊁タイ　〔集韻〕他代切　隊

㊀❶**けらい。**〔廣雅、釋詁一〕儓、臣也。❷**みにくい。**〔廣雅、釋詁二〕儓、醜也。❸**あたる。**〔廣雅、釋詁三〕儓、當也。❹**農夫。** どびやくしやう。〔方言、三〕儓、農夫之醜稱也、南楚凡罵ニ庸賤一、謂ニ之田儓一。❺**にぶくておとるさま。** 嬯(**3**－**6827**)に同じ。〔集韻〕嬯、鈍劣皃、或从レ人。❻臺(**9**－**30161**)に通ず。〔正字通〕儓、本作レ臺。㊁**おろかなさま。一說に、すすまないさま。** 儓儗。或は佁(**1**－**490**)に作る。〔廣韻〕儓、儓儗、癡皃。〔集韻〕儓、儓儗、癡也、一曰、不レ前、或从レ台。

【儓匿】1 タイホク　農夫の賤稱。どびやくしよう。〔方言、三〕儓匿、農夫之醜稱也。

【儔】1224

小篆

㊀タウ　ドウ　〔集韻〕大到切　號

㊁チウ　ヂユ　〔集韻〕陳留切　尤　イヌ　chʻou²

㊀❶**かざす。かさ。**〔說文〕儔、翳也、从レ人壽聲。❷**おほひかく**

す。〔玉篇〕儔、隱蔽也。㊁とも。〔集韻〕儔、一曰、侶也。㊃或は翻(3－5689)に作り、古は儔(1－1138)に作る。〔集韻〕儔、或从朋、古作儔。㊀㊀とも。つれ。なかま。たぐひ。つれだつ。たぐふ。〔玉篇〕儔、侶也。〔正字通〕儔、衆也、等類也。〔荀子、勸學、草木疇生、注〕疇、與儔同、類也。〔太玄經、劇陽無介儔〕〔注〕儔、匹也。〔嵇康、幽憤詩〕曾莫二能儔一。〔注〕儔、等也。㊁たれ。たれか。〔正字通〕儔、誰也。〔法言、脩身〕儔克レ爾。〔注〕儔、誰。㊂通じて疇(7－21967)に作る。〔正字通〕儔、通作レ疇。〔北海相景君碑〕英彥失レ疇。

名乘　トモ。

【儔擬】1 たぐひしならぶ。ならべる。〔吳筠、神仙可レ學論〕長生大法、無二等倫以儔擬一。

【儔儻】2 なかま。同類。〔左思、蜀都賦〕養二交都邑一、結レ儔附レ儻。〔注〕向曰、養二其交道一、結二附儔儻一。

【儔匹】3 同じともがら。なかま。儔侶。儕輩。儔倫。〔古樂府、傷歌行〕悲聲命二儔匹一、哀鳴傷二我腸一。〔方孝孺、勉學詩〕鸞鳳寡二儔匹一、玉樹少二枝柯一。

【儔與】4 ともだち。なかま。〔蔡邕、述行賦〕翩翩獨征、無二儔與一兮。

【儔侶】5 ともがら。たぐひ。同輩。侶儔。儔匹。〔張華、情詩〕不二曾遠別離一、安知慕二儔侶一。〔謝惠連、邊鷺賦〕命二儔侶一以翱遊。〔陸厥、奉二答內兄希叔一詩〕鳧鵠嘯二儔侶一。〔江淹、雜體、張黃門苦雨詩〕索居慕二儔侶一。

【儔倫】6 たぐひ。なかま。儔匹(3)に同じ。〔論衡、自紀〕儔倫彌索、鮮レ所二恃賴一。〔韓愈、酬下裴十六功曹巡二府西驛一塗中見レ寄詩〕遂令二河南治、今古無二儔倫一。

【儔類】7 同じなかま。疇類(7－21967‥23)に同じ。〔管子、樞言〕十日不レ食、無二儔類一、盡死矣。〔晉書、呂光載記〕游二戲邑里一爲二戰陣之法一、儔類咸推爲レ主。〔陶潛、孟府君嘉傳〕弱冠、儔類咸敬レ之。

【儔儷】8 たぐひ。なかま。〔蜀志、法正傳評〕統其荀彧之仲叔、正其程郭之儔儷邪。

【儔列】9 なかま。〔夏侯湛、東方朔畫贊〕視二儔列一如二草芥一。〔注〕良曰、儔列、謂二同レ類者一。

【儔】1225

テウ　デウ　〔集韻〕徒了切　篠

ひとりたつ。〔集韻〕儔、獨立也。

【儔】1226

ヘイ　㊀鵌(8－25777)に同じ。〔集韻〕鵌、或作レ儔。㊁俾(1－70)の俗字。〔正字通〕儔、俗俾字。

【儕】1227

サイ　ザイ　〔集韻〕牀皆切　佳　圓セイ

小篆文

㊀ともがら。なかま。同輩。〔說文〕儕、等輩也、从レ人齊聲、春秋傳曰、吾儕小人。〔廣雅、釋詁一〕儕、輩也。〔禮、樂記〕先王之喜怒、皆得二其儕一焉。〔注〕儕、猶二輩類一。〔左氏、成、二〕文王猶用二衆、況吾儕乎。〔注〕儕、等也。㊁ともに。一緒に。〔列子、湯問〕長幼儕居。㊂つれあひ。つれあふ。あはせる。〔漢書、揚雄傳上〕儕二男女一、使レ莫レ違。〔注〕師古曰、儕、耦也。㊃ひとしい。齊(12－48560)に通ず。〔正字通〕儕、吳音讀レ齊加レ儕、古今通也。

【儕居】1 一緒にをる。同居する。〔列子、湯問〕人性婉而從レ物、不レ競不レ爭、柔心而弱骨、不レ驕不レ忌、長幼儕居。

【儕石】2 清、梁元翀(8－14825‥236)の號。

【儕徒】3 ともがら。なかま。〔新書、耳痺〕放二此輩一者、鳥獸之儕徒、狐狸之醜類也。

【儕等】4 ともがら。なかま。〔南史、章昭達傳〕恩寵超二於儕等一。

【儕輩】5 同じなかま。同輩。儕類。〔北史、文苑、李文博傳〕恒以二禮法一自處、儕輩莫レ不レ敬憚一焉。〔隋書、李文博傳〕儕輩莫レ不二敬憚一焉。

【儕匹】6 ともがら。なかま。〔東萊博議、齊魯戰二長勺一〕初非二宋襄陳餘儕匹一也。

【儕流】7 ともがら。なかま。〔北史、劉道斌傳〕道斌是行、便異二儕流一矣。

【儕倫】8 ともがら。なかま。同じ身分のもの。〔論衡、自紀〕爲二小兒一、與二儕倫一遨戲、不レ好二狎二侮儕倫一。

【儕類】9 ともがら。なかま。同輩。儕輩。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕爲二儕類一見レ寬。〔晉書、王濟傳〕好以レ言傷レ物、儕類以レ此少レ之。

【儡】1228

ソウ　ズ　〔集韻〕粗送切　送

あつまる。〔集韻〕傀、聚也。

【儖】1229

ラン　〔集韻〕盧甘切　覃

みにくいさま。儖儷。〔集韻〕儖、儖儷、惡皃。

【儓】1230

タイ　ツイ　〔集韻〕都內切　隊

儓 小篆

うりかひ。とりひき。あきなひ。〔說文〕儓、市也、从レ人對聲。〔正字通〕儓、互市必與レ人對、故从二對人一、俗讀若レ兌、因借用二兌字一、非。

【儳】1231

ケン　儳(1－1292)の俗字。〔正字通〕儳、俗儳字。

【儗】1232

ヨ　〔集韻〕演女切　語

㊀つつしむ。〔集韻〕儗、謹也。㊁よる。〔集韻〕儗、倚也。

【儗】1233

㊀ギ　〔集韻〕偶起切　紙
㊁ギ　〔集韻〕魚記切　寘
㊂カイ　〔集韻〕許代切　隊
四ガイ　〔集韻〕牛代切　隊

儗 小篆

㊀㊀なぞらへる。分限を越えて僭也、从レ人疑聲。〔史記、貨殖傳〕卓王孫、田池射獵之樂、儗二於人君一。〔漢書、文三王傳〕儗二於天子一。〔注〕師古曰、儗、比也。㊁くらべる。〔禮、曲禮下〕儗レ人必於二其倫一。〔注〕儗、猶レ比也。〔漢書、食貨志下、疑二於南夷一、注〕師古曰、疑、讀曰レ儗、儗、謂レ比也。㊂まねする。なぞらへる。擬(5－12870)に通ず。〔禮、緇衣、省二括于厥度一、注〕度、謂レ所二儗射一也。〔釋文〕儗、本亦作レ擬。〔傳毅、舞賦〕經營切儗。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、儗、猶レ比也。四うたがふ。疑(7－22007)に通ず。〔說文〕儗、一曰、相疑也。〔說文通訓定聲〕儗、段借爲レ疑。五しげる。蕘(9－32219)に通ず。〔詩、小雅、甫田〕黍稷薿薿。〔漢書、食貨志上〕黍稷儗儗。〔注〕師古曰、小雅、甫田之詩、儗儗、盛貌。㊃すすまない。とどこほる。佁儗。〔廣韻〕儗、佁儗、不レ前。〔史記、司馬相如傳下〕佇以佁儗兮。〔注〕張揖曰、佁儗、不レ前也。㊂四おろかなさま。僾儗。〔集韻〕僾、僾儗、癡也。

【儗園】1 清、王廷勳(7－20823‥1937)の字。

【儗儗】2 ㊀茂るさま。蕘蕘。〔漢書、食貨志上〕其詩曰、或芸或芓、黍稷儗儗、云云、故儗儗而

盛也。〔注〕師古曰、小雅甫田之詩、儗儗、盛貌。㊁まどふ。〔柳宗元、夢歸賦〕若有レ鉥余以往レ路兮、馭儗儗以回復。〔注〕儗儗、惑也。

【儗怍】3 ギサク うたがひはぢる。慚悚。〔荀子、儒效〕無レ所ニ儗怍一。〔注〕儗、讀爲レ疑、怍、與レ怍同。

【儘】1234 シン ジン 〔字彙〕慈忍切 ㄐㄧㄣˇ chin³ 軫

㊀みな。つくす。きはめる。盡(8−23029)に同じ。〔字彙〕儘、同レ盡、皆也。〔六部成語、戸部、儘收儘解、注解〕儘、極也。㊁まま。まかす。ままよ。儘教(4)を見よ。㊂まま。語助の辭。宋元以來、詩の詞に多く用ひる。〔楊仲弘詩格〕中間一聯、儘有ニ奇崛一。㊃現限る。限り。だけ。全く。ことごとく。邦まま。①多く書簡文に用ひる。「故に」・「に付き」の意。②其のまま。現在有るとほり。⑧氣まま。ほしいまま。

名乘 ミチ。

【儘解】1 ジンカイ 徵收した租税の全部を送達すること。儘收儘解(8)を見よ。

【儘看】2 ジンカン ままよ。儘教(4)に同じ。〔郭昂、詩〕翠藤儘看參ニ天長一。

【儘管】3 chin² kuan³ 十分に。

【儘教】4 ジンケウ ままよ。さもあらばあれ。遮莫。儘看。〔通雅〕遮莫、猶レ言ニ儘教一也。〔劉克莊、乍歸詩〕儘教人貶駁、喚作嶺南詩。〔武衍、宮詞〕惟有落紅官不レ禁、儘教飛舞出ニ宮牆一。

【儘之】5 chin³ chih¹ いつまでも。絶えず。

【儘自】6 chin³ tzŭ⁴ ㊀絶えず。儘之に同じ。㊁只。㊂一體。

【儘收】7 ジンシウ 極力、租税の徵集に務めること。儘收儘解を見よ。

【儘收儘解】8 ジンシウジンカイ 定額を設けず、實徵租税を收入とし、全額を其のまま中央政府に送附すること。〔六部成語、戸部、儘收儘解、注解〕儘、極也、極力經徵、儘ニ所レ徵之數一解交也。〔六部成語訂正、戸部、儘收儘解、注解〕儘、盡也、不レ立ニ定限一、儘下其所ニ征收一者上盡數報解也。

【儘數】9 ジンスウ 全額。全部。悉皆。あるだけ。ことごとく。〔清會典事例、戸部、積儲〕仍按ニ原存州縣之額數一存留、常平穀照ニ時價一儘數發糶。

【儘先】10 ジンセン 最も先に。まつさきに。優先的に。〔清會典事例、吏部、滿洲遴選〕嗣後蒙古中書、除下奉ニ特旨一卽用中中書上、仍照ニ舊例一儘先補用。

【儘着】11 ジンチャク なるべく。出來るだけ。〔通俗編、語辭、儘著〕按、盡、卽忍切、卽俗云儘著之儘、儘字、惟見ニ字彙一、前レ此未レ收也。

【儘量】12 chin³ liang⁴ 思ふ存分。精一杯。十二分に。出來る限り。

【儘溜頭】13 chin³ liu¹ t'ou² 路次の突當り。行き止り。

【儘早不儘晚】14 chin² tsao³ pu⁴ chin² wan³ 成るべく早くして遲らせるな。

【儙】1235 ケン 〔玉篇〕去戰切 霰

ひらく。あく。〔玉篇〕儙、開也。

【儚】1236 ㊀ビヨウ ミヨウ 〔集韻〕彌登切 蒸 ㊁ボウ ム 〔集韻〕謨中切 東

㊀おろか。くらい。まよふ。或は懜(4−11372)・懵(4−11451)・𠐩(1−1283)・顭(12−43720)に作る。〔集韻〕儚、爾雅、儚儚、惛也、或作ニ懜・懵・𠐩・顭一。㊁㊀はぢる。〔集韻〕儚、一曰、慙也。㊁おろか。儚儚(2)を見よ。邦はかない。もろい。定め難い。つまらない。確かでない。

【儚僜】1 ボウトウ ぼんやりする。瞢騰(8−23653・・4)に同じ。〔元稹、紀レ懷贈ニ李六戸曹崔二十功曹一五十韻詩〕有レ時鞭ニ款段一、盡日醉儚僜。

【儚儚】2 ボウボウ 心くらくまどふ。〔爾雅、釋訓〕儚儚、惛也。〔疏〕迷亂惛惑也。

【儛】1237 ブ ム 〔集韻〕罔甫切 ㄨˇ wu³ 麌

まふ。まはす。舞(9−30342)に同じ。〔集韻〕舞、或从レ人。〔楚辭、王襃、九懷、株昭〕丘陵翔儛兮。〔注〕山丘踴躍而歡喜也。〔山海經、海外西經〕大樂之野、夏后啓於レ此儛ニ九代一。〔注〕儛、謂下盤ニ作之一令上レ儛也。

【儛衞】1 ブエイ 古、矢の曲直をためす法。衞は矢の羽。左手で矢を輕く握り、右手で矢をすすめて試みるといふ。〔周禮、考工記、矢人、夾而搖レ之、注〕今人以レ指夾レ矢、儛衞、是也。

【儛絙】2 ブクワン 綱渡りの戲で、張り渡した綱の兩端から二人の者が向ひ合つて渡るもの。〔張衡、西京賦、走ニ索上一而相逢、注〕綜曰、索上、長繩繫ニ兩頭於梁一、擧ニ其中央一、兩人各從ニ一頭上一交相度、所謂儛絙者也。

【儛師】3 ブシ マヒシ ㊀舞踊を教へる人。舞踊を業とする人。㊁雅樂寮の職員の一。舞を教へることを職とする。田儛師・倭儛師・唐儛師・高麗儛師・百濟儛師・新羅儛師・度羅儛師・內教坊妓女儛師等がある。〔職員令、雅樂寮〕儛師四人、掌レ教ニ雜儛一。

【儛人】4 ブジン 舞をする者。舞人。〔南史、羊侃傳〕儛人張淨琬、腰圍一尺六寸、時人咸推ニ能掌上儛一。

【儛生】5 ブセイ マヒセイ 雅樂寮の職員で、雜儛を習ふ者。〔職員令、雅樂寮〕儛生百人、掌レ習ニ雜儛一。

【儛馬】6 ブバ 西域に產する馬の名。〔海錄碎事、鳥獸、儛馬〕宋孝武時、西域獻ニ儛馬一。

【儛弄】7 ブロウ もてあそぶ。舞弄(9−30342・・93)に同じ。〔北史、王世充傳〕善ニ敷奏一、明ニ習法律一、而儛ニ弄文墨一、高下在レ心、或有下駁ニ難之一者上、世充利口飾レ非、辭義鋒起、衆雖レ知ニ其否一而莫ニ能屈一、稱爲ニ明辯一。

【儜】1238 ダウ ニヤウ 〔集韻〕尼耕切 ㄋㄥˊ nêng² 庚

㊀なやむ。苦しみ弱る。〔廣韻〕儜、困也。〔韓愈・孟郊、城南聯句〕始知樂ニ名教一、何用苦ニ拘儜一。㊁よわい。〔廣韻〕儜、弱也。〔集韻〕儜、弱也。㊂蠻地の野鄙な聲。傖儜。〔唐書、劉禹錫傳〕鼓吹裴回、其聲傖儜。㊃通じて嬣(3−6808)に作る。〔集韻〕儜、通作レ嬣。

【儜弱】1 ダウジャク よわい。よわよわしい。懦弱。〔宋書、明恭王皇后傳〕后兄揚州刺史景文、以ニ此事一語ニ從舅陳郡謝緯一曰、后在レ家、爲ニ儜弱婦人一、不レ知今段遂能剛正如レ此。

【儜人】2 ダウジン 身體の弱い人。〔宋書、王微傳〕吾本儜人、加レ疹意惛。

【儜奴】3 ダウド 人を罵る語。蠻奴(10−33914・・64)に同じ。〔洛陽伽藍記、五〕隴西李元謙、樂ニ雙聲語一、常經ニ文遠宅前一、過ニ見其門閥華美一、乃曰、是誰第宅、過佳、婢春風出曰ニ郭冠軍家一、元謙曰、凡婢雙聲、春風曰、儜奴慢罵。

【儶】1239 タイ 〔集韻〕都買切 蟹

つよいさま。儶解。𤢇(7−20732)に同じ。〔集韻〕𤢇、豪強皃、後魏時語、莫ニ𤢇獬一、或从レ人。〔正字通〕儶、儶解、豪強貌。

【儫】1240 ガウ 豪(10−36406)に同じ。〔字彙補〕儫、與レ豪同。

【𠐚】1241 ヘウ 〔篇海類編〕疋昭切 蕭

かるい。みがる。〔篇海類編〕𠐚、輕𠐚也。

【儝】1242 ケイ 〔海篇〕音瓊

まつ。〔海篇〕儝、待也。

【儻】1243 音未詳 人名。〔字彙補〕儻、印藪有二孔儻印一。

【儞】1244 ジ ㄋㄧˇ ㄋㄧˇ 爾(7－19750)の俗字。你(1－471)に同じ。〔字彙補〕儞、同レ你。〔水滸傳、楔子〕假二稱鎖鎮魔王一、顯二耀儞們道術一。

十五畫

【償】1245 シヤウ ジヤウ 〔集韻〕辰羊切 陽 ㄔㄤˊ ch'ang² 養 〔集韻〕殆兩切 漾 〔集韻〕時亮切

償 篆 小 ㊀㊁㊂ ❶つぐなふ。かへす。むくいる。〔說文〕償、還也、从レ人賞聲。〔廣雅、釋言〕償、復也。〔字彙〕償、酬也。〔史記、蘇秦張儀傳〕以二百金一償レ之。〔漢書、匈奴傳〕毎レ漢兵入二匈奴一、匈奴輒報償。❷つぐなひ。あがなひ。賃金。代價。報酬。〔西京雜記、二〕與レ其傭作、而不レ求レ償。❸姓。〔姓苑〕吳中八族、其一、償氏。

【償怨】1 シヤウ エン 怨をつぐなふ。うらみをかへす。〔左思、魏都賦〕狐貉精衛、銜レ木償レ怨。

【償卻】2 シヤウキヤク つぐなひかへす。

【償金】3 シヤウキン ❶つぐなふ爲に出すかね。賠償金。❷戰勝國又は損害を被つた中立國が、戰敗國又は損害を與へた國から戰費又は損害の賠償として支拂はせる金。

【償款】4 シヤウクワン 賠償する金錢財物。償金。つぐのひ金。〔謝彬、新疆遊記〕兩國官吏、各視二案之多寡一、互相抵除、作爲了結、不レ能二相抵一、則議給二償款一。

【償還】5 シヤウクワン つぐなひかへす。もどす。又、其のこと。返濟。償却。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕或私債官錢、償還莫レ措。

【償還基金】6 シヤウクワンキキン 公債の償還に充て、他に流用せぬ基金。

【償還請求】7 シヤウクワンノセイキウ 法律上、至當な賠償の要求をなすことをいふ。

【償願】8 シヤウグワン 宿願を果す。〔韓愈、新修二滕王閣一記〕儻得レ一至二其處一、竊寄レ目償二所願一焉。

【償墾】9 シヤウコン 開墾の費用や勞力をつぐなふ。〔唐書、陳子昂傳〕屯田所レ收、不レ能レ償レ墾。

【償責】10 シヤウサイ ❶債務を辨償すること。〔漢書、食貨志〕有下賣二田宅一鬻二子孫一、以償レ責者上矣。〔漢書、淮陽憲王欽傳〕遣二有司一爲二子高一償二責二百萬一。❷其の責任をつぐなひ果す。〔唐書、齊映傳〕或犯二清蹕一、臣雖レ死、不レ足レ償レ責。

【償債】11 シヤウサイ 借金を還す。負債を償還する。〔南史、蕭惠開傳〕劉希微負二蜀人責一、將二百萬一、爲二責主所一レ制、云云、惠開云云、廢中凡有二馬六十匹一、悉以乞二希微一償レ債。

【償罪】12 シヤウザイ 罪をつぐなふ。

【償人】13 シヤウヒト 雇はれ人。日傭人。〔倭名類聚抄、人倫部、男女類、客作兒〕楊氏漢語抄云、客作兒、都久乃比比止。〔箋注〕凡言二客作兒一者、傭夫也、又按、都久乃比比止、償人之義、謂二受レ價勞力償レ之也。

【償錢】14 ch'ang² ch'ien² 負債をつぐなふ。

【償逋】15 シヤウホ 借りをつぐなふ。〔蘇轍、送二毛君致仕還二鄉詩〕晩爲二二千石一、得下不レ償レ所レ逋上。

【償補】16 シヤウホ つぐなひおぎなふ。不足をおぎなふ。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕數目短少、俱經手償補仍行詳請一。

【償勞】17 シヤウラウ 人の世話や骨折りに報いる。〔宋史、章誼傳〕誼守二平江一、時將二臨幸一、供億繁夥、誼處レ之皆當二于理一、召對賜二帶笏一、帝曰、此不レ足レ以償二卿之勞一。

【儡】1246 レフ 〔集韻〕力涉切 葉 カ一せˋ lieh⁴

【傷】1247 ヘン 儇(1－1322)に同じ。〔集韻〕儇、或省。

【儇】1248 ベツ メチ 〔集韻〕莫結切 屑 バツ マチ 〔集韻〕勿發切 月

儇 篆 小 ㊀ ❶長くてさかん。〔說文〕儇、長壯儇儇也、从レ人睘聲。春秋傳曰、長儇者相レ之。〔段注〕左傳、昭七年、十七年、國語楚語、皆云、長鬣、鬣者、儇之假借字也、韋昭、杜預釋爲二美須顏一誤。〔廣雅、釋詁二〕儇、長也。❷惡いさま。儇僥。〔類篇〕儇、儇僥、惡貌。

【儢】1249 ライ 〔集韻〕盧回切 灰 カ乀 lei¹ ギ 〔集韻〕語韋切 微 〔集韻〕魚鬼切 尾 〔集韻〕魯猥切 賄 ライ 〔集韻〕盧對切 隊

儢 篆 小 ㊀ ❶すたれる。落ちぶれる。〔說文〕儢、相敗也、从レ人畾聲、讀若レ靁。〔淮南子、俶眞訓〕然而不レ免二於儢身一。〔注〕儢身、身不レ見レ用、儢儢然也。〔潘岳、西征賦〕寮位儢其隆替。〔注〕善曰、說文曰、儢、壞敗之貌。❷儽(1－1328)・傀(1－1003)・纍(8－28039)に通ず。〔正字通〕儢、與二儽・傀・纍一通。㊁きづかふさま。心配するさま。〔集韻〕儢、心勞苦皃。㊂おちつかぬさま。〔集韻〕儢、儢然、意不二安定一皃。㊃❶つかれるさま。〔王褒、洞簫賦〕榮跗驚博、儢以頓顇。〔注〕善曰、儢、羸疾貌。❷でく。傀儢。或は儽(1－1306)・纍(8－28040)に作る。〔集韻〕儢、傀儢、木偶戲、或作二儽・纍一。㊄きはまる。又、重大でかたよる。〔集韻〕儢、極也、一曰、重大而偏。

【儢身】1 ライシン 失敗して落ちぶれた身。〔淮南子、俶眞訓〕孔墨之弟子、皆以二仁義之術一教導於世、然而不レ免二於儢身一。〔注〕儢身、身不レ見レ用、儢儢然也。儢、讀二雷同之雷一。

【儢然】2 ゼン こころ安からぬさま。おちつかぬさま。〔集韻〕儢、儢然、意不二安定一皃。

【儢儢】3 ライライ つかれ弱るさま。纍纍。〔白虎通、壽命〕自腰以下、不レ及レ禹三寸、儢儢如二喪家之狗一。

【儤】1250 セツ セチ 〔集韻〕子結切 屑 みぐを。節(8－26243)に同じ。〔集韻〕節、博節、猶二趣節一也。〔正字通〕節、同レ節。

【儢】1251 リョ ロ 〔集韻〕兩擧切 語 ❶つとめないさま。〔增韻〕儢、不二勉強一皃。❷儢拒は、こつそり退ける。儢拒(1)の❷を見よ。❸或は嬤(3－6857)に作る。〔集韻〕儢、或从レ女。

【儢拒】1 キヨ ❶することを好まない。〔玉篇〕儢、儢拒、心不レ欲レ爲也。❷こつそりしりぞける。〔駢雅、釋訓〕儢拒、陰卻也。

【儢儢】2 リョリョ することを好まないさま。つとめないさま。〔集韻〕儢、儢儢、不レ欲レ爲也。〔荀子、非十二子〕儢儢然、離離然、云云、是學者之鬼也。

〔注〕慷慨、不二勉強一之貌。

【儻】1252 シ・ユン 儻(1－1175)に同じ。〔字彙〕儻、同レ儻。

【廣】1253 ク・ワウ 〔集韻〕苦晃切 養

❶平でない。廣狼。〔集韻〕廣、廣狼、不レ平。❷壙(3－5576)の譌字。〔正字通〕廣、壙字之譌。

【僰】1254 ハウ・ヘウ 〔正韻〕布佼切 肴 ㄅㄠˋ pao⁴

❶とのゐ。官吏が續けて宿直する。〔正字通〕僰、官吏連直也。〔唐書、百官志〕新到官府、併二上直一、謂二之僰一。❷課外の役。〔正字通〕僰、今俗謂二程外課作者一爲レ僰。

【僰宿】1 pao⁴ su⁴ 續けて宿直する。

【僰直】2 ㄅㄠˋ ㄓˊ 官吏が連日宿直すること。豹直。〔王海、職官〕開寶舍人院、在二中書制敕院内一、初入者有二僰直一。〔翰林舊規〕有二僰宿例一、即僰直也。

【儥】1255 ㊀ヰク 〔集韻〕余六切 屋 ㊁テキ チヤク 〔集韻〕亭歷切 錫 ㊂トク ドク 〔集韻〕徒谷切 屋

儥 小篆

㊀㊁❶うる。〔周禮、地官、胥師〕察二其詐僞飾行儥慝者一。〔注〕儥、賣也。❷かふ。又、買ひ手。〔周禮、地官、司市〕以二量度一成二賈而徵一レ儥。〔注〕儥、買也。〔疏〕物賈定、則召二買人一來、故云レ徵レ儥也。㊂みる。覿(10－34984)に通ず。〔說文〕儥、見也、从レ人賣聲。〔段注〕儥、訓レ見、即今之覿字也、釋詁曰、覿、見也、云云、按、經傳今皆作レ覿、覿行而儥廢矣。

【儥慝】1 ㄒㄨˋ 惡いものを賣る。〔周禮、地官、胥師〕察二其詐僞飾行儥慝者一而誅二罰之一。〔注〕鄭司農云、儥、賣也、慝、惡也。

【儼】1256 シュ ジュ 〔集韻〕悲嬌切 蕭

❶神の名。豎(10－36280)に同じ。〔集韻〕豎、神名、或从レ人。❷姓。〔集韻〕儼、姓也。

【儦】1257 ヘウ 〔集韻〕上主切 麌

儦 小篆

❶行くさま。或は儦(4－10275)に作る。〔說文〕儦、行皃、从レ人麃聲、詩曰、行人儦儦。〔集韻〕儦、說文、行皃、引二詩行人儦儦一、或从レイ。❷禽獸、又は人のおほいさま。儦儦の❶を見よ。❸さかんなさま。儦儦の❷を見よ。

【儦儦】1 ㄅㄧㄠ

❶禽獸、又は人のおほいさま。〔詩、小雅、吉日〕儦儦俟俟、或群或友。〔傳〕趨則儦儦、行則俟俟。〔詩、齊風、載驅〕汶水滔滔、行人儦儦。〔傳〕儦儦、衆貌。❷さかんなさま。〔玉篇〕儦、儦儦、盛貌。

【儹】1258 サン 〔集韻〕祖管切 早 ㄗㄢˇ tsan³

あつめる。あつまる。儹(1－1315)の俗字。〔正字通〕儹、俗儹字。

【儹】1259 シツ シチ 〔篇海〕職日切 質

❶ただしい。〔篇海〕儹、正也。❷憤(4－11406)の譌字。〔康熙字典〕儹、按、集韻、有レ憤無レ儹、儹註與レ憤同、疑卽憤字之譌。

【儴】1260 シ 〔集韻〕斯義切 寘 ㄙ ssu⁴

つくす。つきる。漸(7－18328)・殲(6－16574)・斯(5－13563)に同じ。〔廣韻〕漸、盡也、云云、殲、上同、儴、上同。〔集韻〕斯、盡也、或作レ儴。〔唐書、李密傳〕敖庾之藏、有レ時而儴。

【優】1261 ㊀イウ 〔集韻〕於求切 尤 ㊁オウ 〔集韻〕烏侯切 尤 ㄧㄡ yu¹

優 小篆

㊀❶おほい。〔說文〕優、饒也、从レ人憂聲。〔小爾雅、廣詁〕優、多也。❷ゆたか。〔國語、魯語上〕獨恭不レ優。〔注〕優、裕也。❸あつい。〔廣雅、釋言〕優、渥也。〔詩、大雅、瞻卬〕維其優矣。〔傳〕優、渥也。❹ゆるやか。寬大。〔詩、大雅、瞻卬〕維其優矣。〔箋〕優、寬也。❺のびやか。ゆとりがある。〔論語、憲問〕子曰、孟公綽爲二趙魏老一則優。〔皇疏〕優、寬閑也。❻やさしい。やはらげる。〔正字通〕優、和也。〔淮南子、原道訓〕其德優二天地一、而和二陰陽一。〔注〕優、柔也。❼しとやか。閒雅。〔舊唐書、姜謇傳〕並以二優閑一自保。❽ぐづつく。定見がない。しやんとしない。〔管子、小匡〕人君惟優與不敏爲二不可一。〔注〕優、謂二透隨不斷一。❾まさる。すぐれる。〔正字通〕優、勝也。〔晉書、束晳傳〕誰劣誰優。❿たはむれる。〔正字通〕優、戲也。〔左氏、襄、六〕少相狎、長相優。〔注〕優、調戲也。⓫やくしや。わざをぎ。〔說文〕優、一曰、倡也。〔段注〕所謂俳優也。〔左氏、襄、二十八〕陳氏鮑氏之圍人爲レ優。〔注〕優、俳也。⓬樂人。〔司馬相如、上林賦〕俳優侏儒。〔注〕善曰、優、樂也。云云、濟曰、俳優侏儒、皆樂人。⓭憂(7－18571)に通ず。〔詩、小雅、信南山〕既優既渥。〔說文〕憂、澤多也、从レ水憂聲、詩曰、既憂既渥。⓮要(10－34768)に通ず。〔禮、深衣〕要縫半レ下。〔注〕要、或爲レ優。⓯姓。〔潛夫論、氏姓志〕舜臣晏龍、優姓。〔通志、氏族略、以レ技爲レ氏〕優氏、史記優孟、楚樂人也、子孫氏焉、滑稽傳有二優旃一。

㊁❶子供の發音のさま。聲のさま。或は嚘(2－4515)に作る。〔集韻〕優、伊優亞者、辭未レ定、東方朔說、或从レ口。〔漢書、東方朔傳〕伊優亞者、辭未レ定也。❷へつらふさま。〔字彙〕優、伊優、屈曲佞媚貌。

名乘 マサ。

【優愛】1 アイ 手あつくし愛する。特に目をかける。〔戰國、趙策〕客曰、郭偃之法、有二所謂桑雍者一、云云、便辟左右之近者、及夫人優愛孺子也、此皆能乘二王之醉昏一、而求二所レ欲於王一者也。

【優渥】2 アク 甚だ厚い。あつい恩澤。今は主として天恩についていふ。〔詩、小雅、信南山〕既優既渥、既霑既足、生二我百穀一。〔蜀志、鄧芝傳〕饋遺優渥。〔左思、吳都賦〕兼二儀之優渥一。〔陳書、章昭達傳〕因委以二將帥一、恩寵優渥、超二于儕等一。

【優異】3 イ もてなしを特別に厚くする。優殊。〔後漢書、周景傳〕既而選二其父兄子弟一、事相優異。〔晉書、劉寔傳〕七十致仕、亦所下以優二異舊德一、厲中廉高之風上。〔白居易、杜佑致仕制〕宜下從二優異之命一、式表中褒崇之體上。

【優爲】4 イ 力に餘裕がある。〔福惠全書、筮仕部、延幕友〕才力優爲、以便作二加增地一耳。

【優游】5 イウ ❶ひまのさま。ゆったりする。〔詩、

大雅、卷阿〕伴奐爾游矣、優游爾休矣。〔集傳〕伴奐・優游、閑暇之意。〔詩、小雅、采菽〕優哉游哉、亦是戾矣。〔箋〕諸侯有二盛德一者、亦優游自安二止於是一。〔禮、儒行〕優游之法。〔晏子、問、下〕事二惰君一者、優二游其身一。〔文子、微明〕至治優游、故下不レ賊。〔新語、愼微〕視レ之無二優游之容一。㊁自得のさま。〔班固、東都賦〕於レ是百姓莫レ不二優游而自得、玉潤而金聲一。㊂ぐづぐづしてゐること。優柔。優游不斷を見よ。〔尙書大傳、康誥〕周公將レ作二禮樂一、優二游之一三年、不レ能レ作。㊃世情や運にまかせ從ふ。〔淮南子、本經訓〕古之人同二氣于天地一、與二一世一而優游。〔注〕優游、猶二委從一也。㊄原田亮の號。原田優游(**2**-**2973**・・166)を見よ。

【優游涵泳】6 イウイウカンエイ 急がずゆつたりとして深く學藝等の義理を味ふ。〔論語、爲政、七十而從二心所一レ欲不レ踰レ矩、集注〕一以示三學者當二優游涵泳、不一レ可二躐レ等而進一。

【優游之聽】7 イウイウノチヤウ ゆつたりとして政治を聽くこと。〔魏志、劉劭傳〕惟陛下垂二優游之聽一。

【優游自適】8 イウイウジテキ ゆつたりして心のままにするさま。〔青山佩玄齊、大高源吾訣レ母書〕焚レ香禮レ佛、優游自適。

【優游恬淡】9 イウイウテンタン ゆつたりとしてあつさりしてゐるさま。〔三略、下略〕所二以優游恬淡而不一レ進者、重レ傷二人物一也。

【優游不斷】10 イウイウフダン ぐづぐづして決斷力が乏しい。優柔不斷。〔漢書、元帝紀贊〕上牽二制文義一、優游不斷、孝宣之業衰焉。

【優游不レ迫】11 イウイウセマラズ ゆつたりとしてこせつかぬ。〔滄浪詩話〕曰、優游不レ迫、曰、沈著痛快。

【優游無事】12 イウイウブジ ひまで仕事がない。〔蜀志、向朗傳〕優游無事、垂二三十年一。

【優游以卒レ歲】13 イウイウモツテトシヲヲフ ゆつたりとして一生を送る。〔孔叢子、獨治〕徒能保二其祖業一、優游以卒レ歲者也。

【優猶】14 イウイウ ゆつたりとしてやすらか。〔荀子、正論〕皆使二當厚優猶知一レ足、而不レ得下以二有餘一過上レ度。〔注〕優猶、寛泰也。云云、皆使二寛泰而知一レ足也。〔管子、君臣下〕施舍優猶以濟レ亂。

【優遊】15 イウイウ ㊀ゆつたりする。優游(5)の㊀に同じ。〔說苑、談叢〕道以二優遊一、故能化。〔後漢書、仲長統傳〕優遊偃仰、可二以自娛一。〔後漢書、符融傳〕優遊不レ仕。〔白虎通、號〕優遊博衍。㊁古代、車の上に取りつけた具。〔南齊書、輿服志〕玉輅、云云、上二望板一、前二優遊一。

【優優】16 イウイウ ㊀やはらぎ樂しむさま。〔爾雅、釋訓〕優優、和也。〔詩、商頌、長發〕敷レ政優優、百祿是遒。〔傳〕優優、和也。〔左氏、昭、二十〕布レ政優優。㊁ゆつたりとしてゐるさま。寛裕のさま。〔詩、商頌、長發〕敷レ政優優。〔集傳〕優優、寛裕之意。〔禮、大學〕優優大哉。〔疏〕優優、寛裕之貌。

【優優簡簡】17 イウイウカンカン のびやかで餘裕あるさま。〔淮南子、時則訓〕優優簡簡、百怨不レ起。〔注〕優簡寛舒之貌。

【優逸】18 イウイツ やすらかなこと。〔後漢書、鄭太傳〕百姓優逸、忘レ戰日久。

【優繇】19 イウエウ ㊀官に仕へず、のびやかにしてゐる。〔漢書、敍傳上〕近者陸子優繇、新語以興。〔注〕鄭氏曰、優繇、不レ仕也。㊁心がひろびろとしてやすらかなこと。寛容。〔漢書、敍傳下〕賓二禮故老一、優繇亮直。〔注〕優繇、寛容也。

【優越】20 イウエツ 他のものよりすぐれまさつてゐること。〔北史、魏常山王遵傳〕所二以贈禮優越一。

【優越感】21 イウエツカン 他のものよりすぐれまさつた點を自覺すること。自らえらいと思ふ感じ。

【優越性】22 イウエツセイ 他のものにすぐれてゐるよい性質。

【優越民族】23 イウエツミンゾク 他より勝れ秀でた素質を「持つ民族。

【優艷】24 イウエン ものやさしくあでやか。

【優婉】25 イウエン ものやさしくあでやか。

【優恩】26 イウオン 格別な恩。優渥な恩澤。〔舊唐書、代宗紀〕上接以二優恩一、結爲二兄弟一。

【優加】27 イウカ べつだん。格別。

【優假】28 イウカ 手あつくもてなす。優待。寛待。〔後漢書、劉愷傳〕肅宗美二其義一、特優二假之一。〔注〕假、借也。

【優歌】29 イウカ ゆつたりとして歌ふ。〔文心雕龍、明詩〕暇豫優歌遠見二春秋一、邪徑童謠近在二成世一。

【優雅】30 イウガ やさしくみやびやか。

【優考】31 イウカウ つとめ方のよい者。〔福惠全書、典禮部、朝覲大計〕大約優考居レ多、而劣者不レ與也。

【優狡】32 イウカウ 俳優をいふ。一說に、狡は其の名ともいふ。〔左氏、哀、二十五〕公使三優狡盟二拳彌一。〔注〕優狡、俳優也。〔會箋〕優狡、以二優施一例レ之、優人名狡、以レ狡爲レ名者、宣十二年、楚有二唐狡一。

【優角】33 イウカク 數學用語。共軛角の大きい方の角をいふ。劣角(**2**-**2302**・・2)の對。共軛角(**2**-**1458**・・171)を見よ。

【優洽】34 イウカフ あまねく行きわたる。均霑。光被。〔易林〕仁德優洽、恩及二異域一。〔顏延之、赭白馬賦〕文教迄已優洽。

【優閑】35 イウカン ゆつたりとしたさま。ゆつたりとして閒暇あるさま。しとやか。優閒。〔顏氏家訓、涉務〕皆優閑之過也。〔舊唐書、姜謩傳〕南陽故人、竝以二優閑一自保。

【優閒】36 イウカン 優閑に同じ。

【優毅】37 イウキ 氣立てはやさしくて志がつよい。〔馬融、長笛賦〕溫直優毅、孔孟之方也。〔注〕善曰、溫和正直、柔而能毅也。

【優戲】38 イウギ 狂言。芝居。

【優給】39 イウキフ 手厚く待遇する。〔舊唐書、憲宗紀下〕軍前擒二到李師道將夏侯澄等四十七人一、詔並釋付二魏博及義成軍一收管、要レ還二賊中一者、則量レ事優給放還。

【優遇】40 イウグウ 手あつくもてなす。優待(100)に同じ。〔福惠全書、蒞任部、待紳士〕特加二優遇一。

【優會】41 イウクワイ 結構な振舞。〔福惠全書、教養部、敦節儉〕反裝二優會一以飾レ觀。

【優寛】42 イウクワン ゆるやか。〔後漢書、史弼傳論〕夫剛烈表レ性、鮮二能優寛一、仁柔用レ情、多乏二貞直一。

【優緩】43 イウクワン ゆるやか。〔後漢書、卓魯魏劉傳贊〕寛・霸臨レ政、亦稱二優緩一。

【優劇】44 イウゲキ わざをぎ。〔後漢書、循吏、劉寵傳〕繇攜接收養、與同二優劇一、甚得二名稱一。

【優缺】45 yu¹ ch'üeh¹ 良い職務。

【優眷】46 イウケン 厚いなさけ。特別な贔屓。深眷。〔元載、相國杜鴻漸碑〕優眷愈深。

【優劍】47 イウケン 非常によい劍。〔唐船噺今國性爺〕以上三ふりの優劍なくてはかなはじと。

【優賢】48 イウケン すぐれてかしこい。〔左思、魏都賦〕優賢著二於揚歷一、匪孽形二於親戚一。

【優顯】49 イウケン すぐれてあらはれる。〔晉書、張賓載記〕任遇優顯、寵冠二當時一。

【優言】50 イウゲン やさしい言葉。〔顏氏家訓、序致〕賜以二優言一、問レ所二好尙一。

【優弧】51 イウコ 數學用語。二つの弧が合して一圓周をなすとき、大なるものを優弧といひ、小なるものを劣弧といふ。共軛弧(**2**-**1458**・・172)を見よ。

【優厚】52 イウコウ てあつい。〔晉書、魏舒傳〕舒薨時「年八十二、帝甚傷悼、賵賻優厚。

【優貢】53 イウコウ 淸の制度で、三年每に教官が在學中の各生から、優行の者を選擧して考定保送すること。卽ち大省は六人、中省は四人、小省は二人を出し、之を朝廷で考定した後、一等の者は知縣に、二等は教職に、三等は訓導とし、惡いものは歸鄕させることとした制度。〔淸會典、國子監〕凡貢生之別六、曰歲貢生、曰恩貢生、曰拔貢生、曰副貢生、曰優貢生、曰例貢生。〔注〕每二三歲一、各省學政、選二學中優行者一貢レ之、其由二廩生增生一擧報者、是爲二優貢生一。〔淸國行政法汎論、官吏法、文官仕途種類、貢生〕優貢生、各省學政、每レ遇二三年一、就二廩生中一、擧二其優秀者一、貢二於國子監肄業一、謂二之優貢生一。

【優諢】54 イウコン わざをぎのたはむれ。道化。〔唐書、史思明傳〕愛二優諢一。

【優雜】55 イウザツ 猿のまねをしてたはむれる。獶雜。〔北史、儒林下、何妥傳〕鄭衞之音者、姦聲以亂、溺而不レ止、優二雜子女一、不レ知二父子一。〔資治通鑑、唐紀〕(憲宗、元和十五年)優二雜子女一。〔注〕樂記、獶二雜子女一、鄭注曰、獶、或爲レ優、孔穎達曰、獶雜、謂二獮猴一也、言、舞戲之時、狀如二獮猴一閒二雜男子婦人一無レ別也。

【優士】56 イウシ ㊀賢士を優待する。〔漢書、游俠、陳遵傳〕大司徒馬宮大儒、優レ士又重レ遵。〔注〕師古曰、優二禮賢士一、而尤敬二重遵一。㊁すぐれた士。

【優子】57 イウシ 俳優のともがら。〔唐書、郝處俊傳〕俳兒優子、言辭無レ度、爭二負勝一相譏誚、非丁所丙

以導二仁義一、示乙雍和甲也。

【優旨】58 イウシ　やさしい言葉。手厚いおほせ。〔日本外史、德川氏前記、織田氏〕德川公優旨慰藉。

【優施】59 イウシ　春秋、晉の獻公の俳優の名。〔穀梁、定、十〕齊人使三優施舞二於魯君之幕下一、孔子曰、笑レ君者、罪當レ死、使二司馬行一レ法焉、首足異レ門而出。〔注〕優、俳、施、其名也。

【優辭】60 イウジ　言葉を良くする。又、よいことば。〔後漢書、卓茂傳論〕首加二聘命一、優レ辭重レ禮。

【優秀】61 イウシウ　すぐれひいでる。優等。

【優柔】62 イウジウ　❶やさしい。おとなしい。又、やさしくする。〔國語、周語下〕所二以優柔容一レ民也。〔王褒、洞簫賦〕優柔溫潤、又似二君子一。〔孔子家語、入官〕慈愛以優二柔之一。❷ゆつたりしたさま。又、ゆつたりさせる。從容。〔杜預、春秋左氏傳序〕優而柔レ之、使二自求一レ之。〔疏〕優柔倶訓爲レ安、寬舒之意也、優二游學者之心一、使三自求二索其高意一。❸急がずゆつくりとよく學ぶこと。〔魏書、鄭道昭傳〕垂二心經素一、優二柔墳籍一。❹無氣力。ぐづぐづしてゐる。〔唐書、褚遂良傳〕昔漢武帝行二岱禮一、優柔者數年。

〔優柔饜飫〕63 イウジウエンヨ　ゆつたりした心持で學び、滿足して其の意義を味ふ意。〔杜預、春秋左氏傳序〕優而柔レ之、使二自求一レ之、饜而飫レ之、使二自趨一レ之。

〔優柔不斷〕64 イウジウフダン　ぐづぐづとして決斷の遲いこと。はきはきときまらないこと。因循。

【優者】65 イウシヤ　すぐれた人。

【優倡】66 イウシヤウ　わざをぎ。優侏。優伶。〔史記、孔子世家〕優倡侏儒、爲レ戲而前。〔管子、立政〕優倡侏儒、起而議二國事一矣。〔新書、孽産子〕賈婦優倡。

【優奬】67 イウシヤウ　手あつく譽めすすめる。〔南史、齊武帝紀〕今區宇寧晏、宜レ加二優奬一。〔白居易、薦二李晏韋楚一狀〕身典二三郡一、家無二一金一、據二此清廉一、別堪二優奬一。

【優賞】68 イウシヤウ　手厚く賞する。又、其の褒美。〔韓愈、元和聖德詩〕優二賞將吏一、扶珪綴組、帛堆二其家一、粟塞二其庾一。

【優侏】69 イウシユ　わざをぎ。優倡。〔禮、樂記〕優侏儒獶二雜子女一。〔疏〕及獶侏儒獶二雜子女一者、言、作レ樂之時、及有二俳優雜戲侏儒短小之人一、優雜、謂二獼猴一也、言、舞戲之時、狀如二獼猴一、間二雜男子婦人一、言レ似二獼猴男女無一レ別也。

【優殊】70 イウシユ　もてなしが特別に手厚い。優異。〔歐陽脩、謝二致仕一表〕寵命優殊、特加二於常品一。

【優恤】71 イウジユツ　手厚いめぐみ。〔南部新書〕漢隱帝賜二諸伶錦袍玉帶一、史弘筆奪レ之還レ官曰、健兒戍レ邊、寒暑未レ有二優恤一、爾輩不レ當也。

【優所】72 イウシヨ　原簡の號。原松洲（**2**−**2973**・・250）を見よ。

【優敍】73 イウジヨ　官吏の特別な功績に對し、通常に倍して官等を進めること。〔六部成語、吏部、優敍、注解〕加レ倍議、賜二奬勸一。

【優升】74 イウシヨウ　優遇して官位を升せる。〔白居易、盧元勳除二隰州刺史一制〕雖レ有二優升一、未レ酬二義烈一。〔宋史、選擧志〕氣象文藝、竝得二優升一。

【優陞】75 イウシヨウ　官位の升ること。〔福惠全書、雜課部、新墾〕爲二本官加級優陞之徑一。

【優勝】76 イウシヨウ　最もすぐれること。第一位で勝つこと。又、すぐれた勝利。大勝利。

〔優勝旗〕77 イウシヨウキ　優勝者に其の名譽を顯彰する爲に與へる旗。

〔優勝者〕78 イウシヨウシヤ　第一位で勝つた人。

〔優勝杯〕79 イウシヨウハイ　競技會等で競技に優勝した者に與へる記念の杯。

〔優勝候補〕80 イウシヨウコウホ　豫め優勝するであらうと認められる者。

〔優勝劣敗〕81 イウシヨウレツパイ　生存競爭上で、優るものは勝ち、劣るものは負け、勝つものは生存發展し、劣るものは衰滅する現象をいふ。

【優深】82 イウシン　すぐれてふかい。〔後漢書、周擧傳〕詔書以二擧才學優深一、特下レ策問。

【優愼】83 イウシン　よくつつしむ。〔班固、典引〕雖レ云二優愼一、無二乃葸一與。〔注〕蔡邕曰、愼而無レ禮則葸。

【優人】84 イウジン　❶俳優。〔琅琊代醉編、優人〕咸通中、優人李可及、滑稽諧戲、獨出二輩流一、雖レ不レ能レ托二諷諭一、然巧智敏捷、亦不レ可二多得一。〔剪燈新話、天台訪隱錄〕優人獻二誦樂語一。❷氣長の人。優長な人。

【優崇】85 イウスウ　❶優遇したつとぶ。〔魏志、王肅傳〕魏之待レ公優崇、而不レ臣。〔周書、武帝紀〕諸柱國等、勳德隆重、宜レ有二優崇一。❷すぐれて高い。

【優勢】86 イウセイ　勢がすぐれてゐる。勝ち氣味。

【優笑】87 イウセウ　座興を助けるもの。役者・幇間の類。〔國語、齊語〕優笑在レ前。〔注〕優笑、倡俳也。〔韓非子、八姦〕優笑侏儒、左右近習。〔新書、春秋〕遠二忠道一而貴二優笑一。〔元稹、論二教本一書〕優笑陵亂之聲。

【優詔】88 イウセウ　手厚いみことのり。優渥な詔勅。〔後漢書、光武十王、東平憲王蒼傳〕帝優詔不レ聽。〔唐書、李綱傳〕固請レ老、優詔解二尚書一。

【優饒】89 イウゼウ　ゆたか。〔後漢書、仲長統傳〕君子非下自農桑以求二衣食一者上也、蓄積非下橫賦斂以取二優饒一者上也。〔白居易、自二賓客一遷二太子少傅分司一詩〕優饒又加レ俸、閑穩仍分レ曹。

【優惜】90 イウセキ　優遇し惜しむ。大切にする。〔顏氏家訓、涉務〕晉朝南渡、優二惜士族一。

【優錫】91 イウセキ　ほめ賜ふ。又、其の賜物。〔隋書、魏澹傳〕太子勇深禮二遇之一、屢加二優錫一。

【優先】92 イウセン　他人に先立つて行使すること。

〔優先權〕93 イウセンケン　普通の債權者に先んじて權利を實行し得る權利。

〔優先股〕94 yu¹ hsien¹ ku³　優先株。

〔優先株〕95 イウセンカブ　會社が資本增加の場合に發行するもので、其の株主に對して、普通の者に比し一種の優先權を認める株式。

【優旃】96 イウセン　秦の俳優。侏儒で善く戲言をするが、大道に合してゐた。秦の始皇は苑囿を大きくしようとし、二世は城を漆しようとしたが、皆優旃の諷を以て止めた。〔史記、一百二十六〕

【優僭】97 イウセン　身分をこえる。〔顏氏家訓、敎子〕禮數優僭、不下與二諸王一等上。

【優遷】98 イウセン　よい官にうつる。高官にのぼる。〔宋史、選擧志四〕乃無二優遷一。

【優贍】99 イウセン　❶すぐれてゆたか。〔後漢書、蔡邕傳〕人人有二優贍之智一。❷國家が文武官の遺族を優遇して補助すること。〔明律、職制〕闕二請俸給一、優二贍其家一。

【優待】100 イウタイ　手あつくもてなす。優遇。〔蜀志、來敏傳〕東宮舊臣特加二優待一。〔宋史、王嗣宗傳〕遊二京師一、以レ文謁二王祐一、頗見二優待一。

〔優待券〕101 イウタイケン　持參者に對し特別の待遇を與へることを規定した招待券。

〔優待生〕102 イウタイセイ　學業優等品行方正の故で、學校から特別の恩典を與へられる生徒。

【優貸】103 イウタイ　手厚くもてなす。よくあしらふ。優遇。優待。〔後漢書、袁安傳〕還レ之足レ示二中國優貸一。〔南史、謝述傳〕先朝舊勳、宜レ蒙二優貸一。〔白居易、答下李扞謝レ許二遊宴一表上〕弘二優貸之恩一。

【優台】104 イウダイ　東夷の高句驪の官名。〔後漢書、東夷傳〕其置レ官、有二相加・對盧・沛者・古鄒大加・主簿・優台一。

【優答】105 イウタフ　手厚い返事。優報。〔陳書、姚察傳〕乃累進讓、竝優答不レ許。〔北齊書、陽休之傳〕帝優答不レ許。

【優秩】106 イウチツ　てあつい俸給。〔南史、孫謙傳〕詔加二優秩一、給二親信二十人一。

【優長】107 イウチヤウ　❶すぐれて秀でる。優等。〔唐書、韓琬傳〕弟又擧二文藝優長賢良方正一。❷落著いて氣の長いこと。悠長。

【優場】108 イウヂヤウ　芝居の舞臺。芝居小屋。劇場。〔陸游、春社詩〕太平處處是優場。

【優諚】109 イウヂヤウ　天皇のありがたい仰せごと。

【優除】110 イウヂヨ　特別に手厚い任命。〔剪燈餘話、泰山御史簿〕優除眞拜二於烏臺一。

【優寵】111 イウチヨウ　てあつくし愛する。特に目をかける。〔後漢書、李通傳〕帝每優二寵之一。〔後漢書、郎顗傳〕朝廷前加二優寵一。〔魏志、明帝紀〕甚見二優寵一。

【優調】112 イウテウ　特別に遣はされる。〔書言故事、仕進類〕參部註差爲二赴調一、別差曰二優調一。

【優等】113 イウトウ　勝れ秀でる。優長（107）の❶に同じ。〔青箱雜記〕張景惟袖二一書一、簾前獻レ之得二優等一。

【優童】114 イウドウ　童のわざをぎ。小供役者。〔泉南雜志〕優童媚趣者、不レ容二高價一、豪奢家攘而有レ之、蟬鬢傳粉、日以爲レ常。

【優任】115 イウニン　特別に高い官職に任ずること。〔六部成語、吏部、優任、注解〕優加二任用一、給以二高等之職一。

【優波】116 バウ　佛　付法藏の第四祖。優波笈多の略稱。〔梁簡文帝、莊嚴旻法師成實論義疏序〕末地之報已終、優波之身且謝。

【優波笈多】117 ㊐ Upagupta の音譯。付法藏の第四祖。近護・近藏等の意。優波堀多・鄔波毬多等と音寫する。阿育王經卷三に、佛、摩突羅國にて阿難に、我、百年の後、摩突羅國に毬多長者の子有り、ウパキクタと名づく、禪法を教授すること弟子中最も第一なり、と告げたとある。又、善見律毘婆沙卷一等に阿育王の師として擧げる目犍連子帝須と異名同人であるとも言はれてゐる。

【優俳】118 人形つかひ。役者。〔史記、李斯傳〕是時二世在二甘泉一方作二觳抵優俳之觀一。

【優報】119 てあつく報いる。てあつい返事。優答。〔南史、虞玩之傳〕玩之上表、陳二府庫錢帛、器械役力、所懸轉多、興用漸廣、慮不レ支二歲月一、朝議優二報之一。

【優博】120 ひろい。〔吳志、士燮傳〕學問優博。

【優鉢】121 ㊐優鉢羅の略稱。〔法華經、隨喜功德品〕優鉢華之香、常從二其口一出。〔蘇軾、贈二蒲澗長老一詩〕優鉢曇花豈有レ花、問レ師此曲唱誰家。

【優鉢羅】122 ㊐花の名。utpala の音譯。宸垣識略によると、其の花は必ず四月八日を以て開き、冬に實を結ぶ。鬼蓮花の如くで、其の衣を去れば、金色の佛像に酷似してゐる。禮部儀制司に此の花があつたが、今は無いといふ。〔慧苑音義、上〕優鉢羅、具正云二尼羅烏鉢羅一、尼羅者、此云レ青、烏鉢羅者、花號也、其葉狹長、近レ下小圓、向レ上漸尖、佛眼似レ之、經多爲レ喩、其花莖似レ藕、稍有レ刺也。〔岑參、優鉢羅花歌序〕參嘗讀二佛經一、聞有二優鉢羅花一。「比。

【優比】123 數學用語。前項が後項より大きな品がよくて麗しい。やさしくうつくしい。〔後漢書、蔡邕傳〕若器用優美、不レ宜レ處二之冗散一。〔北史、魏諸宗室、臨淮王彧傳〕三人才學、雖二竝優美一、然安豐少二於造次一、中山皃曰太多、未レ若二濟南風流寬雅一。

【優筆】125 書に巧なこと。

【優敏】126 勝れてさとい。秀でて賢い。〔周書、崔猷傳〕機神穎悟、文學優敏。

【優普】127 手厚くて廣くゆきわたる。〔宋史、莎衣道人傳〕合二雲水之士一、施予優普。

【優復】128 課役を免じて家に歸し本業に復せしめること。〔令集解、賦役令〕復、謂レ令レ還二本業一也、去二本居一已絕二其產業一、故優二復業一、除二其課役雜役一。

【優福】129 ゆたか。裕福。〔易林〕登レ丘上レ山、對レ酒遇レ歡、終レ年卒レ歲、優福無レ患。

【優別】130 すぐれた地位。〔何承天、安邊論〕甲科上第、漸就二優別一。「者多得二優便一。

【優便】131 よい都合。〔宋史、選擧志五〕有レ力優保132 yu1 pao3 官吏に特別の優遇を與へる。

【優孟】133 春秋、楚の名優。楚の莊王に事へた。孫叔敖の卒後、其の子が貧困であつたので、優孟は假りに孫叔敖となり、其の衣冠を著け、歌を作つて莊王を感ぜしめ、遂に叔敖の子をして封を得しめた。〔史記、一百二十六〕。

【優孟衣冠】134 優孟が孫叔敖の衣冠を著けた意で、外形だけ似てその實の異なる喩。似て非なるもの。優孟を見よ。〔史記、優孟傳〕優孟卽爲二孫叔敖衣冠一、抵掌談語、歲餘、像二孫叔敖一、楚王及左右不レ能レ別也。

【優命】135 てあつい命令。〔魏志、王烈傳〕光寵並臻、優命屢至。

【優免】136 おほめに見る。ゆるす。又、其のこと。〔北史、齊後主紀〕優二免租調一。〔福惠全書、編審部、攢造審冊〕如二紳衿丁一、係二優免除丁一。

【優養】137 手厚いやしなひ。又、手厚く養ふ。〔漢書、韋玄成傳〕宜レ優二養玄成一。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕皆象二有鼻一、不レ任以政一、云云、惟陛下審覽二虞帝優二養母弟一、遵二承舊典一、終卒二厚恩一。

【優裕】138 ゆたか。十分。〔國語、周語上〕享祀時至、而布施優裕也。

【優與】139 ためらふ。猶豫(7－20557：27)に同じ。〔管子、小匡〕人君唯優與不敏爲二不可一。〔注〕優與、謂二遲隨不斷一。

【優餘】140 すぐれ足ること。ありあまること。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕酌二己之力量優餘一、莫レ若二勉爲一接受一。

【優容】141 てあつく容れ用ひる。〔漢書、鮑宣傳〕上以二宣名儒一、優二容之一。〔魏志、明帝紀〕雖レ不レ能レ聽、常優二容之一。〔舊唐書、德宗紀上〕因下多二詆訐一、不上適二時宜一、上亦優容遣レ之。

【優勞】142 手厚くいたはる。〔宋史、許奕傳〕行成還奏、帝優勞久之。

【優樂】143 氣らくにする。〔柳宗元、桐葉封レ弟辯〕吾意、周公輔二成王一、宜下以レ道從容優樂、要上歸二之大中一而已。

【優攬】144 よい位置を占める。他よりもすぐれた、よい場所を占領する。〔安井息軒、錦山神祠改建記〕遠望二蘇岳一、近接二江津一、優攬形勢之勝一。

【優留】145 單于の名。〔後漢書、南匈奴傳〕斬二優留單于一、取二其匈奴皮一而還。

【優隆】146 手厚くしたつぶ。又、其のこと。〔魏志、齊王芳傳〕所下以優二隆魯父一、必有上尊也。〔宋史、欽宗朱皇后傳〕務致二優隆一。

【優伶】147 やくしや。伶は樂人。優倡。〔樂府雜錄、俳優〕命二優伶一戲弄辱レ之。

【優例】148 特別待遇。特典。

【優禮】149 禮をあつくし待遇すること。〔漢書、劉向傳〕每二進見一、常加二優禮一。

【優麗】150 しとやかでうるはしい。

【優劣】151 おとりまさり。よしあし。高下。〔魏志、高貴鄉公傳〕將主有二優劣一邪。〔應璩、與二廣川長岑文瑜一書〕優劣異レ姿。〔晉書、陸機傳〕議者以レ此定二二陸之優劣一。〔白居易、答二友問一詩〕詠レ此知二優劣一。

【優劣得レ所】152 優者と劣者とが各〻其の能力によつて宜しき所を得る。〔諸葛亮、出師表〕使二行陣和睦、優劣得一レ所。

【優憐】153 厚くあはれむ。〔李嘉祐、送二從叔陽冰祇召赴一都詩〕常時矜二禮數一、漸老荷二優憐一。

【優監生】154 清の制度で、國子監監生の別稱。府州縣學の附生・武生から出て朝考に合格して入學した者。〔清會典、國子監、監生之別四、曰恩監生、曰廕監生、曰例監生、曰例監生。〔注〕優行生、由二附生或武生一擧報者、是爲二優監生一。

【優境學】155 ㊐優曇は梵語、優曇鉢羅 Udumbara の略語。三千年に一たび花が開くといふ植物で、花が開く時、金輪王が出るといふ。優曇鉢花。轉じて、極めて稀に有る喩。千載一遇。〔法華文句、四上〕優曇花者、此云二靈瑞一、三千年一現、現則金輪王出。〔慧琳音義、八〕優曇花、訛略也、正音烏曇跋羅、此云二祥瑞靈異一、天花也。〔慧苑音義、下〕烏曇花、此云二希有一也、此花多時乃一開也。〔廣志〕狀似二枇杷一、不レ花而實。㊐くさかげろふといふ蟲の卵。白毛端に小さい白い玉をつけた形をなし、忌み嫌はれる。

【優婆夷】164 ㊐ Upāsikā の音譯。出家しないで佛弟子となつた女子。清淨女。近事女。〔魏書、釋老志〕俗人之信二憑道法一者、男曰二優婆塞一、女曰二優婆夷一。〔大藏法數〕梵語優婆夷、華言二

【優古堂】156 宋、吳幵(2－3365：156)の室名。

【優古堂詩話】157 書名。一卷。宋、吳幵撰。凡そ一百五十四條。主として詩家の用字鍊句等に就いて記して居る。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【優語錄】158 書名。一卷。民國、王國維撰。戲劇に關して考說す。〔王忠慤叢書、第四冊〕。

【優生學】159 遺傳學の原理を應用して、人類の素質改善を圖るを目的とする學をいふ。

【優嬈嬈】160 やはらか。柔弱。〔王褒、洞簫賦〕優嬈嬈以婆娑。〔注〕翰曰、風吹、其聲相連不レ絕、而優遊柔雅分散也、嬈嬈、柔雅貌。

【優陀那】161 ㊐ Udāna の音譯。㊉語言を發する時に口から出る風。憂陀那、鄔陀南。〔智度論、六〕如二人欲レ語時、口中風出、名二優陀那一。㊂丹田をいふ。〔翻譯名義集、六〕優陀那、天台禪門曰、此云二丹田一。㊂一切經を十二種類に別けた名の一つ。自說と譯し、問者がないのに佛自ら說く經文をいふ。憂陀那。〔玄應音義、二十四〕鄔拖南、舊曰二優陀那一、自言二自說一、謂下不レ待二請問一而自說上也、卽無問自說經是也。

【優填王】162 ㊐ Udayana の音譯。又は優陀延・鄔陀衍那・鄔陀演那伐蹉などとも書く。拘睒彌國の王の名。出愛と譯す。〔大唐西域記、五〕鄔陀衍那王、唐言二出愛一、舊云二優塡王一、訛也。

清淨女一。〔玄應音義、二十一〕鄔波斯迦、或言二優波賜迦一、此云二近善女一、言二優波夷一者、訛也。

【優婆塞】165 ウバソク 佛 Upāsaka の音譯。出家しないで佛弟子となつた男子。清淨士。近事男。〔魏書、釋老志〕俗人之信二憑道法一者、男曰二優婆塞一。〔大藏法數〕梵語優婆塞、華言二清淨士一。〔圓覺經〕優婆塞・優婆夷、此在家二衆。〔大唐西域記、九、摩揭陁國下〕鄔波索迦、唐言二近事男一、舊曰二伊蒲塞一、又曰二優波塞一、皆訛也。

【優婆離】166 ウバリ 人名。Upāli の音譯。㊀釋迦族に仕へた理髮師。佛弟子となり、持律第一と稱せられ、佛滅後、律藏を結集した。優婆利。鄔婆離。憂婆離。優波離。近執。〔本行集經、五十三〕。㊁尼犍外道の弟子。佛の教を破らうとして來たが、却つて佛に說破せられ其の教化を受けて居士となる。〔中阿含、三十二〕知二優婆離居士是尼犍弟子一、今者竟爲二誰弟子一耶。

【優卑亞】167 エウボイア 島の名。エーゲ海中に在るギリシヤ諸島中、最大のもの。ギリシヤ本土と橋によつて結ばれてゐる。Euboia の音譯。

【優樓迦】168 ウルカ 人名。Ulūka の音譯。迦那陀又は蹇拏陀(kaṇāda)といひ、優樓佉・嘔露迦とも書く。印度六派哲學の一たる、勝論學派の開祖。推定年代は前一五〇—五〇年である。〔百論疏、上之中〕。勝論經の作者ともせられてゐる。

【優課糧種】169 イウクワリヤウシュ 農業奬勵のために穀物の種子を給すること。〔補宋書、食貨志〕宜レ加二優課糧種一、所レ須以レ時貸給。

【優哉游哉】170 イウナルカナイウナルカナ 從容として迫らない意。〔詩、小雅、采菽〕優哉游哉、亦是戾矣。〔左氏、襄、二十一〕叔向曰、與二其死亡一若何、詩曰、優哉游哉、聊以卒レ歲、知也。〔史記、孔子世家〕蓋優哉游哉、維以卒レ歲。

【優駿競走】171 イウシユンキヤウソウ 特に血統の良い駿馬を一定の規約によつて登錄し、明け四歲の春に競走させる競馬。ダービー。

【優則學舍】172 イウソクガクシヤ 安政元年、德川幕府が伏見に設置した學校。論語、子罕篇の子夏曰、仕而優則學、學而優則仕に本づく。

【優曇鉢花】173 ウドンバツゲ 印度で三千年に一度花が咲くと稱する想像上の植物。優曇華(163)に同じ。〔南史、竟陵文宣王子良傳〕子良啓二進沙門一、於二殿戸前一誦レ經、武帝爲レ感、夢見二優曇鉢花一。

【優婆提舍】174 ウバダイシヤ 佛 優波提舍・優波替舍ともいふ。㊀ Upadeśa の音譯。十二部經の一。論議。又、經を釋したもの、單に論ともいふ。〔大乘義章、一〕優婆提舍、此名二論議一、問答論レ理、名二論議經一。㊁舍利弗の異名。Upatiṣya の音譯。父の名、提舍を踏襲したものといふ意。〔玄應音義、四〕或言二優婆提舍一者、從レ父名レ子也。

【優龍劣虎】175 イウリヨウレツコ 優れたものは龍鳳の如く、劣つたものでも虎豹の如くである。〔南齊書、王僧虔傳〕戒レ子書曰、王家門中、優者則龍鳳、劣者猶二虎豹一。

【優樓頻螺】176 ウルビンラ 佛 Uruvilva の音譯。又、漚樓頻螺ともいふ。木の名。木瓜をいふ。

【優婆尼沙曇】177 ウパニシヤツド 佛 Upaniṣad の音譯。印度哲學書の名。奧義書と譯さる。一時に成立したものでなく、又一人の著作でもない。その成立年代は西曆紀元前七八世紀に在る。婆羅門傳說の宗教的色彩を脫却して、梵我不二の義を說き、自由思索の哲學を確立している。

【僇】1262 カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 肴

さかん。〔方言、二〕僇、盛也、陳宋之閒曰レ僇。〔正字通〕僇、俗字、舊註、音勞、盛也、誤。

【⿰亻罷】1263 ヒ 〔集韻〕補靡切 紙

㊀とまる。〔廣韻〕⿰亻罷、停⿰亻罷。㊁罪人をゆるしかへす。〔集韻〕⿰亻罷、遣二有罪一。㊂罷(9-28336)に同じ。〔集韻〕罷、遣二有罪一、或从レ人。㊃姓。〔集韻〕⿰亻罷、亦姓。

【⿰亻數】1264 ソク 〔正字通〕蘇谷切 屋

⿰亻數振は國の名。肅愼(9-29225··52)・息愼(4-10601··61)・稷愼(8-25207··18)・女眞(3-6036··195)に同じ。今の滿洲吉林省の境にあたる。〔正字通〕⿰亻數、音速、⿰亻數振、國名、卽肅愼也。〔後漢書、文苑、杜篤傳〕獲二昆彌一、虜二⿰亻數振一。〔注〕方言、振、養レ馬人也、字書、振、音眞、字書無二⿰亻數字一、諸家並曰、⿰亻數振爲二粟膻一、西域國名也、傳讀如レ此、不レ知レ所レ出、今有二肅特國一、恐是也。

【⿰亻㒼】1265 バン

滿(7-18099)の古字。〔字彙補〕⿰亻㒼、古文滿字。

【僣】1266 音義未詳

〔字彙補〕僣、方國之僣、言國之僣、乳國之僣、見二元子一、音未レ詳。

【儭】1267 シン

瀙(7-18559)に同じ。〔篇海類編〕儭、與レ瀙同。

【⿰亻輩】1268 ハイ 〔篇海類篇〕布妹切 隊

なかま。とも。〔篇海類篇〕⿰亻輩、等輩也。

【儇】1269 ケン

儇(1-1188)の本字。〔正字通〕儇、本作レ儇。

【儷】1270 レイ

儷(1-1311)の略字。〔宋元以來俗字譜〕儷、嶺南逸事作レ儷。

十六畫

【⿰亻褭】1271 デウ ネウ 〔集韻〕乃了切 ㄋㄧㄠˇ 篠 niao3

㊀うつくしい。或は嬝(3-6882)に作る。〔集韻〕⿰亻褭、美也、或从レ女。㊁まげる。くねる。〔韻會〕⿰亻褭、增韻、舞者⿰亻褭二身若一レ環也。㊂細腰のさま。㛹⿰亻褭。細腰。〔韻會〕⿰亻褭、一云、㛹⿰亻褭、細腰。㊃褭(10-34509)に同じ。〔正字通〕⿰亻褭、同レ褭。

【⿰亻翫】1272 コン ゴン 〔字彙〕胡困切 願

たはむれる。翫(9-28766)に同じ。〔字彙〕⿰亻翫、戲也。〔康熙字典〕⿰亻翫、按、⿰亻翫字、玉篇・廣韻・集韻諸書皆不レ載、疑卽翫字之譌。

【⿰亻憨】1273 カン

憨(4-11244)の俗字。〔正字通〕⿰亻憨、俗憨字。

【儭】1274
㊀シン 〔集韻〕初覲切 ㄔㄣˋ ch'en4 震
㊁シン 〔集韻〕七刃切 震
㊂シン 〔集韻〕雌人切 ㄑㄧㄣ ch'in1 眞

㊀㊀いたる。〔一切經音義、四〕儭、至也。㊁ちかい。〔一切經音義、四〕儭、近也。㊂おそれる。〔廣韻〕儭、畏也。㊃うら。襯(10-34712)に通ず。〔廣韻〕儭、裏也。〔正字通〕儭、裏也、與レ襯通、別作レ𧡟。㊄しく。〔集韻〕儭、藉也。㊁姻戚をいふ。〔集韻〕親、婚姻相謂爲レ親、或作レ儭。㊂㊀おや。通じて親(10-34918)に作る。〔集韻〕儭、父母稱、通作レ親。㊁ほどこす。嚫(2-4561)に通ず。〔翻譯名義集、四、衆善行法篇〕達嚫、云云、此云二財施一、字或從レ手。〔辭海〕嚫、云云、法苑珠林作レ䞋、齊書作レ儭、亦同。

【儭錢】1 シンセン 佛事を修める者が僧に與へる錢。布施。〔南史、張融傳〕殷淑儀薨、建レ齋灌レ佛、

僚佐儸者、多至二一萬一、少不レ減二五千一、融獨注二儸百錢一。〔通俗編、貨財、儸錢〕按、作二佛事一者、給レ僧直曰レ儸、而前人用レ字各不レ同、翻譯名義云、達嚩、此云二施財一云云、其嚩字从レ口、寒山詩、封疏請二名僧一、嚩錢兩三樣、云云、其嚩字从レ貝、吳均續齊諧記、蔣潛以二通天犀一導二上晉武陵王晞一、晞薨、以襯二衆僧一、其襯字从レ衣。

【歷】1275 レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 錫

人名。〔集韻〕歷、人名。

【儽】1276 クヮイ 傀(1－928)・瓌(7－21342)・儽(1－1282)に同じ。〔廣韻〕傀、大皃、又美也、盛也、亦怪異、瓌・儽、亦同。〔正字通〕儽、傀・儳並同。

【儳】1277 トウ ドウ 〔集韻〕徒登切 蒸

❶長いさま。倭儳。〔玉篇〕儳、倭儳、長皃。❷或は僜(1－1102)に作る。〔集韻〕儳、或作レ僜。

【儸】1278 カイ ガイ 〔集韻〕下介切 卦

❶せまい。〔集韻〕儸、博雅、陿也。〔揚雄、反離騷〕何文斐而質儸。❷すみやか。〔集韻〕儸、一曰、速也。❸鎩(12－43243)に同じ。〔集韻〕儸、或省。

【億】1279 ヨク 億(1－1178)の本字。〔正字通〕億、億本字。

【儅】1280 キ 〔集韻〕羽委切 紙

❶おちつかぬ。〔玉篇〕儅、謂二之佇一不レ安也。❷船の動揺するさま。〔方言、九〕儅、謂二之佇一、佇不レ安也。〔注〕儅、船動搖之貌也。〔箋疏〕戴氏据二玉篇儅謂二之佇一、改レ儅作レ儳、又、据二曹毅之本一、改レ佇作レ抌。

【儽】1281 ロウ ル 〔集韻〕魯孔切 董 カメン lung³

リョウ リュ 〔集韻〕良用切 宋

❶❷できあがらない。うやむや。儽侗(2)の❶を見よ。❷不遇のさま。又、歩行の正しくないさま。儽僅(1)の❶❷を見よ。❸おとる。よわる。儽倰(4)を見よ。❹歩くことの出来ないさま。又、強ひては擧げ行はない。蹤(10－37981)に同じ。〔集韻〕蹤、蹤踵、不レ能行皃、一曰、不二強擧一或从レ人。

【儽僅】1 シロウ キン ❶不遇のさま。又、遺失のさま。〔廣韻〕僅、儽僅、不遇皃。〔正字通〕僅、荀子隴種而退、注、遺失貌、卽龍鍾、埤倉作二蹤踵一、指南作二儽僅一。❷歩行の正しくないさま。〔玉篇〕儽、儽僅、行不レ正。

【儽侗】2 トウ ❶未だ器を成さぬこと。器量の未だ十分でない人。〔集韻〕儽、儽侗、未レ成レ器。〔論語、泰伯、侗而不レ愿、皇疏〕侗、謂二儽侗未レ成器之人一也。❷論説の未だ確實でないこと。〔朱熹、答二張敬夫書一〕大抵日前所レ見累書所レ陳者、只是儽侗地、見二得箇大本達道底箇影象一。〔朱熹、答二蔡季通書一〕昨見二子直說一、正疑二其太儽侗一。【儽倰】3 トウ おとる。儽倰。〔集韻〕倰、儽倰、劣也、或作レ倰。【儽倰】4 トウ おとるさま。よわるさま。儽倰。〔廣韻〕倰、儽倰、懦劣皃。

【儽】1282 クヮイ 傀(1－928)・儽(1－1276)に同じ。〔正字通〕儽、傀・儽並同、別作レ傀非。

【儲】1284 チョ ヂョ 〔集韻〕陳如切 魚 ティヨ ch'u²

小篆

❶そなへる。たくはへる。つむ。〔說文〕儲、侍也、从レ人諸聲。〔王注〕侍、具也、謂二蓄積以待一用也。〔漢書、何竝傳〕儲二兵馬一以待レ之。〔注〕師古曰、儲、豫備也。〔漢書、平帝紀〕天下吏舍、亡レ得下置二什器一儲侍上。〔注〕師古曰、儲、積也。〔漢書、揚雄傳下〕以爲二儲胥一。〔注〕師古曰、儲、峙也。〔後漢書、鄧皇后紀〕儲二峙米糒薪炭一。〔注〕儲峙、猶二蓄積一也。〔曹植、贈二丁翼一詩〕小人德無レ儲。〔注〕善曰、儲、謂二蓄積以待一レ無也。❷そなへ。たくはへ。〔淮南子、主術訓〕二十七年而有二九年之儲一。〔後漢書、明帝紀〕人無二宿儲一。〔注〕儲、積也。❸そへ。ひかへ。〔廣韻〕儲、副。〔正字通〕儲、副也、積聚以爲二副貳一也。〔大學衍義補、備二規制一、圖籍之儲〕兩京皆有二儲書一也。❹まうけのきみ。太子。世子。〔一切經音義、二〕儲、副君也。〔潘岳、西征賦〕加二顯戮於儲貳一。〔注〕善曰、宋均元命苞注曰、儲君、副主、言二設以待一レ之。❺かき。軍中のかきね。儲胥(38)の❶を見よ。❻諸(10－35743)に通ず。〔正字通〕儲、儲與、卽容與、一作二諸與一。❼ひらく。除(11－41669)に通ず。〔說文通訓定聲〕儲、叚借爲レ除、實爲レ祛、周語、身聳儲潔。❽姓。〔廣韻〕儲、又姓、後漢有二儲太伯一。邦まうける。利益を得る。とくをする。

名乘 ソヘ。

【儲位】1 チョヰ 太子の御くらゐ。東宮の御身分。【儲極】〔唐書、太宗諸子、鬱林王恪傳〕不レ定則敗、況儲位乎。〔歐陽脩、論レ選二皇子一疏〕儲位久虛。【儲闈】2 チョキ 皇太子。東宮。〔沈約、奏二彈王源一文〕升二儲闈一、亦居二清顯一。〔注〕良曰、儲闈、東宮也。〔劉禹錫、賀二皇太子受一冊牋一〕祇膺二詔冊一、光二啓儲闈一。【輔二佐儲闈一】3 チョキヨウ ホサス 皇太子をおたすけする。〔精註雅俗故事讀本、上、朝廷〕君后輔二佐儲闈一、功參二匕鬯一。【儲運】4 チョウン 貯蓄物を運ぶ。〔蘇轍、元祐會計錄序〕其爲レ別有二五、一曰收支、二曰民賦、三曰課入、四曰二儲運一、五曰二經費一。【儲泳】5 チョエイ 宋、嘉興華亭の人。字は文卿。詩名あり。陰陽五行に精通す。著に袪疑說がある。〔四庫提要、一百二十一〕。【儲價】6 チョカ かけねする。〔孔子家語、相魯〕初魯之鬻二六畜一者、飾レ之以二儲價一、及二孔子之爲一レ政也、三月、則鬻二牛馬一者不二儲價一、賣二羊豚一者不二加飾一。【儲駕】7 チョガ 用意してある車。〔潘岳、籍田賦〕儼儲駕於廛左一兮、俟二萬乘之躬履一。〔注〕善曰、駕レ牛儼然在二於廛左一、以待二天子躬親履レ之耕一以儲畜一、故曰二儲駕一也。【儲械】8 チョカイ たくはへの武器。〔唐書、姚崇傳〕十馬儲械、無レ不二暗記一。【儲季】9 チョキ 皇太子の弟。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕帝子儲季、令行禁止。〔注〕銑曰、竟陵王武帝子、故曰二帝子一、皇太子弟、故曰二儲季一。【儲宮】10 チョキュウ 皇太子。儲君(17)に同じ。〔潘尼、贈二陸機出爲二吳王郎中令一詩〕羽二儀儲宮一。〔晉中興書〕賀循爲二太子太傅一、詔曰、循躬訓二儲宮一、默贊化成。【儲極】11 チョキョク 皇太子の位。儲位。〔唐書、奉天皇帝琮傳〕脫昔踐二儲極一。【儲欣】12 チョキン 清、宜興の人。字は同人。經史に精通す。禮部に試みたが、不遇。後、門を閉ぢて書を著し、門弟が多かつた。書室を在陸草堂といふ。著に在陸草堂集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、四百三十〕・〔國朝先正事

略、三十八〕。

【儲金】13 ㄔㄨˇ ㄐㄧㄣ 貯金。

【儲廩】14 ㄔㄨˇ ㄌㄧㄣˇ 糧秣を蓄へる倉。〔唐書、杜鴻漸傳〕錄ニ軍資器械儲廩一

【儲皇】15 ㄔㄨˇ ㄏㄨㄤˊ 皇太子。〔謝瞻、張子房詩〕爵レ仇建ニ蕭宰一、定レ都護ニ儲皇一。〔注〕善曰、疏廣曰、太子、國儲副君也。〔潘岳、爲ニ賈謐一作贈ニ陸機一詩〕儲皇之選、實簡ニ惟良一。〔白居易、渭村退居云云詩〕分レ庭皆命婦、對レ院即儲皇。

【儲款】16 ch'u² k'uan³ 貯金。

【儲君】17 ㄔㄨˇ ㄐㄩㄣ まうけのきみ。皇太子。東宮。儲宮。儲嫡。儲嗣。儲貳。儲后。〔公羊、僖、五、世子猶ニ世世子一也、注〕言、當ニ世父位一、儲君副主、不レ可レ以ニ諸侯會一之爲レ文、故殊レ之。〔後漢書、鄭衆傳〕太子儲君。〔白虎通、京師〕儲君、嗣王也。

【儲券】18 ch'u² ch'üan⁴ 貯蓄債券。〔王也。

【儲嶷】19 ㄔㄨˇ ㄧˊ 明、泰州の人。字は靜夫。號は柴墟齋。識は文鑒。成化中、鄉試・會試の第一に居り、南京吏部主事を授けられ、戶部左侍郎を歷て吏部に遷つて卒した。著に柴墟齋集がある。〔明史、二百八十六〕・〔萬斯同明史、二百五十五〕・〔明史稿、二百六十七〕。

【儲元】20 ㄔㄨˇ ㄩㄢˊ 太子をいふ。〔南齊書、東昏侯紀〕皇祚之重、允屬ニ儲元一。

【儲元宮】21 ㄔㄨˇ ㄩㄢˊ ㄍㄨㄥ 皇太子の宮殿。〔漢書、外戚下、馮昭儀傳〕元帝崩、爲ニ信都太后一與ニ王俱ニ儲元宮一。

【儲弦】22 ㄔㄨˇ ㄒㄧㄢˊ 懸けがへの弓づる。うさゆづる。設弦。〔日本書紀、神功紀〕武內宿禰云云、號令曰、各以ニ儲弦一藏ニ于髮中一、且佩ニ木刀一。

【儲鉉】23 ㄔㄨˇ ㄒㄩㄢˋ 太子と三公。儲は太子。鉉は鼎の耳で、三公に喩へる。〔任昉、王文憲集序〕皇朝軫慟、儲鉉傷情。〔注〕善曰、漢書、疏廣曰、太子、國儲副君、周易曰、鼎金鉉、鄭玄尚書注曰、鼎、三公象也、濟曰、皇朝謂ニ天子一也、儲、謂ニ太子一也、鉉、鼎耳也、謂ニ三公一也。

【儲戶】24 ch'u² hu⁴ 貯金者。貯金主。預金者。

『儲戶押借』25 ch'u² hu⁴ ya¹ chieh⁴ 預金者に對する擔保貸付。

【儲后】26 ㄔㄨˇ ㄏㄡˋ よつぎの君。太子。后は君。儲君(17)。儲貳(35)に同じ。〔王融、三月三日曲水詩序〕儲后睿哲在レ躬、妙善居レ質。〔注〕銑曰、儲后、太子也。〔資治通鑑、隋紀〕(文帝、開皇二十年)汝爲ニ儲后一、當レ以ニ儉約一爲レ先。〔注〕后、君也、儲后、猶レ言ニ儲君一也。

【儲穀】27 ㄔㄨˇ ㄍㄨˇ 貯への穀物。仕舞置きの米。〔魏志、文昭甄皇后傳〕時后家大有ニ儲穀一。

【儲宋】28 ㄔㄨˇ ㄙㄨㄥˋ 太子の屬官。〔舊唐書、敬宗紀〕長慶以來、兩河用レ兵、偏裨立レ勳、擢寘ニ周行一、率以ニ儲宋王官雜補一也。〔稱謂錄、詹事府職官、儲宋〕書敘指南、宋除ニ袁粲一制、曰ニ儲宋一。

【儲濟】29 ch'u² chi⁴ 備荒貯蓄。

【儲藏】30 ㄔㄨˇ ㄗㄤˋ たくはへをさめる。貯藏。〔玉海、藝文、典故會要、紹興麟臺故事、陳騤續館閣錄十卷、記ニ沿革省舍、儲藏修纂、撰述故實、官聯廩祿職掌一。

【儲山】31 ㄔㄨˇ ㄕㄢ 山名。江西省贛縣の北。一名、儲潭山。晉の刺史朱偉が儲潭君の廟を置いた所。〔隋書、地理志下〕贛有ニ儲山一。

【儲祉】32 ㄔㄨˇ ㄓˇ あとつぎ。皇太子。〔白居易、淮南節度使李公家廟碑銘〕儲祉流レ慶、而僕射生焉。

【儲嗣】33 ㄔㄨˇ ㄙˋ よつぎ。太子。儲君(17)に同じ。〔顏延之、宋文皇帝元皇后哀策文〕嗷嗷儲嗣、哀哀列辟。〔注〕銑曰、儲嗣、太子。〔唐無名氏、太學觀ニ春宮齒胄一賦〕青青子衿、其容不レ改、亹亹儲嗣、其福斯在。

【儲積】34 ㄔㄨˇ ㄐㄧ たくはへる。たくはへ。儲胥。儲峙。〔漢書、揚雄傳上〕儲積共侍。〔後漢書、安帝紀〕比年雖レ獲ニ豐穰一、尚乏ニ儲積一。〔後漢書、來歙傳〕無ニ有ニ儲積一。〔顏氏家訓、慕賢〕儲ニ積器用一。〔周書、周惠達傳〕營ニ造戎伙一、儲ニ積食糧一。

【儲貳】35 ㄔㄨˇ ㄦˋ よつぎ。太子。儲君。儲后。〔晉書、禮志下〕皇太子雖ニ國之儲貳一、猶在ニ臣位一。〔晉書、成都王穎傳〕皇太子國之儲貳、實謐何得レ無レ禮。〔晉中興書〕安皇帝、孝武帝長子也、再爲ニ皇太子一、命ニ爾以登ニ儲貳一。〔高允、諫ニ皇太子營ニ立田園一〕殿下國之儲貳、四海屬レ心。

【儲收】36 ch'u² shou¹ 集める。收入する。

【儲洵】37 ㄔㄨˇ ㄒㄩㄣˊ 明の人。幢の甥。字は平甫。正德の進士。官は兵部郎中。後、漳南僉事。門人、文貞子と私謚す。〔尙友錄、二〕。

【儲胥】38 ㄔㄨˇ ㄒㄩ ㊀ たくはへ。儲蓄。儲積。胥は須用。〔漢書、揚雄傳下〕木雍槍纍、以爲ニ儲胥一。〔注〕蘇林曰、木擁ニ柵其外一、又以ニ竹槍一纍爲ニ外儲一也、服虔曰、儲胥、猶レ言ニ有餘一也、師古曰、儲、峙也、胥、須也、以ニ木擁槍及纍繩一連結、以爲ニ儲胥一、言有ニ儲畜一以待ニ所須一也。㊁ 軍中のかきね。〔揚雄、長楊賦〕木擁槍纍、以爲ニ儲胥一。〔注〕善曰、韋昭曰、儲胥、藩落之類也。〔李商隱、籌筆驛詩〕魚鳥猶疑畏ニ簡書一、風雲常爲護ニ儲胥一。〔三體詩注〕儲胥、軍中藩籬。㊂ 御苑。宮觀の名。〔正字通〕儲、儲胥、猶レ言ニ御苑一。〔張衡、西京賦〕增ニ露寒與ニ儲胥一。〔注〕銑曰、武帝先作ニ迎風館於甘泉山一、後加ニ露寒・儲胥二館一。㊃ 僕婢をいふ。〔稱謂錄、僕、儲胥〕尙書大傳、憎ニ其人一者、憎ニ其儲胥一、案、儲胥、僕婢也。

【儲書】39 ㄔㄨˇ ㄕㄨ たくはへの書籍。藏書。〔大學衍義補、備ニ規制一、圖籍之儲ニ臣聞、永樂中、太祖皇帝、肇建ニ北京一、敕ニ翰林院一、凡南京文淵閣所ニ貯、古今一切書籍、自ニ一部至レ有ニ百部以上一、各取ニ一部一、送ニ京、餘悉封識收貯如レ故、則是兩京皆有ニ儲書一也。

【儲食】40 ㄔㄨˇ ㄕˊ たくはへの食物。〔尉繚子、治本〕「民私飯有ニ儲食一。

【儲人】41 ㄔㄨˇ ㄖㄣˊ 豫備の健兒。〔續修東大寺正倉院文書、九、計帳斷簡〕弟吉備麻呂、年二十四、正丁、儲人、上脣、黑子。

【儲水】42 ㄔㄨˇ ㄕㄨㄟˇ 水をたくはへる。又、たくはへた水。〔後漢書、廉范傳〕嚴使ニ儲水一而已。

【儲錢】43 ㄔㄨˇ ㄑㄧㄢˊ たくはへの金錢。〔韓非子、十過〕城郭不レ治、食無ニ積粟一、府無ニ儲錢一、庫無ニ甲兵一、邑無ニ守具一。〔淮南子、人間訓〕府無ニ儲錢一。

【儲粟】44 ㄔㄨˇ ㄙㄨˋ 貯へたもみごめ。〔剪燈新話、三山福地志〕囊乏ニ一錢一、瓶無ニ儲粟一。

【儲端】45 ㄔㄨˇ ㄉㄢ 太子附の官をいふ。詹事。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕候府寄隆、儲端任顯。〔注〕善曰、漢書曰、詹事、秦官、掌ニ皇太子家一、翰曰、儲端任顯、謂ニ細爲ニ太子詹事一也。〔稱謂錄、詹事府職官古稱、儲端〕事文類聚、太子詹事號ニ儲端一。

【儲侍】46 ㄔㄨˇ ㄕˋ まうけそなへる。又、たくはへ。〔漢書、平帝紀〕置ニ什器一、儲侍。〔注〕師古曰、儲、積也、侍、具也。〔漢書、孫寶傳〕更爲除レ舍、設ニ儲侍一。〔注〕師古曰、謂ニ豫儲ニ器物一也。〔揚雄、羽獵賦〕儲侍禁蘩。〔論衡、祀義〕自有ニ儲侍一耶。〔魏志、張既傳〕儲ニ侍二千石一。

【儲峙】47 ㄔㄨˇ ㄓˋ たくはへ積む。又、たくはへ。儲積。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕儲ニ峙米糒薪炭一。〔注〕儲峙、猶ニ蓄積一也。〔晉書、刑法志〕賊律、有ニ儲峙不レ辦一。

【儲畜】48 ㄔㄨˇ ㄒㄩˋ 積み具へる。又、たくはへ。〔後漢書、章帝紀〕郡縣無レ得レ設ニ儲畜一。〔注〕儲、積也、畜、具也、言レ不ニ預有ニ蓄備一。〔後漢書、陳忠傳〕繕ニ理亭傳一、多設ニ儲畜一。〔注〕儲、積也、畜、具也。

【儲蓄】49 ㄔㄨˇ ㄒㄩˋ たくはへる。たくはへ。貯蓄。儲積。〔尉繚子、治本〕民無ニ二事一、則有ニ儲蓄一。〔後漢書、章帝紀〕節ニ用儲蓄一、以備ニ凶災一。〔吳志、是儀傳〕貧困、家無ニ儲蓄一。

【儲蓄銀行】50 ch'u² hsü⁴ yin² hang² 貯蓄銀行。「預金。

【儲蓄存款】51 ch'u² hsü⁴ ts'un² k'uan³ 貯蓄預金。

【儲積】52 ㄔㄨˇ ㄐㄧ たくはへる。たくはへ。儲蓄(49)に同じ。〔潘岳、藉田賦〕無ニ儲積一以虞レ災。

【儲儲】53 ㄔㄨˇ ㄔㄨˇ 無頓着なさま。〔靈樞經、通天〕太陽之人、其狀軒軒儲儲、反レ身折腸、此太陽之人也。

【儲邸】54 ㄔㄨˇ ㄉㄧˇ くら。府藏。〔王融、三月三日曲水詩序〕紈牛露犬之玩、乘黃茲白之駟、盈ニ衍儲邸一、充ニ仞郊虞一。〔注〕向曰、儲邸、猶ニ府藏一也。

【儲嫡】55 ㄔㄨˇ ㄉㄧˊ よつぎ。太子。儲君。〔後漢書、安帝紀〕降ニ奪儲嫡一。〔注〕儲嫡、謂ニ太子一也。

【儲殿】56 ㄔㄨˇ ㄉㄧㄢˋ 昔、伊勢神宮遷宮の時、假殿の代りに建てた社殿の稱。〔兩宮遷宮假殿次第〕明應六年丁巳、內宮儲殿。

【儲妃】57 ㄔㄨˇ ㄈㄟ 皇太子の妃。儲君の妃。〔稱謂錄、太子妻、儲妃〕初學記、胡元範和ニ太子納妃ニ詩、儲妃禮慶優。

【儲備】58 ㄔㄨˇ ㄅㄟˋ たくはへる。又、たくはへ。儲峙。〔六韜、龍韜、農器〕其糧食儲備也。〔梁書、張弘策傳〕高祖親ニ海內方亂一、有ニ匡濟之心一、密爲ニ儲備一。〔南史、夏侯夔傳〕以充ニ儲備一。

【儲傳】59 ㄔㄨˇ ㄓㄨㄢˋ 太子の太傳をいふ。〔資治通鑑、晉

紀〕簡文帝、咸安二年、元相之重、儲傳之尊。〔注〕儲傳、太子太傅也。

【儲副】60 よつぎ。太子。儲君(17)に同じ。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕及三元興延平之際一、國無二儲副一。〔後漢書、种暠傳〕太子、國之儲副。〔魏志、崔琰傳〕儲副以レ身爲レ寶。

【儲副君】61 太子。儲副。〔漢書、疏廣傳〕廣對曰、太子、國儲副君、師友必於二天下英俊一、不レ宜三獨親二外家許氏一。

【儲福】62 明、無錫の人。燕山衛に隷籍す。義を好むことを以て聞えた。靖難の兵起るや、母と妻とを挈へて逃る。永樂の初、亡卒を錄して伍に入れた時、福も其の中に在り、曲靖衛に遷された。天を仰いで哭して曰く、われ一介の賤卒と雖も、義として、叛逆の臣とならずと。竟に食はずして死す。福王の時、貞義と追謚せられた。〔萬斯同明史、一百八十七〕・〔國朝名世類苑、四・十八〕・〔明名臣言行錄、十三〕。

【儲米】63 たくはへた米。又、米をたくはへる。〔陸游、將レ離二江陵一詩〕買レ薪備二雨雪一、儲レ米滿二瓶盎一。

【儲懋】64 明、丹陽の人。字は世績。官は翰林修撰。大明實錄の編修に與かる。後、官は戶部尚書に至る。〔國朝獻徵錄、三十一〕・〔國朝列卿記、三十四・三十六・四十四〕・〔本朝分省人物攷、二十九〕。

【儲命】65 皇太子の命令。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕式掌二儲命一、帝難二其人一。〔注〕翰曰、緬時入爲二太子中庶子一、故云三用掌二儲命一也、儲、謂二儲君太子一也。

【儲明】66 よつぎ。皇太子。〔梁簡文帝、南郊頌序〕四海無レ波、儲明變照。

【儲藥】67 藥を貯藏する。又、たくはへた藥。〔蘇軾、去歲九月二十七日在二黃州一生レ子、云云、病二亡於金陵一作二二詩一哭レ之詩〕儲レ藥如二丘山一、臨レ病更求レ方。

【儲與】68 ㊀さまよふ。たちもとほる。逍遙。容與。〔漢書、揚雄傳〕儲二與虖大溥一、聊二浪虖宇內一。〔注〕服虔曰、儲與、相羊也。〔淮南子、本經訓〕陰陽儲與、呼吸浸潭。〔注〕儲與、猶二尙羊一、無レ所主之貌、一曰、褎大貌也。㊁ちぢんで舒びないさま。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕衣攝葉以儲與兮、左袪挂二于榑桑一。〔注〕攝葉・儲與、不二舒展一貌。

【儲用】69 宋、晉江の人。字は行之。淳熙中、建陽縣知となつて惠政を布き、朱熹は之を極稱した。黨禁起るや、罷め去り、後、廣州の長官となる。〔尙友錄、二〕。

【儲利】70 まうけをたくはへる。又、まうけ。利益。〔唐書、蘇良嗣傳〕尙方監裴匪躬案、諸苑建言、鬻二果蔬一儲レ利佐二公上一。

【儲兩】71 つきそふもの。第二のもの。世つぎ。〔魏書、肅宗紀〕充華有レ孕、椒宮冀レ誕二儲兩一、而能羆無レ兆、維虺遂彰。〔資治通鑑、梁紀〕(武帝、大通二年)又以二皇女一爲二儲兩一。〔注〕太子謂二之儲君一、易曰、明兩作離、大人以繼レ明照二四方一、故稱二儲兩一。

【儲糧】72 たくはへた食糧。又、食糧を貯へる。〔南方草木狀〕倉圖貯レ之、以充二糧糗一、是名二儲糧一。

【儲廩】73 米穀を貯へる倉。米ぐら。〔宋史、職官志七〕儲廩以輸二中都一。

【儲隸】74 東宮附の官職。〔顏延之、應レ詔讌二曲水一作詩〕三妨二儲隸一、五塵二朝黻一。〔注〕翰曰、三妨二儲隸一、謂三三任二東宮官一、五塵二朝黻一、謂三五任二朝官一也。

【儲王】75 世嗣のきみ。まうけの君。皇太子。儲君。〔太平記、一、儲王事〕儲君儲王の選び。

【儲惟德】76 明、宜興の人。字は希崇。文名あり。官は國子助教。春秋本末の編修に與かる。〔尙友錄、二〕。

【儲企范】77 元、新泰の人。字は天章。文學あり。官は從事郎・中書省部事。後、兩浙都轉運使。〔新泰縣志〕。

【儲玉齋】78 明、陳亮(**11**-**41698**・594)の「號。

【儲光義】79 唐、兗州の人。開元の進士。官は監察御史。安祿山の亂に賊中に陷つたが、自ら脫出して歸る。著に正論・文集・詩集がある。〔尙友錄、二〕・〔四庫提要、一百四十九〕。

【儲光義詩集】80 書名。六卷。唐、儲光義撰。其の詩は陶淵明を祖とし、質樸の中に古雅の趣を含む。尤も田園の詩に長じ、王維・孟浩然と比肩した。〔四庫提要、集、別集類〕。

【儲研璘】81 清、宜興の人。字は硯峯。號は偏園。乾隆の擧人。著に偏園文集がある。

【儲國鈞】82 清の人。雄文の子。字は長源。號は抱碧齋。博覽強記、詩文を能くす。著に一壑風烟集・抱碧齋集・放歛集がある。

【儲在文】83 清の人。欣の從子。字は禮執。康熙の進士。官は編修。〔尙友錄、二〕。

【儲掌文】84 清の人。欣の孫。字は越漁。號は雲溪。康熙の進士。官は納溪知縣。著に雲溪文集がある。〔四庫提要、一百八十四〕。

【儲晉觀】85 清の人。在文の子。字は寬夫。號は恕齋。雍正の進士。官は編修。著に雙溪草堂集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十六〕。

【儲大祝】86 唐、儲光義(79)をいふ。

【儲大文】87 清の人。雄文の弟。字は六雅。號は畫山。康熙の進士。官は編修。歸田の後、古學に潛心し、尤も輿地の形勢に精通す。書室を存硯樓といふ。著に存硯樓集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、一百二十五〕。

【儲同人】88 儲欣(12)を見よ。

【儲敦敍】89 宋、晉江の人。字は彥倫。崇寧の進士。官は龍溪丞・寧德令に歷任し、皆惠政を布く。後、官は賀州通判。著に玉泉集がある。〔泉州府志〕。

【儲玫躬】90 清、湘鄉の人。字は石友。諡は忠壯。諸生を以て軍に從つて曾國藩に識られ、寧鄉に赴き力戰して死す。〔清史稿、四百九十五〕・〔續碑傳集、六十三〕。

【儲方慶】91 清、宜興の人。字は廣期。號は遯菴。康熙の進士。鴻博に擧げらる。官は清源縣の長官。著に遯庵文集がある。〔清史列傳、七十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百二十〕・〔碑傳集、九十二〕。

【儲祕書】92 清の人。在文の孫。字は玉函。號は緘石齋。乾隆の進士。累官して鄖陽知府となる。經史を博涉す。著に緘石齋集・華嶼詞がある。〔國朝詩人徵略、三十八〕。

【儲雄文】93 清の人。在文の弟。字は汜雲。康熙の進士。文章を以て名あり。〔尙友錄、二〕。

【儲麟趾】94 清、宜興の人。字は梅夫。乾隆の進士。官は宗人府府丞。諫院に在つて剛直の名あり。書室を雙樹軒といふ。著に雙樹軒集がある。〔清史稿、三百十二〕・〔國朝耆獻類徵、十六〕・〔續碑傳集、五十九〕。

【⿰亻⿱宀言】1285 ケン

愆(**4**-**10900**)の古字。〔康熙字典〕愆、古文⿰亻⿱宀言。

【⿰亻⿱聿皿】1286 音未詳

⿰亻⿱聿皿伽は銀錢をいふ。〔字彙補〕⿰亻⿱聿皿、音未詳。〔瀛州勝覽〕榜葛剌市、用二銀錢一曰二⿰亻⿱聿皿伽一。

【⿰亻頻】1287 ヒン

⿰亻頻伽は鳥の名。頻(**12**-**43519**)に通ず。〔字彙補〕⿰亻頻、音頻、宋人饒德操詩、大似⿰亻頻伽餉二遠空一。

【⿰亻導】1288 タウ トウ

〔字彙補〕都皓切 皓

〔字彙補〕⿰亻導、太上作、見二亳州太上の作。老君碑一。

【⿰亻盧】1289 リョ

儢(**1**-**1251**)の譌字。〔康熙字典〕⿰亻盧、按、卽儢字之譌。

【⿰亶丸】1290 カン

倝(**1**-**779**)の籀文。〔說文〕倝、⿰亶丸、闕且、从三日在二㫃中一。〔段注〕闕且二字、當レ作二籀文二字一。

十七畫

【僜】1291 タウ チヤウ

〔集韻〕中莖切 庚

いつくしみがない。 僜倗。〔集韻〕僜、僜

偈、不仁。

【⿰亻蹇】1292 ㊀ケン ゴン 〔集韻〕巨偃切 阮 ㊁ケン 〔集韻〕九件切 銑
㊀㊁おごりたかぶる。偃⿰亻蹇。俗に⿰亻寋(1－1186)に作る。〔集韻〕⿰亻蹇、偃⿰亻蹇、傲慢也。〔正字通〕⿰亻蹇、⿰亻寋・⿰亻蹇竝同、云云、从⿰亻蹇爲正。

【⿰亻臨】1293 リン 〔集韻〕力鳺切 沁
❶頭を前にまげる。⿰亻臨侺。〔廣韻〕⿰亻臨、⿰亻臨侺、頭向レ前也。❷頫(12－43550)に同じ。〔集韻〕頫、頫顊、俯首、或作レ⿰亻臨。

【⿰亻歸】1294 ㊀キ 〔集韻〕歸謂切 未 ㊁キ 〔集韻〕居韋切 微
㊀㊁つかふ。〔方言、十三〕⿰亻歸、使也。

【⿰亻頎】1295 キ
僛(1－1101)に同じ。〔集韻〕僛、或作レ⿰亻頎。

【儳】1296 ㊀サン ゼン 〔集韻〕鋤咸切 咸 ㊁サン ゼン 〔集韻〕仕懺切 陷 ㄔㄢˋ ch'an4 慣ザン
小篆 ㊀❶ととのはぬ。そろはぬ。みだれる。〔說文〕儳、儳互、不レ齊也、从レ人毚聲。〔左氏、僖、二十二〕鼓レ儳可也。〔注〕儳巖未レ整レ陣。〔國語、周語中〕夫戎翟冒沒輕儳。〔注〕儳、進退上下無レ列也。❷はやい。捷い。〔後漢書、何進傳〕從二儳道一歸レ營。〔注〕廣雅曰、儳、疾也。❸わるいさま。儖儳。〔廣韻〕儖、儖儳、皃惡也。㊁❶かるがるしくいふ。〔廣韻〕儳、輕言。❷かりそめ。いやしいさま。〔禮、表記〕君子不下以二一日一使中其躬儳焉、如上レ不レ終レ日。〔注〕儳焉、可二輕賤一之貌也。〔陳注〕謂三苟且不二整肅一也。❸ととのはぬ。儳互。〔集韻〕儳、一曰、儳互、不レ齊也。❹しばらく。〔集韻〕儳、一曰、暫也。❺さしはさむ。まじへる。さしでる。攙(5－12991)に通ず。〔說文通訓定聲〕儳、今儳和字、作レ攙。〔正字通〕儳、越レ次進也。〔禮、曲禮上〕長者不レ及、毋二儳言一。〔注〕儳、猶レ暫也、非レ類雜。〔疏〕暫然雜二錯師長之說一。

【儳越】1 ザン エツ さしでる。僭越。〔桃花扇、眠香〕小弟不二敢儳越一。
【儳焉】2 ザン エン ❶かりそめ。輕蔑すべきさま。〔禮、表記〕君子不下以二一日一使中其躬儳焉、如上レ不レ終レ日。〔注〕儳焉、可二輕賤一之貌也。〔陳注〕儳焉、謂三苟且不二整肅一也。❷ひきしまりがない。そろはぬ。〔孔平仲、贈二王從善一詩〕我本世畸人、儳焉頑似レ鄙。
【儳巖】3 ザン ガン 整はぬさま。〔左氏、僖、二十二〕鼓レ儳可也、注〕儳巖未レ整レ陳。
【儳言】4 ザン ゲン 他人の說話が未だ終らぬのに、他事をあげて其の說を亂すこと。さしでぐち。雜言。〔禮、曲禮上〕長者不レ及、毋二儳言一。〔注〕儳、猶レ暫也、非レ類雜。〔疏〕儳、暫也、長者正論二甲事一、未レ及二乙事一、少者不レ得下輒以二乙事一雜二甲事一、暫然雜中錯師長之說上「也。
【儳互】5 ザン ゴ ととのはぬ。〔說文〕儳、儳互、不レ齊也。
【儳道】6 ザン ダウ 別の小みち。近道。捷徑。〔後漢書、何進傳〕從二儳道一歸レ營。〔注〕廣雅曰、儳、疾也。
【儳頭】7 ch'an4 t'ou2 粗惡な。
【儳頭貨】8 ch'an4 t'ou2 huo4 ❶粗惡な品物。❷ならず者。
【儳頭小子】9 ch'an4 t'ou2 hsiao3 tzŭ 子供を罵る語。馬鹿野郎。此の餓鬼。
【儳和】10 ザン ワ さしでぐちをする。攙和。〔後漢書、孔僖傳〕鄰房生梁郁儳二和之一。〔注〕儳、謂下不レ與二之言一而傍對上也、禮曰、毋二儳言一。

【儴】1297 ㊀シヤウ サウ 〔集韻〕思將切 陽 ㊁ジヤウ ニヤウ 〔集韻〕如陽切 陽
㊀❶よる。ちなむ。〔爾雅、釋詁〕儴・仍、因也。〔注〕皆謂二因緣一。❷さまよふ。儴佯(2)を見よ。㊁㊀の❶に同じ。〔集韻〕儴、因也。

【儴佉】1 シヤウ カ 神の名。〔釋書〕佛說彌勒成佛經、其先轉輪聖王名二儴佉一。
【儴佯】2 シヤウ ヤウ さまよふ。一に、襄羊に作る。逍遙。彷徉。〔司馬相如、上林賦〕招搖乎儴佯。〔注〕善曰、郭璞曰、襄羊、猶二彷徉一也、良曰、招搖・儴佯、行遊貌。〔夏侯湛、觀二飛鳥一賦〕舒二修頭一以儴佯。

【⿰亻薨】1298 コウ 〔集韻〕呼弘切 蒸
小篆 ❶おろか。儚(1－1236)に通ず。〔說文〕⿰亻薨、惛也、从レ人薨聲。〔段注〕釋訓曰、儚儚・洄洄、惛也、儚、當レ作レ⿰亻薨。❷或は䫤(12－43745)に作る。〔集韻〕⿰亻薨、說文、惛也、或从レ頁。

【儵】1299 シユク 〔集韻〕式竹切 屋 ㄕㄨˋ shu4
小篆 (說文) ❶あをぐろい色。〔說文〕儵、青黑繒發二白色一也、从レ黑攸聲。❷黑い。〔廣雅、釋器〕儵、黑也。❸南海の帝。〔莊子、應帝王〕南海之帝爲レ儵、北海之帝爲レ忽。〔釋文〕儵・忽、取二神速一爲レ名。❹はやい。跾(10－37550)に通ず。〔說文通訓定聲〕儵、叚借爲レ跾。〔廣雅、釋詁一〕儵、疾也。〔莊子、大宗師〕儵然而行。〔釋文〕儵、疾貌。〔班固、幽通賦〕辰儵忽其不レ再。〔注〕善曰、曹大家曰、云云、儵、過也、言、何不三勉進而及レ羣、時早得二進用一也。❺わざはひ。儵儵(6)の❶を見よ。❻倏(1－762)の本字。〔正字通〕儵、倏本字。❼姓。〔萬姓統譜〕儵、見二姓苑一。

【儵怳】1 シユク キヤウ 神速なさま。〔郭璞、江賦〕及二其譎變儵怳一、符祥非レ一。〔注〕向曰、儵怳、疾速也。
【儵魚】2 シユク ギヨ 魚の名。〔山海經、北山經〕又北三百里、曰二帶山一、彭水出焉、而西流注二于芘湖之水一、其中多二儵魚一、其狀如レ鷄而赤毛、三尾六足四首、其音如レ鵲、食レ之可二以已一レ憂。
【儵夐】3 シユク ケイ 忽ち。速かなさま。〔司馬相如、上林賦〕儵夐遠去。〔注〕善曰、郭璞曰、儵忽長逝也、曹大家幽通賦注曰、夐、遠也、翰曰、倏夐、謂二倏忽一也。
【儵忽】4 シユク コツ ❶電光。〔楚辭、天問〕雄虺九首、儵忽焉在。〔注〕儵忽、電光也。❷神の名。儵は南海の帝、忽は北海の帝。〔莊子、應帝王〕南海之帝爲レ儵、北海之帝爲レ忽、中央之帝爲二渾沌一、儵與レ忽、時相與遇二於渾沌之地一。❸たちまち。疾いさま。倏忽。〔呂覽、決勝〕怯勇無レ常、儵忽往來、而莫レ知二其方一。〔楚辭、招魂〕雄虺九首、往來儵忽。〔注〕儵忽、疾急貌也。〔張衡、西京賦〕奇幻儵忽。
【儵爍】5 シユク シヤク 光のすばやいこと。一瞬間光ること。儵爚。〔楚辭、王逸、九思、憫上〕雲濛濛兮電儵爍。〔注〕儵爍、疾也、闇多而明少也。
【儵儵】6 シユク シユク ❶わざはひにかかる。〔爾雅、釋訓〕儵儵・嘒嘒、罹二禍毒一也。❷光をいふ。倏倏(1－762・・7)に同じ。〔曹植、責躬詩〕光光大使、〔注〕善曰、揚雄侍中箴曰、光光常伯、儵儵貂璫。
【儵眒】7 シユク シン 疾いさま。〔史記、司馬相如傳〕儵眒淒浰。〔注〕集解曰、駰案、漢書音義曰、皆疾貌。
【儵爚】9 シユク ヤク 一瞬間光ること。又、疾い光。電光。儵爍。〔張衡、西京賦〕遺光儵爚。〔注〕綜曰、儵爚、有二餘光一也。〔班固、西都賦〕震震爚爚、注〕善

(1300)——(1315)
人部〔十七——十九畫〕儻儇儷儵儹儽儽儽

儹本字。❷あつまつて事を計る。〔集韻〕儹、聚而計レ事也。

【儹運】1 サンウン 積聚して運送する。〔元史、百官志一〕粮房之科有レ六、一曰海運、二曰儹運。

【儹催】2 サンサイ とりたて急ぐ。〔福惠全書、錢穀部、催徵、戶頭總催說〕保レ無レ有下儹催不レ力、與レ臨レ卯不レ到者上乎。

【儹程】3 サンテイ 道を急ぐ。〔福惠全書、保甲部、漁埠編保〕昏暮儹レ程、片帆獨往。

【儹那】4 サンナ あつまつてしらべる。〔通俗編、行事、儹那〕朱子文集、與二詹帥一論二修印板一云、乞委二通曉詳細之人一、親自監臨、儹二那字數一、按、聚而計レ事曰レ儹、音讀如レ纂、那、猶二搓挪之挪一。

【儹拉】5 サンラ 地名。攢拉とも書く。蕃人が小金川を稱して儹拉といふのは小河の濱の意。小金川(**4－7473‥264**)を見よ。〔清高宗、平二定金川一勒二銘美諾一碑〕以救二儹拉一、而有二促浸之征一。〔金川瑣記〕小金川、原名儹拉、美諾爲二其巢穴一。

1316 【⿰亻顚】 テン 〔集韻〕多年切 先

❶**たふれる**。つまづく。或は傎(**1－951**)に作る。〔廣雅、釋言〕⿰亻顚、倒也。〔集韻〕⿰亻顚、倒也、或省。〔唐書、李石傳〕晉君臣以二怡曠一致レ⿰亻顚。❷**おちる**。〔玉篇〕⿰亻顚、殞也。

1317 【儺】 ㊀ナダ 〔集韻〕囊何切 ㄋㄨㄛˊ nuo² 歌 ㊁ナダ 〔集韻〕乃可切 哿

小篆 ㊀㊁❶**節度正しくあゆむ**。〔說文〕儺、行有レ節也、从レ人難聲、詩曰、佩玉之儺。〔段注〕此儺之本義也、自三假爲二敺疫字一、而儺之本義廢矣。❷**おにやらひ**。疫鬼を追出す行事。⿺鬼𦰩(**12－45907**)に通ず。〔說文通訓定聲〕儺、假借爲レ⿺鬼𦰩。〔論語、鄉黨〕鄉人儺、朝服而立二於阼階一。〔集解〕孔安國曰、儺、驅二逐疫鬼一也。〔淮南子、時則訓〕令レ國儺二九門一。〔後漢書、禮儀志〕先レ臘一日大儺、謂二之逐疫一。❸**おだやか**。たをやか。那(**11－39305**)・娜(**3－6311**)に通ず。〔康熙字典〕儺、與二那・娜一並通。〔詩、檜風、隰有萇楚〕猗儺其枝。〔傳〕猗儺、柔順也。❹古は⿵風⿱𦥑黑(**12－43976**)に作る。〔玉篇〕⿵風⿱𦥑黑、古文儺。

【儺禦】1 ダギョ 鬼やらひをして疫病神をはらひふせぐ。〔呂覽、仲秋〕天子乃儺禦佐レ疾、以通二秋氣一。〔注〕儺、逐レ疫除二不祥一也、語曰、鄉人儺、朝服立二於阼階一、禦、止也、佐レ疾、謂レ療也、儺以止レ之也、以通二達秋氣一、使レ不二壅閉一。

【儺鼓】2 ダコ 追儺に用ひる太鼓。〔劉克莊、湘潭道中卽事詩〕儺鼓鼕鼕匝二廟門一。

【儺翁儺母】3 ダオウダボ 大晦日の日に追儺の行事を進める男女の二老人。〔海錄碎事、天、儺〕歲除日進レ儺、內二老人、爲二儺翁・儺母一。

【儺儺之聲】4 ダダノコエ おにやらひの聲。〔論語、鄉黨、鄉人儺、皇疏〕儺者、逐二疫鬼一也、爲下陰陽之氣不二卽時退一、疫鬼隨而爲レ人作上レ禍、故天子使下方相氏、黃金四目、蒙二熊皮一、執レ戈揚レ楯、玄衣朱裳、口作二儺儺之聲一、以敺中疫鬼上也。

1318 【儱】 チヨウ チユ 〔篇海〕丑用切 宋

ななめ。〔篇海〕儱、斜儱也。

1319 【⿰亻褱】 ダイ ナイ 〔玉篇〕奴回切 灰

ふす。〔玉篇〕⿰亻褱、偃也。

1320 【⿰亻選】 サイ 義未詳。〔海篇〕⿰亻選、音寨。

1321 【⿰亻闌】 テン 義未詳。〔海篇〕⿰亻闌、音諂。

1322 【⿰亻邊】 ヘン ベン 〔集韻〕蒲眠切 ㄅㄧㄢ pien¹ 先

❶**身が正しくない**。みだれる。くづれる。〔集韻〕⿰亻邊、身不レ正。❷**かたはら**。〔集韻〕⿰亻邊、一曰、傍也。❸**舞ふさま**。⿰亻邊蹮。〔集韻〕⿰亻邊、⿰亻邊蹮、舞容。❹或は傷(**1－1247**)に作り、通じて蹁(**10－37717**)・跰(**10－37638**)に作る。〔集韻〕⿰亻邊、或省、通作二蹁・跰一。

二十畫

1323 【儻】 ㊀タウ 〔集韻〕坦朗切 ㄊㄤˇ t'ang³ 養 ㊁タウ 〔集韻〕他浪切 漾

小篆 ㊀㊁❶**すぐれる**。傑出する。〔說文新附〕儻、倜儻也、从レ人黨聲。〔正字通〕儻、卓異也。❷**ほしいまま**。締りのないさま。儻蕩(7)を見よ。❸**あきらかでない**。儻朗(11)を見よ。❹**志を失ふさま**。〔莊子、田子方〕儻然終日不レ言。〔釋文〕儻然、失レ志貌。❺**たちまち**。だしぬけ。〔正字通〕儻、儵忽不レ可レ期也。〔莊子、繕性〕物之儻來寄也。〔疏〕儻者、意外忽來者耳。❻**もしくは**。もし。**あるひは**。**たまたま**。或は黨(**12－48132**)・當(**7－21890**)・尙(**4－7493**)に作る。〔正字通〕儻、或然之辭。〔經傳釋詞、六〕儻、或然之詞也、字或作レ黨、或作レ當、或作レ尙、莊子繕性篇曰、物之儻來寄也、釋文、儻、崔本作レ黨、荀子天論篇曰、怪星之黨見、云云、墨子非樂篇曰、然則當爲レ之撞二巨鍾一、云云、又尙賢篇曰、尙欲三祖二述堯舜禹湯之道一、云云、黨・當・尙、並與レ儻同。〔史記、伯夷傳〕儻所謂天道是耶非耶。〔注〕正義曰、儻、未レ定之詞也。❼**かりそめ**。いやしくもする。〔莊子、天下〕時恣縱而不レ儻。〔注〕儻、苟也。❽俗に倘(**1－774**)に作る。〔正字通〕儻、俗作レ倘。❾**さいはひ**。〔廣韻〕儻、倖也。❿**姓**。〔萬姓統譜〕儻、見二姓苑一。

名乘 ユキ。

【儻乎】1 タウコ 志を失ふさま。よりどころのないさま。〔莊子、天地〕儻乎若三行而失二其道一也。〔疏〕夫嬰兒失レ母、心慆悵而無レ所二依行一。

【儻谷】2 タウコク 谷の名。陝西省洋縣の北。終南山の駱谷の南の口。又、駱谷の一名。全長四百二十里。儻駱(12)を見よ。〔唐書、地理志四〕興道有二駱谷路一、南口曰二儻谷一、北口曰二駱谷一。〔元和志〕儻谷、一名駱谷。

【儻若】3 タウジヤク もし。ひよつとして。〔詞詮、二〕儻・黨、假設連詞、若也、如也、今用レ儻。〔通俗編、語辭、儻若〕謝靈運酬二惠連一詩、儻若果言歸、共レ陶暮春時。

【儻然】4 タウゼン 志を失ふさま。冷然。字解の❹を見よ。〔莊子、天地〕儻然終日不レ言。〔顏氏家訓、終制〕今年老疾侵、儻然奄忽、豈求レ備レ禮乎。

【儻塘】5 タウタウ 驛の名。雲南省宣威縣の北。貴州省武寧縣に出る重要な道。〔四川通志〕明天啓二年、霑益土婦設科等、焚二刦霑益儻塘炎方松林交水、及曲靖白水驛六站一、官軍討レ之、明年收二諸站一、蜀道通。

【儻蕩】6 タウタウ ほしいまま。しまりのないこと。〔漢書、陳湯傳贊〕陳湯儻蕩不二自收斂一、卒用困窮。〔注〕師古曰、儻蕩、無二行檢一也。

【儻蕩】7 タウタウ ほしいまま。しまりのないこと。〔漢書、史丹傳〕貌若二儻蕩不一レ備、然心甚謹密。〔注〕師古曰、儻蕩、疎誕無レ檢也。

【儻儻】8 タウタウ ほしいまま。不羈のさま。〔關尹子、一宇〕道茫茫而無レ知乎、心儻儻而無レ羈乎。

〔注〕儻儻、猶㆓儃儃㆒。

【儻莽】9 タウマウ ひろびろしたさま。寛廣。〔王褒、洞簫賦〕彌望儻莽。〔注〕善曰、儻莽、曠盪寛廣之貌。〔阮籍、清思賦〕時儻莽而陰曀兮、忽不㆑識㆓乎舊宇㆒。

【儻來】10 タウライ ❶思ひがけなく急に來る。〔莊子、繕性〕軒冕在㆑身、非㆓性命㆒也、物之儻來寄也。〔疏〕儻者、意外忽來者耳。〔江總、文集自序〕軒冕儻來之一物、豈是預要乎。〔唐書、紀王愼傳〕況榮寵貴盛、儻來之物、可㆓恃以淩㆑人乎。〔謝偃、高松賦〕任㆓儻來之否泰㆒。❷轉じて、賭博で得たものを儻來之物といふ。

【儻朗】11 タウラウ 不明のさま。〔潘岳、射雉賦〕忌㆓上風之餮切㆒、畏㆓映日之儻朗㆒。〔注〕爰曰、儻朗、不明之狀。

【儻駱】12 タウラク 谷の名。陝西の終南山にある儻谷と駱谷との總稱。儻谷は南口に當つて洋縣の北に在り、駱谷は北口に當つて盩厔縣の西南に在る。〔唐書、地理志四〕興道有㆓駱谷路㆒、南口曰㆓儻谷㆒、北口曰㆓駱谷㆒。〔元和志〕儻谷、一名駱谷。

【儼】1324 ゲン ゴン 〔集韻〕魚檢切 ㄧㄢˇ yen³ 琰

小篆 ❶あふぐ。頭をあげおこす。〔說文〕儼、昂㆑頭也、从㆑人嚴聲。❷おごそかなさま。いかめしい。〔詩、陳風、澤陂〕碩大且儼。〔傳〕儼、矜莊貌。〔禮、曲禮上〕儼若㆑思。〔注〕儼、矜莊貌。❸つつしむ。うやうやしい。〔爾雅、釋詁〕儼、敬也。〔集韻〕儼、一曰、恭也。〔楚辭、離騷〕禹湯儼而求㆑合兮。〔注〕儼、敬也。❹よいさま。〔說文〕儼、一曰、好皃。❺或は嚴(2-4589)・曮(8-23839)に作り、古は嚴(2-4638)に作る。〔集韻〕儼、或作㆓嚴・曮㆒、古作㆑嚴。

【儼菴】1 ゲンアン 清、張仕敬(4-9812‥1104)の字。

【儼淵】2 ゲンエン 津輕貞正の號。津輕儼淵(6-17396‥69)を見よ。

【儼雅】3 ゲンガ ❶きちんとして正しい。〔王延壽、魯靈光殿賦〕胡人遙集㆓於上楹㆒、儼雅跽而相對。〔注〕載曰、儼雅而相對、言㆓敬恭㆒也、善曰、儼雅、跽貌。〔宋史、家鉉翁傳〕狀貌奇偉、身長七尺、被服儼雅。❷おごそか。〔杜甫、朝享太廟賦〕曾宮歔欷、陰事儼雅。

【儼恪】4 ゲンカク おごそかでつつましやかなこと。〔禮、祭義〕嚴威儼恪、非㆔所㆓以事㆑親也。〔疏〕儼、謂㆓儼正㆒、恪、謂㆓恭敬㆒。〔漢書、匡衡傳〕正㆑躬嚴恪、臨㆑衆之儀也。〔南史、范岫傳〕岫恭敬儼恪、進止以㆑禮。

【儼兮】5 ゲンタリ 莊重なさま。〔老子、十五〕儼兮其若㆑客、渙兮若㆓冰之將㆑釋。

【儼乎】6 ゲンコ おごそかなさま。〔韓愈、答㆓李翊㆒書〕儼乎其若㆑思、茫乎其若㆑迷。

【儼齋】7 ゲンサイ 清、王鴻緒(7-20823‥1469)の號。

【儼山】8 ゲンザン 明、陸深(11-41708‥154)の號。

【儼山集】9 ゲンザンシフ 書名。一百卷。續集十卷。明、陸深撰。篇章が豐富で、學問を根柢とし、よく事理に當る。其の篇目は、賦一卷、歌二卷、謠・辭・行・四言古共一卷、五言古二卷、七言古四首附五律二卷、七律七卷、五絕三十首六絕一首附七絕二卷、五排・七排・聯句・集句共一卷、雜體一卷、樂府三卷、樂章一卷、詩餘一卷、詩話一卷、冊・表共一卷、奏疏二卷、青詞・讚頌讚饌文偈共一卷、頌贊一卷、詩微二卷、講章・策問共一卷、議・辯・解共一卷、銘一卷、引一卷、序十五卷、記五卷、史記二卷、傳三卷、墓誌銘十五卷、墓表一卷、行狀四卷、碑一卷、誄・辭・哀詞・祭文共一卷、雜文一卷、策一卷、題跋五卷、書十卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【儼山外集】10 ゲンザングワイシフ 書名。五十卷。明、陸深撰。其の目は、傳疑錄二卷・河汾燕閒錄二卷・春風堂隨筆一卷・聖駕南巡日錄一卷・大駕北還錄一卷・淮封日記一卷・南遷日記一卷・知命錄一卷・金臺記聞二卷・願豐堂漫書一卷・溪山餘話一卷・玉堂漫筆三卷・停驂錄一卷・續停驂錄三卷・科場條貫一卷・豫章漫抄四卷・中和堂隨筆二卷・史通會要三卷・平胡錄一卷・春雨堂雜抄一卷・同異錄二卷・蜀都雜抄一卷・古奇器錄一卷・書輯三卷・陸文裕公續集十卷。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【儼山纂錄】11 ゲンザンサンロク 書名。一卷。明、陸深撰。〔丘陵學山、第五冊〕。

【儼山老人】12 ゲンザンラウジン 明、陸深(11-41708‥154)の號。

【儼若】13 ゲンジャク ❶おごそかなさま。〔禮、曲禮上〕儼若㆑思。〔注〕儼、矜莊貌、人之坐思貌必儼然。〔抱朴子、譏惑〕儼若冠㆓于曲禮㆒、望貌首㆓于五事㆒。〔宋史、樂志七〕衣冠儼若、步武有㆑容。❷字號。㋑明、高日臨(12-45313‥1201)の字。㋺明、呂大器(2-3386‥229)の字。㋩清、佟世思(1-522‥13)の字。

【儼若㆑客】14 ゲントシテカクノゴトシ おごそかなこと賓客のやうである。老子の道を體した士の形容。〔老子、十五〕若㆑畏㆓四鄰㆒、儼兮其若㆑客。〔注〕如㆔客畏㆓主人㆒、儼然無㆑所㆓造作㆒也。

【儼若㆑思】15 ゲントシテオモフガゴトシ おごそかにつつしんで居て、丁度靜坐しながら反省思慮して居る時の如く、神凝り氣定まつてきちんとして居る態度。〔禮、曲禮上〕毋㆑不㆑敬、儼若㆑思、安㆓定辭㆒。〔韓愈、答㆓李翊㆒書〕儼乎其若㆑思、茫乎其若㆑迷。

【儼叔】16 ゲンシュク 遼、馬人望(12-44572‥839)の字。

【儼塾】17 ゲンジュク 森尙謙の號。森儼塾(6-14974‥40)を見よ。

【儼然】18 ゲンゼン 威嚴あるさま。おごそかにけだかいさま。〔禮、檀弓下〕儼然在㆓憂服之中㆒。〔論語、子張〕望㆑之儼然。〔論語、堯曰〕儼然、人望而畏㆑之。〔荀子、非十二子〕其容良儼然壯然。〔晏子、問、下〕夫儼然辱臨㆓敝邑㆒。〔陶潛、桃花源記〕土地平曠、屋舍儼然。

【儼束】19 ゲンソク きちんとしまる。〔梁簡文帝、書案銘〕敬㆑客禮㆑賢、恭思儼束。

【儼則】20 ゲンソク 清、周萩(2-3441‥263)の字。

【儼存】21 ゲンソン いかめしく存在してゐる。ありありと有る。

【儼重】22 ゲンチュウ いかめしい。莊重。〔薩都剌、溪行中秋翫㆑月詩〕起居儼重天人如、有子在㆑官名在㆑儒。

【儼塵】23 ゲンヂン 清、秦坊(8-24995‥141)の號。

【儼望】24 ゲンバウ 南齊、何昌寓(1-511‥292)の字。

【⿰亻矍】1325 クワク 矍(8-23792)に同じ。きよろきよろするさま。〔太玄經、養〕燕食扁扁、其志⿰亻矍⿰亻矍。〔注〕或得或失、⿰亻矍⿰亻矍然也。

【儹】1326 サウ 儧(1-1008)の本字。〔正字通〕儧、本作㆑儹。

二十一畫

【⿰亻囂】1327 ケウ 〔玉篇〕許驕切 蕭

❶ほこる。おごる。〔玉篇〕⿰亻囂、傲也。❷囂(2-4616)の俗字。〔正字通〕⿰亻囂、俗囂字。

【儽】1328 ㊀ライ 〔集韻〕盧對切 隊 ㊁ルイ 〔集韻〕倫追切 支 ㊂ラ 〔集韻〕魯果切 哿

小篆 ㊀❶垂れるさま。或は傫(1-1003)に作る。〔說文〕儽、垂皃、从㆑人纍聲。〔集韻〕儽、或作㆑傫。❷おこたる。〔說文〕儽、一曰、嬾懈。❸やみつかれる。〔集韻〕儽、病困也。❹高い處に多くが立つさま。〔六書統〕儽、凭㆑高衆立貌。㊁❶つかれる。〔廣雅、釋詁二〕儽、勞也。〔廣雅、釋訓〕儽儽、疲也。❷やぶる。あざむく。儽儽。〔老子、二十〕儽儽兮若㆑無㆑所㆑歸。〔釋文〕儽儽、敗也、欺也。❸傫(1-1153)に同じ。〔集韻〕傫、或作㆑儽。㊂はだぬぐ。羸(10-34648)に同じ。〔集韻〕羸、說文、袒也、或从㆑人从㆑纍。

【儡】1329 セン 儠(1—1087)の本字。〔正字通〕儠、儠本字。

【儸】1330 ラ 〔中華大字典〕力果切 哿
はだか。毛羽の無いさま。倮(1—797)・躶(10—38099)・羸(9—30032)に通ず。〔荀子、賦〕有レ物二于此一、儸儸兮其状、屢化如レ神。〔注〕儸儸、無二毛羽一之貌。〔正字通〕儸、倮・躶・羸、竝通。

【儃】1331 ソク 〔海篇〕音促
せまる。〔海篇〕儃、急迫也。

二十二畫

【儻】1332 ナウ 〔集韻〕乃浪切 漾
❶ゆるい。ゆるやか。〔廣韻〕儻、緩也。❷或は纕(8—28104)・禳(10—34755)に作る。〔集韻〕儻、寛緩也、或从レ糸、从レ衣。

【儽】1333 キン 義未詳。〔海篇〕儽、音欣。

【儽】1334 セキ 錫(11—40573)の古字。〔字彙補〕儽、古文錫字。

二十四畫

【儼】1335 セン 〔字彙補〕青天切 先
❶鹽に水をさし加くる。〔字彙補〕儼、水和レ鹽也。❷僉(1—1054)の古字。〔崔希裕、略古〕儼、古文僉字。

儿部

【儿】1336 ㊀ジン ニン 〔集韻〕而鄰切 眞 ㊁カイ 〔集韻〕居拜切 卦
小篆(小說) 小篆(本注段) 344
❶ひと。人(1—344)の古文奇字。〔說文〕儿、古文奇字人也、象形、孔子曰、儿在レ下、故詰詘。〔六書故〕人、㇒・㇏、非二二字一、特因レ所レ合而稍變二其勢一、合二於左一者、若レ伯若レ仲、則不レ變二其本文一而爲レ儿、合二於下一者、若レ兒若レ見、則微變二其本文一而爲レ㠯。❷にんねう。漢字の偏旁の稱。❸注音符號の聲化韻符。聲化韻母。舌體の中央部を半降させた狀態で ㄦ を發すると同時に、舌尖部を上昇せしめ、次いで硬口蓋に向つて接近させると此の音となる。ar ㊁いつくしみのある人。〔集韻〕儿、仁人也。

解字 象形。人の古文奇字。人は臂膕の形に象り、儿は股の屈曲した形に象る所が異なるけれども、大意は人と同じ。他と合して文字を形成するとき、人は偏として用ひ、儿は下部につける。一說に、人は立つてゐる人に象り、儿は行歩する人に象るといふ。〔說文、儿、段注〕籀文兼象二臂膕一、古文奇字則惟象二股腳一詰詘、猶二今云一屈曲一也。

参考 八(2—1738)・儿(2—1737)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕儿、人字在レ下之文。八、音殊、短羽飛聲、無レ剔、爻字从レ此。儿、凡席之几、有レ剔。

一畫

【兀】1337 ゴツ 〔集韻〕五忽切 月 ゴチ 圓コツ
小篆 wù
❶たかい。高くして上が平かなこと。〔說文〕兀、高而上平也、从二一在一儿上一、讀若レ夔、茂陵有二兀桑里一。〔段注〕一在二儿上一、高而平之意也、凡从二兀聲一之字、多取二孤高之意一。❷高くそびえた石。砳(8—24039)に通ず。〔正字通〕兀、崖高曰レ砳、古通用兀。〔柳宗元、晉問〕盪二突肆兀一。〔注〕兀、危石也。❸はげる。山のはげたさま。岧(4—7897)に通ず。〔正字通〕兀、山禿曰レ岧、古通用兀。〔杜牧、阿房宮賦〕蜀山兀阿房出。❹あしきる。趴(10—37412)に通ず。〔說文通訓定聲〕兀、假借爲レ趴。〔莊子、德充符〕魯有二兀者叔山無趾一。〔釋文〕刖レ足曰レ兀。❺無知のさま。〔孫綽、遊二天台山一賦〕兀同二體於自然一。〔注〕善曰、兀、無知貌。❻動かないさま。一心に勉強する意。〔韓愈、進學解〕恆兀兀以窮レ年。❼おちつかないさま。碗(2—2868)・杌(6—14457)に通ず。〔正字通〕兀、凡不安謂二之兀一、與二碗・杌一通。❽發語の辭。戲曲などに用ひる。兀的(27)を見よ。❾姓。〔集韻〕兀、亦姓。〔正字通〕兀、又姓、後魏改二樂安王元鸞一爲二兀氏一。❿注音符號の聲符の一。舌後帶鼻音。後舌部を上升して軟口蓋と接觸し、氣息の洩出を阻止し、氣息を鼻腔から外洩させると此の音となる。ㄫ。ng 此の聲符は今用ひず、外國音又は方言を注音する場合にのみ用ひる。

解字 指事。人と一との合字。一が人の上にある形。一は平の意。故に高くして平かなる意。〔說文通訓定聲〕兀、从二一在二人上一、一者平也。▽ 𠂤(金文) 象形。人が頭を突き上げた形に象り、高く突き出る意を表はす。

【兀菴】1ゴツアン 宋の僧。名は普寧。臨濟宗兀庵派の祖。文應元年、我が國に來朝し、建長寺第二世となる。弘長三年に歸國し、至元十三年、溫州龍翔寺に入寂す。勅諡は宗覺禪師。

【兀衍】2ゴツエン 遼、蕭圖玉(9—32012‥485)の字。

【兀崖】3ゴツガイ 明、霍韜(12—42321‥37)の號。

【兀涯】3ゴツガイ 明、張邦奇(4—9812‥1437)の號。

【兀傲】4ゴツガウ 高ぶりおごる。〔陶潛、飲酒詩〕規規一何愚、兀傲差若レ穎。〔白居易、効二陶潛體一詩〕兀傲襲閒臥、憔悴澤畔行。

【兀顏】5ゴツガン 複姓。〔金史、兀顏畏可傳〕兀顏畏可、隆安路猛安人。

【兀顏畏可】6ウエンエカ 金、猛安の人。官は安化軍節度使。兗州が破れるに際し、之に死す。〔金史、一百二十二〕。

【兀顏訛出虎】7ウエンオチユホ 金、猛安の人。大定の進士。官は武寧軍節度使。興定中、城破れて、之に死す。〔金史、一百二十二〕。「に同じ。

【兀刑】8ゴツケイ 足をきる刑罰。刖刑(2—1900‥3)に同じ。

【兀臬】9ゴツゲツ くるしむ。安からぬさま。臬兀(9—30107‥3)に同じ。〔梁肅、受命寶賦〕東周兀臬。

【兀兢】10ゴツゴツ ぐらぐら動く。〔韓愈、贈二劉師服一詩〕羨君齒牙牢且潔、大肉硬餅如二刀截一、我今呀豁落者多、所存十餘皆兀兢。

【兀兀】1コツコツ ❶心を一方に注いで動かぬさま。勉めて休まぬさま。勤苦するさま。不動なる。矻矻。〔韓愈、進學解〕焚二膏油一以繼レ晷、恆兀兀以窮レ年。〔古文眞寶後集箋解〕字彙云、兀兀、不レ動貌、韓文注云、兀兀、或作二矻矻一、字彙、矻矻、勞極也。〔杜牧、即事詩〕春愁兀兀成二幽夢一、又被二流鶯喚醒來一。❷ゆれて危いさま。ふらふらする。〔蘇軾、辛丑十一月云云馬上賦一詩一篇寄之詩〕不レ飲胡爲醉兀兀、此心已逐二歸鞍一發。

【兀坐】12ゴツ ぼんやりとしてすわる。又、たかだ

かとすわる。危坐。〔蘇軾、客位假寐詩〕謁入不レ得レ去、兀坐如ニ枯株一。

【兀擦】13 ゴツサツ 斬る。西夏人の語。〔東坡志林〕張舜民芸叟、邠人也、通ニ練西事一言、官軍圍ニ靈武一不レ下、糧盡而返、西人從ニ城上一問ニ官軍一、漢人兀擦店、或仰而答曰、兀擦、城上皆大笑、西人謂レ斬爲ニ兀擦一也。

【兀山】14 wu⁴ shan¹ 平地に突き出た山。はげやま。

【兀子】15 ゴツシ 四脚の四角な腰掛。〔東京夢華錄〕有ニ一人一、捧ニ月樣兀子錦覆於馬上一。

【兀自】16 wu⁴ tzŭ⁴ まさに・これ・このやうに・かへつて・また等の意。兀的(27)に同じ。〔元曲、玉鏡臺〕他兀自未揎起金衫袖、我又早先聽得玉釧鳴。〔長生殿、驚變〕兀自嬌慵慣。

【兀爾】17 コツジ じつとして動かぬさま。〔白居易、首夏詩〕兀爾水邊坐、翛然橋上行。

【兀日】18 ゴツジツ 不吉の日。〔清談錄〕丁顧言宦レ蜀、至レ官有レ期、一老僧曰、是爲ニ兀日一、不レ可レ視レ事、丁笑不レ應、至レ官月餘、以レ事免歸。

【兀者】19 ゴツシヤ ❶刖刑を受けた一本足の者。兀人。〔莊子、德充符〕魯有ニ兀者王駘一。〔釋文〕李云、刖足曰レ兀。〔杜甫、入ニ衡州一詩〕寡妻從レ爲レ郡、兀者安ニ堵墻一。❷地名。兀者衛を見よ。

【兀者衛】20 ゴツシヤエイ 衛の名。明、永樂年間に、兀者衛・兀者右衛・兀者左衛・兀者後衛等を置いた。今、滿洲黑龍江省の呼蘭・綏化兩縣の境。遼は兀惹部、又は烏惹部といつた。

【兀者野人】21 ゴツシヤヤジン ❶地名。兀者衛の在つた地方。又、吾者野人ともいふ。❷軍民府の名。明、置く。〔明史、地理志二〕三萬衞、洪武初廢、二十年十二月、置ニ三萬衞於故城西一、兼置ニ兀者野人乞例迷女直軍民府一。

【兀朮】22 ゴツジユツ 完顏宗弼(**3**―**7079**··116)を見よ。

【兀然】23 ゴツゼン ❶無知のさま。又、安んじおごるさま。〔劉伶、酒德頌〕兀然而醉、豁爾而醒。〔張融、與ニ吏部尙書王僧虔一書〕兀然造化、忽如草木。❷動かぬさま。〔顏氏家訓、雜藝〕兀然端坐耳。〔張說、虛室賦〕厭ニ百慮之勞一、止ニ歸一途之兀然一。

【兀卒】24 ゴツソツ 可汗といふが如き稱號。西夏の趙元昊が宋の仁宗に上表して、自らを男邦泥定國兀卒と稱した。清代では烏珠といふ。〔宋史、外國一、夏國傳上〕兀卒、卽吾祖也、如ニ可汗號一、議者以爲、改ニ吾祖一爲ニ兀卒一、特以侮ニ玩朝廷一。

【兀底】25 コツテイ ❶錢をいふ。〔通俗編、語辭、兀底〕嬾眞子錄、古所レ云阿堵、乃今所レ云兀底也、王衍口不レ言レ錢、因曰レ去ニ阿堵物一、謂ニ去ニ卻兀底一耳、後人遂以レ錢爲ニ阿堵物一、眼爲ニ阿堵中一、皆非レ是。❷このやうに。この。兀的。阿堵。〔馬永卿嬾眞子錄〕古今之語、大都相同、但其字各別耳、古所レ云阿堵、卽今所レ云兀底也。

【兀底律】26 ゴツテイリツ むさぼる。貪欲。〔貴耳錄〕俗書兀底律、貪之謂也。

【兀的】27 wu⁴ tê まさに・このやうに、又、どうして、感嘆詞「おや」などの意。兀底。兀自(16)に同じ。〔元曲、陳州糶米〕衙內、兀的便是紫金鎚。〔元曲、伍員吹簫〕兀的不自有傍人說短長。〔長生殿、偸曲〕兀的不是上有紅鐙。

【兀那】28 wu⁴ na⁴ 彼。かの。兀は發聲の語。〔元曲、漢宮秋〕兀那彈琵琶的、是那位娘娘。

【兀鷹】29 ハゲタカ 鳥の名。猛禽類。體が大きく力が強く、饐肉を主食とし、山地にすむ。亞細亞・歐羅巴・阿弗利加三洲の交界に多い。

【兀欲】30 コツヨク 遼、世宗(**1**―**31**··225)の字。

【兀立】31 コツリツ 高くそば立つ。突き立ちそびえる。

【兀婁】32 コツルコツロウ 高くけはしいさま。〔馬融、長笛賦〕兀婁狋䫊。〔注〕善曰、兀婁狋䫊、嶮峻之貌。

【兀兒鼠】33 ゴツジソ 鼠の一種。〔甘肅地誌〕涼州地有ニ兀兒鼠者一、似レ鼠。

【兀惹部】34 ウジヤクブ 遼代、北滿洲に據つて居た女眞種の部族。鐵驪と高麗との閒に住し、兀惹城に據つて居た。遼の景宗の保寧七年に初めて遼に朝貢した。同年秋、黃龍の衞將燕頗は俄かに都監を殺して遼に叛し、討伐軍に逐はれて兀惹城に奔つた。其の後二十年を經て、統和十三年に燕頗と兀惹部の烏昭度といふものとが、再び鐵驪部を侵した爲、聖宗は奚王和朔奴を遣して兀惹城を攻めしめたが、兀惹善く守り、城陷らず、遼軍は之を棄てて東南方の部族を征し、高麗の北鄙を經て軍を還した。烏昭度は其の後契丹に內附して、歲貢の額を免ぜられるやう請うたが、其の翌年には新に烏昭慶といふものが朝貢して來た。其の後、統和二十二年になつて、兀惹部は鐵驪部の反擊に遭ひ、部落散亡の悲運に至つた。卽ち同年九月、烏昭慶の妻子は捕はれて遼に送られ、其の部落民の一部は賓州に徙され、他の部民は東方の浦盧毛朶部に逃れ、兀惹城は鐵驪の據城となつた。〔遼史、聖宗紀四〕統和十三年丁巳、兀惹烏昭度・渤海燕頗等、侵ニ鐵驪一。

【兀地奴】35 ゴツチド 鳥の名。がてう。鵝(**12**―**46954**)の別名。〔淸異錄、禽〕世謂レ鵝爲ニ兀地奴一、謂ニ其行步蹩跚一耳。

【兀都帶】36 タウトタイ 元の人。安童の子。謚は忠簡。母に事へて至孝。成宗の時、官は大司徒。〔元史、一百二十六〕。

【兀剌山】37 ウラサン 山名。今の滿洲遼寧省桓仁の西北、佟佳江の右岸なる五女山に當る。一名、亐羅山・吾老山。山上に兀剌山城がある。高麗の恭愍王の十九年に、元を討たうとして李成桂を遣し、此の城を破つて進軍せしめてから、野人の住地となつた。李朝の世宗の頃、建州衞の巨酋李滿住が此處に山寨を構へた。其の後、朝鮮と建州との閒に紛爭が續き、遂に世祖の十三年九月に、明の命によつて、建州は征せられ、李滿住以下の野人は攻殺せられてしまつた。然し其の後も明末に至る迄、建州は依然として女眞の住地であつた。〔新增東國輿地勝覽、五十五、理山郡〕。

【兀剌赤】38 ウラチ 馬丁。元人の語。〔天香樓偶得、兀剌赤〕元人掌ニ車馬一者之稱、故幽閨記曲有レ云、兀剌赤、兀剌赤、門外等多時。「の字。

【兀里軫】39 コツリシン 遼、耶律覿烈(**9**―**29008**··119)

【兀良哈】40 ハウリヤン 地名。明時代、蒙古東部の地方、烏梁海をいふ。烏梁海(**6**―**18898**··469)を見よ。〔讀史方輿紀要、直隸、附考〕兀良哈、在ニ大寧衞北一、其地東接ニ海西一、西連ニ開平一、北抵ニ北海一、古山戎地、秦爲ニ遼西郡北境一、漢爲ニ奚人所レ據。

【兀魯台】41 ウルタイ 元の人。肖乃台の子。樊城を攻めて功あり。官は武節將軍。〔元史、一百二十〕。

【兀兒失溫】42 ウルシユン 河の名。烏爾順河。兀兒失溫木噎を見よ。〔元祕史〕捕魚兒海子・闊連海子、兩箇海子、中閒的河、名ニ兀兒失溫一。

【兀兒失溫木噎】43 ウルシユンミユウレン 河の名。兀兒失溫。今の滿洲黑龍江省烏爾順河 ウルシユンガハ のこと。貝爾湖より源を發して北流し、呼倫湖に注ぐ。今は大部分涸渇してゐるが、附近は滿洲と蒙古とを繫ぐ重要地であり、又古來好適な放牧地であつた爲に、屢〻強族の據地となり、金代には塔塔兒部が據つてゐた。兀兒失溫木噎の名は成吉思汗實錄に見ゆ。

【兀良合台】44 ウリヤンホタイ 元の人。速不台の子。雲南を討平し、大元帥を加へらる。各地に轉戰して敗北したことのない名將。〔元史、一百二十一〕。

【兀籠格赤】45 ウルゲンジ 中央亞細亞、花剌子模の都邑。玉龍傑赤(**7**―**20821**··870)を見よ。

二畫

【允】1338

小篆

㊀イン〔集韻〕庾準切 軫
㊁エン〔集韻〕余專切 先
ㄩㄣˇ yün³

㊀❶**まこと。まことに。**〔說文〕允、信也、从ニ㠯儿一。〔爾雅、釋詁〕允、信也、云云、允、誠也。〔方言、一〕允、信也、齊魯之閒曰レ允。〔書、堯典〕允恭克讓。〔傳〕允、信也。〔詩、小雅、車攻〕允矣君子。〔箋〕允、信。〔左氏、文、十八〕明允篤誠。〔疏〕允、信也、終始不レ愆、言行相副也。❷**さかしい。**惡賢い。〔爾雅、釋詁〕允、佞也。〔注〕佞人似レ信。❸**あたる。**公平。〔易、升〕允レ升大吉。〔虞注〕允、當也。〔後漢書、虞翻傳〕案レ法平允。❹**ゆるす。**うべなふ。〔正字通〕允、肯也、今俗許諾曰レ允。〔元稹、浙東論レ罷レ進ニ海味一狀〕蒙ニ聖

慈ニ特賜ニ允許一。五 狁(7－20286)に通ず。〔詩、大雅、韓奕、其追其貊、箋〕爲ニ獫允所レ逼。〔釋文〕允、本亦作レ狁。古は畎(7－21786)に作る。〔字彙補〕畎、古文允字。七姓。〔萬姓統譜〕允、允姓之戎、居ニ瓜州一者、其後以爲レ氏、或云、允格之後。二 允吾は、縣名。又、谷の名。允吾(4)の一 一を見よ。〔集韻〕允、允吾、縣名、在ニ金城郡一。邦じょう。寮の判官。

名乘 マサ。チカ。アエ。タフ。ミツ。タダ。

解字 會意。㠯と人との合字。段注によれば、㠯は任用する、卽ち賢人に任じて疑はない意。故に信・誠の意とする。〔說文、允、段注〕今依ニ韵會所レ據小徐本一、㠯、用也、任レ賢勿レ貳、是曰レ允。▽𠂤（甲骨文）象形。頭部のすぐれ秀でた人に象る。

參考 清の世祖の諱、胤禛を避けて胤の代りに允字を用ひる。〔清國行政法汎論、皇室、御名敬避〕世祖憲皇帝(雍正帝)廟諱曰ニ胤禛一、胤以レ允代レ之、祚胤胤征等字、皆不レ得レ用。

【允矣】1 ナンヂヨシ 誠に當つてゐる。〔詩、小雅、車攻〕允矣君子、展也大成。〔箋〕允、信。〔集傳〕信矣其君子也。「よ。

【允可】2 ユルス 允許。印可(2－2848‥7)を見よ。

【允嘉】3 マコトニよい。〔王粲、薤賓鐘銘〕度量允嘉、氣齊允淑。

【允吾】4 ①隴西の谷の名。今の甘肅省皐蘭縣の境。〔後漢書、馬援傳〕羌因將ニ其妻子輜重、移阻ニ於允吾谷一。②縣名。漢、置く。故城は甘肅省皐蘭縣の西北。〔漢書、地理志下〕金城郡、縣十三、允吾。〔注〕應劭曰、音鉛牙。〔清一統志〕漢允吾、在ニ黃河之北一、明一統志謂、允吾城、在ニ蘭州西南五十里一、州志土人謂ニ之西古城一、弘治十年爲ニ堡一、皆誤。

【允諧】5 まことにやはらぐ。衆人が心から和諧する。〔書、益稷〕庶尹允諧。〔蔡傳〕允諧者、信皆和諧也。

【允街】6 縣名。漢、置く。故城は甘肅省平番縣の南。〔漢書、地理志下〕金城郡、縣十三、允街、宣帝神爵二年置。〔太平寰宇記〕其城、地勢極險、沮渠蒙遜增築、以爲ニ防戍之所一。

【允高】7 字號。一 明、黃山(12－47926‥407)の字。

【允康】8 清、吳鴻錫(2－3365‥562)の字。

【允剛】9 晉、李毅(6－14459‥187)の字。

【允格】10 上古の人。金天氏の後なる昧の子。〔左氏、昭、元〕昔金天氏有ニ裔子一、曰レ昧、爲ニ玄冥師一、生ニ允格・臺駘一。臺駘能業ニ其官一、宣ニ汾洮一、障ニ大澤一、以處ニ大原一、帝用嘉レ之、封ニ諸汾川一。〔唐書、宰相世系表四上〕格氏、出レ自ニ允格之後一。

【允洽】11 まことにあまねし。〔班固、東都賦〕神人之和允洽、羣臣之序既肅。〔晉書、列女、虞潭母孫氏傳〕得ニ聲望一、允洽、爲ニ朝廷所レ稱。〔晉書、赫連勃勃載記〕五稔之間、道風弘著、暨乎七載、而王猶允洽。〔劉琨、勸進表〕天地之際既交、華裔之情允洽。〔沈約、齊故安陸昭王碑〕六幽允洽、一レ德無レ爽。

【允堪】12 宋の高僧。錢塘の人。律宗十二部經解經傳・法門贊序等の文を撰し、慶曆中、眞悟大師の稱號を賜はつた。〔新續高僧傳、二十六〕。

【允輝】13 字號。一 明、鄒烜(11－39562‥17)の字。

【允禧】14 清の聖祖の第二十二子。號は謙齋・紫瓊巖主人・樗南。封は愼郡王。諡は靖。書畫を善くし、春浮居士と自署す。書室を花間堂・據經樓といふ。著に花間堂詩鈔・紫瓊巖詩鈔・據經樓詩選がある。〔清史稿、二百二十六〕。

【允宜】15 yǔn² i² 承認する。是認する。「の室名。

【允宜堂】16 明、陳文燭(11－41698‥1234)

【允吉】17 字號。一 明、蘇祜(9－32427‥5)の字。二 明、孫昇(濟寧の人)(3－6987‥172)の字。三 明、孟兆祥(3－6960‥327)の字。四 明、兪迪(1－1437‥59)の字。

【允許】18 ゆるす。聽きとどける。承諾。聽許。許可。允可。〔元稹、浙東論ニ罷レ進ニ海味一狀〕如蒙ニ聖慈一、特賜ニ允許一。

【允恭】19 まことにつつしむ。心から謹愼する。允襲。〔書、堯典〕允恭克讓。〔傳〕允、信。〔漢書、敘傳下〕允恭玄默。〔孔子家語、六本〕猶允恭以持レ之。一 金、顯宗(12－43726‥87)の名。二 字號。㋑晉、曹志(5－14297‥102)の字。㋺清、年希堯(4－9168‥289)の字。㋩清、劉湘煃(2－2224‥1036)の字。四 第十九代の帝諡。

【允襲】20 まことにつつしむ。允恭の一 に同じ。〔晉書、樂志下〕於穆武皇、允襲清明。

【允均】21 明、葉彬(9－31387‥121)の字。

【允懷】22 一 信服する。〔書、周官〕民其允懷。〔傳〕從レ政以ニ公平一、滅ニ私情一、則民其信歸レ之。〔蔡傳〕民莫レ不ニ敬信懷服一矣。二 まことにおもふ。〔春秋繁露、郊祭〕唯此文王、小心翼翼、昭事ニ上帝一、允懷ニ多福一。「名。

【允光】23 明、王叔承(7－20823‥1670)の初

【允潔】24 明、渠澄清(7－17764‥57)の字。

【允協】25 まことにかなふ。心から和合する。〔晉書、杜夷傳〕能允協時雍。

【允愜】26 事が、よく時情に適すること。適切。愜はかなふ。〔宋史、李繼和傳〕朝廷比禁ニ青鹽一、甚爲ニ允愜一。

【允元】27 一 仁厚の人を信用して官職に任ずる。〔書、舜典〕柔ニ遠能レ邇、惇ニ德允元一。〔蔡傳〕允、信也、德、有德之人也、元、仁厚之人也。二 字號。㋑晉、趙至(10－37171‥179)の字。㋺唐、于頔(1－252‥77)の字。

【允言】28 字號。一 唐、盧綸(8－23050‥177)の字。二 明、錢昌(11－40563‥115)の字。

【允源】29 晉、虞溥(9－32723‥136)の字。

【允肯】30 yǔn³ k'ěn³ 承諾する。許諾する。

【允侯】31 清、周世臣(2－3441‥731)の字。

【允裁】32 聽きとどける。又、其のこと。聽許。允可(2)に同じ。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕皆出ニ法皇之允裁一。

【允濟】33 字號。一 宋、梁嚴老(6－14825‥220)の字。二 金、衞紹王(10－34074‥157)の名。

【允齋】34 清、陸綸(11－41708‥847)の號。

【允莊】35 字號。一 元、馮理(12－44579‥126)の字。二 清、汪端(6－17154‥103)の字。

【允臧】36 一 まことに善い。〔詩、鄘風、定之方中〕卜云其吉、終然允臧。〔傳〕允、信、臧、善也。〔左思、魏都賦〕謀ニ龜筮一、亦既允臧。一 晉、庾敳(4－9398‥43)の字。

【允察】37 同情すること。諒察。〔齊映、爲ニ蕭復ニ讓ニ宰相一第二表〕冀ニ蒙ニ允察一。

【允之】38 明、左然(4－8720‥294)の字。

【允斯】39 清、邵廷采(11－39343‥138)の字。

【允禔】40 清の人。聖祖の長子。封は直郡王。嘗て裕親王福全の副となつて、噶爾丹を征したが、福全と合はず、召還さる。後、蒙古喇嘛に令して太子允祀を呪咀したため、爵を革められ、禁錮せらる。〔清史稿、二百二十六〕。

【允禩】41 清の人。聖祖の第八子。封は貝勒。雍正の初、廉親王に封ぜらる。非望を希冀するに坐し、爵を奪はれ、宗籍を削られ、阿其那(狗)といふ名を賜はつたが、復四十大罪を劾せられ、獄中に卒す。弟、允禟の死と相距ること十六日。或は世宗に殺さるともいふ。〔清史稿、二百二十六〕。

【允慈】42 後漢、公沙孚(2－1452‥224)の字。

【允修】43 字號。一 明、朱延禧(6－14424‥678)の字。二 明、蕭崇業(9－32012‥415)の字。三 明、杜大成(6－14477‥365)の字。

【允實】44 明、李文郁(6－14459‥1897)の字。

【允執】45 一 まことに執り守る。必ず守る。允執ニ其中一を見よ。二 清、孫克宏(8－6987‥400)の字。

【允執ニ其中一】46 誠に其の中庸の道を執り守る。堯が舜に位を讓り、又、舜が禹に位を讓つた際、王者の守るべき德として授け誡めた語。〔書、大禹謨〕人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執厥中。〔蔡傳〕自無ニ過不及之差一、而信能執ニ其中一矣。〔論語、堯曰〕堯曰、咨、爾舜、天之曆數在ニ爾躬一、允執ニ其中一。

【允集】47 まことに集まり至る。〔陸機、漢高祖功臣頌〕三王從レ風、五侯允集。〔注〕濟曰、允、信、集、至也。

【允輯】48 まことに和ぐ。心から和ぐこと。〔陸機、述先賦〕仰ニ先后之顯烈一、懿ニ暉祚之允輯一。

【允昌】49 遼、康延壽(4－9376‥163)の字。

【允祥】50 一 清の人。聖祖の第二十二子。封

は世祖の時、怡親王。謚は賢。戸部を領す。奏して賦稅を減じ、又、畿甸の河渠を濬ひ、荒地數千里を闢く。屢〻詔を承けて大獄を決し、寬釋するところ多し。書室を安樂堂といふ。〔清史稿、二百二十六〕・〔碑傳集、一〕。❶明、吳麟（孝豐の人）（2－3365‥407）の字。

【允上】51 ジュンジャウ 清、雷大升（12－42245‥194）の字。

【允鑠】52 ジュンシャク まことに美しい。又、其の物事。〔揚雄、長楊賦〕酌二允鑠一、肴二樂胥一。〔注〕善曰、張揖曰、允、信也。鑠、美也。言、酌二信美一以當レ酒、帥二禮樂一以爲レ肴。

【允若】53 ジュンジャク ❶まことにしたがふ。心の底から服從する。允は信、若は順。〔書、大禹謨〕祗載見二瞽瞍一、夔夔齊慄、瞽亦允若。〔蔡傳〕允、信、若、順也。〔唐玄宗、后土神祠碑序〕山川鬼神、鳥獸魚鼈、莫レ不二允若一、莫レ不二咸寧一。❷元の高僧。紹興の人。字は季衡。號は浮休、又、若耶。泰定の間、雲門に居り、至正中、上竺に遷り住む。後、賊の爲に殺さる。風度簡遠、妄りに言笑せず、僧中の御史と稱せらる。著に內外集がある。〔新續高僧傳、四〕。

【允從】54 ジュンツォン ❶元、甘立（7－21643‥206）の字。❷yün³ ts'ung² 約束する。承諾して從ふ。

【允叔】55 ジュンシュク 字號。❶未、曹友聞（5－14297‥192）の字。❷明、范叔明（9－30834‥196）の字。

【允准】56 ジュンチュン 許す。官憲の許可にいふ。允許。

【允初】57 ジュンショ 清、彭紹升（4－10003‥179）の字。

【允升】58 ジュンシャウ ❶誠實を以て進み行く。允升大吉を見よ。❷字號。㋑宋、許驤（10－35298‥114）の字。㋺宋、周褒（2－3441‥323）の字。㋩明、高翀（安陸の人）（12－45313‥666）の字。㋥明、朱升（6－14424‥391）の字。㋭明、蕭雲舉（9－32012‥292）の字。㋬明、羅欽順（9－28397‥319）の字。ⓚ清、方大猷（5－13620‥574）の字。

【允升大吉】59 ジュンシャウダイキチ 升卦は地下に火があり、陽氣盛に升る象。故に大吉といふ。升（2－2702）の字解を見よ。〔易、升〕升元亨、用見二大人一、勿レ恤、南征吉。〔易、升〕初六、允升大吉、上合二志也。〔疏〕上、謂二三三也、與レ之合レ志俱升、乃得二大吉一也。

【允承】60 ジュンショウ ❶まことにうける。心から受け入れる。心から從ふ。承諾する。〔後漢書、隗囂傳〕凡我同盟、二十一將、十有六姓、允承二天道一、興二輔劉宗一。❷明、文臺（5－13450‥652）の字。

【允祁】61 ジュンキ 清の人。聖祖の次子。謚は密。年二歲の時、立つて太子となつたが、壯年になつて、狂疾を得て廢せられ、雍正の初、卒す。理親王と追封せらる。〔清史稿、二百二十六〕。

【允心】62 ジュンシン 唐、許天正（10－35298‥367）の字。

【允仁】63 ジュンジン 明、溫良（7－17968‥238）の字。

【允正】64 ジュンセイ まことにただしい。〔王儉、褚淵碑文〕弼諧允正、徽猷弘遠。〔注〕濟曰、允、信。

【允姓】65 インセイ 烏孫の先祖の稱。〔左氏、昭、九〕允姓之姦、居二于瓜州一。〔注〕允姓、陰戎之祖、與二三苗一俱放二三危一者、瓜州、今敦煌。

【允誠】66 インセイ ❶眞實でいつはりがない。〔竹書紀年、上〕四時從レ經、萬姓允誠。❷字號。㋑後漢、鮑信（12－46074‥45）の字。㋺元、彭庭堅（4－10003‥193）の字。㋩明、毛忠（6－16772‥167）の字。ⓚ清、萬斯備（9－31339‥591）の字。

【允肅】67 インシュク 清、宜思恭（3－7111‥97）の字。

【允先】68 インセン 明、朱先（6－14424‥422）の一名。

【允倩】69 インセン 字號。❶清、朱駿聲（6－14424‥854）の號。❷清、陳祚明（11－41698‥1080）の字。

【允宗】70 インソウ 宋、趙允初（10－37171‥410）の初名。

【允塞】71 インソク まことに滿ちる。大いに滿ちる。又、誠信にして篤實なこと。〔書、舜典〕溫恭允塞。〔傳〕舜有二深智文明溫恭之德一、信充二塞上下一。〔蔡傳〕和粹而恭敬、誠信而篤實。〔詩、大雅、常武〕王猶允塞、徐方既來。〔集傳〕允、信、塞、實。〔白虎通、喪服〕展二興周道一、顯二天度數一、萬物咸得、休氣充塞。〔揚雄、劇秦美新、鬼神之望允塞。〔注〕濟曰、允、信、塞、滿也。

【允屬】72 インゾク まことの屬吏。〔白居易、爲レ人上二宰相一書〕其代レ予言、允屬良弼、必能形二四方之風一、成二天下之務一。

【允大】73 インダイ 字號。❶清、胡昇猷（9－29400‥508）の字。❷清、毛升芳（6－16772‥291）の字。

【允顯】74 インケン 清の聖祖の十四子で、世宗の同母弟。謚は勤。封は固山貝子。恂郡王に進められる。〔清史稿、二百二十六〕。

【允當】75 インタウ まことにあたる。正しく道理にかなふ。〔左氏、僖、二十八〕軍志曰、允當則歸。〔注〕無レ求レ過レ分。〔疏〕允當則歸、謂下信當二分理一、則須二歸還一、無上求レ過レ分。〔後漢書、張衡傳〕百揆允當、庶績咸熙。〔嵇康、釋私論〕體清神正、而是非允當。

【允當二天人一】76 インタウテンジンニアタル まことに天意人心に順ふ。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕明公宜下承二聖旨一、受二茲介福一、允當二天人一上。〔注〕銑曰、允、信也、天人謂二天意一、人事一也。

【允糖】77 インタウ 清の人。聖祖の第九子。封は固山貝子。結黨構逆の事發覺し、籍を削つて禁錮せられ、詔に依つて名を塞思黑と改められ、二十八大罪を劾せられ、尋いで卒す。或は世宗が密かに人を遣して殺したといふ。〔清史稿、二百二十六〕。

【允卓】78 インタク 後漢、劉洪（2－2224‥279）の字。

【允諾】79 インダク 承知する。引受ける。承諾。〔清國行政法汎論、文官任命形式、奏薦〕均以二其名一咨二送於吏部一、得二其允諾一爲二常例一。

【允答】80 インタフ まことに答へる。十分に答へ報いる。〔司馬相如、封禪文〕允答二聖王之德一、競競翼翼。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕高秩厚禮、允答二元功一。〔注〕良曰、允、信。

【允中】81 インチュウ 字號。❶後唐、張憲（4－9812‥278）の字。❷金、韓孝彥（12－43159‥254）の字。❸元、王忱（7－20823‥619）の字。❹明、夏煜（8－5720‥7）の字。❺明、柴惟道（6－14664‥93）の字。❻明、朱公節（6－14424‥765）の字。

【允中亭】82 インチュウテイ 宋、張謂（4－9812‥136）の室名。

【允琦】83 インキ 明、翁正春（金華の人）（9－28635‥83）の初名。

【允兆】84 インテウ 明、吳夢暘（2－3365‥868）の字。

【允迪】85 インテキ ❶まことにふむ。一定の條理を信奉して履行する。〔書、皐陶謨〕曰若稽レ古皐陶、曰、允迪二厥德一、謨明弼諧。〔傳〕迪、蹈、厥、其也、其二古人一也、言、人君當下信蹈二行古人之德一、謀廣聽明上、以輔中諧其政上。❷金、顯宗（11－40152‥1247）の更名。❸明、盧何生（8－23050‥189）の字。

【允哲】86 インテツ 甚だ事理に明かなこと。〔陸雲、祖考頌〕明明邵侯、允哲允謀。

【允德】87 インドク ❶まことの德。又、よく德を修め養ふこと。〔孔子家語、弟子行〕孝恭慈仁、允レ德圖レ義。❷字號。㋑陳、庾持（4－9398‥34）の字。㋺元、章迪（8－25761‥134）の字。㋩元、王孚遠（7－20823‥2056）の字。ⓚ明、高迪（12－45313‥699）の字。ⓛ明、喬懋敬（2－3990‥89）の字。

【允納】88 インナフ まことをもつて受けいれる。疑はずに用ひる。信用する。〔晉書、儒林、韋謏傳〕陳二軍國之宜一、多見二允納一。

【允南】89 インナン 字號。❶三國蜀、譙周（10－35976‥14）の字。❷陳、顧越（12－43689‥23）の字。❸宋、馮山（12－44579‥80）の字。

【允寧】90 インネイ 明、王維楨（7－20823‥1134）の字。

【允白】91 インパク 後魏、薛辯（9－32123‥125）の字。

【允伯】92 インパク 明、郭宗昌（11－39474‥369）の字。

【允彪】93 インヒョウ 清、何焯（1－511‥66）の字。

【允夫】94 インフ 宋、程洵（8－25081‥69）の字。

【允付】95 yün³ fu⁴ 引受ける。引受け。

【允武】96 インブ まことに武、武德の盛大なこと。允文允武（100）を見よ。〔德川齊昭、弘道館記〕允武允文、以開二太平之基一。

【允服】97 インフク 承知する。〔福惠全書、刑名部、問擬〕各情允服無レ詞。

【允文】98 インブン まことに文。文德の盛大なこと。允文允武を見よ。〔詩、周頌、武〕允文文王、克開二厥後一。

【允文解】99 インブンカイ 逸周書の篇名。

【允文允武】100 インブンインブ まことに文、まことに武の義。文武の德の盛大なこと。天子に文武の德が備はつてゐることを、ほめたたへていふ。〔詩、魯頌、泮水〕允文允武、昭假二烈祖一。〔箋〕僖公信文矣、爲レ脩二泮宮一也、信武矣、爲レ伐二淮夷一也。〔史岑、出師頌〕允文允武、明レ詩悅レ禮。〔注〕良曰、允、信也。

【允炊】101 アンジ 明、惠帝(4－10822‥101)の名。

【允穆】102 ボイク ㊀まことにやはらぐ。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕徽音允穆。〔注〕銑曰、允、信。穆、和也。㊁明、岑用賓(4－7937‥51)の字。

【允明】103 イメイ 字號。㊀後唐、王處直(7－20823‥1687)の字。㊁明、王思義(7－20823‥1578)の字。

【允予】104 yǔn² yú³ 許し與へる。許可する。

【允釐】105 イン まことにをさめる。〔書、堯典〕允釐百工、庶績咸熙。〔傳〕允、信。釐、治。

【允良】106 リインリャウ 明、劉士驥(2－2224‥959)の字。

【允亮】107 リインリャウ まこと。〔王儉、褚淵碑文〕送レ往事レ居、忠貞允亮。〔注〕翰曰、允、合、亮、信也。

【允令】108 レイイン 信實な命令。ありがたい教。〔國語、晉語七〕辱二君之允令一。〔注〕允、信也。

【允禮】109 レイイン 清の人。聖祖の第十七子。號は靜遠齋・春和主人。諡は毅。封は雍正の初、多羅果郡王。戶部の事を管す。乾隆中、卒す。書室を春和堂といふ。著に春和堂集・靜遠齋集・奉使紀行詩集がある。嘗て方望溪に屬して古文約選を輯む。〔清史稿、二百二十六〕

【允孚堂】110 インフダウ 清、潘應斗(7－18236‥127)の室名。

【先】1339

シン〔集韻〕緇岑切 侵

小 篆 **かんざし**。かうがい。簪(8－26558)の本字。〔說文〕先、首笄也、从二儿一、象形、簪、俗先。

解字 會意象形。儿と匕との合字。儿は人、匕は簪の形。人が頭に簪をさした形に象り、簪の意を示す。〔說文、先、段注〕此非二相與比敍之匕一、乃象二先之形一也、先必有レ岐、云云、篆右象二其叉一、左象二其所一レ抵以固一弁者一。〔說文通訓定聲〕先、从二古文人匕一、象二簪形一、與二夫同意。

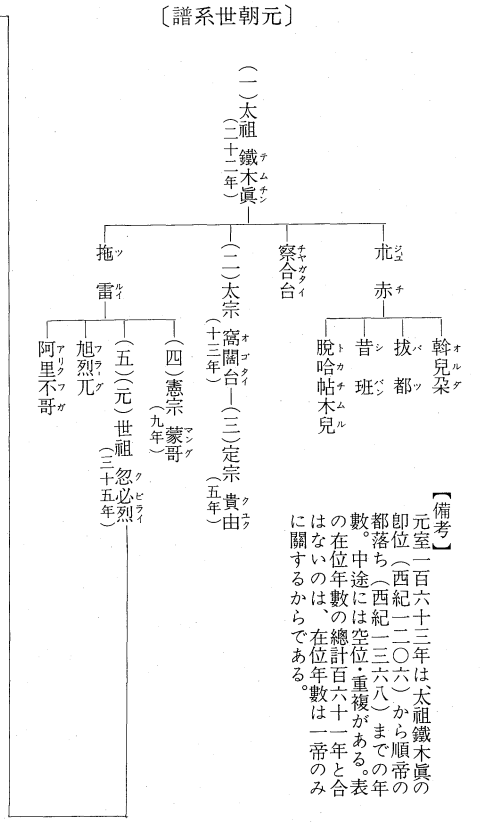
参考 无(5－13716)・无(5－13717)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕无、音巫、妄也。旡、音寄、飲食氣逆、不レ得レ息。先、古簪字。

【元】1340

ゲン グワン〔集韻〕愚袁切 元

小 篆 ㊀**もと**。〔正字通〕元、本也。〔春秋繁露、重政〕元、猶レ原也。㊁**はじめ**。〔說文〕元、始也、从レ一兀聲。〔爾雅、釋詁〕元、始也。〔易、乾〕元亨利貞。〔疏〕于夏傳云、元、始也。〔公羊、隱、元〕元年者何、君之始年也。〔疏〕解云、春秋說云、元者、端也。〔春秋元命苞〕元者、端也。㊂**一。第一**。〔正字通〕元、一也。〔公羊、隱、元、注〕變レ一謂レ元。〔春秋繁露、重政〕春秋變レ一謂二之元一。㊃**かしら**。かうべ。〔爾雅、釋詁〕元、首也。〔左氏、僖、三十三〕狄人歸二其元一。〔注〕元、首也。〔禮、曲禮下〕牛曰二一元大武一。〔注〕元、頭也。㊄**をさ**。首長。〔廣雅、釋詁四〕元、長也。〔左氏、僖、二十七〕謀二元帥一。〔疏〕元、長也。㊅**君**。〔廣雅、釋詁一〕元、君也。㊆**大きい**。〔正字通〕元、大也。〔書、大禹謨〕汝終陟二元后一。〔傳〕元、大也。〔書、金縢〕命二于元龜一。〔馬注〕元龜、大龜也。㊇**よい**。〔禮、月令〕乃以二元日一祈二穀于上帝一。〔注〕元、善也。〔左氏、文、十八〕謂二之八元一。〔注〕元、善也。〔國語、晉語七〕人之有二元君一。〔注〕元、善也。㊈**正嫡**。ただしい。〔儀禮、士冠禮〕天子之元子、猶レ士也。〔注〕元子、世子也。〔後漢書、皇后紀序〕晉獻升二戎女一爲二元妃一。〔注〕元妃、嫡夫人也。㊉**うつくしい**。〔易、坤〕黃裳元吉。〔注〕上美爲レ元。㊊**上**。〔書、舜典〕月正元日。〔傳〕元、上也。〔荀子、正論〕小侯元士次之。〔注〕元士、上士也。㊋**天**。〔淮南子、原道訓〕執二元德於心一。〔注〕元、天也。㊌**氣**。**天地の大德**。萬物を育成する德。〔六書精蘊〕元、天地之大德、所二以生一生萬物一也、元、从レ二从レ人、仁、从レ人从二一、在レ天爲レ元、在レ人爲レ仁、在二人身一則爲二體之長一。〔班固、幽通賦〕渾元運物。〔注〕善曰、元、氣也。㊍**民**。〔正字通〕元、百姓曰二元元一。〔漢書、郊祀志〕大路所レ歷、黎元不レ知。㊎**時間の一單位**。曆數上、又は數理上、天地が循環推移して原始狀態に復歸する一期。前者は四千六百十七年、卽ち後漢書の律曆志等に載せてゐるもので、讖緯的推測による。後者は十二萬九千六百年、卽ち宋の邵雍の主張したもので、哲學的思索による。後者は三十年を一世とし、十二世、卽ち三百六十年を一運とし、三十運、卽ち一萬八百年を一會とし、一元は卽ち十二會である。一元氣の活動は甲子と共に始まり、子の會の一萬八百年間に天成り、次の丑の會の一萬八百年間に地成り、次の寅の會の一萬八百年間に人類生じ、次の卯の會の一萬八百年間に天皇氏・地皇氏・人皇氏等の世となり、推移して最後の亥の會に至れば、天地再び混

〔譜系世朝元〕



【備考】元室一百六十三年は、太祖鐵木眞の卽位(西紀一二〇六)から順帝の都落ち(西紀一三六八)までの年數。中途には空位・重複がある。表の在位年數の總計百六十一年と合はないのは、在位年數は一帝のみに關するからである。

沌として一元氣に復歸する。一元(1−1‥537)の㊃及び㊄を見よ。又、星命家は六十年をいふ。上元(1−13‥248)の㊀・三元(1−12‥475)の㊂を見よ。〔論衡、調時〕四千六百一十七歲、爲二一元一。〔後漢書、律曆志下〕元法四千五百六十。〔注〕韓子曰、四千五百六十歲、爲二一元一。〔王先謙集解〕惠棟曰、案、四千五百六十、指二經歲一也、加二災歲五十七一、爲二四千六百一十七歲一。〔後漢書、董卓傳贊、百六有會、注〕前書音義曰、四千五百歲、爲二一元一。⑯たから。〔呂覽、召類〕聖人之元也。〔注〕元、寶。⑰諡。〔逸周書、諡法解〕行レ義說レ民曰レ元、始建二國都一曰レ元、能思辯レ衆曰レ元、主レ義行レ德曰レ元。⑱年號。〔字彙〕元、按、古帝王紀レ元、始二於漢一、以二一字一紀レ元者、始二於漢文帝後元年、景帝中元年一、以二二字一紀レ元者、始二於漢武帝建元元年一、以二三字一紀レ元者、始二梁武帝中大通元年一、以二四字一紀レ元者、始二於漢哀帝太初元將元年一。⑲朝代の名。宋の寧宗の時、鐵木眞は、帝を稱して成吉思汗と號したが、世祖に至つて宋を滅ぼし、國號を元と稱して今の北京に都す。其の版圖は、蒙古は勿論、中國全土、遼東・高麗・吐蕃より歐洲に跨り、古來、領土の大なること元に及ぶものはない。蒙古は四主四十九年、元は十一主百十二年。明に滅ぼさる。別圖參照。〔元史、世祖紀〕至元八年詔曰、可下建二國號一曰中大元上。⑳原(2−2973)に通ず。明朝では元朝を忌んで原の字を用ひた。〔正字通〕元、與レ原通。㉑玄(7−20814)に通ず。清朝では、聖祖の名である玄燁を諱んで元を用ひた。〔經籍籑詁〕玄、元、敬避二廟諱一。〔淸國行政法汎論、皇室、御名敬避〕聖祖仁皇帝(康熙帝)廟諱曰二玄燁一、玄用レ元代レ之、玄德玄黃等字、皆不レ得レ用。㉒百六韻の一。上平十三。㉓姓。〔通志、氏族略、以レ邑爲レ氏〕元氏、左傳衞大夫元咺之後也、咺食二邑於元一、今大名府元城是、其地子孫、以レ邑爲レ氏、又拓拔氏云、黃帝子昌意之後、昌意少子悃居二北土一、世爲二鮮卑君長一、宋書云、李陵之後、自二昌意一二十九世、至二昭成皇帝什翼犍一、始號二代王一、都二雲中一、至二道武皇帝一、始改レ號レ魏、至二孝文帝一、更爲二元氏一、都二洛陽一、又有二紇骨氏一、改爲二元氏一、又有二是云氏一、改爲二元氏一、又有二景氏一、改爲二元氏一。㉔現㋑貨幣の單位。我が國の圓に當る。㋺或る數を表はす文字、又は符號を元とよぶ

名乘 マサ。モト。ユキ。チカ。ハル。

解字 會意。古文の人と古文の上(二)との合字。人體に於ては、首が最上にある故に、かしら・かうべ、又、はじめの意とする。一說に、上は陽氣にして天であるから、女の陰氣にして下にあるに對して男子とし、男のはじめ(長男)を元といひ、それより更に、はじめの意とするといふ。又一說に、一と兀との合字とし、一は萬物の始、兀は聲で、それより更に、はじめの意とするといふ。〔說文通訓定聲〕元、始也、从レ一从レ兀、按、从二古文人・古文上一、首於二人體一最上、故从二人上一、會意。▽ (甲骨文) 冠をつけた人の象形。

【元亞】1 ゲンア 字號。㊀宋、鄧名世(11−39630‥200)の字。㊁淸、顧秉智(12−43689‥362)の字。

【元愛】2 ゲンアイ 明、包孝(2−2506‥15)の字。

【元惡】3 ゲンアク 大惡の人。惡黨の張本。首惡。元兇。〔書、康誥〕元惡大憝、矧惟不孝不友。〔傳〕大惡之人、猶爲二人所二大惡一、況不レ善二父母一、不レ友二兄弟一者乎。〔孔傳參正〕元惡、惡人之魁首。〔荀子、王制〕元惡不レ待レ教而誅。〔後漢書、孫程傳〕埽二滅元惡一、以定二王室一。〔蜀志、諸葛亮傳〕元惡未レ梟。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕元惡大憝、必當二梟夷一。〔注〕翰曰、元、大。

【元安】4 ゲンアン 字號。㊀前涼、張玄靚(4−9812‥1014)の字。㊁淸、屈培基(4−7669‥160)の字。

【元闇】5 ゲンアン 明、裴應章(10−34362‥107)の字。

【元衣】6 ゲンイ ㊀黑地の上着。元は玄に通ず。元衣素裳を見よ。㊁動物の名。かめ。龜(12−48847)の異稱。〔駢雅、釋蟲魚〕元衣、龜也。

〔元衣素裳〕7 ゲンイソシヤウ 黑地の上着と白地の袴。つばめの形容。元衣の元は玄に通ず。黑の意。〔魏明帝、短歌行〕翩翩春燕、端二集余堂一、陰匿陽顯、節運自常、厥貌淑美、元衣素裳。

【元異】8 ゲンイ 後漢、司馬儁(2−3257‥266)の字。

【元頤】9 ゲンイ 後魏の人。景穆帝の孫。諡は莊。陽平王を襲爵す。懷朔鎭大將に累遷し、三道の諸軍事を都督して北方を討ち蠕蠕を破る。穆泰謀反し、頤を推して主となさんとしたが、頤は密かに狀を以て奏聞して、泰等を誅せしむ。〔魏書、十九上〕。

【元彝】10 ゲンイ 後魏の人。澄の第四子。字は子倫。諡は文。元叉の專橫を惡んで之に附託しなかつたため、顯職に陞ることが出來なかつた。後、河陰に於て害に遭ふ。〔魏書、十九〕。

【元偉】11 ゲンヰ ㊀北周、洛陽の人。字は猷道。官は少司寇。齊の武帝に執へられたが、三年の後に釋されて上開府を加へらる。〔周書、三十八〕。㊁字號。㋑後漢、曹節(譙の人)(5−14297‥131)の字。㋺宋、童成大(8−25775‥120)の字。㋩明、邵弁(11−39343‥75)の字。

【元尉】12 ゲンヰ 古代の軍官の名。中軍尉をいふ。〔國語、晉語七〕(悼)公知二祁奚之果而不一レ淫也、使レ爲二元尉一。〔注〕元尉、中軍尉也。

【元瑋】13 ゲンヰ 後漢、橋瑁(6−15526‥59)の字。

【元蔚】14 ゲンヰ 隋、公孫景茂(2−1452‥510)の字。

【元友】15 ゲンイウ 字號。㊀後魏、宋世良(3−7078‥339)の字。㊁明、曾鼎(5−14299‥123)の字。

【元祐】16 ゲンイウ ㊀宋、哲宗(趙煦)の年號。(1086−1094) ㊁字號。㋑五代吳越、錢佐(11−40563‥92)の字。㋺明、許自昌(10−35298‥305)の字。㊂宋、柴元裕(6−14664‥102)の一名。

【元祐腳】17 ゲンイウキヤク 宋の黃山谷の書法をいふ。〔陳師道、徐仙書詩〕書學二黃家元祐腳一、信知人厄非二天窮一。

〔元祐體〕18 ゲンイウタイ 宋の蘇東坡・黃山谷等の詩體。〔滄浪詩話、詩體〕元祐體蘇・黃・陳諸公。

〔元祐治〕19 ゲンイウノチ 宋の神宗が崩じて後、哲宗が卽位するや、皇太后(宣仁太后)が政を攝し、司馬光等守舊派の徒を擧げて、神宗の新法を廢し、保守的政治を行つた。元祐八年に哲宗の崩ずるまでの閒を、元祐の治と稱讚する。

〔元祐再議〕20 ゲンイウサイギ 宋の元豐六年、天神地祇を分祭し、後、元祐に至り、又、合祭したことをいふ。〔文獻通考、郊社考、郊〕元豐六年冬至、郊二祀昊天上帝一、以二太祖一配、始罷二合祭一、不レ設二皇地祇位一、云云、哲宗元祐七年、親郊、詔、今歲圜丘宜下依二熙寧十年故事一、設二皇地祇位一、以申中始見之禮上、候親祠二北郊一、依二元豐六年五月八日指揮一。

〔元祐黨人〕21 ゲンイウタウジン 宋の司馬光を首領とし、呂文著・文彥博・蘇軾・程頤・黃庭堅等を羽翼として、王安石の新法に反對した文人・學者一百十九人の團體をいふ。神宗の朝、司馬光の舊黨と王安石の新黨と對立し、爾來、黨爭激烈を極めた。崇寧元年、曾布・蔡京等徽宗を動かし、舊朋黨百二十人を姦黨といひ、石に刻して端禮門に置いた。翌年、元祐姦黨碑を立てしめ、又、翌三年には元祐元符黨人を重定して、司馬光以下三百九人を記し、蔡京に命じて大碑に書し、天下に頒たしめた。これを元祐黨籍碑といふ。〔元祐黨籍碑〕皇帝嗣レ位之五年、旌二別淑慝一、明二信賞刑黜一、元祐害政之臣、靡レ有二佚罰一、乃命二有司一、夷二考罪狀一、第二其首惡與二其附麗者一、以聞、得三百九人一、皇帝書而刊二之石一、置二於文德殿門之東壁一、永爲二萬世臣子之戒一、又詔二臣京一、書レ之、將三以頒二之天下一、臣竊惟、陛下仁聖英武、遵レ制揚レ功、彰レ善癉レ惡、以昭二先烈一、臣敢不下對二揚休命一、仰承中陛下孝悌繼述之志上、司空尙書左僕射兼門下侍郎、臣蔡京謹書。〔海瑞、元祐黨籍碑考〕・〔陸心源、元祐黨人傳〕。

【元祐黨人傳】22 ゲンイウタウジンデン 書名。十卷。清、陸心源撰。〔潛園總集〕。

〔元祐黨籍碑考〕23 ゲンイウタウセキヒカウ 書名。一卷。明、海瑞撰。〔懺花盦叢書〕。

【元游】24 ゲンイウ 漢、申朔(7－21726··50)の字。

【元育】25 ゲンイク 明、叢春(2－3220··46)の字。

【元彧】26 ゲンキク 後魏の人。拓跋譚の曾孫。字は文若。封は臨淮王。爾朱榮が洛に入り元氏を殺害するに及んで、梁に奔り、武帝に重んぜらる。孝莊踐祚するや、洛に還り、司徒公に除せられたが、後、爾朱兆に執へられて殺さる。〔魏書、十八〕・〔北史、十八〕。

【元一】27 ゲンイツ ❶萬物の本源。〔人物志、九、徵〕凡有二血氣一者、莫レ不下含二元一一以爲上レ質。❷天。天帝。太一(3－5834··10)に同じ。〔楚辭、遠遊、注〕屈原履二方直之行一、不レ容二於世一、乃深惟二元一一、修二執恬漠一。❸字號。㋑明、徐貫(4－10110··102)の字。㋺清、趙帥(10－37171··242)の字。

【元乙】28 ゲンイツ 鳥の名。つばめ。燕(7－19429)の異名。玄乙(7－20814··14)を見よ。

【元逸】29 ゲンイツ 字號。❶明、謝徽(10－35827··39)の字。❷清、陳汝鰲(11－41698··1000)の字。

【元因】30 ゲンイン 佛もと。おこり。後世は原因の字を用ひる。〔佛本行論〕因緣生レ相、是爲二元因一。

【元胤】31 ゲンイン 陳、蕭摩訶(9－32012··524)の字。

【元隱】32 ゲンイン 南唐、王栖霞(7－20823··1780)の字。

【元韻】33 ゲンヰン もとの韻。御製の詩に和韻する時、もとの韻を元韻といふ。〔陔餘叢考、元韻原韻〕近代詞章家、和二朋友詩一則曰二原韻一、和二御製詩一則曰二元韻一、蓋取二元音之元一、以示二尊崇一、不レ知下原韻本應レ作二元韻一、並非中假借上也、元者本也、本來曰二元來一、班固兩都賦、元元本本、是也、若原字則原蠶・原廟、皆作二再字解一、初無二所謂本來之義一、不レ知何以遂替二元字一、顧寧人日知錄謂、洪武中、臣下有下稱二元任官一者上、嫌二於元朝之元一、故改二此字一、然則昔以レ元爲二本字一、而以レ避レ嫌改爲レ原、今反以レ原爲二本字一、而以二應制一特改爲レ元、古今事物遷流、隨レ世轉移者、固非二一端一、卽此可二類推一也。

【元羽】34 ウゲン 後魏の人。獻文帝の第五子。字は叔翻、謚は惠。太和中、封は廣陵王。外都大官となつて斷獄明快。孝文帝の洛に遷るや、代京に留守し、宣武の卽位後、司州の牧に遷る。〔魏書、二十一下〕・〔北史、十九〕。

【元禹】35 ゲンウ ❶後魏の人。世遵の弟。孝昌の末、爾朱榮と通じて倶に洛に入り、鄄城縣開國伯に封ぜられ、榮の死後、土民に殺さる。〔魏書、十六〕。❷明、王錡(7－20823··208)の字。

【元雲】36 ゲンウン 黑雲。くろくも。元は玄。〔蔡邕、述行賦〕元雲黯以凝結兮。〔蘇軾、自笑詩〕入二我病風手一、元雲渰凄凄。

【元運】37 ゲンウン 堪輿家の言。甲子六十年が一元。之に洛書の九宮を配して、上中下三元を歷るを一周といひ、三周五百四十年を一運といふ。毎元六十年を大運といひ、一元の中毎二十年を三小運といふ。〔管氏地理指蒙、陽明造作〕東漢張衡、變二九章一爲二九宮一、名二一白・二黑・三碧・四綠・五黃・六白・七赤・八白・九紫一、分二三元六甲一、上元甲子生人、一十起二三碧一、二十起二四綠一、三十爲二身黃一、至二九十一爲二身黑一、中元甲子生人、一十起二九紫一、二十起二一白一、三十爲二身黑一、至二六十一爲二身黃一、下元甲子生人、一十起二六白一、二十起二七赤一、六十爲二身黑一、至二九十一爲二身黃一、順行零年、亦順二紫白一値レ年、爲二吉路一、謂二之天元運身一。

【元慧】38 ゲンヱ 唐の高僧。吳郡の陸氏の子。嘉興中、法空王寺に住し、志を立てて三白法を持し、五部曼拏羅を諷誦したので、時人は三白和尚と稱した。乾寧中、入寂す。〔宋高僧傳、二十三〕。

【元永】39 グワンエイ ゲンエイ ❶大にして長。元永貞を見よ。❷宋、孝宗(3－6952··159)の字。❸ゲンエイ 第七十四代鳥羽天皇の年號。(1118－1120)

〔元永貞〕40 ゲンエイテイ 易の德の名。元は大、永は長久、貞は正。〔易、比〕比、吉、原筮元永貞、无レ咎。〔疏〕唯有二元大永長貞正一、不レ寧方來、後夫凶。〔易、萃〕九五、萃、有レ位无レ咎、匪レ孚、元永貞、悔亡。〔注〕夫修レ仁守レ正、久必悔消、故曰二元永貞悔亡一。

【元映】41 ゲンエイ 元、倪瓚(1－792··12)の號。〔雲林遺事〕倪瓚或曰二元映一。

【元英】42 ゲンエイ ❶春秋、燕の宮殿の名。〔新序、雜事三〕大呂陳二於元英一。❷冬の異名。玄英(7－20814··25)を見よ。❸後魏の人。拓跋楨の子。字は虎兒。謚は獻武。性識聰敏。宣武の時、其の戰功を以て中山王に封ぜらる。後、梁を討ち、尙書僕射を拜命す。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。❹字號。㋑唐、王武俊(7－20823··2060)の字。㋺後梁、劉海蟾(2－2224··735)の字。㋩宋、郝傑(11－39430··13)の字。㋥清、李魁春(6－14459··1043)の字。

〔元英神〕43 ゲンエイシン 冬を主る神。玄英(7－20814··25)を見よ。

【元穎】44 ゲンエイ 字號。❶三國魏、劉馥(2－2224··579)の字。❷後魏、辛子馥(10－38630··103)の字。❸清、梁同書(6－14825··306)の字。

【元璟】45 ゲンエイ 清の僧。字は借山。浙江の天童寺に住す。杭州に在つた時、西溪吟社を作り、當代の大家と酬唱す。書室を完玉堂といふ。著に完玉堂詩集がある。〔四庫提要、集、別集類存目〕。

【元遙】46 ゲンエウ 後魏の人。太興の弟。字は太原。謚は宣。冀州の刺史の時、同州の沙門法慶の亂を平定す。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元耀】47 ゲンエウ 三國吳、陳化(11－41698··171)の字。

【元易】48 ゲンエキ 宋、黃簡(12－47926··162)の字。

【元益】49 ゲンエキ 字號。❶元、劉應龜(2－2224··719)の字。❷明、章鎰(8－25761··5)の字。

【元懌】50 ゲンエキ 後魏の孝文帝の第五子。字は宣仁。太和中、清河王に封ぜらる。孝明帝の時、太尉となつて門下の事を裁す。朝政を委ねられ、元叉の驕横を制せんとして誣告せられて殺さる。〔魏書、二十二〕・〔北史、十九〕。

【元悅】51 ゲンエツ 後魏の人。孝文帝の第六子。謚は文宣。封は汝南王。佛經を好む。性不倫にして左道を信じ、專權者元叉に迎合す。爾朱榮の反に梁に奔る。官は孝武の初、大司馬開府。〔魏書、二十二〕・〔北史、十九〕。

【元曄】52 ゲンエフ 後魏の人。元英の弟の怡の子。字は華興。小字は盆子。莊帝の時、長廣王に封ぜられ、太原の守となる。爾朱世隆等に擁立せられ、建明と改元したが、ついで廢せられ、出帝の時、死を賜はる。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。

【元延】53 ゲンエン 漢、成帝(劉驁)の年號。(B.C.12－B.C.9)

【元衍】54 ゲンエン 後魏の人。頤の弟。字は安樂。謚は康。爵は廣陵侯。梁・徐・雍三州の刺史として皆政績あり。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元琰】55 ゲンエン 字號。❶前涼、常據(4－8955··59)の字。❷南朝宋、鄧琬(11－39630··19)の字。

【元應】56 ゲンオウ ゲンノウ ❶第九十六代、後醍醐天皇の年號。(1319－1321)〔藤原俊光、菅原在輔勘文〕唐書曰、陛下富教安レ人、務レ農敦レ本、光二復社稷一、康二濟黎元一之應也。❷ゲンオウ 字號。㋑宋、蔡定(9－31818··96)の字。㋺宋、李新(6－14459··482)の字。㋩宋、樓弃(6－15430··16)の字。㋥元、兪元膺(1－1437··94)の字。

【元音】57 ゲンオン ❶書名。十二卷。明、孫原理編。元人一百七十六人の詩を錄す。〔四庫提要、集、總集類〕。❷清、楊瑝(6－15112··105)の字。

〔元音遺響〕58 ゲンオンヰキヤウ 書名。十卷。選者不明。前八卷は胡布の詩、後二卷は張達と劉紹との詩を輯む。〔四庫提要、集、總集〕。

【元夏】59 ゲンカ 晉、武陔(6－16273··38)の字。

【元嘉】60 ゲンカ ❶年號。㋑後漢、桓帝(劉志)の時。(151－153) ㋺後漢、沖帝(劉炳)の年號である永嘉の一稱。(145) ㋩南朝宋、文帝(劉義隆)の時。(424－453) ❷後魏の人。謚は懿烈。太武帝の孫。封は廣陽王。孝文危篤の時、遺詔して輔政たらしめ、官は司徒に至る。〔魏書、十八〕。❸明、萬祚亨(9－31339··611)の字。

〔元嘉體〕61 ゲンカタイ 南朝宋の顏延之・鮑照・謝靈運等諸人の詩體。元嘉は南朝宋の年號。〔滄浪詩話、詩體〕元嘉體、宋年號、顏・鮑・謝諸公之詩。

〔元嘉治〕62 ゲンカノチ 南朝宋の文帝の仁治を言ふ。文帝は、卽位するや、少帝の顧命の臣徐羨之及び傅亮を誅し、王弘・王華・王曇首・殷仲等の名族を用ひて文治に意を止め、地方守宰の職は六年を限とし、天下を安寧に治められた。世に其の治を稱して元嘉の治と言ふ。〔宋書、文帝紀贊〕故能內清外晏、四海謐如也、昔漢氏東京、常稱二建武・永平故事一、自レ茲厥後、亦每以二元嘉一爲レ言、斯固盛矣。

【元嘉曆】63 南朝宋の文帝の時、元嘉二十年に何承天の造つた曆。我が欽明天皇の朝に傳來し、持統天皇の御代に用ひられた。

【元價】64 もとね。原價。元直。〔剪燈餘話〕開倉以賑レ之、但取二元價一、不レ求二厚利一。

【元介】65 明、朱之蕃(6－14424‥809)の字。

【元海】66 字號。❶前趙、劉淵(2－2224‥59)の字。❷明、胡應麟(9－29400‥13)の字。

【元開】67 明、夏洪基(3－5720‥310)の字。

【元階】68 隋、洛陽の人。性豪俠。少時、文帝と同學す。開皇の初年、軍功を以て上大將軍に進み、樂安郡公に封ぜられ、吐谷渾を涼州に破る。後、事に坐して誅せらる。〔隋書、四十〕・〔北史、七十三〕。

【元凱】69 ❶賢人才子。元愷の❶に同じ。〔蜀志、郤正傳〕元凱之倫也。❷字號。㋑晉、杜預(6－14477‥252)の字。㋺明、虞臣(9－32723‥98)の字。㋩明、章順擧(8－25761‥207)の字。㋥明、陳勳(11－41698‥197)の字。㋭明、林弼(6－14551‥214)の字。

【元凱傳癖】70 蒙求の標題。晉の杜預、字は元凱が、左傳の注解に力を致し、自ら左傳癖があると稱した故事。〔晉書、杜預傳〕既立レ功之後、從容無事、乃耽二思經籍一、爲二春秋左氏經傳集解一、又參二攷衆家譜第一、謂二之釋例一、又作二盟會圖・春秋長歷一、備成二一家之學一、比レ老乃成、云云、時王濟解レ相レ馬、又甚愛レ之、而和嶠頗聚斂、預常稱、濟有二馬癖一、嶠有二錢癖一、武帝聞レ之、謂レ預曰、卿有二何癖一、對曰、臣有二左傳癖一。〔盧綸、酬二崔侍御早秋臥病、詩一〕元凱癖成官始貴。

【元愷】71 ❶賢人才子。八元八愷(2－1450‥1538)を見よ。〔劉峻、辨命論〕重華立而元愷升、辛受生而飛廉進。〔注〕善曰、左氏傳、季孫行父曰、昔高陽氏有二才子八人一、蒼舒・隤敳・檮戴・大臨・龍降・庭堅・仲容・叔達、天下之民謂二之八愷一、高辛氏有二才子八人一、伯奮・仲堪・叔獻・季仲・伯虎・仲熊・叔豹・季貍、天下之民謂二之八元一、舜臣レ堯擧二八愷一、使レ主二后土一、擧二八元一、使レ布二五教于四方一。❷後魏、李預(6－14459‥771)の字。

【元江】72 ❶河の名。雲南省の南境。上流を禮社江といふ。東南流し、元江縣の北を經て始めて元江といふ。〔讀史方輿紀要、雲南、元江軍民府、因遠羅必甸長官司一〕禮社江、一名元江、自二新化州一流入レ境、繞二府城東南一、而入二臨安府境一、崑崙河在二城西四十里一、阿南村有二混龍橋一、跨二其上一、下流入二禮社江一。❷縣名。民國、置く。雲南省黑江縣の東北。〔讀史方輿紀要、雲南〕元江軍民府、古西南夷地、蠻名惠龍甸、又名因遠部、蒙氏時、屬二銀生節度一、徙二白蠻蘇・張・周・段等十姓蠻一戍レ之、又開二威遠等處一、置二威遠賺一、後和泥蠻侵據二其地一、宋時、儂智高之黨竄二於此一、和泥開二羅槃甸一居レ之、後爲二些麼徒蠻阿輦諸部所一レ有、元初內附、後復叛、築レ以拒レ命、至元十三年、遙立二元江萬戶府一、以羈二縻之一二十五年、討二平其地一、復二於威遠一置二元江路一、明初改爲二元江府一、永樂初改二元江軍民府一、領二長官司一。〔清史稿、地理志〕雲南、元江直隸州、領縣一、新平。

【元江銀】73 yuan² chiang¹ yin² 雲南地方に通用する銀貨の一種。

【元考】74 漢、婁壽(3－6383‥24)の字。

【元亨】75 ❶元は始、亨は通。又、おほいにとほる。〔易、乾〕乾、元亨利貞。〔疏〕元亨利貞者、是乾之四德也、子夏傳云、元、始也、亨、通也、利、和也、貞、正也。〔易、大有〕其德剛健而文明、應二乎天一而時行、是以元亨。〔注〕德應二於天一則行不レ失レ時矣、剛健不レ濫、文明不レ犯、應レ天則大時行無レ違、是以元亨。〔疏〕時行無レ違者、以レ時而行、物無レ違也、以レ有二此諸事一、故大通而元亨也。〔王延壽、魯靈光殿賦〕荷二天衢一以元亨。〔注〕載曰、元、善之長也、亨、嘉之會也、銑曰、元、大、亨、通。❷年號。㋑南朝宋、孝宗(趙昺)の代、後理(南詔)の宣帝(段智興)の時。(1185－1186) ㋺第九十六代、後醍醐天皇の御代。(1321－1324) ❸隋、洛陽の人。字は德良。諡は宣。一名は孝才。魏の恭帝の時、襲爵して平涼王に封ぜられたが、周に入り、降されて公となり、隋初に衞州の刺史となつて在職八年、風化大いに行はる。〔隋書、五十四〕。❹字號。㋑宋、萬鍾(9－31339‥245)の字。㋺明、楊守謙(6－15112‥604)の字。

【元亨釋書】76 書名。三十卷。京都東福寺の虎關和尙編。傳・贊・論・表・志の五格に分けて、推古天皇以來七百餘年間の佛道に關した記事を詳記す。

【元亨利貞】77 易に於て、乾(天)の卦の持つ四つの德。元は萬物の始、春に屬し、其の德は仁。亨は萬物の長、夏に屬し、其の德は禮。利は萬物の遂、秋に屬し、其の德は義。貞は萬物の成、冬に屬し、其の德は智。〔易、乾〕乾、元亨利貞、云云、文言曰、元者善之長也、亨者嘉之會也、利者義之和也、貞者事之幹也。君子體二仁一、足二以長一レ人、嘉會足二以合一レ禮、利レ物足二以和一レ義、貞固足二以幹一レ事、君子行二此四德一者、故曰、乾元亨利貞。〔疏〕元、是物始、於レ時配二春一、春爲二發生一、故下云二體仁一、仁則春也、亨、是通二暢萬物一、於レ時配レ夏、故下云二合レ禮、禮則夏也一、利、爲二和義一、於レ時配レ秋、秋既物成、各合二其宜一、貞、爲二事幹一、於レ時配レ冬、冬既收藏、事皆幹了也。〔程傳〕元亨利貞、謂二之四德一、元者、萬物之始、亨者、萬物之長、利者、萬物之遂、貞者、萬物之成。

【元孝】78 字號。❶明、馮忠(12－44579‥122)の字。❷清、陳恭尹(11－41698‥753)の字。

【元昊】79 西夏、李曩霄(6－14459‥1833)の本名。

【元香】80 墨の異名。元は玄に通ず。玄香(7－20814‥46)を見よ。

【元浩】81 ❶唐の高僧。吳門の秦氏の子。字は廣成。荊溪の湛然禪師に從つて學び、元和中、入寂す。著に涅槃經解述がある。〔宋高僧傳、六〕。❷元、胡斗元(9－29400‥580)の字。

【元高】82 字號。❶前秦、徐嵩(4－10110‥180)の字。❷元、王義山(7－20823‥1299)の字。

【元康】83 ❶年號。㋑漢、宣帝、劉詢)の時。(B.C.65－B.C.62) ㋺晉、惠帝(司馬衷)の時。(291－299) ❷唐の高僧。初、山野に居り、貞觀中、京邑に游學し、一異鹿を得て豢養し、常に之に乘る。後、詔を受けて安國寺に入り、三論を講じ、玄樞兩卷を撰した。〔宋高僧傳、四〕。

【元皓】84 後漢、田豐(7－21723‥287)の字。

【元絳】85 宋の人。德昭の孫。字は厚之。諡は章簡。天聖の進士。廣東轉運使を拜命す。儂智高が嶺南に反するや、軍に餉を供して功あり、參知政事を拜し、太子太保に遷つて致仕す。〔宋史、三百四十三〕・〔宋史新編、一百七〕〔東都事略、八十一〕。

【元衡】86 ❶宋、吳の人。字は公權。官は工部郎中。〔尙友錄、五〕。❷字號。㋑宋、李南壽(6－14459‥1835)の字。㋺劉思尹(2－2224‥996)の字。㋩明、蕭敬中(9－32012‥328)の字。㋥清、宋鑑(3－7078‥44)の字。

【元顥】87 後魏の人。詳の子。字は子明。官は相州刺史。北海王を襲爵す。梁の武帝之を奇として魏王と爲す。永安中、自立して洛に入つたが、幾もなく、敗れて臨潁縣卒に殺さる。〔魏書、二十一上〕。

【元剛】88 元、鍾秉(11－40672‥61)の字。

【元號】89 ❶年號。〔漢書、李尋傳〕今陛下久疾、變異屢數、天所二以譴告一人一也、宜レ急改レ元易レ號。❷yüan² hao⁴ 第一の。

【元恪】90 ❶後魏の宣武帝。孝文帝の第二子。經史を愛し、又、佛教に精しい。性、寬容で決斷力がなかつた爲、魏の國勢漸く衰ふ。在位十六年。廟號は世宗。年號は景明・正始・永平・延昌。本、拓跋氏であつたが、孝文帝の時から元氏に改めた。〔魏書、八〕・〔北史、四〕。❷三國吳、陸璣(11－41708‥56)の字。

【元嶽】91 ❶山名。湖北省均縣の南。一名、武當山。明の永樂中、宮館を造り、大嶽太和山と改む。王錫祺の遊記に見ゆ。〔明一統志〕永樂中、營二建宮館一、改二名大嶽太和山一。〔荊州圖記〕謝允舍羅邑宰、隱二遁于武當山一、故亦名二謝羅山一。副記、明嘉靖賜二名元嶽一。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府、均州〕武當山、州南一百二十里、山周八百餘里、有二天柱等峯七十二一、玉虛等巖二十六一、又有二澗二十四一、臺五、井五、泉三、潭三一、奇勝疊出、不レ可二勝紀一、本名仙室山、一名大嶽山、一名大和山、又名參上山、亦名二謝羅山一。云云、明嘉靖中、又賜二名元嶽一。❸恆山の別名。

【元閒】92 六閒(六呂をいふ)の第一の義。大呂をいふ。呂は律の中閒に挾まるから閒といふ。

ふ。元間大呂を見よ。

〔元間大呂〕93 ゲンカンタイリョ　六間（即ち六呂）の第一に位する大呂。十二月の律で、管の長さ八寸四分、律の長さ四寸二分。六呂（陰律）は六律（陽律）に侶ひ間はつて其の成功を佐けるから六間といひ、大呂は六間の第一であるから、元間といふ。元は一。〔國語、周語下〕爲二之六間一以揚二沈伏一、而黜二散越一也、元間大呂、助二宣物一也。〔注〕元、一也、陰繫二於陽一以二黄鍾一爲レ主、故曰二元間一。

【元幹】94 ゲンカン　❶後魏の人。獻文帝の第二子。字は思直。諡は靈。河南王から趙郡王に改封せらる。貪淫にして典法に遵はなかつた爲、官を免ぜらる。〔魏書、二十一〕・〔北史、十九〕。❷字號。㋑晉、何禎（1‐511‥163）の字。㋺南朝宋、宗慤（3‐7106‥33）の字。㋩元、許楨（10‐35298‥178）の字。㋥明、黄世康（12‐47926‥1177）の字。

【元翰】95 ゲンカン　字號。❶宋、李蕃（6‐14459‥675）の字。❷宋、魯有開（12‐46013‥143）の字。❸明、王圻（7‐20823‥180）の字。

【元簡】96 ゲンカン　❶後魏の人。文成帝の第四子。字は叔亮。諡は靈。後、宣武の時、順と改諡す。太和中、封は齊郡王。官は太保。孝文帝の禮遇を受く。〔魏書、二十〕・〔北史、十九〕。❷陳、王沖（7‐20823‥796）の諡。❸字號。㋑晉、司馬略（2‐3257‥321）の字。㋺宋、沈大廉（6‐17189‥592）の字。㋩清、諸福坤（10‐35743‥254）の字。

【元鑒】97 ゲンカン　❶後魏の人。拓跋平原の次子。字は紹達。諡は悼。宣武帝の時、徐州の刺史を拜命し、大水の爲に飢餓する者の賑恤に力を竭した。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。❷後魏の人。詮の子。字は長文。父の爵を襲ぎ、相州刺史を拜命す。孝昌の末、反して葛榮に降附し、源子邕・裴衍の爲に討斬せらる。〔魏書、二十〕・〔北史、十九〕。

【元巖】98 ゲンガン　隋、洛陽の人。字は君山。讀書を好み、剛鯁にして器局あり。周に仕へて内史中大夫を拜命し、隋に入つて平昌郡公に封ぜられ、帝及び公卿に敬せられた。〔隋書、六十二〕・〔北史、七十五〕。

【元奇】99 ゲンキ　清の高僧。溫州府永嘉江中の江心寺に住す。著に江心志がある。〔四庫提要、史、地理類存目〕。

【元軌】100 ゲンキ　字號。❶北周、張軌（4‐9812‥165）の字。❷北齊、王則（7‐20823‥716）の字。

【元氣】101 ゲンキ　❶萬物の根本をなす氣。天地の氣。玄氣。〔漢書、律歷志上〕元氣轉二三統一、五行於下。〔春秋繁露、王道〕王正、則元氣和順。〔後漢書、明帝紀〕升二靈臺一望二元氣一。〔注〕元氣、天氣也。〔論衡、幸偶〕俱稟二元氣一。〔曹植、七啓〕芒芒元氣。〔注〕濟曰、元氣、則二氣也。❷人の精氣。〔李商隱、韓碑詩〕公之斯文若二元氣一、先時已入二人肝脾一。❸身心の勢力。〔唐書、柳公度傳〕不下以二元氣一佐中喜怒上。❹威勢。壯健。勇氣。精神。❺經濟的實力。

【元起】102 ゲンキ　清、黄性震（12‐47926‥1185）の字。

【元基】103 ゲンキ　大いなる基礎。〔何晏、景福殿賦〕大哉惟魏、世有二哲聖一、武創二元基一、文集二大命一。

【元寄】104 ゲンキ　後魏、裴修（10‐34362‥45）の字。

【元規】105 ゲンキ　字號。❶晉、庾亮（4‐8720‥412）の字。❷宋、左譽（永新の人）（4‐8720‥412）の字。❸宋、孫沔（3‐6987‥268）の字。❹宋、狄遵度（7‐20290‥34）の字。

〔元規塵〕106 ゲンキノ　心のよくない人の行爲。元規は庾亮の字で、晉の王導が庾亮を譏つた故事に本づく。〔晉書、王導傳〕亮雖レ居二外鎮一、而執二朝廷之權一、導内不レ能レ平、常遇二西風塵起一、舉レ扇自蔽徐曰、元規之塵汙レ人。

【元昇】107 ゲンキョウ　後魏、楊昇（6‐15112‥11）の字。

【元貴】108 ゲンキ　北周、趙貴（10‐37171‥89）の字。

【元暉】109 ゲンキ　❶後魏の人。拓跋遵の曾孫。字は景襲。諡は文憲。宣武帝の時、侍中領右衛將軍となつて親寵せられ、餓虎將軍と稱せらる。孝明帝の時、官は尚書左僕射。文學を愛好し、儒士崔鴻等を招集して百家要事を撰錄せしむ。〔魏書、十五〕。❷隋、洛陽の人。字は叔平。諡は元。周に仕へて武伯下大夫となり、隋に入つて魏州の刺史となり、惠政を施す。〔北史、十七〕。❸字號。㋑南齊、蕭遙光（9‐32012‥301）の字。㋺宋、黄葆光（12‐47926‥1317）の字。㋩宋、米友仁（8‐26832‥102）の字。㋥宋、李玨（吉水の人）（6‐14459‥135）の字。㋭元、普光（5‐13982‥15）の字。

【元熙】111 ゲンキ　❶年號。㋑晉、恭帝（司馬德文）の時。（419‐420）㋺晉代の五胡十六國の一なる北漢の高祖光文帝（劉淵）の時。（304‐307）❷後魏の人。英の子。字は眞興。諡は文莊。官は相州の刺史。初、清河王懌と親交あり、劉騰・元叉が、二宮を隔絶し、詔を矯めて懌を殺すに及んで、兵を起して元叉を剪除す。幾もなく長史の柳元章等に殺さる。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。❸宋、許孔明（10‐35298‥282）の字。

【元億】112 ゲンオク　明、宋億（3‐7078‥49）の初名。

【元輝】113 ゲンキ　宋、楊暐（6‐15112‥109）の字。

【元機】114 ゲンキ　造化の祕密。天機（3‐5833‥381）に同じ。〔紅樓夢、一回〕此乃元機、不レ可二預洩一者。

【元龜】115 ゲンキ　❶長さ一尺二寸の大龜。〔詩、魯頌、泮水〕元龜象齒、大路南金。〔傳〕元龜、尺二寸。❷卜に用ひる龜。卜には大龜を用ひる。〔書、西伯戡黎〕格人元龜、罔二敢知一レ吉。〔傳〕至人以二人事一觀レ殷、大龜以二神靈一考レ之。〔書、金縢〕今我卽命二于元龜一。〔傳〕就受二三王之命於大龜一、卜知二吉凶一。〔楊巨源、元日觀朝詩〕何用問二元龜一。❸漢代、王莽の制定した龜寶（錢の一種）の一。〔漢書、食貨志〕元龜、距二冉長尺二寸、直二千一百六十、爲二大貝十朋一。❹立派な手本。龜鑑。〔吳志、孫權傳〕前世之懲事、後王之元龜也。〔劉琨、勸進表〕前事之不レ忘、後代之元龜也。〔注〕善曰、戰國策、張孟談謂二趙襄子一曰、前事之不レ忘、後事之師也、向曰、元、大也、大龜可レ知二吉凶一、但能不レ忘二前晉侯之事一、亦可レ爲二今之大龜一。❺第百六代、正親町天皇の年號。（1570‐1573）

【元徽】116 ゲンキ　❶南朝宋、蒼梧王（後廢帝、劉昱）の年號。（473‐477）❷後魏の人。鸞の子。字は顯順。諡は文獻。城陽王を襲爵し、河内太守を拜命し、孝莊帝の時、太保に除せらる。爾朱兆の入寇するや、山南に走つて殺さる。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。

【元禧】117 ゲンキ　後魏の人。獻文帝の第二子。字は永壽。太和中、封は咸陽王。冀州刺史となつて惠政を施す。孝文帝の崩後、遺詔を受けて輔政となり、太保に進んだが、宣武の時に謀反して誅せらる。〔魏書、二十一上〕・〔北史、十九〕。

【元魏】118 ゲンギ　拓跋魏をいふ。魏はもと拓跋氏であつたが、後に氏を元と改めたので、又、元魏ともいふ。〔文中子、周公〕符秦之有レ臣、其王猛之所レ爲乎、元魏之有レ王、其孝文之所レ爲乎。

【元曦】119 ゲンギ　明、朱東光（6‐14424‥946）の字。

【元九】120 ゲンキュウ　唐の元稹の一稱。九は其の輩行。元稹（340）を見よ。〔白居易、寄二元九一詩〕一病經二四年一、親朋書信斷。

【元久】121 ゲンキュウ　第八十三代、土御門天皇の年號。（1204‐1206）〔藤原親經、勘文〕毛詩正義曰、文王建レ元久矣。

【元休】122 ゲンキュウ　字號。❶後漢、金尚（11‐40152‥556）の字。❷後魏、楊播（6‐15112‥307）の字。❸唐、竇靜（8‐25695‥89）の字。

【元勗】124 ゲンキョク　母の兄弟。母方のをぢ。主として天子にいふ。〔詩、大雅、崧高〕不レ顯申伯、王之元舅。〔疏〕歎二美申伯此王之長舅一。〔漢書、谷永傳〕元舅大將軍鳳。〔班固、封二燕然山一銘〕有漢元舅、曰二車騎將軍竇憲一。〔注〕善曰、范曄後漢書曰、孝和皇帝母梁貴人、爲二竇皇后所一譖憂卒、竇后養二帝、以爲二己子一云云、又曰、竇憲、字伯度、女弟立爲二皇后一、良田、元、長也、憲、和帝長舅也。〔後漢書、何進傳〕有二元舅之重一。

【元吉】125 ゲンキツ　❶大吉（3‐5831‥424）に同じ。〔易、坤〕六五、黄裳元吉。〔疏〕元、大也、以二其德能如一レ此、故得二大吉一也。〔左氏、昭、十二〕南蒯枚二筮之一、遇二坤之比一、曰、黄裳元吉、以爲二大吉一也。〔後漢書、楊賜傳〕崇二帝乙之制一、受二元吉之祉一。〔顔氏家訓、文章〕深宜二防慮一以保二元吉一。❷元日をいふ。〔王沈、正會賦〕伊月正之元吉兮。❸字號。㋑梁、蕭棟（9‐32012‥229）の字。㋺宋、黄裳（寧德の人）（12‐47926‥450）の字。㋩宋、黄叔豐（12‐47926‥1150）の字。㋥宋、周頡（2‐3441‥156）の字。㋭宋、沈肇（6‐17189‥108）の

字。㋬宋、葉祐之(9－31387··157)の字。㋣宋、畢允升(7－21829··82)の字。㋠宋、呂祐之(2－3386··161)の字。㋷金、聶天驥(9－29179··36)の字。㋦元、沈貞(6－17189··302)の字。㋸明、謝文祥(10－35827··360)の字。㋾明、俞鑑(1－1437··17)の字。㋻清、鄭璜(11－39647··91)の字。

【元匡】126 ゲンキヤウ 後魏の人。景穆帝の孫。字は建扶。諡は文貞。性耿介にして氣節あり。宣武の時、官は度支尚書。尚書令高肇の罪惡を論じて切諫し、後、遂に削爵除官せらる。死後、濟南王に改封せらる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元穹】127 ゲンキユウ あをぞら。天空。〔梁書、邵陵攜王綸傳〕自㆓我國五十許年㆒、恩格㆓元穹㆒、德彌㆓赤縣㆒。

【元宮】128 ゲンキユウ ㊀星の名。室星をいふ。〔事物異名錄、乾象、星〕星經、室曰㆓營室㆒、石氏謂㆓之元宮㆒、一曰㆓清廟㆒。㊁清、秦望(8－24995··142)の字。

【元居】129 ゲンキヨ 明、李夢辰(6－14459··1939)の字。

【元渠】130 ゲンキヨ 賊の首領。賊魁。〔王儉、褚淵碑文〕英宰臨㆑戎、元渠時殄。〔注〕翰曰、元渠、謂㆓惡逆之首㆒也。

【元璩】131 ゲンキヨ 南齊、褚伯玉(10－34457··52)の字。

【元擧】132 ゲンキヨ 字號。㊀梁、柳津(6－14662··145)の字。㊁宋、鄭昇(11－39647··173)の字。

【元御】133 ゲンギヨ 明、汪膺(6－17154··140)の字。

【元馭】134 ゲンギヨ 明、王錫爵(7－20823··1813)の字。

【元凶】135 ゲンキヨウ 惡者のかしら。大罪人。元兇。〔孫楚、爲㆓石仲容㆒與㆓孫皓㆒書〕桴㆑鼓一震、而元凶折㆑首。〔注〕銑曰、元、大、凶、惡也。〔曹植、上㆓責躬應詔詩㆒表〕將㆘寘㆓于理㆒、元凶是率㆖。〔宋書、二凶傳〕元凶劭、字休遠、文帝長子也。

〖元凶劭〗136 ゲンキヨウセウ 南朝宋、劉劭(2－2224··435)をいふ。

【元恭】137 ゲンキヨウ ㊀後魏の節閔帝。廣陵王羽の子。名は恭。字は修業。諡は節閔。孝莊帝崩じて、爾朱世隆に迎立せらる。頗る雅量あり。高歡、爾朱氏を討つて入洛するや、帝を廢して孝武帝を立て、尋いで弑す。史家、前廢帝といふ。在位一年。年號は普泰。〔魏書、十一〕・〔北史、五〕。㊁字號。㋑隋、王昚(7－20823··626)の字。㋺宋、阮思道(11－41569··59)の字。㋩清、歸莊(6－16349··107)の字。

【元曲】138 ゲンキヨク 元代に興つた戲曲。明曲に對して北曲ともいふ。其の體制は、一、一本四折(四幕)から成る。二、一折一調一韻で、一折中の歌曲は同じ調で歌ひ、又、同一の韻を用ひる。韻は中原音韻の十九部韻。三、一本四折で不足する時は楔子を用ひる。楔子とは序幕又は間の幕の意。四、一人獨唱で、登場人物中の主要な一人の、正末又は正旦のみが曲を唱ふ。五、曲の最後は全曲の主旨を總括して敍する詩句二で結び、一を題目といひ、一を正名といふ。六、脚色(俳優)の役割は、主役を正末(立役)・正旦(立女形)といひ、仕手(テシ)に當り、副役に外・淨があつて、脇(キワ)に當り、補役に付末・且徠・副淨等があり、連(レツ)に當る。其の名作には、馬致遠の漢宮秋・青衫淚、白樸の梧桐雨、鄭光祖の搊梅香・倩女離魂、關漢卿の竇娥冤、王實甫の麗春堂、關・王合作の西廂記、宮大用の范張雞黍、紀君祥の趙氏孤兒等があり、就中、西廂記と漢宮秋とは最も傑作である。現存の元曲は、凡そ一百三十種あり、元曲選には一百種(其の中數種は明初人の作)、元槧古今雜劇三十種の中には、元曲選に無いもの十七種と、外に西廂記其の他を收めてゐる。戲曲(5－11681··26)・南北曲(2－2750··681)・北曲(2－2574··128)を見よ。

『參考書』【覆元槧古今雜劇】三十種 京都帝國大學刊。上海影印本。【元曲選】一百種 明、臧晉叔編刊。原刊本・清初重刻本・上海影印本がある。【元明雜劇】二十七種 國學圖書館影印本。

〖元曲選〗139 ゲンキヨクセン 書名。明の萬曆中、臧晉叔編。一名、元人百種曲。北曲の全集で、百種の雜劇を收め、內六種は明初の人の作である。臧晉叔(名は懋循、晉叔は其の字)は其の家に元人雜劇の祕本を多く藏してゐたが、なほ又、劉廷伯から其の錄する所の御戲監本二百種を借り、參伍校訂して佳なるもの百種を選んだといふ。民國七年、上海商務印書館の影印本があり、又、四部備要の中にも收められてゐる。其の內容は、救風塵(關漢卿)・玉鏡臺(關漢卿)・謝天香(關漢卿)・胡蝶夢(關漢卿)・魯齋郎(關漢卿)・金線池(關漢卿)・竇娥冤(關漢卿)・望江亭(關漢卿)・黑旋風(關漢卿)・誶范叔(關漢卿)・楚昭公(鄭廷玉)・後庭花(鄭廷玉)・忍字記(鄭廷玉)・看錢奴(鄭廷玉)・冤家債主(鄭廷玉)・梧桐雨(白樸)・牆頭馬上(白樸)・漢宮秋(馬致遠)・任風子(馬致遠)・薦福碑(馬致遠)・青衫淚(馬致遠)・岳陽樓(馬致遠)・黃粱夢(馬致遠)・陳摶高臥(馬致遠)・燕青博魚(李文蔚)・虎頭牌(李直夫)・張天師(吳昌齡)・東坡夢(吳昌齡)・麗春堂(王實甫)・老生兒(武漢臣)・玉壺春(武漢臣)・生金閣(武漢臣)・救孝子(武漢臣)・伍員吹簫(李壽卿)・毅柳傳書(尚仲賢)・氣英布(尚仲賢)・單鞭奪朔(尚仲賢)・秋胡戲妻(石君寶)・曲江池(石君寶)・瀟湘雨(楊顯之)・酷寒亭(楊顯之)・趙氏孤兒(紀君祥)・風光好(戴善甫)・張生煮海(李好古)・合汗衫(張國賓)・薛仁貴(張國賓)・羅李郎(張國賓)・竹塢聽琴(石子章)・魔合羅(孟漢卿)・灰闌記(李行道)・勘頭巾(孫仲章)・李逵負荊(康進之)・鐵拐李(李伯川)・紅梨花(張壽卿)・范張雞黍(宮天挺)・搊梅香(鄭光祖)・王粲登樓(鄭光祖)・倩女離魂(鄭光祖)・竹葉舟(范康)・留鞋記(曾瑞)・兩世姻緣(喬吉甫)・揚州夢(喬吉甫)・金錢記(喬吉甫)・東堂老(秦簡夫)・趙禮讓肥(秦簡夫)・殺狗勸夫(蕭德祥)・昊天塔(朱凱)・桃花女(王曄)・還牢末(李致遠)・劉行首(楊景賢)・兒女團圓(明、楊文奎)・蕭淑蘭(明、賈仲名)・金安壽(明、賈仲名)・對玉梳(明、賈仲名)・城南柳(明、谷子敬)・悞入桃源(明、王子一)・陳州糶米(無名氏)・鴛鴦被(無名氏)・賺蒯通(無名氏)・爭報恩(無名氏)・來生債(無名氏)・硃砂擔(無名氏)・合同文字(無名氏)・凍蘇秦(無名氏)・小尉遲(無名氏)・神奴兒(無名氏)・謝金吾(無名氏)・馬陵道(無名氏)・漁樵記(無名氏)・學案齊眉(無名氏)・梧桐葉(無名氏)・隔江鬬智(無名氏)・度柳翠(無名氏)・盆兒鬼(無名氏)・百花亭(無名氏)・連環計(無名氏)・抱粧盒(無名氏)・貨郎旦(無名氏)・碧桃花(無名氏)・憑玉蘭(無名氏)。

【元極】140 ゲンキヨク ㊀宇宙事物の元始で、至極のところ。又、天をいふ。〔漢書、敍傳下〕闡㆓元極㆒、步㆓三光㆒。〔注〕張晏曰、闡、大也、元、始也、極、至也、三光、日月星也、大推㆓上極元始以來㆒、及㆓星辰度數㆒。〔元結、引極、思㆓元極㆒〕積㆓清寥㆒兮成㆓元極㆒。〔柳宗元、南嶽雲峯和尚塔銘〕苞㆓元極㆒兮韜㆓大方㆒。㊁宋、楊棟(6－15112··300)の字。

【元玉】141 ゲンギヨク 字號。㊀明、金琮(11－40152··759)の字。㊁明、吳珵(2－3365··320)の字。㊂明、徐有貞(4－10110··329)の字。

【元均】142 ゲンキン 宋、田況(7－21723··58)の字。

【元金】143 グヮンキン ㊀貸しつけた正味の金。又、預け入れた正味の金。もときん。母錢。㊁ゲンキン 元祿金(元祿小判金・元祿一分判金及び元祿二朱判金の總稱)の異稱。㊂yüan² chin¹ 中國海關で弗(米國貨幣の單位)に對して元(中國貨幣の單位)をいふ。

〖元金据置〗144 グヮンキンスヱオキ 公債などの元金を償還せずにおくこと。

【元欽】145 ゲンキン ㊀後魏の人。衍の弟。字は思若。官は尚書右僕射。顏色が黑いので、時人は黑面僕射と呼んだ。司空となつたが、河陰で害せられた。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。㊁西魏の廢帝。文帝の長子。尚書元烈が宇文泰を殺さうとし、事が泄れて泰に殺されるや、帝は之を怨み、泰を誅せんとし、謀が洩れて帝位を追はれ、尋いで弑せられた。在位二年。本、拓跋氏、孝文帝の時から元氏に改めた。〔北史、五〕。㊂字號。㋑後魏、崔暹(4－8178··118)の字。㋺唐、劉世讓(2－2224··1104)の字。

【元鈞】146 ゲンキン 字號。㊀宋、徐鑄(4－10110··219)の字。㊁宋、陸宰(11－41708··113)の字。㊂宋、呂陶(2－3386··116)の字。

【元謹】147 ゲンキン 清、胡量(9－29400··362)の字。

【元矩】148 ゲンク 字號。㊀後漢、宋則(3－7078··156)の字。㊁宋、崔縱(4－8178··103)の字。㊂宋、陳昭度(11－41698··1057)の字。㊃金、劉頍(2－2224··156)の字。

【元翊】149 ゲンク 後魏の孝明帝。宣武帝の二子。六歲にして位を嗣ぎ、母胡太后が朝に臨んで政を聽く。太后は清河王懌に逼られて之を幸し

たので、領軍元叉が太后を幽し懌を殺した。孝昌の初、太后がまた朝に臨んでから朝政衰へ賞罰の當を失つたので、元鑒・蕭寶夤・葛榮・杜洛周等並に反した。帝は太后の專横を惡み、爾朱榮に賴らんとし、遂に太后に害せらる。在位十二年。廟號は肅宗。年號は熙平・神龜・正光・孝昌・武泰。本、拓跋氏であつたが、孝文帝の時から元氏に改めた。〔魏書、九〕・〔北史、四〕。

【元化】150 ㊀造化の偉大なはたらき。〔李嶠、春賦〕驚二洪濤之神用一、偉二元化之工作一。〔李白、畫讚〕筆鼓二元化一形分自然。㊁帝王の德化。〔元結、補樂歌、咸池〕元化油油兮、孰知二其然一。〔顏眞卿、贈僧皎然二詩一序〕元化隱二靈蹤一、始君啓二高致一。㊂たみ。人民。〔福惠全書、筮仕部、四六小啓式〕變二元化一以建二勛庸一、運二神功一而披二闓闔一。㊃字號。㋑後漢、華佗(9－31214‥278)の字。㊁後魏、裴佗(10－34362‥75)の字。㋒金、胡礪(9－29400‥368)の字。㊂明、龐泮(12－48824‥36)の字。

【元錁】151 yüan² k'o⁴ 小馬蹄銀。重さ約十兩のものをいふ。

【元晦】152 宋、朱熹(6－14424‥108)の字。

【元會】153 ㊀陰曆元旦の朝會。〔晉書、禮志下〕武帝更定二元會儀一。㊁字號。㋑晉、司馬虓(2－3257‥230)の字。㊁元、朱夏(6－14424‥63)の字。㋒清、吳孔嘉(2－3365‥558)の字。

【元光】154 ㊀年號。㋑漢、武帝、劉徹)の時。(B.C.134－B.C.129)㊁金、宣宗(完顏珣)の時。(1222－1223)㋒晉時、西秦の竇衝の僭年號。(393－394)㊂南朝宋、武昌王渾の時。㊃梁、劉曇淨(2－2224‥1249)の字。㊄唐、李元諒(6－14459‥1185)の名。

【元宏】155 ㊀後魏の孝文帝。獻文帝の長子。性、至孝。射を善くし、膂力あり。大いに文治を興し、民田を均しくし戶籍を制す。又、明堂・辟雍・靈臺を修明し、郊廟の禮を行ひ、都を洛陽に遷し、胡俗を改めて國風を變じ、中興の明主と稱せらる。魏は本、拓跋氏であつたが、此の時から元氏に改めた。在位二十九年。廟號は高祖。年號は延興・承明・太和。〔魏書、七〕・〔北史、三〕。㊁宋、楊公度(6－15112‥529)の字。

【元黃】156 黑色と黃色。玄黃(7－20814‥98)に同じ。

【元廣】157 宋、翁行(9－28635‥7)の字。

【元廓】158 西魏の恭帝。文帝の四子。初、齊王に封ぜらる。在位三年にして宇文覺に廢せられ、宋公に封ぜらる。尋いで宇文護に弑せられ、西魏はここに亡んだ。本、拓跋氏であつたが、孝文帝の時から元氏に改めた。〔北史、五〕。

【元竅】159 水口をいふ。元關を見よ。

【元關】160 堪輿家で、水源を元關、水口を元竅といふ。〔楊筠松、青囊奧旨〕一生レ二、二生レ三、三生二萬物一。是元關、山管レ山、水管レ水、此是陰陽元妙理。

【元君】161 ㊀道教で、女の仙人の美稱。男を眞人といふの對。柴虛元君・碧霞元君の類。〔黃帝經、注〕白元君同房之眞也。〔老子內傳〕授二元君神圖寶章一。㊁善君。立派な君主。元は善。〔國語、晉語七〕抑人之有二元君一、將レ稟レ命焉。㊂父祖。〔列女傳、孽嬖、齊東郭姜傳〕請就二元君之廟一而死焉。

【元訓】162 奧深い教。玄訓(7－20814‥106)に同じ。

【元勳】163 ㊀國家を興す事に與つた大功。又、其の功ある人。建國の功臣。佐命の臣。元功。〔魏武帝、請下封二荀彧一爲中萬歲亭侯上表〕宜下享二高爵一、以彰中元勳上。〔魏志、高柔傳〕逮レ至二漢初一、蕭曹之儔、並以二元勳一、代作二心膂一。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕若能翻然大擧、建二立元勳一、以應二顯祿一。〔福之上也。(注)良曰、元、大、勳、功也。㊁明、屠勳(4－7761‥20)の字。

【元兄】164 長兄をいふ。〔稱謂錄、長兄、元兄〕後漢書和帝紀、竇太后詔曰、侍中憲、朕之元兄、謂二長兄一也。

【元圭】165 ㊀くろいたま。玄圭(7－20814‥109)を見よ。㊁宋、柴禹錫(6－14664‥96)の字。

【元京】166 宋、孫嵩(3－6987‥181)の字。

【元珪】167 ㊀寶の高僧。伊闕の李氏の子。崇岳の龐塢に居る。開元中、卒す。〔宋高僧傳、十九〕。㊁宋、張美(4－9812‥627)の字。

【元啓】168 明、姜昌(3－5930‥26)の字。

【元卿】169 字號。㊀漢、蔣詡(9－31820‥30)の字。㊁宋、鄧諫從(11－39630‥128)の字。㊂宋、范端臣(9－30834‥232)の字。㊃元、秦起宗(8－24995‥205)の字。㊄明、柯相(6－14658‥12)の字。㊅明、余化淳(1－515‥76)の字。㊆明、李日輔(6－14459‥1376)の字。㊇明、劉世龍(2－2224‥1110)の字。㊈清、張祥河(4－9812‥1162)の字。㊉清、陳璜(11－41698‥183)の字。

【元景】170 字號。㊀北齊、陽昭(11－41725‥171)の字。㊁北齊、王昕(7－20823‥258)の字。㊂明、戚繼光(5－11594‥50)の字。

【元敬虞皇后】172 晉、虞后(9－32723‥62)をいふ。

【元溪】173 縣名。晉、置き、隋廢す。古治は廣東省德慶縣の東。〔讀史方輿紀要、廣東肇慶府、德慶州〕元溪廢縣、州東五十里、本端溪縣地、晉折二置元溪縣一。

【元經】174 書名。十卷。隋、王通撰。唐の薛收が更に傳を作り、宋の阮逸が之に注した。然るに、唐書藝文志には、此の書目を載せてゐないので、或は逸の擬作かともいふ。其の內容は、孔子の春秋に仿ひ、前九卷には晉の太熙元年から、隋の開皇九年までの史實を記し、末一卷には唐の武德元年までの史實を載す。〔四庫提要、史、編年類〕。

【元慶】175 ㊀大いなるよろこび。〔易、履、上九〕視レ履考レ祥其旋元吉一象曰、元吉在レ上、大有レ慶也。㊁字號。㋑後魏、公孫軌(2－1452‥475)の字。㊁隋、韓僧壽(12－43159‥343)の字。㊂ギョウセイ第五十七代、陽成天皇の年號。(877－885)

【元繼】176 後魏、拓跋霄の第二子。字は世仁。謚は武烈。江陽王を襲ぐ。子の叉が靈太后の妹を納れた爲、太后の親寵を得、京兆王に徙封せられたが、又、黜けられて致仕す。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕

【元曉】177 新羅の僧。黃龍寺に住す。入唐して修行し、最も華嚴に精通す。後還つて化を海東に振ふ。世に海東師と稱し、著す所の經疏を海東疏といふ。著に起信論疏・彌陀經疏がある。〔宋高僧傳、四〕。

【元傑】178 字號。㊀明、史源(2－3249‥62)の字。㊁明、張漢卿(4－9812‥888)の字。

【元結】179 ㊀唐、武昌の人。字は次山。始號は猗玕子。繼いで浪士と稱し、亦、漫郎といひ、瞀叟といふ。官は容管經略使。卒して禮部侍郎を追贈せらる。性行高潔、憂國の情に富み、其の文章は奇古、韓愈以前に在つて六朝駢儷の習を變じ、古文復興の先驅となつた偉功がある。代宗の時、老を以て致仕し、元子十篇を作る。著に次山集あり、又、沈千運・王季友等七人の詩を編して篋中集を爲る。〔唐書、一百四十三〕・〔唐詩紀事、二十二〕。㊁モトトヒ 髮を結ぶに用ひる細い條。〔小大君集〕御もとゆひ縒りて。

【元結紙】180 モトトヒ 結髮用の紙捻。〔春臺獨語〕元結紙といふもの。

【元結切】181 モトトヒ 剃髮して僧となること。出家すること。〔諸曲、水無瀨〕元結切り。

【元潔】182 宋、陳藻(11－41698‥270)の字。

【元月】183 一年のはじめの月。正月の異名。

【元勰】184 後魏の人。獻文帝の子。字は彥和。謚は武宣。太和中、始平王に封ぜられ、後、彭城王に改封せらる。屢〻梁軍を平げて軍功を立てたが、高肇の譖にあひ誅せらる。莊帝の時、文穆皇帝と追謚す。〔魏書、二十一下〕。

【元咀】185 ㊀姓。〔路史〕衞有二元咀氏一。㊁春秋、衞の大夫。成公の出奔するや、公子瑕を立てたが、成公は周顚・治廛に賂して咀を殺さしめた。〔左氏、僖、二十八・三十〕。

【元儉】186 三國蜀、廖化(4－9464‥14)の字。

【元獻】187 謚號。㊀宋、晏殊(5－13914‥36)の謚。㊁宋、宋庠(3－7078‥124)の謚。

【元獻后】188 唐、楊后(6－15112‥151)をいふ。

【元顯】189 隋、龐晃(12－48824‥12)の字。

【元元】190 ㊀はじめをはじめとする。元元本本を見よ。㊁愛すべきもの。たみ。百姓。〔戰國、秦策〕今欲下并二天下一、凌二萬乘一、詘二敵國一、制二

海內、子二元元一、臣中諸侯上、非レ兵不可。〔史記、匈奴傳〕元元萬民。〔漢書、王莽傳上〕無レ使二百僚元元失一レ望。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕割二剝元元一。〔後漢書、光武紀上〕上當二天地之心一、下爲二元元所一レ歸。〔注〕元元、謂二黎庶一也、元元、由レ言二喁喁一、可二矜憐一之辭也。〔容齋五筆、兩漢用二人人元元字一〕前漢書好用二人人字一、如下文帝紀、人人自以爲、得レ之者以レ萬數、又曰、人人自安難二動搖一、元帝紀、人人自以得二上意一、食貨志、人人自愛而重レ犯レ法、韓信傳、人人自以爲、得二大將一、曹參傳、齊故諸儒以レ百數、言人人殊、張良傳、人人自堅、叔孫通傳、吏人人奉レ職、賈誼傳、人人各如二其意所一レ出、揚雄傳、人人自以爲、咎繇、鮑宣傳、人人牽二引所一レ私、韓延壽傳、人人問以二謠俗一、人人爲飲、張騫傳、人人有レ言二輕重一、李尋傳、人人自賢、王莽傳、人人延問、嚴安傳、人人自以爲、更生、王吉傳、人人自制上、是也、後漢書亦閒有レ之、如下崔駰傳、人人有二以自優一、五行志、人人莫レ不レ畏、憲吳漢傳、諸將人人多請レ之、申屠剛傳、人人懷レ憂、王充傳、人人自危、荀彧傳、人人自安、呂強傳、諸常侍人人求レ退、是也、又元元二字、考二之六經一無レ所レ見、而兩漢書多用レ之、如下前漢文帝紀、全二天下元元之戸一、武紀、燭二幽隱一勸二元元一所三以化二元元一、宣紀、不レ忘二元元一、元紀、元元失レ望、元元何辜、元元大困、元元之民勞二於耕耘一、元元騷動、元元安所レ歸レ命、成紀、元元冤失レ職者衆、哀紀、元元不レ贍、刑法志、罹二元元之不レ逮一、嚴安傳、元元黎民得レ免二於戰國一、嚴助傳、使二元元之民安レ生樂レ業、賈捐之傳、保二全元元一、東方朔傳、元元之民各得二其所一、魏相傳、尉二安元元一、唯陛下留二神元元一、鮑宣傳、爲二天牧養元元一、蕭育傳、安二元元一而已、康衡薛宣傳、哀二閔元元一、王嘉傳、憂二閔元元一、谷永傳、以尉二元元之心一、匈奴傳、元元萬民上、是也、後漢光武紀、下爲二元元所一レ歸、賊二害元元一、元元愁恨、惠二茲元元一、章紀、誠欲二元元去レ末歸一レ本、元元未レ諭、深二元元之愛一、和紀、愛二養元元一、下濟二元元一、順紀、元元被レ害、質紀、元元嬰二此困毒一、桓紀、害及二元元一、鄧后紀・劉毅傳、垂二恩元元一、王昌傳、元元創痍、耿弇傳、元元叩心、郎顗傳、弘二濟元元一、貸二贍元元一、曹褒傳、仁二濟元元一、范升傳、元元焉所レ呼、天免二元元之急一、鍾離意傳、憂二念元元一、何敞傳、元元怨恨、安二濟元元一、楊終傳、以濟二元元一、虞詡傳、遭二元元无妄之災一、皇甫規傳、平志畢レ力以慶二元元一、是也、予謂、元元者民也、而上文又言二元元之民、元元黎民、元元萬民一、近二于複重一矣、故顏注、或云、元元、善意也。㊂善い。善意。〔漢書、文帝紀〕以全二天下元元之民一。〔注〕師古曰、元元、善意也。

【元元棋經】191 書名。一卷。宋、晏天章撰。奕を兵法に擬し、孫子の篇數に倣つて十三篇としてゐる。〔四庫提要、子、藝術類〕

【元元縣レ命】192 民百姓が命をかける。縣令に對していふ。民の安危は縣令の雙肩にかかつてゐる意。〔唐書、張九齡傳〕六合元元之衆、縣二命於縣令一。

【元元之民】193 人民。たみ。元元の㊀及び字解の⑭を見よ。〔史記、秦始皇紀〕元元之民、冀レ得レ安二其性命一。〔史記、文帝紀〕以全二天下元元之民一。〔漢書、嚴助傳〕使二元元之民、安レ生樂レ業。〔新書、過秦中〕元元之民、冀レ得レ安二其性命一、莫レ不二虛レ心而仰一レ上。

【元元本本】194 元を元とし本を本とする。根元に遡る。又、元本をいふ。元は源。本は根。一に原原に作る。〔漢書、敍傳下〕元レ元本レ本、數始二於一一、產二氣黃鍾一、造二計秒忽一。〔注〕張晏曰、數之元本、起二於初九之一一也。〔班固、西都賦〕元元本本、殫見洽聞。〔注〕善曰、元元本本、謂レ得二其元本一也、銑曰、元元本本、謂二典籍根本一。

【元言】195 明、顧起綸(**12**－**43689**‥237)の號。

【元彥】196 晉、譙秀(**10**－**35976**‥13)の字。

【元嚴】197 金の人。好問の女弟。號は浯溪眞隱。文にして豔。盧氏楊思敬に嫁し、夫歿して遂に女冠となる。兄、好問の貞燕詩は、蓋し嚴の爲に作つたもので、詔して其の詩を宮教とした。著に浯溪集がある。〔忻州志〕

【元古】198 太古(**3**－**5834**‥131)に同じ。〔素問、上古天眞論、上古之人、注〕上古、謂二元古一也。

【元估】199 yüan² ku¹ もとね。原價。

【元固】200 字號。㊀後漢、蓋勳(**9**－**31652**‥19)の字。㊁唐、徐堅(**4**－**10110**‥117)の字。

【元岵】201 明、張次仲(**4**－**9812**‥1138)の字。

【元公】202 ㊀宋、周敦頤(**2**－**3441**‥812)の謚。㊁字號。㋑宋、詹良臣(**10**－**35458**‥69)の字。㋺明、黃端伯(**12**－**47926**‥1237)の字。㋩清、張自德(**4**－**9812**‥1143)の字。

【元功】203 ㊀國家を興すに與つた大功。又、其の功ある人。元勳(163)の㊀に同じ。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕以昭二元功之侯籍一。〔漢書、景武昭宣元成功臣表〕續二元功次一云。〔注〕師古曰、元功、謂下佐二興帝業一者上也。〔後漢書、馮衍傳上〕成二天地之元功一。〔范曄、後漢書二十八將傳論〕高秩厚禮、允答二元功一。〔注〕良曰、元、大也、以二高祿重禮一、信答二大功一也。〔魏志、齊王芳紀〕顯爵所三以褒二元功一、重賞所三以寵二烈士一。㊁字號。㋑宋、黃烈(**12**－**47926**‥951)の字。㋺宋、侯蒙(**1**－**633**‥86)の字。㋩宋、徐勣(**4**－**10110**‥189)の字。㋥宋、陳敏(**11**－**41698**‥522)の字。㋭金、完顏亮(**3**－**7079**‥46)の字。㋬明、柴世需(**6**－**14664**‥109)の字。㋣明、謝恭(**10**－**35827**‥49)の字。㋠清、歸莊(**6**－**16349**‥107)の字。

【元弘】204 第九十六代、後醍醐天皇の年號。(1331－1334)〔藤原俊光、菅原在登勘文〕藝文類聚曰、老人星、體色光明、嘉占元吉、弘二無量之裕一、降二克昌之祥一、普天同慶、率土合歡。

【元后】205 ㊀おほぎみ。天子。元は大。后は君。〔書、大禹謨〕汝終陟二元后一。〔傳〕元、大也、大君、天子。〔書、泰誓上〕亶聰明作二元后一、元后作二民父母一。〔傳〕人誠聰明、則爲二大君一。〔劉楨、贈二五官中郎將一詩〕昔我從二元后一。〔書言故事、人君類〕尊稱二天子一曰二元后一。㊁天子の嫡后。卽ち第一皇后。〔明史、孝烈方皇后傳〕二十六年十一月乙未、后崩、詔曰、皇后比救二朕危一、奉レ天濟レ難、其以二元后禮一葬。㊂漢の元帝の后。王莽の姑。名は政君。平帝の時、朝に臨み、政を王莽にゆだぬ。莽、位を簒ふに及び、后に命じて新室文母といふ。年八十四にして崩ず。〔前漢書、九十八〕。㊃北周の孝閔帝の后。名は胡摩。〔周書、九〕。㊄北周の宣帝の后。名は樂尙。帝崩ずるや、尼となつて華勝と名づく。〔周書、九〕。㊅北齊の文襄帝の名。諡は敬。〔北齊書、九〕。

【元侯】206 諸侯の長をいふ。はたがしら。〔左氏、襄、四〕對曰、三夏、天子所三以享二元侯一也。〔注〕元侯、牧伯。〔疏〕周禮大宗伯云、八命作レ牧、九命作レ伯、鄭玄云、牧、謂下侯伯有二功德一者上、加命得レ專二征伐於諸侯一也、伯、謂下上公有二功德一者上、加命爲二二伯一、得レ征二五侯九伯一者也、鄭司農云、牧、一州之牧也、伯、長二諸侯一爲二方伯一也、然則牧是州長、伯是二伯、雖二命數不一レ同、俱是諸侯之長也、元、長也、謂二之長侯一、明是牧伯。〔國語、魯語下〕元侯作レ師、卿帥レ之以承二天子一。〔注〕元侯、大國之君也。

【元厚】207 宋、韋君載(**12**－**43108**‥175)の字。

【元恆】208 清、蔣赫德(**9**－**31820**‥130)の本名。

【元紅】209 yüan² hung² ㊀處女が始めて交接した時に出る血をいふ。第一番に初めの紅を賞玩する意から、水揚げすることをいふ。㊁紹興酒の一種。

【元候】210 古代の軍官の名。中軍候奄をいふ。〔國語、晉語七〕知二張老之知而不一レ詐也、使レ爲二元候一。〔注〕元候、中軍候奄也。

【元寇】211 弘安四年に元兵が筑紫に入寇したことをいふ。蒙古襲來。

【元興】212 ㊀年號。㋑後漢、和帝(劉肇)の時。(105)㋺三國吳、歸命侯(烏程侯孫皓)の時。(264－265)㋩東晉、安帝(司馬德宗)の時。(402－404)㊁後魏、韓茂(**12**－**43159**‥217)の字。

【元興王】213 隋、操師乞(**5**－**12806**‥82)の號。

【元谷】214 清、李穆(**6**－**14459**‥751)の字。

【元谷道人】215 明、王佑(**7**－**20823**‥24)の號。

【元穀】216 よい穀物。嘉穀。〔逸周書、商誓解〕凡在二天下一之庶民、罔レ不二維后稷之元穀、用蒸享一。〔集訓校釋〕元穀、嘉穀。

【元昆】217 長兄。おほあに。〔蘇頲、宴二別駕兄弟宅一詩〕始覩元昆鏘玉至、旋聞季子佩刀廻。〔杜甫、覽二柏中丞兼子姪數人除官制詞一云云詩〕深誠補二王室一、戮力自二元昆一。〔蘇轍、題二都昌清隱禪院一詩〕誰道谿巖許二深處一、一番行草認二元昆一。

〔蘇轍、送二魯有開中大知洛州一次二子瞻韻一詩〕白髮識二公子一、十載友二元昆一。〔稱謂錄、長兄、元昆〕釋常談、長兄云二元昆一。

【元混】218 ゲンコン 元氣の未だ混沌として陰陽に分れないこと。元は玄。玄混(7−20814・・139)を見よ。

【元叉】219 ゲンサ 後魏の人。繼の子。字は伯儁。小字は夜叉。靈太后の妹馮翊郡君に尙し、通直散騎侍郎に除せられ、妻は侍中となる。寵を恃んで專橫甚しく、遂に謀反すと誣告せられて死を賜はる。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【元才】220 ゲンサイ 字號。❶後漢、高幹(12−45313・・129)の字。❷前秦、苻雄(9−30825・・16)の字。

〖元才子〗221 ゲンサイシ ❶唐の元稹(340)をいふ。〔舊唐書、元稹傳〕穆宗皇帝在二東宮一、有下妃嬪左右、嘗誦二稹歌詩一、以爲二樂曲一者上、知二稹所一レ爲、嘗稱二其善一、宮中呼爲二元才子一。❷金の元好問(646)をいふ。

【元采】222 ゲンサイ 明、黃中色(12−47926・・1244)の字。

【元宰】223 ゲンサイ ❶宰相。〔晉書、王導傳論〕實賴二元宰、固懷一レ匪二石之心一。〔王融、三月三日曲水詩序〕元宰比二肩於尙父一。〔注〕善曰、元宰、冢宰也。❷主謀者。〔蘇轍、陳州爲二張安道一論二時事一書〕投二竄元宰一。❸字號。㋑明、曹荃(5−14297・・132)の字。㋺明、董其昌(9−31433・・187)の字。

【元載】224 ゲンサイ ❶唐、岐山の人。字は公輔。李輔國に附し、代宗の時、官は中書侍郎に至る。輔國が殺されるに及び、死を賜はる。書室を芸暉堂といふ。〔舊唐書、一百十八〕・〔唐書、一百四十五〕。❷明、韋厚(12−43108・・54)の字。

【元草】225 ゲンサウ 淸、楊亭(揚州の人)(6−15112・・283)の字。

【元爽】226 ゲンサウ 淸、殷壋(6−16627・・16)の字。

【元操】227 ゲンサウ 隋、李孝貞(6−14459・・949)の字。

【元鏪】228 ゲンサウ yüan² tʻsao² 陝西に通用する銀塊の名。

【元造】229 ゲンザウ 宋、劉汝舟(2−2224・・1068)の字。

【元藏】230 ゲンザウ 元刻の大藏經。思溪・福州の二本を以て校勘し、世祖の至元十四年から至元二十七年に至つて成功した。總計一千四百二十二部、六千一十七卷、五百五十八函。其の中、大乘經五百二十八部二千一百七十四卷・小乘經二百四十二部六百二十一卷・大乘律二十五部五十二卷・小乘律五十四部四百三十九卷・大乘論九十七部五百二十三卷・小乘論三十六部七百二十卷・賢聖傳記錄一百八部五百四十四卷・續入藏三百三十二部九百四十四卷。其の函號の部數等は宋藏に同じ。〔元藏目錄〕。

【元朔】231 ゲンサク ❶元旦。元日。〔唐德宗、元日退レ朝觀二軍仗一歸レ營詩〕獻歲視二元朔一、萬方咸在レ庭。❷漢、武帝(劉徹)の年號。(B.C.128−B.C.123)

【元策】232 ゲンサク 大いにすぐれたはかりごと。玄策(7−20814・・150)に同じ。

【元三】233 グワンサン ❶年と月と日の三つの初の義。卽ち正月元日。〔和漢三才圖會、時候類、元三〕師古漢書注云、歲之朝、月之朝、日之朝、故謂二之三朝一、元三亦同義。❷正月元日から三日までの稱。

【元贊】234 ゲンサン 字號。❶宋、汪皋會(6−17154・・188)の字。❷明、曾楚卿(5−14299・・208)の字。❸淸、周笠(2−3441・・511)の字。

【元槧】235 ゲンザン 元代に刻した木版本。〔書林淸話、元刻書多用二趙松雪體字一〕有二元槧吳澄禮記纂言三十六卷一。

〖元槧古今雜劇三十種〗236 ゲンザンココンザツゲキサンジツシユ 元曲の集。其の中、十三種は元曲選に載せてあるが、餘の十七種は他に見られぬもの。元曲選に比すれば、此の書は坊間流布の粗本である。其の目は、關張雙赴西蜀夢(關漢卿)・詐妮子調風月(關漢卿)・關大王單刀會(關漢卿)・閨怨佳人拜月亭(關漢卿)・泰華山陳摶高臥(馬致遠)・馬丹陽三度任風子(馬致遠)・蔚遲恭三奪槊(尙仲賢)・漢高祖濯足氣英布(尙仲賢)・楚昭王疎者下船(鄭廷玉)・看錢奴買冤家債主(鄭廷玉)・公孫汗衫記(張國賓)・薛仁貴衣錦還鄕(張國賓)・李太白貶夜郞(王伯成)・風月紫雲庭(石君寶)・蕭何追韓信(金仁傑)・趙氏孤兒(紀君祥)・輔成王周公攝政(鄭光祖)・好酒趙元遇上皇(高文秀)・陳季卿悟道竹葉舟(范康)・東窗事犯(孔文卿)・霍光鬼諫(揚梓)・張鼎智勘魔合羅(孟漢卿)・晉文公燒介子推(狄君厚)・散家財天賜老生兒(武漢臣)・死生交范張雞黍(宮天挺)・岳孔目借鐵拐李還魂(岳伯川)・嚴子陵垂釣七里灘(無名氏)・張千替殺妻(無名氏)・諸葛亮博望燒屯(無名氏)・小張屠焚兒救母(無名氏)。

【元士】237 ゲンシ ❶善い士の意で、天子の上士・中士・下士を通じていふ。又、適士といふ。〔禮、王制〕天子之元士視二附庸一。〔注〕元、善也、善士、謂二命士一也。〔疏〕按、周禮注、天子上士三命、中士再命、下士一命、故云三善士謂二命士一、則上中下之士、皆稱二元士一也、天子之士所二以稱一レ元者、異二於諸侯之士一也。〔禮、王制〕天子、三公・九卿・二十七大夫・八十一元士。〔白虎通、爵〕王制曰、王者、八十一元士。〔棗據、雜詩〕開レ國建二元士一、玉帛聘二賢良一。❷上士をいふ。〔孟子、萬章下〕元士受レ地視二子男一。〔集注〕元士、上士也。〔荀子、正論〕小侯元士次レ之。〔注〕元士、上士也。〔漢書、王莽傳中〕一大夫置二元士三人一。❸明代、給事中の異稱。明の太祖の時、給事中に卓敬等凡そ八十一人あつて、周代の八十一元士にあたるので、之を元士といひ、後又、源士と改む。〔明史、職官志三〕二十二年、改二給事中一爲二源士一、增至二八十一人一。〔注〕初魏敏卓敬等、凡八十一人、爲二給事中一、上以三其適二符古元士之數一、改爲二元士一、至レ是、又以二六科爲一レ事之本源一、改爲二源士一。

【元子】238 ゲンシ ❶天子の嫡子。第一皇子。日知錄、卷二に見ゆ。〔書、召誥〕有王雖レ小、元子哉。〔傳〕有成王雖レ少、而大爲二天所一レ子。〔詩、魯頌、閟宮〕建二爾元子一、俾レ侯二于魯一。〔傳〕元、首。〔儀禮、士冠禮〕天子之元子、猶レ士也。〔注〕元子、世子也。〔後漢書、馮衍傳下〕有下喪二元子一之禍上。〔孔子家語、冠頌〕雖二天子之元子一、猶レ士也。❷長子をいふ。〔稱謂錄、長子、元子〕漢豫州從事孔褒碑、泰山都尉之元子、又郞君鄭固碑、著君元子也。❸唐の元結(179)の自稱。又、其の著書の名。〔唐書、元結傳〕作二自釋一曰、河南元氏望也、結、元子名也、次山、結字也、世業載二國史一、世系在二家牒一、少居二商餘山一、著二元子十篇一、故以二元子一爲レ稱。❹分子を形成する微粒子。原子(2−2973・・86)に同じ。❺字號。㋑晉、桓溫(6−14774・・11)の字。㋺晉、蔡裔(9−31818・・10)の字。㋩明、何楷(1−511・・19)の字。㋥明、張家玉(4−9812・・845)の字。

【元巳】239 ゲンシ 陰曆三月三日。上巳。〔沈約、三月三日率爾成レ篇詩〕麗日屬二元巳一。〔注〕銑曰、元巳、上巳也。

【元之】240 ゲンシ 字號。❶唐、姚崇(3−6202・・74)の字。❷宋、上官渙酉(1−13・・210)の字。❸宋、馬季良(12−44572・・732)の字。❹宋、王禹偁(7−20823・・1174)の字。❺元、朱淸(6−14424・・413)の字。❻明、龔弘(12−48837・・23)の字。❼明、黃元(12−47926・・355)の字。❽明、章恩(8−25761・・16)の字。❾明、秦從龍(8−24995・・236)の字。❿淸、陳世仁(11−41698・・1033)の字。

【元氏】241 ゲンシ 縣名。❶漢、置く。戰國、趙の元氏の邑。故城は今の河北省元氏縣の西北。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府〕元氏縣、戰國時、趙公子元之封邑、漢置レ縣。〔淸史稿、地理志〕直隸、正定府、縣十三、元氏。❷後魏、置く。漢の泫氏縣。今の山西省高平縣治。〔讀史方輿紀要、山西、澤州、高平縣〕泫氏城、在二縣東十里一、云云、後魏改爲二元氏縣一。

〖元氏長慶集〗242 ゲンシチヤウケイシフ 書名。六十卷。補遺六卷。唐、元稹撰。初、白樂天の作つた稹の墓誌には、元稹文一百卷を著し、題して元氏長慶集と曰ふとあるが、原本は宋代に既に殘闕した。宋の宣和年中、建安の劉麟が刊行した本があり、明の馬元調が次いで翻雕したが、詩二十六卷、賦一卷、文三十三卷のみで、原本の十分の四を佚した。尙、其の門目も亦、稹の自著と同じでない。其の目は、古詩八卷・傷悼詩一卷・律詩十三卷・古樂府一卷・樂府三卷・賦一卷・策一卷・書三卷・表奏一卷・表二卷・狀五卷・制誥十一卷・序・記共一卷・碑銘六卷・墓誌一卷・告贈文一卷・祭文一卷。〔四庫提要、集、別集類〕。

【元史】243 ゲンシ 書名。二百十卷。明、宋濂等奉敕撰。本紀四十七卷・志五十三卷・表六卷・列傳九十七卷。明の太祖の洪武の初、元十三朝の實錄により、李善長・宋濂等十餘人に詔して編纂せしめたが、僅々六箇月の短時間を以て成つたため、甚だ粗略に失してゐた。後、歐陽祐等に命

じ、北京に往いて遺事を採らしめ、宋濂・王偉等に再び其の事を總べしめて續修させたが、完備せず、正史中最惡の作と謂はれる。殊に列傳中、同一人に對し文字の違つてゐる爲別々に傳を立てる等、最も粗漏の甚しいものである。〔四庫提要、史、正史類〕

〘參考書〙【元史備忘錄】一卷明、王光魯撰。【元史本證】五十卷清、汪輝祖撰。清史稿、藝文志に著錄せらる。【元史氏族表】三卷清、錢大昕撰。清史稿、藝文志に著錄せらる。【補元史藝文志】四卷清、錢大昕撰。清史稿、藝文志に著錄せらる。【元史續編】十六卷明、胡粹中撰。元史の闕略を補つたもの。〔四庫提要、史、編年類〕。【元史紀事本末】四卷明、陳邦瞻撰。凡そ二十七篇。資料は簡略であるが、元一代の制度は極めて明白である。〔四庫提要、史、紀事本末類〕。【元史譯文證補】三十卷清、洪鈞撰。元史に闕失が多いとて、ロシヤ駐在の時、外國人の元史に關するものと元史とを比較研究したもの。未完のまま歿したため闕けたところが多い。明治三十五年刊の那珂通世の校本がある。清史稿、藝文志に著錄せらる。【新元史】二百五十卷民國、柯劭忞撰。元史に關するものの集大成ともいふべきものである。

【元志】244 ゲンシ　後魏の人。拓跋齊の孫。書傳を歷覽して文才あり。荊州刺史となり、威名荊楚の憚る所となる。後、莫折念生を討伐して賊に殺さる。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元始】245 ゲンシ　❶はじめ。始元。〔漢書、禮樂志〕汾脽出レ鼎、皇祜元始。❷年のはじめ。正月。〔淮南子、天文訓〕太白元始、以二正月甲寅一與二熒惑一晨出二東方一。❸年號。㋑漢、平帝(劉欣)の時。(1—5)㋺五胡十六國の一、北涼、武宣王(沮渠蒙遜)の年號の中の一。(412—428)㋩明代、交趾の黎譓が稱した。❹字號。㋑春秋魯、穀梁赤(**8—25221**··92)の字。㋺後漢、崔寔(**4—8178**··104)の字。㋩清、顧昉(**12—43689**··160)の號。

【元始祭】246 ゲンシサイ　一月三日に行はれる御祭事。天皇が賢所・皇靈殿・神殿の三所で天神地祇と歷代の皇靈とを御親祭遊ばされる祭。報本反始の義に本づき、國本を年の首ハジメに祭るからいふ。明治五年に始まる。

〘元始天尊〙247 ゲンシテンソン　道教の神の名。〔郡齋讀書志、子類〕度人經三卷、元始天尊說、唐志有二其目一、古書也、道家云、元始天尊、生二于太元之先一、姓樂、名靜信、常存二不滅一、每二天地開闢一、則以二祕道一授二諸仙一、謂二之開劫度人一。

【元祀】248 ゲンシ　❶はじめの年。第一年。元年。祀は年。〔書、伊訓〕惟元祀十有二月乙丑、伊尹祀二于先王一。〔蔡傳〕夏曰レ歲、商曰レ祀、周曰レ年、一也。〔楊萬里、元日詩〕開禧元祀更元正、宿雨新收放二曉晴一。❷大祭をいふ。〔書、洛誥〕稱二秩元祀一。〔傳〕擧二秩大祀一。

【元思】249 ゲンシ　宋、蔡念成(**9—31818**··228)の字。

【元祉】250 ゲンシ　❶大きなさいはひ。〔宋史、樂志七〕輔レ德惟仁、永錫二元祉一。❷明、王毓蓍(**7—20823**··1153)の字。

【元瓷】251 yüan² tz'ŭ²　元時代の磁器。元磁。

【元絲】252 yüan² ssŭ¹　通用銀の一種。江南・浙江に行はれる銀塊。紋銀。

【元嗣】253 ゲンシ　字號。❶後漢、趙襲(**10—37171**··197)の字。❷三國魏、韓浩(**12—43159**··33)の字。❸宋、孫繼鄴(**3—6987**··385)の字。❹明、張孟男(**4—9812**··1527)の字。

【元詩】254 ゲンシ　元代の詩。又、元人の詩。〔沈鈞德、元詩別裁集序〕蓋宋詩末流之弊也、爲二粗率一、爲二生硬一、元詩則反レ是。

〘元詩選〙255 ゲンシセン　書名。一百十卷。清、顧嗣立編。體例は清の吳之振の宋詩鈔に倣ひ、間〻辨訂を施し、多く考證に資す。吳之振に比し稍〻詳。一卷は、文帝・順帝の詩を錄し、初集・二集・三集は每集、十干を以て分けて十集とし、各〻一百家を錄してゐる。其の目は【初集】六十八卷一百家。文帝・順帝、卷首。『甲集』遺山集(元好問)・莊靖先生集(李俊民)・丁亥集・靜修續集・靜修遺詩・靜修拾遺(劉因)・桐江集(方回)・陵陽集(牟巘)・剡源集(戴表元)・月屋漫稿(黃庚)・富山嬾集(方一夔)・勿軒集(熊鉌)・寧極齋集(附陳植・陳深)靜春堂集(附袁泰・袁易)・玉井樵唱(尹廷高)・輝山存稿(蕭國寶)。『乙集』湛然居士集(耶律楚材)・藏春集(附劉秉恕・劉秉忠)・陵川集(郝經)・魯齋集(許衡)・秋澗集(王惲)・雪樓集(程鉅夫)・草廬集(附吳當・吳澄)・金澄吟(元准)。『丙集』松雪齋集(附趙雍・趙奕・趙孟頫)・清容居士集(附袁裒・袁桷)・石田集(馬祖常)・雲林集(貢奎)・雲莊類稿(張養浩)・漢泉漫稿(曹伯啓)・圭塘小稿・圭塘疑乃集(附許有孚・許楨・許有壬・馬熙)・閑居叢稿(蒲道源)・默菴集(安熙)・定宇集(陳櫟)・雲峯集(胡炳文)。『丁集』道園學古錄・道園續集(虞集)・仲弘集(楊載)・德機集(苑淳)・秋宜集(揭傒斯)・日損齋稿(黃溍)・待制集(柳貫)・圭齋集(歐陽玄)。『戊集』雁門集・天錫集(薩都刺)翠寒集・喩囈集・鯨背吟(宋元)・安雅堂集(陳旅)・蛻菴集(張翥)・玩齋集・玩齋拾遺(貢師泰)・金臺集(迺賢)・鹿皮子集(陳樵)・詠物詩(謝宗可)。『己集』淵潁集(吳萊)・禮部集(吳師道)・此山集(周權)・經濟集(李士瞻)・存復齋集・存復齋續集(朱德潤)・所安遺集(陳泰)・清江碧嶂集(杜本)・叔淵遺稿(方瀾)・白雲先生集(許謙)・俟菴集(李存)・寶峯集(趙偕)・栲栳山人集(岑安卿)・續軒渠集(洪希文)・書林外集(袁士元)・溝南存稿(張端)。『庚集』顧北集(泰不華)・青陽集(余闕)・友石山人遺稿(王翰)・師山集(鄭玉)・雲陽集(李祁)・不繫舟漁稿(陳高)・圭峯集(盧琦)・秋聲集(黃鎭成)・傲軒吟稿(胡天游)・僑吳集(鄭元祐)・近光集・扈從詩(周伯琦)・夷白齋稿・夷白齋外稿(陳基)・玉笥集(張憲)・灤京雜詠(楊允孚)・待清軒遺稿(潘音)。『辛集』古樂府・復古詩・鐵崖先生集(楊維楨)・盧陵集(張昱)・清閟閣集(倪瓚)・靜思集(郭鈺)・石初集(周霆震)・梧溪集(王逢)・樵雲獨集(葉顒)・江月松風集(錢惟善)・黃楊集(華幼武)・海巢集(附吉雅謨丁・愛聖沙・丁鶴年・吳惟善)。『壬集』玉山璞稿(顧瑛)・霞外集(馬臻)・句曲外史集(張雨)・筠溪牧潛集(圓至)・白雲集(實存)・谷響集(善住)・蒲室集(大訢)・山居詩(清珙)・澹居詩(至仁)・師子林別錄(惟則)・綠窓遺稿(孫子蕭蘭)・肅雝集(鄭氏允端)・安南集(國王・陳益稷)。【二集】二十六卷一百家。『甲集』二妙集(附段輔・段克己・段成己)・神川遯士集(劉祁)・山郵遺稿(仇遠)・湛淵集(白珽)・存悔齋集(龔璛)・石塘稿(胡長瑞)・竹素山房詩(吾丘衍)・習嬾齋稿(錢選)・立雪稿(劉清叟)・青山稿(趙文)水雲邨稿(劉壎)・昭忠逸詠(劉麟瑞)・稼頓類稿(王義山)・在軒集(黃公紹)。『乙集』雪齋集(姚樞)・淮陽集(附張珪・張弘範)・還山遺稿(楊奐)・鹿菴集(王磐)・西菴集(楊果)・西卿集(徐世隆)・兩山集(李思衍)・野齋集(郭昂)・牧菴集(姚燧)・菊潭集(孛木魯翀)・秋谷集(李孟)。『丙集』困學齋集(鮮于樞)・觀光稿・交州稿・玉堂稿(陳孚)・酸齋集(小雲石海涯)・素履齋稿(鄧文原)房山集(高克恭)・清河集(元明善)・養蒙先生集(張伯淳)・秋岡先生集(陳思濟)・彥威集(盧亙)・鳩巢漫稿(李京)・子方集(文矩)・快雪齋集(郭畀)・子構集(李材)・知非堂稿(何中)・松鄉集(任士林)・紫巖集(于石)・旴里子集(揭祐民)・得之集(何失)。『戊集』清江集(傅若金)・至治集(宋本)・燕石集(宋褧)・江亭集(附王士點・王士熙)・正卿集(雅琥)・溉之集(李泂)・五峯集(李孝光)・居竹軒集(成廷珪)・梅花菴稿(吳鎭)・大癡道人集(黃公望)。『己集』樵水集(黃清老)・桂隱集(劉詵)・檜亭集(丁復)・五雲漫稿(韓性)・宗海集(薛漢)・江檻集(潘伯脩)・元從集(甘立)・雲嶠集(陳伯)・農務集(王禎)・梅花十字香(郭豫亨)。『庚集』子中集(伯顏)・滋溪集(蘇天爵)・竹齋集(王冕)・葯房樵唱(吳景奎)・新山集(曹文輝)・林外野言(郭翼)・野航亭(姚文奐)・滄江散人集(徐舫)。『辛集』九靈山房集(戴良)・貞素齋集(附舒遠・舒頔・舒遜)・雲臺集(郯韶)・山陰集(劉永之)・南湖集(貢性之)・龜巢集(謝應芳)・青頓遺稿(金涓)・東山存稿(趙汸)・環谷集(汪克寬)・素軒集(鄭洪)・雪松巢集(朱希晦)・主一集(吳志淳)・山窓餘稿(甘復)・聞過齋集(吳海)・佩玉齋類稿(楊翮)・清輝樓集(沈石)。『壬集』水雲集(譚處端)・磻溪集(丘處機)・看雲集(吳全節)・上清集(薛玄曦)・松瀑集(黃可玉)・學詩初稿(查居廣)・中峯廣錄・梅花百詠(釋明本)・寒拾里人稿(行端)・古鼎外集(祖銘)・栯堂山居詩(益)・夢觀集(大奎)・碧山集(宗衍)・聯芳集(薛蘭英・蕙英)。【三集】十六卷一百家。『甲集』貽溪集(龐革)・石泉集(張宇)・子颺集(附

陳庚・陳賡)・白雲子集(房皞)・兌齋集(曹之謙)・緱山集(杜瑛)・善夫先生集(杜仲傑)・陶然集(楊雲鵬)・須溪集(附劉將孫・劉辰翁)・石堂先生遺稿(陳普)・東溪集(甘泳)・聊復軒斐集(毛直方)・自家意志集(劉邊)・祥鄉集(郭孫麟)・北村集(湯炳龍)・敬仲集(附王璋・王虎臣・王圭)。『乙集』疏齋集(盧摯)。『丙集』玉霄集(滕斌)・海粟集(馮子振)・雪菴集(李溥光)・如是翁集(周馳)・侍郎集(聶古柏)・華峯漫稿(張起巖)・拙菴集(王士元)・仁父集(王懋德)・超然集(曹元用)・聲之集(劉濩)・效顰集(繆鑑)・南山先生集(汪珍)。『戊集』丹丘生集(柯九思)・時中集(劉致)・可立集(項炯)・絪縕集(李序)・中行齋集(附李貫道・李裕)。『巳集』本齋集(附王畛・王畦・都王中)・仲實集(呂思誠)・仁里漫稿(干文傳)・止止齋稿(王艮)・覺是集(林泉生)・仲淵集(李源道)・仲禮集(楊敬悳)・兩峯慚稿(陳德永)・鳴琴集(附陳陽至・陳陽盈・陳陽復・陳天錫・陳陽純・陳陽極)・江邨先生集(附錢達・錢良石)・元亮集(彭炳)・太初集(倪道原)。『庚集』芝軒集(月魯不花)・宛陵遺稿(附汪用敬・汪澤民)・伯將集(陳肅)・方戶集(吳訥)・君瑞集(黃復圭)・子平遺稿(陳謙)・廷美集(黃元實)・純節先生集(宇文公諒)・師魯集(劉汶)・容窓集(劉聞)・純白類稿(胡助)・世玉集(附偰哲篤・偰玉立)・石渠居士集(張天英)・松雲道人集(熊夢祥)・春詠亭集(宋沂)・宜之集(卞思義)・彥德集(屠性)・啓文集(昂吉)・寄清集(陳秀民)・東軒集(附孔徒善・方行)・柔克齋集(高明)・寅夫集(吳克恭)・孤蓬倦客稿(陳方)・子素集(潘純)・鄭氏聯璧集(鄭東・鄭采)・廷璧集(李完珪)・貞期生稿(張渥)・山樵稿(李瓚)・杞菊軒稿(陸友)・仲贄集(顧盟)・敬聚齋集(衞仁近)・仲愈集(彭寀)・溪雲集(張遜)・學古集(文質)・荊南倡和集(周砥)・明卿集(王鑑)・鐵牛翁遺稿(何景福)。『辛集』雲松野褐集(陸居仁)・希呂集(羅蒙生)・山長集(周棐)・北郭集(許恕)・雲丘道人集(張簡)・睿夫集(瞿智)・乾乾居士集(陸仁)・公振集(馬麐)・來鶴草堂稿・既白軒稿・竹州歸(呂誠)・豆亭稿(俞遠)。『壬集』會稽外史集(干立)・蒙泉集(鄭守仁)・不繫舟集(祖伯)・凝始子稿(本誠)・一愚集(于賢)・蘭雪集(張玉孃)・靜樂稿(黎山則)。〔四庫提要、集、總集類〕。

【元詩紀事】256 ゲンシキジ 書名。二卷。清、錢大昕撰。元人の詩文集・小說・年記の屬から金石碑文に至るまでを搜求し、潛かに元史の重修に擬したが、憚る所があり、改めて元詩紀事と題す。

【元詩自擕】257 ゲンシジケイ 書名。二十一卷。清、姚廷謙撰。元詩を選抄す。〔昌平叢書、第一百七十九―一百八十八冊〕。

【元詩體要】258 ゲンシタイエウ 書名。十四卷。明、宋緒編。元詩を四言・騷・選・樂府・柏梁・五言・七言・長短句・雜古・言・詞・歌・行・操・曲・吟・嘆・怨・引・謠・詠・篇・禽言・香奩・陰何・聯句・集句・無題・詠物・五言律・七言律・五言長律・五言絕・六言絕・七言絕・七言絕拗體側體の三十六類に分け、每類小序を附す。〔四庫提要、集、總集類〕。

【元詩四大家】259 ゲンシシダイカ 書名。二十七卷。明、毛晉編。元の虞伯生詩 八卷 補 一卷・楊仲弘詩 八卷・范德機詩 七卷・揭曼碩詩 三卷 の合集。

【元詩百一鈔】260 ゲンシヒャクイチセウ 書名。九卷。清、張景星・姚培謙・王永祺編。凡て百六十家、六百二十九首を收む。一名、元詩別裁集。

【元詩別裁集】261 ゲンシベツサイシフ 元詩百一鈔の別稱。

【元鷙】262 ゲンシ 後魏の人。拓跋孤の後。字は孔雀。封は華山王。爾朱兆の亂に陰に之と通ず。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元二】263 ゲンジ ㊀元元に同じ。古書には元元を元二と記してあるのを、後人が誤って元二と訓んだもの。〔後漢書、鄧騭傳〕時遭二元二之災一。〔注〕臣賢案、元二卽元元也、古書字當二再讀一者、卽於二上字之下一爲二小二字一、言三此字當二兩度言一レ之、後人不レ曉、遂讀爲二元二一、或同二之陽九一、或附二之百六一、良由レ不レ悟、致二斯乖舛一、今岐州石鼓銘、凡重言者、皆爲二二字一、明驗也。㊁元年と二年。〔後漢書、陳忠傳〕自二帝卽一レ位後、頻遭二元二之戹一、百姓流亡、盜賊並起。〔論衡、恢國〕今上嗣レ位、元二之間、嘉德布流、三年、零陵生二芝草五本一、四年、甘露降二五縣一、五年、芝復生、六年、黃龍見。〔容齋隨筆、元二之災〕漢碑有二楊孟文石門頌一云、中遭二元二一西夷虐殘一、孔耽碑云、遭二元二一轗軻一、人民相食、趙明誠金石跋云、若讀爲二元元一、不レ成二文理一、疑當時自有二此語一、漢注未二必然一也、按、王充論衡恢國篇云、今上嗣レ位、元二之間、嘉德布流、三年、零陵生二芝草一、四年、甘露降二五縣一、五年、芝復生、六年、黃龍見、蓋章帝時事、攷二之本紀所一レ書、建初三年以後諸瑞皆同、則知二所謂元二一者、謂二建初元年二年一也、既稱二嘉德布流以致二祥瑞一、其爲下非二災眚一之語上、益可レ決レ疑、安帝永初元年二年、先零滇羌寇叛、郡國地震大水、鄧騭以二二年十一月一拜二大將軍一、則知三所謂元二一者、謂二永初元年二年一也、凡漢碑重文、不三皆用二小二字一、豈有二茫史一部、唯獨一處如レ此、予兄丞相作二隸釋一、論レ之甚詳、予修二國史一日、撰二欽宗紀贊一、用二靖康元二之禍一、實本二于此一。

【元兒】264 ゲンジ 明、馬湘蘭(**12**―**44572**‥813)の字。

【元時】265 ゲンジ 明、于孔秉(**1**―**252**‥110)の字。

【元磁】266 ゲンジ yüan² tz'ŭ² 元時代の磁器。元瓷。

【元璽】267 ゲンジ 五胡十六國の一なる前燕の烈祖景昭帝(慕容儁)の年號。(352―357)

【元秀】268 ゲンシウ 字號。㊀陳、後主(**4**―**10098**‥357)の字。㊁金、孟奎(**3**―**6960**‥74)の字。

【元周】269 ゲンシウ 元、石普(**8**―**24024**‥692)の字。

【元洲】270 ゲンシウ 字號。㊀明、成明楫(**5**―**11544**‥361)の號。㊁明、張瀚(**4**―**9812**‥151)の號。㊂明、陸師道(**11**―**41708**‥341)の號。㊃關嘉の號。關元洲(**11**―**41470**‥242)を見よ。

【元修】271 ゲンシウ ㊀後魏の孝武帝。孝文帝の孫。字は孝則。史書には出帝と稱す。初、平陽王に封ぜらる。高歡、恭及び朗を廢して、帝を擁立す。永熙の末、高歡の兵を起して洛に向ふに及び、長安に奔る。是を西魏とする。後、宇文泰に酖殺された。年號は太昌・永興・永熙。本、拓跋氏。孝文帝の時より元氏に改む。〔魏書、十一〕。㊁宋本などで、元代に補修せるものをいふ。

【元脩】272 ゲンシウ 字號。㊀後漢、張亮則(**4**―**9812**‥1581)の字。㊁宋、巢谷(**4**―**8696**‥25)の字。

【元脩菜】273 ゲンシウサイ 野菜の名。宋の巢元脩が嗜んだので名づけたもの。巢菜(**4**―**8696**‥26)を見よ。〔蘇軾、元脩菜詩序〕菜之美者、吾鄉之巢元脩嗜レ之、余亦嗜レ之、元脩云、使二孔北海見一、當三復云二吾家菜一耶、因謂二之元脩菜一。

【元七】274 ゲンシチ 正月の七日をいふ。人日。〔海錄碎事、天部、人日〕東平王蒼安仁峯銘、正月元七、厥日惟人。

【元質】276 ゲンシツ ㊀良い性質。〔袁淑、大蘭王九錫文〕稟二太陰之沈精一、標二羣形於元質一。㊁字號。㋑宋、舒璘(**9**―**30300**‥95)の字。㋺宋、葉楠(**9**―**31387**‥117)の字。㋩明、傅尚文(**1**―**939**‥173)の字。

【元日】277 グワンジツ ㊀一年の最初の日。元旦。元朔。〔書、舜典〕月正元日。〔傳〕月正、正月、元日、上日也。〔後漢書、安帝紀〕四年春正月元日。〔玉燭寶典〕其一日爲二元日一者、供二養三德一、善二合三體一之原、三統合爲二一元一。〔書言故事、元日類〕正月初一、爲二元日一。㊁よい日。吉日。〔禮、月令〕(孟春之月)是月也、天子乃以二元日一、祈二穀于上帝一、云云、仲春之月、云云、擇二元日一、命レ民社。〔注〕祀レ社、日用レ甲。〔呂覽、仲春〕擇二元日一、命レ人社。〔漢書、王莽傳中〕令下天下小學、戊子代二甲子一爲中六旬首上、冠以二戊子一爲二元日一、昏以二戊寅一爲二忌日一。〔注〕元、善也。

【元日草】278 グワンジツサウ 草の名。福壽草(**8**―**24768**‥61)の異名。

【元日節會】279 グワンジツノセチエ 天皇が紫宸殿に御し、宴を群臣百官に賜ふ朝儀。節會中の小儀に屬す。元日宴。元日宴會。〔公事根源、正月〕元日節會。

【元日朝賀】280 グワンジツテウガ 元日に朝廷に拜賀すること。〔通典、禮典、嘉、元正冬至受二朝賀一〕漢高帝、十月定レ秦、遂爲二歲首一、七年、長樂宮成、制二諸侯羣臣朝賀儀一。

【元實】281 ゲンジツ 字號。㊀隋、王仁恭(**7**―**20823**‥1743)の字。㊁宋、孫子秀(**3**―**6987**‥408)の字。㊂宋、范仲溫(**9**―**30834**‥240)の字。㊃明、孫華(**3**―**6987**‥81)の字。

【元習】282 ゲンシフ 明、陳察(**11**―**41698**‥275)の字。

【元尙】283 ゲンシヤウ 南齊、蕭昭業(鬱林王)(**9**―**32012**‥430)の字。

【元尙篇】284 ゲンシヤウヘン 字書の名。漢、李長撰。今亡ぶ。〔漢書、藝文志〕成帝時、將作大匠李長作二元尙篇一。

【元相】285 丞相。〔資治通鑑、晉紀〕簡文帝、咸安二年、元相之重、儲傳之尊。〔注〕元相、丞相也。

【元祥】286 ㊀清、任源祥(1－416‥215)の本名。㊁宋、鄒夢遇(11－39562‥123)の字。

【元章】287 字號。㊀後漢、段翳(6－16619‥3)の字。㊁南齊、王綸之(7－20823‥2179)の字。㊂宋、米芾(8－26832‥84)の字。㊃宋、王相(7－20823‥524)の字。㊄元、成廷珪(5－11544‥353)の字。㊅明、王冕、諸暨の人)(7－20823‥957)の字。㊆清、顧卓(嵐山の人)(12－43689‥139))の字。

【元象】288 ㊀東魏、孝靜帝(拓跋善見)の年號。(538－539) ㊁字號。㋑宋、曹綵(5－14297‥27)の字。㋺宋、陸滋(11－41708‥131)の字。

【元詳】289 後魏、獻文帝の第七子。字は季豫。謚は平。宣武の初、官は太傅。高肇・崔亮等に譖せられて庶人となる。〔魏書、二十一上〕・〔北史、十九〕。

【元璋】290 明、太祖(3－5834‥309)の名。

【元城】291 縣名。漢、置く。隋、復置き、五代の唐、改めて興唐といひ、晉、元城に復し、民國廢して大名縣に編入す。故城は三あり、一は漢の縣で、沙麓の旁。もと魏の武侯の公子元の食邑。一は隋の縣で、古の殷城。一は唐の縣で、五代の時、晉王李存勗が梁の劉鄩を破つた處。〔漢書、地理志上〕魏郡、縣十八、元城。〔清史稿、地理志〕直隸、大名府、縣六、元城。

【元城語錄】291 書名。三卷。宋、馬永卿撰。皆其の師なる劉安世の語を述べたもので、劉安世が元城の人であるから名づけた。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【元常】292 ㊀春秋時代の越王の名。史記越世家・漢書古今人表には允常に作る。〔吳越春秋、越王無余外傳〕夫譚生二元常一、常立當二吳王壽夢諸樊闔閭之時一、越之興霸、自二元常一矣。㊁字號。㋑三國魏、鍾繇(11－40672‥9)の字。㋺明、吳大經(2－3365‥749)の字。

【元淨】293 宋の高僧。於潛の徐氏の子。字は無象。紫衣及び辨才の號を賜はり、學徒萬人に至る。趙閲道・蘇子瞻等と倡酬す。〔新續高僧傳、六十一〕。

【元襄】294 ㊀後漢、戴宏(5－11685‥45)の字。㊁梁、蕭偉(9－32012‥4)の諡。

【元讓】295 ㊀唐、武功の人。明經に擢んでられ、太子右內率府長史に至る。鄉里に還り、鄉人に敬慕せらる。〔舊唐書、一百八十八〕・〔唐書、一百九十五〕。㊁三國魏、夏侯惇(3－5720‥114)の字。

【元錫】296 字號。㊀後周、蘇禹珪(9－32427‥214)の字。㊁清、鈕貞(11－40228‥12)の字。

【元若】297 宋、謝采伯(10－35827‥282)の字。

【元手】298 資本(10－36750‥97)に同じ。〔義經記、二〕義經御二對面秀衡一事〕よきもとでを儲けたり。

【元狩】299 漢、武帝(劉徹)の年號。(B.C.121－B.C.116)

【元首】300 ㊀はじめ。年のはじめ。もと。根本。原始。〔晉書、律歷志中〕更以二十一月朔旦冬至一爲二元首一。㊁かうべ。かしら。頭。〔左氏、昭、元、風淫末疾、疏〕人之身體、頭爲二元首一四肢爲レ末。〔逸周書、武順解〕左右手各握レ五、左右足各履レ五、曰二四枝一。元首曰レ末。〔注〕元首、頭也。〔盧注〕說文曰、木上曰レ末、則以二元首一曰レ末、理固然也。㊂君。天子。天皇。帝王。〔書、益稷〕帝庸作レ歌曰、勅二天之命一、惟時惟幾、乃歌曰、股肱喜哉、元首起哉、百工熙哉。〔傳〕元首、君也。〔漢書、丙吉傳贊〕君爲二元首一、臣爲二股肱一。〔後漢書、郎顗傳〕三公上應二台階一、下同二元首一。〔韋宏、三國名臣序贊〕元首經略、而股肱肆レ力。〔注〕向曰、元首、君也。㊃三國魏、曹冏(5－14297‥66)の字。

【元珠】301 明、王心一(7－20823‥1713)の號。

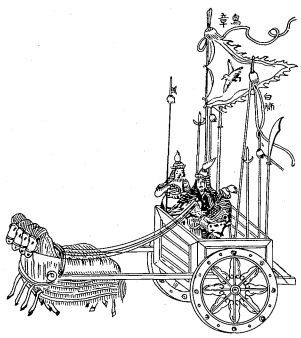
【元酒】302 水。みづ。玄酒(7－20814‥184)を見よ。

【元受】303 宋、任盡言(1－416‥228)の字。

【元壽】304 ㊀年號。㋑漢、袁帝(劉欣)の時。(B.C.2－B.C.1) ㋺宋代、後理(南詔)の享天帝(段智廉)の私號。(約1200－1204) ㊁隋、洛陽の人。字は長壽。謚は景。性仁孝。開皇の初、陳を伐たんとして船艦を監修し、次いで晉王に從つて陳を伐つ。又、煬帝に從つて吐谷渾を討ち、功を以て右光祿大夫に至り、遼東征討の途中に卒す。〔隋書、六十三〕・〔北史、七十五〕。㊂字號。㋑後魏、辛悅(10－38630‥6)の字。㋺明、王域(7－20823‥29)の字。

【元樹】305 梁の人。魏の獻文帝の孫。字は君立、又、秀和。魏に仕へて宗正卿となつたが、爾朱榮の亂に遇つて梁に歸服す。鄴王に封ぜられ、鎭北將軍となつて魏の譙城を拔いたが、後、魏將に圍まれて卒す。〔梁書、二十九〕・〔魏書、二十一〕。

【元戎】306 ㊀大きな兵車。大戎。夏后氏は鉤車、殷は寅車といひ、周に元戎といふ。〔詩、小雅、六月〕元戎十乘。〔傳〕元、大也。夏后氏曰二鉤車一、先レ正也、殷曰二寅車一、先レ疾也、周曰二元戎一、先レ良也。〔潘岳、閑居賦〕其西則有二元戎禁營一、玄幔綠徽。〔注〕善曰、元戎、兵車也。㊁多數の兵士。大兵。〔漢書、董賢傳〕往悉二爾心一、統二辟元戎一。〔注〕師古曰、元戎、大衆也。〔潘岳、閑居賦〕元戎禁營。〔注〕翰曰、元戎、大兵也。〔班固、東都賦〕元戎竟レ野、戈鋋彗レ雲。



戎元周 ㊀(三才會圖)

【元戎啓行】307 兵車が先鋒となり、敵陣を突破すること。又、兵車が進發すること。〔詩、小雅、六月〕元戎十乘、以先啓レ行。〔箋〕二者及元戎、皆可二以先前啓一突敵陳之前一行。〔集傳〕元、大也、戎、戎車也、軍之前鋒也、啓、開、行、道也、猶レ言二發程一也。〔柳宗元、劍門銘〕元戎啓行、取二其渠魁一。

【元從】308 譜代の家來。〔魏書、李栗傳〕初隨二太祖幸一賀蘭部一、在二元從二十一人中一、太祖愛二其藝能一。〔舊唐書、德宗紀上〕(興元元年四月壬寅)詔二奉天隨從將士、並賜一號元從功臣一。

【元叔】309 字號。㊀後漢、趙壹(10－37171‥12)の字。㊁宋、江正(6－17140‥235)の字。

【元淑】310 ㊀後魏の人。字は買仁。河東の太守となる。河東には商賈多く、年二十にして耒耜を識らない者があつたので、淑は躬ら往つて教示し、爲に二年の間に家々給し、人々足るに至る。民、謠つて曰く、泰州河東、杼軸舂くに代ふ。元公至りて止め、田疇始めて理まると。〔尙友錄、五〕 ㊁清、樂鈞(6－15399‥65)の字。

【元肅】311 字號。㊀宋、夏僎(3－5720‥186)の字。㊁宋、蔣雛(9－31820‥102)の字。

【元春】312 ㊀元旦をいふ。〔北齊、元會大享歌〕展レ禮肆レ樂、協二比元春一。㊁字號。㋑後漢、李育(6－14459‥28)の字。㋺明、歐陽貞(6－16185‥89)の字。㋩明、張復(太倉の人)(4－9812‥652)の字。

【元旬】313 上旬をいふ。〔宋書、樂志二〕曆元旬、律首吉。〔海錄碎事、帝王、籍田〕將レ崇二嚴配一、必在二元旬一、上旬也。

【元恂】314 後魏、孝文帝の長子。字は宣道。太子となり、中庶子高道悅と隙あり。悅を禁中に殺さんとして死を賜はる。時に年十五。〔魏書、二十二〕・〔北史、十九〕。

【元順】315 後魏の人。澄の子。字は子和。謚は文烈。杜氏春秋に精通す。官は宣武の時、給事黃門侍郎であつたが、領軍元叉に其の鯁正を憚られ、出でて恆州の牧となり、莊帝の初、河陰にて殺さる。著に帝錄及び詩賦表頌數十篇がある。〔魏書、十九中〕・〔北史、十七〕。

【元潤】316 清、胡玉昆(9－29400‥443)の字。

【元初】317 ㊀はじめ。〔沈約、梁鞞舞歌〕大梁七百始、天監二元初一。㊁後漢、安帝(劉祜)の年號。(114－120) ㊂字號。㋑元、周元眞(2－3441‥644)の字。㋺明、夏之旭(3－5720‥314)の字。

【元渚】318 ゲンショ　明、申用懋(7－21726‥189)の號。

【元緒】319 ゲンショ　❶龜。〔述異記、上〕吳時有ㇾ人、入ㇾ山逢二大龜一、擔二之歸一至ㇾ家、遇ㇾ夜纔二舟於岸一、聞二老桑呼一ㇾ龜、曰、元緒、汝當死矣。❷大きな事業。洪緒〔魏志、楊阜傳〕奉二武皇帝開拓之大業一、守二文皇帝克終之元緒一。

【元緒公】320 yüan² hsü⁴ kung¹　妓夫。

【元如】321 ゲンジョ　清、程良玉(8－25081‥298)の字。

【元序】322 ゲンジョ　❶立派な秩序。〔後漢書、禮儀志贊〕元序斯立、家邦乃隆。❷冬をいふ。〔事物異名錄、歲時、冬〕許敬宗、守歲詩、玉琯移二元序一。❸成漢、李庠(6－14459‥412)の字。

【元舒】323 ゲンジョ　前涼、張耀靈(4－9812‥817)の字。

【元升】324 ゲンショウ　字號。❶二國魏、脂習(9－29463‥14)の字。❷宋、晁端中(5－13889‥25)の字。❸明、朱之蕃(6－14424‥809)の字。

【元承】325 ゲンショウ　字號。❶宋、葛紹體(9－31420‥13一)の字。❷宋、劉安節(2－2224‥666)の字。❸明、張衍瑞(4－9812‥826)の字。

【元俙】326 ゲンショウ　明、陸昂(11－41708‥41)の字。

【元乘】327 ゲンジョウ　明、熊梓(7－19294‥112)の字。

【元色】328 ゲンショク　黑に赤を帶びた色。玄色(7－20814‥191)を見よ。

【元植】329 ゲンショク　字號。❶後魏、公孫賓(2－1452‥488)の字。❷明、汪建(6－17154‥54)の字。

【元臣】330 ゲンシン　大臣。〔李紳、却過二淮陰一弔二韓信廟一詩〕功高自棄漢元臣、遺廟陰森楚水濱。〔白居易、杜佑致仕制〕爲二國元臣一。

【元辰】331 ゲンシン　❶元旦。〔張華、食擧二東西廂一樂詩〕三正元辰、朝慶鱗萃。〔楊師道、奉二和正日臨朝一應詔詩〕皇猷被二寰宇一、端扆屬二元辰一。❷よい日。吉辰。〔禮、月令〕天子乃以二元日一、祈二穀于上帝一乃擇二元辰一、天子親載二耒耜一措二之于參保介之御間一。〔注〕元辰、蓋郊後吉辰也。〔疏、耕用二亥日一、故云二元辰一。〔後漢書、張衡傳〕簡二元辰一而俶裝。❸叢辰の名。毛頭星に屬す。一名、大耗。大耗(3－5831‥280)を見よ。〔三命通會、論元辰〕元辰者、別而不ㇾ合之名、陽前陰後、則有ㇾ所ㇾ屈、則於ㇾ事無ㇾ所伸、陰前陽後、則直而不ㇾ遂ㇾ於事一暴而不ㇾ治、難ㇾ與同ㇾ事、故謂二之元辰一。〔注〕屬二毛頭星一、一名大耗。❹字號。㋑晉、祖台之(8－24664‥168)の字。㋺明、潘應龍(7－18236‥128)の字。

【元津】331 ゲンシン　明、大壑(3－5831‥330)の字。

【元振】332 ゲンシン　❶明、吳振(2－3365‥246)の一名。❷字號。㋑唐、郭震(11－39474‥138)の字。㋺宋、柴禹聲(6－14664‥95)の字。㋩明、陳應芳(11－41698‥681)の字。

【元晉】333 ゲンシン　宋、趙湝(10－37171‥235)の字。

【元眞】334 ゲンシン　字號。❶晉、涉正(6－17530‥30)の字。❷前燕、慕容皝(4－11088‥58)の字。㋩清、夏道一(3－5720‥344)の字。

【元眞子】335 ゲンシンシ　書名。一卷。唐、張志和撰。天隱子一卷(撰者不明)を附す。原本は十二卷、今は三篇を存するのみ。〔四庫提要、子、道家類〕

【元神】336 ゲンシン　❶大神。天神。〔顏延之、迎二送神一歌〕受二釐元神一。❷道家で、人の靈魂をいふ。〔化書〕得二灝氣之門一所二以收一其根一、知二元神之舍一所二以收一其光一。

【元神都府】337 ゲンシントフ　元神の居る處。〔張嘉貞、恆山碑銘〕其頂上扶二乾門一、黑帝之宮館一、其足下擦二坤軸一、元神之都府一。

【元深】338 ゲンシン　後魏の人。嘉の子。字は知遠。謚は忠武。廣陽王を襲ぎ、孝明の時、肆州刺史を拜命す。城陽王徽の妃なる于氏に淫するに坐して免官せられ、後、大都督として鮮于修禮を討ち、葛榮に殺さる。〔魏書、十八〕・〔北史、十六〕。

【元瑱】339 ゲンシン　後魏の人。顯の弟。字は寶意。兄の顯が自立して洛に入り、後、敗れた時、瑱は誅せらる。〔魏書、二十一上〕・〔北史、十九〕。

【元稹】340 ゲンシン　唐、河南の人。字は微之。元和の初、左拾遺を拜命したが、當路に惡まれて度々貶謫にあふ。太和中、官は武昌節度使。詩に長じ、白居易と並べて元白と稱せられ、其の詩體は元和體と呼ばる。其の詩は白居易の浩博に及ばぬが、平易輕妙、元輕白俗の語の評があり、其の連昌宮詞は尤も傑作と稱せられる。又、制誥にも長じた。著に元氏長慶集がある。〔舊唐書、一百六十六〕・〔唐書、一百七十四〕。

【元人】341 ゲンジン　元代の人。元の人。〔書林清話、元刻書多用二趙松雪體字一〕鮑庵家藏集・東里文集、仍不ㇾ失二元人遺意一。

【元人百種曲】342 ゲンジンヒャクシュキョク　書名。明、臧晉叔撰。十集に分つ。金元兩代の戲曲は、近世散佚し、本書以上に出るものはない。元曲選(139)を見よ。

【元人六十種曲】343 ゲンジンロクジッシュキョク　明、毛晉編。一名、汲古閣六十種曲。實は明人の戲曲六十種を輯む。明刊本・清道光年間補刻本等がある。其の內容は、雙珠記(沈鯨)・東郭記(汪道昆、一說、孫仁孺)・焚香記(王玉峰)・荊釵記(柯丹邱、一說、李景雲)・精忠記(姚茂良)・浣沙記(梁辰魚)・琵琶記(高明)・南西廂(李日華)・北西廂(王實甫)・幽閨記(施惠)・明珠記(陸采)・懷香記(陸采)・玉簪記(高濂)・紅拂記(張鳳翼)・灌園記(張鳳翼)・還魂記(湯顯祖)・還魂記(湯顯祖作、碩園刪定)・紫釵記(湯顯祖)・邯鄲夢(湯顯祖)・南柯記(湯顯祖)・紫簫記(湯顯祖)・春無記(汪錂)・琴心記(孫梅錫)・玉鏡記(朱鼎)・綵毫記(屠隆)・曇花記(屠隆)・鸞鎞記(葉憲祖)・玉合記(梅鼎祚)・金蓮記(陳汝元)・四喜期(謝讜)・三元記(沈受先)・鳴鳳記(王世貞、一說、其門人)・紅梨記(徐復祚)・八義記(徐回叔)・西樓記(袁于令)・繡襦記(薛近袞)・青衫記(顧大典)・錦箋記(周螺冠)・蕉帕記(單本)・水滸傳(許自昌)・玉玦記(鄭若庸)・種玉記(汪廷訥)・獅吼記(汪廷訥)・雙烈記(張午山)・義俠記(沈璟)・千金記(沈采)・殺狗記(徐昭)・龍膏記(楊珽)・香囊記(邵文明)・尋親記(無名氏)・金雀記(無名氏)・霞箋記(無名氏)・運甓記(無名氏)・投梭記(無名氏)・飛丸記(無名氏)・玉還記(無名氏)・贈書記(無名氏)・白兔記(無名氏)・四賢記(無名氏)・節俠記(無名氏)。

【元人雜劇一百種】344 ゲンジンザツゲキイッピャクシュ　元曲選(139)の別名。

【元人百種曲解題】345 ゲンジンヒャクシュキョクカイダイ　書名。森槐南撰。元人百種曲を解題したもの。

【元帥】346 ゲンスイ　❶總大將。〔左氏、僖、二十七〕晉作二三軍一、謀二元帥一。〔注〕中軍帥也。〔會箋〕元帥之稱、始見二於此一、元、長也、謂二將帥之長一。〔左氏、宣、十二〕子爲二元帥一、師不ㇾ用ㇾ命、誰之罪也。〔後漢書、何進傳〕將軍任ㇾ之、以爲二元帥一。〔魏志、張郃傳〕當二是時一、新失二元帥一。〔陸機、漢高祖功臣頌〕陽陵之勳、元帥是承。〔注〕翰曰、元、大也。〔書言故事、武官類〕大將、稱二元帥一。❷上卿。〔國語、晉語四〕文公問二元帥於趙衰一。〔注〕元帥、上卿。❸陸海軍大將で元帥府に列する者に賜はる稱號。

【元帥府】347 ゲンスイフ　❶總大將の居る所。大本營。〔蘇軾、與二葉淳老侯敦夫張秉道一同相二視新河一詩〕君不ㇾ見元帥府前羅二萬戟一。❷天皇の軍事上の最高諮問府。

【元猷】348 ゲンユウ　梁、周子良(2－3441‥677)の字。

【元瑞】349 ゲンスイ　字號。❶明、胡應麟(9－29400‥410)の字。❷明、謝二秀(10－35827‥283)の字。❸明、劉麟(2－2224‥656)の字。

【元崇】350 ゲンスウ　唐の高僧。臨沂の王氏の子。幼くして孤。開元の末、瓦官寺の璿禪師に從學す。至德の初、人事を謝絕し、南北の諸靈勝を歷游す。輞川の別業に王維・蕭昕と抗論し、終日論盡きず、維・昕兩人をして、佛法に入あり、輕々しく議すべからずと歎ぜしむ。金陵の鍾山に居ること二十年にして卒す。〔宋高僧傳、十七〕。

【元嵩】351 ゲンスウ　❶後魏の人。澄の弟。字は道岳。謚は剛。孝文帝の南伐に從つて梁の將陳顯達の軍を破り、功を以て、高平縣侯の爵を賜はる。宣武の時、官は荊・恆・徐・揚州等の刺史。屢々梁軍を破り威名大いに震ふ。〔魏書、十九中〕・〔北史、十七〕。❷前趙、崔岳(4－8178‥32)の字。

【元世】352 ゲンセイ　後漢、孔昱(3－6933‥8)の字。

【元正】353 ゲンセイ　❶一月一日。元旦(412)に同じ。〔傅玄、朝會賦〕采二秦漢之舊儀一、肇二元正之嘉會一。〔唐書、禮樂志三〕元正歲之始、冬至陽之復、二節最重。❷唐の人。萬頃の孫。官は監門衞兵曹參軍。肅宗の時、河南節度使崔光遠の幕府に參す。史思明の河洛を陷れるや、賊に執へられて殺さる。〔唐書、二百一〕。❸陳、謝貞(10－35827‥176)の字。❹ゲンゼイ　第四十四代の帝諡。

【元生】354 ゲンセイ　字號。❶明、唐志契(2－3709‥427)の字。❷清、吳廷康(2－3365‥785)の號。

【元成】355 ゲンセイ　字號。❶梁、王騫(7－20823‥362)の字。❷唐、陳豐(11－41698‥497)の字。❸明、

馮時可(12－44579‥228)の號。㊐明、來集之(1－581‥288)の字。㊑明、林遂(6－14551‥142)の字。

〔元成節〕356 ゲンセツ 宋代の慶祝日の一。陰暦八月九日をいふ。〔宋史、禮志十五〕諸慶節古無ㇾ是也、眞宗以後、始有ㇾ之、云云、八月九日、青華帝君生辰、爲ニ元成節一。

【元政】357 ゲンセイ 成漢、李輔(6－14459‥733)の字。

【元青】358 yüan² ch'ing¹ 黑い色。

〔元青石〕359 yüan² ch'ing¹ shih² 石膏。元精石。玄青石。

【元盛】360 ゲンセイ 明、林潐(6－14551‥220)の字。

【元聖】361 ゲンセイ ❶すぐれたひじり。大聖。〔書、湯誥〕聿求ニ元聖、與ニ之戮ㇾ力、以與ニ爾有衆ㇾ請ㇾ命。〔傳〕大聖陳ㇾ力、謂ニ伊尹一。〔蔡傳〕元聖、伊尹也。〔白居易、敍德書ㇾ情四十韻上ニ宣歙崔中丞ニ詩〕元聖生乘ㇾ運、忠賢出應ㇾ期。❷明、惠帝の時、越(安南)の胡季犛の僭年號なる聖元の一稱。又、一に天聖に作る。(1400)

〔元聖王〕362 ワウ 新羅、第三十八代の王。金敬信(11－40152‥1240)を見よ。

【元靖】363 ゲンセイ 諡號。❶唐、賈耽(10－36755‥102)の諡。❷宋、李崇矩(6－14459‥1538)の諡。❸宋、王景(7－20823‥324)の諡。

【元精】364 ゲンセイ ❶天の精氣。〔後漢書、郎顗傳〕元精所ㇾ生、王之佐臣。〔蔡邕、陳寔碑〕含ニ元精之和一。❷道家で、人身固有の精氣をいふ。

〔元精石〕365 yüan² ching¹ chih² 石膏石。

【元誠】366 ゲンセイ 字號。❶宋、沈大經(6－17189‥59)の字。❷宋、程叔達(8－25081‥232)の字。❸元、楊瑀(6－15112‥19)の字。❹明、劉之綸(2－2224‥987)の字。

【元靜】367 ゲンセイ ❶明、熹宗(朱由校)の時、蔚州の賊、萬俟德の僭年號。一に玄靜に作る。(1622)❷明、葉澄(9－31387‥107)の字。❸梁、何思澄(1－511‥288)の字。

【元聲】368 ゲンセイ ❶音樂に於て、音階の基本となる聲、卽ち黃鍾をいふ。黃鍾の管は十二律の基本である。又、五音をいふ。〔晉書、律歷志上〕以ニ黃鍾一爲ㇾ宮、太簇爲ㇾ商、姑洗爲ㇾ角、林鍾爲ㇾ徵、南呂爲ㇾ羽、應鍾爲ニ變宮一、蕤賓爲ニ變徵一、此聲氣之元、五音之正也。❷字號。㋑明、吳貞毓(2－3365‥798)の字。㋺明、貢鏞(10－36665‥64)の字。㋩明、呂應鍾(2－3386‥170)の字。

【元少】369 清、韓菼(12－43159‥18)の字。

【元劭】370 ゲンセウ 後魏の人。勰の嫡子。字は子訥。諡は孝宣皇帝。封は彭城王。官は平東將軍・青州刺史。齊州の劉均・梁將蕭辨等を防いで功あり。後、河陰で殺さる。〔魏書、二十一下〕・〔北史、十九〕

【元昭】371 ゲンセウ ❶後魏の人。拓跋可悉陵の弟の陪斤の子。性貪虐。官は尚書。後、征西將軍の號を送らる。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕❷字號。㋑明、史鑑(太倉の人)(2－3249‥29)の字。㋺明、沈夢麟(6－17189‥643)の字。㋩清、鄧旭(11－39630‥38)の字。㋥清、馬嗣煜(12－44572‥802)の字。

【元宵】373 ゲンセウ ❶上元、卽ち陰暦正月十五日の夜をいふ。此の夜、戶毎に結綵をなし、飾燈籠をかけ、全國一齊に業を休み宴を張つて祝ふ。元夕。〔東京夢華錄〕正月十五日元宵。〔楊榮、元夕賜ㇾ觀ㇾ燈詩〕海宇昇平日、元宵令節時。❷元宵の夜に食ふ團子の名。糯米の粉で作り、中に餡を入れ、熱湯で煮る。〔周必大、元宵奏ニ食浮圓子一前輩似ㇾ未ニ曾賦ㇾ此坐間成ニ四韻一詩〕今夕是何夕、團圓事事同、湯官尋ニ舊味一、竈婢詫ニ新功一。❸明、姚繼巖(3－6202‥155)の字。

〔元宵節〕374 ゲンセウセツ 陰暦正月十五日。元宵の❶を見よ。

【元紹】375 ゲンセウ ❶後魏の人。昭の弟。字は醜倫。尚書右丞となり、斷決、彊禦を避けず。宣武の時、佞幸の臣趙修の獄を決し、杖罰を加へて死に至らしむ。後、涼州刺史に至る。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕❷唐、薛元超(9－32123‥175)の一名。

【元照】376 ゲンセウ 宋の高僧。餘杭の唐氏の子。字は湛然。號は安忍子。靈芝寺に住すること三十年。應法住法報恩諸記・十六觀小彌陀義疏を撰し、律儀本及び芝園集若干卷を刪定す。〔新續高僧傳、二十七〕

【元韶】377 ゲンセウ 北齊の人。魏の孝莊帝の姪。字は世胄。封は彭城王。官は太尉侍中。天保の初、縣公に降爵せられ、後、地牢に幽せられて死す。〔北齊書、二十八〕

【元夕】378 ゲンセキ 上元、卽ち陰暦正月十五日の夜。元宵(373)の❶に同じ。〔蔡襄、上元進詩序〕伏覩元夕、法駕特御ニ端門一。〔事類全書、唐太宗時、三元不ㇾ禁ㇾ夜、上元御ニ乾元門一、中元・下元御ニ東華門一、而上元游觀獨盛。

【元石】379 ゲンセキ ❶清、吳雯清(2－3365‥864)の初名。❷宋、王介(7－20823‥116)の字。

【元積】380 ゲンセキ 宋、宋慶之(3－7078‥262)の字。

【元節】381 ゲンセツ 字號。❶後漢、張儉(4－9812‥27)の字。❷唐、長孫操(11－41100‥590)の字。❸明、胡槩(9－29400‥48)の字。❹明、熊槩(7－19294‥9)の字。

【元川】382 ゲンセン 明、柯頌功(6－14658‥47)の字。

【元詮】383 ゲンセン 後魏の人。長樂の子。字は搜賢。諡は武康。安樂王を襲爵。宣武の時、官は涼州刺史。元愉の反に李平等と之を討ち、尚書左僕射に除せらる。〔魏書、二十〕・〔北史、十九〕

【元暹】384 ゲンセン 後魏の人。仲景の弟。字は叔照。孝莊の初、南兗州刺史を拜命す。性、猛暴、殺害せらるる者少なからず。元顥の反して洛に入るや、州に據つて屈せず。孝莊が宮に還るに及んで、汝陽王に封ぜられ、卒して太師を追贈せらる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕

【元薦】385 ゲンセン 明、李豫亨(6－14459‥1970)の字。

【元瞻】386 ゲンセン 宋、傅淇(1－939‥27)の字。

【元善】387 ゲンゼン ❶隋の人。叉の孫。學は五經に精通す。侯景の亂に北周に歸し、隋初、國子祭酒を拜命す。嘗て帝前で高熲が宰相の器なることを言ひ、熲が罪を得るに及んで、憂懼して卒す。〔隋書、七十五〕❷元、大名の人。父の昆弟五人が江淮に客死したので、至大中、往いて其の骸骨を尋ね、幷び迎へて、弟姪等の喪と共に、十五喪を歸葬す。州縣上聞して、其の家を旌す。〔元史、一百九十七〕❸清、徐夜(4－10110‥296)の初名。❹字號。㋑後魏、李祥(6－14459‥413)の字。㋺宋、詹體仁(10－35458‥56)の字。㋩宋、李韶(6－14459‥511)の字。㋥元、李善(6－14459‥533)の字。㋭明、溫良(7－17968‥238)の字。㋬明、金璿(11－40152‥38)の字。㋣明、南大吉(2－2750‥837)の字。

【元祖】388 ソ ❶先祖(1－1349‥154)に同じ。〔蜀志、先主傳、注〕不ㇾ知以ニ何帝一爲ニ元祖一。❷ゲンソ 物ごとを始め出した人。鼻祖。又、或る商品を始めて發賣した家元。

【元素】389 ゲンソ ❶もと。❷化學用語。element の意で、分解の出來ない物質。❸字號。㋑梁、司馬褧(2－3257‥256)の字。㋺五代楚、廖融(4－9464‥30)の字。㋩宋、楊繪(6－15112‥102)の字。㋣宋、劉安禮(2－2224‥667)の字。㋭元、李道純(6－14459‥1683)の字。㋬明、袁崇煥(10－34152‥211)の字。㋮明、曹璜(5－14297‥62)の號。㋯明、周位(2－3441‥6)の字。㋰明、朱朴(6－14424‥550)の字。㋱明、石璞(崑山の人)(8－24024‥663)の字。㋲明、方太古(5－13620‥573)の字。㋳清、呂履恆(2－3386‥274)の字。

〔元素子〕390 ゲンソシ 明、廖道南(4－9464‥59)の號。

【元宗】391 ゲンソウ ❶五代、南唐の二代の王、李璟(景)(6－14459‥283)の廟號。❷高麗の二十四代の王。姓は王。諱は稙。字は日新。在位十五年。❸李朝の王族。名は孚。宣祖の子で、仁宗の父に當る。

【元叟】392 ゲンソウ 字號。❶宋、石處道(8－24024‥957)の字。❷宋、王會(7－20823‥285)の字。❸元、行端(10－34029‥351)の字。

【元悰】393 ゲンソウ 後魏の人。太興の孫。字は魏慶。諡は文。京兆王を襲ぐ。官は青州刺史。人と爲り寬和、度量あり。死して家に餘財なし。〔魏書、十九〕・〔北史、十七〕

【元曾】394 ゲンソウ 南朝宋、王淮之(7－20823‥2190)の字。

【元則】395 ゲンソク ❶大本の規則。原則。❷字號。㋑三國魏、桓範(6－14774‥62)の字。㋺三國吳、介象(1－359‥57)の字。㋩宋、陳規(11－41698‥120)の字。㋥明、鮑山(12－46074‥32)の字。

【元孫】396 ❶天の立派な子孫。元子。〔書、金縢〕惟爾元孫某、遘二厲虐疾一。❷孫の中の最年長者。長孫。〔稱謂錄、長孫、元孫〕漢司隷校尉楊淮碑、及其弟弼俱大司隷孟文之元孫、葉九苞金石文補、謂二長孫一也、見二金石粹編一。❸字號。㋑晉、周楚（2－3441‥343）の字。㋺晉、趙誘（10－37171‥9）の字。㋩後魏、谷洪（10－36182‥28）の字。㋥後魏、王襲（7－20823‥492）の字。

【元遜】397 字號。❶三國吳、諸葛恪（10－3574 3‥23）の字。❷後魏、許謙（10－35298‥75）の字。❸明、趙襄（10－37171‥206）の字。

【元泰】398 字號。❶三國蜀、王謀（7－20823‥982）の字。❷前趙、劉和（2－2224‥202）の字。

【元慝】399 わるものの巨魁。〔福惠全書、刑名部、歇犯〕地方果有二元慝豪棍一

【元敼】400 大惡。大慝（3－5831‥1503）に同じ。〔法言、修身〕君子微愼二厥德一、悔吝不レ至、何元敼之有。〔注〕元敼、大惡也。

【元大】401 三國吳、徐陵（4－10110‥311）の字。

【元大德權】402 元の成宗の大德九年に造った錘。權は秤のおもり。〔金石索、元大德權〕

權、稱錘也、虞書、同二律度量衡一、衡非レ權不レ足レ以定二輕重一、此權、匾而六觚、重今庫砝二十三兩六錢、上刻二濟南路總管府較勘相同一、大德九年造十五字、大德爲二元成宗年號一、考、泗水縣有二重脩昭惠靈顯王廟碑一、文登縣有二崑崙山二東華宮記一、皆在二大德九年一、史稱、成宗時、賢登レ朝、河清致レ瑞、憂二國愛レ民、爲二守成一、令主則其較二勘權衡一、以同二天下一宜矣。

【元代】403 ❶元の代。元の治世。〔書林清話、元刻書多用二趙松雪體字一〕徐康前塵夢影錄云、元代不二但士大夫一、競學二趙書一。❷三國吳、董襲（9－31433‥85）の字。

【元代詩人四家】404 元の詩人、虞伯生・楊中弘・范德機・揭曼碩の四人。元詩四大家（259）を見よ。

【元台】405 宰相（3－7160‥25）の異名。〔宋綬、史院賜レ筵詩〕元台來率レ屬、賜レ會寵二刊書一。

【元韜】406 明、呂邦耀（2－3386‥252）の字。

【元堂】407 筮法の身命爻をいふ。河洛理數に於ては、卦を、生れた時に値ふ所の一爻にあてて、身命爻とする。

【元道】408 字號。❶漢、甪里先生（7－21705‥3）の字。❷晉、魯褒（12－46013‥111）の字。❸宋、張庠（4－9812‥375）の字。❹金、魏道明（12－45872‥254）の字。❺元、趙介如（10－37171‥435）の字。

【元卓】409 字號。❶後漢、潘乾（7－18236‥27）の字。❷後漢、李咸（6－14459‥150）の字。

【元澤】410 宋、王雱（7－20823‥884）の字。

【元達】411 ❶宋、雞澤の人。初名は守旻。膂力があり、善射を恃んで任俠放縱であったが、後、能く節を折り禮を盡して士大夫に交はるに至る。〔宋史、二百七十五〕〔宋史新編、七十八〕・〔隆平集、十七〕❷五代南唐、張義方（4－9812‥908）の初名。❸字號。㋑後漢、趙昱（10－37171‥10）の字。㋺晉、王忱（7－20823‥619）の字。㋩前趙、喬智明（2－3990‥85）の字。㋥前秦、苻朗（9－30825‥18）の字。㋭梁、蕭諶（9－32012‥3）の字。㋬宋、鍾穎（11－40672‥8）の字。㋣明、包節（2－2506‥85）の字。

【元旦】412 一月一日の朝。元日。元朝。元正。元辰。〔梁三朝雅樂歌〕四氣新元旦、萬壽初今朝。

【元旦令節】413 正月一日の佳節。〔六部成語、禮部、元旦令節、注解〕正月初一日爲二元旦一令節、佳節也。

【元坦】414 北齊の人。禧の子。魏の孝莊帝の時に襲爵し、司徒太尉太傅に歷官したが、賣獄鬻官を以て免ぜらる。天保の初、開府儀同三司となつたが、子世寶が圖讖を妄說するに坐して北營州に配せらる。〔北齊書、二十八〕。

【元端】415 ❶後魏の人。雍の子。字は宣雅。容貌美しく、博學。散騎常侍より、青州刺史・兗州刺史に歷任す。再び梁を防いで功があり、都官尚書に陞遷す。〔魏書、二十一上〕・〔北史、十九〕。❷清、王尊（7－20823‥731）の字。

【元誕】416 後魏の人。拓跋小新成の孫。字は曇首。謚は靜。齊州刺史を拜命す。貪暴のため御史中尉元纂に糾せらる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元歎】417 字號。❶三國吳、顧雍（12－43689‥193）の字。❷清、徐波（4－10110‥245）の字。

【元澹】418 唐、元行沖（648）を見よ。

【元壇】419 道觀。道士廟。玄壇（7－20814‥243）を見よ。

【元治】420 ❶明、李國樸（6－14459‥1250）の字。❷第百二十一代、孝明天皇の年號。（1864－1865）〔菅原爲榮、勸文〕易、乾元用九、天下治也。〔菅原爲榮、勸文〕三國志曰、天地以二四時一成レ功、元首以二輔弼一興レ治。

【元治甲子亂】421 元治元年甲子の歲、長州藩士が宮門に迫つて薩摩・會津の兵と戰ひ、又、藤本鐵石・松本奎堂等は大和五條に、平野國臣は但馬生野に、水戸の武田耕雲齋は筑波山に、夫々に勤皇攘夷の兵を擧げたのを總稱していふ。

【元直】422 ❶物品を買入れたねだん。もとね。元價。〔東軒筆錄〕以二所レ買牛一依二元直一賣與。❷字號。㋑三國吳、姚信（3－6202‥69）の字。㋺三國蜀、徐庶（4－10110‥165）の字。㋩南朝宋、沈正（6－17189‥241）の字。㋥梁、韋放（12－43108‥127）の字。㋭唐、李遜（6－14459‥535）の字。㋬宋、滕中（7－18036‥28）の字。㋣宋、李植（6－14459‥465）の字。㋠宋、呂頤浩（2－3386‥158）の字。㋡明、鄭賢（11－39647‥115）の字。

【元智】423 後漢、荀曇（9－30929‥50）の字。

【元胄】424 隋、洛陽の人。魏の昭成帝の六世の孫。周の趙王が文帝を害せんとした時、身を以て衞つた功により、文帝受禪後、武陵郡公に封ぜらる。後、蜀王秀と通じて除名せられ、煬帝の時、死に坐す。〔隋書、四十〕・〔北史、七十三〕。

【元長】425 ❶元の高僧。萬壽に住す。內は齊・魯・燕・趙・秦・隴・閩・蜀、外は日本・三韓・八蕃・羅甸・交阯・琉球等に至るまで遊歷す。〔新續高僧傳、五十〕。❷字號。㋑後漢、韓融（12－43159‥222）の字。㋺南齊、王融（7－20823‥1029）の字。㋩梁、張緬（4－9812‥689）の字。㋥末、蔡京（9－31818‥42）の字。㋭末、范沖（9－30834‥94）の字。㋬明、張大復（4－9812‥1326）の字。㋣清、尹繼善（4－7631‥108）の字。㋠清、何其仁（1－511‥232）の字。㋡清、何世𠔃（1－511‥313）の字。㋢清、魯仁圻（12－46013‥171）の號。

【元長史】426 龜の化身したものの名。〔事物異名錄、水族、龜〕吉凶響應錄、韋丹見二漁者得一一龜甚大一心異レ之、贖投二於河一、後有二元長史命濬之來謁一丹、卽此龜也。

【元祝】427 天子と臣下。〔唐書、南蠻上、南詔傳〕南詔王自稱曰レ元、猶レ朕也、謂二其下一曰レ祝、猶レ卿爾。〔南詔縣信、星回節游二避風臺一與二清平宮一賦詩〕元祝同二一心一子孫堪二貽厥一。

【元帳】428 各口座毎に、夫々記入する帳面。原簿。

【元萇】429 後魏の人。拓跋孤六世の孫。謚は成。性剛毅。官は孝文帝の時、懷朔鎭都大將、宣武の時、雍州刺史。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元場】430 yüan² ch'ang³ 囉方が下座に用ひる囉をいふ。

【元著】431 明、張煌言（4－9812‥950）の字。

【元中】432 ❶三統曆法で、曆數を數へるに用ひる數の名。五萬五千四百四。〔漢書、律歷志下〕元中五萬五千四百四、參統中、得二元中一。❷第九十九代、後龜山天皇の年號。（1384－1392）〔易、坤〕黃裳元吉、文在レ中也。❸字號。㋑宋、吳敏（2－3365‥363）の字。㋺宋、蘇橿（9－32427‥58）の字。㋩明、沐崑（6－17201‥15）の字。㋥明、劉和（2－2224‥202）の字。

【元仲】433 字號。❶三國魏の明帝（曹叡）（5－13805‥445）の字。❷末、姚宗之（3－6202‥180）の字。❸清、李世熊（6－14459‥1553）の字。

【元沖】434 字號。❶後魏、谷渾（10－36182‥31）の字。❷明、錢士貴（11－40563‥322）の字。

【元沖子】435 金、劉志淵（2－2224‥992）の號。

【元忠】436 ❶後魏の人。景穆帝の後。孝明帝の時、太常少卿に至る。出帝が舟を天淵池に泛

べて宗室諸王に陪宴せしめた時、紅羅の襦、繡領、碧紬の袴の異装をして嘲笑せらる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。㊁字號。㋑宋、周良(2-3441‥512)の字。㋺宋、孫諤(3-6987‥47)の字。㋩宋、万俟卨(1-10‥2)の字。㋥宋、劉瑾(2-2224‥190)の字。㋭宋、王寓(7-20823‥45)の字。㋬明、應良(4-11330‥244)の字。㋣明、許令瑜(10-35298‥398)の字。㋠明、張廷臣(4-9812‥1380)の字。㋷明、陳于陛(11-41698‥662)の字。

【元佇】437 ゲンチョ かめ。龜(12-48847)の異名。元緒。〔太平御覽、鱗介部、龜〕南越志曰、龜甲名二神屋一、出二南海一、生二池澤中一、呉越謂二之元佇一。

【元儲】438 ゲンチョ 太子をいふ。〔稱謂錄、太子、元儲〕抱朴子、帝之元儲、必入二太學一。

【元女】439 ゲンヂョ 長女。〔左氏、襄、二十五〕以二元女大姬一配二胡公一。〔注〕元女、武王之長女也。

【元澄】440 ゲンチョウ 後魏の人。拓跋雲の子。字は道鏡。謚は文宣。任城王を襲爵し、蠕蠕及び氐羌を討ち、宣武の時、壽春に鎮として梁兵を破る。孝明帝の時、司徒に遷り、政を決して内外に敬憚せらる。〔魏書、十九中〕・〔北史、十七〕。

【元徵】441 ゲンチョウ 字號。㊀明、唐文獻(2-3709‥512)の字。㊁清、方駿謨(5-13620‥552)の字。

【元寵】442 ゲンチョウ 宋、曹組(5-14297‥135)の字。

【元敕】443 ゲンチョク 最初の詔勅。〔舊唐書、憲宗紀下〕淮西立レ功將士、委二韓弘裴度、條疏奏聞一、淮西軍人、一切不レ問、宜下準二元敕一給復二一年上。

【元珍】444 ゲンチン 字號。㊀後魏、祖瑩(8-24664‥13)の字。㊁宋、丁寶臣(1-2‥295)の字。㊂宋、陸宗(11-41708‥139)の字。

【元琛】445 ゲンチン 後魏の人。文成帝の孫。字は曇寶。其の妃が宣武の舅女で、且高皇后の妹なるを以て、内外を恃み、受納する所が多かつたため廢せらる。〔魏書、二十〕・〔北史、十九〕。

【元鎭】446 ゲンチン ㊀魚の名。いしもち。石首魚(8-24024‥403)の異名。〔清異錄、魚、新美舍人〕石首名二元鎭一、令二元鎭一、區區枕石、子孫德甚富焉、宜レ授二新美舍人一。㊁字號。㋑宋、趙鼎(10-37171‥292)の字。㋺元、黃鎭成(12-47926‥1256)の字。㋩元、倪瓚(1-792‥12)の字。

【元通】447 ゲンツウ 字號。㊀晉、王覽(7-20823‥1051)の字。㊁宋、馮康國(12-44579‥187)の字。㊂宋、傅楫(1-939‥62)の字。

【元弟】448 ゲンテイ 一番年長の弟をいふ。長弟。〔稱謂錄、長弟、元弟〕金石萃編、謂二楊淮之弟弼一也、其文曰、元弟功德牟盛。

【元定】449 ゲンテイ 北周、洛陽の人。字は願安。勇略あり。封は長湖郡公。官は大將軍。天和中、陳の郢州を攻め、陳將に執へられて丹陽に卒す。〔周書、三十四〕・〔北史、六十九〕。

【元帝】450 ゲンテイ 帝謚。㊀漢、八代の帝。劉奭(2-2224‥443)を見よ。㊁三國魏、五代の王。曹奐(5-14297‥64)を見よ。㊂東晉、初代の王、中宗をいふ。司馬睿(2-3257‥217)を見よ。㊃梁、三代の王、世祖をいふ。蕭繹(9-32012‥19)を見よ。

【元貞】451 ゲンテイ ㊀元、成宗(鐵穆耳)の年號。(1295-1297)㊁字號。㋑梁、江子一(6-17140‥474)の字。㋺唐、史憲忠(2-3249‥208)の字。㋩明、于仕廉(1-252‥113)の字。

〖元貞先生〗452 ゲンテイセンセイ 金、褚承亮(10-34457‥44)の私謚。

〖元貞張后〗453 ゲンテイチヤウコウ 五代後梁、張后(4-9812‥306)をいふ。

【元楨】454 ゲンテイ 明、王兆雲(7-20823‥1961)の字。

【元鼎】455 ゲンテイ 漢、武帝(劉徹)の年號。(B.C.116-B.C.111)

【元禎】456 ゲンテイ 唐、丁仙芝(1-2‥280)の字。

【元締】457 モトジメ 會計などのしめくくり。又、しめくくりをする人。〔雙生隅田川、三〕奥・坂東のもとじめ。

【元鳥】458 ゲンテウ 鳥の名。つばめ。燕(7-19429)の異名。玄鳥(7-20814‥262)を見よ。

【元朝】459 グヮンテウ ㊀元旦(412)に同じ。〔僧惠法、予在二龍安木蛇庵一除夕微雪及レ辰未レ消詩〕元朝喜レ見レ雪、一室譁二少長一。㊁ゲンテウ 元の朝廷。元朝名臣事略・元朝典故編年考を見よ。

〖元朝祕史〗460 ゲンテウヒシ 書名。元祕史(724)に同じ。

〖元朝名臣事略〗461 ゲンテウメイシンジリヤク 書名。十五卷。元、蘇天爵撰。元代の名臣四十七人の行狀を記したもの。〔四庫提要、史、傳記類〕。

〖元朝典故編年考〗462 ゲンテウテンコヘンネンカウ 書名。十卷。清、孫承澤撰。元代の事迹を編年體にしたもの。其の八卷は元史の脫漏を補益し、第九卷は元朝の祕史、第十卷は遼金の遺事。〔四庫提要、史、政書類〕。

【元超】463 ゲンテウ 字號。㊀晉、司馬越(2-3257‥222)の字。㊁明、張之象(4-9812‥1101)の字。

【元調】464 ゲンテウ 清、竇光鼐(8-25695‥63)の字。

【元迪】465 ゲンテキ 宋、鄧啓(11-39630‥41)の字。

【元滌】466 ゲンテキ 陳、程靈洗(8-25081‥303)の字。

【元嫡】467 ゲンテキ 本妻。〔南史、殷淑儀傳〕仲子非二魯惠公元嫡一。

【元哲】468 ゲンテツ 清、王睿(7-20823‥59)の字。

【元天】469 ゲンテン 山名。〔顏延之、車駕幸二京口一侍二遊蒜山一作〕元天高北列。〔注〕善曰、司馬彪曰、元天、山名也。

〖元天上帝〗470 ゲンテンジヤウテイ 道家で信奉する眞武神をいふ。〔通俗編、神鬼、元天上帝〕周禮大宗伯、以禋二祀昊天上帝一、司農注、昊天、天也、上帝、元天也、典瑞、旅二上帝一、注亦云、上帝、元天、今道家所レ奉元天上帝、乃眞武神、與二周禮注一云別也、元史成宗紀、大德七年、加二封眞武一、爲二元聖仁威元天上帝一。

【元點】471 ゲンテン yüan² tien³ 原子。極微分。

【元菟】472 ゲンド 郡名。玄菟(7-20814‥272)を見よ。

【元圖】473 ゲント 後漢、逢紀(11-38901‥9)の字。

【元奴】474 ゲンド 人名。㊀金、完顏永元(3-7079‥5)の本名。㊁金、完顏綱(3-7079‥20)の本名。

【元度】475 ゲンド 字號。㊀晉、許詢(10-35298‥121)の字。㊁隋、楊汪(6-15112‥398)の字。㊂唐、劉憲(2-2224‥253)の字。㊃宋、金式(11-40152‥606)の字。㊄宋、蔡卞(9-31818‥115)の字。㊅元、楊璲(6-15112‥236)の字。㊆明、趙琦美(10-37171‥462)の字。㊇清、盧紘(8-23050‥43)の字。

【元豆】476 ゲントウ yüan² tou⁴ 大豆。

【元東】477 ゲントウ 明、劉元震(2-2224‥887)の字。

【元登】478 ゲントウ 明、郭登(11-39474‥177)の字。

【元統】479 ゲントウ ㊀年號。㋑金、宣宗(完顏珣)の時、耶律留哥の僭號。(1213-1216)㋺元、順帝(一に惠宗に作る。安歡帖睦爾)の時。(1333-1334)㊁清、楊文乾(6-15112‥776)の字。

【元同】480 ゲンドウ 清、黃以周(12-47926‥980)の字。

【元德】481 ゲントク ㊀大きいとく。立派な德。〔易、乾、文言〕曰元者善長也、疏〕謂下行二仁德一法中天之元德上也。〔書、酒誥〕茲亦惟天若二元德一、永不レ忘レ在二王家一。〔蔡傳〕亦惟天順二元德一。〔國語、楚語上〕是五王者、皆元德也。㊁倫理學用語。主德(1-100‥200)に同じ。㊂年號。㋑宋代、西夏の崇宗(李乾順)の年號。(1120-1126)㋺第九十六代、後醍醐天皇の年號。(1329-1331)㊃五代後蜀、趙德元(10-37171‥815)の一名。㊄字號。㋑南朝宋、王叡(7-20823‥61)の字。㋺唐、泉男生(6-17274‥81)の字。㋩唐、劉助(2-2224‥381)の字。㋥宋、張洽(4-9812‥137)の字。㋭宋、李祥(6-14459‥413)の字。㋬元、郭景星(11-39474‥280)の字。㋣金、趙淇(10-37171‥88)の字。㋠明、李新芳(6-14459‥1526)の字。

〖元德太子〗482 ゲントクタイシ 隋、楊昭(6-15112‥245)の謚。

【元肉】483 ゲンニク yüan² jou⁴ 茘枝の果肉。

【元仁】484 ゲンニン 第八十六代、後堀河天皇の年號。(1224-1225)〔菅原爲長、勘文〕周易曰、元亨利貞、正義曰、元、仁也。

【元任】485 ゲンニン 字號。㊀宋、胡仔(9-29400‥159)の字。㊁明、文士弘(5-13450‥992)の字。

【元年】486 グヮンネン はじめの年。天子即位の第一年。又、年號の改まつた最初の年。〔公羊、隱、元〕元年者何、君之始年也。

【元播】487 ゲンパ 元、賈鈞(10-36755‥36)の字。

【元佩】488 ゲンパイ 唐、蘇冕(9-32427‥174)の字。

【元配】489 ゲンパイ 第一番目のきさき。配は妃に通ず。元妃。本妻。〔左氏、隱、元〕惠公元妃孟子、〔疏〕釋詁云、元、始也、妃、匹也、始匹者、言下以前未二曾娶一而此人始爲上レ匹、故注云、言二元妃一明二始適夫人一也、云云、元者、長也、一元之字、兼二始適兩義一、故云二始適夫人一也、然則有二始而非一レ適、若二孟任之類一是也、亦有二適而非一レ始、若二哀姜之類一是也、妃者、配匹之言、非レ有二尊卑之異一、其尊卑

殊稱、則曲禮所レ云、天子之妃曰レ后、諸侯曰二夫人一、大夫曰二孺人一、士曰二婦人一、庶人曰レ妻、是也。

【元方】490 バンパウ 字號。❶後漢、陳紀(11－41698‥11)の字。❷陳、陳慧紀(11－41698‥794)の字。㊂明、鄒矩(11－39562‥14)の字。㊃明、陸陽(11－41708‥69)の字。

【元方季方】491 ゲンパウキパウ 後漢の陳寔の二子なる紀・諶をいふ。紀の字は元方。諶の字は季方。元方兄たり難く、季方弟たり難しの語から、兄弟の意に用ひる。〔後漢書、陳寔傳〕寔、字仲弓、潁川許人也、云云、有二六子一、紀・諶最賢、紀、字元方、以二至德一稱、兄弟孝養、闔門雝和、後進之士、皆推二慕其風一云云、弟諶、字季方、與レ紀齊レ德同レ行。〔世說、德行〕陳元方子長文有二英才一、與二季方孝先一、各論二其父功德一、爭レ之不レ能レ決、咨二於太丘一、太丘曰、元方難レ爲レ兄、季方難レ爲レ弟。〔注〕一作二元方難レ爲レ弟、季方難レ爲レ兄。

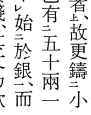
【元包】492 バンパウ ❶書名。五卷。附元包數總義一卷。北周、衞元嵩撰。唐、蘇源明傳、李江注、宋、韋漢卿釋音。此の書は揚雄の太玄經に近く、序次は歸藏易を用ひ、坤を首とし、次に乾兌艮離坎巽震の卦を列ね、凡て七變、本卦を合せて共に八八六十四とし、之に詁屈で聞ゝ僻字を用ひ、甚だ讀み難い。〔四庫提要、子、術數類〕❷yüan² pao¹ 棉花荷造の一方法。

【元放】493 バンパウ 字號。❶後漢、左慈(4－8720‥23)の字。❷宋、賈逸祖(10－36755‥142)の字。

【元芳】494 バンパウ 字號。❶晉、裴朏(6－14937‥21)の字。❷宋、倪文一(1－792‥66)の字。㊂明、雷仕梅(12－42245‥187)の字。

【元褒】495 バンパウ ❶隋の人。孝矩の弟。字は孝整。周に仕へて趙州刺史を拜命し、尉遲迥の征討に從つて柱國に拜せられ、齊郡太守に終はる。〔隋書、五十〕❷字號。㊀晉、任愷(1－416‥24)の字。㊁宋、梁周翰(6－14825‥267)の字。㊂清、鄒一桂(11－39562‥69)の字。

【元寶】496 バンパウ ❶大切なたから。〔蜀志、秦宓傳、注〕國之元寶。❷形狀は馬蹄に似て俗に馬蹄銀と稱し、一名、靴銀。重量は四十五六兩から五十三四兩に至り、銀塊中最良質のもの。元寶はもと錢の名に用ひられたが、元の世祖の時、庫銀を用ひて元寶といふ貨幣を作つたのが、銀を元寶といふ始めである。〔元史、楊湜傳〕以レ湜爲二諸路交鈔都提擧一、（湜）請以二五十兩一鑄爲レ錠、文以二元寶一用レ之便。〔陔餘叢考、元寶〕各省解部正課銀、每錠五十兩、名曰二元寶一、按、輟耕錄載、至元十三年、元師平レ宋、回至二揚州一、伯顏令レ搜二檢將士所得撒花銀子一、銷鑄作レ錠、每錠重五十兩、其字號曰二揚州元寶一、歸朝獻レ之、世祖大會二諸王公一、以レ之頒賜、後、朝廷亦有二自鑄者一、至元十四年者、重四十九兩、十五年者、重四十八兩、又有二遼陽元寶一、乃至二十二年一、征東所レ得銀鑄成者、又續通考、至元二年、楊湜上言、平准行用二白金一、出入有二偷盜之弊一、請以二五十兩一鑄爲レ錠、文曰二元寶一、從レ之、今之元寶、蓋昉二于此一。按、金章宗承安五年、改鑄銀名二承安寶貨一、一兩至十兩、分二五等一、每兩折錢一貫、公私同見、錢用以二舊例一、銀每錠五十兩、其直百貫、民間或有二截鑿之者一、故更鑄二小錠一、凡俸餉、皆銀鈔兼支、則金時已有二五十兩一錠之元寶一矣、然元寶之名、其實不レ始二於銀一、而始二於錢一、唐武德四年、鑄二開通元寶錢一、其文乃歐陽詢所レ書、晉天福三年鑄錢、以二天福元寶一爲レ文、宋太宗鑄錢、常親書二淳化元寶一、作二眞行草三體一、後每改二更鑄一、以二年號一元寶、爲レ號、仁宗時、改二年號一曰二寶元一、錢文當レ曰二寶元元寶一、乃改鑄二皇宋通寶四字一、可レ見、元寶之名、本屬二錢文一、因而後代製レ鈔亦用レ之、鑄レ銀亦用レ之也、又按、錢之有二年號一、自二宋孝武帝孝建元年一始、其文一邊曰二四銖一、一邊曰二孝建一、其後去二四銖一、專爲二孝建一、此又歷代鑄錢用二年號一之始也。❸山名。㋑滿洲遼寧省安東縣。大公園がある。㋺滿洲遼寧省西安縣。㋩滿洲黑龍江省漠河縣の西南、伊勒呼里山脈の分派。㋥雲南省巧家縣。㋭察哈爾省沽源縣。❹字號。㋑南朝宋、荀萬秋(9－30929‥63)の字。㋺宋、馬鈺(12－44572‥128)の字。❺yüan² pao³ ㋑武劇で身をまげて元寶のやうにする所作事。㋺除夜に食べる鷄卵。浙江省湖州地方の方言。



蜀漢金　漢興石　漢元寶（索）

【元寶客】497 yüan² pao³ k'ê⁴ 蝙蝠をいふ。天津地方の方言。

【元寶草】498 ゲンパウサウ ほとけぐさ。山地の自生植物。夏、小黃花を開く。佛草。

【元寶車】499 yüan² pao³ ch'ê¹ 車の前後が高くて元寶銀の形に似た車。

【元寶湯】500 yüan² pao³ t'ang¹ 大晦日から元旦にかけて食ふ閒食の名。

【元寶媒】501 ゲンパウバイ 清代の戲曲の篇名。周樨廉作。容易堂二種曲の一。太原地方に住んでゐた無名の乞食が、善行により、帝から元寶を賜はり、之によつて種々のいきさつを生じた事を敍す。〔曲海提要、二十二〕

【元白】502 ゲンバク ❶元稹と白居易。共に唐の詩人で、二人は少時から才力が相匹敵し、其の詩風も同工異曲で、與に平易を尚ぶ。唱和の詩の多いことは、この二人に踰えるものが無い。故に當時の人々は二人を元白と併稱し、又、二人の詩體を稱して元和體、又は元白體といふ。後世、二人を評して元輕白俗といひ、彼等の詩語の坦夷なことを嘲つた。〔唐書、白居易傳〕初、與二元稹一酬詠、故號二元白一。❷金の元好問と白君擧との併稱。〔陔餘叢考、兩元白〕金末元遺山、爲二一代文人之冠一、其時有二白君擧、字寓齋、隰州人、以二進士官一岐山令一、詩名與二遺山一相頡頏、元白本世契、兩家子弟、每擧二長慶故事一、相往來、時人亦謂二之元白一。❸字號。㋑明、姚涮(3－6202‥77)の字。㋺明、蔡道憲(9－31818‥215)の字。㋩明、范叔明(9－30834‥196)の號。

【元白體】503 ゲンパク 詩風の一種。唐の元稹・白居易二人の平易を旨とする詩體を稱していふ。元白の❶を見よ。〔滄浪詩話、詩體〕元白體、微之・樂天、其體一也。

【壓二倒元白一】504 ゲンパクヲアツス 唐の楊汝士の賦詩が、元稹・白居易の二人を感歎させた故事。平素自分より優れてゐるものを屈服させるにいふ。又、人の詩句のすぐれてゐるのを稱するにいふ。〔摭言〕寶曆中、楊相嗣、復大宴二新昌里第一、元白俱在、皆賦二詩於席上一、惟刑部侍郎楊汝士詩後成、最佳、元白歎服、汝士醉歸曰、我今日壓二倒元白一。〔書言故事、詩詞賦類〕稱二人佳句一、壓二倒元白一。

【元伯】505 ゲンハク 字號。❶後漢、張劭(4－9812‥465)の字。❷後漢、劉隆(2－2224‥652)の字。❸後漢、王霸・潁陽の人(7－20823‥872)の字。❹後魏、李韶(6－14459‥511)の字。㊄唐、鄭珣瑤(11－39647‥442)の字。㊅宋、韓川(12－43159‥153)の字。㊆宋、向伯奮(2－3301‥116)の字。㊇宋、李端懿(6－14459‥1695)の字。㊈宋、盧侗(8－23050‥140)の字。❿清、馬瑞辰(12－44572‥844)の字。⓫清、李京(6－14459‥277)の字。

【元博】506 ゲンパク 字號。❶明、許德溥(10－35298‥372)の字。❷明、范洪(9－30834‥36)の字。❸清、湯溥(7－17874‥114)の字。

【元璞】507 ゲンパク 宋、吳球(2－3365‥104)の字。

【元麥】508 ゲンバク 麥の一種。はだかむぎの俗名。〔直省志書、通州〕物產、麥有二大小並早晚二色一、元麥、俗呼爲レ糲。

【元發】509 ゲンパツ ❶元、任仁發(1－416‥226)の一名。❷字號。㋑宋、趙宗悌(10－37171‥763)の字。㋺清、高宇泰(12－45313‥1050)の字。

【元汎】510 ゲンハン 後魏の人。字は普安。官は光祿大夫・宗正卿。河陰に於て害せらる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕

【元版】511 ゲンパン 元時代に出版した書籍。〔書林清話、元刻書多用二趙松雪體字一〕陸志有二元刊元印清容居士集五十卷一、云、有二趙子昂筆意一、元版中上乘也。

【元範】512 ゲンパン 宋、賈如規(10－36755‥183)の字。

【元丕】513 ゲンピ 後魏の人。拓跋謂の曾孫。謚は平。爵は興平子。侍中となり、丞相乙渾の謀反を奏聞し、孝文帝の時、東陽王となる。後、子超の擧兵に連坐して庶人となり、年八十二にして卒す。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕

【元妃】514 ゲンヒ 第一番目のきさき。皇后。元配(4－89)を見よ。〔左氏、隱、元〕惠公元妃孟子。〔注〕言二元妃一明二始適夫人一也。〔史記、周紀〕姜原爲二帝嚳元妃一。〔晉書、禮志中〕前妻爲二元妃一、後婦爲二繼室一。〔晉書、后妃傳序〕爰自二夔古一、是謂二元妃一、降及二中年一、乃稱二王后一。

【元美】515 ゲンビ 字號。❶明、張羅俊(4－9812‥156

7)の字。㊁明、王世貞(7―20823‥1763)の字。㊂清、李奇玉(6―14459‥988)の字。㊃清、李輝祖(6―14459‥1000)の字。

【元備】516 ゲンビ 梁、樂法才(6―15399‥319)の字。

【元弼】517 ゲンピツ ㊀最上の輔弼の臣。㊁後魏の人。拓跋小新成の孫。字は邕明、一字は宗輔。永安中、文獻と追謚す。世嫡なるに、季父の尙書僕射麗が其の王爵を奪ひて同母兄の子誕に授く。弼は疾に託して還り、嵩山に入つて穴を室とし、布衣蔬食して卒す。〔魏書、十九上〕・〔北齊書、二十八〕。㊂字號。㋑三國蜀、輔匡(10―38342‥8)の字。㋺宋、張耆(4―9812‥166)の字。㋩金、郭企忠(11―39474‥260)の字。㋥明、周臣(南通の人)(2―3441‥284)の字。

【元謐】518 ゲンヒツ 後魏の人。趙郡王幹の子。謚は貞景。宣武の初、襲封す。官は岐州刺史。性嚴暴。〔魏書、二十一上〕・〔北史、十九〕。

【元彬】519 ゲンピン 後魏の人。景穆帝の孫。字は豹兒。章武王を襲爵し、朔州刺史を拜命したが、貪惏を以て封を削らる。後、吐京胡の反を平げ、征虜將軍・汾州刺史を拜命す。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。

【元斌】520 ゲンピン 北齊の人。魏の、獻文帝の孫。字は善集。尙書左僕射となる。性寬和重愼。文宣に從つて契丹を討ち、還つて罪を以て死を賜はる。〔魏書、二十一上〕・〔北齊書、二十八〕。

【元賓】521 ゲンピン 字號。㊀後魏、裴良(10―34362‥95)の字。㊁唐、李觀(6―14459‥270)の字。㊂宋、伍擇之(1―435‥49)の字。㊃宋、舒璘(9―30300‥95)の字。㊄宋、刁衎(2―1846‥7)の字。

【元敏】522 ゲンビン 宋、徐詡(4―10110‥90)の字。

【元夫】523 ゲンプ ㊀易の卦の初九をいふ。卦の始に處ることから元といひ、夫は陽の丈夫たるに取る。〔易、睽〕象曰、九四、睽孤、遇二元夫一、交孚、厲无レ咎。〔疏〕元夫、謂二初九一也、處二於卦始一、故云レ元也、初四倶陽而言レ夫者、蓋是丈夫之夫、非二夫婦之夫一也。㊁よき人。行の正しい人。善士(2―3904‥130)に同じ。〔易、睽、程傳〕夫、陽之稱、元、善也、初九當二睽之初一、遂能與同レ德、而亡二睽之悔一、處レ睽之至善者也、故目レ之爲二元夫一、猶レ云二善士一也。㊂字號。㋑唐、薛戎(9―32123‥77)の字。㋺明、夏統春(3―5720‥352)の字。㋩明、許仁(10―35298‥136)の字。㋥明、朱守仁(6―14424‥845)の字。㋭明、婁琇(3―6383‥22)の字。

【元孚】524 ゲンプ ㊀後魏の人。拓跋譚の孫。字は秀和。官は尙書右丞。靈太后の時、宦者政を干すや、孚は古今の名妃賢后を總括し、四卷として之を奏す。冀州刺史を拜命し、州人は慈父又は神君と稱して之を敬す。後、萬年郷男に封ぜらる。〔魏書、十八〕・〔北史、十六〕。㊁字號。㋑明、周弘綸(2―3441‥657)の字。㋺清、尹會一(4―7631‥105)の字。㋩清、朱鼎延(6―14424‥936)の字。

【元府】525 ゲンプ 汗を分泌する孔。〔素問〕所謂元府者、汗穴也。

【元符】526 ゲンプ ㊀大きな祥瑞。轉じて、天子の位。〔揚雄、長楊賦〕方將下俟二元符一、以禪二梁父之基一、增二泰山之高一、延二光于將來一、比中榮乎往號上。〔注〕善曰、晉灼曰、元符、大瑞也、良曰、元、大也、俟二待大瑞之符一也。〔班固、典引〕望二元符之臻一焉。㊁宋、哲宗(趙煦)の年號。(1098―1100)

【元溥】527 ゲンプ 宋、宣興の人。字は泉卿。號は耘軒。唐詩を好み、清貧に甘んじ、時人に尊尙せらる。〔宋季忠義錄、十五〕。

【元武】528 ゲンプ ㊀水神の名。〔後漢書、王梁傳〕元武、水神之名。㊁龜の異名。玄武(7―20814‥307)の㊁の㋺を見よ。㊂字號。㋑隋、于顗(1―252‥13)の字。㋺唐、郭英乂(11―39474‥243)の字。

【元撫】529 ゲンプ 清、林則徐(6―14551‥378)の字。

【元服】530 ゲンプク ㊀男子が成年卽ち二十歲に達して、初めて大人の衣冠を著ける儀式。元は首、服は着用するの意で、首に冠を着けること。〔儀禮、士冠禮〕始加、祝曰、令月吉日、始加二元服一、棄二爾幼志一、順二爾成德一。〔注〕元、首也、云云、既冠爲二成德一、云云、因冠而戒、且勸レ之。〔疏〕釋曰、云三既冠爲二成德一者、案、冠義、既冠、責以二父子君臣長幼之禮一、皆成人之德。〔義疏〕敖氏繼公曰、棄二爾幼志一、戒レ之也、順二爾成德一、勉レ之也、言下先去二幼志一、而後能順中成德上也、幼志、卽傳所謂童心、成德、成人之德。〔漢書、敍傳下〕上正二元服一。〔注〕師古曰、上正二元服一也、元、首也、故謂レ冠爲二元服一。〔漢書、昭帝紀〕帝加二元服一。〔說苑、脩文〕加二子元服一。〔後漢書、禮儀志上〕可レ加二元服一。〔注〕冠禮曰、成王冠、周公使二祝雍曰一、辭達而勿レ多也、祝雍曰、近二於民一、遠二於年一、遠二於佞一、近二於義一、嗇二於財一、任レ賢使レ能、博物記曰、孝昭帝冠辭曰、陛下摛二顯先帝之光耀一、以承二皇天之嘉祿一、欽奉二仲春之吉辰一、普尊二大道之郊域一、秉二率百福之休靈一、始加二昭明之元服一、推二遠沖孺之幼志一、蘊二積文武之就德一、肅二勤高祖之淸廟一、六合之內靡レ不レ蒙レ德、永永與レ天無レ極。〔孔子家語、頌冠解〕令月吉日、王始加二元服一、去二王幼志一、服二袞職一。㊁古、男子は十五六歲になれば、服を改め髮を理め冠を加へた。うひかうぶり。〔源氏物語、桐壺〕十二にて御元服し給ふ。

【元復】531 ゲンプク ㊀宋の高僧。僧元敬と共に武林西湖高僧事略を撰す。〔四庫提要、子、釋家類存目〕。㊁字號。㋑明、許初(10―35298‥124)の字。㋺清、畢誼(7―21829‥11)の字。㊂yüan^{2} fu^{4} 元氣を恢復する。

【元物】532 ゲンブツ 果實(或る物から產出されたものをいふ)を生じるもと。利金に對する元金の類。

【元文】533 ゲンブン ㊀元代の文章。元文類を見よ。㊁字號。㋑明、周弘謨(2―3441‥656)の字。㋺清、徐旭齡(4―10110‥378)の字。㊂第百十五代、櫻町天皇の年號。(1736―1741)〔菅原在秀、勘文〕文選曰、武創二元基一、文集二大命一、皆體レ天作レ制、順レ時立レ政、至二于帝皇一、遂重熙而累盛。

【元文華】534 ゲンブンクワ 髮の神の名。〔事物異名錄、神鬼、髮神〕雲笈七籤、髮神、名元文華、字道衡、又、髮神、名壽長、字祿之。

【元文類】535 ゲンブンルイ 書名。七十卷。目錄三卷。元、蘇天爵編。元初から延祐までの作家の文を四十有三類に分けて集めたもの。天爵は文章を妙解し、鑒別に巧であつたが、其の去取も亦極めて精審であるので、姚鉉の唐文粹、呂祖謙の宋文鑑と共に、三大書と稱せられる。四十三類の目は、賦・騷・樂章・四言詩・五言古詩・樂府歌行・七言古詩・雜言・雜體・五言律詩・七言律詩・五言絕句・七言絕句・詔赦・冊文・制・奏議・表・牋・箴・銘・頌・贊・碑文・記・序・書・說・題跋・雜著・策問・啓・上梁文・祝文・祭文・哀辭・謚議・行狀・墓誌銘・墓碣・墓表・神道碑・傳。〔四庫提要、集、總集類〕。

【元平】536 ゲンペイ ㊀漢、昭帝(劉弗陵)の年號。(B.C.74) ㊁字號。㋑南齊、顧歡(12―43689‥57)の字。㋺明、張鶴鳴(4―9812‥880)の字。

【元兵】537 ゲンペイ 元の軍兵。元寇の兵。〔廣瀨淡窓、筑前城下作詩〕元兵沒レ海蹤猶在、神后征レ韓事久傳。

【元表】538 ゲンペウ 晉、司馬模(2―3257‥311)の字。

【元父】539 ゲンポ 地名。〔阮籍、元父賦〕吾嘗遊二元父一、登二其城一、使二人愁思一、作レ賦以記レ之、言レ不レ足レ樂也、元父者、九州之窮地、先代之幽虛者也。

【元甫】540 ゲンポ 字號。㊀漢、葛龔(9―31420‥14)の字。㊁宋、蕭明哲(9―32012‥526)の字。㊂宋、趙良規(10―37171‥924)の字。㊃宋、王允初(7―20823‥1167)の字。㊄元、陳駭(11―41698‥236)の字。㊅元、楊恭懿(6―15112‥474)の字。㊆明、曹履吉(5―14297‥324)の字。㊇明、傅冠(1―939‥41)の字。㊈明、劉伯燮(2―2224‥1268)の字。

【元輔】541 ゲンポ ㊀天子の輔佐。大弼。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕王宰宣二哲於元輔一。〔注〕濟曰、王宰、宰相也、哲、智也、元、君也、言下宰相之臣、宣二智力於君一、以爲中輔佐上也。㊁字號。㋑唐、苗晉卿(9―30781‥58)の字。㋺宋、黃自然(12―47926‥1119)の字。㋩宋、蔡冠卿(9―31818‥157)の字。㋥宋、趙贊(10―37171‥177)の字。㋭宋、王德用(7―20823‥1997)の字。㋬元、王佐(7―20823‥414)の字。

【元模】542 ゲンボ 獸の名。黑狐をいふ。〔事物異名錄、獸畜、狐〕王會圖、元模、黑狐也。

【元朋】543 ゲンボウ 明、陳翼飛(11―41698‥1289)の字。

【元封】544 ゲンボウ 漢、武帝(劉徹)の年號。(B.C.110―B.C.105)

【元鳳】545 ゲンボウ ㊀漢、昭帝(劉弗陵)の年號。(B.C.80―B.C.75) ㊁字號。㋑後漢、桓麟(6―14774‥7

5)の字。㋺後魏、王翔(7−20823··531)の字。㋩宋、丘翔(1−33··47)の字。㊁清、蔡上翔(9−31818··189)の字。㋭滕繼文の號。滕元鳳(7−18036··47)を見よ。

【元豐】546 ゲンポウ ❶年號。㋑宋、神宗(趙頊)の時。(1078−1085)㋺宋代、交趾(安南)の太祖(陳煚)の時。(1251−1258) ❷明、徐一夔(4−10110··330)の號。

〔元豐類稿〕547 ゲンポウルイカウ 書名。五十卷。附錄一卷。宋、曾鞏撰。其の目は、古詩五卷・律詩三卷・論一卷・傳一卷・序四卷・書二卷・記二卷・制誥・詔策共七卷・表二卷・疏劄子共四卷・奏狀三卷・啓狀二卷・祭文四卷・誌銘五卷・碑一卷・傳一卷・本朝政要策一卷・金石錄跋尾一卷、附錄は、行狀・碑誌・哀挽。〔四庫提要、集、別集類〕。

〔元豐九域志〕548 ゲンポウキウヰキシ 書名。九域志(1−167··16)を見よ。

【元懋】549 ゲンボウ 明、徐官(4−10110··101)の字。

【元謀】550 ゲンボウ ❶惡黨の首謀者。張本人。〔棠陰比事〕或爲㆓元謀㆒、或爲㆓加功㆒、罪皆應㆑死。〔六部成語、刑部、元謀、注解〕主謀之人也。❷縣名。元、置く。今、雲南省武定縣の西。〔讀史方輿紀要、雲南、武定軍民府〕元謀縣、府西北百九十里、北至㆓四川會川衞界㆒九十里、西至㆓姚安府㆒二百三十里、蠻名華竹、一名環川、元至元中、置㆑縣、屬㆓和曲州㆒、明初因㆑之。〔淸史稿、地理志〕雲南、武定直隸州、縣二、元謀。

【元木】551 ゲンボク 淸、周大樞(2−3441··764)の字。

【元朴】552 ゲンボク 淸、程嗣章(8−25081··219)の字。一に元樸に作る。

【元牧】553 ゲンボク 淸、周大樞(2−3441··764)の字。

【元樸】554 ゲンボク 明、趙錦(10−37171··112)の字。

【元穆】555 ゲンボク 諡號。❶晉、褚裒(10−34457··32)の諡。❷宋、韓肖胄(12−43159··329)の諡。

【元渤】556 ゲンボツ 宋、王洋(7−20823··1020)の字。

【元本】557 ゲンポン ❶物事のもと。根本。〔晉書、天文志上〕北斗七星在㆓太微北㆒、七政之樞機、陰陽之元本也。〔宋書、孝武帝紀〕尙書百官之元本、庶積之樞機。❷元代に刻した書籍。〔書林淸話、元刻書之勝㆓於宋本㆒〕宋本以下、元本次㆑之、然元本源出㆓於宋㆒、故有㆘宋刻善本已亡、而幸元本猶存、勝㆓於宋刻㆒者㆖。❸ グワンポン 果實(或る物から產出されたもの)を生ずる元となる物件。又、其の權利。貸家・貸地・貸金・株式の類。

【元邁】558 ゲンマイ 晉、司馬騰(2−3257··299)の字。

【元猛】559 ゲンマウ 後魏の人。文成帝の第六子。字は季烈。諡は匡。封は安豐王。官は鎭都大將・營州刺史。〔魏書、二十〕・〔北史、十九〕。

【元明】560 ゲンミン ❶元と明。元明事類鈔を見よ。❷ ゲンメイ 字號。㋑南燕、慕容德(4−11088··68)の字。㋺北齊、袁奭(10−34152··96)の字。㋩北周、梁昕(6−14825··56)の字。㊁陳、顏晃(12−43591··34)の字。㋭隋、于宣道(1−252··125)の字。㋬唐、嚴礪(2−4589··258)の字。㋣宋、黃大臨(12−47926··1223)の字。㋠宋、章貢(8−25761··143)の字。㋷明、湛若水(7−17846··70)の字。㋦明、傅新德(1−939··181)の字。❸ ゲンミヤウ 第四十三代の帝諡。〔續日本紀〕。❹佛 一に本昭といふ。本覺の自姓淸淨心に名づける。〔楞嚴經、一〕元明能生㆓諸緣㆒。

〔元明史略〕561 ゲンミンシリヤク 書名。四卷。後藤芝山編、山本正臣增補。此の書は明の舒弘諤の古今全史の元明二代を根柢とし、更に薛應旂の宋元通鑑、袁了凡の綱鑑、其の他、十九史略・明史紀事・明季遺聞・名山藏等の書を取つて補訂し、元の曾先之の十八史略の續編たらしめんとして作つたもの。

《參考書》【增補元明史略便蒙】四卷 藤澤南岳撰。【增補元明史略標記】四卷 奧野精一撰。【標記增補注解元明史略】五卷 高木熊三郞注解、奧野精一按定。

〔元明事類鈔〕562 ゲンミンジルイセウ 書名。四十卷。淸、姚之駰撰。元・明二代の諸書から事類を摘抄したもの。〔四庫提要、子、雜家〕。

〔元明淸史略〕563 ゲンミンシンシリヤク 書名。增田岳陽撰。元明史略に淸史の大要を增修したもの。

【元無】564 ゲンム 明、吳極(2−3365··113)の字。

【元命】565 ゲンメイ ❶大きな命令。天の命。〔書、多士〕惟時天罔㆓念聞㆒、厥惟廢㆓元命㆒、降㆓致罰㆒。〔傳〕其惟廢㆓其大命㆒、下㆓致天罰㆒。〔疏〕言、天不㆓復助㆑桀、其惟廢㆓其大命㆒、欲㆑絕㆓夏祚㆒也、下㆓致天罰㆒、欲㆑誅㆓桀身㆒也。〔書、呂刑〕自作㆓元命㆒、配享在㆑下。〔傳〕自爲㆓大命㆒、配㆓享天意㆒、在㆓於天下㆒。〔疏〕言、在㆓於其身㆒天德平均、惟能爲㆓天之德㆒、志性平均、自爲㆓長久㆒、大命配㆓當天意㆒、在㆓於天下㆒。〔漢書、李尋傳〕受㆓天之元命㆒、必與㆓天下㆒自新。❷六十一歲をいふ。〔范成大、丙午新年六十一歲俗謂㆓之元命㆒作㆑詩自貺詩〕歲復㆓當生次㆒、星臨㆓本命辰㆒。

〔元命包〕566 ゲンメイハウ 書名。春秋緯の一。今佚す。古微書に輯本を收む。包は一に苞に作る。

【元妙】567 ゲンメウ 佛 悟の境地。卽ち涅槃の覺體は本來不可思議であることからいふ。〔楞嚴經、六〕覺海性澄圓、圓澄覺元妙。

【元茂】568 ゲンモ 字號。❶漢、錢林(11−40563··228)の字。❷後漢、潘勖(7−18236··22)の字。❸宋、夏承(3−5720··164)の字。

【元默】569 ゲンモク ❶明、靜海の人。字は中象。官は熹宗の時、僉都御史。久しく李自成に搏縛せられてゐたが、家に歸つて歿す。〔明史、二百六十〕。❷宋、晁百談(5−13889··32)の字。

【元夜】570 ゲンヤ 上元、卽ち正月十五日の夜。元夕。元宵。唐人の語。〔楊奐、詩〕歲歲逢㆓元夜㆒。

【元籥】571 ゲンヤク 宋、程克俊(8−25081··204)の字。

【元由】572 ゲンユ 物のはじめ。きざし。

【元兪】573 ゲンユ 元、王都中(7−20823··1976)の字。

【元愉】574 ゲンユ ❶後魏の人。孝文帝の第四子。字は宣德。太和中、封は京兆王。冀州刺史となり、叛逆を謀つて捕へられ、護送の途に死す。〔魏書、二十二〕・〔北史、十九〕。❷晉、司馬恬(2−3257··298)の字。

【元瑜】575 ゲンユ 字號。❶三國魏、阮瑀(11−41569··3)の字。❷晉、郭瑀(11−39474··8)の字。❸梁、呂僧珍(2−3386··228)の字。❹宋、嚴瑀(2−4589··9)の字。❺明、車瑾(10−38172··60)の字。❻明、漏瑜(7−18120··102)の字。

【元融】576 ゲンユウ ❶後魏の人。衍の子。字は叔融。孝莊帝が爾朱榮を殺さんことを謀つて融を直閤將軍としたが、去つて民間に遁逃す。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。❷後魏の人。彬の子。字は永興。諡は莊武。爵は章武王。孝明の時、河南尹を拜命し、聚斂をこととしたので爵を削られ、汾夏山胡の叛を討ち、敗れて殺さる。〔魏書、十九〕・〔北史、十八〕。

【元輿】577 ゲンヨ 字號。❶宋、陳軒(11−41698··225)の字。❷金、酈權(11−39753··8)の字。

【元用】578 ゲンヨウ 字號。❶後梁、張衍(4−9812··67)の字。❷宋、沈晦(6−17189··122)の字。

【元容】579 ゲンヨウ 字號。❶晉、陸禕(11−41708··3)の字。❷唐、蘇弁(9−32427··173)の字。

【元邕】580 ゲンヨウ 字號。❶前燕、慕容翰(4−11088··54)の字。❷後魏、封肅(4−7426··105)の字。

【元雍】581 ゲンヨウ ❶後魏、獻文帝の第四子。字は思穆。爵は高陽王。領軍の于忠が詔を矯めて雍を廢したが、靈太后が朝に臨むや、侍中太師に除す。孝明帝の時、丞相に陞進し、元叉と共に諸政を決したが、孝莊の初、河陰に於て殺さる。〔魏書、二十一〕・〔北史、十九〕。❷後魏、韓子熙(12−43159··296)の字。

【元膺】582 ゲンヨウ ❶喉の中央をいふ。〔事物異名錄、形貌、喉〕黃庭經注、喉之中央、是謂㆓元膺㆒。❷明、呂復(2−3386··138)の字。

【元抑】583 ゲンヨク 明、錢貴(長洲の人)(11−40563··40)の字。

【元黓】584 ゲンヨク 十干の壬の別名。玄黓(7−20814··357)に同じ。

【元翼】585 ゲンヨク 字號。❶宋、范柔中(9−30834··190)の字。❷淸、湯燕生(7−17874··151)の字。

【元羅】586 ゲンラ 後魏の人。叉の弟。字は仲綱。儉素の稱あり。官は散騎常侍・靑州刺史。父兄倶に貴盛なるも、己を虛しくして謙退し、才名の士、王元景・邢子才・李奬等皆其の賓客となる。後、梁に降る。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【元來】587 グワンライ もとから。もともと。本來。〔朱子全書、論語〕聖人一點他便醒、元來只從㆓一箇心中㆒流出來。

【元老】588 ゲンラウ ❶五官の長。元は大。〔詩、小雅、采芑〕方叔元老、克壯㆓其猶㆒。〔傳〕元、大也、五官之長、出㆓於諸侯㆒、曰㆓天子之老㆒。〔左氏、僖、二十二〕雖㆑及㆓胡耇㆒〔注〕胡耇、元老之稱。❷長く重

要な位に居た國家の功臣。大老。〔後漢書、章帝紀〕憲三世在レ位、爲二國元老一。〔王起、元日觀二上公獻一レ壽賦〕皤皤元老、首出二朝端一。㊂字號。㋑梁、杜曇永(6－14477‥377)の號。㋺金、王寂(7－20823‥680)の字。

【元老院】589 ㊀明治八年から同二十三年まで存置した合議制の官府。權限は法律案の討議又は天皇の諮詢に奉答すること。後の樞密院にあたる。㊁古代羅馬の貴族を以て組織した最高立法機關。

【元老會議】590 元老の會合評議。

【元朗】591 ㊀後魏の後廢帝。章武王融の三子。字は仲哲。初、渤海太守。高歡が義兵を起して爾朱氏を討つに及び、立てられて信都に卽位し、尋いで鄴に幸す。歡が爾朱氏を破るや、河陽に至つて位を遜り、安定王に降封せらる。在位一年。年號は中興。本、拓跋氏。孝文帝の時より元氏に改む。〔魏書、十一〕。㊁後魏の人。順の子。十七歲の時、父が鮮于康奴に殺されるや、朗は潛伏積年、康奴を斬り、其の首を以て父の墓を祭り、闕に至つて罪を請ふ。後、奴の爲に殺さる。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。㊂唐、陸德明(11－41708‥402)の名。㊃字號。㋑明、何良俊(1－511‥377)の字。㋺清、李文炤(6－14459‥1914)の字。

【元覽】592 ㊀見通すこと。玄覽(7－20814‥360)を見よ。㊁字號。㋑後魏、梁越(6－14825‥24)の字。㋺清、周覽(2－3441‥503)の字。

【元鸞】593 後魏、景穆帝の孫。字は宣明。諡は懷。爵は城陽王。宣武の時、官は定州刺史。佛道を信じ佛寺を繕起す。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。

【元利】594 元金と利息金。本子。

【元里】595 ㊀城の名。今の陝西省澄城縣の南。〔史記、魏世家〕(惠王)十七年、與レ秦戰二元里一。〔注〕正義曰、元里故城在二澄城縣界一。㊁遼、蕭痕篤(9－32012‥360)の字。

【元理】596 唐、張弘靖(4－9812‥1035)の字。

【元履】597 字號。㊀宋、魏掞之(12－45872‥166)の字。㊁金、高德基(12－45313‥1294)の字。㊂明、錢陞(11－40563‥125)の字。

【元流】598 ㊀海をいふ。〔事物異名錄、坤輿、海〕山堂肆考、海曰二元流一。㊁漢、疏源(7－22000‥64)の字。

【元立】599 字號。㊀宋、孟植(3－6960‥152)の字。㊁明、瞿汝稷(8－23747‥37)の字。

【元良】600 ㊀大なる善。又、大なる善を有する人。〔書、太甲下〕一人元良、萬邦以貞。〔傳〕一人、天子、天子有二大善一、則天下得二其正一。〔蔡傳〕元、大、良、善。〔書、泰誓中〕剝二喪元良一、賊二虐諫輔一。〔疏〕元者善之長、易文言文、良之爲レ善、書傳通訓也、元良倶善、而雙二擧之一者、言、其剝二喪善中之善一、爲レ害大也、以三諫二輔紂一、紂反殺レ之、卽比干是也。〔孔子家語、曲禮子貢問〕一有二元良一萬國以貞。㊁太子をいふ。〔禮、文王世子〕一有二元良一萬國以貞、世子之謂也。〔稱謂錄、太子古稱、元良〕禮、賢太子曰二元良一、東軒筆錄、太宗以三元良未レ立、雖三意在二眞宗一、尚欲三遍知二諸子一。㊂晉、秦秀(8－24995‥88)の字。

【元亮】601 字號。㊀晉、陶潛(11－41705‥117)の字。㊁唐、符璘(8－25935‥83)の字。㊂元、彭炳(4－10003‥110)の字。㊃明、史贊舜(2－3249‥219)の字。㊄明、牟完(7－19928‥7)の字。㊅明、羅明(崇仁の人)(9－28397‥256)の字。㊆清、周亮工(2－3441‥880)の字。㊇清、王奐曾(7－20823‥1358)の字。

【元量】602 字號。㊀晉、韋泓(12－43108‥154)の字。㊁宋、裘萬頃(10－34312‥33)の字。

【元略】603 ㊀後魏の人。熙の弟。字は儁興。諡は文貞。兄の熙敗れて、略は江左に潛遁す。後、梁の武帝に禮遇せられ、元徽と共に靈太后の寵を得たが、尋いで河陰に於て殺さる。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。㊁字號。㋑後魏、燕崇(7－19429‥151)の字。㋺北周、陽雄(11－41725‥267)の字。

【元慮】604 隋、皇甫誕(8－22701‥234)の字。

【元陵】605 唐の代宗の陵の名。陝西省富平縣西北の檀山に在る。〔唐書、德宗紀〕大曆十四年十月己酉、葬二睿文孝武皇帝於元陵一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕代宗崩、葬二元陵一、在二京兆府富平縣界一。〔富平縣志〕元陵、在二壇山一。

【元龍】606 ㊀明代、越(安南)の太宗(黎麟、一に黎元龍)の年號なる紹平の一稱。(1434－1439) ㊁字號。㋑三國魏、陳登(11－41698‥494)の字。㋺晉、盧循(8－23050‥96)の幼名。㋩南朝宋、庾登之(4－9398‥73)の字。㋥後魏、朱瑞(6－14424‥406)の字。㋭成漢、李驤(6－14459‥422)の字。㋬清、惠周惕(4－10822‥152)の字。

【元龍高臥】607 客を慢ること。三國、魏の陳登(字は元龍)が客を慢つて下牀に臥せしめ、自らは大牀に臥した故事。〔魏志、陳登傳〕元龍無二客主之意一、久不二相與語一、自上二大牀一臥、使三客臥二下牀一。

【元龍豪氣】608 三國、魏の陳登が豪氣の士なるをいふ。元龍高臥を見よ。〔魏志、陳登傳〕汜曰、陳元龍湖海之士、豪氣不レ除。

【元倫】609 字號。㊀宋、吳錫疇(2－3365‥721)の字。㊁宋、范奕(9－30834‥8)の字。

【元懍】610 北周、宗懍(3－7106‥280)の字。

【元禮】611 字號。㊀後漢、李膺(6－14459‥780)の字。㊁三國吳、郭成(11－39474‥142)の字。㊂晉、袁悅之(10－34152‥165)の字。㊃後魏、羊敦(9－28425‥153)の字。㊄梁、王筠(7－20823‥42)の字。㊅宋、饒子儀(12－44400‥67)の字。㊆宋、劉安上(2－2224‥664)の字。㊇宋、陸筠(11－41708‥10)の字。㊈宋、連庠(11－38902‥128)の字。㊉宋、柳約(6－14662‥227)の字。⑪元、郭嘉(11－39474‥22)の字。⑫元、胡瓚(9－29400‥158)の字。⑬元、鮑敬(12－46074‥25)の字。⑭明、夏萬亨(3－5720‥358)の字。⑮明、顧禮(12－43689‥206)の字。⑯明、章嘉禎(8－25761‥180)の字。⑰明、戴章甫(5－11685‥184)の字。⑱清、葉舒崇(9－31387‥208)の字。

【元禮門】612 登龍門。〔韋克、筆賦〕使二元禮之門不レ將二點額一、則知三子張之手永用二書紳一。

【元禮模楷】613 蒙求の標題。後漢の李膺が天下の法則手本となつた故事。〔後漢書、黨錮傳序〕轉入二太學一、諸生三萬餘人、郭林宗・賈偉節爲二其冠一、並與二李膺・陳蕃・王暢一更相褒重、學中語曰、天下模楷李元禮、不レ畏二強禦一陳仲擧、天下俊秀王叔茂。

【元麗】614 後魏の人。拓跋小新成の第三子。字は寶掌。諡は威。官は右衞將軍。陳瞻の反するや、別駕楊椿と共に之を討平す。後、尚書左僕射となる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元齡】615 字號。㊀宋、高頤(12－45313‥11)の字。㊁宋、魏公壽(12－45872‥204)の字。㊂宋、樓大年(6－15430‥93)の字。

【元僚】616 輔佐の重臣。〔南史、庾杲之傳〕盛府元僚、實難二其選一。

【元曆】617 ㊀こよみ。〔尚書緯考靈曜〕天地開闢、元曆紀名、月首甲子、冬至日月五星倶起、牽牛初仰觀、形如二車蓋一、日月若二懸璧一、五星如二編珠一。㊁第八十二代、後鳥羽天皇の年號。(1184－1185)

【元魯】618 宋、傅汶(1－939‥117)の字。

【元祿】619 第百十三代、東山天皇の年號。(1688－1704)〔菅原長量、勘文〕宋史志曰、以レ仁守レ位、以レ孝奉レ先、祈レ福逮レ下、侑レ神昭レ德、惠綏二黎元一、懋建二皇極一、天祿無レ疆、靈休允迪、萬業其昌。

【元祿時代】620 五代將軍德川綱吉在職の時代。戰國殺伐の氣風が全く跡を絶ち、文學が勃興し、風俗は一變して、極めて平和柔弱の時代であつた。

【元和】621 ㊀大いにやはらぐ。〔舊唐書、郭子儀傳〕體二元和之氣一、根二貞一之德一。㊁體中の液。津液。〔中皇經〕服二元和一除二五穀一。〔注〕服二元和一、謂レ嚥二津液一也。㊂縣名。清、置く。今の江蘇省吳縣。〔清史稿、地理志〕江蘇、蘇州府、縣九、元和。㊃年號。㋑後漢、章帝(劉炟)の時。(84－87) ㋺唐、憲宗(李淳、一に李純)の時。(806－820) ㋩明代、交趾(越)の莊宗裕皇帝(黎寧、一に黎詠)の時。(1533－1548) ㋥ゲンナ 第百八代、後水尾天皇の御代。(1615－1624) ㊄字號。㋑宋、陳至道(11－41698‥911)の字。㋺明、曹大成(5－14297‥279)の字。

【元和格】622 唐の元和中の詩風。元和體に同じ。

〖元和腳〗623 ゲンナキャク 唐の柳公權の書をいふ。〔天中記〕柳公權在二元和閒一、書最有レ名、故劉禹錫詩有レ云、柳家新樣元和腳。〔蘇軾、柳氏二外甥求二筆跡一詩〕君家自有二元和腳一。

〖元和體〗624 ゲンナタイ 元稹・白居易等を代表とする唐の元和中の詩風。元白(502)の❶を見よ。〔唐書、元稹傳〕稹尤長二於詩一、與二居易一名相埒、天下傳諷、號二元和體一。〔唐國史補〕元和以後爲二文筆一、則學二奇詭于韓愈一、學二苦澀于樊宗師一、歌行則學二流蕩于張籍一、詩章則學二矯激于孟郊一、學二淺切于白居易一、學二淫靡于元微之一、倶名爲二元和體一。〔滄浪詩話、詩體〕元和體、元白諸公。

〖元和偃武〗625 ゲンナエンブ 德川家康が元和元年に大阪を滅ぼして後、武を止め文を興したこと。偃武は武器をふせて用ひぬことで、尙書、武成篇に「偃武脩文」とある。

〖元和御覽〗626 ゲンナギョラン 書名。一卷。唐、令狐楚撰。主として近體の律詩、三十家の二百八十九首を錄したもの。一に御覽詩・唐歌詩・選進集ともいふ。御覽詩(**4－10157**‥407)を見よ。

〖元和姓纂〗627 ゲンナセイサン 書名。十八卷。唐、林寶撰。唐韻二百六部に分けて、各姓氏の源と諸家の譜系とを載す。今、卷首の國姓の一門を佚す。〔四庫提要、子、類書類〕。

〖元和天子〗628 ゲンナテンシ 唐の憲宗(李純)(**4－11269**‥44)をいふ。元和は其の年號。〔白居易、牡丹芳〕元和天子憂二農桑一、卹レ下動レ天天降レ祥。

〖元和郡縣志〗629 ゲンナグンケンシ 書名。四十卷。唐、李吉甫撰。七卷半を佚したが、古の地理書中、今に存するものの最古のもの。其の目は、關內道・河南道・河東道・河北道・山南道・淮南道・江南道・劍南道・嶺南道・隴右道。〔四庫提要、史、地理類〕。

《參考書》【元和郡縣補志】九卷 淸、嚴觀撰。

〖元和諸法度〗630 ゲンナショハット 德川家康が僧崇傳・林道春に諮つて草案し、元和元年七月に發布した法度書をいふ。武家法度・公家法度・僧家法度の三法度がある。一に元和令とも稱する。

〖元和聖德詩〗631 ゲンナセイトクシ 詩篇の名。唐、韓愈作。愈の四言古詩中の雄篇で、通篇一千餘言あり、辭の嚴なること烈日の如し。〔韓愈、元和聖德詩序〕臣愈頓首再拜言、臣伏見、皇帝陛下卽位已來、誅二流姦臣一、朝廷淸明、無レ有二欺蔽一、外斬二楊惠琳劉闢一、以收二夏蜀一、東定二靑徐積年之叛一、海內怖駭、不二敢違越一、郊レ天告レ廟、神靈歡喜、風雨晦明、無レ不二從順一、太平之期、適當二今日一、臣蒙二被恩澤一、日與二羣臣一、序二立紫宸殿陛下一、親望二穆穆之光一、而其職業、又在下以二經籍一教中導國子上、誠宜下率先作二歌詩一以稱中道盛德上、不レ可下以二辭語淺薄不一レ足二以自效一爲上レ解、輒依レ古作二四言元和聖德詩一篇凡千有二十四字一、指レ事實錄、具二載明天子文武神聖一、以警二動百姓耳目一、傳二示無極一。

〖元和新聲韻譜〗632 ゲンナシンセイキンプ 音韻圖の名。唐、睢陽の寧公、南陽の處忠撰。直讀倒翻の四字の聲韻を譜す。同種の書に九弄十紐圖(**1－167**‥675)がある。其の條を見よ。

【元淮】633 ゲンワイ 元、臨川の人。字は國泉。號は水鏡。至元の初、軍功を以て顯る。官は溧陽路總管に至る。著に水鏡集がある。〔四庫提要、一百七十四〕・〔新元史、二百三十七〕。

【元王】634 ゲンワウ ❶周二十七代の王。周元王(**2－3441**‥648)を見よ。❷漢代、楚の王。劉交(**2－2224**‥93)を見よ。

【開レ元】635 ゲンヲヒラク 國を始めひらく。開國(**11－41233**‥143)に同じ。〔班固、東都賦〕夫大漢之開レ元也、奮二布衣一以登二皇位一。

〖開レ元首レ正〗636 ゲンヲヒラキセイヲハジム 正月朔日をいふ。〔顏延之、宋郊祀歌〕開レ元首レ正、禮交樂擧。〔注〕良曰、元・首、皆始也、正者、正月上日、言下天子布二開政敎一之始、起中於正月上日上也。

【元遺山】637 ゲンキザン 金、元好問(646)をいふ。遺山は其の號。

〖元遺山先生全集〗638 ゲンキザンセンセイゼンシフ 書名。四十卷。年譜三種新樂府四卷。續夷堅志四卷。附錄一卷。補載一卷。金、元好問撰。凡て詩十四卷、文二十六卷。其の目は、古賦・五言古詩共二卷、七言古詩二卷、雜言一卷、樂府一卷、五言律詩一卷、七言律詩三卷、五言絕句一卷、七言絕句三卷、宏詞一卷、碑・銘・表・誌碣共十四卷、碑銘一卷、墓銘・碑表共一卷、記四卷、序・引共二卷、銘・贊・頌共一卷、書・疏・雜禮共一卷、上梁文・靑詞・祭文・題跋共一卷。其の年譜三種は淩廷堪・翁方綱・施國祁三家の編訂。附錄は儲巏の輯で華希閔の增補。補載は施國祁の輯錄したもの。〔四庫提要、集、別集類〕。

【元英宗】639 ゲンノエイソウ 碩德八剌(**8－24338**‥40)を見よ。

〖元英宗后〗640 ゲンノエイソウノコウ 元の英宗の后。名は哥八剌。諡は莊靜懿聖皇后。亦啓烈氏昌國公主益里海涯の女。至元元年、皇后に冊立せられ、泰安四年六月崩ず。〔元史、一百十四〕。

〖元英宗陵〗641 ゲンノエイソウノリョウ 元の英宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷にあり。其の明確な位置は未詳。〔元史、英宗紀二〕至治三年八月癸亥、鐵失赤斤鐵木兒殺二丞相拜住一、遂弑二帝於行幄一、年二十一、從二葬諸帝陵一。

【元睿宗】642 ゲンノエイソウ 拖雷(**5－11961**‥22)を見よ。

〖元睿宗后〗643 ゲンノエイソウノコウ 元の睿宗の后。名は唆魯帖。諡は顯懿莊聖皇后。〔元史、一百十六〕。

【元延祖】644 ゲンエンソ 唐の人。亨の子。舂陵丞となつたが、官を棄てて去り、人生の衣食は飢飽に適すべし、宜しく復もちふる所あるべからずといひ、又、安祿山の亂に子を戒めて、名節を樹てて羞辱に近づくなかれといふ。門人、諡して太先生といふ。〔尙友錄、五〕。

【元延明】645 ゲンエンメイ 後魏の人。猛の子。諡は文宣。爵は安封王。博く群書を極めて文藻あり。官は徐州刺史・都督徐州刺史。著に詩賦讚頌銘誄三百餘篇・五經宗略・詩禮別義注・帝王世紀・列仙傳等がある。〔魏書、二十〕・〔北史、十九〕。

【元好問】646 ゲンカウモン 金の人。德明の子。字は裕之。號は遺山。七歲にして詩を能くす。興定中の進士。官は行尙書省左司員外郞。金の滅亡後、仕官せず、詩文を以て一代の宗工となり、世に元才子と稱せらる。晩年、著作に從事す。其の詩は豪放邁往、興象深邃、風格遒上。又、杜甫の詩と同じく時事に關するもの多く、且慷慨悲憤の調に富む。古文も亦、法度嚴密、諸體悉く備はり、碑版誌銘の諸作の如きは、尤も見るべきものが多い。書室を野史亭といふ。著に遺山集・中州集・續夷堅志・唐詩鼓吹・唐詩鼓吹註解がある。〔金史、一百二十六〕。

【元行欽】647 ゲンカウキン 五代、後唐の幽州の人。初、劉守光の裨將。降つて、明宗の養子となる。莊宗の寵を得、姓を李、名を紹榮と賜はる。明宗の反して殺されるや、執へられて洛陽の市に斬らる。〔舊五代史、七十〕・〔五代史、二十五〕。

【元行沖】648 ゲンカウチュウ 唐、洛陽の人。名は澹。字を以て行はる。諡は獻。博學にして訓詁に通ず。家系が拓跋氏に出づるを以て、魏典三十篇を撰す。文簡約にして事詳細、學者之を尙ぶ。弘文館學士となる。玄宗詔して自注の孝經の疏を作らしむ。〔舊唐書、一百二〕・〔唐書、二百〕。

【元孝友】649 ゲンカウイウ 北齊の人。彧の弟。爵は臨淮王。官は滄州刺史。權勢に事へて直者の譏を招き、臨淮縣公に降され、後、元暉業と共に殺さる。〔北齊書、二十八〕。

【元孝矩】650 ゲンカウク 隋、洛陽の人。諡は簡。西魏の時、官は南豐州刺史。文帝の受禪後、洛陽に鎭となる。其の女は皇太子妃たり。〔隋書、五十〕。

【元孝才】651 ゲンカウサイ 元亨(75)の❸を見よ。

【元角分】652 yüan^2 chiao^3 fen^1 銀貨計算の三つの單位。圓・拾錢・一錢。

【元貴平】653 ゲンキヘイ 後魏の景穆帝の孫。爵は東萊王。前廢帝の時、靑州の事を領し、土民崔祖螭の反に、固守して遂に之を斬り、驃騎大將軍開府儀同三司に陞進す。後、幽州大都督侯淵に殺さる。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。

【元暉業】654 ゲンキゲフ 北齊の人。弼の子。字は紹遠。少時は性質が險薄で、寇盜と交際したが、長じて節を變じ、子史を涉獵し文を屬し、慷慨志節あり。官は領中書監錄尙書事。齊初、美陽縣公に封を降され、後殺さる。〔魏書、十九上〕・〔北齊書、二十八〕。

【元忻之】655 ゲンキンシ 後魏の人。拓跋熙の玄孫。諡は文貞。爵は東阿侯。出帝の初、徐州刺史の任に就かんとして、樊子鵠の反にあつて殺さる。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【元願達】656 ゲングワンタツ 梁の人。魏の明元帝の孫。魏に仕へて、官は中書令・司州刺史、封は樂平公

に至る。〔梁書、三十九〕。

【元願平】657 ゲンガンペイ 後魏の人。拓跋休の次子。宣武の初、給事中を拜命したが、悖惡日に甚しきため免官せられ、淫縱不道に坐して黜けらる。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。

【元景安】658 ゲンケイアン 北齊、洛陽の人。天保中、姓、高氏を賜はり、契丹を討ち、詔を受けて邊塞を守備す。武平中、封は陽郡王。周に入つて、稽胡を討つて戰歿す。〔北齊書、四十一〕・〔北史、五十三〕。

【元景山】659 ゲンケイザン 隋、洛陽の人。字は寶岳。謚は襄。幹略あり。周に仕へて吐谷渾を擊つに從ひ、齊を平げ、宇文亮を破り、文帝の時、上柱國を拜命す。ついで陳を伐つて威名を揚げたが、後、事に坐して免ぜらる。〔隋書、三十九〕。

【元慶和】660 ゲンケイワ 後魏の人。拓跋天賜の孫。東豫州刺史を拜命し、梁將に攻められて降服す。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元憲宗】661 ゲンソウ 蒙哥（9－31555‥13）を見よ。

【元憲宗后】662 ゲンソウコウ 元の憲宗の后。名は忽都臺。弘吉剌氏。特薛禪孫忙哥陳の女。謚は貞節皇后。〔元史、一百十四〕。

【元顯和】663 ゲンケンワ 後魏の人。麗の子。官は徐州安東長史。刺史元法僧の叛に與して戰つたため、罪に陷る。刑に臨んで神色自若たり。〔魏書、十九〕・〔北史、十七〕。

【元顯宗】664 ゲンケンソウ 甘麻剌（7－21643‥255）を見よ。

【元顯宗后】665 ゲンケンソウコウ 元の顯宗の后。名は普顏怯里迷失。弘吉剌氏。謚は宣懿淑聖后。泰定帝を生む。〔元史、一百十六〕。

【元弘嗣】666 ゲンコウシ 隋、洛陽の人。觀州・幽州總管長史に歷任す。煬帝、遼東を取らんとし、命じて、東萊海口に造船を監せしむ。楊玄感の亂に、玄感に應ずと告げられ、行在に執送せられて日南に徙され、道に卒す。〔隋書、七十四〕・〔北史、八十七〕。

【元山津】667 ゲンサンシン 仁川・釜山と並稱せられる朝鮮三大港の一。咸鏡南道永興灣内に在る。

【元子攸】668 ゲンシユウ 後魏の孝莊帝。元勰の三子。初、長樂王に封ぜられ、孝明帝の崩後、爾朱榮に擁立せらる。榮、天柱大將軍・大丞相・太原王となり、武力を以て、叛する者を削平す。帝、河陰の事に因つて榮を畏惡し、遂に之を殺す。是に於て、榮の族、世隆・兆等反して洛京を破り、帝を晉陽に遷して之を弑す。在位三年。廟號は敬宗。年號は建議・永安。本、拓跋氏であつたが、孝文帝の時より元氏に改む。〔魏書、十〕・〔北史、五〕。

【元子孝】669 ゲンシカウ 後魏の人。欽の子。字は季業。學館を私第に置き、子弟に教授す。官は尚書令柱國大將軍。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元子華】670 ゲンシクワ 後魏の人。萇の子。字は伏榮。孝莊の初、齊州刺史となつて功あり、齊人、碑を樹てて德を頌す。後、弟の子思が關西に通使して朝廷に收められた時、弟と共に門下省に死す。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元子思】671 ゲンシシ 後魏の人。子華の弟。字は衆念。性剛暴。忠烈を以て自ら許す。元天穆が朝に當るや薦められて御史中尉となる。後、官は侍中。封は安定縣子。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元思敬】672 ゲンシケイ 唐の人。總章中、官は協律郎。芳林要覽の編修に預り、又、詩人秀句を撰す。〔舊唐書、一百九十〕。

【元次山】673 ゲンジザン 唐の元結（179）をいふ。次山は其の字。

【元次山文集】674 ゲンジザンブンシフ 書名。十卷。附拾遺。唐、元結撰。〔四部叢刊、第六百四十八・六百四十九冊〕。

【元脩義】675 ゲンシウギ 後魏の人。汎の弟。字は壽安。謚は文。書傳を涉獵して文才あり。孝文帝に知られて齊州刺史を拜命し、政を爲すこと寬和。孝明帝の時、吏部尚書に進む。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元拾遺】676 ゲンシフキ 唐の元稹（340）をいふ。左拾遺の官にあつたからいふ。

【元壽興】677 ゲンジユコウ 後魏の人。暉の從弟。謚は莊。宣武の初、官は徐州刺史。後、王顯に陷られて死す。靈太后の時、詔して其の冤を追雪す。〔魏書、十五〕・〔北史、十五〕。

【元順宗】678 ゲンジユンソウ 答剌麻八剌（8－26006‥68）を見よ。

【元順宗后】679 ゲンジユンソウコウ 元の順宗の后。名は荅已。弘吉剌氏。謚は昭獻元聖后。武宗及び仁宗の母。〔元史、一百十六〕。

【元順帝】680 ゲンジユンテイ 順帝（12－43349‥114）の㊦を見よ。

【元書紙】681 ゲンショシ 浙江省の富陽・蕭山等の縣に產する紙の一種。

【元處眞】682 ゲンショシン 後魏の人。烈帝の後。官は殿中尚書。吐京胡・曹僕渾等反するや、高涼王那等と、討つて之を滅ぼす。軍に在つて暴烈。事に坐して誅せらる。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元松科】683 yüan² sung¹ k'ē¹ 松材の一種。

【元申人】684 yüan² shen¹ jen² 原告。事件最初の告訴人。原申立人。

【元仁宗】685 ゲンジンソウ 愛育黎拔力八達（4－10947‥6）を見よ。

【元仁宗后】686 ゲンジンソウコウ 元の仁宗の后。名は阿納失失里。弘吉剌氏。謚は莊懿慈聖皇后。英宗を生み、皇慶二年二月、皇后に冊せらる。〔元史、一百十四〕。

【元仁宗陵】687 ゲンジンソウノリヨウ 元の仁宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、仁宗紀三〕延祐七年春正月丁亥、帝不豫、幸丑、帝崩二於光天宮一、壽三十有六、在レ位十年、癸卯、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。

【元世儁】688 ゲンセイシユン 後魏の人。嵩の子。謚は躁戾。高平侯を襲ぐ。爾朱兆が京師に寇した時、防守に當つたが、兆の至るや出で迎へたため、時人之を難ず。〔魏書、十九下〕・〔北史、十八〕。

【元世遵】689 ゲンセイジユン 後魏の人。拓跋熙の孫。謚は康。宣武の時、官は幽州・定州刺史。性清和、誠を推して化導したので、百姓皆之を樂しんだ。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【元世祖】690 ゲンセイソ 忽必烈（4－10405‥47）を見よ。

【元世祖后】691 ゲンセイソコウ 元の世祖の后。名は察必。弘吉剌氏。裕宗の母。謚は昭睿順聖皇后。〔元史、一百十四〕。

【元世祖陵】692 ゲンセイソノリヨウ 元の世祖の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、世祖紀十四〕至元三十一年癸酉、帝崩二于紫檀殿一、在レ立三十五年、壽八十、親王諸大臣發レ使、告二哀于皇孫一、乙亥、靈駕發引、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。

【元成宗】693 ゲンセイソウ 鐵木耳（11－40945‥408）を見よ。

【元成宗后】694 ゲンセイソウコウ 元の成宗の后。名は失憐荅里。弘吉剌氏。幹羅陳の女。謚は貞慈靜懿皇后。〔元史、一百十四〕。

【元成宗陵】695 ゲンセイソウノリヨウ 元の成宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、成宗紀四〕〔元貞〕十一年春正月丙辰朔、帝大漸、免二朝賀一、癸酉、崩二于玉德殿一、在レ位十有三年、壽四十有二、乙亥、靈駕發引、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。

【元昭宗】696 ゲンセウソウ 愛猷識理達臘（4－10947‥381）を見よ。

【元善見】697 ゲンゼンケン 後魏の孝靜帝。元懌の孫。梁の大同の初、高歡に擁立せられて鄴に遷都す。政權は高氏に握られ、高氏の監察が嚴重であつたため、帝之を厭うて潛行を謀り、事泄れて幽せられ、位を高洋に簒はる。尋いで中山王に降封せられ、東魏ここに亡ぶ。在位十七年。年號は天平・元象・興和・武定。本、拓跋氏であつたが、孝文帝の時より元氏に改む。〔魏書、十二〕・〔北史、五〕。

【元太興】698 ゲンタイコウ 後魏の人。拓跋子推の子。長安鎭都大將を襲拜して、贓貨を以て官爵を削られたが、尋いで祕書監を拜命して復爵す。後、沙門となつて名を僧懿と改め、嵩山に居る。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元太祖】699 ゲンタイソ 成吉思汗（5－11544‥366）を見よ。

【元太祖后】700 ゲンタイソコウ 元の太祖の后。姓は弘吉剌氏。名は旭眞。謚は先獻翼聖皇后。〔元史、一百十四〕。

【元太祖陵】701 ゲンタイソノリヨウ 元の太祖の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、太祖紀〕二十二年己丑、崩二于薩里川哈老徒之行宮一、臨レ崩謂二左右一曰、金精兵在二潼關南一云云、言訖而崩、壽六十六、葬二起輦

谷、至元三年冬十月、追二諡聖武皇帝一。

【元太宗】702 窩闊台（8－25579‥47）を見よ。

【元太宗后】703 元の太宗の后。名は脱列哥那。馬眞氏。定宗の母。追諡は昭慈皇后。〔元史、一百十四〕。

【元太宗陵】704 元の太宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、太宗紀三〕十三年十一月辛卯遷明、崩于行殿、在位十年、壽五十有六、葬二起輦谷一、追二諡英文皇帝一、廟號二太宗一。

【元丹丘】705 隋の人。丹丘子（1－99‥57）に同じ。

【元淡淵】706 三河の人。中西淡淵（1－73‥514）を見よ。

【元長樂】707 後魏の人。文帝成の第二子。諡は厲。爵は安樂王。承明の初、定州刺史を拜命す。法を奉じない事があつたため罰杖三十を受く。後、不軌を謀つて死を賜はる。〔魏書、二十一〕・〔北史、十九〕。

【元仲景】708 後魏の人。太興の子。性嚴峭。莊帝の時、御史中尉を拜命す。常に赤牛に駕し、赤牛中尉と稱せらる。出帝の西行の時、中軍大都督となつて京師に留まる。〔魏書、十九上〕・〔北史、十七〕。

【元定宗】709 庫裕克（4－9330‥84）を見よ。

【元定宗后】710 元の定宗の后。名は斡兀立海迷失。追諡は欽淑皇后。定宗の崩御の後、簾を垂れて政を聽くこと六箇月に及んだ。〔元史、一百十四〕。

【元定宗陵】711 元の定宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、定宗紀〕三年戊申春三月、帝崩于横相乙兒之地、在レ位三年、壽四十有三、葬二起輦谷一、追二諡簡平皇帝一、廟號二定宗一。

【元天穆】712 後魏の人。拓跋孤六世の孫。諡は武昭。六鎭の亂に、使を奉じて諸軍を慰勞した時、爾朱榮は其の法令齊整なるを見て之と結託し、天穆、遂に榮の腹心となり、上黨王に累封せられて太宰に遷る。後、孝莊帝、榮と圖つて之を殺す。〔魏書、十四〕・〔北史、十五〕。

【元典章】713 書名。前集六十卷。後に新集（不分卷）を附す。撰者未詳。元代の法令を分類記載したもので、前集は世祖より英宗の初に至り、詔令・聖政・朝綱・臺綱・吏部・戶部・禮部・兵部・刑部・工部の十綱に分つ。新集は英宗の至治年間の事を記す。新集の體例は前集に倣ふ。〔四庫提要、史、政書類存目〕。

【元展成】714 清、靜海の人。雍正の初、歲貢より雲南阿迷州知・貴州巡撫に累擢せられたが、黃平煌の叛くを以て免職せらる。乾隆の間、起用せられて甘肅巡撫に至り、復、奪職せらる。〔清史列傳、十七〕・〔國朝耆獻類徵、一百七十一〕。

【元德秀】715 唐、河南の人。字は紫芝。諡は文行先生。幼にして孤、母に事へて至孝。進士に官は魯山令。名利の心なく、山水を愛し、彈琴自ら娛しむ。天下其の行を高しとし、元魯山と稱す。〔舊唐書、一百九十下〕・〔唐書、百九十四〕。

【元德昭】716 宋、南城の人。本姓は危。字は明遠。諡は貞正。吳越に仕へて丞相となる。〔宋史、三百四十三〕。

【元德明】717 金、秀容の人。幼時より讀書を嗜み、世俗の鄙事を言はず、山水の間を放浪し、飲酒賦詩、以て自適す。著に東皐集がある。〔金史、一百二十六〕。

【元寧宗】718 元の十四代の天子。名は懿璘質班。在位一年。

【元寧宗陵】719 元の寧宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、寧宗紀〕二月壬辰帝崩、年七歲、甲午葬二起輦谷一、從二諸陵一。〔續文獻通考、王禮考、山陵〕至順三年十月、明宗次子卽二帝位一、是爲二寧宗一、十一月崩、葬二起輦谷一、從二諸陵一。

【元寶炬】720 西魏の文帝。元愉の子。初、南陽王に封ぜらる。蓋し宇文泰が孝武帝を弑して擁立したもの。是より魏は東魏・西魏に分る。周惠達・唐瑾等に命じ舊章を損益して禮樂を整備せしむ。年號は大統。本、拓跋氏。孝文帝の時より元氏に改む。〔北史、五〕。

【元法壽】721 後魏の人。拓跋熙の曾孫。安州刺史となるや、微服して境内に入り、風俗を觀察し、大いに賞罰を行ふ。境内肅然たり。後、官は光祿大夫。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。

【元法僧】722 梁の人。魏の支屬。官は徐州刺史。普通中、魏室の亂に自ら帝と稱し、匡復を圖つたが、亂定まつて後歸服し、侍中太尉領軍將軍を拜命す。〔梁書、三十九〕。

【元萬頃】723 唐の人。拓跋子推の裔。李勣に從つて高麗を征し、著作郎となる。時人、北門學士と呼ぶ。武后の時、鳳閣侍郎に進む。〔舊唐書、一百九十中〕・〔唐書、二百一〕。

【元祕史】724 書名。十五卷。元の太宗の朝、蒙古人の撰。原本は畏兀兒字を用ひ、蒙古文にて作る。蒙古の始祖成吉思汗及び元の太祖・太宗の事跡を敍すること最も詳備で、紀年は鼠兒・兎兒・羊兒等を以てして、干支を用ひない。記錄が確實なので、元初の史實を見るべき唯一の資料であり、且古い蒙古語を載錄してゐるので、言語學上、有益な資料である。明の洪武中、勅して漢譯せしめ、永樂大典の內に入れ、阮元は四庫未收書目に著錄して、舊鈔影寫、國語旁譯といふ。錢大昕が大典中から錄出した一本は、國語旁譯が無く、連筠簃叢書に入る。又、顧廣圻が影元槧舊鈔本を校刻したものは、十卷、續集二卷で、旁らに蒙古譯音を附し、其の卷數は明の千頃堂書目の著錄に同じく、元譯本中で著名である。我が國では夙に那珂通世博士が蒙古文から譯して、成吉思汗實錄と名づけた。又、四庫書目政事類通制之屬に收めた元朝典故編年錄の第九卷は、本書の刪本である。此の書の最初の譯者は、馬沙亦黑といふ。一名、元朝祕史。〔四庫未收書目提要、三〕。

〔參考書〕【元朝祕史注】十五卷 元、忙豁侖紐察脫察安撰。清、李文田注。〔清朝藩屬輿地叢書、第五冊〕。【元祕史山川地名考】十二卷 清、施世杰撰。〔清朝藩屬輿地叢書、第六冊〕。【元祕史地考證】清、丁謙撰。〔蓬萊軒地理學叢書〕。【元祕史李注補正】十五卷 清、高寶銓撰。【元祕史略】清、萬光泰撰。〔昭代叢書、戊集〕。【成吉思汗實錄】那珂通世撰。〔那珂通世遺書〕。

【元祕抄】725 書名。四卷。高辻長成著。成立年度は未詳。和漢の年號や改元のことなどを、勘文の例を引いて詳述す。〔續羣書類從、公事部〕。

【元微之】726 唐の元稹（340）をいふ。微之は其の字。

【元武宗】727 海山（6－17503‥224）を見よ。

【元武宗后】728 元の武宗の后。名は眞哥。弘吉剌氏。諡は宣慈惠聖皇后。〔元史、一百十四〕。

【元武宗陵】729 元の武宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、武宗紀三〕至大四年春正月癸酉朔、帝不豫、免二朝賀一、大二赦天下一、庚辰、帝崩二於玉德殿一、在レ位五年、壽三十一、壬午、靈駕發引、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。

【元風雅】730 書名。●三十卷。詩集。元、蔣易撰。元代八十五家を列して居る。〔四庫未收書目提要、四〕。●前集十二卷・後集十二卷。元の傅習が前集十二卷を集め、孫の存吾が後集十二卷を集めた。前後集を通じて元代二百八十家の詩を集めて居る。〔四庫提要、集、總集類〕。

【元風雅集】731 書名。皇元風雅（8－22701‥319）に同じ。

【元文遙】732 北齊、洛陽の人。字は德遠。武定中、徵されて大將軍府功曹を拜命し、文襄以下四主に歷事す。世務に明達。後、西兗州刺史に轉出す。〔北齊書、三十八〕・〔北史、五十五〕。

【元文宗】733 元の明宗の弟。名は圖帖穆爾。英宗の時、出でて海南に居る。泰定帝の立つや、京に召され、懷王に封ぜらる。泰定帝の崩ずるや、燕帖木兒等、これを上都に立つ。帝、明宗を迎立す。明宗の俄かに崩ずるや、帝復た立ち、燕帖木兒・伯顏を立てて相とす。前後在位四年。廟號は文宗。年號は、天曆・至順。〔元史、三十二〕・〔新元史、二十一〕。

【元文宗陵】734 元の文宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、文宗紀五〕至順三年八月己酉、隴西地震、帝崩、壽二十有九、在レ位五年、癸丑、

靈駕發引、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。
【元文都】735 隋、洛陽の人。性、鯁直、明辨にして器幹あり。煬帝が江都に幸した時、東都の留守となる。帝の崩後、越王侗を推して帝とし、後、王世充に殺さる。〔隋書、七十一〕。
【元奉宗】736 宋の人。字は知禮。景德の進士。官は屯田員外郎。〔尚友錄、五〕。
【元明善】737 元、淸河の人。字は復初。諡は文敏。春秋に精通す。仁宗の時、翰林直學士を拜命し、詔により尚書の經文の政要に關するものを節して上る。〔元史、一百八十一〕・〔宋元學案、九十二〕。
【元明宗】738 和世㻋(**2**－**3490**・・439ヽ)を見よ。
〖元明宗后〗739 元の明宗の后。名は邁來迪。諡は貞裕徽聖皇后。順宗を生む。〔元史、一百十四〕。
〖元明宗陵〗740 元の明宗の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、明宗紀〕八月丙戌、皇太子入見、是日宴二皇太子及諸王大臣于行殿一、庚寅、帝暴崩、年三十、葬二起輦谷一、從二諸帝陵一。
【元陽觀】741 道觀の名。江蘇省金壇縣の大茅峯の南。〔鎭江府志〕唐置、後廢、宋隆興初、吳興道人沈善智、穴居五十年、韓蘄王妻梁氏經レ此、見下黑虎從二道人一周旋上、因號爲二伏虎眞人一、助レ資建二立殿宇一。
【元羅侯】742 後魏の人。繼の弟。遷洛の後、燕州の昌平に家し、貲產に富み、北方に豪據して聲稱あり。昌平の太守を拜命したが、逆賊大俄佛保に害せらる。〔魏書、十六〕・〔北史、十六〕。
【元樂尙】743 北周宣帝の后。元后(205)の㊄を見よ。
【元烈祖】744 也速該(**1**－**171**・・28)を見よ。
【元魯山】745 元德秀(715)をいふ。魯山の令となつたからいふ。
【元懿太子】746 宋、趙旉(**10**－**37171**・・321)の諡。
【元郵道人】747 明、潘允端(**7**－**18236**・・117)の號。

【元岳山人】748 明、姚袞(**3**－**6202**・・13)の號。
【元藝圃集】749 書名。四卷。明、李蓘編。宋藝圃集に擬して作り、凡そ百九人の詩六百二十五首を錄す。但し、隨見隨鈔したものの如く、先後顚倒し、頗る倫序が無い。〔四庫提要、集、總集類〕。
【元儒考略】751 書名。四卷。明、馮從吾撰。元代の諸儒の事蹟を集めて小傳を附す。元史儒學傳を主とし、まま他說をも入る。考證に資すべき所がある。〔四庫提要、史、傳記類〕。
【元泰定帝】752 也孫鐵木耳(**1**－**171**・・55)を見よ。
〖元泰定帝陵〗753 元の泰定帝の陵。山西省の北方、漠外の起輦谷に在る。其の明確な位置は未詳。〔元史、泰定帝紀二〕致和元年秋七月庚午、帝崩、壽三十六、葬二起輦谷一。
【元鐵道人】754 明、吳儒子(**2**－**3365**・・651)の號。
【元田東野】755 肥後の人。名は永孚。初名は遜。字は子中。號は東野・茶陽・東皐・猿岳樵翁。熊本藩士。維新後、明治天皇の傅となり、侍講を兼ぬ。尋いで宮中顧問官・樞密顧問官を歷任し、教育勅語の草案に與る。正二位。男爵。其の學は程朱を主とするも之を墨守せず。明治二十四年歿す、年七十四。著に經筵進講錄・五樂園詩鈔・書經講義・幼學綱要がある。
【元祕別錄】756 書名。寫本六卷。高辻長成編。成立年度は未詳。靈龜三年から應安五年に至る約六百五十年間の年號・勘文の類を集錄したもの。
【元陽眞氣】758 yüan² yang² chen¹ ch'i⁴ 萬物を生長させ、又は生命の根源ともなる氣。〔水滸傳、五十三回〕這賊道是童男子身、頤養得元陽眞氣、不曾走泄。
【含レ元抱レ一】759 天地人の三才が未だ分れず、混然として一と爲つてゐること。〔後漢書、郅惲傳〕含レ元抱レ一、甄二陶品類一。〔注〕前書志曰、太極元氣合レ三爲レ一、謂二三才未レ分、包而爲レ一。

【元西馬音內】760 羽後國の地名。
【元賦靑雲梯】761 書名。三卷。編者不明。元人の賦百十一篇をあつむ。〔四庫未收書目提要、四〕。
【元者善之長也】762 元とは萬物の始で、春であり、仁であり、天地生々の大德である。此の德は凡百の善の君長である。〔易、乾、文言〕元者善之長也。〔疏〕莊氏云、第一節、元者善之長者、謂、天之體性、生二養萬物一、善之大者、莫レ善二施生一、元爲二施生之宗一、故言二元者善之長一也。
【元首以二輔弼一興レ治】763 天子は輔弼の臣の力を借りて政治を立派に行ふ。〔魏志、高柔傳〕天地以二四時一成レ功、元首以二輔弼一興レ治。
【元輕白俗郊寒島瘦】764 唐人の詩風を批評した語。元稹の詩は輕浮で重味がなく、白居易の詩は淺俗で卑しく、孟郊の詩は寒酸で殺風景であり、賈島の詩は瘦衰で力がない意。〔蘇軾、祭二柳子玉一文〕郊寒島瘦、元輕白俗。〔珊瑚鉤詩話〕詩以レ意爲レ主、又須二篇中練レ句、句句練レ字、乃得レ工耳、以二氣韻淸高深眇者一絕、以二格力雅健雄豪者一勝、元輕白俗、郊寒島瘦、皆其病也。
【元韃攻二日本一敗北歌】765 宋の遺民、鄭所南作。元の忽必烈が日本に來寇して敗れ還つたのを欣んで作つたもの。〔鄭所南、元韃攻二日本一敗北歌〕東方九夷倭一爾、海水截レ界自區宇、地形廣長數千里、風俗好レ佛頗富庶、土產甚夥弁產レ馬、舶二來中國一通二商旅一、徐福廟前秦月寒、猶怨舊時嬴政苦、厥今犬羊貪猶熾、瞠目東望心如レ虎、驅レ兵駕レ海氣吞レ空、勢力雖レ強天弗レ與、鬼吹二黑潮一播レ海翻、雹大二於拳一密二於雨一、七千巨艦百萬兵、老龍怒取歸二水府一、犬羊發レ怒與レ天敵、又謀竭レ力必二於取一、已刳二江南民髓一乾、又行二併戶抽丁語一、凶焰燒レ眼口竟啞、志士闖闖病如レ蠱、雖レ傳二漳州氣焰盛一、又聞襄陽已大擧、割レ城固足二稍伸レ氣、律以二大義一竟何補、縱遇二明聖過二堯舜一、畢竟不二是親父母一、千語萬語唯一語、還二我大宋舊疆土一、曾夢蘇武開レ口笑、云牧二羝羊一今盡乳、仗レ節還レ漢欣欣然、鬚髮盡白心如レ故、一念精烈無レ不レ通、天地爲レ賓我爲レ主、高懸二白眼一混沌前、那肯以レ命落二塵土一、翻レ身鼓レ掌一笑時、萬古萬古萬萬古。

【兀】1341
キ 兀(**5**－**13717**)の古字。〔玉篇〕兀、古文兀。

三畫

【尢】1342
チヤウ 長(**11**－**41100**)の古字。〔說文〕長、尢、古文長。〔集韻〕長、古作レ尢。

【兄】1343
㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕呼榮切 庚 ㄒㄩㄥ hsiung¹
㊁クワウ 〔字彙〕虛王切 陽
㊂キヤウ クワウ 〔集韻〕許放切 漾

小篆

㊀㊁❶ます。ますます。〔說文〕兄、長也、从レ儿从レ口。〔段注〕兄之本義訓レ益、許所謂長也、云云、引二申之一、則爾雅曰、男子先生爲レ兄、後生爲レ弟、先生之年、自多二於後生者一、故以レ兄名レ之。〔說文通訓定聲〕兄、本訓當レ爲二滋益之詞一。❷**あに**。このかみ。〔爾雅、釋親〕男子先生爲レ兄。〔釋名、釋親屬〕兄、荒也、荒、大也、故靑徐人、謂レ兄爲レ荒也。〔白虎通、三綱六紀〕兄者、況也、況二父法一也。❸**同輩相稱していふ敬稱**。〔韓愈、與二孟尙書一書〕辱二吾兄眷厚一。❹**よめとり・むことりをした間柄**。親戚。〔儀禮、聘禮記〕若二兄弟之國一。〔注〕兄弟、謂二同姓一、謂二婚姻甥舅有レ親者一。❺**すぐれる**。〔世說新語、德行〕元方難レ爲レ兄、季方難レ爲レ弟。❻**大きい**。㒰(**1**－**296**)

に通ず。〔說文通訓定聲〕兄、叚借爲レ㒵。〔廣雅、釋詁一〕兄、大也。㊂❶ますます。〔詩、大雅、召旻〕職兄斯引。〔傳〕兄、茲也。❷怳(4－10496)に通ず。〔詩、大雅、桑柔〕倉兄塡兮。〔集傳〕倉兄、與二愴怳一同。❸況(6－17264)に通ず。〔集韻〕況、古作レ兄。〔毛詩古音考〕漢樊毅華嶽碑、兄乃盛德、注、兄、與レ況同。邦 え。「えと」の「え」で、兄といふ意。十干の甲・丙・戊・庚・壬にいふ。

名乘 コレ。エダ。サキ。ヨシ。タダ。シゲ。エ。

解字 會意。口と儿(人)との合字。口が人の上にある形で、口は盡きることのない意。故に滋長の意、況茲(ますます滋長する)の意とし、滋長の意から引申して弟妹に對して年長なもの、卽ち兄とする。又、一說に、口氣の人上より出で、滋長する意とし、又一說に、人上に口があり、人を口にて使ふ者の意から、弟妹に對して兄の意とする。〔說文、兄、段注〕小雅、兄也永歎、傳曰、兄、茲也、茲者、艸木多益也、兄之本義訓レ益、許所謂長也、許不レ云レ茲者、許意、言レ長則可レ晐二長幼之義一也、云云、口之言無レ盡也、故以二儿口一爲二滋長之意一。〔說文通訓定聲〕兄、本訓當レ爲二滋長之詞一、人口在二人上一、與レ欠同意。〔集韻〕兄、說文、長也、一說、从二人口以制一レ下。

【兄愛】1 兄が弟を愛する。〔左氏、隱、三〕君義臣行、父慈子孝、兄愛弟敬、所謂六順也。〔左氏、昭、二十六〕君令臣共、父慈子孝、兄愛弟敬、夫和妻柔、姑慈婦聽、禮也、云云、兄愛而友、弟敬而順。〔管子、版法解〕使二君德臣忠、父慈子孝、兄愛弟敬、禮義章明一。

【兄鴂】2 鳥の名。このり。はい鷹の雄。兄雞。〔倭名類聚抄、羽族、鳥名、鴂、箋注〕按、鴂雌者爲二波以多加一、雄爲二兄鴂一、訓二古能利一。

【兄行】3 高い處を行くことをいふ。〔棧雲峽雨日記、下〕兄二行巫峽一、而奴二視瞿塘一。

【兄貴】4 あに。兄。〔心中天網島、下〕扱は兄貴。

【兄御】5 他人の兄に對する敬稱。〔曾我物語、三〕兄ごは向ひの山を見て。

【兄猾】6 神武天皇の御代の虜酋の名。大和の菟田下縣(今の宇陀郡宇賀志村)に據り、天皇に叛き奉り誅殺を受く。〔日本書紀、神武紀〕秋八月甲午朔乙未、天皇使レ徵二兄猾及弟猾者一。〔注〕猾、此云二宇介志一。

【兄兄】7 ❶父。〔北齊書、南陽王綽傳〕綽兄弟皆呼レ父爲二兄兄一、嫡母爲二家家一、乳母爲二姊姊一、婦爲二妹妹一。❷兄は兄の道を盡す。〔易、家人〕彖曰、兄兄弟弟。

【兄公】8 夫の兄を呼ぶ敬稱。兄伀。〔爾雅、釋親〕婦云云、夫之兄爲二兄公一。

【兄嫂】9 兄とあによめ。〔漢書、東方朔傳〕少失二父母一、長養二兄嫂一。〔韓愈、祭二十二郎一文〕吾少孤、及レ長不レ省二所怙一、惟兄嫂是依。〔宋史、章謩傳〕少孤鞠二于兄嫂一、以レ所レ事二父母一事レ之。

【兄子】10 兄の子。〔稱謂錄、兄弟之子、兄子〕馬援有下戒二兄子一書上。

【兄氏】11 兄といふに同じ。あにき。

【兄矢】12 $hsiung^{1}$ $shih^{3}$ 箭の一種。はや。

【兄事】13 兄と立てて事へる。兄に盡す禮を以て奉仕する。〔禮、曲禮上〕年長以倍、則父二事之一、十年以長、則兄二事之一。〔史記、張湯傳〕兩人交驩、而兄二事禹一。〔漢書、王陵傳〕高祖微時、兄二事陵一。〔後漢書、明帝紀〕兄二事五更一。〔孔子家語、辨政〕兄二事之一而加二愛敬一。

【兄章】14 夫の兄を呼ぶ敬稱。兄伀(16)を見よ。

【兄嫜】15 夫の兄を呼ぶ敬稱。兄伀を見よ。〔集韻〕嫜、夫之兄曰二兄嫜一。

【兄伀】16 夫の兄を呼ぶ敬稱。兄公。兄章。兄嫜。〔釋名、釋親屬〕夫之兄曰レ公、公、君也、君、尊稱也、俗閒曰二兄章一、章、灼也、章灼敬奉レ之也、又曰二兄伀一、是己所レ敬、見レ之怔忪自肅齊也、俗或謂レ舅曰レ章、又曰レ伀、亦如レ之也。

【兄鍾】17 夫の兄を呼ぶ敬稱。兄伀。〔爾雅、釋親、兄公、注〕今俗呼二兄鍾一、語之轉耳。

【兄壻】18 あねむこ。〔北史、封隆之傳〕隆之子子繡、外貌儒雅、而使レ氣難レ犯、兄女壻司空婁定遠爲二瀛洲刺史一、子繡爲二渤海太守一、定遠過レ之、對二妻及諸女一、讌集言戲、微有二褻慢一、子繡集レ衆將レ攻二定遠一。

【兄台】19 $hsiung^{1}$ $t'ai^{2}$ 貴君。貴下。

【兄長】20 $hsiung^{1}$ $chang^{3}$ 年長者。先輩。君。貴下。貴殿。

【兄女】21 兄の娘。〔晉書、孝友、庾袞傳〕孤兄女曰レ芳、將レ嫁、美服旣具。

【兄弟】22 ❶あにとおとうと。〔爾雅、釋親〕男子先生爲レ兄、後生爲レ弟。〔書、君陳〕惟孝、友二于兄弟一。〔詩、小雅、常棣〕凡今之人、莫レ如二兄弟一。〔孔子家語、問禮〕以篤二父子一、以睦二兄弟一。〔王粲、詠史詩〕妻子當レ門泣、兄弟哭二路垂一。❷婚姻した者が相互に呼んでいふ。〔周禮、地官、大司徒〕三曰、聯二兄弟一。〔注〕兄弟、昏姻嫁娶也。〔詩、鄭風、揚之水〕終鮮二兄弟一、維予與レ女。〔集傳〕兄弟、婚姻之稱。❸兄弟の排行に當る親戚。〔儀禮、士冠禮〕兄弟畢袗玄。〔注〕兄弟、主人親戚也。❹四海兄弟といふ如く、汎く他人を親愛していふ。〔左氏、昭、元〕吾兄弟比以安。❺後世特に弟を呼んでいふ。〔元史、泰定帝紀一〕哥哥兄弟。〔通俗編、倫常、兄弟〕按、俗以二兄弟二字一幷呼二其弟一、據レ文、兄弟上先言二哥哥一、則此呼元時已通二行上下一也。❻優れたりとし劣れりとする。〔莊子、天地〕豈兄二堯舜之教レ民、溟涬然弟レ之哉。❼顏子家訓の篇名。❽$hsiung^{1}$ ti ㋑自分。私。拙者。友達に對していふ語。㋺あなた。

【兄弟愛】23 兄と弟の閒の愛情。友愛。

【兄弟爻】24 筮法で六爻干支と、八卦五行の生尅とを以て六親の位を定め、比和する者をいふ。父母爻(7－19721··67)を見よ。〔卜筮全書、六親相生相尅〕生レ我者爲二父母一、我生者爲二子孫一、尅レ我者爲二官鬼一、我尅者爲二妻財一、比和者爲二兄弟一。

【兄弟宮】25 星相家の十二宮の一。兄弟の事を司るもので、双眉をいふ。〔神相全篇、十二宮訣〕兄弟宮論曰、兄弟羅計須レ要二豐蔚一、不レ宜二虧陷一、長秀則兄弟和睦、短促不レ足、則有二分離孤獨一、眉有二旋毛一、兄弟衆多、狠性不レ常、眉毛散者、錢財不レ聚、眉毛逆生、仇レ兄賊レ弟、互相妒害、或是異姓同居、眉淸有レ彩、孤騰淸高之士、眉毛過レ目、兄弟和睦、眉毛中斷、兄弟分散、濃淡豐盈、義友弟兄、氣色靑主、兄弟鬭爭、口舌黑白、兄弟傷亡、紅黃之氣、榮貴喜慶。

【如二兄弟一】26 親しみ愛することが兄弟のやうである。〔史記、鄭世家〕孔子嘗過レ鄭、與二子產一如二兄弟一云、及レ聞二子產死一、孔子爲泣曰、古之遺愛也。

【兄弟怡怡】27 兄弟は和ぎ悅んでよく親しむべきである。〔論語、子路〕朋友切切偲偲、兄弟怡怡如也。

【兄弟共乳】28 兄弟が共に乳を飲むこと。唐の韓思彥が高貲兄弟に乳を飲ましめて孝弟の道を悟らせた故事。〔唐書、韓思彥傳〕高貲兄弟相訟、累年不レ決、思彥勅二廚宰一、飲以レ乳、二人寤齧レ肩、相泣曰、吾乃夷獠、不レ識二孝義一、公將下以二兄弟共乳一而生上邪、乃請レ輟レ訟。

【兄弟鬩レ牆】29 兄弟が垣の內(家の中)で喧嘩をする。兄弟のうちわ喧嘩。轉じて、味方同志の爭をいふ。〔詩、小雅、常棣〕兄弟鬩二于牆一、外禦二其務一。〔集傳〕鬩、鬭狠也。〔左氏、僖、二十四〕兄弟鬩二于牆一、外禦二其侮一。

【兄弟之義】30 兄弟のちぎり。兄弟のやうな親しい關係。〔漢書、文帝紀〕結二兄弟之義一、以全二天下元元之民一。

【兄弟之國】31 仲のよい國。親密な國。又、同姓の國。又、兩王の閒に嫁娶の關係ある國。〔周禮、春官、大宗伯〕以二脤膰之禮一、親二兄弟之國一。〔疏〕兄弟之國、謂二同姓諸侯一、若二魯・衞・晉・鄭之等一。〔左氏、昭、十三〕絕二兄弟之國一。〔韓非子、說難〕胡、兄弟之國也、子言レ伐レ之、何也。

【兄弟手足】32 兄弟は手足のやうなもので、離れ捨てることのできぬ大切なものである。〔李華、弔二古戰場一文〕誰無二兄弟一、如レ足如レ手。〔宋史、張存傳〕存性孝友、嘗爲二蜀郡一、得二奇繒文錦一以歸、悉布二於堂上一、恣兄弟擇取、常曰、兄弟手足也、妻妾外舍人耳、何先二外人一而後二手足一乎。

【兄弟媳婦】33 $hsiung^{1}$ ti hsi^{2} fu 弟の妻。お

とうとよめ。兄弟は弟の意。兄弟の㊄を見よ。

【兄弟致レ美】34 ケイテイハビヲイタス 兄弟の閒柄は互に盡せるだけは盡す。〔左氏、文、十五〕史佚有レ言、曰、兄弟致レ美。

【兄弟刀鎗殺】35 hsiung¹ ti⁴ tao¹ ch'iang¹ sha¹ 兄弟垣に鬩ぐの爭は他人の侮を受ける。

【兄弟不レ如二友生一】36 ケイテイイウセイニシカズ 平常の學問修養に益を與へることに於ては、兄弟は友達に及ばない。一說に、兄弟は、非常の際には相助けるが、安樂無時の時には友達よりも大切にしない。〔詩、小雅、常棣〕喪亂既平、既安且寧、雖レ有二兄弟一、不レ如二友生一。〔疏〕室家安寧、身無二急難一、則當下與二朋友一交、切磋琢磨、學問修飾、以立レ身成上レ名、兄弟之多、則尚レ恩、其聚集、則熙熙然、不レ能二相勵以一レ道、朋友之交、則以レ義、其聚集、切切節節然、相勸競以二道德一、相勉勵以二立身一、使二其日有一レ所レ得、故兄弟不レ如二友生一也。〔集傳〕上章言二患難之時、兄弟相救、非二朋友可一レ比、此章遂言下安寧之後、乃有中視二兄弟一、不レ如二友生一者上、悖レ理之甚也。

【兄弟睦家之肥】37 ケイテイムツマジキハイヘノヒナリ 兄弟が仲の善いのは一家の幸である。〔禮、禮運〕父子篤、兄弟睦、夫婦和、家之肥也。

【兄弟之讎不レ反レ兵】38 ケイテイノアダハヘイニカヘラズ 兄弟の仇がある時は、常に武器を帶び、之に會へば必ず直ちに殺すべし。家に歸つて武器を取るやうではいけない。〔禮、曲禮上〕兄弟之讎不レ反レ兵。〔疏〕兄弟之讐不レ反レ兵者、兄弟、謂二親兄弟一也、有二兄弟之讐一、乃得二仕而報一レ之、不レ反レ兵者、謂二帶レ兵自隨一也、若行逢レ讎、身不レ帶レ兵、方反レ家取レ之、比レ來則讎已逃辟、終不レ可レ得、故恆帶レ兵、見卽殺レ之也。

【兄弟者左右手也】39 ケイテイハサイウノテナリ 兄弟の閒柄の緊密なことは左右の手のやうなものである。〔魏志、王脩傳〕夫兄弟者、左右手也、譬人將レ鬭、而斷二其右手一、而曰二我必勝一、若レ是者可乎、夫棄二兄弟一而不レ親、天下其誰親レ之。〔晉書、邵續傳〕兄弟如二左右手一。

【兄弟不信情不親】40 hsiung¹ ti⁴ pu² hsin⁴ ch'ing² pu⁴ ch'in¹ 兄弟が互に相信じなければ眞の情愛はない。

【兄弟讒鬩侮人百里】41 ケイテイザンゲキスレドモブジンヲヒヤクリニス 兄弟は互に爭つてゐても、一たび外から侮つて來る者があれば、力を協せて之を百里の外に禦ぐ。兄弟鬩レ牆を見よ。〔國語、周語中〕富辰諫曰、不可、人有レ言、曰、兄弟讒鬩、侮人百里。

【兄弟者分形連氣之人】42 ケイテイハブンケイレンキノヒト 兄弟は、形は別々に分れてゐるが、氣は繋がつて居る。〔顏氏家訓、兄弟〕兄弟者、分形連氣之人也、方二其幼一也、父母左提右挈、前襟後裾、食則同レ案、衣則傳レ服、學則連レ業、游則共レ方。

【兄弟之讎辟二諸千里之外一】43 ケイテイノアダハコレヲセンリノソトニサク 周代の制度で、兄弟の仇は千里の外におき、仇討の出來ないやうにして、國の平和を保つた。〔周禮、地官、調人〕父之讎、辟二諸海外一、兄弟之讎、辟二諸千里之外一。

【兄伯】44 ケイハク 夫の兄をいふ。〔稱謂錄、夫之兄、兄伯〕頻羅菴遺集云、容齋三筆中有レ一、則云、容齋使レ金、辟二景孫弟一輔行、弟婦在レ家作二青詞一云、頃因二兄伯出使一、夫壻從行、蓋借用二陳平傳兄伯之語一、而自不二以爲一レ然、改用二爾雅兄公一、云云、然二二字既經二宋人造語一、亦可三以備二一典一。

【兄部】45 コノカウベ ㊀禪家で力者の頭をいふ。力者とは、剃髮した中間やうの者。〔下學集〕兄部、力者頭也。㊁鎌倉時代、武家の供奉の衆。禪家に倣つて此の稱を用ひた。〔鎌倉年中行事〕公方樣御發向、云云、兄部は御長刀を持ち。

【兄分】46 アニブン ㊀假りに兄と定めた人。兄になぞらへて敬ふ人。㊁男色關係の人。特に其の兄分をいひ、其の弟分を若衆といふ。念者。

【兄鷹】47 ケイヨウ コノリ 雄鷹をいふ。〔倭名類衆抄、羽族部、鳥名、鷹、箋注〕雄鷹謂二之兄鷹一、雌鷹謂二之大鷹一也。

【兄友弟恭】48 ケイイウテイキヨウ 兄は弟に友愛の情を盡し、弟は兄に敬恭の道を盡す。〔史記、五帝紀〕使レ布二五教于四方一、父義母慈、兄友弟恭子孝。

【兄寬弟忍】49 hsiung¹ k'uan¹ ti⁴ jen³ 兄は寬仁で、弟は忍從。兄弟が互に守るべき信條。

【兄先弟後】50 hsiung¹ hsien¹ ti⁴ hou⁴ 長幼の順序を正すべきことをいふ。

【兄肥弟瘦】51 アニハコエオトウトハヤス ㊀兄弟の身分がちがふこと。〔南史、武陵王紀傳〕元帝乃與二紀書一曰、兄肥弟瘦、無二復相見之期一。㊁兄は弟の身がはりとなり、弟は兄の身がはりとなつて、兄弟互に助け合ふこと。〔東觀漢紀〕倪萌字子明、齊國臨淄人、常勤二身田農一、遭二歲倉卒一、人民餒饑相啖、與レ兄俱出レ城採レ蔬、爲二赤眉賊所一レ得、欲二殺啖一レ之、萌詣レ賊叩頭言、兄年老羸瘠、不レ如二萌肥健一、願代レ兄、賊義而兩釋レ之。〔東觀漢紀〕趙孝字長平、沛國蘄人、兄弟怡怡、鄉黨歸レ德、王莽時、天下亂、人相食、弟禮爲二賊所一レ得、孝聞、卽自縛詣レ賊曰、禮久餓羸瘦、不レ如二孝肥一、賊並放レ之。

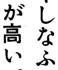
【如レ兄如レ弟】52 ケイノゴトクテイノゴトシ 兄弟のやうに仲が好いこと。〔詩、邶風、谷風〕宴二爾新昏一、如レ兄如レ弟。〔史記、鄭世家〕子產爲レ人仁愛レ人、事レ君忠厚、孔子嘗過レ鄭、與二子產一如二兄弟一云。

【難レ兄難レ弟】53 ケイタリガタクテイタリガタシ 兄弟揃つて賢明なこと。難レ爲レ兄難レ爲レ弟を見よ。〔書言故事、兄弟類〕稱二人兄弟賢一、曰二難レ兄難レ弟。

【難レ爲レ兄難レ爲レ弟】54 ケイタリガタクテイタリガタシ 負けず劣らず。劣りまさりのないさま。〔世說新語、德行〕陳元方子長文有二英才一、與二季方子孝先一、各論二其父功德一、爭レ之不レ能レ決、諮二于太丘一、太丘曰、元方難レ爲レ兄、季方難レ爲レ弟。

【充】1344

シユウ シユ 〔集韻〕昌嵩切 ㄔㄨㄥ ch'ung¹ 東
慣 ジユウ


小篆

㊀**やしなふ。肥える。年たける。たけが高い。**〔說文〕充、長也、高也、从レ儿育省聲。〔方言、十三〕充、養也。〔儀禮、特牲饋食禮〕宗人視レ牲告レ充。〔注〕充、猶レ肥也。㊁**みちる。みたす。**完全。〔廣韻〕充、滿也。〔增韻〕充、實レ之也。〔周禮、天官、大府〕以充二府庫一。〔注〕充、猶レ足。〔左氏、襄、三十一〕寇盜充斥。〔注〕充、滿也。〔穀梁、莊、二十五〕言レ充二其陽一也。〔注〕充、實也。〔列子、仲尼〕南郭之貌充二心虛一。〔注〕充、猶レ全也。〔管子、內業〕自充自盈。〔注〕充盈、謂二完而無一レ虧也。〔淮南子、兵略訓〕此善爲二充レ榦者一也。〔注〕充、盈。㊂**ふさぐ。**おほふ。窒(**8－25493**)に通ず。〔說文通訓定聲〕充、叚借爲レ窒。〔廣雅、釋詁三〕充、塞也。〔詩、邶風、旄丘〕褎如二充耳一。〔箋〕充耳、塞耳也。〔禮、玉藻〕服之襲也、充レ美也。〔注〕充、猶レ覆也。㊃**そなへる。そなはる。**〔廣韻〕充、備也。〔公羊、桓、四〕三曰、充二君之庖一。〔注〕充、備也。㊄**あてる。あたる。**擔當する。代用する。〔漢書、揚雄傳上〕充二庖廚一而已。〔注〕師古曰、充、當也。㊅**おく。**あてがふ。供(**1－605**)に通ず。〔說文通訓定聲〕充、叚借爲レ供。〔周禮、夏官、圉師〕射則充二椹質一。〔注〕充、猶レ居也。㊆**をはる。**終(**8－27372**)に通ず。〔說文通訓定聲〕充、叚借爲レ終。〔小爾雅、廣詁〕充、竟也。㊇**大きい。**〔淮南子、說山訓〕近レ之則鐘音充。〔注〕充、大也。㊈**幅ひろい。**〔方言、二〕幅廣曰レ充。㊉**美しい。**〔廣韻〕充、美也。⑪**あきる。**〔管子、內業〕凡食之道、大充、傷而形不レ藏。〔注〕大充、謂レ過二於飽一。⑫**わずらはしい。**〔左氏、哀、十一〕事充政重。〔注〕充者、繇役煩也。⑬**道。**衝(**10－34069**)に通ず。〔說文通訓定聲〕充、叚借爲レ衝。〔管子、內業〕敬發二其充一。〔注〕充、謂レ道也。⑭**ゆく。**出(**2－1811**)に通ず。〔說文通訓定聲〕充、叚借爲レ出。〔廣雅、釋詁一〕充、行也。⑮**まこと。まことのある。**〔詩、鄭風、山有扶蘇〕不レ見二子充一。〔傳〕子充、良人也。〔疏〕充者、實也、言下其性行充二塞良善一之人上、故爲二良人一。⑯**物の**

さま。充充(48)を見よ。㊆縁のない衣。祴(10－34264)に通ず。〔說文通訓定聲〕充、方言四、無緣之衣、謂ニ之祴褔一、注、俗名ニ褔掖一、字亦變作レ祴。㊅姓。〔通志、氏族略、平聲〕充氏、急就章、漢有ニ充申一、仙人、充尚之後、見ニ洞仙傳一、望出ニ贊皇一。〔姓氏急就篇〕充氏、出ニ周官充人之族一。

名乘 ミツ。ミチ。アツ。ミツル。

解字 會意。儿と育の省畫との合字。人を育成する意。故に長ず・高しとし、轉じて、みちる・みたすの意とし、假借して窒（ふさぐ）の意とする。說文では、儿に從ひ育の省聲とする。〔說文通訓定聲〕充、長也、高也、从ニ儿育省聲一、充育一聲之轉、或曰、从ニ育省一、會意、育レ子長大成人也。

參考 字形、上の、をムとつづけて充に作るのが說文の形である。書に便するため充に作る。九經字樣は既に充に作る。

【充衣】1 ジュウイ 女官。充依に同じ。〔後漢書、皇后紀序、增レ級十四、注〕婕妤一、娙娥二、容華三、充衣四、已上武帝所レ置。〔宋書、后妃傳〕充衣、前漢舊制。

【充依】2 ジュウイ 女官の名稱。充衣とも書く。漢の武帝の時始めて置き、位は千石と同じく、爵は左更と比す。〔漢書、外戚傳序〕至ニ武帝一制ニ倢伃・娙娥・傛華・充依一、各有ニ爵位一云云、充依視ニ千石一比ニ左更一。〔注〕師古曰、充依、言下充ニ後庭一而依中秩序上也。

【充位】3 ジュウヰ ただ其の位に備はるだけで其の責任を盡さない。伴食。〔史記、酷吏、張湯傳〕丞相取ニ充位一、天下事皆決ニ於湯一。〔胡銓、上ニ高宗一封事〕嗚呼、參ニ贊大政一、徒取ニ充位一如レ此。

【充爲】4 ch'ung¹ wei² 云云と爲る。

【充蔚】5 ジュウヰ 草の名。めはじき。益母草。茺蔚(9－30922··1)に同じ。〔廣雅、釋草〕益母、充蔚也。〔疏證〕爾雅云、萑、蓷、郭注云、今茺蔚也、云云、又名ニ益母一。

【充益】6 ジュウイツ みちあふれる。充溢に同じ。〔管子、心術上〕嗜欲充益、目不レ見レ色、耳不レ聞レ聲。〔纂詁〕益、讀爲レ溢、莊子云、有ニ貌愿而益一、嗜欲充ニ溢於心一、則耳目失ニ其官一。

【充溢】7 ジュウイツ みちあふれる。みちこぼれる。充益。〔史記、平準書〕太倉之粟、陳陳相因、充溢露ニ積於外一、至ニ腐敗不レ可レ食。

【充隱】8 ジュウイン 無理に隱士に充てる。又、無理に隱士させられた隱士。晉の桓玄が當時の世に隱士のないことを遺憾として、皇甫謐の六世の孫希之を以て之に充てた故事。〔晉書、桓玄傳〕玄以下歷代咸有ニ肥遯之士一、而己世獨無上、乃徵ニ皇甫謐六世孫希之一爲ニ著作一、幷給ニ其資用一、皆令ニ讓而不レ受、號曰ニ高士一、時人名爲ニ充隱一。〔琅琊代醉篇、隱〕隱一也、昔之人謂、有ニ天隱一、有ニ地隱一、有ニ人隱一、有ニ名隱一、又有ニ所謂充隱・通隱・仕隱一、其說各異、如ニ晉皇甫希之一、人稱ニ充隱一。

【充盈】9 ジュウエイ みちみちる。たるみがない。充滿。充實。〔禮、禮運〕四體既正、膚革充盈、人之肥也。〔荀子、子道〕顏色充盈。〔管子、八觀〕國雖ニ充盈一、金玉雖レ多、宮室必有レ度。〔說苑、雜言〕顏色充盈。〔後漢書、王符傳〕充ニ盈都邑一。

【充役】10 ch'ung¹ i⁴ 役所の小役となる。

【充咽】11 ジュウエツ みちふさがる。〔新序、雜事五〕雲霞充咽、則奪ニ日月之明一。

【充悅】12 ジュウエツ 滿足しよろこぶ。〔朝野僉載〕顏色充悅、心氣殊高。

【充猒】13 ジュウエン みちみちてゐる。〔劉峻、東陽金華山棲志〕紅粟流溢、梟雁充猒。

【充媛】14 ジュウエン 女官の名稱。唐、置く。九嬪の一。充儀(21)・充容(103)を見よ。〔唐書、后妃傳序〕唐制、皇后而下、有ニ貴妃・淑妃・德妃・賢妃一、是爲ニ夫人一、昭儀・昭容・昭媛・修儀・修容・修媛・充儀・充容・充媛、是爲ニ九嬪一。

【充街】15 ジュウガイ ちまたに充滿する。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕纓笏帀レ序、巾卷充レ街。〔注〕翰曰、卷者帀ニ於庠序一、滿ニ於街衢一。

【充榦】16 ジュウカン みちあふれて強いこと。充はみちる、榦は強。〔淮南子、兵略訓〕此善爲ニ充榦一者也。〔注〕充、盈、榦、強也。

【充起】17 ジュウキ みちおこる。〔列子、天瑞〕血氣飄溢、欲慮充起。

【充飢】18 ジュウキ 飢を滿す。腹ふさぎをする。充饑。〔汝南先賢傳〕薛包歸ニ於先人冢側坊中一、種レ稻以祭祀、種レ芋以充レ飢。

【充輝】19 ジュウキ 明、黎愼(12－47994··50)の字。

【充饑】20 ジュウキ 饑を凌ぐ。空腹を間に合せる。腹ふさぎする。充飢。〔杜甫、獨坐詩〕煖レ老思ニ燕玉一、充レ饑憶ニ楚萍一。

【充儀】21 ジュウギ 女官の名稱。隋、置く。九嬪の一。〔隋書、后妃傳序〕順儀・順容・順華・修儀・修容・修華・充儀・充容・充華、是爲ニ九嬪一、品正第二一。

【充給】22 ジュウキフ ㊀あてがひ給與する。〔後漢書、皇后紀序〕無ニ爵秩一、歲時賞賜、充給而已。㊁滿ち足る。十分に行屆く。〔詩、齊風、甫田、無レ田ニ甫田一、疏〕大田過レ度、力不ニ充給一。〔後漢書、任延傳〕田疇歲歲開廣、百姓充給。

【充虛】23 ジュウキョ ㊀むなしきをみたす。空腹をみたす。〔墨子、辭過〕其爲レ食也、足ニ以增レ氣充レ虛、彊レ體適レ腹而已矣。〔楚辭、賈誼、惜誓〕吸ニ沆瀣一以充レ虛。〔注〕吸ニ清和之氣一、以充ニ空虛一、療ニ飢渴一也。㊁みちることとむなしいこと。〔荀子、儒效〕充虛之相施易也。〔逸周書、文政解〕嗚呼充虛爲レ害、無ニ由不レ通、無ニ虛不レ敗。

【充胸】24 ジュウキョウ むねに塞がる。〔淮南子、本經訓〕怨尤充レ胸、思心盡亡。

【充虞】25 ジュウグ 戰國の時の人。孟子の弟子。〔孟子、公孫丑下〕。

【充屈】26 ジュウクツ 衆聲が鬱積して一時に競ひ出るさま。一說に、衆聲の鬱結して散じないさま。〔馬融、長笛賦〕充屈鬱律、瞋菌碨柍。〔注〕善曰、皆衆聲鬱積競出之貌、濟曰、皆聲鬱結不レ散貌。

【充倔】27 ジュウクツ 喜んで、節度を失ふさま。充詘。〔楚辭、九辯〕蹇充倔而無レ端兮、泊莽莽而無レ垠。〔集注〕充倔、記作ニ充詘一、注謂、喜失レ節貌。

【充詘】28 ジュウクツ 喜んで、節度を失ふさま。〔禮、儒行〕不三充ニ詘於富貴一。〔注〕充詘、歡喜失レ節之貌。〔蜀志、郤正傳〕得不ニ充詘一、失不ニ慘悸一。〔抱朴子、安貧〕俟ニ扶搖一而登ニ蒼霄一者、不三充ニ詘於蓬蒿之杪一。

【充華】29 ジュウクワ 女官の名稱。晉、置く。九嬪の一。〔晉書、輿服志〕淑妃・淑媛・淑儀・修華・修容・修儀・婕妤・容華・充華、是爲ニ九嬪一。

【充纊】30 ジュウクワウ 冕の兩旁に垂れて耳を塞ぐ綿製の飾。大戴禮、子張問入官に黈統（一本、統纊）に作る。〔晉書、劉頌傳〕冕而前レ旒、充纊塞レ耳。

【充軍】31 ch'ung¹ chün¹ 刑罰の名。流刑に處し、其の所在地の兵營で苦役に服させること。

【充警】32 ジュウケイ 警邏の役に服せしめる。〔六部成語、刑部、充警、注解〕罪充ニ巡警之役一。

【充血】33 ジュウケツ 血が身體の一箇所に集まり滯る。又、其のやまひ。鬱血。

【充缺】34 ジュウケツ 缺員をおぎなふ。〔漢書、薛宣傳〕今當下選ニ於羣卿一以充中其缺上。

【充闕】35 ジュウケツ 空位の官に充當すること。〔國史略、圓融天皇〕奪ニ兼家大將一、以ニ濟時一充レ闕。

【充縣】36 ジュウケン 縣名。漢、置く。武陵郡に屬す。故治は湖南省大庸縣の西。〔漢書、地理志上〕武陵郡、縣十三、充。

【充公】37 ジュウコウ 政府に沒收して其の收入に繰入れること。沒收。

【充國】38 ジュウコク ㊀漢の趙充國をいふ。充國自贊を見よ。〔魏文帝、至ニ廣陵一於ニ馬上一作詩〕充國務ニ耕殖一、先零自破亡。㊁縣名。漢、置く。四川省南充縣の北。〔漢書、地理志上〕巴郡、縣十一、充國。

〔充國自贊〕39 ジュウコクジサン 蒙求の標題。漢の宣帝の神爵初年に羌族が邊塞を犯した。當時、後將軍の趙充國は年既に七十を過ぎ、帝は其の老いて用ふべからざるを慮り、丙吉をして代つて將たるべき者を問はしめた。然るに充國は、自ら其の任なりと對へ、竟に赴いて大いに羌を破つた故事。〔漢書、趙充國傳〕安國以ニ騎都尉一將ニ騎三千一、屯備レ羌、至ニ浩亹一、爲ニ虜所レ擊、失ニ亡車重兵器一甚衆、安國引還、至ニ令居一以聞、是歲神爵元年春也、時充國年七十餘、上老レ之、使ニ御史大夫丙吉一問ニ誰可レ將者一、充國對曰、亡下踰ニ於老臣一者上矣。

【充差】40 ch'ung¹ ch'ai¹ 役を務める。公務に當てる。職務を執る。

【充齋】41 ジュウサイ 清、沈荃(6－17189··259)の號。

【充壯】42 ジュウサウ 肥えて健か。肥えて丈夫。〔北史、

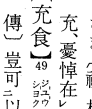
齊宗室、安德王延宗傳〕延宗容貌充壯、坐則仰、偃則伏。

【充作】43 ㊀作業にあたる。仕事をする。〔高允、諫二文成帝起二宮室一〕丁夫充レ作、老小供レ餉。 ㊁ch'ung¹ tsuo⁴ あてる。役立てる。

【充雜】44 ch'ung¹ tsa² とりまぜる。

【充之】45 字號。㊀宋、唐廣仁(2－3709‥38 5)の字。㊁金、王擴(7－20823‥301)の字。㊂明、周廣(2－3441‥124)の字。㊃清、吳省欽(2－3365‥705)の字。

【充耳】46 ㊀耳にあてる飾。耳がね。瑱。〔釋名、釋首飾〕瑱、鎮也、或曰二充耳一、充、塞也、塞二耳、亦所二以止一聽也。〔詩、衞風、淇奧〕充耳琇瑩。〔傳〕充耳、謂二之瑱一。 ㊁耳をふさぐ。〔詩、邶風、旄丘〕叔兮伯兮、褎如レ充レ耳。〔箋〕充耳、塞レ耳也、言、衞之諸臣、顏色褒然、如レ見レ塞レ耳、無二聞知一也、人之耳聾、恆多二笑而已一。


耳充玉滿（圖玉古）

【充實】47 一杯にみちる。缺陷なくそなはる。充牣。〔孟子、盡心下〕充實而有二光輝一、之謂レ大。〔呂覽、用民〕賞罰皆有二充實一。〔漢書、萬石君傳〕倉庫城郭不二充實一。〔後漢書、鮮卑傳〕財富充實。〔論衡、氣壽〕或充實而堅強。

【充充】48 心に憂あるさま。うろうろするさま。〔禮、檀弓上〕始死、充充如レ有レ窮。〔注〕充充、憂悼レ心之貌。

【充食】49 食物に代用する。〔南史、謝僑傳〕豈可二以レ此充一食乎。〔吳均、山中詩〕綠竹可レ充レ食。

【充人】50 周官の名。周禮地官の屬。祭祀のいけにへを繫ぐことを司る。〔周禮、地官、充人〕掌レ繫二祭祀之牲牷一、祀二五帝一、則繫二于牢一、芻之三月、享二先王一、亦如レ之。

【充仞】51 一杯にみちる。仞は滿。充牣。充滿。〔史記、平準書〕充二仞新秦中一。〔司馬相如、子虛賦〕充二仞其中一者、不レ可二勝記一。〔劉峻、辨命論〕種落繁熾、充二牣神州一。〔注〕五臣本作レ仞。

【充牣】52 みちみちる。一ぱいになる。充仞。充盈。充滿。充實。充忍。〔小爾雅、廣詁〕充牣、塞也。〔後漢書、清河孝王慶傳〕珍寶玩好、充二牣其第一。〔顏延之、赭白馬賦〕聞二王會之阜昌一、知二函夏之充牣一。〔注〕善曰、漢書音義、蘇林曰、充牣、喻レ多也、如淳曰、牣、滿也。

【充遂】53 明、靳貴(12－42728‥4)の字。

【充數】54 數に備へる。必要な數の一員にあてる。〔儀禮、聘禮、士爲二紹擯一、疏〕皆以二士充レ數也。〔晏子、諫、下〕其子往辭二晏子之家一、託曰、負廓之民賤妾、請有レ道二于相國一、不レ勝二其欲一、願得レ充二數乎下陳一。

〔充數兒〕55 ch'ung¹ shu⁴ ěrh 數を揃へる。

〔充數兒沽虛名〕56 ch'ung¹ shu⁴ ěrh ku¹ hsü¹ ming² 數を充たして虛名を賣る。任に就いて居ても徒らに員に備つてゐるだけで、何の役にも立たぬ。

【充盛】57 充實して色澤のよいこと。〔白虎通、嫁娶〕女二十、肌膚充盛、任レ爲二人母一。

【充繞】58 みちまつはる。〔徐獻忠、與二陳鳴野一書〕俗吏之風、充二繞眉目一。

【充斥】59 みち現はれる。はびこる。充滿する。〔左氏、襄、三十一〕寇盜充斥。〔注〕充滿斥見、言二其多一。〔後漢書、郭伋傳〕民多二猾惡一、寇賊充斥。〔吳志、華覈傳〕寇虜充斥。〔陸機、五等諸侯論〕姦軌充斥。「名。

【充石】60 春秋宋、皇父(8－22701‥218)の字。

【充積】61 みたしつむ。又、みちつもる。たまる。〔後漢書、劉瑜傳〕女嬖令色、充二積闥帷一。〔陳書、袁樞傳〕貲產充積。

【充攝】62 充は飽食すること。攝は食を節すること。〔官子、內業〕充攝之間、此謂二和成一。〔纂詁〕充攝之間、飢飽適レ宜也、此謂下和二精與上レ形之道成也。

【充羨】63 みち溢れる。羨は、餘る。〔唐書、陳君賓傳〕獨君賓所レ治有レ年、儲倉充羨。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕秔稌充羨兮、蛇蛟結蟠。

【充選】64 選に與かる。入選する。〔後漢書、和帝紀〕永元五年三月戊子、詔曰、選二擧良才一、爲政之本、科別二行能一、必由二卿曲一、而郡國擧レ吏、不レ加二簡擇一、故先帝明敕、在所令試レ之以レ職、乃得レ充レ選。〔顏之推、觀二我生一賦〕濫充二選於多士一、在二參戎之盛列一。

【充闡】65 みちひらける。〔福惠全書、郵政部、相良馬、寶金篇〕身形充闡、要二平寬一。

【充善】66 明、董山(9－31433‥75)をいふ。

【充宗】67 清、萬斯大(9－31339‥588)の字。

【充足】68 十分にみちたる。滿足する。充實してゐる。豐富。潤澤。〔後漢書、譙玄傳〕兵師四出、國用軍資、或不二常充足一。

〔充足原理〕69 ライプニツツの創唱した思惟の法則の一。凡ての事物の存在又は凡ての眞理には、それが存在し又は眞理なることに對する十分の理由がなければならぬことを要求する原理。

〔充足條件〕70 或る事象が成立する爲に必要にして且十分な條件をいふ。

【充側】71 かたく塞り、衰へる。〔易林〕女謁橫行、正道充側。

【充塞】72 ふさぐ。又、みちふさがる。〔孟子、滕文公下〕邪說誣レ民、充二塞仁義一、仁義充塞、則率二獸食一人。〔列子、天瑞〕充二塞四虛一。〔漢書、兩龔傳、贊〕塞二朝廷一。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕弘德洋溢、充二塞宇宙一。

【充態】73 みちたさま。みちてゐるさま。

【充代】74 代用して需要をみたす。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕雖下其間或有中以二他物一充レ代上、然終非二天下所一レ可二常行一。

【充當】75 あてる。あてはめる。充塡。〔漢書、揚雄傳上、充二庖廚一而已、注〕師古曰、充、當也。

【充道】76 宋、郭浩(11－39474‥31)の字。

【充澤】77 肥えてつやがあること。〔顏氏家訓、風操〕二宮爲レ之改レ容、頗有下膚色充澤、無二哀感一者上。

【充腸】78 腹をみたす。腹一杯。食ひあきる。〔千字文〕適レ口充レ腸。〔杜甫、發二秦州一詩〕充レ腸多二薯蕷一、崖蜜亦易レ求。〔白居易、松齋自題詩〕充レ腸皆美食、容レ膝卽安居。

【充場】79 ch'ung¹ ch'ang² 其の場を取り繕ふ。お茶を濁す。局面を繕ふ。

【充庭】80 ㊀庭にみちる。庭一杯。〔張衡、東京賦〕龍輅充レ庭、雲旗拂レ霓。〔晉書、樂志上〕嘉會置酒、嘉賓充レ庭。 ㊁朝儀の一。天子が平臺に出御して乘輿車輦旌鼓を殿庭に陳列すること。〔宋書、禮志五〕舊有二充庭之制一、臨軒大會、陳二乘輿車輦旌鼓於殿庭一。

【充塡】81 みたしうめる。あてはめる。充當。〔宋史、兵志十〕取二人分一頭充塡。

〔充塡鑛藏〕82 鑛物學用語。岩石の裂罅を鑛液が充塡して出來た鑛藏をいふ。

【充徒】83 ch'ung¹ t'u² 徒刑に處す。

【充棟】84 むな木にとどく意。もと充二棟宇一で、家の中一杯にある意。藏書の多いことをいふ。〔汗牛充棟、陸文通先生墓表〕其爲レ書、處則充二棟宇一、出則汗二牛馬一。〔陸游、詩〕茆屋三四間、充棟貯二經史一。

【充入】85 みたし入れる。〔史記、秦始皇紀〕所レ得諸侯美人鐘鼓、以充二入之一。〔漢書、食貨志下〕充二入新秦中一。

【充任】86 ch'ung¹ jen⁴ 任用する。任命する。

【充忍】87 みたす。充牣(52)に同じ。〔淮南子、本經訓〕施者不レ德、受者不レ讓、德交歸焉、而莫二之充忍一也。

【充庖】88 庖廚の用に備へる。食物を供する。〔禮、王制〕三爲レ充二君之庖一。〔穀梁、桓、四〕三爲レ充二君之庖一。〔聞見後錄〕曹植七啓言二食味一云云、二物似レ不レ宜二充庖一也。

【充發】89 ch'ung¹ fa¹ おひやる。追放し懲役に處する。〔紅樓夢、四回〕遠遠充發了他纔罷。

【充肥】90 肥滿する。〔後漢書、董卓傳〕卓素充肥、脂流二於地一。

【充美】91 ㊀美をおほふ。〔禮、玉藻〕服之襲也、充二美也一。〔注〕充、猶二覆也一。 ㊁字號。㋑宋、林積仁(6－14551‥370)の字。㋺明、朱日輝(6－14424‥829)の字。

【充備】92 ㊀みちそなはる。みたしそなへる。〔後漢書、周景傳〕贈二送什物一、無レ不二充備一。〔後漢書、宦者傳序〕充二備綺室一。 ㊁加はり參ずる。〔蔡邕、讓二尚書一乞在二閒冗一表〕充二備機密一。

【充賦】93 貢士の數にあてる。數に備へる。〔漢書、鼂錯傳〕以二臣錯一充レ賦、甚不レ稱二明詔求レ賢之意一。〔注〕如淳曰、猶レ言レ備レ數也、臣瓚

曰、充賦、此錯之謙也、云如賦調也。

【充腹】94 はら一杯。食ひ飽きる。又、單に、はらをみたす意。〔尉繚子、治本〕非五穀無以充腹、非絲麻無以蓋形、故充腹有粒、蓋形有縷。〔孔叢子、居衞〕三牲大牢、所食不過充腹。

【充分】95 全分量に滿ちる意。一ぱい。完備。完全。正しくは十分に作る。

【充兵】96 ch'ung¹ ping¹ 兵にする。兵に當てる。

【充甫】97 宋、楊宏中(**6－15112・・490**)の字。

【充補】98 ch'ung¹ pu³ 補充する。

【充滿】99 一杯になる。みちたりる。充盈。充牣(52)に同じ。〔中庸、洋洋乎、章句〕洋洋、流動充滿之意。〔韓詩外傳、三〕今汝衣服其盛、顏色充滿。〔莊子、田子方〕充滿天地。〔呂覽、當染〕充滿天下。〔史記、平準書〕上林既充滿益廣。〔漢書、蕭望之傳〕充滿山谷。〔說苑、權謀〕勃然充滿者、此兵革之色也。

【充茂】100 みちしげる。〔左思、魏都賦〕薑芋充茂、桃李蔭翳。

【充裕】101 ch'ung¹ yü⁴ 充分に餘裕のある。極めて豐富な。餘裕綽々たる。

【充用】102 あてもちひる。あてはめ使ふ。

【充容】103 女官の名稱。九嬪の一。充儀(21)を見よ。

【充吏】104 ch'ung¹ li⁴ 役所の小使になる。

【充量】105 ch'ung¹ liang⁴ 十分な。滿足な。

【充閭】106 賓客が門閭に充滿する。充閭之慶を見よ。

【充閭之慶】107 賓客が門閭に充滿する、即ち一家が繁榮するよろこびをいふ。轉じて、男子出生の賀詞として用ひる。〔晉書、賈充傳〕賈充字公閭、逵晩始生充、言後當有充閭之慶、故以爲名字焉。〔書言故事、子孫類〕賀生子、云充閭之慶。

【充類】108 類を推しひろめる。〔孟子、萬章下〕夫謂非其有而取之者盜也、充類至義之盡也。〔集注〕推其類、至於義之至精至密之處、而極言之耳。

【充好漢】109 ch'ung¹ hao³ han⁴ 無能の者が強情にも負惜しみを徹さうとして一所懸命になること。

【充好人】110 ch'ung¹ hao³ jen² 善人らしくすること。

【充行家】111 ch'ung¹ hang² chia 何も知らない者が其の道の玄人らしい顏をすること。

【充額角】112 額の腫れ出てゐることをいふ。〔說文通訓定聲〕頟、謂額胅出向前、蘇俗謂之充額角。

【充氣血】113 生理學用語。動脈血。酸素を多分に含んで、鮮紅色を呈するもの。

【充老相】114 ch'ung¹ lao³ hsiang⁴ 何等の識見も知識もない者が識見知識ありげに粧ふこと。

【充安老人】115 元、戴表元(**5－11685・・209**)の號。

【充名冒籍】116 ch'ung¹ ming² mao⁴ chi² 他人の原籍氏名を詐稱する。

四畫

【充】1345 シュウ 充(**1－1344**)の譌字。〔正字通〕充、充字之譌。

【兜】1346 コ ク 〔集韻〕果五切 [麌]

小篆 **ふさぐ**。ふさがる。めくら。或は兜(**10－34766**)に作る。〔說文〕兜、廱蔽也、从儿、象左右皆蔽形、讀若瞽。〔集韻〕兜、或从兜。

解字 會意。儿に從ひ、冂は左右皆蔽へるかたち、故に廱蔽(ふさがる)の意とする。〔說文通訓定聲〕兜、廱蔽也、从古文人、象左右皆蔽形。

【兆】1347 テウ デウ 〔集韻〕直紹切 [篠] ㄓㄠˋ chao⁴

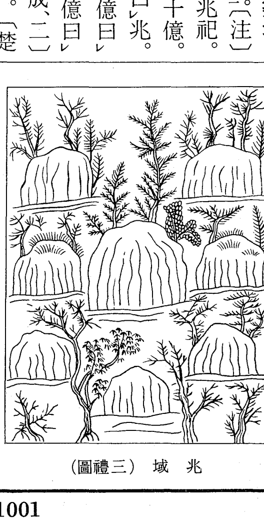
小篆 古文 ❶**うらかた**。しるし。龜甲を燒いて出來るわれ目。𠧞(**2－2797**)の古字。〔說文〕𠧞、灼龜坼也、从卜兆、象形、兆、古文𠧞省。〔詩、小雅、小旻〕我龜既厭、〔箋〕言、雖得兆、占繇不中。〔疏〕兆者、龜之璺坼。〔淮南子、本經訓〕蓍龜兆。〔注〕兆、信也。❷**うらなふ**。龜甲を灼いて其の裂目を見て吉凶を判斷する。〔漢書、文帝紀〕兆得大横。〔注〕應劭曰、龜曰兆。❸**きざし**。きざす。あらはれる。〔國語、晉語三〕其魄兆於民。〔注〕兆、見也。〔國語、晉語八〕君之明兆於衰矣。〔注〕兆、形也。〔左思、魏都賦〕是以兆朕振古。〔注〕劉曰、兆、猶機、事之先見者也。❹**はじめ**。はじまる。はじめる。〔左氏、哀、元〕兆其謀。〔注〕兆、始也。〔孟子、萬章下〕爲之兆也。〔注〕兆、始也。〔素問、天元紀大論〕陰陽之微、兆也。〔注〕兆、先也。❺**かぎり**。區域。垗(**3－5043**)に通ず。〔說文通訓定聲〕兆、叚借爲垗。〔爾雅、釋言〕兆、域也。〔釋文〕兆、本又作垗。〔尚書大傳、虞夏傳〕兆、十有二州。〔注〕兆、域也。❻**墓地**。塋域。〔左氏、哀、二〕無入于兆。〔注〕兆、葬域。〔潘岳、西征賦〕兆惟奉明。〔注〕善曰、兆、塋也。❼**四郊に設けられた祭壇**。〔周禮、春官、小宗伯〕兆五帝於四郊。〔注〕兆、爲壇之塋域。〔禮、表記〕后稷兆祀。〔注〕兆、四郊之祭處也。❽**數の單位**。十億。又、萬億。大數。〔集韻〕𠧞、十億曰兆。〔書、五子之歌〕豫臨兆民。〔傳〕十億曰兆。〔禮、內則〕降德衆兆民。〔注〕萬億曰兆。〔疏〕兆、在億秭之閒。〔左氏、成、二〕太誓所謂商兆民離。〔注〕萬億曰兆。〔楚辭、九章、惜誦〕又衆兆之所讐。〔注〕百萬爲兆。❾**多數**。〔漢書、百官公卿表〕更名京兆尹。〔注〕師古曰、兆者、衆數。❿**たみ**。人。〔班固、幽通賦〕斯衆兆之所惑。〔注〕善曰、曹大家曰、兆、人也。⓫**さける**。逃(**11－38845**)に通ず。〔說文通訓定聲〕兆、叚借爲逃。〔廣雅、釋詁三〕兆、避也。〔莊子、天下〕兆於變化。〔釋文〕兆、本或作逃。⓬**姓**。〔萬姓統譜〕兆、見姓苑。兆元亭、樂亭人、萬曆閒蓬萊縣丞。

名乘 ヨシ。

解字 象形。龜卜の甲の璺罅(われめ)にかたどる。古は、龜をやいて、その坼目(さけめ)をみてその吉凶をトす。物のきざしは龜の坼目に先づあらはれることから、きざし、きざすの意とし、坼目の數多いことから億萬の意に用ふ。小篆はトを加へて𠧞に作る。〔說文、兆、段注〕周禮注曰、兆者灼龜發於火、其形可占者、其象似玉瓦原之璺罅、是用名之焉、按、凡曰朕兆者、朕者如舟之縫、兆者如龜之坼、皆引伸假借也、云云、按、古文祇爲象形之字、小篆加卜、非古文減卜也。〔說文通訓定聲〕兆、灼龜坼也、从卜兆、象形。▽甲骨文は、[甲骨文]。

【兆憂】1 憂をみちびく。憂のもとゐをなす。〔左氏、昭、元〕三大夫兆憂。〔注〕開憂兆也。

【兆域】2 はかば。墓所。塋域。〔周禮、春官、冢人〕掌公墓之地、辨其兆域。〔禮、檀弓上、古也



(圖禮三) 域兆

墓而不ㇾ墳、注〕墓謂㆓兆域㆒、今之封塋也。〔後漢書、光武紀下〕北郊兆域。〔顏氏家訓、終制〕若懼㆓拜掃不ㇾ知㆓兆域㆒、當ㇾ築㆓一堵低墻於左右前後㆒。

【兆域門】3 テウヰキモン 山陵、卽ち天子墳塋の境內の門。〔唐律、衞禁上、闌㆓入太廟門㆒〕諸闌㆓入太廟門、及山陵兆域門㆒者、徒㆓二年㆒。

【兆億】4 テウオク 多くの民。兆民(45)に同じ。〔墨子、明鬼下〕兆億侯維盈㆓厥澤陵㆒。〔梁武帝、申㆓敕諸州㆒訊ㇾ獄詔〕朕屬㆓當期運㆒、君㆓臨兆億㆒。

【兆鼇】5 テウガウ 明、湯文瓊(7−17874‥206)の字。

【兆姦】6 テウカン 惡心をおこす。〔孔子家語、曲禮子夏問〕忠臣不㆘兆ㇾ姦以陷㆖ㇾ君。〔注〕兆ㇾ姦、爲㆓姦之兆端㆒也。

【兆基】7 テウキ ㊀もとゐをはじめる。〔史岑、出師頌〕兆ㇾ基開ㇾ業。㊁墓地。〔儀禮、士喪禮〕命曰、哀子某爲㆓其父某甫㆒、筮ㇾ宅度㆓茲幽宅兆基㆒、無ㇾ有㆓後難㆒。〔注〕今謀ㇾ此以爲㆓幽冥居・兆域之始㆒。

【兆驥】8 テウキ 淸、章陶(8−25761‥123)の一名。

【兆卦】9 テウクワ 易象の上にあらはれるきざし。〔詩、衞風、氓、體無㆓咎言㆒、傳〕體、兆卦之體。

【兆勳】10 テウクン 淸、滿洲の人。字は佑宸。號は牧亭。別號は牧牛子。著に牧牛詩錄・不堪持贈吟がある。〔國朝詩人徵略初編、四十二〕・〔國朝詩人徵略二編、五十八〕。

【兆京】11 chao⁴ ching¹ 大量の數。兆は一百萬、京は一千萬。

【兆奎】12 テウケイ 淸、周星垣(2−3441‥739)の名。

【兆惠】13 テウケイ 淸の滿洲正黃旗人。姓は吳雅氏。字は和甫。謚は文襄。雍正の間、軍機處に直し、內閣中書から參贊大臣に擢んでらる。厄魯特・霍集占・安集延の諸部を降し、一等武毅謀勇公に封ぜらる。後、官は協辦大學士・太子太保に至る。〔淸史稿、三百十九〕・〔淸史列傳、二十〕・〔國朝先正事略、十三〕。

【兆見】14 テウケン ㊀きざしがあらはれる。〔史記、封禪書〕兆見不ㇾ迎則不ㇾ至。㊁あらかじめ知る。豫知。〔淮南子、要略〕兆㆓見得失之變、利病之反㆒。

【兆候】15 テウコウ きざし。まへじらせ。

【兆轂】16 テウコク 明、徐慶餘(4−10110‥399)の字。

【兆載】17 テウサイ 佛兆を以て數へるほどの長い年數。兆載永劫を見よ。

【兆載永劫】18 テウサイヤウゴフ 佛極めて長い年月。兆載は兆を以て數へる程の歲。永劫は長久の時。〔無量壽經、上〕於㆓不可思議兆載永劫㆒、積㆓植菩薩無量德行㆒。

【兆祀】19 テウシ 壇を築いて祭る。〔禮、表記〕詩曰、后稷兆祀。〔注〕兆、四郊之祭處也。〔潘勗、冊㆓魏公九錫㆒文〕設ㇾ官兆祀、不ㇾ失㆓舊物㆒。

【兆兒】20 chao⁴ êrh きざし。しるし。

【兆時】21 テウジ 明、董燧(9−31433‥104)の字。

【兆璽】22 テウジ 淸、王兆琛(7−20823‥1962)の原名。

【兆祥】23 テウシヤウ ㊀うらかた。〔史記、田敬仲完世家〕遵㆓厭兆祥㆒云。㊁きざし。しるし。〔漢書、郊祀志上〕神靈之休、祐福兆祥。㊂明、甯夢龍(7−21717‥29)の字。

【兆象】24 テウシヤウ うらかた。〔論衡、知實〕無㆓兆象效驗㆒、聖人無㆓以定㆒也。

【兆守】25 テウシユ 墓所の監守。〔周禮、春官、典祀〕典祀、掌㆓外祀之兆守㆒、皆有ㇾ域、掌㆓其禁令㆒。

【兆受】26 テウジユ 淸、李世忠(6−14459‥1545)の本名。

【兆初】27 テウシヨ 淸、汪一元(6−17154‥163)の字。

【兆庶】28 テウシヨ 多くの民。兆民(45)に同じ。〔後漢書、杜篤傳〕成㆓兆庶之亹亹㆒。〔陸機、辨亡論下〕及㆓其危㆒也、兆庶與ㇾ之共ㇾ患。〔李炯、與㆓王僧辯㆒盟文〕天下劬勞、兆庶亭育。〔白居易、策林七十二、使㆓臣盡ㇾ忠人愛㆒ㇾ上〕兆庶之心。

【兆震】29 テウシン 明、翁正春(侯官の人)(9−28635‥83)の字。

【兆人】30 テウジン 多くの民。兆民(45)に同じ。〔後漢書、光武紀上〕兆人塗炭。〔後漢書、王符傳〕王者以㆓四海㆒爲ㇾ家、兆人爲ㇾ子。

【兆仁】31 テウジン 淸、譚瑩(10−35978‥2)の字。

【兆數】32 テウスウ 卜筮のうらかた。〔論衡、寒溫〕夫寒溫之應㆓急舒㆒、猶㆓兆數之應㆓令問㆒也。

【兆姓】33 テウセイ 多くの民。兆民(45)に同じ。〔周伯琦、紀行詩〕遊豫諸侯度、歡歌兆姓迎。

【兆淸】34 テウセイ 明、林台衡(6−14551‥380)の字。

【兆占】35 テウセン うらかた。うらなひ。〔漢書、王莽傳上〕咸應㆓兆占㆒。〔後漢書、桓帝紀〕稽㆓之兆占㆒。

【兆籛】36 テウセン 淸、管遹羣(8−26162‥171)の字。

【兆前】37 テウゼン 物の起る兆候の未だ十分現れない前。〔太平記、二十、越後勢越㆓越前㆒事〕兆前に機を見る人。

【兆長】38 テウチヤウ 盛に生長する。兆は衆多の義。〔淮南子、天文訓〕萬物蕃息、五穀兆長。

【兆朕】39 テウチン 兆眹に同じ。〔風俗通、正失〕裁有㆓兆朕㆒。〔左思、魏都賦〕兆㆓朕振古㆒、萌㆓柢疇昔㆒。〔注〕善曰、許愼曰、朕、兆也。

【兆眹】40 テウチン 吉凶のきざし。又、物がきざすこと。兆眹。〔廣韻〕眹、吉凶形兆、謂㆓之兆眹㆒。〔佩觿集〕吉凶形兆、謂㆓之兆眹㆒、字从ㇾ目。

【兆瑑】41 テウテン 圭璧上にすぢぼりを起したものが塋域の如き形をなすことをいふ。〔說文〕瑑、圭璧上起㆓兆瑑㆒也。

【兆頭】42 chao⁴ t'ou きざし。兆兒(20)に同じ。

【兆同】43 テウドウ 淸、陳廷慶(11−41698‥1144)の字。

【兆物】44 テウブツ 多くのもの。萬物。〔國語、鄭語〕計㆓億事㆒、材㆓兆物㆒。〔陳琳、鸚鵡賦〕乾坤之兆物、萬品錯而殊ㇾ形。

【兆民】45 テウミン 多くのたみ。衆庶。萬民。億兆。兆億。兆人。兆姓。〔書、呂刑〕一人有ㇾ慶、兆民賴ㇾ之、其寧惟永。〔禮、月令〕行ㇾ慶施ㇾ惠、下及㆓兆民㆒。〔左氏、閔、元〕天子曰㆓兆民㆒、諸侯曰㆓萬民㆒。〔國語、周語中〕百姓兆民、夫人奉ㇾ利而歸㆓諸上㆒、是利之內也。〔呂覽、孟冬〕衆庶兆民。〔史記、樂書〕下以化㆓兆民㆒。

【兆豫】46 テウヨ 明、江秉謙(6−17140‥510)の字。

【兆隆】47 テウリユウ 字號。㊀明、翁憲祥(9−28635‥70)の字。㊁明、朱國祚(6−14424‥784)の字。

【兆麟】48 テウリン 淸、胡肇麟(9−29400‥572)の一名。

【兆黎】49 テウレイ 多くの民。兆庶(28)に同じ。〔漢書、王莽傳下〕靑徐故不ㇾ軌盜賊、未㆓盡解散㆒、後復屯集者、皆淸㆓潔之㆒、期㆓於安㆓兆黎㆒矣。

【兆兆兆】50 chao⁴ chao⁴ chao⁴ さうぢやさうぢや。

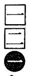
【兆殿司】51 テウデンス 畫僧、明兆をいふ。名は古山。應永年中、京都東福寺の殿司となつたからいふ。

【兆滕康】52 テウトウカウ 腸神の名。〔事物異名錄、神鬼、腸神〕雲笈七籤、腸神名兆滕康、字道還。

【兆如㆓山陵㆒】53 テウサンリヨウノゴトシ 墓のさかんで大きいこと。兆は墓地。〔左氏、襄、十〕孫文子卜ㇾ追ㇾ之、獻㆓兆於定姜㆒、姜氏問ㇾ繇、曰、兆如㆓山陵㆒、有ㇾ夫出征、而喪㆓其雄㆒。〔箋〕如㆓山陵㆒、言㆓其兆之盛㆒。

【兇】1348

㊀キョウ 〔集韻〕許容切 ㄒㄩㄥ hsiung¹ 冬
㊁キョウ 〔集韻〕詡拱切 腫


小篆

㊀㊁㊀**おそれる**。或は恟(4−10573)・忷(4−10392)に作る。〔說文〕兇、擾恐也、从㆓儿在㆒凶下。〔春秋傳曰、曹人兇懼。〔集韻〕兇、或作㆓恟・忷㆒。㊁**恐れた時に發する聲**。〔左氏、僖、二十八〕曹人兇懼。〔注〕兇兇、恐懼聲。㊂**わるい**。わるもの。凶(2−1803)に通ず。〔正字通〕兇、惡暴也、與ㇾ凶同。〔徐陵、與㆓章昭達㆒書〕廓㆓淸殘兇㆒。㊃現きつい。暴虐なる。

解字 會意。凶と儿との合字。凶の下に儿(人)があり、人が凶事に對して恐懼謀擾すること。因つて人の恐れる聲、又、おそれるの意とし、更に人を恐懼謀擾させる者、卽ち惡者の意とする。

【兇惡】1 キョウアク 人の性質の甚しく惡いこと。又、其の人。凶惡。〔耆舊續聞、二〕后曰、不ㇾ須ㇾ赦㆓天下兇惡㆒。

【兇威】2 キョウヰ あらい威勢。凶威(2−1803‥5)に同じ。

【兇焰】3 キョウエン 兇惡な氣勢。凶焰(2−1803‥9)に同じ。〔福惠全書、刑名部、問擬〕懼㆓玉海兇焰㆒、不㆓敢遽行㆒指斥㆒。

【兇毆】4 キョウオウ ひどく打ちたたく。〔福惠全書、刑名部、詞訟〕卽于㆓衙門前㆒互相兇毆。

【兇害】5 キョウガイ 兇惡な害毒。〔漢書、王莽傳中〕驕奢踰ㇾ制者、兇害之端也。

【兇行】6 キョウカウ 人を傷害する。又、其の行爲。

【兇狡】7 キョウカウ わるがしこい。凶狡(2−1803‥1

2)に同じ。

【兇悍】8 キョウカン なさけ心なくあらあらしい。凶悍(2—1803‥18)に同じ。〔福惠全書、刑名部、姦情、鞫姦〕觀下其被告是二否兇悍一、及詞色有中無沮喪上。〔福惠全書、刑名部、姦情、總論〕兇悍之徒、窺二女色一、則頓起二淫心一。

【兇漢】9 キョウカン わるもの。兇徒。

【兇氣】10 キョウキ わるい氣。凶氣(2—1803‥20)に同じ。

【兇器】11 キョウキ 人を殺し、又は傷ける等の犯罪の目的で携へ、又は用ひた道具。凶器(2—1803‥23)の❶に同じ。〔福惠全書、刑名部、印官親驗〕狀上兇器、與二傷痕一不對、要レ問二屍親一。

【兇虐】12 キョウギャク 心わるく人をそこなふ。又、其の人。凶虐(2—1803‥28)に同じ。

【兇逆】13 キョウギャク よこしまで上にさからふもの。凶逆。〔顏氏家訓、慕賢〕遂得二百餘日抗一拒兇逆一。

【兇渠】14 キョウキョ わるもののかしら。兇魁。凶渠(2—1803‥30)に同じ。

【兇兇】15 キョウキョウ おそれる聲の形容。又、恐れるさま。〔左氏、僖、二十八〕曹人兇兇懼。〔注〕兇兇、恐懼聲。〔會箋〕管子任法、皆虛二其恂一、以聽二其上一。注、恂、恐懼貌、恂・兇同、杜云二恐懼聲一、非也。〔素問、移精變氣論〕粗工兇兇。〔漢書、翟方進傳〕羣下兇兇、更相嫉妒。〔魏志、孫禮傳〕今社稷將レ危、天下兇兇。

【兇酬】16 キョウ 酒に醉ひ狂ふ。〔元稹、賽神詩〕喧闐里閭隘、兇酬日夜頻。

【兇懼】17 キョウク おそれ。おそれる。恐怖。恐慌。〔左氏、僖、二十八〕師遷焉、曹人兇懼。〔注〕兇兇、恐懼聲。〔後漢書、耿弇傳〕城中兇懼。〔魏書、天象志二〕宋人兇懼、饋二百牢一焉。

【兇魁】18 キョウカイ わるもののかしら。兇渠。〔白居易、與二金陵立一功將士等一敕書〕擒二其兇魁一。

【兇荒】19 キョウコウ ききん。五穀の實らぬこと。不作。凶饉、凶荒(2—1803‥37)を見よ。〔會澤正志齋新論、國體上〕昇平既久、則倦怠隨生、天下有二士之君一、生則逸、兇荒無レ備、而莫二之恤一。

【兇狠】20 hsiung¹ hen³ 惡の甚しい。凶惡な。

【兇頑】21 キョウガン 心が惡く人に從はぬ。よこしまでかたくなもの。〔李白、豫章行〕豈惜戰鬬死、爲レ君掃二兇頑一。

【兇驕】22 キョウケウ よこしまでたかぶる。〔韓愈、烏氏廟碑銘〕奉謾兇驕、出二不遜言一。

【兇羯】23 キョウケツ 凶惡なえびす。〔洛陽伽藍記、一〕共敍二哀辛一、同討二兇羯一。

【兇擊】24 キョウゲキ わざはひ。兇害。〔白居易、與二昭義軍將士一勅書〕威略可三以儻二兇擊一。

【兇險】25 キョウケン ❶わるくよこしま。凶惡陰險。又、其の人。〔舊唐書、哀帝紀〕但結二連于兇險一、獨陷二害於賢良一。❷非常な危險。

【兇殺】26 hsiung¹ sha¹ 人殺しをする。殺人者。

【兇殘】27 キョウザン わるくてあらいこと。〔李白、幽州胡馬客歌〕天驕五單于、狼戾好二兇殘一。

【兇死】28 hsiung¹ ssǔ³ 横死する。

【兇邪】29 キョウジャ 心あらくよこしま。姦惡不正の者。凶邪(2—1803‥66)に同じ。〔韓愈、進學解〕方今聖賢相逢、治具畢張、拔二去兇邪一、登二崇畯良一。

【兇狀】30 キョウジョウ 國法を犯して惡事をなしたこと。犯罪。

【兇狀持】31 キョウジョウヂ 身に犯罪のある人。

【兇手】32 キョウシュ ❶人を殺傷する者。わるもの。惡人。〔洛陽伽藍記、永寧寺〕雖レ迫二於兇手、勢不二自由一。❷わる者の毒手。

【兇豎】33 キョウジュ 惡を構へるもの。〔韓愈、與二鄂州柳中丞一書〕感二兇豎煦濡飲食之惠一。

【兇心】34 キョウシン 兇惡の心。惡心。凶心(2—1803‥71)に同じ。

【兇神】35 キョウシン わるものども。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕黨兇神、因二其畏縮一、誘以二代辦之詞一、科二其不貲之費一。

【兇人】36 キョウジン 惡い人。人を殺した者。兇行者。凶人(2—1803‥76)に同じ。

【兇性】37 キョウセイ あらい生れつき。

【兇勢】38 キョウセイ わるい勢。わるものの勢。〔國史略、朱雀天皇〕將門、劫二國守一、奪二印鑰一、兇勢方盛、自稱二親王一。

【兇賊】39 キョウゾク 兇行をなす賊。凶賊(2—1803‥82)に同じ。

【兇刀】40 hsiung¹ tao¹ 兇行に用ひた刀。

【兇盜】41 キョウタウ わるい盜賊。凶盜(2—1803‥83)に同じ。

【兇黨】42 キョウタウ 叛逆の仲間。ならずもの。凶黨(12—1803‥84)に同じ。

【兇徒】43 キョウト わるもの。惡黨。凶徒(2—1803‥94)に同じ。〔韓愈、李正封、晩秋郾城夜會聯句〕兇徒更踏藉、逆旅相啗嚼。

【兇徒聚衆罪】44 キョウトシュウシュウザイ 多人數集まつて暴動をなした罪。

【兇童】45 キョウドウ 惡童。いたづら小僧。

【兇悪】46 キョウトク わるもの。凶悪。〔吳志、諸葛恪傳〕既掃二兇悪一、又充二軍用一。

【兇悖】47 キョウハイ よこしまで理にもとる。又、惡をなす人。凶悖。〔韓愈、論二淮西事宜一狀〕銷二其兇悖之心一、貸以二生全之幸一。

【兇報】48 キョウホウ 殺人の知らせ。

【兇暴】49 キョウバウ 惡く手荒い。暴虐。〔吳志、賀邵傳〕皓兇暴驕矜、政事日弊。

【兇暴性】50 キョウバウセイ 兇惡で亂暴な性質。

【兇犯】51 キョウハン 殺人犯。凶手。〔未信編〕即將二兇犯一、拘來收監。〔福惠全書、刑名部、人命中、自盡〕押二兇犯一、認二明屍傷一。

【兇風】52 キョウフウ わるいならはし。惡風。〔福惠全書、刑名部、監禁〕伸二冥屈一、而儆二兇風一。

【兇孌】53 キョウヘン 殺人傷害等のできごと。殺傷事件。

【兇猛】54 hsiung¹ měng³ 極めてあらあらしい。惡くてたけだけしい。獰猛。兇暴。

【兇橫】55 hsiung¹ hêng⁴ 橫暴な。橫着な。

【先】 1349

㊀セン 〔集韻〕蘇前切 ㄒㄧㄢ xien¹

㊁セン 〔集韻〕先見切 ㄒㄧㄢˋ hsien⁴

㊂セン 〔韻會〕蘇典切 ㄒㄧㄢˇ hsien³

篆 小

㊀❶すすむ。すすめる。〔說文〕先、前進也、从二儿之一。〔段注〕前、當レ作レ歬、不レ行而進曰レ歬、凡言レ歬者、緩詞、凡言レ先者、急詞、其爲レ進、一也。〔後漢書、皇甫規傳〕未レ聞二國家有レ所二先後一。〔注〕先後、謂二進退一也。❷さき。❶はじめ。〔廣雅、釋詁一〕先、始也。〔禮、學記〕教學爲レ先、兌命曰、念二終始一典二于學一。㊁まへ。〔儀禮、大射儀〕先レ首。〔注〕先、猶レ前也。〔史記、樂書〕行成而先。〔注〕正義曰、先、猶レ前也。㊂第一。〔禮、曲禮下〕君子將レ營二宮室一、宗廟爲レ先。〔孟子、告子上〕酌則誰先。❸むかし。以前。〔正字通〕先、故也。〔詩、小雅、小旻〕匪二先民是程一。〔傳〕昔曰二先民一。〔禮、坊記〕先民有レ言。〔注〕先民、謂二上古之君一也。❹さきだち。さきがけ。〔釋名、釋船〕軍行在レ前曰二先登一。〔漢書、英布傳〕身負二版築一、爲二士卒先一。❺死んだ父。又、一般に死んだ人を呼ぶ時に冠する語。多く尊長者に用ひる。〔辭海〕先、今俗自稱二其已死之人一、輒冠以二先字一、尤以用二於尊長者一爲多、如二先父先母先兄等一是也。〔論衡、四諱〕死亡謂二之先一。❻祖先。とほつおや。〔漢書、禮樂志〕忘レ先者衆。〔注〕先者、先人、謂二祖考一也。〔司馬遷、報二任少卿一書〕行莫レ醜二於辱一先。〔注〕善曰、先、謂レ祖也。❼てびき。紹介。〔漢書、酈食其傳〕莫レ爲二我先一。〔注〕先、謂二紹介一也。❽さきぶれ。〔莊子、秋水〕楚王使二大夫二人往先一焉。〔釋文〕先、謂レ宣二其言一也。〔漢書、中山靖王傳〕莫レ爲二之先一。〔注〕先、謂二素爲一延譽一也。❾まづ。さきに。❶はやく。はやい。〔玉篇〕先、早也。〔呂覽、辯士〕其生也必先。〔注〕先、猶レ速也。㊁まつさきに。さきだちとなつて。〔後漢書、賈復傳〕於レ是被レ羽先登。〔注〕先登、先赴二敵也。㊂あらかじめ。まへもつて。〔後漢書、劉寬

傳〕以下先策二黃巾逆謀一以レ事上聞上封二逡鄕侯六百戶一。〔注〕先策、謂二預知一也。❿さきにする。さきんずる。㋑たつとぶ。〔呂覽、權勳〕故太上先レ勝。〔注〕先、猶レ上也。〔呂覽、先己〕五帝先レ道而後レ德。〔注〕先、猶レ尙也。㋺推す。讓る。〔禮、儒行〕爵位相先也。〔注〕相先、猶二相讓一也。㋩たかい。すぐれる。〔戰國、秦策〕有二明レ古先レ世之功一。㋥重んずる。〔周禮、秋官、士師〕以二五戒一先二後刑罰一。〔注〕先後、猶二左右一也。⓫洗(6—17379)に通ず。〔說文通訓定聲〕先、叚借爲レ洗、易繫辭、京荀虞本、聖人以レ此先レ心。〔易、繫辭上〕聖人以レ此洗レ心。⓬西(10—34763)に通ず。〔說文通訓定聲〕先、叚借爲レ西。〔曹植、神女賦、西施掩レ面、注〕善曰、先施・西施一也。〔王褒、四子講德論、毛嬙西施、注〕善曰 先施・西施一也。⓭**碁などで、相手よりさきに碁石を下すこと。又、相手を防禦の地位に立たすこと。**〔西陽雜俎、語資〕此但爭レ先耳。⓮**百六韻の一。下平の第一。**⓯**姓。**〔通志、氏族略、以レ字爲レ氏〕先氏、晉大夫先輔之後、世爲二晉卿一。⓰英國貨幣の名。先令の略稱。先令(251)の❶を見よ。㊁❶**さきだつ。**さきんずる。㋑前にある。〔增韻〕先、先レ之也。〔禮、月令〕先二立春一三日。㋺のりこえる。おひこす。〔左氏、文、二〕不二先レ父食一。〔孟子、告子下〕疾行先二長者一。〔後漢書、袁隗妻傳〕弟先レ兄擧。㋩みちびく。〔集韻〕先、相導前後曰二先後一。〔周禮、夏官、大司馬〕右秉レ鉞以先。〔注〕先、猶レ道也。〔禮、郊特牲〕天先二乎地一。〔注〕先、謂三倡二道之一也。〔蔣防、日初出賦〕暖氣而孤峯是先。❷**あによめ。**〔史記、武帝紀〕見二神於先後宛若一。〔注〕索隱曰、先姒後娣、卽今妯娌也。㊂**さきがけ。**洗(**6—17379**)に通ず。先馬(205)を見よ。

[名乘] サキ。ヒロ。ユキ。

[解字] 會意。人と之との合字。之は行く意。人の行きてさきんずる意。故に、すすむ、さきんずとし、先王・先生等と重言して、古の君主・長者・祖先の意とする。〔說文通訓定聲〕先、前進也、从レ儿从レ之、會意、儿、古文人字、之、出往也。

[參考] ❶さきんずるの意味の時には去聲とする說。〔正字通〕先、毛晃曰、凡在レ前者、謂二之先一、則平聲、云云、先而導與二當レ後而先レ之、則去聲。❷何れの場合も平聲とする說。〔正字通〕先、毛晃曰、凡在レ前者、謂二之先一、則平聲、先王・先公・老子象二帝之先一之類、是也、先而導レ前、與二當レ後而先一レ之、則去聲、易先レ天而天弗レ違、詩、予曰有二先後一、禮月令、先二立春一、先レ雷、孟子疾行先レ長、後漢光武、沈幾先レ物、祖生先二吾著レ鞭之類、是也、按、六書有下字同必改レ音、而後義不二相殽一者上、亦有二字同音同、而義各別者一、先而導レ前、當レ後而先レ之之先、與二在レ前曰レ先、先レ事而爲レ之之先一、所謂不レ改レ音而義自別者也、如下易先レ天先レ庚先レ甲、月令先レ雷、孟子先レ長、左傳不中先レ父食上、皆在レ前之義、皆平聲、讀若レ仙、不二必改レ讀如レ線、毛氏說泥、正韻、平聲先、前也、去聲先、先レ之也、並引二毛說一、失考、正。

【先媼】1 センアウ 亡くなつた母。〔漢書、高帝紀下〕追二尊先媼一、曰二昭靈夫人一。

【先意】2 センイ ❶人の心を迎へ知る。先レ意承レ志(**4—10921‥151**)を見よ。〔禮、祭義〕君子之所レ謂孝者、先レ意承レ志、諭二父母於道一。〔吳志、賀邵傳〕先レ意承レ旨、各希二時趣一。〔顏氏家訓、勉學〕先レ意承レ顏、怡レ聲下レ氣。❷むかしのこころ。古意。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕仰悲二先意一、俯思二身愆一。

【先醫】3 センイ 太昊伏羲氏・炎帝神農氏・黃帝軒轅氏の三皇を以て先醫に擬し、其の醫藥發明の恩に報いるために、之を主祭し、配するに歷代の名醫を以てし、稱して先醫祭といふ。〔淸會典、大醫院〕祭二先醫一則分獻。〔注〕每年二月、十一月、上甲日、於二本院之景惠殿一祭二先醫一、以二禮部堂官一人一主レ祭、本院堂官二人、分二獻兩廡一、其不レ與二分獻一之堂官及屬官、皆一體陪祀。

【先友】4 センイウ ❶先祖の友人。〔李康、運命論〕昔吾先友、嘗從二事於斯一矣。〔注〕銑曰、老子、康之先也、與二孔子一同レ志爲レ友、故云二吾先友一也。❷父の友。〔稱謂錄、父之友、先友〕東坡志林、先友史經臣、字彥輔、眉山人、與二先子一同擧二制策一。❸春秋、晉の大夫。晉の獻公が、太子申生をして東山皐落氏を伐たしめたとき、太子に偏衣を衣、金玦を佩用させたので、時人は、太子に災の起るべきを豫想したが、先友は太子を慰勉した。〔左氏、閔、二〕。

【先游】5 センイウ さきに取りもつ。豫め其の人を紹介する。推薦の勞をとる。先容。〔漢書、鄒陽傳〕有二人先游一、則枯木朽株、樹レ功而不レ忘。〔注〕先游、謂二進納之一。〔新序、雜事三〕有二人先游一、則以二枯木朽株一、樹レ功而不レ忘。〔事物異名錄、人事〕表異錄、先游、介紹也、猶レ言二先容一。

【先猷】6 センイウ 前代の人の計畫。〔韓愈、盧氏墓志銘〕率二其先猷一、令德是茂。

【先憂】7 センイウ 天下に先だつて憂へる。人に先だつて天下の事を憂へる。先憂後樂を見よ。

【先憂後樂】8 センイウコウラク ❶志士仁人が國家を思ふ情。人に先だつて憂へ、人に後れて樂しむ義。〔大戴禮、曾子立事〕先憂レ事者後樂レ事、先樂レ事者後憂レ事。〔范仲淹、岳陽樓記〕曰下先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂上歟。〔宋史、范仲淹傳論〕攷二其當期一、雖レ不レ能レ久、然先憂後樂之志、海內固已信下其有二弘毅之器一、足上任二斯責一。〔歐陽脩、資政殿學士戶部侍郞文正范公神道碑銘〕先二天下之憂一而憂、後二天下之樂一而樂。〔蓬窗日錄〕先憂レ事者後樂、先樂レ事者後憂、此曾子立事篇語、大戴禮所レ載、范文正語本レ此。❷憂患を先にして、安樂を後に得ること。〔說苑、談叢〕先憂レ事者後樂、先傲レ事者後憂。

【先邑】9 センイフ 先代の持つて居た土地をいふ。〔日本外史、足利後記、後北條氏〕復二其先邑一、載二印信一焉。

【先引】10 センイン さきにたつて道案內する。先導。〔漢書、蕭望之傳〕少史冠二法冠一、爲レ妻先引。

【先景】11 センエイ 馬の走ることの速かな形容。常に影の前にある程速かな義。影が相伴つて行けぬ程速い。〔揚雄、河東賦〕迺撫二翠鳳之駕一、六二先景之乘一。〔漢書注〕先景、爲二馬行速疾一、常在二景前一也。

【先塋】12 センエイ 祖先の墓域。先壟。〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕啓レ自二先塋一、將レ祔二于興安陵一。〔過庭錄〕吾恐三愚民致レ疑、害二爾先塋一。

【先要】13 hsien^1 yao^4 先づ云云せんとする。先づ云云を要する。

【先謁】14 センエツ まづ第一に拜謁すること。何よりも先におまゐりすること。〔史記、孔子世家〕漢高皇帝過レ魯、以二太牢一祠焉、諸侯卿相至、常先謁、然後從レ政。

【先遠】15 センヱン 遠日を先にし近日を後にすること。卽ち葬と其の祭の期日とを定める時は、先づ遠日(來月の下旬)をトし、不吉のときは中旬をトし、更に不吉のときは上旬をトする。〔禮、曲禮上〕喪事先二遠日一。〔疏〕喪事、謂三葬與二二祥一、是奪レ哀之義也、非二孝子之所一レ欲、但制不レ獲レ已、故卜先從二遠日一而起、云云、今月下旬、先卜二來月下旬一、不吉卜二中旬一、不吉卜二上旬一。〔左氏、宣、八〕禮、卜レ葬先二遠日一、避レ不レ懷也。〔任昉、齊竟陵文宣王行狀〕先レ遠戒レ期。〔注〕濟曰、先レ遠戒レ期、謂二葬日一也。

【先河】16 センカ 海を祀るより先に河を祀ること。轉じて、事のはじめとなるもの。先導。〔禮、學記〕三王之祭レ川也、皆先レ河而後レ海。

【先戒】17 センカイ まへ以て戒めること。〔楚辭、九辯〕秋既先戒以二白露一兮、冬又申レ之以二嚴霜一。

【先考】18 センカウ 亡くなつた父。考は亡父。先人。先君。〔爾雅、釋親〕父曰レ考、母曰レ妣。〔張九齡、追贈祭文〕謹以二淸酌脯醢庶羞之奠一、敢昭二告于先考先妣之靈一。

【先行】19 センカウ さきだつ。さきに行く。〔漢書、宣帝紀〕使下有司道二單于一先行上。

【先行後聞】20 センカウコウブン 先に事を行ひ、後から奏

上する。〔後漢書、酷吏傳序〕臨レ民之職、專二事威斷一、族二滅姦軌一、先行後聞。〔注〕先行レ刑、後聞奏也。

【先行墊付】21 hsien¹ hsing² tien⁴ fu⁴ 立替。又、豫め支出すること。墊は立替、又は豫め支拂をする義。

【先庚】22 センカウ ㊀命令等を變更する場合には、三日前に其の事を通告しておくことをいふ。庚は命令をかさねること、又、丁寧にすること。〔易、巽〕先レ庚三日、後レ庚三日、吉。〔注〕申二命令一、謂二之庚一、夫以レ正齊レ物、不レ可二卒也、民迷固久、直不レ可レ肆也、故先甲三日、令著之後、復申三日、然後誅、而无二咎怨一矣。〔本義〕庚、更也、事之變也、先レ庚三日、丁也、丁、所三以丁二寧於其變之前一。㊁清、劉丁(2－2224‥507′)の字。

『先庚後庚』23 センカウコウカウ 命令を發布する前後に丁寧に民に説明すること。轉じて、物事を丁寧にする意に用ひる。先甲後甲(287)の㊀に同じ。〔易、巽〕先レ庚三日、後レ庚三日、吉。〔注〕申二命令一、謂二之庚一。〔疏〕先レ庚三日、後レ庚三日、吉者、申二命令一、謂二之庚一、民迷固久、申不レ可レ卒、故先申レ之三日、令著之後、復申レ之三日、然後誅レ之、民服二其罪一無レ怨、而獲レ吉矣。

【先格】24 センカク 前からのしきたり。從前の格式。

【先覺】25 センカク ㊀人にさきだつて道を悟つた人。先知。〔論語、憲問〕子曰、不レ逆レ詐、不レ億二不信一、抑亦先覺者是賢乎。〔孟子、萬章上〕予天民之先覺者也。〔魏志、邢顒傳〕邢顒、民之先覺也。〔顏延之、皇太子釋奠會作詩〕永瞻二先覺一。㊁字號。㋑宋、尹天民(4－7631‥136)の字。㋺宋、鄭天民(11－39647‥515)の字。

【先漢】26 センカン 前漢をいふ。西漢。〔諸葛亮、出師表〕親二賢臣一遠二小人一、此先漢所二以興隆一也。

【先己】27 センキ 呂氏春秋、季春紀の篇名。

【先軌】28 センキ 先帝の法度。〔魏志、高柔傳〕光二濟先軌一。〔曹植、責躬表〕先軌是隳。

【先規】29 センキ もとの規則。〔舊唐書、音樂志三〕乾乾遵二後命一翼翼奉二先規一。

【先期】30 センキ 期日に先だつて。先づ以て。〔禮、祭統〕先レ期旬有一日、宮宰宿二夫人一、夫人亦散齊七日、致齊三日。〔謝超宗、齊明堂樂歌〕先レ期選レ禮、肅若レ有レ承。

【先歸】31 センキ まづかへる。さきにかへる。〔左氏、襄、二十六〕使二女齊以先歸一。〔後漢書、張純等傳贊〕伯仁先歸、釐二我國祭一。

【先舅】32 センキウ 亡くなつた舅。先子。〔爾雅、釋親〕姑舅在、則曰二君舅君姑一、沒則曰二先舅先姑一。

【先急】33 センキフ 急務。〔韋昭、博奕論〕君子之上務、當今之先急也。

【先客】34 センキヤク さきに來た客。

【先供】35 サキドモ さきに立つ供人。〔夕霧阿波鳴渡、中〕旦那のお歸り、先供走る黑羽織。

【先敺】36 センク 先驅に同じ。〔漢書、郊祀志下〕前上二甘泉一、先敺失レ道。〔注〕敺、與レ驅字同。

【先驅】37 センク 行列のさきがけをする。又、さきとも。前導。軍の先鋒。先敺。〔左氏、襄、二十三〕齊伐レ衞先驅、穀榮御二王孫揮一。〔史記、周紀〕百夫荷二罕旗一以先驅。〔史記、孟軻傳〕(鄒子)如レ燕、昭王擁レ彗先驅。〔漢書、司馬相如傳下〕縣令負二弩矢一先驅。〔揚雄、解嘲〕或擁レ篲而先驅。〔後漢書、王昌傳〕爲二其先驅一。

『先驅者』38 センクシヤ 先に立つて進む人。さきがけ。

『先驅二螻蟻一』39 サキンジテロウギヲカル 君に先んじて黃泉の螻蟻をかりたてる。黃泉まで君の先拂をして行く。〔戰國、楚策〕於レ是楚王游二於雲夢一、結駟千乘、旌旗蔽レ天、云云、仰レ天而笑曰、樂矣今日之游也、寡人萬歲千秋之後、誰與樂レ此矣、安陵君泣數行下、而進曰、臣入則編レ席、出則陪乘、大王萬歲千秋之後、願得下以レ身試二黃泉一蓐中螻蟻上、又何如得二此樂一而樂レ之、王大說、乃封レ壇爲二安陵君一。〔南史、王琨傳〕宋順帝遜レ位、琨攀二畫輪獺尾一慟泣曰、人以レ壽爲レ歡、老臣以レ壽爲レ戚、既不レ能三先驅二螻蟻一頻見二此事一、嗚噎不二自勝一。

【先皇】40 センクワウ 前の天皇。先帝。〔晉書、樂志上〕猗與盛與、先皇聖文、則レ天作レ孚、大哉爲レ君。

【先君】41 センクン ㊀亡父。先考。先公。〔左氏、隱、三〕先君舍二與夷一而立二寡人一。〔李陵、答二蘇武一書〕先君之嗣。〔范甯、穀梁傳序〕先君北蕃廻レ軫、頓駕二于吳一。〔蘇軾、潁州初別二子由一詩〕念子似二先君一、木訥剛且靜。㊁子孫が其の先世を稱す。〔墨子、天志下〕先君之法美。〔孔安國、尙書序〕先君孔子、生二於周末一。〔稱謂錄、遠祖、先君〕案、今人稱二亡父一爲二先君一、而孔子順曰、吾先君之相レ魯、則稱二六世祖一曰二先君一、孔安國曰、先君孔子、又曰、我先人用藏二其家書於屋壁一、則稱二十一世祖一爲二先君一、五世祖子襄爲二先人一。㊂他人の亡父。〔北史、穆紹傳〕老身二十年侍中、與二卿先君一亟連二職事一。㊃先代の君。先侯。〔詩、邶風、燕燕〕先君之思、以勗二寡人一。㊄歷代の帝王。〔書、伊訓、有夏先后、傳〕先君、謂二禹以下少康以上賢王一。

『先君子』42 センクンシ 亡父の敬稱。〔禮、檀弓上〕子之先君子、喪二出母一乎。

【先勳】43 センクン 先君のいさをし。〔後漢書、章帝紀〕告二祠明堂一以章二先勳一。

【先系】44 センケイ 先祖の系圖。〔唐書、周智光傳〕智光少賤、失二其先系一以二騎射一從レ軍、起二行閒一爲二裨將一。

【先卿】45 センケイ 人君は、臣を呼んで卿といひ、臣の父を呼んで先卿といふ。〔宋史、理宗紀一〕上曰、先卿中庸序、言レ之甚詳。〔日知錄、雜論、先卿〕稱二其臣一爲レ卿、則亦可下稱二其臣之父一爲中先卿上。

【先惠】46 センケイ 恩惠を施すことを先にする。〔鍾會、移レ蜀檄〕今國朝隆二天覆之恩一、宰輔弘二寬恕之德一、先レ惠後レ誅、好レ生惡レ殺。

【先睽】47 センケイ はじめにそむく。〔京房易傳〕先睽後合、其道通也、文明上照、幽暗分矣。

【先決】48 センケツ さきに決定すべきこと。

『先決問題』49 センケツモンダイ 一番さきに取りきめて置く可きことがら。

【先月】50 センゲツ ㊀今月の前の月。あとげつ。前月。〔狂言記拾遺、枕物狂〕先月の二十四日は。㊁過ぎ去つた月。去月。

【先業】51 センゲフ ㊀亡き君父の事業。先代のわざ。先人の行爲。〔國語、晉語九〕纂二脩其身一以受二先業一。㊁佛 センゴフ 前世の業因。〔顏氏家訓、歸心〕若引二之先業一、冀以二後生一更爲レ通耳。

【先見】52 センケン ㊀古のことを考へみる。〔書、太甲上〕惟尹躬、先二見于西邑夏一。㊁未來の事を豫知する。あらかじめ見込を立てる。逆睹。豫知。〔長篇〕呂獻可爲二御史中丞一、王安石新拜二參政一、公彈レ之、溫公後曰、獻可之先見、范景仁之勇決、予所レ不レ及也。

『先見明』53 センケンノメイ さきのことを見ぬく眼力。事を未然に知る判斷力。先見の㊁を見よ。〔後漢書、楊彪傳〕子脩爲二曹操所一レ殺、操見レ彪、問曰、公何瘦之甚、對曰、愧下無二日磾先見之明一、猶懷中老牛舐犢之愛上。

『先見二敗徵一』54 マツハイチヨウヲミル 事前に戰の敗れるきざしを知る。〔史記、項羽紀〕宋義論二武信君之軍必敗一、居數日、軍果敗、兵未レ戰、而先見二敗徵一、此可レ謂レ知レ兵矣。

【先賢】55 センケン ㊀昔の賢人。先正。先人。〔禮、祭義〕祀二先賢於西學一。〔北史、郭祚傳〕先賢後哲、頓在二一門一。〔張悛、爲二吳令謝詢一求下爲二諸孫一置中守冢人上表〕先賢爲二後愚一廢。㊁明の嘉靖九年、文廟の祀典を議して、孔門の十哲以下の諸弟子を先賢といひ、左丘明以下を先儒といつた。後に、崇禎十五年には、宋儒の周敦頤・程顥・程頤・邵雍・張載・朱熹を改めて先賢といつた。〔明會典〕四配、復聖顏子、舊封兗國復聖公、宗聖曾子、舊封郕國宗聖公、述聖子思子、舊封沂國述聖公、亞聖孟子、舊封鄒國亞聖公、十哲、先賢閔子名損、舊封費公、先賢冉子名雍、舊封薛公、先賢端木子名賜、舊封黎公、先賢仲子名由、舊封衞公、先賢卜子名商、舊封魏公、先賢冉子名耕、舊封鄆公、先賢宰子名予、舊封齊公、先賢冉子名求、舊封徐公、先賢言子名偃、舊封吳公、先賢顓孫子名師、舊封陳公、東廡、先賢澹臺滅明、舊封金鄉侯、先賢原憲、舊封任城侯、先賢南宮适、舊封汝陽侯、先賢商瞿、舊封須昌侯、先賢漆雕開、舊封平輿侯、先賢司馬耕、舊封睢陽侯、先賢有若、舊封平陰侯、先賢巫馬施、舊封東阿侯、先賢顏辛、舊封陽穀侯、先賢曹䘏、舊封上蔡侯、先賢公孫龍、舊封枝江侯、先賢秦商、舊封馮翊侯、先賢顏高、舊封雷澤侯、先賢壤駟赤、舊封上邽侯、先賢石作蜀、舊封成紀侯、先賢公夏首、舊封鉅平侯、先賢后處、舊封膠東侯、先賢奚容蒧、舊封濟陽侯、先賢顏祖、舊封富陽

侯、先賢句井彊、舊封滏陽侯、先賢秦租、舊封禋城侯、先賢縣成、舊封武城侯、先賢公祖句茲、舊封卽墨侯、先賢燕伋、舊封汙源侯、先賢樂欬、舊封建成侯、先賢狄黑、舊封林慮侯、先賢孔忠、舊封鄒城侯、先賢公西蒧、舊封徐城侯、先賢顏之僕、舊封宛句侯、先賢施之常、舊封臨濮侯、先賢秦非、舊封華亭侯、先賢申棖、舊封文登侯、先賢顏噲、舊封濟陰侯、先儒穀梁赤、舊封睢陽侯、先儒高堂生、舊封茌無伯、先儒毛萇、舊封樂壽伯、先儒后蒼、先儒杜子春、舊封緱氏伯、先儒韓愈、舊封昌黎伯、先儒程顥、舊封豫國公、先儒邵雍、舊封新安伯、先儒司馬光、舊封溫國公、先儒胡安國、舊封建寧伯、先儒楊時、舊封將樂伯、先儒張栻、舊封華陽伯、先儒陸九淵、先儒許衡、舊封魏國公、舊有二堂邑侯顏何・蘭陵伯荀況・彭城伯劉向・司空王肅・司徒杜預、今黜、中牟伯鄭衆・良鄉伯盧植・滎陽伯服虔、今改祀二於鄉一、萊無侯曾點・黗水侯孔鯉、改入二啓聖祠一從祀、西廡、先賢宓不齊、舊封單父侯、先賢公冶長、舊封高密侯、先賢公晳哀、舊封北海侯、先賢高柴、舊封共城侯、先賢樊須、舊封益都侯、先賢公西赤、舊封鉅野侯、先賢梁鱣、舊封千乘侯、先賢冉孺、舊封臨沂侯、先賢伯虔、舊封沐陽侯、先賢冉季、舊封諸城侯、先賢漆雕徒父、舊封高苑侯、先賢漆雕哆、舊封濮陽侯、先賢商澤、舊封鄒平侯、先賢任不齊、舊封當陽侯、先賢公良孺、舊封牟平侯、先賢公肩定、舊封梁父侯、先賢鄡單、舊封聊城侯、先賢罕父黑、舊封祈鄉侯、先賢榮旂、舊封厭次侯、先賢左人郢、舊封南華侯、先賢鄭國、舊封朐山侯、先賢原亢、舊封樂平侯、先賢廉潔、舊封胙城侯、先賢叔仲會、舊封博平侯、先賢公西輿如、舊封臨朐侯、先賢邽巽、舊封高唐侯、先賢陳亢、舊封南頓侯、先賢琴張、舊封陽平侯、先賢步叔乘、舊封博昌侯、先儒左丘明、舊封中都伯、先儒公羊高、舊封臨淄伯、先儒伏勝、舊封乘氏伯、先儒孔安國、舊封曲阜伯、先儒董仲舒、舊封廣川伯、先儒王通、先儒周惇頤、舊封道國公、先儒歐陽脩、先儒張載、舊封郿伯、先儒程頤、舊封洛國公、先儒胡瑗、先儒朱熹、舊封徽國公、先儒呂祖謙、舊封開封伯、先儒蔡沈、舊封崇安伯、先儒眞德秀、舊封浦城伯、先儒薛瑄、先儒王守仁、先儒陳獻章、先儒胡居仁、舊有二壽章侯公伯寮・新息侯秦冉・考城伯戴聖・岐陽伯賈逵・扶風伯馬融・任城伯何休・偃師伯王弼、今黜、內黃侯鄴玄・新野伯范甯・臨川郡公吳澄、今改祀二於鄉一、曲阜侯顏無繇、改入二啓聖祠一從祀、淄川侯申黨、卽申棖、今存棖。〔春明夢餘錄〕崇禎十四年八月諭、朕覽二我聖祖、命二儒臣一纂中輯五經四書大全一、其中作述傳注引証等項、惟宋儒、周子・兩程子・朱子・張子・邵子爲多、可レ見下理學大明二於宋一、而周程諸子大有レ功二於聖門一、然與二周秦漢唐諸儒一、並稱二先儒一、竊爲レ不レ安、茲欲レ特加二崇隆一、是否レ可レ行、著二禮部翰林院、大常寺、國子監禮科等衙門一、會同詳議、來說、十月部義以、周程六子、宜レ稱二先賢一、並請、漢儒董仲舒・隋儒王通、但稱二先賢一、且宋從祀至二十八人一、今止四人、爲二太少一、宜レ以二吳與弼・羅倫・蔡清・陳眞晟・琛呂柟・王艮・章懋・羅洪先・鄧元錫・顧憲成等一、令中候旨行上。㊂複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕先賢氏、匈奴單于從兒先賢撣降二漢一、因氏。

【先言】56 センゲン 先づいふ。先づ云云といふ。〔公羊、僖、十六〕曷爲先言レ賈、而後言レ石。

【先限】57 サキギリ 市場用語。清算取引の限月の一。三箇月限制の下では、目的物の受渡を翌々月の末に行ふもの。末。末月限。當限（7—21890‥52）・中限（1—73‥254）の對。

【先嚴】58 センゲン 亡父の稱。父は嚴格で母は慈愛深い。故に亡父を先嚴といひ、亡母を先慈（92）といふ。

【先古】59 コセン ㊀先祖。先故（62）に同じ。〔禮、祭義〕以事二天地一山川社稷先古一。〔注〕先古、先祖。〔史記、項羽紀〕陳嬰母謂二嬰一曰、自レ我爲二汝家婦一、未四嘗聞二汝先古之有一貴者一、今暴得二大名一、不祥。㊁かみつよ。昔。上古。〔韓非子、說疑〕有レ民如レ此、先古聖王、皆不レ能レ臣。〔新書、脩政語上〕吾存二心於先古一。〔韓愈、元和聖德詩〕皇帝神聖、通二達先古一。

【先姑】60 センコ 亡くなつた姑。〔爾雅、釋親〕舅姑在、則曰二君舅君姑一、沒則曰二先舅先姑一。〔國語、魯語下〕公父文伯之母對曰、吾聞二之先姑一、曰、君子能勞、後世有レ繼。〔後漢書、桓帝紀〕遠覽二復子明辟之義一、近慕二先姑歸授之法一。

【先姑氏】61 センコシ 亡くなつた姑。〔韓愈、監察御史元君妻京兆韋氏夫人墓誌銘〕得二其良夫一、又受二經於先姑氏一。

【先故】62 センコ 先代。先古。〔管子、四稱〕及至二先故之大臣一。〔楚辭、招魂〕酎飲盡レ歡、樂二先故一些。〔漢書、項籍傳〕嬰母謂レ嬰曰、自二吾爲一乃家婦一、聞二先故一、未二曾貴一、今暴得二大名一、不祥。

【先後】63 センゴ ㊀さきとあと。あとさき。前後。〔大學〕知所二先後一、則近二道矣。〔列子、湯問〕然則物無二先後一乎。〔韓非子、喩老〕夫誘レ道爭レ遠、非レ先則後也、而先後心在二于臣一、尚何以調二于馬一。㊁兄弟の妻同士が、相呼んでいふ稱。あひよめ。娣姒。妯娌。〔釋名、釋親屬〕娣、弟也、己後來也、或曰二先後一、以二來先後一レ弟之也。〔疏證補〕兄弟妻相二謂先後一。〔廣雅、釋親〕娣姒、先後也。〔廣韻〕後、方言云、先後猶二娣姒一。〔史記、武帝紀〕神君者、長陵女子、以二子死一、悲哀、故見二神於先後一。〔韓愈、南山詩〕或齊若二友朋一、或隨若二先後一。㊂前後に助け導く。又、其の人。侍從の人。〔書、梓材〕先二後迷民一。〔傳〕先後、謂二教訓一。〔詩、大雅、緜〕予曰有二疏附一、予曰有二先後一。〔傳〕相道前後曰二先後一。〔左氏、襄、十八〕其官臣儐、實先二後之一。〔國語、楚語上〕威儀以先二後之一。〔史記、燕世家〕寡人之國小、不レ足二以爲一先後一。㊃左右（4—8720‥5）に同じ。〔周禮、秋官、士師〕以二五戒一先二後刑罰一。〔注〕先後、猶二左右一也。㊄進退（11—38943‥110）に同じ。〔後漢書、皇甫規傳〕未レ聞二國家有レ所二先後一。〔注〕先後、進退也。

【先後生】64 センゴセイ 或は先に生れ、或はあとに生れること。〔韓愈、師說〕夫庸知四其年之先二後一生於吾一乎。

【先公】65 センコウ 亡父。先君（41）に同じ。〔中庸〕上祀二先公一、以二天子之禮一。〔陸雲、答二兄平原一詩〕先公克構、乃崇二斯堂一。〔歐陽脩、瀧岡阡表〕先公少孤、力レ學。

【先功】66 センコウ 先人の功績。〔漢書、郊祀志下〕大臣子孫、刻二銘其先功一、臧二之於宮廟一也。

【先后】67 センコウ 先王（285）に同じ。〔書、伊訓〕嗚呼古有夏先后、方懋二厥德一、罔レ有二天災一。

【先侯】68 センコウ 前の大名。先君（41）の㊃に同じ。

【先構】69 センコウ 先人のなし置いた事業。〔南齊書、明帝紀〕永懷二先構一、若レ履二春冰一。

【先刻】70 センコク 今しがた。さきほど。

【先穀】71 センコク 複姓。〔通志、氏族略、以二名氏一爲レ氏〕先穀氏、晉國士氏之別族也、隰叔初封二于先一、故以爲レ氏。

【先穀】72 センコク 春秋、晉の大夫。一に彘子と稱す。荀林父に從つて佐となり、鄭を救はうとして、河に至つた。然るに適〻鄭が楚に平げられたことを聞き、荀林父はやめて還らうとしたが、彘子は之を不可なりとして戰ひ、遂に大いに楚軍を邲に破つた。〔春秋、宣、十二〕〔左氏、宣、十二・十三〕。

【先妻】73 センサイ 死んだつま。又は離緣したつま。先室。

【先策】74 センサク 豫めめぐらすはかりごと。前からの策略。豫め知る。〔後漢書、劉寬傳〕以下先策二黃巾逆謀一、以レ事上聞上、封二遂鄉侯六百戶一。〔注〕先策、謂二預知一也。

【先蠶】75 センサン 始めて民に養蠶を教へた神。或は菟窳婦人・寓氏公の二神と爲し、或は黃帝の妃西陵氏とする。又、其の神を祀ること。〔後漢書、禮儀志上〕祠二先蠶一、禮以二太牢一。〔注〕今蠶神曰二菟窳一。〔魏書、世宗紀〕四年三月己巳、皇后先二蠶于北郊一。〔北史、齊文宣帝紀〕有司監視、必令二豐二備農社先蠶酒肉一而已。〔宋史、禮志五〕紹興七年、始以二季春吉巳日一享二先蠶一、視二風師之儀一。〔通鑑外紀〕西陵氏之女嫘祖、爲二帝元妃一、始教下民育上蠶治二絲繭一、以供中衣服上、後世祀爲二先蠶一。

【先蠶壇】76 センサンダン 蠶神を祀る所。〔後漢書、禮儀志上〕祠二先蠶一、禮以二少牢一、注〕先蠶壇、高一丈、方二丈、爲二四出陛一、陛廣五尺、在二采桑壇之東南一。

【先士】77 センシ 古人。〔陸機、文賦序〕恒患二意不レ稱レ物、文不レ逮レ意、蓋非二知之難一、能之難也、故作二文賦一、以述二先士之盛藻一。

【先子】78 センシ ㊀亡父。〔孟子、公孫丑上〕曾西蹴然曰、吾先子之所レ畏也。〔焦循正義〕稱二先子一

者謂父、非謂祖父也。㊁先祖。〔後漢書、崔駰傳〕庶不忝二乎先子一。〔宜齋野乘〕今人稱二先子先君先人一爲レ父、然不二獨父一、祖宗皆可也。㊂夫の亡父。先舅(38)に同じ。〔國語、魯語下〕文伯之母聞二之怒曰、吾聞二之先子一。

【先之】79 セン シ 字號。㊀宋、許幾(10－35298‥40)の字。㊁宋、翟進(9－28727‥25)の字。㊂宋、李朴(6－14459‥748)の字。㊃宋、劉牧(2－2224‥610)の字。

【先旨】80 セン シ 先君の旨趣。〔後漢書、皇后紀序〕明帝事二遵先旨一、宮教頗修。

【先死】81 セン シ ㊀先に死ぬ。〔尉繚子、制談〕先死者、亦未二嘗非一多力國士一也。㊁死にさきだつ。死ぬ前。〔後漢書、張奮傳〕誠冀先レ死見二禮樂之定一。〔注〕先死、謂二未レ死之前一也。

【先志】82 セン シ ㊀志を第一とする。〔禮、學記〕記曰、凡學、官先レ事、士先レ志、其此之謂乎。〔疏〕若學爲レ士、則先喩教以二學士之志一。㊁勝に乗ずる盛な意氣。〔後漢書、臧宮傳論〕斯誠雄心尚武之幾、先志翫兵之日。〔注〕先志者、乘レ勝之志也。㊂亡君、又は亡父などの志。〔魏書、高祖紀上〕思二隆二先志一、緝二熙政道一。〔顧況、御史儲公集序〕嗣息曰、溶亦鳳毛駿骨、恐レ墜二先志一。

【先使】83 セン シ 官人等が或る土地へ出向く時の先觸れの使。又、新任國司が先づ其の國廳へ差遣はす使。〔東鑑、十四〕建久五年十二月十五日、御堂供養導師、近日可レ令二下著一之由、先使到來。

【先祀】84 セン シ 先祖のまつり。〔左氏、襄、二十二〕荀守二先祀一、無レ廢二勳一。〔史記、五帝紀〕皆有二疆土一、以奉二先祀一。〔史記、宋微子世家〕奉二其先祀一。

【先施】85 セン シ ㊀先に施し與へること。〔中庸〕所レ求二乎朋友一、先施之、未レ能也。〔疏〕欲レ求二朋友一以二恩惠一施レ己、則已當二先施一、恩惠於朋友一也。㊁美女の名。西施(10－34763‥284)に同じ。〔宋玉、神女賦〕毛嬙鄣袂、不レ足二程式一、先施掩レ面、比二之無色一。〔枚乘、七發〕先施徽纆、陽文段干。〔注〕善曰、先施、卽西施也。〔王褒、四子講德論〕毛嬙・西施、善毀者不レ能レ蔽二其好一。〔注〕善曰、愼子曰、毛嬙・先施、天下之姣也、衣レ之以二皮幣一、則見レ之者皆走、易二之玄錫一、則行者皆止、先施・西施一也。

【先師】86 セン シ ㊀先聖を佐けた人。先聖先師(141)を見よ。〔禮、文王世子〕釋二奠于先聖先師一。㊁古の師。前學の士。〔漢書、劉歆傳〕頗有二詩禮春秋先師一。〔後漢書、章帝紀〕先師微言、將二遂廢絶一。

【先師廟】87 セン シ ビョウ 先師を祭つたおたまや。聖廟。〔令狐峘、釋奠日國學觀禮聞二雅頌一詩〕肅肅先師廟、依依胄子羣。「名。

【先梓】88 セン シ 清、郭嵓燾(11－39474‥297)の原名。

【先貲】89 セン シ おやゆづりの財產。遺產。〔列子、楊朱〕藉二其先貲一、家累二萬金一。

【先資】90 セン シ 清、劉峨(2－2224‥80)の字。

【先事】91 セン ジ ㊀第一に仕事を大切にする。先志(82)に對する語。仕事を先にする。〔禮、坊記〕先レ事而後祿。〔禮、學記〕凡學、官先レ事、士先レ志。〔左氏、襄、二十八〕先レ事後賄、禮也。㊁事前。〔例〕先事籌措。

【先慈】92 セン ジ ㊀慈愛を第一に重要なものと考へる。〔魏歸仁、晏居賦〕孔門之道、一以貫レ之、老氏稱レ德、所レ貴二先慈一。㊁亡母。先嚴(58)を見よ。

【先週】93 セン シュウ 現在の七曜日に對して、先の七曜日を稱していふ。又、前週ともいふ。

【先識】94 セン シキ 先見の明。〔魏志、荀彧傳評〕機鑒先識。〔何晏、景福殿賦〕先識博覽。〔晉書、索靖傳〕靖有二先識遠量一、指二洛陽宮門銅駝一歎曰、會見二汝在二荆棘中一耳。

【先識覽】95 セン シキ ラン 呂氏春秋の篇名。八覽の一。

【先室】96 セン シツ 先妻。亡妻。〔元稹、茅舍詩〕農收次二邑居一、先室後二臺榭一。

【先日】97 セン ジツ さきのひ。このあひだ。過日。〔漢書、鄒陽傳〕王先日、吾先日欲レ獻二愚計一。

【先倡】98 セン ショウ 首唱する。先唱に同じ。〔六韜、武韜、發啓〕天道無レ殃、不レ可二先倡一。〔漢書、鼂錯傳〕爲二天下先倡一。〔淮南子、詮言訓〕聖人內藏、不レ爲二邑物先倡一、事來而制、物至而應。

【先唱】99 セン ショウ さきだつてとなへる。人よりさきに言ひ出す。首唱。先倡。〔文子、上義〕老子曰、臣道者、論是處レ當、爲二事先唱一。〔淮南子、原道訓〕與二萬物一回周旋轉、不レ爲二先唱一。〔春秋繁露、立元神〕君レ人者國之證也、不レ可二先唱一。

【先唱者窮之路】100 セン ショウ シャ キュウ ノ ロ 自ら率先して事をなすのは窮迫を招くやり方である。自然に委せるをよしとする意。〔淮南子、原道訓〕先唱者窮之路也、後動者達之原也。

【先賞】101 セン ショウ 賞を與へることを第一に努める。後罰(4－10098‥598)に對していふ。〔禮、表記〕先レ祿而後レ威、先レ賞而後レ罰。

【先常】102 セン ジョウ 從來の常法。故常。

【先情】103 セン ジョウ 先人のこころ。〔盧諶、贈二劉琨一詩〕仰惟二先情一。

【先手】104 セン シュ ㊀人より先に手を著けること。〔蘇軾、送二周正孺知二東川一詩〕告レ歸謝二先手一、求レ去悔レ不レ勇。㊁圍碁・將棋などで、相手より先に打ち始める方。せんて。〔耶律楚材、過二齊源一和二香山居士韻一詩〕忽見樂天吟、笑二我輸一先手一。〔趙柞、次二毛維瞻庵一詩〕園碁每放爭二先手一、隱レ几能安自在レ身。

【先主】105 セン シュ 前の主人。前の君主。㊀三國、蜀漢の劉備をいふ。劉備の子を後主といふに對す。〔蜀志、先主劉備傳〕先主、姓劉、諱備、字玄德。〔鍾會、移二蜀檄一〕益州先主、以二命世英才一、興二兵新野一。㊁南唐、李昪(6－14459‥730)をいふ。

【先取】106 セン シュ 他人に先んじて取ること。さきどり。

【先取特權】107 セン シュ トク ケン 法律に規定する一定の債權を有する者が、債務者の財產に付、他の債權者に優先して辨濟を受ける權利をいふ。

【先酒】108 セン シュ はじめて酒を造つた人。〔柳宗元、飲酒詩〕擧二觴酹二先酒一、爲レ我驅二憂煩一。〔注〕始爲二酒者也一。

【先儒】109 セン ジュ ㊀先代の儒者。〔杜預、春秋左氏傳序〕先儒所レ傳、皆不二其然一。〔李嘉祐、送二王正字山寺讀一書詩〕欲レ究二先儒教一、還過二支遁居一。㊁文廟の祀典に於て、左丘明以下の經學を傳へたものの稱。先賢(55)の㊁を見よ。

【先從】110 セン ジュウ 先んずることと從ふこと。〔莊子、天道〕君先而臣從、父先而子從。

【先從隗始】111 セン ジュウ カイ ヨリ ハジム 賢者を招くには、先づ劣者から用ひよといふ喩。戰國、燕の郭隗の故事。從レ隗始(11－41788‥7)を見よ。〔史記、燕召公世家〕郭隗曰、王必欲レ致二士、先從レ隗始、況賢二於隗一者、豈遠二千里一哉。

【先春】112 セン シュン 茶(9－30915)の異名。〔盧仝、走筆謝二孟諫議寄一新茶一詩〕仁風暗結珠琲瓏、先春抽出黃金芽。

【先緒】113 セン ショ 先人の殘しておいた仕事。古人や祖先の遺業。〔晉書、夏侯湛傳〕作二昆弟誥一曰、維我后府君侯、熙二柔我家道一、丕隆二我先緒一。〔晉書、慕容超載記贊〕先緒俄頹、家聲莫振。

【先勝】114 セン ショウ ㊀先づ必勝の計を定めること。〔孫子、形〕勝兵先勝而後求レ戰、敗兵先戰而後求レ勝。〔魏志、賈詡傳〕用二兵之道一、先レ勝後レ戰、量二敵論一將。㊁先勝日の略。

【先勝日】115 セン ショウ ニチ 陰陽家の語。公事沙汰や急用などに適する日。先負日(226)の對。

【先蹤】116 セン ショウ 古人の事業のあと。前人の事蹟。〔後漢書、班固傳上〕將軍擁二千載之任一、躡二先聖之蹤一。

【先嗇】117 セン ショク 神の名。神農氏や后稷の如きをいふ。田祖(7－21723‥184)ともいふ。〔禮、郊特牲〕蜡之祭也、主二先嗇一而祭二司嗇一也。〔注〕先嗇、若二神農一者、司嗇、后稷是也。〔疏〕先嗇・司嗇、並是一神。

【先職】118 セン ショク 亡父の職官。〔左氏、成、九〕言稱二先職一、不レ背二本也一。

【先觸】119 セン ショク 豫め知らせること。〔五驛便覽〕五海道宿宿人馬先觸之儀。

【先臣】120 セン シン 死亡した臣。君王又は主君に對して亡父の稱。〔左氏、昭、三〕辭曰、君之先臣容焉。〔孔子家語、觀周〕臣受二先臣之命一云。〔陸機、謝二平原內史一表〕無二先臣宣力之效一。

【先秦】121 セン シン 秦の始皇以前の時代。春秋戰國の時代をいふ。〔漢書、河間獻王傳〕獻王所レ得書、皆古文、先秦舊書。〔注〕師古曰、先秦、猶レ言二秦先一、謂二未レ焚レ書之前一。

【先軫】122 セン シン 春秋、晉の大夫。一に原軫と稱す。城濮の役に、中軍に將となつて楚師を破る。襄公の時、秦師を破り、孟明視・西乞術・白乙丙を獲て歸る。後、狄に伐たれるに及び、胄を脫して狄師に入つて死す。〔左氏、僖、二十七・二十

八・三十三。文、二。成、十六〕。

【先進】123 センシン ❶學問・年齡・官位等が己より上にある人。先輩。〔論語、先進〕先進於二禮樂一、野人也、後進於二禮樂一、君子也。〔集注〕先進後進、猶レ言二前輩後輩一。〔漢書、嚴助傳〕助與二壽王一見レ任用、而助最先進。❷論語の篇名。

〔先進國〕124 センシンコク 他國より文化の程度の進んでゐる國。

〔先進遺風〕125 センシンヰフウ 書名。二卷。明、耿定向撰。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【先親】126 センシン 亡くなつた父や母。亡父亡母。先考先妣。〔陶潛、晉大將軍長史孟府君傳〕淵明先親、君之第四女也。

【先人】127 センジン ❶とほつおや。祖先。〔書、多士〕惟殷先人、有レ冊有レ典。〔左氏、莊、十四〕先君桓公命二我先人一、典二司宗祏一。〔列子、周穆王〕先人之廬。〔史記、平原君趙勝傳〕辱二王之先人一。〔孔安國、尙書序〕我先人用藏二其家書于屋壁一。❷亡父。先考。〔詩、小雅、小宛〕我心憂傷、念二昔先人一。〔漢書、司馬遷傳〕請悉論二先人所レ次舊聞一、不二敢闕一。〔韓愈、送二楊少尹一序〕某樹、吾先人之所レ種也。〔宜齋野乘〕今人稱二先子・先君・先人一爲レ父、然不二獨父一、祖宗皆可也。❸古人。〔國語、越語下〕先人有レ言曰、伐レ柯者、其則不レ遠。〔注〕先人、詩人也。〔管子、大匡〕先人有レ言。❹古の賢人。先賢。〔陸機、文賦〕詠二世德之駿烈一、誦二先人之清芬一。〔注〕銑曰、誦二先賢詞賦之芬芳一也。

〔先人遺體〕128 センジンノヰタイ 亡父の殘したからだ。卽ち我が身をいふ。〔漢書、王尊傳〕奉二先人遺體一、奈何數乘二此險一。

〔先人之道〕129 センジンノミチ 先君の殘した道。〔左氏、昭、二十七〕立者從レ之、先人之道也。

【先儘】130 hsien¹ chin³ 眞先に。先づ第一番に。

【先炊】131 センスイ 炊母の神。始めて人に炊事を教へた神。〔禮、禮器〕奥者老婦之祭也、〔注〕老婦、先炊者也、云云、明下此祭二先炊一、非レ祭二火神一、燔柴似上失レ之。〔史記、封禪書〕晉巫祠二五帝・先炊之屬一。〔注〕正義曰、先炊、古炊母神也。

【先世】132 センセイ 父祖。先人の❶に同じ。〔孔子家語、五儀解〕其先世殷王太戊之時、道缺法圮、以致二天孽一。〔陶潛、桃花源記〕先世避二秦時亂一、率二妻子邑人一、來二此絕境一、不二復出一焉。〔唐書、王師範傳〕吾恭二先世一、且示二子孫不レ忘レ本也。

〔先世之勳〕133 センセイノクン 祖先の勳功。又、先代の勳功。〔國史略、後陽成天皇〕予二佐々成政一以二肥後一曰、先世之勳、不レ可レ廢也。

【先正】134 センセイ 前世の賢人。先賢。先哲。〔書、說命下〕昔先正保衡。〔鄭注〕先正、謂二公卿大夫一也。〔詩、大雅、雲漢〕羣公先正、則不二我助一。〔禮、緇衣〕昔吾有二先正一、其言明且清。〔注〕先正、先君長也。〔揚雄、劇秦美新〕羣公先正、罔レ不二夷儀一。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕股肱先正。

〔先正事略〕135 センセイジリヤク 書名。六十卷。清、李元度纂。清初から咸豐・同治に至るまでの人士を、名臣・名儒・經學・文苑・遺逸・循良・孝義の七門に分けて記す。傳と言はないで事略と言つたのは、著者が史官でない爲、謙遜したものである。後、朱孔彰が中興名臣事略を作り、俗にそれを續先正事略といふ。〔曾國藩、國朝先正事略序〕節二略名臣一、爲二先正事略一。

【先生】136 センセイ ❶さきにうまれる。〔爾雅、釋親〕父之晜弟、先生爲二世父一、後生爲二叔父一。〔墨子、明鬼下〕先生者先死。〔爾雅、釋親〕男子先生爲レ兄、後生爲レ弟。❷父兄をいふ。〔論語、爲政〕有二酒食一、先生饌。〔集解〕馬融曰、先生謂二父兄一。❸己より早く道を知つてゐる人。又、德業ある者の稱。先輩。〔孟子、告子下〕先生將二何之一。〔韓詩外傳、六〕古之謂二知レ道者一曰二先生一、何也、猶レ言二先醒一也。〔戰國、衞策〕衞客患レ之、乃見二梧下先生一。〔注〕先生、長者有德之稱。〔列子、力命〕西門子曰、先生止矣、予不二敢復言一。〔荀子、議兵〕先生議レ兵、常以二仁義一爲レ本。❹教師。師匠。單に先、或は生ともいふ。〔禮、曲禮上〕遭二先生於道一、趨而進、正立拱レ手。〔管子、弟子職〕先生施レ教、弟子是則。〔書言故事、稱呼類〕稱二年長一曰二先生一、古者稱レ師曰二先生一。〔通俗編、稱謂、先生〕鄭康成禮記注、先生、老人教レ學者、趙岐孟子注、學士年長者、謂二之先生一、按、今先生之稱、泛矣、而教レ學者獨專レ之、實合二于經訓一也。〔陔餘叢考、老先生〕先生、本古者父兄師長之通稱、然古人有下單稱レ生、或單稱二先者一上、史記、蘇秦被レ刺死、齊王求二其賊一誅レ之、燕人曰、甚矣、齊之爲二蘇生一報レ讎也、注、生、一作レ先、言二先生一也、叔孫通諸弟子、以レ制レ禮、皆賜爲レ郎、喜曰、叔孫生、誠聖人也、弟子稱レ師曰レ生、亦謂二先生一也、漢書貢禹傳、禹請レ老、元帝報曰、朕以三生有二伯夷之廉、史魚之直一、故親二近生一、今未レ得三久聞二生之奇論一也、師古曰、生、謂二先生一也、時禹年八十餘、元帝敬レ之稱レ生、非レ輕レ之、乃尊レ之也、此單稱レ生也、史記鼂錯傳、學二申商刑名於軹張恢先所一、徐廣曰、先、卽先生、漢書、梅福曰、叔孫先非二不忠一也、注、先、猶レ言二先生一也、又建元中、上招二賢良一、公卿曰、鄧先好レ計、注亦曰、鄧先、猶レ云二鄧先生一也、此單稱二先者一也、王新城謂、明朝中官稱二士大夫一曰二老先一、本レ此、衞宏漢官舊儀、博士稱二先生一、博士、師也、此又後代師稱二先生一之始也。❺人を呼ぶ敬稱。〔史記、平原君傳〕毛先生以二三寸之舌一、彊二於百萬之師一。〔史記、三代世表〕張夫子問二褚先生一曰。❻鄕人の、官を退いて家に居る者の稱。〔儀禮、士冠禮〕鄕先生。〔儀禮、鄕飮酒禮〕主人就二先生一而謀二賓介一。〔注〕主人、謂二諸侯之鄕大夫一也、先生、鄕中致仕者、賓介、處士賢者、古者、年七十而致仕、老二於鄕里一、大夫名曰二父師一、士名曰二少師一、而教レ學焉、恆知二鄕人之賢者一、是以、大夫就而謀レ之。❼自ら別號に連ねて用ひる語。晉の陶潛が五柳先生と號し、唐の王績が五斗先生と號した類。〔晉書、皇甫謐傳〕始有二高尙之志一、以二著述一爲レ務、自號二玄晏先生一。〔晉書、陶潛傳〕嘗著二五柳先生傳一、以自況、曰、先生不レ知二何許人一、不レ詳二姓字一、宅邊有二五柳樹一、因以爲レ號焉。❽道士。〔經世大典、馬政篇〕至元二十四年、江淮省言、江南和尙、也里可溫先生、出皆乘レ轎、養レ馬者少。〔至元辨僞錄〕先生、言二道門最高一、秀才人言二儒門第一一。〔原注〕元人稱二道士一爲二先生一。

【先逝】137 センセイ 先だつて行く。〔潘勖、冊二魏公九錫一文〕王師首レ路、威風先逝。〔注〕濟曰、逝、往也。

【先聖】138 センセイ ❶古の聖人。先聖後聖其揆一を見よ。〔禮、文王世子〕釋二奠于先聖・先師一。〔戰國、趙策〕當レ世輔レ俗、古之道也、衣服有レ常、禮之制也、循レ法無レ愆、民之職也、三者、先聖之所二以教一。〔司馬法、天子之義〕天子之義、必取二法天地一、而觀二於先聖一。〔班固、幽通賦〕謨二先聖之大猷一兮、亦鄰レ德而助レ信。❷孔子。先聖先師を見よ。

〔先聖殿〕139 センセイデン 大成殿をいふ。〔鵝峯文集、三、重修二武州先聖殿一記〕故尾陽亞相源敬侯鼎建二一堂一、安二聖像及四聖配像一、納二若干祭器一、手自書二先聖殿三字一、以爲二扁額一。

〔先聖之蹤〕140 センセイノアト 古の聖人の行蹟。古の聖人の行つた道あと。〔後漢書、班固傳上〕擁二千載之任一、躡二先聖之蹤一。

〔先聖先師〕141 センセイセンシ 古は學校を立てると必ず先聖・先師に釋奠した。周代に虞・夏・商・周四代の學校を立て、各〻舜・禹・湯王・文王を先聖とし、此の四聖を佐けて其の德業を成就した者を先師とした。後漢の明帝の時に至り、始めて周公を先聖とし、孔子を先師として學校に祭つた。三國の魏以下は、單に孔子を先聖とし、顏淵を配饗して大學に祭つたが、周公を祭つたことは見えない。南北朝時代には、唯孔子だけを祭り、同じく周公を祭つたこと無く、隋には、先聖・先師を祭るとあるが、其の名は見えない。恐らく魏晉の制によつたものと思はれる。唐の武德二年、周公を先聖とし、孔子を之に配したが、太宗の貞觀二年、周公の祭を停め、孔子を先聖とし、顏淵を配享した。其の後、先儒二十二人を定めて先師とし、大學の孔子の廟堂に配享した。高宗の永徽中、復た周公を先聖とし、孔子を先師としたが、尋いで高宗の顯慶二年、周公の先聖を停め、孔子を先聖とした。此の後、先聖は孔子一人に定まり、先師は獨り顏淵のみに止らず、曾子・子思・孟子等、其の數を增すに至つたが、顏淵は終始其の首位にあつた。明の世宗の嘉靖九年に至り、先聖・先師を孔子一人に合し、爾後、釋奠は孔子を主として祭るに至つた。〔禮、文王世子〕凡始立レ學者、必釋二奠于先聖・先師一。〔文獻通考、學校考、祠祭褒贈先聖先師〕長樂劉氏曰、周有二天下一、立二四代之學一、虞庠則以レ舜爲二先聖一、夏學則以レ禹爲二先聖一、殷學則以レ湯爲二先聖一、東膠則以二文王一

爲二先聖一、各取下當時左二右四聖一、成二其德業一者上、爲二之先師一、以配享焉、此天子立レ學之法也、臨卭魏氏曰、記曰、凡學、春官釋二奠於其先師一、釋者曰、若下禮有二高堂生一、樂有二制氏一、詩有二毛公一、書有中伏生上、又曰、凡釋奠者、必有レ合也、曰、若下周有二周公一、魯有中孔子上、各自奠レ之、不レ合也、至下於祀二先賢於西學一、祭中樂祖於瞽宗上、傳者亦謂、各以二所レ習之學一祭二先師一、夫周公孔子、非三周魯之所二得而專一也、而經各立レ師、則周典安有レ是哉、古者、民以レ君爲レ師、仁鄙壽夭、君實同レ之、而臣則輔二相人君一、以師二表萬民一者也、自二孔子一已前、曰レ聖曰レ賢、有道有德、則未レ有乙不下生居二顯位一、沒祭中大烝上者甲、非三諸生所二得嗣一也、自二君師之職不一レ修、學校廢、井牧壞、民散而無レ所レ係、於レ是、始有二師弟子羣居、以相講授者一、所謂各祭二其先師一、疑秦漢以來始有レ之、而詩書禮樂各立レ師、不レ能二以相通一、則秦漢以來、爲レ士者斷不レ若二是之隘一也、此亦可レ見二世變日降、君師之職下移、而先王之道分裂一矣、然而春秋戰國之亂、猶有二聖賢一爲二之師一、秦漢以來、猶有二專門一爲二之師一、故所在郡國、尚存二先師之號一、奠二祠於學一、故記人識二於禮一、而傳者又卽二其所二聞見一以明レ之、云云、顯慶二年、太尉長孫無忌等議曰、按二新禮一、孔子爲二先聖一、顏回爲二先師一、又準二貞觀二十一年一、以二孔子一爲二先聖一、更左邱明等二十八人、與レ回俱配二尼父於大學一、今據二永徽令文一、改用二周公一爲二先聖一、遂黜二孔子一爲二先師一、顏回邱明並爲二從祀一、謹按、禮記云、凡學、春官釋二奠於其先師一、鄭玄注曰、官、謂二詩書禮樂之官一也、先師者、若下禮有二高堂生一、樂有二制氏一、詩有二毛公一、書有中伏生上、可三以爲レ師者、又禮記曰、始立レ學、釋二奠於先聖一、鄭玄注曰、若二周公孔子一也、據レ禮爲レ定、昭然自別、聖則非レ周卽孔、師則偏善二一經一、漢魏以來、取捨各異、顏回孔子、互作二先師一、宣父周公、迭爲二先聖一、求二其節文一、遞有二得失一、所下以貞觀之末、親降二綸言一、依二禮記之明文一、酌二康成之奧說一、正二孔子一爲二先聖一、加二衆儒一爲二先師一、永垂二制於後昆一、革中往代之紕繆上。〔唐書、禮樂志〕永徽中、復以二周公一爲二先聖一、孔子爲二先師一、顏回左丘明以降、皆從祀。〔唐書、禮樂志〕顯慶二年、太尉長孫無忌等言、禮釋二奠於其先師一、若下禮有二高堂生一、樂有二制氏一、詩有二毛公一、書有中伏生上、又禮、始立レ學、釋二奠於先聖一、鄭氏注、若二周公孔子一也、故貞觀以二夫子一爲二先聖一、衆儒爲二先師一、且周公作二禮樂一、當レ同二王者之祀一、乃以二周公一配二武王一、而孔子爲二先聖一。

〖先聖大訓〗142 センセイタイクン 書名。六卷。宋、楊簡撰。孔子の遺言を集めて分類したもの。五十五篇。其の目は、蜡賓・哀公問・哀公問禮・五儀・孔子燕居・孔子閒居・入其・哀公問取人・哀公問政・問冠・廟制・曾子問・檀弓・周公・言樂・少連・主言・君子・中庸・隱而・入官・定公問郊・喪禮・問康子疾・子產・齊景公・中都宰・始誅・五刑・仲弓・樂山・千乘・四代・虞戴德・誥志・小辨・用兵・少閒・適周・管仲・知者・斷獄・讀史・自吾・讀詩・臣諫・子路問・中人・晏子・顏子・楚照・五帝・命性・孔文子・寬猛。〔四庫提要、子、儒家類〕。

〖先聖不レ一二其能一〗143 センセイハソノノウヲイツニセズ 先聖は人の才能を一樣には扱はぬ。才能に應じて事に任ずる。〔莊子、至樂〕先聖不レ一二其能一、不レ同二其事一、名止二於實一、義設二於適一。

〖先聖後聖其揆一〗144 センセイコウセイソノキイツナリ 先に出た聖人も、後に出た聖人も、土地と世代の相違はあるが、其の天下の事理をはかりつもる道は皆一つで異ならない。〔孟子、離婁下〕地之相去也、千有餘里、世之相後也、千有餘歲、得レ志行二乎中國一、若レ合二符節一、先聖後聖、其揆一也。〔集注〕揆、度也、其揆一者、言二度レ之而其道無一レ不レ同也。

〖先聖生卒年月日考〗145 センセイセイソツネンゲツジツコウ 書名。二卷。清、孔廣牧撰。孔子の生卒年月日をしらべたもの。〔續皇淸經解、三百十五冊〕。

【先請】146 センセイ 漢の武帝の時、特定の身分ある官吏が罪を犯せば、法官が罪を定めるに、先づ朝廷の裁可を仰いで逮治したこと。〔大學衍義補、正二百官一、簡二侍從之臣一〕武帝時、二千石有レ罪先請、宣帝時、又詔、六百石、位大夫、有レ罪先請。

【先醒】147 センセイ ❶我より先に道を知つてゐる者。先覺。先生。先輩。〔韓詩外傳、六〕古之謂二知レ道者一曰二先生一、何也、猶レ言二先醒一也。〔新書、先醒〕賢主者、學問不レ倦、好レ道不レ厭、銳然獨先迺學二道理一矣、故未レ治也、知三所二以治一、未レ亂也、知三所二以亂一、未レ安也、知三所二以安一、未レ危也、知三所二以危一、故昭然先寤三所二以存亡一矣、故曰二先醒一、辟猶二俱醉而獨先發一也。❷新書の篇名。「號。

〖先醒齋〗148 センセイサイ 明、繆希雍(8－27855・・59)の

〖先醒齋廣筆記〗149 センセイサイクワウヒツキ 書名。四卷。明、繆希雍撰。醫書。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【先聲】150 センセイ 實行を後に、宣傳を先にする。前觸れ。先レ聲後レ實(9－29166・・156)を見よ。〔史記、淮陰侯傳〕兵固有下先レ聲而後レ實者上。〔魏志、劉曄傳〕其威名、足三以先レ聲後レ實、而服二鄰國一也。〔庾信、周桂國云云慕容神道碑〕運レ長擊レ短、後レ實先レ聲。

【先妾】151 センセフ 臣が君に對して、己の死んだ母を稱していふ。〔戰國、齊策〕臣非レ不レ能三更二葬先妾一也。〔日知錄、雜論、先妾〕人臣對レ君稱レ父爲二先臣一、則可三稱レ母爲二先妾一。

【先占】152 センセン ❶他に先んじて占有すること。〔阮籍、達莊論〕差肩而坐、恭袖而檢、猶豫相臨、莫二肯先占一。❷所有者のないものを自己の所有物となすこと。❸國際法上に於ては、或る國家が自國の領土と爲す目的を以て何國にも屬せざる土地を占領すること。

【先前】153 hsien¹ ch'ien² まへかた。以前。初め。

【先祖】154 センゾ ❶血すぢの最初の人。始祖。元祖。〔書、多士〕乃命二爾先祖成湯一革レ夏。〔詩、小雅、四月〕先祖匪レ人、胡寧忍レ予。〔荀子、禮論〕先祖者、類之本也。〔史記、匈奴傳〕匈奴、其先祖、夏后氏之苗裔也。〔春秋繁露、觀德〕天地者、萬物之本、先祖之所レ出也。❷始祖以降、歷代の先人。父祖。先世。〔禮、禮運〕以降三上神與二其先祖一。〔漢書、劉向傳〕得二其驩心一、以事二其先祖一。〔程子遺書〕立春祭二先祖一。〔注〕先祖、初祖以下、高祖以上之祖也、葉采曰、先祖、始祖而下、高祖以上、非二一人一也。

【先代】156 センダイ ❶前の世。古の世。先故。〔左氏、僖、二十四〕宋、先代之後也、於レ周爲レ客。〔魏志、文德郭皇后紀〕聖哲愼立二元妃一、必取二先代世族之家一、擇二其令淑一、以統二六官一。❷亡父の特稱。

【先道】157 センダウ 先導に同じ。〔周禮、夏官、職方氏〕王之所レ行、先道帥二其屬一而巡戒令。〔左氏、哀、二十五〕夫見二君之入一也、將二先道一焉。

【先導】158 センダウ 先に立つてみちびく。案內する。先道。先引。〔國語、周語中〕勸二二三君子一、必先導焉。〔國語、晉語三〕欲二先導一者行乎、將レ至矣。〔楚辭、嚴忌、哀時命〕使二梟楊先導一兮。〔史記、司馬相如傳〕使二五帝先導一兮。

〖先導者〗159 センダウシヤ 先に立つて案內する者。さきだち。嚮導。

【先澤】160 センタク ❶先人の德澤。〔陸游、次二何斯擧秋居雜詠一詩〕先澤倘未レ衰、豈無二五乘粟一。❷先づ澤に出て鳴く。〔史記、歷書〕百草奮興、秭鴂先澤。〔注〕索隱曰、言下鳺鳥、春氣發動、則先出二野澤一而鳴上也。

【先達】161 センタツ ❶官位・學問の己より先に進んだ人。前輩。〔後漢書、朱暉傳〕暉以二堪先達一、擧レ手未二敢對一。〔庾亮、讓二中書令一表〕十餘年閒、位超二先達一。〔顏氏家訓、勉學〕皆有二先達一、可レ爲二師表一。〔韓愈、與二于襄陽一書〕先達之士、後進之士。❷高僧。〔梁高僧傳序〕廣訪二先達一。❸㋑センダツ 修驗者などの峯入りのときに先導となる者。〔後二條關白記〕寬治七年三月十八日、熊野先達僧。㋺センダツテ 先日。先頃の意。さきだつて。〔大江俊矩記〕お柔不緣一件に付、先達及二契約一置。

【先知】162 センチ ❶先に知る。先づ知る。〔列子、說符〕此其所二以先知一之理也。〔法言、先知〕先知二其機一、於二神乎。〔王筠、和二孔中丞雪裏梅花一詩〕水泉猶未レ動、庭樹已先知。❷衆人より早く道を覺り知る。又、其の人。先覺。〔孟子、萬章上〕使三先知覺二後知一。❸法言の篇名。❹hsien¹ chih¹ 豫言者。基督教の語。古、猶太の祭司が能く未來の禍福を豫言して世人に告げたことからいふ。

〖先知君〗163 センチクン かめ。龜(12－48847)の異名。〔事物異名錄、水族、龜〕表異錄、龜曰二先知君一、出二抱朴子一。

【先疇】164 センチウ 先祖から傳へ來たつた田業。先代からのわざ。〔班固、西都賦〕農服二先疇之畎畝一。

【先著】165 センチヤク ❶人よりさきに到著する。著二先鞭一(233)に同じ。❷さきがけの功名をする。〔王逢、奉レ陪二神保大王宴一詩〕爲二臣義同一葵與レ

藿、將軍固合㆓鞭先著㆒。㊂清、瀘州の人。金陵に遷居す。字は盍旦子、又、之溪老生。書に巧。〔國朝詩人徵略初編、二十〕。

【先住】166 寺の先代の住持。〔梵網經〕先住僧獨受請。

【先陣】167 戰のさきがけ。先鋒(236)に同じ。〔源平盛衰記、十五、宇治合戰事〕宇治川の先陣。

【先通】168 大人國の名。〔神異經、西南荒經〕西南大荒中有㆑人、長一丈、腹圍九尺、云云、一名㆓先通㆒。

【先帝】169 前代の天子。先后。〔戰國、趙策〕王之先帝、駕㆓犀首㆒而驂㆓馬服㆒、以與㆓秦角逐㆒。〔史記、萬石君傳〕萬石君、先帝尊㆑之。〔諸葛亮、出師表〕臣亮言、先帝創業未㆑半、而中道崩殂。

【先鄭】170 漢の鄭衆をいふ。一に鄭司農ともいふ。鄭玄を後鄭といふの對。〔周禮、天官、大宰、疏〕先鄭謂、司刑所㆑掌、墨辠・劓辠・宮辠・刖辠・殺辠、此是正㆓五刑㆒施㆓于天下㆒、非㆑爲㆓官中之刑㆒、故後鄭不㆑從㆑之也。

【先兆】171 きざしに先んずる。未だ前兆の顯はれない先に、其の事を處理するにいふ。〔陸機、漢高祖功臣頌〕伐㆑謀先㆑兆、擠㆓響于音㆒。〔注〕善曰、言、將㆑伐㆓其謀㆒、先㆓其未㆒㆑兆。

【先朝】172 前の御代。先代の朝廷。〔曹植、與㆓楊德祖㆒書〕昔揚子云、先朝執戟之臣耳。

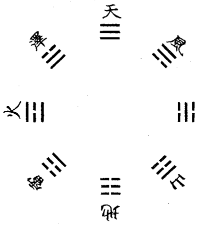
【先條】173 前の科條。〔陸機、文賦〕或仰逼㆓於先條㆒、或俯侵㆓於後章㆒。

【先哲】174 古の賢者。先正。先賢。〔潘岳、西征賦〕賴㆓先哲㆒以長懋。

【先哲王】175 前世の賢明な王。〔書、召誥〕茲殷多㆓先哲王在㆒㆑天。〔書、康誥〕求㆔聞㆓由古先哲王㆒。

【先哲叢談】176 書名。八卷。原善著。德川時代の儒者文人の事歷性行を記した書。藤原惺窩・林羅山以下七十二人、五百五十條を錄して居る。東條琴臺に後編八卷・續編十二卷がある。

【先天】177 ㊀天に先だつ義。天運時機の來ることを前知する。〔易、乾〕文言曰、先㆑天而天弗㆑違、後㆑天而奉㆓天時㆒、天且弗㆑違。〔論衡、初稟〕有㆓先天後天之勤㆒。㊁宋の邵雍が、陳搏の學を得て伏羲先天卦位圖を作り、乾(天)は南、坤(地)は北、離(火)は東、坎(水)は西、震(雷)は東北、兌(澤)は東南、巽(風)は西南、艮(山)は西北に當てた。先天象數學を見よ。〔皇極經世書、心易發微一、先天八卦圖〕先天乃對待之體、乾南坤北、爲㆓天地定位㆒、離東坎西、爲㆔水火不㆓相射㆒、兌居㆓東南㆒、艮居㆓西北㆒、爲㆓山澤通㆑氣、震居㆓東北㆒、巽居㆓西南㆒、爲㆓雷風相薄㆒、陰陽老少、各以㆑類合、此伏羲方位之圖、易之本也。㊂天地の初。宇宙の本體。老子、二十五の有㆑物混成、先㆓天地㆒生に基づく。〔長生殿、覓魂〕象涵㆓太極㆒、法㆓先天㆒。㊃唐の玄宗(李隆基)の年號。(712－713) ㊄生れながら知る。生前から我が身に備はる。後天(**4**－**10098**・・54)の對。㊅hsien¹ t'ien¹ 生れつき。



先天八卦圖㊀(皇極經世書)

【先天性】178 生れながらにして有する性質。本來固有の性質。遺傳した性質。

【先天說】179 Apriorism の譯。本有觀念說、卽ち生得說と同義に用ひ、又、先天的を先驗的とする場合は、先驗的立場の學說をいふ。

【先天節】180 皇帝誕生の日。宋代に、七月一日をいふ。〔宋朝會要〕大中祥符五年閏十月一日、詔以㆓七月一日聖祖下降日㆒爲㆓先天節㆒。

【先天的】181 經驗に本づかず、此の世に生れ出でぬ先から、其の身に本來具有すること。

【先天毒】182 生れつき有する病毒。

【先天病】183 遺傳した病氣。

【先天論】184 Nativism の譯。或る觀念・原理を、凡ての人の精神に、生れながらにして、一樣に具有せられて居るとする說。

【先天太后】185 老子の母の稱。〔海錄碎事、聖賢人事部上、聖賢門〕先天太后、老子母也、有㆓李母墳㆒。

【先天菩薩】186 〔佛〕佛の名。〔圖畫見聞志〕有㆓先天菩薩幀㆒、本起㆓成都妙積寺㆒、唐開元初、雙流縣民劉意兒、事㆓尼魏八師㆒、嘗白㆑魏云、先天菩薩、見㆓身北地㆒、遂篩㆓灰於庭㆒、一夕有㆓巨跡㆒、長數尺、有㆓僧法成者㆒、自云能畫、意兒合掌仰祝、然後指㆓授之㆒、僅十稔、功方就、後塑㆓先天菩薩像㆓百四十二首㆒、首如㆓塔勢㆒、分㆑臂如㆑蔓。

【先天象數學】187 宋の邵雍の唱へた哲學說。宇宙萬象の生成の過程を象數に依つて演繹したもので、思想の根據を易に置く。源を陳搏に發し、种放・穆修を經て、李之才から承繼大成した。其の傳流は後圖に示す如くである。〔宋元學案、百源學案上〕邵雍、字堯夫、云云、刻苦自勵者有㆑年、已而嘆曰、昔人尙㆓友千古㆒、吾獨未㆑及㆓四方㆒、于㆑是、踰㆓河汾㆒、涉㆓淮漢㆒、周㆓流齊魯宋鄭之墟㆒、而始還、時北海李之才、攝㆓共城令㆒、授以㆓圖書先天象數之學㆒、先生探賾索隱、妙悟神契、多㆑所㆓自得㆒。

【先典】188 古の經典。〔丘遲、與㆓陳伯之㆒書〕不㆑遠而復、先典攸㆑高。

【先典後賣】189 hsien¹ tien³ hou⁴ mai⁴ 先には質入れし、後には賣る。入質物を賣拂ふ。

【先度】190 このあひだ。さきごろ。先般。〔古今著聞集、一〕先度、汝が大般若の御讀經つかまつりしに。

【先途】191 ㊀身の成りゆきの結著。最期。死。〔宇治拾遺物語、十一〕せんどと思ふをりにぞ、取り出でて著ける。㊁昔、其の家柄としての昇進の最高限度。〔平治物語、信賴信西不快事〕此の職を先途とす。

【先登】192 ㊀先に登る。〔詩、大雅、皇矣〕誕先登㆓于岸㆒。〔禮、曲禮上〕主人先登、客從㆑之。㊁まつさきに敵の城に攻め入る。さきがけ。一番乘。〔左氏、隱、十一〕潁考叔、取㆓鄭伯之旗蝥弧㆒以先登。〔韓非子、內儲說上〕乃下㆓令大夫㆒曰、明日且㆑攻㆑亭、有㆓能先登者㆒、仕㆓之國大夫㆒、賜㆓之上田宅㆒。〔尉繚子、制談〕先登者、未㆔嘗非㆓多力國士㆒也。〔史記、樊噲傳〕攻㆑城先登、斬㆑首二十三級。〔李陵、答㆓蘇武㆒書〕爭爲㆓先登㆒。㊂文壇の魁首。盟主。〔柳宗元、送㆘婁圖南秀才遊㆓淮南㆒將㆖㆑入㆑道序〕咸推讓爲㆓先登㆒。

【先登羽】193 先頭に進む旗。羽は、鳥のはねで飾つた旗。〔王粲、從軍詩〕將㆑秉㆓先登羽㆒、豈敢聽㆓金聲㆒。

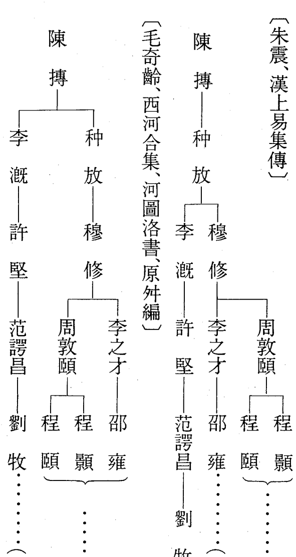
【先頭】194 ㊀まつさき。最先。㊁hsien¹ t'ou 先に。昔。曾て。

【先頭裏】195 hsien¹ t'ou li³ 先に。以前。

【先動】196 さきに手を出す。〔周禮、地官、調人〕凡有㆓鬭怒㆒者成㆑之、不㆑可㆑成者則書㆑之、先動者誅㆑之。

【先德】197 ㊀先達の有德者。〔慈恩傳〕後復北遊、詢㆓求先德㆒。㊁唐代に、他人の父をいふ。〔北夢瑣言、三〕唐割舍人蛻桐廬人、早以㆓文學㆒應㆓進士擧㆒、其先德戒㆑之曰、任㆓汝進取㆒、窮之與㆑達、不㆑望㆓於汝㆒。㊂恩德を施すことを第一に努める。後刑(**4**－**10098**・・209)に對する語。〔管子、

〔先天象數學傳流之圖〕



執〕秉レ時養レ人、先レ德後レ刑。

【先入】198 センニフ ❶先に入る。人に先だつて入る。〔漢書、高帝紀上〕初懷王與二諸將一約、先入定二關中一者王レ之。❷さきに聞いたこと。さきにおぼえる。先入爲レ主を見よ。❸久しく一處に居るをいふ。或る一つの事になじむ意。〔張衡、東京賦〕翫二其所一以先入一。〔注〕綜曰、先入、言三久處二其俗一也。

【先入爲レ主】199 センニフシユトナル 先に耳に入つた方が主となつて重んぜられ、後から聞く事は客となつて輕んぜられる。〔漢書、息夫躬傳〕觀二覽古戒一、反覆參考、無下以二先入之語一爲上レ主。〔楊文公家訓〕童穉之學、不レ止二記誦一、養二其良知良能一、當下以二先入之言一爲上レ主。

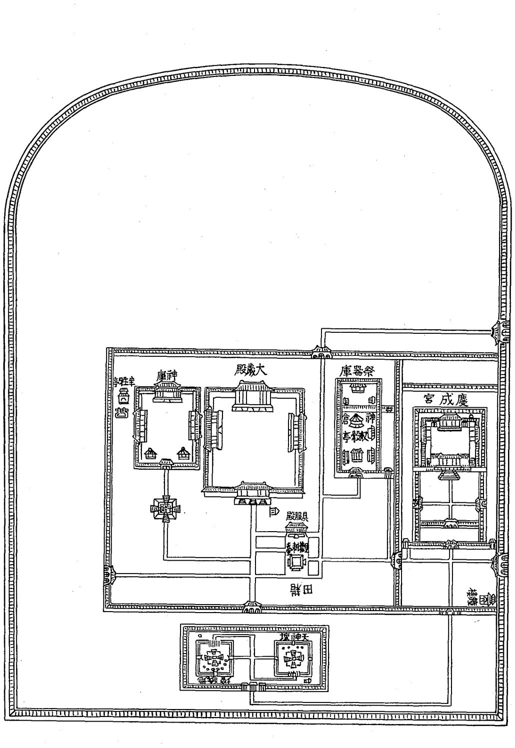
【先入觀念】200 センニフクワンネン 最初に腦裡に印象せられた見解。先入見。先入主。

【先入思想】201 センニフシサウ 最初に腦裡に入つたかんがへ。

【先年】202 センネン 過ぎ去つた年。先歲。昔。往年。〔張居正、請下擇二有司蠲逋賦一以安中民生上疏〕其先年拖欠帶征者、云云。

【先農】203 センノウ 初めて民に耕作を教へた神、神農をいふ。農業を開始した元祖。古は之を田祖といふ。田祖（7－21723・・184）を見よ。〔後漢書、禮儀志上〕執事告二祠先農一已享、云云、有司告レ事畢。〔注〕漢舊儀曰、春始二東耕於藉田一、官祠二先農一。先農、卽神農炎帝也、祠以二一太牢一。〔賀循、藉田儀〕漢耕日以二太牢一祭二先農於田所一。

【先農壇】204 センノウダン 先農を祭祀する壇。每年、仲春の亥の日に、先農を祀る際に皇帝が親しく上る壇。清代の先農壇は、今、北京外城の永定門內にある。〔宋書、禮志四〕宋文帝元嘉二十一年春、親耕、乃立二先農壇於藉田中、阡西陌南一。〔唐書、禮樂志二〕高五尺、周四十步者、先農先蠶之壇也。〔淸會典圖、禮制、先農壇〕天神・地祇・太歲三壇、合二建於正陽門南之西一、當二都城未位一、外垣南方北圓、砌以二城甎一、覆二甋瓦一、周一千三百六十八丈、門二、南爲二先農壇門一、北爲二太歲門一、云云、內垣制方、覆以二甋瓦一、內外丹雘、四面門各三閒、均黑瓦綠緣、朱扉金釘、先農壇・大歲殿在二其內一。



先農壇（清會典圖）

【先馬】205 センバ 君主や太子の出御に供奉して前驅し、威儀を導く。又、其の役。前馬。洗馬（6－17379・・90）に同じ。〔韻會〕先、前漢太子太傅少傅屬官有二先馬一、後漢職如二謁者一、太子出、則當レ直者、前驅導二威儀一。〔字彙〕先、先馬、前驅也。〔荀子、正論〕諸侯持レ輪、挾レ輿、先レ馬。〔注〕挾レ輿、在二車之左右一也、先レ馬、導レ馬也、或持レ輪者、或挾レ輿者、或先レ馬者。〔漢書、百官公卿表上〕太子太傅少傅、古官、屬官有二太子門大夫庶子先馬舍人一。〔注〕張晏曰、先馬員十六人、秩比二謁者一、如淳曰、前驅也、國語曰、句踐親爲二夫差一先レ馬、先或作レ洗也。〔新書、春秋〕鑄レ金以象二諸侯人君一、令二大國之王編而先馬一。

【先馬走】206 センバソウ 馬前に先だつ從僕。〔淮南子、道應訓〕爲二吳兵先馬走一。〔注〕先二走馬前一。

【先配】207 センパイ 婚姻の禮を先に行ふ。〔左氏、隱八〕陳鍼子送レ女、先レ配而後レ祖。〔會箋〕先行二昏禮一、而後始告二婦至于祖廟一也。

【先輩】208 センパイ ❶學問や年齡の已より長じた者。先進。〔詩、小雅、采薇、采レ薇采レ薇、箋〕今薇生矣、先輩可二以行一。〔魏志、陶謙傳、注〕郡守張磐、同郡先輩、與二謙父一友、而謙恥二爲レ之屈一。❷進士同志が互に推敬していふ語。前輩（2－2011・・331）に同じ。〔唐國史補〕進士互相推敬、謂二之先輩一。〔北夢瑣言〕王凝知二貢擧一、司空圖第四人登第、王謂レ人曰、今年榜帖、全爲二司空先輩一人而已一。〔宜齋野乘〕司馬溫公勸學歌曰、一朝雲路果然登、姓名亞等呼二先輩一、詳味二溫公之言一、則登二雲路一者、方呼二先輩一、如三今黃甲並呼二狀元一一般、先輩猶レ言二前輩一也。〔日知錄、科擧、先輩〕先輩、乃同試而先得レ第者之稱、云云、唐李肇國史補謂、互相推敬、謂二之先輩一、此又後人之濫矣。❸妻が夫をいふ語。〔稱謂錄、妻稱レ夫、先輩〕潘若同郡國雅言、吳子華女責二其夫王定保一曰、先侍郎重二先輩名行一、俾三妾侍二箕帚一。

【先方】209 センパウ 相手かた。むかう。かなた。〔運步色葉集〕先方。

【先棒】210 サキボウ 二人で物を舁く時、棒の前の方を舁く者。さきかた（先肩）ともいふ。轉じて妄りに物事の先きがけをするにいふ。あと棒に對す。

【先伯】211 hsien¹ po² 死んだ伯父。

【先發】212 センパツ ❶先だつていひ出す。先唱。〔史記、平津侯主父偃傳〕汲黯先發レ之、弘推二其後一、天子常說、所レ言皆聽。〔魏志、任峻傳〕未レ有二先發者一、非レ無二其心一也。❷先だつて出發する。

【先發制レ人】213 センパツスレバヒトヲセイス 事は先に手を下せば、必ず人に勝つ。先んずれば人を制す。早いが勝ち。〔漢書、項籍傳〕先發制レ人、後發制二於人一。〔隋書、李密傳〕先發制レ人、此機不レ可レ失也。

【先法】214 センパフ 先人の法。〔後漢書、楊厚傳〕從二犍爲周循一、學二習先法一。

【先般】215 センパン さきごろ。先度（190）に同じ。

【先妣】216 センピ ❶死んだ母。妣は亡母。〔爾雅、釋親〕父曰レ考、母曰レ妣。〔儀禮、士昏禮〕先妣之嗣。〔禮、曲禮下〕生曰レ父曰レ母、死曰レ考曰レ妣。〔荀子、大略〕先妣之嗣、若則有レ常。❷先祖の母。先母。〔周禮、春官、大司樂〕乃奏二夷則一、歌二小呂一、舞二大濩一、以享二先妣一。〔注〕先妣、姜嫄也、姜嫄、履二大人跡一、感二神靈一、而生二后稷一、是周之先母也。〔孫詒讓正義〕云二是周之先母也一者、爾雅釋親云、母爲レ妣、說文女部云、妣、歿母也、姜嫄生二后稷一、爲二周始祖之母一、故謂二之先妣一也。

【先非】217 センピ 嘗て道にもとる。又、前に爲した惡い行。前非。〔劉峻、辨命論〕寧前愚而後智、先非而終是。

【先備】218 サキゾナヘ 眞先に備へる陣。先陣。〔家忠日記抄〕天正六年十一月十五日、敵先備。

【先便】219 センビン 前のたより。〔運步色葉集〕先便。

【先夫】220 センプ 亡夫。前のをつと。〔左氏、襄、二十五〕崔子曰、嫠也、何害、先夫當レ之矣。

【先夫人】221 センプジン 前の奧樣。

【先父】222 センプ ❶亡父。死んだ父。〔左氏、成、九〕先父之職官也。〔漢書、高惠高后文功臣表〕先父之志。〔魏志、高貴鄕公髦紀〕先祖先父。❷他人の父をいふ。〔通俗編、稱謂、先父〕晉書鳩摩羅什傳、呂光言、道士之操、不レ踰二先父一、則謂二什父炎一也、蓋稱二人之父一、亦有下云二先父一者上。

【先付】223 hsien¹ fu⁴ さきばらひ。先拂。

【先附】224 センプ 前からつき從つてゐるもの。〔後漢書、皇甫嵩傳〕崇レ恩以綏二先附一、振レ武以臨二後

服、徴二冀方之士一、動二七州之衆一。

【先負】225 センプ 先負日の略。

【先負日】226 センプニチ 陰陽家の語。公事や急用などに忌む日。卽ち、陰暦正・七月の三・九・十五・二十一・二十七日、二・八月の二・八・十四・二十・二十六日、三・九月の一・七・十三・十九・二十五日、四・十月の六・十二・十八・二十四・三十日、五・十一月の五・十一・十七・二十三・二十九日、六・十二月の四・十・十六・二十二・二十八日をいふ。

【先勝日】(115)の對。

【先部】227 アン 先の隊。前隊。〔日本外史、德川氏正記、德川氏〕使下人遏二先部一轉上旆而左上。

【先拂】228 サキバラヒ ㊀貴人などが通行する時、其の人に先行して、路にある人を追ひ拂ふこと。又、その者。さきおひ。前驅。先驅(32)を見よ。〔五十年忌歌念佛、下〕さき拂ひの警護の者。㊁荷物・信書などの賃錢や郵稅を、到着先で支拂はせること。

【先墳】229 センプン 祖先の墓。又、父の墓。〔宋史、魏咸信傳〕咸信知二曹州一、上言、先墳在レ洛、欲下立レ碑。

【先茂】230 センボウ 春秋、晉の大夫。一に士伯と稱す。襄公が卒した時、靈公が幼少なので、晉人は長君を立てようとし、茂を士會と與に秦に遣はし、公子雍を迎へさせた。所が、秦の女で太子の母なる穆嬴が日々太子を抱いて朝に啼くので、趙宣子は之を患へ、且つ己に逼ることを畏れ、靈公を立てて秦師を禦いだ。茂は難を恐れて秦に奔る。〔春秋、文、七〕〔左氏、文、六・七〕。

【先偏】231 センペン 戰車を先頭にする。偏は戰車二十五乘をいふ。〔左氏、桓、五〕先レ偏後レ伍、伍承彌縫。〔注〕司馬法、車戰二十五乘爲レ偏、以レ車居レ前、以レ伍次レ之、承二偏之隙一而彌二縫闕漏一也。〔雕題略〕車曰レ偏、徒曰レ伍、是稱呼耳、非レ拘二其數一。

【先鞭】232 センベン 先を越す。著二先鞭一を見よ。

【著二先鞭一】233 チャンベン 人より先に馬にむち打つて、さきがけの功名をする。人より先に手をつける。先著。〔晉書、劉琨傳〕琨、字越石、少負二志氣一、有二縱橫之才一、與二范陽祖逖一爲レ友、聞二逖被レ用、與二親故書一曰、吾枕レ戈待レ旦、志梟二逆虜一、常恐二祖生先レ吾著一レ鞭、其意氣相期如レ此。

【先母】234 ボン ㊀亡くなつた母をいふ。〔史記、衞將軍驃騎傳〕其父使レ牧レ羊、先母之子、皆奴二畜之一、不二以爲一兄弟數一。〔注〕集解曰、服虔曰、先母、適妻也、青之適母。㊁先祖の母。先妣(218)の㊁を見よ。

【先封】235 センポウ 先に封ぜられた人。〔左氏、隱、十一〕薛侯曰、我先封。〔國語、魯語上〕聖王公之先封者。

【先鋒】236 センポウ ㊀いくさのさきがけ。軍陣の先頭。先陣。〔魏志、武帝紀〕使二張遼爲一先鋒一。〔唐書、薛仁貴傳〕先鋒白衣者誰。㊁鋒を持つてゐる者を先頭にする。〔孔叢子、問軍禮〕出國先レ鋒、入國後レ刃。

【先牧】237 センボク 昔始めて馬を飼つた人。〔周禮、夏官、校人〕夏祭二先牧一。〔注〕先牧、始養レ馬者、其人未レ聞。

【先本】238 ポン 根本となる事を第一に重んずる。〔史記、平準書〕安寧則長二庠序一、先レ本絀レ末。

【先民】239 センミン ㊀古の賢者。先代の天民。〔書、召誥〕相二古先民有夏一。〔詩、小雅、小旻〕哀哉爲レ猶、匪二先民是程一。〔集傳〕先民、古之聖賢也。〔詩、大雅、板〕先民有レ言。〔箋〕古之賢者有レ言、有二疑事一、當レ與二新采者一謀レ之。〔禮、坊記〕先民有レ言。〔左氏、哀、十五〕先民有レ言。〔墨子、七患〕先民以レ時生レ財。㊁明、王醇(7－20823・589)の字。

【先務】240 センム 第一になすべき務。急務。〔孟子、盡心上〕堯舜之知、而不レ徧レ物、急二先務一也。

【先迷】241 センメイ 先だつて事をなし、迷つて正道を誤る。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕弱植慕二端操一、窘步懼二先迷一。

【先迷後得レ主】242 サキニダマツトキハノチニヌシヲエ 先だつときは迷つて道を失ひ、後れるときは順にして常を得る。柔順の德をいふ。〔易、坤〕坤、元亨、利二牝馬之貞一、君子有レ攸往、先迷、後得レ主利。

【先銘】243 メイ 生前に作りおく墓碑銘。〔唐書、韋貫之傳〕裴均子持二萬練一、請レ撰二先銘一、答曰、吾寧餓死、豈能爲レ是哉。

【先鳴】244 メイ 先登して大いに呼ぶ。又、其のこと。〔左氏、襄、二十一〕平陰之役、先二二子一鳴。〔陸機、飮馬長城窟行〕末德爭二先鳴一、凶器無二兩全一。〔注〕翰曰、先鳴、先登而大呼也。

【先鳴者】245 センメイシャ 先鳴するもの。先に唱道する者。〔林銑、土佐日記考證序〕著作之家、有二先鳴者一、有二繼興者一、先鳴固難。

【先夜】246 ヤ さきの夜。

【先役】247 ヤク 前に其の役をつとめた人。

【先約】248 ヤク 先に約束する。先にした約束。以前の約束。〔北史、楊荐傳〕欲レ背二先約一。

【先容】249 ヨウ ㊀甲を作るに先づ人型を作ること。〔周禮、考工記、函人〕凡爲レ甲必先爲二容一。〔注〕容、謂二象式一。〔疏〕凡造二衣甲一、須下稱二形大小長短一而爲上之、故爲二人之形容一、乃制レ革也。㊁先づ彫飾を加へる。轉じて、紹介推擧して稱揚する。人を取りもつ爲に、前以て譽め薦めること。〔鄒陽、獄中上書〕蟠木根柢、輪囷離奇、而爲二萬乘器一者、何則以二左右先爲一之容一也。〔注〕善曰、容、謂二彫飾一。〔蘇軾、上二梅直講一書〕非二左右爲二之先容一、非二親舊爲二之請屬一。〔書言故事、評論類〕求二薦達一曰爲二之先容一。

【先老】250 ラウ 先輩長老。〔禮、文王世子〕適二東序一、釋二奠於先老一。

【先令】251 レイ ㊀遺令をいふ。先令書を見よ。㊁Hsien¹ ling⁴ 英國の銀貨幣シルリング。Shilling の音譯。

【先令書】252 センレイショ 豫め死後の事に關する命令を書いた書物。遺令の書。〔漢書、何並傳〕〔並〕性清廉、妻子不レ至二官舍一、數年卒、病疾、召丞掾作二先令書一。〔注〕師古曰、先爲二遺令一也。〔海錄碎事、臣職、遺表〕何並疾病、作二先令書一。注、遺令之書也。

【先例】253 レイ 以前からのしきたり。これまで有つたためし。前例。〔梁書、袁昂傳〕事有二先例一。

【先零】254 レイ ㊀漢時の羌族。今の甘肅省導河縣以西、青海の境に居つたもの。〔揚雄、趙充國頌〕戎有二先零一。〔注〕翰曰、先零、羌名也。〔後漢書、西羌傳〕時先零羌、與二封養牟姐種一解仇結盟。㊁先に凋む。先蕋。〔曹植、橘賦〕處彼不レ凋、在レ此先零。〔晉書、顧悅之傳〕蒲柳常質、望レ秋先零。㊂Hsien¹ ling²。オーストリーの貨幣シルリング。Schilling の音譯。

【先蕋】255 レイ 先零の㊁に同じ。〔楚辭、遠遊〕悼二芳草之先零一。〔注〕古本、零、作レ蕋、補曰、零、落也。

【先靈】256 レイ 祖先のみたま。〔後漢書、光武帝紀〕先靈無レ所二依歸一。〔張衡、東京賦〕憲二先靈一以齊レ軌。

【先烈】257 レツ 先祖のいさを。遺勳。〔書、冏命〕俾二克紹二先烈一。〔傳〕使二能繼一先王之功業一。

【先路】258 ロ ㊀象路。先輅に同じ。卿の正車。〔禮、郊特牲〕先路三就。〔左氏、成、二〕賜二三命之服一。〔會箋〕先路、象路、云云、亦卿之正車。㊁聖王の道。先路之導を見よ。

【先路之導】259 ダウ 聖王の道への道案内。轉じて、人が互に閲歴を告げ合ふことをいふ。〔楚辭、離騷〕乘二騏驥一以馳騁兮、來吾道二夫先路一。〔注〕路、道也。云云、遂爲二君導一入二聖王之道一也。

【先輅】260 ロ 金玉で飾つた車。卿の正車。象路。一說に、木輅であるといふ。先路。〔書、顧命〕先輅在二左塾之前一。〔傳〕先輅、象、次輅、木、金玉象、皆以飾レ車、木則無レ飾。〔蔡傳〕先輅、木輅也。〔張衡、東京賦〕先輅乃發。

【先壟】261 ロウ 先祖の墓。先隴。先塋。〔蘇轍、送二韓康公歸一許州一詩〕茲行迫二寒食一、歸及掃二先壟一。〔剪燈新話、翠翠傳〕將下取二汝骨一、遷中於先壟上。

【先篤】262 トク 清、苗夔(9－30781・8)の字。

【先蘆】263 ロク 清、苗夔(9－30781・8)の字。

【先論】264 ロン さきの論。以前の議論。〔史記、樂毅傳〕吳王不レ寤二先論之可一レ以立レ功、故沈二子胥一而不レ悔。

【先王】265 センワウ ㊀古の立派な天子。先聖王。〔易、比〕先王以建二萬國一、親二諸侯一。〔書、梓材〕先王既勤用二明德一。〔禮、曲禮上〕則古昔稱二先王一。〔左氏、隱、元〕先王之制、大都不レ過二參一國之一一。〔論語、季氏〕昔者、先王以爲二東蒙主一。〔孝經、開宗明誼章〕先王有二至德要道一。〔孟子、梁惠王下〕寡人非レ能好二先王之樂一也、直好二世俗之樂一耳。〔戰國、趙策〕子不レ反レ親、臣不レ逆レ君、先王之通誼也。〔管子、樞言〕先王重二其寶器一。〔墨子、非命上〕先王之憲。㊁諸侯の先君。〔孝經、孝治章〕以事二其先王一。〔疏〕此章云以事二其先王一、則指二行レ孝王之考祖一。

【先王之志】266 先王の殘した志。〔莊子、齊物論〕春秋經レ世、先王之志。
【先王之澤】267 先王の恩澤。先王の教化。〔詩、大序〕止二乎禮義一、先王之澤也。
【靖二獻先王一】268 義の當に盡すべきに安んじ、以て自ら其の志を先王に達する。〔書、微子〕自靖、人自獻二于先王一。〔蔡傳〕靖、安也、各安二其義之所一レ當盡、以自達二其志於先王一、使レ無レ愧二於神明一而已。〔賴山陽、楠氏敍論〕以レ躬殉レ國、靖二獻先王一。
【先王以省レ方】269 先王が四方の諸國を巡狩省察する。〔易、觀〕先王以省レ方、觀レ民設レ教。
【先王之遺言】270 堯・舜・禹・湯・文・武・周公等の遺された立派な言葉。〔荀子、勸學〕不レ聞二先王之遺言一、不レ知二學問之大一也。
【雪二先王之恥一】271 先君の仇を報い、其の恥辱をすすぐ。〔史記、燕召公世家〕然誠得二賢士一以共レ國、以雪二先王之恥一。
【先議權】272 衆議院が豫算の討議を、參議院よりも前にする權利。
【先算單】273 hsien¹ suan⁴ tan¹ 概算書。豫算書。
【先至鳥】274 鳥の名。さぎ。鷺鷥（**12**－**47362**：11）の異名。〔事物異名錄、禽鳥部下〕黎州圖經、郡王將レ有二除替一、一日前、便有二鷺鷥一對一、飛往二州城一、盤旋栖泊、號爲二先至鳥一。
【先順位】275 或る地位若しくは或る權利を享けるべき者が數人ある場合に、他に先んじて其の地位若しくは其の權利を享有すること。
【先且居】276 春秋、晉の人。軫の子。一に霍伯と稱す。襄公の時、中軍に將となる。初、文公の世に諸侯が晉に朝したのに、獨り衞のみが來朝しなかつたので、襄公の世に至り衞を伐つた。其の時、晉は王に朝することを怠つてゐたので、且居は、晉に朝しなかつた衞に效ふことは禍を致す基なりと諫言し、遂に晉侯をして晉の賜邑溫に於て王に朝せしめた。〔左氏、僖三十三・文、元・三〕。
【先咲花】277 梅をいふ。〔古今和歌集、賀〕春くればやどにまづさく梅の花君が千年のかざしとぞ見る。
【先先月】278 先月の前の月。ふたつきまへ。
【先訴人】279 先に訴へた人。〔幕政祕錄、乾〕先訴人相濟、後訴日順斷之事。
【先大人】280 なき父。亡父。
【先大夫】281 死んだ父をいふ。亡父。〔柴季通、書敍指南後論〕自稱レ考曰二先大夫一。
【先丹木】283 春秋、晉の大夫。太子申生が、獻公の命を受けて偏衣を着、金玦を佩びて東山の皐落氏を伐つた時、戎右となつて從ひ、偏衣を論じて內讒の畏るべきをいふ。〔左氏、閔、二〕。
【先買權】284 物又は權利を他人に先んじて買取り得る權利。
【先府君】285 亡父の敬稱。府君。〔蘇洵、送二石昌言使一レ北引〕憶與二羣兒一戲二先府君側一。〔朱子語類〕無レ爵曰二府君夫人一、漢人碑已有、只是尊レ神之辭、府君如二官府之君一。
【先號後笑】286 初は泣きさけび後にわらふ。運命の變化する有樣にいふ。〔周易、同人〕九五、同人、先號咷而後笑。〔劉峻、辨命論〕命體周流、變化非レ一、或先號後笑、或始吉終凶。
【先甲後甲】287 ❶始めて制定した令を發布する前後に、丁寧に民に語り告げること。因つて、物事を丁寧にする、注意深くして過誤のないやうにする意に用ひる。甲は創制の令。先庚後庚（23）に同じ。〔易、蠱〕先レ甲三日、後レ甲三日。〔疏〕甲者、創制之令、云云、以二民未一レ習、故先此宣二令之前三日一、殷勤而語レ之、又於二此宣一レ令之後三日一、更丁寧語レ之。❷物のきざしのあらはれぬ前と、既にあらはれた後。甲は物のはじめ、きざし。〔法言、先知〕先レ甲一日易、後レ甲一日難。〔注〕甲者、一旬之始、已有之初也、先レ之一日、未レ兆也、後レ之一日、已形也、夫求二福於未一レ兆之前一易、救二禍於已形之後一難。
【先花後果】289 hsien¹ hua¹ hou⁴ kuo³ 總領が女の子で、二番目に男の子が生れること。一姬二太郎。
【先獲二我心一】290 己より先に、我が心に欲する通りの事をしたのを喜んで言ふ語。〔詩、邶風、綠衣〕絺兮綌兮、凄其以風、我思二古人一、實獲二我心一。〔集傳〕故思二古人善處一レ此者一、眞能先得二我心之所一レ求也。
【先計後戰】291 先づ十分に計畫を立て、然る後に戰ふ。〔漢書、藝文志〕權謀者、以レ正守レ國、以レ奇用レ兵、先計而後戰、兼二形勢一包二陰陽一用二技巧一者也。
【先迕後合】292 前に驗なくとも、後には必ず驗あること。〔列子、說符〕聖人之言、先迕後合。
【先卽制レ人】293 人がなさぬ先に爲せば、能く人のうは手に出られる。早いが勝ち。先發制レ人（213）。〔史記、項羽紀〕吾聞、先卽制レ人、後則爲二人所一レ制。
【先覩爲レ快】294 一番先に見ることをこころよしとする。先を爭つて面會を求めること。〔韓愈、與二少室李拾遺一書〕若二景星鳳皇之始見一也、爭レ先覩レ之爲快。
【先判後判】294′ 同種の事件に對する前の判決と後の判決をいふ。第一審の判決を先判、第二審の判決を後判といふの類。
【先亡丈人】295 亡祖父をいふ。一說に、先亡大人に作るべしといふ。〔顏氏家訓、書證〕丈人亦長老之目、今世俗猶呼二其祖考一爲二先亡丈人一、又疑丈當レ爲レ大、北間風俗、婦呼レ舅爲二大人公一、丈之與レ大、易レ爲レ誤耳。
【先否後喜】296 先に惡くて後によい。〔易、否〕上九、傾否、先否後喜。
【先聞現證】296′ 佛古人の行跡の話が傳はつてゐること。〔典座教訓〕。
【先聞二蚋飛一】297 耳が將につぶれようとする者は、先づ蚋飛の微かな音をもきき分ける。蚋飛はあぶの飛ぶ音。物極まれば必ず元に反る喩。〔列子、仲尼〕耳將レ聾者、先聞二蚋飛一。
【先聞二撞鐘一】298 耳の練習をするものは、先づ第一に鐘の音をきく。撞鐘はかねをつく音。物事はすべてなし易いことから始むべきをいふ。〔列子、仲尼〕學レ聽者、先聞二撞鐘一。
【先辨二淄澠一】299 口が將に味を辨じ得なくならうとする者は、先づ川の水の味をも辨別する。淄・澠は共に川の名。物極まれば必ず元に反る喩。〔列子、仲尼〕口將レ爽者、先辨二淄澠一。〔注〕淄・澠水異レ味、既合則難レ別。
【先下手爲強】300 hsien¹ hsia⁴ shou³ wei² ch'iang² 他人に先んじて事を始めた者が勝を制する。先發制レ人（213）に同じ。〔單刀會傳奇〕自古道、先下手強、後下手殃。
【要二先茅之田一】301 封賞を求める意。先茅は晉の襄公が胥臣に與へた縣の名。〔陸機、演連珠〕禽息碎レ首、豈要二先茅之田一。〔注〕善曰、左氏傳曰、襄公以二再命一命二先茅之縣一賞二胥臣一曰、擧二郤缺一子之功也、杜預曰、先茅絕レ後、故取二其縣一以賞二胥臣一也。
【先遣二和風報二消息一續教二啼鳥說一來由一】302 風や鳥によつて春の來たるを知らしめる。春の來ることをいふ。〔白居易、潯陽春三首、春生詩〕春生何處闇周遊、海角天涯遍始休、先遣二和風報二消息一、續教二啼鳥說二來由一、展二張草色一長河畔、點二綴花房一小樹頭、若到二故園一應レ覓レ我、爲傳淪落在二江州一。

【光】1350

㊀クヮウ〔集韻〕姑黃切 陽
㊁クヮウ〔集韻〕古曠切 漾
ㄍㄨㄤ kuang¹

小篆

古文

古文

㊀❶ひかり。あかり。炗（**7**－**18854**）に同じ。〔正字通〕光、本作レ炗。〔說文〕炗、明也、从二火在一儿上一、炗明意也。〔釋名、釋天〕光、晃也、晃晃然也、亦言レ廣也、所レ照廣遠也。〔左氏、莊、二十二〕光遠而自レ他有レ耀者也。〔國語、晉語三〕光、明之耀也。❷**ひかる**。てる。かがやく。〔廣雅、釋詁三〕光、照也。〔漢書、元帝紀〕日月光、星辰靜。❸**つや**。いろ。色澤。〔尚書中候〕榮光出レ河。〔注〕榮光、五色也。〔郭璞、山海經海內南經圖讚、文玉玗琪樹〕玉光爭レ換、彩艷二火龍一。❹**はえ**。さかえ。〔詩、大雅、韓

奕〕不レ顯二其光一。〔箋〕光、猶レ榮也。⑤ほまれ。〔韓非子、解老〕所謂光者、官爵尊貴、衣裘壯麗也。〔淮南子、俶眞訓〕莫三能與レ之同二光者一。〔注〕光、譽。⑥威德。〔書、洪範〕是訓是行、以近二天子之光一。⑦めぐみ。餘澤。恩寵。〔廣雅、釋言〕光、寵也。〔漢書、禮樂志〕下民之樂、子孫保レ光。〔注〕言三永保二光寵一也。⑧文物の美。文化。精華。〔易、觀〕觀二國之光一。〔疏〕明習二國之禮儀一。⑨かざり。〔潘岳、笙賦〕光妓儼其階列。〔注〕善曰、光、華飾也。⑩日・月・星。〔書、顧命〕昔君文王武王宣二重光一。〔馬注〕重光、日月星也。〔禮、鄕飮酒義〕參レ之以二三光一。〔注〕三光、三大辰也。〔淮南子、氾論訓〕上亂二三光之明一。〔注〕三光、日月星辰也。⑪時間。ひあし。〔鮑照、觀漏賦〕樂二茲情於寸光一。⑫氣。〔禮、祭義〕見以二蕭光一。〔注〕光、猶レ氣也。⑬景色。〔杜甫、玉臺觀詩〕山色遠寂莫、江光久滋漫。⑭玉・金など、光澤あるもの。〔荀子、勸學〕地見二其光一。〔注〕光、謂二水火金玉一也。⑮ひろい。ひろめる。廣（4－9493）に通ず。〔說文通訓定聲〕光、假借爲レ廣。〔詩、周頌、敬之〕學有三緝二熙于光明一。〔傳〕光、廣也。〔國語、周語中〕叔父若能光二裕大德一。〔注〕光、廣也。⑯とほい。〔穀梁、僖、十五〕德厚者流光。〔注〕光、猶レ遠也。⑰大きい。〔易、坤〕含二萬物一而化光。〔注〕光、大也。〔詩、大雅、皇矣〕載錫レ之光。〔傳〕光、大也。⑱大いに。〔左氏、昭、二十八〕光二有天下一。〔注〕光、大也。⑲みちる。〔書、堯典〕光二被四表一。〔傳〕光、充也。⑳公侯。〔太玄經、童〕先錫二之光一。〔注〕光、謂二公侯一也。㉑ただ。ただ云云だけ。〔辭海〕光、單作二一事一之謂。〔福惠全書、編審部、總論〕光丁而無レ糧、謂二之力役一。㉒諡。〔後漢書、光武帝紀、注〕諡法曰、能紹二前業一曰レ光。㉓桄（6－14758）に通ず。〔爾雅、釋言〕桄頌、充也。〔釋文〕桄、孫作レ光。㉔茪（9－30898）に通ず。〔爾雅、釋草〕蘮蒘、英茪。〔釋文〕茪、本或作レ光。㉕胱（9－29432）に通ず。〔說文通訓定聲〕光、疊韻連語、淮南說林、旁光不レ升レ俎、注、胞也、釋名、脬或曰二膀胱一、言二體短而橫廣一也、字亦作レ胱。㉖僙（1－1098）に通ず。〔集韻〕僙、武也、通作レ光。㉗古は灮（7－19428）・炗（7－18920）・𤎫（7－19153）・炛（1－618）に作る。〔說文〕灮、炗、古文、芡、古文。〔集韻〕光、古作レ𤎫。〔字彙補〕炛、古文光字。㉘姓。〔路史〕黃帝庶子姞姓後、封レ光、因氏。〔通志、氏族略、以レ名爲レ氏〕光氏、狀云、田光之後、秦末、子孫避レ地、以レ光爲レ氏。㉙ 現 ㋑つきる。無くなる。㋺露出する。㋩レンズの度。㊁孔雀の羽の先端にある玉のやうな模樣。㊂飾りの色。或は穠（11－40130）に作る。〔集韻〕光、飾色也、或作レ穠。

名乘 ミツ。テル。アキラ。ヒカル。アリ。カヌ。カネ。ヒコ。

解字 會意。火が人の上にある形。火が人の上にあれば、ひかりかがやくことが遠い。故に、明也とし、ひかる、かがやくの意とする。又、轉じて、榮ゆとし、假借して廣大・廣遠の意とする。古文は或は炗に作り、廿と火との合字で、衆火のひかりかがやく意とする。〔說文、灮、段注〕目在二儿上一則爲レ見、气在二儿上一則爲レ欠、口在二人上一則爲レ兄、皆同意。〔說文通訓定聲〕火、明也、从三火在二人上一、會意、古文从レ炎从レ芡、又古文从レ廿从レ火。

【光愛】1 クヮウアイ 大きいいつくしみ。〔陸雲、故吳丞相陸公誄〕攀慕靡レ及、永戀二光愛一。

【光菴】2 クヮウアン 明、王賓（7－20823‥916）の號。

【光有】3 クヮウイウ 大いに保有する。光は大。〔左氏、昭、二十八〕光二有天下一。〔國語、周語中〕能光二有天下一、而龢二寧百姓一。〔史記、禮書〕高祖光二有四海一。〔後漢書、光武紀下〕高祖聖德、光二有天下一。

【光佑】4 クヮウイウ 大きいたすけ。〔宋史、樂志十四〕光佑晏寧、惠慈燕喜、壽仁竝崇、家邦均祉。

【光猷】5 クヮウイウ 明かなはかりごと。〔北史、后妃傳上〕光猷昭訓、隆徽爲二上嬪一比二三卿一。

【光域】6 クヮウヰキ 立派な場所。〔史記、封禪書〕宜下因二此地光域一、立二太時壇一以明上レ應。

【光逸】7 クヮウイツ 晉、樂安の人。字は孟祖。胡母輔之に其の俊才を認めらる。後、孝廉に擧げられ、輔之・謝鯤等と酣飮し、八達の一に數へらる。〔晉書、四十九〕

【光胤】8 クヮウイン 唐、刁光（2－1846‥12）の一名。

【光陰】9 クヮウイン としつき。時間。光は日、陰は月。一說に、光は晝、陰は夜。〔江淹、別賦〕明月白露、光陰往來。〔李白、春夜宴二桃李園一序〕光陰者、百代之過客。

【光陰可レ惜】10 クヮウインヲシムベシ 月日は速かに過ぎ去つてかへらないから、惜しまねばならぬ。惜陰。惜景。〔顏氏家訓、勉學〕光陰可レ惜、譬二諸逝水一。

【光陰如レ梭】11 クヮウインヒノゴトシ 月日の經つのは機を織る梭が經（タテイト）の間を過ぎるやうに早い。月日の經つのが早い。光陰如レ箭に同じ。

【光陰如レ箭】12 クヮウインヤノゴトシ 歲月は經過することが速かで、且再び歸つては來ないことを、矢に譬へていふ。〔李益、游子吟〕君看白日馳、何異二弦上箭一。〔黃庭堅、次下韻子瞻和中王子立風雨敗二書屋一有上レ感詩〕師儒竝レ世難、日月過二箭疾一。

【光陰似二逝水一】13 クヮウインセイスイニニタリ 歲月は恰も流水の如く速かに過ぎ去り、且再び歸つては來ない。光陰如二流水一・光陰如レ箭に同じ。光陰可レ惜（10）を見よ。

【光陰如二流水一】14 クヮウインリウスイノゴトシ 光陰似二逝水一・光陰如レ箭に同じ。

【光宇】15 クヮウウ 字號。①明、司徒化邦（2－3257‥193）の字。②清、姜晟（3－6205‥56）の字。

【光雲】16 クヮウウン 如來の光明が十方に周遍することを、雨空に雲の流れわたるに喩へた語。雲は普遍の意。〔贊阿彌陀佛偈〕光雲無レ㝵。

【光映】17 クヮウエイ てりうつる。〔南史、陳後主張貴妃傳〕朝日初照、光二映後庭一。

【光裔】18 クヮウエイ 宋、石保興（8－24024‥1020）の字。

【光榮】19 クヮウエイ ①さかえ。ほまれ。光譽。名譽。〔後漢書、孔僖傳〕今日之會、寧於二鄕宗一有二光榮一乎。②てりはえる。〔列女傳、辯通、齊宿瘤女傳〕卒升二后位一、名聲光榮。

【光影】20 クヮウエイ ひかり。ひかげ。〔列子、周穆王〕光影所レ照、王目眩不レ能レ得レ視。

【光瑩】21 クヮウエイ ひかりかがやく。ひかり。〔西溪叢語〕仁和圖經云、鹽消出二縣東十里一、煉成二朴消一、又有下冬月自二地中一湧起消上、通透光瑩者、名二霜花一、亦名二劍春消一。

【光曜】22 クヮウエウ ひかり。かがやき。光暉（54）に同じ。〔漢書、韋玄成傳〕光曜晻而不レ宣。〔揚雄、甘泉賦〕揚二光曜之燎燭一兮。〔後漢書、郞顗傳〕恭陵火處、比有二光曜一。

【光燿】23 クヮウエウ ひかり。かがやき。又、ひかりかがやく。てらす。光暉（54）に同じ。〔楚辭、王褒、九懷、危俊〕聊假日以相佯、遺二光燿一兮周流。〔漢書、司馬遷傳〕光二燿天下一、復反二無名一。〔論衡、須頌〕光燿所レ及、可レ得レ度也。〔左思、蜀都賦〕若二雲漢含レ星、而光燿洪流一。

【光耀】24 クヮウエウ ひかり。かがやき。又、ひかりかがやく。てらす。光暉（54）に同じ。〔列子、天瑞〕日月星宿、亦積氣中之有二光耀一者。〔呂覽、孝行〕光耀加二於百姓一。〔六韜、虎韜、軍用〕晝則以二絳縞長六尺廣六寸一、爲二光耀一。〔史記、司馬相如傳〕總二光耀之采旄一。〔新語、道基〕光二耀於天地一。〔後漢書、馮異傳〕光二耀萬世一。〔論衡、偶會〕君明臣賢、光耀相察。〔蔡邕、郭泰碑〕爰勒二茲銘一、摛二其光耀一。〔江淹、雜體、阮步兵籍詠懷詩〕朝雲乘二變化一、光耀世所レ希。

【光炎】25 クヮウエン ひかりとほのほ。燃え光るほのほ。光焰。光燄。光爓。〔韓詩外傳、一〕水火不レ

積、則光炎不レ博。〔後漢書、任光傳〕使騎各持二炬火一、彌二滿澤中一、光炎燭二天地一。〔張衡、西京賦〕光炎燭二天庭一、囂聲震二海浦一。

【光焰】26 ㊀ひかりとほのほ。燃え光るほのほ。光炎に同じ。〔陸游、詩〕蒙レ恩置二三館一、寒灰忽光焰。㊁佛像の背光。〔南史、扶南國傳〕沒二水底一、得二佛光焰一。

【光焰萬丈】27 ほのほが高く輝きのぼる。詩文などの勢があつて立派なことをいふ。〔韓愈、調二張籍一詩〕李杜文章在、光焰萬丈長。

【光演】28 あきらかにひろめる。〔漢書、敘傳下〕三代寔寶、光二演文武一。〔後漢書、荀悦傳〕先王光二演大業一。〔蜀後主禪、出軍詔〕昭烈皇帝、體二明叡之德一、光二演文武一。

【光燄】29 ひかりとほのほ。燃え光るほのほ。光炎(25)・光焰(26)に同じ。〔朱子語類、性理一〕理與レ氣合、便能知覺、譬如二這燭火一、是因レ得二這脂膏一、便有二許多光燄一。

【光爛】30 ひかりとほのほ。燃え光るほのほ。光炎(25)に同じ。〔班固、西都賦〕發二五色之渥彩一、光爛朗以景彰。

【光艷】31 うるはしいつや。〔盧山記〕見レ有二光艷一。

【光遠】32 ㊀遠くまで照らす。〔國語、楚語下〕其聖能光遠宣朗。〔風俗通、皇霸〕光遠而自他有レ輝者也。㊁字號。㋑唐、鄭延昌(11－39647‥309)の字。㋺唐、李光顏(6－14459‥1054)の字。㋩後梁、賀瓌(10－36725‥20)の字。㋥宋、石嗣慶(8－24024‥947)の字。㋭宋、陳世卿(11－41698‥1029)の字。㋬宋、鄭榮(11－39647‥19)の字。㋣宋、王昭禹(7－20823‥1788)の字。㋠元、石輝祖の字。㋡明、顧文煜(12－43689‥355)の字。㋢明、李景(6－14459‥583)の字。

【光應】33 立派なしるし。〔漢書、武帝紀〕夏四月、詔曰、朕用二事介山一、祭二后土一、皆有二光應一。

【光儁】34 ㊀よいうはさ。好評。〔魏書、李神儁傳〕汲二引後生一、爲二其光價一。㊁聲價をひろめる。〔孔穎達、毛詩正義序〕毛氏光二價於河間一。

【光駕】35 人が來臨することの敬語。光臨(277)に同じ。光顧。

【光乂】36 宋、劉廷讓(2－2224‥1206)の字。

【光孝】37 第五十八代の帝諡。〔三代實録〕

【光孝寺】38 寺の名。廣東省城の西北。〔廣東通志〕南粤王弟建德故宅、三國吳時、騎都尉虞翻、謫二居南海一、構二宅於此一、多植二嶺邊詞子樹一、名曰二虞苑一、晉隆和中、僧伽賓、始創爲二王園寺一、宋初、改爲二乾明禪院一、高宗紹興間、改二報恩廣孝寺一、後易爲二光孝寺一。

【光孝皇帝】39 金、完顏允恭(3－7079‥51)の追諡。

【光降】40 ㊀他人が來臨することの敬語。光臨。光駕。〔敕修百丈清規、七、庫司四節〕伏望衆慈、同垂二光降一。㊁貴人から手紙を貰ふにいふ敬語。さしつかはされる。〔蘇軾、謝二呂龍圖一啓〕光二降書辭一、曲加二勞問一。

【光耿】41 光りかがやくこと。かがやき。〔柳貫、題二巨然江山行舟圖一詩〕至レ今氣淋漓、幅背出二光耿一。

【光毫】42 佛の三十二相の一。佛陀の眉間にある白い毛。清淨で光明を放つもの。〔法華經、序品〕爾時佛放二眉間白毫相光一。

【光格】43 第百十九代の帝諡。〔帝諡考〕新菅三位來、自二右辨一書札致來、御諡號之事、殿下御好有レ之、未レ被二獻上一、今日比被二請二一覽一、云云、光格、尚書曰、允恭允讓、光二被四表一、格二于上下一。

【光赫】44 ひかりかがやく。〔左思、魏都賦〕迺時世一而淵默、應二期運一而光赫。

【光覺】45 生理學・心理學の用語。光線を感覺する働。

【光學】46 ㊀學校を立派にする。光學錢を見よ。㊁物理學の一分科で、光の現象に關することを研究する學問。

【光學錢】47 學校を建てなほす爲に群臣が醵出した金。〔唐書、劉允章傳〕咸通中、允章爲二禮部侍郎一、改二國子祭酒一、建二言羣臣輸二光學錢一、治二庠序一、詔可。

【光嶽】48 三光(1－12‥363)と五嶽(1－257‥126)。〔文獻通考、自序〕光嶽既分、風氣日漓。

【光洽】49 大いにうるほふ。普く行き渡る。〔晉書、劉元海載記〕威恩光洽、四海欽レ風。「號。

【光漢】50 民國、劉師培(2－2224‥1009)の

【光鑒】51 ㊀かがみにうつす。人の模範となること。〔墨子、經說下〕遠近迤正、異二於光鑒一。〔潘岳、西征賦〕衞賢髮以光鑒、趙輕體之纖麗。㊁御了承。〔例〕敬祈二光鑒一。

【光氣】52 ひかり。〔論衡、別通〕凡石生二光氣一、不レ知レ之也。

【光晷】53 日かげ。日の光。〔王延壽、魯靈光殿賦〕葱翠紫蔚、礧碨瓌瑋、含二光晷一兮。〔注〕良曰、晷、日也。〔江淹、水上神女賦〕悼二光晷之難一惜。

【光暉】54 ひかり。かがやき。ほまれ。衆人の目標。光煇。光輝。光熙。光華。光耀。光曜。光燿。〔淮南子、覽冥訓〕名聲被二後世一、光暉重二萬物一。〔後漢書、伏湛傳〕容貌堂堂、國之光暉。〔後漢書、班固傳〕清廟之光暉、當世之俊彥也。

【光輝】55 ひかり。かがやき。光暉に同じ。〔史記、封禪書〕權火舉而祠、若二光輝然屬一天焉。〔漢書、傅喜傳〕陛下之光輝、傅氏之廢興也。〔漢書、郊祀志上〕若二光輝一然、屬二天焉。

【光熙】56 ㊀ひかり。かがやき。光暉(54)に同じ。〔魏志、高堂隆傳〕德教光熙、九服慕レ義。㊁晉、惠帝(司馬衷)の年號。(306)

【光輝】57 ひかり。かがやき。光暉(54)に同じ。〔左氏、襄、二十、公賦〕南山有レ臺、注〕能爲二國光輝一。〔孟子、盡心下〕充實之謂レ美、充實而有二光輝一之謂レ大。〔荀子、天論〕日月不レ高則光輝不レ赫。〔史記、蔡澤傳〕聲名光輝。〔新書、道德說〕光輝謂二之明一。

【光熹】58 後漢、少帝(劉辨)の年號。(189)

【光妓】59 華かに飾つた舞妓。〔潘岳、笙賦〕光妓儼其階列、雙鳳嘈以和鳴。〔注〕良曰、光妓、謂二舞人一也。

【光義】60 宋、太宗(3－5834‥320)の名。

【光儀】61 ㊀美しい容儀。光貌。〔禰衡、鸚鵡賦〕背二蠻夷之下國一、侍二君子之光儀一。〔曹攄、感舊詩〕濟濟蔭二光儀一。㊁唐の僧。琅邪王沖の子。法興寺に住す。〔宋高僧傳、二十六〕㊂他人の來訪することの敬語。光臨。㊃唐、趙匡凝(10－37171‥469)の字。

【光球】62 天文學用語。通常見られる太陽の光輝を放つ表面をいふ。皆既日食の時見られる光冠(74)などに對していふ語。

【光脚】63 kuang¹ chiao³ 跣足。はだし。

【光化】64 ㊀縣名。㋑後周、置く。故城は湖北省隨縣の東南。〔讀史方輿紀要、湖北、德安府隨州〕光化城、在二州東南三十里一、本楚子城也、云云、後周改二光化縣一、隋因レ之、屬二隨州一。㋺宋、置く。春秋の下陰の地。漢の陰縣。故治は湖北省光化縣の西。〔讀史方輿紀要、湖廣、襄陽府〕光化縣、府西北百八十里、云云、春秋穀國地、云云、宋乾德二年、置二乾德縣一、又置二光化軍一治焉、熙寧五年、軍廢、改レ縣爲二光化縣一、元祐初、復故元廢。〔清史稿、地理志〕湖北、襄陽府、縣六、光化。㊁唐、昭宗(李傑)の年號。(898－901)

【光化學】65 光の作用によつて起る化學變化・化學發光等を研究する化學をいふ。

【光華】66 ㊀うつくしく光る。ひかり。光彩。光輝。〔尚書大傳、虞夏傳〕於レ時俊乂百工相和而歌二卿雲一、帝乃倡レ之曰、卿雲爛兮、糾縵縵兮、日月光華、旦復旦兮。〔竹書紀年、上、帝乃倡レ之曰、慶雲爛兮、禮縵縵兮、日月光華、旦復旦兮、〔謝朓、齊敬皇后哀策文〕光二華沼沚一。㊁さかえ。ほまれ。光榮(19)に同じ。〔鮑照、擬古詩〕宗黨生二光華一。〔注〕濟曰、宗族鄉黨、皆持二其勢一、而生二光榮一。〔白居易、同二夢得一寄二賀東西川二楊尚書一詩〕魯衞定知聯二氣色一、潘楊亦覺有二光華一。

【光靴】67 佛參禪して覺りがひらける。〔傳燈錄〕徑山洪諲條曰、一毫穿二衆穴一時如何、師曰、光靴者任二汝光靴一。

【光怪】68 あやしいひかり。又、ふしぎなひかり。〔吳志、孫堅傳、注〕冢上數有二光怪一、雲氣五色、上屬二於天一。〔韓愈、赴二江陵一途中詩〕雷霆助二光怪一、氣象難二比侔一。〔懷素、法帖〕夜夜風雷起、光怪。〔歐陽脩、蘇氏文集序〕雖二其埋沒而未一出、其精氣光怪、已能常自發見、而物亦不レ能二揜也一。

【光光】69 ひかりかがやくさま。名聲の譽きわたるさま。輝輝。〔漢書、敘傳下〕子明光光、

發二迹西疆一。〔曹植、王仲宣誄〕光光戎輅。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕元功盛勳、光光如レ彼。

【光晃】70 クヮウクヮウ きらきらひかる。ひらめく。光照。〔楚辭、王逸、九思、怨上〕奔電兮光晃、涼風兮愴悽。〔注〕晃、一作レ照。

【光活】71 クヮウクヮツ いきいきと輝く。〔劉基、二鬼詩〕幽谷底捉住二兩鬼一、眼睛光活如二琉璃一。

【光滑】72 kuang¹ hua² ❶光澤があつてなめらかなさま。❷八方美人的な。

【光闊】73 クヮウクヮツ 廣いこと。〔錢翊、江行詩〕光闊重二湖水一、低斜遠二雁行一。

【光冠】74 クヮウクヮン 天文學用語。皆既日食の際、太陽の周圍に見える光芒。コロナ。

【光環】75 クヮウクヮン 天文學用語。土星の外にある輪。

【光訓】76 クヮンクヮン 大きなをしへ。〔書、顧命〕燮二和天下一、用答二揚文武之光訓一。

【光勳】77 クヮンクヮン かがやかしいいさを。〔後漢書、馮衍傳下〕纂二前修之夸節一兮、曜二往昔之光勳一。

【光冏】78 クヮイクヮイ ひかつて明かなこと。〔馮子翼、冷香亭詩〕芝蘭紛氤氳、珠璧照光冏。

【光啓】79 クヮウケイ ❶大いにし、ゆたかにする。〔左氏、襄、十〕光二啓寡君一、羣臣安矣。〔會箋〕光啓、猶二光裕一也。〔杜預、春秋左氏傳序〕光二啓王室一。❷唐、僖宗(李儇)の年號。(885－888)

【光啓堂】80 クヮウケイタン 清、方李標(5－13620‥49)の室名。

【光景】81 クヮウケイ ❶ひかり。ひかるさま。轉じて、德澤威貌等にいふ。〔韓詩外傳、三〕弟子被二光景一、史記、封禪書〕其光景動二人民一、唯陳寶。〔謝靈運、初發二石首城一詩〕日月垂二光景一、成レ貸遂兼レ茲。❷景色。樣子。有樣。〔後漢書、西南夷、邛都夷傳〕青蛉縣禹同山、有二碧雞・金馬一、光景時時出見。〔注〕華陽國志曰、碧雞光景、人多見レ之、前書音義曰、金雞似レ馬、碧形似レ雞也。❸kuang¹ ching ④暮し向。生計。㊁許り。程。位。㊂云云らしい。

【借二光景一以往來兮】82 クヮウケイヲ カリテ モッテ ワウライス 神や電(イナリ)の光を借り、之に跨がつて往來するをいふ。〔楚辭、九章、悲回風〕借二光景一以往來兮。〔注〕言下己願中借二神光電景一、飛注往來上。

【光慶】83 クヮウケイ ❶めでたい事。休慶。〔忠經、報國章〕先後光慶、皆君之德。❷唐、高宗(李治)の年號なる顯慶の一稱。又、一に明慶に作る。(656－661)

【光曉】84 クヮウゲウ 佛の光明が衆生の無明を除去すること。夜の暗黑を破る曉に喩へたもの。〔贊阿彌陀佛偈〕有量諸相蒙二光曉一。

【光絢】85 クヮウケン 光澤あるをいふ。〔雲仙雜記〕彩色光絢。

【光絹】86 クヮウケン はぶたへ。光繒。〔和漢三才圖會、絹布類、光絹〕按、光絹出二於京師一、而繒之最上、以爲二御服一、出二於加賀一者、名二加賀光絹一、稍劣、但馬之産、次レ之。

【光顯】87 クヮウケン 明かにあらはれる。〔詩、大雅、大明、明明在レ下、疏〕光顯之德、在二於下一也。〔論衡、吉驗〕曷嘗無二天人神怪光顯之驗一乎。

【光玄】88 クヮウゲン 眞宗の僧。字は存覺。中納言阿闍梨と稱す。覺如の子。青蓮院慈道法親王に入門し、權大僧都となる。慶安六年歿す、年八十四。著に教行信證六要鈔・選擇集注解鈔がある。

【光源】89 クヮウゲン 光の源。太陽のやうに自ら光を發するもの。

【光顧】90 クヮウコ ❶お出で下さる。光臨(277)に同じ。〔雲笈七籤〕赫然還丹、日月光顧。❷kuang¹ ku⁴ ひきたて。愛顧。

【光後】91 クヮウゴ 唐、劉昌裔(2－2224‥1027)の字。

【光興】92 クヮウコウ ❶晉の時、北漢、烈宗昭武帝(劉聰)の年號。(310)❷明、神宗の時、越の世宗穀皇帝(黎維潭)の年號。(1578－1599 一說、1581－1600)

【光國】93 クヮウコク ❶さかえかがやく國。〔江淹、知己賦〕有レ體有レ豔、光國光家。❷唐、李朝隱(6－14459‥1787)の字。

【光棍】94 クヮウコン ❶ならずもの。やくざもの。無賴漢。〔還魂記、鬧宴〕暫時拿二下那光棍一。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕除二了多少光棍一、六部成語、刑部、光棍、注解〕詐騙之匪也。❷kuang¹ kuen⁴ 獨身者。「兒。

【光棍子】95 kuang¹ kuen⁴ tzŭ 獨身者。光棍脩、答二臨淄侯一牋〕光二贊大業一。〔吳志、周魴傳〕

【光差】96 クヮウサ 太陽の光が地球・太陽間の平均距離を通過するに要する時間をいふ。約五百秒。

【光采】97 クヮウサイ うるはしい光。光彩に同じ。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕簪珥光采、桂裳鮮明。〔北齊書、魏收傳〕在レ朝今有二魏收一、便是國之光采。〔曹植、宜男花頌〕光采晃曜、配二彼朝日一。

【光彩】98 クヮウサイ 五色のきれいな色。うるはしい光。色どり。色彩。光采。〔曹植、美女詩〕顧眄遺二光彩一。〔魏文帝、芙蓉池作詩〕上天垂二光彩一、五色一何鮮。〔劉禹錫、新秋對レ月寄二樂天一詩〕月露發二光彩一、此時方見レ秋。

【光彩陸離】99 クヮウサイリクリ 光彩の入り亂れてきらめくさま。

【光濟】100 クヮウサイ 大いにすくふ。又、大いになす。〔漢書、敍傳上〕光二濟四海一、奕世載レ德。〔魏志、高柔傳〕敷二弘大猷一、光二濟先軌一。〔晉書、樂志上〕受二終于天一、光二濟萬國一。

【光濟叟】101 クヮウサイソウ 燭の名。〔清異錄、器具、光濟叟〕同光年、高麗行人至、副使朴嵓叟、文雅如二中朝賢士一、行吏掃二除其館舍一、得二餘燭半挺一、其末紅印篆文曰、光濟叟、蓋以命レ燭也。

【光相】102 クヮウサウ すぐれて美しい人相。〔洛陽伽藍記、一〕長樂王子攸像、光相具足、端嚴特妙、是以、榮意在二長樂一。

【光相寺】103 クヮウサウジ 寺の名。四川省峨眉縣の西南、大峨山の絶頂。〔方輿勝覽〕自二白水一歷二八十四盤一、山徑如レ綿、登躋六十里至レ寺、卽普賢示現之處、寺屋皆以レ板爲レ之。

【光草】104 クヮウサウ 草の名。姬百合(3－6230‥121)の異名。〔夫木和歌抄、三十二〕光り草かがやく影。

【光澡】105 クヮウサウ 美しいあや。又、高いほまれ。〔班固、典引〕光藻朗而不レ渝耳。〔何晏、景福殿賦〕光藻昭明。

【光像】106 クヮウザウ 佛光明が赫爍としてゐる佛像。〔寄歸傳、四〕天竺可レ爲二瞻部光像處懸幡之竿一。

【光參】107 kuang¹ shen¹ なまこの一種。我が近海に産して、中國に輸出する。

【光燦】108 クヮウサン ひかりかがやく。又、ひかり。〔廣異記〕堂中無レ燈、而光燦滿レ室。

【光贊】109 クヮウサン 大いにたすける。光輔。〔楊脩、答二臨淄侯一牋〕光二贊大業一。〔吳志、周魴傳〕光二贊洪化一。

【光讚】110 クヮウサン 大いにたすける。光贊に同じ。又、大いに明かにする。〔潘岳、爲二賈謐一作贈二陸機一詩〕齊轡羣龍、光二讚納言一。〔注〕善曰、鄭玄周禮注曰、贊、佐也、良曰、讚、明也。

【光山】111 クヮウザン ❶山名。④河南省光山縣の西北。浮光山、又は浮弋山ともいふ。今の弋陽山。〔水經、淮水注〕淮水東逕二浮光山北一、亦曰二扶光山一、卽弋陽山也。〔太平寰宇記〕山俯映二長淮一、每有二光耀一、因名二光山一。㊁雲南省寧洱縣の東。一名、錦袍山。〔滇程記〕漢諸葛亮營壘處。❷縣名。隋、置く。春秋の弦國の地。今の河南省潢川縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州〕光山縣、州西四十五里、春秋弦國地、漢爲二西陽縣地一、屬二江夏郡一。云云、隋開皇十八年、置二光山縣一、大業初、弋陽郡治レ此。〔清史稿、地理志〕河南、光州直隸州、縣四、光山。

【光私】112 クヮウシ 主君のめぐみ。〔江淹、爲二蕭驃騎讓二封第三表一〕感二激光私一、未レ能二自返一。

【光始】113 クヮウシ 五胡十六國の一、後燕の昭文帝(慕容熙)の年號。(401－406)

【光施】114 クヮウシ 大いに施す。光敷。〔史記、秦始皇紀〕光二施文惠一。〔漢書、王莽傳中〕功烈巍巍、光二施于遠一。

【光示】115 クヮウシ 明かに知らせる。〔後漢書、伏湛傳〕實足二以先一レ後王室一、名足二以光一レ示遠人一。

【光州】116 クヮウシウ 州名。❶後魏置く。故治は山東省掖縣。〔讀史方輿紀要、山東〕萊州府、禹貢青州地、春秋時萊子國。云云、晉爲二東萊國一、宋復曰二東萊郡一。後魏因レ之、兼二置光州一。❷梁、置く。唐宋には光山軍といひ、清には直隸州として光山・固始・息・商城の四縣を領す。民國には潢川縣と改む。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府〕光州、禹貢揚州境、春秋時黃國。云云、梁置二光州及南郭州一、東魏因レ之、後周爲二淮南郡一、隋復爲二光州一、大業初、改二弋陽郡一、唐復爲二光州一。〔清史稿、地理志〕河南、光州直隸州、領二縣四一、光山・固始・息・商城。❸唐、置く。今の四川省の境。

【光漆】117 クヮウシツ 光澤のある漆。〔元史、祭祀志三〕古制爲レ之、以二光漆一題二尊謚于背上一。

【光城】118 縣名。❶南朝宋、置く。梁は光城郡とし、隋は光山縣とす。今、河南省光山縣治。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州〕光山縣、州西四十五里、春秋弦國地、漢爲二西陽縣地一屬二江夏郡一、劉宋元嘉十五年、以二豫州蠻民一立二光城等縣一、大明中、立二光城左郡一、梁兼二置光州一、尋沒二于魏一。❷後魏、置く。故治は今の河南省商城縣の東。❸後魏、置く。今の河南省潢川縣の地。❹後魏、置く。今の河南省の境。❺後魏、置く。今の湖北省の境。

【光淨】119 光澤があり清らかなこと。清くかがやくこと。〔拾遺記、蓬萊山〕高二萬里、廣七萬里、水淺、有二細石一如二金玉一、得レ之不レ加二陶冶一、自然光淨、仙者服レ之。

【光爍】120 ひかりかがやく。〔唐書、天文志二〕光爍如レ電。

【光珠】121 光のある珠。江珠。〔後漢書、哀牢夷傳〕出二銅鐵鉛錫、金銀光珠一。〔注〕博物志曰、光珠、卽江珠也。

【光壽】122 ❶東晉の時、五胡十六國の一、前燕の烈祖宣昭帝（慕容儁）の年號。（357－360）❷僧の名。顯如の長子。教如と稱し、信淨院と號す。慶長七年、德川家康の命を受けて京都七條烏丸に東本願寺を建立し、大僧正となる。慶長十九年寂す。年五十七。❸佛阿彌陀佛の光明と壽命。

【光叔】123 字號。❶宋、張世南（4－9812‥1240）の字。❷宋、趙炎（10－37171‥34）の字。

【光順】124 明、英宗（朱祁鎭）、憲宗（朱見溥）の時、越（安南）の聖宗（黎灝）一に黎思誠）の年號。（1460－1469）

【光潤】125 つや。光澤（176）の❶に同じ。〔史記、封禪書〕光潤龍變。〔新語、資質〕無二膏澤一而光潤生。〔曹植、洛神賦〕光潤玉顏。

【光初】126 東晉の時、五胡十六國の一、前趙（初、漢と稱す）の劉曜の年號。（318－329）

【光緒】127 清、德宗（載湉）の年號。（1875－1908）

【光緒帝】128 清の德宗（4－10243‥226）をいふ。

【光助】129 大いに助ける。てらしたすける。〔國史略、神武天皇〕詔曰、我皇祖之靈也、自レ天降鑒、光二助朕躬一。

【光誦】130 立派な詩文。〔江淹、從二冠軍建平王一登二廬山香爐峯一詩〕幸承二光誦末一、伏思レ託二後旂一。〔注〕善曰、光誦、猶二華篇一也。

【光色】131 いろつや。光澤。〔論衡、說日〕金・木・水・火・土、各異二光色一。〔何劭、遊仙詩〕光色冬夏茂。〔南史、宋武帝紀〕光色甚麗。

【光植】132 清、盧焯（益都の人）（8－23050‥90）の字。

【光飾】133 かざり。かざる。〔魏志、張臶傳〕豈此版謁所レ可二光飾一哉。〔謝瞻、於二安城一答二靈運一詩〕華萼相光飾。

【光燭】134 照らす。〔史記、魯仲連傳〕光二燭鄰國一。〔張衡、東京賦〕德宇天覆、輝烈光燭。

【光心】135 物理學用語。レンズを通過する光線の中、レンズを通過して後、その方向を變ぜられないものは皆一點に於て集交する。此の點を光心といふ。

【光身】136 kuāng shēn tǔ ❶裸體。❷手ぶら。空手。

【光信】138 明、朱恕（6－14424‥390）の字。

【光神】139 雷神をいふ。〔萬葉集、十九〕光神なりはた少女。

【光仁】140 ❶唐、李守禮（6－14459‥1418）の初名。❷第四十九代の帝諡。〔續日本紀〕光仁。〔諡號雜誌〕韓非子解老、德者道之功、功有レ實、而實有レ光、仁者德之光、光有レ澤、而澤有レ事、義者仁之事也、事有レ禮、而禮有レ文、禮者義之文也。

【光翠】141 翡翠のやうなみどりの光をいふ。翠光。〔茅亭客話〕孔雀雌者、尾短無二金翠一、雄者尾大而綠、光翠奪レ目。

【光瑞】142 佛の光を放つめでたい姿。〔法華經、序品〕我見二燈明佛本光瑞一、如レ此。

【光世】143 字號。❶明、張鳳翔（4－9812‥1515）の字。❷北周、竇熾（8－25695‥28）の字。

【光聖】145 五代、南詔の肅恭帝（楊子眞）の年號。一に克聖に作る。（929－930）

【光聖仁孝皇帝】146 晉、顯宗（12－43726‥87）の諡。

【光聖神閔孝皇帝】147 五代、唐の始祖、莊宗（9－31035‥97）の諡。

【光霽】148 光風霽月（231）の略。〔范梈、貴州詩〕若無二光霽在一、何以破二朱炎一。

【光霽峪】149 地名。滿洲吉林省和龍縣の東北。一名、鍾城嶽子。圖們江を隔てて朝鮮と對する。

【光勁】150 美しくかがやく。〔陸雲、請二吳王一引二師友一啓〕殿下明德光勁、天資秀朗。〔宋書、王弘傳〕德猷光勁、鑒識明遠。

【光昭】151 ひかりかがやく。明かに照らす。かがやかしあらはす。〔左氏、隱二三〕光二昭先君之令德一、可レ不レ務乎。〔國語、鄭語〕光二昭四海一。〔蜀志、諸葛亮傳〕夫崇二德序一レ功、紀二行命一レ謚、所レ以光二昭將來一、刊載不レ朽。〔魏武帝、秋胡行〕明明日月光、何所不二光昭一。〔顏延之、陽給事誄序〕光二昭茂緒一。

【光紹】152 明、武帝（朱厚照）の時、越（安南）の昭宗、黎椅）の年號。（1516－1526）

【光照】153 ❶ひかりてらす。〔國語、楚語下〕其明能光二照之一。〔後漢書、章帝紀〕光二照六幽一。❷清、王之佐（7－20823‥1553）の字。

【光錫】154 字號。❶宋、石延慶（8－24024‥889）の字。❷宋、鄭興裔（11－39647‥380）の字。

【光線】155 ひかり。ひかりのすぢ。光芒。

【光線石】156 單科晶系、柱狀結晶の鑛物。暗綠色にして眞珠の如き光澤を有し、銅鑛床の酸化帶に產する。

【光線浴】157 人工光線を照射してする溫熱浴。疾病治療に應用する。

【光遷】158 縣名。西魏、置く。今、湖北省房縣治。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府〕房縣、府西南二百十里、云云、秦爲二房陵縣一、漢因レ之、屬二漢中郡一云云、梁仍曰二新城郡一、兼二置岐州一、西魏改レ郡爲二光遷國縣一、亦曰二光遷縣一。

【光鮮】159 物の、目を悅ばすもの。あざやかなもの。〔庾信、齊王進二白兔一表〕光鮮越雉、色麗秦狐。

【光闡】160 あきらかにひらく。〔晉書、赫連勃勃載記〕哲王繼レ軌、光二闡徽風一。

【光前】161 前代にかがやく。又、前代をかがやかす。〔劉孝綽、奉和二昭明太子鍾山解講一詩〕我后遊二祇園一、比事實光前。

【光前裕後】162 一族をさかんにする。祖先の光榮を增して、子孫に恩澤を及ぼす意。光前及び裕後（10－34305‥11）を見よ。

【光祖】163 字號。❶宋、孔承恭（3－6933‥828）の字。❷宋、曾興宗（5－14299‥188）の字。❸明、韓紹（12－43159‥145）の字。

【光祚】164 大いにさいはひする。〔後漢書、李充傳〕非下所二以光一祚子孫一者上也。

【光素】165 發光體から發散し、吾人の目に入つて光の感覺を生ぜしめると考へられた微粒子。ニユートンによつて唱へられた說。

【光宗】166 ❶廟號。㋑宋の十二代の王。趙惇（10－37171‥219）を見よ。㋺明の十五代の王。朱常洛（6－14424‥841）を見よ。㋩高麗の四代の王。名は昭。在位二十六年。❷明、祁伯裕（8－24634‥42）の原名。

【光宗耀祖】167 kuāng tsung⁴ yao⁴ tsu³ 祖先をあらはす。

【光繒】168 羽二重。光絹（86）に同じ。〔和漢三才圖會、絹布類、光絹〕光繒。

【光泰】169 明、太祖の時、越（安南）の順宗（陳顒）の年號。（1388）說、1391－1398）

【光體】170 光を發する物體。

【光大】171 ❶さかんなこと。光明盛大の意。〔易、坤〕含弘光大。〔疏〕包含弘厚、光著盛大。〔易、泰〕包レ荒、得レ尙二于中行一、以二光大一也。〔漢書、董仲舒傳〕行二其所レ知、則光大矣。〔吳志、陸遜傳〕有二超世之功一者、必應二光大之寵一。❷舞樂の名。〔舊唐書、音樂志一〕太宗十四年、八座議曰、文德皇后廟樂、請レ奏二光大之舞一。❸年號。㋑南朝、陳の廢帝、臨海王（陳伯宗）の時（567－568）

㊁五代十國の一、前蜀の高祖(王建)の時。一に光天に作る。(918) ㊂明、胡廣(9－29400‥100)の字。

【光堂】172 ㄍㄨㄤ ㄊㄤˊ 岩手縣平泉村に在る中尊寺の金色堂をいふ。〔奥細道〕五月雨に降り殘してや光り堂。「に滑かなこと。

【光堂堂的】173 kuang¹ t'ang² t'ang tê 非常

【光道】174 ㄍㄨㄤ ㄉㄠˋ ❶太陽の通る道。日道。〔漢書、天文志〕日有二中道一、月有二九行一、中道者黄道、一曰二光道一。〔後漢書、律曆志下〕日有二光道一、月有二九行一。❷字號。㋑宋、曹偕(5－14297‥22)の字。㋺元、程益(8－25081‥12)の字。

【光宅】175 ㄍㄨㄤ ㄓㄞˊ ❶聖德が遠くまで著れること。ある地方に居つて其の德が四方に及ぶこと。光は充ちる、宅は居る。〔書、堯典序〕昔在帝堯、聰明文思、光二宅天下一。〔傳〕言二聖德之遠著一。〔蜀志、後主劉禪傳〕光二宅天下一、以二時雍一爲レ盛。〔左思、魏都賦〕曁二聖武之龍飛一、肇受レ命而光レ宅。❷寺の名。㋑江蘇省江寧縣の東南。〔讀史方輿紀要、江南、江寧府、江寧縣〕光宅寺、在二府東南一、梁天監初、以二橋舊宅一爲二光宅寺一。㋺唐の儀鳳二年、長安の光宅坊に建立す。〔西安府志〕光宅寺、儀鳳二年、望レ氣者、言二光宅坊有二興氣一、敕令レ掘、得二石函一、函南有二佛舍利子萬餘粒一、遂立二光宅寺一。❸唐の武后の年號。(684) ㊃梁の僧、法雲をいふ。楊都の光宅寺に住し、法華に精し。其の法華疏を光宅疏といふ。〔唐高僧傳、五〕。

【光澤】176 ㄍㄨㄤ ㄗㄜˊ ❶つや。ひかり。光潤。〔管子、水地〕茂華光澤。〔後漢書、王眞傳〕面有二光澤一。❷縣名。宋、置く。明・清、皆福建省邵武府に屬す。今、江西省に屬し、南城縣の東に在る。〔讀史方輿紀要、福建、邵武府〕光澤縣、府西北七十五里、本邵武縣地、云云、宋太平興國六年、升爲二光澤縣一、屬二邵武軍一、元因レ之。〔清史稿、地理志〕福建、邵武府、縣四、光澤。

【光蛋】177 kuang¹ tan⁴ 役に立たぬ男。

【光彈】178 ㄍㄨㄤ ㄉㄢˋ 光を發する砲彈。

【光胄】179 ㄍㄨㄤ ㄓㄡˋ 「宇。後魏、房景先(5－11714‥152)の

【光軸】180 ㄍㄨㄤ ㄓㄡˊ 物理學用語。複屈折體に於て光の複屈折をしない方向。

【光中】181 ㄍㄨㄤ ㄓㄨㄥ 清、高宗純皇帝(弘曆)の時、越の太祖武皇帝(阮文惠、一に阮光平)の年號。(1788－1792)

【光中化佛】182 ㄍㄨㄤ ㄓㄨㄥ ㄏㄨㄚˋ ㄈㄛˊ 佛の背光の中にゐる小佛。〔觀無量壽經〕彼佛圓光如二百億三千大千世界一、於二圓光中一、有二百萬億那由陀恆河沙化佛一。

【光忠】183 ㄍㄨㄤ ㄓㄨㄥ 酒の名。〔曲洧紀聞〕光忠、酒名。

【光寵】184 ㄍㄨㄤ ㄔㄨㄥˇ 寵愛を受けて貴い身分にのぼること。めぐみ。恩寵。又、寵愛する。〔司馬遷、報二任少卿一書〕爲二宗族交游光寵一。〔後漢書、宦者傳序〕光二寵三族一。〔吳志、陸抗傳〕世荷二光寵一。〔晉書、蔡謨傳〕戸素累積、而光寵更崇。

【光塵】185 ㄍㄨㄤ ㄔㄣˊ 光をうけ塵を戴く。貴人に侍することの美稱。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕旋侍二光塵一。〔注〕銑曰、光塵、美二言之一。〔顏延之、秋胡詩〕自二昔在一光塵、結レ言固二終始一。「名。

【光廷】186 ㄍㄨㄤ ㄊㄧㄥˊ 唐、裴光庭(10－34362‥114)の一

【光定】187 ㄍㄨㄤ ㄉㄧㄥˋ 南宋、甯宗の時、西夏の神宗(李遵頊)の年號。(1211－1223)

【光底】188 ㄍㄨㄤ ㄉㄧˇ 光の下。劍のひらめきの下。〔賴山陽、題二不識庵擊二機山一圖一詩〕遺恨十年磨二一劍一、流星光底逸二長蛇一。

【光庭】189 ㄍㄨㄤ ㄊㄧㄥˊ 字號。❶清、部煜(11－39429‥1)の字。❷清、周雲耀(2－3441‥543)の字。

【光靚】190 ㄍㄨㄤ ㄐㄧㄥˋ かがやきあらはれる。〔晉書、陸雲傳〕論二道體一書、篇章光靚。

【光澈】191 ㄍㄨㄤ ㄔㄜˋ かがやき透きとほること。〔拾遺記、秦始皇〕其土石、皆自光澈、扣レ之則碎。

【光天】192 ㄍㄨㄤ ㄊㄧㄢ ❶天下をてらす。天下に一杯になる。〔書、益稷〕帝光二天之下一、至二于海隅蒼生一。〔蔡傳〕使下帝德光輝達二於天下一、海隅蒼生之地、莫レ不二昭灼一。〔宋書、武帝紀中〕神武光天、大節宏發。❷年號。㋑五代十國の一、前蜀の高祖(王建)の時。一に光大に作る。(918) ㋺五代十國の一、南漢の殤帝(劉玢)の時。(942－943)

【光天化日】193 kuang¹ t'ien¹ hua⁴ jih⁴ ❶聖代をいふ。青天白日の義で、暗黑時代、又は秩序擾亂の時代の對。〔紅樓夢、二回〕彼殘忍乖僻之邪氣、不能蕩溢於光天化日之中。❷美しくからりと晴れ渡つた天氣。

【光點】194 ㄍㄨㄤ ㄉㄧㄢˇ ❶光の發する點。❷太陽の黑點附近にあらはれる特に光輝の強い部分。

【光圖】195 ㄍㄨㄤ ㄊㄨˊ 前蜀、王建(7－20823‥348)の字。

【光度】196 ㄍㄨㄤ ㄉㄨˋ ❶光明の度。又、大きな慶びのしるし。〔班固、典引〕罔二光度一而遺レ章。〔注〕善曰、未レ有下告二之以一光明之度一、而遺中其篇章上銑曰、無二大慶之瑞一、亦妄遺二跡於書傳一。❷物理學用語。光の強弱のほどあひ。燭光を以て計算の單位とする。❸星の見かけ上の明るさを表す言葉。光度が一等違ふごとに光の大きさは凡そ二・五倍變る。

【光度計】197 ㄍㄨㄤ ㄉㄨˋ ㄐㄧˋ 光度を計る器械。

【光度表】198 ㄍㄨㄤ ㄉㄨˋ ㄅㄧㄠˇ 光度の強弱を比較する表。

【光統】199 ㄍㄨㄤ ㄊㄨㄥˇ 明かにして治める。治權を擴充する。〔北齊書、文宣帝紀〕光二統前緯一、持衡匡合、華戎混一、風海調夷。〔成公綏、正旦大會行禮歌〕總二齊璇璣一、光二統七政一。

【光燈】200 ㄍㄨㄤ ㄉㄥ 燈火。〔嵇康、雜詩〕光燈吐レ輝、華幔長舒。

【光頭】201 ㄍㄨㄤ ㄊㄡˊ ❶帽子を被らずに頭を露出する。無帽の頭。❷布類の仕上げをいふ。❸はげあたま。禿頭。

【光頭圓腦】202 ㄍㄨㄤ ㄊㄡˊ ㄩㄢˊ ㄋㄠˇ 茄子の形容。〔通俗編、身體、光頭圓腦〕鄭清之、咏レ茄詩、光頭圓腦作レ僧看。

【光德】203 ㄍㄨㄤ ㄉㄜˊ ❶大きな德。〔法言、重黎〕天胙二光德一而隕二明忒一。❷高麗の光宗(宣烈王、昭日華)の年號。(950－951) ㊁明、徐驥(4－10110‥78)の字。

【光年】204 ㄍㄨㄤ ㄋㄧㄢˊ 天文學用語。光が一年間に達する距離。

【光波】205 ㄍㄨㄤ ㄅㄛ 物理學用語。光線の波動。

【光背】206 ㄍㄨㄤ ㄅㄟˋ 佛像の背後にある光。後光。

【光寶】207 ㄍㄨㄤ ㄅㄠˇ 明、世宗(朱厚熜)の時、越の莫福源の年號。(1554－1561)

【光芒】208 ㄍㄨㄤ ㄇㄤˊ ひかり。光線。〔後漢書、蔡邕傳〕連二光芒於白日一。

【光旁】209 ㄍㄨㄤ ㄆㄤˊ 幽州で藕(蓮の根)をいふ。〔毛詩草木鳥獸蟲魚疏、有二蒲與一レ荷〕荷、芙蕖、江東呼レ荷、云云、其根爲レ藕、幽州謂二之光旁一、爲二光如二牛角一。

【光貌】210 ㄍㄨㄤ ㄇㄠˋ 美しい容貌。光儀(61)の❶に同じ。〔後漢書、梁鴻傳〕雖レ不レ察二分光貌一、幸二神靈一兮與休。

【光伯】211 ㄍㄨㄤ ㄅㄛˊ 字號。❶隋、劉炫(2－2224‥266)の字。❷宋、陳炤(11－41698‥396)の字。❸元、鄒大觀(11－39562‥103)の字。

【光魄】212 ㄍㄨㄤ ㄆㄛˋ 月の光る部分と光らない部分。〔後漢書、律曆志中〕須下以二弦望晦朔一、光魄虧滿、可上得而見一者上考二其符驗一。

【光髮】213 ㄍㄨㄤ ㄈㄚˋ 赤い髮の毛。あか毛。〔鮑照、芙蓉賦〕陋二荊姬之朱顏一、笑二夏女之光髮一。

【光髮膠】214 kuang¹ fa³ chiao¹ コスメチック。

【光範】215 ㄍㄨㄤ ㄈㄢˋ おかほ。尊顏(4－7445‥36)に同じ。〔剪燈餘話、江廟泥神記〕偶得二接見於光範一。

【光伴】216 ㄍㄨㄤ ㄅㄢˋ 貴人に相伴する。陪食する。〔敕修百丈清規、告香〕請二首座一光伴。

【光伴香】217 ㄍㄨㄤ ㄅㄢˋ ㄒㄧㄤ 陪食する時の燒香。

【光被】218 ㄍㄨㄤ ㄅㄟˋ 廣く及ぶ。明かに行き亙る。〔書、堯典〕光二被四表一、格二于上下一。〔漢書、宣帝紀〕陛下聖德充二塞天地一、光二被四表一。〔後漢書、鄧騭傳〕託二日月之末一、光二被雲雨之渥澤一。〔班固、典引〕光二被六幽一。

【光賁】219 ㄍㄨㄤ ㄅㄧ 人の來ることをいふ敬語。光臨。御光來。〔劉禹錫、謝レ加二兵馬使朱鄭官一表〕榮二分右職一、光二賁遐藩一。

【光美】220 ㄍㄨㄤ ㄇㄟˇ ❶うるはしいこと。〔荀子、不苟〕言二己之光美一、擬二於舜禹一、參二於天地一、非二夸誕一也。❷宋、趙廷美(10－37171‥795)の本名。

【光弼】221 ㄍㄨㄤ ㄅㄧˋ ❶大いにたすける。〔晉書、王渾傳〕周公得下以二聖德一光中弼幼主上。❷字號。㋑宋、韓國華(12－43159‥290)の字。㋺宋、洪皓(6－17402‥36)の字。㋩明、張昱(4－9812‥23)の字。

【光敏】222 ㄍㄨㄤ ㄇㄧㄣˇ 明かでさとい。大いにかしこいこと。〔易林〕明德光敏、重華貢擧。

【光輔】223 ㄍㄨㄤ ㄈㄨˇ ❶大いにたすける。光贊(109)に同じ。〔左氏、昭、二十〕宜夫子之光二輔王君一。〔晏子、重而異者〕光二輔五君一。〔王儉、褚淵碑文〕孰能光二輔五君一。❷ㄍㄨㄤ ㄈㄨˇ 明、孫繼宗(3－6997‥3

87）の字。

【光敷】224 クヮウフ　ひろく及ぶ。光施。〔吳志、賀邵傳〕大化光敷、天人望塞也。

【光寵】225 クヮウチョウ　てらしおほふこと。〔潘岳、寡婦賦〕承二慶雲之光寵一兮、荷二君子之惠渥一。

【光譜】226 クヮウフ　物理學用語。光の分散によつて生ずる色帶をいふ。日光の色帶は菫・藍・青・綠・黃・橙・赤の順序に配列せられる。光帶。スペクトル。

【光譜分析】227 クヮウフブンセキ　化學用語。スペクトルを應用する分析をいふ。各種の元素は、それぞれ特有な輝線スペクトルを生ずる故に、可檢物を火焰中に投じてスペクトルを視、其の中に含まれる元素の種類を定めること。

【光武】228 クヮウブ　韓國の李太王の年號。（1897－1906）

【光武帝】229 クヮウブテイ　後漢の第一代の王。劉秀（2－2224‥328）を見よ。

【光風】230 クヮウフウ　㊀雨後の美しい景色。雨後の空の心地よいさま。〔楚辭、招魂〕光風轉レ蕙、氾二崇蘭一些。〔注〕光風、謂二雨已日出而風一、草木皆有レ光也、五臣曰、日光風氣、轉二汎於蘭蕙之叢一。㊁うまごやし。苜蓿。〔西京雜記、一〕苜蓿、一名二懷風一、時人或謂二之光風一、風在二其間一、常蕭蕭然、日照二其花一、有二光采一、故名。

【光風霽月】231 クヮウフウセイゲツ　うららかな風と雨後の月。略して光霽といふ。㊀天性のさつぱりとして、胸中の清らかな人に喩へる。〔宋史、周敦頤傳〕黃庭堅稱、其人品甚高、胸懷灑落、如二光風霽月一。〔書言故事、顏貌類〕不レ觀二光風霽月之標一。㊁よく治まつた世にいふ。〔宣和遺事、前集上〕大槩光風霽月之時少、陰雨晦冥之時多。

【光副】232 クヮウフク　大いに助けること。光輔。〔蕭圓、肅少傳箴〕敬レ之敬レ之、天惟思下光副二皇極一、永固中洪基上。

【光復】233 クヮウフク　前の事業を再興する。舊業を恢復する。復興。〔南齊書、丙吉虜傳〕光二復中華一、永敦二鄰好一。〔史可法、覆二多爾袞書〕未四嘗不レ許以行權一、幸其光二復舊物一也。

【光復會】234 クヮウフクヮイ　清末、章炳麟・蔡元培・吳敬恆等の組織した革命團體の一。

【光福】235 クヮウフク　㊀山名。江蘇省吳縣の西南。名、龜山。五代の時、吳越王錢鏐が楊行密を破つた所。㊁鎭の名。光福山の下に在る。山名をもつて名づける。〔讀史方輿紀要、江南、蘇州府、長洲縣〕光福山、鏐遣二顧全武一、破二行密之兵於烏墩光福一、因置二鎭於此一。㊂南唐、王崇文（7－2083‥1748）の字。

【光物】236 ヒカリモノ　光つて空中を走るもの。流星の類。〔源平盛衰記、二十六、祇園女御事〕光り物こそ見えたりけれ。

【光粉】237 クヮウフン　おしろい。白粉。粉錫（8－26872‥42）の別名。〔本草、粉錫〕釋名、解錫、鉛粉、鉛華、胡粉、定粉、瓦粉、光粉、白粉、時珍曰、鉛・錫一類也、古人名レ鉛爲二黑錫一、故名二粉錫一。釋名曰、胡者、餬也、和レ脂以餬レ面也、定・瓦、言二其形一、光・白、言二其色一。

【光文】238 クヮウブン　㊀光輝あるあや。〔皇甫威、廻文錦賦〕閱二披風前一、光文爛然。㊁前趙、劉淵（2－2224‥63）の諡。

【光餅】239 クヮウヘイ　㊀餅の名。明の戚繼光が倭寇を平げた時、糧食として作つたもの。〔閩雜記〕光餅、戚南塘平二倭寇一時、制以備二軍行路食一者、後人因二其名繼光一、遂以稱レ之、今閩中各處多有、大如二番錢一、中開二一孔一、可二以繩貫一。㊁kuang¹ ping². 造幣廠に於て、金屬を熔解し、更に輾延して錢形とし、之を磨いて光澤を付け、花紋を施すばかりにしたもの。

【光表】240 クヮウヘウ　あまねく四海の外にかがやきわたるをいふ。〔書、堯典〕光二被四表一、格二于上下一。〔王巾、頭陀寺碑文〕格天光表之功、弘啓興復。

【光甫】241 クヮウホ　字號。㊀金、劉祖謙（2－2224‥1140）の字。㊁清、賀熙齡（10－36725‥125）の字。㊂清、周燦（2－3441‥219）の字。

【光名】242 クヮウメイ　うるはしい名。善いほまれ。令聞。〔管子、中匡〕光名滿二天下一。

【光命】243 クヮウメイ　立派な訓命。〔書、君牙〕對二揚文武之光命一。

【光明】244 クヮウミャウ　㊀明かなひかり。ひかり。〔國語、周語上〕昭二前之光明一、而加レ之以二慈和一。〔荀子、王霸〕日月之光明。〔史記、大宛傳〕日月所二相避隱一爲二光明一也。〔漢書、鼂錯傳〕燭以二光明一、亡二偏異一也。〔海內十洲記〕流洲、在二西海中一云云、治二其石一成レ鐵、作レ劍光明洞照、如二水精狀一。㊁明かにひかる。又、大いに明かにする。顯著にする。〔易、謙〕天道下濟而光明。〔詩、周頌、清廟、肅雝顯相、篤〕諸侯有二光明一著見之德一者、來助レ祭。〔後漢書、馮衍傳下〕光二明風化之情一、昭二章玄妙之思一也。㊂光明ある人。賢者中の賢者。〔詩、周頌、敬之〕學有二緝熙于光明一。〔箋〕且欲レ學下於有二光明之光明者一、謂二賢中之賢者一也。㊃光榮あること。勢力あること。〔劉駕、勵志詩〕及レ時立二功德一、身後猶光明。㊄宋、徐陵（4－10110‥225）の字。㊅佛 クヮウミャウ　佛の德のひかり。佛のみから出るひかり。ごくわう。〔灌頂經、十二〕自身光明普照二十方一。

【光明鹽】245 クヮウミャウエン　鹽の一種。鹽池に產し、塊狀をなし、光明あり。石鹽。〔本草、光明鹽〕釋名、石鹽、聖石、水晶鹽、集解、恭曰、光明鹽、生二鹽州五原鹽池下一、鑿取レ之、大者如レ升、皆正方光徹。

【光明巖】246 クヮウミャウガン　巖の名。四川省峨眉縣の西南、峨眉山の頂にある。因つて峨眉山を一に光明山ともいふ。〔名山記〕邃古以前、黃帝間レ道、普賢說レ法、皆在二絕頂光明巖一。〔蜀都雜鈔〕峨眉山有二光怪一、天晴雲湧、浩若二銀濤一、其光五采如レ輪、俗云二佛現一、巖名二光明一、以レ此。

【光明夾】247 クヮウミャウケフ　鏡をいれるはこ。かがみばこ。〔清異錄、器具、光明夾〕出行如居レ家、一物不レ可レ闕、闕則不レ便二于我一、畢集焉、惟荷者羅二其害一、予取二小薄鏡一、捨レ奩糊二紙左右一、掩爲二鏡室白牌一、題曰二光明夾一。

【光明拳】248 クヮウミャウケン　如來が臂を擧げ指を屈する相をいふ。〔海錄碎事、道釋、經〕如來擧レ臂屈レ指、爲二光明拳一。

【光明草】249 クヮウミャウサウ　草の名。莠の一種。目の痛みを治すからいふ。狗尾草。〔正字通〕莠、又一種狗尾艸、苗葉似レ粟而小、穗黃形似二狗尾一、莖治二目痛一、故又名二光明草一。阿羅漢艸、舊注以二狗尾一爲レ莠非是。〔本草、狗尾草〕釋名、莠、光明草、阿羅漢草。

【光明藏】250 クヮウミャウザウ　㊀心の異名。〔事物異名錄、形貌、心〕林子佛、以二方寸一爲二光明藏一。㊁如來の身。〔思益經、一〕如來身者、是卽無量光明之藏。

【光明海廣】251 クヮウミャウカイクヮウ　㊀如來の光明の十方に照り渡つて邊際のないこと。

【光明時代】252 クヮウミャウジダイ　㊀文物道德の興隆した時代。㊁世の安寧な時代。

【光明心殿】253 クヮウミャウシンデン　㊀密教で、本來から具はつた心の覺德をいふ。〔二教論、下〕光明心者、歎二心覺德一、殿者、明二身心互爲一能住所住一。

【光明正大】254 クヮウミャウセイダイ　心が潔白でくもりなく、中正を得て雄大なこと。〔朱子語類、七十三〕聖人所レ說底話、光明正大。

【光明念誦】255 クヮウミャウネンジュ　㊀五種念誦の一。修行者が口から光明を出すと念想して、佛名、又は眞言を誦するをいふ。〔祕藏記、末〕光明念誦者、念二想口出二光明一、持誦而已。

【光明眞言法】256 クヮウミャウシンゴンホフ　㊀密教で、光明陀羅尼を本尊とし、滅罪・除病・息災のために行ふ祈禱法。

【光明無量願】257 クヮウミャウムリャウグヮン　㊀阿彌陀佛の四十八願中、第十二の願名。〔無量壽經、上〕設我得レ佛、光明有二能限量一。

【光明名號因緣】258 クヮウミャウミャウガウインエン　㊀阿彌陀佛が、光明（緣）と名號（因）とを以て衆生を救ひ取ること。

【光洋】259 kuang¹ yang². 南支那で新墨銀（ニユー・メキシカン・ダラー）に對する呼稱。又、重英、若しくは新英ともいふ。

【光揚】260 クヮウヤウ　輝かしあげる。〔班固、典引〕光二揚大漢一。〔蜀志、諸葛亮傳〕光二揚洪烈一。

【光油】261 kuang¹ yu². 桐油の一種。塗料に用ふ。

【光油油】262 kuang¹ yu² yu². すべすべとして光るさま。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽琴雜劇〕光油油耀花人眼睛。

【光裕】263 クヮウユウ　㊀ひろく盛にする。光啓。〔國語、周語中〕叔父若能光二裕大德一、更二姓改レ物云云。〔陸雲、弔二陳伯華一書〕當下光二裕大業一、茂中垂勳

名。㊀明、陳南賓(11－41698‥1174)の名。㊁清、陳綽(11－41698‥332)の字。

【光融】264 ㄍㄨㄤ かがやかしひろめる。〔無量壽經、上〕光二融佛法一宣二流正化一。

【光譽】265 ㄍㄨㄤ ほまれ。光榮(19)に同じ。〔墨子、尚同下〕光譽令聞、先レ人發レ之。

【光膺】266 ㄍㄨㄤ 立派に捧持する。〔剪燈餘話、青城舞劍錄〕克二復神州一、光二膺舊物一。

【光螺】267 ㄍㄨㄤ 貝の一種。つべたがひ。つめたがひ。〔劉子翬、食二蠣房一詩〕光螺暈二紫斑一、籃膏湛二金色一。

【光來】268 ㄍㄨㄤ ㄌㄞˊ 他人の來ることをいふ敬語。光臨(277)に同じ。

【光朗】269 kuang¹ lang³ 輝きある。光りある。

【光爛】270 ㄍㄨㄤ ㄌㄢˋ あきらか。〔南史、梁高祖武帝紀下〕有二星辰一見二東方一、光爛如レ火。

【光里】271 ㄍㄨㄤ 地名。春秋の廣里。今の山東省長清縣の西南。〔水經、濟水注〕光里、即春秋所謂守之廣里者也。

【光亮】272 kuang¹ liang⁴ ㊀光澤。㊁光る。あかるい。

【光隆】273 ㄍㄨㄤ ㄌㄨㄥˊ 立派で盛なこと。〔魏志、高貴鄉公髦紀〕聖德光隆、寧二濟六合一。

【光陵】274 ㄍㄨㄤ ㄌㄧㄥˊ 唐の穆宗の陵名。陝西省蒲城縣の堯山。〔唐書、敬宗紀〕長慶四年十一月庚申、葬二睿聖文惠孝皇帝於光陵一。〔文獻通考、王禮考、山陵〕穆宗崩、葬二光陵一、在二京兆府奉天縣界一。〔蒲城縣志〕光陵、在二堯山西領延興村北一。

【光綸】275 ㄍㄨㄤ ㄌㄨㄣˊ 清、呂留良(2－3386‥275)の一名。

【光輪】276 ㄍㄨㄤ ㄌㄨㄣˊ 圓輪は圓滿の義。又、佛の光明は衆生の煩惱を碾摧するから譬へて輪といふ。〔贊阿彌陀佛偈〕解脫光輪無二限齊一。

【光臨】277 ㄍㄨㄤ ㄌㄧㄣˊ 人が來ることの敬語。ひかりが上から下土に來りのぞむ義。光貴。光來。光儀。光駕。光顧。貴臨。〔曹植、七啓〕不レ遠二遐路一、幸見二光臨一、將二敬滌一レ耳、以聽二玉音一。〔晉書、劉驎之傳〕使君既枉レ駕光臨。

【光翎】278 ㄍㄨㄤ ㄌㄧㄥˊ 光ある美しい羽。〔王周、巫廟詩〕鐵石礪二觜爪一、金碧輝二光翎一。

【光麗】279 ㄍㄨㄤ ㄌㄧˋ 光つてうるはしい。〔後漢書、劉般傳〕府寺寬敞、輿服光麗。

【光靈】280 ㄍㄨㄤ ㄌㄧㄥˊ 靈魂の尊稱。尊靈。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕明德逸者、光靈遠也。〔顏延之、拜二陵廟一作詩〕漢道尊二光靈一。〔注〕濟曰、光靈、祖宗之靈光盛也。

【光烈】281 ㄍㄨㄤ ㄌㄧㄝˋ ㊀立派ないさを。〔書、洛誥〕越乃光烈考武王。〔國語、楚語下〕而後使下先聖之後之有二光烈一云云、而恭二敬明神一者爲中之祝上。〔漢書、外戚下、孝成班倢伃傳〕揚二光烈之翕赫一兮、奉二隆寵於增成一。〔易林〕光烈無レ窮。㊁字號。㋑宋、蔡絃(9－31818‥51)の字。㋺宋、王彥昇(7－20823‥1445)の字。

【光烈后】282 ㄍㄨㄤ ㄌㄧㄝˋ ㄏㄡˋ 後漢、陰麗華(11－41691‥365)の諡。

【光祿】283 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㊀官名。秦代に始めて郎中令の官あり、宮殿門戶の事を掌る。漢の武帝の時、名を光祿勳と改め、中大夫(光祿大夫)・太中大夫・中散大夫・諫議大夫・謁者・僕射・羽林中郎將・五官中郎將・虎賁中郎將・左中郎將・右中郎將・奉車都尉・駙馬都尉等は皆之に屬した。光は明、祿は爵の義。大夫は顧問應對の官で常務なく、詔命を待つて行動した。梁は光祿卿と改めた。然し魏晉以後は又、禁中に置かず、僅かに虛名を殘したに止まる。北齊は光祿寺といひ、卿・小卿を置いて諸の膳食・帳幕を兼掌せしめた。唐以後、始めて司膳の官とし、歷朝之に因つた。〔史記、匈奴傳〕漢使二光祿徐自爲出二五原塞一。〔通典、職官典、光祿卿〕秦有二郎中令一、掌二宮殿掖門戶一、漢因レ之、至二武帝太初元年一、更二名光祿勳一、後漢曰二光祿勳一、所レ掌同二典三署郎一、直執レ戟宿衛。考二其德行一而進退之。郊祀之事、掌二三獻一。光祿勳居二禁中一、有レ獄在二殿門外一、謂二之光祿外部一。兩漢自二光祿・太中・中散・諫議等大夫一、乃謁者・僕射・羽林郎・郎中・侍郎・五官・武賁・左右等中郎將、奉車・駙馬二都尉一、車戶騎三將一、並屬二光祿勳一。建安末、復改二光祿勳一爲二郎中令一、魏黃初元年、復爲二光祿勳一。云云、梁除二勳字一、謂二之光祿卿一。卿舊視二列曹尚書一、天監中視二中庶子一、職與レ漢同、後魏又置二少卿一、北齊曰二光祿寺一、置二卿少卿一、兼掌二諸膳食帳幕一。隋文帝開皇三年、廢二光祿寺一、入二司農一。十二年復置、初有二卿及少卿各一人一、煬帝加二置二少卿一。大唐龍朔二年、改二光祿寺一爲二司宰寺一。咸亨初復レ舊、光宅元年爲二司膳一、神龍初復レ舊、卿一人掌二終獻行事一、少卿二人領二太官珍羞良醞掌醢等四署一、署各有二令丞一。〔事物紀原、九寺卿少部、光祿〕漢書曰、秦郎中令掌二宮殿掖門一。武帝太初元年、更二名光祿勳一。〔通典云、梁除二勳字一。曰二光祿卿一。續事始曰、秦掌二宮殿門戶一、郊祀主二諸郎將在二殿中一侍衛上、北齊兼掌レ膳、隋全掌二諸殽膳一、不レ掌二宮殿一。㊁大膳職の唐名。〔職原抄〕大膳職、唐名、大官署、又光祿。

【光祿渠】284 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄑㄩˊ 溝渠の名。甘肅省靈武縣の東。今、廢す。〔唐書、李聽傳〕有二光祿渠一、久歲廢、云云、引レ渠、溉二塞下地千頃一。〔後賴其饒一。

【光祿勳】285 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄒㄩㄣ 漢代の官名。宮殿禁門の事を掌る。光祿の㊀を見よ。〔史記、韓說傳〕爲二光祿勳一、掘二蠱太子宮一、衛太子殺レ之。〔漢書、百官表上〕郎中令秦官、掌二宮殿掖門戶一、有レ丞、武帝太初元年、更二名光祿勳一。〔注〕應劭曰、光者、明也、祿者、爵也、勳、功也。

【光祿卿】286 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄑㄧㄥ 梁の官名。㊀光祿の㊀を見よ。㊁㋑大膳大夫の唐名。〔二中歷、七、官名〕大膳、大夫、光祿卿。㋺宮內卿の唐名。〔拾芥抄、中本、官位唐名〕宮內卿、光祿卿。

【光祿塞】287 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄙㄞ 邊塞の名。漢の武帝の時、光祿勳徐自爲、築く。今、蒙古烏喇特旗故九原城の北にある。〔漢書、匈奴傳下〕單于自請二願留一レ居二光祿塞下一。

【光祿寺】288 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄙˋ 官署の名。光祿の㊀を見よ。

【光祿島】289 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄉㄠˇ 島の名。關東州金縣の東。東北から西南まで長さ六海里。

【光祿勅令】290 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄔˋ ㄌㄧㄥˋ 光祿勳の掌る法規の事例を摘要したもの。〔漢書、燕剌王旦傳〕又將軍都二郎羽林一。〔注〕師古曰、都、大也、謂二大會試レ之、漢光祿勅令、諸當レ試者、不二會都一所レ免之。

【光祿四行】291 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄙˋ ㄒㄧㄥˊ 漢代、光祿勳が郎從官を試みた敦厚・質樸・遜讓・節儉の四つの科目。四行(3－4682‥108)を見よ。〔後漢書、范滂傳〕少厲二清節一、爲二州里所一レ服、舉二孝廉一。光祿四行。〔注〕漢官儀曰、光祿舉二敦厚・質樸・遜讓・節儉一、此爲二四行一也。

【光祿寺卿】292 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄙˋ ㄑㄧㄥ 官名。北齊以後、置く。光祿寺の長官。祭祀・朝會等の事を掌る。光祿を見よ。〔唐書、百官志三〕光祿寺卿一人、少卿二人、掌二酒醴膳羞之政一。〔宋史、職官志四〕光祿寺卿、掌二祭祀・朝會・宴饗・酒醴・膳羞之事一。

【光祿侍郎】293 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄕˋ ㄌㄤˊ 大膳亮の唐名。〔職原抄〕大膳職、亮、唐名、光祿侍郎。

【光祿少卿】294 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄕㄠˋ ㄑㄧㄥ 宮內卿の唐名。〔職原抄〕宮內省、卿一人、唐名、工部尚書、殿中監、光祿少卿、司農卿。

【光祿大夫】295 ㄍㄨㄤ ㄌㄨˋ ㄉㄚˋ ㄈㄨ ㊀官名。秦の郎中令の屬に中大夫あり、漢の武帝の時、中大夫を改めて光祿大夫とし、宮中顧問の役とした。魏晉以後、時に增置せられたが、隋唐になつて散官とし、光祿大夫・金紫光祿大夫・銀青光祿大夫の三等に分つた。明には一品階とし、清には正一品文官階とした。光祿の㊀を見よ。〔漢書、百官公卿表上〕大夫掌二論議一、有二太中大夫・中大夫・諫大夫一云云。〔武帝〕太初元年、更二名中大夫一爲二光祿大夫一、秩比二二千石一。〔文獻通考、職官考、文散官、光祿大夫以下〕秦時光祿勳屬官有二中大夫一、漢武帝太初元年、更二名光祿大夫一云云、隋有二光祿大夫・左右光祿大夫一、皆爲二散官一、不レ理レ事、唐初猶有二左右之名一、貞觀以後、唯曰二光祿大夫・金紫光祿・銀青光祿一、並爲二文散官一。〔續通典、職官典、文散官、光祿大夫以下〕金文散官、正二品上曰二金紫光祿大夫一、下曰二銀青光祿大夫一、從二品上曰二光祿大夫一、下曰二榮祿大夫一云云、明文散官階、從一品初授二榮祿大夫一、陞授二光祿大夫一。〔皇朝通典、職官典、文武官階〕文職正一品曰二光祿大夫一、從一品曰二榮祿大夫一。㊁從二位の唐名。〔職原抄〕從二位、唐名、光祿大夫。

【光和】296 ㄍㄨㄤ ㄏㄜˊ 東漢の靈帝(劉宏)の年號。(178－184)

【飛レ光】297 ㄈㄟ ㄍㄨㄤ 光をはなつ。〔江淹、別賦〕日下レ壁而沈レ彩、月上レ軒而飛レ光。

【光院錢】298 ㄍㄨㄤ ㄩㄢˋ ㄑㄧㄢˊ 唐代に學士院から出て宰相となつた者が、學士院の同僚を犒ふために出した金。〔唐書、陸扆傳〕故事、自二省一得二宰相一、有二

光署錢㆒、留爲㆓宴資㆒、學士院未㆓始有㆒、至㆑辰送㆓光院錢五十萬㆒、以榮㆓近司㆒。

【光運寺】299 クワウウンジ 寺の名。廣東省曲江縣の西。隋、建つ。俗名、五祖寺。〔韶州府志〕仁壽光運寺、在㆓府城西河㆒、隋名㆓仁壽臺㆒、天寶二年、道廣和尙坐㆓化於此㆒、因建㆓廣界寺㆒、南漢改曰㆓仁壽㆒、宋寶元閒重建、余襄公撰㆓塔銘㆒、相傳爲㆓晉始興內史王導故宅㆒、俗又稱㆓五祖寺㆒、然非㆓黃梅五祖㆒也、宋孫時敏有㆓碑記㆒。

【光悅流】300 クワウエツリウ 和樣書體の一。本阿彌光悅の創始したもの。〔和漢三才圖會、藝才、本朝能書〕光悅流、本阿彌光悅。

【光音天】301 クワウオンテン 佛色界の十八天の第六。二禪天の第三。此の天は光明を以て語音となすからいふ。〔中阿含經〕劫初光音天、降生有㆓人間㆒。〔玄應音義、三〕阿波會二天、此云㆓光音天㆒、亦言㆓極光淨天㆒、卽第二禪第三天也。

【光音王】302 クワウオンワウ 鏡(**11－40812**)の異名。唐の武宗が宮嬪に鏡の字を分解せしめた故事。〔淸異錄、器具、光音王〕光叔之賢、會昌微忌㆑之、帝因引㆑照、戲令㆓宮嬪離㆓合鏡字㆒、須臾以㆓光音王㆒奏㆑帝曰、鏡子封㆑王邪、帝不㆑懌而罷、距㆓宣宗卽位㆒止三四年。

【光行差】303 クワウカウサ 光の速さが有限なることと、觀測者が動いてゐる爲に、星の位置が實際よりも少し移動して見える現象をいふ。

【光火賊】304 クワウクワゾク 燈を持ち、獲物を携へた盜賊。〔西陽雜俎、盜俠〕李廓在㆓潁州㆒、獲㆓光火賊七人㆒。

【光皇帝】305 クワウクワウテイ 唐の高祖の三代の祖、天錫の尊稱。天錫は魏に仕へて幢主となり、西魏の文帝の大統中、司空を贈られ、高宗の儀鳳中、光皇帝と追尊せられた。〔舊唐書、一〕。

【光寺錢】306 クワウジセン 唐代、大理寺の役人で、特に拔擢せられて他官に榮轉した者が、大理寺の同僚を犒ふために出した金。〔國史補〕韓令爲㆓宣武軍節度使㆒、張正元爲㆓邕管經略使㆒、王宗爲㆓壽州刺史㆒、皆自㆓試大理評事㆒殊拜、本寺移㆑牒醵㆓光寺錢㆒、相次而至、寺監爲㆑榮。

【光時亨】307 クワウジカウ 明、桐城の人。字は羽聖。崇禎の進士。官は刑科給事中。〔小腆紀年、四〕・〔小腆紀傳、十九〕。

【光署錢】308 クワウショセン 唐代、三省から出て宰相となつた者が、省吏を犒ふために出した金。光院錢(298)を見よ。

【光楚客】309 クワウソカク 唐、樂安の人。開元の初、安南大都護となり、梅叔鸞が反した時、楊思勖等と之を破る。官は桂州都督。松滋縣侯に封ぜらる。〔唐書、二百七〕。

【光蕩蕩】310 クワウタウタウ ひかりかがやくさま。〔通俗編、狀貌、光蕩蕩〕史記、秦二世欲㆑漆㆓其城㆒、優旃曰、佳哉、漆城光蕩蕩、寇來不㆑得㆑上。

【光緻緻】311 クワウチチ ひかるさま。〔韓偓、屐子詩〕六寸膚圓光緻緻、白羅繡屧紅托㆑裏。

【光電子】312 クワウデンシ 光電效果により物質より放射せられる電子。

【光電池】313 クワウデンチ 硝子管の內面にナトリウム又はポタシウムの膜を附著せしめたものを陰極とし、其の內部に一箇の電極を封入してこれを陽極となし、內部を排氣するか又は低壓ガスを封入して作つたもの。光電管。

【光電流】314 クワウデンリウ 光電池の陰陽兩極間に流れる電流。

【光汃汃】315 クワウハツハツ 水が響きを立てて流れるさま。〔杜牧、池州送㆓孟遲先輩㆒詩〕好鳥響丁丁、小溪光汃汃。

【光目女】316 クワウモクニヨ 佛地藏菩薩の前身の女子の名。〔地藏本願經、上〕。

【光狼城】317 クワウラウジヤウ 城の名。山西省高平縣の西。今の名は強營村。〔史記、秦紀〕(昭襄王)二十七年、白起攻㆑趙、取㆓代光狼城㆒。

【光辣撻】318 クワウラツタツ ひかりかがやくさま。〔通俗編、狀貌、光辣撻〕陳郁話腴、藝祖咏㆑日詩、欲㆑出不㆑出光辣撻、千山萬山如㆓火發㆒。

【光琳風】319 クワウリンフウ 蒔繪師尾形光琳の畫風。

【光燐光】320 クワウリンクワウ 鑛物學用語。燐光の一種。金剛石などの如く、その上に照射した光を吸收して、之を暗處に於て發するもの。

【光車駿馬】321 クワウシヤシユンバ 美しく飾つた車と駿馬とをいふ。〔陸機、百年歌〕光車駿馬遊㆓都城㆒、高談雅步何盈。

【光骽赤脚】322 kuang^1 t'uei^3 ch'ih^4 chiao^3 ズボンも靴も穿かず、素足になる。

【光着眼子】323 kuang^1 chê yen^3 tzŭ 眞裸體。

【光着腦袋】324 kuang^1 chê^1 nao^3 tai 帽をかぶらない。無帽。

【光電效果】325 クワウデンカウクワ 物理學用語。ナトリウム・ポタシウム・セシウム等の金屬が短波長の輻射線と衝突する際、其の表面より電子を放射する效果をいふ。

【光板無毛】326 kuang^1 pan^3 wu^2 mao^2 毛皮の毛がすれ切れて、皮のみになる。

【光溜溜的】327 kuang^1 liu^1 liu tê てかてか光つた。

【光獻翼聖后】328 クワウケンヨクセイコウ 元の太祖の后。〔元史、一百十四〕。

【兊】1351 タイ 兌(**1－1356**)の俗字。〔正字通〕兊、俗兌字。

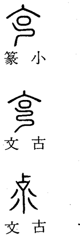
【兲】1352 テン 天(**3－5833**)に同じ。唐の則天武后の製した字。〔字彙補〕兲、同㆑天、武后製。

【兏】1353 チヤウ 長(**11－41100**)の古字。〔集韻〕長、古作㆑兏。

【兂】1354 キ 旡(**5－13717**)の古字。〔說文〕兂、歓食气屰不㆑得㆑息曰㆑兂。〔徐鉉注〕今變㆑隸作㆑旡。

五畫

【克】1355 コク 〔集韻〕乞得切 ㄎㄜˋ k'ê^4 職。



小篆 古文 古文

❶**よくする。**㋑たへる。〔太玄經、中〕時不㆑克也。〔注〕克、堪也。㋺能力がある。〔詩、齊風、南山〕匪㆑斧不㆑克。〔傳〕克、能也。〔禮、緇衣〕若㆓己弗㆑克。〔注〕克、能也。㋩なす。しとげる。〔左氏、宣、八〕日中而克㆑葬。〔注〕克、成也。㊁とのへる。治める。〔易、蒙〕子克㆑家。❷**よく。**〔書、堯典〕允恭克讓。〔傳〕克、能也。〔詩、大雅、蕩〕鮮㆓克有㆑終。〔箋〕克、能也。❸**かつ。**㋑爭にかつ。〔禮、坊記〕予克㆑紂。〔注〕克、勝也。㋺かちたがる。人にまさることを好む。〔論語、憲問〕克伐怨欲。〔集解〕馬融曰、克、好㆑勝㆑人也。㋩私欲にかつ。〔法言、問神〕勝㆓己之私㆒之謂㆑克。㊁ほろぼす。〔管子、七臣七主〕數出㆓重法㆒、而不㆑克㆓其罪㆒。〔注〕克、謂㆓勝伏㆒。㋭せめる。〔論語、顏淵〕克㆑己復㆑禮爲㆑仁。〔皇疏〕克、責也。㋬ころす。〔公羊、隱、元〕克㆑之者何、殺㆑之也。㋣すぐれた敵を虜にする。〔左氏、莊、十一〕得㆑雋曰㆑克。❹龜甲に、互に攻めあふやうな條裂があらはれること。〔書、洪範〕曰、克。〔鄭注〕克者、如㆓祲氣之色相侵㆒也。〔王注〕克者、兆相侵入。〔疏〕兆相交也。❺**かつぐ。**古は𠅇(**1－302**)に作る。〔集韻〕克、古作㆑𠅇。〔說文〕𠅇、肩也、象㆓屋下刻木之形㆒。〔段注〕肩、謂㆑任、任㆑事以㆑肩、故任謂㆓之肩㆒、亦謂㆓之克㆒。❻**しるす。**刻(**2－1970**)に通ず。〔說文通訓定聲〕克、段借爲㆑刻。〔釋名、釋言語〕克、刻也、刻㆑物有㆓定處㆒、人所㆓克念㆒有㆓常心㆒也。〔詩、大雅、雲漢〕后稷不㆑克。〔箋〕克、當㆑作㆑刻、刻、識也。❼俗に剋(**2－2009**)に作る。尅(**4－7435**)に同じ。〔說文、克、段注〕克、俗作㆑剋。〔詩、鄭風、淸人、序〕高克好㆑利。〔釋文〕克、一本作㆑剋。

〔正字通〕尅、同レ剋。❽古は亯(1－320)・亳(1－308)・亭(1－302)・帛(2－2822)・帛(2－2815)に作る。〔說文〕亯、古文克。〔玉篇〕亳、古文克。〔集韻〕克、古作二亭・亯・帛・帛一。❾謚。〔逸周書、謚法解〕愛レ民在レ刑曰レ克。❿姓。〔姓苑〕克。⓫〔現〕㋑滿州語で、行く。㋺重量の一單位、グラム。克蘭姆の略稱。㋩麻雀の點數計算に用ひる語。

〔名乘〕ヨシ。カツ。

〔解字〕會意。說文通訓定聲によれば、高の省と肩の象形とよりなり、物を肩より高くもつ、即ちかつぐの意、それより物に能く堪へ忍ぶ意とする。又說文によれば、屋下の雕刻してある木、即ち楹柱などに象るとし、事を能くするの意。〔說文通訓定聲〕克、按、以レ肩任レ物曰レ克、物高二于肩一、故从二高省一、下象二肩形一。〔說文、克、段注〕上象レ屋、下象二刻木彔彔形一、木堅而安二居屋下一、栔二刻之一能レ事之意也。▽（甲骨文）象形。重いかぶとを頂いた人に象り、重さに耐える意を表はす。

【克菴】1 コクアン 字號。克盦。❶明、陳選(11－41698・・417)の號。❷清、劉典(2－2224・・522)の字。

【克盦】2 コクアン 克菴に同じ。

【克猷】3 コクイウ 清、劉子壯(2－2224・・964)の字。

【克一】4 コクイツ 字號。❶宋、楊吉老(6－15112・・470)の字。❷明、姚善(3－6202・・83)の字。

【克允】5 コクイン 明、陶欽皐(11－41705・・181)の字。

【克寅】6 コクイン 明、沈敕(6－17189・・298)の字。

【克繇】7 コクエウ 明、賀逢聖(10－36725・・155)の字。

【克易】8 コクエキ よくかはる。〔逸周書、官人解〕言行亟變、從容克易。

【克遠】9 コクエン 明、蹇霆(10－37741・・32)の字。

【克溫】10 コクヲン 字號。❶明、吳儼(2－3365・・169)の字。❷明、龍瑄(12－48818・・391)の字。

【克家】11 コクカ ❶よく家を治める。〔易、蒙〕九二、包レ蒙吉、納レ婦吉、子克レ家。〔杜甫、奉レ送二蘇州李二十五長史丈之一レ任詩〕食德見二從事一、克家何妙年。❷字號。㋑宋、練幹譽(8－27689・・85)の字。㋺清、程瓚(8－25081・・53)の字。

【克家子】12 コクカシ 能く父の業をつぐ子。〔金史、世宗紀下〕譬二之農家種田、商人營財一、但能不レ墜二父業一、卽爲二克家子一。〔書言故事、子孫類〕稱二人有レ子、曰レ有二克レ家之子一。

【克諧】13 コクカイ ❶よくかなふ。よくやはらぐ。〔書、舜典〕八音克諧、無レ相二奪倫一。〔陸機、演連珠〕要二克諧之會一。❷字號。㋑明、朱廷聲(6－14424・・930)の字。㋺明、陶欽夔(11－41705・・182)の字。㋩明、李愷(6－14459・・109)の字。㋥清、陳韶(鄞の人)(11－41698・・399)の字。

【克孝】14 コクカウ ❶よく親に事へる。〔書、微子之命〕恪愼克孝、肅二恭神人一。❷明、孫必顯(3－6987・・527)の字。

【克剛】15 コクガウ 明、宋亮(3－7078・・210)の初名。

【克學】16 コクガク 明、吳仕(2－3365・・199)の字。

【克堪】17 コクカン よく其の任にたへる。克龕。〔書、多方〕克堪レ用レ德。〔晉書、阮籍傳〕捕レ吏之召、非レ所二克堪一。

【克龕】18 コクガン よく其の任にあたる。克堪に同じ。〔逸周書、祭公解〕用二克龕一、紹二成康之業一。〔孔注〕龕、與レ堪同。

【克己】19 コクキ ❶おのれの欲にかつ。自制する。〔論語、顏淵〕克レ己復レ禮爲レ仁。〔集注〕克、勝也、己、謂二身之私欲一也。〔漢書、杜欽傳〕非レ義無二以正一レ身、克レ己就レ義、恕以及レ人、六經之所レ上也。〔越絕書、越絕外傳本事〕苦レ身克レ己。〔後漢書、鄧后紀〕常克レ己以下レ之。〔孔子家語、正論解〕克レ己復レ禮。❷$k'o^4$ chi^3 商人の用語。自分を損して他人を益する。値段を勉強する。格安にする。

【克己週間】20 コクキシウカン 耶蘇教の救世軍で、一年中の或る一週間を限り、之に屬する人が克己して金錢を貯蓄し、又は寄附を乞うて資金を得ること。

【克己主義】21 コクキシユギ 禁慾主義と制慾主義の總稱。

【克己復禮】22 コクキフクレイ 私慾に克つて天理にかへる。克復。克レ己復レ禮(4－8742・・21)を見よ。

【克期】23 コクキ 期日をきめる。剋期。〔魏志、公孫瓚傳、注〕克レ期會合、攻二鈔郡縣一。

【克毅】24 コクキ 明、洪遠(6－17402・・23)の字。

【克享】25 $k'\hat{e}^4$ $hsiang^3$ 健康を持續する。

【克恭】26 コクキヨウ 字號。❶五代漢、常思(4－8955・・133)の字。❷明、賀欽(10－36725・・17)の字。❸明、饒欽(12－44400・・16)の字。

【克勤】27 コクキン ❶よくつとめる。〔書、大禹謨〕克勤二于邦一、克儉二于家一。〔書、蔡仲之命〕克勤無レ怠、以垂二憲乃後一。❷明、程敏政(8－25081・・279)の字。❸ゴゴク 宋の高僧。彭州駱氏の子。字は無著。謚は眞覺禪師。成都の昭覺寺に住す。建炎の初、號を圜悟と賜はる。〔新續高僧傳、十二〕。

【克謹】28 コクキン 明、陳恪(11－41698・・94)の字。

【克廣】29 コククワウ 宋、陳自仁(11－41698・・933)の字。

【克寬】30 コククワン 明、邢宥(11－39301・・2)の字。

【克惠】31 コクケイ 清、李續賓(6－14459・・1641)の字。

【克敬】32 コクケイ 字號。❶元、甘復(7－21643・・180)の字。❷明、周旋(2－3441・・333)の字。❸明、沈翼(6－17189・・383)の字。❹明、毛肇宗(6－16772・・314)の字。❺明、王儀(7－20823・・215)の字。❻明、汪俅(6－17154・・40)の字。

【克臬】33 コクゲツ 事をよくする。〔書、多方〕爾罔レ不レ克レ臬。〔蔡傳〕臬、事也。

【克儉】34 コクケン よく儉約する。克は能。〔書、大禹謨〕克勤二于邦一、克儉二于家一。

【克五】35 コクゴ 清、田從典(7－21723・・382)の字。

【克功】36 コクコウ 明、趙勝(10－37171・・226)の字。

【克弘】37 コクコウ 字號。❶明、于寬(1－252・・36)の字。❷明、史道(2－3249・・114)の字。❸明、徐度(4－10110・・238)の字。

【克佐】38 コクサ 明、韓衡(12－43159・・41)の字。

【克載】39 コクサイ 宋、方軫(5－13620・・280)の字。

【克齋】40 コクサイ 字號。❶宋、陳琦(11－41698・・123)の號。❷宋、程公說(8－25081・・201)の號。❸宋、程洵(8－25081・・69)の號。❹宋、董楷(9－31433・・27)の號。❺宋、楊泰之(6－15112・・676)の號。❻宋、楊文蔚(11－41698・・1229)の號。❼明、何祥(1－511・・95)の字。❽明、王暐(7－20823・・17)の號。❾清、陰承方(11－41691・・356)の號。❿清、蔡長澐(9－31818・・217)の號。⓫清、勝保(2－2409・・109)の字。⓬清、沈廷勸(6－17189・・605)の字。⓭大熊寅の號。大熊秦川(3－5831・・2244)を見よ。

【克齋詞】41 コクサイシ 書名。一卷。宋、沈端節撰。〔四庫提要、集、詞曲類〕。

【克齋集】42 コクサイシフ 書名。十七卷。宋、陳文蔚撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【克齋先生】43 コクサイセンセイ 宋、石墩(8－24024・・617)の尊稱。

【克壯】44 コクサウ よく大いにする。よくさかんに強くする。〔詩、小雅、采芑〕方叔元老、克壯二其猶一。〔傳〕壯、大也。〔潘岳、馬汧督誄〕儒夫克壯。

【克蒼】45 コクサウ 明、李懋檜(6－14459・・1942)の字。

【克山】46 コクザン 縣名。滿洲黑龍江省の中部、齊北線の要驛。

【克絲】47 コクシ 紗の上に絨を植ゑて模樣を造り出したもの。刻絲(2－1970・・46)に同じ。〔遼史、儀衞志二〕小祀、皇帝硬帽、紅克絲龜文袍。〔事始〕克絲起二于宋一、其樓閣百花龍鳳等樣、極二其工巧一、今時頗尙レ之。

【克似】48 コクジ よくにる。克肖(77)に同じ。

【克修】49 コクシウ 字號。❶明、張吉(4－9812・・190)の字。❷明、鄭己(11－39647・・58)の字。❸明、鄭弘道(11－39647・・378)の字。❹明、邊完(11－39216・・50)の字。❺明、劉永(2－2224・・33)の字。

【克柔】50 コクジウ 清、鄭燮(11－39647・・194)の字。❻清、姚廷木(3－6202・・187)の字。

【克日】51 コクジツ ❶日をさだめる。期日を定める。剋日(2－2009・・18)に同じ。〔晉書、羊祜傳〕克レ日方戰。〔資治通鑑、漢紀〕(獻帝、建安十六年)操乃與レ克レ日會戰。〔注〕克レ日者、剋二定其日一也。❷速かに。直ちに。

【克昌】52 コクシヤウ ❶極めて盛なこと。〔詩、周頌、雝〕克昌二厥後一。〔曹植、宜男花頌〕永世克昌。❷字號。㋑元、靳昺(12－42728・・19)の字。㋺元、李思衍(6－14459・・1311)の字。

【克將】53 コクシヤウ 清、沈永禋(6－17189・・427)の字。

【克章】54 コクシヤウ 清、韓旻(12－43159・・198)の字。

【克彰】55 コクシヤウ 明、韓俊(12－43159・・126)の字。

【克讓】56 コクジヤウ ❶よくへりくだりゆづる。〔書、堯典〕允恭克讓。〔傳〕信恭能讓。〔新語、輔政〕乘二克讓之敬一。〔後漢書、孔融傳〕有二克讓之臣一。〔左思、

吳都賦〕由ニ克讓一以立レ風。❶字號。㋑後周、柴守禮(6－14664‥107)の字。㋺明、倪謙(1－792‥10)の字。㋩明、崔恭(4－8178‥49)の字。㋥明、余恭(1－515‥13)の字。㋭明、婁謙(3－6383‥16)の字。㋬清、李續宜(6－14459‥1640)の字。

【克述】57 コクジュツ 明、李紹(6－14459‥509)の字。

【克升】58 コクショウ 元、朱公遷(6－14424‥766)の字。

【克承】59 コクショウ 字號。❶明、江師古(6－17140‥477)の字。❶明、劉守緒(2－2224‥1041)の字。❶明、王世德(7－20823‥1776)の字。

【克勝】60 コクショウ から難きに勝つ。剋勝(2－2009‥21)に同じ。

【克食】61 k'ê⁴ shih² 恩典の意。天子から食膳を賜はることをいふ。滿洲語。

【克信】62 コクシン 字號。❶明、甘節(7－21643‥119)の字。❶明、鄭銘(新會の人)(11－39647‥265)の字。

【克振】63 コクシン 字號。❶明、邊鏞(11－39216‥168)の字。

【克深】64 コクシン 明、陸淵之(11－41708‥286)の字。

【克進】65 コクシン 明、秦銳(8－24995‥5)の字。

【克新】66 コクシン 明の高僧。鄱陽の余氏の子。字は仲銘。自ら江左外史、又、雪廬和尚と號す。元末、嘉興の水西寺に住し、洪武の初、召されて南京に至り、嘗て詔を奉じて西域に往き吐蕃を招諭す。著に雪廬南詢稿・元釋集がある。〔明人小傳、五〕・〔明詩綜、九十〕・〔列朝詩集小傳、閏〕。

【克仁】67 コクジン 明、貢安甫(10－36665‥67)の字。

【克綏】68 コクスイ よく安んずる。〔書、咸有一德〕克綏ニ先王之祿一。〔傳〕能保ニ安先王之寵祿一。

【克正】69 コクセイ 字號。❶明、高飛聲(12－45313‥1309)の字。❶明、朱端(6－14424‥449)の字。❶明、趙鑑(10－37171‥81)の字。❷明、李叔正(6－14459‥1441)の字。

【克生】70 コクセイ 字號。❶明、翁正春(金華の人)(9－28635‥83)の字。❶明、梅國禎(6－14830‥250)の字。

【克晟】71 コクセイ 明、孫維明(3－6987‥318)の字。

【克清】72 コクセイ 明、徐釋傳(4－10110‥528)の字。

【克盛】73 コクセイ 明、廖文昌(4－9464‥67)の字。

【克聖】74 コクセイ 五代、南詔の肅恭帝(楊干眞)の年號。一に光聖に作る。(929－930)

【克誠】75 コクセイ 字號。❶明、夏誠(3－5720‥177)の字。❶明、任道遜(1－416‥234)の字。

【克聲】76 コクセイ 明、呂震(2－3386‥100)の字。

【克肖】77 コクショウ ❶よく似る。克似。〔韓愈、平ニ淮西一碑〕克肖ニ其德一。❷明、石繼芳(8－24024‥924)の字。

【克紹】78 コクショウ 立派に受けつぐ。〔書、冏命〕俾ニ克紹ニ先烈一。〔傳〕使ニ能繼ニ先王之功業一。

【克責】79 コクセキ よくせめる。私心に打ちかつ。剋責。〔後漢書、東平憲王蒼傳〕雖ニ內用ニ克責一、而不レ知ニ所レ定。〔後漢書、鍾離意傳〕陛下以ニ天時小旱一、憂ニ念元元一、降ニ避正殿一、躬自克責。

【克捷】80 コクショウ 敵に打ちかつ。又、かちいくさ。〔魏志、國淵傳〕雖ニ克捷有レ功、淵竊恥レ之。〔晉書、謝安傳〕所在克捷。

【克先】81 コクセン 清、潘恬如(7－18236‥211)の字。

【克翦】82 コクセン かち定める。平定する。剋翦。〔柳宗元、獻平ニ淮夷一雅上表〕今又發ニ自ニ天夷一、克翦ニ淮右一。

【克全】83 コクゼン 字號。❶明、留志淑(7－21808‥182)の字。❶明、林正(6－14551‥144)の字。

【克遜】84 コクソン 字號。❶宋、堯允恭(3－5272‥75)の字。❶明、周讓(2－3441‥257)の字。❶明、呂讓(2－3386‥90)の字。

【克當】85 コクトウ 保持する。又、適當な。〔類篇〕詥、詥消、克當也。

【克堂】86 コクドウ 宋、包揚(2－2506‥128)の號。

【克治】87 コクチ 私欲に勝ち邪念を治める。〔傳習錄上〕省察克治之功、則無ニ時而可ニ閒一。

【克長】88 コクチョウ よく長ぜしめる。〔魏志、楊俊傳〕克長ニ後進一、惠訓不レ倦。

【克中】89 コクチュウ 字號。❶宋、金極(11－40152‥233)の字。❶明、呂和(2－3386‥45)の字。

【克忠】90 コクチュウ ❶よく君に事へる。〔書、伊訓〕居レ上克明、爲レ下克忠。〔蔡傳〕言能盡ニ事レ上之心一。❷字號。㋑明、向寶(2－3301‥75)の字。㋺明、陳謂(11－41698‥102)の字。

【克定】91 コクテイ 立派に定め治める。〔詩、周頌、桓〕桓桓武王、保ニ有厥土一、于以ニ四方一、克定ニ厥家一。

【克亭】92 コクテイ 清、毛桓の字。

【克貞】93 コクテイ 明、婁諒(3－6383‥39)の字。

【克東】94 コクトウ 縣名。滿洲黑龍江省拜泉縣の東北。

【克方】95 コクホウ 明、萬宗義(9－31339‥612)の字。

【克暴】96 コクボウ 憚る所なく亂暴すること。〔漢書、匡衡傳〕今俗吏之治、皆不レ本ニ禮讓一、而上ニ克暴一。

【克剝】97 コクハク きびしくて殘酷。刻剝(2－1970‥86)に同じ。

【克伐】98 コクバツ 伐ちかつ。〔後漢書、章帝紀〕克ニ伐鬼方一、開ニ道西域一。

【克伐怨欲】99 コクバツエンヨク 四つの惡德。克は勝つことを好む。伐は自らほこる。怨は恨む。欲は貪る。〔論語、憲問〕克伐怨欲、不レ行焉、可ニ以爲ニ仁矣一。〔集解〕馬曰、克、好レ勝レ人、伐、自伐ニ其功一、怨、忌ニ小怨一、欲、貪欲也。

【克美】100 コクビ 宋、石衍之の字。

【克敏】101 コクビン ❶甚だやさしい。〔詩、小雅、甫田〕曾孫不レ怒、農夫克敏。〔傳〕敏、疾也。❷元、吳訥(2－3365‥338)の字。

【克服】102 コクフク 勝つて服從せること。

【克復】103 コクフク ❶敵に勝つて、領地をとりかへす。兵力を以て失つた土地を回收する。失地を恢復する。舊にかへる。回復。復舊。剋復。〔諸葛亮、爲ニ後主一伐ニ魏詔一〕除レ患寧レ亂、克復舊都一。〔南史、宋武帝紀〕投袂一起、則皇祀克復。❷正道にかへる。〔太玄經、羨〕羨于微、克復可ニ以爲ニ儀。❸克己復禮の略。克レ己復レ禮(4－8742‥21)を見よ。❹明、葉德良(9－31387‥247)の字。

【克文】104 コクブン 宋の高僧。閩鄉の鄭氏の子。字は雲菴。元豐中、號を眞淨大師と賜ふ。著に雲菴語錄がある。崇寧元年寂す。年七十八。〔雲庵語錄〕。

【克平】105 コクヘイ ❶勝つて平げる。〔日本外史、源氏前記〕平氏〕我思ニ故院遺詔一、獨屬ニ官軍一、終克ニ平亂逆一。❷字號。㋑明、殷衡(6－16627‥19)の字。㋺明、陳衡(11－41698‥86)の字。㋩明、劉廣衡(2－2224‥843)の字。

【克父】106 コクホ 清、蔣敦復(9－31820‥176)の字。

【克甫】107 コクホ 元、陳紹叔(11－41698‥1059)の字。

【克明】108 コクメイ ❶十分に明かにする。又、十分に明かなこと。〔書、堯典〕克明ニ俊德一、以親ニ九族一。〔詩、大雅、皇矣〕貊其德音、其德克明、克明克類、克長克君。〔王融、永明九年策ニ秀才一文〕克明之旨弗レ遠、欽若之義復還。❷よく君たる道を盡す。〔書、伊訓〕居レ上克明、爲レ下克忠。〔蔡傳〕言ニ能盡ニ臨レ下之道一。❸字號。㋑唐、杜如晦(6－14477‥342)の字。㋺後周、劉嶧(2－2224‥110)の字。㋩宋、魏昭亮(12－45872‥248)の字。㋥元、盛昭(8－23005‥122)の字。㋭明、高鑑(信陽の人)(12－45313‥132)の字。㋬明、鄒亮(11－39562‥59)の字。㋐明、焦宏(7－19119‥25)の字。㋑明、宋鑑(3－7078‥44)の字。㋒明、曾鑑(5－14299‥23)の字。㋓明、潘本愚(7－18236‥221)の字。㋔明、楊訓文(6－15112‥496)の字。㋕明、李新(6－14459‥482)の字。㋖明、呂昭(2－3386‥102)の字。㋗明、王曄(7－20823‥17)の字。㋘明、倪峻(1－792‥16)の字。㋙清、峻德(4－8116‥75)の字。

【克養】109 コクヨウ 明、陳頤(11－41698‥6)の字。

【克用】110 コクヨウ ❶五代後唐、太祖(3－5834‥309)の名。❷明、處堪(9－32723‥16)の字。

【克容】111 コクヨウ 明、汪洪(6－17154‥57)の字。

【克亂】112 コクラン 反亂にかつ。〔左氏、襄、二十三〕夫克ニ亂於ニ權一。

【克閻】113 コクリョ 清、湯祖祥(7－17874‥190)の字。

【克令】114 コクレイ 甚だ立派な德のあることをいふ。令は善美。〔謝朓、齊敬皇后策文〕肇ニ惟淑聖、克柔克令。

【克勵】115 コクレイ 私慾に打ち克つて事を努め勵む。〔周書、叱羅協傳〕深自克勵、太祖頗委ニ任之一。

【克禮】116 コクレイ 明、鮑忠(12－46074‥62)の字。

【克烈】117 コクレツ 部族の名。初、シベリヤの地に居り、後蒙古と結盟し、勢が頗る盛であつたが、鐵木眞に滅ぼされた。

【克和】118 コクワ 字號。❶宋、顏敏德(12－43591‥189)の字。❶明、陳孜(11－41698‥287)の字。❶

明、程熙(**8－25081**‥29)の字。

【克殷解】119 逸周書の篇名。

【克音氏】120 滿洲內の嫩江・訥謨爾・諾敏等の流域に散在する民族、達呼爾(ダグール)の氏名の一。精奇里氏・克音氏・郭博勒氏・扎拉爾敖氏・墨爾迪氏・俄嫩氏等と呼ばれる。

【克官渡】121 魏の鼓吹曲の名。魏、繆襲作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、魏鼓吹曲、克官渡〕晉書樂志曰、改漢上之回、爲克官渡、言曹公與袁紹戰、破之於官渡也。〔繆襲、克官渡〕克紹官渡、由白馬、僵屍流血被原野、賊衆如犬羊、王師尙寡、沙塠旁風飛揚、轉戰不利士卒傷、今日不勝後何望、土山地道不何當、卒勝大捷震冀方、屠城破邑、神武遂章。

【克皖城】122 吳の鼓吹曲の名。吳、韋昭作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、吳鼓吹曲、克皖城〕古今樂錄曰、克皖城者、言魏武志圖幷兼、而令朱光爲廬江太守、孫權親征光、破之於皖城也、當漢戰城南。〔韋昭、克皖城〕克滅皖城、遏寇賊、惡此凶孽、阻姦慝、王師赫征衆傾覆、除穢去暴戢兵革、民得就農邊境息、誅君弔民昭至德。

【克寤解】123 逸周書の篇名。

【克爾達】124 蘭印の貨幣の名。Guilder の音譯。

【克什圖】125 淸、蒙古正白旗人。姓は博爾濟吉特氏。謚は勤恪。康熙中、福建に從政し、鄭錦を破り、又、準噶爾を攻め、屢〻戰功あり。官は領侍衞內大臣。〔國朝耆獻類徵、二百八十二〕

【克性子】126 我が儘。〔還魂記、冥判〕克性子費春工淹酒債。

【克丁當】127 鳥の聲。〔王十朋、九華山詩〕鳥聲依舊克丁當。〔自注〕山中有鳥、啼聲曰克丁當。

【克敵弓】128 宋の韓世忠の作った弓。〔玉海、兵制、弓矢、紹興克敵弓〕紹興三年十月、上謂輔臣曰、造弓必用良工、今御前所造弓、其直八千、可以爲式、宜令軍器所及張俊軍中分造、十一年六月乙亥、詔有司造克敵弓、弓乃韓世忠所獻也。〔續名臣言行錄〕紹興初、韓世忠造克敵弓。

【克敵弩】129 武器の名。明の嘉靖二十七年、錦衣衞軍匠馮經獻の作った硬弩。〔明會典〕嘉靖二十七年題、造硬弩二、一幷發二矢、一幷發三矢、比神臂爲遠定、名克敵弩、令寶源局造、送各邊、應用每邊一千張。

【克念子】130 明、劉宗周(**2－2224**‥1143)の號。

【克念堂】131 淸、雷鐸(**12－42245**‥100)の室名。

【克姆河】132 河の名。イエニセイ河上流の土名。唐代には劍河、元代には謙河と記され、アンガラ河の合流して來る地點以南のイエニセイ河の上流を指す。R.Kem

【克羅俄】133 明、羅秉忠(**9－28397**‥407)の初名。

【克萊武】134 イギリスの人。英國の印度經營の基礎を作つた。Clive の音譯。

【克洛里】135 熱量の單位。Calory の音譯。

【克蘭姆】136 メートル法の重量の單位。公分。簡略して克。日本では瓦。Gramme の音譯。

【克里雅】137 新疆省南部の都市。克里雅河沿岸に在る。

【克里雅河】138 河の名。新疆省于闐縣。源は縣の南の伊西里庫爾泊。東北流して縣の北に至り沙漠に入る。唐の建德力河。

【克里特】139 島の名。エーゲ海東南部にある島。ギリシヤ領。Crete の音譯。

【克林河】140 河の名。新疆省塔城縣。源は縣の東北の而里木特山。而里木特水・阿黑沙拉水・哈拉沙斯水ともいふ。西南流して十數の小河を合せ、西に折れて額爾齊斯河と會す。

【克魯倫】141 ❶地名。蒙古、車臣汗部の東。東蒙古の要地たり。〔淸史稿、地理志〕外蒙古、喀爾喀東路車臣汗部。〔注〕駐克魯倫。❷河の名。源は蒙古の車臣汗部の肯特山南麓に出で、呼倫池に入る。臚朐河。喀魯倫河。〔淸史稿、地理志〕外蒙古、喀爾喀路東車臣汗部、中右後旗車臣汗。〔注〕有喀魯倫河、卽臚朐河、北史之怯綠憐河也。

【克勒西】142 地名。フランス東北部海岸の地名。百年戰役のとき英王エドワード三世が佛王フイリップ六世を破つた所。Crécy の音譯。

【克勒特】143 地名。ケラート國の首府。ケラート國はベルチスタンにある藩屬國。Khelat・Kelat の音譯。

【克愛克威】144 威德で人を服從させる。〔書、胤征〕嗚呼、威克厥愛允濟、愛克厥威允罔功、其爾衆士懋戒哉。

【克什克騰】145 部落の名。克西克騰とも書く。內蒙古昭烏達盟八部の一。元の上都路及び應昌路の地。明代、察哈爾に服屬した。民國に至り、熱河特別區域に屬す。〔淸國行政法汎論、藩部、內蒙古之行政區劃〕昭烏達盟、有八部十一旗、克什克騰部 Keshikhteng-tribe 一旗。

【克終之美】146 終を全うすることをいふ。有終の美。〔蜀志、馬良傳〕鮮於造次之華、而有克終之美。

【克存信義】147 k'ê⁴ ts'uen² hsin⁴ i⁴ 上海錢莊で資本・當座預金、及び定期預金の三項を記入する帳簿。單に克存ともいふ。

【克雷孟梭】148 フランスの政治家。第一次世界大戰當時の首相。Clemenceau の音譯。

【克倫威爾】149 イギリスの政治家、淸教徒。一六四三年の內亂に議會軍の首領となつた人。Cromwell の音譯。

【克倫斯基】150 ロシヤの政治家。三月革命後、聯立內閣の首相となる。Kerensky の音譯。

【克魯泡特金】151 人名。ロシヤの無政府主義者。Peter Alexeivitch Kropotkin

【克剌卡土亞島】152 南洋ジヤワ・スマトラ二島間にある火山島。Krakatua

【克利奧佩特剌】153 古代エジプトの女王。Cleopatra の音譯。

【克里米亞半島】154 地名。ロシヤ西南部、黑海沿岸の半島。Cremea

【克立斯坦尼亞】155 地名。ノルウエーの首府。オスロの舊稱。Christiania の音譯。

【克剌斯諾服斯克】156 地名。ソヴイエートロシヤにあり、裏海に臨む。軍事上の要地。Krasnovodsk の音譯。

【兌】1356

[一] タイ ダイ 〔集韻〕徒外切 [泰] ㄉㄨㄟ tuei⁴

[二] エイ 〔集韻〕兪芮切 [霽]

[三] タツ ダチ 〔集韻〕徒活切 [曷]

[四] エツ エチ 〔集韻〕欲雪切 [屑]

慣 ダ

小篆

[一] ❶**よろこぶ**。[四]に同じ。〔說文〕兌、說也、从儿㕣聲。〔釋名、釋天〕兌、說也、物得備足、皆喜悅也。〔易、說卦〕兌、說也。〔本義〕說、音悅。〔易、序卦〕兌者說也。〔荀子、脩身〕佞兌而不曲。〔注〕兌、悅也。❷**易の八卦の第二の名**。☱。澤・秋・少女・西方などに配する。〔易、說卦〕說言乎兌、云云、兌、正秋也、萬物之所說也、云云、兌爲澤、爲少女、爲巫、爲口舌、爲毀折、爲附決、其於地也爲剛鹵、爲妾、爲羊。❸**易の六十四卦の一**。䷹ 兌下兌上 貞しくすれば、事がみな成る象。其の象は澤・少女。〔易、兌〕兌、亨、利貞。❹**あつまる**。隊(**11－41750**)に通ず。〔正字通〕兌、與隊通。〔荀子、議兵〕兌則若莫邪之利鋒。〔注〕兌、猶聚也。❺**あな**。目・耳・口・鼻の類。閱(**11－41341**)・穴(**8－25406**)に通ず。〔說文通訓定聲〕兌、叚借爲閱、實爲穴。〔老子、五十二〕塞其兌、閉其門。〔注〕兌、目也。〔淮南子、道應訓〕塞民於兌。〔注〕兌、謂耳・目・口・鼻也。❻**まつすぐ**。なほい。〔詩、大雅、皇矣〕松柏斯兌。〔傳〕兌、易直也。❼**とほる**。**みちをなす**。達(**11－39011**)に通ず。〔說文通訓定聲〕兌、叚借爲達。〔詩、大雅、緜〕行道兌矣。〔傳〕兌、成蹊也。❽**ことば**。言說。說

(10－35556)に通ず。〔說文通訓定聲〕兌、叚借爲ㇾ說。〔老子、五十二〕塞ニ其兌一。〔釋文〕兌、言也。㊈かへる。ひきかへ。斢(1－1230)に通ず。〔說文通訓定聲〕兌、假借爲ㇾ斢、今俗書ニ彈兌・兌換字一。㊉古は兊(2－3074)に作る。〔集韻〕兌、古作ㇾ兊。⑪古の巧工の名。〔書、顧命〕兌之戈。〔傳〕兌、古之巧人。⑫現(イ)はかる。(ロ)交換率。(ハ)賣りはらふ。[二]㊀かぶりもの。〔釋名、釋首飾〕幘、或曰ㇾ兌、上小下大、兌兌然也。㊁するどい。銳(11－40418)に通ず。〔說文通訓定聲〕兌、叚借爲ㇾ銳。〔集韻〕銳、亦省。〔史記、天官書〕隨ニ北端兌一。〔漢書、天文志〕隨ニ北端銳一。㊂うでる。やはらげる。涚(6－17545)に通ず。〔說文通訓定聲〕兌、叚借爲ㇾ涚。〔釋名、釋飮食〕生瀹葱薤曰ㇾ兌、言ニ其柔滑兌兌然一也。㊃姓。〔路史〕宋微子後有ニ兌氏一。[三]龍兌は、地名。今の河北省安肅縣の縣境。〔集韻〕兌、龍兌、地名、在ㇾ趙。〔史記、趙世家〕趙與ㇾ燕易ㇾ土、以ニ龍兌汾門臨樂一與ㇾ燕。[四]よろこぶ。したがふ。又、古の人名。悅(4－10629)・說(10－35556)に同じ。〔集韻〕悅、喜也、樂也、服也、或作ニ說・兌一。〔書、說命上、釋文〕說、本又作ㇾ兌。

解字 會意。說文通訓定聲によれば、八と口と人とよりなり、八は口氣の分散するさま、人が口を開いて笑ひ、口氣の分散する意。故によろこび笑ふこと。今悅に作る。說文は㕣を聲とす。〔說文通訓定聲〕兌、說也、从ㇾ人㕣聲、按、㕣非ㇾ聲、當ㇾ从ニ人口一會意、八象ニ氣之舒散一兄者與ㇾ祝同意、从ㇾ八與ㇾ會同意、今字作ㇾ悅、又加ニ心旁一。

【兌運】1 ダウン 官兵を用ひて民糧を京師に運ぶこと。明の宣宗の宣德年間から始まる。〔明史、食貨志三〕江南民運ニ糧諸倉一、往返幾一年、誤ニ農業一、令ニ民運至ニ淮安瓜洲一、兌ニ與衞所官軍一、運載至ㇾ北、給ニ與路費耗米一、則軍民兩便、是爲ニ兌運一。〔六部成語、戶部、兌運、注解〕兌收運ㇾ京之米也。

【兌音】2 ダオン 鐘の音をいふ。〔白虎通、禮樂〕鐘、兌音也、祝敔、乾音也。

【兌價】3 tuei⁴ chia⁴ 代償の意。

【兌交】4 tuei⁴ chiao¹ 引き換へ支拂ふ。

【兌行】5 ダカウ 米を聚めて京師にはこぶこと。〔六部成語、戶部、兌行、注解〕兌收起行之米也。

【兌旣】6 tuei⁴ chi⁴ 支拂濟。

【兌給】7 tuei⁴ chi³ 支拂ふ。兌付(42)に同じ。

【兌禽】8 ダキン 鳥の名。雞(11－42124)の異名。〔新論、類感〕太白暉芒、雞必夜鳴、火精光盛、馬必晨驚、雞爲ニ兌禽一、金爲ニ兵精一。

【兌銀】9 tuei⁴ yin² 金を引換へる。兩替(1－1436··268)に同じ。

『兌銀日期』10 tuei⁴ yin² jih⁴ ch'i² 手形類の現銀兌換期日、卽ち滿期日。

【兌換】11 ダクワン とりかへる。紙幣を貨幣に引きかへるにいふ。兩替。〔說文通訓定聲〕兌、今俗書ニ彈兌・兌換字一。

【兌換銀】12 ダクワンギン 紙幣に引きかへ得る銀貨。

【兌換券】13 ダクワンケン 正金と引きかへる約束で發行した紙幣。

【兌換金券】14 ダクワンキンケン 金貨と引換へ得る紙幣。兌換紙幣。

【兌換銀行】15 ダクワンギンカウ 普通の銀行業務の外に、兌換券發行の特權を有する銀行。日本銀行の樣なもの。

【兌換銀券】16 ダクワンギンケン 銀貨に引きかへ得る紙幣。兌換紙幣。

【兌換紙幣】17 ダクワンシヘイ 兌換券(13)に同じ。

【兌換制度】18 ダクワンセイド 兌換紙幣に關する制度。

【兌換停止】19 ダクワンテイシ 經濟及び財政上の理由に依り、法律を以て紙幣の兌換を停止すること。

【兌換貼水】20 tuei⁴ huan⁴ t'ieh¹ shuei³ 兩換等の場合の手數料。

【兌換銀行券】21 ダクワンギンカウケン 兌換銀行から發行する證券。兌換券(13)に同じ。

【兌款】22 tuei⁴ k'uan³ ㊀拂渡す。㊁爲替を組む。

【兌款地】23 tuei⁴ k'uan³ ti⁴ 約束手形或は普通爲替の支拂地。

【兌契】24 tuei⁴ ch'i⁴ 賣渡證。

【兌現】26 tuei⁴ hsien⁴ 兌換券を現金と引換へる。紙幣を硬貨に引換へる。

【兌山】27 ダサン 山名。嶓冢(4－8463··2)をいふ。〔書、堯典、分命ニ和仲一宅ㇾ西、鄭注〕西者、隴西之西、今人謂ニ之兌山一。〔今古文注疏〕兌字、郡國志、引作ニ八充一、傳寫之誤。

【兌支】28 ダシ 支給する。〔元典章、兵部〕老小俱各在ㇾ營、月支ニ米四斗一、若便一體兌支。

【兌收】29 tuei⁴ shou¹ 衡にかけて受取る。

【兌稅】30 tuei⁴ shuei⁴ 納稅する。

【兌赤】31 tuei⁴ ch'ih⁴ 北京で通用する金塊の名。北京鑄造の金塊。一個の重量五五五・六五グレイン・トロイ。三六六・六瓦。品位は九八〇。

【兌折】32 tuei¹ chê² 兩換で割引きする。又、割上海企業市場に於ける取引物品の一。「引」。

【兌錢】33 tuei⁴ ch'ien² 錢を兩替する。

『兌錢糧』34 ダセンリヤウ 現金で年貢を納めること。從來租稅は現穀を以て納めたから、之に對していふ。〔皇朝文獻通考、田賦考、田賦之制〕順治十八年、令ニ州縣官一、不ㇾ許ニ私室稱ニ兌錢糧一。

【兌租】35 tuei⁴ tsu¹ 小作人側からいふ小作料。

『兌租粗粮』36 tuei⁴ tsu¹ ts'u¹ liang² 借賃として納める粗粮。粗粮とは、高粱・玉蜀黍・粟をいふ。

【兌賬】37 tuei⁴ chang⁴ 勘定を支拂ふ。

【兌條】38 tuei⁴ t'iao² 手形。手形の一種で物品の引換札。對條(4－7457··162)に同じ。

【兌糴】39 ダテキ 米穀政策の一。歲用の餘糧を博く民に買はせ、秋に穀物が出來て政府が買入れること。〔文獻通考、市糴考、常平義倉租稅〕熙豐而後、始有ニ結糴・寄糴・俵糴・均糴・博糴・兌糴・括糴等名一。

【兌坊】40 tuei⁴ fang 兩替屋。〔水滸傳、二十九回〕是山東河北客商們、都來那里做買賣、有百十處大客店、三二十處賭坊、兌坊。

【兌夫】41 ダフ 宋、莫澤(9－31078··54)の字。

【兌付】42 tuei¹ fu⁴ 拂ひ渡す。支拂ふ。交附する。

【兌票】43 tuei⁴ p'iao⁴ 爲替券。支拂手形。

【兌便】44 ダベン 唐代に行はれた切手の類。飛錢。〔事物紀原、布帛雜事部、兌便〕唐食貨志曰、憲宗時、商賈至ニ京師一、委ニ錢諸道富家一、以ニ輕裝一趍ニ四方一、合ㇾ券乃取ㇾ之、號ニ飛錢一、京師尹裴武禁ㇾ之、盧坦請許ニ商人一於ニ三司一、飛錢每十增給ㇾ百、令ニ大府給ニ公據一、次以ㇾ字號ニ兌便一、如ニ盧坦請一曰ニ鈔錢一、蓋唐飛錢之舊也、起ニ於憲宗之世一。

【兌利】45 エイリ するどい。兌は銳。銳利。〔管子、小匡〕巧轉而兌利。〔纂詁〕兌・銳、古通用。

【兌滙莊】46 tuei⁴ huei⁴ chuang¹ 票莊(8－24694··28)に同じ。送金爲替を扱ふから滙といふ。

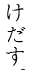
【兌之戈】47 タイノホコ 兌は古の名工。兌の作つた精巧な戈。〔書、顧命〕兌之戈、和之弓。〔傳〕兌・和、古之巧人。

【克】1357

シユウ 充(1－1344)の俗字。〔正字通〕克、俗充字。

【免】1358

[一] ベン メン 〔集韻〕美辨切 ㄇㄧㄢˇ mien³ 銑
[二] バン マン 〔集韻〕武遠切 阮
[三] バン マン 〔集韻〕無販切 願
[四] ブン モン 〔集韻〕文運切 ㄨㄣˋ wen⁴ 問
[五] フ 〔漢書注〕讀與ㇾ俯同。


小篆

[一]㊀まぬかれる。(イ)のがれる。ぬけだす。〔說文〕兔、兔逸也、从ニ兔不ㇾ見ㇾ足、會意。〔段注〕許書失ニ此字一、而形勢多用爲ニ偏旁一、不ㇾ可ㇾ闕也。〔論語、爲政〕民免而無ㇾ恥。〔皇疏〕免、猶ㇾ脫也。(ロ)はなれる。さける。遠ざかる。〔增韻〕免、事不ニ相及一也。〔禮、樂記〕人情之所ㇾ不ㇾ能ㇾ免也。〔注〕免、猶ニ自止一也。〔疏〕免、猶ニ止退一也。〔史記、樂記〕免ㇾ席而請。〔注〕

正義曰、免、猶レ避也。〔後漢書、申屠剛傳〕始免二襁褓一。〔注〕免、離也。❷さる。ぬぐ。〔禮、曲禮上〕冠毋レ免。〔注〕免、去也。〔國語、周語中〕左右免レ冑而下。〔注〕免、脱也。❸はなつ。〔左氏、成、七〕免レ牛。〔注〕免、放也。〔左氏、僖、二十一〕免レ牲。〔注〕免、猶レ縱也。❹ゆるす。〔集韻〕免、釋也。〔周禮、地官、郷士〕欲レ免レ之。〔注〕免、猶レ赦也。❺**解職する**。しりぞける。〔正字通〕免、罷黜也。〔漢書、文帝紀〕免二丞相勃一、遣レ就レ國。❻**かへる**。〔廣雅、釋詁二〕免、歸也。❼**くづれる**。〔廣雅、釋言〕免、隤也。❽**よわい**。〔大戴禮、公冠〕推二遠稚免之幼志一。〔注〕免、猶レ弱也。❾**星の名**。〔史記、天官書〕免七命。〔注〕索隱曰、謂三免星凡有二七名一。❿**つとめる**。俛(**1－700**)に同じ。〔説文通訓定聲〕免、按、免卽俛之正體、云云、段氏訂二入免部一、非レ是。〔續字彙補〕免、與レ勉同、漢書谷永傳、閔二免遁樂一。⓫**姓**。〔元和姓纂〕免、衞大夫免餘之後、以二王父字一爲レ氏。[二]**だまる**。〔集韻〕免、默也。[三]**喪服**。[四]の❶に同じ。〔集韻〕免、喪冠也、春秋傳、免擁レ社、徐邈讀。〔左氏、襄、二十五〕陳侯免擁レ社。〔注〕免、喪服。〔釋文〕免、音問、徐音万。[四]❶**喪服**。冠を去つて白布で髪をつかねるもの。絻(**8－27472**)に同じ。〔字彙〕免、與レ絻同、袒免、服輕二於緦一、其制以二布廣一寸一、從二項中一而前交二於額一、又卻向レ後而繞二於髻一也。〔禮、檀弓上〕公儀仲子之喪、檀弓免焉。〔左氏、僖、十五、使下以二絻服衰經一逆且告上、注〕絻、衰經、遭レ喪之服。〔釋文〕絻、又作レ免。❷**喪服を着けて死者を弔ふ**。〔禮、玉藻〕當レ事免、則説レ之。〔注〕免、悲哀哭踊之時。❸**子を産む**。㝃(**3－6988**)・娩(**3－6337**)に通ず。〔字彙〕免、生レ子曰レ免、與レ娩同。〔正字通〕免、生レ子曰レ免、説文作レ㝃。〔國語、越語上〕將レ免者以告。〔注〕免、乳也。❹**新しいもの**。〔字彙〕免、物之新鮮者爲レ免。〔禮、内則〕菫荁枌楡免薧。〔注〕免、新生者、薧、乾也。[五]**ふす**。うつむく。俛(**1－700**)に同じ。〔漢書、項籍傳贊〕免二起阡陌之中一。〔注〕師古曰、免字、或作レ俛、讀與レ俯同。

[解字] 會意。兔字の丶を省いて兔の足の見えない意を示す。兔が速に走つて足を見得ないことから、兔が疾走して人に獲られないでまぬかれる意を示す。それから凡そ逃逸するを免といふ。一説に、娩の字とし、女が子を産むこととす。〔説文、免、段注〕免、許書失二此字一、而形聲多用爲二偏旁一、不レ可レ闕也、兔之走最迅速、其足不レ可二諟見一、故免省二一畫一、兔不レ見レ獲二於人一、則謂二之免一。 ▽ (金文) 股間から出生する象形。

[參考] ❶もと説文に此の字なし。段玉裁の補つたもの。❷兔(**1－1368**)は別字。〔康熙字典、辨似、二字辨似〕免、眠上聲。兔、土去聲、獸名。

【免役】1 メンエキ 官の爲に服役する義務を除くこと。〔唐書、食貨志二〕凡新附之戸、春以二三月一免レ役。

【免役日】2 メンエキジツ 囚徒の服役赦免の日。大祭日、及び一月二日と十二月三十一日など。

【免役錢】3 メンエキセン 宋の治平二年に、病者の爲に錢を出して代役を雇ふことを得しめた、其の錢。其の額は、役の輕重、民の貧富に照して差等を附け、官に出錢せしめ、官で其の代役を雇傭した。〔文獻通考、職役考、歴代郷黨版籍職役〕治平二年條例司言、云云、凡當レ役人戸、以二等第一出レ錢、名二免役錢一、云云、又率二其數一、增二取二分一以備二水旱一、欠闕雖レ增、毋レ得レ過二二分一、謂二之免役寬剩錢一。

【免役法】4 メンエキハフ 宋の王安石の新法の一。賦役を金錢の出捐に依つて免ずる規定。〔宋史、王安石傳〕保甲・免役・市易・保馬・方田諸役相繼並興、號爲二新法一。

【免役寬剩錢】5 メンエキクワンジョウセン 宋の治平年間、免役錢の外に、別に二分を增取して、水旱の場合の不足を補充する用に備へたもの。免役錢を見よ。

【免疫】6 メンエキ 傳染病の傳染を免れること。

【免疫體】7 メンエキタイ 動物の血清中に生じた特殊防衞物質。抗毒素。

【免疫血清】8 メンエキケツセイ 免疫體を含有する血清。

【免捐】9 メンエン 免税する。

【免解】10 メンカイ 上役の方へおくるのをゆるす。〔福惠全書、刑名部、問擬、二命大冤事〕自具レ詞輸服、懇二憐老朽免解一。

【免解擧人】11 メンカイキョジン 免解進士に同じ。擧人とは地方官の選擧によつて中央に貢擧せられたもので、唐宋時代には進士ともいふ。〔文獻通考、選擧考、擧士〕侯延慶言、用兵以來、太學既罷、青衿解散、文籍淪墜、今諸道州軍進士、已有二定額一、獨行在二職事一、及鼇務官隨行、有二服親及門客一、往往郷貢隔絶、請立二應擧法一、以二國子監進士一爲レ名、詔從レ之、令二轉運司附試一、是年德音應レ該レ恩、免解擧人、値二兵燬一失二公據一者、召二京官二員一委保、所在州軍給據訖、仍申レ部注レ籍。

【免解進士】12 メンカイシンシ 唐宋から元までは、地方官の選擧に依つて士を中央に貢擧するを進士と稱し、禮部で試驗して中選したものを登第といつた。中選せぬ者は、次回の選擧の時に前の手續に依る。南宋末に至つて始めて三回落第したものは、手續を略して直ちに禮部で試驗することとした。之を免解進士といふ。免解擧人に同じ。〔日知錄、科擧、擧人、原注〕按、宋時亦有下不レ須二再試一而送二南宮一者上、謂二之免解進士一。

【免行】14 mien³ hsing² 禁止する。禁ずる。

【免行戸】15 メンカウコ 免行錢を納めて、京師の街路で店を開き營業をする者。免行錢を見よ。

【免行錢】16 メンカウセン 宋の王安石の設けた新法の一。京師の街路で商品を陳列して販賣する者に課した税金。露店税。營業税。〔宋史、王安石傳〕有二免行錢者一、約二京師百物諸行利入厚薄一、皆令レ納レ錢、與二免行戸一祗應。

【免耕】17 ベンカウ つとめたがやす。免は勉。〔呂覽、辯土〕免レ耕殺レ匿、使二農事得一。

【免薧】18 メンカウ 新鮮なものと乾いた古いもの。〔禮、内則〕菫荁枌楡免薧。〔注〕免、新生者、薧、乾也。

【免桅】19 mien³ wei² 帆柱を倒す。

【免起】20 ベンキ フキ 徭役をまぬかれる。一説に、免は俯。ふしたり起きたりする。しりぞきかくれる。〔漢書、項籍傳贊〕躡二足行伍之閒一、而免二起阡陌之中一。〔注〕如淳曰、時皆僻屈在二阡陌之中一也、師古曰、免者、言三免二脱徭役一也、免字、或作レ俛、讀與レ俯同。

【免跪】21 mien³ kuei⁴ 跪禮をするに及ばない。

【免議】22 mien³ i⁴ 詮議をしない。

【免究】23 メンキウ 或る事件に關し追究・訊問、又は取調べを免除せられる。〔清國行政法汎論、皇室、恩赦權〕有二免究之諭旨一、則不レ能三審二理之一。

【免牛】24 メンギウ 牛を犧牲に供へることをやめる。免牲(68)を見よ。〔春秋、成、七〕春王正月、鼷鼠食二郊牛角一、改レ卜レ牛、鼷鼠又食二其角一、乃免レ牛。〔會箋〕乃免レ牛者、更不下改卜上レ牲也。

【免去】25 mien³ ch'ü⁴ 取除く。免ずる。

【免許】26 メンキョ ゆるす。自由を與へる。又、ゆるし。許可。

【免許狀】27 メンキョジャウ 免許の證として、官府・學校、又は師家等から附與する證書。免狀。免許書。

【免許書】28 メンキョショ 免許狀に同じ。

【免許税】29 メンキョゼイ 免許を與へるに就いて取立てる税金。

【免許料】30 メンキョレウ 免許を與へる場合に取る手數料。

【免許營業】31 メンキョエイゲフ 官の許可を得なければ開始することの出來ない營業。

【免許皆傳】32 メンキョカイデン 藝術・武術の奥義を殘らず傳へ授けること。

【免許鑑札】33 メンキョカンサツ 免許の證として官から下げわたす鑑札。

【免許指令】34 メンキョシレイ 上級の官廳から下級の官廳に對し、免許願に對し免許を與へてもよいと指圖し命令すること。

【免許代言】35 メンキョダイゲン 辯護士の規定のない以前

の辯護士の俗稱。

【免許年限】36 メンキョネンゲン 免許した年限。

【免科】37 メンクワ 地租を免除すること。免科田を見よ。

〔免科田〕38 メンクワデン 地租を免除した土地。祭祀、又は教育の費用に供する土地の類。寺社領・學田等の特權。〔清會典、戸部、戸部尚書〕免科者。〔注〕各省社稷・山川・學校・先聖・先賢廟墓祭田、並一切祠墓・厲壇・寺觀等地、不レ科レ賦。〔清會典事例、戸部、田賦、免科田地〕在京壇壝及直省社稷・山川・學校・祠墓・厲壇・寺觀・祭田等項。

【免禍】39 メンクワ わざはひをのがれる。〔唐書、狄仁傑傳〕盧陵王可二以免一レ禍。

【免官】40 メンクワン 官職をやめさせる。免職。〔漢書、貢禹傳〕免レ官削レ爵。〔後漢書、天文志上〕司徒李訢、坐レ事免レ官。〔干寶、晉紀總論〕至下乃易二天子一以二太上之號一、而有中免官之謠上。〔事物紀原、律令刑罰部、免官〕後漢梁崧爲二太僕一、作二私書一請二託郡縣一、發覺免レ官。

【免冠】41 メンクワン ❶冠をぬぐ。〔戰國、魏策〕布衣之怒、亦免レ冠徒跣。❷謝罪するにいふ。〔漢書、張釋之傳〕文帝免レ冠謝曰、教二兒子一不レ謹。

【免患】42 メンクワン 患へを免れる。〔漢書、劉辟彊傳〕如レ是則可二以免一レ患。

【免減】43 メンゲン 罪、又は負擔等を輕くする。減免。〔漢書、武帝紀〕諸禁錮及有レ過者、得三免二減罪一。

【免勾】44 メンコウ 死刑犯人に對する秋審の確定裁判を免除して、更に之を次年に延ばし、其の罪を減輕すること。〔皇朝通典、刑典、赦宥〕上諭本年擧行、千叟宴盛典、官民耆老、咸得下普被二恩施一用彰中錫福上、其直省軍流以下人犯、亦於二恩詔内一、概予二減等發落一、惟罪犯斬絞情節、不レ至二予勾一、或本擬二緩決一者、俱應二牢固監禁一、該犯等、因三身罹二重辟一、雖二年已老邁一、仍不レ免三羈二禁囹圄一、未レ得二一體邀一レ恩、朕心深爲二惻然一、著二刑部一、於二朝審・秋審一、情實未レ勾二井原一、擬二緩決斬絞人犯内一、詳加二查核一、除下近年新事及舊案、年未レ及二七十一者、仍牢固監禁上外、其餘年七十以上、未レ經二予勾一、及本擬二緩決一之犯者、加レ恩、分別、減免釋放、其應二如何辦理一之處、著二該部一詳悉妥議具奏、候二朕另降一諭旨一。

【免坐】45 メンザ 罪となる事實を知らないで從犯したものの從坐を免ずること。〔晉書、刑法志〕科之爲レ制、毎條有二違科一、不レ覺不レ知從坐之免、不二復分別一、而免坐繁多、宜三總爲二免例一。

【免債】46 mien^{3} chai^{4} 負債を免除する。

【免罪】47 メンザイ つみをゆるす。又、罪をゆるされる。罪をまぬかれる。〔六韜、犬韜、練士〕胥靡免罪之人。

〔免罪券〕48 メンザイケン ローマ教皇の發した符券で、これを得るものは其の罪惡の全部或は一部を赦免すといふ。十字軍のとき之を用ひて從軍者を奬勵した。

【免喪】49 メンサウ 父母の喪に服して三年の喪期を終了すること。〔禮、雜記下〕免喪之外、行二於道路一、見レ似目瞿、聞レ名心瞿。

【免冊】50 mien^{3} ts'ê^{4} 私立の塾では、生徒に惡行があれば之を鞭うつが、善行者は免冊といふ帳面に記入しておき、惡行があつても鞭うつことをゆるす。

【免削】51 メンサク 官を免じ爵を削る。〔漢書、貢禹傳〕免レ官削レ爵。〔曹冏、六代論〕或以二酎金一免削、或以レ無レ後國除。〔注〕善曰、漢書曰、列侯坐下獻二黄金酎一祭中宗廟上、不レ如レ法、奪レ爵者百六人。漢儀注、王子爲レ侯、侯歳以二戸口一酎二黄金於漢廟一、皇帝臨受二獻金一助レ祭、大祀曰、飲レ酎、飲レ酎受レ金、小不レ如二斤兩一、色惡者、王削レ縣、侯免レ國。

【免司】52 メンシ 我が國の古制で、罪を犯して除免すべき人がある時、其の事に與かる司。卽ち刑部省をいふ。〔令義解、公式令〕有二考課及犯罪除免一者、解免之司、謂二解司者式部、免司者刑部一云云、犯レ罪應二除免一者、刑部斷定申レ官、奏報畢、卽造二免簿一。

【免刺】53 メンシ いれずみの刑をゆるしてやる。〔福惠全書、刑名部、賊盜下、問擬〕不レ得レ財者、笞而免レ刺。

【免試】54 メンシ 宋の制で、特別の例に依つて試驗を免じて官職に錄任すること。試驗免除。〔大學衍義補、正二百官一、公二銓選之法一〕若歷任有二擧者五人一、自與二免試一注レ官。

【免囚】55 メンシウ 懲役を終へて出獄した者。刑餘の人。免徒。〔戰國、秦策〕管仲其鄙人之賈人也、南陽之弊幽、魯之免囚、桓公用レ之而霸。

〔免囚保護事業〕56 メンシウホゴジゲフ 刑期を終へて出獄した人々を保護指導して、良民にしようとする社會事業の一。

【免收】57 mien^{3} shou^{1} 取立てを免除する。

【免者】58 メンシャ 吉凶や祥災等によつて罪人の罪を免ぜられること。又、其の者。〔小野宮年中行事〕免者事、非常赦詔書下給了。〔康富記〕寶德元年十二月十四日、今夜朔旦冬至、恩詔宣下也、云云、上卿仰二免者事一。

【免赦】59 メンシャ 罪をゆるす。刑の執行を除く。赦免。宥免。〔後漢書、龐參傳〕免二赦參刑一、以爲二軍鋒一。

【免相】60 メンシャウ 前の大臣。〔說苑、善說〕痤因上二書信陵君一曰、痤故魏之免相也。

【免狀】61 メンジャウ ❶赦免する許し狀。赦免狀。〔源平盛衰記、九、祝言事〕太政入道の免狀なり。❷許可證。〔松隣夜話〕本領安堵の免狀。❸㋑藝道武術等で奧傳等の許し狀。㋺俗に卒業證書をいふ。❹幕府時代、田租などを取る時、見取りで定めた年貢高を記して領民に下した書附。〔經濟錄、五〕免狀。

【免職】62 メンショク 官職を免ずる。免官。〔南史、何敬容傳〕敬容免レ職。〔白居易、前長安縣令許季同除二刑部郎中一前萬年縣令杜羔除二戸部郎中一制〕遠レ恥以退、道不レ失レ正、各從二免職一、亦既踰レ時。

【免臣】63 メンシン 官を免ぜられた臣。〔史記、秦紀〕三十四年、秦與二魏韓上庸地一爲二一郡一、南陽免臣遷居レ之。

【免身】64 ブンシン ❶子を生む。分身。分娩。字解四の❸を見よ。〔史記、趙世家〕朔婦免身生レ男。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕今皇后當二免身一、可下因投二毒藥一去上也。❷メンシン 刑罰を免れる。〔漢書、敍傳下〕用取二世資一、幸而免レ身。

【免進】65 mien^{3} chin^{4} 立入禁止。入る可からず。入ることを遠慮せられたし。

【免盡】66 ベンジン 勉強をいふ。免も盡も勉める意。〔荀子、王制〕使二百吏免盡、衆庶不一レ偸。〔集解〕免盡之免、與レ勉同。

【免星】67 メンセイ 星の名。辰星(10−38682・・32)を見よ。

【免牲】68 メンセイ 牲となることを免ずる。牲とは既に祀る日を卜した後の牛。〔春秋、僖、三十一〕夏四月、四卜レ郊不レ從、乃免レ牲、猶三望。〔杜注〕免、猶レ縱也。

【免稅】69 メンゼイ 租稅を免除する。免租(82)に同じ。〔唐書、董昌傳〕賜二百縑一免二稅征一。

〔免稅單〕70 mien^{3} shuei^{4} tan^{1} 免稅證。

〔免稅品〕71 メンゼイヒン ❶關稅を納めずに自由に輸出入し得る品物。❷稅金を免ぜられた品物。

〔免稅口岸〕72 mien^{3} shuei^{4} k'ou^{3} an^{4} 自由港。免稅港。

〔免稅執照〕73 mien^{3} shuei^{4} chih^{2} chao^{4} 免稅證。

【免照】74 mien^{3} chao^{4} 許可證。認可證。免稅證書。

【免席】75 メンセキ 座を立つ。席を退く。〔史記、樂書〕賓牟賈起免レ席而請。〔孔子家語、五刑解〕冉有跪然免レ席曰、言則美矣、求未二之聞一。

【免責】76 メンセキ ❶責任をまぬかれる。〔周書、賀若敦傳〕諸將因得レ免レ責。❷民法上、義務の履行に因つて責任を免れることをいふ。

〔免責委付〕77 メンセキヰフ 航海業者、又は積荷の利害關係人が、財產權を債權者に移轉して債務の辨濟を免れること。

〔免責裏書〕78 メンセキウラガキ 割引手形が銀行で不渡となつたとき、割引依賴人をして振出人に代つて代金を償還させる爲、その手形を依賴人に交付する場合に行はれる裏書。

【免戰】79 mien^{3} chan^{4} 戰をやめる。停戰する。

〔免戰旗〕80 mien^{3} chan^{4} ch'i^{2} 休戰旗。

【免選】81 メンセン 宋の神宗の時、考證の成績を三等に分ち、上等は銓選を免じて直ちに官を錄授したこと。〔大學衍義補、正二百官一、公二銓選之法一〕考試第爲二三等一、上等免レ選注レ官。

【免租】82 メンソ 租稅を免除する。免稅。〔北齊書、文宣帝紀〕甲辰詔、今年遭レ蝗之處免レ租。

〔免租地〕83 メンソチ 地租を課せられない地。公立學校敷地・鄕村社地・墳墓地・堤塘・井溝・鐵道用

地等の類。

【免訴】84メンソ 檢事の起訴による公訴被告人を、證據不充分等の理由で放免する處分。公訴權の消滅をいふ。

【免俗】85メンゾク 俗氣をのがれる。〔世說新語、任誕〕阮仲容居二道南一、諸阮居二道北一、北阮皆富、南阮貧、七月七日、北阮盛曬レ衣、皆紗羅錦綺、仲容以レ竿挂二大布犢鼻褌於中庭一、人或怪レ之、答曰、未レ能レ免レ俗、聊復爾耳。

【免脫】86メンダツ まぬかれのがれる。罪等を免除せられる。〔漢書、吾丘壽王傳〕盜賊不二輒伏一レ辜、免脫者衆。〔後漢書、樊宏傳〕會二漢兵日盛一、湖陽惶急、未二敢殺一レ之、遂得二免脫一。

【免冑】87メンチウ かぶとをぬぐ。脫冑。〔國語、晉語六〕免レ冑而聽レ命。〔注〕免、脫也。〔風俗通、正失〕免レ冑而進レ之。

【免黜】88メンチユツ 官をやめさせしりぞける。罷免。黜免。〔後漢書、梁冀傳〕免黜者三百餘人。

【免除】89メンヂヨ ❶ゆるしのぞく。〔本朝文粹、村上天皇減二服御常膳一竝恩赦詔〕免下除五畿內七道諸國、去天曆五年以往、調庸未レ進、在二民身一者上。❷債權を放棄すること。

【免丁】90メンテイ 徭役を免除する。〔元史、月乃合傳〕凡業レ儒者、試通二一經一、卽不レ同二編戶一、著爲二令甲一、儒人免レ丁者、實月乃合始レ之也。

【免調】91メンテウ みつぎを免ずる。〔唐書、食貨志二〕有レ事而加レ役二十五日者、免レ調。

【免絰】92メンテツ 喪の時、首と腰とに着用する麻絰を除き去ること。〔儀禮、士喪禮〕既朝哭、主人皆往二兆南一、北面免レ絰。〔注〕免絰、求レ吉、不二敢純凶一。〔禮、奔喪〕襲二免絰于序東一。

【免田】93メンデン 田租を免除せられた田地。免租の田地。〔東鑑、三〕元曆元年九月十七日、相模國大山寺免田五町。

【免徒】94メント 刑餘の人。免囚(55)に同じ。〔漢書、鼂錯傳〕募二辠人及免徒復作一令レ居レ之。

【免難】95メンナン 災難をのがれる。〔左氏、桓、六〕君姑修レ政而親二兄弟之國一、庶免二於難一。〔白居易、和二思歸樂一詩〕退不二苟免一レ難、進不二曲求一レ榮。

【免乳】96ブンニユウ 子を生む。〔漢書、外戚上、孝宣許皇后傳〕婦人免乳大故、十死一生。〔注〕師古曰、免乳、謂レ產レ子也。

【免費】97 mien3 fei4 無料。無賃。

【免費學額】98 mien3 fei4 hsüeh2 ê2 學費免除の人員。

【免費施種】99 mien3 fei4 shih4 chung4 無料で種痘を施す。

【免罷】100メンピ やめさせる。免職する。〔吳志、陸遜傳〕吏士不二復親附一、遂以免罷。

【免賦】101メンプ 地賦を免ずる。地租免除。免科(37)に同じ。〔宋史、太祖紀一〕建隆二年正月、商州鼠食レ苗、詔免レ賦。

【免票】102メンペウ ❶免官の書きつけ。〔福惠全書、保甲部、功罪〕追二繳免票一。❷mien3 p'iao4 パス。無賃乘車・無賃乘船券。無料入場券。無料入場。

【免簿】103メンボ 我が國の古制で罪を犯して除免せられる官人がある時、刑部省が斷定して太政官に申し、奏報畢り、除免の狀及び官位・姓名・除免時年月等を錄する帳簿をいふ。〔令義解、公式令〕犯レ罪應二除免一者、刑部斷定申レ官、奏報畢、卽造二免簿一。

【免物】104メンモツ 天皇の大權によつて罪人を赦免すること。卽ち恩赦をいふ。古は吉凶・祥災等の大事ある時に之を行ふを例とし、常赦・大赦・非常赦の三種に分けた。〔北山抄、六、詔書〕免物詔。

【免問】105 mien3 wen4 問ふこと勿れ。たづねて來ても駄目だ。

【免勞】106 mien3 lao2 手數を省く。

【免釐】107 mien3 li2 釐金稅をゆるす。

【免糧】108 mien3 liang2 免稅する。

【免慮】109メンリヨ 安心。〔西廂記、張君瑞慶二團圝一雜劇〕奉レ書馳報、庶幾免慮。

【免累】110メンルイ 身の累を免れる。〔莊子、山木〕周將レ處下夫材與二不材一之閒上、材與二不材一之閒、似レ之而非也、故未レ免二於累一。

【免禮】111 mien2 li3 略式にする。

【免幽閉】112メンイウヘイ 明治四十一年十月以前の行政の處分で、五年を經た無期流刑の囚人、若しくは三年を經た有期流刑の囚人に對して、獄內の幽閉を免じ、島地を限つて住居せしめること。

【免不了】113 mien3 pu liao3 免れない。免れ難い。やむを得ない。

【免夫錢】114メンプセン 庸役を免れるために官に出す錢。〔宋史、食貨志〕河堤合調春夫、盡輸二免夫之直一、定爲二永法一、及二是王黼建議一、乃下レ詔曰、天下並輸二免夫錢一。

【免開尊口】115 mien3 k'ai1 tsuen3 k'ou3 希くは問ふこと勿れ。

【免見客人】116 mien3 chien4 k'ê4 jen 面會謝絕。

【免所居官】117メンシヨキヨクワン 免官の處分に逢つた者で其の罪の輕い者は、特に現職の一官のみを免ずることをいふ。一年を經過すれば先品に一等を降して官に敍することを許す。〔唐律、名例〕除名者免所居官、及官當者、期年之後、降二先品一等一敍。

【免鈔專照】118 mien3 ch'ao4 chuan1 chao4 免稅證書。

【免三去四的】119 mien3 san1 ch'ü4 ssŭ4 tê 賭博のかけごゑ。丁よ半よ。

【兎】1359 ト 兔(1-1368)の俗字。〔正字通〕兎、俗兔字。

【兔】1360 シ 死(6-16365)の古字。〔玉篇〕兔、古文死。

參考 說文では兂に作る。

【兏】1361 チヤウ 長(11-41100)の古字。〔字彙補〕兏、古文長字。

【兓】1362 チヤウ 長(11-41100)に同じ。〔字彙補〕兓、同レ長、兓瓚、玉名、見二穆天子傳一。

【兂】1363 サン 〔字彙補〕精三切 覃

かんざし。かうがい。〔字彙補〕兂、首笄。

【児】1364 ジ 兒(1-1365)の俗字。〔宋元以來俗字譜〕兒、列女傳作レ児。

六畫

【兒】1365 ㊀ジ ニ 〔集韻〕如支切 儿 êrh2 支 ㊁ゲイ 〔集韻〕研奚切 ㄋㄧ ni2 齊

小篆

㊀❶**みどりご**。ちのみご。〔說文〕兒、孺子也、从レ儿、象二小兒頭囟未一レ合。〔正字通〕兒、初生子也、一曰、嬰兒。❷**こども**。〔廣雅、釋親〕兒、子也。❸**男の子**。〔玉篇〕兒、男曰レ兒、女曰レ嬰。❹**子が親に對していふ自稱。又、婦女の自稱**。〔古詩、爲二焦仲卿妻一作〕兒實爲二罪過一。〔月令廣義〕歸來恐レ被二兒夫怪一。❺**人をあなどる語**。兒輩。〔後漢書、呂布傳〕布目レ備曰、大耳兒最叵レ信。❻**名詞に添へる助辭**。〔韓琦、柳絮詩〕無限蜂兒作レ隊飛。〔梅堯臣、梅雨詩〕東池蝦蟆兒、無限相跳梁。❼古は皃(1-1366)に作る。〔集韻〕兒、古作レ皃。㊁❶**かよわい**。倪(1-792)に通ず。〔韻會〕兒、又弱小也、通作レ倪。❷**年老いて生える齒**。齯(12-48702)に通ず。〔詩、魯頌、閟宮〕黃髮兒齒。〔釋文〕兒、五兮反、齒落更生細者也、字書作レ齯、音同、一音如レ字。❸**齊の地名**。郳(11-39482)に同じ。〔集韻〕郳、說文、齊地、或作レ兒。❹**姓**。〔通志、氏族略、以レ國爲レ氏〕兒氏、卽郳氏也、或省レ文作レ兒。〔通志、氏族略、以レ事爲レ氏〕兒氏、吳郡有レ語、兒生而能語、子孫氏レ焉、又河南官氏志、賀兒氏改爲二兒氏一。〔山堂肆

考〕郕武公封二次子於郳一、失レ國、子孫避レ仇、改爲二兒氏一。

名乘 チゴ(姓)。

解字 象形。臼は小兒の頭蓋骨の未だ合しないかたち、儿は人の胴體。故に小兒をいひ、轉じて、男の子をいふ。〔說文、兒、段注〕頭囟未レ合、謂二篆體臼一也、囟者、頭會腦蓋也、小兒初生、腦蓋未レ合、故象二其形一。▽ (金文) 象形。總角を結つた童に象る。

【兒嬰】1 ジエイ 赤子。嬰兒。

〔教二兒嬰孩一〕2 ジエイガイニヲシフ 小兒の教育は、惡習に染まない幼時に於てすべきをいふ。〔顏氏家訓、教子〕孔子云、少成若二天性一、習慣如二自然一、是也、俗諺曰、教二婦初來一、教二兒嬰孩一、誠哉斯語。

【兒客】3 ジカク 奴隸の小兒。〔後漢書、公沙穆傳〕蒼頭兒客、犯レ法皆收考レ之。

【兒葵】4 êrh² k'uei² 草の名。あふひ。向日葵。

【兒嬉】5 キジ こどものたはむれ。兒戲。〔蘇軾、送二安惇秀才失解西歸一詩〕竭來東遊慕二人爵一、棄二去舊學一從二兒嬉一。〔孫覿、詩〕鏤レ冰琢レ雪等二兒嬉一。

【兒戲】6 ギジ こどものたはむれ。兒嬉。取るに足らぬことの喩。〔史記、絳侯世家〕曩者霸上棘門軍、若二兒戲一耳。〔潘岳、西征賦〕輕二棘霸之兒戲一。

【兒科】7 êrh² k'ê¹ 小兒科。

【兒寬】8 ゲイクワン 漢、千乘の人。尙書に通ず。射策を以て掌故となり、左內史に遷る。世務に通じ、文法に明習し、經術を以て吏事を飭す。後、御史大夫と爲る。〔前漢書、五十八〕。

【兒草】9 ジサウ 草の名。㊀ちも。知母(**8－23935**・・181)の別名。〔本草、知母〕釋名、蚳母、連母、蝭母、貸母、地參、水參、蕁、莐藩、苦心、兒草、時珍曰、宿根之旁初生レ子、根狀如二蚳蝱之狀一、故謂二之蚳母一、訛爲二知母・蝭母一也。㊁灌木の名。ふぢもどき。芫花(**9－30727**・・1)の異名。〔本草、芫花〕釋名、杜芫、赤芫、去水、毒魚、頭痛花、兒草、敗華、根名二黃大戟一、蜀桑、時珍曰、芫、或作レ杬、其義未レ詳、去水言二其功一、毒魚言二其性一、大戟言二其似一也、俗人因二其氣惡一、呼爲二頭痛花一、山海經云、首山其草多レ芫、是也。

【兒曹】10 ジサウ こどもら。兒輩。〔後漢書、耿弇傳〕光武笑曰、小兒曹乃有二大志一哉。〔後漢書、郭伋傳〕伋問、兒曹何自レ遠來。

【兒子】11 ジシ ㊀赤ん坊。〔莊子、庚桑楚〕能兒子乎、兒子、動不レ知レ所レ爲、行不レ知レ所レ之。〔疏〕同二於赤子一也。㊁こども。こどもら。〔史記、張釋之傳〕教二兒子一。〔漢書、高五王傳〕高后兒子畜レ之。㊂êrh² tzǔ 男の子。息子。小さな子供。

〔兒子氣〕12 ジシノキ こどもこどもした氣風。稚氣。〔黃庭堅、贈二別李端叔一詩〕當時喜二文章一、各有二兒子氣一。

【兒齒】13 ゲイシ 落ちて更に生じた老人の齒。長壽の徵とす。〔詩、魯頌、閟宮〕既多受レ祉、黃髮兒齒。〔集傳〕兒齒、齒落更生細者、亦壽徵也。

【兒篠】15 チゴザサ 篠ササの一種。〔和漢三才圖會、苞木竹之類、篠〕兒篠。

【兒媳】16 êrh² hsi² 息子の妻。

〔兒媳婦〕17 êrh² hsi² fu 息子の嫁。兒媳に同じ。

【兒妾】18 ジセフ 女こども。兒女子。〔後漢書、崔瑗傳〕此譬猶二兒妾屛語一耳、願使君勿二復出レ口。

【兒息】19 ジソク こども。子息。〔李密、陳情表〕門衰祚薄、晩有二兒息一。

【兒孫】20 ジソン 子や孫。子孫。〔章孝標、田家詩〕牛犢乘レ春放、兒孫候レ暖耕。〔陸游、夢中江行過二鄕豪家一賦レ詩詩〕兒孫勿二遊惰一、常念二起家勞一。〔西鄕南洲、偶成詩〕一家遺事人知否、不下爲二兒孫一買中美田上。

【兒孫福】21 ジソンフク 戲曲の名。淸、朱雲從作。徐瓊の子女五人が皆榮貴になつたことを演ず。

〔兒孫自有二兒孫計一〕22 ジソンオノヅカラジソンノケイアリ 子孫には自ら子孫の計があるから、徒らに子孫のために遠き憂慮をするには及ばない。〔宋詩紀事〕汲汲光陰似二水流一、隨レ時得レ過便須レ休、兒孫自有二兒孫計一、莫下與二兒孫一作中馬牛上。

【兒塘】23 ゲイタウ 江蘇省江寧縣の東南にある塘の名。倪塘(**1－792**・・22)を見よ。

【兒茶】24 êrh² ch'a² 藥の名。阿仙藥。緬甸と波斯とに產するアカシヤの樹心から出る液の凝結したもの。染料や皮滑の用に供する。

【兒女】25 ジヂヨ ㊀男の子と女の子。こどもら。〔後漢書、馮衍傳〕兒女皆自操二井臼一。〔曹植、贈二白馬王彪一詩〕無二乃兒女仁一。〔李白、南陵別二兒童一入レ京詩〕呼レ童烹レ雞酌二白酒一、兒女嬉笑牽二人衣一。㊁男女。男女ども。〔鍾嶸、詩品中〕張華詩、其體華艷、興託不レ奇、巧用二文字一、務爲二妍冶一、雖二名高曩代一、而亮疏之士、猶恨二其兒女情多、風雲氣少一。〔韓愈、聽二穎師彈レ琴詩〕呢呢兒女語、恩怨相爾汝。

〔兒女花〕26 ジヂヨクワ 萱草の花をいふ。〔孟郊、百憂詩〕萱草兒女花、不レ解壯士憂。

〔兒女子〕27 ジヂヨシ こどもら。兒女の㊀に同じ。〔後漢書、來歙傳〕反效二兒女子涕泣一。〔漢書、高帝紀〕此非二兒女子所一レ知。

〔兒女節〕28 ジヂヨセツ 陰曆九月九日。父母の家で嫁した娘を迎へるからいふ。〔直隸志書、宛平縣〕九月九日、載レ酒具二茶爐一、食レ榼、尋二園榭丘阜一爲レ娛、曰二登高一、麪餠嵌二棗栗一爲二花糕一、父母家必迎二女歸一、亦曰二兒女節一。

〔兒女態〕29 ジヂヨノタイ 兒女のやうな女々しい態度。〔韓愈、北極一首、贈二李觀一詩〕無レ爲二兒女態一。〔陸游、寄二別李德遠一詩〕惜別自嫌兒女態。

〔兒女腸〕30 ジヂヨノハラワタ 兒女のやうな心。〔桃花扇、聽稗〕沾レ淚說レ書兒女腸。

〔兒女別〕31 ジヂヨノワカレ 女々しいわかれ。〔高適、別二韋參軍一詩〕丈夫不レ作兒女別、臨レ岐涕淚沾二衣巾一。

〔兒女之債〕32 ジヂヨノサイ 子女の教育及び結婚の費用。免れることの出來ない負債の義。〔琵琶記、丞相教レ女〕願相公早畢二兒女之債一。

〔兒女團圓〕33 ジヂヨダンエン 戲曲の名。明、楊文奎作。翠紅鄕兒女兩團圓の略稱。元曲選の一。蠡鷺村の農夫韓義の家庭に起つた諸事を演ず。農民の人情風情を寫して曲折の妙を極め、結構の巧なこと、元明の雜劇中稀に見るところのもの。

〔兒女英雄傳〕34 ジヂヨエイユウデン 淸代小說の名。燕北閒人著と題してゐるが、實は道光中、滿洲旗人費莫文康の作。凡て五十三回。現存のものは四十回。卷頭の序文に雍正甲寅の觀鑑我齋の序と乾隆甲寅の東海悟了翁の序とあり、古くから傳はつた書の如く述べてゐるが、皆、作者の捏造である。此の書は俠女何玉鳳が、父の仇人紀獻唐といふ大官を覗つて復仇せんとし、十三妹といふ假名を用ひて諸國巡行の間、孝子の安驥といふ青年を救つたのが緣となつて、遂に其の婦となり、獻唐も朝廷から誅せられて自然復仇のこととなつた顚末を述ぶ。此の書は紅樓夢と共に淸代小說の巨擘とせられ、紅樓夢が絢爛遒麗の文を以て男女の情想を敍べたのに對し、此は俠兒の心事を記してゐる。文章は純粹な北京語を用ひ、一點も卑猥な文句が無い。金玉緣とも日下新書ともいふ。〔中國小說史略〕。

【兒啼】35 ジテイ ㊀小兒が夜啼きする。兒啼帖を見よ。〔庾闡、近遊賦〕書二兒啼於客室一。〔陔餘叢考、威二怖兒啼一〕北史、楊大眼威振二淮泗一、童兒啼者、呼云二楊大眼至一、卽止。㊁小兒のやうに聲を出して啼く。〔史記、循吏、子產傳〕治レ鄭二十六年而死、丁壯號哭、老人兒啼。

〔兒啼帖〕36 ジテイテフ 小兒の夜啼きを禁厭する爲に其の名を書いて往來に置く名札。〔援鶉堂筆記〕俗患二兒啼一、嘗書レ紙作二數語一、粘二於通衢一、過者每讀一遍、則啼止、今偶讀二庾闡近遊賦一、有下書二兒啼於客堂一語上、則知二晉以來已有一レ之矣。

【兒店】37 ジテン こみせ。分店。支店。〔白居易、送二劉郞中赴二任蘇州一詩〕水驛路穿兒店月。

【兒童】38 ジドウ こども。〔列子、仲尼〕聞二兒童謠一。〔後漢書、公沙穆傳〕自レ爲二兒童一、不レ好二戲弄一。〔賀知章、回レ鄕偶書詩〕兒童相見不二相識一、笑問客從二何處一來。

〔兒童學〕39 ジドウガク 兒童の精神及び身體を對象として研究する科學。

〔兒童期〕40 ジドウキ 廣義に於ては出生から青年期に至る直前迄の時期をいひ、狹義に於ては幼兒期の終から青年期の始に至る時期をいふ。

〔兒童劇〕41 ジドウゲキ 兒童の爲に、兒童自身によつて演ぜられる演劇。

〔兒童節〕42 ジドウセツ 兒童の爲に、特殊な行事を行ふ日。日本では三月・五月の節句。英國は七月。米國は五月。民國は四月。

〔兒童坐車〕43 êrh² t'ung² tsuo⁴ ch'ê¹ 乳母車。

〔兒童雜誌〕4 ジドウザッシ 兒童の爲の雜誌。

〔兒童節目〕45 êrh² t'ung² chieh² mu⁴ ラジ

オの子供の時間。節目はプログラム。
【兒童文庫】46 ジドウブンコ 兒童の爲の文庫。
【兒童研究所】47 ジドウケンキウジョ 善い教育をなすに必要な基礎的事實及び法則を發見するを目標として、組織的に兒童研究をなす所。
【兒童心理學】48 ジドウシンリガク 心理學の一分科。兒童の精神現象を研究對象とし、特に兒童の精神の生長發達を記述し說明するを目的とする學。
【兒童走卒皆知二司馬君實一】49 ジドウソウソツモミナシバクンジツヲシル 宋の司馬光は天下の大賢人で、知らないものは誰もない。君實は光の字。〔十八史略、宋、哲宗皇帝〕光居レ洛十五年、兒童走卒、皆知二司馬君實一。〔蘇軾、司馬君實獨樂園詩〕兒童誦二君實一、走卒知二司馬一。
【兒馬】50 ジバ 牡馬。〔爾雅、釋畜、牡曰レ騭、郝懿行義疏〕今東齊人、以レ牡爲二兒馬一、牝爲二騍馬一。
【兒拜】51 ジハイ 子が親に對してする拜禮。〔趙飛燕外傳〕婕妤事レ后、常爲二侍兒拜一。
【兒輩】52 ジハイ こどもら。兒曹。轉じて、人を輕蔑して呼ぶ語。孺子。〔晉書、王羲之傳〕恆恐二兒輩覺一損二其歡樂之趣一。〔蘇軾、復次二前韻一謝趙景貺陳履常見レ和兼簡二歐陽叔弼兄弟一詩〕或勸莫レ作レ詩、兒輩工二織紋一。
【兒萌】53 ジバウ 漢、齊國の人。字は子明。兄と共に赤眉に執へられたが、後、釋された。〔後漢書、六十九〕。
【兒夫】54 ジフ 妻が夫を稱する語。兒郎。兒は婦女の自稱。〔月令廣義〕宣和中、士女觀レ燈者賜レ酒、有二夫婦並遊一、不レ獲二同進一、其婦蒙レ賜、輒懷二酒杯一、謝詞曰、歸來恐レ被二兒夫怪一、願賜二金杯一作二證盟一、上賜レ之。
【兒郎】55 ジラウ ❶むすこ。息子。〔元稹、鶯鶯詩〕等閒教見二小兒郎一。❷妻が夫を稱する語。兒夫。〔徐陵、烏棲曲〕風流荀令好兒郎。
【兒良】56 ゲイリヤウ 戰國の人。兵家。兒良一篇を作る。〔呂覽、不二〕。
【兒皇帝】57 ジクワウテイ 五代、後晉の高祖、石敬瑭の自稱。契丹主耶律德光と約して父子となり、尋いで契丹の兵を借りて後唐を滅す。德光が立つて帝となるや、敬瑭は之を尊んで德光を父皇帝といひ、自ら稱して兒皇帝といふ。〔五代史、四夷附錄第一〕晉二明殿學士一人、掌二答書詔一、每二國有二大慶弔一、學士以二先君之命一爲レ書、以賜二國君一、其書常曰、報二兒皇帝一。
【兒山丹】58 ジサンタン 草の名。ゆりの一種。春に白色の小花を開く。〔和漢三才圖會、柔滑菜、山丹〕兒山丹、花小美而莖矮、甚可レ愛、出二於江戶一。
【兒長卿】59 ジチヤウケイ 漢、臨淮の人。游俠を以て聞ゆ。〔前漢書、九十二〕。
【譽兒癖】60 ヨジヘキ 兒をほめる癖。唐の王勃の父、福畤の故事。〔唐書、王勃傳〕福畤少子勸亦有レ文、福畤嘗詫二韓思彥、思彥戲曰、武子有二馬癖一、君有二譽兒癖一、王家癖何多耶、使助出二其文一、思彥曰、生レ子若レ是、可レ夸也。
【兒易外儀】61 ジエキグワイギ 書名。十五卷。明、倪元璐撰。原始・正言・能事・盡利・曲成・申命の六目がある。〔四庫提要、經、易類〕。
【兒家門閉】62 ジカノモン 私の家の門が固く閉ぢてゐる。兒は婦女の自稱。戀人を待ち詫びてゐる女の心を詠じた詩の句。〔蔣維翰、春女怨詩〕白玉堂前一樹梅、今朝忽見數枝開、兒家門戶重重閉、春色因レ何得二入來一。
【兒憐獸援】63 ジレンジウヱン 小兒のように憐み、獸類のやうに馴らす。〔歐陽脩、資政殿學士戶部侍郎文正范公神道碑銘〕兒憐獸援、卒俾二來臣一。
【養レ兒備レ老】64 ジヤウヂナヒテラウニソナフ 子供を大きく育てて置けば老後の困窮を防ぐことが出來る。養兒防老に同じ。元稹表夏の詩の句に本づく。全唐詩、兒を子に作る。〔通俗編、倫常、養レ兒備レ老〕
【兒易內儀以】65 ジエキナイギイ 書名。六卷。明、倪元璐撰。專ら大象を以て易の經を說く。六十四卦の大象には皆以の字があるので書名に以字を用ひた。〔四庫提要、經、易類〕。
【兒婦人口不レ可レ用】66 ジフジンクチハモチフベカラズ 小兒と婦人との言は用ひてはならない。〔史記、陳丞相世家〕鄙語曰、兒婦人口不レ可レ用。
【養レ兒防レ老積レ穀防レ飢】67 ジヤウヂナヒテラウヲツミテコクヲフセグ 兒を養つて老後の困窮を防ぎ、穀物を積み貯へて飢ゑを防ぐ。〔陔餘叢考、成語、養レ兒防レ老積レ穀防レ飢〕百川學海、婺源民詹惠明、乞二代レ父償レ命、臨レ刑無二懼色一、誦二此二句一、太守曾天游奏レ之、乃免レ死。

【兜】1366

ジ 兒(1－1365)の古字。〔集韻〕兒古作レ兜。

【兢】1367

小篆

㊀シン〔集韻〕呑林切 侵
㊁サン〔集韻〕則旰切 翰

意也、从二二兒一。〔說文〕兢、兢兢、銳故兩兒爲二銳之意一、云云、凡俗用二鐵・尖字一、卽兢字之俗。㊁たすける。〔集韻〕兢、二人屈レ己以贊也。

解字 會意。先はかうがい。かうがいは髮にさすもので先がするどくなつてゐるから、先を二つ合せてするどい意を表はす。

【兔】1368

ト〔集韻〕土故切 遇
ツ 去X ㄊㄨˋ

小篆

❶うさぎ。〔說文〕兔、兔獸也、象下形。兔踞後二其尾一形上、兔頭與二㠯頭一同。〔段注〕其字象下兔之蹲後露二其尾一形上也。㊁通じて菟(9－31189)に作る。〔集韻〕兔、通作レ菟。〔漢書、嚴延年傳〕韓盧取レ菟。㊂月の異稱。兔は月を望んで孕むといふからいふ。〔爾雅翼、兔〕兔視レ月而有レ子、其目尤瞭、故性號謂二之明視一。〔本草、兔〕發明、奭曰、兔者明月之精。㊃與と車の橫軸との當る處。當兔。〔周禮、考工記、輈人〕參二分其兔圍一。㊄俗に兎(1－1359)に作る。〔正字通〕兔、俗作レ兎。㊅姓。〔萬姓統譜〕漢兔潭、見二印藪一。

解字 象形。うさぎが踞つてその尾をだしてゐるかたち。上部は頭にかたどる。〔說文通訓定聲〕兔、獸名、象踞後二其尾一形、兔頭與二㠯頭一同、其獸前足短、後足長、俗字作菟。

參考 ❶諸書に兔に作るものも少くないが、今正字通・康熙字典などに據り兔とする。❷兔(1－1358)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕兔、眠上聲。兔、土去聲。獸名。

【兔隱】1 ウサギカクシ 草の名。はまくさぎ。
【兔烏】2 ウ 月日。光陰。月に兔がすみ、日に烏がすむといふ。烏兔(7－18998：240)に同じ。〔陳造、次二韻趙子野贈別詩一詩〕吮漱沆瀣騎二兔烏一。
【兔影】3 エイ 月の異名。〔韋琮、月明星稀賦〕兔影高輝、榆光潛靄。
【兔穎】4 エイ 筆をいふ。〔張翥、蛻菴歲晏百憂熏心排遣以二詩詩一〕寫多髭二兔穎一、藏久蚶二貂皮一。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕專憑二兔穎一、虔復鸞緘一。
【兔罝】5 エン 詩經、王風の篇名。周の桓王が信を失つて、諸侯が背叛し、君子は生を欲せざることを歌ふ。〔詩、王風、兔罝序〕兔罝、閔二周也一、桓王失レ信、諸侯背叛、構レ怨連レ禍、王師傷敗、君子不レ樂二其生一焉。
【兔園】6 トエン 園の名。河南省商丘縣の東。一名、梁園・修竹園。梁の孝王築く。漢の枚乘に梁王兔園賦がある。〔史記、梁孝王世家〕梁孝王築二東苑一、方三百餘里。〔謝惠連、雪賦〕遊二於兔園一。
【兔園策】7 トエンサク 兔園冊を見よ。〔北夢瑣言〕兔園策、乃徐庾文體、非二鄙朴之談一、但家藏二一本一、人多賤之。
【兔園冊】8 トエンサツ ❶書名。三十卷。唐、杜嗣先撰。又、十卷、唐、虞世南撰。❷を見よ。❸卑近な書物。自著の謙稱。もと民間の村塾で兒童に教授した書物を兔園冊といつたことに本づく。一說に、梁の孝王の兔園を、孝王の死後に帝が民をして耕種せしめたが、其の租を記した簿書が皆俚語であつたからいふ。〔五代史、劉岳傳〕宰相馮道、世本田家、狀貌質野、朝士多笑二其陋一、道旦入朝、任贊與レ岳在二其後一、道行數反顧、贊問レ岳、道反顧何爲、岳曰、遺二下兔園冊爾、兔園冊者、鄉校俚儒教二田夫牧子一之所二誦也一、故岳擧以誚レ道、道聞レ之大怒、徙二岳祕書監一。〔困學紀

聞、攷史）兔園冊府三十卷、唐蔣王惲令ニ僚佐杜嗣先倣ニ應科目策一、自設ニ問對一引ニ經史一爲ニ訓注一惲、太宗子、故用ニ梁王兔園一名ニ其書一馮道兔園冊、謂ニ此也一。〔通俗編、文學、兔園冊子〕按、類書言、梁孝王圃名ニ兔園一、王卒、帝以ニ園令一民耕種一、籍ニ其租一以供ニ祭祀一、其簿籍皆俚語、故鄉俗所レ誦、云ニ兔園冊子一、此文未レ知ニ何出一、晁公武讀書志云、兔園冊十卷、唐虞世南撰、纂ニ古今事一爲ニ四十八門一、皆偶麗之語、至ニ五代時一行ニ於民間村塾一、以授ニ學童一、故有レ遺ニ下兔園冊一之誚。上〔書言故事、書史類〕鄉校教ニ田夫牧子一、所レ誦兔園冊。

【兔園小說】9 トエンセツ 書名。二十卷。文政八年に設立せられた兔園會員の著作を輯めたもの。

【兔荷】10 トカ 遠江國の地名。

【兔醢】11 トカイ 兔の鹽漬。〔周禮、天官、醢人〕加豆之實、芹菹兔醢。〔禮、內則〕脯羹兔醢。

【兔羹】12 トカウ うさぎのあつもの。〔禮、內則〕折稌犬羹兔羹、和糝不レ蓼。

【兔毫】13 トガウ ❶兔の細毛。〔王隱、筆銘〕豈其作レ筆、必ニ兔之毫一。❷筆（8－25987）の異名。兔の毛で作るからいふ。〔羅隱、寄ニ虔州薛大夫一詩〕幽窗染ニ兔毫一。

【兔角】14 トカク ❶兔角龜毛を見よ。❷ともかくも。ややもすれば。

【兔角龜毛】15 トカクキマウ 兔に角を生じ、龜に毛を生ず。此の世に有る可からざるものの喩。〔述異記〕殷紂時、大龜生レ毛、而兔生レ角、是甲兵將レ興之兆。〔楞嚴經〕佛告ニ阿難一云云、無則同ニ於龜毛兔角一。〔常語藪〕兔角、見ニ楞嚴經、述異記亦云、商紂之時、大龜生レ毛、兔生レ角、乃兵甲將レ興之象也、宋吳淑事類賦云、爲ニ商紂一而生レ角。〔六祖壇經〕離レ世覓ニ菩提一、恰如レ求ニ兔角一。

【兔核】16 トカク 草の名。かがみぐさ。白斂（8－2267 8‥1202）の異名。〔本草、白斂釋名、白草、白根、兔核、貓兒卵、崑崙、時珍曰、兔核・貓兒卵、皆象レ形也。

【兔褐】17 トカツ トカチ ❶うさぎの毛ごろも。〔唐國史補〕宣州以ニ兔毛一爲レ褐、亞ニ於錦綺一、復有ニ染絲織者一、尤妙、故時人以爲ニ兔褐眞不ニ如レ假也。❷顏料の名。褐色の兔のやうな色。〔楊萬里、詩〕兔褐甌心雪作レ泓。〔黃庭堅、煎茶賦〕酌ニ兔褐之甌一、瀹ニ魚眼之鼎一。「墨出ニ青松煙一、筆出ニ狡兔翰一。」〔曹植、樂府〕

【兔翰】18 トカン 筆（8－25987）の異名。〔曹植、樂府〕

【兔葵】19 トキ ❶水草の名。あさざ。古人は蔬として食つた。菟葵（9－31189‥1）に同じ。兔葵燕麥を見よ。〔海錄碎事、草木、草〕兔葵苗如ニ龍芮一、花白莖紫。❷いへにれ。せつぶんさう。〔和名類聚抄、菜蔬部、菜類〕兔葵、以倍邇禮。

【兔葵燕麥】20 トキエンバク あさざと、からすむぎ。名ばかりで實のないことをいふ。兔絲燕麥（37）を見よ。〔唐書、劉禹錫傳〕由ニ和州刺史一、入爲ニ主客郎中一、復作ニ遊ニ玄都觀一詩一、且言、始謫十年還ニ京師一、道士植レ桃、其盛若レ霞、又十四年過レ之、無ニ復一存一、唯兔葵燕麥動ニ搖春風一耳、以詆ニ權近一、聞者益薄ニ其行一。〔容齋三筆、兔葵燕麥〕劉禹錫再游ニ玄都觀一詩序云、唯兔葵燕麥動ニ搖春風一耳、今人多引用之、予讀ニ北史邢劭傳一、載ニ劭一書云、國子雖レ有ニ學官之名一、而無ニ教授之實一、何異ニ兔絲燕麥一、南箕北斗哉、然則此語由來久矣、云云、葉庭珪海錄碎事云、兔葵苗如ニ龍芮一、花白莖紫、燕麥草似レ麥、亦曰ニ雀麥一。

【兔丘】21 トキウ 草の名。ねなしかづら。兔絲（34）に同じ。〔廣雅、釋草〕兔丘、兔絲也。〔山海經、中山經〕姑媱之山、帝女死焉、其名曰ニ女尸一、化爲ニ蓍草一、其實如ニ兔丘一。

【兔窟】22 トクツ 兔の窟。轉じて隱れ場。〔程俱、山中對酒詩〕何年顧ニ兔窟一、桂子落ニ山腹一。〔袁枚、客舍書レ事詩〕大能搜ニ兔窟一、馬解ニ避ニ駝車一。

【兔瓜】23 トカ 草の名。菟瓜（9－31189‥7）に同じ。

【兔管】24 トカン 筆（8－25987）の異名。〔事物異名錄、文具、筆〕瑯嬛記、楊達謝姚月華書ニ芙蓉匹鳥一、書曰、繭紙發ニ其枝幹一、兔管借ニ之羽毛一。

【兔奚】25 トケイ 草の名。菟奚（9－31189‥9）に同じ。〔急就篇、四、款東貝母薑狼牙、注〕款東卽款冬也、一名兔奚。

【兔缺】26 トケツ ❶みつくち。上唇が裂けて、兔の口に似てゐる不具。兔脣。〔晉書、魏詠之傳、生而兔缺、醫曰、可ニ割而補レ之一。〔書言故事、殘疾類〕脣缺曰ニ兔缺一。❷月の缺けること。〔古詩十九首〕三五明月滿、四五蟾兔缺。

【兔缺烏沉】27 トケツウチン 滿月が缺けて行き、日が西に沈む。月日が過ぎることをいふ。兔は月、烏は日。兔起烏沉。〔羅鄴、冬日寄ニ獻庾員外一詩〕卻思紫陌觥籌地、兔缺烏沉欲ニ半年一。

【兔月】28 トゲツ 月の異稱。〔庾信、七夕賦〕兔月先上、羊燈次安。

【兔齧】29 トゲツ 蟲の名。〔淮南子、說林訓〕兔齧爲レ人、羊燈次安。

【兔齧疽】30 トゲツソ 病名。兔齧をうけて紅腫するが如き症狀を呈する瘡。足跟疽。〔靈樞經、癰疽篇〕發ニ於脛一、名曰ニ兔齧一、其狀赤至レ骨、急治レ之、不レ治害レ人也。

【兔罟】31 トコ 兔を捕へるあみ。うさぎあみ。兔罝。〔詩、周南、兔罝〕肅肅兔罝。〔傳〕兔罝、兔罟也。

【兔鶻】32 トコツ 帶をいふ。金の國語。〔宋史、輿服志〕七金國寶、珠環玉束帶一、垂頭裏拓、上有ニ金龍一、帶上玉事件大小一十八、又玉靶鐵剉一、銷金玉事件二、皮茄袋一、玉事件三、天綱稱、上項帶、國言謂ニ之兔鶻一、皆其故主完顏守緒常服之物也。〔松漠紀聞、注〕兔鶻、中國謂ニ之腰條皮一。「語。

【兔子】33 tù tzŭ ❶孌童。かげま。❷人を罵る。

【兔絲】34 トシ 草の名。ねなしかづら。春、絲に似た芽を生じて他の草木に寄生し、晩夏に小白花を著ける。菟絲（9－31189‥12）に同じ。兔丘。兔縷。〔淮南子、說山訓〕千年之松、下有ニ茯苓一、上有ニ兔絲一。〔注〕兔絲、生ニ其上一而無レ根、一名女羅也。

【兔絲花】35 トシクワ ねなしかづら。兔絲に同じ。〔李白、古意詩〕君爲ニ女蘿草一、妾作ニ兔絲花一、百丈託ニ遠松一、纏綿成ニ一家一。

【兔絲子】36 トシシ ねなしかづら。兔絲に同じ。

【兔絲燕麥】37 トシエンバク ねなしかづらとからすむぎ。兔絲は織ることが出來ず、燕麥は食ふことが出來ないからいふ。有名無實の喩。菟葵燕麥。〔資治通鑑、梁紀〕〔武帝、天監十五年〕何異ニ兔絲燕麥、南箕北斗一。〔注〕言下兔絲有ニ絲之名一、而不レ可ニ以織一、燕麥有ニ麥之名一、而不レ可ニ以食一、古歌曰、田中兔絲、如何可レ絡、道邊燕麥、何嘗可レ穫、詩云、維南有レ箕、不レ可ニ以簸揚一、維北有レ斗、不レ可ニ以挹ニ酒漿一、皆謂ニ有名無實一也。

【兔絲瓜葛】38 トシカツ 妻をいふ。瓜葛（7－2137 1‥7）及び兔絲附ニ女蘿一を見よ。〔琵琶記、官媒議レ婚、俺自有ニ正兔絲云ニ瓜葛一。

【兔絲附ニ女蘿一】39 トシフヂョラ ねなしかづらが、つたにからみつく。夫婦の契り。兔絲花を見よ。〔古詩十九首、與ニ君爲ニ新婚一、兔絲附ニ女蘿一。

【兔耳】40 ジ ❶山名。河北省撫寧縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、永平府、撫寧縣〕兔耳山、縣西七里、有ニ雙峯一、聳峙如ニ兔耳一、然、絕頂有ニ潭、雲氣常蒙ニ其上一。❷ウサギ ミミ 長い耳。轉じて、よく世の隱事を聞き出すにいふ。

【兔兒】41 tù ərh 兔をいふ。

【兔兒傘】42 トジサン 草の名。やぶれすげがさ。破菅笠とも書く。形が破れた傘に似て居る。〔農政全書、兔兒傘考〕生ニ滎陽塔兒山荒野中一、其苗高ニ二三尺許一、每科初生ニ一莖一、莖端生レ葉、一層有ニ七八葉一、每葉分作ニ四、又排生如ニ傘蓋狀一、故以爲レ名、後於ニ葉間一擡生レ莖、又上開ニ淡紅白花一、根似ニ牛膝一而疎短、味苦微辛。

【兔兒爺】43 ヤジ うさぎ。又はお月樣といふ意。轉じて、中秋に飾る、うさぎを擬人化した土人形をいふ。うさぎ人形。兔兒爺攤子を見よ。〔魏之琇、兔兒爺詩〕卯君家世本蟾官、幻列衣冠氣象雄、卻笑團圞好時節、素娥翻自怨ニ秋風一。

【兔兒尾苗】44 トジビ 草の名。はくぜんさう。玄參科、ゐりとらのを屬の多年生草本。高さ一二尺に達す。我が國の山野に自生し、又、觀賞用として栽培せられる。〔農政全書、兔兒尾苗考〕生ニ田野中一、苗高一二尺、葉似ニ水莧葉一而略短。

【兔兒爺攤子】45 トジヤタンジ 陰曆八月十五日の中秋節に、北京市中で黃土で兔形を拵へて賣る露店。〔燕京歲時記、兔兒爺攤子〕每屆ニ中秋一、市人之巧者、用ニ黃土一搏ニ成蟾兔之像一以出售、謂ニ之兔兒爺一。有ニ衣冠而張ニ蓋者一、有ニ甲冑而帶ニ纛旗者一、有ニ騎ニ虎者一、有ニ默坐者一、大者ニ尺、小者尺餘、其餘匠藝工人、無ニ美不ニ備、蓋亦謔而虐矣。

【兔罝】46 ショ ❶うさぎを捕へる網。兔罟。〔詩、周南、兔罝〕肅肅兔罝。〔傳〕兔罝、兔罟也。❷詩經、周南の篇名。周の文王の后妃の德化に依つて賢人の多いことを詠じたもの。〔詩、周南、兔

置序〕兔罝、后妃之化也、關雎之化行、則莫レ不レ好レ德、賢人衆多也。

【兔牀】47 トシャウ ❶山名。河南省嵩縣。〔山海經、中山經〕豐山東北八百里、曰二兔牀之山一、其陽多レ鐵、其木多二藷萸一、其草多二雞穀一。❷清、吳騫(海寧の人)(2－3365・・164)の號。

【兔首】48 トシュ ❶兔の首。つまらないものだが、燒いて酒のさかなとすることが出來る。〔詩、小雅、瓠葉〕有二兔斯首一、炮レ之燔レ之。〔箋〕兔之小者也、炮レ之燔レ之者、將三以爲二飮レ酒之羞一也。❷射の時、兔首の詩を歌つた後漢の劉昆の故事。〔後漢書、劉昆傳〕每二春秋饗射一、常備二列典儀一、以二素木瓠葉一爲二俎豆一、桑弧蒿矢、以射二菟首一。〔注〕射則歌二菟首之詩一而爲レ節也。

【兔脣】49 トシン 三つ口。兔缺。〔古今事文類聚〕生而兔脣。

【兔蕈】50 トジン 兔の屎をいふ。〔本草、兔〕屎、釋名明月砂、翫月砂、兔蕈。

【兔纖】51 トセン 乾した兔肉を細く割いて酢に漬けたもの。〔釋名、釋飮食〕雞纖、細二擗其腊一令レ纖、然後漬以レ酢也、兔纖亦如レ之。

【兔足】52 トソク 鑵子(クワンス)の蓋置き。〔庭訓往來、十月〕茶杓・兔足・湯瓶。

【兔脫】53 トダツ 兔のやうに速かにぬけ出す。〔虞集、酬二崔御史送二熊掌一詩〕兔二脫中山醢一。〔蘇伯衡、古劍歌〕神光兔脫飛二雪霜一。

【兔竹】54 トチク 藥草の名。黃精。〔抱朴子、仙藥〕黃精、一名兔竹、一名救窮、一名垂珠、服二其花一、勝二其實一、服二其實一、勝二其根一。

【兔蟲】55 ウサギムシ 蟲の名。いいぎり。

【兔跳】56 ウサギバネ 兔のやうにはねること。〔源平盛衰記、十五、宇治合戰事〕行桁の上に、ちと平みたる處を、無禮に候とて、一來師兔はねにぞ越えたりける。

【兔頭】57 トトウ ❶草の名。瓜の一種。❷ウサギガシラ 鷹に與へる餌袋の紐の結び方。

【兔馬】58 ウサギウマ 驢馬。

【兔魄】59 トハク 月の異名。〔參同契、聖人上觀章〕蟾蜍與二兔魄一、日月氣雙明。

【兔毛】60 トマウ うさぎの毛。小さい事物の喩。兔毛塵を見よ。

【兔毛河】61 トマウカ 河の名。古名は中陵川。源は山西省平魯縣の南の滄頭河。北流して二となる。一は左雲縣に入り、一は口外に出て烏蘭穆楞河に會す。〔歸綏識略〕兔毛河水橋、今存二其半一、有二水洞九一、俗以二九龍洞一呼レ之、近河水東徙、橋在二平地一、橋上有レ牆、相傳、明時、中外分界處。

【兔毛塵】62 トマウヂン 兔の毛の尖端についてゐるほどの小さい塵。僅少の喩。〔俱舍論〕積二七兔毛塵一、爲二一羊毛塵量一。

【兔目】63 トモク 槐の木の新芽。兔の目に似て居るからいふ。〔齊民要術、栽樹〕槖雞口、槐兔目、桑蝦蟇眼。〔李賀、春歸二昌谷一詩〕兔目官槐小。〔太平御覽、木部、槐〕淮南子曰、槐之生也、入二季春一、五日而兔目、十日而鼠耳、更旬而始規。

【兔輪】64 トリン 月の異名。〔事物異名錄、乾象、月〕元稹、月詩、絳河冰鑑朗、黃道玉輪巍、又西瞻二若木一兔輪低。

【兔縷】65 トル 草の名。ねなしかづら。兔盧。兔絲(34)に同じ。〔陸龜蒙、和三襲美題二達上人藥圃一詩〕教レ踈兔縷金弦亂、自擁龍芻紫綠肥。〔自注〕兔縷、兔絲別名也。

【兔盧】66 トロ 草の名。兔縷に同じ。〔急就篇、四〕雷矢藋菌蓋兔盧。〔注〕兔盧、卽兔絲也、色黃而細者爲二兔絲一、一名兔縷、云云、麤而色淺者爲二兔盧一、盧亦縷也、一名兔纍、纍者、繩索之意也。

【兔肝草】67 トカンサウ 草の名。〔本草、兔肝草〕藏器曰、初生二細葉一、軟似二兔肝一、一名雞肝。

【兔起烏沉】68 トキウチン 月日が過ぎゆくことをいふ。兔缺烏沉(27)に同じ。〔參同契、彭曉注〕兔起烏沉、升二降於三百八十四日一。

【兔起鶻落】69 トキコツラク 書家の筆勢の健快な喩。兔が走り、はやぶさが飛び下りるやうな勢といふ意。〔郝經、懷素帖歌〕兔起復鶻落、雲行溪水流。

【兔起鳧擧】70 トキフキョ 兔が走り、鳧が飛びあがる。すみやかな喩。〔呂覽、論威〕急疾捷先、此所三以決二義兵之勝一也、而不レ可二久處一、知二其不一レ可二久處一、則知下所二兔起鳧擧死殙一之地上矣。〔注〕起、走、擧、飛也、兔走鳧趍、喩二急疾一也。

【兔魚龜符】71 トギョキフ 印綬の名。兔形・魚形・龜形の印綬。〔海錄碎事、服用、印綬〕唐初爲二銀兔符一、以レ兔爲レ瑞也、又有二銅魚符一、以レ鯉爲レ瑞也、武后以二玄武一爲二姓瑞一、乃以レ銅爲二龜符一焉。

【兔死狐悲】72 ウサギシシテキツネカナシム 今日は人の身、明日は我が身の上。同類の互に同情する喩。狐死兔泣。〔通俗編、獸畜、狐死兔泣〕按、今語作二兔死狐悲一。〔田藝蘅、玉芙蓉音〕鼉鳴而鼈應、兔死則狐悲。

【兔死狗烹】73 ウサギシシテイヌニラル 役に立つ間は追ひ使はれるが用がなくなれば捨てられる喩。狡兔死良狗烹(7－20365・・38)を見よ。

【兔走烏飛】74 トソウウヒ 月日の速かに過ぎ去ること。兔は月、烏は日。〔莊南傑、傷歌行〕兔走烏飛不二相見一、人事依稀速如レ電。

【兔皮製裘】75 トヒセイキウ 兔の皮で作つた毛ごろも。〔國史略、一條天皇〕伊陟曰、有二兔裘一、尋當二進獻一、上仍二其語勢一、謂二兔皮製裘一耳。

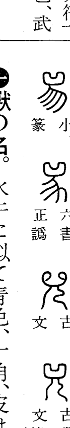
【兔羅雉罹】76 トラニキジカカル 兔を取る爲に設けた羅に雉がかかる。小人が巧計を以て罪を免れ、君子が却つて禍を受ける喩。〔詩、王風、兔爰〕有レ兔爰爰、雉離二于羅一。〔集傳〕比下小人致レ亂、而以二巧計一幸免、君子無レ辜、而以二忠直一受上禍也。

【見レ兔放レ狗】77 ウサギヲミテイヌヲハナツ 兔を見て後、獵犬を放つて捕へさせても遲くはない。事の起るを待つてのち之に處する喩。見レ兔呼レ狗。見レ兔放レ鷹。〔新序、雜事二〕莊辛曰、亡レ羊而固レ牢、未レ爲レ遲、見レ兔而呼レ狗、未レ爲レ晩。〔五燈會元〕妙湛曰、大二教網一、漉二人天魚一、不レ如三見レ兔放レ鷹、遇レ獐發レ箭。

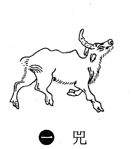
【得レ兔而忘レ蹄】78 エテトヲテイヲワスル 既に兔を得れば蹄に用は無い。學問が成就すれば書籍が無用になる喩。蹄は兔を捕へる網。筌蹄(8－25995・・4)を見よ。〔莊子、外物〕筌者所二以在レ魚、得レ魚而忘レ筌、蹄者所二以在レ兔、得レ兔而忘レ蹄。

【兔】1368′ トツ 兔(1－1368)に同じ。

【兕】1369 シジ 〔集韻〕序姉切 ム、 ssŭ⁴ 紙



❶**獸の名**。水牛に似て青色、一角、皮は堅厚で鎧に造り、角は酒杯に造る。冢(10－36375)の古文。〔說文〕冢、如二野牛一、青色、其皮堅厚、可レ制レ鎧、象形、冢頭與二禽离頭一同、兕、古文从レ儿。〔段注〕野牛卽今水牛、與二黃牛一別、古謂二之野牛一、云云、郭注山海經曰、犀、似二水牛一、豬頭庳腳、兕、亦似二水牛一、青色一角、重二三千斤一、考工記、函人爲レ甲、犀甲七屬、兕甲六屬、犀甲壽百年、兕甲壽二百年、云云、今字、兕行、冢廢。〔爾雅、釋獸〕兕、似レ牛。〔注〕一角、青色、重千斤。〔韻會〕兕、陸佃云、兕、善抵觸、故先王制二罰爵一、以爲二酒戒一。❷**犀の雌**。〔正字通〕犀、有二山犀・水犀・兕犀三種一、云云、兕犀、卽犀之牸者。❸**水に住む大獸**。〔論衡、是應〕蒼兕、水中之獸也、善覆二人船一。❹古は兕(1－1370)に作る。〔廣韻〕兕、兕、古文。❺俗に兕(7－19109)に作り、或は光(1－1371)・雉(11－41987)に作る。〔正字通〕兕、俗兕字、本作レ冢。〔集韻〕兕、古作二兕・冢一、或作二光・雉一。


❶ 兕
(古今圖書集成)

解字 象形。野牛に似た一種の獸にかたどる。凹はその頭、𠘧はその足尾。古文は兕に作る。儿は人の胻(すね)、兕の足が人の胻に似てゐるので儿を以て其の足に象る。〔說文、兕、段注〕謂下上象二其頭一下象中其足尾上也。〔說文〕兕、古文从レ儿。〔段注〕蓋亦謂三其似二人胻一也、虎足亦與二人足一同。

【兕角】1 ジカク 兕獸の角。兕觡。〔周禮、地官、閭胥、注〕其爵以二兕角一爲レ之。〔疏〕見三詩云二兕觵其觩一、故知下用二兕牛角一爲中觵爵上也。

【兕觡】2 ジカク 兕獸の角。兕角。〔周邦彥、汴都賦〕

割二鮫革一以連レ函、劑二兕觥一以爲レ飾。

【兕甲】3 カフ 兕獣の皮で作ったよろひ。〔周禮、考工記、函人〕兕甲六屬。〔淮南子、説林訓〕矢之於二十步一、貫二兕甲一、及二其極一、不レ能レ入二魯縞一。〔鹽鐵論、論勇〕犀軸兕甲。

【兕牛】4 ギウ 兕と牛。〔淮南子、説山訓〕熊羆之動以二攫搏一、兕牛之動以二觝觸一。〔注〕兕、獣名、有レ角、牛、犁牛也。

【兕觥】5 クヮウ 兕の角で製した大杯。周代に罰杯として用ひたもの。兕觶。角爵。〔韻會〕兕、陸佃云、兕、善抵觸、故先王制二罰爵一、以爲二酒戒一。〔詩、周南、卷耳〕我姑酌二彼兕觥一。〔傳〕兕觥、兕角爵也。〔箋〕兕觥、罰爵也。〔詩、豳風、七月〕躋二彼公堂一、稱二彼兕觥一。〔詩、小雅、桑扈〕兕觥其觩。

周兕觥（金索石）

【兕中】12 ヂユウ 射禮の時、算を入れて置くもの。〔儀禮、鄉射禮〕大夫兕中各以二其物一獲。

【匪レ兕匪レ虎】12 ヒニアラズコニアラズ 兕でもなく虎でもないのに、曠野にさまよひ苦しむの意で、賢者が災厄に遇つて、其の不幸を嘆ずる辭。〔詩、小雅、何草不黄〕匪レ兕匪レ虎、率二彼曠野一。〔集傳〕言、征夫非レ兕非レ虎、何爲使レ之循二曠野一而朝夕不レ得レ閒暇一也。〔史記、孔子世家〕孔子於レ野不レ得レ行、絶レ糧、從者病莫二能興一。孔子講誦弦歌不レ衰、云云。孔子知二弟子有一レ慍心一、乃召二子路一而問曰、詩云、匪レ兕匪レ虎、率二彼曠野一。吾道非邪、吾何爲於レ此。

中兕（三圖）

兕 1370

シ 兕（1－1369）の古字。〔廣韻〕兕、兕、古文。

光 1371

シ 兕（1－1369）に同じ。〔字彙補〕兕、同レ兕。

兕 1372

シ 兕（1－1371）に同じ。〔字彙補〕兕、同レ兕、見二漢碑一。

凯 1373

ゴツ ゴチ 〔集韻〕五忽切 月。

あやふい。やすらかでない。 凩（2－2868）に同じ。〔集韻〕凩、博雅、危也、或作レ凯。〔韻會〕凯、同レ凩、不レ安也。

兗 1374

エン 兗（1－1375）の俗字。〔正字通〕兗、俗从レ公作レ兗。

兗 1375

エン 〔集韻〕以轉切 一ㇷ゙ yen³

❶川の名。又夏の九州の一。 もと沇（6－17188）・𠂤（2－3243）に作り、俗に兗（1－1374）に作る。沇水（6－17188・・2）及び兗州（2）の❶を見よ。〔集韻〕兗、州名、通作レ沇。〔説文〕沇、沇水、出二河東垣東王屋山一、从レ水允聲、𠂤、古文沇如レ此。〔段注〕隸變作レ兗。〔正字通〕兗、説文、本作レ𠂤、今作レ兗从レ𠂤、俗从レ公作レ兗。**❷くくる。**〔漢書、揚雄傳下〕兗二鼮瘢一者。〔注〕兗、括也。**❸ただしい。**〔春秋元命苞〕兗之言、端也。**❹まこと。**〔爾雅、釋地、濟河間曰二兗州一、李巡注〕兗、信也。**❺姓。**〔輿地廣記〕兗、少昊之裔。

参考 袞（10－34203）は別字。

【兗邑】1 イエン 兗州の❶に同じ。〔曹植、責レ躬表〕改封二兗邑一。

【兗州】2 イエンシウ **❶**州名。㋑古、九州の一。山東省の舊東昌府及び兗州・濟南・青州諸府の西北境と、河北省の舊大名府及び正定・河間二府の東南境とが昔の兗州の地である。〔爾雅、釋地、濟河間曰二兗州一、疏〕李巡云、濟河間其氣專質、厥性信謹、故曰レ兗、兗、信也。〔釋名、釋州國〕兗州取二兗水一以爲レ名也。〔書、禹貢〕濟河惟兗州。〔周禮、夏官、職方氏〕河東曰二兗州一。㋺周・漢、皆兗州を置き、後漢の兗州刺史は昌邑に治す。今の山東省金鄉縣の西北、後、治を鄄に移す。今の山東省濮縣の東。㋩三國魏、置く。初の治は鄄、嘉平中、平阿に屯す。今の安徽省懷遠縣の西南。㋥晉、置く。治は廣正。今の山東省范縣の東南。惠帝の後、兗州淪沒し、建武の初、鄒山に僑置す。今の山東省鄒縣の東南、故の邾城。大寧中、廣陵に寄治す。今の江蘇省江都縣の東北。建元の初、金城に寄在す。今の江蘇省江寧縣の北。永和中、下邳に僑置す。今の江蘇省邳縣の東。太和中、治を山陽に移す。今の江蘇省淮安縣治。尋いで廣陵に還治す。太元中、廣陵を以て南兗州と爲し、鄄城を北兗州と爲す。鄄城は卽ち三國魏の兗州の舊治なり。尋いで青兗二州、皆淮陰に寄治す。今の江蘇省淮陰縣の東南。義熙中、また廣陵に治す。尋いで青兗二州、皆京口に鎭す。今の江蘇省丹徒縣治。㋭南朝宋、置く。初、滑臺に治す。今の河南省滑縣治。元嘉中、鄒山に移り鎭す。今の山東省鄒縣の東南、故の邾城。尋いで彭城に寄治す。今の江蘇省銅山縣治。又、須昌に移り治す。今の山東省東平縣の西北。後、兗州を省いて徐冀二州に入る。尋いで復置き、瑕丘に治す。今の山東省滋陽縣の西。孝建の初、湖陸に治す。今の江蘇省沛縣の北。泰始の初、復、瑕丘に治す。兗州、魏に降り、淮陰に僑置す。今の江蘇省淮陰縣の東南。齊には北兗州といひ、東魏には淮州と改む。㋬後魏、置く。初、滑臺に治し、後、瑕丘を得、因つて此處に改め置く。初、東兗州といひ、後に兗州といふ。滑臺の兗州は卽ち西兗州といひ、孝昌中、定陶に移り治す。今の山東省定陶縣の西北。後、故に復す。太和中、又、南兗州を滑陽に置く。今の安徽省蒙城縣の東北にある渦陽城。正光中、譙城に移り治す。今の安徽省亳縣治。時に滑臺・瑕丘・譙城を謂つて三兗州と爲す。㋣隋、置き、瑕丘に治す。大業の初、魯郡と爲す。唐には復、兗州といひ、また魯郡といひ、又、改めて兗州といふ。宋には兗州魯郡といひ、升せて襲慶府と爲す。金には復、兗州といひ、改めて泰定軍といふ。元にも亦、兗州といふ。明の時、升せて兗州府とした。今の山東省嶧陽縣の西。〔讀史方輿紀要、山東〕兗州府、禹貢徐兗二州之域、云云。隋初置二兗州一、大業初、又改爲二魯郡一。唐初、徐圓明據二其地一、武德五年、復置二兗州一云云。明洪武十八年、升爲二兗州府一。㋢後趙、置く。治は鄄城。三國魏の舊治。㋡前燕、置く。治は陽平。今の山東省莘縣治。㋠後燕、置く。初の治は東阿で、今の山東省陽穀縣の東北。後の治は滑臺で、今の河南省滑縣治。㋑前秦、置く。治は倉垣。今の河南省陳留縣の西。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、陳留縣〕倉垣城、在二縣西一、城臨二汴水一云云、秦太和四年、桓溫伐レ燕、不レ克奔還、自二東燕一出二倉垣一、鑿レ井而飲、後又爲二姚秦所一レ得、置二

兗州於此一。㋾後秦、置く。治は倉垣。㋻南燕、置く。治は梁父。今の山東省泰安縣の南。㊁府名。明、置く。清には山東省に屬し、滋陽・曲阜・寧陽・鄒・泗水・滕・嶧・汶上・陽穀・壽張の十縣を領す。民國、廢す。故治は今の滋陽縣。〔清史稿、地理志〕山東、兗州府、領ニ縣十一、滋陽・曲阜・寧陽・鄒・泗水・滕・嶧・汶上・陽穀・壽張。

【兗州八伯】3 エンシウノハツパク 晉の兗州の人なる阮放（宏伯）・郗鑒（方伯）・胡母輔之（達伯）・卞壼（裁伯）・蔡謨（朗伯）・阮孚（誕伯）・劉綏（委伯）・羊曼（黯伯）の八人をいふ。〔晉書、羊曼傳〕時州里稱ニ陳留阮放一爲ニ宏伯一、高平郗鑒爲ニ方伯一、泰山胡母輔之爲ニ達伯一、濟陰卞壼爲ニ裁伯一、陳留蔡謨爲ニ朗伯一、阮孚爲ニ誕伯一、高平劉綏爲ニ委伯一、而曼爲ニ黯伯一、凡八人號ニ兗州八伯一、蓋擬ニ古之八雋一也。

【兗公頌】4 エンコウノショウ 碑の名。山東省曲阜の孔廟に在る。唐の天寶元年立つ。兗公は顏回。張之宏の撰、包文該の正書。書は古厚深穩の趣がある。〔寰宇訪碑錄、唐〕兗公之頌、張之宏撰、包文該正書、天寶元年四月、山東曲阜。

【羌】1376 キヤウ 羌(**9－28429**)の本字。〔正字通〕羌、羌本字。

【皃】1377 ユ 臾(**9－30178**)に同じ。〔說文長箋〕皃、須皃之皃、从ㇾ申从ㇾ乙、今作ㇾ臾、乃古蕢字。

【𠒎】1378 シ 始(**3－6166**)の古字。〔字彙補〕𠒎、古文始字。

【𠒒】1379 音未詳 元始上皇丈人の字。〔字彙補〕𠒒、元始上皇丈人法字、見ニ三尊譜錄一。

【兙】1380 1. tek'akram 現デカグラム。重量の一單位。十グラム。特卡克蘭姆の舊略號。2. kung-ch'ien² 標準制の公錢（略號、𨙸）。兙。

八畫

【党】1381 タウ 〔集韻〕底朗切 ㄉㄤˇ tang³ 養

㊀党項は、部族の名。党項(1)を見よ。㊁黨(**12－48132**)の略字。〔宋元以來俗字譜〕黨、太平樂府作ㇾ党。㊂**姓**。黨(**12－48132**)に通ず。〔萬姓統譜〕党、馮翊商音、與ニ黨姓一通、晉大夫黨氏之後也、又本出ニ西羌一、自云、夏后氏之後。〔路史〕拓拔後有ニ党氏一。

【党項】1 タングート 部族の名。漢の西羌の別種。西藏族。今の四川省の北西部及び青海・西康兩省の東部から甘肅省にかかつた地域に住したと推定せられてゐる。黨項・唐古特。Tangut〔舊唐書、西戎、党項羌傳〕在ニ古析支之地一。

【党進】2 タウシン 宋、馬邑の人。開寶中、太原の征伐に從つて功あり。官は忠武軍節度使。〔宋史、二百六十〕・〔宋史新編、七十二〕・〔東都事略、二十八〕・〔隆平集、十七〕・〔名臣碑傳琬琰集、下、五〕。

【党成】3 タウセイ 清、絳州の人。字は憲公。號は冰壑。幼より濂洛の學を事とす。著に日知錄・學庸澹言・學思二編がある。党は一に黨に作る。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、四百二〕・〔國朝先正事略、二十九〕。

【党湛】4 タウタン 清、同州の人。字は子澄。嘗て人生須らく天地閒第一等の事を做し、天地閒第一等の人と爲るべしといひ、兩一と號す。帖括を事とせず、李中孚と理學を以て相質す。性、至孝、父の病に晝夜側を離れず、父の喪に廬墓三年。卒年八十四。州守、其の墓に表して理學孝子といふ。党は一に黨に作る。〔清史稿、四百八十六〕・〔清史列傳、六十六〕・〔國朝耆獻類徵、三百九十五〕・〔國朝先正事略、二十九〕。

【党家姬】5 トウカノキ 宋の党進の家の侍姬。後、陶穀の妾となる。〔辟寒〕陶穀妾、本党進家姬、一日雪下、穀命取ニ雪水一煎ㇾ茶、問曰、党家有ニ此景一否、曰、彼麤人、安識ニ此景一、但能知下銷ニ金帳下一、淺斟低唱、飲中羊羔美酒上耳。

【党懷英】6 タウクワイエイ 金、馮翊の人。字は世傑。諡は文獻。進士。遼史を修め未完成のまま卒す。籀に巧で、當時第一たり。著に竹溪集がある。〔金史、一百二十五〕。

【党國柱】7 タウコクチユウ 明、扶風の人。字は伯才。崇禎の進士。官は郃陽訓導。〔陝西通志〕。

【兡】1382 コン 昆(**5－13792**)に同じ。〔正字通〕兡、同ㇾ昆。〔元結、規ニ弟融一書〕兡不ニ復言一。〔注〕兡者、兄之別稱。

【兛】1383 1. kilokram 現キログラム。重量の一單位。千グラム。啓羅克蘭姆の舊略號。2. kung-chin¹ 標準制の公斤（略號、兛）。兛。

【兛卡】1 キログラムカロリー 熱量の一單位。一カロリーの千倍。

【兝】1384 現ミリアグラム。重量の一單位。一萬グラム。邁里克蘭姆の略號。標準制の公衡（略號、兝）。

九畫

【尭】1385 ゲウ 堯(**3－5272**)の俗字。〔正字通〕堯、俗省作ㇾ尭、非。

【兜】1386 トウ ツ 慣トウ 〔集韻〕當侯切 ㄉㄡ tou¹ 尤

小篆

㊀**かぶと**。〔說文〕兜、兜鍪、首鎧也、从ㇾ兜从ニ皃省一、皃、象ニ人頭形一也。㊁**かぶりもの**。帽子。〔瞿佑詩話〕西僧皆戴ニ紅兜一。㊂**のりもの**。かご。〔唐書、車服志〕輦輦、兜籠、舁以ニ二人一。〔宋史、占城國傳〕國人多乘ㇾ象、或輭布兜。㊃**かこむ**。つつむ。〔說文通訓定聲〕兜、蒙蔽之意。〔楊維楨、走馬詩〕半兜ニ玉鐙一裹ニ湘裙一。㊄**まどふ**。〔國語、晉語六〕在ㇾ列者獻ㇾ詩使ㇾ勿ㇾ兜。〔注〕兜、惑也。㊅**發聲の辭**。〔說文通訓定聲〕兜、又發聲之詞、後漢列女傳、兜離、注、匈奴言語之皃、按、猶ニ侏儒一也。㊆**南夷の樂の名**。〔白虎通、禮樂〕南夷之樂曰ㇾ兜。㊇頭(**12－43490**)に通ず。〔山海經、海外南經〕讙頭國。〔注〕讙兜、堯臣也。㊈**姓**。〔萬姓統譜〕兜、見ニ姓苑一。㊉現㋑婦人のかぶりもの。包頭。㋺衣のかくし。ポケツト。㋩風呂敷などに包んで、結ばないで提げる。㋥まるめこむ。籠絡する。㋭うける。接受する。

解字 會意。兜と皃の省略體との合字。皃の省略體の白は人の頭、兜は左右皆蔽ふかたち。人の頭部を蔽ふ義から、かぶとの意とす。轉じて、蒙蔽（かこみつつむ）の意とし、假借して覭とし、又發聲の辭とす。〔說文通訓定聲〕兜、从ㇾ兜从ニ皃省一、會意、白象ニ人頭一也、古謂ニ之冑一、按、冑所ニ以冡ニ冒其首一、故謂ニ之兜一。

【兜盔】1 tou¹ k'uei¹ かぶと。兜鍪。

【兜轎】2 トウケウ やまかご。あんだ。〔遵生八牋〕便轎入ㇾ山用ㇾ之、如下今市中俗云ニ兜轎一式上也。

【兜鞬】3 トウケン 皮の袋。又、革で作つた兜。〔荊州記〕穀城門有ニ石人一、刊ニ其腹一云、摩ニ兜鞬一、愼莫ㇾ言。〔陸游、考古詩〕偸ㇾ生迫ニ鐘漏一、戰死媿ニ兜鞬一。

【兜剿】4 tou¹ ch'ao¹ 討伐する。包圍して盡滅する。

【兜子】5 トウシ ㊀山かごの類。〔開元天寶遺事、醉輿〕申王每ㇾ醉、即使下宮妓將ニ錦綵一結中一兜子上、呼曰ニ醉輿一。〔宋史長編〕李昉言、工商庶人、聽ㇾ乘ニ兜子一、擔者不ㇾ得ㇾ過ニ二人一。㊁ tou¹ tzŭ ㋑左官職の使用するざる。㋺上海地方で婦人の被る頭巾の名。㋩財布。㋥衣嚢。ポケツト。

【兜嘴】6 tou¹ tsuei³ 饒舌な。多辯な。
【兜收】7 トウシュウ 横領する。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕有二兜收侵蝕需索違悞一。
【兜售】8 tou¹ shou⁴ 一手に販賣する。
【兜紗】9 tou¹ sha¹ ベール。veil
【兜繩】10 tou¹ shêng² 繩跳びする。
【兜侵】11 トウシン ちゆうどり。人民の租稅を組頭が横領着服すること。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕其兜侵派索。
【兜率】12 トソツ 佛梵語。Tuṣita の音譯。欲界六天の第四天、欲界の淨土。地上三十二萬由旬の所にあつて、彌勒菩薩が此處に居るといふ。兜率陀天。〔大藏法數〕梵語兜率、華言二知足一、謂下其於二五欲境一知中止足上。〔紫薇詩話〕秀實獨求レ生二兜率一。
【兜率巖】13 トソツガン 岩の名。湖南省資興縣の南。一名、靈巖。宋の謝巖に遊二兜率巖一記がある。〔輿地紀勝〕中有レ洞、方廣如レ堂、可レ容二百人一、泉水湧出、纍纍如二楊梅一然、亦名二楊梅堂一。〔方輿勝覽〕巖在二資興寨旁一、有二石像如レ僧十八一。
【兜率寺】14 トソツジ 寺の名。㊀河北省房山縣の西南、上方山錦繡峯の下。一名、上方寺。各庵は皆此の寺に屬し、僧衆は一家をなして、他山の各寺が分立してゐるのと異なる。㊁四川省三台縣南の南山。隋の開皇中に建つ。〔王勃、梓州郪縣兜率寺浮圖碑〕兜率寺者、隋開皇中之所レ建也。〔杜甫、上二兜率寺一詩〕兜率知名寺、眞如會法堂。
【兜率天】15 トソツテン ㊀道家で太上老君の居る處をいふ。㊁佛欲界六天の第四天。兜率に同じ。兜術天。〔法華經、勸發品〕卽往二兜率天上・彌勒菩薩所一。
【兜率伽藍】16 トソツガラン 佛寺をいふ。〔西廂記、崔鶯鶯夜聽レ琴雜劇〕那裏怕三焚二燒了兜率伽藍一。
【兜率陀天】17 トソツダテン 佛欲界六天の第四天。兜率に同じ。〔起世經〕兜率陀天壽四千歲、化樂諸天壽八千歲。〔和漢三才圖會、天部、佛說三十三天、欲界〕六天、四天王天・忉利天・須燄摩天・兜率陀天・樂變化天・他化自在天、此天人有二睡眠飲食婬欲等之欲一、故名二欲界一。
【兜率內院】18 トソツナイヰン 佛彌勒菩薩の最後の住所釋迦如來も菩薩身の最後の生處として四千歲の間此に住し、此の生を終へて人間に下生して成佛す。天壽四千歲は人壽五十六億七千萬歲に當る。〔普曜經、一〕其兜術天有二大天宮一、名曰二高幢一、廣長二千五百六十里、菩薩常坐、爲二諸天人一敷二演經典一。
【兜搭】19 トウタフ 甚しく惑ふ。兜は惑ふ、搭は粘着して通ぜぬこと。〔通俗編、性情、兜搭〕楊升庵外集、氉氉、本夷人服名、上音兜、下音達、今人謂二性劣者一爲二氉氉一、七修類稿、挽踏取二桔槔一、取レ水之義、上以レ手挽而入、下以レ腳踏而出、謂三其展轉不二散釋一也、借喩三人難二理會一、按、二說倶牽強不經、當三但作二兜搭一、晉語、在レ列者獻レ詩使レ弗レ兜、注云、兜、惑也、搭、則粘附之義、多レ所二兜惑一、而搭住不レ解、意自顯然。
【兜肚】20 tou¹ tu⁴ はらがけ。むながけ。胸腹部を被ふやうに作つた衣。兜兜。抹胸。〔紅樓夢、三十六回〕白綾紅裡的兜肚。〔福惠全書、刑名部、人命下、驗各種死傷〕有二無行李包裹兜肚銀錢一。
【兜肚褲】21 tou¹ tu⁴ k'u⁴ 小兒の穿く褲で腹掛と連續したもの。寢冷知らず。
【兜兜】22 トウトウ ㊀鳥の名。〔澳門紀略〕老萬山有レ鳥、狀如二鴝鴿一而大、戴二青被翠一、自呼二其名一曰二兜兜一。㊁tou¹ tou¹ はらがけ。兜肚に同じ。
【兜貝】23 カブトガヒ うにの石灰質の外殼。「い鉢。
【兜鉢】24 カブトバチ ㊀兜の頭をおほふ部分。㊁緣の廣いかぶと。
【兜鉾】25 トウボウ かぶと。兜鍪に同じ。〔急就篇、三〕弓弩箭矢鎧兜鉾。〔注〕兜鉾、首甲也、古謂二之冑一。
【兜鍪】26 トウボウ かぶと。古は革を用ひ、後世は鐵を用ひて作る。兜牟。兜鞪。〔說文〕兜、兜鍪、首鎧也。〔書、費誓、傳〕言レ當下善簡二汝甲鎧冑兜鍪一施二汝楯紛一、無中敢不上レ令レ至。〔吳越春秋、闔閭內傳〕令下三百人皆被二甲兜鍪一、操二劍盾一而立上。〔後漢書、袁紹傳〕紹脫二兜鍪一抵レ地。〔吳志、太史慈傳〕得二策兜鍪一。〔事物紀原、戎容兵械部、兜鍪〕冑也、黃帝內傳所レ述、蓋玄女請レ帝製レ之以備レ身也、淮南子氾論訓曰、有下鍪レ頭而綣レ領以王二天下一者上矣、許愼注曰、蓋三皇所二以鍪一レ頭者、兜鍪帽也、則是黃帝之制、冑亦以二古鍪一レ頭之事一耳、故自レ古以二兜鍪一爲二首鎧之名一。
【兜鞪】27 トウボウ かぶと。兜鍪に同じ。〔廣雅、釋器〕兜鞪、謂二之冑一。
【兜攬】28 トウラン 一手に引き受ける。一手に占有する。獨占する。〔楊慈湖遺書〕此身乃天地間一物、不二必兜攬爲一レ己。
【兜攬生意】29 tou¹ lan³ shêng¹ i 商賣の注文を取る。商賣を一手に獨專する。
【兜離】30 トウリ ㊀匈奴の言語のさま。〔後漢書、列女、董祀妻蔡琰傳〕言兜離兮、狀窈停。〔注〕兜離、匈奴言語之貌。㊁夷狄の音樂の名。〔班固、東都賦〕僸佅兜離、罔レ不二具集一。〔注〕良曰、僸佅・兜離、四夷樂名。
【兜立】31 カブトタテ 昔、陣中で兜をかけて置いた具。長さ六尺、槍に似たもので、頂上に饅頭形の盤を置く。冑立。〔土岐家聞書〕冑立てあるべし。
【兜零】32 トウレイ のろしの火を燃やす籠。〔後漢書、光武紀下、修二烽燧一、注〕前書音義曰、邊方備二警急一、作二高土臺一、臺上作二桔皐一、桔皐頭有二兜零一、以二薪草一置二其中一、常低レ之、有レ寇卽燃レ火、擧レ之以相告、曰レ烽、廣雅曰、兜零、籠也。
【兜籠】33 トウロウ 籠の一種。あんだ。兜子(5)の㊀に同じ。〔稗篇〕兜籠、卽今兜子。〔唐書、車服志〕巴蜀婦人、出入有二兜籠一。
【兜下地】34 カブトシタヂ 頭の結髮を解いて、髮を亂したものの稱。かぶとした。亂髮。冑下地。
【兜呿羅】35 トカラ 西域地方の古の國名。其の位置はアム河の流域地方で、ボカラとアフガンの境であらう。兜佉勒。覩貨邏。吐火羅。Tokhara の音譯。
【兜術天】36 トジュツテン 佛欲界六天の第四天。兜率天(15)に同じ。兜率(12)を見よ。〔普曜經、一〕其兜術天有二大天宮一、名曰二高幢一。
【兜東西】37 tou¹ tung¹ hsi 品物を風呂敷に包み手に提げる。
【兜納香】38 トウナフカウ 香草の名。大秦國から出る。〔本草、兜納香〕集解、珣曰、案、廣志云、出二西海剽國諸山一、魏略云、出二大秦國一、草類也。〔魏略〕大秦國多二微木蘇合狄提迷迭兜納白附子熏陸鬱金芸膠薰草木十二種香一。
【兜人形】39 カブトニンギヤウ 五月の節句にかざる武者人形。冑人形。
【兜末香】40 トウマツカウ 香の名。〔香譜〕兜末香、本草云、燒去二惡氣一、除二病疫一。〔名香譜〕兜末香、漢武帝時、西王母降、焚二是香一也。
【兜羅錦】41 トウラキン 木綿の一種。娑羅樹の實から出る綿狀のものを織つて作る。中國西南方地方から產す。兜羅綿。兜羅毦。〔格古要論〕。〔諸蕃志、下、吉貝〕吉貝樹類二小桑一、云云、絮長半寸許、宛如二鵝毳一、有二子數十一、南人取二其茸絮一、以二鐵筋一碾二去其子一、卽以レ手握レ茸就レ紡、不レ煩二緝績一、以レ之爲レ布、最堅、厚者謂二之兜羅錦一、次曰二番布一、次曰二木棉一、又次曰二吉布一。
【兜羅毦】42 トウラジ 木綿の一種。兜羅錦の異名。〔翻譯名義集〕兜羅、亦謂二楊華一、或稱二兜羅毦一。
【兜羅綿】43 トウラメン ㊀娑羅樹から出來る柳絮のやうな白い綿。兜羅錦。〔本草、木綿〕集解、時珍曰、方輿志言、平緬出二娑羅樹一、大者高三五丈、結レ子有レ綿、紉レ綿織爲二白氎・兜羅綿一、此亦斑枝花之類。〔范成大、峨眉山行記〕雷洞左深崖萬仞、峯頂光明巖、所謂兜羅綿雲、亦多出二於此一。〔翻譯名義集〕兜羅綿、或云二妬羅綿一、妬羅、樹名、綿從レ樹生、因而並稱、如二柳絮一也。㊁トロメン 織物の名。舶來の毛布。古は綿絲に兔毛を交へて織る。今は毛を交へない。又、和製のもある。〔續膝栗毛〕先日の、とろめんの帶御受け下さるべく候。
【兜樓儲】44 トウロウチヨ 後漢、呼蘭若尸逐就單于(2-3471・・81)の名。
【兜樓婆香】45 トロバカウ 香木の名。高さ一丈に達し、葉は小さい薊に似て、香は頗る高い。〔楞嚴經、七〕壇前安二一小火爐一、以二兜樓婆香一煎二取香水一。

【兝】1387
1. tesikram
2. kung¹-li²
現重量の一單位。デシグラム。グラムの十分の一。特西克蘭姆の舊略號。標準制の公釐(略號、瓰)。瓰。

【兞】1388
1. milikram
2. kung¹-ssŭ¹
現重量の一單位。ミリグラム。グラム

の千分の一。密理克蘭姆の舊略號。標準制の公絲(略號、兞)。瓱。

【兡】1389 現ヘクトグラム。重量の一單位。百グラム。標準制の公兩の略號。海克脫克蘭姆。瓸。

【兛】1390 現キログラム。重量の一單位。千グラム。標準制の公斤の略號。瓩。

十畫

【兟】1391 シン 〔集韻〕疏臻切 眞

小篆 ❶すすむ。すすむさま。〔說文〕兟、進也、从二先。〔正字通〕兟、一曰、行貌。❷多いさま。兟兟。〔玉篇〕兟、兟兟、衆多貌。

解字 會意。先(人のすすみゆく意)を二つ合せて、進む意とする。

【兤】1392 グワン 〔集韻〕吾官切 寒

兔の子。〔集韻〕兤、兔子也。

【兠】1393 トウ 兜(1－1386)の俗字。〔中華大字典〕兠、兜俗字。

十一畫

【兡】1394 1. hek't'okram 2. kung¹-liang³ 現ヘクトグラム。重量の一單位。百グラム。海克脫克蘭姆の舊略號。標準制の公兩(略號、兡)。瓸。

十二畫

【兢】1395 ㊀キョウ コウ 〔集韻〕居陵切 蒸 ㄐㄧㄥ ching¹ ㊁キョウ ゴウ 〔集韻〕巨興切 蒸

小篆 ㊀❶つつしむ。いましめる。〔說文〕兢、一曰、兢、敬也。〔爾雅、釋訓〕兢兢、戒也。〔漢書、武五子、廣陵厲王胥傳〕祇祇兢兢。〔注〕師古曰、兢兢、愼也。❷おそれる。〔詩、大雅、雲漢〕兢兢業業。〔傳〕兢兢、恐也。❸わななく。うごく。うごかす。〔漢書、揚雄傳上〕入凌兢。〔注〕言寒涼戰栗之處也。〔太玄經、逃〕兢其股。〔注〕兢、動也。❹きそふ。もと䇘(1－1406)に作る。〔正字通〕䇘、兢本字。〔說文〕䇘、競也、从二兄、二兄競意、从丯聲、讀若矜。❺かたい。〔詩、小雅、無羊〕矜矜兢兢。〔傳〕言堅彊也。❻矜(8－23852)に通ず。❼競(8－25831)に同じ。〔左氏、宣、十六〕戰戰矜矜。〔詩、小雅、小旻〕戰戰兢兢。〔說文通訓定聲〕兢、愚按、䇘卽競字之誤體、許君並存之、偶未審究耳。㊁かたいさま。〔集韻〕兢、兢兢、堅彊皃。

解字 會意形聲。說文によれば二兄に從ひ丯は聲。故に二兄相きそひ爭ふ意とす。說文通訓定聲では競の誤體とす。又、一說として、丯は齒形を竹木に刻して約束のしるしとするものと解す。卽ち兄弟が丯をとつて相きそひ爭ふ意とす。〔說文通訓定聲〕兢、或曰、丯者、書契質劑各執一丯、故彊語相爭、云云、愚按、䇘卽競字誤體、許君並存之、偶未審究耳。

【兢畏】1 キョウヰ おぢおそれる。〔陸游、老學庵自規詩〕斯須失兢畏。

【兢戒】2 キョウカイ おそれいましめる。〔溫庭筠、上蔣侍郎啓〕有以單外而蘄末契者、君子之所兢戒。

【兢恪】3 キョウカク おそれつつしむ。〔柳宗元、上權德輿補闕溫卷啓〕竦魂慄股、兢恪危懼。

【兢悸】4 キョウキ おそれをののく。〔宋書、文帝紀〕顧已兢悸、何以克堪。

【兢兢】5 キョウキョウ ❶おそれいましめて愼しむさま。〔爾雅、釋訓〕兢兢、戒也。〔詩、小雅、小旻〕戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰。〔傳〕兢兢、戒也。〔國語、楚語下〕戰戰兢兢。〔史記、武帝紀〕兢兢焉懼弗任。❷堅彊なさま。〔詩、小雅、無羊〕矜矜兢兢、不騫不崩。〔傳〕矜矜兢兢、言堅彊也。

【兢兢業業】6 キョウキョウゲフゲフ おそれいましめて愼むさま。兢業。〔書、皐陶謨〕兢兢業業、一日二日萬機。〔傳〕兢兢、戒愼也。業業、危也。〔詩、大雅、雲漢〕兢兢業業。〔傳〕兢兢、恐也、業業、危也。

【兢懼】7 キョウク おそれる。兢懼に同じ。

【兢懼】8 キョウク おそれおそれる。兢懼。〔後漢書、明帝紀〕永覽前戒、竦然兢懼。

【兢惶】9 キョウクワウ つつしみおそれる。〔江總、爲陳六宮謝章〕兢惶並集。〔柳宗元、爲京兆府請復尊號第三表〕懇迫逾深、兢惶無措。

【兢敬】10 キョウケイ おそれつつしむ。

【兢業】11 キョウゲフ 兢兢業業の略。いましめ愼むさま。〔張九齡、賀雨晴狀〕明德自廣、兢業載懷。

【兢慙】12 キョウザン おそれはぢる。〔王安石、除平章事監修國史謝表〕終遜避之無繇、更兢慙於非據。

【兢悚】13 キョウショウ おそれるさま。〔潘岳、西征賦〕心戰懼以兢悚、如臨深而履薄。

【兢惕】14 キョウテキ おそれつつしむさま。〔大唐新語〕兢惕遽罷役。〔柳宗元、禮部爲百官上尊號第二表〕兢惕失圖。

【兢怖】15 キョウフ おそれる。恐怖(4－10552・34)に同じ。

【兢雄】16 キョウユウ 清、秋瑾(8－24940・91)の字。

【兢慄】17 キョウリツ おそれをののく。〔西京雜記、二〕見者莫不兢慄。

【⿱束儿】1396 ホク 僰(1－1134)に同じ。〔字彙補〕⿱束儿、同僰、見說文長箋。

【⿺儿京】1397 リヤウ 涼(2－1665)に同じ。〔字彙補〕⿺儿京、同涼。

【⿰克昔】1398 音未詳 卜兆の一。〔論衡、卜筮〕武王伐紂、卜之而龜⿰克昔。

【兞】1399 現ミリグラム。重量の一單位。標準制の公絲の略號。密理克蘭姆。瓱。

十三畫

【⿰兒男】1400 デウ 嬲(3－6831)に同じ。〔康熙字典〕⿰兒男、集韻、同嬲。

【⿱辟儿】1401 ヘキ 僻(1－1166)に同じ。〔說文長箋〕⿱辟儿、同僻。

【⿱坴儿】1402 リク 坴(4－7867)の譌字。〔字彙補〕⿱坴儿、同坴、見楊氏褍字韻寶。〔中華大字典〕⿱坴儿、按、說文屮部、宍、籀文作坴、此作⿱坴儿非。

【兙】1403 現デカグラム。重量の一單位。十グラム。標準制の公錢の略號。特卡克蘭姆。瓧。

十四畫

【⿰皀兆】1404 ゼウ ネウ 〔字彙補〕日嬌切 篠

とほい。〔五音集韻〕⿰皀兆、遠也。

【𨘥】1405 1. sent'ikram 2. kung¹-hao² 現重量の一單位。センチグラム。グラムの百分の一。生的克蘭姆の舊略號。標準制の公毫(略號、毬)。𨘥。

十六畫

【𧵳】1406 キヨウ 兢(1−1395)の本字。〔正字通〕𧵳、兢本字。

【𨘧】1407 タン 義未詳。〔字彙補〕𨘧、丁甘切、音丹。

【䴭】1408 現ミリヤグラム。重量の一單位。一萬グラム。標準制の公衡の略號。邁里克蘭姆。

十七畫

【𩿹】1409 ケン ゲン 〔字彙補〕何兼切 鹽 ひかる。〔字彙補〕𩿹、光也。

【𣀔】1410 現トン。重量の一單位。千キログラム。標準制の公鐓の略號。法噸。米突噸。

十八畫

【𨘫】1411 現クウイントル。キンタル。重量の一單位。百キログラム。標準制の公擔の略號。貴里特。

十九畫

二十二畫

【䕫】1412 クワウ 〔集韻〕苦晃切 養 あかるい。爌(7−19548)に同じ。〔集韻〕爌、明皃、或作レ爌。

【䨺】1413 ㊀フ 〔集韻〕芳遇切 遇 ㊁ハク ヒヤク 〔集韻〕匹陌切 陌

小篆 ㊀㊁はやい。趕(10−37161)に同じ。〔說文〕䨺、疾也、从三三兔一、闕。〔段注〕此闕、謂レ闕二其讀若一也、然其音固傳矣。〔玉篇〕䨺、急疾也、今作レ趕。

解字 會意。兔の字を三つ合した字。兔は走るのがはやい、それを三つ合して急疾(はやい)のさまとす。〔說文〕䨺、从三三兔一。〔段注〕與二三馬三鹿三犬三羊三魚一取レ意同、兔善走、三レ之則更疾矣。

【𠒎】1414 キユウ 義未詳。〔字彙補〕𠒎、香沖切、音趨。

入部

【入】1415 ジフ ニフ 〔集韻〕日執切 緝 ㊐ジユ ㄖㄨˋ ju⁴

小篆 ㊀いる。いれる。㋑はいる。いれる。〔說文〕入、內也、象二從レ上俱下一也。〔段注〕自レ外而中也、上下者、外中之象。㋺くる。こさせる。〔禮、喪服小記〕非二養者一、入二主人之喪一。〔注〕入、猶レ來也。〔戰國、齊策〕可三以令二楚王亟入一下東國一。〔注〕入、猶レ致也。〔史記、項羽紀〕爲レ我呼入。㋩あづかる。まじる。〔戰國、魏策〕令レ無三敢入之事一。〔注〕入、猶レ與也。㊁おちる。おとす。〔呂覽、任數〕煤炱入二甑中一。〔注〕入、猶レ墮也。㋭せめ下す。〔淮南子、脩務訓〕九攻而墨子九卻レ之、弗レ能レ入。〔注〕入、猶レ下也。㋬あたる。〔淮南子、主術訓〕譬猶下方員之不二相蓋一、而曲直之不中相入上。〔注〕入、中。㋣かへる。かへす。〔釋名、釋言語〕入、內也、內使レ還也。〔戰國、秦策〕齊女入レ魏。〔注〕入、還。㋠つかへる。〔南史、劉湛傳〕入レ朝委レ政。㋷つらぬく。透る。〔晉書、赫連勃勃載記〕射レ甲不レ入、即斬二弓人一。㋦死ぬ。〔莊子、庚桑楚〕出無レ本、入無レ竅。〔注〕入、死也。㋸流れこむ。〔左氏、僖、十九、注〕睢水受レ汴、疏〕凡水、首從レ水出、謂二之受一、流歸二他水一、謂二之入一。㋾うける。〔國語、吳語〕其臣箴諫以不レ入。〔注〕入、受也。㋻身投げする。〔呂覽、必己〕舟中之人、盡揚播入二於河一。〔注〕入、猶レ投也。㋕あてる。充當する。〔史記、蔡澤傳〕墾レ草入レ邑。〔注〕索隱曰、入、猶レ充也。㋵やる。嫁にやる。〔周禮、地官、媒氏〕凡娶二判妻一入レ子者。〔注〕鄭司農云、入レ子者、謂二嫁レ女者一也。〔戰國、秦策〕入二其社稷之臣於秦一。〔注〕入、納也。㋟ひたす。しほ。〔增韻〕入、沒也。〔周禮、考工記、鍾氏〕三入爲レ纁、五入爲レ緅、七入爲レ緇。㊁いり。收入。〔廣雅、釋詁三〕入、得也。〔禮、王制〕量レ入以爲レ出。㊂春秋の筆法。㋑他國を攻めて其の國城に侵入し、直ちに引上げて其の地を領有しないこと。〔公羊、隱、二〕入者何、得不レ居也。〔左氏、襄、十三〕不レ地曰レ入。㋺大城を取ること。〔左氏、文、十五〕獲二大城一焉、曰レ入レ之。㋩諸侯の國外に在る者が、國民の同意を得て復位すること。〔左氏、成、十八〕諸侯去二其國一、國逆而立レ之、曰レ入、以レ惡入曰二復入一。㊁國外に在る諸侯が國民の意志に反して復位すること。〔穀梁、莊、三〕入者、內弗レ受也。㊃漢字四聲の一。入聲(107)を見よ。㊄眞理をさとる。〔大乘義章〕證會、名レ之爲レ入。㊅いりがしら。漢字の部首の名。邦㊀いる。㋑かかる。費用を要する。㋺果物が熟する。㊁いり。なかみ。いりぐあひ。收入。

解字 指事。上から一つのものが下り、下方に入るに從つて兩分開大するさま。故にいる・いれるの意。說文通訓定聲によれば、上から幹が根を下し、根が分れて地に入るかたち、象形とす。〔說文通訓定聲〕入、內也、象二从レ上俱下一也、云云、當是象二艸木根入レ地形一、｜者其幹、岐者其根也。▽入(甲骨文)象形。入り口に象る。

【入帷】1 イレカタビラ 衣服などを箱に入れるとき包むひとへの帛。後には裏を附けたのもある。〔婚記、六〕白葵文入帷。

【入院】2 ニフヰン ㊀庭に入る。〔楊發、溪南書齋詩〕入レ院將レ雛鳥、攀レ蘿抱レ子猿。〔六部成語、刑部、入院、注解〕入二人家之庭一也。㊁佛禪僧が出世して某院に入る。㊂療治のために病院に入る。

【入營】3 ニフエイ 新兵が兵營にはいること。入隊。

【入營兵】4 ニフエイヘイ 新たに軍隊に入る兵。

【入衞】5 ニフエイ 皇居に入つてまもる。〔日本外史、源氏正記、源氏上〕安藝守平清盛、亦應レ召入衞。

【入液】6 ニフエキ 立冬後十日をいふ。液は液雨。〔本草、液雨水〕發明、時珍曰、立冬後十日爲二入

液ニ至ニ小雪ニ爲ニ出液ニ。

【入謁】7 ニフエツ 目上の人の居所に入ってお目にかかる。〔史記、酈食其傳〕酈生至入謁。〔唐書、王師範傳〕每ニ縣令至ニ具ニ威儀ニ入謁。

【入援】8 ニフエン 中に入ってたすける。〔周書、扇耆傳〕率ニ所領ニ入ニ援金陵ニ。

【入園】9 jù yuán 上海の錢業者で、其の組合の總公所に加入して居るもの。總公所は南園にあるから園といふ。

【入荷】10 ニフカ 港などに遠方から荷物の到着すること。

【入賀】11 ガ 入って祝賀を述べる。〔管子、輕重甲〕齊之北澤燒、火光照ニ堂下ニ、管子入賀ニ桓公ニ曰、我田野辟、農夫必有ニ百倍之利ニ矣。

【入海】12 ニフカイ ❶海の、陸に入り込んだ部分。入江。〔宇治拾遺物語、十一〕入海のはるかにさし入りたる。❷ニフカイ 海中に身投げをする。〔古今著聞集、五〕既に入海せんとしける時。

【入交】13 ニフカウ 姓氏。〔姓名錄抄〕。

【入江】14 エイリ 岸にいりこんだ海の部分。〔古事記、下〕くさか江の伊理延のはちす。

【入考】15 jù kǎo 及第する。合格する。

【入降】16 ニフカウ 降參して入朝する。〔史記、淮南衡山傳〕南越賓服、羌獎入獻、東甌入降。

【入校】17 ニフカウ 學校に入って生徒となる。

【入港】18 jù kǎng ❶相互の意思が接近して話しが合ふやうになる。❷ニフカウ 船などが港に入ること。

【入港稅】19 ニフカウゼイ 入港した外國船舶に賦課する稅。

【入項】20 jù hsiang 收入。入る金。入金。

【入格】21 ニフカク ❶或るかたにはまること。〔魏書、後廢帝安定王紀〕若入格檢覈、無名者、退爲ニ平民ニ、終身禁錮。❷jù kǒ 及第する。入殼。及格。

【入閣】22 ニフカク ❶唐宋時代、天子が政殿に入御することをいふ。〔事物紀原、朝廷注措部、入閣〕宋朝會要曰、唐敬宗始御ニ紫宸殿ニ、後唐天成初、又以ニ月望ニ入閣。❷明代、大官が文淵閣に入直して機務に預かることをいふ。〔明史、職官志一〕成祖卽位、特簡ニ解縉胡廣楊榮等一、直ニ文淵閣ニ、參ニ預機務ニ、閣臣之預ニ務自ニ此始ニ、然其時入ニ內閣ニ者、皆編檢講讀之官、不レ置ニ官屬ニ、不レ得ニ專ニ制諸司ニ。❸國務大臣に任ぜられて內閣に列すること。

【入學】23 ニフガク 初めて學問に志す。又、初めて學校に入る。入泮。〔周禮、春官、大胥〕春入ニ學、舍菜合舞。〔禮、王制〕凡ニ入ニ學以レ齒。〔後漢書、獻帝紀〕結童入ニ學、白首空歸。

【入學金】24 ニフガクキン 入學料として納付する金錢。

【入學試驗】25 ニフガクシケン 學校に入れるべき者を選ぶ爲に其の者の心身の適否を判別する考査。

【入學典禮】26 jù hsüeh tien lǐ 入學式。

【入閣】27 ニフカク ❶役所に入る。〔後漢書、巴肅傳〕縣令見ニ肅入レ閤、解ニ印綬ニ與俱去。❷室房に入る。入室。〔唐書、裴寂傳〕覩レ朝必引與同レ坐、入レ閤則延ニ臥內ニ。❸天子が、便殿に出御せられること。〔五代史、李琪傳〕唐故事、天子日御レ殿見ニ羣臣ニ、曰ニ常參ニ、朔望薦ニ食諸陵寢ニ、有ニ思慕之心ニ、不レ能レ臨ニ前殿ニ、則御ニ便殿ニ見ニ羣臣ニ曰ニ入閤ニ、宣政、前殿也、謂ニ之衙ニ衙有レ仗、紫宸、便殿也、謂ニ之閤ニ、其不レ御ニ前殿ニ而御ニ紫宸ニ也、乃自ニ正衙ニ喚レ仗、由ニ閤門ニ而入、百官俟ニ朝于衙ニ者、因隨以入見、故謂ニ之入閤ニ。

【入閤禮】28 ニフカフレイ 便殿に入って天子に謁見する禮。〔歐陽脩、問ニ劉原甫入閤儀ニ帖〕入閤之禮。

【入監】29 ニフカン ❶國子監に入學すること。〔清會典事例、國子監、官學規制〕康熙二十三年議准、琉球國陪臣子弟四人、赴レ京受レ業、均令ニ其入監讀書ニ。❷監獄に入る。入監油を見よ。

【入監油】30 イフカンユ 囚人が、入獄の時、獄官に贈る賄賂。〔還魂記、硬拷〕淨、扮ニ獄官ニ丑扮ニ獄卒ニ持ニ棍上、試喚ニ皋陶鬼ニ方知ニ獄吏尊ニ咄、淮安府解到囚徒那裏、生見擧手介、淨、見面錢、生、少レ有、丑、入監油、生、也無。

【入眼】31 ニフゲン ❶眼に入る。見える。〔陸游、縱筆詩〕關心似惟酒盞、入眼獨漁舟。❷④成就する。成功。〔下學集、態藝〕入眼、日本世俗、成就之義也。⑤ゲン 敍位に位階のみを錄した位記、又は除目に官のみを錄した文書に姓名を加筆すること。〔江家次第、二、敍位〕敍位入眼。〔中右記、康和四年正月二十三日、除目入眼。〕⑥イレいれ目。義眼をいふ。❸jù yen 目につく。氣に入る。

【入銜】32 ニフカン 位記・稱號等を書き込む。〔唐書、百官志一〕其後、改ニ易官名一、以ニ黃門侍郎郭待擧・兵部侍郎岑長倩等一、同ニ中書門下平章事一、平章事入銜、自ニ待擧等一始。〔白居易、重和ニ元少尹ニ詩〕南宮起請無ニ消息一、朝散何時得ニ入銜一。

【入京】33 ニフキヤウ 京に入る。〔徐照、登ニ歙山寺ニ詩〕一面門無レ水、東隅路入レ京。

【入竟】34 ニフキヤウ 國境に入る。入境。〔左氏、僖、二十六〕齊孝公伐ニ我北鄙ニ云云、公使ニ展喜犒レ師、使受ニ命于展禽ニ、齊侯未レ入レ竟、展喜從レ之。〔公羊、莊、十、犹者曰〕侵精者曰レ伐、注〕侵ニ責之ニ不レ服、推レ兵入レ竟、伐ニ擊之ニ益深、用レ意稍精密。

【入境】35 ニフキヤウ ❶國境に入る。〔王僧孺、南海郡求ニ士教ニ〕文擧下レ車寤ニ夢于根矩ニ、長孫入レ境明ニ發於龍丘ニ。〔唐書、李紳傳〕遷ニ宣武節度使ニ、大旱蝗不レ入レ境。❷官員が其の管轄すべき土地に入ること。〔六部成語、吏部、入境、注解〕官員已到ニ本任管轄之境ニ。

【入逆】36 ニフギヤク 入りむかへる。〔左氏、昭、元〕正月乙未、入逆而出、遂會ニ於虢ニ。

【入去】37 ニフキヨ 這入ってゆく。中へ入る。〔李頻、浙東獻ニ鄭大夫ニ詩〕幾時入去調ニ元化一、天下同爲ニ堯舜人ニ。

【入御】38 ニフギヨ 天子が奧御殿にいらせられること。出御(2－1811‥65)の對。〔尚書大傳〕古者、后夫人將レ侍ニ于君前一、息燭至ニ于房中一、釋ニ朝服ニ襲ニ燕服ニ、然後入御ニ于君ニ。

【入興】39 ニフキヨウ 興に入る。興の酣なること。

【入局】40 jù chü 賭博の仲間入りする。

【入金】41 ニフキン ❶總額の幾分の金を納めること。うちきんを入れる。又、其の金。〔宋史、食貨志下七〕有司請令ニ二分入金ニ。❷金錢を拂ひ込む。

【入禁】42 ニフキン 禁制の場所に入る。〔韓非子、內儲說上〕仲尼乃下ニ令曰、不レ救ニ火者、比ニ降北之罪ニ、逐ニ獸者、比ニ入禁之罪ニ。

【入覲】43 ニフキン 參內して天子に拜謁する。覲は見。〔詩、大雅、韓奕〕韓侯入覲、以ニ其介圭ニ入ニ覲于王ニ。〔傳〕覲、見也。〔白居易、論ニ于頓裴均ニ狀〕以ニ入覲ニ爲レ請、以ニ懇闕ニ爲レ名。

【入銀】44 jù yin ❶金を領收する。又、領收した金。入金。❷ニフキン 內金を入れる。

【入花】45 ハイレ 入れ花の茶びんご橋はこちこちと。❸發句・狂歌などの點料。

【入會】46 ニフクワイ ❶官吏の成績を成績表に記入する。會は大計で、三年每に官吏の成績を調査すること。〔周禮、秋官、小司寇〕歲終、乃命ニ其屬ニ入ニ會乃致レ事。〔注〕得ニ其屬之計ニ、乃令レ致ニ之於王ニ。❷會に加入する。會員となる。

【入會金】47 ニフクワイキン 會に加入する爲に納入する金錢。

【入會權】48 イリアヒ 町村の住民が、其の地方の慣習によって、一定の山林又は原野を、共同して使用收益し、又は處分をなし得る權利。

【入會漁業權】49 ニフクワイギヨギヨケン ❶數人共同して漁業する權利。❷他人の專用漁場に入って漁業し得る權利。

【入魁】50 ニフクワイ 星の名。九黑星。〔和漢三才圖會、天文、室〕入魁、在ニ北落東南ニ主ニ張禽獸之宮ニ也。

【入官】51 ニフクワン ❶官につく。役人になる。〔書、周官、學古入レ官、議レ事以制、政乃不レ迷。〔越絕書、越絕請糴內傳〕越王去ニ會稽ニ入ニ官於吳ニ。❷遺失物、又は相續人の無い民財を、官有とすること。〔唐律、斷獄、官司出入罪〕疏議曰、假有ニ入官蔭人及癈疾流罪ニ、前人合ニ贖入ニ者、亦以ニ贖論ニ。〔六部成語補、戶部、入官財物、注解〕入有ニ犯罪ニ、將ニ其所ニ有財物ニ、藉沒而入ニ之於官ニ也。❸孔子家語の篇名。

【入棺】52 ニフクワン 死體を棺に納める。入殮。〔榮華物語、十二、玉村菊〕入棺と云ふことしてぞおはしませ給ひける。

【入款】53 ニフクワン ❶懇意になる。入魂になる。〔唐太宗、幸ニ武功慶善宮ニ詩〕梯山咸入款、駕海亦來思。❷jù k'uan shu mu 收入金額。

【入款數目】54 jù k'uan shu mu 收入金額。受入金額。入金額。

【入關】55 ニフクワン ❶關中の地に入る。〔史記、齊悼惠王世家〕不レ如ニ使ニ我入關計一レ事。❷萬里長城から中國本部に入ること。

〔入關棧准單〕56 ju⁴ kuan¹ chan⁴ chuen³ tan¹ 保稅倉庫の保稅貨物入庫免狀。

【入教】57 ju⁴ chiao⁴ 耶蘇教の信者となる。

【入月】58 ニフゲツ ㊀月の中に入る。〔東方虬、蟾蜍賦〕稱二其異一則畫レ地成レ川、謂二其神一則登レ天入レ月。㊁月の入る所。地の果てをいふ。〔余靖、正覺寺記〕國家敷佑、四海出日入月、罔レ不二率服一。㊂婦人に月經が來ること。紅潮。來潮。〔王建、宮詞詩〕密奏君王知二入月一、喚レ人相伴洗二裙裾一。〔妝樓記〕紅潮、桃花癸水也、又名二入月一。

【入見】59 ニフケン 入朝してまみえる。〔史記、黥布傳〕召レ布入見。〔漢書、叔孫通傳〕所レ招客從二太子一入見。

【入獻】60 ニフケン 入朝して物を獻上する。〔史記、淮南衡山傳〕南越賓服、羌僰入獻。

【入言】61 ニフゲン 申入れる。〔漢書、蕭何傳〕秦御史欲二入言徵一レ何、何固請得レ毋レ行。

【入股】62 ju⁴ ku³ ㊀株主となる。株を買ふ。㊁株式又は合名會社に出資して入社する。

【入庫】63 ニフコ ㊀庫に入る。〔文同、織婦怨詩〕昨朝持入レ庫、何事監官怒。㊁ju⁴ k'u⁴ 船舶から貨物を陸上げした後、官の倉庫に入れる。

【入伍】64 ju⁴ wu³ 兵士が初めて入營する。軍隊に入る。兵士となる。入營(3)に同じ。

〔入伍生〕65 ju⁴ wu³ shêng¹ 軍事學校の學生。軍事當局から軍隊に派入し、軍士以下の勤務を實習せしめられる。

【入口】66 ニフコウ ㊀口に入れる。口に入れる。〔詩、大雅、烝民〕柔亦不レ茹、〔疏〕茹者、敢食之名、故取二菜之入一レ口、名爲レ茹。〔左氏、定、四〕(楚)昭王在レ隨、申包胥如レ秦乞レ師、立依二于庭牆一而哭、日夜不レ絶レ聲、勺飲不レ入レ口七日。㊁ju⁴ k'ou³ 輸入する。入港する。㊂イリクチ 出入りする所。〔狂言記、地藏舞〕此の宿の入口。

〔入口貨〕67 ju⁴ k'ou³ huo⁴ 輸入品。

〔入口袋〕68 ju⁴ k'ou³ tai 財布。

【入貢】69 ニフコウ みつぎをいれる。外國から貢物を奉る。臣服する。〔周禮、秋官、小行人〕令二諸侯春入貢、秋獻一レ功。〔韓非子、顯學〕敵國之君主、雖レ說二吾義一、吾弗二入貢而臣一、關內之侯、雖レ非二吾行一、吾必使二執レ禽而朝一。〔史記、周紀〕四方入貢道理均。〔漢書、文帝紀〕令三諸侯無二入貢一。

【入寇】70 ニフコウ 攻め來る。侵入する。〔胡銓、上二高宗一封事〕如二頃者醜虜陸梁、僞豫入寇、固嘗敗二之于襄陽一。

【入彀】71 ニフコウ 一定の法式に當てはまること。又、一定の法式に當てはめること。轉じて、人を籠絡すること。唐の太宗の故事。後世は、範圍內に入る、又、試驗に及第する意。彀は法式・程式。〔摭言〕唐太宗、貞觀中、私幸二端門一、見二新進士綴行而出一、喜曰、天下英雄入二吾彀中一矣。

【入告】72 ニフコク 事を上聞する。〔書、君陳〕爾有二嘉謀嘉猷一、則入告二爾后于內一。

【入國】73 ニフコク ㊀國に入る。又、國都に入る。入府。〔史記、晉世家〕文公恐二初入レ國、國人賣一レ己。㊁管子の篇名。

【入穀】74 ニフコク 穀物を收める。〔史記、平準書〕始令三吏得二入レ穀補一レ官。

【入獄】75 ニフゴク 獄に入る。入牢。〔漢書、朱博傳〕博詐得二爲レ醫入一レ獄、得レ見レ咸、具知二其所一レ坐罪。

【入魂】76 ジッコン・ジュコン 互に氣を知合つて、心やすいこと。懇意。〔源平盛衰記、三十五、高綱渡二宇治河一事〕木曾殿の入魂の郎等にはよもあらじ。

【入坐】77 ニフザ 坐にひき入れる。〔史記、蔡澤傳〕乃延入レ坐、爲二上客一。

【入塞】78 ニフサイ ㊀樂府橫吹曲の名。漢の高祖の時、戚夫人は此の曲を善くし、武帝の時、李延年の作曲があり、ついで北周の王褒、隋の何妥、唐の劉廷芝等に歌辭がある。〔樂府詩集、橫吹曲辭、出塞〕晉書樂志曰、出塞入塞曲、李延年造、曹嘉之晉書曰、劉疇嘗避二亂塢壁一、賈胡百數欲レ害レ之、疇無二懼色一、援レ笳吹レ之、爲二出塞入塞之聲一、以動二其游客之思一、於レ是、羣胡皆垂レ泣而去、按、西京雜記曰、戚夫人善歌二出塞入塞望歸之曲一、則高帝時已有レ之、疑不レ起二於延年一也、唐又有二塞上塞下曲一、蓋出二於此一。〔王褒、入塞〕戍久風塵色、勳多意氣豪、建章樓閣迥、長安陵樹高、度レ冰傷二馬骨一、經レ寒墜二節旄一、行當レ見二天子一、無レ假レ用二錢刀一。㊁詞牌の名。〔詞譜〕古樂府橫吹曲、有二入塞辭一、調名本レ此。

【入齋】79 ニフサイ 鳥山輔寬の號。鳥山芝軒（12－46634・・67）を見よ。

【入草】80 ニフサウ 中國の中原に入つてくるつまらない品物。五代の時、蜀の王衍が奇物の國外に持出されることを禁じ、奇物に非ずして持出される物を入草物といつた故事。〔五代史、李嚴傳〕初莊宗遣レ嚴以二名馬一入レ蜀、市二珍奇一以充二後宮一、而蜀法嚴禁下以二奇貨一出中劍門上、其非二奇物一而出者、名曰二入草物一、由レ是、嚴無レ所レ得而還、惟得二金二百兩・地衣・毛布之類一、莊宗聞レ之、大怒曰、物歸二中國一謂二之入草一、王衍其能免レ爲二入草人一乎、於レ是、決レ議伐レ蜀。

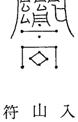
【入札】81 ニフサツ 工事の請負、又は物件の賣買等に於て、最も利益の多い價格の申出でをしたものと契約する爲に、多人數に見込みの價格を札に記入して申し出させること。入れ札。

【入棧】82 ju⁴ chan⁴ 海關用語。輸入稅未拂商品を保稅倉庫に入庫せしめること。

〔入棧憑單〕83 ju⁴ chan⁴ p'ing² tan¹ 商品の倉入れ證券。倉庫預けの證券。

【入山】84 ニフザン ㊀山に入る。轉じて、隱居して仕へないこと。〔高士傳〕遂入二深山一、莫レ知二其所一レ終。〔韓愈、上二宰相一書〕惟恐二入レ山之不一レ深、入レ林之不レ密。〔白居易、效二陶潛體一詩〕入レ山燒二黃白一、一旦化爲レ灰。㊁佛 出家すること。〔無量壽經、上〕棄二國財位一、入レ山學レ道。

〔入山符〕85 ニフザンフ 山に入るとき帶びると災害を免れるといふ護符。〔抱朴子、入山符〕抱朴子曰、上五符、皆老君入山符也、云云、凡人居二山林一、及暫入レ山、皆可レ用、卽衆物不二敢害一也。



入山符
（抱朴子）

〔入山信票〕86 ニフザンシンペウ 人參を產する山に入ることを許す證明書。參山に入る者には刨夫四人に付、入山信票と回山照票と各〻一帳を給することとなつてゐる。入山刨參を見よ。〔淸國行政法、財務行政、收入、蔘山收入〕參票、參票者、特准二採參一之文憑也、有二入山信票・回山照票一、有二引參護票一。

〔入山刨參〕87 ニフザンハウジン 參山に入つて人參を採取すること。〔淸會典、戶部、山東淸吏司〕凡刨レ蔘、官給以レ票、云云、凡刨夫入山者、皆定二其所一レ嚮與二其時一。〔注〕刨夫入山、皆以二信票一驗放。〔淸國行政法、財務行政、收入、蔘山收入〕蔘山、盛京有二額爾敏・哈爾敏二山一、吉林有二烏蘇里・綏芬・羅拉米・瑪延・英額東山・蒙古魯山六山一、每年以二春秋二期一、爲二入レ山刨レ參之期一、入レ山刨レ參之人、名曰二刨夫一、刨夫給以二參票一、回山徵、則徵以二參課一。

〔入山擒虎易〕88 ju⁴ shan¹ ch'in² hu³ i⁴ 山へ虎を捕りに行くのは易いが、口の利き方だけは容易なものでない。

〔入山不怕傷人虎〕89 ju⁴ shan¹ pu² p'a⁴ shang¹ jen² hu³ 山に入つても虎は怖くないが、ただ人情の反覆ほどおそろしいものはない。

【入子】90 ニフシ ㊀嫁入りさせる。〔周禮、地官、媒氏〕凡娶二判妻一入レ子者、皆書レ之。〔注〕鄭司農云、入レ子者、謂二嫁レ女者一也。㊁正禮無しに嫡妻に從ひ嫁ぐ媵姪娣を容れること。〔周禮、地官、媒氏、注〕玄謂、言レ入レ子者、容二媵姪娣不一レ聘之者一。㊂他人の子を子とする。〔周禮、地官、媒氏、義疏〕入レ子、謂下以二他人之子一爲レ子者上。

【入死】91 ニフシ 死ぬこと。〔老子、五十〕出レ生入レ死。

【入試】92 ニフシ 官吏を選用することで、貢擧・奏廕・攝署・流外・從軍の五種類がある。宋代の制。〔大學衍義補、正二百官一、公二銓選之法一〕宋制、凡入試、有二貢擧・奏廕・攝署・流外・從軍五等一。

【入齒】93 イレバ 齒のぬけた後に入れる人造の齒。

【入耳】94 ニフジ ㊀蟲の名。〔爾雅、釋蟲、蛝衙入耳、疏〕方言云、蚰蜒、自レ關而東謂二之蛝蜒一、或謂二之入耳一、云云、憙入二人耳一者也。㊁耳に入る。聞く。〔左氏、昭、二十〕太子建奔レ宋、王召二奮揚一曰、出二于余口一、入二于爾耳一、誰告レ建也。〔梁昭明太子、文選序〕譬陶匏異レ器、並爲二入レ耳之娛一、黼黻不レ同、俱爲二悅レ目之翫一。

〔入耳贓〕95 ニフジザウ 聞いただけで、未だ實行されてゐないまひなひ。〔瓠里子筆談〕宋黃葆光、以二侍御史一出中二處州一、有二里胥一、欲レ賂レ黃而無レ由、將レ因レ薪納レ之、俾二薪家僮導一レ意、薪叱曰、謹無レ

語、使ニ吾聞レ此、是入耳贓。

【入侍】96 ニフジ 入つて側にはべる。〔漢書、曹參傳〕參怒而笞レ之二百、曰、趣入侍、天下事、非ニ乃所レ當レ言也。〔孫楚、爲ニ石仲容一與ニ孫皓一書〕追ニ慕南越嬰齊入侍一。

【入時】97 ニフジ 時俗に合する。〔朱慶餘、近試上ニ張籍水部一詩〕粧罷低聲問ニ夫壻一、畫眉深淺入レ時無。〔蘇軾、紅梅詩〕自恐冰容不レ入レ時。

【入秋】98 ニフシウ 秋になる。〔白居易、寄ニ崔少監一詩〕微微西風生、稍稍東方明、入レ秋神骨爽、琴レ曉絲桐淸。

【入色】99 ニフシキ 出仕の人員に入る者をいふ。〔類聚三代格、十七、弘仁十三年三月廿七日、太政官符〕自ニ入色一至ニ初位一。

【入室】100 ニフシツ ❶室に入る。〔詩、豳風、七月〕曰爲ニ改歲一、入ニ此室一處。〔漢書、賈誼傳〕野鳥入レ室、主人將レ去。〔後漢書、鄭玄傳〕康成入ニ吾室一、操ニ吾矛一、以伐レ我乎。〔潘岳、悼亡詩〕望レ廬思ニ其人一、入レ室想レ所レ歷。❷廬舍から都邑に入居すること。〔禮、月令〕寒氣總至、民力不レ堪、其皆入レ室。〔孫希旦集解〕入室、謂下自ニ廬舍一而入中居於都邑上也。❸學問藝術等の奧義に達したこと。〔論語、先進〕子曰、由也升レ堂矣、未レ入ニ於室一也。〔集說〕堂、接ニ賓客一行ニ禮樂一之處、室、其奧也、以喩ニ道之源一。〔法言、吾子〕賈誼升レ堂、相如入レ室矣。〔孔子家語、弟子行〕蓋入レ室升レ堂者、七十餘人。❹人家の房內に侵入する。〔六部成語、刑部、入室、注解〕入ニ人家房內一也。❺人の妻となる。❻佛㋑師僧から奧儀を傳へられること。〔祖庭事苑〕五祖大師、至レ夜、密令下侍者於ニ碓坊一召ニ盧行者一入上レ室、遂傳ニ衣法一。㋺師僧の室に入つて弟子となること。㋩親王などが門跡となつて寺院に入らせられること。

【入室賓】101 ニフシツノヒン 室に入ることを許された人。特別に親しい間柄の人。〔晉書、王濛傳〕及ニ簡文帝輔レ政、益貴ニ幸之一、與ニ劉惔一號爲ニ入室之賓一。

【入社】102 ニフシャ ❶新たに社員に加はる。社は講中。〔剪燈餘話、武平靈怪錄〕難レ尋物外逃禪侶、罕レ遇橋邊入社翁。❷會社などの社員になる。

【入謝】103 ニフシャ 來つて謝すること。〔史記、甘茂傳〕韓襄王使ニ公仲侈入謝一。

【入相】104 ニフシヤウ ❶朝廷に入つて宰相となる。〔舊唐書、李德裕傳〕出將入相、三十年。〔賴山陽、謁ニ楠河州墳一有レ作詩〕出將入相位未レ班、前狼後虎事復艱。❷ju⁴ hsiang⁴ 劇場の戸。舞臺の下手にある戸をいふ。❸イリアヒ 日ぐれがた。日沒。〔伊勢物語〕今日のいりあひばかりに。

【入相鐘】105 イリアヒノカネ 夕方につくかね。晩鐘。〔枕草紙、十一〕いりあひのかねの聲。

【入掌】106 ニフシヤウ 物がわが手に入る。〔李白、贈ニ郭將軍一詩〕將軍少年出ニ武威一、入掌銀臺護ニ紫微一。

【入聲】107 ニツシヤウ 漢字の四聲の一。屋・沃・覺・質・物・月・曷・黠・屑・藥・陌・錫・職・緝・合・葉・洽の仄字十七韻で、音尾にツ・ク・フ・チ・キの聲あるものは、皆之に屬する。發音の調子が去聲に頗る類似して、兩聲共語尾の調子は下るが、去聲は哀遠で長く、入聲は短促で短い差あり、入聲を長く發音すれば去聲となる。入聲の k・t・p 尾は、入聲の短促した餘聲として添加せられたもので、實際上我が國のフ・ツ・クとは大差がある、極めて微弱な音であるから、著しく脫落し易い傾向がある。既に先秦時代に萌したものだが、漸次消滅して、今音は大多數去聲無尾韻に變化してゐる。先秦時代の詩韻に、去入通押の例が多いのはこの爲である。〔南齊書、陸厥傳〕以ニ平上去入一爲ニ四聲一。〔釋神珙、反紐圖譜〕入聲、直而促。〔康熙字典、分ニ四聲一法〕入聲、短急收藏。

【入城】108 ニフジヤウ 城に入る。城中に入る。城は、中國では都城(まち)をいふ。〔蘇軾、湖上夜歸詩〕入レ城定何時、賓客半在亡。〔陸游、題ニ書齋壁一詩〕是閒幽事君知否、莫レ怪經秋少レ入レ城。〔楊萬里、詩〕滿船兒女厭ニ江行一、我愛ニ江行一怕レ入レ城。

【入城治喪】109 ニフジヤウチサウ 淸代、高官が任地で死亡した時、其の本籍地の府城に入つて喪禮を治めること。此の時、京師では禮部から沿道の照驗を、兵部から驛馬人夫の使用券を給し、各省では任地の總督巡撫から手續をする。其の父母妻子の死亡も同一である。〔淸通禮〕。

【入寂】110 ニフジヤク 佛死ぬ。入滅(207)に同じ。歸寂。

【入手】111 ニフシユ ❶手に入れる。うけとる。入掌。受領。〔楊萬里、和ニ陸務觀見賀歸レ館之韻一詩〕君詩如ニ精金一、入手知ニ價重一。〔陸游、長歌行〕金印煌煌未レ入レ手、白髮種種來無レ情。❷着手する。手を入れる。始める。〔趙氏、孤兒〕俺二人文武不レ和、常有三傷ニ害趙盾之心一、爭奈不レ能ニ入手一。

【入塾】112 ニフジユク 塾舍に入つて寄宿する。塾生となる。

【入出】113 ニフシユツ 入ることと出ること。又、收入と支出。出入(2―1811・・302)に同じ。〔周禮、天官、大府〕以ニ貨賄之入出一會レ之。

【入身】114 イリミ ❶相撲の手の一。相手方に我が身を入れ込めて相手を倒す法。〔相撲傳書〕うはてのいりみ。❷白刃を取つて手向ふ者に、空手で立ち向ふ。

【入信】115 ニフシン ❶信用する。〔蕭子良、與ニ孔中丞一釋ニ疑惑一書〕栖心入信者前、良不レ無ニ此志一。❷ju⁴ hsin⁴ 信者となる。

【入津】116 ニフシン 船が港につく。入港。

【入津米】117 ニフシンマイ 船で集散市場に搬入せられた米。

【入神】118 ニフシン ❶巧妙の域に入る。靈妙の極に達する。〔易、繫辭下〕精義入レ神以致レ用也。〔江淹、雜體、嵇中散康言志詩〕處レ順故無レ累、養レ德乃入レ神。〔書斷〕李斯小篆入レ神、伯喈八分入レ神、崔瑗章草入レ神、張芝草行入レ神、元常隸行入レ神、八分入レ妙。逸少子敬、隸行草章飛白五體俱入レ神、八分入レ妙。〔李白、王右軍詩〕掃レ素寫ニ道經一、筆精妙入レ神。〔劉晏、戴竿詩〕樓前百戲競レ新、惟有ニ長竿妙入一レ神。❷ju⁴ shen² 一心不亂になる。氣を奪はれる。入味兒。

【入神之作】119 ニフシンノサク 神技と思はれるやうな傑出した創作品。〔陔餘叢考、四聲不レ始ニ於沈約一〕得ニ胸臆窮ニ其妙旨一、自謂ニ入神之作一。

【入水】120 ニフスイ ❶水に入る。〔莊子、大宗師〕入レ水不レ濡、入レ火不レ熱。〔列子、黃帝〕入レ水不レ溺、入レ火不レ熱。❷ジユスイ 身を水中に投じて死ぬ。みなげ。投身。〔顯廣王記〕安元二年八月十五日丁亥、桂河入水者十四人。

【入數】121 ju⁴ shu⁴ 帳簿に記載する。

【入征】122 ニフセイ 貢物を入れる。又、貢物。〔周禮、秋官、職金〕受ニ其入征一者、辨ニ其物之媺惡與ニ其數量一。

【入婿】123 イリムコ 娘のある家に婿となる。〔柿本氏系圖〕武士のがり入りむこして。

【入聖】124 ニフセイ ❶聖人の域に入る。〔參同契〕可ニ以煉レ丹、可ニ以入レ聖。〔宋无、憶レ舊寄ニ馮素之一詩〕傳レ經心入レ聖、用レ筆意凝レ神。❷佛ニフシヤウ 聖の位に入ること。聖とは斷惑證理の人をいふ。〔俱舍論、十八〕入レ聖得レ果、離レ染漏盡。

【入靜】125 ニフセイ 道家が一室に靜居して無思無慮の境地に入ること。〔資治通鑑、唐紀〕(僖宗、光啓三年)乘ニ其入靜一縊ニ殺之一。

【入贅】126 ニフゼイ 入婿となる。〔琵琶記、張公遇レ使〕如今入贅在ニ牛丞相府裏一。

【入石】127 イリシ 天武天皇の御代に副使として新羅に派遣せられた人。〔日本書紀、天武紀下〕四年秋七月癸卯朔己酉、小錦上大伴連國麻呂爲ニ大使一、小錦下三宅吉士入石爲ニ副使一、遣ニ于新羅一。

【入席】128 ju⁴ hsi² 宴席に卽く。規定の席次につく。

【入籍】129 ju⁴ chi² ❶他國に歸化して、其の國の戸籍に入る。❷ニフセキ 一家の戸籍に入る。

【入前】130 ニフセン 姓氏。〔和爾雅〕。

【入選】131 ニフセン 選に入る。えらばれる。當選。〔孔稚珪、爲ニ王敬則一讓ニ司空一表〕王基才勇、以ニ聲華一入選。

【入錢】132 ju⁴ ch'ien² 金錢を受取る。又、受取つた金。入金。

【入奏】133 ニフソウ 朝廷に參入して奏上する。〔國史略、二條天皇〕信西素善ニ天文推步一、當ニ白虹貫レ日、入奏。

【入息】134 ju⁴ hsi² 利益の入ること。收入。所得。

【入粟】135 ニフゾク 漢の文帝の時、鼂錯の議に本づいて、粟を邊境に輸送する者に爵を給したこと。今、俗に捐納を以て官を得ることをいふ。〔漢書、食貨志〕今募ニ天下入ニ粟縣官一、得ニ以拜レ爵、得ニ以除レ罪。

【入替】136 イレカヘ 物を入れかへる。〔大織冠、三〕盗まれた入れかへに。

【入隊】137 ニフタイ 軍隊に入つて兵士となる。〔宋史、食貨志上四〕鎭江都統司及武鋒軍、三處屯田兵、並拘收入レ隊教閱。

【入對】138 ニフタイ 宮中に入つて事を奏し、天子の問に答へる。〔宋史、眞宗紀〕置二諫官・御史各六員一、毎日一員奏レ事、有二急務一聽二非時入對一。

【入內】139 ジュダイ ❶皇后や女御が儀式を具へて內裏に入ること。〔孝亮宿禰記〕南座役人、今度就二女御入內一、罷出。❷ナイイ 外位から內位に入る。外從五位下から從五位下になる類。〔江家次第、二、敍位〕加階入內。

【入內雀】140 ニフナイスズメ 鳥の名。小形で嘴脚が共に灰色の雀。黃雀。

【入唐】141 ニフタウ 支那へ行く。入唐使を見よ。

【入唐使】142 ニフタウシ 古、我が國から唐に遣した使者。遣唐使（11－39052・41）に同じ。〔萬葉集、十九〕入唐使藤原淸河。

【入湯】143 ニフタウ 湯にはいる。入浴（217）に同じ。

【入黨】144 ニフタウ 一黨に加入すること。

【入道】145 ニフダウ ❶道德に進み入ること。〔新書、脩政語上〕求レ道者、不レ以レ目而以レ心、取レ道者、不レ以レ手而以レ耳、致レ道者以レ言、入レ道者以レ忠、積レ道者以レ信、樹レ道者以レ人。❷道士・女冠、又は僧・尼となること。〔魏書、釋老志〕京師沙門師賢、本罽賓國王種人、少入レ道。〔唐律、戶婚〕諸私入道、及度二之者一、杖一百。〔疏義〕謂レ爲二道士女冠僧尼等一。㊂㋑佛の道に入つた三位以上の人の稱。㋺坊主頭の人を罵つていふ語。

【入道親王】146 ニフダウシンワウ 法親王をいふ。〔釋家官班記、上〕入道親王。

【入道禪下】147 ニフダウゼンカ 入道した禪師。〔日本紀略、後篇、十三〕萬壽四年十一月十八日、中宮奉二爲入道禪下一被レ行二修法一。

【入宅】148 ニフタク 移轉。引越し。轉宅。〔輟耕錄、煖屋〕今之入宅與二遷居一者、鄰里醵レ金治レ具、過二主人一飮、謂レ之曰二煖屋一、或曰二煖房一。

【入地】149 ❶地に入る。〔易、明夷〕初登二于天一、後入二于地一。〔魏徵、唐故邢國公李密墓誌銘〕出天入地之奇、拔幟擁沙之策。❷死ぬこと。〔漢書、王嘉傳〕聖王斷レ獄、必先原二心定一レ罪、探レ意立レ情、故死者不レ抱レ恨而入レ地、生者不レ銜レ怨而受レ罪。〔後漢書、第五種傳〕臧旻上書訟レ之曰、願陛下無二遺須臾之恩一、令種有レ持二忠入レ地之恨一。㊂〔後漢書、韓韶傳〕以二此伏一レ罪、含二笑入レ地矣。

【入質】150 ニフチ ❶人質に入れる。〔史記、韓世家〕楚王聽二入二質子於韓一。❷ニフシツ 曾見の時、禮物を贈る。質は贄。委質（3－6181・66）に同じ。

【入紐】151 ニフヂウ 袍・直衣・狩衣などに雌紐と雄紐とを取合せて結ぶこと。〔古今和歌集、戀一〕いれひもの同じ心にいざ結びてん。

【入賬】152 jù4 zhang4 受領する。帳簿に記述する。口座へ記入する。

【入定】153 ニフヂヤウ 佛禪定に入る。心を或事に統一して正しい考へ方を得ることをいふ。轉じて、死滅の意。〔智度論〕入定、火水不レ能レ害、亦不二命終一。

【入場】154 ニフヂヤウ 其の場所に入る。〔東京夢華錄〕乘二獅豹一入場。

【入場券】155 ニフヂヤウケン 其の所持者が入場することの出來る切符。木戶札キドフダ。

【入場票】156 jù4 chǎng2 piào4 入場券。

【入場料】157 ニフヂヤウレウ 入場する權利を與へる爲に徵收する料金。入場錢。

【入直】158 ニフチヨク 入つて宿直する。又、勤務する。〔梁書、昭明太子傳〕官屬文武、皆入二直永福省一。〔杜甫、送二顧八分文學一詩〕三人並入直、恩澤各不二一一。

【入塵】159 ニフヂン 僧侶が俗人にかへること。還俗（11－39174・87）に同じ。

【入碇】160 ニフテイ 船が港に入る。入錨（196）に同じ。

【入朝】161 ニフテウ ❶屬國又は外國の使臣などが、來つて天子に謁見すること。參內。〔戰國、秦策〕應侯曰、善、乃延入坐爲二上客一。後數日入朝。〔史記、南越尉佗傳贊〕漢兵臨二境、嬰齊入朝。〔漢書、哀帝紀〕元延四年、入朝、盡從二傅相中尉一。〔高適、塞下曲〕畫二圖麒麟閣一、入二朝明光宮一。❷朝になる。〔埤雅、鸛〕入夜而歌、鳳入レ朝而舞。

【入超】162 ニフテウ 輸入超過の約。

【入潮】163 イリウシホ ひきしほ。退潮。〔新撰六帖、六〕いりしほの干潟。

【入奠】164 ニフテン 殯宮に入つて祭る。〔禮、雜記下〕有レ殯聞二外喪一、哭二之他室一、入奠、卒レ奠出、改レ服卽レ位、如二始卽レ位之禮一。〔疏〕入奠者、謂下明日之朝、著二己重喪之服一、入中奠殯宮及下其室上。

【入電】165 ニフデン 屆いた電報。又、電報が到着すること。

【入肚】166 jù dù 能く記憶する。教師が生徒に對して用ひる語。

【入土】167 ❶土に入る。苗などの植ゑられること。〔方夔、田家詩〕良苗已入レ土、田閒水沄沄。❷jù tǔ 埋葬する。

【入土爲安】168 jù tǔ wéi ān 土の中へ這入りさへすれば安樂だ。人間は死ぬ迄は苦勞が絶えないといふ諺。

【入等】169 ニフトウ 唐代、試驗に合格すること。〔唐書、選擧志〕吏部凡官員試判登レ科、謂二之入等一。其拙者、謂二之儗縗選一。〔通典、選擧典、歷代制下〕唐、佳者登二於科第一、謂二之入等一。〔容齋隨筆、唐書判〕唐銓選擇レ人之法、有二四、云云、凡試判登レ科、謂二之入等一。

【入頭】170 ❶門に入る。入門。〔朱子全書、道統、張子書〕若無二他說破一、則六經雖レ大、學者從二何處一入頭。❷jù tóu 劇調の進行上、胡琴が拉き出されたことをいふ。

【入德】171 ニフトク 德に入る。德を修める。〔朱熹、大學章句序〕子程子曰、大學、孔子之遺書、而初學入レ德之門也。

【入念】172 ニフネン 念入り。

【入農】173 ニフノウ 安藝國の地名。〔三代實錄〕。

【入波】174 ニフハ 大和國の地名。

【入破】175 ニフハ 樂曲が將に終らうとする時の合奏をいふ。破とは破碎の義で、其の聲が驟かに變じて繁碎となることをいふ。〔唐書、五行志二〕天寶後、詩人多爲二憂苦流寓之思一、及寄二興于江湖僧寺一、而樂曲亦多以二邊地一爲レ名、有二伊州・甘州・涼州等一、至二其曲遍繁聲、皆謂二之入破一。〔白居易、臥聽二法曲霓裳一詩〕朦朧閑夢初成後、宛轉柔聲入破時。

【入梅】176 ニフバイ つゆのいり。梅雨の季節に入ること。陽曆六月十日頃。〔四時纂要〕閩人以二立夏後逢レ庚入梅、芒種後逢レ壬出梅。〔癸辛雜識、芒種後壬日入梅、壬日所レ種花草、雖二至難レ活者一、亦皆活。

【入泊】177 ニフハク 船が港に碇泊する。

【入幕】178 ニフバク ❶とばりの中に入る。〔晉書、王祥傳〕祥性至孝、早喪レ親、繼母朱氏不レ慈、祥愈恭謹、母又思二黃雀炙一、復有二黃雀數十、飛入二其幕一、復以供レ母、鄕里驚歎、以爲二孝感所一致焉。〔孔稚珪、北山移文〕還飇入レ幕、寫霧出レ楹。❷幕僚となつて秘密に參與する。〔孫萬壽、詩〕郗超初入レ幕、王粲始從レ軍。〔駱賓王、上二裴侍郎一書〕擬人則多慙二阮瑀一、入レ幕則高謝二郗超一。〔蘇頲、命二姚崇等北伐一制〕光贊出レ車、弘宣入レ幕。

【入幕之賓】179 ニフバクノヒン 特別に親しい客。轉じて、機密の相談相手。〔晉書、郗超傳〕謝安與二王坦之一、嘗詣レ溫論レ事、溫令二超帳中臥聽一レ之、風動帳開、安笑曰、郗生可レ謂二入幕之賓一矣。〔世說新語、雅量〕桓宣武與二郗超一議二芟二夷朝臣一、條牒既定、其夜同宿、明晨起、呼二謝安王坦之一入、擲二疏示一レ之、郗猶在二帳內一、謝都無レ言、王直擲還云、多、宣武取二筆欲一レ除、郗不レ覺竊從二帳中一與二宣武一言、謝含レ笑曰、郗生可レ謂二入幕賓一也。

【入髮】180 イレガミ いれげ。そへがみ。〔唐船噺今國姓爺、中〕入れ髮して。

【入泮】181 jù pàn 童子が初めて入學して生徒となること。泮は泮宮で、學校の義。

【入班】182 ニフハン 一列に加はること。〔淸會典、刑部、刑部尚書〕秋審朝審、九卿詹事科道、各入レ班、以集二議於天安門外一。

【入費】183 ニフヒ つひえ。費用。

【入微】184 ニフビ 微に入る。微細にわたる。幽微なところに入る。〔班固、幽通賦〕精通二靈而感レ物兮、神動レ氣而入レ微。〔晉書、衞玠傳〕玠字叔寶、多病體羸、母恆禁二其語一、遇レ有二勝日一、親友時請二一言一、無レ不二咨嗟一以爲二入微一。〔晉書、葛洪傳〕洪精辯玄賾、析理入レ微。

【入不】185 ニフフ 外夷の國の名。〔三才圖會、人物、十二〕入不國有二城池種田一、出二胡椒一、至二應天府一行二三年。

【入夫】186 ニフフ いりむこ。贅壻。入夫婚姻を見よ。

〔入夫婚姻〕187 ニフフコンイン　法律上、女戸主の婚姻に因つて入り來つた夫をいふ。

【入府】188 ニフフ　㊀都府に入る。みやこいり。入京。〔蘇軾、自㆓徑山㆒回云宿㆓湖上㆒詩〕歸來不㆑入㆑府、卻走湖上宅。㊁諸侯が己の城地に赴任すること。くにいり。

【入峯】189 ニフブ　山伏が修行のため、山に入ること。

【入部】190 ニフブ　領內に入る。特に諸侯が己の領地に始めて入ること。入府。入國。〔東鑑、二十一〕建曆三年十月二十九日、山門使㆑入㆓部彼寺領㆒。

【入伏】191 ニフフク　土用に入る。

【入佛】192 ニフブツ　[佛]佛像を寺に迎へて安置する。

〔入佛供養〕193 ニフブツクヤウ　[佛]入佛のための法會。

【入文】194 イリアヤ　舞の手。一曲終つて、又舞ひかへすこと。〔源氏物語、若菜上〕いりあやをほのかに舞ひて。

【入幣】195 ニフヘイ　幣帛を贈る。〔周禮、地官、媒氏〕凡嫁㆑子娶㆑妻入㆑幣、純帛無㆑過㆓五兩㆒。

【入錨】196 ニフベウ　船が港に入る。いりふね。入碇。

【入輔】197 ニフホ　入つてたすける。〔傅亮、爲㆓宋公㆒求㆓加㆓贈劉前軍㆒表〕出征入輔。

【入木】198 ニフボク ジユボク　㊀木の中に入る。〔宋史、王榮傳〕榮善㆑射、嘗引㆑強注㆓屋棟㆒、矢入㆑木數寸、時人目爲㆓王硬弓㆒。〔陸游、夜聞㆓松聲㆒有㆑感詩〕夜深龍歸擘㆓祠門㆒、入木數寸留㆓爪痕㆒。㊁墨痕が祝版に三分（一說に七分）染み込んだといふ晉の王羲之の故事。轉じて、書道をいふ。〔書斷〕王羲之、晉帝時、祭㆓北郊㆒更㆓祝版㆒、工人削㆑之、筆入㆑木三分。〔事類賦〕逸少驚㆓入木之七分㆒。〔注〕晉世北郊祭文、帝命㆓王羲之㆒更寫㆑之、工人削㆑之、羲之筆已入㆑木七分。〔白居易、雞距筆賦〕故不㆑得㆓兔毫㆒、無㆔以成㆓起草之用㆒、不㆑名㆓雞距㆒、無㆔以表㆓入木之功㆒。㊂ギイレ　彫刻などで、うめ木をすること。

〔入木三分〕199 ju^4 mu^4 san^1 fen^1　筆力の強いこと。入木の㊁を見よ。

〔入木三分雖罵亦榮〕200 ju^4 mu^4 san^1 fen^1 suei^1 ma^4 i^4 jung^2　書も筆力雄勁で、晉の王羲之のやうに祝版に三分入るほどともなれば、とやかく批評され罵られても亦光榮である。轉じて、書物の中に自分のことを書かれるのは、たとへ、書いてある事實が惡口であつても光榮である。入木の㊁を見よ。

【入墨】201 イレズミ　㊀昔の刑罰で、肌に傷をつけ、墨を刺して目じるしとしたもの。〔御定書百箇條〕御仕置仕形之事、一、入墨。㊁身體のほりもの。㊂筆を加へること。〔雙生隅田川、二〕爰が眼と入れ墨。

〔入墨子〕202 イレボクロ　腕などに、人名などを細く入墨にしたもの。〔犬子集〕若衆の肌にいらぬ入れぼくろ。

【入沒】203 ニフボツ　㊀はいりしづむ。㊁死ぬ。

【入味】204 ju^4 wei^4　趣味を感ずるやうになる。

〔入味兒〕205 ju^4 mei^4 êrh　一心不亂になる。入神(118)の㊁に同じ。

【入迷】206 ju^4 mi^2　迷ひ込む。

【入滅】207 ニフメツ　[佛]死ぬ。入寂。〔大藏法數〕至㆑今未㆓入滅㆒。

【入門】208 ニフモン　㊀門に入る。〔儀禮、士相見禮〕主人揖入㆑門右、賓奉㆑贄入㆑門左。〔列子、天瑞〕精神入㆓其門㆒。㊁㋑師の門に入つて弟子となる。〔先哲叢談、伊藤東涯〕菅麟嶼、既入㆓徂徠門㆒、又心鄕㆓注東涯㆒。㋺初學の便に供する書物類。てびき。入門書。〔阮元、經解入門敍〕甘泉江君子屛、出㆓其所㆑著經解入門㆒以示㆑余。

〔入門資〕209 ju^4 men^2 tzŭ^1　市場などの入場料。

〔入門書〕210 ニフモンシヨ　初學者の便に供する爲の書物。入門の㊁の㋺を見よ。

【入問】211 ニフモン　召入れて質問する。又、入つて質問する。〔班固、典引〕召㆑臣入問。

【入夜】212 ニフヤ　夜になる。〔埤雅〕鸞入㆑夜而歌、鳳入㆑朝而舞。〔王勃、寒梧棲鳳賦〕遊必有㆑方、哂㆓南飛之驚鵲㆒、音能中㆑呂、嗟㆓入夜之啼鳥㆒。〔杜甫、春雨詩〕隨㆑風潛入㆑夜、潤㆑物細無㆑聲。

【入野】213 シホノ　大和國の地名。

〔入野屋〕214 ニフノヤ　姓氏。〔姓名錄抄〕。

【入輿】215 ニフヨ ジユヨ　貴人のこしいれ。嫁入り。

【入用】216 ニフヨウ　㊀いりよう。必要。〔北魏書、樂志〕因㆓天然之有㆒、爲㆓入用之物㆒。㊁ついえ。入費。

【入浴】217 ニフヨク　湯に入る。ゆあみ。入湯。〔山海經、海外西經〕西海有㆓黃池㆒、婦人入浴、出卽懷妊矣。

【入來】218 ニフライ ジユライ　來るの敬語。

【入牢】219 ニフラウ ジユラウ　牢に入る。入獄。

【入洛】220 ニフラク ジユラク　㊀都に入る。入京。洛は洛陽で、都の義。〔北魏書、叱列延慶傳〕後隨㆓爾朱榮㆒入㆑洛。㊁洛水に入る。〔華陽國志〕綿水出㆓紫巖山㆒、經㆓綿竹㆒入㆑洛。㊂京都に入ること。洛は中國の都、洛陽の意で、假りて我が國の京都をいふ。〔日本紀略、後篇、一、朱雀院〕天慶三年五月十五日庚辰、征夷大將軍參議右衞門督藤原朝臣忠文入洛。

【入理】221 ニフリ　㊀深遠な道理に入る。〔梁簡文帝、與㆓慧琰法師㆒書〕對㆓玩清虛㆒、既在㆓風雲之表㆒、游㆑心入㆑理、差多㆓定慧之樂㆒。㊁ju^4 li^3　天津地方に流行の一種の教理を奉ずる會に入ること。

【入流】222 ニフリウ　㊀品格ある一流儀に入る。〔南史、王僧虔傳〕謝靈運書乃不㆑倫、遇㆓其合㆑時、亦得㆑入㆑流。㊁一品より九品までの正式の官位に在る者。〔唐書、劉祥道傳〕今取㆑士多且濫、入流歲千四百、多也、雜色入流未㆓始銓汰㆒、濫也。㊂[佛]至覺の流に入る。〔金剛經〕須陀洹名爲㆓入流㆒、而實無㆑所㆑入。

【入立】223 イリタチ　㊀入り込むこと。〔枕草紙、十〕おほやけ所に入りたちする男。㊁昔、禁中の臺盤所に參入を許されること。〔十訓抄、上〕女房の、入立ちにてありし人。

【入臨】224 ニフリン　人の喪にのぞむ。〔禮、曲禮上〕望㆑柩不㆑歌、入臨不㆑翔。〔疏〕入臨不㆑翔者、謂㆘入㆓臨人之喪㆒、不㆖得㆓趍翔㆒。

【入寮】225 ニフレウ　㊀寄宿寮に入る。㊁學に就く。

【入斂】226 ニフレン　死體を棺に納める。納棺する。〔晏子、諫、下〕晏子令㆓棺人入斂㆒。

【入殮】227 ニフレン　納棺する。殮葬する。入斂に同じ。

【量㆑入】228 イルヲハカル　歲入を計る。量㆑入爲㆑出を見よ。

〔量㆑入爲㆑出〕229 イルヲハカリテイダスコトヲナス　收入額を量つて、支出額を定めること。〔禮、王制〕以㆓三十年之通㆒制㆓國用㆒、量㆑入以爲㆑出。〔魏志、衞覬傳〕計㆓校府庫㆒、量㆑入爲㆑出。〔歐陽脩、食貨志論〕量㆓其入㆒而出㆑之。

【入渠料】230 ニフキヨレウ　船渠使用料。

【入漁權】231 ニフギヨケン　法律用語。他人の專用漁業權に屬する漁場內に入會ひ、其の專用漁業權に屬する漁業の全部又は一部をなす權利。慣行により認められるものと、設定契約によるものとある。

【入計】232 ニフケイ　地方官が每年都へ會計の報告をすること。〔白行簡、李娃傳〕俾㆔外方之牧歲至㆓闕下㆒、謂㆓之入計㆒。

【入元結】233 イレモトユヒ　元結をしめ、更に其の上に結び飾る元結。昔、童子の髮を結ぶに用ひたもの。繪元結。

【入戶野】234 ニットノ　姓氏。〔日用重寶記〕。

【入在內】235 ju^4 tsai^4 nei^4　內へ數へこまれる。

【入市稅】236 ニフシゼイ　市に輸入する貨物に對して課する稅。

〔入市稅錢〕237 ニフシノゼイセン　市に入る者から徵收する稅金。〔北史、周宣帝紀〕大象二年、初稅㆓入㆑市者㆒、人一錢。

【入射角】238 ニフシヤカク　數學用語。入射線と入射點に立てた法線（曲線又は曲面上の一點に於てその點に於ける切線、又は切面に垂直な線）とのなす角をいふ。投射角。

【入射線】239 ニフシヤセン　物理學用語。波動が一物質から他物質に向つて進む方向の線。投射線。

【入蜀記】240 ニフシヨクキ　書名。六卷。宋、陸游撰。陸游が乾道六年閏五月十八日山陰を發し、十月二十七日夔州に至るまでの紀行文で、范成大の吳船錄と竝稱せられる。〔四庫提要、史、傳記類〕。
〔參考書〕【入蜀記注釋】二卷 大槻誠之撰。

【入之波】241 シホノハ　大和國の地名。

【入智惠】242 イレヂエ　他人から與へられた智惠。

【入舍女壻】243 ニフシヤヂヨセイ　妻の家に入る婿。入婿。贅壻。〔夷堅志〕饒州市隗千三名伯者、淳熙初年、贅㆓州門裏王小三家㆒、作㆓入舍女壻㆒。

【入上名字】244 ju^4 shang^4 ming^2 tzŭ^4　加入を申込む。

【入主出奴】245 ニフシユシユツド　異端の道にはいるものは、必ず聖人の學を奴としていやしむ。〔韓愈、原道〕入㆓于彼㆒、必出㆓于此㆒、入者主㆑之、出者奴㆑之、入者附㆑之、出者汙㆑之。

【入鐵主簿】246 ニフテツシユボ　判斷を能くする主簿。北齊の許惇の故事。〔北齊書、許惇傳〕許惇任二司徒主簿一、以二能判斷一見レ知、時人號爲二入鐵主簿一。

【入內醫官】247 ju⁴ nei⁴ i¹ kuan¹　奧醫者。侍醫。

【入八分公】248 ニフハチブンコウ　清朝の爵位の名。八分(**2-1450‥481**)の❸を見よ。〔皇朝政治學問答〕天命閒立二八和碩貝勒一、議二國政一、各置二官屬一、錫賚惟均、故曰二八分一、天總後、親王餘子封レ公、及有二過降レ至レ公者、不レ入二八分一、其有レ功、功加至二貝子一、准レ入二八分一。

【入不進去】249 ju⁴ pu chin⁴ ch'ü　這入られぬ。這入つてゆけない。

【入不敷出】250 ju⁴ pu⁴ fu¹ ch'u¹　支出が收入を超過する。收支相償はぬ。

【入品用蔭】251 ニフホンヨウイン　父祖の功勳によつて官に任命せられる。〔宣和遺事、前集上〕道職、自二沖和殿侍宸一、至二凝神殿校經一、凡十一等、侍宸同二待制一、檢籍同二修撰一、校經同二直閣一、皆給二告身印紙一、經二道錄院磨勘一、功過注授、加官左遣、入品用蔭、如二命官法一。

【失レ入失レ出】252 イルヲウシナヒイヅルヲウシナフ　裁判で中正を失ふこと。入は罪を重くする、出は罪を輕くする。〔唐書、徐有功傳〕武后召詰曰、公比斷レ獄多失レ出、何耶、對曰、失レ出臣小過、好レ生陛下大德、后默然。〔宋史、查陶傳〕陶持レ法深刻、用レ刑多失レ中、前後坐二罰金一百餘斤、皆以レ失レ入無二誤出者一。〔金史、高德基傳〕有二犯レ罪當レ死者一、宰相欲レ從二末減一、德基曰、法無二二門一、失レ出猶レ失レ入也。

【入則孝出則弟】253 イリテハスナハチカウイデテハスナハチテイ　內にあつては父母に孝行を盡し、外に出ては長上の人に從順にして逆ふやうなことがない。〔論語、學而〕子曰、弟子入則孝、出則弟。

一畫

【亼】1416 シフ　亼(**1-345**)の譌字。〔正字通〕亼、六書有レ亼無レ亼、舊註亼同レ亼、非。

二畫

【亾】1417 バウ　亡(**1-287**)の本字。〔正字通〕亾、亡本字。

【內】1418

㊀ ダイ　ナイ　〔集韻〕奴對切　隊　乃　nei⁴
㊁ ゼイ　ネイ　〔集韻〕儒稅切　霽
㊂ ダフ　ナフ　〔集韻〕諾答切　合
㊃ ドツ

小篆

㊀ ❶**いる。いれる。**〔說文〕內、入也、从二冂入一、自レ外而入也。〔段注〕今人謂二所レ入之処一爲レ內、乃以二其引伸之義一爲二本義一也。〔禮、月令〕無レ不レ務レ內。〔注〕內、謂二收斂入レ之也。〔史記、范雎傳〕惡レ內二諸侯客一。〔注〕索隱曰、內、猶レ入也。❷**うち。**㋑なか。〔廣雅、釋言〕內、裏也。〔左氏、莊、十四〕國內之民、其誰不レ爲レ臣。〔漢書、文帝紀〕方內安寧。〔注〕內、中也。㋺あひだ。〔周禮、秋官、朝士〕凡士之治有二期日一、云云、期內之治聽、期外不レ聽。㋩おほうち。宮中。朝廷。〔韻會〕內、又天子宮禁、謂二之內一。〔周禮、天官、序官〕內宰。〔注〕內宰、宮中官之長。〔史記、汲黯傳〕以二數切諫一、不レ得レ留レ內、遷爲二東海太守一。㋥くにうち。〔漢書、賈捐之傳〕貧外虛レ內。㋭身うちの女。親戚の女。〔周禮、春官、序官〕內宗、凡內女之有レ爵者。〔注〕內女、王同姓之女、謂二之內宗一。〔儀禮、有司徹〕主人洗獻二內賓于房中一。〔注〕內賓、姑姊妹及宗婦。㋬いへ。室家。家事。〔禮、內則〕男不レ言レ內、女不レ言レ外。㋣へや。〔漢書、杜欽傳〕所二以助レ德理レ內。〔漢書、鼂錯傳〕築二室家一、有二一堂二內門戶之閉一。〔注〕張晏曰、二內、二房也。㋠妻妾。女色。〔左氏、襄、二十八〕以二其內實一遷二于盧蒲嫳氏一、易レ內而飮レ酒。〔注〕內實、寶物妻妾也。〔會箋〕易レ內之內、妻妾也。〔史記、扁鵲倉公傳〕病得二之酒且內一。〔孔子家語、曲禮子夏問〕好レ外者士死レ之、好レ內者女死レ之。㋷こころ。おもひ。〔潘岳、射雉賦〕內無二固守一。〔注〕爰曰、內、心也。〔鬼谷子、飛箝〕見二內外之祥一。〔注〕內、謂二情實一也。㋦はら。腹中。〔枚乘、七發〕扁鵲治レ內。㋸わたくし。〔太玄經、玄衝〕爭、士齊也、內、女懷也。〔注〕士齊、公之至也、女懷、私之至也。㋾ひそか。うちうち。〔漢書、翟義傳〕內謁徑入。❸**母。**禮記、內則の女子居レ內の轉義。內艱(64)を見よ。❹**したしむ。**大事にする。〔禮、大學〕外レ本內レ末。〔疏〕內、親也。❺**うしろ。**〔論語、鄉黨〕車中不二內顧一。〔皇疏〕內、猶レ後也。❻古は肉(**3-5857**)に作る。❼**姓。**〔萬姓統譜〕內、見二姓苑一。〔奇姓通〕內宣之、漢謀士。

㊁ ❶**兩水の合流するところ。**二川の落ちあふところ。汭(**6-17157**)に同じ。〔集韻〕汭、水相入也、或省。❷**ほぞ。**枘(**6-14552**)に通ず。〔周禮、考工記、輪人、注〕調二其鑿內一而合レ之。〔釋文〕內、依レ字作レ枘。

㊂ **いれる。**をさめる。納(**8-27264**)に通ず。〔集韻〕納、古作レ內。〔荀子、富國〕婚姻娉內、送逆無レ禮。〔注〕內、讀曰レ納。

㊃ **こえる。**ふとる。肭(**9-29305**)に通ず。〔楚辭、大招〕內鶬鴿鵠、味二豺羹一只。〔集注〕內、一作レ肭。

名乘　ウチ。タダ。ノブ。チカ。マサ。ミツ。

解字　會意。冂と入との合字。冂は覆、覆ふものは物の外部にあるから、入と合して外より其の內に入る意とし、轉じて、入る處、卽ち裏の意とし、外に對して內部をいふ。說文通訓定聲によれば、冂をHとし林外の遠界とす。卽ち遠界から入る義。故に外に對して內部をいふとす。〔說文通訓定聲〕內、入也、从レ冂从レ入、自レ外而入也、按、當レ从レH、林外曰レ坰、遠界也。〔說文、內、段注〕冂者、覆也、覆在レ外。

參考　內、一に內(**1-366′**)に作る。

【內奧】1 ナイアウ　內部。奧。〔左思、吳都賦〕徒觀二其郊隧之內奧、都邑之綱紀一。

【內惡】2 ナイアク　內密の惡事。〔漢書、平帝紀〕諸有レ臧、及內惡未レ發、而薦擧者、皆勿二案驗一。

【內案】3 ナイアン　內々の案文。〔吉部祕訓抄〕吉書署事、中少辨次第云、內案加二眞名一、正文加二草名一。

【內衣】4 ナイイ　下着・浴衣の類。〔和漢三才圖會、衣服類、浴衣〕內衣、出二于溫室經一。

【內意】5 ナイイ　したごころ。內心。〔梁武帝、淨業賦〕懷二貪心一而不レ厭、縱二內意一而自騁。

【內位】6 ナイヰ　❶外位(古、地方官に賜はつた位)に對して普通の位をいふ。〔式部省式、上〕外位不レ得レ列二內位上一。❷姓氏の高い者に賜ふ位。〔古今著聞集、六〕多は朝臣なるによりて內位に敍し。

【內憂】7 ナイイウ　❶國內の憂。外患(**3-5750**‥160)の對。〔國語、晉語六〕幸以爲レ政、必有二內憂一。❷中心の憂。內心憂へる。內部に於ける心配事。〔漢書、張安世傳〕安世素小心畏二忌巳一、內憂矣。❸母の喪。內艱(64)を見よ。

【內憂外患】8 ナイイウグワイクワン　國內で起る憂と、外國から攻められる患。〔左氏、成、十六〕范文子曰、唯聖人能外內無レ患、自レ非二聖人一、外寧必有二內憂一、盍レ釋レ楚以爲二外懼一乎。〔國語、晉語六〕且唯聖人能無二外患一、又無二內憂一、詎非二聖人一、不レ有二外患一、必有二內憂一、盍下姑釋二荊與レ鄭、以爲中外患上乎。〔管子、戒〕非レ有二內憂一、必有二外患一。

【內允】9 ナイイン　官名。唐、中允を改めて內允とす。

詹事府の屬。侍從禮儀・駁正啓奏を掌る。〔通典、職官典、東宮官、中允〕永徽二年、以二皇太子諱忠一改爲二內允一、太子遜レ位、而官復レ舊。

【內印】10 ナイイン 天皇の御璽。〔日本紀略、後篇、三、村上天皇〕天曆元年四月十九日甲戌、請二內印一、諸社神寶幷奉幣使符。

【內因】11 ナイイン 內部の原因。〔管子、侈靡〕不レ有レ私、所二以爲一內因一也。

【內蘊】12 ナイウン 心の內にたくはへ積む。〔北史、齊帝紀論〕外敷二文教一、內蘊二雄圖一。〔權德輿、祭二屯田柳郎中文一〕和易內蘊、發二乎文章一。

【內窑】13 ナイヨウ 青磁の一種。南宋の邵成章が作つた宋代官窯中の著名なもの。〔輟耕錄、窯器〕中興渡レ江有二邵成章提擧後苑一、號二邵局一、襲二故京遺製一、置二窯于修內一、司二造青器一、名二內窯一。澄泥爲レ範、極二其精製一、油色瑩徹、爲二世所一レ珍。

【內謁】14 ナイエツ ないないでおまみえする。奥向に取り入る。謁は請。〔漢書、翟義傳〕丞相史在二傳舍一、內謁徑入。〔注〕師古曰、內謁、猶二今之通名一也。

【內謁者】15 シナイエツヤ ●官名。漢、置く。少府の屬。宮中の雜事を掌る。〔漢書、宣帝紀〕內謁者令郭穰夜至二郡邸獄一。●藏人の唐名。〔運歩色葉集〕內謁者、藏人之唐名。

【內宴】16 ナイエン ●宮中で催す內々の宴。內燕。〔李庾、西都賦〕齒二羣臣於次座一、徵二公族於內宴一。〔五代史、蕭希甫傳〕有レ詔定二內宴儀一、問二希甫一、樞密使得レ坐否、希甫以爲二不可一。●王朝時代、正月二十一日頃、仁壽殿で催した宴。〔文德實錄、四〕仁壽二年正月己丑、復二弘仁遺美、所謂內宴者一。

【內緣】17 ナイエン ●佛意識內に諸法を分別すること。外緣(3－5750：45)の對。●內々の緣故。身內の續きあひ。〔江濃記〕私主の內緣を以て、御繕ひ有べし。●入籍の手續を履まない婚姻。

【內燕】18 ナイエン 內宴(16)の●に同じ。燕は宴。〔唐書、張直方傳〕每二內燕一、以二衣敝惡一、辭不レ赴。

【內苑】19 ナイエン 宮中の御苑。禁苑。〔晉書、呂光載記〕呂光僭卽二三河王位一、讌二羣臣於內苑新堂一。〔唐書、李軌傳〕修仁夜率二諸胡一入二內苑一。〔李商隱、茂陵詩〕內苑只知徵二鳳紫一、屬車無レ復插二雞翹一。

【內援】20 nèi² yuán² 內部から手引きする。傳二之宋之張三峰一。

【內園】21 ナイエン 宮中の御苑。禁園。〔王建、宮前早春詩〕內園分得溫湯水、二月中旬已進レ瓜。

【內園小兒】22 ナイエンショウジ 唐代、禁苑の中に居つて、天子に供奉する者をいふ。〔唐書、蔣玄暉傳〕朱全忠盡殺二左右黃門、內園小兒五百人一、悉以二汗兵一爲レ衞。

【內翁】23 nèi⁴ wēng¹ 岳父。しうと。夫の父。

【內應】24 ●ひそかに敵に應ずる。うらぎり。內通。內主。〔史記、酈生傳〕足下擧レ兵攻レ之、臣爲二內應一。〔漢書、五王傳〕朱虛侯東牟侯、欲レ從レ中與二大臣一爲二內應一、以誅二諸呂一。〔陳琳、檄二吳將校部曲一文〕將軍蘇游反爲二內應一。〔六部成語、兵部、內應、注解〕混二入敵人之中一、乘レ機以應二我軍一。●陰に助ける。〔漢書、谷永傳〕永自知有二內應一、展レ意無レ所二依違一。

【內屋】25 ナイオク 內部の室。奥まつた部屋。奥の間。〔李賀、秦宮詩〕桐陰永巷調二生馬一、內屋屛風生二色畫一。

【內河】26 ナイ 內地の河川。〔清國行政法汎論、官吏權利、郵金〕內洋內河飄歿者、減レ半給與。

【內河航行權】27 ナイカカウケン 國內河流を航行する權利。

【內家】28 ナイカ ●宮人。〔李賀、酬答詩〕行處春風隨二馬尾一、柳花偏打內家香。〔薛能、吳姬詩〕身是三千第一名、內家叢裏獨分明。●拳法の一。內家拳(31)に同じ。

【內家翁】29 nèi⁴ chia¹ wēng¹ 岳父。夫の父。

【內家官】30 ナイカクワン 侍從職。〔長生殿、禊遊〕內家官僅何緊。

【內家拳】31 ナイカケン 松溪の傳へた拳法の一。防禦を主としたもの。內功。〔寧波府志、松溪拳術〕蓋拳勇之術有二一、一爲二外家一、一爲二內家一。外家則少林爲レ盛、其法主二于搏一レ人、而跳踉奮躍、或失二之疎一、故往往得レ爲二人所一レ乘、內家則松溪之傳爲レ正、其法主二于禦一レ敵、非レ遇二困厄一則不レ發、發則所レ當必靡、無二隙可一レ乘、故內家之術爲二尤善一。〔稱謂錄、拳、內家〕小知錄云、拳勇有二內外家之稱一、外家起二於少林一、以レ搏二人爲一レ主、人亦得而乘レ之、內家則以レ靜制レ動、犯者應レ手卽仆、蓋傳二之宋之張三峰一。

【內我】32 ナイガ 佛身の自在天等を執して常一の主宰者となすを外我といひ、自らの身心を執して常一の主宰者があるとなすを內我といふ。〔大日經疏、七〕若行人不レ解二正因緣義一、而修二證諸禪一、必當レ計二著自心一、以爲二內義一、彼見二萬法因レ心而有一、則謂レ由二神我一生一、設令不レ依二內我一、必依二外我一、卽是自在梵天等也。

【內衙】33 ナイガ ●宮廷內の官署。〔北史、長孫晟傳〕煬帝引レ晟、委以二內衙宿衞知門禁事一。〔五代史、趙鳳傳〕術士周元約、以二相法一言二人事一多中、明宗爲二內衙指揮使一。●紫宸殿をいふ。〔宋史、宋庠傳〕儒雅練二習故事一、嘗從容論、及二唐入閣儀一曰、第三殿曰二紫宸殿一、謂二之上閤一、亦曰二內衙一。

【內界】34 ナイカイ 佛心意を內界とし、身體を外界とする。又、六界の中、識界を內界とし、地水火風空の五界を外界とする。

【內海】35 ナイカイ ●陸地と陸地との間に挾まれてゐる海。うちうみ。〔武備要略〕守二內海一次レ之。●口の小さい茶壺。

【內開】36 nèi⁴ kai¹ 公文書中に曰く。其の文の內容に曰く云云と。內載。

【內階】37 ナイカイ ●奥の階段。〔後漢書、延篤傳〕朝則誦二義文之易、虞夏之書一、歷二公旦之典禮一、覽二仲尼之春秋一、夕則消二搖內階一、詠二詩南軒一。●星の名。〔晉書、天文志上〕文昌北六星曰二內階一、天皇之階也。

【內交】38 ナイカウ 道士が龍虎の胎息によつて呼吸を行ふ術。內外丹(110)を見よ。〔夷堅志〕近有レ授二我內交法一者、每日子午時、運二龍虎氣一、相摩移レ時、美暢不レ減二房室之樂一、而無二所損一。

【內江】39 ナイカウ ●河の名。㋑湖北省枝江縣の東。揚子江は此處に至つて二つに分れ、百里洲の北に至るものを內江といふ。江陵縣の西南で外江に合して一となる。清一統志は禹貢の荊州の沱を內江とす。㋺四川省の境にあるもの。外江に對していふ。外江・內江には異說がある。〔清一統志〕元史河渠志以二沱瀆一爲二外江一、郫江爲二內江一、近志以二郫江一爲二外江一、流江爲二內江一、蓋自二成都一府一而言、則郫爲二內江一、沱瀆爲二外江一、自二成都一城一而言、則流江爲二內江一、而郫又爲二外江一、郫江實兼二內外之稱一也。㋩四川省の涪江の一名。內水。●縣名。隋、置く。四川省資中縣の東南。漢の資中縣の地。北周は中江水のほとりに中江縣を置く。故治は今の內江縣の西。隋の時、諱を避けて中を內と改め、今の治に移す。〔讀史方輿紀要、四川、成都府〕內江縣、府東南四百三十里、漢資中縣地。云云、隋曰二內江一、屬二資州一。〔唐宋因之、元省。〔清史稿、地理志〕四川、資州直隸州、縣四、內江。

【內考】40 ナイカウ 王朝時代、六年を經て黜陟ある官をいふ。外考(3－5750：72)の對。〔類聚二代格、十七、弘仁十三年三月二十六日太政官符〕養二活病者一者三十人以上、白丁入二於內考一、云云、外考入二內考一者減半。

【內行】41 ナイカウ ●平生家に居るときの行爲。家庭內に於ける操行。〔呂覽、下賢〕世多擧二桓公之內行一、內行雖レ不レ修、霸亦可矣。〔史記、五帝紀〕舜居二嬀汭一、內行彌謹。〔漢書、張湯傳〕湯至二大吏一、內行修、交二通賓客一、飲食於故人子弟一。〔戰國、韓策〕善爲二計者一、不レ見二內行一。〔注〕內行、謂二國中隱事一。●內庭の行走。行走(10－34029：328)を見よ。〔魏書、常山王遵傳〕卽拜二內行阿干一。㋺nèi⁴ háng² ㋑事に習熟せるものをいふ。玄人。專門家。外行(3－5750：73)の對。㋺同業。

【內行星】42 ナイカウセイ 太陽を中心として其の周圍を公轉する天體中、其の軌道が地球軌道の內に在るもの。水星と金星。內遊星。內惑星。

【內行章義之難】43 シナイカウギノナン 召滑が、內心には詐僞を懷き、表面には仁義を裝つて、難を楚に構へた故事。〔史記、子甘茂傳〕且王前嘗用二召滑於越一、而內行章義之難、越國亂。〔注〕索隱曰、召滑內心猜詐、外則佯章二恩義一、而卒包二藏禍心一、搆二難於楚一。

【內幸】44 ナイカウ 闈門內の寵幸。寵姬。〔後漢書、鄧皇后紀〕帝多二內幸一、博採二宮女一、至二五六千人一。

【內降】45 ナイカウ 宮中の命婦の手を經て降す勅書。

〔宋史、仁宗紀四〕(皇祐)二年、詔自レ今内降、指ニ揮百司ー、執奏毋ニ輒行ー、敢因緣干請者、諫官御史、察擧レ之。〔宋史、禮志二〕凡常祀ニ天地宗廟ー、皆内降、御封香、仍製ニ漆匱ー、付ニ光祿司農寺ー。

【内項】46 ナイカウ 數學用語。一つの比例式で第二・第三項をいふ。

【内剛】47 ナイガウ 内心が強い。〔柳宗元、答ニ周君巢ー書〕外柔而内剛。〔歐陽脩、再論ニ水災ー狀〕外柔内剛。

【内角】48 ナイカク 數學用語。二つの直線が一つの直線と會するとき、二線の内側にある角。又、三角形の外角に對して、其の内部の各角。〔新法曆書、因明篇第一、總論〕三角形之外角、與ニ相對之内兩角ー幷等。〔新法曆書、割圓篇第二、總論〕甲乙庚丁既平行、甲戊線截ニ二線於子ー、卽内外角等。

【内殼】49 ナイカク 内側にある介殼。

【内閣】50 ナイカク ㊀妻女の居る室。内閤。〔北史、魏邢邵傳〕邵與レ婦甚疏、自云、晝入ニ内閣ー、爲ニ狗所レ吠。㊁役所。内閣。〔劉長卿、觀ニ李湊所レ畫美人障子ー詩〕華堂翠幕春風來、内閣金屛曙色開。㊂官名。㋑祕書をいふ。〔魏志、王肅傳、注〕薛夏報レ之曰、蘭臺爲ニ外臺ー、祕書爲ニ内閣ー、臺閣一也、何不ニ相移ー之有。㋺明の成祖が卽位の初、翰林院から才識の士を拔き、文淵閣に入直して、專ら機密を典らしめ、之を内閣といつた。後、其の權勢が日に重く、世宗以後、内閣大學士の朝班は六部尙書の上に列するに至つた。淸朝になつてからは國家の最高機關となり、其の地位權力は他に比すべきものはなかつたが、軍機處の地位が增進するに及んで、内閣は殆ど虛器を擁するに至つた。其の職務は詔勅の立案及び頒布・諭旨又は批答の發送、上奏の檢閱、典禮の執行、御物の保管等の事を管掌する。〔明史、職官志〕大内常侍天子殿閣之下、避ニ宰相之名ー、又名ニ内閣ー、先レ是太祖承ニ前制ー、設ニ中書省ー、置ニ左右丞相ー。〔淸會典、内閣〕内閣大學士、滿洲二人、漢二人、協辦大學士、掌下議ニ天下之政ー、宣ニ布絲綸ー、釐ニ治憲典ー、總ニ鈞衡之任ー、以贊レ上理中庶務上、凡大典禮、則率ニ百寮ー以將レ事。㊃我が國では國務大臣を以て組織する合議制の國家機關。

【内閣侍讀】51 ナイカクジドク 官名。淸、置く。章奏などのことを掌る。古稱は中書檢正。〔皇朝通典、職官典、内閣〕侍讀、滿洲十人、蒙古漢軍漢人各二人、掌下勘ニ對本章ー檢中校籤票上。

【内閣總理】52 ナイカクソウリ 官名。民國の初に置く。大總統の政務を贊襄するを以て任となす。

【内閣文庫】53 ナイカクブンコ 我が國の内閣所藏の圖書を收藏してゐる文庫。東京都千代田區丸ノ内大手門内に在る。明治十七年十一月二十四日、太政官布達によつて創設す。當時、赤坂離宮内に在つた太政官の一隅に文庫を設け、文書局記錄課文書掛に於て之を管掌し、同時に宮内省及び各省・元老院・會計檢査院・修史館等より圖書を引き繼ぎ、册數約四十萬册あつた。同十八年十二月、内閣を創立してから、記錄局の下に圖書課を置く。二十二年、櫻田門内に書庫を新築し、藏書の一部を之に移したが、更に二十三年三月、内務省所管の千代田文庫を、二十四年三月、太政官文庫竝に宮内省より依託の紅葉山文庫の圖書を收む。其の後、紅葉山本の中、最も貴重なもの二萬九千九百五十六册を宮内省圖書寮に移管した。二十六年、記錄局を廢して記錄課を置き、内閣書記官室の所屬となる。四十四年、大手門内に文庫を新設し、其の十一月、一切の書を此處に收藏した。大正十四年三月末の調査によれば、凡て五十一萬七十九册、一萬一千九百二十二枚、七百三十軸あるといひ、其の種類は和漢洋に亙り、貴重な古書も少くない。

【内學】54 ナイガク ㊀讖緯の學。六經を外學(3―5750‥90)といふの對。〔後漢書、方術傳序〕自レ是習爲ニ内學ー、尙ニ奇文ー、貴ニ異數ー。〔注〕内學、謂ニ圖讖之書ー也、其事祕密、故稱レ内。〔晉書、葛洪傳〕後師ニ事南海太守鮑玄ー、玄亦内學、逆占ニ將來ー。〔資治通鑑、後漢紀〕順帝、永和二年、扶風田弱薦ニ同郡濮眞ー、博ニ通内外學ー。〔注〕東漢諸儒以ニ七緯ー爲ニ内學ー、六經爲ニ外學ー。㊁佛學。〔陳書、傅縡傳〕三論之興、日久矣、龍樹創ニ其源ー、除ニ内學之偏見ー、提婆揚ニ其旨ー、蕩ニ外道之邪報ー。〔嚴維、贈ニ崔子向ー詩〕新詩蹤ニ謝守ー、内學似ニ支郞ー。

【内閤】55 ナイカフ ㊀妻女の居る室。内閣(50)の㊀に同じ。〔福惠全書、保甲部、建築〕門左右兩扇内閤、倶用ニ乾粗木ー。㊁役所。内閣(50)の㊁に同じ。〔唐書、百官志二〕若仗在ニ紫宸内閤ー、則夾ニ香案ー分立。

【内奸】56 nei⁴ chien¹ 團體の内部に居る惡者で、團體を害せんとするもの。

【内函】57 nei⁴ han² 論理學用語。内包(443)に同じ。

【内陷】58 nei⁴ hsien⁴ 醫學用語。身體の内部に故障があつて熱が上つたり、忽ち下つたりし、譫言をいつたり、止めたりする病氣。内攻。

【内寒】59 ナイカン 腰背の痛む疾。〔史記、倉公傳〕濟北王侍者韓女病、要背痛ニ寒熱ー、衆醫皆以爲ニ寒熱ー也、臣意診レ脈曰、内寒、月事不レ下也、卽竄以レ藥旋下、病已、病得下之欲ニ男子ー而不上レ可レ得也。

【内閒】60 ナイカン ㊀兵法の五閒の一。敵國の官人で志を得ざる者を利用して閒諜とすること。〔孫子、用閒〕内閒者、因ニ其官人ー而用レ之。〔杜佑注〕因ニ其在レ官失レ職者ー、若ニ刑戮之子孫、與ニ受罰之家ー也、因ニ其有レ隙、就而用レ之。㊁家内の世話をする人。〔剪燈餘話、滿天花燭記〕忽内閒傳レ命、索ニ催粧詩ー甚急。

【内感】61 ナイカン ㊀心に感じた事がら。〔棗據、雜詩〕引レ義割ニ外情ー、内感實難レ忘。㊁内的經驗。反省。

【内監】62 ナイカン ㊀宦官の異稱。唐代、宮中に内侍監を置き、宦官を以て其の官に任じた。〔王建、宮詞〕聖人生日明朝是、私地教ニ人屬ニ内監ー。㊁監獄の名。淸代、強盜斬殺等の重罪犯人を入れた所。〔淸會典事例、太常寺、掌事、守護内監〕守護内監、順治初年定、設ニ守護壇廟内監ー、屬ニ太常寺管轄ー、太廟首領内監一名、内監二十九名。

【内翰】63 ナイカン ㊀宋代、翰林學士をいふ。内相。翰林學士(9―28780‥52)を見よ。〔宋史、王旦傳〕内翰得レ官幾日。〔事物紀原、法從淸望部、内翰〕唐百官志曰、開元二十六年、改ニ翰林供奉ー爲ニ學士ー、別置ニ學士院ー、其後選用益重、號爲ニ内相ー、又陸贄傳、贄入ニ翰林ー、雖下外有ニ宰相ー主中大議上、而贄常居レ中、參ニ裁可否ー、時號ニ内相ー、則是其稱自ニ陸贄ー始也、由レ此今亦呼ニ翰林學士ー爲ニ内相ー、亦曰ニ内翰ー。㊁淸代、内閣中書をいふ。中翰。〔淸會典事例、吏部、官制、内閣〕二年、以ニ翰林官ー分隸ニ内三院ー、稱ニ内翰林ー。

【内艱】64 ナイカン 母の喪。内憂。〔五代史、李琪傳〕其兄珽丁ニ内艱ー、貧無ニ以葬ー。〔小名錄〕司馬暠、幼有ニ志性ー、十二丁ニ内艱ー、水漿不レ口、殆將ニ一旬ー。〔國朝漢學師承記、王鳴盛〕尋丁ニ内艱ー歸、遂不ニ復出ー。〔六部成語、吏部、丁ニ内艱ー注解〕母死丁レ憂、曰丁ニ内艱ー。

【内鑒】65 ナイカン 内をかへりみ察する。反省。〔陸雲、九愍〕申ニ修誠ー以砥レ節、反ニ内鑒ー而自求。

【内含】66 ナイガン ㊀内にふくむ。〔南史、劉遵傳〕内含ニ玉潤ー、外表ニ瀾淸ー。〔朱熹、詩〕塵慮紛難レ到、神光暖内含。㊁論理學用語。外延に屬する事物の、共通に有すべき概念の本質的性質をいふ。内包。

【内氣】67 ウチキ 氣質の遠慮深いこと。物事を控目にする氣質。小心。〔河東節、禿萬歲〕枝も鳴らさぬうちきはいやよ。

【内氣配】68 ウチキハイ・ナイキハイ 相場の後場の大引から翌日の前場までの取引所外に於ける人氣値段。又は休日等の翌日の相場の豫想。

【内記】69 ナイキ ㊀中務省の屬官。大・中・少に分れ、詔勅宣命の起草を掌る。〔職員令〕中務省、云云、大内記二人、中内記二人、少内記二人。〔職原抄〕内記、唐名、内史局、又云ニ柱下ー。㊁禪宗の僧職。書狀侍者。〔敕脩百丈淸規、四〕住持專柄ニ大法ー、無レ事ニ文字ー、取ニ元戎幕府署ニ記室參軍之名ー、於ニ禪林ー、特請ニ書紀ー、以職レ之、猶存ニ書狀ー、列ニ於侍者ー、使レ司ニ方丈私下書問ー、曰ニ内記ー。

【内記室】70 ナイキシツ 唐の紅線(8―27243‥223)の異稱。唐の節度使薛嵩の婢となり、經史に通じてゐたので嵩の書記を掌つたことからかくいふ。〔海錄碎事、人事、奴婢〕唐潞州節度使薛嵩青衣紅線、通ニ經史ー、掌ニ牋表ー、號ニ内記室ー。甘澤謠。

【内規】71 ナイキ 内々のさだめ。内約。

【内旗】72 ナイキ 淸の制度で、八旗を上三旗と下五旗とに分け、更に内外の二旗に分ち、内旗に屬する者を包衣といふ。包衣は滿洲語で、忠實奉公の義。〔淸國行政法汎論、内務府、備考〕大ニ別

八旗、爲二上三旗及下五旗、各旗又分二内外一、内旗之於二帝室一比二之外旗一。

【内機】73 ナイキ 内治の機微。江淹、雜體、許徵君自序詩「張子闇二内機一、單生蔽二外像一。〔注〕向曰、張殺是闇二内治之幾微一、單豹是不レ明二外治之法一。」

【内諱】74 ナイキ ❶婦人をいふ。〔晉書、王述傳〕爲二揚州刺史一、初至、主簿請レ諱、報曰、亡祖先君、名播二海内一、遠近所レ知、内諱不レ出レ門、餘無レ所レ諱。〔宋書、謝弘微傳〕弘微本名密、犯二所繼内諱一、故以レ字行。❷國内・家内の惡を諱む。〔公羊、宣、元、公子遂如二齊逆一レ女、注〕有レ母言レ如者、緣二内諱一、無二貶レ公文一。

【内幹】75 nei4 kuei4 ❶商社の事務員の名で、文書の整理及び庶務を掌る係、倉庫管理事務を掌る係、會計及び金錢出納を掌る係の三部に分ける。❷店の奥の帳場。

【内儀】76 ギナイ ❶内々で評定する。又、内々の評定。内議。❷内々のこと。内證。〔三河物語、下〕内儀は昔親・祖父のすぎあひの如くなり。❸他人の妻。又、その敬稱。令閨。〔義殘後覺〕内儀に付いては萬づに恐れさせ給ひ。

【内丘】77 ナイキュウ 縣名。隋、置く。漢の中丘の地。河北省刑臺縣の北。〔讀史方輿紀要、直隸、順德府〕内丘縣、府北五十五里、漢置二中丘縣一、屬二常山郡一云云、隋改曰二内丘一、屬二邢州一。〔清史稿、地理志〕直隸、順德府、縣九、内丘。

【内疚】78 ナイキウ 内に省みてやましい。心がやましい。〔論語、顏淵〕内省不レ疚。〔集解〕包咸曰、疚、病也、内省無二罪惡一、無レ可二憂懼一。〔中庸〕君子内省不レ疚、無二惡於志一。〔陶潛、榮木詩〕我之懷矣、怛焉内疚。

【内殿】79 ナイデン 宮中に在る殿。〔公羊、僖、二〕馬出二之内殿一、繫二之外殿一爾。

【内廐寮】80 レウナイキウ 宮中の御廐一切のことを掌る役所。天平神護元年創置す。うちのうまやのつかさ。〔國史略、高野天皇〕改レ授刀衞一爲二近衞府一、始置二内廐寮一。

【内向】81 ナイカウ 内にむかふ。内嚮。〔後漢書、班固傳下〕匈奴變詐之國、無二内向之心一。〔蜀志、劉封傳〕翻然内向。〔孫楚、爲二石仲容一與二孫皓一書〕南中呂興、深親二天命一、蟬蛻内向、願爲二臣妾一。〔阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋〕廻首内向。

【内嚮】82 ナイカウ ❶内にむかふ。内向・内嚮に同じ。〔史記、太史公自序〕西極遠蠻、引レ領内嚮。〔漢書、司馬相如傳下〕父兄不レ辜、幼孤爲二奴虜一、係纍號泣、内嚮而怨。❷縣名。隋、置く。春秋、楚の析邑。西魏には、改めて中陽縣といひ、北周は、中嚮と改め、隋は、復、内嚮といふ。今の河南省淅川縣の東。〔讀史方輿紀要、河南、南陽府、鄧州〕内嚮縣、州西北百二十里、春秋時楚之析邑、云云、西魏又改曰二中陽縣一、後周郡廢、隋諱レ中、改曰二内嚮縣一、屬二析州一。〔清史稿、地理志〕河南、南陽府、縣十、内嚮。

【内嚮】83 ナイキャウ 内にむかふ。内向。〔白虎通、封公侯〕男生内嚮。〔揚雄、劇秦美新〕回レ面内嚮。

【内客】84 ナイカク うちわの客。〔運歩色葉集〕内客。

【内宮】85 ナイキウ ❶周代、後宮で夫人以下の居る處。内第。〔周禮、天官、内宰〕會二内宮之財用一。〔注〕計二夫人以下所用財一。〔疏〕以レ其云二内宮一、是摠二六宮之内所レ有財用一、皆會計之、故鄭云レ計二夫人以下所レ用財一也。〔左氏、襄、二十八〕陳須無以公歸、稅レ服而如二内宮一。❷ グウイ 伊勢の皇大神宮の稱。外宮（3－5750‥124）の對。〔神名祕書〕村上天皇御宇、祭主公節之時、皇大神者、奥坐之故、號二内宮一。

【内虚】86 ナイキョ ❶内部の衰へたこと。〔木華、海賦〕茫茫橫流、含形内虚。❷病名。内體が病んで脈の病まないもの。〔傷寒論、平脈法〕人病脈不レ病、名曰二内虚一、以無二穀神一、雖レ困無レ苦。❸草の名。やまひらぎ。黃芩（12－47926‥217）の異名。〔本草、黃芩、釋名、内虚。〕

【内擧】87 ナイキョ 身うちの者を官に推薦する。縁故ある者を採用する。内稱。〔左氏、襄、二十一〕祁大夫外擧不レ棄レ讎、内擧不レ失レ親。〔史記、晉世家〕外擧不レ隱レ仇、内擧不レ隱レ子。〔杜牧、賀二崔大夫崔正字一詩〕内擧無二慚古所一レ難。

【内御】88 ナイギョ 女官の名。女御（3－6036‥57）の別名。〔儀禮、既夕禮〕其母之喪、則内御者浴。〔列子、湯問〕與二盛姬内御一並觀レ之。〔管子、五行〕命二左右・土師・内御一。〔注〕謂二内侍之官一也。

【内御子】89 ウチノミコ 内親王。

【内曲】90 ウチ ❶味方のうち。❷ないない。内密。

【内局】91 ナイキョク ❶ひかへめ。清代、大醫に屬して藥を製した所。〔清會典事例、大醫院〕内局修二製藥餌一、本院官診視。

【内金】92 ウチキン 總金高の内の若干金。

【内勤】93 ナイキン 内部で勤務する。外勤（3－5750‥132）の對。

【内襟】94 nei4 chin1 したまへ。襟。

【内供】95 ナイグ 古、宮中で御齋會を行はせられる時、内道場に供奉して、讀師となり、又、夜居の僧ともなる僧。諸國の名僧を選抜して任じ、其の數は十人。内供奉僧。〔職原抄、僧官位、内供。〕

【内供奉】96 ナイグブ 宮廷の内道場の護持僧。三綱の一。寶龜二年置く。定員が十人であることから十禪師といふ。後世は、名のみで實職がない。内供。供奉。〔庭訓往來、十月〕聖道者、云云、内供奉。

【内具】97 ナイ 婦人が舅姑に仕へる道具。〔周禮、天官、内司服〕后之喪、共二其衣服一、凡内具之物。〔注〕内具、紛帨線纊鞶褽之屬。〔疏〕知二内具之物一、是紛帨線纊鞶褽之屬一者、案二内則一婦事二舅姑一、有二紛帨線纊鞶褽一、故死者入レ壙、亦兼有二數物一、言二之屬一者、案二内則一更有二刀礪小觿之等一、故云二之屬一以摠レ之也。

【内空】98 ナイクウ なかが虚しい。〔管子、幼官〕凡物開レ靜形二生理一、合二内空周外一。「語。

【内火】99 ナイクワ 内火艇に同じ。海軍で使用する略。

【内火艇】100 ナイクワテイ 内燃機關で走る船。

【内卦】101 ナイクワ 内卦外卦を見よ。

【内卦外卦】102 ナイクワイクワ 易の卦の下三爻を内卦といひ、上三爻を外卦といふ。〔易、乾、本義〕乾者、健也、陽之性也、本注乾字、三畫卦之名也、下者内卦也、上者外卦也。〔易、履、九二、履レ道坦坦、疏〕在レ幽而貞、宜二其吉一者、以二其在二内卦之中一、故云在レ幽也。〔左氏、僖、十五、蠱之貞風也其悔山也、注〕内卦爲レ貞、外卦爲レ悔。

【内科】103 ナイクワ 身體内部の病を治療する醫術。外科（3－5750‥145）の對。〔醫學入門〕如欲レ專二小科一、則亦不レ可レ不レ讀二大科一、欲レ專二外科一、亦不レ可レ不レ讀二内科一。

【内踝】104 ナイクワ 骨の名。下肢下端の内側に見られる骨の突起をいふ。足と下肢骨との間の關節の脫臼を防ぐ爲に存す。うちくるぶし。〔說文、踝、足踝也、段注〕按、踝者、人足左右骨隆然圜者也、在レ外者謂二之外踝一、在レ内謂二之内踝一。

【内潰】105 ナイクワイ 内部がやぶれる。内部からやぶれる。〔皇甫謐、三都賦序〕漢室内潰、四海圮裂。

【内壞】106 ナイクワイ 内部からくづれやぶれる。〔日本政記、宇多天皇論〕如レ是數次、國有レ不二内壞一者乎。

【内外】107 ナイグワイ ❶うちとそと。うちと。〔左氏、襄、三十一〕衞詩曰、威儀棣棣、不レ可レ選也、言二君臣上下、父子兄弟、内外大小皆有二威儀一也。〔荀子、彊國〕内外上下節者、義之情也。❷人情などのからまつた事柄。〔鬼谷子、飛箝〕見二内外之祥一、知二有無之數一。〔注〕内、謂二情實一也。

【内外學】108 ナイグワイガク 六經を外學といひ、讖緯を内學といふ。〔資治通鑑、後漢紀〕順帝、永和二年）扶風田弱薦二同郡灃眞一、博二通内外學一。〔注〕東漢諸儒、以二七緯一爲二内學一、六經爲二外學一。

【内外宮】109 ウチトノ 伊勢の内宮と外宮。〔新古今和歌集、神祇〕内との宮に君をこそ祈れ。

【内外丹】110 ナイグワイタン 道家の語。金石を烹鍊することを外丹といひ、龍虎の胎息によつて呼吸することを内丹といふ。〔蘇軾、送二蹇道士歸一廬山一詩〕綿綿不レ絶微風裏、内外丹成一彈指。〔注〕道家以二烹二鍊金石一爲二外丹一、龍虎胎息、吐レ故納レ新、爲二内丹一。

【内外儲】111 ナイグワイチョ 韓非子の内儲說・外儲說の二篇をいふ。〔史記、韓非傳〕作二孤憤・五蠹・内外儲・說林・說難、十餘萬言一。〔注〕索隱曰、内外儲、按二韓子一、有二内儲外儲篇一、内儲、言二明君執レ術以制二臣下一、制レ之在レ己、故曰二内也、外儲、言下明君觀二聽臣下之言行一、以斷中其賞罰上、賞罰在レ彼、故曰二外也、儲二畜二事一、所謂明君也。

【内外典】112 ナイゲテン 佛家で、佛教の經典を内典

といひ、儒道の經書を外典といふ。〔二教論〕救形之教、稱爲ㇾ外、濟神之典、號爲ㇾ內、智度有㆓內外兩經㆒。

【內外傳】113 ナイグヮイデン 本傳とそれ以外の傳。書の精蘊のものを內傳といひ、稍〻粗雜のものを外傳といふ。㊀韓詩の內傳と外傳。〔史記、儒林、韓生傳〕韓生推㆓詩之意㆒、而爲㆓內外傳數萬言㆒。〔漢書、藝文志〕韓詩內傳四卷、外傳六卷。㊁左氏傳を春秋內傳といひ、國語を春秋外傳といふ。〔論衡、案書〕國語、左氏之外傳也。〔史通、內篇、六家〕國語家者、其先亦出㆓於左丘明㆒、旣爲㆓春秋內傳㆒、又稽㆓其逸文㆒、纂㆓其別說㆒、分㆓周・魯・齊・晉・鄭・楚・吳・越八國㆒事起ㇾ自㆓周穆王㆒、終㆓於魯悼公㆒、列㆓於春秋外傳國語㆒、合爲㆓二十一篇㆒。〔宋史、藝文志一〕左丘明春秋外傳國語二十一卷。

【內外閑廏】114 ナイグヮイカンキウ 唐代に置いた內外のうまや。〔資治通鑑、唐紀〕(睿宗、景雲元年)兼㆓知內外閑廏㆒。〔注〕開元時、仗內六閑、曰、飛龍・翔麟・鳳苑・鵷鸞・吉良・六羣等六廏、奔星・內駒等兩閑、仗外有㆓左飛・右飛・左萬・右萬等四閑、東南內・西南內等兩廏㆒。

【內外完好】115 ナイグヮイクヮンカウ 身を修め事を行ふのに、完全無缺であること。〔韓愈、貞曜先生墓誌〕內外完好、色夷氣淸。

【內外相應】116 ナイグヮイアヒオウズ ㊀內外相呼應する。〔史記、晉世家〕我擊㆓其外㆒、楚誅㆓其中㆒、內外相應。㊁內情と外貌とが一致すること。〔韓非子、解老〕所謂方者、內外相應也、言行相稱也。

【內外之費】117 ナイグヮイノヒ 內外の費用。國內の費用と外に在る軍事の費用。〔孫子、作戰〕內外之費、賓客之用、膠漆之材、車甲之奉。〔十家註〕王晳曰、內謂㆓國中㆒、外謂㆓軍所㆒也。

【內外之分】118 ナイグヮイノブン 內と外との區別。己に在るものと外に存するものとの區別。〔莊子、逍遙遊〕定㆓乎內外之分㆒、辯㆓乎榮辱之竟㆒。

【內外傷辨惑論】119 ナイグヮイシャウベンワクロン 書名。三卷。金、李杲撰。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【內外服制通釋】120 ナイグヮイフクセイツウシャク 書名。七卷。宋、車垓撰。朱子の家禮の、服制の未だ備はらぬものを補ふ。〔四庫提要、經、禮類〕。

〔熟㆓讀內外科㆒不ㇾ如㆓臨症多㆒〕121 ナイグヮイクヮヲジュクドクスルハリンシヤウノオホキニシカズ 內外科の醫學書を熟讀するよりは、實地に診察することの多い方がよい。醫師には臨症の經驗が大切である事をいふ。

【內光】122 ナイクヮウ 五代吳越、錢朗(**11－40563**・・220)の字。

【內隍】123 ナイクヮウ 城內のからぼり。〔元史、張柔傳〕又遣㆓張信㆒、據㆓其內隍㆒、諸軍齊進。

【內黃】124 ナイクヮウ 縣名。漢、置く。戰國の魏の黃邑。今の河南省湯陰縣の東。〔史記、趙世家〕(趙肅侯)十七年、圍㆓魏黃㆒不ㇾ克。〔漢書、地理志上〕魏郡、縣十八、內黃。〔淸史稿、地理志〕河南、彰德府、縣七、內黃。

【內黃侯】125 ナイクヮウコウ 蟹をいふ。〔娛書堂詩話〕曾幾謝㆓路憲送ㇾ蟹詩云、從來歎賞內黃侯、風味樽前第一流、內黃侯甚新。

【內黃集】126 ナイクヮウシフ 鎭の名。河南省杞縣の東北の境。東北の二面は睢・蘭封二縣と接し、隴海鐵道が通じてゐる。

【內郭】127 ナイクヮク 城の內方のくるわ。うちぐるわ。

【內官】128 ナイクヮン ㊀宮中、又は京師に在勤して居る侍衞の臣。〔唐書、韋嗣立傳〕今朝廷重㆓內官㆒、輕㆓外職㆒。〔通俗編、仕進、內官外官〕漢書終軍傳、孤㆓于外官㆒、注、謂ㇾ非㆓侍衞㆒也、皆與㆘今在ㇾ京曰㆓內官㆒、在㆓各省㆒曰㆗外官㆖別。㊁宮中の女官。妃嬪嬙貴人美人等の屬。〔儀禮、公食大夫禮〕內官之士、在㆓宰東北㆒、西面南上。〔左氏、昭、三〕不腆先君之適、以備㆓內官㆒。〔國語、周語中〕內官不ㇾ過㆓九御㆒。〔注〕內官、九嬪。㊂宦官。

【內官家】129 ウチツミヤケ 上古、三韓に置かれた總督府。〔日本書紀、神功紀〕因以定㆓內官家屯倉㆒。

【內官廳】130 nei⁴ kuan¹ t'ing¹ 地方衙門の大堂の傍にある建物で、身分のある官吏が來つて長官に謁する時に住む場所。

【內官長丞】131 ナイクヮンチャウジョウ 官名。漢、置く。尺度などを掌る。〔漢書、百官公卿表〕平帝元始四年、更㆓名宗伯㆒、屬官有㆓都空令丞・內官長丞㆒。

【內患】132 ナイクヮン うちわの心配ごと。內憂。〔後漢書、陳蕃傳〕內患漸積、外難方深。

【內館】133 ナイクヮン 北京交民巷の玉河橋北邊に在つて、蒙古人の貿易した處。〔淸會典、理藩院、內館〕內館監督一人、外館監督一人、掌㆔監㆓察內外館之事㆒。〔注〕內館在㆓東長安門外玉河橋側㆒、以住㆓年班內札薩克各部㆒、外館在㆓德勝門外正黃旗敎場之北㆒、以住㆓年班外札薩克各部㆒。

【內關】134 ナイクヮン 內部の器官。〔史記、倉公傳〕肝氣濁而靜、此內關之病也。

【內觀】135 ナイクヮン ㊀反省する。內省する。〔列子、仲尼〕務㆓外游㆒、不ㇾ知ㇾ務㆓內觀㆒。㊁〖佛〗精神を收斂し、體氣を臍下丹田以下に集め、外界を忘れて專ら眞理を觀念すること。

【內君】136 ナイクン 人の妻に對する敬稱。ないぎ。令閨。內政。

【內訓】137 ナイクン ㊀婦人のをしへ。內敎。〔後漢書、班昭傳〕作㆓女誡七篇㆒、有ㇾ助㆓內訓㆒。㊁書名。一卷。明、仁孝文皇后撰。高皇后の撰とするは誤。凡そ二十篇。婦人に對する敎訓を述べたもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。㊂官省の長官から其の部下に申しわたす內密の訓令。內達。

【內裙】138 nei⁴ ch'ün² ゆもじ。ゆぐ。きやふ。

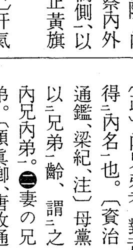
【內軍】139 ナイグン 唐の李密の作つた軍隊。身邊の護衞兵としたもの。〔唐書、程知節傳〕李密料㆓士八千㆒、隸㆓四驃騎㆒、分㆓左右㆒以自衞、號㆓內軍㆒、常曰、此可ㇾ當㆓百萬㆒。

【內郡】140 ナイグン 帝都に近くて、米粟の善く熟する郡。〔漢書、王莽傳中〕粟米之內曰㆓內郡㆒、其外曰㆓近郡㆒、有㆓障徼㆒者曰㆓邊郡㆒。〔後漢書、南匈奴傳〕十三年、龜又欲㆘徙㆓單于㆒、近㆗親於內郡㆖。

【內郡國】141 ナイグンコク 漢代、中國の中央部の郡國。〔漢書、宣帝紀〕詔㆓內郡國㆒、擧㆓文學高第各一人㆒。〔注〕韋昭曰、中國爲㆓內郡㆒、緣邊有㆓夷狄障塞㆒者爲㆓外郡㆒、成帝時、內郡擧㆓方正㆒、北邊二十二郡擧㆓勇猛士㆒。

【內兄】142 ナイケイ ㊀母方のいとこ。〔宋史、劉敞傳〕王堯臣其內兄也。㊁妻の兄。〔晉書、阮瞻傳〕內兄潘岳、每令ㇾ鼓ㇾ琴。〔梁書、韋叡傳〕內兄王澄。〔杜牧、走ㇾ筆送㆓杜十三歸ㇾ京詩〕應ㇾ笑內兄年六十、郡城閑坐養㆓霜毛㆒。

【內兄弟】143 ナイケイテイ ㊀母方のいとこ。舅(母の兄弟)の子。〔儀禮、喪服、舅之子、注〕內兄弟也。〔疏〕內兄弟者、對㆓姑之子㆒云、舅子本在ㇾ內、故得㆓內名㆒也。〔資治通鑑、梁紀、注〕母黨以㆓兄弟㆒齡、謂㆓之內兄內弟㆒。



㊁妻の兄弟。〔顏眞卿、唐故通議大夫云云顏君碑銘〕祖昭甫工ㇾ書、與㆓內弟殷仲容㆒齊ㇾ名。〔陔餘叢考、內兄弟〕儀禮、姑之子稱㆓外兄弟㆒、舅之子稱㆓內兄弟㆒、閻若璩云、今人稱㆓妻弟㆒爲㆓內弟㆒、非也、從㆓史記㆒當ㇾ稱㆓妻弟㆒、從㆓漢書㆒當ㇾ稱㆓婦弟㆒云云、然顏眞卿家廟碑銘云、祖昭甫工ㇾ書、與㆓內弟殷仲容㆒齊ㇾ名、父惟貞少孤、育㆓於舅仲容氏㆒、蒙㆓教筆法㆒、是仲容乃昭甫之妻弟也、而云㆓內弟㆒、則妻弟之稱㆓內弟㆒、自ㇾ唐已然。㊂內賓と宗婦とをいふ。內賓は父の姉妹、宗婦は族人の婦。〔儀禮、特牲饋食禮〕洗獻㆓內兄弟于房中㆒、如㆘獻㆓衆兄弟㆒之儀㆖。〔注〕內兄弟、內賓宗婦也。〔疏〕內賓、姑姉妹、宗婦、族人之婦、若然兄弟者服名、故號㆓婦人㆒爲㆓兄弟㆒也。

【內刑】144 ナイケイ 人の心に對する刑罰。〔莊子、列禦寇〕爲㆓外刑㆒者、金與ㇾ木也、爲㆓內刑㆒者、動與ㇾ過也。〔注〕靜而當、則外內無ㇾ刑。

【內計】145 nei⁴ chi⁴ 內譯。

【內徑】146 nei⁴ ching⁴ 差しわたし。內のり。

【內卿】147 ナイケイ 宮中を治める官。〔漢書、房鳳傳〕光祿勳王龔、以ㇾ外屬㆓內卿㆒。〔注〕如淳曰、卬成太后親也、內卿、光祿勳、治㆓宮中㆒。

【內景】148 ナイケイ ㊀金・水などの陰氣をいふ。光景の內蘊する意。內照。〔大戴禮、曾子天圓〕方曰ㇾ幽而圓曰ㇾ明、明者吐ㇾ氣者也、是故外景、幽者含ㇾ氣者也、是故內景、故火日外景、而金水內景。〔淮南子、天文訓〕水曰㆓內景㆒。〔注〕內景者、陰道含藏也。㊁道家の語。㋑陰神。〔黃庭內景經、注釋〕景者、神也、其經有㆓十三神㆒、皆身之內景名字。〔雲笈七籤〕陽爲㆓外景㆒、爲㆓外神㆒也、陰爲㆓內景㆒、爲㆓內神㆒也。㋺黃庭經の義疏、黃帝內景經をいふ。〔六一題跋〕黃庭經、今道藏別有㆓三十六章㆒、曰㆓黃庭內景㆒、所謂內景者、乃此經之義疏也。㊂淸、萬壽祺(**9－31339**・・596)の字。

【內經】149 ナイケイ 書名。素問(**8－27300**・・308)・靈樞の

兩書をいふ。〔漢書、藝文志〕黃帝內經十八卷、外經三十七卷。〔宋史、徽宗紀三〕置二內經道德經莊子列傳博士二員一。

【內慧】150 ナイケイ 心の敏慧なこと。〔宋史、度宗紀〕資識內慧、七歲始言、言必合レ度。

【內教】151 ナイケウ ㊀婦人のをしへ。內訓(137)の㊀に同じ。〔國語、齊語〕軍旅整二於郊一、內教既成。〔晉書、楊駿傳〕后妃之設、所下以供二粢盛一弘中內教上也。㊁禁中で教練すること。〔宋史、兵志九〕初置二內教法一、旬一御二便殿一閱レ武、校二程其能否一、而勸二沮之一。㊂道家又は佛家の經文。〔雲笈七籤〕其後分有二內教十卷一、卽昇玄之文。〔梁簡文帝、與二廣信侯重一述二內典一書〕慧思弘明、本長二內教一。㊃佛教をいふ。〔顏氏家訓、歸心〕釋四曰、內教多レ途、出家自是其一法耳。〔佛祖統紀、三九〕以二儒道九流一爲二外教一、釋氏爲二內教一。㊄nei⁴ chiao⁴ 事に熟達したもの。

【內教坊】152 ナイケウバウ ㊀唐の宮中に置かれた舞樂教習所。坐部伎(**3**—**4931**‥173)・立部伎(**8**—**25721**‥217)を見よ。〔唐書、百官志三〕武德後、置二內教坊于禁中一、武后如意元年、改曰二雲韶府一、以二中官一爲レ使、開元二年、又置二內教坊于蓬萊宮側一、云云、京師置二左右教坊一、掌二俳優雜技一。㊁古、我が禁中に置かれ、舞妓を置き、女樂・蹈歌を調習した所。〔續日本紀、二十二〕作二女樂於舞臺一、奏二內教坊蹈歌於庭一。

【內教坊預】153 ナイケウバウノアヅカリ 內教坊の屬官。婦女を以て之に補す。〔西宮記、十二〕內教坊頭預中臣靜子。

【內教坊別當】154 ナイケウバウノベツタウ 內教坊の長官。大納言・中納言を以て之に充てる。〔職原抄〕內教坊別當、知二女樂事一、大・中納言中、堪二其道一之人補レ之。

【內郤】155 ナイゲキ 國又は家のうちわもめ。內隙。內訌。〔史記、項羽紀〕夫將軍居レ外久、多二內郤一。

【內隙】156 ナイゲキ 國內、又は家內のなかたがひ。內郤・內訌(179)に同じ。

【內鬩】157 ナイゲキ うちわ同志で相せめぐこと。同志の爭。〔詩、小雅、常棣〕兄弟鬩二于牆一外禦二其務一、〔箋〕兄弟雖二內鬩一而外禦レ侮也。

【內頁】158 ナイケツ うらのひとひら。裏のページ。〔福惠全書、保甲部、保甲稽查〕內頁註二明某城廂、或某鄉第幾保、云云、保正某人一。

【內闕】159 ナイケツ 宮城內の門。〔公羊、昭、二十五、設二兩觀一注〕禮、天子諸侯臺門、天子外闕兩觀、諸侯內闕一觀。

【內業】160 ナイゲフ 管子の篇名。

【內見】161 ナイケン 內々で見る。下見をする。

【內卷】162 ナイケン 內に卷き藏する。境內を治める。〔晉書、載記序〕或篡二通都之鄉一、或擁二數州之地一、雄圖內卷、師旅外并。

【內眷】163 nei⁴ chüan⁴ ㊀婦人の親類。㊁自己の家族。㊂妻。

【內揵】164 ナイケン ㊀內にあつて物欲をおさへ閉ぢるもの。〔莊子、庚桑楚〕夫外韄者、不レ可二繁而捉一、將二內揵一、內韄者、不レ可二繆而捉一、將二外揵一。〔循本〕韄者以レ皮束レ物、制縛之意、揵者門杜、關閉之意、制二其外一者、繁多而不レ可二把捉一、則將二拒閉二之於內一、制二其內一者、謬亂而不レ可二把捉一、則將三拒閉二之於外一、內外韄者、其病如レ此。㊁鬼谷子の篇名。

【內檢】165 ナイケン ㊀田を點檢する。檢田。〔東鑑、十八〕建仁四年四月一日、駿河・武藏・越後等國國、重依レ可レ遂二內檢一。㊁內々で取調べる。

【內檢使】166 ナイケンシ 鎌倉幕府に於て、臨時に置かれた職名。收穫の時節、年の豐凶を巡察することを掌る。けみのつかひ。〔神護寺文書〕蟲損事、云云、可レ依二內檢使裁許一矣。

【內言】167 ナイゲン 婦女子の言葉。奧向きの言葉。〔禮、曲禮上〕內言不レ出二於梱一。

【內股】168 ウチマタ 股のうちがは。

【內股膏藥】169 ウチマタガウヤク 一定の見識なく、彼に從ひ、此に靡くものを嘲つていふ語。〔爲人抄、十〕內股膏藥なる臣。

【內庫】170 ナイコ 宮中にあつて、御物を收藏するくら。內藏。〔北史、魏孝文紀〕御府衣服金銀珠玉、內庫弓矢、出二其大半一。〔唐書、藝文志序〕貞觀中、魏徵・虞世南・顏師古、爲二祕書監一、請購二天下書一、選二五品以上子孫工レ書者一爲二書手一、繕寫藏二于內庫一、以二宮人一掌レ之。〔宋史、食貨志下一〕太祖以二帑藏盈溢一、又於二講武殿後一、別爲二內庫一。

【內顧】171 ナイコ ㊀首を回らして見る。ふりかへり見る。〔論語、鄉黨〕車中不二內顧一。〔集注〕內顧、回視也。〔三略、上略〕內顧則士卒淫。㊁家事上のことを考へる。妻子のことを氣にかける。〔漢書、楊僕傳〕失レ期內顧。〔注〕言レ思二妻妾一也。〔左思、詠史詩〕外望無二寸祿一、內顧無二斗儲一。

【內吳】172 ナイキ 姓氏。〔姓林全書〕。

【內護】173 ナイゴ 〔佛〕佛が定めた戒法。人の身心を持して三業の非を離れしめ菩提の果を生ぜしめるもの。〔三藏法數〕。

【內公】174 nei⁴ kung¹ 宦官。

【內公切線】175 ナイコウセツセン 數學用語。二圓に共通なる切線。共通切線。

【內功】176 ナイコウ 拳法の一。敵を防ぐことを主としたもの。內家拳(31)に同じ。

【內攻】177 ナイコウ ㊀內に向つて攻める。〔呂覽、不廣〕府庫盡二於葬一、此之謂二內攻レ之。〔宋書、劉勔傳〕竝向二壽陽一、勔內攻外禦、戰無レ不レ捷。〔唐書、突厥傳序〕方二其強一也、竭二人力一以征レ之、其服也、養レ之如レ初、病則受レ養、強則內攻、中國爲二羌胡一服役、且二千載一、可レ不レ悲哉。㊁內の仕事。攻は功。〔韓非子、存韓〕夫進而擊レ趙不レ能レ取、退而攻レ韓弗レ能レ拔、則陷銳之卒、懃二於野戰一、負任之旅、罷二於內攻一。㊂病氣が體外に發しないで內部にこもること。

【內冓】178 ナイコウ 宮中の奧の室。又、其の中の祕事。中冓。〔詩、鄘風、牆有茨〕中冓之言。〔傳〕中冓、內冓也。〔陳奐傳疏〕中冓與レ牆對、云云、則中冓當レ爲二宮中之室一。說文、冓、交二積材一也、構、蓋也、云云、凡室必積レ材蓋レ屋、故室內謂二之內冓一。

【內訌】179 ナイコウ 內部の亂れ。うちわもめ。內郤。內隙。訌は亂。〔詩、大雅、召旻〕天降二罪罟一、蟊賊內訌。〔傳〕訌、潰也。〔箋〕訌、爭訟相陷入之言也。

【內寇】180 ナイコウ 內部のあだ。國內であだするもの。〔戰國、燕策〕內寇不レ與、外不レ可レ拒、王自治二其外一、臣自報二其內一、此乃亡レ之之勢也。

【內鬨】181 nei⁴ hung⁴ 內輪喧嘩。

【內國】182 ナイコク ㊀くにのうち。內地。國內。中國。㊁我が國。本邦。〔隋書、靺鞨傳〕僻二處一方一、道路悠遠、聞二內國有二聖人一、故來朝拜、既蒙二勞賜一、親奉二聖顏一、下情不レ勝二歡喜一、願得三長爲二奴僕一也。

【內國債】183 ナイコクサイ 其の國內で募集する公債。內債。

【內國爲替】184 ナイコクカハセ 爲替の一。一國內に於ける送金並に債權債務決濟のため行はれるもの。外國爲替(**3**—**5750**‥213)の對。

【內國貨物】185 ナイコククワモツ 當該國內で生產せられた貨物、又は當該國に一旦輸入せられた外國貨物の總稱。

【內國史院】186 ナイコクシヰン 清代の內三院の一。記注・詔令及び實錄・史書の編輯等を掌る。〔清國行政法汎論、內閣〕內國史院、專掌二記注詔令一、編二輯實錄史書一、又撰二擬郊祀祝文・慶賀表文、並誥命印文冊文一。

【內國貿易】187 ナイコクボウエキ 一國內の各地方の相互間に行はれる貿易。

【內骨】188 ナイコツ ㊀鼈の屬。〔周禮、考工記、梓人〕外骨內骨。〔注〕外骨龜屬、內骨鼈屬。〔疏〕此注、龜爲二外骨一、鼈爲二內骨一、按、易說卦云、離爲レ鼈、爲レ蟹、爲レ龜、注皆云二骨在レ外、與二此注一違者、龜鼈皆外骨、但此經外骨內骨相對、以三鼈外有二肉緣一、故爲二內骨一也。〔孫詒讓正義〕蟹、當レ作レ鼈。㊁骨の名。深く體內に在る骨。脊椎動物などの骨骼をいふ。外骨(**3**—**5750**‥230)の對。

【內查】189 ナイサ 內密に調查すること。內々で調查すること。內偵。

【內差】190 ナイサ 內廷から差遣はされる官。〔六部成語、吏部、內差、注解〕由二內廷一差遣、往二各所一辦レ事之官。

【內才】191 nei⁴ tsʻai² 理論に長ずる。

【內妻】192 ナイサイ 戶籍上の手續が完了して居ない妻。內緣の妻。

【內宰】193 ナイサイ 周官の名。周禮天官の屬。王宮內の政令を掌る。宮中官の長。〔周禮、天官、內宰〕內宰、掌下書二版圖之灋一、以治中王內之政令上。

【內宰相】194 ナイサイシヤウ 唐の王琚(**7**—**20823**‥241)をいふ。〔唐書、王琚傳〕太平公主事二平帝一、於レ琚眷委特異、預二大政事一、時號二內宰相一。

【內祭】195 ナイサイ 重祭の一。大嘗と禘との祭。〔禮、

祭統〕内祭則大嘗禘、是也。

【内債】196 ナイサイ 内國債（183）の略。

【内載】197 nei⁴ tsai⁴ 其の公文書中に曰く。内開（36）に同じ。

【内濟】198 ナイサイ おもてむきにせず、内々で事をすませる。〔聞訟祕錄〕内濟に成り候出入り。

【内爭】199 ナイソウ うちわ同志の爭。〔國語、晉語八〕吾聞、人臣者、能内睦而後圖レ外、不レ睦レ内而圖レ外、必有二内爭一。〔後漢書、齊武王縯傳〕如レ此必將二内爭一。

【内倉】200 ナイソウ 清代、北京戶部大門外に在つて、京倉に隸屬しない倉。〔清會典、戶部、内倉〕内倉監督、滿洲二人、掌二内倉之出納一。〔清國行政法汎論、戶部、附二屬於戶部一之官廳〕内倉監督、内倉者、貯下藏宮廷祭祀、饗應外藩屬國使節一及其他需用糧穀上隸二屬於戶部一。

【内喪】201 ナイソウ 同門内の喪をいふ。外喪（3—5750：247）の對。〔禮、曾子問〕内喪則廢、外喪則冠而不レ醴。〔注〕内喪、同門也。

【内藏】202 ナイゾウ ㊀心中にたくはへる。〔淮南子、詮言訓〕聖人内藏、不レ爲二物先倡一。㊁宮中にある官庫。内庫。ウチグラ。〔公羊、僖、二〕寶出二之内藏一、藏二之外府一。〔漢書、嗣通傳〕粮食盡二於内藏一。㊂體内のくら。〔論衡、別通〕以二心如一丸卵一、爲二體内藏一。㊃ウチグラ 姓氏。〔新撰姓氏錄考證、十九〕。

【内藏允】203 ジクナイゾウ 内藏寮の屬官。大・少がある。唐名は倉部丞・少府丞。〔職原抄〕内藏寮、允、大少、唐名、倉部丞・少府丞。

【内藏庫】204 ナイザウコ 宋代、天子の御手元に設けた倉庫。〔事物紀原、京邑館閣部、内藏庫〕宋朝會要曰、太平興國三年十月、宣置二在二銀臺門外一、又曰、景德四年十月、陳彭年撰二内藏庫記一、眞宗曰、太祖以來、有二景福内庫一、太宗改二名内藏庫一、所レ貯金帛、備二軍國之用一、非二自奉一也、呂夷簡二朝寶訓曰、乾德初、太祖顧二左右一曰、軍興須二豫備一、臨レ事厚斂、非二計也、於二講武殿後一、別爲レ庫貯二金帛一、此蓋置レ庫之始也。

【内藏寮】 内藏寮の屬官。唐名は倉部員外郎。〔職原抄〕内藏寮、助、唐名、倉部員外郎。

【内藏屬】206 クラノサクワン 内藏寮の屬官。大・少があ

る。唐名は倉部主事。〔職原抄〕内藏寮、屬大少、唐名、倉部主事。

【内藏頭】207 ウチクラノカミ 内藏寮の長官。くらのかみ。〔職員令〕中務省、内藏寮、頭一人。

【内藏寮】208 ウチクラノツカサ 昔、中務省に屬し、宮中一切の財寶に關する事務を取扱つたつかさ。くられう。〔職員令〕中務省、内藏寮。

【内藏權頭】209 クラノカミ 内藏寮の長官の權官。〔職原抄〕内藏寮、權頭一人。

【内臟】210 ナイゾウ はらわた。臟腑。〔柳宗元、種二仙靈毘一詩〕靈和理二内臟一、攻レ疾貴二自源一。

【内二】211 ナイサン 清、王泰際（7—20823‥1886）の字。

【内三院】212 ナイサンイン ㊀清初に置いた内國史院・内宏文院・内祕書院をいふ。各長に大學士を置く。内國史院は、詔令を記注し、御製の文字を收藏し、實錄・史書等を撰修し、内宏文院は、歷代行事の善惡を釋して御前に進講し、内祕書院は外國往來の文書を撰し、各役所の疏狀を錄し、祭文を撰する。〔皇朝文獻通考、職官考、官制〕天聰十年、以二國初設立文館一、至レ是改爲二内三院一、曰、内國史院、曰、内祕書院、曰、内宏文院、各設二大學士一人一、各分二其事一爲二職掌一、内國史院職掌、記二注詔令一、收二藏御製文字一、凡用兵行政事、宜二編纂史書一、撰二擬郊天告祕文、及陞殿宣講慶賀表文一、纂二修祖宗實錄一、撰二擬礦志文一、編纂機密文移、及各官章奏一、掌二記官員升降文冊一、撰二功臣母妻語命印文一、追二贈諸員勅冊文一、凡六部事宜、入二史冊一、選二擇記二載一應遠方往來書札一、俱編二入史冊一、内祕書院職掌、撰二外國往來書札一、並錄二各衙門奏疏及詞狀一、撰二擬敕諭祭文一、内宏文院職掌、注二釋歷代行事善惡一、進二講御前一、侍二講皇子一、並教二諸親王一、頒二行制度一。㊁清の上駟院・武備院・奉宸苑の稱。内廷に供奉するからいふ。〔皇朝文獻通考、職官考、内務府〕順治十八年、改二兵伏局一爲二武備院一、康熙十五年、分二設甲庫回鞍庫・氈庫一、三十七年、分二鞍庫一爲二二一、曰二南鞍庫・北鞍庫一、乾隆十四年、定レ卿爲二二人一、一由二内務府郎中一、一由二侍衞一簡用、後上駟院・奉宸苑同。

【内三旗】213 ナイサンキ 内務府に屬する三旗人。内務府旗人（508）に同じ。

【内三關】214 ナイサンクワン 明代の居庸・紫荊・倒馬の三關。〔讀史方輿紀要、直隸、重險、倒馬關〕國家以二雁門・甯武・偏頭一、爲二外三關一、居庸・紫荊・倒馬爲二内三關一。

【内三郎】215 ナイサンラウ 官名。魏、置く。〔魏書、陸眞傳〕眞少善二騎射一、世祖初以二眞膂力過レ人、拜二内三郎一。

【内山】216 ナイサン ㊀山を内にする。〔左氏、僖、二十八、表〕裏山河、〔注〕晉國外レ河而内レ山。㊁明、張天復（4—9812‥1411）の號。㊂nei⁴ shan¹ 内地の山。

【内參】217 ナイサン ㊀闇宦をいふ。宦官。〔資治通鑑、陳紀〕〔宣帝、太建七年〕帝自卽二内參一拒闢。㊁ウチマヰリ 宮中へ參内すること。〔源氏物語、竹川〕うちまゐりより外のありき。

【内棧】218 ナイサン 廐のうち。棧は濕氣を禦ぐために敷いてある板。〔顏延之、赭白馬賦序〕歲老氣殫、斃二于内棧一。〔注〕向曰、棧、以レ板禦レ濕、而承二馬足一也。

【内讒】219 ナイザン 内部のそしり。〔左氏、閔、二〕雖レ盡レ敵、猶有二内讒一、不レ如レ違レ之。

【内子】220 ナイシ ㊀卿大夫の正妻。おくがた。〔左氏、僖、二十四〕以二叔隗一爲二内子一。〔注〕卿之嫡妻爲二内子一也。〔國語、魯語下〕卿之内子爲二大帶一。〔晏子、雜、下〕此子之内子耶。㊁他人の妻をいふ。〔書言故事大全、夫婦類、常稱二人妻一曰二内子一。〔稱謂錄、稱二人之妻一、内子一〕頻羅奄遺集、古人稱二人之妻一、亦曰二内子一。㊂他人に對して、己の妻をいふ。〔稱謂錄、對二人自稱一妻、内子一〕白居易有二代二内子一賀二兄嫂一詩。

【内史】221 ナイシ ㊀官名。㋑國家の法典を掌る。〔書、酒誥〕汝劼毖二殷獻臣、侯甸男衞、矧太史友・内史友一。〔傳〕況太史・内史、掌二國典法一、所賓友乎。〔左氏、莊、二十二〕惠王問二諸内史過一。㋺周官の名。周禮春官の屬。王の八枋〔爵・祿・廢・置・殺・生・予・奪〕を掌る。〔詩、小雅、十月之交〕聚子内史、蹶維趣馬。〔集傳〕周禮大宰之屬、有二上中下士一云云、内史中大夫、掌二爵祿廢置殺生予奪之法一者也。〔周禮、春官、内史〕内史掌二王之八枋之濛一、以詔二王治一。一曰爵、二曰祿、三曰廢、四曰置、五曰殺、六曰生、七曰予、八曰奪。㋩秦代、京師をいふ。又、それを治める官。漢は左右内史を置く。〔漢書、百官公卿表〕内史、周官、秦因レ之、掌レ治二京師一。景帝二年、分置二左右内史一。左内史、武帝太初元年、更二名京兆尹一。屬官有二長安市廚兩令丞一、又都水・鐵官兩長丞一。左内史更二名左馮翊一。屬官有二廩犧令丞一。尉、又有二都水・鐵官・雲壘・長安四市四長丞一。皆屬焉。〔漢書、竇錯傳〕景帝卽位、以錯爲二内史一。〔漢書、地理志下〕本秦京師。爲二内史一。〔注〕師古曰、京師、天子所レ都、畿内也。秦幷二天下一、改立二郡縣一、而京畿所レ統、特號二内史一。言二其在一内、以別二于諸郡守一也。〔晉書、地理志上〕漢祖龍興、革二秦之弊一、分二内史一爲二三部一、更置二郡國二十有三一。㋥漢代、王國の官。國人を治めることを掌る。〔史記、儒林、申公傳〕周霸至二膠西内史一、夏寬至二城陽内史一。㋭隋は中書省を内史省と改め、唐は中書令を内史と改む。〔事物異名錄、爵位、中書〕野客叢書、隋祖諱レ忠、改二中書一爲二内史一。㋬鳥の名。鷓鴣（12—47251‥1）の異名。〔事物異名錄、禽鳥、鷓鴣〕採蘭雜志、鷓鴣、一名内史、一名花豸、又花豸亦作二花鵝一、中書亦名二内史一。㋣複姓。〔通志、氏族略、以レ官爲レ氏〕内史氏、風俗通、周内史叔興之後也、周又有二内史過一。

【内史局】222 ナイシキヨク 淳仁天皇の御代、圖書寮の一時の改稱。〔續日本紀、二十一〕天平寶字二年八月癸亥、圖書寮、掌下持二典籍一、供中奉内裏上、故改爲二内史局一。

【内史省】223 ナイシシヤウ 晉代、太守を改めていふ。〔稱謂錄、知府、内史省〕晉書職官志、改二太守一爲二内史省一。

【内旨】224 ナイシ 内々の沙汰。〔唐書、孫伏伽傳〕始伏伽拜二御史一時、先被二内旨一、而制未レ出、歸臥二于家一。無二喜色一。頃之、御史造レ門、子弟驚白、伏伽徐起、見レ之、時人稱二其有一量、以比二顧雍一云。〔大唐新語〕雖レ承二内旨一。

【内志】225 ナイシ ㊀こころの中。内心。〔禮、射儀〕内志正、外體直。㊁密かに抱くこころざし。ふたごころ。〔史記、伍子胥傳〕公子光有二内志一、欲二

殺レ王而自立一。㊂ネジド アラビヤ半島中部の一酋長國。內惹德。Nedjed の音譯。

【內祀】226 ナイシ 祖先の祭。〔墨子、明鬼下〕使下親者受二內祀一、疏者受中外祀上。〔閒詁〕受二內祀一、謂二同姓之國、得レ立二祖王廟一也。

【內師】227 ナイシ ㊀奧向の事を監督する役。〔左氏、襄、二十六〕寺人惠牆伊戾、爲二太子內師一。〔會箋〕內師、非二師傅一也、正義云、內師者、身爲二寺人之官一、公使三之監二知太子內事一、爲二在レ內人之長一也。㊁外國の軍隊を身內のものとして扱ふこと。〔穀梁、僖、四〕夏、許男新臣卒、諸侯死二於國一不レ地、死二於外一地、死二於師一何爲不レ地、內二桓師一也。〔穀梁、僖、四〕秋、及二江人黃人一伐レ陳、不レ言二其人一及レ之者何、內レ師也。

【內眥】228 ナイシ 眼がしら。まなじり。〔靈樞經、癲狂篇〕目眥決二於面一者爲二銳眥一、在レ內近レ鼻者爲二內眥一、上爲二外眥一、下爲二內眥一。

【內紫】229 ウチムラサキ ㊀紫貝の一名。㊁ザボンの一種。

【內視】230 ナイシ ㊀自然の大道に因つて見ず、自らの意を用ひて判斷すること。〔莊子、列禦寇〕賊莫レ大二乎德有レ心、而心有レ睫、及二其有レ睫也而內視、內視而敗矣。〔注〕乃欲三探二射幽隱一、以レ深爲レ事、則心與レ事俱敗矣。㊁自ら視る。反省する。〔史記、商君傳〕反聽之謂レ聰、內視之謂レ明、自勝之謂レ彊。〔淮南子、說山訓〕魄曰、吾聞得レ之矣、乃內視而自反也。

【內視反聽】231 ナイシハンチヤウ 自分を反省して人を責めぬこと。〔越絕書、越絕外傳紀策考〕內視若レ盲、反聽若レ聾。〔後漢書、王允傳〕夫內視反聽、則忠臣竭レ誠。〔注〕內視、自視也、反聽、自聽也。

【內寺】232 ナイジ 宮中に置かれた寺をいふ。〔事物紀原、禮祭郊祀部、內寺〕僧史略曰、謂二之道場內一、起二於後魏一、得二名於隋煬帝一、改二僧寺一曰二道場一、置二於宮中一、故曰レ內、今宋朝洪福等殿、安二佛經聲鍾一、爲二內寺一、此其初也、唐代宗始有二其事一。

【內次】233 ナイジ 門內の、衣服を整へる處。〔禮、曾子問〕男不レ入、改二服於外次一、女入、改二服於內次一、然後卽レ位而哭。〔疏〕入二大門一、改二其嫁服一、亦深二衣於門內之次一。

【內耳】234 ナイジ 聽器の最深部。骨樣及び膜樣の二迷路に分れてゐる骨管で、聲音を感受するところ。

【內事】235 ナイジ ㊀郊內の事で、宗廟の祀をいふ。一說に、一家の神を內神といひ、之を祭ることを內事といふ。〔禮、曲禮上〕內事以二柔日一。〔疏〕內事、郊內之事也、乙丁己辛癸五偶爲レ柔也、然則郊レ天、是國外之事、應レ用二剛日一、而郊特牲云、郊之用レ辛、非レ剛也、又社稷是郊內、應レ用二柔日一、而郊特牲云、祀レ社日用レ甲、非レ柔也、所二以然一者、郊社尊不三敢同二外內之義一故也、此言二外剛內柔一、自謂下郊社之外他禮、則皆隨二外內一而用上レ之、崔靈恩云下外事指二用兵之事一、內事指中宗廟之祭上者、以二郊用レ辛、社用レ甲、非レ順三其居二外內剛柔一故也。〔禮、曲禮下〕內事曰二孝王某一、外事曰二嗣王某一。〔吳澂注〕宗廟所レ祭者、一家之神、內神也、故曰二內事一、郊社及山川之屬所レ祭者、天下一國之神、皆外神也、故曰二外事一。㊁宮中の事。〔周禮、春官、世婦〕凡內事、有下達二於外官一者上、世婦掌レ之。㊂祕密の事。祕事。〔管子、大匡〕智人不レ得レ作二內事一。㊃國內の事件。〔穀梁、莊、十一〕夏五月戊寅、公敗二宋師于鄑一、內事不レ言レ戰。

【內事圖】236 ナイジヅ 書名。孝經緯の一。其の書は今佚し、古微書に輯本を收む。

【內侍】237 ナイジ ㊀禁中に供奉する。又、其の官。〔漢書、金日磾傳贊〕世名二忠孝一、七世內侍。〔後漢書、孝明八王、樂成靖王黨傳〕黨乃縊二殺內侍三人一、以絕二口語一。〔沈約、齊故安陸昭王碑文〕實惟辟彊內侍之年。㊁官名。隋、置く。內侍省に屬し、宦者を以て之に充つ。唐は之に因る。宋は入內內侍省・內侍省を增置して、前後省と爲し、禁中に通侍し褻近の事に服する者は入內內侍省に隸し、殿中に供侍し灑掃雜役に備はる者は內侍省に隸す。其の官は內侍・殿頭內侍・高品內侍・高班內侍等の諸名がある。後世轉じて、宦者の稱となる。〔通典、職官典、諸卿下、內侍省〕隋曰二內侍省一、領二內侍・內常侍等官一、煬帝改二內侍省一、爲二長秋監一、云云、大唐武德初、改爲二內侍省一、皆用二宦者一。〔唐書、宦者傳序〕唐制、內侍省官、有二內侍四、內常侍六・內謁者・監內給事各十・謁者十二・典引十八・寺伯寺人各六一。〔續通典、職官典、諸卿下〕唐制、內侍省、監二人、少監二人、掌二內侍奉宣制令一、皇后親蠶、則升レ壇執レ儀、大駕出入爲二夾引一、宋制、入內內侍省・內侍省、太祖建隆時、有二內班院一、太宗淳化五年、改爲二黃門一、又改爲二內侍省一、入內內侍省、與二內侍省一、號爲二前後省一、而入二內省一、尤爲二親近一、通二侍禁中一、役二服褻近一者、隸二入內內侍省一、拱二侍殿中一、備二灑掃之職役一、使二雜品一者、隸二內侍省一、入內內侍省、有二都都知・都知・副都知・押班・內東頭供奉官・內西頭供奉官・內侍・殿頭內侍・高品內侍・高班內侍・黃門一。〔宣和遺事、前集下〕命二內侍童貫一往二杭州一。㊂ナイシ 內侍司に屬する女官。尙侍・典侍・掌侍の三等に分れる。又、特に掌侍をいふ。內侍司を見よ。〔宇津保物語、菊宴〕內侍・命婦・藏人。

【內侍司】238 ナイシノツカサ 昔、宮內省に屬し、後宮一切の事を司つた役。後、皇后宮職に屬す。〔後宮職員令〕內侍司、云云、掌侍四人。

【內侍所】239 ナイシドコロ 禁中の御殿の名。八咫鏡を奉安する所。溫明殿。賢所。轉じて、八咫鏡の稱。〔貞信公記〕天慶元年七月十三日、地震、內侍所遷二淸涼殿一、貴所等同遷。〔日本紀略、六〕貞元元年八月四日、內侍所自二縫殿寮一、奉レ渡二堀川院一。

【內侍宣】240 ナイシセン 勾當の內侍が、聖旨を傳宣して發する文書。後、藏人頭が宣して、旨を傳へ、或は檢非違使をして奉ぜしめた。〔式部省式、上〕凡依二內侍宣一敍位者、更經二大臣一、乃應レ授。

【內侍五局】241 ナイジゴキヨク 唐の制度で、內侍省の五局。掖庭局（宮人の簿籍を掌る）・宮闈局（宮內門禁等を掌る）・奚官局（宮人の疾病死喪を掌る）・內僕局（宮中の輿輦導從を掌る）・內府局（宮中の供帳燈燭を掌る）をいふ。唐書の百官志は內坊局を加へて六局とす。〔通典、職官典、諸卿下、內侍省〕大唐武德初、改爲二內侍省一、云云、內常侍六人、屬官有二內給事八人・內謁者監六人・內寺伯二人・寺人六人一、領二掖庭・宮闈・奚官・內僕・內府等五局一。〔海錄碎事、臣職、內臣〕唐制、內侍省有二五局一、掖庭局、掌二宮人簿籍一、宮闈局、掌二宮內門禁等一、奚官局、掌二宮人疾病死喪一、內僕局、掌二宮中輿輦導從一、內府局、掌二宮中供帳燈燭一、五局有二令丞一、內官爲レ之。

【內侍主事】242 ナイジシユジ 官名。㊀隋、置く。唐、之に因る。內侍省の屬官。〔唐六典、內侍省〕主事二人。〔注〕隋內侍省、主事二人。㊁中宮屬の唐名。

【內侍錄事】243 ナイシロクジ 中宮屬の唐名。〔職原抄〕中宮職、屬、唐名、內侍主事、或錄事。

【內辭】244 ナイジ ㊀表向にしない言葉。國內丈の內輪の言葉。〔公羊、桓、十八〕夫人外者何、內辭也。〔注〕內爲レ公諱辭。㊁內に向ふ意を現はす言葉。春秋穀梁傳で、春秋の日有レ食レ之は、日食の際、日が內部に向つてかけて行くことを表現する言葉、既ち內辭であるといふ。〔穀梁、隱、三〕春王二月己巳、日有レ食レ之、言レ日不レ言レ朔、食晦日也、其日有レ食レ之何也、吐者外壤、食者內壤、闕然不レ見二其壤一、有二食レ之者一也、有二內辭一也、或二外辭一也、有レ食レ之者、內二於日一也。〔注〕邵曰、食者內壤、故曰二內辭一。

【內修】245 ナイシウ 內心が修まる。〔淮南子、詮言訓〕內修極而橫禍至者、皆天也。

【內羞】246 ナイシウ 籩又は豆に盛つた御馳走。房中の御馳走。〔周禮、天官、醢人〕爲二王及后世子一、共二其內羞一。〔周禮、天官、世婦〕及祭之日、蒞二陳女宮之具、凡內羞之物一。〔注〕內羞、謂二房中之羞一。〔疏〕云二凡內羞之物一者、謂二糗餌粉餈一、案、少牢皆從二房中一而來、故名爲二內羞一、是以鄭云二內羞、房中之羞一也。〔儀禮、燕禮〕有二內羞一。〔注〕謂二羞豆之實、酏食糝食、羞籩之實、糗餌粉餈一。

【內色】247 ナイシキ 佛 色法十一中、眼・耳・鼻・舌・身の五根は內身に屬す。これを內色といふ。

【內室】248 ナイシツ ㊀女房。妻女。〔韻會〕內、房室爲レ內。㊁なかの室。內舍。內廳。〔隋書、宇文愷傳〕禮圖云、於二內室之上一、起二通天之觀一。㊂勝手のへや。〔福惠全書、刑名部、人命上、禁抄搶〕衝二入內室一、服飾器具。㊃nei^4 shih^4 寢室。奧の部屋。

【內室造】249 ウチムロヅクリ 屋根裏を見せ、天井を張らない造り方。

【內疾】250 ナイシツ 身體の內部にある疾病。〔漢書、吳

王濛傳）吳王身有二内疾一、不レ能二朝請一二十餘年。（注）師古曰、内疾、謂下在二身中一、不レ顯二於外一上。

【内實】251 ㊀家の珍寶、又は妻妾。（左氏、襄二十八）㊁其内實、遷二于盧蒲嫳氏一。（注）内實、寶物妻妾也。㊂内部の實情。ないまく。うちまく。（魏志、杜畿傳）内實與レ幹通レ謀。㊃内にみちる。内部が充實する。（戰國、趙策）其國内實、其交外成。㊄眞實のところ。實際。（吳志、陸遜傳）内實有二姦心一。

【内習】252 ウチナラヒ　下稽古をいふ。（源氏物語、梅枝）昨日の御遊のうちならし。

【内集】253 ウチツヘ　うちわのあつまり。親類の寄合。（小名錄）謝安寒食内集、兒女論二文義一。

【内舍】254 ㊀宋の制度で、大學の三舍の一。（宋史、選擧志）三舍法行、則大學始定、置二外舍生二千人・内舍生三百人・上舍生百人一。㊁部屋の中。内室。舍内。（韓翃、送二客還一江東一詩）遙憐内舍著二新衣一、復向二鄰家一醉二落暉一。

【内舍人】255 ㊀隋代、中舍人をいふ。一に太子中書舍人といふ。（通典、職官典、東宮官、中舍人）晉咸寧初、置二中舍人四人一、云云、隋曰二内舍人一、四員、屬二門下坊一、煬帝減二一人一、大唐中舍人二員、掌二侍從令書奏疏一、通判事擬二中書侍郎一、永徽二年、以二皇太子諱忠一、改爲二内舍人一、太子遜レ位而官復レ舊、或謂二之太子中書舍人一。㊁

【内舍人】255 ㊀宋の制度で、大學の三舍の一。（宋史、選擧志）三舍法行、則大學始定、置二外舍生二千人・内舍生三百人・上舍生百人一。㊁部屋の中。内室。舍内。（韓翃、送二客還一江東一詩）遙憐内舍著二新衣一、復向二鄰家一醉二落暉一。

【内射】257 ナイシャ　中古、宮中で行はれた弓術の公事。正月十七日に建禮門に於て、親王以下五位以上、並に六衛府の者などに行はしめられたもの。（續日本紀、二十二）天平寶字二年正月己卯、内射、因召二蕃客一、令レ觀二射禮一。

【内匠】258 タクミ　駿河國の地名。

【内匠允】259 タクミノジョウ　内匠寮の屬官。大・少がある。（職原抄）内匠寮、允、大少。

【内匠助】260 タクミノスケ　内匠寮の次官。唐名は少府少監。（職原抄）内匠寮、助、唐名、少府少監。

【内匠屬】261 タクミノサクワン　内匠寮の屬官。大・少がある。（職原抄）内匠寮、屬、大少。「の㊀を見よ。

【内匠頭】262 ウチタクミノカミ　内匠寮の長官。内匠寮の事務を掌る。（宮内省官制、第二十二條十號）内匠寮。

【内匠寮】263 ウチノツクサノツカサ　官署の名。㊀中務省に屬し、宮中の修繕、齋院などの裝飾の事を掌る。唐名は中匠令。（續日本紀、十）神龜五年八月甲午、勅始置二内匠寮頭一人、云云、匠手。㊁宮内省に屬し、宮殿・廳舍・外苑の土木などに關する事務を掌る。（宮内省官制、第二十二條十號）内匠寮。

【内匠大允】264 タクミノダイジョウ　内匠寮の屬官。唐名は少府丞。（職原抄）内匠寮、允、大、唐名少府丞。

【内匠大屬】265 タクミノダイサクワン　内匠寮の屬官。唐名は少府主事。（職原抄）内匠寮、屬、大、唐名、少府主事。

【内相】266 ㊀翰林學士の美稱。唐の陸贄の故事に本づく。内翰。（唐書、陸贄傳）贄入二翰林一、年尚少、以二材幸一、雖二外有一幸相主一大議一、而贄常居レ中、參二裁可否一、時號二内相一。㊁妻がよく家を治めること。又、其の妻。（類書纂要）稱二人妻善治レ家、曰二内相一。㊂内務大臣の異稱。

【内相府】267 ナイシャウフ　内大臣（587）の㊂の唐名。

【内症】268 ナイショウ　體内の病氣。

【内傷】269 ナイショウ　㊀内部で傷む。（楚辭、九章、悲回風）悲二回風之搖レ蕙兮、心鬱結而内傷一。（楚辭、王褒、九懷、思忠）心怫鬱兮内傷。（漢書、藝文志）精氣内傷。㊁内科に屬する病氣。（四庫提要、子、醫家類）内外傷辨惑論、三卷、金、李杲撰、云云、是編發二明内傷之證一、有レ類二外感一。

【内城】270 ㊀内部の城郭。本丸。（南齊書、垣崇祖傳）以二郭大難一レ守、退保二内城一。（陳書、孫瑒傳）因二風縱レ火、燒二其内城南面五十餘樓一。（魏書、高祖紀下）太和十五年十有二月壬辰、遷二社於内城之西一。㊁北京城を内外の二部に分ち、舊皇城のある部分を内城といふ。㊂大隅國の地名。

【内城旗】271 ナイジョウキ　天子の行營の内城に建てる旗。外城旗（3－5750・302）の對。（清會典圖、武備圖、行營内城旗）皇帝行營内城旗、明黃緞、紅緣、斜幅、銷二金雲龍一、縿徑一尺二寸、斿徑二尺二寸、緣銷二金火燄一、周闊二寸三分、杆以二竹髹朱束藤一、長六尺七寸、圍二寸一分、首冠二金盤一、上植二豹尾一、下注二朱旄一、加二明黃帶一、銳角、亦銷二金火燄一、長四尺、闊四寸、杆末包レ革、繫レ繩植レ旗。

（圖典會清）旗城内

【内情】272 ㊀心中の欲情。（漢書、藝文志）是以聖王、制二外樂一、以禁二内情一、而爲二之節文一。㊁心の内。内心（303）の㊁に同じ。（隋書、楊素傳）特爲二帝所一猜忌一、外示二殊禮一、内情甚薄。㊂うちわの事情。

【内壞】273 ㊀うちがやぶれいたむ。壞は傷に同じ。（穀梁、隱、三）其目有レ食レ之何也、吐者外壞、食者内壞。（注）凡所二吐出一者、其壞レ外、其所二呑咽一者、其壞二於内一。（疏）壞字、爲二穀梁音一者、皆爲レ傷。

【内瓤】274 nèi rang　北京人の賞味する西瓜の一種。其の味は頗る甘美。

【内借】275 ㊀賃金などの一部分を前借りすること。㊁内々に借受ける。

【内主】276 ㊀皇女。又、夫人。（左氏、昭、三）撫二有晉國一、賜二之内主一。㊁内應者。（國語、晉語三）殺二其内主一、背二其外賂一。（史記、楚世家）有二高國一、以爲二内主一。（後漢書、董卓傳）馥等到レ官、與二袁紹之徒十餘人一、各興二義兵一、同盟討レ卓、而伍瓊周毖、陰爲二内主一。

【内取】277 ㊀諸侯が大夫の女を娶ること。（漢書、五行志中之下）董仲舒以爲二宋二世内取一。㊁ウチドリ　相撲の節會の二日前、相撲人を宮廷に召して試みる相撲。（西宮記、七月、相撲召仰）内取。

【内首】278 首を内にむける。歸服すること。（顏廷之、三月三日曲水詩序）寄居之君、内首稟レ朔。

【内娶】279 諸侯が大夫の女を娶ること。内取（277）の㊀に同じ。（公羊、僖、二十五）宋三世無二大夫一、三世内娶也。（注）内娶、大夫女也。（白虎通、嫁娶）宋三代無二大夫一、惡二其内娶一也。

【内衆】280 ㊀佛外俗に對して、僧侶をいふ。（僧史略、上）佛制二毘尼一、斜二繩内衆一。

【内豎】281 ㊀周官の名。周禮天官の屬。宮中に仕へる小臣で、雜役に服する者。（周禮、天官、内豎）内豎、掌二内外之通令一。（注）内豎、小臣之屬、掌二外内之通命一者。（禮、文王世子）間二於内豎一。㊁漢以後、宦者をいふ。（後漢書、梁商傳）性愼弱無二威斷一、頗溺二於内豎一。㊂まだ元服せぬほどの小さい童で、殿上に奉仕して召使はれる者。ちひさわらは。（名目抄）。

【内豎所】282 官署の名。内豎に關する事を掌る所。内豎の㊁を見よ。（太政官式）凡校書殿及内豎所、竝聽二太政官竝辨官所一仰之事。（拾芥抄、中、宮城）内豎所、在二一本御書所東一、内候在二春興殿東一、廚在二大舍人寮南一。

【内豎頭】283 ナイジュノカミ　内豎所の職員。別當の下で事務を執る上官。（西宮記、十四）内豎頭竝執事等、以二名簿一、自二御所一下二給藏人一、可レ召二仰本所一歟。

【内豎執事】284 ナイジュノシツジ　内豎所の執事。（西宮記、十四）内豎頭竝執事等、以二名簿一、自二御所一下二給藏人一、可レ召二仰本所一歟。

【内豎所別當】285 ナイジュドコロベットウ　内豎所の長官。攝政關白を以て之に充てる。（職原抄）内豎所別當、知二内豎所事一、一人必爲二其人一、他人不レ望レ之。

【内疽】286 ナイソ　内部の腫物。（後漢書、方術下、華佗傳）府君胃中有レ蟲、欲レ成二内疽一、腫物所レ爲也。

【内署】287 ナイショ　官名。漢、置く。内府の衣物を掌る内者。（資治通鑑、漢紀）殤帝、延平元年、太后詔減二太官導官尚方内署、諸服御珍膳靡麗難レ成之物一。

【内緒】288 ナイショ　内證の訛。㊀内密。祕密。㊁奥向き。勝手向き。㊂妻又は妾。㊃うちわ。家内。㊄一家の財政。くらしむき。㊅遊廓で、主人の居間、又は帳場。

【内助】289 ナイジョ　妻が夫に力を添へること。内德

の助。轉じて、妻をいふ。〔魏志、文德郭后傳〕不ニ唯外輔一、亦有ニ内助一。〔宋史、孟皇后傳〕得レ賢内助、非ニ細事一也。〔曾鞏、列女傳目錄序〕世皆知、文王之所ニ以興一、能得ニ内助一。

【内怨】290 ナイヨン ❶己の心を推して人を悲しみ哀れむ。〔禮、孔子閒居〕無服之喪、内怨孔悲。〔孔子家語、論禮〕無服之喪、内怨孔悲。❷己の心を推して人を思ひやる。〔漢書、高惠高后文功臣表序〕内怨之君、樂レ繼ニ絶世一。〔南齊書、蕭穎胄傳〕竟不レ能ニ内怨探レ情、顯加ニ鴆毒一。

【内敍】291 ナイジョ 内官の位に敍する。中央政府の官職に敍任する。〔晉書、王浚傳〕浚之承レ制也、參佐皆内敍。

【内升】292 ナイショウ 清代、外省に奉職した官吏を、京城の官吏に升補すること。内陞。〔清會典事例、吏部、漢員升補、科道内升外轉〕乾隆元年諭、科道内升外轉者、俟ニ得レ缺後、再離ニ原任一、其未レ得レ缺之先、仍食ニ原官之俸一、昭ニ舊辦一事。

【内陞】293 ナイション 内升に同じ。〔六部成語、吏部、内陞、注解〕外省之員、陞ニ補京城之官一。

【内訟】294 ナイソン 心に訟へる。自らを責める。〔論語、公冶長〕吾未レ見下能見ニ其過一而内自訟者上也。〔晉書、蔡謨傳〕歸ニ罪有司一、内訟、思愆。

【内訟齋】295 ナイショウ 清、石廣均（8－24024‥915）の號。

【内稱】296 ナイショウ 身うちの者を官に推薦する。内擧。内開。

【内稱不レ辟レ親】297 ナイショウフヘキ 賢者を推擧するためには、親戚でも遠慮しない。内は親戚。晉の祁溪が、己の子の祁午を擧げて國尉とした類。〔禮、儒行〕儒有ニ内稱不レ辟レ親、外擧不レ辟レ怨。〔疏〕儒有ニ内稱不レ避レ親者、稱、擧也、不レ辟レ親、擧ニ人以理一、若ニ祁溪擧ニ子祁午一、是不レ辟レ親。

【内證】298 ナイショウ ❶内密の證據。〔楮氏遺書〕内證先出。❷囫圇眞理を自己の心内で證悟すること。〔唯識論、十〕唯眞證者、自ニ内所一證、其性本寂、故名ニ涅槃一。❸①内々にすること。〔甲陽軍鑑、二〕我れ等所へ内證有レ之。㊁人の妻、又は妾の稱。㋑みうち。うちわ。〔狂言記、鱸庖丁〕内證の者。㋺奥向き。勝手むき。〔川中島合戰、三〕直江山城守殿の御内證へ行く。㊀手許。くらしむき。〔吉野忠信、三〕内證よろづ不埒なり。㋩娼家の主人の居間。又、主人。又、帳場。〔長町女腹切、中〕手離しては内證に氣遣ひ有馬の。

【内食】299 ナイショク 腫物などが體外に發しないで内部にこもること。〔後漢書、董卓傳〕臣聞、揚レ湯止レ沸、莫レ若レ去レ薪、潰レ癰雖レ痛、勝ニ於内食一。

【内職】300 ナイショク ❶宮廷の奥向のつとめ。おくの仕事。〔禮、昏義〕天子聽ニ外治一、后聽ニ内職一。〔後漢書、皇后紀序〕王者立レ后、三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一女御、以備ニ内職一焉。〔南齊書、禮志上〕内職則有ニ女尚書・女長御一。❷朝廷の官職。地方官に對していふ。〔後漢書、伏湛傳〕元武卽位、知ニ湛名儒舊臣一、欲レ令レ幹ニ任内職一、徵レ拜尚書上。〔白居易、除ニ鄭絪太子賓客一制〕久居ニ内職一、累事ニ先朝一。❸本職の餘暇に私に爲す仕事。又、家事の暇にする賃仕事。

【内職事】301 ナイショクジ 内位の人の任ずべき職事官をいふ。〔式部省式、上〕凡外位任ニ内職事一者、卽改入ニ内位一。

【内職大臣】302 ナイショクダイジン 宮中の職を掌る重臣。〔魏志、杜恕傳〕至ニ於公卿及内職大臣一、亦當レ俱以ニ其職一考レ課之也。

【内心】303 ナイシン ❶心を内に用ひる。〔禮、禮器〕禮之以ニ少爲一貴者、以ニ其内心者一也。〔注〕内、心用ニ心於内一、其德在レ内。❷心の内部。中心。内意。内情。〔說苑、脩文〕是故服不レ成レ象、而内心不レ變。〔淨印法門經〕内心清淨、戒行潔白。「號。❸數學用語。内切圓の中心。

【内心齋】304 ナイシンサイ 清、陳法（11－41698‥511）の

【内申】305 ナイシン 内々で申し上げること。又、其の言。内々の上申の略。又、内申書の略。

【内申書】306 ナイシンショ 内申する報告書。上級學校受驗の際、上級學校に内申する、生徒の學業・人物等の報告書の類。

【内臣】307 ナイシン ❶外國が隷屬して臣禮を執ること。〔左氏、僖、七〕我以ニ鄭爲ニ内臣一。〔韓非子、存韓〕今釋ニ趙之患一、而攘ニ内臣之韓一、則天下明ニ趙氏之計一矣。〔史記、司馬相如傳〕邛筰冉駹斯榆之君、皆請爲ニ内臣一。❷宮中の親近の臣。〔春秋、莊、二十三、祭叔來聘、杜注〕穀梁以爲、祭叔爲ニ祭公一來ニ聘魯一、天子内臣、不得ニ外交一、故不レ言レ使。〔漢書、五行志上〕闕在ニ司馬門中一、内臣石顯之象也。〔宋史、眞宗紀三〕禁ニ内臣出使一、預ニ民政一。❸内大臣（887）の❶の異稱。

【内侵】308 ナイシン 國内に侵入する。〔吳志、鍾離牧傳〕外境内侵、誑ニ誘人民一。〔弘道館記述義、上〕東晉之末、清談熾行、五胡内侵。

【内神】309 ナイシン 一家の神をいふ。内事（235）の❶を見よ。

【内深】310 ナイシン 内心の苛刻なこと。〔史記、杜周傳〕外寬内深、次骨。〔漢書、公孫弘傳〕其性意忌、外寬内深。

【内脣】311 ナイシン 腹足類の介殻の殻口内緣をいふ。外脣の對。

【内寢】312 ナイシン 奥座敷。路寢（10－37524‥52）を見よ。〔孔子家語、曲禮子貢問〕孔子適ニ季氏一、康子晝居ニ内寢一、孔子問ニ其所一疾。

【内親】313 ナイシン ❶心の内で親しむ。〔漢書、張安世傳〕天子甚尊ニ憚大將軍一、然内親ニ安世一、密ニ於光一焉。❷朝廷内で親しむ。〔呂覽、順民〕内親ニ羣臣一、下養ニ百姓一、以求ニ其心一。❸父方の親類。内戚。外戚（3－5750‥253）の對。〔令義解、儀制令〕親戚、謂ニ親者内親也、戚者、外戚也。❹nei⁴ ch'in¹ 妻の親戚。姻戚。

【内親王】314 ナイシンワウ ❶親王の宣下を蒙つた、天皇の御姉妹或は皇女をいふ。うちのみこ。〔民部省式、上〕親王・内親王、其數一同。❷皇女から皇玄孫に至るまでの御女子の尊號。

【内襯】315 nei² ch'en⁴ 下着。

【内人】316 ナイジン ❶女御をいふ。〔周禮、天官、内宰〕歲終則會ニ内人之稍食一、稽ニ其功事一。〔注〕内人、主謂ニ九御一。〔周禮、天官、寺人〕王之内人、及女宮之戒令。〔注〕内人、女御也。〔魏書、僭晉司馬德文傳〕德文每レ生レ男、輒令ニ方便殺一焉、或誘ニ内人一密加ニ毒害一。❷宮中に仕へる官屬。宮人。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕康以ニ太后久臨一ニ朝政一、心懷ニ畏懼一、託レ病不レ朝、太后使ニ内人間レ之。〔南史、盧陵威王續傳〕元帝之臨ニ荆州一、有ニ宮人李桃兒者一、以ニ才慧一得レ進、及レ還、以ニ李氏一行。云云、續具レ狀以聞、元帝猶懼、送ニ李氏一還ニ荆州一。世所謂西歸内人者。〔唐書、邢文偉傳〕三朝之後、與ニ内人一獨居。❸妻妾。〔禮、檀弓下〕内人皆行レ哭失レ聲。〔注〕内人、妻妾也。〔孔叢子、記義〕今死而内人從レ死者一人焉。〔南史、謝弘微傳〕今内人尚能無レ言。❹宮中に仕へる伎女。〔教坊記〕伎女入ニ宜春院一、謂ニ之内人一。❺家族。〔荀子、法行〕曾子曰、無ニ内人之疏而外人之親一、不ニ亦遠一乎。❻nei⁴ jen² 自分の妻の卑稱。家内。

【内荏】317 ナイジン 心の柔弱なこと。〔論語、陽貨〕色厲而内荏、譬ニ諸小人一、其猶ニ穿窬之盜一也與。〔集解〕孔安國曰、荏、柔也、謂ニ外自矜厲而柔佞一。

【内腎】318 ナイジン 腹腔の後壁の上部、脊柱の兩側に位する左右一對の蠶豆狀の臟器。腎臟。外腎（3－5750‥333）に對していふ。

【内水】319 ナイスイ 蜀の涪江をいふ。外水（3－5750‥334）を見よ。〔宋書、朱齡石傳〕高祖與ニ齡石一密謀ニ進取一曰、劉敬宣往年出ニ黃虎一、無ニ功而退一、賊謂、我今應ニ從ニ外水一往、而料ニ我當レ出ニ其不意一、猶從ニ内水一來也、如ニ此必以ニ重兵一守ニ涪城一、以備ニ内道一、若向ニ黃虎一、正墜ニ其計一、今以ニ大衆一自ニ外水一取ニ成都一、疑兵出ニ内水一、此制ニ敵之奇也。

【内樞】320 ナイスウ 中書省をいふ。〔事物異名錄、宮室、中書省〕山堂肆考、中書省謂ニ之内樞一、亦曰ニ綸閣一、又曰ニ綸闈一。

【内制】321 ナイセイ ❶翰林學士（9－28780‥52）の別名。皇帝の制詔・詔令・赦文等を掌る。〔朝野類要〕翰林學士官、謂ニ之内制一、掌ニ王言一、大制誥・詔令・赦文之類一、中書舍人、謂ニ之外制一、亦掌ニ王言一凡誥詞之類一。〔玉堂漫筆〕宋制、以ニ翰林學士一、帶ニ知制誥一、謂ニ之内制一、以ニ他職一帶ニ知制誥一、謂ニ之外制一。❷外朝の議を經ない君主の命令。内命（509）に同じ。〔張籍、送ニ鄭尚書赴ニ廣州一詩〕聖朝選ニ將持ニ符節一、内制宣時百辟聽。

【内姓】322 ナイセイ 祖先を同じくするもの。同姓。同宗。外姓（3－5750‥339）の對。〔左氏、宣、十二〕其君之擧也、内姓選ニ於親一、外姓選ニ於舊一。〔注〕言ニ親疏並用一也。〔逸周書、大戒解〕使ニ眾之道、撫ニ之以ニ惠、内姓無ニ感、外姓無ニ讒。

【内政】323 ナイセイ ❶後宮の政。内務。〔周禮、天官、女

史ノ掌ニ王后之禮ヲ、以詔レ后治ニ內政ヲ。㊀國內の政治。內治。〔國語、齊語〕作ニ內政ヲ一而寄ニ軍令ヲ一焉。〔注〕內政、國政也。〔管子、大匡〕臣聞、內政不レ修ルヲ、〔漢書、刑法志〕於レ是乃作ニ內政ヲ一而寓ニ軍令ヲ一焉。〔說苑、善說〕內政委焉、外事斷焉。㊁㋑所帶のきりもり。家政。㊁妻女又は主婦の敬稱。內君。

【內政部】323′ ㊀國民政府の內務行政事務を總管する官廳。我が國の內務省に當る。內部。㊁我が國の府縣廳に於て、府縣の內務行政事務をとつたところ。昭和十七年に設けらる。

【內省】324 ㊀うちにかへりみる。自ら我が身を省察する。內觀。〔左氏、僖、十九〕盍ニ姑內省ニ德ヲ一乎。〔荀子、脩身〕內省則外物輕矣。〔莊子、讓王〕內省而不レ窮ニ於道ヲ一。㊁禁中。禁裏。御所。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕宮禁至重、而使ニ外舍久在ニ內省ヲ一。㊂㋑役所の名。我が內務省に類するもの。〔魏書、官氏志〕〔天興四年〕九月、罷ニ外藺臺御史ヲ一、總ニ屬內省ヲ一。〔宋史、徽宗紀三〕政和三年五月丁未、詔ニ尚書、內省分ニ六司ヲ一、以掌ニ外省六曹所上之事ヲ一、置ニ內宰・副宰・內史・治中等官ヲ一、及都事以下吏員ヲ一。

【內省齋】325 清、湯來賀（7－17874‥212）の號。

【內省法】326 心理學用語。自己觀察によつて精神現象を研究する心理學の研究方法。自己觀察法。主觀法。內觀。

【內省不レ疚】327 省みて己の心に一點の愧づる所がない。〔論語、顏淵〕內省不レ疚、夫何憂何懼。〔中庸〕君子內省不レ疚ヲ。〔呂覽、愼人〕內省而不レ疚ヲ於道ニ一。〔後漢書、班超傳〕內省不レ疚、何郵ニ人言ヲ一。

【內聖】328 內に聖人の德を備へてゐること。又、其の者。內聖外王を見よ。〔鶡冠子、泰錄〕內聖者、精神之原也。

【內聖外王】329 內には聖人、外には王者の德を備へたもの。學術德行の完全に兼ね備はつたもの。〔莊子、天下〕是故內聖外王之道、闇而不レ明、鬱而不レ發。〔宋史、邵雍傳〕河南程顥、初侍ニ其父識雍ヲ一、論議終日、退而歎曰、堯夫、內聖外王之學也。

【內誠】330 內にある誠。〔莊子、列禦寇〕夫內誠不レ解、形謀成レ光、以外鎭ニ人心ヲ一。〔列子、黃帝〕夫內誠不レ解、形謀成レ光。

【內消】331 木の名。すはう。紫荊（8－27337‥159）の別名。〔本草、紫荊〕釋名、內消、時珍曰、其木似ニ黃荊ヲ一而色紫、故名、云云、又曰ニ內消ヲ一、與ニ何首烏ヲ一同レ名。

【內照】332 ㊀金・水などの陰氣をいふ。內景（148）の㊀に同じ。〔梁書、元帝紀論〕鳳闕ニ祠晨之功ヲ一、火無ニ內照之美ヲ一。㊁光が室內を照す。〔張衡、西京賦〕流景內照、引ニ曜日月ヲ一。㊂姿の立派な形容。〔庾信、周太子太保步陸逞神道碑〕公儀表外明、風神內照。

【內石】333 nèi² shí² 不姙症。うまず女。

【內戚】334 ㊀天子に親近して居る宮仕の婦人の親戚。〔後漢書、趙熹傳〕帝延ニ集ヲ一內戚ヲ一、讌會歡甚。㊁父方の親類。外戚（3－5750‥353）の對。

【內接】335 ㊀甚だ接近する。〔後漢書、孔融傳〕建安元年、爲ニ袁譚所ヲ一攻、自ニ春至ニ夏、戰士所レ餘、裁數百人、流矢雨集、戈矛內接、融隱ニ几讀ヲ一書、談笑自若。㊁數學用語。直線形の各頂角が、圓周又は他の直線形の周邊に接すること。內切に同じ。內切圓（583）を見よ。

【內接多邊形】336 數學用語。多邊形の各頂點が同一圓周上、或は他の多邊形の邊上に在る場合をいふ。

【內接多面體】337 數學用語。一つの球或は多面體の內面上に各頂點を有する多面體をいふ。

【內妾】338 宮中の、后妃以外の女官の稱。〔國語、鄭語〕棄ニ聘后ヲ一而立ニ內妾ヲ一、好ニ窮固ヲ一也。〔史記、天官書〕若見若不、曰ニ陰德ヲ一、注〕正義曰、陰德星、中宮女主之象、星動搖、霧起ニ宮掖ヲ一、貴嬪內妾惡ヒ之。

【內遷】339 ㊀宮中の役人に遷る。〔南齊書、張敬兒傳〕敬兒武將、不レ習ニ朝儀ヲ一、聞レ當ニ內遷ヲ一、乃于ニ密室ヲ一屏ニ人學ニ揖讓ヲ一。㊁內地にうつる。〔魏書、高昌傳〕卿地隔ニ關山ヲ一、境接ニ荒漠ヲ一、頻請ニ朝援ヲ一、徙ニ國內遷ヲ一。〔唐書、突厥傳下〕不ニ敢歸ヲ一、與ニ其部人六七萬ヲ一、內遷死ニ長安ヲ一。

【內戰】340 國內の戰。內亂。〔管子、臣乘馬〕此盜暴之所ニ以起ヲ一、刑罰之所ニ以衆ヲ一也、隨レ之以レ暴。謂ニ之內戰ヲ一。〔纂註〕盜暴已起、君又隨レ之以ニ暴政ヲ一、謂ニ之內自交戰ヲ一。

【內選】341 吏部が官吏の銓考推選を爲すこと。〔清國行政法汎論、官吏法、文官任命形式、題調〕吏部銓選曰ニ內選ヲ一、督撫題調曰ニ外補ヲ一。

【內鐵】342 鐵（かんなの類）の一種。彎曲したものの內側を削るのに用ひる。外鐵の對。〔和漢三才圖會、百工具、內鐵〕其刃微剖者、名ニ內鐵ヲ一。

【內膳】343 ㊀皇后の御食事をいふ。〔老學庵筆記、二〕舊制、皇帝曰ニ御膳ヲ一、中宮曰ニ內膳ヲ一。㊁中宮の大膳職。內膳司を見よ。

【內膳屋】344 內膳司の中にある建物。竈などを据ゑて供物を調理する所。〔中右記、寬治八年十一月三日、今日戌刻、立ニ內膳屋ヲ一云云、件屋五間二面、卯酉先例也、修理職作レ之、四方壁者。

【內膳司】345 宮內省で天子の御食事供御を調進する所。〔職員令、宮內省〕內膳司、奉膳二人、典膳六人。

【內膳正】346 內膳司の長官。唐名は、尚食。〔運步色葉集〕內膳正、唐名、尚食。

【內膳別當】347 官名。大納言・中納言を以て之に充て、內膳司の事を監督する。〔職原抄ニ內膳別當、知ニ內膳司事ヲ一、大中納言中補レ之。

【內膳奉膳】348 內膳司の長官。唐名は內膳正に同じ。〔職原抄〕內膳司、奉膳一人、唐名同レ上。

【內膳令史】349 內膳司の屬官。唐名は尚食史。〔職原抄〕內膳司、令史、唐名、尚食史。

【內禪】350 ㊀位を內部のものに讓ること。〔干寶、晉紀論晉武帝革命〕堯舜內禪、體ニ文德ヲ一也、漢魏外禪、順ニ大名ヲ一也。㊁君の生存中に位を子弟に讓ること。〔日知錄、禮制、內禪〕左傳、晉景公有レ疾、立ニ太子州蒲ヲ一爲レ君、會ニ諸侯ヲ一伐レ鄭、史記、趙武靈王傳ニ國於子惠文王ヲ一、自稱ニ主父ヲ一、此內禪之始、竹書紀年、夏帝不レ降ニ五十九年ヲ一、遜ニ位於弟ヲ一、帝扃十年、帝不レ降陟ニ、然不レ可レ考矣。

【內訴】351 內々に訴へる。〔豫章記〕內訴を申さるれ共、更に公方樣御許容も無かりければ。

【內宗】352 周官の名。周禮春官の屬。王と同姓の女で爵ある者。王の五服の屬內にある女。〔周禮、春官、序官、內宗〕內宗、凡內女之有レ爵者。〔注〕內女、王同姓之女、謂ニ之內宗ヲ一。〔禮、雜記下〕外宗爲ニ君夫人ヲ一猶ニ內宗ヲ一也。〔注〕內宗、五屬之女也。「使ニ劉瑜內奏ヲ一。

【內奏】353 內々に奏上する。〔後漢書、竇武傳〕

【內層】354 內部のかさなり。

【內則】355 ㊀婦人の守るべきおきて。家憲。又、閨門內の規制。〔後漢書、皇后紀序〕所レ以能述ニ宣陰化ヲ一、修ニ成內則ヲ一、閨房肅雍、險謁不レ行也。㊁明、尹禮（4－7631‥90）の字。㊂禮記の篇名。家庭生活の禮法を記す。〔禮、內則、疏〕按、鄭目錄云、名曰ニ內則ヲ一者、以下其記ニ男女居レ室、事ニ父母舅姑之法ヲ一、此於ニ別錄ニ屬ニ子法ヲ一、以ニ閨門之內軌儀可レ則、故曰ニ內則ヲ一。

【內則衍義】356 書名。十六卷。清、世祖御定。大學衍義の例に仿つて作り、八大綱ニ十二子目に分つ。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【內息】357 一戶を構へないで同居する。〔史記、商君傳〕令ニ民之父子兄弟、同ニ室內息者爲レ禁、而集ニ小都鄉邑ヲ一爲ニ縣、置ニ令丞ヲ一。

【內屬】358 外國が降り來つて屬國となる。臣屬する。〔史記、律書〕南越朝鮮、自ニ全秦時ヲ一內屬、爲ニ臣子ヲ一、後且擁ニ兵觀望ヲ一。〔漢書、賈捐之傳〕珠厓內屬爲レ郡久。〔後漢書、明帝紀〕益州徼外夷哀牢王、相率內屬。

【內屬蒙古】359 地名。察哈爾・綏遠二省の境。察哈爾八旗・歸化城土默特の二部に分れる。札薩克も盟長も無く、駐防長官に直屬してゐるから內屬といふ。又、內屬游牧蒙古ともいふ。

【內損】360 內臟を損傷すること。〔六部成語、刑部、內損吐血、注解〕毆ニ人、內部損傷、以致ニ吐血ヲ一也。

【內蛇】361 內側の蛇。城門內の蛇。〔左氏、莊、十四〕初內蛇與ニ外蛇ヲ一鬬ニ於鄭南門中ヲ一、內蛇死。〔史記、鄭世家〕初內蛇與ニ外蛇ヲ一鬬ニ於鄭南門中ヲ一。

【內帶】362 曲つた山脈の凹面。外帶（3－5750‥386）の對。

【内第】363 ナイダイ 内宮。〔後漢書、光武十王、濟南安王康傳〕又多起二内第一、觸二犯防禁一、費以二巨萬一。

【内臺】364 ナイダイ 官署の名。●尚書省（4－7493－87）の異稱。〔南齊書、王思遠傳〕建武中、遷二吏部郎一、思遠以下從兄晏爲二尚書令一不レ欲レ幷二居内臺權要之職一。●御史臺（4－10157‥129）の異稱。〔元史、百官志〕江南諸道行御史臺、設官品秩同二内臺一、統二制各道憲司一、而總二諸内臺一。

【内題】365 ナイダイ 書物の見返し、又は書扉に記された書名。然し、版心（書版の中央部）にある書は内題といはぬ。

【内盜】366 ナイタウ 内部にゐる盜賊。その土地の盜賊。〔福惠全書、刑名部、賊盜上、遞捕役〕必由二于内盜勾引一。

【内堂】367 nei⁴ t'ang² 官吏の家族の住居する室。

【内宅】368 ナイタク 奥の室。内部の室。〔唐書、懿宗淑妃郭氏傳〕以レ妃爲二美人一、進拜淑妃、女爲二同昌公主一、下嫁韋保衡一處二内宅一。〔唐書、張垍傳〕垍尚二寧親公主一、玄宗眷レ垍厚、即禁中置二内宅一、侍爲二文章一、珍賜不レ可レ數。

【内宅牆】369 nei⁴ chai² ch'iang² 客室と内宅との間にある木塀。

【内諾】370 ナイダク 内々承知すること。

【内達】371 ナイタツ 内々の布達。内々のたつし。

【内丹】372 ナイタン 道家が龍虎の胎息によつて呼吸する法。〔蘇軾、送二寒道士歸一山一詩〕綿綿不レ絶微風裏、内外丹成一彈指。〔注〕道家以二烹一鍊金石一爲二外丹一、龍虎胎息、吐レ故納レ新爲二内丹一。

【内探】373 ナイタン ひそかにさぐる。

【内談】374 ナイダン 内々のはなし。密談。〔東鑑、十八〕元久元年八月四日、用意事、今日有二内談一。

【内地】375 ナイチ ●畿内の地。〔史記、漢興以來諸侯王年表〕内地北距レ山、以東盡諸侯地。●本國。〔北史、魏孝文紀〕如在二内地一。●本國内の土地。邊境に對していふ。〔後漢書、西羌傳論〕趙充國遷二之内地一。〔宋書、蕭惠開傳〕收二祥祠越嶲一、以爲二内地一。●新附の地に對して、舊來の地域をいふ。●nei⁴ tì⁴ 開港場以外の土地。

【内地會】376 ナイチクワイ 基督教會の一。新教派に屬し、中國内地に傳教するを以て務とする。

【内地米】377 ナイチマイ 内地産の米。朝鮮米・臺灣米など外國米に對していふ。

【内地關稅】378 ナイチクワンゼイ 一國内を移動する貨物に課せられる關稅。

【内地雜居】379 ナイチザッキョ 外國人が、國内何れの地にでも自由に本國人と雜居できることをいふ。

【内地植民】380 ナイチショクミン 國内に於て、未開で人口稀薄な地方に本國民の一部を移住せしめること。

【内地運單房】381 nei⁴ ti⁴ yün⁴ tan¹ fang² 海關用語。transit office の譯語。洋貨稅單・土貨運單を發する事務を取扱ふ係。

【内治】382 ナイチ ●國内の政治。内政。外交（3－5750‥57）の對。〔管子、八觀〕豪傑材臣、不レ務レ竭レ能、則内治不レ別矣。〔說苑、指武〕内治未レ得、不レ可二以正一レ外、本惠未レ襲、不レ可二以制一レ末。●家の内の務。内政。〔禮、昏義〕以聽二天下之内治一、以明二章婦順一。〔注〕内治、婦學之法也。

【内治外交】383 ナイチガイカウ 國内の政治と、外國との交際・交涉等相互の關係處理。

【内知】384 ナイチ 事務・會計などを掌る職。勾當。〔東軒筆錄〕碼拯之父、爲二中令趙普家内知一、内知、蓋勾二當本宅事一也。

【内智】385 ナイチ ●内に智を藏すること。〔魏志、荀攸傳〕太祖每稱曰、公達二外愚内智一、外法内勇、外弱内彊。●深い智慧。〔列仙傳〕呂尚生而内智、預見二存亡一。

【内痔】386 ナイヂ 肛門内に起る痔病。〔醫學綱目、復齋治痔法〕治二内痔一、則用二敷藥一、不レ犯二砒礵一。

【内胄】387 ウチカブト ●冑の内側。〔保元物語、白河殿攻落事〕まつかう内冑は恐れも候。●内部の樣子。

【内簡】388 nei⁴ chou⁴ 論理學用語。歸納（6－16349‥225）に同じ。

【内衄】389 nei⁴ niu⁴ 血を吐く。吐血。

【内賬】390 nei⁴ chang⁴ 内部の帳簿の總稱。

【内賬房】391 nei⁴ chang⁴ fang² 商店の内部の會計方。

【内廳】392 ナイチャウ 奥座敷。内室。〔隋唐嘉話〕隋吏部侍郎高孝基銓人、至二梁公房一、蔡公杜愕然端視、良久降レ階、與レ之抗禮、延入二内廳一、共食曰、二賢當レ爲二興王佐命一、位極二人臣一。

【内伎】393 ナイギ 天子の儀衞で、常に宮中に侍する者。〔唐書、儀衞志上〕每月以二四十六人一、立二内廊閤外一、號曰二内伎一、以二左右金吾將軍一當レ上、中郎將一人押レ之。

【内場】394 ナイヂャウ ●武官登用試驗で、武經の試驗をする所。外場では武藝の試驗をする。〔清會典事例、兵部、武科、武鄉試〕又奏准、武闈内場彌封將卷二面摺疊一、外用二厚紙一、兩層封固、以昭二愼重一。●nei⁴ ch'ang² 商店などの店内勤務者。内勤店員。外場の對語。

【内廚】395 ナイヂュウ ●くりや。〔後漢書、臧洪傳〕主簿啓二内廚一、米三斗。●星の名。〔宋史、天文志二〕内廚二星、在二紫微垣西南外一、主二六宮之内飲食一。

【内中】396 ナイチュウ ●後庭の室。〔漢書、武帝紀〕甘泉宮内中產レ芝、九莖連葉。〔注〕師古曰、内中、謂二後庭之室一也。〔論衡、初稟〕光武生二於濟陽宮一、夜半無レ火、内中光明。〔王涯、宮詞〕禁樹傳聲在二九霄一、内中殘火獨遙遙。●nei⁴ chung¹ なか。うち。

【内住】397 ウチズミ ●内裏に住居すること。〔源氏物語、桐壺〕うちずみのみ好ましうし給へば。●常に宿直に供奉する藏人女房。

【内女】398 ナイヂョ ●王の同姓の女。〔周禮、春官、序官〕凡内女之有レ爵者。〔注〕内女、王同姓之女、謂二之内宗一。●自國の君の女。春秋では魯君の女をいふ。〔公羊、隱、二〕伯姬者何、内女也。〔穀梁、僖、九〕秋七月乙酉、伯姬卒、内女也。

【内重】399 ナイヂュウ 心が重々しく落付いてゐること。内心重厚。〔後漢書、祭肜傳〕肜性沈毅内重。

【内寵】400 ナイチョウ ●天子諸侯などの氣に入りの側女。内嬖。〔左氏、桓、十一〕君多二内寵一、子無二大援一。〔左氏、閔、二〕内寵竝レ后。〔左氏、僖、十七〕齊侯好レ内、多二内寵一、内嬖如二夫人一者六人。〔左氏、昭、二十〕内寵之妾、肆奪二於市一、外寵之臣、僭令二於鄙一。●奥向の臣で權寵あるもの。〔左氏、僖、十七〕因二内寵一、以殺二羣吏一。〔注〕内寵、内官之有二權寵一者也。〔史記、佞幸、李延年傳〕内寵嬖臣、大底外戚之家。

【内直】401 ナイチョク 内心が眞直なこと。〔莊子、人間世〕然則我内直而外曲、成而上比、内直者與レ天爲レ徒。〔疏〕言、我内心質素誠直、共二自然之理一、而爲二徒類一。

【内直筋】402 ナイチョクキン 眼筋の一。外直筋の拮抗筋で、主として眼球の内轉作用をなす。

【内直郎】403 ナイチョクラウ 官名。唐、置く。符璽・扇繖・几案・衣服を掌る。〔資治通鑑、唐紀〕〔中宗、神龍元年〕湛及内直郎駙馬都尉安陽王同皎。〔注〕唐東宮内直局、有二内直郎二人一、從六品下、掌二符璽・扇繖・几案・衣服之事一。

【内勅】404 ナイチョク 天子の御内意。内密のみことのり。

【内陳】405 ナイチン 内側にならべる。〔南齊書、武帝紀〕婚禮下達、人倫攸レ始、周官設二媒氏之職一、國風興二於時之詠一、四爵内陳、義不レ期レ侈、三鼎外列、事豈存レ奢。

【内鎭】406 ナイチン 鎭圭。宗后が執り守るもの。〔周禮、考工記、玉人〕大琮十有二寸、射四寸、厚寸、是謂二内鎭一、宗后守レ之。〔注〕如二王之鎭圭一也。〔疏〕言二是謂一内鎭一者、對二天子執一鎭圭一爲レ内、若下内宰對二大宰一爲レ内、司服對二司服一爲上内、王不レ言レ外者、男子居レ外、是其常、但婦人陰、則得二内稱一也。

【内陣】407 ナイヂン 神社佛閣で、神靈または本尊を安置する所。本殿。本堂。〔東鑑、六〕文治元年九月廿九日、南御堂内陣板敷。

【内塵】408 ナイヂン 〔佩玉聲・香・味・觸・法の六塵を内外に分ち、五識所緣の名聲等の五を外塵とし、意識所緣の法を内塵とする。

【内通】409 ナイツウ ●内應（24）の●に同じ。●男女の私通。

【内丁】410 ナイテイ 地方長官の下人。〔福惠全書、蒞任部、馭衙役〕通二内丁一、爲二線索一。

【内廷】411 ナイテイ 禁庭のうち。禁庭。内裏。内庭。〔韓偓、甲子歲夏五月自二長沙一抵二醴陵一詩〕職在二内廷宮闕下一、廳前皆種二紫薇花一。〔清會典、欽天監〕内廷候時則備レ直。

【内廷四庫】412 ナイテイシコ 清代、四庫全書を藏した四つの庫。北京宮中の文淵閣と奉天の文溯閣と熱河の文津閣と北京郊外圓明園の文源閣と

をいふ。四庫全書(**3**－**4682**・・269)を見よ。

【內弟】413 テイ ナイ 妻の弟。〔杜甫、毒熱寄二簡崔評事十六弟一詩〕開レ襟仰二內弟一、執レ熱露二白頭一。

〔內弟子〕414 ウチデシ 師家に寄宿してゐる弟子。〔聞上手〕內弟子を駕籠に乘せてやる。

【內定】415 ナイテイ 內々でさだめる。〔春秋繁露、考功名〕先內二定之一、其先比二二三分一、以爲二上中下一。

【內庭】416 ナイテイ ㊀禁庭の內。內廷(411)に同じ。〔柳宗元、與二韓愈一論二史官一書〕內庭外衢。〔李紳、悲二善才一詩序〕頃在二內庭一、日別承二恩顧一。〔李庾、東都賦〕抗二鳳樓於內庭一、矗二端門於天街一。㊁ウチニハ 室と室との閒にある庭。中庭。

【內偵】417 ナイテイ 密かにさぐる。

【內朝】418 ナイテウ ㊀周の制度で、三朝の中、治朝と燕朝とをいふ。漢唐の制も略〻之に據る。三朝(**1**－**12**・・1314)を見よ。〔周禮、夏官、司士〕王還揖二門左一、揖二門右一、大僕前、王入二內朝一。〔禮、文王世子〕其朝二于公一、內朝則東面北上。〔禮、玉藻〕朝服以日視二朝於內朝一。〔疏〕云二天子諸侯皆三朝一者、大僕云、掌二燕朝之服位一、注云、燕朝、朝二于路寢之庭一、是一也、司士云、正二朝儀之位一、注云、此王日視二事于路門外一、是二也、朝士云、掌二外朝之灋一、注云、外朝、在二庫門之外、皐門之內一、是三也、諸侯三朝者、文王世子云、公侯朝二于內朝一、路寢朝、是一也、世子又云、其在二外朝一、司士爲レ之、與三此視二朝于內朝一、皆謂二路寢門外毎日視レ朝、是二也、云云、諸侯三門、是中門外大門內、又有二外朝一、是三也。〔三禮義宗〕天子諸侯有二三朝一、一曰外朝、二曰中朝、三曰內朝。㊁おくごてん。〔後漢書、和熹鄧皇后紀〕杜二絕奢盈之源一、防二抑逸欲之兆一、正二位內朝一、流二化四海一。

【內的】419 ナイテキ 內部に關すること。內面的(514)に同じ。精神・心意に關すること。

【內姪】420 ナイテツ 妻の兄弟の子。〔稱謂錄、妻之兄弟之子女、姪〕妻之兄弟之子、今所謂內姪也、據レ此則內姪之稱、亦從レ俗也。

〔內姪孫〕421 nei⁴ chih² suen¹ 內姪の子。「姪。

〔內姪女〕422 nei⁴ chih² nü³ 妻の兄弟の女。妻の

【內堞】423 ナイテフ 內にあるひめがき。〔墨子、備城門〕因以二內堞一爲レ外。

【內典】424 ナイテン ㊀內地の書。內典外典の㊀を見よ。㊁佛教の書物。佛典。外典(**3**－**5750**・・431)の對。〔顏氏家訓、歸心〕內典初門。〔北史、蕭詧傳〕內典華嚴般若法華金光明義疏、三十六卷。

〔內典外典〕425 ナイテングワイテン ㊀內地の書と外國の書。〔後漢書、逸民、法眞傳〕法眞字高卿、扶風郿人、南郡太守雄之子也、好レ學而無二常家一、博通二內外圖典一、爲二關西大儒一。㊁佛 ナイテンゲテン 佛經を內典といひ、佛經外の書籍を外典といふ。〔釋氏要覽〕智論云、習二外典一、如三以レ刀割レ泥、無レ所レ成、而刀自損、言二內外典一者、二教論云、救レ形之教、稱爲レ外、濟レ廣之典、號爲レ內。〔顏氏家訓、歸心〕內外兩教、本爲二一體一、漸極爲レ異、深淺不レ同、內典初門、設二五種禁一、外典仁義禮智信、皆與レ之符、仁者不殺之禁也、義者不盜之禁也、禮者不邪之禁也、智者不淫之禁也、信者不妄之禁也、至レ如二畋狩軍旅燕享刑罰一、固民之性、不レ可二卒除一、就爲二之節一、使レ不二淫濫一、爾歸二周孔一而背二釋宗一、何其迷也。

【內轉】426 ナイテン ㊀地方官から中央政府の職にうつること。〔晉書、李密傳〕密有二才能一、常望二內轉一、而朝廷無レ援。㊁內に轉ずる。〔繁欽、與二魏文帝一牋〕潛氣內轉、哀聲外激。

【內闐】427 ナイテン 內にみちる。〔班固、西都賦〕毛羣內闐、飛羽上覆。

【內傳】428 ナイデン 古人の著書の精蘊のものをいふ。外傳(**3**－**5750**・・435)の對。內外傳(113)を見よ。〔漢書、藝文志〕韓詩內傳四卷、韓詩外傳六卷。〔隋書、經籍志二〕漢武內傳三卷。〔李商隱、碧城詩〕武皇內傳分明在、莫レ道人閒總不レ知。

【內殿】429 ナイデン 奧向の宮殿。〔後漢書、靈帝紀〕中平四年正月己亥、南宮內殿、罘罳自壞。〔南齊書、和帝紀〕中興二年春正月戊戌、宣德太后臨レ朝、入居二內殿一。〔沈佺期、再入二道場一紀レ事應制詩〕南方歸去再生レ天、內殿今年異二昔年一。

【內渡】430 nei⁴ tu⁴ ㊀內地に渡航する。海を渡つて內地に入る。㊁ウチワタシ ㋑一部の金額を渡す。㋺知行所を賜ふといふ證書。

【內都】431 ナイト 王城のある都。帝都(**4**－**8865**・・168)に同じ。〔魏書、尉元傳〕太和初、徵爲二內都大官一。〔北史、陸俟傳〕遷二內都大官一。

【內帑】432 ナイド 宮中で金布類を藏める庫。轉じて、君王の所有する財貨。〔宋史、高宗紀五〕〔紹興五年十一月〕乙未、出二內帑綿絹一賜二宗室一。

【內德】433 ナイトク ㊀心のうちに備はつた德。中心の德。〔詩、衞風、芄蘭、容兮遂兮垂帶悸兮、疏〕徒善二其外飾一、使二容儀可レ觀兮、而內德不レ稱。〔史記、外戚世家序〕非二獨內德茂一也。㊁后妃の德。坤德。又、后妃をいふ。內德助を見よ。

〔內德助〕434 ナイトクノタスケ 妻妃が內にあつて其の夫に力を添へること。內助。〔任昉、王貴嬪冊文〕坤載既厚、內德云助。〔陳書、皇后傳序〕非二獨外相佐一也、蓋亦有二內德助一焉。

〔內德政〕435 ナイトクセイ 室町時代に幕府に行はれた廣範圍の德政の外に、領主が行つた一地方に限られた德政。

【內囊】436 nei⁴ nang² ㊀內容。㊁私用。家內の事。

【內難】437 ナイナン 內部の騷亂。〔易、明夷〕內難而能正二其志一、箕子以レ之。〔公羊、莊、二十七〕何通二乎季子之私行一、辟二內難一也、君子辟二內難一、而不レ辟二外難一。〔戰國、中山策〕趙使者來屬レ耳、獨不レ可レ語二陰簡之美一乎、趙必請レ之、君與レ之、卽公無二內難一矣。〔韓非子、內儲說下〕鄗君以爲二內難一也、而盡殺二其良臣一。〔傅亮、爲二宋公一求レ加二贈劉前軍一表〕外虞殷殷、內難亦薦。

【內入】438 ウチイリ ㊀借金などの一部を償ふこと。㊁まうけ。收入。

【內熱】439 ナイネツ ㊀體內に熱を發する病氣。〔左氏、昭、元〕女、陽物而晦時、淫則生二內熱惑蠱之疾一。㊁心臟に熱を發する病氣。〔莊子、則陽〕漂疽疥癰、內熱溲膏、是也。〔莊子、則陽〕使二其君內熱發二於背一。〔疏〕故熱氣蘊二於心一、癰疽發二於背一也。㊂心中がかつとなる。〔後漢書、劉陶傳〕每レ聞二羽書告レ急之聲一、心灼內熱、四體驚竦。

〔內熱之病〕440 ナイネツノヤマヒ 心臟に發熱する病氣。〔莊子、達生〕有二張毅者一、高門縣薄、无レ不レ走也、行年四十、而有二內熱之病一以死。

【內方】441 ナイハウ ㊀山名。㋑福建省長泰縣の東北。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、長泰縣〕吳田山、縣東北八十里、曰二內方山一、出二銀鑛一。㋺湖北省鍾祥縣の西南。荊門縣界に接す。今の名は章山。一名、馬良山、又、馬仙山。〔書、禹貢〕導二嶓冢一、至二于荊山一、內方至二于大別一。〔傳〕內方・大別、二山名、在二荊州一、漢所レ經。〔漢書、地理志上〕江夏郡、竟陵、章山在二東北一、古文以爲二內方山一。㋩湖北省漢川縣の西南。〔元和志〕內方山、在二汊川縣南九十里一。㊁ウチカタ ㋑他人の妻に對する敬稱。令閨。〔貫之家集〕つねすけの中納言內方。㋺我が家。〔狂言記、相合袴〕うちかたにござります。

〔內方邊〕442 nei⁴ fang¹ pien¹ 內法。うちのり。

【內包】443 ナイハウ 論理學用語。一定の諸事物を提示する或る概念に於て、其の含有する此の諸事物に遍通する屬性の總和を、其の概念の內包といふ。內含。內函。內容。

【內報】444 ナイハウ 內々で知らせること。內々の報知。〔運步色葉集〕內報。

【內寶】445 ナイハウ 國內の寶物。〔中鑒、雜言上〕腹心之人、匍匐而獻、善寶之至矣、故明王愼二內守一、除二外寇一而重二內寶一。

【內坊】446 ナイバウ 太子のきさきの宮殿。〔唐書、百官志二〕太子內坊局、令二人、從五品下。

【內房】447 ナイバウ 婦人の住む部屋。閨房。〔魏志、齊王芳紀〕迎二六宮家人一、留二止內房一。

【內法】448 ナイハフ ㊀佛家の教。〔北史、齊上洛王思宗
酒噉レ肉、文宣天保末年、敬二信內法一、乃至三宗廟
不二血食一、皆元海所レ爲。㊁道家の教。〔茅君內
傳〕太上命二茅固一、治二丹陽句曲山一、茅衷治二良常
之山一、內法既融、外教坦平、爾乃風雨時、五禾成
傳〕思宗子元海、好レ亂樂レ禍、然詐二仁慈一、不二飲レ
熱。㊂nei⁴ fa³ 宮中內での製酒の法。「する。

【內犯】449 nei⁴ fan⁴ 寇盜が外部から內部に進入する。

【內板】450 nei⁴ pan³ 宮中版の書籍。卽ち殿板。

【內叛】451 ナイハン 內に在つてそむく。內畔。〔史記、高祖紀〕大臣內叛、諸侯外反。

【內班】452 nei⁴ pan¹ ㊀宮中の官吏。又、其の官職。㊁海關用語。In door staff の譯。大公事房(大寫抬・進口檯・出口檯・復出口檯・結關檯・餉單檯・號頭檯・出口總單檯・蘇杭檯・碼頭捐檯)派司房に從事する職員を內班といふ。

之に對し、檢査員・見張員等を外班といふ。

【内畔】453 ナイハン 内に在つてそむく。内叛（451）に同じ。〔漢書、高帝紀下〕大臣内畔、諸將外反。

【内範】454 ナイハン 書名。則天武后の撰せしめたもの。〔舊唐書、則天皇后紀〕召二文學之士周思茂・范履冰・衞敬業一、令レ撰二玄覽及古今内範百卷・内範要略十卷・臣範兩卷幷文集一百二十卷一、藏二於祕閣一。

【内藩】455 ナイハン 帝居に近い諸侯。外藩（3－5750：477）の對。〔魏書、氏傳〕始光四年、世祖遣二大鴻臚公孫軌一、拜レ玄爲二征南大將軍一、都二督梁州刺史一、南秦王玄、上表請レ比二内藩一、許レ之。

【内祕】456 ナイヒ ❶佛舍利佛等のやうに内に菩薩の大行を祕し、外に小乘聲聞の相を現はすことをいふ。〔法華經、五百弟子授記品〕内祕二菩薩行一、外現二是聲聞一。❷内部の祕密。

【内祕書院】457 ナイヒショヰン 清代の内三院の一。外國との往復の文書及び勅諭祭文を撰することを掌る。〔清國行政法汎論、内閣〕内祕書院、專掌下往二復外國一文書、並撰中勅諭祭文上。

【内美】458 ナイビ ❶心の中に在る善美の德。〔楚辭、離騷〕紛吾既有二此内美一兮、又重レ之以二修能一。〔淨住子、剋責身心門〕今内外道俗、共知二内美之稱由一レ心、外惡之名在レ行、豈得下不レ捨二外惡一、勤中修内善上。❷清、易貞言（5－13814：216）の字。

【内評】459 ナイヒヤウ 内々の評判。又、内々の評議。〔運歩色葉集〕内評ナイヒヤウ。

【内病】460 ナイビヤウ 身中のやまひ。體内の病氣。〔史記、吳王濞傳〕吳王身有二内病一。〔嵇康、與二山巨源一絶交書〕不レ有二外難一當レ有二内病一。

【内逼】461 ナイヒツ ❶便意を催す。〔北夢瑣言〕唐有二一丞郎一、馬上内逼、急詣二一空宅一、徑登二溷軒一。❷國内にせまる。〔宋書、武帝紀上〕彊寇内逼。

【内賓】462 ナイヒン 父の姉妹、又は父の姉妹と族人の婦とをいふ。轉じて、女客をいふ。〔儀禮、特牲饋食禮、洗獻二内兄弟于房中一、疏〕内賓、姑姉妹。〔儀禮、有司徹〕主人洗獻二内賓于房中一。〔注〕内賓、姑姉妹及宗婦。

【内敏】463 ナイビン 心のさといこと。〔漢書、循吏、黃霸傳〕爲レ人明察内敏。〔注〕師古曰、内敏言二心思捷疾一也。〔蜀志、譙周傳、潛識内敏。

【内府】464 ナイフ ❶周官の名。周禮天官の屬。貢賦の貨物兵器等を藏する宮中の庫を掌る官。〔周禮、天官、内府〕内府掌レ受二九貢九賦九功之貨賄、良兵良器一、以待二邦之大用一。❷國内のくら。おもてぐら。〔史記、淮陰侯傳〕糧食竭二於内府一。〔後漢書、南蠻西南夷傳論〕其寶賮火毳、馴禽封獸之賦、輸二積于内府一。〔陸機、辨亡論上〕巨象逸駿、擾二於外閑一、明珠瑋寶、耀二於内府一。〔鮑照、河清頌序〕冀馬南金、塡二委内府一、馴象西爵、充二羅外苑一。❸官名。内大臣（587）の❷の異名。

【内附】465 ナイフ 來りつく。服從し來る。〔後漢書、和帝紀〕（永元三年）冬十月癸未、行二幸長安一、詔曰、北狄破滅、名王仍降、西域諸國、納レ質内附、豈非二祖宗迪哲重光之鴻烈一歟。〔論衡、恢國〕天荒之地、王功不レ加レ兵、令二皆内附一。〔張衡、西京賦、于廬内附。

【内婦】466 ナイフ 主婦。〔列女傳、賢明、晉趙衰妻傳〕以二叔隗一爲二内婦一、姬親下レ之。

【内傅】467 ナイフ 保母。〔西京雜記、一〕趙王如意年幼、未レ能レ親二外傅一、戚姬使二舊趙王内傅趙媼傅レ之。

【内侮】468 ナイブ 一家中のなかたがひ。轉じて、國内の人々から受けるあなどり。外侮（3－5750：493）の對。〔國語、周語中〕周文公之詩曰、兄弟鬩二于牆一、外禦二其侮一、若レ是則鬩乃内侮、而雖レ鬩不レ敗二親也。

【内部】469 ナイブ ❶高麗五部の一。黃部ともいふ。〔唐書、高麗傳〕分二五部一曰二内部一、卽漢桂婁部也、亦號二黃部一。❷うちの部分。うちわ。❸官廳の名。内政部（323）の略。❹イッ 伊勢の地名。

【内部保留】470 ナイブホリウ 會社の利益の全部或は一部を會社の内部に積立てること。

【内封】471 ナイフウ 腰文をいふ。祕密を保つため、内部にまきつける紐を糊ではつたもの。内封狀。〔書札袖珍寶聞書〕式正之狀は内封之儀也。

【内服】472 ナイフク ❶帝居の域。天下を五服に分けた要服以内をいふ。五服（1－257：977）を見よ。〔書、酒誥〕越在二外服一、侯甸男衞邦伯、越在二内服一、百僚庶尹。❷藥を飲む。内用。〔醫按、灼艾痛癢論〕伍氏曰、凡治二癰疽一、發レ背疔瘡不レ痛者、必灸使レ痛、痛者必灸使レ不レ痛。若初灸卽痛者、由二毒氣輕淺一、灸而不レ痛者、乃毒氣深重、悉宜下内服追二毒排膿一、外傅中拔二毒之藥一上、大抵癰疽不レ可レ不レ痛、又不レ可二大痛一、悶亂不レ知レ痛者難レ治。

【内服藥】473 ナイフクヤク 内服する藥劑。内用藥。

【内服療法】474 ナイフクレウハフ 内服藥によつてする治療法。内服藥療法。

【内服藥療法】475 ナイフクヤクレウハフ 内服療法に同じ。

【内福】476 ナイフク ❶精神的な幸福。〔列子、力命〕不レ駭二外禍一、不レ喜二内福一。❷内實の富裕なこと。

【内紛】477 ナイフン うちわもめ。うちわのごたごた。

【内分】478 ナイブン ❶おほやけにしない。ないない。内密。❷數學用語。一直線上に一點を取つた時、この直線はこの點で内分せられたといふ。

【内分番】479 ナイブンバン 内位の分番。〔令義解、選敍令〕凡考選之限、都有二四科一、内長上六考、内分番八考、云云、假令内分番經二一考一入二内長上一者、同二六考例一。

【内分泌】480 ナイブンピツ 動物體内の或る器官がホルモンを直接、組織液中に分泌すること。

【内聞】481 ナイブン ❶國又は朝廷内に在つて與り聞く。〔宋書、謝晦傳〕臣昔因二時幸過一蒙先眷一、内聞二政事一、外經二戎旅一、與二湨之亮等一、同被二齒盼一。❷内々で聞く。内々のおきき。

【内平】482 ナイヘイ 星の名。〔晉書、天文志上〕熒北四星曰二内平一。〔觀象玩占〕内平四星、中台南、軒轅北、執レ法平レ罪之位也。

【内兼】483 ナイケン みさををとりまもる。〔元稹、鶯鶯傳〕貞元中、有二張生者一、性溫茂美二風容一、内秉堅孤、非禮不レ可レ入。

【内屛】484 ナイヘイ ❶諸侯の禮制で、門の内側に設けた塀。〔禮、郊特牲、臺門而旅樹、注〕言、此皆諸侯之禮也、旅、道也、屛、謂二之樹一樹、所二以蔽一行道一、管氏樹塞門、塞、猶レ蔽也、禮、天子外屛、諸侯内屛、大夫以レ簾、士以レ帷。❷星の名。〔宋史、天文志二〕内屛四星、在二端門内一、近二右執法一、屛者、所二以擁一蔽帝庭一也。

【内嬖】485 ナイヘイ 君の寵愛を受けてゐる婦人。おもひもの。内寵。〔左氏、僖、十七〕齊侯好レ内、多二内寵一、内嬖如二夫人一者六人。

【内辟】486 ナイヘキ 笙の内穴。内側に穴を開く。〔潘岳、笙賦、修幹内辟、餘簫外逶。〔注〕向曰、辟、開也、云云、言二竹之最長大者一、則内開レ之爲レ孔也。

【内壁】487 ナイヘキ 内部のかべ。内部のかこひ。

【内篇】488 ナイヘン ❶莊子・晏子春秋・淮南子など皆内篇の目がある。内は外に對していふ。管子に經言があるのと同じ。内篇外篇を見よ。❷神仙家の說をいふ。〔黃庭内景經、閑二居慈珠一、作二七言散化五形變萬神一、是爲二黃庭一、曰二内篇一。〔宋祁、謚仙賦〕緣二内篇之不誕一兮、眩二南宮之多聞一。

【内篇外篇】489 ナイヘンガイヘン 古人の著書は多く内外兩篇に分ち、其の精蘊のものを内篇といひ、疎雜なものを外篇といふ。〔漢書、藝文志〕淮南内二十一篇、外二十三篇。〔注〕師古曰、内篇論道、外篇雜說。〔晉書、葛洪傳〕所レ著子、言二黃白之事一、名曰二内篇一、其餘駁雜通釋、名曰二外篇一、大凡内外一百一十六篇、云云、自號二抱朴子一。〔四庫提要、子、道家類〕南華眞經新傳二十卷、宋王雱撰、云云、内七篇、皆有二次序綸貫一、其十五外篇、十一雜篇、不レ過二蔵二内篇之宏綱幽廣一。

【内變】490 ナイヘン 國内のさわぎ。國内に起きる事變。〔菜根譚、二十〕不レ生二内變一、必召二外憂一。

【内辨】491 ナイベン 官名。御卽位及び元日以下の諸節會に、主として事を執るもの。〔西宮記、正月下、蹈歌〕内辨、著二兀子一、内侍出、内辨謝座昇殿。

【内輔】492 ナイホ うちのたすけ。内部の輔佐。〔漢書、傅喜傳〕忠誠憂國、内輔之臣也。

【内母】493 ナイボ 他人の母に對する敬稱。母君。〔臥雲日件錄〕文安二年二月一日、御内母養春院殿七周忌。

【内崩】494 ナイホウ 内部がくづれやぶれる。〔新書、耳痺〕憂悲荐至、内崩而死。

【内謀】495 ナイボウ ❶心の中で思ひめぐらす。又、内省する。〔國語、晉語三〕内謀外度、考省不倦。❷内にゐて策略をめぐらす。又、其の策略。〔史記、蒙恬傳〕恬任二外事一、而毅常爲二内謀一。

【内墨】496 ナイボク 書法の一。雙鉤の内を塗抹することをいふ。〔圖書寮式〕凡摸書、長功日九十言、内墨三十言。

【内凡】497 ナイボン 佛眞理を悟らうと努力してゐるが未だ其の域に達しないもの。〔四教儀集注、中〕漸見ニ法性一、心遊ニ理内一、身居ニ有漏一、聖道未レ生、故名ニ内凡一。

【内妹】498 ナイマイ 妻の妹。〔魏志、夏侯淵傳〕淵妻太祖内妹、長子衡、尚ニ太祖弟海陽哀侯女一。

【内幕】499 ナイマク ㊀内部。内部の實情。うちまく。㊁ウチマク ㋑幔の一種。上を横幅に、下を縱幅に縫ひ合せたもの。外幕の内に張る。〔和漢三才圖會、家飾具、幔〕一種似レ幔、而上施ニ横一幅一、下耑不レ縫處六寸許、以レ革爲ニ纐纈一者、呼曰ニ内幕一。㋺内部。㊀に同じ。

【内幕話】500 ウチマクバナシ うちまくのはなし。内々の話。

【内膜】501 ナイマク 心臟壁・血管壁等の内層の膜。

【内密】502 ナイミツ 内部の機密。祕密。〔胡宿、除ニ曾公亮樞密使一制〕内密之任、宜レ正ニ于莞樞一。

【内務】503 ナイム ㊀國内の政治事務。〔公羊、隱、二〕公會ニ戎于潛一、〔注〕凡書レ會者、惡下其虛ニ内務一、恃中外好上也。㊁宮廷内の事務。内政。〔宋書、戴法興傳〕上卽レ位、爲ニ南臺侍御史一、同ニ兼中書通事舍人法興等一、專管ニ内務一、權重ニ當時一。〔南史、循吏傳序〕留ニ心吏職一、而王略外舉、未レ遑ニ内務一。

【内務省】504 ナイムシヤウ もとの官省の一。地方・警保・國土・防空・管理の五局を置き、地方行政・議員選擧・都市計畫・地理・警察・土木・衞生・圖書出版・著作權・褒賞等に關する事務を處理し、警視總監・地方長官等を監督した。今、廢せらる。

【内務府】505 ナイムフ 清朝に於ける王所屬の官廳の名。王室一切の事務を管理する。我が國の宮内省に相當する。〔淸會典事例、内務府、官制〕十八年、裁ニ十三衙門一、仍設ニ内務府一、以總ニ管大臣一、管ニ理諸務一、由ニ特簡一、無ニ定員一、其府屬各官、均由ニ内務府總管大臣一、引見補授。

【内務部】506 nei⁴ wu⁴ pu⁴ 官廳の名。民國の初に置く。中央の官廳で、地方行政の一般を管理する。國民政府は内政部に改め行政院に隸屬せしめた。我が國の内務省に相當する。長官を總長といふ。

【内務大臣】507 ナイムダイジン 舊憲法上の統治機關の一。國務大臣としては天皇を輔弼し、獨立して其の責に任じ、主管の國務に關する法律・勅令・詔書に副書する。中央行政官廳として官制の定めるところにより、内務省を統轄して國家の内務行政に關する事務を管掌した。

【内務府旗人】508 ナイムフキジン 内務府に屬する旗人で、鑲黃・正黃・正白の三旗がある。内三旗。八旗兵（**2**－**1450**‥74）を見よ。〔淸會典事例、内務府、管制、内務府三旗官兵〕順治初年定、内務府三旗、每レ旗設ニ滿洲佐領三人・旗鼓佐領四人一、正黃旗設ニ朝鮮佐領一人一、凡滿洲朝鮮佐領、及内管領下之滿洲蒙古等、每ニ二丁一、設ニ馬甲一名一、旗鼓佐領下不レ論レ丁、每ニ佐領一、設ニ馬甲五十名一、每ニ佐領内管領下一、各設ニ領催六名一。

【内命】509 ナイメイ 外朝の議を經ない君主の命令。内のいひつけ。密旨。内制。〔翰林志〕始建ニ學士院于翰林院之南一、俾ニ專掌ニ内命一。

【内命夫】510 ナイメイフ 周代、卿大夫及び士の、宮中に在る者をいふ。〔周禮、天官、闇人〕凡外内命夫命婦出入、則爲レ之闢。〔注〕内命夫、卿大夫士之在ニ宮中一者。

【内命婦】511 ナイメイフ ㊀周代、宮中に奉仕する三夫人以下の官女をいふ。〔周禮、天官、闇人〕凡外内命夫命婦出入、則爲レ之闢。〔疏〕内命婦、卽三夫人已下也。〔禮、喪大記〕内命婦姑姊妹子姓、立ニ于西方一。〔注〕世婦、爲ニ内命婦一。㊁ナイミヤウブ 五位以上の女官。〔令義解、職員令〕内外命婦、謂ニ婦人帶ニ五位以上一、曰ニ内命婦一也。

【内明】512 ナイメイ ㊀心の聰明なこと。〔白虎通、五行〕天子所ニ以内明而外昧一。㊁ナイミヤウ 佛五明の一。㋑印度に於ける哲學に對する稱呼。㋺佛所說の五乘の妙理を明かにすること。内は内教。〔翻譯名義集〕言ニ五明一者、五曰ニ内明一、究ニ暢五乘一、因ニ果妙理一。

【内面】513 ナイメン ㊀顏を向ける。服從する意。〔令孤楚、賀レ赦表〕百蠻梯航以内レ面、萬國歌舞而宅レ心。㊁うちがは。内側。外面（**3**－**5750**‥544）の對。〔雲笈七籤〕造劍尸解法、欲レ知ニ劍之左右内外一、以レ劍正指レ南、使ニ劍背在レ上、劍刃在レ下也、於レ是乃以ニ東面一爲レ右、西面爲レ左、東爲ニ内面一、西爲ニ外面一。㊂精神・心意の方面。

【内面的】514 ナイメンテキ 内部に關すること。精神・心意に關すること。内部的。内的。

【内蒙】515 ナイモウ 内蒙古の略。

【内蒙古】516 ウチモウコ ナイモウコ 地名。今の東三省の西境及び熱河・察哈爾・綏遠三省の地。東西六盟に分れて、東四盟は哲里木・卓索圖・昭烏達・錫林郭勒、西二盟は烏蘭察布・伊克昭といふ。凡そ二十四部四十九旗を領して、盟に盟長を置き、各旗に札薩克があり、封爵には親王・郡王・貝勒・貝子・輔國公・鎭國公・台吉の別がある。盟は數部數旗を合せて其の利害を商權し、安寧を保護するもので、盟長が一人、副盟長が一人である。又、察哈爾八旗・歸化城土默特の二旗は察哈爾綏遠二都統に分屬して、別に内屬蒙古と稱す。蒙古（**9**－**31555**‥40）を見よ。

【内門】517 ナイモン 宮中の門の名。〔宋史、李覯傳〕路寢之前、則名ニ路門一、其次有ニ應門一、明堂非ニ路寢一、乃變ニ其内門之名一、爲ニ東門南門一、而次有ニ應門一、何害ニ於義一。

【内門家丁】518 nei⁴ men² chia¹ ting¹ 中門の番人。

【内野】519 ナイヤ 野球戲に於けるインフイールドの譯語。一壘・二壘・三壘・本壘の間を結ぶ直線の範圍内をいふ。

【内洋】520 ナイヤウ ㊀山名。廣東省陸豐縣の東北。明末に、賊の首領楊子亮の據つた處。㊁内海。うちうみ。

【内譯】521 ウチワケ 金穀の支出、又は收入の小わけ。總計に對する明細書。

【内諭】522 ナイユ 内々のさとし。

【内勇】523 ナイユウ 内に勇氣を蓄へること。〔魏志、荀攸傳〕太祖每稱曰、公達外愚内智、外怯内勇、外弱内彊、不レ伐レ善、無レ施レ勞。

【内熊】524 ナイユウ 楚の始祖。鬻熊（**12**－**45721**‥31）に同じ。〔大戴禮、帝繫〕季連產ニ付祖氏一、付祖氏產ニ内熊一。

【内融】525 ナイユウ ㊀心がほがらか。〔袁宏、三國名臣序贊〕士元弘長、雅性内融。〔注〕翰曰、融、明也。㊁唐、崔沆（**4**－**8178**‥26）の字。

【内用】526 ナイヨウ ㊀藥を飮む。内服。㊁内々の用事。〔好色二代男、三〕御内用申し越され。

【内容】527 ナイヨウ ㊀其の内に包容せられた實質。なかみ。㊁論理學用語。内包（443）に同じ。

【内容證明】528 ナイヨウシヨウメイ 内容證明郵便、又は内容證明郵便物の略。

【内容見本】529 ナイヨウミホン 内容を提示する爲の見本。

【内容證明郵便】530 ナイヨウシヨウメイイウビン 特殊取扱郵便の一。封緘した書留郵便で、日本字又は漢字で内容を明瞭に記載した文書を郵便官署に差出して其の内容の證明を受けるもの。

【内容證明郵便物】531 ナイヨウシヨウメイイウビンブツ 特殊取扱郵便物の一。内容證明郵便の手續によるもの。

【内饔】532 ナイヨウ 周官の名。周禮天官の屬。王及び后・世子の食、及び宗廟の祭祀の際の料理を掌る。〔周禮、天官、内饔〕内饔掌ニ王及后世子膳羞之割亨煎和之事一、云云、凡宗廟之祭祀、掌ニ割亨之事一。

【内癰】533 ナイヨウ 身體の内部に生ずる腫物。〔庭訓往來、十一月〕内癰。

【内欲】534 ナイヨク 望み求める心の欲。〔嵆康、家誡〕或牽ニ於外物一、或累ニ於内欲一。

【内老】535 nei⁴ lao³ 内部の實權者。内大臣の類。

【内勞】536 nei⁴ lao² 馬の病氣。ないら。

【内亂】537 ナイラン ㊀國内の亂。外寇（**3**－**5750**‥201）の對。〔書、多方〕崇ニ亂有夏一、因甲ニ于内亂一。〔禮、雜記下〕内亂不レ與焉。〔管子、法法〕懦弱之君、不レ免ニ於内亂一。〔史記、伍子胥傳〕楚昭王見ニ吳有ニ内亂一。〔漢書、谷永傳〕三者既除、内亂之路塞矣。㊁家庭内の亂行。〔周禮、夏官、大司馬〕外内亂、鳥獸行、則滅レ之。〔疏〕外亂、謂下若ニ齊襄公淫ニ於妹魯桓夫人文姜一之等上是也、内亂、謂ニ家内一、若下衞宣公上蒸ニ父妾一、下納ニ子妻一之等上是也。〔唐律、名例〕十惡、十曰内亂。〔注〕謂レ姦ニ小功以上親、父祖妾、及與和者一。

【内亂罪】538 ナイランザイ 國家・政府に危害を加へ、又は國憲を紊亂することを目的とした暴動を起すことによつて成立する罪。

【内亂者】539 ナイランシヤ 國家・政府に危害を加へ、又國憲を亂す者。

【内亂豫備罪】540 ナイランヨビザイ 内亂を爲さうとして豫

め準備した罪。

【內覽】541 ナイラン 內々で見る。攝政關白又は特に宣旨を蒙つた大臣が、太政官の雜事、又は奏下の文書を先づ內見して萬機を實行すること。〔西宮記、十八、官奏〕令三辨內二覽關白一之後、上卿進二御所一、奏儀如レ常。

【內覽宣旨】542 ナイランノセンジ 內覽すべきことを申し付ける勅命。〔保元物語、新院御謀反思召立事〕三公內覽の宣旨、是れぞ始めなる。

【內理】543 ダイリ 天子の宮殿。內裏に同じ。〔白居易、大唐故賢妃京兆韋氏墓誌銘〕其餘坐論二婦道一、行贊二內理一。

【內裏】544 ダイリ 天子の宮殿。轉じて、宮中。禁裏。內裡。內理。〔舊唐書、李輔國傳〕大家但內裏坐、外事聽二老奴處置一。〔王建、送二宮人入道一詩〕入靜猶燒二內裏香一。

【內裏丸】545 ダイリマル 長笛の名。寶物として承平四年の寶物目錄に所載せられてゐるもの。〔拾芥抄〕天下寶物橫笛、承平四年所レ載二目錄一數品、大水龍・海人燒殘・青葉・蛇逃・蟬折・赤疵丸・內裏丸、皆希世笛也。

【內霤】546 ナイリウ 內側のあまだれおち。〔儀禮、大射儀〕賓所レ執脯、以賜二鐘人于門內霤一、遂出。〔禮、檀弓下〕曾子後入、閽人辟レ之、涉二內霤一。

【內率】547 ナイリツ 官名。唐、置く。禁內の侍衛の任を掌る。〔文獻通考、職官考、左右內率府〕隋置二左右率・副率各一人一、掌下領二備身以上一、禁內侍衛、供中奉兵仗上。唐爲二左右內率府一、龍朔二年、改爲二左右奉裕衞一、咸亨初、復レ舊、各置二率一人一、掌下侍衞左右一、供中奉兵仗上、副率・長史・錄事・參軍、及兵曹各一人、千牛各十六人、掌レ執二細刀・弓箭一、宿衞・侍從・備身、各二十八人、掌二宿衞侍從一、龍朔二年、改二太子左右千牛備身一、爲二太子左右奉裕一、尋復レ舊。〔事物紀原、環衞中貴部、內率〕隋置二左右率一、掌二禁內侍衞一、唐爲二左右內率一、舊唐志曰、隋初置二左右內率府一、擬二上臺千牛衞一也。

【內陵】548 ナイリヨウ 主を陵ぐ。〔史記、蒙恬傳〕是必孽臣逆亂內陵之道也。

【內力】549 ナイリヨク ㊀內部にある力。〔司馬法、定爵〕密靜多二內力一。㊁nei^4 li^4 運賃をこちらで負擔する。

【內輪】550 ウチワ 內曲(90)に同じ。㊀うち。家內。㊁みかた。黨內。㊂くにうち。國內。㊃ないみつ。ないない。㊄ひかへめがちなこと。

【內隸】551 ナイレイ 公家の臣僕をいふ。〔晏子、雜、下〕君之內隸、臣之父兄。〔說苑、臣術〕君之內隸、臣之父兄。

【內料】552 ナイレウ 宮廷用のしろ。〔唐書、儒學中、馬懷素傳〕太僕卿王毛仲、奏罷二內料一。

【內廉】553 ナイレン ㊀心が方正なこと。〔史記、韓長孺傳論〕壺遂之內廉行修、斯鞠躬君子也。㊁內にある簾。〔儀禮、聘禮〕陪鼎當二內廉一、東面北上。㊂すね。脛。〔心法、手足厤木〕胻、胻脛骨也、外廉屬二足陽明胃經一、內廉屬二足太陰脾經一。

【內簾】554 ナイレン 清代の科擧の試驗官。簾官(8−26616··9)を見よ。內簾官。〔清會典事例、禮部、貢擧、內簾、闈巷〕順治二年定、主考與二各房一同座二一堂一、隨分隨閱、隨取隨呈、去取權衡、專在二主考一、不レ得下但憑二房官一薦閱上、儻有二執拗憤爭者一、會同監臨、提調指絫。

【內錄】555 ナイロク 官名。錄尙書事(11−40519··37)の異稱。〔晉書、桓溫傳〕固讓二內錄一、遙領二揚州牧一。

【內和】556 ナイワ ㊀心の中がやわらぐ。〔禮、樂記〕樂極レ和、禮極レ順、內和而外順、則民瞻二其顏色一、而弗二與爭一也。㊁家庭が和ぐ。〔禮、昏義〕婦順備、而后內和理。〔疏〕和、謂レ和二於室人一。〔白虎通、攷黜〕孝道純備、故內和外榮。

【好レ內】557 ウチヲコノム 婦女子を好む。〔左氏、僖、十七〕齊侯好レ內、多二內寵一。〔史記、五宗世家〕勝爲レ人樂レ酒好レ內。

【好レ內好レ外】558 ウチヲコノミソトヲコノム 女色を好むことと賢人を好むこと。〔國語、魯語下〕好レ內女死レ之、好レ外士死レ之。

【內遊星】559 ナイイウセイ 水星・金星のやうに其の軌道が地球軌道の內にある星。

【內革羅】560 ネグロ 主としてアフリカ西部のギネヤ海岸に居住し、一部は熱帶地域のアフリカに分布する黑人種。Negroes の音譯。

【內勘定】561 ウチカンヂヤウ 店勘定に對する語。商人が其の資產負債の狀況を番頭や手代等の使用人に窺知せられることを望まない時に、店勘定のものと內勘定のものと二樣の帳簿を備へ、祕密を要する事項は其の眞相を內勘定の帳簿面に於て唯「內勘定」なる語の下に總べて之を處理し、局外に眞相を示さないことをいふ。

【內給事】562 ナイキフジ ㊀官名。唐、置く。宮中で、皇后の命を掌る。后の出入に前驅となる。宦官。〔事物紀原、環衞中貴部、內給事〕周禮內小臣之職也、後魏有二中給事中一、後爲二中給事一、煬帝改曰二內承直一、唐曰二內給事一、神龍元年、內侍省屬有二內給事八人一、是也、宋朝不レ置、臨レ事或攝。㊁中宮大進(1−73··148)及び中宮少進(1−73··147)の唐名。〔職原抄〕中宮職、大進一人、唐名內給事、少進、唐名同。

【內果皮】563 ナイクワヒ 果皮の最も內層に在つて直接に種子を包被するものをいふ。梅・桃の核は其の例である。

【內花被】564 ナイクワヒ 花冠をいふ。萼を外花被といふのに對す。

【內貨建】565 ナイクワダテ 外國爲替相場に於て我が貨幣を基準として相場を外貨で現はす建て方。例へば、對米相場三百六十圓に付一弗といふが如きをいふ。

【內華達】566 ネヴアダ 米國、西部の一州。Nevada の音譯。

【內管領】567 ナイクワンリヤウ ナイクワンレイ 鎌倉時代、執權の家宰で、其の家政を掌つたもの。管領。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕與二內管領平賴綱一爭レ權。

【內玄關】568 ナイゲンクワン ウチゲンクワン 表玄關に對し、別に設け內內の出入に便利にしたもの。〔艳狩劍本地、三〕內玄關の外つなぎ。

【內呼吸】569 ナイコキフ 毛細管內の血液と身體組織との間に行はれるガス交換。組織呼吸。

【內閽官】570 ナイコンクワン 宦官をいふ。〔稱謂錄、太監古稱、內閽官〕文選注、杜預曰、寺人、內閽官、豎刁也。

【內司服】571 ナイシフク 周官の名。周禮天官の屬。王后及び內外命婦の衣服を掌る。〔周禮、天官、內司服〕內司服、掌二王后之六服、褘衣・揄狄・闕狄・鞠衣・展衣・緣衣・素沙一、辨二外內命婦之服、鞠衣・展衣・緣衣・素沙一。

【內姊妹】572 ナイシマイ 母方のいとこ。內兄弟(143)の㊀を見よ。

【內祝言】573 ナイシウゲン おもて向の招待・披露などをせずに內々で婚禮の儀式を擧げること。

【內障眼】574 ナイシヤウガン 眼病の名。そこひ。〔醫學綱目、內障〕內障在二睛裏一、昏暗與二不患之眼一相似。

【內常侍】575 ナイジヤウジ ㊀侍官の名。秦は中常侍官といひ、隋の時、內常侍と改めた。〔資治通鑑、唐紀〕(中宗、景龍元年)以二楊思勗一爲二銀青光祿大夫行內常侍一。〔注〕唐內常侍、正五品下、漢世之中常侍也、六典、內侍省、內侍四人、內常侍六人、內侍之職、掌下在レ內侍二奉出入官掖宣傳詔令一、總中掖庭・宮闈・奚官・內僕・內府五局之官屬上、內常侍爲二之貳一。〔事物紀原、環衞中貴部、內常侍〕秦置二中常侍官一、參二用士人一、給二事殿省一、隋避レ諱改二內常侍一。㊁中宮亮(1−73··145)の唐名。〔職原抄〕中宮職、亮、唐名內給事。

【內惹德】576 ネジド 國の名。內志の別譯。內志(225)の㊂を見よ。

【內種皮】577 ナイシユヒ 種子を被ふ二枚の被膜の中、其の內層をなすものをいふ。

【內出血】578 ナイシユツケツ 臟器又は體腔の內にする出「血。

【內書生】579 ナイシヨセイ 書を以て內廷に仕へる官。〔北史、儒林、張景仁傳〕家貧以レ學レ書爲レ業、遂工二草隸一、選二補內書生一。

【內書房】580 nei^4 shu^1 fang^2 中門を入つた左右の廂房。

【內昇殿】581 ナイシヨウデン ウチノシヨウデン 禁中で、殿上に昇ることを許されること。

【內小臣】582 ナイセウシン 周官の名。周禮天官の屬。宦官を以て之にあて、王后の命を掌る。國語、晉語二では小臣といひ、左傳、襄公九年では司宮といふ。〔周禮、天官、內小臣〕內小臣、掌二王后之命一、正二其服位一。

【內切圓】583 ナイセツエン 數學用語。直線形の各邊に切し、且其の直線形內にある圓。內切圓。〔幾何要法、論圜〕甲乙丙角形、求レ作二形內切圜一。

【內切球】584 ナイセツキウ 數學用語。多面體の內部に球心を有し、且其の多面體の各面に切する球。

【内染司】585（ウチノソメモノツカサ）古の宮内省の管轄下で、供御の染物を掌つた所。大同二年に、縫殿寮（ヌヒノリョウ）に合併せられた。〔官位令古訓〕。

【内存性】586（ナイソンセイ）其のものの中に本來存するといふ屬性。

【内大臣】587（ナイダイジン）官名。❶清、置く。最高の武官。〔清會典、侍衞處〕領侍衞内大臣、六人、掌上三旗侍衞親軍之政令、以供宿衞扈從之事、選上三旗滿洲蒙古子弟之能者爲侍衞。❷太政大臣の舊稱。❸後世、太政官中に設けた一官。初は左右大臣の上に在つたが、後、其の下に列するに至つた。唐名は内相府。〔日本書紀、天智紀〕自此以後、通曰藤原内大臣。❹御璽國璽を保管し、天皇に常侍輔弼し、内大臣府を統轄する親任官。内府。今、廢す。

【内禱祠】588（ナイトウシ）宮中で行ふ禱や祠。禱は病氣全快を祈り、祠は幸福を祈る。〔周禮、天官、女祝〕掌王后之内祭祀、凡内禱祠之事、掌以時招梗禳禬之事、以除疾殃。

【内道場】589（ナイドウジョウ）昔、禁中で、佛道佛事を修した所。〔唐書、王縉傳〕禁中祀佛、諷唄齋薰、號内道場。

【内儲説】590（ナイチョセツ）韓非子の篇名。〔韓非子、内儲説上、注〕儲、聚也、謂聚其所説、皆君之内謀、故曰内儲説。〔史記、韓非傳、内外儲、注〕索隱曰、内外儲、按韓子有内儲外儲篇、内儲、言明君執術以制臣下、制之在己、故曰内也、外儲、言明君觀聽臣下之言行、以斷其賞罰、賞罰在彼、故曰外也、儲、畜二事、所謂明君也。

【内椹木】591（ウチハラギ）京都市の地名。

【内動詞】592（ナイドウシ）動詞の表はす作用が他に及ばず、從つて客語をとらない種類の動詞。普通内動詞・不完全内動詞・關係内動詞に分つ。自動詞。馬氏文通は内動字に作る。〔詞詮、序例〕是書取古書中恒用之介詞・連詞・助詞・歎詞及一部分之代名詞・内動詞・副詞之用法、加以説明。

【内動字】593（ナイドウジ）文法用語。内動詞に同じ。〔馬氏文通、實字、内動字〕凡行之留於施者之内者曰内動字。

【内咄谷】594（ナイトツコク）漢代、西域の地名。〔漢書、西域下、郁立師國傳〕王治内咄谷。

【内燃機】595（ナイネンキ）熱機關の一。燃料を機關の一部の氣筒中で燃燒させるものをいふ。瓦斯機關と石油機關とに分け、石油機關はガソリン機關・ディーゼル機關に分れる。内燃機關。

【内燃機關】596（ナイネンキクワン）熱機關の一。燃料を機關の一部分の氣筒中で燃燒させるもの。内燃機。

【内燃機關學】597（ナイネンキクワンガク）内燃機關に關して研究する機械學。

【内胚葉】598（ナイハイエフ）動物發生初期の胚嚢で、原腸の内面を覆ふ細胞層をいふ。内胚層。

【内擺線】599（ナイハイセン）一圓の内側を他の圓がこの圓に切しつつ轉ずるとき、其の圓の一點の描く軌跡を表はす曲線をいふ。次擺線。

【内八府】600（ナイハップ）官署の名。照會草制を掌る。〔輟耕錄、内八府宰相〕内八府宰相八員、視二品秩、而不降授宣命、特中書照會之任而已、寄位於翰林之掃鄰、埽鄰、宮門外院官會集處也、所職視草制若詔赦之文、則非其掌也、至於院之公事、亦不得與焉、例以國戚與勳貴之子弟充之。

【内風消】601（ナイフウセウ）山地に生ずる落葉の纏繞灌木。まつぶさ。うしぶだう。葉は長柄を具へて卵形をなし、淺齒牙緣を有し、初夏の頃、淡黄色で稍〻紅色を帶びた小花を簇生する。「土。

【内物部】602（ウチノモノベ）上古、朝廷に親任せられた武人。

【内兵庫】603（ウチノツハモノクラ）朝廷の兵器を藏めた庫。〔續日本紀、三十六〕寶龜十一年十月癸巳、左右兵庫鼓鳴、後聞二箭動聲一、其響達二内兵庫一。

【内藥司】604（ウチノクスリノツカサ）官署の名。中務省に屬し、宮中醫藥の事務を掌る。〔職員令〕内藥司。

【内藥正】605（ウチノクスリノカミ）内藥司の長官。〔職員令〕内藥正。

【内尻脚】606（nei⁴ li⁴ chiao³）うちわに、足の先を内側に曲げて歩くこと。

【内禮司】607（ウチノレイキヤ ノツカサ）官署の名。中務省に屬し、宮中の禮儀を掌る。〔職員令〕内禮司。

【内禮正】608（ウチノレイキヤ ノカミ）内禮司の長官。〔續日本紀、二十二〕天平寶字四年正月戊寅、從五位下奈吳王爲内禮正。

【内論議】609（ナイロンギ）正月、御齋會結願日などに、御前で佛教の問答をすること。〔西宮記、正月中、御齋會〕内論議。

【内暗外明】610（ナイアンガイメイ）内部は暗く、外面は明るい。〔張載、正蒙〕火内暗而外明。

【内弘文院】611（ナイコウブンイン）清代の内三院の一。歷代の行事の善惡を注釋し、御前に進講することを掌る。〔清國行政法汎論、内閣〕内弘文院、專掌下注二釋歷代行事善惡一、進中講御前上。

【内興安嶺】612（ナイコウアンレイ）山脈の名。黑龍江省の境。外興安嶺に對して内といふ。西南は陰山山脈に接し、東北は黑龍江に達し、東南に轉じ、屈曲して半環狀をなしてゐる。省境の諸山は皆之に屬す。大別して三支とし、西支を大興安嶺、又は西興安嶺、東支を小興安嶺、又は東興安嶺、北支を伊勒呼里山といふ。

【内在哲學】613（ナイザイテツガク）意識に内在するものとしての實在の外に、超越的なるものの存在を認めない哲學をいふ。

【内掃部司】614（ウチノカニモリノツカサ）官署の名。宮中の掃除を掌る。〔職員令〕内掃部司。

【内掃部正】615（ウチノカニモリノカミ）内掃部司の長官。〔職員令〕内掃部正。

【内自訟齋】616（ナイジショウサイ）清、周凱（2－3441‥49）の號。

【内柔外剛】617（ナイジュウガイカウ）内心は柔弱で、外貌は剛強に見えること。〔易、否〕彖曰、内柔而外剛、内小人而外君子。

【内掌櫃的】618（nei⁴ chang³ kuei⁴ tê）商家の主婦。おかみさん。

【内弱外剛】619（ナイジャクガイカウ）内は弱く、外は強い。〔易緯乾鑿度〕火内弱外剛、外威内暗、性上不下。

【内潤外朗】620（ナイジュンガイラウ）玉の光澤が内部に含まれたものを内潤、外に發したものを外朗といふ。〔世説新語、品藻〕以三荀一方二五陳一、荀靖方二陳謀一、荀爽方二陳紀一。〔注〕或問二汝南許章一、爽與レ靖孰賢、章曰、二人皆玉也、慈明外朗、叔慈内潤。

【内清外濁】621（ナイセイガイダク）内心は清く澄んでゐるが、うはべは濁り汚れて居るさまを裝ふこと。〔通俗編、品目、亂世に處して身を完うする法。〔通俗編、品目、内清外濁〕揚泉太元經、内清外濁、敝衣裹レ玉。

【内染局素】622（nei⁴ jan³ chü³ su⁴）絹織物の一種。幅二尺七寸、長さ四丈あるのを定尺とする。

【内疎外親】623（ナイソガイシン）心中では疎んじて居るが、表面では親しむ。〔韓詩外傳、二〕曾子曰、内疎而外親。

【内重外輕】624（ナイチョウガイケイ）京官の勢力が重く、外官の勢力が輕いこと。〔宋史、高宗紀五〕以二内重外輕一、命二省臺寺監及監司守令一、居レ職及二一年一者、許二更迭出入除擢一。

【内田頑石】625（ウチダグワンセキ）江戸の人。名は升、字は叔明。號は頑石道人、又、冠嶽・鵜洲・醉鄉太守・酣樂都督。通稱は文道。帷を江戸麻布に下す。古文辭學を修め、能く其の説を奉じた。寛政八年歿す、年六十一。著に林麓草堂雜記・羣書校正錄・鵜洲吟草・醉客漫興集がある。〔先哲叢談、續、十一〕。

【内田玄對】626（ウチダゲンタイ）頑石の男。名は瑛、字は廷輝。號は玄對。後、渡邊氏を冒す。〔先哲叢談、續、十一〕。

【内田周齋】627（ウチダシウサイ）武藏の人。名は楨。字は元盛。號は周齋・蕉雨・似雲亭。文政十三年歿す、年四十七。著に左傳集説辨義・論語集説辨正抄がある。〔埼玉名家著述目錄〕。

【内繙書房】628（ナイホンバウ）清代、軍機處に屬し、繙繹を掌る。〔清國行政法汎論、軍機處〕内繙書房、凡有二諭旨、清字則漢二譯之一、滿字則漢二譯之一、各衙門經二内閣一至二軍機處一之文書、亦同。

【無内無外】629（ソトナシナレバ）内心に迷ひ亂れるところがなければ、外もわづらはされない。〔莊子、則陽〕容成氏曰、除レ日無レ歲、無レ内無レ外。

【内造漢府緞】630（nei⁴ tsao⁴ han⁴ fu³ tuan⁴）錦緞子の一種。幅一尺五寸、長さ四丈尺の絹織物の上級品。

【内燃原動機】631（ナイネンゲンドウキ）石油發動機、ディーゼル機關。

【内簡尺牘編注】632（ナイカンセキトクヘンチュウキョク）書名。十卷。宋、孫覿撰。門人李祖堯の編にかかり、注も亦其の作。〔四庫提要、集、別集類〕。

【内東門雜物務】633（ナイトウモンザツブツム）官物を賣買する官

衙。〔蘇軾、諫レ買二浙燈一狀〕不レ過レ令二內東門雜買務臨一レ時收買一。

【內多欲而外施二仁義一】634 ウチタヨクニシテソトジンギヲホドコス 內心は多欲でありながら、外面は仁義を行ふ。〔史記、汲黯傳〕天子方招二文學儒者一、上曰、吾欲二云云一、黯對曰、陛下內多欲而外施二仁義一、奈何欲レ效二唐虞之治一乎。

【內無二怨女一外無二曠夫一】635 ウチニエンヂヨナクソトニクワウフナシ 太平の世の形容。內には空閨を守つて怨を抱く婦女がなく、外には征戍に從つて孤獨をかこつ男がない。〔孟子、梁惠王下〕當二是時一也、內無二怨女一、外無二曠夫一。

【从】1419 小篆 リヤウ 〔集韻〕里養切 養 ならんではいる。〔說文〕从、二入也、兩从レ此、闕。

解字 會意。二つ入をならべて、入るの意とする。兩字はこれに从ふ。〔說文、从、段注〕今按、兩从レ兩、兩从レ从也。

參考 从(1－362)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕从、古從字。从、古兩字。

【仐】1420 タウ トウ 〔字彙補〕通刀切 豪 とる。〔字彙補〕仐、取也。

【亼】1421 シツ 義未詳。〔海篇〕亼、音疾。

三畫

【仝】1422 セン 全(1－1424)の本字。〔集韻〕全、或作レ仝。〔正字通〕仝、全本字。

參考 仝(1－378)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕仝、卽同、字从レ人。仝、卽全、字从レ入。

四畫

【仒】1423 ハフ 乏(1－133)の古字。〔字彙補〕仒、古文乏字。

【全】1424 セン ゼン 〔集韻〕從緣切 先 ㄑㄩㄢˊ ch'üan^2 小篆 籀文 古文

❶まつたい。仝(1－1422)に同じ。〔集韻〕仝、或作レ全。〔說文〕仝、完也、从レ入从レ工。㋑そなはる。〔廣韻〕全、完也、具也。〔正字通〕全、備也、具也。〔禮、祭統〕不レ明二其義一、君人不レ全。〔注〕全、猶レ具也。〔列子、天瑞〕天地無二全功一。〔注〕全、猶レ備也。㋺きずがない。〔穀梁、哀、元〕全曰レ牲、傷曰レ牛。〔淮南子、時則訓〕覗二肥臞全粹一。〔注〕全、無二虧缺一也。〔後漢書、桓榮傳〕自居二全德一。〔注〕全德、言レ無二玷缺一也。㋩さはりがない。〔後漢書、董恢傳〕鄉里賴全者、以レ百數。㊁いたまない。損じない。〔周朗、報二羊希一書〕寇滅而兵全。㋭なほる。痊(7－22141)に通ず。〔說文通訓定聲〕全、字亦作レ痊。〔周禮、天官、醫師〕十全爲レ上。〔注〕全、猶レ愈也。❷まつたうする。㋑ととのへる。そろへる。〔戰國、秦策〕楚國不レ尙レ全レ事。〔注〕全、完也。㋺たもつ。〔正字通〕全、保也。〔後漢書、伏湛傳〕平原一鄉、湛所レ全也。㋩したがふ。〔呂覽、本生〕以レ全レ天爲レ故者也。〔注〕全、猶レ順也。❸まつたく。すべて。〔徐悱妻劉氏、聽二百舌一詩〕全作二洛濱笙一。❹かけたところのない玉。〔說文〕全、篆文仝、从レ王、純玉曰レ全。〔段注〕考工記玉人曰、天子用レ全、大鄭云、全、純色也、許、玉部云、全、純玉也、後鄭周禮注同、按、云二純玉曰一レ全者、引レ經說二此字从一レ玉之意。❺古は𠓝(1－1443)に作る。〔說文〕仝、全、篆文全从レ王、𠓝、古文仝。〔集韻〕仝、或作レ全、古作レ𠓝。❻姓。〔廣韻〕全、又姓、吳有二大司馬全琮一。〔尙友錄〕全、京兆商音。〔結埼亭集、全氏世譜〕全氏、出レ自二周官泉府之後一、以レ官爲レ氏、其後以二同音一通二于全一。

名乘 タケ。マサ。マタ。アキラ。

解字 會意。入と王との合字。王は玉、故に純玉といつて、缺けず、まじりもののない玉をいふ。卽ち完全なるものを意味し、全はその完全の境地に入ること、從つて、まつたし・まつたうするの意とする。一說に、亼(集の義)と工(巧の義)とに從ひ、巧なるものの集まる意で、巧妙完全の意とする。字形、又、仝に作る。入と工との合字で、巧者の制作品の完好の域に入る意。〔說文、仝、段注〕从レ工者、如二巧者之製造必完好一也。

參考 說文では全を仝の篆文としてゐるが、段玉裁は之を駁して籀文とする。今、段氏に從ふ。〔說文〕全、篆文仝从レ王。〔段注〕按、篆當二是籀之誤一、仝全皆从レ入、不二必先レ古後一レ篆也。

【全安】1 ゼンアン 全くして安らか。又、全くし安んずる。〔漢書、劉向傳〕所三以全二安之一也。〔論衡、幸偶〕在レ世宜レ蒙二全安之福一。

【全菴】2 ゼンアン 明、胡文煥(9－29400··610)の號。

【全衣】3 ゼンイ 完全な衣服。〔晉書、孝友、王延傳〕隆冬盛寒、體無二全衣一。

【全宥】4 ゼンイウ 生命をたすけ、其の罪をゆるす。〔後漢書、方術、華陀傳〕乃收付レ獄訊考、驗二首服一、荀彧請曰、佗方術實工、人命所レ懸、宜レ加二全宥一。〔後漢書、岑彭傳〕欲三全二宥之一。

【全一】5 ゼンイツ 宋、林孝淵(6－14551··279)の字。

【全乙】6 ゼンイツ 唐、劉昚虛(2－2224··1081)の字。

【全邑】7 ゼンイフ 村全體。全村。

【全員】8 ゼンヰン すべての人員。

【全院】9 ゼンヰン 其の院全體。

【全院委員】10 ゼンヰンヰヰン 衆議院、又は參議院の委員の一。議院の全員を委員とする。

【全羽】11 ゼンウ 完全なはね。〔周禮、春官、司常〕全羽爲レ旞。

【全懌】12 ゼンエキ 三國、吳の人。琮の次子。魏の諸葛誕を壽春に救ふ。官は魏の平東將軍。封は臨湘侯。〔三國志、六十〕

【全葉】13 ゼンエフ ❶完全な葉。〔陸游、東園晚步詩〕秋桐蠹遍無二全葉一、古柳吹斜出二半根一。❷紙などの一枚の全部。

【全翁】14 ゼンオウ 宋、韓拙(12－43159··150)の字。

【全音】15 ゼンオン ❶完全な樂音。〔黃庶、蟬詩〕古樂久破碎、玆蟲抱二全音一。❷洋樂に用ひられる音程の一。十二律の二律に涉る音程。半音の二倍に當り、一音ともいふ。

【全音階】16 ゼンオンカイ 二個の半音と、五個の全音とから組織せられた樂音の一列。

【全家】17 ゼンカ 一家全部。家ぢゆう。家中擧つて。全戶。〔賴山陽、謁二楠河州墳一有レ作詩〕且餘二兒輩一繼二微志一、全家血肉殲二王事一。

【全價】18 ch'üan^2 chia^4 代價全部。全部の代價。

【全開】19 ゼンカイ すべて開く。全部開く。滿開。〔司馬光、夏日西齋卽事詩〕榴花映レ葉未二全開一、槐影沈沈雨勢來。

【全交】20 ゼンカウ 交誼を全うする。〔禮、曲禮上〕君子不レ盡二人之歡一、不レ竭二人之忠一、以全レ交也。

【全行】21 ゼンカウ 金、張九思(4－9812··915)の字。

【全額】22 ゼンガク すべてのたか。總額。〔文獻通考、選擧考、擧士〕紹聖元年、罷二春秋科一、凡試優取二二禮兩經一、許下占二全額之半一、而以二其半一及中他經上。

【全額準備金】23 ゼンガクジュンビキン 銀行券の數量と同額の正貨準備金。

【全甲】24 ゼンカフ ❶甲兵を全うする。一兵も失はぬ。一軍が皆無事であること。〔漢書、霍去病傳〕全レ甲獲レ醜。〔注〕師古曰、全レ甲、謂三軍中之甲不二喪失一也。❷完全に武裝した者。〔史記、衛將軍驃騎傳〕殺二折蘭王一、斬二盧胡王一、誅二全甲一。〔注〕正義

曰、全甲、謂三具足不二失落一也。㊂學科の成績が全部甲であること。

【全簡】25 ゼンカン 二枚の名ふだ。〔福惠全書、筮仕部、立號簿〕登二記稱呼寓所、或單簡全簡一、以便二答拜一。

【全氣】26 ゼンキ 完全な氣。〔范曄、宦者傳論〕其體非二全氣一。〔注〕善曰、老子曰、未レ知二牝牡之合一、而全作、王弼曰、作、長也、無三物以損二其身一、故全長也。

【全歸】27 ゼンキ 傷害する所なく、完全にして返す。全歸全受を見よ。〔論語、泰伯、曾子有レ疾、集注〕曾子以二全歸一爲レ免矣。

『全歸子』28 ゼンキシ 宋、吳思齊(2—3365・・617)の號。

『全歸全受』29 ゼンキゼンジュ 子は父母から完全な身體を受けてゐるから、身を謹んで毀傷することなく、歿するに至つて、完全無垢の身を父母に返すべきであるといふこと。〔禮、祭義〕父母全而生レ之、子全而歸レ之。〔論語、泰伯〕曾子有レ疾、召二門弟子一曰、啓二予足一、啓二予手一。〔集解〕鄭玄曰、曾子以爲、受二身體於父母一、不二敢毀傷一。

【全義】30 ゼンギ 中唐、憲宗(李淳)の時、南詔靖王(蒙勸利晟)の年號。(806—823 一說、817—824)

【全球】31 ゼンキウ ch'üan^{2} ch'iu^{2} 全世界。

【全牛】32 ゼンギウ 牛の全身。庖丁が牛を解くに當つて、技が神に入つて完全な牛の姿を眼に見なかつた故事。俗に技藝に熟して餘裕綽綽たることを目無二全牛一といふ。〔莊子、養生主〕始臣之解レ牛之時、所レ見無レ非二牛者一、三年之後、未三嘗見二全牛一也。〔韻府引、李商隱文〕學殊二半豹一、技媿二全牛一。

【全彊】33 ゼンキヤウ 完全で強い。〔史記、吳王濞傳〕以二全彊一制二其罷極一。

【全局】34 ゼンキョク 全體の局面。局面全部。

【全玉】35 ゼンギョク 完全な玉。すぐれた文章などに喩へる。〔梁書、劉孝綽傳〕近雖レ預レ觀二尺錦一、而不レ觀二全玉一。

【全句】36 ゼンク 首尾の完結した句。全體の句。〔竹坡詩話〕王荆公作二集句一、得二江州司馬青衫濕之句一、欲下以二全句一作上レ對、久而未レ得。

【全軀】37 ゼンク 己の身を全うする。〔司馬遷、報二任少卿一書〕全レ軀保二妻子一之臣、隨而媒二蘖其短一。

【全具】38 ゼング 完全にそなはる。完備。〔禮、月令〕是月也、乃命二宰祝一循二行犧牲一、視二全具一。

【全科】39 ゼンクワ すべての科目。

【全快】40 ゼンクワイ 病氣がなほりきる。全治。

【全魁】41 ゼンクワイ 清、滿洲鑲白旗人。姓は尼奇哩氏。乾隆の進士。琉球國王に封ぜらる。後、京に還り、自ら編纂した琉球國志略を進獻す。官は侍講學士に至る。〔國朝耆獻類徵、九十〕

【全活】42 ゼンクワツ 身を全うしていきる。身を全うさせていかす。〔漢書、成帝紀〕謹遇以レ理、務有三以全二活之一。〔後漢書、陳敬王羨傳〕傾レ資賑贍、並得二全活一。〔魏志、田疇傳〕蒙レ恩全活、爲二幸多一矣。

【全豁】43 ゼンクワツ 唐の僧。泉州の柯氏の子。諡は清嚴。初、長安に遊び、後、鄂州巖頭院に居住す。光啓の閒、刀を揮つて狂賊に臨み、更に懼れる色がなかつた。〔宋高僧傳、二十三〕

【全完】44 ゼンクワン ㊀まつたうする。完全。〔蜀志、劉琰傳〕使レ得四全二完保三育性命一。㊁租稅額の全部を前納すること。〔福惠全書、錢穀部、比較、完糧獎勵〕全完者、今年雜差全免。

【全卷】45 ゼンクワン 完全な一部の書籍。卷數全部。〔運步色葉集〕全卷ゼンクワン。

【全緩】46 ゼンクワン 陳、錢塘の人。字は弘立。易を博士褚仲都に受け、老莊二氏に精通す。太建中、官は南始興王府諮議參軍。〔陳書、三十三〕・〔南史、七十一〕。

【全軍】47 ゼングン ㊀軍隊全部。一軍。〔賈島、贈二李金州一詩〕泝レ流隨二大旆一、登レ岸見二全軍一。〔于鵠、出塞詩〕蔥嶺秋塵起、全軍取二月支一。㊁グンヲマツタクス 戰場で一兵士をも失はぬ。〔孫子、謀攻〕凡用兵之法、全レ軍爲レ上。

【全形】48 ゼンケイ ㊀形を全うする。身體を全くする。〔亢倉子、全道〕全二汝形汝生一、無レ使二汝思慮營營一。㊁全體の形。

【全計】49 ゼンケイ 完全なはかりごと。ぬけ目のないはかりごと。

【全卿】50 ゼンケイ 字號。㊀明、趙完璧(10—37171・・488)の字。㊁明、陸完(11—41708・・76)の字。

【全景】51 ゼンケイ 一望の下に見渡される全體の景色。すべての景色。

【全經】52 ゼンケイ 完全な經書。經は聖人の書。〔劉歆、移レ書讓二太常博士一文〕時漢興已七八十年、離二於全經一、固以遠矣。〔注〕善曰、韋昭曰、全經、未レ焚レ書之時也。〔北史、劉芳傳〕疏曰、臣學謝二全經一、業乖二通古一。

【全慶】53 ゼンケイ 清、滿洲正白旗人。姓は葉赫納喇氏。諡は文恪。道光の進士。官は喀喇沙爾辨事大臣。庫車・阿克蘇・烏什・葉爾羌・和闐・喀什噶爾・伊拉里克・喀喇沙爾の諸地に於て田數千萬畝を開墾す。後、體仁閣大學士に至る。〔清史稿、三百九十五〕・〔萬斯同明史、五十二〕。

【全蠍】54 ゼンケツ 蠍サソリのからだ全部を藥用として用ひるものをいふ。〔本草、蠍〕釋名、時珍曰、今入レ藥有二全用者一、謂二之全蠍一、有二用レ尾者一、謂二之蠍稍一、其力尤緊。

【全月】55 ゼンゲツ かけた所のない月。滿月。〔辛德源、星名詩〕素扇變二全月一、朱旗引二半虹一。

【全縣】56 ゼンケン ㊀縣名。民國、置く。もと全州の地。今、廣西省興安縣の東北。㊁縣內全體。全縣下。

【全臉】57 ch'üan^{2} lien^{3} 面目を立てる。

【全權】58 ゼンケン ㊀一切の權限、又は權利。十分の權力、又は權利。〔淸國行政法汎論、盛京將軍〕將軍在二盛京省一、爲二最高級之武官一、掌二握一省兵馬之全權一。㊁全權公使又は全權委員の略。

【全權書】59 ゼンケンショ 一國の主權者が派遣する大使・公使に對して、任命派遣の意を記した文書。信任狀(1—707・・189)に同じ。

【全權證】60 ゼンケンショウ 外交文書の一。國際閒に於て全權使節を派遣する場合、全權使節の所持する信任狀。

【全權委員】61 ゼンケンキヰン 事件の或る範圍に關する一切の權限を委ねられた人。

【全權公使】62 ゼンケンコウシ 一國を代表して事を處理する全權を委ねられた公使。

【全權大使】63 ゼンケンタイシ 國家・元首を代表して、事に當る全權を委ねられた大使。

【全權委任狀】64 ゼンケンキニンジヤウ 國際會議・條約會議等に參列する臨時外交使節が、其の特定の事項に關する外交交涉に就いて、本國政府を代表して諾否を專決する權限を元首から委任せられた公文書。

【全蠲】65 ゼンケン 年貢を殘らず免除する。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕將二四年錢糧一全蠲。

【全彥】66 ゼンゲン 明の人。晉孫の子。號は遯翁。父晉孫、楊簡の學を受けて之を彥に傳へ、彥は其の學を黃潤玉に傳へた。

【全戶】67 ゼンコ 一家全體。全家(17)に同じ。

【全五】68 ゼンゴ 清、呂陽(2—3386・・147)の字。

【全五代詩】69 ゼンゴダイシ 書名。九十卷。清、李調元編。五代の諸國の詩を纂輯したもの。梁詩八卷・唐詩二卷・晉詩二卷・蜀詩二卷・周詩三卷・吳詩六卷・南唐詩十六卷・前蜀詩十七卷・後蜀詩四卷・南漢詩一卷・楚詩四卷・吳越詩十卷・閩詩十二卷・荆南詩三卷。末に其の補遺を附す。各人の下には皆小傳を附し、史傳に關するものは割注を施して解說す。〔函海、一百三—一百十八冊〕。

【全吳】70 ゼンゴ 吳の國全體。〔蜀志、諸葛亮傳〕勃然曰、吾不レ能下擧二全吳之地、十萬之衆一、受中制于人上、吾計決矣。

【全護】71 ゼンゴ たもちまもる。〔北史、齊神武紀〕知レ人好レ士、全二護勳舊一。

【全功】72 ゼンコウ 偉大なる功勞。閒然する所なき功績。〔列子、天瑞〕天地無二全功一、聖人無二全能一、萬物無二全用一。〔鬳齋口義〕天能生レ物能覆レ物、地能成レ形能載レ物、各有レ所レ能、是無二全功一矣。

【全扣】73 ch'üan^{2} k'ou^{4} ㊀全體。㊁全部割引する。

【全國】74 ゼンコク ㊀國を全うする。〔孫子、謀政〕用レ兵之法、全レ國爲レ上。〔曹植、又贈二丁儀王粲一詩〕權家雖レ愛レ勝、全レ國爲二令名一。㊁國全體。全邦。國中。

【全國民】75 ゼンコクミン 全部の國民。

【全國水利局】76 ゼンコクスイリキヨク 官署の名。民國、置く。全國の水利、及び沿岸の開墾事務を管掌する目的を以て設置された役所。總裁・副總裁・視察・僉事・主事・技正・技士等の役員を置く。

【全渾】77 ゼンコン 完全なこと。まつたいもの。〔蘇軾、惠守詹君見レ和復次韻詩〕已破誰能惜二甑盆一、

頹然醉裏得二全渾一。〔陸游、詩〕左史倚相讀二皇墳一、學者尚得レ窺二全渾一。

【全才】78ゼンサイ　自己の有する全才能。又、萬能の才能。〔蘇軾、伊尹論〕夫天下不レ能レ動二其心一、是故其才全、以二其全才一而制二天下一。〔劉禹錫、寄二毘陵楊給事一詩〕出レ文入レ武是全才。

【全濟】79ゼンサイ　完全に救ふ。〔後漢書、獻帝紀〕自レ是之後、多得二全濟一。

【全齋】80ゼンサイ　太田方の號。太田全齋(3－5834‥563)を見よ。

【全喪】81ゼンサウ　すべて失ふ。〔後漢書、鄧彪等傳論〕全喪之於二生大矣一。

【全策】82ゼンサク　完全な策略。〔魏志、諸葛誕傳〕吾當下以二全策一縻中之、可二坐而制一也。

【全山】83ゼンザン　㊀山全體。㊁山名。福建省浦城縣の東北。泉山とも書く。〔漢書、朱買臣傳〕故東越王居二保泉山一、人守レ險、千人不レ得レ上。

【全之】84ゼンシ　字號。㊀宋、劉銓、樂清の人(2－2224‥452)の字。㊁明、程元初(8－25081‥194)の字。㊂明、繆樗(8－27855‥37)の字。

【全支】85ゼンシ　㊀殘らずわたす。〔福惠全書、蒞任部、稟帖贅說〕西路已經二全支一。㊁中國全體。

【全紙】86ゼンシ　紙全面。完全な形の紙。

【全州】87ゼンシウ　州名。五代晉、置く。民國、縣に改む。全縣(56)の㊀を見よ。〔讀史方輿紀要、廣西、桂林府〕全州、春秋時楚地、云云、五代晉天福四年、湖南奏置二全州一。〔清史稿、地理志〕廣西、桂林府、州二、全州。

【全柔】88ゼンジウ　三國、吳の錢塘の人。初、後漢に事へ董卓の亂後、孫策に附す。官は孫權の時、桂陽太守。〔三國志、六十〕。

【全集】89ゼンシフ　㊀一作家の著作を悉く收めた書物。全書。〔文獻通考、經籍考〕伊川集二卷、陳氏曰、云云、錢惟演文集甚多、此特其二集耳、出鎭二河陽河南一時所作也、全集未見。〔四庫提要、集、別集類〕紫山大全集、二十六卷、元、胡祇遹撰。㊁多くの人の著書を集めたもの。〔四庫提要、集、總集類〕唐宋十大家全集錄、五十一卷、國朝、儲欣編。

【全象】90ゼンシャウ　全形。全體のかたち。

【全賞】91ゼンシャウ　賞を以て萬能とすること。賞を最上とする。〔管子、侈靡〕毋二全賞一、好レ德惡レ亡使レ常。〔纂詁〕毋レ純二乎賞一。

【全壽】92ゼンジュ　身體に損傷なくて長生すること。又、よはひを全うする。〔韓非子、解老〕盡二天年一、則全而壽、必成レ功則富與レ貴、全壽富貴之謂レ福。

【全叔】93ゼンシュク　宋、江錡(6－17140‥80)の字。

【全純】94ゼンジュン　明、無錫の人。字は原赤。母に事へて至孝。〔無錫縣志〕。

【全順】95ゼンジュン　清、蒙古正藍旗人。姓は薩爾圖拉氏。謚は忠壯。咸豐の進士。直・魯・豫の地方を平定し、功を以て西安左翼副都統に至り、後、僧格林沁に從つて匪賊を平定し、曹州にて陣歿す。〔清史稿、四百十〕・〔清史列傳、五十〕。

【全書】96ゼンショ　㊀完全に揃つた書物。〔顏氏家訓、風操〕但既殘缺、非二復全書一、〔曾鞏、新序目錄序〕隋唐之世、尚爲二全書一、今可レ見者十篇而已。㊁一作家の著作を殘らず編次して一部の書としたもの。全集。〔四庫提要、子、儒家類〕曾子全書、三卷、明、曾承業編。㊂多くの人の著書を集めたもの。〔四庫全書總目、卷首、聖諭〕奉レ旨是依レ議、將來辦理成レ編時、著二名四庫全書一。

【全敍】97ch'üan2 hsü4　全體を敍述する。

【全勝】98ゼンショウ　完全に勝つ。全部勝つ。まるがち。全捷。〔管子、兵法〕全勝而無レ害。〔孫子、軍形〕善守者藏二於九地之下一、善攻者動二於九天之上一、故能自保而全勝也。〔漢書、婁敬傳〕夫與レ人鬬、不下捻二其亢一拊中其背上、未レ能二全勝一。〔魏志、傅嘏傳〕錯二計於全勝之地一。

【全勝車】99ゼンショウシャ　戰車の一種。明代に、秦紘が創案したもの。〔明史、兵志四〕弘治十五年、陝西總制秦紘請用二隻輪車一、名曰二全勝一、長丈四尺、上下共六八、可レ衝二敵陣一。

【全稱】100ゼンショウ　命題の主辭が指示する事物全體について肯定、若しくは否定すること。

【全烝】101ゼンジョウ　犧牲を丸のまま俎上に載せて供すること。〔國語、周語中〕禘郊之事、則有二全烝一。〔注〕全烝、全二其牲體一而升レ之。

【全蝕】102ゼンショク　日食又は月食の場合、太陽或は月が全く蔽はれて見えなくなる現象をいふ。皆既食。

【全身】103ゼンシン　㊀身をまつたうする。體軀を保全する。〔詩、王風、君子陽陽序〕全二身遠レ害而已。〔漢武帝內傳〕絕レ穀全レ身之術。〔陽固、演賾賦〕顯レ親揚レ名德之上兮、保二家全一レ身亦厚量。㊁からだぜんたい。渾身。全體。

【全眞】104ゼンシン　㊀自然の性を完全にたもつ。〔莊子、盜跖〕非可二以全一レ眞也。〔晉書、曹毗傳〕全レ眞養レ和。〔嵇康、幽憤詩〕志在二守レ樸、養二素全一レ眞。〔注〕銑曰、養二素全一レ眞、謂下養二其質一、以全中眞性上。〔舊唐書、高祖紀〕且老氏垂レ化、本實沖虛、養レ志無レ爲、遺二情物外一、全レ眞守レ一、是謂二玄門一。馳二驅世務一、尤乖二宗旨一。㊁全眞教を見よ。㊂字號。㋑宋、歐陽朴(6－16185‥102)の字。㋺宋、張守(4－9812‥384)の字。

【全眞教】105ゼンシンキョウ　道教の一派。宋代、道士王嚞が儒教の忠孝の說、佛教の戒律などをとりいれて創めた一派。一名、三教平等會。〔三餘贅筆〕全道士王嚞、自號二重陽子一、居二於全眞庵一、四方之人凡宗二其道一者、皆號二全眞道士一。〔輟耕錄、全眞教〕全眞紀實云、金主亮貞元元年、有二吏員咸陽人王中孚者一、倡二全眞教談一、馬丘劉和之、其教盛焉、章宗泰和四年、元學士作二紫微觀記一、所レ載詳悉。

【全人】106ゼンジン　㊀道德完備の人。聖人。〔莊子、德充符、靈公悅レ之、而視二全人一。〔莊子、庚桑楚〕夫工二乎天一而俍二乎人一者、惟全人能レ之。〔注〕全人、則聖人也。〔呂覽、君守〕任二天下一而不レ彊、此之謂二全人一。㊁肢體完備の人。不具(1－19‥233)の對。〔莊子、德充符〕闉跂支離無脤、說二衞靈公一、靈公說レ之、而視二全人一、其脰肩肩。㊂人民を保護し生活を全うせしめる。〔後漢書、郅惲傳〕昔伊尹自鑿輔二商、立二功全一レ人。

【全生】108ゼンセイ　生命を保全する。〔莊子、養生主〕可二以全一レ生。〔管子、立政九敗解〕全生之說勝、則廉恥不立。

【全生涯】109ゼンショウガイ　一生の間全部。一生涯。

【全生全歸】110ゼンセイゼンキ　父母から完全な身體をもらつて生れ、之を傷けることなく一生を終り、完全なままでかへす。〔禮、祭義〕父母全而生レ之、子全而歸レ之、可レ謂レ孝矣。

【全生指迷方】111ゼンセイシメイハウ　書名。四卷。宋、王貺撰。各種疾病の病狀、病源を詳說し、其の診察法と治療法とを記す。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【全制】112ゼンセイ　物事を盡く己のものとしておさへる。完全に制御する。〔魏志、武帝紀〕諸將守二成皐一、據二敖倉一、塞二轘轅太谷一、全制其險一。

【全性】113ゼンセイ　天性を全うする。〔淮南子、覽冥訓〕全レ性保レ眞、不レ虧二其身一。〔說苑、建本〕人之幼穉童蒙之時、非二求師正一本、無二以立一レ身全レ性。

【全盛】114ゼンセイ　㊀まつさかり。極めて盛なること。榮華を極める。〔鮑照、蕪城賦〕當二昔全盛之時一、事挂レ轢、人駕レ肩。〔高適、宋中詩〕梁王昔全盛、賓客復多才。〔白居易、翫二半開花一贈二皇甫郎中一詩〕人憐全盛日、我愛半開時。〔劉廷芝、代二悲白頭翁一詩〕寄言全盛紅顏子、應レ憐半死白頭翁。〔杜甫、憶昔詩〕憶昔開元全盛日、小邑猶藏萬家室。㊁盛に流行する。客が多い。

【全精】115ゼンセイ　完全に精神をたもつ。〔關尹子、四符〕全レ精者、忘二是非一、忘二得失一。

【全整】116ゼンセイ　明、鄞の人。字は修齋。幼少、業を族父の鼎孫・晉孫に受け、楊簡の學を修明し、仕進を樂しまず。剡源第五曲に居り、其の室に題して二石草堂といふ。永樂の初、永樂大典の編修に徵されたが就かず。著に二石山房集がある。

【全招】117ゼンセウ　犯罪人が犯罪事實の全部を供述すること。〔六部成語、刑部、全招、注解〕盡行二供出一也。

【全椒】118ゼンセウ　縣名。漢、置く。今、安徽省合肥縣の西。〔漢書、地理志上〕九江郡、縣十五、全椒。〔清史稿、地理志〕安徽、滁州直隸州、縣二、全椒。

【全椒侯】118ゼンセウコウ　後漢、馬成(12－44572‥348)の封號。

【全燒】119ゼンセウ　まるやけ。

【全石】120ゼンセキ　㊀全部の石。㊁全部石質の石。全部が石。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕有下土戴レ石者、石挾レ土者、全石者、全石破裂成二洞穴一者、云云、成二夏雲狀一者上。

【全節】121ゼンセツ　㊀全いみさを。〔潘岳、西征賦〕紛

吾既遇二此全節一。㊁使節の任を全うする。〔漢書、昭帝紀〕奉レ使全レ節。㊂清、廣寧の人。明の參將であつたが、天聰の間、孔有德に隨つて清に降り戰功あり、左江鎭總兵に至り、卒後、太子少保を贈らる。〔清史稿、二百四十〕・〔清史列傳、七十八〕。

【全節堂】122 ゼンセツダウ　清代、寡婦の節を守つて獨居するものを收養して錢米を給與した處。〔禹域通纂、下〕・〔保定府志、三十八〕。

【全捷】123 ゼンセフ　㊀十分に勝つ。全く勝つ。全勝（9—8）に同じ。㊁軍隊の名。宋、置く。〔宋史、兵志二〕〔全捷・前軍・右軍・中軍・左軍・後軍、自二勝捷一以下九軍、並中興後置。

【全善】124 ゼンゼン　㊀善を全くする。〔禮、仲尼燕居、領レ惡而全レ好、疏〕夫子答以二禮之爲レ意、如レ是領レ惡全レ善也。㊁明、樓英（6—15430‥3）の字。

【全然】125 ゼンゼン　まつたく。そつくり。〔莊子、應帝王〕幸哉子之先生、遇二我也一、有レ瘳矣、全然有レ生矣。

【全琮】126 ゾンソウ　三國、吳の人。柔の子。字は子璜。封は錢塘侯。官は右大司馬左軍。〔三國志、六十〕。

【全足】127 ゼンソク　兩足の完全に具備することをいふ。完全な足。〔莊子、德充符〕人以二其全足一笑二吾不全足一者衆矣。

【全速】128 ゼンソク　全速力。全速度の略。

【全村】129 ゼンソン　村全體。全邑。

【全隊】130 ゼンタイ　部隊全部。〔宋史、兵志九〕全隊馳レ

【全體】131 ゼンタイ　㊀からだの全部。全身。全形。〔釋名、釋飲食〕貊炙、全體炙レ之、各自以二刀割一、出二於胡貊一之爲也。〔劉克莊、郊行詩〕山晴全體出、樹老半身枯。㊁完全な本體。〔朱熹、答二程允文一書〕誠字以二心之全體一而言。〔大學、傳五章、章句〕吾心之全體大用、無レ不レ明矣。㊂全く身に體して完全に主宰せしめる。〔近思錄、存養〕明道先生曰、學者全體此心。〔注〕體、猶二體驗一、全體、謂レ全二主宰一。㊃すべて。殘らず。㊄もともと。㊅一機關又は一團體の全部の人員。「ま。

【全體的】132 ゼンタイテキ　全身の。總體の。又、其のさま。

【全體主義】133 ゼンタイシュギ　階級鬪爭主義に對して、國民全體の協同を主張する國民主義的運動の稱。

【全體社會主義】134 ゼンタイシャクワイシュギ　一種の空想的社會主義。人道主義に基づき全人類の理想を目指して一切の暴力を否定し、民主主義による社會改善を行はうとするもの。

【全代】135 ゼンダイ　代全體が一つにまとまつてゐた時代。代は今の河北省の北方に在つた國名。〔漢書、韓安國傳〕臣聞、全代之時、北有二彊胡之敵一。〔注〕服虔曰、代未レ分之時也、李奇曰、六國之時、全代爲二一國一、尙能以擊二匈奴一、況今加以二漢之大一乎。

【全唐】136 ゼンタウ　唐代全體。全唐詩を見よ。

【全唐詩】137 ゼンタウシ　書名。九百卷。目錄十二卷。清、康熙四十二年、彭定求等奉敕編。作者二千二百餘人、詩數四萬八千九百餘首、先づ帝王后妃の作、次に樂章・樂府、諸臣の詩を錄し、次に聯句・逸句・名媛・僧道・外國・神仙・鬼怪・諧謔、及び諸雜體を收め、其の餘は作者の先後によつて排列して居る。〔四庫提要、集、總集類〕。

【全唐文】138 ゼンタウブン　書名。一千卷。清、嘉慶十九年、董誥等奉敕撰。唐人の文集を彙輯し、五代の文をも幷せ收めて居る。體例は全唐詩に同じく、首に諸帝、次に后妃・宗室諸王・公主・臣工・釋道・閨秀、次に宦官・四裔の文を附して居る。清史稿、藝文志に著錄せらる。

〔參考書〕【欽定全唐文目錄】二十卷清、董誥等奉敕撰。

【全唐詩逸】139 ゼンタウシイツ　書名。三卷。市河寬齋撰。全唐詩に洩れ、遺唐使・入唐僧等によつて將來せられて、我が國だけに傳存した詩百餘篇を搜索蒐輯したもの。〔知不足齋叢書、第二百三十五・二百三十六冊〕。

【全唐詩錄】140 ゼンタウシロク　書名。一百卷。清、徐焯撰。御定全唐詩から其の粹を拔いたもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

【全唐詩話】141 ゼンタウシワ　書名。十卷。原本は宋の尤袤撰と題するが、實は後人の撰編に係るものといふ。唐の太宗・高宗に始まり、權龍褒に至るまで二百二十四家の名をあげ、各條下に其の詩を記述する。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【全唐聲律論】142 ゼンタウセイリツロン　書名。二十五卷。谷立惠撰。此の書は初・盛・中・晚の四唐の詩篇に就き、拗體の聲律を揭げて其の格調を說明し、第一卷には律祖論以下十一篇の論文を載せ、第二卷以下では變拗の諸格を揭げてゐる。「ひ。

【全套】143 ch'üan² t'ao⁴　全部揃ふこと。一そろひ。

【全道】144 ゼンダウ　字號。㊀金、奧屯忠孝（3—5985‥5）の字。㊁金、李完（6—14459‥259）の字。

【全單】145 ゼンタン　公務銀兩の全數の清算書。〔六部成語、戶部、全單、注解〕各項公務銀兩全數之清單也。

【全知】146 ゼンチ　すべてを知る。

【全智】147 ゼンチ　完全無缺の智。

【全智全能】148 ゼンチゼンノウ　完全無缺の智識能力。

【全癡】149 ゼンチ　明、范洪（9—30834‥36）の號。

【全治】150 ゼンチ　㊀まつたくをさまる。〔韻府引、子華子〕全治而無二闕者一、大小多小、各當二其分一、農商工仕、不レ易二其業一。㊁病が全くなほる。全快。全癒。

【全仗】151 ゼンヂャウ　全部の儀衞兵。〔唐書、儀衞志上〕凡千牛仗立、則全仗立。

【全忠】152 ゼンチュウ　後梁、太祖（3—5834‥309）の名。

【全通】153 ゼンツウ　㊀すべての理に通達する。〔唐書、選擧志上〕經策全通爲二甲第一。㊁線路などが全部開通する。

【全丁】154 ゼンテイ　一人前の壯丁。成丁。〔晉書、范甯傳〕以二二十一一爲二全丁一、十六至二十九一爲二半丁一。

【全帖】155 ch'üan² t'ieh³　六枚の折本で出來た紅色の招待狀。

【全都】156 ch'üan² tou¹　皆。全部。すべて。全然。

【全土】157 ゼンド　國全體。又、其の地方全體。

【全德】158 ゼントク　完全な德。非難も稱譽も無い德。〔莊子、德充符〕夫無趾、兀者也、猶務レ學以復補二前行之惡一、而況全德之人乎。〔莊子、田子方〕子方出、文侯儻然終日不レ言、召二前立臣一而語之曰、遠矣、全德之君子。〔呂覽、本生〕上爲二天子一而不レ驕、下爲二匹夫一而不レ悶、此之謂二全德之人一。〔後漢書、桓榮傳論〕自居二全德一。〔唐書、裴度傳〕事四朝、以二全德一始終。〔黃庭堅、次二韻楊明叔一詩〕全德備二萬物一、大方無二四隅一。

【全寧】159 ゼンネイ　路名。元、置き、明、廢す。故城は內蒙古喀喇沁故大寧城の西北。今の滿洲熱河省赤峯縣の地。〔讀史方輿紀要、直隸、萬全都指揮使司、附見大寧衞〕全寧城、在二高州東北一、元時置二全寧路一。

【全能】160 ゼンノウ　完全な才能。〔列子、天瑞〕天地無二全功一、聖人無二全能一。

【全敗】161 ゼンパイ　すつかりまける。又、まつたくのまけ。まるまけ。

【全廢】162 ゼンパイ　全く用ひぬ。全部やめる。

【全邦】163 ゼンパウ　國全體。全國。〔任昉、爲二齊明帝一讓二宣城郡公一表〕光宅近レ甸、奄二有全邦一。

【全匏】164 ゼンパウ　游泳する時、溺れない爲に、脇に挾んで身を輕く浮かすに用ひた匏。〔日本書紀、仁德紀〕十一年、取二全匏兩箇一、臨二于難レ塞水一。

【全貌】165 ゼンバウ　全體のすがた。全體の樣子。全豹。

【全伯】166 ゼンパク　宋、周純明（2—3441‥714）の字。

【全班】167 ゼンパン　すべての班。全員。〔宋史、儀衞志一〕行幸儀衞、其舊儀、殿前司隨二駕馬隊一、凡諸班直內殿前指揮使全班、祗應二左班七十六人、右班七十七人一。

【全般】168 ゼンパン　のこらず。全體。

【全般的】169 ゼンパンテキ　全體に亙つての。全體に亙つてのさま。

【全般的調整】170 ゼンパンテキテウセイ　全體に亙つてととのへ正しくすること。「かり。

【全盤】171 ch'üan² p'an²　全く。すべて。すつかり。

【全盤孵子】172 ch'üan² p'an² tzu³　全體。總體。

【全肥】173 ゼンピ　犧牲が純色で肥えてゐることをいふ。牷肥。〔墨子、明鬼下〕酒醴粢盛之不二淨潔一也、犧牲之不二全肥一。〔閒詁〕畢云、全、謂二純色一、與牷同。

【全美】174 ゼンビ　㊀完全で美しいこと。良くととのひ備はつた所に見られる美しさ。㊁宋、歐陽珣（6—16185‥71）の字。

【全備】175 ゼンビ　完全に備はる。十分に備はる。完備。〔王柏、天地萬物造化論〕稟二太和一、五性全備、爲二無虧一。

【全付】176 ゼンフ　すつかり身につける。〔水滸傳、七十二回〕是夜雖レ無二夜禁一、各門頭目軍士、全付披掛、都是戎裝帽帶。

【全部】177 ゼンブ　總べての部分。其のもの全體。

【全部判決】178ゼンブハンケツ　訴訟を以て其の保護を要求した法律關係、又は請求の全部に就いて爲す終局判決をいふ。

【全副】179ch'üan² fu⁴　全部。皆。全副執事を見よ。

【全副執事】180ch'üan² fu⁴ chih² shih⁴　有力者の行路儀仗の總取締。〔紅樓夢、二十九回〕前頭的全副執事擺開。

【全幅】181ゼンプク　❶布の幅一ぱい。〔段成式、柔卿解籍戲呈飛卿二詩〕最宜全幅碧鮫綃。〔楊萬里、麥田詩〕無邊綠錦織二雲機一全幅青羅作二地衣一。❷ありたけ。十分。

【全福】182ゼンプク　❶十分な幸福。〔蘇軾、賀表〕能事既修、全福自至。❷幸福を完うする。〔後漢書、賈復傳論〕高祖忌二柏人之名一、違レ之以全レ福。〔魏志、桓階傳〕明府必欲二立レ功明レ義、全レ福遠レ禍、不レ宜レ與レ之同レ也。

【全物】183ゼンブツ　完全な物。〔莊子、人間世〕不下敢以二全物一與上之、爲二其決レ之之怒一也。〔列子、黃帝〕不下敢以二全物一與上之。

【全分】184ゼンブン　すべて分れる。全く分れる。〔杜甫、晨雨詩〕麝香山一半、亭午未二全分一。〔張何、蜀江春日文君濯金賦〕稍變二迴鸞一、全分二舞鳳一。

【全文】185ゼンブン　一篇の文章のこらず。全篇。〔王毓藻、全上古三代秦漢三國六朝文敍〕惜乎全文散逸、搜索不レ獲。〔清高宗、乾隆二十七年諭〕勢不レ能下悉載二全文一、使下閱者沿レ流溯レ源、一一徵上其來處。甲

【全兵】186ゼンペイ　軍隊をいためない。〔注〕善曰、孫子兵法曰、凡用二師一、以レ全レ兵爲レ上。〔潘岳、關中詩〕守有二完郛一、戰無二全兵一。

【全豹】187ゼンペウ　豹の全體。轉じて、全體の意。一斑評二全豹一(1－1‥1892)を見よ。

【全篇】188ゼンペン　全い一篇の文。又、書物の全體。〔李山甫、禪林寺作寄二劉書記一詩〕天竺老師留二一句一、曹溪行者答二全篇一。

【全甫】189ゼンポ　字號。❶元、史天安(2－3249‥252)の字。❷明、楊天民(6－15112‥726)の字。

【全保】190ゼンポ　❶保ち安んずる。保全(1－702‥16)に同じ。〔魏志、桓階傳〕毛玠・徐奕、以二剛塞少一レ黨、而爲二西曹掾丁儀所一レ不レ善、儀譖二其短一、賴二階左右一、以自全保。〔長生殿、權閑〕纔把二僞身軀一全保。❷全部のくみ。全部の保甲。〔福惠全書、保甲部、訓練伍壯〕城鄉全保伍壯大操。

【全模】191ゼンモ　完全な模木。模は木の名。〔左思、魏都賦〕僚二拱木於林衡一、授二全模於梓匠一。

【全本】192ゼンポン　❶全部揃つて缺けのない版本。足本。〔茶香室三鈔〕心經非二全本一。❷戲曲で首尾完全した曲本をいふ。我が國の淨瑠璃の丸本に相當する。

【全滅】193ゼンメツ　殘らず滅びうせる。まるで無くなる。〔後漢書、皇甫嵩傳〕全滅之勢、在二於此一也。

【全免】194ゼンメン　租稅などを全部免除して徵收しない。〔文獻通考、田賦考、歷代田賦之制〕開皇十二年詔、河北河東、今年田租、三分減レ一、兵減レ半、功調全免。

【全目】195ゼンモク　完全な目。〔鮑照、擬古詩〕石梁有二餘勁一、驚雀無二全目一。〔注〕善曰、帝王世紀曰、帝羿有窮氏、與二吳賀一北遊、賀使二羿射一レ雀、羿曰、生レ之乎、殺レ之乎、賀曰、射二其左目一、羿引レ弓射レ之、誤中二右目一、羿抑レ首而媿、終身不レ忘。

【全門】196ゼンモン　一門のこらず。一門全體。全家。〔金史、僕散安貞傳〕前日之俘、隨レ時誅戮、獨於二宋族一曲活二全門一。

【全輸】197ゼンユ　❶令制で、調・庸・雜徭全部を輸送することをいふ。〔主計寮式、上〕曰若干、全輸。❷全部の輸送。又、輸出入の全部をいふ。

【全癒】198ゼンユ　病が全くなほる。全治。

【全融】199ゼンユウ　まつたくとける。〔陸游、晚窗詩〕一塢梅花已盡空、數瓠春雪未二全融一。

【全用】200ゼンヨウ　殘る所のない使ひみち。完全無缺の效用。〔列子、天瑞〕天地無二全功一、聖人無二全能一、萬物無二全用一。

【全里】201ゼンリ　その村中。村里全部。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕當二全里之重困一。

【全量】202ゼンリヤウ　總體の數量。全體の重量。

【全略】203ゼンリヤク　すべての智略。全能力。〔張立晏、授二李繼顏保大節度使一制〕負二致君之全略一、呈二邁俗之宏規一。

【全力】204ゼンリヨク　ありたけの力。渾身の力。〔劉子翬、讀二曾吉甫橫碧齋詩一〕克己無二全力一。

【全祿】205ゼンロク　祿賜を最上のものとする。〔管子、侈靡〕毋二全祿一、貧レ國而用不レ足。〔纂詁〕全、猶レ純也、毋レ純二乎祿一人。

【全韻詩】206ゼンインシ　書名。二卷。清、金門詔撰。

【全緣葉】207ゼンエンエフ　緣に凸凹のない葉をいふ。全邊葉。

【全鋼製】208ゼンカウセイ　全部はがねで造ること。全部はがねで造つたもの。「281」に同じ。

【全金詩】209ゼンキンシ　書名。御定全金詩(4－10157‥)

【全景文】210ゼンケイブン　南齊、吳郡の人。字は弘達。初、宋に仕ふ。神武の時、官は光祿大夫。〔南齊書、二十九〕。

【全謙孫】211ゼンケンソン　元、鄞の人。字は眞志。弟の晉孫と共に陳塤の門に學び楊簡に私淑す。父の汝梅、兄の鼎孫、季弟の頤孫、及び鼎孫の子の耆と共に二世義田を置いて宗人を贍はし、世に之を義田六老といふ。〔宋元學案、七十四〕。

【全口人】212ch'üan² k'ou³ jen²　兩親及び妻が共に生存して居る人。

【全枝花】213ゼンシクワ　枝のそろつた花の模樣。からくさ模樣。〔金史、輿服志下〕婦人服、襜裙多以二黑紫一上編二繡全枝花一、周身六襞積。

【全思誠】214ゼンシセイ　明、上海の人。字は希賢。洪武中、耆儒を以て徵され、官は文華殿大學士に至る。〔明史、一百三十七〕・〔明史稿、一百二十五〕・〔國朝獻徵錄、十二〕・〔明人小傳、一〕。

【全師朗】215ゼンシラウ　前蜀の王宗朗(7－20823‥1857)の本姓名。

【全收益】216ゼンシユウエキ　全部のまうけ。

【全晉孫】217ゼンシンソン　元の人。謙孫の弟。字は本心。陳塤に從つて學ぶ。〔宋元學案、七十四〕。

【全世界】218ゼンセカイ　世界全體。世界中。

【全製品】219ゼンセイヒン　羽二重・棉布・漆器・燐寸等のやうに、その儘使用せられる程度まで加工せられた貨物をいふ。

【全祖望】220ゼンソバウ　清、鄞の人。字は紹衣、又、謝山。號は四明洞天總持。雍正の擧人。乾隆の初、鴻博に擧げられ、進士となり、庶吉士に選ばる。官は縣の長官。浙江省紹興の蕺山學院、及び端溪水の傍の端溪書院等に歷主し、劉宗周の學統を授け、人材敎養に力を盡し、旁ら著述に專心し、黃宗羲の宋元學案を修し、水經注を校す。著に丙辰公車徵士小錄・漢書地理志稽疑・經史問答・句餘土音・鮚埼亭集がある。〔清史稿、四百八十七〕・〔清史列傳、六十八〕・〔國朝先正事略、三十四〕。

【全祖望年譜】221ゼンソバウネンプ　書名。一卷。清、黃秉純撰。〔鮚埼亭集、第一冊〕。

【全大成】222ゼンタイセイ　明、金谿の人。字は希孔。父母に事へて至孝。〔江西通志〕。

【全鼎孫】223ゼンテイソン　元の人。謙孫の兄。字は本然。〔宋元學案、七十四〕。

【全反射】224ゼンハンシヤ　光が密なる媒質から疎なる媒質に入る場合、入射角が一定の値を過ぎれば光は屈折することなく全く反射するに至る現象をいふ。

【全蹼類】225ゼンボクルイ　動物分類上の一部門。鳥類、游禽類の一。後肢の四趾に皆蹼膜があつて相連なり、游泳に適す。嘴は長く直。多く食肉性で、魚類を常食とする。

【全陽子】226ゼンヤウシ　字號。❶宋、兪琰(1－1437‥9)の號。❷金、王處一(7－20823‥1684)の號。❸元、何道柔(1－511‥332)の號。

【全羅道】227ゼンラダウ　朝鮮の道名。古の百濟國。朝鮮半島の西南部に位し、東北は慶尙道、西北は忠淸道に界し、西及び南は海に面す。南北二道に分れ、南道の首邑は光州、北道は全州である。

【全樂堂】228ゼンラクダウ　渡邊定靜の號。渡邊華山(7－17765‥49)を見よ。

【全良範】229ゼンリヤウハン　明、沂州の人。字は心矩。萬曆中、鄉薦第一。進士の第に登る。官は河南按察副使兼管河道。沂の人は良範を德とし、中恪先生と尊稱した。〔沂州志〕。

【求レ全毀】230マツタキヲモトムルノソシリ　名譽の全からんことを求めて、却つてそしりを受ける。〔孟子、離婁上〕有二不レ虞之譽一、有二求レ全之毀一。〔集注〕求レ免レ於毀一而反致レ毀、是謂二求レ全之毀一。

【全跏趺坐】231ゼンカフザ　跏結跏趺坐に全跏・半跏の別があり、兩足を交叉して兩膝の上に置くのを全跏、一足を一方の膝に置くのを半跏といふ。

【全室外集】232 ゼンシツグワイシフ 書名。九卷。續集一卷。明、釋宗泐撰。外集は應制詩・樂府・供佛讃佛諸典共二卷、古近體詩六卷、疏・題跋共一卷で、續集は詩文合編である。〔四庫提要、集、別集類〕。

【全則必缺】233 マツタケレバカナラズカク 完全なれば必ず缺ける。〔呂覽、博志〕全則必缺、極則必反、盈則必虧。

【全棹酒席】234 ch'üan² chuo¹ chiu³ hsi² 正式の料理。一テーブルの料理。

【全芳備祖】235 ゼンハウビソ 書名。前集二十七卷、後集三十一卷。宋、陳景沂撰。藝文類聚の體に倣つて、果卉について事實と賦詠とを集錄したもので、後世の總集は多く此の書を出典としてゐる。〔四庫提要、子、類書類〕。

【全閩詩話】236 ゼンビンシワ 書名。十二卷。清、鄭方坤編。閩人の詩話、及び他詩の閩に關係あるものを輯錄し、之を六朝・唐・五代・宋・元・明・清に分け、尙、無名氏・宮閨・方外・神仙・鬼怪・雜綴を附錄とする。〔四庫提要、集、詩文評類〕。

【全民政治】237 ゼンミンセイヂ 政體の一。主權の所在が國民全體に在るもの。

【全無二心肝一】238 マツタクシンカンナシ 極めて意氣地のないこと。〔南史、陳後主紀〕(陳後主)既見レ宥、隋文帝給賜甚厚、後監守者奏言、叔寶云、既無二秩位一、每レ預二朝集一、願得二一官號一、隋文帝曰、叔寶全無二心肝一。

【全茗土州】239 ゼンメイドシウ 州名。淸、置く。明初、土官の許添慶が歸附したので、全茗州を置いて廣西太平府に屬せしめ、知州の職を世襲せしめた。民國五年に茗盈・龍英の二土司と合せて龍茗縣とした。故州治は廣西省龍茗縣の東北。〔清史稿、地理志〕廣西、太平府、土州十六、全茗土州。

【得レ全全昌】240 ゼンヲエバマツタクサカンナリ 臣が君に事へてよく其の禮を全くして失ふことがなければ、身も名も共に全くさかんになることが出來る。〔史記、田敬仲完世家〕騶忌子見、三月而受二相印一、云云、淳于髡曰、得レ全全昌、失レ全全亡。〔注〕索隱曰、案、得レ全、謂二人臣事レ君之禮、全具無レ失、故云レ得レ全也、全昌者、謂二若無レ失、則身名獲レ昌、故云二全昌一也。

【全蜀藝文志】241 ゼンシヨクゲイモンシ 書名。六十四卷。明、周復俊編。漢魏以來の詩文の蜀に關係あるものを集めたもの。〔四庫提要、集、總集類〕。

【全普庵撒里】242 チヨアンプアンチエリ 元、高昌の人。字は子仁。謚は傲哀。官は監察御史。陳友諒と力戰する事四ケ月、遂に自頸す。〔元史、一百九十五〕。

【全史日至源流】243 ゼンシニツシゲンリウ 書名。三十二卷。淸、許伯政撰。經史に依據して、天文曆象の事を述べたもの。〔四庫提要、子、天文算法類〕。

【全漢三國晉南北朝詩本】244 ゼンカンサンゴクシンナンボクテウシホン 書名。淸、丁福保編。漢から隋に至る迄の詩を合輯す。

【全上古三代秦漢三國六朝文】245 ゼンジヤウコサンダイシンカンサンゴクリクテウブン 書名。七百四十六卷。淸、嚴可均輯。上古より六朝までの文章を集めたもので、體例は梅鼎祚の歷代文に似る。〔嚴可均、全上古三代秦漢三國六朝文總敍〕作者三千四百九十七人、分レ代編次爲二十五集一、合七百四十六卷。

〔參考書〕【全上古三代秦漢三國六朝文作者引得】一冊 燕京大學刊。

五畫

【㚒】1425 ヘン 鞭(12—42937)の古字。〔類篇〕鞭、古作レ㚒。

參考 說文は㚒(1—1435)に作る。

【㒳】1426 サイ 財(10—36664)の古字。〔字彙補〕㒳、古文財字。

【㒶】1427 シ 矢(8—23929)の古字。〔集韻〕矢、古作レ㒶。

【㒷】1428 タフ 義未詳。〔海篇〕㒷、音劄。

【㒸】1429 キヨウ 義未詳。〔海篇〕㒸、音供。

六畫

【㒳】1430 リヤウ 〔集韻〕里養切 養

小篆

ふたつ。通じて兩(1—1436)に作る。〔說文〕㒳、再也、从レ冂从レ从、从レ丨、易曰、參レ天㒳レ地。〔段注〕凡物有レ二、其字作レ㒳、不レ作レ兩、兩者、二十四銖之偁也、今字兩行而㒳廢矣。〔玉篇〕㒳、古文兩。〔集韻〕㒳、通作レ兩。

解字 會意。冂(覆ふ)と从(二入)と丨(界)との合字。覆はれたところに二物が入つて二つに分れて並んでゐる形から、並偶の義を表はす。又、一說に、通訓定聲は、權衡(はかり)の左右相比し平分せる形に象り二つの義を示すとする。又、一說に、从と再の省畫帀との合字で、二つの義ともいふ。今多く兩の字を㒳の義に用ひる。〔說文通訓定聲〕㒳、再也、从レ冂、闕、按、从レ冂从レ从、从、丨其介也、疑象二權衡形左右相比一、故爲レ二、兩篆、說解、㒳、平分也、或曰、从レ从从二再省一、會意。

【㒹】1431 スイ 〔篇海類編〕所遂切 支

よい。〔篇海類編〕㒹、宜也。

【㒺】1432 コツ 〔佩觿辨證〕音骨

でる。〔佩觿辨證〕㒺、出也。

【㒻】1433 カイ 〔海篇〕音海

草の芽。〔海篇〕㒻、草卷也。

【㒼】1434 音義未詳 〔字彙補〕㒼、音未詳、見二佩觿辨證一。

【㒽】1435 ヘン 鞭(12—42937)の古字。〔說文〕鞭、㒽、古文鞭。

【兩】1436 一リヤウ 〔集韻〕里養切 カ一尤ˇ 養 liang³ 二リヤウ 〔集韻〕力讓切 カ一尤ˋ 漾 liang⁴

小篆(說文) 小篆(段注本)

一❶ふたつ。ふたたび。㒳(1—1430)に通ず。〔說文、㒳、再也、段注〕冓部曰、再者、一舉而二也、凡物有レ二、其字作レ㒳、不レ作レ兩、兩者、二十四銖之稱也、今字、兩行而㒳廢矣。〔說文通訓定聲〕兩、叚借爲レ㒳。〔廣雅、釋詁四〕兩、二也。〔字彙〕兩、二也。〔正字通〕兩、二數也。〔逸周書、武順解〕無レ中曰レ兩。❷たぐへる。たぐひ。つゐ。ならび。〔字彙〕兩、耦也。〔易、說卦〕參レ天兩レ地而倚レ數。〔注〕兩、耦也。〔周禮、天官、大宰〕以二九兩一繫二邦國之民一。〔注〕兩、猶レ耦也、所三以協二耦萬民一。〔史記、絳侯周勃世家〕持二國秉一貴重矣、於二人臣一無レ兩。❸かねて。あはせて。ふたつながら。〔荀子、解蔽〕同時兼知レ之、兩也。❹織物をはかる一單位。二端の長さ。〔小爾雅、度〕倍レ丈謂二之端一、倍レ端謂二之兩一、倍レ兩謂二之匹一。〔周禮、地官、媒氏〕無レ過二五兩一。〔注〕五兩、十端也。〔疏〕云二五兩十端一者、古者二端相向卷レ之、共爲二一兩一、五兩、故十端也。〔左氏、昭、二十六〕以二幣錦二兩一。〔注〕二丈爲二一端一、二端爲二一兩一。❺二十五人の一隊。〔周禮、地官、小司徒〕

五人爲ㇾ伍、五伍爲ㇾ兩。㊅二十四銖の重さ。〔說文〕兩、二十四銖爲二一兩一、从二一兩一、兩、平分也、兩亦聲。〔段注〕禾部曰、十二粟爲二一分一、十二分爲二一銖一、律歷志曰、衡權、本起二於黃鍾之重一、一龠容二千二百黍一、重十二銖、兩ㇾ之爲ㇾ兩、二十四銖爲ㇾ兩、按、兩者、兩二黃鍾之重一、故从ㇾ兩也。〔小爾雅、衡〕二十四銖曰ㇾ兩。㊆かざる。緉（∞＋27602）に通ず。〔說文通訓定聲〕兩、假借爲ㇾ緉。〔左氏、宣、十二〕御下、兩馬掉ㇾ鞅而還。〔注〕兩、飾也。㊇うでまへ。〔呂覽、簡選〕晉文公、造二五兩之士一。〔注〕兩、技也。㊈緉（10－3356）に通ず。〔廣雅、釋器、緉襠〕謂二之袒腹一、疏證〕緉襠、蓋本作二兩當一。㊉テール。重量の單位。十錢。庫平營造制では約三七・三〇一瓦に當る。又、其の重さに相當する銀塊を單位とする貨幣の單位。〔清會典事例、戶部、錢法〕每月支食一兩五錢。㊊現重さの單位。標準制では十公錢を一公兩とする。一公兩は百瓦。市用制では十市錢を一市兩とする。一市兩は〇・三一二五公兩。庫平營造制では十錢を一兩とする。一兩は〇・三七三〇一公兩。㊁㊀車をかぞへる數詞。〔書、牧誓序〕戎車三百兩。〔傳〕車稱ㇾ兩。〔詩、召南、鵲巢〕百兩御ㇾ之。〔傳〕百兩、百乘也。〔後漢書、吳祐傳〕此書若成、則載二之兼兩一。〔注〕車有二兩輪一、故稱ㇾ兩也。㊁車五十乘。〔左氏、昭、元〕兩於前。〔服注〕五十乘爲ㇾ兩。囲④一斤の十六分の一の目方。藥種商では四匁。㊂昔時、貨幣の名目としては金貨は四分、銀貨は四匁三分の稱。㊃明治以後は俗に圓を兩といふ。

名乘 モロ。フル。

解字 會意形聲。一と兩との合字。兩はまた聲。一は平かな意、兩は平かに分つ意。兩は本來衡目の名で、二十四銖をいふ。これは一龠（十二銖）の二倍であるから、之を平分すれば一龠づつとなる。故に一と兩とを合して一龠づつに平分される重さ、卽ち二十四銖を表はす。假借して兩の意に用ひる。〔說文通訓定聲〕兩、二十四銖爲二一兩一、从二一兩平分一、會意、兩亦聲。▽金文）象形。はかりの二つの重りに象る。

【兩罌】1 ㄌㄧㄤˇ ㄨㄥ 二つのかめ。〔墨子、備穴〕埋二兩罌一深平城。

【兩握】2 ㄌㄧㄤˇ ㄨㄛˋ 左右の手のにぎりこぶし。兩拳。〔陸游、度荐詩〕汗沾二兩握一色如ㇾ菜。

【兩姨】3 liang³ i² 母の姉妹。兩姨姉妹を見よ。

【兩姨姉妹】4 ㄌㄧㄤˇ ㄧˊ ㄗˇ ㄇㄟˋ 母の姉妹の生んだ女の子。從姉妹。いとこ。〔明律、戶律、婚姻、尊卑爲ㇾ婚〕若娶二己之姑舅兩姨姉妹一者、杖八十。

【兩姨親戚】5 liang³ i² ch'in¹ ch'i¹ 母の姉妹の生んだ子が、他家に緣付いて生じた親戚關係。

【兩姨弟兄】6 liang³ i² ti⁴ hsiung 母の姉妹の生んだ男の子。從兄弟。いとこ。兩姨姉妹（4）を見よ。

【兩意】7 ㄌㄧㄤˇ ㄧˋ ㊀ふたごころ。貳心。〔宋書、樂志三〕聞君有二兩意一、故來相決絕。㊁意味の二つに取れるもの。二つの意味。〔宋史、選擧志一〕場屋之文、專尚二偶麗一、題雖レ無二兩意一、必欲二聲而爲一レ一。

【兩意二心】8 liang³ i⁴ san¹ hsin¹ いろいろに氣がかはる。

【兩位】9 liang³ wei⁴ 御二方。御兩人。

【兩闈】10 ㄌㄧㄤˇ ㄨㄟˊ 二つの小門。〔顏延之、直二東宮一答二鄭尚書一詩〕兩闈阻二通軌一。〔蘇味道、贈二封御史入臺詩〕故事推二三獨一、茲辰對二兩闈一。

【兩宥】11 liang³ yu⁴ 祕密の書翰等で、雙方の名を現はさぬ時に用ひる語。兩知（295）に同じ。

【兩一】12 ㄌㄧㄤˇ ㄧ 清、党湛（Ⅰ－1381‥4）の號。

【兩隱】13 liang³ yin³ 祕密の書翰などで、雙方の名を現はさぬときに用ひる語。兩知。

【兩院】14 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄢˋ ㊀二つの役所。〔元史、選擧志二〕翰林兩院、擬二同六部一、令史有レ闕、於二隨路儒學教授通一吏事一人內上選補。㊁二つの庭。〔韓偓、海山記〕院中楊梅、一夕忽爾繁盛、帝喜問曰、楊梅之茂、能如二玉李一乎、或曰、楊梅雖レ茂、終不レ敵二玉李之盛一、帝往二兩院一觀レ之、亦自見二玉李繁茂一。㊂衆議院と參議院。兩議院。

【兩院制】15 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄢˋ ㄓˋ 衆議院と參議院との兩院で議會を構成する制度。

【兩院協議會】16 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄢˋ ㄒㄧㄝˊ ㄧˋ ㄏㄨㄟˋ 議案について參衆兩院の意見が一致せぬ場合、其の議をまとめるために雙方から委員を選定して開く會議。

【兩韻】17 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄣˋ 同一字で其の用ひる意味によつて平仄を異にし、或は平仄は同じでも意味の異なるため韻の所屬を異にする者、又は平仄通用するものをいふ。大窪詩佛編の佩文韻府兩韻便覽がある。

【兩韻詩】18 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄣˋ ㄕ 律詩で上下の句に互に韻を押すもの。卽ち第一・第三・第五・第七の句に仄韻を押し、第二・第四・第六・第八の句に平韻を押すものを平仄兩韻體といふ。唐の章碣が創始したもの。〔文體明辯、雜韻詩〕五曰、平仄兩韻、句中平仄字各協二韻者一是也、唐章碣兩韻詩曰、東南路盡吳江畔、正是窮愁暮雨天、鶴鷺不レ嫌斜雨岸、波濤欺得送レ風船、偶逢二島寺一停レ帆看、深羨漁翁下レ釣眠、今古若論二英達算一、鷗夷高興固無邊、畔岸看算相叶、天船眠邊相叶、是爲二兩韻詩一也。

【兩楹】19 ㄌㄧㄤˇ ㄧㄥˊ 堂上の東西に在る二本の大柱。〔禮、檀弓上〕予疇昔之夜、夢二坐奠一於兩楹之閒一。〔公羊、定、元〕正二棺於兩楹之閒一、然後卽レ位。〔唐玄宗、經二鄒魯一祭二孔子一而歎之詩〕今看兩楹奠、當下與二夢時一同上。

【兩楹之殯】20 ㄌㄧㄤˇ ㄧㄥˊ ㄓ ㄅㄧㄣˋ 兩楹の間で、かりもがりをする。孔子が兩楹の間に殯した夢を見た故事。〔後漢書、何敞傳〕西狩獲ㇾ麟、孔子有二兩楹之殯一。〔注〕禮記、孔子謂二子貢一曰、予疇昔夜、夢二坐奠一於兩楹之閒一焉。

【兩曜】21 ㄌㄧㄤˇ ㄧㄠˋ 二つの光體。卽ち、日と月。〔梁元帝纂要〕日月謂二之兩曜一。〔陸游、春雨詩〕羲和挾二兩曜一、疾走不レ可レ遮。

【兩役】22 ㄌㄧㄤˇ ㄧˋ 二つのやく。又、二つの仕事。〔晉書、稅含傳〕一人兩役。〔元史、河渠志二〕兩役並興、相離三百餘里。㊁エキ 二つの戰役。二度の戰。「風を見よ。

【兩腋】23 ㄌㄧㄤˇ ㄧㄝˋ 左右兩方のわきのした。兩腋生。

【兩腋生風】24 ㄌㄧㄤˇ ㄧㄝˋ ㄕㄥ ㄈㄥ 茶を喫して七椀に至れば、兩方の腋の下から清風が起る。贈られた茶を稱美した語。〔盧仝、走レ筆謝二孟諫議寄二新茶一詩〕一椀喉吻潤、兩椀破二孤悶一、三椀搜二枯腸一、唯有二文字五千卷一、四椀發二輕汗一、平生不平事、盡向二毛孔一散、五椀肌骨清、六椀通二仙靈一、七椀喫不レ得、也唯覺二兩腋習習清風生一。

【兩粵】25 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄝˋ 今の廣東・廣西二省をいふ。兩廣。兩越に同じ。〔漢書、食貨志下〕武帝因二文景之畜一、忿二胡粵之害一、卽位數年、嚴助朱買臣等、招二徠東甌一、事二兩粵一、江淮之間、蕭然煩費矣。

【兩越】26 ㄌㄧㄤˇ ㄩㄝˋ 東越・南越をいふ。越は粵。兩粵。〔史記、衞青傳〕南誅二兩越一、東伐二朝鮮一。〔陳書、高祖武帝紀上〕大小二震之驍徒、東南兩越之勁寇、遽行二天誅一、無二遺神策一。

【兩鬣】27 ㄌㄧㄤˇ ㄌㄧㄝˋ 左右兩頰のふくぼ。鬣はふくぼ。〔徐陵、玉臺新詠序〕南都石黛、最發二雙蛾一、北地燕脂、偏開二兩鬣一。

【兩下】28 ㄌㄧㄤˇ ㄒㄧㄚˋ ㊀雙方。〔柳宗元、駁二復讐一議〕今若取二此以斷一、兩下相殺、則合二於禮一矣。㊁棟の前後へ簷を葺きおろした家作。〔禮、檀弓上、見下若レ覆二夏屋一者上矣、疏〕夏家之屋、唯兩下而已。

【兩下裏】29 liang³ hsia⁴ li³ 雙方。

【兩可】30 ㄌㄧㄤˇ ㄎㄜˇ どちらともつかぬ。雙方ともよい。何でもかまはない。〔晉書、魯勝傳〕是有二不是一可有二不可一、是名二兩可一。

【兩可說】31 ㄌㄧㄤˇ ㄎㄜˇ ㄕㄨㄛ 周の鄧析子の說いたもので、卽ち二律背反の法則である。甲なりといふ主張と同時に、甲に非ずとする、相互に相背反矛盾した命題を同等に容認することをいふ。宇宙の無限大から見れば、天地山川の高低、齊秦の距離を皆同じとして、山淵平、天地比、齊秦襲といふ。又、釣針有ㇾ鬚、卵有ㇾ毛といつたのは、毛羽ある鳥の產れる卵に毛をもつ可能性あることを指したものである。〔列子、力命〕鄧析操二兩可之說一、設二無窮之辭一。

【兩佳】32 リャウカ 二つながらよい。〔蘇軾、雪谿乘興詩〕谿山雪月兩佳哉。

【兩河】33 リャウカ ㊀黄河南北の地。即ち河南・河北。〔孔穎達、毛詩正義序〕齊魏兩河之間、茲風不レ墜。〔小學紺珠、地理類、兩河〕河南・河北。㊁二つの河流。〔爾雅、釋地〕兩河間曰二冀州一。〔呂覽、有始〕河漢之間、爲二豫州一、周也、兩河之間、爲二冀州一、晉也。〔注〕東至二清河一、西至二西河一。

【兩河口】34 リャウカコウ 地名。㊀安徽省六安縣の西南。西兩河口といふ。㊁安徽省六安縣の東南、東兩河口といふ。㊂湖北省襄陽縣の東北。㊃湖北省竹山縣の西南。官渡河が堵水に注ぐところ。〔讀史方輿紀要、湖廣、鄖陽府竹山縣、長望河〕兩河口、在縣東南七十里、縣河與二龍堰河一合流處也、一名、潭口。㊄四川省酉陽縣の北。㊅四川省敘永縣の南。

【兩河經略】35 リャウカケイリャク 書名。四卷。明、潘季馴撰。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【兩河清彙】36 リャウカセイイ 書名。八卷。清、薛鳳祚撰。〔四庫提要、史、地理類〕。

【兩河先生】37 リャウカセンセイ 宋、王次翁（7－20823‥1600）の號。

【兩夏】38 リャウカ 堂の東西の廊下。兩夏（40）に同じ。夏は廈。〔漢書、張敞傳、果得二之殿屋重轅中一注〕蘇林曰、轅、椽也、重櫨、重棼中、師古曰、重棼、卽今之廊舍也、一邊虛爲二兩夏一者也。

【兩家】39 リャウカ 兩方の家。〔史記、盧綰傳〕高祖盧綰同日生、里中持二羊酒一賀二兩家一。〔易林〕銜レ命上レ車、和二合兩家一、蛾眉皓齒、二國不レ殆。〔韓愈、符讀書城南詩〕兩家各生レ子、提孩巧相如。

【兩廈】40 リャウカ 堂の東西の廊下。兩廂（20）に同じ。兩夏。〔宋史、輿服志六〕庶人舍屋、許二五架門一、一間兩廈而已。

【兩戒】41 リャウカイ 南戒と北戒。戒は界で、南戒は南方の蠻夷との境界、北戒は北方の戎狄との境界。〔唐書、天文志一〕一行以爲、天下山河之象、存乎兩戒、北戒自二危積石一、負二終南地絡之陰一、東及二太華一、逾二河並雷首・底柱・王屋・太行一、北抵二常山之右一、乃東循二塞垣一、至二滻貊・朝鮮一、是謂二北紀一。所二以限一戎狄一也、南戒自二岷山・嶓冢一、負二地絡之陽一、及二太華一、連二商山・熊耳・外方・桐柏一、自二上洛南一、逾二江漢一、携二武當・荊山一、至二於衡陽一、乃東循二嶺徼一、達二東甌・閩中一、是爲二南紀一。所二以限一蠻夷一也。故星傳謂二北戒爲二胡門一、南戒爲二越門一。〔小學紺珠、天道類、兩戒〕北戒、南戒。

【兩階】42 リャウカイ 宮殿に升る東西の階。〔書、大禹謨〕帝乃誕敷二文德一、舞二干羽于兩階一。

【兩楷】43 リャウカイ 宋の張伯楷と張仲楷の兄弟。〔李清照、賀二人孿生子一啓〕無二午未二時之分一、有二伯仲兩楷之秀一。既繫レ臂而繫レ足、實難二弟而難一レ兄。〔注〕任文二子孿生、德卿生二於午一、道卿生二於未一、張伯楷仲楷兄弟、形狀無二二一。

【兩鮹】44 リャウカイ 魚の名。比目魚（6－16743‥160）に同じ。〔左思、吳都賦〕罩二兩鮹一。〔注〕劉曰、鮹、左右鮹一目、所謂比目魚也。

【兩崖】45 リャウガイ ㊀二つのがけ。兩側のがけ。二つのきし。兩側のきし。〔齋藤拙堂、下二岐蘇川一記〕灘急舟走、兩崖巉巖、一時皆搖。㊁明、朱廷立（6－14424‥932）の號。

【兩涯】46 リャウガイ 二つの水ぎし。兩側の水ぎし。〔孟子、滕文公下、水由二地中一行、集注〕地中、兩涯之間也。〔于鵠、尋二李逸人舊居一詩〕舊隱二松林下一、衡泉入二兩涯一。

【兩兄】47 リャウケイ 二つのしり。二つのけつ。〔賴山陽、高山彦九郎傳〕有二二男子一、在二橋上一相嚮臥、兩兄高而頭凹。

【兩江】48 リャウカウ ㊀江水の二派に分れたもの。又、二つの江流。〔宋書、索虜傳〕彼揚州城、南北門有二兩江水一、此二水引用、自可レ如二人意一也。〔齊己、寄二歐陽侍郎一詩〕大象影和二山面一落、兩江聲合二郡前一流。㊁地名。江南と江西とをいふ。江蘇・安徽・江西の地。清初、江南總督を設けて今の江蘇・安徽の二省を統治し、後に兼ねて江西を管轄して兩江と改稱した。〔清會典、戶部、戶部尚書〕山東省之南爲二兩江一、其省二、曰江南之江蘇、曰江南之安徽、曰江西。〔清國行政法汎論、行政區劃〕江蘇安徽江西、各置二巡撫一、統レ之者爲二兩江總督一。

【兩江墟】49 リャウカウキョ 地名。㊀廣西省桂林縣の西。㊁廣西省荔浦縣の北。

【兩江口】50 リャウカウコウ 地名。㊀滿洲遼寧省長白縣の西。鴨綠江のほとり。㊁滿洲吉林省樺甸縣。上下二つあり、上兩口は縣の東南で、二道江は、ここから縣境へ入つてゐる。下兩口は縣の南で、頭道二道の二河が會合する。

【兩行】51 リャウカウ ㊀ふたつながら行はれる。雙方に行はれる。〔莊子、齊物論〕聖人和レ之以二是非一、而休二乎天均一、是之謂二兩行一。㊁ふたならび。二列。兩列。〔晉書、束晳傳〕時有レ人、於二嵩高山下一、得二竹簡一枚、上兩行科斗書、傳以相示、莫レ有二知者一。司空張華以問レ晳、晳曰、此漢明帝顯節陵中策文也、檢驗果然、時人伏二其博識一。「號。

【兩行齋】52 サウカウサイ 明、袁黄（10－34152‥44）の書齋の號。

【兩行字】53 リャウカウジ ㊀ふたならびの字。〔許渾、送二張尊師一洞庭一詩〕他日相思兩行字、無二人知一是武陵溪一。㊁兒島高德が、後醍醐天皇の行在に到り、叡慮を安んじ奉らんとして書した、天莫レ空二句踐一時非レ無二范蠡一の二行の中字をいふ。〔齋藤監物、題二兒島高德書櫻樹圖一詩〕報國丹心唫二獨力一、回天事業奈二空拳一、數行紅淚兩行字、付二與櫻花一奏二九天一。

【兩學】54 リャウガク ㊀宮中に設けた二つの學校。一は胄子を教へる國學、一は俊秀を教へる大學。〔晉書、潘岳傳〕兩學齊列、雙宇如レ一、右延二國胄一、左納二良逸一、祁祁生徒、濟濟儒術、或升二之堂一、或入二之室一、教無二常師一、而道在則是。〔小學紺珠、制度類、兩學〕國學、教胄子大學、招二賢良一。㊁教諭と訓導。清代の地方學務員。〔清會典、禮部、儀制清吏司、縣曰二教諭一、皆以二訓導一副レ之。〔注〕訓導有二經制訓導、復設訓導、府學於二教授外一、州學於二學正外一、縣學於二教諭外一、各設二訓導一人一。

【兩合】55 リャウガフ 兩つながら合ふ。〔史記、龜策傳〕可レ不レ謂二兩合者一哉。

【兩合公司】56 liang³ hé² kung¹ ssū 無限責任の株主と有限責任の株主とにて成立せる株式會社。

【兩陷】57 リャウカン 兩つながら陷る。〔莊子、外物〕有二甚憂一、兩陷而無レ所レ逃。

【兩間】58 リャウカン ㊀天と地との間。〔宋史、胡安國傳〕至剛可二以塞一兩間一、一怒可二以安一天下一矣。㊁二つの間。間は梁と梁の間をいふ。小屋の形容。二間。〔宋書、郭原平傳〕子原平、父喪既終、自起二兩間小屋一、以爲二祠堂一、每レ至二節歲一、蒸嘗於レ此。〔李廓、贈二商山東于嶺僧一詩〕商嶺東西路、欲レ分、兩間茅屋一溪雲。

【兩間草堂】59 リャウカンサウダウ 清、徐林鴻（4－10110‥654）の室名。

【兩漢】60 リャウカン 前漢（西漢）と後漢（東漢）。〔北史、袁翻傳〕兩漢警於西北、魏晉備在二東南一。〔顏氏家訓、省事〕上書陳レ事、起二自戰國一、逮二於兩漢一、風流彌廣。〔文中子、問易〕三國何其孜孜多レ慮乎、吾祇二桓靈傷一之捨二兩漢一、將安取レ制乎。〔孔穎達、尚書正義序〕蔡邕碑石刻之古文、則兩漢亦所レ不レ行。〔高適、同觀二陳十六史興碑一詩〕東周既削弱、兩漢更淪沒。

【兩漢會要】61 リャウカンクワイエウ 書名。西漢會要（10－34763‥121）・東漢會要（6－14499‥143）の併稱。各條を見よ。

【兩漢雋言】62 リャウカンシュンゲン 書名。漢雋（7－18153‥126）を見よ。

【兩漢詔令】63 リャウカンセウレイ 書名。二十三卷。撰者未詳。西漢詔令十二卷は、宋、林虙編。東漢詔令十一卷は、宋、樓昉編。合して一書とし、洪容齋の兩漢詔令擧要序を冠す。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【兩漢博聞】64 リャウカンハクブン 書名。十二卷。宋、楊侃撰。兩漢の字句、及び故事を摘錄し、並に顏師古、及び章懷太子の注を載せたもの。〔四庫提要、史、史鈔類〕。

【兩漢筆記】65 リャウカンヒッキ 書名。十二卷。宋、錢時撰。古史の評論を載す。〔四庫提要、史、史評類〕。

【兩漢金石記】66 リャウカンキンセキキ 書名。二十二卷。清、翁方綱撰。兩漢金石文に關する雜記で、其の目は、年月表（附考）・石經・古器物文・碑・隸續補・洪氏急就章注・隸八分攷・補遺・班馬字類附記に分れて居る。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【兩漢訓詁學】67 リャウカンクンコガク 西漢の今文家及び東漢の古文家は、孰れも典籍の注釋を畢世の業としたので、此等の學を總稱して兩漢訓詁學といふ。

【兩漢刊誤補遺】68 リャウカンカンゴホキ 書名。十卷。宋、吳

仁傑撰。劉奉世等の兩漢刊誤を補正したもの。〔四庫提要、史、正史類〕。

〔兩漢五經博士考〕69 リヤウカンゴキヤウハカセカウ　書名。三卷。淸、張金吾撰。〔後知不足齋叢書、二十二冊〕。

【兩監】70 リヤウカン　長安の國子監と東都洛陽の國子監。〔小學紺珠、職官類、兩監〕國子監、東都國子監。

【兩韓】71 リヤウカン　二つの韓の國。〔戰國、韓策〕成午從レ趙來、謂二申不害於韓一曰、子以レ韓重二我於趙一、請以レ趙重二子於韓一、是子有二兩韓一、而我有二兩趙一也。

【兩岸】72 リヤウガン　りやうぎし。兩側の岸。〔李白、望二天門山一詩〕兩岸青山相對出、孤帆一片日邊來。〔李白、早發二白帝城一詩〕兩岸猿聲啼不レ住、輕舟已過萬重山。

【兩眼】73 リヤウガン　左右二つの目。兩目。〔白居易、白髮詩〕書魔昏二兩眼一、酒病沈二四肢一。〔杜牧、寄二小姪阿宜一詩〕頭圓筋骨緊、兩眼明且光。

〔兩眼鏡〕74 リヤウガンキヤウ　雙眼鏡。

【兩巖】75 リヤウガン　二つのいはほ。二つのがけ。〔左藤一齋、日光山行記〕山愈深、景愈奇、見二兩巖對峙屹然者一。

【兩己】76 リヤウキ　二つの己の字の相背いた形。中國上代の禮衣のぬひとりの模樣。〔書、益稷、黼黻絺繡、傳〕黻爲二兩己相背一。〔梅堯臣、月下懷二裴如晦宋中道一詩〕我僕寢二我廄一、相背肖二兩己一。

【兩岐】77 リヤウキ　ふたみち。ふたまた。麥などの穗の二つ合生すること。〔後漢書、張堪傳〕〔堪拜二漁陽太守一〕百姓歌曰、桑無レ附レ枝、麥穗兩岐、張君爲レ政、樂不レ可レ支。〔白居易、牡丹芳詩〕今年瑞麥分二兩岐一、君心獨喜無二人知一。〔宋史、太祖紀〕建德四年五月壬午、澶州進下麥兩岐至二六岐一者百六十五本上。

〔兩岐金〕78 リヤウキキン　耜の一種。頭が二つに岐れたもの。〔周禮、考工記、匠人、耜廣五寸二耜爲レ耦、注〕古者耜一金、兩人併發レ之、其壟中曰レ甽、甽上曰レ伐、伐之言、發也、甽、畎也、今之耜岐頭兩金、象二古之耦一也。〔謝華啓秀〕兩岐金。

【兩氣】79 リヤウキ　陰陽の二つの氣。二氣。〔張載、正蒙〕聲者、形氣相軋而成、兩氣者、谷響雷聲之類、兩形者、桴鼓叩擊之類。

【兩喜】80 リヤウキ　相手の兩方とも喜ばせること。〔莊子、人閒世〕夫兩喜必多二溢美之言一、兩怒必多二溢惡之言一。

〔兩喜兩怒之言〕81 リヤウキリヤウドノゲン　二者が共に喜ぶ言葉と、共に怒る言葉。〔莊子、人閒世〕夫傳二兩喜兩怒之言一、天下之難者也。

【兩揆】82 リヤウキ　左相と右相。揆は義理を以て事物をはかり、其の宜しきを制すること。〔趙彥昭、哭二僕射鄂公楊再思一詩〕兩揆光二天秩一、三朝奉二帝熙一。

【兩貴】83 リヤウキ　古き臺屋の精をいふ。〔太平御覽、妖異部、精〕白澤圖曰、故臺屋之精、名二兩貴一、狀如二赤狗一、以二其名一呼レ之、使二人目明一。

【兩毅】84 リヤウキ　軍團の大毅と小毅とをいふ。〔令義解、獄令〕其兵士笞罪、兩毅決レ之。

【兩驥】85 リヤウキ　❶二匹の良馬。〔王逸、機賦〕兩驥齊レ首、儼若レ將レ征。❷二人の秀でた兄弟をいふ。〔白孔六帖〕劉正兄弟二人、時號二兩驥一。

【兩儀】86 リヤウギ　❶陰陽。儀は宇宙の大法。〔易、繫辭上〕易有二太極一、是生二兩儀一。❷天地。〔太玄經、太玄數〕旁擬二兩儀一則觀レ事。〔注〕兩儀、天地也。〔劉琨、勸進表〕玄德通二于神明一、聖姿合二于兩儀一。

【兩裘】87 リヤウキウ　二つのかはごろも。〔左氏、定、三〕蔡昭侯爲二兩佩與二兩裘一。

【兩訖】88 liang³ ch'i⁴　雙方共に受取濟となる。

【兩腳】89 リヤウキヤク　左右のあし。〔詩、魏風、碩鼠、疏〕今河東有二大鼠一、能人立、交二前兩腳於頸上一、跳舞善鳴、食二人禾苗一。

〔兩腳規〕90 liang² chiao³ kuei¹　ぶんまはし。

〔兩腳貨〕91 liang² chiao³ huo⁴　二本足のある代物。人をいふ。

〔兩腳泡〕92 liang² chiao³ p'ao⁴　疲勞して二本の足がへとへとになる。

〔兩腳書櫥〕93 リヤウキヤクシヨチユウ　二本足のある書棚の意。學問はあつても之を運用することを知らない人のこと。論語讀みの論語知らず。書廚（**5—14294**··230）を見よ。〔陔餘叢考、成語〕齊陸隆、學極博、而讀レ易不レ解二文義一、王儉曰、陸公書櫥也、今人謂二讀書多而不レ能レ用者一、爲二兩腳書櫥一、本レ此。

〔兩腳野狐〕94 リヤウキヤクヤコ　二本足のきつね。腹黑い人を罵る語。〔舊唐書、楊再思傳〕左補闕戴令言、作二兩腳野狐賦一、以譏二刺之一、再思聞レ之甚怒。

【兩宮】95 リヤウキユウ　❶二つの宮殿。東宮と上台。〔陸機、謝二平原內史一表〕身登二三閣一、官成二兩宮一。〔注〕向曰、兩宮、東宮及上臺也。❷皇帝と太后。〔漢書、王莽傳上〕蒙二兩宮厚骨肉寵一。〔注〕兩宮、謂二成帝及太后一。❸皇族の御二方。二宮。〔日本外史、源氏前記、平氏〕藤原惟方、勸レ帝親レ政、兩宮交惡。

【兩胠】96 リヤウキヨ　左右兩方のわき。〔素問、大奇論〕肺之雍喘而兩胠滿。

【兩許】97 リヤウキヨ　兩方とも許す。どちらともつかぬ。〔稽康、答四釋難三宅無二吉凶攝生一論〕此復兩許之言也。

【兩渠】98 リヤウキヨ　二つのみぞ。〔漢書、燕刺王旦傳〕母求二死子一、妻求二死夫一、裴二回兩渠閒一兮。

【兩龔】99 リヤウキヨウ　❶漢の龔勝と龔舍。共に名節を以て著はる。〔漢書、兩龔傳〕兩龔、皆楚人也、勝、字君賓、舍、字君倩、二人相友善、竝著二名節一、故世謂二之楚兩龔一。〔魏志、袁渙傳評〕蓋是貢禹兩龔。❷宋の龔夬とその弟大壯とをいふ。〔宋史、龔夬傳〕弟大壯、少有二重名一、云云、曾布欲レ見レ之、不レ可レ得、乃往謁レ夬、邀レ之出、從容竟レ日、題二詩壁閒一、有下得レ見二兩龔一之語上。〔小學紺珠、氏族類、兩龔〕龔夬・弟大壯。

【兩曲】100 リヤウキヨク　二つのまがつたこと。二つの邪曲。〔宋書、索虜傳〕彼有二兩曲一、我有二二直一也。

【兩局】101 リヤウキヨク　局務（外記の上首）と官務（太政官の左大史）とをいひ、又二つの局ツボネをも指していふ。〔和漢三才圖會、人倫、兩局〕押小路大外記、壬生官務。

【兩極】102 リヤウキヨク　地の兩端。北極と南極。〔晉書、天文志一〕北極出レ地三十六度、南極入レ地三十六度、兩極相去一百八十二度半。

【兩禁】103 リヤウキン　翰林學士の宿直部屋が北門の兩傍に分れてゐるのをいふ。〔避暑錄話〕翰林學士有二直舍一、分二于北門之兩旁一。

【兩句】104 リヤウク　二つの句。二句。〔南齊書、陸厥傳〕一簡之內、音韻盡殊、兩句之中、輕重悉異。〔白居易、小歲日對レ酒吟二錢湖州所レ寄詩一詩〕一盃新歲酒、兩句故人詩。〔浙江通志、杭州府〕蘇軾應夢記云、一夕夢二參寥子一、賦レ詩覺而記二兩句一。

〔兩句三年得〕105 リヤウクサンネンニエタリ　唐の賈島が、獨行潭底影、數息池邊身の二句を、三年かかつて得たことを述べた詩。〔隱居詩話〕不レ知、此兩句有二何難一道、至二于三年始成一而一吟下レ淚也。

【兩屨】106 リヤウク　二つのわらぐつ。〔方岳、唐律詩〕盡日此徘徊、青黏兩屨苔。

【兩和】107 リヤウクワ　左右の二つの軍門。和は軍門。〔周禮、夏官、大司馬〕遂以狩田、以レ旌爲二左右和之門一。〔注〕軍門曰レ和、今謂二之壘門一、立二兩旌一以爲レ之。〔韓非子、外儲說左上〕李悝警二其兩和一曰、謹警、敵人旦暮且二至擊レ汝、如レ是者再三、而敵不レ至、兩和懈不レ信二李悝一、居數月、秦人來襲レ之、至三幾奪二其軍一。〔翼毳〕和是以レ旌爲二兩頭雙立之門一也。

【兩踝】108 リヤウクワ　左右兩足のくびす。〔晉書、陸機・孫拯傳〕機既爲二孟玖等所レ誣、收レ拯考掠、兩踝骨見、終不レ變レ辭。〔晁補之、卽事一首次二韻祝朝奉十一丈一詩〕坐令二青蠅繁一、暫出刑二兩踝一。

【兩回】109 リヤウクワイ　ふたたび。二度。二回。〔漢書、李廣利傳、伐レ宛再反、注〕師古曰、再反、猶三今言二兩回一也。〔岑參、磧中作詩〕走レ馬西來欲レ到レ天、辭レ家見二月兩回圓一。

【兩掛】110 リヤウゲ　旅行用の行李の類。天秤棒の兩端にかけて荷ふもの。

【兩廣】111 リヤウクワウ　廣東・廣西の二省。兩越。〔宋史、寧宗紀二〕編二配兩廣及湖南諸州一。〔元史、世祖紀九〕定二兩廣四川戍軍一、二三年一更、稟二其家屬一、軍官給レ俸以贍レ之。〔淸會典、戶部、戶部尙書〕江西與二湖南省一之南爲二兩廣一、其省二、曰廣東、曰廣西。

【兩丱】112 リヤウクワン　小童の頭髮を分けて二方に結んだもの。總角之好（**8—27844**··13）を見よ。〔李商隱、安平公詩〕其弟炳章猶兩丱、瑤林瓊樹含二奇花一。

【兩冠】113 リヤウクワン　二つの冠。〔左氏、昭、二十三〕取二其冠法一、而與二之兩冠一。

【兩換】114 ㊀兩方ともうつしかへる。〔唐書、崔祐甫傳〕卽兩換レ職、以レ衰爲二河南少尹一、而拜二祐甫門下侍郎、同中書門下平章事一。㊁甲種の貨幣と乙種の貨幣とをとりかへること。兩替（264）に同じ。

【兩觀】115 闕をいふ。公門の兩傍にある樓。魏魏然として之を觀さしめるから觀といふ。一說、天子の五門中、只雉門のみ兩觀ありといふ。〔周禮、天官、閽人、王宮之中門之禁、疏〕魯有二三門一、雉門有二兩觀一、爲二中門一、則知下天子五門、雉門亦爲二中門一有中兩觀上矣。〔春秋、定、二〕夏五月壬辰、雉門及兩觀災。〔杜注〕兩觀、闕也。〔公羊、昭、二十五〕昭公曰、吾何僭矣哉、子家駒曰、設二兩觀一、乘二大路一。〔漢書、劉向傳〕孔子有二兩觀之誅一。〔注〕師古曰、兩觀、謂レ闕也。

【兩君】116 二國の君。二君。〔左氏、僖、十五〕上天降レ災、使我兩君匪レ以二玉帛一相見上、而以興レ戎。〔論語、八佾〕邦爲二兩君之好一有二反坫一、管氏亦有二反坫一。〔荀子、勸學〕事二兩君一者不レ容。

【兩軍】117 雙方の軍。二隊の軍。〔詩、周南、兎罝、公侯腹心、疏〕言用二策謀一明自往攻伐、非二和二好兩軍一、與二章一異也。〔唐書、竇文場傳〕帝自二山南一還、兩軍復完、而帝忌レ宿將難レ制。〔和凝、宮詞〕坐定兩軍呈二百戲一、樂臣低折賀二昇平一。〔王逢、塞上曲〕將令傳二中閫一交驩浹二兩軍一。〔五代史、吳越錢鏐世家〕越州董昌反、分二其兵一爲二兩軍一、中軍衣黃、外軍衣白、銘二其衣一曰二歸義一。

【兩刑】118 一つの刑罰。〔書、呂刑〕其刑上備、有レ并二兩刑一。

【兩京】119 ㊀漢の西京と東京。兩都。〔謝靈運、會吟行〕兩京愧二佳麗一、三都豈能似。㊁西漢と東漢。西漢は西京に、東漢は東京に都したからいふ。〔陳書、沈不害傳〕東膠西序事隆二乎三代一、環林璧水業盛二於兩京一。㊂唐の長安と洛陽。〔唐書、僕固懷恩傳〕從レ王破レ賊於新店一、以復二兩京一、有二殊功一。㊃宋の東京開封府と西京河南府。〔宋史、太宗紀〕滅二兩京諸州一繫囚流以下一等。㊄東京と京都。

【兩京新記】120 書名。一卷。唐、韋述撰。唐の長安・洛陽の東西兩京に就いて敍す。我が國に傳存し、平安朝本は前田家の尊經閣に藏せらる。〔四庫未收書目提要、一〕・〔粵雅堂叢書、百三十四冊〕。

【兩敬】121 大小名が格段の緣故があつて、相互の訪問・面會・通信等に同等の敬禮を用ひること。

【兩經】122 二つの經書。〔楊巨源、送二司徒童子一詩〕兩經在レ口知レ名小、百拜垂髫稟レ氣殊。〔宋史、選擧志一〕凡試優取二一禮兩經一、許下占二全額之半一而以二其半一及中他經上。

【兩闈】123 後宮の二宮。〔顏延之、和二謝監靈運一詩〕伊昔遘二多幸一、秉レ筆侍二兩闈一。

【兩鬢】124 頭髮を分けて兩側に結んだもの。〔世說新語、企羨〕王丞相拜二司空一、桓廷尉作二兩鬢一。〔唐書、南蠻、驃傳〕鬢垂二于後一、有レ夫者分二兩鬢一。〔蘇軾、寒菊詩〕輕肌弱骨散二幽葩一、眞是青裙兩鬢丫。〔馬祖常、絕句詩〕江南女兒年十五、兩鬢丫丫面粉光。

【兩教】125 二つの教。〔江淹、爲レ蕭重讓二揚州一表〕儒道二宗、名墨兩教。

【兩屐】126 二つの木履。〔方岳、秋熱詩〕老夫人失レ望、亦自愧二兩屐一。

【兩月】127 ㊀二つの月。〔漢書、成帝紀〕有二兩月一相承、晨見二東方一。〔南史、梁武帝紀〕太清二年春正月癸巳朔、兩月相承如レ鉤、見二於西方一。㊁二箇月。ふたつき。〔舊唐書、裴度傳〕自二兩月一已來、入レ閤開二延英一、稍稀。〔文天祥、曉起詩〕整レ冠人共笑、兩月不レ梳レ頭。㊂ハチ播磨國の地名。

【兩篋】128 二つのはこ。〔呂覽、樂成〕王書擧二兩篋一以進。〔宋史、歐陽守道傳〕惟書兩篋而已。

【兩頰】129 左右のほほ。〔南史、宋明帝紀〕若遇二赦黥及兩頰劫字一、斷二去兩腳筋一、徙付二交梁寧州一。〔高陽樂人歌〕何處醍觴來、兩頰色如レ火。

【兩見】130 二つながらあらはれる。〔莊子、則陽〕爲レ之同二其名一之名贏法、得二其兩見一。

【兩肩】131 二匹の肩。肩は三歲の獸。〔詩、齊風、還〕並驅從二兩肩一兮、揖レ我謂二我儇一兮。〔傳〕獸三歲曰レ肩。

【兩建】132 取引用語。同一人が同一物件・同一限の賣玉と買玉とを雙方に約定すること。

【兩翼（414）】133 ㊀二つの陣。甄は陣の名。雙甄。〔左氏、文、十、子朱及二文之無畏一爲二左司馬一注〕將レ獵、張二兩甄一、故置二二左司馬一。〔會箋〕注兩甄、亦曰二雙甄一、猶レ曰二兩翼一。㊁王莽の用ひた甄豐・甄邯の二人。〔漢書、辛慶忌傳〕是時莽方立二威柄一、用二甄豐・甄邯一以自助、豐邯新貴、威震二朝廷一、水衡都尉戎自見二名臣子孫兄弟並列一、不二甚詘一事二兩甄一。

【兩賢】134 二人の賢者。〔史記、季布傳〕短兵接、高祖急顧二丁公一曰、兩賢豈相厄哉。

【兩臉】135 兩方の臉。臉は目の下、頰の上。〔李洞、贈二龐鍊師一詩〕兩臉酒醺紅杏妒、半胸酥嫩白雲饒。〔程垓、浣溪沙詞〕羞紅兩臉上二嬌霞一。

【兩獻】136 前漢の河間獻王德と沛獻王輔。〔晉書、宣五王文六王傳論〕齊王以二兩獻之親一、弘二二南之化一。〔小學紺珠、氏族類、兩獻〕河間獻王德、沛獻王輔。

【兩權】137 ㊀兩天秤。〔史記、平原君傳〕虞卿操二其兩權一、事成、操二右券一、以責二事不レ成、以二虛名一德レ君。㊁兩方の頰骨。〔顏延之、赭白馬賦〕兩權協レ月。〔注〕善目、權、頰權也。

【兩驗】138 二度ためす。〔魏志、和洽傳〕然人情難レ保、要レ宜二考驗一、兩驗其實一。

【兩言】139 ふたこといふ。僅かな言論。又、二つのことば。二つの文字。〔史記、平原君傳〕從之利害、兩言而決耳。〔白虎通、諡〕質者以二兩言一爲レ諡。

【兩原】140 二つの水源。原は源。〔漢書、西域傳序〕其河有二兩原一、出二葱嶺山一、出二于闐一。

【兩舷】141 左右兩側のふなばた。〔韓愈、奉酬二盧給事雲天四兄曲江荷花行見レ寄詩〕撐二舟昆明一度二雲錦一、腳敲二兩舷一叫二吳歌一。

【兩虎】142 二匹の虎。兩虎相鬬を見よ。

【兩虎相鬬】143 ㊀二匹の虎が噬み合ふ。〔史記、張儀傳〕亦嘗有下以二夫卞莊子刺レ虎聞二於王一者上乎、莊子欲レ刺レ虎、館豎子止レ之曰、兩虎方且レ食レ牛、食甘必爭、爭則必鬬、鬬則大者傷、小者死、從レ傷而刺レ之、一擧必有二雙虎之名一。卞莊子以爲然、立須レ之、有レ頃、兩虎果鬬、大者傷、小者死、莊子從レ傷者一而刺レ之、一擧果有二雙虎之功一。㊁兩雄、又は兩強國が互に爭ふ喩。〔史記、廉頗藺相如傳〕今兩虎共鬬、其勢不二俱生一。〔史記、春申君傳〕兩虎相與鬬、而駑犬受二其弊一。

【兩虎爭レ人而鬬】144 一匹の虎が人を噬まんとして互に爭ひたたかふ。兩虎相鬬を見よ。〔戰國、秦策〕虎者戾蟲、人者甘餌、今兩虎爭レ人而鬬、小者必死、大者必傷、子待二傷虎一而刺レ之、則是一擧而兼二兩虎一。

【兩湖】145 ㊀二つの湖。〔太平寰宇記〕天目山有二兩湖一、若二左右目一、故名二天目一。㊁湖南・湖北の二省。㊂字號。㋑明、陳昌積（11－41698‥950）の號。㋺清、張永祚（4－9812‥808）の號。㋩清、楊士鑣（6－15112‥557）の號。

【兩湖山人】146 明、董穀（9－31433‥72）の號。

【兩湖書院】147 湖北省武昌縣に在る書院の名。清の光緒年間、張之洞が湖廣總督の時創建したもの。〔碑傳集補、張之洞〕比レ督レ楚、復創二兩湖書院一。

【兩箇】148 二つ。二個。兩個。〔杜甫、絕句詩〕兩箇黃鸝鳴二翠柳一、一行白鷺上二青天一。〔倦游雜錄〕螃蟹之一文、兩箇眞不レ虛。

【兩口】150 二つの口。〔韓非子、說林下〕蠱有二蚊虻一、一身兩口、爭相齕也、遂相食、因自殺。

【兩口子】151 liang² k'ou³ tzii 夫婦。〔紅樓夢、二十九回〕或是兩口子分爭。

【兩刻】152 liang³ k'e⁴ 三十分。

【兩國】153 フタクニ 二つの國。二箇國。〔國語、魯語上〕欲レ任二兩國一而無二大德一。

【兩渾】154 liang³ huen² 祕密通信の匿名にこの語を用ひる。兩知（295）を見よ。

【兩妻】155 二人の妻。〔西陽雜俎續集、支諾皐上〕南人相傳、秦漢前有二洞主吳氏一、土人呼爲二吳洞一、娶二兩妻一、一妻卒有レ女、名二葉限一、少惠、善陶レ金。

【兩犀】156 上下の齒。〔梁武帝、子夜歌〕巧笑倩二兩犀一、美目揚二雙蛾一。

【兩劑】157 原告と被告とから一定の日時に提出させる證據書類。〔周禮、秋官、大司寇〕以

兩劑 禁ニ民獄一。〔注〕劑、今券書也、使ニ獄者各齎ニ券書一、既兩券書、使レ入ニ鈞金一、又三日乃治レ之。

【兩曹】158 liǎng cáo　原告と被告。兩造（161）に同じ。〔說文〕曹、獄兩曹也。〔段注〕今俗所謂原告被告也。

【兩遭】159 liǎng zāo　原告と被告。兩造（161）に同じ。〔書、呂刑〕兩造具備。〔孫星衍注〕造、一作レ遭。

【兩竈】160 liǎng zào　二個の竈。〔後漢書、虞詡傳〕日夜進レ道、兼行百餘里、令ニ吏士各作ニ兩竈一、日增ニ倍之一、羌不ニ敢逼一。

【兩造】161 liǎng zào　❶原告と被告。造は至で、法廷に至る義。一說に、造は曹で、役所の控所。兩曹。兩遭。〔周禮、秋官、大司寇〕以ニ兩造一、禁ニ民訟一、入ニ束矢于朝一、然後聽レ之。〔注〕造、至也、使ニ訟者兩至一、既兩至、使レ入ニ束矢一、乃治レ之也、不レ至不レ入ニ束矢一、則是自服ニ不直一者也、必入ニ矢者一、取ニ其直一也。〔六部成語、刑部、兩造、注解〕原被告、兩邊之人也。❷双方。兩方面。

【兩造具備】162 liǎng zào jù bèi　訴訟の原告・被告が法廷に出揃い準備が整ふこと。兩造を見よ。〔書、呂刑〕兩造具備、師聽ニ五辭一。〔傳〕兩、謂ニ囚證一、造、至也、兩至具備、則衆獄官、共聽レ其ニ五刑一之辭。〔疏〕兩至具備、謂ニ囚證具足一。

【兩三】163 liǎng sān　二つ三つ。又、二三人。二三。〔張華、相逢行〕兄弟兩三人、冠珮紛陸離。〔宋書、律曆志上序〕魏晉以來、遷徙百計、一郡分爲ニ四五、一縣割成ニ兩三一。〔庾信、蒙賜酒一詩〕仙人一遇飲、分得兩三杯。〔杜甫、江畔獨步尋レ花七絶句〕江深竹靜兩三家、多事紅花映ニ白花一。

【兩三行】164 liǎng sān háng　❶ふたすぢ三すぢ。涙のこぼれる形容。〔賈島、夏日寄ニ高洗馬一詩〕三十年來長在レ客、兩三行淚忽然垂。❷三三列。行列を數へるに用ひる。〔薩都剌、秋詞〕清夜宮車出ニ建章一、紫衣小隊兩三行。

【兩三四】165 liǎng sān sì　三四度。

【兩三次】166 liǎng sān tì(cì)　二三度。

【兩三天】167 liǎng sān tiān　二三日。

【兩三轉】168 liǎng sān zhuàn　二返も三返も。

【兩三輩子】169 liǎng sān pèi zi　二三代。

【兩杉】170 liǎng shān　足利時代の山内と扇ケ谷との兩上杉氏。

【兩參】171 liǎng sān　月の朔と望とに二度朝參すること。〔文昌雜錄〕寺監丞大理評事以上爲ニ兩參官一。

【兩驂】172 liǎng sān　車につけた四頭の馬のうち左右兩端の二頭。兩驂如レ舞を見よ。〔詩、鄭風、大叔于田〕兩服上襄、兩驂雁行。〔荀子、哀公〕兩驂列、兩服入レ廢。

【兩驂如レ舞】173 liǎng sān rú wǔ　駕御の術の巧なさま。驂は副馬。〔詩、鄭風、大叔于田〕執轡如レ組、兩驂如レ舞。〔集傳〕車衡外兩馬曰レ驂、如レ舞、謂ニ諧和中レ節、皆言ニ御之善一也。

【兩山】174 liǎng shān　❶二つの山。二座の山。〔齋藤拙堂、梅溪游記〕兩山之花、倒ニ蘸其上一、隱約可レ見。

❶元、李思衍（6－14459‥1311）の號。〔8〕の號。

【兩山居士】175 liǎng shān jū shì　明、毛良（6－16772‥23）の號。

【兩山排闥送青來】176 liǎng shān pái tà sòng qīng lái　兩方の青山が青い色を門戸に送つて來る。二山の青色が居宅に迫つて見えるさま。〔王安石、書ニ湖陰先生壁一詩〕茆簷長掃靜無レ苔、花木成レ畦手自栽、一水護レ田將レ綠遶、兩山排レ闥送レ青來。

【兩算】177 liǎng suàn　一定の範圍以上の相場の變動の有無を豫め當て合ふこと。一種の賭博。

【兩司】178 liǎng sī　❶元代の左右の司。〔元史、百官志〕至元中、定ニ左右司一爲ニ兩司一。❷清代の布政司と按察司。兩司奏事を見よ。

【兩司馬】179 liǎng sī mǎ　二十五人の長。兩は輛で、二十五人で車一輛となるからいふ。〔周禮、夏官、序官兩司馬〕二十有五人爲レ兩、兩司馬皆中士。

【兩司奏事】180 liǎng sī zòu shì　清代、按察司と布政司とが、重大事件に際して連署して總督巡撫を奏劾すること。〔六部成語、訂正、兩司奏事、注解〕外省按察司布政司、平時雖レ祇能ニ具摺謝恩一、不レ能ニ專奏一他事、然兩司會銜、亦可ニ奏ニ劾督撫一。

【兩涘】181 liǎng sì　雙方の水ぎは。〔莊子、秋水〕兩涘渚涯之間、不レ辨ニ牛馬一。

【兩視】182 liǎng shì　二物を同時に見る。〔荀子、勸學〕目不レ能ニ兩視一而明、耳不レ能ニ兩聽一而聰。

【兩齒】183 liǎng chǐ　二本の齒。〔晉書、謝鯤傳〕鄰家高氏女有ニ美色一、鯤嘗挑レ之、女投レ梭折ニ其兩齒一、時人爲レ之語曰、任達不レ已、幼輿折レ齒。

【兩次】184 liǎng cì　二度。兩度。

【兩耳】185 liǎng ěr　二つの耳。左右兩方の耳。〔戰國、趙策〕舍人曰、君卽不レ能、願君堅塞ニ兩耳一、無レ聽ニ其談一也。〔史記、倉公傳、注〕正義曰、六葉兩耳。〔賈誼、弔ニ屈原一賦〕驥垂ニ兩耳一兮服ニ鹽車一。

【兩兒】186 liǎng ér　二人のこども。二人の小兒。〔尾藤二洲、習說〕兩兒相嬉、在ニ于閭巷之中一、跨レ竹而走、驅レ犬而鬬。

【兩兒孝順】187 liǎng ér xiào shùn　二人の子がよく父母に仕へ志に順ふ。突厥の主が強盛になつた時、周齊兩國が爭つて婚姻を結んだので、兩國を指して傲語した言。〔北史、突厥傳〕他鉢彌復驕傲、乃令ニ其徒屬一曰、但使ニ我在南兩箇兒孝順一、何憂レ無ニ物邪一。

【兩兒八錢的銀子】188 liǎng ér bā qián de yín zi　一兩か二兩たらずのはした金。

【兩辭】189 liǎng cí　雙方の言分。原告と被告との言。〔書、呂刑〕民之亂、罔レ不レ中レ聽ニ獄之兩辭一。

【兩周】190 liǎng zhōu　❶東周と西周。平王の東遷以後は豐鎬（宗周）を西周とし、東都（成周）を東周とし、威烈王以後は成周の王城であつた河南を西周とし、成周の下都であつた洛陽を東周とした。二周（1－247‥434）を見よ。〔晉書、束晳傳〕晳上ニ議云、兩周爭ニ東西之流一、史起惜ニ漳渠之侵一、明ニ地理之重一也。〔小學紺珠、地理類、兩周〕平王東遷之後、西周豐鎬也、東周東都也、威烈王之後、西周河南也、東周洛陽也。❷ふためぐりする。歲月等が二度たつこと。〔韓愈、別知賦〕余取ニ友於天下一、將ニ歲行之兩周一。

【兩周金文辭大系】191 liǎng zhōu jīn wén cí dà xì　書名。一冊。民國、郭沫若撰。周代金文辭の歷史系統と地方分類とを求めることを目的として編纂せられたもの。收錄する所の銘辭は、上編、宗周文一百二十七器、尚書の體例に仿ひ、列王を以て次第を爲す。下編、列國文一百十四器、國風の體例に仿ひ、國別を以て次第を爲す。原器拓本の未だ著錄を經ぬもの、又は收錄した原書の容易に見難いもの十三種は圖版として卷首に插入し、別に詳細な出處索引を附す。圖錄五本・攷釋二卷がある。

【兩失】192 liǎng shī　二つとも失ふ。又、兩方とも閒違つてゐる。〔左氏、哀、十六〕生不レ能レ用、死而誄ニ之一、非レ禮也、稱ニ二人一、非レ禮也、君兩ニ失之一。〔史記、禮書〕一ニ之於性情一、則兩失之矣。〔唐書、令狐德棻傳〕王任ニ德一、霸任レ刑、云云、至レ漢雜ニ用之一、魏晉以降、王霸兩失。

【兩日】193 liǎng rì　❶二つの太陽。二日。〔南史、陳文帝紀〕梁太清初、帝夢ニ兩日鬬一、一大一小、大者光滅、墜ニ地色正黃、其大如レ斗、帝三分取レ一懷レ之。〔太平御覽、皇王部、帝桀〕帝王世紀曰、兩日鬬蝕、鬼呼ニ於國一。❷ふつか。〔羅隱、出試後投レ所レ知詩〕此日蓬壺兩日程、當時消息甚分明。

【兩日酒】194 liǎng rì jiǔ　結婚の第二日に、妻の里方から新郎の家に伺候して酒宴を開くこと。此の日の食事を吃天飯といふ。

【兩日並照】195 liǎng rì bìng zhào　二つの日が並び照す。二人の王者が君臨するに喩へる。〔通志、三王紀上〕帝桀、夏自ニ孔甲一以來、諸侯多畔、桀復不道、云云、大費之裔曰ニ費昌一、見ニ二日出、東焰西沈、問ニ於馮夷一、夷曰、西夏東商、費昌乃歸レ湯。〔精註雅俗故事讀本、天文〕兩日竝照。〔注〕夏桀無道、兩日並照、一在ニ東者將レ起、一在ニ西者將レ成。

【兩車】196 liǎng chē　二つの車。〔陸游、滄灘詩〕須臾人散寂無レ譁、惟聞百丈轉ニ兩車一。

【兩社】197 liǎng shè　周社と亳社。兩社之閒を見よ。〔小學紺珠、制度類、兩社〕周社、亳社。

【兩社之閒】198 liǎng shè zhī jiān　周社と亳社との閒。兩社の閒は執政大臣の居る所。〔左氏、閔、二〕閒ニ于兩社一、爲ニ公室輔一。〔注〕兩社、周社・亳社也、兩社之閒、朝廷執政所ニ在也。〔說苑、至公〕吾欲ニ至之俠一於兩社之閒一也。

【兩相】199 liǎng xiāng　門下・中書の二省。〔王建、賀ニ楊巨源博士拜ニ虞部員外一詩〕兩省郎官開ニ道路一、九州山澤屬ニ曹司一。〔小學紺珠、職官類、兩省〕門下・中書。

【兩廂】200 liǎng xiāng　堂の東西のわたどの。東西の廊下。兩廈（40）。〔儀禮、鄉射禮、縣于ニ洗東北一、西面、疏〕諸侯之卿大夫判縣者、分ニ一肆於兩廂一、東縣磬、西縣レ鐘。〔白居易、渭村退居詩〕仙枚環ニ

雙闕、神兵闢兩廂。

【兩傷】202 雙方とも傷つく。〔陸機、文賦〕離之則雙美、合之則兩傷。

【兩情】203 兩人の友情。二人のなか。〔紀平洲、過飮寇峯老人松水隱居詩〕唯有松江千尺水、卽今堪比兩情深。

【兩借】204 說文學上、省聲の變例。一字を組立ててゐる二つの文字が、文字の一部を雙方から借り用ひること。例へば、彖の字は彑と豕との合字であるが、中央の一を上に屬して見れば彑となり、下に屬して見れば豕となるから、この一は彑と豕と雙方に借用されてゐる。〔說文釋例〕兩借、彖從彑豕省、一字上下兩借。

【兩爵】205 二つの爵位。〔白虎通、爵〕百里兩爵、公侯共之。

【兩手】206 りやうて。雙方の手。〔詩、唐風、椒聊〕蕃衍盈匊。〔傳〕兩手曰匊。〔禮、曲禮上〕長者與之提攜、則兩手奉長者之手。

【兩手換】207 liang² shou³ huan⁴ 品物と代金と引換へにする。

【兩手鑢】208 兩端に持つところのある鑢。〔和漢三才圖會、百工具〕鑢、兩手鑢。

【兩手擧槍】209 liang² shou² chü³ ch'iang¹ 捧げ銃。軍隊で執銃の時に行ふ敬禮。

【握兩手汗】210 兩手に汗をにぎる。はらはらするさまにいふ。握兩把汗(342)に同じ。〔元史、趙壁傳〕憲宗卽位、召壁問曰、天下何如而治、對曰、請先誅近侍之尤不善者、憲宗不悅、壁退、世祖曰、秀才汝渾身是膽耶、吾亦爲汝握兩手汗也。

【兩主】211 二人の君。二君。〔漢書、匈奴傳上〕陛下獨立、孤僨獨居、兩主不樂、無以自虞。

【兩首】212 二つのかしら。兩頭。〔韓愈、赴江陵途中寄贈王二十補闕・李十一拾遺・李二十六員外翰林三學士詩〕有蛇類兩首、有蠱羣飛游。

【兩戍】213 二個所の衞戍。〔宋史、鄭文寶傳〕文寶言、威州在淸遠軍西北八十里、樂山之西、約葫蘆臨洮二河、壓明沙蕭關兩戍、東控五原、北固峽口。

【兩宗】214 禪宗の二つの宗派。〔傳燈錄〕河澤神會禪師、乃入京、天寶四年、方訂兩宗、（南能頓宗、北秀漸宗）、乃著顯宗記、盛行于世。

【兩塾】215 巷門の左右兩傍にある建物で、庶民が學問する所。〔小學紺珠、制度類、兩塾〕門側之堂、謂之塾、古者二十五家爲閭、同共一巷、巷首有門、門邊有塾、里中之老、有道德者、爲左右師、坐於兩塾、民在家之時、朝夕出入、受教於塾。〔蘇軾、游城東學舍作詩〕攝衣造兩塾、窺戶無一人。

【兩春】216 二度の春。二年。〔嚴維、餘姚祇役詩〕萬事無成新白首、兩春虛擲對滄流。〔白居易、羅子詩〕有女名羅子、生來纔兩春。

【兩春夾一冬無被暖烘烘】217 十二月中に立春となる歲は冬暖いことをいふ。〔通俗編、時序、兩春夾一冬、無被暖烘烘〕談薈、載立春在殘年占云云。

【兩儁】218 二人の俊才。〔北史、何妟傳〕初以伎巧事湘東王、時蘭陵蕭愼亦有儁才、住靑楊巷、妟住白楊頭、時人爲之語曰、世有兩儁、白楊何妟、靑楊蕭愼、其見美如此。

【兩所】219 ㊀二つの場所。二個所。㊁兩人の敬稱。お二人。㊂兩執權の稱。〔沙汰未練書〕執權者、政務御代官也、又兩所とも申す。

【兩勝】220 敵と味方と雙方とも勝つ。〔六韜、龍韜、論將〕兵不兩勝、亦不兩敗。

【兩稱】221 二つながらほまれが高いこと。〔國史略、文德天皇〕近江介和氣仲世卒、淸麻呂第六子、忠孝兩稱。

【兩椿】222 二つの。椿は物を數へるに添へる語。〔桃花扇、截磯〕完了兩椿大事。

【兩鍾】223 ㊀二杯。鍾は壺狀のさかづき。兩盅。〔蘇軾、薄薄酒詩〕薄薄酒飮兩鍾、麤麤布著兩重。㊁十二斛八斗をいふ。鍾は枡目の名で、六斛四斗。鍾(**11－40672**)の字解を見よ。〔范成大、秋日田園雜興詩〕不惜兩鍾輸一斛、尙贏糠覈飽兒郎。㊂ liang³ chung¹ 二時。

【兩蜀】224 蜀の地は二つに分れて居るからいふ。〔宋史、食貨志〕天聖中、詔減兩蜀歲輸錦綺・鹿胎・透背・欹正之半、罷作綾花紗。

【兩心】225 ㊀二つの心。二樣の心持。〔司馬法、嚴位〕人有勝心、惟敵之視、人有畏心、惟畏之視、兩心交定、兩利若一。㊁ふたごころ。二心。不純な心。〔荀子、解蔽〕天下無二道、聖人無兩心。〔漢書、王嘉傳〕操持兩心。〔淮南子、繆稱訓〕兩心不可以得一人。〔易林〕一夫兩心、拔刺不深。㊂兩人の心。〔傅玄、短歌行〕昔君與我、兩心相結。〔白居易、長恨歌〕臨別殷勤重寄詞、詞中有誓兩心知。

【兩晉】226 西晉と東晉。〔陳書、沈不害傳〕古者王世子之貴、猶與國子齒、降及漢、茲禮不墜、曁乎兩晉、斯事彌隆。

【兩親】227 ふたおや。父母。〔楊萬里、龔令國英約小集云云詩〕兩親問消息、敢道不平安。

【兩刃】228 もろは。〔元稹、諭寶詩〕鏌鋣無人淬、兩刃幽壞鐵。

【兩刃矛】229 もろはのほこ。〔資治通鑑、晉紀〕（穆帝、永和六年）閔操兩刃矛、馳騎擊之。〔注〕兩刃矛者、鋏之兩旁、皆利其刃。

【兩稔】230 二年。兩年。

【兩帥】231 二人の將。〔日本外史、德川氏正記、德川氏〕兩帥皆天授。

【兩穗】232 麥などの穗の二つ合成すること。又、其の穗。瑞兆とする。詩經、周頌、豐年篇の、豐年多黍多稌から出た語。〔王融、永明十一年策秀才文〕多黍多稌、不興兩穗之謠。〔注〕善曰、毛詩曰、豐年多黍多稌。

【兩制】233 宋代の內制・外制の二官。內制は翰林學士で制誥の文を掌り、外制は中書舍人知制誥で軍政を掌る。〔通雅、官制〕兩制者、翰林學士爲內制、中書舍人爲外制。〔宋史、竇儼傳〕兄弟同日拜命、分居兩制、時人榮之。〔小學紺珠、職官類、兩制〕翰林學士・中書舍人。〔稱謂錄、內閣各官古稱、兩制〕周必大、玉堂雜記、北門掌內制、西掖掌外制、是謂兩制。

【兩性】234 ㊀雄性と雌性。男性と女性。㊁二つの異なつた性質。

【兩性花】235 植物學用語。一花中に雄蕊雌蕊を兼具するもの。兩全花。

【兩政】236 政をふたつにする。臣下が君の政令を擅にする。〔左氏、桓、十八〕辛伯諫曰、並后、匹嫡、兩政、耦國、亂之本也。

【兩星】237 二つの星。〔史記、天官書〕杓端有兩星、一內爲矛招搖、一外爲盾天鋒。

【兩淸】238 liang³ ch'ing¹ 勘定が雙方共に濟む。

【兩壻】239 あひむこ。婭壻。〔爾雅、釋親〕兩壻相謂爲亞。〔詩、小雅、節南山、瑣瑣姻亞、傳〕兩壻相謂曰亞。

【兩盛】240 兩つながら盛なこと。〔白虎通、五行〕陽道不相離、故爲兩盛。

【兩稅】241 唐の德宗の時、楊炎の建策によつて始められた稅法。從來の租・庸・調の制を廢し、人民の財產の等級に應じて課稅し、夏・秋の二期に徵收した。〔唐書、德宗紀〕初定兩稅。〔事物紀原、利源調度部、兩稅〕唐食貨志曰、自開元已後、租庸調法弊、代宗時、始以畝定稅、至德宗相楊炎、遂作兩稅法、夏輸無過六月、秋無過十一月、是兩稅之始、肇於開元天寶兵興之後也、按、春秋宣公十五年秋、初稅畝、公羊傳云、稅畝者何、履畝而稅也、則今之稅、以畝計、此其初也、其事雖出於唐代宗、亦緣春秋稅畝之事爾、其輸以夏秋、乃自德宗始也。

【兩稅使】242 官名。唐の建中の初、置く。諸道の兩稅等の錢物を總管することを掌る。〔文獻通考、田賦考、歷代田賦之制〕唐德宗時、楊炎爲相、遂作兩稅法、夏輸無過六月、秋輸無過十一月、置兩稅使以總之。

【兩稅法】243 唐代の稅法。兩稅を見よ。

【兩石】244 二つの石。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕有土戴石者、石挾土者、全石者、全石破裂成洞穴者、兩石相鬬、其一欲仆者、石數層、累成夏雲狀者。

【兩浙】245 ㊀浙東と浙西。錢塘江以南を浙東といひ、以北を浙西といふ。〔五代史、安重誨傳〕錢鏐據有兩浙。㊁路名。宋、置く。江蘇省丹徒縣以東、江以南及び浙江省の全境。治は杭州。今の浙江省杭縣治。熙寧中、分けて東西兩路とし、浙西路は杭州に治を置き、浙東路は越州

に治を置く。今、浙江省紹興縣治。後、復、合して一路とす。〔讀史方輿紀要、歷代州域形勢、宋〕熙寧以後、外患漸弭、紹更內啓、定二天下一爲二十三路一云云、熙寧七年、分二兩浙一爲二東西路一、西路治二杭州一、東路治二越州一、尋合爲一、九年復分、十年復合。

【兩浙輶軒錄】246 リヤウセツイウンロク 書名。四十卷。清、阮元撰。兩浙地方の詩家の傳記閨略等を記し、併せて詩數百種を選んで載錄す。清の潘衍桐、續錄五十四卷・補六卷を撰す。

【兩截】247 リヤウセツ ふた切れ。二片。〔方回、聽琴詩〕急如二快劍斫一蛇分二兩截一、琉璃瓶碎玉簪折。

【兩截冊】248 リヤウセツサツ 上と下と兩段に書く帳簿。〔福惠全書、錢穀部、解給〕立二解支兩截冊一。

【兩截穿衣】249 liang³ chieh² ch'uan¹ i¹ ❶漢人の婦女の着る衣服。上衣と裙子から成る衣服。❷漢人の婦女。

【兩說】250 リヤウセツ 二つの說。〔鮑照、擬古詩〕兩說窮二舌端一、五車摧二筆鋒一。

【兩舌】251 リヤウゼツ 二枚の舌。前言をひるがへすことにいふ。二舌。食言。〔易林、巽之第五十七、訟〕一簧兩舌、妄言諂語。〔無量壽經〕兩舌惡口、妄言綺語。〔四十二章經〕口四者、兩舌・惡口・妄言・綺語。〔大灌頂神呪經〕妄言綺語兩舌。

【兩絕】252 リヤウゼツ 二つながら絕つ。〔禰衡、鸚鵡賦〕何今日之兩絕、若二胡越之異一區。

【兩川】253 リヤウセン 東川と西川。今の四川省をいふ。〔唐書、昭宗紀〕韋昭度、罷爲二劍南西川節度使一、兼二兩川招撫制置使一。〔白居易、同二夢得一寄二二楊尚書一詩〕兩川風景同二三月一、千里江山屬二二家一。

【兩全】254 リヤウゼン 兩方共完全である。雙方共に無事である。兩方共完全に果す。〔韓詩外傳、十〕行不二兩全一。〔魏志、和洽傳〕所二以不一レ考レ欲二兩全一。

【兩全花】255 リヤウゼンクワ 一花の中に雄蕊雌蕊を兼具する花。兩性花(2350)に同じ。

【兩楚】256 リヤウソ 楚の地。楚は二つに分れてゐるからいふ。〔陳基、遊二狼山寺一詩〕淮海北來吞二兩楚一、江湖南去控二三吳一。

【兩蘇】257 リヤウソ 宋の蘇軾と蘇轍との兄弟。〔宋史、巢谷傳〕紹聖初、蘇軾・蘇轍謫二嶺海一、平生親舊、無二復相聞者一、谷獨慨然、自二眉山一誦言、欲二徒步訪一二兩蘇一、聞者皆笑二其狂一。

【兩走】258 リヤウソウ 兩者共に走る。〔墨子、備穴〕塞二穴門一、以二車兩走一爲レ葛。

【兩足】259 リヤウソク 二本の足。左右の足。〔晉書、武帝紀〕〔太康六年冬十月〕南陽郡獲二兩足獸一、〔陸機、與二弟雲一書〕監徒武庫建始殿諸房中、見レ有二兩足猿一、眞怪物也。

【兩足尊】260 リヤウソクソン 佛の尊號。〔法華經〕無上兩足尊、顧說第一法。

【兩側】261 リヤウソク 兩方のがは。りやうがは。片側(7－19813‥72)の對。

【兩屬】262 リヤウゾク 兩方につく。〔何休、春秋公羊傳序〕至レ有二倍レ經任レ意反レ傳違戾者一、疏〕分二張一公一、而使二兩屬一。〔晉書、祖逖傳〕黃河以南、盡爲二晉土一、河上堡固、先有二任子在一胡者一、皆聽二兩屬一。

【兩存】263 リヤウソン ❶雙方ともある。兩方とも全いこと。兩立。〔吳志、諸葛恪傳〕將士厭二困苦一、豈甘二鋒刃一而忘二安寧一哉、慮二其長久一、不レ得二兩存一者耳。❷兩方共存して置く。兩方共其の儘にして置く。〔顏氏家訓、文章〕今之辭調爲レ末、並須二兩存一、不レ可二偏棄一也。

【兩損】264 リヤウソン 彼我共に損する。兩方とも損失する。〔魏志、程昱傳〕袁紹擁二十萬衆一、自以所レ向無レ前、今見二昱兵少一、必輕易不レ來攻一、若益二昱兵一、過則不レ可レ不レ攻、攻之必克、徒兩損二其勢一。〔太平廣記〕不レ免二兩損一。

【兩垞】265 リヤウダ 清、葉維庚(9－31387‥152)の號。

【兩墮】266 リヤウダ 勝手氣儘な行。ふたこころを持つて思ふままに振舞ふこと。〔後漢書、單超傳〕徐臥虎、唐兩墮。〔注〕兩墮、謂二隨レ意所レ爲不レ定也、今人謂下持二兩端一而任中意爲二兩墮一。

【兩敦】267 リヤウタイ 二つの敦。敦は黍稷を盛る器。敦(5－13276)の字解を見よ。〔儀禮、特牲饋食禮〕兩敦在二西堂一。〔禮、明堂位〕有虞氏之兩敦。〔注〕皆黍稷器、制之異同未レ聞。

【兩替】268 リヤウガヘ 一種の貨幣を、同じ價格の他の貨幣と交換すること。兩換。兌換。兌銀。〔諸藝太平記、六〕兩替をしながら銀を見知らぬ。

【兩替屋】269 リヤウガヘヤ 切賃(兩替の手數料)を取つて兩替を業とする者。兌銀舖。錢莊。〔人倫訓蒙圖彙、四〕兩替屋、金と錢の相場によつて利德を考へ、兩替の分によつて渡世す。

【兩替役金】270 リヤウガヘヤクキン 江戸時代、兩替屋に對して賦課した金。〔本兩替仲間要用差出控〕兩替役金之義、先達て二萬五千兩可二相納一候旨被二仰渡一候處。

【兩大】271 リヤウダイ 二つながら大きい。又、二つの大きなもの。天地。〔左氏、莊、二十二〕物莫二能兩大一。〔史記、陳杞世家〕物莫二能兩大一。〔孔子家語、本姓解〕夫物莫二能兩大一。〔杜甫、草堂詩〕其勢不二兩大一、始聞蕃漢殊。

【兩臺】272 リヤウダイ 唐の武后の時、肅政臺の左右の二臺をいふ。左臺は百司をすべ軍旅を監し、右臺は州縣を察し風俗を省みることを掌る。〔小學紺珠、職官類、兩臺〕左臺知二百司一、監二軍旅一、右臺察二州縣一、省二風俗一、武后改二御史臺一、曰二肅政臺一、分二左右一。

【兩刀】273 リヤウタウ 二本の刀。刀と脇差。〔李頎、崔五六圖屏風各賦一物得二烏孫佩刀一詩〕烏孫腰間佩二兩刀一、刃可レ吹レ毛錦爲レ帶。

【兩刀遣】274 リヤウタウケン ❶二刀をつかふ劍客。❷俗に、酒と菓子の兩方を甚だしく好む者をいふ。酒の好きな者には甘い物を好まない者が多いので斯くいふ。

【兩刀論法】278 リヤウタウロンパフ 論理學用語。假言命題と選言命題とを使用した三段論法。

【兩到】279 リヤウダウ 梁の到溉と到洽との兄弟。〔梁元帝、贈二到溉洽一詩〕何如今兩到、復似二凌寒竹一。〔小學紺珠、氏族類、兩到〕到溉・洽兄弟、比二二陸一。

【兩唐】280 リヤウダウ 漢の唐林と唐尊。〔小學紺珠、氏族類、兩唐〕唐林子高・尊伯高。

【兩當】281 リヤウダウ ❶兩つながらあたる。〔宋史、選擧志四〕兩當二其實一。❷兩袖がなく、胸と背とに當てて著るもの。うちかけ。褊襠(10－34356‥1)半臂(2－2707‥241)に同じ。兩襠。〔釋名、釋衣服〕褊襠、其一當レ胸、其一當レ背也。〔疏證補〕褊襠、字古作二兩當一。〔南史、柳元景傳〕安都怒甚、乃脫二兜鍪一、解二所レ帶鎧一、唯著二絳納兩當衫一、馬亦去二具裝一、馳入二賊陣一、所レ向無レ敵。〔宋起居注〕憂未レ除、常著二青絳納兩當衫一。❸川の名。〔水經、漾水注〕兩當水、出二陳倉縣之大散嶺西南一。❹縣名。後魏、置く。漢の故道縣の地。故城は今の甘肅省兩當縣の東。〔元和志〕因二縣界兩當水一爲レ名、或云、縣西界有二兩山相當一、因名。〔方輿勝覽〕縣有二兩當驛一、東抵二汴京一、西抵二益州一、皆二十六程、故曰二兩當一。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、徽州〕兩當縣、州東八十里、漢武都郡故道縣地、云云、後魏置二兩當郡及縣一、隋初、郡廢、以縣屬二鳳州一。〔清史稿、地理志〕甘肅、秦州直隸州、縣五、兩當。

【兩當軒】282 リヤウダウケン 清、黃景仁(12－47926‥1063)の室名。

【兩當軒集】283 リヤウダウケンシフ 書名。二十卷、攷異二卷、附六卷。清、黃景仁撰。清史稿、藝文志に著錄せらる。

【兩當二意】284 liang³ tang¹ erh⁴ i⁴ 錯誤。

【兩襠】285 リヤウダウ 褂カケの一種。古、大儀の時に、武官の褂に用ひた服で、兩袖がなく、胸と背とにあてて着用するもの。兩當(281)の❷に同じ。〔南史、沈攸之傳〕攸之有二素書十數行一、常韜在二兩襠角一、云、是宋明帝與レ己約誓。〔北史、陽休之傳〕文宣郊天、百僚咸從、休之衣二兩襠甲一、手持二白棓一。

【兩道】287 リヤウダウ ❶二つの道。二道。〔書、洪範、日月之行、疏〕有二月行之道一、與二日道一相近、交レ路而過、半在二日道之裏一、半在二日道之表一、其當レ交則兩道相合、交去二極遠處一、兩道相去六度。〔漢書、趙充國傳〕欲下輕引二萬騎一、分爲二兩道一、出中張掖上。〔宋史、韓世忠傳〕世忠分二海舟一爲二兩道一。❷二すぢ。〔北史、百濟國傳〕婦人不レ加二粉黛一、女辮髮垂レ後、已出嫁、則分爲二兩道一、盤二於頭上一。

【兩袒】288 リヤウタン 兩肩をぬぐ。兩事を兼ね行ひ、或は合せ得るにいふ。〔太平御覽、人事、醜丈夫〕風俗通曰、齊有二一女一、二家求レ之、其家語二其女一曰、汝欲二東家一、則左袒、欲二西家一、則右袒、其女兩袒、父母問二其故一、對曰、願東家食、而西家息、以

東家富而醜、西家貧而美一也。〔事文類聚〕其女兩祖曰、願東家食、西家宿。

【兩端】289 リヤウタン ❶相反する二つの極端。過・不及、大・小、厚・薄の類。〔中庸〕執二其兩端一用二其中於民一。〔章句〕兩端、謂二衆論不レ同之極致一、蓋凡物皆有二兩端一、如二小大厚薄之類一、於二善之中一、又執二其兩端一、而量度以取レ中、然後用レ之、則其擇レ之審、而行レ之至矣。〔荀子、正論〕是有二兩端一矣。❷終始。本末。首尾。叩二兩端一を見よ。❸何れにもつかぬ曖昧な態度。ふたごころ。持二兩端一を見よ。❹布一匹をいふ。古は布帛四丈を一匹とし、兩邊から之を卷いたので、兩端といふ。〔禮書通故〕。

〔叩二兩端一〕290 リヤウタンヲタタク 事の始終本末を究め盡す。〔論語、子罕〕有二鄙夫一、問二於我一、空空如也、我叩二其兩端一而竭焉。〔集注〕兩端、猶レ言二兩頭一、言二終始本末、上下精粗、無レ所レ不レ盡。

〔持二兩端一〕291 リヤウタンヲヂス 二つの中、何れとも決心がつかない。ふた心を持つ。〔史記、鄭世家〕晉聞二楚之伐一レ鄭、發レ兵救レ鄭、其來持二兩端一、故遲。〔史記、信陵君傳〕實持二兩端一以觀望。〔漢書、蕭望之傳〕爲孫持二兩端一。〔新語、懷慮〕持二兩端一者、不レ可二以定一レ威。

【兩段】291′ リヤウダン ❶ふたたび。二度。兩度。〔太神宮式〕奉レ拜二太神宮一、拍子兩段。❷二段。二つの段階。ふたきだ。

〔兩段再拜〕292 リヤウダンサイハイ 神拜の一法。兩拜を重ねて拜禮するをいふ。〔儀式、一、春日祭儀〕內藏頭執レ幣、入置二瑞籬前上棚一、兩段再拜退出。

【兩斷】293 リヤウダン 物を二つにたつこと。

【兩地】294 リヤウチ 二箇所の土地。〔何遜、與二胡興安一夜別詩〕念此一筵笑、分爲二兩地愁一。

【兩知】295 liang³ chih¹ 祕密の書面などで、雙方の名を現はさぬとき書くことば。兩隱。兩宥。兩渾。

【兩致】296 リヤウチ 二つながら致す。又、二つの意旨。二つの事柄。〔魏書、高祐傳〕左氏屬詞比事、兩致並書、可レ謂レ存二史意一、而非レ全二史禮一。

【兩肘】297 リヤウチウ 左右のひぢ。〔杜甫、述懷詩〕麻鞋見二天子一、衣袖露二兩肘一。

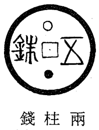
【兩竹】298 リヤウチク 二本の竹。〔趙抃、雙竹詩〕天然一派根、一根生二兩竹一。

【兩軸】299 リヤウヂク 二つの車軸。〔墨子、備高臨〕兩軸四輪、輪居二筐中一。

【兩長】300 リヤウチヤウ 雙方の長所。〔北史、文苑傳序〕各去レ所レ短、合二其兩長一、則文質彬彬、盡レ美盡レ善矣。

【兩中】301 リヤウチユウ ❶兩端の中をいふ。〔南史、鄭鮮之傳〕折二其兩中一、則異同之情可レ見。❷兩方共に中等であること。〔宋史、選擧志三〕一上一中或兩中及一上一下爲二中等一。

【兩柱】302 リヤウチユウ 梁末に行はれた錢の名。〔隋書、食貨志〕梁末有二兩柱錢及鵝眼錢一、於二時人一雜用、其價同、但兩柱重而鵝眼輕。



兩柱錢（三才圖會）

【兩盅】303 liang³ chung¹ 二杯。兩鍾。

【兩陳】304 リヤウチン 兩方の陣。我が軍と敵軍。〔六韜、龍韜、奇兵〕兩陳之閒、出レ甲陳レ兵、縱レ卒亂レ行者、所二以爲一レ變也。〔漢書、鼂錯傳〕兩陳相近。

【兩抵】305 liang² ti³ 雙方差引きする。又、兩方の差。

【兩帝】306 リヤウテイ 二人の天子。〔戰國、齊策〕蘇子謂二齊王一曰、齊秦立爲二兩帝一、王以二天下一、爲レ尊レ秦乎、且尊レ齊乎、王曰、尊レ秦。〔左思、魏都賦〕亮曰、日不二雙麗一、無二兩帝一。

【兩程】307 リヤウテイ ❶二日分の道のり。〔劉克莊、衡永道中詩〕一舍常分作二兩程一、雪鞭雨袖少レ逢レ晴。〔楊萬里、二月二十三日南雄解レ舟詩〕順レ流更借二江風便一、此去二韶州一只兩程。❷宋の程明道・程伊川兄弟をいふ。〔精註雅俗故事讀本、上、兄弟〕兩程夫子、倡二孔孟之書一、大明二於世一。

【兩聽】308 リヤウテイ リヤウチヤウ 同時に二事をきく。〔荀子、勸學〕目不レ能二兩視一而明、耳不レ能二兩聽一而聰。

【兩朝】309 リヤウテウ ❶二代の朝廷。二代。兩代。二朝。〔杜甫、蜀相詩〕兩朝開濟老臣心。❷二つの王朝。〔宋史、宇文昌齡傳〕送二遼使一至二雄州一、當レ宴從者不レ待二揖而坐一、昌齡詣二其使一曰、兩朝聘好百年矣、入レ境置レ宴、非二但今日一、揖而後坐、此禮渠可レ闕邪。

〔兩朝平攘記〕310 リヤウテウヘイジヤウキ 書名。五卷。明、諸葛元聲撰。元聲の目睹した當時の五大事を記したもの。一卷每に一事を敍してゐる。〔四庫提要、史、雜史類〕。

〔兩朝綱目備要〕311 リヤウテウカウモクビエウ 書名。十六卷。著者未詳。宋の光宗から寧宗に至る迄の事蹟を書いたもの。兩朝實錄をもとにし、李心傳の所論を加へて、敍次簡明、議論も亦平允といはれる。〔四庫提要、史、編年類〕。

【兩敵】312 リヤウテキ 互に敵對視する。〔史記、蘇秦傳〕齊秦爲二兩敵一、而民不レ得レ安。

【兩蝶】313 リヤウテフ 二匹の蝶。〔韓愈、感春詩〕青天高寥寥、兩蝶飛翻翻。

【兩天】314 liang³ t'ien¹ ❶二日。❷二三日。❸晴雨ともに使ふ傘。

〔兩天秤〕315 リヤウテンビン 天秤。轉じて、同時に雙方の事を引受けること。兩權。

【兩椽】316 リヤウテン 二つのたるき。〔白居易、燕詩示二劉叟一〕銜二泥兩椽閒一、一巢生二四兒一。

【兩都】317 リヤウト 漢の東都(洛陽)と西都(長安)。兩京。兩都賦を見よ。〔李嶠、扈二從還一レ洛呈二侍從羣官一詩〕四海帝王家、兩都周漢室。〔小學紺珠、地理類、兩都〕西都・東都。

〔兩都賦〕318 リヤウトノフ 文章の名。漢、班固作。西都賦と東都賦。東都の主人と西都の客とを假設し、先づ西都の客に長安の舊都の苑囿臺觀の美、文物制度の備はつてゐることを、口を極めて誇張衒示させ、後に徐ろに東都主人に之を反駁し乍ら東都の美を語らせるやうに作つたもの。和帝が都を長安(西都)に還さうとするのを恐れ、此の賦を作つて諫めたもの。〔班固、兩都賦序、注〕善曰、自二光武一至二和帝一都二洛陽一、西京父老有レ怨、班固恐二帝去二洛陽一、故上二此詞一以諫、和帝大悅。〔晉書、左思傳〕班固兩都、理勝二其辭一、張衡二京、文過二其意一。

【兩度】319 リヤウド 二度。ふたたび。〔杜甫、燕子來二舟中一作詩〕湖南爲レ客動經レ春、燕子銜レ泥兩度新。〔白居易、憶二江柳一詩〕會栽二楊柳江南岸一、一別江南兩度春。〔賴山陽、薩摩詞〕御墨京毫誥二價値一、自稱兩度入二燕山一。

【兩怒】320 リヤウド 相手の雙方とも怒らせること。兩喜(80)を見よ。

【兩統】321 リヤウトウ 兩方の血筋。〔日本政記、後龜山天皇論〕兩統分立五十餘年、至レ此而合矣。

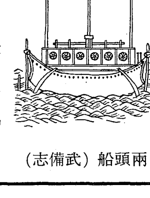
〔兩統更立〕322 リヤウトウカウリツ 兩統が交互に皇位を繼承せられたこと。〔日本政記、後龜山天皇〕元中九年冬十月、義滿使二大內義弘・六角滿高來請一レ和曰、駕還授レ器、則兩統更立、如二故事一、許レ之。

【兩頭】323 リヤウトウ ❶二つのあたま。又、雙方の端。兩首。〔越絕書、越絕外傳記吳王占夢〕使下力士石番、以二鐵杖一擊レ聖中二斷之一、爲中兩頭上。〔魏志、田豫傳〕鼓譟而起、兩頭俱發。〔謝惠連、祭二古冢一文〕中有二二棺一、正方兩頭無レ和。〔李白、江上吟〕木蘭之枻沙棠舟、玉簫金管坐二兩頭一。❷雙方。

〔兩頭烏〕324 リヤウトウウ 北京人の愛玩する鳩の一種。〔燕京歲時記、花兒市〕蓋京師多二好蓄レ鴿、種類亟繁、其尋常者有二兩頭烏一。

〔兩頭尖〕325 リヤウトウセン 草の名。とりかぶと。烏頭(7－1898‥255)の異名。〔本草、烏頭〕釋名、烏喙、本經卽兩頭尖、時珍曰、烏喙卽偶二生兩岐一者、今俗呼爲二兩頭尖一、因レ形而名、其實乃一物也。

〔兩頭船〕326 リヤウトウセン 船名。前後に舵を設け、旋轉に便にしたもの。海運に用ひ、又、兵船に用ひる。〔武備志、兩頭船圖說〕按、大學衍義補、有二兩頭船之說一、蓋爲二海運一爲二船巨一、遇レ風懼レ難二旋轉一、兩頭製レ舵、遇二東風一則西馳、遇二南風一則北馳、海道諸船、無レ逾二其利一、蓋武備不レ嫌二於多一、慮レ患不レ妨二於遠一、莫レ爲二之前一、猶將レ求レ之、而況設二之前一者、有レ未レ泯平、以レ此衡レ敵、則賊舟雖レ整可レ亂也。



兩頭船（武備志）

〔兩頭蛇〕327 リヤウトウダ 二つ頭のある蛇。昔は之を見たものは必ず死ぬと言はれた。中國の嶺南地方(現在の廣東・廣西)に、首と尾とに頭のある蛇がゐると、嶺表錄異等に見えてゐる。〔爾雅、釋地、注〕岐頭蛇也、或曰、今江東呼二兩頭蛇一爲二越王約髮一、亦名二弩弦一。〔新書、春秋〕孫叔敖

之爲ニ嬰兒一也、出遊而還、憂而不レ食、其母問ニ其故一、泣而對曰、今日吾見ニ兩頭蛇一、恐去死無レ日矣、其母曰、今蛇安在、曰、吾聞下見ニ兩頭蛇一者死上、吾恐ニ他人又見一吾已埋ニ之也、其母曰、無レ憂、汝不レ死、吾聞ニ之、有ニ陰德一者、天報以レ福、人聞レ之、皆諭ニ其能仁一也、及レ爲ニ令尹一、未レ治而國人信レ之。（世說新語、德行上）庾公乘馬有ニ的盧一、或語令ニ賣去一、庾云、賣レ之必有ニ買者一、卽復害ニ其主一、寧可ニ不レ安レ己而移ニ於他人一哉、昔孫叔敖殺ニ兩頭蛇一、以爲ニ後人一、古之美談、效レ之不レ亦達乎。（嶺表錄異）兩頭蛇、嶺外甚多、有如ニ小指一、大者長尺餘、腹下鱗紅、背錦文、一頭有ニ口眼一、一頭似レ頭而無ニ口眼一。（嶺南異物志）韶州多ニ兩頭蛇一、爲ニ蟻封一以避レ水、蒼梧亦多ニ兩頭蛇一、長不レ過ニ二三尺一、或云、蚯蚓所化。

【兩頭共レ身】328 リャウトウトモニミ　頭が二つで身が一つなること。（後漢書、靈帝紀）中平元年六月、洛陽女子生レ兒、兩頭共レ身。

【兩頭三緒】330 リャウトウサンショ　事の煩雜なるをいふ。三頭兩緒（1－12：1383）をも見よ。

【兩頭四臂】331 リャウトウシヒ　頭が二つで、臂が四つ。（後漢書、靈帝紀）光和二年十二月、洛陽女子生レ兒、兩頭四臂。

【騎ニ兩頭馬一】332 リャウトウバニノル　事を兩樣に構へ、態度の一定しない喩。二股主義をいふ。（通俗編、獸畜、騎）兩頭馬、見ニ元曲選氣英布劇一。

【兩頭纖纖詩】333 リャウトウセンセンシ　古樂府の名。作者未詳。首句を採つて名附く。後、雜體詩の一種となる。（古詩、兩頭纖纖）兩頭纖纖月初生、半白半黑眼中晴、腷膊膞雞初鳴、磊磊落落向レ曉星。

【兩得】334 リャウトク　❶二つとも全きを得る。（史記、禮書）聖人ニ之於禮義一、則兩得ニ之矣。❷一時に二樣の利を得る。（晉書、束晳傳）一擧兩得、外實內寬。

【兩牘】335 リャウトク　原告被告、雙方の訴へがき。（福惠全書、刑名部、詞訟）兩牘當レ前、殊難ニ黑白一。

【兩難】336 liang³ nan²　板挾み。窮境。

【兩乳】337 リャウニウ　二つの乳。（老子中經）朱雀闕門、兩乳也、左乳曰ニ君阿一、右乳曰ニ翁仲一、云云、夫人兩乳者、萬神之精氣、陰陽之津汚也。

【兩人】338 リャウニン　ふたり。二人。（史記、張耳陳餘傳）兩人相與爲ニ刎頸交一。

【兩年】339 リャウネン　ふたとせ。二箇年。兩稔。（宋史、度宗紀）咸淳二年三月乙巳、詔ニ郡守一兩年爲レ任、方別授レ官。（劉克莊、送ニ項使君季約一詩）兩年案頭筆、一字不レ容レ私。「よ。

【兩把】340 リャウハ　兩手でにぎる。握ニ兩把汗一を見よ。

【兩把兒頭】341 liang³ pa³ erh tou²　滿洲婦人が頭髮を束ねた上に戴く鬘。

【握ニ兩把汗一】342 リャウバノアセヲニギル　兩手に汗をにぎる。危急の場合に深くおそれる義。握ニ兩手汗一（210）に同じ。（投甕雜筆）今世人旁ニ觀人涉レ險而濟者一輒曰、爲レ爾握ニ兩把汗一。按、元史、憲宗召ニ趙璧一、問曰、天下何如而治、對曰、請先誅ニ近侍尤不善者一、憲宗不レ悅、璧退、世祖曰、秀才汝渾身都是膽耶、吾亦爲レ汝握ニ兩把汗一也。

【兩馬】343 リャウバ　二頭の馬。（左氏、哀、二十七）設ニ乘車兩馬一、繫ニ五邑一焉。（史記、李將軍傳）置ニ廣兩馬間一。

【兩敗】344 リャウハイ　❶二度の敗北。（後漢書、王霸傳）帝使下霸與ニ捕虜將軍馬武一東討ニ周建於垂惠一上、武恃ニ霸之援一、戰不ニ甚力一、爲ニ建所レ敗、武軍奔過ニ霸營一、大呼求レ救、霸曰、賊兵盛出、必兩敗、努力而已、乃閉レ營堅レ壁。❷雙方とも敗れる。兩敗俱傷を見よ。（六韜、龍韜、論將）兵不ニ兩勝一、亦不ニ兩敗一。

【兩敗俱傷】345 リャウハイトモニキズツク　雙方共に仆れ傷つく。兩方共に失敗して傷を受ける。ともだふれる。（戰國、秦策）有ニ兩虎爭レ人而鬬者一、管莊子將レ刺レ之、管與止之曰、虎者戾蟲、人者甘餌也、今兩虎爭レ人而鬬、小者必死、大者必傷、子待ニ傷虎一而刺レ之、則是一擧而兼ニ兩虎一也。

【兩方】346 リャウハウ　雙方。兩面。

【兩亡】347 リャウバウ　雙方ともに死ぬ。（宋書、沈文秀傳）伯宗戰敗、被レ創、弟天愛扶持將レ去、伯宗曰、丈夫當レ死ニ戰場一、以レ身殉ニ國一、安能歸死ニ兒女手中一乎、弟可ニ速去一、無レ爲ニ兩亡一、乃見レ殺。

【兩忘】348 リャウバウ　兩つながら忘れる。兩方とも忘れる。（莊子、大宗師）與ニ其譽一レ堯而非レ桀也、不レ如ニ兩忘而化ニ其道一。

【兩旁】349 リャウバウ　兩側。兩傍。（六韜、虎韜、動靜）敵之地勢、不可ニ以伏ニ其兩旁一。（漢書、高后紀）入ニ未央宮掖門一、注）師古曰、非ニ正門一而在ニ兩旁一、若ニ人之臂掖一也。

【兩傍】350 リャウバウ　兩側。兩旁。（詩、小雅、蓼蕭、和鸞雝雝、疏）郭璞曰、鑣、馬勒傍鐵也、言レ置ニ鈐于馬口之兩傍一。

【兩榜】351 リャウバウ　甲榜と乙榜。甲榜は會榜ともいひ、進士及第をいひ、乙榜は鄉榜ともいひ、擧人及第をいふ。兩榜出身を見よ。（黃滔、酬ニ徐正字賁一詩）名從ニ兩榜一考昇第、官自ニ三台一追起レ家。（歐陽玄、試院唱和詩）兩榜復科新大比、三人聯事舊同年。（明史、選擧志一）宗學寖多、頗有下致ニ身兩榜一、起ニ家翰林一者上。

【兩榜出身】352 リャウバウシュッシン　鄉試に於て擧人に、會試に於て進士に及第した人。擧人と進士の出身。（陔餘叢考、甲榜乙榜）今世謂ニ進士一爲ニ甲榜一、以下其曾經ニ殿試一列ニ甲名於一二三甲上也、擧人謂ニ之一榜一、後以ニ進士有ニ甲榜之稱一、遂以一爲レ乙、而以ニ擧人一爲ニ乙榜一、非也、漢書儒林傳、歲課ニ博士弟子一、甲科四十人、乙科二十人、丙科四十人、杜氏通典、進士有ニ甲乙二科一、武德以來第ニ進士一、惟乙科、舊唐書、玄宗親試敕曰、近無ニ甲科一、朕將レ存ニ其上第一、楊綰傳、玄宗試ニ擧人一、登ニ甲科一者三人、綰爲ニ之首一、其乙科凡三十餘人、是甲乙科俱謂ニ進士一也、宋時進士三甲之外、又有ニ四甲五甲一、紹興十八年、賜ニ王佐以下及第出身一、同出身、共三百三十人、第一甲十人、二甲十九人、三甲三十七人、四甲一百二十二人、五甲一百四十二人、朱文公乃是榜五甲九十名、寶祐四年、文天祥榜共六百零一人、一甲二十一人、二甲四十人、謝枋得爲レ首、陸秀夫第二十七、三甲七十三人、四甲二百四十八人、五甲二百十三人。

【兩髦】353 リャウバウ　左右の髦。髦は髮の垂れて眉にまで及ぶもの。父母に事へる子の髮飾り。（詩、鄘風、柏舟）髡彼兩髦、實維我儀。（傳）髦者、髮至レ眉、子事ニ父母一之飾也。（禮、喪大記）主人袒說レ髦、括レ髮以麻。（疏）說レ髦者、髦、幼時翦髮爲レ之、至ニ年長一、則垂ニ著兩邊一、明ニ人子事レ親、恆有ニ孺子之義一也、若父死說ニ左髦一、母死說ニ右髦一、二親並死、則並說レ之、親沒不レ髦、是也。

【兩半】354 リャウハン　半分のもの二つ。（黃庭內景經、道レ父道レ母對相望、注）陰陽兩半成一、故曰ニ旁、若ニ人之臂掖一也。

【兩半球】355 リャウハンキウ　東半球と西半球。一相望。

【兩汎】356 リャウハン　ふたつの陣營。兩陣。（福惠全書、蒞任部、稟帖贅說）兩汎兵丁、亦時爲ニ奬勞一。

【兩版】357 リャウハン　二つの版。版は城を築く時に土を兩方からはさむ板。（呂覽、義賞）郢人之以ニ兩版一垣也。

【兩范】358 リャウハン　宋の范子功・范純父をいふ。（蘇軾、軾近以ニ月石硯屏一獻ニ子功中書一、公復以ニ涵星硯一獻ニ純父侍講一、子功有レ詩純父未ニ也復以ニ月石風林硯屏一贈之、謹和ニ子功詩一、幷求ニ純父數句一、詩、故將ニ屏硯一送ニ兩范一、要使ニ珠璧棲ニ窗檻一。（注）謂ニ范子功・范純父一也。

【兩班】359 リャウヤンバン　朝鮮で、もと文班と武班とをいふ。其の祖先が、文勳、又は武勳を建てた家柄。

【兩般】360 リャウハン　ふたとほり。兩樣（408）の❶に同じ。（白居易、醉後題ニ李馬二妓一詩）疑是兩般心未レ決、雨中神女月中仙。

【兩般秋雨盦】361 リャウハンシウウアン　清、梁紹壬（6－14825：289）の室名。

【兩般秋雨盦隨筆】362 リャウハンシウウアンズイヒツ　「清、梁紹壬著。書名。八卷。

【兩絆】363 リャウハン　兩つながらつなぐ。（淮南子、俶眞訓）猶ニ兩絆騏驥一、而求ニ其致一千里一也。

【兩潘】364 リャウハン　晉の太康年中の文人潘岳と其從子潘尼とをいふ。（鍾嶸、詩品序）訖ニ於有晉太康中一、三張二陸、兩潘一左。

【兩幡】365 リャウハン　車の二つのおほひ。（後漢書、蔡邕傳）爪畫兩幡。（陶安、孔廟賦）振ニ榮光於兩幡一、撫ニ淳俗於千里一。

【朱ニ兩幡一】366 シュニリャウハンヲス　車の二つのおほひを朱色にする。二千石のしるし。（漢書、景帝記）令ニ長吏二千石車朱ニ兩幡一。（獨孤及、送ニ馬鄭州一詩）使君朱ニ兩幡一、春日整ニ車轅一。

【兩妃】367 リャウヒ　二人の后妃。舜の二妃の類。（隋煬帝、春江花月夜）漢水逢ニ遊女一、湘川值ニ兩妃一。

【兩陂】368 リャウヒ　二つのつつみ。（王安石、初夏卽事詩）石梁茅屋有ニ彎碕一、流水濺濺繞ニ兩陂一。

【兩臂】369 リャウヒ　左右二つのひぢ。（漢書、陳湯傳）

中レ寒病、兩臂不二詘申一。

【兩眉】370 リヤウビ 左右兩方の眉。〔春秋元命苞〕人有二兩眉一。〔邵雍、安樂窩中吟〕人能知二得此般事一、焉有二閑愁到二兩眉一。

【兩美】371 リヤウビ 二つの美しいもの。〔楚辭、離騷〕曰兩美其必合兮、孰信レ修而慕レ之。

【兩鼻】372 リヤウビ 二つの鼻。又、鼻のやうな形をした二つのもの。〔酉陽雜俎、廣知〕菰、兩鼻兩蒂、食レ之殺レ人。

【兩髦】373 リヤウビン 左右兩方のびん。髦は鬢に同じ。〔陶潛、責子詩〕白髮被二兩髦一、肌膚不二復實一。〔白居易、晩酌酡レ酒詩〕百花落如レ雪、兩髦垂作レ絲。

【兩夫】374 リヤウフ ふたりのをつと。二夫。〔假名手本忠臣藏、貞女兩夫にまみえず。

【兩府】375 リヤウフ ❶二つの重要な役所。㋑漢代、丞相と御史との府。〔漢書、杜周傳〕常與二兩府及廷尉一分レ章。〔注〕如淳曰、兩府、丞相・御史府也。㋺宋代、中書省と樞密院。〔沿革類纂〕中書省與二樞密院一爲二兩府一。〔晁書拾唾〕兩府、三公所レ居曰レ府、東府(中書、主レ文)西府(樞密、主レ武)。〔清國行政法汎論、軍機處、沿革〕至二宋金一則樞密使專掌二兵事一、與二宰相一分レ職、當時謂二之兩府一。❷二つの臟腑。〔白虎通、情性〕腸爲二心肺主一、心爲二皮體主一、故爲二兩府一也。

【兩跗】376 リヤウフ りやうあし。跗は足の甲。〔福惠全書、刑名部、人命上、疑獄〕非二兩跗相蹙一、胡爲而下截之裂。

【兩部】377 リヤウブ ❶二つの部分。ふたくみ。〔漢書、尹翁歸傳〕河東二十八縣、分爲二兩部一。❷特に、音樂の立部と坐部とをいふ。又、群蛙の鳴く聲をもいふ。〔兩部鼓吹〕を見よ。〔蘇軾、次韻逃レ古過二周長官一夜飲レ詩〕已遣二亂蛙成一兩部一、更邀二明月一作二三人一。❸兩部神道の略。

【兩部鼓吹】378 リヤウブノクスイ 音樂の坐して奏する坐部と立つて奏する立部との稱。鼓吹は總べて樂器をいふ。天子が有功の諸侯に賜ふものは、大抵一部で、其の兩部を以てするのは異數である。南齊の孔珪〔孔稚珪〕が、庭中の蛙聲を兩部鼓吹とした故事から、蛙の聲をもいふ。〔南史、孔珪傳〕門庭之內、草萊不レ翦、中有二蛙鳴一、或問レ之曰、欲レ爲二陳蕃一乎、珪笑答曰、以レ此當二兩部鼓吹一、何必效レ蕃。〔書言故事、水族類〕蛙聲、兩部鼓吹。

【兩部習合】379 リヤウブシフガフ 兩部神道を見よ。

【兩部神道】380 リヤウブシンタウ 本地垂跡說に基づき、佛教と神道とを習合した宗教の一派。天照大神の本地を胎藏界の大日如來とし、豐受大神の本地を金剛界の大日如來とし、胎藏・金剛の兩部に配することから名づける。〔兩部神道口決鈔、一〕兩部神道の勅號。

【兩部曼荼羅】381 リヤウブマンダラ 〔佛〕眞言宗の金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅とをいふ。兩界曼荼羅。〔性靈集、七、奉レ爲四恩一造二二部大曼荼羅一願文〕儻遇二導師一、圖得此兩部大曼荼羅一。

【兩無】382 リヤウブ 二つのひさし。殿堂の東西に在る廊下。〔宋史、選擧志一〕凡策レ士、即二殿兩無一、張レ帘列二几席一、標二姓名其上一。

【兩服】383 リヤウフク 兩服上驂を見よ。〔荀子、哀公〕東野畢之馬失、兩驂列、兩服入レ廄。

【兩服上驂】384 リヤウフクジヤウサン 兩服は馬車につける四馬の中の中央に在つて轅を夾んでゐる二頭の馬。上驂は馬の上等なもの。〔詩、鄭風、大叔于田〕兩服上驂、兩驂鴈行。〔箋〕兩服、中央夾レ轅者、襄、駕也、上駕者、言レ爲二衆馬之最良一也。〔疏〕在レ內兩服者、馬之上駕也。

【兩分】385 リヤウブン ふたつに分ける。〔史記、魏世家〕殺二魏君一、人必曰レ暴、割レ地而退、人必曰レ貪、不レ如二兩分之一。

【兩敵】387 リヤウテキ 兩方ともやぶれ衰へること。〔戰國、楚策〕趙不レ能レ聽、則必堅守、是兩敵也。

【兩邊】388 リヤウヘン 兩方のへり。又、兩側。〔宋書、五行志三〕吳孫皓天紀三年八月、又有二黃榮生一工吳平家一、高四尺、如二枇杷形一、兩邊生レ葉綠色一。〔李白、贈二友人一詩〕歲酒上逐風、霜鬢兩邊白。

【兩變】389 リヤウヘン 二つの變事。〔漢書、五行志下之下〕明雨與二星隕一、兩變相成也。

【兩便】390 リヤウベン ❶雙方の便利。〔漢書、溝洫志〕衣二食縣官一而爲レ之作、廼兩便。❷大便と小便。❸liang² pien⁴ ㋑雙方から金を出しあふ。㋺隨意にする。雙方都合の好いやうにする。㋩途中で同行の人と別れる時の挨拶。左樣なら。

【兩牡】391 リヤウボ 二匹の獸。〔詩、齊風、還〕並驅從二兩牡一兮。

【兩峯】392 リヤウホウ ❶二つの峯。〔杜甫、九日藍田崔氏莊詩〕藍水遠從二千澗一落、玉山高並兩峯寒。❷字號。㋑元、陳德永(11－41698‥1166)の號。㋺明、劉文敏(2－2224‥1301)の號。㋩明、劉陽(2－2224‥621)の號。㋥清、徐士林(4－10110‥441)の號。㋭清、彭永思(4－10003‥134)の號。㋬清、羅聘(9－28397‥243)の號。

【兩鳳】393 リヤウホウ 二羽の鳳凰。兩鳳連飛を見よ。

【兩鳳連飛】395 リヤウホウレンピ 二羽の鳳凰が翼を連ねて飛ぶ。兄弟が共に榮達する喩。北齊の崔悛兄弟の故事。〔北史、崔仲文傳〕悛弟仲文、有二文學一、天保初、悛爲二侍中一、仲文爲二銀青光祿大夫一、同日受拜、時云二兩鳳連飛一。

【兩眸】396 リヤウボウ 二つのひとみ。〔孔武仲、歸舍吟〕上有二騎馬客一、枯彝淸二兩眸一。

【兩沒】397 リヤウボツ 兩方共に亡びる。〔後漢書、鄧晨傳〕不レ能レ相救、無レ爲二兩沒一也。

【兩名】398 リヤウメイ ❶二つの名。〔詩、衞風、碩人、鱣鮪發發、疏〕郭璞曰、先儒及毛詩訓傳皆謂二此魚有一兩名一。〔蔡邕、朱公叔謚議〕事通議合、兩名一致。❷ふたり。二人。

【兩明】399 リヤウメイ 兩つながら明かである。〔公孫龍子、通變〕非二正擧一者、名實無レ當、麗色章焉、故曰二兩明一也。〔王巾、頭陀寺碑文〕漢譽兩明。

【兩面】400 リヤウメン ❶二方面。又、兩側。兩方。兩面。〔王建、新修道居詩〕兩面有二山色一、六時聞二聲聲一。〔胡天游、雙頭蓮詩〕一枝瑤柄倚レ風淸、兩面紅粧鬪日明。❷二心ある人。〔唐書、西域上、東女傳〕羌別種也、貞元九年、其王湯立悉、內附入朝、然陰附二吐蕃一、故謂二兩面羌一。

【兩面緣】401 リヤウメンエン 兩面端に同じ。

【兩面端】402 リヤウメンタン 敷物などの表裏に緣を取付けた物。兩面緣。〔玄蕃寮式〕兩面端茵七枚。

【兩面三刀】403 liang³ mien⁴ san¹ tao¹ 陰で人をそしつて、問題や騷動を引起す。〔紅樓夢、四回〕你這兩面三刀的東西。

【兩面二舌】404 リヤウメンニゼツ 陰に廻つて策動したり讒言したりすること。〔淚水家儀〕凡女僕兩面二舌、虛飾迭讒者逐之。

【兩目】405 リヤウモク 兩眼。〔南齊書、韓靈敏傳〕永興概中里、王氏女、年五歲、得二毒病一、兩目皆盲、性至孝、年二十、父母死、臨レ屍一叫、眼皆出血、小妹舐二其血一、左目卽開、時人稱爲二孝感一。〔宋史紀事本末、二十八〕天祥爲人豐頤、兩目炯然。

【兩門】406 リヤウモン 二つの門。〔北史、牛弘傳〕今造二明堂一、須下以二禮經一爲上本、其五室九階、上圓下方、四阿重屋、四旁兩門、依二考工記一。

【兩門守着一個】407 liang³ men² shou³ che⁵ i² ke⁴ 兄弟二人のいづれかに唯一人の子しかない時、其の後を絶たせないため、兄弟各〻から其の子に一人づつの妻を與へ、其の二人の妻は兩頭兒大といつて同權利で、兄の與へた妻が子を生めば弟の後嗣とすることをいふ。一子兩不絕(1－1‥748)に同じ。

【兩樣】408 リヤウヤウ ❶ふたとほり。兩般。〔范成大、晚步二西園一詩〕一種東風兩樣心。❷㋑ふたしな。二品。㋺差ふ。異なる。

【兩雄】409 リヤウユウ ❶二人の英雄。兩雄不二俱立一を見よ。❷二つが共に強い。〔史記、孟嘗君傳〕夫秦齊、雄雌之國、秦彊則齊弱矣、此勢不二兩雄一。

【兩雄不二俱立一】410 リヤウユウフトモニタテズ 二人の英雄は相並んで立つことは出來ぬ。必ず爭を起して一方は倒れる。〔史記、鄒生傳〕兩雄不二俱立一。〔新序、善謀下〕兩雄不二俱立一。

【兩豫】411 リヤウヨ 豫州の地をいふ。南豫・東豫の二つに分れるからいふ。〔宋書、州郡志二〕爰自二泰始一、南失二淮西一、復於二淮東一、分二立兩豫一、今南豫以二淮東一爲レ境。

【兩譽】412 リヤウヨ 兩方をほめる。〔戰國、燕策〕蘇代對曰、周地賤レ媒、爲二其兩譽一也、之二男家一曰二女美一之女家一曰二男美一。

【兩用】413 リヤウヨウ 兩つながら用ひる。又、二通りに用ひる。二方面に用ひる。〔戰國、韓策〕宣王謂二樛留一曰、吾欲二兩用公仲公叔、其可乎。〔曹冏、六代論〕兼二親疏一而兩用。

【兩翼】414 リヤウヨク 鳥の左右二つの翼。轉じて、軍隊

の兩方に張り出た陣形。兩甄。〔漢書、王莽傳下〕取二大鳥翮一爲二兩翼一。〔柳宗元、柳州東亭記〕徊翔前出、兩翼馮レ空拒レ江。〔五代史、杜重威傳〕重威先以二左右隊一擊二其兩翼一。

【兩老】415 liang² lao³ ❶父親と母親。兩親。❷二人の老人。

【兩狼】416 リヤウラウ 二匹の狼。〔詩、齊風、還〕竝驅從二兩狼一兮。

〔兩狼山〕417 リヤウラウサン 清代の花部の戲曲。作者未詳。宋の將軍楊桑の死を演じたもの。

【兩欒】418 リヤウラン 鐘の下口の兩かど。〔周禮、考工記、鳧氏〕爲レ鐘、兩欒謂二之銑一。〔疏〕釋曰、欒銑一物、俱謂二鐘兩角一。

【兩利】419 リヤウリ 兩つの利益。又、兩方を利すること。兩方共に利益のあること。〔史記、淮陰侯傳〕莫レ若二兩利而俱存レ之。

【兩立】420 リヤウリツ 雙方が共に存立する。兩存。〔戰國、楚策〕秦之所レ害二於天下一、莫レ如レ楚、楚強則秦弱、楚弱則秦強、此其勢不二兩立一。〔史記、張儀傳〕其勢不二兩立一。〔淮南子、詮言訓〕欲與レ性相害、不レ可二兩立一。〔後漢書、袁紹傳〕忠孝之節、道不二兩立一。〔諸葛亮、後出師表〕先帝慮下漢賊不二兩立一、王業不中偏安上。

【兩兩】421 リヤウリヤウ 二つづつ。又、二つ共に。〔史記、天官書〕兩兩相比者。〔漢書、天文志〕魁下六星、兩兩而比者曰二三能一。〔楊維楨、送二客洞庭西一詩〕送レ客洞庭西、雷堆青兩兩。

〔兩兩三三〕422 リヤウリヤウサンサン 二三人づつ。〔述異記、上〕冀州有レ樂、名二蚩尤戲一、其民兩兩三三、頭戴二牛角一而相觝。

【兩龍】423 リヤウリヨウ ❶二匹の龍。〔山海經、海外南經〕南方祝融、獸身人面、乘二兩龍一。〔楚辭、九歌、河伯〕駕二兩龍一兮驂レ螭。❷二人の豪傑。〔漢書、惠帝紀〕春正月癸酉、有二兩龍一。〔史記、彭越傳〕少年或謂レ越曰、諸豪桀相立畔レ秦、仲可二以來亦效一レ之、彭越曰、兩龍方鬭、且待レ之。

【兩輪】424 リヤウリン 二つの輪。〔詩、召南、鵲巢、百兩御レ之、集傳〕兩、一車也、一車兩輪、故謂二之兩一。

【兩壘】425 リヤウルイ 兩つのとりで。〔孔子家語、致思〕兩壘相望、塵埃相接。

【兩列】426 リヤウレツ ふた側。二列。兩行。

【兩奩】427 リヤウレン 二つの小箱。〔陸游、初夏閒居卽事詩〕對弈兩奩飛二黑白一、讎書千卷雜二朱黃一。

【兩路】428 リヤウロ ふたみち。二つのみち。〔南齊書、袁彖傳論〕刑開二二門一、法有二兩路一。

【兩鹿】429 リヤウロク 二匹の鹿。〔淮南子、說林訓〕兩鹿不レ鬬二於伏兕之旁一。

【兩淮】430 リヤウワイ 淮南と淮北。今の江蘇省淮陰・淮安・泗陽・漣水・阜寧・鹽城・江都・儀徵・東臺・興化・泰・高郵・寶應等の諸縣の地。〔牟融、沈存尚林亭夜宴詩〕松菊寒香三徑晚、桑楡煙景兩淮秋。〔地理通釋〕自レ古立レ國、東南以二兩淮一爲二根本一。〔宋无、揚州卽事詩〕兩淮先按堵、孤注獨橫籌。〔吳萊、風雨渡二揚子江一詩〕兩淮大將猶二熊虎一。

〔兩淮鹽法志〕431 リヤウワイエンパフシ 書名。四十卷。清の乾隆十三年、吉慶等奉勅撰。轉運・課入・場竈・職官・律令・優恤・人物・雜志の八門に分け、毎門亦數目に分敍す。清史稿藝文志に著錄せらる。

【兩鬼樂】432 リヤウキラク 雅樂曲、慶雲樂の異名。〔教訓抄、六〕慶雲樂、云云、或記云、大國法、食事時奏二此曲一、於二大唐一、望レ食有二二鬼一、名二食鬼一云二飮鬼一、繫二念人食一惱レ人、而聞二此樂音曲一、彼鬼神去七十里、云云、此樂本名謂二兩鬼樂一。〔樂家錄、二十八、元祿〕慶雲樂、云云、一名兩鬼樂。

【兩議院】433 リヤウギヰン 兩院(14)の❸に同じ。

【兩牛腰】434 リヤウギウエウ 二頭の牛の腰。〔李白、醉後贈二王歷陽一詩〕書禿千兔毫、詩裁兩牛腰。

【兩禽連】435 リヤウキンツラナル 二頭の鳥が連なる。又、一本の矢で一度に二羽の鳥を射拔くこと。〔曹植、名都篇〕左挽因右發、一縱兩禽連。

【兩銀子】436 liang³ yin² tzŭ 貨幣の價としての兩をいひ表はす場合の稱呼。

【兩鬟姝】437 リヤウクワンノシユ もとどりを二つ結つてゐる美しさ。美人の形容。〔張正見、置酒高殿上篇〕千金一巧笑、百萬兩鬟姝。

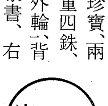
【兩願レ離】438 フタツナガラリヲネガフ 夫婦共に離婚を願ふこと。〔唐律、戶婚〕兩願レ離者、不レ坐。

【兩子張】439 リヤウシチヤウ 二つの子張篇。孔氏の壁中から出た古論語は二十一篇あつて、堯曰篇の下章の子張問云云以下を分けて一篇とし、之に子張篇と名づけてゐるので、子張篇が合計二つある。〔經典釋文序錄、論語〕古論語者、出レ自二孔子壁中一、凡二十一篇、有二兩子張篇一、次不下與二齊魯論一同上。〔注〕如淳云、分下堯曰篇後子張問何如可二以從レ政以下上爲二篇名一。

【兩上算】440 liang³ shang⁴ suan⁴ 雙方共に都合がよい。雙方利益がある。

【兩如直】441 リヤウジヨチヨク 邦に道が行はれてゐる時も、行はれない時も、其の行を矢の如く直くすること。論語に見えてゐる史魚の故事。〔論語、衞靈公〕直哉史魚、邦有レ道如レ矢、邦無レ道如レ矢。〔謝靈運、還二舊園一作見二顏范二中書一詩〕事蹟二兩如直一。〔注〕濟曰、兩直、謂二邦無レ道如レ矢、邦有レ道如レ矢。

【兩畜錢】442 リヤウシヨクセン 錢の名。其の來歷は明かでない。〔三才圖會、珍寶、兩畜錢〕敦素曰、此錢重四銖、徑一寸三分、微有二外輪一、背面無二好郭一、其文篆書、右曰レ兩、左曰レ畜、形質大抵似二半兩一、制作古異、源流莫レ知。


兩畜錢（三才圖會）

【兩脣聲】443 リヤウシンセイ 上下の脣を一旦閉ぢて、息の出るのを食ひ止めてから、勢よく之を引放す途端に發する聲。注音符號のㄅの如きをいふ。雙脣聲。

【兩脣阻】444 リヤウシンソ 發音する時に、息が上下の脣の阻礙をうけること。雙脣阻。

【兩水亭】445 リヤウスイテイ 清、姜希轍(**3－6205**··80)の室名。

【兩生天】446 リヤウセイテン 明代の戲曲。徐復祚作。一名、一文錢。天竺の舍衞城第一の富豪盧至の吝嗇なことと、元曲選中の龐居士誤放來生債との兩劇を合して一つとしたもの。六折の雜劇で、滑稽劇中の傑作。〔傳奇彙考〕。

【兩棲類】447 リヤウセイルイ 動物學用語。卵生の冷血動物で、幼時は鰓を有して水中に棲み、長じて肺で呼吸して陸上に棲むもの。蛙の類。

【兩太陽】448 liang³ t'ai⁴ yang 兩方の蟀谷(コメカミ)。

【兩杖鼓】449 リヤウチヤウコ 兩手に桴を持つて兩面を打つて鳴らす鼓。羯鼓の一種。〔舊唐書、音樂志二〕羯鼓正如二漆桶一、兩手具擊、亦謂二之兩杖鼓一。〔文獻通考、樂考、革之屬〕羯鼓中、云云、世俗亦謂二之兩杖鼓一。

【兩重陽】450 リヤウチヨウヤウ 九月九日の重陽と十日の小重陽とを併せいふ。節句。〔李白、九月十日卽事詩〕昨日登レ高罷、今朝更擧レ觴、菊花何太苦、遭二此兩重陽一。

【兩潮船】451 リヤウテウセン 船の名。〔林逋、懷二潤州僧一詩〕鐵甕猶歸三月寺、銅缾輕挂兩潮船。

【兩條腿】452 liang³ t'iao² t'uei³ 二本の足。

〔兩條腿的畜生〕453 liang³ t'iao² t'uei³ tê ch'u⁴ shêng¹ 二足の畜生。人間らしい心を持つてゐない人をいふ。人面獸心。

【兩同書】454 リヤウドウショ 書名。二卷。唐、羅隱撰。上卷五篇は皆老子の言に本づき、下卷五篇は皆孔子の言に歸してゐる。〔四庫提要、子、雜家類〕。

【兩同心】455 リヤウドウシン 詞牌の名。三體あつて、仄韻は柳永から、平韻は晏幾道から、叶韻は杜安世から創まる。又、曲牌の名。北曲は高大石角隻曲に、套曲は高大石角に入る。〔塡詞名解〕古樂府小歌、何處結二同心一、唐教坊樂曲、遂有二同心結一、然有二兩調同二此名一、塡詞采以名レ之、曰二兩同心一。

【兩拼音】456 リヤウハウオン 一聲符と一韻符とを綴り合せた音。拼は綴り合せること。

【兩板船】457 リヤウハンセン 船の名。〔韓偓、贈二湖南李思齊處士一詩〕兩板船頭濁酒壺、七絲琴畔白髭鬚。

【兩被花】458 リヤウヒクワ 植物學用語。萼と花冠との兩方を有する花。さくら・ききやう等の類。

【兩不找】459 liang³ pu⁴ chao³ 差引いて帳消にする。

【兩平草】460 リヤウヘイサウ 草の名。ししうど。うどもどき。羌活(**9－28429**··7)の異名。〔輟耕錄、藥譜〕兩平草、羌活。

【兩本位】461 リヤウホンヰ 貨幣制度の名稱で、複本位制(**10－34417**··55)に同じ。

【兩罍軒】462 リヤウライケン 清、吳雲(**2－3365**··15)の室名。兩齊侯の罍を得たので、其の軒に名づけて兩罍軒と稱した。

〔兩罍軒彝器圖釋〕463 リヤウライケンイキヅシヤク 書名。十二

卷。清、吳雲撰。商周から五季に至るまでの彝器を集めたもの。但し、款識の無い者は錄さぬ。

【隔二兩塵一】464 俗緣を脫せぬこと。塵とは道家で一世をいふ。得道の境地へは尙二世の隔があるといふ意。〔太平廣記、神仙〕唐韋子威耽二翫道書一、溺二惑神仙修煉之術一、丁約謂曰、郞君道情深厚、不レ欺二暗室一、終當レ棄レ俗、尙隔二兩塵一。子威曰、何謂二兩塵一。對曰、儒謂二之世一、釋謂二之劫一、道謂二之塵一。

【兩優釋褐】465 宋の學制の一。學生は月に一私試、年に一公試して內舍に補せられ、一年置きに一舍試があつて上舍に補せられる。此の舍試の成績・操行共に優であれば、兩優釋褐と稱して官吏に任命される。〔文獻通考、學校考、太學〕宋乾道三年、黃倫以二兩優一釋褐、自二紹興建學一、至レ是始有二兩優一、用二崇寧恩例一、授二承務郞國子錄一。

【兩葉掩レ目】466 一枚の葉でも目をおほへば物が見えぬ。小物が大障となる喩。兩豆塞レ耳。〔新論、專學〕兩葉掩レ目、則冥默無レ覩、雙珠塡レ耳、必寂寞無レ聞。

【兩垣奏議】467 書名。一卷。明、逯中立撰。兩垣とは吏と兵との二方面をいふ。〔四庫提要、史、詔令奏議類〕。

【兩庚草堂】468 明、袁褧(10－34152··51)の室名。

【兩議具奏】469 裁判で法官の意見が一致せぬとき、兩例を援引して聖斷を仰ぐこと。〔六部成語、刑部、兩議具奏、注解〕或重或輕、援二引兩例一奏問、待レ旨決レ之。

【兩彊勉齋】470 清、倪文蔚(1－792··67)の號。

【兩袪高蹶】471 兩手で衣を上げて高踏する。怒るさま。〔呂覽、知化〕夫差不レ聽、子胥兩袪高蹶而出二於廷一曰、嗟乎、吳朝必生二荊棘一矣。〔注〕兩手擧レ衣、而行蹶蹈也、傳曰、曾人之高使二我高蹈一、瞋怒貌、此之謂也。

【兩火一刀】472 剡の隱語。剡は浙江省嵊縣の舊名。其の地に剡山・金庭山等の名勝地がある。〔羅隱、往年進士趙能卿嘗話二金庭勝事一云云詩〕兩火一刀罹レ亂後、會須二乘レ興雪中行一。〔趙扑、郡齋偶成詩〕兩火一刀名素勝、十分雙澗地長靈。

【兩溪文集】473 書名。二十四卷。明、劉球撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【兩瞽相扶】474 盲人二人がたすけあふ。相互に指導する能力のない者同志が偉さうに相手を指導することの喩で、何等の益がないのみならず、時には害をさへ與へる危險がある。〔韓詩外傳、五〕兩瞽相扶、不レ傷二牆木一、不レ陷二井穽一、則其幸也。

【兩袖清風】475 liang^3 hsiu^4 ch'ing^1 fêng^1 一錢の貯へもない。廉潔な人をいふ。

【兩世爲人】476 liang^2 shih^4 wei^2 jen^2 ❶瀕死の病人が死を免れたこと。❷人を罵る語。後の世には眞人間となれ。

【兩世因緣】477 元曲の名。元、喬吉撰。

【兩生植物】478 植物學用語。水陸兩生の植物。梅花藻(ウメバチモ)の類。

【兩小無レ猜】479 二人の小兒が互に相疑はぬ。小兒の無邪氣なさまをいふ。〔李白、長干行〕同居長干里、兩小無二嫌猜一。

【兩鼠鬭レ穴】480 二匹の鼠が穴の中でたたかふ。強者は勝ち弱者は敗れる。〔史記、趙奢傳〕秦伐レ韓、軍二於閼與一、王召二廉頗一而問曰、可レ救不、對曰、道遠險狹、難レ救、又召二樂乘一而問焉、樂乘對如二廉頗言一、又召問二趙奢一、奢對曰、其道遠險狹、譬レ之猶三兩鼠鬭二於穴中一、將二勇者勝一。

【兩體雄蕊】481 植物學用語。二束になつてゐる雄蕊。二體雄蕊。ゑんどうの類。

【兩豆塞レ耳】482 二つの豆でも耳を塞げば聲は聞えぬ。小者が大障となる喩。兩葉掩レ目。〔鶡冠子、天則〕夫耳之主レ聽、目之主レ明、一葉蔽レ目、不レ見二太山一、兩豆塞レ耳、不レ聞二雷霆一。〔陰符經、注〕雙豆塞レ耳、不レ聞二雷霆一、一椒掠レ舌、不レ能レ立レ言。

【兩不相涉】483 liang^3 pu^4 hsiang^1 shê^4 雙方相犯すことがない。

【兩不相能】484 liang^3 pu^4 hsiang^1 nêng^2 雙方互に相讓らぬ。

【兩不着實】485 liang^3 pu^4 chuo^2 shih^2 二つの事が二つとも旨く行かぬ。

【兩平交易】486 彼此雙方が公平に交易すること。〔六部成語、戶部、兩平交易、注解〕彼此均平無レ偏之交易、俗云二公道買賣一。

【兩勉彊齋】487 清、倪文蔚(1－792··67)の號。

【兩無猜疑】488 liang^3 wu^2 t'sai^1 i^2 雙方邪推せぬ。

【兩與之情】489 双方をよくはからふ心。

【兩六波羅】490 北條氏が京都の守護、關西鎭護のため、京都の六波羅の南部と北部とに置いた二つの役所。〔太平記、一、武家繁昌事〕洛中に兩人の一族を据ゑて兩六波羅と號す。

【執レ兩用レ中】491 兩端を執つて其の中を用ひること。中庸の道を行ふこと。〔中庸〕執二其兩端一、用二其中於民一、其斯以爲レ舜乎。

【兩界曼荼羅】492 佛金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅。兩部曼荼羅(381)に同じ。茶は陀にも作る。〔東寶記、二、灌頂院〕兩界曼荼羅。

【兩好並一好】493 liang^2 hao^3 ping^4 i^4 hao^3 一方が好意をよせれば一方もまた好意をよせる。非常に親密な。

【兩蕊異時花】494 植物學用語。兩全花の中で雌蕊・雄蕊の成熟期を異にするもの。雄蕊先熟と雌蕊先熟とあり、禾本科・車前科・木蘭科等はこの例である。

【兩等小學堂】495 清の學制では、小學校を初等・高等の兩級に分ち、それを合併設立するものを兩等小學堂といふ。

【兩來的勁兒】496 liang^3 lai^2 tê chin^4 êrh 兩方から出合頭にぶつかる力。

【兩記則失二複重一】497 兩樣に記せば、二重になる弊に陷る。〔文心雕龍、史傳〕兩記則失二於複重一、偏擧則病二於不周一。

【兩級師範學堂】498 清末の師範學校の制度に於て、初級五年と優級四年とを併設したものを兩級師範學堂と呼ぶ。

【兩顴高殺夫刀】499 liang^3 ch'üan^2 kao^1 sha^1 fu^1 tao^1 顴骨(ホホボネ)の高い女は殘忍性があつて、夫を殺す刀の如きものである。又、兩顴高殺夫不用刀ともいふ。

【兩宋名賢小集】500 書名。百五十七卷。宋、陳思編。宋人の詩、凡そ一百五十七家を錄す。〔四庫提要、集、總集類〕。

七畫

【兪】1437

[一]ユ 〔集韻〕容朱切 ㄩˊ yü^2 虞
[二]イウ 〔集韻〕夷周切 尤
[三]ユ 〔集韻〕勇主切 ㄩˋ yü^4 麌
[四]シユ 〔集韻〕舂遇切 遇
[五]ユ 〔集韻〕兪戍切 遇
[六]シユ 〔集韻〕舂朱切 ㄕㄨ shu^1 虞

小篆

[一]❶**しかり**。はい。應諾の辭。〔爾雅、釋言〕兪、然也。〔書、堯典〕帝曰、兪。〔傳〕兪、然也。〔禮、內則〕男唯、女兪。〔注〕兪、然也。❷**こたへる**。〔漢書、禮樂志〕星留兪。〔注〕兪、荅也。❸**ますます**。いよいよ。逾(11－38977)に通ず。〔說文通訓定聲〕兪、叚借爲レ逾。〔廣雅、釋詁一〕兪、益也。〔大戴禮、文王官人〕其入レ人甚兪。〔注〕甚兪、言レ無レ已。〔國語、越語下〕辭兪卑、禮兪尊。〔注〕兪、益也。❹**すすむ**。〔漢書、食貨志上〕民兪勤レ農。〔注〕兪、進也。❺**こえる**。時すぎる。ひさしい。踰(10－37675)に通ず。〔說文通訓定聲〕兪、叚借爲レ踰。〔史記、蒙恬傳〕若知レ賢而兪不レ立。〔注〕索隱曰、兪、卽踰也。❻**やすらか**。おちつく。〔莊子、天道〕無爲則兪兪。〔注〕兪兪然、從容自得之貌。〔呂覽、知分〕兪然而以待耳。〔注〕兪、安也。❼**丸木ぶね**。〔說

文）俞、空中木爲レ舟也、从レ𠆢、从レ舟、从レ巛、巛、水也。㊅姓。〔廣韻〕俞、又姓。〔尚友錄〕俞、河間角音、又望出二河東一。㊀しかり。返事。〔集韻〕俞、然也。〔類篇〕俞、然也。㊂㊀顔かたちが和らぐ。〔集韻〕俞、俞、容皃和恭也。㊁いえる。いやす。愈（4－10904）に通ず。〔荀子、解蔽〕未レ有二俞疾之福一也。〔注〕俞、與レ愈同、癒也。㊃㊀地名。隃（11－41738）に同じ。〔集韻〕隃、說文、北陵、西隃・鴈門是也、或作レ俞。㊁せなか。又、脊に在る灸の要點。腧（9－29682）に通ず。〔集韻〕腧、五臟腧穴、通作レ俞。〔素問、奇病論〕治レ之以レ膽募レ俞。〔注〕背脊曰レ俞。㊄うはべだけの思ひやり。呴俞。〔集韻〕俞、呴俞、色仁也。㊆㊀國の名。漢代の侯國。今の山東省平原縣の西南。鄒（11－39522）に同じ。〔集韻〕俞、漢侯國名、欒布所レ封。〔史記、欒布傳〕以二軍功一封二俞侯一。〔漢書、欒布傳〕以レ功封爲二鄒侯一。㊁人名。〔莊子、駢拇〕雖二通如一俞兒一、非二吾所謂臧一也。〔注〕古之識レ味者。

名乘　ミツ。

解字　會意。舟と𠆢と巛との合字。𠆢は合、あつめ並べる意、巛は水の流れるさま。古は中のうつろな木を以て舟とし、又木をうつろにほりぬいて舟とし、之に板をならべて流れを航す。故に舟航に用ひた丸木舟をいふ。轉じて、身體の經脈の所（中空なる意より）をいひ、假借して逾・踰等とす。〔說文、俞、段注〕淮南氾論訓、古者爲二窻木方版一以爲二舟航一云云、按、窻同レ俞、空中木者舟之始、並レ板者航之始、如二椎輪爲一大路之始一、其始見二本空之木一用爲レ舟、其後因刳レ木以爲レ舟。

【俞偉】1（ユキ）宋、四明の人。字は仲寬。元祐の初、順昌縣の長官となり、人民の產兒を殺す惡習を矯正して功が多かつた。〔宋元學案、六〕。

【俞允】2（ユイン）㊀ゆるす。承諾する。〔宋史、趙普傳〕竟得二俞允一。㊁明、俞永の初名。

【俞永】3（ユエイ）明、松江華亭の人。初名は允。字は嘉言。洪武の進士。官は禮部主事。著に春曹詩稿がある。〔國朝獻徵錄、八十九〕・〔本朝分省人物攷、二十五〕・〔明書、甲、二十九〕。

【俞榮】4（ユエイ）明、俞茂（68）の初名。

【俞瑩】5（ユイ）清、金匱の人。字は敬亭。號は友梅山人。詩書に巧。〔國朝書畫家筆錄、一〕・〔墨香居畫識、七〕。

【俞益】6（ユキ）明、臨安の人。字は友謙。永樂の進士。官は翰林庶吉士。永樂大典を修む。後、靖安縣の長官となる。〔國朝獻徵錄、五〕・〔已未詞科錄、四十二〕。

【俞樾】7（ユツ）清、德清の人。字は蔭甫。號は曲園。道光の進士。官は河南學政提督。名聲天下に高く、張之洞を北張といふに對して南俞と稱せられた。其の學は、高郵の王念孫・王夫之父子を繼承し、句讀を正し、字義を審かにし、古文の假借に通ず。晚年、宋翔鳳に逢ひ、武進の莊氏の說を聞いてから、公羊家に出入するに至つた。少より老に至るまで著述して倦まず、杭州の古經精舍に主たること凡そ三十一年、當世の樸學の宗となる。光緒三十二年卒す。年八十六。書室を春在堂・茶香室・第一樓・右台仙館といふ。著に春在堂全集五百餘卷がある。〔清史稿、四百八十八〕・〔續碑傳集、七十五〕。

【俞淵】8（ユエン）明の人。通源の弟。清一統志には通淵に作る。官は都督僉事。封は越嶲侯。建文の初、燕を征して白溝河に戰歿す。〔明史、一百三十二〕。

【俞琰】9（ユエン）宋、吳郡の人。字は玉吾。號は全陽子。寶祐中、詞賦を以て稱せらる。宋が亡びてからは、隱居して書を著し、自ら林屋山人と號す。易に精通す。著に周易集說・易圖纂要等がある。石澗の傍に居つたので學者、石澗先生といふ。〔宋史翼、三十五〕・〔宋季忠義錄、十五〕・〔宋元學案、四十九〕。

【俞遠】10（ユエン）元の人。奕曾の子。字は之近。號は空谷山人・豆亭。讀書を好み、隱居教授す。著に豆亭集・學詩管見がある。〔尚友錄、三〕。

【俞恩】11（オン）明、錢塘の人。字は天錫。號は江村居士。畫に巧。〔明畫錄、一〕。

【俞皐】12（カウ）宋、婺源の人。字は心遠。趙良鈞に師事す。官は廣德軍教授。宋が亡びてからは仕へず。著に春秋釋義がある。〔尚友錄、三〕。

【俞綱】13（カウ）明、嘉善の人。字は宗立。景帝の時、兵部右侍郎となつて機務に參與す。〔明史、一百五十二〕・〔萬斯同明史、二百三十二〕・〔明史稿、一百四十三〕。

【俞瀕】14（カウ）宋の人。世〻杭紹に居る。字は商卿。紹熙の進士。寶慶中、致仕し、室を九里松に築き、自ら青松居士と號す。遺集がある。

【俞岳】15（ガク）清、吳江の人。字は子駿。號は少甫。官は太倉學正。古文は歸震川を宗とし、畫室を歸廬といふ。著に笠東草堂集・歸廬文鈔がある。〔清畫家詩史、庚、上〕・〔墨香居畫識、三〕。

【俞諫】16（カン）明の人。蓋の子。字は良佐。謚は莊襄。正德中、桃源の叛賊を平げ、右都御史を授けらる。嘉靖の初、青州の盜を討平す。〔明史、一百八十七〕・〔萬斯同明史、二百五十四〕・〔明史稿、一百七十一〕。

【俞鑑】17（カン）明、桐廬の人。字は元吉　進士。官は兵部職方主事。英宗に從つて北征す。〔明史、一百六十七〕・〔萬斯同明史、二百十二〕・〔明史稿、一百五十二〕。

【俞基】18（キ）明、俞山（30）の初名。

【俞夔】19（キ）㊀宋、象山の人。字は堯臣。元豐の進士。建德の宰に終る。〔尚友錄、三〕。㊁明、浙江建德の人。字は舜臣。正德の進士。四川安綿兵備僉事に累官し、諸蕃の入寇を拒ぎ、又、土官刺馬仁等の亂を平定す。尋いで南漳兵備に補せられ、本省左右布政に歷任す。著に六詔紀聞、及び揚芬錄がある。〔四庫提要、一百三十四〕。

【俞欽】20（キン）明、浙江新昌の人。字は振恭。景泰の進士。官は太常卿。後、累遷して兵部侍郎に至る。〔國朝獻徵錄、四十〕・〔國朝列卿記、四十四・五十一・一百三十五〕・〔明名人傳、三〕・〔本朝分省人物攷、四十九〕。

【俞廣】21（クワウ）明、逢昌の人。字は德濟。官は兵科給事中。後、刑部主事。〔浙江通志〕。

【俞勳】22（クン）宋、婺源の人。字は怡叔。淳祐の進士。官は來安縣の長官。滁州通判。後、淮東帥府參議。〔尚友錄、三〕。

【俞棨】23（ケイ）朝鮮李朝、杞溪の人。字は武仲。號は市南。謚は文忠。仁祖癸酉の進士。官は吏曹參判。著に文集・麗史提綱・家禮源流・江居問答がある。〔人物考〕。

【俞璟】24（ケイ）清、俞現（68）の初名。

【俞憲】25（ケン）明、無錫の人。字は汝成。嘉靖の進士。官は山東按察使。書室を鵜鳴館といふ。盛明百家詩を輯む。〔皇明詞林人物考、八〕・〔明人小傳、三〕・〔本朝分省人物攷、二十八〕。

【俞元】26（ゲン）縣名。漢、置く。唐の天寶の末、南詔領となる。故治は雲南省徽江縣の南。〔漢書、地理志上〕益州郡、縣二十四、俞元。

【俞彥】27（ゲン）明、金陵の人。字は仲茅。萬曆の進士。官は光祿少卿。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、五十九〕・〔明詩紀事、庚、二十〕。

【俞侯】28（コウ）漢、欒布（6－15947‥21）の封號。

【俞策】29（サク）明、俞安期（77）の初名。

【俞山】30（ザン）㊀山名。岐山（4－7936‥16）に同じ。〔水經、漆水注〕漆水出二扶陽杜陽縣俞山一。㊁明、秀水の人。字は積之。初の名は基。號は梅莊。官は景帝の時に吏部右侍郎。詩歌は淸麗。大篆を善くし、墨梅に巧。著に梅莊集がある。〔明史、一百五十二〕・〔萬斯同明史、二百三十三〕・〔明史稿、一百四十三〕。

【俞旨】31（シ）天子のおぼしめし。諭旨。〔福惠全書、蒞任部、詳文贅說〕業奉二俞旨一。

【俞攸】32（シュ）明、浙江山陰の人。字は景修。諸生。父母に事へて至孝。〔明史、二百九十七〕。

【俞咨】33（シ）問ひはかる。〔班固、典引〕屢訪二羣儒一、俞二咨故老一。

【俞兒】34（ジ）㊀黃帝の時の料理人。善く味を識つた。臾兒。〔莊子、駢拇〕屬二其性於五味一、雖二通如一俞兒一、非二吾所謂臧一也。〔釋文〕俞兒、司馬云、古之善識レ味人也、一云、俞兒、黃帝時人、一云、俞兒、亦齊人。〔尸子、下〕膳、俞兒和レ之以レ薑桂、爲二人主上食一。㊁神の名。〔管子、小問〕桓公北

伐二孤竹一云云、公曰、云云、寡人見レ人長尺而人物具焉、冠、右袪衣、走二馬前一疾ェ云云、管仲對曰、臣聞、登山之神、有二兪兒者一、長尺而人物具焉、霸王之君興、而登山神見。

【兪兒舞】35 雜舞の名。漢、高祖作。一に兪巴舞、又は巴兪舞といふ。巴は巴人、兪は兪人、共に趫捷である。漢の高祖が之と共に楚を滅ぼしたので其の武樂を存したもの。兪水（42）を見よ。〔樂府詩集、舞曲歌辭、雜舞、魏兪兒舞歌〕晉書樂志曰、巴渝舞、漢高帝所レ作也、高帝自二蜀漢一將定二三秦一聞中、范因率二賓人一從帝爲二前鋒一號板楯一蠻勇而善レ鬬、及レ定二秦中一、封レ因爲二閬中侯一、復二賓人七姓一、其俗喜二歌舞一、高帝樂二其猛銳一、數觀二其舞一曰、武王伐レ紂歌也、後使二樂人習レ之、閬中有二渝水一、因二其所レ居、故曰二巴渝舞一、舞曲有二矛渝弩渝一、安臺行辭一、本歌曲四篇、其辭既古、莫レ能曉二其句度一、左思蜀都賦云、奮レ之則賓旅、玩レ之則渝舞也、顏師古曰、巴、巴人也、兪、兪人也、高祖初爲二漢王一、得二巴兪人一、竝趫捷、與レ之滅レ楚、因存二其武樂一、巴兪之樂、自レ此始也、巴、即今之巴州、渝、即今之渝州、名各本二其地一、宋書樂志曰、魏兪兒舞歌四篇、魏國初建所用、使二王粲改創一其辭一、爲二矛兪弩兪、安臺行辭、新福歌曲行辭一、以述二魏德一、後於二太祖廟一竝作レ之、黃初二年、改曰二昭武舞一、及晉又改曰二宣武舞一、唐書樂志曰、兪、美也、魏晉改二其名一、梁復號二巴渝一、隋文帝以レ非二正典一罷レ之。〔王粲、魏兪兒舞歌〕漢初建レ國、家二巨九州一、蠻荊震服、五刃三革、休安不レ忘二備武一、樂脩宴二我賓師一、敬用御レ天、永樂無レ憂、子孫受二百福一、常與二松喬一遊、蒸庶德、莫レ不二咸歡柔一。

【兪允】36 宋、鄞の人。字は公達。嘉祐の進士。熙寧中、河を治めて功あり。官は天章閣待制。〔宋史、三百三十三〕・〔宋史新編、一百九〕。

【兪俊】37 清、錢塘の人。字は秀登。善く墨竹を畫く。〔國朝耆獻類徵、四百二十三〕。

【兪松】38 宋、錢塘の人。字は壽翁。號は吳山。官は承議郎。著に蘭亭續攷がある。〔四庫提要、八十六〕。

【兪湜】39 清、兪琟（58）の一名。

【兪森】40 清、錢琟の人。號は存齋。官は湖廣布政司參議。著に荒政叢書・常平義倉赴倉三考がある。〔四庫提要、八十二〕。

【兪藎】41 明、桐廬の人。字は廷臣。天順の進士。官は御史。陂堰を築き灌漑の便をはかる。〔明史、一百八十七〕。

【兪水】42 巴西閬中にある川の名。此の地は獠人が住み、剛勇で舞を好んだ。巴兪舞は此處から起る。兪兒舞（35）を見よ。〔司馬相如、上林賦、巴渝宋蔡、注〕五臣作レ兪、善曰、郭璞曰、巴西閬中有二渝水一、獠居二其上一、好レ舞、初漢祖募取、以平二三秦一、後使二樂府習レ之、因名二巴渝舞一也。

【兪瑞】43 宋、新昌の人。字は公美。端平の進士。其の文學は高古で、眞德秀が其の文を奇とした。〔尚友錄、二〕。

【兪隨】44 川の名。〔山海經、中山經〕嵎山、兪隨之水、出二于其陰一、〔水經、穀水注〕穀水又東、兪隨之水注レ之、世謂二之孝水一也。

【兪靖】45 宋、婺源の人。一名は猷仲。字は宋祐。號は西郊老人。朱松等と星溪十友となる。〔尚友錄、三〕。

【兪浙】46 宋の人。瑞の弟。字は季淵。開慶の進士。監察御史に歷官し、三度、時事を上疏して報ぜられず、大理少卿に改除せられたが就かず。宋が亡びてからは、門を杜して學を講じ、朱子を宗師とす。學者、致曲先生と稱す。著に六經審問・離騷審問がある。〔宋元學案、四十九〕。

【兪泉】47 ㊀泉の名。湖南省郴縣の城内の惠泉坊。一名、愈泉。〔輿地紀勝〕泉水清冷甘美、舊名甘泉、飲可レ愈レ疾、唐改曰二兪泉一。㊁地名。〔竹書紀年、下〕周夷王七年、虢公帥レ師伐二太原之戎一、至二於兪泉一、獲二馬千匹一。

【兪僉】48 南朝宋の人。永嘉の郡吏。孫恩の亂に太守司馬逸之の一家が殺害されたのを、誰も顧みなかつたが、僉は家財を以て雜を買して逸之等六人の喪を斂め、送致して都に還つた。元嘉中、卒す。〔南史、七十三〕。

【兪然】49 安らかなさま。〔呂覽、知分〕兪然而以待耳。〔注〕兪、安也。

【兪寨】50 清、婺源の人。字は吾體。號は無害。品行高潔。小楷・草書に巧で、著述も甚だ多いが、皆佚し、存するのはただ、五七言近體の詩のみ。〔國朝耆獻類徵、四百六十四〕。

【兪泰】51 明、無錫の人。字は國昌。號は正齋、又は芳洲。弘治の進士。官は山東參政。著に芳洲漫興集がある。〔明名人傳、二〕・〔明人小傳、二〕・〔本朝分省人物攷、六十一〕・〔明詩綜、二十八〕。

【兪澤】52 明、桐廬の人。字は益之。天順の進士。官は兵科給事中。〔尚友錄、三〕。

【兪澹】53 宋の人。紫芝の弟。字は清老。滑稽諧謔、音律に精通し、歌に巧。書室を景陶軒といふ。著に敝帚集がある。〔尚友錄、三〕。

【兪徵】54 宋、兪澂の一名。

【兪澂】55 宋、吳興の人。字は子清。號は且軒。官は大理少卿。室を築いて浮山と對し、無塵と號す。一に兪徵に作る。〔尚友錄、三〕。

【兪斑】56 清、婺源の人。姑蘇に僑居す。字は君儀。號は笏齋。指頭畫を善くす。力を六書古文に用ふ。印譜あり、世に行はる。〔國朝耆獻類徵、四百三十五〕。

【兪楨】57 明、兪貞木（125）の初名。

【兪琟】58 清、無錫の人。初の名は璟。一に兪湜に作る。字は企塘、又は更生。號は是齋。善く山水・樹石・人物・花卉を畫く。論畫三篇を撰し、又、題畫瑣存を著す。〔國朝耆獻類徵、四百三十六〕。

【兪迪】59 明、平湖の人。字は允吉。官は廣東都司斷事。〔本朝分省人物攷、四十四〕。

【兪豆】60 複姓。〔萬姓統譜〕兪豆、羋姓、楚公子食二采歙豆一因氏。

【兪拊】61 黃帝の時の名醫。兪跗（63）を見よ。

【兪柎】62 黃帝の時の名醫。兪跗を見よ。〔漢書、藝文志〕太古有二岐伯・兪柎一。〔說苑、辨物〕中古之爲二醫者一、曰二兪柎一。

【兪跗】63 黃帝の時の名醫。跗は、漢書に柎に作り、又、一に拊に作る。〔鶡冠子、世賢〕王獨不レ聞二兪跗之爲レ醫乎、已成必治、鬼神避レ之。〔史記、扁鵲傳〕上古之時、醫有二兪跗一、治レ病不レ以二湯液醴灑一。〔淮南子、人間訓〕雖レ有二扁鵲愈跗之巧一、猶不レ能レ生也。〔揚雄、解嘲〕吾亦笑二子病甚、不レ遇二兪跗與二扁鵲一也。

【兪昊】64 明、永豐の人。字は顯之。號は醉吟野老。費弘に師事し、特立不羣を稱せらる。官は同知。著に醉吟野老集がある。〔尚友錄、三〕。

【兪扁】65 兪跗と扁鵲。共に古の名醫。〔柳宗元、與二太學諸生喜詣一闕留二陽城司業一書〕兪扁之門、不レ拒二病夫一、繩墨之側、不レ拒二枉材一、師儒之席、不レ拒二曲士一。〔注〕兪拊・扁鵲、古之良醫。

【兪弁】66 明、長洲の人。字は子容。號は守約居士。藏書を好み、詩を能くす。書室を紫芝堂といふ。著に山樵暇語がある。〔四庫提要、一百三十二〕。

【兪豐】67 宋、建寧の人。字は應南。乾道の進士。官は吏部侍郎。雲谷書院を築いて自ら娛しみ、雲谷老人と號す。〔南宋館閣續錄、三十九〕。

【兪茂】68 明、休寧の人。初名は榮。字は子懋。早歲、兵法に通ず。元末、天下大いに亂れるや、樞密院判汪同に從つて鄉邑を保障す。後、明に附し、樞密院判官を授けられ、江西諸郡を平定す。古の良將の風あり。〔皇明開國功臣錄、二十〕。

【兪兪】69 ㊀ゆつたりしたさま。〔莊子、天道〕無爲則兪兪、兪兪者、憂患不レ能レ處、年壽長矣。〔注〕兪兪然、從容自得之貌。㊁容貌の和恭なさま。〔集韻〕兪、兪兪、容貌和恭也。「號。

【兪兪齋】69 清、史念祖（2－3249・258）の齋號。

【兪庸】70 元、嘉興の人。上海に籍す。字は子中。官は平江路推官。書は晉人の風あり。〔列朝詩集小傳〕。

【兪雍】71 明、無錫の人。字は文熙。官は正統の初、公安縣の長官。自ら郊野を巡つて耕織を勸め、循吏と稱せられる。〔尚友錄、三〕。

【兪榕】72 清、嘉定の人。字は範倫。號は學禪・嘯樓。諸生。乾隆中、書畫を進獻し、内庭に供奉す。善く宋元人の筆を臨摹す。書室を賜綺樓といふ。著に賜綺樓集がある。〔國朝耆獻類徵、四百三十六〕。

【兪棗】73 宋、江寧の人。字は祇若。崇寧の進士。官は御史中丞。蔡京の意に忤つて貶せら

る。〔宋史、三百五十四〕・〔宋史新編、一百十八〕。

【俞亮】74 清、杭州の人。字は起星。畫に巧。

【俞烈】75 宋、臨安の人。字は若晦。號は盤隱居士。熙寧の進士。官は權禮部侍郎兼中書舍人。著に盤隱詩編・掖垣制草奏議・北征集等がある。〔南宋館閣續錄、七・八・九〕。

【俞和】76 明、杭州の人。字は子中。號は紫芝生。隱逸齋。晩年、紫芝老人といふ。隱居して仕へず、詩を能くし、書翰を好み、趙孟頫を學ぶ。〔尚友錄、三〕。

【俞安期】77 明、吳江の人。初名は策。字は公臨。名を改めて後、羨長と字す。號は震維居士。著に唐類函・類苑瓊英・詩觚類函・參參集がある。〔明史、三百八十八〕・〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、六十三〕・〔明詩紀事、庚、二十五〕。

【俞易直】78 宋、歙の人。字は平叔。官は彭澤尉。〔尚友錄、三〕。

【俞友仁】79 明、仁和の人。字は文輔。官は山西僉事。詩文に巧。〔尚友錄、三〕。

【俞允文】80 明、崑山の人。字は仲蔚。馬鞍山の賦を作り、專ら詩文書法を精研す。著に俞仲蔚集がある。〔明史、二百八十八〕・〔萬斯同明史、三百八十八〕・〔明史稿、二百六十九〕。

【俞永弼】81 清、海寧の人。字は始乾。號は傳巖・念園。官は詹事府主簿。楷書及び詩文に巧。〔清畫家詩史、丙、下〕。

【俞奕曾】82 元、鎭海の人。字は唯父。號は時齋。性高簡にして讀書を好む。至元中、縣學の諸生が爭つて師に迎へようとしたが辭謝して往かず。〔尚友錄、三〕。

【俞益謨】83 清、寧夏の人。字は嘉言。號は澹菴。官は湖廣提督。康熙中、紅苗の亂に從征して之を降す。著に辨苗紀略がある。〔國朝耆獻類徵、二百九十八〕。

【俞琬綸】84 明、長洲の人。字は君宣。萬曆の進士。官は西安令。風流で文采があり、著に自娛集がある。〔明人小傳、四〕・〔續名賢小紀〕・〔明詩綜、六十〕。

【俞好仁】85 朝鮮李朝、高靈の人。字は克己。官は司憲掌令。〔人物考〕・〔昭代紀年〕。

【俞企賢】86 清、仁和の人。字は新巖。書畫篆刻に巧で、尤も詩に長ず。

【俞起蛟】87 明、錢塘の人。字は芝雲。貢生から魯府左長史となる。惠王が清兵に殺されるや、親屬を率ゐて王に殉ず。〔明史、二百九十一〕・〔萬斯同明史、三百八十〕・〔明史稿、二百七十三〕。

【俞曲園】88 俞樾(ヘ)を見よ。

【俞金鼇】89 清、天津の人。乾隆中の武進士。官は湖廣提督。〔清史稿、三百四十一〕・〔國朝耆獻類徵、二百九十三〕。

【俞煥章】90 明、宣城の人。字は文伯。著に讀史圖纂がある。〔四庫提要、五十〕。

【俞觀能】91 宋の人。夔の子。字は大任。官は德安府錄事參軍。後、審察江陰軍教授。著に孝弟類鑒がある。〔萬姓統譜〕。

【俞獻可】92 宋、歙の人。端拱の進士。官は御史部郎中。蠻寇を平定して龍圖閣待制となる。〔宋史、三百〕・〔宋史新編、九十三〕。

【俞獻卿】93 宋の人。獻可の弟。字は諫臣。官は陝西轉運使。尋いで杭州の長官となり、西山の石を鑿ち、數十里の堤を築いて其の決潰を防ぐ。民之を便とす。後、刑部侍郎に進んで致仕す。〔宋史、三百〕・〔宋史新編、九十三〕。

【俞元膺】94 元、婺源の人。字は元應。春秋を修む。官は翰林院學士。著に二李家數がある。〔尚友錄、三〕。

【俞鴻鈞】95 民國、廣東省新會縣の人。上海聖約翰大學を卒業す。國民政府外交部祕書・上海市政府祕書・上海政府代理財政局長等に歷任し、民國十八年に上海市政府參事兼祕書長、同二十五年に上海市代理市長となり、次いで同市長となる。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【俞鴻漸】96 清、德清の人。字は劍華。嘉慶の擧人。書室を印雪軒といふ。著に印雪軒文鈔詩鈔及隨筆・讀三國志隨筆がある。

【俞克堪】97 宋、永豐の人。字は用可。景定の進士。官は刑部架閣承直郎。〔尚友錄、三〕。

【俞國寶】98 宋、臨川の人。號は醒菴。淳熙の太學士。著に醒菴遺珠集がある。

【俞士悅】99 明、長洲の人。字は仕朝。永樂の進士。土木の變に右副都御史を以て京師を留守して功あり、刑部尚書太子太保に陞進す。〔國朝獻徵錄、四十四〕・〔昭代明良錄、十〕・〔國朝列卿記、五十六・七十二・九十一〕・〔蘭臺法鑒錄、五〕・〔本朝分省人物攷、十八〕。

【俞士吉】100 明、象山の人。字は用貞。號は櫟菴。洪武の擧人。建文の時、上疏して時政を論じて御史に拔擢せらる。成祖の時、浙西の農政を督す。後、官は南京刑部侍郎。著に櫟菴稿がある。〔明史、一百四十九〕・〔萬斯同明史、二百〕・〔明史稿、一百三十九〕。

【俞士千】101 宋、婺源の人。字は吉仲。寶佑の進士。官は德安郡博士、兼紫陽書院山長。〔寶祐四年登科錄、五十四〕・〔萬姓統譜〕。

【俞之彥】102 明、吳縣の人。字は章施。畫に巧。〔明畫錄、八〕。

【俞志虞】103 明、浙江新昌の人。字は際華。崇禎の進士。官は御史。流賊が京師を陷れるや、慟哭して自縊す。〔明史、二百六十六〕・〔小腆紀年、四〕。

【俞師魯】104 元、婺源の人。字は唯通。官は史館編修。後、隆興路學教授。又、松江府知事。著に易春秋注說がある。〔尚友錄、三〕。

【俞紫芝】105 宋、金華の人。揚州に流寓す。字は秀老。詩に巧。〔尚友錄、三〕。

【俞時篤】106 清、錢塘の人。字は企延、又、近蘇。諸生。山水畫に巧で、詩も亦宛麗。〔國朝耆獻類徵、四百二十八〕。

【俞逃祖】107 元、象山の人。字は紹芳。官は翰林國史院編修。出でて沔陽の推官となり、至正中、蘄黃の賊が境に迫るや、民兵を率ゐて奮戰す。〔元史、一百九十五〕。

【俞舜臣】108 明の人。恩の子。字は治甫。號は海峯(海峯子)。畫に巧。〔明畫錄、一〕。

【俞汝言】109 明、秀水の人。字は右吉。號は漸川遺民。書室を大滌山房といふ。戶を閉ぢて著述し、著に春秋平議・漸川集がある。〔明人小傳、四〕・〔明詩綜、七十七〕・〔小腆紀傳、五十八〕・〔明詩紀事、辛、二十三〕。

【俞汝尚】110 宋、烏程の人。字は退翁。號は溪堂居士。進士。官は熙寧の初、簽書劍南西川判官。王安石は御史に任じ反對者を彈壓させようとしたが、從はず。屯田郎中を以て終る。〔宋史、四百五十八〕・〔宋史新編、一百七十八〕。

【俞汝霖】111 宋、遂安の人。字は季澤。官は都轉運使。〔尚友錄、三〕。

【俞升旦】112 高麗、仁同縣の人。初名は元淳。謚は文安。官は參知政事。〔高麗史〕。

【俞正禧】113 清、黟縣の人。正燮の弟。字は鼎初。道光の擧人。經術に深く、史事に精通し、居所を雲峯館と稱し、儒俠の名あり。書室を蒲林堂といふ。著に蒲林堂文集がある。〔續碑傳集、七十八〕。

【俞正燮】114 清、黟縣の人。字は理初。號は四養齋。道光の擧人。博學の士。書室を雲峯館といふ。著に癸巳類稿・存稿がある。〔清史列傳、六十九〕・〔碑傳集補、四十九〕。

【俞誠一】115 宋、分水の人。字は則明。嘉定の進士。官は南康教授。後、奏議郎。著に南疇集がある。〔尚友錄、三〕。

【俞宗亨】116 宋、山陰の人。字は山善。官は漳州の長官。著に山林思古錄・羣經感發等がある。〔尚友錄、三〕。

【俞大猷】117 明、晉江の人。字は志輔。號は虛江。謚は武襄。舟師を率ゐて倭寇を破り、惠湖の群盜を平げ、威名遠近に震ふ。著に洗海近事がある。〔明史、二百十二〕・〔萬斯同明史、三百十九〕・〔明史稿、一百九十六〕。

【俞大鴻】118 清、無錫の人。字は蓉汀。號は軒臣。慷慨、義を好む。詩に巧で、畫を善くす。著に蓉湖吟草がある。〔國朝耆獻類徵、四百五十五〕。

【俞長侯】119 清、浙江山陰の人。名は永嘉。弈棋を善くす。

【俞長城】120 清、桐鄉の人。字は桐川。康熙の進士。官は編修。書室を可儀堂といふ。著に可儀堂集がある。〔國朝耆獻類徵、一百二十一〕・〔國朝先正事略、四十〕。

【俞通海】121 明の人。廷玉の子。字は碧泉。

諡は忠烈。太祖に從つて軍功を立つ。官は中書省平章政事。追封は虢國公。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、一百二十一〕。

【俞通源】122 ユツウゲン 明の人。通海の弟。字は百川。達徐に從つて中原を攻め、張良臣の叛を征す。封は南安侯。〔明史、一百三十三〕・〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔明史稿、十一〕。

【俞廷瑛】123 ユテイエイ 清、吳縣の人。字は小甫。官は鄞縣縣丞・浙江候補通判。貧に安んじ道を樂しむ。著に瓊華室詩詞がある。江寧の鄧笏臣・陽湖の吳晉壬・任丘の邊竺潭・鐵嶺の宗嘯吾の詞と合刻して候鯖詞を爲る。

【俞廷玉】124 ユテイギョク 明の人。其の先祖は濠の人。後、巢に徙る。元末、盜起るや、趙普勝等と巢湖に砦を築き、屢〻左君弼と戰つて勝たず。後、太祖に歸服す。官は僉樞密院事。河間郡公に追封せられた。〔萬斯同明史、一百六十九〕・〔國朝獻徵錄、六〕・〔昭代明良錄、三〕・〔皇明開國功臣錄、十八〕。

【俞貞木】125 ユテイボク 明の人。琰の孫。初名は楨。字は貞木。後、字を以て行はれ、更に有立と字す。號は立菴・洞庭外史・包山樵人。古文詞に巧。官は樂昌令。著に立菴集がある。〔國朝獻徵錄、八十七〕・〔明人小傳、二〕・〔明儒言行錄續編、二〕・〔本朝分省人物攷、十八〕・〔明詩紀事、甲、二十七〕。

【俞庭椿】126 ユテイチン 宋、臨川の人。字は壽翁。乾道の進士。古田令を歷、金國禮物官に充てられ、新淦令に終る。陸九淵に師事し、倜儻にして大志あり、經術に博通す。嘗て周禮司空の官は多く五官の屬に散見すといひ、復古編を著して六官の譌誤を考ふ。金に使して還るや、其の道路・山川・人物と語言・事蹟の用ふ可きものを紀次して北轅錄を爲る。〔宋元學案、七十七〕。

【俞兆岳】127 ユテウガク 清、海寧の人。字は岱禛。官は乾隆中、吏部左侍郎。蘇松の海塘を築く。〔國朝耆獻類徵、七十二〕。

【俞兆晟】128 ユテウセイ 清、海鹽の人。字は叔穎（叔音）。號は穎園。康熙の進士。官は內閣學士。詩畫に長ず。〔國朝耆獻類徵、六十八〕。

【俞得儒】129 ユトクジュ 明、鄞の人。字は大雅。永樂の進士。庶吉士に改めらる。官は行在監察御史。後、賓州の長官。〔尚友錄、三〕。

【俞德淵】130 ユトクエン 清、平羅の人。字は陶泉。嘉慶の進士。官は道光の間、兩淮鹽運使。〔清史稿、三百九十〕・〔清史列傳、二百七十六〕・〔國朝先正事略、五十四〕。

【俞德鄰】131 ユトクリン 宋、永嘉の人。字は宗大。號は大迂山人（大玉山人）、又、佩韋齋。咸淳の進士。宋が亡びてからは仕へず。著に佩韋齋輯聞・佩韋齋文集がある。〔四庫提要、一百二十一〕。

【俞萬春】132 ユバンシュン 清、浙江山陰の人。字は仲華。號は忽雷道人。諸生。著に蕩寇志がある。

【俞敏德】133 ユビントク 明、定海の人。字は鳴謙。三山に永思堂を建てて竹を環植したので、時人、竹所先生といふ。享年一百五歲。〔尚友錄、三〕。

【俞文豹】134 ユブンペウ 宋、括蒼の人。字は文蔚。著に吹劍錄・古今藝苑談概・清夜錄がある。〔四庫提要、一百二十一〕。

【俞聞中】135 ユブンチュウ 宋、邵武の人。字は夢達。朱熹に從學す。淳熙の進士。官は黎州の長官。〔宋元學案、六十九〕。

【俞平伯】136 ユヘイハク 民國、浙江省德清縣の人。北京大學國文科を卒業す。燕京大學國文系講師を經て國立北京大學國文系教授兼北平清華大學中國文學系講師となる。作家として名を知らる。著に冬夜・雜拌兒・紅樓夢辨・讀詩雜記等がある。〔現代中華民國滿洲帝國人名鑑〕。

【俞逢辰】137 ユホウシン 明、宣城の人。字は彥章。官は建文中、燕王府伴讀。甚だ燕王に信任せられた。王の異謀を聞くや、力諫し、變の起らんとした時、其の子に書を貽つて必死を誓ふ。〔本朝分省人物攷、三十八〕・〔建文忠節錄〕・〔備遺錄〕。

【俞伯題橋市】138 ユハクダイケウシ 地名。江蘇省上海縣の黃浦江の東。周浦塘に臨む。一名、橋頭市。又、裕伯題橋とも書く。

【⿱亼⿰个个】1438 キ ギ 〔字彙補〕渠移切 支

そろはない。くひちがふ。〔字彙補〕⿱亼⿰个个、參差也。

【⿱亼⿰个个拍】1 キハク 拍子が音曲と合はないこと。〔王驥德、曲律〕凡曲、䙹レ板以爲二節制一、其板先二於曲一者、病曰二促板一、板後二於曲一、病曰二滯板一、古皆謂二之⿱亼⿰个个拍一、言レ不レ中レ拍也。

八畫

【⿱亼兵】1439 ヘン 〔字彙補〕布犬切 銑

ちひさい。〔字彙補〕⿱亼兵、小也。

【⿱亼林】1440 ラン 〔集韻〕盧感切 感

悲しみ愁へるさま。或は⿱⿱亼林心(**4−11062**)に作る。〔集韻〕⿱亼林、悲愁皃、一說、林木君子所レ感、故宋玉曰、入レ林悲レ心、或从レ心。

九畫

【⿱亼回】1441 リン 〔篇海〕力稔切 寑

ほのほが燃えひろがるさま。畲(**7−19434**)に同じ。〔篇海〕⿱亼回、與レ畲同、火舒也。

【⿱亼癸】1442 グ 遇(**11−38991**)の古字。〔字彙補〕⿱亼癸、古文遇字。

十畫

【⿱亼弗】1443 セン 全(**1−1424**)の古字。〔說文〕仝、完也、全、篆文仝从レ王、⿱亼弗、古文仝。〔集韻〕仝、或作レ全、古作レ⿱亼弗。

十一畫

【⿱亼⿱王弗】1444 セン 全(**1−1424**)の古字。〔玉篇〕⿱亼⿱王弗、古文全。

參考 說文は⿱亼弗(**1−1443**)に作る。

【⿱亼爽】1445 一 ヘツ ヘチ 〔字彙補〕卑切切 屑 二 セイ ジヤウ 〔字彙補〕神精切 庚

一 **ひ。**火。〔字彙補〕⿱亼爽、火也。 二 **あきらか。**〔字彙補〕⿱亼爽、明也。

【⿱帶入】1446 セイ サイ 〔字彙補〕昭細切 霽

かがやく。〔字彙補〕⿱帶入、輝也。

十二畫

【⿱亼桀】1447 シヨウ 乘(**1−154**)の古字。〔字彙補〕⿱亼桀、古文乘字。

十五畫

【⿱亼輦】1448 セイ ジヤウ 〔字彙補〕狀情切 庚

くるま。〔字彙補〕⿱亼輦、車乘也。

十八畫

【⿱亼龍】1449 キン 義未詳。〔海篇〕⿱亼龍、音琴。

大漢和辭典　卷一　終り

原字・文字盤製作	石井茂吉
本文写真植字印字	株式会社写研
本文写真植字印字	五常写植印刷株式会社
挿図版下	星野写真工芸株式会社
本文写真製版	近藤写真製版所
本文・扉印刷	横山印刷株式会社
見返印刷	錦明印刷株式会社
本文用紙抄造	王子製紙株式会社
用紙類調達	日本紙パルプ商事株式会社
表紙クロス	ダイニック株式会社
金版彫刻	坪井金版彫刻所
製函	中田製函所
製本	関山製本社

大漢和辞典　巻一

昭和三十年十一月三日　初版発行
平成十一年十月二十日　修訂第二版第五刷発行

著者　諸橋轍次
発行者　鈴木荘夫
発行所　株式会社　大修館書店
東京都千代田区神田錦町三ノ二四
電話〇三-三二九五-六三三一（販売部）　〇三-三二九四-二三五三（編集部）
振替〇〇一九〇-七-四〇五〇四

© Taisuto Morohashi 1989 Printed in Japan

ISBN4-469-03138-0（セット）
ISBN4-469-03139-9